第三巻索引

せ……一
そ……一〇二
た……一六二
ち……三〇二
つ……三七八
て……四四五
さ……五一〇
な……
に……
ぬ……
ね……
の……
は……

文學博士　大槻文彦著

大言海

第三巻

せ——は

東京
冨山房發行

文學博士　大槻文彦著

大言海

第三卷

せ――は

東京
冨山房發行

せ　ぜ

せ　五十音圖、佐行、第四ノ假名。(さノ條ヲ見ヨ)此音ハ、下ニ、う、又ハ、ふ(うト呼ブモノ)ヲ受クレバ、せョト呼ブコトアリ、せうと(兄人)、せふ(妾)ノ如シ。

ぜ　せノ濁音ノ假名。(ざノ條ヲ見ヨ)此音ハ、う、ニ連ナルトキ、ぜョノ如ク呼ブコトアリ、ぜうらん(擾亂)ノ如シ。

せ　(名)　‖背‖脊‖　〔反ノ約、背ト通ズ〕(一)動物ノ胸、腹ノ後ニテ、項ト、腰、尻トノ間。背。ソガヒ。ソビラ。セナカ。倭名抄、十一 七 牛馬體「脊梁、世都賀、俗云、世美禰」宇津保物語、藤原君 六「板屋形ノ車ノ、輪缺ケタルニ、せ垂リタル牝牛ヲ繋ケテ」夫木抄、十九「久方ノ、天ツ御空ハ、高ケレド、せヲ屈メテモ、我レハ世ニ住ム」(二)身ノ丈。丈立。セタケ。セイ。身長‖身材‖　神代紀、上 十「猿田彦神、背長七尺餘」「せノ高サ六尺」(三)ウシロ。陰ノ方。背面。孝德紀、大化三年十二月「冠之背、張ニ漆羅ニ」枕草子、五、四十七段「御衣、云云、綴目モ爲敢ヘズ、惑ヒ置キテ、立チヌルガ、御せ合ハセントスレバ、早ウ、違ヒニケリ」「山ノせ」

せ　(名)　‖兄‖夫‖　〔兄ノ轉カ、朝鮮語ニモ、せト云フ〕(一)古ヘ、女子ヨリ、兄、又ハ、弟、又ハ、夫、其他、スベテ、男ヲ、尊ビ親シミテ呼ブ語。いも(妹)ニ對ス。セナ。男ドチ互ニ、崇メテモ、云ヒキ。古事記、下(仁德)八「口日賣ガ、兄ノ口子臣ヲ「吾ガ勢ノ君ハ、涙グマシモ」仁賢紀、六年九月、注「古者、不レ言ニ兄弟長幼ニ、女以レ男稱レ兄、男以レ女稱レ妹」孝德紀、二年正月「紀伊兄山」注「兄、此云レ制」倭名抄、八十五 郷里部「備中國下道郡弟翳」注「勢」(翳ハ、頭ヲ引キタルナリ)(二)專ラ、夫。萬葉集、一 七 長歌「此岳ニ、菜摘マス兒、云云、我レコソハ、背トハ告ラメ、家ヲモ名ヲモ」同、廿五「ナガラフル、妻吹ク風ノ、寒キ夜ニ、吾ガ勢ノ君ハ、獨リカ寢ラム」鎭火祭祝詞「吾名妹命」(冊尊ノ、諾尊ヲ指シテ宣ヒシナリ、妹ハ、女夫ノ合字)

せ　(名)　‖瀨‖湍‖　〔沙石ノ、水ヲ塞く意、即チ、切る所。說文「瀨、水流ニ沙上一也」漢書、註「疾流曰レ瀨」唐韻「湍、急瀨也」文選、注「石瀨、湍也、水激ニ石閒一、則怒成レ瀨」ナド、見ユ。淵ニ對ス〕(一)河ノ沙石ノ上ニ、水ノ、セセラグ所。川水ノ、波ヲ立テテ流ルル所。川ノ、淺キ所。倭名抄、一 八 河海類「瀨、流ニ於砂上一也、世」「湍、急瀨也、世」古事記、下(允恭)三 廿 長歌「泊瀨ノ川ノ、上ツ勢ニ、齋杭ヲ打チ、下ツ勢ニ、眞杭ヲ打チ」萬葉集、十一 八 四十一「河上ニ、洗フ若菜ノ、流レ來テ、妹ガアタリノ、瀨ニコソ寄ラメ」古今集、十八、雜、下「世ノ中ハ、何カ常ナル、飛鳥川、昨日ノ淵ゾ、今日ハせトナル」「湍ツせ」(二)ワタリセ。川ヲ、竪ニモ、横ニモ、渡リテ往クベキ所。催馬樂、鈴之川「鈴鹿川、也會世(八十瀨)ノ湍ヲ、皆人ノ、同ルモ著ク、時ニ逢ヘルカモ」萬葉集、五 廿「松浦河、河ノ世光リ、鮎釣ルト、立タセル妹ガ、裳ノ裾濡レヌ」同、十八 二十「御船以ニ綱手ニ泝」江遊宴之日作「堀江ヨリ、水派引キシツツ、御船サス、下男ノ徒ハ、川ノ瀨申セ」(三)海中ノ、船ノ通ル路。「潮せ」浪ノせ」せ門」(迫門)

せ　(名)　‖瀨‖　〔塞き止マル所ノ意〕(一)終ノ賴ミ所ノ意ニテ、其處ヲ指ス語。ソコ。庭。場。居所。處。古事記、上(神代)三十「青人草ノ落ニ苦瀨ニテ、苦シマン時」新古今集、三、夏「聞カズトモ、此處ヲせニセム、時鳥、山田ノ原ノ、杉ノ叢立」(二)其極ミヲ云フ語。際限。事ニ出會フ時。場合。境遇。萬葉集、十一 八「千早人、宇治ノ渡ノ、早キ瀨ニ、アハズアリトモ、後モ我ガ妻」源、九、葵 廿五「嬉シキせモ雜リテ」同、廿二、玉鬘 八「初瀨川、ハヤクノ事ハ、知ラネドモ、今ノ逢瀨ニ、身サヘ流レヌ」平治物語、三、頼朝被ニ生捕一事「其瀨過ギケレバ、サリトモト思ヒ、心ユルシケルニヤ」平家物語、三、足摺事「日頃、オハシツルヤウニ思ヒナシテ、待チ給ヘ、命ハ如何ニモ大切ノコトナレバ、假令、此瀨ニコソ洩レサセ給フトモ、終ニハ何カ、赦免ナクテ候フベキ」「苦ルせ」浮ムせ」渡ルせ」嬉シキせ」カカルせ」逢ルせ」

せ　(名)　‖石蜐‖石華‖　〔石ノ轉カ、漢名、石華ハ、石ニ附キテ生ズル牡蠣ノ如キモノ、混ジテ用ヰル〕セエ。セイ。今、かめのてト云フ。其條ヲ見ヨ。倭名抄、十九 八 龜貝類「尨蹄子、勢、貌似ニ犬蹄一而附ニ石生者也、石華、二三月皆紫舒レ花、附レ石而生、故以名レ之」本草和名、下 廿七「尨蹄子、世衣」名義抄「尨蹄子、セイ」撮壤集「石花、セイ、カキノコト」字類抄「尨蹄子、セイ」(以上、頭ヲ引ケルコト、檜ノ、比伊ト云フ類ナリ)萬葉集、三 廿八 長歌「言ヒカネテ、名ヲモ知ラセズ、甚シクモ、坐ス神カモ、石花海ト、名付ケテ有ルモ、其ノ山(富士山)ノ、包メル湖ゾ」

せ　(名)　‖狹‖　セマキコト。狹キコト。後撰集、十九、羈旅「水モせニ、浮キヌル時ハ、シガラミノ、内ノ外ノトモ、見エヌ紅葉葉」千載集、二、春、下「吹ク風ヲ、ナコソノ關ト、思ヘドモ、道モせニ散ル、山櫻カナ」玉葉集、一、春、上「庭モせニ、引キツラナレル、諸人ノ、立チヰル今日ヤ、千世ノ初春」

せ　(名)　‖畝‖　段別ノ名目、段ノ、十分ノ一。三十步。(昔ハ、三十六步ヲ一畝トス)箋注倭名抄、一 七十 田野類「畝、田數也、唐令云、諸田、廣一步、長二百四十步爲レ畝、畝百爲レ頃」注「本朝雜令、凡度レ地、五尺爲レ步、田令、凡田、長卅步、廣十二步爲レ段、十段爲レ町、據レ是計レ之、段三百六十步、町三千六百步、六町六段得ニ三萬三千七百六十步ニ、合ニ三二百四十步ニ爲ニ三萬四千步ニ」

せ　(名)　‖施‖　他ニ、物ヲ、ホドコスコト。ホドコシ。施與。金剛經新註「齋施、有ニ三種ニ、資生施、無畏施、法施也」寶物集(康頼)六、第七條「諸ノ施ヲ行ジテ、佛ニ成ベシ」

せ　(動)　す(爲)ノ變化、其條ヲ見ヨ。「せシム」せズ」せム」

せ　(助動)　‖令‖　す(令)ノ變化、其條ヲ見ヨ。萬葉集、廿 三十「吾ガ妹子ガ、偲ニ而ロト、附ケシ紐、絲ニナルトモ、吾ハ解カジトヨ」「讀マセ」取ラセ」

せ　(副)　‖諾‖　〔然ノ轉、ふさぐ、ふせぐト同趣〕ウベナフ意ヲ云フ語。然。諾。仁賢紀、六年九月「譬父曰、諾、即知ニ所レ言矣」後撰集、十三、戀、五「親ノ守リケル女ヲ、否トモ、せトモ云ヒ放テト申シケレバ」風儀抄「せトハ、諾スル辭ナリ」

ぜ　(名)　‖是‖　正シク、善キコト。理ニ適ヘルコト。(非ニ對ス)荀子、修身篇「是レ是非レ非、謂ニ之知一」「其事、是ナリ」「コレヲ是ナリトス」「是ト、非ト」

せい　(名)　背ノ延。セタケ。身ノ丈。‖身長‖身材‖　史記抄(文明)八 二十「鄒忌身長八尺」人長美トテ、せい高ク、人物ヨイ夫ナリ」同、十六 四十「朱儒デ、せいガ低イホドニゾ」師門物語(室町時代)「女ヲ馳ジテ、せいノ低キハ、見立テナシ」

せい　(名)　‖石蜐‖石華‖　〔せノ延、其條ヲ見ヨ〕かめのて(石蜐)ニ同ジ。

せい　(名)　‖世‖　(一)代。「一世ノ源氏」左ぼれおん第一世」(二)世。史記、屈原傳「漁父辭、擧世皆濁」「人世」(三)三十年閒ノ稱。西洋ニテハ、一百年閒ノ稱。世紀ノ條ノ(二)ヲ參照セヨ。論語、子路篇「如有ニ王者一、必世而後仁」注「三十年爲ニ一世一」

せい　(名)　‖正‖　タダシキコト。又、タダシキ道。(邪ノ反)易經、上彖傳「[illegible]行レ正也」戰國策、秦策「以レ邪攻レ正者、亡」

せい　(名)　‖生‖　〔死ノ反。支那現今ノ音、北方、せん、南方、さん、そん〕生キテアルコト。イノチ。生存。列子、仲尼篇「願ニ生如レ死」揚子法言「有レ生者必有レ死、有レ始必有レ終」「生ヲ保ツ」生アレバ、死アリ」生ヲ偸ム」

せい　(名)　‖性‖　しやう(性)ノ(一)ニ同ジ。

サガ。タチ。中庸、第一章「天命之謂ㇾ性、率ㇾ性之謂ㇾ道」孟子、告子、上篇「夫水搏而躍ㇾ之、可ㇾ使ㇾ過ㇾ顙、激而行ㇾ之、可ㇾ使ㇾ在ㇾ山、是豈水之性哉、其勢則然也」

せい (名) 姓 (一)カバネ。(可婆禰ノ條ヲ併セ見ヨ)(二)苗字。氏。「皇族、姓ヲ賜ハリテ、臣下トナル」

〜せい (名) 制 (一)サダメ。オキテ。法度。制度。左傳、隱公元年「今京不ㇾ度、非ㇾ制也」枕草子、十、百十六段「七十近キ親二人ヲ、持チタリケルガ、四十ヲダニせいアルニ、マシテ、イト恐ロシ」榮花物語、三十四、晩待星「内ノ御心、云云、スクスクシウサヘアリテ、せいモ嚴シクナドゾ、オハシマシケル」(二)オホセ。君命。命令。下知。史記、始皇紀「命爲ㇾ制、令爲ㇾ詔」漢書、高五王傳「撟制以令二天下一」宇津保物語、忠杜、十八「大臣モ、心恥シキモノナリケリ、たゞおそ、鷹ガせいニ從フベクモアラネバナン、忍ビテ奏スルト、申シシカバ」

せい (名) 製 ツクリ。ツクリカタ。ツクリザマ。コシラヘ。製造。左傳、襄公三十一年「子有二美錦一、不ㇾ使二人學製一焉」唐書、驃國傳「有二小匏笙二一、製如二大笙一」

せい (名) 聖 (一)ヒジリ。智德ノ、スグレテ居ルコト。又、其人。聖人。書經、大禹謨篇「帝德廣運、乃聖乃神、乃武乃文」論語、述而篇「若二聖與ㇾ仁、則吾豈敢」(二)帝王ニ係ル事ニ冠シテ、尊稱スル語。「聖意」聖旨」聖慮」聖斷」聖明」聖恩」聖時」聖代」(三)一道ニ達シタル人ヲ云フ語。「詩聖」歌聖」碁聖」

せい (名) 青 アヲ。青。荀子、勸學篇「青取二之於藍一、而青二於藍一」柳宗元、始得二西山一宴游記「縈ㇾ青繚ㇾ白、外與ㇾ天際」朱熹詩「萬古青山唯磨ㇾ青」

せい (名) 精 (一)クハシキコト。コマカキコト。巧ミニシテ、勝レタルコト。(粗ニ對ス) 書經、大禹謨篇「惟精、惟一」劉克莊詩「銀鉤楷法精」「精、粗ヲ分ツ」(二)タマシヒ。イキホヒ。勵ム力。根氣。氣力。精神。精力 莊子、德充符篇「勞二乎子之精一」戰國策、燕策「今太子、聞二光壯盛之時一、不ㇾ知二吾精已消亡一矣」狂言記、聾座頭「扨モ扨モ、聾ニ物言ヘバ、せいモ、心モ、盡キルコトヂャ」「精ガヨイ」精ガ附ク」精ガ強イ」精ヲ出ス」精ヲ入ルル」精イッパイ」(三)精靈。幽靈。杜甫詩「雲霧冥晦方降ㇾ精」狂言記、松の精「某ハ、千年目出度イ、松ノ精ヂャガ」「木魂ノ精」(四)精液。易經、繫辭、下傳「天地絪縕、萬物化醇、男女構ㇾ精、萬物化生」字類抄「精、セイ、淫精也」

せい (名) 勢 (一)イキホヒ。チカラ。勢力。韓非子、難勢篇「以二堯之勢一、治二天下一」史記、孟嘗君傳「此雄雌之國也、勢不二兩立爲ㇾ雄」「水勢」(二)キン。睾丸。轉ジテ、陰莖。字彙「勢、外腎也」刑德攷「丈夫淫亂、割二其勢一」「去勢」(三)ツハモノ。イクサ。軍勢。兵勢 兵數 平家物語、七、北國下向事「其勢、三千餘騎」同、同、倶利伽羅落事「搦手ノ勢、一萬餘騎」盛衰記、廿二、衣笠合戰事「都合勢、僅ニ四百五十三騎ゾ有ケル」同、廿三、貞盛將門合戰事「其勢、纔ニ四千餘騎」

せい (代) 生 書生ノ自稱。己レノ謙稱。「小生」生、思フニ」

ぜい (名) 税 〔田令、義解「租税、並是田賦、唯、新輸曰ㇾ租、經貯曰ㇾ税也」〕(一)古制ニハ、租ヲ貯ヘテ、水旱ナドニ備フルモノ。正税。(二)政府ヨリ、農工商、等ノ營業、交易、等ニ課セテ、其物ノ一部、又ハ若干ノ金ヲ納メシムルモノ。運上。税斂 禮記、王制篇「古者公田、藉而不ㇾ税」漢書、食貨志「税者、謂二公田什一、及、工商衡虞之入一也」

ぜい (名) 筮 〔禮記、曲禮、上篇「龜爲ㇾ卜、筴爲ㇾ筮」〕蓍。めどぎニテ占フニ、三反シテ、一爻ヲナシ、十八反シテ、卦ヲナス。うら(占)ノ條ヲ見ヨ。卜筮 詩經、衞風、氓篇「爾卜爾筮、體無二咎言一」

ぜい (名) 贅 〔贅言ノ略〕クリコト。クドクド、物言フコト。紫一本、淺草並木茶屋女「染小袖、幅帶、尻ノトガリニ引カケテ、ぜいヲヤリ、戸ヲ押シアケテ、お客遲シト待ッタルヲ」

ぜい (名) 贅 〔さいろく、ぜえろくト同趣〕贅澤。衣食住ニ、無益ノ奢ヲナスコト。曾根崎心中(寶永、近松作)「此デ晩マデ日暮シニ、酒ニスルジャト、贅云ヒテ」

せい-あ (名) 井蛙 井ノ中ノかはづ。井底ノ蛙。狹キ見識ニ拘泥シテ、他ヲ知ラザル者ヲ賤シメテ云フ語。莊子、秋水篇「井蛙不ㇾ可二以語一二於海一」「井蛙ノ見」

せい-あん (名) 成案 出來アガリタル考案、又ハ、案文。「種種論議シテ、漸ク成案ヲ得タリ」成案、無シ」

せい-い (名) 生意 (一)イキ、ナガラヘムト願フ心。(二)活活シタル、オモムキ。生氣。晉書、殷仲文傳「此樹婆娑、無二復生意一」

せい-い (名) 聖意 (一)聖人ノ心意。王充、論衡「儒生擿ㇾ經、窮二竟聖意一」(二)天子ノ御思召。聖慮。劉歆、移二太常博士一書「眞違二明詔一、失二聖意一」

せい-い (名) 誠意 (一)私慾、邪曲ヲ去リテ、情意ヲ純正ニスルコト。大學「欲ㇾ正二其心一者、先誠二其意一」(二)私慾、邪曲ナキ、純正ナル情意。マゴコロ。宋史、祀二高禖一樂章「顧戒二雲車一、歆二此誠意一」

せい-い (名) 征衣 (一)タビゴロモ。旅裝。許渾詩「朝來有二鄕信一、猶自寄二征衣一」(二)出征ノ戎衣。

せい-い (名) 清漪 キヨキ漣漪。清漣。方夔詩「分流一派數百里、直抵二絕壑一瀦二清漪一」朗詠集、下「雲消二碧落一天膚解、風動二清漪一水面皺」

せい-いう (名) 清幽 キヨクシテ、靜カナルコト。清潔、幽邃ナルコト。李白詩「覽ㇾ雲測二變化一、弄ㇾ水窮二清幽一」

せい-いう (名) 清遊 上品ナルアソビ。風流ノアソビ。雅遊。蘇軾詩「南郭清遊繼二顏謝一、北窗歸臥等二羲炎一」范成大詩「正爾耐二清遊一」

せい-いう (名) 清猷 ヨキ、ハカリゴト。良圖。沈約、齊安陸王碑「爰始濯ㇾ纓、清猷濬發」

せい-いう (名) 聖猷 くゎういう(皇猷)ニ同ジ。晉書、庾冰傳「上不ㇾ能ㇾ光二贊聖猷一、下不ㇾ能ㇾ緝二熙政道一」

せい-いう (名) 政友 政事上ノ友人。

ぜい-いう (名) 贅肬 贅疣 (一)いぼト。莊子、駢拇篇「附贅縣疣、出二乎形一哉」(二)無用ノモノヲ云フ。ムダ。

せい-いく (名) 生育 生ヒ、ソダツコト。生長、發育スルコト。生長。詩經、大雅、生民之什、生民篇「載生載育」孔子家語、辯樂解篇「南者、生育之鄕、北者、殺伐之域」「萬物生育」

せい-いく (名) 成育 生ヒタツコト。成長スルコト。王褒、四子講德論「恩及二飛鳥一、惠加二走獸一、胎卵得二以成育一」

せい-い-し (名) 征夷使 古ヘ、東夷征伐ニ遣ハサレシ職名。征夷將軍。征夷大將軍。職官志、五「在ㇾ古、征夷使之號、未ㇾ建、其建ㇾ號、以二多治比縣守一爲ㇾ始、養老四年、縣守爲二持節征夷將軍一、云云、既而罷二征夷之號一、故、神龜元年以二藤原宇合一爲二持節大將軍一、云云、天平九年、以二藤原麻呂一爲二持節大使一、大使卽大將軍也、云云、十三年(延曆)賜二征夷大將軍弟麻呂(大伴)節刀一、征夷之號、重二於此一」紀略、前篇、十三、延曆十二年二月丙寅「改二征東使一、爲二征夷使一」吾妻鏡、三、壽永三年正月十日「粗勘二先規一、於二鎭守府宣下一者、坂上(田村麻呂)中興以後、至二藤原範季一(安元二年三月)、雖ㇾ及二七十度一、至二征夷使一者、僅爲二兩度一歟、所謂、桓武天

皇御宇、延暦十六年丁丑十一月五日、被補按察使兼陸奥守坂上田村麻呂卿、朱雀院御宇、天慶三年庚子正月十八日、被補参議右衛門督藤原忠文朝臣等也」 武家名目抄、職名、一、上「按、蝦夷ノ反亂、代ヲ歴テ止マズ、故ニ、時時、將軍ヲ遣シテ討セシカド、猶止ム事ナカリシニ、綿麻呂、征夷使トナリテ、伐平ゲシヨリ、永ク其憂ナクナリシカバ、此後々エテ、征夷使ヲ拜セズ、鎮守將軍ヒトリ、鎮守ニアリテ、ヒタスラニ非常ヲ警衞シ、タマタマ、蝦夷ノ亂ルル事アレバ、陸奥、出羽、等ノ國司ヲ催シ、官兵ヲ興シテ、コレヲ征スルコトニナレリ」

せいいしやうぐん（名）［征夷將軍］ 前條ノ語ニ同ジ。 後紀、廿一、弘仁二年四月「正四位上文室朝臣綿麻呂、爲征夷將軍」云云、勅征夷將軍等曰、夷狄干紀、爲日已久、雖加征伐、未殄餘誅、今依來請、今將出兵、其軍監軍曹等、且簡用具奏上、但犯軍法、禁身奏聞、議以下、依法決斷、國之安危、在此一擧、將軍勉之」 盛衰記、三十四、義仲將軍宣事「元暦元年正月十一日、左馬頭義仲、可爲征夷將軍之由、被宣下」

せいいたいしやうぐん（名）［征夷大將軍］ (一)前前條ノ語ニ同ジ。 紀略、前篇、十三、延暦十六年十一月「以從四位下坂上大宿禰田村麻呂、爲征夷大將軍」 同、同、十四、弘仁四年五月「從三位文室朝臣綿麻呂、爲征夷大將軍」 百練抄、十、元暦元年正月十一日、以伊豫守義仲、可爲征夷大將軍之由、被下宣旨」（征夷ノ二字ハ、將軍ノ榮號ナリ） (二)後鳥羽天皇ノ建久三年ニ、源頼朝、此ノ職ニ補セラレ、天下ノ兵馬ノ權ヲ掌握スルニ至リ、其威力、往昔ノ征夷將軍ノ比ニアラズ、朝廷モ、亦、之レヲ重ンジ、海内ノ鎮護、一ニ、征夷大將軍ニ委ヌ、是レヨリ、常置ノ職トナレリ。（足利氏、徳川氏、此職ニ就ケリ） 柳營。大樹。 [illegible] 吾妻鏡、十二、建久三年七月廿日「大理[illegible]征夷大將軍[illegible]」

進之由、被申遣云云」 寶篋院殿（足利義詮）將軍宣下記「延文三年十二月十八日之午刻、爲勅使以上日野時光、征夷大將軍宣旨也、有御拜賀、同廿二日御參內」 看聞日記、正長二年三月十五日「今日、室町殿（足利義教）拜賀、[illegible]名字、義教ト改名云、宣下也」 光豊公記、慶長八年二月十二日「將軍宣下（徳川家康）[illegible]上卿廣橋大納言、奉行光廣朝臣、辨俊昌、地下如例」 將軍宣下記、慶安四年八月十八日「今日、將軍宣下（徳川家綱）ノ勅使、并、院使、新院使、女院使以下、登城云」

せいいつ（名）［齊一］ ヒトシキコト。均一。 莊子、天運篇「其聲能短能長、能柔能剛、變化齊一、不主故常」

せいいつ（名）［清逸］ 清ク、スグレタルコト。 米芾、跋懷素書「字法清逸、意韻奇偉」

せいいっぱい（名）［精一杯］ 力ノ限リ。イッシャウケンメイ。「精一杯ニ、ドナル」

せいう（名）［晴雨］ 晴ルルト、雨降ルト。晴天ト、雨天ト。「晴雨ニ拘ラズ」

せいうぎ（名）［晴雨儀］ 次條ニ同ジ。

せいうけい（名）［晴雨計］ 〔英語、Barometer.ノ譯語〕 一端ヲ密閉セル硝子管ニ、水銀ヲ入レ、コレヲ水銀槽中ニ、倒ニ立テタルモノニテ、氣壓ヲ測定スル器械。空氣ノ、上ヨリ水銀ヲ壓ス度ノ差違ニ隨ヒ、管中ノ水銀ニ高低ヲ生ズ、コノ性質ヲ利用シテ、氣壓ヲ計リ、晴雨ヲ知ルベシ。晴雨儀。氣壓計。

セイウチ（名）［海象］ 〔蘭語、Zeekoe.ノ轉訛ニテモアルカ〕 海獸、北氷洋ニ産ズ、形、略、あざらしニ似テ、大キサ、牡牛ノ如シ、陸ニアリテハ遲鈍ナレドモ、水ニアリテハ活潑ナリ、人ニ襲ハルレバ、最モ猛シ、脂、肉、皮、共ニ、味、美ナリ、上顎ニ、長大ナル牙、二ツアリテ、下ニ向

フ、せいくるト云フ、蘭人、舶來セリ、苗清トナレリト云フ。又、彫刻ニ用ヰル、[illegible]

せいうん（名）［青雲］ (一)アヲクモ。アヲゾラ。 [illegible] (二)高位、高官ノ稱、クモノウヘ。雲上。朝廷。 [illegible] (三)高位、高官ノ地位ニ至ラムト欲スル功名心。立身ノ希望。 張九齡詩「宿昔青雲志、蹉跎白髮年」

せいうん（名）［聖運］ 天子ノ御運。皇運。 白居易、代宰相上尊號表[illegible]「聖運隆盛」

せいうん（名）［盛運］ 隆盛ナル運命。盛ンナル氣運。 [illegible]

せいえい（名）［清榮］ (一)清ク、サカユルコト。 [illegible] (二)安ラカニシテ、盛ンナルコト。「益益、御清榮ノ趣」

せいえい（名）［清瑩］ キヨラカニ、カガヤクコト。キヨク、光ルコト。 朗詠集、上[illegible]

せいえい（名）［精鋭］ (一)スグレテ、スルドキコト。 [illegible] (二)[illegible]スルドキ兵。精兵。 [illegible]

せいえう（名）［政要］ 政事ノ要點。 [illegible]「貞觀政要」

せいえき（名）［精液］ [illegible]

中ニ、精蟲ヲ含ム。淫水。淫液。（出雲ニテ、よし） [illegible]

せいえき（名）［請益］ しやうやく（請益）ニ同ジ。 [illegible]

せいえつ（名）［請謁］ (一)權威アル者ニ、願ヒ求ムルコト。又、ねぎイルコト。 [illegible] (二)[illegible]貴人ニ、マミユルコト。謁見。

せいえん（名）［勢焰］ 氣勢。氣焰。イキホヒ。 [illegible]

せいえん（名）［盛筵］ 盛大ナル宴會。サカモリ。 [illegible]

せいえん（名）[illegible] [illegible]ニ同ジ。「一タノ盛宴ヲ張ル」

せいおう（名）[illegible] [illegible]

せいおん（名）[illegible] [illegible]

せいおん（名）［聲音］ (一)[illegible]

せいおん（名）［清音］ (一)キヨラカナル[illegible]

せいか（名）［清歌］ 清ラカナル聲ニテ、[illegible]

靜ノコト。曹植、洛神賦「馮夷鳴鼓、女媧清歌」

せいか（名）【清夏】 清ク涼ミテ、心地ヨキ夏。[illegible]

せいか（名）【盛夏】 夏ノ最中。暑ノサカリ。漢書、五行志「盛夏日長、暑以養物」

せいか（名）【請暇】 休暇ヲ、請願スルコト。請暇。假寧令「凡請假、五衛府五位以上、給三日、京官、三位以上、給五日」（假ハ、暇ニ同ジ）

せいか（名）【世家】 （一）支那ニテ、或ル特典ヲ有シ、ソレヲ世襲スル家柄。孟子、滕文公、下篇「仲子、齊之世家也」趙注「仲子、齊之世卿大夫之家」（二）前項ノ家柄ノ記錄。史記、太史公自序「著十二本紀、作十表、八書、三十世家、七十列傳」新五代史、南唐世家」

せいか（名）【生家】 （一）己レノ、生レタル家。サトカタ。サト。（二）嫁、婿、養子、養女ノ、其實家ヲ斥シテ云フ稱。

せいか（名）【齊家】 家ヲ、治メ齊フルコト。家庭ヲ、亂レザルヤウニスルコト。大學「心正而后身修、身修而后家齊」

せいか（名）【勢家】 勢ヒアル家。時メク家。權門。勢門。漢書、蕭何傳「何買田宅、云云、爲家不治垣屋、曰、令後世賢、師吾儉、不賢、毋爲勢家所奪」後漢書、梁鴻傳「[illegible]勢家[illegible]」「權門勢家」

せいか（名）【正價】 かけねノ無キ、マコトノあたひ。實價。

せいか（名）【聲價】 評判ノ位附。名聲ノ大小。後漢書、[illegible]「聲價[illegible]」

せいが（名）【聖駕】 天子ノ、召シタマフ牛車。車駕。乘輿。龍駕。漢書、霍光傳「聖駕清道、當務萬安」「聖駕ヲ迎ヘ奉ル」

せいが（名）【星河】 アマノガハ。天漢。銀河。河圖括地象「川德布精、上爲星河」朗詠集、上「遲遲鐘鼓初長夜、耿耿星河欲曙天」

せいが（名）【清雅】 キヨク、ミヤビヤカナルコト。清麗ニシテ、雅致アルコト。三國志、魏志、徐宣傳「清雅特立、不拘世俗」

せいが（名）【青蛾】【青娥】 （一）まゆずみニテ美シク畫キタル眉。青黛。太平記、廿五、黃粱夢事「青蛾ノ女御ハ、棹歌ヲ唱フ」（二）ミメヨキ人。ウラ若キ美人。韓愈詩「青娥驚長袖、紅頰吹鳴篇」江淹、水上神女賦「青娥羞艶、素女慚光」張謂詩「紅粉青蛾映楚雲」杜甫詩「想像嚬青蛾」

せいかい（名）【制戒】 佛ノ禁戒。謠曲、柏崎「内陣コソハ、極樂ノ九品上生ノ臺ナルニ、女人ノ參ルマジキトノ御制戒トハ、抑然レバ」

せいかい（名）【制海】 海上ヲ、支配スルコト。「制海權」

せいかい（名）【政界】 政事ノ社會。「政界ノ惑星」

せいかい（名）【清介】 〔清廉、狷介ノ略〕清廉ニシテ、度量ノ狹キコト。又、潔白ニシテ、孤立スルコト。南史、陸慧曉傳「清介正立、不雜交游」

せいかい（名）【精解】 しやうかい（詳解）ニ同ジ。南史、王融傳「學通陰陽、精解聲律」

せいがい-しや（名）【青蓋車】 〔後漢書、輿服志「皇太子、皇子、皆、安車、朱班輪、青蓋、云云、故、曰王青蓋車」〕青色ノ蓋アル車。古へ、皇太子ノ御乘用ナリシモノ。三國志、吳志、三嗣主傳「青蓋入洛陽」晉書、紀、三年正月「小黄門等、奉僞詔、到據陽、使臣蓮持節、以王青蓋車迎入宮中」

せいがい-なみ（名）【青海波】 「元祿ノ頃、青海勘七ト云フ蒔繪師、波ノ蒔畫ニ妙ヲ得タレバ、名トスト云フ」 次條ヲ見ヨ。

〔せいがい-は（名）【青海波】 舞樂ノ曲ノ名。龍宮ノ曲ナリト云フ。舞人ノ服ニ、波ノ文ヲ染ム、其象、淺葱ニ、藍ニテ、渦ヲ四分シタル如キヲ竝べ重ヌ、常ニ、コレヲ染模樣トシテ、青海波ナド云フ。教訓抄、三、「輪臺、古老傳云、輪臺、國名也、其國ノ人、著青海波ノ衣ヲ著シテ舞タリシ故ニ、ヤガテ、付其國名云云、青海波ハ、龍宮ノ樂也」樂家錄、三十七、舞「左舞、青海波（舞人二人）至於甲、及、袴、下襲、半臂、袍、彩紋常異、太刀垂平緒」源、七、紅葉賀「試樂ヲ、御前ニテセサセ給フ、源氏ノ中將ハ、青海波ヲゾ舞ヒ給ヒケル」古事談、六、亭宅諸道「仁平御賀（鳥羽）之時、[illegible]青海波之間、知足院入道殿（藤原忠實）被御覽之、[illegible]」體源鈔「[illegible]光行、之ヲ被舞」 盛衰記、四十、[illegible]「安元二年春ノ比、法皇（後白河）、法住寺殿ニテ、五十ノ御賀ノ有シニ、時ノ鉛ニ付テ、青海波ノ曲ヲ舞給シニ」

せいかう（名）【性行】 うまれつきト、おこなひト。性質ト、行爲ト。書經、皐陶謨篇「都、亦行有九德」傳「言、人性行、有九德」

せいかう（名）【生硬】【生梗】 ギゴチナキコト。練レテ居ラザルコト。キゴハ。ブコツ。拊掌錄（宋、元懷）「北都有妓女、美色而擧止生硬、人謂之生張八」「行文、生硬ヲ免レズ」

せいかう（名）【政綱】 政治ノ大綱。政策ノ大モト。宋史、薛極傳「政綱[illegible]」

せいかう（名）【誓誥】 古へ、支那ニテ、上ヨリ、下ニ誓ヒテ聞カスルコト。孔穎達、尚書正義、序「湯武革命、而誓誥興」

せいかう（名）【清香】 キヨラカナル、カヲリ。[illegible]

せいかう（名）【精巧】 仕上ゲノ、細カク、巧ミナルコト。精良。[illegible]「[illegible]精巧[illegible]」

せいがう（名）【精好】 次條ノ精好織ノ略、絹ノ織物ノ名。練絲ヲ經トシ、生絲ヲ緯トシテ織ル。又、經、緯、共ニ、練絲ナルモアリ。厚クシテ美シク、多ク、袴地ナドトス。庭訓往來、七月「[illegible]精好[illegible]」建武元年落書「下衆、上臈ノ際モナク、大口ニ着ル美精好」

せいがう-おり（名）【精好織】 前條ヲ見ヨ。

せいかく（名）【性格】 人トナリ。品性。品格。李中詩「性格[illegible]世所稀」「性格ノ[illegible]」

せいかく（名）【生客】 〔生ハ、品字箋（虞德升）「生、熟之對也、俗以下物之未成熟、人之未識熟上、皆謂之生」熟客ニ對ス〕日頃、知ラズ、始メテ見タル人。志林（宋、蘇軾）「子由作、棲賢堂記、僕讀之、且欲與廬山結緣、他日入山、不爲生客也」

せいかく（名）【政客】 政界ノ事ニタヅサハル人。政治家。

せいかく（名）【清客】 （一）陋シカラザル客。卑俗ナラザル客。風雅ナル客。（二）梅ノ異稱。三餘贅筆（明、都卬）「張敏叔以十二花、爲十二客、梅、清客」

せいかく（名）【精覈】【精核】 〔申傳「核、通覈」〕クハシク、調べ考フルコト。精細ニ調査スルコト。後漢書、[illegible]「[illegible]精核[illegible]」

せいかく（名）【精確】 クハシクシテ、タシカナルコト。江總、攝山寺碑「志業該通、心力[illegible]」

精編」「調查精編ヲ期ス」

せい-かく (名) 正確 タダシクシテ、タシカナルコト。「正確ナル時計」

せい-かく (名) 誠愨、誠慤 〔說文「愨、謹也」〕眞誠。誠實。禮記、檀弓、下「苟無禮義忠信誠愨之心以莅之、雖固結之、民其不解乎」

せい-がく (名) 星學 てんもんがく(天文學)ニ同ジ。

せい-がく (名) 聖學 聖人ノ說キ示シタル學問。特ニ、儒學。王應麟、玉海「學之一字、高宗傳說始言之、開萬世聖學之源」

せい-がく (名) 聲樂 (一)聲音ヨリ成立スル樂。卽チ、謠ヒモノノ類。(二)おんがく(音樂)ニ同ジ。晉書、樂志「海外來賓、獻其聲樂」

ぜい-かく (名) 說客 遊說スル人。史記、酈食其傳「酈生常爲說客」

ぜい-がく (名) 稅額 租稅ノ額。宋史、食貨志「減江東諸路、逃田稅額」

せい-かく-くゎつよう (名) 正格活用 語學ノ語、規則動詞ノコト。(篇尾ノ語法指南ノ動詞ノ條ヲ見ヨ)

せい-がさ (名) 勢嵩 軍勢ノ多寡。應仁記、下「着到ニ付ケテ、勢嵩ヲ見ムトテ」

せい-かっかう (名) 脊恰好 身ノ丈ノ高サ。身體ノ姿。岩淵夜話、別集、下「乘物ニ乘ッテ行クニ、カモ脊恰好モ揃ヒタル六尺ガ、跡先二人シテ舁ギ」

せい-かん (名) 征韓 朝鮮國ヲ、征伐スルコト。「豐太閤ノ征韓」

せい-かん (名) 聖鑒 天子ノ鑒識。天子ノ御メガネ。晉書、[illegible]傳「[illegible]智能、皆[illegible]」

せい-かん (名) 井幹 ヰゲタ。井戸ノ上方ニ、木、或ハ、石ヲ以テ、方形ニ組ミタルモノ。莊子、秋水篇「吾跳梁乎井幹之上」

せい-かん (名) 穽陷 オトシ穴。陷阱。淮南子、原道訓「[illegible]穽陷之中」

せい-かん (名) 擠陷 惡意ニテ、人ヲ罪ニ落シ入ルルコト。唐書、[illegible]傳「[illegible]不レ至レ死、杞擠陷之」

せい-かん (名) 清澗 水清キ谷川。清溪。劉禹錫、與[illegible]法師書「[illegible]清澗之悠派」

せい-かん (名) 清閑、清閒 キヨラカニシテ、物靜カナルコト。轉ジテ、他人ノ閑暇ヲ稱シテ云フ語。オヒマ。晉書、[illegible]傳「臣病、社稷危也、願賜清閒、竭愚」嵇康、賦「[illegible]其清閑」

せい-かん (名) 清涵 キヨク、ウルホスコト。陳集詩「[illegible]千日期、冰壺徒清涵」

せい-かん (名) 清鑒 キヨク明ラカニ鑒別クルコト。隋書、高構傳「待構稱有清鑒、所爲文筆、必先以草呈構、而後出之」

せい-かん (名) 精悍 擧動、スルドク、勇シキコト。史記、游俠、郭解傳「解爲人短小精悍、不飲酒」

せい-がん (名) 青眼 〔白眼ニ對ス〕己レノ好ム人ヲ迎フル眼モト。嬉シキ心ノ現ハレタル眼ツキ。晉書、阮籍傳「籍大悅、乃見青眼」徒然草、百七十段「徒然ニテ、今シバシ、今日ハ心靜ニナド云ハンハ、コノ限ニハアラザルベシ、阮籍ガ青眼、誰モアルベキ事ナリ」

せい-がん (名) 青眼、晴眼、正眼 劍術ニテ、刀ノ構ヘ方ノ名稱。刀ヲ中段ニ突出シテ、切先ヲ相手ノ眼ニ向クルコト。

せい-か-ろう (名) 栖霞樓 大内裏、豐樂

殿ノ東北ニアル樓。一ニ、東樓トモ云フ。拾芥抄、中、大內裏[illegible]「[illegible]北二閣、五間」

せい-き (名) 正氣 (一)至大、至高ナル、天地ノ元氣。文天祥、正氣歌「天地有正氣、雜然賦流形」(二)忠、孝、仁、義、等、立ツ所以ノ精神。浩然之氣。

せい-き (名) 生氣 (一)氣アリテ、生キテアルコト。世說、品藻、下篇「廉頗、藺相如、雖千載上死人、懍懍恆如有生氣」(二)生生シキ氣力。元氣。活氣。禮記、月令「季春之月、云云、是月也、生氣方盛、陽氣發泄」

せい-き (名) 盛氣 盛ンナル氣力。サカンナル勢。史記、趙世家「[illegible]太后、太后盛氣而胥之入」

せい-き (名) 精氣 (一)タマシヒ。精神。易經、繫辭、上傳「精氣爲物、游魂爲變」(二)精ノ、純粹ナル氣。「酒ノ精氣」(三)精神ト、氣力ト。歐陽修、蘇氏文集、序「雖其埋沒而未出、其精氣光怪、已能常自發見」

せい-き (名) 清器 〔穢ヲ避ケテ、清ト云フ、西淨ナド、同意〕便器。[illegible]。オカハ。オマル。

せい-き (名) 清暉、清輝 キヨキ日ノ光。謝靈運詩「昏旦變氣候、山水含清暉、清暉能娛人、遊子憺忘歸」

せい-き (名) 世紀 (一)時代。(二)〔英語、(century)ノ譯語〕西洋ニテ、百年ヲ一期トスル稱。卽チ、十三世紀ト云ヘバ、西曆千二百年ヨリ千二百九十九年マデヲ云フ類ナリ。

せい-き (名) 成規 定メテアル規則。莊子、田子方篇「昔之見我者、進退一成規、一成矩」

せい-き (名) 制規 サダメ。ノリ。制

則。「[illegible]」

せい-き (名) 旌旗 軍ニ用キル、ハタ。[illegible]

せい-ぎ (名) 正義 正シキ義理。義ト云フ。(二)同[illegible]

せい-ぎ (名) 精義 クハシキ義理。易經、繫辭、下傳「精義入神、以致用也」

せい-ぎ (名) 盛儀 盛大ナル儀式。盛典。[illegible]

せい-きう (名) 請求 コヒ、モトムルコト。要求。[illegible]「[illegible]請求[illegible]」

せい-きう (名) 精究 精細ニ、研究スルコト。[illegible]

せい-ぎたいふ (名) 正儀大夫 正四位上ノ唐名。[illegible]「正儀大夫」

せい-きふ (名) 性急 氣ノ、急クコト。[illegible]

せい-きん (名) 精勤 [illegible]

せい-きん (名) 生擒 イケドルコト。[illegible]

せい-きん (名) [illegible] [illegible]

せい-きん (名) 青衿、青襟 (一)青色ノ[illegible]

書生ハ、青襟ノ衣ヲ服セシニ由ル。詩經、鄭風、子衿篇「靑靑子衿、悠悠我心」毛傳「靑衿、靑領也、學子所レ服」劉長卿詩「[illegible]滿二靑衿一」

せいぎん（名）【清吟】 清ラカナル聲ニテ、詩歌ヲ吟ズルコト。又、他人ノ吟詠ヲ敬フ語。陸游詩「長嘯答二谷響一、清吟和二松聲一」

ぜいきん（名）【稅金】 租稅トシテ、上納スル金。「稅金ヲ取立ツル」

せいきゃう（セイキヨウ）（名）【靖匡】 安ンジ、タダスコト。天下ヲ、安寧、匡正スルコト。三國志、蜀志、先主傳「臣、云云、董二督三軍一、奉二辭於外一、不レ能二掃除寇難一、靖二匡王室一」

せいきゅう（名）【聖躬】 天子ノ御身。玉體。班固、西都賦「俯二仰乎乾坤一、參二象乎聖躬一」

せいきゅう（名）【青宮】〔青ハ、東ノ色ナリ〕皇太子ノ敬稱。春宮。東宮。神異經、漢、東方朔「東明山有レ宮、青石爲レ牆、高三仞、門有二銀榜一、以二青石一碧鏤、題曰二天子長男之宮一」

せいきゅう（名）【青穹】 せいくう（青空）ニ同ジ。蒼穹。李嶠詩「[illegible]歌聆二青穹一」

せいきょ（名）【逝去】 死ヌルコト。（敬語ニ）逝　東坡集「堂兄中舍、九月中逝去」

せいぎょ（名）【制御】【制馭】 抑ヘテ、統ベ治ムルコト。史記、始皇紀「下不三敢爲二レ非、以制二御海內一矣」

せいぎょ（名）【井魚】〔井底ノ蛙ト、同趣〕 井中ニ棲ミ居ル魚。轉ジテ、見聞ノ狹キ人ヲ罵リテ云フ語。淮南子、原道訓「井魚不レ可二與語一レ大、拘二於隘一也」

せいぎょ（名）【生魚】 ナマウヲ。生キテアル魚。鮮魚。荀子、禮論篇「尊之尙二玄酒一也、俎之尙二生魚一也、豆之先二大羹一也、一也」

せいぎょ（名）【青魚】（一）青キ色ノ魚。曹植、閑居賦「青魚躍二于東沼一、白鳥戲二于西渚一」（二）カド。ニシン。鰊。

せいきょく（名）【政局】 政治ノナリユキ。政界ノ局面。「政局ノ推移」

せいきょく（名）【聲曲】 音樂。音曲。北史、何妥傳「妥上表曰、謹具錄二三調四舞曲名一、云云、如別其有二聲曲、流宕不一レ可三以陳二于殿庭一者、悉附二之於後一」「聲曲類纂」

せいぎょく（名）【青玉】（一）鋼玉ノ一種、色、青シ、裝飾品トス。韓愈詩「明珠青玉不レ足レ報」（二）竹ノ異名。曹松詩「一方青玉絶二纖塵一」

せいく（名）【成句】 古來ノ、既成ノ文句。古來、慣用ノ句。「故事、成句」

せいく（名）【清臞】 姿ノ、見ヨク瘦セタルコト。ホッソリトシタルコト。ヤセガタ。梅堯臣、詠レ梅詩「天教二飛雪件二清臞一」

ぜいく（名）【贅句】 無益ノ句。要（イ）ラヌ文句。無用ノ句。

せいくう（名）【青空】 アヲゾラ。蒼空。蒼天。青穹。許敬宗詩「錦鱗文二碧浪一、繡羽絢二青空一」

せいくん（名）【聖君】 せいしゅ（聖主）ニ同ジ。晉書、樂志、釣竿曲「造化賦二其形一、退顧輔二聖君一、與レ神合二其靈一」

せいくん（名）【聖訓】（一）聖人ノ教。聖教。（二）天子ノ御サトシ。聖諭。勅諭。耶律楚材詩「洪恩浹二四海一、聖訓宜レ書レ紳」

せいくん（名）【聖勳】 天子ノ御イサヲ。帝勳。于邵、降誕頌「纘レ武纘レ文、時惟聖勳」

せいくん（名）【盛勳】 盛ンナル勳功。阮籍、爲二鄭沖一勸二晉王一牋「元功盛勳、光光如レ彼」

せいくん（名）【請訓】 上司ニ、訓令ヲ下サレムコトヲ請フコト。「在外使節ノ請訓」

せいくらべ（名）【脊比】 脊丈ヲ、クラブルコト。タケクラベ。

セイクル（名）〔蘭語、原字未レ詳〕 せいうち（海象）ノ條ヲ見ヨ。

せいくゎ（セイカ）（名）【聖化】 くゎうくゎ（皇化）ニ同ジ。漢書、劉向傳「然後、聖化可二得而行一也」大織冠（正德、近松作）二「太宗皇帝ト申シ奉ルハ、聖化、殊ニ盛ンニシテ」

せいくゎ（セイカ）（名）【正貨】 眞正ノ貨幣。卽チ、紙幣ニ對シテ、金貨、銀貨ナドノ稱。硬貨。古三墳「市肆正貨、過レ政反レ邪」「正貨準備」

せいくゎ（セイカ）（名）【生花】（一）イケバナ。插花。（二）芝居ノ道具立ニ、眞物ノ草木ヲ用キルモノ。

せいくゎ（セイカ）（名）【青花】 ソメツケ。吳須（ゴス）ノ條ヲ見ヨ。

せいくゎ（セイカ）（名）【精華】〔精ハ、增韻「凡、物之純至者、皆曰レ精」華ハ、美也〕 至純ノ美。正味ノ、良キ所。キッスキ。ヒカリ。ハナ。中鑒（漢、荀悅）「榮辱者、賞罰之精華也」「國體ノ精華」

せいぐゎ（セイガ）（名）【清華】 又、清華（セイケ）。華族（クワシヨク）。公達（キンダチ）。英雄家。公家衆ノ家筋ノ一、五攝家ノ次、大臣ノ上ニアリ、大臣大將ヲ歷テ、太政大臣ニ進ムモノノ稱。卽チ、源氏ノ久我、藤原氏ノ三條、（轉法輪）西園寺、德大寺、花山院、大炊御門、今出川（菊亭）ノ七家ニ、後ニ、源氏ノ廣幡、藤原氏ノ醍醐ヲ加ヘラレテ、合ハセテ、九家ナリ。北史、袁聿修傳「少年平和溫潤、素流之中、最爲二規檢一、以二名家子一、歷二任清華一」江家次第、六、石清水臨時祭「舞人前二人」注「殿上四位、用二清華人一、所衆二人、執二瓶子一相從」平治物語、一、信賴信西不快事「信賴ガ、大將ヲ望ミ申スハ、如何、必ズシモ、重代清華ノ家ニアラザレドモ、時ニ依リテ、ナサルル事モ（大將ニ）アリケルト」盛衰記、七、盛親卿流罪事「資賢ハ、古人ノ宿老ニテ御坐キ、兼雅ハ、清花英才ノ人ニヤ、越テレ給モ不便也トゾ、人人、申ケル」長門本、平家物語、三、土佛因緣事「成親卿、云云、從二位シ給時モ、すけかた、兼まさヲ越給キ、すけかたハ、古人、宿老（オトナ）ニテマシマシキ、兼雅ハ、清華ノ人ナリシニ、越エラレ給シハ、不便ナリ」枕草子春曙抄、十「君達ハ、執柄大臣ナドノ息ヲ申ス、華族トモ、清華トモ云ヘリ」官職祕抄、上「大納言、云云、非二華族公達幷諸大夫一、不レ任レ之」職原抄、下「凡、公達諸大夫之號、起二於執柄一事也、云云、執柄一門、及、可レ然人人子孫、謂二之公達一、縱雖二累代家禮之人一、不レ失二其名號一歟」增註、職原抄、四「公達ハ、三公ニ達スルトモ云フ義也、云云、清華ノ家ヲ云ヘリ、又、清華ノ子息ヲモ云フトナリ」書言字考節用集、四、人倫門「英雄家（エイユウケ）」注「斥二清華家一云レ爾」台記、康治二年十二月八日「菖蒲丸著袴、云云、役二家司職事八人一、維順朝臣、泰兼朝臣、忠能、賴方、政業、賴佐、盛德、信範、皆是撰二英雄一也」

せいぐゎ（セイガ）（名）【正畫】 寫眞ノ種板ヲ、感光紙ニ燒キ附ケ、實景ト、明暗、相、等シキ畫ニ製シタルモノ。陽畫。

せいくゎい（セイカイ）（名）【盛會】 盛大ナル會合。周伯琦詩「高冠𩃭服皆王公、良辰盛會如二雲從一」

せいぐゎい（セイガイ）（名）【世外】 世間ノ外。世俗ヲ脫シタル境涯。浮世（ウキヨ）ヲ離レタル所。晉書、許邁傳「相與爲二世外之交一」

せいぐゎい（セイガイ）（名）【制外】 制規（オキテ）ノホカ。制限外。法度ノ、咎メヌコト。

せいぐゎいこ（セイガイコ）（名）【制外子】（一）芝居ニテ、町内ノ素人子供ヲ、舞臺ヘ出スモノ。腰元ナド、多ク入用ノ時、使フ、踊

ナドモ、セサス。役者ノ下地ナレドモ、座頭、頭取ノ制ノ外ナリ。(二)カゲマ。

せいくゎう（名）［聖皇］ 天皇ノ尊稱。聖天子。班固、東都賦「聖皇乃握二乾符一、闡二坤珍一、披二皇圖一、稽二帝文一」

せいくゎう（名）［清光］ キヨラカナル、光リ。又、月光。沈約、詠「月詩、洞房殊未レ曉、清光信悠哉」

せいくゎう（名）［生壙］ 生前中ニ設クル墓。壽藏。壽冢。陔餘叢考（清、趙翼）「司空圖作二生壙一、每二春秋佳日一、邀二賓友一、遊二詠其上一」

せいくゎうせいきょう（句）［誠惶誠恐］ 文章ノ結句。誠實ニ、オソレ、カシコマル。韓愈、潮州刺史謝上表「聖恩弘大、云云、豈足レ爲レ謝、臣某、誠惶誠恐、頓首頓首」

せいくゎく（名）［生獲］ イケドリ。生擒。

せいくゎすゐ（名）［井花水］ 水ノ一種ノ稱。ワカミヅ。醫心方（古寫本）「井花水、トリノワタラヌミヅ」散木集（俊頼）三、秋、七月「老イヌレバ、七タツメニ、コトヨセテ、鳥モ渡ラヌ、ミツワヲゾ汲ム」（七月七日、曉鷄ノ、未ダ鳴カザル時、井花水ヲ取リテ、仙藥ヲ調フル事ナリ）

せいくゎつ（名）［生活］ (一)生キテアルコト。生存。孟子、盡心、上篇「民非二水火一不二生活一」文子、道德篇「自二天子一以下、至二于庶人一、各自生活」「動物ノ生活」(二)スギハヒ。クラシ。クチスギ。生計。北史、胡叟傳「蓬室草筵、惟以二酒自適一、云云、我此生活、似レ勝二焦先一」「裕カナル生活」

せいくゎん（名）［生還］ 生キテ、還ルコト。劉長卿、詩「天南一萬里、誰得二生還一」「生還ヲ期セズ」

せいくゎん（名）［盛觀］ 盛大ナル、ミモノ。壯觀。

せいくゎん（名）［靜觀］ 精神ヲ靜カニシテ、觀察スルコト。程顥、詩「萬物靜觀皆自得」

せいくゎん（名）［誠款］ 至誠ニシテ、詐ナキコト。誠心。三國志、蜀志、[illegible]傳、注「[illegible]孫權一、大笑曰、君之誠款、乃當爾耶」

せいぐゎん（名）［誓願］ 誓ヒテ、願ヲ立ツルコト。王勃、武都山淨惠寺碑「弘宣二誓願一、大拯二沈黎一」井筒業平河內通（享保、近松作）三「我レ世ノ中ニ有ラン限リハ、只賴メトノ御誓願」

せいぐゎん（名）［請願］ コヒ、ネガフコト。宋書、王僧達傳「公私請願、宜レ蒙二允許一」「請願巡査」

ぜいくゎん（名）［稅關］ 開港場ニアリテ、輸出、輸入ノ稅ヲ收ムル官衙。

せいくゎもん（名）［西華門］ 禁中、第二ノ內門ニテ、大極殿軒廊ノ西門ナリ。拾芥抄、中、末「西華門」注「謂二之北面復道廊一、西第二內門」字類抄「西華門」

せいげ（名）［清華］ せいぐゎ（清華）ニ同ジ。

せいけい（名）［世系］ 代代、相續ノ血系。系統。唐書、李多祚傳「其先、靺鞨酋長、後入二中國一、世系湮遠」

せいけい（名）［生計］ 生活ノ手段。生業。クチスギ。スギハヒ。活計。白居易、詩[illegible]

せいけい（名）［聖經］ 聖人ノ述作ノ書、又ハ、聖人ノ言行ヲ書キ載セタル記錄。聖典。唐書、藝文志「自二孔子在時一、[illegible]」

せいけい（名）［青熒］ (一)アヲビカリ。青ク光ルコト。[illegible] (二)燈火ノ光。[illegible]

せいけい（名）［成蹊］ 花美シキ桃李ノ下ニハ、自ラ、人ノ集リ來リテ、蹊ヲ成ス如ク、德行アル人ハ、沈默シテ居ルモ、自ラ、人ノ歸仰スルニ喩フル語。史記、李廣傳、贊「諺曰、桃李不レ言、下自成レ蹊、此言雖レ小、可三以喩二大一也」

せいけい（名）［誠敬］ 誠實ヲ以テ、謹ミ敬フコト。南史、謝弘微傳「伯叔二母、歸二宗兩姑一、晨夕瞻奉、盡二其誠敬一」

せいけいろう（名）［霽景樓］ (一)大內裏、豐樂殿ノ西北ニアル樓。一ニ、西樓トモ云フ。拾芥抄、中、末「霽景樓、在二豐樂院西北一、二閣、五間」(二)越前、敦賀ニ同名ノ樓アリト云フ。

せいけう（名）［聖教］ (一)聖人ノ教訓。又、儒學ノヲシヘ。聖訓。[illegible]曰「去二聖教一、爲二異術一、不レ若二速死一、與二痼疾一」(二)きりすとけう（基督教）ノ稱。

せいけう（名）［政教］ まつりごとト、をしへト。政治ト、宗教ト。[illegible]「內修二文教一、外講二武備一」「政教一致」

せいけう（名）［西教］ 西洋ノ宗教。

せいけう（名）［正教］ 〔邪教ニ對ス〕タダシキヲシヘ。正道ノ教。[illegible]

せいけう（名）［[illegible]教］ 社會ノ風俗、[illegible]

せいけう（名）［[illegible]］ [illegible]化。[illegible]

せいけつ（名）［清潔］ (一)キヨク、イサギヨキコト。汚レ無キコト。[illegible] (二)性行ノ、潔キコト。不正ナル思想ノ、ナキコト。廉潔。清廉。[illegible]

せいけつ（名）［生血］ イキチ。ナマチ。

せいけつ（名）［生訣］ イキナガラ別ルル。生別。[illegible]

せいげつ（名）［霽月］ 雨ノ霽レタル後ノ月。[illegible]

せいげふ（名）［生業］ ナリハヒ。スギハヒ。[illegible]

せいげふ（名）［成業］ 業ヲ、成就シタルコト。[illegible]

せいげふ（名）［正業］ 正シキナリハヒ。堅氣ノ職業。「正業ニ就ク」

せいけん（名）［聖賢］ (一)聖人ト、賢人ト。[illegible] (二)酒ノ異名。即チ、清酒ト、濁酒トナリ。[illegible]

せいけん（名）［政見］ 政事上ノ意見。[illegible]

せいけん（名）［政權］ 政事ヲ執リ行フ權力。政柄。[illegible]

せいけん（名）［勢權］ 威勢ト、權力ト。[illegible]

[illegible]」

せい-けん（名）［成憲］成文ノ憲法。先王ノ法憲。書經、說命下篇「監于先王成憲、其永無愆」

せい-けん（名）［靖獻］正義ニ靖ンジテ、其志ヲ致スコト。又、臣タル者、義ノ盡スベキ所ニ安ンジテ、其志ヲ先王ニ獻グルコト。書經、微子篇「自靖、人自獻于先王」「靖獻遺言」（淺見安正編）

せい-けん（名）［精硏］せいきう（精究）ニ同ジ。後漢書、何休傳「精硏六經、世儒無及者」

せい-けん（名）［生絹］（一）キギヌ。生縑。畫史（宋、米芾）「古畫至唐初、皆生絹」（二）スズシ。綃

せい-げん（名）［制限］定メテアル限リ。

せい-げん（名）［西諺］西洋ノことわざ。

せい-げん（名）［靑玄］オホゾラ。大空。蒼玄。漢書、禮樂志「忽乘靑玄、熙事備成」

せい-げん（名）［淸言］せいだん（淸談）ノ（二）ニ同ジ。北史、崔伯謙傳「閒暇至、則置酒相娛、淸言不及俗事」

せい-げん（名）［聲言］言ヒフラスコト。聲明。

ぜい-げん（名）［贅言］〔釋名「贅、屬也、橫生一肉、屬著體也」〕ムダゴト。ムダクチ。無用ノ言。餘計ナル言ヒグサ。贅語。略シテ、贅トノミモ云フ。揚子法言、問神篇「書不經非書也、言不經非言也、言書不經、多多贅矣」

せいげん-ぐわい（名）［制限外］〔次條ノ制限內ニ對ス〕制限ノソト。限界ヲ超ユルコト。「制限外發行」

せいげん-ない（名）［制限內］〔前條ノ制限外ニ對ス〕制限ノウチ。限界ヲ超エザルコト。

せい-こ（名）［世故］又、せこ。世ノ中ノ事。世事。列子、楊朱篇「實累萬金、不治世故」「世故ニ通ズ」

せい-こ（名）［靑顧］靑眼ニテ、人ヲ顧ミルコト。コロシク、人ヲ待遇スコト。下學集、下、態藝門「靑顧、晉阮籍、以靑眼好人、以白眼惡人也、靑眼者、靑眼之思顧也」

せい-ご（名）〔松江ノ約轉カト云フ、又、當歲兒ノ略カト云フ。支那ノ松江ノ鱸、名高シ〕鱸ノ、小ナルモノ。すずきノ一年子。倭名抄、十九、龍魚類「鮬、世比」林逸節用集「鮬、セイコ」

せい-ご（名）［省悟］吾ガ身ヲ省ミテ、過失ヲ悟ルコト。舊唐書、狄仁傑傳「仁傑每從容奏對、無不以子母恩情爲言、則天亦漸省悟」

せい-ご（名）［成語］（一）一語ニ成リ立チタル語。例ヘバ、かきがひ、なしどりノ如シ。（二）古來ノ、既成ノ語。古來、慣用ノ語。

せい-ご（名）［正誤］誤リヲ、正スコト。ナホシ。「新聞紙ノ正誤」

ぜい-ご（名）あぢ（鰺）ノ條ヲ見ヨ。

ぜい-ご（名）［贅語］ぜいげん（贅言）ニ同ジ。

せい-こう（名）［成功］（一）功ヲ、成シタルコト。仕事ノ仕上リ。書經、禹貢篇「聲敎訖于四海、禹錫玄圭、告厥成功」「難事ヲ成功ス」（二）事ヲ、成シ遂ゲタル功績。成績。論語、泰伯篇「巍巍乎、其有成功」史記、袁盎傳「大尉主兵、適會其成功」

せい-こう（名）［精工］精緻ニ、工作スルコト。細工スルコト。後漢書、蔡倫傳「莫不精工堅密、爲後世法」

せい-こく（名）［正鵠］〔小爾雅「侯中者、謂之鵠、鵠中者、謂之正」〕的ノ、中央ノ星。禮記、射義篇「孔子曰、射者何以射、何以聽、循聲而發、發而不失正鵠者、其唯賢者乎」

せい-こく（名）［靖國］國ヲ、靖ンズルコト。國家ヲ、安泰ニスルコト。鎭國。左傳、僖公廿三年「子文曰、吾以靖國也」

せい-こつ（名）［性骨］天ヨリ賦與セラレタル、技藝ノ骨。徒然草、二百十九段「笛ハ、吹キナガラ、息ノ內ニテ、且ツ調ベモテユク物ナレバ、穴ゴトニ、口傳ノ上ニ、性骨ヲ加ヘテ、心ヲ入ルルコト、五ノ穴ノミニ限ラズ」

せい-こつ（名）［整骨］ホネツギ。接骨。

せいこつ-じゅつ（名）［整骨術］整骨ヲナス技術。骨ツギノ治療ノ術。接骨術。

せい-こん（名）［精根］精力。根氣。嫗山姥（正德、近松作）三「筋骨舒ンデ、精根盡キ果テ候ヘバ」

せい-こん（名）［精魂］タマシヒ。精靈。靈魂。李華、弔古戰場文「弔祭不至、精魂何依」謠曲、當麻「唯今、夢中ニ顯ハレタルハ、中將姬ノ精魂ナリ」

せい-こん（名）［圊溷］廁屋。雪隱。溷圊。三國志、蜀志、諸葛亮傳、注「隸於井竈、圊溷、營壘」

せい-ごん（名）［誓言］チカゴト。チカヒノコトバ。コトダテ。矢言。法華經、勸持品「皆於佛前、作是誓言」宇治拾遺、九、第一條「エモ云ハズ、罪深キ誓言ドモ、立テサセケリ」

せい-さ（名）［靑瑣］車ノ腰、經机、門扉ナドノ彫模樣ノ名。木ヲ彫ミテ、綠靑ヲ塗リタルモノ。倭名抄、十六、門戶具「靑瑣、刻木爲之纖文靑、而施之於戶上也」

せい-さ（名）［精査］精細ニ、調査スルコト。クハシキ取リシラベ。審査。

せい-ざ（名）［星座］ホシノヤドリ。天文學ニテ、天ノ某恆星ハ、某地位ニアリト云フコトヲ定メムガ爲ニ、一方ノ衆星ヲ集メ見テ、各各、某物ノ形象ニ擬ヘテ呼ブ稱。二十八宿、十二宮、ナド、コレナリ。星宿。史記、天官書、注「星座有尊卑、若人之官曹列位、故曰天官」

せい-ざ（名）［靜坐］（一）シヅカニ、スワルコト。玉澗雜書（宋、葉夢得）「歐陽文忠公、嘗問杜祁公、何以續書、公曰、唯靜坐可以進書」（二）儒家ニ於イテ、坐禪ノ如ク端坐シテ、心ヲ靜カニスルコト。朱熹文「不必盡口誦書、或靜坐存養、皆是用功處」「靜坐法」

せい-さい（名）［精細］手際ノ、クハシク、コマカキコト。精密。金樓子（梁、孝元皇帝）「書極精細」「精細ニ調査ス」

せい-さい（名）［精彩・精采］麗ハシキ、色ドリ。光リ、耀クコト。光彩。李白詩「瑤姬天帝女、精采化朝雲」

せい-さい（名）［制裁］（一）抑ヘテ、扱フコト。（二）國家ガ、法律ヲ犯シタルモノニ、刑ヲ科スルコト。「不逞ノ徒ニ制裁ヲ下ス」

せい-さい（名）［聖裁］天子ノ裁斷。聖上ノ御裁可。

せい-さい（名）［正妻］本妻。正室。〔妾ナドニ對ス〕戰國策、中山策「公因勸君立之、以爲正妻、陰簡之德公、無所窮矣」

ぜい-さい（名）［噬臍］ホゾヲ、カムコト。悔ユルニ云フ。ゼイセイ。左傳、莊公六年「若不早圖、後君噬齊」（齊ハ、臍ニ同ジ）同、校本預註「獵者捕麝、以取其臍、麝急自噬破其臍、則人不取之、若既就擊、雖欲噬臍、亦無及矣」

せいさい-よ (副) 〔精精よノ訛カ〕（一）十分ニ。至極ニ。「せいさいよ勉強シマス」(靜岡縣)（二）カラウジテ。ヤット。ヤウヤウ。(京都)「手當、せいさいよ五圓」

せいさう (名) 生草 生エタルくさ。生ノくさ。枯草ニ對ス。李白、梁父吟「狼狗磨レ牙競二人肉一、騶虞不レ折二生草莖一」

せいさう (名) 星霜 トシツキ。年月。杜牧集「經二幾年一、日ヲ幾換二星霜一」平家物語、二、善光寺炎上事「攝津國、難波ノ浦ニシテ、星霜ヲ送ラセ御座シマス」 塵添壒嚢抄、十、星霜事「歳ノ積ヲ、星霜ト申ス、霜ハ、年毎ニ降ルモノナレバ、云云、星ハ、云云、天ヲ巡リ玉フ故ニ、其ノ行度ヲ數ルニ心ナルベシ」「百年ノ星霜ヲ歷テ」

せいさう (名) 腥臊 ナマグサキコト。轉ジテ、ケガラハシキコト。史記、晉世家「犯肉腥臊、何足レ食」 犯ハ、狐偃ノ字）

せいさう (名) 正裝 正服ヲ、着用スルコト。正服ノヨソホヒ。(略裝ナドニ對ス)

せいさう (名) 盛裝 立派ナル、ヨソホヒ。「盛裝ヲ凝ラス」

せいさう (名) 清爽 キヨク、サハヤカナルコト。サッパリシテ居ルコト。杜陽雜編(唐、蘇鶚)「飲レ之、神氣清爽」

せいさう (名) 清操 潔白ナル志操。清キ、ミサヲ。清節。晉書、顧和傳「總角有二清操一、族叔榮雅重レ之、曰、此吾家麒麟也」

せいさう (名) 悽愴 イタミ、悲シムコト、イタマシキコト。又、サビシキコト、悽愴。後漢書、竇公祖傳「曹操過二其墓一、愴然傷レ懷、致レ祭奠二」

せいさう (名) 蠐螬 スクモムシ。ヂムシ。莊子、至樂篇「烏足之根、爲二蠐螬一」蠐螬、蠐螬 [illegible] 篇「蠐、蠐螬」註「在二糞土中一者」

せいざう (名) 聖像 （一）聖上ノ御肖像。御眞影。宋史、眞宗紀「五月甲辰、奉二聖像於[illegible]、乙卯、謁二[illegible]宮一」（二）聖人ノ像、殊ニ、孔子ノ像。[illegible]七編(宋、張君房)「[illegible]繪像、高三丈、今、謂二之聖像二」

せいざう (名) 製造 ツクリ。コシラへ。製作。徐陵、傅大士碑「爰、其苦器、製、造養壇二」

せい-さく (名) 製作 前條ニ同ジ。

せい-さく (名) 正朔 （一）年ノはじめト、月ノはじめト。正月ト、朔日ト。（二）コヨミ。曆本。史記、律書「王者易レ姓受レ命、必愼二始初、改二正朔、易二服色二」（三）天子ノ政令。後漢書、南蠻傳、前世所レ不レ至、正朔所レ未レ加」 [illegible] 紀、十年七月「遐荒人等、猶不レ受二正朔二」「正朔ヲ奉ゼズ」 外國ヲ懷ケテ、己レガ國ノ曆ヲ授ケ用キシムルヲ、正朔を授くナド云フ。我ガ臣國ナリト稱ス。王化ニ潤ホス。

せい-さく (名) 政策 政治ノ方策。政略。「營業政策」 政事上ノ、ハカリゴト。政略。

ぜい-さく (名) 枘鑿 ほぞト、あなト。四角ノほぞト、圓キあなト。齟齬シテ、相、容レザルコトニ云フ語。宋玉、九辯「圜鑿而方枘兮、吾固知二其齟齬而難レ入」「枘鑿、相、容レズ」

せいざ-ぢゅつ (名) 靜坐術 端坐シテ、身體ヲ健康ニナスベキ方術。靜坐法。

せい-さつ (名) 制札 禁制法度ノ旨ヲ、札ニ記シテ、路傍ナドニ建テ置クモノ。高札ノ中ニ、禁制ノ箇條ヲ書キタルモノ。書禮認訓抄、制札之事「始文ハ、禁制ト、條書之

間、一行置二可レ書、是ハ、守護之札ナリ、[illegible]一文字ト、[illegible]、[illegible]、[illegible]一文字ト[illegible]二[illegible]ル事書ヲ出也、年號、[illegible]之書、制札共書也」 大乘院寺社雜事記、明應二年二月廿八日、制札[illegible]」

せい-さつ (名) 省察 自ラ、省ミテ、察スルコト。[illegible]

せい-さつ (名) 生殺 活カスト、殺スト。活殺。[illegible] 殺ノ權[illegible]」

せいざ-はふ (名) 靜坐法 靜坐術ニ同ジ。

せい-さん (名) 生產 （一）ナリハヒ。クラシ。生業。史記、貨殖傳、[illegible] 呂備之[illegible]」（二）財貨ノ產出。[illegible]「[illegible]過剩」

せい-さん (名) 製產 製造ト、產出ト。又、製造ノ產物。

せい-さん (名) 成算 豫ネテ立テタル、心算。心中ノ成案。胸中ニ描ク方法。成竹。目算。[illegible]」

せい-さん (名) 聖算 天子ノ御年齡。寶算。聖壽。

せい-さん (名) 清算 勘定ノ仕上ゲ。決算。「[illegible]ノ清算」

せい-さん (名) 精算 精密ナル計算。

せい-さん (名) 青衫 青キ色ノ、短キ單衣。[illegible]

せい-さん (名) 悽慘 イタミ、カナシムコト。[illegible]

せい-ざん (名) 青山 （一）樹木ノ、茂リテ、青青トシタル山。[illegible]（二）墳墓ノ地。[illegible] キ場所。[illegible]「[illegible]」

せい-ざん (名) 聖餐 〔英語、Communionノ譯語〕 基督教ノ語、基督ノ[illegible] [illegible] [illegible] 與セシ記念ニ、耶蘇教會堂ニ於イテ、[illegible] 包ヲ聖肉ト稱シ、葡萄酒ヲ聖血ト稱シテ、[illegible]

せいざんは (名) 西山派 淨土宗ノ一派、法然ノ弟子[illegible]京都ノ西山ニ[illegible]ヲ[illegible]トス。今ハ、光明寺ノ外、禪林寺(西山禪林寺派)、誓願寺(西山深草派)、圓福寺(同上)ノ三本山ニ分ツ。

〔せいし〕 (名) 制 制スルコト。禁制。制止。[illegible]シ)ト云ヘバ、制シニヤル[illegible]」

せい-し (名) 制止 〔[illegible]、止也、西方義氣、有レ所二制止一也」〕 イマシメ、トドムルコト。差シトムルコト。禁止。禁制。[illegible] ニ、此類クシリト[illegible]ヒテ、[illegible]バ、我レ、制止スル事アルベカラズ、[illegible]テハ、永ク此事、停止スベシト、ノ給ヒケレバ、

せい-し (名) 靜止 動カザルコト。トドマリテ居ルコト。(運動ニ對ス) [illegible]、止也、[illegible]」

せい-し (名) 生死 〔荀子、禮論篇「生、人之始也、[illegible]」〕 [illegible]

せい-し (名) 姓氏 かばねト、うぢト。[illegible]

せい-し (名) 【世子】〔白虎通(班固)「諸侯世子、三年喪畢、上受二爵命于天子一、所三以名レ之爲二世子一何、言レ欲二其世世不一レ絶也」〕諸侯ノ嫡子ノ稱。(漢文ニ) 禮記、文王世子篇「三王教二世子一、必以二禮樂一」 孟子、滕文公、上篇「滕文公爲二世子一」

せい-し (名) 【正始】〔毛詩、序「周南召南、正始之道、王化之基」トアルヨリ出ヅ〕歌曲。 太平記、三十九、神木御歸座事「南列ノ伶倫、雅道、蓬城樂ヲ奏シテ、正始ノ聲ヲ調ベ」

せい-し (名) 【星使】〔後漢書、李郃傳「郃指レ星、示云、有二二使星一、向二益州分野一、故知レ之耳」ノ故事ニヨル〕公使、大使。(政府ヨリ派遣セラルルモノ) 高適詩「月卿臨二幕府一、星使出二詞曹一」

せい-し (名) 【西史】 西洋ノ歷史。

せい-し (名) 【青史】〔古ヘ、紙ナシ、青キ竹簡ヲ炙リテ、青色ヲ淡クシタルモノハ、字ヲ書キ易ケレバ、ソレニ記シタルヨリ出ヅ〕記錄、歷史ノ異名。汗青。殺青。 范質詩「南朝稱二八達一、千載穢二青史一」 大戴禮「青史之記」

せい-し (名) 【青詞】〔青藤紙ニ、朱字ヲ以テ書スルモノ〕道教ノ祭祀ニ用キル文體。又、其文章。 歐陽修、内制集、序「青詞齋文」

せい-し (名) 【青紫】〔支那ノ漢ノ代ニ、公侯ノ印綬ハ紫、九卿ハ青ヲ用キシヨリ、出ヅ〕公卿。卿相。 漢書、夏侯勝傳「士病レ不レ明二經術一、經術苟明、其取二青紫一、如三俛拾二地芥一耳」

せい-し (名) 【青瓷】 せいじ(青磁)ニ同ジ。

せい-し (名) 【聖志】 (一)天子ノ御意志。 秦泰山銘「咸承二聖志一」 (二)聖人ノ意志。 潘尼、釋奠頌「篤レ誠作レ頌、祇詠二聖志一」

せい-し (名) 【聖旨】 (一)天子ノオボシメシ。叡旨。 蔡邕、陳二政要七事一疏「臣伏讀二聖旨一」 (二)聖人ノ趣旨。 十洲記(漢、東方朔)「臣朔、所レ見不レ博、未レ能レ宣二通王母及上元夫人聖旨一」

せい-し (名) 【聖使】 (一)天子ノ御ツカヒ。天使。(二)しと(使徒)ニ同ジ。

せい-し (名) 【聖姿】 天子ノ御スガタ。玉姿。 劉琨、勸進表「聖姿合二于兩儀一」

せい-し (名) 【聖嗣】 天子ノ御ヨツギ。皇儲。 曹植、皇太子頌「嘉月令辰、篤生二聖嗣一」

せい-し (名) 【誓詞】 (一)チカゴト。誓約ノ文言。誓文。起請。誓書。 泰平年表、大御所「天明六年、是年、諸御役人、誓詞ヲ奉ル」 要篋辨志、下「一、御代替リ之節、諸大名、誓詞之儀、御老中御役宅、萬石以下評定所」 (二)神ニ誓ヒテ、約束スル言葉。コレニ違ハバ、神罰ヲ蒙ルベシト云フ。記シタル文章ハ、卽チ、誓文ナリ。武家時代ニハ、誓詞ノ末ニハ、日本國中大小神祇ノ御罰蒙ルベキモノナリ、ト書キタリ。起請(キシヤウ)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 武家傳奏誓詞「就二傳奏之役儀勤仕一、公家武家御爲、聊以疎略存間敷候、公武御用之儀ニ付テハ、相役、中惡ク不レ仕、諸事申合、依怙贔屓無レ之、正路ニ可レ致二沙汰一之次第、御用之儀、各被二相尋一子細有レ之バ、不レ殘二心底一可レ申者也、右、於二違背一者、可レ蒙二梵天、帝釋、四大天王、總日本國中大小神祇御罰一者也」

せい-し (名) 【誓紙】 誓詞ノ文書(カキモノ)。誓狀。誓書。 川角太閤記、一、天正十年六月四日「筑前守殿ヨリ來候陣僧ノ前ニテ、靈社ノ起請判ヲ固メラレ候、大形、下下エ聞エ申通モ、筑前守殿御登候トモ、表裏有マジク候、又、毛利家被レ退候トモ、筑前守殿ヨリモ、表裏アルマジクトノ誓紙ト、相聞候事」 制禁集、就二幾利支丹御改一一札之事「私共、祖父親之代、拙者共勿論、女房ニ至マデ、幾利支丹誓紙、僞無二御座一候、召仕之者共、改申候得共、先祖、右之宗門之者、無二御座一候」

せい-し (名) 【生紙】〔熟紙ニ對ス〕 きがみ(生紙)ニ同ジ。熟紙(ジユクシ)ノ條ヲモ見ヨ。

せい-し (名) 【勢至】 具サニハ、大勢至菩薩。菩薩ノ名、大勢至力アリ、智慧光ヲ以テ、一切ヲ照ラスト云フ。 翻譯名義集、一、菩薩別名篇「摩訶那鉢」注「此云二大勢至一、思益云、我投レ足之處、震二動三千大千世界及魔宮殿一、故、名二大勢至一、觀經云、以二智慧光一普照二一切一、令下離二三塗一得中無上力上、是故、號二此菩薩一名二大勢至一」 丹波與作(寶永、近松作)下「西ハ、百味ノ旅籠屋ニ、觀音、勢至、手ヲ取テ、蓮ノ臺ニ泊ランセ」

せい-し (名) 【政始】 政事ヲ始ムル式。政事ハジメ。(一月四日)

せい-し (名) 【製絲】 絲ヲ、造ルコト。繭ヲ生絲ニ、綿ヲ木綿絲ニ引クコト。

せい-し (名) 【製紙】 カミスキ。和洋ノ紙類ヲ、製造スルコト。

せい-し (名) 【省視】 (一)カヘリミルコト。顧眄。 左傳、僖公廿四年「省二視官具于氾一、而後聽二其私政一、禮也」 (二)親ノ機嫌ヲ、ウカガフコト。定省。

せい-し (名) 【旌幟】 ハタ。ノボリ。旗幟。 後漢書、劉盆子傳「寶(將軍李寶)從レ後、悉抜二赤眉旗幟一、更立二己幡旗一」

せい-じ (名) 【正字】〔俗字ニ對ス〕 正シキ畫ノ文字。卽チ、圓ハ正字、円ハ俗字、戲ハ正字、戯ハ俗字、ノ類ナリ。

せい-じ (名) 【省字】 文字ノ畫ヲ、ハブクコト。卽チ、蟲ヲ虫、岐ヲ支、波ヲ皮ニ作ル類ナリ。略字。

せい-じ (名) 【世事】 世間ノ事。人ノ、世ニ在リテ、營ムベキ、萬ヅノ事。世事(セジ)。 列子、周穆王篇「尹氏、心營二世事一、慮鍾二家業一」 史記、屈原傳「上稱二帝嚳一、下道二齊桓一、中述二湯武一、以刺二世事一」

せい-じ (名) 【成事】 成就セシ事柄。 史記、高祖紀「劉季固多二大言一、少二成事一」

せい-じ (名) 【盛事】 サカンナル事。盛大ナル事件。 魏文帝、典論「文章、經國之大業、不朽之盛事」「昭代ノ盛事」

せい-じ (名) 【政事】 マツリゴト。政治ノワザ。 書經、説命、中篇「惟厥攸レ居、政事惟醇」 儀制令「皇帝不レ視レ事」義解「謂、不レ視、事者、不レ聞二政事一」 書言字考節用集、九、言辭門「政事(セイジ)」注「左傳、在レ君爲レ政、在レ臣爲レ事、又、大曰レ政、小曰レ事」

せい-じ (名) 【聖時】 せいだい(聖代)ニ同ジ。 張説、和二御製一詩「大塊鎔二群品一、經生偶二聖時一」

せい-じ (名) 【青甆】【青磁】 古ク、あをじ(イシヤキ)。瓷(シ)ノウツハモノ。支那製ノ磁器ノ名。文様ナク、全體、淡綠、淡黃ニテ、鐵分ヲ含メル釉ヲ掛ク、裂文ナルアリ、無キモアリ。コノ製ニ、祕色、柴窯、官窯、砧手(キヌタデ)、天龍寺手(デ)、七官、等ノ種種アリ、其著明ナルモノハ、支那ノ越州、攝津ノ三田、肥前ノ大河内ノ產ナリト。就中、唐ノ時代、越州ノ窯、最モ勝レタリ。陸龜蒙ノ進二越器一詩ニ、九天風露越窯開、奪二得千峯祕色一來、トアリ、祕色トハ、人工ノ及バザル色ノ意ニテ、最モ鮮碧ニシテ、常ニ異ナリ、吳越ノ錢氏ノ代、越州ニテ燒ク所ハ、臣庶、用キルコトヲ得ズトシテ、祕色ト云フ、上出ノ陸氏ノ詩ニ基ケリ。後周ノ世宗ノ時、河南道、汴ノ地ニテ燒クモノヲ、柴窯ト云フ、所司、其色ノ式ヲ請ヒシニ、世宗、其狀ニ批シテ、雨過靑天雲破處、這般顏色做將來、ト、空色ニシテ、鏡ノ如ク、薄キ紙ノ如

シト、上出、世宗ノ詩ニ依リ、雨過青天ト稱シテ、珍重セラル。宋ノ政和中、京師ノ汴ニテ燒ケルヲ、官窯ト云フ。 五雜組(明、謝肇淛)十二、物「陶器、柴窯最古、今人得其碎片、亦與金翠同價矣、蓋色既鮮碧、而質復瑩薄、可以裝飾玩具、而成器者、杳不可復見矣、世傳、柴、世宗時燒造、所司請其色、御批云、雨過青天雲破處、這般顏色做將來、然唐時已有秘色、陸龜蒙詩、云云、惜、今人無見之耳、余謂、洛中人、有掘得唐時墓者、其中多有陶器、色但淨白、而形質甚粗、蓋至宋而後、其製始精也」 書言字考節用集、七、器財門「青磁」注「唐越州所出之磁器、源氏所謂秘色、是矣」 名物六帖、器財、五「秘色」注「侯鯖錄、今之秘色磁器、世言、錢氏有國、越州燒進、不得臣庶用之、故云秘色、陸龜蒙進越器詩、云云、乃知、唐已有秘色、非錢氏爲始」

せいし (名) 筮仕 仕官ノ吉凶ヲ、ウラナフコト。轉ジテ、始メテ仕官スルコト。古ヘ、支那ニテ、始メテ仕ヘムトスル時ハ、其吉凶ヲ占ヒテ後ニ、仕ヘシヨリ云フ。 左傳、閔公元年「畢萬筮仕於晉、遇屯之比、屯固、比入、吉孰大焉」

せいしう (名) 靜修 心身ヲ靜カニシテ、修養スルコト。 諸葛亮、戒子書「靜以修身、儉以養德」

せいしう (名) 精秀 精良ニシテ、秀デタルコト。又、其モノ。 人物志(魏、劉邵)「草之精秀者、爲英」

せいしき (名) 正式 正シキ方式。本式。(略式ナドニ對ス)「正式ノ手續」

せいしき (名) 制式 制規ノ方式。法式。

せいしごし (名) 勢至腰 勢至菩薩ノ容姿ノ腰ツキ。柳腰ナドノ類ナリ。 小町[illegible]「[illegible]ト、云ヘド有ヤ、勢至腰」

せいしごゑ (名) 制聲 貴人ノ通行ノ時、路行ク人ヲ警ムル聲。喝道

せいしつ (名) 正室 (一)正妻。本妻。 北史、崔暹傳「文襄寵王昭儀、欲立爲正室」 (二)表ノ室。オモテノ間。 唐書、禮樂志「[illegible]皇帝復御於正室」

せいしつ (名) 青漆 アヲウルシ。漆ニ、萌葱ノ色ヲ加ヘタルモノ。 狂言記、塗師平六「せいしつノ如クナル淵ニ臨ンデ」

せいしつ (名) 性質 ウマレツキ。オヒタチ。ヒトトナリ。サガ。タチ。性。 唐書、柳公綽傳「性質嚴重、起居皆有禮法」

せいしつ (名) 誠質 誠實ニシテ、質撲ナルコト。誠ニシテ、飾リナキコト。 漢書、郊祀志「言奉天之道、貴以誠質、大得民心也」

せいじつ (名) 誠實 (一)マゴコロナルコト。僞リナキコト。 唐書、蕭思復傳「持此誠實、以答譴咎」 (二)マコトナルコト。僞ナラザルコト。 後漢書、郭太傳「賈子厚、誠實凶德、然洗心向善」

せいしにゅう (名) 西施乳 ふぐ(河豚)ノ異名。又、河豚ノ腹中ノ白キモノ。 松風村雨束帶鑑(元祿、近松作)一「海中ニ、鰒ト云フ毒魚アリ、味ノ甘キ事、西施乳トテ、美女ノ乳房ニ譬ヘナガラ、其ノ肝、腹中ニ入リテ、人ヲ害ス」 雲麓漫鈔(宋、趙彥衞)「河豚、腹脹而斑、云云、腹中有白、曰訥、有肝曰脂、訥最甘肥、吳人甚珍之、目爲西施乳」

せいしはじめ (名) 政事始 年ノ始ニ、國家ノ政事ヲ執リ始ムルコト。政始。今ハ、毎年、一月四日ニ行ハセラル。

せいしふ (名) 世襲 役目、身分、財產、等、家柄ニ屬キテ、代代、承ケ續グコト。家傳。 [illegible]

せいしボサツ (名) 勢至菩薩 せいし[illegible](勢至)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]人ハ、一向專修ノ人ナリ、タダ人ニハオハセザリケリ、彌陀如來ノ化身トモ申、勢至菩薩ノ化身トモ申ストゾ」

せいしん (名) 世臣 譜第ノ臣下。世世、仕フル家來。 孟子、梁惠王、下「所謂故國者、非謂有喬木之謂也、有世臣之謂也」

せいしん (名) 生辰 生レタル日。誕生日。誕辰。

せいしん (名) 星辰 ほし(星)ト云フニ同ジ。 書經、堯典篇「曆象日月星辰、敬授人時」

せいしん (名) 誠心 マゴコロ。眞實ノ心。 荀子、不苟篇「誠心行義則理、理則明、明則能變矣」

せいしん (名) 正心 (一)心ヲ、正シクスルコト。 大學「欲修其身者、先正其心」 (二)正シキ心。ヨコシマナラヌ心。邪心ニ對ス。 淮南子、泰族訓「其所以中[illegible]者、正心也」

せいしん (名) 正寢 寢殿。正殿。表御殿。せいしんでん(寢殿)ノ條ヲ併セ見ヨ。 唐書、[illegible]

せいしん (名) 精神 (一)心ノハタラキ。タマシヒ。精氣。 史記、[illegible] (二)氣力。根氣。 [illegible] (三)根本ノ意義。本意。「法律ノ精神」

せいしん (名) 精進 精力ヲ盡シテ、向上ニ進ムコト。 [illegible]

せいしん (名) [illegible] スガスガシク、ア[illegible]

せいじん (名) 正人 心、所行ノ、正シキ人。 [illegible]「正人君子」

せいじん (名) 聖人 (一)ヒジリ。才德、十萬人ニ勝レ、神明ニ通ジ、[illegible]人。支那ニテ、古代ノ堯、舜、禹、湯、文王、武王、周公、孔子、等ヲ稱ヘ[illegible]ギタルヲ、賢人ト云ヒ、顏子、曾子、伊尹、太公(呂尙)、顏子、曾子、孟子、等ノ稱トス。 [illegible]「聖人ハ、安キ所ニ成リテ、必ズ仕ル事ニ[illegible]ヤシキ下賤ナレドモ、聖人ノ[illegible]」 (二)清酒ノ異名。ヒジリ。[illegible]賢人ト云ヒ[illegible]

せいじん (名) 成人 (一)人ト成ルコト。大人トナルコト。[illegible] 人數シテ御覽レド」「成人ノ上」

せいしんくゎがく (名) 精神科學 [illegible]

せいじんす 成人 (自動、左變) 大人トナル。オトナタツ。成長ス。

せいしん [illegible]

せいしん [illegible]

月令ニ」

せい-ぢゃ (名) 正邪 タダシキコトト、ヨコシマナルコトト。是非。曲直。邪正。玉海(宋、王應麟)「著論一篇、敍御史正邪」

セイ-シヤウ
せい-ちゃう (名) 精詳 クハシク、ツマビラカナルコト。精細。精密。詳細。後漢書、曹襃傳「襃小心精詳、達決、策東向」

セイ-ジヤウ
せい-じゃう (名) 性情 〔白虎通「情者靜也、性者生也、情生於陰、性生於陽」〕(一)心。性ト、情ト。聖教要錄、下「古人指性情曰心、凡、謂心、乃性情用事也、以知覺為心、以思慮為心、是切欲分性心、以性為本然之善、認來也、人心、道心、正心、皆知覺及理共具也」字類抄「性情」(二)心ノ本體ト、感情意志ト。

セイ-ジヤウ
せい-じゃう (名) 聖上 天子ヲ、尊ビテ呼ビ奉ル語。主上。至尊。小右記、長和四年四月七日「今日、中宮女親王(三歳)著袴、云云、聖上二條出御」

セイ-ジヤウ
せい-じゃう (名) 誓狀 せいし(誓紙)ニ同ジ。承久兵亂記、上、後鳥羽光季親廣ニ事「身方ヘ參ルベキカト、仰セ下サレケレバ、イカデカ宣旨ヲ背キ奉ルベキ由申シケレバ、せいじゃうヲモッテ申スベキ由、仰セラル」吾妻鏡、廿八、寛喜三年九月廿七日「日中、名越邊騷動、云云、武州自評定座直令向給、云云、越州聞此事、欲以歸往、即遣誓狀云、至子子孫孫、對武州流、抽無二忠、敢不可插異心云云」

セイ-ジヤウ
せい-ぢゃう (名) 西淨 カハヤ。セッイン。便所。禪家ニテハ、せいちんト云フ。下學集、上、家屋門「西淨(セイジヤウ)」三好筑前守義長朝臣亭江御成之記「一、御西淨新造、御小便所、御湯殿、何レモ同前、御カケ樋アリ、檜木置之、御西淨ノ内ニ棚アリ、其レニ置紙、奈良紙ナリ」武家名目抄稿、居處、十二「按、厠ヲ西淨ト云フハ、モト、僧家ニテ、厠ヲサシテ、西淨、東司ナド云フヨリ、武家ニモ移レルナリ」貞丈雜記、十四、家作「一、御西淨ト云事、三好亭ヘ御成記ニ有リ、殿中日記ニモ、御せいぢゃうトアリ、是レハ俗ニ云、雪隱ノ事也、三議一統ニ、陰所トアルモ、同ジ事也、本名ハ、厠ト云也」

せい-しゃく (名) 清酌 (一)氣分ノ、清ラカナル酒宴。(二)神ニ捧グル酒。蔡邕、獨斷「凡祭號牲物、異於人者、所以尊鬼神也、水曰清滌、酒曰清酌」

せい-じゃく (名) 靜寂 物シヅカニ、サビシキコト。閑寂。何遜詩「靜寂伝然歎、惆悵怨遊顧」「靜寂ヲ樂シム」

ぜい-じゃく (名) 脆弱 モロク、ヨワキコト。陸龜蒙詩「爾後國脆弱、人多尙虛玄」

せい-しゅ (名) 清酒 酒ノ一種。濁酒ナラヌ、常ノ、清ミタル酒。周禮、天官篇、冢宰「酒正辨三酒之物、一曰事酒、二曰昔酒、三曰淸酒」

せい-しゅ (名) 聖主 君王ヲタタヘ稱スル語。聰明、叡智ナル君主。明君。聖帝。史記、袁盎傳「夫以聖主資愚相、君受禍不久矣」古事談、一、王道后宮「參自瀧口戸、申事由、延喜聖主驚躁、令謁給」東寺修行日記、嘉吉三年九月廿三日「大内燒亡、云云、聖主様(後花園)ハ、近衞殿出御成」

せい-じゅ (名) 聖壽 ほうさん(寶算)ニ同ジ。天子ノ御壽命。李嶠、賀表「獲奉宸歡、欣聖壽之延長」「聖壽萬歲」

せい-じゅ (名) 征戍 遠隔ノ地ニ往キテ、其土ノ守備ニ就クコト。又、其兵士。サキモリ。顧野王、樂府「賤妾有所思、良人久征戍」

せい-じゅう (名) 製絨 毛織物ヲ製造スルコト。「千住製絨所」

せい-しゅく (名) 星宿 〔釋名「星、散也、列位布散也、宿、宿也、言星各止住其所也」〕ホシノヤドリ。星座。漢書、劉向傳「晝誦書傳、夜觀星宿、或不寐達旦」

せい-しゅく (名) 棲宿 スミ、ヤドルコト。棲ムコト。漢書、朱博傳「其府中列柏樹、常有野烏數千、棲宿其上」

せい-しゅく (名) 靜肅 シヅカニ、ツツシミテ居ルコト。寧肅。

せい-しゅく (名) 整肅 トトノヘ、ツツシムコト。晉書、何曾傳「閨門整肅」

せい-じゅく (名) 成熟 (一)十分ニ、ミノルコト。方岳詩「江鄉十月稻成熟」「柿、成熟ス」(二)藝術ナドノ、十分ニ成就スルコト。劉獻夫、與段校理書「始學、算表、迄今十六、不見成熟」「技、成熟ス」(三)適當ナル期ニ、達スルコト。「成熟ノ男女」

せい-しゅつ (名) 正出 正妻ノ出。又、其人。正妻ノ腹ヨリ、生レ出ヅルコト。

せい-しゅん (名) 青春 (一)春。陽春。何晏、景福殿賦「結實商秋、敷華青春」梁元帝纂要「春曰芳春、青春、陽春、九春」(二)年若ノ時代。若キ時。青年。水滸傳「青春年少、休爲林沖誤了前程」

せい-じゅん (名) 正閏 (一)平年ト、閏年ト。(二)正位ト、閏位ト。正統ト、閏統ト。賈至、虎牢關銘「盛衰千祀、正閏更王」「司馬光、正統閏統論」「南北朝ノ正閏」

せい-じゅん (名) 青筍 綠色ノ竹ノ子。潘岳、閑居賦「菜則、葱韭、蒜芋、青筍、紫薑」

せい-じゅん (名) 清純 清クシテ、雜リ氣ノ無キコト。晉書、荀顗傳「顗、淸純體道」

せい-じゅん (名) 清淳 人情ノ、清クアツキコト。何遜詩「所在號淸淳」

せい-じゅん (名) 清醇 酒ノ、雜リケ無ク、醇キコト。醇乎トシテ、醇ナルさけ。稽康、琴賦「蘭肴兼御、旨酒清醇」

せい-しょ (名) 正書 かいしょ(楷書)ニ同ジ。翰墨志(宋、高宗)「前人多能正書」

せい-しょ (名) 清書 キヨガキ。淨書。菅家後集、文集、大唐創時、民爲六書ヲ望ミ中ケル中文ノ草ヲバ、自ラ書キテ、小野道風ニ清書セサセケリ」

せい-しょ (名) 誓書 せいし(誓紙)ニ同ジ。文獻通考、四裔傳「宜遂以誓書來上」

せい-しょ (名) 聖書 (一)聖人ノ著述セラレタル書。聖經。漢書、揚雄傳「雄自有大度、非聖哲之書不好也」(二)耶蘇教ニテ、新約全書、及、舊約全書ノ稱。バイブル。

せい-しょ (名) 盛暑 サカリノアツサ。酷シキ暑サ。酷暑。賈誼、旱雲賦「隆盛暑而無聊兮、煎砂石而爛渭」

ぜい-しょ (名) 稅所 年貢ヲ納ムル所。庭訓往來、十二月「國雜行之事、大介稅所、留記文書」

せい-しょう (名) 青松 綠色ナル松。翠松。蒼松。李白詩「勗君青松心、努力保霜雪」「白沙青松」

せい-しょく (名) 正色 〔閒色ニ對ス〕(一)いろ(色、第一語)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。禮記、玉藻篇「士不衣織、無君者不貳采、衣正色、裳閒色、非列采不入公門」

せい-しょく (名) 生色 イキイキシタル容子。イキイキシタル顔色。孟子、盡心、上篇「其生色也、睟然見於面」

せい-しょく (名) 聲色 (一)こゑト、いろト。顔色ト。轉ジテ、容子。中庸、三十三章「聲色之於以化民、末也」(二)音樂ト、女色ト。書經、仲虺之誥篇「惟王不邇聲色、不殖貨利」史記、貨殖傳「耳目、欲極聲色之好」

せいしよく (名) 〔西昃〕 日ノ、西ニ傾クコト。晴ジテ、日没。任昉、竟陵王行狀「[illegible]其西昃」

せいしよく (名) 〔清湜〕 〔説文「湜、水清底見也」〕 水ノ、清キコト。

せいしよく (名) 〔整飾〕 トトノヘ、カザルコト。李尤、鏡銘「[illegible]」

せいしよく (名) 〔生殖〕 (一)ウマレ、フエルコト。發生、蕃殖スルコト。左傳、昭公廿五年「[illegible]以殖天之生[illegible]長育」 (二)生物ガ、受精、受粉、又ハ、分裂、等ノ作用ニヨリテ、其子體ヲ生ズルコト。

せいしよくき (名) 〔生殖器〕 男女ノ陰部。子ヲ生ス器官。又、生物ノ生殖ヲ營ム器官。

せいしよだう (名) 〔清暑堂〕 大内裏、豐樂殿ノ不老門ノ南ニアル殿舍。せいそだうトモ云ヒ、一ニ、豐樂殿ノ後房トモ云フ。下學集、上、家屋門「清暑堂」注「[illegible]神樂在之」拾芥抄、中、末、清暑堂「大嘗會[illegible]於此所行之、在豐樂殿内」十訓抄、上、第一、第二十條「清暑堂ノ御[illegible]樂ニ、[illegible]、公任、本末ノ拍子取ラレケル時ニモ」

せい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 〔逝〕 〔増韻「逝、行也、去也」正韻「逝、亡也」〕 ユク。死ス。逝去ス。

せい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 〔制〕 (一)定ム。立ツ。(掟ヲ) 禮記、王制篇「凡制五刑」 (二)爲ルコト勿レト、警ム。制止ス。禁止ス。源、廿一、少女「[illegible]物言フヲモせいす」宇津保物語、初秋「[illegible]何カハ、侯ハンヲせいする人ノ侍ラン、スズロニ侍ハバコソアラメ」竹取物語「月ノ顔見ルハ、忌ムコトト制しケレドモ」 (三)[illegible]

「[illegible]、滿而不溢」

せい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 〔征〕 謀叛ノ軍ヲ、攻メ討ツ。征伐ス。史記、五帝紀「神農氏[illegible]、[illegible]征、於是軒轅、乃習用干戈、以征不享」

せい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 〔製〕 ツクル。拵フ。製造ス。舊唐書、[illegible]傳「[illegible]製千字詩、當時以爲[illegible]作」

せいすう (名) 〔西陬〕 〔陬ハ、正音、そう、すうハ慣用音、隅ナリ〕 西方ノ邊鄙。西ノ方ノ片田舍。

せいすう (名) 〔世數〕 血統上ニテ、親ト子トノ間ノ數。又、相續上ニテ、被相續者ト相續者トノ間ノ數。

せいすう (名) 〔整數〕 數學ノ語。一、又ハ、一ヲ、順次ニ加ヘテ生ズル數。(分數、及、小數ニ對ス)

せいすゐ (名) 〔西陲〕 〔東陲ニ對ス〕 ニシノホトリ。西ノ極。西邊。漢[illegible]「[illegible]定西陲、縣旌萬里」(佩文韻府)

せいすゐ (名) 〔清水〕 キヨキミヅ。シミヅ。漢書、韓安國傳「清水明鏡、不可以形逃」清水に魚棲まずトハ、清キ水ノ中ニハ、魚ノ、棲ミエヌ如ク、苛酷ノ人ニハ、[illegible]伴スルコト能ハザルノ意。孔子家語、入官「[illegible]水至清則無魚、人至察則無徒」

せいすゐ (名) 〔青翠〕 アヲアヲト、綠色ナルコト。[illegible]

せいすゐ (名) 〔盛衰〕 盛ンナルト、衰ふるト。[illegible]

せいせい (名) 〔正正〕 正シク、整ヒテ居ルコト。亂レズシテ、正シキコト。孫子、軍爭篇「無邀正正之旗」「正正堂堂」

せいせい (名) 〔生成〕 生ズルコト。デキルコト。

せいせい (名) 〔世世〕 ヨヨ。代代。左傳、[illegible]「[illegible]世世[illegible]相害也」

せいせい (名) 〔清世〕 キヨラカニ治マレル世。治世。[illegible]

せいせい (名) 〔盛世〕 隆盛ンナル御世。盛運ナル世。[illegible]「[illegible]不[illegible]」

せいせい (名) 〔濟世〕 さいせい(濟世)ニ同ジ。唐太宗詩「濟世[illegible]世」

せいせい (名) 〔聖世〕 せいだい(聖代)ニ同ジ。[illegible]

せいせい (名) 〔聖製〕 聖上ノ御製。御製。[illegible]

せいせい (名) 〔精製〕 殊ニ丁寧ニ[illegible]出スコト。丁寧ニ手ヲ盡シテ、作ルコト。コレニ反シタルハ、粗製ナリ。

せいせい (名) 〔整齊〕 ヨク、トトノフコト。トトノヒ、揃フコト。[illegible]序「余所謂述故事、整齊其世傳、非所謂作也」「[illegible]列ヲ整齊ス」

せいせい (副) 〔清清〕 [illegible] 狂言記、磁石、夜前、[illegible]ヲ呑ウダレバ、頭ノ外、喉ニ詰ッテ、ワルイ、今、汝ガ太刀ヲ見レバ、[illegible]

せいせい (副) 〔井井〕 (一)序次、正シク、整ヒタル狀ニ云フ語。井然。荀子、儒效篇「井井兮其有理也」 (二)[illegible]

せいせい (副) 〔凄凄〕 物サビシキ狀ニ云フ語。凄然。詩經、鄭風、風雨「風雨淒淒、雞鳴喈喈」

せいせい (副) 〔悽悽〕 物思シキ狀ニ云フ語。[illegible]

せいせい (副) 〔栖栖〕 忙ガハシキ狀ニ云フ語。詩經、小雅、六月之什、六月「六月棲棲、戎車既飭」

せいせい (副) 〔濟濟〕 さいさい(濟濟)ニ同ジ。[illegible]七條「御宮滿、濟濟トシテ御マシマス」[illegible]シテ行キアヒメ」

せいせい (感) 息セク聲。

ぜいせい (名) 〔贅婿〕 〔贅ハ、附屬ノ義〕 [illegible]

ぜいせい (名) 〔噬臍〕 〔臍ヲ噬むト云フ意ニテ、及バヌ義〕 後悔スルコト。ぜいさい(噬臍)ノ條ヲモ併セ見ヨ。左傳、莊公六年「[illegible]」

せいせい (副) 〔[illegible]〕 カノ及ブタケ。セイノ[illegible]。セイサイ。(京都[illegible]) [illegible]

ぜいせい [illegible]

せいせう (名) 〔[illegible]〕 聖上ノ[illegible]

［貧］上、貧、易詩、袁、不……環堵、僧名ニ一

せいせう (名) 清霄 澄ミタル中天。淸空。揚雄、甘泉賦「……淸霄而……浮景分」

せいせき (名) 成績 〔書經、堯典、傳「績、功也」〕成就ノ、アトカタ。デキバエ。……當時所作、惟上有成績ニ「學業ノ成績、優等ナリ」

せいせきくわい (名) 生石灰 石灰石、介殼ナドヲ燒ケバ、分解シテ生ズル、白色ノ塊。コレニ水ヲ注ゲバ、化合シテ、石灰トナル。一名、酸化カルシウム。

せいせつ (名) 聖節 せいたん(聖誕)ニ同ジ。

せいせつ (名) 淸節 せいさう(淸操)ニ同ジ。魏書、下吉傳、贊「淸節之士、於是爲貴」

せいせつ (名) 淸切 次次條ノ語ニ同ジ。杜甫詩、緣雲淸切歌聲上」

せいせつ (名) 淸雪 キヨメ、スヾグコト。後漢書、劉愷傳「昔被重罪、未能淸雪國恥」

せいぜつ (名) 淸絕 極メテ、淸ラカナルコト。淸切。杜甫詩「淸歌綠水曲、淸絕聽者愁」

せいぜつ (名) 悽絕 至ッテ、物スゴキコト。馮翊位歸、長亭悽絕、去歳傷秋曾送客」

せいせつ (名) 贅說 無馱ノ說。無用ノ言。贅言。羅玘詩「我爲題詩皆贅說」

せいせん (名) 淸泉 キヨキ、イヅミ。シミヅ。舊唐書、潘師正傳「所須松樹淸泉、山中不乏」

せいせん (名) 成選 王朝時代、官吏ノ、敍位ニ與カル爲ニ、選考セラレタルコト。本朝月令、四月七日奏成選短册事、弘仁官式云、凡讀司官人、得常并應成選敍者、中務、式部、

兵部三省、二月十一日申太政官」三代實錄、四、貞觀二年二月十一日「公卿於太政官曹司廳、列見文武官、成選之人」

せいせん (名) 精選 スグリタルコト。エリヌキ。後漢書、賈琮傳「交趾屯兵反、特勅三府、精選能吏」

せいせん (名) 精錢 〔精良ナル錢ノ意〕えいらくせん(永樂錢)ノ異名。昆陽漫錄「室町殿ノ比ヨリ、西土歷代ノ錢ヲ、精錢ト云フ、關東ニテハ、之ヲ、京錢ト云ヘリ」

せいせん (名) 征戰 敵ヲ征メテ、戰フコト。征討。李白詩「鼓角徒悲鳴、樓船習征戰」

せいせん (名) 生鮮 アザラカナルコト。活活トシテアルコト。新鮮。搜神記、晉、平資「鱠魚皆三尺餘、生鮮可愛」

せいぜん (名) 生前 〔死後ニ對ス、其條ヲモ見ヨ〕しやうぜん(生前)ニ同ジ。杜甫詩「生前相遇且銜杯」

せいぜん (名) 聖善 はは(母)ノ敬語。北夢瑣言(宋、孫光憲)「相國聖善遇疾苦」

せいぜん (副) 井然 せいせい(井井)ノ(一)ニ同ジ。

せいぜん (副) 整然 善ク、整ヒタル狀ニ云フ語。「秩序整然」衍衛整然」

せいぜん (副) 悽然 せいせい(悽悽)ニ同ジ。莊子、大宗師篇「其容寂、其顙頯、悽然似秋、煖然似春」

せいそ (名) 聖祖 くわうそ(皇祖)ニ同ジ。晉書、樂志「赫赫太上、巍巍聖祖」

せいそ (名) 聖祚 くわうそ(皇祚)ニ同ジ。皇位ノ條ヲ見ヨ。鄭絪、初日照露盤賦「驗寶曆之無窮、齊聖祚之悠久」

せいそ (名) 悽楚 悲シミ、イタムコト。

李子卿、聽秋蟲賦「志苦者易悽楚」

せいそ (名) 淸楚 キヨク、サッパリシタルコト。白居易詩「淸楚着音律」

せいそ (名) 精粗 精麤 くはしきト、あらきト。精ト、粗ト。禮記、文王世子篇「以其喪服之精麤爲序」大學章句「衆物之表裏精麤無不到」

せいそう (名) 生憎 あやにくだつノ條ヲ見ヨ。盧照鄰詩「生憎帳額繡孤鸞」

せいソウ (名) 淸僧 肉食、妻帶セヌ僧。甲陽軍鑑、十八、品第四十八「淸僧ナラバ、又何カアラン、淸僧ヘ對シテノ仕付ハ、尤有ルベシ、サナクバ、淸僧、濁僧ノ隔、有マジ」

せいそく (名) 生息 生活スルコト。生計。李覯詩「行行求飲食、欲以助生息」

せいそく (名) 棲息 宿リ、棲ムコト。史記、司馬相如傳「蛙胡蛟螭、棲息乎其間」

せいそく (名) 聲息 オトヅレ。音信。消息。「聲息、通ゼズ」

せいそく (名) 正則 (一)正シク、規則ニ據リテスルコト。張衡、東京賦「辨方位而正則」(二)洋學教授ニ就キテ云フ語。新シク、西洋人ニ就キテ、發音、文法、共ニ、正シキ方法ヲ以テ學ブコト。明治維新前ノ洋學ニ、發音モ不正確ニ、釋義モ迂遠ナリシヲ、變則ト云フ。

せいそく (名) 精測 精細ニ、測量スルコト。顏延之、謂立渾儀表、精度不逾、精測尙矣」

せいそだう (名) 淸暑堂 せいしよだうニ同ジ。今鏡、六、梅のさのもと「神樂ナドモ歌ヒテ、せいそ堂ノ御神樂ニモ、拍子取リ給フト聞コエ給フ」

せいそつ (名) 精卒 せいへい(精兵)ニ

同ジ。賈誼、過秦論「信臣精卒、陳利兵、而誰何」

せいぞん (名) 生存 イキ、ナガラフルコト。イキ殘ルコト。死亡ノ反。陸游詩「生存爭（？）淸泉對（？）、生存競爭」

せいぞんきやうさう (名) 生存競爭 英語、Struggle for existence. ノ譯語〕生物ガ、各、其生活ヲ持續シ、又ハ、其子孫ヲ蕃殖セシメムガ爲メニナス競爭。

せいぞろひ (名) 勢揃 勢汰 (一)軍勢ノ、ソロフコト。盛衰記、廿四、南都合戰事「五條大納言邦綱卿ノ山莊、東山香苑ノ亭ニシテ、勢汰アリ」(二)一齊ニ、竝ブコト。吉野都女楠(正德、近松作)四「酒デモ、肴デモ、甘イ物ノせい揃ひ」

せいぞろへ (名) 勢揃 勢汰 軍勢ヲ、集メ揃フルコト。整軍。平家物語、五、富士川事「駿河ノ國、浮島ガ原ニテ、勢揃アリ、都合其勢、廿萬騎トゾ記シタル」

せいた (名) 脊板 (一)圓キ材ヲ、方ニ挽割リテ殘レル、凸ナル板。榑木。(二)腹卷ノ一部。(其條ヲ見ヨ)

せいたい (名) 政體 (一)政治ノ立テカタ。晉書、劉頌傳「詳辨刑名、該覈政體」(二)國家ガ、主權ヲ行使スル形式。即チ、立憲政體、專制政體、ナドノ如シ。

せいたい (名) 聖體 ぎよくたい(玉體)ニ同ジ。後漢書、劉陶傳「寢食不即、損於聖體」

せいたい (名) 聖諦 佛家ニテハ、しやうたいト讀ム。しんたい(眞諦)ニ同ジ。

せいたい (名) 世態 人世ノアリサマ。世間ノナリユキ。セタイ。徐鉉詩「離腸似線常憂斷、世態如雲不可探」

せいたい (名) 生態 生活ノ狀態。杜甫

詩、隣舞野哭如ニ昨日ー、物色生悲他幾時」

せいたい (名) 青黛 (一)〔染料、又、顏料ノ名。藍ニテ造リ、青キ色ヲ出スニ用ヰル。藍澱。靛〕 倭名抄、十三、圖繪具「青黛、セイタイ」 (二)青キ眉黛。青靛 字類抄「青黛、セイタイ」 (二)青キ眉黛。青靛 李白詩「青黛畫ニ眉紅錦靴」 (三)俳優ナドノ、月代ナドヲ青クスルニ用ヰル顏料。浮世風呂(文化、三馬)四編、上「男ハ凡ソ、中グラヰノ色男ダガ、頭へ青黛ヲ擦ッテ」

せいたい (名) 聲帶 人類、及、哺乳動物ノ發聲器官。喉頭部ニアル二條ノ靭帶ヨリ成リ、肺臟ヨリ空氣出デ來ルトキハ、コレガ振動シテ聲音ヲ生ズルモノ。

せいだい (名) 世代 ヨ。ダイ。時代。晉書、明帝紀「三恪二王、世代之所ニ重」

せいだい (名) 聖代 一天子ノ御治世ノ間ヲ頌シテ云フ語。ひぢりのみよヲ見合ハスベシ。聖世。昭代。陸雲、夏府君誄「熙ニ光聖代ニ」 平治物語、一、光賴卿参内事「我等ガ養祖、勸修寺内大臣、三條右大臣、延喜ノ聖代ニ仕ヘテヨリ以來、君、既ニ十九代、臣、又十一代、承行フ事ハ、皆是、德政ナリ」

せいだい (名) 盛大 極メテ、盛ンナルコト。「盛大ナル宴會」

セイ-トウ
せいたう (名) 正當 理ノ、當然ナルコト。アタリマヘ。易經、履卦、象傳「夬履貞厲、位正當也」「正當防禦」

セイ-トウ
せいたう (名) 制當 人ヲ、制スルコト。禁ジ止ムルコト。淺草出世鏡(寶永、近松作)上「新七トヤラ云フ手代、堅ムクロニせいたうシ、一門衆、町所マデ頼ンデ、土藏土藏ニ封ヲツケ、一分ノ金モ遣ハセナンダゲナヲ」

セイ-トウ
せいたう (名) 征討 せいばつ(征伐)ニ同ジ。左傳、襄公元年「日 尋ニ干戈ニ以ニ征討ニ」

セイ-トウ
せいたう (名) 政道 政事ノ道。マツリゴト。治道。晉書、樂志「聖王制ニ樂、讃ニ揚政道ニ」 著聞集、三、政道忠臣、村上御時、南殿出御アリケルニ、云云、當時ノ政道ヲバ、世ニハイカガ申スト、御尋有ケレバ、目出度トコソ申候へ」

セイ-トウ
せいたう (名) 政黨 政治ノ道ニ、一ツノ主義ヲ立ツル、一群ノ仲間。政社。

セイ-トウ
せいたう (名) 製糖 砂糖ヲ、製造スルコト。「製糖會社」

セイ-トウ
せいたう (名) 盛唐 ちゃうたう(初唐)ノ條ヲ見ヨ。滄浪詩話「論ニ詩如ニ論ニ禪、漢魏晉與ニ盛唐ニ、第一義也」

セイ-ドウ
せいだう (名) 聖堂 (一)孔子ヲ祀ル祠。聖廟。(二)基督教ノ教會堂。

セイ-ドウ
せいだう (名) 西堂 禪家ニテ、他寺ノ前住ニシテ、來リテ本寺ニ住スルモノノ稱。サイダウ。とうだう(東堂)ノ條ヲモ併セ見ヨ。庭訓往來、十月「禪家者、堂頭和尚、東堂、西堂」

セイタカ (名) 勢多迦 制吒迦 (梵語、cetaka. 使者ト譯ス) 具サニハ、勢多迦童子。こんがらどうぢ(矜羯羅童子)ノ條ヲ見ヨ。

セイタカ-どうぢ (名) 勢多迦童子 制吒迦童子 こんがらどうぢ(矜羯羅童子)ノ條ヲ見ヨ。略シテ、せいたか。

せいたく (名) 聖澤 くゎうたく(皇澤)ニ同ジ。晉書、來ニ自ニ遠ニ裔、値ニ下升平之際ニ、沐ニ浴聖澤ニ、浸ニ潤德教ニ、可ニ謂ニ厚幸ニ矣」

せいたく (名) 請託 願ヒ、賴ムコト。タノミ。依賴。請謁。漢書、何武傳「[illegible]」 [illegible]吏、先爲ニ請[illegible]、以防ニ請託ニ」

せいだく (名) 清濁 (一)きよきト、にごりたると。澄ムト、ニゴルト、[illegible]傳、天地清濁、[illegible] (二)キヨキト、ニゴリタルモノト。君子ト、小人ト。善人ト、悪人ト。史記、[illegible]、[illegible]非、[illegible]清濁之源[illegible] 清濁、併はせ呑むトハ、善キト悪シキトヲ一ツニ併ハセテ、胸中ニ入ルル意、度量ノ大ナルヲ云フ、

ぜいたく (名) 贅澤 衣食住ノ、無益ノ奢。奢侈。奢靡。

せいだけ (名) 脊丈 セタケ。身長ノ丈。狂言記、六地藏「お丈ハ、何程ニ致サウ、サレバ、何程ガ好ウ御座ラウ、トカク、身共ノ存ズルハ、其方せいたけニ作ッテ遣ラウ」

せいだ-す ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 精出 精力ヲ、出ス。勉強ス。勵ム。「[illegible]精だすし精だしテ働ク」

せいたん (名) 正旦 (一)正月元日ノ朝。又、正月ノ元日。後漢書、[illegible]、正旦[illegible] (二)芝居ノ、たてをやまノ稱。

せいたん (名) 清湍 水清キ瀬。[illegible]賦「[illegible]」

せいたん (名) 聖誕 天子ノ御誕生日。聖節。天長節。[illegible]

せいだん (名) 聖斷 天子ノ御決斷。天皇ノ御裁斷。叡斷。[illegible] 平治物語、一、[illegible] 任セテ、大内ニ記錄所ヲ置キ、理非ヲ勘決ス、聖斷、私ナカリシカバ、人ノ[illegible]」

せいだん (名) 清談 (一)老莊ノ道ヲ談ズルコト。宋書、[illegible] (二)俗ヲ離レタル談話。[illegible]

[illegible]

せいだん (名) 政談 政事ニ就キテノ話。政論。「[illegible]」

せいたらばたけ (名) [illegible]ノ轉。其條ヲ見ヨ。

せいたらばたらき (名) さいたらばたけノ條ヲ見ヨ。

せいち (名) 生知 生レナガラ、知ルコト。學バズシテ、善ク道理ニ通ズルコト。[illegible]

せいち (名) 生地 (一)[illegible]生レタル地。[illegible] (二)[illegible]

せいち (名) 生致 生擒シテ、送リ來ルコト。[illegible]

せいち (名) 精緻 [精細、緻密ノ略] [illegible]

せいち (名) 棲遲 (細合「棲遲、息也」) 棲ミ、息フコト。[illegible] 遊息スル[illegible]

せいち (名) 棲坪 [illegible] 說文「坪地也」 [illegible]

セイ-[illegible]
せいち (名) 政治 政事ヲ[illegible]

鳩心、同德、于蕭、宣害政治、…以下民二、青瀆、邦風、寛之于中德、…、此殺政治之甚二」

せいちう（名）［掣肘］ 肘ヲ掣かるるコト、事ヲ爲サムトスルニ、他ヨリ支ヘテ、ルルコト、外ヨリ牽制シテ、意ノ儘ニ行動ヲ自由ニセシメザルコト。 呂氏春秋、審應覽「宓子賤治亶父、恐魯君之聽讒人而令己不得行其術也、將辭而行、請近吏二人於魯君、與之俱至於亶父、令吏二人書、吏方將書、宓子賤從旁時掣搖其肘、吏書之不善、則宓子賤爲之怒、吏甚患之、辭而請歸、…報於君曰、宓子以此諫寡人之不肖也」

せいちく（名）［成竹］ 豫ネテノ考案。豫ネテノ計畫、成算。 蘇軾、文與可畫篔簹谷偃竹記「畫竹、必先得成竹於胸中、執筆熟視、乃見其所欲畫者、急起從之、振筆直遂、以追其所見、如兎起鶻落、少縱則逝矣」晁補之詩「與可畫竹時、胸中有成竹」

ぜいちく（名）［筮竹］ めどぎノ條ヲ見ヨ。

セイ-チン（名）［西淨］〔字ノ唐音〕厠。（禪家ニ云フ）せっちんノ條ヲ見ヨ。

せいぢん（名）［世塵］ 世間ノちり。世ノ中ノウルサキ事。世間ノ俗事。

せいちゃ（名）［製茶］ ちゃ（茶）ノ條ヲ見ヨ。 宋史、太祖紀「罷湖南新製茶」

せいちゃう（名）［正丁］ 平安朝時代、男子ノ、廿一歳以上、六十歳以下ノ、壯健ナルモノノ稱。此ノ年齡間ハ、調、庸、其他ノ役ヲ科セラルルモノトス。コレニ對シ、廿歳以下、及、六十一歳以上ノモノ、及、癈疾ノモノヲ、次丁ト云フ。 東大寺正倉院文書、廿二、…國大…、年…、下下戸主、小…、年…六、正丁、…子、小山、年四、小子、次、…山、年三、緑兒、戸主弟、足奈、年…二、正丁、次、…石、年卅七、正丁、次、小黑、年卅五、兵士、戸主、伯尼麻呂、年六十三、次丁、嫡子、五百麻呂、年一、緑兒、戸主甥、

五百國、年廿三、正丁、小角吹」

せいちゃう（名）［成長］ 生ヒ立ツコト。育チアガルコト。成育。 狂言記、宗論「マンマト、成長サセスマシ」

せいちゃう（名）［生長］（一）ウマレ、ソダツコト。 史記、封禪書「少君者、故深澤侯舍人、主方、匿其年及其生長」（二）草木ナドノ、生ヒソダツコト。 司馬相如、上林賦「隆冬生長」

せいちゃう（名）［清帳］（一）紙ノ名、土佐、伊豫ナドヨリ産出スルモノ。（二）江戸時代ニ、租米藏納ノ諸入費ヲ記シタル勘定帳。 地方凡例錄、五、缺米込米之事「御城米同然、遂リ狀ニ書載、積廻シ、御藏庭へ致水揚、御米内拵、御藏納濟之上、缺米殘リタル分、御藏役所ヨリ相延、切手ヲ以、上乘之者方へ引取、納宿、引請、賣拂、納入用清帳（御藏納諸入用ヲ書立ル勘定帳ヲ、清帳ト唱フ）へ書載、勘定イタシ、御藏役所并支配役所へモ差出ス」

せいちゃう（名）［清聽］ 他人ノ、聽クコトノ敬稱。「御清聽ヲ乞フ」

せいちゃう（名）［聖聽］ 天子ノ御耳ニ、達スルコト。 諸葛亮、出師表「陛下誠宜開張聖聽、以光先帝遺德」

ぜいちゃう（名）［稅帳］ きゃうぜいちゃう（正稅帳）ニ同ジ。 續紀、十、天平二年四月、太政官處分「國司等、私造稅帳、竟後取署、不肯署名、因此、上下頻事相違、又、大稅收納不得輕聽、通稅帳一日、不問穎穀、倉別、署主當官人名」政事要略、五十七、交替雜事「稅帳（一月卅日以前、中官）、大帳（伊賀、伊勢、上野、陸奧、越前、能登、越中、越後、已上、四月、出羽、太宰、已上、五月）」

せいちう（名）［正中］ タダナカ。マンナカ。 宋玉、九辯「春年園林有正中」

せいちう（名）［聖衷］ 天子ノ御心。宸衷。 張九齡詩「孤績論千載、流名感聖衷」

せいちう（名）［誠忠］ 忠義一途ナルコト。「誠忠無二」

せいちう（名）［精忠］ 毫モ私意無ク、極メテ忠義ナルコト。誠忠。純忠。

せいちう（名）［精蟲］ 精液ノ中ニ含メル、一種ノ活動物。能ク自ラ運動ス。頭、豐大ニ、身、稍、扁平ニシテ、尾ハ、細微ナリ、絶エズ、尾ヲ振ヒテ、動ク。動物ノ、子ヲ生ズル種子ナリ。

せいちう（名）［成蟲］ 昆蟲ノ、孵化、又ハ、變態、成育シテ、親ノ蟲ト同ジ形ニナリタルモノ。幼蟲ニ對ス。

せいぢょ（名）［正女］ 正丁ト同ジキ年齡ノ女子。 東大寺正倉院文書、廿六、陸奧國戸籍「本戸主、古呂彌、年六十七、耆老、子、甲、年卅八、正丁、子、東麻呂、年十四、小子、寄、大伴部意…、…三、正丁、甲妻、同族黒…、年卅八、正女、意…妻、占部…都、年卅八、正女、兒、刀自、年廿五、正女」

せいぢょ（名）［靜女］ シトヤカナル婦女。 詩經、邶風、靜女篇「靜女其孌、貽我彤管」

せいぢょ（名）［整除］ 數學ノ語、割リ切ルルコト。

せいちょう（名）［清澄］ キヨク、スムコト。清澈。 淮南子、俶眞訓「汪然平靜、寂然清澄」

せいちょう（名）［青塚］ 青苔ノ生ヒタル塚。 杜甫、明君詩「一去紫臺連朔漠、獨留青塚向黄昏」 太平記、廿六、執事兄弟奢侈事「芊芊タル斷碑ノ上ニ、雨ニ消エタル名モアリ、青塚忽ニ破レテ、白楊已ニ枯レヌレバ、旅魂幽魄、何クニカ吟（サマヨ）フラント、哀ナリ」

せいちょく（名）［正直］ きゃうぢき（正直）

ノ（一）ニ同ジ。 書經、洪範篇「三德、一曰正直、二曰剛克、三曰柔克」「無偏無黨、王道平平、無反無側、王道正直」 左傳、莊公廿二年「神、聰明正直、而壹者也」

せいちょく（名）［聖敕］ せいせう（聖詔）ニ同ジ。 耶律楚材詩「感恩思報聖敕」

せいつう（名）［精通］ クハシク、通ズルコト。深ク達シ、細カニ知ルコト。 左思、魏都賦「謀出征而中律、執奇正以四伐、…精通、日無匪制」

せいづかひ（名）［勢使］ 軍勢ヲ召集スルコト。 運歩色葉集「勢遣、セイツカヒ」謡曲、鉢木「先先、今度ノ勢づかひ、全ク餘ノ儀ニアラズ、常世ガ言葉ノ末、直カ僞カ、知ラン爲ナリ」

せいてい（名）［成丁］ 法律ノ上ニ、男ノ、成人シテ、一人前ノ分際ニ達シタル稱。即チ、滿二十年ナリ。古制ニテハ、二十歳タリ。 北史、隋文帝紀「三年始令、人以二十一成丁」

せいてい（名）［井底］ ゐどノそこ。井ノナカ。 賈島詩「井底泉通竹下池」 井底の蛙トハ、識見ノ狹小ナル人ヲ、嘲リテ云フ語。井ノウチノカハヅ。井蛙。 後漢書、馬援傳「子陽井底蛙耳、而妄自尊大」

せいてい（名）［制定］ 作リ定メテ、掟ト立ツルコト。 後漢書、曹褒傳「肅宗欲制定禮樂」「法律ヲ制定ス」

せいてい（名）［蜻蜓］ ヤンマ。トンボ。 古今注「蜻蜓、即蜻蛉、好以集於水上、有青赤黄三種、色青而大曰蜻蜓」 和漢三才圖會、五十二、卵生類「蜻蜓」

せいてい（名）［青帝］〔青ヲ、東方ノ色トス〕 春ノ神。東帝。 漢書、郊祀志「秦宣公作密畤於渭南、祭青帝」 天神記（正德、近松作）天滿「青帝ト號シテ、東方ノ天ニ立チ給フ」

せいてい (名) 聖帝 ヒジリノミカド。聖德ノマシマス帝。聖皇。聖主。〔榮花物語、一、月宴「一ノ御子、廣仁ノ親王ト申シケルゾ、位ニ即カセ給ヒケルコソハ、醍醐ノ聖帝ト申シテ、世ノ中ニ、天ノ下メデタキ例ニ引キ奉ルナレ」〕

せいてう (名) 聖朝 當代ノ朝廷ヲ敬フ語。〔舊唐書、禮儀志「聖朝[illegible]」 [illegible]末光、增輝於日月」 李密、陳情表「逮奉聖朝、沐浴清化」〕

せいてう (名) 青鳥 〔漢武故事ニ「七月七日、忽有青鳥、飛集殿前、東方朔曰、此西王母欲來、有頃王母至、三青鳥夾侍王母傍」トアルヨリ出ヅ〕ツカヒ。使者。〔史記、司馬相如傳「幸有三足烏、爲之使」注「三足烏、青鳥也、主爲西王母取食」 平家物語、四、南都牒狀事「青鳥飛來投芳翰」 保元記、三十、木曾山門牒狀事「青鳥飛來、令旨密通、有可參加之催」 吾妻鏡、四、元曆二年五月十二日「方方御下文等、被附此青鳥」〕

せいてう (名) 聲調 コエノシラベ。音調。〔晉書、嵇康傳「祟聲調之、而爲廣陵散、聲調絶倫」〕

せいてう (名) 整調 端艇ニテ、舵手ノ次席ニ坐シ、漕グ呼吸ト調子トヲ計リ、他ノ漕手ヲ誘導スル人。

せいでう (名) 正條 正シキ條文。正確ナル條規。〔舊唐書、刑法志「[illegible]正條者、其[illegible]出罪者、舉重以明輕」〕

せいてうくゎつじ (名) 清朝活字 活字ノ一種。せいてうくゎつじ(清朝活字)ニ同ジ。明治七年、支那ヨリ輸入セラレタル、清朝文字ノ活字ニ傚ヒ、[illegible]ニ字母ヲ彫ラムトテ、[illegible]正顏、重子ノ夫婦、事業ヲ起シ、遂ニ、大成セリ。コレ、此活字ノ元祖トス。

せいてき (名) 正嫡 (一)本妻。正妻。嫡妻。(二)嫡子。正妻ノ生ミタル子。〔晉書、禮志「[illegible]」〕

せいてき (名) 清適 無事ニシテ、壯健ナルコト。健勝。〔書簡ニ用キル語〕〔[illegible]「時下盛暑清適奉賀候」〕

せいてき (名) 清笛 スミタル笛ノ音。〔[illegible]〕

せいてき (名) 清滌 キヨク、スズグコト。掃ヒ清ムルコト。〔禮記、[illegible]〕

せいてつ (名) 聖哲 智德兼備シテ、萬事ニ通達スル人。〔左傳、昭公六年「求聖哲之上、明察之官、忠信之長、慈惠之師」 [illegible]〕

せいてつ (名) 西哲 西洋ノ哲人。西洋ノ賢人。「西哲ノ言」

せいてつ (名) 生鐵 〔熟鐵ニ對ス〕てつ(鐵)ノ條ヲ見ヨ。

せいてつ (名) 製鐵 鐵ヲ精製シ、又、鐵ニテ、諸器械ナドヲ製造スルコト。

せいてつ (名) 清徹 キヨク、透キトホルコト。僅少ノ、濁リモナキコト。轉ジテ、心ニ邪曲ナキコト。〔[illegible]〕

せいてつ (名) 清哲 キヨクシテ、明カナルコト。〔書經、洪範「視曰明」疏「視必明」[illegible]〕

せいてん (名) 青天 アヲゾラ。蒼天。〔[illegible]〕 青天ノ霹靂トハ、意外ノ出來事ニ喩ヘテ云フ語。〔[illegible]〕

せいてん (名) 晴天 晴レタル空合。(雨天、曇天ニ對ス)〔太平記、十四、箱根竹下合戰事「西ハ伊豆ノ府、東ハ野七里山七里ニ焼キ雙ベタル篝火ノ數、幾千萬トモ知ラザリケリ、只、晴天ノ星ノ影、滄海ニ移ル如クナリ」〕

せいてん (名) 聖典 せいけい(聖經)ニ同ジ。〔[illegible]〕

せいてん (名) 盛典 盛大ナル儀式。盛儀。〔[illegible]〕

せいでん (名) 正殿 (一)[illegible] (二)社ノ本殿。(三)[illegible]紫宸殿ノ異稱。〔[illegible]〕

せいでん (名) 井田 古ヘ、支那、周ノ代ニ、田ヲ、農民ニ頒ツ法。一里四方(九百畝)ノ中ニ、井ノ字形ノ如ク溝ヲ掘リ、九ツニ區劃シタルモノ、一區、百畝ヅツナリ、一家、一區ヲ受ケ、中央ノ一區ヲ公田トシテ、八家共ニ、コレヲ耕ス。〔孟子、滕文公、上篇「方里而井、井九百畝、其中爲公田、八家皆私百畝、同養公田」〕

せいでん (名) [illegible] 急用ニ使フ、驛傳。早打ノ馬。飛傳。〔[illegible]〕

せいてんし (名) 聖天子 聖德ノアル天子。〔[illegible]〕

せいでんせき (名) [illegible] [illegible]ニ同ジ。

せいてんはくじつ (名) 青天白日 (一)晴レワタリタル日和。〔[illegible]〕 (二)[illegible] (三)冤罪ヲ被リタルモノノ、裁判所ニテ、無罪ト[illegible]語。「青天白日ノ身トナル」

せいと (名) 星斗 (一)[illegible] (二)[illegible]

せいと (名) 生徒 弟子。學校ニテ、教ヲ受クル人。〔[illegible]〕

せいと (名) 征途 (一)出征ノ路。〔[illegible]〕 (二)旅行ノ途。

せいど (名) 西土 (一)西方ノ地。〔[illegible]〕 (二)西方ノ國。西洋ノ諸國ノ[illegible]シテ云フ。

せいど (名) 制度 ノリ。オキテ。サダメ。〔[illegible]〕

せいとう (名) 制統 [illegible]

（二）天子ノ御事業。史記、匈奴傳、「欲レ興ニ聖統ニ、惟在レ擇ニ任將相ニ哉」

せい-とう（名）【正統】（一）統ノ條ノ（一）（二）ヲ見ヨ。（二）正シキ系統。後漢書、當時以ニ國無ニ嗣主ニ、以ニ先帝少使ニ爲ニ正統ニ、共立（三）正當ノ血筋ヲ、受ケ繼ギタル天子。閏統ニ對ス。蘇軾、正統論、上「正統之爲レ言、猶レ曰下有ニ天下一云上爾」

せい-とう（名）【盛冬】冬ノマサカリ。隆冬。呂楮宮景志、寶雲院有ニ僧、盛冬客至、不レ燃レ火、新ニ暖香一炷、滿室如レ春」

せい-とう（名）【青燈】燈火ノ、青キ光。（紅燈ナドニ對ス）韋應物詩、學使ニ青燈歎ニ還傷ニ夏衣薄ニ」

せい-とう（名）【青銅】（一）錢ノ異名。アヲザシ。杜工部詩集、四、偪側行「速宜相就飮ニ一斗、恰有ニ三百青銅錢ニ」大館常興日記、三、天文九年二月廿八日、「一、御太刀持、青銅二千疋、被前朝倉、爲年始御禮ニ進上之ニ」（二）カラカネ。紫銅、重修本草綱目啓蒙、四、金、「赤銅ト云フモノアリ、物理小識ニ、以ニ倭鉛等ニ製煉者、ト青銅、此レ、からかねナリ、本邦ニテハ、銅一斤ニ、鉛五分之一ヲ入レテ製スト云フ」

せい-どう（名）【生銅】（熟銅ニ對ス）未ダ鍛ヘザル赤銅（アカガネ）。李賀詩、「臨岐擊劍生銅吼」

せい-どう（名）【生動】書畫ナドノ、生生（イキイキ）トシテ、將ニ動カムトスル氣韻アルモノニ云フ語。東觀餘論、宋、黃伯思「以ニ氣韻生動ニ爲ニ先、經營位置爲ニ下」

せい-どう（名）【成童】兒童ノ、齡、十五歲ニ達シタル稱。禮記、內則篇「成童舞レ象、學ニ射御ニ」後漢書、李固傳、注、「成童、年十五也」

せい-どう（名）【聖童】スグレテ、賢キ童子。神童。後漢書、任延傳「年十二、明ニ詩易春秋ニ、號ニ聖童ニ」

せい-とう-せうぐん（名）【征東將軍】（セイトウシヨウグン）古ヘ、東國ノ騷擾ヲ鎭定セシメム爲ニ、遣ハサレタル將軍。盛衰記、廿六、平家東國發向事「十二日、養和元年二月ニ、征東將軍左兵衞督知盛朝、所勞重テ、墨俣ヨリ上洛ス」神皇正統記、後醍醐「高氏ハ、中ウケテ、東國ニ向ヒケルガ、征夷將軍、並ニ、諸國ノ總追捕使ヲ、望ミテケレド、征東將軍ニナサレテ、悉クハ許サレズ」

せい-とう-やぢん（名）【齊東野人】支那ニテ、齊國（今ノ山東省）ノ東鄙ノゐなかもの。轉ジテ、物ヲ辨ヘザルゐなかものノ義ニ云フ語。孟子、萬章、上篇「孟子曰、否、此非ニ君子之言ニ、齊東野人之語也」

せい-とく（名）【聖德】（一）スグレタル德。高德。史記、五帝紀「高陽有ニ聖德ニ」（二）天子ノ御德。乾德。王維詩「聖德超ニ千古ニ」

せい-とく（名）【政德】仁德アル政治。德政。左傳、襄公廿八年「楚子將レ死矣、不レ脩ニ其政德ニ、而貪ニ昧於諸侯ニ、以逞ニ其願ニ、欲レ久得乎」

せい-とく（名）【成德】成就シタル德行。完成シタル德。易經、文言傳「君子以ニ成德ニ爲レ行、日可レ見之行也」

せい-とく（名）【盛德】盛ンナル德。立派ナル德。易經、繋辭、上傳「富有之謂ニ大業ニ、日新之謂ニ盛德ニ」左傳、昭公八年「臣聞、盛德必百世祀」

〜せい-とく（名）【勢德】カヅヨキメグミ。オカゲ。宇津保物語、祭使「若シハ、望ミアル者ノせいとくヲ被（カウブ）ランテ」

せい-とく（名）【生得】（一）しやうとく（生得）ニ同ジ。「生得名詞」生得動詞」（二）生ケナガラ、手ニ入ルルコト。生捕（イケドリ）。生擒。史記、淮陰侯傳「毋レ殺ニ廣武君ニ、有ニ能生得者ニ、購ニ千金ニ」（三）哲學上ノ語。生レナガラニシテ理性ヲモツコト。「生得觀念」

せい-とく（名）【青特】古今ノ事ヲ附會シ、時代違ヒノ話ヲスルコト。百二三十年前、龜成ト云フ俳諧ノ點者、別號ヲ青特ト云ヒシガ、工夫シタルナリト云フ。（假名世說、四十七）

せい-どく（名）【精讀】クハシク、ヨムコト。熟讀。細讀。

せい-とん（名）【整頓】〔頓ハ整ニ同ジ。陸機、演連珠「臣聞、頓レ網探レ淵、不レ能レ招レ龍」注「頓、猶レ整也」〕トトノヒ、定マルコト。カタヅクコト。整理。整飭。後漢書、劉寵傳「嘗出ニ京師ニ、欲レ息ニ亭舍ニ、亭吏止レ之曰、整ニ頓灑掃ニ、以待ニ劉公ニ、不レ可レ得也、寵無レ言而去」「室內ヲ整頓シテ、客ヲ待ツ」

せい-なう（名）【細男】〔才男（サイノヲ）ノ義、細、音、セイ、なうハ、男（ナム）ノ音便、三（サム）、さう〕ホソヲトコ。俗語考（橘守部）萬歲、才藏「三河萬歲、云云、ソレガ使フ雜伎ノ者ヲ、才藏ト云フハ、才雜ノ義ナルベシ、三代實錄ニ、雜伎之才、江家次第曰、內侍所御神樂事、云云、訖、人長、起召ニ才男ニ、云云、神樂次第云、男共令レ立女天、各乃才（サエ）可レ試、譜中多利（カタチ）、云云、ナドアルハ、皆、俳優ノ戲レヲスル雜伎ノオヲ云フ也、サレバ、此意ヲ以テ、才雜トハ言ヒソメタルナルベシ」（コノ說、鑿（イリホガ）ナルベシ）

せい-なう（名）【細男】奈良ノ春日若宮祭ニ、舞樂ヲスル人。和州舊跡幽考、一「霜月ノ御祭ト云フハ、若宮ノ神事アリ、此ノ祭ハ、保延二年九月十七日ニ始マレリ、云云、せいなうノ舞アリ」風俗文選（許六）南都賦「奈良ノ神子、細男」

せい-なう（名）【聲囊】蛙ノウタブクロ。

せい-にく（名）【生肉】ナマノニク。（熟肉、乾肉、ナドニ對ス）漢書、東方朔傳「生肉爲レ膾、乾肉爲レ脯」

せい-にく（名）【青肉】青キ色ノ印肉。（朱肉、黑肉、ニ對ス）嬉遊笑覽、二、「寬政十二申年八月二日、宗對馬守ヨリ、御目付松平□□ニ問合之由、持傳之印形、青肉用候而モ不レ苦候哉、定ニ而モ有レ之哉之旨、窺、青肉之儀、御定ト申儀者無レ之候得共、公邊ニ用候者、黑肉之方ト存候」

せい-ねい（名）【靜寧】〔晉書、皇甫謐傳「天玄而清、地靜而寧」〕靜カニ安ラカナルコト。靜謐。范鎭、大報天賦、「泰山回鑾合、固ニ基圖ニ而靜寧ニ」「海內靜寧」

せい-ねん（名）【青年】トシワカ。ワカウド。ワカモノ。青春。王世貞詩、「苦向ニ長沙ニ應ニ大笑ニ、不ニ將ニ憔悴ニ送ニ青年ニ」

せい-ねん（名）【生年】（一）生（ウマ）レ年（トシ）。後漢書、呂布傳「生年以來、不レ聞ニ天下有ニ劉備ニ」（二）此世ニ生キテ居ル年間。生年（シヤウネン）。文選、古詩「生年不レ滿レ百、常懷ニ千歲憂ニ」

せい-ねん（名）【盛年】ワカザカリ。壯年。陶潛詩「盛年不ニ重來ニ、一日難ニ再晨ニ」盛衰記、十一、靜憲與ニ入道ニ問答事「帝、容貌タル老父ガ、盛年ノ子ヲ先立テテ、サコソ歎キ思フラメ、且ハ、清房ガ愛後ヲモ弔ヒ、且ハ、老父ガ心ヲ慰メントテ」

せい-ねん（名）【成年】（一）大人（オトナ）ニナリタリト見做サルル年齡。一般ニ、滿、二十歲ヲ云フ。丁年。成人。民法、第三條「滿二十年ヲ以テ成年トス」（二）皇室ノ御成年ハ、滿十八歲トス。皇室典範、第十三條「天皇及皇太子、皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス」

せいねん-しき（名）【成年式】皇室ニテ、成年ニ達シ給ヒシ御方ニ、行ハセラルル儀式。

せいねん-しや（名）【成年者】〔未成年者ニ對ス〕成年ニ達シタルモノ。

・せい-は（名）【青波】（一）さうは（蒼波）ニ同ジ。（二）田畠ナドノ作物ガ、風ニ動ク狀ヲ、波ニ喩ヘテ云フ語。柳宗元詩「麥

芭蕉、天揺、青波二」

せいば（名）［征馬］旅路ニ、乗リ行ク馬。旅行ノ馬。又、征途ニアル馬。江淹、別賦「[illegible]征馬而不顧」謡曲、[illegible]、下「行ク人征馬ノ[illegible]」平家物語、三、城南離宮事「[illegible]征馬ノ忙ガハシキ[illegible]色」

せいはい（名）［儕輩］さいはい（儕輩）ニ同ジ。「才、儕輩ヲ抜ク」

せいはい（名）［旌旆］ハタ。ノボリ。旌旗。旗幟。宋書、[illegible]「旌旆掩[illegible]雲、[illegible]鳴[illegible]海」謝莊、[illegible]「[illegible]萬里、旌旆[illegible]天」

せいはい（名）［成敗］成ルト、敗（ヤブ）ルルト。成就ト、失敗（シクジリ）ト。成否。史記、高祖紀「天下匈匈、苦戰數歳、成敗未可知」

せいばい（名）［成敗］［善ヲ成シ、惡ヲ敗ル意］（一）政事ヲ、取扱フコト。平家物語、一、禿髪事「イカナル賢王、賢主ノ御政、攝政、關白ノ御成敗ニモ及バズ」貞永ノ御成敗式目トハ、武家政事ノ法令ナリ。（二）罪ナフコト。罰スルコト。仕置（シオキ）。刑罰。（三）斬リ棄ツルコト。死刑。松隣夜話、下「御不審所ヘ、彼ノ娘ヲ被召出云云、此ノ女、去ル子細アリ、只今、於御前成敗仕レ、云云、脇差ヲ抜キ、小首ヲ不掛討落ス」[illegible]記、武邑「汝ヲ成敗セヌニ於テハ、身共マデ、御手討ニナサルトノ御事ヂヤ」（四）取リサバクコト。裁斷スルコト。吾妻鏡、四、元暦二年六月十六日「[illegible]東御使、帯院宣、巡[illegible]内近國、[illegible]土民訴訟[illegible]」（五）取リ計ラフコト。工夫スルコト。太平記、廿二、[illegible]事「敵ノ小勢ニ、御方ヲ合スレバ、一騎ニ十騎ヲ對シツベシ、[illegible]クテ敵ヲ[illegible]マシテ、[illegible]ニ乗リテ、一揉ミ揉ミタランニ、ナドカ、是等ヲ討タザルベキト、[illegible]ニ、手段ヲ成敗シテ、[illegible]ノ[illegible]ニ露レテ、閑閑（シツシツ）トゾ進マレタル」

せいばいば（名）［成敗場］しおきば（仕置場）ニ同ジ。[illegible]川夜討（[illegible]文、文[illegible]）二「夜前、京カラノ戻リガケ、[illegible]ノ成敗場ヲ通リマス時」

せいばう（名）［聲望］名聲、威望。ホマレ。良キ評判。人望。名望。[illegible]「[illegible]下[illegible]、[illegible]不[illegible]自安二」

せいばう（名）［[illegible]］[illegible]ト、[illegible]ト。[illegible]「[illegible]玉」

せいばう（名）［制帽］規定ノ帽子。定メノ帽子。「學校ノ制帽」「軍人ノ制服、制帽」

せいはく（名）［精白］（一）純ニシテ白キコト。史記、天官書「稍[illegible]精白者、其將悍、其士怯」（二）せいはくまい（精白米）ノ略。

せいはく（名）［省佰］しゃうびゃく（省佰）ニ同ジ、省錢（シャウセン）ノ條ヲ見ヨ。短陌。事物紀原、十、錢陌「自古用錢、皆以千百爲足、梁武帝時、自破嶺以東、八十爲陌、名東錢、江郢以上七十爲陌、名西錢、云云、末年、遂以三十五爲陌、[illegible]以八十爲陌、蓋自[illegible]始也、云云、[illegible]日、漢隱帝時、三司使王章、每出官錢、以七十七爲陌、[illegible]、蓋自五代漢始也」[illegible]錢 防長之省陌、[illegible]以八十爲陌、按、漢隱帝時、下[illegible]三司使、[illegible]急、[illegible]制、錢出入皆以八十爲陌、[illegible]令入者八十、出者七十七、謂之省陌、云云、歷代[illegible]其例、不[illegible]吾防長之[illegible]也」

せいばく（名）［生縛］生ケドラレテ、縛（シバ）ラルルコト。史記、太史公自序「主父生縛、[illegible]死[illegible]」

ぜいはく（名）［脆薄］（一）モロクシテ、ウスキコト。薄脆。[illegible]（二）不確切ナルコト。薄情。[illegible]

せいはくまい（名）［精白米］ツキ白ゲタル米。精米。略シテ、精白。

せいはつ（名）［生[illegible]］[illegible]おき（[illegible]）ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。[illegible]「[illegible]、せいはつトヨムモ[illegible]也」

せいばつ（名）［征伐］「孟子、盡心、下[illegible]「征者、上伐下也」同、告子、下[illegible]「代者、奉天子之命、[illegible]其罪[illegible]也」謀叛ノ輩ヲ、攻メ下スコト。征討。[illegible]

せいはふ（名）［制法］制定シタル法則。オキテ。ノリ。[illegible]太平記、三十[illegible]、[illegible]「[illegible]御制法ヲ背キテ、御勘氣ヲ蒙リ、御内ヲ[illegible]出ラルル[illegible]」

せいはふ（名）［製法］拵ヘ方。作リ上ゲ方。製造法。[illegible]

ぜいはふ（名）［税法］租税ヲ取リ立ツル法則。税ヲ取立ツル法（ノリ）。[illegible]

せいはん（名）［成版］［活字版ニ對シテ］常ノ版木ノ稱。木版ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「十三冊、本邦、刊行スル所、活字本（三通）皆、朝鮮本ヲ原トス、整版ハ、唆稚隆ガ評林ノミ」同、五、御本日記[illegible]整版アリ、此版ヲ刷ル」[illegible]長十一年[illegible]

せいはん（名）［正犯］［從犯ニ對ス］共犯ノ一、主トシテ、犯罪ヲ行ヒタルモノ。コレニハ直接正犯ト、間接正犯トアリ。

せいはん（名）［[illegible]］コブ、ノボルコト。[illegible]

せいはん（名）［征帆］航海スル船。出帆スル船。[illegible]

せいはん（名）［[illegible]］[illegible]

せいはん（名）［生蕃］[illegible]化外、謂之生蕃[illegible]化ノ外ノ野蠻人。中央政府ノ風化ニ順ハヌ蕃人。風化ヲ受ケテ、稍、開ケタルヲ熟蕃トイフ。

せいはんたい（名）［正反對］正シク、裏腹（ウラハラ）ナルコト。全ク、アベコベナルコト。

せいはんろ（名）［[illegible]］青色ニシテ、[illegible]紋アル[illegible]。

せいひ（名）［[illegible]］[illegible]

せいひ（名）［成否］成ルト、成ラザルト。出來ルコトト、出來ザルコトト。成敗。[illegible]

せいひ (名) 【政費】 政務ニ使フ費用。

セイヒ (名) 【犀皮西皮】 さいひ(犀皮、西皮)ノ條ヲ見ヨ。

せいび (名) 【成美】 人ヲ勉メ勵マシテ、美德ヲナサシムルコト。論語、顏淵篇「子曰、君子成二人之美一、不レ成二人之惡一、小人反レ是」

せいび (名) 【濟美】 子孫ガ、父祖ノ業ヲ繼承シテ、美事ヲナスコト。左傳、文公十八年「世濟二其美一、不レ隕二其名一」教育勅語「億兆心ヲ一ニシテ、世世厥ノ美ヲ濟セルハ、此レ我カ國體ノ精華ニシテ」

せいび (名) 【齊眉】 〔捧グル食膳ヲ、眉ト齊シクスル(目八分ニ持ツ)義。下ノ出典ノ梁鴻ノ妻ノ故事ニ起ル〕 妻ノ、夫ヲ崇敬スルコト。後漢書、梁鴻傳「孟氏有レ女、狀肥醜而黑、力擧二石臼一、擇レ對不レ嫁、至二年三十一。父母問二其故一。女曰、欲レ得二賢如二梁伯鸞一者一。鴻聞而聘レ之、云云、至レ吳、依二大家皐伯通一、居二廡下一、爲二人賃舂一。每レ歸、妻爲具レ食、不三敢於二鴻前一仰視一、擧レ案齊レ眉。伯通察而異レ之曰、彼傭、能使二其妻敬一レ之如レ此、非二凡人一也、乃方舍二之於家一」

せいび (名) 【精微】 極メテ、コマカキコト。精緻、微細。中庸、廿七章「致二廣大一而盡二精微一」史記、龜策傳「其精微深妙、多レ所二遺失一」

ぜいひ (名) 【贅費】 無駄ナル費用。冗費。「贅費ヲ省ク」

せいひつ (名) 【靜謐】 (一)世ニ、亂レナク、靜カナルコト。靜寧。靜穩。嵇康、琴賦「竦肅肅以靜謐、密微微其清閑」(二)世ガ、安ク治マルコト。唐享太廟樂章「河海靜謐、車書混同」

せいひん (名) 【正賓】 しやうきやく(正客)ニ同ジ。

せいひん (名) 【淸貧】 (一)貧シキニ居テ、操ヲ守ルコト。(二)諂ハズ、貪ラズシテ、身、貧シキコト。三國志、魏志、華歆傳「歆素淸貧、祿賜以振二施親戚故人一、家無二儋石之儲一」古事談、三、臣節「惟成辨、淸貧之時、妻室廻二善巧一、不レ令レ見レ恥、云云」近世名家書畫談、下、雪山軼事「雪山、江戸ニ在リシ時ハ、潔癖、甚シカリシニ、長崎ニ歸リテ後、十六年、湯浴セズ、爪取ラズ、赤貧ニシテ、儋石ノ儲ケ無ケレドモ、崎人、尊敬シテ、名ヲモテ呼ブ者ナク、先生トノミ云タリトナン」

せいひん (名) 【精品】 精製ノ物品。精製品。書史(宋、米芾)「所レ收皆精品」

せいびん (名) 【精敏】 クハシク、サトキコト。精細ニシテ、明敏ナルコト。韓愈、柳子厚墓誌銘「子厚、少精敏、無レ不二通達一」

せいびやう (名) 【精兵】 弓勢ノ、強キコト。強弓ノ手ダレノ者。小兵ノ(一)ニ對ス。盛衰記、四十三、源平侍遠矢事「元來、精兵ノ手ダリナレバ、鏃ニ廻ハル者ナシ」同、三十三、水島軍「能登守教經、精兵ノ手利ナリケレバ、一トシテ空矢ナシ」太平記、十四、宮方京攻事「白引ノ精兵、畠水練」

せいびやう (名) 【性病】 下ノ病。生殖器病。花柳病。

せいひれい (名) 【正比例】 ひれい(比例)ノ條ヲ見ヨ。

せいふ (名) 【聖父】 (一)スグレタル父。宋史、樂章「旣尊二聖父一、亦燕二壽母一」(二)耶蘇敎ノ語。耶蘇基督ノ父、卽チ、神。

せいふ (名) 【世父】 〔爾雅、釋親篇「父之晜弟、先生爲二世父一、後生爲二叔父一」〕 宗家ヲ繼承スル伯父。世繼トナリタル伯父。父ノ兄。漢書、王莽傳「世父大將軍鳳、病」

せいふ (名) 【世婦】 支那ニテ、後宮ノ女官ニテ、夫人ノ次席ノモノ。禮記、曲禮、下篇「天子有レ后、有二夫人一、有二世婦一、有レ嬪」保元物語、三、重仁親王事「后ト申スハ、位ヲ宮闈ニ正シクシテ、體ヲ君王ニ等シクス、サレバ、三夫人、九嬪、廿七世婦、八十一女御アリテ、內、君ヲ助ケ奉ル」

せいふ (名) 【政府】 〔民間ニ對ス〕 一國ノ大權ヲ執リテ、萬機ノ政ヲ統べ行フ所。內閣。宋史、歐陽修傳「其在二政府一、與二韓琦一同レ心、輔レ政」欽明紀、五年三月「日本府之政」

せいふ (名) 【制符】 禁制ノ趣旨ヲ記シタル文書。又、將軍ヨリ發スル禁制ノ文書。吾妻鏡、三十三、延應二年三月十八日「關東御家人幷鎌倉祗候人人、萬事停二止過差一、可レ好二儉約一條條事、日來有二沙汰一、今日被レ造二其制符一、自二來四月一日一、固可レ禁二制之一」同、四十、建長二年十一月廿九日「鷹狩事、諸人已背二嚴重制符一、以レ之爲二日次之業一、所所喧嘩狼藉、職而由レ斯、仍可二停止一之由、被レ仰二諸國守護人等一」

せいふ (名) 【星布】 星ノ、天空ニ在ル如ク、チラバリ布クコト。星羅。後漢書、張衡傳「屯騎羅而星布、振二余袂一而就レ車兮」

せいふ (名) 【征布】 〔周禮、地官篇、大司徒「地征」注「征、移也」〕 市場ヨリ取リタツル、税ノ布。周禮、地官篇、司徒泉府「掌下以二市之征布一」

せいふ (名) 【征夫】 (一)出征シタル人。征人。詩經、小雅、鹿鳴之什、皇皇者華「皇皇者華、于二彼原隰一、駪駪征夫、每懷靡レ及」(二)(征途ノ(二)ノ語原ヲ見ヨ) 旅行ヲスル人。旅人。陶潛、歸去來辭「問二征夫一以二前路一」

せいふ (名) 【征賦】 〔征布ノ語原ヲ見ヨ〕 政府ニ取リタツル、貢物。又、賦税ヲ、取リタツルコト。税賦。杜甫詩「誰能扣二君門一、下レ令減二征賦一」

せいふ (名) 【靑蚨】 (一)かげろふ(蜉蝣)ノ異名。搜神記(晉、干寶)「靑蚨、似レ蟬稍大、生二子草間一如二蠶子一、取二其子一、母卽飛來、以二母血一塗レ錢八十一文、以二子血一塗レ錢八十一文、每市レ物、或先用二母錢一、或先用二子錢一、皆復飛來、輪轉無レ已」(二)ぜに(錢)ノ異名。靑蚨。下學集、下、器財門「靑蚨、錢異名也、云云」發心集、五、第一條「錢ノ一名ヲバ、蜻蚨ト云フトゾ」

せいふ (名) 【靑鳧】 前條ノ(二)ニ同ジ。庭訓往來抄、十、鳥目事「鳥目、鵝眼、靑鳧ナンド、皆是、料足ノ異名也、云云、靑鳧ヲモ、錢トヨム、云云、數指歸ニ、一百ノ靑鳧ノ錢、常ニ懸二杖頭一ト」下學集、下、器財門「靑鳧、錢異名也」小右記、天元五年六月十日「今日於二室町一、左中辨奉レ爲二一親一、図二佛經一、請二七僧一講演、云云、臨レ曉、令レ修二靑鳧十連一」

せいぶ (名) 【聖武】 天子ノ武德ヲ云フ語。才德スグレテ、勇武ナルコト。左思、魏都賦「顯二聖武之龍飛一、肇受レ命而光宅」

ぜいふ (名) 【税賦】 年貢。貢物。賦税。征賦。周禮、地官篇、司徒載師「任地、云云」鄭注「任、土地、謂レ任二土地一、以起二税賦一也」

せいふう (名) 【成風】 〔莊子、徐無鬼篇ニ「匠石運レ斤成レ風、聽而斲レ之、盡レ堊而鼻不レ傷」トアルヨリ出ヅ〕 普請スルコト、普請ノ、出來上ガルコト。落成。平治物語、一、信西信賴不快事「華棟、雲ノカタ、大廈ノ構ヘ、成風ノ功、年ヲ經ズシテ、不日ニ成リシカドモ」

せいふう (名) 【凄風】 物スサマジキ風。左傳、昭公四年「春無二凄風一、秋無二苦雨一」

せいふう (名) 【腥風】 ナマグサキ風。韓愈詩「腥風遠更颸」

せいふうゑんしうりう (名) 【正風遠州流】 遠州流挿花ノ一流、貞松齋米一馬ヲ祖トス。正風遠州流挿花衣香附日記抄、跋「先生(貞松齋米一馬)、コタビ、正風ノ一派ヲ立テテ、永ク此道ヲ壽ガムガタメ、且ハ、初心ノ手引セムト」

せいふく (名) 【征服】 (一)征伐シテ、服從セシムルコト。打チ平グルコト。「夷

鼓ヲ征服ス」(二)難事ニ打勝ツ意ニ云フ。「自然ノ征服ニ成功セリ」

せい-ふく (名) 制服 規定ノ衣服。定メノ服。管子、立政、「服制、度爵以頒服、爵[illegible]用財」衣服令、集解、廿九、朱云、毛位、調、賤人、服制、亦同也」衣服令、集解、廿九、朱云、毛位、調、白丁、亦同也、或云、天下庶人制服如此」

せい-ふく (名) 正服 (一)表ダチタル時ニ着用スル、正シキ衣服。(略服ナドニ對ス) (二)親戚ヲ主トシタル服忌。居家必用、十六、服制、正服、注、謂、正[illegible]先祖之體、本族之服也」

せい-ぶつ (名) 生物 イキモノ。生活シテ居ル物。動物、植物ノ總稱。禮記、樂記篇、水煩則魚鼈不大、氣衰則生物不遂」「生物學」

ぜい-ぶつ (名) 贅物 ムダモノ。餘計ニテ、無用ナル物。

せいぶつ-がく (名) 生物學 理學ノ一部、動植物ノ生活現象、及、其構造、發達、分布等ニ就キテ、考究スル科學。

せい-ぶん (名) 成分 相結合シテ、一物體ヲ構成シテ居ル物質。(化學ナドニ云フ)

せい-ぶん (名) 精分 (一)精神、氣力ノモト。「精分ヲ附クル食餌」(二)純粹ノ成分。

せい-ぶん (名) 聲聞 (善聲、令聞ノ略) ホマレ。キコエ。名聞。評判。孟子、離婁、下篇、七八月之間、雨集、溝澮皆盈、其涸也、可立而待也、故、聲聞過情、君子恥之」

せい-ぶん (名) 正文 註釋、附錄、又ハ、理由書等ニ對シテ、本文ノ稱。左傳、昭公九年、杜注、[illegible]正文[illegible]所[illegible]心[illegible]記[illegible]之」正[illegible]、一、[illegible]、五[illegible]白文、白文、又ヘ、正文、[illegible]文、素本ト云フ、注[illegible]本ニ對シテ、單經本トモ云フ、古ハ、經本、注本、別行ス」「條約ノ正文」

せい-ぶん (名) 成文 (一)文章、文書ニ書キアラハスコト。(二)條文ニ記載セラレタルモノ。記載セズ、習慣ニ因ルヲ、不文ト云フ、[illegible]、昭公十二年、杜注、[illegible]兩[illegible]、[illegible]、因[illegible]也」「成文ノ法律」

せい-ぶん (名) 省文 (一)文句ヲ、ハブクコト。略文。左傳、桓公六年、杜注「[illegible]無[illegible]事、省文從可知」(二)省略シタル文字。略字。[illegible]、今人作字[illegible]文、以[illegible]、[illegible]、[illegible]、其[illegible]、皆謂文本字也」宇治[illegible]二、道登ト云キタル文字、見エタリ」

せい-ぶん (名) 聖文 天子ノ文德ヲ云フ語。才德勝レテ、文道アルコト。宋書、樂志、[illegible]、[illegible]、[illegible]文」太平記、三十九、[illegible]、[illegible]、[illegible]、仰[illegible]天[illegible]、[illegible]聖文、神武[illegible]德ヲ以テ」

せい-ぶん (名) 誓文 せいもん(誓文)ニ同ジ。[illegible]、[illegible]天[illegible]、[illegible]、[illegible]立[illegible]文[illegible]」

ぜい-ぶん (名) 贅文 無駄ナル文句。用ノナキ文句。冗文。「贅文、多シ」

せいぶん-はふ (名) 成文法 「不文法ニ對ス」 成立シタル文書ヲ以テ、公布ナシタル法律。制定法。成文律。

せいぶん-りつ (名) 成文律 「不文律ニ對ス」前條ノ語ニ同ジ。

せい-へい (名) 政柄 「斧ノ柄ヲ執レバ、斧ヲ自由ニ用ヰ得ベシ、故ニ、權力ノ義トナル」周禮、大宰篇、八柄、[illegible]注、柄所以[illegible]事也、[illegible]、柄以[illegible]物、[illegible]、[illegible]、若ニ用斧之執ニ其柄ニ也」康熙字典、「柄、又、權也」 せいけ(政權)ニ同ジ。[illegible]、[illegible]公七年[illegible]曰、[illegible]、[illegible]、[illegible]」

せい-へい (名) 精兵 スグリタル、ツハモノ。エリヌキノ兵。精卒。史記、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]十萬」

せい-へい (名) 生兵 (一)[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]。(二)[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]不熟也」調練ヲ經ザル兵。未熟ノ兵。

せい-へい (名) 生平 ヒゴロ。ツネ。平生。史記、[illegible]、[illegible]、[illegible]」

せい-へい-きゅう (名) [illegible] [illegible]ノ時ナドニ用ホル弓。[illegible]、セイヘイキュウ、[illegible]人也、祝[illegible]、神事、[illegible]之時、[illegible]也、[illegible]、[illegible]、[illegible]日[illegible]基ヨリ、世平弓、鏑ヒニ、蟇目矢、平調ヲ搔ケ奉リ」

せい-へう (名) [illegible] [illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]

せい-べう (名) 聖廟 (一)孔子ノ廟。聖堂ニ同ジ。(二)[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]

せい-べう (名) 青苗 アワキ苗。青田ノ苗。[illegible]、[illegible]、[illegible]

せいべう-はふ (名) 青苗法 [illegible]、[illegible] 神宗、王安石ヲ登用シ、富國強兵ノ新法ヲ斷行セシム、青苗法ハ、其一ナリ、其法、春期ニ、資金ヲ農民ニ貸與シ、オキ、秋熟ノ際、二分ノ利息ヲ加ヘテ、償還セシム。國庫ノ收入ハ増シタレド、人民、疲弊シ、物議起リテ、廢セリ。宋史、王安石[illegible]

せい-へき (名) [illegible] (一)[illegible]、[illegible]。(二)アワキコトノア[illegible]

せい-へき (名) [illegible] [illegible]

せい-べつ (名) 生別 (死別ニ對ス) 生キナガラ、別ルルコト。[illegible]

せい-へん (名) 世變 (一)世ノ、ウツリカハリ。[illegible]、[illegible] (二)世ノ變亂。世ノミダレ。

せい-へん (名) 政變 政事上ノ變動。又、政事上ノ變亂。「内閣[illegible]シテ、[illegible]」

せい-べん (名) [illegible] ムダグチ。無用ノ贅言。「[illegible]」

せい-ぼ (名) 歲暮 (一)さいぼ(歲暮)ニ[illegible]

せい-ぼ (名) 聖謨 天子ノ、御ハカリゴト。天子ノ、政事上ノ御計畫。[illegible]

せい-ぼ (名) 聖母 聖人ノ母。特ニ、耶穌ノ生母、まりやノ稱。

せい-ぼ (名) [illegible] [illegible]

せい-ぼ (名) 世母 [illegible]、[illegible] 父ノ配偶者。ツバ。伯母。

せい-ほうろう (名) [illegible] 大内裏ノ

廣天門ノ東ニアル樓ノ 拾芥抄、中、末「栖鳳樓、在東西之掌大門ノ外東樓、方四間」兵庫寮式「栖鳳樓西角壇以西、相去一丈、立鼓」

せい-ぼく（名）［清穆］（一）キヨラカニシテ、和ラグコト。晉書、王濬傳「豈可ㇾ令ㇾ混濁流ㇾ亂清穆之風ㇾ」（二）健康ノ、スグルルコト。（書簡文ナドニ用キル語）「御清穆之段、奉ㇾ賀候」

ぜい-ぼく（名）［筮卜］筮竹ヲ使用シテ、トフコト、筮ヲ以テスル占術ノ 漢書、儒林傳「及ㇾ秦禁ㇾ學、易爲ㇾ筮卜之書、獨不ㇾ禁、故傳受者不ㇾ絕也」

せい-ほん（名）［正本］（一）書類ノ、本書ノ稱。（副本ニ對ス）（二）法定ノ規ニ從ヒ、原本ノ全文ヲ寫シテ作成シ、原本ト同一效用アル文書。（抄本ニ對ス）

せい-ほん（名）［製本］書物ヲ、綴ヂ作ルコト。裝釘。釘書

せい-まい（名）［精米］シラゲヨネ。白ク搗キタル米。精白米。禮記、禮運疏、「昔子遭ㇾ精米器ㇾ也、小人遭ㇾ麤米器ㇾ也」

せい-まう（名）［靑盲］（一）アキメクラ。後漢書、李業傳、好ㇾ學傳古、云云、待以ㇾ高位ㇾ、皆託ㇾ靑盲ㇾ以避ㇾ世難ㇾ（二）色盲ノ一、諸色中、靑色ヲ辨知セザルモノ。

せい-まっくゎく（名）［省末畫］天子ノ御諱ノ字ヲ、文ニ書スル時ハ、其字ノ末ノ一畫ヲ省キテ、書カザルコト 御三代ノ間、避クト云フ。卽チ、統ヲ、紵トスル類。文宣元年五月、詔、御諱相避、凡讀ㇾ文省ㇾ末畫ㇾ之儀、御忌ㇾ舍除宣傳之事候」

せい-み（名）［淸味］キヨラカナル風味。洪希文、第二土茶ㇾ歌、醫胃ㇾ功、淸味永」

セイミ-がく（名）［舍密學］〔せいみハ、蘭語、Chemie.〕くゎがく（化學）ニ同ジ。

せい-みつ（名）［精密］クハシク、コマカキコト。精細、緻密。精緻。蘇轍詩「投ㇾ誠換ㇾ精密、換ㇾ馬得ㇾ膝ㇾ」

せい-みん（名）［生民］アヲヒトクサ。民。人民。詩經、大雅、生民之什、生民篇「厥初生民、時維姜嫄」書經、旅獒篇「爲ㇾ山九仞、功虧ㇾ一簣ㇾ、允迪ㇾ茲、生民保ㇾ厥居ㇾ、惟乃世王」孟子、公孫丑、上篇「自ㇾ有ㇾ生民ㇾ以來、未ㇾ有ㇾ孔子ㇾ也」

せい-みん（名）［濟民］人民ヲ、濟ヒ治ムルコト。救民。許渾詩、身在ㇾ朝廷ㇾ思ㇾ濟民ㇾ」

せい-みゃく（名）［靜脈］ぢゃうみゃく（靜脈）ニ同ジ。みゃく（脈）ノ條ヲ見ヨ。

せい-む（名）［世務］世ノ中ノツトメ。史記、主父偃傳、趙人徐樂、齊人嚴安、俱上ㇾ書言ㇾ世務、各一事」教育勅語「公益ヲ廣メ、世務ヲ開キ」

せい-む（名）［政務］政事ノ上ノ務。後漢書、仲長統傳「審ㇾ此十六者ㇾ以爲ㇾ政務ㇾ」保元物語、一、新院御謀反事「仁義禮智信ヲ正シクシ、賞罰、勳功ヲ分チ、政務ヲキリトホシニシテ、上下ノ善惡ヲ糺サレケレバ、時ノ人、惡左大臣トゾ申シケル」「御弱ラ、政務ヲ見ソナハス」

ぜい-む（名）［稅務］租稅ノ賦課、徵收ニ關スル行政事務。「稅務署」

せい-めい（名）［生命］イノチ。壽命。性命。戰國策、秦策、生命壽長、終ㇾ其年ㇾ而不ㇾ夭傷ㇾ」「生命ヲ保ツ」

せい-めい（名）［性命］（一）性ト、命ト。人ノ性ト、天ノ命ト。易經、說卦傳「昔者聖人之作ㇾ易也、將ㇾ以順ㇾ性命之理ㇾ」（二）前條ノ語ニ同ジ。

せい-めい（名）［姓名］姓ト、名ト。戰國策、趙策、乃變ㇾ姓名ㇾ爲ㇾ刑人ㇾ入ㇾ宮塗ㇾ廁」吾妻鏡、十、建久元年十二月二日「昨日拜賀、直垂著持ㇾ太刀ㇾ有ㇾ御尋、被ㇾ奏ㇾ姓名ㇾ之處、無官不ㇾ可ㇾ然、早可ㇾ被ㇾ授ㇾ兵衞尉ㇾ之由、有ㇾ勅定ㇾ」

せい-めい（名）［盛名］盛ンナル名譽。後漢書、黃瓊傳「盛名之下、其實難ㇾ副」

せい-めい（名）［聲名］ホマレ、名聲。中庸、第三十一章「聲名洋ㇾ溢乎中國ㇾ」

せい-めい（名）［聲明］コトアゲスルコト。言明スルコト。公言シテ、其意志ヲ人ニ明ラカニスルコト。「中外ニ聲明ス」

せい-めい（名）［聖明］天子ノ御明德。天子ノ御目。薩都剌詩「小臣涓滴皆君賜、唯有ㇾ丹心答ㇾ聖明ㇾ」「聖明ヲ蔽フ」

せい-めい（名）［淸明］（一）淸ク明ラカナルコト。淸亮。聖賢羣輔錄「海內淸明」朗詠集、上「此夜淸明玉不ㇾ如」（二）にじふしき（二十四氣）ノ條ヲ見ヨ。淮南子、天文訓「加ㇾ十五日ㇾ指ㇾ乙、則淸明風至」（三）何トモ知ラレザリシ草木ノ、美シキ花、葉ヲ出スコト。

せい-めう（名）［精妙］精巧ニシテ、妙ナルコト。宋史、王著傳「諸家字體、尙ㇾ精妙ㇾ」

せい-めん（名）［生面］（一）新ラシキ方面。改マリタルコト。新生面。新機軸。杜甫詩「凌煙功臣少ㇾ顏色ㇾ、將軍下ㇾ筆開ㇾ生面ㇾ」（二）面識ナキコト。近ヅキナキコト。熟面ノ反。

せい-もく（名）［聖目］〔或ハ、井目、制目、星目トモ記ス〕ヒジリメ。圍棊ノ語、目ノ內ノ正位ニテ、良キ處ナレバ、云フナルベシ。黑星一ツニテモ、聖目ナリ。昔ハ、先手ニ、棊盤ノ、中ノ聖目ニモ打チキ。今ハ、豫メ、其九ツノ黑星ニ、石、九ツ置クヲ云フ。北斗七星。今昔物語、廿四、第六語「丸ガ石ハ、先ヅ此ニ亂給ヘト云テ、中ノ聖目ヲ差ス」碁聖圖碁式（正治）「次ノ手ハ、心ニ任スベシ、先ノ手ヲバ、中ノ聖目ニ打入ルベクヤト覺ユ」□□名物考（山岡浚明）□□、九、□目、せいもく、碁盤ノ目也、井目、今昔」

ぜい-もく（名）［稅目］租稅ノ種類ノ名。租稅ノ種目。

せい-もん（名）［聖門］聖人ノ道。孔子ノ門下。揚子法言「天下有ㇾ三門ㇾ云云、由ㇾ于智ㇾ入ㇾ自ㇾ聖門ㇾ」郭子章「聖門人物志」

せい-もん（名）［勢門］權勢アル家門。世ニ時メク家柄。勢家。コレニ對シテ、世ニ不過ノ家柄ヲ寒門ト云フ。晉書、王沈傳「勢門子弟、交相倒昨、寒門後進、十寒ㇾ六七ㇾ」

せい-もん（名）［聲門］喉頭ノ、氣息ノ通ズル孔。卽チ、二、條ノ聲帶ノ間隙。

せい-もん（名）［正門］正面ノ門。オモテモン。裏門ナドニ對ス。後漢書、百官志「正門有ㇾ亭長一人ㇾ」「學校ノ正門」

せい-もん（名）［聲問］オトヅレ。タヨリ。音信。音問。夢溪筆談（宋、沈括）「莫ㇾ敢與ㇾ之通ㇾ聲問ㇾ」

せい-もん（名）［省問］（一）定省シ、トブラフコト。親ノ機嫌ヲ、ウカガフコト。（二）調ベ問フコト。潛夫論（漢、王符）「候民能至ㇾ闕者、萬無ㇾ數人ㇾ、其得ㇾ省問ㇾ者、不ㇾ過ㇾ百人一ㇾ」

せい-もん（名）［誓文］誓約ノ文言。誓文。下學集、下、態藝門「誓文、セイモン」

せいもん-がため（名）［誓文固］誓文ヲ、互ニ取交シテ、堅ク約束スルコト。蟬丸（元祿、近松作）二「シカシ今宵ハ、誓文がため」

せいもん-ぢゃう（名）［誓文狀］誓詞ノ文書。誓狀。□□甲陽軍記、□□中、□□條目「一、依ㇾ□□衆不ㇾ寄ㇾ何時ㇾ、□□以ㇾ誓文狀ㇾ可ㇾ被ㇾ申ㇾ之」

せいもん-ばらひ（名）［誓文拂］京都、四

條京極ニ、冠者殿トテ、誓文起請赦免ノ神アリ、陰暦十月二十日、遊女ノ、一年中、嫖客ヲ僞リテ誓ヒタル罪ヲ謝スト テ、其處ニ詣ヅルヲ云フ。又、京都、大阪、各商店ニテ、大イニ見切品ヲ賣出スコトアリ、コレ、冠者殿ノ神、僞盟ノ罪ヲ免ゼシムト云フヨリ、商賈、欺賣ノ罪ヲ祓フトテ、行フトゾ。神戸ニテハ、十一月十五日ヨリ廿一日マデ、擧行スト云フ。又、十月ヨリ十一月ニカケテ、(十月十七日ヨリ始マル)吳服ノ大市(關西)アリ、畢リテ、夷講ヲ行フモ、其意ナラム。俳度曲「榎ノ蔭ヤ、誓文拂ひ、村時雨」

せいや (名) 星夜 ホシヅキ夜。張璟、新涼賦「薇珠彩ニ于星夜、流鏡華ニ于月曉ニ」

せいや (名) 靜夜 物シヅカナル夜。陶潛詩「悲風愛ニ靜夜、林鳥喜ニ晨開ニ」

セイ・ヨウ
せいやう (名) 靑陽 「爾雅、釋天篇「春爲靑陽、夏爲朱明ニ」 春ノ異名。多ク、初春ニ云フ。 [illegible]記、八、法皇三井寺頂事「既ニ、靑陽、暮春ノ比ニモ成ニケレバ、三月櫻花ノ宴トテ、桃花モ盛ニ開キタリ」

セイ・ヨウ
せいやう (名) 勢陽 伊勢國ノ南部ノ稱。南伊勢。[illegible]伊賀國、[illegible]城主、伊賀守氏清、云云、七歳ニシテ、母ト[illegible]、[illegible]、[illegible]司、[illegible]能ノ許ニアリ」[illegible]記「信雄、秀吉、和議調ヒタリトイヘドモ、信雄ハ意勢ヲ失ヒ、秀吉ハ益威ヲ逞フシテ、伊賀全州、南伊勢五郡ハ、秀吉取[illegible]」

セイ・ヨウ
せいやう (名) 靜養 身心ヲ靜カニシテ、療養スルコト。 白居易、[illegible]右銘「修ニ外以及ニ內、靜養和與ニ眞」「[illegible]」

セイ・ヨウ
せいやう (名) 西洋 「德川初期ノ、異國ニ關スル文書ニ、西洋ノ稱アリ、阿媽港ニ

セイ・ヨウ・フ
せいやうふ (名) 西洋布 カナキン。

ヨリ遠ナルベシト云フ」 大西洋南岸ノ地方、歐羅巴洲、及、亞米利加洲、泰西。コレニ對シテ、亞細亞洲ノ東部ヲ、東洋ト稱スルニ至ル。

セイ・ヤク
せいやく (名) 誓約 〔四書類函「約ν信曰ν誓」〕 誓ヒテ、約束スルコト。盟約。三國志、蜀志、[illegible]傳「昔[illegible]、[illegible]共相誓約、庶[illegible]足下末[illegible]」[illegible]記、中「[illegible]ノ約ヲ忘レジト、深ク契テ、八幡宮ノ鰐口ヲ鳴シテ、神水ヲ飮ミ、誓約ヲコソシタリケレ、去バ、二條大宮ノ二度目ノ合戰ニ、五人ハ、所所ニテ、思思ニ討死ス、九郎一人、死ニ殘リ、誓約五人、見エザリケレバ、[illegible]テ尋ヨト」

せいやく (名) 製藥 藥ヲ、ツクルコト。又、製造シタル藥。調劑。

せいゆ (名) 聖諭 せいくん(聖訓)ノ(二)ニ同ジ。

せいよ (名) 世譽 一世ノホマレトナルコト。 [illegible]子下、[illegible]世[illegible]不足[illegible]、[illegible]仁[illegible]綱ニ」

せいよ (名) 聲譽 ホマレ。聲聞。名譽。後漢書、[illegible]行傳「天下無[illegible]、[illegible]足以[illegible]」 太平記、三十二、天竺震旦物語事「舜、年二十二シテ、孝行、天下ニ聞エシカバ、帝堯、コレニ天下ヲ讓ラントスル心アリ、云云、[illegible]、[illegible]、上ニ達シ、父母ニ孝アリシカドモ、云云」

せいよう (名) 靑蠅 さうよう(蒼蠅)ニ同ジ。 詩經、小雅、桑扈之什、靑蠅篇「[illegible]靑蠅、止于[illegible]、[illegible]、[illegible]因[illegible]ニ」

せいよう (名) [illegible] 天子ノ御容貌。[illegible]貌。[illegible]

セイ・ヨウ・ホウ
せいようはふ (名) [illegible]法 身體ノ[illegible]部ト兩肩トノ位置ヲ整ヘテ、姿勢ヲ正

シクスル法式。(體操ナドノ時ニ)

せいら (名) 靑螺 〔靑色ノ螺、其形色ヲ以テ形容ス〕 海上ノ島山ヲ見テ云フ語。[illegible]

せいら (名) 星羅 〔星ノ羅列ノ義〕 事物ノ、數多ク列ナルコト、天ノ星ノ如ク、竝ブコト。 [illegible]

せいらい (名) 齊賴 〔後冷泉天皇ノ頃ニ、源齊賴、鷹飼ノ達人ナリシニ起ルト云フ〕 鷹師ノ語ヨリ移リテ、一藝ヲ極メ得タル者ノ稱。 [illegible]、後冷泉院ノ御宇、[illegible]頼ハ、[illegible]師ノ達人也、云云、[illegible]、凡テ、一[illegible]ヲ[illegible]得タルモノヲ、[illegible]、[illegible]、此ノ[illegible]也、此レハ、其技ノ[illegible]ナリト云ヘルハ、[illegible]類ノ、放鷹ヲ得タルヨリ起コレル[illegible]」

せいらい (副) 生來 (一)ウマレナガラ。生得。(二)生レテヨリ以來。生年以來 [illegible]

セイ・ロウ
せいらう (名) 淸朗 淸ク、ホガラカナルコト。 [illegible]書、[illegible]傳「[illegible]雨新晴、六合淸朗」

セイ・ロウ
せいらう (名) 晴朗 天氣ノ、ハレテ、ホガラカナルコト。 世說「天氣晴朗、[illegible]」

セイ・ロウ・カン
せいらうかん (名) [illegible] [illegible](琅玕)ノ條ヲ見ヨ。 張衡詩「美人贈ν我靑琅玕」 [illegible]從ニ[illegible]中ニ來ニ」

セイ・ロウ・デン
せいらうでん (名) 淸涼殿 せいりやう[illegible]ノ[illegible] [illegible]

せいらく (名) [illegible] 詮議。工夫。(京阪地方ノ[illegible]) [illegible]

セイラス (名) 〔蘭語、Zeilas 印度ノ錫蘭島ヨリ起ル〕 往時、蘭人ノ舶來セル、一種ノ縞織、絹織物ノ稱。

せいらん (名) 晴嵐 晴レ渡リタル日、山氣ノ、蒸シテ昇ルモノ。ヤマノヤケ。 [illegible]沙府八景、[illegible]山市晴嵐[illegible]

せいらん (名) 靑嵐 嵐ノ一種、其ハ、はきぎニ似テ、葉、楕ノ葉間ニ、[illegible]ヲ開ク。嵐ニ似テ、[illegible]

せいり (名) 管理 トトノヘ、ヲサムルコト。カタヅクルコト。カイツクロフコト。 [illegible]

せいり (名) 政理 政事ヲ、執リ行フコト。 三國志、蜀志、[illegible]傳[illegible]

せいり (名) 性理 〔易經、說卦傳「窮ν理盡ν性、至ニ於命ニ」〕 人ノ性命ト天理。

せいり (名) 生理 (一)生物ノ生活狀態ヲ觀察スル學問。(二)せいりがく(生理學)ノ略。(三)支那ニテハ、スギハヒ。ナリハヒ。 杜甫詩、生理何[illegible]、[illegible]

せいり (名) 勢利 いきほひト、利益ト。權勢ト、財利ト。 [illegible]

せいり (名) 銳利 [illegible] コト。銳利。 [illegible]

セイ・リ
せいりゆう [illegible] [illegible] (二) 淸澈ナルト[illegible] [illegible]

ぜいりう（名）【贅瘤】瘤(コブ)。無用ノ長物ニ譬ヘテ云フ。王褒傳「身世等㆓浮幻㆒、衣冠如㆓贅瘤㆒」

せいりがく（名）【生理學】理學ノ一部、動植物ノ諸機關ノ構造(クミタテ)、作用(ハタラキ)、及、其生活現象、等ヲ知ル學。人身究理。

せいりがく（名）【性理學】支那哲學ノ一部、心理學ノ屬、人ノ精神ノ本質ヲ說ク學。此語、或ハ、無形理學（英語、Metaphysics.）ノ譯トモス。

せいりつ（名）【成立】〔せいりふナルベキナリ〕（一）ナリタツコト。成功スルコト。後漢書、鄧禹傳「明公、雖㆑建㆓藩輔之功㆒、猶恐無㆑所㆓成立㆒」「和議成立」（二）せいいく（成育）ニ同ジ。李密、陳情表「臣少多㆓疾病㆒、九歲不㆑行、零丁孤苦、至㆓于成立㆒」

せいりつ（名）【聲律】（一）音ノ調子。音律。（二）四聲ノ規律。蘇洵、上㆓田樞密㆒書「當時之文、淺狹可㆑笑、飢寒困窮、亂㆓其心㆒、而聲律記問、又從而破㆓壞其體㆒、不㆑足㆑觀也已」

ぜいりつ（名）【稅率】租稅ヲ賦課スル割合。稅ヲカクル率。

せいりやう（名）【精良】勝(スグ)レテ、ヨキコト。淳良。精巧。人物志（魏、劉劭）「精良畏慎、兼作㆓其譽㆒、失在㆓多疑㆒」

せいりやう（名）【清亮】キヨク、サハヤカナルコト。清明。後漢書、郎顗傳「清亮自然、淡泊寡欲」

せいりやう（名）【清涼】スガスガシキコト。サハヤカニ、スズシキコト。楚辭、風伯篇「余先驅兮、氛埃辟而清涼」法苑珠林（釋道世）「清涼寂滅、安樂無㆑病」太平記、十二、神泉苑事「俄ニ、大内ノ前ニ、池ヲ掘ラセ、清涼ノ水ヲ湛ヘテ、龍

王ノゾ御請シ給ヒケル」

せいりやう（名）【凄涼】物サビシク、スゴキコト。杜甫詩「山陰一茅宇、江海日凄涼」

せいりやうでん（名）【清涼殿】〔涼ハ、俗字ナレドモ、古書ニハ使用セリ〕古クハ、せいらうでん。禁中、主上ノ、常ノ御殿(ゴテン)ノ號。下學集、上、家屋門「清涼殿」注「南殿之西、又云㆓御殿㆒、主上常居之也」書言字考節用集、二、乾坤「清涼殿」注「謂㆓之中殿㆒、又云㆓御殿㆒、上古、天子常寢居」拾芥抄、中、末「中殿、云㆓清涼殿㆒、又云㆓御殿㆒、南殿西、常寢居也」晝御座(ヒノオマシ)、夜御殿(ヨンノオトド)、朝餉(アサカレヒ)、石灰壇(イシバヒノダン)、鬼間、二間、上御盤所、臺盤所、殿上、下侍、渡殿(ワタドノ)、御裝物所」有職抄、二、禁中殿門「清涼殿、七間四面、中殿ト云フ、校書殿ノ北ニ在リ、四方拜、小朝拜、敍位、除目、官奏、三席（詩歌管絃歟）ノ御遊以下ノ公事、アマタ、此殿ニテ行ハルルナリ」後紀、三、承和元年八月「上、内㆓宴清涼殿㆒、號㆓芳宜花讌㆒」枕草子、五、四十六段「清涼殿ノ前ノ東ノ壺ヨリ、姸姬ヲ前ニテ、上ノ御局へ參リシホド、ヲカシカリキ」紀略、前編、十四、天長元年十二月「皇太子參㆓謁於中殿㆒曲宴、參議已上預焉」

せいりやく（名）【政略】政事ノ上ノハカリゴト。政事ヲ行フ駈引。政策。「政略結婚」

せいりやく（名）【省略】ハブクコト。除キ減ラスコト。三國志、蜀志、楊戲傳「雖㆓性簡情省略㆒、未㆓嘗以㆓甘言㆒加㆑人」平家物語、十一、腰越事「放免ニ預ラバ、積善ノ餘慶、家門ニ及ビ、榮花、永ク子孫ニ傳へ、依リテ、年來ノ愁眉ヲ開キ、一期ノ安寧ヲ得ン、書紙ニ盡サズ、併シナガラ、省略セシメ候ヒ畢リヌ」

せいりよ（名）【聖慮】えいりよ（叡慮）ニ同ジ。張九齡、上㆓封事㆒書「聖慮每勤、德音屢發」太平記、十二、兵部卿親王流刑事「備㆓征夷將軍位㆒、可㆑守㆓天下武道㆒トテ、則チ、勅許ヲ申サレシカバ、聖慮、穩ナラザリシカトモ」

せいりよ（名）【省慮】（一）カヘリミ、オモ

ンパカルコト。徐鉉詩「珍重居人、參省㆓思慮㆒」（二）安堵シテ、懸念ヲ省クコト。「午後事、御省慮被㆑下度」

せいりよう（名）【青龍】（一）アヲ色ノ龍。（二）しじん（四神）ノ條ヲ見ヨ。禮記、曲禮、上篇「左㆓青龍㆒、而右㆓白虎㆒」

せいりよく（名）【精力】精神ノ能力。根氣。氣根。漢書、匡衡傳「衡、好學、云云、尤精力過㆑絕人」「精力絕倫」「精力減退」

せいりよく（名）【勢力】〔權勢、威力ノ義〕イキホヒ。威勢。威力。漢書、仲長統傳「勢力侔㆓於守令㆒」勢力範圍トハ、繩張(ナハバリ)ノ意。

せいりよくはんゐ（名）【勢力範圍】前條ヲ見ヨ。

ぜいりん（名）【說林】〔索隱「廣說㆓諸事㆒、其多若㆑林、故、曰㆓說林㆒也」〕學者ノ諸說ヲ蒐集シタルヲ、林(ハヤシ)ニ喩ヘテ云フ語。韓非子「說林篇」「百家說林」

せいるゐ（名）【生類】しやうるゐ（生類）ニ同ジ。列子、說符篇「天地萬物、與㆑我並生類也」

せいるゐ（名）【世累】世ノ中ノ係累。白居易詩「野情遺㆓世累㆒」

せいるゐ（名）【聲淚】こゑト、なみだト。聲淚、俱ニ下ルトハ、泣キナガラ語ルヲ云フ。晉書、王彬傳「音辭慷慨、聲淚俱下」

せいれい（名）【政令】政府ノ命令(オホセ)。左傳、昭公廿三年「帥賤多寵、政令不㆑壹」

せいれい（名）【生靈】（一）民。人民。生民。晉書、慕容盛載記「生靈仰㆓其德㆒、四海歸㆓其仁㆒」（二）タマシヒ。最明寺殿百人上﨟（寬永、近松作）上「元來、武勇第一ノ梶原ガ、生靈、入リ替ハリタル其ノ驗」

せいれい（名）【清靈】キヨク、クシビナル氣。晉書、寒雪賦「含㆓二儀之和氣㆒、稟㆓乾坤之清靈㆒」

せいれい（名）【精靈】（一）スグレテ、クシビナル氣。易經、繋辭、疏「陰陽精靈之氣、氤氳積聚、而爲㆓萬物㆒也」（二）しやうりやう（精靈）ニ同ジ。謠曲、土蜘蛛「蜘蛛ノ精靈、千筋ノ絲ヲ操リタメテ」

せいれい（名）【聖靈】〔英語、Holy Spirit.ノ譯語〕耶蘇教ノ語、神ノ靈。天帝ノ靈。コレガ人ニ宿リテ、神意ヲ啓示シ、精神活動ノ鼓吹力トナルト云フ。

せいれい（名）【精勵】勝(スグ)レテ、勉勵ナルコト。力ヲ盡シテ、勤ムルコト。後漢書、朱浮傳「陛下精勵、遠近同㆑慕」「職務精勵」

せいれい（名）【清冷】（一）キヨク、ヒヤヤカナルコト。梁武帝、淨業賦「心清冷其若㆑水、志皎潔其如㆑雪」（二）キヨラカナルコト。王褒、洞簫賦「朗聲清冷、而謂㆓其側㆒兮」張協、七命篇「天清冷而無㆑霞、野曠朗而無㆑塵」

せいれい（名）【蜻蛉】アキツ。トンバウ。カゲロフ。青令

せいれき（名）【清歷】奇麗ニ列(ナラ)ブコト。左思、嬌女詩「小字爲㆓紈素㆒、口齒自清歷」

せいれき（名）【西曆】西洋諸國ニテ用ヰル曆。耶蘇基督ノ誕生ヲ紀元トスルモノ。（但シ、現在、用ヰラルル紀元ハ、實際ノ誕生ノ年トハ、四年、オクレ居レリト云フ）

せいれつ（名）【整列】揃ヒテ、列(ナラ)ブコト。左傳、哀公十三年「建㆑鼓整㆑列」「兵士ノ整列」

せいれつ（名）【成烈】成功シタル事業。書經、洛誥篇「予旦以㆓多子越(オヨビ)御事㆒、篤㆓前人成烈㆒、答㆓其師㆒」

せい-れつ (名) [清冽] キヨクシテ、極メテ、冷ヤカナルコト。柳宗元、至小丘西小石潭記「下見小潭、水尤清冽」

せい-れん (名) [清廉] 心潔クシテ、私欲ナキコト。所行ノ、潔白ナルコト。（多ク、金銭ノ上ニ云フ）廉潔 史記、樂書「正直清廉而謙者、宜歌風」「清廉潔白」

せい-れん (名) [清漣] キヨキ、サザナミ。清漪。謝靈運詩「白雲抱幽石、綠篠媚清漣」

せい-れん (名) [精錬] ヨク、ネリ鍛フルコト。又、其鍛ヘタル金。王褒、四子講德論「精鍊藏於鑛璞」

せい-れん (名) [精練] ヨク、練習スルコト。晉書、傅休奕傳「精練水事及田事」

ぜい-れん (名) [稅斂] 稅ヲ、斂ムルコト。租稅ヲ、取立ツルコト。管子、霸形篇「公輕其稅斂、則人不憂飢」

せい-ろ (名) [世路] ヨワタリ。渡リ行ク世ノ中ヲ、道ニ擬ヘテ云フ語。人世ノ航路。朗詠集、下「朝有紅顏誇世路、暮爲白骨朽郊原」

せい-ろ (名) [征路] タビヂ。旅ノ道。又、出征ノ道。征途。杜甫詩「向晚尋征路」太平記、十七、皇居被遷日吉事「臣、苟クモ、和光ノ御願ヲ憑ミテ日ヲ送リ、逆暴ヲ討ゼ事、日、巳ニ久シ、願クハ、征路萬里ノ末マデモ、擁護ノ御眸ヲ廻サレテ、再ビ、大軍ヲ起シ、朝敵ヲ亡スカヲ加ヘ給ヘ」

せい-ろう (名) [勢樓][井樓] 敵陣ヲ偵察セシムルタメ、適宜ノ場所ニ構フル櫓。ミセヤグラ。慶長記「大内、此ノ端ニ同ジツツ、聊テ、集、材木」云云、「寄手四十八箇所ニ一千七百」永享記「清方、持朝、千葉、土岐、等ガ陣ノ前ニハ、十余丈ノ井樓ヲ、二重三重ニ組ミ上ケタリ」常山紀談、三「信長、井樓ニ上リ、敵ヲ見渡シ、敵ハ今夜、必ス引退クベシ、先陣ノ者、急リソト、云云、下知セラル」

せい-ろう (名) [青樓] （一）顯貴ノ家。曹植、美女篇「青樓臨大路、高門結重關」（二）遊女屋。揚屋。妓樓。[illegible]「倡女不勝愁、結束下青樓」

セイ-ろう (名) [蒸籠] 「蒸、宋音、せい」正韻「蒸、音征」古クハ、コシキ。糯米、團子、饅頭ナドヲ蒸ス器、木製ニシテ、形、方、或ハ、圓ナリ、底ヲ簀トシ、湯氣ヲ透シテ蒸ス。蒸桶 夕霧阿波鳴渡（正德、近松作）上「米蒸籠ノ湯氣ノ大若」

セイろう-ぶね (名) [蒸籠船][栖樓船] 荷船ノ上ニ、材木ヲ、蒸籠ノ狀ニ組ミ上ゲテ、其中ヨリ、敵軍ヲ窺ヒ、又ハ、矢玉ヲ放ツ、軍船ノ一種。諸島家傳、三「栖樓船トテ、舟ニ、井樓組ミタルハ、利、少シ、故ニ、當流ニハ、物見せいろうトテ、艫ノ間ニ、左右ノ垣立ニ、柱ヲ堅メ、綱ニテ釣リ、棲樓ニスル也」

せい-ろく (名) [世祿] 世襲ノ家祿。書經、畢命「世祿之家、鮮克由禮」

ぜい-ろく (名) [贅六] 「關東人ガ、上方ノ人ヲ嘲ル語」又、ぜえろく。ざいろく（才六）ニ同ジ。

せい-ろん (名) [政論] 政事上ニ關スル議論。政談。後漢書、崔寔傳「[illegible]名曰政論」

せい-わ (名) [清和] 春ノ氣候ナドノ、寒暖、中ニ適ヘルコト。歲時記「四月[illegible]清和」

せいわう-ぼ (名) [西王母] （一）西域ノ地名。[illegible]（二）大陸ノ[illegible]、云云、[illegible]西王母者、[illegible]（三）仙女ニシテ、漢武帝ニ見エタルコトアリト云フモノ。（漢武故事、列女傳）[illegible]

せいわ-げんじ (名) [清和源氏] [illegible]氏ナドニ對シテ云フ。清和天皇ノ皇子、皇孫ノ、[illegible]姓ヲ賜ハリシモノ。[illegible]皇子貞純親王ノ王子經基、源ノ姓ヲ賜ハリ、世ニ、六孫王ト稱ス、此後胤、最モ蕃ク延蔓セリ。[illegible]

せい-ゐ (名) [聖威] 天子ノ御威光

せい-ゐ (名) [勢威] 權勢ト、威力ト。又、イキホヒ。威光。威勢。

せい-ゐ (名) [勢位] 權勢アル地位。[illegible]

せい-ゐ (名) [青闈] せいぐう（東宮）ノ異名。[illegible]

せい-ゐき (名) [聖域] 聖人ノ境地。[illegible]

せい-ゐき (名) [西域] せいいき（西域）ニ同ジ。[illegible]

せい-ゐん (名) [正員] [illegible]

人員。又、其人。[illegible]

せい-ゑん (名) [illegible]

せい-ゑい-せう [illegible]

[illegible]

せい-ゑん (名) [illegible]

せい-ゑん (名) [illegible]

スルコト。シリオシ。助勢。任昉、奏彈曹景宗「…後、…賓援、…則單于之首、久懸北闕…」

せう（名）〔小〕（一）チヒサキコト。大ノ反。孟子、盡心上「…上…以小易大」中庸、第十二章「語小、天下莫能破焉」半治物語、一、信頼卿信西を滅さるゝ謀の事「合戰ハ勢ニハ因ラズ、謀ヲ以テスト云ヘトモ、小ヲ以テ大ニ敵セズトモ申セバ」「大ノ蟲、小ノ蟲」（二）一箇月ノ日數ノ、陰曆ニテ二十九日、陽曆ニテ三十日、又ハ、二十八日ナルノ稱。（大小ノ條ヲ見ヨ）顏氏家訓、風操篇「偵伏臘分至之節、及月小晦」（三）脇差ノ一稱。（大小ノ條ヲ見ヨ）

せう（名）〔兄鷹〕（雄鷹ヲおほたかト訓ミテ、大ニ當テ、雄鷹ヲせうたかト訓ミテ、小ニ當テテ、弟鷹ト、兄鷹トニ分チタルナリ。鶴ヲ雌、兄鶴ヲ雄トナスト、同趣）鷹ノ雄ノ稱、（鷹ノ條ヲ見ヨ）倭名抄、十八、羽族名「鷹、大曰鷹、小曰兄鷹」…源、三十八、夕霧「宜シウナリヌル男ノ、カク紛フ方ナク、一ツ所ヲ護ラヘテ、物オヂシタル鳥ノ、せうヤウノ物ノヤウナルハ、イカニ、人笑フラン」

せう（名）〔少輔〕（字ノ音、せうふノ讀轉）諸省ノ次官、大輔ニ次グ。訛シテ、せう、せういう。源、五十、浮舟「…殿ノ御隨身、彼少輔ガ家ニテ、時時見ル男ナレバ」

せう（名）〔抄〕枡目ノ名、才ノ條ヲ見ヨ。

せう（名）〔抄〕〔鈔〕（一）ヌキガキ。（二）雜義ヲ鈔出シテ、註釋スルニト。又、書キ寫スコト。…「…之日、亦謂之抄」（三）歌集、漢籍ナドノ、註釋ノ書。「八代集抄」「…子抄」「…抄」「遊仙窟鈔」

せう（名）〔鈔〕金札、銀札、錢札ナドノ紙幣ノ稱。正字通「楮、貨名、宋史、紹興二十四年、文重以銅少、循宋交子法造鈔引、一貫二貫三貫五貫十貫五等、謂之大鈔、一百二百三百五百七百五等、謂之小鈔、與錢兼用、以七年爲限」

せう（名）〔簫〕樂器ノ名、竹ヲ編ミ列ネテ、吹ク、大イナルハ一列ニ並ベテ二十三管、丈一尺四寸、小ナルハ十六管、丈一尺二寸、管ノ長キハ、音、濁リ、短キハ、清ム。鳳ノ翼ニ象リ作レルモノト云フ。セウノフエ。隋書、音樂志「簫十六管、長二尺、…所造者也」倭名抄、四「音樂具「簫、世字乃布江」字鏡「簫、世乎乃不江」

ぜう（名）〔尉〕（老翁ヲ、尉ト稱ス、尉ノ字ヲ、ぜうト訓ムハ、判官ニ起ル、因リテ拗音ノぜうガ、直音ぞうトナリ、轉ジテ、ぜうトナリシナラム。尉ト老翁トノ關係ニツキテハ、南留別志、及、安齋隨筆ニ、老翁ハ丈ニテ、尉ノ字ヲ充ツルハ不可ナリト云ヒ、南留別志之辯ニハ、老翁ガぢいトナリ、更ニ横訛リテ、ぜうトナレルニテ、尉ノ字ヲ借リ用ヰルモ妨ナシト云ヘリ）ぜう（尉）ノ（一）ニ同ジ。

せうあん（名）〔少安〕せうかう（小康）ニ同ジ。左傳、昭公四年「晉君少安、不在諸侯」

せうい（名）〔小異〕スコシク、コトナルコト。北齊書、文襄帝紀「横變雖差、寒暑小異」中庸章句、第十九章、注「此與論語文意大同小異」

せうい（名）〔宵衣〕（一）（宵ハ、綃ニ通ズ、素綃ナリ）すぎぬニテ作リタル白キ禮服。儀禮、士昏禮「纚笄宵衣」（二）（宵ハ、未明ノ義）朝早ク起キテ、衣服ヲ着ルコト。「宵衣旰食」

せういう（名）〔少輔〕（大輔ヨリ、混訛ス）せう（少輔）ニ同ジ。

せういう（名）〔消憂〕ウサハラシ。憂ノ心ヲ、散ラスコト。氣バラシ。遣悶。陶潛、歸去來辭「樂琴書以消憂」陸龜蒙詩「遺名復避世、銷夏復銷憂」（銷ハ、消ニ通ズ）

せういう（名）〔招誘〕マネキ、イザナフコト。後漢書、劉表傳「表招誘有方、威懷兼治」

せういかんしよく（句）〔宵衣旰食〕（旰食ノ條ヲ見ヨ）朝ハ早ク起キテ衣ヲ着、夕ハ旰ク食事ニ就キタマフコト、天子ノ、政治ニ勉勵セサセタマフコトニ云フ。略シテ、宵旰。唐書、劉蕡傳、任賢惕厲、宵衣旰食、… 退朝、…宗之鴻緒」

せういふ（名）〔宵熠〕（康熙字典、熠「說文、盛光也、云云、廣韻、熠燿、螢火」）螢ノ異名。宵行。宵燭。熠燿。范成大詩「濕生同蠐螬、腐化類宵熠」

せういふ（名）〔小邑〕コムラ。小サキ村邑。鄕曲。大邑ニ對ス。穀梁傳、襄公二十五年「古者、大國過小邑、小邑必飾城而請罪、禮也」

せういふ（名）〔小揖〕敬禮ノ一法式。腰ヲ折ルノミニテ、俛伏セザルコト。深揖ナドニ對ス。侍中群要、二、奏吉書事「左手ニ文ヲ取リ、右手ニ文夾ヲ取天小揖、退出時、取加右手天罷出」

せういん（名）〔小引〕（いん（引）ノ條ヲ見ヨ）短キはしがき。コトバガキ。小序。

せういん（名）〔小飲〕せうえん（小宴）ニ同ジ。李白詩「高陽小飲眞瑣瑣」

せうえい（名）〔照映〕テラシ、ウツスコト。テリ、ウツルコト。晉書、食貨志「馬若三…照、映…光…」

せうえう（名）〔逍遙〕（說文「逍遙、猶翺翔也」）（一）彼方此方ニ、遊ビ步クコト。ブラブラアルキ。ソゾロアルキ。散步。徜徉。消搖。詩經、鄭風、清人篇「二矛重喬、河上乎逍遙」莊子、逍遙遊篇　宇津保物語、吹上、上「イトヲカシキ事カナ、イカメシキせうえうナドスル、故アル業ナリカシ」源、十四、澪標「所所ニせうえうヲ盡シ給フ」「川逍遙」「舟逍遙」（二）優遊自適ノ意ニ云フ。仲長統、樂志論「逍遙一世之上、睥睨天地之閒」

せうえん（名）〔小宴〕小人數ノ酒宴。小酌。小飲。白居易詩「西樓小宴時」「小宴ヲ張ル」

せうえん（名）〔招延〕人ヲ、招キ入ルルコト。漢書、梁孝王傳「招延四方豪傑」

せうえん（名）〔硝烟〕火藥ノ、發火ニヨリテ起ルケムリ。硝煙。「硝烟彈雨」

せうおう（名）〔照應〕彼レ此レト、相、對シテ、相、應ズルコト。（多クハ、文章ニ云フ語）「首尾、照應ス」

せうか（名）〔消夏〕〔銷夏〕夏ノ暑サヲ、去ルコト、暑氣ヲ拂フコト、暑サシノギ、銷暑。陸龜蒙詩「遺名復避世、銷夏復銷憂」

せうか（名）〔樵歌〕キコリノウタ。蘇叔倫詩「樵歌野田中、漁釣滄江濤」謠曲、項羽「昔八月ノ御客、ウチ閑ミ、今ハ樵歌野田ノ月、夜深シ、古松下ノ陰」「樵歌牧笛」

せうか（名）〔小暇〕少シノキズ。微瑕。晉書、嵆紹傳「勿以小瑕、棄妨大善」

せうが（名）〔小我〕（大我ニ對ス）佛教ノ語、差別界ノ自我。個人ノ我ノ稱。

せうが（ショウガ）(名) しやうが(生薑)ニ同ジ、或説ニ、蘘荷ハ、女か、生荷ハ、夫かニテ、雌雄ニ比シ、ソレヲ延ベテ、めうが、せうがトイフト。

せうかい（ショウカイ）(名) [紹介] 〔紹ハ取リ繼グ意、介ハ仲介ナリ〕史記、魯仲連傳、索隱「紹介猶二媒介一也、且禮、賓至必因二介傳一辭、紹者繼也、介不二一人一故禮云、介、紹而傳レ命」〕 媒シテ、引キアハスルコト。トリモチ。トリツギ。ハシワタシ。ヒキアハセ。クチイレ。 戰國策、趙策「東國有二魯連先生一其人在レ此、勝請爲二紹介一而見二之於將軍一」

せうがい（ショウガイ）(名) [少艾] 〔孟子、趙注「少、年少也、艾、美好也」〕 若ク、ミメヨキ女。 孟子、萬章、上篇「知レ好レ色、則慕二少艾一」

せうかう（ショウコウ）(名) [小康] 世ノ、少シク太平ナルコト。又、スコシ、安ラカナルコト。少安。 禮記、禮運篇「此六君子者〈禹、湯、文、武、成王、周公ノ六君子ヲイフ〉未レ有二不レ謹二於禮一者上也、以著二其義一以考二其信一著レ有レ過、刑レ仁講レ讓、示二民有一レ常、如有下不レ由レ此者上在レ勢者去、衆以爲レ殃、是謂二小康一」「病、小康ヲ得」

せうかう（ショウコウ）(名) [少皞] 支那ニテ、秋季ヲ司ル神ノ名。 禮記、月令篇、孟秋之月、日在レ翼、云云、其日庚辛、其帝少皞」

せうかう（ショウコウ）(名) [燒香] 〔大日經、疏「燒香、是遍至二法界一義、云云、隨二悲願力一自在而轉、普熏二一切一故曰二燒香一」〕 (一)香ヲ燒クコト。燃香 焚香 (二)香ヲ燒キテ、佛ニ手向クルコト。上香 進香 晉書、[illegible] 太平記、八、主上自令レ修二金輪法一給事「今日ハ、佛生日トテ、心アルモ、心ナキモ、灌佛ノ水ニ心ヲ澄シ、[illegible] 花、燒香ニ經ヲ讀シテ、[illegible]、佛事ヲ事トスル者ナルニ」 信長記、文明三年正月三日「今日御幸[illegible] 園天皇)消定、云云、[illegible]、文明九年尼衆[illegible]、[illegible] 音、次人人燒香、[illegible] 出」

せうかう（ショウコウ）(名) [照校] (一)照合シテ、校正スルコト。校對。 (二)電報ノ用語、照校電報ナルコトヲ指定スルモノ。其略符號ニ、和文ニハ「ムニ」歐文ニハ TC ヲ以テス。

せうかう（ショウコウ）(名) [消耗] 〔耗ハ、虛到切、かうナリ、博雅ニ「減也」正韻ニ「虛也」トアリ、又、虛耗ノ語モアリ、まうハ、誤讀〕 消エ、耗ルコト。費エテ、無クナルコト。又、費ヤシ、減ラスコト。 [illegible]詩「聖人事業[illegible]消耗、[illegible]有[illegible]存[illegible]」「消耗品」

せうかうじしや（ショウコウジシャ）(名) [燒香侍者] 禪宗ノ僧ノ役、導師ノ燒香ノ時、香合ヲ持ツモノ。 [illegible]制、[illegible]正宗、十一月十三日、燒香侍者、書狀侍者、請客侍者、湯藥侍者、衣鉢侍者、已上、謂首リ也」 [illegible]集、上、諸宗、燒香侍者」 凡禪宗「上方侍者者、燒香侍者」 相國寺供[illegible]記 導師人ニ堂、侍者五人、燒香侍者(周[illegible])、書狀侍者(文[illegible])、請客侍者([illegible])、湯藥侍者(道[illegible]侍者)、衣鉢侍者(志敬藏主)、禪客一人、同相從」

せうかうでんぱう（ショウコウ・デンポウ）(名) [照校電報] 特別電報ノ一種。發信人ガ、電報中ノ文句ノ誤謬ヲ防ガムガ爲ニ、其電報ノ照校ヲ求ムルモノ。

せうかうひん（ショウコウ・ヒン）(名) [消耗品] 使用スルニ隨ヒ、消耗スル物品ニ[illegible]、紙、[illegible]等ノ類テ、常備品ニ對ス。

せうかうり（ショウ・コウリ）(名) [小行李] 大行李ニ對[illegible] ス」 軍隊ノ、戰鬪中ニ必要ナル軍需品、[illegible]

せうかく（ショウカク）(名) [小角] 〔說文「角、長五尺、形如二竹筒一、本細末大」〕 [illegible] はらのふえ(大角)ノ條ヲ見ヨ。

せうがく（ショウガク）(名) [小樂] (一)人數ノ少ナキ奏樂ノ稱。(大樂ニ對ス) (二)小曲ニ同ジ。 歌舞品目、五、上、[illegible]小樂、[illegible]、小曲[illegible]ヲ、小樂トイフハ、[illegible]リヅツナドアルベケレドモ、琴瑟ナドノ上調ニテモ無シトアリ」

せうがく（ショウガク）(名) [小學] (一)兒童ニ敎フル、學藝ノ科。 (二)小學校 [illegible] 「小學在二公宮南之左一、大學在レ郊」 [illegible] 昔、八歲入二小學一、[illegible]保氏、[illegible]國子、敎二之六書一」 (三)支那ニテ、文字ノ學。字學。〔モト、小學校ニテ、文字ノ[illegible]ドヲ敎ヘシ故ニ云フ〕 [illegible]錄、二「漢時、[illegible] 文字學[illegible] 小學[illegible] 其正[illegible] 此書[illegible] 校[illegible]、字[illegible]、[illegible]也、云云、[illegible] 光圖[illegible]小學[illegible]」 [illegible] 「小學」

せうがくかう（ショウガッ・コウ）(名) [小學校] 兒童ニ、小學ノ學科ヲ敎フル學校。中學校、大學校ナドニ對ス。

せうかち（ショウ・カチ）(名) [消渴][痟瘍] 〔モト、症狀ヲ消渴ト云ヒ、[illegible] 痟瘍トナル。脊令ガ鵲鴒トナレル類ナリ。然レドモ、痟ハ頭痛、瘍ハ[illegible]〕 [illegible] 糖尿病。 史記、司馬相如傳「相如口吃、而善著書、[illegible]」 [illegible] トイフハ、淋トハ[illegible]、[illegible] (三)婦人ノ[illegible]病ヲ、[illegible]ル語。痲苛性尿道加答兒。 [illegible]

せうがひげ（ジヤウガ・ヒゲ）(名) [麥門冬] 〔樹(根鬚)ノ義ナラム。樹ノ條ヲ見ヨ〕 ばくもんどう(麥門冬)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

せうが[illegible] [illegible] アラシ、ブハスル [illegible]

せうかん（ショウ・カン）[illegible] 小[illegible] [illegible]

せうかん（ショウカン）(名) [小閒小閑] スコシノひま。寸暇。 禮記、曲禮、上篇、[illegible] 所[illegible]小閒[illegible]小閑ノ間ノ、寸隙ノ[illegible]」

せうかん (名) [宵旰] せういかんしよく(宵旰食)ノ略、其條ヲ見ヨ。 [illegible]

せうかん [illegible]

せうかん [illegible] 同ジ。 宋史記、[illegible]

せうかん [illegible]

せう[illegible] [illegible]

せうき（ショウキ）（名）［沼氣］〔英語、Marsh gas.ノ譯語〕めたん﹅ニ同ジ

せうき（ショウキ）（名）［笑氣］〔英語、Laughing gas.ノ譯語、此氣ヲ吸入スレバ、痲醉シテ笑ヲ催サシムルヨリ、名トス〕化學ノ語、あさんくっちっそ（亞酸化窒素）ノ異稱。無色ニシテ甘味ヲ有スル氣體。一名、一二酸化窒素。

せうぎん（ショウギン）（名）［嘯吟］（一）ウソブキ、唄フコト。吟嘯。（二）嘆息シテ聲ヲ出スコト。長歎。淮南子、覽冥訓「西姥折﹅勝、黃神嘯﹅吟」（註）西姥ハ、西王母ナリ〕

せうきもの（ショウキモノ）（名）［小氣者］氣ノ、小サキ人。膽ノ、小ナルモノ。世間手代氣質（享保、甚積、サリトハせうきもの、纔カ二三百兩ナドデ、命ノ痛テウトハ」

せうきゃう（ショウキョウ）（名）［小經］阿彌陀經ノ一稱。（無量壽經ヲ、大經ト云フニ對ス）回國雜記、文明、道興准后「大石信濃守、父ノ三十三回忌トテ、云云、小經ヲ花ノ枝ニ附ケテ、贈リ侍トテ」

せうきゃく（ショウキャク）（名）［消却］（一）消スコト。費スコト。論衡（漢、王充）「災害累﹅至﹅上天﹅、賢名不﹅能﹅消卻﹅」（卻ハ、却ノ正字）（二）濟マスコト。返却。（借財ナド）「負債ヲ消卻ス」

せうきょ（ショウキョ）（名）［少許］スコシバカリ。陶淵詩、傾﹅身營﹅一飽﹅、少許便有﹅餘」「少許ノ貯蓄」

せうぎょ（ショウギョ）（名）［椒魚］ハジカミウヲ。サンセウウヲ。鯢魚。昆略、前編、十三、延暦十六年八月「椒魚」

せうぎょ（ショウギョ）（名）［樵漁］きこりト、れふしト。又、きこるト、すなどるト。蘇軾詩「搜﹅士及﹅樵漁﹅」

せうきょく（ショウキョク）（名）［小曲］短キ歌曲、小樂。樂家錄、十三「小曲、延早四拍子、共稱﹅小曲﹅也」

せうきょく（ショウキョク）（名）［消極］せききょく（積極）ノ條ヲ見ヨ。

せうきょくしゅぎ（ショウキョクシュギ）（名）［消極主義］せききょくしゅぎ（積極主義）ノ條ヲ見ヨ。

せうきょくてき（ショウキョクテキ）（副）［消極的］せききょくてき（積極的）ノ條ヲ見ヨ。

せうくゎ（ショウカ）（名）［消化］（一）物ヲ消シテ、變化セシムルコト。續明道雜志（宋、張耒）「衆疾至、用﹅藥消化﹅」（二）胃ノ中ノ物ノ、コナルコト。又、コナスコト。（三）見聞シタル事柄ヲ、玩味シテ、自己ノ知識トナスコト。「外國文明ヲ消化ス」

せうくゎい（ショウカイ）（名）［照會］（一）官ノ書類。公文書。宋史、河渠志「乞﹅取﹅索照會﹅」（二）トヒアハセ。カケアヒ。ウチアハセ。下相談。

せうくゎう（ショウコウ）（名）［韶光］ウララカナル日光。溫庭筠詩「韶光染﹅色如﹅蛾翠﹅」

せうくゎう（ショウコウ）（名）［消光］日ヲ、暮ラスコト。消日。「無事、消光罷在候」

せうくゎき（ショウカキ）（名）［消化器］動物體内ノ、食物消化ノ作用ヲ營ム器官。高等動物ニ在リテハ、口腔、咽頭、食道、胃、小腸、及、大腸、ナド、コレナリ。

せうくゎき（ショウカキ）（名）［消火器］火災ヲ消スニ用ヰル器具。

せうくゎせん（ショウカセン）（名）［消火栓］水道ノ鐵管ニ取附ケタル給水栓　コレヲ開キテ、送水管ヲ插入ルルトキハ、水、迸リテ、火災ヲ消ス用ヲナス。

せうくゎん（ショウカン）（名）［召喚］官ヨリ、人ヲ呼ビ出スコト。官ヨリ、私人ヲ、一定ノ場所ニ出頭セシムルコト。ヨビダシ。叫來。「證人ヲ召喚ス」

せうくゎん（ショウカン）（名）［召還］メシ、カヘスコト。呼ビモドスコト。「在外公使ヲ召還ス」

せうくゎん（ショウカン）（名）［小官］位ノ卑キ官吏。大官ニ對ス。孟子、公孫丑、上篇「柳下惠、不﹅羞﹅汚君﹅、不﹅卑﹅小官﹅」

せうくゎん（ショウカン）（代）［小官］官吏ノ、卑下シテ用ヰル、自稱代名詞。

せうけい（ショウケイ）（名）［小徑］［小逕］〔說文「徑、步道也」集韻「逕、步道也」步道トハ、車ヲ容レザル通路ナリ、故ニ小路ノ義トナル〕コミチ。王勃詩「小徑宜﹅草、空庭不﹅厭﹅花」

せうけい（ショウケイ）（名）［小計］一部分ノ合計。（總計ナドニ對ス）周禮、天官篇、小宰、注「主﹅每月之小計﹅」

せうけい（ショウケイ）（名）［小慧］コザカシキコト。論語、衞靈公篇「群居終日、言不﹅及﹅義、好行﹅小慧﹅、難矣哉」

せうけい（ショウケイ）（名）［少憩］コヤスミ。暫ク、休ムコト。スコシノ休息。王惲詩「華紋爍炎輝、側﹅聽能少憩」

せうげき（ショウゲキ）（名）［小隙］スコシノヒマ。少シノ閒。關尹子、九藥篇「勿﹅輕﹅小事﹅、小隙沈﹅舟」

せうけん（ショウケン）（名）［召見］ヨビ寄セテ、面會スルコト。引見。史記、淮南衡山傳「見﹅其弟子上書﹅召之、幸﹅得﹅召見﹅」

せうけん（ショウケン）（名）［消遣］憂鬱ヲ、散ズルコト。氣バラシ。消憂。遣悶。王禹偁、竹樓記「焚﹅香默坐、消﹅遣世慮﹅」

せうこ（ショウコ）（名）［小戶］下戶。せうご（上戶）ノ條ヲ見ヨ。杜荀鶴詩「若要無﹅小戶﹅、滿﹅引杯﹅」

せうこ（ショウコ）（名）［小姑］コジウトメ。夫ノ姉、又ハ、妹。王建、新嫁娘詩「未﹅諳﹅姑食性﹅、先遣﹅小姑嘗﹅」

せうこ（ショウコ）（名）［小故］小サキ事故。後漢書、荀淑傳「任﹅恩忘之實﹅、掲﹅信小故﹅、以隳﹅大典﹅」

せうこ（ショウコ）（名）［召呼］マネキ、ヨブコト。周禮、天官篇、宰府、注「徵令、趨走給﹅召呼﹅」

せうご（ショウゴ）（名）［笑語］（一）笑ヒツツ、談話スルコト。談笑。禮記、祭義篇「齋之日、思﹅其居處﹅、思﹅其笑語﹅」（二）ワラヒバナシ。オモシロキ話。

せうこうけいはう（ショウコウケイホウ）（名）［小口徑砲］〔大口徑砲ニ對ス〕口徑ノ小ナル大砲。

せうこうしゅ（ショウコウシュ）（名）［紹興酒］〔紹興ノ支那音ハ、しゃおしん〕支那產ノ一種ノ酒。浙江省、紹興縣ニ產ジ、あるこおる分、少ナク、酸味アリ、紅色ヲ呈ス、醉心地、佳ナリト云フ。

せうこく（ショウコク）（名）［小國］〔大國ニ對ス〕土地狹ク、人民少ナキ國。小邦。老子、第六十一章「大國以下﹅小國﹅、則取﹅小國﹅」平治物語、一、信西子息闕官事「信西ヲ滅シ、世モ靜リテコソ、大國モ小國モ、官加階ヲ進侍ラメ、見エタル事モナキニ、兼ネテナリテ、何カセン」

せうこくホ (名) [少國師] 王朝時代ノ僧職、大國師ノ次位ノモノ。[illegible]三十七、延曆二年十月「自今以後、依二承前例一大上國、各任二大國師一人、少國師一人二」

せうこくばホら (名) [小黑柱] 大黑柱ニ次グ柱ノ稱。(奈良地方ノ工匠ノ語)[illegible]初編、三「民家ヲ建ルニ、大黑柱ト云物有、云云、今、和州ノ工匠ノ中ニ、大黑柱ニ次モノヲ、小黑柱ト云ヘルハ、一向、笑フニ堪タリ」

せうホとな・し キ・ケレ・ク・ク(形、二) 〔せうハ、爲むノ音便〕 爲べキ手段ナシ。セムスベナシ。シカタナシ。已ムヲ得ズ。浮世風呂(文化、三馬)三編、下「此ノ中モ、アンマリ夜遊ビニ出ルカラ、異見シタラ、せうホとなしニ、夜鍋ヲシテ居ル」

せうホとね・え (形) 前條ノ語ノ口語。東海道中膝栗毛(文化、一九)五編、上「せうホとねえト、不承不承ニ、錢ヲ拂フ」

せうこふ (名) [小劫] 佛經ノ語、人ノ命數ノ、八萬歲ヨリ、百年毎ニ一歲ヅツ減ジテ、十歲ニ至ルマデノ間、又ハ、十歲ヨリ、百年毎ニ一歲ヅツ增シテ、八萬歲ニ至ル、其增減ノ間ノ稱。[illegible]上、五「人ノ命ノ八万歲アリシガ、百年ト云フニ、一年ノ命ノ、ツヅマリツヅマリシテ、十歲ニナルヲ、一ノ小劫トハ申スナリ、サテ又、十歲ヨリ、又、百年ニ一年ノ命ヲ添ヘテ、八万歲ニナリヌ、コレヲモ一ノ小劫ト申」

せうこん (名) [銷魂][消魂] 〔康熙字典「銷、又通作ノ消二」〕 元氣ヲ、失フコト。[illegible]ガ、メイルコト。憂ヘニ沈ムコト。江淹、別賦、「黯然銷魂者、唯別而已矣」[illegible]

せうこん (名) [招魂] (一)タマヨバヒ。死者ノ靈ヲ、招キ祀ルコト。史記、屈原傳、[illegible]「死者ノ魂魄[illegible]」[illegible]ヲ招復ス」 (二)招魂。タマシヅメ。佛法ニ、死者ノ魂ヲ招キ還ス方法。徒然草、二百十段、「[illegible]ノ中ニ、呼子鳥鳴ク時、招魂ノ法ヲバ行フ次第アリ」日中行事(後醍醐天皇)「日毎ノせうこんノ御マツリ、今ハ定マレル事也」 (三)陰陽家ニテ、別ニ、招魂祭トテスル法。[illegible]集、外典、陰陽道、招魂祭」[illegible]二日、於二内膳二被レ行二招魂祭一[illegible]奉レ仕之二

せうこん・さい (名) [招魂祭] 死者ノ靈魂ヲ招キ祀ル祭典。「靖國神社ノ招魂祭」

せうこん・ホや (名) [招魂社] やすくにホ人ホや(靖國神社)ノ條ヲ見ヨ。

せうこん・まつり (名) [招魂祭] 前前條ノ語ニ同ジ。[illegible]、死スル時、魂、散ズ、故ニ、魂ヲ[illegible]シモトツクル祭ナリ」日中行事(後醍醐天皇)「日毎ノせうこんの御まつり、今ハ定マレル事也、日[illegible]テ、御[illegible]出シテ、[illegible]ヲシテ、陰陽師ガ[illegible]ニ[illegible]ハス」

せうさ (名) [少佐] 陸海軍ノ武官、中佐ノ下、大尉ノ上ナリ。

せうさ (名) [照査] 照合ハセテ、檢查ブルコト。查照。

せうさい (名) [小才][小材] コザイ。スクナキ才能。[illegible]小材[illegible]日、不[illegible]於小官二

せうさい (名) [小妻] ヲンナメ。メカケ。テカケ。妾。[illegible]子[illegible]小妻二

せうさい (名) [小[illegible]] 雙六ノ語、ザヒサキ目。又、ぢゃうさいトモ云フ。[illegible]廿六、[illegible]若人ノアルト、雙六打チ給ヒ、手ヲイト切ニ押揉ミテ、せうさい、せうさいトイフ聲ゾ、[illegible]アナウタテト思シテ」[illegible]ニハ、雙六ノ、ドウドウト振リ鳴ラシ、ぢゃうさいト好ミ、穴一ノ、アナ賤シキ聲タテテ、我レ一ト論リ」(穴一ハ、賽ノ目ナリ)

せうさう (名) [少壯] トシワカ。二十歲前後ノ稱。[illegible]少壯幾時[illegible]何二」[illegible]少壯不[illegible]力[illegible]「少壯有爲ノ士」

せうさう (名) [悄愴] (一)[illegible]ト。寂寥。[illegible]上[illegible] (二)悲シミ、イタムコト。[illegible]千里[illegible]

せうざう (名) [肖像] 畫像ナドニ、其人ノ容貌ニ肖セテ、寫シタルモノ。ニガホ。ニガホエ。エスガタ。影像。王[illegible]

せうさく (名) [小策] (一)些細ナル、ハカリゴト。小細工ノ策。小刀細工。[illegible]臣、小策ヲ弄ス」 (二)小サキ、ムチ。[illegible]「[illegible]小策[illegible]」

せうさく (名) [[illegible]] [illegible]

せうさつ (名) [照察] アキラカニ、察シ知ルコト。[illegible]ヲ結ビナンドシテ」

せうさつ (名) [笑殺] (殺ハ、語勢ヲ強ムル[illegible])甚シク、笑フコト。[illegible]

せうさつ (名) [[illegible]] [illegible]吹ク聲ノ狀ヲ云フ語。[illegible]

せうさん (名) [小[illegible]] [illegible]

せうさん (名) [小[illegible]] 〔上堂ヲ、大參ト稱スルニ對ス〕禪家ニテ、臨時ニ、大衆ヲ集メ、[illegible]公案ヲ工夫シ、心頭未穩處アルヲ以テ、小[illegible]、[illegible]ルコト。諸宗階級[illegible]

せうさん (名) [[illegible]] [illegible]コト。[illegible]

せうさん (名) [硝酸] [illegible]

せうさんゑん (名) [[illegible]] [illegible]作用セシメテ[illegible]

素原子ヲ、金屬原子ニ置キ換ヘタル化合物。

せうさんぎん（名）［硝酸銀］銀ヲ、硝酸ニ溶シタルモノ。無色、板狀ノ結晶ニシテ、藥用トシ、又、寫眞術ナドニ用ヰル。

せうし（名）［笑止］〔笑ひモ止まる意カト云フ〕（一）他人ノ、人笑トナレルヲ、氣ノ毒ニ思フコト。カタハラ痛キコト。東海道名所記、高治三「何ハ知ラズ、道ノ邊ニ食ヒツキケレバ、打仆レ、伏轉ブヲ、見人、笑止ガリテ、犬ヲバ喚ビトリ、藪ノ內ヘ追ヒコムル」（言人ノ、犬ニ喰マレタルナリ）明良洪範、六、雲居相傳「吉野ガ原ニテ、強盜ニ遇フ所、各ノ難儀ハ、笑止ニコソトテ、云云、金、取出シ、云云、相渡シ」「笑止千萬」「笑止ノ至リ」（二）我ガ身ノ上ニ、氣ノ毒ナルコト。俗ニ、おまったおとナド云フ意。謡曲、熊野「アラ笑止ヤ、此御文ノ樣モ、賴ミ少ナウ見エテ候」同、鉢木「アラ笑止ヤ、又雪ノ降リ來リテ候」

せうし（名）［小子］（一）長者ヨリ、目下ノ者ヲ呼ブ稱。門人。論語、泰伯篇「而今而後、吾知レ免夫小子」同、公冶長篇「吾黨之小子、狂簡、斐然成章」（二）自分ヲ云フ謙稱。書經、泰誓篇「予小子、夙夜祗懼」（三）大寶令ノ制定ニテ、三歳以上、十六歳以下ノ者ノ稱。東大寺正倉院文書、廿二、美濃國太寶二年戶籍「下下戶主小篇呂、年卅六、正丁、嫡子、小山、年四、小子、云云、寄人、春部馬呂、年卅五、正丁、嫡子、德、年十五、小子、云云、下下戶主古枝、年廿八、正丁、云云、戶主、同黨、山代意伎奈、年十四、小子」

せうし（名）［小史］（一）簡單ナル歷史。（二）書キ役。書記。周禮、春官篇「小史、掌二邦國之志一、奠二繫世一、辨二昭穆一」（三）神祇官、及、太政官ノ屬官。大史ノ下ニテ、左右ニ分カレ、記錄ヲ司ルモノ。少史。少主典。セウサクヮン。スナサクヮン。

せうし（名）［小使］コヅカヒ。唐書、宦者傳「諸小使、開狀」

せうし（名）［少子］最モ弱年ノ子。末子。戰國策、趙策「丈夫亦愛二憐其少子一乎」

せうし（名）［少師］（一）支那ニテ、三公ニ次グ職。書經、周官篇「少師、少傅、少保、曰二三孤一」（二）明治五年頃ノ、海軍ノ職員。

せうし（名）［詔使］詔書ヲ以テ、使者ヲ定メ、コレヲ朝廷ヨリ差遣スルヲ、詔使ト云ヒ、太政官ヨリスルヲ、官使ト云フ、コレヲ總稱シテ、朝使ト云ヒ、亦、汎ク、勅使トモ云ヘリ。蓋シ、詔使ト云ヒ、勅使ト云フモ、同ジク、綸言ヲ奉ジテ、出デテ、中外ニ使スル者ノ稱ナレドモ、其奉ズル所ノ事ニ就キテ、大小、廣狹、ノ別アルガ如シ。故ニ、詔使ト云ヘバ、專ラ、政治上ノ事ニノミ關スル使ナレドモ、勅使ハ、必シモ然ラズ、宮中、日常ノ瑣事、主上、御一身ノ內事ニ至ル迄、凡ソ、上旨ヲ奉ジテ使スルモノ、皆、コレヲ勅使ト稱シタリ。又、詔使ト、官使トノ別ハ、元ト、確然タル區別ハアリシニハアラジ、然ルニ、淳和天皇ノ天長二年、使級ヲ定メテ、巡察、覆囚、檢稅、交替、畿內校班田、問民苦、問民訴、等ノ使ヲ、詔使ノ例ニ準ジ、賑給、檢損田、檢池溝、檢疫死、等ノ使ヲ、官使ト爲シタリ。詔使、官使ヲ諸國ニ遣ハスニハ、太政官、先ヅ、其狀ヲ奏聞シ、大事ハ、勅ヲ奉ジテ名ヲ定メ、中事ハ、大臣、簡奏シ、小事ハ、辨官ヲシテ、式部ニ令シテ簡點セシメ、省名ヲ錄シテ、直チニ大臣ニ上申シ、其文ヲバ官ニ留メ、更ニ、一通ヲ寫シテ、辨官ニ送リテ、發遣セシム。名例律疏「八虐、六曰、大不敬、謂、對二捍詔使一、而無二人臣之禮一」注「詔使者、奉レ詔定レ名、及令二所司差遣一者、是」後紀、廿四、弘仁五年閏七月「散位正四位上吉備朝臣泉卒、云云、延曆初、出爲二伊豫守一、被二僚下告一、遣二詔使一推問、辭詞不遜」文德實錄、八、天安元年正月「前讃岐守正五位下弘宗王、云云、散二禁右京職一、先レ是、讃岐國百姓等、訴二弘宗王一、仍遣二詔使一推二問虛實一、伏辨已了」

せうし（名）［詔詞］せんみやう（宣命）ニ同ジ。其ノ條ヲ見ヨ。「歷朝詔詞解」

せうし（名）［硝子］ビイドロ。ギヤマン。ガラス。本草「燒成者有二氣眼一、謂二之硝子一」

せうし（名）［抄紙］カミスキ。紙ヲ、漉クコト。製紙。天工開物「凡抄紙槽上合二方斗一、尺寸闊狹、槽視レ簾、簾視レ紙」

せうし（名）［焦思］せうりよ（焦慮）ニ同ジ。焦心。史記、夏紀「勞レ身焦レ思、居レ外十三年」「苦心焦思」

せうし（代）［小子］自稱ノ代名詞、謙稱ナリ。小人。小生。

せうじ（名）［小事］〔大事ニ對ス〕些細ナル事柄。細事。易經、下彖傳「過以利レ貞、與レ時行也、柔得レ中、是以、小事吉也、剛失レ位而不レ中、是以、不レ可二大事一」漢書、丁寬傳「親省二小事一」「大事ノ前ノ小事」

せうじ（名）［小字］（一）幼時ノ名。幼名。後漢書、傅燮傳「燮慨然而歎、呼二幹小字一曰、別成、汝知二吾必死一邪」書言字考節用集、四、人倫「小字、ヲサナナ」類聚名物考（山岡浚明）姓氏、八「小字、ワラハナ、童名、小字、乳名、コレハ、幼少ナル時ノ名也、今俗ニハ、若名ト云ヘリ、唐人記事ノ中ニモ、小名錄一卷有テ、古今ノ人ノ幼名ヲ出セリ、又、宋ニモ、小字錄有、然レバ、小名、小字ハ、通ハシテモ、互ニ云フナルベシ」（二）チヒサキ文字。細字。〔大字ニ對ス〕海岳名言、宋、米芾「凡大字要レ如二小字一、小字要レ如二大字一」

せうじ（名）［小兒］（一）せうに（小兒）ニ同ジ。史記、淮陰侯傳「如レ呼二小兒一耳」（二）他人ヲ賤シメテ云フ語。豎子。北齊書、元文遙傳「小兒、比日微有レ所レ知、是大弟之力」

せうじ（副）［少時］シバシ。暫時。

せうしう（名）［小舟］コブネ。小舸。小艇。李中詩「曲岸家家繫二小舟一」

せうしう（名）［小秋］秋ノ初。初秋。許渾詩「離愁故園思、小秋梨棗紅」

せうしう（名）［招聚］又、せうしゆ。マネキ、集ムルコト。招集。後漢書、隗囂傳「囂亡歸二天水一、復招二聚其衆一、據二故地一」

せうしがほ（名）［笑止顏］氣ノ毒ナル顏ツキ。壽門松（享保、近松作）上「吾妻、ツキヅキ可笑シサ堪ヘ、笑ヒヲ殺ス笑止顏」

せうしが・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）氣ノ毒ニ思フ。凱陣八島（元祿、近松作）二「姉君、面目無サウ、押シ俯キ、義經トシテ痛シマセバ、妹君、笑止がりテ」

せうしつ（名）［消失］［銷失］消エ、失スルコト。白居易詩「千歲不二敢散一、一沃亦銷失」

せうしつ（名）［燒失］ヤケ、ウスルコト。燒亡。大坂堺問答、坤、寶物出入「寶屋燒失、藏モ燒候儀、寶屋藏主、道等ヲ以出候共、燒失ニ於、無紛者、兩揃之積ニテ、請取上申可寄候」

せうしつ（名）［笑疾］一度、笑出ダセバ、容易ニ止マラヌ病。五雜組、明、謝肇淛「陸子龍有二笑疾一、古今一人而已」閑田次筆、二「公時

平、笑談アリ、一時、興宴ニシテ、此後、歸リ、イカニトモスベカラズ、其日ノ政事ハ、菅公ニ委ネテ退キ給フトナン、不和ニテ、權ヲ爭ハル敵手ニ逢ヒテ如ㇾ此ハ、サコソ止コト得ザルナルベシ」(大鏡、上、時平ノ條ニ據レルモノナリ)

ショウ・シツ
せうしつ (副) [蕭瑟] 秋風、吹キテ、物寂(サビ)シキ狀ニ云フ語。 魏文帝、燕歌行「秋風蕭瑟天氣涼、草木搖落露爲ㇾ霜」

ショウ・シユウ
せうしふ (名) [小集] 小人數ノ集會。 輟耕錄、明、陶宗儀、「鄉里[illegible]金治ニ具、邀ニ主人ニ飮、謂ニ之曰ニ燕屋、或曰ニ小集ニ」

ショウ・シユウ
せうしふ (名) [召集] メシ、アツムルコト。ヨビ出シ、アツムルコト。 大唐西域記、僧玄奘「印度有ニ學業ニ者、莫ㇾ不ニ召集ニ」「非常召集」

ショウ・シユウ
せうしふ (名) [招集] せうしう(招聚)ニ同ジ。 後漢書、馬援傳「奉ㇾ詔西使、慰ニ撫羌衆ニ、乃招ニ集豪傑ニ、曉ニ誘羌戎ニ」

ショウ・シユウ
せうしふ (名) [嘯集] 口笛ヲ鳴ラシテ、人ヲ呼ビアツムルコト。(兇徒ナドヲ) 嘯聚「兇徒嘯集」

ショウ・ジユウシ
せうじふし (名) [小十師] 授戒ヲナス僧職。大十師ノ次席ノモノ。 護國寺雜事記、九、「一條院二宮御受戒事「安元三年二月廿一日御登壇、云云、和上、小十師、大十師、等、給ニ祿ニ」 東大寺要錄、九、授ニ沙彌戒ニ章、第二「先堂達等、小十師、具僧ニ威儀ニ、著ニ壇下座ニ、敷ニ座具座ニ、並召ニ入受者ニ、依ニ結番次第ニ、並ニ座壇下東西ニ、已了」

ショウ・シン
せうしん (名) [小臣] 身分低キ臣下。微臣。又、代名詞トシテ、臣ノ自稱ノ謙稱ニモ用キル。 史記、伍子胥傳「王奈何以ニ讒賊小臣ニ、疏ニ骨肉之親ニ乎」

ショウ・シン
せうしん (名) [小身] 〔小身代ノ略〕少ナキ身代。多カラヌ祿。大身ニ對ス。 [小祿] 室町殿日記「四箇國ノ大身、小身ノ」「小身モノ」

ショウ・シン
せうしん (名) [小心] 〔放膽ニ對ス〕(一)ツツシミ深キコト。又、緻密ナルコト。細心。 詩經、小雅、小旻之什、小宛篇「惴惴小心、如ㇾ臨ニ于谷ニ」 小心翼翼トハ、恭謹ノ心ヲ以テ事ヲ行フ意、細カニ行キ屆クコトニ云フ語。 詩經、大雅、文王之什、大明篇「維此文王、小心翼翼、昭事ニ上帝ニ、聿懷ニ多福ニ、厥德不ㇾ回、以受ニ方國ニ」 (二)小膽、臆病。 詩經、小雅、祈父之什、正月篇「念我獨兮、憂心京京、哀我小心、癙憂以痒」

ショウ・シン
せうしん (名) [焦心] 心ヲコガスコト。焦思。 漢書、路溫舒傳「大臣憂ㇾ戚、焦ㇾ心合ㇾ謀」

ショウ・シン
せうしん (副) [蕭森] 物凄キ狀ニ云フ語。 杜甫詩「玉露凋傷楓樹林、巫山巫峽氣蕭森」

ショウ・ジン
せうじん (名) [小人] 〔君子ニ對ス〕(一)無智ノ民。庶民。 論語、顏淵篇「君子之德風也、小人之德草也、草上之風必偃」 (二)心狹ク、邪(ヨコシマ)ナル人。德無キ人。 論語、爲政篇「小人比而不ㇾ周」 同、陽貨篇「女子與ニ小人ニ、爲ㇾ難ㇾ養也」 小人閑居して不善をなすトハ、小人ハ、閑暇アレバ、不善ノ事ヲ行フトノ意。 大學「小人閒居爲ニ不善ニ、無ㇾ所ㇾ不ㇾ至」 (三)身分ノ、卑シキモノ。小身モノ。 孟子、滕文公、上篇「有ニ大人之事ニ、有ニ小人之事ニ」

ショウ・ジン
せうじん (名) [小人] 〔大人ニ對ス〕(一)ワカウド。年若キ人。チヒサキ人。小柄ノ人。少年。 義經記、七、判官北國落事「山伏ノ同道ニハ、せうじんノ樣ニコソ、作リナシ參ラセ候ハムズレ」 (二)せうじんこく(小人國)ノ略。其條ヲ見ヨ。

ショウ・ジン
せうじん (名) [樵人] キコリ。木ヲ伐(コ)ル人。 蘇軾詩「誰[illegible]少年客、樵人[illegible]」

ショウ・ジン
せうじん (名) [[illegible]] [illegible]クスコト。 王禹偁詩「曉[illegible]出、[illegible]晴木葉飛」

ショウ・ジン
せうじん (代) [小人] [illegible]名ニ代ヘテ、[illegible]謙稱。ワタクシ。小子。 左傳、隱公元年、對曰、小人有ㇾ母、皆嘗ニ小人之食ニ矣」

ショウジン・コク
せうじんこく (名) [小人國] 北あめりかノ北方、丁抹(デンマアク)領ノぐりいんらんどナドニ住ムえすきもおナドノ[illegible]、[illegible]、[illegible]小人島ノ條ヲモ併セ見ヨ。

ショウシン・ブン
せうしんぶん (名) [小心文] 〔放膽文ニ對ス〕文章ノ一種。字句、修辭ニ心ヲ注ギテ、鍛錬シタルモノ。 [illegible]「小心文」

ショウシン・モノ
せうしんもの (名) [小身者] 身分ノ、卑シキモノ、少祿ノモノ、[illegible]。 狂言記、止動方角「其方ノ樣ナ小身者ハ、小身者ヂヤニヨッテ」

ショウ・シヤ
せうしや (名) [小社] (一)社格ノ、低キ社。大社、中社ニ對ス。 [illegible]入神社ニ事「衞禁律云、凡ニ入大社門ニ者、徒一年、中社、小社、各[illegible]八幡宮也、中社者、賀茂、住吉社之類也、白符、小社也」 類聚神祇本源、十一、大中小社差別事「太政官符、[illegible]大社ニ、從三位從四位以上爲ニ中社ニ、正五位從五位以上爲ニ小社ニ」 (二)小サキ社。ホコラ。叢祠。[illegible]俗ニハ、小社ヲ云ヤウニ心得タリ」 [illegible]十六「笠置殺若衆ノ鎭守ニ、春日大明神ヲ勸請シ奉ランガタメニ、小社ヲ一宇、造營ス」 本朝俗諺志、三「大坂、天王寺ノ東門ノ内ニ、國ノ神ト云小社アリ、諸ノ國ノ[illegible]ヲ祈ルニ、宜所ニ[illegible]アリ」 出羽國風土略記、四、田川郡、「[illegible]タル山代、バツ、阿久曽ノ内、北ノカニ小山有、木目黑ト云、中古迄、稻荷ノ神祠、僅ノ[illegible]ニテ、此所ニ有リシトゾ」 日本[illegible] [illegible] 風ノ仰ギ[illegible]ルトカヤ」

ショウ・シヤ
せうしや (名) [小者] 〔長者ニ對ス〕年少ナルモノ。幼少ノモノ。幼者。 [illegible]曲禮、上篇、長者[illegible]、少者不ニ敢[illegible]」

ショウ・シヤ
せうしや (名) [[illegible]] [illegible]ト。ヌキガキ。抄錄。 [illegible]

ショウ・シヤ
せうしや (名) [[illegible]] (一)[illegible]ナルコト。サッパリシタルコト。 [illegible] (二)人ノ[illegible]シャレタルコト。風雅ナルコト。[illegible]

ショウ・シヤウ
せうしやう (名) [[illegible]] (一)[illegible]ノ次官。中[illegible]。陸海軍ニ、將官ノ[illegible]下位ノ者。

ショウ・シヤウ
せうしやう (名) [小祥] 〔說文、祥、福也、一云、善也〕 一周忌ノ稱。大祥ニ對[illegible]

ショウ・シヤウ
せうしやう (名) [[illegible]] (一)カキ。カキ。[illegible]ヒ。(二)[illegible]ノ内、家ノ内。ウチワ。 [illegible]季氏篇、吾恐[illegible]之憂、不ㇾ在[illegible]

之内ニ、…八、（人ノ名）韓非子、用人篇「不レ謹二蕭牆之患一、而固二金城於遠境一」

ショウ・ジョウ せうぢやう（名）[霄壤] てんち（天地）ト云フニ同ジ。張説詩「細（ハカニ）思霄壤間、實與二逆旅一…」「…ノ樂」

ショウ・ジョウ せうぢやう（名）[誚讓] 咎メ、責ムルコト。史記、黥布傳「項王由レ此怨レ布、數使二使者一誚讓召レ布」注「誚、責也」

ショウ・ジョウ せうぢやう（名）[招請] せうせい（招請）ニ同ジ。太平記、九、足利殿御上洛事「高氏ヲ招請アリテ、様様、賓翫ドモアリシニ、御先祖、累代ノ白旗アリ」

ショウシヨウ・キ せうしやうき（名）[少將旗] 海軍旗章ノ一。海軍少將ガ、司令權ヲ帶ビテ、軍艦ニ座乘セラルルトキ、其後檣頭ニ揭揚スルモノ。

ショウジョウ・ノ・サ せうぢやうのさ（名）[霄壤差] 天ト地トノ如キ、大イナル差違（チガヒ）。

ショウショウ・ハッケイ せうしやうはつけい（名）[瀟湘八景] 支那ノ瀟、湘、ノ二水ノ地（今ノ湖南省）ニアル八景（其條ヲ見ヨ）ノ稱。卽チ、江天暮雪、瀟湘夜雨、山市晴嵐、遠浦歸帆、煙寺晩鐘、平沙落雁、漁村夕照、洞庭秋月、ヲ云フ。

ショウ・シャク せうしやく（名）[小酌] （一）せうえん（小宴）ニ同ジ。本事詩（唐、孟棨）「與二名輩一遊二慈恩一、…小酌花下」（二）チョット、酒ヲ飲ムコト。一酌。一杯。

ショウ・シャク せうしやく（名）[小尺] しやく（尺）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

ショウ・シャク せうしやく（名）[照尺] 彈丸發射ノ際、其距離ヲ定ムル爲ニ、銃身上ニ取附ケタル尺度。せうせい（照星）ノ條ヲ見ヨ。

ショウ・ジャク せうぢやく（名）[小弱] （一）小サクシテ、弱キコト。弱小。強大ニ對ス。戰國策、趙策「小弱顧能得二之強大一乎」（二）體、小サクテ、年、若キコト。柳宗元、桐葉封レ弟辯「成王以二桐葉一與二小弱弟一」

ショウ・ジュ せうぢゆ（名）[小綬] 綬ノ一種。勳四等、五等、六等ノ旭日章、勳七等、八等ノ桐葉章、勳四等以下ノ瑞寶章、功四級以下ノ金鵄勳章ヲ佩ブルニ用キルモノ。

ショウ・ジュウ せうぢゆう（名）[小銃] 銃砲ノ一種。一人ニテ、携帶、使用セラルルモノ。コヅツ。テッパウ。

ショウジュウ・シャゲキ・ユウトウショウ せうぢゆうしやげきいうとうしやう（名）[小銃射擊優等章] 海軍兵曹、水兵、等ノ、小銃ノ射擊ニ優等ナルモノニ、下付セラルル徽章。

ショウ・ジュツ せうぢゆつ（名）[小術] 小細工ナル策略。用ニ立タヌ術策。小策。唐書、李德裕傳「以二小術一欺二聰明一、如二文成五利一者也」

ショウ・ジュツ せうぢゆつ（名）[紹述] 前人ノ事ヲ承ケ紹ギテ、述べ明ラカニスルコト。宋史、章惇傳「於レ是專以二紹述一爲二國是一、凡元祐所レ革、一切復レ之」

ショウ・シュン せうしゆん（名）[小春] コハル。陰曆、十月ノ異名。荊楚歲時記（梁、宗懍）「十月、天氣和暖似レ春、故曰二小春一」

ショウ・シュン せうしゆん（名）[峭峻] 峭（ソ）ギタルガ如クニ、峻シキコト。漢書、嚴助傳「領水之山峭嶮、灘レ石破レ舟、不レ可下以二大船一載中食糧上下上也」

ショウ・ジュン せうぢゆん（名）[照準] （一）テリアハセ。メアテ。（二）銃砲ノ狙（ネラヒ）。

ショウ・ショ せうしよ（名）[詔書] みことのりノ文書（カキモノ）。（詔勅ノ條ヲ見ヨ）史記、孝文紀「請奉二詔書一、除二收帑諸相坐律令一」西宮記、臨時、一、詔書「上卿奉レ勅仰二內記一令レ作二詔書一」太平記、十二、聖廟事「一條院ヨリ、正一位太政大臣ノ官位ヲ賜ラセ給フ、勅使、安樂寺ニ下リテ、詔書ヲ讀ミ上ゲケル時」

ショウ・ショ せうしよ（名）[抄書] ヌキガキ。拔キ出シテ、書クコト。南史、王筠傳「余少好二抄書一、老而彌篤、雖二遇見瞥觀一、皆卽疏記」

ショウ・ショ せうしよ（名）[小暑] にじふしき（二十四氣）ノ條ヲ見ヨ。禮記、月令篇「仲夏之月、云云、小暑至、螳螂生、鵙始鳴、反舌無レ聲」

ショウ・ショ せうしよ（名）[消暑・銷暑] せうか（銷夏）ニ同ジ。白居易詩「能就二江樓一銷レ暑否」

ショウ・ジョ せうぢよ（名）[小序] （大序ニ對ス）短キ序文。文體明辯（明、徐師曾）「小序者、序二其篇章之所一レ由作、對二大序一而名レ之也」

ショウ・ジョウ せうぢよう（名）[小乘] だいぢよう（大乘）ノ條ヲ見ヨ。傳燈錄「禪有二深淺階級一、悟二我空偏眞之理一而修二是小乘禪一」書言字考節用集、九、言辭「小乘（セウジョウ）（內典）」神皇正統記、嵯峨天皇ノ條「俱舍、成實ナド云フハ、小乘ナリ」

ショウ・ショク せうしよく（名）[小食] 物食フ量ノ、少ナキコト。大食ニ對ス。梁書、昭明太子傳「京師穀貴、太子因命、菲レ衣減レ膳、改二常饌一爲二小食一」

ショウ・ス せう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）[消] 消（キ）ユ。亡（ナ）クナル。易經、泰卦、象傳「君子道長、小人道消」「憂へ、消す」

ショウ・ス せう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）[消] ケス。コナス。費ス。暮ス。陶潛、歸去來辭「樂二琴書一以消レ憂」「日ヲ消す」

ショウ・スウ せうすう（名）[小數] （整數ニ對ス）數學ノ語、一ヨリ小ナル數。又、十、又ハ其冪（ベキ）ヲ、分母トスル分數ノ値（アタヒ）。

ショウ・スウ せうすう（名）[少數] （多數ニ對ス）數ノ、スクナキコト。

ショウ・スイ 〜せうすゐ（名）[憔悴] 瘦セ、衰フルコト。ヤツルルコト。屈原、漁父辭「顏色憔悴、形容枯槁」宇津保物語、祭使、三十六「冠スタナハリ、橡（ツルバミ）ノ衣、破レクヅレ、襪（シタウヅ）、破レテ、せうすゐシタル人ノ、身ノオアルヲナン、學生ト云フ」

ショウ・スイ せうすゐ（名）[小水] （一）僅カバカリノ水。少シノ水。（二）ユバリ。小便。

ショウ・セイ せうせい（名）[小成] 事ノ、少シバカリ、出來上リタルコト。禮記、學記篇「七年視二論レ學取一レ友、謂二之小成一」「小成ニ安ンゼズ」

ショウ・セイ せうせい（名）[照星] ケンタウ。メアテ。銃砲ノ狙ヲ定ムルタメニ、取付ケテアル裝置。先頭ニ在リテ、凸起ス。本ニ在リテ凹ナルヲ、照尺トス。

ショウ・セイ せうせい（名）[招請] 招キ、請（シヤウ）ズルコト。マネキ、迎フルコト。招待。三國志、魏志、張範傳「袁術、備レ禮招請、範、稱レ疾不レ往」

ショウ・セイ せうせい（代）[小生] 自稱ノ代名詞、謙稱ナリ。韓愈、與二孟東野一聯句「小生何足レ道」

ショウ・ショウ せうせう（名）[少小] （老大ニ對ス）年齡ノ、若キコト。年少。賀知章、回レ鄕偶書詩「少小離レ鄕老大回」班固、與二竇憲一牋「此大將軍少小時所レ服、今賜レ固」

ショウ・ショウ せうせう（名）[小照] 小サキ寫眞、又ハ肖像。「記念トシテ小照ヲ呈ス」

ショウ・ショウ
せう-せう (副) [少少] 〔多多ノ對、おろおろニ、少少ノ字ヲ當テタルヲ、字音ニ書キ併メテ、せうせうトス。おろおろノ條ノ(一)ヲ見ヨ〕 少シ。僅カバカリ。ポッチリ。 些少 孔叢子「以二少少之衆一、立二大大之功一」 後漢書、庾尙傳「所レ亡少少、何足レ介レ意」 狹衣、二、上五「イカガハセン、せうせう心ニ入ラヌ事ナリトモ、ナミナミノ人ニモアラバコソハ、聞キイレデモ過グサメ」 同、二、下七「少少ノ人恥シゲナル、御手ゾカシ」 宇治拾遺、十一、第三條「陰陽師ヲ學バント志ニテ候、云云、せうせう、學ビ參ラセントテ、參リタルナリ」 榮花物語、五、浦浦別「此殿原ノオハスル ヲ、世ノ人ノ見ルサマ、せうせうノ物見ニハ勝リタリ」 明衡往來「旨酒一樽、景物少少相具、可レ令二推參一侍レ候」

ショウ・ショウ・ト
せう-せう-と (副) [昭昭] 明ラカナル狀ニ云フ語。 韓詩外傳(漢、韓嬰)「昭昭乎若二日月之光明一」 韓愈、獲麟解「麟之爲レ靈、昭昭也」

ショウ・ショウ・ト
せう-せう-と (副) [悄悄] (一)萎萎ト、憂フル狀ニ云フ語。悄然ト。 詩經、小雅、鹿鳴之什、出車篇「憂心悄悄、僕夫況瘁」 (二)靜カナル狀ニ云フ語。 曹唐詩「樹影悠悠花悄悄」

ショウ・ショウ・ト
せう-せう-と (副) [蕭蕭] 物サビシキ狀ニ云フ語。 史記、荊軻傳「風蕭蕭兮易水寒」 文選、古詩「白楊多二悲風一、蕭蕭愁二殺人一」 盛衰記、三十九、重衡關東下向事「左ニハ松山、峨峨ト聳エテ、松吹ク風、蕭蕭タリ」

ジョウ・ジョウ・ト
ぜう-ぜう-と (副) [擾擾] 騷ギ、亂ルル狀ニ云フ語。紛紛。紛擾。 國語、晉語「唯有二諸侯一、故擾擾焉」

ショウ・セキ
せう-せき (名) [硝石] 鑛物。窒素ヲ含メル動植物ノ、腐敗シテ、土中ノ成分ト化合シテ、成ルモノ。今、人造ノモノ、多シ、白ク透明ニシテ、光リ、甚ダ細長ク、纎維ヲナシテ、碎ケ易シ、火藥、硝酸、等ノ製造ニ用ヰ、又、藥用トモス。焔硝。 本草「消石、一名芒消」(硝、本ト、消ニ作ル) 雲笈七籤(宋、張君房)「赤斧者、巴戎人、能作二水須一、鍊二丹與一消石一服レ之三十年、反如二童子一、毛髮生皆赤」

ショウ・セツ
せう-せつ (名) [小說] 〔漢書、藝文志「小說、小人之所レ說也」君子ノ經傳ニアラズ、小人ノ說話本ノ意〕 ツクリモノガタリ。作者ノ想像ニヨリテ、世事ノ經過、人情ノ波瀾、曲折ナドヲ、實ニアリシガ如ク述べタル文ノ總名。古キハ、竹取物語、源氏物語ヨリ、今ノ淨瑠璃、院本、戲作。 漢書、藝文志「小說家者流、蓋出二於稗官一、街談巷語、道聽塗說者之所レ造也」 兩般秋雨盦隨筆、小說「起二于宋仁宗時一、太平已久、國家閒暇、日進二一奇怪之事一、以娛レ之、名曰二小說一」

ショウ・セツ
せう-せつ (名) [小雪] 〔雪ノ降リ始マル意〕 陰曆十月中ノ節。にぢふしき(二十四氣)ノ條ヲ見ヨ。 詩經、豳風、定之方中篇、箋「定星昏而正中、謂二小雪時一」 小雪者、十月之中氣」

ショウ・セツ
せう-せつ (名) [小節] (一)イササカナル、ミサヲ。 戰國策、齊策「效二小節一者、不レ能レ行二大威一」 (二)チヒサキ、フシ。コブシ。

ショウ・ゼツ
せう-ぜつ (名) [峭絕] 甚シク、嶮シキコト。峭ギタル如ク、聳エ立ツコト。 李綱、[illegible]公山池後集、序「山[illegible]清池、[illegible]絕孤[illegible]」

ジョウ・ゼツ
ぜう-ぜつ (名) [饒舌] 又、ねうぜつ。クチマメ。多辯。多言。 隋書、五行志「齊時童謠、盲老公背受二大斧一、饒舌老母不レ得レ語」

ショウ・セン
せう-せん (名) [哨船] 見張リノフネ。 正字通、[illegible]、書明、今俗亭、[illegible]本作[illegible]、曰[illegible]、云云、卽、哨船、家[illegible]也」

ショウ・ゼン・ト
せう-ぜん-と (副) [悄然] 勇氣挫ケ、又ハ、興醒メタル狀ニ云フ語。悄悄ト。スゴスゴト。シヨボリト。 [illegible]

ショウ・ゼン・ト
せう-ぜん-と (副) [蕭然] シメヤカナル狀、又、物サビシキ狀ニ云フ語。 [illegible]

ショウ・セン・キ・コク
せう-せん-きよく (名) [小選擧區] 小選擧區制ニ由リテ、制定シタル選擧區、大選擧區、中選擧區ニ對ス。

ショウセンキョク・セイ
せうせんきよく-せい (名) [小選擧區制] 〔大、中選擧區制ニ對ス〕 選擧區域ナル一區ヨリ、一人、若シクハ、二人ノ衆議院議員ヲ選出スル制度。

ショウ・ゼン・テイ
せう-ぜんてい (名) [小前提] 〔英語、Minor premiss.ノ譯語、大前提ニ對ス〕 論理學ニテ、三段論法ノ二箇ノ前提ノ中、小概念ヲ有スル前提ノ稱。

ショウ・ソ
せう-そ (名) [樵蘇] きおりト、まばかりト。 史記、淮陰侯傳「千里饋レ糧、士有二飢色一、樵蘇後爨、師不二宿飽一」 [illegible]

ショウ・ソ
せう-そ (副) [蕭疎] サビシク、マバラナル狀ニ云フ語。 [illegible]

ショウ・ソク
せう-そく (名) [消息] [illegible]

中則昃、月盈則食、天地盈虛、與レ時消息」 (進退ノ義) 文選、李齊、注「消、言往也、息、言來也、[illegible]」 故曰二息也」 (二)(三)オトヅレ。タヨリ。 [illegible]

ショウ・ソク
せう-そく (名) [消息] [illegible] (二)ヤウス。 [illegible]

ショウ・ソコ
〔せう-そこ〕 (名) [消息] 〔字ノ音ノ轉、[illegible]〕 (一)オトナフコト。オトヅルコト。 [illegible] ノカタチ、世ヲ[illegible]シ、ト[illegible]ルヤ」 [illegible] 人レテ侍リケレバ」 [illegible] (二)人ノ消息ヲ問フ意ヨリ、轉ジテ、書簡。書狀。手紙。書札。 [illegible] 六[illegible]、御せうそこアルニ、[illegible] (三)さぐり(探)ノ(三)ニ同ジ。

ジョウ・タ
ぜう-た (名) [饒多] 又、ねうた。多キコト。アマタ。タクサン。 [illegible]

ショウ・タイ
せう-たい (名) [小隊] (一)小人數ナル一隊。 [illegible]

大隊、京都諸、但、一小隊四十人、一大隊四百人」二、現今、陸軍ノ小隊ノ編制ハ、砲兵ハ砲二門、騎兵ハ五十人内外、歩兵、工兵ハ七十人内外ヲ以テ行フトゾ。

せうだい(ショウダイ) (名) 昭代 太平ノ世。アキラケキ御代。聖代。 曾鞏詩「不ㇾ[illegible]昭代、悠悠[illegible]二代ノ[illegible]」

せうだい(ショウダイ) (名) 招待 招キテ、待チ受クルコト。招請。 林逋詩「山客相招待」

セウダイ(ショウダイ) (名) 招提 〔梵語、Catur-deśya.(招鬪提舍)ノ略、四方ト譯ス。招ハ、モト、拓ニ作リシヲ、傳寫ノ誤ニテ、招ノ字ニナリタリト云フ。顏師古曰「釋書、招提者、皆古佛號、故寺謂ニ之招提、或名伽藍、或名ニ道場ニ」〕佛教ノ語、四方ノ僧ノ、集リ住スル處。即チ、寺院伽藍。道場。 杜甫、遊ニ龍門奉先寺ニ詩「已從ニ招提遊、更宿ニ招提境ニ」 玄應音義、十六「招提、譯云ニ四方也、招此言ㇾ四、提此言ㇾ方、謂ニ四方僧ニ也、一云、招提、訛也、正言ニ拓鬪提奢、此云ニ四方、譯人去ニ鬪奢、拓經誤作ㇾ招」 太平記、四十、中殿御會事「此寺ハ、公家武家尊崇、他ニ異ニシテ、五山第一ノ招提ナレバ、聯開ニモ、攘災集福ノ祈禱ヲ專ニスル大伽藍ナルニ」

せうたう(ショウトウ) (名) 小刀 〔大刀ニ對ス〕チヒサガタナ。小サキ刀。 陳書、世祖紀「密袖ニ小刀ニ」 男官裝束聚領抄、下「堂上ニハ、直垂ニ小刀ノ事ナシ、但、陽明ノ御家ニハ、代代、御例トシテ、小刀ヲ用ヒ給フ事、尤、子細アル由ナリ、武家ニハ、供奉之間、小刀ニ備テ、御帶セラレ、殿中出仕ニハ、小刀ノミ用ヒラルル由也」

せうたう(ショウトウ) (名) 鈔盜 カスメ、ススムコト。又、其者。剽盜。 後漢書、班勇傳「以ニ西域ニ歸ニ匈奴ニ使ニ其恩德大ニ漢不ㇾ能ㇾ禁ニ鈔盜ニ則可矣」

せうだつ(ショウダツ) (名) 抄奪 鈔奪 カスメ、ウバフコト。劫奪。掠奪。 新五代史、盧文進傳「唐兵屯ニ涿州ニ、歳時饋運、自ニ瓦橋關ニ至ニ幽州ニ、戍ㇾ兵斥候、常苦ニ鈔奪ニ」

せうたふ(ショウトウ) (名) 小塔 小サキ塔。 東大寺要錄、四「天平寶字八年甲辰秋九月十一日、孝謙天皇造ニ一百萬小塔ニ分ニ配十大寺ニ」 續紀、三十、寶龜元年四月戊午「天皇(稱德)八年、亂平、乃發ニ弘願ニ令ㇾ造ニ三重小塔一百萬基ニ、高各四寸五分、基徑三寸五分、露盤之下、各置ニ根本、慈心、相輪、六度等陀羅尼ニ」

せうたん(ショウタン) (名) 小膽 〔大膽ニ對ス〕氣ノ、チヒサキコト。臆病。 韋莊詩「小膽空房怯、長眉滿鏡愁」

ぜうだん(ジョウダン) (名) 笑談 ぢやうだん(常談)ノ條ヲ見ヨ。 客座新聞(明、沈周)「聞者以爲ニ笑談ニ」

せうち(ショウチ) (名) 小智 〔大智ニ對ス〕小ナル智慧。淺ハカナル智(サトリ)。 淮南子、主術訓「有ニ小智ニ者、不ㇾ可ㇾ任以ニ大功ニ」 北條九代記、七、秦行頭人行跡評議事「小智ハ亡國ノ端、邪智ハ害毒ノ根ト申ス事ノ候也」

せうち(ショウチ) (名) 招致 招キ、致ラシムルコト。 史記、孟嘗君傳「招ニ致任俠姦人ニ」 同、呂不韋傳「以ニ秦之彊ニ羞ㇾ不ㇾ如、亦招ニ致士ニ厚遇ㇾ之」

せうぢ(ショウジ) (名) 小路 〔狹路(セコミチ)ノ音便、小路(コミチ)、さうぢ〕コミチ。コウヂ。(大阪、堺、等) 徑 小巷

せうちう(ショウチュウ) (名) 燒酒 酒ノ一種、今ノ釀法ハ、釀シタル酒ノ漉サザルヲ蒸シテ、酒槽ニ蓋ヒ、其鬱蒸スル汁ヲ取リテ、他ノ蒸セル酒ニ入レテ、再ビ蓋ヒ、又、其蒸汁ヲ取リテ、蒸セル他ノ酒ニ入レ、斯ク、三返、五返シテ取レル蒸汁。是レナリ。燒酎。 倭名抄、十六、飲食部、酎酒、豆久利加倍世流佐介、三重釀酒也」

せうちく(ショウチク) (名) 小竹 古ヘノ尺八ノ稱。 小竹笛音調學初傳「小竹ト名ヅケ圖シタルハ、大古ノ尺八ナリ、此笛ヲ、尺八ト名ヅケシ事ノ起ルニ、笛ノ長サ、一尺八分ニ切ル時ハ、其正音、黃鐘ナリ、故ニ、尺八ト云、又、黃鐘切トモ云ナリ」

せうちん(ショウチン) (名) 少鎭 〔大鎭ニ對ス〕古ヘ、寺院ニ設ケタル僧職。 玄蕃寮式「法華寺大鎭、各從僧一人、沙彌一人、童子二人、三綱、少鎭、沙彌一人、童子二人、並用ニ本寺物ニ供ㇾ之」 東大寺要錄、七「奉仕少鎭政并撿校造寺事」

せうちん(ショウチン) (名) 銷沈 消沈 氣分ノ、沈ムコト。氣ガ腐ルコト。沮喪。 陸游詩「人事消沈泄暮中、此身原合ㇾ付ニ天公ニ」「豪氣、消沈ス」

せうちやう(ショウチョウ) (名) 小腸 はらわた(腸)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、三、臟府類「小腸、保曾和太、爲ニ受盛之府ニ」 名義抄「小腸、ホワタ」 增補、下學集、上、三、支體門「小腸、爲ニ受盛之府ニ」

せうちやう(ショウチョウ) (名) 少長 若年モノト、壯年モノト。少年ト、長者ト。 左傳、僖公廿八年「少長有ㇾ禮、其可ㇾ用也」

せうちやう(ショウチョウ) (名) 少丁 大寶令制ニテ、十七歲以上、廿一歲以下ノ男子ノ稱。 東大寺正倉院文書、三十八、筑前國大寶二年、戸籍「戸主、卜部乃母曾、年肆拾玖歳、正丁 課戸、男、卜部黑、年拾漆歳、少丁、嫡子」 同、廿六、陸奥國戸籍 裁許「戸主、子金麻呂、年十九、少丁、戸主、丸子部忍、年八十四、耆老、次子、眞人、年十九、少丁、戸主、叔父甲、年廿七、正丁、子、麻呂、年十八、少丁」

せうちやう(ショウチョウ) (名) 抄帳 王朝時代、諸國ヨリ、特殊ノ官司(齋宮寮、修理職、左右馬寮、等ノ類)ニ納ムル調庸ノ額ヲ登載シテ、主計寮ニ備ヘ置キ、其官司ノ領收劵ニ合契スルタメノ元帳。 主計寮式、下「凡諸國令ㇾ納ニ齋宮寮ニ調[illegible]、待ニ彼寮移ニ[illegible]抄帳ニ」 同「凡[illegible]所ㇾ[illegible]、[illegible]析、魚鹽、海藻等、待ニ彼職日收ニ勘ニ會抄帳ニ」

せうちやう(ショウチョウ) (名) 消長 ノビチヂミ。盛衰。榮枯。 易經、上經、泰卦、象傳「君子道長、小人道消也」 蘇軾、前赤壁賦「盈虛者如ㇾ彼、而卒莫ニ消長ニ也」

せうぢやうふ(ショウジョウフ) (名) 小丈夫 (一)丈ノ低キ男。大丈夫ニ對ス。(二)心ノ賤シキ男。賤夫。 孟子、公孫丑、下篇「予豈若ニ是小丈夫ニ然哉」

せうちう(ショウチュウ) (名) 笑中 ワラフ心ノ中。笑中ニ刀有リトハ、表面ニ笑顏ヲ裝フト云ヘドモ、内心ニハ險惡ヲ抱キテ、人ニ害ヲ加ヘムトスル意。笑ノ中ノ刃(ヤイバ)。 唐書、李義府傳「義府、貌柔恭、與ㇾ人言、嬉怡微笑、而陰賊褊忌、云云、時號ニ義府笑中刀ニ」

せうちよ(ショウチョ) (名) 昭著 アキラカニ、イチジルシキコト。顯著。 南史、齊高帝紀「驗ㇾ往揆ㇾ今、若ㇾ斯昭著」

せうぢよ(ショウジョ) (名) 少女 (一)年若ノ女。ヲトメ。オトムスメ。 史記、趙世家「翟以ニ其少女ニ妻ニ重耳ニ」 (二)大寶令制ニ定メタル、十七歲以上、廿一歲以下ノ女子ノ稱。 東大寺正倉院文書、廿二、美濃國太寶二年、戸籍「戸主、同黨妹乎奈賣、年卅七、正女、兒守部志祁多賣、年十六、小女」云云、「五百國妹荒賣、年十八、少女」

せうちよく(ショウチョク) (名) 詔勅 天子ノみことのり。古ヘハ、宣命ノ如キナリ、漢文ヲ用キラルルニ及ビテ、詔勅トナレリ、改元、改錢、赦令、等、臨時ノ大事ナルヲ詔書トシ、攝政關白賜ニ隨身ニ、皇子賜ニ源氏姓ニ、内親王准ニ三宮ニ、宛ニ封戸ニ、等、尋常ノ

小事ナルヲ勅書トス。然レドモ、後ニハ、其別ナシ。字[illegible]「[illegible]勅、[illegible]命、[illegible]書」公式令「[illegible]書式、[illegible]、勅旨、同是[illegible]、但、臨時大事[illegible]、[illegible]常小事[illegible]勅也」官[illegible]令、凡[illegible]勅未[illegible]行ニ者、非[illegible]不[illegible]得[illegible]者ニ」内記式、凡[illegible]令及尋常詔旨者、内記積書、云云、但[illegible]時[illegible]勅者、承[illegible]旨、即内記作[illegible]書[illegible]、[illegible]令[illegible]已上[illegible]内侍進[illegible]於御所ニ」

せうづ ショウズ (名) 【小豆】 アヅキ。(大豆ニ對ス) 禮記、投壺篇「壺中實[illegible]小豆[illegible]、[illegible]其矢之[illegible]而出[illegible]也」

せうてい ショウテイ (名) 【小艇】 せうさう(小舟)ニ同ジ。夢溪筆談(宋、沈括)「林通常汎[illegible]小艇[illegible]遊[illegible]西湖諸寺ニ」

せうてい シヨウテイ (名) 【椒庭】 [漢ノ世ニ、山椒ヲ后宮ノ壁ニ塗リテ、其ノ溫ヲ取リ、惡氣ヲ避ケタルヨリ、出ヅ。椒房ノ出典ヲ見ヨ] 皇后宮ノ異稱。椒房。後宮。文選、[illegible]注、椒庭、取[illegible]其芳[illegible]ニ」太平記、一、儲王御事「儲君、儲王ノ選ビ、竹苑、椒庭ノ備ヘ」同、三十七、[illegible]御[illegible]無[illegible]御即位[illegible]事、[illegible]、椒庭、[illegible]二、物哀レナル折節也」

せうでう ショウジョウ (副) 【[illegible]條】 シメヤカニ。物サビシク。[illegible]然、[illegible]索。[illegible]、[illegible]山路、[illegible]異、[illegible]、遺[illegible]ニ[illegible]、[illegible]上[illegible]老[illegible]、[illegible]花[illegible]紅[illegible]、[illegible]、シ[illegible]カ[illegible]リ、カスカナリ」

せうてん ショウテン (名) 【小店】 コミセ。規模、小ナル店鋪。又、己レノ店鋪ノ謙稱ニモ用キル。王安石詩「小店無レ燈欲レ閉レ門」

せうてん ショウテン (名) 【小篆】 漢字ノ書體ノ一。漢字ノ發達上、大篆ノ次、隷書ノ前ニ成リシ書體。秦ノ李斯ノ作トモ云ヒ、又ハ、[illegible]ノ作トモ云ヒ傳ヘリ。[illegible]文[illegible]、[illegible]、云云、[illegible]史[illegible]、[illegible]」

せうてん ショウテン (名) 【焦點】 (一)物理學ノ語、光線ガ、球面鏡、又ハ、れんぜ等ニ遇ヒテ、反射、又ハ、屈折シテ後、集ル點。(二)物事ノ、集注スル點ニ譬ヘテ云フ語。

せうでん ショウデン (名) 【小傳】 簡單ナル傳記。略傳。[illegible]

せうてんぐ ショウテング (名) 【小天狗】 てんぐ(天狗)ノ條ヲ見ヨ。

せうてんち ショウテンチ (名) 【小天地】 [宇宙ノ大ニ比シテ云フ語] 小ナル世界。狹キ境界。「小天地ニ[illegible]ス」

せうと ショウト (名) 【兄人】 [兄人ノ音便] (一)兄ト云フニ同ジ。兄。(弟人ニ對ス) [illegible]鈴日記、下、下七「明クレバ、五日ノ曉ニ、せうとタル人、外ヨリ來テ」[illegible]、一、[illegible]「サブラフ人人、御[illegible]見ダチ、御せうとノ兵部卿」[illegible]、四、四十三段「[illegible]、妹、せうとト云フ事ヲバ、上マデ皆知ロシメシ、[illegible]上ニモ、司名ヲバ云ハデ、せうとトゾ附ケタル」[illegible]理花[illegible]、清少納言トヲ云フ」古今集、序、注「せうとノ[illegible]ノ影、丘、谷ニ映リテ、カガヤク」[illegible]、平家物語、一「平大納言時忠卿トゾ申ス、女院ノ御せうと、主上ノ御外戚ニテ御座ケレバ」(二)[illegible]ヨリ、弟ヲ呼ブ語。謠曲、[illegible]丸「此處ハ、せうとノ宿りトモ」

せうど ショウド (名) 【焦土】 (一)黑燒ニナリタル土。ヤケツチ。(二)轉ジテ、丸燒トナリテ、跡方ナキコト。[illegible]、[illegible]、[illegible]大之心、日[illegible]、[illegible]、[illegible]人一[illegible]、可[illegible]焦土」

せうとう ショウトウ (名) 【[illegible]】 [illegible]火。[illegible] 太平記、廿四、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]テ、[illegible]ノ[illegible]、不[illegible]日ニ」

せうとう ショウトウ (名) 【消燈】 燈火ヲ消スコト。

せうとう ショウドウ [illegible] [illegible]「九[illegible]ノ[illegible]」[illegible]、[illegible]生[illegible]、[illegible]ニ」

せうとうらんがく ショウトウ・ランガク [illegible] [illegible] 災ヲ、未然ニ防ガムトスル術策ヲ獻ゼ[illegible]モノハ、賞セラレズ、[illegible]、頭ヲ焦ガシ、額ヲ爛ラカシテ、働キタルモノハ、賞セラル。本ヲ棄テテ、末ヲ採ル喩ニ云フ語。[illegible]

せうとく ショウトク [illegible] 【所得】 [illegible] 同ジ。[illegible]打頷キテ、時時笑ヒケリ、アハレ、得ツルせうとく[illegible]カナ、[illegible]比、不[illegible]ノ火桶ヲ、惡シク書キケル也、今見レバ、カウコソ[illegible]レト、[illegible]せうとく[illegible]」

せうどく ショウドク [illegible] 【消毒】 病ノ毒ヲ、滅スコト。「[illegible]」

せうなふ ショウナフ (名) 【小儺】 古へ、禁中ノ追儺式ニ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ヲ着テ、大儺ニ[illegible]、内裏ノ四門ヲ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、小兒[illegible]、[illegible]

せうなふ ショウナウ (名) 【小腦】 [大腦ニ對ス] 腦髓ノ一部、大腦ノ後下部、[illegible]ニ在リ、[illegible]、[illegible]行ノ[illegible]、小腦[illegible]ノ[illegible]ヲ司ルモノ。

せうなごん ショウナゴン [illegible] 【少納言】 [大、中納言ニ對ス] スナイモノマウシ。太政官ノ判官、小事ヲ奏宣シ、[illegible]

[illegible] 並ス。後ニ、奏宣ノ事ハ、藏人ニ遷ル。[illegible] 十二月、[illegible]少納言ニ」[illegible]

せうなふ ショウナフ [illegible] 【笑納】 [illegible]、受ケ納ムルコトノ謙稱。笑留。[illegible]「[illegible]下サレタク候」

せうに ショウニ [illegible] [illegible]

せうに シヨウニ (名) 【小兒】 又、せうに。ワサナゴ。コドモ。[illegible]、小兒其ノ[illegible]、[illegible]ズレバ、[illegible]ナスト云事アリ」

せうにく ショウニクヮ (名) 【小兒科】 [illegible]ヲ、小兒ノ病ヲ治ムルモノ。[illegible] 方[illegible]小兒科[illegible]」

せうにん ショウニン (名) 【小人少人】 ワサナヘ人[illegible] [illegible]「少人トモノ、[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]メグリ」

ショウネツ
せうねつ (名) [焦熱] (一)焦ガルルガ如キ熱サ。淮南子、兵略訓「天下敖然、若ニ焦熱ニ」 (二)佛說、地獄ノ一、「地獄」ノ條ヲ見ヨ)罪人、火ニ焦ガサルト云フ。其苦シミノ重キヲ、大焦熱ト云フ。太平記、二、「僧徒ハ波羅召捕事、歩マセ奉ント、支度シタル有樣ハ、只、四重、五逆ノ罪人ノ焦熱、大焦熱ノ炎ニ身ヲ焦シ、牛頭、馬頭ノ呵責ニ逢ヘランモ、カクコソアラメト」(焦八、焦ニ通ズ)

ショウネン
せうねん (名) [少年] ワカモノ。ワカウド。ワカテ。史記、鄭商傳「陳勝起時、商聚ニ少年ニ東西略ニ人、得ニ數千ニ、沛公略ニ地、至ニ陳留ニ」朱熹、偶成詩「少年易レ老學難レ成、一寸光陰不レ可レ輕」太平記、十三、「龍馬進奏事「時代、推シ移リテ、八百餘年マデ、憔悴、猶、少年ノ貌アリテ、更ニ、衰老ノ姿ナシ」

ショウ-ノ-フエ
〜せうのふえ (名) [簫] せう(簫)ノ條ヲ見ヨ。

ショウハイ
せうはい (名) [招牌] かんばん(看板)ノ(一)ニ同ジ。莊子、駢拇篇「自ニ虞氏招ニ仁義ヲ以撓ニ天下ニ也」林希逸、註「招、猶ニ言ニ今人招牌ニ」

ショウバイ
せうばい (名) [消梅] シナノウメ。

ショウホウ
せうはう (名) [小邦] 〔大邦ニ對ス〕せうこく(小國)ニ同ジ。書經、武成篇「我文考文王、克成ニ厥勳ニ、誕膺ニ天命ニ以撫ニ方夏ニ、大邦畏ニ其力ニ小邦懷ニ其德ニ」

ショウボウ
せうばう (名) [椒房] せうてい(椒庭)ニ同ジ。漢書、車千秋傳「江充先治ニ甘泉宮人ニ轉至ニ未央椒房ニ」注「師古曰、椒房殿、名ニ皇后所レ居也、以レ椒和レ泥塗レ壁、取ニ其溫而芳ニ也」 班固、西都賦「後宮則有ニ掖庭椒房后妃之室ニ」下學集、下、草木門「胡椒、此木、能生ニ多子ニ故皇后之宮、謂レ之椒房、椒室ニ也、蔵ニ云、皇后宮、以ニ椒塗レ壁、溫暖而除ニ惡氣ニ也」 太平記、廿一、「天下時勢粧事「月卿、雲客、諸司、格勤ノ所領ハ、云フニ及バズ、竹園、椒房、禁裏、仙洞ノ御領マデモ、武家ノ人、押領シケル間」

ショウボウ
せうばう (名) [消防] 火災ヲ、消スコト。火消。消火。文久紀事、六、文久二年七月十八日「淺草本所御藏、猿江御材木藏消防、何モ二而相心得候樣相達候處、場所之町火消、一手ニ消防申付候間、其方共ゟ、消防相心得ニ及ズ候事、定火消役エ」

ショウボウ
せうばう (名) [燒亡] 家ナドノ、燒ケ失スルコト。燒亡。武江年表、九、安政二年十月二日「亥ノ二點、大地、俄ニ震フ事甚ク、云云、品川沖御臺場ノ内、建物潰レ、土中ニ入リ、剩、火ヲ發シタリ、此夜、潰家ヨリ火起リ、燒亡及シ場所夥數、云云」

ショウバツ
せうばつ (名) [峭拔] (一)ソバダチ、拔キ出ヅルコト。舒頔詩「靑秀孕奇挺ニ而拔ニ、攢峰列岫爭ニ拾傳ニ」 (二)奇拔ナルコト。宣和書譜「行筆峭拔而秀、絢麗而雅」

ショウヒ
せうひ (名) [消費] ツヒヤスコト。使ヒ盡スコト。費消。「消費稅」消費組合」

ショウビ
せうび (名) 〔古言、そに、そびノ訛〕かはせみ(魚狗)ニ同ジ。塵添抄、一、鳥類字「少微、セウビ」物類稱呼、二、動物「魚狗、かはせみ、一名、少微」

ショウビ
せうび (名) [焦眉] 〔火ガ、眉毛ヲ焦ガス意〕危急ニ迫ルコト。燒眉 燃眉 五燈會元「僧問ニ蔣山佛慧、如何是急切一句ニ慧曰、火燒ニ眉毛ニ」「焦眉ノ急」

ショウビ
せうび (名) [焦尾] (一)琴ノ名所、尾端ナリ。祖庭事苑、三「東漢蔡邕、吳人有ニ燒レ桐而爨者ニ邕聞ニ火烈之聲ニ知ニ其良木ニ因請而裁爲レ琴、果有ニ美音ニ而其尾猶焦、故時人名曰ニ焦尾琴ニ焉」 歌舞品目、四、器具名稱「焦尾、龍尾ノ一名也」 雷琴記、雷琴式「焦尾下貼格高五釐、從調六分、横調ニ尾濶ニ」 (二)せうびきん(焦尾琴)ノ略。

ショウビ
せうび (名) [燒尾 焦尾] 〔孔氏談苑、五、燒尾宴「士人初登レ第、必展ニ歡宴ニ謂ニ之燒尾ニ、說者云、虎化爲レ人、惟尾不レ化、須レ爲ニ燒去ニ乃得レ成レ人、又說、新羊入レ羣、諸羊抵觸、不ニ相親附ニ燒ニ其尾ニ乃定、又說、魚躍ニ龍門ニ化レ龍時必須ニ雷電ニ爲燒ニ其尾ニ乃化」聞見錄「談賓錄、公卿大臣、初拜レ官者、例許レ獻レ食、名曰ニ焦尾宴ニ」〕 仲間入リノ振舞。三代實錄、十二、貞觀八年正月廿三日「勅、禁ニ斷諸司、諸院、諸家、諸所之人、燒尾、荒鎮、并、貢ニ人求レ飲、臨時群飲、被除贖被物ニ起請偁、去天平寶字二年二月二十日勅書稱、云云、而今論緖出後、年代久遠、有司解體、率而不レ行、因レ茲、諸司、諸院、諸家、諸所之人、新拜ニ官職ニ初就ニ進仕ニ之時、一號ニ荒鎮ニ一稱ニ燒尾ニ自レ此之外、貢レ人求レ飲、臨時群飲等之類、積習爲レ常、酣亂無レ度、主人毎有ニ竭レ財之憂ニ」

ショウヒキタク
せうひきたく (名) [消費寄託] 〔羅典語、Depositum irregulare. ノ譯語〕 寄託ノ一、受寄者ガ、受寄物ト、種類、品等、及、數量ノ同ジキ、他ノ物ヲ返還スルヲ以テ足リ、受寄物ノ返還ヲ要セザルモノ。(大日本國語辭典)

ショウビキン
せうびきん (名) [焦尾琴] 琴ノ一稱、異名ヲ、けぶりの桐ト云フ。略シテ、焦尾。其條ノ(二)ノ出典ヲ見ヨ。

ショウヒクミアイ
せうひくみあひ (名) [消費組合] 購買組合ノ一種、數多ノ人ガ、生計費ヲ減ゼンタメニ、團體トナリテ、生計ニ必須ナル物品ヲ購買シ、コレヲ、廉價ニテ、組合員ニ賣却スルモノ。

ショウヒツ
せうひつ (名) [少弼] 彈正臺ノ次官、尹ニ次グモノ。ひつ(弼)ノ條ヲ見ヨ。拾芥抄、中、本「彈正尹(御史大夫、御史侍書)、弼大、少、御史大丞)、忠(侍御史)、疏(御史錄事、御史主書)」官職祕抄、下、彈正臺「弼(大、少)、公達、諸大夫任レ之、於ニ大弼ニ者、參議兼ニ之、好古、有國ニ也、又、諸官權兼ニ之、惟範、是也」三代實錄、七、貞觀十一年二月十六日「散位從五位下高階眞人令範、爲ニ少弼ニ」尊卑分脈、四、源氏「仲國(藏、正五下、彈正少弼)」

ショウヒン
せうひん (名) [小品] 〔大品ニ對ス〕(一)小ナル製作品。(二)次條ノ語ノ略。世說、文學篇「有ニ北來道人ニ與ニ林公ニ相ニ遇于瓦官寺ニ共講ニ小品ニ」

ショウヒンブン
せうひんぶん (名) [小品文] 小品ノ文章、短キ文。

ショウフ
せうふ (名) [少府] (一)たくみれう(內匠寮)ノ唐名。職原抄、上「內匠寮、唐名、少府」 (二)くられう(內藏寮)ノ唐名。職原抄、上「內藏寮、唐名、倉部、又云、少府」

ショウフ
せうふ (名) [少婦 小婦] ワカキ女子、年若ノ婦人。王昌齡詩「樓頭小婦鳴ニ箏坐ニ、遙見ニ飛塵入ニ建章ニ」

ショウフ
せうふ (名) [樵夫] 〔詩經、小雅、白華之什、白華篇「樵ニ彼桑薪ニ、卬烘ニ于煁ニ」康熙字典「採レ薪者、謂ニ之樵夫ニ」〕 (一)キコリ。史記、孟嘗君傳「樵夫、牧豎」 揚雄、長楊賦「士有ニ不レ談ニ王道ニ者ニ則樵夫笑レ之」 盛衰記、十八、松名字佐勅使事「悲哉、佛法僧ト云鳥ダニモ、音セズ、樵夫、草女ノ袂マデモ、露ヤ置クラント、哀也」 (二)世ニ隱レタル人ノ、自ラ稱スル語。徐積詩「幅巾自去呼ニ樵父ニ、蠟屐何時訪ニ竹書ニ」(父ハ、夫ニ通ズ)

ショウブ
せうぶ (名) [小步] 田積ノ名、一段ノ三分一ノ稱。正長元年記「高田將監申云、田地之一段、三百六十步、直綱令ニ存知ニ者、希也、云云、小ト云者、一段ノ三分一ヲ云也」四民格致重法記「太閤檢地ハ、一段三百六十步ト云傳ヘタリ、雖レ然モ、天正年中ノ水帳ヲ見シニ、三百步ニ」リ、其水帳ニハ、畝ト云ハナク、壹段、大步、小步、半步、云云、ナドト有レ之」地方凡例錄、二、大半小步之事「天正、文祿之比マデ

ノ換地ニハ、大半小ト云テ、壹反三百歩ヲ三ツニ分ケシ小割有、永高ノ比ガ、石高ニ移ル時代迄モ、行ハレシ事ト見エ、往古之換地帳所持之村方ニハ、大半小之附タル大帳、今モ有之、尤、上古ガ之事トハ不聞、其[illegible]時代、不相知、大半小之小割、如左、壹反三百歩、大歩二百歩、（壹反ノ三分二ヲ云）、半歩百五十歩（壹反ノ半分ヲ云）、小歩百歩（壹反ノ三分一ヲ云）」大鳴圖田帳「合田保仟拾漆町伍段大、正宮領、本家八幡、地頭掃部頭、田千二百九十六町三段小、不輸、五百町五段小、應輸、七百九十五町八段」

ショウ-ブ
せうぶ （名） 招撫 招キ、撫ヅルコト。マネキ、安ンズルコト。後漢書、西域傳「千餘人、屯二伊吾一、以招二撫之一」北史、崔仲方傳「太守敎二其人種植一、招撫」

ショウ-フウ
せうふう （名） 蕉風 俳諧ノ一派、松尾芭蕉（元祿七年歿、年五十一）ノ創立ナリ。檀林風ノ奇僻、輕薄、浮華ナルヲ嫌ヒ、幽寂、沖澹ノ趣ヲ詠ジタルナリ。即チ「古池ヤ、蛙飛ビコム、水ノ音」「夏草ヤ、兵ドモガ、夢ノ跡」「野分シテ、盥ニ雨ヲ、聞ク夜カナ」「五月雨ヲ、集メテ早シ、最上川」ナドノ類ノ如シ。正風。

ショウ-フウ-ロウ-ゲツ
せうふうろうげつ （句） 嘯風弄月 「風ニうそぶき、月ヲ弄ぶノ義」詩歌、管絃ノ風致ニ、心ヲ寄スルコト。風流韻事ヲ事トスルコト。宋史、周敦頤傳「程顥曰、自二再見周茂叔一後、吟風弄月、以歸、有二吾與點也之意一」太平記、一、儲王事「志學ノ歲ノ始ヨリ、六義ノ道ニ長ジサセ給ヘリ、サレバ、富緒河（トミノヲガハ）ノ清キ流ヲ汲ミ、淺香山（アサカヤマ）ノ故キ跡ヲ踏ミテ、嘯風弄月ニ御心ヲ傷シメ給フ」

ショウ-フ-カン
せうふかん （名） 少府監 くらのかみ（内藏頭）ノ唐名。職原抄、上「内藏寮、頭一人」注「相當、從五位上、唐名、倉部[illegible]、又、少府監」拾芥抄、中、本「内藏寮、少府監、倉部郎、又、倉部郎中」

ショウ-フク
せうふく （名） 小腹 シタハラ。コノカミ。ホガミ。

ショウ-フン
せうふん （名） 小粉 しやうふ（生麩）ノ條ヲ見ヨ。

ショウ-ブン
せうぶん （名） 少分 小分 （一）チヒサク、分クルコト。コワケ。（二）少シノ部分。俱舍論「能學二少分一」宇治拾遺、七、第五條「僧モ限ラズ買ハントテ申シツルヲモ、惜シミテ、放チ給ハズシテ、今日、カク死ヌレバ、ソノ價、少分ヲモ取ラセ給ハズナリヌ」

ショウ-ヘイ
せうへい （名） 笑柄 ワラヒグサ。趙翼、納涼詩「夜深歸去賦二橫陳一、一語應二添笑柄新一」

ショウ-ヘイ
せうへい （名） 招聘 禮ヲ厚クシテ、召シ抱フルコト。梁書、武帝紀「上以時招聘」

ショウ-ヘイ
せうへい （名） 哨兵 〔正字通「屯戍防レ盜處、名曰レ哨」〕見張リノ兵。番兵。

ショウ-ヘキ
せうへき （名） 峭壁 峭ギタル如ク、險シキ崖。劍門山記「危壁中斷、兩崖相嶔如レ門」

ショウ-ベツ-トウ
せうべつたう （名） 少別當 （一）神社ノ神職、大別當ノ次席ノモノ。[illegible]社日記、一、人倫「鎌倉ノ大別當ト云ハ、古ハ、社僧ノ門跡ナリ、今ハ、コレハ絶エテ、少別當バカリアリ、コレモ、社僧ナリ」新編鎌倉志、一「社務職次第ニ云、當社（鶴岡八幡宮）別當宮、圓曉法眼、三井寺ヨリ御下向、御供中ニ、法橋永實ト申ス坊官也、然ルニ、建久二年十一月日、別當圓曉御坊ヨリ、少別當ノ官ヲ給リ、社內ノ事務ヲ執行ニ定メ置レル者也」台徳院殿御實紀、[illegible]、同、慶長十六年正月廿日「連歌ノ會、開カル、云云、鶴岡八幡宮少別當大庭周能ト云フ者、御連衆ニ召シ加ヘラレ、常ニ御會ニ召シ出サル」（二）寺院ノ僧職。[illegible]抄、上、[illegible]、東大寺小別當一何「[illegible]、六條右府息男、康治元、十二月、任二小別當一」

ショウ-ヘン
せうへん （名） 小篇 短キ文章。短篇。[illegible]

ショウ-ベン
せうべん （名） 少辨 官名、スナイナホトモヒ。べん（辨）ノ條ヲ見ヨ。

ショウ-ベン
せうべん （名） 小便 ユマリ。ユバリ。イバリ。小水。小用。小用、ドウヅ。シト。シシ。ションベン。尿。小溲。倭名抄、三、形體類「尿、由波利、小便也」[illegible]「[illegible]小便也」[illegible]年「[illegible]」[illegible]有[illegible]小便隱上」[illegible]日記、[illegible]廿二年七月廿六日「七日ニ滿ジケル日、御前ニ所作シテ居タリケルガ、ツキ立テ、出ケリ、良久見ヘザリケレバ、[illegible]シミテ見ケルニ、[illegible]ニ向ヒ、小便ノ[illegible]ケルガ、[illegible]アル風情ナシケレバ、[illegible]」[illegible]語ニ、せうべんをするト云フハ、破約ノ意。買フヲ約シテ、止ムルコト。[illegible]

ショウ-ベン-ジョ
せうべんじよ （名） 小便所 小便ノ用ヲ足ス所。[illegible]

ショウ-ホ
せうほ （名） 小圃 チヒサキ、ハタケ。[illegible]

ショウ-ボ
せうぼ （名） 召募 招募 メシ、マタハ、コトリ、呼ビ集ムルコト。[illegible]

ショウ-ボク
せうぼく （名） 昭穆 [illegible]序。太祖ヲ中央ニシテ、以下、千鳥ガケニ列スルモノトス。[illegible]

ショウ-ボク
せうぼく （名） 小僕 [illegible]

ショウ-ホン
せうほん [illegible]

ショウ-マ
せうま [illegible]スレテ、無クナルコト。[illegible]

ジョウ-モウ
ぜうまう （名） 燒亡 [illegible]ケレバ、[illegible]

リケルニ、アワテ恐ヒテ出ヅルトテ」

ぜうまうだき（ジョウ-ウ-ダキ）（名）［燒亡焚］〔火災ニ、諸式ヲ焚ク如キ義〕伽羅ナドヲ、度無ク、打チクブルコト。好色一代男、天和、西鶴、六「天帝ニ、名ノ燻クラベ、後ハ、燒亡だきニシテ、林彌ニ、焉ノ□ヲサスル事、云云」一休咄「寶永「コチラ向ク、間ニ留伽羅ノ、燒亡焚」

ぜうまうのそう（ジョウモウ-ノ-ソウ）（名）［燒亡奏］王朝時代、火災アル時ニ、撿非違使ヨリ、藏人ニ就キテ奏上スルコト。名目抄「燒亡奏」（セウマウノソウ）禁祕御抄、下「有燒亡時、廳向撿非違使、參內、列立□上日、藏人下遣、云云、藏人開奏狀、進、朝倉南面□如中□也」

せうまきやう（ショウマ-キョウ）（名）［照魔鏡］惡魔ノ本性ヲモ、アラハシ出スト云フ鏡。照妖鏡

せうまん（ショウ-マン）（名）［小滿］〔陰曆、四月中、草木、繁リテ、天地ニ滿ち始ムル義〕にぢふしき（二十四氣）ノ條ヲ見ヨ。

せうみん（ショウ-ミン）（名）［小民］小前ノモノ。下下ノモノ。賤民。書經、蔡仲之命篇「睦乃四鄰、以蕃王室、以和兄弟、康濟小民」

せうみやう（ショウ-ミョウ）（名）［小名少名］〔大名ニ對ス〕（一）元ハ、名田ヲ有スルコト、少ナキ者ノ稱。盛衰記、十九、文覺入定京上事「剌諏ノ者トテ、憚樣ナレ共、內心ハ皆、通用セリ、况、院宣ナド被下ナバ、大名、小名、誰カ一人モ、背侍ルベキ」吾妻鏡、五十、文應一、年五月十三日「奉鋼云、東國大少名、幷、澁谷庄司重國等、皆官、平氏、莫不□、後世爲、當家獨、不□、其情□、專、前代用傳佐佐木庄、偏運志於源家」（二）幕府時代、萬石以上ノ大名中ニテ、其領地ノ少ナキモノノ稱。だいみやう（大名）ノ條ヲ見ヨ。□□輿、四、一、武家諸法度、一、國國大名、小名、幷、諸給人、各相抱之士卒」

せうめい（ショウ-メイ）（名）［焦螟蟭螟］〔出典ノ列子ヨリ出デタル語〕蚊ノ睫（マツゲ）ニ巢ヲ作ルト云ノ蟲、微少ナル喩ニ云フ語。列子、湯問篇「江浦之間生□蟲、其名曰焦螟、羣飛而集於蚊睫、弗相觸也」注「螟、□、細也」太平記、十二、廣有射怪鳥事「廣有、勅定ヲ承ケテ、鈴間邊ニ候ヒケルガ、實ニ此鳥、蚊ノ睫ニ巢クウナル、蟭螟ノ如ク小クテ、矢モ及バヌ、虛空ノ外ニ翔飛ババ、叶フマジ」

せうめつ（ショウ-メツ）（名）［消滅］キエテ、亡（ナ）クナルコト。消失。陳琳檄「若□舉炎火以焚飛蓬、覆滄海而注□炭、有何不消滅者哉」「罪障消滅」

せうもくだい（ショウ-モクダイ）（名）［小目代］目代ノ下ニアル役。吾妻鏡、六、文治二、年九月廿五日「兄弟者、於伊豫國、斬院力者、人類、况於召使者、不及沙汰之由、申之、然而則國中、令由緒撿非違所小目代、披陳子細之刻、謀計露顯」（コレハ撿非違所目代ノ下ノ小目代ノコト）東寺百合文書、仁和寺宮□中「當國國城寺領事、決斷所牒、幷、國宣如此、早任被仰下之旨、可被致沙汰之狀如件、左衞門尉、近江國愛智郡小目代殿」（コレハ、郡目代ノ下ノ小目代ノコト）

せうもち（ショウ-モチ）（名）［抄物］次條ニ同ジ。宇津保物語、藏開、上、十「書ノせうもち（フミ）ト云フモノ、見給フトテナン、文書（フンショ）ト云フモノ、見給へツキヌレバ」

せうもつ（ショウ-モツ）（名）［抄物］又、せうもち。カキヌキ。カキトリ。著聞集、四、文學「實莊殿院ニテ、當座ノ詩歌有ケルニ、式部大輔永範卿、月ノ影ニ立出テ、抄物ヲ見テ、樓臺月映素盬冷、七十秋闌紅淚餘ト云フ秀句ヲ作タリケル」

せうもつがき（ショウモツ-ガキ）（名）［抄物書］心オボエ、急書ナドニ、其字ノ一片ヲ取リテ書クモノ。コレヲ記錄書（キロクガキ）トモ云フ。今ノ學生ノ手帳ノ略書（リャクガキ）、即チ、ソレナリ。ささぼさつノ類。（其條ヲ見ヨ）

せうもの（ショウ-モノ）（名）［抄物］〔前前條ノ語ノ轉〕主トシテ室町時代ノ五山僧ノ手ニ成ル經典、詩文、等ノ註釋書ノ稱。和文、口語體ノ講義筆記、多キヲ特色トス。「史記抄」蒙求抄」

せうやう（ショウ-ヨウ）（名）［小恙］少シノ病氣。微恙

せうやうぎよ（ショウ-ヨウ-ギョ）（名）［韶陽魚］エヒ。コメ。

せうやうさ（ショウ-ヨウ-サ）（名）［昭陽舍］又、せうやうしや。なしつぼ（梨壺）ノ異名。拾芥抄、中、宮「昭陽舍」注「東一、梨子壺、當貞殿東、南北舍、各、五間四面」紀略、後篇、六、天祿三年三月廿五日「資子內親王、於昭陽舍有藤花宴」江家次第、十七、東宮御元服「太子自昭陽舍渡御休廬」征道事」

せうやく（ショウ-ヤク）（名）［硝藥］火藥。合藥。煙硝。「彈丸硝藥」

せうやく（ショウ-ヤク）（名）［抄譯］處處、拔キテ、翻譯スルコト。又、其譯文。

せうゆ（ショウ-ユ）（名）［招諭］マネキテ、サトスコト。三國志、魏志、劉放傳「放、善爲書檄、三祖詔命、有所招諭、多放所爲」

せうよう（ショウ-ヨウ）（名）［少用小用］（一）スコシノ用事。沈約文「經邦御遠、雖待大賢、撥鋒犯鏑、亦資小用」盛衰記、廿一、小坪合戰事「小次郎ハ、イササカ少用アリ、鎌倉ニ立寄タリ」（二）ユバリ。小便。（大用ニ對ス）東海道中膝栗毛（享和、一九）四編、上「私ガイツモ、竹ノ筒ヲ切ッテ上ゲマスカラ、ソレデお小用ナサレルガ良ウオザリマス」

せうらう（ショウ-ロウ）（名）［少老］若年寄（ワカドシヨリ）ノ一稱。老中ヲ、大老ト云フニ對ス。文昭院殿御實紀、十三、正德二年正月廿一日「少老、久世大和守重之、云云、日記ノ事、ツカサドルベシト仰付ラレ」

⁂**せうらか・しい**（ショウラ-カ・シイ）（形）〔語原、未詳〕取リアゲテ、云フベキモノナリ。ヨキモノナリ。狂言記、素袍落「お土產（ミヤ）ヲ上ゲマセウ、云云、私ノ事デ御座レバ、せうらかしい物デモ御座ラヌ」

せうらん（ショウ-ラン）（名）［照覽照覽］明ラカニ見ルコト。神佛ノ、見ソナハスコト。照鑑。易林、漢、焦贛「秋冬夜行、照覽星辰」盛衰記、一、五、山門奏狀事「陣ノ座ニ着テ、其定有ケレ共、實ニハ、七社權現ノ照覽モ測リガタク、富ニハ、三千衆徒ノ憤モ恐シクヤ思シケン」「天ノ照覽、神明ノ照覽」

せうらん（ショウ-ラン）（名）［笑覽］（一）ワラヒナガラ、見ルコト。（二）我ガ物ヲ、他人ノ見ルコトノ謙稱。

せうらん（ショウ-ラン）（名）［燋爛］燒ケ、タダルルコト。論衡、漢、王充「日者火也、鳥入火中燋爛」後漢書、劉陶傳「釜□魚、□灰之中、□□烈火之上、水木本魚鳥所生也、用之不時、必至燋爛」

ぜうらん（ジョウ-ラン）（名）［擾亂］入リミダルルコト。漢書、藩安國傳「梁王念太后帝在中、而諸侯擾亂、一言泣數行而下」太平記、十七、山門牒送南都事「吾山者、當王城之鬼門、爲神德之靈地、是以、保百王之寶祚、依一山之懇誠、鎭四夷之擾亂、唯任七社之擁護」「世ノ擾亂」

せうり（ショウ-リ）（名）［小吏］小役人。シタヅカサ。史記、李斯傳「年少時、爲郡小吏」

せうり（ショウ-リ）（名）［小利］僅カナル利益（マウケ）。大利ニ對ス。呂氏春秋「不去小利、則大利不得」

せうりう（ショウ-リュウ）（名）［笑留］せうなふ（笑納）ニ同ジ。

せうりん（ショウ-リン）（名）［照臨］明ラカニ照シ臨ムコト。又、神佛、天子ナドノ、見ソナハスコト。照覽。照鑑。書經、泰誓、下篇「若日月之照臨、光于四方」太平記、十七、山門牒送南都事「大將新田左中將義貞、度度ノ軍ニ、打チ殘

サレタル一族四十三人、引具シテ、先ヅ、皇居ヘ參ラセラル、主上、龍顏麗シク、群下ヲ照臨アリテ、今日ノ合戰、何時ヨリモ忠ヲ盡スベシト、仰下サレケレバ」

せうりやう（ショウリョウ）（名）［少領］だいりやう（大領）ノ條ヲ見ヨ。

せうりやく（ショウリャク）（名）［抄略｜抄掠｜鈔略］カスメ、取ルコト。カスメ、奪フコト。劫略、剽略。三國志、魏志、太祖紀、注「抄﹅略諸縣﹅」同、武帝紀、賊祭、輜重、惟以抄掠爲資」盛衰記、十四、興福寺返牒事「去年十一月、追﹅捕太上天皇之樓、抄﹅掠稀有之財貨﹅、押﹅流佐之身﹅、奪﹅取國﹅」後漢書、袁術傳「術在﹅南陽﹅、不﹅修﹅法度﹅、鈔略爲﹅資、百姓患﹅之」

せうりよ（ショウリョ）（名）［焦慮］思ヒヲ、焦スコト、氣ヲ揉ムコト。アセルコト。ヤキモキスルコト。焦志。焦思。心配。煩悶。溫庭筠、上﹅蔣侍郞﹅啓「勞﹅神焦﹅慮、消﹅日忘﹅年」

せうるゐ（ショウルイ）（名）［噍類］〔玉篇「噍、嚼也」漢書、高帝紀、注「噍、活而噍食者也」〕イキモノ。人畜。漢書、高帝紀「襄城無﹅噍類﹅」神武紀「投﹅其頭椎劍﹅、一時殺﹅虜、虜無﹅復噍類者﹅」舒明紀、五年九月「君臣總俘、略無﹅噍類﹅」

せうれい（ショウレイ）（名）［詔令］ミコトノリ。勅令。唐書、百官志、文書詔令、則中書舍人掌﹅之」

せうれう（ショウリョウ）（名）［蟭蟟］〔蟭、正音、てう、せうハ慣用音〕ミンミンゼミ。

せうれう（ショウリョウ）（名）［鷦鷯］サザキ。ミソサザイ。說苑（漢、劉向）「鷦鷯巢﹅於葦苕﹅、繫﹅之以﹅髮」鷦鷯、林に巢くふも、一枝に過ぎずト云フハ、足ルコトヲ知リテ、分限ニ安ンズルト云フ意。莊子、逍遙遊篇「鷦鷯巢﹅於深林﹅、不﹅過﹅一枝﹅、偃鼠飮﹅河、不﹅過﹅滿腹﹅」

せうれん（ショウレン）（名）［小斂］〔釋名、殮者、斂也、斂﹅屍﹅死也」〕支那ニテ、死者ニ、衣ヲ着スル禮。左傳、隱公元年「公不﹅與﹅小斂﹅、故不﹅書﹅日」

せうろ（ショウロ）（名）［樵路］樵夫（キコリ）ノ通路。樵徑。沈約詩「陳王鬪﹅雞道、安仁採﹅樵路﹅」謠曲、山姥「或時ハ、山賤ノ樵路ニ通フ花ノ陰、休ム重荷ニ肩ヲ借シ」

せうろく（ショウロク）（名）［抄錄］ヌキガキ。拔萃。南史、王筠傳「躬自抄錄、大小百餘卷」

せうろく（ショウロク）（名）［小祿｜少祿］小（スク）ナキ祿。唐書、吳競傳「家貧不﹅能﹅具﹅、武事、惟得少祿以資」說苑、臣術、晉平公問叔向曰、云云、卑得小祿、傍﹅比其歸﹅」「小祿ノ家」

せうわ（ショウワ）（名）［小話］簡單ナル談話。桯史（宋、岳珂）「□公受﹅扇立曰、某去則不﹅妨、然記﹅得一小話﹅」

せうわう（ショウオウ）（名）［小王］だいわう（大王）ノ條ヲ見ヨ。

せうゐ（ショウイ）（名）［少尉］陸海軍ノ士官、中尉ニ次グモノ。

せうゐ（ショウイ）（名）［招慰］招キテ、慰（ナグサ）ムルコト、後漢書、班超傳「烏孫大國、控﹅弦十萬﹅、故武帝、妻以﹅公主﹅、云云、今可﹅遣﹅使招慰、與共合﹅力」晉謂令、義解、凡國郡、以﹅戶口增益﹅、應﹅進﹅考者、若是招慰、注「謂、不﹅從﹅戶貫﹅而招慰得者」

せうゐ（ショウイ）（名）［小違］僅カナル差違（タガヒ）、小異。孫綽、喻道論「或曰、求﹅忠臣﹅必於﹅孝子之門﹅、明其□小違﹅於此﹅、而大□□於彼﹅矣」

せうゐん（ショウイン）（名）［小院］〔大院ニ對ス〕後宮ニテ、寵幸ヲ蒙リシモノノ居所。一二代實錄、七、貞觀九年正月三日「太上天皇御﹅□天皇□御薨賦□之時、□□□、令□居所、號曰﹅小院﹅、太上天皇所﹅□、□傳居□、□□其次﹅故也」

せうゐん（ショウイン）（名）［小韻］〔大韻ニ對ス〕詩作上ノ一法。下ノ出典ヲ見ヨ。詩體、詩髓、□安貞）ニ、「□□、大韻下ハ、其□□、押セル韻中ノ字ヲ、上九字ノ内ニ用ユル也、謂ヘバ十五、十日□□□韻、端字□□思、□、□、□、小韻下ハ、其韻ノ韻ニ押タルニハ有ネドモ、同韻中ノ字ヲ、二句十字ノ内ニ散在ス、□□、□□、□□□也、大韻、小韻共ニ、字ノ處ハ、皆□ズ」

せうゑん（ショウエン）（名）［小園］□□ト□ヘ園。小圃。杜甫詩「小園背﹅高閣﹅」

せえ（名）［彪䗞子］〔せノ韻ヲ引キタリ〕せ（石華）ノ條ヲ見ヨ。

ぜえたく（名）［贅澤］ぜいたく（贅澤）ノ轉。

ぜえろく（名）［贅六］ぜいろく（才六）ノ條ヲ見ヨ。

せ・お・ふ（セ・オ・ウ）・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［脊負］脊（セ）ニ、負（オ）ヒ持ツ。負（オ）フ。[illegible]「脊負、セオフ」狂言記、[illegible]

せかい（名）［世界］〔楞嚴經、四「世爲﹅遷流﹅、界爲﹅方位﹅」〕（一）世ノ中。世間。天ガ下。楞嚴經、四「東西南北、上下爲﹅界、過去未來現在爲﹅世」竹取物語[illegible]ヒケルハ、大伴ノ大納言ハ、龍ノ頸ノ玉トリテオハシタル」（二）地球ノ表面ニ、山海、動植ナドノ現存スル所。竹取物語「昔ノ契リアリケルニヨリナン、此ノ世界ニ罷デ來タリケル」榮花物語、十、日蔭鬘「唐鏡ナドヲゾ習セサセ給ヘル、此ノ世界ノ事トモ見エズ、[illegible]推シハカルベシ」（三）物ノ、一類、一群ノ中。[illegible]言ノ趣向。演藝ノ筋。「世界定メ」

せがい（名）［[illegible]］〔[illegible]〕ハ、狹絡ノ音便ナラムカ〕船ノ兩舷ニ[illegible]

サス所。アユミ。ソナバタ。ソナダナ。[illegible]ソスレトボケル處ニ」平家物語、十一、那須與一事[illegible]

せかいさう（セカイソウ）[illegible]［世界草］[illegible]ノ曲、[illegible]テ名トス」おきなぐさ（翁草）ノ[illegible]同[illegible]

せかいさだめ（名）［世界定］顏見セ狂言ノ脚本ヲ、相談シテ定ムルコト。[illegible]「世界定トイヘル事ハ、顏見セ狂言ノ趣向ナレバ[illegible]十二日ノ夜也、昔シ、寶永年中、[illegible]江戸ニ[illegible]ノ相談ノ始メシハ、九月十二日也、夫ヨリシテ、毎日ヲ吉例トシ、京攝ニテモ、當日ト成シ也、[illegible]作リノ作者、[illegible]元ヘ招キ、[illegible]ノ狂言、太平記、平家物語、伊勢[illegible]ノ趣ハ、述ルベシヤト、[illegible]事ナシ、見ア、[illegible]トナ得タルノアリ、謂リ也」

せかいさ[illegible]［[illegible]］ナドノ、刀身ノ背ニアタル處ツ、梅花皮作リニシタルモノ。[illegible]せかいら[illegible]

一尺二寸ノ背かいらぎ」長町女腹切（正德、近松作）上「小川通リノせかいらぎ」

せかいらげ （名）［背梅花皮］ 前條ノ語ノ訛。好色一代男（天和、西鶴）二「せかいらげノ長脇差」

せがき （名）［狹垣］〔間狹垣ノ略〕 間ノ狹キ垣。嘩、往來ヲ止ムル計リニ設クルモノ。

せがき （名）［施餓鬼］ 佛法ニ、法會ノ一、水陸一切ノ餓鬼ニ、飲食ヲ施シ、其功德ヲ以テ、先祖代代ノ追善ヲナシ、且ツ、施主ノ家運繁昌ヲ祈ルモノ。大悲、曾濟ノ方術ト云フ。船ニテ川上ニ行フヲ、川施餓鬼ト云フ。 釋氏要覽、施食有二二種一云云、無量威德自在光明（施餓鬼□也）」 成氏年中行事、七月「十五日ハ、曾長寺施餓鬼御聽聞、供奉如レ常」 親長卿記、文明三年十二月十四日、「□西堂參仕、有二施餓鬼、安禪寺方丈已下、比丘尼衆廿餘輩、同立□經、入レ夜、有二涅槃會一被レ行之」 武江年表、六、天明八年十二月、「寺院ニ命ジ給ヒ、淺間山燒、奧州飢饉、關東出水、京都大火、燒死、溺死、等、此頃ニ罹リシ者ノ爲ニ、施餓鬼ヲ修セシメラル」 江戸名所圖會、十八、回向院、明曆三年丁酉ノ春、大火ノ時、燒死ノ輩ノ冥魂追福ノタメ、每歲七月七日、大施餓鬼法會ヲ修行ス」

せがきぶね （名）［施餓鬼船］ 川施餓鬼ナドヲ行フ船。 浮世風呂（文化、三馬）四編、中「今チャア、舟ト云フ所ガ、二文デ、渡舟ニ乘ルバカリサ、兩國カラ、施餓鬼船ニデモ、乘ヤセウカ」

せか・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ （他動、下二）［急］ イソガス。急キ立タス。「仕事ヲせかす」

せかせか （副） 氣ノ、甚ダ急ク狀ニ云フ語。 史記抄（文明）十八、同、同四十三、商賈ノ樣ニハ無イホドニ、利モアリサウモ無ケレドモ、其贏得過當、せかせかト、世智辯ナル者ヨリハ、マシヂャゾ」 浮世風呂（文化、三馬）二編、下「お夜長ヲ仕舞ッテカラ気ジマスト、氣ガせかせか致シマスカラ、落チ着イテ流シテ居ラレマセン」

セカチ （名）［兒童］〔北海道ノ蝦夷語、Sekachi. 又、Seikachi. 或は、Heikachi. トモ云フ〕 子供。又ハ、若者。青年。

せがねのこぎり （名）［脊金鋸］ 折レ曲ルヲ防グ爲ニ、脊ノ方ニ鋼ノ附キタル、薄キ鋸。

せがは （名）［脊革］ 西洋綴ノ書籍ノ脊ニ貼ル革。「脊革天金ノ洋書」

せがはぼうし （名）［瀨川帽子］ 江戸時代、屋敷女中ノ被リシ、綿帽子ニ擬シタルモノ。セガハワタ。 歌舞妓故實（自笑）「瀨川帽子ト云フハ、先、瀨川菊之丞（女形）、享保十九寅年、中村座ニテ生肝ノ狂言ノ節、屋敷女中ノ風俗ニテ、切布ヨリ出デシ時、始メテ被レリ」

せがはわた （名）［瀨川綿］ 前條ニ同ジ。 賤者考（安永）「元文ノ頃マデハ、綿帽子、丸綿、舟綿、瀨川わた」 江戸名物識二、帽子屋ニ、瀨川わたトアリ。

せかひ （名）［狹匙］ 今、せっかひト云フ。其條ノ（一）ヲ見ヨ。

せがひ （名）［石華貝］ かめのて（石蜐）ノ一名。

せか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ （他動、下二）［塞敢］〔せきあふノ約〕 敢ヘテ、塞ク。強ヒテ、塞キ止ム。 萬葉集、七 三十寄レ河「長息セバ、人知リヌベミ、山川ノ、タギツ心ヲ、塞敢タルカモ」 續後紀、十九、嘉祥二年三月、長歌「年月ヲ、堰加倍トドメテ、過サズテ」

せがみた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ （他動、下二）［迫立］ 頻リニ、セガム。セビリニセビル。セメタツ。 博多小女郎波枕（享保、近松作）上「有難イお經、我等モ此ト、アヤカル樣ニ、其お經、授ケ下サレト、せがみ立テラレ、然ラバ、讀聞仕レト」

せが・む・ム・メ・マ・ミ・メ （他動、四）〔せせかむノ約、迫ク意〕 （一）責メ迫ル。強ヒテ乞フ。ネダル。セビル。セック。［督促］［強請］ 生玉心中（享保、近松作）上「親ノ契約、小サイ時カラ云名付、今日祝言、明日祝言トせがまルル、一理屈コネタノ」「子供ガ、玩具ヲせがむ」 （二）責ム。叱ル。 十訓抄、中、第七、廿七條、「況ヤ、我ガ使ハム人ノ、怪シカラム爲ニ、今、せがみサイナム事、イト見苦シカルベシ」

せがめ （名）［背龜］ 梯子乘ノ藝、二木ノ材ノ端ニ、背ヲ載セ、仰向ニナリテ、手足ヲ離ス技。

せがれ （名）［悴］〔痩枯ノ略、痩法師ノ意、亂世ニ、武勇ヲ貴ビショリ、己レガ子ヲ卑下シテ、憔悴ト云ヒシナリ。此語、屈原ノ漁父辭ニ、顏色憔悴、形容枯槁（古訓）トアルヨリ出ヅ。悴ノ字ヲ省キテ、悴ニ作リ、誤リテ、倅トナレリ。名義抄ニ、「穎、又、倅、カジク」ト見エタリ。又、別ニ、躮ノ字アリ、造字ナリ〕 （一）己レガ子ヲ謙リテ呼ブ語。豚兒。ヘヤズミ。 三河物語（大久保彥左衞門）上「せがれメコソ、氣チガヒニテ、君ヲバ、打チ奉リテ」 周禮、夏官篇、「遊倅」注「子之未レ仕者」 （二）人ヲ、罵リ呼ブ語。［豎子］ 武邊話、上、上杉謙信家老北條丹後守事「丹後守、馬ノ名人ニテ、乘切テ懸通ルヲ、一番草ニ伏タル萩田與三兵衞、起合トイヘドモ、丹後守、大ニ眼ヲ見出シ、推參成せがれメト罵テ、懸通ル」 室町殿日記、十八「主君ニハ馴レ參ラセテ、スデニ渴命ヲ失ヒ、乞食同前ノせがれドモ」 （三）陰莖ノ隱語。

せがゐ （名）［淸和井］〔堰之井ノ義、承和菊、和雜膾ナドト、同趣〕 （一）淸水ヲ堰キトメテ、汲ミ用キルコト。 （二）〔山城ノ水尾ノ淸水ノ稱、淸和天皇ノ御廟ノ井ナレバ、名アリ〕 神樂、杓「大原ヤ、淸和井ノ水ヲ、杓モテ、鳥ハ、鳴クトモ、遊ビテ行カン」

せき （名）［堰］〔堰塞ノ略〕 （一）水ヲ塞ク所。「せき口」 （二）轉ジテ、用水堀。

せき （名）［關］〔塞きノ義、或ハ、云フ、塞城ノ約、往來ヲ狹きニ導ク意〕 （一）境ニアリテ、出ヅルヲ察シ、入ルヲ禦グ所、セキノト。關門。關所。 孝德紀、大化二年正月、「國司、郡司、關塞、斥候、防人」 天武紀、上、元年六月「是夜半、鈴鹿關司、遣レ使奏言」 萬葉集、十八 廿七「燒太刀ヲ、礪波ノ勢伎ニ、明日ヨリハ、守部遣リ添ヘ、君ヲトドメム」 天治字鏡、九八「國、關、世支」 字類抄「剗、セキ」 （二）轉ジテ、物事ノ、侵シカヌルコト。「心ノせき」人目ノせき」

せき （名）［關］〔最終全勝ヨリ云フ語ニテ、關門ニ比シテ、此處ノ止リヲ、超ユベカラズ、勝チ得ザル意〕 （一）昔シノ相撲（武士ナリ）ノ取方ハ、勝カガリナリシカバ、最後マデ全勝セル者ノ稱。關門トナリテ、押シ倒サレズ、通ルコト能ハズ、勝チ超エラレヌ意ナリ。全勝セルヲ、關を取る（關取ノ名モ、コレヨリ起ル）ト稱シ、其日ノ相撲ノ最終ノ全勝ニ、行司、出デテ、何某ハ、今日ノ關ナリト、名乘ヲ揚ゲタルナリ。後、轉ジテ、大關、關脇ナド、一人ノ定稱トナル。 義殘後覺（文祿）五、內野七本松ノ勸進ノ寄相撲「或日、立石（勸進方、力士、取手）、關ニテ出ル時、行事、申シケルハ、御芝居（見物場）ニ、相撲（相手）ハ、無キ申候哉、若シ、御望ノ方御座候ハバ、只今御出デ候へ、左アラズハ、名乘リ申候ト呼ハリケレバ、（此間ニ、熊野邊ノ比丘尼トテ、奇怪ナル者、飛ビ入リ、勸進方ヲ悉ク取ッテ負カシタリ）云云、斯クテ、相撲ハ、此ノ比丘尼ニ關ヲ取ラレケレバ、芝居ハ、則、退散ス」 （二）相撲

力士ノ、最モ優レタル者ノ稱。(其上ニ、横綱ハ、アリ)古ヘニ云ヘル、最手ナリ。又、大關、關取ナドトモ云フ。

せき (名) 〔塞ノ義カ〕 圍碁ノ語。黑、白、相、圍ミテ、中ニ、若干ノ目アレドモ、先ニ石ヲ下スハ、負クル手トナリテ、彼、我、共ニ、捨キテ、有トセザルモノ。持 左傳、昭公元年、傳、註「[illegible]不」能」相害、[illegible]」持」(我ガ邦ニテ、持ト云フハ、もちノ音讀ナリ) 藝文類聚、七十四、工藝部、碁勢ト云フ書ヲ引キテ「持碁、相守莫」敢先動」」

せき (名) 咳 (一)咳クコト。外ヨリ、氣管ヲ侵スモノアルトキ、コレヲ塞キ止メムト、聲ヲ立テテ氣息ヲナス、肺ノ作用。シハブキ。コワセリ。セキバラヒ。謦欬 (二)病ニテ起ルハ、氣道ニ、病ム所アリ、絶エズ、呼氣、激動シテ、聲ヲ成ス。但シ、痰ヲ吐クアリ、吐カヌアリ。咳嗽 (正字通「古書、無」嗽有」欬、[illegible]、無」嗽有」欬、[illegible]」) 咳の、高きト云フハ、自負スルト云フ意。禮記、曲禮、上篇「車上不」廣欬」」鄭注「爲」若」自矜」」疏「欬、聲也」」

せき (名) 夕 枡目ノ名。しゃく(勺)ノ條ヲ見ヨ。

せき (名) 尺 しゃく(尺)ノ條ヲ見ヨ。

せき (名) 舃 くつ(沓)ニ同ジ。後漢書、王喬傳「候」鳧至」擧」羅張」之、但得」一隻舃」焉」

せき (名) 席 (一)ムシロ。坐スニ敷ク具。ござ、ふとん、椅子、スベテ云フ。詩經、大雅、生民之什、行葦篇「肆」筵設」席、授」几有」緝御」」 史記、賈生傳「文帝前」席」「席ヲ進ム」席ヲ起ツ」 席、暖かなるに暇あらずト云フハ、落着キテ、一所ニ居ラザルノ意。韓愈、諍臣論「孔席不」暇」暖」 (二)座敷、部屋、室

「席上」同席」 (三)人寄席ノ略。(東京)

せき (名) 積 數學ノ語。(一)二箇以上ノ數ヲ、掛ケ合ハセテ得ル所ノ値。(二)面積、又ハ、容積。

せき (名) 蹟 こせき(古蹟)ノ略。孟子、[illegible]、下篇「[illegible]」「蹟ヲ送ル」

せき (接尾) 隻 〔說文「隻、鳥一枚也」〕 (一)對ナル物ノ、片方ヲ數フル語。後漢書、王喬傳「得」一隻舃」」「隻履一隻」 (二)魚、鳥、舟、ナドヲ數フル語。 [illegible]「[illegible]一隻[illegible]」 大藏職式、上「[illegible]一隻」 [illegible]資財帳「[illegible]一隻」

せき-あう (名) 積殃 殃ヲ、積ムコト。列女傳(漢、劉向)「[illegible]」

せき-あく (名) 積惡 せきぜん(積善)ノ條ヲ見ヨ。積不善。潛夫論(漢、王符)「積」惡不」休、必致」桀紂之名」」

せき-あ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (自動、下二) 咳上 コミアグ。源、四、夕顏「ツラクヤ思ハントト、云云、オボスニ、御胸せきあぐる心地シ給フ」 同、九、葵「折折ハ、胸ヲせきあげツツ、イミジウ堪ヘ難ゲニ、惑フワザヲシ給ヘバ」

せき-あ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) 塞上 塞リ止メテ、流ス。塞キ止メテ、流レシメズ。古事記、上「塞」逆天安河之水」」 萬葉集、八「佐保川ノ、水ヲ塞上ゲテ、植エシ田ヲ、刈ル初飯ハ、獨ナルベシ」

せき-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 塞合 コミアフ。セリアフ。オシアフ。平治物語、一、主上六波羅行幸事「我先ニト參リケレバ、六波羅ノ門前ニハ、馬車ノ立所モナク、せき合ひタルニ、色節ノ下部、酔ヒタル兵、相、交リア」

せき-あ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 塞敢 塞キトメテ、拒フ。約メテ、せかふ。萬葉集、十一「[illegible]ニ出デテ、云ハバ忌忌シミ、山川ノ、タギツ心ヲ、塞敢テケリ」 千載集、十四、戀、四「水茎ハ、コレヲ限リト、カキ集メテ、せきあへヌモノハ、涙ナリケリ」

せき-いう (名) 積鬱 [illegible] モリタル歎キ、積鬱。[illegible]

せき-いう (名) 石油 〔石ヨリ得ル油ノ意〕 せきたんゆ(石炭油)ニ同ジ。

せき-いた (名) 關板 〔塞板ノ義カ〕 板屋根ヲ葺クニ、常ノ一間板ノ如キヲ、羽重ネニ重ネテ、横ニ、[illegible]ノ、又、横、竪ニ竹ヲ打チツケ、石ナド載セオクアリ。板屋ノ、最モ麁ナルモノナリ。[illegible] 事兄弟寄合事「常ノ法ニハ、四品以下ノ平侍ナドハ、關板打タヌ舒葺ノ家ニダニ、居ヌ事ニテコソアルニ」 [illegible] 未ダ騒ゲザリケリ、せき板ヲ、ガバト踏ミハナシ、飛ンデ出デ」 幸若舞曲、夜討「天井ニアガリ、破風、せきいたヲ蹴破ッテ、家ノ棟ニツットアガリ」

せき-いた (名) 堰板 [illegible] 混凝土ヲ圍ヒ、又ハ支ヘナドスル板。

せき-い・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 咳入 [illegible]

せき-い・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) 堰入 水ヲ塞キテ、他ヘ導キ入ル。後拾遺集、十八、雜、四「せき入るる、名コソ流レテ、止マルトモ、タエズ見ルベキ、瀧ノ糸カハ」 拾遺集、八、雜、上「[illegible]川、せき入レ[illegible]ノ、見エモスルカナ」

せき-いん (名) 石印 石ニ刻リタル印。木印、金印ナドニ對ス。好古小録、下「玉印、銅印、木印、竹根印、牙印、[illegible]、水晶ハ、[illegible]、作セズ、陶、凍石印、[illegible]火ニ逢フトイヘドモ、形、作シテ、用ユベシ」

せき-う (名) 積雨 毎日、降リツヅク雨。霖雨。[illegible]

せき-うつ [illegible]

せき-うん (名) 積雲 上部ハ、むくむくトシテ、白キ綿ノ如クニ、盛リ上ガル雲。多ク夏ニアラハルルモノナリ。綿雲。[illegible]

せき-えい (名) 石英 [illegible] すゐしゃう(水晶)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

せき-えい (名) 隻影 タダ一ツノカゲ。[illegible]

せき-えき [illegible]

せき-えふ (名) 腊葉 〔俗ニ、さくえふト〕 オシバ(押葉)。

せき-おくり (名) 關送 (一)昔、旅立ツ人ヲ、京ヨリ、近江國、逢坂ノ關マデ、送リ行キシコト。(二)[illegible]

せき-か (名) 石火 石ノ、觸レ出ス火。[illegible]

せきかい（セツ-カイ）(名) [石階] いしだん（石段）ニ同ジ。白居易詩「石階桂柱竹編牆」

せきかう（セツ-コウ）(名) [石矼・石杠] 〔孟子、離婁、下篇、疏「矼、石橋也、俗作杠」爾雅、釋宮篇、注「石杠、聚石水中以爲步渡橋也」〕水中ニ、石ヲ集メテ、渡ルヤウニナシタルモノ。イシバシ。トビイシ。皮日休詩「上戍看鍾絶、登村度石矼」

せきかう（セツ-コウ）(名) [石膏] 硫酸鑛屬ノ鑛物。藥用、其他ノ用トス。色、白クシテ、微シ油色ヲ帶ビ、芒紋アリ、碎ケバ、白シ。極軟ニ碎ケ易キヲ軟石膏（寒水石）ト云ヒ、稍、眞トス、又、堅キヲ硬石膏ト云フ。相模、陸中、陸奧ナドニ產ズ。「石膏細工」

せきがき (名) [席書] （一）手習フ生徒ノ、特ニ寄合ヒテ、其席上ニテ、字ヲ書クコト。（二）書畫會ノ席上ニテ、書、或ハ、畫ヲ書クコト。

せきかく (名) [刺客] 〔刺ハ、唐韻「七迹切、音磧」增韻「刃レ之也」〕 しかく（刺客）ノ條ヲ見ヨ。

せきがく (名) [積學] 學問ノ功績ヲ、積ムコト。又、其人。後漢書、梁辛子妻傳「夫積レ學、當ニ日知、其所ヲ亡、以就ニ懿德ニ」

せきがく (名) [碩學] 〔碩ハ、大ナリ〕（一）學問ノ、博クシテ、至リ深キコト。大學者。博學。鴻儒。後漢書、儒林傳、論「夫書理集二、義、歸有ニ宗、而碩學之徒、莫ニ之或從、故通人鄙ニ其固ニ焉」（二）京都五山ノ僧官。續三十輯二六、蔭凉軒日錄「以蔭凉軒中僕ハ、京都五山之碩學之出家兩人宛撰ニ而 朝鮮國使僧之傍ニ有レ之候寺ニ而御座候」又「以酊庵ハ、對州ニコレ有ル、京都五山ノ碩學（僧官名）ノ僧ノ、詰ル役所也」

せきがくりやう（セキガク-リヨウ）(名) [碩學領] 碩學、卽チ、五山ノ僧ニ賜ヒタル領地。前條ノ（二）ヲ見ヨ。以酊庵奏議「神祖、不學ノ僧ノ、寺領多クシテ、碩學ノ僧ノ、貧窮ナラム事、然ルベカラズ、サラバ、其不學ノ僧ノ寺領ヲ削リテ、其領ヲ以テ、碩學ノ僧ニ與フベシト仰アリシヨリ、始メテ、五岳ノ碩學領ト云フ事ハ出來テ、今モ學才ノ聞エアル者ドモ撰ビテ、彼碩學領ヲ賜フ事ニハナリタリ」

せきがくれう（セキガク-リヨウ）(名) [碩學料] 五山ノ碩學ノ僧ニ給スル扶持料。續二十輯二二「天和二年來聘（朝鮮人）御用ニ付、碩學ハ、天龍寺ヨリ一人、東福寺ヨリ一人被ニ候由、是ヲ、五山總錄所、金地院ニテ吟味有レ之候、碩學料ハ、八百俵出申候事之由、及レ承候」

せきかぜ (名) [關風] 關所ノ邊ヲ吹ク風。夫木抄、十三「逢坂ヤ、山立出ヅル、望月ノ、駒吹キ送ル、夜半ノせき風」

せきがち (名) [席勝] 相撲ナド、見物スル素人ノ、□レガ席ノ、例ヘバ、東方ニアレバ、東方ヲ勝タセムトスル呼稱。

せきかん（セツ-カン）(名) [石澗] 巖石ノアル谷川。江總詩「石澗水流靜、山窗葉去寒」

せきがん (名) [石龕] 〔廣韻「龕、塔下室」〕せきたふ（石塔）ノ（一）ニ同ジ。戴叔倫詩「石龕苔蘚積、香徑白雲深」

せきかんたう（セキ-カン-トウ）(名) [石敢當] せっかんたうトモ讀ムト云フ。九州邊ニテ、橋、又ハ、路ノ要衝（ツキアタリ）、又ハ、人家正門ノ處ナドニ、小石碑ヲ立テテ刻付クル語。向フ所、敵ナキ意ニテ、厭勝（マジナヒ）ナリト云フ。（柳田國男ハ、石敢當石ハ、はかり石ヲ云フ、コレ、信仰上ヨリ起リシモノニテ、祈願有ル者ノ、兩手ニテ石ヲ持チ上ゲ、重サ、輕サノ感ジニ由リテ、心中ノ所念ノ、叶フカ否カヲトスル爲ニ用キラルルモノニテ、石占ノ具トス、ト云ハレタリ）姓源珠璣「五代劉智遠、爲ニ晉祖押衙ニ、漢王從珂反、愍帝出奔、遇ニ于衛州ニ、智遠遣ニ力士石敢當ニ、袖レ鐵挫ニ侍、晉祖與ニ愍帝ニ議レ事、智遠擁入、石敢當格鬪而死、智遠盡殺ニ帝左右ニ、因幽ニ帝于傳國寶ニ、石敢當生平、遇ニ凶化ニ吉、禦ニ侮防ニ危、故後人、凡橋路衝要之處、必以ニ石刻ニ其形ニ、書ニ其姓字ニ、以捍ニ民居ニ、或曰以 詩曰、甲胄當年一武臣、鎮ニ安天下ニ護ニ居民ニ、捍衞道路三叉口、埋沒泥塗百戰身、銅柱承陪閑ニ紫塞ニ、玉關守禦老ニ紅塵ニ、英雄來往休ニ相問ニ、見盡英雄來往人」（桂林漫錄）王象之、輿地碑記「慶曆中、張緯宰ニ莆田ニ新江沼ニ、得ニ一石銘ニ、其文云、石敢當、鎮ニ百鬼ニ、壓ニ災殃ニ、官吏福、百姓康、風敎盛、禮樂張、唐大曆五年、縣令鄭押字記、今人家用ニ碑石ニ、書曰ニ石敢當ニ三字ニ、鎮ニ于門ニ、蓋此風之所ニ流傳ニ云」

せきき（セツ-キ）(名) [夕暉] せきやう（夕陽）ニ同ジ。王維詩「寂寞掩ニ柴扉ニ、蒼茫對ニ夕暉ニ」

せきき（セツ-キ）(名) [隻騎] タダ一人ノ騎兵。單騎。徐陵、爲ニ王質ニ移文「孤旌不レ反、隻騎無レ還」

せきき（セツ-キ）(名) [炻器] 〔炻ハ、火石ノ合字〕燒物（ヤキモノ）ノ一。素地ハ燒締マリテ、水ヲ吸收セズ、不透明ニテ有色ナリ。普通ハ釉ヲ施サズ。萬古燒、伊部（インベ）燒、相馬燒ノ類。

せきき（セツ-キ）(名) [石器] イシノウツハ。石ニテ作リタル器具。鐵製ノ方法ヲ知ラザリシ、未開ノ原住民ノ、石ノミニテ、諸ノ器ヲ作リテアリシ遺物ノ、今、諸處ヨリ掘出サルルモノノ總稱。石斧、石鏃、石棒ノ類。

せききやう（セツ-キヨウ）(名) [石經] 石ニ刻シタル經文。宗像軍記、宗像大宮司氏仲事「石佛ヲ、神社ノ傍ニ安置セリ、云云、其表ニハ、無量壽佛ノ尊像ヲ彫付タリ、裏ニハ、彌陀經全部ヲ彫付タリ」古京遺文、

宇治河岸浮圖偉、大般若經、一…、…行…、是生…、法、生滅已、寂…、…如…、…、…永…、於…、在…佛所、…、…若有…、…常…、…、…德…、說…一偈、其身於…、…」

せききやく（セツ-キヤク）(名) [赤脚] 露（アラハ）ニ出シタル脚（アシ）。スアシ。杜甫詩、南望…、…、安得ニ赤脚踏ニ層氷ニ」

せききよ (名) [赤魚] エヒ（上海ニテ）

せききよく（セツ-キヨク）(名) [積極] 〔英語、Positive ノ譯語、消極ハ、Negative ノ譯語〕（一）電氣ニ云フ語、コレニ反對ナルヲ消極（セウキヨク）ト云フ。陰陽ト云ハムガ如シ。（二）事ノ、肯定的、能動的ナルコト。コレニ反對ナルヲ、消極ト云フ。「積極主義、積極的」

せききよくしゆぎ（セツキヨク-シユギ）(名) [積極主義] 進ミテ事ヲ行ハムトスル主義。卽チ、向上、發展ヲ旨トスルモノ。コレニ反スルヲ、消極主義ト云フ。

せききよくてき（セツキヨク-テキ）(名) [積極的] 進ミテ事ヲナスコトニ云フ語。コレニ反スルヲ、消極的ト云フ。

せきぐち (名) [關口] 堰（ヰセキ）ノ水ノ、流レ出ヅル處。

せきくつ（セツ-クツ）(名) [石窟] イハヤ。岩窟。晉書、郭璃傳「隱ニ於臨松薤谷ニ、鑿ニ石窟ニ而居」佛國記（釋法顯）「新城山有ニ石窟ニ、南向、佛本于レ此坐禪」

せきくわ（セツ-カ）(名) [石火] （一）燧石ナド、スベテ、石ヨリ出ヅル火。宋書、五行志、四十五、火…、…事「大師手自ラ、石火ヲ敲キ出シテ、炬シ給ヘル一燈ハ」（二）轉ジテ、極メテ短キ時間、又ハ、

極メテ疾キ動作ニ譬ヘテ云フ語。 新論「人之稟生、倏如石火爛然其過」 白居易、對酒詩「蝸牛角上爭何事、石火光中寄此身」 太平記、廿七、上杉畠山流罪死刑事「火打ガ城ヲ見上グレバ、蝸牛ノ角ノ上、三千界、石火ノ光ノ中、一刹那」「電光石火ノ如シ」

セツクヮイ
せき-くゎい (名) 石灰 (一)イシバヒ。 後漢書、楊震傳「以石灰於車上、繫布絮於馬尾」 (二)シックイ。

セツクヮイシツ
せき-くゎい-しつ (名) 石灰質 石灰ヲ主要成分トスル物質、卵ノ殼ナドノ如シ。

セツクヮイセキ
せき-くゎい-せき (名) 石灰石 イシバヒイシ。いしばひ(石灰)ノ條ヲ見ヨ。

セツクヮサイ
せき-くゎ-さい (名) 石花菜 トコロテングサ。

セツクヮン
せき-くゎん (名) 石棺 イシキ。石ニテ造リタル棺(ヒツギ)、イハキ。 荊州記「晉、盛弘之」「峽上有三石棺、色暴如漆鑑」 新撰姓氏錄、左京神別「石作連、火明命六世孫、建眞利根命之後也、垂仁天皇御世、奉爲皇后日葉酢媛命、作石棺、獻之、仍賜姓石作連公也」

セツクヮン
せき-くゎん (名) 席卷 席ヲ卷ク如クニ、容易ニ、敵地ヲ攻メ取ルコト。セキケン。 史記、淮陰侯傳「…天下ニ」 賈誼、過秦論「席卷天下、包擧宇內」

セツケイ
せき-けい (名) 石逕 岩石ノ、アル小路(コミチ)。 杜牧詩「遠上寒山石逕斜、白雲生處有人家」

セツケイ
せき-けい (名) 石經 支那ニテ、經書ノ文字ヲ校正シテ、碑ニ彫リタルモノ。 後漢書、蔡邕傳注「大學、在…」 …云云、堂…石經正書、本傳」

セツケツ
せき-けつ (名) 石碣 石ノタテブミ。水經注「有涌玉之碣、…石碣猶存」

セツケツメイ
せき-けつ-めい (名) 石決明 あはびのかひ(石決明)ノ條ヲ見ヨ。

セツケン
せき-けん (名) 石鹼 シャボン。 本草「石鹼、…」 [illegible]「…香具、石鹼」

セツケン
せき-けん (名) 席卷 せきくゎん(席卷)ニ同ジ。

セツケン
せき-けん (名) 赤縣 (一)京都ノ異名。 平家物語、十二、大地震事「大地震シク動テ、良久シ、赤縣ノ中、白河ノ邊、六勝寺、皆、破レ壞ル」 (二)赤縣神州トハ、支那ノ異名。略シテ、赤縣トノミモ云フ。 史記、孟軻傳「中國名曰赤縣神州、赤縣神州內、自有九州」 晉書、孝武…「神州赤縣、成…被髮之鄉」

せき-けん (名) 斥言 指ザシ、言フコト。 左傳、僖公六年、杜注「自文至高、順皆不敢斥言」

セツケンシンシウ
せき-けん-しんしう (名) 赤縣神州 前前條ノ(二)ヲ見ヨ。

セツコウ
せき-こう (名) 斥候 (斥モ、候モ、うかがふノ意)ウカミ。モノミ。軍隊ヨリ、兵士ヲ、敵地ニ遣ハシテ、竊カニ其動靜ヲ窺ハシムルコト。又、其モノ。 左傳、襄公十一年「納斥候、禁侵掠」 六韜、虎韜、必出篇「斥候常戒」 太平記、三十四、新將軍南方進發事「…入道性貞、…大勢ニ打チ散リテ、斥候ノ備ヲ全ウシ」

セツコウ
せき-こう (名) 石工 石細工ヲ業トスル人。イシク。イシヤ。イシキリ。 禮記、曲禮、下篇「天子之六工、曰土工、金工、石工、木工…草工」

セツコク
せき-こく (名) 石斛 古名、スクナヒコノクスネ。イハグスリ。イハドクサ。草ノ名、山中ノ岩石ニ生ズ、莖ノ長サ三四寸、叢生ス、木賊ニ似テ、細ソク、黄緑色ナリ、節ノ間、一寸許アリ、節毎ニ、一葉ヲ生ズ、竹ノ葉ニ似テ、小サク厚シ、光アリ、夏、節ノ下ニ、二白花、並ビ生ズ、紫蘭(シラン)ノ花ニ似タリ、實ハ、蘭ニ似テ、小サシ。 本草「石斛、…小草、長三四寸、…」 字鏡「石斛、…」

セツコク
せき-こく (名) 石刻 石ニ、刻リキザミタルモノ。 [illegible]「…」 八百…」

セツコツ
せき-こつ (名) 脊骨 セボネ。 北史…傳「…有二魚、脊骨有孔、中通…出入」

セツコム
せき-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 急込 強ク急グ。セコム。セックク。セグム。 [illegible]

せき-さい (名) 釋菜 しゃくてん(釋奠)ノ條ヲ見ヨ。 禮記、文王世子… [illegible]

せき-ざい (名) 石材 建築ナドノ材料トスル石。木材ナドニ對ス。 [illegible]

セキザウ
せき-ざう (名) 石造 イシヅクリ。木造ナドニ對ス。

セキザウ
せき-ざう (名) 石像 石ニ彫刻シタル像。木像、銅像ナドニ對ス。 [illegible]

せき-さん (名) [illegible]

せき-さん (名) [illegible] コト。 [illegible]

せき-し (名) 赤子 アカゴ。チゴ。チノミゴ。 [illegible]

せき-し (名) 席次 [illegible] 同ジ。「席次ヲ爭フ」

セキシュウ
せき-しう (名) [illegible] コト。又、[illegible] コト。 [illegible]

セキシウアフギ
せき-しう-あふぎ (名) 石州扇 [illegible] 片桐石見守貞昌ノ案ナルベシト云フ [illegible]

セキシウリウ
せき-しう-りう (名) 石州流 (一)茶湯ノ一流ノ名。片桐石見守貞昌(宗關ト號ス)ヲ流祖トス。 [illegible] (二)生花ノ一流ノ名。(片桐石州ノ名ヲ假ル) [illegible]

せき-しう-がみ (名) [illegible]

せき-しつ (名) 石室 石作リノ室 [illegible]

せき-じつ (名) [illegible] ルコト。 [illegible]

輯目、不レ得ニ暇食一」

せき-しふ (名) 【積習】 久シキ、ナラハシ。古クヨリノ習慣。宿習。唐書、王叔宗傳「鄙夫有レ所レ上書、特由ニ水習之積習一耳」

せき-じふじ-しや (名) 【赤十字社】 博愛、同仁ノ趣意ニヨリテ、敵、味方交戰中ト雖モ、病院ノミハ、中立ト見做シ、互ニ、傷病者ヲ救護スベキ條約ニ基キテ、設立シタル世界的組織ノ社團。陸海軍大臣ノ監督ニ屬ス。現今、文明諸國、概ネ此社團アリ、皆、赤色ノ十字ヲ徽章トス。

せき-しん (名) 【赤心】 アカキココロ。マゴコロ。丹心。後漢書、光武帝紀「蕭王推ニ赤心一置ニ人腹中一、安得レ不レ投レ死乎」注「投死、言レ致レ死」

せき-じん (名) 【籍甚】 相、語リ傳ヘテ、評判ノ高キコト。盛ンニ、噂セラルルコト。漢書、陸賈傳「遊ニ漢廷公卿閒一、名聲籍甚」注「名聲甚盛也」王儉、褚彥回碑文「光ニ昭諸侯一、風流籍甚」

せき-しや (名) 【昔者】 (一)イニシヘ。ムカシ。以前。曩者。論語、泰伯篇「昔者吾友、嘗從ニ事於斯一矣」 (二)キノフ。昨日。孟子、公孫丑、下篇「昔者辭以レ病、今日弔、或不可乎」

せき-しやう (名) 【石菖】 〔石菖蒲ノ略〕古名、イシアヤメ。草ノ名、水邊ノ石上ニ多ク、一根ニ叢生ス、採リテ鉢ニ移シ、靑葉ヲ愛ス、種類、多シ。葉、細ソクシテ、中、厚ク、兩邊、薄シ、深綠ニシテ、冬、枯レズ、春ノ末、莖ヲ出シ、穗ヲ生ズ、長サ二寸、形、筆頭菜ノ如ク、細ソク堅クシテ、綠ナリ、大ナルハ八九寸、小サキハ三四寸、根ニ節多シ、藥用トス。最モ小サキヲ、びろおど石菖ト云フ。本草「石菖生ニ水石閒一」

せき-じやう (名) 【席上】 (一)集會ノ場。席上。禮記、儒行篇「儒有ニ席上之珍一以待レ聘」 (二)詩文ノ題ノ、會ノ席ニテ出スモノ。(宿題ニ對ス) 陸龜蒙、採ニ藥賦一「席上詩成」

せき-しゆ (名) 【赤手】 素手。カラテ。徒手。空拳。蘇軾詩「當年老使君、赤手降ニ於菟一」

せき-しゆ (名) 【隻手】 カタテ。一手。吳萊詩「一心不レ顧レ死、隻手捩ニ長烟一」

せき-じふ (名) 【積習】 せきしふ(積習)ニ同ジ。太平記、廿三、土岐頼遠參ニ合御幸一致ニ狼藉一事「左兵衛督、是程ノ大逆ヲ、緩ク閣カバ、向後ノ積習タルベシ」

せき-じゆ (名) 【碩儒】 博學ナル學者。大儒。碩學。後漢書、荀爽傳「十餘年以ニ著述一爲レ事、遂稱爲ニ碩儒一」

せき-じう (名) 【石絨】 イシワタ。石綿。いしわた(石綿)ノ條ヲ併セ見ヨ。元史、阿哈瑪傳「布格齊山出ニ石絨一、織爲レ布、火不レ能レ然」

せき-じゆぎよ (名) 【石首魚】 イシモチ。

せき-じゆん (名) 【席順】 座ノ次第。席次。班次。「席順ヲ爭フ」

せき-しよ (名) 【關所】 關ノアル所。關。太平記、廿五、自ニ伊勢一進ニ寶劍一事「園城阿闍梨、次第ヲ經ズ、直任ノ僧都ニナサレ、河内國、葛葉ノ關所ヲ、恩賞ニゾ下サレケル」新編相模國風土記稿、廿七「箱根御關所、宿(箱根)ノ東方ニ在リ、世世、小田原領主ノ預リ」

せき-じよう-し (名) 【赤繩子】 夫婦ノ緣ヲ結ブ赤キ繩ヲ持テリト云フ人。月下氷人。(下ノ出典ヲ見ヨ) 續幽怪錄(唐、李復言)「唐韋固、少未レ娶、旅ニ次宋城一、遇ニ異人一、倚レ囊坐、向ニ月下一檢レ書、固問、答曰、天下之婚牘、因問ニ囊中赤繩子一、云、此以繫ニ夫妻之足一、雖ニ仇家異域一、繩一繫レ之、終不レ可レ易」

せき-しよう-にゆう (名) 【石鍾乳】【石鐘乳】 ツララ石。イシノチ。鍾乳石。唐書、高季輔傳「帝賜ニ鍾乳一劑一曰、而進ニ藥石之言一、朕以ニ藥石一相報」桂海虞衡志(宋、范成大)「桂林宜山山洞穴中、凡石脈涌處、爲ニ乳牀一、凝結下垂、其端輕薄中空、水乳且滴、且凝、如ニ蟬翼一者勝」

せき-しよ-てがた (名) 【關所手形】 一ニ、通リ手形ト云フ。江戸時代、關所通行人ノ身分、容體、所用、物品、等ヲ明記シ、コレニ、身元引請人、又ハ、主人、頭支配、等ノ直判ヲ押セル證文ナリ。大抵、一箇月ヲ以テ、通用期限トス。柳營秘鑑、四「關所手形之内、相改覺」同「關所手形、可ニ書載一覺」

せき-しよ-やぶり (名) 【關所破】 關所ヲ欺キテ過ギ、或ハ、間道ナドヲ廻リテ過グルコト。重罪トセリ。斬關。享保度法律類寄、捉書「一、關所破、當人ハ磔、手引、關合候者、獄門、女ハ、品ニヨルベシ」同「寛保二年極、關所破、享保六年極、關所破、右之分、死骸、鹽詰之上、御仕置、此外ハ、不レ及ニ鹽詰一事」

セキスタント (名) 【六分圓儀】 〔蘭語、英語、Sextant.〕 きやうげんぎ(象限儀)ノ條ヲ見ヨ。

せき-すん (名) 【尺寸】 しやくすん(尺寸)ニ同ジ。史記、韓信傳「數戰、無ニ尺寸之功一」太平記、十一、正成參ニ兵庫一事「君ノ聖文神武ノ德ニ依ラズンバ、微臣イカデカ、尺寸ノ謀ヲ以テ、强敵ノ圍ヲ出ヅベク候ヤト、功ヲ辭シテ、謙下ス」「尺寸ノ地」

せき-すい (名) 【尺水】 僅カナル水。小水。李白詩「潛虯隱ニ尺水一、著論談ニ興亡一」

せき-すい (名) 【積翠】 (一)積ミ重ナリタル、みどり。靑山、碧海ナドノ、形容ニ云フ語。錢起詩「積翠全低レ嶺、虛明半出レ林」 (二)松ノ異稱。

せき-ずゐ (名) 【脊髓】 せぼね(脊骨)ノ條ヲ見ヨ。

せき-せい (名) 【赤誠】 少シモ僞リノ無キマコト。マゴコロ。丹誠。丹心。[illegible]

せき-せう (名) 【夕照】 ユフバエ。ユフヤケ。ユフヒカゲ。夕暉。李嶠、晩秋喜レ雨詩「氣滌ニ朝川一朗、光澄ニ夕照一浮」狂言記、鱸庖丁「魚ハ悅ビ、夕照ノ影ニ遊ビ隱レ」

せき-せき (副) 【寂寂】 物サビシキ狀ニ云フ語。寂然。寂寞。劉禹錫詩「月露滿ニ庭人寂寂一、霜霰一曲在ニ高樓一」盛衰記、十一、有王俊寬問答事「次第ニ弱リテ、云フ事モ聞エズ、息、止マリ、眼、閉チニケリ、寂寂たる臥戸ニ、山、泉ニ咽ベドモ、巴峽、秋、深ケレバ、猿ノ聲ノミ叫ビケリ」

せき-せき (副) 【戚戚】 (一)親シム狀ニ云フ語。詩經、大雅、生民之什、行葦篇「戚戚兄弟、莫ニ遠具爾一、或肆ニ之筵一、或授ニ之几一」 (二)憂ヘ、懼ルル狀ニ云フ語。論語、述而篇「小人長戚戚」韓愈、上ニ于襄陽一書「高材多ニ戚戚之窮一」

せき-せき (副) 【籍籍】 (一)言語ノ、囂シキ狀ニ云フ語。漢書、江都易王傳「國中口語籍籍」 (二)事物ノ、亂ルル狀ニ云フ語。漢書、劉屈氂傳「事籍籍如レ此、何謂レ祕也」

せき-せつ (名) 【積雪】 降リツモリタルゆき。劉歆、遂初賦「漂ニ積雪之皚皚一兮、涉ニ凝露之降霜一」

せき-せつ-さう (名) 【積雪草】 (一)かきどほし(垣通)ノ(一)ノ漢名。(二)つぼくさ(壺草)ノ漢名。

せき-せん (名) 【關錢】 せきて(關手)ニ同ジ。信長公記、二、永祿十二年十月四日「當國(伊勢)之諸關、取分、往還旅人之爲レ惱之間、於ニ末代一御免除之上、向後、關錢不レ可ニ召置一之旨、堅被ニ仰付一」

せき-ぜん (名) [責善] 善ヲ、責ムルコト、善キ行ヒヲ勸ムルコト。 孟子、離婁、下篇「責善朋友之道也、父子責善、賊恩之大者」

せき-ぜん (名) [積善] 善キ行ヒヲ、積ムコト。惡ヲ積ムヲ、積惡ト云フ。 易經、文言傳「積善之家、必有餘慶、積不善之家、必有餘殃」 漢書、董仲舒傳「積善在身、猶長日加益、而人不知也、積惡在身、猶火之銷膏、而人不見也」

せき-ぜん (副) [寂然] せきせき(寂寂)ニ同ジ。 易經、繋辭、上傳「易无思也、无爲也、寂然不動、感而遂通天下之故」

せき-そ (名) [尺素] [尺ハ、其寸法、素ハ、帛、古ヘ、紙無ク、帛ニ書シタリ] テガミ。フミ。タマヅサ。 蓬窗日錄(明、陳全之)八、詩談「古樂府、尺素如殘雪、結成雙鯉魚、要知心裏事、看取腹中書」 陸機、文賦「含綿邈於尺素、吐滂沛乎寸心」 書言故事大全、十一「尺素、書簡、曰尺素、鯉素、魚書、古樂府、客從遠方來、遺我雙鯉魚、呼童烹鯉魚、中有尺素書、長跪讀素書、書中竟何如、上有加餐飯、下有長相憶」(コノ古樂府ハ、後漢ノ蔡邕ノ作、飲馬長城窟行、ナリ) 書言字考節用集、七、器財「尺素、書翰一稱、出古樂府」 「尺素往來」

せき-そ (名) [碩鼠] (一)大キナルねずみ。 詩經、魏風、碩鼠篇「碩鼠碩鼠、無食我黍、三歳貫女、莫我肯顧」(民ヲ食リテ、政ヲ治メズ、大鼠ノ如クナリト、譏ルナリ) (二)螻蛄ノ異名。 螻蛄 けらざい ノ條ヲ併セ見ヨ。 箋注倭名抄、八、蟲豸「本草云、螻蛄、一名碩鼠、[illegible]云、炙鼠、螻蛄也、廣雅、石鼠、一名、仙[illegible]、故古今注、以五技鼠爲螻蛄、蓋依之」

せき-ぞく (名) [石鏃] ヤノネイシ。 北史、勿吉國傳「[illegible]石鏃、即古肅愼氏也」

せき-ぞく (名) [積粟] 積ミシタル米穀。 [illegible]「[illegible]倉中之[illegible]、食積粟[illegible]之下」

せき-ぞろ (名) [節季候] 江戸時代、歳ノ末ニ、乞食ドモ、緋絹ニテ、面ト膝トヲ掩ヒ、烏帽子ヲ着テ、種種ノ祝詞ヲ謠ヒ、舞ヒ歩キタルモノ。惡鬼ヲ驅出スナラムカト云フ。 俳諧歳時記、十二月、節季候「節季候、昔ハ、乞兒、歳ノ暮ニ、人家ノ門ニ立チ、廣ク露シ、手ヲ以胸ヲ敲キ、節季さむらふ、節季さむらふト云フテ、錢ヲ乞ヒシ也、コレヲ、胸たたきト云フ、三十六番職人歌合ニ、ソノ圖、殘レリ、今、節季候ト云フモノ、是ナリ」 人倫訓蒙圖彙、七、節季候「節季ニアリ、師走ニハ、十二月廿日ヨリ出ル、節季ニテ候ヘバ、來ル年ノ、歳下、又、年ノ終マデ、何事ナク送リ重ネシヲ、祝フ心ナルベシ」

せき-だ (名) [席駄] [席ハ、草履ニテ、ソレニ、足駄ノ駄ヲ添ヘタル語カ、或ハ、尻切駄ノ略轉カ] 竹皮草履ノ底ニ、獸皮ヲ附ケタルモノ。尻切ノ一轉ナリ、尻ハ切レ易ケレバ、皮ヲ附ク。後ニハ、小革ノ代ハリニ、鐵片ヲ附ク。(席駄ノ語ハ、雪踏ノ語ヨリ、廣ク行ハレ居タルガ如シ) 沖繩ニテ、あちだ。 昨日は今日の物語、上、(正)下「[illegible]ニテ金剛太夫勸進能ニ、芝居錢三十文ヅツ取リケレバ、こんごう(金剛草履)ハ、二束三文、スルモノヲ、三十取ルハ、せきだ太夫カ」 東海道名所記(萬治)一「[illegible]ヲウタヒ、席駄ヲ引キヅリ」 浮世物語(寛文)[illegible]「[illegible]足袋ニ、席駄ヲ鳴ラシ」 [illegible]物語(寛文)ニ、其頃マデ、せきだト云フ物ナク、トテ、尻切ノミナリシ由ヲ云ヘリ。 [illegible]曾我座鋪狂言(元祿)町家ノ侍女、[illegible]ニ素足、浅葱緒ノ新せきだ」

せき-たい (名) [石帶] [まやくたいナルベシ] 又、いしのおび。かくだい(革帶)ノ條ヲ見ヨ。

せき-だい (名) [石臺] (一)鉢植ヲ載セ置ク臺。 生玉心中(正徳、近松作)上「せきだいノ女蘭、夫婦ハ、呂南ノ[illegible]」 (二)方圓ノ箱ニ、草花ヲ植エ、山水ノ景ナドヲ摸シタルモノ。石盆 [illegible]

せき-だう (名) [赤道] (一)天球ノ赤道。天ノ兩極ヲ極トセル天球上ノ大圓ノ稱。即チ、天球ノ中心ヲ通過シテ、其軸ニ垂直ナル平面ノ、天球ト相交ハル線。 [illegible] (二)地球ノ赤道。地球ノ表面ノ中央ヲ、横ニ周ラセテ引キタル線ノ稱。其周、一萬二百四里餘アリト云フ。

せき-だかづら (名) [寄獸葛] [illegible]

せき-た・つ (自動、四) [急立] イソガハシ。 [illegible]

せき-た・つ (他動) [急立] [前條ノ語ノ他動] ウナガス。イソガス。 [催促] [illegible]

✣**せき-た・てる** (動) 前條ノ語ノ口語。

せき-たふ (名) [石塔] (一)[illegible] 石龕 [illegible] 保元物語、三、爲義北方入水事「心亂レテ、[illegible]、石塔ヲ積ミ給フカトコソ思ヒシニ」 (二)墓碑。中古ノ墓ハ、[illegible]、石碑ナリシ遺稱ナリ。(墓ノ條ヲ見ヨ) (三)まゃくたふ(積塔)ニ同ジ。

せき-たん (名) [石炭] 礦物ノ名。太古ノ植物ノ、太陽ノ光線ヲ受ケ、炭酸瓦斯ヲ吸收シ、[illegible]化合物ト化リタルモノ。燒ケバ、火力、強ク、臭氣アリ。其中ニ、無煙炭ト云フハ、多ク、高度ノ熱ヲ發ス。褐炭ト云フハ、劣シ、下品ナル木理アリテ、褐色ニシテ、[illegible] イシ。烏石。石炭。炭石。岩木。[illegible]石。漆石。 爆炭 [illegible]

せきたん-あぶら (名) せきたんゆ(石炭油)ニ同ジ。

せきたん-ガス (名) [石炭瓦斯] 常ニ、ガストノミ云フ。石炭ヲ、鐵製、或ハ、陶土製ノ乾溜釜ニ入レテ、熱セシメテ生ゼシメタル、可燃ノ氣體。點火スレバ、[illegible]

せきたん-さん (名) [石炭酸] [illegible]ノ結晶體、特種ノ香アリ、[illegible] 炭酸、たふたりノ等ヲ生ズ。

せきたん-むし (名) [illegible]

せきたん-タァル (名) [illegible] せきたんがふ 石[illegible]

炭瓦斯)ノ條ヲ見ヨ。

せきたんゆ (名) 【石炭油】 石炭坑ヨリ流レ出ヅルモノ、有機物ノ、石炭ニ化スル際ニ、旁生セルモノニテ、其成分ハ、特ニ、炭素ト、水素トナリ。其原油ハ、肉汁ノ如クニシテ、黒褐色ナリ、淡キアリ、濃キアリ、越後、羽後、樺太、臺灣、等ノ各地ニ産ズ、精製シテ、燈油ノ用トス。臭水(クサウヅ)。セキタンアブラ。石油(セキイウ)。石腦油

せきち (名) 【瘠地】 ヤセチ。草木ノ生立ノ、悪シキ地。瘠土。「淮南子、脩務訓「瘠地之民、多有心者、勞也」」

せきち (名) 【赤地】 (一)アカハダカノ土地、一木、一草ノ無キ土地。サラチ。赤土。「漢書、五行志「赤地千里」注「空盡無物曰赤」」(二)何モ無キコト。何モ着テ居ラヌコト。アカハダカ。スッパダカ。赤裸裸

せきち (名) 【尺地】 尺寸ノ地。僅カノ土地。尺土。「孟子、公孫丑、上篇「尺地莫非其有也、一民莫非其臣也」太平記、三、笠置軍事「追手、搦手、都合、七萬五千餘騎、笠置ノ山ノ四方二三里ガ間ハ、尺地モ殘サズ、充滿シタリ」」

せきぢ (名) 【關路】 關所ノアル路。セキミチ。「類聚名物考、山岡浚明)五十八、地理、五、關路、せきぢ、せきみち、冷泉爲久卿古本ノ假名、せきのみちナリ、當時ハ、せきぢト云フトノ給ヒツレドモ、後撰集ニ、不破ノせきぢト讀リ」後撰集、十九、離別「同ジ家ニ久シウ侍リケル女ノ、美濃國ニ、親ノ侍リケルヲ訪ヒニ罷リケルニ「今ハトテ、立チカヘリユク、故郷ノ、不破ノせきぢニ、都忘ルナ」」 關路ノ鳥トハ、支那、春秋時代ノ孟嘗君ノ函谷關ノ故事ヲ、枕草子、七、六十四段ニ「夜ヲコメテ、鶏ノ空音ハ、計ルトモ、世ニ會坂ノ、關ハ許サジ」ト詠メルヨリ、雞ノコトヲ云フ。新後撰集、八、雜歌、横雲ハ、峯ニ分レテ、會坂ノ、關路の鳥ノ、聲ゾ明ケヌル」

せきちく (名) 【斥逐】 斥(シリゾ)ケ、逐ヒヤルコト。「史記、秦始皇紀「西北斥逐匈奴」」

せきちく (名) 【石竹】 古名、カラナデシコ。イシノタケ。イシタケ。撫子(ナデシコ)ノ屬、野生ニ無シ、家ニ植エテ、花ヲ賞ス。莖、短ク、撫子ノ如クニシテ、花瓣ノ端、分レズシテ、皆、鋸齒ナリ、春ノ末ニ開ク、花色、種種ニシテ、觀ルニ堪フ。(支那舶來ノモノナルベシ。なでしこ、いしたけノ條ヲ見ヨ) 沈佺期詩「閑花開石竹、幽葉吐薔薇」 塵袋、三八「石竹ニ、二ノ説アリ、一ニハ、やますげト云フ、一ニハ、瞿麥(ナデシコ)ト云フ、多説ノ中ニ、なでしこト云フハ、猶ヨロシキ説歟、萬葉ノ家持ガ詠云ヘル「石竹ノ、其花ニモガ、朝ナ朝ナ、手ニ取リモチテ、戀ヒヌ日ナケン」ノ歌ハ、石竹ト書テ、なでしこト訓メル事、明也、樂府ニハ、石竹金鈿、何ゾ、クダクダシキト云ヘリ、云云、金鈿ト云フハ、からなでしこトテ、丹ノ色シタル花ノ、なでしこニ似テ、大ナル物ニヤ」藻鹽草、八、瞿麥「カラ國ニ、アリケル事ハ、イサ知ラズ、東ノ奥ニ、生フルいしたけ」

せきちゃう (名) 【石腸】 (鐵石心腸ノ略) 極メテ堅固ナル意志。鐵心。「范成大、惜交賦「雖君之石腸兮、固將狗乎市虎」」

せきちゃうせい (名) 【石長生】 はこねぐさ(箱根草)ニ同ジ。

せきぢょ (名) 【石女】 うまずめ(不生女)ニ同ジ。「蘇軾詩「石女無兒焦穀槁」」

せきちんさい (名) 【石鎭祭】 ぢちんさい(地鎭祭)ニ同ジ。「吾妻鏡、脱漏、嘉祿元年十二月十八日「宅鎭祭親職、石鎭晴茂、七十二星、西嶽眞人祭、國道、大鎭晴職等、奉仕之、周防前司親實朝臣奉行」」

せきづる (名) 【關弦】 弓弦ノ一種、普通ノ弦ノ上ヲ、絹絲ニテ卷キ、コレニ、漆ヲ塗リタルモノ。(初、伊勢國、關ト云フ處ヨリ産ズレバ云フトゾ) 「盛衰記、三十五、巴關東下向事「重籐ノ弓ニ、せき弦カケ」太平記、十七、隆資卿自八幡被寄事「三人張ノ弓ニ、せき弦カケテ」同、十五、三井寺合戰事「秀郷ハ、一生涯ガ間、身ヲ放タデ持タリケル五人張ニ、せき弦懸テ、噛ヒ濕シ」尺素往來「十所籐、村、節白木、等、作懸手坂弦、關弦」武家名目抄、弓箭、四「弦ノ事、塗弓ニハ關弦ヲ掛クベシ、又、白木ノ弓ニハ白弦也」」

せきつゐ (名) 【脊椎】 次條ノ語ノ略。

せきつゐこつ (名) 【脊椎骨】 相、連ナリテ、脊骨(脊柱)ヲ組成スル、槌形ノ骨。人體ニハ、三十三箇アリ。

せきて (名) 【關手】 (關直(セキアテ)ノ約) 關ヲ通ル者ヨリ取ル錢。關錢(セキセン)。「義經記、七、三口關通給事「鎌倉殿、云云、關手ヲ取テ、關守共ノ兵粮米ニセヨト候間、關手ヲ給ハラムトゾ申シケル」」

せきてい (名) 【石鼎】 石造ノカナヘ。「韓愈、石鼎聯句詩、序「指爐中石鼎謂喜曰、子云能詩、與我共賦此乎」太平記、三十九、道譽大原野花會事「遥ニ風橋ヲ登レバ、竹筧ニ甘泉ヲ分ケテ、石鼎ニ茶ノ湯ヲ立テ置キタリ」」

せきてい (名) 【席亭】 人寄席(ヒトヨセセキ)。(東京)

せきでうでう (名) 【赤條條】 (條條ハ、博雅「條條、擾亂也」) 赤裸(アカハダカ)ニテ、行儀悪シキコト。「水滸傳、第四回「脱得赤條條地、跳上床去坐了」」

せきてつ (名) 【尺鐵】 志ゃくてつ(尺鐵)ニ同ジ。「李陵、答蘇武書「兵盡矢窮、人無尺鐵」」

せきてっくゎう (名) 【赤鐵鑛】 赤色、又ハ、赤褐色ノ酸化鐵。結晶、又ハ、塊狀ニテ産ズ、製鐵上、最モ必要ナル鑛物。

せきてん (名) 【釋奠】 志ゃくてんノ條ヲ見ヨ。

せきでん (名) 【石田】 岩石多キ田。磽确ノ田。「[illegible]石田、終無所用」」

せきでん (名) 【籍田】 (籍ハ、蹈藉ノ義) (一)天子ノ、躬ラ、耕作シ給フ田。「漢書、文帝紀「夫農、天下之本也、其開籍田、朕親率耕、以給宗廟粢盛」」(二)諸侯ノ、自ラ耕作シ給フ田。「[illegible]、米澤侯、上杉治憲行狀記「安永元年三月、城西、遠山村ノ内、四反歩ノ田地ヲモテ、御小納戸御開作ト名付ラレ、籍田ノ禮ヲ行セラレ、御ミヅカラ耒耜ヲ執テ、三壤シ給ヒ、九壤、二十七壤ヨリ、某某ガ次ノ儀ニ發セシナリ、サレバ、此田ヨリ出ル米初穗ヲバ、春日、白子ノ兩社ニ供シ、殘ル所ハ、新小姓ノ御扶持米ニ賜リシ也」」

せきと (名) 【關門】 セキノト。關ノ門(カド)。(初ハ、警備、後ニハ、通行税徴收ニ設ク) 「宣化紀、元年五月「去來之所關門(セキト)、是以海表之國、候海水以來賓」 倭名抄、十「道路具、關、關門也、世岐度、在境、所以察出入也」」

せきど (名) 【赤土】 せきち(赤地)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

せきど (名) 【尺度】 志ゃくど(尺度)ニ同ジ。

せきど (名) 【尺土】 せきち(尺地)ニ同ジ。「史記、齊悼惠王世家「激秦之無尺土封、故大封同姓、以塡萬民之心」」

せきど (名) 【瘠土】 (沃土ニ對ス) ヤセツチ。草木ノ成長、悪シキ土地。「國語、魯語「昔聖王之處民也、擇瘠土而處之、勞其民而用之、故長王天下」」

せきとう (名) 【石磴】 イシダン。石ノダンダン。「梁昭明太子詩「擧鑣下石磴、[illegible]」」

せきどうくゎう (名) 【赤銅鑛】 暗赤色ニ

シテ、光澤強キ度化銅、黄銅鐵ト共ニ、製鍋上、必要ナル鑄物。

せき-とく（名）［碩德］大イナル德アル人。何[illegible]詩「我心[illegible]」太平記、十五、[illegible]寺[illegible]事「開山高祖、智證大師ノ御弟子ニテ、[illegible]宗ノ[illegible]、[illegible]備ノ碩者ニテゾ御座シケル」

せき-とく（名）［積德］積ミ重ネタル德行。書經、[illegible]、上「不乃敢大言汝有[illegible]」平家物語、二、座主流事「[illegible]、云云、[illegible]無雙ノ積德、天下第一ノ高僧ニテオハシケレバ」

せき-とく（名）［尺牘］〔尺ハ、其寸法、牘ハ、方版〕手紙。漢文ノ書狀。史記、[illegible]傳「[illegible]尺牘、父待[illegible]以後[illegible]」[illegible]集、七、[illegible]

〔せき-とど・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）次條ノ語ニ同ジ。古今集、十三、[illegible]、「[illegible]ノ、早キ心ヲ、何シカモ、人目ヅツミノ、せきとどむラム」後拾遺集、八、別「假初ノ、別ト思ヘド、白川ノ、せきとどめヌハ、涙ナリケリ」

〔せき-と・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［塞止］塞（フサ）ギトドム。セキトドム。遮ル。後撰集、十九、離別「抑ヘツツ、我レハ袖ニゾ、せき止むる、舟[illegible]ニ、ナサジト思ヘバ」竹[illegible]語[illegible]、「[illegible]、メデタク思シ召サルルコト、せきとめ難シ」

⁂せき-と・める（動）［塞止］前條ノ語ノ口語。

せき-とり（名）［關取］（一）相撲ノ大關ノ異稱。（二）一般、力士ノ敬稱。（三）稻ノ一種、伊勢國產ニテ、實、稍長ク、其稈ハ堅ク、白米トシテ、光澤アリ、味、甘シ。

せき-あう-ゆ（名）［石腦油］せきたんゆ（石炭油）ニ同ジ。

せき-にく（名）［赤肉］肉體ノママナルコ

ト。アカハダカ。［赤裸］[illegible]

せき-にん（名）［責任］〔責ハ、漢音、さく、呉音、しやくナリ、故ニ、さくにんト訓ムベキナリ。今ハ、俗ニ從フ〕セメ。引受ケテ、務ムベキ事。又、役目トシテ、受持タネバナラヌコト。[illegible]

せき-ねん（名）［昔年］アリシ昔ノ年。昔歲。[illegible]「昔年[illegible]、今日[illegible]」

せき-ねん（名）［積年］年、積レルコト。多年。累年。[illegible]「居之官、輒積年不ﾚ徙」

せき-の-と（名）［關門］せきと（關門）ニ同ジ。續古今集、十八、雜、中「關のとモ、明ケ方近ク、ナリニケリ、今鳴ク鳥ハ、空音ナラジナ」

せき-の-ひがし（名）［關東］〔關東（クワントウ）ノ訓讀〕くわんとうノ條ヲ見ヨ。

せき-のぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［咳上］せきあぐ（咳上）ニ同ジ。源、五十一、蜻蛉「トザマ斯ウザマニ思フニ、胸ノせきのぼる心地シテ、イカニモイカニモ、スベキナモ覺エ[illegible]ハヌヲ」

せき-の-やま（名）［關山］出來得ルハテ。ソレ以上、ナシ能ハザル程度。略シテ、やま。[illegible]

せき-ばう（名）［[illegible]］[illegible]

せき-ばく（名）［寂寞］物淋シキ狀ニ云フ語。ヒソヤカ。ヒッソリト。寂寥。寂漠。[illegible]マヰ、御心苦シウ御覽ジオカセ給ヘバ」

せき-はん（名）［赤飯］（一）アヅキメシ。[illegible]（二）[illegible]近松作）中「手代ノ源十郎ニ、[illegible]、イ日付ハ、我等ヲ知ッテサウナト」

せき-ばん（名）［石[illegible]］[illegible]用トスルモノ。記シテハ拭ヒ、拭ヒテハ記ス。［石板］（二）[illegible]用ヰル石盤石製ノ薄キ板。すれえと。

せき-ばん（名）［石版］石灰石等ノ石材ノ面ニ、[illegible]ノ技術ニヨリ[illegible]印刷[illegible]テ、[illegible]如クニシテ、堅シ。獨逸ヨリ舶來スルヲ上トス。[illegible]

せき-ばん-せき（名）［石盤石］石盤ノ材料トナル[illegible]、又、[illegible]

せき-ばらひ（名）［[illegible]］[illegible]クコト。シハブキ。コワヅクリ。[illegible]狂言記、止動方便「ソノ馬ノ後デ、咳拂スレバ、必ズ、[illegible]」

せき-ひ（名）［石碑］（一）イシブミ。[illegible]（二）墓ジルシ。石塔。墓石。墓碣。[illegible]三十一文字ヲ見ル人、戀[illegible]ヲ殘サスハ[illegible]カリクリ」[illegible]御石碑ヲ建立セントノ催シ」

せき-ひつ（名）［石筆］（一）[illegible]

ノ形ニ削リ成シタルモノ。黑石[illegible]ハ、黑キ粘土ニテ、乾ケバ、青ミアリ、コレヲ、管ニ插ミ、黑ヲ用ヰズシテ、字ヲ記ス。字、黑ク移ル、行タニ、[illegible]ノナリ。[illegible]

せき-ひん（名）［赤貧］[illegible]ヤコト。カラ貧乏。[illegible]

せき-ふ（名）［[illegible]］[illegible]

せき-ブツ (名) [石佛] いしぼとけ(石佛)ニ同ジ。

せき-ふだ (名) [關札] 關所ヲ通ルわりふ。關所ノ通行券。

せき-ぶね (名) [關船] (急船ノ意、早船ナリ) 兵船ノ稱。 雜兵物語、下「篭中舟、ドコノ人數ダカ知ラナイガ、七八十挺立ノ關船ダッケガ、其船ハ小早ガ、クッ付テ、セセルヲ防グヲ見レバ」和漢船用集、三「舟名數多舶、關船、舟方言ニ曰、關ハ、城營門也、又、驛舍ノ乘船也、此故ニ名付、又曰、四十挺立以下、矢倉ナキ者、是ヲ小早ト云、四十挺立以上、矢倉アル者、是ヲ關ト云、關船ト稱スルコト、凡、百有餘年ノコトニシテ、古ハ、高尾船ト云シ也」同、同「舸、揚子方言、南楚江湘、凡船大者、謂二之舸一、本邦今呼テ、關船ト云、蓋挺立ヨリ八十挺立以上ニ至テ、皆、早舟也」 倭訓栞「はやふね、和名抄ニ、舸ヲ讀メリ、古ヘ、鳥船、鵜船アリ、今云フ、關船也」

せき-ふん (名) [石糞] うまのたま(馬玉)ノ條ヲ見ヨ。

せき-ふん (名) [積憤積忿] 積モレル憤。 陸游、讀書詩「積憤、讒謗、孤臣、謫自嘆」南史、侯景傳「度積忿ニ賁盈ニ曰、汝知ニ我讀レ明、而有呼、畔何也」

せき-ぶん (名) [積分] 數學ノ語、函數ニ關スル算法ノ一分科。コレハ微分法ノ逆ナリ、即チ微分ニ對シテ、其元ノ函數ヲ積分ト云フ。例ヘバ、ax^3+Cヲ微分シタルモノハ、$3ax^2dx$ナル故、$3ax^2dx$ヲ積分スレバ、ax^3+Cトナル。コノCハ積分常數ニシテ、コノ値ガ定マレバ、原函數ハ決定ス。積分ノ記號トシテ、∫ヲ用ヰ、乃チ上ノコトヲ$\int 3ax^2dx$ト書ク。積分ニハ、定積分ト、不定積分トノ二アリ。

せき-へい (名) [尺兵] 尺寸ノ兵器。僅少ノ刃物。寸鐵。 唐書、食貨志「有二蹶張一行二千里一、不レ持二尺兵一」

せき-へい (名) [積弊積斃] ツモリニツモリタル悪弊。積年ノ弊害。 荀子、王制篇「彼日積レ斃、我日積レ完、彼日積レ貧、我日積レ富」

せき-べつ (名) [惜別] 別レヲ、惜シムコト。別レガタナク思フコト。 李白詩「滿堂送レ客皆惜レ別」

せき-へん (名) [石片] 石ノカケ。イシコロ。 白居易詩「石片擁二琴匣一、松枝閣二酒杯一」

せき-ぼく (名) [石墨] 一種ノ鑛物。純粹ノ炭素ヨリ成リ、鐵黑色、又ハ、鉛蒼色ニシテ、金屬性ノ光澤アリ、質、脆軟ニシテ、容易ニ粉末トナスコトヲ得。鉛筆ノ心トシ、又、鐵器ニ塗リテ、錆ヲ防ギ、其他、種種ノ工業上ニ使用セラル。黑鉛。 水經註「井深十五丈、藏二冰及石墨一焉、石墨可レ書、又、然レ之難レ盡、亦謂二之石炭一」 耽奇漫錄、十五、筑前香月山不動窟所產石墨記「石墨者、黑石之精、而天之文物也、文房雅賞、必不レ無レ之、云云、方今、我筑前香月山不動窟所レ出黑石、與二本綱所レ謂石炭作二硫黃氣一者上不レ同、磨レ之、微帶二赭色一、和以二一分之墨一、則黑色發粉、淡不レ澁、濃不レ枯、書レ字速乾、隱起有レ光、宜レ寫レ經、非レ膠以固也、宜レ畫レ竹、不レ用二打紙一也、若眼彼二物撮刺一、一滴即愈、亦其能也、云云」

せき-ほん (名) [石本] 石摺ノ本。拓本。 寶章待訪錄(宋、米芾)「世多二石本一」

せき-まつ (名) [席末] 席次ノ末。會席ノ末座。末席。 儀禮、鄕飲酒禮篇「席末坐啐レ酒」

せき-みち (名) [關路] せきぢ(關路)ニ同ジ。 相模集「名ノミシテ、アト絶エニケリ、往キカヒノ、遠ナラス、ホカノせき道」

せき-みつ (名) [石蜜] (一)おほりざたう(氷砂糖)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。 本草綱目「石蜜、即白沙糖也、凝結作二餅塊一如レ石者、爲二石蜜一」 (二)蜜蜂ノ、岩間ニ貯ヘ溜メタル蜜。崖蜜。 本草綱目「石蜜、即崖蜜、色靑、味小酸、入レ藥勝二於凡蜜一」

せき-みづ (名) [關水] 逢坂ノ關ノ邊ニアル湧キ水。關ノ淸水。 千載集、十七、雜、中「石山ニ度度詣デ給ヒケルヲ、ハテノ度、關の淸水ノ許ニ、御車駐メテ、云云「數多度、行キアフ坂ノ、關水ニ、今ハ限ノ、影ゾカナシキ」 拾遺愚艸(定家)中「せき水ノ、カゲモサヤカニ、見ユルカナ、濁ナキ夜ノ、望月ノ駒」

せき-む (名) [責務] ツトメ。セメ。責任。任務。義務。

せき-むかへ (名) [關迎] 古ヘ、來ル人ヲ、關所ニテ、出迎フルコト、多ク、入京ノ人ヲ、近江國、逢坂關ニテ迎フルニ云フ。 源、十六、關屋「今日ノ御せきむかへハ、エ思ヒステ給ハジ」 增鏡、十四、黃楊小櫛「鎌倉ヘ若カセ給フニモ、御關むかへトテ、ユユシキ武士トモ、打連レテ參ル」

せき-めん (名) [赤面] (一)アカツラ。アカラガホ。朱顏。 韓愈詩、咸武曲「赤面注二丹砂一、虯髯如二插戟一」 (二)恥チテ、顏ヲアカラムルコト。オモハユキコト。赧顏。 平治物語、一、光賴卿參內事「首實檢ハ、甚、穩便ナラズト宣ヘバ、別當、ソレハ、天氣ニテ候ヒシカバトテ、赤面セラレケリ」

せき-めん (名) [石綿] いしわた(石綿)ニ同ジ。

せき-もと (名) [關許] 關所ノ在ル所。 夫木抄、廿一「嵐吹ク、足柄山ノ、關もとニ、夕ゐエ暮レテ、宿ル旅人」

せき-もの (名) [關物] 美濃ノ刀鍛冶、關一派ノ作レルモノ。

せき-もん (名) [責問] セメ、トフコト。糺シ、トフコト。 後漢書、馬援傳「乘レ[illegible]、責二問援一」 左傳、昭公十四年「[illegible]」

せき-もん (名) [石門] (一)石造ノ門。石ノ門。 宋史、河渠志「渠口舊有二六石門一、謂二之洪門一」 (二)自然ニ、門ノ狀ヲナセル岩石。 袁宏道、姑蘇遊記「石門尤奇、兩石突起如レ門」「妙義山ノ石門」 (三)德川時代ニ、心學ヲ唱ヘシ、石田梅巖ノ一門。

せき-もり (名) [關守] 關ヲ守ル役人。セキヤク。 關井 伊勢物語、第五段「人知レヌ、我ガ通路ノ、關もりハ、ヨヒヨヒ每ニ、打チモ寢ナナン」 萬葉集、十三、戀、五「サテヤサハ、越エニシモノヲ、今更ニ、又ハ勿來ノ、關もりゾ憂キ」 新千載集、十一、戀、二「寢ルガ内ニ、セメテハ見エヨ、關守ノ、アリトモ關カス、夢ノ通路」 義經記、七、三口關通給事「木戶口ニ行キムカヒタリケレバ、關守、是ヲ見テ、スハヤト云フコソ久シケレ、百人バカリ、七人ヲ中ニ取リコメテ、是コソ判官殿ヨト申シケレバ」

せき-もり (名) [防人] さきもり(防人)ニ同ジ。 孝德紀、大化二年正月「防人」(板本ノ訓讀) 天智紀、十年十一月「防人」 三代實錄、十七、貞觀十二年二月十二日「防援人」(援、一本、援ニ作ルヲ可トス)

せき-や (名) [關屋] 關守ノ住ム家。 源、十六、關屋「せきやヨリ、サト外レ出デタル旅姿トモ」 隆信集、上「淸見潟、磯ノせきやニ、音澄ミテ、月ニ騷レタル、浪枕カナ」 義經記、七、三口關通給事「越前國ノ住人敦賀ノ兵衞、加賀ノ國ノ住人井上左衞門、兩人、承テ、荒乳ノ山ノ關屋ヲ拵ヘテ、夜三百人、晝三百人ノ關守ヲ据ヘテ、色モ白ク、向齒ノ反リナドシタル者ヲバ、道ヲモ直ニヤラズ、判官殿トテ、搦メオキテ、糺問シテゾ、ヒシメキケル」

せき-やう (名) [夕陽] ユフヒ。イリヒ。夕暉。夕照。 杜甫詩「夕陽薰二細草一、江色映二疏簾一」 盛衰記、廿四、都遷事「後ヲ顧リミレバ、翠嶺ノ雲ヲ挾ムアリ、曉ノ嵐ノ漠漠タルヲ吐ク、前ヲ望メバ、蒼海ノ天ヲ浸セルアリ、夕陽ノ沉沉タルヲ呑メリ」

せきやう (セキコウ) (名) 戚揚 をの(戚)ト、まさかり(揚)ト。斧鉞。 詩經、大雅、生民之什、公劉「弓矢斯張、干戈戚揚、爰方啓行」 太平記、十一、還幸事「正成、前陣ヲ承リテ、云云、七千餘騎ニテ、前驅ス、其道、十八里ガ間、干戈、戚揚、相挾ミ、左輔、右弼、列ヲ引キ、六軍、次ヲ守リ、五雲、閒ニ幸スレバ」

せきやう (セキキヨウ) (名) 說經 せッきやう(說經)ニ同ジ。 拾遺集、九、雜、下「或所ニ、せきやうシ侍りケル法師ノ」

せぎやう (セギヨウ) (名) 施行 (一)僧侶、窮民ナドニ、物ヲ、施シ與フルコト。布施。賑給 法句經、上「愚人施行、爲身招患」 太平記、一、關所停止事「自、帝德ノ、天ニ背ケル事ヲ歎キ思召シテ、朝餉ノ供御ヲ止メラレテ、飢人、窮民ノ施行ニ引カレケルコソ、アリガタケレ」 (二)布達スルコト。 盛衰記、十三、頼朝施行事「關國ノ源氏等ニ施行セラル、其狀ニ云ク」 (三)足利時代ニ、御教書ニ竝ベテ、管領ヨリ守護ニ布達スル書。 庭訓往來、六月十一日「將軍家之御教書、執事之施行、侍所之奉書、尤規模也」

せぎやうしよ (セギヨウシヨ) (名) 施行書 院宣ヲ、諸國ヘ施行フベキ由ヲ、書添ヘ遣ハス文書。 盛衰記、廿、佐殿大場勢汰事「藤九郎盛長ヲ使ニテ、院宣ノ案ニ、佐殿ノ施行書ヲ副テ、方方ヘ施遣ス」

せきやく (名) 關役 (一)せきもり(關守)ニ同ジ。 春日神社文書、六「河上庄反守、并高買貨事、依二權門勢家名一、押而令二違亂一云云、甚不レ可レ然、仍當時關役失墜之由、被二聞召一訖、如レ然之輩、於二向後一者、所二停止一也、倘以違犯者、爲レ處二罪科一可二注進一之旨」 (二)關所ニテ課スル夫役。 大内家壁書、兵庫濱關役事 [illegible]

せきやく (名) 石藥 五藥(草、木、石、蟲、穀)ノ一。礦石ヲ原料トスル藥劑。 藥圖「石藥 [illegible]」 源氏冷泉節、寶永、近松作、下「此ノ藥味ハ、殘ラズ、石藥、礦藥ニ、毒藥ナドノ建方ハ、毒藥ニテハ候ハヌカ」

せきやぶり (名) 關破 せきしよやぶり(關所破)ニ同ジ。 博多小女郎波枕、享保、近松作、下「其處ニモ、此處ニモ、逃ゲタ、又シテモ關破ト」

せきやま (名) 關山 關所ノアル山路。 和泉式部日記「關山ノ、堰キトメラレヌ、涙コソ、近江ノ海ト、流レ出ヅラメ」 馬内侍集「逢坂ノ、關山越ユル、今日サヘヤ、猶モ涙ノ、露セザルベキ」 類聚名物考(山岡浚明)五十八、地理、五「關山、非二名所一、關門ノ在ル所ノホトリノ往來ノ道ナリ、相坂ニモ、足柄ニモ詠メルニテ知ルベシ、關路、せきの戸ナド云フ、皆、コノ類ナリ」

せきやる ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 堰遣 セキトム。遮リトドム。セキアフ。 濱松中納言物語、二、下「せきやるかたナウ、泣キ給フニ」 玉葉集、十一、戀、三「せきやらヌ、涙ヨ堰シ、落チトマレ、サマデハ人ニ、見エジト思フニ」

せきゆ (名) 石油 せきたんゆ(石炭油)ニ同ジ。 夢溪筆談(宋、沈括)「鄜延有二石油一、舊說、高奴縣出二脂水一、卽此也、土人以二雉尾一挹レ之、[illegible]如二淳漆一」 本草「石腦油、一名、石油」

せきら (名) 赤裸 (一)アカハダカ。マルハダカ。赤身。赤裸裸。 (二)飾ノ無キコト。ムキダシ。露骨。明明地

せきらう (セキロウ) (名) 夕郎 藏人ノ唐名。 [illegible]

せきらん (名) 石蘭 (一)がんぜきらん(岩石蘭)ニ同ジ。 (二)ひとつば(石韋)ノ漢名、其條ノ(二)ヲ見ヨ。

せきらら (名) 赤裸裸 せきら(赤裸)ニ同ジ。佛家ニテハ、しやくららト云フ。

せきり (名) 「ちやぎりノ訛」 芝居ノ當日、キ、幕切レ、打出シナドニ、打囃ス太鼓ノ鳴物。 [illegible]

せきり (名) 射利 利益ヲ得ントスルコト。利益ヲ狙フコト。 [illegible]

せきり (名) 戚里 天子ノ外戚。漢ノ代、后妃ノ家ハ、皆長安ニ住リシニ、其里ヲ戚里ト云フ、因リテ、云云。ヘバ、天子ノ外戚ニシテ仕官セルモノ。 史記、萬石君傳「徙二其家長安中戚里一」 注、小顏云、於二上有二姻戚一者、皆居レ之、故名二其里一爲二戚里一」 [illegible] テ、久シク、朝家ニ仕ウマツル」

せきり (名) 赤痢 せきりびやう(赤痢病)ノ條ヲ見ヨ。

せぎり (名) 瀬切 セギルコト。瀬ヲ押シ切リ、流レ行クコト。 六帖、二「立田川、[illegible]」

せぎり (名) 脊切 料理ノ語、せびらき(脊開)ニ同ジ。 [illegible]

せきりう (セキリユウ) (名) 關流 (一)和算術ノ一派、[illegible] 六十六歳、甲府、御家人、[illegible] (二)砲術ノ一派、關八左衞門之信ヲ祖トス。[illegible] (三)[illegible]流ノ一派、八坂城方(一二、城方ト云フ)ノ一派、八坂 [illegible]

せきりう (セキリユウ) (名) 石榴 ざくろ(石榴)ニ同ジ。

せきりびやう (セキリビヤウ) (名) 赤痢病 赤痢菌ノタメニ、劇シク下痢シテ、膿狀ノ排泄物ノ出ヅル、一種ノ傳染病。腹痛ヲ起シ、便通、多クナリテ、量、少ナク、初ハ、粘液、次ニ、血液、次ニ、濃汁ノ如キ便トナリテ、遂ル、重キハ、一時間、二三回、一晝夜ニ五六十回、下痢ヲ催ス。シャクリ、赤痢。 [illegible]

せきりん (名) 石淋 病ノ名、[illegible] 膀胱ノ中ニ、石ノ如キ物ヲ生ズ、[illegible]

門「石淋（セキリン）」注「小便澁也」太平記、四、呉越軍事「呉王夫差、俄ニ、石淋ト云フ病ヲ受テ、身心、鎮（トコシナヘ）ニ悩亂シ、[illegible]治スレドモ不レ痊、露命已ニ危ク見ヘ給ヒケル處ニ、他國ヨリ名醫來テ申ケルハ、御病、實ニ重[illegible]、醫師ノ術、及マジキニ非ズ、石淋ノ味ヲ嘗テ、五味ノ様ヲ知スル人アラバ、輒可レ痊ニ臺ニトゾ申ケル、云云、勾踐、是ノ由ヲ聞テ、泪ヲ押テ宣ク、我、會稽ノ圍ニ困シ時、已ニ被レ誅ベカリシヲ、今ニ、命、助置テ、天下ノ赦ヲ待事、偏ニ、君王慈惠ノ厚恩也、我今、是ヲ以テ不レ報、其恩、何日ヲカ期セントテ、潜ニ石淋ヲ取テ、是ヲ嘗テ、其味ヲ醫師ニ被レ知、醫師、味ヲ聞テ、加レ療治ヲ、呉王ノ病、忽ニ平愈シテケリ」

せき-りん（名）［赤燐］燐ノ一種、赤色ヲ帶ビタル粉末ニシテ、黄燐ヲ高温度ニ熱シテ製ス、コレニテ、安全まっち、即チ、赤燐燐寸ヲ製造ス。

せきりん-マッチ（名）［赤燐燐寸］前條ヲ見ヨ。

せき-りゃう（セキ・リヤウ）（名）［脊梁］セボネ。セスヂ。

せき-りゃう（セキ・リヤウ）（名）［積量］船舶、車馬ナドノ、積ミ込ミ得ベキ貨物ノ總重量。

せき-りゅう-ぜい（名）［石龍芮］たがらし（田枯）ノ條ヲ見ヨ。

せき-りょう（名）［石龍］とかげ（蜥蜴）ノ異稱。

せき-りょう（名）［赤龍］みみず（蚯蚓）ノ異稱。

せき-りょく（名）［石綠］ろくしゃう（綠青）ノ（一）ニ同ジ。本草、綠青、異名、石綠、大綠」

せき・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（他動、下二）〔塞き入るノ約〕塞キテ、導キ入ル。（水ニ云フ）榮花物語、三十二、歌合「千代ヲ經テ、澄ムベキ水ヲ、せきれツツ、池ノ心ニ、マカセタルカナ」散木集、後編、六、悲歌「草ヲバ、硯ノ水ニ、せきれツツ、胸ヲ燒クトモ、書ク御法カナ」

せ-ぎ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔瀬切るカ、塞切（セキキ）るノ略カ〕塞（セ）ク。セキトム。遮ル。隔ツ。シキル。（水ニ云フ）塞

せ-きれ（名）履物（ハキモノ）ノ名、しきれノ轉。

せき-れい（名）［鶺鴒］小鳥ノ名。古名、ニハクナブリ。トツギヲシヘドリ。イシクナギ。燕ニ似テ、青灰色、頸ノ下、眼ノ後ニ、黒キ條（スヂ）アリ、觜、尖リ、腹、白ク、胸ニ、黒キ文アリ、水邊ニ居テ、小蟲ヲ食トス。尾、甚ダ長ク、常ニ、上下ス、又、能ク高ク飛ビテ、聲ヲナス。其胸ノ黄ナルヲ、黄鶺鴒ト云ヒ、背（セ）ノ黒キヲ、脊黒（セグロ）鶺鴒ト云ヒ、項（エリ）黒キヲ、白（シロ）鶺鴒ト云フ。一名、ニハタタキ。イシタタキ。イハタタキ。カハラスズメ。脊令。詩經、小雅、鹿鳴之什、常棣篇「脊令在レ原、兄弟急難」、急難ノ時ニアタリテハ、兄弟、相、應ズル意ニ云ヘリ）

せきれい-ぐみ（名）［鶺鴒組］江戸時代、町奴、六法男達ノ組ノ名。鶺鴒ヲ、石たたき、岩たたき、女郎たたきト云フヲ、女郎たたきニ寄セテ、名トス。（明暦ノ頃）ト賣狂歌集、鶺鴒ノ畫ニ「當世ノ、吉原たたき、女郎たたき、コノ取リンボモ、岩たたき哉」

せきれい-ざし（名）［鶺鴒佩］鶺鴒ノ尾ノ如ク、後ニ垂レ下ルヤウニ、刀ヲ佩（サ）スコト。オトシザシ。持統天皇歌軍法（正德、近松作）三「夫ガ指シ替ヘ三尺二寸ノ背（セカイラギ）鮫、鶺鴒佩ニボッコンデ」

せき-れう（セキ・リヨウ）（名）［席料］席（ザシキ）ヲ貸シテ受クル損料。席代。間代（マダイ）。

せき-れう（セキ・リヨウ）（副）［寂寥］せきばく（寂寞）ニ同ジ。楚辭、九歎、惜賢篇「聲嗷嗷以寂寥兮」

せき-れき（名）［磧礫］河原ノ小石。北史、周武帝紀「[illegible]」張衡、西京賦「[illegible]」

せきれき-と（副）［淅瀝］雨雪ナドノ降ル聲ヲ形容シテ云フ語。謝惠連、雪賦「霰淅瀝而先集」

せき-ろ（名）［斥鹵］シホツチ。鹽氣アル土地。史記、夏紀「海濱廣潟、厥田斥鹵」

せき-ろう（名）［石樓］石ニテ造リタル高殿。南史、陳武帝紀「仙人見ニ于羅浮山寺小石樓ニ」

せき-わう（セキ・オウ）（名）［石黄］しわう（雌黄）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

せき-わき（名）［關脇］相撲ノ大關ノ次位ナルモノノ稱。訛リテ、セキワケ。おほぜき（大關）ノ條ヲ見ヨ。

せき-ゐ（セキ・イ）（名）［石韋］いはのかは（石韋）、及、ひとつば（一葉）ノ條ヲ見ヨ。

せき-ゑん（セキ・エン）（名）［積怨］ツモル怨（ウラミ）。戰國策、燕策「我有ニ積怨深怒於齊ニ而欲レ以報レ齊事」

せき-を（セキ・オ）（名）鷹ノ足革ヲ結ヒツクル緒。後京極殿鷹三百首「降ル雪ニ、積ルせきをノ、アト見エテ、山ヲヤ越エシ、野心ノ鷹」

せ-く（名）［節供］せちく（節供）ニ同ジ。宇津保物語、忠社、十一「五月五日ニナリテ、せくナト、イト、ケウラカニ調ジテ」同、藤原君、十五「七月七日ニナリヌ、加茂川ニ、云云、其日、せく、河原ニマヰレリ」同、吹上、下、二十「三月三日ノせくナムド、カバカリ仕ウマツレリ」枕草子、一、第三段「十五日ハ、餅粥ノせく參ル」榮花物語、廿一、後悔大將「三日ニナリヌレバ、所所ノ御節供、マヰリ」

せ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［急］〔胸塞（フサ）ガルヲ、せきあぐナド云フヨリ、轉ズ〕心煎（イラ）レス。セル。アセル。イラダツ。ハヤル。急（イソ）グ。躁氣 狂言記、焼野「ソナタガ、其ノ樣ニオシャルト、心がせくニヨッテ」「氣がせく」

せ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［急］〔前條ノ語ノ他動〕促ガス。急ガス。セカス。督促「せきタツル」

せ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［塞］〔狹（セ）ヲ活用ス〕（一）狹クシテ、トホス。（關モ、往來ノ人ヲ、徑ニ溢レサセズ、其所ノミ通ス意ナリ）堰 眞名本、伊勢物語「水堰川ノ、蜘蛛手ナレバ」（二）閉ヂ塞グ。防ギトドム。フサグ。フタグ。ササフ。セギル。萬葉集、二、三十一「飛鳥川、柵（シガラミ）渡シ、塞（セカマセ）益バ、流ルル水モ、ノドニカアラマシ」源、十五、蓬生「源、云云、人氣ニコソ、サヤウノモノモせかレテ、影隱シケレ」古今集、十一、戀、一「足引ノ、山下水ノ、木隱レテ、瀧（タギ）ツ心ヲ、せきソカネツル」（三）遮リテ、人ニ會ハシメズ。枕草子、六、五十八段、あはれなる物「思ヒカハシタル若キ人ノ中ニ、せく方アリテ、心ニシモ任セヌ」「思ヒアヒタル仲ヲせく」

せ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［咳］〔聲ヲ塞（セ）く義〕咳（セキ）ヲナス。シハブク。セキバラヒスル。（咳（セキ）ノ條ヲ見ヨ）源、四十八、寄生、六十五「老人ハ、イトド更ニ、せきモ敢ヘズ」「咳ヲせく」

ぜ-く（名）漢詩ノ絶句（ゼツク）ニ同ジ。ぜっく（絶句）ノ（一）ヲ見ヨ。源、廿一、少女、十一「博士ノ人人ハ四韻、タダノ人ハ、大臣（オトド）ヲ始メ奉リテ、ぜく作リ給フ」同、十八、松風、十一「各、ぜくナド作リワタシテ」

せ-ぐくま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［跼］〔脊屈（セクグマ）る義、次條ノ語ヲ、自動ニセルモノ〕身ヲ縮メテ、前ヘクグマル。コゴム。名義抄「跼、セグクマル、カガマル」跼、セグクマル」推古紀、十五年二月、皇祖天皇等、宰レ世也、跼（セグクマリ）レ天蹐レ地、敦禮ニ神祇ニ」詩經、小雅、祈父之什、正月篇「謂ニ天蓋高一不ニ敢不一レ局、謂ニ地蓋

畏ハ不ニ敢不レ蹐」、局蹐、局道ズ）

せ-くく・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）【蹐】セグクマラシム。セゴコム。三十二番職人歌合、十九番、鳥さし「アハレナリ、小鳥一羽ヲ、刺サムトテ、天ニせぐくめ、地ニ足ヲヌク」夫木抄、十九　久方ノ、天ツ御空ハ、高ケレド、せヲくぐめテソ、我レハ世ニ住ム」

〰せ-ぐつ（名）【傴僂】せむし（傴僂）ニ同ジ。クヅセ。クグセ。　字鏡「僂、世久豆」

せぐり-あ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（自動、下二）セキアグ。コミアグ。　國性爺後日合戰（享保、近松作）三「物ヲモ云ハズ、父ノ顔、ツックリト見テ、せぐり上げ、コボス涙ハ、ハラハラ」

⁘せぐり-あ・げる（動）前條ノ語ノ口語

せく・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔せせくるノ約〕せせるノ（一）ニ同ジ。靜岡縣ニテ、弄（イジ）る。

せぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【嘔氣】タグル。コミアグ。ヘドック。アグル。

セクレタリイ（名）〔英語、Secretary. 具サニハ、Principal secretaries of state.〕英國ニテ、内務、外務、陸軍、殖民、印度、ノ五省ノ長官ノ稱。

せ-ぐろ（名）【背黑】背ノ方、黑キコト。又、其モノ。「せぐろ鶺」

せ(セグ)ぐ(ロ)ろ-ご(ゴ)ゐ(イ)（名）【背黑五位】ごゐさぎ（五位鷺）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

〰せ-けん（名）【世間】ヨノナカ。人間。世上。世俗。　史記、李斯傳「夫人生居二世間一也、譬猶二騁二六驥一過二決隙一也」竹取物語「何デフ心地スレバ、カク、物ヲ思ヒタル狀ニテ、月ヲ見給フゾ、云云、見レバ、世間、心細ソク、哀レニ侍リ」宇治拾遺物語、吹上、上「世間ニサトリアリトイヘドモ、彼レガ時ニ逢ハズ」同、同「中將ハ、せけんノ人、其ニ［illegible］ラント、爭ヒ聞ユレド、聞キイレズ」源、廿六、常夏「せけんノ事モ、オボツカナシヤナドノ給ヘド」「世間ヲ狹クスル」渡ル世間ニ、鬼ハ無イ」世間知ラズ」

⁘ぜ-げん（名）【女衒】「女衒（ゼゲン）ノ音轉カト云フ、衒ハ、賣るナリ」女ヲ勾引（カドハカ）シテ、遊女屋ナドヘ賣買スル者、又、遊女奉公ノ牙儈スル者ノ稱。判人。　法華經、安行品「販肉自活、衒賣女色、如レ是之人、比皆親近」一騎討後集（寛永、不角）「嬉シガラセル、憂シガラセル、女衒（ゼゲン）見ヲバ、親父（オヤヂ）ヂャト云フテ、ヤル妹（イモト）」

せけん-こ（名）【世間師】乞食ノ一種、世間レテ、悪賢キモノ、老江湖。

せけん-すずめ（名）【世間雀】〔吉原雀、宮雀ナドト同趣〕世間ノ事ヲ、言ヒハヤスモノ。京七百五十韻（延寶）「道戯舞（タウケマヒ）、鳥ノ細脛、踏ミナラシ、世間雀ハ、友ニ採マルル」

せ(セ)け(ケ)ん(ン)-だ(ダ)ま(マ)し(シ)ひ(イ)（名）【世間魂】世間ニ交ハル心。交際ニ就キテノ心。　大鏡、下、道長「せけんだましひハシモ、イトカシコク侍ルヲ取リ所ニテ、エサリ難クオボエ侍ル」

せけん-てい（名）【世間體】世上ノ人ニ對スル體面　世間ヘノ體裁　浮世風呂、二ノ下、三馬、三編、下、カミサンヲ恐ガル亭主モ、世間體ノ惡イモノサ」「世間體ヲ繕フ」

せけん-なみ（名）【世間並】世ノツネ。世間一様。　通詩［illegible］本地、寶永、近松作二「三［illegible］世、三世トハ、世間並デ、淺イ事」

せけん-ばなし（名）【世間話】ウキヨガタリ。ウキヨバナシ。世話。世談。街談。

せけん-みず（名）【世間不見】世情ニ、通ゼザルコト。又、其人。井蛙。

せこ（名）　宴會ノ時、杯モ、銚子モ、幾ツモ出ダスコト。［illegible］ノ時ハ、［illegible］テ、盃、幾ツモ出シ、銚子ナドモ、幾ヘダモ出シ候事、常ノ事ナリ」

⁘せこ（名）【粗末】衣服ナドノ、［illegible］モノ。「衣服ガ、粗末（セコ）ダ」

〰せ-こ（名）【兄子夫子】〔せ（兄）ノ條ヲ見ヨ〕（一）兄（アニ）、又、弟。セナ。　萬葉集、二「吾ガ勢枯（セコ）ヲ、大和ヘ遣ルト、小夜深ケテ、曉露ニ、吾ガ立チ濡レシ」［illegible］（二）夫子（ヲット）。允恭紀、八年二月「我ガ夫故ガ、來ベキ夜（ヨヒ）ナリ」萬葉集、四［illegible］アラバ、火ニモ水ニモ、吾レ無ケナクニ［illegible］ガ［illegible］ハ、何處行クラム、沖ツ藻ノ、［illegible］日カ越ユラム」（三）男ドチ、互［illegible］語　古事記、下［illegible］取（トリハケ）佩ル、大刀（タチ）ノ手上（タガミ）ニ」萬葉集、三「［illegible］奥ツ浪、邊波立ツトモ、我ガ世故ガ、御船ノ泊リ、浪立タメヤモ」

せ-こ（名）【勢子】〔迫子（セリコ）ノ約〕カリコ。ブラシコ。［illegible］ノ時、鳥獸ヲ驅リ出ス［illegible］列卒［illegible］十三、神久四年四月［illegible］去使中臣［illegible］小山［illegible］十八［illegible］心セヨ、トモシノせこモ、亂レ入ルナリ」夫木抄、八「夏狩ノ、せこ踏ミシダキ、分クル野ニ、惹レヤスラム、サ百合ハノ花」

せ-こ（名）【谷】〔狹所（セコ）ノ義〕山ト山ノ間。ハザマ。サク。サコ。（阿波、出雲ナドニテ（迫（サコ）））。小路（コウヂ）（伊勢、山田）。谷（ヤツ）（相摸、鎌倉）さこ（谷）ノ條ヲ參見セヨ。

せ-こ（名）【世故】せいこ（世故）ニ同ジ。

〰せ-こご・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）蹐　せぐくむニ同ジ。　曾我物語、一「［illegible］投事、小首賞ニ賞メテ、せこごめテ、マハル所ゾ」

せ(セ)こ(コ)-ご(ゴ)ゑ(エ)（名）【勢子聲】列卒（セコ）ノ、鳥獸ヲ逐ヒタツル聲。　新六帖、二、鵜「何トシテ、深山路シノ、せこ聲ニ、ヤラハレナガラ、鹿モ遁グラムニ」

せ-こし（名）【［illegible］】［illegible］

せ-こし（名）【［illegible］】［illegible］ソモ、コレ、退屈ノせこしナルに」

せ-こし（名）【料理】［illegible］ノ、背ヨリ切ルコト。［illegible］ノ出典ヲ見ヨ［illegible］リタ［illegible］ヨク［illegible］其ママ［illegible］リ、木口切ニ、少シ骨ナリ［illegible］作ル事也［illegible］鯖ナドノ鮨ニ用ル」

せこ-せこ（副）〔せかせかノ轉語〕［illegible］ツ、急促ニスル狀ツ云フ語［illegible］

せこ-だいこ（名）【勢子太鼓】勢子ノ［illegible］獸ヲ驅リ出ストテ、打ツ太鼓。［illegible］一［illegible］近松作［illegible］列卒ノ［illegible］數八［illegible］

せ(ヒ)こ(コ)-な(ナ)は(ハ)（名）【勢子繩】［illegible］千倫本に［illegible］捕ヘム爲ニ用キル繩。［illegible］廿六［illegible］なはニ、引キコメクルル、［illegible］バカリ、アハレ心ノ［illegible］クカゾサキ

せこ-めすびと（名）【［illegible］】［illegible］ノ俗語、せけせけトスノ語アリ、靜岡縣ニテ、せかせか奴ヲセツクモノ、下云ノ語ツ用キル［illegible］コソコソ［illegible］

セコンド（名）［illegible］

［illegible］

せ(セ)こ(コ)め(ノ)-ま(ア)は(ッ)・す(ス)・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［illegible］ト［illegible］永、近松作、中、兄弟［illegible］めまはす［illegible］

せ-こり（名）［illegible］川ノ［illegible］テ、［illegible］スルコト。［illegible］

せこゑろび（名）［illegible］

ヒ、身長ノ度合、狂言記、傳聞「コナタノ丈頃合ガ、ヨウ御座リマセウ」

せ-さい （名） 世才 日常ノ俗事ニ、長ケタルコト 世俗ノ事情ニ通ゼル才 世智、俗才（學才ナドニ對ス）「世才ニ長ク」

〜**せ-ざい** （名） 前栽 せんざい（前栽）ニ同ジ。蜻蛉日記、上、上「せざいノ花、色色ニ咲亂レタルヲ見ヤリテ」 類實集、内ノせざい掘リニ「九重ニ、移シ植エツル、シルシニハ、久シク匂ヘ、野邊ノ秋萩」

せさい-ぐすり （名） 定齋藥 〔定ハ、正音ぢやう、俗ニ、ぢようトシ、ソレガ轉訛シテ、ぢよ、又ハ、ぜトス〕 散藥ノ名、中暑ニ效アリトス。明ノ沈惟敬、嘗テ、此藥方ヲ豐公ニ獻ジ、公、コレヲ、猿樂師村田定齋ト云フ者ニ授ケタリト云フ。其子孫、大阪ニ居リテ、相傳シテ、賣リ、後、京都ニ移ル（近代世事談）ぢやうさいぐすり（定齋藥）ノ條ヲモ參見セヨ

〜**ぜ-ざう** （名） 軟障 ぜんぢやう（軟障）ノ條ヲ見ヨ。蜻蛉日記、中、下「引キタルぜざうナドモ、放チタグリ」

せ-ざき-バオリ （名） 脊割羽織 羽織ノ製ニ、脊縫ノ中央以下ヲ縫ハズシテ、裂ケタルモノ、馬上、又ハ、旅行ニ用ヰル、裂クヲ、あくると云ヒ、馬乘ヲあくると云ヒテ、馬乘ヲあくると云フ。セワリバオリ。ブッサキバオリ。サキバオリ、ノバオリ。燕尾撥 本朝[illegible]、西鶴「ヲカシゲニ、さきばおり着テ」 [illegible]、馬乘コソハ、多ク見エケレ、袖ナシノ、道服ノ背ヲ、あけ過ギテ」

〜**せ-さ・す** （動） 爲 爲ト云フ動詞ノ變化ノ爲ニ、助動詞ノ令すノ添ヒタル語。各條ヲ見ヨ。爲サシム。セシム。散木集（俊頼）三、秋「遥カニ、蟲モ聲聲、惜シムナリ、過ギ行ク秋ニ、船出せさすナ」 源、四十八、寄生九十「サマサマニせさする事モ、アヤシウ驗ナキ心地ノミコソスレ」 同、十五、蓬生四「然樣ニせさせ給ヒテ、云云、調度、云云、ワサト、某人、彼人ニせさせ給ヘル」

〜**せ・し・キ・ケレ・ク・ク** （形、二） 狹 〔狹しノ轉、うるせし、いぶせしノせしモ、同語〕 セマシ。セバシ。サシ。 名義抄「陜、セキ、セバシ」 源、一、桐壺廿九「頓食、祿ノ唐櫃ドモナド、所せきマテ」

せ-じ （名） 世事 （一）せいじ（世事）ニ同ジ。「世事ニ疎シ」「世事ニ奔走ス」（二）轉ジテ、俗ニ、人ニ應對スルニ、世事ナド、話シテ、愛相好クアヘシラフコト。（世辭トモ書ス）諂ヒノ、輕キモノ。ベンチャラ。巧言。款語。 傾城買二筋道（寛政、梅暮里谷峨）「マタ、文里サンノ、せじヲ云フ」 六歌仙容彩、喜撰法師「世事デ丸メテ浮氣テ提ネテ」「世事ガ良イ」「世事ヲ使フ」「世事ガ無イ」 （三）僧侶ノ、常食以外ノ食事ノ稱。非時。 雜談集、三「法師バラ、坂本ヘドリヌレバ、タカ寄リ合ヒテ、事ト名ヅケテ、我我、世事シテ食ス」（世俗の事ノ如クノ意）

〜**ぜ-じ** （名） 禪師 ぜんじ（禪師）ニ同ジ。僧ノ汎稱。 蜻蛉日記、上、下「ぜじタチ在リケレバ、云云、護身ニトテ、物シタレバ、云云、大德、云云」 伊勢物語、七十八段「山科ノぜじノ皇子、オハシマス」 和泉式部日記「書ナドハ、アノぜじノアル方ニオハシテ御座セ」

セシウム （名） 〔英語、Caesium.〕 稍、稀ナル金屬元素 軟カニシテ、銀色ヲナシ、空氣ニ觸ルレバ、燃ユ。ソノ化合物ノ性質ハ、かりうむノ化合物ニ類ス。

〜**せ-じ-がき** （名） 宣旨書 せんじがき（宣旨書）ニ同ジ。源、三十八、夕霧七十「せじがき、ハタ聞エサスベキニヤハト、集マリテ聞エサスレバ」

せ-じじ （名） 脊 せぼね（脊骨）ニ同ジ。

〜**セシム** （名） 王子 〔韓語〕 こにせしむノ略。其條ヲ見ヨ。神功紀、四十九年三月「王肖古、及、王子貴須、亦領軍來會」

〜**せ-し・む** （動） 爲 爲ト云フ動詞ノ變化ノ爲ニ、助動詞ノ令むノ添ヒタル語。各條ヲ見ヨ。爲サシム。セサス。 萬葉集、十一廿「山菅ノ、亂レ戀ノミ、令爲ツツ、逢ハヌ妹カモ、年ハ經ニツツ」 宇津保物語、祭使廿六「イカニ、殿ハ、何トカせしめ給フ」

せ-じん （名） 世人 ヨノヒト。世上ノ人。張謂、題長安主人壁詩「世人結交須黄金、黄金不多交不深」

せしめ-うるし （名） 石漆 漆ノ一種。上品ニシテ、物ヲ接グニ、力、強キモノ、奧羽、下野、邊ヨリ産ズ。百合若大臣野守鏡（寶永、近松作）一「マツ先驅ケテ、一番首ヲせしめ漆ト、勇ミヲナシ」

せ-し・める・メル・メレ・メ・メ・メヨ （他動、下二） （一）ナシトグ。シトグ。（二）奪ヒ取ル。横ドリス。 博多小女郎波枕（享保、近松作）上「一角（一分金）せしめムト、人ノ巾着當テニシテ」

せじ-もの （名） 世事者 世事ノ、上手ナルモノ。追從ノ、巧ミナルモノ。巧嘴人。浮世風呂（文化、三馬）二編、上「本ニ、御前ノ母樣ハ、せじ者ダナウ」

せ-じやう （名） 世上 ヨノナカ。世間。 戰國策、秦策「人生世上、勢位富厚、蓋可以忽乎哉」 太平記、三十九、大内介降參事「世上ノ毀譽ハ、非善惡、人間ノ用捨ハ在貧富」トハ、今ノ時ヲヤ申スベキ」

せ-じやう （名） 世情 世間ノ情態。世態。 [illegible]「世情二」 謠曲、山姥「道ヲ極メ、名ヲ立テテ、世情、萬徳ノ妙花ヲ開ク事、此一曲ノ故ナラズヤ」

〜**ぜ-じやう** （名） 軟障 ぜんぢやう（軟障）ニ同ジ。 源、三十三、藤裏葉「道ノホトリ、[illegible]、[illegible]ニハ、錦ヲ敷キ、アラハナルベキ所ニハ、ぜじやうヲ引キ」

せ-しゆ （名） 施主 〔南海寄歸傳、一「梵云陀那鉢底、譯爲施主、陀那是施、鉢底是主」トアリ〕 （一）僧ニ、物ヲ施行スル人。檀那。（僧侶ヨリ云フ） 无量壽經「我於無量劫、不爲大施主、普濟諸貧苦、誓不成正覺」 法苑珠林（釋道世）「令施主得大利益」 （二）又、葬儀、法事、供養ナドヲ營ム主。喪主。香主 狂言記、泣尼「今日、此ノ寺ノ施主ニ頼マレ、一座ノ談議ヲ致ス事デ御座ル」

〜**せ・す・ス・セ・サ・シ・セ** （他動、四） 爲 す（爲）ノ敬語。爲給フ。 萬葉集、一、長歌「安見シシ、吾ガ大王、神ナガラ、神サビ世スト、芳野川」 同、同廿「草枕、旅宿リ世須、古ヘ念ヒテ」 同、十九三十長歌「國見シ勢志テ」

〜**せ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ** （他動、左變） 施 ホドコス。施行ス。 宇津保物語、俊蔭「虎、狼、熊、獸ニ雜リサスラヘテ、獸ニ身ヲせしツベク覺エ」 同、同四十五「己ガ身ノ内ニ、親ヲ養ハンニ、より（ようノ誤カ）無キ所アラバ、せし奉ルベシ、云云、從ラナル所ハ、耳ノハタ、鼻ノ梁ナリケリ、コレヲ、山ノ王ニせし奉ル」 同、同五十「衆生ニ、穀ヲせしテ」 源、三十四、上、若菜、上八十一「カヒナキ身ヲバ、熊、狼ニモせし侍リナム」

ゼス （名） 〔葡語、Jesus.ノ訛〕 やそ（耶蘇）ニ同ジ。

ゼスイット （名） 〔西語、葡語、Jesuita. 英語、獨逸語、Jesuit.〕 獨逸ノぷろてすたんと等ノ、宗教改革ニ對シ、其反動トシテ起リシ舊派耶蘇教主義ノ教團 西紀千五百三十四年、西班牙ノいぐなちうすろよらノ創設シタルモノ。其徒、天正年中、

我ガ國ニモ來レリ。所謂、きりしたん宗門、是レナリ。ポルトガル、ヨリ渡[illegible]

せ-すぢ（名）【脊筋】（一）脊骨ノ上ニ當リテ、竪ニ長ク凹ミタル處。脊梁。太平記、十三、龍馬進奏事「脊ハ、龍ノ如クニシテ、四十二ノ辻毛ヲ巻キテ、脊筋ニ連レリ」（二）衣服ノ、脊骨ニアタル處ノ縫目。

〔せ-ぜ（名）【瀨瀨】數多ノ瀨。此ノ瀨、又、彼ノ瀨。萬葉集、十一「コノ川ノ、瀨瀨ノ敷浪、頻ク頻クニ、妹ガ心ニ、乘リニケルカモ」齋宮女御集「風サヘヤ、神ノアタリヲ、拂フラム、早キせぜニモ、散ルモミヂ葉ヲ」

ぜ-ぜ（名）【錢】〔錢ヲ略シテ、重ヌ。酒ヲささ、鰹節ヲかかト云フ類〕ぜに（錢）ニ同ジ。小兒ノ語。

ぜ-せい（名）【是正】訂シ、改ムルコト。後漢書、安帝紀「詔二五經博士一是二正文字一」

ぜぜ-が-かふ（名）【手手甲】昔ノ戲ノ名。手ヲ組ミテ、顏ニ當テテ、ぜぜがかふト云ヒテ、小兒ヲ威スコト。後世ノめかかう（目赤）ノ類。世事百談、手手甲「嬉耳ト云フ册子ニ、日本ニテ、手ヲ組ミ、顏ニアテテ、手手甲ト云ウテ、小兒ヲ威ス事モアリト云フコト、見エタリ、云云、手手甲ト云フコトハ、今、土佐國ニテ、兒女ナドノ、常ノ遊戲ニスル事トテ、ソノ國人、鹿持江氏ノ、過シ頃、訪ヒ來ラレシ折ノ物語」古今夷曲集（寬文、生白庵）序「土佐ノ手手甲、大和ノ元興寺」

〔せせか・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）屑屑トシテ、セセクルヤウナリ。胡琴教錄、上、陸奧十二「琴爪ハ、せせかしゲニ聞キテ」

ぜぜ-がひ（名）【膳所貝】しじみ（蜆）ノ一種。（近江國ニテ）

ぜぜ-がひ（名）【錢貝】ぜにがひ（錢貝）、きさご（細螺）ニ同ジ。大キナルきさご

ヲ、緒ニ貫キテ、弄ブモノ。（京都）

せせが・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）（一）セセル。[illegible]ヤウニナス。セガム。[illegible]「お前ヲせせかめバ、[illegible]」（二）[illegible]。字類抄[illegible]

せせ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）次次條ノ語ニ同ジ。胡琴教錄、上、「搖合十六「[illegible]カカル御遊ナドニ、せせくヤウニ彈ク、取ラ、品無シ」

せせく・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）せせる（自動）ニ同ジ。枕狩劍本地（寶永、近松作）二「せせくり寄リテ、聞ヒカクル」

せせく・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）せせる（他動）ニ同ジ。靜岡縣ニテ、せくる。袋草紙（藤原清輔）四、詞文獻、夜行途中歌「聲噺ヤ、ツカ（束）カニせせくりニ、漫メル酒、手醉ヒ足醉ヒ、我レ醉ヒニケリ」

せせ-ふま・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）狹ク、寬裕ナシ。【陜隘】娘敵加留多（享保、近松作）二「經正殿モ、細シャクレテ、十四ノ春カラ嘗ガハリ、せせふましうテ、此方ハ嫌い「せせふましい恩」

セセッション（名）〔せせ、ふぉん〕ハ、英語、Secession. ニテ、分離ノ意　西紀千八百九十八年、墺地利國ノうぃんふニ於テ、新進ノ作家等ガ團結シテ、從來ノ美術展覽會ヨリ分離シ、新ニ展覽會ヲ開キテ、其作品ヲ發表シ、頗ル衆目ヲ驚カセリ。之ヨリ此一派ヲ、せせっふぉにすと（分離派）ト呼ブニ至リシニ由ル。るねえさんそ式、ごぢっく式ナドニ對ス）西洋建築、及、其他ノ造形美術ニ於ケル樣式ノ一。多ク、直線ヲ用キテ、[illegible]快瀟洒ナル趣アルモノ。

〔せせなぎ（名）【[illegible]】〔次次條ノせせらぎ

（細）ノ轉。くつわづら、くつわづな。つらぬき、つなぬき〕人家ノ間ニ、水ヲ流シ去ル溝。ドブ。下水。【瀆】名義抄「瀆、セセナギ」字類抄「瀆、セセナギ」

せせら-か・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）せせるヤウニナス。玩弄ス。今昔物語、廿九、廿七[illegible]テ、[illegible]せせらかす[illegible]、[illegible]ト云ヒテ」

〔せせらぎ（名）【細】〔次條ノ語ノ、名詞形〕淺キ瀨ニ、水ノ流ルル處。又、使ヒ[illegible]流ス小溝。せせなぎ。せらぎ。[illegible]小川。小流。小溝。詩經、古義[illegible]、セセラギ」林逸集、[illegible]ヲリモ嬉シナ、燈ス螢ハ」太平記、八、持明院行幸事六[illegible]ノせせらぎニ、[illegible]サ走ルせせらぎニ」其家流紫集、下「モミヂ葉ノ、流レテ堰ケバ、山川ノ、淺キ瀨良樣モ、秋ハ深キヲ」

〔せせ-ら・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（自動、一）〔さざらぐノ轉〕水淺ク、サ[illegible]テ、流ル。【淺淺】名義抄「淺、セセラク」字類抄「淺、淺淺、セセラキ」

せせら-わらひ（名）【[illegible]】[illegible]侮リ、アザワラフコト。[illegible]

せせり-たふ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）セセクリテ、倒ス。[illegible]ヲ得テ、跳ネ返シテ、主從二人シテ、手取リ、足取リ、せせり倒シテ、頸ヲ切ル」

せ-せ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔迫り迫るノ略〕（一）セマル。近ヅク。（二）屑屑ス。（三）ツブヤク。ヒトリゴツ。字治拾遺、一、第二[illegible]コトヲ云ヒテ、[illegible]ノ鬼ノ前ニ躍リ出デテ、口說クメリ」

せせ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）（靜岡縣、[illegible]）玩ブ、せせるト云ヒ、又、玩具ヲ[illegible]トモ用キル）（一）持チ扱ヒテ、[illegible]ル。イジル。イロフ。ソソル。ソソクル。セセクル。撫ヅル。今昔物語、廿七[illegible]四十二「[illegible]、[illegible]ナク、せせる、せせる[illegible]、[illegible]、手取リ足取リ、せせり倒シテ」（二）[illegible]ク。ツツキ掘ル。

せ-ソウ（名）【[illegible]】[illegible]

せ-ぞく（名）【世俗】（一）世ノナラハシ。[illegible]（二）世間。世ノ中。[illegible]

せ-たん（名）【[illegible]】[illegible]

せ-ぞんりゆう（名）【[illegible]】[illegible]

せ-たい（名）【世帶】世ノ中ノアリサマ。[illegible]

「人情世態」

せ-たい（名）［世帶］しょたい（所帶）ノ（二）ノ轉訛。[illegible]記、[illegible]「連歌ヲ止メヨナラバ、イカニモ止メウズ、是非止メ候ハバ、世帶ヲ畳ム[illegible]ニ、其方ト、兩吟ニスルデアラウ」

せ-だえ（名）［瀨斷］瀨ヲ流ルル水ノ、絕ユルコト。千載集、十四、戀、四「住ミ馴レシ、佐野ノ中川、せだえシテ、流レカハルハ、淚ナリケリ」續千載集、十四、戀、四「イカニセム、憂キ中河ノ、水ヲ淺ミ、せだえガチナル、心細サヲ」

せた-からげ（名）［勢田絡］衣ノ左右ノ褄ヲ取リ、前ニテ、帶ニ挾ムコト。アヅマカラゲ。セタヲリ。嘉多言（慶安）二「武士ノ、矢橋ノ舟ハ、早クトモ、急ガバ廻ハレ、勢田ノ長橋」せたからげト云フ言葉ハ、此處ヲマハル時ヨリ、言ヒソメタルニヤ」鷹筑波集「釣鐘ヲ、勢多からげシテ、上ケケラシ、龍宮ヨリモ、歸ル秀鄕」

せた・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）［虐］しへたぐノ約。校定、平家物語、十二、六代被レ斬事「敵ヲせたぐるニ及バズ、近國二三ケ國ヲモ給テ、賣喬スベキノ由、申シケレバ」そのはまゆふ　賣永、嵐雪ノ序「物ホシガリノ宮雀モ、散[illegible]ヲせたけズ」

せた・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）［急］イソガス。セカス。督促ス。井筒業平河內通（享保、近松作）二「傳ノ前ヘモ、面出シセズ、何故、姪ヲ水責メ、ヌカセヌカセト、せたけラレ」

せ-たけ（名）［脊丈］身ノ丈。セ。セイ。御所櫻堀川夜討（元文、文耕堂）「脊長伸ビルニ隨ヒテ、唯爺樣ニ逢ヒタイト、慕フ子ヨリモ」浮世風呂（文化、三馬）二編、上「脊丈バカリ伸ビマシテ、柔順シク御座イマセン」

⁂せた・げる（動）せたぐ（虐）ノ口語。

〔せ-た・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［責］〔迫痛むる義〕強ク責ム。サイナム。夫木抄、三十六「アヂキナシ、身ノタメニコソ、惜ヒモスレ、心せたむる、我ガ淚カナ」林葉集、五、戀「オノヅカラ、打チマドロメバ、打チ起シ、イカニせたむる、胸ノ思ゾ」落窪物語、一、下「帶刀ニ、問ヒせため給ヒケレバ」今昔物語、廿六、第十二語「事ニ事ヲ付テ、責ためムトシテ」宇治拾遺、三、第十二條「多クノ罪人、罪ノ輕重ニ隨ヒテ、打チせため、罪セラルルコト、イトイミジ」著聞集、九、武勇、義家朝臣ノ條「妻ヲサイナミせためテ、問ヒケレバ」狹衣、一、下四十一「己カ身ヲ、トサマカウサマニせため給フヨ」盛衰記、五、成親以下被二召捕一事「榜木ニ懸ケテ、打チせため、事ノ起リヲ尋ネケリ」同、廿三、新院給レ恐二御起請一事「我ハ、入道ニせため殺サレンズルニ」

せため（名）［責］セタムルコト。狹衣、三、上四十二「母代、又、せためニ寄リ來タルニ、見ツケテ」

せたら-うま（名）［脊垂馬］（一）背ノ、撓ミタル馬。［駠］（二）瘠セテ、脊ノ出デタル馬。

せたら-お・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［脊垂負］肩ヨリカケ、背ニ垂レ下ゲテ、負フ。東海道名所記（萬治）「一人ノ座頭、琵琶箱ヲせたらおひ」續旅囊、春「脊たら負ふ、蓍ヲ見セバヤ、花ノ春」

せた-をり（名）［勢田折］せたからげ（勢田絡）ニ同ジ。康富記、嘉吉三年五月廿八日、敍山祭「力者雜色等、各脫二白張一、勢多折ニ成ル」注「烏帽子バカリ着レ之」

〔せち（名）［節］せつ（節）ノ（一）ニ同ジ。又、節日。字類抄「節、セチ」蜻蛉日記、下、中四「蟲ダニ、時せちヲ知リタルヨ」

〔せち（名）［節］せちく（節供）ノ略。蜻蛉日記、上、下六「今年ハ、節キコシメスベシトテ、イミジク騷グ、イカデ見ムト思フニ、所ゾ無キ」忠見集、或所ノ屛風ニ、正月せちスル所アリ「春霞、立ツト云フ日ヲ、迎ヘツツ、年ノ主ト、我レヤナリナム」

せち（名）［說］せつ（說）ニ同ジ。榮花物語、廿六、楚王夢「又或ルせちニハ、御娘ノ君ヲナナム、彼ノ大臣ニモ、ト宣フト聞コユルハ」

せ-ち（名）［世智］（一）處世ノ才。世才。俗才。「世智ニ長ク」（二）せちべん（世智辯）ノ（二）ノ略。三英隨筆、二百廿三「其頃ハ、世ノ中、全盛、大名、過分ノ奢侈ヲ致サレタル由、段段、世ノ中、世智ニナリ、儉約、初メテ、云云」

〔せち-がい（名）［殺害］せつがい（殺害）ニ同ジ。宇津保物語、吹上、上十一「父、劍ヲ持チテせちがいストモ、汝ガ罪ヲバ咎メジトマデ申侍リシヲ」

せち-がしこ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）［世智賢］世才ニ長ケタリ。好色一代女（貞享、西鶴）「ソノ道道ニ、サテモ、せちがしこきコトヲ」

せちが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）セガム。セツク。女殺油地獄（享保、近松作）上「ドヤドヤ通リノ、ムヤムヤノ關、二度ト越シ中サナイ、ドウダドウダト、責せちがふ」

せち-がま・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［世智］世智賢ク見ユ。

せち-がら・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）［世智辛］〔世智辯辛しノ略〕世渡リ、苦シ。世ニ處スルコト、難シ。吉原雜話（天明）三「近年ハ、人ノ心、せちがらくナリテヨリハ、馬鹿ラシキ事ヲスル者モ無ク、云云、昔ノ心ニ引キ比ベテハ、寬濶ニシテ、少モ世智がらくナイト、思ハルルナリ」

せち-く（名）［節供］〔其節節ニ供給スル物品ヨリ起レル名〕節日ニ、酒饌ヲ供スルコト。卽チ、元日ノ膳、正月十五日（後世ハ七日）ノ七種粥、上巳ノ草餠、端午ノ粽、七夕ノ索餠、玄猪（十月、初ノ亥ノ日）ノ亥子餠ナド、ナリ。約メテ、せち。又、せく。せっく。セチゴト。今、婦人ノ語ニ、おせちト云フ。（後ノ節句、コレヨリ移ル）。年中行事祕抄（嘉曆）正月十五日、七種粥「御記云、寬平二年二月三十日、仰、善曰、正月十五日七種粥、三月三日桃花餠、五月五日五色粽、七月七日索餠、十月初亥餠等、俗間行來、以爲二歲事一、自今以後、每色弁調、宜供二奉之一、于時、[illegible]院別當、[illegible]仰二[illegible]供、夫、作節供之義、並件要、除災計也」トシテ、正月一日、三月三日、五月五日、七月七日、九月九日ノ節供ノ飲食ニ就キテ、效用ヲ述ベテアリ。[illegible]今昔物語、東三條內府「世ノ中、今メカシク、所所、節供參リ、云云、騎、小弓ナド、遊ブ」俳諧御傘（貞德）「おせちトバカリ、スルハ春ナリ」コレハ、天下ノ地下人、正月ニ、親類ドモ、振舞ヲ申シツケタル俗言ナレド」

せち-げ（名）［節下］〔節ハ旗ノ類〕史記、秦始皇紀「旄節旄旗、皆上黑」安齋隨筆、廿八「一條禪閤ノ三ケ重事抄ニ云ク、節下大臣ト云フハ、節トハ旗ノ名ナリ、世俗ニハ、大がまらト名ヅク、其旗ノ下ニ供奉スルニヨリテ、節下の大臣トハ云フナリ」標ノ旗ノ下。古ヘ、大嘗會、御禊ナドノ儀式ノ時、旗ヲ宮城內ニ建テ、其ノ標ノ旗ノ下ニ立チテ、事ヲ執ル上卿ヲ、節下の上卿、又、節下の大臣ト云ヒ、其旗ヲ、節下の旗ト云フ。江家次第、十四「節下大臣」同「節下上卿」中務內侍日記「南ヲ遙ニ見ヤレバ、せちげノ旗トテ」

せち-おと（名）［節事］〔おとハ、食事ナリ〕前前條ノ語ニ同ジ。[illegible]一后度千句「見ルニタダ、上ル腹赤ノ、新ラシヤ」客ヲバ申シ、入レム節事」

せち-だ（名）［席駄］せきだ（席駄）ニ同ジ。紅梅千句（承應）「庭淨メ、オケド亭主ノ、不アシラヒ」せちだニ灸、スヱシ路次口」嘉多言（慶安）ニ「雪駄ヲせきだ、せちだト云フ」トアリ。

〔せち-に（副）［切］心ニ深ク。頻リニ。一向ニ。切ニ。竹取物語「良キ人ニ逢ハセムト思ヒ計レドモ、せちニ否ト云フ事ナレバ」伊勢物語、十四段「京ノ人ハ、珍ラカニヤオボエケン、せちニ思ヘル心ナン有リケル」源、四十八、寄生五十八「若君ヲ、せちニ懷シガリ聞エ給ヘバ」大和物語、下「桂ノミ

コ、せちヱコバヒ給ヒケレバ」 宇津保物語、忠社「せちゑ暇ヲ乞ヒシカバ」 同、初秋「せちなる人人、呼ビマヰラスルヲ、御薩ニ臨シテ、出入リ給ヘ」

せちにち (名) 節日 古ヘ、氣候ノ變ハル節ナドニ、祝儀ナド行フベキ日。即チ元旦、白馬、踏歌、端午、相撲、重陽、豐明等ニテ、禁中ニテハ、此日、群臣ヲ召シテ、宴ヲ賜フ。大節ニハ、群臣、殘リナク召ス、小節ニハ、五位以上ノミ召ス。

せちぶ (名) 節分 次條ノ語ニ同ジ。 枕草子、二、十四段、すさまじきもの「方違ニ行キタルニ、饗セヌ所、マシテ、せちぶハ、スサマジ」 源、四十九、東屋「長月ハ、明日コソ、せちぶト聞キシカ、ト云ヒ慰ム」

せちぶん (名) 節分 (一)氣候ノ、立春、又ハ、立夏、立秋、立冬ニ移ル時ノ稱。又、せちぶ。 蜻蛉日記、下、下「背年ニ、せち分スルヲ」 源、四十八、寄生「四月朔日ゴロ、せちぶんトカ云フ事、マダシキ先ニ、渡シ奉リヌ」 伊勢集「せちぶんノ翌朝、四月一日、宮ニテ」 (二)後ニハ、專ラ、立春ナルニ云フ。せつぶん(節分)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 運歩色葉集「節分、セチブン」

せちぶるまひ (名) 節振舞 (一)節日ノ馳走。節日ノ振舞。 わうばんぶるまひ(椀飯振舞)ノ條ヲ見ヨ。 室町殿日記、十三「織田信長、正月五日、節振舞アルベシト、佳例ニマカセ、諸侯ヲ集メ給フ」 (二)新年ヲ迎ヘタルヲ祝シテ、年始ニナス饗應ノ稱。 増山井「せち振舞(俳)」

せちべん (名) 世智辯 〔諺艸、七、ニ世智便ニ作ル、辯、便、同ジ、晉書、夏侯湛傳「辯佞」論語、季氏篇「便佞」ノ類〕 (一)世慧シダツコト。小ザカシキコト。世智長ケテ、賢キコト。 [illegible]「世智辯聰」ニ作ノ佛書ニハ、世智辯聰ト見エタリ) 沙石集、五、上、第七條「常ニ、或女房、世間サカサカシク、世智辯聰ナル、アリケリ、常ニ使ヒツケタル女童ニ教ヘケルハ、云云、客人ナドノアラム時、一合、二合ナド云ハムモ、マサナシ、云云、源氏ノ巻ノ次第ヲ覺エヨ、一、桐壺、二、帚木、三、若紫ナド云フゾカシ、サレバ、桐壺ナドニモセヨカシト云ハバ、一合ト心得ヨ、二三モ、カク心得ヨト、教ヘオキツ」 (二)ケチナルコト。吝カニシテ、辛キコト。狡クシテ、出シ惜キコト。 下學集、下、態藝門「世智辯、世俗、惜惜之義也」 史記抄(文明)十八四十三「商賈ノ様ニハ無イホドニ、利モアリサウモ無ケレドモ、其富得、過富、セカセカト、せちべんナル者ヨリ、マシヂャゾ」 女殺油地獄(享保、近松作)上「始末、節用、世智辯モ、人ニコソヨレ、品ニコソ」 我衣(天和)「他人、十金ヲ貸セバ、我ハ、五金ヲ貸シテ歸リタリト、世智辯ヲ元ト心得タリ」 (三)次次條ノ語ノ略。

せちべんばう (名) 世智辯坊 (一)小ザカシキモノ。(二)ケチンバウ。吝嗇者。 用捨箱、中、八「せちべん坊、則チ今云フしはん坊ナリ」 宗長手記、大永三年、俳「[illegible]寺坂ノ、十、乞食ドモ」心皆、せちべん坊ヤ、文道院」

せちべんぶくろ (名) 世智辯嚢 古ヘ、旅人ノ刀ノ柄袋ノ頭ニ掛クル、小サキ革袋。物ヲ惜ミテ、損ゼムヲ恐レテ、爲スルコトナリト。略シテ、せちべん。

せちみ (名) 「節忌ノ約」 齋日ニ、精進、潔齋スルコト。 土佐日記、二月八日「云云、今日、せちみスレバ、魚、用ヰズ」

せぢん (名) 世塵 せいぢん(世塵)ニ同ジ。 [illegible](享保、近松作)二「[illegible]ノ巣、往生際ニ引キ籠リ、早クせぢんヲ遁レシガ」

ぜぢゃう (名) 是定 〔氏上ノ音ヲ移セルナラム〕 橘氏ノ氏神、梅宮ヲ、[illegible]ノ人ノ管領スルヲ、是定ト云フヲ、西宮記ニ、氏定トアリ、是ト、氏ト、音、通ズ。 後漢書、李雲傳、注「是、與氏、古字通用」トアリ」 古ヘ、叙位ノ時、其ノ氏人ノ叙爵ノ時ニ、橘氏ノ叙爵ノコトヲ申請スル人ノ稱。即チ、橘氏ノ氏長者ナリ。 職原抄、下「學館院別當、云云、於氏爵者、是定[illegible]」 [illegible]以來、氏爵也」

セチリ (名) 刹利 〔梵語、刹帝利(Kṣatriya.)ノ略〕 せつり(刹利)ニ同ジ。 袋草紙(藤原清輔)四「貴フナラク、奈落ノ底ニ、入リヌレバ、せちりモ首陀モ、ワカレザリケリ」

せちれう (名) 節料 節會ヲ營ム料物。米、錢、器物、ナド。 宇津保物語、藏開、下「[illegible]、せちれう、イト多ク奉リタリ」

せちゑ (名) 節會 (一)節日ノ集會。節日ニ、群臣、朝廷ニ會スルコト。宴ヲ賜フ。 [illegible] (二)轉ジテ、專ラ、宴ヲ賜ハル節日ノ會ノ稱トナル。即チ白馬ノ節會ト、豐明ノ節會トヲ、大節トシ、(六位以上ニ賜フ) 元日ノ節會ト、踏歌ノ節會トヲ、小節トス。(五位以上ニ) 其他、立后、立坊、任大臣、相撲ノ節會ナドモ、アリ。又、大嘗祭ノ節會ハ、豐樂院ニテ行ハル。祭ノ翌日ハ、悠紀ノ節會、翌翌日ハ、主基ノ節會[illegible] [illegible]五日ノ男踏歌ノ事ニテ侍ベシ、近比行レ侍ルハ、女踏歌ナリ、ソレハ、十六日ナリ」 源、二、帚木二「サルベキ節會ナド、云云」 宇津保物語、初秋「此年ノ内ノせちゑ、コレゾ何レト崩アリテ、朝拜ナドトコトメス時ハ、イトオモシロク」

せちをとこ (名) 節男 としをとこ(年男)ノ條ヲ見ヨ。

せつ (名) 節 又、せち。(一)[illegible] (二)トキ。ヲリ。コロ。期。 [illegible] (四)使臣ナドガ資格ノ標識トシテ携フル旗。 [illegible] (七)音曲、又ハ、歌謠ノふし。調子。律。拍子。「曲節」 (八)骨ト骨トノつがひめ。「骨節」 (九)節句、節日、節會ナドノ略。 (十)帝國ノ尺度ノ名、Knot.ノあて字。[illegible]

せつ (名) 說 (一)意見ヲ、說キ述ブル[illegible] (二)トキアカシ。說明。理解。[illegible] (三)風說。ウハサ。[illegible] (四)漢文ノ一體。自己ノ考察ヲ[illegible]アル」

せつ [illegible]

せつ (名) 切 (一)親切。剴切。一切。

要、緊要。晉書、○○、「帝王所、重音潤色、所切音人情」）（三）ヘシ、反切。韻會「切、謂二一韻之字、相摩以成レ聲、謂二之切一」

せつ（名）[齣] 何切、段々きり（切）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。字彙補「傳奇中、一回爲二一齣一」路史、宋、[illegible]、有二第一齣、第二齣一、諸曲書二齣字一、此字ハ、必齣之訛也、牛食而復出曰レ齣、諧源「齣、讀如レ尺、云云、按、似三優人入而復出一也」齣、音讀、北曲謂レ尺迹」

セツ（名）[刹]〔梵語、刹瑟胝（Yasti.）ノ略〕ノ音譯字、表相ノ義ニシテ、幡幢（ハタホコ）ノ意トナリ。ソレヲ、寺ノ標識ニ建テ置クニ因リテ、寺ノ事トナレルナリ。萬葉集、十六「波羅門ノ、作レル小田ヲ、喫（ハ）ム鳥、臉腫（マナブタハ）レテ、幡幢ニ居リ」トアルハ、奈良ノ大安寺ノ波羅門（バラモン）僧正ガ、寺田ヲ作レルヲ、鳥、來リテ啄メルガ、說法ヲ聞キテ、懺悔シテ泣ク意ノ詠ナリト云フ（高楠順次郎說）集韻「刹、初轄切」（次條ノ檫モ、集韻「初戛切、音察」）さつノ呉音、せつナリ（殺戮（サツリク）、殺生（セフシヤウ））和漢三才圖會（正德）十三、異國人物、朝鮮國語「寺、泥留」倭訓栞（寶曆）てら「寺ヲ讀メリ、云云、今ノ朝鮮語ニテ、てるト云ヘバ、モト、韓語ニヤ」現今ノ朝鮮語ニハ、寺ヲ、ちょうるト云フ（正德、寶曆ト、古今ノ音轉）共ニ、刹（セツ）ノ字ノ朝鮮音ナリ」 てら（寺）ノ異稱。梵刹。佛刹。翻譯名義集「伽藍、梵刹二音、輔行云、西域以レ柱表レ刹、示二所居處一也、梵語、刹瑟胝、此云レ竿、即、旛柱也」 增韻「刹、僧寺」「巨刹」古刹」

セツ（名）[檫]〔梵語、支提（Citi. 又ハ、Caitya.）ノ音譯字、堆積ノ義〕印度ニテハ、人骨ヲ埋メ、土饅頭ヲ築キ、其上ノ中央ニ、柱ヲ立ツ。因リテ、塔ノ柱ノ意トナル（高楠順次郎說）」 塔ノ心柱（シンノハシラ）（五重（ゴヂュウノ）塔ノ條ヲ見ヨ） 大和國、生駒郡、藥師寺、東塔ノ檫柱ノ九輪ノ下ニ、銘アリ、寺傳ニ、舍人親王ノ撰ナリト云フ。倭名抄、十三「佛塔具、檫、四聲字苑云、佛塔中心柱也、心乃波之良」推古紀、元年正月丙辰（十五日）「以二佛舍利一置二于法興寺刹柱礎中一」丁巳（十六日）「建二刹柱一」刹、檫（セツ）、同音、前條ノ語原ヲ見ヨ。康熙字典「釋家上立レ柱、柱、中藏二舍利一曰レ刹」王巾、頭陀寺碑「列刹相望」註「列刹、佛塔也」

せつ（代）[拙] 自己ノ謙稱。ワタクシ。下拙。拙者。 七偏人（安政、梅亭金鵞）二編、下「拙モ遲參ニ及ンデハ、其罪、マタ輕カラズ」

ぜつ（名）[絕]〔律ニ對ス〕ぜっく（絕句）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

せつ-あく（名）[拙惡] 拙劣（ツタナ）クシテ、粗惡（アラ）シキコト。 韓偓詩「粉壁不レ題新拙惡、小屛惟錄古文章」「技術、拙惡」

せつ-あつ（名）[折頞] 鼻筋ノ、折レ曲リタルコト。 三國志、吳志、諸葛恪傳、注「恪、長七尺六寸、少二鬚眉一、折頞廣額、大口高聲」 保元物語、三、無鹽君事「齊ノ無鹽君ガ髮ハ、登徒ガ妻ニ勝レ、鑑縷ノ上ノ肩、黃藏カ輩ニ超エタリ、折頞（セツアツ）ト、鼻塞（ハナヒセ）ニ、高匡（マカブラタカ）ト、頷頓（ケンプ）ニ、頭細（オトガヒボソ）ニ、偶目（グウモク）ト、目眇（ノスガ）ミタリ」

せつ-い（名）[雪意] 雪モヤウ。雪ノ、降ラムトスル空模樣。ユキゾラ。 蘇軾、立春日小集詩「牛僮民聲喜、雅嬌雪意酣」

せつ-い（名）[褻衣] ケノコロモ。フダンギ。せっぷく（褻服）ニ同ジ。 司馬相如、美人賦「女乃弛二其上服一、表二其褻衣一」

✣✣せつ-い（形）〔せつなしノ略カ〕 苦シ。セックルシ。轉ジテ、ネンゴロナリ。 壽門松（享保、近松作）上「せつい、御前ノ御心入レ一」

せつ-いん（名）[雪隱] せっちん（雪隱）ノ條ヲ見ヨ。 毛利家記、天正十八年九月十八日、殿下樣御成、云云、御雪隱、金ニ繪アリ」

せつ-いん（名）[節飲] 飲酒ヲ、節スルコト。節酒。 晉中興書（晉、何法盛）「劉曇多、事、宜二節飲一也」

せつ-えい（名）[折銳] 銳氣ヲ、折クコト。 劉向、九歎、憂苦篇「折レ銳摧レ矜」

せつ-えい（名）[拙詠] せつぎん（拙吟）ニ同ジ。

せつ-えう（セツヨウ）（名）[切要] 極メテ、大切ナルコト。緊要。肝要。 晉書、劉頌傳、論「雖レ文二飾華婉一、而理歸二切要一」

せつ-えう（セツヨウ）（名）[折腰] 腰ヲ、折（ヲ）ルコト。節ヲ、屈スルコト。 晉書、陶潛傳「潛歎曰、吾不レ能下爲二五斗米一折レ腰、拳拳事中鄕里小人上」

せつ-えつ（名）[折閱]〔閱ハ、韻會「買賣損レ價也」〕折閱ハ、荀子、修身篇、注「折、損也、閱、賣也、謂レ損二其所一レ閱賣之物價上也」」 損シテ、賣ルコト。 荀子、修身篇「良賈不下爲二折閱一不上レ市」

せつ-おん（名）[綴音]〔綴、正音ハ、ていナレド、今ハ、慣習ノ音ニ從フ〕 或音ト、他ノ音ト、綴（ツヅ）リアハセテ成リタル音。

ぜつ-おん（名）[絕蔭] 父祖ノ庇蔭（ヒイン）ヲ蒙リテ敍位スルヲ、絕ツコト。蔭位（オンヰ）ノ條ヲモ見ヨ。 續後紀、十二、承和九年七月、詔「官無キ人等ヲバ、絕レ蔭除レ位テ、流罪ニ當給ベシ」

〜せ-つか（名）[脊梁]〔背束ノ義カト云フ〕 馬ナドノ脊筋。又、セミネ。 倭名抄、十一、七牛馬體「脊梁、世都賀、俗云、世美禰」 名義抄「脊梁、セツカ、セミネ」

せっ-か（名）[折價] ネサゲ。價ヲ、引クコト。減價。下價。

ぜっ-か（名）[絕佳] スグレテ、ヨキコト。勝（スグ）レテ、美シキコト。 蘇軾、答二程天倖一書「惠酒絕佳一、[illegible]」

ぜっ-か（名）[絕家] ぜっけ（絕家）ニ同ジ。

せっ-かい（名）[切開] キリ、ヒラクコト。「患部ノ切開」

せっ-かい（名）[說戒] 佛教ノ語。五戒、十戒ナドヲ、說キ聞カスコト。 王建、贈二就法師院一詩「三年說戒龍宮裏」 太平記、二十、三人僧徒關東下向事「或時、其國ノ大王、法會ヲ行フベキ事アリテ、說戒ノ導師ニ、此沙門ヲゾ請ゼラレケル」

せつ-がい（名）[節槩] 氣慨。氣骨。意氣地。 左思、吳都賦「士有二陷レ堅之銳一、俗有二節槩之風一」

せつ-がい（名）[殺害] 又、せちがい。コロシ、害（ソコナ）フコト。アヤムルコト。（人ニ云フ） 後漢書、西域傳「疏勒王連相殺害」 謠曲、籠太鼓「荒ケナキ人心、情ナシトハ思ヘドモ、殺害ノ科ヲ免レエヌ、報イノ程ゾ無慙ナル」

ぜっ-かい（名）[絕海]（一）〔絕ハ遠ナリ〕 淮南子、脩務訓「絕國」注「絕、遠也」 遠ク離レタル海。「絕海ノ孤島」（二）〔絕ハ、度（ワタ）ルナリ〕 史記、天官書「絕レ漢」注「絕、度也」 海ヲ、橫ギリ渡ルコト。 元稹詩「包レ山絕レ海、窮レ冥入レ玄」 梅堯臣詩「蓋將絕レ海至、不レ異二攫レ鼠一」

せっ-かう（セツコウ）（名）[節行] 貞節ノ行爲（オコナヒ）。 史記、外戚世家「士之有二節行一者、與居二帝長君、少君一」

せっ-かう（セツコウ）（名）[攝行]（一）代ハリテ、事務ヲ行フコト。 左傳、隱公元年、杜注「讓避不レ即レ位、然攝二行君事一」（二）數事ヲ兼ネテ、執リ行フコト。兼行。

せっ-かう（セツコウ）（名）[折膠]（一）秋ノ期節。（膠（ニカハ）ノ、堅クナリテ締リ、折レ易ケレバ、云フ）（二）轉ジテ、戰爭ノ好時節。（膠、固

マリテ、弓、強クナレバ、云フ。匈奴、常ニ、此時ヲ以テ、軍ヲ起セリ」 漢書、[illegible]傳「欲レ立レ威者、始ニ於折膠ニ」

ぜっ-かう (名) 舌耕 〔筆耕ニ對ス〕 講談、教授ナド、辯舌ニヨリテ、生計ヲ立テテ行クコト。 漢書、賈逵傳「逵通ニ經、門徒來學者、皆ニ贏ニ糧食、故日、逵非ニ力耕、乃舌耕也」 從容錄(元、陳行秀)「才士筆耕、辯士舌耕」

ぜっ-かう (名) 絶交 交際ヲ、絶ツコト。(朋友ノ) 後漢書、朱穆傳「著ニ絶交論、蔡邕時之作」 文選、嵆康「與ニ山巨源ニ絶交書」

ぜっ-かう (名) 絶好 (一)〔後漢書、兒良傳「臣、蒼蠅窮絶矣」注「窮絶ハ極也」〕 極メテ、ヨキコト。飛ビハナレテ、ヨキコト。「絶好ノ時機」 (二)好ヲ絶ツコト。ナカタガヒ。絶交。

せっ-かく (名) 雪客 さぎ(鷺)ノ異稱。 楊文公談苑「鷺曰ニ雪客ニ」 下學集、上、氣形門「鷺、呼名ニ雪客ニ」

せっ-かく (名) 刺客 せきかく(刺客)ノ訛。しかく(刺客)ノ條ヲ見ヨ。

せっ-かく (名) 折角 「漢書、朱雲傳「五鹿嶽嶽、朱雲折ニ其角ニ」ニ起ルト云フ」 朱雲ガ五鹿充宗ト易ヲ論ジテ、屢、五鹿ヲ言ヒコメタルヨリ、時人、評シテ、朱雲ノ強力、能ク鹿ノ角ヲ折リヌ、ト洒落レタル故事ニ依リテ、人ノ高慢ノ鼻ヲヒシグコトヲ折角ト云フ。我國ニテハ、轉ジテ、骨折ルコト。力ヲ盡スコト。 保元物語、一、軍評定事「爲朝、久シク鎮西ニ居住仕テ、云云、中ニモ、折角ノ合戰、二十餘度ナリ」

せっ-かく (副) 折角 骨折リテ。勉メテ。力ヲ入レテ。心ヲ込メテ。 昨日は今日の物語(天正)「或人、十二三ナル子ヲ寵愛シテ、常ニ、謠ヲ教ヘケルガ、せっかく習へ、ヤガテ十月十三日ニナルゾ、百はたお食ヒニ連レテ行カウゾ」 轉ジテ、努力ノ效ナキ場合ニ云フ。「折角遊ビニ來タモノヲ」

せっ-かち (名) 〔急勝ノ音便カ〕 キミジカ。性急。短氣。「せっかちナ人」

せっ-かひ (名) 〔狹匙ノ音便〕 (一)飯杓子ノ頭ノ、半片ナルモノ。せかひ。女房詞ニ、ウグヒス。 長町女腹切(正徳、近松作)中「擂子鉢、擂匙、擂子木、斜ニ構ヘ」 (二)出過ギテ、餘計ナル世話ヲ燒クコト。「要ラザルおせっかひ」

せつ-がふ (名) 接合 接ギアハスルコト。又、ツヅキ合フコト。 [illegible]「[illegible]接合、萬物既遂」

せっ-かん (名) 折檻 〔せがみノ音便、御息所、みやすん所ト、同趣〕 漢書、朱雲傳「御史將、雲下、雲攀ニ殿檻ニ、檻折」ノ故事ヲ誤用スト云フ」 (一)罪ヲ懲サムト、責メサイナムコト。シヲルコト。拷治。 (沖縄ニテハ、頻リニ請求シ促スヲ、しっかんト云フ) 海人藻芥、下「自ニ年少ニ常ニ加ニ折檻ニ令ニ近習ニ者、ナドカ、心ニ不ニ適者モ侍カラン」 狂言記、ひめ鳥「此寛、折檻ノ、加ヘウズレドモ、重ネテ、折檻ノ加ヘウズル」 (二)次條ノ語ニ同ジ。 下學集、下、言辭門「折檻、セッカン、諫之義也」

せっ-かん (名) 切諫 切リニ、諫ムルコト。コハイケン。 史記、[illegible]

せっ-かん (名) 折簡 手紙。〔全紙ヲ、二ツ切ニシタルモノ〕 晉書、宣帝紀「迎、帝曰、[illegible]有ニ罪、公當ニ折簡召ヲ之」

ぜつ-がん (名) [illegible] [illegible]

せっ-き (名) 節季 十二月ノ末ノ稱。トシノクレ。歳暮。歳末。窮陰。 [illegible] ヲコソ祝ヘ、花モミヂ、剛レニシ年ノ、行クニツケテモ」 [illegible] 御鯛有之、御白書院エ出御、老御鯛被下、[illegible]之、是刻歳末之御目見也」

せっ-き (名) 雪肌 ユキノハダヘ。雪ノ如ク、白ク美シキ肌。雪膚。 [illegible]

せっ-き (名) [illegible] [illegible]

セッ-き (名) 刹鬼 オニ。惡魔。羅刹。

せつ-き (名) [illegible] 節ヲ守リ、義ヲ立ツルコト。 [illegible]

ぜっ-き (名) 絶[illegible] [illegible] 語原ヲ見ヨ」 スグレテ、奇シキコト。奇絶。 [illegible]

せっ-きん (名) [illegible] [illegible] 止接近、其人並有ニ不臨之者ニ」

せつ-ぎん (名) 拙吟 (一)ツタナキ詩歌。(二)自己ノ作リタル、詩歌ノ謙稱。[illegible] 拙詠。

せっ-きゃう (名) 說經 (一)又、せきゃう。 [illegible] 說經師トモ云フ。[illegible] 山無事ヲ演ズルヤウニナリタリ。 [illegible]

ぜっ-きゃう (名) [illegible] [illegible]

率ニ妻子邑人一來ニ此絶境一不ニ復出一焉」

せッきャうがたり（名）［說經語］（一）次次條ノ（二）ニ同ジ。（二）後世、コノ說經語ナルモノガ轉ジテ、小サキ錫杖ヲ振リ、法螺貝ヲ吹キテ、調子ヲトリナガラ、節、面白ク歌祭文ヲ謠ヒシモノ。祭文カタリ。祭文ヨミ。人倫訓蒙圖彙、七、祭文「此山伏ノ所作、祭文トテ、イフヲ聞カバ、神道カト思ヘバ佛道、トカク其本據サダカナラズ、云云、江戸祭文ト云フハ、白ゴエニシテ、力身ヲ第一トシテ、歌淨瑠璃ノセズトイフ事ナシ、カカル事ヲ錫杖ニノセルハ、サテモ悲シシ、勿體ナシ」

せッきャう-さいもん（名）［說經祭文］せッきャう（說經）ノ條ノ（二）ニ同ジ。

せッきャう-し（名）［說經師］（一）〔せッきャう（說經）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。枕草子、二、廿段、心ゆくもの「說經師ハ、顏好キ、ツト守ラヘタルコソ、其說言ノ尊サモ覺ユレ」（二）說經語トテ、一業ヲ立ツル者ノ稱。徒然草、百八十八段「或者、子ヲ法師ニナシテ、云云、說經ナドシ、世渡ルタヅキトモセヨト云ヒケレバ」

せッきャう-ぶし（名）［說經節］淨瑠璃節ノ一種。歌念佛、歌說經ヨリ起レルモノ。寛永年中、說經師與七郎ト云フ者、語ル。用捨箱、秤彦、下「攝州、東成郡住、玉庄、大坂天下一說經與七郎、以正本開」（欄外ニ、與七郎ハ、代代、名ヲ擬デ、近ク、難波丸ニ見エタリ、トアリ）後ニ、延寶ニ、日暮小太夫、天和ニ、天滿八太夫、出ヅ。此淨瑠璃節ヲ、天滿節トモ云ヘリ。風俗多羅尼（寶曆）「イタハシヤ、淨世ノスミニ、天滿ぶし」

せ-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［責付］急ギ促ス。催促ス。セッツク。セガム。

督促　芭蕉句集、冬「せつかレテ、年忘レスル、機嫌カナ」

せッ-く（名）［節句］〔節供ノ轉、節日ニ供フル食物ニ起ル〕人日、上巳、端午、七夕、重陽、ノ五箇ノ節日ノ稱。コレヲ、五節句ト云フ。人日ニ七種粥、上巳ニ草餅、白酒、端午ニ粽、柏餅、七夕ニ索餅、重陽ニ栗飯、菊酒、是レ等ヲ飲食シテ、此日ヲ祝ス。（人日ヨリ重陽ニ至ル、皆、奇數ニシテ、陽數ニアタル。古人、陽ヲ尙ブ、三三、五五、七七、九九ノ如シ。陽數ノ重ナルヨリ、正月ハ、元日、已ニ佳節ナレバ、七日ヲ節日トス）明治六年、五節句ヲ廢シ、紀元節、天長節ナドヲ、祝日トス。節日　佳節

ぜッ-く（名）［絶句］（一）漢詩ノ式ノ名、四句ニテ成ルモノ。ソノ第一句ヲ起句、第二句ヲ承句、第三句ヲ轉句、第四句ヲ結句、又、合句ト云フ。（起句ノ條ヲ併セ見ヨ）此各句ノ字數ニテ、五言絶、六言絶、七言絶、ナド、アリ、略シテ、五絶、七絶。マタ、絶句トノミモ云フ。金史、劉昂傳「作レ詩得二晚唐體一尤工二絶句一」　太平記、十二、聖廟事「菅相公、云云、若シ、詩ヤ作リ給フベキト、問ヒ進ラセ給ヒケレバ、少シモ案ジタル御氣色ナウテ、云云、（詩）ト、寒夜ノ即事ヲ、言アキラカニ、五言ノ絶句ニゾ作ラセ給ケル」（二）讀誦、說話、演說、臺詞ナドニ、語句ノ、問ヘテ、ト絶ユルコト。浮世風呂（文化、三馬）三編、下「訛ルニ、絶句スルニ、本ガ有ッテモ、讀メネエカラ、無本同然」

せッく-せん（名）［節句錢］江戸時代、五節句每ニ、居宅ニ應ジテ、店子ガ、家主ニ錢ヲ呈スルコト。又、其錢。守貞漫稿、四、人事、家主「五節每、宅居ニ應ジ、五七十文ヨリ、五六百文、或ハ、二朱、一分ヲ、家主ニ呈ス、號ケテ、節句錢ト云、京坂ニ、更無レ之」

せッく-はじめ（名）［節句始］（一）生兒ノ、初年ノ節句。初節句。（二）三月ノ雛、五月ノ幟ナド）（二）遊女ナドノ、郭ニテ行フ初節句。賀古敎信七墓廻（元祿、近松作）三「深イ御客ノ御方ヨリ、幟、兜ヲ御進上、宮城野樣ノ節句始」

せッく-ばたらき（名）［節句働］平生ハ怠ケ居テ、人ノ、業ヲ休ム節句ニ、却ッテ働クコト。「怠者ノせッくばたらき」

ぜッ-くん（名）［絶葷］辛ク臭キ菜蔬ヲ、食ハザルコト。杜甫詩「絶レ葷性不レ改」

ぜつ-ぐん（名）［絶羣］多クノモノヨリ、スグレ出デテ居ルコト。拔羣。絶倫。後漢書、馬實傳「蒼蠅之飛、不レ過二數步一、卽託二驥尾一得三以絶二羣」

❖せつ-くる・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）迫リテ、苦シ。セツナシ。苦患ナリ。

せッ-くゎ（名）［雪花］降ル雪ヲ、花ト見テ云フ語。雪ノ花。六花。李白詩、燕山雪花大如レ席、片片吹落軒轅臺」

せッくゎ-さい（名）［雪花菜］キラズ。トウフガラ。豆滓　豆渣

せッ-くゎん（名）［攝關］攝政ト、關白ト。各條ヲ併セ見ヨ。「攝關補任次第」攝關賀茂詣」攝關大臣正月大饗」

せッ-くゎん（名）［攝官］（一）官ヲ、兼ヌルコト。兼官。左傳、成公二年「敢告不敏、攝レ官承レ乏」（二）王朝時代、畿內ニ、國司以外ニ、特ニ設置セラレタル官。職掌ハ、按察使ニ類ス。續紀、八、養老三年九月癸亥「以二正四位下多治比眞人三宅麻呂一爲二河內國攝官一、正四位下巨勢朝臣邑治爲二攝津國攝官一、正四位下大伴宿禰旅人爲二山背國攝官一」

ぜッ-くゎん（名）［絶貫］絶エタル貫屬。又、貫屬ノ、絶ユルコト。令集解、九、戶「朱云、淨藏[illegible]貴當、未[illegible]知、淨[illegible]、何[illegible]、然、但、淨藏[illegible]貴、由ニ合[illegible]具[illegible]了、淨[illegible]、[illegible]貴ニ」三代實錄、九、貞觀六年八月十日、右京[illegible]大中臣朝臣豐御氣、[illegible]云云、觀父[illegible]云云、[illegible]數十年、貫屬既絶、[illegible]後、本[illegible]、更[illegible]戶、[illegible]伯從四位下中臣朝臣[illegible]志等[illegible]之、勅、云云、從ニ本貫右京五條一坊ニ」

せッ-け（名）［攝家］又、執柄家。攝政、關白ニ補セラルルヲ先途トスル家筋　藤原氏ノ近衞、九條、二條、一條、鷹司、ノ五家ニテ、コレヲ、五攝家ト云ヘリ。三內口訣、「攝家ト申候ハ、攝政家ト云心候、元來ハ、近衞（近衞）、九（九條）之二流ニテ候、近衞ヨリ出タルヲ鷹司ト稱シ、九條ヨリ別レタルヲ二條、一條ト申候、是ヲ、攝家ノ五流ト號候」後水尾院當時年中行事、上、正月「コノ頃、諸禮トテ、宮門跡、攝家方、御比丘尼衆、外樣衆、院家、諸寺ノ僧、醫師ニ至ル迄、年始ノ御禮ヲ申ス」年中恆例記「攝家ハ、任大臣以後、オクリ御申候、淸花、其外ノ公家衆ハ、タトヒ太政大臣ニ被レ任候ヘ共、オクリ御申儀無レ之候」公武大體略記「執柄家、近衞殿、鷹司殿、九條殿、二條殿、一條殿、以上五ケ所ノ家門ヲ、執柄家ト稱ス」

せつ-げ（名）［節下］せちげ（節下）ニ同ジ。平家物語、十、義經五位尉被レ成事　大嘗祭沙汰「去年、先帝ノ御禊ノ行幸ニ、宗盛公、節下ニテオハセシガ」

ぜッ-け（名）［絶家］跡目ノ、絶ユルコト。血統、絶エテ、相續者ナキ家。ゼッカ。絶戶。絶祀　絶家ハ、コレニ緣故アルモノガ、再ビ興スコトヲ得。コレヲ、絶家再興ト云フ。

せッ-けい（名）［設計］豫メ立ツル計算。モクロミ。シタゴシラヘ。シクミ。「建築ノ設計」

せッ-けい（名）［拙計］ツタナキ、ハカリゴト。拙策。晁補之詩「拙計安足レ爲、朝往而莫旋」

せッ-けい（名）［楔形］植物學ノ語、葉ノ

三角形ヲナシテ、下ノ部分ノ、鋭角ヲナスモノ。クサビガタ。

せつけい (名) 折桂 桂ヲ折るコト。かつら(桂)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ぜつけい (名) 絶景 勝レテ好キ景色。春渚紀聞(宋、何薳)「於二郡城絶景處一、增二廣樓居一」

ぜつげい (名) 絶藝 勝レタル技藝。唐書、[illegible]志「絶藝奇技、莫レ不二兼取一」

せつきやう (名) 說教 宗教ノ宗旨ヲ、信者ニ說キ聞カスルコト。盛衰記、十八、文覺清水狀天神金[illegible]「我、昔ヨリ、千手經ノ持者トシテ、深ク、觀音ノ悲願ヲ憑、龍神八部、正シク如來說教ノ砌ニシテ、千手ノ持者ヲ守護セント云[illegible]ヲ發スニ非ズヤ」

ぜつけう (名) 絶叫 我ガ所信ヲ、熱心ニ主張シ叫ブコト。又、大聲ニテ、叫ブコト。晉書、袁耽傳「投レ馬絶叫、探二布帽一擲レ地曰」

せつきやうし (名) 說教師 せつきやうし(說經師)ニ同ジ。

せつきやうとき (名) 說教說 せつきやう(說經)ノ條ノ(二)ニ同ジ。醒睡笑(元和、安樂庵策傳)四「アレヘ行ク男ヲ見レバ、褐ノ礼[illegible]ヲ腰ニ着ケ、[illegible]ヲ打チカタゲ、[illegible]ニ[illegible]ノヤウナル物ノ見エタルハ、疑ヒモ無キせつけうとさきナリ」

せつげつくわ (名) 雪月花 ゆきト、つきト、はなト。ツキユキハナ。白居易、寄二殷協律一詩「雪月花時最憶レ君」小町踊、夏「雪月花、一度ニ見スル、卯木カナ」

せつけん (名) 接見 會見スルコト。對面。面會。引見。左傳、昭公四年「宋[illegible]二[illegible]、[illegible]也、孟[illegible]二[illegible]夫二[illegible]」

せつけん (名) 節儉 けんやく(儉約)ニ

同ジ。史記、平津侯傳「[illegible]、民之[illegible]、在二乎節儉一」同、[illegible]傳「以二節儉力行一、[illegible]二[illegible]二」

せつげん (名) 節限 程ヨク、限リヲ附クルコト。節制。節約。晉書、范甯傳「賦調役使、無二復節限一」

せつげん (名) 節減 (節略、削減ノ略) 約メ、減ラスコト。舊唐書、肅宗紀「自今以後、[illegible]常膳及服御等物、竝從二節減一」「[illegible]」

せつげん (名) 切言 懇切ナル言語。痛切ナル忠言。漢書、路溫舒傳「唯陛下除二誹謗一以招二切言一」

せつげん (名) 褻言 狎狎シキコトバ。轉ジテ、猥褻ノ言語。ミダリガハシキ言葉。

ぜつけん (名) 絶險 極メテ、ケハシキコト。此上モナク、險阻ナルコト。詩經、小雅、祈父之什、正月[illegible]「[illegible]、[illegible]不[illegible]、[illegible]戰二[illegible]險二絶險一、曾是不レ意」

ぜつげん (名) 絶絃 善キ音ノ、世ニ傳ハラザルコト。(下ノ出典ヲ見ヨ)韓詩外傳、卷九「伯牙鼓レ琴、鍾子期聽レ之、方レ鼓レ琴、志在二山一、鍾子期曰、善哉鼓レ琴、巍巍乎如二太山一、志在二流水一、鍾子期曰、善哉鼓レ琴、洋洋乎若二江河一、鍾子期死、伯牙擗レ琴絶レ絃、終身不二復鼓一レ琴、以爲世無レ足二與鼓一レ琴也」

せつけもんぜき (名) 攝家門跡 門跡ノ一、攝家ヨリ御入院ノモノ。卽チ、瑜伽定院御門跡、大乘院御門跡、一乘院御門跡、實相院御門跡、三寶院御門跡、隨心院御門跡、蓮華光院御門跡、等ナリ。宮門跡ナドニ對ス。[illegible]、[illegible]宮門御入室ノ時ハ、宮門跡ト申、三家之親王(伏見、有栖川、桂)ヨリ御[illegible]、親王門跡ト申、[illegible]ヨリ御入院[illegible]ヘ[illegible]、[illegible]門跡ト申」[illegible]

可レ准レ之」

せつご (名) 雪後 雪ノ降リタルアト。[illegible]

ぜつと (名) 舌鼓 (一)シタツヅミヲ打ツコト。シタウチ。(二)舌ヲ動カシテ、[illegible]ズルコト。莊子、[illegible]、[illegible]不[illegible]、[illegible]

ぜつと (名) 絶戶 ぜつけ(絶家)ニ同ジ。[illegible]

ぜつご (名) 絶後 今後ニ、同樣ノ事ノ、決シテ無キコト。(空前ニ對ス)[illegible]

せつとう (名) 拙工 拙ナル細工。ツタナキ工匠。孟子、盡心、上「[illegible]、大匠不[illegible]工[illegible]改[illegible]」

せつごく (名) 折獄 (正字通「折、斷也」)訴訟ヲ、裁斷スルコト。又、其人。[illegible]

せつとつ (名) 接骨 (一)ホネツギ。折レタル骨ヲ、接ギアハスルコト。「接骨[illegible]」(二)次次條ノ語ノ略。

せつとうさう (名) 接骨草 草ノ名。クサタヅ。ソクトク。ソクヅ。

せつこつぼく (名) 接骨木 [illegible]

骨ヲ接グ效アリトスソ。にはとこ(接骨木)[illegible]

せつぷむ (動) せきふむノ音便。

ぜつとん (名) [illegible] (一)[illegible]ノ根セトコタ[illegible] (二)[illegible]

せつさ (名) 切磋 [illegible]。(一)骨、角、石、玉、ナドヲ、切リ磨クコト。琢磨。(二)學術ヲ、深ク研究スルコト。[illegible]

せつさ [illegible]

せつさい (名) 拙[illegible] 己レノ妻ノ謙稱。[illegible]

せつさう (名) [illegible]

せつさう [illegible]

せつさく (名) 拙作 (一)ツタナキ作。ツタナキ製作。(二)己レガ詩文ナドヲ、謙リテ稱スル語。

せつさく (名) 拙[illegible] (一)せ[illegible]けい[illegible]ニ同ジ。(二)己レ[illegible]スル語。

せつさん (名) 折[illegible] (一)[illegible]仕分ケテ、計[illegible]スルコト。(二)[illegible]ニ同ジ。

せッし (名) [節士] 節義ヲ守ル士人。節夫。唐書、韓愈傳「皆亦節士」

せッし (名) [切齒] ハガミ。ハギリ。ハギシリ。戰國策、燕策「此臣之日夜切齒腐心、乃今得聞教」史記、張儀傳「天下之游談士、莫不日夜搤腕瞋目切齒、以言從之便、以說人主」「切齒扼腕」

せつじ (名) [綴字] (綴ノ音ハ、綴音ノ語原ヲ見ヨ)(一)ツヅリジ。言語ノ音ヲ、文字ニテ、ツヅルコト。又、其ツヅリタル字。綴方。(二)(英語、Spelling ノ譯語)英語ノ綴リカタ。

せッしうりう (名) [雪舟流] 畫ノ一流ノ名。京都、相國寺ノ僧、雪舟(名ハ、等楊、永正三年、寂)ニ始マル。後ニ、周防國、山口ノ雲谷寺ニ住ス。故ニ、雲谷派トモ云ヘリ。(應仁中、明國ニ遊ビシト)

せッし-かんだんけい (名) [攝氏寒暖計] かんだんけい(寒暖計)ノ條ヲ見ヨ。

せッし-ころ-す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [責殺] セメコロス。搾殺ス、略シテ、せッちる。甲陽軍鑑、十七、品第四十七「落合彦助ガ、七十ニ餘ル老母ヲ、ホウコボッシガ手ニ渡シ、籠ノ内ニテ、せッしころさレタルハ、名代ノ恥ニテハナキカ」

せつじつ (名) [節日] せちにち(節日)ニ同ジ。雜令、凡、正月一日、七日、十六日、三月三日、五月五日、七月七日、十一月大嘗日、皆爲節日(節ニ通ズ)日、其普賜、臨時聽勅」(勅ニ通ズ)

せつじつ (名) [切實] (一)實際ニ、痛切ナルコト。剴切。(二)マコトニ、ネンゴロナルコト。

ぜッじふ (名) [絶入] ぜつにふ(絶入)ニ同ジ。平家物語、五、咸陽宮事「後レガ笑ムデ向カフ時ハ、稚子モ抱カレ、又、嗔ッテ向カフ時ハ、大ノ男モ絶入ス」

せッしや (名) [攝社] 本社アリテ、其祭神ト由緒深キモノヲ祭レル社。卽チ、石清水八幡宮ニ、攝社、若宮(仁德天皇)、姫若宮(宇禮姫ノ姉、吳姫ノ妹)、水若宮(宇治皇子)、上高良(武内宿禰)ノアルガ如シ。實躬卿記、文久三年四月十一日「出御有儀(石清水行幸、云云、西方武内社有御拜(依社前狹少、從外斜御拜)次、攝社攝社有御拜」鹿嶋志、上、息洲神社「息洲村ノ海邊ニアリ、住吉三神、底筒男、中筒男、表筒男命ヲ祭レリ、コレモ、鹿島ノ攝社トシテ、年毎ノ祭禮等、鹿嶋ヨリ勤ム」

せッしや (名) [拙者] (巧者ニ對ス)ツタナキモノ。技ニ、拙ナルモノ。史記、貨殖傳「巧者有餘、拙者不足、貧富之道、無奪與之」

せッしや (代) [拙者] 自稱ノ代名詞。稍、下輩ナルニ對シテ用ヰル。ワタクシ。潘岳、閑居賦、序「抑亦拙者之效也」

せッしやう (名) [攝政] (一)[天子ヲ輔佐シ奉リ、代ハリテ、萬機ノ政ヲ攝ネ行フ職。多クハ、大臣ノ人、コレヲ帶ブ。幼帝、女帝ノ時ナドニ、置ク。當時、關白アル時ハ、此職ヲ設ケズ。史記、舜紀「堯老、使舜攝行天子政」同、五帝紀「舜得舉用事二十年、而堯使攝政」同、魯世家「周公恐天下聞武王崩而畔、周公乃踐阼、代成王攝行政當國、云云、周公乃告太公望、召公奭曰、我之所以弗辟而攝行政者、恐天下畔周、無以告我先王太王、王季、文王」神功紀、注「是年也、大歲辛巳、卽爲攝政元年」推古紀、元年四月「立厩戸豐聰耳皇子爲皇太子、仍錄攝政、以萬機悉委焉」藤原家傳、上、鎌足「十三年、天皇(齊明)崩、皇子朝倉行宮、皇太子(中大兄皇子)素服稱制、云云、十四年、皇太子攝政」帝王編年記、十四、淸和「天安二年十一月七日甲子、卽位于大極殿、時御歲九、此日、以太政大臣(藤原良房)爲攝政」以上ヲ總括シタルハ、職原抄、上、太政官「攝政關白者、大臣兼之、或去大臣猶帶之、東三條入道攝政、藤原兼家、已來例也、云云、本朝仲哀崩、皇后攝政、遂臨天下六十餘年、盡是正帝也、至推古天皇朝、皇太子厩戸皇子攝政、齊明天皇御宇、皇太子中大兄皇子又攝政、淸和天皇幼而卽位、外祖忠仁公、奉文德遺詔而攝政、是本朝以人臣爲攝政之初也、爾來、彼一門、爲執政之臣也」源、十四、澪標「致仕ノ大臣、せッしやうシ給フベキ由、讓リ聞エ給フ」(二)現今、憲法上ノ一機關。天皇ノ、成年ニ達セザルカ、又、久シク御不豫ニヨリ、大政ヲ親ラセサセ給フコト能ハザルトキ、天皇ノ御名ニヨリテ、大權ヲ行フモノ。(成年ノ皇太子、皇太孫ノ、コレニ任ズルヲ原則トス。若シ其皇太子、皇太孫アラザルカ、又ハ、成年ニ達セザル時ハ、親王、王、皇后、皇太后、太皇太后、內親王、女王ノ順序ニヨリテ任ゼラル)大日本帝國憲法、第十七條「攝政ヲ置クハ、皇室典範ノ定ムル所ニ依ル」

せッしやう (名) [殺生] (一)又、せッさう。生物ヲ、殺スコト。管子、海王篇「桓公問於管子曰、云云、吾欲藉於六畜、管子對曰、此殺生也」(二)又、せッしやう。佛敎ノ十惡、又ハ、五惡ノ一。生アルモノヲ、殺スコト。コレヲ戒ムルヲ、殺生戒ト云フ(放生ニ對ス)雜令、凡、六齋日、公私皆斷殺生」寶方集「道心ガリ給フヨリハ、せッしやう好ミ給フコソハ」

せッしやう (名) [折傷] (一)折レ疵ツクコト。挫キ痛ムルコト。漢書、馮奉世傳「往者數不料敵、而師至於折傷」(二)ハヤジニ。夭折。

ぜッしやう (名) [絶唱] スグレテヨキ詩歌。絶妙ノ詩歌。宋書、謝靈運傳、論「文以情變、絶唱高蹤、久無嗣響」東觀餘論(宋、黃伯思)「杜子美詩、古今絶唱也」

せッしやう-せき (名) [殺生石] 下野國、那須岳ノ西南麓、那須温泉ノ地ニ、方、五間ノ木柵內ニ大小ノ岩石、散在スルモノ多數ノ小孔アリテ、異臭ヲ發ス。人畜、附近ニ至レバ、斃ル、今モ、然リ。發散スル氣體ハ、酸化水素ト、炭酸瓦斯トナリト。(官報ニテ、公表セラレタリ。然ルヲ、中島仲治郎ハ、殺生石ノ有害瓦斯ハ、依然、硫化水素ヲ含ミ、更ニ、燐化水素ト云フ、空氣中ニテ發火スル瓦斯、又ハ、硫化水素、硫酸瓦斯ヲモ含ムト云ハレタリ)日本洞上聯燈錄、二、總持義山紹碩禪師法嗣「奧州護法山示現寺、源翁心昭禪師、云云、永和元年四月十五日、造院、改示現寺、於時野州那須之野、有毒石、物觸斃、人畜觸斃、鳥獸近者、皆無不斃、飛鳥過、墜及石上、則斃、其毒氣如是、故、時世名曰殺生石、無有過其野者、師一日攜杖行、截石三下曰、汝元來石頭、性從何來、靈從何起、又、截三下、石流汗震動、渤然解散、忽有異人、設拜曰、我是此石之靈也、蒙師開示、頓脫苦趣、得生天、言訖而沒、實、至德二年八月十三日也」殺生石ノ事ハ、謠曲ノ殺生石ニ見ユ(就キテ、知ルベシ)玄翁和尚ノ開山ト傳フル、相摸ノ海藏寺緣起ニ、近衞天皇ノ御宇ニ、宮女、玉藻前ト云フモノ、狐ト化シテ、東國ニ逃ル。詔ヲ受ケテ、三浦義明、上總介廣常、下野ノ那須ガ原ニテ、其狐ヲ射殺セシニ、狐ノ靈、石トナリ、コレニ觸ルレバ、人馬鳥獸、皆、死ス。建長年中、詔ヲ玄翁ニ下シテ調伏セシム、玄翁、其石ノ所ニ到リテ、偈ヲ唱ヘ、拄杖ヲ擧ゲテ、擊ツ、石、碎ケテ、怪、止ム、トアリト云フ。謠曲ニ據リテ作リタルナルベシ。げんおう(大鐵槌)ノ條ヲ參見セヨ。

せッしュ (名) 攝取 〔攝ハ正音せふ、促音、せッ〕 (一)取リ入ルルコト。攝生ノタメ、榮養分ヲ取リ入ルルコト。「滋養分ヲ攝取ス」 (二)佛教ノ語、ヲサメ、取ルコト。彌陀如來ガ、衆生ヲ、淨土ニ迎ヘトルコト。盛衰記、四十八、法皇大原入御事「寂寞ノ柴ノ樞ニハ、偏ヘニ、攝取ノ光明ヲ待チテ、十念ノ窗ノ前ニハ、專ラ、聖衆ノ來迎ヲコソ期シツルニ」 (三)會得スルコト。謠曲、殺生石「佛體眞如ノ善心トナサン、攝取セヨ」

せッしュ (名) 竊取 竊ニ、盜ミ取ルコト。唐盜律、凡盜、竊取「疏」、凡盜、公取、竊取、皆爲盜」

せッしュ (名) 接取 受ケトルコト。北史、崔道固傳「道固諸兄等、逼ニ其所生、自致ニ酒炙ニ於客前、道固驚起接取」

せッしュ (名) 接手 手ニ、受取ルコト。落手。到手

せッしュ (名) 節酒 酒量ヲ、ヨキ程ニ控フルコト。節飮。晉書、涼武昭王傳「節酒愼言、喜怒必思」

ぜつしュ (名) 絕入 ぜつにふ(絕入)ニ同ジ。 關太曆、延文三年九月四日、小倉殿御事、云云、自後架退出之後、絕入、云云」

せつしュとつ (名) 顳顬骨 〔顳ハ、正音せふ、入聲ニテせつ〕 頭蓋骨ノ一、顳顬ニアル、不齊、扁平ナル骨。

せッしュふしャ (名) 攝取不捨 佛教ノ語、念佛ノ行者ヲ、彌陀如來ノ光明ノ中ニ攝メ取リテ、捨テザルコト。佛、衆生ヲ引接シテ、捨テザルコト。 觀無量壽經「光明遍照ニ十方世界、念佛衆生、攝取不捨」 [illegible]

せッしョ (名) 切所 節所 殺所 [illegible]

ノ、要害ノ處。難所。 太平記、六、楠出張天王寺事「楠、風ニ聞キテ、兵ヲ、道ノ切所ヘ差シ遣シ」 播州佐用軍記、羽柴秀吉播磨下向事「佐用大平城ハ、第一、要害ノ山城ニテ候、其ノ外、諸城、何レモ、節所、皆、山城也」 太平記、十、鎌倉合戰事「鎌倉方ニハ、防場、殺所ナリケレバ」

せつしョ (名) 節序 季節ノ、ウツリユク次第。 杜甫詩「脊令花[illegible]、節序不[illegible]」

せッしョう (名) 折衝 (一)敵ノ鋒先ヲ挫クコト。敵ヲ挫キ止ムルコト。 戰國策、齊策「拔ニ城於尊俎之間ハ、折ニ衝席上ニ者也」 (二)國際上、相手ノ主張ニ對シテ、驅引談判スルコト。

せッしョう (名) 接踵 〔踵ヲ接スル義〕 人ノ、引キ續キテ、往キ又來ルコト。轉ジテ、物事ノ、ツギツギニ、發生スルコト。 沈炯、勸ニ進梁元帝ニ表「英傑接踵、忠勇相顧」

ぜッしョう (名) 絕勝 (一)景色ノ、此上ナク、スグレタルコト。極メテ、立チマサリタルコト。絕景。 韓愈詩「最是一年春好處、絕勝煙柳滿ニ皇都ニ」「絕勝ノ地」 (二)地勢ノ、スグレタルコト。又、其所。形勝

會稽詩「險但ニ絕勝一光偈作」

せッしョうぎョぶ (句) 折衝禦侮 敵ノ衝キ來ルヲ折キテ、我レヲ侮ル志ヲ、禦ギ止ムル。 胡銓、上高宗封事「有如ニ虞部長驛ハ、尙能折レ衝禦レ侮邪」

せッしョく (名) 接觸 近ヅキ、フルルコト。サハルコト。

せつしョく (名) 折辱 くつぢョく(屈辱)ニ同ジ。 史記、[illegible]

之、[illegible]

せつしョく (名) 雪辱 〔雪、廣韻「除也」〕 [illegible]頭會[illegible]洗也[illegible]恥ヲソソグコト。前ノ不名譽ヲ挽回スルコト。雪恥。洗辱。

ぜッしョく (名) 絕食 [illegible]

せッ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) [illegible] (一)續ク。繫ガル。接續ス。 [illegible] (二)交ハル。會フ。「人ニ接す」

せッ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 接 (一)繫グ。ツラヌ。 王安石詩 [illegible] (二)マジフ。會ハス。 [illegible]

せッ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) [illegible] (一)兼ヌ。後見トシテ、他ノ事ヲ扱フ。 [illegible] (二) [illegible] 接待ス。 [illegible] 侯、ケシカラズ攝シテ侍ヒシヨ」

せッ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 節 程ニスル。控目ニナス。節制ス。 易經、[illegible] 史記、孔子世家 [illegible] 春秋繁露(漢、董仲舒) 「節レ欲順レ行、則倫得」「用ヲ節す」「行ヒヲ節す」

ぜッ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) [illegible] 〔絕、斷也、隔也〕 (一)氣ヲ拔キテ、勝ル。 [illegible] (二) [illegible]

せッせい (名) 攝生 やうじャう(養生)ニ同ジ。 老子、第五十章「善攝レ生者、云云」 [illegible]

せッせい (名) [illegible] (二)ニ同ジ。

せッせい (名) 節制 (一)控目ニ、抑フルコト。適度ニスルコト。抑制。 [illegible] (二)取リシマルコト。統率。統御。 荀子、議兵篇 [illegible]

せッせい (名) 節倹 [illegible] 節略。節減。

せッせい (名) [illegible]

せつせつ (副) 節節 風鳳ノ鳴ク聲ニ云フ語。 [illegible]

せッせつ (副) 時時 「[illegible]」 ツリツリ。トキドキ。

せッせつ (副) 切切 (一)ネンゴロナル [illegible] (二) [illegible] シク、ひしひしト迫ル如キ聲音ヲ云フ語。 白居易、琵琶行「小絃切切如私語」

せッせッと [illegible] (一) [illegible] (二)ワク、[illegible]

せッせん [illegible]

シク。乾乾「せっせと稼グ」せっせと通フ」

せっ-せん [雪山] （梵語、Hima（雪）ト、Alaya（所有地）トノ合字ノ譯語）又、せっさん。ユキノオホヤマ。印度ノ北境ナル高山ノ名。即チ、今云フ、ひまらや山(Mt. Himalaya.)。 後漢書、班超傳、注「西域有白山、通歳有雪、亦名雪山」 涅槃經、十四「善男子、雪山大士云云、爾時、住雪山、其山清淨、流泉浴地、樹林藥木、充滿其處」 謡曲、鉢木「シカモ、此ノ程、雪降リテ、仙人ニ仕ヘシ雪(セッセン)山ノ薪、カクコソアラメ」

せっ-せん (名) [切線] 數學ノ語、曲線、又ハ、曲面上ノ、タダ一點ノミニ於テ觸ルル直線。

せっ-せん (名) [折線] 數學ノ語。方向ヲ異ニスル二ツ以上ノ分線ガ、或角ヲナシテ連結セルモノ。

せっ-せん (名) [雪線] 地理學上、雪ノ消ユル所ト、四時、消エザル所トノ限界線。其位置ハ、赤道附近ニ於テ最モ高ク、高緯度ニ赴クニ從ヒテ、低下ス。恆雪線

せっ-せん (名) [接戰] 手ヅメノ、タタカヒ。接近シテ、戰フコト。 張巡詩「接戰春來苦、孤城日漸危」

せつ-ぜん (副) [截然] (一)截(キ)リ斷ッ狀ニ云フ語。(二)區劃ノ、明瞭ナル狀ニ云フ語。判然。劃然。井然。

ぜっ-せん (名) [舌戰] コトバダタカヒ。口論。論判。論戰。「甲論、乙駁、舌戰、時、遷ル」

ぜっ-そ (名) [舌疽] 舌ニ生ズル腫物ノ名。 瘍科秘錄、一、舌疽「醫宗金鑑ニ、舌疳ト云フモノヲ載テ、首條ニ一生ニト斷リタルハ、思フニ、舌疽ノ事ナリ、云云、舌疽ノ初メ、多クハ、舌尖、或ハ、右傍、或ハ、左傍ニ發ス、或ハ、舌下、或ハ、舌心ニ發スルモ、アリ、固結スルコト、豆ノ如ク、栗子ノ如ク、久キヲ經レバ、潰爛、自ラ腐蝕シテ、凹ニナレトモ、噉醋辛辣、及ビ、熱飲モ、一切、染ルコトナシ、染ミザルハ、至テ、毒ノ深キ故ナリ」 救急袖珍「一男子、舌疽ヲ患フ（舌疳ハ蓮花舌、世ニ之ヲ舌疽ト云ハ、舌疽ノ名、見處ナシ、舌疳ト唱ベシ）寛政辛丑ノ頃ヨリ、舌ノ右側ニ結核アリ、癸卯ノ秋ヨリ、微ニ血ヲ出ス、丁巳十一月ノ頃ヨリ、出血益多ク、十二月二十七日、出血五升許、暈倒シ、四肢厥脈絶ス、急ニ獨參湯ヲ進メテ、人事ヲ省シ、又、血七合許ヲ出シ、再ビ昏絶ス」

せっ-そう (名) [節奏] 音樂ノ、程良キ調子。 禮記、樂記篇「文采節奏、聲之飾也」 崔寔、政論「豈暇鳴和鑾清節奏哉」

せっ-ソウ (代) [拙僧] 僧ノ、自稱ノ代名詞。謙稱ナリ。愚僧。拙衲。

せっ-そく (名) [拙速] 仕事ハ、巧(タクミ)ナラザレドモ、出來上リノ、速(ハヤ)キコト。（巧遲(カウチ)ニ對ス） 孫子、作戰篇「兵聞拙速、未睹巧之久也」 蘿堂諸話、四十一「巧遲不如拙速」

せつ-ぞく (名) [接續] ツヅクコト。ツナグコト。繼續。

ぜっ-そく (名) [絶息] (一)息(イキ)ノ、絶(タ)ユルコト。絶命。(二)タエ、ヤムコト。終息。 史記、秦始皇紀「災害絶息、永偃戎兵」

ぜつ-ぞく (名) [絶俗] (一)世俗ト、隔絶セルコト。俗事ニ接セザルコト。絶塵。 王褒、聖主得賢臣頌「呴噓呼吸如喬松、眇然絶俗離世哉」(二)世俗ニ、卓絶セルコト。拔羣。普通ノモノヨリ、立チ越ユルコト。 後漢書、劉陶傳「皆履正清平、貞高絶俗」

せつぞく-し (名) [接續詞] 語學ノ語。同格ノ語、句、文、等ヲ接續セシムル語ノ稱、「月、又、花」山ヲ越エ、且ッ、水ヲ渡ル」「春過ギヌ、さて、夏來ル」ノ、又、且ッ、さて、ノ如シ。

せつぞく-はふ(セツゾク-ホウ) (名) [接續法] 語學ノ語。篇尾ノ語法指南ノ動詞ノ法(ハフ)ノ條ヲ見ヨ。

せっ-た (名) [席駄][雪駄][雪蹈] （雪中ノ露地ニ、草履ニ、濕リノ通ラヌ爲ニ、千利休、始メテ、裏ニ牛皮ヲ付ケシナリ、ト云ヘド、古ヘニ、たちはめ、ゑきれアリ。何人カ、ソレヲ、竹皮草履ニ改メシナラム、雪中ノ用ニハ限ラズ」 せきだ（席駄）ニ同ジ。皮鞋。 雍州府志、七、土産門「雪蹈」 囂多言（慶安）四「雪駄ヲ、せきだト云フハ、惡シト云ヘドモ、苦シカルマジキカ、せちだ、せったナド云フハ、耳ニ立テ、惡シシ、是レハ、無下ニ近キ頃、京ノ者ガ作ラセテ、履キ侍リシヲ、利休ト云ヒシ茶湯者ガ、世ニ弘メテ、ハヤリ出侍リシトカヤ、竹ノ皮ハ、云云、笠ナドニセシカド、足ニ履クモノニハ、昔ハ用ヒザリシ」（竹ノ皮草履ヲ云ヘリ） 和爾雅、五「昔用尻切、天正中、利休初作雪蹈」 老人雜話（江村專齋）「雪蹈ハ、モトヨリ有リテ、革ヲ加フルハ、利休ヨリナリト云傳フ」 建武年中行記、於陣可加制止條「着履、付、革賦履之事」（俗語考、雪駄）

せっ-たい (名) [接待] [施待(セタイ)ノ音便カ、急呼カ] (一)客ヲ、アツカヒ、待遇(モテナ)スコト。アヘシラヒ。アシラヒ。接伴。應接。 晉書、胡奮傳「奮少好武事、宣帝之伐遼東也、以白衣侍從左右、甚見接待」 (二)フルマヒ。ホドコシ。施與。 佛祖統紀「監義井於城南樑社、云云、以飲行者、云云、施湯茗、無問道俗、結屋數間、創爲接待」 太平記、廿、結城入道墮地獄事「留ルベキ宿ヲ尋ヌル處ニ、山伏一人、出來テ、イザサセ給ヘ、此邊ニ、接待所ノ候ゾ、其處ヘ連レ進ラセント云ヒケル間」 後撰夷曲集（寛文、生白堂行風）八、雜、上「攝待ニ、タテル煎ジ茶、煩ジテモ、ホウジ難キハ、父母ノ恩」（報ジニ、焙ジヲ言ヒカク、攝ハ、接ニ通ズ） 謡曲、攝待「佐藤ノ館ニ於テ、山伏攝待ノ事ハ、我等ガ望ム所ナレドモ、佐藤ノ館ガ憚リニテ候フ程ニ」

ぜっ-たい (名) [絶對] （英語、Absolute.ノ譯語、又、ぜっつゐ」(一)他ニ、コレト對スルモノ無キコト。一切ノ差別ヲ、超越シタルコト。相對(サウタイ)ニ對シテ、獨立スルコト。(二)外部ノ事物ニ、制限セラレザルコト。條件附ナラザルコト。文句無シ。無條件。「絶對的命令」絶對的契約」

ぜっ-たい (名) [絶體] ぜったいぜつめい（絶體絶命）ノ略。 世間手代氣質、享保、其「ソチモコチモ、言ヒ合ハセタヤウナ、絶體ノ場」

ぜつ-だい (名) [絶大] 勝(スグ)レテ、大イナルコト。甚大。莫大。

ぜつ-だい (名) [絶代] (一)ぜっせい（絶世）ニ同ジ。 杜甫、佳人詩「絶代有佳人、幽居在空谷」 (二)隔絶シタル時代。 郭璞、爾雅、序「總絶代之離詞」

ぜつ-だい (名) [舌代] 口上ノ代ハリノ書狀。

ぜったい-ぜつめい (句) [絶體絶命] 逃(ノガ)ルベキ手段、盡ク。進退維谷(コレキハマル)（古家ノ語ナリト云フ）略シテ、絶體。 合類節用集、十二、言語門「絶體、卜筮家所言、絶命、同上」

せっ-たう(セツ-トウ) (名) [節刀] （節ハ、旗ノ一種、旄牛ノ尾ニテ作リ、狀、竹ノ節ニ似タリ、使臣ノ執ルモノ。今、刀ニ代フ）天子ヨリ使臣ニ賜ヒテ、標(シルシ)トスル刀ノ稱。軍旅ヲ統ベ、征伐ヲ事トスル時ニ賜フ。 軍防令「凡、大將出征、皆授節刀」 義解「凡、節者、以旄牛尾爲之、使者所擁也、今以刀劔代之、故曰節刀」 續紀、三十四、寶龜七年四月、遣唐使賞命「所遣使人、判官已下、死罪已下、有犯者、順罪行ヘトシテ、節刀給ハクト詔リタマフ」 中右記、寛治八年十一月二日、內侍所新作辛櫃、節刀十柄、劍樣切鍔八柄、一柄（長二尺五寸五分）、一柄（長二尺二寸）、以上二柄、若是蟇劍歟、裏書「卅四柄之中、二腰名鑒

口ハ一騎破敵、一騎守護、云云、件破敵、是遣三大將軍之時、所賜節刀也、云云」 平家物語、五、富士川事「昔ハ、[illegible]ヲ平ケニ、外土へ向フ將軍ハ、マヅ參內シテ、節刀ヲ賜ハル」

せっ-たう (名) 竊盜 コヌスミ。コヌスビト。コソコソドロバウ。ミソカヌスビト。セコヌスビト。狗盜。(強盜ニ對ス) 淮南子、氾論訓「竊、墓者誅、竊盜者刑」 賊盜律、謂「竊盜發覺、[illegible]財逃走、財主追捕、因相拒捍、如レ此之類、事有二因緣一者、非二強盜一」 西宮記、臨時、十「勘申可レ着二左右獄一囚ノ事、合十五人、強盜十人、竊盜五人」 庭訓往來抄、下「強盜トハ、荒キ盜人ナリ、竊盜トハ、細ソル盜人ナリ、名ヅケテ、忍ト云也」

ぜっ-たう (名) 絕倒 (一)大イニ笑ヒテ、仰ケゾルコト。轉ガルホド、笑フコト。 新五代史、晉家人(出帝皇后馮氏)傳「左右皆失笑、帝亦自絕倒」「捧腹絕倒」 (二)感情ノ、極度ニ達シテ、姿容ヲ失フコト。 晉書、衛玠傳「每聞二玠言一、輒歎息絕倒」 隋書、[illegible]孝意傳「孝意居二父喪一、朝夕哀臨、每一發二聲一、未二嘗不一レ絕倒一」

ぜっ-たう (名) 絕島 ハナレジマ。絕海ノ孤島。本土ヨリ、遠ク離レタル島。 杜甫詩、絕島容二烟霧一、環州納二曉晴一」

せっ-たく (名) 拙宅 己レガ家ノ謙稱。弊屋。弊家。敝舍。敝宅。陋室

せった-なほし (名) 雪駄直 タチハメ。小箱ニ、鐵、絲、革ヲ入レテ、携ヘ、市中ニ行キ、人家ノ需ニ應ジテ、雪駄ナドノ破レヲ繕フヲ業トスルモノ。(ゑたノ爲ルコトナリ)行クニ、でえでえト云フ、手入レ手入ノ訛ナルベシ。(江戶) 打補釘

せつ-だん (名) 切斷 截斷 タチ、キルコト。 白居易詩「[illegible]青片玉、截斷碧雲根」 [illegible]「[illegible]」 太平記、二、[illegible]世ノ頭ヲ昔キタマフ、(貴閣[illegible])五蘊假成レ形、四大今歸レ空、將レ首當二白刃一、截斷一陣風」

ぜっ-たん (名) 舌端 (一)舌ノサキ。舌頭。 韓詩外傳、七「君子避二三端一、避二文士之筆端一、避二武士之鋒端一、避二辯士之舌端一」 (二)口サキ。口頭。

せつだん-げん (名) 截斷言 文法ノ語、きゅうしげん(終止言)ニ同ジ。

せっ-ち (名) 設置 マウケテオクコト。取リ立ツルコト。 後漢書、劉[illegible]傳「陛下設二置七臣一、以廣二諫道一」

セッ-チン (名) 雪隱 〔宋音、西淨(セイチン)ノ急呼、せついんハ、同音ノ假借字タル雪隱ノ音讀、禪家ノ廁ノ義。空華集(義堂)九ニ「若[illegible]雪竇(山號)明覺、居レ衆、司二此職(持淨)于靈隱一、至レ今、有二雪隱之美稱一」トアルヨリ云フ、或ハ、烏芻沙摩經注ニ「福州雪峯義存禪師、常往二隱所一掃除、於レ是得二大悟一、故名矣」トアルヨリ云フ、トノ二說アリ。然レドモ、一字ヅツ摘取シテ造語スト云フハ、イカガ、附會ナルベシ、禪林象器箋、殿堂門ニ「和俗呼二西淨一爲二雪隱一、云云、按二竺仙和尚說一云、靈隱淨頭寮、名爲二雪隱一、云云、又按二日本禪刹一覽一、建長寺亦揭二雪隱字一、云云、雪隱、西淨、唐音適近、遂以爲二雪隱一、而失二本名一」トアリ。コレニヨレバ、雪隱ナル語ハ、元ト支那、臨安府、靈隱寺ノ淨頭寮(掃除ノ寮)ノ扁額ノ文字ニシテ、雪竇、又ハ、雪峯ヨリ出デシニ非ザルコト明ラカナリ〕 長崎ニテ、せんちん、大阪ニテ、せちん、[illegible]ニテ、せんち、[illegible]ニテ、ゑちん」 廁。便所。コウカ。[illegible]。溷軒 東司 圊房(因ミニ云フ、寺院ノ北ニアルヲ、雪隱、又、雪陣ト云ヒ、西ニアルヲ、西淨、又、西序ト云フト) 三好[illegible]「[illegible]西淨」[illegible] 合ナリ、サル俗說ノ語ノ、當通語トナル謂レナシ)

ぜっ-ぢん (名) 絕塵 (一)俗塵ヲ絕ツ、絕ッコト。浮世ヲ離ルルコト。絕俗。(二)走ルコトノ速カニシテ、塵埃ノ上ヲ超越スルコト。轉ジテ、德義ノ進步ノ、速カナルニ喩フ。 莊子、田子方「夫子奔逸絕塵、而回瞠若乎後矣」

ぜっ-ちゃう (名) 絕頂 (一)山ノ頂(イタダキ)。頂上。絕巓 王褒詩「山高[illegible]絕頂、[illegible]」 太平記、二、天下怪異事「六月ノ西ノ刻ニ、地震アリテ、富士ノ絕頂、崩ルル事、數百丈ナリト」 (二)轉ジテ、物ノ、極點ニ達シタルトコロ。最上。頂上 窮極

せっ-ちゅう (名) 折衷 折中 取捨シテ、平當ヲ得ルコト。斟酌スルコト。 史記、孔子世家、贊「中國言二六藝一者、折二中於夫子一、可レ謂二至聖一矣」 [illegible] アリ。

せっちゅう-がく (名) 折衷學 江戶時代ニ起リシ儒教ノ一派。漢唐ノ古注ト、宋明ノ儒家ノ新義トヲ取捨シ、其長ヲ折衷シテ取レルモノ。[illegible] 片山兼山ニ興リ、井上金峨、[illegible] 明四年歿、年五十三)ニ至リテ、[illegible]ンナリ。 折衷學派

せっ-ち・る (動) [illegible] (せっしおろすノ略ナル、せっしノ訛) せっしおろす(責役)ノ條ヲ見ヨ。

せっ-つ・く (動) 責付 せつくノ音便訛。

ぜっ-つゐ (名) 絕對 [illegible] (同、ぜったい(絕對)ノ條ヲモ見ヨ)

せっ-てい (名) 攝提 (一)大角星ノ南北ニ在リテ、北斗星ノ柄ノ方ニ當ル、[illegible]星ノ名。[illegible] (二)十二支ノ寅ノ異名。[illegible]

セッテイリ (名) 刹帝利 せつりてい(刹帝利)ノ條ヲ見ヨ。

せつ-ど (名) 節度 (一)ノリ。サダメ。[illegible] (二)サシヅ。下知。[illegible] ホド。ホドアヒ。[illegible] (四)せつどし(節度使)ノ略。 北史、[illegible]

セツ-ど (名) 刹土 〔[illegible]〕 國ノ義。國土。 [illegible]

せっ-とう (名) [illegible] 木竹ノ木口ヲ、白紙ニテ貼リテ、一方ヲ窓ヲ作ス。ボンボリ。[illegible]

ぜっ-とう (名) 舌頭 クチサキ。クチ。[illegible]

ぜっ-とう (名) 絕東 東ノハテ。極東。

せっ-とうご (名) [illegible]

眞、ノ如シ。

せつ-とく（名）［說得］ 說キ諭シテ、得心セサスルコト。說論シテ、納得サセルコト。說服。 運歩色葉集「說得、セットク」

せつ-とく（名）［褻瀆］ 褻レ、瀆ルルコト。 易經、上經、蒙卦「再三瀆」疏「師若遲疑不定、或再或三、是褻瀆」

せつど-し（名）［節度使］ 古ヘ、諸道ニ遣ハサレテ、軍務等ノ事ヲ檢定セシメラレシ職。 唐書、職官志「凡天下節度使、有八」同、百官志「節度使、掌總軍旅、顓誅殺」 續紀、十一、天平四年八月、正三位藤原朝臣房前、爲東海、東山二道節度使、從三位多治比眞人縣守、爲山陰道節度使、從三位藤原朝臣宇合、爲西海道節度使、道別、判官四人、主典四人、醫師一人、陰陽師一人」 太平記、十六、正成下向兵庫事「征罰ノ爲メニ、サシ下ダサレタル節度使、未戰ヲ成サル前ニ、帝都ヲ捨テ」

せつ-と-せ-ず（句）［不屑］ イサギヨシトセズ。いさぎよしノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

セツナ（名）［刹那］ 〔梵語、Kṣaṇa. 須臾ト譯ス〕 佛經ニテ、時ノ、極メテ短キ稱。壯士ノ一彈指ノ間ヲ云フトゾ。(極メテ長キ、劫ニ對ス)百二十刹那ヲ、怛刹那ト云ヒ、六十怛刹那ヲ、臘縛、三十臘縛ヲ、牟呼栗多ト云ヒ、三十牟呼栗多ヲ、一晝夜トス。(故ニ、今ノ時間ニ換算シテ、一秒時ノ約七十五分ノ一ニ當ル) 俱舍論「壯士一彈指頃、六十五刹那」 同「時之極少名刹那、時之極長名劫」 宇津保物語、俊蔭「文殊、獅子ニ乘リテ、刹那ノ間ニ至リテ」 徒然草、百八段「商人ノ、一錢ヲ惜シム心、切ナリ、刹那オボエズト云ヘドモ、コレヲ運ビテ止マザレバ、命ヲ終フル期、タチマチニ至ル」 太平記、廿七、上杉畠山流罪死刑事「火打ガ城ノ見上グレバ、蝸牛ノ角ノ上、三千界、石火ノ光ノ中、一刹那、哀レ、徒ナル憂世カナ」

ぜつ-あい-おん（名）［舌內音］ 音ノ三大別ノ一。舌ノ前部、又ハ、尖端ヲ用ヰテ發スルモノ。ごいん(五音)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

せつ-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二） 〔切甚しノ約轉。京畿ニ、せゅつなし、せつなしナド云フ語アリ〕 壓シ迫ラレテ、苦シ。ツラシ。辛苦ナリ。 文化ノ川柳「手ニサゲル、ヨリモせつない、鍋祭」

せつ-なふ（名）［接納］ ヲサメ、イルルコト。 後漢書、岑彭傳「光武深接ニ納之ニ」

せつ-み（副）［切］ 又、せちみ。 シキリニ。迫リテ。「切み乞フ」

せつ-に-せん（名）［折二錢］ 錢、一ツニテ、二文ニ價スルモノ。

ぜつ-にふ（名）［絕入］ タエイルコト。氣絕スルコト。ぜつじゅ。息ノ、タユルコト。絕入。 盛衰記、四十三、安德帝不吉瑞事「御卽位ノ時ハ、高御厨子ノ後ニ、女房、俄カニ絕入シ」

ぜつ-ねん（名）［絕念］ 思ヒ切ルコト。諦ムルコト。斷念。斷想

せつ-ぱ（名）［切羽］ 〔狹鍔ノ約カト云フ、或ハ、副鍔ノ約轉カ〕 (一)刀ノ鍔ノ兩面、柄ト、鞘トニ當ル處ニ添フル、薄キ楕圓形ナル金物。穴アリ、刀心ヲ貫ク。 和漢三才圖會、廿一、兵器「切羽、鍔表裏、飾ニ薄金各二枚、名曰ニ大切羽、小切羽ニ」 (二)轉ジテ、せつぱ詰マルコト。窮迫スルコト。又、其場合。 雪女五枚羽子板（寶永、近松作）上「生キル、死ヌルノ切羽ゾト」

せつ-ぱ（名）［說破］ (一)〔破、了也〕 言ヒ說キ盡スコト。說キテ、退クルコト。說キオホスルコト。論破。 白玉蟾詞「懶散家風淸且閑、活計只、若說破」 (二)說キ破ルコト。說キ伏スルコト。 太平記、廿五、宮方怨靈會ニ六本杉ニ事「峯ノ僧正御房、其心ニ入替リ給テ、政道ヲ輔佐シ、邪法ヲ說破サセ給フベシ」

せつ-ぱう（名）［節旄］ 古ヘ、支那ニテ、天子ヨリ、使節ノ符トシテ下サルル節(旗ノ類)ニ附ケタル旄牛ノ尾。 漢書、蘇武傳「杖ニ漢節ニ牧レ羊、臥起操持、節旄盡落」

せつ-ばう（名）［切望］ 切ニ、願ヒ望ムコト。懇望。

ぜつ-ばう（名）［絕望］ ノゾミヲ絕ツコト。望、叶ハズト思ヒ、諦ムルコト。失望。 左傳、襄公十四年「百姓絕望、社稷無レ主、將ニ安用レ之」 漢書、文帝紀「天下絕望矣」

せつ-ぱく（名）［切迫］ 差シツマルコト。クツロギ無キコト。極マルコト。「時期切迫」

ぜつ-ばく（名）［絕邈］ 至ッテ、邈ナルコト。 王粲、爲ニ劉荊州ニ與ニ袁譚ニ書「楚楚絕邈、山河迥遠」

せつ-ぱ-つま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［切羽詰］ 窮迫シテ、差シツマリテ、仕方ナクナル。免ルル能ハズ。進退谷マル。

ぜつ-ばふ（名）［絕乏］ 物ノ、無クナリテ、トボシキコト。 史記、平津侯主父傳「曠日持久、糧食絕乏」

せつ-ぱん（名）［折半］ 二ツ割リ。半分別ケ。 太眞外傳（宋、樂史）「玉妃指ニ碧衣女ニ取ニ金釵鈿合ニ折ニ其半ニ授ニ使者ニ」「利益ヲ折半ス」

せつ-ぱん（名）［接伴］ せったい(接待)ノ條ノ(一)ニ同ジ。又、其人。 宋史、李繼昌傳「至ニ境首ニ接伴」

せつ-ぱん（名）［攝判］ 本官以外ニ、他ノ職務ヲ兼ヌルコト。 隋書、長孫熾傳「尋以ニ本官ニ攝ニ判東宮ニ」

ぜつ-ぱん（名）［絕版］ 版木ヲ毀チテ、摺出シヲ絕ツコト。發刊「[illegible]」

せつ-び（名）［設備］ マウケ、ソナフルコト。整ヘ置クコト。ソナヘ。支度。用意。準備。 晏子、[illegible]

ぜつ-ぴ（名）［絕比］ 並ブモノ無ク、スグルルコト。無比。無雙。 杜甫[illegible]「精巧華麗絕比」

ぜつ-ぴ（副）［是非］ 〔是非ノ音便〕 カナラズ。キット。

せつ-び-ご（名）［接尾語］ 常ニ、他ノ語ノ尾ニ接キテ、其意味ヲ加フル語ノ稱。アトグハヘ。「我レ等」「物共」「赤氣」「遠さ」ナドノ、等、共、氣、さ、ノ如シ。

せつ-ぴつ（名）［拙筆］ (一)下手ナル手跡。惡筆。 東觀餘論（宋、黃伯思）「字無ニ俗韻ニ者、拙筆書ニ」 (二)粗末ナル筆。 南史、王僧虔傳「孝武欲レ擅ニ書名、僧虔、云云、常用ニ拙筆ニ書、以レ此見レ容」

ぜつ-ぴつ（名）［絕筆］ (一)筆ヲ、絕ツコト。書キ止ムルコト。カキヲサメ。擱筆。 杜預、左氏傳、序「絕ニ筆於獲麟之一句ニ」 (二)一生ノ書キジマヒ。臨終ニ書キタル文字。死際ニ書キタル文書。 宋史、周必大傳「嘗建ニ三忠堂於鄕ニ云云、爲レ文記レ之、蓋絕筆也」

ぜつ-ぴん（名）［絕品］ イト、スグレタル品。逸品。 宋史、食貨志「隆興之茶龍鳳并、皆絕品也」「天下ノ絕品」

せつ-ぷ（名）［雪膚］ せっき(雪肌)ニ同ジ。 白居易、長恨歌「中有ニ一人ニ字太眞、雪膚花貌參差是」

せつ-ぷ（名）［節婦］ 節ノ、正シキ女。貞節ナル女。 傅休奕、秋胡行「美此節婦、高行巍巍」

せつ-ぷ（名）［節符］ ワリフ。テガタ。符契。符節。

せっぷく (名) [褻服] 〔説文「褻、私服」〕 ケノコロモ。不断着。平服。常服。褻衣。 [illegible]

せっぷく (名) [切腹] (一)自ラ、腹ヲ切リ割キ、且ツ、喉ヲ断チテ死ヌルコト。ハラキリ。割服。屠腹。 建内記、永享十一年二月二日「所詮無[illegible]」 太閤記、十七、秀次公御切腹之三使登山事」 (二)徳川氏ノ制ニハ、士族ノ間刑ノ、最モ重キモノトシ、命ジテ、切腹セシム。罪ノ軽重ニ従ヒテ、其禄ヲ奪フアリ、子孫ニ与フルアリ、或ハ、減ジテ与フルアリ、賜死 官事常案、廿四「當人被二召出一、御科ニ依而、切腹被二仰付一候旨、被二仰渡一」 憲教類典、四、天和二年十一月廿一日「八郎左衛門ヲ書院エ呼出シ、御科之次第被二仰渡一之、八郎左衛門切腹也」

せつぶしゃう (名) [節部省] 天平寶字二年、大藏省ノ改稱。幾モ無クシテ、舊ニ復セラル。 續紀、廿一、天平寶字二年八月「大藏省、出二納諸物一、故改爲二節部省一」

せつぶん (名) [節分] 〔せちぶん(節分)ノ條、見合ハスベシ〕(一)春、夏、秋、冬、ノ四季共ニアリテ、季節ノ、分ルル日。 中右記、保安元年四月[illegible]「今夜、夏節分也」[illegible]年七月四日「今夜、[illegible]節分也」[illegible]「大宮モ、殿ノ御前モ、オボシメシタレド、秋ノ節分ニ、イト寒クスリヌベケレバ」 (二)今、立春ノ前夜ノ稱。(大抵、二月三日)此夜、柊ノ枝ニテ、鰯ノ頭ヲ刺シテ、門戸ニ挾ミ、豆ヲ蒔キ、又、追儺、豆打、ナド、行フ。 [illegible] 後世、同ジキ事ノヤウニ心得レド、昔ハ、差別アリ、[illegible] マレリ、此事ノ起リハ、[illegible] 等ニヨリテ、皇國ニテモ、大豆打事、始マレリ、サハアレド、時代、[illegible] 二所見アレバ、[illegible] 時、既ニ有リシト見エテ、小屋ノ門ノ鰯ノ頭、柊ト(土佐日記)見エタルニテモ知ラレタリ、中昔ヨリハ、鰯ヲ鬼ニ代ヘ用ヰタリシハ、藤ノ爲家卿ノ歌ニ、柊ニ、[illegible]詠ミ合セ給ヘルニ據レバ、是モ、六百年前ヨリノ事ナリ」

せつぶん (名) [節文] (一)ヨキ程ニ、文ヲナスコト。 禮記、坊記篇「禮者、因二人之情一而爲二之節文一」 鄭注「[illegible]有二爵命之級一也」 (二)文ヲ、節約スルコト。ツヅメタル文。

せっぷん (名) [接吻] 口吸フコト。キッス、及、くちすふ(口吸)ノ條ヲ見ヨ。

せつぶんさう (名) [節分草] 古名、イヘニレ。いちりんさう(一輪草)ノ異名。節分ノ頃ニ花、開ク故ニ云フ。[莵葵]

せつぶんまめ (名) [節分豆] 節分ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。オニウチマメ。 [illegible] 近松作 [illegible] 正月買ノ[illegible]初メ、節ノ下デハ三歳引、梯子ノ藤テハ貫引、節分豆、豆撒キ年男、鬼ノ子抱テ」

ぜっぺき (名) [絶壁] 山ノキリギシ。[illegible]

せつぼう (名) [拙謀] せっさく(拙策)ノ(二)ニ同ジ。 書經、盤庚、上篇「予亦拙謀、作二乃逸一」[illegible]

ぜっぽう (名) [舌鋒] 辯舌ノ鋭キコトヲ、鋒ニ譬ヘテ云フ語。[illegible]

せっぽふ (名) [説法] 宗門ノ宗旨ヲ、信者ニ説キ聞カスルコト。釋迦ニ説法ナド、[illegible] 言宗ニ法談ト云フ。 [illegible] 云、雨降ルベキ由ノ説法、メデタクシテ、高座ヨリ下ルルママニ、ヤガテ、雨降リテ」 盛衰記、四、白山神輿登山事「八王子ノ御前ニテ、仲胤法印、イマダ供奉ニテオハシケルガ、[illegible]」

せつま (名) [切磨] [illegible] せっさ(切磋)ニ同ジ。 宋史、李侗傳「孔門弟子、[illegible]」

せつまう (名) [雪盲] 雪道ヲ旅行スルニ、[illegible] 赤ク見ユル病[illegible] モノナリトゾ。

せつみゃく (名) [切脈] 脈ヲ取リテ病ヲ診斷スルコト。診脈。 史記、扁鵲傳「不レ待二切脈一[illegible]」

ぜつみゃく (名) [絶脈] 脈ノ、絶ユルコト。即チ、死ヌルコト。 論衡(漢、王充)[illegible]

ぜつむ (名) [絶無] [illegible]

せつめい (名) [説明] トキアカシ。解説。

ぜつめい (名) [絶命] 命ノ、絶ユルコト。死ヌルコト。「絶命辭」

せつめいし (名) [illegible]

[illegible] ル語。即チ「蝶、蝶ぶ」、[illegible]「蝶ぶ」

ぜつめいふ (名) [illegible]

ぜつめう (名) [絶妙] 勝レテ、妙ナルコト。[illegible]

ぜつめつ (名) [絶滅] タエ、ホロブルコト。[illegible]

せつもく (名) [節目] (一)ふしト、めト。(樹木ノ)[illegible]

ぜつもく (名) [絶目] 見渡スカギリ、眼[illegible]

せつもつ (名) [illegible] ソリソリノモノ。何ノ物。[illegible]

せつもん (名) [切問] (一)切リニ、問フコト。(二)[illegible]

せつもん (名) [設問] 問題ヲ、設クルコト。[illegible]

せつもんがく (名) [説文學] [illegible]

せつやう (名) [illegible]

せつやう (名) 絶洋 〔史記、天官書、注「絶、度也」〕 遠カナル海ヲ渡ルコト。大海ヲ航スルコト。 宋史、高麗傳「自定海、絶洋而東」

せつやく (名) 節約 物事ヲ、ツヅマヤカニスルコト。儉約。節減。 後漢書、宣秉傳「秉、性節約、常服布被蔬食瓦器」「節約ヲ勧ム」

せつゆ (名) 説諭 トキ、サトスコト。言ヒ聞カスルコト。言ヒフクムルコト。言ミコマスルコト 「警官ノ説諭」

せつよう (名) 節用 (一)奢侈ノ欲ヲ抑ヘテ、財用ヲ、成ルベク儉約スルコト。 論語、學而「節用而愛人、使民以時」後漢書、皇后紀「節用儲蓄、以備凶災」 (二)次條ノ語ノ略。

せつようしふ (名) 節用集 節略ニシテ、便利ナルヲ旨トスル、一種ノ辭書 「[illegible]節用集」

セツリ (名) 刹利 〔梵語、Kṣatriya.(刹帝利)ノ略、田主ト譯ス〕 又、せちり。セッテイリ。天竺國民ノ四階級(四種姓)ノ第二ニテ、國王、大臣。其第一ヲ婆羅門(其條ヲ見ヨ)、第三ヲ毘舍(商)、第四ヲ首陀(農、奴僕)トス。(四姓ノ條ヲ併セ見ヨ) 西域記、二「一日、婆羅門、云云、二日、刹帝利、王種也、舊曰、刹利、略也」 夢溪筆談(宋、沈括)「天竺以刹利、婆羅門、二姓為貴種」 太平記、三十二、「天竺ノ斑足王、云云、只、王宮近キ邊ニ來リテ、夜々、地ヲ掘シテ吠エ怒リ、天ニ飛揚シテ鳴キ叫ビケル間、大臣、公卿、刹利、居士、皆、宮中ニ逃ケコモル」

せつり (名) 攝理 (一)攝行、處理スルコト。人ニ代ハリテ、事ヲ理ムルコト。 左傳、宣公十四年、七景伯如楚、叔孫攝理」 (二)統ベ、ヲサムルコト、スベ、整フルコト。

せつりつ (名) 設立 マウケ、タツルコト。取立ツルコト。「學校ヲ設立ス」

ぜつりふ (名) 絶粒 米粒ヲ絶チテ、食ハザルコト。絶食。斷食。 北史、魏太尉公[illegible]「飲食凡人、絶粒七日、乃死」

ぜつりん (名) 絶倫 〔禮記、樂記篇、注「倫猶類也」〕 人倫ヲ超エテ、スグレタルコト。特リ、同類ヨリ抽ンデタルコト。超倫。拔羣。 孔子家語、本姓解「武力絶倫」漢書、匡衡傳「經學絶倫」「精力絶倫」

せつりやく (名) 節略 適度ニシテ、省クコト。ハブキ減ラスコト。節減。

せつれつ (名) 節烈 節義ヲ守ルコトノ、極メテ烈シキコト。

せつれつ (名) 拙劣 ツタナク、オトレルコト。下手。 白居易詩「拙劣才何用」

せつれん (名) 節廉 れんせつ(廉節)ニ同ジ。史記、呉起傳「呉起為人、節廉而自喜名也」

せつろく (名) 節錄 節略シテ、記錄スルコト。又、其モノ。抄錄。略記。省錄。

せつろく (名) 攝籙 〔張衡、東京賦「高祖膺籙受圖、順天行誅」籙圖ハ天神ノ授與スル册命ナリ、因リテ、天命ヲ受ケテ、天子トナルコトヲ、膺籙受圖ト云フ。攝籙ハ、卽チ、天子ニ代リテ籙ヲ執ルニテ、攝政ノ義〕 せつしやう(攝政)ノ(一)ノ異稱。 公武大體略記「臨司殿、云云、攝政ヲバ、攝籙ト申」 三代實錄、四十一、元慶六年正月廿五日、勅答「後緣之尊、非予所堪、攝籙之權、欲公勿讓、朕之此志、美能順之」 愚管抄、六、後鳥羽「九條ノ右大臣(兼實)ハ、云云、世ノ中ノ人モ、ゲニゲニシキ攝籙ノ臣コソ出キタレト思ヘリケリ」 保元物語、一、新院御謀叛思召立事「文才、世ニ知ラレ、諸道ニ淺深ヲ探ル、朝家ノ重臣、攝籙ノ器量ナリ」

ぜつゐき (名) 絶域 極メテ遠ク離レタル外國。 漢書、武帝紀「詔、州郡、察吏民有茂才異等可為將相、使絶域者」

せつゐん (名) 切韻 はんせつ(反切)ノ條ヲ見ヨ。 夢溪筆談(宋、沈括)「切韻者、上字為切、下字為韻、切須歸本母、韻須歸本等」

せつゑつ (名) 節鉞 〔節ハ旗ノ類。せつたう(節刀)ノ語原ヲ見ヨ〕 古へ、支那ニテ、出征ノ將軍ニ、天子ヨリ賜ハリタルまさかり。 三國志、魏志、袁術傳「袁術奔九江中山、太祖[illegible]收其[illegible]、得其印綬節鉞」

せつゑん (名) 雪冤 〔雪ハすすぐ。せつぢよく(雪辱)ノ語原ヲ見ヨ。冤ハ、俗字〕 冤罪ヲ雪グコト。嫌疑晴レテ、青天白日ノ身トナルコト。 鄭谷、[illegible]「雪冤知早晩、雨泣渡江湖」

ぜつゑん (名) 絶遠 極メテ、遠キコト。カケハナレテ、遠キコト。 書經、盤庚、中篇「永敬大恤、無胥絶遠」 史記、大宛傳「天子為其絶遠、非人所樂往、聽其言予節」

せと (名) 迫門 瀨戸 (一)〔海中ノ潮瀨ノ通路〕 多クノ船ノ、行通ヒニ、落合フ所。又、海ノ、陸地、或ハ、島山ノ間ニ迫リテ、通フ處。海峽。 神代紀、下九、長歌「鄙ツ女ノ、イ渡ラス西渡、石川片淵」 萬葉集、三十五「隼人ノ、薩摩ノ迫門ヲ」 同、六二「隼人ノ、湍門ノ磐モ」 同、十二「室ノ浦ノ、湍門ノ崎ナル」 同、十六「角島ノ、迫門ノ若布ハ」 (二)せともの(瀨戸物)ノ略。「せとノ火鉢」 (三)せとぎは(瀨戸際)ノ略。 生玉心中(正德、近松作)中「タッタ僅カ、一貫目餘リノ銀ノ瀨戸ヲ、越シカネテ」

せと (名) 瀨處 淺キ處。洲ノ、高キトコロ。〔河、海ナドノ〕

せど (名) 背門 背戸 〔背外ノ義。後ノ門〕 裏門。ウラグチ。 宇治拾遺、三、十六條「せどノ方ニ、米ノ散リタルヲ食フトテ、雀ノ、躍リ歩クヲ」 七十一番職人盡歌合、五十一番、紺師「屋而ニ、曇シ見エツル、月影ノ、せどニナルマデ、更ケワタルカナ」 拾玉集(慈鎮)四「紺掻ノ、檜縮ノ淺葱、せどニ乾シテ」

せどうか (名) 旋頭歌 〔頭句(上、三句)ヲ旋覆シテ、一首ニ調ヘタル意カ、ト云フ〕 和歌ノ一體、一名、雙本歌。五字、七字、七字、ノ三句ナルヲ、混本歌ト云フ、本(上ノ句)ニ、末(下ノ句)ヲ混ジタル如クナレバナリ。(或ハ云フ、常ノ歌ノ、一句、無キモノナリ、五字、七字、何レヲ闕カムモ、心ニ任スト)コレヲ、二首、合ハセタル如ク、卽チ、本、末、共ニ、各、五七七ノ六句ニ讀ムヲ、旋頭歌トス。本ヲ云フト思ヘバ、又、本ニカヘル、末トナリ、末カト思ヘバ、又、本ニカヘル、因リテ、頭を旋らす歌ト云フトゾ 後ニハ、常ノ歌ノ下ノ句ノ方ニ、七字、或ハ、五字ノ句ヲ加ヘタルヲモ云フ。 萬葉集、七廿六廿七廿八旋頭歌「池ノ邊ノ、小槻ガモトノ、細竹ナ刈リソネ、ソレヲダニ、君ガ形見ニ、見ツツ偲バム」「霰降リ、遠ツ淡海ノ、吾跡川柳、刈レレドモ、又モ生フチフ、吾跡川柳」「春日ナル、三笠ノ山ニ、月ノ船出デ、遊士ノ、飲ム杯ニ、影ニ見エツツ」 又、雙本歌ト云フハ、古今集、十九、旋頭歌「泊瀨川、古河ノ邊ニ、雙本アル杉、年ヲ經テ、又モ相見ム、雙本アル杉」 又、混本歌ト云フハ、古事記、下(仁德)十「女鳥ノ、吾ガ大君ノ、織ス機、誰ガタネロカモ」

せとうちうみ (名) 瀨戸内海 〔瀨戸トハ、潮瀨ノ海門ノ義〕 山陽道ト、四國ト

ノ閒ノ内海。東ハ、明石、鳴門ノ二瀬戸ヨリ、西ハ、下關ノ瀬戸マデノ海路。海ニ、島嶼、多ク、世界第一ノ景ト稱セラル。萬葉集、三、十下[illegible]筑紫國[illegible]時、海路作歌「大王ノ、遠乃朝庭(太宰府)ト、往來フ、島門ヲ見レバ、神代シ思ユ」[illegible]淡ヨリ筑紫マデ、海路ノ絶景ヲ見テ、神代ノ神ノ、イカニシテ斯クハ、[illegible]造ラシシカト思ハルトナリ」

せとがひ (名) 瀬戸貝 いがひ(貽貝)ノ一名。増補、俚言集覽、せとかひ「周防及ビ安藝ニテ、貽貝ヲ云フ」

せとぎは (名) 瀬戸際 (一)瀬戸ト、海トノ境ノ所。(二)安危ノ分ルル眞際。危機。太平記鑒(享保、竹田出雲)三「此ノせとぎは二、思案ドコロカ」

せとぐち (名) 迫門口 瀬戸ノ(一)ニテ、船ナドノ出入口。山家集(西行)上「せとロニ、立テル潮ノ、大淀ミ、淀ム年日モ、無キ涙カナ」

せとのそめいひ (名) 瀬戸染飯 〔瀬戸ハ、島田町、藤枝町ノ間ニ在ル、駿河國、志太郡ノ小邑〕染飯ハ、其處ノ名物、梔子ニテ、黄色ニ染メタル飯。食料ニアラズ。東海道名所記(萬治)三、藤枝ノ瀬戸ノ染飯ハ、此處ノ名物ナリ、其形、小判程ニシテ、強飯ニ山梔子ヲ塗リタリ、ウスキモノナリ」

せどひ (名) 世渡屏 〔屋後ヲバ、背戸ト云フ〕古ヘ、京都ノ町内ニテ、小庵ノ稱。洛中ノ小庵。増補、下學集、下、二、言辭門「世渡屏ニ京師中之小庵、謂之世渡屏ニ也」

せとひき (名) 瀬戸引 〔瀬戸物ニ似タレバ、名トス〕鍋ナドニ、琺瑯(ホウラウ)ヲ塗リタルモノ。「瀬戸引鍋」

せともの (名) 瀬戸物 次次條ヲ見ヨ。

せどや (名) 背戸家 他家ノ後ニ在ル家。裏家。裏店。生玉心中(正徳、近松作)上「晦日、節季ハ、前ノ方ケデ、裏ヤ、せどや、借家ヤ三界、懸ケ取リニ歩クヤウナ勤メスルノモ」

せとやき (名) 瀬戸燒 尾張國、瀬戸市ヨリ産ズル瓷器ノ稱。いしやき、そめつけヲ、專ラトス。其創出、極メテ古ク、[illegible]ニシテ、道々、諸國ニ出ス、東國ニテハ、コレヲ、瀬戸物ト云ヒテ、終ニ、磁器ノ總名トス。貞應二年、瀬戸ノ人、加藤春慶、僧道元ニ從ヒテ、宋ニ行キ、製瓷ノ法ヲ得テ歸リ、窰ヲ此處ニ開キ、天下、精巧ヲ稱ス、春慶燒ノ條ヲ併セ見ヨ。

せどり (名) 瀬取 〔競取ノ義〕サイトリ。同業者ノ中間ニ立チテ、注文品ヲ探シ出シ、賣買シテ、口錢ヲ得ルコト。(今ハ、主ニ書籍商ノ間ニ云フ)

せな (名) 背 セナカ。林葉集、二、夏「[illegible]、野ハ成リニケリ、霧ニ出ヅル、コグレノ鹿ノ、せな見ユルマデ」

せな (名) 夫名 〔兄汝ノ義、名ハ、親シム語〕(一)セコ。夫。又、男ヲ、女ヨリ、親シミテ呼ブ語。萬葉集、廿、[illegible]「[illegible]世奈ガ、丸寐セバ」同、同廿「我ガ世奈ヲ、筑紫へ遣リテ」同、[illegible]「天地ノ、神ニ幣置キ、齋ヒツツ、在セ我ガ世奈、吾ヲシ思ハバ」伊勢物語、第十四段「夜モ明ケバ、狐ニ食メナム、家鷄ノ、マダキニ鳴キテ、せなヲ遣リツル」[illegible]、見ルママニ、[illegible]ハ、[illegible]レドモ、今ハかりニモ、せなハ來マサズ」(二)兄ヲ呼ブ稱。(東國ノ方言)(三)轉ジテ、せなあトモ云フ。哥哥。大哥。阿哥。

せなあ (名) 兄 前條ノ語ノ(二)ノ延音。「新田ノせなあ」

せなか (名) 背中 〔背中ノ義、背骨ノ有ル處ナリ〕(一)セ。セナ。ソビラ。後[illegible]名抄、三[illegible]背[illegible]世奈加」宇治[illegible]、神代紀、上[illegible]背[illegible]花物語、[illegible]同、三十一、殿上花見「ワタツミノ、[illegible]ノせなかニ、居ル[illegible]ナルベキ、山トナルベキ、君ノ御代カナ」宇治拾遺、十、第十[illegible]ドスレド」(絵ノ)同、十二、廿條「[illegible]せなかヲ打テバ、脊骨ヲ打チ斷リテ」(二)ウシロ。背後。宇治拾遺、九、第[illegible]、せなかニ負[illegible]淺瀬[illegible]、下、[illegible]背中ヲ知ラズ、女ノ[illegible]

せなかあはせ (名) 背合 (一)ウシロアハセ。ウラブハセ。伊勢集「仰サマニ、背ニ負ハレシ、[illegible]、せなかあはせ、人ノナルラム[illegible]」(二)轉ジテ、互ニ仲ノ悪シキコト。ナカタガヒ。

ぜに (名) 錢 〔字ノ音、せぬノ轉。えぬ(縁)、えに。くぬ(訓)、くに。らぬ(蘭)、らに。ノ類〕アシ。要脚。鳥目。料足。ゼネ。[illegible]通用ノ貨幣ノ、銅、鐵ナドニテ、吹キタルモノ。多クハ、形、圓ク薄クシテ、中央ニ、方ナル孔アリ、一文ニ當ルモノアリ、又、四文ノモノ、百文ノモノアリ、面ニ、文字アリ、コレヲ、文字、又、形ト云フ、背ニ文ナキヲ、ぬめ、又、なめナド云フ。又、一文、四文ナルニ、[illegible]ナド云フ。今、通用スル貨幣ハ、一厘、五厘、一錢、二錢ノ銅貨、五錢、十錢、二十錢、五十錢ノ銀貨、一圓、二十圓ノ金貨等ノ種類アリ[illegible]明天皇ノ朝ノ和銅開珎ヨリ、村上天皇ノ朝ノ乾元大寶マデ、度度、改鑄アリシガ、其後、[illegible]、支那歷代ノ銅錢ノミ、行ハル。中世ナルハ、皆、支那錢、今モ、時時、掘出ス、皆、然リ。青蚨[illegible]同錢、孔方兄[illegible]

[illegible]

ぜにあふひ (名) 錢葵 あふひノ一種。葉、短ク、夏ノ初、葉ノ間毎ニ、多ク花ヲ開ク[illegible]。一名、コアフヒ。錦葵

ぜにうち (名) 錢打 〔錢打ノ義、賤文[illegible]〕下民ノ小兒ノ戲。地ニ線ヲ記シ、線内ニ數錢ヲ出ス、別ニ、一錢ヲ以テ、敵ノ指ス錢ニ打チツケテ、中ルヲ勝トス。コレニ、穴一ナド[illegible]

ぜにうら (名) 錢卜 [illegible]

ぜにうり (名) 錢賣 往時、錢ヲ、[illegible]

替フルヲ業トシタル者。錢ノ兩替。江戸、日本橋、南北四町ノ間、數百人、各、三四貫文ヅツ肩ニカケ居テ、少額ノ錢兩替ヲシタリ。(事跡合考)

〜ぜに-がさ (名) 【錢瘡】 たむしノ古名。圓形ニ發生スル故ニ云フ。ゼニダムシ。銅錢癬 倭名抄、三「銅錢癬、俗云、錢加佐」

ぜに-がた (名) 【錢形】 (一)〔又、カミゼニ〕紙ヲ、錢ノ形ニ切リテ、神ニ供フルモノ。錢切の幣トモ云フ。紙錢 倭名抄、十三「祭祀具、紙錢、加美之世爾、一云、錢加太」 陰陽寮式、三「元祭、紙二百張、錢形九千文」 (二)錢ヲ鑄ルニ用ヰル型。ゼニノハタモノ。

ぜにがた-の-びゃうぶ (名) 【錢形屛風】 屛風ノ一種。蝶番ヲ紅革ニテ丸ク切リテ、銀ノ鋲ニテ打チ下ゲタルモノ。 類聚名物考(山岡浚明)調度、四「今年、安永五年三月、京、東福寺ニテ開帳アリシニ、某裏ヨリ御寄附ノ、御寺ノ屛風アリ、蝶番ヲ、紅革ニテ、丸ク切テ、銀ノ鋲ニテ打下タリ、是ヲ、錢形の屛風ト書付アリ、不審シ、コノ名、御所ニテハ假付メコトナリ、スベテ名目ニ、心得違、多ク見ユ」

ぜに-かね (名) 【錢金】〔重言ナリ〕 ぜにト、かねト。金錢。貨幣。 狂言記、八句連歌「私ガ參ッタトテ、ぜにかねニハナリマスマイ」 浮世風呂(文化、三馬)初編、ト「ドウモ、錢金ト云フ奴ハ、溜マリマセヌ」

ぜに-がひ (名) 【錢貝】 きさご(細螺)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

ぜに-がめ (名) 【錢龜】 常ノ龜ノ子ノ、大キサ寸許ニシテ、形、錢ノ如キモノノ稱。石龜ノ幼小ナルモノト云フ。小鳥龜

ぜに-がめ (名) 【錢瓶】 錢ヲ納メテ、出デザルヤウニ作レル器。錢甕 慶長見聞集、一「文祿四年ノ夏ノ比、此橋(錢瓶橋)本ニテ、錢がめヲ掘出ス、永樂、京錢、打雜リテ有シヲ、四日市ノ者共、此錢がめヲ、町ノ兩御代官、板倉四郎右衞門殿、彥坂小刑部殿ヘ捧ゲ申シタリ、夫ヨリ此橋ヲ、錢がめ橋ト名付タリ」

ぜに-きり (名) 【錢切】 次條ノ語ノ略。 神道名目類聚抄、三、祭器「錢切、伊勢神宮、被修行ノ時、紙ヲ切リタルヲ、錢切ト云」

ぜにきり-の-ぬさ (名) 【錢切幣】 ぜにがた(錢形)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 箋注倭名抄、五「祭祀具、按、陰陽寮式有二錢形一、蓋是、今伊勢神宮河原祓、用二錢切幣一、佛家祭二諸天一、亦用二紙錢一」

ぜに-ぐつわ (名) 【錢轡】 〔人ニ金錢ヲ贈リテ、口ヲ緘スルヲ、馬ニ轡ヲ嵌ムルニ喩フ〕 かねぐつわ(金轡)ニ同ジ。口止メ料 信長記、織田右馬助ト云フ者、人ノ聟ヲ取リケレバ、信長「錢ぐつわ、ハメラレタルカ、うまの助、人畜生ト、是ヲ言フラム」

ぜに-くひ (名) 【錢食】 かねくひ(金食)ニ同ジ。又、其人。 浮世風呂(文化、三馬)二編、上「女ノ子ハ、金ッ食ダト申シテ、宿デモ、小言バカリ申シテヲリマス」

ぜに-くび (名) 【錢頸】 ぜにもちくび(錢持頸)ノ條ヲ見ヨ。

ぜに-ぐるま (名) 【錢車】 少女ナドノ戲レニ、錢ノ孔ニ、小軸ヲ嵌メオキテ、捻リマハシテ、綿ヲ引キテ、絲トスルモノ。

ぜに-ごけ (名) 【錢苔】 蘚苔類ノ下等植物。濕地ニ生ズ、體ハ扁平ニシテ、綠色ヲ帶ビ、錢形ノ紋アリ。地錢。

ぜに-ゴマ (名) 【錢獨樂】 數文ノ錢ヲ重ネ、穴ニ心木ヲ貫キ、絲ヲ卷キテ廻ハス獨樂 寶永、正德ノ頃、酒宴ノ席ナドニテ廻ハシ、小唄、端唄、一段唄フ間、廻ヒヲルヲ興トセリ。錢旋陀。 享保三年ノ狂言、若緑勢曾我ノ外郎賣ノ詞「舌ノマハルコトガ、錢獨樂ガ、裸足テ逃ゲル」 寶永、錢獨樂ニ就キテ「文錢ヲ六枚、七枚、又ハ、十枚、心木ニ貫キ、云云、昔銅、目ノヲサナ名ヲ削リ、助六、ト云ヒ、文七ト名乘リ、云云」文六ヤ、臍ノ緒切ッテ、花二寸」

ぜに-ざ (名) 【錢座】 德川時代、政府ニテ、錢ヲ鑄造シタル役所。寬永十三年、銀座ノ役人秋田宗古ニ命ゼラレ、江戸、芝ノ濱手ニ、新タニ、錢座(後ノ新錢座町)ヲ建テ、銅錢ヲ鑄ル、寬永錢、是レナリ。明和二年、江戸、龜井戸ニ、官ヨリ、請負事業ニテ、再ビ之レヲ建ツ、金主アリテ、願人ニ連署シ、共共、座人(取締)トナル。(ソノ他、近江ノ坂本、京都ノ九條、等ニモ在リキ)

ぜに-さし (名) 【錢差錢緡】 古名、ゼニヅラ。錢ノ孔ニ差シ貫キテ、括リ纏ムル、細ソキ繩。略シテ、さし。一文錢一緡ハ、六百文、四文錢一緡ハ、四百文。 緡 緡 類聚名物考(山岡浚明)調度、十五、寶貨「貫、さし、緡、錢ヲ貫ク繩ヲ緡ト云ヒ、又、卽チ其ノ貫クヲ名トシテ、貫トノミモ云フ、錢千文ヲバ、又、一貫トモ云フ也、云云、又、今俗ニハ、錢一貫文ヲ長ク貫ク緡ヲバ、卽チ、貫緡トモ云フ也」

ぜに-さつ (名) 【錢札】 フダセン〔大名、旗本領ニテ、行フ。商家ニテ、公許アルハ、札錢ナリ〕 紙幣 紙錢

ぜに-だいこ (名) 【錢太鼓】 小サキ太鼓。マメダイコ。 好色二代男(貞享、西鶴)一「此處ハ、洛中ノ御乳ノ人ノ、集マリ遊ビ所ナリ、錢太鼓、唐人笛ノ響キ、竹馬ノ鈴ノ音」

ぜに-だむし (名) 【錢癬】 ぜにがさ(錢瘡)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

ぜに-づつ (名) 【錢筒】 竹筒ニ、孔ヲ穿チテ、錢ヲ入ルルモノ。日掛ノ錢ナド、貯フルニ用キタリ。

〜ぜに-づら (名) 【緡】〔錢蔓ノ義〕 ぜにさしニ同ジ。 緡 倭名抄、十一、金銀類「緡、世爾都良、錢貫也」

〜ぜに-の-はたもの (名) 【錢模】 ぜにがたノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 倭名抄、十一、金銀類「鎔、世道乃波太毛能、錢模也」 名義抄「鎔、ゼニノハタモノ」

ぜに-ばこ (名) 【錢箱】 錢ヲ入レ置ク匣。金櫃。

ぜに-ばす (名) 【錢蓮】 蓮ノ一種。普通ノモノヨリ小サキモノ。

〜せ-にふ (名) 【施入】 ホドコシ、イルルコト。施物ヲ贈ルコト。 源、三十四、上、若菜、上八十二「琴ノ御琴、琵琶、云云、御堂ニせにふシ給ヒシ」 著聞集、二、釋敎「行者、金峯山ヨリ、法會ノ場ニ來リテ、私領ノ山林、田畠、等、數百町ヲ、施入セラレケリ」

ぜ-にん (名) 【是認】 然リト、ミトムルコト。良シト見トムルコト。(否認ニ對ス)

ぜに-むし (名) 【錢蟲】 やすで(馬陸)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

ぜに-もち-くび (名) 【錢持頸】 〔懷中ニ錢ヲ持ちテ、重ケレバ、襟、前ヘ引カルル意〕 衣ノ頸ヲ、前ヘ引キツメテ着ルコト。(のけえもんニ對ス) 襟ノ、裏、又ハ、表ヘ返リ、折レ重ナルヲ、錢頸ト云フハ、コノ訛ナリ。 犬子集(寬永、松江重頼)「貧乏人ハ、笑ハレニケリ」衣紋バカリ、錢もちくびニ、引キナホシ」 後撰夷曲集(寬文、生白堂行風)八、貧シゲナル者ヲ見テ「饑サニ、寒サニ竦ム、襟ツキヨ、錢もちくびハ、名ノミ也ケリ」

〜せ-ぬひ (名) 【背縫】 衣ノ背ノ中央ノ、二布ヲ縫ヒ合ハセタル所。 褄 枕草子、十二、百五十七段、見苦しきもの「衣ノせぬひ片寄セテ、着

タル人」

せめひ (名) 〔狭縫〕 狭物ノ縫法ニ、[illegible]ノ圭ノ處ナド、狭メテ縢ルコト。

ぜね (名) 〔錢〕 〔上總、靜岡縣ナドノ方言〕 ぜに(錢)ニ同ジ。町人嚢、四「一文不通ナル故ニ、物イヒナドモ、片言ノミニテ、ヲカシク、常ニ、錢ヲ、ぜねトノミ云ヒケル」

ゼネイフル (名) 〔蘭語、Jenever.〕 阿蘭陀ノ酒ノ名。ヂン酒。杜松子酒。

ゼネラル (名) 〔蘭語、(Generaal.)〕 將軍。

せは (名) 〔斡旋〕 〔忙シク奔走スル意、世話ト書クハ、當字〕 取リマハシ、引キマハスコト。面倒ヲ見ルコト。〔經紀〕 せはをやくトハ、肝ヲ煎ル。せはは無いトハ、力ヲ用キルニ及バズ、ソノママ、サウ成ル、面倒ナシ、ナドノ意。

せば (名) 京都ニテ、御召縮緬ノ稱。

せは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔忙〕 〔狭ノ狭しヨリ、急迫ノ意ニ轉ズ、即チ、せはせはしノ略〕 急ガハシ。事繁クテ、暇ナシ。〔遑忙〕 [illegible]「[illegible]せはしト、スガク里人」[illegible]百首、曉「山里ノ、筧ノ水ノ、せはしきニ、ナホ有明ノ、月ゾ宿レル」「仕事、せはし」

せば・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔狭〕 狭シ。セマシ。セシ。幅、廣カラズ。クツロギ無シ。名義抄「迮、セバシ、スボシ、[illegible]、セバシ、[illegible]」[illegible]古今集、十七、雜、上「ヌキ亂ル、人コソアルラシ、白玉ノ、間無クモ散ルカ、袖ノせばきニ」[illegible]出ヅレバ」 孟子抄(文明)一「六國ノ南北ノ、せばい處ヲ保ツ」

せば・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔狭〕 前條ノ語ニ同ジ。[illegible]せばしかるラム」

✣せは・しい (形) 〔忙〕 せはし(忙)ノ活用、せはしき(忙)ノ口語。

せはしな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 〔忙〕 せはし(忙)ト云フニ同ジ。謠曲、安達原「片敷ク袖ノ露深キ、草ノ庵ノせはしなき、[illegible]ノ味ゾ物[illegible]」

せはせは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔忙忙〕 〔そはそはしノ轉〕 ソハソハシ。イト、忙シ。甚ダ、イソガハシ。アワタダシ。ツヅマヤカナリ。[illegible]、セハセハシ」 字類抄「劬、セハセハシ」[illegible]、迮、セハセハシ」 遊仙窟、卷四「且論二盃酒一、房中小小」 盛衰記、七、成親卿流罪事「林ニ開ケタル木ハ、必、風ニ摧、衆ニ秀タル者ハ、正ニ、怨ニ沉、タトヒ、高位ニ昇ルトモ、身ヲ約しくモテナシ、縦、榮花ニ誇ルトモ、心ニ[illegible]ナカレ」[illegible]

せばた (名) 〔背旗〕 背ニ指ス小旗。古ヘ、戰場ニテ、武士ノ用ヰシモノ。

せはだか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔[illegible]〕 [illegible]

せばぢ (名) 〔狭路〕 セマキ路。ホソミチ。[illegible]ナルラン」

せばめの (名) 〔[illegible]〕 [illegible]

ル布。ホソヌノ。サヌノ。けふ(狭布)ノ條ヲ見ヨ。

せはふ (名) 〔世法〕 世俗、一般ノ法。[illegible]ノ法則。[illegible]一如ト見ル時ハ、色即是空ソノママニ、佛法アレバ、世法アリ、煩惱アレバ、菩提アリ」

せばま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔狭〕 狭クナル。ツマル。セマル。窄「世間ガせばまる」

せば・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 〔狭〕 狭クナス。ツムル。窄

せひ (名) 〔鰣〕 小魚ノ名。詳カナラズ。[illegible]

せび (名) 〔蟬〕 [illegible] せみ(蟬)ニ同ジ。[illegible]

ぜひ (名) 〔是非〕 よきト、あしきト。善惡。邪正。[illegible]非に及ばずトハ、爲ム方無シ。是非ス[illegible]

ぜひ (副) 〔是非〕 [illegible]

セピア (名) 〔英語、Sepia.〕 (一)烏賊[illegible]

[illegible]暗褐色[illegible]

(二) せぴあ色ノ略。暗褐色。

せひえ (名) 〔[illegible]〕 〔背ノ轉〕 [illegible]腰帶ナリ[illegible]ヒエ」

せびく (名) 〔背低〕 背ノ、短キ人。

せびくだら [illegible] 最大ニシテ、最上ナルモノ。[illegible]全身、黒クシテ、腹、白シ。[illegible]如キモノ[illegible]シ。又、セミクヂラ。[illegible]

ぜひとも (副) 〔是非共〕 〔是トモアレ、非トモアレノ意〕 理ハ、如何ニアリトモ。是、非、何レニテモ。ドウアリテモ。必ズ。ぜひに。[illegible]

ぜひな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔無是非〕 (一)是非ヲ論ゼズ。善惡ニ拘ラズ。[illegible] (二)セムカタナシ。[illegible]

無二是非一候」

ぜひ-な (詞) 【是非】 前前條ノ語ニ同ジ。「否（イヤ）ナモノナラウガ、是非ナク來テクレ」

せ-ひやう（セヒヤウ） (名) 【世評】 世上ノ評判、世間ノ噂、風説。

せびらか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四） 次次條ノ語ノ、せびるニ同ジ。聖德太子繪傳記（享保、近松作）二「里ニブラブラスル中ニ、守屋ガ妻ニセント、兄ノ物負ヲせびらかす」

せ-びらき (名) 【脊開】 魚ヲ、脊梁（セスヂ）ニ沿ヒテ割キ、腹ノ皮ヲ殘シテ、全體ヲ開クコト。セギリ。セワリ。（腹ヲ切ルト云フヲ忌ミテ、スルコトナリトモ云フ）

⁘せび・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四） 責メ乞フ。セガム。ネダル。セブル。強請「小遣錢ヲせびる」

せ-ひれ (名) 【脊鰭】 ひれ（鰭）ノ條ヲ見ヨ。

せ-びろ (名) 【背廣】 〔英語、Sack coat. ノ譯語、又、一說ニ、英語、Cheviot. ノ譯語ニテ、モト、蘇格蘭製ノ毛布ノコト。コレハ、洋服ニ適スト云フ〕 現今、上着ノ丈、短ク、僅カニ、臀部ヲ掩フ製ノ洋服ノ稱。

せふ（シヨウ） (名) 【妾】 ソバメ。ヲンナメ。テカケ。メカケ。權妻。（嫡妻ニ對ス） 孟子、離婁、下篇「齊人有二一妻一妾、而處レ室者一」 盛衰記、三十八、小宰相局事「大臣殿ノ御娘ハ、妻室也、夫婦ノ契ニオハシケレバ、小宰相局ハ、假初ノ昵ビ也、妾ニテゾオハシケル」

せふ（シヨウ） (名) 【睫】 マツゲ。史記、袁盎傳「太后、嘗病三年、陛下不レ交レ睫不レ解レ衣」

せふ（シヨウ） (代) 【妾】 婦人自稱ノ代名詞。ワラハ。 玉臺詩「父兄未レ許レ人、畏レ妾事二姑舅一」 古事記、中（垂仁）二十五「白二天皇一言、妾兄沙本毘古（アガ）王」

せ-ふ（シヨウ） (名) 【少輔】 〔字音ノせうふノ略、狹布（セフ）、けふノ類〕 諸省ノ次官。 源、五十、浮舟二十五「知己ノ內記ハ、式部ノ少輔（セフ）ヲナン兼（カ）ケタリケル」

⁘せ・ふ（シヨウ）・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四） 【背負】 〔せおふノ略〕 背中ニ、負フ。背ニ載ス。轉ジテ、しょふ。「小兒ヲせふ」「荷物ヲせふ」

せふ-かう（シヨウコウ） (名) 【捷巧】 捷（ハヤ）クシテ、巧（タク）ミナルコト。 淮南子、主術訓「有二大略一者、不レ可レ責以二捷巧一」

せふ-かつ（シヨウカツ） (名) 【捷黠】 スバヤクシテ、サカシキコト。敏黠。 周禮、天官冢宰篇、司裘、注「鴟鴞、是小名、捷黠者也」

せふ-きふ（シヨウキユウ） (名) 【捷給】 應答、スバヤクシテ、滯ルコト無キコト。 漢書、張釋之傳「豈效二此嗇夫喋喋、利口捷給一哉」

せふ-くわ（シヨウカ） (名) 【燮和】 〔燮ハ、爾雅、釋詁篇「燮、和也」〕 ヤハラグルコト。程ヨク、調和スルコト。又、其任務ノ人。 韓愈、爲二裴相國一讓二官表「委二臣以二燮和之任一」 姚合詩「燮和皆達識、出入盡登庸」

せふ-けい（シヨウケイ） (名) 【捷勁】 スバヤクシテ、勁（ツヨ）キコト。 北史、眞臘國傳「婦人、云云、性氣捷勁」

せふ-けい（シヨウケイ） (名) 【捷徑】 チカミチ。 屈原、離騷「夫唯捷徑以窘レ步」

せ-ぶし (名) 【瀨伏】 瀨ニ、伏シ潛（ヒソ）ムコト。 永久百首、鵜川「飼ヒノボル、鵜舟ノ繩ノ、繫ケレバ、せぶしノ鮎ノ、行ク方ヤ無キ」 盛衰記、三十五、高綱渡二宇治河一事「瀨ぶしノ石モ高ウシテ、馬ノ足立ツベキ樣ナシ」 六帖、三、上「玉川ノ、瀨ニ伏す鮎ノ」

せふ-しつ（シヨウシツ） (名) 【捷疾】 スバヤク、サトキコト。捷速。捷敏。 北史、和士開傳「士開、幼而聰慧、選爲二國子學生一、解悟捷疾、爲二同業所一レ傳」

せふしつ-き（シヨウシツキ） (名) 【捷疾鬼】 らせつ（羅刹）ニ同ジ。

せふ-しん（シヨウシン） (名) 【攝心】 （一）佛教ノ語、心ヲ攝（ト）リシマリテ、散漫ナラシメザルコト。 遺教經「常當二攝レ心在レ心」 （二）禪家ニテハ、せつしんト云ヒテ、晝夜ヲ分タズ、坐禪スルコト。「臘八攝心」

せふ-じゆ（シヨウジユ） (名) 【攝受】 〔折伏（シヤクブク）ニ對ス〕 佛教ノ語、教ヲ受ケ攝（ヲサ）メテ、自家藥籠中ノ物トナシ、諸人ヲ懷ケ歸セシムルコト。 太平記、十二、公家一統政道事「夫、諸佛菩薩、垂二利生方便一日、有二攝受、折伏之二門一、其攝受者、作二柔和忍辱之貌一、慈悲爲レ先、折伏者、現二大勢忿怒形一、刑罰爲レ宗」

せふ-じゆ（シヨウジユ） (名) 【囁嚅】 （一）言ハムトシテ、口ヲ噤（ツグ）ムコト。 韓愈、送二李愿歸一盤谷一序「口將レ言而囁嚅」 （二）ササヤクコト。耳語。 楚辭、劉向、七諫篇、沈江「改二前聖之法度一兮、喜二囁嚅而妄作」

せふ-じゆ（シヨウジユ） (名) 【顳顬】 〔集韻「耳穴動、謂二之顳顬一」〕 コメカミ。

せふじゆ-こつ（シヨウジユコツ） (名) 【顳顬骨】 せつじゆこつ（顳顬骨）ノ條ヲ見ヨ。

せふ-そく（シヨウソク） (名) 【捷速】 スバヤク、スミヤカナルコト。捷疾。 南史、謝莊傳「其捷速如レ此」

せ-ぶつ (名) 【施物】 せもつ（施物）ニ同ジ。

せふ-はう（シヨウホウ） (名) 【捷報】 勝利ノ知ラセ。戰勝ノ報知。 澠水燕談錄（宋、王闢之）「未レ逾レ月而捷報聞」

せふ-び（シヨウビ） (名) 【睫眉】 まつげト、まゆげト。 潘子文、振十八公賦「空二鐵篰之瞯見一、懸二睫眉之咄嗟一」

せふ-ふく（シヨウフク） (名) 【妾腹】 妾（ソバメ）ノ腹ヨリ、生レタルコト。オトリバラ。ゲシヤクバラ。メカケバラ。庶出。庶生。

せふ-ふく（シヨウフク） (名) 【懾服】 懾（ヲノ）レテ、服（シタガ）フコト。 戰國策、秦策「趙楚懾服、不二敢攻一秦者、白起之勞也」

せふ-ふく（シヨウフク） (名) 【慴伏】 勢力ニ慴（オソ）レテ、屈伏スルコト。 史記、項羽紀「一府中皆慴伏、莫二敢起一」

せふ-まう（シヨウモウ） (名) 【睫毛】 マツゲ。

せ-ぶみ (名) 【瀨蹈】 （一）瀨ノ、深キカ、淺キカヲ、蹈ミテ測ルコト。 夫木抄、三十六「日モ暮レヌ、渡セ其馬、淵モ無キ、コノ一川ハ、せぶみセズトモ」 盛衰記、三十五、義經範頼京入事「二萬五千餘騎ノ勢ノ中ニ、海ノ邊、川端ニ栖テ、水練ノ輩、多カルラン、云云、懸（カカ）ル時コソ、誰ニ拔タル高名ヲモスレ、我ト思ハン者ドモハ、物具脫ギ置テ、瀨蹈シテ、川ノ案內ヲ試ルベシ」 （二）轉ジテ、物事ヲ爲スニ、先ヅ、試（タメ）ミルコト。試スコト。

せふ-り（シヨウリ） (名) 【捷利】 しょうり（勝利）ノ（一）ニ同ジ。

せふ-り（シヨウリ） (名) 【燮理】 燮（ヤハラ）ゲ、理（ヲサ）ムルコト。 書經、周官篇「茲惟三公、論レ道經レ邦、燮二理陰陽一」 職員令、太政大臣「師二範一人一、云云、燮二理陰陽一」

せぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四） せびるニ同ジ。 傾城酒呑童子（享保、近松作）五「女郎せぶッテ攫ミ取ッタ、一步小判ノ金ガ罰」

せふ-れふ（シヨウリヨウ） (名) 【涉獵】 〔後漢書、班超傳、注「涉、如レ涉レ水、獵、如レ獵レ獸」〕 博ク、羣書ヲ歷覽スルコト。歷覽シテ、專精ナラザルコト。又、單ニ、博ク、種種ノ書物ニ、目ヲ通スコト。博ク覽ルコト。 漢書、賈山傳「所レ言涉二獵書記一、不レ能レ爲二醇儒一」

せ-へう（セ・ヒヨウ）(名)【世表】世ノ表識。世ノ手本。 北史、袁聿修傳「德修ニ世表ニ行爲、士、則[illegible]之者以爲二世表一」

せ-ぼね(名)【脊骨】セスヂ。セジシ。クルマボネ。脊筋ノ、項ヨリ尻ニ亙リテ、柱ノ如キ骨ノ名。人間ニハ、椎骨ト名ヅクル三十三箇ノ骨、積ミ重リテ成ル、最モ下ナルヲ、尾骶骨ト云フ、骨毎ニ、孔アリ、上下、貫通シ、中ニ、脂ノ如キモノ、滿ツ、コレヲ、脊髓ト云ヒ、腦髓ト通ズ。脊 脊梁骨 脊椎 宇治拾遺、十二、第廿[illegible]、「脊中ヲ打テバ、せぼねヲ打斬リテ、クタクタトナシツ」

せ-ほろぼし(名)【瀬滅】瀬蹈ヲシテ、身ヲ滅スコト。（[illegible]如[illegible]誕生會（元祿、近松作）二、「[illegible]河ノ川瀬、罪ノ深サト、川水ト、渡リ競ベニ、[illegible]ミシテ、命ノ瀬蹈ミ、せほろぼし、思ヒ知レヤ」

セマ(名)【島】〔朝鮮ノ古音ナルベシ〕しま(島)ノ(一)ニ同ジ。 雄略紀、五年六月「名二此兒一曰二嶋君一」

せ-まい(名)【施米】(一)ホドコシノ米。施行ニスル米。(二)王朝時代、山寺ニ住スル法師ニ、米ヲ施サルルコト。公事根源、六月、施米「東山、西山、北山ナド云フ所ノ山寺ニ侍ル、便無キ法師原ニ、米鹽ヲ施ル事ナリ、上卿、陣ニ就キテ、人數ノ勘文ヲ奏聞ス、五月[illegible]、六月施米ハ、皆、貧窮、孤獨ノ者ニ、米ヲ賜フナリ」 江家次第、七、六月、施米事「天德四年七月一日御記[illegible]、民部卿藤原朝臣、令[illegible]人爲光、奏[illegible]山施米使、[illegible]、等十五巻」 小右記、治安三年六月十五日「[illegible]行事、令[illegible]施米事」

せ-まくら(名)【瀬枕】河ノ早瀬ノ波ノ、物ニ激シテ、水面ヨリ一段、まろく高マリテ見ユルモノ、水面ヲ臥床ト見做シ、ソレヲ枕ニ譬ヘテ云フ。 萬代集、十四、戀、「[illegible]道ノ邊ノ、河音ハヤミ、寒キ夜ニ、せまくら見エ[illegible]

テ、[illegible]メル月影」 太平記、八、三月十二日合戰事「[illegible]馬ニ乘ヲ進メ、漲リテ流ルル瀬枕ニ、逆波ヲ立テゾ游セケル」

せま・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二)【狹】〔せばしノ轉、廣しニ對ス〕(一)幅、少ナシ。間合、近シ。廣カラズ。セバシ。サシ。セシ。 狂言記、武惡「コナタノ御屆敷ノ狹い[illegible]ヲ、御心ニ懸ケサセラレ」 (二)ユルヤカナラズ。クツロギナシ。狹隘「心、せまし」

せ-まほ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)【欲爲】爲マク思フ。爲サムト思フ。 後撰集、十二、戀、四「引キ繭ノ、斯ク二籠リ、せまほしミ、桑コキ垂レテ、泣クヲ見セバヤ」 千載集、十一、戀、一「包メドモ、絶エヌ思ニ、ナリヌレバ、問ハズ語リノ、せまほしきカナ」

せま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)【迫】【逼】〔前條ノ狹しノ語根、狹ヲ活用ス、狹マルノ意、迫むる(狹むる)ノ自動〕(一)狹クナル。緊シク着キ合フ。「間せまる」(二)〔近寄ル〕近付ク。臨ム。 神代紀、下「見既窮途、無所逃去」 同、同「及月已滿、産期方急」「海ニせまる緣リニせまる」 (三)〔窮ニ陷ル〕 仁德紀、四年二月「百姓窮乏也」 宇津保物語、忠社二「世ノ中ニ巧キ博奕ノ、せまり[illegible]ヒタルリ召シテ」 (四)〔昇進セズ〕大學ノ道ニ云ヒテ、窮者ナド云ヘリ。 窮途 宇津保物語、藤原君廿「せまり痴レタル大學ノ助」 源、廿一、少女「[illegible]斯クテ、[illegible]ミ侍ラバ、せまりタル大學ノ衆トテ、笑ヒ侮ヅル人モ、ヨモ侍ラジト、思ウ給フルナド」

せみ(名)【蟬】「鳴ク聲ヲ名トス、み八、むしノ約、蟬ノ、音轉ナリト云フハ、非ナリ、天治字鏡、八「蟬、世比」[illegible]「[illegible]せみ」 又、せび。蟲ノ名。夏、にしどち、土中ニテ皮ヲ脫シテ、形ヲ成シ、樹[illegible]ニ上ル、[illegible]日ニシテ、再ビ脫ケ、羽アリテ飛[illegible]

ブ。頭、方ニシテ、眼、露ハレ、兩翼、六足アリ、雄ハ、腹部、[illegible]、[illegible]、高シ、[illegible]シテ、[illegible]ノ如ク、[illegible]色ナリ。秋ぜみ、春ぜみ、夏ぜみ、[illegible]んぜみ、ひぐらし、つくつくぼうし[illegible]類、多シ、[illegible]ヨリ、秋[illegible] 倭名抄、十九「蟬[illegible]」 [illegible]美」 萬葉集、十五「[illegible]鳴ク蟬ノ、聲ヲシ聞ケバ、都シオモホユ」 古今集、十一、戀、一「明ケタテバ、せみノ折リハヘ、鳴キ暮ラシ、夜ハ、螢ノ、燃エコソ渡レ」[illegible] 廿六、常夏「西日ニナルホド、蟬ノ聲ナドモ、イト苦シゲニ聞コユレバ」

せみ(名)【[illegible]】「形、蟬ノ、樹ヲ抱ケルガ如シ」 轆轤ノ、小サキモノ。帆柱ナドノ上ニ着ケ、綱ヲ通シ、物ヲ引上グルモノ。[illegible]ニ用キル。 [illegible] 四、[illegible]

せみ-くぢら（セミ・クジラ）(名) せびくぢらノ轉。

テ、斑點ニテ、せみノ羽ノ切レ」

せみ-ごゑ（セミ・ゴヱ）(名)【蟬聲】蟬ノ鳴音ニ似タル聲。[illegible]ナドニ云フ語。 [illegible] 十四段、すさまじきもの「驗者ノ、物ノ怪、調ズトテ、云云、せみごゑニ絞リ出シ、誦ミ居タレド」 堤中納言物語、[illegible]せみごゑニ[illegible]ノ聲ノ、イミジウノカシクレバ」

せみ-しぐれ(名)【蟬時雨】蟬ノ、多ク鳴キ立ツテ、時雨ノ音ノ如ク聞ユルコト。俳諧ニ云フ語。聲の時雨。

せみ-たけ(名)【蟬花】「蟬茸ノ義カ」 セミノハナ。菌ノ一種、蟬ノ幼蟲ニ寄生ス。形、色、蟬ノ蛻ニ似テ、大サ、[illegible]、蟬ノ小兒ノ[illegible]ノ頭ノ如シ、[illegible]中ニアリテ、一莖ヲ地上ニ抽キ、直上スルコト二三寸、其梢、少シク裂ケテ、花ノ如[illegible]

[illegible]

せみ-ど(名)【清水】しみづノ轉。往古ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]、十四[illegible]門ニ汲ノ待ツト、西天竺ハ[illegible]

せみ-ね(名)【脊梁】〔脊峯ノ義カ〕せ(脊梁)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

せみ-の-は(名)【蟬羽】(一)蟬ノ羽。(二)〔薄キ、夏ノ衣[illegible]〕 [illegible]、上、蟬のはノ、夜ノ衣ハ、薄ケレド、[illegible] 同、十九、[illegible]蟬のはノ、ヒトヘニ[illegible] [illegible]夏衣、馴レバ寄リナムト、[illegible]ヤハアラヌ」 (二)[illegible]モノ。又、表ハ濃紫、裏ハ青ナリト[illegible]

ノ[illegible]

せみ-の-はな(名)【蟬花】せみたけノ一名。

せみ-め(名)【[illegible]】[illegible]ニ[illegible]、[illegible]ロサントスレドモ、雨ニ濡レテ、せみも[illegible]、[illegible]キテ、下リ、ブツト斷レニクリ」 (二)[illegible]ノ上[illegible]

せみ-みやう（セミ・ミヤウ）(名)【宣命】せんみやうノ訛。[illegible]、今[illegible]大嘗ノ所ヲ[illegible]、[illegible]サレ、せみやうリ給ハマシ」

せみ-をれ（セミ・ヲレ）(名)【蟬折】[illegible]ノ笛ノ名。[illegible]ハ、夏ノ[illegible]ツ、[illegible]

せみ-をれ(名)【[illegible]】男[illegible]

上ニ反ラセタルモノ。天和ヨリ、元祿頃マデ、流行ス。[illegible]

〜せ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(自動、下二) 迫逼 〔狹ヲ活用ス〕 セマル。セバマル。ツキツマル。山家集(西行)、下「山川ノ、漲ル水ノ、音聞ケバ、せむる命ゾ、思ヒ知ラルル」 古事記、下 [illegible] 二十四、下、若菜、下「月日、溜ル事繁クテ、斯ク、年モせめツレバ、エ、思ヒノ如クモ息敢ヘズ」 同、七、紅葉賀「引キ放チテ出デ給フヲ、せめテ及ビテ」 古今集、十九、誹諧「枕ヨリ、後ヨリ戀ノ、せめ來レバ、セムカタナミゾ、床中ニ居ル」 後撰集、七、秋、下「風ノ音ノ、限リト秋ヤ、せめツラム、吹キ來ル每ニ、聲ノワビシキ」 小町集「イトせめテ、戀シキ時ハ」 人丸集「人ヲ[illegible]ヒ、せめテ[illegible]ノ、コボルレバ」 せめテノ條、見合ハスベシ」

せ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 責 〔前條ノ語ノ他動、狹ムル意〕 (一)迫リテ、苦シムル。迫ラシム。 字鏡「[illegible]、急、迫、世㐂」 萬代集、十四、雜、一「身ノ憂サヲ、思ヒ續クル、佗人ノ、心ノせむる、木枯ノ風」 同、十、戀、[illegible]モ、ツレナキ君モ、諸共ニ、我ガ身ヲノミモ、せむる[illegible] 萬葉集、六「丈夫ガ、高圓山ニ、迫有者、里ニ下リ來ル、鼯鼠ゾコレ」 古今集、十九、雜體「冬ハ[illegible]ニソ、せめラルル」 宇津保物語、國讓、下「我レ[illegible]ラセテ、親、同胞、一ツ心ニテ、我ヲヤせめサセムズ」 [illegible]集、三、下、第八段「食者ナレバ、食傍ノ菓子マデ、深ク[illegible]せめ食ヒテ、楊枝使フニ」 (二)〔咎ム〕ナジル。詰責ス。 宇津保物語、藏開、上「[illegible]、左衞門ノ陣ニ召シテ、問ハセ給ヘバ、[illegible]、せめソレ問シテ、彼ノ[illegible]ヲ申ス」 (三)〔ウナガス〕催促ス。 源、廿二、玉鬘「此豐後ノ介ヲせむれバ」 同、四十九、東屋「契リシ程ヲ待チツケテ、同ジクハ、疾クトせめケレバ」 大和物語、下「捨テイマシテ、深キ山ニ捨テ給ヒテヨトノミ、せめケレバ」 (四)〔セビル〕セガム。 枕草子、五、五十段「カカル所ニ來ヌル人ハ、ヨウセズバ、在ルモナドせめ出ダシテコソ、參ルベケレ」 (五)乘リ馴ラス。[illegible] 續[illegible]元集、口ノ[illegible]ラセテ、責めナラフ馬」ニせめ馬」

〜せ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 攻 〔前條ノ語意ニ同ジ〕 敵軍ヲ襲ヒテ、戰フ。戰ヒヲ挑ム。〔防グニ對ス〕 欽明紀、廿三年七月「[illegible]新羅攻任那之狀」「城ヲせむ」

せん (名) 先 (一)サキ。イチサキ。後レスコト。 書經、小雅、新父之什、正月篇「不自我先、不自我後」 狂言記、宗論「せんト仰セラルルニ依ッテ、愚僧カラ參ラウ」「先ヲ越ス」 (二)〔マヘ〕カタ。以前。 源、十三、明石「せむ大王ノ御手ニ、カヨヒテ侍レ」「先ノ人」「先ノ事」 (三)碁、又、將棋ニ、先手ノ略。 狹衣、一、下「ニサテ、誰レカせんヲバ、ナド聞コエ給ヘド」

せん (名) 仙 〔釋名「老而不死曰仙」〕 せんにん(仙人)ニ同ジ。 杜甫詩「自稱臣是酒中仙」

せん (名) 疝 漢方ニテ、大小腸、腰、腹ノ邊リノ病ノ泛稱。疝氣。

せん (名) 宣 ノタマフコト。又、官衙ノ命令。「勅宣」「太政官ノ宣」

せん (名) 專 モッパラトスルコト。專一。 宇治拾遺、十二、第八條「其年ノ祭ニハ、コレヲ詮ニテゾアリケル」(詮ハ、專ノ誤) 昨日は今日の物語「物ヲ書クニハ、句ノ切リヤウガ、せんヂャ」

せん (名) 泉 〔周禮、天官篇「外府、掌邦布之入出」 鄭注「布、泉也、其藏曰泉、其行曰布、取名於水泉、其流行無不徧也」〕 錢。貨泉。泉貨。

せん (名) 線 (一)イトスヂ。スヂ。シマ。 [illegible]「[illegible]北、引、線[illegible]」 (二)數學ノ語。位置、及、長サ有リテ、幅、及、厚サ、無キモノ。直線、曲線ノ總稱。

せん (名) 腺 〔字ハ、肉線ノ合字、肉中ノ水分ノ溜レル所ノ意〕 生物體中ニアリテ、特種ノ液ヲ分泌スル[illegible] 例へバ、唾腺、乳腺、等。

せん (名) 栓 〔倭名抄、十五、造作具「栓、木釘也、岐久岐」〕 物ノ孔ニ差シコミテ、物ノ動カヌヤウ、又ハ、漏ラヌヤウニ、固メ止ムルニ用ヰル具。楔ノ用ヲナシテ、拔差スベシ。塞子

せん (名) 詮 〔詮、具說也、解喩也〕 (一)仕業ノ效。カヒ。 著聞集、一、神祇「社司ドモ、せん盡キテ、眠リ居タリケル程ニ」「詮無キコト」 (二)煎ジ詰メタル所。結局。所詮。 平家物語、二、烽火事「申シ請クル所、詮ハ、只、重盛ガ頸ヲ召サセラレ候ヘ」 (三)詮議。選擇。 盛衰記、一、五節夜闇討事「[illegible]樣ノ賞ノ詮ニ違ヒ[illegible]ラン者ハ、預ヒ少ナクコソ候ラメ」

せん (名) 箋 書籍ノ檢出ノ便宜ニ、木、又ハ、竹ナドニテ作リタル札。(籤トモ書ク) 安齋隨筆「籤ト云フ物ハ、木ヲ細ク、一尺斗リニ、四角ニシテ、モトヲ細クシ、先ヲ兜巾形ニ削ルモノ、則チ、紙札ト讀マセタリ」

せん (名) 賤 せんみん(賤民)ノ略。 中庸、第十九章「旅酬下爲上、所以逮賤也」「良賤」

せん (名) 錢 (一)ゼニ。泉。 (二)舊キ錢ニ、貫ノ千分ノ一。文ニ同ジ。「錢一文」 [illegible]切一杯、代十六錢」 (三)〔モンメ〕匁ノ唐名。 典藥寮式「度嶂散、一劑」注「平旦以溫酒服二一錢匕一」 (四)今ノ錢ニ、一圓ノ百分ノ一。十厘。

〜せん (動) 餞 ハナムケ。餞別。 後撰集、十九、別「遠ク罷リケル人ニ、餞シ侍リケル所ニテ」 拾遺集、六、別「出羽ノ國ニ下リ侍リケルニ、せん賜ヒケルニ」

せん (名) 撰 〔康熙字典「屬辭記事、曰撰」〕 [illegible]ヲ作ルコト。撰集。撰著。

せん (名) 選 エラビ。選拔。 [illegible] 才用高者」「選ニ中ル」「選ニ洩ル」

せん (名) 饌 具備シタル食物。食饌。 [illegible]「有酒食、先生饌」 著聞集、十八、飮食「政長卿、納[illegible]ノ饌ヲ揃エケリ」「饌ヲ供ヘス」

せん (名) 僭 身分ヲ越エテ、物事ヲナスコト。僭越。僭上。

〜せん (名) 簽 小サキ板ニ、書名ヲ記シテ、書帙ニ懸ケオキ、檢尋ニ便ニスルモノ。牙籤アリ、木籤アリ。 倭名抄、五、四十文書具「籤」 字類抄「籤、セン」

せん (名) [illegible] 一名、ハリギリ。桐ノ類、一時ハ、下駄ヲ作ル材トシタリ。北海道ヲ主タル產地トシ、九州地方ニテ、朝鮮桐ト云フ。センノキ。

せん (名) 纖 せんろっぽんノ略。纖切。「大根ヲせんニ切ル」「せんニ打ツ」「せんニ引ク」

せん (名) 銑 鍛工ノ、用ヰテ、鐵ヲ削ル具、古言ナラム。剗刀 字類抄「銑、セン、細工具」

せん (名) 氈 毛織ノ敷物。毛氈。 常盤嫗物語「せんノ席モ、數キシカド」

せん (數) 千 チ。百ノ十倍。 中庸、第廿章「人十能之、己千之」

〜せん (接尾) 煎 藥ノ名ニ附クル語。煎ニテ、汁ヲ用ヰルニ云フ。 倭名抄、十二、廿四、藥名類「煎(煎、炙、昔衜)煎、藥汁令稠也、諸家方云、枸杞煎、生薑煎、地黃煎、茶黃煎」 天武紀、下、十一年十一月「獻白朮煎」

ぜん (名) 前 サキ。マヘ。以前。 禮記、曲禮、上篇「先生書策琴瑟在前」「其ノ前ニ」「前大納言」

ぜん (名) 善 心、所行ノ、正シク、善キコ

ト。（惡ニ對ス）書經、蔡仲之命「爲善不同、同歸于治」中庸、第六章「隱惡而揚善」孟子、離婁、下「責善、朋友之道也」「善ハ急ゲ」

ぜん（名）膳（一）料理、調菜ノ、具ハリタルモノ。膳部。 [illegible]「珍之膳」狂言記、宗論「マヅ、膳ニ向カヒ、眼ヲ塞ギ」（二）轉ジテ、食事ノ器ヲ載スル盤、卽チ、折敷。脚アルヲモ、云フ。食膳。食盤 今昔物語、十三、第一話「香花ヲ供養シ、菓子、飲食等ヲ捧テ、前ノ庭ニ、高キ棚ヲ搆ヘ、其上ニ、皆、隔テ置テ、禮拜シ」

ぜん（名）漸〔易經、漸卦、正義「凡物有變移、徐而不速、謂之漸」〕序次ヲ追ヒテ、次第次第ニ進ムコト。 史記、刺客傳「兵可無、職以漸臣也」「漸ヲ追ヒテ進ム」

ゼン（名）禪〔梵語、禪那（Dhyāna.）ノ略、靜慮、又、定ト譯ス。梵漢、雙舉シテ、禪定ト云フ〕（一）佛教ノ語、正シク眞理ヲ思惟シテ、心ヲ一處ニ住セシムルコト。專念シテ、一ヲ守リ、心ヲ散ゼザルコト。 智度論、十七「諸定功德、都是思惟修、禪秦言思惟修」 [illegible] 「有ニ、外道禪、凡夫禪、小乘禪、大乘禪、最上乘禪」（二）禪宗ノ略。其條ヲ見ヨ。

ぜん（接尾）膳（一）椀ニ盛レル物ヲ數フル語。一人前ノ、前ナリ。椀 今昔物語、十一、第七語「前ノ膳ヲ備ヘテ、海ノ上ニ浮ヘ放ツ」同、十三、第三十九語「前ノ膳ヲ供セムトス」南都春日社記、應永二十五年正月「下部ニハ、小饗一前、鉢フナリ」「飯、三膳」「汁、一膳」（二）箸、二本、一對ノ稱。 女房私記「十五夜名月ノ御祝ヒ、芋、茄子ニテ、萩ノ箸一ぜん、御一獻、上リ」「箸、一膳」「[illegible]、二膳」

せん-あい（名）纖埃（一）コマカキちり。 [illegible]

（二）僅少ナルコト。

ぜん-あく（名）善惡 ぜんふく（善惡）ノ條ヲ見ヨ。

ゼン-あん（名）禪庵 禪僧ノ庵室。 [illegible]

せん-い（名）遷移 ウツルコト。ウツリカハルコト。 杜甫詩 [illegible]

せん-い（名）翦夷 翦リ、夷グルコト。 南史、梁元帝紀「一旅之卒、[illegible]」

せん-い（名）專意 意思ヲ、專一ニスルコト。專心。 漢書、[illegible]「[illegible]專意於農」

ぜん-い（名）善意〔惡意ニ對ス〕善良ナル意思。好意。 [illegible] 神代紀、上「吾弟之來、豈以善意乎」[illegible]

せん-いう（名）占有 自己ノ所有トナスコト。我ガ領有トナスコト。法律上ニテハ、自己ノ爲ニスル意志ヲ以テ、有體物ヲ、自己ノ實力範圍內ニ置クコト。

せん-いう（名）專有〔共有ニ對ス〕專ラ、一人ニテ、所有スルコト。ヒトリジメ。獨占。 後漢書、[illegible]

せん-いう（名）闡幽 幽眞ナル道理ヲ、闡明ニスルコト。 [illegible]

せん-いう（名）戰友 同一ノ隊伍ニ屬シテ、戰鬪ニ從事シタルモノ。又、同一ノ隊伍ニ屬スル兵士。「國ニ居リシ戰友」

ぜん-いう（名）善友〔惡友ニ對ス〕善

良ナル友人。交際シテ、良キ友人。 [illegible]

せん-いち（名）專一（一）唯、是レノミトスルコト。 [illegible] ト。「勉強專一」（二）第一。 太平記 [illegible]「懇行ノ專一ト謂ツベシ」

せん-いつ（名）專一 前條ノ（一）ニ同ジ。 [illegible]「得ニ獨退」

ぜん-いん（名）前因 前世ノ因緣。 [illegible]

ゼン-ウ（名）單于〔胡語ニテ、廣大ノ義〕古ヘ、支那ノ北方、匈奴ノ酋長ノ稱。後ニ、可汗ト改ム。 [illegible]

せん-うん（名）船暈 ふなゑひ（船醉）ニ同ジ。

せん-えい（名）閃影 ヒラメク、カゲ。

せん-えい（名）先塋 先祖ノ墓地。 [illegible]

せん-えう（名）[illegible] 最モ、重要ナル所。

せん-えうでん（名）宣耀殿 禁中殿舍ノ一、麗景殿ノ北ニアリ。 [illegible]

せん-えき（名）戰役〔說文「役、戍レ邊也」〕タタカヒ。戰爭。役。 [illegible]

せん-えん（名）遷延 ノビノビニナルコト。グヅグヅト、遲延スルコト。 [illegible]

ぜん-えん（名）[illegible]

せん-をう（名）仙翁 [illegible] 城國、嵯峨ノ仙翁寺（今、廢寺トナリ、[illegible]名ニ殘ル）ヨリ出デタル名ナリ」草ノ名。春、宿根ヨリ苗ヲ生ズ、葉、圓ク、高サ一二尺、叢生ス、葉ハ、千日草ニ似テ、兩對ス、秋ニ入リ、[illegible]花ヲ開ク、石竹ニ似テ、大サ、色ニ、紅、白、[illegible]ノ末、[illegible]、まつもと仙翁花ト云フ。[illegible] 紅白間色ノ花ヲ開クヲ、岩菲ト云フ。

せん-か（名）泉下 黃泉ノ下。地下。 [illegible]

せん-か（名）仙家 仙人ノ家。 [illegible]

せん-か（名）仙娥 [illegible] 嫦娥ノ故事 [illegible]

ぜん-か（名）全家 家族ノ總體。 [illegible]

ゼン-か（名）禪家 ぜんけ（禪家）ニ同ジ。

せん-かい（名）仙界 せんきやう（仙境）ニ同ジ。 [illegible]

せんかい (名) 【淺海】 〔深海ニ對ス〕 (一) 淺キ海。 (二) 地理學上、深サ二百めえとるニ至ラザル海。

せんかい (名) 【纖芥】 (一) ワヅカ。イササカナルコト。戰國策、齊策「無ニ纖芥之禍ニ者、過ニ之也」漢、劉向「不ニ容レ纖介之惡」 (二) イササカ、氣ニ懸クルコト。後漢書、李固傳「口陳ニ肝膽ニ、自以底ニ裏上書、長無ニ纖芥ニ」

せんかい (名) 【線鞋】 粗キ絹布ニテ製シ、紐ニテ締ムベク作レル履カ。後ノ、つらぬきノ類カ。唐書、車服志「開元中、初有ニ線鞋ニ、侍兒則著ニ履ニ」倭名類聚鈔、十二「鞋履ハ、千無伊、鞋、履、女ノ履ナリ」倭名抄、十二「履類、麻鞋、千無乃久豆、唐韻云、鞋、男女通用、男女皆著」線鞋、十二「大冶字鏡、十二、八、線鞋、世爾加伊、以レ絲作也」

せんかい-の-くつ (名) 【線鞋】 前條ニ同ジ。

せんかう (名) 【千行】 數多ノクダリ。范雲、送別詩「未レ盡ニ樽前酒、妾淚已千行」

せんかう (名) 【專行】 獨斷ニテ、行フコト。上ノ者ノ指圖ヲ受ケズシテ、己レノ考ニテ行フコト。「獨斷專行」

せんかう (名) 【跣行】 素足ニテ、行クコト。韓非子、說林篇「越人跣行」

せんかう (名) 【潛行】 (一) クグリ、ユクコト。史記、大宛傳「潛ニ行地下ニ」 (二) シノビアルキ。微行。太平記、四、備後三郎高德事「微服、潛行シテ、時分ヲ伺ヒケレドモ、可レ然隙モナカリケレバ」

せんかう (名) 【潛幸】 隱ビノ行幸。太平記、二、天下怪異事「潛幸ノ儀式ヲ引繕ヒ、南都ノ衆徒、少少召シ具セラレテ、笠置ノ石室ヘ臨幸ナル」

せんかう (名) 【遷幸】 天子ノ、御ワタマシ。遷御。唐書、牛徽傳「上遷ニ幸當ニ從」太平記、四、先帝遷幸事」

せんかう (名) 【先考】 子ノ、亡キ父ヲ稱スル語。考ト云フニ同ジ。先人。先君。遊歩色紙集、先考」註「亡父事」盛衰記、十九、關性發八員一事「且ハ、先考ノ菩提ニ廻向シ、且ハ、後代ノ繁榮ヲ祈誓有ベシトテ」

せんかう (名) 【銓考】 才能ヲ、調べ考フルコト。宋史、蘇頌傳「今不レ由ニ銓考ニ、擢ニ授朝列ニ」「人才ヲ銓考ス」

せんかう (名) 【銓衡】 (一) 〔銓ハはかり、衡ハはかり竿〕 漢書、王莽傳「考ニ量以レ銓」同、律歷志「衡、平也、所ニ以任レ權而均レ物平ニ輕重ニ也」」 ハカリ。計量器。權衡。抱朴子「銓衡不レ平、輕重錯謬」 (二) 〔考課令、人物義解「銓衡者、銓、量也、衡、平也」」 人物ヲ銓リテ、衡平ヲ選ブコト。人選。詮擬。同ジ。晉書、吳隱之傳「汝若居ニ銓衡ニ、當レ擧ニ如レ此輩人ニ」「委員ノ銓衡ニヨリテ、銓衡委員」

せんかう (名) 【淺香】 沈香ノ、甚ダ堅カラズシテ、水ニ入ルレバ、浮バズ、沈マズ、水ト平ナルモノト云フ。倭名抄、十二、香名類、淺香、南州異物志云、沈香其次、在ニ心白間ニ、不ニ甚堅ニ者、置ニ之水中ニ、不レ浮不レ沈、與レ水平者、名曰ニ淺香ニ也」源、十七、繪合「沈ノ箱ニ、せんかうノ下机」

せんかう (名) 【線香】 諸香料ヲ細末ニシ、糊ニテ固メ、小サキ孔ヨリシボリ出シテ、線ノ如ク製セルモノ。端ニ火ヲ點ジテ、爐灰ニ立ツ、多ク。佛前ニ供ス。炷香。和漢三才圖會、五十八、火類「本綱云、線香、今人合レ香之法甚多、大抵多用ニ白芷、川芎云云之類ニ爲レ末、以ニ楡皮ニ作レ糊、和劑、以ニ唧筒ニ搾成ニ線香ニ、成レ條如レ線也」近代世事談、五、線香ハ、寛文七年、五島一官ト云フ者、福州ヨリ傳ヘ、子ノ一官、長崎ニテ、始メテ製ス」芭蕉句(貞享三年)「年ノ市、線香買ヒニ、出デバヤナ」

せんかう (名) 【纖巧】 纖クテ、タクミナルコト。古樂府題編、序「其末、纖巧而不レ振」

せんかう (名) 【潛航】 (一) ヒソカニ、航海スルコト。密航。 (二) 水中ヲクグリテ、進航スルコト。「潛航艇」

せんかう (名) 【瞻仰】 〔唐韻「仰、魚兩切」漢音、ぎゃう、吳音、がうナリ、かうハ、通音ナリ」 (一) 仰ギ瞻ルコト。國語、魯語「天之三辰、民所ニ以瞻仰ニ也」 (二) 仰ギ、慕フコト。晉書、賈疋傳「疋少有ニ志略ニ、器望ハ云云、爲ニ武夫之所ニ瞻仰ニ」

せんがう (名) 【僭號】 身分ヲ越エタル稱號。僭越ナル稱號。潘岳、世祖武帝誄「僭號歸レ命、稽ニ顙皆闕ニ」

ぜんかう (名) 【善行】 善良ナル行狀。惡行ニ對ス。禮記、曲禮、上篇「敦ニ善行ニ而不レ怠、謂ニ之君子ニ」

せんかう-てい (名) 【潛航艇】 潛航水雷艇ノ略。せんすゐかん(潛水艦)ニ同ジ。

せんかう-はなび (名) 【線香花火】 紙撚ニ、花火ノ藥ヲ捻リコミタルモノ。端ヨリ火ヲ點ジテ、小兒ノ玩トス。

せんかく (名) 【先覺】 先ニ、覺レルコト。(學問ニ、智識ニ) 又、其人。先知。コレニ對シテ、後ニ覺レルヲ、後覺ト云フ。後知。論語、憲問篇「抑亦先覺者、是賢乎」

せんかく (名) 【仙客】 (一) 仙人。羽客。盃、義經記、三、山伏ハ…… (二) 仙ノ異名。仙府。 ……

せんかく (名) 【先客】 先ニ來レル客人。センキャク。

せんかく (名) 【船客】 乘船スル旅客。センキャク。「船客名簿」

せんがく (名) 【淺學】 淺ハカナル學問。薄學。「淺學短才」

ゼンかく (名) 【禪閣】 禪宗ノ寺院。禪寺。菅閣抄記、後編、楊衙之「景林寺、在ニ開陽門内御道東ニ、禪閣虛靜、隱室凝邃」

ゼンがく (名) 【禪學】 佛教ノ語。禪ノ學問。禪宗ノ教學。不立文字宗トシ、言句文字ニ渉ラズシテ、其道ヲ悟ルヲ旨トス。略シテ、禪。羅湖野錄(宋、釋曉瑩)「江西學者、從禪師、禪學高妙、聯錄出手流輩」

せんがさ (名) 【纖笠】 ゼニガサ。名義抄「纖、センガサ」

せんがじまゐり (名) 【千箇寺參】 日蓮宗ノ信者ノ、諸國ノ千箇ノ寺院ヲ巡拜セムト、旅立ツモノ。順禮ノ類ナリ。コレ寬政、文化ノ頃、行ハレシ千社參ノ風ニ倣ヒタルモノニシテ、手ニ團扇太鼓ヲ持チ、首ニ頭陀袋ヲ懸ケ、背ニ十界曼茶羅ノ木札ヲ付ケタル箱ヲ負ヒ、法華ノ題目ヲ唱ヘナガラ各寺ニ參拜ス。嬉遊笑覽、七、行遊「千箇寺參、鶴海提要ガ「稀ヲロシ、昔日ニ化度フ、京ノ千箇寺」

せんかた (名) 【爲方】【詮方】 爲スベキ方法。シカタ。セムスベ。盛衰記、十四、清見原天皇事「人跡絕エ、雪、風、夜、暗シテ、月、照サザリケレバ、東西ニ迷給、爲方ヲ失ヘリ」

せんかた-な-し-キ-ケレ-ク-ク (形、二) 【無爲】

方[_]爲ベキ方法、無ジ。センスベナシ。シカタナシ、失措。宇津保物語、俊蔭四十九「許多ノ人、火ヲ變シテ罵ルニ、せんかたなし」枕草子、三、廿五段「イミジウ心アクガレ、せんかたなし」源、廿二、玉葛八十二「ワビシケレバ、せんかたなくテ、ヤスミ給フ」伊勢物語、四十一段「せんかたモなくテ、タダ泣キニ泣キケリ」

ぜん-かつ（名）[全蠍全蝎] さそり(蝎)ノ條ヲ見ヨ。

ゼン-かふ（名）[禪閤] 太閤ニテ、佛門ニ入レル人ノ稱。史記抄(文明)二五十六「太閤、出家セラレツレバ、禪閤ト云フ說アリ、是ハ、日本ノ云ツケデアラウゾ、出處ハアルマイゾ」官職難義「大閤トハ、御息ニ、關白ヲ持チ申サレタル時、申也、御出家アレバ、禪閤ト申也、コレモ、禪大閤ト申スベキヲ、中略シテ申ニヤ」保元物語、一、新院御謀反事「宇治左大臣頼長ト申スハ、知足院禪閤殿下忠實ノ三男ニテオハシマス」

せん-かん（名）[船艦] 船ト、軍艦ト。南史、王琳傳「燒二其船一、琳船艦潰亂、兵士皆棄レ船上レ岸」

せん-かん（名）[戰艦] (一)イクサブネ。軍艦。兵船。兵艦 晉書、陶侃傳「侃乃以二運船一爲二戰艦一」(二)せんとうかん(戰鬪艦)ニ同ジ。

せん-がん（名）[扇眼] 扇子ノカナメ。

せん-がん（名）[箭眼] やざま(矢狹間)ニ同ジ。

ぜん-かん（名）[善感] 種痘ナドノ、ヨク感染スルコト。不善感ニ對ス。

ゼン-かん（名）[禪閑] 心靜カニ、佛道、特ニ、禪道ヲ修スルコト。[illegible]禪閑ノ空ニ向ヒ、心ヲ澄マス處ニ」

せん-き（名）[先規] 先先ヨリノ規格。前例。前規。[illegible]

帶シテ公宴ニ列シ、兵杖ヲ給ハッテ宮中ヲ出入スルハ、皆是レ、格式ノ禮ヲ守ル[illegible]、由アル先規ナリ」

せん-き（名）[戰記] 戰爭ノ事ヲ記シタルモノ。軍記。戰紀。

せん-き（名）[戰機] (一)戰事上ノ機密。李昌符詩「[illegible]」(二)戰爭ノ機會。

せん-き（名）[疝氣] (一)シラタマイタミ。神經性腸痛。せん(疝)ノ條ヲ見ヨ。史記、倉公傳「躑木難者、疝氣之客於膀胱一也」陰德太平記、四十八、羽倉元陰戰死事「十八日(元龜二年三月)已ニ打立ントスル折シモ、伊織助、俄ニ疝氣發シテ、前後不覺ニ、譫語ノミ也ケレバ、夜討ヲヤ延引スルト云ケル」(二)睾丸炎。

せん-ぎ（名）[僉議] [書經、堯典篇、注「僉、皆也」] 衆人ノ評議。衆議。僉評 [illegible]平家物語、一、御輿振事「僉議シタリケレバ、數千人ノ大衆、云云、先モトゾ、同ジケル」同、一、内裏炎上事「院ノ殿上ニテ、俄ニ、公卿僉議アリケリ」

せん-ぎ（名）[詮議] 「前條ノ語ノ轉力。晉書、武陵傳「詮論音義、謂ニ具ニ說事理」也」(一)評議シテ、理ヲ明ラムルコト。詮索シテ、議スルコト。[illegible]吉野山、[illegible]衆徒、[illegible]ノ庭ニ僉會シテ、九郎判官殿ハ、中院谷ニオハスナリ、イザヤ、寄セテ、討取リテ、鎌倉殿ノ見參ニ入ラントゾ申シケル、老僧、是レヲ聞キテ、アハレ、[illegible]ナキ[illegible]カナ、我ガ[illegible]ノ敵ニモアラズ、云云」(二)罪人ノ糺問。吟味。拷治 [illegible]、牛馬、日代[illegible]ナラバ、[illegible]せんぎナサレテ下ダサレ」

せん-ぎ（名）[illegible] [illegible]ニ同ジ。[illegible]

せん-ぎ（名）[illegible] [illegible]

ナゾラフルコト。帝王ノ事ヲ、犯シテスルコト。南史、宋武帝[illegible]

せん-ぎ（名）[先儀] 先例。[illegible]代居事、ソレハ、畏朝ノ先儀タル上、別段ノ事ナリ」

ぜん-き（名）[前記] (一)前代ノ記錄。舊記。後漢書、班固傳「[illegible]」(二)前文ニ記シタル條條。「前記ノ通リ」

ぜん-き（名）[前期] 前、後、二回ニ分チタルモノノ、前ノ期間。其後ノ期間ヲ、後期ト云フニ對ス。[illegible]

ぜん-き（名）[前規] せんき(先規)ニ同ジ。[illegible]

ぜん-き（名）[前鬼] 前鋒ノ武者ノ義ナルベシ。コレニ對シ、[illegible]ノ武者ヲ、後鬼ト云ヒ、鬼ト云フ、[illegible]武陰叢話、四「廣島ノ浪人所持覺書ニ云、淺野但馬守長晟、[illegible]ハ、大峰ノ前鬼後鬼ト申者、山賊ト申者、大將ニテ候」

ゼン-き（名）[禪機] 禪學ノ趣向。禪ノオモムキ。又、禪ノ機用。

ゼン-きく（名）[禪鞠禪匏] 坐禪ノ具。[illegible]禪定ノ具足ノ中ニ、[illegible]、手指[illegible]ニシテ、首アル物アリ、是ハイカニト御尋ネアレバ、禪鞠ト申シ候ツ、云云、大師、禪定ノ時、眠リアレバ、是レヲ頭上ニ置ク、眠レバ、自ラ落ツ、落ツレバ、首アリ、故ニ、眠リ覺ムルナリ」

せん-きん（名）[千金] (一)千金[illegible]千兩ノ金子。[illegible]八島、[illegible]ヒ、せんきんノ[illegible]ベタル御身ナリトモ、御命ニハ替ヘ給フベキカ」(二)數多ノ金額。莫大ナル價値。[illegible]千金モ何ナラズ、子ホドノ寶、ヨモアラジ」

せん-きん（名）[千鈞] 鈞ハ、メカタ三十斤ノ稱。(一)三萬斤ノ重量。[illegible]

せん-きん（名）[仙禽] つる(鶴)ノ異稱。[illegible]

せん-きん（名）[蟬吟] せみノ、鳴クコト。[illegible]

ぜん-きん（名）[前金] マヘキン。マヘガネ。[illegible]

せん-きやう（名）[仙境] 仙人ノ住ム境。[illegible]仙界。仙鄉。仙寰。[illegible]

せん-きやう（名）[illegible] [illegible]

せん-きやう（名）[不經] (一)スベテノ經書。[illegible]

せん-きやく（名）[illegible] [illegible]

せん-きやく-ばんらい（句）[illegible] (千萬、八大數ヲ表ハス)千山萬水、千變萬化ノ類。多數ノ客、頻リニ來ル。人リ替リ立チ替リ客來ル。[illegible]

賓至如歸。

せん-きゅう (名) [仙宮] 仙人ノスミカ。仙家。 賓退録「望三神山ノ仙宮一、眞人、仙ニ(シン)」(以下不鮮明) 西廂記「二十八、小窗擁局戲、仙宮、チ、ノ地ヲ、ネテ與リケン」

せん-きゅう (名) [川芎] 〔本名、芎藭(キユウキユウ)ナリ、蜀ノ川州(今ノ四川省)ノ産ヲ上品トスレニ、特ニ名トス〕 古名、オンナカヅラ 草ノ名、高サ一二尺、葉ハ、夏ノ芹葉ニ似テ、枝、多シ、葉、莖、共ニ、淺緑色ニシテ、香氣、多シ、秋月、花、實アリ、形狀、當歸(タウキ)ニ同ジ、根ヲ藥トシ、葉ヲモ、蘼蕪(ビ)ト云ヒテ、藥用トス。 王禎農書「芎藭」

せん-きょ (名) [仙居] 仙人ノ住居。俗界ヲ離レタル、靜カナル住居。 李白詩「我閑ニ南陽ニ賞、道書ハ烟霞淵寂如仙居ニ」

せん-きょ (名) [潛居] ヒソミ、ヲルコト。隱居。 黃石公、素書「潛居抱ㇾ道、以待二其時一」

せん-きょ (名) [占據] 一定ノ地ヲ占(シ)メ、其處ニ立テコモルコト。 宋史、吐蕃傳「汝等占二據木植一、傷二殺軍人一」

せん-きょ (名) [選擧] 人ヲ選(エラ)ビアゲテ、役ニ就カスルコト。 淮南子、兵略訓「選擧、足二以得一賢士之志一」「議員ノ選擧」

せん-きょ (名) [薦擧] ススメアゲテ、役ニ就カシムルコト。推薦。 後漢書、馮衍傳「王莽時、諸公多薦二擧之一者、衍辭不二肯仕一」

せん-きょ (名) [船渠] どっくノ條ヲ見ヨ。

せん-ぎょ (名) [遷御] 天子、御居所ヲカヘ給フコト。天皇ノ御ヒキウツリ。遷幸。

せん-ぎょ (名) [鮮魚] アザラケキ魚。新ラシキ魚。 詩經、大雅、韓奕之什、韓奕篇「清酒百壺、其殽維何、炰鼈鮮魚」「鮮魚一折」

せん-きょう (名) [戰兢] せんせんきょうきょう(戰戰兢兢)ノ略。其條ヲ見ヨ。 後漢書、何皇后、ノ事ニ非除后、夙夜戰兢」

せん-きょく (名) [戰局] 戰爭ノ局面。 戰ノナリユキ 「戰局ノ推移」

ぜん-きょく (名) [全局] 局面ノ全體。

せん-く (名) [先驅] 次條ノ語ニ同ジ。 史記、周紀「百夫荷二罕旗一以先驅」

~ぜん-く (名) [前驅] 騎馬ノ先供(サキドモ)。サキノリ。先驅。 周禮、夏官司馬篇、大僕「王出入、則自左馭而前驅」 枕草子、六、六十段、わびしげに見ゆるもの「小サキ馬ニ乘リテ、ぜんくシタル人」 平家物語、一、殿下乘合事「殿下、御出アルベカンナリ、イヅクニテモ待チ受ケ奉リ、云云、前驅、御隨身トモガ、今日ヲ晴レト裝束シタルヲ」

せん-ぐう (名) [遷宮] 神宮、新タニ造營アリテ、神靈ノ、徙御(ワタマシ)アルコト。 新儀式、四、臨時、伊勢大神遷宮之事「大神遷宮之事、依ㇾ式、歷二廿年一行ㇾ之、前二三年、神祇官中ニ任造宮使一、除二舊者造一」 遷宮例文「夫、伊勢二所大神宮、廿年ニ一度之造替、遷宮ハ、皇家第一重事、神宮無雙大營也」 二所大神宮例文「天平十年己巳、內宮遷宮、自二和銅二年一及二廿一年一」延曆四年乙丑、內宮遷宮、自二天平神護二年一及二廿年一」

ぜん-くう (名) [前驅] 前前條ノ語ノ訛。 東宮年中行事、十一月「サウノ兵衞各四人供奉、所ノシュ八人、東帶シテ、ぜんくうス」

せん-くづ(セン-クズ) (名) [鏟屑] 〔鏟ハ、かんな〕 鐵ヲ削リテ生ズル屑粉。鐵沙。 還步色葉集「鏟、センクヅ、鏟屑」

ぜん-くねん-の-えき (名) [前九年役] 後冷泉天皇ノ天喜四年ニ、陸奥ノ豪族、安倍賴時、子、貞任ノ亂アリ、朝廷、源賴義ヲ陸奥守、兼鎭守府將軍トシテ、之ヲ討タシム。賴義ノ長子、八幡太郎義家、奮戰

九年ニ亙リ、康平七年ニ亂平ラグ、世ニ之ヲ前九年役ト稱ス。後、陸奥ノ清原武衡、家衡、反ス、應德三年、源義家、陸奥守トナリ、弟義光ノ援ヲ得テ、出羽、金澤柵ヲ圍ミ、三年ヲ經テ討伐ノ功ヲ了ハ、之ヲ前役ニ對シテ、後三年役ト云フ。

せん-くん (名) [先君] (一)先代ノ父。先考。 范甯、穀梁傳、序「先君北蕃回軫、頓駕于吳」 (二)祖先、父祖。 孔安國、尚書序「先君孔子、生二于周末一」 (三)亡キ主君。亡君。又、歷代ノ天子。 書經、伊訓篇、注「先君、謂二禹以下、少康以上賢王一」 假名手本忠臣藏、寬延、竹田出雲、二五「先君ノ御廟所ヘ、御石碑ヲ建立セントノ催シ」

せん-ぐん-ばん-ば (名) [千軍萬馬] 多クノ兵馬。多クノ軍隊ト、軍馬ト。

せん-ぐり-に (副) [先繰] 順ニ。順順ニ。ジュングリニ。(京都)

せん-くゎ(セン-カ) (名) [遷化] (一)ウツリ、化スルコト。 傳毅、舞賦「與ㇾ志遷化」 (二)せんげ(遷化)ニ同ジ。 漢書、外戚傳(孝武李夫人傳)「忽遷化而不ㇾ反兮、魄放逸以飛揚」 武帝ノ作」

せん-くゎ(セン-カ) (名) [旋花] ヒルガホ。ハヤヒトグサ。ひるがほ(晝顏)ノ條ヲ見ヨ。

せん-くゎ(セン-カ) (名) [仙過仙花] 〔仙花紙ノ略。〕天正年中、伊豫ノ人、兵頭泉貨ノ創製シタルモノ〕紙ノ一種。厚クシテ、極メテ強キモノ、色、純白ナラズ。伊豫ノ宇和島ニ產ズルモノ、名アリ。

せん-くゎ(セン-カ) (名) [錢貨泉貨] ゼニ。カネ。(倘、泉(セン)ノ語原ヲ見合ハスベシ) 漢書、王莽傳「罷二錢貨一、徵二發錢穀一」 歷代名畫記「不ㇾ惜二泉貨一、要二藏 懷富一」 頭察三代格、十九、延喜十九年二月四日、太政官符「今聞、殷富之民、多貯二錢貨一、藏鐪

萬記」

せん-くゎ(セン-カ) (名) [選科] 學科ノ選科ヲ、一二ノ學科ヲ選ミテ修業スルモノ。「選科生」

せん-くゎ(セン-カ) (名) [專科] 專門ノ學科。專修ノ學科。小學校ノ各科目中、一科目、又ハ、數科目ヲ限リテ教授スル有資格教員ヲ、專科正教員ト云フ、

ぜん-くゎ(ゼン-カ) (名) [前科] 前ニ、罪ヲ犯シテ、刑罰ニ處セラレタルコト。「前科者」

ぜん-くゎ(ゼン-カ) (名) [前過] 以前ノ罪過。 史記、張湯之傳「張延尉、事二景帝一蔵餘、爲二淮南王相一、損傷以前過也」

ぜん-くゎい(ゼン-カイ) (名) [全快] 病ノ、全ク癒エタルコト。全癒。「病氣、全快ス」「全快祝ヒ」

せん-くゎう(セン-コウ) (名) [先皇] せんてい(先帝)ニ同ジ。 晉書、樂志、先皇舉文、則天作ㇾ字、大哉爲ㇾ書」 平家物語、一、祇園精舍事「秦ノ趙高、漢ノ王莽、梁ノ周伊、唐ノ祿山、此等ハ皆、舊主、先皇ノ政ニモ從ハズ」

せん-くゎう(セン-コウ) (名) [閃光] キラメクヒカリ。

せん-くゎん(セン-カン) (名) [仙寰] 〔正字通「寰、宮周垣也」卽チ、界、境、ノ義〕仙境。仙鄉。 陳旅、題二龍虎山圖一詩「龍虎之山仙所ㇾ寰」

せん-くゎん(セン-カン) (名) [專管] 一手ニテ、管轄スルコト。他ト共ニセズシテ、其者ノミニテ管轄スルコト。「專管居留地」

せん-くゎん(セン-カン) (名) [蟬冠] 蟬ニ似タル冠。 劉長卿詩「人並二蟬冠影一、歸分二騎士喧一」 孝德紀、三年「制二七色、一十三階之冠一、云云、別有二鐙冠一、以二黑絹一爲ㇾ之、其冠之背張二漆羅一、以二緣與ㇾ鈿、異二其高下一、形似ㇾ蟬」

せんくゎん (副) 潺湲 (一)水ノ流ルル状ニ云フ語。チョロチョロ。[illegible]「[illegible]遠望、觀流水兮潺湲」(二)涙ノ垂ルル状ニ云フ語。孔稚圭「惟以永歎、[illegible]潺湲」

ぜんくゎん (名) 前官 前ニ任ゼラレテ在リシ官。(現任ナドニ對ス)「前官ノ禮遇」

せんぐゎんどひ (名) 千貫樋 用水ヲ引ク樋ニ云フ語。長ク續キタル意カ、長クシテ、作ルニ、錢千貫文ノ多額ヲ要シタリ、トノ故ニ云フカ。伊豆、駿河ノ境ニ、千貫樋ト云ヘルアリ、伊豆ノ水ヲ駿河ニ取ル用水ノとひナリ、其雜費、千貫文費リシト云フ。又、西鶴諸國咄ニ、信濃ニモ、千貫樋ト云フガアリシ旨、見エタリ。西鶴諸國咄、二「兩村ノ大爭、千貫樋ニ詳リ」

せんけ (名) 仙家 せんか(仙家)ニ同ジ。

せんげ (名) 千家 せんげりう(千家流)ノ略。其條ヲ見ヨ。「千家表」「千家裏」

せんげ (名) 宣下 (一)朝廷ヨリ下下ニ布告スルコト。後漢書、明帝紀「有司其申下郡國」(二)宣旨ノ、下ルコト。定レル除目ノ時ナラズシテ、臨時ニ、官職ニ任ゼラルルニ云フ。[illegible]

せんげ (名) 遷化 [illegible]化土ノ化縁、盡キテ、他方ニ遷リテ化度する義ト云フ」

死ヌルコト。(モト儒家ノ語、後、多ク、高僧ニ云フ)入寂、圓寂。[illegible]「[illegible]」

ゼンけ (名) 禪家 禪宗。又、其寺。

ぜんげう (名) 善巧 善良ニシテ、巧妙ナルコト。ウマキコト。上手。後漢書、[illegible]「善巧方便」

せんけうし (名) 宣教師 「英語、Missionary」耶蘇教ノ教師。牧師。傳道師。

ぜんげうはうべん (名) 善巧方便 ウマキ方便。上手ナル手段。太平記、三十五、北野通夜物語「[illegible]」

せんげうら (名) 千家裏 茶道ノ一派、千宗室ヲ祖トスルモノ、(千家流ノ條ヲ參見セヨ) [illegible]

せんげおもて (名) 千家表 茶道ノ一派、千宗佐ヲ祖トスルモノ(千家流ノ條ヲ參見セヨ) [illegible]「千家表ト云フ」

せんげくゎん (名) 宣下官 古へ、臨時ノ宣下ニヨリテ任ゼラレシ官。例へバ、檢非違使、内覽ノ宣旨、大臣ノ宣旨、藏人所別當、等。

せんけつ (名) 鮮血 イキチ。ナマチ。[illegible]「鮮血淋漓」

せんけつ (名) 專決 專斷ニテ、物事ヲ決定スルコト。[illegible]

せんけつ (名) 先決 一番サキニ、決定スルコト。當ノ問題ヨリ前ニ、決定スルコト。「先決問題」

せんげつ (名) 先月 今ノ月ノ前ノ月。アトノツキ。前月。

ぜんげつ (名) 前月 [illegible]

せんげふ (名) 專業 專門ノ事業。[illegible]

せんげふ (名) 賤業 イヤシキ職業。[illegible]

せんけん (名) 淺見 淺ハカナル意見。又、自分ノ意見、[illegible]

せんけん (名) 先見 事ニ先立チテ、[illegible]意見。[illegible]豫知。後漢書、[illegible]

せんけん (名) 先賢 昔ノ賢人。前賢。[illegible]十二段「先賢ノ作レル内外ノ文ニモ、[illegible]」

せんけん (副) 嬋娟 容姿ノ、[illegible]ソリト[illegible]

せんけん (副) 嬋娟 (娟ハ、於緣切、[illegible]) [illegible]艶ニ美シキ状、又、女ノ、美シキ貌ニ云フ語。[illegible]

せんげん (名) 宣言 [illegible]

せんげん (名) [illegible] ソノバカ。[illegible]

せんげん (名) [illegible]

ぜんげん (名) 前賢 せんけん(先賢)ニ同ジ。[illegible]

ぜんげん (名) 前件 前ノクダリ。[illegible]

ぜんげん (名) 前言 前ニ述ベタル言。[illegible]

ぜんげん (名) [illegible]

せんけんこうし (名) 全權公使 [illegible]

[illegible]

華人來朝、千宗守、一翁ト號、且ノ季子也、高松侯ニ仕フ。今ニ連綿タリ、官休庵、千家武者小路トモ云フ」

ぜんけん-たい-し (名) [全權大使] 他國ニ使シ、又ハ、駐紮シテ、國家、及、元首ヲ代表シテ、事ニ當ル全權ヲ委任セラレタル大使。又、特命全權大使トモ云フ。

せんけん-てき (名) [先驗的] (英語、Transcendental ノ譯語) 經驗ニ先ダチテ、併モ經驗ニ妥當スル認識 先天的認識 超越的。超絶的。

ぜんげん-てん (名) [善見天] 佛經ノ語、三界諸天ノ一、色界ノ第四禪天ニ位ス。空中ノ障碍、漸ク徹ク、明ラカニ十方世界ヲ見ルコトヲ得ト。略シテ、善見。

せん-げん-のぼり (名) [千軒幟] 古ヘ、劇場ニテ、初日ヨリ十日ノ間ノ、桟敷、土間ノ賣切高ヲ書キツケタル幟 表口ノ外題看板ノ前ニ立テタリト。

せんけ-りう (名) [千家流] 茶道ノ一派、千利休ヲ祖トス。利休ハ、通稱ヲ田中與四郎ト云ヒ、宗匠トシテ、千宗易、號ヲ、利休ト稱ヘタリ、和泉、堺浦ノ人ナリ。父ハ、室町幕府ニ仕ヘテ、同朋トナリ、千阿彌ト云フ、故ニ、千ヲ稱號トス。茶道ヲ紹鷗ニ學ブ、茶宗ニ臺子傳アリ、珠光-志野道甘-宗悟-紹鷗-宗易ノ序次アリ、流儀ハ、古式ヲ改正シ、大成スト、當時、秀吉公ニ寵セラレシガ、天正十九年二月廿八日、死ヲ賜ハリ、割腹シテ死ス、時ニ、年七十四ナリキ。子、道安、宗淳アリ、宗淳ノ子、宗旦アリ、宗旦ノ第二子、宗佐ハ、千家表(表流)ノ祖トナリ、第三子、宗室ハ、千家裏(裏流)ノ祖トナル。

せん-こ (名) [千古] (一) オホムカシ。長キ間ノ過去。宋之問詩「千載異二千古、皇風無二… (二) 永遠 未來 萬古 蘇軾、先聖… 「激二清一時、流二譽千古二」

せん-ご (名) [蟬語] せんぎん(蟬吟)ニ同ジ。白玉蟾詩「雲邊涼牛蟬有語」

せん-ご (名) [譫語] ウハコト。タハコト。譫語

ぜん-こ (名) [全戸] ぜんか(全家)ニ同ジ。

ぜん-こ (名) [前古] ムカシ。イニシヘ。宋書、禮志、「實超二揚圖典一超二邁前古二」「前古未曾有」

ぜん-こ (名) [前胡] 草ノ名。古名、ノゼリ、山ニ多シ、苗、三葉ニシテ、漸ク長ズレバ、岐ヲ分チ、薹ヲ出ス、高サ七八寸、葉ハ互生シテ、志志うどニ似タリ、秋、枝ノ端ニ、紫黑ノ花ヲ開ク、形、胡蘿蔔ノ花ノ如ク、傘ノ狀ヲナス。ノダケ。

ぜん-ご (名) [竹筬] あぢ(鯵)ノ條ヲ見ヨ。

ぜん-ご (名) [前後] まへト、うしろト。さきト、のちト。アトサキ。先後。老子、第二章「前後相隨」 左傳、昭公九年「殺二我師一前後事之」 宇津保物語、藏開、中「酒ヲ強ヒテ賜ビ侍リツルニ、前後モ知ラデナン」

ぜん-ご (名) [善後] 後日ノ爲ヲ謀ルコト。蘇軾詩「謀初要二百慮一善後乃萬全」「善後ノ策」

せん-こう (名) [戰功] タタカヒノイサヲ。戰爭ノ手柄。軍功。王維詩「王禮尊二儒教一天兵小二戰功二」

せん-こう (名) [染工] 染物ヲ業トスル工人。ソメモノシ。コウヤ。北史「染工王神歡者、以レ賂自進」(佩文韻府)

せん-こう (名) [船工] フナダイク。魏書、小雅傳「可レ出二百兵一爲二船工二」

せん-こう (名) [先後] ぜんご(前後)ニ同ジ。大學「知レ所二先後一則近レ道矣」

せん-こう (名) [專攻] 攻ハ、をさむノ意、論語、爲政篇、注「攻、治也、古人、謂レ學爲レ治」又「攻、專治也」 專ラ、一事ヲ治ムルコト。專門ニ、攻究スルコト。韓愈、師說「聞レ道有二先後一術業有二專攻二」「專攻ノ學科」

せん-こう (名) [占候] ウラナフコト。後漢書、郎顗傳「父宗、能望レ氣、占二候吉凶二」

せん-こく (名) [宣告] (一) 公ニ、宣べ告グルコト。宣言。左傳、襄公廿八年「宣二告後人一無レ忘二於德二」「天皇八、戰鬪ヲ宣告ス」 (二) 裁判ノ言渡シ。「死刑ノ宣告」

せん-こく (名) [先刻] サキホド。今シガタ。前刻。過刻。「先刻承知」

せん-ごく (名) [戰國] (一) 諸國、互ニ、戰フコト。戰爭ニテ、亂レタル世ノ中 史記、蘇秦傳「凡天下戰國七」 (二) 戰國七雄ノ條ヲ見ヨ (三) 群雄割據シテ、戰亂相踵ギタル時代ノ稱、支那ニテハ、周末(威烈王)ヨリ秦始皇ノ天下一統マデ、百八十餘年間、我ガ國ニテハ、應仁以後、豐臣秀吉ノ、諸國ヲ統一スルマデ百十餘年間ノ稱。

ぜん-こく (名) [全國] 國中ノ總體。一國ノコラズ。國全體。「全國ノ天氣豫報」

ぜん-こく (名) [前刻] せんこく(先刻)ニ同ジ。

せんごく-しちゆう (名) [戰國七雄] 支那ニテ、周ノ威烈王ノ後ヲ、戰國ノ世ト云ヒ、コノ間、秦、楚、燕、齊、趙、魏、韓、ノ七國、最モ大ニシテ、其ノ國、雄武ナルヲ以テ、稱アリ。

せん-ごく-どほし (名) [千石簁] 簁ノ一種。上ニ、大イナル匣アリ、下ニ、斜ナル篩アリ、上ヨリ籾磨シタル穀粒ヲ下セバ、篩ノ下ヨリ米ガ出デテ、籾ト、米ト、自ラ相分ル 又、もみがらヲモ去リ、米ノ精粗ヲモ分ツ。(貞享三年、江戸、大門通ノ釘屋嘉兵衛ノ創意ト云フ) 一名、アフリグルマ。又、其篩ノ目ノ細カニシテ、搗キタル米ト、糠トヲ分クルモノヲ、萬石通ト云フ。

せん-ごく-ぶね (名) [千石船] 親船ノ、米千石ホドノ荷ヲ積ムベキモノ。隆達節「打レ鼓順レ節千斛船」

せん-こ-とう (名) [千戶侯] 千戶ヲ領スル程ノ諸侯 史記、貨殖傳「渭川千畝竹、云云、皆千戶侯、此其人皆與二千戶侯一等」 太平記、九、越後守仲時以下於二番場一自害事「縱ヒ千戶侯ニモ募リスラン」 定メテ、我ガ首ヲ以テ、千戶侯ニモ募リスラン」

せん-こつ (名) [仙骨] 仙人ノ骨格。仙人ノ如キ風骨。風采ノ非凡ナルコト。神仙傳、葛洪「弟子人、周秋山、精二思道法一神人授以二素書二十五卷一曰、子有二仙骨二」「仙骨ヲ帶ブ」

せん-ごふ (名) [先業] 前世ノ業因。宿業。前業。保元物語、一、鳥羽院崩御事「妙覺ノ如來、猶、因果ノ理ヲ示シ、大智、舍利弗、又、先業ヲ遁ハスコトナレバ、凡下ノ、遁クベキニハアラネドモ」

ぜん-ごふ (名) [前業] 前條ノ語ニ同ジ。義經記、五、忠信吉野山合戰事「我レモ人モ、運ノ極ハ、前業限リ有リ、サラバ、見參セントテ」

せん-こん (名) [茜根] 藥品ノ名。あかねノ條ノ(一)ヲ見ヨ。馬祖常、西湖歌「茜根染レ衣光如レ霞」

ぜん-こん (名) [善根] 佛教ノ語。善果ヲ得ベキ所業。功德。阿彌陀經「不レ可三以少二

善根」金剛經「種ニ諸善根ニ」紀略、後篇、十一、寛弘五年二月廿二日「修[illegible]花山院七七日御善根ニ」宇治拾遺、十二、第四條「堂ヲ造リ、塔ヲ建ツル、最上ノ善根ナリトテ、勸進セラレケリ」

せん-おり (名) 千垢離 さり(垢離)ノ條ヲ見ヨ。 俳諧[illegible]子集、[illegible]「行クヘニ、[illegible]カクボ離ヤ、富士詣」

せん-おろ (名) 先頃 サキゴロ。

せん-さ (名) 千差 數多ノ差別。種種ノワカチノ有ルコト。「千差萬別」

せん-さ (名) 仙槎 〔槎ハ、筏也「桴也」〕仙人ノ乘ル船。 陸游詩「[illegible]洞白雲深、[illegible]仙槎無二古今一」

せん-ざ (名) 遷座 座ヲ、他ヘ遷シ奉ルコト。 運歩色葉集、遷座、センザ」「大神宮御遷座」

ぜん-ざ (名) 前座 說教、講談、落語、淨瑠璃語、ナドニテ、其座員ノ主タル人ヨリ前ニ、演ズルコト。又、其人。又、前座ノ次ニ出デテ、演ズルモノ(卽チ其座員ノ主タル人)ヲ、後座ト云フ。(俗ニ、之ヲしんうちトモ云フ)

せん-さい (名) 淺才 淺ハカナル才智。短才。韮才。 高適詩「淺才登二一命一」

せん-さい (名) 先妻 「後妻ニ對ス」 コナミ。前ノ妻。前妻

せん-さい (名) 剪綵 ツクリバナ。造花。 事物紀原(宋、高承)「花勝起二于漢、剪綵起二于晉一」

せん-さい (名) 剪裁 キリ、タツコト。裁斷。 曹松詩「直恐金刀易二剪裁一」

せん-ざい (名) 千歲 (一)チトセ。千年。 [illegible]子、說林訓、「[illegible]千歲、以[illegible]其壽一」 [illegible]、三[illegible]千歲、[illegible]千歲一遍、[illegible]之[illegible]」 (二)ゑんきい人[illegible]ニ、(式三番)ニテ、(翁ニ附キ從ヒテ、踊

ヒ舞フ役。侍烏帽子ニ素袍ヲ著ケ、小刀ヲ佩ブ。

せん-ざい (名) 前栽 〔又、せざいトモ云フ〕(一)〔庭前ニ、草木ヲ栽エタルモノ。(後園ニ對シテ云フ)〕庭樹 源、三十三、藤裏葉「[illegible]さいドモナド、小サキ木ドモナリシモ、イト繁キ蔭トナリ」 拾遺集、三、秋、[illegible]子[illegible]ノ[illegible]ニ、前栽植ヱサセ給ヒテ」 同、同「[illegible]ニ、前栽掘リニマカリテ」 枕草子、七、六十四段、はしたなきもの「せんざいノ菊ノ露、コボルバカリ、濡レカカリタル」 (二)〔寢殿造ナドノ中庭ニ、一段高ク土ヲ盛リテ、花木、草花ナドヲ植エタルモノ。又、其所。花壇。 源、五、若紫、上「東ノ對ニ渡リタマヘルニ、立出デテ、庭ノ木立、池ノ方ナド覗キタマヘバ、霜枯ノ前栽、繪ニ書ケルヤウニ、オモシロクテ」 枕草子、二、十七段「御マヘハ坪ナレバ、前栽ナド植ヱ、[illegible]結ヒテ、イトヲカシ」 伊勢物語、[illegible]「[illegible]リニヤリテ、前栽ノ中ニ放チ」 古今集、十六、哀傷「[illegible]ヨリアリミ前栽、イト茂ク荒レタリケルヲ」 後撰集、一、春、上「前栽ニ紅梅ヲ植エテ、又ノ春、咲キケレバ」 同、二、春、中「前栽ニ、竹ノ中ニ、櫻ノ咲キタルヲ見テ」 (三)前栽物ノ略。「前栽賣リ」

ぜん-ざい (名) 善哉 ぜんざいもち〔善哉餅〕ノ略。其條ヲ見ヨ。 尺素往來「先新年之善[illegible]、是修正之[illegible]也」

ぜん-ざい (句) 善哉 〔梵語、娑度(Sādhu.)ノ譯語〕佛經ノ語。善キ哉。 大智度論、[illegible]「[illegible]言、善、善哉、再言、之[illegible]、喜之至也」 [illegible]、宣公十二年「王曰、善哉、吾未之聞也」 [illegible]ヲ讀誦シ給ヘバ、善哉ナレヤ、善哉ナレト、夜遊ヲ奏シテ、[illegible]ヒ舞フ」 [illegible]「善哉、ヨキカナ、ヨイカナ」

せんざい-あはせ (名) 前栽合 物合ハセノ一。前栽(花木ナド)ノ優劣ヲ合ハセテ、[illegible]モノ。 拾遺集、五、[illegible]「[illegible]ノ[illegible]ニ、せんざいあはせシ侍リケル[illegible]」

せんざい-あめ (名) 千歲飴 又、千年飴。七五三ノ宮參リノ時ナドニ、[illegible]ノ前

ニテ賣ル飴。長キ紙袋ニ入レタリ。小兒ノ[illegible]ヒ、[illegible]、千歲[illegible]ム ト云フ。(地黃煎製ノ飴ナルベシ)

せんざい-うり (名) 前栽賣 野菜物ヲ商フ人。ヤホヤ。 浮世風呂(文化、三馬)四編、中「ソンナコトヲ云ッテ居ルマニ、前栽賣ハ往キ過ギテシマウ」

ぜんざい-もち (名) 善哉餅 〔或人、始メテ、小豆ノ汁ニ餅ヲ入レテ、一休禪師ニ供シタルニ、一休、賞シテ、善哉此汁ト云ヒシヲ名トスナド、云ヒ傳フ〕 汁粉ノ、濃餡ナルモノノ稱。(畿內)ホナカジルコ。 後撰夷曲集、九、雜、下「大納言ノ、小豆ニ似タル、物ナレバ、ぜんざいもちハ、公卿ニテ候ヘ」

せんざい-もの (名) 前栽物 アヲモノ。[illegible]。 浮世風呂、文化、三馬、[illegible]「[illegible]ニ、ソンナ[illegible]」

せんざい-らく (名) 千歲樂 [illegible]く(千秋樂)ノ條ノ(二)ニ同ジ。 [illegible]門松「[illegible]テ門口マデ[illegible]ノお迎ヒ、チャウサヤ、ヨフサヤ、千歲樂、萬歲樂」

せん-さう (名) 戰爭 [illegible]合戰。 史記、始皇紀「人人自安樂、無二戰爭之患一」 [illegible]用集、九、[illegible]」

せん-さう (名) [illegible] [illegible]字」 船中ニテ、貨物ヲ積ミ込ムクラ。其貨物ヲ出入スル穴ヲ船口ト云フ。

せん-さう (名) 船裝 フナヨソヒ。[illegible]

せん-さう (名) 蟬噪 (一)蟬ノ、鳴キサワグコト。 王籍、若耶溪詩「蟬噪林逾靜、鳥鳴山[illegible]」 (二)[illegible]

せん-さう (名) [illegible] 所ノ前田カト、人皆、誠ヲ冷シケル」

せん-さう (名) [illegible] ツツリヒ、ツツキ[illegible]

せん-さく (名) 穿鑿 アナグリ、求ムルコト。[illegible] 同、[illegible]、以[illegible]人[illegible] ツ[illegible]アコレヲ[illegible]ケト[illegible]、山[illegible]、中ニ[illegible]グル如ク、何ノ日モ、[illegible]

せん-さく (名) [illegible] [illegible]ト。字鑿[illegible]

せん-さく-[illegible] (名) [illegible] 人ヲ取調ブル所。吟味所。白洲。 [illegible]、江戸時代、[illegible]

ゼン-サツ (名) 禪刹 (一)禪宗ノ寺院。[illegible]

せん-さん (名) [illegible] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

せんさんばんすい (名) 千山萬水 [illegible]

山澤水、不ㇾ見ㇾ有ㇾ鹽」

せむし (名) 傴僂(佝僂) 〔脊蟲ノ義カト云フ〕 古言、クグセ。クツセ。セグツ。クツマ。不具ノ名。脊、屈リテ、出デ、肩、聳エ、仰グコト能ハザルモノ。脊椎彎曲疾。 [illegible]、セムシ、史、[illegible] 淮南子、精神訓「子求、行年五十有四、而病傴僂、脊管高於頂、腸下迫頤、兩脾在上」 宋玉、登徒子好色賦「[illegible]旁行傴僂」

せむし (名) 瀨蟲 いさおむしノ異名。

せんし (名) 先祀 先祖ノ祭祀。 史記、封禪書「封周後、稱周子南君、以奉其先祀焉」

せんし (名) 先師 (一)死去シタル師匠。(二)先代ノ賢人。先賢。 禮記、文王世子「凡始立學者、必釋奠于先聖先師」

せんし (名) 宣示 洽ク、宣ベ示スコト。 魏書、高祖紀「引見羣臣於光極堂、宣示品令」

せんし (名) 宣賜 宣旨ニヨリテ、賜ハルコト。 花蕊夫人詩「[illegible]、一時宣賜與宮娥」

せんし (名) 專使 專ラ、其事ノミニ遣ハサルル使。特使。 續日本記、十九、兵衛佐從[illegible]官人事、早被遣專使、院宣之趣キヲ可被仰合」 太平記、廿六、佐佐木信胤爲宮方事「伊豫國ヨリ、專使ヲ馳セ奏リテ」

せんし (名) 戰死 戰ヒテ、死ヌルコト。討死。戰歿。 史記、秦紀「勸戰死之賞罰」

せんし (名) 戰士 イクサビト。軍人。兵卒。 史記、秦紀「招戰士、明功賞」

せんし (名) 選士 (一)選拔シタル人士。 禮記、王制「[illegible]之選士、必選賢良[illegible]」 (二)王朝時代、太宰府ナドニテ、國防ニ備フル兵士。 民部省式、上「凡、太宰府幷九國二島選士、[illegible]丁、[illegible]衛丁一人」

せんし (名) 選試 選拔シテ、試驗スルコト。 後漢書、百官志「太常卿一人、天子每選試博士、奏其能否」

せんし (名) 擅私 ワガママニシテ、私心アルコト。

せんし (名) 擅恣 專恣 ホシイママナルコト。ワガママ。專橫。 淮南子、氾論訓「周公、云云、臣事之、無擅恣之志、無矜伐之色」 漢書、王嘉傳「[illegible]擧錯專恣、不ㇾ遵法度」

せんし (名) 遷徙 ウツルコト。遷移。 史記、匈奴傳「逐水草遷徙」

せんし (名) 撰絲 具サニハ、撰絲絹。羽二重ノ類、加賀、丹後、美濃、等ニ產ズ。

せんし (名) 染絲 染メタル絲。 周禮、地官篇、司徒「染人、掌染絲帛」

〔せんじ (名) 宣旨 〔宣ハ、命ヲ、使ノ、宣リ聞カスル意〕 (一)任官ノ敕ヲ、直チニ頭辨ニ下サルルヲ、口宣トシ、頭辨、コレヲ上卿ニ傳フルヲ、口宣案トシ、上卿、其旨ヲ受ケテ、外記ニ下知スルヲ、宣旨トス、外記、其旨ヲ書シテ出スヲ、綸旨トス。コレヲ、頭辨ヨリ、任ズベキ人ニ授ク。 春明退朝錄「有梁宣底、卷其間有云宣頭口命宣旨者」 官職備考、一「凡、勅命アレバ、先ヅ、職事ヲ召シテ、其趣ヲ宣フ、職事、之ヲ承ケテ、文案ヲ認メ、上卿ニ達スルヲ、口宣ト云フ、上卿、亦、口宣ヲ以テ、外記ニ達シ、外記、之ヲ記錄スルヲ、宣旨ト云フ、仍テ、口宣案ノ奥ニハ、職事ノ名ヲ署シ、宣旨ノ奥ニハ、外記ノ名ヲ書ス」 式部省式、上「年中宣旨、並、色紙、以爲長案」 源、一、桐壺「內侍、宣旨、承リ傳ヘテ」 (二)女官ノ稱。 源、廿、[illegible]「せんじヲ迎ヘツツ、語ラヒ給フ」

せんし (名) 煎脂 いろりノ條ヲ見ヨ。

せんじ (名) 戰時 戰爭アル時。戰爭中。(平時ニ對ス) 「戰時徵發」

せんじ (名) 洗兒 (一)赤子ニ、湯ヲ、ツカハスルコト。 王建詩「妃子院中初降誕、內人爭乞洗兒錢」 (二)マビクコト。昔、田舍ナドニテ、子多キモノ、親、自ラ其產兒ヲ殺スコト。

ぜんし (名) 善士 善行アル人士。 孟子、萬章、下篇「一鄉之善士、斯友一鄉之善士」

ぜんし (名) 前志 (一)以前ノココロザシ。(二)以前ノ記錄。前記。 曹植、學宮頌「由也務學、名在前志」

ぜんし (名) 前肢 マヘアシ。コレニ對シテ、後ニアル脚ヲ、後肢ト云フ。

ぜんじ (名) 前司 前ノ國司。 枕草子、二十四段「殿ハ、何ニカナラセ給ヘルナド云フ、答ヘニハ、何ノぜんじニコソハト、必ズ答フル」 源、四十八、寄生「常陸ノぜんじ殿ノ姫君ノ」 宇治拾遺、三、第五條「陸奧前司[illegible]、云云、陸奧ノぜんじ、歸リノボリテ」

〔ゼンジ (名) 禪師 〔又、ぜんじ〕 (一)〔僧ノ職、宮中ノ內道場ニ奉仕スルモノ、十人アリ、十禪師ト云フ、後ニ、內供奉十禪師ト云フ〕 (內供奉ノ條ヲ見ヨ) 續紀、三十三、寶龜三年四月、道鏡「入內道場、列爲禪師」 同、三十二、寶龜三年三月「當時稱爲十禪師、其後有闕、擇清行者補之」 (二)禪定ヲ修スル法師ノ稱。 善住意天子所問經「禪師者、於一切法、一行思量、所謂不生、若如是知、得名禪師」 (三)汎ク、法師ノ稱。 續紀、十九、天平勝寶八年四月「[illegible]禪師、官人、各一人、於左右京、四畿內」 伊勢物語、八十四段「俗ナル、ぜんじナル、アマタ參リ集リテ」 源、十五、蓬生「[illegible]ノ禪師ノ君バカリゾ」 (四)天子ヨリ、高德ノ禪僧ニ賜ハル稱號。 元亨釋書、六、[illegible]「[illegible]乞ㇾ諡、賜大覺禪師、本朝禪師之號、始于隆也」 後世ハ、妄リニ、自ラモ稱ス。

ぜんじ (副) 漸次 次第次第ニ。ダンダンニ。 [illegible]「了一則漸次[illegible]入ル」

せんしいね (名) 撰子稻 古ヘ、大嘗會ノ儀式ニ用ヰル稻。 儀式、二、踐祚大嘗祭儀「卜定御田六段[illegible]、撰子稻」

せんしう (名) 千秋 千年。千萬世。千代。永遠。 [illegible]「[illegible]千秋[illegible]」

せんしう (名) 專修 ソレノミ、專一ニ修ムルコト。專攻。 古事談、三、僧行、[illegible]「擧ㇾ斧二法華經、一向專修ニハ不ㇾ可ㇾ入」 「國語ヲ專修ス」

せんしう (名) 撰修 エラビ、ヲサムルコト。編ミ修ムルコト 「國史ヲ撰修ス」

せんしう (名) 薦羞 神ニ薦ムルモノ。祭リノ供ヘモノ。 周禮、天官篇、小宰「以法、掌祭祀之戒具與其薦羞」

せんしう (名) 僝僽 〔玉篇「僝僽、惡罵也」〕 罵リ、悲シムコト。又、口答スルコト。(支那ノ元曲中ニ、多ク用ヰル語)

せんじう (名) 纖柔 シナヤカナルコト。 陸游詩「纖手玉指[illegible]柑」

ぜんしう (名) 膳羞 膳部。料理。又、ヒキデモノ。 周禮、天官篇、膳夫「掌王之食飲膳羞、以養王及后世子」

ぜんしう (名) 繕修 しうぜん(修繕)ニ同ジ。 左傳、襄公三十一年「庫廐繕脩、司空以時平易道路」(脩ハ、修ニ通ズ)

ぜんじう (名) 善柔 柔和ヲ、裝フコト。又、其人。 論語、季氏篇「損者三友、云云、友便辟、友善柔、友便佞、損矣」

せんしうばんぜい（名）〔千秋萬歳〕（千秋萬歳ニ起ル）千萬年モ、永ク續カムコトヲ祝フ語。 韓非子、顯學篇「巫祝之祝レ人、曰レ使二若千秋萬歳一」 孝徳紀、白雉元年正月「陛下及レ至千秋萬歳、淨治二四方大八島一」

せんしうらく（名）〔千秋樂〕（一）雅樂ノ曲ノ名。 拾芥抄、上、末「盤渉調、千秋樂（無レ舞）」（二）能狂言、芝居ノ終、法會ノ樂ナドノ終ニ、前項ノ千秋樂ヲ奏スルヨリ、移レル語ト見ユ。略シテ、らく（樂）ト云ヒ、興行不成立ニハ、倒ニ、くら（薬）ト云ヒ、おくらニナルナド云フ。 魚山御法（群書類從本）「樂總禮、宗明樂、昇採、採桑老、云云 廻向了、千秋樂」 劇場新話（文化）「舞納メノ日ヲ、千秋樂ト云フ」

せんじがき（名）〔宣旨書〕（一）宣旨ノ書付。オホセガキ。（二）〔轉ジテ、代書スルコト。又、其書狀。略シテ、せんじがき、宇津保物語、國讓、上六十五「イデ、せんじがき奉ラン、見給ヘトテ、書キ給フ」 源、十三、明石四十「又ノ日、せんじがきハ見知ラズナントテ」 狹衣、四、上五十「イトヾ懸メカシキせんじがきハ、又、ムツカラセ給ヒヌベカメリト云フ」

せんじがみ（名）〔宣旨紙〕かみやがみノ條ヲ見ヨ。

せんじぎぬ（名）〔撰絲絹〕せんじ（撰絲）ニ同ジ。（下ノ出典ヲ見ヨ） 和漢三才圖會、廿七、絹布「撰絲絹、薄絹也、按、撰絲、光絹之生而輕薄者也、昔、唐船齎二泉州堺浦一時、大唐織工、來二留子此一、織二撰絲絹一、土人習二得之一、夏月爲二單羅一住、出二於京一者爲レ上、而其製不レ及二于堺一」 塀錦、下、土藏、撰絲絹「往古、此浦へ、唐船ノ入シ時、織人ヲ乘來テ、此地二留テ、始テ、織ヲ織出セシトカヤ、其子孫不レ傳ト云云、其工、今ニ至テ、精好也」

せんじぐすり（名）〔煎藥〕煎ジテ用ヰル藥。煎藥。湯藥。（水藥、粉藥、煉藥ナドニ對ス）

せんじちゃ（名）〔煎茶〕煎ジタル茶。（挽茶、又、立茶ナドニ對ス）又、出茶ト云フ。淹茶 後撰夷曲集（寛文）八、雜、上「擱待ニ、タテルせんじ茶、煎ジテモ、ホウジ趣キハ、父母ノ恩」

せんじつ（名）〔先日〕サキノヒ。過ギシ日。前日 [illegible]

ぜんじつ（名）〔前日〕前條ノ語ニ同ジ。 孟子、公孫丑、下篇「王餽二兼金一百一、而不レ受、云云、於レ薛餽二五十鎰一、而受、前日之不レ受、是、則今日之受、非也」

せんじつむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）〔詮詰〕終リマデ、論ジツム。

せんじつむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）〔煎詰〕煮ツメル。極度マデ煎ズ。

せんじふ（名）〔撰集〕〔撰、作也トアレド、選ノ意ニ用ヰラレタリトオボユ〕詩、歌、文ナドヲ、勅撰、又ハ、私撰スルコト。又、其集 後漢書、班固傳「徒撰二撰集其事一」 開太曆、延文四年四月廿八日「今日可二奏覽一云云、新千載集二」 同、貞和二年十一月八日「左宰相中將（忠季）入來、風雅集、今日可奏覽云云、勅撰歌、淸書、進二集ノ序一」 講師也」俗語考、てつだひ「白畫歌、宗祇、流云、俊成卿ノ頃ハ、俊成卿、千載集ヲえらびシ時、手傳シタル人ナリ」

せんじぶ（名）〔煎汁〕いろりノ條ヲ見ヨ。

せんじます（名）〔宣旨升〕後三條院ノ御宇、儀ヲ折リテ、寸法ナド指サセ給ヘル升ニテ、其容積、一升ハ、京升ノ曲尺ニテ、內方、四寸九分、深、二寸七分）ノ八合一勺六撮六抄餘ニ當レリト云フ、延久ノ宣旨升ト稱ス [illegible]

ヲ本ニシテ用ヒノルル升ニテ、[illegible] シテ [illegible] レバ、[illegible] レケルナンドヲバ、此ハ、イミジキ事カナナト、メデ仰グ人モ有リケリ」 東齋隨筆、政道、延久（後三條）[illegible] コレヲ奉行セリ、升ヲ召寄セテ、取リドリ御覽ジテ、[illegible] リ召寄テ、殿上小庭ニテ、藏人以下、藏人、出納ナド、紙ニ裹ミテ、持參リタリケレバ、叡覽有リテ、勅封ヲ加ヘラレテゾ、御持佛ノ前ナドヘ還ハサレケル」字 [illegible]（按ズルニ、此積、四百〇四寸四分九六ナレバ、コレヲ京升ニ比スルニ、延久宣旨升ノ一斗ハ、其六升二合六勺 [illegible]

せんしん（名）〔先臣〕[illegible] レノ亡キ父ヲ謂フ [illegible]

せんしん（名）〔先進〕〔後進ニ對ス〕學問、官途、等ニ、先キ [illegible] 人 [illegible]

せんしん（名）〔專心〕心ヲ、モッパラニスルコト。心ヲ、一 [illegible] 荀子、性惡篇「專レ心一レ志、思索孰察、加レ日縣レ久、積 [illegible] 意」

せんしん（名）〔洗心〕心ヲ、ヒソムルコト。心ヲ落チツカスルコト。 宋史、[illegible]

せんしん（名）〔鮮新〕せんせん（新鮮）ニ同ジ。 [illegible]

せんしん（名）〔先人〕（一）先祖。祖先。 詩經、小雅、小宛之什、小宛篇「我心憂傷、念昔先人、明發不レ寐」（二）子ノ、亡キ父ヲ稱スル語。亡父。先君。 [illegible]

せんじん（名）〔撰人〕[illegible] 人。撰者。 [illegible]

せんじん（名）〔選人〕エラバレタル人。 式部省式、下、延喜抄、選人名 [illegible]

せんじん（名）〔善心〕善良ナル心。道德 [illegible]

ぜんしん（名）〔全身〕（一）總身。身ノ內 [illegible]

ぜんしん（名）〔前身〕佛家ノ語。前世ノ身。前生ノ身。 [illegible]

ぜんしん（名）〔前進〕前ニススムコト。前方ニ進行スルコト。コレニ反スルヲ [illegible]

ぜんしん（名）〔漸進〕[illegible] ヤクニ進ムコト。急進ニ對ス。 [illegible]

ぜんじん（名）〔善人〕ぜんにん（善人）ニ同ジ。 [illegible]

ぜんじん（名）〔前人〕前代ノ人。昔ノ人。 [illegible]

ぜんじん [illegible]

ぜんじんざ [illegible] 生 [illegible] ニ對ス。

せん-しん-ばん-く (句) 〔千辛萬苦〕 千萬ノ辛苦ヲナス。種種樣樣ニ苦勞ス。「千辛萬苦ヲ嘗ム」

せん-じ-もの (名) 〔煎物〕 煎ジタル飲物。增鏡、第十、あすか川「御せんじものヲ、胤成、師成ト云フ醫師ドモ、御前ニテ調(シタタ)メテ、白銀ノ水瓶ニ入レテ」

せん-じ-もん (名) 〔千字文〕 句每ニ四字、句ヲ隔テテ押韻ノ體ニテ、一篇、一千字ヨリ成ル一種ノ詩、コレニ、十二三種アリ、其中、主ナルモノハ、梁武帝、周興嗣ニ命ジテ、韻ヲ次シ、文ヲ成シタルモノ、(所謂、千字文)明ノ周履靖ノ撰ジタルモノ、(廣千字文ト云フ)同人ノ撰ジタルモノ、(易千字文ト云フ)ナドナリ。

せん-しや (名) 〔船車〕 ふねト、くるまト。舟車。後漢書、仲長統傳「豪人之室、云云、船車賈販、周二於四方一」

せん-じや (名) 〔撰者〕 書物、文章、ナドノ作者。撰人。

せん-じや (名) 〔選者〕 エラブ任務ニ當ル人。選手(エラビテ)。

ぜん-しや (名) 〔繕寫〕 ウツシナホスコト。宋書、自序「繕寫已畢、合二志表七十卷一」

ぜん-しや (名) 〔前車〕 前ニ行ク車。コレニ對シテ、後(アト)ヨリ來ルヲ、後車(コウシヤ)ト云フ。晏子春秋「諺曰、前車覆、後車戒也」 沙石集、一、下、第十條「前車ノクツガヘリハ、後車ノイマシメナルヲヤ」

せん-しやう (名) 〔船將〕 (一)軍艦ノ大將。(二)船ノ長(ヲサ)。船長(センチヤウ)。

せん-しやう (名) 〔先唱〕 人ヨリ先(サキ)ニ、唱(トナ)ヘ出スコト。首唱。文子「先唱者、窮之路也」

せん-じやう (名) 〔先生〕 (一)せんせい(先生)ニ同ジ。物學ビノ師。(二)春宮坊ノ帶刀ノ古老。タチハキセンジヤウ。職原抄、下、春宮坊「帶刀者、撰重代侍補之、自公家被補之也、昔者、源平重代武士、多補之、長二人、近來一人、先生是也」 盛衰記、廿六、木曾謀叛事「信濃國、安曇郡ニ、木曾ト云山里アリ、彼所ノ住人ニ、木曾冠者義仲ト云ハ、故、六條判官爲義ガ孫、帶刀先生義賢ニハ、次男也」 轉ジテ、對稱ノ代名詞ニモ用ヰル。宇治拾遺、一、第十五條「頂、禿ケタル大童子、云云、童ノ立テル頸ヲ取リテ、云云、吾(ワ)せんじやうハ、イカデ、此鮭ヲ盜ムゾ」

せん-じやう (名) 〔千狀〕 せんたい(千態)ニ同ジ。張融、海賦「浪相礴而起千狀」

せん-じやう (名) 〔僭上〕 (一)身分ヲ越エテ、物事ヲスルコト。擅(ホシイママ)ニ、分限ヲ犯スコト。臣トシテ、妄リニ君ノ眞似ヲスルコトナドニ云フ。漢書、食貨志「僭上亡限」 (二)自己ノ事ヲ、誇張シテ云フコト。心中天網島(享保、近松作)一「身スガラノ太兵衞ト名ヲ取リ、夕ガ、色里テ僭上云フ事ハ、治兵衞奴ニハ叶ハネ共」

ぜん-しやう (名) 〔前生〕 前ノ生(シヤウ)。前世。宇治拾遺、四、第十一條「式部大輔實重ハ、賀茂ヘ參ル事、ナラビ無キモノナリ、前生(ゼンシヤウ)ノ運、オロソカニシテ、身ニ過ギタル利生(リシヤウ)ニ與カラズ」

ぜん-しやう (名) 〔前相〕 前ノカタチ。前ノシルシ。前兆。太平記、五、關大事「見聞ノ催フル處、耳目雖異、其前相、皆、闘諍、死亡ノ中ニアリテ、淺マシカリシ事共ナリ」

ぜん-しやう (名) 〔軟障〕 又、ぜじやう。屛幔ノ如ク、折レ曲ル、屛風ノ類。ゼンザウ。ゼザウ。源、十二、須磨四十「イト、オロソカニ、ぜんじやうバカリヲ引キメグラシ」 雅亮裝束抄、一、小寶の事「母屋、三方ニ、簾(ミス)ヲ懸ケテ下シタル上ニ、せんじやうトテ、帽ノ額ニテ、絹ニ、高キ松ヲ大繪ニテ、四季ノ木ドモヲ書キタリ」 大鏡裏書、軟障事「面ハ、生絹ニ、唐繪ヲ書キ、一帖分ハ、竪三尺七寸、横ハ六幅、上下、左右ニ、紫綾ノ緣ヲ附ク、廣サ六寸八分、數十ノ乳ヲ附ケテ、紫ノ練絹ニ布ヲ縫ヒクルミタル綱ニテ、御簾ニ副ヘテ、引張ル」 續後紀、九、承和七年九月乙未「其前懸以軟障」 字類抄「軟障、センシヤウ」

ぜん-じやう (名) 〔禪讓〕 天子ノ、御位ヲ讓ラルルコト。後漢書、逸民傳、論「穎陽洗耳、恥聞禪讓、孤竹長飢、羞食周粟」

せん-じやう-ばん-たい (句) 〔千狀萬態〕 種種ナルアリサマ。歐陽修、石屛歌「豈知鐫鑱刻畫醜與妍、千狀萬態不可殫」

せん-しやく (名) 〔淺酌〕 アッサリ、酒ヲ酌(ク)ムコト。小(コ)サカモリ。小酌。白居易、詩「玉杯淺酌巡初匝」「淺酌低唱」

せん-しやく (名) 〔疝癪〕 胸腹ノ、痛ミテ、痙攣ヲ起ス病。(男子ニ)

せん-じやく (名) 〔纖弱〕 (一)シナヤカナルコト。キャシャナルコト。(二)カヨワキコト。小サク、弱キコト。歷代名畫記(唐、張彥遠)「謝赫筆路纖弱、不副雅壯之懷」

せん-じやく (名) 〔孱弱〕 カヨワキコト。ヨワヨワシキコト。孱羸。尫弱。

ぜん-しやく (名) 〔前借〕 マヘガリ。サキガリ。豫借。「前借ヲ踏倒ス」

ぜん-じやく (名) 〔軟弱〕〔輭弱〕 カヨワキコト。ナンジャク。柔弱。史記、貨殖傳「家貧親老、妻子軟弱」 劉琨、答盧諶詩「吾余軟弱、弗克負荷」

せん-じや-ふだ (名) 〔千社札〕 次條ヲ見ヨ。

せん-じや-まゐり (名) 〔千社參〕 各地ヲ廻リテ、一千所ノ神社、及、佛寺ニ參詣スルコト。已レガ名ヲ記シタル札ヲ、社寺ニ貼ル、猶モ、觀音ノ三十三所ニ詣ヅルガ如シ。コレヲ、千社ニ札打ツト云ヒ、千社札ト云フ。天愚孔平ト云フ人、始メタリト云フ、又、麴五吉(江戶、麴町ノ五吉カ、麴町五丁目ノ吉カ)ト云フ札、古シトテ、モテハヤス。新編柳樽集、第一本妻「嗚呼千社詣、捧百幣走」 千社詣ノ札、寬政十二年、江戶、麴町五丁目ノ吉ト云フ者ニ始マル、麴五吉ト記ス」

せん-しゆ (名) 〔先主〕 前ノ主人。又、前ノ君主。岑參詩「先主與武侯、相逢雲雷際」

せん-しゆ (名) 〔先手〕 (一)サキテ。先鋒。先陣。宋元詩、射鳥歌「先手、機玄定後身」 (二)人ヨリ先キニ、手ヲ着クルコト。韋莊詩「告歸謝先手」 (三)圍碁ナドニテ、相手ヨリ先ニ打チ出ス方。せん。センテ。

せん-しゆ (名) 〔選手〕 エリスグリタル人。ソノ技ニ巧ミナルヨリヌキ。チャンピオン。「おりんぴっく競技ノ選手」

せん-しゆ (名) 〔纖手〕 シナヤカナル手。(多ク、美人ノ手ニ) 陸機詩「佳人撫琴瑟、纖手清且閑」

せん-じゆ (名) 〔先儒〕 先キノ儒者。昔ノ儒者。杜預、左傳、序「先儒所傳、皆不其然」

ぜん-じゆ (名) 〔善趣〕 (趣ハ、衆生ノ趣(オモム)ク所ノ國土ノ義) 佛教ノ語、樂多キ境界、又ハ、苦ナキ境界。卽チ、人、天ノ世界、又ハ、人、天、修羅ノ世界。善道。善處。(惡趣ニ對ス) 無量壽經、下「開示善惡之道、正念以法門、當修以此世得其福報、復務修善、來世得善趣也」

ゼン-じゆ (名) 〔禪衆〕 佛道ヲ修ムル人。僧侶。盛衰記、九、堂衆軍事「山門滅亡果テテ、西塔院ノ禪衆ノ外、止住ノ僧侶無リケリ」

ゼン-シュう (名) 禪宗 〔禪那ヲ宗トスル故ニ云フ。禪ノ條ヲ併セ見ヨ〕佛教ノ流派、達磨ヲ初祖トシ、我ガ國ニテハ、臨濟宗、曹洞宗、黃檗宗、ノ總稱、其宗ノ本旨ハ、敎外別傳、不立文字、直指人心、見性成佛ナリト。 濟北集、十二「昔、我祖菩提達磨、自南天來、竪言而曰、單傳心印、又曰、直指人心、是禪字之所以爲稱號也、夫禪字、從示從單、是我宗、單傳直示之書也、是以古德、名吾法曰禪宗、蓋我法不立名相、不歷階梯、直示人心、見性成佛、故曰佛心宗、其謂也」 步船鈔、末「佛心宗ト云フハ、達磨大師ノ詞ニ、敎外別傳ニシテ、文字ヲ立テズ、直ニ人心ヲ指シテ、見性成佛スト云ヘル、コレ其宗旨ナリ、敎宗ニハ、不思議ト談ズレドモ、言辭ヲモテ示ス所ハ、不思議ニアラズ、實相ト觀ズレドモ、猶、善惡ノ思量ヲ離レザレバ、悟解ニ適ハズ、佛祖、詞ヲモテ之レヲ解カズ、心ヲモテ心ニ傳フル所ノ源底ヲ明ラムルナリ、サレバ、文字ヲ假リテ、ソノ義ヲ述ブベカラズ、タダ心地ニ修行シテ、己レト得ベキ道ナリ」

せん-じゅ-くゎんおん (名) 千手觀音 (一)六觀音ノ一、其像ノ左右、各、二十臂アルモノ。每臂ニ、二十五有ヲ有シ、四十臂ニテ千手ナリ、斯ク手ノ多キハ、衆生ヲ救フ意ト云フ。地獄道ノ障ヲ破スル菩薩ナリト云フ。 佛像圖彙、二「千手觀音」注「千手、實ニハ、四十臂也、二十五有ニ、各各、四十臂コレアルヲ都合スレバ、千手ナリ、根本印、九眼印、又、大悲觀世音」 遠見、五十三「千手觀音モマヽ、異像、多シ、淸水寺ノ像ハ、四十手ノ外、兩手ニ、一佛ヲ捧グ」 靈異記、下、第十二緣「二目盲男、敬稱千手觀音日摩尼手」 著聞集、六、管絃歌舞「何レノ佛ノ、願ヨリ、千手ノ誓ゾ、タノモシキ」 (二)僧ノ隱語ニ、蛸ヲ云フ。天蓋。(三)蛙、觀音トノミ云フ。 平假名盛衰記(元文、文香堂)三「オラガ親ヨリ、此ノ蓮園ハ、ドウヤラ、ウヂウヂ、千手觀音ハ居ラヌカヤ」

せん-しゅつ (名) 選出 エラビ、イダスコト。「代表者ヲ選出ス」

せん-じゅつ (名) 撰述 作リ、述ブルコト。述作、著作 晉書、孔衍傳「凡所撰述、百餘萬言」

せん-じゅつ (名) 贍卹 メグミ、スクフコト。 南史、梁武帝紀「七貧者、賑卹各有差」

せん-じゅつ (名) 戰術 戰爭ノ技術。軍ノ術。「戰術家」

せん-じゅつ (名) 仙術 仙人ノ行フ方術。仙道。 朱熹詩「不學飛仙術」

せん-しょ (名) 先緖 先人ノ遺緖。祖先ノ遺業。前業。 晉書、夏侯湛傳「維我后府君侯、纂承我家道、不隳我先緖」

せん-しょ (名) 箋書 手紙。書簡。

せん-しょ (名) 饌所 又、ぜぜ。食物ヲ具フル所。具ハレル膳立ヲナス所。 沙石集、五、下、廿一條、連歌「饌所ノ雜仕モ、赤裳ヲゾ着ル」

せん-じょ (名) 蟾蜍 (一)ヒキガヘル。 韓愈詩「[illegible]蟾蜍」 (二)月ノ異稱 淮南子、精神訓「月中有蟾蜍」 後漢書、天文志、注「羿、請不死之藥于西王母、姮娥竊之以奔月、及是爲蟾蜍」

ぜん-しょ (名) 前書 前ニ書シタル文。前文。前記。「前書ノ通リ」

ぜん-しょ (名) 善處 (一)佛教ノ語。ぜんぢゅ(善趣)ニ同ジ。 太平記、十二、公家一統政道事「亡卒、[illegible]ノ所當ナルベシトテ、[illegible]善處云云」 (二)最善ノ方法ヲ以テ、處置スルコト。

ぜん-しょ (名) 膳所 膳部ヲ調フル所。臺所。クリヤ。 [illegible]

[illegible]殿、膳所ト云フハ、無下ノ下劣ノ事也」 吾妻鏡、三十四、仁治[illegible]日同被仰付こ」

せん-しょう (名) 先蹤 先例。前例。前蹤。 平治物語[illegible]

せん-しょう (名) 戰勝 戰爭ニ、勝利ヲ得ルコト。カチイクサ。戰捷。 史記、張儀傳「雖有戰勝之名、而有亡國之實」[illegible]

せん-しょう (名) 僭稱 濫リニ身分ヲ過エテ、上ヲ眞似タル稱號ヲナスコト。僭上ノ稱號。「諸侯自ラ、王ト僭稱ス」

せん-しょう (名) 戰悚 ヲノノキ、恐ルルコト。フルヒ、オソルルコト。 晉書[illegible]

せん-じょう (名) 千乘 千乘ハ、兵車ナリ」 (一)千輛ノ兵車。(支那、周ノ制ニテハ、天子ハ、畿内ノ地、千里四方ヲ領シ、戰時ニハ、兵車萬乘ヲ出シ、諸侯ハ、方百里ヲ領シ、車千乘ヲ出ス。一乘ニハ、甲士三人、步卒七十二人、車士廿五人、[illegible]千乘ノ車、十萬人ノ卒ヲ出スヲ、諸侯ノ[illegible]兵賦トスソ[illegible]) (二)せんじょうのくに(千乘之國)ノ略。 左傳、昭公十五年「若猶有人、豈其以千乘之相、易行樂之音」

せん-じょう (名) [illegible] 十分ニ[illegible]ルコト。[illegible]

せん-じょう (名) [illegible]

[illegible]

せんじょうのくに (名) 千乘之國 車、千輛ヲ出ス國ノ義、千乘ノ條ヲ見ヨ。大諸侯ノ國。[illegible]

せんじょうにち (名) 先勝日 曆ニテ、[illegible]

せん-しょく (名) 染色 [illegible]

せん-しょく (名) [illegible]

せん-じょく (名) [illegible] 又、せんぞく。[illegible]

せん-じょや (名) [illegible]

(膳所ノ條ノ出典ヲ見ヨ)

せん-じる (動) 煎ずル[illegible]

せん-ス [illegible]

せん-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) [illegible]

せん-す・[illegible]

「[illegible]撰・序、豊成・子悔謬ニ」

せん・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［宣］ノブ。宣言ス。宣布ス。書經、皐陶謨篇「日宣三徳」、「職ヲ宣ス」

せん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（自動、左變）［先］先ニナル。サキンズ。源、三十四、上、若菜、上「大臣ニ、せんぜラレテ、妬クオボエ侍ル」榮花物語、廿七、衣珠「月日ヲ過シ侍ルホドニ、せんぜラレ奉リ侍リヌレバ、今ハ、二ノ舞ニテ」

せん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）［撰］撰ビ入ル。エラビ取ル。榮花物語、一、月宴「古今ニ入ラヌ歌ヲ、昔シノモ、今ノモ、せんぜサセ給ヒテ、後ニせんずトテ、後撰集ト云フ名ヲ附ケサセ給ヒテ」

せん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）［煎］煮ル。湯ニ煮出ス。（藥、茶ナドニ）宇治拾遺、三、第十八條「沉、丁子ヲ、濃クせんじテ入レタリ」、「葛根湯ヲ煎ず」、「煎じ茶」

せん-すぢ（名）［千筋］縱ノ織筋ノ、細カキモノ。更ニ細カキヲ、萬筋ト云フ。

せん-すぢ-ぞめ（名）［千筋染］千筋ノ染方。好色一代女（貞享、西鶴）一「妓ノ好キヌル風俗ハ、千筋染ノ黃無垢ノ上ニ、黑羽二重ノ紋附」

せん-すぢ-な（名）［千筋菜］水菜ニ同ジ。

せん-す-ばら（名）［扇子腹］切腹ト、斬罪トノ間ノ刑。扇子ヲ以テ、切腹ノ形ヲナス時、介錯スルモノ。越後記（延寶九年）六、小栗美作切腹「父子共ニ、扇子腹トテ、三方ニ、扇子壹本乘セテ、前ニ置キ、是ヲ取リ、頂ク所ヲ、直ニ首ヲ討ツ、切腹ト、斬罪トノ間ノ成敗ナル由」

せん-す-べ（名）［將爲便］スベキ方便。施スベキ手段。スルスベ。センカタ。允恭紀、元年十二月「不レ知所レ爲」萬葉集、三、二十「將言爲便、將爲便知ラニ」

せんすべ-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［無爲術無詮術］せんかたなし（無爲方）ニ同ジ。

せん-ぞ-まん-ざい（名）［千秋萬歲］（せんぞまざい ト讀ムト云フ）王朝時代、正月四日、紫宸殿ノ御庭ニテ、仕手ハ、大紋、烏帽子、脇ハ、紅ノ兩面ノ小袖、下ニ白無垢ヲ着、小サ刀ヲ帶ビテ、共ニ舞フモノ。まんざい（萬歲）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。漢書、霍光傳「上從容曰、千秋萬歲後傳レ王」後漢書、張綱傳「綱白被レ病、吏人咸爲ニ祠祀一祈レ福、皆言、千秋萬歲、何時復見ニ此君一」唐書、禮樂志「皇帝受ニ羣臣朝賀一云云、臣等謹上ニ千秋萬歲壽一」著聞集、十六、興言利口、第二條「千秋萬歲ヲ持チテ囃サセテ、其侍ヲ舞ハセラレケリ」同、五、和歌「嬉シカルラン、千秋萬歲」云云「亥ハ今夜、明日ハ子日ト、數ヘツツ」壽詞、六段「仕手、鞨鼓ヲ持チ、手ニテ打チ、壽詞ヲ唱フ、一本ノ柱ヨリ、十二本ノ柱トテ、神神ノ名ヲ唱フ、次ニ、德若ニ常磐堅磐ニ御萬歲ト、君ハ榮エマシマス」雅樂ニ、千秋樂、萬歲樂アリ、神樂歌ニ、前張ノ終リノ曲ニ、千歲アリテ、せんざいまんざいト云フ。明月記、貞永、二年正月一日「早參、可レ見ニ千秋萬歲一之由、有ニ仰事一、束帶參上」神樂歌、千歲「千歲也、知仕世乃千歲也、萬歲也、與呂川與乃萬歲也」此歌、神樂ノ終ノ祝言ニ歌ヘレバ、千歲樂、萬歲樂ナドノ曲名トナリ、中古ノ管絃ノトヂメニ、萬歲ト云フ名、多ク見ユ）新猿樂記「千秋萬歲之酒禱」年中行事例記「正月七日、千秋萬歲、參ル、於ニ松ノ御庭一被レ舞レ之」

せん-ずる-ところ（接）［所詮］（詮ノ字ニ就キテハ、其條ヲ見ヨ）理ヲ推シテ、明ムルニ。ツキツメタルニ。センジツメルニ。所詮。宇治拾遺、一、第十五條「正シク、香先生、取リテ、懷ニ引入ツト云フ、大童子ハ又、主コソ盜ミツレト云フ、云云、せんずる所、我モ、人モ、懷ヲ見ント云フ」

せん-すゐ（名）［山水］庭ニ、築山ヲシ、泉

水ヲ掘リ作ルコト。（池ヲ、泉水ト云フハ、山水ヨリ移リタルナルベシ、池ハ、泉ニハ限ラズ）假山水。水石。源、十三、明石「山水ノツラニ、嚴シキ堂ヲ立テ、三昧行ヒ」無名抄「譬ヘバ、山水ヲ作ルニ、松ヲ植ヘベキ所ニハ、岩ヲ立テ、池ヲ掘リ、花ノ咲カスヘキ地ニハ、山ヲ築キ、眺望スルガ如シ」尺素往來「假山水者、云云、枯山水樣、云云」作庭記「池モ無ク、遣水モ無キ所ニ、石ヲ立ツルヲ、枯山水ト名ヅク」下學集、上、天地門「前栽、前水」

せん-すゐ（名）［泉水］（詩經、小雅、小旻之什、四月篇「相ニ彼泉水一、載清載濁」コレハ、清水ナリ）庭ノ池。前條ヲ見ヨ。

せん-すゐ-き（名）［潛水器］潛水夫ガ水中ニクグリ入リテ、作業ヲナス時ニ用キル器械。

せん-すゐ-かん（名）［潛水艦］一種ノ軍艦。魚ノ形ヲナシ、海水中ニ沈ミ行クコトヲ得、水面下、十呎、乃至、二十呎ヲ航行ス。干物竿ホドナル物ノ頭ニ附キタル潛望鏡ト云フ眼鏡ノミ、水上ニ出シテ、海上ヲ見ルサマ、蝸牛ノ目ノ如シ。（但シ、此眼鏡ハ、隱スコトヲ得）敵船ヲ見レバ、艇內ヨリ、魚形水雷ヲ發射シ、又、突然、浮上リテ、大砲ヲ發射ス。潛航艇。潛水艇。潛航水雷艇

ぜん-ぜ（名）［前世］佛教ノ語。マヘノヨ。サキノヨ。（三世ノ條ノ（三）ヲ見ヨ）保元物語、二、左府御最期事「命、存ヘテ、カカル事ヲ見ルモ、前世ノ宿業カ」

せん-せい（名）［先世］亡父。先代。又、祖先。先祖。唐書、王師範傳「吾[illegible]先世、且小子孫不レ忘レ本」

せん-せい（名）［先生］（一）己レニ先ダチ

テ生レシ人。[illegible]父ハ、[illegible]、叔父ハ、[illegible]先生[illegible]、兄、後生[illegible]」（二）學術ニ長ケタル人ノ尊稱。先輩。孟子、告子、下篇「先生將ニ何之一」韓詩外傳「古謂ニ知レ道者一、曰ニ先生一、猶レ言ニ先醒一也」（三）師ヲ、尊ビテ呼ブ語。父、師ヲ呼ビカクル代名詞トモス。管子、弟子職篇「先生施レ教、弟子是則」（四）人ヲ呼ブ敬稱。史記、平原君傳「毛先生、以ニ三寸之舌一、彊ニ於百萬之師一」（五）父兄ヲ呼ブ稱。論語、爲政篇「有ニ酒食一、先生饌」

せん-せい（名）［先聖］先代ノ聖人。特ニ、孔子ノ稱。班固、幽通賦「[illegible]先聖之大猷一兮、亦鄰レ德而助レ信」「先聖先師」

せん-せい（名）［專制擅制］（一）專斷ニテ、事ヲ定ムルコト。左傳、昭公十九年「寡君之二三臣、其卽世者、晉大夫而專ニ制其位一、是晉之縣鄙也」（二）政體ニ、君主ノ思ヒノママニ、政ヲ行フモノ。（立憲、共和、ナドト別ツ）

せん-せい（名）［專政］（一）マツリゴトヲ、專ラニスルコト。一人ニテ、政事ヲワガ儘ニスルコト。陳琳、爲ニ袁紹一檄ニ豫州一文「及ニ臻呂后季年一、產祿專レ政、內兼ニ二軍一、外統ニ梁趙一」（二）專制ノ政治。

せん-せい（名）［專勢］勢力ヲ、專ラニスルコト。晉書、庾亮傳「[illegible]（郭[illegible]）、後爲ニ大傅主簿一、任レ事專レ勢」

せん-せい（名）［專精］精神ヲ、一事ニ專ラニスルコト。韓愈詩「人皆[illegible]造次一、我獨賞ニ專精一」

せん-せい（名）［宣誓］チカヒヲ、ノブルコト。チカフコト。「法廷ニテ、宣誓ヲナス」

せん-せい（名）［宣制］（制ハ、みことのりト訓ズ、詔命ヲ宣リ讀ム義）宣命ノ一段落ニテ、諸聞しめさと宣るト云フ所。（昔ハ、宣命ト云フモ、宣リ讀ム態ヲ

云フ、中古以來ハ、其文ヲ指シテ宣命ト云フガ故ニ、讀ム態ヲ、宣制ト稱シテ、コレヲ分テリ) [illegible]「宣制退下」

せん-せい (名) 粘臍 粘臍 油揚ノ餅。倭名抄、十六飯餅類「粘臍、油餅名也」 公事根源、上「粘臍、餺飥、餛飩、桂心ナドノヤウノ物ナリ」

せん-せい (名) 蟬聲 セミノ鳴聲。蟬語。李嶠詩「千峰鳥路含梅雨、五月蟬聲送麥秋」

せん-ぜい (名) 蟬蛻 (一)セミノヌケガラ。蟬脫。淮南子、精神訓「若此人者、云云、蟬蛻蛇解、遊於太清」 後漢書、馮衍傳「蟬蛻」注「說文曰、蛻、蟬蛇所解皮也」 (二)超然トシテ、世ヲ離レ出ヅルコト。史記、屈原傳「濯淖汙泥之中、蟬蛻於濁穢、以浮游塵埃之外」

ぜん-せい (名) 前世 (一)マヘノヨ。イニシヘ。前代。後漢書、周黨傳「昔在前世、求賢如渴、封墳表閭、以光賢哲」 詩經、大雅、抑篇、序 [illegible] (二)佛教ノ語。ぜんぜ(前世)ニ同ジ。

ぜん-せい (名) 善政 正シク、善キ政治。惡政ニ對ス。孟子、盡心、上篇「善政不如善教之得民也、云云、善政得民財、善教得民心」

ぜん-せい (名) 善逝 [梵語、須伽陀(Sugata.)ノ譯語] (一)佛教ノ語。俗人ノ諸惑ヲ斷ジ、世間ヲ出デ、佛果ニ趣クモノノ稱。卽チ、諸佛十號ノ一。瑜伽論「上昇最極、永不退還、故名善逝」 [illegible] (二)藥師如來ノ異稱。太平記、十八、比叡山開闢事「東ニ [illegible] 善逝、忽ニトシテ、來リ給ヘリ」

ぜん-せい (名) 全盛 マッサカリ。極メテ盛ンナルコト。榮華ノ極マレルコト。

[illegible]

せん-せいりょく (名) 潜勢力 ヒソミ隱レテ、表ニ現ハレザル勢力。

せん-せう (名) 鮮少 スクナキコト。[illegible]

ぜん-せう (名) 全燒 マルヤケ。全ク、燒ケ失セタルコト。半燒ナドニ對ス。

ぜん-せう (名) 前哨 軍隊ノ、前方ノ哨兵。步兵ニ、若干ノ騎兵ヲ混ジテ行ハシム。

ぜん-せうせい (名) 前照星 銃砲ニテ、照準ヲ定ムル所ノ裝置。

ぜん-せかい (名) 前世界 現在ノ世界ノ未ダ成立セザル、以前ノ世界。「前世界ノ動物ノ骨骼」

せん-せき (名) 泉石 (一)いづみト、岩石ト。(二)泉水ト、庭石ト。劉孝綽、侍宴集賢堂詩 [illegible] 泉石膏肓トハ、山水ヲ愛スルノ、痼疾ノ治シ難キガ如クナルヲ云フ。煙霞痼疾 唐書、田遊巖傳「臣所謂泉石膏肓、煙霞痼疾者也」

せん-せき (名) 仙籍 (一)仙人ノ名簿。(二)日給ノ簡。(三)昇殿ヲ許スコト。平家物語、一、祇園精舍事「殿上ノ仙籍ヲバ、未許サレズ」 (四)くらうどのとう(藏人頭)ノ唐名。拾芥抄、中、本「藏人」注「貫首、頭、仙籍」

せん-せつ (名) 僭竊 身分ヲ越エテ、妄リニ位ヲ竊ムコト。[illegible]

せん-せつ (名) 剪截 ハサミ、キルコト。

[illegible]

せん-せつ (名) 纎屑 細カク、僅カナルコト。[illegible]

ゼン-セツ (名) 禪刹 佛寺。寺院。特ニ、禪寺ノ稱。[illegible]

せん-せふ (名) 戰捷 軍ニ、捷ツコト。カチイクサ。戰勝。[illegible]「亮在南中、所在戰捷」

せん-せん (名) 宣戰 敵國ニ對シテ、交戰スルコトノ宣言。「宣戰ヲ布告ス」

せん-せん (名) 戰線 戰鬪地域ノ延長。交戰ノ區域。[illegible]

せん-せん (名) 先占 人ニ先ニシテ、占有スルコト。民法上ニテハ、[illegible]、古領シ、[illegible]ヲ以テ、占有スルコト。國際上ニテハ、平時ニ、[illegible]

せん-せん (副) 閃閃 (一)物ノ、ヒラメク狀ヲ云フ語。[illegible]

せん-せん (副) 潺湲 (一)淺キ水ノ、サザラギ流ルル狀、又、其聲ニ云フ語。[illegible]

せん-せん (副) [illegible] (一)カボソキ狀ニ [illegible]

せん-せん (副) [illegible] 草木ナド [illegible]

せん-せん (副) [illegible] (一)心ノ、淺薄ナル狀、又、諂ヒ、佞ル狀ヲ云フ語。[illegible] (二)風ノ、颯颯トシテ、吹ク狀ヲ云フ語。[illegible]

せん-せん (副) 戰戰 恐レ、ヲノノク狀、又、恐レ愼ム狀ヲ云フ語。[illegible]

せん-せん (副) [illegible]

ぜん-ぜん (名) 先前 マヘマヘ。マヘカタ。最前。

ぜん-せん (名) 善戰 戰ツ、善クスルコト。[illegible]

ぜん-ぜん (副) 不然 マッタク。マルデ。[illegible]

ぜん-ぜん (副) 前前 サキザキ。マヘマヘ。[illegible]

ぜん-ぜん (副) 漸漸 (一)ヤウヤクニ。[illegible] (二)岩石ノ、險シキ狀ヲ云フ語。[illegible]

ぜん-ぜん (副) 冉冉 [illegible] (一)[illegible]ト、

垂レ下ガル狀ニ云フ語。 溫庭筠詩「青簪金[illegible]目目」 (二)次第ニ、進ミ行ク狀ニ云フ語。 吳質文「日月目目、識不レ與レ我」

せんせんきょうきょう (副) 戰戰兢兢 〔戰競ノ疊語〕 恐レ、愼ム狀ヲ云フ語。オッカナ、ビックリ。 詩經、小雅、小旻之什、小旻篇「戰戰兢兢、如臨深淵、如履薄冰」 持統紀、三年九月「戰戰兢兢、修二其職任一、奉二遵法度一」

せんせんげつ (名) 先先月 一月隔テテ、前ノ月。先月ノ先月。アトアトゲツ。前前月

ぜんぜんげつ (名) 前前月 前條ノ語ニ同ジ。

せんぜんのせん (名) 先先先 棊ヲ打ツニ云フ語。三番ノ中ニ、一方ハ、二番、先手ニテ打チ、一方ハ、一番、先手ニテ打ツコト。

せんせんりつりつ (副) 戰戰慄慄 〔戰慄ノ疊語〕 せんりつ(戰慄)ニ同ジ。 淮南子、人間訓「戰戰慄慄、日愼二一日一、人莫レ躓二於山一、而躓二於垤一」

せんそ (名) 踐祚 〔說文「踐、履也」祚ハ、國語、註「祚、位也」祚、又、阼ニ作リ、堂ノ階ナリ、階ヲ踐ミ上リタマフ意、寶位ノ義〕 祚ヲフムコト。そくゐ(即位)ノ條ヲ見ヨ。 禮記、文王世子篇「成王幼不レ能レ涖レ阼、周公相踐レ阼而治」 崇神紀、六十五年七月「天皇踐祚六十八年冬十二月壬子、崩」 踐祚部類抄、宇多天皇「仁和三年八月廿六日踐祚、[illegible]新主宮[illegible]殿、[illegible]仁壽殿」 平家物語、一、額打論事「[illegible]院五歲、近衛院三歲ニテ踐祚アリ」 匡遠記、觀應三年六月廿五日「踐祚、後光嚴事、又、今度可レ有二御沙汰一云云、代代踐祚儀一卷、被レ進二洞院殿一畢」

せんぞ (名) 先祖 トホツオヤ。家系ノ、初代ノ人。鼻祖。祖先。元祖。始祖。 詩經、小雅、小旻之什、四月篇「先祖匪レ人、胡寧忍レ予」 史記、殷紀「昔、高后成湯、與二爾之先祖一、俱定二天下一」 源、三十四、上、若菜、上九十「カノ先祖ノ大臣ハ」 榮花物語、十五、疑「我ガせんぞヨリ始メ、親シキ、疎キ、ワカズ」 宇津保物語、藏開、上廿六「此藏、先祖ノ御靈、開カセタマヘト祈リ給フ」

ゼンソウ (名) 禪僧 禪宗ノ僧。又、禪學ヲ修メ、坐禪ヲ行フ僧。 劉禹錫詩「禪僧勸レ讀二傳燈錄一、道士敎行二進火功一」 太平記、廿五、宮方怨靈事「往來ノ禪僧、嵯峨ヨリ京ヘカヘリケル」

せんそうみどきょう (名) 千僧御讀經 千人ノ僧ヲ集メテ、讀經セシムル法會。千僧讀經。 禁祕御抄、下「千僧御讀經、天變地妖、御惱之時、最行レ之、通二萬事一第一御祈也」

せんそく (名) 洗足 泥ナドニ汚レタル足ヲ、洗フコト。又、其湯水。 史記、酈生傳「沛公方倨レ床、使二兩女子洗一レ足」「洗足ヲ取ル」

せんそく (名) 跣足 ハダシ。スアシ。 吳越春秋「子胥之レ吳、云云、跣足塗面、行二乞于市一」

せんぞく (名) 氈褥 せんぢょく(氈褥)ニ同ジ。 枕草子、五、五十段「蓐、サシ出ダシタルヲ、常ヨリモ遠ク推シヤリテ居タレバ、彼レハ、誰ガ料ゾト云ヘバ、笑ヒテ、カカル雨ニ昇リ侍ラバ、足形着キテ、イト不便ニ、穢ケニナリ侍リナント云ヘバ、ナド、せんぞく料ニコソハナラメト云フ」 春曙抄「せんぢょくヲ、せんぞくト云ヒテ、足ノヨゴレシ事ヲ云フニ附ケテ、洗足料ニコソナラメト、秀句ニ云ヒシ也」

せんぞく (名) 專屬 モッパラ、ソレニ屬クコト。ツキキリ。「專屬ノ教師」「專屬俳優」

ぜんそく (名) 喘息 (一)アヘグコト。 杜甫詩「喘息餐二妙氣一、步履吟二風聲一」 (二)氣管支、氣胞、ノ筋纖維ニ、痙攣ヲ起ス病。呼吸、迫リテ、咳ニ伴ヒ、痰ヲ吐ク。「持病ノ喘息、發ス」

せんぞくぞうり (名) 千束草履 藁草履ノ、極メテ粗製ナルモノ。

せんぞくバチ (名) 洗足鉢 洗足盥トモ云フ。(仙臺ニテ、安房)

せんだ (名) 蚺蛇 にしきへびノ條ヲ見ヨ。 南越志「蚺蛇有二牙五六寸者一、土人重レ之」

せんたい (名) 千態 種種ノ形態。千狀。 李漢、昌黎文集序「周情孔思、千態萬貌」

せんたい (名) 蘚苔 地上、樹石、等ニ生ズル、綠色ノ隱花植物。コケ。 孟郊詩「古衣如二蘚苔一」

せんたい (名) 銓汰 人材ノ良否ヲ量リテ、淘汰スルコト。 唐書、李迥秀傳「領二選銓一汰、文武號稱レ職」

せんだい (名) 先帝 せんてい(先帝)ニ同ジ。 源、一、桐壺四「先帝ノ四ノ宮ノ、御形勝レ給ヘル聞エ、高クオハシマス」「內侍ノスケハ、先帝ノ御時ノ人ニテ」

せんだい (名) 先代 今代ノ前ノ代。前代。又、其代ノ人。 禮記、文王世子篇「凡學、春、官釋二奠于其先師一」疏「釋二奠于先代明書之師一」 左傳、僖公廿四年「宋、先代之後也」

せんだい (名) 仙臺 仙人ノ住居スル臺。支那、長安ノ西山ニ在リト。 三體詩、七言律詩、韓翃、同題二仙遊觀一「仙臺初見五城樓、風物淒淒宿雨收」注「仙臺、在二長安西山一、漢文帝作、十洲記云、崑崙山有二五城十二樓一、黃帝効レ之而作」

センダイ (名) 闡提 〔梵語、Icchāntika.（一闡提）ノ略、極惡ト譯ス〕 佛經ノ語、因果ノ理法ヲ信ゼズシテ、一切ノ善根ヲ斷チタル者。信不具。又、成佛ノ性ナキモノ。 大日經、疏「一闡提必死之疾」 盛衰記、三十九、重衡請二法然坊一事「上ヲ九品ニ分テ、破戒、闡提、コレヲ嫌事ナク、行ヲ六字ニツヅメテ、愚鈍、暗鈍モ、唱ヘラルルニ便アリ」

ぜんたい (名) 全隊 部隊ノ全體。 宋史、兵志「數、馬射、其法、全隊[illegible]馬、番重行[illegible]之字、遶[illegible]、矢、可二進出一」「全隊、進メ」

ぜんたい (名) 全體 (一)總身。全身。 (二)全般。殘ラズナルコト。 朱熹、答二程允夫一書「識字、以二心之全體一而言」

ぜんたい (副) 全體 元ヨリ。モトモト。元來。「一體全體」

ぜんだい (名) 前代 〔今代、現代、ナドニ對ス〕 (一)前ノ代。 (二)先代。 書經、周官篇「仰二惟前代一時若、訓二迪厥官一」

せんだいじょうるり (名) 仙臺淨瑠璃 おくじょうるり(奧淨瑠璃)ノ一稱。其條ヲ見ヨ。 嬉遊笑覽、十二「江戶、馬喰町、繪草子屋、西村屋與八郎ガ許ニ、阿彌陀ノ胸割、キリカネ曾我、熊谷、ノ類ノ古キ淨瑠璃六十種、元祿、寶永ノ頃、再刻シタルスリ板、傳ハリ居リ、今ニ至ルマデ、毎春、本ニ仕立テテ、奧州ヘ下ス故、仙臺淨瑠璃ト稱ヘ、又ハ、正本ト云フ、彼地ニハ、今モ、コレラノ淨瑠璃ヲ語ル者アリ、三味線ハナク、扇ニテ拍子ヲ取ルノミナリトゾ」 浮世風呂(文化、三馬)初編、下「二人ノ盲人、風呂ノ中ニテ、せんだい淨瑠璃ヲ語ル」

せんだいはぎ (名) 千代萩 草ノ名。多年生ニテ、葉ノ形、ゑんじゅニ似テ、高サ二三尺、夏、莖ノ梢ニ、黃ナル花ヲ開ク、豆ノ花ニ似タリ、莢、圓クシテ、長サ一寸許、內ニ、子、滿ツ、豌豆ノ如クニシテ、稍、小サシ、熟スレバ、莢、枯ル、春、子ヲ下ス、生ジ易シ。望江南

せんだいひら (名) 仙臺平 陸前、仙臺ニ產スル精好織ノ稱。正德元年、藩主、吉村、京都ノ織匠、小松彌右衞門ヲ召下シテ、織出シ、徒弟ヲ養成ス。初、彌右衞門織、同地ニテハ、精好織ト云フ。袴地

トシテ、最上品ト賞セラル。其光澤、他ノ、擬スル能ハズト。

せんたい-ブツ (名) 千體佛 千體ノ佛像。

せんだい-まい (名) 仙臺米 陸前、陸中ノ、舊仙臺領ニ産ズル米ノ稱。上品ニハアラネド、産出、殊ニ多クシテ、多ク、東京ニ來ルガ故ニ、米市場ニ、本穀(ホンコク)ノ名ヲ專ラニス。

せんだい-ミソ (名) 仙臺味噌 往時、仙臺藩ニテ、藩地、及、江戸ニテ、醸造シテ、家中ノ者ニ給與セシ味噌。製、常ノ味噌ノ如クナレド、精製ノ鹽四分、麴六分ヲ加ヘ、三十日ヲカケテ、三年目ニ出ス、極メテ、美味ナリキ。今モ、其製ヲ傳フルアリ。

せんだい-みち (名) 仙臺道 (一)小道(コミチ)。六町一里ノ稱。今モ、陸前ノ黑川郡以北ノ舊仙臺領ニテハ、大道(オホミチ)一里ヲ六里ト數ヘ稱ス。(二)相撲ノ仲間ニ、一ヲ、十ト云フコト。

ぜんだい-み-もん (句) 前代未聞 前(マヘ)ノ世(ヨ)ニ、未ダ聞カズ。前古未曾有。平治物語、一、光賴卿參内事「我ガ場ニテ、未ダカクノ如キ先例ヲ聞カズ、前代未聞ノ不思議カナ」

せん-たう(セントウ) (名) 錢湯 市中ノ、浴場(フロヤ)ノ、錢ヲ取リテ、諸人ニ浴(ユアミ)セサスルモノ。湯屋。風呂屋。湯堂 大イナル湯槽ニテ、同浴スルヲ、いりおみト云フ。後ニハ專ラ、男女同浴セシムルヲ、いりおみト云フ。今ハ、無シ。混堂 (此湯風呂ノ外ニ蒸風呂、水風呂アリ) そぞろ物語(寛永、三五慶長草)「天正十九年、江戸、錢瓶橋ニ、せんたう風呂

ヲ一ツ、立ツル、風呂錢ハ、永樂一錢ナリ」武重[illegible]書、九「前田慶次(上杉景勝ノ臣)錢湯ノ風呂ニ入リ、下帶ニ、一尺許ノ脇差ヲ刺シテ入ル、いりおみノ輩、スハヤ曲者ヨ、云云、皆、脇差ヲ刺シテ入ル」[illegible]笑、二(元和、安樂庵策傳)「アル僧、小者ヲ一人連レテ、錢湯ニ行キ、帶解キ、フタメキテ、頭巾カヅキナガラ、風呂ニ入リヌ」

せん-たう(セントウ) (名) 剪刀 ハサミ。賀知章、柳詩「不知細葉誰裁出、二月春風似剪刀」

せん-たう(セントウ) (名) 專當 (一)專ラ、其事務ニ當ルコト。吾妻鏡、廿四、建保七年正月廿七日「今有將軍之闕、善哉當東閣之長、早可週 計議之由、被示合」(二)僧ノ、卑シキモノ、驅使ニ供セラル。宇治拾遺、三、第十三條「ソノ寺ノ專當法師、コレヲ見テ、善心(ゼンシン)ヲ起シテ」平家物語、一、御輿振事「大衆、神人、宮仕、專當」

せん-だう(センドウ) (名) 山道 かいだう(海道)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。陸奥ノ白河郡ヨリ、伊達郡ニ至ルヲ山道七郡ト云フ類。吾妻鏡、十、文治六年正月八日、依奥州叛逆事、被分遣軍兵、海道大將軍、千葉介常胤、山道、比企藤四郎能員也」「中山道(ナカ)」

せん-だう(センドウ) (名) 仙道 仙人ノミチ。仙術。陸龜蒙、和、懷華陽潤卿博士、詩「仙道最[illegible]」

せん-だう(センドウ) (名) 先導 シルベ。サキダチ。案内。宋史、[illegible]

ぜん-だう(ゼンドウ) (名) 善道 (一)善ノみち。[illegible]

ぜん-だう(ゼンドウ) (名) 善導 ヨク敎ヘ導(ミチビ)クコ[illegible]

ト。[illegible]ハ、導ニ同ジ)「思想善導」

せん-たく (名) 洗濯 身、ハ、衣ヲ、洗[illegible]ヒススグコト。[illegible]

せん-たく (名) 選擇 二ツ以上ノモノニ就キテ、善シトスル方ヲ取ルコト。エラブコト。[illegible]

せん-たく (名) 遷謫 官職ヲ貶[illegible]、遠郡ノ地ニ追放スルコト。[illegible]

ぜん-だく (名) 然諾 ウケガフコト。ヒキウクルコト。承諾。史記、[illegible]

せん-だち (名) 先達 次條ノ(二)ニ同ジ。字類抄「先達、センダチ」七十一番職人盡歌合(文安、六十一番、山伏)[illegible]レヤセン、坂ノ日ニツク、何ノ下カナ」徒然草、五十二段「少シノ事ニモ、先達ハ有ラマホシキコトナリ」[illegible]ウズルニテ候フ、サラバ、飲ベ候フベシ、トテモノ事ニ、先達、一サシ御舞ヒ候ヘ」

せん-だつ (名) 先達 (一)[illegible]

せん-だつ (名) 蟬脫 せんぜい(蟬蛻)ニ同ジ。

せん-だって (副) [illegible] さきだってニ同ジ。

せん-だ-づみ(センダヅミ) (名) 千駄積 [illegible]ノ千駄ケ谷、千駄木ナドモ、薪ヲ積ミ上ゲタル所ナルベシ」何ニモアレ、多ク積ミ上ゲタル、後ノ、高荷ノ如キモノ。

せん-だつ-み-の-ざ(センダツミノザ) (名) [illegible]

ぜん-だて (名) 膳立 [illegible]

せん-だな (名) 膳棚 [illegible]

せん-だ-びつ (名) 千駄櫃 [illegible]

せん-たふ(セントウ) (名) 尖塔 先端ノ尖リタル[illegible]タル高大ノ塔。

セン-たふ [illegible]

ぜん-だま (名) [illegible]

[illegible]記ス、後ニ、劇場ニテモ演ズ、又、清元節ノ三社祭ニモ出ヅ。

せんだ-まき (名) 千段卷_千朶卷 せんだんまきノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

せん-たん (名) 尖端 (一)トガリタル、ヘシ。先端ノ、トガリテアルコト。尖頭。(二)〔英語、Top. ノ譯語〕サキガケ。ハジメ。サキ走リ。「時代ノ尖端ヲ行ク」

せん-たん (名) 戰端 戰爭ノ端緒(イトグチ)。「戰端ヲ開ク」

せん-たん (名) 仙丹 せんやく(仙藥)ニ同ジ。 [illegible]、傳先生入、焦山、云云、遇得仙丹一丹、天」江淹、[illegible]「[illegible]仙丹」

センダン (名) 栴檀 〔梵語、Candana. 具ニハ、栴檀那、眞那婆。與樂ト譯ス〕(一)〔佛經ニ、南天竺ニ生ズル香木ノ名。能ク、病傷ヲ治スト云フ。赤キヲ、牛頭(ゴヅ)栴檀、(牛頭山ニ生ズ)又、赤栴檀(シャク)ト云ヒ、上トシ、黑キヲ、紫檀ト云ヒ、白キヲ、白檀(ビャクダン)ト云フトゾ。 [illegible]云[illegible]、白檀[illegible]、此[illegible]是[illegible]、本草綱目「[illegible]栴檀」倭名抄、廿、木類「栴檀、俗云、善短」名義抄「栴檀、セムタム」 天智紀、十年十月「栴檀香」 栴檀は二葉より馨しトハ、英雄ハ、幼ヨリ、非凡ノ氣アリト云フ義。 觀佛三昧經「栴檀根芽、[illegible]」 平家物語、一、殿下乘合事「栴檀は二葉より香しトコソ見エタレ、既ニ、十二三ニナランズル者ガ、今ハ、禮儀ヲ存知シテコソ振舞(フルマ)フベキニ、[illegible]入道ノ孫ノ名ヲ立ツ、不幸ノ至リ」(二)栴檀板(センダンノイタ)ノ略。 保元[illegible]、白河殿攻落事「[illegible]、梅檀、[illegible]カ」(三)棟(アフチ)ノ(一)ノ異名。せんだんのきノ略。各條ヲ見ヨ。

せん-だん (名) 專斷_擅斷 (一)一人、專ラニ、決斷スルコト。自分ギメ。獨斷。[illegible]」(二)ホシイママニ、取計ラフコト。 史記、[illegible]」

せんだん-かう (名) 千團講_栴檀講 近江國、三井寺ニテ、四月十六日ニ執行スル法會。團子、一千箇ヲ作リテ、持參シ、鬼子母神ニ供ヘテ、子供ノ健康ヲ祈ルトゾ。 東海道名所記(萬治)「四月十六日、三井寺ニ、せんだん講ト云フ事アリ、ソレヲ俗ニ、千團子ト云ヒナラハシ、團子一千ヲ造リテ持テ參レバ、子供ノ首固シトカヤ申傳ヘシ」

センダン-の-いた (名) 栴檀板 鎧ノ具、右ノ肩ヨリ胴ニカケテ着クル物。左ニ在ルヲ、鳩尾(ハトヲ)(又、きうび)ト云フ。共ニ、胴ノ釣(ツリ)ヲ切ラルルヲ防グ物ト云フ。

センダン-の-き (名) 栴檀樹 〔或ハ云フ、千段ノ木ノ義ニテ、此樹皮ノ灰汁ニテ、織ヲ練リテ織トスルニ、一時ニ、千段ヲ染ムベケレバ云フトゾ〕 略シテ、せんだん。あふち(ナウ)ノ(一)ニ同ジ。 棟 重修本草綱目啓蒙、廿四、喬木「棟、アフチ(古名)、クモミグサ(古歌)、せんだんのき」 東雅、十六、樹竹「棟、倭名抄ニ、下篇ヲ引テ、其子可以浣衣者也、和名本草ニ、あふちト云フト、注シタリ、あふちノ義、不詳、棟ハ、卽、苦棟、其子ハ、金鈴子ト云フ、俗ニ、せんだんト云フ、是也、近俗、樗ノ字、讀テ、あふちト云フハ、此物ヲ云ヒシナルベシ(俗ニ、せんだんト云、義、不詳、又、栴檀ヲモ、俗ニ呼ビテ、せんだんト云フ、コレモ、一物ニシテ、一名ナル也)」

せんだん-まき (名) 千段卷 (一)繁籐(シゲドウ)ノ弓ノ、本筈(モトハズ)、末筈(ウラハズ)ノ處ニ、籐ヲ、更ニ、斜ニ、十文字ニ、卷キタルモノ。略シテ、せんだまき。 大的體拜記「一、射手方文字、千檀卷(センダンマキ)、千朶卷」 今川大雙紙「一、隨兵軍陣ノ弓ヲバ、下地ヲ黑[illegible]ニシテ、千だん卷ヲ[illegible]、其上ニ、[illegible]使フベシ」 射御拾遺抄「隨兵軍陣ナドノ弓ハ、下地、黑ク塗テ、せんだ卷ヲスベシ、せんだ卷ト云事ハ、蛇ノ體ヲ表スル也、其上ニ、[illegible]ヲ使フ」 弓法私書「弓ノせんだ卷ノ事、籐ヘ様ハ、下ヲ繁ク、[illegible]五歩バカリオキテ、糸ニテ卷テ、其上ヲ漆ニテ塗リコメタルヲ、せんだ卷ト申也」(二)刀、槍ニテハ、柄ヲ、悉ク、籐ニ卷ケルモノ。細ソク籐ニ卷キテ、漆ニテ塗ル〕 瓦礫雜考、二「按ズルニ、今ノ刀劍ノ室(サヤ)ニ、せんだんト云フハ、モト、鞘卷ト云ヘリ」

センダラ (名) 旃陀羅 〔梵語、Candala. 屠者ト譯ス〕天竺ノ四姓ノ外ニアリテ、屠殺ヲ業トシタル賤民。男ヲ旃陀羅、女ヲ旃陀利ト云フ。 翻譯名義集、二「旃陀羅、此云、嚴熾、云云、法顯傳云、名爲惡人、與人別居、入城市則擊竹自異、人則避之」

せん-ち (名) 淺智 アサハカナル智慧。 何遜詩「淺智良已矣、令名安可希」「短才淺智」

せん-ち (名) 戰地 せんぢやう(戰場)ニ同ジ。 孫子、虛實篇「先處戰地、而待敵者佚」「戰地ヨリ還ル」

せん-ち (名) 雪隱 〔せっちんノ略轉〕 せっちんニ同ジ。(大阪地方)

ぜん-ち (名) 全治 病ノ、全ク癒エタルコト。全快。全癒。「宿痾、全治ス」

ぜん-ち (名) 全智 十全ノ智慧。スベテニ通達セザル所ナキ智。「全智全能ノ神(ゴッド)」

ぜん-ち (名) 前知 事件ノ起ラヌ前ヨリ、覺リ知ルコト。前カラ、知ッテヲルコト。豫知。 中庸、廿四章「至誠之道、可以前知」

ぜん-ち (名) 前置 前ノ方ニ、オクコト。後ノ方ニ置クヲ、後置(コウチ)ト云フ。「前置詞」

センチ-グラム (名) 甅 〔英語、Centigramme. 甅ノ字ハ、瓦厘(グラムリン)ノ合字〕一ぐらむノ百分ノ一。さんちぐらむノ條ヲ併セ見ヨ。

ぜんち-し (名) 前置詞 〔英語、Preposition. ノ譯語〕 西洋文法ノ語。名詞、又ハ、代名詞ノ類ガ、他ノ詞ニ對スル關係ヲアラハス詞。普通ハ、名詞、代名詞ノ類ノ前ニ在ルヲ以テ、此名アリ。コレニ對シテ、後置詞(コウチ)(英語、Postposition.)ト云フハ、目的語(名詞、代名詞)ノ後ニ在ルモノナリ。(我ガ國語ニハ、ナシ)

ぜん-ちしき (名) 善知識 佛敎ニ、能ク人ヲシテ、善法ニ入ラシムルコト。卽チ、高德敎化ノ僧ノ稱。 法華經、提婆品「由提婆達多善知識、故」 因果經「値善知識、發菩提心」 [illegible]摩訶般若[illegible]、無作、無相、無生、無滅法、及一切種智、令人心入歡喜信樂、是名善知識」 榮花物語、十八、玉臺「或ハ、最後ノ十念ニヨリ、或ハ、終リノ時、善知識ニ逢ヒ、或ハ、乘急ノ人、或ハ、戒急ノモノ」

ぜんち-てう (名) 善知鳥 うとう(善知鳥)ノ條ヲ見ヨ。

せん-ぢん (名) 先陣 (一)サキゾナヘ。先手(サキテ)。先鋒。後陣(ゴヂン)ニ對ス。 保元物語、二、義朝白河殿夜討事「官軍既ニ寄セ候ト申シモ果テネバ、先陣既ニ、馳セ來タル」(二)サキガケ。先登。 平家物語、九、宇治川事「佐佐木、鐙踏張リ、立チ上リ、大音聲ヲ揚ケテ、宇多天皇ニ九代ノ後胤、近江國ノ住人、佐佐木三郎義秀ガ四男、佐佐木四郎高綱、宇治川ノ先陣ゾヤトゾ名乘ッタル」 盛衰記、十五、宇治合戰事「唯今、宇治川ノ先陣渡セルハ、昔、朱雀院御宇、承平ニ、將門ヲ討チ、勸賞ニ預カリシ、云云、俵藤太秀鄕ガ五代ノ苗裔、足利太郎俊綱ガ子ニ、又太郎忠綱」(三)さきおし(先驅)ニ同ジ。 盛衰記、五、澄憲賜血脈事「祐慶、ヤガテ先陣ヲ仕ル、云云、仙性ト云フ者、後陣ヲ舁キ、云云、祐慶ガ先

…陣ハ、初ヨリ、云云、東木草尾、昇キ越シテ」

せんぢん（センヂン）（名）［戰陣］（一）合戰ノ陣列（二）戰ノ手技。戰法。史記、[illegible]、[illegible]、[illegible]、陣ヲ[illegible]ニ」

せんぢん（センジン）（名）［纖塵］ 微細ナルちり。微塵。駱賓王詩「宮闕遠塵[illegible]、山河[illegible]纖塵」

センチ-メエトル（名）［糎］〔英語、Centimetre.〕糎ノ字ハ、米（メエトル）厘ノ合字〕一めえとるノ百分ノ一。さんちめえとるノ條ヲ併セ見ヨ。

センチメンタル（名）〔英語、Sentimental.〕感情的。感傷的。主情的。

せんちゃ（名）［煎茶］ 葉茶ヲ湯ニ煎出（ニダ）シテ、其汁ヲ飲ムモノ。又、葉茶ニ、熱湯ヲ注ギテ、其味ヲ出スニモ云フ。全唐詩[illegible]「[illegible]煎茶法」類聚國史、三十一、弘仁六年四月[illegible]「幸近江國滋賀韓崎、便過崇福寺、[illegible]、大僧都永忠、手自煎茶奉御」江家次第、五、二月、季御讀經「上卿一人著南殿」同[illegible]、天喜四年、三ヶ日每夕堂ノ侍臣[illegible]煎茶」 木石[illegible]煎茶談、下「今日ノ茶ハ、[illegible]茶、[illegible]茶ノ二ツニテ、[illegible]ニ、ナベテ、[illegible]茶ト唱フル、當ラヌヤウナレド、矢張、煎茶ト稱シテ、苦シカラヌ也」

せんちゃう（センチヤウ）（名）［先長］ 年ウヘノ目ウヘノ人。盛衰記、三十六、義經赴鵯越事「斯樣ノ事ハ、先（セン）長（チヤウ）ノ甲スベキ事ニ候、[illegible]、[illegible]ルコト、其遮レ侍レドモ」

せんちゃう（センヂヤウ）（名）［船長］ 船ノ長。船頭。[illegible]「[illegible]、[illegible]、[illegible]人、船長也」

せんぢゃう（センヂヤウ）（名）［戰場］ 戰ノアル所。イクサバ。イクサノニハ。戰地。合戰場。[illegible]、[illegible]、[illegible]、七、文治三年十月二日「義忠、弃二命於石橋戰場一」

ゼンぢゃう（ゼンヂヤウ）（名）［禪定］〔禪ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕（一）佛敎ニ、心ヲ一境ニ定止シテ、散亂セシメザルコト。換言スレバ、一心ニ物ヲ考フルコトガ禪ニテ、一境ニ念ヲ靜ムルコトガ定ナリ。即チ、入定三昧ノ稱。法華經、安樂行品「深入禪定」[illegible]「[illegible]禪定[illegible]是、淸淨心也」 盛衰記、十九、文覺頼朝對面事「或ル時ハ、柔和神妙ニシテ、禪定ニ入ルガ如ク也」（二）駿河ノ富士山、加賀ノ白山、越中ノ立山、等ニ、信者ノ、登リテ、修行スルコト。[illegible]、ぜんぢゃう「世ニ富士禪定、立山禪定ナド云フハ、高山ニ登リ、世間ヲ離ルルヲモテ、禪定三昧ニ入ノ意ニ心得タルナルベシ」（三）〔ぜっちゃうノ訛音ナラムト云フ（和訓栞）〕山ノ絶頂。義經記、七、あらち山事「此山ノぜんちゃうニテ、[illegible]、[illegible]ノ氣、[illegible]ケル」

ゼンぢゃう（ゼンヂヤウ）（名）［禪杖］ 坐禪ノ時、睡眠者ヲ[illegible]ムル具。下文ヲ見ヨ。[illegible]「[illegible]杖、以竹葦為之、用物包二一頭一、令下座禪行人坐[illegible]、[illegible]、[illegible]之」[illegible]「[illegible]」 平治物語、一、[illegible]「[illegible]、[illegible]計ナル木ノ先ニ、[illegible]、[illegible]ナル物アリ、大師、修禪定ノ時、御身苦シキ事オハシマセバ、是ヲ以テ押フ、押フレバ止ム、之ヲ、禪杖ト云フ」

ゼンぢゃう-ほふわう（ゼンヂヤウホフワウ）（名）［禪定法皇］ 佛道ヲ修メテ、功德ヲ積ミ給ヒシ法皇。盛衰記、一、[illegible]「[illegible]法皇（鳥羽天皇）、大ニ歎キ思シ召サレケリ」

ゼンぢゃう-もん（ゼンヂヤウモン）（名）［禪定門］〔禪定ノ正門ニアリテ、佛法門ニ入ル者〕 禪定ノ正門ニアリテ、佛法ノ常軌ニ背ラムトスル者ニ與ヘラルル稱。女ナルニハ、禪定尼ト云フ。後ニハ、死後、其亡者ニ與フル稱トナル。信士、信女ノ如シ。

ゼンぢゃう-に（ゼンヂヤウニ）（名）［禪定尼］〔禪定門尼ノ略〕前條ヲ見ヨ。

せんちゃく（名）［[illegible]］ [illegible]コト。先判。「先着順」

せんちゃく（名）［占着］ 土地ヲ占メテ、居ツクコト。土着。後漢書、李忠傳「流民占著者、五萬餘口」續紀、廿三、天平寶字五年三月甲辰「京戸百姓、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]」[illegible]「[illegible]在所占着、[illegible]」

せんぢゃく（センジャク）（名）［染着］ [illegible]コト。執着。[illegible]「[illegible]、[illegible]」「[illegible]相二同前法一、[illegible]安住樂悅二」

せんぢゃく-しん（センジャクシン）（名）［染着心］ [illegible]ココロ。シミック心。執着心。[illegible]「[illegible]下二於二其國土所有萬物一、無二我所心一、無二染着心一」

せんちゅう（名）［[illegible]］ [illegible]ノ[illegible]。[illegible]中。[illegible]

せんちゅう（名）［[illegible]］ 「[illegible]」[illegible]也。古人、[illegible]。[illegible]

せんぢゅう（センジユウ）（名）［先住］ 前ノ住持。（現住、後住、ニ對ス）[illegible]「先住[illegible]」

せんちゅう（名）［[illegible]］ [illegible]地。[illegible]。[illegible]内。謡曲、江島「水ハ山ノ影ヲ含ミ、山ハ水ノ心ニ任セ[illegible]」

せんぢょ（センジヨ）（名）［仙女］ 女ノ仙人。せんにょ。[illegible]

せんぢょ（センジヨ）（名）［[illegible]］ [illegible]。[illegible]リ、ノゾクコト。切リ去ルコト。[illegible]

センチ（名）［[illegible]］ [illegible]

センチ-リットル（名）［[illegible]］〔[illegible]〕[illegible]ノ字ハ[illegible]。一りっとるノ百分ノ一。さんちりっとるノ條ヲ併セ見ヨ。

せんつう（名）［[illegible]］ [illegible]

せんて（名）［先手］（一）[illegible]、又、將棋ヲ始ムル時、先ニ手ヲ下スカタ。[illegible]。[illegible]、略シテ、先。（二）先ニ攻メカカル[illegible]。[illegible]

せんてい（名）［先帝］ 先代ノ帝。先帝。[illegible]、[illegible]

せんてい（名）［[illegible]］ [illegible]

せんてい（名）［測定］ エラビ、定ムルコト。[illegible]

せんてい（名）［[illegible]］ [illegible]。作リ定ムルコト。[illegible]

せんてい（名）［筌蹄］（一）魚ヲ捕ルうへト、兎ヲ捕ルわなト。物ヲ捕ヘ、手ニ入ルルマデノ具。方便ノ具。[illegible]

夫ノ、講話ノ時ニ執ルモノ。麈尾(ホッス)ノ類トカ。南史、侯景傳「上堂、掌書一日、我為公講、」

せんてい (名) 前程 旅路ノ行手。前途。孟浩然詩「向レ夕問二舟子一、前程復幾多」

ぜんてい (名) 前提 〔英語、Premiss. or Premise. ノ譯語〕論理學ノ語。三段論法ニ於イテ、斷案ノ、由リテ生ズル所ノ、二箇ノ命題。即チ、大前提ト、小前提トノ總稱。

せんてう(センチョウ) (名) 古兆 古ノ表ニ顯ハレタル象。棋經「所レ偉者棋經、或謂、張子房受二于黄石公一、而東方朔得レ之、以為二古兆一者也」

ぜんてう(ゼンチョウ) (名) 前兆 キザシ。前表。韓愈詩「邪知此相遇、豈觴果前兆」

ぜんでう(ゼンジョウ) (名) 前條 マヘノクダリ。前ノ箇條。前ノ條文。

せんでき (名) 洗滌 アラヒ、ソソグコト。洗濯。南史、何佟之傳「性好レ絜、一日之中、洗滌者十餘過、猶恨レ不レ足」絜ハ、潔ニ通ズ)

せんてつ (名) 先哲 先輩ノ哲人。昔ノ賢人。先正。書經、召誥「天既遐二終大邦殷之命一、茲殷多二先哲王在レ天」唐明皇、登二太行山一詩「志誼、寂德慙二先哲二」「先哲叢談」

せんてつ (名) 銑鐵 磁鐵鑛、菱鐵鑛、褐鐵鑛、又ハ、赤鐵鑛ヲ、木炭、又ハ、骸炭ト共ニ、高熱爐ニ裝入、熔融シテ、還元、製出シタルモノ。普通、百分中、五、乃至、二三ノ炭素、其他、珪素、滿俺、燐、硫黄、ヲ含有セリ。鑄造ノ用ニ供スルヨリ、鑄鐵トモ稱ス。ズクテツ。ズク。鍋鐵

せんでふ(センジョウ) (名) 千疊 (一)幾重ニモ、重(カサ)ナルコト。杜甫詩「同ニ繍以千岩、飛揚而四邁」(二)千枚ノタタミ。「千疊敷」

せんでふじき(センジョウジキ) (名) 千疊敷 疊(タタミ)、千疊程ヲ敷キ得ベキ廣間。「室町千疊敷(近松作)」

せんてん (名) 先天 (一)天運時機ノ來ルヲ前知スルコト。易經、文言傳「先レ天而天弗レ違、後レ天而奉二天時一」(二)生(ウマ)レヌ先(サキ)。生レヌ前ニ受ケ得ルコト。コレニ對シテ、生レテ後ニ受クルヲ、後天(コウテン)ト云フ。虞世南詩「中澤乃先天」「先天ノ病」

せんてん (名) 旋轉 くるくる、旋(メグ)ルコト。廻轉。北史、斛律光傳「雲表見二一大鳥一射之、正中二其頸一、狀如二車輪一、旋轉而下、乃鵰也」

せんでん (名) 閃電 ヒラメク稻妻(イナヅマ)。隋書、長孫晟傳「見二其走馬一、稱為二閃電一」

せんでん (名) 宣傳 (一)ノベ、ツタフルコト。傳達スルコト。北齊書、元文遙傳「齊受レ禪、授二中書舍人一、宣二傳文武號令一」(二)〔英語、Propaganda. ノ譯語〕觸レ知ラスコト。言ヒ廣ムルコト。「時ノ宣傳」宣傳巧ミナリ」逆宣傳」

ぜんでん (名) 前殿 正殿ノ前面ニアル御殿。オモテゴテン。史記、始皇紀「作二甘泉前殿一、築二甬道一」

センテンス (名) 〔英語、Sentence.〕文。文章。

せんてんてき (名) 先天的 〔羅甸語、A priori. ノ譯語〕既ニ認知セラレタル原因ヨリ、推理シテ得ラルル知識ヲ云フ。コレニ對シテ、結果ヨリ推知セルモノヲ、後天的(羅甸語、A posteriori)ト稱ス。(ありをとてれをノ説)後ニ、多少、其意味ヲ變ジ、既ニ知ラレタル知識ヲ本トシ、推理作用ニ據リテ論及スルヲ、先天的ト稱ヘ、單ニ、論理的關係ニ限リ、コレニ對シ、吾人ノ感官ヲ以テ知覺シタルモノヲ、後天的ト稱ス。(ゔぉるふノ説)又、再ビ改メテ、經驗ヨリ生ズルモノヲ、後天的ト稱シ、コレニ對シ、經驗ニ依ラズ、純粹理性ヨリ發スル直覺概念、及、斷定ヲ、先天的ト稱ス。(かんとノ説)此ニ至リテ、以後ハ、此意義ニ用キラルルコトトハナレリ。

ゼン-デラ (名) 禪寺 禪宗ノ寺。禪院。凡兆ノ句「禪寺ノ、松ノ落葉ヤ、神無月」

せんと (名) 遷都 ミヤコウツリ。都(ミヤコ)ヲ、他ノ地ニ遷(ウツ)スコト。左傳、隱公八年、杜注「成王營二王城一、有二遷都之志一」盛衰記、十七、福原遷都事「清盛、善事ニモ、惡事ニモ、思立ヌレバ、前後ヲモ顧ズ、人ノ諫ヲモ用給フ事ナシ、時時ハ、物狂ハシキ心地モアリケルニヤ、カカル遷都マデモ思立給ケリ」

セント (名) 仙 〔米語、Cent.〕亞米利加合衆國ノ貨幣ノ名目。弗(ドル)ノ百分ノ一。即チ、我ガ一錢ニ當ル。(香港洋銀ノ弗、仙ハ、異ナリ、どるノ條ヲ見ヨ)

せんど (名) 先途 (一)進ミ行ク先(サキ)。成リ行キノ極(キハミ)。至極(ツマリ)ノ處。最期。平治物語、二、待賢門軍事「主ノ先ニ進マント、爰ヲ前途ト戰ヒタリ」「君ノ先途ヲ見トドク」(二)其家筋ニ先例アル、至極ノ官途。極官。平治物語、一、信頼信西不快事「近衛大將、云云、執柄ノ息、英才ガ輩モ、此ノ職ヲ先途トス」標註職原抄、上「清華ハ、三公ニ任ズルヲ先途トス」(三)大事ノヲリ。セトギハ。ワケメ。宇治拾遺、十一、第七條「其衣ヲバ納メテ、必ズせんどト思フ事ノ折ニゾ、取リ出テ、着ケル」

せんど (副) 先度 サキゴロ。サキダッテ。前回。著聞集、一、神祇「先度、汝、大般若ノ御讀經ツカウマツリシニ、驗アリキ」

せんど (副) 千度 サンザンニ。大變ニ。(京都)「せんど笑フタ」せんど働イタ」

ぜんと (名) 前途 ユクサキ。ユクテ。前程。魏書、段承根傳「河南ハ、前途」朗詠集、下「前途程遠、馳二思於雁山之暮雲一」

ぜんと (名) 善途 佛像ヲ作リテ、ソレニ歸依スルコト。

ぜんど (名) 善奴 (一)口髭(クチヒゲ)多キ人ヲ、嘲リテ云フ語。陳深詩「…、眼中元不レ識二善奴一」(二)西洋人ヲ、卑シメテ云フ語。

せんとう (名) 仙洞 (一)仙人ノ住所。白居易、春題二華陽觀一詩「…仙洞一號二華陽一」保元物語、二、左府御最後事「二タビ、漢家萬里ノ月ニ歸リ、阮君ガ仙洞ニ入リシモ、秦室、七世ノ風ニ歸リキ」(二)太上皇(ダイジャウクワウ)ノ御所。(仙人ノ居ニ譬ヘテ云フ) 南留別志、五「太上皇ノ御所ヲ仙洞ト云フコトハ、藐姑射ノ山ト云フヨリオコル」)仙院。仙洞御所。カスミノホラ。ヤマノミカド。ハコヤノヤマ。ミドリノホラ。唐書、明皇紀「天寶九載、上幸二華清宮一、太白山人言、玄元皇帝、降二于寳仙洞一」保元物語、一、新院御謀反事「新院ノ御心中、覺束ナシトゾ、人、申シケル、サレバ、仙洞モ騷シク、禁裏モ靜ナラザルニ」(三)太上皇。太上天皇。

せんとう (名) 戰鬪 〔品字箋「持レ戈相向爲レ戰、攘レ臂而前曰レ鬪」〕タタカフコト。タタカヒ。戰爭。史記、吳起傳「…公族疏遠者、以撫二養戰鬪之士一」

せんとう (名) 先登 (一)一番ノリ。サキガケ。先陣。史記、貨殖傳「壯士在レ軍、攻レ城先登」「先登第一」(二)サキニ、ノボルコト。マッサキニ登リ着(ツ)クコト。禮記、曲禮、上「主人與レ客讓レ登、主人先登、客從レ之」

せんとう (名) 先頭 サキ。ハナ。先端。

せんとう (名) 尖頭 (一)トガリタル

頭アタマ。北史、古弼傳「太武大怒曰、尖頭奴、敢裁二量朕一也、朕還、臺先斬二此奴一」（二）トガリタル端ハシ。尖端。

せん-どう（名）［船頭］船ノ前部。ヘサキ。杜甫詩「[illegible]急打二船頭一」

せん-どう（名）［船頭］（一）フナヲサ。船長　原化記「舟中客、皆賈販之徒、惟船頭一人、顏色顧殊」大内義隆記「[illegible]、櫓モ更ニ續カネバ、船頭、舟子、呆レツツ」（二）誤リテ、フナノリ。フナコ。カコ。舟子　東海道名所記（萬治）三「早ク乘リ給ヘトテ、男ト共ニ、急ギ舟ニ飛ビ乘ル、云云、船頭ハ、舟ニ棹サシ、櫓ヲ立テテ押ス」船頭多くして、船を山にあぐるトハ、關係スル人ノ多キ爲ニ、却ッテ、アラヌ方ニ、物事ノ進ミ行クニ云フ。千紅萬紫（蜀山人）「船頭が、多くて船は、山王ノ、山ニモのぼる、今日ノ祭禮」

せん-どう（名）［煽動］［扇動］扇ギタツルコト。勸メ、ソソノカスコト。オダテルコト。教唆。三國志、魏志、梁習傳「更相扇動、往往棊峙」

ぜん-どう（名）［蠕動］［蝡動］（一）蟲ノ、歩クコト。ウゴメクコト　蠢動　易林漢、焦[illegible]「[illegible]、各具[illegible]」（二）微カニ、動クコト　微動　荀子、勸學篇「端而言、蝡而動」注「[illegible]、微動也」

せん-どう-か（名）［旋頭歌］せどうか（旋頭歌）ノ條ヲ見ヨ。

せん-とう-かん（名）［戰鬪艦］軍艦ノ一、主要ノ部分ハ裝甲ニヨリテ保護セラレ、威力アル重砲、及、速射砲ヲ具備シ、速力强大、運轉輕快ニシテ、戰時、艦隊ノ中心トナリ、主トシテ、戰鬪ニ從フモノ。戰艦。

せん-とく（名）［宣德］支那、明ノ宣德年中ニ製セシ、銅器、陶器ナドノ稱。大抵、宣德ノ字ヲ銘ス、佳品ナリトテ、名アリ。銅器ハ、紫銅製カラカネ、多ク、色、黄ヲ帶ブ、香爐ナドニ多シ。陶器ナルハ、種種ナリ、宣窯コレニ次グヲ、嘉靖トシ、又、其次ヲ、成化トス。「宣德火鉢」

せん-とく（名）［潛匿］ヒソミ、カクルルコト。伏藏、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]代[illegible]」

ぜん-どころ（名）［膳所］膳立ゼンダテスル所。膳ゼン所シヨ、[illegible]往來、三月、膳所、[illegible]所、[illegible]殿、局、部屋」

せんど-ばらひセンドバライ（名）［千度祓］千度ノ數カズ祓ハラヘ（おほばらひノ條ヲ見ヨ）百練抄、十一、[illegible]永元年十一月二日、於[illegible]院御所、有千度御祓、依[illegible]日不豫[illegible]也」平家物語、三、[illegible]、七人ノ陰陽師ヲ召サレ、千度ノ御祓ヘ仕ルニ」[illegible]一、治承四年六月十六日「被[illegible]行御[illegible]云云、永江[illegible]人[illegible]一千度御祓二」

ゼントルマン（名）〔英語、Gentleman.〕紳士。君子。

せん-ぶうセンノウ（名）［先王］「せんわう（先王）ノ連聲　前王　下ノ出典ヲ見ヨ　年年[illegible]筆、[illegible]ナドニ、先王之道トヤウニ云ヘル先王ハ、文武、周公、命ヲ立シ君ノ事ナリ、[illegible]タチニモ、シカ說ク人有モヤスラン、イマダ見及バズ、聞及バズ、古先聖王ノ義トスルハ、イトワロシ、先ヲ古先ト云フ、イト拙シ、王ハ、聖王ト云フモ、聖ノ字、アナガチニ聞ヘタル文字也、[illegible]カセ[illegible]、先[illegible]ト云ヘバ、必、[illegible]ノ事ナリ、[illegible]ニカケテ云フベキニアラズ、[illegible]ノ世ニテ、先[illegible]ト云ヒテ、往代ノ王者、[illegible]湯ニ係ベキモノカハ」

ぜん-ぶうゼンノウ（名）［前王］前條ニ同ジ。大學「[illegible]云、[illegible]、[illegible]、[illegible]」

ぜん-ぶく（名）［[illegible]］［[illegible]ノ連聲］善[illegible]ト、よきト、あしきト　史記、[illegible][illegible]、[illegible]、[illegible]

ぜん-ぶん（名）［善男］佛法ニ歸依スル男子ノ稱。女子ナルヲ、善女ゼンニヨトイフ。

せん-なり（名）［千成］千成瓢箪ノ略。

せん-なり-がき（名）［千成柿］柿ノ一種、實ノ形、小サクシテ簇リ生ルモノ。さるがきトス。サルガキ。ヤマガキ。猿柿

せんなり-べうたんセンナリビヨウタン（名）［千成瓢簞］へうたんノ條ヲ見ヨ。

せんなり-ほほづきセンナリホオズキ（名）［千成酸漿］ほほづきノ一種、實、甚ダ小サクシテ、數多ク集リテ結ブモノ、色、[illegible]ナリ　[illegible]

ゼン-ニ（名）［禪尼］ぜんもん（禪門）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。[illegible]、[illegible]時頼ノ母ハ、松下禪尼トゾ申シケル」

せん-にち-こう（名）［千日講］一千日間、法華經ヲ講讀、[illegible]、[illegible]法會　[illegible]八、第三條「一人、五十日逆修スレバ、一人、千日講ヲ行ヒ」禁秘御抄、下「白川院御時、於二禁中一被レ行二千日講一」

せん-にち-こう（名）［千日紅］次條ニ同ジ。

せん-にち-さう（名）［千日草］草、高サ二三尺、莖ハ、[illegible]、[illegible]ニ似テ、[illegible]リ、葉ハ、けいとうニ似テ、大キク、[illegible]、[illegible]モアリ、秋、[illegible]ノ花ヲ開ク、[illegible]ニシテ、圓クシテ、楊梅ニ似タリ、盛リ、甚ダ久シキガ故ニ、名アリ。（近代世事談ニ、天和年中、支那ヨリ渡ルト）千日紅

せん-にち-まうでセンニチモウデ（名）［千日詣］一千日間、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]コト。[illegible]記、一、[illegible]清水寺[illegible]、清水寺ノ觀音ヲ[illegible]、[illegible]御利生ト、千日詣ヲ始タリ」[illegible]、十一、[illegible]日詣ノ行人ハ、必ズ、馬足カ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]手ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]シテ、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]カケテ、打[illegible]シルホシガ、コレヲ今ハ、[illegible]ト、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]風、今ハ[illegible]、[illegible]ト云ヒシ物ハ、[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]、[illegible]、[illegible]

せん-にち-まゐりセンニチマイリ（名）［千日參］千日詣ニ同ジ。（其條ヲ見ヨ）[illegible]、[illegible]、清水寺千日詣[illegible]、[illegible]、今日[illegible]、[illegible]

せん-にふセンニユウ（名）［先入］[illegible]、[illegible]、先入之[illegible]、[illegible]、九、五十七條「先入[illegible]、[illegible]主トアリ、コレ、ソノホザク所ナルベシ、[illegible]、久公[illegible]、[illegible]、不[illegible]、[illegible]

せん-にふセンニユウ（名）［潛入］コッソリ、其中ニ屆ヘ入ルルコト、エラビテ、入ルコト。[illegible]

せん-にん（名）［仙人］[illegible]レ死ニ[illegible]レ仙、仙、遷也、遷入レ山也」ヤマビト、世間ヲ離レテ、山ナドニ棲ミ、[illegible]、[illegible]、[illegible]人、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]人傳、列仙之傳人傳」[illegible]、上[illegible]、[illegible]ノ人、今ハ、仙人ノ[illegible]、[illegible]

せん-にん（名）［[illegible]任］[illegible]、[illegible]タルコト、兼任ニ對ス。[illegible]

せん-にん（名）［選任］てんにんノ前任

同ジ。「大寳令、六、凡官、京官、…任…之…、…、十八、…年二月辛巳、自…官、…任京官」

ぜん-にん（名）［前任］先(サキ)ニ、其任務ニ就キタルコト。又、其人。先任。前任者ニ代ハリテ、其任ニ就クヲ、後任(コウニン)ト云フ。

ぜん-にん（名）［善人］心ノ、善(ゼン)ナル人。善良ナル人。ゼンジン。惡人ニ對ス。孔子家語、六本篇「與二善人一居、如レ入二芝蘭之室一」

せんにん-ぎり（名）［千人切］千人ノ人ヲ、斬ルコト。（腕だめしナドニテ）謠曲、外百番、千人切「…川ノ…、…門…ト申人、行衞モ知ラヌ人ニ、父ヲ討タセ、其無念サニ、千人ぎりヲセシ…、…、九十九人目ニ、牛若丸ニ出會ヒ、…、降タズ、遂ニ、牛若丸ノ從者トナルコトヲ作レルナリ。…長…、山門、…寺…事、千人ぎりノ…、カナマタノ…、八方破リノ武藏房」

せん-にん-くやう（センニンクヨウ）（名）［千人供養］千人ノ亡靈ヲ、供養スルコト。御所…川夜討「元文、…、九郎判官…、イマダ牛若タリシ時、五百ノ僧ノ千人斬リト、世ノ取リ沙汰モ、年月モ、ハヤ十三年、千人供養、遂クベシト」

せんにん-しやう（センニンシヨウ）（名）［仙人掌］サボテン。花鏡、仙人掌、非草非木、非果非…、枝無、葉、又…無花、土中突出一片、如二手掌一無…、其…、…可…觀」

せんにん-りき（名）［千人力］〔五人力、百人力ナドモ、云フ〕千人分程アル力。又、千人ノ助勢ヲ得タル位ノ力ニナルコト。心中天網島（享保、近松作）下「小刀モ揃フタト、…セバ取…テ、シ、カト指シ、是サヘアレバ、千人力、モウ休ミヤレト」

せん-にょ（名）［仙女］せんぢょ(ジ)（仙女）ニ同ジ。

ぜん-にょ（名）［善女］佛教ノ語。ぜんなん（善男）ノ條ヲ見ヨ。

せん-ねん（名）［專念］專一ニ、念ズルコト。モノパラ、一事ヲ念フコト。專心。…光…詩「…」…、專念及…退…「…念念佛」

せん-ねん（名）［先年］サキツトシ。過ギシ年。往年。太平記、廿九、師直怪異事「吉野山ノ峯ノ嵐ノ烈シサニトアルモ、先年、藏王堂ヲ燒レタリシ罪、一人ニヤ歸スラン」

せん-ねん（名）［千年］せんざい（千歲）ノ（一）ニ同ジ。

ぜん-ねん（名）［前年］其年ノ前ノ年。去年。宋書、…、前年改…、…未…修」

せんねん-あめ（名）［千年飴］寶永ノ頃、江戶、淺草ノ飴賣、七兵衞ノ、賣リ始メタル飴。長キ紅白ノ二本ノ飴ヲ、鶴龜松竹梅ノ模樣ヲ畫キタル袋ニ入レタルモノ。千歲飴ノ條ヲ參見セヨ。

ぜん-のう（名）［全能］十全ノ能力。爲スコト能ハザルコト無キコト。「全智、全能」

せん-のうげ（名）せんおうげ（仙翁花）ノ連聲。

ゼン-の-つとめ（名）［禪勤］芝居ノ囃子ノ名。殺陣(タテ)ナドノ時、太鼓ト、木魚ト、ヲ用ヰテナスモノ。ゼンバヤシ。（山門ナドノ飾付ノ時ナド）

ぜん-の-つな（名）［善綱］（一）又、緣の綱。緣の綱トモ云フ。佛像ノ右ノ手ニ、五色ノ幢(ハタ)ヲ持タシメ、其幢ノ、長ク垂リサガリタルヲ、病人ノ手ニ取ラシム。佛ニ引カレテ、西方淨土ニ至ル思アラシムル、臨機ノ儀式。後ニ、綵ニ

代ヘシナラム。又、佛ヲ開帳スル時ナドニス。…、…、十七、…、第二十…、善…寺…、…萬人、結緣トテ、善の綱ニ取付テ、渡シ奉ル」…記、中、第三十四…「…」…像手、…之」（二）葬送ノ時、棺ニ着ケテ引キ行ク索。…、…正記、…山…政…公他界、寬正四年八月八日、…ノ所ニ…宗モ、善の綱ヲ、御肩ニ置カセタマフ」

せん-ば（名）［…馬］〔正字通「…、割ニ去勢也」〕キンキリウマ。去勢シタル馬。…仲…役經「…馬、…牛、羯羊」

せん-ば（名）［千能］火取ノ具。ぜんのう(ウ)。（越前、大野郡地方、又、山陰道諸地ニテモ云フ）

せん-ば（名）［鐺］〔煎盤、又、煎餅盤(センベイ)ノ轉カ〕ナベ（鍋）。下學集、下、器財門「煎盤」

ぜん-ば（名）［前場］取引所ニテ、午前ニ立ツ相場。午後ニ立ツヲ、後場(ゴバ)ト云フ。

せん-ばい（名）［專賣］（一）一人ニテ、專ラ賣ルコト。一手販賣。（二）他人ノ競爭ヲ禁ジテ、自分ノミ利益ヲ獨占スル經濟的企業。特ニ、國庫ノ收入ヲ目的トシテ、消費物ノ生產、販賣ヲ、政府ニ於テ獨占スル事業。「專賣特許」「煙草ノ專賣」

せん-ぱい（名）［先輩］年齡、學問、等ニ於テ、先立チタル人。先進。後ニ續グヲ、後輩(コウハイ)ト云フ。三國志、吳志、闞澤傳「澤、州里先輩、丹陽唐固、亦修…身積…學、稱…儒者…」

ぜん-ぱい（名）［全敗］マルマケ。全體ノ敗北。（全勝ノ反）

ぜん-はい（名）［全廢］全ク、廢スルコト。一モ用ヰズ、總テ、ヤムルコト。

せんばい-とくきょ（センバイトッキョ）（名）［專賣特許］とくっきょ（特許）ノ條ヲ見ヨ。

せん-ばう（センボウ）（名）［羨望］ウラヤムコト。欽…、…「…羨望ノ至リニ堪ヘズ」

せん-ばう（センボウ）（名）［瞻望］遠ク、眺ムルコト。仰ギ望ムコト。見ワタスコト。詩經、…風、燕燕篇「燕燕于飛、差池其羽、之子于歸、遠送于野、瞻望弗及、泣涕如雨」太平記、廿一、先帝崩御事「土墳數尺ノ草、一徑涙盡キテ、愁未ダ盡キズ、…臣妃、泣泣鼎湖ノ雲ヲ瞻望シテ、恨ヲ天邊ノ月ニ添ヘ」

せん-ばう（センボウ）（名）［訕謗］〔說文「訕、謗也」〕ソシルコト。ノノシルコト。誹謗。宋史、…傳「其所…詩、以爲…訕謗…」

せん-ぱう（センポウ）（名）［先方］サキカタ。相手ノ方。對手。運步色葉集「先方、センパウ」「先方ノ都合ヲ聞合ハス」

せん-ぱう（センポウ）（名）［先報］先キニ、報知スルコト。前ノ報告。運步色葉集「先報」

せん-ぱう（センポウ）（名）［戰袍］（一）鎧ノ上ニ着ル衣。陣羽織ノ類。（二）戰時ニ着ル衣。戎衣。本事詩（唐、孟棨）「戰袍經手作、知落阿誰邊」

ぜん-ぱう（ゼンボウ）（名）［前坊］前(サキ)ノ東宮。早世、又ハ、辭退ナドシ給ヒタルニ云フ。先坊。源、九、葵「前坊ノ姬宮、齋宮ニ居給ヒニシカバ」

ぜん-ぱう（ゼンボウ）（名）［全貌］全體ノカタチ。全形。全豹。

ゼン-ばう（ゼンボウ）（名）［禪房］寺院ノ坊。又、テラ。洛陽伽藍記（後魏、楊衒之）景林寺中、有二禪房一所」盛衰記、廿八、仙童琵琶事「顯ハクハ、禪房ニ居宿シテ、靜カニ法華經ヲ讀誦セン」

せん-はく（名）［纖魄］〔纖ハ、說文「細也」魄ハ、…〕揚子方言「小也」魄ハ、書經、武成篇、疏

「形也、謂₂月之輪郭₁」 細ソキ月。ミカヅキ。 許渾詩、新月詩「初生₂似蛾眉₁、挂₂南樓₁」

せんぱく (名) 阡陌 「漢書、地理志、注「南北曰レ阡、東西曰レ陌」」 縱横ノ路。たたさノ條ヲ見ヨ。 史記、平準書「衆庶街巷有レ馬、阡陌之間成レ羣」

せんぱく (名) 淺薄 アサハカナルコト。 後漢書、鄧皇后紀「方今承₂百王之敝₁、時俗淺薄、巧僞滋生」「學說、淺薄」

せんぱく (名) 船舶 水上航行ノ用ニ供スル凹形ナル建造物。汽船、帆船ノ總稱。フネ。

せんぱく (名) 錢帛 金錢ト、布帛ト。錢幣。 漢書、昭帝紀「錢帛各有レ差」

せんば-こき (名) 千把扱 いなこき(稻扱)ニ同ジ。

ぜんば-たちあひ (名) 前場立會 取引所ノ語、前場ノ仲買、又ハ、取引。前場、及、立會ノ條ヲ見ヨ。

せんばつ (名) 選拔 多數ノ中ヨリ、ヨリヌクコト。エリヌキ。 唐書、趙冬曦傳「是選拔少、而存學也」「選拔ノ精兵」

せんぱつ (名) 先發 サキダチテ、發スルコト。又、其モノ。「登山ノ先發隊」

せんぱつ (名) 蟬髮 婦女ノ髮ノ、蟬ノ羽ノ如ク、透キ通リテ、美シキコト。轉ジテ、婦人ノ稱。蟬鬢 [illegible]、十三、[illegible]年十二月廿八日「不レ親₂蟬鬢之婦₁」

せんばづる (名) 千羽鶴 (一)眞鶴ヲ、數多、田澤ニ放チタルモノ。 本朝文粹、[illegible]、菟裘賦「[illegible]經₂六七十年₁尙飛翔、源二品之放鶴、亦暨₂五六百年₁來₂往于駿還之田澤₁」(千羽トハ、數多ノ意)

(二)紙ニテ、折鶴ヲ作リ、コレヲ數多、連ネタルモノ。又、染模様ナドニ、數多ノ鶴ヲ描キタルモノ。 傾城吾嬬鑑(享保、近松作)「松竹梅嫁入雛形、上着ノ御小袖ハ、千代ヲ染メ込ム松葉色、松ニ群レ居ル千羽鶴、云云、諸ギテコソ染メニケリ」

せんばに (名) 洗馬煮 〔せんばハ、木曾山中ノ洗馬驛ニ起ルト云フ〕 鱈、鮭、ノ類ノ鹽漬魚ヲ、湯ニテ煮ベデコボシ、鹽氣ヲ去リ、鰹節煮出汁ニテ煮タルモノ。 東海道中膝栗毛(文化、一九)三篇、上「鯡ノせんば煮モ、オザリマアス」

せんぱふ (名) 染法 ソメカタ。染色ノ方法。 詩經、鄘風、[illegible]、疏「考工記、書₂染法₁三入爲レ纁、五入爲レ緅、七入爲レ緇」

せんぱふ (名) 戰法 戰爭ノ方法。軍法。 北史、隋文帝紀「初命爲₂陣戰法₁」

せんばん (名) 千般 クサグサ。イロイロ。 嚴維詩「萬樹[illegible]千般[illegible]」 太平記、十二、聖廟事「菅丞相、太宰權帥ニ遷サレ、流サレ給フベキニ定リニケレバ、左遷ノ御悲ニ堪ヘズ、一首ノ歌ニ、千般ノ恨ヲ述ベテ、亭子院ニ奉リ給フ」

せんばん (名、副) 千萬 (一)數量ノ、多キヲ云フ語。 孟子、滕文公、上「[illegible]相千萬」 (二)情ノ、切ナル時ニ云フ語。切ニ。シキリニ。至ッテ。極メテ。此ノ上モ無ク。 [illegible]「千萬、今朝[illegible]」平家物語、十二、重衡被レ斬事「後悔せんばん、悲ンデモ尙餘リアリ」 狂言記、[illegible]、コナタハ、何時千萬ニコナタ[illegible]」[illegible]千萬ノ毒千萬ニ思フ」

せんばん (副) 先般 サキゴロ。サキダッテ。先度。前回。「先般、御話之件」

ぜんばん (名) 前晩 コノ前、前夜、昨晩。 [illegible]

ぜんばん (名) 膳番 膳部ノ番人。 傾城三國雛子(享保、近松作)上「御倉兄作之丞トハ、御膳番ノ[illegible]」[illegible]、惡人ハビコリ、御近習、小姓、膳番マデ、ザットモ心ハ許サレズ」

ぜんばん (名) [illegible]

ぜんはん (名) 前半 前ノ半分。後ノ半分ヲ、後半ト云フ。「[illegible]ノ前半ヲ讀了ス」

ゼンばん (名) 禪板 [illegible]時、手ヲ安ズ[illegible]ニテ、其長サ一尺七寸餘、厚サ三分餘ノモノ。 下學集、下、器財門「禪板、ゼンパン」

ゼンばやし (名) 禪囃子 ぜんのつとめ(禪勤)ニ同ジ。

せんばり (名) 栓張 戶ヲ閉ヂタル上ニ、更ニ、突キ張リオク棒。シンバリ。シンバリボウ。支柱。「栓ばりヲ支フ」

せんぴ (名) [illegible]

せんぴ (名) 鮮媚 (一)氣力ノ、ブザヤカニテ、ヤサシク美シキコト。 [illegible] (二)色ノ、アザヤカニテ、穩カニ美シキコト。

せんぴ (名) 賤微 身分ノイヤシク、地位ノ低キコト。 [illegible]

せんぴ (名) 船尾 船ノ、艫ノ方。其反對ハ、船首。 [illegible]「船尾[illegible]」

せんぴ (名) 先非 過ギシ、アヤマチ。昨非。前非。 [illegible]

せんぴ (名) [illegible] 手ノ、亡キ母ヲ稱スル語。 [illegible]

ぜんぴ (名) 全備 十分ニ、備ハルコト。 [illegible]

ぜんぴ (名) 善美 善クシテ、美ハシキコト。 [illegible]

ぜんぴ (名) 前非 せんぴ(先非)ニ同ジ。 [illegible]

せんぴつ (名) [illegible] ノ御所、又、仙洞ノ御所。 [illegible]

せんぴつ (名) [illegible]

せんびん (名) [illegible]

せんびん (名) [illegible] 便、[illegible]、センビン」

ぜんびん (名) 前便 前前便ノ語ニ同ジ。 [illegible]

せん-ピン (名) 【粢餅】 まるきもち(汁粉餅)ノ一名。物類稱呼、四、衣食「まるき餅、云云、せんびんト云(粢餅トカクヨシ也、加賀ニテ)」

せん-びゃう (名) 【腺病】 小兒ノ全身病、結核性ノモノニシテ、體質薄弱、淋巴腺腫脹、濕疹、炎症等ヲ起ス、淋巴腺腫脹ノ、頸部ニ發生シ、往往、膿腫ヲ形成スルモノヲ、瘰癧ト云フ。

せん-ぴゃう (名) 【選評】 選擇シテ、批評スルコト。「俳句ノ選評」

せん-ぷ (名) 【賤夫】 しづのを。イヤシキ男。杜甫詩「賤夫美一睡」

せん-ぷ (名) 【賤婦】 しづのめ。イヤシキ女。【鄙婦】

せん-ぷ (名) 【賤俘】 賤シキ俘。甚シク卑下シテ云フ謙稱。李密、陳情表「臣、亡國賤俘、至微至陋」

せん-ぷ (名) 【泉布】 〔周禮、天官篇、外府、註「其藏曰レ泉、其行曰レ布、取ニ名於水泉ニ、其流行無レ不レ徧也」〕 (一)錢。(泉ト、布トノ各條ヲ見ヨ) (二)金錢。貨幣。管子、輕重、丁篇「君謹守ニ泉布之謝ニ」

せん-ぷ (名) 【宣父】 〔唐、開元二十七年、文宣王ト追謚セリ〕 孔子ノ尊稱。唐書、禮樂志、「貞觀十一年、詔尊ニ孔子ニ爲ニ宣父ニ」

せん-ぷ (名) 【宣布】 (一)こうふ(公布)ニ同ジ。周禮、秋官篇、小司寇「宣ニ布于四方ニ憲ニ刑禁ニ」 (二)遍ク、布キ及ボスコト。左傳、莊公廿七年、杜注「天子巡狩、所ニ以宣ニ布德義ニ」漢書、司馬遷傳「遷外孫平通侯楊惲、祖ニ述其書ニ遂宣布焉」

せん-ぷ (名) 【戰怖】 ヲノノキ、オソルルコト。戰慄。三國志、魏志、管寧傳「不レ能ニ仰答ニ陛下恩寵之厚、夙宵戰怖、無レ地ニ自厝ニ」

せん-ぷ (名) 【籤符】 王朝時代、外官(地方官)ニ向ヒテ、中央政府ヨリ發シタル公文書。享祿本、類聚三代格、六、弘仁十年十二月「太政官符、云云、京官據ニ詔書出ニ日、外官據ニ籤符到ニ日給者」

ぜん-ぷ (名) 【全部】 (一)一部分ニ對シテ、其全體。アリタケ。「全部賣切」 (二)一部ノ書ノ、册數ノ揃ヒタルモノ。

ぜん-ぷ (名) 【膳部】 (一)次條ニ同ジ。 (二)膳ニ具フル諸品。饗饌。賀古教信七墓廻(元祿、近松作)三「ツイ出來合ヒト云フ分ガ、大夫客ノ膳部ニテ」

ぜん-ぷ (名) 【膳夫】 カシハデ、飲食ノ物ヲ調フル人。庖丁人。膳部。周禮、天官篇、膳夫、「膳夫掌ニ王之食飲膳羞ニ」

ぜん-ぷ (名) 【前夫】 シタヲ。前ノ夫。顏氏家訓、一、後娶篇「凡庸之性、後夫多寵ニ前夫之孤ニ、後妻必虐ニ前妻之子ニ」

せん-ぷう (名) 【旋風】 ツムジカゼ。高適詩「一日千里如ニ旋風ニ」 盛衰記、十一、旋風事「六月十四日、旋風、夥シク吹キテ、人屋、多ク顚倒ス」

せん-ぷう-き (名) 【扇風機】 〔英語、Fan. ノ譯語〕 (一)回轉ニヨリテ、氣體ニ流動ヲ生ゼシムル機械、其構造ハ、回轉軸ノ周圍ニ、數葉ノ扇翼ヲ具ヘタルモノヲ、圓筒形、或ハ螺旋形ノ外被内ニ收メタルナリ、此扇翼ノ回轉ニヨリテ、外被内ノ氣體、旋轉セラレ、其遠心力ノタメニ、内部周圍ノ氣壓ハ高ク、中心ノ氣壓ハ低クナリ、從ヒテ、氣體ハ、外被側面ノ中心ヨリ入リテ、周圍ノ一部ヨリ外方ニ向ヒテ、絶エズ、流動ヲ繼續ス。此機ヲ、通風機、又ハ、送風機トモ稱ス。 (二)普通ニ扇風機ト稱ヘラレ、遍ク使用セラルルハ、夏季、室内ニテ、冷風ヲ送ルニ用ヰラルル、電氣扇風機ナリ。コレニ、卓上用ト、天井用トノ二種アリ、共ニ、扇翼、四枚ノモノガ多ク、各翼ハ、稍、傾ケテ軸ニ取附ケラレ、其回轉ニヨリテ、翼面ノ空氣ヲ、面ニ、直角ノ方向ニ、促動流通セシム、卽チ、風ハ、扇翼ノ後面、及、周圍ヨリ、前面ニ流動ス　其外被中ニ、電動機アリ、扇翼ハ、電動機ノ回轉子、又ハ、電動子軸ニ固着セラル。交流ニテハ、誘導電動機、直流ニテハ、直捲電動機ヲ使用セルモノ多ク、共ニ、抵抗ノ加減ニヨリテ、回轉數ヲ變ズル裝置アリト。電氣團扇。

せん-ぷく (名) 【潛伏】 潛ミ、伏スコト。匿ルルコト。詩經、小雅、正月篇、注「池魚、云云、潛伏於淵ニ」 李紳詩「碧流潛伏躍ニ龍關ニ」

せん-ぷく (名) 【船腹】 フナバラ。宋書、沈攸之傳「以レ囊盛レ米、繋ニ流査及船腹ニ」

ぜん-ぷく (名) 【全幅】 (一)幅、イッパイ。楊萬里詩「無邊綠錦織ニ雲機ニ、全幅靑ニ作ニ地衣ニ」 (二)滿身、渾身「全幅ノ心力ヲ傾注ス」

せん-ぷく-りん-さう (名) 【千輻輪相】 佛ノ足下ニ、千輻輪ノ印紋アルコト。さんじふにさう(三十二相)ノ條ヲモ見ヨ。觀無量壽經「足下有ニ千輻輪相ニ」 榮花物語、十、花山「四衢道ノ中ノ露地ニ、オハシマシ歩マセ給ヒツラム、御足ノ裏ニハ、千輻輪ノ文、オハシマシテ」

せん-ぶ-しう (名) 【瞻部洲】 なんせんぶしう(南瞻部洲)ノ略。閻浮提ヲ見ヨ。

せん-ぶつ (名) 【千佛】 千體ノ佛。法苑珠林「雖ニ千佛異ニ迹、一智同レ途」 太平記、廿二、義助豫州下向事「高野山ニ詣デテ、三日、逗留シ、院院、谷谷、拜ミ廻ルニ、聞キシヨリ尙貴クテ、八葉ノ峯、空ニ聳ヘ、千佛、座、雲ニ挿ゲタリ」

ぜん-ぶつ (名) 【前佛】 〔後佛ニ對ス、其條ヲモ見ヨ〕 佛經ノ語、既ニ、入滅シタル佛、當ニ、後佛ノ彌勒佛ニ對シテ、釋迦牟尼佛ナドヲ云フ。盛衰記、三十九、維盛於粉川寺謁ニ法然房ニ事「我師、我ヲ授ルハ、授戒灌頂トテ、前佛ノ智水ヲ、後佛ニ授ル意ナレバ、此戒ヲ受クルハ、卽身ニ、正覺ヲ唱フル也」

せん-ぷ-とう (名) 【船埠頭】 フナツキ。ハトバ。埠頭。明律「城市鄕村諸色牙行、及船埠頭、並選ニ有ニ抵業ニ人戶ニ充」

せん-ぷ-にち (名) 【先負日】 曆ニテ、急用、又ハ、公事ナドニ忌ム日。卽チ、陰曆正月、七月ノ三日、九日、十五日、廿一日、廿七日、ノ如キナリ。其外、各月ニアリ。

せん-ぶん (名) 【選文】 (一)文ヲ、エラブコト。又、其選ビタル文。劉勰、文心雕龍、序「選レ文以定レ篇、敷レ理以擧レ統」 (二)王朝時代、官吏ノ、考、滿チテ敍位スベキ人ヲ選ビタル文。選敍令、義解「謂、計ニ考結階ニ、卽長官自校、與ニ考問、若帶ニ、官以上ニ者、從ニ一高官ニ送ニ其選文ニ、不レ須ニ二官共送ニ、其選文之期、亦與レ考同也」

ぜん-ぶん (名) 【全文】 一文章ノ總體。

ぜん-ぶん (名) 【前文】 (一)前代ノ文書。舊記錄。下禹卿、蕪田賦「務ニ本ニ農、稽ニ前文ニ而」 (二)前ニ記シタル文。前書。「前文備矣」 (三)手紙ニ、時候ノ挨拶、又ハ、起居ノ見舞ナドノ語。「前文御免」

ぜん-ぶん (名) 【前聞】 前ニ、キキタルコト。禮記、檀弓、上篇「我未ニ之前聞ニ也」 宋史、兵志「稽ニ之前聞ニ、若ニ合ニ符節ニ」

せん-ぶり (名) 〔千度、振出シテモ、苦味アレバ云フトゾ〕 (一)龍膽ノ一種。形狀、スベテ龍膽ニ似テ、小サク、高サ一二

寸、根、莖、味、苦シ、藥トス。一名、當藥(タウヤク)、石龍膽一種 又、大せんぶりト云フハ、莖、七八寸アリ。(二)又、亞灌木ノ名。葉ハ、萩ニ似テ、厚ク大キク、冬、凋マズ、節毎ニ根ヲ生ズ。夏ノ初、莖ノ頭ニ、二三寸ノ穗ヲ出シテ、白キ花ヲ開ク、柳ノ花ニ似タリ、實ノ形、蓮ノ實ノ如シ、根ヲ藥用トス。イシャダフシ。豈根

せん-べい (名) 煎餅 (一)麪粉ヲ、油ニテ熬リタルモノ。倭名抄、十六「飯餅類、煎餅、此間云如字、以油熬小麥麪之名也」 唐六典「[illegible]會、云云、供其膳食」注「正月七日、三月三日、加煎餅」 荊楚歳時記「人日食煎餅于庭中、俗云薰天」 (二)乾菓子ノ名。方圓ノ鐵板二枚ニ柄アル、鋏ノ如キモノニ、餅ノ小片ヲ挾ミ燒ケバ、鐵板ノタメ、片、大キニ成リタルモノ。又、麪粉ニ、白砂糖ヲ水ニテ捏(コ)ネ、少シヅツ挾ミテ、燒キ成スヲ、砂糖煎餅ト云フ。又、鹽煎餅モ、アリ。其條ヲ見ヨ。 狂詩選「砂糖上品味最輕、進物年中客自棄、縱有結構干菓子、如此煎餅少江城」

せん-ぺい (名) 錢幣 金錢ト、紙幣ト。又、貨幣。錢帛。 漢書、食貨志「天子與公卿議、更造錢幣以贍用」

せん-ぺい (名) 尖兵 前兵、又、前兵ノ支部ヨリ派シテ、縱隊ノ進路、又ハ、附近ノ模樣ヲ搜索セシムル小部隊ノ兵。

ぜん-ぺい (名) 前兵 前衞ノ一部隊ノ兵。

せんべい-ばん (名) 煎餅盤 餅ヲ炒ル鐵盤ナリトゾ。鏊 倭名抄、十六「金器類、煎餅盤、炒餅鐵盤也」

せんべい-ぶとん (名) 煎餅蒲團 薄クシテ貧弱ナル蒲團ヲ云フ。薄被褥。

せん-ぺう (名) 先表 次條ノ(二)ニ同ジ。 盛衰記、二、清盛禪化鳥事「此入ノ榮華ノ先表ナリ」

ぜん-ぺう (名) 前表 (一)前後二回ニ上リタル上奏文ノ、前回ノ方。 諸葛亮、後出師表、注「前表、建興五年奉之」 (二)マヘカタノキザシ。マヘビロノ知ラセ。先表。前兆 太平記、十三、北山殿謀叛事「[illegible]納言殿、滅ビ給フベキ前表ノ有リケルヲ、木工頭孝重ガ、カネテ聞キタリケルコソ、不思議ナレ」

ぜん-ぺう (名) 全豹 「豹ノ皮ノ全體ノ義」全部ノ模樣。全體ノサマ。(一斑ニ對ス) 「一斑ヲ見テ、全豹ヲ察ス」

せん-べつ (名) 餞別 馬ノハナムケ。送別 [illegible] 集、四、[illegible]、任國ニ赴キケルニ、餞別ノ名殘ヲ惜シマセ給テ」

せん-べん (名) 先鞭 〔晉書、劉琨傳「少負志氣、有縱橫之才、與范陽祖逖爲友、云云、常恐祖生先吾著鞭」〕人ヨリ先キニ、手ヲ着クルコト。サキガケ。ヌケガケ。「先鞭ヲ着ク」

せん-ぺん (名) 千篇 多クノ篇。又、アマタタビ。 陸游詩、[illegible]「風雨篇」「千篇一律」

せん-ぺん (名) 千變 種種ニ、カハルコト。萬化 范成大詩、[illegible]日千變 史記、賈誼傳「千變萬化」

ぜん-ぺん (名) 前篇 前編 〔後篇、後編ニ對ス〕へん(篇)ノ條ヲ見ヨ。 諸葛亮、後出師表「[illegible]不毛」注「[illegible]」

ぜん-ぺん (名) 全篇 一篇ノ詩、文、又ハ、書物ノ總體。 李山甫詩、[illegible]全篇」

せんぺん-いちりつ (句) 千篇一律 千篇ノ詩、皆、同ジ律ナリ。事ノ趣キ、皆、同ジクシテ、變化無キ、[illegible]「白樂天[illegible]千篇一律」

せんぺん-ばんくゎ (句) 千變萬化 千萬ノ變化ヲナス。種種、無量ニ、變ハル。 列子、湯問篇「千變萬化、惟意所適」 史記、賈誼傳「千變萬化兮、未始有極」

せん-ぼ (名) 羨慕 ウラヤミ、シタフコト。 中論、[illegible]

せん-ぽう (名) 船篷 ふねのとま。 黃庭堅詩「風雨打船篷」

せん-ぽう (名) 先鋒 サキガケ。[illegible]立ツモノ、前鋒。先手。先陣。[illegible]

ぜん-ぽう (名) 前鋒 前條ノ語ニ同ジ。 楊萬里詩「雪花遣作前鋒」

せん-ぼく (名) 占卜 ウラナフコト。[illegible]

せん-ぼつ (名) 戰歿 ウチジニスルコト。戰死。 後漢書、張禹傳「祖父況、常山關長[illegible]」

センぼふ (名) 懺法 〔梵語、Ksamaya.〕懺悔ノ法式ノ略。[illegible]

せん-ぼん-ぎく (名) 千本菊 あぶらぎくノ一名。其條ヲ見ヨ。

せん-ぼん-しめぢ (名) [illegible] ノ一種。林間ニ生ズ、形、小サク、一根塊ヨリ、數多、叢リ生ズ、味、美ナリ。

せんぼん-ねんブツ (名) 千本念佛 京都市上京區、千本通リノ[illegible]ニ於テ、[illegible]ノ咲ク頃(今ハ、五月二十四日ヨリ十七日間)、執行スル念佛會。一種ノ念佛踊[illegible]

せん-ま (名) [illegible] 次也、進也、循也、事之端、先覩之始也[illegible]

せん-まい (名) 洗米 〔神ニ奉ルニ云フ〕古言、クマシネ。今、又、オクマ、アラヒヨネ。カシヨネ。

ぜん-まい (名) 錢卷(?) 〔其卷、錢ノ大キサニ卷ケバ、錢卷ノ音便ナラムト云〕(一)草ノ名、ぜんまいわらびト云フベキノ略。山野ニ生ズ[illegible]ツ採リテ、食用トシ、乾シテモ、貯フ。其ノ形、卷曲シテ、綿アリテ、包ム、開ケバ[illegible]ク、長サ一寸許。一名、[illegible]ツラビ。[illegible]二作ル。又、犬ぜんまいアリ。[illegible]見ヨ。[illegible] (二)[illegible]ノ形ニ卷ケル鋼線ノ[illegible]ヲ動カス[illegible]

用キル。卷キするめニ似タレバ、するめがねトモ云フ。發條、彈條、「時計ノぜんまい」(三)轉ジテ、諸ノ機關ノ稱。「ぜんまいジカケ、ぜんまい細工」

せんまい-づけ(センマイヅケ) (名) 〔千枚漬〕 聖護院蕪(シヤウゴヰンカブ)ヲ、薄ク、煎餅ノ如ク切リテ、鹽ニテ漬ケタルモノ。京都ノ名物トス。

せんまい-どほし(センマイドオシ) (名) 〔千枚通〕 文房具ノ一。紙ヲ綴ヅルナドニ用キル錐。

ぜんまい-わらび (名) ぜんまい(薇)ノ(一)ノ本名ナルベシ。

せんまう(センモウ) (名) 〔纖毛〕 ホソキ毛。ムクゲ。

せんまう(センモウ) (名) 〔旋毛〕 ツムジ毛。ツジ。闕里誌、宋、孔衍、「馬、云云、悉旋毛」

せんまん (數) 〔千萬〕 萬ヲ、千倍ニシタル數。又、數ヘキレザル程ノ大數。杜牧之、阿房宮賦「蟲不知其幾千萬落」注「不知幾萬落之言也」、「千萬無量ノ思」

せんみ (名) 〔仙味〕 仙人ノ趣味。奇(クス)シキ味ヒ。孟郊詩「飲之稍說仙味、詠之因擬古詞」

ゼンみ (名) 〔禪味〕 禪ノ趣味。禪定ニ入リタル時ノ、輕安寂靜ノ妙味。維摩經、問疾品「食、若禪味、是菩薩縛」蘇軾詩「葉偏嘗禪味、松杉頌法音」

せんみつ (名) 〔千三〕 (一)〔千口ノ中、僅カ三口ダケ、相談ノ、調フ意〕 地所ノ賣買、又ハ、貸金ナドノ周旋ヲ業トスル人。(二)世ニ、虛誕多キモノ、千ニ、三ツナラデハ、信ナシ、ヨリテ、信ノ、少ナキコトニ云フ。ヨク、虛言(ウソ)ヲ言フコト。又、其人。又、單ニ、ウソ。萬八。ウソ八百。ウソツキ。重訂本草啓蒙、三十八「蝌斗、梅雨ニ小蛙トナリ、多ク路上ニ出デテ、人ニ踐殺サル、筑後ニテ、千三つト云フ、踐ルルモノ多キ故也」本朝俚諺比事「元祿、西鶴「千云フ言、三ツモ實(マコト)ハ無シトテ、千三ト云フ男アリ」「千三ヲ云フ」

せんみん (名) 〔賤民〕 (一)イヤシキ民。身分ノ甚ダヒクキ民。下民。史記、貨殖傳「上謂曰、高陽賤民食其」 (二)古ヘ、良民ノ下ニ、イヤシメテ置カレタル人ノ稱。卽チ、陵戶、官戶、家人(ヤケヒト)、公ノ奴婢、私ノ奴婢(ヤツコ)ノ五種ナリ。良民ト婚スルヲ禁ズ、故ニ、子子孫孫、皆賤民ナリ。然レドモ、今ノ世ニハ、モトヨリ、良賤ノ別ナシ。持統紀、五年三月「詔曰、若有百姓弟當兄見賣者、從良、若子(ヤツコ)爲父母見賣者、從賤」 戶令「陵戶、官戶、家人、公私奴婢、皆當色爲婚」

せんみやう(センミヨウ) (名) 〔宣命〕 〔命ヲ宣ル義。晉書、何曾傳「宣命遣使」〕 (一)〔詔勅ヲ、漢文ナラズ、皇國言ニテ記サレタルモノ〕 神事、改元、大赦、立后、立坊、任大臣ナドノ時ノ詔(ミコトノリ)命ヲ、文ニ宣ベ記シタルモノ。てにをはナドヲ、眞假名ニテ、漢字ノ閒ニ加フルコト、祝詞(ノリト)ノ如シ。セミャウ。宣命ヲ讀ミテ告グル役人ヲ、宣命使ト云フ。內記式「凡賀茂祭日、宣命、前一日奏、付內侍奏之」職原抄、上、內記「大一人、云云、儒門之中、堪文筆者、任之、草詔勅宣命、故也」儀式、五、讓國儀「當日、云云、大臣召內記、令作讓位宣命詑、先以草案、獻內侍奏覽」北山抄、四、立后事「前一日、大臣奉勅、仰外記、令誡所司、大臣奏宣命詑、御南殿」 桂史抄、下、立太子事「天皇讓位之時、讀誡、加宣命、是傳例也、臨時立太子之時有、其儀、同立后御宣」江家次第、四、正月「至大臣者、以宣命任之、仍不入除目」 源、一、桐壺「三位ノ位、贈リ給フ由、勅使來テ、其宣命讀ムナン、悲シキ事ナリケル」 (二)後ニ、漢文ナルヲ、詔書、勅書ト云ヒテ、皇國言ナルモノノ稱トナル。

せんみやう-がき(センミヨウガキ) (名) 〔宣命書〕 宣命、又ハ、祝詞(ノリト)ノ文ノ如キ、一種ノ書法(カキザマ)。悉ク漢字ヲ用キ、語尾、及、てにをはノ類ハ、右側ニ字ヲ小サク記スモノ。「現御神(アキツミカミ)止大八洲國知食須」ノ類。

せんみやう-し(センミヨウシ) (名) 〔宣命使〕 前前條ノ(一)ヲ見ヨ。 玉葉、承安二年二月十日「此日、有時命宣事、云云、宣命使、別當成親卿」 兵範記「殿任大臣節會次第、宣命使、次、內辨召宣命使、宣命使參上、立南庭子」

せんみやう-れき(センミヨウレキ) (名) 〔宣明曆〕 清和天皇ノ貞觀三年、大衍曆ニ易ヘテ用キラレシ太陰曆ノ唐ノ長慶年中、徐昂ノ作トカ、八百二十三年後、貞享曆ニ改メラル。 [illegible] 十五、宣明曆、唐徐昂、長慶二年壬寅、司天徐昂造之、上元七曜、云云 [illegible] 日月 [illegible] 皆因大衍曆術、以步五星 [illegible] 後世日 [illegible] 貞觀三年辛巳、眞野麻呂用之、臣 [illegible] 以爲 [illegible] 本朝 [illegible] 天皇 [illegible] 六年 [illegible] 本邦用大衍曆 [illegible] 又、天平 [illegible] 唐玄宗開元二十八年、溯回於天平十二年、凡九十九年、此時 [illegible] 大衍曆 [illegible] 大衍也、云云、以後新曆 [illegible] 衞 [illegible] 節氣有差 [illegible] 天平之 [illegible] 不 [illegible] 後 [illegible] 恐不字衍致、積年七百七萬一千七十、日法八千四百、自貞觀四年、至貞享元年、行八百二十二年、後 [illegible] 於天 [illegible] 有奇也」

せん-む (名) 〔先務〕 第一ノツトメ。孟子、盡心、上篇「堯舜之知、而不偏物、急先務也」

せん-む (名) 〔專務〕 專一ノツトメ。又、主トシテ其事務ニ當ルコト。「[illegible]」

せんめい (名) 〔鮮明〕 アザヤカニ、アキラカナルコト。[illegible] ハッキリシタルコト、[illegible] 出車篇「旂旐央央」注「央央、鮮明也」

せんめい (名) 〔闡明〕 〔闡ハ、開、及、明ノ意〕 易、繫辭、下傳「微顯闡幽」〕 隱レタル意義、又ハ、道理ヲ、アラハシ、明ラカニスルコト。

せんめつ (名) 〔殲滅〕 ホロボシ、ツクスコト。殄滅。剿滅。 東方朔、七諫「高冷冷而殲滅兮、滅滿滿而日多」

ぜんめつ (名) 〔全滅〕 全體殘ラズ、ホロブルコト。又、全體殘ラズ、ホロボスコト。「一個中隊、全滅」

せんめん (名) 〔扇面〕 〔あふぎノおもてニテ、書畫ヲ書クガ元ナル語ナルベシ〕 (一)扇ノオモテ。(二)あふ(オウ)ぎ(扇)ニ同ジ。扇子。本朝畫史、四「扇面畫法」

せんめん (名) 〔洗面〕 顏面ヲ、洗ヒ清ムルコト。「洗面器」

せん-もう (名) 〔旃蒙〕 十干ノ乙(キノト)ノ異名。爾雅、釋天篇「太歲、在乙曰旃蒙」

せん-もく (名) 〔洗沐〕 もくよく(沐浴)ニ同ジ。 蘇軾詩、居士集、麈塵洗沐、道人有 句僧 [illegible] 宜論」

せん-もん (名) 〔占文〕 占ノ表ニアラハレタル文言。 太平記、二十、天下怪異事「陰陽ノ博士、占文ヲ披イテ見ルニ、關白、位ヲ易ヘ、大臣、遭災ト アリ」

せん-もん (名) 〔專門〕 〔漢書、儒林傳「專攻一經、收門戶」〕 普通學ニ對シテ、專ラ、一學、術ノ、高尙ナルヲ修スル語。 [illegible] 傳「[illegible]、安樂、各專門教授」

せん-もん (名) 〔千門〕 多クノ門。數多ノ家屋。 上官儀詩「[illegible] 千門壯宮殿」

ゼン-もん (名) 【禪門】 (一)禪宗ノ宗門。禪宗。沙石集、五、下、第十八條「禪門ハ、迦葉、正法眼藏ヲ傳シヨリ、單傳密印、不立文字ノ宗トメ、初ヨリ、文字ヲ立テズ、義理ヲ存ゼズ」 (二)男子ノ、佛門ニ入リシモノノ稱。女ナルヲ、禪尼ト云フ。梁高僧傳(羅什傳)、「剃髮ニ禪門」 平治物語、一、信西南都落事「御所ニ火ヲカケテ、後、禪門、奈良ヘト聞キシカバ、此事申サントテ」 洪俵(許六)「禪門ノ、革足袋下ロス、十夜カナ」

せんもん-か (名) 【專門家】 或ル種類ノ學問、又ハ、事柄ヲ、專一ニ研究スル人。其道ノ人。ソレシャ。

せんもん-がく (名) 【專門學】 (普通學ニ對ス) 專門ニ講究スベキ、高尙ナル學科。

せんもん-ご (名) 【專門語】 特ニ、技藝、學術上ナドニ使用スル語。學術語。術語。テクニックス。

せんもん-ばん-と (名) 【千門萬戶】 (一)禁中ノ宮室ヲ云フ。(其尾守ノ廣大ナル故ニ) 史記、孝武紀「作ニ建章宮、度爲ニ千門萬戶ニ」 (二)數多ノ門戶。多クノ家屋。盧道悅詩「不ニ暇更同ニ東ニ去、春在ニ千門萬戶中ニ」

せんや (名) 【先夜】 先日ノ夜。サキノヨ。過ギシ夜。「先夜ハ失禮」

ぜん-や (名) 【前夜】 ヨベ。夜前。昨夜。梅堯臣詩「前夜宿ニ[illegible]」

せん-やう (名) 【宣揚】 ノベ、アラハスコト。アゲ、アラハスコト。[illegible]「[illegible]以[illegible]宣ニ揚德音ヲ」

〜せん-やく (名) 【煎藥】 せんじぐすりニ同ジ。[illegible]摩デ、ヤウヤウト、命繋イデ」

せん-やく (名) 【仙藥】 仙人ノくすり。不老不死ノ藥。又、效驗著シキ、不思議ナル藥。神藥。仙丹。史記、始皇紀「食ニ於[illegible]」 今昔物語、廿、第四十二語「心、風流ナル者ハ、佛法ヲ不ニ修行ニト云ヘドモ、仙藥ヲ食シテ、此ク、仙ト成ケリ、此レヲ、服ニ仙藥ニト云フナルベシ」

せん-やく (名) 【先役】 (一)前ニ、其役ヲ勤メタル人。(二)其役ノ、古參ノ人。「先役ノ指圖ニ從フ」

せん-やく (名) 【先約】 前方ノ約束。前約。北周書、楊孝傳「欲ニ背ニ先約ニ」

ぜん-やく (名) 【前約】 前條ノ語ニ同ジ。後漢記(唐、魯用昌)「其像無ニ成、深學後悔ニ前約ニ」

せんや-ぞめ (名) 【千彌染】 布帛ヲ、紫ノ大綾ニ染メタルモノ。寶永ノ頃、女形、中村千彌ト云フ俳優、此染衣ヲ着タルヨリ、名アリ。近代世事談、享保ニ、千彌染、寶永ノ頃、中村千彌ト云フ芝居者、始メテ、此染ヲ着タリ、紫色ニシテ、大綾リニ染メタルナリ」 實且集ニ寶永「千彌染、名ニメデテコソ、着衣初」 川柳點(安永)「祖母サマノ、袖釣ッテオク、千彌染」(廢レタルヲ知ラズ、孫女ニ讓ラムトスルナリ)

せん-ゆ (名) 【僭踰】 分際ヲ越エテ、モノスルコト。僭越。

せん-ゆ (名) 【穿窬】 (論語、陽貨篇、道注「穿、穿ニ壁、窬、窬ニ牆ニ」) 壁ニ穴ヲアケ、又ハ、牆ヲ越エテ、家内ニ忍ビ入ルコト。(盜人ト云ハムガ如シ) 論語、陽貨篇「色[illegible]小人、其猶ニ穿窬之盜ニ也與」

ぜん-ゆ (名) 【全癒】 病ノ、全ク癒エタルコト。全快。

せん-よ (名) 【羨餘】 (孟子、滕文公、下篇「以ニ羨補ニ不足ニ」 趙注「羨、餘也」)ニ[illegible]

リモノ。ノコリ。唐書、食貨志「淮南節度使杜亞、[illegible]」

せん-よう (名) 【占用】 獨占シテ、使用スルコト。

せん-よう (名) 【專用】 自己ノミ、又、或物事ニノミ、專ラニ用ヰルコト。「專用特許」「ペン專用ノ墨汁」

せん-よく (名) 【扇翼】 せんぷうき(扇風機)ノ條ヲ見ヨ。

〜せん-よく (名) 【蟬翼】 (蟬ノ翼ノ輕ク、薄キニ譬ヘテ云ヘルナラム、[illegible]) [illegible]「其冠支[illegible]、如ニ蟬翼ニ」 武元衡[illegible]人ニ詩「蟬翼羅衣白玉人ニ」 [illegible]スモノ。今ノ、絹力。倭名抄、十二[illegible]「羅、[illegible]」 [illegible]布[illegible]

セン-ユウ
せん-らう (名) 【仙郞】 ごゐのくらうど(五位藏人)ノ唐名。[illegible]「仙郞、仙郞」

セン-ロウ
せん-らう (名) 【泉郞】 あま(白水郞)ノ條ヲ見ヨ。

せん-らん (名) 【戰亂】 戰爭起リテ、世ノ、亂ルルコト。兵亂。「戰亂ノ世」

せん-り (名) 【千里】 (一)一里ノ千倍。一千里。(二)遠距離。遠方。[illegible]「[illegible]出ニ門、惡事行ニ千里ニ」 莊子、說劍篇「千里不ニ留ニ行」

せん-り (名) 【戰利】 (一)[illegible] (二)戰ニテ、分捕シタルコト。[illegible]兵而[illegible]之」 [illegible]

ぜん-り (名) 【[illegible]】 [illegible]

せん-りう (名) 【川柳】 [illegible]

センリウテン
せんりう-てん (名) 【川柳點】 [illegible]柄井ノ號[illegible]ハ、初代柄井川柳ト號ス、實名ハ、柄井八右衞門正通ト稱シ、江戶、淺草、阿部川町ノ名主ナリ、寶曆[illegible]、淺草、新堀端、龍寶寺ニ葬ル) 寶曆、明和ノ頃、[illegible]詠ミ始メタル、五七五ノ三句ナル、一種ノ歌ノ[illegible]狂體ナルモノナリ。寸鐵、人ヲ刺シ、[illegible]縱橫ナルモノナリ。人ノ擧動ノ眞音、[illegible]申ノ人情ヲ[illegible]ナルガ如シ。其同人、門人ノ撰集ヲ、川柳點ト云ヒ、後方ヲ[illegible]ハセ、勝負ヲツケタル句集ヲ、柳樽ト云フ。

せん-り-がん (名) 【千里眼】 (一)千里ノ前ヲ見ル眼。遠方ノ事物ヲ、知リ知ル能力。[illegible]不[illegible]天上ニアリテ、コノ下界ノ事ヲ見通スト云フ[illegible] [illegible]「千里眼ト云フ[illegible]」[illegible]シテ、其[illegible]千里眼、[illegible]ノコトヲ[illegible]

せん-り-きやう [illegible]

可ナリ」續有院殿御實紀、附錄、上ニ捌キ、日日、櫓ニ登リ、遠鏡ヲモテ、往來ノ人ヲ見玉フトアリテハ、下下、事ノ外、難困スルモノ、多シ、ヨリテ、某、打碎キテ後、御遠鏡ノ千里鏡ノ打碎キシ事、思召ニ違ハザランニハ、某ヲ御成敗アルベシト」

せんりつ (名) 【戰慄、戰栗】 (爾雅、釋詁「慄、戰慄、懼也」栗ハ、慄ニ同ジ) 震ヒ、ワナナクコト。 論語、八佾篇「周人以栗、曰、使民戰栗」淮南子、人間訓「戰戰慄慄、日愼一日」

せんりつ (名) 【旋律】 〔英語、Melody. ノ譯語〕 音樂ニテ、聲音ノ抑揚ガ、正シク循環スルコト。

ゼンりつ (名) 【禪律】 (一)佛敎ノ語、禪宗ニテノ戒律。(出典ヲ見ヨ) 出家大綱「眞言贊戒ニ法、有二門、一者衣食、二者行儀、初、衣食者、衣已畳、身、食已畳、身、次、行儀者、行調ニ戒行、儀調ニ律儀、衣有ニ二、俗衣、法衣、食有ニ二、諸食、乞食、戒有ニ二、比丘戒、菩薩戒、律有ニ二、俗律、道律」 元亨釋書、七、淨禪「律辯圓、云云、大相國(道家)於ニ光明峯別墅、云云、受ニ佛門大戒兼密密灌頂、正嘉元年寬元上皇(後嵯峨)於ニ龜山宮、受ニ佛門菩薩戒」 (二)禪宗ト、律宗ト。 太平記、一、後醍醐天皇御治世事「凡、顯密禪律ノ僧、ヲレタルヲ興シ、一事ノ善ナモ賞セラレシカバ、寺社、禪律ノ繁昌、爰ニ時ヲ得、顯密、儒道ノ碩才モ、皆望ヲ達セリ」

せんりのうま (名) 【千里馬】 一日ニ千里ノ路ヲ、歩ムト云フ名馬。 戰國策、燕策「郭隗先生曰、臣聞、古之人君、有ニ以ニ千金ニ求ニ千里馬ニ者、云云、馬已死、買ニ其骨五百金ニ而反、以報ニ君」

せんりのこま (名) 【千里駒】 (一)名馬ノ素質アル若キ馬。(駒ハ二歲ノ馬) (二)有用ノ器トナル可キ、俊才ノ若者ヲ譬ヘテ云フ語。 三國志、魏志、曹休傳「曹休年十餘歲、云云、太祖謂ニ左右ニ曰、此吾家千里駒也」 南史、蕭穎傳「性高貴、風韻甚高、云云、宋武帝聞ニ其美ニ召見、謂之曰、眞千里駒也」

せんりのひばい (名) 【千里飛梅】 菅原道眞ハ、藤原時平等ノ讒ニ遭ヒ、延喜元年、太宰權帥ニ貶セラレ、京都ヲ發足セラルル時、日頃、愛セシ梅樹ニ對シテ、「東風吹カバ、匂オコセヨ、梅ノ花、主ナシトテ、春ナ忘レソ」ト、別レノ歌ヲ詠マレシカバ、心ナキ梅モ、其詠歌ニ感ジテ、筑紫マデ飛ビ行キシト云フ。コレヲ世ニ、千里ノ飛梅、トハ云ヘリ。 とびうめ(飛梅)ノ條ヲモ見ヨ。又、菅公、筑紫ニ於テ、「梅ハ飛ビ、櫻ハ枯ルル、世ノ中ニ、ナニトテ松ノ、情ナカルラム」ト、一首ノ歌ヲ詠ミテ、都ニ殘セシ松ニ、思ヲヤリシニ、不思議ヤ、コノ松、九州、太宰府マデ、公ノ跡ヲ追ヒテ、其庭ニ生ジタリト云フ。故ニ、コレヲ追松、又ハ、老松、跡追ノ松、ナドトモ云フ。又、北野緣起ニヨレバ、菅公ノ靈ノ、託宣ニヨリテ、京ノ右近ノ馬場ニ、松數千本、一夜ノ中ニ生ゼリト云フ。

せんりひん (名) 【戰利品】 戰爭ニテ分捕シタル品物。分捕品。

せんりん (名) 【輭輪】 (輭ハ、軟ノ本字、漢音ぜん、呉音なん) 古へ、支那ニテ、蒲ノ葉ニテ包ミテ、乘心地ヨクシタル車輪。蒲輪。 後漢書、明帝紀「安車輭輪」

ぜんりん (名) 【善隣】 ヨク其道ヲ盡シテ、隣國、又ハ、隣家ニ交ハルコト。 隣國ト親シムコト。 隣國トノ交リヲ善クスルコト。 左傳、隱公六年「親ニ仁善ニ隣、國之寶也」「善隣國寶記」(僧周鳳)

ゼンりん (名) 【禪林】 〔林ハ、叢林ノ義、衆ノ多キニ譬フ〕 (一)禪宗ノ寺院。 (二)僧侶ノナカマ。禪侶。緇林。 禪林寶訓音義「禪者、靜慮也、林者、叢林也、蓋言、山林之士、湖海之流、云ニ集招提、同ニ堂共ニ命、清律爲ニ修、修ニ習淨業ニ以ニ此ニ比ニ之、故曰ニ禪林ニ」

せんりやう (名) 【千兩】 (一)一兩ノ千倍。 (二)(實、百兩金ニ勝レバ、名トスト云フ) 草ノ名、山林中ニ生ズ、性、日ヲ畏ル、一株ヨリ叢生シテ、莖、高サ一二三尺、深青ニシテ、泡節アリ、葉ハ、對生シテ、橘ノ葉ニ似タリ。夏、小白花ヲ開キ、秋、冬、紅實、纍纍トシテ、麗シク、南天燭ノ如ク、又、珊瑚珠ニ似タリ。 草珊瑚

せんりやう (名) 【占領】 國家ガ、無主ノ土地ヲ、先占スルコト(コレヲ、平時占領ト云フ)又、戰爭中、交戰國ノ軍隊ガ、他方ノ交戰國ノ一地方ニ、事實上ノ權力ヲ樹立スルコト(コレヲ、戰時占領ト云フ)

せんりやう (名) 【選良】 ヨキ人物ヲ、エラビ拔クコト。又、其エラバレタル人。「一國ノ選良」

ぜんりやう (名) 【善良】 ヨキコト。正直ニシテ、溫順ナルコト。 禮記、學記篇「求ニ善良ニ足ニ以聞ニ不ニ足ニ以動ニ衆」(良ハ小)

せんりやうばこ (名) 【千兩箱】 壹分銀、廿五兩包、數、四十、合ハセテ、千兩ヲ容ルベク作レル箱。筋鐵ナド、入ル。

せんりやうやくしや (名) 【千兩役者】 芝居ノ役者ノ、最上ノモノ。一ヶ年給金、千兩ト云フ役者。 我衣(天和)「元祿ノ頃、市川古團十郎、元字金ニテ、給金、五百兩ニ定ム、是、高給金ノ始ナリ、其後、正德年中、芳澤あやめト云女形、乾金千兩ニテ下ル、夫ヨリ、子、團十郎、後、老名、海老藏ト云、是千兩ノ上ヘ、給金取上ル」

せんりやく (名) 【戰略】 戰爭ノ計策。 今戰ノ駈引 (國家、技ニ武臣、學ニ習兵法ニ [illegible] 兵ヲ用ル關係之戰略ニ)

せんりやく (名) 【淺略】 思慮、又ハ、學問等ノ、アサハカナルコト。 論衡(漢、王充)「儒生不覽古今、不知事之、所謂淺略不及、偏駁不純」

ぜんりやく (名) 【前略】 前ニ記スベキ文句ヲ、省略スルコト。上略。中略ナドニ對ス。「前略御免」

せんりゆう (名) 【潛龍】 (一)ヒソミヰテ、天ニ昇ラザル龍。 易經、上經、乾卦「初九、潛龍勿用」 (二)轉ジテ、帝位ヲ忌避シ給フ御方。又ハ、皇太子、或ハ、未ダ、風雲ニ際會セザル英雄ナドノ稱。 太平記、四、呉越軍事「臥龍ハ、角ニ肉アリテ、猛キ形ヲ顯サズ、潛龍ハ、三冬ニ蟄シテ、一陽來復ノ天ヲ待ツ」

せんりよ (名) 【千慮】 種種ノカンガヘ。イロイロト、思ヲ運ラスコト。「千慮ノ一失」

せんりよ (名) 【淺慮】 淺ハカナル考ヘ、淺薄ナル思慮。深慮ノ反。

ぜんりよ (名) 【髯虜】 ひげノアルえびす。毛唐人。西洋人ヲ賤シメテ云フ語。

ゼンりよ (名) 【禪侶】 (一)禪宗ノ僧。轉ジテ、凡ベテノ僧侶。出家。禪林。緇侶。 李頻詩「別訪ニ棲禪侶ニ相期語ニ劫沙ニ」 盛衰記、四十八、法皇大原入御事「人ヤアルト、尋ネサセ給ヘドモ、寂寞ノ柴ノ樞ナレバ、無人聲トシテ、答フル人モナシ、香煙出ニ窓、芝草被ニ無ニ人、禪侶向ニ壇、金ニ鳴有ニ響、瑜伽振鈴ノ音ニコソ、庵室ノ中ニ人アリ共聞召」 (二)諸大夫、又ハ、北面侍ナドノ子ノ、出家シタルモノノ稱。

ぜんりよく (名) 【全力】 有リタケノ力。力一杯。 劉子暈詩「克己無ニ全力ニ」「全力ヲ盡ク」

せんりょのいっしつ (句) 【千慮一失】 多クノ思慮ノ中ノ、僅カナル失誤。 史記、淮陰侯傳「智者、千慮必有二一失一愚者、千慮必有二一得一」

せんる (名) 【綫縷】 イトスヂ。 杜甫詩「危途中縈盤、仰望垂二綫縷一」

せんるゐ (名) 【孱羸】 〔玉篇「孱、弱也」〕左傳、桓公六年、杜注「羸、弱也」〕 せんぜいく(孱弱)ニ同ジ。 方孝孺詩「我生素多病、中歳早孱羸」

せんれい (名) 【先例】 先先、行ヒ來リシ例。前例。舊慣。先儀。 梁書、裴昂傳「事有二先例一」 燕臺記、二、類打論事「北京ニハ、一番二、延暦寺ノ行ヲ立テ、額ヲ打チ、山山、寺寺、次第ヲ守リテ、立テ並ブルハ、先例也」

せんれい (名) 【洗禮】 〔英語(語原、希臘語、βαπτισμα.)、Baptism.ノ譯語〕 耶蘇教ニ加入スル者ノ、頭ニ水ヲ灌注シテ、心身ヲ淨ムル儀式。バプテスマ。

せんれい (名) 【鮮麗】 アザヤカニシテ、ウルハシキコト。 南史、謝靈運傳「靈運性奢侈、車服鮮麗」

せんれい (名) 【纖麗】 細ヤカニシテ、美シキコト。シナヤカニシテ、美ハシキコト。 張華、輕薄篇「被服極二纖麗一、肴膳盡二柔嘉一」

ぜんれい (名) 【前例】 先例ニ同ジ。

せんれう (名) 【染料】 物ヲ染ムルニ用キル原料。染色ノ材料。

せんれつ (名) 【孱劣】 〔廣韻「孱、劣也」〕 オトルコト。劣等ナルコト。下品ナルコト。

せんれつ (名) 【淺劣淺劣】 〔字彙「[illegible]、淺也」〕 才學ノ、淺ハカニシテ、劣レルコト。 三國志、吳志、陸凱傳「臣聞、天子大理[illegible]、[illegible]淺劣」

せんれつ (名) 【賤劣】 イヤシク、オトレルコト。 漢書、[illegible]其[illegible]「[illegible]」師古注「[illegible]、其賤劣、如二儀醫一」

せんれつ (名) 【先烈】 先代ノ遺烈。遺勳。 書經、[illegible]命篇「格二其非心一俾二克紹二先烈一」

ぜんれつ (名) 【前烈】 前代ノ功烈。功烈アル祖先。 書經、武成篇「惟先王建二邦啓一土、公劉克篤二前烈一」 太平記、一、武家繁昌事「[illegible]日夜ニ[illegible]ヲ事トシテ、前烈ヲ地下ニ恥シメ」

せんれん (名) 【洗練】 物ヲアラヒ、又ハ、ネルガ如ク、思想、又ハ、字句ヲ、ネリ鍛フルコト。 宋書、[illegible]之傳「[illegible]洗、[illegible]練宅」「洗練セラレタル文章」

ぜんれん (名) 【前聯】 漢詩ノ律ノ、第三、第四ノ兩句。後聯ニ對ス。 絶、律ノ條ヲ見ヨ。

せんろ (名) 【線路】 汽車、電車ナドノ道筋、軌路。鐵路。

せんろ (名) 【船路】 フナヂ。船舶ノ航路。 南史、[illegible]「[illegible]船路一」

せんろう (名) 【淺陋】 〔荀子、修身篇「少聞曰レ淺、少見曰レ陋」〕 見聞ノ、淺ク、固陋ナルコト。アサハカナルコト。 漢書、[illegible]「[illegible]淺陋之罪也」

せんろう (名) 【賤陋】 イヤシク、ミニクキコト。ゲス。 柳宗元、[illegible]「[illegible]賤陋[illegible]淺下」

せんろく (名) 【[illegible]】 [illegible]シテ、記スコト。 南史、[illegible]「[illegible]」

せんろっぽん (名) 〔次條ノ[illegible]〕 大根ヲ、甚ダ細長ク、切リ刻ミタルモノ。セロッポツ。略シテ、せん。 訓往來、十月「[illegible]、[illegible]」

せんろふ (名) 【纖蘿蔔】 前條ニ同ジ。 庭[illegible]

せんわう (名) 【專橫】 〔專擅橫恣ノ略〕 所行ノ、ホシイママナルコト。

せんわう (名) 【先王】 (一)先代ノ王者。先君。せんぷう(先王)ノ條ヲ參見セヨ。 書經、[illegible]「[illegible]」 (二)前代ノ聖王。前王。 孟子、[illegible]「[illegible]過者、未二之有一也」

ぜんわう (名) 【前王】 前條ニ同ジ。 大學「於戲、前王不レ忘」[illegible]前王之[illegible]也」

せんゐ (名) 【纖維】 (一)[illegible]ドニ見ユル如キ、[illegible] (二)〔英語、Fibre.ノ譯語〕 生物體ノ組織ヲ[illegible]状ノ物質。

ぜんゐ (名) 【禪位】 〔正字通「禪、代也、傳與也」〕 [illegible](讓位)ニ同ジ。 〔宋、[illegible]〕

せむゐしゃ (名) 【[illegible]】 [illegible] [illegible]ハ、[illegible]、衆生ニ、諸ノ[illegible]念、[illegible] [illegible] 物語、二、[illegible]「[illegible]」 [illegible]テシメ給ヘリ」

せんゐのがく (名) 【纖維學】 階數ニ附[illegible]

[illegible] 方行。 [illegible] [illegible]之本、[illegible]

せんゐん (名) 【仙院】 せんどう(仙洞)ノ(一)ニ同ジ。 [illegible] 仙院、[illegible] [illegible]バ御行ト[illegible]、帝王ノ御出ツバ行ツト[illegible]」 太平記、三十七、[illegible]仙院ノ故宮ニゾ御座シケル」

ゼンゐん (名) 【禪院】 ぜんでら(禪寺)ニ同ジ。 [illegible]、十四、つげの小櫛、[illegible]バ、[illegible] [illegible]ナンド[illegible]、禪院ノ[illegible]」

ぜんゑい (名) 【前衞】 (一)前方ヲ、守衞スルコト。其後方ヲ守ルヲ、後衞トイフ。 [illegible]

せんゑつ (名) 【僭越】 身ノ分ヲ越エテ、セノスルコト。 [illegible]

せんゑん (副) 【嬋娟】 せんけん(嬋娟)ニ同ジ。

せめ (名) 【責】 (一)責ムルコト。クルシ[illegible] [illegible] カリケル[illegible]中ノ[illegible]、[illegible]ノ中ニ、[illegible] [illegible]ルノサン、[illegible] (二)身ニ[illegible]ヒテ、[illegible]ト引[illegible] [illegible] [illegible]其せめニ任ズ」 (三)[illegible] [illegible]ノ用ヰナシ、[illegible]ノ[illegible]リ[illegible]

テ、太キ方ヘ迸リ、結メツケ置ク用トスルモノ。シメ。(笙ニ、太刀ノ鞘ニ、扇子ニ、帆柱ニ)

せめ・あぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [攻倦] 攻ムルニ倦ミテ、厭ハシゲニナル。太平記、十四、「大渡山崎等合戦事」イツマデカ向カヒ居ルベキトテ、せめあぐんで思ヒケル處ニ」

せめあひ (名) [攻合] セメアフコト。

せめ・あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [攻合] 互ニ、攻ム。兩方ヨリ、討チアフ。「敵、身方、せめあふ」

せめ-うた (名) [責歌] 最初ニ乙ニテ歌ヒ、次ニ甲ニテ謡フコト。又、其歌。歌舞品目、七、上、責歌「初ハ乙ニテ歌ヒ、後段ニ甲ニテ歌フヲ、責歌ト稱ス」

せめ-うま (名) [責馬] 馬ヲ乗リ馴ラスコト。調馬。槍權三重帷子(享保、近松作)上「達者ヲ見セテゾ、せめ馬ノ、轡モ、鐙モ、汗トナリ」色道論(寛永)「皆、せめ馬ト打見エテ、頭足、地踏、一流ノ手綱ノ秘密、轡ノ曲、心ノママニ乗廻レテ」

せめ-おど・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [責威] 責メテ、オドシツク。狭衣、三、上、廿四「此ノ後見サヘ、心ニマカセテ、イト荒荒シウせめおどしキコユレバ」

せめ-かは (名) [責革] いためがは(撓革)ニ同ジ。三河記「御身ノ打チタルモ、責革ノ具足着テ、鐵砲ニ當リタルヲ、打チ給フ也」

せめ-ぎ (名) [責木] (一)しめぎ(搾木)ニ同ジ。(二)くさび(轄)ニ同ジ。

せめ-く (名) [責苦] 責メ苦シムルコト。又、サイナマルルコト。「酷イ責苦ニ遇フ」

せめ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) [鬩] (攻めノ活用)互ニ、ウラミ合フ。互ニ、相爭フ。ソメク。名義抄「鬩、セメグ、アラソフ、タガフ、鬩、セメグ、ソメク」字鏡「倶、很戻也、違也、世女久」詩經、小雅、鹿鳴之什、常棣篇「兄弟鬩于牆、外禦其務」

せめ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(他動、四) [鬩] 恨ム。恨ミ訟フ。古今集、十七、雜、上「老イヌトテ、ナドカ我ガ身ヲ、せめぎケム、老イズバ今日ニ、逢ハマシモノヲ」

せめ-しゆう (名) [攻衆] 攻撃ノ人人。おあん物語「攻め衆大勢、城ヘ向ハレテ」

せめ-そ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [責過] 甚シク、責ム。程ヲ過シテ、責ム。宇津保物語、國讓、中、四十五「兄トモ云ハズ、せめそせヨ」同、初秋、四十八「御琴賜ハリテ、せめそさセ給ヘルニ困ジ」

せめ-だいこ (名) [攻太鼓] 次條ノ語ニ同ジ。國性爺合戦(正徳、近松作)千里竹「怪シヤ、數萬ノ人聲、攻メ鼓、攻め太鼓」

せめ-つづみ (名) [攻鼓][責鼓] 攻撃ノ相圖ニ打鳴ラス太鼓。セメダイコ。引鉦ニ對ス。太平記、四、呉越軍事「馬ハ雪ニ泥ミテ、駈引キモ自在ナラズ、サレドモ越王、責鼓ヲ打チテ進マレケル間、越ノ兵、我先ニト、轡ヲ雙ベ、駈入ル」

せめて (副) [迫めてノ意ヨリ轉ズ。迫むノ條ヲ見ヨ] (一)切ニ。強ヒテ。無理ニ。源、十八、松風、廿五「せめて見隱シ給フ御目尻コソ、煩シケレトテ」宇津保物語、忠こそ、廿七「許サレ給ハサリケル御暇ヲ、せめて罷出給ヒニシ、云云、許サレザリシヲ、強ヒテ罷出ツルナリト申シシカバ」枕草子、三、廿一段「サリトモ、アルヤウアラント、せめて見レバ」とりかへばや、四「御涙モコボレヌベキヲ、せめて紛ラハサセ給ヒテ」(二)轉ジテ、甚シク。切ニ。源、三十二、梅枝、十四「高麗ノ紙ノ、薄様ダチタルガ、せめてナマメカシキヲ、此ノ物好スル人人、心ミムトテ」宇治拾遺、十一、第一條「色ノ、せめて青カリケレバ、青ツネノ君トゾ、殿上君達ハ、附ケテ笑ヒケル」(三)又、轉ジテ、願フ事、叶ハヌニ、倘、強ヒテ。十ニ、一ツ二ツナリトモ。セメテノ事ニ。已ム事ヲ得ズバ。大和物語、上「偲ビテ逢ヒ給ウケルニ、云云、院ニテハ、逢フマジケレバ、せめて今宵ハ、ナ、參リ給ヒソト、止メケリ」草庵集「世ニ漏ルル、ウキ名ヲせめて、限リナク、包ミシ人ニ、知ラセズモガナ」式子内親王集「せめて猶、心細キハ、年月ノ、イルガ如クニ、有明ノ空」夫木抄、八、郭公「せめて猶、マヅアラマシニ、郭公、鳴カヌ初音ヲ、心ニゾ聞ク」顯輔集「事アリテ、エ參ラヌヲ、殿ヨリせめて仰セラルレバ、遁フ遁フ參リテ」元眞集「住吉ノ、岸ニ寄スナル、忘貝、せめて戀シキ、今日ゾ寄スナル」爲忠集「水莖ノ、書キモ盡サヌ、思ヒヲバ、せめてハ君ガ、夢ニテモ知レ」俳諧新選(刻山ノ句)「せめて袖ノ、長イヲ孝ニ、蚊ヲ追ハン」同(光甫ノ句)「無掃除ノ、せめて取得ヤ、蟲ノ聲」

せめ-ねんブツ (名) [責念佛] 念佛ヲ、次第次第ニ、急ニ唱フルコト。古今夷曲集、十、淨土宗、日中ノせめ念佛ヲ「貴賤群集、ノリノ庭トテ、市ナセル、午ノ時時、せめ念佛カナ」

せめ-の-せきづる (名) [責關弦] 細キ絲ニテ卷キ、漆ヲ塗リタル弓弦。幸若舞曲、高舘「龜井ノ六郎重淸ハ、云云、塗込ノ弓ノ、四人張リ、せめのせきづる掛ケサセ」

せめ-はた・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [責促] 嚴シク、催促ス。督促。神代紀、上、廿八「歸罪過於素戔嗚尊、而科之以千座置戸、遂促徵矣」

せめ-ひも (名) [責紐] 袴ノ裾ナドノ括紐。盛衰記、三十三、兼康討倉光事「柿ノ袴ニ責紐結、布ノ小袖ニ東折シタリ」

せめ-ふ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) [責伏] (一)責メテ、說伏セシム。愚管抄、五「内大臣宗盛、不用シテ、せめふせラレケレバ」(二)問ヒツムル。詰問ス。長門本、平家物語、十四、齋藤別當實盛討死事「名ノレト、せめふせ候ヒツレドモ、云云、名乗リ候ハズ」

セメン (名) (一)次條ノ語ノ略。(二)次次條ノ語ノ略。

セメンシイナ (名) [羅甸語、Semen-cinae.] 蛔蟲下シナドノ藥。支那(羅甸語、Cinae.)ト云フ植物ノ蕾(色、青黃ナリ、べるぎあ、とるきすたんナドニ產ズ)ヨリ精製シタルモノ。粉末ニシタルモアレド、多クハ、蕾ノママナリ、水ニ煎ジテ、蛔蟲下シニ用ヰル。又、ソノ製藥ニ、さんとにいね(通稱、せめいん、せめんえん)アリ、白色ノ結晶粉ニシテ、劇藥ナリ。略シテ、せめん。

セメント (名) [英語、Cement.] 石灰ト、粘土トノ混合物ヲ燒キテ、粉碎シタルモノ。沙礫、及、水ヲ加ヘテ捏スレバ、凝固シテ石狀ヲ呈ス。土木建築ノ主要材料ナリ。凝土。煉石灰。洋灰。略シテ、せめん。

せめ-よ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(自動、下二) [攻寄] 攻メ掛リ、近寄ル。「敵ノ城ニせめよす」

せめ-よ・せる (動) 前條ノ語ノ口語。

せ・める (動) 迫む、責む、攻む、等ノ口語。

せ-もつ (名) [施物] ホドコス物。惠ミ與フル品。(僧ナドニ)セブツ。盛衰記、一、德長壽院導師事「御布施ニハ、千石、千貫、沙金千兩、其外、被物、引物、庭上、岡ヲナセルガ如シ、實ニ、御善根ノ志ハ、施物ニ色顯レタリ」

せ-やく (名) [施藥] 藥ヲ、ホドコシ與フルコト。[illegible]

せやく-ゐん (名) [施藥院] 施ヲ讀マズ、やくゐんトノミ云フヲ讀癖トス。京都、唐橋ノ南、室町ノ西ニ在リキ、院使、判官、主典ノ官アリ、京中ノ、便リナキ病

者ヲ置キテ療治シ、又、孤子ヲ送リテ養ハシムル所。悲田院、コレニ屬ス。「家當記、寶長元年八月十四日、淺野彈正宅、伊達政宗等來、書「利家ヨリ、施藥院ヘ云云、[illegible]」言繼卿記、永正三年十二月廿四日、施藥院事「施字如何可レ讀、云云、不二普也」蔵林四季物語、夏「典藥頭、やくゐん主ナド、御藥園ノ種子、土ノ瓶ニ盛リテ、內裏ニ[illegible]シテ、奉レバ」蕪村句集「秋立ツヤ、素湯香シキ、施藥院」

せよ (名) 施與 ホドコシ、アタフルコト。惠ミ與フルコト。 三國志、呉志、[illegible]傳「家富二手財、性好二施與一」

せらぎ (名) せせらぎ(細流)ニ同ジ。 菅家萬葉集、下「紅葉ノ、流レテ堰ケバ、山川ノ、淺キ瀬良[illegible]モ、秋ハ深キヲ」

ゼラチン (名) 〔英語、Gelatine.〕動物ノ骨、皮等ヲ、水ト共ニ煮テ製シタル、膠ノ主成分。西洋菓子ノ製造、細菌ノ培養、寫眞術ナドニ用ヰル。晒膠。

せら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 擠 シリゾクル。拒ツル。 名義抄「擠、セラフ」 蜻蛉記、上、三十歳「擠、吾自二家出還一」[illegible]「擠、セラヒ」

せり (名) 競 (一)競ルコト。キソフコト。(二)セリウリ。競賣。

せり (名) 糶 〔背負賣ノ義〕巷路ヲ、セリアルクコト。行商。

せり (名) 迫 せりあげ(迫上)ノ略。其條ヲ見ヨ。

せり (名) 芹 〔一處ニ競リテ生フレバ云フト云フ〕草ノ名、水中ニ生ズ、葉、冬ヲ經テ枯レズ、三出複葉ヲナシテ、互生ス、夏、最モ茂ル、莖ヲ出スコト一二尺、枝ノ頂毎ニ、小白花、數十、傘ノ狀シテ、簇リ開ク。一名、川芹。ネジログサ。ツカツミ。田ニ植エテ、專ラ、莖葉ヲ食用トスレバ、田芹ノ名アリ。水芹 又、根ノ賞スベキヲ以テ、根芹ノ名モアリ。其陸生ノモノヲ、畠芹、野芹ト云フ。旱芹 本草和名、下八「水靳、世利」倭名抄、十七「蘄、芹、勢利」天治字鏡、七十三「芹、世利」天智紀、十年十二月、童謠「水葱ノモト、制利ノモト」

せ・り・ル・レ・ラ・リ・レ (助動) 〔爲有りノ約カ、爲ニ、有りノ語尾ノ添ヒタルモノカ〕現在完了ノ意ヲ云フ助動詞。爲てありノ意。つ・ぬ・たりナドト、意、同ジ。但シ、名詞、副詞ニノミ、添フ。「遊せり」紅葉せり」烈シクせり」詳カニせり」

せり-あきんど (名) 競商人 問屋、仲買人ナドヨリ、商品ヲ買ヒ受ケテ、諸方ヲ賣リアルク商人。行商。

せり-あ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) 迫上 (一)迫マリテ、推シ上グ。(二)競リキソヒテ、價ヲ高クス。「相場ヲせりあぐ」

せりあげ (名) 迫上 (一)セリアグルコト。(二)セリダスコト。セリダシ。セリ。

せり-あ・げる (動) 前前條ノ語ノ口語。

せりあひ (名) 競合 競リ合フコト。互ニ競ルコト。競爭 甲陽軍鑑、十二、品第四十、上「馬場、申サルルハ、小幡山城ノ雜談ニ、せりあひノ時ハ、敵ヨリ、マヅ、味方ヲヨク見合候テ、其上デ、一命ヲ捨テ、稼グトキンバ、犬死モナシ、人ニモサノミ[illegible]サレズシテ、某手柄全シト」せりあひの軍ト云フハ、互ニ迫リ合ヒテ戰フコト。北越軍記、五、[illegible]陣中ヲヌキンデ、廣野ノ闇ヘ、互ニ進デ出アヒ、矢軍ヲナス、見物シテオモシロキハ、此せりあひ軍ナリ」小勢ノせりあひヲ、小せりあひト云フ。[illegible]

せりあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 競合 互ニ競ル。キソヒアフ。(兒童ノ諍ナドニ) 競爭 狂言記、[illegible]「[illegible]某トせりあひノル」

セリイ (名) [illegible]ニ同ジ。

せりいち (名) 競市 競賣ヲスル市。 博多小女郎波枕(享保、近松作)中「金ニナレトヤ、いロニ、附ケテ糶ル糶ル、糶市ニ」

セリウム (名) 〔英語、Cerium.〕せらいと(英語、Cerite.)及、もふざいと(英語、Monazite.)ト稱スル礦物中ニ[illegible]セラレタル、稀有ノ金屬元素、白熱瓦斯燈製作等ノ、工業用ニ供セラル。

せりうり (名) 競賣 〔人家ニ就キテ賣ルモ、人ニ賣リ付ケジトスルモ[illegible]〕買人ニ價ヲ競ハセテ、ソノ、最モ高キニ賣ルコト。ケイバイ。キャウバイ。

せりこみ (名) 迫込 劇場ニテ、[illegible]リ舞臺ヘ、セリ上ゲタル人物ヲ、奈落ニ、セリ下グルコト。セリサゲ。(迫上ノ反)

せりだし (名) 迫出 (一)セリダスコト。(二)劇場ニテ、奈落ヨリ舞臺ヘ、セリダスコト。セリアゲ。[illegible]「[illegible]一人ノせりだしノ[illegible]、コレヲ、よてんト云フ」浮世風呂、文化、三馬作、初[illegible]

せりだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 迫出 (一)迫マリテ、推シ出ス。(二)劇場ニテ、奈落ヨリ舞臺ヘ、人物ヲ推シ出ス。舞臺ニ切穴アリ、床下(奈落)ニ俗上ゲ機アリ、人物ヲ迫リ上ゲテ穴ヲ塞グ。

せりた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 迫立 烈シク迫マル。セキタツ。催促

せりた・てる (動) 前條ノ語ノ口語。

せりつ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 迫詰 [illegible]

せりつ・める (動) 前條ノ語ノ口語。

せりにんさん (名) 芹人參 にんじん(胡蘿蔔)ノ條ヲ見ヨ。

せりふ (名) 臺詞 〔競り言ふノ約カト云フ。臺詞ハ、舞臺詞ノ略カ〕(一)演劇ノ間ニ、俳優ノ、互ニ言ヒ交ハス詞ノ稱。[illegible]

せりもち (名) 迫持 [illegible](穹窿)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

せりもちいし (名) 迫持石 [illegible]西洋建築ナドニテ、[illegible]中央ニ組入レテ、全體ノ力ヲ支フル[illegible]一ノ主タル石。[illegible]

セル (名) [illegible]ノ略。[illegible]ニ對ス

「せる」一反、五圓カラ十一圓ノ時、ねる、二三圓八九十錢カラ□圓八十錢、於ける、七圓七八十錢カラ十圓□」

せ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 〔迫〕 (一)狹クナス。(二)セマル。促ス。急キタツル。促迫。 □□□□止德、近□作□中「□兵□往ノテ、せノ□クレト、立チニ立ノテ、□キクレト」

せ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 〔競〕 〔前條ノ語意ニ同ジ〕 (一)キソフ。キホフ。アラソフ。競爭。 (二)セク。アセル。イソグ。 催馬樂、大芹「大芹ハ、國ノ制物、小せりコソ、□デテモ甘シ」□、芹ナ築メ「□六ニせる」 (三)價ヲ競ヒテ、高クナス。

セルジ (名) 〔蘭語、英語、Serge.〕 一種ノ羅紗、地、薄クシテ、主ニ、夏服ニ用ヰル。サアジ。

セルバント (名) 〔英語、Servant.ノ音訓〕 僕、奉公人。サアバント。

セルロイド (名) 〔英語、Celluloid.〕 にころせるろおぜ(簡化纖維素)ニ、樟腦ヲ混ジテ、壓搾シテ製シタル、半透明ノ物質。裝飾用諸器具、玩具等ノ製作材料トス。俗稱、ゴム。

せ-れう (名) 〔施療〕 貧困ナル病者ヲ、無代ニテ療治スルコト。

ゼロ (名) 〔蘭語、英語、Zero.〕 れい(零)ニ同ジ。

せ-ろっ-ぽう (名) 〔纖羅蔔〕 せんろっぽんニ同ジ。狂言記、假道心「せろ、ぽうニ刺ムカ、イヤイヤ、コレハ、脊切ニスルト申ス」

せろっぽ-ぢる (名) 〔纖羅蔔汁〕 纖羅蔔ト、焼味噌トヲ用ヰテ、吸物トセシモノ。茶席ニ用ヰテ、そろぼ汁ト云フ。

せ-わ (名) 〔世話〕 (一)世ノ噂話。世間ニ云ヒナラハス話。 後撰夷曲集(寛文、生白堂行風)「□ヲ云フヲ、世話ニテ、鐵砲ヲ放スト云ヘバ」 (二)世間ノ話。世上ノ取沙汰。下世話。 俳諧新選(五好ノ句)「世話キカヌ、耳ニ薄ノ、騷ギケリ」「世話ニ上ル」世話狂言」 (三)通俗。鄙俗。俗語。口語。 下學集、下、態藝門「世話、風俗之鄙談也」塵袋抄、世話「世ノ流布ノ詞」「世話ニ書キ砕ク」世話字」

せ-わ (名) 〔世話〕 〔忙ノ義ナラム。サレド常ニ、當字ニ、世話ト記セレバ、姑ク、其假名遣ニ因ル〕 事ヲ、謀リ辨ズルコト。物事ヲ周旋スルコト。盡力スルコト。肝煎ルコト。又、面倒。手數。 せは(斡旋)ノ條ヲモ併セ見ヨ。 一茶句集「ソレ虻ニ、世話ヲヤカスナ、明リ窓」「人ノ世話」子ノ世話」世話ヲスル」世話ニナル」世話掛リ」世話ヤキ」

せわ-きゃうげん (名) 〔世話狂言〕 〔時代狂言ニ對ス〕 世話物ノ芝居狂言。 心中重井筒(寶永、近松作)下「二人ノ噂、世話狂言ノ脚色ノ種トナル」

せわ-じ (名) 〔世話字〕 せわもじ(世話文字)ニ同ジ。

せ-わた (名) 〔脊腸〕 古ク、ミナワタ。鮭ノ鰤ヲ去リテ後、脊骨ニ粘リテアル、紫黑ニ凝レル血液ヲ刮ゲ取リテ、しほからトセルモノ。 內膳司式「鮭背腸」

せわ-なし (名) 〔世話無〕 手數ガ、カカラズ、甚ダ輕便ナルコト。面倒ナク、極メテ容易ナルコト。

せわ-にん (名) 〔世話人〕 取持スル人。世話役。周旋人。

せわ-ば (名) 〔世話場〕 歌舞伎ノ、世話物ニテ、人情味、濃厚ナル場面。

せわ-もじ (名) 〔世話文字〕 世間通俗ニ使用スル文字。卽ナ、得與、遖、ナドノ類。

せわ-もの (名) 〔世話物〕 〔時代物ナドニ對ス〕 其當時ノ世上ニ起レル事件(心中ナド)、現代ノ出來事ナドヲ仕組ミタル小說、演本、又ハ演劇。生世話。 浮世風呂(文化、三馬)三編、下「世話物デモ、跡ヘ附ケルカ」

せわ-やき (名) 〔世話燒〕 セワヲヤクコト。他ノタメニ、彼レ是レト面倒ヲ見ルコト。又、其人。

せわ-やく (名) 〔世話役〕 世話ヲスル人。又、事務ヲ辨ズル役。主事

せ-わり (名) 〔脊割〕 (一)衣、又、魚ノ脊筋ヲ、割キ開クコト。 著聞集、十四、遊覽「紅ノ衣五具有リケルヲ、せわりニ、フット切リテ」 (二)次條、又ハ、次次條ノ語ノ略。

せわり-ぐそく (名) 〔脊割具足〕 はらまき(腹卷)ノ(二)ニ同ジ。

せわり-バオリ (名) 〔脊割羽織〕 せざきばおり(脊割羽織)ニ同ジ。

せ-ゐ (名) 〔所爲〕 〔字ノ音、そゐノ轉〕 爲ルヨリ起ル事。ユヱ。 傾城買□筋道(寛政、谷峨)「御前樣ノ子ダト思フせゐカ、イッソ、可愛ウオッス」「病ノせゐ」時候ノせゐ」

せを-そこ (名) 〔消息〕 せうそく(消息)ニ同ジ。 後撰集、十二、戀、四「せをそこ遣ハシケル女ノ許ヨリ、イナ舟ノト云フ事ヲ、返事ニ」

せを-の-ふえ (名) 〔簫笛〕 せう(簫)ニ同ジ。其條ノ出典ヲ見ヨ。

そ

ぞ

そ 五十音圖、佐行、第五ノ假名。(さノ條ヲ見ヨ)

ぞ そノ濁音ノ假名。(ざノ條ヲ見ヨ)

そ (名) 〔衣〕 〔襲ふノ語根、襲ノ約カ、又、身ニ添ひテ着ルナレバ、云フカト云フ〕 コロモ。キヌ。キモノ。(熟語ニノミ用キル) 字類抄「衣、ソ」 允恭紀、七年十二月「時人號曰衣通郞姬也」「御そ」そ手」着そ始」

そ (名) 〔麻〕 〔さをノ約、さハ、發語、をハ、卽チ、麻ナリト云フ〕 アサ。麻ノ皮ヲ割キテ、絲ノ如ク作レルモノ。(熟語ニノミ) 萬葉集、十二卅六「績麻ノタタリ、打麻懸ケ」同、十三十長歌「夏麻引ク、命(念ノ誤)ナヅミテ、カリ薦ノ、心モ摩ニ」同、十四三「夏素ヒク、海上潟ノ、沖ツ洲ニ、船ハ泊メム、小夜更ケニケリ」大祓詞「天津菅曾乎、云云、八針ニ取裂キテ」崇神紀「位前社、伊香色謎命、物部氏遠祖、大綜麻杵之女也」「綜そ」高そ」

そ (名) 〔背〕 〔脊ト通ズ〕 セ。セナカ。(熟語ニノミ) 古事記、上九「曾毘良邇者、負二千入之靭二」萬葉集、三三十「繩浦ヲ、背向ニ見ユル、奧島、漕ギタム舟ハ、釣リヲスラシモ」同、二十八十長歌「世ノ間ヲ、背むきシ得ネバ」

そ (名) 〔祖〕 (一)オホヂ。ヂヂ。祖父。 書經、盤庚、上篇「古我先王、暨乃祖乃父、胥及逸勤」 (二)トホツオヤ。先祖。祖宗。 詩經、大雅、文王之什、文王篇「王之藎臣、無念爾祖」「一家ノ祖」 (三)其事物ヲ創メタル人。元祖。開祖。「斯道ノ祖」 (四)支那ニテ、旅行ヲ送ル祭。餞ス。(祖ハ、徂ナリ)又、祖道。(祭ル神ヲ、祖神ト云フ、さへノ神)

詩經、大雅、蕩之什、韓奕篇「韓侯出祖、出宿于屠、顯父餞之、清酒百壺」 左傳、昭公七年「公將往、夢襄公祖」(五) 本トシテ、倣ヒ、法ルコト。 史記、韓世家「秦王祖張儀之故智」「祖述」

そ (名) 【租】タヂカラ。又、チカラ。官ヨリ、田地ニ課セテ、其收穫タル米穀ノ若干分ヲ納メシムルモノ。又、國中ノ丁、一人ヲ、一年ニ、十日ヲ定メテ、公ノ用ニ使ハルルヲ、えトモ、えだち、又、役トモ云フ。役ニ當ラザレバ、コレヲ、日數ニ當テテ、布ヲ納メシム、コレヲ、ちからしろ、又、庸ト云ヒ、ちからしろのぬの、又、ちからぬのトモ呼ブ。又、丁、一人ヨリ、其地ノ土産ニ隨ヒテ、絹布、麻布、又ハ、諸雜物ヲ、官ニ納レシムルヲ、みつぎ、又、調ト云フ、其布ヲ、調布、又、てづくりのぬのトモ稱ス。以上ヲ、租、庸、調ノ賦ト云フ。又、租ト、調トヲ合ハセテ、課ト云ヒ、役ト合ハセテ、課役、又、賦役トモ云フ、後世ニハ、租ヲ、年貢ト云ヒ、役ヲ、夫、又ハ、夫役ナドト云フ。 漢書、食貨志「賦官當食、租食祿而已」 韓書拾遺「唐三賦、租庸調、有田則有租、有身則有庸、租出米穀、庸出絹布、戸則有調、調出雜物布麻」 賦役令「凡田、云云、損八分以上、課役俱免」 義解「課者、調及副物田租之類也、役者、庸及雜徭之類」 續紀、十七、大同三年九月「頻年不稔、民弊特甚、非有輕租、何得自存」 田令「凡給口分田者、男二段、女減三分之一」 同「田、長卅步、廣十二步爲段、十段爲町」 義解「謂、段地獲稻五十束、束稻舂得米五升也、即於町者、須得五百束也」 「段租稻二束二把、町租稻廿二束」 此租ヲ貯ヘ置クヲ、稅ト云フ。(稅ノ條ヲ參見セヨ) 神祇令、義解「租、稅者、並是出稻、唯當斂日租、蓄貯日稅也」

そ (名) 【粗麤觕】〔玉篇「麤、不精也」〕 麤ハ、麤ノ俗字。 アラキコト。劣レルコト。ザツ。粗末。(精ノ反) 莊子、秋水篇「可以言論者、物之粗也」「甚ダ粗ナリ」「粗品」

そ (名) 【疽】〔正字通「癰之深者曰疽、疽深而惡、癰淺而大」〕 腫物ノ名。よう(癰)ノ條ヲ見ヨ。 醫書「疽者、五臟不調之所致」 史記、呉起傳「卒有病疽者、起爲吮之」 同、項羽紀「范增大怒曰、云云、行未至彭城、疽發背而死」 倭名抄、三「[illegible]疽、[illegible]也」

そ (名) 【祚】天皇ノ御位。アマツヒツギ。 史記、秦楚之際月表「卒踐帝祚、成於漢家」 保元物語、一、新院御謀反思召立事「仁明ハ、嵯峨第二ノ皇子、淳和天皇ノ御子達ヲ越シテ、祚ヲ踐ミ給ヒキ」

そ (名) 【胙】ひもろぎ(胙)ノ條ヲ見ヨ。 左傳、僖公九年「王使宰孔賜齊侯胙」注「胙、祭肉」

そ (名) 【疎疏】〔楚辭、九歌、注「疏、希也」〕 (一) マバラナルコト。稀疏。(密ノ反) 楚辭、九歌、東皇太一篇「疏緩節兮安歌」 (二) ウトウトシキコト。疏遠。(親ニ對ス) 禮記、曲禮、上篇「夫禮者、所以定親疏」「交リ疎ナリ」 (三) 粗末ナルコト。疎漏ナルコト。 禮記、玉藻篇「客飧、主人辭以疏」

そ (名) 【疏】(一) 分ツ義ヨリ、物事ヲ一ツ一ツ、箇條ヲ分ケテ陳述スルコト。又、ソノ文書。條錄。條陳。 史記、司馬相如傳「相如上疏諫之(天子ノ遊獵ヲ)」 (二) 書物ノ記注。注釋。義解。「註疏」 (三) 事ヲ書フコト。中立。上奏文。 [illegible]「[illegible]時言是非」

そ (名) 【樽】〔字音、そんノ略〕 タル。 倭名抄、十六、[illegible] [illegible]「[illegible]トモニ、[illegible]、人レテセテ、酒、そニ入レテ、持タセテ」

ソ (名) 【酥】(梵語ナリト云フ) 一種ノ食物。牛羊ノ乳ヲ煎熬シテ、製ス。煉乳(コンデンスミルク) 乳(醍醐)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

「乳入釜、煎二三沸、傾入盆內、冷定、待面結皮、取皮再煎、油出、去津、入鍋內、即成酥油」 倭名抄、十六、[illegible]「酥、唐韻云、[illegible]、牛乳所成也」 民部省式、下「[illegible]乳大一斗煎得酥一升」

そ (代) 【其夫】我ガ身ヨリ、稍、離レタル物事ヲ指シテ云フ語。(此、彼、ニ對ス) 多クハ、それトイフ。 萬葉集、[illegible] 古今集、十四、戀「[illegible]ツフムソ」 [illegible] 土佐日記、正月廿九日「[illegible]」 同、四「イサヤ人、[illegible]」 宇津保物語、俊蔭「[illegible]そ」 [illegible]「そ奴」

そ (數) 【十】〔[illegible]〕 (十百盤)ノ語原ヲ參照セヨ トヲ。ジフ。(熟語ニノミ用ヰル) 堀河百首、夏「殘リ田ハ、そ代ニ過ギジ、明日ハ又、ユヒモ雇ハデ、早苗取リテム」 神代紀、下「八十連屬」此云野素豆豆企」 永久四年百首、秋「十代田」「三そ」「四そ」「五そ」 「十十河」(近江ノ地名)

そ (副) 勿ト云フ副詞ト共ニ、動詞ヲ挾ミテ、禁止スル意ニ用ヰル語。な(勿)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

そ (感) 【追馬】馬ヲ追フ聲。シ。 [illegible] 同、十四「[illegible]サナツラノ、[illegible]」 [illegible]カナシキガ、馬ハタグトモ、[illegible] 見テ、[illegible]ヒマクモ多ク」 同、十二「[illegible]、イハフ三輪ノ、大馬鎭、[illegible]ケテゾ呼ブ、アフ人毎ニ」

そ (感) 【[illegible]】〔すノ轉音〕 他ノ語ノ[illegible] [illegible] ソトボケ、そ顯ルル」 [illegible]

ぞ (副) [illegible] 一ツヲ指シテ[illegible] [illegible] 又、[illegible]、アリ [illegible]

そあく (名) 【粗惡麤惡】(精巧ニ對ス) 甚シク、粗末ナルコト。 [illegible]

そあく (名) 【素堊】〔素ハ白、堊ハ色土ナリ〕 シラカベ。白土ヲ塗リタル壁。 [illegible]

そあつ (名) 【[illegible]】 [illegible] ジ。

そい (名) 【[illegible]】 [illegible] 意志。隔意。 [illegible]

そい (名) 【素意】そし(素志)ニ同ジ。 [illegible]

そい (名) 【素衣】 [illegible]

白衣（ビャクエ）[illegible]京洛多[illegible]素衣化[illegible]」

そい (名) [粗衣] 粗末ナル衣服。麁服。敝衣。「粗衣粗食ニ甘ンズ」

そいう（ソ・ユウ） (名) [溯游] 流レニ順（シタガ）ヒテ、下ルコト。詩經、秦風、蒹葭「溯游從之、宛在水中央」「溯游從之(書名)」

✧✧そいつ (代) [其奴] そやつ（其奴）ノ訛。其條ヲ見ヨ。

ぞいの (感) [指示ノ辭ノぞ、よ（轉ジテ、い）ニ、親愛ノ意アル、のノ合シタル語] 何何ニテアルカ、ナア。又、居ルゾヨ。狂言記、内沙汰「ナウ、何事ヲ御座ルぞいの」生玉心中(正德、近松作)上「ドウトモ、斯ウトモ、叶ハヌ事ガ有ルぞいの」

そいん (名) [素因] 其結果ヲ來ス原因ノ中ニテ、最モもとトナルモノ。正因。主因

そいん (名) [疎音] 久シク、音信ヲ通ゼザルコト。無沙汰。無音。「疎音ニ打過ギ」

そう (名) [奏] (一)帝王ニ、事ヲ聞エ上グルコト。奏上。獨斷（後漢、蔡邕）上「凡羣臣上二書於天子一者、有二四名一、一日章、二日奏、三日表、四日駁議」西宮記、十四、臨時、一、奏事「延喜十六年十月三日、右大臣奏、太政官奏、大納言藤原朝臣、藤原朝臣等、依レ不レ上狀文一」類聚御抄、下「太政官符[illegible]奏、公卿[illegible]主上書[illegible]可字、其樣、同二御覽[illegible]」(二)音樂ヲ、奏スルコト。奏樂。[illegible]用集、八、言辭門「奏（注、文選註、作樂之總號）」新儀式、四、臨時、三「奏樂之後、日行事公卿、令レ奏樂、樂所於二西門内一奏二亂聲、三度、訖、奏、參入音聲一」西宮記、臨時、八「康保三年十月七日、此日、於二殿上一侍臣奏樂、云云、令レ奏二唱歌一」「闘擷ノ奏」

そう (名) [叟] (一)オキナ。老人。翁。「三番叟」(二)長老、又ハ、老人ヲ呼ブ敬稱。孟子、梁惠王、上篇「叟、不レ遠二千里一而來」

そう (名) [宗] [禮記、祭法篇、註「有德者、謂二之宗一」] (一)祖ニ次ギテ德アル人。禮記、祭法「周人、云云、祖二文王一、而宗二武王一」賈[illegible]曰、祖有レ功、宗有レ德也」(二)轉ジテ、宗主權アル國家。又、イヘモト。宗家。本宗。史記、伯夷傳「武王已平二殷亂一、天下宗レ周」

そう (名) [層] (一)カサナリ。重疊。累積。「石炭ノ層」「層ヲ成ス」(二)奇楠香、麝香、熊膽、等ノ諸貴藥ヲ賣買スル ニ云フ語。十層ハ、重サ、一錢（モンメ）ニシテ、銀、十錢ニ當ル。

そう (名) [驄] [說文「驄、馬青白雜毛也」] アシゲノウマ。後漢書、桓典傳「常乘二驄馬一」御法資鑑、下、五性十毛「十毛ハ、騮、騅、駮、騂、驃、驄、騙、騏、驪、騶也」同「驄、青ハ驄、馬ノ、青白雜毛、則今云、葦毛、是也」

そう (名) [總] 殘ラズノモノ。總體。全體。盛衰記、三十五、範賴義經京入事「汝ハ、大勢ノ川ヲ渡サン時、總ヲカニシテ、渡ルベシ」

ソウ (名) [僧] [梵語、僧伽(Saṅgha.)ノ下略。衆、或ハ、和合、或ハ、無諍ナドト譯ス。沖繩ニテ、ぼゑをいやあ（數珠措者ノ義）] 家ヲ捨テテ、佛門ニ入レル人ノ總稱。集リテ、佛道ノ修業ヲスル人人。ノリノシ。オコナヒビト。ヨステビト。法師。出家。坊主。沙門。上人。桑門。比丘。苾芻（ヒシュ）。大智度論、三「僧伽、秦言レ衆、多比丘一處和合、是名二僧伽一」僧史略、下「若單曰レ僧、則四人已上、方得レ稱レ之、今謂二分稱一爲レ僧、理亦無レ爽（タガウ）」隋書、經籍志「佛弟子、男曰二桑門一、而總曰レ僧」賈島、題二李凝幽居一詩「僧敲月下門」宇津保物語、俊蔭五十六「頭ヲ剃ル人モ、師ニ就キテ僧トナルコソ、尊キ事ナレ」

そう (接頭) [總] スベテノ。總體ノ。アラユル。「總大將」「總模樣」「總金」「總名代」「總、殘ラズ」

總掛リ」

そう (接尾) [層] (一)ばい（倍）ニ同ジ。「層一層」藥九層倍」(二)物ヲ、重ヌルニ云フ語。梁書、陶弘景傳「築二三層樓一」「五層」「十層」

ぞう (名) [曹] [そぬノ音便。孫ノそう、論ノころうず、困（コヌ）ノこうずト、同趣。又、族（ゾク）ノ音便] 一族。ヤカラ。ウカラ。宇津保物語、俊蔭四十八「物ノ次次ハ、劣リコソスレ、コノそうハ、傳ハル毎ニ、優ルコト限リナシ」源、四十三、竹川四十「慶（ヨロコビ）シタマヘル人人、此御ぞうヨリ外ニ、人ナキ比ホヒニナムアリケル」ぞう廣シトハ、一族、繁昌ス。一門、廣大ナリ。源、廿二、玉鬘八「大夫ノ監トテ、肥後ノ國ニ、ぞう廣クテ、彼所ニツケテハ、覺エアリ」

ぞう (名) ぢょう（判官）ニ同ジ。古今集、十八、雜、下「文屋康秀ガ、三河ノぞう（掾）ニナリテ」躬恒集「淡路ノぞうノ任、果テテ」源、九、葵八「今日ハ、右近ノ藏人ノぞう（將監）、ツカウマツレリ」大和物語、中「よしいへト云ヒケル宰相ノハラカラ、大和ノぞうト云ヒテ、アリケリ」

ぞう (名) [尉] ぢょう（尉）ニ同ジ、かみ（長官）ノ條ヲ見ヨ。長門本、平家物語、十七、新帝御即位事「五位ノぞう」「兵衞ぞう」ぞうノ君」

ぞう (接頭) [贈] 死シテ後ニ賜ハル官位ニ云フ語。榮花物語、十、日蔭鬘「小一條ノ大將、ソレガシノ朝臣、贈太政大臣ニナシテ」「贈、從一位」

ぞうあい (名) [憎愛] あいぞう（愛憎）ニ同ジ。後漢書、劉梁傳「不レ在二憎愛一、以二道爲一レ貴」

そうあげ (名) [總揚] 其家抱ヘノ遊女、女藝者ナドノ總體（スベテ）ヲ呼ビテ、遊興スルコト。

そうあふりゃうし（ソウ・オウリョウシ） (名) [總押領使] 押領使ヲ總管スルモノ。押領（アフリャウ）ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。吾妻鏡、七、文治三年九月十三日「攝津國爲二平家追討跡一、無二安堵之輩一、云云、總諸國在廳、庄園下

司、惣押領使、[illegible]」

そうあん (名) [奏案] (一)上奏文ノ[illegible]ガキ。奏稿。(二)上奏文ヲ載セル机。三國志、吳志、周瑜傳、注「[illegible]拔刀斫二前奏案一」

そうあん (名) [奏按] 奏聞シテ、罪ヲ按察（シラ）ルコト。後漢書、羊陟傳「遷二冀州刺史一、奏二按貪濁一、所在肅然」

そうアン (名) [送行] [あん（行）ハ、宋音] 佛經ノ語。送別。ハナムケ。虛堂錄、送[illegible]明府一詩「落日[illegible]送行」[illegible]集、中「送行、ソウアン」節用集（古寫本）「送行、餞也」

ソウあん (名) [僧庵] 僧ノ住ムいほり（イオ）。僧房。僧廬。

ソウい (名) [僧衣] 僧ノ着ル衣服。別ニ、其製アリ。墨染ノ衣。コロモ。法服。ソウエ。[illegible]「山頭僧室掛二僧衣一」

ソウい (名) [僧醫] 醫術ニ精通セル僧。又、僧形ノ醫。玉海、安元三年六月十日「午刻、源中納言被レ來、相二具筑紫醫僧一（字大善坊）是爲レ令レ灸二予（藤原兼實）疾一也」園太曆、延文四年十月十二日「仁木右京大夫義長法師、今朝卒去、累日煩[illegible]、僧醫道仙立レ針、今晩卒」

ぞうい (名) [贈貽] [說文「貽、遺也」] 物ヲ、オクリヤルコト。贈與。贈遺。

そういくさぶぎゃう（ソウ・イクサブギョウ） (名) [總軍奉行] 武家時代、首將ニ代ハリテ、軍事ヲ行フモノ。土屋知貞私記、郡主馬、太閤之時、使番、黄母衣、大坂ニテハ、黄シナヘ、冬陣ヨリ、赤座内膳ト兩人、總軍奉行」

そういびき (名) [總鼾] 集マリタル總體ノモノガ、鼾ヲカクコト。一茶句「鰒汁ヤ、モヤヒ世帶ノ、總いびき」

そういん (名) [聰允] 智、明ラカニシテ、誠實ナルコト。晉書、漢紀「明帝曰、在二儲宮一、

西聽允之德音揚」

そういん-ふう (名) 宗因風 だんりんふう(談林風)ニ同ジ。

そう-うん (名) 叢雲 ムラクモ。ムラガルクモ。李嶠詩「山頭叢雲起」

そう-うん (名) 層雲 幾重モ地平線上ニ、重ナレル雲。朱熹詩「絶頂層雲許[illegible]」

ソウ-え (名) 僧衣 そうい(僧衣)ニ同ジ。

そう-えい (名) 聰睿、聰叡 (聰明、睿知ノ略) 帝王ノ、スグレテサトク、智識ノ深キコト。聰敏。三國志、魏志、袁術傳、注「聖主聰叡、有周成之質」(睿ハ、叡ノ古文)

そう-えい (名) 聰穎 (正字通「士才能、拔ノ類者、亦曰ノ穎」) 才智スグレテ、サトキコト。聰慧。宋史、朱台符傳「少聰穎、十歲能屬辭」

ぞう-えき (名) 增益 マシ、フエルコト。又、マシ、加フルコト。增加。孟子、告子、下篇「動心忍性、曾益其所不能」(曾ハ、增ニ同ジ) 宋玉、高唐賦「交加累積、重疊增益」

そう-えん (名) 層檐 數層、重ナレルのき。[illegible]時代[illegible]詩「[illegible]高檐[illegible]」

ぞう-えん (名) 增演 マシ、ヒロムルコト。[illegible]九[illegible]之增演、以[illegible]其意」

ソウ-おさへ-ぞなへ (名) 總押備 武家時代、全軍ノ殿後ニ居ル隊。[illegible]井[illegible]日記、[illegible]田口合戰[illegible]和谷田[illegible]八百[illegible]、備へ申シ候」

そう-おん (名) 宋音 漢字ノ、宋ノ世ノ音。高倉天皇ノ承安以後、僧覺阿、入宋シテ歸朝シ、僧明菴、仁安三年、入宋シ[illegible]頃ヨリ、宋國ノ字音ヲ傳ヘ、其後、宋ノ[illegible]、多ク歸化シテ、傳ハル行(アン)

脚、普請(シン)、下火(アコ)ノ類、是レナリ。

そう-か (名) 奏可 上奏ヲ、嘉納セラルルコト。漢書、武帝紀「丞相[illegible]、所[illegible]良、或治申商韓非蘇秦張儀之言、亂國政、請皆罷、奏可」

そう-か (名) 宗家 ほんけ(本家)ニ同ジ。漢書、翟方進傳「[illegible]門下生、博士[illegible]等、與宗家計議」(宗ハ、玄成ノ父ノ名ナリ)

❖そう-か (名) 總嫁 〔早歌(サウカ)、又ハ、唱歌(サウカ)ノ義〕(一)早歌(サウカ)。ハウタ。(二)やほち(夜發(カ))ニ同ジ(上方)婦女ノ、路傍ニテ、早(サウ)歌ヲ歌ヒシモノガ、轉ジテ、賣淫婦ノ名稱トナル、江戸ニテ、よたか、京ニテ、つじぎみ、大阪ニテ、やほち、ナドトイフ。浮世草子、寶曆二「暗闇ニイミ居リ、アレハさうかト云ヒシニ起ル」俚言集覽、早歌「京都ニテ、早歌ト云フハ、江戸ノ夜鷹ナリ、貞柳ガ狂歌「親ノタメ、夫ノタメノ、辻君ヲ、サテハさうかト、言フ人モ無シ」風流[illegible]、[illegible]河原ニ、さうかト云フ者アリ、ござヲ抱ヘテ行ク者アリ、[illegible]レ[illegible]キタレバ、さうか、[illegible]物言ヒテ居タルヲ、あれハさうかカト言ハレテ、惑ヒニケリ、未練ノさうか、瘦り損ジケル」[illegible]門松(享保、近松作)上「イカナ[illegible]デモ、[illegible]テモ、畢竟、直段ノ高イ總嫁ジャナイカ」

そう-か (名) 走舸 ハヤブネ。船脚(フナアシ)ノ疾キ小舟。三國志、吳志、周瑜傳、[illegible]走舸、各[illegible]大船後」

そう-が (名) 奏賀 (一)賀辭ヲ、奏上スルコト。(二)朝賀ノ時、宣命ヲ朗讀スルコトヲ掌ル職。[illegible]儀式、六、元正[illegible]、[illegible]侍從四人、少納言左右各二人、[illegible]各一人、典儀一人、並奏聞定之」江家次第、十一、十二月、元日、[illegible]從四位上[illegible]、[illegible]賀、[illegible]從四位下[illegible]

ぞう-か (名) 增加 マシ、クハハルコト。又、マシ、クハフルコト。增益。史記、[illegible]加二千萬餘人」

そう-かい (名) 小介 [illegible]

そう-かい (名) 聰解 聰(サト)クシテ、ヨク了解スルコト。南史、梁宗室[illegible]帝知[illegible]聰解」

ソウ-かい (名) 僧戒 僧侶ノ守ルベキ戒律。僧律。八宗綱要、上、[illegible]二[illegible]、[illegible]、僧尼[illegible]比丘比丘尼[illegible]、[illegible]、沙彌戒中[illegible]、僧[illegible]二百五十戒、分[illegible]八[illegible]」

そう-がい (名) 層崖 [illegible]土石[illegible]重[illegible]ナル崖。[illegible]分[illegible]」

ぞう-かい (名) 增改 マシ、アラタムルコト。[illegible]

ソウ-がう (名) 僧綱 (綱トハ、綱維(ソウ・ゴウ)ノ義、法務ヲ綱持スル意) 僧官ノ、僧正、僧都、律師ノ目アリ、是レヲ、僧綱ト云フ。推古天皇ノ三十二年ニ、始メテ之レヲ設ク、後ニ、僧官位ニモ、相當アリテ、清和天皇貞觀六年ニ、僧正ハ法印ニ、僧都ハ、法眼ニ、律師ハ、法橋ニ相當スル事ニ定メラル。又、僧官ノ、俗官ニ相當スル事ハ、後宇多天皇弘安八年ヲ以テ、僧正ハ、[illegible]ニ準ジ、法印[illegible]上人ニ準ジ、僧綱、法眼、律師ハ五位殿上人ニ準ジ、僧綱、法橋[illegible]夫ニ準ズル等ノ相當ヲ定メラレトガ、後[illegible]建武二年ニ至リ、更ニ、大僧正ハ二位大納言ニ準ジ、僧正ハ[illegible]中納言ニ準ジ、[illegible]ルコトニ定メラレタリ。僧尼令、[illegible]凡

[illegible]「凡僧綱、[illegible]知大寺[illegible]」[illegible]十一月、[illegible]

[illegible]テ、僧綱タチ、名アル[illegible]

ソウ-がう-えり (名) 僧綱領 又、そうがうくび。僧綱ノ官位ニ居ル僧侶ガ、法衣ノ[illegible]

ソウ-がう-くび (名) 僧綱領、僧綱頸 (一)前條ヲ見ヨ。(二)小袖ノ領ヲ、[illegible]ニナシテ、着ルコト。[illegible]

ソウ-がう-しよ (名) 僧綱所 僧綱ノ事務ヲ執ル所。[illegible]一人、共向僧綱所」

そう-かかり [illegible] [illegible]

そう-かく [illegible] [illegible] [illegible]條ヲ見ヨ。

そう-かく [illegible]

そう-かく [illegible]

そうがく (名) ［宋學］ 支那ノ、宋ノ學者ノ唱フル學。濂洛關閩ノ學。宋儒（ソウジュ）ノ條ヲモ併セ見ヨ。「江湖、宋學開…宋學者、不…」

そうがく (名) ［奏樂］ 音樂ヲ、奏（カナ）ヅルコト。又、其音樂。「…」

そうがく (名) ［總額］ そうだかニ同ジ。「仕學大乘、止有…總額…」

ぞうがく (名) ［增額］ 高（タカ）ヲ、增（フヤ）スコト。（減額ニ對ス）「經費ノ增額」

そうがのこ (名) ［總鹿子］ かのこしぼり（鹿子絞）ノ條ヲ見ヨ。

そうがふ（ソウゴウ） (名) ［綜合］ （一）箇箇、別別ノモノヲ、一ツニ集メルコト。スベテ合ハスルコト。總合。（二）〔英語、Synthesis.ノ譯語〕論理學ニテ、二箇以上ノ概念、又ハ觀念ヲ結合シテ、新タナル一ツノ概念、又ハ觀念ヲ作ルコト。（分析ニ對ス）「綜合斷定」

そうがふ（ソウゴウ） (名) ［總合］ 前條ノ（一）ニ同ジ。

そうがまへ（ソウカマエ） (名) ［總構］ ソウクルワ。奧羽永慶軍記、三、政宗大崎葛西一揆退治事「其日ノ未ノ刻ニハ、總構、殘リナク破レテ、本丸計リニナリニケリ」

そうがみ (名) ［總髮］ そうはつニ同ジ。

そうかん (名) ［總監］ 事務ヲ、總（ス）ベツカサドルコト。又、其官。南史、雷次宗傳「以ニ儒學、總ニ監諸生ニ」「警視總監」

そうかん (名) ［總鑒］ スベテノ事ヲ、カンガミルコト。晉書、樂志「明君御ニ四海ニ、總鑒ニ人鑒ニ」

ソウカリ (名) ［僧伽梨］ 〔梵語、Saṅghāṭi. 大衣ト譯ス〕又、そうぎゃり。廿五條、乃至、九條ノ袈裟ノ稱。倭名抄、十三、僧坊具「三衣圖、金玉義林云、三衣者、一、僧伽梨、云ニ大衣ニ、二、鬱多羅僧、云ニ中衣ニ、三、安陀會、云ニ下衣ニ」伊勢大輔集「西ノ方、猶歎ク行カン、そうかりノ、衣ヲ縫ヘル、絲ニ引カレテ」

そうき (名) ［聰記］ 聰（サト）クシテ、記憶ノヨキコト。北齊書、楊愔傳「聰記強識、半面不ㇾ忘」

そうぎ (名) ［奏議］ 天子ニ、意見ヲ奏上スルコト、又、其意見書。漢書、成帝紀、贊「公卿稱ㇾ職、奏議可ㇾ述」

ソウギ (名) ［僧祇］ あそうぎ（阿僧祇）ノ略。其條ヲ見ヨ。

ソウギゴフ（ソウギゴウ） (名) ［僧祇劫］ 〔阿僧祇劫ノ上略。無數、無量ノ義〕阿僧祇（アソウギ）、及、劫（コフ）ノ條ヲ見ヨ。朗詠集、上「以ニ佛神通ニ爭酌盡、經ニ僧祇劫ニ欲ニ朝宗ニ」

ソウギーシ (名) ［僧祇支］ 〔梵語、Saṅkakṣikā. 覆腋衣ト譯ス〕僧衣ノ一種、袈裟ノ下ニ着ル、長方形ノモノ。肩ニ掛ケテ、左腋ヲ掩ヒ、一端ハ、斜ニ右腋ヲ掩フ。西域記、二「僧却崎、唐言ニ掩腋ニ、舊曰ニ僧祇支ニ、訛也、覆ニ左肩ニ、掩ニ兩腋ニ、左開右合、長裁過ㇾ腰」

ぞうきふ（ソウキュウ） (名) ［增給］ 〔減給ノ反〕給料ヲ、增スコト。增俸。增薪

そうきん (名) ［送金］ 金錢ヲ、送ルコト。寄銀。「闕許へ送金ス」

そうぎやう（ソウギョウ） (名) ［宗仰］ タフトビ、アフグコト。晉書、儒林傳「聞ㇾ風宗仰、自ㇾ遠而至」

そうぎやう（ソウギコウ） (名) ［崇敬］ そうけい（崇敬）ニ同ジ。太平記、廿三、土岐頼遠參ニ合御幸ニ致ニ狼藉ニ事「天下ノ大善知識ニテ、公家、武家、崇敬、類ヒ無カリシカバ」

ソウギャウ（ソウギョウ） (名) ［僧形］ 僧ノ姿。剃髮、染衣ノ形。俗人ノ姿（有髮）ヲ、俗形（ゾクギャウ）ト云フニ對ス。古事談、五、神社佛寺「敦實親王、奉ㇾ造ニ立大菩薩御影ニ、一躰ニ僧形、一躰俗形」

そうきゅう (名) ［送窮］ 〔送窮鬼（窮鬼ハ貧乏神）ノ下略。一年間ノ貧乏神ヲ送リヤル義カ。支那、唐、韓愈（退之）ニ、送窮文アリ〕（一）陰暦十二月ノ異稱。夢粱錄（宋、吳自牧）「十二月盡、俗云ニ送窮ニ」（二）正月二十九日ニ、屋內ヲ掃除シテ、塵埃ヲ川ニ流スコト。天中記（明、陳耀文）「池陽〔今ノ陝西省地方〕風俗、以ニ正月二十九日ニ爲ニ窮九ニ、掃ニ除屋室塵穢ニ、投ニ之水中ニ、謂ニ之送窮ニ」

そうきょ (名) ［忽遽］ アワタダシキコト。急遽。後漢書、崔駰傳「駰由ㇾ此候憲、縱履迎ㇾ門」注「縱履、謂ㇾ納ㇾ履曳ㇾ之而行、言ニ忽遽ニ也」

そうく (名) ［走狗］ 〔主ノ爲ニ走リテ用ヲナス犬〕人ノ下ニ附キテ、其人ノ爲ニ、力ヲ盡スコト。（多ク、卑メテ云フ）戰國策、齊策「世無ニ東郭俊、盧氏之狗ニ、王之走狗已具矣」「資本家ノ走狗トナル」

ソウぐ (名) ［僧供］ 僧侶ニ供養スル扶持。宇治拾遺、十二、第一條「スベテ、佛法ノ名ヲダニ聞カズ、仍リテ、寺僧、僧ミ賤シミテ、交會スルコト無シ、空シク僧供ヲ受ク、外道ノ如ク思ヘリ」

そうぐん (名) ［總軍］ 軍勢、殘ラズナルコト。全軍。總軍勢。

そうくるわ (名) ［總曲輪］ 城門內ノ總稱。總構（ソウガマヘ）。武用辨略、二「城門ノ內ヲ、廣ク呼ンデ、總曲輪ト云フ」

そうくゎ（ソウカ） (名) ［葱花］ （一）輿ノ棟ニ附クル葱ノ花ノ如キ形セル飾。猶、ぎぼうしニ擬寶珠ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、十、…具「葱臺、比良良波之良、輿頂所ㇾ居之桂、其形似ニ葱花ニ、故云」箋注倭名抄、三「三十道路具、按、是卽…頭、似ニ葱花ニ者、俗呼爲ニ擬寶珠ニ」（二）葱花輦ノ略。古事談、一、王道后宮、小松帝「上皇ニテ、コソ乘ラメトテ、葱花ニハ不ㇾ乘給ハザリケリ」江家次第、九、九月、例幣「行ニ幸神祇官ニ、被ㇾ立ニ伊勢ニ幣使「若御ニ里內裏ニ、路遠者、往反間、御ニ三位服ニ、御ニ葱華ニ」

そうくゎい（ソウカイ） (名) ［總會］ （一）諸人、一所ニ寄リ合フコト。梁書、文帝紀、移市書「日中…交貿遷移」（二）全體ノ株主、社員、又ハ、關係者ナドノ會合。「株主ノ總會」

そうくゎつ（ソウカツ） (名) ［總括］ スベ、ククルコト。一纏ニスルコト。晉書、陸玩傳「總ニ括…關政道ニ」

そうくゎん（ソウカン） (名) ［總官］ 莊園ノ事務ヲ統ブル官。玉葉、治承五年、二月八日「以ニ前越中守平朝臣盛俊ニ、宜ㇾ爲ニ丹波國諸莊園總官下司ニ」

そうくゎん（ソウカン） (名) ［總管］ 全體ノ事務、又ハ、人員ヲ、スベ治ムルコト。スベツカサドルコト。又、其人。唐書、百官志、注「邊要之地、置ニ總管ニ以統ㇾ軍」

そうくゎん（ソウカン） (名) ［送還］ オクリカヘスコト。還送。退送。「捕虜ヲ送還ス」

ソウくゎん（ソウカン） (名) ［僧官］ 僧侶ノ官。大僧正、僧正、權僧正（法印、大和尚位）、僧都、權僧都（法眼、和尚位）、律師、權律師（法橋、上人位）ト、次第ス。コレヲ、僧綱（ソウガウ）ト云フ。□法類編、二「永宣旨ヲ以、僧位僧官、並免ノ儀、廢止ノ事」又、大僧正ハ二位大納言ニ、僧正ハ二位中納言ニ、權僧正ハ三位參議ニ、上人ハ五位ニ準ジ、僧正ハ、紫衣ヲ聽スト。（僧綱（ソウガウ）ノ條ヲモ併セ見ヨ）

[illegible]記、下、僧官ヲ授ル[illegible]」

ぞうくゎん（名）〔贈官〕死者ニ、贈リ賜ハル官。[illegible]、贈官、ゾウクヮン」「贈位贈官」

そうくゎれん（名）〔葱花輦〕屋上ニ、葱花（擬寶珠）ノ如キ、金色ノ珠ヲ据エタルおし。ナギノハナノミコシ。葱花輿。（天皇ノ乗御ノモノ）李部王記、天暦[illegible]年正月八日、御[illegible]會始、云云、御ニ葱花輦ニ出ニ[illegible]門小安殿ニ」

そうけ（名）〔宗家〕ほんけ（本家）ニ同ジ。

そうけい（名）〔奏慶〕（一）慶ヲ申スコト。名目抄「奏慶、當世、そうけいト云フ名目、出來ル、更不ニ知ニ故實ニ、可ニ尋事也」（二）官位ニ任叙セラレタルモノガ、禁中ニ參内シテ、御禮ヲ申上グルコト。西宮記、正月、女叙位「昔、忠仁公妻、一世源氏、預ニ叙位ニ日、參ニ嵯峨院ニ、令ニ奏慶ニ由、申ニ太上皇ニ」年中[illegible]、四十九[illegible]、奏慶、忘レメヤ、二代ニ逢エシ、位山、君ノ惠ミニ、立チマヒシ世ヲ」

そうけい（名）〔崇敬〕すうけい（崇敬）ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

そうけい（名）〔聰慧〕サトキコト。サトリ、賢キコト。聰敏。聰悟。[illegible]代史、[illegible]、[illegible]、聰[illegible]、善[illegible]文」

そうけい（名）〔聰警〕（聰明、機警ノ略）サトクシテ、氣ガ利クコト。サトク、スバヤキコト。南史、江蒨傳「幼聰警、讀レ書過レ口便誦」

そうけい（名）〔總計〕統ベ寄セテ、數フルコト。シメダカ。總體ノ合計。總勘定。チャウメンジリ。合計。

そうげい（名）〔送迎〕おくるト、むかふるト。オクリムカヘ。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]」

そうけいこ（名）〔[illegible]〕[illegible]、[illegible]ノ前日、俳優、弁ニ、囃子方ナド一同、集リテ、練習シタル技ヲ、演ジ試ミルコト。[illegible]年中[illegible]、下、初日ノ前日、すハヤシ、[illegible]、打チ揃ヒテ、けいこスル、是レヲ、總げいこト云フ」

そうげき（名）〔怱劇・忩劇〕イソガハシキコト。多忙。平治物語、三、[illegible]、[illegible]事「我レモ、尋ネタク思ヒツレド、公私ノ怱劇ニ思ヒ忘レ」庭[illegible]往來、九月、依ニ公私怱劇ニ、令ニ[illegible]之條」

そうけだ・つ・ツ・チ・タ・チ・テ（自動、四）〔總毛起〕〔「裁」ハ、寒氣立ノ義カ〕ゾットシテ、身ノ毛、ヨダツ。毛吹草（正保）「花ノ[illegible]、そうけだたスル、嵐カナ」

そうげつ（名）〔陬月〕〔「陬」ハ、漢音、そうナルヲ、さうト云フハ、慣用音ナリ〕しゃうぐゎつ（正月）ノ異稱。[illegible]、[illegible]「正月爲レ陬」史記、曆書、注「正月爲ニ孟陬ニ」

ぞうけん（名）〔憎嫌〕ニクミ、キラフコト。[illegible]、指揮[illegible]」

ぞうげん（名）〔增減〕ますト、へらすト。損ト、增損。漢書、[illegible]「其[illegible]、[illegible]不ニ增減ニ」唐書、食貨志「百官俸錢、會昌後、不ニ復增減ニ」

そうけんげう（名）〔總檢校〕（一）國衙、又ハ、莊園ノ職。吾妻鏡、廿八、寛喜三年四月二日「河越三郎重員者、武藏國總檢校職也」（二）僧侶ノ、寺務ヲ總ベ治ムル職。[illegible]、十四、[illegible]九[illegible]「東大寺[illegible]云、延[illegible]門[illegible]、[illegible]正、七大寺總檢校成給」（三）座頭ノ階級ノ、最上位。[illegible]、中[illegible]代ヨリ、江戸ニ[illegible]、[illegible]今、杉山、[illegible]、[illegible]代[illegible]ク」

そうご（名）〔聰悟〕（聰明、穎悟ノ略）サトク、カシコキコト。聰悟。聰慧。聰敏。[illegible]、[illegible]人、[illegible]色、[illegible]」

そうこう（名）〔奏功〕功ヲ、奏スルコト。事ヲ、成就シタルコト。

そうこうげき（名）〔總攻擊〕そうぜめ（總攻）ニ同ジ。

そうこく（名）〔宗國〕本家ノ國。左傳、哀公八年「今子、以ニ小惡ニ而欲レ覆ニ宗國ニ、不ニ亦難ニ乎」

そうこくぶんじ（名）〔總國分寺〕全國ノ國分寺ヲ總統ベル寺、卽チ、奈良ノ東大寺ノ稱。猶、こくぶんじ（國分寺）ノ條ヲモ併セ見ヨ。大和志、[illegible]、[illegible]、東大寺[illegible]、[illegible]、[illegible]寺、又、[illegible]大寺、又、總國分寺、又、[illegible]大[illegible]寺」

そうさ（名）〔搜査〕サガシ、シラブルコト。「犯人ノ搜査」

そうさい（名）〔綃綵〕ブヤオリモノ。漢書、[illegible]、公主貴人[illegible]上、[illegible]。後[illegible]樹[illegible]十二色」（節文）

そうさい（名）〔總裁〕〔總括、裁決ノ略〕（一）スベ、ツカサドルコト。又、其職。總理。宋史、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]（二）[illegible]、[illegible]行、會社、[illegible]、[illegible]ノ事務ヲ總ル長。「日本赤十字[illegible]、[illegible]」行[illegible]

そうざい（名）〔[illegible]〕「家内[illegible]、[illegible]」故ノ名カ」[illegible]ノ菜。菜ノ物。[illegible]守[illegible]、廿八、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]いト云ヒ、江戸ニテ惣ざいト云フ」「惣[illegible]料理」

そうざいちゃう（名）〔[illegible]〕僧侶ノ[illegible]、總法務ノ下ニアリテ、法會ナドノ時ニ、衆僧ヲ率ヰ、指圖ヲナスモノ。中右記、天永、[illegible]月十八日[illegible]、[illegible]依ニ院宣ニ被レ補ニ總在廳ニ了」[illegible]由[illegible]記、永息元年六月十三日「[illegible]所四人、總在廳行[illegible]」

そうさう（名）〔送葬〕さうそう（葬送）ニ同ジ。[illegible]

そうさく（名）〔搜索〕[illegible]

[illegible]時ハ、正背ハ、[illegible]切、[illegible]」アナグル[illegible]コト。[illegible]

そうさつ（名）〔聰察〕〔聰明、[illegible]〕サトクシテ、察シ知ルコト。[illegible]

そうし（名）〔宗祀〕タフトビ、祭ルコト。[illegible]

そうし（名）〔[illegible]〕[illegible]

そうし（名）〔宗子〕[illegible]

そうし（名）〔[illegible]〕[illegible]

そうじ（名）〔奏事〕（一）事件ヲ、奏上スルコト。[illegible]（二）大小事件ニアラザル事件、[illegible]政官ヨリ奏スル状ノ稱。[illegible]式令、奏事式[illegible]引附、[illegible]共ニ、受理セザル場合ニ、[illegible]告ガ、[illegible]的ニ[illegible]ルコト。[illegible]

そうし（名）〔[illegible]〕[illegible]

ぞう-し（名）〔增資〕資本ヲ、增スコト。「株式會社ノ增資」

ぞう-し（名）〔增師〕師團ヲ、增スコト。

ソウ-シウ
ぞう-しう（名）〔增修〕（一）增加シテ、修築スルコト。史記、[illegible]（二）增加シテ、編修スルコト。「增修本」

ソウ-シウ
ぞう-しう（名）〔增收〕收入ノ、增スコト。減收ノ反。「增收ヲ計ル」

そう-しつ（名）〔宗室〕（一）帝王ノ親族。後漢書、[illegible]「錄功臣及宗室」（二）一族ノ宗トスル家。宗家。本家。左傳、昭公六年「女喪而宗室、於人何有」

そう-じて〔接〕〔總〕スベテ、オホヨソ。大凡。[illegible]「總じて、手習イ内ノ首ノ持ノテハ、サノソ」太平記、六、關東大兵上洛事「總じて、諸國ノ軍勢、我レモ我レモト、馳セ上リケル」[illegible]コレハ、一算盡カズバナリマスマイ、總じて、コノ失物ト申スハ、トット、置キ惡イモノデゴザル」ぉのびね物語、上「そうじて、此大殿ハ、御心、キラキラシク、花ヤギタマヘル人ニテ」

そう-しはいにん（名）〔總支配人〕〔英語、General manager.ノ譯語〕本店ニアリテ、各地ノ支配人ヲ指揮シ、各般ノ事業ヲ總管スル支配人。

ソウ-シユウ
そう-しふ（名）〔總集〕スベテ、アツマルコト。徐陵、[illegible]「[illegible]」

ソウ-ジユウロウ-ズキン
そう-じふらう-づきん（名）〔宗十郎頭巾〕（元文ノ頃、俳優、澤村宗十郎ノ用キシニ起ル）又、錏頭巾。頭巾ノ一種、布、二枚、各、三尺許、上ヲ袋ニ作リ、頭ヲ被ヒテ、角ヲ前ヘ折リテ、額ニ挾ミ、下ニ垂レタル部ヲ、頭ニ卷キック。（黑縮緬ノ結ノ樣ナリ）[illegible]十五「宗十郎頭巾、[illegible]俳優、澤村宗十郎ヨリ、製シ始ム、故ニ、今ニ至リ、名トス[illegible]、云云、黑縮緬、袷製也、角頭巾ノ[illegible]錏ナル[illegible]ナリ、武士、專ラ用レ之、蓋、江戸ノ武士ハ、不レ用レ之歟、今、江戸ニテ、士民共ニ不レ用レ之、江戸モ、武士ニ、[illegible]レ用レ之歟」賤のをだ卷（享和）「宗十郎頭巾トテ、歌舞伎役者ノ澤村宗十郎ノ、被リタリ四方ニ、筒ヲ長クシテ、後ニ、錏ヲ一尺計下ゲ、左右ノ耳ニ、顏ヲ包ムヤウニ、小鬢ニ細キ短册ノ樣ナル錏ヲ、大キク付タリ、此錏ヲ、左右ノ頰ヨリ取リテ、顎ノ下ニテ結ベバ、耳モ顏モ、寒カラズ、筒ノ餘リハ、上ニテ卷込、又ハ、折テ、額ヘ挾ミタリ」

ソウ-ジマイ
そう-じまひ（名）〔總仕舞〕總ベテ、終ハリタルコト。全部ヲ、濟マシタルコト。又、全部ヲ買切ルコト。浮世風呂、文化、三馬〕三編、下「肩ヲ採セナガラ、風鈴蕎麥ヲ總仕舞ニシテ、蕎麥屋ニ銅ヲサセテハト」

そう-しん（名）〔宗親〕（一）本家。宗家。（二）同母ノ兄弟。同胞。史記、五宗世家「同レ母者、爲二宗親一」

そう-しん（名）〔總身〕身ノウチ、殘ラズ。カラダヂュウ。ソウミ。渾身。滿身。近松作）一「總身ノ力、腕ニ入レ、ナグリ立ッタル、滅多打チ」（[illegible]）信州川中島合戰（享保、

ぞう-しん（名）〔增進〕マシ、ススムコト。增加、進步スルコト。（學力、體力ナド）淨住子 南齊、蕭子良「不レ起二諸惡一、長二養增ヲ進善善根一」「能率增進」

ぞう-しん（名）〔贈進〕贈リ、マキラスルコト。運步色葉集「贈進、ゾウシン」

そう-しや（名）〔總社〕古ヘ、每國ノ國府ノ傍ニ建テテ、國内各地ノ諸社ヲ總ベ祀リタル社。國司、此處ニテ、祭典ヲ修メタリ。又、州内ノ官社ニ事アレバ、國司、就キテ、祭ヲ致ストゾ。總社祈年祭「大社一百八十四座、小社二千二百七座、國司所レ祭」廿二社本紀、[illegible]、後一條院行幸之時、山城國[illegible]フニ仍テ、今者、當國ノ總社ニテ坐ス也」

そう-しや（名）〔宗社〕宗廟ト、社稷ト。轉ジテ、國家ヲ云フ。廟社。[illegible]五代史、[illegible]人傳「[illegible]使[illegible]、志安宗社」[illegible]記、十七、[illegible]有樣事「月日過行トモ、世ハ猶、靜カナラズ、理也、上荒、下困、勢不レ久、宗社之危如二綴旒一ト云文アリ、宗社トハ、先祖、宗廟ノ祭也、綴旒トハ、旗ノ足ト云フ事也、宗廟ノ祭危ケレバ、國ノ治ラザル事、旗ノ足ノ、風ニ吹ルルガ如クニ安堵セズト云ニヤ、平家ノ振舞、イカガ有ベカルラント、覺束ナシ」

そう-しや（名）〔奏者〕（一）事ヲ、奏聞スル者。盛衰記、十八、文覺高雄勸進事「院御所、法住寺殿ニ參リテ、御奉加之由、申上ス、云云、奏者、此ノ由ヲ申シ入レズ」（二）取次シテ、關白、公方ニモ、申次ノ役ノ稱トス。[illegible]「[illegible]、近日、奉行頭人等、内内ノ云次ヲ、稱二奏者一哉、傍若無人ノ事也、奏ノ字ハ、限二天子一言事也、然則、關白以下、諸家ニ、物ヲ申者、申次ト稱スベシ」川角太閤記、三「吉川駿河守元春、小早川左衞門允隆景、云云、御禮ニ罷リ出テ候、奏者、淺野彈正殿ナリ」

ソウ-シヨウ
そう-しやう（名）〔宗匠〕（一）大工ノカシラ。棟梁。工師。袁宏、三國名臣序贊「[illegible]、不二宗匠陶鈞、而羣才緝熙、元首經略、而股肱罪レ力」（二）文藝ノ達人。舊唐書、權德輿傳「其文、雅正而弘博、王侯將相、洎當時名人薨歿、以二銘紀一爲レ請者、什八九、時人以爲二宗匠一焉」（三）和歌、連歌、等ノ先達ノ稱。後ニハ、俳諧、茶道、活花、等ノ師ニモ云フ。著聞集、五、和歌、柿本人麿畫讚「斯道宗匠、我朝前賢」元可法師集、春「宗匠爲定卿、詠マセ侍リシ歌ノ中ニ」下學集、下、態藝門「宗匠、先達義也、日本俗、或指二歌道之達者一、云二宗匠一也」庭訓往來、十一月「連歌宗匠、和歌達者」

ソウ-シヨウ
そう-しやう（名）〔奏章〕上奏ノ文書。上奏文。歐陽修、太尉文正王公神道碑銘「史官修二眞宗實錄一、得二内出奏章一」

ソウ-ジヨウ
そう-じやう（名）〔奏上〕天皇、又ハ、國王ニ、申上グルコト。[illegible]「[illegible]、令約束、立二宗廟社稷[illegible]、何事[illegible]可[illegible]其役事」[illegible]第七[illegible]係リ、奏上スルモノ」

ソウ-ジヨウ
そう-じやう（名）〔奏狀〕天皇ニ上奏スル文書。令制（公式令）ニテハ、事件ノ大小ニ由リテ、論奏、奏事、便奏、ノ三區別ニナス。盛衰記、四、白山神輿登山事「山門ノ衆徒、騷動シテ、奏狀ヲ捧ケテ、訴ヘ申ス」太平記、一、中宮御産御祈事「山門橫川ノ衆徒、奏狀ヲ捧ケテ、禁庭ニ訴フル事アリ、俊基、彼奏狀ヲ披キテ、讀ミ申シケル」

ソウ-ジヨウ
〜ソウ-じやう（名）〔僧正〕（僧史略、中「僧正者何、正政也、自正正レ人、克敷二政令一、故曰也、蓋以、比丘無レ法、如二馬無レ轡勒一、牛無二貫繩一、漸染二俗風一、將レ乖二雅則一、故設有レ德僧正一、衆以レ法而繩レ之、令レ歸二乎正一、故云二僧正一也」）僧官ノ第一ノモノ、大、正、權、アリ、大ヲ大納言ニ、正ヲ中納言ニ、權ヲ參議ニ準ズ。易林節用集、[illegible]「僧正、ソウジャウ」推古紀、三十二年正月三月「以二觀勒僧一爲二僧正一」元亨釋書、二、行基「高麗王貢二僧惠灌一、仍任二僧正一」續紀、三、大寶三年「姓百濟氏、近州志賀里人、云云、寶字四年爲二僧正一」宇津保物語、嵯峨院八十「藏ヅノ、カシコシト言ハル僧都、僧正、申シ集メテ、不斷ノ御修法、七八壇セサセ給フ」

ソウ-ジヨウ-ノ-ジン
そう-じやう-の-じん（名）〔宋襄之仁〕支那ノ春秋ノ世、宋ノ襄公、仁ヲ敵ニ施シ、爲ニ、敗北セシコト。轉ジテ、無益ノなさけヲ云フ。婦人之仁。（下文ヲ見ヨ）左傳、僖公廿二年「宋公及二楚人一戰二于泓一、宋人既成列、楚人未二既濟一、司馬曰、彼衆我寡、及二其未一既濟一也、請擊レ之、公曰、不可、既濟而未レ成レ列、又以告、公曰、未レ可、既陳而後擊レ之、宋師敗績、公傷レ股、門官殲焉」十八史略、一「宋、云云、至二春秋一、有二襄公茲父者一、欲レ覇二諸侯一、與レ楚戰、公子目夷、請下及二其未一陣

擧セ之、公曰、君子不[illegible]人[illegible]、遂移[illegible]所[illegible]敗、世笑以爲宋襄之仁」

ぞう-ぢゃうまん（ソウ・ジヤウ・マン）(名) 【增上慢】 佛教ノ語、七慢ノ一。まんぢん(慢心)ノ條ヲ見ヨ。 法華經、方便品「此衆[illegible]、及增上慢、未得謂得、未證謂證、有如是失、是以不住」 十訓抄、上、第二、第五條「五千ノ上慢、云云、釋尊ノ、法華ヲ說キ始メ給ヒシ時、座ヲ立チテ退ケリ、彼等、罪根深重ニ、增上慢ニシテ、未ダ證セザルヲ證セリト思ヒ、未ダ得ザルヲ得タリト思フ、斯クノ如ク、失アル輩ナリ、委シクハ彼經ニ說カレタリ」

ぞう-ぢゃく (名) 【贈爵】 死亡後ニ、爵位ヲ追贈セラルルコト。追爵。 朗詠集、下「贈爵新[illegible]銘刻石、[illegible]丘」 太平記、三十三、直義贈位事「故左兵衞督直義入道慧源、サシモ、爪牙、耳目ノ臣タリシカバ、從二位ノ贈爵ヲ、苔ノ下ナル遺骸ニゾ賜ハリケル」

そう-ぢゃ-ばん (名) 【奏者番】 德川幕府ノ職名。萬石以上ノ人ヲ以テ、補ス、其人員ハ、廿人、若シクハ、三十人ニシテ、當番、助番、非番、等アリテ、交番ニ、其職ニ從フ、大名、旗本、等ノ、將軍ニ謁見スル時、其姓名ヲ言上シ、其進物ヲ披露シ、又、將軍ヨリ下賜ノ物ヲ傳達スル事ヲ掌ル、又、三家、及、大名ノ家督ニ依リテ、奏者番ヲ以テ、上使ニ立ツルコトアリ、寺社奉行ハ、必ズ、此職ヨリ登用スルヲ例トス。 [illegible]記聞、二、奏者番、無定員、[illegible]三十人ハ、[illegible]、諸侯大夫[illegible] [illegible]

そう-ぢゅ (名) 【宗主】 大本(オホモト)トスル所ノ長(カシラ)。仰ギ尊ブ所ノ主長。 晉書、羊祜傳「故太傅[illegible]平侯羊祜、明德通賢、國之宗主」「宗主權」

そう-ぢゅ (名) 【奏授】 ちょくぢゅ(敕授)ノ條ヲ見ヨ。

そう-ぢゅ (名) 【宋儒】 支那ノ宋(趙宋)ノ學者、程子、朱子ナドノ稱。其經書ノ學說ヲ、新註(シンチュウ)ト云フ、道學者。(朱子學ノ條ヲ見ヨ) 間合早學問、上、學問宗派「朱學ヲ、朱子學トモ云フ、宋ノ朱子ト云フ人ニテ、名ハ熹、字ハ元晦ト云フ、此者ノ學問、モッパラ性理ノ事ヲ說タリ、性理トハ、人人生レテヨリ備ハリタル性ヲ、明ラメ悟リテ、道ヲ行フヲ云フ也、又、朱子、程子ナドヲ、宋儒トモ云フ」

ソウ-ぢゅう (名) 【僧衆】 〔佛家ニテハ、そうぢゅう、多クノ比丘ノ、和合シテ一團ヲナスモノ」〕 多クノ僧。衆徒。僧徒。 宋書、[illegible]傳「自宜[illegible]僧衆」

そう-ぢゅ-けん (名) 【宗主權】 〔英語 Sovereignty, or Suzerainty. ノ譯語〕 條約ニヨリテ、一國ガ、他ノ一國ノ、內治、外交ナドニ就キ、制節、又ハ、監督スル特殊ノ權利。

そう-ぢょ (名) 【叢書】 (一)多數ノ書ヲ集メ藏スルコト。 韓愈詩「門以兩板、叢書其間」 (二)種種ノ書冊ヲ輯錄シテ、一大部冊トシタルモノ。(叢書ノ名ハ、唐代、陸龜蒙ノ笠澤叢書ヲ以テ最初トス、サレド、コハ、詩文集ニシテ、後世ノ所謂、叢書ニ非ズ。宋ノ寧宗ノ時、太學生、兪鼎孫、兪經ノ、儒學警悟四十卷ヲ以テ、實ニ、叢書ノ嚆矢トスベシト云フ) 「故實叢書」「[illegible]叢書」

そう-ぢょう (名) 【總稱】 一ツニ總ベテ呼ブ稱(トナヘ)。總名。

ぞう-ぢょく (名) 【增殖】 マシ、フユルコト。又、マシ、フヤスコト。 徐鉉、[illegible] 武備「[illegible]增殖」

そう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 【奏】 〔康熙字典「人臣言事、章疏曰奏」〕 (一)〔天子ニ、言ヲ進ム〕帝王ニ、聞エトゾ、奏聞ス。「啓す」[illegible] 武德[illegible] [illegible]ク奏しテ、マカデサセ給ヒ給フ」 (二)奏ヅ。歌舞、管絃ヲ演ズ。 [illegible]「樂ヲ奏す」 (三)遂グ。成ス。「功ヲ奏す」

そう-そう (名) 【總數】 總體ノかず。全數。通數。台數。

そう-ずゐ（ソウ・ズイ）(名) 【奏瑞】 (一)祥瑞ノ事柄ヲ、奏上スルコト。[illegible] (二)朝賀ノ時ニ、諸國ヨリ報ゼラレタル祥瑞ヲ奏スル官人。(奏賀ノ條ノ(二)ノ出典ヲ見ヨ)

ぞう-すゐ（ソウ・スイ）(名) 【增水】 (一)[illegible] 量(カサ)ノ、マスコト。(降雨ナドニテ)水漲。 (二)〔又、雜炊、增炊、糝、ナドト書ク〕古ク、みそうづ(味噌水)[illegible] 味噌ニテ煮タルモノ。今ハ、蔬菜ヲ加フ。菜粥。菜糊。 下學集、下、飮食門「雜炊、ゾウスイ」 [illegible]「ソウスイ」 [illegible]

そう-せい (名) 【奏請】 奏聞シテ、請ヒソコト。 [illegible]「[illegible]ヲ奏請ス」

そう-せい (名) 【叢生】 叢(ムラガ)リ、生ヅルコト。〔草ノ叢ナド〕[illegible]

そう-せい (名) 【簇生】 草木ナドノ、ムラガリ生ズルコト。[illegible]

そう-せい[illegible] (名) [illegible] [illegible]

そう-せい-じ (名) 【宗正寺】 [illegible] 志「宗正寺卿一人、少卿二人、掌天子族親屬籍」 おほきんだちのつかさ(正親司) [illegible]

そう-せき (名) [illegible] 「將帝切」しょうせき(蹤跡)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

そう-せき (名) [illegible] [illegible]

ソウ-せき (名) 【僧籍】 僧尼ノ名籍、又、其身分。「僧籍編入」

そう-せつ (名) 【總說】 全部ヲ括リテ說クコト。又、其文、一部ヲ總ベテ、說キ[illegible]

そう-せつ (名) [illegible] 事務ヲ總ベテ、[illegible]

そう-せん (名) [illegible] [illegible]

そう-せん (名) 【奏宣】 天皇ニ、言上スルコト。奏陳。 職員令「少納言三人、注、掌、奏宣小事ニ」

ソウ-ぜん (名) 【僧膳】 僧侶ニ供フル食膳。 宇治拾遺、十三、第十二條「雪ノ飾リテ、僧膳ヲ設ケテ、僧ノ請ジ給ヒケルニ」今鏡、五、故郷の花の色「僧膳院尼、云云、目グラシ、アル事ナレバ、僧膳ナドハフ事モ、アリ」

そう-ぜめ (名) 【總攻】 我ガ總軍勢ヲ持チテ、敵方ヲ攻擊スルコト。總攻擊。 永享記、結城落城事「長沼方申ケルハ、此城、殊ニ、寄手大勢ニテ候得バ、致ニ總攻一候ハバ、外城易ク攻候ベシ」又「明日ハ嘉吉元年四月十六日、吉日ナレバ、可ニ有ニ總攻一ト相觸」 足利季世記、六、教興寺合戰事「松永彈正久秀ハ、大將長慶ノ前ニ來リテ申シケルハ、實休、打死アリテ、高屋城、岸和田城モ落城シテ、此城(飯盛)ヲバ、八重九重、取卷、總責(總攻ニ通ズ)ニスベシト申候、急ギ、後詰ノ勢ヲ催シ、敵ヲ追拂給ヘト」

そう-そ (名) 【奏疏】 意見ナドヲ記述シテ、上奏スル文書。上疏。 宋史、朱倬傳「奏疏凡數十」文體明辯「奏疏者、群臣論諫之總名也」

そう-そ (名) 【曾祖】 曾祖父ニ同ジ。 ヒヂヂ。 晉書、荀勗傳「漢司空爽、曾孫也、年十餘歲、能屬文、外祖曾鍾繇曰、此兒當ニ及其曾祖ニ」三代實錄、三、貞觀元年十月廿三日「備侍從三位廣井女王、薨、廣井者、二品長親王之後也、曾祖、二世從四位上長田王、祖、從五位上廣川王、父、從五位上雄河王」字鏡、親族「曾祖、於保於保地」

そう-そう (副) 【忩忩忽忽】 (匆匆ト書クハ、忽忽ノ省字) 忙ガハシキ狀、又、騷ガシキ狀ヲ、云フ語。 晉書、王彪之傳「無故忽忽、先自猖獗」 朗詠集、下、餞別「忙忩忩乳、老鶴心閑寂寂眠」 盛衰記、十七「冠ヲサヘ突キ落サレタリケレバ、餘リノ忽忽ニ、周章テツツ、ソレヲモ知ラデ」同、廿、八牧夜討事「世間モ、何トナク、忽忽ナリツレバ、馳セ參レリ」「烏兔、忩忩」 書狀ノ結語ニ書クハ、忙ガハシキ間ニ書キテ、略スル意ナリ。 晉書、衛恆傳「忩忩不暇草書ニ」

そう-そう (副) 【葱葱】 コモル狀、又、茂ル狀ニ云フ語。 王儉、露丘竹賦「幹葱葱而特秀ニ」李白詩「日出瞻佳氣、葱葱繞聖君ニ」

そう-そう (副) 【淙淙】 水ノ流ルル音ノ狀ヲ云フ語。 高適、漁父歌「石泉淙淙若風雨ニ」 林徽詩「清溪對ニ峻谿、石瀨何淙淙」

そう-そう (副) 【層層】 物ノ、重ナル狀ニ云フ語。 張籍詩「疊石連ニ空遠、層層勢更危」白居易詩「紅綠層層錦繡斑」

そう-ぞう (副) 【總總】 スベテ。引キクルメテ。 一茶句「總總ニ、機嫌取ラルル、蠶カナ」

そう-ぞう・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【騷然】 (騷騷ノ訛音ヲ活用スト云フ) イト、サワガシ。甚ダ、カマビスシ。 さうざうし(騷騷)ノ條ヲモ見ヨ。 饅頭屋本、節用集「念念、ソウゾウシ」

そう-そく (名) 【總則】 全體ニ涉ル規則。通則。(細則ニ對ス)

そう-ぞく (名) 【宗族】 (白虎通「宗者、尊也、族者、衆也」) 本家ト、分家、末家、等ト。一家、親族。一門。 左傳、僖公廿四年「糾ニ合宗族于成周、而作ニ詩一」 周禮、春官篇、大宗伯「以ニ飮食之禮、親ニ宗族兄弟ニ」

そう-ぞく (名) 【宗屬】 (孔叢子「同姓爲ㇾ宗、合族爲ㇾ屬」) 一家、一門。親族。

ソウ-ぞく (名) 【僧俗】 僧侶ト、俗人ト。緇素。 蘇軾、廬山詩、序「已而見ニ山中僧俗ニ」 枕草子、十一、百三十三段「一切經ヲ、蓮ノ花ノ赤キニ、一花ヅツ入レテ、僧ぞく、上達部、殿上人、地下、六位、何クレマデ、持テ續キタル、イミジウ尊シ」 榮花物語、三、樣樣悅「僧俗、殿上人、判官代、淚ヲ流シ、惑ヒタル、云ハン方ナシ」

そう-そつ (名) 【走卒】 シモベ。ヤッコ。アシガル。 漢書、胡建傳「貧亡車馬、常步與ニ走卒ニ起居」

そう-そつ (副) 【怱卒】 俄カナル狀、又、忙ガハシキ狀、又、アワタダシキ狀ニ云フ語。 歐陽修、上ニ范司諫ニ書「卽欲ト爲ニ一書ニ以賀よ多事且卒未ㇾ能也」

そう-そふ (名) 【曾祖父】 オホオホヂ。ヒヂヂ。ヒイヂヂ。曾祖。 釋親考「王父之考、爲ニ曾祖王父ニ、王父之妣、爲ニ曾祖王母ニ」郭氏曰、曾、猶ㇾ重也、丘氏曰、今稱ニ曾祖父、曾祖母、曾典、卽、太公、太婆ニ」字類抄「曾祖父、オホオホヂ」注「祖父之父也、文字集略云、四世祖也」箋注倭名抄、一「按、於保於保知、大祖父之義、曾祖父者、父之祖父、故曰ニ大祖父ニ、今俗、呼ニ比治治ニ」

そう-そぼ (名) 【曾祖母】 オホオバ。ヒバババ。ヒイババ。 釋親考「王父之妣、爲ニ曾祖王母ニ」爾雅、同ジ) 字類抄「曾祖母、オホウバ」注「祖母之母也」箋注倭名抄、一「按、於保於波、大祖母之義、今俗、呼ニ比婆婆ニ」

そう-そん (名) 【曾孫】 ヒマゴ。ヒコ。 書經、武成篇「惟有道曾孫、周王發」 釋親考「孫之子、爲ニ曾孫ニ」 箋注倭名抄、一「孫子孫類」釋名、曾孫、義如ニ曾祖ニ也、新撰字鏡、垂仁、神功、持統紀、同訓、急呼爲ニ比古ニ、見ニ宇治拾遺物語ニ」字鏡「親族、曾孫、比比古」字類抄「曾孫、ヒヒコ、孫之子」古事記、中(景行)四十「娶ニ倭建命之曾孫、名須賣伊呂大中日子王之女、訶具漏比賣ニ」

ぞう-そん (名) 【增損】 マスコトト、ヘラスコトト。增減。 史記、呂不韋傳「有下能增ニ損一字ニ者よ予ニ千金ニ」

ソウダ (名) 【曹達】 (英語、Soda. 曹達ハ、其和譯語) (一)なとりうむ鹽ノ總稱。硫酸曹達、炭酸曹達、硝酸曹達、重炭酸曹達、ノ如シ。(二)特ニ、炭酸曹達(炭酸なとりうむ)ノ略稱。其條ヲ見ヨ。「洗濯曹達」

そう-たい (名) 【總體】 悉ク、統ベタルコト。全體。

そう-たい (副) 【總體】 取リスベテ。殘ラズ。總別。

そう-だい (名) 【總代】 そうみやうだい(總名代)ニ同ジ。 俳諧新式、讀天ノ句「七草ノ、總代トシテ、薺カナ」

ぞう-だい (名) 【增大】 マシテ、オホキクスルコト。之繞ヲカケルコト。 隋書、張衡傳「洞庭湖、衡山、衆流、以增大」「規模ヲ增大ス」

ソウ-だう (名) 【僧堂】 七堂ノ一、僧侶ノ住居スル堂舍、僧坊、又、禪寺ノ坐禪堂。禪堂。雲堂。選佛場。 敕修百丈淸規、[illegible]請設、上、二「僧堂、指ニ僧堂ニ也」 前禪話「佛法通ニ南徑、僧堂倚ニ北坡ニ」 相國寺供養記「僧堂(選佛場)」 新編相模國風土記稿、八十九「[illegible]福寺、僧堂、選佛場ノ額アリシト云フ」

そう-たか (名) 【總高】 總ベ數ヘタル數。シメダカ。總額。

そう-たく (名) 【藪澤】 (書經、武成篇、疏「水鍾謂ニ之澤、無ㇾ水曰ニ之藪ニ」) やぶト、さはト。草木ノ繁茂シタル澤。 史記、司馬相如傳「鶴明已翔ニ乎寥廓、而羅者猶視ニ乎藪澤ニ」

ソウダ-スイ (名) 【曹達水】 沸騰性ノ淸涼飮料。本式ノ製法ハ、三斗入リノ水槽ニ、攝氏十五度以下ニ冷却シタル淨水二斗ヲ入レテ封ジ、瓦斯管ニヨリテ、炭酸瓦斯ヲ槽內ニ送リ、壓力百五十封度ニ至ルマデ、瓦斯ヲ吸收セシム。簡法トシテハ、煮冷ノ水、一升ニ對シテ、重曹約三匁ノ割ト、酒石酸、極少トヲ入レテ、攪キマゼテ成ル。

そうたつ (名) 奏達 上奏シテ、上聞ニ達スルコト。盛衰記、四十七、長谷觀音事「靈像ヲ居奉ルニ、本跡ノ如シ、公家ニ奏達セシカバ、神亀元年ニ、伽藍ヲ建立シテ、同四年三月廿日、行基菩薩ヲ以テ、供養ヲ遂ラルル寺也」太平記、十三、兵部卿親王流刑事「事起ニ于小過一、皆逃レ大、乾臨何延、古不レ鑒レ今、不レ堪ニ悲歎之至一、伏仰ニ奏達一、誠惶誠恐謹言」

そうたつ (名) 聰達 (聰徹、明達ノ略) 賢クシテ、事理ニ通ズルコト。晉書、荀勗傳「詔曰、勗、明哲聰達、經ニ識天序一、有ニ佐命之功一」道德指歸論(漢、嚴遵)「清明聰達、靜則內明」

そうたつ (名) 送達 オクリ、屆クルコト。オクリ、イタスコト。送致。

そうタフ (名) 層塔 重ナリタル塔。即チ、二層ヨリ、十三層ニ至ル塔ナドヲ云フ。盧琦詩「長橋亙ニ三百尺一、層塔崇ニ七級一」

ぞうたふ (名) 贈答 贈るト、答ふるト。ヤリトリ。獻酬。「詩歌ノ贈答」「進物ノ贈答」

そうだん (名) 奏彈 (一)上奏シテ、彈劾スルコト。梁書、劉之遴傳「雲臺奏彈、皆之遴草焉」 (二)王朝時代、彈正臺ヨリ、官吏ノ非違ヲ糾彈シ、大事件ナレバ、具サニ其犯狀ヲ錄シテ奏スルコト(大寶令) 彈正臺式「凡臺、奏ニ彈事一者、不レ經ニ太政官一、而直奏聞」

そうち (名) 送致 そうたつ(送達)ニ同ジ。

そうち (名) 聰智 (聰明、智慧ノ略) サトク、悟ノアルコト。徐幹、中論「明君親任也、皆貞良聰智、其言也、皆德義忠信」

そうぢ (名) 總持 (梵語、陀羅尼(Dhârani.)ノ譯語。善ヲ持シテ失ハズ、惡ヲ持シテ起ラシメザル義) 佛菩薩ノ說キタル呪文。太平記、十二、聖廟事「其時定メテ、仰ニ山門一可レ被レ致[illegible]、有ニ[illegible]內一ト、仰セラレケレバ」[illegible]、是レ又、總持ノ[illegible]ニヨレリ」

ぞうちく (名) 增築 タテマシ。在來ノ物ヨリモ增シテ、建築スルコト。宋史、蘇軾傳「復請調ニ來歲夫一、增ニ築故城一、爲ニ木岸一、以虞ニ水之再至一」又、土工ニモ云フ。宋史、[illegible]「紹興二年、水暴漲入レ城、[illegible]後增築」長堤、民賴以安」

そうちつれう (名) 宗秩寮 宮內省ノ寮ノ一、皇族、王族、公族、華族、朝鮮貴族、有爵、有位者ニ關スル事務ヲ掌ル役所。

そうぢとう (名) 總地頭 又、總領地頭トモ云フ。數人ニテ分領スル所ノ地頭ヲ、總轄スルモノ。又、家族ニ、領地ノ一部ヲ割キテ、地頭タラシメ、宗家、コレヲ總領スルモノ。吾妻鏡、四、元曆二年八月廿一日「鹿島社神主中臣親廣、與ニ下河邊[illegible]政義一、被[illegible]、被レ召ニ御前一、遂ニ一決一、是、常陸國[illegible]、被レ[illegible]領二訖、而政義、以ニ[illegible]押ニ領件地一」同、二、治承五年[illegible]月七日「武衛[illegible]朝ニ御誕生之初、被レ召ニ于御乳付一之青女、今日[illegible]號ニ摩々一)住ニ國相模早河庄一、依レ召參上、御憐愍ニ故被レ免ニ[illegible]田畠、不レ可レ有ニ相違一之由、被レ仰ニ[illegible]總地頭一」

そうちん (名) 奏陳 そうせん(奏宣)ニ同ジ。歐陽修、論[illegible]「[illegible]子、[illegible]所、[illegible]以[illegible]未ニ必立[illegible]」

そうちやう (名) 總長 事務ヲ總理スル職。總理。「參謀總長」「大學總長」

そうぢやう (名) 奏杖 文書ヲ挾ミテ、貴人ノ御前ニ差出ス杖。大方ハ、白木ナレドモ、禁中ナルハ、黑塗ニテ、長サ五六尺ノモノ。フヅエ。フバサミ。禁祕[illegible]「[illegible]上、[illegible]上[illegible]」

ぞうちやう (名) 增長 增シ、長クルコト。漸長。次第ニ、甚シクナルコト。[illegible]長、[illegible]「[illegible]」[illegible]長、ゾウチヤウ、[illegible]心增長」

ぞうちやうてんわう (名) 增長天王 又、增長天、ぞうてんわう(四天王)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ぞうちゆう (名) 增註 書物ノ註釋ニ、增シ加フルコト。又、其物。「荀子增註」

そうづ (名) 添水 (次次條ノ語ノ略) [illegible]

ソウづ (名) 僧都 (授事ヲ司ル僧ヲ、都維那ト云フ、コレヨリ、僧都ノ名、出ヅト) (一)僧官ノ名、僧正ニ次グ。大、少、各、正、權アリ(僧綱ノ條ヲ見ヨ) [illegible] カシコシト云ハルル、そうづ、僧正、中シ集メテ、不[illegible] (二)案山子(そほづ)ノ條ヲ見ヨ) [illegible] 山田[illegible] 古今集、十七、雜、上「山田守ル、そうづノ身コソ、アハレナレ、秋果テ(歌果つニ云ヒカ[illegible]クシヌレバ、訪フ人モナシ」

そうつかうず (名) [illegible] 二三種ノ物ヲ俱ク具シテ、今モ關西ノ山國邊地ニアリテ、そうずいト訛稱セリ。其裝置ハ、[illegible]、此筒ニ入ル、水滿ツレバ、水ノ重ミニテ、筒下リテ杵ノ頭上ガル、水、筒ヨリ出ヅレバ、復、舊位ニ復ス。斯クシテ[illegible]シテ杵ガ上下シテ穀ヲ舂クナリ。[illegible] (二)[illegible]、類ヲ田畑ヲ荒ラス獸類ヲ威ス[illegible]、音ノ又ルヤウニ[illegible]ノト云フ。

そうつり (名) [illegible] ノ精ビヤウニ、[illegible]、分カズシテ、結ヒ上グルモノ。(貞享、元祿頃)[illegible]

そうつゐぶし (名) 總追捕使 (一)[illegible]

自京畿歸參、具下國人等…追捕使二原大臣、其保、史…也」承久記「上、源右大將頼朝、卿…ノ年官ヲ申請シテ、其ノ後、賞ニ、日本國ノ總追捕使ニ補セラレテ、國國ニ守護ヲ置キ、郷郷ニ地頭ヲナスハ、…」保元物語、一、…定事…ニ…、…八、…云云、…ヨリモ給フス九國ノ…使ト號シテ、筑紫ヲ隨ヘントシケレバ、…押領使ヲ如クトシテ、所所ニ城ヲ構ヘ、云云、…年カ内ニ、九國ヲ皆攻落シテ、自ラ、總追捕使ニ押成テ、逆行多カリケルニヤ」(二)社寺ノ領地ニテ、検斷ノ事務ヲ掌ル職。吾妻鏡、二、治承五年十一月十二日「以常陸國…大掾…等所所、被寄鹿島社、其上、御敬神之餘、於宮中、爲不令…、以鹿島、…被定補…總追捕使」東寺文書、…年…、…總追捕使分、…文保…年七月…日、…追捕使…」

ぞう-てい (名) 贈呈 人ニ、物ヲ贈ルコト。送呈。進呈。

そう-でん (名) 送電 電氣ヲ、通ズルコト。「送電線」

ぞう-てん (名) 增添 マシ、ソフルコト。增加。宋史、…蘇…(宋史…)…増…

ソウ-ど (名) 僧徒 (爾雅、釋訓篇「徒、…也」)僧ノトモガラ。漢書、劉歆傳「…」…小室…僧徒…吾妻鏡、廿九、文…二年正月廿七日「…僧徒…兵杖」」

そう-とう (名) 總統 スベ、マトムルコト。スベ、トリシマルコト。又、其職。漢書、百官表「太師、太傅、太保、云云、…天子…總…」

そう-とく (名) 總督 (一)軍隊ヲ總べ師ヰル、最上ノ官。漢書、西域傳、贊「總督城郭三十有六」」…書…傳「…云云、…」(二)内閣總理大臣、又ハ、拓務大臣ノ監督ノ下ニ、一方面ノ政務(モトハ、軍務ヲモ)ヲ統轄スル長官。「臺灣總督」

ソウ-ニ (名) 僧尼 僧ト、あまト。卽チ、男女ノ、頭髮ヲ剃リ、染衣ヲ着シテ、佛道ニ歸依シタルモノ。梁書、梁武帝紀「…僧尼…止私刑」…僧尼令「凡僧尼、卜相吉凶、及小道、巫術、療病者、皆還俗、其依佛法、持呪救疾、不在禁限」同「凡僧尼、非在寺院、別立道場、聚衆教化、幷、妄說罪福、及、毆擊長宿者、皆還俗」類聚三代格、三、延曆四年五月廿五日、太政官符「禁斷僧尼出入里舍事」

そう-にん (名) 奏任 ちょくにん(敕任)ノ條ヲ見ヨ。

そう-にん (名) 證人 きょうにん(證人)ニ同ジ。徒然草、七十三段「人ノ興ズル虚言ハ、一人、サモ無カリシ物ヲト云ハンモ詮ナクテ、聽キ居タルホドニ、證人ニサヘナサレテ、イトド定リヌベシ」

そう-ねう (名) 走繞 (之繞ノ類)漢字ノ偏ニアル走字ノ稱。起、越、趙、趣、ノ如シ。ソウニュウ。

そう-のり (名) 總乘 總勢ニテ、敵城ニ攻メ入ルコト。毛利家記「數十日、城ヲ御攻メセサ候ヘドモ、今ニ、弱ラズ候間、總乘りニ可被仰附」

そう-はい (名) 崇拜 きょうはい(崇拜)ノ條ヲ見ヨ。

そう-ばい (接尾) 層倍 倍ト云フニ同ジ。傾城酒呑童子(享保、近松作)三「せんよ受ケ出ス八百兩、五層倍ニセニャオカヌ」「藥、九層倍、百層倍」

そう-はう (名) 奏報 王朝時代、太政官ヨリ、政事ノ次第ヲ、文書ニ記シテ奏上シ、陛下、御覽アリテ、御覽濟ノ旨ヲ、史ニ仰セラルルコト。江家次第、九、官奏「大臣仰奏報、史稱唯、下文並後給、緒、史更開一枚、申云、成文若干枚、可勘申文若干枚、可返給文若干枚、訖退、大辨着床子、大臣退出、後朝、史、進奏報、行事藏人、於殿上口取之、改插覽上文側、奏之、必於御座覽之、其後、仰御覽之由於史云云」

そう-ばう (名) 怱忙 怱忙 イソガハシキコト。セハシキコト。怱劇。陸游詩「農隙亦怱忙」稼事何曾一夕忘」杜甫、新婚別詩「暮婚晨告別、無乃太怱忙」庭訓往來、二月廿三日「聊可有用意之由奉候畢、可致如形稽古、公私怱忙之間、不遑毛擧」

ソウ-ばう (名) 僧坊 僧房 僧ノ居ル別室。僧舍ノ房室。佛國記「晉、釋法顯…作四方僧房、供給客僧」晉書、鳩摩羅什傳「不住僧坊」倭名抄、十三、伽藍具「僧坊、法華經云、起塔寺、及造僧坊、注、他經等或云僧房」供養衆僧」其德最勝、無量無邊」源、五、若紫「高キ所ニテ、此處彼處、僧坊ドモ、アラハニ見下サルル」平家物語、一、清水炎上事「山門ノ大衆、六波羅ヘハ寄セズシテ、…ナル清水寺ニ押シ寄セテ、佛閣、僧房、一宇モ殘サズ、燒キ拂フ」

そう-はうぐゎんだい (名) 總判官代 國司ノ廳ニテ、檢田ヲ行フ職。大神宮諸雜事記、一、寶龜四年十月十三日「志摩守目代、三河介伴良雄、與役國書生總判官代酒見文正、伊雜神戶檢田程、爲狩志天、伊雜之近邊、射伏猪鹿已了」東寺百合古文書、二、太郎庄馬上免下文案「在廳下、…寺佐僧、可早開發無主荒野…五段、引募…寺佛聖灯油料田事、云云、文治二年二月廿日、總判官代藤原朝臣在判」(蕭文)

そう-はく (名) 總帛 あしきぬト、きぬト。史記、西南夷傳「夜郞旁小邑、皆貪漢繒帛」

そう-はつ (名) 總髮 (一)(往時、公家衆、神官、僧侶、山伏、老人ナド、月代ヲ廣ク剃ルヤウニナリシヨリ、…ヲ…稱シタル語)額上ノ月代ヲ剃リ去ラズ、全髮ヲ生シテ、頂ニ束ネテ、…作ルコト。ソウガミ。ガッソウ。新五代史、四夷附錄、回鶻傳「婦人總髮爲髻、高五六寸、以紅絹囊之、既嫁則加氈帽」席龍工隨筆「渡ガ妻ノ、盛遷ニ討レン時ニ、髮ヲ散キテ最タルト有ルハ、古ハ、皆、總髮ナレバ、髮ニ帛リテ…ニクキ故ニ、髮多クハ、髮ヲ散キタルト見エタリ」…、下…御代ノ始ノ頃ニハ、總髮ノ人、南三人モ有ケル由、…フ、…、…ノ御代ニハ、…テ、一人モナシ、…ヨリ、…朝士ニ、總髮ノ人、出來タリ、…年山)云、年老テハ、元氣耗テ、髮ヲ剃レバ、風ニ感ジテ、咳嗽ヲ生ズ、四十以上ハ、月代ヲ剃ラズシテ、ツニ束ネタルニヨロシト云ヘリ」(二)剃ラズ結ハズ、垂レタル髮形。おかっぱノ類。總角ノ娟ク、少年ノ稱トス。南史、王融傳「…自…總角…」…過…大行…育之恩」」

そう-ば-とう (名) 走馬燈 マハリドウロウ。カゲドウロウ。荊楚歲時記(梁、宗懍)「正月上日作燈市、採松葉結爲…下綴…燈、燈有…品、其…紙人馬於中、以火運之、曰走馬燈」

そう-ばな (名) 總花 客ガ、妓樓、又ハ、茶屋、ナドノ一同ノ者ニ出ス纏頭。

そう-はん (名) 總判 (一)神祇官ノ長官ノ、判官ノ事務ノ取扱ヲ待タズシテ、獨行スルコト。職員令、神祇官「伯一人、掌、…、云云、總判…官事」義解「…判、…判、其別如何、答、…判官…不待判官、而長官得獨行、故曰總判、判官…官…之事、故曰判」(二)古ヘ、大阪在住ノ俳優ガ、每年十二月六日夜、總テ、役所ニ参集シ、御法度ノ趣旨ヲ承リ、印判ヲ押シテ歸リタルコト。

そう-はん (名) 宋板 宋版 支那、宋ノ代

ノ版木。點畫ニ訛ナク、板刻、精美ト云ハル。 宋本十三經注疏、經目錄「元宋所彙十行宋板、有二十一經二」 活版經籍考「活版ノ諸經書、多クハ、北宋本ヲ元トシテ、寫シ作レリ、ヒトリ、原文ヲ取リタルノミナラズ、字畫、行款ニ至リテモ、又、宋樣ヲ規摸セリ」

そう-ひつ (名) |走筆| ハシリガキ。筆ヲ走ラシテ、書クコト。ハヤガキ。 白居易詩「走筆小詩能和否」

そう-びん (名) |聰敏| 〔聰明、英敏ノ略〕賢クテ、サトリノ疾キコト。サトキコト。聰悟。 晉書、山濤傳「形甚短小而聰敏過人」 盛衰記、三十九、重衡請ニ法然房ニ事「…ガ…ランチ、必、男子トシテ、一朝ノ…師タルベシト合セタリケリ、生レテ、異相アリ、拔群ニシテ、聰敏也」

ざう-ひん (名) |贈品| ツカヒモノ。進物。

そう-ふ (名) |送付| オクリツクルコト。届クルコト。寄送。

ぞう-ふ (名) |贈賻| 〔儀禮、既夕篇「知ニ死者ニ贈、知ニ生者ニ賻」〕死者ガ知人ナル場合(直接)ニ玩好ノモノヲ送ルヲ贈ト云ヒ、知人タル生者ノ家ニ不幸アリシ場合(間接)ニ財貨ヲ贈リテ、其喪ヲ助クルヲ賻ト云フ」死亡ノ事アル家ニ贈ル進物。香典。 北史、盧光傳「周天帝、少曾受ニ業於光、故贈賻有ニ加」

そう-ぶん (名) |奏聞| そうもん(奏聞)ニ同ジ。 後漢書、安帝紀「既不ニ奏聞ニ」

〜そう-ぶん (名) |所分處分| 分ケ與フルコト。配分。 源、三十四、上、若菜、上「二ニ親シキ限リ、サブラヒケル程ニツケテ、皆、そうぶんシ給ヒテ」 同、十四、澪標「二條院ノ東ナル宮、院ノ御そうぶんナリシヲ、二無ク改メ造ラセ給フ」 詞花集、十、雜、下「…ノ、御分ヲ、…ク、人ニ…シ取ラレ」

ソウ ビヨウ
そう-べう (名) |宗廟| 〔古今注「廟者、貌也、所ニ以彷ニ彿先人之形容ニ也」〕祖先ノ容貌ヲ尊崇スル意〕帝王ノ先祖ノ靈屋ノ稱。 禮記、曲禮、下篇「君子將ニ營ニ宮室ニ、宗廟爲ニ先」 [illegible] 續紀、四十年六月、[illegible]

そう-べつ (名) |送別| 〔留別ニ對ス〕旅立ツ人ヲ、見送ルコト。分袂スル人ノ行ヲ見送ルコト。 [illegible] 詩「濟南頻送別、臨水惜殘春」 別レヲ送ルニ、松柏ヲ書クハ、松柏ノ、詞ノ、送別ニ通フヨリ、爲ス事ト云フ。又、送別ヲ、折柳、折枝、ナド云フハ、支那、長安ノ都人ガ、人ヲ見送ルニ、灞橋マデ行キ、其所ノ柳ノ枝ヲ折リテ贈ル風習アリシニ本ヅクト。

そう-べつ (副) |總別| スベテ。オホヨソ。 平家物語、二、烽火沙汰「印間ニ事、人ノ心モ[illegible]フラズ、世間モ未落居セヌサマニ成リユクコトヲ、總別ニ附テ、歎キ思召セドモ」 狂言記、釣女「そうべつ、三郎殿ハ、何ニテモ、欲シイ物ハ、釣針ニテ、釣ラセラルルト承ル」

そう-べん (名) |總辨| 〔總理、處辨ノ略〕物ヲ、スベ修メ、處分スルコト。又、其人。

ぞう-ほ (名) |增補| 增シ、補ナフコト。補足。(著述ナドニ) 後漢書、[illegible]傳、初[illegible]依ニ[illegible]、云云、增ニ補十六篇ニ」

ぞう-ほう (名) |增俸| 〔減俸ニ對ス〕俸給ノ額ヲ、增スコト。增秩。昇給。 [illegible]記「諸大夫、年[illegible]、[illegible]食[illegible]、云云、[illegible]增俸ニ」

ソウ ホウ ム
そう-ほふむ (名) |僧法務| 僧侶ノ職、諸寺ニテ、庶務ヲ總理スルモノ。多ク、[illegible]王ヲ以テ之レニ補ス。[illegible]

そう-ほん (名) |宋本| 宋板ノ書物。 宋本十三經注疏、經目錄、[illegible]宋本之誤」

そう-ほんざん (名) |總本山| ソノ宗派ノ、大本タル寺。本寺。別院ナドニ對ス。

そう-ほんぢ (名) |總本寺| 總本山ノ寺。

そう-まくり (名) |總捲| 片端ヨリ、スベテヲ、マクリタツルコト。殘リナク、スベテヲ記スコト。 毛吹草(正保)「先ヅ開ク、梅ヤ[illegible]ノ、總まくり」

そう-み (名) |總身| そうしん(總身)ニ同ジ。 平家女護島(享保、近松作)三「衣冠、束帶ノ人ヲ擒ガキ、總身ニ四十九本ノ針」

ソウ ミヤウ
そう-みやう (名) |總名| 一類ノ物事ヲ、總ベテ呼ブ名。總稱。 [illegible]

ソウ ミヤウ ダイ
そう-みやうだい (名) |總名代| 仲間總體ノ名代。總代。 「大鏡、天子所[illegible]總名」

そう-む (名) |總務| 事務ヲ、總理スルコト。又、其職。 [illegible] 「政務ノ[illegible]」

そう-め (名) |驄馬| アシウマ。 後漢書、桓典傳「常乘ニ驄馬ニ」 [illegible]

〜そう-めい (名) |聰明| (一)聞クト見ルトノ、敏キコト。覺ルノ、鋭キコト。 書經、皐陶謨篇「天聰明、自ニ我民聰明ニ」 [illegible] ラバ、ソレニ預ケ給ヘ」 太平記、一、[illegible]

そう-めつけ (名) |總目付| 江戸幕府ノ職。大目付ニ同ジ。[illegible]

そう-めん (名) |素麵| さうめん(索麵)ノ誤。

そう-もく (名) [illegible]

ソウもつ (名) |僧物| 僧侶ノ、居常、所持スル什物。三衣、鉢、等、是レナリ。又、衆僧ノ共有物。

ぞう-もつ (名) |贈物| 品物ヲ、オクリヤルコト。又、其物。 [illegible]

そう-もん (名) |奏聞| [illegible] ルコト。 太平記、三十、吉野[illegible] [illegible]

そう-もん (名) |總門| 外構ヘノ第一ノ正門。大門。オホミカド。 平家物語、[illegible] [illegible]

ソウ モヤウ
そう-もやう (名) |總模樣| 衣服ノ、全部ニ、模樣ノアルモノ。裾下ノミナルヲ、江戸褄もやう、略シテ、江戸褄、[illegible]

様ダノ、總攬様ダノ」

そうよ (名) [贈與] オクリ、アタフルコト。物ヲ、與ルルコト。

そうよう (名) [總容] 他ノ家族一同ヲ呼ブ語。（手紙ニ）「[illegible]」

そうよう (名) [疎牖] 〔字ノ音、疎牖(ソヨウ)ノ延〕 疎末ナル牖(マド)。 謡曲、采女「猿澤ノ池ノ面ニ、水、[illegible]トシテ、落ノ、悠悠タリトカヤ、石根(セキコン)ニ雲起ッテ、雨ハ、疎牖(ソウフウ)ヲ打ツナリ」

そうよく (名) [矰弋] いづる(弋射)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。 劉向、[illegible]「[illegible]而翔、以避矰弋」 傾城島原蛙合戰、享保、近松作）四「鳥ハ高ク飛ンデ、矰弋ノ害ヲ遁レ」

そうらん (名) [奏覽] 主上ニ上奏シテ、御覽ニ入ルルコト。 太平記、一、御告文事「冬房、暫ク卜御セアリケレバ、則チ、御前ニシテ、草案ヲシテ、是レヲ奏覽ス」

そうらん (名) [綜覽] 綜合シテ、通覽スルコト。 晉書、儒林傳「總要之義、無不綜覽」

そうらん (名) [總攬] スベ纏メテ、收メ取ルコト。 後漢書、南匈奴傳、論「天子總攬籌策、和而納焉」

そうり (名) [送離] りべつ（離別）ニ同ジ。 潘岳、笙賦「夫、時陽初暖、臨川送離、酒酣徒擾、樂闌日移、弔客始闌、主人微疲」

そうり (名) [腠理] 肌理(キメ)。シシワキ。 史記、扁鵲傳「君有疾、在腠理」注「腠、謂皮膚」

そうり (名) [總理] 全體ノスベ纏メテ、管理スルコト。スベ、理(ヲサ)ムルコト。又、其職。統理

そうり (名) [綜理] 事ヲマトメ治ムルコト。處理。理治。 晉書、陶侃傳「其綜理微密、皆此類也」

そうり-だいぢん (名) [總理大臣] 内閣總理大臣ノ上略。内閣首座ノ大臣。政府執政第一ノ官ニシテ、機務ヲ奏宣シ、旨ヲ承ケテ、行政各部ノ統一ヲ保持ス。首相。

ソウ-りつ (名) [僧律] 僧ノ守ルベキ戒律。 白居易詩「清淨依僧律」

そうりん (名) [叢林] 〔智度論、三「多比丘、一處和合、是名僧伽、譬如大樹叢聚、是名爲林」云云、僧衆處得名叢林」又、維摩經義記、一「衆德積集爲叢林」禪那ヲ、功德叢林トモ譯スト云フ〕 寺院。僧侶ノ（禪宗ノ寺、及、僧） 華嚴經、淨行品「叢林、是道之所寄、材器所從出」

ソウ-りん (名) [僧林] 〔住僧ノ多キコト林ノ如キ意〕 だんりん（檀林）ニ同ジ。 書言字考節用集、一、乾坤「檀林、又云、叢林、活法、僧林也」

そうりゃう (ソウリヨウ) (名) [總領] (一)スベ、フササムルコト。統領。 漢書、魏相傳「總領衆職」 詩經、大雅、蕩之什、烝民箋、注「外則總領諸侯」 (二)家ノ名跡ヲ繼グベキ者。嗣子。(父ノ所領ヲ總ベテ受クル意、又、兄子弟ヲ總領スル意)鎌倉時代以後ノ慣例語。 太平記、三十九、諸大名讒道朝事「諸大名ヲ語フニ、六角入道ハ、當家ノ總領ナレバ、仔細ナシ、赤松ハ、聟ナリ」 (三)轉ジテ、男女ニ通ジテ、第一ノ子。長子。長女 (四)一國、或ハ、數國ヲ管スル職。 持統紀、三年八月「伊豫總領(スベヲサ)」 天武紀、下、十四年十一月「周芳總令(スブルヲサ)」 續紀、一、文武天皇四年十月「筑紫總領、周防總領、吉備總領」 (五)鎌倉時代、總領地頭ノ一稱。そうぢとう（總地頭）ノ條ヲ見ヨ。

そうりゃうこうじ (ソウリコウジ) (名) [總領事] 最上級ノ領事。りゃうこうじ（領事）ノ條ヲ見ヨ。

そうりゃう-ぢとう (ソウリヨウ-ジトウ) (名) [總領地頭] そうぢとう（總地頭）ノ條ヲ見ヨ。

ソウ-りょ (名) [僧侶] 僧(ソウ)ノトモガラ。僧(ソウ)徒。 法苑珠林「法僧因衆因得、僧侶則儒陳始既」 蘇軾詩「僧侶且[illegible]」

そうるい (ソウルイ) (名) [層累] 積ミ、重ナルコト。層重。 宋玉、高唐賦「道互折而層累」

そうるい (ソウルイ) (名) [瘦羸] 〔瘦ハ、正音、ちう、通音、そう〕 ヤセ、ツカルルコト。 薛能詩「自惜多情欲瘦羸」

〔**ぞうるゐ** (ソウルイ) (名) [族類] ぞくるゐ(族類)ノ音便。 源、三十八、夕霧「サル時ニ逢ヘルそうるゐニテ、イトヤムゴトナシ」

そうれい (名) [送禮] 人ヲ見送ル禮。 後漢書、周燮傳「良亦載病到近縣、送禮而還」 盛衰記、十一、靜憲與入道問答事「今朝ノ對面ノ遲サ、無興サノ有樣ニ、唯今ノ泣キ顏(ヤウ)、送禮ノ體、說法シスマシタリト、咲(ワラ)ハシクゾ思ハレケル」

そうろ (名) [走路] ニゲミチ。逃ゲ走リテ、行ク路。遁路。

そうろう (名) [層樓] タカドノ。幾階カ、重ナレル高樓。 梁書、陶弘景傳「更築三層樓」

そうろく (名) [總錄] 〔次次條ノ僧錄司ノ轉カ〕 まうくゎん(モウカン)（盲官）ノ條ヲ見ヨ。 譬喩盡「江戶總錄ノ始、總錄島崎杉枝」 同「總錄拜領地、東西京間九拾間餘、南北同間貳拾壹間四尺、此坪數千八百九拾坪餘」

ソウ-ろく (名) [僧錄] 次條ノ語ノ略。 夢窗語錄「元魏以沙門僧統、爲京師統、云云、唐置立兩錄司於京邑、謂之僧錄」 [illegible]「日本ノ諸寺ノ司ヲ、僧錄ト呼ビテ、足利時代ヨリ、相國寺ニテ、是ヲ持、故ニ、太閤時代ニハ、相國寺ノ塔中ナル鹿光寺ノ承兌長老、是ヲ司ル」 江戶名所圖會、三「勝林山金地院、增上寺ノ西、切通ノ上ニアリ、京師南禪寺ノ塔頭ニシテ、南禪寺ノ[illegible]、五山ノ僧錄ト稱ス」

ソウ-ろくし (名) [僧錄司] 僧官。僧錄ハ、支那ニテハ、唐ノ元和中ニ設ケラレ、明代ニ至リテ、僧錄司ヲ置キ、佛教、及、僧尼ノ事ヲ司ル。我國ニテハ、足利義滿ノ時、始メテ置ケル職ト云フ。法儀ヲ掌リ、僧事ヲ錄シ、論事ヲ決斷ス。京都ノ五山ノ僧錄司アリ。德川氏ニ至リ、初、京ノ南禪寺ノ金地院ヲ、江戶ニ移シテ、其事ヲ掌ラシメシガ、後ニ、寺社奉行ヲ置キテ、コレヲ廢セリ。 山城名勝志、二、洛陽、蔭涼軒「初義滿、建鹿苑院以來、住此院者、爲僧錄司、與蔭涼軒同掌五山事、五山出世長老西堂、因鹿苑蔭涼以達上之、而出[illegible]公帖」 本朝高僧傳、三十五、京兆萬年山相國寺沙門妙葩傳「釋妙葩、字春屋、自號不輕子、甲州人、云云、康曆元年、云云、明年賜徽號、勅書曰、云云、左丞相義滿公、奉勅總天下僧錄司事、本朝此職、權輿于葩也」 本光國師年譜「慶長十年五月廿八日、南禪入寺之式執行、同、十三年、依召駿府江參上、於御城下金地院新ニ御建立、日日昵近、御用諸相勤、於京都金地院御建立、同廿年、大坂江御出馬御供、院領追追加增、千九百石、井御扶持方被下之、天下僧錄司ニ被仰付、元和二年蒙權現樣御遺命、承台德院樣上意、江戶江參上、御城御近所ニ而、金地院御建立、內外諸御用相勤、專司天下寺社之事」 台德院御實紀、附錄、三「室町家ノ頃ニハ、鹿苑院ノ蔭涼軒モテ、僧錄司ノ職ニ任ジ、天下寺院ノ政令ヲ司ラシム、元和五年九月、コレヲ改メラレ、金地院崇傳モテ、僧錄司トセラレ、云云、五山、十刹ノ諸法令、出世ノ官資、入院ノ儀式、寺、先例ノ旨ニ遵ヒ、舊規ノ如クタルベシト定メラレ、後ニ至リ、寺社ノ庶務、イヨイヨ繁擾ニシテ、僧徒ノ管轄ニ事ユカザレバ、寺社奉行ヲ建置セラレシヨリ、金地院ノ職掌ハ、廢セシナリ」

そうろん (名) [總論] 著作ノ初ナドニ、其大要ヲ摘ミテ論ズル文。各論ニ對ス。 宋史、蘇軾傳「會宗進太祖總論、神宗不允」

ぞう-わい (名) 贈賄 〔賄、正音くゎい、わいハ、慣用音〕 (一)賄物ヲスルコト。又、其賄物。贈遺。 左傳、哀公五年「入有ニ郊雩一出有ニ贈賄一禮之至也」 (二)マヒナヒヲ贈ルコト。賄賂ヲ使フコト。

ソウ-ゐ (名) 僧位 僧侶ノ位。法印、大和尚(僧官、僧正ニ當ル)、法眼、和尚(僧都ニ當ル)、法橋、上人(律師ニ當ル)、ト次第ス。傳燈法師位ハ、五位ニ準ズ(倭名抄、五)紫衣ヲ許サルルハ、三位ニ準ジ、緋衣ヲ賜フハ、五位ニ準ズルカト云フ。 天武紀、下、朱鳥元年六月「三綱律師、及、四寺和上、知事、現有ニ師位一僧」 三代實錄、八、貞觀六年二月十六日、詔「國典所レ載、僧位之制、本有ニ三階一滿位、法師位、大法師位、是也」(此ノ後ノ二位ヲ、師位ト云フ)

ぞう-ゐ (名) 贈位 死シタル人ニ、位ヲ贈リ賜ハルコト。又、其位。贈官モ、同ジ。王朝時代ニハ、位田、職田ヲ賜ハリテ、其家ニテ領スルナリ、年限アリテ、返上セシム。 天武紀、下、二年五月「大錦上坂本財臣卒、由ニ壬申年之勞一贈ニ小紫位一」 源、一、桐壺「女御トダニ言ハセズナリヌルガ、飽カズ、口惜シウオボサルレバ、今一階ノ位ヲダニト、贈ラセタマフナリケリ」 續紀、十二、天平九年十月「贈ニ民部卿正三位藤原朝臣房前、正一位左大臣、並其食封一千戸於ニ其家一限以ニ二十年一」

ぞう-ゐ (名) 贈遺 贈物ヲスルコト。 世說、補、德行、上篇「華子魚從ニ會稽一還レ都、賓客贈遺累ニ數百金一、子魚皆無レ所レ拒」

ソウ-ゐん (名) 僧院 僧ノ居ル寺。 唐詩「僧院疎鐘出ニ林端一」

そう-ゑん (名) 陬遠 〔陬ハ、說文「隅也」〕 そうハ正音、そうハ慣用音」 遠キ田舍。

ぞう-ゑん (名) 增援 人數ヲ增シテ、援スクルコト。加勢。「增援隊」

ぞう-ゑん (名) 憎怨 〔憎惡、怨恨ノ略〕 ニクミウラムコト。 [illegible]

そう-ゑもん (名) 總右衛門 〔そうか(總嫁)ノ擬人語〕 ヤホチ。ツジギミ。 承應四年板、評判記、[illegible]集ニ、一號ヲ指シテ、風ハ、總右衛門ノ如シ」 二休咄、延寶「我等ガ國本ニハ、賣女アリテ、夜每ニ、辻ニ立申スガ、京ニハ、左ヤウノ者アルヤ、亭主、聞キテ、中中、總右衛門ト申ス、ソノヤウナ者、侍ル」

ぞう-を (名) 憎惡 ニクムコト。ニクミ。 [illegible]「居居、究究、惡也」注「憎惡」

そ-えい (名) 疎影 マバラナルカゲ。 林逋詩「疎影横斜水清淺、暗香浮動月黄昏」

ソオス (名) 〔佛語、英語、Sauce.〕 西洋料理ニ用キル醬油ノ類。暗褐色ヲ帶ビテ、酸、鹹、辛味ヲ有スルモノ。鹽、酢、砂糖、胡椒ナドニテ製シ、種類多シ。

ソオセエジ (名) 〔英語、Sausage. 佛語、Saucisse.〕 豚ノ腸詰、ちやうづめ(腸詰)ノ條ヲ見ヨ。

ソオファ (名) 〔英語、Sofa.〕 長椅子。

そ-かい (名) 租界 外國人ノ租借地。居留地。「上海ノ租界」

そ-かい (名) 菹醢 〔[illegible]、注「菜曰レ菹、肉醬曰レ醢」〕 野菜ノ漬物ト、シシビシホト。切リ刻ムコトニ譬ヘテ云ヒ、又、轉ジテ、[illegible]ノ意トナル。 [illegible]

そ-がい (名) 阻礙 ヘダテ、サヘギルコト。 [illegible]

そ-がい (名) 沮害 〔正韻「沮、止也」〕 ハバミ、ソコナフコト。妨グルコト。邪魔。 博多小女郎波枕「[illegible]」

そ-がい (副) ソノヤウナ。 〔[illegible]「そがいナ事ハ[illegible]」〕

そ-かう (名) 祖考 〔[illegible]、死曰レ考」〕 亡祖父ト、亡父ト。 左傳、襄公十四年、[illegible]

そ-かう (名) 素行 平素ノ行狀。平生ノオコナヒ。 聞見錄(宋、邵[illegible])「[illegible]」

そがう-びたひ (名) 十河額 〔そがうハ、[illegible]〕 武家、十河氏ノ頭附ニ起ルト云フ。或ハ、云フ、總髮ナリト」 又、そうがう。額附ノ一種、撫角ニ作ルモノナルベシト云フ。[illegible] びたひト云フ事ハ、十河殿ト云フ武家ノ人ノ頭ツキヨリ言出デタル事トゾ」 [illegible] 十河額ニ取ル、年タケタルハ、苦シカラズ」 野史、百五十二、三好長慶傳、十河一存「[illegible]」 (一存ハ、永祿八年歿)

そが-ぎく (名) [illegible] 〔仁明天皇、黄菊ヲ好ミ給ヒケレバ、其年號ニ因リテ、承和菊ト呼ブナリト云フ。承和ト謝ムハ、承[illegible]〕 (一)[illegible]ノ稱。 拾遺集、十七、雜秋「かノ見ユル、[illegible]ニ立テル、そがぎくノ、[illegible]小枝ノ、色ノテコラサ」 [illegible] (二)[illegible]ノモノ、黄ナル花ヲメデタマヒテ、菊モ、黄ナルヲ[illegible]シタマヒケルナリ」 後撰集(崇德天皇ノ頃)序、そが[illegible] 十四「我レサウバ、[illegible]ニ立テム、[illegible]、人セメサメス、そがぎくノ花」

そが-きやうげん (名) [illegible] [illegible]つり([illegible]祭)ノ條ヲ見ヨ。

そ-かく (名) 沮格 〔沮モ、格モ、止ナリ〕 コバミ、トドムルコト。 [illegible]隔テ、トドムル。

そ-かく (名) 阻隔 〔廣韻「阻、隔也」〕 ハバミ、ヘダツルコト。

そ-かく (名) 疎隔 ウトクナリ、ヘダタルコト。疎遠。 [illegible]

そかま [illegible] 〔そかまハ、そかまロそかま[illegible]〕 [illegible]

そが-の-あめ (名) 曾我雨 [illegible]

そ-がひ (名) 背向 [illegible] し、ひがしト、同樣」 背ノ方。ウシロムキ。ソビラ。セナカ。背面。 [illegible]

そが-かう [illegible] 十四「[illegible]」 [illegible]

郎之、非自然一物也」倭名抄、十二香名類「蘇合香、本草云、是西方夷國之名也」類聚雜要抄、四「蘇合香、是獅子矢、此香、從西南番來、又、出大秦國」ト云ヘル説ニ從ヒテ、其汁ヲ蘇合ト云フ」康頼本草、上四十「蘇合香、カハミトリ」本草和名、上十一「蘇合、諸香草之、其汁、謂之蘇合、加波之止利」字類抄「獅子矢、カハミドリ」(二)藥品ノ一。小亞細亞ノ西南地方ニ産ズル、蘇合香樹ノ内皮ヲ煎ジテ得ル、灰色、芳香、粘稠ノ液ニシテ、疥癬ニ偉效アリ。流動蘇合香、精製流動蘇合香ノ名ヲ以テ、日本藥局方ニ收容セリ。(三)舞樂ノ曲名。 江家次第、八、相撲拔出「左右舞樂、大曲」注「左、蘇合香、右、新鳥蘇(シントリソ)」

そがまつり (名) [曾我祭] 江戸ノ歌舞伎芝居ニテ、年年、春、曾我兄弟ノ敵討(コレヲ、曾我狂言ト云フ)ヲ演ジ、其敵討當日ノ五月廿八日、芝居ニテ、曾我兄弟ヲ祭ルコト。 劇場新話「寶暦六年、市村座ノ春狂言ニ、二蕃續曾我ト題シテ、曾我兄弟敵討ノ事ヲ演ズ、大當ニテ、十月マデ通シテ興行セリ、前代未聞ナリシカバ、曾我祭ヲ、舞臺ニテ行フ」

そがん (名) [素顏] 化粧セザル顏。スガホ。 李白詩「綠酒哂丹液、青娥凋素顏」

〜そき (名) [退] 〔退(ソ)くノ名詞形、退(ソ)きノ義〕 退キテアル所。遠隔至極ノ地。至リ極マレル所。果。 萬葉集、六 廿長歌「筑紫ニ至リ、山ノ曾岐(ソキ)、野ノ衣寸(ソキ)見ヨト、伴部(トモノヲ)ヲ、班(アカ)チ遣ハシ」孝德紀、大化二年三月「路傍(ミチノソキ)」太秦廣隆寺牛祭祭文「根ノ國、底ノ國」名義抄「退、ソキ、サカシ」

そぎ (名) [枌] 次次條ノ語ノ略。 嬉遊笑覽、一「枌、云云、屋ヲ葺クそぎ板ト云フベキ板、クレ」「甲州そぎ」日光そぎ」

そぎあま (名) [削尼] 髮ヲ短ク削(ソ)ギテ、禿(カブ)ニナリタル モノ。アマソギ。あま(尼)ノ(二)、及、さげあま(垂尼)ノ條ヲ見ヨ。

〜そぎいた (名) [枌板] 木ヲ、薄ク削(ソ)ギ作レル小板、柿(コケラ)ノ如クニシテ、長サ尺許、幅三四寸、屋ヲ葺ク。コケラ。コバイタ。クレ。ヤネイタ。略シテ、そぎ。約シテ、そぎた。 萬葉集、十一 卌「十寸板(ソギタモ)持チ、葺ケル板目(イタメ)ノ、合ハサラバ、イカニセムトカ、我カ寢初メケム」

そぎえり (名) はんえり(半襟)ニ同ジ。コレハ、略儀ニテ、褻(ケ)ノ服ニスルコトナリ、半襟ヲ禁制トシタルコトモアリ、(半襟ノ條ヲ見ヨ)寛永前ノ盡ニハ、小袖ニモ、羽織ニモ、カケタリ。 好色一代女(貞享、西鶴)一、踊子「紅ガヘシノ下着ニ、浴形ノ白小袖ヲ重ネ、黑キそぎえりヲカケテ」

そきくさう (名) [鼠麴草] ハハコグサ。ハウコグサ。ゴギャウ。ごぎゃう(御行)、及、ははこぐさ(母子草)ノ條ヲモ見ヨ。 鼠耳草 本草綱目、李時珍云、麴、言其花黄如麴色、鼠耳、言其葉形如鼠耳」

そきす (他動、左變) [庶幾] ちょきす(庶幾)ニ同ジ。 太平記、八、山徒寄京都事「二人ガ命ヲ捨テテ、三塔ノ恥ヲ雪(キヨ)メント云ヒケレバ、豪仙、云フニヤ及ブ、尤モ、庶幾する所ナリ」

〜そぎすつ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) [殺棄] 事(コト)殺(ソ)ギテ、省キ捨ツ。省(ハブ)ク。 源、三十四、下、若菜、下 五十「事ドモそぎすてテ、世ノワヅラヒアルマジクト、省(ハブ)カセ給ヘド」同、四十四、橋姫 二「そぎすて給ヒテ、輕ラカニ、網代車ニテ」

ぞきぞき (感) 鋸ナドニテ、切ル音ニ云フ語。ゾリゾリ。ジョキジョキ。

そぎそで (名) [殺袖] 〔角(カク)袖ナドニ對ス〕 (一)袂ノ、含(フクラミ)無キモノ。 近代世事談、一「そぎ袖トテ、袂ノフクラミ無シ、今又、角袖ナド、ソノ

時時ニ變ハリテ、ソノ狀オカシ」(二)筒袖。

そぎそでバオリ (名) [殺袖羽織] 德川幕府ノ末世ニ、洋式ノ兵ニ用ヰタル、羽織ノ如キ上着ニテ、上ニ、コレヲ着服シ、下ニ、だんぶくろヲ穿キタリトゾ。

そぎた (名) [枌板] そぎいたノ約。

〜そきだく (副) [若干] そこばく(若干)ニ同ジ。 萬葉集、廿 廿長歌「曾伎太久(ソキダク)モ、頤(オキロ)ナキカモ、コキバクモ、豐ケキカモ」

そぎだけ (名) [殺竹] 尖(サキ)ヲ殺(ソ)ギタル竹。ヒノソギダケ。 大原問答青葉笛(寶永、近松作)二「遁レ出デタル嬉シサニ、茨、枳、そぎ竹ノ、カカルモ、突クヲモ、厭ハバコソ」

〜そきたつ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [退立] 〔そきハ、退部(ソキヘ)ト、同義〕 遠ク離ル。 祈年祭祝詞「天ノ、壁立(カキタ)ツ極ミ、國ノ、退立(ソキタ)つ限リ」

そきふ (名) [遡及] サカノボリテ、既往ニ影響ヲ及ボスコト。「遡及力」

そぎぶき (名) [枌葺] 屋根ヲ、枌板ニテ葺クコト。又、其葺キタル家。 家屋雜考、二「屋組」注「学殻葺、そぎ葺」

〜そきへ (名) [退部] 〔退(ソ)キタル方(ヘ)ノ義〕 又、そくへ。遠ク離レタル方。ヲチカタ。 萬葉集、十九 三十七「天雲ノ、曾伎敞ノ限(キハミ)」同、十七 四十「山河ノ、曾伎敞ヲ遠ミ」

そきやうでん (名) [承香殿] しょうきやうでん(承香殿)ノ條ヲ見ヨ。

〜そく (名) [職] しょく(職)ノ(一)ニ同ジ。ツカサ。 源、十四、澪標 九「サヤウノ事繁キそくニハ、堪ヘズナムトテ」榮花物語、二、花山「此右大臣、今少シナシアゲテ、我ガ代ハリノそくヲモ讓ラム」

そく (名) [息] 〔蕃息ノ意〕 (一)息男(ソクナン)、子息ナドニ同ジ。 戰國策、趙策「老臣賤息、舒祺最

少」平治物語、一、信頼信西不快事「信頼ノ息、英才ガ輩モ、此ノ職ヲ先途トス」(二)利息。利子。 史記、貨殖傳「貸錢者、多不能與其息」

そく (名) [仄] 〔正音ハ、しょく、そくハ、慣用音〕 ゐん(韻)ノ條ヲ見ヨ。「平、仄」

〜そ・く・ク・カ・キ・ケ (自動、四) [退] 〔背(ソ)ノ活用語〕 放(サ)ル。離ル。ハナレ、サカル。遠ザカル。 古事記、下(仁德)四「倭方(ヤマトヘ)ニ、西風(ニシ)吹キアゲテ、雲離レ、曾岐(ソキ)居リトモ、我レ忘レメヤ」萬葉集、三 四十五「天雲ノ、曾久方(ソクヘ)ノ極(キハミ)」同、廿 六十「高圓(タカマド)ノ、野ノ上ノ宮ハ、荒レニケリ、立タシシ君ガ、御代遠曾氣(ソケ)バ」「後(シリ)そく」

〜そ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [退] 〔前條ノ語ノ他動〕 放(サ)ク。離ス。除(ソ)ク。 萬葉集、十一 十四「夏草ノ、刈リ除くれドモ、生ヒシク如シ」同、十四 廿二「アカミ山、草根刈リ曾氣、逢ハズガヘ、爭フ妹シ、アヤニカナシモ」古事記、中(仲哀)六十「押(オシ)退(ソケ)御琴、不控(ヒキタマハズ)默坐」土佐日記、二月五日、「漕ギそけテ、御船來ニケリ」六帖、五、下「ササラガタ、錦ノ紐ヲ、解キそけテ、數多ハ寐ズト、只一夜ノミ」「後(シリ)そくる」

そく (數) [百] 〔束ノ音カ、足ノ音カ〕 モモ。百(ヒャク)。 浮世床(文化、三馬)初編、上「タベモ、三百(サンゾク)バカリ這入リヤシタ」「一そく」二そく」

そく (接尾) [束] 〔束(ツカ)ヲ音讀ス〕 (一)稻ノ量、籾一升ヲ得ベキ程ノ稻ヲ、一把トシ、十把ヲ一束トス。古升ニテ、精米五升ヲ得。即チ、三千束ハ、百五十石ナリ。然レドモ、當時ノ一升ハ、今ノ四合五撮ニ當レバ、三千束ノ實高ハ、六十石七斗五升ナリ。イナタバリ。イナツカ。 持統紀、四年十月「稻一千束」田令、義解「段地獲稻五十束、束稻、舂得米五升也」(二)スベテ、束(ツカ)ネタル物ヲ數フルニ云フ語。 宇治拾遺、十三、第一條「此薹刈リテ、少シヅツ得サセヨト云ヒケレバ、悅ビテ、集リテ、四五束、十束、二三十束ナ

ド、刈リテ取ラス」「[illegible]」(三)矢束ノ長サヲ測ル語。一握リ、即チ、手ノ指、四本、並ベタル長サニテ、凡ソ、二寸五分カ。長門本、平家物語、十一、實盛上京事、[illegible]「奥ザマニハ、十二束、十三束、十四束ヲ射ル者コソ、多ク候ヘ」保元物語、三、爲朝生捕遠流事、[illegible]「弓手ノ肱、馬手ヨリ四寸長ク、矢束ヲ引クコト、十五束ト云ヒ、肱ハレテ、肱ヲ抜カレテ五十餘日、肩ツクロヒテ、少ク弱ク成リタレド、矢束ヲ引クコト、今二ツ伏引キ増シタレバ、昔シニ劣ラヌ由、云ヘリ。」手ニ握リテ、指、四本ノ幅ヲ四つ伏、指、三本ノ幅ヲ三つ伏ト云フ。平家物語、十一、遠矢事「臺ニ、黑ホロ矧イダル大ノ矢ノ、我カ大手ニ押シ握ッテ、十五そく三つ伏せ有リケルヲ」同、十一、那須與一事「小兵ト云フ條、十二束三伏」四季草「矢束ハ、其人人ノ手ニテ、必ズ、十二束アルモノナリ、三人張十五束ナド云フハ、大男ノ十二束ナルガ、常人ニハ、十四束、十五束ニナルナリ」(四)紙ヲ數フル語。帖ノ十倍。一帖ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

そく (接尾) 足 (一)兩足ニ着クル物ノ、一揃ヒヲ數フルニ云フ語。類聚雜要抄(大治)三「鵞鞋一足」「脚半一足」「足袋二足」「沓五足」(二)兩足ヲ一ツニ合ハセテ飛ブニ云フ語、「一足ニ飛ブ」

〰そ。ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) 殺|削 〔康熙字典「殺、降也、減削也」コノ場合ノ音ハ、さいナリ〕省キ減ス。薄ク削リ取ル。榮花物語、十九、御裳著「イミジウ、そがせ給ヘレド、御邊ヘニ、云云、人人多ク參リ」源、三十四、下、若菜、下「事ドモ、そぎ棄テテ、世ノ煩アルマジク、省カセ給ヘド」同、五十二、手習「[illegible]、事そぎテ、イカメシウモ侍ラサリシト云フ」二[illegible]

そ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) 殺|削|殺 〔前條ノ語意ニ同ジ〕(一)物ノ末ヲ、尖ラシ切ル。削リ落ス。剡「竹串ヲそぐ」(二)〔髮ノ末ヲ、切リ落ス。鋏ミ切ル。(切る

ヲ忌ミテ、そぐト云フ) 源、一、桐壺「イトキヨラナル御髮ヲそぐ程、心苦ゲナルヲ」榮花物語、十一、若花「御髮そがセタマヘバ、推シカヘシ、今コソ稚兒ナリケレトテ」源、九、葵「御髮、云云、久シウそぎ給ハザメルヲ、云云、君ドモノ末、花ヤカニそぎワタシテ、云云、君(紫ノ上、十四歳)ノ御髮ハ、我レそがム、云云」

そ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (自動、下二) 殺|削 (一)削ギタル狀トナル。ケヅラル。「木ガそぐ」「竹ガそぐ」(二)逸レテ行ク。

そ-ぐ (名) 疎虞 事ヲ、粗雜ニシタル過失。蘇軾詩「上馬下[illegible]、[illegible]左提右挈[illegible]疎虞」

ぞく (名) 俗 (一)〔民ノナラハシ。下民ノ風儀。又、ヨノツネ。世ノ通用。世俗。禮記、曲禮、上篇「入レ國而問レ俗」三國志、吳志、[illegible]「父、[illegible]、俗云、父、[illegible]」[illegible]「[illegible]」[illegible]、十六「[illegible]、俗云、毛比」[illegible]ナラヒ、世ノナラハシ、ヨノツネ」儀制令、[illegible]「凡自ニ天子ニ至ニ車駕ニ、皆是書記所レ用、至レ風俗所レ[illegible]、別不レ依ニ文字ニ」令集解、四十、[illegible]、古記云、[illegible]、父之姉妹爲レ姑、[illegible]、祖父之子、父之姉妹也、俗云、乎婆」「風ヲ移シ、俗ヲ變フ」(二)〔俗ノ境涯ヨリ、世間ノ人ヲ呼ブ稱。宋書、徐湛之傳「[illegible]」源、五十六、夢浮橋「ココニハ、ぞくノ形ニテ、今マデ過スナン、イトアヤシキ」伊勢物語、八十五段「昔仕ウマツリシ人、ぞくナル、禪師ナル、[illegible]多參リ集リテ」大和物語、下「俗ニイマスカリケル時ノ子ドモアリケリ」「僧俗」(三)文雅ナラズ、鄙ビタルコト。雅ニ對ス。[illegible]郭太傳、論「雅俗無レ所レ失」蘇軾、綠筠軒詩「無レ竹令ニ人俗ニ」(四)スグレザルコト。平凡。凡人。[illegible]

ぞく (名) 族 ウカラ。ヤカラ。ミウチ。一門。一族。[illegible]「以親九族」[illegible]、上篇「罪レ人以レ族、官レ人以レ世」

ぞく (名) 賊 (一)ヌスビト。[illegible]「[illegible]」王

[illegible]雜纂、雜奈何「[illegible]隱形賊」(二)不忠ノ者、謀叛ノ輩、又ハ、外國ノ寇ナドヲ、罪シテ呼ブ語。[illegible]

ぞく (名) 屬 (一)屬キタルモノ。其類ノモノ。國語、齊語「[illegible]兵車之屬、六」(二)支配ノ下ニ屬クモノ。配下。[illegible]「[illegible]」(三)[illegible]分、類、各[illegible]其屬、以[illegible]九[illegible]民」 諸官衙ノ判任官。屬官。(四)動植物學上、分類ノ一階。「[illegible]」

ぞく (名) 囑 タノムコト。委囑。囑託。戰國策、齊策「齊人有ニ馮煖者一貧乏不レ能ニ自存一使ニ人囑ニ孟嘗君一」

ぞく (名) 續 ツヅキ。續編。「正、續」

ぞく (名) 粟 (一)アハ。(二)外皮ヲ去ラザル米。モミ。ゴメ。[illegible]「[illegible]」(三)扶持米。[illegible](四)[illegible]名。さい(才、第三語)ノ條ヲ見ヨ。

ぞく-あく (名) 俗惡 イヤシクシテ、アシキコト。野鄙ニシテ、ヨカラヌコト。「俗惡ナル趣味」

ぞく-いひ (名) 續飯 〔音訓合字ノ語〕そくひニ同ジ。字類抄「續飯、ソクイヒ」江家次第[illegible]

そく-いん (名) [illegible] 〔[illegible]、[illegible]思也」〕傷ハシク思フコト。アハレミ。

ぞく-えう (名) 俗謠 [illegible]ノはやりうたノ類。俗歌。俗曲。俚謠。

ぞく-えん (名) 俗緣 (一)[illegible] (二)在俗ノ時ノ緣家。僧トナラザル時ノ親類。[illegible]

ぞく-おん (名) 俗音 [illegible]がくかう(學校)ヲがかう、はくか(薄荷)ヲはっか、ト急呼スル如キモノ。

そっ-か (名) 屬下 [illegible]

そっ-か (代) 足下 〔直接ニ其人ヲ指スヲ避ケ、足下ニアル侍者、執事ヲ呼ビテ、取次ヲ請フ謙辭〕(通俗編、[illegible]、正[illegible]、二)又、晉ノ介子推ガ[illegible]綿山ニ逃レ、樹ヲ抱キテ燒死シタリ、文公、[illegible]從ヒ亡ゲシ功ヲ懷ヒ、俯シテ履ヲ見、悲シキ哉足下、ト言ヒシヨリ足下ノ語起ルト(事物紀原、二、異苑說)[illegible]ナリ」對稱ノ代名詞、同等ノ人ヲ敬ノ[illegible]

ぞく-か (名) 俗化 [illegible]

ぞく-か (名) 俗歌 [illegible]

ぞく-か (名) 俗家 そくえう(俗謠)ニ同ジ。

ぞく-かい (名) 俗解 通俗ノ解釋。[illegible]

ぞく-かい (名) 賊害 (一)ソコナフコト。[illegible](二)賊ノタメニ得ル害。

ぞく-かう（ソク・カウ）(名) [續行] 前囘ニ、引キツヅキテ行フコト。再進。「公判續行」

ぞく-がう（ソク・ガウ）(名) [辱號] 〔辱、正音ぢよく、ぞく、ハ、濁音〕 恥辱ヲ被リタル名。 大鏡、上、師尹「イミジキ心アル人ト、世オボエオハセシ人ノ、クチノシキぞくがう取り給ヘルヨ」

ぞく-かく（ゾク・カク）(名) [俗客] 風雅ノ道ヲ解セザル人、不風流ナル客。又、俗人。雅客ニ對ス。 杜甫詩「休レ怪兒童延ニ俗客一、不レ教ニ鵝鴨惱ニ比鄰一」

ぞく-がく (名) [俗學] 高尚ナラザル、イヤシキ學問。俗間ニ行ハルル學問。 北史、江式傳「俗學鄙習、復加ニ虛造一」

ぞく-かん（ゾク・カン）(名) [俗間] 世俗ノ間。世間。民間。 漢書、游俠傳「我放レ意自恣、浮ニ沈俗間一」

ぞく-がん (名) [俗眼] 俗人ノ見ル眼。俗人ノ所見。 薛用弱、集異記「俗眼不レ識ニ神仙一」

そく-き（ソツ・キ）(名) [速記] ハヤク、書キ記スコト。特ニ、速記法ニテ、書キ記スコト。

ぞく-き（ゾツ・キ）(名) [俗氣] 世俗ノ氣味、俗界ノ、イヤシキ氣味。不風流ナル趣。俗臭。

そくき-しゃ（ソツキ・シヤ）(名) [速記者] 速記術ニテ、講演、辯舌ナドヲ速記スル人。

そくき-じゅつ（ソツキ・ジユツ）(名) [速記術] 〔英語、Stenography, or Shorthand. ノ譯語〕 簡單ナル特殊ノ符號ニテ、講演、會議ナドノ言葉ヲ、發言ト同時ニ、速記スル術。西洋ニテハ、今ヨリ二千餘年前、ろおま人ニヨリテ案出セラレ、後、西紀千八百三十七年、英人ぴっとまんガ改良發明シ、本邦ニテハ、明治十五年、田鎖綱紀ノ發明ニカカルト、速記法。

そくき-はふ（ソツキ・ホウ）(名) [速記法] 前條ノ語ニ同ジ。

そく-きん（ソツ・キン）(名) [即金] 即時ニ、金錢ヲ拂ヒ渡スコト。後金、前金ニ對ス。現錢。

そく-ぎん (名) [即吟] 即座ニ、詩歌ヲ作ルコト。又、其吟詠。宿題、兼題ナルニ對ス。

ぞく-ぎゃう（ゾク・ギヤウ）(名) [俗形] 〔僧形ニ對ス〕 俗人ノ形。 古事談、五、神社佛寺「敦實親王、奉レ造ニ立大菩薩御影二體一」注「一體僧形、一體俗形」

そく-きょう（ソツ・キヨウ）(名) [即興] (一)詩歌會ニテ、即席ニ出ス題。又、當面ノ興ヲ即座ニ、詩歌ニ詠ムコト。「即興詩」 (二)即座ニ起ス興味。

ぞく-きょく（ゾツ・キヨク）(名) [俗曲] 歌曲ノ、俗間ニ行ハレ、三絃ナドニ合ハセテ謠フモノノ總稱。ヒナブリ。

そくき-ろく（ソツキ・ロク）(名) [速記錄] 速記法ニテ書キ取リタルモノヲ、普通ノ文字ニ書直シタル記錄。「議事ノ速記錄」

ぞく-ぐん (名) [賊軍] 朝敵ノ軍勢。外國ノ寇。(官軍ニ對ス)

ぞく-くゎ（ゾツ・カ）(名) [俗化] 世俗ノ風儀ニ、感化セラルルコト。俗了。 漢書、于定國傳「承ニ周秦之敝一、俗化陵夷、民寡ニ禮讓一」

ぞく-ぐゎ（ゾク・ガ）(名) [俗畫] 卑俗ナル畫。高尚ナラザル畫。 名畫記「宋公高士、獨ニ然物外情一、不レ可下以ニ俗畫一傳中其意旨上」

ぞく-くゎい（ゾツ・カイ）(名) [賊魁] 〔禮記、檀弓、上篇、注「魁、猶レ首也」〕 賊軍ノ長。賊ノ巨魁。

そく-くゎう（ソツ・コウ）(名) [屬纊] 〔纊ハ、綿ナリ〕 死ニ臨ムコト。臨終ノ時、息ノ絕エタルカ、絕エヌカヲ、毟リタル綿ヲ鼻ニ當テテ試ミルナリト。 禮記、喪大記篇「疾病外內皆埽、云云、屬レ纊以俟ニ絕氣一」 鮑照、松柏篇「屬纊生望盡、閭レ棺世業埋」 下學集、下、態藝門「屬纊、人臨レ死時、以ニ綿纊一屬ニ鼻穴一、知ニ息之絕不一レ絕、故呼ニ臨終一、云ニ屬纊一是也」

ぞく-くゎん（ゾツ・カン）(名) [屬官] (一)下役。屬吏。(二)判任ノ文官。

そく-けつ（ソツ・ケツ）(名) [即決] 即座ニ、裁決スルコト。「即決裁判」

そくけつ-の-くゎん（ソツ・ケツ・ノ・カン）(名) [則闕之官] 太政大臣ノ異稱。 職員令、義解「太政大臣、佐レ王論レ道、云云、則是有德之選、云云、設レ官待レ德、故无ニ其人一則闕也」 大鏡、上、後一條「職員令ニ、太政大臣ハ、オボロゲノ人ハ、ナス可カラズ、ソノ人ナクバ、タダニオカルベシトコソアナレ」

ぞく-げん (名) [俗言] サトビコトバ。俗語。俚言。(雅言ニ對ス) 東雅、總論「古今ノ間ニ於テ、又、其ノ方言アリ、方言ノ中ニモ亦、各、雅言アリ、俗言アリ」

ぞく-げん (名) [俗諺] 世俗ノコトワザ。俚諺。下世話。 魏書、邢巒傳「且俗諺云、耕則問ニ田奴一、絹則問ニ織婢一」

ぞく-げん (名) [續絃] 〔琴瑟ノ絃ノ斷エタルヲ續ぐ義。斷絃ニ對ス〕 再ビ、妻ヲ迎フルコト。(夫婦ノ緣ノ斷エタルヲ、再ビ結ブニ喩ヘシ語) 劉禹錫、傷妓詩「金盆已覆難レ收レ水、玉軫長抛不レ續レ絃」 海內十洲記(漢、東方朔)鳳麟洲「煮ニ鳳喙及麟角一、合煎作レ膏、名レ之爲ニ續弦膠一、此膠、能續ニ弓弩已斷之弦一」 書言故事大全、一「再娶曰ニ續絃一」

ぞく-ご (名) [俗語] ぞくげん(俗言)ニ同ジ。雅語ニ對ス。 後漢書、杜林傳「其高者頗引ニ經訓一、風諭之言、下則連ニ偶俗語一、有レ益ニ於政一」

そく-こう（ソツ・コウ）(名) [即功] 即時ニ、效驗アルコト。(藥ナドニ) 江戸名物狂詩選、感應丸「一粒百病滅法價、作レ去即効實如レ神」(効ハ功ニ通ズ) 「即功紙」

そく-こう（ソツ・コウ）(名) [測候] 氣象ナドヲ、測リ候フコト。氣象ノ觀測。 宋書、曆志「臣、測候不レ精、遂ニ乃乘除翻謬一」 書經、堯典、傳「官在ニ國都一、而測候之所、在ニ東表地一也」

そくこう-し（ソツコウ・シ）(名) [即功紙] 紙ニ藥ヲ引キタルモノ。頭痛ナドノ時、患部ニ貼ル。

そくこう-じょ（ソツコウ・ジヨ）(名) [測候所] 氣象ヲ觀測スル處。中央氣象臺ニ屬シテ、各地、樞要ノ地ニ置ク(氣象、及、氣象臺ノ條ヲ參見セヨ)

そく-こく（ソツ・コク）(副) [即刻] タダチニ。タチドコロニ。スグニ。即時。 皇明通紀「即刻逮捕」「即刻、來レ」

ぞく-こく（ゾツ・コク）(名) [屬國] 他ニ屬キテアル國。獨立ナラス國。屬邦。 漢書、霍去病傳「分ニ處降者于河南一、因ニ其故俗一、爲ニ屬國一」

ぞく-こつ（ゾツ・コツ）(名) [俗骨] 卑シキ生レ。又、其人。俗人。凡骨。仙骨ニ對ス。 王貞白詩「念子無ニ俗骨一、頻與ニ鶴書一招」 自詠集、上「蘭苑自慚、爲ニ俗骨一、猶不レ信ニ長生一」 盛衰記、一、五節夜闇討事「昇殿ハ是レ、象外ノ選ナレバ、俗骨、望ムコト無シ」(象外ハ、形象外ノ意ニテ、普通ナラヌ境涯)

そく-こん（ソツ・コン）(副) [即今] タダイマ。目下。

ぞく-こん (副) [屬懇] 最モ、ネンゴロニ。眞實ニ。 關八州繋馬、享保、近松作)二「折ノテナリトモ、摂テナリトモ、責ヒマシタラ、アア、ぞくこん嬉シカロ」「ぞくこん、心ヤスシ」ぞくこん、執心ナリ」

そく-ざ (名) [卽座] 直グ、其座所。卽席。 生玉心中(正德、近松作)中「卽座ノ智慧、寛ノ貫木ニ、帯ヲ、キット結ビサゲ」

そく-さい (名) [息災] (一)〔佛敎ノ語、佛力ニテ、衆生ノ災ヲ息ムルコト。 枕草子、十、百三十三段「候フ人モ、イミジク易キそくさいノ祈リカナナド云フ」 宇津保物語、忠杜、上「此世ニアラバ、そくさいトナレ、亡キモノナラバ、カノ世ノ道トモナレトテ、アリシ時使ヒシ物、皆、誦經ニシ給フ」(二)身ニ、恙ナキコト。スコヤカナルコト。無事。丈夫。 保元物語、三、爲朝遠流事「命ヲ助ケテ、遠流セラルベシト、議定アリシカバ、流罪ニ定リヌ、但シ、息災ニテハ、後、惡シカリナントテ、肘ヲ拔キテ、伊豆大島ニ流サレケリ」 徒然草、百七十五段「酒、云云、スズロニ、飲マセツレバ、正シキ人モ、忽ニ狂人トナリテ、痴ガマシク、息災ナル人モ、目ノ前ニ、大事ノ病者トナリテ」 一茶句集「息才デ、御目ニカカルゾ、草ノ露」「息災延命」

ぞく-さい (名) [俗才] 世俗ノ事ニ行キワタル才。處世ノ才。世才。 唐書、閻立本傳「既輔レ政、但以ニ應務一、俗材無ニ宰相器一」

〔ぞく-ざい (名) [贖罪] 又、しょくざい。物ヲ出サシメテ、罪ヲ贖ハシムルコト。罪ノ輕重ニ因リテ、其物ニ多少アリ、古ヘハ、銅ヲ納レシメヌ、後ニハ、金錢ナリ。 書經、舜典篇「金作ニ贖罪一」傳「罰兩入レ刑、出レ金以贖レ罪」 續紀、十年九月「獻ニ銅十隻、與ニ農、鳥人、請ニ以贖レ罪」

そくさい-えんめい (句) [息災延命] 災ヲ息メ、命ヲ延ブ。(神佛ノ通力ニテ)

そくさい-にち (名) [息災日] 曆ノ中段ニ、何レノ事ニモ、吉ナリト云フ日。卽チ、春ハ巳ノ日、夏ハ申ノ日、秋ハ辰ノ日、冬ハ酉ノ日ヲ云フ。

そく-そう (名) [促裝] 急ギテ、旅支度ヲスルコト。 晉書、郭璞傳「璞行至ニ廬江一時、促裝去之」

そく-そう (名) [惻愴] 傷ミ、悲シムコト。 荀悦、馮唐論「賈誼過ニ湘水一弔ニ屈原一惻愴動レ懷」

〔ぞく-さ-こく (名) [粟散國] ぞくさんこく(粟散國)ノ略。 宇津保物語、吹上、下四十「様松ハ、十六ノ大國ヨリ始メテ、ぞくさ國ニ至ルマデ、貢ヲ貯ヘテ侍ル者ナリ」

ぞく-さつ (名) [族殺] 三族ヲ、殺スコト。 新五代史、司空題傳「偏ニ其家屬一云云、乃宗族、殺之」

そくざ-ま (副) [卽座] 其座ニテ、直チニ。タチドコロニ。「卽座ニ答フ」

そく-さん (名) [速算] はやざん(早算)ニ同ジ。

ぞく-さん (名) [粟散] 粟粒ノ如ク、細カク散ルコト。大海中ニ、粟ヲ散ラシタル如ク、小サキ國ニ喩フル語。 [illegible]「粟散卽小國、小王散ニ天下一如ニ粟多一也」 保元物語、一、內府實能意見事「吾國、邊地粟散ノ界ト云ヘドモ、神國タルニ依リテ」

ぞくさん-こく (名) [粟散國] 〔仁王經、天台疏「小王衆多、猶如ニ粟散一」〕 佛經ニ云ヘル語、小サキ國國ノ稱。 [illegible]「東方粟散國」(日本國ノ異稱トス)

ぞくさん-へんち (名) [粟散邊地] 小サク、邊鄙ナル土地。小サキ國。數多ノ小國。 粟散邊土。 平家物語、十一、[illegible]

ぞくさん-へんど (名) [粟散邊土] 前條ノ語ニ同ジ。 [illegible]

そく-し (名) [足趾] アシアト。又、アシ。 左思、[illegible]

そく-し (名) [卽死] 卽時ニ、死ヌルコト。(枝傷ナドニ云フ、病死ナド、ニ對ス) 唐書、[illegible]「[illegible]卽死」

そく-じ (名) [仄字] 〔仄ハ、正音[illegible]く(ハ慣用音)〕 仄韻ノ字[illegible]

そく-じ (名) [卽事] 當面ノ事[illegible]タルママノ事。 [illegible]「江村卽事」

そく-じ-ま (副) [卽時] ソノトキ、スグニ。タチドコロニ。[illegible] 張[illegible]傳「卽時捷レ敏」[illegible] 大臣ニ告ゲ奉レバ、卽時ニ召具シテ參ルベキ由、御返事申サレ給ヒケリ」

ぞく-し (名) [賊子] 子トシテ、父ヲソコナフモノ。不孝者。 孟子、滕文公、下篇「孔子成ニ春秋一而亂臣賊子懼」

ぞく-し (名) [俗士] 平凡ナル人。見識ナキ人士。風雅ノ志シナキ、俗人。 [illegible]

ぞく-じ (名) [俗字] 〔正字ニ對ス〕 俗間ニ用ヰル、正シカラヌ體ノ漢字。卽チ、迴ヲ迂ニ、圓ヲ円ニ、書クガ如シ。 [illegible]

ぞく-じ (名) [俗耳] 凡俗ノ人ノ耳。 [illegible]

ぞく-じ (名) [俗事] [illegible] 世事ノ煩ハシキヲ云フ語。[illegible]

そく-しう (名) [束脩] 〔支那ノ古俗ニ、[illegible]脩ヲ用ヰタリ。後漢書、第五倫傳、注「束脩、脯也」〕 入門ノ時ニ、贄トシテ師ニ奉ル物。今ハ、入學金ノ意ニ用ヰル。 [illegible]

ぞく-しう (名) [俗臭] [illegible] 卑俗ナル臭氣。嫌フベキ、凡俗ノ氣風。 俗氣。[illegible]

そく-しつ (名) [側室] (一)次男以下ノ男子ノ稱。[illegible] (二)ソバメ。妾。(貴人[illegible]

そく-じつ (名) [illegible]

そく-じつ (副) [卽日] 其日ニ、直チニ。當日。[illegible]

そく-じつ (名) [仄日] 〔仄、正音ハ、しょく〕 [illegible] 斜陽。[illegible]

そく-じつ-き (名) [illegible]

ぞく-しふ (名) [俗習] [illegible] 習俗。「俗習ニ從フ」

ぞく-しゅん (名) [illegible]

ぞく-じん (名) 俗人 (一)世ノ常ノヒト。世俗ノ人。顔氏家訓、書證篇「荇菜、云云、河北俗人多不レ識レ之」(二)聖人ノ道、又、佛ノ道ヲ悟ラヌ人。老子、第廿章「俗人昭昭、我獨若レ昏」太平記、十二、文觀僧正奢侈事「是レハ、セメテ俗人ナレバ、言フニ足ラズ、彼文觀僧正ノ振舞ヲ、傳ヘ聞クコソ、不思議ナレ」(三)文藝、風流ノ趣味ナキ人。又、學問ノナキ人。

そく-しん-じやう-ぶつ (句) 即身成佛 佛經ノ語、現世ニ享ケタル肉體ソノマヽ、直チニ佛トナル。即チ、妄念ヲ打破シ、佛性ヲ發現シテ、悟道ス。即身菩提。(眞言宗ニテ云フ語) 菩提心論「惟眞言法中、即身成佛故、是故說二三摩地於二諸教中一闕而不レ書」盛衰記、三十九、維盛於二粉川寺一謁二法然房一事「法華一實ノ妙戒ハ、能持ノ一言ニ、戒珠ヲ胸ノ間ニ研、合掌ノ十指ニ、十界ヲ實際ニ安ジ、衆生正覺ノ直道、即身成佛ノ要路也」

そく-しん-そく-ぶつ (句) 即心即佛 佛經ノ語、其心、ソノマヽ、佛トナル。又、即心是佛トモ云フ。碧巖錄、四十四則「即心即佛即不レ問、如何是非心非佛」宗鏡錄、二十五「即心即佛之旨、西土此土、祖師同詮、云云、即心即佛、是其表詮、直表二示其事一、令二親證自心、了了見性一」曾我虎鞠(寶永、近松作)下「即心即佛ノ領域ソ、此處ニテ殺シ給ハンコトヲ」禪林類聚「如何是佛、師曰、即心是佛」

そく-しん-ボダイ (句) 即身菩提 前條ニ同ジ。盛衰記、八、法皇三井灌頂事「十善帝王ノ御前、三密瑜伽ノ煙ニ薫ミテ、即身菩提ノ聖帝トゾ見エサセ給ヒケル」

そく-じやう (名) 速成 佛家ノ語、速カニ正覺ヲ成就スルコト。頓證菩提。盛衰記、三、清盛息女事「龍女カ速成ヲ貴ミ、如說ノ往生ヲ慕ヒテ、菩提ノ道ヲゾ祈ラセ給ヒケル」

そく-じやう (名) 息壤 〔支那、秦ノ武王ガ、甘茂ト、讒言ヲ信ゼザルコトヲ誓ヒシ地名。出典ヲ見ヨ〕(一)秦ノ國ノ地名、今ノ湖北省、江陵縣ノ南ノ地。史記、甘茂傳「王迎二甘茂於息壤一、云云、王曰、寡人不レ聽也、請與レ子盟、卒使二丞相甘茂將レ兵伐二宜陽一、五月而不レ拔、樗里子、公孫奭、果爭レ之、武王召二甘茂一、欲レ罷レ兵、甘茂曰、息壤在レ彼、王曰、有レ之、因大悉起レ兵、使二甘茂擊一レ之、斬二首六萬一、遂拔二宜陽一」(二)土地ノ、高クシテ、長ク連レル處。字典「土自長息無レ限曰二息壤一、山海經、鯀竊二帝之息壤一、以湮二洪水一、一曰、息壤、壤土也、路史、息生之土、長而不レ窮、柳宗元、有二永州龍興寺息壤記一」(三)轉ジテ、約束ノコト。チカヒ。(第一項ノ盟ノ故事ニ基ヅク)

ぞく-しやう (名) 屬星 其年ニ當ル星。ゾクセイ。(下ノ出典ヲ見ヨ) 江家次第、一、四方拜「一所拜二屬星一座(在レ西)、座前机燒レ香、置レ華燃レ燈、云云、次、皇上於二拜二屬星一座一、端レ笏北向、稱二御屬星名字一六(七遍、是、北斗七星也)子午貪狼星、丑亥巨門星、寅戌祿存星、卯酉文曲星、辰申廉貞星、巳未武曲星、午年破軍星」

ぞく-しやう (名) 俗姓 (一)種姓。通俗ニ稱スル氏姓。平家物語、九、敦盛(三草合戰)事「田代冠者、云云、俗姓ヲ尋メレバ、後三條院ノ第三ノ王子、輔仁親王ヨリ五代ノ孫也、俗姓モ好キ上ニ、弓矢取テモ好カリケリ」(二)僧侶ノ、俗人タリシ時ノ姓氏。唐高僧傳、釋志超「俗姓田」徒然草、百四十一段「悲田院ノ堯蓮上人ハ、俗姓ハ三浦ノ某トカヤ、雙ナキ武者ナリ」

ぞく-じやう (名) 俗情 (一)世俗ノ人情。(二)俗事ニ關係スル情。蘇舜欽詩「之子脫二俗情、平生未二相識一」(三)世俗ノ、イヤシキ心。風雅ナラザル情。陶潛詩「詩書敦二夙好、園林無二俗情一」

ぞく-じやう (名) 賊情 賊徒ノヤウス。賊軍ノ內情。「賊情ヲ探知ス」

ぞく-じゆ (名) 俗儒 (眞儒ニ對ス) 志行ノ鄙劣ナル儒者。見識狹ク心卑シキ學者。漢書、元帝紀「俗儒不レ達二時宜一、好是レ古非レ今」後漢書、桓譚傳「喜非二毀俗儒一、由レ是多見二排詆一」

ぞく-しう (名) 俗衆 俗人ドモ。在俗ノ人人。(僧侶ヲ、僧衆ト云フニ對シテ) 盛衰記、三十二、福原管絃講事「吹送ル笛ノ聲、彈修ル琴ノ音ニ、簾中モ、簾外モ、皆、涙ヲ流セバ、僧衆モ、俗衆モ、共ニ、袖ヲゾ絞クル」

ぞく-しゆつ (名) 續出 ツヾキテ出ヅルコト。ツギツギト現ハルルコト。頻出。續發。

ぞく-しよ (名) 俗書 (一)高尚ナラザル書物。趣味、低級ナル書籍。(二)雅趣ナラザル書風。韓愈詩「羲之俗書趁二姿媚一、數紙尚可レ博二白鵝一」

ぞく-しよう (名) 俗稱 (一)俗間ノ稱。(二)俗名。

ぞく-しよう (名) 族稱 人民ノ階級ノ稱。即チ、華族、士族、及、平民ノ稱號。

そく-しよく (名) 促織 〔冬ノ用意ニ、機織ヲ急ゲ、ト促ス蟲ノ義。綴させテフきりぎりす鳴ク(古今集)ト同工同趣〕蟋蟀ノ異名。今ノ、きりぎりす。趨織。杜甫詩「促織甚微細、哀音何動レ人」石林詩話「促織鳴懶婦驚」

ぞく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 屬 (一)ツク。タグフ。附屬ス。淮南子、天文訓「蜚擧而景雲屬」「其種類ニ屬ス」(二)從フ。クミス。下ニ屬ク。史記、項羽紀「羽渡レ淮、騎能屬者、百餘人耳」「敵ニ屬ス」

ぞく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 屬 (一)打チマカス。付託ス。囑託ス。史記、留侯世家「漢王之將、獨韓信可レ屬二大事一、當二一面一」(二)綴ギ集ム。綴ル。漢書、賈誼傳「年十八、以レ能レ誦二詩書一屬レ文、稱二於郡中一」(三)其方ニ向ク。傾注ス。寄セ向ク。禮記、曾子問「若先、則恐二國人之屬二耳目於我一也」蘇軾、赤壁賦「擧レ酒屬レ客」「目ヲ屬ス」「耳ヲ屬ス」

ぞく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 賊 ソコナフ。害ス。周禮、夏官篇、大司馬「賊レ賢害レ民、則伐レ之」

ぞく-ずい-し (名) 續隨子 ホルトサウ。下學集、下、草木門「續隨子、ゾクズヰシ」

そく-せい (名) 即世 死ヌルコト。(人ニ) 左傳、成公十三年「無祿獻公即レ世」

そく-せい (名) 促聲 連聲ニヨリテ、促マル音。つノ部ノ初ノ、ッノ條ヲ見ヨ。

そく-せい (名) 促成 ウナガシ、成サシムルコト。「促成栽培」

そく-せい (名) 速成 スミヤカニ、成就スルコト。疾ク、出來アガルコト。論語、憲問篇「非レ求レ益者也、欲二速成一者也」范質詩「速成不二堅牢一、亟走多二顚躓一」

ぞく-せい (名) 族制 〔家族制度ノ略〕家族ニ關スル制度。

ぞく-せい (名) 屬星 ぞくしやう(屬星)ニ同ジ。源氏烏帽子折(元祿、近松作)五「額ノ黑子ハ屬星、木曜星」

ぞく-せい (名) 俗姓 ぞくしやう(俗姓)ニ同ジ。

そく-せき (名) 足跡 アシアト。あしのあと。蹤跡。「足跡、天下ニ遍シ」

そく-せき (名) 即席 (一)其場ニテ、直ニ物スルコト。即座。梁書、薦介傳「薦介(酒豪ノ名)之飲、薦介之文、即席之美也」「即席料理」「即席話シ」(二)詩歌會ノ、席上ニテ出ス題。

即與。

ぞく-せき (名) [屬籍] 戸籍ノ、屬キテアル地。人別ノアル處。漢書、田蚡傳「擧ニ謫諸竇宗室、無ニ行者、除ニ其屬籍ニ」 [illegible]年十二月、[illegible] 實錄三年十月「中務大輔從五位上兼少納言信濃守菅生王、坐ニ姧ニ小家内親王ニ除ニ名、[illegible]」

ぞく-せき (名) [族籍] (一)族稱ト、本籍ト。籍貫。(二)族稱ト、人別ト。

ソクセキ-リヨウリ
そくせき-れうり (名) [卽席料理] 客ノ注文ニ應ジテ、卽座ニ料理スルコト。又、其料理。

ぞく-せつ (名) [俗說] 俗間ニ言ヒ傳フル說。漢書、刑法志「因ニ俗說ニ而論ニ之」 浦島年代記(元祿、近松作)一「姬君八、殿ノ四十二ノ二ツ子、女子ナレバ家繁昌ト、俗說ニ違ハズ」

そく-せん (名) [燭剪] [そく(燭)ハ、呉音] ちょくせん(燭剪)ニ同ジ。楊萬里、吾丘衍[illegible]雨[illegible]詩「燭花未ニ剪書在ニ眛」

そく-ぜん (副) [惻然] [惻、正音ちょく] アハレミ、傷ム狀ニ云フ語。惻惻。

そく-そく (副) [惻惻] 前條ノ語ニ同ジ。後漢書、張[illegible]傳「[illegible]惻、出ニ于[illegible]心ニ」

そく-そく (副) [側側] イタム狀ニ云フ語。古樂府「[illegible]力力、念[illegible]君無ニ[illegible]」

そく-そく (副) [促促] セマリタル狀ニ云フ語。[illegible]文帝、[illegible]「[illegible]人之生、忽[illegible]、[illegible]促百年、[illegible]行[illegible]」

そく-そく (副) [簇簇] 草木ノ繁茂シタル狀ニ云フ語。[illegible]

ぞく-ぞく (副) 事ノ、身ニ迫リテ[illegible]スル狀、又、身ノ毛ノ、ヨ立ツ狀ニ云フ語。[illegible]

デ見タハ、仕合セ、顏ニ見タラバ、ヘ[illegible]ハ、[illegible]入ルデアラウト、ぞくぞくスレバ」「ぞくぞく[illegible]イ」そくぞく恐シイ」ぞくぞく[illegible]シイ」

ぞく-ぞく (副) [續續] 引キツヅキテ。打連レテ。白居易、[illegible]行「[illegible]」「[illegible]進ミ來ル」

ぞく-ぞく (副) [簇簇] 「簇ハ、史記、律書「萬物簇生」注「簇、千豆切」(そう)ナリ、ぞくハ、慣用音」物ノ、ムラガル狀ニ云フ語。白居易、詩「巴水[illegible]、[illegible]山[illegible]」

そく-たい (名) [束帶] [石帶ニテ束ぬる故ノ名ナラム] 天皇以下百官、朝廷ノ公事ノ時ニ着用スル朝服ノ名。今ノ大禮服ノ如シ。衣冠、直衣ナドノ、宿直裝束ニ對シテ、晝裝束トモ云フ。冠、袍、半臂、下襲、單、衵、表袴、赤大口、襪、石帶、魚袋、襪、履、笏、檜扇ナド、具備シタルモノ。武官ハ、太刀、平緒ヲ佩ビ、位階ニ因リテ、色目、異ナリ。[illegible]、公治長「[illegible]、赤也、束帶立ニ於朝ニ」 江談抄、二「延喜之比、以ニ束帶一具[illegible]」 達幸故實抄、一、「[illegible]二年[illegible]月廿一日、[illegible]行幸、已[illegible]、不[illegible]、一、光顯卿參內事「此程ハ、信賴卿ノ擧動、過分ナリトテ、不參ニテオハシマシケルガ、參內シテ承ラントテ、殊ニ[illegible]カニ束帶引繕ヒ、[illegible]ノ[illegible]太刀ナ、オトナシヤカニ帶キ給ヒ」

そく-だい (名) [燭臺] ちょくだい(燭臺)ニ同ジ。節用集「燭臺、ソクダイ」

ぞく-たい (名) [俗體] (一)俗ナラヌ、平人ノ體。俗人ノ體。太平記、十二、公家一統政道事「[illegible]ノ[illegible]ハ、[illegible]、其[illegible]ノ[illegible]俗[illegible]已ニ[illegible]ノ上ハ、[illegible]衣裳、門跡相承ノ業ヲ、事トシ給フベシ」 (二)雅ナラザル[illegible]體。[illegible]俗、一日、俗體」

ぞく-たい (名) [俗諦] [[illegible]ハ、[illegible]ノ[illegible]、即チ、さとり] 佛家ノ語、眞諦ニ對ス] 理。又、世間ノ法、[illegible]

ぞく-たい-もん (名) [俗諦門] 佛教ノ語。世間ノ道義ヲ、實踐スベキ[illegible]ヲ、說クモノ。或ル宗ノ、所謂、俗諦門ト稱シテ、王法[illegible]、國家安[illegible]ヲ[illegible]ハ、佛教ノ本旨ヨリ云ヘバ、大[illegible]ナリ。コレ、祖先崇拜ヲ行フヲ以テナリ。

ソク-トウ
ぞく-たう (名) [俗套] 世俗ノ[illegible]、世間一般ノナラハシ。俗習。俗套子

ソク-トウ
ぞく-たう (名) [賊黨] 賊ノ、ナカマ。又、ぞくと(賊徒)ニ同ジ。

そく-たく (名) [囑託] [illegible]ニテ、[illegible]人ニ[illegible]檢擧スルコト。賞格。募格。[illegible]金。和訓栞、そくたく「囑託ト書リ、罪人ヲ尋求ルニ金銀ヲ賞料トシ、[illegible]ニ囑託スル意ナリ」「賞[illegible]」

そく-たく (名) [測度] ハカルコト。オシハカルコト、忖度。[illegible]之大端也、人[illegible]其心不[illegible]測度[illegible]也」

ぞく-たく (名) [囑託] 又、ちょくたく。頼ミ、委ヌルコト。又、其レヲ受ケタル人。[illegible]太以不當也」 [illegible]記、九、[illegible]ハ、[illegible]ク思テ、而ヲ[illegible]リケル上、[illegible]ノ[illegible]ドモ、[illegible]囑託ニ[illegible]テ、死生知ズ[illegible]ケレバ」[illegible]ハ、[illegible]ニ同ジ」

そく-たつ (名) [惻怛] そくたん(惻怛)ニ同ジ。

ソクタツ-ユウビン
そくたつ-いうびん (名) [速達郵便] [illegible]

市等ノ特定區間ニ施行セラルル、郵便制度ノ一。普通ノヨリ、集配ノ快速ナルモノ。規定料金ノ外ニ速達料ヲ仕拂フ。

ソク-トウ
そく-たふ (名) [即答] 直チニ、答ルコト。即時、返答スルコト。[illegible]

そく-たん (名) [惻怛] [illegible]タミ、悲シムコト。[illegible]

ぞく-たん (名) [息男] [息女ニ對ス。息ハ、[illegible]] [illegible]子、又、[illegible]下、[illegible]ムスコ。己レノ生メル男子。ソクナン。子息。[illegible]

そく-たん (名) [illegible] [illegible]スルコト。[illegible]無ク、サッパリトシタルコト。[illegible]

ぞく-だん (名) [俗談] 俗間ノ語。[illegible]雅淡ナラヌ語。[illegible]ニ「[illegible]モ知レズ、高[illegible]ノ俗談ニ[illegible]」

そく-ち (名) [illegible] [illegible]ト。勘場。

ソク-ジン
ぞく-ぢん (名) [俗塵] 世事ノ煩ハシキヲ、塵ニ[illegible]テ云フ語。世塵。[illegible]

ソク-ジヤク
そく-ぢやう (名) [illegible] [illegible]汚也」池ヲ掃キ清メル[illegible]ノ[illegible]

ソク-ツ
そく-つ (名) [illegible] [illegible]

原ヲ拜見セヨ」(一)ムスメ。己レノ生メル女子。史記、高祖紀「臣有息女、願爲季箕帚妾」(二)他人ノ女ヲ呼ブ敬稱。令嬢。歌德惠山吹(常盤津、道行)下「息女ヲ初メ御身等ガ、恨ム心ノ晴レルヤウ、討ツタル我ガ身ノ首カサン、云云、最後ノ折ノ遺言アレバ、ソレノ息女ニ傳ヘタシ」

そくづ（ソク・ズ）(名) 蒴藋 〔字音ノ訛〕 そくどく(蒴藋)ノ條ヲ見ヨ。

そくつう (名) 足痛 アシノイタミ。脚痛。

そくつう (名) 觸桶 雪隱ニ用ヰル桶。(そくちやうノ條ノ出典ヲ見ヨ)

そぐつのゑ（ソグツ・ノ・エ）(名) 春畫 おそくづ(春畫)、及、きゆんぐゎ(春畫)ノ條ヲ見ヨ。

そくてい (名) 測定 測量リテ、定ムルコト。「土地ノ測定」「航程ノ測定」

ぞくてい (名) 族弟 同族ニテ、己レヨリ年齡ノ若キモノ。南史、劉歊傳「不娶不仕、與族弟訏並隱居求志」

ぞくてう（ソク・チヨウ）(名) 俗調 卑俗ナル調子。イヤシキ俗調。陶濟山「讀書無俗調、所說聖人論」

ぞくてう（ソク・チヨウ）(名) 續貂 〔狗尾續貂ノ略〕狗尾ハ、犬ノ尾ニテ飾レル冠(卑シキモノ)。貂ハ、貂蟬トテ、貂ノ尾ニテ飾レル冠(尊キモノ)。卑シキモノガ、尊キモノニ續ク喩ニ云フ語。下ノ出典ヲ見ヨ。貂續、晉書、趙王倫傳「……奴卒廝役、亦加以爵位、每朝會、貂蟬盈坐、時人爲之諺曰、貂不足、狗尾續」劉禹錫、謝賜……功業……」余靖詩「……美化、續貂慙愧非才」

そくど (名) 速度 進ミ行クハヤサ。物理學上ニテハ、運動體ガ、單位時間ニ或ル方向ニ進ム距離。速力。「飛行機ノ速度」

ぞくと (名) 賊徒 (一)ヌスビトドモ。賊黨。(二)朝敵ノヤカラ。

そくとう (名) 喞筒 ミヅアゲ。ミヅデッパウ。ポンプ。種樹書(唐、郭橐駝)「凡木早晚宜沃以水、以喞筒喞水其上」

そくとく (名) 仄慝 〔仄、正音そょく、そくハ慣用音〕陰曆ニテ、朔日ニ、月ノ東方ニ見ユル現象。漢書、五行志「朔而月見東方、謂之仄慝」注「月行遲在日後、當沒而更見也」

そくどく (名) 蒴藋 〔字ノ音〕今、くさたづ。そくづ。倭名抄、廿草類「蒴藋、俗云、曾久止久」本草和名、上四十七「蒴藋、曾久止久」字鏡五十「蒴藋、曾久度久」康頼本草、上廿八「蒴藋、曾久止久」和漢三才圖會、九十四、濕草「そくづ、蒴藋、董草、茇、接骨草、今通云曾久豆」延喜式、附錄、和名考異「蒴藋、都知比止加多、都都乃止良」

そくなん (名) 息男 そくだん(息男)ニ同ジ。盛衰記、四十三、二位禪尼入海事「前左馬頭行盛ハ、基盛子、前左少將有盛ハ、小松大臣ノ息男、共ニ、太政入道ノ孫也」

ぞくなん (名) 賊難 盜賊ニ逢フ災難。盜難。劍難、女難ナドノ類。

ぞくねん (名) 俗念 世俗ノ念慮。白居易詩「幽懷一以合、俗念隨緣息」

ぞく・ねる (動) そこねる(損)ノ口語轉。

そくばい (名) 卽賣 卽座ニ、賣リサバクコト。梁書、王僧孺傳「爲時州郡、以牛價就市、又買而卽賣、其利數倍」「揮毫ヲ卽賣ス」

ぞくはう（ゾク・ホウ）(名) 屬邦 ぞくこく(屬國)ニ同ジ。

ぞくばう（ゾク・ボウ）(名) 屬望 ノゾミヲ、屬クルコト。ショクバウ。遼史、耶律余睹傳「文妃生晉王、最賢、國人皆屬望」

そくはく (名) 促迫 セマルコト。セリ詰ムルコト。杜甫、戲題王宰畫山水圖歌「十日畫一水、五日畫一石、能事不受相促迫」

そくはく (名) 側柏 コノテガシハ。其條ヲ見ヨ。埤雅「柏有數種、入藥惟取葉扁而側生者、故曰側柏」

そくはく (名) 束帛 〔束脩、幣帛ノ略〕禮物。漢書、申公傳「使使束帛加璧、安車以蒲裹輪、駕駟迎之」儀禮、聘禮箋「大夫奉束帛入三揖」湘山野錄(宋、釋文瑩)「束帛則卷其帛、屬爲二端、五匹遂見十端、表王者屈折之道也」

そくばく (名) 束縛 ツカネ、シバルコト。シバリ括リテ、自由ナラシメヌコト。自由ヲ妨ゲ、制限スルコト。戰國策、齊策「束縛桎梏、辱身也」

そくばく (副) 若干 そこばく(若干)ニ同ジ。運歩色葉集「若干、ソクバク」

そくはつ (名) 束髮 (一)髮ヲ、タバヌルコト。結髮。漢書、敍傳「兒生……、束髮修學」(二)今、西洋婦人ノ結髮ノ風ヲ稱スル語。

〔そく・ひ（ソク・イ）(名) 續飯 〔續飯(ソクイヒ)ノ約〕飯ヲ、糊ニ押シナシタルモノ。飯糊。宇津保物語、藏開、上廿六「白キ衣(キヌ)ヲ、縫目ハ無クテ、そくひナドシテ、海松(ミル)ノヤウニシテ、一折櫃」枕草子、八、八十三段、心もとなきもの「遠キ處ヨリ、思フ人ノ文ヲ得テ、固ク封(フン)ジタルそくいナド、放チアクル、心モトナシ」

そくび (名) 素首 〔そハ、發語〕頸(クビ)ヲ罵リテ呼ブ語。ソックビ。盛衰記、四、涌泉寺喧嘩事「馬ノ尾ヲ切リ、足、打折リ、舍人ガそくびヲ突キ、寺內ノ外ヘ追ヒ出ス」室町日記、十三、信長ガ、光秀ニ酒ヲ強フル所ニ「そくびヲ取ッテ、押シツケサセ給ヒ」「そくび引キヌク」

そくび (名) [illegible] 肴ヲ盛ル猪口樣ノ土器。海人藻芥、中「鍾ハ、へいから、三度入、五度入、七度入、十度入、……是也、然、近代、……物、五度入、七度入、十度入、如斯、種種土器合出來、……也」貞丈雜記、七「一、そくびト云フ土器アリ、式膳部記ニ、大ヂウニ盛ル、但、そくびト云フ土器可然、云云、貞丈云ク、そくびト云フ土器有リ、大サ、……アリ(……ハ茶ノ湯ニ用フ)、肴ナド盛リテ、出ダスナリ」

そくび・おとし (名) 素首落 又、そっくびおとし。相撲ノひねりノ手ノ一。我ガ突ク力ノ強キ爲ニ、相手ノ體ノ、前ヘ引カルル機(ハズミ)ニ付ケ入リ、右手ニテ、其素首ヲ健(シタタ)カニ叩(ハタ)キ、又ハ、押ヘ引キテ、堪(タマ)ラズ、前ヘ倒(ノメ)リ落ツルヤウニスルコト。

〔ぞく・ひじり (名) 俗聖 俗體ニシテ、僧ノ行(オコナヒ)スル者。卽チ、優婆塞。源、四十四、橋姫「俗ひじりトカ、此若キ人人ノ附ケタンナル、アハレナル事ナリナド」赤染衛門集「花見ニ、俗ひじりノ堂ノ庭ニ、花、イミジク散積リテ、云云」

ぞくひつ (名) 俗筆 俗惡ナル筆蹟。山谷題跋(宋、黄庭堅)「予草書多俗筆」

そぐ・ふ（ソグ・ウ）・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 似 ソックリ、ツリアフ。適當スル。ヨク、アテハマル。適。續猿蓑集、下「タンポポヤ、葉ニハそぐはヌ、花サカリ」丹波與作(寶永、近松作)上「立チ交ジリタル女中ノ傍、そぐはヌ樣ニ見エザルハ、サスガ童ノ一德」

ぞくふ (名) 族父 オホオホヂヲヂ。曾祖父母ノ兄弟。爾雅、釋親篇「父之從祖昆弟、爲族父」倭名抄、二十六「族父、於保於保知乎知」

ぞくふ (名) 族譜 一家ノ系圖。一族ノ系譜。南史、賈希鏡傳「凡十八州士族譜、合百帙、七百餘卷」

ぞくぶつ (名) 俗物 無學、不風流ナル

人。俗人。晉書、王戎傳「俗物已復來敗二人意一」

そく-ぶん (名) 仄聞 側聞 〔仄、側、トモニ正音ぢよく、そくハ、慣用音、說文「仄、辿作レ側」〕 ホノカニ、キクコト。噂ニ聞クコト。列子、天瑞篇「吾側聞レ之、試以告レ汝」「仄聞スル所ニヨレバ」

ぞく-ぶん (名) 俗文 (一)通俗ニ記ス、高尙ナラヌ體ノ文章。雅文ニ對ス。(二)書簡文。手紙ノ文。候文。

ぞく-ぶん (名) 屬文 〔漢書、賈誼傳、注「屬、謂レ綴二輯之一也」〕 文ヲ作爲スルコト。ショクブン。ぞくす(屬、他動)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。陸機、文賦「毎レ自屬レ文、尤見二其情一」

ソク・エ
〜そく-へ (名) 退部 そきへ(退部)ニ同ジ。萬葉集、三六十長歌「天雲ノ、曾久敝ノ極、天地ノ至レルマデニ」

ぞく-へい (名) 賊兵 賊軍ノ兵。

そく-へき (名) 側壁 側面ノ壁。側面ノシキリ、又ハ、ヘダテ。ヨコガハ。「胃ノ側壁」

ソク・ベツトウ
ぞく-べつたう (名) 俗別當 〔僧ノ別當ニ對ス〕 僧侶ニアラズシテ、官命ヲ帶ビテ、社寺ノ事務ヲ[illegible]スルモノ。[illegible]承保四年十一月二日、石淸水俗別當補任[illegible]百練抄、十五、寬元二年十月十四日「去一日、八幡俗別當兼盛、與二權俗別當光次一於二寶前一鬪諍」[illegible]書、六「栗田宮俗別當ハ、吉田ニ持候、僧別當ハ法輪院ニ持候」東大寺別當次第「俗別當[illegible]正四位下參行春宮大夫南淵[illegible]臣年名、貞觀十三年八月符」長谷寺[illegible]文「俗[illegible]從[illegible]臣良[illegible]」[illegible]四十一、[illegible]大臣ノ[illegible]二アリ、[illegible]テ、[illegible]副ト部兼友朝臣ニ下シ給フ」

ぞく-へん (名) 續編 續篇 〔正編ニ對ス〕 正編、又ハ、初編ニ、ツヅキタル書物、第二ノ編。

ぞく-ほん (名) 俗本 世俗ニ行ハルル書籍。[illegible]山云云、此句最有二妙處一、近歲俗本、皆作二望南山一」

ソク・ミヤウ
ぞく-みやう (名) 俗名 (一)アザナ。假名。通稱。俗稱。顏氏家訓、書證篇「今依二附俗名一」(二)佛家ニテ、法名、戒名ニ對シテ、其人ノ在俗ノ名。狂言記、[illegible]坊主「名ハ、今マデノ名ガ良ウゴザル、イヤイヤ、出家ノ、俗名デハナリマスマイ、是非トモ、附ケテ下サレ」

ぞく-む (名) 俗務 俗事ノツトメ。世俗ノ事務。塵務。杜甫詩、[illegible]「[illegible]俗務二」

そく-めつ (名) 卽滅 卽座ニ、滅亡スルコト。賀古敎信七墓廻(元祿、近松作)三「一念彌陀佛、卽滅無量罪」「七[illegible]卽滅」

ぞく-めつ (名) 族滅 一族殘ラズ、ホロボスコト。史記、[illegible]「[illegible]」[illegible]氏[illegible]」

そく-めん (名) 側面 (一)カタハラノ面。横ガハ。横ノ方面。(正面、背面、ナドニ對ス) (二)數學ニテ、角壔、又ハ、角錐ノ、底面ニアラザル面。

そく-もく (名) 側目 仄目 〔仄聞ノ語原ヲ見ヨ〕 目ヲ、ソバダツルコト。[illegible]

ぞく-もく (名) 俗目 俗人ノ目。俗眼。[illegible]

そく-や (副) 卽夜 スグ、ソノ夜。其夜ニ、直ニ。當夜。

ぞく-やく (名) 俗役 文學ノ道ヨリシテ、尋常ノ役人ノ勤メヲ云フ語。

ぞく-よう (名) 俗用 ぞくじ(俗事)ニ同ジ。

そくら (名) (一)ぞくらをかぶノ略。(二)ぞくたく(囑託)、或ハ、わいろ(賄賂)ノ義ト云フ。

ソク・ロウ
そく-らう (名) 足勞 人ノ足ヲ、勞セシムルコト。足ヲ運バスルコト。常ニ、「御」ヲ添ヘテ「御足勞」ト用ヰル。「勞總[illegible]」「御足勞ヲカケル」

ソク・ロウ
〜ぞく-らう (名) 贖勞 古ヘ、官位ヲ得、又ハ、昇進ヲ請フ爲ニ、財物ヲ、官ニ納ムルコト。[illegible]四十九、[illegible]ラウソ申サンナドゾ、[illegible]ルコト[illegible]耳トドマリケル」類聚三代格、八、寶平八年閏正月一日、太政官符「所司不レ知二其紆一、濫進二僞放一、自收二[illegible]萬壽四年十二月十一日「將軍頼行朝臣、[illegible]是非[illegible]勞料」江家次第、四、除目「六位受領者、先以二六位藏吏、勘二公文一者上被レ任、雖レ有二別功者一[illegible]時任之、近代[illegible]

ソク・ロウ
ぞく-らう (名) 續勞 王朝時代、財物ヲ、官ニ納レテ、前官ヲ[illegible]、任官スルコト。續紀、十二、天平七年五月「畿內及七道諸國、[illegible]」同、廿一、天平寶字二年十二月「[illegible]」月「[illegible]」[illegible]

ソクラ・オ・カウ
そくら-をかふ [illegible]以後、一依二[illegible]」[illegible]

ぞく-り (名) 俗吏 俗役ノ役人。俗務ニ從フ官吏。俗吏。刀筆吏。漢書、賈誼傳「俗吏之所レ務、在二于刀筆筐篋一、而不レ知二大體一」

ぞく-り (名) 屬吏 部下ノ官吏。シタヤク。[illegible]作武[illegible]

ソク・リユウ
ぞく-りう (名) 俗流 俗人ノ輩。俗輩。[illegible]

そく-りき (名) 足力 〔足力按摩ノ略〕 按摩ノ一種。兩肢ヲ兩腋下ニツツヘ、足ノカニテ、[illegible]人(安政、[illegible]五編、下、按摩、六六、足力トイフノワ、ザト、[illegible]ソカシテトゲヨウカ」

ソク・リヤウ
そく-りやう (名) 測量 器械ヲ用ヰ、數學[illegible]

ソク・リヤウ
ぞく-りやう (名) [illegible]十八、[illegible]

ぞく-りよく (名) [illegible] 同ジ。

ソク・ルイ
ぞく-るい (名) [illegible] 一族親類。同族。[illegible]

ソク・ルイ
ぞく-るい (名) [illegible] 俗[illegible]

ソク・リヨウ
そく-れう (名) 速了 早合點スルコト。

ソク・リヨウ
ぞく-れう (名) 俗了 俗ニナリハツルコト。俗化シ了リタルコト。[illegible]

ソク・リヨウ
ぞく-れう (名) 屬僚 屬吏ノトカ[illegible]

候ドモ、」（唐書、丁■傳「■付■服不■■」）

そくろ（名）そくらニ同ジ。

ぞくろう（名）［俗陋］卑俗ニテ、陋劣ナルコト。俗ニシテ、卑シキコト。

ぞくろん（名）［俗論］世俗ノ議論。卑俗ナル言見。（俗論）

そくろなかふ（句）そくらなかふノ轉。甲陽軍鑑、十九、品第五十三「內內ニテそくろをかひ、但玄ニ拵ノ笑候ハト申サレ候」

そくわ（名）［麁菓粗菓］（麁ハ麤ノ俗字、粗ニ通ズ）（一）粗末ナル菓子。粗點心。（二）己レガ他ニ進ムル菓子ヲ云フ謙辭。「粗菓ヲ呈ス」

そくわ（名）［所課］（饗應ヲ課する義）まけわざ（負事）ノ條ヲ見ヨ。

そぐわ（名）［素畫］（禮記、樂記篇、注「素、生帛也」）絹地ニ書キタル畫。潜研堂金石文跋尾、又、續（清、錢大昕）ニ「青蓮寺碑、有二素畫釋迦佛之語一云云」

ぞくわ（名）［俗話］文學ノ道ヨリシテ、尋常世間ノ話ヲ稱スル語。文同詩「君能爲我再談、座上不二客人俗話一」

そくわい（名）［素懷］（一）そし（素志）ニ同ジ。本望。（■■物語「素懷出塵志、適有二撝手客一」）（二）出家セントスル願望。保元物語、二、重仁親王御出家事「御出家アルベキニテ、仁和寺ノ方樣ヘ渡ラセ給フトゾ、御供ノ人、申シケル、依リテ、此由、奏聞シケレバ、素懷ヲ遂ケサセ奉ラスベキ由、仰下サレケリ」

そぐわい（名）［疎外］（一）ウトンジ、退クルコト。（二）思ヒ、隔ツルコト、ヘダテゴコロ。隔心。史記、楚世家「其侵■女也、無■■■■、■外■■建八、太子建」

そくわつ（名）［疎闊］ウトウトシキコト。オロソカナルコト。疎遠。南史、王■傳「其■■交友■■、乃亦兄弟疎闊」黃庭堅詩「早年■■」（■■■■、通用■■■■）

そぐわん（名）［素願］モトヨリノネガヒ。平素ノ願望。晉書、宋纖傳「今當二命終一、乞如二素願一」吾妻鏡、一、治承四年七月五日「法華經讀誦、修二千部之功一後、宜レ遂二其中丹一之由、雖レ有二兼日素願一」

そぐわん（名）［訴願］（一）訴ヘ、願ヒ出ヅルコト。稟控。（二）行政官廳ノ不當ナル處分、又ハ、裁決ニヨリテ、損害ヲ被リタル者ガ、其處分、又ハ、裁決ノ取消、或ハ、變更ヲ、其上級ノ行政官廳ニ請求スルコト。

そくゐ（名）［即位］（一）帝王ノ、位ニ即キ給フコト。大統ヲ承繼ギ給フコト。本朝ニテハ、古ヘハ、大極殿ニテ式ヲ行ヒシガ、後ニハ、太政官廳、又ハ、紫宸殿ニテ行ヘリ。左傳、隱公元年「不レ書二即位一攝也」（二）古ヘハ、即位ト、踐祚ト、別無シ。中世以後、先帝崩ジマシマシテ、嗣君、先ヅ、位ヲ繼ギ給フヲ、踐祚（天位ニ備ハリ給フコト）ト申シ、後ニ、更ニ、其正式ノ大禮ヲ行ハセラルルヲ、即位（そくゐト讀ム、踐祚シタマヒシコトヲ、天下萬民ニ知ラシメ給フコト）ト申ス。即位ノ禮ヲ行ハルト申スベキ略ナリ。又、先帝、故アリテ、位ヲ去ラセラレ、嗣君、コレニ繼ガセラルルニ、讓ラセラルルニ就キテハ、讓位ト申シ、受ケサセラルルニ就キテハ、受禪ト申ス、其義、相、同ジ。■■■■以後ハ、即位以前ニ、先帝ニ、太上皇ノ尊號ヲ奉ルコトトナリタリ。■■■■■四十年「踐祚」代始和抄、御即位事「即位ト云フハ、天子受禪ノ後、正シク南面ノ位ニ即カセ給フ、初メテ百司萬民ニ、龍顏ヲ見エサセ賜フ由也、ソノ月ハ、定マレル月ナシ、云云、御即位ノ日時ハ、■■著陣シテ、辨ニ仰テ、見ヲ勘申サシム」三代實錄、三、元慶元年正月三日「天皇即二位於豐樂殿一」注「大極殿未レ作、故用二豐樂殿一云云」扶桑略記、廿九、■書、延長八年十一月廿一日「天皇於二大極殿一即位、三品貞真親王、中納言■■、參議公爵、藤原■■、平時望等、著二禮服一擬二外辨一、申二事了一」實躬卿記、永仁六年十月十三日「今日天皇（後伏見）御即位、官廳也」玉海、治承四年四月廿二日「此日天皇即二位於紫宸殿一」

そくゐん（名）［仄韻］そくじ（仄字）、及、ゐん（韻）ノ條ヲ見ヨ。

そくゑ（名）［觸穢］しょくゑ（觸穢）ニ同ジ。字類抄「觸穢、ソクヱ」宇津保物語、國讓、中「六十ナ渡リ給ヒソ、そくゑノ事アリテトアレバ」禁祕御抄、上、賢所「觸穢時、御供、神物、先例不レ同也」

〰そけ（動）［退］そく（退、下二）ノ條ヲ見ヨ。

そげ（名）［刺］竹木ノ、削ゲタル端。又、其端ノ、肌ニ立チテ、傷ツクルモノ。トゲ。竹木刺。艶狩劍本地（寬永、近松作）三「竹ノ反ゲニテ、臑ノ肉、熊手ニ掻イテ、取ル如ク」

そげ（名）魚ノ名。ひらめノ、小サキモノ。

そけい（名）［麁景］麁末ナル景物。（商家ノ店開キナドニ、客ニ出スニ就キテ云フ謙語）「麁景呈上」

そけい（名）［鼠蹊］股ノツケネ。「鼠蹊腺」

そげき（名）［狙擊］ネラヒウチ。史記、留侯世家「良與レ客、狙二擊秦皇帝博浪沙中一」

そげふ（名）［祖業］祖先ノ開キタル事業。左傳、昭公十五年「忘二其祖業一」

そけん（名）［素絹］［生絹］（一）織文ナキ生絹。（貞丈雜記）（二）素キ絹ノ服。（僧服ニ云フ）一說ニ、素絹ハ宛字ニテ、生絹ナリト云フ。平家物語、一、■■事「■■■■ノ上ニ、素絹ノ衣ヲ、周章着ニ着給ヒケルガ」庭訓往來、七月「長絹素絹袈裟」（■■■■、中■■絹衣着、山門三井寺方用レ之、■■■袖、單衣也」）

そけん（名）［訴權］裁判所ヘ訴ヘ出ヅベキ權利。起訴ノ權利。

⁂そ・げる（動）［削］そぐ（下二段）ノ口語。

そこ（名）［底］（離き所ノ約、底ハ、床ト通ズ、川底、川床。心の底、心の處ノ如シ）（一）［凹］ミタル內ノ、下ニ當ル處。竹取物語「楫取、答ヘテ申ス、船ニ乘リテ歸リ歩クニ、マダ斯クワビシキ目ヲ見ズ、御船、海ノ底ニ入ラズハ、雷、落チカカリヌベシ」徒然草、三段「色好マサラン男ハ、云云、玉ノ杯ノ當ナキ心地ソスヘキ」（二）［天ニ對シテ、地ノ稱。平野祭祝詞「底津石根」（三）［上ニモ、下ニモ、横ニモ、至リ極マル處。キハミ。ソコヒ。ソキヘ。［際涯］萬葉集、四、十「思ヒ遣ル、便ノ知ラネバ、片埦ノ、底ニゾ吾レハ、戀ヒナリニケル」夫木抄、十八「老ノそこ」（四）奧深ク、隱レタル處。祕奧。千載集、三、夏「郭公、ナホ初聲ヲ、忍ブ山、夕居ル雲ノ、そこニ鳴クナリ」笠是ヲ、夕越エ來レバ、郭公、麓ノ雲ノ、そこニ鳴クナリ」今物語「近頃、和歌ノ道、殊ニモテナサレシカバ、內裏、仙洞、攝政家、イヅレモ、取リ取リニ、そこヲ極メサセ給ヘリ」盛衰記、三、澄憲祈雨事「上ニハ咲ケレ共、底苦苦シキ景氣也」同、十四、山門變改事「山門ノ衆徒、底趾シクコソ思ケメ」「心ノそこ」考ヘノそこ」そこ意」そこ心」そこ意地」そこ氣味」（五）人ノ具有スル、實質ノ力量。ソコヂカラ。盛衰記、三十六、義經赴二鵯越一事、義經ノ乘馬「鎌倉殿ノ賜ビタル薄墨ニモ、底ハ優リテコソアルラメ」底を叩くト

ハ、中ニアル限リヲ盡ス。芭蕉句「分別ノ、底叩きケリ、年ノ暮」「財布ノ底を叩く」

〔そこ (名) 塞 〔塞處ノ約〕 (一)要害ノ地ノ、内外ヲ隔ツル處。倭名抄、一五 林野類「塞、正作ㇾ塞、顧野王案、塞、險惡之處、所ㆍ以隔㆓内外㆒也、先代反、和名、曾古」 (二)壘。砦。 壘塞 邊城 名義抄「壘、ソコ、塞、ソコ、壘、ソコ」 字類抄「塞、砦、壘、ソコ」 仁德紀、五十三年五月「田道、固ㇾ塞而不ㇾ出」 敏達紀、十二年十月「放㆓要害之所㆒、堅築㆓壘塞㆒」 天智卽位前紀「高麗士卒、膽勇雄壯、故更取㆓唐二壘㆒、唯有㆓二塞㆒、亦備㆓夜取之計㆒」

〔そこ (名) 祖姑 オホヲバ。祖父母ノ姉妹。 倭名抄、二六 親戚部「祖姑、於保乎波」

〔そこ (代) 其處 (一)ソノトコロ。稍、身ヨリ離レタル地位ニ用キル代名詞。(こ、又ハ、かしこナドニ對ス) 萬葉集、一二十 長歌「曾許シ恨ミシ、秋山ゾ吾レハ」 古今集、二、春、下「思フドチ、春ノ山邊ニ、打チムレテ、そこトモ云ハヌ、旅寢シテシガ」 (二)對稱ノ代名詞、稍、下輩ナルニ用キル。其許。(足下ノ音ト云フハ、アラジ) 吾子 源、廿二、玉鬘三十「そこバカリヲ、形見ニ見ルハ、口惜シクナム」 枕草子、十、百三十三段「宰相ト、そこトノ程ナラムト推シ量リツトテ、イミジウ笑ハセ給フ」 金葉集、九、雜、上「賀茂成助ニ、始メテ逢ヒテ物申シケルツイデニ聞キワタル、御手洗川ノ、水清ミ、そこ(底ニカク)ノ心ヲ、今日見ツルカナ」 散木集(後類)一、春「睦月ノ七日、中宮亮仲實ガ許ヘ、七種ノ菜遣ハストテ、詠メル「岡邊河、睦月ニ生ユル、ゑぐノ芽ヲ、摘ミシナヘテモ、そこノ御爲ゾ」 長明、無名抄、上「そこナドハ、重代ニ生レテ、云云」 (三)ソレ。 古事記、中、應神二「苛ナケク、曾許ニ思出、悲シケク、許許ニ思出、」 雄略紀、四年八月、長歌、天皇ハ、獣擦ヲ聞フシテ」 萬葉集、十七 長歌「悲シケク、許己ニ思出、苛ナケク、許會ニ念出」

そご (名) 齟齬 「說文「齒不㆓相値㆒曰㆓齟齬㆒」 二クヒチガフコト。カケチガフ、

コト。ユキチガフコト。前、後、事ノ、相違スルコト。 鉏語 楚辭、九辯「圓鑿而方枘兮、吾固知㆓其鉏鋙而難㆒ㇾ入」 揚雄、太玄經「其志又齟齬」

そこい (名) 底意 そこきん(底心)ニ同ジ。テイイ。 太平記囃錢(享保、竹田出雲)一「在京ノ武士ノ底意ヲ計リ候ヘバ」

そこいたり (名) 底至 家屋、衣服、器物ナドノ製ニ、表ヨリ見エヌ部ホド、尙、精巧ニスルコト。表ハ、無地ノ紋付ニテ、裏ニ、模樣ヲ染ムルコトナドニ云フ。略シテ、いたり。 徹底 武野俗談ニ、延寶ノ頃、江戸ノ石川六兵衞ト云フ奢リ者ノ女房「黑羽二重ニ、立木ノ南天ノ染小袖、云云、能ク見レバ、南天ノ實ハ、珊瑚珠ヲ碎キ、ヒシト縫ヒ付ケサセケル、底いたりニ、云云」

そこいぢ (名) 底意地 心ノ底ニ隱シ持ツ意氣地。心地

そこいら (名) そこら(其處邊)ニ同ジ。 川柳(天明頃)「そこいらノ、飴ダト親仁、目ガ無シ」

そこいれ (名) 底入 取引所ノ語。相場ノ、下落ノ極度ニ達シタルコト。

そこう (名) 狙公 サルマハシ。サルヒキ。 莊子、齊物論篇「狙公賦ㇾ芧、曰、朝三而暮四」

そこく (名) 祖國 (一)祖先以來ノ民族生活ノ繫ガレル、己レガ國。母國。(二)故國。鄕土。 [illegible] 故國。 瀛涯志(清、乾隆敕撰)「國[illegible]祖國也」 (二)祖先以下、從屬スル國。

〔そここ (代) 其處此處 ソノトコロ、コノトコロ。アソコ、ココ。 萬葉集、十九 廿一 長歌「天離ル、夷トシアレバ、彼所此間モ、同ジ心ゾ」

そこさむ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 底寒 [illegible]骨ニ徹シテ、寒シ。

そこしん (名) 底心 シタゴコロ、シン[illegible]

ソコ。ソコイ。 關八州繫馬(享保、近松作)一「相模陳ニ、そこハ、カラ、争リケル思ノ故」

そこずみ (名) 底澄 底意ノ、澄ミタルコト。淨了 徹底

そこそこ (代) 其處其處 (一)ドコドコ。ドコソコ。 [illegible]

そこニ有リシナド、云云、以メカシ申シ給ヒケル」 宇治拾遺、四、第五條「田ヲ[illegible]」 そこ、そこ、ニ作ル書也」 [illegible] テヨ、雨モゾ降ル、御車ハ門ノ下ニ、御供ノ人ハそこ、そこニト云ヘバ」 (二)ドコカラ、ドコマデ。 心中刃氷朔日(寶永、近松作)上「[illegible]」 職人ノ、金出カス氣ゾ格別ナル」

そこそこに (副) 落着カズ、取急ギ狀ニ云フ語。イソイソト。 倉皇 心中重井筒(寶永、近松作)上「云ヒツクレバ、あいあい言フモ、そこそこナガラ、[illegible]、出テ[illegible]」 そこそこ、京[illegible]シテ、田[illegible]」「[illegible]」

出ヅ」

そこぢから (名) 底力 [illegible]力ノ、[illegible]キコト。又、底部ニ潜ム力。「底力ノ無イ[illegible]聲ヲスル」

そこつ (名) 粗忽 事ヲ、イルガセニスルコト。念ノ入ラヌコト。ソソカシキコト。[illegible]

〔そこついはね (名) 底津磐根 地ノ底、地心[illegible] 中[illegible] 云、動キ鳴ルコト無ク、云云、不ラケク、安ラケク、[illegible]リマツリ」

そこづみ (名) 底積 (うはづみニ對ス) 積ミタル物ノ、下ノ方ニナリタルモノ。底荷。下積。「荷物ノそこづみ」

〔そこで [illegible]

記、武隈、別ニ、何ニモ、言ヒハセナンダカ、そこ[illegible]シマスニハ」

そこどけ (名) 底解 十分、理解[illegible]ト。心底ヨリ、打解クルコト。

そこところ (名) 其處所 ソノトコロ。 和泉式部集、[illegible]求メタルカナ、[illegible]

そこな (連體) 其處 〔そこなるノ略〕 其[illegible] 其ヤイ、そこなな女メ」

〔そこな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 損 〔殺ツ行ふ義、あきなふノ語原ヲ見ヨ〕 (一)殺ソツクル。コハス。コボツ。ヤブル。損[illegible] [illegible] 字鏡「[illegible]」 [illegible] 七十五段、人ばえするわの子供ノ、四ツ五ツナル、云云、物ナド取散ラシテ、そこなふ[illegible] 神代紀、上[illegible] 「良田、[illegible]」 [illegible] 「未ㇾ了、九歲ナド、見クそこなはレタル物カラ、[illegible] ニケル立派[illegible]」 [illegible] 物ノ中ナリシモ、[illegible] [illegible] そこなふ[illegible] 代[illegible] [illegible] 八[illegible]ケド[illegible] はレタレド、サマ、[illegible] (三)アヤマル。誤謬。[illegible] ヤトテ、[illegible]ハ、アラジ[illegible] 十五、[illegible] タルナリ[illegible] テ、死シテ[illegible] そこなふ[illegible]

〔そこに [illegible]

そこ-ぬけ (名) 底拔 (一)樽ナドノ底ノ、拔ケタルコト。又、其物。(二)締ノ無キコト。又、其人。

そこぬけ-さわぎ (名) 底拔騷 酒宴ノ席上ナドニテ、歌ヒツ、踊リツシテ、愉快ヲ盡シ、騷ギタテテ、止マル所ヲ知ラザルコト。

そこぬけ-ぢやうご (名) 底拔上戶 至ッテ強キ大酒家ノ稱。

そこ・ねる・ネル・ネレ・ネ・ネ・ネヨ (他動、下二) 損 そこなふ(損)ノ(一)ニ同ジ。ソクネル。 狂言記、子盜人「餘リ聲高ニ言ウタニヨッテ、撲損リそこねた」

そこ-のくに (名) 底國 (地ノ底ノ國ノ義) ヨミ。ねのくに(根國)ニ同ジ。

そこ-ば (副) 若干 そこばく(若干)ノ(一)ニ同ジ。萬葉集、十七 三十四 長歌「神ガラヤ、曾許波貴キ、山ガラヤ、見ガホシカラム、皇神ノ」

そこ-はか (副) 若干 〔そこはかハ、其處果ノ義ト云フ、或ハ云フ、其處量ノ意ト。あさはか、あてはか、何レヲはかノはか、同ジ〕 ソクバク。ソコバク。

そこ-はか-と (副) 其處トモ、彼處トモ。何地トモ。又、ハッキリト。分明ニ。 宇津保物語、國讓、上「同殊ニ、そこはかとアル御心地ニハアラデ」 新古今集、八、哀傷「そこはかと、思ヒ續ケテ、來テ見レバ、今年ノ今日モ、袖ハ濡レケリ」 夫木抄、三十六「そこはかと、見エヌ山路ニ、言問ヘド、今宵モ暮シ、白雲ノ宿」 新千載集、十九、哀傷「何處ニカ、君ヲバ置キテ、歸リケム、そこはかとダニ、オモホエヌ哉」

そこはか-と-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 何處トモナシ。何ト云フコトモナシ。分明セザル狀ニ云フ語。 源、二、帚木 二十、黑漆シクテ、そこはかとなき義ノ憂寒、云云、ヲカシキホド也」 同、四十九、東屋 三「そこはかとなき物ドモノ、人ノ調度ト云フ限リハ」 月清集、下「君ガアタリ、分ケテト思フ、時シモアレ、そこはかとなき、タグレノ空ニ」 伊勢物語、四十六段「暮レ難キ、夏ノ日グラシ、眺ムレバ、そこはかとなく、物ゾ悲シキ」 源、四、夕顏 六「そこはかとなく、搔キ紛ラハシタルモ、實ハカニ故ヅキタレバ」 同、四十五、椎本 八十「殊ニオドロオドロシクハアラズ、そこはかとなく苦シウナン」 徒然草、第一段「ヨシナシゴトヲ、そこはかとなく書キツクレバ」

そこ-ばく (副) 若干 〔そ、こハ、其、此、ニテ、そこ、そこナリ、ばくハ、ばかり(程)ノ意、そこはか、いくばく、いかばかり、ナドト同趣〕(一)幾許カ。此降ル雪ノ、嬉シカラマシ」 萬葉集、八 五十「我ガ夫子ト、二人見マセバ、幾許カ、此降ル雪ノ、嬉シカラマシ」 同、四 七十二「幾許、思ヒケメカモ」ニテ、そこらそこらほどノ意(今モ、五十そこそこノ年ナド云フ、是レナリ)。若干ノ條ヲ見ヨ) 又、そこば、そくばく、そこだく、そこだく、そこら、そきだく、そきだく、そこだく、そきだナド云フモ、或ハ下略シ、或ハ音轉相通ジ、意ハ多少變ハレドモ、語原ハ同ジ(伐る、きる。踵、きびす、擊く、はたく。いくだ、いくら。斑斑、離散)又、おほば、くト云フモ、其、此ト云フヲ、此、此ト云フニテ、意ハ同ジ。おほば、おほだく、おほた、おほら、おきばく、おきだく、おきだナド云フモ、前ニ云ヘルト同例ナリ。仁德即位前紀「イラケナク、曾盧ニ思ヒ、カナシケク、虛虛ニ思ヒ」萬葉集、廿 五十 長歌「曾伎太久モ、隱ナキカモ、己伎婆久モ、豐キカモ」(海ヲ云フ) (一)〔そ

くばく、物ノ、數アルヲ計ラズシテ、大凡ニ云フ語。イクツカ。イカバカリ。若干。 名義抄「多少、ソコバク、イクソバク」字類抄「若干、ソコバク」 孝德即位前紀、內臣、增、封若干戶」 伊勢物語、七十七段「そこばくノ捧物ヲ、木ノ枝ニ附ケテ、千捧バカリ」 宇津保物語、吹上、上 三「殿上許サレテ、御前ニ召シテ御覽ズ、そこばく選ハレタル人人ニ劣ラズ、御覽ゼラル」 萬葉集、九 八十 長歌「此箱ヲ、開クナユメト、曾己良久ニ、固メシ言ヲ」 大祓祝詞、許許太久ノ罪、多クノ罪」 (二)轉ジテ、甚シキ。重キ。大キナル。

そこ-ひ (名) 內障眼 〔眼ノ底ニ、翳アル意。ひハ、此病ノ總名。ひ(目翳)ノ條ヲ見ヨ〕 眼ノ病、コレニ、三種アリ、一ハ、瞳孔ノ後ニアル、蟲眼鏡ノ玉ノ如キ水晶體ト云フ物ノ、濁ルニ起ル、瞳孔ニ、膜アルヤウニ、灰白色ニ見ユ、故ニ、白そこひ、膜そこひノ名モ、アリ、多クハ、五十歲前後ニ起ルコサレド、手術ニテ治スルト。白內障 二ハ、眼內液ノ歸流ヲ妨ゲラルルカ、眼內液ガ過剩ニ分泌シテ、眼內壓ノ高マルニ起ル、瞳子開キ、綠色ノ外觀ヲ呈ス。綠內障 三ハ、各種ノ失明ヲ總稱ス。外觀ニ異常ナクシテ、視力ニ障害アリ、眼內ニ變狀アリ、炎症ニ候ナシ。黑そこひ。黑內障 倭訓倭名抄、二 五十 病類、目翳「按、今俗、亦有二宇波比、曾古比之稱、比、隱レ物之名、氷訓レ比、孫訓二比古、亦與レ此同」

そこ-ひ (名) 涯底 〔底方ノ轉、そきへニ同ジ〕(一)〔スベテ、上下、縱橫、行キ極マレル所。物事ノ、至リ極マル處。極メテ深キ底。キハミ。ハテ。 際涯 萬葉集、十五 三十四「天地ノ、曾許比ノ內ニ、吾ガ如ク、君ヲ戀フラム、人ハ實アラジ」 古今集、十四、戀、四「そこひナキ、淵ヤハ騷グ、山川ノ、淺キ瀨ニコソ、徒波ハ立テ」

枕草子、十二、百四十八段、打ちとくまじきもの「舟ノ路、云云、そこひモ知ラズ、千尋ナドモアランニ」 紫式部日記「イトドシキ御色合ノ、そこひモ知ラズ、濟ラナルニ」 源、廿四、胡蝶 廿「限リ無ウ、そこひシヌ志ナレド、人ノ答ムベキ狀ハ、ヨモアラジ」 同、廿二、玉鬘 四十「縱シ、トテモ、物ノ色ハ限アリ、人ノ形ハ、劣レタルモ、又、猶、そこひアル物ヲ」 (二)誤リテ、心中ノワダカマリ。隔心。隔壁。ナドノ意ニ用ヰル。「そこひナシ」

そこ-びえ (名) 底冷 身體ナドノ心底ヨリ冷ユルコト。「そこびえノ據ル寒サ」

そこ-びかり (名) 底光 底ニ潛メル如キ光。表面ニ表ハレヌ光。 毛吹草(正保)二 底光、マストヤ云ハン、水ノ月」

そこ-まめ (名) 底豆 肉刺ノ、足ノ底ノ肉中ニ生ジタルモノ。熱シ、腫レ、膿ミテ、甚シク痛ム。 雞眼 牛程塞 文化ノ川柳 底豆ノ、代ハリ能因、坐リ胼胝」

そこ-もと (代) 其許 (一)〔其ノ所。ソコ。 蜻蛉日記、下、下 四「中島ノ松ヲマハリタル女アリ、そこもとニ、紙ノ端ニ書キテ、斯ク押シック(歌)」 枕草子、六、五十八段「そこもとハ落チタル所ニ侍ルメリ、上リタルナド、敎ヘ行ク」 源、五十三、夢浮橋 八「木丁(几帳)ノモトニ、(浮舟ヲ)押シ寄セ奉リタレバ、吾レニモアラデ居タマヘルケハヒ、異人ニハ似ヌ心地スレバ、そこもとニ寄リテ、奉リツ」 (二)轉ジテ、對稱ノ代名詞。稍、下輩ナルモノニ用ヰル。ソコ。ソノモト。ソナタ。吾子 狂言記、法師物狂「ナウ、そこもとへ、物ヲ問ヲ」

そこ-ら (名) 其處邊 ソノアタリ。ソコイラ。 浦島年代記(元祿、近松作)一「誰レゾ、御前ニ憎レタナラ、トント、其處らヲ晴ラシテ、戀ノ波ヲ揚ケタカ良シ」

そこ-ら (副) 許多 〔其處等、此處等、ノ一語ニテ、數多キ意ヲ云フヲ、一語ヅッ

各目ニ用キテモ、其意ヲナスモノト云フ」數多ク。アマタ。ココラ。サハニ。[illegible]「そぉらノ人ノ、[illegible]モ、[illegible]ラセ給ハズ」[illegible]「そぉら契リシ、言ノ葉ヲ」續後拾遺集、十、賀「諸人ノ、そぉら祈リシ、驗アラバ」

そぉら-うち (名) 其處邊中 ソノアタリ一面。ソコイラヂュウ。俳諧新選、之房ノ句「そぉらうち、コボレテ萩ノ、盛リカナ」

〔そぉ-らく (副) 許多 そぉばく(若干)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

そぉり (名) ソコルコト。潮ノ、全ク退クコト。シホヒ。

そぉ-る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔底ヲ活用ス〕潮、退キ潮レテ、水底ヲ現ハス。アスル。潮涸

そ-さ (名) 所作 ちょさ(所作)ノ(一)ニ同ジ。中務内侍日記「[illegible]八、云云、そさノ人、カネテヨリ、其ノ人人ト定メラレテ」

そ-さい (名) 蔬菜 アヲモノ。ヤサイモノ。ハタケモノ。菜蔬 南史、[illegible]

そ-さい (名) 麁細 あらきト、こまかきト。麁[illegible]ナルト、[illegible]ナルト。[illegible]

そ-さう (名) 沮喪 挫ケ、ハバムコト。勢ヒ失スルコト。氣落スルコト。[illegible]

そ-さう (名) 粗相 麁相 (一)粗略ナルコト。[illegible]「ソサウ」[illegible]

下、[illegible]「ソサウ」[illegible]さうヲ仰ルデハ無イ」(二)アヤマチ。シソコナヒ。過失 川柳(文化頃)「[illegible]八、[illegible]ヘ粗[illegible]」[illegible]

そ-ざう (名) 粗造 〔正韻「糙、粗米未春」〕粗クシテ、ざらざらスルコト。粗糙。粗糙、「[illegible]ナリ」

そ-ざう (名) 塑像 土ニテ作リタル像。初チ、粘土ヲ其中ニ、寸莎、雲母ヲ混ジテ、捏ル)ニテ像ヲ造リ、其上ニ絹ヲ着セ、紙ニテ貼リ固メ、漆ニテ塗リ、薄箔ヲ加ヘテ後ニ、土ヲ投キ去ル、コレヲ、摶換ト云ヒ、其工人ヲ、捻工ト云フ。(說文「捻、指捻也」)像ヲ、土ニテ捻リ造ル、字ハ、土ニ从ヒテ、埝ニ作ル)五代史、[illegible]「[illegible]」[illegible]

そ-ざつ (名) 粗雜 麁雜 ソマツ。ソサウ。唐書、李錡傳、贊「列ニ覦闖一者、惟粗雜苦窳而已」

そ-さま (代) 〔そなた樣ノ略〕對稱ノ人代名詞。そぉもと。吉野都女楠正德、近松作)一「そさまヲ、吾ガ手ニ入レンタメニ」

そ-さん (名) 素餐 功勞無クシテ、祿ヲ食ミ居ルコト。ぉゐそざん(戸位素餐)ノ語原ヲ見ヨ。[illegible]不[illegible]素餐[illegible]」

そ-ざん (名) 鼠竄 鼠ノ、穴ニ竄ルル如ク、ぉそぉそと、逃ゲ竄ルルコト。[illegible]

そ-し (名) 庶子 ちょし(庶子)ノ(一)ニ同ジ。[illegible]「そしニテオハシケレドモ」

そ-し (名) 素志 平生、思ヒ續ケテアル志。宿志。[illegible]

そ-し (名) 素食 精進ノ食事。[illegible]「[illegible]食不求果稷餅之屬、無酒肉也」(槐園日記、三)

そ-し (名) 蔬食 そしい(蔬食)ヲ見ヨ。

そ-し (名) 祖師 (一)最初ノ師。[illegible](二)一派ノ宗門ノ祖ノ尊稱。[illegible](三)日蓮宗ニテ、[illegible]

そ-し (名) 所司 ちょし(所司)ニ同ジ。[illegible]「ソシ」

そ-し (名) [illegible] [illegible]

そ-し (名) 沮止 ハバミ、トドムルコト。ササヘ、トドムルコト。「[illegible]沮止ス」

そ-じ (名) 措辭 言葉ノ措キ方、詩文ニテ、辭句ノ遣ヒ方。[illegible]

〔そ-しい (名) 疏食 〔淮南子、主術訓、註「[illegible]」〕[illegible]時ハ、貧、志ナレバ、そしいハ、そしノ延、[illegible]そしき(粗食)ニ同ジ。[illegible]

そ-しう (名) 楚囚 〔左傳、成公九年「晉侯觀二于軍府一見二鍾儀一問レ之曰、南冠而[illegible]

[illegible]、使レ稅レ之」〕トアルニ本ヅク。モトハ、楚國ノ囚ノ義ナリ」他國ニトラハレテ居ル人。又、メシウド。囚人。[illegible]

〔そ-しう (名) 〔「そしう」ハ、奸ノ字、カダム心也」(湖月抄、細流)ヨリ「そしう」ト云フ語ハ、「不詳、諸抄ノ說モ、タダ、推シアテノ事ノミト聞エタリ。なるト受ケタル[illegible]ノ字ハ、思ヒ得ズ、しうハ秀ノ字ナドカ、何レニシテモ、功者ニ上手ナル、物ノ師ドモヲ、尋ネラレタル事トハ聞ユルナリ」(萩原廣道、評釋)〕民間ノ物シリ。民間ニアリテ、其道ニ情シキ者。[illegible]

そ-しき (名) 組織 (一)[illegible](二)箇箇ノモノノ、集合シ、一律ノ關係ヲ保持シテ、或ル一體ノ形ヲナスコト。又、其モノ。(三)たいけい(體系)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

そ-しき (名) [illegible] [illegible]ルニ、必要ナル材料ノ、大體ノ見積リ。[illegible]

そ-しき (名) 粗食 粗末ナル食物。[illegible]ソシヨク。ソシ。「[illegible]」

そ-しやう (名) [illegible] [illegible]ゴギャウ。各條、及、鼠麹草ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

〘そ-じし〙(名) 【脊宍】〔背肉ノ義〕 脊筋ノ肉。 字鏡「肉、脊肉、脊志之」 名義抄「■、ソジシ」 字類抄「■、ソシシ、膂宍也」

〘そじしの-むなくに〙(名) 【脊宍之空國】〔脊上ニ、肉ナキ、故ニ、空シキ意ニ云フ〕 荒瘠ノ地。不毛ノ地。 神代紀、下「膂宍之空國、自頓丘覓國行去」 仲哀紀、八年九月「膂宍之空國」 私記「膂宍乃无奈久爾」（瘠瘦ノ地ヲ云フ）

そ-じたい-えふ (名) 【麤枝大葉】〔麤き枝、大いなる葉ノ義〕 文章ノ、おせつかぬニ譬ヘテ云フ語。 朱子語類、七十八「書序、云云、漢文麤枝大葉、今書序細膩」

そ-じつ (名) 【素質】 (一)本來、具備スル性質。本質。ウマレツキ。 爾雅、釋鳥會「素質、五彩皆備成章」「藝術家ノ素質」 (二)素因タル性質。未來ニ發展スル基本。

そ-して (接) 【而】 さうして(然而)ノ約。 俳諧新選、嘯山ノ句「追ヘバ逃ゲテ、そして飛ビ立ツ、雉子カナ」

そ-じな (名) 【麁品】 粗末ナル品物。ソヒン。粗貨。

ソシマリ (名) 【蘇志摩利】 そしもり(蘇志摩利)ノ條ヲ見ヨ。

そ-じん (名) 【祖神】 先祖ヲ、神ト崇敬シテノ稱。 保元物語、二、左府御最後事「先言ヲ思フニ、彼オニオハシマシシカドモ、其御心根ニ違フ所ノアレバコソ、祖神ノ冥慮ニモ違ヒテ、身ヲ滅シ給ヒケレ」

そ-じん (名) 【庶人】 しょじん(庶人)ニ同ジ。 謡曲、關寺小町「都鄙、遠國ノ鄙人ヤ、我等如キノ庶人マデモ、好ケル心ニ」

〘ソシモリ〙(名) 【蘇志摩利】【曾尸茂利】〔そしもりノ轉。古韓語ニテ、韓族ノ大ナル聚落地ノ義ナラムト云ヒ、又、そハ牛、もりハ頭ニテ、後ノ新羅ノ牛頭州ノ地名カト〕 舞樂ノ曲ノ名。簑笠ヲ着テ舞フモノ。略シテ、蘇志摩。又、長久樂。迴庭樂。 倭名抄、四、曲調類「高麗樂曲、蘇志摩利」 甲子夜話、續篇、百「高麗曲有二蘇志摩利、或云、迴庭樂、蓋、素戔嗚尊所レ作樂也、遺音載在二仁智要錄、今按、會國二其舞圖、着二簑笠、以屈折、蓋摸二素尊流離辛苦之體一也」 樂考、高麗調曲「蘇志摩利、此曲舞人、簑笠ニテ舞フト見ユ、神代ニ、進雄尊、衆神ニ逐ハレテ、青草ヲ束テ簑笠トシテ、新羅ニ至リ、曾尸茂利ノ所ニ居給フ事、國史ニ出ヅ、此事ヲ象リシ舞ナルベシ」

そ-じや (名) 【素車】 白木ノ車。塗リ飾ラヌ車。謹愼ノ意ヲ表シテ乘ル。 史記、殷紀「湯王齋戒、剪二爪斷レ髮、素車白馬」 太平記、四、呉越軍事「勾踐、云云、我身ハ、白馬、素車ニ乘リテ、越ノ璽綬ヲ頸ニ懸ケ、自ラ、呉ノ下臣ト稱シテ、呉ノ軍門ニ降リ給フ」

そ-じやう (名) 【疏狀】 事情ヲ辯解スル書狀。陳疏ノ書狀。陳狀。

そ-じやう (名) 【訴狀】 訴訟ノ文書。訴牒。 宋書、竟陵王誕傳「訪如二訴狀二」 御成敗式目「就二訴狀、遣二召文一事」 建武以來追加「一、奉行人直請二取訴狀一披露事」 常照愚草「一、公樣方江訴狀ノ目安ヲ捧事、武家ハ、杉原也、公家門跡ハ、引合ヲ被レ用、然ニ、常徳院殿樣(足利義尚)御代、關東管領上杉四郎ト仁木兵部大輔(丹波仁木事)相論之時、目安、何モ、今、引合ニモ被レ調、云云、又、杉原モ被レ用也、三職、山名ナドモ、又、一色ナドモ、引合ニ、目安ノ例在レ之ト」 評定所留役覺書「訴狀下ゲ相願ヒ候」

そ-じやうばこ (名) 【訴狀箱】 江戸時代、評定所ナドニテ備ヘ置キ、箱訴ヲナス者ノ訴狀ヲ投ゲ入レシムル箱。 享保集成絲綸錄、四十四、享保六年閏七月「此度、日本橋江高札相建候、右之趣相心得可レ罷在レ候、右札ニ有レ之通、直訴場モ相極リ候上ハ、此以後、捨文ハ勿論、外江致二直訴一間敷事」 同、享保七年四月「訴狀箱江書付入候事、右ハ、御仕置筋之儀ニ付、御爲ニ可レ成品、并、諸役人ヲ始、私曲非分有レ之事、可レ致二直訴一候、且又、訴訟在レ之時、役人不レ遂二僉議、永々捨置候ハバ、直訴可レ仕候」 同、享保十二年九月「向後、於二大坂一モ、京都之通、町奉行所屋敷前ニ、訴狀入候箱、出シ置候樣ニ被二仰出一候間、可レ被レ存二其趣一候、町奉行月番御役宅門前江、訴狀箱出シ候日、毎月、二日、十二日、廿一日」 同、元文元年八月、建札文言覺「江戸ヨリ被レ遣候御目付、大坂發足前、町奉行月番役宅門前江、來廿七日、訴狀箱出シ置候間、江戸江言上仕度儀コレ有バ、書付持參致シ、右ノ箱江入可レ申事」

そ-じやく (名) 【租借】 一國ガ、他ノ一國ノ所領地ノ一區域ヲ、其承諾ヲ得テ、一定ノ期限中、己レガ統治ノ下ニ置クコト。

そ-じやく (名) 【咀嚼】〔釋名「咀、藉也、以藉二齒牙一也、嚼、削也」〕 (一)噛ムコト、カミ砕クコト。 史記、司馬相如傳「咳二喋菁藻、咀二嚼蘂蘤一」 (二)文章ノ意義ヲ、味フコト。 文心雕龍(梁、劉勰)「傲二岸泉石、咀二嚼文義一」

そ-じゆ (名) 【鼠鬚】〔鼠ノ口ひげニテ作ル義〕 ふで(筆)ノ異稱。 蘇軾詩「欲レ寄二鼠鬚井繭紙、請君章草賦二黄樓一」

そ-じゆ (名) 【麁酒】 品味ノ劣レル酒。〔人ニ勸ムルニ云フ謙語〕 薄酌。 「麁酒一獻、進呈シタシ」

そ-じゆつ (名) 【祖述】 ソレニ本ヅキテ、ノベ説クコト。 中庸、第三十一章「仲尼祖二述堯舜一、憲二章文武一」

そ-じよう (名) 【訴訟】 ウタヘ。ウッタヘ。公事。 後漢書、陳寵傳「訴訟日百數」 公式令、義解「凡、訴訟、皆從レ下始、謂、告レ冤曰レ訴、爭レ財曰レ訟、從レ下始者、言、從二郡司一始也」 雜令、義解「凡、訴訟、謂、財物良賤請求之類、事非二侵害、臨レ時申訴一者也」起二十月一日一至二三月卅日一檢校、以外不レ合、若交相侵害者、不レ在二此例一」 太平記、一、關東、庶民施行事「訴訟ノ人、出來ノ時、若シ、下情、上ニ達セザル事モヤ有ラントテ、記録所ニ出御成リテ、直ニ訴ヲ聞召明ラメ」 曾我物語、三、曾我兄弟命乞事「然アランニ於イテハ、合ハザルそせうナリトモ、一度ハナドカ、御免ナカラン」

そ-じよく (名) 【粗食】 そしき(粗食)ニ同ジ。 宋書、宗愨傳「愨至、廄以、衆貴人、慣、噉二麤食、愨致レ飽而去」 (麤、粗ニ通ズ)

そ-じよく (名) 【組織】 そしき(組織)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

そ-じらぬ-かほ (名) 【素不知顏】〔そしらぬノ略〕 知リテ、知ラヌ顏色スルコト。 曾根崎心中(元祿、近松作)「上リ口ニ腰打掛ケ、煙草引ヨセ、吸ツケテ、素知らぬ顏シテ居タリケリ」

〘そしら-は・し・シキ・シケレ・シク・シク〙(形、二) 【謗】 謗ルベキ樣ナリ。 源、廿一、少女「瘦セ瘦セニテ、御髪少ナナルナドガ、カク、そしらはしきナリケリ」

〘そしられ〙(名) 【被謗】 ソシラルルコト。謗ヲ受クルコト。 宇津保物語、貴宮、四「食フベキ物食ハズ、着ルベキ物着ズシテ、天ノ下、そしられヲ取リ、世界ニ名ヲ施シテ、寶ヲ貯ヘシ事ハ」 榮花物語、三、樣樣悦「攝政殿ノ御マツリゴト、只今ハ、殊ナル御そしられモ無ク」

〘そしり〙(名) 【誹謗】 ソシルコト。惡ク言ヒナスコト。誹謗。 源、一、桐壺六「ソレニツケテモ、世ノそしりノミ多カレド」 同、三十二、梅枝廿「聊カノコトノ過リモアラバ、輕輕シキそしりヲヤ負ハント、愼ミシダニ、猶、好好シキ咎ヲ負ヒテ」 落窪物語、二「人ノそしりナ負ヒソ、サ思フ樣アリキ」

そしり-ぐさ (名) 【謗種】 ソシル料。ソシラルル、クサハヒ。ソシリノタネ。 榮花物語、一、月宴「スベテ、夜晝、臥シ起キ、睦レサセ給ヒテ、世ノ政ヲ治ラセ給ハヌ狀ナレバ、只今ノそし

りぐさニハ、此御事ゾアリケル」

〔そ-し・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 誹謗譏毀 詆 〔背後言(シリイト)ノ略轉、褒むノ反〕 他ノ行事ヲ、惡(ワロ)ク言ヒナス。人ヲ惡シク稱シテ、其德ヲ損ス。言ニテ、人ヲ損フ(ソコナ)。 天治字鏡、三「詆、曾志留」 源、五十一、蜻蛉二十「サルベキニテ、時メカシ思サンヲバ、人ノそしるベキ事カハ」 伊勢物語、百一段「皆人、そしらズナリニケリ」 夫木抄、三十二「黃金ヲモ、云ヒ消ツロノ、玉磨ク、月ヲバエコソ、そしらザリケレ」 宇津保物語、藤原君廿七「京ノ內ニ、そしり笑フ事、限リ無シ」 枕草子、五、四十五段「女房ノ出デタル狀、褒メそしり」

〔そ-しろ-だ (名) 十代田 代(シロ)ノ、十モアル田。又、狹キ田。しろ(代)ノ條ヲ見ヨ。 永久四年百首、秋「そしろ田ノ、ワサダ刈リテノ、穭(ヒツヂ)稻、ホノサラサラニ、秋ト見ユラム」 堀河百首、早苗「殘ル田ハ、十代ニ過ギジ、明日ハタダ、ユヒモ屆ハデ、早稻取リテム」

〔そ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 過 スゴス。スグス。(熟語ニノミ) 宇津保物語、初秋、上四十「責メそさせ給ヘルニ、困(コウ)ジニタリヤ」 同、嵯峨院九十九「數同仕ウマツリそしタリヤトテ」 源、四十八、寄生三十八「心得ヌマデ、好ミそし給ヘル」 同、四十六、總角廿八「老人ドモハ、爲(シ)そしツト思ヒ」 同、十三、明石廿「人人ニ、酒強(シ)ヒそしナドシテ」「言ヒそしテ」

そ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 殂 〔說文「殂、往死也」猶、殂落(ソラク)ノ語原ヲ見ヨ〕 死ヌ。殂(ユ)ク。但シ、多クハ、僭僞ノ帝王、又ハ、外國ノ帝王ナドヲ貶(ナト)シテ、崩ず、ニ代ヘ用キル。殂落 十八史略、南北朝、宋文皇帝「夏主勃勃殂、子、昌立」

そ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 卒 〔そ(卒)ハ、そつノ下略〕 死ス。卒(シュッ)ス。

そ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 蘇 ヨミガヘル。生キカヘル。蘇生ス。 戰國策、楚策「芳武乃蘇」 左傳、宣公十年「蘇而復上」名三」 箋注「蘇者、死而更生也」

〔そ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 殺 コロス。 名義抄「殺、ソス、コロス」 字鏡抄「殺、ソス」 菅家萬葉集「殺[illegible]」

〔そ・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變) 損 〔そ(損)ハ、そんノ下略〕 ソコナフ。コハス。損(ソン)ズ。 宇津保物語、國讓、下三十「アナカマヤ、彼ノ君ノ物ト聞キテ、行キ集マリテ、訛(ウ)ヒ呪ヒそぜントテ」 同、同廿五「イト、アラク走リニ、サセ給ヘバ、御踏息ニ倒レカカリテ、腰ヲ突キそじキ」

そ-そう (名) 素數 數學ノ語。1、3、5、7、11、13、等ノ如ク、1、又ハ、ソノ數自身ノ外ニ、約數ヲ有セザル整數。

〔そ・す・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 穪 〔そハ、殺(ソ)ノ義、すつハ、捨(スツ)ニテ、そぎすつる意。穪ハ、漢字書ニ見當ラズ、撫ノ訛ナラム。[illegible]ハ揃ノ俗字ニテ、[illegible]ト同ジ〕 ホロボス。殺ス。斬ル。 字鏡七「[illegible]、減也、亡殺也、支留、又、曾須豆」

そ-すい (名) 疏水 〔疏ハ、開也、通也〕 地ヲ切リ開キテ、水ヲ通シ遣(ヤ)ルコト。 白居易、刑禮道策「如二鄙寡之爲一、則疏水而俯、火」

そ-せい (名) 素性 本ヨリノ生レツキ。本來ノ性質。本性。

そ-せい (名) 蘇生 ヨミガヘルコト。イキカヘルコト。回生。 太平記、廿六、芳野炎上事「上人、今、冥途ニ趣キ給フトイヘドモ、非業ナレバ、蘇生スベシ、暫、上人ト、南無ノ哭、遺カラズ、早ク、娑婆ニ歸リ給ハバ、菅丞相ノ廟ヲ建テ、化導、利生ヲ專ニシ給フベシ」

そ-せい (名) 粗製 粗末ナル作リ方。丁寧ナラズ、ゾンザイニ作ルコト。「[illegible]造」粗製品」

そ-ぜい (名) 租稅 そ(租)ト、ぜい(稅)トノ條ヲ見ヨ。 史記、貨殖傳、[illegible]

そ-せき (名) 疎斥 ウトミ、遠ザクルコト。 新五代史、[illegible]

そ-せつ (名) 素雪 〔素ハ、白ナリ〕 シラユキ。雪ノ異稱。 司馬相如、美人賦、[illegible]

そ-せつ (名) 鼠竊 コヌスビト。鼠賊。 史記、[illegible]

そ-せん (名) 所詮 しょせん(所詮)ニ同ジ。 字鏡抄「所詮、ソセン」

そ-せん (名) 祖先 せんぞ(先祖)ニ同ジ。 [illegible]

そ-せん (名) 祖餞 旅行ツナス人ヘノ、ハナムケ。餞別。 [illegible]

そ-ぜん (名) 疎髯 マバラナルヒゲ。 元史、[illegible]

そせん-そうはい (名) 祖先崇拜 先祖ノ靈ヲ、アガメ、ヲガムコト。

そ・ぜ・る (動) 損ズル。ソコナフ。「[illegible]ヲそぜる」 博多

そ-そ (名) 陰門 〔それそれト指ス意〕 女子ノ陰部。 物類稱呼「女陰ヲ、上總、下總ニテ、そそト云フ」 新撰狂歌集(元和、永田[illegible])「[illegible]ノ、內ナラバコソ、惡シカラメ、そそハ何カハ、苦シカルベキ」

そ-そ (副) 楚楚 (一)サッパリトシタル狀ヲ云フ語。アッサリトシテ。 詩經、曹風、蜉蝣篇「蜉蝣之羽、衣裳楚楚」註「楚楚、鮮明貌」 (二)[illegible] 小雅、北山之什、楚茨篇「楚楚者茨」[illegible]

〔そ-そ (感) 夫(ソ)れ夫れ、ト指シ示ス聲。 [illegible] 蜻蛉日記、上、下「アナタニ、人ノ聲スレバ、そそナド宣フニ、聞キモ入レネバ」 源、六、末摘花十「只今オ[illegible]ハスルヤウニテ、打叩キ給フ、そそヤナド言ヒテ、火取直シ、格子取放チテ、入レ奉ル」 [illegible] そそヤ聞ケ、明クル端山ノ、時鳥」

〔そ-そ (感) [illegible] 風ニ戰ゲ音、又ハ、羽ノ音ナドニ云フ語。 [illegible]

そ-ぞ (名) 〔草履(ザウリ)ノ略ノ、ざうりヲ重ネタル語〕 草履ノ小兒語。[illegible]

そ-そう (名) 祖宗 〔帝王ノ祖先ノ[illegible]〕 先祖(祖)ト、中興ノ祖(宗)ト。 [illegible]

〔そそか・し・シャ・シケレ・シク・シク (形、二) 人ノ擧動、靜カナラズ。人ノ心ノ、浮浮トシテ、落チツカズ。サワガシ。ソゾロナリ。 [illegible]

そぞかみ-た・つ [illegible] 〔そそけたつ意〕 [illegible]

〔そそ-き (名) 亂レ、ソソクルコト。 [illegible]

〔そそ-き (名) 飛揚 〔支離け木ノ略轉〕 [illegible]

草モ、きト云フ、すすきノきト、同ジ〕スズキ。今、おにのまゆはきト云フ。(其條ヲ見ヨ) 本草和名、上十一「飛廉、曾曾岐、布保保久佐」二倭名抄同ジ 字鏡抄、飛廉、ツボシクサ」

そそき (名) [注] ソソグコト 水ナドノ、飛散リカカルコト。 萬葉集、七ノ十「武庫川ノ、水ヲ早ミカ、赤駒ノ、足搔(アガ)ク激(ソソギ)ニ、濡レニケルカモ」

そそ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [進] 〔そそくハ、燥急(ソソ)くノ義、いすすくノ上略轉〕 そそくるニ同ジ。 [急進] [illegible]記、二、[illegible]雨事「澄徹、更ニそそかズシテ、二肱(カヒナ)、三肱、舞ヒ翔リテ」 源、七、紅葉賀「纔(ヒヒナ)ヲ篇揚テ、そそき居タマヘリ」 同、二、帚木四十「西面ノ格子、そそき上ゲテ、人人覗クベカメリ」 同、三十七、鈴蟲八「狀(サマ)カハリタルイトナミニ、そそきアヘル、イトアハレナルニ」 狹衣、三、下一「若君オハシテ、そそき歩(アリ)キ給フヲ」 榮花物語、六、耀藤壺「そそき立チテ、二月ツゴモリニ參ラセ給フ」 同、五、浦浦別「ヨロヅニそそき奉ル」

そそ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) 髮、紙、織物ナドノ毛、立ツ。亂レ、ワワクル。毛ムクダツ。ケバダツ。ソソケダツ。フクダム。ホツルル。 [蓬] 字鏡「鬟、加美留留介彌須久志」 名義抄「支離、ソソケタリ」 源、三十二、梅枝廿「そそけタル蘆ノ生ヒザマナド、難波ノ浦ニ似(カヨ)ヒテ」 同、廿八、野分十「花、云云、そそけタル葉ナドモ、打チマジルカシ」 徒然草、百十八段「鯉ノ羹喰ヒタル日ハ、髮そそけズトナン」 潘岳、秋興賦「斑鬢髟(ソソケテ)以承弁」

そそ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 亂レソソクル。ホホクル。 ささく(燥進)ノ條ヲ參見セヨ。

そそ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) [注] (一)流レ込ム。流レテ、落込ム。 古事記、下(雄略)「水曾曾久(ソソク)、臣(オミ)ノ少女」「百川、海ニそそぐ」 (二)落ツ。降リカカル。 夫木抄、十八「雪そそぐ、花ノミスリノ、狩衣、打チ拂ヘドモ、ムラガヘリツツ」 千載集、十九、釋教「大空ノ、雨ハワキテモ、そそがネド、潤フ草木ハ、己ガサマサマ」 源、十五、蓬生十「ナゴリノ雨、少シそそきテ、ヲカシキ程ニ、月サシ出デタリ」 (三)涙、頻(シキ)リニ落ツ。 新古今集、三、夏「聲ハシテ、雲路ニ咽ブ、ホトトギス、涙ヤそそぐ、宵ノ村雨」 (四)水、騷騷(ザワザワ)ト流ル。 應神紀、廿二年九月「峯巖紛錯、陵谷相續、芳草薈蔚、長瀾潺湲(ソソギナガル)」

そそ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(他動、四) [沃][注][溉][灌][灑][濯][瀝][洒] (一)撒(マ)キカクル。流シカク。 名義抄「灑、洒、ススグ、ソソグ」 萬葉集、五三十七長歌「痛キ疵ニハ、鹹鹽(カラシホ)ヲ、灌(ソソ)ぐ知布(チフ)ガ如ク」 新續古今集、十八、雜、中「見ル度ニ、老ノ涙ヲ、そそぐカナ、昔ノ人ノ、筆ノスサビニ」 伊勢物語、五十九段「面ニ水そそきナドシテ、イキ出デテ」「水ヲ、草木ニそそぐ」 (二)注(ツ)ギ入ルル。 [注入] 「酒ヲ、瓶ニそそぐ」 (三)其方ヘ向クル。 [注意] 「意ヲそそぐ」

そそ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(他動、四) [濯] すすぐ(濯)ニ同ジ。 名義抄「洒、ソソグ」 千載集、十一、戀、一「流レテモ、そそぎヤスルト、濡衣、人ハ着ズトモ、身ニハ離ラサジ」

そ-ぞく (名) [粗俗] 粗野ナル風俗。 漢書、揚雄傳「遐方疎俗、殊鄰絕黨之域ニ(疎、粗、通用ス)」

そ-ぞく (名) [鼠賊] コヌスビト。コソコソドロバウ。小賊。鼠竊。

そそ-くさ-と (副) ソソカシク。イソガシク。アワタダシク。セハセハシク。

そそくり (名) ソソクルコト。

そそく・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [進] 〔そそく(進)ノ轉〕 忙(イソガ)ハシク物スル。ソソク。 [急進] 名義抄「催、ソソクル、モヨホス、ウナガス」 [illegible]物語、二「御座(ヤマン)所ノ[illegible]掃ヒ、そそくりテ」 蜻蛉日記、下、下八「木草ヲ取集メテ、珍ラカナル藥玉セム、ナド言ヒテ、そそくり居タル」 源、三十四、上、若菜、上七十八「天兒(アマガツ)ナド、御手ヅカラそそくりオハスルモ、イト若若シ」 同、三十六、横笛四十「若宮ノ、睡(ネ)オビレタルヲ扱フ所「そそくりツクロヒテ、抱キ居タマヘリ」

そそけ (名) 髮ノ毛ノ、ソソクルコト。ホツレ。 好色一代女(貞享、西鶴)五「後ニ廻リテ、灸ノ蓋ヲシカヘ、髮ノそそけヲ撫デツケテ」

そそけ-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) (一)髮ノ毛、ソソク。ゾゾカミタツ。 (二)身ノ毛、イヨダツ。ゾットスル。

⁂そそ・ける (動) そそく(自動、下二)ノ口語。

⁂そそッ-か・しい (形) そそかしノ音便。 浮世風呂(文化、三馬)二編、下「私ガ一體、麁相(ソソツ)かしい生レデ」

そそ-と (副) ソト。ソット。 宗五大雙紙、上「酒ヲ入候ヤウ、盃ニ、銚子ノ口ヲ、二度、そそと當テ、三度目ニ入ル也」

そぞなは-か・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [唆] 次次條ノ、そそのかす(唆)ニ同ジ。 下學集、下、態藝門「唆、唆人(ソゾナハカス)」

そそのかし (名) [唆] ソゾノカスコト。教唆。慫慂。 榮花物語、三、樣樣悦「コノ人人ノそそのかしニヨリテ、六月一日、后ニ立タセ給ヒヌ」

そぞ-のか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [慫慂][唆][撩] (一)漫(ソゾロ)ニ進ムヤウニナス。勸ムル。オダテル。 枕草子、十二、百五十六段「奧ノ方ニ、御手水、粥ナドシテ、そそのかせバ、歩ミ入リテ」 賴政集、秋「心ニモ、アラデヤ招ク、花薄、秋ノ野風ニ、そそのかさレテ」 源、六、末摘花十四「琴(キン)そそのかさレテ、ホノカニ搔キ鳴ラシ給フ」 同、四十四、橋姫三十七「度度そそのかし聞エ給ヘド、トカク聞エスマヒテ」 同、四、夕顔三十四「御粥ナド、そそのかし聞ユレド」 同、三十一、檜柱十一「サスガニ、直接(マホ)ニハアラデ、そそのかし聞エテ、聲ヅクリアヘリ」 王介甫詩「物華撩我有詩句」 (二)オダテテ、惡シキ方ヘ導ク。教唆スル。 生玉心中(正徳、近松作)上「茶屋ノ勤メスル者ハ、人ノ小息子(コムスコ)、そそのかし、惡道ニ引キ入レル」

そそ-ばし・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [遽走] 忙(イソガ)ハシゲニ走ル。 狹衣、一、下十「麻呂ハ、マシテ不用ナリトテ、そそばしるナレバ」

そそめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [燥急] 騷騷(サワサワ)スル。サザメク。ソヨメク。ソメク。 宇治拾遺、五、第五條「人長召立テン時、竹臺ノ許ニ寄リテそそめかンズルニ」 運歩色葉集、二「利鬼、ソソメク」 源、四十九、東屋十五「コナタニモ、心ノドカニ居ラレタラズ、そそめき歩(アリ)クニ」 同、四、夕顔十「己ガジシノ營ニ起キ出デテ、そそめき騷グモ」 枕草子、三、廿八段「濱口ノ、弓鳴ラシ、沓ノ音そそめき出ヅルニ」

そそ-や (感) 〔そそ(夫夫)ト云フ感歎詞ニ、やヲ添ヘタル語〕 すはやニ同ジ。

そそ-や・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) [耳語][私語] ささやく(私語)ノ條ヲ見ヨ。 名義抄「囁嚅、ソソヤグ」 愚管抄、五、二條院「此二人(經宗、惟方)、云云、そそやきツヤキツツ、云云、惟方、云云、フト參リテ、そそやぎ申シテ、出デニケリ」

⁂そそり (名) (一)ソソルコト。 (二)ゾメキ。浮カレ騷グコト。

そそり-ぶし (名) 心ノ浮立ツ時ナドニ唄フ謳(ウタ)曲。鼻歌ノ節。 浮世風呂(文化、三馬)初編、上「石榴口(ザクログチ)ヲハイル、直(スグ)ニ、そそりぶしナリ」

そそ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) (一)〔進〕ミ、昇ル。 萬葉集、十七四十長歌「白雲ノ、千重ヲ押シ分ケ、天(アマ)ソソリ、高キ立山(タチヤマ)」 (二)心、浮立チ進ム。浮カレ騷グ。ソゾログ。スズログ。ソソメク。イススク。ゾメク。 好色一代女(貞享、西鶴)一「至リ物語、二ツ、三ツ、初(カシラ)ニそそらズシテ、萬事、落トシツケテ」

そそ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) (一)〔搖〕リ

動カス。進ミアグル。心ヲ浮キ立タスル。字類抄「沙汰、ソソル」神樂歌、早歌「ユスリアケヨ、[illegible]アケヨ一[illegible]アケテ、そそり」(二)[illegible]ゾメク。ヒヤカス。嬉遊笑覽、九、[illegible]、そめき、[illegible]ニ、[illegible]二、[illegible]ノそめきナ[illegible]エニ、[illegible]ニ、そそめく事ニ、今モ云フナリ、トアリ、因果物語ニ、七歳ニ成ケル子、此そめきノ紛レニ、水門ニハマリヌ、今ハ、そそるトモ、ひやかすトモ云ヘリ、そそりハ、[illegible]ニ、[illegible]、そそりハ、此心ナリ、俗ニ、イサマシク進ムコトヲモ、そそるト云フ、今[illegible]、[illegible]ノそそりト云フ事スルヤウニシテトアリ、ひやかしハ、惡ル口利キナドシテ、興ヲ醒スサマナリ」「郭ヲそそり歩ク」

〔そそろ〕 (名) 〔廻〕 鷙鳥ノ、食、已リテ、其皮毛ノ、丸ノ如キヲ吐クモノ。倭名抄、十八「[illegible]、[illegible]、吐[illegible]、丸也」

そぞろ-ありき (名) 〔漫歩〕 又、そぞろあるき。すずろありき(漫歩)ニ同ジ。

そぞろ-あるき (名) 〔漫歩〕 前條ノ語ニ同ジ。すずろありき(漫歩)ノ條ヲ見ヨ。

そぞろ-うた (名) 〔漫歌〕 何ノ、ワケモナキ歌。[illegible]トメノナキ歌。太平記、十七、山門[illegible]ノ[illegible]ニテ[illegible]ギタル矢ノ、十五[illegible]三代アリケルヲ、百矢ノ中ヨリ、只二筋、拔キテ、弓ニ取リ副へ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]へ[illegible]レバ」

〔そぞろ-がほ〕 (副) 身ノ丈ノ聳エテ、高キ狀ニ云フ語。[illegible]、[illegible]ウ、そぞろか[illegible]、[illegible]立そぞろかナル[illegible]ニ、[illegible]、イト[illegible]ニ、面持、アユマヒナド、大臣ト云ハンニ足ラヒ給ヘリ」とりかへばや、三「コレハ、今少シそぞろかよ、ナマメケル氣色、マサリ給ヘリ、カレハ、少シ、ササヤカニ、小サキ方ニヨリタマヘリ」狹衣、一、下「[illegible]ド、イトドイミジウ、思フ事ナゲニ、心行キタル氣色ニ[illegible]

そぞろ-がま・し シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔漫〕 すずろがまし(漫)ニ同ジ。[illegible]集(西行)上「山里ノ、外面ノ岡ノ、高キ木ニ、そぞろがましき、秋ノ蟬カナ」

そぞろ・ぐ グ・ゲ・ゲ・ギ・ギ・グ (自動、四) 〔漫〕 すずろぐ(漫)ニ同ジ。住吉物語「言ヒヤル方モナ[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ、ホノメク空ニ、秋ヲコメテ、そぞろぎ渡ル、山ノ端ノ[illegible]、そぞろき[illegible]」

〔そぞろ-おぼろ〕 (名) 〔漫心〕 すずろおぼろ(漫心)ニ同ジ。宇[illegible]、[illegible]、[illegible]ヤシキそぞろ心ノ附キテ、アクガレ初メニシヲ、[illegible]、心[illegible]ノ[illegible]、ラサリシカバ」

〔そぞろ-ごと〕 (名) 〔漫言〕 すずろごと(漫言)ニ同ジ。[illegible]、そぞろごとニ、[illegible]ヲバ[illegible]メツツ、[illegible]ニアルベキ[illegible]ハ、[illegible]ハズナガ[illegible]、徒然草、百[illegible]コレハそぞろごとナレバ、云フニモ足ラズ、ト云ハレケルヲ」

〔そぞろ-さむ・し〕 キ・ケレ・ク・ク (形、一) 〔漫寒〕 何トナク、漫ニ寒シ。ゾットスル。鳥肌、立ツ。[illegible]、九、[illegible]イト[illegible]シクテ、サト打[illegible]ル、そぞろさむきタノ景色ナリ」[illegible]、廿[illegible]、[illegible]ヤヤ[illegible]テ、そぞろさむきニ、[illegible]ヒテ、カヨレル[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ名」[illegible]、二十四、下、[illegible]、下、[illegible]ノ事、そぞろさむく、面白サモ、アハレサモ、立チソヒタリ」榮花物語、十九、[illegible]「[illegible]ノ[illegible]モ、そぞろさむく」

〔そぞろ-ゐ〕 (名) 〔漫不覺坐〕 〔すずろゐノ轉〕 (一)すずろゐノ(一)ニ同ジ。枕草子、[illegible]、[illegible]ク、そぞろ[illegible]、[illegible]、何トナ「そぞろなる人ノ手ヨリ、物ヲ多ク得テケリ」遊仙[illegible]、[illegible]、[illegible]二字[illegible]津保物語、[illegible]、中[illegible]「北ノ方ハ、そぞろゐオボサルレ[illegible]

鏡、第八、山のもみぢ葉「シメヤカニ、心ノ底ユカシウ、そぞろゐ心ヅカヒヒシルルヤウニテ」うたたねの記(阿佛尼)「都ノ山ヲ顧ミレバ、霞ニ、ソレトダニ[illegible]、[illegible]、そぞろゐ[illegible]」[illegible]拾遺行、注「坐無、故也」(二)すずろゐノ(二)ニ同[illegible]、[illegible]、[illegible]そぞろなる和布ノ端ヲ包ミテ、給ヘリシカバ」[illegible]

〔そぞろ-は・し〕 シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔漫然〕 すずろはし(漫然)ニ同ジ。源、七、紅葉賀「イトド及ビ無キ心地シ給フニ、そぞろはしキマデナム」榮花物語、廿四、若枝「イカニ見ルラント、そぞろはしう[illegible]」

そぞろ・ぶ ブ・ブレ・ビ・ビ・ビ・ブ (自動、[illegible]) すずろぶ(漫)ニ同ジ。

そぞろ-ぶるひ (名) 〔漫震〕 不覺ニ、身震スルコト。蟬丸(元祿、近松作)二「積ル煩シキ逢フ時ハ、心後ニ胸騷グ、そぞろぶるひノ寒ナリ」

そぞろ-め (名) 〔漫目〕 何處トナク、向ケタル目附。見ルトハナシニ、見ル目ツキ。教訓抄、七、舞曲源物語「見目モ、そぞろめヲ使ハヌナリ、人ヲ見、[illegible]クナリヌレバ、[illegible]ト貴名ニナル」

そだ (名) 〔粗朶〕 〔殺枝ノ略カト云フ〕 木ノ枝ヲ伐リ取レルモノ。薪トシ、堤ヲ築ク料トシ、海苔ヲ取ル[illegible]

そだい (名) 〔粗大・疎大〕 アラクテ、大マカナルコト。

そだい [illegible]

[illegible]

人、[illegible]ノ、貧乏ナル者ヲ云フ語。[illegible]大、[illegible]、[illegible]、[illegible]「南風孔忽、[illegible]」[illegible]

そたう (名) 〔疎宕〕 疎大ニシテ、豪宕ナルコト。氣性ノ、大イニ寬キコト。北史、[illegible]傳「有、[illegible]、疎宕不拘」

そだう (名) 〔祖堂〕 (一)祖先ヲ祀レル靈[illegible]、[illegible]、[illegible]

そだう [illegible] 〔[illegible]〕 [illegible]「祖」人ノ首途ニ、道祖神ヲ祭リ、目ツ、宴スルコト。ウマノハナムケ。祖ノ[illegible]、[illegible]

そだう (名) 〔疏導〕 〔祝文「疏、通也」〕 [illegible]

〔そだた・く〕 ク・ケ・カ・キ・ク (他動、四) 〔[illegible]〕 [illegible]ト、タタク、[illegible]、[illegible]、[illegible]

そだち [illegible] 〔生立〕 [illegible]

そたつ [illegible] 剃出、所、[illegible]

韈撻。後漢書、崔世叔妻傳「楚撻旣行、何義之存」

そ-たつ　(名)　疏達　(一)道理ノ、通達スルコト。疏通。禮記、樂記篇「廣大而靜、疏達而信者、宜歌大雅」　(二)疏ク通リテ、小事ニ拘泥セザルコト。命拭、滕公誌銘「公性疏達不羈、在帝前論事、如家人」

そだ・つ　ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四)　育〔巣立つるヨリ移ル。養むモ、羽裏むナリ〕　時ヲ歴テ、大キクナル。生ヒ立ツ。脊丈、延ブ。成長ス。成育。爲仲集「モモシキニ、そだつトナラバ、鶯モ、雲居ノ鶴ヲ、見モ習ハナン」夫木抄、十二「谷深ミ、千代ノ田井ニ、井モリシテ、マレニそだてル、稲穂ノ稲」孤桐ノ句「惜シヤ花、育たメ土ヘ、栽エカヘル」祇園女御九重錦(寶曆)若竹笛躬「我レコソ讒ハ、柳ノ精、市路ノ悪ニ生ヒそだち、カヤウニ夫婦トナルコトモ、一方ナラヌ因縁ゾヤ」

そだ・つ　ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二)　育　育ツヤウニナス。養ヒテ、生シ立ツル。成長セサス。養育ス。夫木抄、廿七「思ヘタダ、雀ノ雛ヲ、飼ヒオキテ、そだつるホドハ、愛シキモノヨ」新千載集、廿、慶賀「千歳マデ、行末遠キ、鶴ノ子ヲ、そだてテモ猶、君ゾ見ルベキ」平家物語、八、緒環事「爭ナク産ヲシタリケレバ、男子ニテゾアリケル、母方ノ祖父、そだて見ントテ、そだてタレバ」

そだて　(名)　育　ソダツルコト。ソダツル狀。又、シコミ。シツケ。「そだてガ善イ」

⁂そだ・てる　(動)　育　前前條ノ語ノ口語。

〜そた・る　ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)　具足　備リ、足ル。佛足石歌「三十餘リ、二ノ像、八十種ト、會太禮留人ノ、踏ミシ跡所」

〜そち　(名)　帥　〔字ノ入聲、卒。然レドモ、そゐナルベキナリ〕　太宰府ノ長官。そつ(帥)ニ同ジ。源、十二、須磨三十七「そち、御消息聞エタリ」蜻蛉日記、中、上二「大臣(左大臣源高明)法師ニナリ給ヒニケレド、强ヒテそちニナシ奉リテ、追ヒ下シ奉リテ」孝德紀、五年正月「筑紫大宰帥」持統紀、八年九月「三野王拜筑紫大宰帥」擧ハ、擧ノ誤字、擧ハ、率ノ古文ナリ)

そ-ち　(名)　措置　トリハカラヒ。處置。歐陽修、通進司上書「隋文帝時、沿水爲倉、轉相措置」

そ-ち　(名)　素地　〔博雅「素、本也」〕　シタヂ。論語、八佾篇、朱熹、注「人有此倩盼之美質、而又加以華采之飾、如有素地而加采色也」

そ-ち　(名)　所知　すょち(所知)ニ同ジ。字類抄「所知、ソチ」

そ-ち　(代)　其方　〔其路ノ義カ。彼路、此路、何路ニ對ス〕　(一)〔稍、身ヨリ離レタル方位ニ用ヰル代名詞。ソノカタ。ソナタ。ソッチ。ソチラ。萬葉集、二十四二十長歌「殺如、曾知ヨリ來レバ」　(二)下輩ニ用ヰル、對稱ノ代名詞。史記抄(文明)十「そちガ云ワズトモ、我モ、サ思フタゾ」狂言記、鍋八撥「先へ來タ某ヲ退ケウヨリ、そち、退ケ」

ソヂウム　(名)　〔英語、Sodium.〕　など りうむ(亞刺比亞語、Natrium)ノ英國名。其條ヲ見ヨ。

そち-あち　(代)　其方此方　ソチラト、コチラト。カナタ、コナタ。「そちあちニ見ユ」

そち-あち　(副)　其方此方　カレコレ。オホカタ。(推量ニ云フ語)　浮世風呂(文化、三馬)三編、上「松ノ内ハ、早仕舞ナリ、そちあちスル內、這入リ損ウカラ」

そ-ちん　(名)　訴陳　訴狀ト、陳狀ト。又、原告ト被告トノ申立。目安。解狀。太平記、十二、龍馬進奏事「訴人、日日ニ、減ジテ、訴陳徒ラニ閣ケル」同、三十五、青砥左衞門事「地下ノ公文ト、相模守ト、訴陳ニ番フ事アリ」

そ-ちゃ　(名)　粗茶　品ノ劣レル製茶。(人ニ勸ムルニ云フ謙語)　楊萬里詩「粗茶淡飯終殘年」「粗茶一服、差上グル」

そ-ちゃう　(名)　租帳　王朝時代、地方官ヨリ、毎年、田租ニ關スル事項ヲ記シテ、中央政府へ差出シタル帳簿。主稅寮式、上「凡諸國租帳、注過分損并過分不堪佃田者、皆據當令改正、然後勘之」同、同「凡勘租帳者、年帳、卽通計國內、十分以得七分已上爲定」政事要略、五十七「應下班符未下間置勘出、勘濟永觀元、寬和元二、永延元、并、四箇年租帳上事」

そ-ぢゃう　(代)　そんでふノ條ヲ見ヨ。長門本、平家物語、十二、小督事「そちゃう其處、何處ノ片折戸トコソ尋ヌルニ」

そ-ちゅう　(名)　疏註　ちゅうそ(註疏)ニ同ジ。陶弘景、論書啓「二卷中有雜迹、謹疏註如別」

そちら　(代)　其方　〔らハ、添フル辭。其條ヲ見ヨ〕　そち(其方)ノ條ノ(一)ニ同ジ。狂言記、どぶかっちり「足ノママナ、ナゼニ又、そちら行カシャッタゾ」

そつ　(名)　帥　〔字ノ音、そゐ(所類反)ナルベキヲ、斯ク讀來レリ、督帥(所律反)ノ義カ〕　又、そち。太宰府ノ長官。正、權アリ。字類抄「帥、ソツ、在太宰府」職原抄、下、末「帥、勅任官也、多是以品親王任之」

そつ　(名)　卒　(一)雜兵。足輕。兵卒。史記、朝鮮傳「困辱亡卒、卒皆恐」　(二)卒族。明治三年七月現在、全國諸藩ノ卒族三十五萬五千三百四十四人、後ニ、士族ニ加ヘラル。足輕ノ條ノ(三)ヲ併セ見ヨ。

そつ　(名)　輕率　カルハズミ。ケイソツ。ムダナルコト。

⁂そ-つ　(名)　〔損墜ノ音カト云フ〕　(一)ツヒエ。入費。(二)遺失。テオチ。「カウスレバ、そつが無イ」(靜岡縣)

そ-つう　(名)　疏通　(一)障ナク、ヨクトホルコト。蘇軾詩「秀句益疏通」「水、疏通ス」上下ノ意思、疏通ス」　(二)道義立チテ、條理ノ明ラカニナルコト。史記、五帝紀「靜淵以有謀、疏通而知事」漢書、儒林傳「疏通證明之」

そ-つう　(名)　楚痛　〔楚ハ、痛ナリ〕　イタミ、苦シムコト。史記、文帝紀「夫刑至斷支體、刻肌膚、終身不息、何其楚痛而不德也」

そっ-きょ　(名)　卒去　〔字ノ音、そッきょノ訛〕　五位以上、三位以下ノ人ノ死去ノ稱。支那ニテハ、大夫ノ爵ノ人ノ死ヲ云フ。(卒すノ條ヲ見ヨ)

そっ-きょ　(名)　卒遽　事ノ、急遽ニシテ、狼狽スルコト。漢書、丙吉傳「問以虜所入郡吏、吉具對、御史大夫、卒遽不能詳知」

そっ-くひ　(名)　續飯　そくひ(續飯)ノ急呼音。

⁂そっ-くび　(名)　素首　そくび(素首)ノ急呼音。國性爺合戰(正德、近松作)千里竹「安大人ガ素首ヲ摑ンデ、指シ上ゲ」「そッくび引キ拔ク」

そっくび-おとし　(名)　素首落　そくびおとし(素首落)ノ急呼。

そっくら　(副)　次條ノ語ノ(一)(二)ニ同ジ。

⁂そっくり　(副)　〔そぐふ(似)ノ意、すッかりニ通ズ〕　(一)アリノママ。ソノママ。酷肖　酷似　宛然　「母、そッくりノ娘」(二)スベテ。殘ラズ。ミナ。「そッくり與ル」(三)竊カニスル狀ニ云フ語。コッソリ。(四)俄カニ、挫ケ弱ル狀ニ云フ語。日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)三「馳馬、谷ノ板橋、ガクリ、そッくり、歩ミナヅムガ如クナリ」

ぞっくり　(副)　前條ノ語ノ(二)ヲ強メテ云ヒタル語。

そっくりかへ・る(ソツクリ・カエ・ル) ・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四） 反繰返 そりかへる（反返）ニ同ジ。「赤兒が、そ、くりかへッテ啼ク」顛倒シテ、消端ニそッくりかへる」

そっけな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二） 無素氣 〔すげなしノ轉〕愛想ガ、無シ。思ヒヤリナシ。「そッけガ無イ」「そッけ無シ」

そつげふ(ソツ・ギョウ) （名） 卒業 規定ノ事業ヲ、完了スルコト。學業、技藝ナドノ課程ヲ、卒ヘタルコト。司馬相如、難蜀父老「百姓力屈、恐不能卒業」「學校ヲ卒業ス」

そつご （名） 卒伍 （一）庶人ヲ兵卒ニ編制シタルモノ。周禮、地官篇、小司徒「乃會萬民之卒伍而用之、五人爲伍、五伍爲兩、四兩爲卒」（二）平民ノ戸籍。史記、項羽紀「願與諸侯骨肉歸卒伍」（三）兵卒ノ列伍。

ぞっこん （名） 「ちゅこん（種根）ノ訛ナラムカ」根本。種姓。平家物語、一、鵜川合戰事「成景ハ、京ノ者、熟根イヤシキ下﨟ナリ」

ぞっこん （副） 心底。心カラ。曾我會稽山（享保、近松作）四「今宵ノ雨ハ、身ニカカリ、ぞッこん徹ッテ、ワヂワヂト、物悲シウ罷リナル」「ぞッこん惚レル」

そつじ （名） 率爾卒爾 言語、動作ノ、輕率ナルコト。唐書、呂元膺傳、十四、三井寺夜話事「雖カ等閑ヲ存ジ、勇心ナカラン、然バ、率爾ノ夜討ヲ止メ、能能、謀ヲ帷幄ニ廻シ」

そつじながら （副） 乍率爾 率爾ナレドモ。唐突ナガラ。狂言記、宗論「そつじながら、道連レニナラシャルマイカ」假名手本忠臣藏、竟近、竹田出雲ニ旅人、率爾ながら、ちヨット一ツ、御貸シ」

そつじま （名） 率爾率爾 〔語意、前條ノ率爾ニ同ジ〕イササカニ。イササメニ。カリソメニ。ツイ、チョット。論語、先進篇「如或知爾、則何以哉、子路、率爾而對」太平記、十四、新田足利確執奏狀事「中ス處、實ナラバ、尊氏直義等、罪責遁レ難シ、但、以片言獄、訟事、老臣ノ出テ制ストモ、止ムベカラズ」萬葉集、十五「率爾、尊氏ガ罪科ヲ可被定歟」萬葉集、十五二「率爾、今モ見ガ欲シ、秋萩ノ、撓ヒテアラム、妹ガ姿ヲ」

そつぢゃう （名） 卒乘 兵卒ト、車馬ト。即チ、兵隊。左傳、隱公元年「繕甲兵、具卒乘」注「步曰卒、車曰乘」

そっ・す （動） ちゅッす（卒）ノ誤。

そっせん （名） 率先 衆ヲ率ヰテ、先立ツコト。サキガケスルコト。師先 晉書、劉喬傳、榮陽當矢石、爲衆率先、忠義篤至忘家」

そつぜん （副） 率然卒然 輕率ナル狀ニ云フ語。ニハカ。ダシヌケ。漢書、東方朔傳「率然高擧、遠集、異地」史記、劉敬傳「卒然有急、百萬之衆可具也」

そつぞく （名） 卒族 あしがる（足輕）ニ同ジ。其條ノ（二）ヲ見ヨ。

そっとう(ソツ・トウ) （名） 卒倒 卒ニ、氣絕シテ倒ルルコト。（時ヲ移シテ蘇ルニ云フ）假死

そったく （名） 啐啄 〔さいたく、ちゅッつたくト讀ムガ、正音ナルベシ〕雛子ノ孵化セントスル時、小雞、卵中ニテ啐ト吮フ聲ヲ啐ト云ヒ、母雞、出サント欲シテ、殼ヲ嚙ムヲ啄ト云フ。以テ禪人、機鋒、相撲スルニ譬フ。又、啄ヲ喙ニ作ルハ誤ナリ」機緣、相投ジテ、得解スルコト。二人ノ點ノ合フヲ、合點ト云フガ如シ。得難キ好時節。碧巖錄「……啐啄」……[illegible]……甲斐國ノ武田信玄へ書ヲ送リシニ、……信長ヲ以テ、書ヲ酒井左衞門尉へ遣リシニ、紙表ニ、啐啄ノ二字アリ、當時、其書ノ意ヲ知ル者ナク、東國ニ聞ク、石川日向守家成、是ニ對シ、其文字ノ意ノ取リシハ、……フハ、鳥ノ卵ヲ破ルニ、ソノ節アリ、太早ケレバ、未、水ニテ益ナシ、餘リ遲ケレバ腐ルト云フ意味ナリト答フ、此事、御聽ニ及ブ所、萬端、時ヲ待ツ事、肝要ナリ、武將ハ、其心ノ有ルベキ事……テ、鳥ノ……シムル事……山小兵衞ヲ召シテ、御モ能ク夜居ヲナシ、其節ヲ得予、……傳燈錄、……[illegible]

そっち （代） 其方 こち（其方）ノ音便。

そっちのけ （名） 其方退 除物ニスルコト。ソッチノケ。除外。

そっちゅう （名） 卒中 卒中風ノ略。

そっちゅうぶ(ナカイフウ) （名） 卒中風 病ノ名。急ニ、鬱血ノ條ヲモ見ヨ。

そっちゅうぶ （名） 卒中風 病ノ名。急、膈ニ迫マリテ、俄カニ卒倒シ、人事不省ニ陷ル。……風ノ病名集、二二卒中風ハ、卒然トシテ顚仆シ、人事ヲ知ラザル也」

そっちょく （名） 率直 サッパリトシテ、正直ナルコト。スナホ。キスグ。マッスグ。

そっと （名） 帥土 〔率ハ、循ナリ、濱ハ、涯ナリ〕率土之濱 ……[illegible]……

そっと （副） ……ノ音便。靜カニ。ヒソカニ。ヤヲラ。狂言記、……「そッとお起シマセ」

ぞっと （副） 寒心 慄然 身ノ毛、イヨダツ狀ニ云フ語。……

そっとのひん （名） 率土之濱 ……もこ（普天之下）ノ條ヲ見ヨ。……北山之什、北山篇、溥天之下、莫非王土、率土之濱、……」

そっぱ （名） 反齒 〔そりはノ音便〕前齒ノ、前ヘ反リテ、唇ヨリ出ヅルモノ。出齒。デッパ。……

そっぱう(ソツ・ホウ) （名） 外方 ソトノカタ。ホカノ方。「そッぱう向ク」

そっぱづれ(ソツ・パズレ) （名） 外端 はづれ（外）ト云フ、……

そっぱふ （名） 率法 ……

ソップ (名) [肉汁] 〔蘭語、Sop. 羹汁トモ譯ス〕 又、そつぷ。鳥獸ノ肉ヲ煮出シタル汁ニ、多少、調味シタルモノ。鶏肉ノそつぷハ、上等ノ鶏肉ヲ鍋ニ入レ、肉、一ニ對シテ、水、四、又ハ、五ノ割合ニテ煮立ツル。百目ノ肉ヨリ、一合程ノそつぷヲ、取ルナリ。

そつぷん-ぢよ (名) [率分所] りつぶんぢよ(率分所)ニ同ジ。 職原抄、下「諸國ノ率分所ハ、率ノ字ヲりつトヨム、如何、率ノ字ハ、ツネニハそつトヨム、但シりつトヨムヤウアリ、力出反ナリ、そつトヨムベキヲ、入聲ノ通音ナレバ、りつトヨミナス、そつトヨミナス、そつトヨムハ、ヒキイルト云フ訓ナリ、引率ナリ、りつトヨムニハ、アテガフト云フ訓ナリ、スナハチ率分ナリ、アテガヒワカツ心也、率ヲバ、ヲホムネトモヨム」 拾芥抄、中、末、宮城部「正藏率分所、大藏省納物、割二十分之二、以爲二別納一、以二辨官一人一掌二其史一云云」

そつぽう (名) 頰ヲ、嘲リテ云フ語。 傾城酒呑童子(享保、近松作)一「劍木追取ッテ、テッペイ、そつぽう、肩骨、胸骨、天窓ノ鉢、劍木限リ、腕限リ、打合ヒ、投合ヒシハ」 浮世風呂(文化、三馬)四編、中「そつぽう叩リ曲ゲテ、ガント云フ目ニ合ハセテ呉レラア」

そつゆう (名) [率由] 又、そついう。シタガヒ、ヨルコト。 書經、微子之命篇「率二由典常一、以蕃二王室一」 孟子、離婁、上篇「詩云、不レ愆不レ忘、率二由舊章一」

そつれい (名) [率勵] 前ニ立チテ、衆人ヲヒキヰ、ハゲマスコト。 北史、李遷傳「遷果李、率二勵郷人一、欲レ圖二拒守一」

そで (名) [袖] 〔衣手ノ義ト云ソ、或ハ、衣出ノ約カ〕 (一)〔衣ノ左右ノ、手ヲ入ルル所ノ總名。(上世ノ下民ハ、筒袖ナリ) 肱ニ當ル所ヲ、たもとトス。 倭名抄、十二、衣服具、袖「釋名云、袖、所二以受レ手也」 字鏡、八「袂、袖末也、[illegible]一名」抄「袂、ソデ、タモト」 續紀、四、和銅元年閏八月「制、自今以後、衣襟口、闊八寸已上、一尺已下、隨二人大小一爲レ之」 禮止寧六「凡、衣袖口闊、無二闊狹高下一、同作二一尺二寸已下一」 (二)卷物、又、文書ノ、初ノ端。(文書ノ初ニ白ク殘シタルハ、衣ノ端ナル袖ニ似タレバ、云フ) 倭名抄、五、文書具「褾帶、褾、袖端也」 江家次第、四、除目直物「可レ注レ付今夜拜任官於二中文袖一、其上合點」「そで書」「そで判」 (三)鎧ノ具。頸ヨリ懸ケテ、肩ヲ被フモノ。肩甲 保元物語、一、軍評定事「清盛ナドガへろへろ矢、何程ノ事カ候フベキ、鎧ノ袖ニテ拂ヒ、蹴散シテ捨テナン」 (四)牛車、輿ナドノ口ノ、左右、前後ノ所ノ名稱。前方ニアルヲ前袖、後方ニアルヲ後袖ト云フ。又、袖ノ内面ヲ裏、又ハ内ト云ヒ、其外面ヲ袖表ト云フ。 榮花物語、十、日蔭葛「車ノアリサマ、云云、袖ニハ、置口ニテ蒔繪ヲシタリ」 (五)涙ヲ拭ヒテ、浸リタル袖。 新勅撰集、十六、雜、一「袖ノ波」「そでノ雨」「そでノ水」〔袖の笧トハ、袖ヲ流ルル涙ヲ、抑ヘトドムル笧ト見テ云フ語。 源、四十、幻「マシテ、袖の志がらみ堰キアヘヌマデ、アハレニ」 〔袖の時雨トハ、袖ヲ潤ス涙ヲ、時雨ト見テ云フ語。 源、四十五、椎本「九月ニモナリヌ、云云、マシテ、袖の志ぐれヲ催シガチニ」 袖の雫トハ、袖ニ落ツル涙。 千載集、十三、戀、三「ヨソニシテ、抵捂キシ人ニ、イツシカト、袖の志づくヲ、問ハルベキカナ」 〔袖のわかれトハ、後朝ノ離別。 萬葉集、十二、三「白妙ノ、袖之別ハ、惜シケドモ、思ヒ亂レテ、縱シツルカモ」

そであい-づき (名) 陰暦七月ノ異稱。

そで-あふぎ (名) [袖扇] 扇ノ一種。骨ハ黑塗、長サ六寸七分、地紙ハ鳥子ニテ、繪模様ヲ描ケリ。ソデセンス。 洞房語園(享保)二「お局中ノ袖扇子ニ、エヒ香(裏衣香)ノ匂モ、イトドシク、トキメキテ、メデタシ」

そでうつし (名) [袖移] 物ヲ表ヘ現ハサズシテ、數人ノ袖ヨリ袖ヘ、移シ送ルコト。「賄賂ヲ袖うつしニ贈ル」

そでうら (名) [袖裏] 袖ノ裏地ニ用キル布。 賀古教信七墓廻(元祿、近松作)三「十二三ナル、小法師ノ、紋紗ノ衣ニ、紅ノ袖裏」 藥師通夜物語(寛永)「幼キ時ヨリ、樂ヲシテ、綸子ヤ、紗綾ニ、羽二重ヲ、憲法染ニ、數ヲシテ、裏ニ紅梅モミヲ付」

そでがうし (名) [袖格子] 牛車ノ袖ノ裏ノ、格子ニシタル所。そで(袖)ノ條ノ(四)ヲ參見セヨ。 輿車圖考、九「軒格子、袖格子、車ノ内ノカタ棟、左右、かうしアリ」 蛙抄、車輿「女車、壯年人ハ、袖格子三重襷、(如レ菱)軒格子、常ノ體ニテ、三重襷(非レ菱也)」

そでがうろ (名) [袖香爐] 携帶シテ、衣中ニ用キル香爐。機環アリテ、轉廻シテ、爐ノ體、常ニ平ナルヤウニ作レルモノト云フ。袖爐。

そでがき (名) [袖書] 〔袖ハ、初めナリ、袖ノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕 (一)物ノ端ニ、書キックルコト。古ヘノ公文書ニ、別ニ、當職ノ人ノ、行ヲ下ゲテ、文ヲ書キ入ルルコト。ソデビカヘ。 江家次第、四、除目「選出可レ袖書二中文一」 同、同條「内給、當年給、并、未給、名替、國替等也、以上皆、袖書注二内給一(藏人所、書也)」 蟬冕翼抄、春除目「中久、加二袖書一事」 建武年中行事、縣召除目「短冊ツケ、袖書シテ、硯ノ箱ノ蓋ニ積ム」 (二)書狀ノ本文ヲ書キ終ヘテ後ニ、追而書ヲナスコト。古キ文書ナルハ、紙ノ初ヨリ、本文ヨリ一段低ク書キ始メテ、本文ノ行間ニ入リテ、小字ニ書ク。後世ノ手紙ナルハ、本文ノ初、又ハ、末ニ書ク多クハ、首ニ「追而申ス」「尚尚」ト記シ、婦人ノナルニハ「かへすがへす」

ナド書クヨリ、おってがき、なほなほがき、ナドき、かへしがき、又ハ、かへすがき、ナド云ヒ、追啓、二伸、再申ナドトモ書ク。 拾玉集、慈圓、文治九年十一月、雪ノ朝、云云、ソノ返事ニ、袖書きシテ」

そでがき (名) [袖垣] 竹垣ナドノ、物ニ添ヘテ、低ク取付ケタルモノ。 夫木抄、三十一「心ナキ、賤ガシワザト、見エヌカナ、朝顔咲ケル、柴ノ袖がき」 好色一代男(天和、西鶴)七、口添へて[illegible]、前栽ニ下リテ、萩ノ袖垣ナド、物毎ニ眺メテ、露分衣搔イドリ前シテ、野根板ノ戸、明クルモ音セズ」

そでがさ (名) [袖笠] 袖ヲ被キテ、笠ニ代ノルコト。ヒヂカサ。 堀河百首、冬、時雨「晴レ曇リ、定メナケレバ、初時雨、妹ガ袖笠、借リテ來ニケリ」 續千載集、七、戀歌「空ハマダ、アマゲニナレヤ、春ノ夜ノ、月モ霞ノ、袖笠ヲ被テ」 源、十二、須磨卷ノ、ひち笠雨ヲ、河海抄ニ解キテ「笠モ取リアヘズシテ、袖笠シタル由也」ト見エタリ。 夫木抄、三十二「イカニセム、我レ頭スラシ、袖笠ノ、下ニゾ涙、雨ト降リヌル」 盛衰記、四十二、玉蟲立レ扇事「二月廿日ノ事ナルニ、柳ノ五重ニ、紅ノ袴着テ、袖笠被ケル女房アリ」 萬葉集、十二(三十)「タダ一人、寐レド寐カネテ、白妙ノ、袖ヲ笠ニ着、濡レツツゾ來シ」 落窪物語、一「笠モ取リアヘデ、袖ヲ被キテ歸ル」

そでかさあめ (名) [袖笠雨] 袖笠ヲシテ凌グホドノ、少シノ雨。ヒヂカサアメ。 五十年忌歌念佛(寶永、近松作)下「三界ヲ、只ダ家トシテ、袖笠雨ノ宿リニモ、心トドメヌ假枕」

そでガッパ (名) [袖合羽] 袖ノ附キタル合羽。かっぱ(合羽)ノ條ヲ見ヨ。

そでがひ (名) [袖貝] (一)あこやがひ(阿古屋貝)ノ一名。 夫木抄、廿七「浪洗フ、衣ノ浦ノ、袖貝ヲ、汐干ニ風ノ、タタミオクカナ」 (二)貝ノ一種。介殼ハ、堅固ニシテ、卵形ヲ呈シ、兩端、尖リ、多クハ、疣狀突起ヲ有

ス。殼面ハ、薄キ外皮ヲ以テ掩ハレ、殼口ハ、長クシテ、幅、狹ク、前後、兩端ニ溝ヲ[illegible]ス、外[illegible]ハ、常ニ[illegible]ス。北[illegible]ニ、[illegible]、大形ナルモノアリテ、多ク、熱帶地方ノ淺海ニ産ズ。

そでがらみ (名) [袖搦] つくぼう(突棒)ノ條ヲ見ヨ。

そでぎちやう (名) [袖几帳] 袖ヲ揚ゲテ、顔ヲ隔テ掩フコトト云フ。袖屏風ノ類。枕草子、四、四十三段「袖ヲ塞ギ、ツユ、見オコセズ、云云、サテ後ニ、袖几帳ナド取リノケテ、思ヒナホリ給フメリシ」榮花物語、廿六、楚王夢「若キ人人、散米ヲ生憎ニスレバ、御袖几帳ノ程モ、ヲカシク見エサセ給フニ」

そでぐくみ (名) [袖包] 袖ノ中ニ入ルルコト、袖ニテ包ムコト。源、六、末摘花「アヤシキ物ニ、火ヲ、タダ灰カニ入レテ、袖ぐくみニ持タリ」萬葉集、十九、草木「侍ヲ、木ニ寄セテ、枝ヲ伐ラセテ下サル、ソノ枝ヲ、袍ノ袖ぐくみニ取リテ出ニケリ」

そでぐくり (名) [袖括] 狩衣、水干、直垂、等ノ袖口ノ下ニ、緒ヲ、大針、小針、交互ニ刺シタルモノ。手ヲ遣フトキ、此緒ヲ締メテ、袖ヲ、手首ニ括リ結ブ。其端ノ垂レタルヲ、つゆト云フ。

そでぐち (名) [袖口] (一)簾ナドノ下ヨリ、女房ノ衣ノ袖ヲ出スコトト云フ。源、九、葵「所所ノ御棧敷、心心ニ爲盡シタル装置、人ノ袖口サヘ、イミジキ見物ナリ」同、八、花宴「袖口ナド、踏歌ノ折、覺エテ、殊更メキ、モテ出デタルヲ」榮花物語、廿四、若枝「袖口ハ、[illegible]出デタルホド、火桶ノ小ヤカナランヲ据ヱタラント見エタリ」(二)袖ノ端ノ、手首ノ出ヅル所。又、袖グルミ 袖[illegible] 袖口ニ綿ヲ入レテ、

脹ラカニ縫ヒタルヲ、括袖、又、括袖口ト云ヒ、ソレヲ調カニ縫ヒタルヲ、[illegible]ぐくりナリ。 沙金袋(明暦)「タチハヅレ、雲ヤ雲ノ、袖ぐるみ」己が光(元祿)「若菜摘ム、手ヤ袖緣ノ、紅ノ色」綠府集(延寶)「結ヒソヘル、垣ノ尾花ヤ、くくり袖」 時諸風(延享)「大名ノ縫袖口」 袖口ノ[illegible]ヲ、袖覆輪ト云フ。 毛吹草(寛永)[illegible](小サキ[illegible]、袖ふくりん」 日本永代藏(貞享、西鶴)「京[illegible]室町ニ、[illegible]市ト云フ、[illegible]、袖[illegible]輪ト云フコト、此人、[illegible]、當世風俗、見ヨゲナ[illegible]袖ニナリヌ」色道大鏡(延寶、[illegible])[illegible]ノ人、好ミ來ルハ、六方ガカリナド云フ、是ハ、袖ノ裄短ク、大袖口、丸袖口、針金入、云云」 毛吹草(正保)「雲ノ袖、ふくりんカクル、霞カナ」

そでくらべ (名) [袖較] 衣服ノ市。又、[illegible]ノ條ノ語意ニ同ジトモ云フ。 宇治拾遺、五、第一條「今ハ昔、山科ノ道南ニ、四ノ宮河原ト云フ所ニテ、そでくらべト云フ、商人集ル所アリ」

そでくらめ (名) [袖較] 物品ノ賣買ニ、ソノ價ヲ、他ニ知ラセヌヤウニ、賣主ト、買手ト、互ニ、袖ノ中ニテ手ヲ握リテ、價ヲ定ムルコト、[illegible]今モ、馬喰ナドガ、コレヲ行フ) 拾玉集(慈鎭)三「アハレナリ、誰レモ世渡ル、鹿ソカシ、ソノ、山科ノ、そでくらめマデ」

そでぐるみ (名) [袖包] そでくち(袖口)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

そでおし (名) [袖輿] 輿ノ袖ニ、花ナドヲ描キタルモノ。 滿濟准后記、正長二年三月十一日「袖輿」注「袖文、牡丹立枝也」

そでごひ (名) [袖乞] (僧ノ、托鉢スルニ、袖ニ鉢ヲ載セテ、米ヲ乞ひ受クルヨリ起レル語ナリ) 乞食スルコト。モノモラヒ。 [illegible]、竹[illegible]「[illegible]二、一言、物仰ッテ下サリマセト、言葉レシ袖乞鍋ニ」 嬉遊笑覧「乞食、云云、一種、俗ニ、袖乞ナド云フ、平民ノ、貧窮ニ逼リテ、[illegible]ヲ[illegible]ヒテ、[illegible]ノ[illegible]ヲ乞ヒ、又ハ、夜

夜、市街ノ[illegible]ニ、[illegible]ヲ[illegible]ノ」[illegible] [illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]ハ、[illegible]、[illegible] 出[illegible]モ無クテ、道路ニ袖をひろげン(袖乞ノ義)事セ、サスガナレバ、思ヒカネテ、女房ハ、娘ノ手ヲ引キ、夫ハ、子ノ手ヲ引キテ、泣泣、丹波ノ方ヘゾ落チ行キケル」 大經師昔暦(正德、近松作)三「命ノ内ハ袖乞ヲモ、賴ミナイハ後生ノコト」

そでおるし (名) [袖標袖印] かさおるし(笠[illegible]標)ノ條ヲ見ヨ。 甲[illegible]、九、下、[illegible]八、指物ノモ取ヌキ、[illegible]、尺五寸ヅツ[illegible]、横ニ、一幅ニシテ、黑ク、一ノ字ヲ書キ、袖おるしニ付サセ」奧羽永慶軍記、十、最上合戰事、[illegible]ノ恥ヲ曽ガント、命ヲ惜マズ攻入、云云、五十川ノ者共ハ、是ニ[illegible]ジト、[illegible]、[illegible]、其[illegible]、カネノ合詞ヲ定メ、袖印ヲ付タリ」

そですり (名) [袖摩袖摺] 袖ノ、スリアフコト。又、[illegible]ト[illegible]トノ、觸レアフコト。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ十八公、其年頃ノ振袖ノ」

そですりあひ (名) [袖摺合] 袖ノ、觸レ合フコト。[illegible]

ブリ、「袖すりあふモ他生ノ[illegible]」

そですりまつ (名) [袖摺松] 袖ノ觸ルルホドノ高サノ小松。[illegible]

そでせんす (名) [袖扇子] [illegible]

そでだゐ (名) [袖凪] 衣ノ袖ホドノ、小サキたゐ。小サキいかのぼり。[illegible]ノそでだゐ、凪」

そでたたみ (名) [袖疊] 衣服ノ、背ヲ内ヘ二ツニ折リ、兩袖ヲ合ハセ揃ヘ、コレヲ更ニ、[illegible]ノ[illegible]ニテ、[illegible]

ト、[illegible]

そてつ (名) [蘇鐵] (「枯レムトスルトキ、鐵釘ヲ打込メバ蘇ルトゾ」) 暖地ノ樹。幹、直ニ聳エ、大イナルハ丈餘、皮ニ鱗甲アリ、葉ハ、梢ニ叢生ス、莖ノ長サ二三尺、細カク深キきざみアリテ、魚刺ノ如[illegible]、[illegible]、[illegible]リ、[illegible]一尺、幅一寸、[illegible]、[illegible]、ニ實アリ、桃ニ似テ、外皮ハ薄ク赤ク、内皮ハ厚ク白シ、内ニ、白仁アリ、細末トシテ食フベシ。鳳尾蕉 鐵蕉 鐵樹 [illegible]

そでついぢ (名) [袖築地] 門ノ左右ノ兩側ナドニ、添ヘツケタル築地。 [illegible]

そでつきおろも (名) [袖[illegible]] [illegible]けおろも(袖附表)ニ同ジ。[illegible]

そでづきん (名) [袖頭巾] 多季、婦人ノ被ル一種ノ頭巾。衣ノ袖ノ如ク製シテ、袖口ノ處ヨリ、目ノミヲ出シテ、顔、頭ヲ包ム。享保ノ頃ヨリ、多クハ、婦人ノ用トナレリ、コレヲ、宗[illegible]、[illegible]高祖頭巾トモ云フハ、日蓮宗ノ高祖、日蓮上人[illegible] [illegible]ナリ。[illegible] [illegible]、[illegible]、ソレカアラヌカ、

袖頭巾」嬉遊笑覽、二、上、頭巾「がんだう頭巾、袖頭巾ハ、道客ノ用ルニ、今ハ棟コロシ、緣アツテ止ム、云云、おこそ頭巾ハ、袖頭巾ナリ」

〜そで-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［袖漬］袖、水ニ漬ク。袖ガ水ニつかる。催馬樂、澀田川「澀田川、曾天川久バカリ、淺ケレド」（上代ノ袖ハ、長カリキ）續古今集、十二、戀、二「涙川袖ハ、長カリキ」淺キ瀨ニ、心深メテ、我レハ思ハム」

〜そで-つ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（自動、四）［袖續］袖ヲカハス。萬葉集、八、三七「七夕ノ、袖續夜ノ、曉ハ、川瀨ノ鶴ハ、鳴カズトモヨシ」

そで-つけ（名）［袖附］衣服ノ袖ノ、裑ニ、連續スル部分ノ稱。卽チ八口ノ上ノ處。

〜そでつけ-ぉろも（名）［袖附衣］又、そでつきぉろも。官服ノ、端袖、附ケタルヲ云ヘルナルベシ。萬葉集、廿四「宮人ノ、蘇泥都氣其呂母、秋萩ニ、匂ヨロシキ、高圓ノ宮」

そで-どめ（名）［袖止］昔、女子ノ、成人トナリシ時、振袖ヲ縮メテ、常ノ袖ノ長サニセシコト。元服。又、其儀式（ふりそでノ條ヲ見ヨ）

そで-なし（名）［袖無］羽織ノ如クニシテ、胴ノミニテ、兩袖ナキモノ。チャンチャンコ。胴服。褙　背心

そ-で-なし（句）〔然うで（ニテ）無しノ約〕然ラズ。サヤウデナイ。甲陽軍鑑、十一、上、品第三十四「今川家ノ人人、心持チ惡シクナリ、そでなき事ニ、物ヲ入レ」「そでない仕打」

そで-なみ-ぐさ（名）［袖波草］をばな（尾花）ノ一名。（藻鹽草）

そで-の-うめ（名）［袖梅］江戸時代、新吉原仲町ニテ賣リタル、二日醉ノ藥ノ名。

そで-の-ぉ（名）［袖子］〔信友云フ「袖のぉトハ、僧ノ、托鉢シ、米ヲ乞步クニ、與フル米ヲ、鉢の子ト云フヲ思ヘバ、古ハ、僧ノ、托鉢シテ、米ヲ受ルトキ、袖ヲ弘ゲ、鉢ヲ裁テ、米ヲ受ル慣ナリケムヲ、其ノ袖の子ト云ヒシナルベシ」〕いね（稻）ノ異名。夫木抄、十二「秋ノ田ヲ、吹キ來ル風ノ、カウバシミ、コヤ袖の子ノ、匂ヒナルラム」散木集（俊賴）三、秋「稻ノ倒レタルヲ見侍リテ「オボツカナ、誰カ袖のぉニ、引キカサネ、法師子ノ稻、傾シソメケム」註「そでのぉ、ほうぉぉ、共ニ、稻名也」

そで-の-した（名）［袖下］〔袖の下ヨリ、竊カニ贈ル義〕（一）マヒナヒ。賄賂。「袖の下ヲ、ツカフ」（二）人ノ愛憐ヲ、受クルコト。丹波與作（寶永、近松作）中「女中トマリノ袖の下、小萬ト云フ名デ、ホツホツト、鶴ノアハレヤ」

そで-はん（名）［袖判］〔袖書ノ轉ジタルモノナラム〕文書ノ袖（初ノ端）ニ書ク書判。卽チ、鎌倉、室町ノ頃ノ公文書ニ、可シト認メテ押ス判ノ稱。例ヘバ、國宣ナラバ、國司、袖判シテ、屬吏、承リテ、己レガ名ニテ、書ヲ發スルナリ。柳亭記、上「袖判、文書ノ紙ノ前後、白ク書殘シタルヲ、袖ト云フ、云云、其處ヘ印ヲ押タルヲ、袖判ト云フ、裏ヘ押スヲ、裏判ト云フ意ニ、同ジ、袖判ハ、前ノ所ヘ押モノトゾ」和簡禮經、五、御下文事「發端ニ、下ト云字ヲ書出ス、此時ハ、必、御袖判也」蔭涼軒日錄、長享二年三月十六日「文首座話云、大內左京大夫息次郞、當年十二歲、以二先規一白名乘見書義與之二字、袖御判有レ之」

そで-びかへ（名）［袖控］そでがき（袖書）ノ條ノ（一）ニ同ジ。

そで-びゃうぶ（名）［袖屛風］顏ナド被フ袖ヲ、屛風ト見テ、云フ語。袖ノ屛風。ソデギチャウ。槍權三重帷子（享保、近松作）上「目マゼ、頷キ、權三ヲ圍フ袖屛風」

そで-ぶき（名）［袖袘］そでべり（袖緣）ニ同ジ。

そで-ふくりん（名）［袖覆輪］そでくち（袖口）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

そで-ふり-ぐさ（名）［袖振草］すすき（薄）ノ（二）ノ異稱。隣女集、二、春「燒野雉、燒ケ殘ル、片野ノ原ヲ、分ケ行ケバ、そでふり（ゐイ）草ニ、雉子鳴クナリ」

そで-べい（名）［袖屛］門ノ左右ニアル塀。柳亭記、上「門ノ左右ヲ、袖塀ト云フ」犬子集「袖塀ノ、蔦カ朽葉ノ、蔦カツラ」

そで-べり（名）［袖緣］袖口ノ、袘ノ如キモノ。ソデフクリン。又、ソデブキ。○そでくち（袖口）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

そで-ぼそ（名）［袖細］室町時代ニ、素襖ノ袖ヲ、細ソクシタルモノ。こてそで（籠手袖）ノ條ヲ參見セヨ。光源院殿御元服記「公方家御成也、云云、裝束袖細、革袴、行列」

そで-まくら（名）［袖枕］衣ノ袖ヲ、枕トスルコト。又、ソノ袖。夫木抄、三十二「堰キアヘズ、泪ニ濡ルル、袖枕、乾カズナガラ、幾夜經ヌラン」

そで-まくり（名）［袖捲］働ク時ナド、袖ヲ捲リテ、臂ヲ露スコト。マクリデ。ウデマクリ。攘臂　夫木抄、三十三「賤ノ女カ、妻木採リニト、朝起キテ、イロイロ衣、そでまくりシツ」堀河百首、戀「まくり手ノ、袖ニモ戀ノ、隱レヌハ、涙ノ色ノ、落キナリケリ」字鏡七十七「揎、衣出レ臂、曾天万久留」

そ-でん（名）〔そハ、素、でんハ、義太夫三味線ノ音〕素人義太夫節ノ異稱。

そ-と（名）［外］〔背面ヲ略シテ、誤用セル語ト云フ　或ハ、背門ノ轉カ、或ハ、背外ノ意カ。內ノ反〕（一）外。ホカ。外面。枕草子、六、五十段「衣ノ裾、裳ナド、御簾ノそとニ押出サレタレバ」袖中抄、十九、そとも「下種ノ家ニハ、後ノ門ヲバ、せど云フ、そトせト同音ナリ、又只、そとトモ云フ」出觀集、夏「山人ハ、花ヲ踏ミテヤ、通フラン、ウツギ垣根ノ、そとノ細道」拾玉抄（慈鎭）三「蝙蝠ハ、夜モ戶タテズ、古寺ニ、內そとモ無ク、飛ビ紛フナリ」「福ハうち、鬼ハそと」（二）門ノ外。（三）屋ノ外。ノデン。○戶外。露天「そとデ働ク」（四）ソトガハ。外面。表面。

〜そ-と（副）〔さと（颯）ノ語原ヲ見ヨ〕緩ク、和ヤカニ。ソソト。コッソリト。ソット。枕草子、十一、百四十六段「陰陽師ノ許ナル童ベ、云云、祭文ナド讀ムヲ、人ハ、猶コソ聞ケ、そと立走リテ、云云」宇治拾遺、十二、廿二條「夜中バカリニ、細細トアル手ニテ、此ノ男ガ顏ヲ、そとそと撫デケリ」醒睡笑（元和、安樂庵策傳）七「忍ビテ起出ル、小人、聞ツケ、後ヨリそと行ク」狂言記、釣狐「そと見ウト存ズル」

そと-あし（名）［外足］相撲ノ手ノ一。敵ノ足ヲ取ルト共ニ、片手ニテ其背ヲ押シテ、押シ出スコト。

そと-いれ（名）［外入］鼻紙袋ノ筒ノ表ハ、黑、或ハ、紺ノ天鵞絨、羅紗、革類ヲ用キル。（守貞漫稿）

そ-とう（名）［俎豆］（一）俎（肉ヲ載セテ神ニ供フル、机ノ如キモノ）ト、豆（木ニテ作リ、菜ヲ盛リテ神ニ供フル、高坏ノ如キ器）ト。支那ニテ、祭禮ノ器。論語、衞靈公篇「俎豆之事、則嘗聞レ之矣」（ココノ俎豆ハ、禮儀ノ意ナリ）（二）轉ジテ、己レヲ賢人ノ中ニ加ヘント欲スト云フ意。莊子、庚桑楚篇「欲レ俎二豆予于賢人之閒一」

そ-とう（名）［疏通］そつう（疏通）ニ同ジ。字類抄「疏通、ソトウ、トホル」

そと-うみ (名) 外海 内海ノ(二)ニ對シテ、大海ノ泛稱。外洋

そと-がけ (名) 外掛 相撲ノ掛ノ手ノ一。我ガ一足ヲ、敵ノ足ノ外側ニ掛ケテ、我ガ體ヲ敵ニ寄セツケ、足ノ力ヲ補ヒテ、敵ノ體ニ眞向ニ凭レカカリテ倒スコト。因リテ、かけもたれ、又ハ、もたれおみトモ云フ。一ニ、足癖トモ云フ。敵ノ足ノ内側へ掛クルヲ、内掛ト云フ。

そと-かま (名) 外鎌 わにあし(鰐足)ノ條ヲ見ヨ。

そと-がまへ (名) 外構 家屋敷ノ門、垣、塀、ナドノ作リ状。「安土日記、十月二日池田筑後守橋ニ籠當城ハ大軍ニテ推ニ詰外構ヲ御放火」

そと-がらみ (名) 外搦 相撲ノ手ノ一。我ガ足ヲ、敵ノ足ニ、外側ヨリ絡ヒ掛ケテ、押倒スコト。ソノ、内側ニ絡ヒ掛クルヲ、内搦ト云フ。盛衰記、廿一、小坪合戰「和田、綴ニ骨ヲ折ラセテ、其後、勝負ト思ヒケレバ、腰ニ附ニゾ廻リケル、綴、内搦ミヲ差シ外シ、大渡ニ[illegible]ケレ共、小次郎[illegible]カズ、大渡ヲ曳直シ、外搦ミニ懸ケ、渚ニ向ケテ十四五度、曳曳ト、推ドモ推トモ、尊バザリケリ」

そ-ざく (名) 素讀 書物ヲ讀ミ習フニ、意義ヲ解クコトナク、只、聲立テテ、文字ノミ讀ムコト。ソヨミ。(初學ニ云フ)

そと-くるぶし (名) 外踝 くるぶし(踝)ノ條ヲ見ヨ。

そと-ぐるわ (名) 外郭 くるわ(曲輪)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。羅郭 [illegible]

そと-ざむらひ (名) 外侍 又、とほざむらひ。武家時代ニ、伺候スル者ノ詰所 [illegible]

ノ、内侍ヨリ外ノ方ニアル間。内侍ニ對ス。侍所(第一語)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

そと-ぐろ (名) 外城 本丸ニ對シテ外郭、又、根城ニ對シテ端城ノ稱。宗長手記「小夜ノ中山ニ至リテ、掛川秦能登ニ逗留、コノ頃、普請最中、外城ノメグリ、六七百間」

そと-すずめ (名) 外雀 家ニ落ナツキ居ラズシテ、出行ヲ事トスル人ヲ、嘲リテ云フ語。

そと-で (名) 外出 ヨソユキ。他出。他行。外出。

そと-には (名) 外庭 内側ニアルヲ、内庭ト云フニ對シテ、外ノ方ニアル庭。

そと-のり (名) 外法 うちのり(内法)ノ條ヲ見ヨ。

ソトバ (名) 卒塔婆 窣堵婆 卒堵婆 〔梵語、Stūpa. 高顯ノ義。廟、方墳、圓家、墳陵ナドト、意譯ス〕佛舍利ヲ安置シ、供養スルガ爲ニ建ツルモノ。佛、高顯ノ物ヲ好ムトテ、石ニテ、地、水、火、風、空、ノ五層ノ高キ物ヲ作リテ、佛ニ供スルモノ。(木ニテ、五輪形ニ作ルモアリ、又、長キ板ヲ、幅二三寸ニ作リ、上方、左右ニ、五ツノ刻ミヲ入レ、表裏ニ、經語、戒名、死年月ヲ記載ス、略シテ、塔婆トモ云フ。)高ク、塚ノ形ニ作レルヲ、更ニ略シテ、塔トノミ云フモ、是レナリ。涅槃經「[illegible]」[illegible]

キ山ノ中ニ納メテ、サルベキ日バカリ詣デツツ見レバ、程ナク、卒塔婆モ苔ムシ、木ノ葉降リ埋ミテ」今昔物語、廿七、[illegible]、其後、亦、[illegible]ナド持タル下衆共、[illegible]、知出[illegible]

そと-はちもんじ (名) 外八文字 内八文字ニ對ス、八文字ノ條ヲ見ヨ」遊女ノ、郭ニテ、道中ノ際、踏ミ出ス爪先ヲ[illegible]キテ歩ムコト。コレニ對シテ、兩足ノ爪先ヲ、内方へ向ケテ歩ムヲ、内八文字ト云フ。[illegible]

そと-ぶところ (名) 外懷 着衣ノ胸部ニ當ル、上前ト下前トノ間。(内懷ニ對ス、ふところノ條ヲ見ヨ) [illegible] 云、そとぶところへ入レタリ」

そと-べり (名) 外耗 [illegible] 耗高ヲ、殘高ニ對シテ比スル稱、例へバ、[illegible] トキハ、四斗ノ耗ニテ、殘高ノ二割ナレバ、外二割耗ト云フガ如シ。又、元高ニ對 [illegible] ト云フ。

そと-ぼり (名) 外堀 [illegible] 内[illegible]

そと-みす (名) 外御簾 芝居ノ東西ノド[illegible]、八間ノ間ノ次、六間ヅツノ稱。

そと-むさう (名) 外無雙 相撲ノ手。む[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

そ-ども (名) 背面 (背之面ノ約) (一) 山ノ陰。(かげとものノ條ヲ見ヨ) [illegible]

(二) 轉ジテ、外。ホカ。ソト。外面。

そともの-みち (名) 山陰道 [illegible] さんいんだうニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

そと-もも (名) 外股 (内股ニ對ス) 股ノ外側。[illegible] ケルニ、云云、兒[illegible]サク、内股、外股、皆ナリ」

そと-わ (名) 次條ノ語ニ同ジ。

そと-わに (名) 外鰐 わにあし(鰐足)ノ條ヲ見ヨ。

そない (副) ソノヤウナ。サヤウナ。ソンナ。[illegible] いナ事セオジャル」

そ-ながら [illegible] そながらアリ[illegible]

そなた 代 其方 (一) そなたノ約。[illegible] た(此方)ノ語原ヲ見ヨ。(二) [illegible] リ離レタル方位ヲ云フ代名詞。ソッ[illegible]

(おなた、又、かなたナドニ對ス) 源、一、[illegible]ノ、そなたニ[illegible]レバ、[illegible]、[illegible]そなたヲノミゾ、眺ムベキ、出デン日毎ニ、思ヒオコセヨ」[illegible]住ム、そなたノ山ヲ、雲ナ隔テソ」 (二)對稱ノ代名詞。下輩ニ用ヰル。ソチ。ソノハウ。ナンヂ。 狂言記、吃「トカク、そなたニ歎キハテタ」(妻ニ云フ) 昨日は今日の物語(天正、文祿)「そなたヲ見レバ、胸ガワルイ」

そなた-がた (代) オマヘガタ。君等(下輩ニ對シテ云フ語) 狂言記、居杭「そなたがたガ、其ノ樣ニオシャレバ、身共モ滿足致シタ」

そなた-さま (名) 〔さま(方)ノ條ヲ見ヨ〕 ソナタノ方。ソチラノムキ。 源、十八、松風廿「今日ハ、ナホ、桂殿ニトテ、そなたざまニ、オハ、シマシヌ」

ソナワ・ル
そなは・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) |備| 〔次條ノ語ノ自動〕 (一)(足ハヌコト無クテアリ。揃ヒ調フ。具。 名義抄「備、ソナハレリ」神代紀、下廿「盤破」私記「止止乃保利倍奈波利止」 狭衣、四、上廿八「サルハ、三十二相モ、イトヨクそなはり給ヒテ」 (二)自然ニ有チテアリ。持前ニテアリ。「身ニそなはる品」 (三)ソノ位置ニ就ク。列スル。加ハル。「御相ニ、そなはる」

ソナワ・ル
そなは・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) |備| 前條ノ語ニ同ジ。 長秋詠藻、中、哀傷「そなはれし、玉ノ小櫛ヲ、刺シナガラ、アハレ悲シキ、秋ニ逢ヒヌル」

ソ・ノ・ウ
そ-な・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) |備具| 〔裝ひ竝ぶノ略轉カト云フ〕 (一)足ラハヌコト無ク、滿チ齊フル。飽カヌコト無ク齊フル。置キ足ラハス。取リ揃フ。數數ノ物ヲ調フル。 神代紀、上廿「品[illegible]、[illegible]、[illegible]餘リ、二ツノ姿、そなへタル、昔ノ人ノ、蹈メル跡ゾコレ」 (二)備ヘテ、奉ル。(神佛、貴人ナドニ)供。 新年祭祝詞、[illegible]ノ物[illegible]、[illegible]、[illegible]ニそなふ」(三)用意ス。支度ス。準備ス。(軍ナドニ) 繼紀、廿六、天平神護元年八月、詔「朝[illegible]兵乎備流時仁」「萬一ニそなふ」

ソナエ
そなへ (名) |備| (一)ソナフルコト。調ヘテ、待ツコト。準備。用意。支度。 神代紀、上[illegible]、[illegible]女、何[illegible]、遲乎、乃[illegible]裝、武[illegible] (二)敵ノ來ルヲ待受ケテ、兵ヲ配ルコト。又、其兵。陣。隊。 新田山良家傳記、新田ノ御手先ノ備へ、乘リ込ミ申シ候」「先そなへ」

ソナエ
そなへ (名) |供膳| 神佛ニ供フルモノ。(餅、供物ナド)又、僧、及、人ニ、食物ヲ供フルコト。 今昔物語、十三、第一語「鬼神共出來テ、各、香花ヲ供ヘシ、菓子、飮食等ヲ捧テ、前ノ庭ニ、高キ棚ヲ備ヘ、其ノ上ニ皆備ヘ置テ、禮拜シテ、掌ヲ合セテ、次第ニ居ヌ」 同、十七、第廿五語「寺ノ專當ノ法師有リ、佛師共ノ物食ハヌヲ見テ、善心有リテ食物ヲ備ヘテ、佛師共ヲ養ヒテ、日來ヲ經ル程ニ」

ソナエ・クズシ
そなへ-くづし (名) |供崩| 神佛ニ供ヘタル餅ヲ、崩シタルモノ。カキモチ。

ソナエ・タテ
そなへ-たて (名) |備立| 軍陣ヲ備ヘ立ツルコト。 武將感狀記、五「味方ノ備立、宜シカラズシテ、[illegible]二分レテ陣セヨト、云云、下知セラル」

ソナエ・モチ
そなへ-もち (名) |供餅| 神ニ供フル鏡餅。婦人、小兒ノ語ニ、御供ト云フ。ソノ、大ニ小ヲ重ネタルヲ、重餅ト云フ。

ソナエ・モノ
そなへ-もの (名) |供物| 神佛ノ前ニ供ヘ奉ル物。供物。 [illegible]ソナヘモノ」

ソナ・エ・ル
そな・へる・ヘル・ヘレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) ツレダツ。ソレソフ。 十訓抄、中、第六、廿條「賢キ女ハ、五ニそなへる日、愼ミ從フノミニアラズ、無キ跡マテモ、獨リ、貞女ハ月ヲ詠メ、長ク、燕子樓ノ内ニ閉チコモル類、アマタ聞ユ」 貞女峽モ、燕子樓モ、支那ノ故事、前者ハ[illegible]注ニ、後者ハ白氏文集、十五ニアリ)

ソナ・エル
そな・へる (動) そなふ(備)ノ口語。

ソナレ・ル
そ-な・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) |磯馴| 〔普通ニ、磯馴ると書ケド、副馴るノ略、或ハ、そハ、發語カ。猶、磯馴松ノ語原ヲ見ヨ〕 枝、幹、傾キテ、生ヒ延ブ。 詞花集、三、秋「三吉野ノ、北山陰ニ、立テル松、[illegible]風ニ、そなれ來ヌラム」 夫木抄、廿七「荒磯ノ、波ニそなれテ、濱松ハ、鶚ノヰルゾ、タヨリナリケル」

そなれ (名) |磯馴| (一)ソナルルコト。地ニ傾キテ生フルコト。 千載集、十三、戀、三「そなれ木」 散木集(俊頼)一、春「ヲチコチニ、花咲キヌレバ、[illegible]ノ居ル、そなれノ松ニ、見ゾ紛ヘケル」 (二)はひびゃくしん(矮檜)ノ一名。

そなれ-ぎ (名) |磯馴木| ソナレタル木。地ニ、ナビキ、ハヒタル木。前前條ヲ見ヨ。 千載集、十三、戀、三「そなれ木ノ、ソナレソナレテ、生ス苔ノ、マホナラズトモ、逢ヒ見テシガナ」

そなれ-まつ (名) |磯馴松| 〔普通ニ、磯馴松ト書ケバ、そハ、いそノ略ナドト見テ、濱邊ノ磯ニ馴レタル松ノヤウニ思フ人アレド、風ニモ云ヘレバ、山風、濱風ニ副ひ馴るる意ノ語ナリ、猶、そなるノ條ヲ見ヨ〕 水邊、斷崖ノ地ナドニ生ヒタル松ノ、風ニ梢ヲ[illegible]レナガラ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ立ヽル、[illegible]松、シヅ枝ハ波ノ、打タヌ日ソナキ」 新續古今集、十八、雜、中「年ヲ經テ、苔ムス嶺ノ、そなれ松、綠ノ色モ、別レヤハスル」 同、同「尾上ヨリ、松ノ梢ニ、そなれ來テ、門田ノ稻葉、風ソヨグナリ」

そに (名) |魚狗| 又、そび。そにどり。今ノかはせみ(其條ヲ見ヨ)出雲ニテ、[illegible]こにん。 神代紀、下十二「以鵄爲戶者」私記「曾爾」 古[illegible]、上[illegible]、[illegible]行能、常世御衣ヲ」 同、同、五十「翠鳥爲御食人」 字鏡六十五「鵄、曾爾」

そ-にん (名) |訴人| (一)ウッタヘ出ヅル人。訴訟スル人。原告。(論人ニ對ス) 太平記、張良、[illegible]分明、訴人不[illegible]」 (二)めあかし(目證)ノ異名。 甲陽軍鑑、八、品第十七「訴人岩間大藏左衞門トテ、御分國中、萬事ノ儀ヲ中上ル侍一人アリ」 武家名目抄、六十、職名「甲州ニテ訴人ト云ヒシ所職ハ、今云フ、目明シノ類ナルヨシ、[illegible]ニ[illegible]、エタルカ、如何ニモ其云ヘル所ノ如ク、常ナラヌ事ニ、眼ヲツケテ、窺ヒ知レルママヲ密告スベキ職ナリ」

そ-ね (名) |确埆|埆根| 〔石根ノ略ト云フ〕 石雜リノ瘠地。平地ノ、石交リノ堅キ所。(土佐ノ長岡郡ニ、大埆、小埆ノ村名アリ、下總ノ結城郡ニ、小埆ノ村アリ、常陸ニ、埆禰郷アリ、紀伊ノ東牟婁郡ニ、埆禰太郎、埆根次郎ト云フ坂道アリ) 倭名抄、九三「土佐國、長岡郡、[illegible]、[illegible]」 今、大埆ト書ク) 名[illegible]抄「确、ソネ」字鏡「[illegible]确、[illegible]地也、[illegible]也、加太久、己波志、又、[illegible]、又、夜和戶留止己呂」天治字鏡、五二「埆、又、确字、[illegible]」 同[illegible]「[illegible]确、加太久、又、

集韻「埆、音角、道上加レ土也」廣韻「埆、苦角切」康熙字典「境埆不レ平也」」

己波志、二八、曾[illegible]也、又、夜相戸[illegible]所也」同註「[illegible]、[illegible]、[illegible]土古[illegible]也、[illegible]也」[illegible]宗紀、元年正月、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]フ」

そねま・し ・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 嫉 ソネムベクアリ。ネタマシ。宇治拾遺、十三、十三條「イカナル者ノ、又カクハスルヤラムト、そねましく覺エケレバ」

そねみ (名) 嫉 ソネムコト。ネタミ。嫉妬。源、一、桐壺註「人ノそねみ、深ク積リ」同、十二、[illegible]「人ノそねみ、多ケテ」

そね・む ・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 嫉 〔背きノ略〕 羨ミ極マリテ、惡ム。他ノ能ヲ妬ミテ、仇セムトス。ヤカム。ウラヤム。ネタム。[illegible]異記、上、第五[illegible]「[illegible]逆、謀、傾、親、便、[illegible]、地[illegible]之」[illegible]、ソネミ」源、三十四、下、若菜、下「ユメ、御宮仕ノ程ニ、人ト軋ヒ、そねむ心使ヒ給フナ」朗詠集、上、鶯「燕姫之袖暫收、猜二[illegible]於舊柏二」千載集、十七、雜、三「周防ノ内侍ニモ遣シケルト聞キテ、そねみタル歌ヲ贈リテ侍リケレバ」「そねまバそねめ」

その (名) 園 〔背野ノ義ニテ、後園ノ意、前栽ニ對スル語ト云フ〕 (一)〔圃ヲ〕リテ、蔬菜、果木ナド、植ウル地。[illegible]抄、一[illegible]田園類「園圃、花園、曾乃、一云、曾乃布」允恭紀、二年二月「[illegible]苑中二云云、能作[illegible]手、謂[illegible]也」萬葉集、五[illegible]「梅ノ花、今咲ケル如、散リ過ギズ、我ガ家ノ曾能ニ、在リコセヌカモ」玉葉集、十四、雜、一「百千鳥、鳴ク聲スナリ、我ガ宿ノ、そのノ梅ガ枝、今盛リカモ」 (二)場。場所。[illegible]、下、第十九、「くめのさら山「正成ハ、聖德太子ノ御墓ノ前ヲ、軍ノそのニシテ」 (三)齋宮ノ忌詞ニ、穴。

その (連[illegible]) 其 〔代名詞ノそ(其)ニ、[illegible]ノのノ添ハリタルモノ〕 稍、身ヨリ離レタル物事ヲ指シ示シテ云フ語。(さの)、かの、あのナドニ對ス〕 [illegible]、下、[illegible]ノ、廊下ノ餘リノ、雨ソソギ、我レ立濡レヌ、曾乃戸[illegible]

カセ」古今集、十九、旋頭歌「打チ渡ス、遠方人ニ、物申ス、我レその其處ニ、白ク咲ケル、[illegible]ノ花ゾモ

そのいろづき (名) [illegible]月 [illegible]、(古[illegible]月)、又、其[illegible]月、

そのうち (副) 其内 近キ頃ニ。近日。「そのうちニ分ルデアラウ」

そのうへ (副) 其上 ソレニ加ヘテ。カツ、且、[illegible]之 [illegible]記、[illegible]ウ[illegible]、[illegible]ヘ出テ、目見エヲセイ、其の上、秀句ヲ聞カウ」玉葉集、十九、[illegible]、[illegible]シキヲ、[illegible]ハリテ、その上ニ、世ヲ常ナリト、又見ツルカナ」

そのかみ (名) 當時 〔其上ノ義〕 既往ノ其時。ソノムカシ。以前。先年。其時ヨリ前、指ス所アリテ、云フ。[illegible]抄「當時、ソノカミ」六帖、五「石上、布留ノ社ノ、そのかみノ、荷キ心ハ、今モ忘レジ」伊勢物語、七十六段「今見レバ、住クモアラザリケリ、そのかみハ、コレヤ[illegible]リケム、[illegible]レガリケリ」源、三十三、[illegible]「そのかみノ、若木ハ宜モ、朽チヌラム、植エシ小松モ、丈生ヒニケリ」

そのかみ (副) 當時 (一)事アリテ、其時。乃チ。大和物語、五「一人ハ、足ヲ捉ヘ、今一人ハ、手ヲ捉ヘテ、死ニケリ、そのかみ、親、イミジク騷ギテ」同、同「一人ハ、頭ノ方ヲ射ツ、今一人ハ、尾ノ方ヲ射ツ、そのかみ、何レト云フベクモアラヌニ、女、思ヒワヅラヒテ」 (二)過ギシ、其時ニ。源、四十四、橋姫註「そのかみ、騒マジウ思ヒ給ヘリシ、同ジ程ノ人、多ク、失セ侍リケル、世ノ末ニ」

そのかみのおや (名) [illegible] 佛ヲ云フ。(佛經ニ、佛ハ、一切衆生、皆是吾子、ナリト云ヘルヨリ云ヒシ語ナリ)

そのカラのかみ (名) 園韓神 園ノ神ト、[illegible]ノ神ト、宮内省ニ祭ラル、[illegible]祭式「凡、園韓神兩社、云云」拾芥抄、下、本、諸社「園[illegible]、[illegible]」

そのぎ (名) 其儀 ソノワケ。ソノヤウナルコト、[illegible]「其儀ニ及バズ」

そのくせ (名) 其[illegible] それ[illegible]、[illegible]ト云フコト。ソレニモ拘ラズ。心中刃氷[illegible]

そのさま (名) 其[illegible] [illegible]、[illegible]、[illegible]ハムヤ」

そのすぢ (名) 其筋 官衙ノ方。ソノ向ノ役所。「そのすぢノ命令」

そのはう (代) 其方 〔其方ノ字ノ湯桶讀〕 對稱ノ代名詞。下輩ニ用キル。狂言記、鹿狩「其の方ハ、狩人カ、サテモサテモ、嚴イ奴カ、道具ヲ持ッタ事カナ」

そのはちぶし (名) 園八節 蘭八節 淨瑠璃節ノ一。宮古路豐後[illegible](元文[illegible]年[illegible])ノ弟子、宮古路薗八(豐[illegible])語リ始メ、寶曆、明和ノ頃、大イニ流行ス。[illegible]リ分ル) 寶曆ノ初、二代薗八ハ、宮古路ト薗八トノ、頭字ヲ取リ、宮薗[illegible]シタレバ、コレヲ宮薗節トモ云フ。[illegible]中絕シテ、明治廿年頃、再[illegible]ハ、十段バカリアリシガ、再[illegible]曲固[illegible]、安[illegible]。[illegible]書、出來レリ [illegible]瑠璃、興[illegible]ル事アリ、故ニ、新曲[illegible]ヲ作リテ語ル由、云ヘリ。[illegible]、[illegible]宮古路[illegible]八、云云、江戸ヘ下リ、寶曆、明和ノ頃、薗八節トテ、一時、三都ニ行ハレ

そのひ (名) 其日 ソノ當日。[illegible] 長歌「君ガ見ム、其日マデニハ、山颪ノ、風ナ吹キソト」後拾遺集、十、哀傷「別レニシ、その日バカリハ、廻リ來テ、生キ[illegible]還ラメ、人ゾ悲シキ」

そのひ (副) 其日 指シタル日ッ。「そのひカセギ、そのひグラシ」

そのひかせぎ (名) 其日稼 勤ムル所、又ハ、職業ノ、毎日、異動アリテ、一定セザルコト。

そのひぐらし (名) [illegible] 其ノ日[illegible]ニテ得タル金錢ニテ、其日ノ生計ヲ營ムコト。一日グラシ。[illegible]、[illegible]記、[illegible]「[illegible]二、[illegible]川ノ火打石ヲ[illegible]、[illegible]中ヲ賣リ[illegible]リテ、[illegible]レバ、夕ニ[illegible]、其の日[illegible]し」

そのふ (名) 園生 〔そのハ、園ノ[illegible]〕 [illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、物ヲ植ウベキ處。園。[illegible]、[illegible]園類「園圃、[illegible]、[illegible]乃布、[illegible]、[illegible]」

そのまま (副) 其[illegible] 形ヲ變ヘズニ、ソ[illegible]、[illegible]セズハ、[illegible]、[illegible]トモ、[illegible]竹ノ、[illegible]ノ[illegible]ハ、カハリズモガナ」[illegible]二、[illegible]モ[illegible]ハズ」[illegible]、[illegible]ノ風モ、カハラメニ、[illegible]レヤシメル、[illegible]シ夜ノ月」「ソノクリそのまま」

そのもご (代) 其許 對稱ノ代名詞。稍、下輩ナルニ用キル。ソコモト。

そのやう (副) 其[illegible] 其トホリ。サヤウ。[illegible]記、[illegible]、そのやうナ[illegible]ハ、[illegible]サセメ」

そのな (名) [illegible] [illegible]([illegible])ノ[illegible] [illegible]

そ-は (名)〔岨〕〔背端ノ義、又、傍ノ轉カト云フ〕又、そひ。ソヘ。山ノ傍ノ、嶮岨ナル所。山ニ沿ヒテ、傍ヲ行ク所。片ドリナル所、キリギシ、ガケ。　字鏡集「岬、ヤマノソハ」竹取物語「ソノ山ノそはヅラヲ巡レバ」玉葉集、十四、雜、一、山路遙「跡遠キ、そはノカケ道、タエダエニ、霞ヲ傳フ、春ノ山人」謠曲、蓬萊山「巖ガそは」

そ-は (名)〔粗葉〕品ノ粗末ナル煙草。（人ニ勸ムル時ノ謙稱）

そば (名)〔稜〕(一)〔削リテ、方ニシテ、角アル材。(木材ニ角附クルヲ、そばヲ取ルト云フ)〕角。　倭名抄、廿、木具「稜、四方木也、曾波乃木」名義抄「稜、ソバ、カド」(二)衣ノ端。　宇治拾遺、二、第十條「指貫ノそば挾ミテ、絹ノ狩衣メキタル、着テ」著聞集、十、馬藝「袴ノそば、高ク挾ミテ」(三)〔そばのき(鬼箭)ノ略〕其條ノ出典ヲ見ヨ。

そば (名)〔蕎麥〕〔稜麥ノ略〕(一)古名、ソバムギ。クロムギ。草。夏、種ヲ下ス、莖ノ高サ一二尺、圓クシテ、赤ク光ル、葉五生シ、あかざニ似テ、短ク薄クシテ光滑ナリ、秋、莖ノ梢ニ、白花、簇リ生ズ、實、三稜ニシテ、皮、黑ク、子、白シ、磨キテ粉トシ、多ク、そばきり、そばがきトシテ、食フ。　著聞集、十八、飲食「畠ニ、そばヲ植エテ侍リケルヲ」(二)そばきりノ略。　下學集、下、草木門「蕎麥」「そばヲ食フ」

そ-ば (名)〔側〕〔傍〕〔岨ノ轉、或ハ、沿場ノ約カ〕カタハラ。カタワキ。ホトリ。アタリ。　落窪物語、一「几帳立テタレド、そばノ方ヨリ見入ルレバ、云云」夫木抄、十三、妹背「ソト、マダ遠キ、ウタタ寢ノ、枕ノそばニ、宿ル月カナ」

そば-あげ-ざる (名)〔蕎麥揚笊〕蕎麥切ヲ煮テ、抄ヒアグルニ用ヰル笊。ムギスクヒ。笊籬

そ-はい (名)〔鼠輩〕(一)人ヲ賤シメテ云フ語。取ルニ足ラヌ、何デモナキ奴輩。小人。　三國志、魏志、華陀傳「太祖曰、不レ憂、天下當レ無二此鼠輩一耶」(二)數多ノねずみ。　李後民詩「欺レ人鼠輩爭出レ頭、夜行如レ市晝不レ休」

そば-いうひつ (名)〔側右筆〕江戸幕府ノ職。將軍ニ側近シテ、文書ヲ錄スルモノ。　大猷院殿御實紀、五十五、寬永二年十二月廿九日「側右筆建部傳內昌興ガ四子、與兵衞直恆、召出サレテ、右筆トナル」

そ-はう (名)〔粗放〕〔麤放〕〔疏放〕〔粗笨、放縱ノ略〕アラクテ、綿密ナラザルコト。ヤリパナシニテ、締リ無キコト。粗漫。粗笨。　北史、裴叔業傳「柳遠、性麤放、無二行檢一、時人或謂二之柳顚一」杜甫詩「嗜レ酒益疏放」

ソハウ (名)〔蘇芳〕そはうニ同ジ。　中務內侍日記「女王ノ裝束二色、紅ノ單、そはうノ表衣」

そ-ばう (名)〔粗暴〕〔麤暴〕振舞ノ、無禮ニシテ、アラアラシキコト。　南史、柳敬禮傳「敬禮、少以二勇烈一聞、麤暴無二行檢一、爲二百姓所一レ苦」

そ-ばう (名)〔素望〕平素ヨリノ希望。宿望。素願。　張說詩「素望知レ難レ愜、新恩且用酬」

ソハウ-ひ (名)〔蘇芳非〕又、そはひ。雅樂ノ曲ノ名。乞食調ノモノ。　伊呂波字類抄「蘇芳非、ソハウヒ、乞食調」樂家錄、廿八、中華曲「乞食調、蘇芳非、曾波宇非」仁智要錄、七、乞食調、蘇芳非「南宮譜云、弘仁御時、常以二此曲一奏二于御前一、像二于猛獸一也」教訓抄、四、蘇芳非「此曲、五月節會、舞二御輿之御前一、是從二弘仁初一、競馬ノ行幸奏レ之、〜、對二右曲[illegible]一、蘇芳非ノ身ハ、師子ノ姿ナリ、頭ハ如二犬頭一(口細シテ、面長)」中右記、康和四年閏五月十五日「[illegible]人、依レ可レ有二競馬御覽一也、云云、龍頭鷁首兩船、奏二蘇芳非一」

そば-うり (名)〔胡瓜〕〔稜瓜ノ義、瓜ノ肌ニ、疣、多シ〕胡瓜ノ古言。又、カラウリ。　倭名抄、十七、蓏類「胡瓜、曾波宇利、俗云、岐宇利」

そばえ (名) 又、そばへ。ソバユルコト。戲ルルコト。

そばえ-か・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四)〔戲〕ソバエシム。戲レサス。タハムレサス。　好色一代女(貞享、西鶴)三「飼猫ヲナヅケテ、夜モスガラ、結ヒ髮ニそばえかしケルホドニ」

⁂そば・える (動) そばゆノ口語。

ソハカ (名)〔薩婆訶〕〔梵語、Svāhā. 善說、又ハ、散去、或ハ、舊譯、已終、新譯、棄了ナドトモ譯ス〕眞言ニテ、呪文ノ末ニ云フ語。即チ、子孫ノ無窮ヲ祈ル意。「唵阿毘羅吽欠薩婆訶」「唵呼嚕呼嚕旋茶利摩登枳薩婆訶」大日經疏、四「末句云二莎訶一、是驚覺義」同、十三「婆訶、是警發義也、以二此眞言一警二發諸佛一、說二此明一時、諸佛即警發、而起、加二持行人一也」仁王經儀軌、下「娑縛賀、此云二成就義一、亦云二吉祥義一、亦云二圓寂一、云云、亦云二無住義一、今依二無住義一、即是無住涅槃、依二此無住涅槃一、盡未來際、利二樂有情一、無二盡期一」

そば-かうけ (名)〔側高家〕江戸幕府ノ職。高家ノ中ニテ、常ニ將軍ニ側近シ居ルモノ。　高家勤願記、二「大澤右衞門督基迢、寶永六年四月十五日、從四位下、元御側詰高家」諸役代代記、一、高家「正德六申五月十六日、御側高家ム、堀川兵部大輔廣益」

そば-がき (名)〔蕎麥搔〕蕎麥粉ヲ、熱湯ニテ搔キ捏ネタルモノ。汁ニ浸シテ、食フ。ソバネリ。黑兒。　古今夷曲集(寬文)九、蕎麥搔出デケル座ニテ、詠メル、玄旨法印「蕎黑ニ、作レル眉ノ、そばがきヲ、ヨクヨク見レバ、三角ナリケリ」

そば-かす (名)〔雀卵斑〕〔蕎麥粕ノ義ニテ、黑點ニ云フカ〕古言、カスモ。イロコオモテ。遺傳性ノモノト云フ。顏面、其他、手ノ甲ニ、雀ノ卵ノ斑ノ如キ、極メテ小サキ、黑キ、又ハ、黃ナル斑點ヲ生ズルモノ。〔䵟面〕〔雀斑〕　醫心方、四十「治二䵟面一方「病源論云、䵟面者、面皮上有レ滓、如二米粒一者也、此由二膚腠受二於風邪一、搏二於津液一、津液之氣、因レ虛作レ之也、亦言、因レ傅二胡粉一、而皮膚虛者、粉氣入二腠理一、化生レ之也、和名、以呂古於毛天」(淺ハ腠ニ通ズ)箋注倭名抄、二、瘡八十「䵟面、按、加須毛、蓋、䵟面也、醫心方云、䵟面、和名、以呂古於毛天、今俗、呼二曾波加須一」病名彙解、二「奸䵳、雀斑ノコトナリ、俗ニ、そばかすト云ヘリ」

そば-がほ (名)〔傍顏〕よこがほ(橫顏)ニ同ジ。　狹衣、三、上「そばがほノ、御簾ニ透キテ見ユルハ」曾我物語、六、朝比奈、與五郎ト力較事「持チタル太刀ト草摺ニテ、末座ナル人ノ頸ノマハリ、そばがほヲ打チナグリ」

そば-がら (名)〔蕎麥殼〕蕎麥ノ實ヲ磨キテ、脫ケタル殼。枕ニ入ルルナドニ用ヰル。ソバカス(蕎麥滓)。

そば-きり (名)〔蕎麥切〕蕎麥粉ヲ、水ニ捏ネテ、延ベテ、細ソク切リタルモノ。製法、饂飩ニ同ジ。又、蕎麥粉ノミニテ、同樣ニ製シ、沸湯ニ煠デテ、冷水ニテ洗ヒ、再ビ、蒸籠ニテ蒸スヲ、むしそばきりト云フ。コレヲ、汁ニ浸シ、或ハ、汁ニ煮テ、食フ。略シテ、そば。〔河漏〕　玫苑日涉、十「蕎麥、此云二蕎麥一、作レ麪、撥切者、云二蕎麥撥利一、即、蕎麥麪、一名、河漏、一名、河洛、是也、麪入レ湯者、云二蕎麥湯利一、即、黑兒也、松岡[illegible]、以二黑兒一爲二曾波幾利一、以二河漏一爲二曾波幾利一、皆、誤矣」書言字考節用集、六、服食門「蕎麥切、河漏」蕎麥作二湯餅一、謂二之河漏一」本朝世事談綺、一、飲食、蕎麥切「中古ニ、百年以前ノ書、諸諾ノ食物ヲ詳ニ記セルニモ、そば切ノ事、見エズ、ココヲ以テ見レバ、近世、起

ル事也、モロコシ、河漏津ト云、蛤蜊ノ湊ノ名物、茶店ニ多コレヲ造ル、ヨッテ、河漏ト云、是レ、日本ノそば切ノ事也、江守ノそば切ノ盛美ニハ、諸國共ニ、及兼シ」 昔昔物語、寛文長年、けんどん蕎麥ト云フモノ出來ル」 かる口(貞享)「一杯六文、カケテナシ、むしそば切」 鹿の子ばなし(元祿)[illegible]むしそば切、一膳、七文」 鸚鵡籠[illegible]、三十「そば切ハ甲州ヨリ始ル」

そばきり-どうふ (名) [蕎麥切豆腐] ゆどうふ(湯豆腐)ノ條ヲ見ヨ。

そはく (名) [疎薄|疏薄] 疎ンジテ、冷遇スルコト。 顔氏家訓(北齊、顔之推)兄弟篇「子姪不ㇾ愛、則羣從疏薄、羣從疏薄、則僮僕爲ㇾ讎敵ㇾ矣」

そば-こ (名) [蕎麥粉] 蕎麥ノ子ヲ磨キテ、粉トセルモノ。色、白シ。そばきり、そばねりトス。蕎麥麵

そば-さま (名) [側方] ヨコサマ。カタハラザマ。 宇治拾遺、二、第七條、「そばさまニ臥シ、下ニ物ヲ宛テテ、人ニ蹈マスレバ」「湯ヲ噯ントテ、そばさまニ向ヒテ、湯ヲ噯ル程ニ」 同、十二、第廿條、虎「そばさまニ食ハントテ、走リ寄ル」

そば-しゅう (名) [側衆] (一)天皇ニ側近スル人。靈元天皇ノ貞享三年ニ、御側衆ノ稱ヲ改メテ、議奏ト稱シタリ。(二)豐臣時代ニ、太閤ニ側近スル人。(傍衆トモ記シタリ) 太閤記、十二、相州小田原御進發之事「秀吉公、三月十九日、都ヲ立セ給フ、其日ノ出立、作リ髭ニ、かね黑也、御太刀、[illegible]ナド、コトコト敷、若ヤカニ物シ給ヒシ事ナレバ、御側衆、御傍衆ナドハ、云ニモ及バズ、異形タル出立」 (三)江戸幕府ノ職。五六人、或ハ、七八人アリ、交番ニ、殿中ニ宿直ス。將軍ニ親近シテ、小姓、小納戸、醫師、等ノ身分ヲ進退シ、又、老中、若年寄、退出後ハ、コレニ代ハリテ、殿中ノ事ヲ處理スルモノ。 [illegible]

也、執政退出之後、於ㇾ急事ㇾ、當職達ㇾ之執政ㇾ」 有司勤仕録、御側衆、老中、若年寄、退出之後ハ、御殿向之事ハ、諸役所ヨリ、御側衆ニ伺フテ、相濟ス」 [illegible]別錄、上「[illegible]年巳九月十八日、[illegible]世大和守(小笠原[illegible])、牧野佐渡守、[illegible]雲守、土岐但馬守、以上[illegible]人、[illegible]小普請[illegible]只今迄ノ御[illegible]、御前へ[illegible]、[illegible]命、四人之内、一人宛、御次間ニ泊番勤ム、此節ニ御側衆始ㇾ」

そば・す -スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) [添] [そふ(添)ノ他動] (一)ソハシム。添フヤウニナス。(二)夫婦トナラシム。

そば-そば (副) 心、振動ノ、落着カヌ狀ニ云フ語。 丹波與作(寶永、近松作)中「語ル事ガ、タントアル、此方モ云フ事アル筈ジャ、そばそばはセズニ、待ンセト、引戾セバ」

そば-そば (副) はしばし(端端)ニ同ジ。 源、廿九、行幸「ソノコロホヒ、聞キシ事ノ、そばそば、思ヒ出テラルルハ、[illegible]事ニヤラン」 同、廿六、常夏「女御、[illegible]笑ミテ打チオカセ給ヘルヲ、中納言ノ君ト云フ、近ウサブラヒテ、そばそば見ケリ」

そばそば・し -シキ・シケレ・シク・シク (形、二) ソハソハトシテアリ。セハセハシ。セハシ。落チツカヌ容子ナリ。

そば-そば・し -シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [稜ヲ重ネテ、活用ス] (一)カドダチテアリ。カドカドシ。 字類抄「稜稜、ソバソバシ」 名義抄「顔稜、ソハソハナリ」 班固、西都賦「上觚稜而棲ニ金爵ニ」 (二)[交リニ、圭立テテ、ヨソヨソシ。圭角 宇津保物語、[illegible]「[illegible]ガ、行フ山ノ、[illegible]ガ下、アナそばそばし、[illegible]ニシアラネバ」 源、一、桐壺「弘徽殿ノ女御、又、此宮トモ、御中、そばそばしき故、打チソヘテ、モトヨリノ憎サモ立出テ」 同、二、帚木「常ハ、少シ、そばそばしき、心ヅキ無キ人ノ」

そば-だ・つ -ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [峙] [稜立ツノ義] 獨リ、別ニ聳ユ。殊ニ、高ク立ツ。(山ナドニ) 字類抄「峙、ソバダツ」 [illegible]十七、變化「其ノアトニ、大ナル石ゾ、其ノ數知ラズ、そばだちてアリケル」

そば-だ・つ -ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) [欹] [前條ノ語ノ他動] [欹、俗ニ、峙ニ作ルハ誤ナリ] 峙ツヤウニナス。一端ヲ上ゲ起コス。 [illegible] 十七「池水ニ、鵞鴨ノ羽、そばだてて、ツマアラソヒノ[illegible]」 [illegible]「[illegible]そばだつ」[illegible]

そば-だ・てる (動) 前條ノ語ノ口語。

そば-づかへ (名) [側仕] 主君ノ側近ク、仕フル者。ソバツトメ。近侍

そば-つぎ (名) [側次] 袖無ノ類ニテ、羽織ノ如ク、長着ノ上ニ着ルモノ。[illegible]

そば-つ・く -ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [illegible] 語ニ、[illegible]アリ、[illegible]、官長ハ、側より打ち見るまま、[illegible]抄ニハ、そばみゆがむノ義ト云ヒタリ」 [illegible]

そは-づたひ (名) [岨傳] 岨ヲ、傳ヒ行クコト。[illegible]

そば-つづき (名) [傍續] 裝束ノ一、小直[illegible]

衣、又、ソバツツギ、[illegible]

そば-づとめ (名) [側勤] そばづかへ(側仕)ニ同ジ。

そば-づゑ (名) [傍杖] (一)鬪諍ノ傍ニ居テ、其打合ノ杖ニ中タルコト。「喧嘩ノそばづゑ」 (二)[illegible]

そば-ねり (名) [蕎麥練] [illegible]ニ同ジ。

そば-の-き (名) [稜ノ木] [稜アル木ノ義] 倭名抄、廿ニ「稜 和名曾波乃岐」トアリ。(但シ、其當テタル稜稜ノ字ハ、方形ノ材ニテ、樹名ナラズ) にしきぎ(鬼箭)ノ古名。枝、幹ニ、矢ノ羽ノ如キモノアリ。ヤハズニシキギ。 枕草子、三、廿四段「花の木ならぬは、そばの木、ハシタナキ心地スレドモ、[illegible]レバナリ。花ノ木ドモ、散リ果テテ、押シナベテ綠ニナリタル中ニ、時モ分カズ、濃キ紅葉ノ、艶メキテ、思ヒカケヌ青葉ノ中ヨリ、差出タル、珍シ」 [illegible]

そば-のき (名) (一)〔花、白ク、蕎麥ニ似タレバ云フカ〕 樹ノ名。山ニ生ズ、葉ハ、櫻ノ如ク、花ハ、白クシテ、水仙ニ似テ、夏ノ初ニ簇リ開キテ、雪ノ如キモノトゾ。カナメモチ。 大和本草、十二、花木「そばのきアリ、ふみ、樹、山中ニ生ズ、葉如櫻樹、四月開花、似水仙、有香、結實開、其白如雪」 (二)ぶな(橅)ノ異名。

そば-はら (名) 傍腹 わきばら(脇腹)ニ同ジ。 太平記、十、高時并一門以下於東勝寺自害事「…ノ小脇ニ刀ヲ突立テ、右ノ傍腹マデ、切目長ク、掻破テ、中ナル腸、手纏出シテ、道譽カ前ニゾ、伏シタリケル」

ソハ-ひ ソワ-ヒ (名) 蘇芳菲 そはうひ(蘇芳菲)ノ條ヲ見ヨ。 榮花物語、廿二、駒競「同ジ月(萬壽元年九月)ノ十九日、駒競セサセ給フ、云云、船樂ナドモ皆品アタリ、そはひ、胡形、其舞ナド、サマザマ興出テ、今ハ、東ノ對ニ渡ラセ給フ」

そば-ひら (名) 側平 カタハラ、横ノ方。 濃州伊賀集、九陣、ソバヒラ、 …長記、廿、八幡復討事「そばひら見ズノ猪武者ナリ」

そば・ふ ソバ・ウ ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(自動、下二) 戲 〔側ヲ活用セル語カ〕 (一)懐キ、戲ルル、アマヘ、フザケル。戲レ、誇ル、ホタエル。 枕草子、三、廿三段、「そばへタル小舎人童ナドニ引キ取ラレテ、泣クモ、ヲカシ」 おそばふモ、同ジ。 蒲衣物語、二「大臓、小子ニテ、愛シウシ給ヘバ、驕リ歩カント思フニコソアラメ、云云、おそばへテ、彼レ、押シ毀チテムト、腹立チ罵レバ」 又、いそばふモ、同ジ。 萬葉集、十三、六長歌「己ガ父ヲ、取ラクヲ知ラニ、伊蘇波比居ルヨ、斑鳩ト鵤ト」 (二)風、柔和カニ吹キ渡ル。 山家集(西行)上「初花ノ、開ケ初ムル、梢ヨリ、そばへテ風ノ、渡ルナルカナ」 (三)狂ヒ、騒グ。 傾城反魂香(寶永、近松作)上「虎ハ、勇ンデ、元信ノ、袖ヲ嚙ミ切リ、背ヲサシ向ケテ、そばへタリ」 曾我會稽山(享保、近松作)二「外道月毛ヲ引寄セ、乘ラントスルニ、寄ツケズ、鞍ニ縋レバ、鞍そばへ、前へ寄パ、ス、クト立」(惡馬ナレバ、外道月毛ト云ヘリ)

そばへ ソバエ (名) 戲 (一)ソバフルコト。ザレ、戲ルルコト。 萬代集、六、冬「嵐吹ク、時雨ノ雨ノ、そばへニハ、堰ノ雄波ノ、立ツ空モナシ」 (二)狂ヒ、騒グコト。 出觀集、冬「篠葺ノ、マヤノ軒ニハ、垂氷シテ、雲ノそばへニ、霰降ルナリ」 義經記、八、衣川合戰事「辨慶ハ、血ノ出ヅレバ、イトド、血そばへシテ、人ヲモ人トモ思ハズ」

∴**そば・へる** ソバ・エル (動) (一)前前條ノ語ノ口語。 (二)日ノ照リタルニ、小雨、降リ過グ。 俚言集覽、そばへる「船頭詞ニ日、日和ニテ、少少、雨ノバラツクヲ、そばへるト云フ」

そば-まはり ソバ-マワリ (名) 側廻 テマハリ。身邊。

そば-まんぢう ソバ-マンジユウ (名) 蕎麥饅頭 一種ノ饅頭。糝粉、蕎麥粉、各、五十匁ニ、砂糖百廿匁ヲ雜ゼ、佛掌薯ヲ擦シタルヲ五十匁加ヘテ、捏ネ、柔カニ作リ、程ヨク摸リテ、赤小豆餡ヲ包ミ、蒸籠ノ中ニ布巾ヲ敷キ、其上ニ並ベテ、強キ湯氣ニテ、十數分間、蓋ヲ置キテ蒸セバ成ルト。其形ヨリ、腰高饅頭トモ云フ。

そは-みち ソワ-ミチ (名) 岨道 嶮岨シキ道。 太平記、三、笠置軍事「西ノ手ニハ、山陽道八箇國ノ兵ヲ向ヘラル、其勢、三萬二千餘騎、木津河ヲ上リテ、岸ノ上ナル岨道ヲ、二手ニ分ケテ、推シ寄ル」

そ-はん (名) 粗飯 麤飯 旨カラヌ飯。(人ニ勸ムル時ノ謙語) 南史、朱修之傳「姉爲二菜羹麤飯、以激之」「粗飯ヲ差上グル」

〜**そば・む** ・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 側 〔側ヲ活用ス〕 (一)側ニ居ル。カタヨル。 源、三、空蟬「母屋ノ中柱ニそばめル人ヤ、我ガ心懸クルト、マヅ、目トドメ給ヘバ」 同、三十、藤袴「近クサブラフ人モ、少シ退キツツ、御木丁(几帳)ノ後ニ、そばみアヘリ」 同、五、若紫廿「打チそばみテ、書イ給フ」 同、廿一、少女廿八「打守リ給ヘバ、恥ラヒテ、少シそばみ給ヘル傍眼」 (二)傍ヘ向キテ、クネル。ヒガム。 源、十四、澪標十「そばみ恨ミ聞エ給フベキナラネバ」 同、廿五、螢四十「大方、何ヤカヤトモ、そばみ聞エ給ハデ」

そば・む ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 側 〔前條ノ語ノ他動〕 (一)側ムヤウニナス。傍ヘ向クル。 源、十八、松風廿「引キそばめテ、急ギ書キ給フハ」 宇津保物語、藏開、上十九「冠モ打チそばめテ差入レ、指貫、直衣ナドヲ引キサゲテ」 曾我物語、三、祐經引出由井濱ニ事「太刀拔キそばめ」 平治物語、一、光頼參内事「弓ヲ平メ、矢ヲそばめ」 (二)爪彈キシテ、打チモ向ハズ。 撰集抄、九、第十條「カヤウノ事、書キ載セヌルモ、憚リ多ク、カタハラ痛ク侍レドモ、何ト無ク、見捨テ難キニ因リテ、我レヲそばむる人ノ心ヲ顧ミザルベシ」 大鏡、七、道長「上瞻人ハ、楊貴妃ニそばめラレテ、帝ニ見エ奉ラデ」 (三)〔カドダツル、(目ニ)〕 側目 反目 名義抄「側、ソバム、ソハダツ」反目、メヲソバム」 源、三十四、下、若菜、下六十「此院ニ、目ヲそばめラレ奉ラム事ハ、イト恐ロシク」 同、一、桐壺「上達部、殿上人ナドモ、愛ナク、目ヲそばめツツ」 白樂天、長恨歌傳「京師長吏、爲、是側目」

〜**そば-むぎ** (名) 蕎麥 〔稜麥ノ義、穀ニ稜角アリ〕 今、略シテ、そばトノミ云フ。其條ヲ見ヨ。又、そまむぎ。クロムギ。 本草和名、下四十「蕎麥、曾波牟岐」 倭名抄、十七、稻穀類「蕎麥、曾波牟岐、一云、久呂無木」 名義抄「蕎麥、ソバムギ」 續紀、九、養老六年七月戊子「勸二課百姓、種二樹晩禾蕎麥二」 續後紀、八、承和六年七月庚子「令三畿内國司勸三種蕎麥二」

そば-む・く カタハラ ・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 側向 傍ヘ、向ク。脇ヘムク。 蒼梧集、八、好色「スベテ、物ヲダニモ言ハズ、目ヲモ見合ハズ、打チそばむきテ有レバ」 宇治拾遺、十、第六條「少しそばむきタル姿、實ニ、ラウタゲナリ」

〜**そば-め** (名) 側目 カタハラメ、ワキミ。傍ニ居テ、見遣ルコト。傍視 源、三、空蟬「サヤカニモ見セネド、目ヲシ、ツト附ケ給ヘレバ、オノヅカラそばめニ見ユ」 同、十八、松風廿「引キソバメテ、急ギ書キ給フハ、後見ヘナメリ、そばめ、細ヤカニ見ユ」 側目にかくトハ、侮リ蔑ニス。 曾我物語、一、奥野狩庭事「御氣色モ悪シク、朋輩モ、側目にかけケレバ」

そば-め (名) 妾 〔側妻ノ義〕 正妻ノ外ニ娶ル妻。ヲンナメ。テカケ。メカケ。妾。(むかひめニ對ス)

そばめた・つ ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 〔遠慮會釋ナク裝フ状〕 榮花物語、廿四、若枝「手毎ニ燈シタル光ドモナドノ、晝ナリ見ユルニ、又、女宮ドモノ、シタリ顔ニ、アヤシノ姿ドモ、そばめたてテ、物慎シゲモ思ヒタラメ氣色ニテ、御殿油、手毎ニ參リワタス程」

そば-や (名) 蕎麥屋 蕎麥切ヲ作リテ賣ル家。 江戸職人歌合、そばや「そばサヘモ、最中ノ月ハ、名ニ高キ、東向庵ノ、秋ノ夜ノ笠」

そば-やき (名) 蕎麥燒 そばがき(蕎麥搔)ニ同ジ。 お菊物語「蕎麥ノ粉ノアリケルヲ、取リイダシテ、ソノ下女ニ申シツケ、コレヲ、そばやきニシテ、來レト申シケル故」

そは-やり ソワ-ヤリ (名) 楚割 すはやり(楚割)ニ同ジ。 庖丁聞書記「楚割、ソハヤリ」

そば-ゆ (名) 蕎麥湯 蕎麥粉ニ、湯ヲ注ギテ、搔キ雜ゼタルモノ。又、蕎麥切ヲ煠デタル湯。

そば・ゆ ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) 戲 そばふ(戲)ニ同ジ。 今昔物語、廿七、第十三「一人ガ云ケレバ、おそばえタル者ノ、口聞キ、…シク、猛ル方ニ思エ有ケル者ノ、云ク」

そば-ようにん (名) 側用人 江戸幕府ノ

職。初ハ、御近習出頭人ト云ヘリ。一人ヲ定員トシ、常ニ、將軍ニ近侍シ、將軍ノ命ヲ、老中ニ傳フ、萬石以上ノ人ヲ以テ、コレニ補シタリ。初、武元[illegible]守泰朝、次ニ、松平右衛門大夫正綱、等、補セラレシガ、後、柳澤吉保、將軍綱吉ノ側用人トナリテ、威權、頗ル重ク、終ニ、大老格トナリテ、老中ノ上ニ列セシガ如キ異例アリ。又、御側御用人トモ云ヘリ。[illegible]「御側御用人(御近習出頭)」[illegible]寶永三年武鑑「御側御用人」[illegible]「評定所式日ニ、御側用人[illegible]」[illegible]役人之事「一、御側御用人、壹人、四品」

そはる(ソワル)・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)【添】〔添ふる(他動)ノ自動〕益シ加ハル。添フ。[illegible]古今集、十九、[illegible]「[illegible]ノ、そはるバカリゾ」[illegible]ヲ、記セレバ、五ツノ六ツニ、ナリニケリ、是レニそはれル、[illegible]

そばゐ(ソバイ)(名)【傍居】側近ク居ルコト。[illegible]

そひ(ソイ)(名)【傍】〔一語、[illegible]〕一方、[illegible]

そひ(ソイ)[illegible]シヨカバ一[illegible]「[illegible]」宇治拾遺、二、第三條「大嶽ノ旋ノ方ノそひニ、大ナル[illegible]アリ」

そひ(ソイ)(名)【醑】〔添ひノ義〕今、そへ。さけ(酒)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

そひ(ソイ)(名)【陰嚢】〔添ノ義〕そひふぐりノ略。其條ヲ見ヨ。

そび(名)【魚狗】鳥ノ名。そにノ轉、今又、轉ジテ、せび、又ハ、せうび、せうびんトモ云フ。かはせみ(魚狗)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

そひうま(ソイウマ)(名)【副馬】馬車ナドニテ、主タル馬ニ附キ從ハセテ用ヰル馬。ソヘウマ。[illegible]

そびえる(動)そびゆ(聳)ノ口語。

そひかけ(ソイカケ)(名)【添】廣ク大イナル水。名[illegible]ソヒカケ」

そびきもの(名)【聳物】ソビエ、タナビクモノ。(雲、霧、霞、煙、ナド)

そびく・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四)【聳】[illegible]抄「[illegible]、ソビク、タカシ、アガル、[illegible]、ソビケリ、イヨヨ[illegible]

そびく・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四)〔傍寄くノ意カト云フ〕又、そびく。探リ知ラムガ爲ニ、誘フ。オビク。サソフ。コレ東[illegible]

ル。伴フ。[illegible]「宮様ヲそびき出シテ來タ」「人ノ心ヲそびく」

そびけ(名)[illegible]ソビエ[illegible]

そびさう(ソビソウ)(名)【鼠尾草】たむらさう(田村草)ノ條ヲ見ヨ。

そひつ(名)【粗筆】(一)粗末ナル筆。(二)粗末ナル手跡、[illegible]文字ニ(自己ノ書キタル文字ノ謙稱)拙筆。[illegible]

そひね(ソイネ)(名)【副寝】【添寝】そひぶしニ同ジ。[illegible]

そひば(ソイバ)(名)[illegible]ヤ、[illegible]ニ同ジ。

そひふぐり(ソイフグリ)(名)[illegible]精ノ[illegible]炎ノ類カ。略シテ、そひ。[illegible]下重、俗云、[illegible]」

そひぶし(ソイブシ)(名)【副臥】(一)ソヒ[illegible]コト。[illegible]他ニ副ヒテ、[illegible]コト、[illegible]「イトカウ、世ヅカヌ御そひぶしナラムトハ、思ハザリケリ」(二)女ガ、男ニ添ヒテ、臥スコト、[illegible]ドノ少女ヲ、其側ニ添ヒ臥サセシコト。[illegible]故左大臣時平女[illegible]子[illegible]

そひふす(ソイフス)・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四)【副臥】肘ツキ、側ニ[illegible]カカリテ、側ニ臥ス。[illegible]

そひふね(ソイフネ)[illegible]

そひまめ(ソイマメ)(名)[illegible]箋注倭名抄、九「[illegible]」[illegible]

そひん(名)[illegible]

そひもの(ソイモノ)(名)【添物】添ヒタルモノ。

そびやかす・ス・セ・サ・シ・セ[illegible]ヤカニナス。ソビエシム。高ク立タス。[illegible]「肩ソそびやかす」

そびやかみ(名)[illegible]聳エ、延ビヤカナル状[illegible]

同、廿五、筆ニ仄カナレド、そびやかニ臥シ給ヘリツル容體ノ、ヲカシカリツルヲ、厭カズオボシテ」 宇津保物語、國讓、中、「兼君ハ、マダ小サクオハスルガ、貴ニ、そびやかなる御程ノ、御身、丈ニ少シ餘リタリ」

〔そびや・ぐ・グ・ケ・ガ・ギ・ケ（自動、四） 聳ヤカニテアリ、丈高クアリ。 源、十八、松風 九十一「イタウ、そびやぎ給ヘリシガ、少シ、生リ會フ程ニナリ給ヒニケリ」

そび・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動、下二） 聳 〔天ニそそる意〕 （一）高ク、起リ立ツ。ソバダチテ、險阻ナリ。ソバダツ。ソビク。「山、そびゆ」肩、そびゆ」 （二）〔身ノ丈、ソバダツ。丈、高クアリ。 源、十三、明石 二十三「人ザマ、イト貴ニそびえテ、心ハヅカシキ氣色ゾシタル」 紫式部日記「宣旨ノ君ハ、ササヤケ人ノ、イト細ヤカニそびえテ、髮ノ筋、コマカニ清ラニテ、生ヒサガリノ末ヨリ、一尺バカリ餘リ給ヘリ」

〔そ-びら（名） 背 〔背平ノ義カ〕 脊。セナカ。ソガヒ。ウシロ。 古事記、上 十八「曾毘良ニハ、負千入之靫」 神代紀、上 十四「背負千箭之靫」 纓端即位前紀「再拜中背」私記、背、曾比良」

⁂そび・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ（自動、下、一） 機、逸レテ、遂ゲズ。シコジレル。 浮世風呂（文化、三馬）初編、上「昨夜ハ、寢そびれテ、困リ切ッタ」「言ヒそびれる」行キそびれる」

そ-ふ（名） 祖父 オホヂ。ヂヂ。 禮記、喪服小記「祖父卒、而后、爲祖母後者三年」

そ-ふ（名） 鼠婦 〔鼠ノ背ニ着クト云フ〕 オメムシ。ワラヂムシ。 詩經、豳風、東山篇「伊威在室」疏「伊威、一名、鼠婦」

〔そ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四） 添 〔側ノそヲ活用セシム〕 （一）其上ニ、附ク。加ハル。添ハル。 添加 後撰集、十八、雜、四「世ノ中ハ、イサトモイサヤ、風ノ音ハ、秋ニ秋そふ、心地コソスレ」 新千載集、廿、雜、中「和歌ノ浦ノ、波ニ思ハヌ、心ヨリ、そふベキ玉ノ、光ヲゾ見ル」 源、一、桐壺 廿七「美シゲサ、そひ給ヘリ」「數そふ」色そふ」 （二）附キ從フ。連ル。 副 傍 萬葉集、十四 廿「劍太刀、身ニ素布妹ヲ」 源、一、桐壺 十九「カク忌忌シキ身ノ、そひ奉ランモ、イト、人聞憂カルベシ」（源氏君ニ、桐壺更衣ノ母君ノ） 同、四、夕顏 廿五「ツト、御カタハラニそひ暮シテ」「親ニそふ」君ニそふ」 （三）相、竝ビ配フ。（夫婦ナドニ）ツレソフ。 配 古事記、中、應神 一七 長歌「吾ガ見シ子ニ、云云、向ヒ居ルカモ、伊蘇比居ルカモ」（伊ハ、發語） 同、中（孝靈）八十「二柱、相副ひテ」 （四）因ル。傳ハル。 沿 宇津保物語、吹上、上 五「ソノ海面ニ、岸ニそひテ、大イナル松ニ、藤カカリテ」「山ニそふ」

〔そ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（自動、下二） 添 前條ニ同ジ。 源、廿一、少女 三「容貌ノ、イトモ清ラナルニそヘテ、心サヘコソ、人ニハ殊ニ、生ヒ出デ給ヘレト、ホメ聞エ給フヲ」 同、一、桐壺 卅三「年月ニそヘテ、御息所ノ御事ヲ、覺シ忘ルル折無シ」

〔そ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二） 添 〔前前條ノ他動〕 （一）加フ。足ス。益ス。 添加 源、一、桐壺 十五「イトドシク、蟲ノ音シゲキ、淺茅生ニ、露オキそふる、雲ノ上人」 萬葉集、十八 廿八「トナミノ關ニ、明日ヨリハ、守部ヤリ蘇倍」 同、十七 十一 長歌「神ノ社ニ、照ル鏡、倭文ニ取リ蘇倍、乞ヒ祷ミテ」 源、一、桐壺 廿六 元服「限アル事ニ、事ヲそヘサセ給フ」 （二）從ハス。屬クル。 副 萬葉集、廿 五十 長歌「眞鹿兒矢ヲ、手挾ミ蘇倍テ」 （三）ヨソフ。ナゾラフ。 準擬 萬葉集、八 五十五「タナギラヒ、雪モ降ラヌカ、梅ノ花、咲カヌガ代ニ、曾倍テダニ見ム」 枕草子、四、四十四段「そへ言」 天智紀、六年三月「諷諫者多」 古今集、序「大鷦鷯ノ帝ヲそへ奉レル歌」 兼盛集「雪積ル、年ニ添ヘテモ、頼ムカナ、君ヲシラネノ、松ニそへツツ」

〔そ-ふき（名） 歷草 そほきノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十一 牛馬鬐「歷草、曾保岐、俗云、曾布岐」

そ-ふく（名） 粗服 麤服 粗末ナル衣服。 世說、容止篇「裴令公、脫冠冕、麤服亂頭、皆好」

そ-ふく（名） 素服 （一）白色ノ衣服。白衣。 （二）〔辭源「謂喪事、亦曰素、故居喪之服、曰喪服」〕 喪服。 左傳、僖公三十三年「秦伯、素服郊次、嚮師而哭」 續拾遺集、十八、雜、下、「美福門院カクレサセ給ヒケル頃、素服ノ人、數多、參リ合ヒタリケルヲ見テ」 讚岐典侍日記、下「堀河院ノ御そふく賜ハリタラバ、疾ク脫グベキナリト、宣旨下リヌ」 天智即位前紀「素服」稱ノ御喪服） 天皇ノ御用ナルハ、喪葬令、義解ニ「細布、即用淺黑染」トアリ。 名目抄「素服、サイミ、纔著之物也」

そ-ふく（名） 鼠伏 鼠ノ如ク、伏シ隱ルルコト。 漢書、匈奴傳「使匈奴後嗣卒有鳥竄鼠伏、闕於朝享」

そふ-づ（名） 添水 そほづ（案山子）ノ當字。其條、及、そうづ（添水）、並ニ、そうづからうす（添水唐臼）ノ條ヲ參見セヨ。

そ-ぶつ（名） 粗物 粗末ナル品物。粗品。

ソフト（名） 次條ノ語ノ略。

ソフト-ハット（名） 〔英語、Soft hat.〕 中折帽子ノ、柔カナルモノ。

そ-ぶり（名） 素振 顏色、動作ノ氣色。ケブリ。 曾我五人兄弟（元祿、近松作）三「萬人ノ立合ヒ、惡業ノ寄合ヒ、素振リ見セテモ、如何ナリ」

そへ（名） 添 （一）添フルコト。加フルコト。添加。 （二）屬キ從ハスルコト。又、其モノ。 副 （三）そへがみ（添髮）ノ略。 （四）飯ノ菜。

そへ（名） 酘 〔添ノ義〕 古言、そひ。さけ（酒）ノ條ヲ見ヨ。

そへ（名） 〔そは（岨）ノ轉〕 其條ヲ見ヨ。 宇治拾遺、十五、第一條、栗「生ヒ出デテ、木ニナレトテ、片山ノそへニ埋ミ給ヒヌ」

そ-べう（名） 祖廟 先祖ノ靈屋。 左傳、襄公十二年「凡諸侯之喪、云云、同宗於祖廟、同族於禰廟」 杜注「祖廟、始封君之廟也」

〔そへ-うた（名） 諷歌 〔擬ヘ歌ノ意〕 他事ニ諷ヘテ述ブル歌。物ニ擬ヘテ、諭ス意ヲ詠メル和歌。寄歌。譬喩ノ歌。 神武紀 十二、天皇、國見丘ノ八十梟帥ヲ擊チ給フ時、御謠「伊勢ノ海ノ、大石ニヤ、イ這ヒモトヘル、細螺ノ、云云、擊チテシヤマム」ト、謠意、以大石喩其國見丘也、云云、奉承密策、能以諷歌倒語、掃蕩妖氣」トアリ。 古今集、序ニ、歌ニ、六ツノ義アルコトヲ論ジテ「一ツニハ、そへ歌、大鷦鷯ノ帝ヲそへ奉レル歌、難波津ニ、咲クヤコノ花、冬籠リ、今ヲ春方ト、咲クヤコノ花」トアリ。

そへ-うま（名） 副馬 そひうま（副馬）ニ同ジ。 字類抄「驂、ソヘウマ」

そへ-がき（名） 添書 文書ニ添ヘテ記ス文。又、オッテガキ。

そへ-がみ（名） 添髮 〔古ヘノ假髮ノ轉カト云フ〕 髮少ナキ人ノ、髮ニ添ヘ入レテ結フモノ。他人ノ髮ヲ束ネテ、製ス。略シテ、そへ。又、イレガミ。イレゲ。カモジ。 髲髢 好色一代女（貞享、西鶴）六「白髮ニ添髮シテ、後家ラシク造リナシ」

そへ-かん（名） 添翰 そへぢやう（添狀）ニ同ジ。

〔そへ-ぐるま（名） 副車 又、そひぐるま。乘替ヘノ牛車。人給。後乘。 倭名抄、十一 車類「副車、曾比久流萬、俗云、比度太萬比、後乘也」 名義抄「簉、ソヒグルマ」 張衡、西京賦「屬車之簉」 注「簉、副也」

そへ-こ（名） 副子 ウラザシ。コヅカ。

北上記「小刀ト云フヨリハ、御そへごト申ス」

そへ-ごと（名）［諷言］ヨソヘゴト。他ノ物事ニ擬ヘ[illegible]云フ[illegible]。[illegible]ソヘゴト[illegible]、[illegible]。[illegible]、[illegible]、[illegible]。そへごとヲ申スゾ、ナドテ、御膳ノ前ニ侍リテ、萬ツノヲカシキモノヲ、取ウ出テ、獣キ呼ビ出デ給ヘバ」

そへ-ごと（名）［添言］言加フルコト。言ヒ添フルコト。枕草子、四、四十四段「萬ツノ事ヲ語ル、若キ人人出デ來テ、云云、口口ニ問フニ、ヲカシキ事、そへごとナドスレバ」

そへ-ことば（名）ふくゐ（副詞）ニ同ジ。

そへ-じやう（名）［添狀］人、物、ヲ送ルトキ、其旨ヲ記シテ、添ヘテ遣ル書狀。添書。添文。添翰。添書　書[illegible]「御添狀」ト云事、綸令、御内書被添給候ヲ申候也、三書ヲモ、其外ヲモ、如此之時ハ、御添狀ト云也」寛元日記、寛正六年六月二日、上杉[illegible]エ、御書狀、御判出候」本朝若風俗（貞享、西鶴）八、送上箱一ツヲ遺シテ、云云、上ホ、氣ヲ附ケテ見シニ、是レニ、添狀アリ」

そへ-しよ（名）［添書］前條ノ語ニ同ジ。

ぞべ-ぞべ-と（副）締リナキ狀ニ云フ語。キリリトセズ。日本振袖始（享保、近松作）三「百姓ノ子ハ、小サウテモ、ぞべぞべとシテ、埒明カヌ」

そへ-ぢ（名）添乳　小兒ニ添臥シテ、乳ヲ飲マスルコト。哺乳　天神記（正德、近松作）一「乳母シイカト、抱キヨセ、云云、添乳シテ、[illegible]リ歌スゾ哀レナル」

そへ-でがみ（名）［添手紙］人、又ハ、物ニ添ヘテ送ル手紙、添書。添文。

そへ-に（副）「[illegible]」[illegible]　其條ヲ見ヨ」（一）心ニ、[illegible]。[illegible]。[illegible]。（二）[illegible]シカリ、サヤ、ニ、古今集、十九、[illegible]　そへにとて、とすればかかり、[illegible]ク、[illegible]、アナ

[illegible]ヒ[illegible]、[illegible]サニ、[illegible]、ツマサナバ、戀ヒテゾ知リヌ、そへにとテ、思ヒヤムベキ、心ナラ[illegible]、[illegible]。ヤハト、思ヘドモ、堪ヘヌハ人ノ、心ナリケリ」[illegible]内侍日[illegible]、[illegible]。心得ケ[illegible]モ、イカガ[illegible]（二）ニ同ジ。[illegible]十六、[illegible]日「己レハ[illegible]ユルこと[illegible]カナト[illegible]ヘバ、そへにト[illegible]、己レハ[illegible]ユル[illegible]カナト[illegible]フ、又、そへにト[illegible]フ」

そへ-ばん（名）副番　當番ノ者、若シ、疾病、事故ナドアリテ、出仕スルコト能ハザルトキハ、其代人トシテ、豫メ定メタル番人。[illegible]、永正九年三月十四日、十三日後、[illegible]二[illegible]、十四日[illegible]、[illegible]也」

そへ-ぶみ（名）［添文］添狀。添手紙。

ぞべ-ほんだ（名）［ぞべぞべとシタル本多髷ノ略カ］江戶時代ノ初ニ流行シタル、本多髷ノ一種。中剃ヲ廣ク剃リ、結ヒタル髷ノ、[illegible]リ、中剃ノ見ユルヤウニシテ、[illegible]、[illegible]ト一ト、[illegible]、[illegible]ニシテ、月代ヘ[illegible]キタルヤウニ、元結ヲ巻キカケテオクモノ。歌舞伎者ナドノ間ニ行ハル。（[illegible]）

そへ-もの（名）［添物］（一）添ヘタルモノ。附ケ加ヘタルモノ。榮花物語、三十、[illegible]林[illegible]トモノそへ物、[illegible]ナド」（二）京[illegible]ニテ、[illegible]ヘノ景物。景品。

そへ-やく（名）［添役、副役］「[illegible]ノ[illegible]」[illegible]役ニ[illegible]ヘテ、[illegible]ヲ[illegible]ク役、[illegible]

そへる（[illegible]）[illegible]下ニ[illegible]ノ[illegible]

そ-べる（[illegible]）「[illegible]」[illegible]、[illegible]、[illegible]

ぞべ-る（[illegible]）[illegible]

ソベレエン（名）［英語、Sovereign.］英國ノ、一ぽんど ノ金貨ノ名。

そほ（名）［赭］色ノ[illegible]。[illegible]。[illegible]ソホニ。萬葉集、三[illegible]、旅ニシテ、物戀シキニ、[illegible]「眞金吹ク、丹生ノ眞[illegible]保ノ、色ニ出デテ、云ハナクノミゾ、吾ガ戀フラクハ」

そば（[illegible]）［[illegible]］[illegible]

そほう（名）［素封］［素ハ、空ノ義］諸侯ニ封ゼラレザレドモ、諸侯ノ如キ富アルコト。[illegible]

そほき（名）［[illegible]］（倭名抄、十一、牛馬[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]アリ、[illegible]、三[illegible]、[illegible]會保[illegible]トアリ、[illegible]フ、馬ノ[illegible]、草ヲ[illegible]、[illegible]分ト云フ、[illegible]、或ハ、是レナラムト」牛馬[illegible]ノ[illegible]

そぼく（名）［素朴、素樸］人爲、人工ヲ加ヘザルきぢ。天眞ノ儘ナルコト。樸[illegible]、[illegible]ナキコト。イツハリ、カザリノナキコト。質樸。[illegible]

そぼ-くり（[illegible]）[illegible]

そほ-た・る（[illegible]）[illegible]　そほたれテ、山田[illegible]

そほつ（名）［案山子］［濡人ノ義ニテ、雨露ニ濡ち、山田ニ立ツル意］（一）やまだのそほどノ略轉、ごりおどしニ同ジ。カガシ。八雲御抄、三、[illegible]、そほつ、[illegible]（二）[illegible]ジテ、別ニ、田圃ニ設ケテ、鳥獸ヲ威カス具、竹筒ヲ一尺バカリニ切リテ、端ニ細竹ヲ[illegible]、[illegible]ノ兩岸ニ挾ム、筒、水ヲ受クレバ、傾キ、石ニ觸レテ、我ト音ヲ發ス。[illegible]（石川丈山）一、日次紀事、[illegible]ノ作レルモノト[illegible]、コレヲ、僧都トオヒ、又、添水（[illegible]）ナドトモ云ヒ、又、鹿威[illegible]、[illegible]、添水ノ[illegible]

そほ・づ（[illegible]）[illegible]

數遣火立ツル、賤ノ男ガ、そほブト見ユル、衣サボスカ」曾丹集、九月、上「老イニケル、齢モ錢モ、延ブバカリ、命ノ端ニゾ、今朝ハそほづる」 拾玉集(慈鎭)「二旅衣、ツヒニそほおム、フリノリハ、別レシ袖ノ、思ヒオコセヨ」 [illegible] 古今集、十一、戀、上「泣キ濡ラフル、クモ、[illegible]」 袖ノ、そほおナバ」同、十、物名、「[illegible]、ワケそほちツツ、花見ムト、今ゾ野山ヲ、ミナヘ知リヌル」

そほ・つ・ツル・ツレ・チ・テ・チコ(自動、上二) 濡 〔前條ノそほづノ濁音ノ顚倒〕 前條ノ語ニ同ジ。 和泉式部續集「カクバカリ、そほつるモノハ、イヅコニカ、唐ニモアラジ、大和撫子」 古今集、十、物名「心カラ、花ノ雫ニ、そほちツツ、うぐひすトノミ、鳥ノ鳴クラム」 同、八、離別「限リ無ク、思フ涙ニ、そほちヌル、袖ハ乾カジ、逢ハム日マデニ」

そほ-ど (名) そほづ(案山子)ニ同ジ。古事記、上、四十六「所レ謂久延毘古者、於レ今者山田之曾富騰者也、此神者、足雖レ不レ行、盡知二天下之事一神也」

そほ-に (名) 赭土 そほ(赭)ニ同ジ 神代紀、下、十六「以二赭塗一レ面」 私記「赭、曾保爾」 又、上ニ、まヲ加ヘ、下ノにヲ略シテ用ヰタルモノハ、萬葉集、十六、廿「佛造ル、眞朱足ラズバ、水溜ル、池田ノ朝臣ガ、鼻ノ上ヲ掘レ」同、同卷「何處ニカ、眞朱掘ル岡、薦疊、平群ノ朝臣ガ、鼻ノ上ヲ掘レ」同、十四、三十「眞金吹ク、丹生ノ麻曾保ノ、色ニ出デテ、イハナクノミゾ、我ガ戀フラクハ」

そほ-ぬ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) ショボショボト、濡ルル。 神樂歌、小前張、蓑「一重ノ狩衣、ナ取入レソ、イト嫉シ、小雨ニ曾保奴留」 [illegible]集、下、五月雨ニ、櫻ノ行[illegible]、そほぬれテ、アケユク射手ヤ、矢取リナルラン」 盛衰記、四十八、女院寂光院入御事「野寺ノ鐘ノ入相ノ音凄ク、草葉ノ露ニそほぬれサセ給ヘリ」

そほ-ふね (名) 赭船 〔赭ハ、赤土ナリ〕 朱漆ヲ塗リタル船。(官船ナル由) 萬葉集、三、廿九「旅ニシテ、物戀シキニ、山下ノ、赤ノ曾保船、沖ニ漕グ見ユ」 同、十三、廿一長歌「押照ル、難波ノ崎ニ、引キノボル、赤ノ曾朋舟、曾朋舟ニ、綱取リカケテ」 營繕令、義解「官私船」註「公船者、以二朱漆一之」

そほ-ふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 涑 ソボ、降ル。シボシボ、降ル。ショボショボ、降ル。シボシボト、降ル。ジメジメ、降ル。 萬葉集、十六、廿三「彌彦ノ、オノレ神サビ、青雲ノ、タナビク日スラ、小雨曾保布流」 新古今集、二、春、下「春雨ノ、そほふる空ノ、小止セズ、落ツル涙ニ、花ゾ散リケル」

そ-ほん (名) 素本 本文ノミ載セタル書。白文ノ(漢文ノ)書物。スホン。白本。(注解、返リ點ナドアルモノニ對ス) 「文選素本」「釋日本紀ノ素本」

そ-ほん (名) 粗笨 麤笨 〔集韻「笨、麤率也」〕 粗クシテ、ザッナルコト。粗末ナルコト。粗率。粗雜。 宋書、王微傳「王樂小兒時、尤麤笨無レ好」

そぼ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 戲 タハブル。ソバフ。戲ル。 狹衣、一、上、十「扇ナド打鳴ラシツツ、笑ヒそぼるるケハヒドモ」 源、三、空蟬、九「イヨイヨ、誇リカニ打チトケテ、笑ヒナド、打チそぼるれバ」 同、三十二、梅枝、十「今ノ世ノ上手ニオハスレド、餘リそぼれテ、癖ゾ添ヒタメル」 同、三十四、上、若菜、上、四十「梨、柑子ヤウノ物ドモ、云云、人人、そぼれ取リ食フ」 同、廿四、胡蝶、十二「柏木ノ衛門ガ文ノサマ、書キサマ、今メカシウ、そぼれタリ」

そぼれ-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 戲合 互ニ、戲ル。戲レアフ。 源、廿三、初音、三「齒固ノ祝シテ、餅鏡ヲサヘ取寄セテ、千年ノカケニシルキ、年ノ内ノ祝事ドモシテ、そぼれあへルニ、大臣ノ君、差覗キ給ヘレバ」

そぼろ (名) 〔そそけテほろほろトナリタル意〕 (一)おぼろ(朧)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。 (二)物ノ、ホロホロトナリタルモノ。 色道居草子(享保二)「髮ハ、そぼろノ時ヨリ、丁子油、云云、紙遞ノ黃蜀葵ヲ使ハセ」

そぼろ-じる (名) せろっぽじる(纖蘿蔔汁)ノ條ヲ見ヨ。

そぼろ-どうふ (名) おぼろどうふ(朧豆腐)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

そま (名) 杣 〔字ハ、木ヲ植エタル山ノ合字、弘仁年中、修理算師山田福吉等ノ撰上セシ功程式ニ、杣ノ字アリ、福吉ガ創造字ナリト、江談抄ニ見ユルハ、誤ニテ、寶龜十一年西大寺資財帳、及、延暦廿三年ノ太神宮儀式帳ニ見ユト(箋注倭名抄)〕 (一)〔山ニ、樹木ヲ植付ケテ、材木ヲ採ル處〕杣山。 倭名抄、一、山谷類「杣、[illegible]」 萬葉集、十一、卅「宮材引ク、泉ノ追馬喚犬ニ、立ツ民ノ、息フ時無ク、戀ヒ渡ルカモ」 千載集、十七、雜、中「オホケナク、浮世ノ民ニ、オホフカナ、我ガ立ツ杣ニ、墨染ノ袖」 (二)杣ヨリ取リタル材。杣木。 夫木抄、廿八「山陰ニ、茂キ蓬ノ、そま造、我ガ住ム庵ノ、園ニゾ借ル」「そま板」「そま下シ」「そま取リ」 (三)杣木ヲ伐リ採ルヲ、業トスルモノ。杣人。杣取。 新六帖、一「ミソギ取ル、杣モ佛ノ、種見エテ、我ガ立ツト聞ク、跡ハ絕エセジ」 增鏡、上、おどろのした「飛鳥川、アスヨリ後ノ、我レ立チシ、杣ノタヅキノ、響キヨリ、栞ノ朝霧、晴レノキテ」

そまい (名) 租米 年貢米。年貢ニ、收ムル米。 陳造詩「[illegible]指二金錢一交、券[illegible]租米二」

そま-いた (名) 杣板 杣山ヨリ木造シテ出ス板。 夫木抄、三十一「長門ナル、安武ノ郡ノ、そまいたハ、唐人モ、スサメザリケリ」

そま-いり (名) 杣入 杣人ガ杣山ニ入リ、杣木ヲ伐ル初。 聖德太子繪傳記(享保、近松作)一「ウヌ等ガ罪障ノ山ノ杣入リ、杣木ニナレ」

そ-まう (名) 所望 しょまう(所望)ニ同ジ。 字類抄「所望、ソマウ」

そま-うど (名) 杣人 そまびとノ音便。 運步色葉集「杣人、ソマウド」

そま-かた (名) 杣方 林ノ樹ノ、繁ク生ズル處。 千載集、五、秋、下「そまかたニ、道ヤ惑ヘル、サヲ鹿ノ、妻問フ聲ノ、繁クモアルカナ」

そま-がは (名) 杣川 杣木ヲ流ス川。 詞花集、二、夏「杣川ノ、筏ノ床ノ、浮枕、夏ハ涼シキ、臥所ナリケリ」 散木集(俊賴)九、雜、上「筏師ニ、道フそま川ノ、澪標、押シノケラレテ、過グル頃カナ」 濱松中納言物語、二「杣川ニ、オロス筏ノ、イカニトモ、云フベキカタモ、無クゾ流ルル」

そま-ぎ (名) 杣木 〔岨木トモ云フハ、音轉ナリ〕 (一)杣山ニ生ヒタル樹。 夫木抄、十五「マキモクノ、檜原ニ雜ル、薄紅葉、コレヤ朽木ノ、そま木ナルラム」 (二)又、ソレヲ伐リ出セル材。谷間ニ生ヒタル木材ハ、風力ヲ平等ニ受クレバ、木質、偏固ナク、建築ニ良シト。 新六帖、二「高島ヤ、ミヲノ杣木ノ、山下シ、苦シキ世トテ、厭ヒヤハスル」 夫木抄、廿一「峰越シノ、谷ノそまぎノ、細弱ミ、アガラデ捨テシ、名コソ惜シケレ」

そ-まくさ (名) 蘇莫者 次條ノ語ニ同ジ。 龍鳴抄、下、盤涉調「蘇莫者、ソマクサ」

そ-まく-しゃ (名) 蘇莫者 蘇幕遮 蘇摩遮 〔蘇莫者ハ、モト高昌國(今ノ支那、新疆省、土魯番ノ地)ノ女子ノ帽子ノ名ナリト〕 又、そまくさ。 舞樂ノ曲ノ名。中華ノ曲ニテ、唐ノ時、西胡ノ渾脫隊ノ舞ナリト云フ。 唐書、宋務光傳「比見二坊邑相率爲二渾脫隊一、駿馬胡服、名曰二蘇莫遮一、旗鼓相當、軍陣勢也」 張說、蘇摩遮詞「摩遮本出二海西胡一、琉璃寶服紫髯胡、[illegible]將歌舞助二歡娛一」 教訓抄、七、[illegible]裝束、持二左桴一、天王寺舞二之」 菅家集、六、管絃、延喜廿一年十月十八日、八條大將(保忠)、中納言ノ時、勅ヲ受ケ給ヒテ、[illegible]セサル舞ヲ御覽ゼラレケリ、云云、蘇莫者、云

云、コレラヲ、御覽ゼラレケリ」

そま-くだし (名) 杣下 杣木ヲ、川上ヨリ流シ下スコト。別雷社歌合、十二番「そまくだし、霞タナビク、春來レバ、雪消ノ水モ、聲合ハスナリ」萬代集、二、夏「五月雨ハ、ニフノ河原ノ、杣くだし、引カヌニ寄スル、キサノ山川」

そま-たくみ (名) 杣工 そまびと(杣人)ニ同ジ。夫木抄、三十五、匠「そまたくみ、[illegible]崎ノ、網代ニ、サコソ梓ノ、山響ムラメ」

そま-た・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 杣人ヲ催シ立ツ。又、杣木ヲ伐リ出ス。拾遺集、十、風俗「高島ヤ、ミヲノ中山、そまたてテ、作リ重ネヨ、千代ノナミ倉」

そまつ (名) 粗末・麁末・疎末 (一)粗ク作レルコト。精製ナラヌコト。雜。粗運步色葉集「麁球、ソマツ」「粗末ノ品」 (二)粗略。粗忽。輕忽「粗末ニ扱フ」

そま-づくり (名) 杣造 杣木ヲ、木造スルコト。杣木ヲ、所用ノ形ニ、伐リ、或ハ、削リナドスルコト。沙石集、六、下、第十五條「東大寺ノ大佛殿造立ノタメニ、[illegible]、周防、國ノ山ニテ、杣作セサセテ」

ソマトオゼ (名) 「獨逸語、Somatose.」強壯劑ト譯ス。肉ニテ製造シタル、滋養品ノ一種。帶黃褐色、無臭ノ細粉ニシテ、蛋白質ヲ含有シ、水ニ溶ケ易シ。

そま-どり (名) 杣取 杣木ヲ、伐リ取ルコト。又、其人。ソマビト。[illegible]ノ、ミホノ杣取り、取リモ敢ヘズ、引クヲ心ト、[illegible]ヤ[illegible]ラン」

そま-びと (名) 杣人 杣山ニ入リテ、植林ヲ伐リ採ル人。キコリ。[illegible]マタクミ。[illegible]

そまん (名) 疎慢 疎クシテ、締リ無キコト。疎放、散慢。[illegible]

イササメニ、假庵ノタメト、作リケメヤモ」古今集、廿、物名、ひぐらし「[illegible]、八、[illegible]ノ、山[illegible]、山蔭、呼ビ[illegible]ナリ」

そま-むぎ (名) 蕎麥 そばむぎ(蕎麥)ニ同ジ。[illegible]集、十八、[illegible]リケルヲ、云云、カシコニ、引板延ヘテ侍ルそまむぎナン、コレナリト、云フヲ聞キテ」

そま-やま (名) 杣山 杣ニシタル山。杣木ノ山。ソマ。萬葉集、[illegible]ラサント、思ハネバ、凡ニゾ見ケル、[illegible]山」拾遺集、十七、[illegible]月、時雨ヲ下ス、雪トナリケレ」新古今集、十六、雜、上「そま山ヤ、梢ニ重ル、雪折レニ、タヘヌナゲキノ、身ヲ[illegible]クラン」

そまり (名) 染 染マルコト。染ミタル色合。そまり[illegible]

そま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 染 (一)[色]ニ染ム。色ヅク。染ム。神代紀、上[illegible]、敏達紀、染[illegible]八十河中所[illegible]十七、雜、下「昔誰レ、人ノ心ヲ、白絲ノ、染ムレバ染まる、色ニ流キケム」 (二)他ノ風ニ馴レ移ル。其[illegible]ニ移リツク。カブル。[illegible]「[illegible]ニそまる[illegible]ニそまる」[illegible]風俗ニそまる」

そみ-かくだ (名) 「蘇民書札ノ約ニテ、次第[illegible]ノ語ヲ符ニ書キテ、人ニ與フルヨリ云フカト云フ」修驗者、山伏、ノ異名。[illegible]シラカシノ、[illegible]そみかくだ、[illegible]ミヤマ[illegible]フセテ[illegible]集、[illegible]、[illegible]ノ、そみかくだ[illegible][illegible]ンケン」

そ-みつ (名) [illegible] [illegible]コト。[illegible]

そみん-しやうらい (名) 蘇民將來 (一)厄除ノ神。疫ヲ避クル神符ニ記ス語。神代ニ、素戔嗚尊、南海ニ赴キ、蘇民將來ノ家ニ宿リ給ヘル時、疫、行ハレミケバ、茅輪ヲ作リ、懸ケテ、疫ヲ免レシメ給ヒキ。後世、疫アレバ、門戸ニ懸ケテ、蘇民ノ子孫ナリトノ意ヲ示スモノトゾ。[illegible]

[illegible]上、瞻部令[illegible]、卽夜[illegible]、蘇民與二女人一二人、以二茅輪一令[illegible]、與[illegible]婦侍、[illegible]止申須、卽[illegible]久、以二茅輪一令[illegible][illegible]世[illegible]

[illegible]弟止部役」(釋紀、七) 日本百科大辭典、京都祇園社ノ攝社、蘇民將來ハ、厄除ノ神ヲ祭ルト云フ、云云、(事八、備後風土記ニ見ユ)後世、神符ニ、蘇民將來子孫[illegible]ニ基クトナシタリ、然レバ、蘇民ハ、元、印度ノ神ニテ、疫疾ヲ救フコトヲ司リシヲ、[illegible]ノ說、我[illegible]ニ行ハレテ、藥[illegible]ノ本地ヲ、牛頭天王トナシシヨリ、蘇民ガ事ヲ附會スルコトトナリ、遂ニ、祇園社ノ攝社トシテ、蘇民ガ祠ヲ設クルニ至リシナルベ[illegible]

[illegible]

そ・む [illegible] [illegible] (一)[illegible] 粗ク[illegible]リ、八角形ニシテ、塔ノ如ク、[illegible]

そ・む [illegible] 染 (一)染むノ[illegible]ソマル。色ニ染ム。[illegible] [illegible]下「身コソアラメ、[illegible]袖ニ[illegible] ソハ、可シト思フ[illegible]心ニそむトモ[illegible] クル、法ノ[illegible]心ニそむ[illegible] 「白雲ハ、立隔ツレド、紅ノ、薄花櫻、心ニゾそむ」

そ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 染 (一)[色]アル水ニ浸シテ、色ヲ着ケシム。染ミコマス。古今集、廿、[illegible]トヤ花ノ、色ノ見ン、霜ク白露ニ、そむるバカリヲ」 (二)紅、墨、筆[illegible]ナドニテ、索ク、イロドル。「筆をそむ」トイフハ、心ヲ、[illegible]スル意。(二)心をそむトイフハ、心ヲ、[illegible]後撰集、[illegible]、有、上「[illegible]ノ花、[illegible]トカクル、[illegible]心ヲそめバ、人ヤ[illegible]メム」古今集、[illegible]、深クそめてシ、[illegible]リケレバ、[illegible]

そ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 初 始ム。始(熟語ニノミ用キル)風雅集、[illegible]ルル日アラメヤ」拾遺集、十八、[illegible]ろ、東ノ心ノ、見ユルカナ、[illegible]ノ[illegible]バ

そん [illegible]

そん（名）［存］ソノママニテアルコト。有リテアルコト。現存。[illegible]

そん（名）［孫］〔[illegible]親也「子之子爲レ孫」說文「孫、子之子也、从レ子从レ系、系、續也」[illegible]順[illegible]續先祖之後[illegible]也」〕(一)ウマゴ。(二)子孫。後胤。「十世ノ孫」

そん（名）［損］〔得ニ對ス〕(一)利ヲ失フコト。益ノ、ナクナルコト。損亡。損失。宇津保物語、藤原君「物ノ費アルコトヲ數フレバ、多クノそんナリ」(二)減少スルコト。ヘルコト。說苑、敬愼篇「[illegible]則反、滿則損」(三)謙遜スルコト。ヘリクダルコト。易經、繫辭、下傳「損以遠レ害、益以興レ利」同「損、德之修也、益、德之裕也」

そん（名）巽　辰巳。卽チ、東南ノ方。

〔そん（名）［樽］〔古クハ、たり、今ハ、たる〕タル。陶潛、歸去來辭「有レ酒盈レ樽、引二壺觴一以自酌」倭名抄、十六、漆器類「樽、唐韻、樽同、無二和名一、俗稱二之[illegible]、酒器也」宇津保物語、[illegible]院「酒、そんニ入レテ、持タセテ詣デテ」同、貴宮「一石入ルそん十二、酒入レ」謡曲、千手「樽ヲ抱キテ參リツツ」同、松蟲「白樂天ガ酒功讚ヲ作リシ、晉時酒ノ友、今ニ知ラレテ、市原形ニ、樽ヲ携ヘ、盃ヲ並ベテ、寄リ來ル人ヲ待チ居タリ」

そん（名）［飧］〔飧ハ、俗字〕食事ヲスルコト。夕飯。詩經、魏風、[illegible]「彼君子兮、不二素飧一兮」（飧、一本、餐ニ作ル）孟子、滕文公、上篇「賢者與レ民並耕而食、饔飧而治」注「朝曰レ饔、夕曰レ飧」平家物語、二、行隆沙汰事「官ヲモ止メラレテ、夏冬ノ衣更ニモ及バズ、朝暮ノ飧モ稀ナリ、有ルカ無キカノ體ニテオハシケルヲ」

そん-い（名）［尊意］他人ノ意志、又ハ、意見ノ敬稱。オボシメシ。そんりよ（尊慮）ニ同ジ。[illegible]后[illegible]、追崇恐、乖二尊意一」俗語[illegible]「尊意以爲二何如一」

そん-い（名）［存意］カンガヘ。ミコミ。ぞんねん（存念）ニ同ジ。

そん-いう（名）［損友］交際上、己レニ不利ナル友。益友ニ對ス。論語、季氏篇「損者三友、友二便辟一、友二善柔一、友二便佞一、損矣」

そん-いふ（名）［村邑］ムラザト。邑里。宋史、[illegible]傳「[illegible]思之亂、妖寇攻二破村邑一」

そん-いん（名）［寸陰］そんいん（寸陰）ノ轉。字類抄「寸陰、ソンイン」

そん-えい（名）［尊影］人ノ寫眞、又ハ、肖像ノ尊ビ云フ語。御影。最明寺殿百人上臈、上ノ卷、近松作「故右大臣賴朝卿ノ尊影ヲ、木像ニ刻ミ奉リ」

そん-えい（名）［尊詠］神佛、又ハ、他人ナドノ詠ミタル詩歌ノ尊稱。謡曲、舟辨慶「唯頼メ、シメヂガ原ノ、サシモグサ、我レ世ノ中ニ、アラン限リハ、カク尊詠ノ僞リナクバ、ヤガテ御代ニ出舟ノ」

そん-えき（名）［損益］(一)損ト、益ト。利益ト、不利益ト。(二)損耗ト、利益ト。財產ノ增減。(三)ヘラスト、增スト。增減。增損。論語、爲政篇「殷因二於夏禮一、所二損益一可レ知也、周因二於殷禮一、所二損益一可レ知也」

そん-か（名）［村家］村里ニアル家。キナカヤ。方干、山中言レ事詩「日與二村家一事漸同」

そん-か（名）［尊下］そんぢやう（尊丈）ニ同ジ。

そん-がい（名）［尊骸］貴人ノ亡骸ヲ尊ビ云フ語。津國女夫池（享保、近松作）二「御靈所ニ極マッタリ、云云、果敢ナキ御尊骸ノ有樣ヤ」

そん-がい（名）［損害］ソコナハルルコト。損亡。人物志、[illegible]、劉[illegible]「夫人情、莫レ不レ欲二名利之進一、損害ニ一」太平記、三十五、北野通夜物語事、三ニハ、自ラノ怨讐ト號シテ、他ノ衆生ヲ損害セシ咎」

そん-かう（名）［損耗］一耗ハ、音、もう、ノ時ハ、みだる意ナリ。ヘルコト。損失。損亡。南史、傅縡傳「貴賤公行、帑藏損耗、神怒人怨、衆叛親離」

そん-がう（名）［尊號］尊ビ呼ブ號。尊稱。史記、高祖紀「功最高、上二尊號一爲二高皇帝一」保元物語、一、新院御謀反事「先帝ノ太子ト生レ、世、澆薄ナリトイヘドモ、萬乘ノ寶位ヲ忝クス、上皇ノ尊號ニツラナルベクハ、重仁コソ、人數ニ入ルベキ處ニ」

そん-がくきう（名）［村學究］田舍ノ、淺薄、固陋ナル學者。村夫子。村儒。瑯琊代醉編「楊用修曰、杭州有二杜拾遺廟一、有二村學究一、題爲二杜十姨一、遂作二女像一、以配二劉伶一」

そん-かん（名）［尊翰］そんしよ（尊書）ニ同ジ。運歩色葉集「尊翰、ソンカン」

そん-がん（名）［尊顏］(一)顏ノ尊稱。楞伽經「不レ愧二尊顏一」「麗シキ御尊顏ヲ拜シ、恐悅至極」(二)面會ノ敬語（手紙ニ）

ゾン-ガラス（名）〔蘭語、Zon glas.〕和蘭製ノ、日月ヲ見ル眼鏡。

〔そむき（名）［背］ソムクコト。ウシロムキ。源、三十七、鈴蟲「コヨナウ變ハリニシ御心ヲ、イカデ見エ奉ラジノ御心ニテ、多ウハ思ヒナリ給ヒニシ、御世ノそむきナレバ」夫木抄、廿三「ナキスミノ、船瀨ヲ過ギテ、今見レバ、そむきニ霞ム、阿波ノ島山」

そん-き（名）［尊貴］タフトキコト。又、其人。漢書、匡衡傳「遵二尊貴一[illegible]、居二[illegible]中一、[illegible]師[illegible]レ敎、[illegible]其秀一[illegible]、[illegible]善レ之、日以尊貴」

ぞん-き（副）愛情ナク、人ヲ扱キ使フ狀ニ云フ語。浮世風呂（文化、三馬）二編、下「本ニ本ニ、アンナニイケぞんきナ者ア、鐵ノ草鞋テ尋ネテモ有ルメエ」

そん-ぎん（名）［損金］損亡トナリタル金。錢。ソンギン。

そん-ぎん（名）［損銀］前條ニ同ジ。五十年忌歌念佛（寶永、近松作）中「其方ガ預ウタ、帳面ヒノ損銀」

そん-きやう（名）［尊敬］タフトビ、ウヤマフコト。崇敬。尊敬。津國女夫池（享保、近松作）旅腹帶「世ノ數ナラヌ浪人ヲ御賴ミ、名字ノ釁マレト尊敬シ」

そん-きよ（名）［蹲踞］ウヅクマルコト。シヤガムコト。孝子傳、晉、侍郎「陶朱公與二子[illegible]、[illegible]人往弔レ之、朱公方[illegible]蹲踞、捧レ頭而笑」盛衰記、三十二、法皇自二天台山一還御事「兩人相並テ、東庭ノ南ニ當テ、御所ノ方ニ向テ、蹲テ候ケリ、別當實家、座ヲ起テ、北ノ簀子ニ蹲踞シテ、砌下ニ進ムベキノ由、頻ニ目シケレ共」（天台山ハ比叡山ナリ）

〔そ-む・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［背負］［叛］［畔］［反］〔背向くノ義、面向くノ反〕(一)背ノ方へ向ク。後向ニナル。竹取物語「歸ルサノ、行幸物憂ク、思エテ、そむきテトマル、カグヤ姫故」源、五十、浮舟「心憂ク身ニハ、スズロナルコトモ、イト苦シク、トテ、そむき給ヘリ」(二)從ハズ。戾ル。違フ。乖。竹取物語「國王ノ仰セ言ヲそむかバ、ハヤ殺シ給ヒテヨカシ」「法度ニそむく」約束ニそむく」(三)逆フ。手向ヒスル。ハムカフ。叛。反。垂仁紀、五年十月「不レ得レ匿レ謀、而慄恐伏レ地、曲上二兄王之反狀一」「君ニそむく」政府ニそむく」(四)離レ別ル。源、二、帚木「ナノメニ移ロフ方アラン人ヲ恨ミテ、氣色バミそむかン、ハタ痴ガマシカリナン」(五)世ヲ捨ツ。出家ス。伊勢物語、百二段「そむくトテ、雲ニハ乘ラヌ、モノナレド、世ノ憂キコトゾ、ヨソニナルテフ」古今集、十八、雜、下「然リトテ、そむかレナクニ、事シアレバ、マヅ歎カレヌ、アナ憂世ノ中」源、五、若紫「世ヲそむきテ侍ルガ」

そ-む・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［背］

〔前條ノ語ノ他動〕（二）背ヘ向クル。[illegible]ノ方ヘ向キテ[illegible]「[illegible]」「[illegible]タル、闇ノトモシ火」「顔ヲそむく」（二）離反ス。心ヲ離ス。[illegible]ハ、日ニソヘテ、人ニモそむけラレユクニ」

そんくん（名）尊君 他人ノ、父ヲ尊ビ云フ語。尊父。[illegible]

そんくん（代）尊君 對稱ノ代名詞。敬稱トス。アナタ。尊公。[illegible]「晉人于二人子之前一稱二其父一曰二尊君一」

そんくゎい（名）村會 村會議員ヲ以テ組織シ、其村ノ自治ニ關スル事項ヲ議決シ、且、其執行ヲ監督スルモノ。

ぞんぐゎい（副）存外 思ノ外ニ。案外。意外。意表。[illegible]「存外、多シ」

そんけい（名）尊敬 そんきやう（尊敬）ニ同ジ。[illegible]

そんけい（名）尊兄 他ノ兄ヲ呼ブ敬語。兄卿。令兄。[illegible]

そんげん（名）尊嚴 タツトク、オゴソカナルコト。[illegible]

そんげん（名）尊顯 位、尊ク、名、顯ハルルコト。[illegible]

⁂そむ・ける（動）そむく（下二段）ノ口語。

そんご（名）[illegible]

術家ノ、孫武ト、吳起ト。此二人ノ著ノ兵書ニ、孫子ト、吳子トアリ。[illegible]

そんこう（代）尊公 そんくん（尊君）ニ同ジ。[illegible]

そんざ（名）尊者 そんじゃ（尊者）ノ條ノ（二）ニ同ジ。[illegible]「大臣ノそんざノヲリハ、大饗ヲ置キ」

そんざい（名）存在 物、ソノママニアルコト。（亡失ニ對ス）現存。[illegible]「存在ヲ認メズ」

⁂ぞんざい（名）〔麁雜ノ轉カ、或ハ、存在ノママノ意カト云フ〕丁寧ニセヌコト。粗略。訛シテ、ぞんぜい。[illegible]「[illegible]ぞんざい者ハ、御奉公ガ勤マリサウモ無イ」

そんさう（名）村莊 村里ニアル屋敷、又ハ、別莊。[illegible]

そんざう（名）尊像 尊キ肖像。又、佛、菩薩ナドノ像。[illegible]

そんさつ（名）尊札 そんしょ（尊書）ニ同ジ。

そんし（名）尊師 師匠ヲ敬ヒ呼ブ語。

そんじ（名）損 損ズルコト。コハレ。イタミ。又、破損シタル箇所。

ぞんじ（名）存 存ズルコト。知ルコト。オボエ。幸若舞曲、和田酒盛「義盛ガぞんじニハ、[illegible]拔足違フテ存ズル」狂言記、[illegible]「御ぞんじノ者、太郎冠者アルカ」「御存じノ通リ」

ぞんじ・がけ・な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）無存懸 思ヒガケナシ。思ヒヨラズ。

そんしき（名）損色 [illegible]

しき（諸式）ノ條ヲ見ヨ」破損シタル所ノ圖式。[illegible]ハラント申サレタリケレバ、[illegible]ニ仰付ラレテ、マヅ、損色ヲ取ラセニ遣ハシタリケレバ」

そんしつ（名）損失 （一）そんまう（損亡）ニ同ジ。[illegible]（二）物ヲ損ヒ、又ハ、失フコト。失損。[illegible]

そんしん（名）寸心 そんすん（寸心）ノ轉。其條ヲ見ヨ。[illegible]

そんしん（名）尊神 神ヲ、尊ビ敬フコト。敬神。[illegible]

そんしん（名）尊信 [illegible] 又、尊ビ、信頼スルコト。

そんじん（名）尊人 タフトキ人。貴人。[illegible]

そんしや（名）村社 社格ノ[illegible]社ニテ、村、又ハ町、市ニテ、共ニ祭ルモノ。縣社、府社、鄕社ナドニ對ス。

そんじや（名）尊者 （一）尊キ人。目上ノモノ。[illegible]（二）[illegible]

[illegible]

そんしやう（名）尊尚 タツトブコト。[illegible]

そんしやう（名）損傷 ソコナヒ、ヤブルコト。

そんじやう [illegible] ソノ各條ヲ見ヨ。[illegible]

そんじやう [illegible]

そんじやう（代）そんでう（ソレ）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]そんじやう其ノ國ノ山ト申中ヒドモ[illegible]

ぞんじやう（名）存生 [illegible] アルコト。存命。生存。[illegible]

そんじゆ（名）[illegible]

そんじゆ（名）村儒 [illegible]（[illegible]）ニ同ジ。

そんしよ（名）尊書 [illegible]

そんしよく（名）遜色 [illegible]

そんし[illegible]

問フコト。蒙書、蒙書ヲ存ス闕所ヲ待之卷首ニ」

そん-しょ (名) 損所 損ジタル所。破損ノ箇處。「損所ノ修理ス」

そん-しょ (名) 尊書 他人ノ書狀ヲ呼ブ敬語。尊札。尊翰。「尊書拜誦」

そん-しょう (名) 尊稱 タフトブ、トナヘ。敬稱。 左傳、宣公元年、杜注「遂、不レ言ニ公子ニ、尊ニ其尊稱ヲ所ニ以殊ニ小君之尊ヲ也」

そん-しょう (名) 尊勝 佛經ノ語。或ルモノヲ尊崇シタル義ニテ、其事ニ冠ラスル語。卽チ、尊勝護摩、尊勝陀羅尼、尊勝法、ノ如シ。又、單ニ、尊勝トモ云フ。 阿娑縛抄(アシャバク)(承久、寬正)六十「尊勝」

そん-しょう-ダラニ (名) 尊勝陀羅尼 (具ニハ、佛頂尊勝陀羅尼。) 尊勝佛頂尊ノ陀羅尼ニテ、帝釋天、善住天子ガ、今ヨリ七度、畜生惡道ノ身ヲ受クベキ業因アルヲ憫ミ、佛ニ之ガ救濟ノ法ヲ請フ、佛、コノ陀羅尼ヲ說キテ、之ヲ誦セシメタリト云フ」經文中ニアル呪文ノ名。(陀羅尼ノ條ヲ見ヨ) 尊勝陀羅尼經「佛告ニ天帝ニ、有ニ陀羅尼ニ、名爲ニ如來佛頂尊勝ニ、能淨ニ一切惡道ニ、能除ニ一切生死苦惱ニ云云、佛告ニ天帝ニ、此佛頂尊勝陀羅尼、若有ニ人、聞ニ一經ニ於耳ニ、先世所造一切地獄惡業皆悉消滅」 中右記、嘉承二年正月廿二日「今日、上皇、白河 有 尊勝陀羅尼供養ニ、仍、展翅許參仕、僧侶皆參」 百練抄、七、保元二年二月六日「公家、於ニ紫宸殿ニ、供ニ養尊勝陀羅尼ニ、希代例也」 愚昧記、安元三年正月廿六日「今日、尊勝陀羅尼供養也、仍巳剋著ニ直衣ニ(略)參院、頃之僧始行ニ之、導師、顯喜也」

そん-しょう-ゴマ (名) 尊勝護摩 密教ニテ、尊勝佛頂尊ニ對シ、乳木(ニュウボク)ヲ爐ニ投ジテ燒キ修スル法。(護摩ノ條ヲ見ヨ) 榮花物語、十二、玉村菊「御ハテマデ、山ノ僧ドモノ、山籠シタルシテ、尊勝ノごま、阿彌陀護摩ナド、ツカウマツリセ給フ」

そん-しょう-ほふ (名) 尊勝法 密教ノ修法ノ一。尊勝佛頂尊ヲ念ジテ、延命、滅罪生善、亡者ナドノ爲ニ行フモノ。 公卿補任(後陽成)「慶長三年自ニ十一月一日ニ七ケ日、於ニ清涼殿ニ被ニ行ニ尊勝法ニ、阿闍梨聖護院宮、奉行總光」 本朝高僧傳、淳意傳「延長三年夏旱、宣ニ於延暦寺ニ修ニ祈雨法ニ、意率ニ六僧ニ修ニ佛頂尊勝法ニ、四日雨降」

そん-しょく (名) 遜色 下ニ屬(ツ)クヤウス。劣ルアリサマ。ヒケメ。「遜色無シ」

そん-しょく (名) 遜職 職務ヲ、退クコト。官位ヲ辭職スルコト。 運步色葉集「遜職、ソンショク、遜、退也、辭ニ官位ニ之義也」

ぞんじよら-ず (副) 不存寄 思ヒヨラズ。料(ハカ)ラズ。 狂言記、太刀奪「存じ寄らず、今日、好イ太刀ヲ手ニ入レタ」

ぞんじより (名) 存寄 存ジヨルコト。オモヒヨリ。ミコミ。意見 狂言記、靈罪人「マヅ、御亭主カラ、思ヒ寄リヲ仰セラレ、ソレナラ、身共ノ存じ依リヲ、申シテ見マショ」

ぞんじ-よ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 存寄 思ヒヨル。考ヘツク。 關八州繫馬(享保、近松作)二「存じよらぬ、武者ノ結納(ユヒイレ)」

そん-しりう (名) 孫子流 兵法ノ一派。江戶時代ニ、佐久間立齋ト云フ人、支那ノ兵學者、孫子ノ法ヲ祖述シ、考案シタルモノ。佐久間(サクマ)流トモ云フ。其條ヲ參見セヨ。 窓の須佐美(松崎堯臣)三「佐久間立齋トテ、郡山侯平ガ子成ル由、郡山亡ビシ後、流浪シ、兵術ノ敎授シテ暮シヌ、孫子流トテ、止戈辨ナド云フ書ヲ著シ、高明學ト見エテ、執齋(三輪)ト睦ジク、心學ノ圖畫ナド作リ、我レモ、一面識ナリ」

∴**そん・じる** (動) そんず(損)ノ口語。

そん・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 存 ソノママニアリ。殘ル。ナガラフ。(亡ノ反) 戰國策、齊策「貧乏、不レ能ニ自存ニ」 孟子、告子、上篇「雖レ存ニ乎人ニ者、豈無ニ仁義之心ニ哉」 趙注「存、在也、言、雖レ在ニ人之性ニ、亦猶ニ山之有ニ草木ニ、人豈無ニ仁義之心ニ邪」 同篇「孔子曰、操則存、舍則亡、出入無レ時、莫レ知ニ其鄕ニ」 名義抄「存、アリ、ノコル」

そん・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 存 ソノママニアラシム。殘ス。保ツ。(無くすノ反) 孟子、盡心、上篇「存ニ其心ニ、養ニ其性ニ、所ニ以事ニ天也」 韓愈、與ニ孟尙書ニ書「所謂存ニ十一於千百ニ、安在ニ其能廢如ニ也」

そん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (自動、左變) 損 コハルル。ソコナハル。毀傷 盛衰記、十八、仙洞管絃事「天下、旱魃アリ、云云、山山、寺寺ノ有驗、智德ニ仰テ、御祈禱有ケルニ、其驗ナシ、畿內、近國、忽、損じ、人民百姓、歎悲ケルニ」

そん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 損 (一)ソコナフ。コハス。イタムル。毀傷 「器物ヲ損ず」 (二)アヤマル。ソコナフ。 太平記、廿一、鹽冶判官讒死事「兼好、代筆ノ艷書ヲ、懷ニ入レ、歸リ參リテ候ヒヌルト語リケレバ、師直、大ニ氣ヲ損じテ、イヤイヤ、物ノ用ニ立タヌモノハ、手書ナリケリ」「聞キ損ず」「言ヒ損ず」

ぞん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 存 (一)思フ。考フ 思惟 平治物語、一、光賴卿參內事「光賴卿、重ネテ、コハ如何、勅定ナレバトテ、イカテ、存ずる旨ヲ、一議申サザルベキ」 吾妻鏡、四、元曆二年四月「相構可レ決ニ勝負ニ由、存思之處、士卒之所レ存、皆如レ踏ニ薄氷ニ」 十訓抄、中、第六「可レ存ニ忠直ニ事」 平家物語、一、殿上闇討事「當座ノ恥辱ヲ遁レンガタメニ、刀ヲ帶スル由アラハストイヘドモ、後日ノ訴訟ヲ存じテ、木刀ヲ帶シケル用意ノ程コソ、神妙ナレ」 (二)知ル。心ウ。オボユ。識 明月記、嘉祿元年十二月廿三日「本自存ニ此由ニ、不レ顧ニ涯分ニ、可ニ申入ニ由、云云」 狂言記、飛越新發意「某ノ存じタ新發意ガ御座ルガ」

そん-せい (名) 存星 (一)漆器ノ名。盆ナドニ云フ。唐物ナリ、宋ノ名工、張成ト云フ者、造出スト云フ。地ニ、星、點、ハル。誤リテ、珍星トモ云ヒ、人名トス。(東牖子) 人倫訓蒙圖彙、五、堆朱彫「唐土ニテハ、珍星、張成、其外、數多ノ、名人アリ」 (二)誤リテ、存星ノ盆トテ、目利ノモノ、存星ノ若出(ワカデ)來、存星ノ後出來ナドト云ヒ、器ノ作匠ノ名トス。

ぞん-ぜい (名) ぞんざいノ訛語。其條ヲ見ヨ。 浮世風呂(文化、式亭三馬)二編、上「可哼ニ投テクンナ、イケぞんぜいナ」

そん-ぜん (名) 尊前 神、又ハ、貴人ノ御前ヲ云フ敬語。 日本振袖始(享保、近松作)一「宮中ト云ヒ、三種ノ神器ノ尊前ニ」

そん-そ (名) 樽俎 (一)酒樽ト、肴ヲ載スルつくゑ(エ)ト。多クハ、宴席、又ハ、會見ノ義ニ云フ語。 禮記、樂記篇「鋪ニ筵席ニ、陳ニ尊俎ニ、列ニ籩豆ニ、以ニ升降ニ爲レ禮者、禮之末節也」 (二)國際上ノ談判。 晏子春秋、內篇、雜、上「仲尼聞ニ之曰、夫不レ出ニ於尊俎之間ニ、而知ニ千里之外ニ、其晏子之謂也、可レ謂ニ折衝ニ矣」(尊ハ、樽ニ通ズ)「樽俎ノ間ニ折衝ス」

ぞんぞ (副) 寒氣(サムケ)ダチ、又ハ、恐怖(オソレ)タル時ナドニ云フ語。ゾクゾク。 源氏冷泉節(正德、近松作)上「御頭痛ノ氣味有ッテ、ぞんぞト、寒氣ナドハ參ラヌカ」

そん-そう (名) 尊崇 (崇、正音ハ、鋤弓切、しゅう、そうハ慣用音) タフトビ、アガムルコト。尊敬。 左傳、僖公五年「秋八月、諸侯盟ニ于首止ニ」 杜注「實ニ尊ニ天子ニ、尊ニ崇王室ニ」

そん-ぞく (名) 尊族 尊屬 (卑族ニ對ス) 目上ノ血族。卽チ、親等ノ上ナル親族。 宋史、司馬光傳「親ニ尊屬ニ」 家禮儀節「尊屬、謂ニ伯叔祖父母、伯叔父母之類ニ」 戶令「凡、棄レ妻、須レ有ニ七

出之狀、云云、皆手書第之、與尊[illegible]同旨」

そん-そ-せっ-きょう (名) [尊俎折衝] 敵國ノ使臣ト、酒盛シ、談判スル間ニ、其[illegible]キ來ル鋒勢ヲ挫クコト　外交談判ニ、勝ヲ占ムルコト。晏子春秋、內篇、雜、上「不出於尊俎之間、而知千里之外、其晏子之謂也、可謂折衝矣」戰國策、齊策「千丈之城、拔之尊俎之間、百尺之衝、折之衽席之上」

そん-たい (名) [尊體] 他ノ身體ヲ、敬ヒテ呼ブ語。御身(オンミ)。(書狀ナドニ) 朱熹、答呂伯恭書「尊體日益清安矣」太平記、三十九、光嚴院禪定法皇行脚事「花山ノ高キ跡ヲコソ追ハレ候フベキニ、尊體ヲ、浮濤ノ水上ニ寄セテ、叡心ヲ、枯木ノ禪僧ニ附ラレ候ヒヌ」

そん-だい (名) [尊大] タカブルコト。オホフウ。ワウヘイ。後漢書、馬援傳「謂隗囂曰、子陽井底蛙耳、而妄自尊大」「態度ヲ尊大ニ構フ」

そん-だい (代) [尊臺] 目上ノ人ヲ敬シテ云フ、對稱代名詞。

そん-たいじん (名) [尊大人] 他ノ父ヲ、尊ビテ呼ブ語。オヤゴサマ、御親父(ゴシンプ)。尊父。

ソンドウ
そん-だう (名) [尊堂] 他ノ家ヲ呼ブ敬語。御宅。尊家。貴堂。尊宅。高堂。「尊堂、貴所清樂」

そん-たく (名) [尊宅] 前條ノ語ニ同ジ。

そん-たく (名) [忖度] 〔廣韻「忖、思也」〕思ヒ度(ハカ)ルコト。他ノ心ヲ、推察スルコト。推測(サダム)。詩經、小雅、小旻之什、巧言「秩秩大猷、聖人莫之、他人有心、予忖度之」

そん-ち (名) [蹲鴟] 〔事物異名「芋、蹲鴟、音、存痴」華陽國志「汶山郡都安縣有大芋、如蹲鴟形、似タリトテ、云フ」〕芋ノ一名。字類抄「蹲鴟、イモガシラ、イモノコ」史記、貨殖傳「汶山之下沃野、下有蹲鴟[illegible]」

ゾンジ
ぞん-ぢ (名) [存知] 〔存在ヲ知ル意〕知リ居ルコト。承知。吾妻鏡、七、文治三年十月三日「爲御存知所申候也」「御存知ノ者」

ゾンジ・ス
ぞん-ぢ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) [存知] 知ル。心得。平家物語、一、殿下乘合事「[illegible]二十三ニナランズル者カ、今ハ、[illegible]存知シテコソ振舞フベキニ、カヤウノ尾籠ヲ現ジテ」

ソンチヨウ
そん-ちゃう (名) [尊長] メウヘ。長者。禮記、少儀「[illegible]尊長於己踰等、不敢問其年」

ソンチヨウ
そん-ちゃう (名) [村長] 地方自治體タル、村ヲ代表シ、村ノ行政事務ヲ管掌シ、村會ノ議長トナル者。

ソンジヨウ
そん-ぢゃう (名) [尊丈] 書狀ナドノ宛名ノ下ニ記ス敬語。尊下。

ソンジヨウ
そん-ぢゃう (代) 次次條ヲ見ヨ。平家物語、十、頸渡事「そんぢゃう其ノ頸、其ノ朝臣ト申シケレバ、北ノ方、其レモ、人ノ上トハ覺エズトテ、引キ被イテゾ臥シ給フ」

そん-ちょう (名) [尊重] タットビ、オモンズルコト。禮記、冠義「古者重冠、云云、行之於廟者、所以尊重事」、「權利ヲ尊重ス」

ソンジヨウ
そん-でふ (代) 〔假名遣、[illegible]カナラズ、そんハ、それノ音便ト云フ說アレバ、暫クコレニ從フ。でふハ、と云ふノ約音ナリ、或ハ云フ、それぞノ轉延ナリト〕なにがしノ意。平家物語、二、康頼祝言事「熊野ハ、新宮、彼レハ本宮、コレハ、そんぢゃう、ソノ王子、彼ノ王子ナド、[illegible]ノ名ヲ申シテ」[illegible]經部落事「アノ山ハ、イヅレノ國ノ、イヅクノ山ゾト申シケレバ、そんぢゃう、其國ノ山ト申セドモ、委シクハ[illegible]シ」[illegible]そんぢゃう其レハ、校尉トナレ、そんぢゃう其レハ、侯トナレ」そぞろ[illegible]そんぢゃう其レ[illegible]譯傳アリト、[illegible]「何ノ御曹子ヲバ、誰レ閣ミ申スゾ、尊丈其レハ、何トシタルト云フ[illegible]組合ハセテ」謠曲、丹後物狂「そんぢゃう其之[illegible]」[illegible]「んぢゃう其レニ奉公仕レ、御扶持アラウト云ハルルカ」同、八「そんぢゃう其處カラ其處へ行ッタナド云ヘバ」[illegible]

そん-とく (名) [損得] 損失ト、利得ト。[illegible]

そん-な (連體) ソノヤウナ。サヤウナ。「そんな事」「そんな話」

そん-なら (接) 次條ノ語ノ略。[illegible]守「ナウ錯顚、百人ノ賄賂ノ、讒サウホドニ、乘セナ[illegible]」

そんならぞ (接) [illegible]サラバ。狂言記、薩摩守「百人モオリャルワイノ、イヤ、そんならぞ、乘セウ」

そん-なりゃ (接) 〔前條ノ語ノ訛〕前條ノ意ニ同ジ。持統天皇御軍法(正德、近松作)「そんなりゃ且那樣ニ成ル程、子様ガ御座ンスル」

ぞん-ねん (名) [存念] [illegible]存意。思惟。[illegible]四年八月廿六日「重衡聞之、定無存念、令[illegible]引之處、猶有存念不作聲者」

そん-のう (名) [尊王] そんわうノ連聲。

ソンボウ
そん-ばう (名) [存亡] [illegible]立ツト、立タヌト。興廢。孟子、離婁、上「三代之得天下也以仁、其失天下也以不仁、國之所以廢興存亡者、亦然」諸葛亮、出師表「此誠危急存亡之秋也」續日本紀、十三、[illegible]興之事、成功於一時、垂業於萬代」

そん-ぴ (名) [尊卑] たふときト、いやしきト。貴賤。[illegible]

そん-ぴ (名) [存否] 存スルト、然ラザルト。健在ト、不健在ト。左傳、[illegible]

そん-ぷ (名) [尊父] 他ノ父ヲ呼ブ敬語。尊大人。[illegible]

そん-ぷうし (名) [村夫子] 〔[illegible]門、故遂相沿稱、師之爲師[illegible]〕田舍ノ學者。鄉村ノ先生。村儒。陸游詩[illegible]

ぞん-ぶん (名) [存分] [illegible]リ、アリタケ。思ノママナルコト。

ぞんぶん-に (副) [存分] 思ノママニ。任意。狂言記、河原太郎「ドレへ御座ルゾ、コナタノ存分ニ[illegible]」

ぞん-ぶり (副) 水中ニ、物ノ入ル音ニ云フ語。ザブリ。ザンブリ。平家女護島[illegible]

そん-ぺ (名) [illegible]

そん-ぼ [illegible]

そん-ぽう [illegible]

そん-まう [illegible]

コト、損失。(二)害(ソコナ)ヒ、ホロボスコト。「[illegible]ヲ云ハズ、[illegible]ヲ損ヒス」

そん-めい (名) 尊命 オホセ。貴命

そん-めい (名) 尊名 (一)尊(タフト)キ名稱。史記、田敬仲世家「可ㇾ直ㇾ利而得ㇾ尊名ㇾ」(二)他ノ名ヲ呼ブ敬語「御尊名ノ承知シタシ」

そん-めい (名) 存命 生キ、ナガラヘテアルコト。存生(ソンジヤウ)、生存 北條書、田爲宗壽「催行、存命ㇾ」平家物語、一、先敦事、清盛公、仁安三年十一月十一日、年五十一ニテ、病ニ犯サレ、存命ノ為メニトテ、即チ、出家、入道ス」

ソン-モ (副) 作麼 そも(作麼)ノ訛。そもさん(作麼生)ノ條ヲ見ヨ。

そん-もん (名) 存問 「問ㇾ存亡」ノ略ト云フ。音ヅレ、尋ヌルコト。安否ヲ問フコト。見舞フコト。漢書、高帝紀「漢王、西入ㇾ關、至ㇾ櫟陽ㇾ存ㇾ問父老ㇾ」

そん-よう (名) 尊容 (一)人ノ容貌ノ敬語。オンカタチ。宗鏡[illegible]「[illegible]一瞻ㇾ尊容ㇾ」(二)佛、菩薩ナドノ尊キ容貌。往生要集、上「瞻ㇾ七寶[illegible]尊容ㇾ」

そん-らい (名) 尊來 他人ノ、來リ訪フコトノ敬語。御入來。光來。賁臨

そん-らう (名) 村老 田舍ノ老人。野老 大平記、三十三、飢人投身事「心ナキ野人、村老、樵モ知ラヌ行客、旅人マデモ、此川ヲ通ル時」

そん-らく (名) 村落 (聚落、居也)通鑑綱目集覽「人所ㇾ聚居、曰ㇾ村落」落聚、屯落ㇾ ムラ。ムラザト。ムラムラ。村邑 [illegible]

そん-らん (名) 尊覽 他人ノ見ルコトノ敬語。貴覽 「御尊覽ニ供ス」

そん-り (名) 村里 ムラザト。邑里。村邑。神異經、東方朔「北方有[illegible]、其[illegible]子云云、近ㇾ人村里ㇾ入ㇾ人居室ㇾ」

そん-り (名) 村吏 ムラヤクニン。村ノ役人。「一村吏員」

そん-りつ (名) 村立 地方自治體タル、村ニテ、取立テ、且、維持スルコト。府立、縣立ナドニ對ス。「村立ノ學校」

そん-りふ (名) 存立 (一)生存シテ、立チ行クコト。亡(ホロ)ビズニ立チ行クコト。北史、長孫慮傳「代ㇾ老父命ㇾ使ㇾ嬰弱衆孤得ㇾ蒙存立ㇾ」(二)保存シテ、立チ行カシムルコト。

そん-りよ (名) 村閭 〔說文「閭、里門也」〕さと(里)ト云フニ同ジ。里閭 唐書、劉晏傳「多出ㇾ粟、恐ㇾ之轉運、散入ㇾ村閭ㇾ」

そん-りよ (名) 尊慮 他ノ思慮(オモヒヨリ)ノ尊稱。オボシメシ。尊意。

ぞん-りよ (名) 存慮 カンガヘ。ミコミ。存念。思慮

そん-れ (代) 其 それ(其)ノ訛。丹波與作(寶永、近松作)中「サテモ美事ナ、そんれハ、お葛籠(ツヅラ)馬ヤ」國性爺後日合戰(正德、近松作)相生參宮「伊勢ノ津ヨリモ、サテモ見事ナ、そんれハ、馬子衆ノ振リヤ」

そん-れう (名) 損料 衣服、調度ナドヲ貸シテ、其損ズル償トシテ收ムル錢。(商業トスルナドニ云フ) 好色一代女(貞享、西鶴)一「小袖ノ損料、二十日」

そんれう-がし (名) 損料貸 損料ヲ取リテ、物品ヲ貸スコト。天保[illegible]、百[illegible]、文化[illegible]損料貸之品、衣類、夜具類、其ノ外、古[illegible]」

そん-わ (名) 尊和 他人ノ和韻ノ敬語。運歩色葉集「尊和、ソンワ、和句事」

そん-わう (名) 尊王 帝王ヲ尊奉シテ、覇者、僭者、又ハ、夷狄ナドヲ卻(シリゾ)クルコト。ぢやうい(攘夷)ノ條ヲモ併セ見ヨ。陳傳良詩「武皇好ㇾ少臣已老、孟子尊ㇾ王君何ㇾ」[illegible]斷漢、蔡邕)「上書、尊位之所ㇾ在也、云云、司馬遷記ㇾ事、云云、書ㇾ尊號ㇾ尊王之義也」「尊王攘夷」

そん-わう (名) 孫王 帝王ノ孫。皇子ノ子。略シテ、そわう。宇津保物語、國讓、中「式部卿ノ宮ノハ、そんわう形ニテ、何心モナクナン聞エ侍ル」類聚符宣抄、四、弘仁三年正月五日「右大臣宣、奉ㇾ勅、自ㇾ今以後、孫王諸王、同色者、用ㇾ下階孫王ㇾ爲ㇾ上、唯貫色者如ㇾ常例ㇾ」「六孫王經基」

そん-ゐ (名) 遜位 位ヲ、シリゾクコト。北史、魏文帝紀「司徒尉元、以ㇾ老請ㇾ遜位ㇾ」名目抄「讓位(ジヤウヰ)」注「又、遜位、有ㇾ節會ㇾ」

そんゑん-りう (名) 尊圓流 おいへりう(御家流)ノ(一)ニ同ジ。好色三代男(貞享、西鶴)一「尊圓流ノ手シテ、天智天皇秋ノ田ト云フ歌書イタル、此ノ古風サ」

そめ (名) 染 染ムルコト。染色。枕草子、一、第二段「濃、斑濃(ムラゴ)、卷キ染メナト」夫木抄、十五「心ヲバ、ヨシナキ色ニ、染紙ノ、ウタテ拂ハデ、墨染ルラン」「そめガ良イ」

そめ-あ・ぐ・グル・グレ・ケ・ゲ・ケヨ (他動、下二) 染上 染メ終ハル。染ムルコトヲ、爲(シ)上(ア)グ。

そめ-あ・げる (動) 前條ノ語ノ口語。

そめ-いだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 染出 色ヲ染メテ、出ダス。ソメイヅ。宇津保物語、吹上、下「櫻花、そめいだす[illegible]ノ、ワ[illegible]ハ、ア[illegible]」源、廿五、螢九「此世ノ人ノマデ匂フ、枝シ見ユラン」[illegible]染出シタルト見エズ」

そめ-い・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ (他動、下二) 染出 前條ノ語意ニ同ジ。「[illegible]、花ノ[illegible]、[illegible]染出シタル花ニア、ハカナウ染出でタマヘル、イト、有ラマホシキ色シタリ」

そめ-いひ (名) 染飯 瀨戸(セト)ノ染飯ニ同ジ。光廣卿ノ歌ニ「ツクヅクト、見テモ食ハレヌ、物ナレヤ、ロナシ色ノ、せとの染いひ」

そめ-いろ (名) 染色 染料ニテ、染メ出シタル色合。(染色、織色ナドニ對ス) 字類抄「染色、ソメイロ」

ソメイロ (名) 蘇迷魯 蘇彌盧 〔梵語、Sumeru. 妙高山ト譯ス〕又、そめろ。しゅみせん(須彌山)ニ同ジ。此ノ山ノ四方ノ配色ハ、北ハ金山、西ハ紅玻璃、南ハ瑠璃峯、東ハ銀山ナリト。西域記、一「蘇迷盧山、唐言ㇾ妙高山ㇾ舊曰ㇾ須彌ㇾ云云、四寶合成、在ㇾ大海中ㇾ」拾玉集(慈鎮)五「そめいろノ山ノ四方ニ、四ツノ國アリ」應仁記、京都ノ地形「毘沙門谷ニ梅坊、百梅ヲ盡シテ、木密ニ切リ、山ヲ作リテ、色色ニ谷嶺ヲコソ通シケレ「北ハ黄ニ、南ハ靑ク、東白、西紅ニ、そめ色ノ山」トハ、此事ニヤアリケムト、言ハヌ人コソナカリケレ」(蘇迷盧ヲ、前條ノ染色ニ言ヒカク) 謠曲、歌占「短冊ヲ取上ゲ見レバ、何何「北ハ黄ニ、南ハ靑ク、東白、西クレナヰノ、蘇命路ノ山」カヤウニ見エテ候、須彌山ヲ詠ミタル歌ニテ候」同、羽衣「筆笛琴箜篌、孤雲ノ外ニ滿チ滿チテ、落日ノ紅ハ、蘇命路ノ山ニウツシテ、綠ハ波ニ浮島ガ」

そめいろ-づき (名) 染色月 陰曆、八月ノ異名。紅染月(コウゾメ)。

そめ-がた (名) 染形 染メ出シタル模樣。又、染メ出ス原型。コレニ對シテ、模樣ノ形ヲ置キタルヲ、置形(オキガタ)ト云フ。

そめがた-がみ (名) 染型紙 そめがたヲ切リ拔キタル紙。

そめ-かは (名) 染革 染メタル、つくりかは。イロガハ。大和物語、上「太刀ノ緒ニス

べキ革ヲ求メケレバ、云云「アダ人ノ、獵メ渡リシ、そめかは(川ノ名ノ染川ニ言ヒカク)ノ、色ノ深サヲ、見デヤ止ミナン」

そめか・ふ ソメ・カ・ウ ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [染變] 染メテ、異色ニ變ハラシム。染メテ、色ヲ變フ。[illegible]六、冬「御室山、秋ノ時雨ニ、染めかへテ、霜枯レ殘ル、木木ノ下草」風雅集、八、冬「染めかふる、籬ノ菊ノ、紫ハ、冬ニウツロフ、色ニゾアリケル」

そめかへ ソメ・カエ (名) [染變] ソメカフルコト。ソメカヘタル物。「古着ノそめかへ」

そめかへし ソメカエシ (名) [染返] ソメカヘスコト、改メテ、染ムルコト。

そめかへ・す ソメ・カエ・ス ・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [染返] 褪メタル色ヲ、改メテ染ム。[illegible]一「染めかへす、千入ノ岡ノ、夕時雨、緑モツレナク、殘ル椎柴」

そめがみ (名) [染紙] (一)種種ノ色ニ染メタル紙。色紙(イロガミ)。新六帖、一、鷹「心ヲバ、由無キ色ニ、染紙ノ、ウタテ搔ハデ、雪積モルラン」(二)齋宮ノ忌詞ニ、佛經ノ稱。[illegible]經、黄紙ナドニテ染メ、多ク、黄葉ニテ染ムレバ、云フ)齋宮寮式「凡忌詞、内七言、[illegible]云云、經、稱染紙(ソメガミ)」[illegible]

ぞめき (名) [騒] ソメクコト。急ギ騒グコト。[illegible]集、十一[illegible]モル、心モアラム、我レゾ苦シキ」六百番歌合[illegible]ノそめきモ、[illegible](イト)カリケリ」[illegible]シ、夏[illegible]ウ[illegible]ノミア[illegible]テ、[illegible]リ[illegible]ハそめきハ無シ[illegible]二[illegible]ノそめき[illegible]ノ[illegible]二、[illegible]

そめき (名) [染木] [illegible]

ぞめき (名) [騒] (一)ゾメクコト。進ミ、ソソルコト。騒ギ、遊ビ歩クコト。[illegible]ザメクコト。沙石集、六、上、第三條「世間公私ノそめき二打忘レテ」同、七、上[illegible]きニ、身モ苦シク、心モ亂レテ」(二)[illegible]素見。[illegible]ルヲ、京都ニテ、騒ト云ヒ、江戸ニテ、ぞそりト云フ」古[illegible]、そめきハ、[illegible]職「享保、遊松作二[illegible]織リ出[illegible]ヤ、そめきハ、袴ヲ纏ルニ似テ」

ぞめきすがた (名) [騒姿] 騒ク時ノ容貌。浮氣ラシキ容子。[illegible]松作)中「譯(ワケ)モ無イコト云ハンモンシャノ衣着テ、ぞめき[illegible]ノ[illegible]坊主」

ぞめ・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [閲][倀] せめぐ(閲)ニ同ジ。字類抄「閲、倀、ソメク」名義抄「閲、ソメク、セメグ、倀、ソメク」

ぞめ・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [騒] [illegible]くノ轉」そそめくニ同ジ。急ギ騒グ。[illegible]、廿七、衣珠「二郎君、三郎君、そめきテオハシテ」今昔物語、廿八、三十八語「落入リツル時ニ、馬ハ疾ク底ニ落入リツルニ、我レハ送レ(後れ)テそめき著行キツルホドニ」

ぞめ・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) (前條ノ語ノ轉) 騒ギテ、遊ビ歩ク。「[illegible]そめ[illegible]」

そめくさ (名) [染種] 物ニ、色ヲ染メ付クル用トスルモノ。(木、草ナド)ソメキ。[illegible](センレウ)[illegible]十八、[illegible]ノ、絹、綿、サマザマノそめくさナド、持テ綴キ發ラセタレバ、同ジウ、宮宮ニ分チ發ラセ給フ」

そめこそで (名) [染小袖] 白小袖ニ對シ、[illegible]小袖[illegible]保、近松作)一「色色ノ染小袖持タセ」

そめし (名) [染師] (一)内染司ノ職。染物ヲナスモノ。[illegible]

人」(二)そめものし(染物師)ノ略。

そめしやうぞく ソメ・ショウゾク (名) [染裝束] 下襲(シタガサネ)、表袴(ウヘノハカマ)ヲ、各別ノ色ニテ染メテ、着用スルコト。コレハ、殊ナル晴ノ日ニ用ヰルナリ。[illegible]日ヲ晴ト、イロイロノそめしやうぞく、裏、大將ノ色合ヲ盡シタリ」助無智秘抄、朝覲行幸、大將、宰相、中將、[illegible]位中將[illegible]、[illegible]ベ[illegible]シカルベシ」

そめ・つ・く ・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [染付] 染メ[illegible]「カカル筋ハタ、イト暗レテ、世ニナキ色アヒ、匂ヲ染めつけ給ヘバ、アリガタシト思ヒ謝エ給フ」

そめつけ (名) [染付] (一)ソメツクルコト。(二)磁器(ヤキモノ)ニ云フ語。ごみ(呉須)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]七、正[illegible]十月[illegible]

そめどの (名) [染殿] [illegible]テ、布帛ヲ染ムル[illegible]ト花[illegible]打殿ニ遣ハシ、思シ遣ハシ、イトナマセ給フ」

そめなます (名) [鹹] キリニク。キリミ。字類抄「鹹、ソメナマス」

そめぬき (名) [染抜] ソメヌクコト[illegible]ヲ染メテ、模樣ノミ、白ク存スコト。又、ソノ模樣。雙鉤染

そめぬ・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [染抜] (一)染抜ニ染ム。(二)十分ニ染ム。

そめは (名) [染羽] [illegible]白羽ノ(一)ニ對ス。平治物語、一、[illegible]云云、十[illegible]シタル染羽ノ矢負ヒ、[illegible]ノ弓ヲ持チテ」

そめはた (名) [illegible] [illegible]織ルコト

ヲ、機ニカケテ織ルコト。又、其布帛。[illegible]ノ、織ルヂニアカズ、[illegible]

そめひめ (名) [染姫] (一)物ヲ染ムル女。[illegible]風、誰ヰセノカヲ、揚ロヒヤヒム」(二)秋ノ紅葉ノ[illegible]

そめ・みる (動) [illegible]ミツシ[illegible]出ヅ[illegible]見ル。字類抄「[illegible]、ソメミル」

そめもの (名) [染物] [illegible]布帛ヲ染ムル業。宇津保[illegible]

そめものし (名) [染物師] [illegible]スル工人。コンヤ。コウヤ。ソメヤ。[illegible]

そめもん (名) [染紋] 染メ出シタル紋。[illegible]

そめや (名) [染屋] [illegible]伊州府志、八、[illegible]

そめわかた (名) [illegible] [illegible]色レルモノ。[illegible]

そめゆかた (名) [染浴衣] 模樣ナドヲ染[illegible]

そめゆふ ソメ・ユウ (名) [染木綿] 色染ノ木綿。[illegible]シ[illegible]

そ・める [illegible]

そめ-わ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［染分］二色以上ノモノヲ、分ケテ染メ出ス。異[illegible]ヲ、[illegible]分ケ染ム。

そめわけ（名）［染分］ソメワクルコト。又、ソメワケタル色。日覺草（寛永）「若法師、云云、そめわけ[illegible]ノ[illegible]、紅[illegible]ノ丸[illegible]」

そめわけ-がみ（名）［染分紙］種種ノ色ニ、染メ分ケニシタル紙。

そめゐ-よしの（ソメイ-ヨシノ）（名）［染井吉野］〔江戸、本郷ノ染井ノ地ノ花戸ニテ、培養セシニ起ル〕吉野櫻ノ一種ニテ、花ハ薄紅色、後、眞白ニナルモノ。

ソモ（副）作麼。そもさんノ略。[illegible]山詩「皎然易ㇾ解事、作麼無ㇾ精神」

そ-も（接）［抑］〔其亦ノ義〕上ヲ指シテ、下ヲ起ス語。ソレモ。ソモソモ。多クハ、文ノ首ニ用ヰル。宇津保物[illegible]、[illegible]六十「年頃[illegible]シテ、[illegible]ハカシツルモ、我カ身ニアフス、そも、親ニ隨ヒシ也」源、二、帚木 四「折節ノ應、心得テ打チシナドバカリハ、隨分ニヨロシキモ多カリト見給フレド、そも、實ニ其方ヲ取出デン選ニ必ズ洩ルマジキハ、イト難シヤ」拾玉集（慈鎭）七「吉野山、そもムツマジキ、眺カナ、花行ツ[illegible]ニ、カカル白雪」

ぞ-も（辭）指示ノ意ヲ云フぞニ、感嘆ノ意ノもノ添ヒテ、熟シタル語。ゾ、マア。萬葉集、十三 十七「吾ガ待チシ、秋ハ來タリヌ、然レドモ、萩ノ花曾毛、未ダ咲カズケル」同、十八 六「イカニセル、フセノ浦曾毛、幾許ニ、君ガ見セムト、我レヲ止ムル」同、十五 十七「來マサヌ君ハ、何心ぞも」

ソモ-サン（副）［作麼生］［怎麼生］［做麼生］〔作麼ハ、何ト同ジ、生ハ助辭〕支那、宋ノ代ノ俗語。如何に、何事ぞ、ト云フニ同ジ。サア、ドウヂャ。[illegible]云、[illegible]山、作麼生[illegible]」[illegible]林[illegible]、[illegible]有時一喝、不作一喝用、[illegible]

そ-もじ（代）〔其文字ノ義。そハ、其方ノ略〕對稱ノ代名詞（婦人ノ語）松の葉（元祿）一、葉手「紅ハ、淡クナルトモ、そもじト我レトハ、一期契ルベイゾ」

そも-そも（名）［抑］〔次條ノ語ヲ、名詞トセルモノ〕最初。ハジメ。ハナ。本朝若風俗（貞享、西鶴）二「病氣そもそもヨリ此ノ方、毎日三度ヅツノ見舞ヒ」

そも-そも（接）［抑］（一）〔抑ヲ重ネテ、意ヲ強ク云フ語〕多クハ、意味ナク、文ヲ發スル語トス。名義抄「抑、ソモソモ」竹取物語「そもそも、イカヤウナル志アラム人ニカ逢ハムト思ス」土佐日記、正月七日「そもそも、イカカ詠ミタルト、不審シガリテ」續紀、三十六、天應元年四月辛卯、詔「其、仁孝者、百行之基ナリ、曾毛、百足之蟲ノ、至ㇾ死不ㇾ顚事ハ、輔ヲ多ミトナモ聞シ食ス」古今集、序「そもそも、歌ノ狀、六ツナリ」宇津保物語、俊蔭 十三「そもそも、獸ト云ヘド、虎、狼ナラヌハ棲マザナリ」（二）或ハ。又ハ。タダシ。（漢籍讀ニ）論語、學而篇「夫子至ㇾ於是邦ㇾ也、必聞ㇾ其政、求ㇾ之與、抑與ㇾ之與」

そ-や（名）［征矢］［征箭］〔襲矢ノ約ニテ、敵ヲ襲ひ射る意カト云フ。萬葉集、廿 四十五 長歌「於比曾箭」トアリ、雁股、尖矢ナドニ對スル名ナリト云フ〕常ニ、戰陣ニ用ヰル矢ノ稱。三羽ニ矧グ。（上差、中差、ノ四羽ナルト、異ナリ）倭名抄、十三 七 征戰具「征箭、曾夜」主税寮式「造ㇾ征箭五十隻ㇾ料鐵五斤七兩」[illegible]記、四十、延曆十年十月「仰ニ東海東山二道諸國ㇾ令ㇾ作ニ征箭三萬四千五百餘具ㇾ」十訓抄、下、第十、五十六條「高倉院御時、云云、攝政、遠見ノ外ニ、征矢ノ取リ具シテ持タリケルヲ」盛衰記、二十、[illegible]討事「平家ノ侍、武藏國住人、長井齋藤別當實盛ハ、云云、十八差タル、石打ノ征矢負テ、只一人、[illegible]出テ、死生不ㇾ知ニソ戰ケレ」太[illegible]記、十[illegible]、公家一統政道事「宮（護良親王）ハ、赤地ノ錦ノ鎧直垂ニ、云云、[illegible]ニ、[illegible]タル征矢ノミ、十六指タルヲ、箙高ニ負成」

そ-や（名）［初夜］（一）そ[illegible]（初夜）ニ同ジ。源、五、若紫 廿「そやト言ヒシカト、夜モイタウ更ケニケリ」（二）初夜ノ勤行。枕草子、十一、百四十六段「宮ノ御佛名ノそやノ御導師聞キテ出ヅル人ハ、夜中モ過ギメランカシ」源、五、若紫 廿「そや、未ダ勤メ侍ラズ」同、四、夕顔 八十「寺寺ノそやモ、皆、行ヒ果テテ」

そ-や（名）［粗野］［疎野］アラクテ、賤シキコト。粗忽ニシテ、禮文ナキコト。鄙ビタルコト。圖繪寶鑑（元、夏士良）「擧止麁野、[illegible]」（[illegible]ハ、疎ニ同ジ）

そ-や（感）又、そそや。すはやニ同ジ。字類抄「[illegible]、ソヤ、進人也」

ぞ-や（辭）指示ノ意ノ辭ノぞニ、感嘆ノ意ノ辭ノやノ添ヒタル熟語。古事記、上 五十 長歌「アナ玉ハヤ、三谷二渡ラス、阿治志貴多迦比古泥ノ神曾也」

そ-やう（名）［素養］（一）カネテ、學ビ覺エテアルコト。カネテ、養ヒタル力。平素ノ修養。下地ノ設ケ。漢書、李尋傳「士不ㇾ素[illegible]不ㇾ可ㇾ以重ㇾ國」（二）下地。豫備。

そやし-まめ（名）萌ノ豆。蘖ク時ナラヌニ、撩シテ、萌エシメタル豆。拾遺集、七、物名、そやしまめ「イサリセシ、蜑ノ敎ヘシ、イヅクぞや、しま（島）めグルトテ、アリト云ヒシハ」紫一本（天和三、文渡）常陸ノ座頭ノ小歌「我レハ日蔭ノ、そやし大豆、形ガ無クレバ、引ク人モ無シ」

そ-や・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［[illegible]］〔そそのかし榮すノ義〕（一）ソロソロ、撫デアグル如クス。ソソノカス。オダツ。兒敎訓（[illegible]）「大人トモ、良キ意見ヲバ、云ヒモセデ、ケック色フク、そやしタテ」（二）褒メ、タタフ。[illegible]揚ス、[illegible]ス意。好色一代女（貞享、西鶴）一「人皆、ほめそやすニ從ヒテ」そやし立つるハ、強ヒテ勸ムル意。

そ-やつ（代）［其奴］〔そのやつ（其奴）ノ義、彼奴ノ語原ヲ見ヨ〕他稱ノ代名詞罵リ呼ブニ用ヰル。そいつ。

そ・ゆる（動）添ふ（下二）ノ誤。

そよ（副）靜カニ、物ノ、吹カレ、又、搖ラレ、相、觸レテ鳴ル音ニ云フ語。颯然。萬葉集、十 六「小夜深ケテ、妹ヲ思ヒ出テ、敷妙ノ、枕モそよニ、歎キツルカモ」同、廿 四十 長歌「家ヲ思ヒ出、負征箭ノ、そよト鳴ルマテ、歎キツルカモ」後撰集、七、秋、下「花薄、そよトモスレバ、秋風ノ、吹クカトソ聞ク、獨寢ル夜ハ」新古今集、六、冬「君來ズバ、獨ヤ寢ナム、笹ノ葉ノ、御山モそよニ、サヤグ霜夜ヲ」人丸集「笹ノ葉ハ、深山モそよニ、亂ルラム」源順集「そよト鳴ル、秋ノ荻ダニ、ナカリセバ」秋篠月清集（良經）一「梢ノ葉ニ、そよや秋風、ソヨグナリ」六帖、二「獨シテ、物ヲ思ヘバ、秋ノ田ノ、稻葉ノそよト、云フ人ノナキ」

そ-よ（感）思ヒ出デテ、驚キ云フ語。ソレヨ。源、十四、澪標 十「思ジ給ヘバ、イトヨク打笑ミテ、そよ、誰ガナラハシニカアラン」後拾遺集、十、哀傷「今ハタダ、そよ其事ト、思ヒ出デテ、忘ルバカリノ、憂キ事モガナ」宇治拾遺、六、第三條「彼レハ變化ノ物ゾ、我レコソそよト云ヘドモ、聞キ入ル人無シ」拾遺愚草（定家）上「タマグレ、風吹キスサブ、桐ノ葉ニ、そよ今サラノ、秋ニアラネド」新古今集、四、秋、上「イツシカト、荻ノ葉ムケノ、片ヨリニ、そよヤ秋トゾ、風モ聞ユル」（前條ノ語ニカク）

そ-よう（名）［疎慵］〔慵ノ正音ハ、ぢょう、集韻「常容切」ようハ、慣用音〕說文「慵、嬾也」ナマケルコト。疎懶。白居易詩「世名[illegible]東[illegible]士、心性[illegible]是野夫」

そよ-かぜ（名）［微風］コカゼ。そよふくかぜ（微風）ニ同ジ。

そよぎ (名) 戦 ソヨグコト。戦慄

そよ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) 戦 〔次條ノ語ノそよそよノ、そよヲ活用ス。さやぐ、ノ轉。ささやく、そそやく、かがやく、かがよふ〕 ソヨソヨト、音立ツ。ソヨヨグ。サヤグ。 字類抄「戦、ソヨグ」古今集、四、秋、上「昨日コソ、早苗取リシカ、何時ノ間ニ、稲葉そよぎテ、秋風ノ吹ク」新古今集、六、冬「篠ノ葉ハ、み山モサヤニ、打チそよぎ、氷レル霜ヲ、吹ク嵐カナ」一茶ノ句「積出シテ、そよげ若竹、今ノ内」

そよそよ (副) そよ(副)ヲ重ネタル語。サヤサヤ。颯颯 源、三十四、上、若菜、上「一人人、オビエ騒ギテ、そよそよト、身ジロギ、サマヨフ氣色ドモ、衣ノ音ナヒ、耳カシマシキ心地ス」 詞花集、四、冬「風吹ケバ、ナラノ枯葉ノ、そよそよト、言ヒ合ハセツツ、イツチ散ルラム」 六帖、六、上「秋風ノ、そよそよ荻ノ、葉ニゾ驚ク」

ぞよぞよ (副) 動物ナドノ聚マル狀、又、群リ來ル狀ニ云フ語。ゾロゾロ。

そよ・ふ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 風、ソヨソヨト吹ク。陣陣 夫木抄、三十一「ハツセ山、松ノ扉(トボソ)ノ、アケ方ニ、そよふきソムル、秋ノ初風」

そよふくかぜ (名) 微風 コカゼ。ソヨカゼ。ソヨソヨト、吹ク風。

そよみ (名) 故障(サハリ)ノ義ナルベシ。 [illegible]「そよみナク、見ル君ナレド、七夕ノ、今日待チエタル、心地コソスレ」

そよみ (名) そぞく(素讀)ニ同ジ。

そよめき (名) ソヨメクコト。 堀河百首、秋「荻ノ葉ノ、問ハズ語リノ、そよめきニ、スズロニ目ヲモ、覺シツルカナ」

そよ・め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 戦グ狀ナリ。ソヨソヨト、音立ツ。 名義抄「戦、ソヨメク」 貫之集、下「立寄レバ、袖ニそよめく、風ノ音ニ、[illegible]」 [illegible]ニ、風ノそよめく、夏シモゾ、秋ナラネドモ、アハレナリケル」 嵇康、琴賦「新衣翠粲(ソウサン)」源、三、空蟬「打チそよめき[illegible]」[illegible]よめきテ入リヌ」

そよや (感) ソト、思ヒ出シテ云フ語。ソレヨ。 源、三十八、夕霧「[illegible]」 [illegible] 宇津保物語[illegible] 山家集(西行)上「夏ノ夜ハ、篠ノ小笹ノ、フシ近ミ、そよや程ナク、明クルナリケリ」

そよよ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) 戦 そよぐニ同ジ。 字類抄「戦、ソヨヨク」

そよりそより-と (副) 笹葉ナドノ、ソヨメク音ヲ云フ語。ソヨロト。 今昔物語、廿六、廿一語「薮ノ中ニ、音ノ、そよりそよりと鳴リテ、動キケルヲ見テ」

そよろ-と (副) 前條ノ語ニ同ジ。ソロリト。 枕草子、七、六十四段「[illegible]テ、そよろと剰シ入ルルハ、呉竹ノ枝ナリケリ」

そら (名) 空虚 〔反(ソ)リテ見ル義、内ニ對シテ、外(ソト)カ、らハ、添ヘタル辭。梵語ニ、修羅(Sura.)譯シテ、非天、修羅、阿修羅、阿須羅、トモ云フ。(英語、Solar. 沖縄ニテ、そら)相似タリ〕(一)天ヲ、仰ギ見テ云フ語。中天。中空。 神代紀、下「[illegible]」[illegible]「物在二於虛中一」 源、四十六、總角「胸ノミ、ツト塞ガリテ、そらヲノミ眺メ給フニ」 古今集、十五、戀、五「天津そら」 貫之集「[illegible]散ル、木ノ下風ハ、寒カラデ、そらニ知ラレヌ、雪ゾ降リケル」 新後撰集、十[illegible] [illegible]

[illegible]「小[illegible]そら」(三)[illegible] [illegible]そらモナク思サル」源、十三、明石「[illegible]、[illegible]リテ、明ケ暮レ、安キそらナク、歎キ給フニ」[illegible] [illegible]ノ、立ツそらゾナキ」 赤染衛門集「[illegible]ノ、道ノそらニテ、消エニセバ」「旅ノそら」 (四)取リトメヌコト。徒ラナルコト。ウハノソラ。浮空 萬葉集、十[illegible] [illegible]「吾妹子ガ、夜戸出ノ姿、見テシヨリ、心空ナリ、地ハ踏メドモ」同、十二「[illegible]立チテ居テ、タドキモ知ラズ、[illegible]心、[illegible]ナリ、[illegible] [illegible] 戀、五「秋風ハ、身ヲ分ケテシモ、吹カナクニ、人ノ心ノ、そらニナルラム」[illegible]ド、心ハそらニテ」 續詞花集、戀「立ツサルガツ、眺メツツ、そらナル戀モ、我レハスル哉」(五)スベテ、其質ナキコト。空虛 實ナキコト。虚 [illegible] [illegible] (六)空虚ノ義ヨリ轉ジテ、中間ノ義。(心そらナリナド、心、空虛ナリ、[illegible]らニシテナドモ、空虛ノ義[illegible]モオボエザリナリ) [illegible] [illegible]夜呼ブ舟ノ、引ク綱ノ、そらニ絶エント、我ガ思ハナクニ」(七)心ノ推シ量リノミナルコト。 [illegible]ハ、推シハカリ、思ヒ量サム」 枕草子、十[illegible]六段「数ヲゾ、そらニ讀ム」 榮花物語、十五、疑「[illegible]經ヲ受ケ習ヒテ、暫後ニ讀ム、そらニ浮ベタリ」(八)イツハリ。ウソ。虚僞 土佐日記、正[illegible] [illegible] (九)心地ノ義。又、そらおち(そら恐シノ、そらノ如キ)[illegible]

[illegible]

そら (副) すら(副)ニ同ジ。 [illegible] [illegible]無味無來リ聞レ給ハズ、今昔物語、[illegible] [illegible] [illegible]ナシ」

そら (感) 〔其れノ轉〕 其レト指示シテ[illegible]驚カス語。ソリャ。「そら見ヨコトカ」

そら-あはせ [illegible] [illegible] [illegible]レバ、コレガそら合セ[illegible]ハアラズ、[illegible]ル間ノ、[illegible]

そら-あひ (名) 空合 (一)天空ノ氣色。空ノ樣子。空模樣。天候。(二)物事ノ成行、[illegible]ノ語。

そら-い (名) 徂徠 〔爾雅、釋詁注「徂、往也」說文「徠、亦作來」〕 (一)ユキキ。去來。往來。(二)又、徂來。支那ノ山ノ名。今ノ山東省、泰安縣ノ南ニアリ。[illegible]

そら-いき (名) 空行 行クト云ヒテ、行クフリヲスルコト。行クト見スルコト。 宇治拾遺、[illegible] [illegible]

そら-いは (名) 徂徠派 儒學ノ一派。江戸時代ニ、荻生徂徠ノ唱ヘシモノ。[illegible] [illegible] [illegible]

そら-いびき (名) 空鼾 偽リテ、鼾ヲカ[illegible]

クコト。夕霧阿波鳴渡、上、近松作、下「役者[illegible]グ仲人[illegible]門、[illegible]ハナナフメ、[illegible]サレナ[illegible]聚樂殿ト、コロリト臥シテ、又、ゴウゴウト空鼾」

そらいろ (名) 空色 (一)空ノ容子。ソノ[illegible]キヤウ。「[illegible]眺メ[illegible]、舊津ベニ」(二)大空ノ色。即チ、淺藍ノ色。天青色 源、十[illegible]「[illegible]そらいろノ紙ノ曇ラハシキニ」亭子院歌合「[illegible]御裝束、[illegible]ヒハダ色ノ御衣ニ、そら色ノ御袴」

そらう (名) 所勞 きょらう(所勞)ニ同ジ。字類抄「所勞、ソラウ」

そらうそ (名) 空嘯 何トナク、只ウソブクコト。狂言記、合柿「古ヘノ人丸、柿ノ本ニ休ヒテ、歌ヲ案ジテ、そらうその吹カセ給ヒシ例モアリ」

そらうそぶ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 空嘯 仰ギテ、ウソブク。又、空トボケテ、何氣ナキ狀ヲナス。ソラフク。 娥歌加留多、正德、近松作、一「イカイ物忘レ、少シ、氣欲ンテ、發生メサレト、空うそぶいテ居タリケル」

そらうたがひ (名) 空疑 根據無キニ、疑フコト。邪推。 今昔物語、廿七、廿一語「人ノ妻、嫉妬ノ心深ク、虛疑ひセムハ、夫ノ爲ニ、此ク不吉ヌ事ノ有ル也」

そらうつぶ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 空俯 空トボケテ、ウツムク。ソ知ラヌ狀シテ、下ヲ向ク。 義經記、七、於如意渡[illegible]「慶[illegible]打ニ義經ニ遣「アノ坊ユヱニ、所所ニテ、人人ニ怪シメラルルコソ、詮ナケレト云ヒケレドモ、返辭モセズ、そらうつぶきテ居タリ」

そらおそろ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、一) 空恐 何トナク、漫ニ、恐ロシ。天ノ感ズル所、オソロシ。 源、二、帚木三十一「伊豫ノかたノミ思ヒヤラレテ、夢ニヤ見ユラント、そらおそろしく、愼マシ」同、五十二、手習三十七「知ラヌ人ニ具シテ、サル道ノ歩ヲシタラムヨト、そらおそろしく覺ユ」同、十、榊十九「人目モ繁キ頃ナレバ、常ヨリモ、端近ナルヲ、空おそろしう覺ユ」

そらおぼえ (名) 空覺 書物ニ據ラズ、諳ニ、文句ヲ覺エテ居ルコト。諳記。

そらおぼめき (名) 虛ニ、オボメクコト。知ラヌ顏スルコト。 源、廿五、螢十九「御心ノヤウニ、ツレナク、そらおぼめきシタルハ、世ニアラジナ」十訓抄、上、第一、十五條「ツヤツヤ騷ギタル氣色モ無クテ、打チ鎭リタルそらおぼめきノ程モ、餘リニ色深ク、情切シウ覺エケルニ」

そらおぼれ (名) 虛ニ、恍惚レタル容子ヲスルコト。ソラトボケ。(實ニハ忘レネド) 源、三十四、下、若菜、下七十「吾ガ身コソ、アラヌ狀ナレ、ソレナガラ、そらおぼれスル、君ハ君ナリ」同、四、夕顏十「そらおぼれシテナム、謀ラレ罷リ歩ク」[illegible]集、家隆、上「契リシハ、イカニト問ヒテ、眺ムレバ、そらおぼれスル、春ノ夜ノ月」

そらがくれ (名) 虛隱 隱ルル素振ヲナスコト。 詞花集、十、雜、下「常在靈鷲山の心を詠める「世ノ中ノ、人ノ心ノ、浮雲ニ、空がくれスル、有明ノ月」

そらかな・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 空悲 何トナク、カナシ。漫ニ、物ガナシ。 夫木抄、八「うちよま山、禊ノ河原ニ、燈ス火ハ、そらかなしくヤ、鹿ハ見ルラン」

そらからく・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 空絡繰 妄リニ、刀槍ナドヲ、操リ弄ブ。ヒネクリマハス。 太平記、十二、大塔宮配流趣ニ鎌倉ニ事「弦弓射ル者、大太刀仕フ者、云云、カヤウノそらからくる者ドモ、每夜、京白河ヲ廻リテ、辻切ヲシケル程ニ」

そらぎしやう (名) 空起請 僞リテ、記シタル起請文。空誓文。 賀古教信七墓廻、元禄、[illegible]「千束、百束、文車、[illegible]、空誓[illegible]」

そらく (名) 殂落 爾雅、釋詁「殂、落、死也」註「[illegible]之死落ニ者、蓋、殂猶往也、言、人命盡而往落者、若ニ草木葉落ニ也」」殂スルコト。崩御。 書經、舜典篇「二十有八載、帝乃殂落」孟子、萬章、上篇「堯典曰、二十有八載、放勳乃徂落、百姓如ニ喪ニ考妣ニ」(徂ハ、殂ニ通ズ)

そらくだしぶみ (名) 空下文 僞リノ下文。贋ノ下文。 今昔物語、廿八、三十一語「此ク計ノ心ニテハ、虛下文モゾ爲ル」

そらけいはく (名) 空輕薄 僞リテ、御世辭ヲ云フコト。ソラゾラシキ御世辭。 曾我會稽山、享保、近松作、四「馬鹿慇懃ノ空輕薄、結句、敵ノ引キ入レヲ、仕濟マシ顏ニゾ別カレケル」

そらごころ (名) 空心 イツハリノ心。浮ノ空ナル心。 宇津保物語、藏開、中四「アナ怪シヤ、マコトニテ書キ給ヘルニヤアラント、ノ給ヘバ、云云、ナデフ、そらごころニテカハ」

そらごたへ (名) 空答 相手ナキニ、返辭スルコト。又、イツハリノ返答。 宇津保物語、國讓、上五十六「コノ御返リハ、聞コエサセヨトカ、サラバ、答ヘキコエント、答ヘ給フ人モ無キニ、そらごたへヲシ給ヒツツ」

そらごと (名) 虛言 空言 イツハリゴト。ウソ。ハナシ。ムナゴト。ネナシゴト。虛言。 萬葉集、十一、一「淺茅原、小野ニ標結フ、空言ヲ、イカナリト云ヒテ、君ヲバ待タン」同、十二、廿四「淺茅原、小野ニ標結フ、空言モ、逢ハント聞コセ、戀ノ慰ニ」 源、廿五、螢十六「そらごとヲ、ヨクシナレタル口附ヨリゾ、云ヒ出ダスラン」 中務集「時鳥、聞渡ルトモ、五月雨ノ、そらごとニダニ、人ハナサナン」 後撰集、十六、雜、二「雲居路ノ、遙ケキ程ノ、空ごとハ、イカナル風ノ、吹キテ告ゲケム」

そらざま (名) 空方 空ノ方。ウヘザマ。カミザマ。上方。 宇治拾遺、八、第三條「此鉢ニ、藏、乘リテ、タダ上リニ、空ざまニ、一二丈バカリ昇ル」[illegible]記、十、有王[illegible]事「法師カト思ヘバ、又、頭ハ空樣ニ生アガリテ、白髮多シ、銀ノ針ヲ立タルガ如シ」

そらざや (名) 空鞘 刀身ヨリ、イト長キ鞘。 犬筑波集(永正)「寶ヲバ、身ニ餘ルホド、持チニケリ」黃金作リノ、太刀ノそらざや」

そらさわぎ (名) 空騷 カラサワギ。ソラゾラシク騷グコト。 宇津保物語、藤原君廿四「京童部、數知ラズ集マリテ、一ノ車ヲ奪ヒトル、殿ノ人人、そらさわぎスレバ、車ノ簾ヲ揭ゲテ」

そらし (名) 藁本 [illegible]原、詳カナラズ。しハ、芹ノ葉ヲ、しト云ヒ、しのねト云フニ繼ゲルカ。のそらしハ、野そらしカ、さはそらしハ、細葉カ(箋注倭名抄、十一九「藁本」註「芎藭、似ニ水芹ニ而大、藁本、葉細耳」)さはそらしハ、ささはノ約カ(さぐくむ、さくむ)或ハ、澤そらしカ) 草ノ名。又、のそらし。サハソラシ。ササハソラシ。カサモチ。今、かうほん(藁本)ト云フ。其條ヲ見ヨ。 天治字鏡、七四廿「芵、苦菜也、卉根也、若白花也、曾良自」同、七十三「[illegible]、乃曾良志」字鏡九十「[illegible]、曾良自」同九十五「蒿葬、乃曾良自」本草和名、上卅六「藁本、加佐毛知、佐波曾良之」倭名抄、廿廿「藁本、佐佐波曾良之、一云、曾良之」內膳式「[illegible]」

そらしけん (名) 空示現 僞リノ示現。 沙石集、二、上、第六條「傍輩ノ老僧モ、そら示現ノ故ニ、左ニ房モ皆蹈ミ破ラレ候ヒケル事、思ヒ合ハセラル」

そらしに (名) 空死 僞リテ、死ニタル眞似ヲスルコト。ウソジニ。佯死。 今昔物語、廿九、十九語「裸ニテ、虛死ヲシテ、路邊ニ臥セリケレバ」參考保元物語、三、爲朝最期事「虛死ヤラント、猶怖シクテ、左右ナクモ人シラズ」

そらじやうご (名) 空上戶 飮酒シテ、顏面ニ現ハレヌコト。又、其人。ススト上戶。 女夫草、高井立宣「色青カリシ、森ノモミヂ葉ニ醒メテ、酌メトモ師ハス、空上戶」

そらきしょうもん（名）［空誓文］信（マコト）ナラヌ誓文。月卿雲客妬歌合（建保）「逢ハントノ、そら誓文ニ、幾夜寝テ、數年ニナリヌ、コハ如何ニセン」

そらしらず（句）［空不知］〔後撰集、十一、戀、三「空しらぬ、雨ニモ濡ルル、我ガ身カナ、三笠ノ山ヲ、ヨソニ聞キッツ」亭子院（宇多）歌合（延喜）「櫻散ル、木ノ下風ハ、寒カラデ、空ニ知られぬ、雪ゾ降リケル」ナド、空にては知らずノ意ノ轉ジタルモノ〕ツユ、知ラズ。一向ニ、知ラズ。（空とぼけるニモ云ヒ、そしらぬ顔ナド云フ、そしらぬハ、此語ノ略ナリ）落窪物語、二「イト、イトホシキワザカナ、云云ト、そら知らず顔シテ、云云、云ハセテ、笑フ」宇治拾遺、十一、第六條「心中ニヲカシク思ヘドモ、云云、云云、そらしらずシテ過行クホドニ」發心集、八、第九條「北ノ方ノ、日頃ハ、そらしらずシテ」

そらしらぬ（句）［不空知］ソラトボケル。

そら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［反］反（ソ）ルヤウニナス。張リ曲グル。著聞集、十、馬藝「死（シニ）入リテ、足ヲ踏ミそらしケレバ」宇治拾遺、十五、十二條「盗賊、云云、目大キニシテ、見クルベカス、鼻ヲ吹キイカラカシ、牙ヲ噛ミ、顔ヲそらしテ居タリ」

そら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［逸］（一）〔逸（ソ）ルヤウニスル、逸ルル如クニナス〕逸（ノガ）ス。逸ス。大和物語、下「イカガシ給ヒシケム、そらし給ヒテケリ」榮花物語、十三、木綿四手「手ニ据エタル鷹ヲそらしタルナト云フヤウニ思フベシ」「鶻鸇（ハシタカ）ヲそらす」（二）狙ヒヨリ、外レテ飛バス。「矢ヲそらす」「彈丸（タマ）ヲそらす」（三）人ノ機嫌ヲ害ス。又、機會ヲ逸ス。日本永代藏（享保、近松作）二「チャト、顔ヲ袖ニ入レ、犬ノ子大ノ子ト、撫デ摩リ、そらさヌ顔モ、赤ラメリ」「話をそらすトハ、話事ニ言ヒ紛ラス、人をそらさずトハ、上手ニ應對シテ、人ノ氣ヲ白マサズ、迎合ス」

そらぜいし（名）［空制］ソラゾラシク、制止スルコト。制止スル如ク、見セカクルコト。落窪物語、二「翁ノ、死ヌベカナリト云ヘド、責ムレバ、イキ者モセズ、君、マナマナト、そらぜいしヲシ給フ」

そらせいもん（名）［空誓文］そらぎしょう（空起請）ニ同ジ。心中刃氷朔日（寶永、近松作）上「思ヒ切ヌガ定ナレバ、識火ニモイ舞ハナイ、但シハ、當座マカナヒニ、金取ル、シノ字ノ誓文カ、サリトハ惡イ」「商人ノそら誓文」

そらせうそこ（ソラ-シヨウソコ）（名）［虚消息］虚（ウソ）ノ音ヅレ。僞リノ便（タヨリ）。ニセデガミ。源、三十、藤袴「そらせうそこヲ、ツキヅキシウ取リ續ケテ、[illegible]ヤカニ聞コエ給フ」

そら・せる（動）そらす（反、逸）ノ口語。

そらぞら・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［空空］知リテ、知ラヌ風ナリ。ソラトボケテアリ。「そらぞらしい御世辭」

そらだき（名）［空薫］何處ヨリトモ知ラレヌヤウニ、香ヲ薫ラスルコト。（客ヲ迎フルナドニ）又、何處ヨリトモ知レズ香リ來ル匂ヒ。晴薫。源、三十七、鈴蟲「火取ドモ、數多シテ、煙（ケブ）タキマデ扇ギ散ラセバ、差寄リ給ヒテ、空ニ燒クハ、イヅクノ煙ゾト、思ヒワカレヌコソ良ケレ、富士ノ峯ヨリモ、ケニ[illegible]チ出ノタルハ、本意ナキワザナリ」夫木抄、七「匂ヒ來ル、花橘ノ、そらだきハ、紛フ螢ノ、火ヲヤ取ルラン」

そらだきもの（名）［空薫物］空薫ノ薫（タキ）物（モノ）。源、八、花宴「そらだきもの、イトケブタウ[illegible]リテ」宇治拾遺、九、第一條「そらだきものスルヤラムト、カウバシキ香シケリ」夫木抄、二、匂ヒクル、そらだきものヲ、尋ヌレバ、垣根ノ梅ノ、移ルナリケリ」同、十四「星トノミ、紛ヘル菊ノ、カヲル香ハ、そらだき物ノ、心地コソスレ」

そらだのみ（名）［空頼］當（アテ）ニナラヌ事ヲ、タノミニ思フコト。日本武尊吾妻鑑（享保、近松作）二「[illegible]、人[illegible]、[illegible]萬葉ノ空頼みコソ危ケレ」

そらだのめ（名）［空頼］空（ソラ）ニ、頼（タノ）マシ思ハスルコト。（他ヨリ）賴ミト思ヒテ、益ナカリシコト。[illegible]

そらぢ（ソラ-ジ）（名）［空路］そら（空）ノ條ノ（九）ニ同ジ。萬葉集、十五[illegible]「[illegible]夢ノ如、道ノ[illegible]ニ、別レスル君」

そらっ-たば・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）［空惚］そらとぼけるニ同ジ。[illegible]

そらつぶて（名）［空礫］日常（アテ）ナキニ打ツ礫（ツブテ）。聖徳太子繪傳記（享保、近松作）一「[illegible]ト八良イ夢、地獄トハ恐イ夢見ル如ク、手ニモ取ラレヌ、闇ノ夜ノ空礫」

そらつんぼ（名）［空聾］僞リノ、ミミシヒ。聞キテ、聞コエヌ風ヲスルコト。

そらで（名）［空手］風疾（リウマチス）ノ類。何ソ[illegible]慢トモ無キヤウニテ、[illegible]ノ、[illegible]。五十歳ノそらで、六十ノそらで、ナド云フ。［[illegible]］[illegible]北ノ二三日ハ、そらでガ起リマシタ」

そらどけ（名）［[illegible]］[illegible]ナド[illegible]ニ[illegible]コト。

そらごほけ（名）［空惚］[illegible]ト[illegible]

そらごほ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）［空惚］知リテ、知ラヌ風ヲ[illegible]ソラトボケル。

そらな（名）［空名］アダナ。ナキナ。無實ノ評判。[illegible]カカルなき名ハ、我レノヨソ立ツ」

そらなき（名）［空鳴］僞リ鳴クコト。[illegible]撰集、十、[illegible]「天ノ門ノ、明クル明ケヌト、[illegible]シテ、[illegible]シツル、[illegible]夫木抄、八「チハヤブル、社ノ神ノ、[illegible]、そらなきシツル、ホトトギスカナ」

そらなげき（名）［空歎］僞リテ、歎クコト。[illegible]

そらなのり（名）［空名告］僞リ、ナノルコト。[illegible]

そらなやみ（名）［空病］ツクリヤマヒ。ケビャウ。ソラヤミ。[illegible]タウそらなやみノシテ、[illegible]

そらなみだ（名）［空涙］僞ノナミダ。[illegible]

そらに（名）［[illegible]］[illegible]

そらふ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（[illegible]）[illegible]

そらね（名）［空音］[illegible]

ヌ[?]。枕草子、七、六十四段「夜ヲコメテ、鳥ノそらねハ、謀ルトモ、世ニ逢坂ノ關ハ許サジ」拾遺集、十六、雜春「鶯ニテ、鳴クトモ云ノトモ、時鳥、昔ハ鳴レジ、そらねナリケリ」 拾遺愚草(定家)中「オノレ鳴ケ、今ク關路ノ、小夜千鳥、鳥ノそらねモ、聞タテヌ關ニ」

〜**そらね** (名) 空寐 寐タル風フルコト。ソラブシ。ソラネイリ。タヌキネイリ。佯眠 枕草子、二、十七段「逢ハデアリナムト思フ人ノ來タルニ、そらねヲシタルヲ」同、五、四十七段「ヤツラ傍ニ寄リテ、衣引キアグルニ、そらねシタル、イト不クレ」源、廿三、初音「そらねノシツツ、日高ク大殿ゴモリ給キタリ」同、三十四、上、若菜、上四十八「御格子打チタタキ給フモ、云云、人人モ、そらねヲシツツ、ヤヤ待タセ奉リテ」

そらね (名) 空値/空售 僞リノ價カケ値。源氏鳥帽子折、元祿、近松作、二「飾リタル鳥帽子ノ中、何レカ所望候ゾ、良キモ惡シキモ、空値ナシ」「商人ノそらね」

そらねいり (名) 空寐入 前前條ニ同ジ。菅開集、十六、興、利口「、師ハ、そらねいりヲシテ、此山伏カフルマヒヲ見居タル程ニ」 義經記、二、伊勢三郎初對面、義經殿下一寢「太刀拔キカケテ、膝ノ下ニ敷キ、云云、そらねいりシテゾ待チ給フ」

そらねぶり (名) 空眠 前條ニ同ジ。古事談、二、臣節、人道殿內覽宣旨給日、睡氣、云云、但御殿寺之故、云云、空眠り打チシテ居タリ」

そらねんずユ (名) 空念誦 上ノ空ニテ、念誦スルコト。 盛衰記、十六、圓滿院大師登山事「堂舍佛閣、悉ク魔滅ノ煙トナサバヤト、大惡心ヲ發シ、云云、暫ク、正面ニ、虛念誦シテ居タリケルガ」

そらねんブツ (名) 空念佛 心ニモ無キ念佛スルコト。僞リノ念佛。 慶長見聞集「前ヲ欺キ、[?]切リ取リシヲ、其ノ頃、智開滿生長寿ノ空念佛ト云ヒ、モテハヤセリ」

〜**そらはづか・し・シキ・シケレ・シク・シク** (形、二) ソラ・ハズカ・シ 空恥 何トナク、ハヅカシ。天ノ照覽スル所、ハヅカシ。源、三十四、下、若菜、下六十五「世ニアラン事コソ、マバユクナリヌレト、恐ロシク、そらはづかしき心地シテ、歩ナドモ、シ給ハズ」

そらひぢり (名) 空聖 僞リノ聖。エセヒジリ。菅開集、五、和歌「仁俊ハ、女心アル者ノ、そらひぢりタツルナド申ケルヲ」 今物語「柴ノ、クモ松島ニ、住メバコソ、空ひぢりトモ、人ノ云フラメ」

そらぶき (名) 空嘯 ソラフクコト。ソラウソブクコト。 異本、曾我物語、七「何氣ナキ體ニモテナシ、そらぶきシテ」

そらふ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 空嘯 そらうそぶくニ同ジ。新六帖、一「天ツ風、身ニ染ムバカリ、思フトモ、空吹く人ヲ、イカガ頼マン」

そらふくかぜ (名) 空吹風 中空ヲ吹ク風。馬の耳に風ナドノ如ク、知ラス顏ヲシテ居ルニ喩ヘテ云フ語。「親ノ意見ヲ、空吹く風ト聞キ流ス」

そらぶし (名) 空臥 そらね(空寐)ニ同ジ。盛衰記、十九、文覺發心事「唯一刀ニ首ヲ斬、袖ニ裹テ家ニ歸リ、そらぶしシテ思ヒケリ」

そらぼけ (名) 空惚 そらとぼけ(空惚)ニ同ジ。菅開集、十六、興、言利口「君、そらぼけ、ナ、爲給ヒソ」

そらぼめ (名) 空譽/空褒 口先バカリニテ、ホムルコト。又、ホムベキ實無キニ、ホメソヤスコト。拾玉集(慈鎭)五、賴朝、歌ノヨキコト語リシカバ「五月雨ノ、絕間ガチナル、雲ノアヒヲ、空ほめスナル、人ニゾアリケル」君故ニ、心晴レタル、身ニシアレバ、そらほめナラス、そらほめゾスル」

そらまけ (名) 空負 僞リノまけ。負ケタルマネ。

そらまめ (名) 空豆 (莢、空ニ向ヒテ著ク故ニ云フカ。或ハ、蠶豆トハ、其實、蠶ノ時分ニ生熟スル故ニ云フカ」豆ノ一種、秋、種ヲ下シテ、夏、熟ス、苗ノ高サ、三四尺、莖ハ方ニシテ、中、空シ、葉ハ、べんけいさうニ似テ、厚ク、四葉、一蒂ナリ、肥エタルハ、六葉トナル、春、葉ノ間ニ花ヲ開ク、大キクシテ白ク、黑キ斑アリ、莢ヲ結ビ、側立シテ、空ニ向フ、形、圓筒狀ニシテ、指ノ如シ、初メ、綠ニシテ、熟スレバ、黑ク、豆ハ、扁平ニシテ、蠶豆ヨリ大キク、なたまめヨリ小サシ、未熟ナルハ、莢ト共ニ煮食フベシ。蠶豆

〜**そらみだれ** (名) 空亂 そらゑひ(空醉)ニ同ジ。源、廿四、胡蝶「今朝モ、イトイタウそらみだれシテ、藤ノ花ヲ插頭シテ、ナヨビサウトキ」

〜**そらみつ** (枕) 虛滿 (空滿つニテ、多クノ山山、空ニ突キ立ツ狀ヲ云フ語、卽チ、聳り滿つ山ノ意) 大和(倭)國ノ枕詞。(神武紀、九十一ニ、饒速日命、天磐船ニ乘リテ、大虛ヲ翔リ行ク時ニ、此國ヲ睨ゲテ、天降リマシケレバ云フトゾ。一說、天降リテ泊テタル所ノ意ニテ、虛御津ナリトモ云フ) 古事記、下(仁德)「[?]良美都、大和ノ國ニ、雁子產ムト、聞クヤ」 萬葉集、一、長歌「虛見津、山跡ノ國ハ、押シナベテ、吾レコソ居ラシ」 同、同六十長歌「天爾滿、倭ヲ置キテ、靑丹ヨシ、平山ヲ越エ」

そらみみ (名) 空耳 (一)聞キ違フルコト。キキチガヒ。 枕草子、一、第三段「[?]ビタル郭公ノ、遠ク、そら耳カト覺ユルマデ、タドタドシキヲ」(二)聞キテ、聞カヌ風スルコト。シラヲ切ルコト。 和泉式部物語「聞レナランド思フ、辛ウジテ出デテ、人ハナカリケレバ、そらみみ聞キオハサウジテ」

そらん (名) 疎懶 (說文「懶、懈也、怠也」) 俗ニ、懶ニ作ルハ、誤ナリ) ナマケ、怠ルコト。ブシヤウ。 北齊書、[?]下官[?]疎[?]、手足遲鈍」(疎、懶、通用ス)

そらん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 諳 (諳にすノ音便) 諳ニ覺ユ。諳記ス。字類抄「諳、ソランズ、諳誦」

そらめ (名) 空目 (一)見違フルコト。誤認 源、四、夕顏「光アリト、見シ夕顏ノ、上露ハ、タソガレ時ノ、そらめナリケリ」 拾遺集、九、雜、下「男ノ、見侍リテ、今ハ、ナ隱レソ、イトヨク見テキト云ヒオコセテ侍リケレバ「そら目ヲゾ、君ハミタラシ、(御手洗ニ、見たらしヲ云ヒカク)川ノ水、淺シヤ深シ、ソレハ我レカハ」 夫木抄、四、春「尋ネ來ル、高圓山ノ、花盛リ、雲ト見ツルハ、空目ナリケリ」 新勅撰集、十六、雜、一「琴ノ音ヲ、春ノ調ト、引クカラニ、霞ミテ見ユル、空めナルラン」(二)睛ヲ、上ヘ向クルコト、ソラメヅカヒ、ウハメ。天吊 上覷 「そら目ヲ使フ」(三)見テ見ヌ風ヲスルコト 信長記、四、享保、近松作、四、虎少將道行「空目シテ死ナセテタモ、刃物タモレト縋付キ」

〜**そらめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ** (自動、四) 空 確カナラザルヤウニ見ユ。噓ラシク見ユ。宇津保物語、國讓、下六十「例ハ、イタウそらめいタル人、イトマメニ見エ給ヒシハ」 夫木抄、廿三「すか島ヲ、渡ル秋沙ノ、音ナレヤ、そらめかレテモ、世ヲ渡ルカナ」

〜**そらものがたり** (名) 空物語 僞リノ、モノガタリ。取リトメモナキ話。後撰集、十三、戀、五「雨ニモ障ラズ詣デ來テ、そら物語リナドシケル男ノ、門ヨリ渡ルトテ、雨ノイタク降レバ」 大鏡、下、八「若キ人人ハ、そら物語スル、翁カナト思スモアラム」

そらものぐるひ (名) 空物狂 ニセキチガヒ。佯狂 難太平記「義包、云云、世ニ憚リテ、空物狂ニナリ給ヒテ、其代ハ無爲ニ過給ヒシカバ」

そらものつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 物憑ノ狀ヲ装フ。物ノ怪ノ憑キタル素振ヲナス。 宇治拾遺、四、第一條「此女ノ、[?]シカリケレバ、そら物つきテ、カク云フト憎ミアヘリ」

そらもやう（ソラ・モヨウ）（名）［空模様］そらあひ（空合）ニ同ジ。

そら-やまぶし（名）［空山伏］僞リテ、裝フ山伏。贋（ニセ）ノヤマブシ。ツクリヤマブシ。盛衰記、三十六、義經、谷燒内書事「判官、奥州ヘ落チ下ダリ給ヒシ時、十二人ノそら山伏・、其ノ一ナリ」

そら-やみ（名）［空病］そらなやみニ同ジ。御伽草紙、[illegible]「此ノ女房ハ、そらやみヲシテ」俊頼髄脳、そらやみ「詐病ヲ云フナルベシ、古歌ニ「三日月ノ、ホノカニ出テ、入ケルヲ、そらやみトコソ、云フベカリケル」此歌、全浙兵制錄ニ見エタリ」

そら-ゆめ（名）［空夢］實際ト、何等ノ關係モナキゆめ。取リトメナキ夢、正夢（マサユメ）ニ對ス。散木集 俊賴、九、雜、上「子供アラバ、そらゆめ見テヤ、語ラマシ、ナズラヒナラヌ、影ヲ忘レテ」沙石集、一、下、第九條「梁ノ武帝ノ時、夢相有ケリ、帝、是ヲ試ミン爲メニ、そらゆめヲ語リ玉ハク、云云」發心集、三、第九條「此上ハ、イカニ聞ユトモ聞入ラルマジ、イサ、そら夢ヲ見テ、身、[illegible]フバカリ語リ申サン」

そら-よみ（名）［空讀］文ヲ、ヨク覺エテ、暗立（ソラ）テ、宙ニヨミアグルコト。文句ヲ、諳ニ讀ムコト。諳誦。記誦。七十一番職人盡歌合（文安）三十六番、いたか「文字ハヨシ、見エモ見エズモ、卷メグル、[illegible]ノ[illegible]ノ、月ノそらよみ」古今著聞、三、[illegible]「[illegible]ト云、山寺ノ住僧、大[illegible]ヲ[illegible]、[illegible]、已[illegible]年序[illegible]」

そら-わすれ（名）［空忘］忘レタル狀ヲ裝フコト。草根集、十一、[illegible]、今ゾ猶、見ヌ昔ニ忍ブ、[illegible]ノ、空忘セシ、頃ノ月影」堀河院艶書合、逢フコトヤ、今宵今宵ト、思フ間ニ、そらわすれシテ、月日經ニケリ」

そら-わらひ（ソラ・ワライ）（名）［空笑］可笑（ヲカ）シクモナキニ、[illegible]コト、[illegible]ノ、[illegible]ナルモ（ママ）[illegible]笑 曾我物語、九、行ニ和田屋ニ事「コレハ苦シカラヌトテ、そらわらひシテ通リケリ」

〔そら-ゑひ〕（ソラ・エイ）（名）［空醉］醉ハズシテ、醉ヒタルサマヲ裝フコト。ソラミダレ。源、三十四、下、若菜、下「[illegible]、そらゑひヲシツツ、カクノ給フ」宇津保物語、[illegible]、中「[illegible]ノ朝臣、酒ノ醉ヒテ侍リツルニ、前[illegible]モ知ラテナント、そらゑひヲシ、ソラゴトナシテ、參リ給ハズ」

そら-をがみ（ソラ・オガミ）（名）［空拜］浮（ウハ）ノ空ニテ、拜ムコト。表面（ウハベ）ニノミ、崇敬スルコト。浮世[illegible]、呂（文化、三馬）三編、上「人ガワノヨキカミサマ、云云、コレハ、そらをがみニテ、詞ヅカヒモ、遊バシ[illegible]ナリ」

そら-をしみ（ソラ・オシミ）（名）［空惜］惜シクモアラヌニ、惜シキ狀ヲナスコト。萬代集、十[illegible]、戀、四「忘レズナ、ナホサリゴトヲ、[illegible]メ置キテ、そら[illegible]しみセシ、曙ノ空」

そり（名）［反］（一）反（ソ）ルコト。反リタル形。反張。金[illegible]集、九、雜、上「[illegible]、サコソハ、そりノ、高カラメ」「刀ノそり」そりが合はぬト云フハ、交リ、圓滿ナラズ。（二）相撲ノ手ノ一ニ、父、反手（キソリ）、頭ト腰トヲ以テ、敵ヲ倒スコト。居反、襷（タスキ）反、撞木（シユモク）反ナド、アリ。

そり（名）［橇］［形ノ反（ソ）リタルヨリ云フ］又、雪車、雪舟、ノ字ヲ用キル。寒國ニテ、雪ノ積レル上ヲ乘リ行ク具。木造、箕ノ如シ、雪ノ上ヲ、滑（スベ）ラカシテ行ク。或ハ、泥濘ノ上ニモ用キル。[illegible]、冰[illegible] 其[illegible]抄、十八、[illegible]ユル、[illegible]ノ[illegible]ノ、[illegible]ニ、そりノ[illegible]ヲ、[illegible]ソワ[illegible]ラア[illegible]山[illegible]、[illegible]タユミツ[illegible]、そりノ[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible][illegible]山、越ノ旅人、そりニ乘ルマデ」史記、夏紀「泥行乘[illegible]、現存中[illegible]ニ、[illegible]、北方寒地、有[illegible][illegible]

そり（名）かみそり（剃刀）ヲ云フ。（西國ノ方言）

行[illegible]、[illegible]、[illegible]」

〔そり-い・づ〕（ソリ・イ・ズ）（ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ）（自動、下二）［[illegible]出］逸レテ、他ニ出ヅ。[illegible]、[illegible]ノ頭、御心そりいでテ、化粧バヤリタリト見エ」

そり-か・く（クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ）（他動、下二）［剃掛］半（ナカバ）マデ剃ル。ソリサス。[illegible]八景（寶永、近松作）上「別當、[illegible]ノ荒シグ、剃りかけタル剃刀ヲ、イ[illegible]ツ[illegible]ヘ[illegible]」

そりかへり（ソリカエリ）（名）［反返］（一）ソリカヘルコト。（二）相撲ノ手ノ一。狂[illegible]記、見物左衞門「相撲ハ、四十八手ト云ヘドモ、云云、そりかへり、[illegible]、ナソリカケ、[illegible]」

そり-かへ・る（ソリ・カエ・ル）（ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四））［反返］後方ヘ、ソリマガル。（上方ヘモ）甚シク反（ソ）ル。ソックリカヘル。反張。盛衰記、十五、[illegible]、[illegible]、[illegible]、そり[illegible]りタル[illegible]ノ[illegible]」

〔そり-くひ〕（ソリ・クイ）（名）［剃[illegible]］［剃杭ノ義カ］鬚ヲ剃リタル跡ニ、短ク生ヒタル毛。[illegible]集、十六、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]引キソ、法師牛カム」

そり-け（名）［剃毛］剃リ[illegible]、[illegible]、[illegible]毛[illegible]、[illegible]生[illegible]、[illegible]

そり-さ・ぐ（グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ）（他動、下二）［剃下］鬢ノ毛ヲ剃リ下グ。[illegible]（寶永、近松作）上「[illegible]笑シイ[illegible]ソ、此ノ[illegible]ニ、剃リ下ゲテ、手足ハ山ノ、コケ[illegible]ジヤ」

そり-さけ（名）［[illegible]］[illegible]

[illegible]ゲ」松屋筆記、九十八「そりさげハ、今ノ火奴（ヤツコ）頭ナルベシ」

そりさげ-やっこ（名）［剃下奴］鬢ノ毛ヲ剃リ下ゲ[illegible]奴（ヤツコ）[illegible]化、一九）八編、下「[illegible]ハ、[illegible]アル剃り下げや[illegible]ホナリ」

そり-そり（[illegible]）[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]昔ニ云フ語。小兒ノ語ニハ、名詞トシ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]用キ[illegible]

そり-だか（名）［反高］弓ノ、甚ク反（ソ）リテ、弦ソ外シタル時ニ、そりノ度ノ高キコト。太平記、十六、本間孫四郎遠矢事「[illegible]ノ[illegible]、弓ノ反高ナルヲ、[illegible]ニ[illegible]ノ」

そり-て（名）［反手］そり（反）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

そり-のはな（名）［仙翁花］せんをうげ（仙翁花）[illegible]、[illegible]落ツル時、仙翁花ノアルヲ知リズシテ、引[illegible]クレバ、親ノ泥メケル時、夏花ノ、[illegible]マジル、[illegible]ナレバ、そりト[illegible]知リテ、[illegible]リツルカナ」

そり-は（名）［反[illegible]］[illegible]、[illegible]ニ同ジ。

〔そり-はし〕（名）［反橋］橋ノ中高ニ[illegible]ヲ作リ[illegible]、[illegible]。鼓橋。輪橋。宇津保物語、[illegible]上、[illegible]ノ[illegible]中ニ、そりはしヲ、左右ニ八、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]」同、廿八、[illegible]、[illegible]ハ、そりはし[illegible]リテ[illegible]ル」[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ノ、[illegible]モ[illegible]クマアニ、[illegible]リニケルカナ」

そり-み（名）［反身］身體ノ上部ヲ、少シ、後ヘソラスコト。[illegible]ナリ」

そりゃ（代）それは（其）ノ約。[illegible]、そりゃ、何ノ事ノ[illegible]。

そりゃ（[illegible]）それ、[illegible]ノ、[illegible]。

「そり」ト云カ、山伏ノ[illegible]ニハ、[illegible]ヲハ、[illegible]ラナハナイカ」

そりやう（名）[所領] 「所領」ニ同ジ。字類抄「所領、ソリャウ」

そりゃく（名）[疎略] オロソカニスルコト。丁寧ナラヌコト。[illegible]

そりやつ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[剃俏] 髪ヲ剃リテ、樸素ナル僧ノ姿トナル。 衰衣、四、上「サレド、世ノ中[illegible]レナクテ、オノヅカラ聞ク人人モアリテ、實シクそりやつし給ヘランヤウニ、惜シミ悲シガリ聞ユレバ」

そりわたどの（名）[反渡殿] わたどの（渡殿）ノ條ヲ見ヨ。

そ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[反] （背ノ活用、背折るノ義）（一）背ヲ、後ニ曲グ。ノケゾル。 名義抄「反、ソル」巻曲、マガリソル」 枕草子、三、三十七段、おぼつかなきもの「物言ハヌ兒ノ、そり覆リテ、人ニモ抱カレズ泣キタル」（二）張リ曲ル。曲リカヘル。（弓ニ、刀ニ、身ニ） 夫木抄、三十二「ウラヤマシ、安達ノ峰ノ、そり眞弓、そりハテマシヲ、引キカヘスラム」

そ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[逸] （外へ反るノ義）行クマジキ方ヘ、飛ビ行ク。逸ルル。ノル。ニグル。逸ス。 夫木抄、十七「今朝ハシモ、そる[illegible]ノ、影モ見ジ、野守ノ鏡、[illegible]シテ」 散木集、後、[illegible]下、長歌「[illegible]ノ、[illegible]ノ、そりハテテ、招カレヌ事ノ、悲シサニ」 詞花集、八、戀、下「御狩野ノ、暫シノ木居ハ、サモアラバアレ、そりハアヌルカ、矢形尾ノ鷹」

そ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）[逸] （一）前條ノ語ニ同ジ。 夫木抄、十四「手ニ据エテ、[illegible]テシ[illegible]モ、[illegible]ルレバ、野[illegible]ノ花ニヤ、[illegible]レアヤ[illegible]ム」（二）狙ニ外レテ、飛ビ行ク。（矢ニ、銃丸ニ）流（三）[illegible]度ヲ外レテ、進ム。 運歩色葉集「俏、ソルル」注「俏二調子二」「心そろ[illegible]、気がそれる、心がそれる」ト云フハ、浮キ立チ反ル、浮キハナルルノ意。

そ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）[剃] （去るニ通ズ）毛髪ヲ、根ヨリ薙ギ切ル。俗ニ、する。 字鏡「[illegible]」 古事記、中（垂仁）「[illegible]」 栄花物語、十七、音楽「御[illegible]生レサセ給ヒテノ後、一二度バカリ、そらセ給ヘレバ、イミジウ綱ソウ、メデタウ」 萬葉集、十六「[illegible]剃ルガ、兒ノ剃杭」 天智紀、十年十月「向[illegible]於内裏佛殿之南[illegible]除鬚髪[illegible]沙門」」 續紀、廿七、天平寶字八年九月、宣命「歎ハ、髪ヲ剃リテ、佛ノ御袈裟ヲ着テアレドモ」 古ヘハ、平人ハ、毛[illegible]、[illegible]ナドヲ、鑷子ニテ抜キ取リ、或ハ、鋏ニテ、剪ミ斬レドモ、法師ハ剃ル故ニ、倭名抄ニ、剃刀ヲ、僧坊具ニ擧ゲタリ。[illegible]寺[illegible]「[illegible]御代[illegible]」已前ハ、男、眉ノ毛ヲ抜キ、[illegible]ヲはさみ、金ヲ附クルコト、一切無[illegible]之」 京師本、平治物語、三、牛若奥州下向事ニ「[illegible]、云云、夜半バカリニ、髪ヲ、抜レト、剃リ上ゲ、云云、烏帽子ノ尖押拭ヒテ、着タリ」トアルハ、鞍馬寺ニ居タレバ、僧ノ所爲ニ傚ヘリト見ユ。

それ（名）[逸] 逸ルルコト。

それ（代）[其夫] （されの(是)ノ語原ヲ見ヨ）（一）稍、身ヨリ離レタル物事ニ用キル代名詞。そ(夫)ニ同ジ。（されノ、又ハ、かれ、あれ、ナドニ對ス） 萬葉集、七[illegible]「[illegible]、小楫ガドノ、[illegible]ソネ、其ヲダニ、君ガ形見ニ、見ツツ偲バン」 源、二、帚木「スベテ、口明カスベクナン侍ラザリシ、それハ、或ル博士ノ許ニ、學問ナドシ侍ルトテ、罷リ通ヒシ程ニ」（二）人ニモ云フ。其人。 景行紀、十二年十月「[illegible]女人、曰[illegible]、[illegible]長、其[illegible]天皇車[illegible]ト申ス、イマソカリケリ、それ[illegible]（三）ソレガシ。某 土佐日記、十二月廿[illegible]日「それノ年ノ十二月ノ二十日アマリ」「誰レそれ」

それ（接）[夫] 指シテ、意輕ク、文ノ首ニ用キル語。 論語、[illegible]也篇「夫仁者、己欲立而立人」 孟子、盡心、上篇「夫君子所過者化」 禮記、曲禮、上篇「夫禮者、所以定親疏、決嫌疑、別同異、明是非也」 [illegible]集[illegible]「それ、人ノ[illegible]ヲミガキ、文章ヲ織レル[illegible]ノ[illegible]」「夫れ、ツラツラ[illegible]ルニ」

それ（感）そら（感動詞）ニ同ジ。 狂言記、佛師「それ御見ヤレ、ソレ故、側ヘハ入ラヌモノヂャト云フニ」「それ見ロ」

それがし（代）[某] （夫が主ノ約カト云フ）（一）他稱ノ代名詞。名ヲ知ラヌ人、又ハ、物事ヲ指スニ用キル。ナニガシ。何ノ誰レ。ソレ。某甲 出雲國造賀詞「某甲（國造、自ラ云フ）ガ弱肩ニ、大襷取掛ケテ」 蜻蛉日記、下、中「帶刀ノ先生それがしナド云フ人、使ニテ、夜ニ入リテ、物シケリ」 宇治拾遺、八、第四條「[illegible]井寺ニ、それがしト云フ僧ニ誂ヘテ、[illegible]セサセテタベト言ヒテ」 同、十四、第七條「何者カ候フト云ヘバ、それがし、かれがしト云フ」（かれがしトハ、彼のなにがし、あのたれ、ト云フ意） 禮記、曲禮、下篇「使者自稱曰某」 同、注「某、名也、臣諱君、故曰某、凡不知名者、皆曰某」「それがしガ子」「それがしノ年」（二）自稱ノ代名詞。我レ。 狂言記、烏帽子折「それがしガ烏帽子ガ、剃ケテアタガ、何トシタ物デアラウゾ」 沙石集、一、上、第二條「コレニ經葉ト申ス童ヤ、オハスルトノ給ニ、某甲コソ、サハ名乘リ候ヘ」「それがしガ思フ所ハ」

それかれ（代）[其彼] ソレガシ、又ハ、カレガシ。タレソレ。ソレソレ。 枕草子、六、五十一段「院ノ殿上人ハ、誰レ誰レカアリツルト、人ノ問ヘバ、それかれナド、四五人バカリ云フニ」

それさま（代）[其樣] ソナタサマ。ソサマ。 雪女五枚羽子板、寶永、近松作、上「長老様、最[illegible]ノ[illegible]ニ、それ[illegible]、三年[illegible]テ、[illegible]」

それしゃ（名）[其者] （一）其道ノ人。其道ニ長ジタル人。專門家。クラウト。（素人ニ對ス） 好色二代男（貞享、西鶴）三「世ノ中ノ巾着切モ、腹ノ中カラノ、それ者ニモアラズ」（二）[illegible]娼妓。「それしゃノ果」

それそれ（代）[其其] それかれ（其彼）ニ同ジ。 源、十七、繪合十「女君ト諸共ニ、今メカシキハ、それそれト搔リ調ヘサセ給フ」 枕草子、六、五十段「誰レ誰レカト問ヘバ、それそれト云フニ、皆、恥カシキ中ニ」

それそれ（感）[其其] （一）其レナリト注意ヲ與フル時ニ云フ語。 狂言記、飛越新發意「サア飛ビマスゾ、飛ブゾ、アア、それそれ、危イ、危イ」（二）不圖、思ヒツキタル時ニ云フ語。オオ、ソレヨ。 狂言記、鬮罪人「それ、[illegible]テ思ヒ出シタ、[illegible]ノ事ヂャ」 同、比丘貞「御無事ニ御座リマシテ、目出タウ御座リマス、それそれ、ソナタモ息才デ、目出タウオリャル」

それぞれ（副）[夫夫] オノオノ。メイメイ。 狂言記、拄杖「出家ニナレバ、それぞれノ法ヲ勸メ、[illegible]、陀羅尼モ覺エネバナラズ」「[illegible]共モ、それそれ[illegible]附ク」

それだま（名）[逸玉] 逸レテ、外へ飛ビタル銃丸。ナガレダマ。流丸

それだもの（句）ソレニテアル故ニ。

それてい（名）[其體] ソノ位ノコト。其レ程ノコト。 沙石集、三、下、第五條「兒共ハ、それていニ[illegible]メヌガ良キゾ」

それながら（副）ソノママ。ソックリ。 萬代集、一、春、上「雪殘ル、野邊ノ若菜、それながら、年ヲ積ミテモ、今日ニ逢ヒヌル」

それなら（接）サウ云フ理由ナラバ。ソレデハ。ソンナラ。 狂言記、惡坊「ソナタ、先ヘオヂャレ、ハ、それなら、参リマスル」

それ-なり （副） （一）ソノママ。（二）ソノママニ終ハルニ云フ語。ソレナリケリ。

それなり-けり （句） 前條ノ語ノ（二）ニ同ジ。本朝若風俗（貞享、西鶴）二、四「皆人、恐レテ、それなりけりニ、十七ノ春ヲ過ゴシヌ」 浮世床（文化、三馬）二編、上「ココデ悲シクモ、内師舍デモ揚ゲヨウト云フ場ダガ、其形けりデ濟マシテ」

〜それ-み （接） 然ルニ。 枕草子、六、五十一段「頭（藏人頭）、着キ給ハヌ程ハ、殿上ノ臺盤ニ、人モ着カズ、それみ、方弘ハ、豆一盛ヲ取リテ、小障子ノ後ニテ、ヤヲラ食ヒケレバ」 宇治拾遺、三、十四條「大宮司ノ威勢、國司ニモ優リテ、國ノ者ドモ怖チ恐レタリケリ、それみ、此國司下リテ、國ノ沙汰ドモアルニ」

それ-のみ-ならず （副） ［加之］ ソレバカリデハ無ク。シカノミナラズ。アマッサヘ。

それ-は （代） 其の者えト指ス語。ソリャ。

それ-ばかり （副） ［其許 其計］ ソレダケ。ソレキリ。ソレノミ、ソレバカリ。 狂言記、萩大名「其ノ儀ナラバ、急イデ數ヘイ、云云、フン、シテ、そればかりカ」

それ-や （名） ［逸矢］ 狙ヨリ逸レテ、飛ベル矢。ナガレヤ。流矢。 魚道の句「ポ、タリト、それやノ落チシ、柳カナ」

それ-や （名） ［其屋］ 客商賣ヲスルモノ。ソレシャ。 心中重井筒（寶永、近松作）中「サスガそれやノ女房トテ、世間話ニ氣ヲユルマセ」

※そ・れる （動） 反る、逸る（下二）ノ口語。

そろ （動） さふらふ（候）ノ略訛。さふ。 運歩色葉集「候、ソロ」 季吟十會集「連ネヌル、歌ノ趣向ハ、深カレヤ、そろべくそろニ、アラマシノ文」

ぞろ （名） 「ぞろぞろト、引キ食フ意ノ語」索麵ノ女房詞。ゾロゾロ。 女房日記「目出度事ノ御祝、二獻、ぞろ、御イヘ肴、ノシ、云云」

そ-ろう （名） ［疎漏］ オロソカニシテ、手落アルコト。ズロウ。ナゲヤリ。 ［疎鹵］ 齊書、王晏傳「晏毎以疎漏、被上呵責」 [illegible]「得二綱疎偶漏二」調責、疎漏ナリ」

ぞろ-する （名） 女房、小兒ノ語。饂飩、蕎麥切ナドヲ云フ。 女房私記「七夕ノ御祝ヒニ、初獻、ぞろ御汁、再進、次ニ、索麵、ぞろノ上ニ乘セテアリ」

そろ-そろ （副） ［徐徐］ 出雲風土記、意宇郡國引ニ「河船之毛曾呂毛曾呂爾、國來國來引來」トアル、毛曾呂毛曾呂ノ略ト云フ。沖繩ニテ、するする」 オモムロニ。シヅシヅ。ヤウヤウ。ソロリト。ユルユルト。 狂言記、術讓「是レハ、洛外ニ住居致ス蘿蔔デ御座ル、先ヅ、そろそろト登ラウ」

ぞろ-ぞろ （名） （一）索麵ノ女房詞。ぞろノ條ヲ見ヨ。（二）蕎麥切、饂飩、索麵ナドヲ、汁ニ煮テ、食フ音ニ就キテノ、小兒、婦人ノ語。

ぞろ-ぞろ （副） 多ク連ルル狀ニ云フ語。ゾロリゾロリト。ゾロリト。陸續 狂言記、八尾地藏「今ハ、人間ガ利根ニナ、テ、八宗、九宗ニ法ヲ分ケ、彌陀ノ淨土ヘ、ぞろぞろト、ゾロメクニ依リ」「後ヨリ大勢、ぞろぞろ續イテ行ク」ぞろぞろ這入ル」

ぞろぞろ-みづ （名） チョロチョロミヅ。 運歩色葉集「小流、小流水、ゾロゾロミヅ」

※ぞろっ-ぱ・い （形） ソゾロポイ。ソソッカシイ（靜岡縣ニテハ、そろっぱい人、そろっぱい人ト云フ）

ソロ-バン （名） ［算盤 十呂盤 十露盤］ 〔算盤ノ唐音ノ訛、支那音、算盤、朝鮮語、數板、琉球語、算盤（沖繩對話）算盤、（沖繩語典）珠ノ鳴ル音ノ、さらさら、ぞろぞろ、するするト云フヨリ、名義ノ出デケルニヤ。此器ハ、古キ算術ニ用ヰタル算盤ヨリ移リタルモノ。算ノ條ノ（一）ヲ見ヨ〕（二）算術ニ用ヰル器。淺ク横長キ匣ノ中ニ、横ニ隔リ、桁ト云フ、コレニ、竪ニ、竹串ヲ插ミテ、數箇ノ玉（珠）ヲ貫ク、桁ヨリ上ナル玉ヲ五ノ位トシ、下ナルヲ一ノ位トス。玉ヲ上ドシ、數フ。珠盤 [illegible] 雍州府志、七、土產門「算盤、倭俗謂二十露盤一」 [illegible] 松屋筆記、八十三 [illegible] 云フ句ニ、カタ地ニ塗リテ、オケルそろばん、云云」 算盤玉ト云フハ、勘定ソクノ意。算盤ヲ取ルト云フハ、利合損失ヲ計ルノ意。（二）塔ノ頂ノ九輪ヲ持ツ所ノ稱（又、露盤トモ記ス）算盤ノ粒ノ貫キ立ツル狀、九輪ニ似タリ、粒ノ動キ、常ニ十二滿ツレバ、必ズ揚ヒ、只、九ニ止マル、故ニ云フトゾ。

ソロバン-ぜめ （名） ［算盤責］ いしだき（石抱）ニ同ジ。

ソロバン-づく （名） ［十呂盤盡］ 打算デ何事モ、損得ヨリ割リ出スコト。カンヂャウヅク。

そろひ （名） ［揃］ （一）ソロフコト。ソロヒ。（二）衆人、同ジ製作、色目ナル衣服ヲ著タル狀。 [illegible] そろひノ衣裳 [illegible]

そろ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ （動） （四） [illegible] ［揃］ [illegible]

そろ・ふ・フ・ヘ・ヘ・ヘヨ （動） （下二） （一）齊シクス。スベテ、同ジヤウニナス。 [illegible]

そろへ [illegible]

そろべくそろ [illegible]

※そろ・へる （動） [illegible]

そろぼ-ぶる （名） [illegible]

そろまにんぎゃう (名) のろまにんぎゃう（野呂松人形）ノ條ヲ見ヨ。

そろりと (副) 徐 そろそろ（徐徐）ニ同ジ。曾呂利狂歌咄、一「夏ノ文、刀ノ鞘師ナリ、細工ニ名譽ヲ得テ、小口ヨリ刺シ入ルニ、そろりと、鞘口ヨク合フ故ニ、異名ノ、そろりト云ヒケル」

ぞろりと (副) ぞろぞろ（副）ニ同ジ。

そろゐ (名) 〔丈モ、細ソサモ、揃ヒテ生フレバ云フノトゾ〕小サク若キ藺。藺ト云フニ同ジ。其條ヲ見ヨ。夫木抄、五「そろゐ生フル、野墓ノ新田、打返シ、急ケル代ハ、室ノ種カモ」新六帖、三「霜、路ノ邊ニ、そろゐ刈リ干ス、筵打チ、已レカツカツ、敷クカトゾ見ル」無遊節用集、草部「水苔藺、ソロヰ」

そわう (名) 孫王 〔そんわうノ略〕そんわう（孫王）ノ條ヲ見ヨ。源、十、榊十八「賀茂ノ齋院ニハ、そわうノ居給フ例、多クモアラザリケレド」湖月抄「細、そんわうトヨムナリ、師、孫王也」花鳥「二、樗子女王、孫王ニテ、齋院トナル」

そわう (名) 素王 〔素ハ、空ノ意〕王位ナクシテ、王者ノ德ヲ備ヘタルモノ。（後世ノ儒者、孔子ヲ以テ、素王トナス）莊子、天道篇「帝王天子之德也、以レ此處レ下、玄聖素王之道也」孔子家語、本姓解篇「齊太史子與、適レ魯見二孔子一云云、退而謂二南宮敬叔一曰、云云、或者天將欲下與二素王之一乎上」注「素王、有レ德無レ位之稱」杜預、左傳、序「說者以爲、仲尼自レ衞反レ魯、修二春秋一、立二素王一、丘明爲二素臣一」

そわり (名) 楚割 〔そはやりノ略轉〕すはやり（楚割）ノ條ヲ見ヨ。慶長增補節用集「楚割、ソワリ」主計寮式「雜魚楚割一」

そゐ (名) 初位 ウヒカウブリ。ショヰ。くらゐ（位）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

そゐ (名) 所爲 〔しょゐノ約、顯證、けんそう〕又、せゐ。しょゐ（所爲）ニ同ジ。

そゐん (名) 疎韻 マバラナル韻。サビシキ音。白居易詩「露荷散二清香一、風竹含二疎韻一」

そゑ (名) 諸衞 しょゑい（諸衞）ニ同ジ。ゑふ（衞府）ノ條ヲ見ヨ。六衞府。源、廿九、行幸「そゑノ鷹飼ドモハ、マシテ、世ニ目馴レヌ摺衣ヲ亂レ着ツツ」源語抄「そゑノ鷹飼」

そゑつ (名) 楚越 楚ト越トハ、支那、戰國時代ニアリシ國ニテ、互ニ敵國ナリシ故、中惡シキモノニ譬ヘテ云フ語。莊子、德充符篇「仲尼曰、自二其異者一視レ之、肝膽楚越也」楚越同舟トハ、中惡シキモノドモガ、互ニ和睦シテ、一緒ニナルコト。

そゑに (副) 〔其故ニノ約〕（一）其故ニ。サレバ。後ニ訛シテ、そへニト記ス。名義抄「故、カルガユヘニ、ソヘニ」日本紀竟宴歌（天慶六年）得二聖德太子一ノ歌ノ注「松ノ葉ハ、久シキ木ナリ、ゆへニ、オモシロシト宜ヘリ」壬二集（家隆）下「そへニトテ、タノメシ暮モ、トニカクニ、幾夜過行ク、月日ナルラム」拾遺愚草（定家）中「今日そへニ、冬ノ風トハ、思ヘドモ、絶エズコキオロス、四方ノ木ノ葉ハ」（二）轉ジテ、イカニモ。言フニヤ及ブ。長門本、平家物語、十五、義仲押二寄法住寺殿一事「知康、サラバ罷リカヘリナムト云ヒケレバ、木曾、そへニ、歸ラデハ、何事ヲシタマフベキト、荒ラカニ言ヒケレバ」閑田耕筆（寛政）一「近江ニテ、サキノ事ハ、イヨイヨ違ハズヤト云フ時、そへニト答フ、いふにや及ぶノ心ナリ」

そゑん (名) 疎遠 疏遠 疎疎シク、遠遠シキコト。オロソカナルコト。音信ノ、久シク中、絶ユルコト。不沙汰。契闊。疎闊。戰國策、燕策「恐、侍御者之親二左右之說一、而不レ察二疏遠之行一也、故敢以レ書報」史記、吳起傳「捐二不急官一、廢二公族疎遠者一」晉書、山濤傳「夫用レ人、惟才、不レ遺二疎遠一」「其後ハ、御疎遠ニ打過ギ」

た だ

た 五十音圖、多行第一ノ假名。此一行ノ假名、た、ち、つ、て、とノ五音ノ內、た、て、とノ三音ハ、其發聲、舌ノ尖、強ク上顎ニ當リテ出デ、ち、つノ二音ハ弱ク當リテ出デ、而シテ、共ニ、あ、い、う、え、おノ韻ト熟シテ成ル。たハ、下ニ、う、又ハ、ふ（うニ轉ジテ呼ブモノ）アレバ、とノ如ク響クコトアリ、たうげ（峠）、たふば（塔婆）ノ如シ。

だ ぢ、づ、で、どト共ニ、五十音圖、多行ノ濁音ノ假名。此五音ハ同行ノ清音ナルた、ち、つ、て、とノ音ヲ重ク呼ブガ如クシテ出ヅ。だハ、下ニ、う、又ハ、ふ（うト呼ブモノ）ヲ受クルトキハ、どノ如ク呼ブコトアリ、だう（堂）、もんだふ（問答）ノ如シ。

た (名) 手 手ノ轉、熟語ニノミ用ヰル。古事記、上「於二子之中一、自二我手俣一久岐斯子也」神代紀、上「一兒最惡不レ順二教養一、自二指間一漏墮者必彼矣」萬葉集、五十六「烏梅ノ花、手折カサシテ、遊ベドモ、アキタラヌ日ハ、今日ニシアリケリ」四季物語「手卷」和泉式部集、上「手枕」體源抄「手綱」古今集、五、秋、下「手向クル」夫木抄、十一「手繰ル」

た (名) ため（爲）ニ同ジ。萬葉集、五十一「タツノマヲ、アレハ求メム、青ニヨシ、奈良ノ都ニ、コム人ノ多ニ」佛足石歌「人ノ身ハ、得難クアレバ、ノリノ多ノ、ヨスガトナレリ、ツトメモロモロ、ススメモロモロ」續紀、十七、天平勝寶元年四月、宣命「種種法中爾波、佛大御言之國家護我多爾波勝在止聞召」

た (名) 田 耕シテ稻ヲ植エツクル地。大抵、平地ヨリ低クシテ、水ヲ湛フベクナス。水田。又、をかぼヲ植ウルニハ、畠ヲモ用ヰル。陸田。倭名抄、一「田園類、田、耕者爲レ田、太」古事記、上「離二田之阿一、埋二溝者一」同、同「天照大御神之營田」

た (名) 他 （一）ホカ。餘。詩經、小雅、小旻之什、小旻篇「人知二其一一、莫レ知二其他一」大學「若有二一个臣一、斷斷兮無二他技一」宇治拾遺、十二、十八條「マコトノ心ヲ、オコスト云フハ、他ノ事ニアラズ、佛法ヲ信ズル也」「他ノ事」「他ノ物」（二）外ノ人。他人。白居易詩「妬レ他心似レ火、燒レ我實如レ霜」「他ノ身ニ代ル」「自他」

た (名) 多 （一）オホキコト。オホキモノ。（二）マサレルコト。史記、袁盎傳「羣臣ニ富人、非レ與通一、諸公聞レ之、皆多二盎一」

た (代) 誰 〔沖繩ニテ、たあに〕たれ（誰）ニ同ジ。古事記、下、雄略二十「御室ニ、築クヤ玉垣、築キ餘シ、誰ニカモ依ラム、神ノ宮人」古今集、四、秋、上「主シラス、香コソ匂ヘレ、秋ノ野ニ、誰ガ脫ギカケシ、藤袴ゾモ」著聞集、十六、興言利口「乃チ明ケテ、誰ゾト問ヘバ」

た (接頭) 動詞、形容詞ニ冠スル接頭語。意無シ。萬葉集、十一、廿「言ニイヘバ、三三ニ田八酢四、少クモ、心ノ中ニ、我ガ思ハナクニ」方丈記「た比ブ」竹取物語、上「た謀ル」「た忘ル」「た走ル」「た弱シ」「た易シ」

だ (名) 攤 〔攤、他丹反 說文「攤、開也、一曰、手布也」攤レ錢也〕杜甫詩「白晝攤錢高浪中」（一）攤錢ノ略。錢ニテ行フ賭事。ゼニウチ。宇津保物語、國讓、下、二十「ハシタナキ目ヲコソ見給ヘレ、だニ負ケセマリテ、一篥」榮花物語、八、初花「上達部ドモ、殿ヲ始メ奉リテ、攤打チ給フ」倭名抄、四、雜藝具「意錢、後漢書注云、攤、意錢也、世間云、世名宇知、今之攤錢也、桂苑珠叢云、以レ手有レ所二接撲一之攤、世間云、攤、攤音七何反、手攤レ錢也、訓、毛無」扶桑略記、康保三年十一月三十日「召二殿上侍臣於御前一、聊打レ攤給レ酒」西

宮記、三月「御庚申出御（注、以下大盤井筒ニ置ニ半臺二）云云、翌ニ御料錢ヲ云云、打ニ後錢ニ（注、打ニ高盤ニ者候ニ）御前ハ最後打ニ高目ニ者取ニ錢、打後時又始打レ之」二大鏡、中、師輔「人人アマタサブラヒテ、だウタセタマフ序ニ」紫式部日記、上、「殿上人ヲ始メ参リ、攤ウチタマフ紙ノアラソヒ、イトマサナシ」（打ツハ、基打ツニ同ジク、此戯ヲ行フコトナルベシ）（二）雙六ノ類、簺ト錢トニテスル モノ。方法、詳ナラズ、紙ヲ賭物トセシガ如シ。徒然草、百五十七段「盃ヲ取レバ、酒ヲ思ヒ、簺ヲ取レバ、だウタンコトヲ思フ」

だ（名）[儺] おにやらひ（鬼遣）ニ同ジ。論語、郷黨篇「郷人儺、朝服而立ニ於阼階ニ」

だ（名）[駄]（一）馬ニ荷ヲ載セテ送ルコト。又、荷負馬。倭名抄、十一、牛馬部「駄、負物馬也」天武紀、上、元年六月「駄五十疋」（二）ヨカラヌウマ。（乗馬ニナラヌ、駄馬ノ意カ）オソキウマ。（駑馬）轉ジテ牝馬ヲ云フ。倭名抄、十一、牛馬部「駑馬、於曾岐宇萬、馬之最下也」塵添壒嚢抄、八、三十九條「牝馬、駄ト中ハ、駄ヲ徳テメウマトヨム歟、妻馬トハ、騲トモ駘トモ書ク」（三）又、其荷物ヲ數フル語。三十六貫目ヲ一駄ノ重サトス。ほんま（本馬）、及、からしり（輕尻）ノ條ヲ併セ見ヨ。「本馬、一駄」薪、五駄」（四）酒、三斗五升入ノ二樽ノ稱、東海道ヲ下スニハ、二樽ヲ一駄トシ、馬一疋ノ荷トス。其一樽ヲかたま（片馬）ト云ヒ、醤油ハ八升入八樽ヲ一駄トシ、四樽ヲかたまト云フ。

だ（名）[駄]〔或ハ徒ノ略カ〕（一）價ナシト賤ル語。（精巧ナラヌ、價ナキモノ、十把一束ノ意）「駄馬（牝賓役）」駄物」駄菓」駄句」駄辞」駄洒落」駄菓子」駄染」（二）轉ジテ、憎ミ二云フ語。「だだ置イ」

だ（名）[糯] モチゴメ。其條ヲ見ヨ。

だ（名）[唾] ツバキ。後漢書、公孫瓚傳、注、始

天下兵起、我調唾手可決」

だ（辭）デアル。ヂャ。ヤ。（なりノ口語）

だあ（名）草雙紙ナドニ、死ヌコト、芝居ニテモ）

ダアス（名）[打]〔英語、Dozen.〕ノ訛。打ハ、Dozen. ノ支那譯ナル、打臣ノ下略」數十二箇一組ノ稱。（舶來品取引商ノ語）「鉛筆十打」

タアフル（名）〔蘭語、Tafel.〕てえぶる（卓子）ニ同ジ。

タアル（名）〔英語、Tar.〕木材、石炭、石油ナドヲ、乾溜シテ得ル、黒色粘性ノ濃液。ココハ、石炭たある（さおるたある）ノ略。せきたんがす（石炭瓦斯）、及、さおるたあるノ條ヲ見ヨ。

タアレル（名）〔英語、Thaler. 獨逸語、Taler.〕獨逸、普魯士）國ノ銀貨ノ名。我ガ一圓五十錢餘ニ當ル。

たい（名）[體]〔俗字ニ躰、体トモ記ス〕（一）カラダ。身。孟子、滕文公、上篇「四體不足ニ於體ニ與」（二）カタチ。スガタ。ブリ。サマ。テイ。「字體」俗體」（三）本質。本體。（用ナドニ對ス）「體用」體用」

たい（名）[苔] 胃、腸等ニ熱アルトキ、舌ノ面ニ生ズル苔ノ如キモノ。病ニ因リテ、白、黄、黒等アリ。又、舌苔ト云フ。

たい（名）[隊]（一）若干ノ兵卒、組ヲ結ビテ、長、コレヲ率キルモノ。人數ノ多少ニ因リテ、其制、種種ナリ、大隊、中隊、小隊、ナドアリ。左傳、襄公十一年、注「百人爲隊」（二）若干ノ人ノ、整列、又ハ、編次シタルモノ。「隊ヲ組ム」

たい（名）たいのや（對屋）ノ略。字類抄

「對、タイ、東對、西對」伊勢物語、第四段「西ノたいニ住ム人アリケリ」拾遺集、十二、戀、二「本院ノヒムガシノたいノ君ニマカリカヨヒテ」蜻蛉日記「ハルバルト多カルたいドモ部渡殿ニ滿ナタリ」榮花物語、廿六、楚王ノ夢「守道、オ、八、マ、御ノ[illegible]、[illegible]ゾヲモテノボリテ、萬ヲ申シツヅケマネキ奉ル」増鏡、第十五、村時雨「ウヘハ、ナヨラカナル御衣ドモヌテマツリ、北ノ對ヨリ、ヤツレタル女車ノサマニテ」宇津保物語、國譲、下「[illegible]大宮[illegible]ノ對ノ方ヘオハシヌ」

たい（接尾）[體] 神佛ノ像ナドヲ、數フルニ云フ語。[illegible]「[illegible]」[illegible]「三十三體ノ御堂ヲ建テ、一千一體ノ御佛ヲ奉ル居」

だい（名）[臺]（一）凡案ナド、スベテ物ヲ載スルモノノ總名。案、兀（二）山岡ノ平カニシテ臺ノ如キ地ノ稱。（關東）「駿島ノ臺」鴻ノ臺」（三）だいぼり（臺尻）ノ略。（小銃ノ）（四）だいき（臺木）ノ略。（接木ノ）（五）高坏ノ類。[illegible]（五）[illegible]（六）クラヰ。程度。「十錢臺」（七）車、機械ナドヲ數フルニ云フ語。「印刷機九臺」馬車一臺」

だい（名）[大]（一）オホイナルコト。太キコト。（小ニ對ス）「大ノ蟲ヲ助ケテ、小ノ蟲ヲ殺セ」大ハ小ヲカネル」大欲ハ無欲ニ似タリ」（二）一月ノ日數ノ、三十日、或ハ三十一日ナル稱。（三）刀ノ一稱。大小ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。（四）オホタカ（[illegible]）ノ[illegible]。[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

だい（名）[代]（一）〔正字通「代、世也」〕家語、古之王者、易レ代改レ號、取ニ法五行ニ」王位[illegible]家ニ、父子[illegible]相代[illegible]家ヲ[illegible]。[illegible]紀、二「人皇第一代、神日本磐余彦天皇ト申ス、[illegible]

ニ、神武ト名ヅケ奉ル、云云、伊弉諾尊ニハ六世、大日孁尊ニハ五世ノ天孫ニマシマス」二親ノ代、子ノ代、代代カハリ」（二）他ニ代リテ、用ヲ辨ズル人。名代。代官。

だい（名）[代] シロ。物ノ價ニ代フル金錢。代料。代金。[illegible]三年十二月廿日「上品八丈絹六疋、代百疋宇文」

だい（名）[題]（一）[illegible]名、書籍、[illegible]、[illegible]也、書[illegible]名也」[illegible]孟子題辭「所以題號孟子之書ニ」書籍ノ號ヲ、初ニ書キ揭グルモノ。（二）詩歌文章ノ一首一篇ノ、[illegible]初ニ揭グルモノ。或ハ一ツノ主意ヲ出シ示シテ、ソレヲ目安トシテ詠ムニモ云フ。

たい（名）[第]〔漢書、高帝紀「賜列侯甲乙次第」〕故云[illegible]屋敷。テイ。宅。邸宅。貴人ノ住宅。[illegible]「[illegible]一宅[illegible]」

だい（接頭）[第] 物事ノ次第ヲ示ス語。[illegible]十九[illegible]、[illegible]

たい-い（名）[大意]（一）オホヨソノ意味。榮花物語、十六、本雫「御ノ中ノ[illegible]ハ、[illegible]ノ大[illegible]、[illegible]名、大臣、[illegible]リハジメ[illegible]、イニシヘ[illegible]ク、[illegible]シウ云ヒサワグ」（二）大ナル意志。又、大イナル志。後漢書、[illegible]傳、小[illegible]、大[illegible]ニ識、因[illegible]見[illegible]」

たい-い（名）[大醫] 學術ノ勝レタル醫師ノ稱。名醫。後漢書、[illegible]傳、[illegible]、[illegible]

たい-いう（名）[大儒] 心ノ寛クシテ…[illegible]

たい-いう（名）[大[illegible]]

たい-いう [illegible]

謀也」疏「猷者、以レ道而謀也」」大ナル、ハカリゴト。書、周官「若二昔大猷一、制二治于未亂一、保二邦于未危一」

たいいちぎ (名) ［第一義］ (一)何ヨリモ先ナルコト。最モ大切ナルコト。(二)佛敎ニテハ、言説思惟ヲ超エタル宇宙最上ノ妙理。大集經「甚深之理不レ可レ説、第一義諦無二聲字一」法華義疏、四「第一義者、一實之道、理極無レ過、焉二第一一、深有二所以一、稱為二義也」碧巌錄、第一則、梁武帝、問二達磨大師一、如何是聖諦第一義、磨曰、廓然無聖」

たいいちにんしやう (名) ［第一人稱］ 文法上ノ語 人代名詞ノ對話者自身ノ名ニ、代ヘテ用ヰルモノ。われ、おのれノ類。自稱。(第二人稱、第三人稱ニ對ス)

ダイイチドツカイ だいいちどくくわい (名) ［第一讀會］ 議會ナドニテ、法律案ナドノ第一回ノ討議。コレニテ大體ノ可否ヲ討議シ、若シ其案ガ否決セラルレバ、其儘、廢案トナリ、可決セラルレバ、更ニ第二讀會、第三讀會ヲ開ク。一讀會。どくくわい(讀會)ノ條ヲモ併セ見ヨ。

たいいつ (名) ［泰一・太一］ てんてい(天帝)ニ同ジ。史記、天官書、注「泰一、天帝之別名也、劉伯莊云、泰一、天神之最尊貴者也」

たいいつ (名) ［太乙］ 太乙星ノ略、星ノ名。日知錄(明、顧炎武)云「太乙、北辰神名也、下行二八卦之宮一、毎レ四還二於中央一云云、毎二四十餘年一而一徙、所レ臨之地、兵役不レ興、水旱不レ作」 二占要略、上「太乙星占、太乙星ハ其本位、北天ニアリテ八方ニ遊行シ、兵亂、禍災、生死ヲ掌ル靈妙不可思議ノ一星ナリ」

タイイツヨリヨウ たいいつよりやう (名) ［太一餘糧］ イハツボ(岩壺)。其條ノ(二)ヲ見ヨ。

たいいん (名) ［退隱］ 官途ナドヲ退キテ、隱居スルコト。隱退。劉滄詩「白雲深處曾二高臥一、退二隱衡門一與レ俗疎」

たいいん (名) ［太陰］ つき(月、第一語)ニ同ジ。春秋元命苞「太陰水精爲レ月」

だいいん (名) ［代印］ 他人ノ代理トシテ、己レガ印ヲ捺スコト。

たいいんれき (名) ［太陰曆］ こよみ(曆)ノ條ヲ見ヨ。

たいう (名) ［大雨］ オホアメ。甚シク降ル雨。史記、陳渉世家「會二天大雨一道不レ通」

ダイウス (名) ［天主］ (希臘語、θίος. 羅甸語、Deus. でうすノ訛。) (一)切支丹宗ノ神、でうすノ訛。雍州府志、八、古蹟「徒斯ノ辻子、在二一條北小路與二堀河一之間一、近世耶蘇宗門之寺在二斯町一、倭俗謂二徒斯一謂二太宇須一、故今稱二大宇須辻子一(今ノ大臼町)」 (二)轉ジテ、切支丹宗徒。犬子集(寛永)「アグル柱ハ、おろび(切支丹改宗)サウナリ」附句「ハタ物(磔)ト、ナスだいうすニ、意見シテ」

たいえ (名) ［大衣］ (三衣ノ中ニテ、僧伽梨衣ハ、最モ大ナレバ云フ) 九條乃至二十五條ノ袈裟。ソウカリ。僧伽梨。倭名抄、十三、僧坊具「三衣匣、金玉義林云、(中略)三衣者、一、僧伽梨、云二大衣一、二、鬱多羅僧、云二中衣一、三、安陀會、云二下衣一」太平記、廿六、妙吉侍者事「大衣ヲ、沓ノ鼻ニ蹴サスル體ニゾ振ル舞ヒケル」

たいえい (名) ［退嬰］ (進取ニ對ス) アトヘシザルコト。シリゴミスルコト。退守。保守。

だいえい (名) ［題詠］ 先ヅ題ヲ設ケテ、後、詩、又ハ、歌ヲ詠ムコト。

タイヨウ たいえう (名) ［大要］ 大凡、要トスル所。アラマシ。漢書、陳萬年傳「具曉二所レ言大要一」

たいえつ (名) ［大悦］ 大イニ、ヨロコブコト。大ナル、ヨロコビ。津國女夫池(享保、近松作)旅腹帶「勇健ノ體ヲ拜シ大悦至極」

だいえんけん (名) ［大淵獻］ 十二支ノ亥ノ異名。爾雅、釋天篇「太歳在レ亥曰二大淵獻一」

たいえんれき (名) ［大衍曆］ 淳仁天皇天平寶字七年、儀鳳曆ニ易ヘテ、用ヰラレシ太陰曆。支那、唐ノ開元年中、僧一行ノ作ナリ。ソレヨリ九十七年ノ後、宣明曆ニ改メラル。

たいおつ (名) ［太乙］ たいいつ(太乙)ニ同ジ。

だいおん (名) ［大恩］ 厚クシテ深キメグミ。洪恩。高恩。厚恩。舊唐書、侯君集傳「露布初至、便降二大恩一」

だいおん (名) ［大音］ オホゴヱ。高ク聲立ツルコト。大聲。老子、第四十一章「大音希レ聲、大象無レ形」李白詩「大音自成レ曲、但奏無絃琴」謡曲、正尊「正尊、駒シヅシヅト打チ寄セテ、大音上ゲテ名乘ル」

だいおん (名) ［大陰］ (大陰神ノ略) 八將神ノ一。太歳神ノ皇后。曆ニ、其年ノ此方角ニ於テハ、婦人ノ穢ヲ忌ミテ、産ヲセズ。其外、婦人ノ事ニ就キテ忌ム。

ダイオンキヨウシユ だいおんけうしゆ (名) ［大恩敎主］ 佛敎ニ、釋迦ノ尊稱。釋迦ハ此土ノ衆生ノタメニ、主、師、親、ノ三徳アルガ故ニ然云フ。謡曲、安宅「大恩敎主ノ秋ノ月ハ、涅槃ノ雲ニ隱レ、生死長夜ノ長キ夢、驚カスベキ人モナシ」

ダイオンジヨウ だいおんじやう (名) ［大音聲］ オホゴヱ。大音。大聲。平家物語、四、宮御最後事「鐙踏ン張リ立チ上ガリ、大音聲ヲ揚ゲテ」

たいか (名) ［大家］ (一)たいけ(大家)ニ同ジ。(二)學藝ニ勝レタル人。又、其道道ニ優レタル人人。(明、茅坤、唐宋八大家文鈔)清、儲欣、唐宋十大家文錄(文壇ノ大家ノ二三) (三)貴キ家柄。又、富メル家。左傳、昭公五年「箕襄、邢帶、叔禽、叔椒、子羽、皆大家也」

たいか (名) ［大廈］ (説文「廈、屋也」俗ニ、厦、又ハ、厦ニ作ルハ、誤ナリ) 高大ナル建物。文中子(隋、王通)「大廈將レ顛、非二一木所一レ支也」太平記、廿七、直義朝臣隱退事「今ハ大廈高墻ノ内ニ身ヲ置キ、輕羅繡茵ノ上ニ非レ可レ樂」「大廈高樓」

たいが (名) ［台駕］ 貴人ノ車駕ノ敬稱。

だいか (名) ［代價］ アタヒノシロ。代料。

たいが (名) ［大河］ オホカハ。長ク、幅廣ク流ルル川。戰國策、齊策「馬飲二於大河一」

だいが (名) ［大我］ (小我ニ對ス) 佛敎ノ語。宇宙ノ眞我。即チ、宇宙ノ唯一絶對ナル實體。又、コレヲ如來、佛トモ云フ。大日經疏、十六「大我者、佛之別名也」同、十七「大我者、即是如來」

たいかい (名) ［蔕芥］ (蔕ハとげ、芥ハあくた) 僅少ノ事故。ワヅカノサハリ。スコシバカリ。司馬相如、子虛賦「呑二若雲夢一者八九、於二其胸中一不二曾蔕芥一」漢書、賈誼傳「細故蔕芥、何足二以疑一」注「蔕芥、小鯁也」

たいがい (副) ［大概］ オホヨソ。オホカタ。タイテイ。大略。西國偈「斯其大槩」近思錄、三「聖人之於レ易、其間雖レ無二不極精義一、大概皆有二意思一」

たいかい (名) ［大海］ (一)オホウミ。ソトウミ。顧歡詩「鵬鵾適二大海一、蜩鳩之二桑柘一」「大海ハ塵ヲ擇バズ」(二)茶道ニ用ヰル一種ノ茶入ノ稱。圓ク稍扁平ニシテ、上ニ口アリ。卜養狂歌集(寄雲)「アル人、大海ノ茶入レホリ出シ侍ル」(三)漆器ノ名。圓キ食籠ニ似テ

大ナルモノ。古ヘ、飯ヲ盛リタルモノナルベシ。（嬉遊笑覧、二、下「大海ハ、食ラウノ大キナル物ニテ、挽モノニハアレド、中ニ入ル子モナシ」）(四)形ヨリ轉ジテ、茶壺ノ口ノ大ナルモノノ稱、小サキヲ内海ト云フ。茶臼ニテ挽キタル末茶ヲウツシテ、挽溜ノ器トシ、コレヨリ茶入ニ別ツ。大海は塵を擇ばずト云フハ、能ク衆ヲ容ルトイフ意。（史記、李斯傳「太山不讓土壤、故能成其大、河海不擇細流、故能就其深」）

たいかう（名）〔大行〕(一)大ナル行事。(二)遠キ行幸。（史記、項羽紀「大行不顧細謹」）(三)帝、崩御アリテ、未ダ諡ヲ奉ラヌ間ノ尊稱。（行キテ還リ給ハヌ意、登遐ノ如シ）（史記、李斯傳「大行未葬」注、天王登遐、云云、以其往而不返、故曰大行也」漢書音義、二「韋昭云、大行者、不反之辭也、天子崩未有諡、故稱大行」名目抄、歩障「天子大行之時用之」通典（唐、杜佑）「帝初登遐、朝臣稱曰大行皇帝」「大行天皇」）

たいかう（名）〔大綱〕オホヅナ。オホグクリ。大要。（後漢書、班超傳「寬小過、總大綱」太平記、廿四、朝儀年中行事「退譲ノ節有ハ、今夜ナリ、委細ニ是ヲ註サバ、車ニ載ストモ不可盡、唯大綱ヲ申ス許リナリ」）

たいかう（名）〔退校〕生徒ノ、卒業前ニ其學校ヲ去ルコト。退學。

たいかう（名）〔對抗〕相對シテ、張リ合フコト。「對抗演習」「對抗運動」

だいかう（名）〔代香〕他ニ代リテ、燒香スルコト。又、其人。

だいがう（名）〔題號〕書物ナドノ、外題ノ號。ミダシ。題目。標題。表題。

たいかう-てんわう（名）〔大行天皇〕〔大行ノ條ノ(三)ヲ參見セヨ〕サキノスメラミコト。天子崩ジテ未ダ諡アラザル間ヲ稱シ奉ル語。然レドモ、皇國ニテハ諡ノ有無ニ關セズ。（萬葉集、一「大行天皇幸于難波宮時歌」倭戀ヒ、寐ノネラレヌニ、情ナク、此ノ渚崎ニ、鶴鳴クベシヤ」（諡奉ラヌ時ニ、前年行幸ノ時ノ歌ヲ錄シタルナリ）持統紀、三年五月「遣田中朝臣法麻呂等、相告大行天皇喪」）

だいかうり（名）〔大行李〕「小行李ニ對ス」軍隊ノ、宿營ニ用キル、一切ノ物品ヲ積載シタル行李ノ一團ノ稱。

たいかく（名）〔體格〕カラダノナリタチ。身體ノクミタテ。カップク。（研北雜志（宋、陸友仁）「李邕得其氣而失于體格」）

たいかく（名）〔臺閣〕(一)タカドノ。樓閣。（說苑（漢、劉向）「秦始皇宮室臺閣、連屬增累」）(二)一國ノ政治ヲ行フ中央政府ノ稱。（後漢書、黃瓊傳「初瓊、父在臺閣、習見故事」）

たいがく（名）〔退學〕たいかう（退校）ニ同ジ。

だいかく（名）〔大角〕はらのふえ（大角）ノ條ヲ見ヨ。

だいかく（名）〔大覺〕(一)佛經ノ語。正覺ヲ得ルコト。大イニ、サトルコト。（[illegible]「[illegible]而大覺」）(二)正覺ヲ得タル人。如來。佛。（佛ハ自覺、覺他、共ニ圓滿ス、故ニ獨リ大覺ト稱ス）

だいがく（名）〔大學〕(一)學術ノ最モ高等ナルモノヲ教フルコト。又、其學校。大學校。(二)大學寮ノ略。（宇津保物語、[illegible]「勸學院ニ御供ノ人皆だいがくノ衆ノ下﨟ナリ」）

(三)支那ノ聖書、修身、治國、平天下ナドノ教ヲ記シタルモノ。（大學、朱熹章句序「子程子曰、大學、孔氏之遺書、而初學入德之門也」）

だいがく（名）〔大樂〕(一)うたれう（雅樂寮）ノ唐名。（拾芥抄、上、本、官位唐名部、[illegible]）(二)[illegible]（[illegible]「大樂」）

だいがく-かう（名）〔大學校〕大學ノ學科、即チ、高等專門ノ學術ヲ教フル學校。大學。

だいかく-せそん（名）〔大覺世尊〕釋迦如來ノ尊稱。（[illegible]トヲ示サンガタメナリ」）

だいがく-のかみ（名）〔大學頭〕(一)大學寮ノ長官。(二)こくしさいしゅ（國子祭酒）ニ同ジ。

だいかぐら（名）〔太神樂〕初、伊勢ノ[illegible]鞍川ヨリ出デテ、一萬度ノ祓箭ニ幣ヲ立テ、四手ヲツケ、諸所ヲ廻リテ祓ヒシコト。（伊勢國三重郡[illegible]村ヨリ諸國ヲ廻リ[illegible]ナス、故ニ、太夫村ナド云フトゾ）（[illegible]キニ、太神樂アリ、ソレニ[illegible]ク、太太神樂アリ、事ハズンバアカジトハ、此事ニヤ」）

だいかぐら（名）〔代神樂〕〔[illegible]ノ代リ[illegible]〕(一)寛文延寶ノ頃、江戸町町ヲ行キテ[illegible]モノ一人、十四五歲ノ男、（獅子）瓔珞ノ

冠、長絹白袴、左ニ中啓、右ニ鈴ヲ持ツモノ一人、獅子頭、大小鼓、一萬度、幟、笛、太鼓、小鼓ニテ、獅子、神樂ノ舞ヲナス。太鼓打ツモノ少シ戲ヲシテ興トス。（昔昔物語）人倫訓蒙圖彙、六「神樂ハ、獅子ノ乙女モナク、只鼓、太鼓ヲ以テタタキ立テテ、太鼓打ノツラツキ、見人ノヤウナルヲ見テ、ウレシガル」[illegible]太鼓、笛ハヤサハヤフル、太鼓ツヅテンドンナル、面ツキソヤ」(二)[illegible]ハ、平服ニテ、小太鼓、大太鼓、笛ニテ囃シ、俗ノ小唄ヲ謠ヒテ、曲ゴマ、[illegible]、コレニ獅子舞、おやまわり、曲鞠、皿廻、開キ萬度等アリ、餘興ニ、[illegible]ガヘル伎ヲナス。(三)東京ノ大工ノ語。家ノ小屋[illegible]作リ[illegible]、棟ヲ[illegible]ニ立テ[illegible]、一擲ミカサヌルコトアリ、[illegible]ナド云ヘルナルべし。

たいがくれう（名）〔大學寮〕[illegible]

大寶記、十年正月、此月、云云、以小筆下八枚、東宮坐斷ニ付、事、賜一、天武五年下、四年正月、大學寮諸生一、皆受大學寮生、一持義式、三年正月、大學寮生ニ、授八十枚、」愛玉年中行事「上ノ丁ノ日、大學寮ニテ釋奠アリ」

だい-かくゐ（名）［大覺位］（正）覺シタル位ノ意）えんぎ（緣儀）ノ條ヲ見ヨ。

だい-がさ（名）［臺傘］たてがさ（立傘）ノ條ヲ見ヨ。堀川波鼓（寶永、近松作）中、七、道具ノ臺笠、たて傘、馬印」

だい-がしら（名）［大頭］大鼓小鼓ヲ大小ト云フ、其大ノ頭ヲ打ツ意カ、拍子ノ名ト云フ。かうわかまひ（幸若舞）ノ條ヲ見ヨ。甘露寺職人盡歌合、女盲「イカニシテ、サノミ音ツ名ヲ大つゞみ、頭打ツマテ、聲シカルラム」傾城反魂香（寶永、近松作）上「常常大頭ノ舞ヲ好キ、ワラハ諸共、ツレ、ワキニテ舞ハレシガ」

だい-かつ（名）［大喝］大聲ニテ、叱リツクルコト。水滸傳、第五回「智深大喝一聲」

だい-がはり（名）［代替］帝王、又、將軍ナドノ代ノ變ハルコト。有徳院殿御實紀附錄、二「御代替ノ例ニヨリ、諸國ニ巡見使ヲ下ダサレシガ、皆カヘリ來リテ、國國政事ノヨシアシ、民間ノ利病ナド、トリドリ聞エアゲヌ」

だい-かひ（名）［臺匙］おだいかひ（御臺匙）ノ條ヲ見ヨ。

たい-かふ（名）［帶甲］甲ヲ著用シタル兵士。史記、蘇秦傳「燕、地方二千餘里、帶甲數十萬」

たい-かふ（名）［太閤］（一）父關白ニテ退隱シ、其子モ關白トナリタル時、其父ヲ太閤ト稱ス。後ニハ、其子關白トナラヌニモ稱ス。故實拾要「關白ヲ辭シテ天下ノ政事ニアヅカラサルモ、猶内覽ノ宣旨ヲ殘サレシ人ヲ、太閤ト云フ、近代ハ、前關白タリシ人、其子當時ノ關白ナル時ニ、其父ヲ太閤ト稱ス」野府記、寬仁二年十月十六日、官職難儀「太閤トハ、御息ニ關白ヲモチ申サレタル時申也、御出家ナレバ禪閤ト申也、コレモ禪太閤ト申ヘキヲ、中略シテ申ニヤ」九暦、天德二年十一月廿二日「左大臣、藤原實賴、御悩殊重、仍ヘ加ニ修法壇一」有職問答、一「一、太閤號事、是ハ關白ヲ息ニ持タレタル御方ヲ稱シ候」（二）專ラ豐臣秀吉ノ稱。官位訓、一「世ニ太閤ト云フハ、豐臣秀吉公ヒトリニ限リタル事ト覺エタル者多シ、必ズ、ヒトリノ事ニアラズ、云云」「甫庵太閤記」

たいかふ-がま（名）［太閤釜］釜ノ一種。千利休ノ、冶工與次郎ニ命ジテ鑄シメタルモノ。菊、又ハ、桐ノ紋アリ。（近代世事談）

たい-かん（名）［大旱］オホヒデリ。甚シキ旱魃。書經、說命、上篇「若歲大旱、用汝作霖雨」大旱の雲霓を望むトハ、物事ノ到來ヲ切望スル譬ニ云フ。孟子、梁惠王、下篇「民望之、若大旱之望雲霓也」

たい-かん（名）［耐寒］寒サシノギ。寒氣ニ耐フルコト。佩文韻府、摘句「梅疎却耐寒」

たい-がん（名）［對岸］相向ヒタル岸。ムカフガシ。三國志、吳志、周魴傳「魴當從南對岸歷口爲應」對岸の火事トハ、何等、痛痒ヲ感ゼザル譬ニ云フ。

たい-がん（名）［對顏］たいめん（對面）ニ同ジ。法苑珠林（釋、道世）「異境對顏」聖德太子繪傳記（享保、近松作）二「燕居セル川勝、他ノ對顏モ本意ナラズ」

だい-かん（名）［大寒］二十四氣ノ一。（其條ヲ見ヨ）逸周書「大寒之日、雞始乳」（乳ハ産卵）

だい-がんな（名）［臺鉋］かんな（鉋）ノ條ヲ見ヨ。

たい-き（名）［大氣］（一）空氣。雰圍氣。（二）心ノ寬キコト。大度　好色一代男（天和、西鶴）六、情アッテ、大氣ニ生マレツキ」

たい-き（名）［大器］勝レタル器量（人ノ智德ニ）老子、第四十一章「大器晚成」管子、小匡篇「管仲者天下之賢人也、大器也」

たい-き（名）［大毅］軍團ノ長官。ぐんだん（軍團）ノ條ヲ見ヨ。

たい-ぎ（名）［大義］義ノ大ナルモノ。易經、下經、歸妹卦「歸妹、天下之大義也」「大義名分」大義、親を滅すトハ、義ノタメニハ、吾ガ親子兄弟ヲモ殺スヲ云フ。左傳、隱公四年「石碏使其宰獳羊肩、涖殺石厚于陳、君子曰、石碏純臣也、惡州吁而厚與焉、大義滅親、其是之謂乎」

たい-ぎ（名）［大儀］（一）重大ナル儀式。大典。（二）骨折リテ勞レ倦ミタルコト。吾妻鏡、三十四、仁治二年十一月三十日「前武衞因酌、頗似大儀、追可有優賞」「大儀ニナル」大儀ニ思フ」（怠氣ニ思フナルベシ）（三）主君ガ臣下ニ對シテ、其骨折ヲ慰勞フ詞。大友興廢記、新城御取立事「御大儀ナガラ柴田ト同道ニテ」御苦勞。

だい-ぎ（名）［臺木］つぎき（接木）ノ條ヲ見ヨ。樹砧

だい-ぎ（名）［代議］人民ノ公選セル議員ノ、人民ニ代リテ政事ヲ議スルコト。

たい-きう（名）［耐久］久シキニ耐フルコト。ナガモチ。唐書、魏玄同傳「魏玄同與裴炎締交、能保始終、呼爲耐久朋」

だいぎ-し（名）［代議士］衆議院議員ノ俗稱。人民ニ選擧セラレテ、其代表者トナリ、帝國議會ニ出デテ、議事ニ參與スル人。國會議員。

だい-きち（名）［大吉］（一）甚ダ吉ナルコト。無上ノ吉。易經、下經、小過卦「不宜上宜下、大吉、云云、大吉、上逆而下順也」荀子、議兵篇「慮必先事、而申之以敬、慎終如始、終始如一、夫是之謂大吉」（二）女ノ結髮ニ云フ語。

だい-きふ（名）［大急］甚ダ急グコト。オホイソギ。至急。晉書、劉曜載記「機有大急、不過解印綬、與卿俱去耳」

たい-きん（名）［大禁］重キ禁制。オモキハット。孟子、梁惠王、下篇「臣（孟子）始至於境、問國之大禁、然後敢入」太平記、一、關所停止事「夫レ四境、七道ノ關所ハ、國ノ大禁ヲ知ラシメ、時ノ非常ヲ誡シメンガ爲メナリ」

たい-きん（名）［大金］多クノ金錢。

だい-きん（名）［代金］アタヒノシロ。代錢。代料。代價

たいぎ-めいぶん（句）［大義名分］君主、國家ニ對スル、臣民ノ義理ト分限ト。

たい-きやう（名）［滯京］京地ニ滯在シテアルコト。

だい-きやう（名）［大饗］（一）饗ノ大ナルモノ。二宮ノ大饗ハ、禁中正月二日ノ公事ナリ、群臣、中宮東宮ニ拜禮シテ後ニ、玄輝門ノ西廊ニテ、中宮ノ饗ニ就キ、次ニ、東廊ニテ東宮ノ饗ニ就ク。又、大臣の大饗ナド云フハ、大臣ニ任ゼラレタル人アル時ニアリ。又、大臣家ニテ、正月、面面次座ノ大臣以下ノ公卿ヲ里亭ニ招キ請ジテ饗スルコト。源、廿一、少女「所所ノ大饗ドモモハテテ、世ノ中ノ御イソギモナク」宇治拾遺、七、第六條「此大饗ノ日ハ正月ノ事ナレドモ、藤ノ花イミジクヲカシク作リテ」平家物語、一、鵜川合戰事「小松殿内大臣ニナリタマフ、云云、ヤガテ大饗行ハル」（二）膳部。盛衰記、四十二、金仙寺觀音講事「大饗盛並べ、盃居ヱテ」

だい-きやう（名）［大經］（阿彌陀經ヲ、小

經ト稱スルニ對ス」無量壽經ノ一稱。玄奘分律道記、三「大經者、無量壽經、三經之中、此經廣故、對二小經一、故〔名二大經一也〕」

だい-きゃうじ（名）大經師 きゃうじ（經師）ノ條ヲ見ヨ。 江戶職人歌合、大經師「海山ノ、ナガメモ月ノ、スミ繪ニテ、天地ハ天地、大表具セリ」

たい-きゃく（名）對客 客ニ出會ヒテ、アヘシラフコト、タイカク。 李白詩「吳姬賞越艷、窈窕誇二鉛紅一、對レ客小垂レ手、羅衣舞二春風一」

たい-きゃく（名）退却 退卻 後へ退クコト。アトシザリ。アトモドリ。卻行 三國志、魏志、少帝紀、註「退卻遲之」

だい-ぎゃく（名）大逆 君父ヲ弑シナドセシコト。 史記、高祖紀「今項羽放二殺義帝於江南一、大逆無道」 戰國策、楚策「弑二其主一以求レ割レ地、大逆不忠、無レ過二此者一」

だい-きゅう（名）大弓 半弓、楊弓ナドニ對シテ、常ノ弓ノ稱。ゆみ（弓）ノ條ヲモ併セ見ヨ。 魏書、吳康生傳「故作二大弓兩頭一、送與二康生一」

たい-きょ（名）大擧 オホシゴト。大軍ヲ起スコト。又、多人數、擧リテ立チ向フコト。 三國志、蜀志、諸葛亮傳「治レ戎講レ武、以俟二大擧一」

たい-きょ（名）大虛 太虛 （一）オホゾラ。虛空。 宋玉、小言賦「超二于大虛之域一」 李群玉詩「心似二孤雲在二太虛一」 論衡、「天生二百、石ニ精アリ、水ニ音アリ、風ハ大虛ニワタル」 （二）支那ノ理學ニテ、空虛寂寞タル太虛ヲ以テ、宇宙ノ本體トス。 近思錄、一「氣块然太虛、升降飛揚、未二嘗止息一」 中江藤樹語「[illegible]」 [illegible]「[illegible]一貫一[illegible]」 [illegible]記（天保、大鹽中齋）上「夫道也者、太虛而已矣」 [illegible]「[illegible]一太虛而已矣」 [illegible]仁、太虛之德、而萬古不滅者也」

たい-きょ（名）退去 シリゾキサルコト。タチノクコト。

たい-きょ（名）退居 世ヲ避ケ、退キテ居ルコト。隱居。

たい-ぎょ（名）帶魚 タチノウヲ。タチウヲ。太刀魚ノ條ヲ見ヨ。

だい-きょう（名）大凶 甚ダ凶ナルコト。

たい-きょく（名）太極 支那ノ理學ニテ、天地未分ノ前、元氣混ジテ一ニシテ、世界萬物ノ元始タルモノノ稱。別レテ天地陰陽ノ兩儀トナルト云フ。又、形ヲ百家ノ宗トス。儒家ニテ太極ト云フハ、圓キヲ太極ト云ハズ、圓キ中ニ何モナク、虛ナルヲ太極ト云フ、是レヨリ萬物萬事出ヅトス、人ニハ心ヲ太極トス、心ハ無形ニシテ萬事出ヅト。 易、繫辭、上傳「易有二大極一、是生二兩儀一、兩儀生二四象一、四象生二八卦一」 近思錄、一「無極而太極、太極動而生レ陽、靜極而靜、靜而生レ陰、云云、陰陽一太極也、太極本無極也」

たい-きょく（名）大局 事物ノ全體ニ關スル狀態。全體ノ事局。

たいきょく-でん（名）太極殿 だいおくでんト讀ムベシ。其條ヲ見ヨ。

だい-きらひ（名）大嫌 コトニ、キラヒナルコト。大イニスカヌコト。 春花五大力（寬政、五瓶）「小萬サンハ、評判ノ石部金吉、コレマデハ方方ノ御客ガイロイロトオツシヤッテモ、ソノ方ハだいきらひデゴザリマスル」

だい-ぎり（名）大切 （一）おほぎり（大詰）ニ同ジ。 （二）[illegible]ノ一種。其條ヲ見ヨ。 [illegible]本朝食鑑、五、[illegible]之中、[illegible]切[illegible]、[illegible]手稱二大切一」

たい-く（名）體軀 カラダ。身體。

だい-く（名）大工 （一）官ノ建築ノ職。其次ナルヲ小工ト云フ。オホダクミ。オホキタクミ。ダイクガシラ。ヒダノタクミ。番匠。 古事記、下（淸寧）「[illegible]大匠、[illegible]久美」 [illegible]十、[illegible]月[illegible]、[illegible]大、[illegible]、四十、[illegible]八[illegible]、[illegible]正六位上[illegible]」 [illegible]四日、工等預レ祿、大工、馬三匹、對劍一、小工、各馬一匹、白布十端也」 （二）今、專ラ、木工ノ通稱。木工 倭名類聚抄「木匠、ダイク、コノタクミ、注「俗云、大工、[illegible]」 [illegible]、[illegible]、工匠 俗造二家屋一者、總稱二大工一、其長謂二棟梁一」

たい-くう（名）太空 オホゾラ。ソラ。 關尹子、[illegible]「[illegible]二[illegible]太空一」

たい-ぐう（名）待遇 モテナシ。トリアツカヒ。アヘシラヒ。アシラヒ。シムケ。接待。 南史、[illegible]「[illegible]」

たい-ぐう（名）對偶 對耦 （一）ソロヒ。ツキ。 [illegible] 雜[illegible]、[illegible]對偶[illegible]、[illegible] （二）タグヒ。トモ。 （三）ツレアヒ。夫婦。 [illegible]

だい-ぐうじ（名）大宮司 オホミヤノツカサ。神人ノ長。 伊勢、熱田、宇佐、阿蘇等ニ云ヒ、筑前ノ宗像、香椎、越前ノ氣比ノ社ニモ云ヘリ。今ハ伊勢大神宮ノ神職ノミニ云ヒ、內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ、祭事ヲ作リ、祭祀ニ奉仕ス。 [illegible]「[illegible]熱田ノ大宮司季範ガ女[illegible]ナリ」

だいく-がしら（名）大工頭 （一）トウリヤウ。工長。 南都寺[illegible]記「秀吉公ノ近習ニ中井修理大夫ト云フ者アリ、云云、自分ハ天下ノ大工頭ト成リテ、國ヲ工匠ノ[illegible]二[illegible]フ」 （二）江戶幕府ノ職。作事奉行ニ屬シテ工作ノ事ヲ掌ルモノ。江戶、及、京都ニ設ク。 [illegible]

たい-くつ（名）退屈 （一）[illegible]

[illegible]コト。 [illegible]

[illegible]アグムコト。 氣屈 （二）倦ミ疲レテ退ク。 太平記、三、赤坂城軍事「四五度ガ程、寄手[illegible]ヲ[illegible]マシタランニ、サドカ[illegible] [illegible]「[illegible]」 [illegible]

たい-くん（名）大君 （一）君主ノ尊稱。 易、師、上六「大君有レ命」 （二）德川氏ノ頃、外國トノ交際ニ對シテ、將軍ノ稱。

たい-くん（名）大勳 大イナルイサヲ。 [illegible]

たい-くん（名）帶勳 勳位ヲ有スルコト。 [illegible]

たい-ぐん（名）大軍 多クノ軍勢。 [illegible]

たい-ぐん（名）退軍 軍勢ヲ引上グルコト。 [illegible]

だい-くんゐ（名）大勳位 [illegible]ト[illegible]。

たい-くゎ（名）大火 大イニ燒クルコト。大火災。 [illegible]

たい-くゎ（名）大禍 （一）大イナルわざ[illegible]

はひ。(二)大過日ノ略。めつもん(滅門)ノ條ヲ見ヨ。

たいくゎ (名) [耐火] 能ク火力ニ耐フルコト。火ニ燒ケヌコト。

たいくゎ (名) [退化] (英語、Degeneration.ノ譯語) (一)衰退シテ、進步セヌ以前ノ狀態トナルコト。(二)動植物ノ或器官ノ構造、又ハ、作用等ガ、次第ニ單純トナリ、又ハ、喪失スルコト。例ヘバ、男子ノ乳房ノ如シ。(進化ニ對ス)

たいくゎい (名) [大塊] (一)大イナルつちくれ。(二)造物者ノ名。又、地球。又、天。莊子、太宗師篇「夫大塊載ㇾ我以ㇾ形、勞ㇾ我以ㇾ生」同、齊物論篇「夫大塊噫氣、其名爲ㇾ風」注「大塊、天也」

たいぐゎい (名) [對外] 外部ニ對スルコト。特ニ、政治上ニテ、外國ニ對スル關係。「對外政策」

たいくゎうたいこう (名) [太皇太后] 先先代ノ皇后ノ尊稱。くゎうごう(皇后)ノ條ヲ見ヨ。漢書、外戚傳「漢興、因ㇾ秦之稱號、帝母稱ニ皇太后、祖母稱ニ太皇太后、適稱ニ皇后」

たいくゎうたいこうぐうしき (名) [太皇太后宮職] ちゅうぐうしき(中宮職)ノ條ヲ見ヨ。

たいくゎん (名) [大官] 官位ノ高キ職。顯官。高官。戰國策、齊策「大官未ㇾ可ㇾ得、小官公又弗ㇾ欲」

たいくゎん (名) [太官] 賄方ノ官。漢書、百官表「太官、注「太官、主ニ膳食」」

たいくゎん (名) [退官] 官職ヲ辭スルコト。ヤクヲヤムルコト。「退官賜金」

たいくゎん (名) [大患] (一)大イナル患。史記、仲尼弟子傳「夫無ㇾ報ㇾ人之志、而令ニ人疑ㇾ之、拙也、有ㇾ報ㇾ人之意、使ニ人知ㇾ之、殆也、事未ㇾ發而先聞、危也、三者、擧ㇾ事之大患」(二)重キ病氣。

だいくゎん (名) [代官] (一)名代ノ職。國司長官ニ代リテ土地ヲ支配スル職、國司ノ目代、又、スベテ本官ニ代リテ、其職掌ヲ代理スルモノ。所司代、守護代、地頭代ナド云フモコレナリ。略シテ代トノミモ云フ。平家物語、十二、六代事「時政ハ鎌倉殿ノ御代官ニ、都ノ守護シテ候ハレケル」太平記、一、賴員囘忠事「攝津國葛葉ト云フ處ニ、地下人、代官ヲ背キテ合戰ニ及ブ事アリ」(二)武家ノ世ニ、地方ノ役、其支配地ノ年貢、公事、人別、ヲ統ベ掌ル。德川氏ニテハ、コレヲ郡代ノ次トシ、勘定奉行ニ屬ス。郡官 縣令 邑宰 吏徵別錄、下「御代官從ニ前前ニ在ㇾ之、云云、天和三年癸亥十一月廿五日、西國御代官野田三郞左衞門外八人、當分無役ニ入」明良帶錄、世職「御代官」注「百五十俵高」

だいぐゎん (名) [大願] 大イナルネガヒ。望ミ深キ祈願。特ニ、佛敎ニテハ、佛ノ衆生ヲ救ハンコトヲ願フ心ヲ云フ (神佛ニ) 左傳、昭公三十二年「閎ニ盟主ニ宣ニ昭令名ニ則余一人有ニ大願ニ矣」史記、范雎傳「處ニ必然之勢ニ可ニ以少有ㇾ補ニ於秦ニ此臣之所ニ大願ニ也」竹取物語「大願ノカニヤ、ナニハヨリ昨日ナン都ニマウデ來ツル」觀無量壽經玄義分「皆乘ニ阿彌陀佛大願業力ニ」「大願成就」

だいぐゎん (名) [代願] 他人ニ代リテ、願フコト。(神佛ナドニモ云フ)又、其人。

だいくゎんじ (名) [大官寺] だいくゎんだいじ(大官大寺)ノ略。其條ヲ見ヨ。

たいくゎんしき (名) [戴冠式] (英語、Coronation.ノ譯語) 外國ニテ、帝王ノ卽位ノ後ニ、行ハルル重要ナル儀式 其式ニハ、傳來ノ寶冠ヲ戴クヨリ云フ。

だいくゎんだいじ (名) [大官大寺] オホテラ。大和ノ大安寺ノ舊稱。天武天皇ノ十二年、百濟大寺ヲ改稱セシモノ、又、聖武天皇ノ御代ニ、大官大寺ヲ改メテ大安寺トナス。

たいけ (名) [大家] 富メル、或ハ貴キ家筋ノ稱。古詩「汝是大家子、仕ニ宦於ニ臺閣ニ」

たいげ (名) [帶下] 病ノ名。おしけ(腰氣)ノ條ヲ見ヨ。史記、扁鵲傳「扁鵲名聞ニ天下ニ過ニ邯鄲ニ聞ㇾ貴ニ婦人ニ卽爲ニ帶下醫ニ」

たいげ (名) [退下] (退凡下乘ノ略」たいぼんげじょう(退凡下乘)ノ條ヲ見ヨ。

たいけい (名) [大慶] 大イニ祝ヒ喜ブコト。後漢書、明帝紀「實爲ニ公私ニ大慶」平治物語、一、信賴謀反事「カヤウニ御意ニ懸ラレ候條、身ニトリテ、大慶ナリ、如何ナル大事ヲモ承リテ、一方ハ固メ申サン」

たいけい (名) [體系] (一)箇箇別別ノモノヲ、統一セル組織。系統。(二)(英語、System.ノ譯語) 多種多樣ノ思想、又ハ、事物ガ、或統一的原理、又ハ聯絡關係ニヨリテ、組織セラレタル全體ノ稱。組織。

たいけう (名) [胎敎] (胎兒ニ施ス敎育ノ意) 支那ニテ、姙娠中ニ守ル嚴正ナル修養。卽チ精神ヲ靜平ニ有チ、進退坐作ヲ正シク守リ、生ルル子ノ感化ノ敎。列女傳(漢、劉向)一「太任者文王之母、云云、及ニ其有ㇾ娠、目不ㇾ視ニ惡色ニ耳不ㇾ聽ニ淫聲ニ口不ㇾ出ニ敖言ニ能以ニ胎敎ニ溲ニ于豕牢ニ而生ニ文王ニ文王生而明聖、云云、君子謂、太任爲ニ能ニ胎敎ニ」

だいけうせい (名) [大敎正] 最高位ノ神道敎導職。コレニ、正ト權トアリ。

だいげき (名) [大外記] オホイシルスツカサ。げき(外記)ノ條ヲ見ヨ。

たいけつ (名) [對決] 裁判ニ、訴訟人(原告)ト、其相手方(被告)トヲ對ヒ合ハセテ、訟ヲ聽クコト。對理 對審 御成敗式目「兩方證文理非顯然時、擬ㇾ遂ニ對決ニ事」

たいげふ (名) [大業] (一)重大ナル事業。オホシゴト。(二)帝王ノ業。鴻業。洪業。書經、盤庚、上篇「紹ニ復先王之大業ニ底ㇾ綏ニ四方ニ」(三)(大イニ儒業ヲ成ス義) 四道ノ一ナル紀傳道ノ異稱。平治物語、一、信西出家由來事「大業モ遂ゲズ、儒官ニモ入レラレズ」

たいげふ (名) [怠業] さぼたあぢゅニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

たいけん (名) [帶劍] 刀劍ヲ腰ニ帶ブルコト。古ヘハ武官、侍衞(中務侍從、內舍人等)ナドノ劍ヲ帶スルコト。文官ハ、スベテ帶セズ。然レドモ束帶ノ時ハ威儀ノタメニ、勅許ヲ受ケテ帶ス。(今ハ大禮服ノ時、スベテ帶ス) 帶刀 佩刀 佩劍 史記、秦紀「簡公六年、令ニ吏初帶ㇾ劍」文德實錄、一、嘉祥三年四月「勅賜ニ帶劍ニ」

たいけん (名) [大權] 天皇ノ國土人民ヲ統御シ給フ權。國權ヲ天皇ニ屬スルニ就キテ云フ語。統治權 唐書、陸贄傳「京邑如ㇾ身、王畿如ㇾ臂、而四海如ㇾ指、此天子之大權也」

たいけん (名) [大賢] 大イニ、サカシキコト。大イニ利口ナルコト。晉書、陳頵傳「夫英偉大賢、多出ニ於山澤ニ」「大賢ハ愚ニ似タリ」

たい-げん (名) 大言 (一)大イナルコトバ。莊子、齊物論篇「大言炎炎、小言詹詹」 (二)誇リタカブル言。高言。史記、高祖紀「劉季固多二大言一、少二成事一」「大言壯語」

たい-げん (名) 體言 〔用言ニ對ス〕語學ノ語、名詞ノ異稱。動詞、形容詞、助動詞ノ如キ、語尾活用アル語ト區別シテ、活用セヌ語ヲ、スベテ云フ。

だい-げん (名) 代言 他人ニ代リテ、訴訟ノ事ナドヲ扱フヲ、業トスルコト。其人ヲ、モト代言人ト云ヘリ。書經、說命、上篇「夢帝賚二予良弼一、其代二予言一」

だい-げん (名) 大元 次條ヲ見ヨ。

だい-げんずゐ (名) 大元帥 (一)天竺ノ神、梵語、阿多縛迦(Ātavika.)ノ稱。(六面六臂、總身紺靑ニシテ、紅赤ノ二鬼ヲ踏ム) 明王部ノ總司タリ。禁中ノ公事ニ、大元帥法(帥ヲ讀マズ)トテ、治部省ニテ、正月八日ヨリ、七日間、御祈ヲ修セラル。此法ハ、官ノミ修シテ、臣下ハ行フコト能ハズトゾ。(二)主上ノ御稱ニ、海陸軍ヲ統帥シタマフニ就キテ云フ。ダイゲンスヰ。

だい-げん-にん (名) 代言人 〔明治ノ初年、福澤諭吉、英語ノ Advocate. ヲ譯シタル語ト云フ〕舊ク辯護士ノ稱。

だい-げん-の-ほふ (名) 大元帥法 〔帥ノ字ヲ讀マヌ例ナリ〕だいげんずゐノ條ノ(一)ヲ見ヨ。名目抄「大元帥法、ダイゲンノホウ」 [illegible]

たいけん-もん (名) 待賢門 大内裏十二門ノ一、中ノ御門。大内裏ノ東面、南ヨリ第二ノ門、郁芳門ノ北ニアリ。彈正臺式「運二春宮坊雜物一自二待賢門、郁芳門一出入二」口傳ニテ待ル也」

たい-こ (名) 太鼓 樂器ノ名。木ニテ筒ヲ作ル、胴ト云フ、中、空シク貫ケリ、兩面ニ馬皮ヲ張リ、桴ニテ擊鳴ラス。コレニ三種アリ、其一ヲ大太鼓ト云フ、朝廷舞御覽、或ハ大社ノ舞樂ニモ用ヰル、立チナガラ擊ツモノナリ。其二ヲ擔太鼓ト云フ、道樂ナドノ時用ヰルモノ、其三ヲ太鼓ト云フ、尋常用ヰル所ノモノ。坐シテコレヲ擊ツ、一ニコレヲ釣太鼓ト云フ。(下ノ出典ヲ見ヨ) 大日本史、禮樂、十六「大太鼓、面徑六尺三寸、金地黑彩、左部畫三巴文、右部二巴文、凡鼓畫巴文、皆準此、周緣有二十六孔一、各徑二寸、匡長五尺、徑四尺二寸、施布糸作彩、左赤右青、用二赤白黑布一為[illegible]、以木作外輪、面雕二雲形一、左畫龍、右畫鳳凰、周邊刻成二火形一、施二朱彩一、凡鼓畫龍鳳、左右皆準此、匡上立柄、黑漆長七尺八寸、左揭二日像一、右月像、有二臺架一、鼓、臺、架[illegible]高各三尺、上下施二橫木一、上安鼓、下貼臺、長二尺、皆有二彩色一、臺高三尺、方八尺、如二大鉦鼓臺之製一、欄[illegible]高一尺二寸、裝二蓮花形十二一、[illegible]白赤[illegible]、[illegible]上二桴二、黑漆、長一尺三寸、[illegible]在二階、白二鼓右[illegible]立擊之、擔太鼓、面徑一尺七寸、緣穿二十孔一、徑各八分、匡長一尺二寸、徑[illegible]五寸、以朱地施二花彩一、布索鉤、華、[illegible]長八尺、黑漆、[illegible]之、匡上設二火形一、高一尺二三寸、廣一尺七八寸、彫[illegible]如上、桴長一尺、[illegible]右[illegible]之、釣太鼓、[illegible]一尺八寸、[illegible]匡長七寸、[illegible]稍大、比二面徑一增三寸、施二朱彩一、華周[illegible] [illegible]分、[illegible]

羊鼓、靑山、羊鼓[illegible]尺有九寸、以羊皮張之」[illegible]記、三十五[illegible]下[illegible]ヲ取リ寄セ、[illegible]ノ下ニテ打チケレバ」「陣太鼓」神樂太鼓」 (二)++たいこもち(幇間)ノ略。當ニ接頭語、おヲ添ヘテ云フ。[illegible]「太鼓、太鼓持ノ下略也、太鼓持ト云フハ、傾城買ヒノ客ニ付キ從フ者ヲ云フ、此ノ名目ノオコリハ、紀州雜賀鍬ヨリ始マル、鐵ヲ持タル者ハ、首ニカケテヲドル、其ノ中ニカネヲ持タヌモノニ太鼓ヲ持タスル也、是レニヨリテ此ノ名目トス」 (三)++たいこむすび(太鼓結)ノ略。常ニ接頭語、おヲ添ヘテ云フ。御太鼓結ノ條ノ見ヨ。

たい-こ (名) 太古 〔太ハ、遠・高、イホ[illegible]〕上古。振古。[illegible]「天之理、而求太古之道」

たい-こ (名) 大故 (一)大イナル不幸ノコト。即チ、父母ノ喪。大喪。[illegible] 公、上篇、注「大故謂二喪憂一」 (二)大イナル惡行。大罪。[illegible]

たい-こ (名) 大戶 (一)富メル家。豪家。(二)中古、人民ヲ四等(即チ、大戶、上戶、中戶、下戶)ニ分チタル中ノ第一等ノ戶。田令集解、十二「慶雲三年格云、一戶之內、八丁以上爲二大戶一」(戶ハ一家、丁ハ壯丁) (三)酒飮ノ上戶。おほ-じゃうご(上戶)ノ條リ見ヨ。

たい-ご (名) 隊伍 兵隊ノ組。[illegible]「隊伍有レ法」軍防令「凡兵士、各爲二隊伍一」

たい-ご (名) 對碁 圍碁ノ技ノ、互ニ優劣ナキコト。對等ノ碁。タガヒセン。

**だいこ (名) だいこん(大根)ノ約。其條ヲ見ヨ。[illegible]ノ大根オロシト云フ所ガ、大根ガナイ」

たい-こ (名) 大悟 (一)大イニサトルコト。[illegible]大悟ヲ、今爾代復興、即滅生也、出、[illegible]用、歸成大功」 (二)佛法ノ道理ヲ悟リテ、安心ヲ得ルコト。サトリヲヒラクコト。[illegible]、豁然大悟、[illegible]長安[illegible]、大悟十八度セ、コノ家ニ入ツテ工夫ヲ[illegible]メタリ」「大悟徹底」

ダイ-ゴ (名) 醍醐 胡語ナリト云フ。高楠順次郞ハ、梵語、阿密哩多(Amṛta)甘露ト譯ス、不死ノ藥ノ名ナリトモ云フ。ニシテ、藥用ナドトスト云ヘリ。我邦ニテハ、酥ヲ精製シテ取ル液。甚ダ甘美[illegible] ニテハ、一斗ノ牛乳ヲ一升ニ煮ツメタル酥ト云ヒ、(コンデンスミルク)ソレヲ更ニ精製シタルガ醍醐ナリト云ヘリ。ム」[illegible]

たいこ-い-しゃ (名) 太鼓醫者 醫術拙クシテ、タダ人ノ機嫌ヲ取ルコトヲ先務トスル醫者。幇間醫者。

たい-こう (名) [illegible]

たい-こう (名) [illegible]

皆ナド持ツ卑官ノ狩衣ナドニ染ムルニ云フ。衛士、仕丁ナドノ着ルトゾ。[illegible]「前ノ方ハ退紅ノ狩衣ヲゾ着タリケル」

たい-こう (名) 【大功】 大イナル功。オホテガラ。偉勳。 晉書、陳高傳「[illegible]大功ニ者、不修小過」 太平記、二、南都北嶺行幸事「忽ナニ修造ノ大功ヲ遂ゲラレ、速カニ供養ノ儀式ヲ調ヘ」

だい-こう (代) 【乃公・迺公・而公】 (漢ノ高祖ノ自稱ニ基ヅク。迺、而ハ、乃ニ同ジ) 我ニ同ジ、自尊シテ云フ。(漢文ニ) 史記、留侯世家「豎儒幾敗而公事」注「而公、高祖自謂也」 漢書、張良傳「漢王輟食吐哺、罵曰、豎儒幾敗迺公事」

だいこうけい-はう (名) 【大口徑砲】 (小口徑砲ニ對ス) 筒先ノ、直徑ノ大ナル火砲。

たい-こうしゅ (名) 【太公主】 天子ノ伯母ノ稱。(支那ニ)

たいこう-ばう (名) 【太公望】 (周ノ賢臣、太公望(呂尚)ガ渭水ニ釣シテ、文王ニ見出サレシ故事ニ因ル) 釣スルコト。

だいこ-おろし (名) 【大根下】 オロシダイコン。ダイコンオロシ。

たい-こく (名) 【大國】 (一)境ノ廣キ國。(小國ニ對ス) 孟子、公孫丑、上篇「及是時明其政刑、雖大國必畏之矣」 (二)國司ノ五格(即チ大國、上國、中國、小國、下國)ノ第一ノモノ。國司ノ條ヲモ見ヨ。 職原抄、下「大國、守、介、掾、目」

だい-こく (名) 【大黑】 (一)だいこくてん(大黑天)ノ略。 寄歸傳ニ、大涅槃經ヲ引テ云フ「有二大黑神一、梵天眷屬、任二食廚一」トアリ(寶北瑣語、二) 狂言記、蛭子大黑「比叡山三面ノ大黑殿ヘト、新舊ヲカケテゴザレバ」 (二)俗ニ、梵妻ノ綽號。廚ニ居レバ云フトゾ。 好色一代女、貞享、三、四「此ノ寺ノ大黑ニナリタクハ、和尚ニカカヘラルル迄待テ」 私加多咄(萬治)「弟子、師ノ僧ニ、お大黑ト並バセラレテゴザルホドニ、夷折敷ニスウルト云ウタ」

だい-こく (名) 【大黑】 (大國主命ト云フハ附會説ナリ。本邦ニテハ、傳教大師ノ止觀院ヲ創設スル時、感得セシ神ニ基ヅクト云フ) 七福神ノ一、天竺ノ神。螺髮裸體ニテ、布ヲ腰ニ纏ヒ、其餘ヲ肩ニカケ、其端ヲ膝ニ挾ミ束ネタル像。本邦ニテハ、圓キ頭巾ヲ被リ、右手ニ小槌、左ニ袋ヲ擔ヒ、兩脚ニ米俵ヲ蹈ミ、笑顏ヲナシタル像ナリ。 摩訶(大)迦羅(黑)經「僧俗我體ヲ刻ミ、崇敬スルモノニハ、八萬四千ノ福德神ヲ遣ハシ、十方ニ遊行シ、毎日千人ヲ供養セム」(譯文)トアリ、因リテ福神トス。 溪嵐拾葉集、大黑天法「山門相承大黑、不依本經儀軌、山家御感見樣作給、高祖大師、我山開闢時、大地六種震動、下方空中、一人老翁涌出、其形、今改所大黑相貌是也、此身、即是堅牢地神也」

だいこく-がさ (名) 【大黑傘】 傘ノ粗製ナルモノ。番傘ノ類ナリ、大黑屋ト云フ傘師ノ製シタルモノト云フ。又、つんぼがさトモ云フ、壺屋傘ノ訛ナラムト云フ。 我衣(天和)「大黑屋ノ譯がさト云フハ名代ナリ」 櫻陰比事(元祿、西鶴)五「昔、都ノ町ニ、北國向ノ笠ヲ仕込ム職人アリ、云云、壺屋ト云フ家名ヲ世ニ廣メケル」

だいこく-ぎん (名) 【大黑銀】 ちやうぎん(挺銀)ノ條ヲ見ヨ。

だいこく-せんべい (名) 【大黑煎餅】 がらせんべいノ條ヲ見ヨ。

だいこく-づきん (名) 【大黑頭巾】 黑キ括頭巾。大黑天ノ被リ居ルヨリ云フ。 破枕集(寛文)「鼠色ニ、染マル大黑、頭巾カナ」

だいこく-てん (名) 【大黑天】 (梵語ニ、Mahākāla(摩訶迦羅)、大黑ノ義、又、大黑神ト譯ス) (一)天竺ノ神、飲食ヲ充饒ニス。因リテ廚ノ神トス。 南海寄歸傳「西方諸大寺處、或於食廚柱側、或在大庫門前、彫木表形、或二尺三尺爲神王狀、坐把金囊、却踞小床、一腳垂地、每將油拭、黑色爲形、號曰莫訶歌羅、即大黑神也」 (二)今、又、福神ノ名。常ニ、狩衣ノ如キ服ヲ着、帽ヲ蒙リ、左肩ニ袋ヲ負ヒ、右手ニ打出ノ小槌ヲ持チ、米俵ノ上ニ居ル所ヲ畫ケリ。或ハ云フ、寺ノ廚ニ安置スル形、大己貴ノ袋荷ナレル古式ニ似テ、大國主ノだいこくト音通フヨリ、此神ニ緣アル鼠ヲ書キソヘテ、一種ノ神トシタリ。佛經ニ福德自由ノ神。 大黑天神法「膚色悉作黑色、頭令冠烏帽子、悉黑色也、令著袴、腰裹不垂、令著狩衣、裙短袖細、右手作拳、令收右腰、左手令持大袋、從背令懸肩上、其袋之色爲鼠毛色、云云、若吾安置伽藍、日日敬供者、吾寺中令住衆多僧、毎日必養三千人之衆、云云、若人三年專心供吾者、吾必此來、供人授與世間富貴、乃至官位爵祿」 昨日は今日の物語(天正)下「或寺ニ名作ノ大こくノアルヲ聞及ビタル檀那、參リテ一目見タイト所望スル、坊主開テ、云云、數年ノ檀那若シカラズ等トテ、云云、年頃二十バカリナル言語道斷ノ美キ女房ヲ呼ビ出ス」

だいごく-でん (名) 【大極殿】 大安殿。古ヘノ大內裏ナル朝堂院內ノ北部中央ニアリシ正殿ノ名。南面ス、東西十一間(十七丈六尺)、南北四間(五丈五尺)、南面ニハ、三ツノ石階アリ、碧瓦ニシテ、棟ノ兩端ニ金銅ノ鵄尾アリ、殿內中央ニ高御座ヲ置ク、天皇出御アリテ、朝政ヲ行ハセタマフ所。嵯峨天皇ノ時ヨリ朝政ハ紫宸殿ニテ聞コシメサレ、元正朝賀、即位、大嘗會等ノ大儀ニノミ出御ノ事トナル。(大和國生駒郡都跡村字佐紀ノ平城宮址ノ大極殿址ノ芝生ヲ、土人ハ大黑芝ト云フ)

だいこく-ば (名) 【大黑齒】 人ノ、上腭ニアル二枚ノ前齒ノ中、左ノ方ノ稱。右ナルヲ惠比須齒ト云フ。

だいこく-ばしら (名) 【大黑柱】 (大國柱カ。古事記、二神國生「行廻逢是天之御柱」 神代紀「國中之柱」、云云、國柱」トアリ、大極柱ハ牽強ナルベシ) (一)家ノ中央ニ立ツル甚ダ太キ柱。神社ニテ心ノ御柱。此柱ヨリ棟梁ヲ始ム。(二)俗ニ、一家ノ重シトスル人ノ稱。柱石。

だいこく-まひ (名) 【大黑舞】 大黑天ノ姿ヲ摸シ、面ヲカブリ、頭巾ヲ着テ、門門ニテ祝詞ヲ唄ヒナガラ舞フモノ。又、三味線ニ合ハセ、一種ノ長キ小唄ニテ舞フモノ。(其小唄ハ、一ニ俵ヲ蹈ンマヘテ、二ニニッコリ笑ッテ、ト云フ類) ト養千句「布袋モ笛ヲ、吹クヤ秋風、身ニシメテ、大黑舞ヲ、ミマイナフ」 洞房語園考異「大黑舞、新吉原ニテ正月二日ヨリ二月初午マデ來ルト」

だいこ-しめ (名) 【大根注連・大根標】 シメナハノ太キモノ。

たい-こ-せき (名) 【太湖石】 支那、蘇江省ノ太湖ニ産ズル石。水中ニアリ、波濤ニ衝撃セラレ、年久シクシテ、處處ニ空孔ヲ生ジ、石面ニ多ク靨ノ狀ヲナス、コレヲ彈子窩ト云フ。石(白キアリ、青黑キアリ)溫潤堅力、叩ケバ磬ノ音ヲナス、大イナルハ庭ニ飾リ、小サキハ几案ニ置キテ玩トス。本邦ニハ、美濃ノ明星山ヨリモ産ズ。 揚州畫舫錄「太湖石、乃太湖中石骨、浪激波滌、年久孔穴自生」

たいこ-たたき (名) 太鼓叩 (一)太鼓ヲ打鳴ラス人。タイコウチ。(二)廿言ヲ以テ人ノ[illegible]ヲ取ルコト。又、其人。

たいこ-だる (名) 太鼓樽 (一)古圖ニ見ユルハ、太鼓ヲ横ニシタル形ニ、両[illegible]アルモノ、[illegible]供ニシタルニ因ルモノカト云フ。(二)後ニ、斗樽ノ一稱。

たいこ-ばし (名) 太鼓橋 そりはしノ一種。其弧ノ大ナルモノニテ、殆ンド太鼓ノ胴ノ如ク見ユルヨリ云フ。

たいこ-バチ (名) 太鼓鉢 めしばち(飯鉢)ノ條ヲ見ヨ。

たいこ-びゃう (名) 太鼓鋲 足ハ細ソク、頭ハ笠ノ形シタル鋲。飾ナドニ打ツ。

ダイゴ-み (名) 醍醐味 (一)だいご(醍醐)ニ同ジ。下學集、下、飲食門「醍醐味」(二)醍醐ノ如キ味。美味ヲホメテ云フ語。[illegible]「[illegible]日本一ノだいごみ、御馳走ニ預カリタシ」(三)佛説、如來ノ最上ノ教法。六波羅蜜經、一「[illegible]」

たい-こん (名) 大婚 天皇ノ御婚儀。[illegible]

だい-こん (名) 大根 「おほねニ當テタル字ヲ音讀ス」(一)古名、おほね。春ノ七種ニハ、すずしろ。菜ノ名。專ラ根ヲ食用トシテ、冬ヲ時トス。葉ハ、かぶらヨリ硬ク粗クシテ、毛アリ、春夏ノ間、高キ莖ヲ出シ、花ヲ開ク、花ハあぶらなニ似テ、紫碧、淡紫、白等アリ、角ヲ結ブ、子ハ黄赤色ニシテ、あさのみノ如シ。根、白クシテ、[illegible]ナルハ、[illegible]一二寸、長サ、一二尺、く、[illegible]大ナルモノ、[illegible]小ナルモノ、[illegible]。[illegible]ヲ食、生食、皆宜シ、[illegible]フリテ、イナムトセシヲ、クルル大根ー (二)「[illegible]根ノ根ハ白キ故、おろしさ(素人)ノおろシ寄セテ云フトゾ」[illegible]役者ヲ罵リテ云フ語。拙キ俳優。(三)注連縄ノ太キモノノ稱。大根注連ノ略。(牛蒡注連ニ對ス)

たいこ-むし (名) 太鼓蟲 蟲ノ名。水澗レテ飛ブ。やまめ(水蠆)ニ同ジ。

だいこ-もち (名) 太鼓持 (六齋念佛ノ鉦持太鼓持ヨリ起リテ、金持ニ諂ヘル意ナリト云フ) 吉原ニテ、客人ニ從ヒ、一座ノ取持伽ニナルヲ業トスルモノ。幇間。をとこげいしゃ(男藝者)ノ異名。幇間。略シテ太鼓。東海道名所記、[illegible]「[illegible]二番子召連レラルル太鼓衆ハ、御出入イタス取[illegible](道具屋)生バヤリノ藪醫師」諺袖海(元祿)「能ノ太鼓打ニ一ゾラヘテ、大臣ヲ心ヨクノセテ、[illegible]ノ氣ニ入ルヤウニ拍子立ツレバ、太鼓ト云フ、末社ト云フモ、大ジンノソバニアル故ナリ」太鼓持ニ對シテ、放蕩者ヲ鉦打ト云ヒタリ[illegible]ナクシテ伽トナルヲ、野太鼓ト云フ。

(同[illegible]考異)金ヲ持ツモノハ、太鼓ヲ持タズ、異本、[illegible]

たいこ-やぐら (名) 太鼓矢倉 城ノ矢倉ニ太鼓アルモノ。時來レバ擊チテ時刻ヲ報ズト。

だい-おり (名) 代[illegible] 他人ノ依頼ヲ受ケ、代リテ川水ニ垢離スルコト。又、コレヲ業トスルモノ。[illegible]

たい-さ (名) 大差 オホイナルチガヒ。[illegible]

たい-ざ (名) 對坐 相對ヒ、坐ルコト。[illegible]「[illegible]」太平記、廿七、[illegible]「[illegible]將軍ノ對座ニ居タレバ、[illegible]ノ[illegible]」

だい-ざ (名) 臺座 佛像、器物ナドヲ載スル臺。[illegible]

たい-さい (名) 太歳 (一)星ノ名。[illegible]其年ノ干支ヲ[illegible]、[illegible]。即チ神武紀「是年也太歳辛酉」トアルガ如ク、十干十二支相配シテ六十歳ニ終フ。毎歳、其歳位ヲ守ル星ナリ。太歳。(二)太歳神ノ略、八將神ノ一。曆ニ、其年ノ[illegible]方角ニ向ヒテ[illegible]ト云フ。但シ、木[illegible]ヒ[illegible]。(三)木星ノ異名。[illegible]甲寅[illegible]

たい-さい (名) 體裁 ていさいト云フニ同ジ。[illegible]「上下[illegible]」

たい-ざい (名) 滯在 とうりう(逗留)ニ同ジ。

たい-ざい (名) [illegible] [illegible]

だい-ざい (名) 大罪 [illegible]

たい-さう (名) 體操 身ヲ健ニセムガ爲ニ、身體ヲ動カス術。コレニハ、徒手體操、器械體操[illegible]、[illegible]玉ヲ投ゲ、綱ニ懸ルナド、種種ナリ。

たい-さう (名) 大壯 物ノ大ナルコト。易經、下象傳「大壯、大者壯也」

たい-さう (名) 大[illegible] [illegible]

たい-さう (副) 〔大相ノ字ト云ヅ、或ハ大[illegible]〕[illegible]最モ。「たいさう[illegible]」

たいざう-かい (名) 胎藏界 〔金剛界ノ[illegible]〕[illegible]ニ對シテ、理性ヲ云フ語。[illegible]

だいざう-きゃう (名) 大藏經 〔大トハ、[illegible]〕[illegible]諸法ヲ包藏スルくらノ意、經トハ、[illegible]稱、ソノ中、釋迦一代中ニ、說シタル說カ[illegible](律)ト、佛弟子等ノ說キタル論[illegible]トアリテ、コノ經、律、論ヲ三藏ト稱ス、印度ニハ貝葉ノモノト、[illegible]及、[illegible]ニ具[illegible]ノモノアリ、其他[illegible]

麗版、我ガ國ニハ、天海版、黄檗版、縮刷版、卍字版、大正版ナドアリテ、現今ニテハ、實ニ約一萬二千八百餘卷アリト稱セラル。略シテ、大藏。猶、一切經、及、三藏ノ條ヲモ參見セヨ。藏經。一代藏經　一切經　龍藏經

たい-さうけい（名）【太早計】【大早計】〔太ハ、甚ニ同ジ。但シ、古ヘハ、太ノ字ニ點ナシ、後人ノ加フル所ナリト云フ〕甚ダ、ハヤマルコト。ハヤノミコミ。ハヤガテン。莊子、齊物論篇「汝亦大早計、見レ卵而求ニ時夜ニ、見レ彈而求ニ鴞炙ニ」

だい-さぎ（名）【大鷺】形、常ノ鷺ヨリ大キクシテ、全身、白ク、頂ニ長毛ナク、嘴、夏季ハ黑ク、秋ニ至レバ黃トナル。脚ノ淡黃ナルモアリ。白鶴子

たい-さく（名）【對策】〔對ニ策問ニ也〕朝廷ニテ、人物ヲ採ル時、其學識ヲ試ミムト、題ヲ出シテ答文ヲ作ラシムルコト。タイシャク。策ノ條ノ（四）ヲ見ヨ。梁簡文帝、安成煬王墓誌銘「對ニ策雲臺ニ、觀ニ書虎閣ニ」太平記、十二、聖廟御事「對策及第シテ、自ラ詞場ニ折レ桂タマフ」

だい-さく（名）【代作】他ニ代リテ、詩歌文章ナドヲ作ルコト。又、其作リモノ。

たい-さん（名）【退散】（一）集マレル人人ノ、思ヒ思ヒニ退キ出ルコト　狂言記、見物左衞門「南無スマウ御たいさん、マタ明年參ラウ」（二）逃レ去ルコト。平家物語、一、清水炎上「事、高キモ賤シキモ、肝魂ヲ失ウテ、四方へ皆退散ス」「怨敵退散」

たい-さん（名）【大山】オホヤマ。頂高ク裾廣キ山。山海經「有ニ大山一、名曰ニ昆崙之丘ニ」說苑（漢、劉向）「大山不レ辭ニ壤石ニ」太平記、三、笠置軍事「大山モ崩レテ海ニ入リ、坤軸モ折レテ忽チ地ニ沈ム」

たい-さん（名）【泰山】【太山】支那、山東省泰安縣ニアル大山ノ名。五嶽ノ一ナリ。東嶽。代宗。泰山ノ巍巍トシテ千秋ニ聳ユル如ク、國家ノ極メテ安全ノ位置ニアルヲ、泰山の安きナド云フ。詩經、魯頌、閟宮「泰山巖巖、魯邦所レ詹」孟子、盡心、上篇「孔子登ニ東山ニ而小レ魯、登ニ泰山ニ而小ニ天下ニ」同、梁惠王、上篇「挾ニ太山ニ以越ニ北海ニ」晉書、孫惠傳「猛獸吞レ狐、泰山壓レ卵」

タイサン（名）【澤山】〔唐音ノ語ナラム〕甚ダ多キコト。唐話嘶今國性爺（享保、近松作）上「リャンコウクヒケンヌンワウたいさん」

だい-さん（名）【代參】他ニ代リテ、神佛ニ參詣スルコト。又、其人。傳拜　娥歌加留多（正德、近松作）五「中宮ノ御願、御代參ノ仰セヲカウブリ」

だい-さん（名）【大參】〔小參ニ對ス〕ぜうだう（上堂）ニ同ジ。

だい-さん-しや（名）【第三者】當事者ニ對シテ、當事者ニアラザルモノノ稱。

だいさん-どくくわい（名）【第三讀會】議會ナドニテ、第一讀會ト第二讀會トヲ、經タル議案ニ對シテ行フ討議。タダ字句ノ修正ノミヲナス。

だいさん-にん-しよう（名）【第三人稱】具ニハ、第三人稱代名詞　文法上ノ語。人代名詞ノ、對話者以外ノモノノ、名ニ代ヘテ用ヰルモノ。かれ、あれ、ノ類。他稱。（第一人稱、第二人稱ニ對ス）

たいさん-ぶくん（名）【泰山府君】〔府君ハ、神主、卽チ、泰山ノ神ノ意〕（一）支那、泰山ノ神。道家ニテ祀リ、天ニ輔星ト云ヒ、地ニ泰山府君ト云フトゾ。支那ニ於テハ、東嶽廟ト稱シテ各地ニ祀リ、我ガ國ニテハ、コレヲ素戔嗚命ニ配シテ、陰陽家、佛家ニテモ祭ル、祈レバ能ク人命ヲ長クスト云フ。博物志ニ、泰山ノ神ハ、人ノ生命ノ長短ヲ司ルト見エタリ。（泰山ハ、支那五岳ノ一、東方ニ位ス）後漢書、烏桓傳「死者神歸ニ赤山ニ云云、中國人死者魂神、歸ニ岱宗ニ（泰山）」注「博物志、太山、天帝孫也、主ニ召人魂ニ云云、故知ニ人生命ニ」下學集、上、「太山府君、本地地藏菩薩也、在レ天云ニ輔星ニ、在レ地曰ニ太山府君ニ」今昔物語、十九、第二十四語「安倍晴明ト云フ陰陽師有ケリ、云云、其ノ晴明ヲ呼テ、太山府君ノ祭ト云フ事ヲ令ス」吾妻鏡、二十三、建保五年十一月八日「今日行ニ七座如法泰山府君祭ニ」續詞花集、九、哀傷「我ガ命ニ召シカヘヨト、泰山府君ニ申シケルホドニ、出デテ此ノ娘ノヨメル」（二）櫻ノ一種。枝ニ曲折アリテ、花ハ枝ノ處處ニ簇リ、花、大キク千瓣ニシテ濃紅ナリ、開クコト遲ク、盛リ久シ。昔、櫻町中納言成範、櫻花ノ盛リ短キヲ歎キテ、泰山府君ニ祈リ、三七日、此花ノ齡ヲ延ベタリトテ、名トストゾ。盛衰記、二、清盛息女事「抑此成範卿トハ、故少納言入道信西ニ男也、云云、優ニ情深キ人ニテ、吉野山ヲ思出シテ櫻ヲ愛シ給ヒケリ、云云、町ノ四方ニ吉野ノ櫻ヲ移植、云云、此中納言、櫻ノ名殘ヲ惜テ、云云、春ゴトニ花ノ命ヲ惜テ、泰山府君ヲ祭ラレケル上へ、天照大神ニ祈申サセ給ケレバ、三七日ノ齡ヲ延タリケリ」

たいさん-ほくと（名）【泰山北斗】（一）泰山ト、北斗ト。各條ヲ見ヨ。（二）轉ジテ、其道ニテ、最モ世ニ仰ギ敬ハルル人ニ云フ語。泰斗。山斗。唐書、韓愈傳、贊「唐興、愈遂以ニ六經之文ニ爲ニ諸儒倡ニ、自ニ愈沒ニ、其言大行、學者仰レ之、如ニ泰山北斗ニ云」（贊文）

たい-し（名）【太子】〔太ハ、尊稱〕くわうたいし（皇太子）ニ同ジ。史記、伍子胥傳「越王勾踐襲ニ殺吳太子ニ、破ニ吳兵ニ」西宮記、一、正月、「太子進當ニ御座ニ拜」「聖德太子」

たい-し（名）【大史】官名　オホイサウクワン。さくわん（史）ノ條ノ（三）、及、（四）ヲ見ヨ。職員令「太政官、云云、左大史二人」

たい-し（名）【太師】【大師】（一）だいじやうだいじん（太政大臣）ノ唐名。拾芥抄、中、本「太政大臣　注「大師」」（二）淳仁天皇ノ御代、太政大臣ヲ改メタル稱。（暫時ニシテ舊ニ復セラル）續紀、廿二、天平寶字四年正月丙寅、勅「今此藤原惠美朝臣ノ大保ヲ大師ノ官ニ上ゲ奉ルト」（三）古へ、支那ノ三公ノ一。此官歷朝、廢置、一ナラズ。三公九卿ノ條ヲ見ヨ　書經、周官篇「立ニ太師、太保、太傅ニ」

〔たい-し（名）【舵】【柂】たぎしノ音便。其條ヲ見ヨ。舵ノ古言。倭名抄、十一ニ舟具「柂（亦作レ舵）、楊氏漢語抄云、柂、（船尾也、或作レ柁）多伊之」名義抄「柂、舵、木ノタイ」古事記、中（景行）五十三「吾足不レ得レ步、成ニ當藝斯形ニ」同、中（神武）十「多藝志美美命（手研耳命）」（御名モ此物ニ因メルカト云フ）同、上五十六「出雲ノ多藝志ノ小濱」

たい-し（名）【大使】（一）天子ノ命ヲ奉ジテ、事ヲ行フ正使。菅相詩「光光大使、我榮我華」孝德紀、白雉四年五月「發ニ遣大唐ニ大使、小山上、吉士長丹」（二）特命全權大使ノ略。又、單ニ全權大使トモ云フ。國家、又ハ、君主ヲ代表セル最上級ノ使節、其資格、公使ノ上ニアリ。

たい-し（名）【胎兒】ハラゴモリノ子。

だい-し（名）【大師】〔モト佛、菩薩ノ尊稱〕釋氏要覽、稱謂篇「大師、師、範也、大、簡レ小之言也、佛稱ニ三界大師ニ者、云云、能化ニ導無量衆生ニ、云云、摧ニ滅邪穢外道ニ、出ニ現世間ニ、故號ニ大師ニ」（一）朝

廷ヨリ高德ノ僧ニ賜ハル號、多クハ死後ニ贈ラル。支那ニテハ、唐ノ懿宗ノ咸通年間、雲顥ニ、三慧大師ヲ賜ヒ、本邦ニテハ、淸和天皇ノ貞觀八年、最澄ニ傳敎大師ヲ賜ヒシニ始マル。但シ、禪宗、臨濟派ニテハ、關山ノ無相大師ノ外ハ、國師ヲ以テ、コレニ代用セリ。扶桑略記、廿四、延長五年十二月廿七日「官符云、天台座主少僧都法眼和尚位圓珍、贈法印大和尚位、幷賜諡號智證大師」（二）眞言宗ニテ、專ラ弘法大師ノ稱。榮花物語、十五、疑「高野ニ參ラセ給ヒテ、大師ノ入定ノサマヲ覗キ見奉ラセ給ヘバ、御グシ靑ヤカニテ」

だいし（名）［大士］〔自利利他ノ大事ヲ爲ス士ノ義〕菩薩ノ稱。又、菩薩ヲ稱スルニ添フル語。書言字考節用集、三、神祇門「大士、ダイシ 注「法華文句、稱菩薩爲大士」亦曰開士、出智度論」」

だいし（名）［大姉］〔佛、諸天女ヲ稱シテ、諸姉ト云ヘルヨリ轉ズト云フ〕（一）女人ノ戒名ノ末ニ添フル語。（男ノ居士ニ對ス）（二）婦德ノ備ハル女子ノ稱。

だいし（名）［題詞］　だいじ（題辭）ニ同ジ。

だいし（名）［題詩］物ニ題シテ作リタル詩。杜甫詩、「把酒宜深酌、題詩好細論」

だいじ（名）［大事］（一）重キ事柄。尋常ナラヌ事。禮記、月令篇「毋作大事、以妨農事」太政官式「凡諸司差使遣諸國者、太政官先以状奏聞、大事臨時奏勅定、名大臣奏、小事令辨官仰式部」「大事ノ前ノ小事」（二）大事ハ愼ムベキ意ヨリ轉ジテ、大切ニスルコト。愼ニ守ルコト。[illegible] 狂言記、胡座「大事ノ勝負ヂャニヨッテ、拔カッテハナラヌ」「大事ニスル」「大事ニ思フ」　大事無しトハ、爲ストモ妨ゲナシ。仔細ナシ。

だいじ（名）［題辭］書物ノ初ニ記ス數句ノ語。序ニ類スルモノ。題詞。孟子題辭（趙岐）「孟子題辭者、所以題號孟子之書、[illegible]」正字通「註疏有孟子題辭、所以題號孟子之書」

だいじ（名）［題字］書物、又、圖卷ノ初、若シクハ、石碑ノ上ナドニ題スル文字。[illegible]

だいじ（名）［大慈］廣大ナル慈悲。人ニ樂ヲ與フル大ナル功力。法華經、科註「與一切衆生樂、即大慈力也」智度論、二十七「大慈、與一切衆生樂」

だいじ（名）［大字］（一）文字ヲ大キク書クコト。（細字ニ對ス）南史、劉穆之傳「[illegible]」（二）一、二、三、十ナドニ對シテ、壹、貳、參、拾ナドノ字ノ稱。（數字ノ條ヲモ見ヨ）天武紀、下、十四年春正月「[illegible]」[illegible]

だいじがゆ（名）［大師粥］（だいしこう（大師講）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。）

ダイジキてう（名）［大食調］〔だいじきてうト讀ムナラヒナリト云フ。大食ハ、胡語ナリト〕雅樂ノ曲、五調子ノ一。平調ノ分調子。[illegible] トモ云ヒ、唐ノ世ニ、俗樂二十八調ノ一トセリ。[illegible]

だいしこう（名）［大師講］（一）六月四日、比叡山延暦寺ノ、傳敎大師ノ法會。[illegible]（二）支那、天台宗ノ祖、智者大師ノ忌日、十一月廿四日ノ法會。[illegible] 小豆ノ粥ヲ調ジテ手向ク。[illegible] レヲ大師粥、又ハ、智慧粥ト云フ。（三）眞言宗ニテ、弘法大師ノ、報恩ノ爲ニ行フ法會。大師會。

だいじざいてん（名）［大自在天］梵語、Mahesvara.（摩醯濕伐羅）ノ譯語。色界ノ頂ニアリテ、三千界ノ主トシ、天竺ニテハ、造化ノ神ト稱トス。[illegible]

だいじせん（名）［内侍宣］〔内侍ハ藏人ノ事名〕太政官ヲ經ズシテ、直ニ藏人方ニテ、奉行スル宣旨。[illegible]

たいした（連體）［偉大］〔大層ノたいか〕大層ナル。仰山ナル。タイシテ。「たいした事ハナイ」たいしてワルクハナイ」

だいじだいひ（名）［大慈大悲］[illegible]

たいして（副）［偉大］　たいした（偉大）ニ同ジ。

だいじなし（形、二）［無大事］[illegible]

だいじみ（副）［大事］[illegible] 物ヲ愼ニ取扱フ狀ニ云フ語。[illegible]

だいじのまへのせうじ（句）［大事前小事］（一）大事件ハ、小事件ヨリ起ルモノナレバ、小事ヲモ愼シムベキコト。（二）大事ヲ成サムトアル故、大事ヲ行フ前ニハ、小事ヲモ愼シムベキコト。[illegible]

だいじやうじ（名）[illegible]

だいじやうゑ（名）[illegible]

だい-し-まゐり (名) 【大師參】 眞言宗ノ信徒ナドガ、弘法大師ノ忌日、毎月廿一日(大師ハ承和二年三月廿一日寂)大師堂ニ參詣スルコト。又、元三大師ナルニモ云フ。だいしこう(大師講)ノ條ノ(三)ヲモ見ヨ。

たい-しん (名) 【大身】 〔大身代ノ略。小身ニ對ス〕 身分ノ貴キ人。身代ノ多キ人。高祿ノ者。 普廣院殿御元服記「近習者大身達、歩行少少被召具之」

たい-しん (名) 【退身】 官ヲ辭シ、身ヲ退クルコト。辭職。致仕

たい-しん (名) 【對審】 たいけつ(對決)ニ同ジ。

たい-しん (名) 【耐震】 堅固ニシテ地震ノ災害ニ耐フルコト。「耐震家屋」

たい-じん (名) 【大人】 (一)人ノ美稱。德アル人。ウシ。(小人ニ對ス) 易經、上經、乾卦「飛龍在天、利見大人」 同、文言傳「夫大人者、與天地合其德」 (二)オトナ。成長シタル人。年長ケタル人。 揚子方言(漢、揚雄)「大人小兒泣而不止」 (三)父母ノ尊稱。 史記、高祖紀、高祖、父ニ對シテ「始大人以臣爲無賴」 後漢書、范滂傳「謂母曰、惟大人割不可忍之恩、勿增感戚」(母ニ對シテ)

たい-じん (名) 【太甚】 〔玉篇「太、甚也」 又、太甚ヲ、はなはだトモ訓ム〕 ハナハダシキコト。 詩經、大雅、蕩之什、雲漢篇「旱既大甚、蘊隆蟲蟲、不殄禋祀」

だい-じん (名) 【大臣】 (一)オホマチギミ。オホマウチギミ。オホイマウチギミ。オホマヘツギミ。オホイトノ。オトド。丞相。相國。太政官ノ上官ノ稱。太政大臣、左大臣、右大臣、內大臣等アリ。

各條ニ注ス。 內裏式「大臣若以宣命任之」 (二)泛ク、政府執政ノ高官ノ稱。 中庸、第廿章「敬大臣則不眩」 (三)今、內閣ニ、諸省ニ、其最高官ノ稱。「國務大臣」

だい-じん (名) 【大盡】 〔大身ノ轉カ〕 (一)田舍ナドニテ、身代ニ富メル家ヲ稱スル語。豪家。 (二)俗ニ、遊里ニ財ヲ散ズル客ノ稱。豪客。 異本、洞房語園、下「吉原ニテ傾城ノ客人ヲだいじんト云、世話ノ浮世雙紙ニ大盡ト書タルモノアリ、是ハ卒ニ作リタルモノナリ、並木壽見齋ト云ヒシ老人ハ、大人ト書ベシトイヒキ」 西鶴置土產(元祿)一「コノ大臣ノ奢、行年七十四マデ、腰ノ骨ノツヾク程、色サワギ」(大臣、大人トモ記シタリ)

だい-じん-ぐう (名) 【大神宮】 伊勢ノ二所ノ大神宮。內宮ハ天照大御神、外宮ハ豐受大神ニマシマス。皇大神宮(伊勢大神宮ノ條ヲモ併セ見ヨ) 續紀、廿一、天平寶字二年八月「告幣帛于伊勢大神宮」

だい-じん-け (名) 【大臣家】 〔職元祕抄「大臣マデ成ル家也」〕 古ヘ、清華ノ次、羽林家ノ上ニテ、近衞ノ大中少將ヲ兼任セズシテ、大臣ニ任ゼラルルヲ先途トスル家筋ノ稱。源氏ノ中院、藤原氏ノ正親町三條、三條西、ノ三家ナリ。 故實拾要、十一「大臣家、源中院、藤原三條、藤正親町三條、右三家ヲ大臣家ト號ス」 宇津保物語、樓上、上七十「大臣家ノ大饗ニナズラヘテ、內侍ノカミノ家ニ、大饗ユルサレン」

だい-じん-けち (名) 【大臣闕】 古ヘ、大臣ノ闕ケタル時ノ稱。 宇津保物語、藏開、中六十「イキタル甲斐モナキニ、だいじんけちノハベラザラムニハ、イカデカハ」

たい-じん-こく (名) 【大人國】 體格ノ、極メテ巨大ナル人類ノ住ムト云フ國。又、南

あめりか洲ノ、ぱたごにあ(Patagonia.)ヲ云フ。コノ地ノ土人ノ軀幹、殊ニ肥大ナルヲ以テナリ。

たい-しん-しゆ-じやう (名) 【大心衆生】 〔梵語、Sattva.(薩埵)ノ譯語。其心ヲ廣大ニシテ、衆生ノ苦樂ヲ感ジテ、自己ノ苦樂トスル意〕 さった(薩埵)ノ條ヲ見ヨ。

たい-しん-ぞめ (名) 【太申染】 染模樣ノ一種。古ヘ、江戶三十間堀ノ材木屋和泉屋甚助ト云フモノ、我名ノ世ニ響ケルヲ示サムガ爲、呉服屋ニ太申ノ二字ヲ模樣ニ染メテ賣ラシメタル、其染模樣。

だい-じん-ばしら (名) 【大盡柱】【大臣柱】 〔能狂言ニテ、わき役ノ常ニ此柱ノ下ニ著ク故ニ、脇柱ト云ヒ、其わき役ノ典型ハ、脇能物ノ大臣わきナルガ故ニ、大臣柱ト云フ〕 又、脇柱。能、又ハ、芝居ノ舞臺ニ向ッテ、右ノ端ニアル太キ柱。左ナルヲ見付柱、又ハ、目附柱トモ云フ。 劇場新話「芝居ニテハ、舞臺ノ向テ右ナルヲ大臣柱、左ナルヲ見付柱ト云フ」 狂言記、棒縛「太郎冠者、大臣柱ノ方、次郎冠者、見附柱ノ方」 後世ノ芝居ノ舞臺ハ、左右ノ二本ノ柱ヲ、大臣柱、又ハ、大神柱トモ云ヘリ。

だい-じん-ばしら (名) 【大神柱】 〔芝居ニテ、舞臺ノ新禱ノ時、天照皇大神宮ノ神符ヲ、此柱ニ打附クル故ニ云フ〕 大臣柱ノ俗稱。前條ヲ見ヨ。

だい-じん-まひ (名) 【大盡舞】 大黑舞ノ變ジタルモノ。唄ハ二十五段ノ長キモノナリ。正德享保ノ頃、新吉原ノ幇間二朱判吉兵衞(明和二年死、八十餘)ノ作リテ演ジタルニ起ルト云フ。 千紅萬紫(文化、

大田南畝)「裝具ニ大臣舞ノ歌ヲ書キテ」

だい-じん-めし (名) 【大臣召】 古ヘ、大臣ニ任ゼムガ爲ニ召シ出サルルコト。 とりかへばや、四「ソノコロ、大臣召アルニ、大將カケナガラ、內大臣ニナリタマヒヌ」

だい-しん-ゐん (名) 【大審院】 我ガ國、最上ノ普通裁判所ノ號。

たい-しや (名) 【代赭】 〔木名、赭石ナリ、支那、山西省ノ代州(今ノ代縣)ノ產ヲ、上品トスレバ名トス〕 鑛物ノ名。赤鐵鑛ノ粘土ト混ジタルモノ。赤ク黑ク、土塊ノ如シ、大小定マラズ、堅クシテ、外面ニ疣ノ如キモノアルヲ上品トス。破レバ鐵色ノ光リアリ、研スレバ朱黃色ヲナス、繪ノ具ニ用ヰル。赭石 代赭石 今ハ、人造ノ物アリ、專ラ繪ノ具トス。赤褐色ナリ。 名義抄「代赭、アカツチ」

たい-しや (名) 【大赦】 しや(赦)ノ條ヲ見ヨ。 漢書、宣帝紀「地節二年、鳳凰集魯郡、羣鳥從之、大赦天下」 平家物語、五、文覺被流事「美福門院カクレサセタマヒテ、大赦アリ」

たい-しや (名) 【退社】 社員ガ其社員タル地位ヲ退クコト。會社ヲ去ルコト。

たい-しや (名) 【代謝】 入リカハルコト。交替。 張茂先詩「日歇月欸、荏苒代謝」「新陳代謝」

たい-しや (名) 【大射】 古ヘ、朝廷ニテ、正月十七日ノ公事。建禮門ニテ行ハルル射禮。御代ノ初ニハ、豐樂院ニテアリ、其月ノ十五日ニ兵部省手番ト云フコトアリテ、射手ヲ調ヘ定ムル儀式アリ、親王以下初位以上、皆射ル。射禮ノ條ヲ參見セヨ。 天智紀、九年正月「詔士大夫等、大射宮門內」 孝德紀、三年正月「射於朝廷」

たいしゃ (名) [大社] 神社ノ格式ノ、大ニ位スルコト。(中社、小社ニ對ス)コレニ位スル社ハ、正一位ヨリ正三位ニ至ル位階アリ、(中社ハ、從三位ヨリ四位ニ至リ、小社ハ、五位ナリト)今ハ、官幣大社、國幣大社ノ別アリ。(官幣社、及、國幣社ノ條ヲ參見セヨ) 禮記、祭法篇「王爲二羣姓一立レ社曰二大社一」

だいしゃ (名) [臺榭] 〔書經、泰誓篇、孔傳「土高曰レ臺、有レ木曰レ榭」〕 土ヲ高ク築キタル上ニ建テタルうてな。タカドノ。 禮記、月令篇「可三以處二臺榭一」

だいしゃ (名) [第舍] ヤシキ。邸第。 史記、建元以來侯者年表「張章父故潁川人、爲二長安亭長一、失官、之二北闕一上書、寄二宿霍氏第舍一」

だいしゃ (名) [大蛇] ヲロチ。ウハバミ。 史記、高祖紀「行前者還報曰、前有二大蛇一、當レ徑」

たいしゃう (名) [大祥] 〔小祥ニ對ス〕 人ノ死後、三年目ニ行フまつり。三年忌。三回忌。大祥祭、大祥忌。せうしゃう(小祥)ノ條ヲモ見ヨ。

たいしゃう (名) [對象] 〔英語、Object. 獨逸語、Gegenstand. ノ譯語〕 客觀ノ目的物。認識ノ目的物。對境。

たいしゃう (名) [大將] (一)近衛府ノ長官。 續紀、廿六、天平神護元年二月甲子「改二授刀衛一爲二近衛府一、其官員、大將一人、爲二正三位官一」 (二)[illegible] 今、陸軍、海軍、第一等ノ武官。(三)汎ク、軍ヲ率キル長。一軍ノ總領。主將。上將。 [illegible] 將ヲバ、餘人ニ甚ダ仰ギ候ヘ」 (四)一羣、又ハ、一黨ノかしら。 「一黨ノ大將」

たいじゃう (名) [太上大上] (一)極メテヨキコト。最モスグレタルコト。最良。 大戴禮、曾子立事篇「太上樂レ善」 (二)てんし(天子)ノ稱。 [illegible] 漢書、[illegible]「太上、至尊之稱」

たいじゃう (名) [怠狀] (一)オコタリブミ。我ガ怠リノ過ヲ詫ブル旨ヲ記シテ、人ニ送ルモノ。アヤマリ證文。(二)詫ビ入ルコト。アヤマルコト。謝罪。 盛衰記、六、內大臣召レ兵事「サマザマ怠狀申サレケリ」 著聞集、十六、興言利口「車ヨリ引キオロシテ、サル事言ハジト、怠狀ヲセサセケリ」 同、十五、宿執「オサナキ心ニ、アサマシクナゲキテ、ウバニトモスレバ、ウレヘたいじゃうシケレドモ、ナヲユルサズ」

たいじゃう (名) [退讓] 謙リテ人ニ讓ルコト。 史記、衞將軍傳「大將軍爲レ人仁善退讓、以二和柔一自媚二於上一」

たいじゃう (名) [大嘗] 御即位後ノ新嘗ノ稱。天武天皇ノ頃ヨリカ、御代初ナルヲ大嘗、毎年ナルヲ新嘗ト云フ。大嘗祭ノ條ヲモ見ヨ。 續紀、廿六、天平神護元年十一月庚辰、詔「大新嘗」

だいしゃう (名) [代償] (一)他ニ代リテ辨償スルコト。タテヒキ。 宋史、[illegible]「[illegible]中裝二代償之一」 (二)及ボシタル損害ニ對シテ、其代價ヲ拂フコト。

だいしゃう (名) [大聖] 釋迦ノ如キ德高キ佛ノ尊稱。大聖主。 [illegible] 「[illegible] だいしゃう、オノオノモロトモニ」

だいじゃうぐう (名) [大嘗宮] [illegible]さい(大嘗祭)ノ條ヲ見ヨ。

たいしゃうぐん (名) [大將軍] (一)たいしゃう

ぐん(將軍)ノ條ヲ見ヨ。(二)八將神ノ一。曆ニ、其年ノ此神ノ居ル方(吉方ト反對ス)ヲ、三年塞リトシテ、百事ニ、皆忌ム。陰陽師祭星ノ精、八將神ノ一、太白神。三年每ニ一轉シテ、四方ニ巡ル。[illegible] 神、コレアル方角ハ、移徙ヲ忌ム。[illegible] (三)[illegible] [illegible]「昔、將軍トテ、イミジキ盜人ノ大將軍アリケリ」

だいじゃうくゎん (名) [太政官] 〔太政官廳ノ下略〕 (一)又、だじゃうくゎん。オホイマツリゴトノツカサ。一國萬機ノ政ヲ總ブル官。左右辨官、八省、諸國ヲ統ブ。[illegible] 「太政官內、總有二三局一、少納言、左辨官、右辨官、是也、大納言以上、[illegible]」 (二)明治[illegible]年[illegible]月八日ニ設置セラレタル最高ノ官衙。[illegible] 同十八年十二月廿二日廢セラレタリ。

だいじゃうくゎんちゃう (名) [太政官廳] [illegible] 下略シテ、太政官。上略シテ、官廳トモ云フ。太政官衙。太政官ノ役所。古ヘ、大內裏ノ內ノ朝堂ノ東ニアリ、[illegible] ハ、列見、定考等ノ儀式ヲ擧グル所ナリシガ、中世以後、大嘗祭ヲモ行フ事トナレリ。官、[illegible] 官、司。 儀式、九、月十日[illegible] 於二太政官廳一[illegible] 事アリ、ソレヨリ後ハ、一向ニ官ノ廳ニテ行ハルル事トナレル也」

だいじゃうくゎんぷ (名) [太政官符] だ[illegible]

たいしゃうこく (名) [大相國] 太政大臣ノ[illegible]

たいしゃうさい (名) [大祥齋] たいしゃう(大祥)ノ條ヲ見ヨ。

だいじゃうさい (名) [大嘗祭] [illegible] 大嘗會。天皇御即位ノ後、始メテ行ハルル新嘗祭ノ稱。御一代一度、至極ノ大儀ト[illegible]、舊曆十一月中卯日[illegible] [illegible] 朝堂[illegible] [illegible] 主基ノ國[illegible] [illegible] 四方[illegible] 近[illegible] 北[illegible] 黑木[illegible] 作リナリ[illegible] 北ニ[illegible] 此ハ、御沐浴ノ處トス、次ニ、[illegible]ヨリ奏リ[illegible] ニ[illegible] 中臣氏、天神ノ壽詞ヲ奏シ、[illegible] 標ノ山ヲ殿庭ニ引キリタス[illegible] 日、節會アリ、五節舞ヲ奏ス。 [illegible] 位之年[illegible] 七月以前即位、當年行事、八月以後即位、[illegible] 年行事」[illegible]

たいしゃうじ (名) [illegible]

召シ上ガル御飯ヲ裁スル机ノ如キ臺、ソレニ裁セタル御膳ヲ、だいしゃうじのおものト云フ。（強飯）表向ノ設ケノ御膳。（御内内ナルハ朝餉トテ、姫飯） 雅亮装束抄、一「大床子ハ、御帳ノ西ノ間ノ母屋ノ柱ノ際ニ立ツルナリ、ソノ體、上ハ管子ニテ、長サ一尺バカリ、脚ノ高サ二尺バカリナルヲ、二ツサシ合セテ据エテ、上ニ高麗ヲ只、半帖ノヤウニ、打裹ヲ著ケテ敷キテ、其ノ上ニ管圓座ヲ敷キタリ」 禁祕抄、上、御膳事「凡御膳、大床子御膳、朝夕、朝餉御膳、朝夕夜、皆一度供之、此御膳者、近代主上不著」 源、一、桐壺卅「大床子のおものナドハ、イトハルカニオボシメシタレバ」 枕草子、五、四十五段「コマイス、大しゃうじナド、モテマヰリテ」

だいしゃうじ (名) ［大常寺］ 神祇官ノ唐名。 職原抄、上「神祇官、唐、大常寺、又云、祠部、大常令」

だいじゃう-たいけい (名) ［大常大卿］ 神祇大副ノ唐名。又、大常卿。

だいじゃう-だいじん (名) ［太政大臣］ （一）又、だじゃうだいじん オホキオホイマウチギミ。オホマツリゴトノオホマツギミ。オホキオトド。太政官至極ノ官、左右大臣ノ上ニ居ル、職掌無シ、一人ニ師範トシテ、四海ニ儀刑タリ、有德ノ人ヲ待チテ任ズ、其人無ケレバ則チ闕ク。故ニ則闕ノ官トモ云フ。相國。 職原抄、上「太政大臣一人、師範一人、儀刑四海、無其人則闕、云云、故云則闕之官、有德之選、故非其人者、常不任之、又无職掌之官也」 天智紀、十年正月癸卯「以大友皇子、拜太政大臣」 文德實錄、九、天安元年二月「右大臣正二位藤原朝臣良房爲太政大臣」 （二）明治四年七月廿九日ニ設置セラレ、天皇ヲ輔翼シ、庶政ヲ總理シ、祭祀、外交、宣戰、講和ナドノ權限ヲ有セラレタリ。後、同十八年十二月廿二日、廢官トナル。

だいじゃうゑ (名) ［大嘗會］ （大嘗祭ヲ節會トシテ云フ稱） だいじゃうさい（大嘗祭）ノ條ヲ見ヨ。 續後紀、一、天長十年三月「卜定大嘗會事、以近江國高島郡爲悠紀、備中國下道郡爲主基」

たいしゃく (名) ［帝釋］ 梵天帝釋ノ略、佛經ニ、忉利天ノ喜見城ノ主、即チ、天帝ナリ。三十三天尊ト號ス。帝釋天。（帝釋天王ノ條ヲ見ヨ） 源、五十一、蜻蛉五「人ノイミジク惜シム人ヲバ、たいしゃくモカヘシ給フナリ」

たいしゃく (名) ［貸借］ 貸スト、借ルト。 韓愈詩「謂言安堵後、貸借更何患」

たいしゃく (名) ［對策］ たいさく（對策）ニ同ジ。 字類抄「對策、タイシャク」

たいしゃく (名) ［對酌］ 相對シテ、酒ヲ酌ミカハスコト。對飲。 李白詩「一杯一杯又一杯、兩人對酌山花開」

たいしゃく (名) ［大尺］ しゃく（尺）ノ條ヲ見ヨ。 照光記、建久七年五月十一日「一昨日有其召、以人人指圖、委被注大尺等」

たいしゃく-てんわう (名) ［帝釋天王］ （佛書ニ、梵語、釋迦提桓因陀羅、新譯、釋迦提婆因達羅（Śakra Devānām Indra.）トアリ、略シテ、釋提桓因。ソノ釋ハ釋迦ノ略、提桓ハ天、因陀羅ハ帝ニテ、能天帝ト譯ス） 略シテ、帝釋。帝釋天王ハ忉利天ノ主、須彌山ノ頂ニ居ル。 法華玄贊、二「梵云釋迦提婆因達羅、釋迦姓也、此翻爲能、提婆天也、因達羅帝也、正云能天帝、云云、此在妙高山頂、而住三十三天之帝主也」 三代實錄、三十四、元慶二年九月十六日「授正六位上、云云、石見國石塔帝釋天王國社神、並從五位下」

たいしゃ-せき (名) ［代赭石］ たいしゃ（代赭）ノ條ヲ見ヨ。

だい-シャモン (名) ［大沙門］ （一）にょらい（如來）ニ同ジ。 涅槃經、十八「佛世尊常不變易、具足十力四無所畏、大師子吼、名大沙門、大婆羅門」 （二）比丘ノ稱トモ云フ

たいしゅ (名) ［太守］ （一）上總、常陸、上野ノ三國ノ守ノ稱。特ニ親王ノ任ゼラルル官ト定メラレテ此稱アリ。但シ、遙任ニテ下向ナシ、介、代リテ守ノ事ヲ行フ。 類聚三代格、五、太政官符、天長三年九月六日「應親王任國守事、上總國、常陸國、上野國」 帝王編年紀、十三、天長三年九月「仲野親王（桓武皇子）始爲上總太守、賀陽親王（同皇子）爲常陸太守、葛井親王（同皇子）爲上野太守、親王任國自此始之」 職原抄、下、諸國「太守者、爲親王置之、親王任時不知吏務、仍件國以介爲守、乃令知吏務也」 神皇正統記、六、後醍醐「カクテ親王（義良）元服シタマヒ、直ニ三品ニ敍シ、陸奧太守ニ任ジマシマス、コノ國ノ太守ハ始メタル事ナレド、便リアリトテゾ任ジ給フ」 （二）後世、誤リテ、國主大名ノ稱。 快元僧都記、天文二年四月十九日「大守（北條）社參」 （三）支那ニテ、一州ノ治ヲツカサドル長官。秩ハ二千石ナリ。刺史。（秦ノ世ニ郡ヲ治ムル官ヲ郡守ト云ヒシヲ、漢ノ景帝、太守ト改ム。我ガ國ニ云フハ、彼ノ郡ニ當ツベシ） 史記、李將軍傳「於是、乃徙爲上郡太守、後廣轉爲邊郡太守」

たいしゅ (名) ［大酒］ オホザケノミ。過分ニ酒ヲ飲ムコト。多飲。豪飲

たいしゅ (名) ［對手］ 相手。匹敵。 舊唐書、宣宗紀「日本國王子入朝、貢方物、王子善棋、帝令待詔顧師言與之對手」

たいしゅ (名) ［退守］ 退キ守ルコト。 唐書、張仁愿傳「兵貴攻取、不貴退守」

たいじゅ (名) ［大儒］ 大學者。鴻儒。碩儒。 荀子、儒效篇「彼大儒者、雖隱於窮閻漏屋、無置錐之地、而王公不能與之爭名」

たいじゅ (名) ［大樹］ （一）大ナル樹。大木。 （二）大樹將軍ノ略。征夷大將軍ノ異稱。 後漢書、馮異傳「異爲人謙退、云云、諸將並坐論功、異常獨屏樹下、軍中號曰大樹將軍」 天智紀、八年十月「大樹將軍之賞」 太平記、十二、公家一統政道事「居大樹位、全武備守、云云、於大樹任、不可有子細」

だいしゅ (名) ［大衆］ （梵語、摩訶僧伽（Mahāsaṃgha.）ノ譯語） しゅうと（衆徒）ノ條ヲ見ヨ。 法華經、序品第一「佛說是經已、結跏趺坐、入於無量義處三昧、身心不動、雨曼陀羅華、云云、散佛上及諸大衆」

だいしゅ-おく (名) ［大衆屋］ 寺院ノ、炊グ所。 箋注倭名抄、五「伽藍具、食堂、注、楊氏云、食堂、僧食處也、寺炊爨處、謂之大衆屋」

たいしゅつ (名) ［退出］ シリゾキイヅルコト。罷ルコト。罷散。 盛衰記、廿五、此君賢聖并紅葉山葵宿禰事「大殿御涙ヲ押拭ハセ給テ、ユユシキ賢皇哉ト思召、御退出アリ」

たいじゅつ (名) ［體術］ じうじゅつ（柔術）ニ同ジ。やはらとり（柔術）ノ條ヲ見ヨ。

だいしゅひつ (名) ［大手筆］ （一）椽大ノ筆。巨筆。 （二）堂堂タル文章。 晉書、王珣傳「珣夢、人以大筆如椽與之、既覺、語人曰、此當有大手筆事、俄而帝崩、哀冊謚議、皆珣所草」

たいじゅん (名) ［退閏］ 前年ノ十一月朔日ノ冬至ナル時ハ、翌年ノ閏ハ前月ニ置クコト。例ヘバ延元三年戊寅ハ、八月閏ナルベキヲ、七月閏トシタルガ如シ。

たいしょ (名) ［耐暑］ アツサシノギ。 揚雄、逐貧賦「堪寒耐暑、少而習焉」

たいしょ (名) ［大暑］ （一）二十四氣ノ一。（其條ヲ見ヨ） （二）夏ノ甚シキ暑サ。極

暑。|酷暑| 文同詩「大暑若鴻鑪」

たい-しよ (名) |太初| 天地開闢ノハジメ。易經、繫辭、上傳「是故易有太極」注「太極者天地未分以前、元氣混而爲一、即是太初太一也」

だい-しよ (名) |代書| だいひつ(代筆)ニ同ジ。

だい-じよ (名) |大序| 歌舞伎ノ狂言ノ發端。序幕。開場

たい-しよう (名) |太衝| 陰暦九月ノ異稱。沈存中筆談、七「九月木可爲車幹、故曰太衝、太衝者、日月五星所出之門戶天衝也」徒然草、百六十三段「太衝ノ太ノ字、點ウツウタズト云フコト、陰陽家相論ノ事アリケリ」

たい-しよう (名) |對稱| 語學ノ語。代名詞ノ、話シカクル方ニ用キルモノノ稱。汝、君、貴殿ナドノ如シ。第二人稱。

たい-しよう (名) |對證| 相對シテ、互ニ證據ヲ正シ合フコト。

たい-しよう (名) |大升| 升ノ大ナルモノ。三升。雜令「量十合爲升、三升爲大升」

だい-じよう (名) |大乘| (梵語、摩訶衍 (Mahāyāna.) ノ譯語。大ハ、教法ノ廣大ナルコト、乘ハ、教法ノ能ク衆生ヲ乘セテ悟界ニ到ラシムルモノニテ、運載ノ義) 佛教ノ語。教法ノ中ニ於イテ、一切智ヲ求メ、如來ノ知見ヲ開キ、其力用ヲ以テ、無量無數ノ衆生ヲ救濟シテ、安樂ヲ得シムルコト。(小乘ニ對ス) 上乘 コレニ對シテ、皮相淺近ノ教理ヲ說キテ、灰身滅智ノ空寂ノ涅槃ヲ求メシムル教ヲ、小乘ト云ヒ、二乘ノ聲聞ト緣覺トハ小乘ニテ、其智、大乘ヨリ見レバ、タダ闇夜ノ螢火ノ如シ。無量壽經「猶如大乘、運載群萌、出生死之故」法華經、譬喩品「若有衆生、從佛世尊、聞法信受、勤修精進、求一切智、佛智、自然智、無師智、如來知見、力、無所畏、愍念安樂無量衆生、利益人天、度脫一切、是名大乘、[illegible]年[illegible]月十六日「大乘者、不叶末世之機、人之可學者、小乘教也者」二中歷、三、八宗教「[illegible]、天台、華嚴、法相、三論(以上大乘)、律宗、倶舍、成實(以上小乘)」

だい-しようこんがうほふ (名) |大勝金剛法| 密教ノ修法。戰ニ臨ミテ勝利ヲ祈ルナドニ修ス。

だい-じようすい (名) |大乘水| 酒ノ異名。(日蓮書)

たい-しようてう (名) |戴勝鳥| (勝ハ支那婦人ノ首飾、花簪ノ類) (一)きくいただき(菊戴)ニ同ジ。(二)やつがしら(八頭)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

たい-しよく (名) |對食| 相向ヒテ食事スルコト。相伴。

たい-しよく (名) |大食| オホグヒ。分外ニ物ヲ食フコト。多食。健啖。菅家集、十八、飲食「三條中納言某卿ハ、人ニスグレタル大食ニテゾ有リケル」

たい-しよく (名) |退食| 公ヨリ退キタル暇ノコト。又、朝廷ヨリ家ニ歸リテ飯ヲ食フコト。詩經、召南、羔羊篇「退食自公、委蛇委蛇」注「退、退朝也、食、食於家也」

たい-しよく (名) |退職| (一)職務ヲ退クコト。(二)武官、又ハ、法官ノ如キ終身官ノモノガ現職ヲ退クコト。「退職判事」

たい-しよくくわん (名) |大織冠| 古ヘ、至高ノ位ニツキテ授ケラレシ冠ノ名。織ニテ作ル、後ノ正一位ニ當ル。天智紀、三年二月「其冠有二十六階、大織、小織、大縫、小縫、大紫、小紫、大錦上、大錦中、大錦下、小錦上、小錦中、小錦下、大山上、大山中、大山下、小山上、小山中、小山下、大乙上、大乙中、大乙下、小乙上、小乙中、小乙下、大建、小建、是爲二十六階焉」同、八年十月「[illegible]東宮大皇弟於藤原內大臣家、授大織冠與大臣位」

だい-しよにん (名) |代書人| 他人ノ爲ニ代筆スル人。多クハ公官署、役場等ノ傍ニ居テ、諸願届ノ代筆ヲ業トス。又、地方裁判所ニ屬シテ、訴狀ナドノ代筆スルモノヲ、司法代書人ト云フ。

だい-じより (名) |臺尻| 小銃ノ木ニ、木造ニテ添ヘタルモノ。幅廣ク扁クシテ凹ミアリ、放ツトキ、頰ニ當テ狙ヒヲ定ム。略シテ、臺。銃牀

だい-しりう (名) |大師流| 書流ノ一、弘法大師ノ書風。上代流コレヨリ別ル。

たい-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) |對| (一)ムカヒアフ。ムカフ。[illegible] (二)ムカフ。コタフ。[illegible] 天下」注「答天下嚮周之望」(三)アタル。ハムカフ。抗ス。[illegible]不動如山」

たい-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) |體| 身ニツケ守ル。體シテ行フ。法ル。[illegible] 桓公二年「禮以體政、政以正民」

たい-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) |帶| (一)オブ。ツク。佩ク。[illegible]弓箭」竹取物語「此ノ守ル人人モ、弓矢ヲたいしテ居リ」(二)タヅサフ。持ツ。[illegible]三、[illegible]伊勢大神宮ノ人皆ヲ[illegible]テ、[illegible]

だい-す (名) |大衆| だいしゆ(大衆)ニ同ジ。宇津保物語、國讓、中「此ノ子ドモアマタモテ侍レド、マコトニハ怖シウ、オモテブセナルベキハ侍ラネド、だいすニマジリハンモ、オモタダシク侍ルベキモセナク」

だい-す (名) |臺子| 茶湯ノ式ニ用キル棚ノ如キモノ。正式ニ用キルモノトゾ。四柱ニテ、上下ニ板アリ、風爐、茶碗、茶入、建水、諸具ヲ載ス。茶道、[illegible]時、村田珠光臺子ノ式ヲ定ムト云フ。臺子(及棚子)、竹臺子、紙臺子等アリ。[illegible]

だい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) |題| 外題、題目、題字ナドヲ記ス。[illegible]

だい-す (名) |大呪| [illegible] 陀羅尼 (Dhāraṇī.) ノ譯語。呪語ノ[illegible]大呪ト云フ」[illegible]尼)ノ敬稱。[illegible]「アミダノ大呪、イトタフトクホノボノ聞ユ」

たい-すう (名) |大數| (一)大ナル數。[illegible]記、淮陰侯傳[illegible]知之」(二)オホヨソノ數。概數。

だい-すう (名) |代數| (一)代ヲ重ヌル數。[illegible] (二)代數學ノ略。數學ノ一部。數ノ代用トシテ、文字、記號ヲ用キテ、數ノ性質、及、其關係ヲ研究スル術。數字ヲ以テ數字ニ代ヘテ行ヘバ云フ。

だいすき (名) 【大好】 大イニ、スクコト。最モ好ムコト。「アノ人ハだいすきダ」

だいすけ (名) 【大介】 おほすけ(大介)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

たいすゐ(タイ-スイ) (名) 【大水】 (一)オホミヅ。洪水。禮記、月令篇「季秋行夏令、則其國大水」(二)ウミ。禮記、月令篇「季秋之月、云云、爵入大水爲蛤」注「大水、海也」(三)大ナル河、又ハ湖ノ稱。書經、微子篇「若涉大水其無津涯」

たいせい (名) 【泰西】 〔泰ハ大ニ通ジ、大西ノ義。昔、支那ニテハ、南海(今ノ南支那海)以西ノ地ヲ西洋ト云ヒ、其西ノ極ト云フ意ニテ、歐羅巴諸國ヲ、泰西(大西)ト云ヒシニ因ルト云フ〕 せいやう(西洋)ニ同ジ。

たいせい (名) 【大政】 天下ノ政治。唐六典、八「侍中之職、云云、所謂佐天子而統大政者也」 北史、魏文帝紀、論「朔總大政、一日萬機、十許年間、曾不暇給」「大政奉還」

たいせい (名) 【大聲】 (一)大ナル聲。オホゴヱ。謝靈運、初富春渚賦「動聲隨之大聲」「大聲ヲ發ス」(二)大ナル道理ヲ含メル言詞。(三)高雅ナル音律。莊子、天地篇「大聲不入於里耳、折揚皇荂、則嗑然而笑」

たいせい (名) 【大成】 (一)多クノモノヲ集メテ組織シ、又ハ、作成スルコト。孟子、萬章、下篇「孔子之謂集大成、集大成也者、金聲而玉振之也」(二)大ナル成功。大イニ成シ遂グルコト。禮記、學記篇「古之教者、云云、九年知類通達、強立而不反、謂之大成」

たいせい (名) 【大勢】 (一)オホヨソノアリサマ。三國志、魏志、劉放傳「威刑既合、大勢以見」「大勢決セリ」(二)天下ノ事ノナリユキ。「大勢ニ通ズ」(三)オホゼイ。大軍。

鐵函心史「元虜大勢、合圍月餘」(四)大ナル勢力。晉書、平原王幹傳「大勢難居、不可不慎」

たいせい (名) 【胎生】 (一)人、獸等ノ、腹籠リニテ子ヲ生ムコト。(鳥魚ナドノ、卵生ニ對ス) 禮記、樂記篇「毛者孕鬻、胎生者不殰」(二)佛語ニテハ、たいしやうト讀ミ、四生ノ一トス。

たいせい (名) 【對生】 〔互生ニ對ス〕 植物ノ葉ノ、莖幹ノ節每ニ、二枚宛、相對シテ生ズルコト。ソノ打違ヒニ生ズルヲ、互生ト云フ。

たいぜい (名) 【大勢】 〔小勢ニ對ス〕 多人數。オホゼイ。タゼイ。大衆。太平記、三、笠置軍事「城ニ籠ル所ノ官軍ハ、サマデ大勢ナラズト云ヘドモ、勇氣未怠」

たいせいけう(タイセイ-キヨウ) (名) 【大成教】 (一)神道ノ一派。福岡市鹽町ニテ創立者ノ孫、島村仙修ノ唱道スル教會。(二)神道ノ一派。明治初年、平山省齋ノ唱道セシモノ。唯神ノ大道ヲ發揚スルヲ目的トス。舊稱、大成教會。(三)支那、明末ニ起リシ教派ノ一。儒佛道ノ三教ヲ綜合スルヲ目的トス。大學派

たいせいでん (名) 【大成殿】 〔大成ハ、孟子、萬章、下篇「孔子之謂集大成」ノ句ニ基ヅキテ、孔子ヲ尊稱シテ、大成至聖先師トナス〕 孔子ヲ祀ル堂ノ稱。(支那、宋ノ崇寧三年、孔子ノ廟ヲ大成殿ト稱シ、本邦ニテハ、元祿四年、聖堂ヲ上野ヨリ本郷湯島ニ移シテ、大成殿ト稱セリ)先聖殿。聖堂。孔廟。昌平志、二、事實「元祿三年庚午七月、改作孔廟於昌平、云云、十一月二十一日、大君(綱吉)親製大成殿三字、云云、以

賜信篤、云云、四年辛未正月、新廟落成」

たいせう(タイ-シヨウ) (名) 【對照】 〔英語、Contrast.ノ譯語〕 美術上ノ語。彼此ヲ、テリアハスルコト。ミクラブルコト。

たいせう(タイ-シヨウ) (名) 【大詔】 詔敕ヲ敬ヒテ云フ稱。「大詔渙發」

たいせう(タイ-シヨウ) (名) 【待詔】 (一)詔命ノ下ルヲ待ツコト。天皇ノ大命ヲ待ツコト。漢書、公孫弘傳「天子擢弘對爲第一、云云、待詔金馬門」(二)支那、漢ノ時代ヨリ歷代、文學ノ士ヲ任用セシ官名。「翰林院待詔」

だいせう(ダイ-シヨウ) (名) 【大小】 (一)おほいなるトちひさきト。史記、商君傳「大小僇力、本業耕織」 源、十、榊「大小ノ事ヲ隔テズ、何事モ御ウシロミトオボセ」(二)陰曆ニ、一箇月ノ日數ノ三十箇日ナルヲ大(大盡)ト云ヒ、二十九日ナルヲ小(小盡)ト云フ。陽曆ニテハ、其三十一日ナルヲ大トシ、三十日、又ハ、二十八日ナルヲ小トス。又、曆ノ其年ノ大ノ月ト小ノ月トヲ記シタルモノ。略曆。五元集拾遺、大小吟「大庭ヲ、シロクハク霜、師走哉」(元祿十年大ノ月、二四六八九十一十二月)(三)刀ト脇差ト共ニ帶ブル時ニ、統ベテ云フ語。卽チ刀ハ大ニテ、脇差ハ小ナリ。兩腰。太刀ハ軍器ニテ、太刀持ニモタセテ、己レハ小サ刀ナルニ、從者ナキモノハ兩刀ヲ一ニ帶セシガ、遂ニ貴人マデモ二刀ヲ帶ブルコトトハナリタリ 此習慣移リテ、士分ハ兩刀、庶人ハ一刀トナレリ。伊達日記、上「三人ノ者共、刀脇指ハ被取、何共可仕樣無之候」同、中「御腰物大小、御小袖十」 室町日記、七「兩腰、鑓、刀、鞍、鎧、武具ノ類」(四)オホツヅミ、コツヅミノ略。守武千句、八「ツヅミハアレド、知ラヌ大小」

※**だいせう**(ダイ-シヨウ) (副) 【大小】 イクラカ。多少。スコシハ。(關西)

だいせうのじんぎ(ダイ-シヨウ-ノ-ジンギ) (名) 【大小神祇】 大社小社ノ神祇。誓詞ノ末書ニ、大小神祇ノ御罰云云、ト記ス。

だいせうのじんぎぐみ(ダイ-シヨウ-ノ-ジンギ-グミ) (名) 【大小神祇組】 德川氏初世ニ於ケル旗本ノ無賴ノ徒ノ團體。此組ニハ、幕府旗本ノ若手ナド多ク加ハリ居タリ、故ニ、旗本奴ノ名モアリ、水野十郎左衛門ナドソレナリ。大小神祇ハ誓詞ノ語ナリ、組ヲ結ブ時ノ語ヲ取リテ名トス。武士ノ加ハリ居タルニ因リテ此ノ如クナルベシ。白柄ノ大小。白柄組。(後ニ、旗本ノ士ナルハ、罰セラレテ止ミニキ)

たいせき (名) 【大石】 (一)オホイシ。イハホ。王隱晉書「陳總詣終南山請雨、先除小石祠、唯存大石一所、而祈之」(二)圍碁ニテ、大ナル場面ニ連リアル石。

たいせき (名) 【堆積】 (一)ツミカサナルコト。(二)河水、海水、又ハ、風等ガ、運搬シ來ル土沙、沙礫ナドノ集積、又ハ沈澱スルコト。(地理學ニテ)

たいせき (名) 【退席】 其席ヨリ立退クコト。禮記、玉藻篇「侍坐則必退席、不退則必引而去君之黨」(黨ハ、傍ナリ)

たいせき (名) 【對席】 (一)席ノ差向ヒナルコト。(二)雙方共ニ、同一ノ場所ニ出ヅルコト。

〜**たいせち** (名) 【大切】 次條ノ語ニ同ジ。榮花物語、十二、玉村菊「心カシコカラム御乳母ハ、人ノ御爲ニたいせちノモノニゾアリケル」 讃岐典侍日記「サマデたいせちニモ思シ召サジト思ヒテ」

たい-せつ (名) 大切 丁寧ニスルコト。懇ニ扱フコト、オゴソカニ護ルコト。大事ニスルコト、鄭重 明良洪範、六、「福尾𩎟兵衛、主人病氣大切ナレバ殉死スベシト思ヒ定メ」

たい-せつ (名) 大節 (一)大ナル節義。重大ナル節操。 論語、泰伯篇「可以託六尺之孤、可以寄百里之命、臨大節而不可奪也、君子人與、君子人也」 (二)重大ナル事件。 左傳、成公二年「義以生利、利以平民、政之大節也」

たい-せつ (名) 大雪 (一)多ク積レル雪。 左傳、隱公九年「平地尺爲大雪」 (二)二十四氣ノ一。(其條ヲ見ヨ)

たい-せつ (名) 大刹 大ナル寺。巨刹。大伽藍。 元史、鎖咬兒哈的迷失傳「起大刹于京西壽安山」 太平記、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「如何ナル大刹ノ長老、大耆舊ノ人モ、路次ニ行キ會フ時ハ、膝ヲカガメテ地ニ跪キ」

たい-せつ (名) 帶說 讓ルコトヲ與奪、急ナルコトヲ緩急、國ノコトヲ國家ト云ヒテ、其奪、緩、家ナドノコト コレハよト云ヒ、きふト云ヒ、こくト云フ音ノ多キニ因リテ、與奪ノ與、緩急ノ急、國家ノ國ト云フ意ナルナリ。(かね、金山。さみち、徑路。くさ、草子。ほぢょ、輔助。つま、妻子。ほらんぐ、虎狼ノ類) 宇津保物語、俊蔭「岩木ノ皮ヲ着モノトシ」 易經、繫辭、上傳「潤之以風雨」(コノ岩、風モ帶說ナリ)

たい-せふ (名) 大捷 大イニ勝利ヲ得ルコト。オホガチ。 三國志、魏志、王基傳「夫大捷之後、上下輕敵、輕敵則慮難不深」

たい-せん (名) 大川 オホカハ。大河。 書經、說命「若濟巨川」 [illegible]

たい-せん (名) 大箭 オヤフネ。大イナル船。 史記、張儀傳「一大船積粟」 [illegible]

たい-せん (名) 對戰 相對ヒテ戰フコト。應戰。

たい-ぜん (名) 大漸 大イニ進ムコト。(病ニ云フ)又、帝王ノ病氣ノ重ルコト。 書經、顧命篇「嗚呼疾大漸、惟幾」

たい-ぜん (副) 頽然 (一)倒レ、クヅルル狀ヲ云フ語。(二)醉ヒ、ツブルル狀ヲ云フ語。 柳宗元、始得西山宴游記「引觴滿酌、頽然就醉、不知日之入」 (三)老衰シタル狀ヲ云フ語。

たい-ぜん (副) 泰然 落着キテ、騒カズ動カヌ狀ニ云フ語。ドッシリ。自若。從容。 元史、許衡傳「家貧躬耕、云云、處之泰然」

だい-せん (名) 代錢 だいきん(代金)ニ同ジ。

だい-せん (名) 大仙 (一)スグレテ、タフトキ仙人。 顏況詩「身披三六銖衣、億劫爲大仙」 (二)如來ノ別稱。 探玄記、四「涅槃中、名佛爲大仙也」 般若燈論「釋迦牟尼亦名仙、於中最尊上、云云、故名大仙」

だい-せんきょく (名) 大選擧區 [中、小選擧區ニ對ス] 大選擧區制ニ由リテ、其區內ヨリ數人ノ衆議院議員ヲ選出スル選擧區

だいせんきょく-せい (名) 大選擧區制 [中、小選擧區制ニ對ス] 選擧區ノ區域ヲ廣クシテ、一區ヨリ數人ノ衆議院議員ヲ選出スル制度

だい-ぜん-だいぶ (名) 大膳職 オホカシハデノツカサ。職ノ一、宮內省ニ屬シ、節會ノ事、諸臣ニ賜ハル饗膳ノ事等ヲ掌ル。 [illegible]

だい-せん-せかい (名) 大千世界 佛語 須彌山ノ四方ニ、七山八海アリテ圍繞シ、更ニ鐵圍山ヲ以テ外郭トナシ、一ノ日月、晝夜ニ囘リテ、四天下ヲ照スヲ、一國土トシ、一千ヲ積ミテ、小千世界ト名ヅケ、又其小千世界、一千ヲ積ミテ、中千世界ト名ヅケ、又其中千世界、一千ヲ積ミタルヲ、大千世界トスト云フ。此小千世界、中千世界、大千世界ノ三種ヲ合ハセテ、三千大千世界ト名ヅクトゾ。 [illegible]

だい-ぜんてい (名) 大前提 [英語、Major premise.ノ譯語。小前提ニ對ス] 論理學ニテ、三段論法ノ三個ノ前提ノ中、大概念ヲ有スル前提ノ稱

だいぜんのだいぶ (名) 大膳大夫 大膳職ノ長官 大膳頭

たい-そ (名) 太祖 其朝ノ初代ノ帝王ノ稱號。初代ノ帝王。初祖。 [illegible]

たい-そう (名) [illegible] (一)[illegible] (二)[illegible]

たい-そうみ (副) 大略 [illegible]

だい-ソウぢやう (名) 大僧正 [illegible]

たい-そく (名) 大息太息 オホイキ。タメイキ。 史記、高祖紀「喟然太息曰、嗟乎大丈夫當如此也」

たい-そん (名) 大孫 帝王ノ位ヲ嗣ギ給フベク定メテアル皇孫ノ尊稱。 漢書、成帝紀「元帝在太子宮、生甲觀畫堂、爲世嫡皇孫、宣帝愛之、字曰太孫、常置左右」

だいそれた [illegible] 大それた (一)大、太カ) 至ッテ、ケシカラヌコト。アルマジキコト。 毛吹草 [illegible]、だいそれた事、大膽ハソレメモノサルワ、ソレガソレタルハ、甚レアルマジキコトノ有リタルナリ、故ニ喩ヘイツトハ [illegible] ソリト宙リ込ンデ、だいそれた身ノ上咄シ」「だいそれたコトヲシタ」

たい-だ (名) 怠惰 オコタルコト。ナマケ。 [illegible]

たい-たい (名) 對對 相對ヒテ、優劣上下ナキコト。對等。 [illegible]

たい-たい (名) ていていノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

たい-たい (名) [illegible]

西ニ從ヒ此中原息ニ鼓擊ニ一

だい-たい (名) 【大帶】 官ノ禮服ヲ着ル時、締ムル帶。長サ五尺、廣サ四寸、布ヲ心トシ、帛ヲ表裏トス。紳。 倭名抄、十二「腰帶類」紳、大帶、一名博帶、着ニ禮服一之時帶也」

だい-たい (副) 【大體】 オホヨソ。アラマシ。大略。大抵。大概。 淮南子、氾論訓「觀ニ小節一足ニ以知ニ大體一矣」

だい-だい (名) 【代代】 新舊、相續クコト。世世。 陸宣公文「代代爲ニ國勳臣一」

だい-だい (名) 【橙】 〔代代ノ意、新果ミノレバ、舊果落ツ、人ノ世世相承クルガ如シ。或ハ、蔕ニ臺二ツアレバ云フト云フハ、アラジ〕 (一)樹ノ名。幹、高ク、嫩キハ刺アリ、老ユレバ無シ。葉ハ扁ク大キク、兩刻缺アリテ兩段ノ如シ。くねんぼノ葉ニ比スレバ短シ。夏ノ半ニ、小白花ヲ開ク、實ノ形、くねんぼヨリ大キク、皮ノ肌、細カク、臭氣アリ、味苦ク、食フニ堪ヘズ、瓤ヨリ酢ヲ取ル。實ノ蔕、二重ナリ、冬、熟シテ黃ニ變ジ、春、又、綠ニ回ル、此ノ如クニシテ、年年落チズシテ形大キクナル。故ニ代代ト名ヅケテ、春ノ春盤等ノ飾トシテ祝フ。回青橙 今、多クハ臭橙ヲ以テ、マガヘテ用キル。(二)鄙語ニ、睾丸。(形ニ就キテ云フ) 寶曆ノ川柳「だいだいハ、年德サマノ、疝氣ドコ」(年德神棚ノ注連飾)

だい-だい-かぐら (名) 【太太神樂】 伊勢大神宮ヘ、庶人ノ奉ル神樂。かぐら(神樂)ノ條ヲ見ヨ。 寶一居千句「何方モ、治マル御代ノ、伊勢參、太太神樂ノ、小かぐら」

だい-だい-こう (名) 【太太講】 講中ヲ立テ、月掛、日掛ニテ錢ヲ貯ヘ、其中、十人乃至二十人ヅツ、年年、鬮引ニテ、當籤ノ者ガ伊勢ノ大神宮ヘ參詣シ、太太神樂ヲ奉ルコト。伊勢講トモ云ヒキ。 犬筑波集(永正)「結解ヲヤスル、伊勢かうノ錢」道者船、サナガラ算ヲ、沖津舟」

だい-たい-こつ (名) 【大腿骨】 下肢骨中、最上部ニアル骨。全身中、最モ堅牢、且、長大ナルモノ。其上端ハ球頭狀ヲナシテ髖骨ノ外側面ノ深窩中ニ挾リテ、股關筋ヲナシ、下端ハ膝關節ニヨリテ脛骨ト結合ス。

たい-だい・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【怠怠】 (回回しノ音便ト云フ、回ノ條ヲ見ヨ。横ザマニユガメリ、直カラズ、宜シカラズノ意) 等閑ナリ。疎略ナリ。カロガロシ。アルマジキ事ナリ。 大和物語、下「面ヲ守ラセ給ヒテ、物ヲ宣ヒ給ハズ、たいだいし卜思シタルナリケリ」(帝ノ愛シ給ヘル鷹ヲ逸シタルニ) 源、一、桐壺、九十「世ノ中ノ事ヲ思シ捨テタルヤウニ成リユケバ、イトたいだいしきワザナリト、人ノ朝ノ例マデ引出テササメケリ」(唐玄宗ノ政事ニ怠ルコト) 同、四、夕顏、七三十「馬ニテ物セムト宣フヲ、たいだいしき事トハ思ヘドモ」(進マヌコトトハ、思ヘドモ) 同、五十、浮舟、九五十「アヤマチシタル者ヲ、イカデカ使ハムトテ、云云、女ノたいだいしきゾトテ、館ノ內ニモ置給ヘラザリシカバ」 竹取物語、下「竹取ノ翁ヲ召シテ仰セ給フ、汝ガ持テ侍ルカクヤ姫ヲ奉レ、云云、御使ヲ給ビシカド、カヒナク見エズナリニケリ、斯クたいだいしくヤハ習ハスベキト仰セラル」 天治字鏡、十二、十五「攸攸(悠悠)遠也、大伊大伊志久」 常陸風土記、行方郡、當麻鄉「狹、地深淺取ニ惡路之義一謂ニ之當麻一(俗曰、多支多支斯)」

だい-だいり (名) 【大內裏】 〔皇居ヲ、內裏ト云フニ對シテ云フ〕 古ヘノ宮城ノ稱。今ノ京都ニ、二條城ノ北ニアリキ、(平城京ノ大內裏ハ、今ノ奈良市外ノ都跡村ニアリキ)大極殿、內裏諸宮殿、其他、官、省、寮、司、職等ノ諸官府アリシ一郭ノ地ナリ。東西八町、南北十町、四方、各、三門、合ハセテ十二門アリ。中頃、荒漠タル原野トナリ、內野ト稱シタリ。 辨內侍日記「閑院殿ヘ入ラセオハシマシテ、大內裏ノ事思ヒ出デテ」

たい-たう (名) 【帶刀】 腰ニ刀ヲ帶ブルコト。 隋書、禮儀志「百官燕會、竝帶レ刀升レ座」

たい-たう (名) 【大纛】 〔纛ハ玉篇「羽葆幢也」集韻「軍中大旗也」〕 (一)オホガシラ。犛牛ノ尾ヲ以テ作リタル大旗。天子ノ車ニ副ヘテ立ツ。 張繹詩「旌旗隨ニ大纛一、鼓鐸雜ニ鳴貺一」 (二)轉ジテ、天子ノ御旗。

たい-たう (副) 【駘蕩】 春ノ景色ノ長閑ナル狀ニ云フ語。 謝朓、直ニ中書省一詩「朋情以鬱陶、春色方駘蕩」

だい-たう (名) 【大刀】 〔小刀ニ對ス〕 大イナル刀。太刀。たち(太刀)ノ條ヲモ見ヨ。

だい-たう (名) 【大唐】 ちゅうくゎ(中華)ノ條ヲ見ヨ。

だい-だう (名) 【大道】 (一)幅廣キ道。オホドホリ。廣小路。(横路、小路ニ對ス) 通衢 列子、說符篇「大道以ニ多岐一亡レ羊」 五十年忌歌念佛(寶永、近松作)中「手取リ足取リ、大道ヘ追ヒ出ダシ」 (二)人ノ實踐躬行ヲナスベキ道。人道。道德。 禮記、禮運篇「大道之行也、天下爲レ公、選レ賢與レ能」 史記、匈奴傳「蹈ニ大道一、壞ニ前惡一以圖ニ長久一」

だい-だう-あきんど (名) 【大道商人】 街頭ノ路端ニ品物ヲ竝ベテ賣ル商人。小間物、玩具、飴、菓子ナド賣ルモノヲ、三寸ト云ヒ、(昔ハ一尺三寸ノ臺ニ竝ベテ賣レリ、一尺ヲ略シテ云フ)葛餠、鮨、おでん、蒲燒、てんぷら、茶飯、あんかけ、甘酒、氷水ナド賣ルモノヲ、はりものト云ヒ、見世物、齒磨、石鹼、陶器、早繼粉、鼠取ナド賣ルモノヲ、てき屋ト云フ。

だい-たう-とう (名) 【大刀頭】 〔大刀ハ、刀ノ形シタル、支那古代ノ錢 ソノ頭ニ環アリ、環ハ還ト同音ナル故、還ルノ意ニ用キル〕 故鄕ニ還ルノ隱語。 古詩賞析、六、古絕句「藁砧今何在、山上復有レ山、何當ニ大刀頭一、破鏡飛ニ上天一」注「大刀頭、刀上有レ鐶也、云云、刀上有レ環、借作ニ還歸之義一」 高適詩「臨レ君從レ此去、何日大刀頭」

だい-たう-まい (名) 【大唐米】 〔舶來種ナレバ云フ〕 稻ノ一種、葉細ソク短ク、熟スルコト早クシテ、夏秋ノ際ニ收ム、米モ多シ。粳ニ似テ、粒小サク細長ク、性甚ダ淡ク、粘氣ナクシテ、消化シ易ケレバ、病人ノ食ナドトス。一名、タウボシ。又、粒多クハ、赤ケレバ、あかおめノ名モアリ。 秈

だい-だう-めぐり (名) 【大道廻】 兒童ノ戲。ダウダウメグリ。ドウドウメグリ。古クハ、メグリ。行道メグリ。 倭訓栞、前編「めぐり、榮花談ニ、チゴドモノめぐりスルトモ見エタリト云ヘリ、今モ兒輩ノ戲レニ、大道めぐりトテアリ」 嬉遊笑覽、六、兒童「童ノどうどうめぐりハ、行道めぐりナリ、行道ハ佛家ニスル事ナリ、古ハ、タダめぐりトノミ云ヒシト見ユ」

だい-たそう (名) 【大多數】 非常ニ多數ナルコト。「起立大多數」

だい-タフ (名) 【大塔】 比叡山ノ中央ナ

ル大塔。大塔宮(護良親王ヲ申スモ、延暦寺ノ座主トシテ此ニ居給ヒシガ故ナリ)。山中ニ東塔、西塔アリ、横川ニモ塔アリ、コレヲ三塔ト云フ。皆塔ヲ中心トシテ、塔頭ニ僧房ヲ構フレバ、塔ハ僧徒聚居ノ稱トナリ、三塔ノ男僧、西塔ノ武藏房辨慶ナドアリ。又、高野山、其他ニモ大塔アリ。 百練抄、五、康和五年十一月廿五日「公家供ニ養高野大塔一」

だいだぼっち (名) [大太郎法師] (大太發智ノ義) 又、大太法師。訛シテ、だいたらぼ、ち。絶大ナル怪物ノ稱。(武藏相摸ニ云ヒ傳フ)大男ノ所爲ノ、跡ノ誰トモ知レヌヲ云フ。巨人。(一寸法師ニ對ス) 怪巨人 平家物語、八、豐後日向の界姥が嶽事「豐後國ニ大太夫ト云フ者ノ娘ニ、大蛇通ジテ男子ヲ生ム、七歳ニシテ元服シテ大太ト云フ」 紫一本、大太橋「武藏國多摩郡ニ大太ぼ、ちガ掛ケタル橋ノ由、云ヒ傳フ(大太ぼっちトハ百合若ノ事ナリ、上野妙義山ノ麓ニ百合若大人跡石、射拔ノ岩ト云フアリ)」 松屋筆記、五、だいらぼっちノ足跡「武藏相摸ナドノ國人ガ常ニだいらぼ ちトテ、形大ナル鬼神ノヤウニイヒアヘルモノアリ、相摸野ノ中ニ大沼ト云フ沼アリ、ソレハだいらぼっちガ富士ノ山ヲ脊負ハントセシ時足ヲフミシアト也トイヒ、マタ此原ニ藤ノタエテナキハ、ソノヲリ脊負シ繩ノキレタレバ藤ヲモトメケレドモナカリシ故ノ因緣也ト、イヒツタヘタリ、筑波嶺ニモ、大多法師ガ足跡ト云フ事ヲ記シタリ、與清按ニ 台記久安二年九月廿七日ノ條ニ、此日詣ニ石山寺ニ云云、見ニ關明井一乘惠日、道場法師以レ爪掻ニ出泉水ハ又有ニ道場法師足跡一尋、二石ト見エ、本朝文粹、日本靈異記、前本今昔物語ナドニモ道場法師ガ怪力ノヨシアレバ、ソノココロコトゴトシク世ニイヒツタヘケン諺ガ、今ニナホ田舍ニノコレルナルベシ」 海道記、十二「世ニ大多法師ノ[illegible]ト云物ヲ傳フ、之ヲ思フニ、ソノカミノ童話ニ類ル事ノアリシヲ捨キタルナラン、己モ一本ヲ收メタリ、ソノ號ニ、大太[illegible]メシガ、大多法師ノ[illegible]ニツキテ、魚腹ノ中ニ[illegible]シテ居ケルヲモトトセシ也、コレハ吞舟之魚ト云フ事ノ漢土ニ見エタルヨリ、思ヒヨレル[illegible]ナルベシ、大多法師ト云フコトハ、甲越ノアタリニテ、大キナル足跡ヲミレバ、大多法師ノ足跡ト云フニイヘリ、甲斐ニイフ巨人跡ノ事ナリ」 同、十八「大太坊、[illegible]、日州[illegible]田大太夫女、[illegible]大蛇[illegible]、所[illegible]見[illegible]大太童、[illegible]、行山野[illegible]曰[illegible]、大太坊[illegible]、世ニ大太法師ガ[illegible]ト云フ一軸アリ、此等ノ事ヨリ附會セシモノカ」

だいたほふし (名) [大太法師] 前條ニ同ジ。

たいだん (名) [對談] 相對ヒテ話スコト。談合。 神仙傳(晉、葛洪)「與ニ賓客一對談、共飲食」 天神記(正德、近松作)二「時平公ニ對談シ、謀シ合ハセテ思フママニ、本望遂ゲサセ申スベシ」

だいたん (名) [大膽] (小膽ニ對ス) 肝太キコト。何事ヲモ畏レヌコト。 列仙傳(漢、劉向)「趙國武夫、公侯干城、膽ニ大膽一也」 狂言記、佛師「某ハ大膽ナ者デ御座ル、生レテ此ノカタ、[illegible]一本側、タ事モナウテ、シタタカナ御佛ヲ調ケ取ッテ御座ル」「大膽不敵」

だいダンナ (名) [大檀那] (檀那ノ語原ヲ見ヨ) 寺院ニ、布施物ナドヲ多ク喜捨スル檀家。オホダンナ。大檀越 夢窓國師語錄、上、圓覺寺錄「此香、奉ニ爲本寺大檀那、資ニ倍福算ニ」

だいだんゑん (名) [大團圓] ヲハリ。オホギリ。終局。大尾。

だいたらぼっち (名) [大太郎法師] だいだぼ、ち(大太郎法師)ノ條ヲ見ヨ。 常陸風土記、[illegible]上古、巨大ナル人ノ住メル由ヲ記シテ、踐跡三十餘歩ト云ヘリ、同[illegible]東[illegible]村ニ、大太郎坊ノ足跡ト云フ池アリト云フ。美濃古跡考ニ、石津郡大清水兜村ニ、大平法師足跡トテ、此法師、[illegible]江湖水ヲ一跨ニ超エタリトアリ、又、播磨風土記、託賀郡ニ、昔、大人アリ、其踏ミシ處、所所ニ沼ヲ成セリトアリ。

たいち (名) [大智][大知] (小智ニ對ス) スグレタル智慧。ダイチ。 荀子、天論篇「大巧在レ所レ不レ爲、大智在レ所レ不レ慮」 中庸、第六章「舜其大知也與」

たいぢ (名) [對治][退治] (慧琳音義、四十九「大莊嚴論、十、對治、上對字、說文從レ業、業音柴學反、從レ土、土音仕、從レ寸、下治字、音持、字書云、治理也」) (一)佛經ノ語。人人ヲ、佛法修得ノ機根ニ對シテ、相應ノ方便ヲ以テ、修治スルコトナリ、惡魔降伏ノ意。又、適當ノ方法ヲ以テ、人ヲ佛道ニ化セシムルコト。 [illegible] (二)敵ヲ道ケ討チ平グルコト。討チ亡スコト。退治ナド書ク。 [illegible] (三)[illegible]

たいぢ (名) [對峙] 相向ヒテ峙ツコト。 [illegible]賦「排ニ而足ニ而分跳、[illegible]心而對峙」

だいち (名) [大智] たいち(大智)ニ同ジ。 [illegible]

だいぢ (名) [illegible]

[illegible]「[illegible]於[illegible]大地[illegible]」

たいちのうた (句) [illegible] [illegible]羅ルト云フヨリ出デタルコトニテ、轉ジテ、徒ラニ災ヒノ來タルヲ待ツ狀ニ云フ語。 [illegible]廿八、[illegible]ニテ、災ヒノ起コラン事ヲ、今ヤ今ヤト待ツ居タルコソ[illegible]」

だいちのひ (名) [大智日] 佛經ノ語。日光。[illegible]

たいぢん (名) [對陣] 相對ヒテ陣取ルコト。 [illegible]

たいぢん (名) [大陣] [illegible]

たいぢん (名) [滯陣] 軍隊ガ一定ノ地ニ、永ク屯在スルコト。

だいちん (名) [大鎭] (小鎭ニ對ス) 古[illegible]

たいちやう (名) [台帳] (台ハ、臺ノ[illegible]) [illegible]聽キ入ルルコトノ[illegible]

だいちやう (名) [illegible]

たいちやう (名) [illegible]

だいちやう (名) [illegible]

たいちやう (名) [illegible]

古へ、諸國ニテ、歳入ヲ豫算シ、兼ネテ人口ヲ檢覈スルニ便ゼシ帳簿。計帳。主計寮式、下「凡調庸大帳二通、皆據二去年帳一勘二其出入一」同「凡計帳、大帳、皆丁之數、有二損益一、隨即返帳」(二)次條ノ(二)ニ同ジ。

だい-ちやう (名) 臺帳 (一)商家ニ賣買ノ高ヲ記シ置キテ、勘定ノ基トスル帳面ノ稱。賣買ノ多カラムヲ祝シテ、大福帳ナドトモ呼ブ。(二)歌舞伎狂言ノ筋書、臺詞ヲ始メ、道具、衣裳、鳴物等ノ事マデ、殘ラズ記シタル書。正本。大帳。

だい-ぢやう (名) 大定 大ナル禪定。又、佛心ノ澄明ナルコト。不動經「唯固二滿大定智悲一、無二不二具足一」榮花物語、十八、玉臺「十方無畏ノ相ハ起居スルニアリ、大定智悲ノ相ハ息ニアリ」

だいちやう-し (名) 大帳使 古へ、調庸正税ノ損益等ヲ記シタル大帳ヲ、諸國ヨリ京都ニ持チ上ル使。萬葉集、十七「掾(越中ノ)大伴宿禰池主、附二大帳使一赴二向京師一」類聚三代格、十二、齋衡二年六月廿五日「太政官符、云云、附二大帳使一別レ狀申上」民部省式、下「出擧帳、鄕戶、課丁帳、並附二大帳使一」

だい-ぢやうふ (名) 大丈夫 丈夫ト云フニ同ジ。マスラヲ。孟子、滕文公、下篇「富貴不レ能レ淫、貧賤不レ能レ移、威武不レ能レ屈、此之謂二大丈夫一」

だい-ぢやうぶ (名) 大丈夫 (一)殊ニ健全ナルコト。(二)極メテ堅固ナルコト、決シテ危キコト無キコト。萬全。

たい-ちゆう (名) 大蟲 虎ノ異名。(下ノ出典ヲ見ヨ) 海錄、十七、六十條「虎ヲ大蟲ト云事、水滸傳ニミエタリ、諸書ニ虎ヲ避ケタル異名ナリト云ヘリ、或人云、搜神記ニ大蟲山ト云地名アリ、コレ虎ノ事ナリト云フ(搜神記「扶南范尋養二虎於山一、有レ犯レ罪者、投與レ虎、不レ噬乃宥レ之、故山名二大蟲一」山城志云「大蟲峯在二靜原村南一、釋峯延管居二鞍馬寺一、驛二巨蟒於此一、因名」見二元亨釋書一、下莊子カ故事ニ、虎ヲ長蟲ト云ヘリ、烏山氏ノ水滸傳解ニハ、虎ヲ大蟲ト云フ事ハ、本、長沙景欽ト云フ佛書ニ出ヅトアリ」) 唐語林(宋、王讜)「愛宣州觀察使、怕二大蟲一、謂レ虎也」

たい-ちゆう (名) 胎中 ハラゴモリ。

たい-ぢゆう (名) 耐重 堂閣ノ四稜、椽ノ下、柱ノ上ナドニ彫刻セル蹲リタル鬼ノ形ニテ、擎ゲ擧グル勢ヲナスモノ。

だい-ちん (名) 大椿 長壽ナルニ云フ語。(下ノ出典ヲ見ヨ) 莊子、逍遙遊篇「上古有二大椿者一、以二八千歲一爲レ春、八千歲爲レ秋」

たい・ぢる・ぢル・ぢレ・ぢ・ぢ・ぢヨ (他動、上二) 退治 討チ平グ。ホロボス。討平。

だい-づ (名) 大豆 (一)豆ノ一種。夏、種ヲ下ス、苗ノ高サ二三尺、葉圓ク尖ル、秋、小白花、又ハ、帶紫紅色ノ花ヲ開キ、叢ヲ成ス。莢ノ長サ、一寸餘、豆ハ、味噌、豆腐、醬油ヲ造リ、又、油ヲ取ルナド用多シ。豆ノ色、種種ナリ。シロマメ、クロマメ、アヲマメ、ウヅラマメ等アリ、各條ニ注ス。(二)專ラ、黃大豆ノ稱。志ろまめ(白豆)ノ條ヲ見ヨ。

だい-つう (名) 大通 〔大通人ノ略〕(一)人情ニ精通シテ居ルコト。又、其人。淮南子、詮言訓「聖人無二屈奇之服一、無二瑰異之行一、服不レ視、行不レ觀、言不レ議、通而不レ華、窮而不レ懾、榮而不レ顯、隱而不レ窮、異而不レ見レ怪、容而與レ衆同、無二以名一レ之、此之謂二大通一」(二)天明年間、遊興ノ道ニ通達セシ嫖客ヲ大通ト云ヘリ、當時、有福ニシテ放蕩ナル者十八人アリ、コレヲ十八大通ト稱シキ。(通人ノ條ヲ見合ハセヨ)最モ名高キハ藏前ノ札差、大口屋治兵衞(曉雨)、同大和屋太郞次(文魚)、西河岸材木商十曉等ナリ。作者部類「森島中良モ、築地善好ト稱シテ(芝金交歿セシ寬政ノ末)十八人ノ一ト云フ」(大口屋治兵衞曉雨ハ、力自慢ニテ俠客風ノ男ナリ、其吉原通ノ扮裝ハ、黑小袖ニ小口ノ紋付ノ着流ニテ、紋ハ大黑ノ色ザシナリ、コレハ二代目柏莚ガ助六ヲ演ズル時、杏葉牡丹ノ色サシノ紋ヲツケタルヲ思ヒシモノ、萬事、助六ニ擬シ、鮫鞘ノ一腰、一ツ印籠、下駄穿ニテアリキ)

だいつう-じん (名) 大通人 つうじん(通人)ノ條、及、前條ヲ見ヨ。

だい-づかす (名) 大豆粕 マメカス。大豆ノ油ヲ榨リ取リタル粕。肥料トス。

だい-づけ (名) 臺附 烏帽子ヲカブル時、先、額ニツクルモノ。狂言記、烏帽子折「額ニおだいづけト申スモノヲツケマスル、サアサア、急イデツケイ」

たい-てい (名) 台鼎 〔三台星ト三足ノ鼎ト、共ニ三、公ニ譬フ〕三公ノ稱。後漢書、陳球傳「公出レ自二宗室一、位登二台鼎一」

たい-てい (名) 退廷 朝廷ヨリ退出スルコト。又、法廷ヨリ退出スルコト。

たい-てい (副) 大抵 〔抵ハ至也、大體ノ歸スルトコロ〕(一)オホヨソ。オホカタ。タイガイ。史記、酷吏傳「大抵盡詆以二不道一」(二)ナミナミ。ヒトトホリ。浮世親仁形氣(元文、自笑)一「鬢ヒゲ白髮ナルロカラ、大人ゲナイコトイフハ、たいていノコト」

たい-てう (名) 退朝 朝廷ヨリ退出スルコト。舊唐書、中宗紀「負レ扆當レ陽、雖レ受二宗枝之敬一、退レ朝私謁、仍用二家人之禮一」

たい-てう (名) 退潮 ヒキシホ。干潮。

たい-てき (名) 大敵 人數多ク、勢強キ敵。大勢ノ敵。史記、衞將軍傳「小敵之堅、大敵之禽也」「大敵ト見テ恐ルル勿レ」油斷大敵」

たい-てん (名) 大典 (一)重大ナル典禮。舊唐書、職官志、集賢學士之職「掌刊二緝古今之經籍一、以贊二明邦國之大典一」(二)重大ナル法典。憲法發布勅語「此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス」(三)古ヘノ太宰府ノ職員。職員令、太宰府、云云、大典二人」

たい-てん (名) 退轉 (一)佛敎ノ語。ブトシザリシ、移リテ止マヌコト。シリゾキウツルコト。道位ノ上ニテ、下位ニ退クコト。涅槃經「心无二退轉一、卽便前進」盛衰記、九、山門堂塔事「堂堂ノ行法モ、悉ク退轉ス」狂言記、隱笠「三ツノ寶ヲ取ッテ歸ラセラレタ、程久シイ事ナレバ、叢ト笠トハ退轉致ス」(二)身代潰レテ、他處ニ移ルコト。破產。(三)轉ジテ、中絕スルコト。謠曲、道成寺「久シク撞鐘退轉仕リテ候フヲ」

だい-てん (名) 大篆 てんしよ(篆書)ノ條ヲ見ヨ。漢書、藝文志「史籀十五篇」注「周宣王太史、作二大篆十五篇一」

だい-てんぐ (名) 大天狗 てんぐ(天狗)ノ條ヲ見ヨ。太平記、十八、高野與二根來一不和事「我慢、邪慢ノ大天狗共、如何ニシテ、人ノ心中ニ依託シテ、不退ノ行學ヲ妨ゲムトシケレドモ」

たい-と (名) 泰斗 〔泰山北斗ノ略、各條ヲ見ヨ〕(一)泰山ト北斗ト。(二)最モ仰ギテ尊崇スベキ德、學、才等アル人。(三)學者ノ大家ノ稱。

たい-ど (名) 大度 度量ノ寬ク大イナルコト。大度量。史記、高祖紀「常有二大度一、不レ事二家人生產作業一」「寬仁大度」

たい-ど (名) 態度 ナリフリ。ソブリ。列子、說符篇「作動態度、無二爲而不レ竊レ鈇」

だい-ど (名) 代度 佛經ノ語。還俗ノ僧

ニ代ルタメ、又ハ賤シキモノノ貴キモノニ代リテ、ソノ冥福ヲ祈ルタメニ得度スルコト。又其人。續紀、二、大寶元年三月「令[illegible]度[illegible]俗[illegible]代[illegible]一人」

たい-とう (名) [擡頭] (一)カシラヲ、モタグルコト。開天遺事、唐、王仁[illegible]「苔[illegible]立[illegible]身ニ[illegible]之下、使[illegible]人擡頭不[illegible]得」 (二)上表ナドニテ、文中ノ敬フベキ語ヲ、次ノ行ヘ送リ、欄ヨリ上ヘ出シテ記スコト。一字上ゲ(一擡頭)、二字上ゲ(二擡頭)等、其語ニ因リテ、次第アリ。(平出ノ條ヲ見ヨ) 明律附解「第一擡頭、第二擡頭」

たい-とう (名) [對等] 相向ヒテ等シキコト。雙方、優劣高下ナキコト。

だい-とう (名) [大東] (一)東ノ極。極東。詩經、[illegible]頌、閟宮篇「奄[illegible]有龜蒙[illegible]遂荒[illegible]大東[illegible]」 (二)轉ジテ、日本ノ呼稱。支那ニ對シテ云フ卑屈稱ナリ。

だい-どうぢ (名) [大童子] (一)齡タケタル童子。宇津保物語、國譲、上「[illegible]ワカホフシ十人、大どうぢ廿人バカリ」 (二)寺ニテ召シ使フ童子。著聞集、十一、畫圖「大童子、法師バラ走リヨリテ、取リトドメントシタルヲ」

だい-どう-せう-い (句) [大同小異] 大イニ同ジクシテ、少シ異ナリ。大凡ハ似テ、僅カニ違フ。莊子、天下篇「大同而與[illegible]小同[illegible]異、此之謂[illegible]小同異[illegible]萬物畢同畢異、此之謂[illegible]大同異[illegible]」

だい-どうみゃく (名) [大動脈] 心臟ノ左心室ヨリ出デ、上ニ行キテ分レ、主幹ハ後左方ニ轉ジ、脊椎體左側ニ沿ウテ下ニ行キ、腰椎ノ前面ヲ經テ、第四腰椎ニテ左右ノ總腸骨動脈トナル血管。

だい-とうりゃう (名) [大統領] 「英語、President. ノ譯語」 共和政治ノ國ノ、政府ノ最高官ノ號。民主國ノ元首。

たい-とく (名) [大德] 大イナル道德。書[illegible]、[illegible]「不[illegible]矜[illegible]細行[illegible]終累[illegible]大德[illegible]」

たい-どく (名) [胎毒] 古言、クサ。兒ノ胎中ヨリ受ケタル瘡。淫瘡。

だい-とく (名) [大德] 僧ノ、行滿チ德高キモノノ稱。ダイトコ。後ニハ、僧ノ泛稱トモス。[illegible]「於[illegible]南大國中[illegible]有[illegible]大德[illegible]比丘[illegible]」 大和物語、上「其ノ名ヲナン賢護大どくト云ヒテ、後マデモサブラヒケリ」

たいどく-くだし (名) [胎毒下] マクリ。胎毒ヲ下ストテ、生兒ニ飮マスル藥。

たい-とけい (名) [大刀契] 太刀ト、契ト。大刀ハ百濟ヨリ奉レル靈劍四柄ナリ、(雜劍四十柄ヲ加ヘテ、書ニ四十四柄ト記ス)契ハ魚形ニ作リ、諸司ニ用キル割符ニテ、七十四アリ、(長サ二寸餘)大刀契辛櫃トハ、此二種ヲ納レ置クモノナリ、(內侍所ニアリ)重寶トシテ行幸ニ具セラレヌ。コレヲ一物ト思ヒ、ヒガメテだいとけいト讀ムナリト云フ。(節刀ヲ參見セヨ) 小右記、[illegible]年十一月十[illegible]日、[illegible]「自[illegible]溫明殿[illegible]神鏡大刀幷契鈴、不[illegible]能[illegible]取出[illegible]」十七日、神鏡大刀[illegible]契[illegible]亡、云云、[illegible]大刀[illegible]契[illegible]等少少在[illegible] [illegible]大刀契[illegible]、大刀四[illegible]代之[illegible]也、[illegible]、上、大刀契[illegible]記[illegible]三尺、[illegible]二尺、[illegible]十、其中一[illegible]銘、北斗、左青龍、右白虎、其外不[illegible]、[illegible]之二[illegible]之一[illegible]、日月[illegible]之[illegible]、三公[illegible]戰之[illegible]刀[illegible]、[illegible]本[illegible]二、[illegible]年[illegible]月廿七日、[illegible]三行[illegible]堂供[illegible]アリ、云云、[illegible]ニテ[illegible]、[illegible]記ニハ作[illegible]、[illegible]、其後ニ[illegible]、[illegible]ニハ少納言藤[illegible]、[illegible]ニ大刀[illegible]セラル、[illegible]會記(後[illegible]院、永和元年)「[illegible]第ノ[illegible]ト云フ事ハ、天子[illegible]累代ノ[illegible]物タルユヱニ、節大刀契ナドヲ行幸ニハカナラズ供セラル[illegible]也」 [illegible]、[illegible]、[illegible]、だいどけいノ、カラ櫃、[illegible]御座ノ御太刀、[illegible]、[illegible]、[illegible]サマニ六波羅ヘ參レリケレバ」 紀略、[illegible]、三、天德四年九月廿[illegible]日、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]大刀[illegible]、[illegible]

だい-とこ (名) [大德] [だいとくノ轉] 僧ニ對スル尊稱。だいとく(大德)ニ同ジ。[illegible]、三十九、[illegible]だいとこ[illegible]、[illegible]記、中、[illegible]、[illegible]、[illegible]、上三十「忌ムコトウケ給ヒシ日、アル大とこノ說法ヲヒキカケタリシママ」 [illegible]、四、夕顏「[illegible]大とこノ聲タフトクテ、經打チヨミタルニ」 [illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]大德ニ[illegible]師、上人ト云フガ如シ)

だい-どこ (名) 臺所 だいどころノ訛。

だい-どころ (名) [臺所] [臺盤所ノ略] くりや(廚)ニ同ジ。[illegible]、[illegible]、下、[illegible]御厨子所、內膳、[illegible]ノ外ハ、[illegible]、不可申、而ニ御室ニハ寬平法皇ノ御時ヨリ御廚所ト申傳タリ、[illegible]、[illegible]、[illegible]ハ[illegible]、[illegible]內[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ御廚所ヲバ臺所トモ可[illegible]申ニヤ」 著聞集、十六、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]寺[illegible]廿一[illegible]「夕ニハ臺所、中居ノ火ノ廻リ」

たい-とん (名) [退遁] ニゲ、シリゾクコト。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]志[illegible]、退将[illegible]而[illegible]居[illegible]」

タイトル (名) [英語、Title.] 稱號。肩書。又、活動寫眞ノ字幕。

たい-ない (名) [胎內] ハラノナカ。ハラノウチ。[illegible]、[illegible]、[illegible]「母ニテ候フモノノたいないニヤドリナガラ、父ニワカレテ、果報拙キモノナリ」

だい-ないき (名) [大內記] ないき(內記)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]、[illegible]、[illegible]一日太政官符、令[illegible]內記四人[illegible]大內記二人[illegible]

たいない-くぐり (名) [胎內潜] ちのわ(茅輪)ノ條ヲ見ヨ。

だい-なう (名) [大腦] [小腦ニ對ス] 腦ノ大部分ヲ占メ、表面ハ[illegible]回[illegible]テ[illegible]谿ヲ[illegible]シ、溝ニヨリテ分劃セラレタル[illegible]等ノ[illegible]起リ有スル柔軟ナルモノ。中央ニ縱走セル溝ニヨリテ、左右ノ大腦半球ニ分カル。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]作用ナドヲ[illegible]

だい-なごん (名) [大納言] [納言ハ、令義解、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]義] (一)オホイモノマウスツカサ。官名。中納言ト共ニ、ノマウスツカサ。太政官ノ次官ナリ。正、權アリ、內ニ奏シ、外ニ宣スルヲ掌ル。右大臣以上ト共ニ政ニ參議ス。大臣闕クレバ、代リテ理ス。故ニ亞相ノ稱モアリ。唐名、亞相。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、宇津保物語、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]

だいなごん-あづき (名) [大納言小豆] (一)あづきノ一種。粒大キク、濃紅ニシテ、味最モ美ナルモノ。略シテ、だいなごんトモ云フ。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ヘ」 (二)ほまりかつき(沒精)ニ同ジ。[illegible]

だい-なし (名) [無盡ノ義ニテ、臺座後光ナシ] [illegible]ソシマツナドノ、(一)全ク亂レ毀レ、汚レタル物事ノ稱。[illegible](關東) [illegible]、[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]ナリクル[illegible]、[illegible]、だいなし、ナリテアリクルリ、[illegible]、[illegible]カヘリ」

たいなふ (名) 怠納　納ムルヲ、オコタルコト。(租税ナド)

だいなふ (名) 代納　(一)他人ニ代リテ納附スルコト。(二)年貢米ナドノ代リニ、金銭ヲ以テ納ムルコト。

ダイナマイト (名) 〔英語、Dynamite.〕 にとろぐりせりんト珪藻土、又ハ、鋸屑トヲ合ハセ、或ハ、智利硝石トばるぷトヲ混合シテ製シタルモノ、熱、又ハ、打撃ヲ受クル時ハ、猛烈ナル力ニテ爆發ス。爆發藥。雷火藥。

だいなん (名) 大難　甚シキ災難。大ナル難儀。 史記、周本紀「所レ怒甚多而不レ備ニ大難ニ」

だいに (名) 大貳　太宰府ノ次官 少貳ノ上ニアリ。權帥ヲ置カザル時ニノミ置ク。 職原抄、下「太宰府、云云、有ニ權帥ニ者、不レ任ニ大貳ニ、任ニ大貳ニ者、不レ任ニ權帥ニ、雖レ無ニ其闕ニ、已爲ニ流例ニ」

だいにち (名) 大日　〔大日如來ノ略。梵語、摩訶毘盧遮那(Mahāvairocana.)ノ譯語〕 佛經ニ、如來ノ一、卽チ、日輪ナリ。 大日經疏、一「梵音、毘盧遮那者、是日之別名、卽除暗遍明之義也」 夫木抄、三十四「大日ノ、種子ヨリ出デテ、サマヤ形、サマヤ形マタ、尊形トナル」

だいにどくくわい (名) 第二讀會　議會ニテ、第一讀會ニ於テ、大體、是認セラレタル法律案ナドノ、二回目ノ討議。タダ箇條ノ審議ニ就キテノミ行フ

だいににんしよう (名) 第二人稱　語學ノ語。人代名詞ノ、自己ト對話スル相手方ノ名ニ代ヘテ用キルモノ。なんぢ、あなた、ノ類。對稱。第二人稱代名詞 (第一人稱、第三人稱ニ對ス)

たいにん (名) 耐忍　耐ヘ忍ブコト。コラフルコト。ガマン。カンニン。辛抱。

たいにん (名) 大任　重キ役目。大役。 孟子、告子、下篇「天將レ降ニ大任於ニ是人ニ也、必先苦ニ其心志ニ」 太平記、三十九、諸大名讒ニ道朝ニ事「以ニ無才庸愚身ニ、大任重器ノ職ヲ汚シ候ヒヌレバ」

たいにん (名) 體認　其意味ヲ十分ニ會得スルコト。ヨク心ニ、ノミコムコト。

だいにん (名) 代人　代リテ、事ヲ辨ズル人。名代。代理人。

だいねん (名) 大念　大念佛ノ略。次條ノ(二)ヲ見ヨ。 蓮疑論、七「大念者、大聲稱レ佛也、小念、小聲稱レ佛也」

だいねんブツ (名) 大念佛　(一)多クノ僧ノ、大聲ニテ念佛スルコト。大念。 謠曲、百萬「此ノ頃ハ、嵯峨ノ大念佛ニテ候程ニ、此ノ幼キ人ヲツレ申シ、念佛ニ參ラバヤト存候」 小町踊(寛文、立圃)春「千本ノ、花ニ聲アリ、大念佛」 (二)大念佛宗ノ略。ねんぶつしゆう(念佛宗)ノ條ヲ見ヨ。

だいの (連體) 大　オホイナル。

だいのう (名) 大農　(一)自ラ手ヲ下サズ、人ヲ使役シテ農事ヲ行ハシムル農夫。(二)資財豐富ナル農夫。 劉克莊詩「桑孔何知富大農」 (三)大規模ノ農業。

たいのだい (名) 對代　平安朝時代ノ、貴族ノ家屋建築ノ一種ニテ、對の屋ヲ作ラズニ、寢殿ノ東西ニ公卿座ヲ構ヘ、子午(南北)ニ中門ヲ續ケタルモノ。 大饗要抄東對事、上官座、永保、三、大右記云、東對代母屋無ニ西庇ニ、鋪ニ高端疊六枚ニ云云、爲ニ上官座ニ」

だいのもの (名) 臺物　大イナル臺ニ載セタル料理品。 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)一「病ヒ癒エテ後、恰ビ事ノ振舞アリ、酒盛リノ半、臺の物ニ鶴ノ作リタルヲ取リアゲ」

たいのや (名) 對屋　〔三光院内府記「對ト云フハ、主殿ニ對スル儀也」〕 古ヘ、禁中、貴族等ノ邸ニ、寢殿ニ對ヒテ、別ニ設ケタル家。多クハ廊ニテ通ズ、卽チ女房ノ住ム長局ナリ。其製、角木ヲ入レズ、狐戸ナシトゾ。略シテ、東の對(一の對)、西の對(二の對)、北の對ナド云フ。(寢殿造ノ條ヲ見ヨ)更ニ略シテ、たい。 下學集、上、家屋門「對屋、タイノヤ」 撮壤集、中「對屋、タイノヤ」 榮花物語、三、樣樣悅「たいノ御方、イト色メカシウ」

たいのやづくり (名) 對屋造　家屋ノ造リ方ノ一。屋根ノ切妻ノ造ナルモノ。 海人藻芥、下「對の屋作りトハ、軒八十間、廿間ナリトモ、妻ハ三間也、實ニ所用ノ子細アラバ、何間モ庇ヲ指スベシ、孫子庇マデモ無ニ子細ニ哉」

たいは (名) 大破　家ナドノ、甚シク破レ毀ルルコト。大破損。

だいば (名) 臺場　大砲ノ臺ヲ居エテ、敵ニ備フル處。四方、郭ヲ築キ、海陸要害ノ地ニ設ク。イシビヤダイ。砲臺。

たいはい (名) 大盃　オホサカヅキ。 狂言記、鱸庖丁「最前ノ五盃サヘ迷惑ニ存ジマシタニ、イハンヤ其ノ大盃デ、存ジモヨラヌコトデゴザル」

たいはい (名) 大敗　非常ナル敗北。オホマケ。大敗績。 左傳、桓公五年「蔡、衛、陳皆奔、王卒亂、鄭師合以攻レ之、王卒大敗」

たいはい (名) 大旆　大ナル旆。主ニ、天子ノ用キルモノ。 儀禮、十、覲禮篇「天子乘レ龍、載ニ大旆ニ、象ニ日月、升龍、降龍ニ」

たいはい (名) 頽廢　クヅレ、ヤブルルコト。 後漢書、翟酺傳「大學辟雍、皆宜ニ兼存ニ、故苗傳至レ今、而頃者頽廢、至レ爲ニ園採芻牧之處ニ」

たいはう (名) 大砲　オホヅツ。巨熕 (鐵砲ノ條ヲ見ヨ)

たいはう (名) 大方　(一)オホカタ。アラマシ。 陸贄、五等諸侯論「見ニ緩世之長御ニ、識ニ人情之大方ニ」 (二)學問博キ人。識見アル人。 莊子、秋水篇「吾長見レ笑ニ於大方之家ニ」 (三)世間一般ノ人。オノオノガタ。「大方ノ君子」「大方ノ各位」

たいはう (名) 太保、大保　(一)右大臣ノ唐名。さんこう(三公)ノ條ヲ見ヨ。 撮壤集、下、官位部「右大臣」注「右丞相、右僕射、右相府、太保右府」 (二)淳仁天皇ノ御宇ニ、一時、右大臣ノ改稱。 續紀、廿一、天平寶字二年八月「改ニ易官號ニ云云、右大臣、曰ニ太保ニ」

たいばう (名) 體貌　(一)スガタ、カタチ。 漢書、五行志「人君行レ己、體貌不レ恭、怠慢驕蹇、則不レ能レ敬レ事」 (二)禮貌、容儀ヲ作リテ、敬意ヲ表スルコト。 漢書、賈誼傳「體ニ貌大臣ニ、而厲ニ其節ニ」

だいはかせ (名) 大博士　(一)博士ノ更ニスグレタルモノ。又、明經博士ノ稱。(二)はかせ(博士)ノ條ヲ見ヨ。

だいばかり (名) 臺秤　測ラントスル物ヲ載スル臺ノ附キタル秤。

たいはく (名) 大白　〔白ハ、酒ノ色ヲ云フト〕 大ナル盞。大杯。 研北雜志(元、陸友仁)「蘇子美、讀ニ漢書ニ、至レ張良與ニ客狙ニ擊秦始皇ニ、誤中ニ副車ニ、白、云云、君臣相遇、其難如レ此、復擧ニ一大白ニ」

たいはく (名) 太白　(一)金星ノ一名。(其條ヲ見ヨ) 史記、天官書「歲星入レ月、其野有ニ逐相ニ、與ニ太白ニ鬪」 (二)白砂糖ヲ精製シテ、色ノ純白ナルモノ。上白。(三)固飴ノ色、白キモノ。(四)太キ絹絲。

たいはく-ぼん (名) [太白神] ひとひめぐり(太白神)ニ同ジ。中右記、嘉保三年正月十日「明日太白神在レ東、然者可レ被レ用ニ西陣一歟」

だい-はち (名) [大八] だいはちぐるまノ略。其條ヲ見ヨ。

だい-はち-えふ (名) [大八葉] はちえふ(八葉)ノ條ヲ見ヨ。

だい-はち-ぐるま (名) [代八車大八車] 〔車ノ力、八人ニ代ル意ト云フ〕荷車ノ一種。大キクシテ、二三人ニテ牽クモノ。近代世事談(享保)二「寛文年中、江戸ニ之ヲ造ル、人八人ノ代リヲスルヲ以テ代八ト名ヅク、今ハ大八ト云フ」 諸艶大鑑(貞享)「大聲ニ笑フハ、代八車ノ如シ」 江戸名所記(了意)五、芝、泉岳寺「牛ニ代リ、八人シテ引ク」 白石紳書、八「創意ノ人名、大八ニヨル」

だい-はち-にんぎやう (名) [大八人形] かもがはにんぎやう(賀茂川人形)ノ條ヲ見ヨ。

たい-はん (副) [大半] 十ニ八九ハ。オホカタ。過半。史記、項羽紀「漢有ニ天下大半一而諸侯皆附レ之」

たい-ばん (名) [胎盤] 胎兒ノ胎嚢ガ、母體ノ子宮壁ト結合シテ、臍ノ緒ニヨリテ滋養分ヲ母體ヨリ胎内ニテ受クル部分。エナ。

だい-はん (名) [臺飯] 飯臺ノ食物。盛衰記、七、笠島道祖神事「常ニ殿上ノ臺盤ニ居、だいはんヲ食ヒケルコソ最哀ナレ」 古今著聞集、食物「臺盤、[illegible]代物」

だい-ばん (名) [臺盤] (一)食物ヲ居ウル臺。又、食器ヲ載スル具。形、机ノ如ク横長キテ如シ、食卓ナリ。胡床ニ腰カケテ用キル。又、長キ臺盤ヲ二ツニ切リタルモノヲ、切臺盤ト云フ。内膳司式「朱漆臺盤、黑漆臺盤」 [illegible] 上臺盤、[illegible] (二)飯(薩州)

だい-ばん-じやく (名) [大磐石大盤石] (一)極メテ大イナル磐。盧山記(宋、陳舜兪)「[illegible]大盤石ニ[illegible]」 太平記、三、[illegible]「[illegible]人ノ百人シテモ、動カシガタキ大盤石ヲ、輕輕ト脇ニハサミ」 (二)物ノ堅固ニシテ、動カザルコト。又、丈夫ナルモノニ喩ヘテ云フ語。

だい-ばん-どころ (名) [臺盤所] (一)臺盤ヲ置ク所。即チ、膳部ヲ調フル所。略シテ臺所。宇津保物語、藏開、上「中納言、閑ヨリ見奉ラス人モオハシマサズナドノタマヘバ、臺盤所ヨリ參ル」 海人藻芥、下「臺盤所ト申ス所ハ、内裏、仙洞、攝關家ニ在」 (二)大臣、大將、ノ内室ノ尊稱。後ニ轉ジテ、御臺所トモ云フ。(婦ハ臺盤所ヲ預ルモノナレバ、稱ストゾ) 宇治拾遺、二、十八條「昨夜希有ノ事ノサブラヒシナリ、戌ノ時バカリニ、臺盤所ノ、鬢ヲキリニ切リテヤマセ給ヒシカバ、イサヽカナル事ニカトテ」 榮花物語、一、我身榮花「御娘八人オハシキ、云云、一人ハ、云云、花山院ノ左大臣殿ノ御臺盤所ニ成ラセタマヒテ、君達アマタマシマシケリ」

たい-ひ (名) [堆肥] 廢物ヲ堆積シ、之ヲ腐熟セシメタル肥料。ツミゴエ。

たい-ひ (名) [貸費] 學費、又ハ費金ヲ貸シ與フルコト。「貸費生徒」

たい-ひ (名) [對比] (一)ツキ。對當。(二)クラベ比較スルコト。(三)たいせう(對照)ニ同ジ。

たい-ひ (名) [退避] 身ヲ退ケ避クルコト。漢書、張禹傳「禹、云云、乞ニ骸骨一欲ニ退避一」

たい-び (名) [大尾] 全クノ終。結尾。

だい-ひ (名) [大悲] (一)佛教ノ語。佛菩薩ノ、衆生一切ノ苦惱ヲ除カムトスル心。他人ノ苦ヲ助クル大ナル功力。涅槃經、十一「[illegible]」 謡曲、海士「南無ヤ志度寺ノ觀音薩埵ノ力ヲ合ハセテタビ給ヘトテ、大悲ノ利劍ヲ額ニアテ」 (二)だいひぼさつ(大悲菩薩)ノ略。[illegible] 大梵、深淵ニ至ルマデ、「[illegible]居サセ給ヘリ」 謡曲、田村「ソレ花ノ名ドコロ多シトイヘドモ、大悲ノヒカリ色ソフ故カ、コノ寺ノ地主ノ櫻ニ若クハナシ」

タイピスト (名) 〔英語、Typist.〕打字者。印字機ヲ使用シテ、文章ナドヲ印出スル人。

だい-ひつ (名) [大弼] 彈正臺ノ次官。ひつ(弼)ノ條ヲモ見ヨ。

だい-ひつ (名) [代筆] 他ニ代リテ、物書クコト。代書。[illegible] (貞享、西鶴)六「一人ノ母親コガレテ、世ノ限リト知ラセテ、代筆ノ文見シヨリ」

だい-ひ-ぼさつ (名) [大悲菩薩] くわんぜおんぼさつ(觀世音菩薩)ノ異稱。コノ菩薩、普門ノ主ナレバ、云フ。[illegible]

たい-びやう (名) [大病] 重クシテ、癒エ難キ病。重病。大患。[illegible]

だい-ひやう (名) [大兵] 身體ノ長大ナルコト。又、肥大ナル人。大男。(小兵ノ反)[illegible]「大兵ノ、二十餘リヤ、女ガヘ[illegible]」

だい-びやう-し (名) [大拍子] [illegible]物、大太鼓ヲ打ツモノ。御殿ノ扉開キ、又ハ、神樂堂ナドノ場ニ用キル。

だい-びやく (名) [大百] 大百日鬘ノ略。ひやくにちかつら(百日鬘)ノ條ヲ見ヨ。

だい-びやく-え (名) [大白衣] 佛教ノ語。(一)大白衣法ノ略。密教ニテ、大白衣觀音ヲ本尊トシテ修スル祕法。圓仁(慈覺大師)コレヲ唐ヨリ傳ヘシモノト云フ。[illegible] (二)白衣觀音ノ一稱。三十三觀音ノ一ニテ、[illegible] 白衣尊處

たい-ふ (名) [大夫太夫] (一)五位ヲ敍セラルルヲ、規模トスルヨリ、專ラ五位ノ稱。(宰相ヲ參議ノ專稱トスルガ如シ)又、堂上ノ息ノ五位ニ敍シテ、官ナキヲ無官大夫ナドト云フ。大夫ハ五位ノ通名ナリ。[illegible]稱)例ヘバ、式部丞(相當正六位上)、左衛門尉(從六位下)、左近衛將監(從六位上)ナドガ五位ニ敍セラレタル時ハ、他ト[illegible]式部大夫、左衛門大夫ナドト稱スル類ナリ。[illegible] (二)神ノ宮人ノ稱(五位ニ敍セシ神官ヲ、大夫ト稱セショリ、後ハ汎ベテ[illegible]) [illegible]

倫一貫、相應二郎大夫」自二本宮一參著、提レ致二御祈禱一也」同、四、九巻、一年四月廿日「以二河原谷三箇一郷一六月廿日臨時祭神所、被レ付二神主遠方二號一東大夫一以二神田長一、爲二八月放生會一宮八幡宮神所一被レ付二神主大夫一」貞治二年四月文書「臨時宮座會神主定庭、假名辨若大夫」(四)延年舞、舞舞、猿樂ナドノ長ノ稱。今鏡、八、花のあるじ「花園左大臣ノ御家ニ管絃ヲヨクスル者ドモ多ク召置キタマヘルニ「吹物彈物セヌハ少ナクテ、外ヨリマヰラネド、內ノ人ニテ御遊ビ絶ユルコトナク、伊賀大夫、六條大夫ナド云フスグレタル人ドモアリ」 旅宿問答「久兒若ト曰フ因緣舞(延年舞カ)ノ上手アリ、云云、觀實卿夫奏ス、六條院有二叡感一、綾福大夫二」「觀世大夫」金春大夫」(五)歌舞伎役者ノ長ノ稱。歌舞伎ハ出雲ノお國ノ舞ヒ始メシニテ、京ノ六條ノ遊女ナド出演シ、初ハスベテ女ノ技ナリキ(芝居ノ女形ノ長ヲ大夫トモ云ヒキ)因リテ遊女ノ上首ノモノヲモ、大夫ト云フコトトナリタリ。支那、秦ノ始皇、狩セシ時、大雨ニ逢ヒ、松ノ下ニ雨ヲ避クルヲ得テ、松ニ大夫ノ位ヲ授ケタリト云フ。コノ傳說ニ因リテ、遊女ノ太夫ヲ、松の位ナド云フ。(江戸吉原ニテハ、寶曆ノ頃、太夫ノ稱、絶エタリ)又、芝居ノ座元ヲ太夫元ト云ヒ、其子ヲ若太夫ナド云フ。犬子集「トヘバ大夫ノ年ノ若サニヤアツモリト、組ミ打チシタル一ノ谷」(六)淨瑠璃語ノ長ノ稱。芝居ニ出デ語リシヨリノ稱ナルベシ。「攝津太夫」播磨太夫」乞食ニ「女太夫、土間太夫」(七)遊女ノ階級ノ第一ノモノ。卽チ大夫、格子、端女郎ナドト席次アリ。京都ニテハ、大夫、天神、端女郎、鹿戀ナドト云フ。曾我虎膚(寶永、近松作)上「大名ノ參會スルハ、大夫、天神トイフ女郎ノ大將」(八)伊勢國宇治山田ノ旅館。(モト伊勢大神宮ノ神職ヲ勤メシ家ナルヨリ、轉ジテ云フ) 東海道中膝栗毛(文化、一九)六編、上「旅人ノ御師ニ至ルヲ迎フ、云云、アナタ方ハ、イヅレヘ御越シデゴザリマスナ、太夫ハドレヘ」

たい-ふ (名) 大夫 (一)支那、周代ノ官名。卿ノ下、士ノ上トス。又、爵ノ名。秦朝ノ制定ニテ、諸侯ノ長臣ニ賜フ。(爵ノ條ヲ見ヨ) 禮記、曲禮、下篇「大夫死レ衆、士死レ制」(二)大名ノ家老ノ稱。

たい-ふ (名) 大府 (一)大藏省ノ唐名。拾芥抄、中、本「大藏卿」注「大藏省、大府」(二)ばくふ(幕府)ノ敬稱。

たい-ふ (名) 大傅|太傅 (一)支那ノ官名。三公ノ一。さんこうきうけい(三公九卿)ノ條ヲ見ヨ。(二)左大臣ノ唐名。(三公ノ條ヲ見ヨ) 撮壤集、下、官位部「左大臣」注「左丞相、僕射、左相府、大傅、左府」(三)淳仁天皇ノ御宇、一時、左大臣ノ改稱。續紀、廿一、天平寶字二年八月「改二易官號一云云、左大臣曰二大傅一」(四)天皇、未ダ成年ニ達シ給ハザルトキハ、其保育ノ任ニアタル職。皇室典範、第二十六條「天皇、未タ成年ニ達セサルトキハ、太傅ヲ置キ、保育ヲ掌ラシム」

たい-ふ(タユ-ウ) (名) 大輔 省ノ次官。少輔ノ上ニ居ル。職員令「中務省、云云、大輔一人」

たい-ぶ (名) 大部 册數多キ一部ノ書籍。梁高僧傳(梁、釋慧皎)「大部經文」

タイプ (名) 〔英語、Type.〕(一)カタ。典型。(二)シルシ。記號。(三)活字。

だい-ふ (名) 內府 ふいだいぢん(內大臣)ノ唐名。拾芥抄、中、本「內大臣」注「內府、內相府、內丞相、今名、內臣」

だい-ふ (名) 乃父 〔書經、大禹謨篇「惟乃之休」註「乃猶レ汝也」トアリ。汝ノ父ノ意〕他ノ父ノ敬稱。轉ジテ父ノ稱。書經、君牙篇「惟乃祖乃父、世篤二忠貞一服二勞王家二」

だい-ぶ (名) 大夫 〔官ニハ、だいぶト濁リ、位ニハ、たいふト淸ム讀ミナリ〕(一)職ノ長官。卽チ大膳大夫ノ如シ。(二)一官衙ノ長上ノ稱。卽チ太政官ニテ三位以上、寮ニテハ四位、司等ニテハ五位ノ稱。共ニ長上官ノ意ナリ。公式令「於二太政官一三位以上稱二大夫一云云、於二寮以上一(謂二辨官以下一也)四位稱二大夫一云云、司及中國以下、五位稱二大夫一」(三)四位、五位ノ稱。卽チ諸大夫、朝散大夫(五位)ノ如シ。倭名抄、五二職名「四位五位已上、爲二大夫位階一」

だい-ぶ (副) 大分 オホカタ。ズキブン。狂言記、文相撲「新座ノ者ヲ大分抱ヘウト思フ」

たい-ふう (名) 大風 (一)惡シキ病。癩病。素問「病二大風一骨節重、鬚眉落、名曰二大風一」柳宗元、捕蛇者說「已二大風、攣踠、瘻癘一去二死肌一」(二)オホカゼ。烈シク吹ク風。史記、項羽紀「大風從二西北一而起、折レ木發レ屋」漢高帝、大風歌「大風起兮雲飛揚」

たい-ふう (名) 颱風 〔颱ハ、支那ノ舊キ字書ニハナシ。颱風ハ、亞剌比亞語、Tūfān. 英語、Typhoon. ノ音譯語ナリト云フ。又、臺灣地方ヨリ吹キ起ル風トテ、支那人ガ颱ノ新字ヲ造レリト云フ。颱風ハ、大風ノ義ナリト〕夏季、南洋ヨリ起ル低氣壓ノ風。日本ノ曆ノ上ニ、始メテ二百十日、二百廿日ト云フ厄日ガ、天文方(德川幕府)安井春海ノ手ニ依リテ、揭ゲラレヌ。此颱風ノ襲來ハ、凡ソ寒明ケ、卽チ節分ノ翌日、立春ヨリ數ヘテ二百十日目頃カラ二百廿日目頃迄ノ間ヲ最高頂トシテ終始スルモノナリ。然ルヲ世俗ニテハ、其日丈ヲ風日トシテ、危險視サルルハ誤謬ナリ。實ハ本邦ノ颱風襲來期ハ、例年、太陽曆ノ八月カラ九月ノ交、年ニ依リテハ、六月カラ十月マデニアリテ、此間ハ警戒スベキ期ナリ。其發生ノ狀況ハ、彼ノまりあな群島、まあしゃる群島、ふィりぴん群島ノ附近一帶ハ、溫度高ク、天候ハ極メテ靜穩ナル時ナリ。而モ四面環海、漫漫タル水ヲ以テ圍マルル故ニ、此圈內一帶ノ空氣ハ、次第ニ熱セラレ、水蒸氣ハ多量トナリ、所謂高溫多濕ノタメ、周圍ノ海上ノ空氣ニ比ベテ、著シク輕クナル。又、一方、此附近ノ上層ノ空氣ハ如何ニト云ヘバ、下層ノ熱氣ト比ベテ著シク低溫ナリ。因リテ上冷下熱ノ頗ル顯著ナル對照ヲ生ズ。コレヲ大觀スレバ、此圈內ノ空氣ト云フモノハ、橫斷的ニモ、又、縱斷的ニモ著シキ對照ニ在ルナリ。然レバ、島上ノ熱氣ハ激シク上昇運動ヲ始ム、此上昇氣流ヲ動機トシテ遂ニ非常ナル空氣ノ渦動ガ起ル。始メニハ島ヲ中心トシテ渦ヲ捲クガ、次第ニ範圍ガ擴ガリ、同時ニ速度モ增シテ來ル。コレガ徐徐ニ島ヲ離レ、一望千里、遮ルモノナキ大洋上ニ出デ、其速度ヲ十分ニ延バシ、茲ニ愈颱風ノ姿ヲ現シテ洋上ヲ移動シ、本邦ニ襲ヒ來ルモノナリ。 梁柬甫文「陰曆正二三四發者爲レ颶、五六七八九月發者爲レ颱、而颱甚レ于レ颶」(書苑、九) 臺灣紀略(淸、林謙光)「秋冷颶颱起時、土人謂二正二三四月起者一爲レ颶、颶甚二於颶一、而颶急二於颱一」 臺灣府誌「颶之最甚曰レ颱、颱無二定期一、必與二大雨一同至、必拔レ木壞レ垣、飄レ瓦裂レ石、久而愈勁、舟雖レ泊レ灣、常至二虀粉一、海上人甚畏レ之」 投荒雜錄「嶺南諸郡、皆有二颶風一、以二四面俱至一也、昔人或作二颶風一、以二是風最多二於臺灣一也」

たいふう-し (名) 大楓子・大風子 いいぎり(椅桐)科ノ平滑ナル木本。東印度ニ産ス。葉ハ稍ソクシテ曲ガリ易シ、葉ハ長楕圓形ニテ光澤アリ、花ハ雌雄、株ヲ異ニシ、帶黄色ニシテ香ヲ發ス。實ハ漿果ニシテ球形、種子ハ油ヲ含メル胚乳ヲ有シ、コレヨリ大楓子油ヲ榨取ス。カノタヰグスリ。

たいふうし-ゆ (名) 大楓子油・大風子油 前條ノ樹ノ種子ヨリ採ル油、淡黄色、軟膏様ノ塊ニシテ、癩、及、皮膚病ヲ治スル效アリト云フ。

たいふ-おろし (名) 大夫下 遊女ノ大夫ノ職ヲ、天神ニ下スコト。 色道大鏡(延寶)「大夫おろし、上職ニテ出世シタル傾城ノ、大職ニクダレルヲ云フ」

たいふ-かのこ (名) 太夫鹿子 絞染ヲ模ニテ染メタルモノ。貞享ノ頃、京都、西洞院四條ノ、藤屋善右衛門ガ染メ始ム。(近代世事談) 守貞漫稿、下、太夫鹿子「藤屋善右衛門ト云者、始テ染レ之、結鹿子ノ如クニ、紺屋形ヲ染ル者也」

だい-ふく (名) 大福 大イニ富ミテ、福アルコト。「大福長者」

だい-ふく (名) 大服 元日ノ夜ニ飲ムモノ。

だいふく-し (名) 大腹子 びんらうじ(檳榔)ノ條ヲ見ヨ。 書言字考節用集、六、生植「大腹子、本草、其木與二檳榔一相似、薑草根幹、小異耳」

だいふく-ちやう (名) 大福帳 だいちやう(臺帳)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 傾城反魂香(寶永、近松作)中「アレアレ家建ヘ、大福帳ヲ掛ケテ来ルハ、ミヤヂヤナイカ」

だいふく-ちやうじや (名) 大福長者 極メテ財ニ富ミタル者。(長者ノ條ヲ見ヨ) オホガネモチ。大富家。 [illegible] 盛衰記、十七、福原京事「彼ノ大納言ハ大福長者ニテオハシケレバ、造出サン事モ[illegible]、ソモ爭カ民ノ煩、人ノ歎キナカルベキ」 徒然草、二百十七段「或大福長者ノイハク、人ハ萬ヲサシ置キテ、一向ニ德ヲツクベキナリ」

だいふく-もち (名) 大福餅 漉餡ニ砂糖ヲ加ヘタルヲ、薄キ餅ニテ包ミタルモノ。又、餅ニ餡ヲ包ミ、兩面ヲ鐵板ノ上ニテ炙リタルモノモアリ。靜岡縣ニテハ、餡餅もちト云フ。

たいふ-ぐるひ (名) 大夫狂 元祿時代ノ語。遊女買ニ耽クルコト。 博多小女郎浪枕(享保、近松作)上「昨日迄端ゼセリシタ我レ我レ、俄カ[illegible]ラルル[illegible]、今日カラハ大夫[illegible]」

だい-ふけい (名) 大不敬 (一)律ニ、八虐ノ第六、即チ大社ヲ毀チ、服御ノ物ヲ盜ミ、御璽、御膳ヲ誤ル等、其外、條例多シ。 律、八虐、六曰、大不敬[illegible] (二)天皇、皇后、其他、皇室ニ對スル大イナル不敬。

たいふ-ご (名) 大夫子 元祿時代ノ語。年若ノ歌舞伎俳優。 [illegible](貞享、西鶴)一「川御座ニたいふごノ後髪見ユル」

だい-ブツ (名) 大佛 オホボトケ。木造、銅造ノ巨大ナル佛像。多クハ結跏趺坐ノ盧舍那佛ナリ。奈良ノ東大寺ナル銅像ヲ最大ナリトス。聖武天皇ノ御造立ニテ、坐像高サ五丈三尺五寸、全身コレニカナフト。[illegible]

だいブツ-おほばん (名) 大佛大判 豐臣秀賴ガ京都ノ大佛建立ノ用ニトテ、父秀吉ガ軍用トシテ貯ヘ置キシ黃金、大法馬(錬金四十六貫目、千枚分銅ト云フ)ヲ鎔シテ作レル大判金。縦五寸五分五厘、横三寸五分許、重サ四十四匁七分。其他、二種アリ。 [illegible]トテ云フ」

だい-ブツし (名) 大佛師 [illegible]

だいブツ-せん (名) 大佛錢 ぶんせん(文錢)ニ同ジ。 貨幣通考、按ズルニ、京師ノ大佛[illegible]

だいブツ-もち (名) 大佛餅 京都ノ京極通、誓願寺(本尊ハ春日作ノ大佛)門前ニテ賣リシ餅。後ニ東山ノ方廣寺大佛殿ノ前ニテモ賣ル。 [illegible]手ニ手ニ持チ、シヅカニ食ウテホタ」

たい-ふん (名) 堆糞 廐肥ナドヲ堆積シテ、腐熟セシメタルモノ。肥料トス。

たい-ぶん (名) 台聞 たいちやう(台聽)ニ同ジ。

だい-ぶん (副) 大分 [illegible]

ダイプ。大概。大略。 [illegible]

タイプライタア (名) [illegible] writer.) 印字機。印刷機ヲ用ヰズニ、[illegible]ヲ印書シ得ル機械。コレニハ歐文たいぷらいたあト和文たいぷらいたあトアリ、[illegible]及、數字ナドノ記號ヲ附シタル數多ノ圓形ノ押釦(鍵トボタン)ヲ羅列シ、其先方ニ活字ヲ順序ヨク並ベタル活字桿アリ、今、鍵ノ一ツヲ指先ニテ打ツ時ハ、槓杆ノ作用ニヨリテ、後方ニ挾ミタル紙ニ、[illegible]印書シ得ル裝置ノモノ。和文たいぷらいたあハ、前記ノ活字桿ノ代リニ、多數ノ活字ヲ收メ[illegible]ヲ左右ニ動カシ、且、鍵ヲ前後左右ニ動カシナガラ、所要ノ活字ヲ摘出シテ、後方ノ紙面ニ印書シ得。

たい-へい (名) 太平・泰平 世、大イニ治リテ、人人安堵シテ居ルコト[illegible]。國家ノ極メテ穩カニ治リテアルコト。昇平。 [illegible]

たいへいき-よみ (名) 太平記讀 [illegible]ノ初世ニ、路傍ナドニテ、太平記[illegible]物語ナド讀ミ說キテ、錢ヲ乞ヒシモノ。[illegible]

書トミ、近代世事談、太平記讀、江戸ニテハ、見付ノ赤松法印ト云者始也、年季、慶長御門跡ニ出テ、太平記ノ講ズ、此モノハ、慶長ノ比ト云太平記ノ講釋ノ書ヲ以講尺セリ、又、ソノ頃、赤松青龍軒ト云フ者、堺町ニ三間ヲカマヘ、原昌元ト名乘テ軍談ヲ講ズ、京都ニテハ、原永惕ト云フ者、世ニ鳴ル」人倫訓蒙圖彙(元祿)七「太平記讀、近世ニ始レリ」義理物語(貞享)道頓堀「竹田カラクリノ見物雨水ガ太平記ヲヨメル處」好色一代男、九「四條河原、太平記讀、講ノ講釋、惠ノ五郎兵衛ガ夜談義」

たいへい-せう(タイヘイ-シヨウ) (名) 【太平簫】 チャルメラ。

たいへい-らく (名) 【太平樂】 (一)雅樂ノ曲ノ名。又、破陣樂。 宇津保物語、初秋「式部卿宮ノ御方太郎君太平樂、次郎君皇麞(ワウジヤウ)、舞ノ師ニ人、樂人十人バカリ」 (二)魚簾。(魚口ニ矢ヲ立ツ意)正德四年四月、鳩巣ノ人ニ贈ル書ニアリ。(三)デタラメ。デハウダイ。 浮世風呂(文化、三篇)三編、上「他人宿ニ、雜用ヲ拂ッテ、マゴツイテ居ルニハマシダカラ、居テヤルンダナゾト、太平樂サ」

たい-べう(タイ-ビヨウ) (名) 【大廟】 (一)君主ノ祖先ノオタマヤ。又、天子ノ祖先ノ廟。太廟 論語、八佾篇「子入ニ大廟ニ毎レ事問」 (二)特ニ、伊勢ノ大神宮。 驗尻、一「日本國大廟、見ニ神皇實錄ニ伊勢神宮也」

だい-へう(ダイ-ヒヨウ) (名) 【代表】 他ニ代リテ、其意思ヲ示スコト。又、其モノ。

たい-へき (名) 【大辟】 重キ刑罰。死刑ニ同ジ。 書經、呂刑篇「大辟之罰、其屬二百」天武紀、下、八年十一月「由ニ森木ニ以親王諸臣、及百官人等、給レ祿各有レ差、大辟(シヌルツミ)罪以下悉赦レ之」

たい-べつ (名) 【大別】 オホワケ。大凡ニ別ツコト。又、大イナル區別。

たい-へん (名) 【大變】 大ナル變事。オホゴト。 戰國策、秦策、「恐ニ天下之將レ有ニ大變ニ也」

たい-へん (副) 【大變】 澤山ニ。非常ニ。甚シク。「大變大キイ」「大變小サイ」

だい-べん (名) 【大辨】 官ノ名。オホイオホトモヒ。べん(辨)ノ條ヲ見ヨ。

だい-べん (名) 【大便】 (元來、道路ノ稱ト云フ) 糞(クソ)ヲマルコト。又、クソ。フン。大用。(便所ノ條ヲ見ヨ) 著聞集、十六、興言利口「黑瀨宜、大便ヲモヨホシケレバ、頭ヲツツミナガラ、猿澤ノ池ノハタニ行テ、シリヲカキアゲテカマヘケル」

だい-べん (名) 【代辨】 (一)他ニ代リテ、辨償スルコト。(二)代理スルコト。

たい-ほ (名) 【台輔】 さんたいせい(三台星)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 後漢書、桓帝紀「永惟太宗之重、深思ニ嗣續之福ニ、詢ニ謀台輔ニ、稽ニ之兆占ニ」太平記、廿一、天下時勢粧事「朝廷ノ政、武家ノ計ニ任セテアリシカバ、三家ノ台輔モ、奉行頭人ノ前ニ媚ヲナシ、五門ノ曲阜モ、執事侍所ノ邊ニ蹐フ」

たい-ほ (名) 【逮捕】 罪人ヲ召取ルコト。 史記、陳餘傳「上皆逮ニ捕趙王貫高等十餘人ニ」

たい-ほ (名) 【退歩】 「進歩ノ反」アトシザリ。アトモドリ。退却。 宋史、李熠傳「不レ上ニ善處ニ者、退ニ一歩耳ニ」

たい-ぼ (名) 【大母】【太母】 そぼ(祖母)ニ同ジ。 漢書、文三王傳「李太后、親平王之大母也」注「大母、祖母也」老學庵筆記「太母、祖母也、熙寧元豐間、稱ニ曹太皇ニ爲ニ太母ニ」

たい-ほう (名) 【大封】 廣大ナル封土。 周禮、天官篇「大封之禮、合レ衆也」

たい-ぼう (名) 【大寶】 佛家ニテ、加持ニ用キル護摩壇ノ異稱。 庭訓往來、九月「可レ被ニ用意ニ物者、云云、大寶、高座、禮盤、瓔珞」

たい-ぼく (名) 【大木】 太ク高ク生立チタル樹。オホキ。大樹。巨樹。 孟子、梁惠王、

下篇「爲ニ巨室ニ、則必使ニ工師求ニ大木ニ」

だい-ほふ(ダイ-ホウ) (名) 【大法】 (一)佛ノ教法ヲ敬ヒテ云フ語。(大乘深妙ノ法ノ意) 法華經、序品「今佛世尊、欲レ說ニ大法ニ」 (二)だいぢよう(大乘)ニ同ジ。 (三)密教ノ大修法。 平家物語、三、赦文事「醫家樂ヲ盡シ、大法、祕法、一トシテ殘ル所ナウ被レ修ケリ」

たい-ほん (名) 【大本】 (一)オホホン。大キナル書物。(二)オホモト。基本。 中庸、第三十二章「立ニ天下之大本ニ」

だいほん-えい (名) 【大本營】 戰時、又ハ大演習ニ、大元帥陛下ノ居マス軍營。

たいぼん-げぢよう (名) 【退凡下乘】 (退凡ハ内、下乘ハ外) 此四字ヲ制札トシテ、格アル寺院ノ門前ニ立ツルモノ。凡人ヲ退ケ、下乘下馬セシムル意ナリ。卒堵婆ヲ學ビテ、立テタルモノト云フ。(壽命院抄)略シテ、退下。 西域記、九「如來御世、垂ニ五十年ニ、多居ニ此山ニ(靈鷲山)廣說ニ妙法ニ、頻毘娑羅王、爲ニ聞法ニ故、興ニ發人徒ニ、自ニ山麓ニ至ニ峰岑ニ、跨レ谷凌レ巖、編レ石爲レ階、廣十餘步、長五六里、中路有ニ二小卒都婆ニ、一謂ニ下乘ニ、即王至レ此徒行以進、一謂ニ退凡ニ、即簡ニ凡人ニ不レ令ニ同往ニ、其山頂則東西長南北狹」 拾玉集、五「鷲ノ山、退凡下乘ノ、卒都婆マテ、跡アル道ヲ、見ルゾ嬉シキ」 徒然草、二百一段「退凡下乘ノ卒都婆、外ナルハ下乘、内ナルハ退凡ナリ」 平家物語、二、山門滅亡事「退凡下乘ノソトバモ、苔ノミムシテ傾キヌ」 貞丈雜記、九、書札「下馬札立ル事ハ、退凡下乘ノ卒都婆ニ、ナラヒテ立始ケル事カ、是モタシカニ定メガタシ、云云、下馬札ハ、モシ此退凡下乘ノ卒都婆ヲ學ビテ立始メタルカ、イツ頃ヨリ始リタルカ詳ナラズ」 野槌、下、四「下乘ハ王ノ車馬ヨリオルル義也、ソコニアル卒都婆ヲ云、退凡ハ凡人ヲ、シリゾクル義也、ソコニアル卒都婆ヲ云、下乘ハ山下ニ有ルユヘニ外也、退凡ハ山中ニアルユヘニ内ナリ」

だいほん-ざん (名) 【大本山】 佛教ニテ、其宗派ノ大本トスル寺。寺格ニテハ、總本山ノ下、本山ノ上トス。(末寺、別院ナドニ對ス)「日蓮宗大本山本門寺」

たい-ま (名) 【大麻】 (一)オホヌサ。幣(ヌサ)ヲ美メテ云フ語。(二)麻(アサ)ノ漢名。

たい-ま (名) 【對馬】 將棋ノ語。雙方、對對ニ、同ジ數ノ駒(コマ)ヲ置キテ差スコト。即チ優劣ナキナリ。(優レル方ニテ、駒ヲ落スコトアルヨリ云フ) 對手

たい-まい (名) 【瑇瑁】【玳瑁】 龜ノ屬。熱帶ノ海ニ産ズ。形、うみがめニ似テ、首ハ鳥ノ如ク、背尖リ、前肢長ク、後肢短シ。甲、十三片、鱗次シ疊ミテ、一片ナラズ、甲ノ邊、缺ケテ鋸齒アリ、色、黃褐ニシテ、黑キ斑アリ、粗、透明ナリ。煮テ柔皮ノ如クニシテ、櫛笄ナド、飾物ニ用キテ珍重ス。極メテ美麗ナリ。俗ニ、鼈甲(ベッカフ)。 字類抄、四、太、雜物「瑇瑁、代昧(タイマイ)」史記、春申君傳「趙使欲レ夸レ楚、爲ニ瑇瑁簪ニ」嶺南雜記(清、吳震方)「瑇瑁出ニ南蕃海洋ニ、狀如ニ龜鼉ニ、背負ニ十二葉ニ、倒懸ニ其身ニ以滾ニ醋潑ニ之、逐片應レ手而落」

だい-まい (名) 【大枚】 〔古ヘ、餅銀(ベイギン)ノ大ナルヲ云ヒシニ因ルト云フ〕 高(タカ)ノ多キコト。(多ク金錢ニ云フ) 多額 七十一番職人盡歌合、中、三十六番「ゑた、此ノ革ハだいまいカナ」

たい-まう(タイ-モウ) (名) 【大望】 オホイナルノゾミ。心ニ非分ノ事ヲ企ツルコト。非望 狂言記、花子「コレ程ニ思ヒ立ッタ大望ヲ」

だい-まち (名) 【代待】 〔代祭(ダイマツリ)ノ轉訛カ〕 物ヲ與ルル人ニ代リテ、神佛ヲ祭ル一種ノ族(ヤカラ)。 雜編醉興集、春「野ベマデモ、メグル代待ち、草臥レテ、オトシタルカト、見ルツクシ」

たいまつ (名) 松明 〔燒キ松ノ音便〕松明ハ、通雅、書蕉宗記、註「松柏而油存、可ₗ燎之以爲ₗ明」ト云フ語句アリ、正字通「滇人以ₗ松心ₗ爲ₗ炬、號曰ₗ松明ₗ」）略シテまつ。松明ニテ作レル炬火、（手火松ト云フ說アレド、ひト書キタル例ヲ見ズ）トモシビ。タテアカシ。タビ。ツイマツ。炬火。松炬 火把 〔倭名抄、十二〕燈火具「松明、音、今之續松乎」〔萬葉集〕「續松ノ…」 之心、有ₗ油香如ₗ燭、山西人多以代ₗ燭、謂ₗ之松明ₗ」字津保物語、初秋、「下ニハたいまつノ光リニ、中將見レニマシテ更ナリ」同、吹上、下「…ア、ハ、セノ前ヒトヘ、ソレヨリ下ハ、ヒトヘナル物ナド、タマハラヌ人ナシ、夜ニ入リテついまつマイル」盛衰記、廿六、祇園女御事「續松ヲ出ダシテ見レバ、貫ニ七十計リノ法師ナリ」

たいまつ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 奉 たてまつる(奉)ノ音便。 土佐日記、二月五日「幣ニハ御心ノイカネバ、御舟モ行カヌナメリ、ナホ、ウレシト思ヒタブベキモノたいまつりタベ」

たいまん (名) 怠慢 オコタルコト。ナマケ。オコタリ。怠惰。 左傳、僖公三十一年、註「戒而卜吉、上志慢也」

たいミンちく (名) 大明竹 めだけノ一種。長サ一丈許、葉短ク細ソク、上ニ向ヒテ叢生スルモノ。

だいみやう (名) 大名 〔名田ノ稱ニ起ルト云フ〕 平安朝ニハ、多クノ名田ヲ所有スルモノノ名。少キヲ小名ト云フ。鎌倉時代ニハ、名田ニ限ラズ、唯多ク土地ヲ領シ、家子郎黨ヲ養ヒ居ルモノ。少キヲ小名ト云ヒシガ、後ニ唯、大名小名ト連稱シテ、武門ノ領袖ノ號トナレリ。江戶時代ニ至リテハ、領地知行ノ持高一萬石以上ノ者ノ總稱、外樣、譜代ノ別ナク、其土地人民ヲ私有シテ、一地方ノ君タリ。〔白川燕談…〕安元三年四月…「…國大名…不…國役ニ」「…つぱね、上…大みやうノ事ハ、ヰコシメシミシレバ、…エシ二、…人ニ思ヒツキヌルコトト」 貞丈雜記、二、人品「大名ノ事、今高貴ノ人ノ事ヲシテ云、古キ詞ナリ、云云、大名トハ、一國ノ主ヲ云ナルベシ、大名トハ、田地ノ名ヲ多ク持チタルナルベシ、名トハ田地十三石ヲ云」

だいみやう (名) 大明 「大明日、常ニ曆ノ語。…テ吉キ日ノ稱。何事ニ用ヰテモ、皆利アリトゾ。

だいみやうおもと (名) 大名萬年青 おもとノ一種。斑入ノモノノ稱。

だいみやうけんどん (名) 大名倹飩 けんどん(倹飩)ノ條ヲ見ヨ、ゴゼニソバ、江戶名物鹿(明和)「大名けんどん、…ソバヤ、二本道具ノ汁辛味」

だいみやうじま (名) 大名縞 細カキ竪縞ノモノ。〔貞丈…記、大名島、市松、小六染〕

だいみやうじん (名) 大明神 みやうじん(名神)ノ條ヲ見ヨ。

だいみやうだけ (名) 大明竹 大隅國始良郡清水村、大明寺山中ニニ、臺明寺山)ヨリ出ヅ。又、大明寺竹。臺明寺竹。九州ニ多シ、幹ハ雄竹ニテ、葉ハ雌竹ナルモノナリ。因リテ業平竹トモ云フトゾ。 松屋筆記、百三、第一條「大明竹ハ大隅國大明寺ト云フ寺ヨリ出ル故、大明竹トモ、大明寺竹トモ云ヘリ、九州ニオホシ、…、…ノ宮ニテ、…ニ作ラセ給ヘルモ、此竹也トゾ、青葉ノ笛、ハタ此竹ニテ造レルトモ云ヘリ」

だいみやうづきん (名) 大明頭巾 こそでづきんヲ男ノ被プルモノ。(袖頭巾ノ條ヲ見ヨ) 〔嬉遊笑覽…〕三「袖頭巾、オコソ頭巾トモ云フハ、…中…頭巾…、…ヨリ下ル、此者ちりめんニテ帽子ヲ作リテ着タリ、若キ女、…、…ナド…、昔時、是ヲ大明頭巾ト云フ、我見昔シキト、我古路宮ニ云ヘリ、ソノカミ、…元頭巾ト云ヒシモ是歟、サラバコレモ宮十郎ニ始マルニハアラジ、日蓮ノ頭巾ニ似タリトテ、頓テお高祖ト呼ビタリ」

だいみやく (名) 代脈 醫者ノ弟子ノ、師ニ代リテ患者ノ脈ヲ診ルコト。代診。 浮世風呂、二、文化…「…、下…、…、…二…代脈ダハナ」ゴザッタガ、夫レカラ後ハ、一日置キニ代脈ダハナ」

一たいめ (名) 對面 たいめん(對面)ノ約。 貫之集、九、雜「日日ニたいめシケルニ、イカナル日ニカアリケム、たいめセザリケル時、詠ミテ遣ル」 源、十、賢木「世ノ中、定メナケレバ、たいめスルヤウモアリナンカシナドオボス」…伊勢物語…「イカデ物ゴシニたいめシテ、云云、女イト忍ビテ物ゴシニアヒニケリ」

だいめ (名) 大目 〔四分ノ三ノ多キヘカニテ、大目ノ意ナラムト云フ。少キ方、四分ノ一ニモ名アルカ〕(一)藥種ノ目方ノ名。一斤ノ四分ノ一ヲ減ジタルモノ。(二)〔茶子ノ疊目ト云フ〕茶室ニテ用キル疊一疊ヲ、四分ノ一減ジタルモノ。此疊ハ茶人紹鷗、利休ノ始メシモノナラム。二人共ニ堺ノ人ナレバ、藥ノ目方ノ稱ヲ用キタルナリ。(大目ソ臺目トモ記ス)茶室ノ大目疊ハ、長サ四尺八寸、幅二尺三寸、一間六尺三寸(中間ナリ)ノ四分一ヲ除キテ四尺八寸ナリ、コレヲ志ばてき(四八引)ト云フ、(四分ノ三ハ四尺七寸二分五厘ニテ、七分五厘ノ…、…一…ヲ四ツニ分チ、一分減タルナリ、…ニテ…ト云ハ、一疊ヲ四ツニ分チ、一分減タルナリ、…ニテ…一斤ヲ四分一減タルヲだいめト云ヘリ」(三)曲尺ノ裏目ノ稱。

たいめい (名) 大命 天皇ノ命令。又、君上ノ命。…

たいめい (名) 台命 三公ノ命令。又、將軍ノ命令。今ハ貴族ノ命令。

たいめい (名) 大名 スグレタル…ホマレ。大ナル名譽。…「大名ヲ揚ゲ」

たいめい (名) 待命 (一)官吏ノ現職ヲ罷メ、次ノ辭令ヲ待タシメオクコト。(二)官吏…任用、…

だいめいし (名) 代名詞 語學ノ語。名詞ニ代ヘ用ヰテ、ソレヲ指シテ云フ語。即チ、人ニ、我、汝、彼、誰ノ如ク、事物、地位、方向等ニ、され、それ、さき、そさ、かしさ、さなた、そなた、かなたナドノ別アリ。カヘコトバ。篇尾ノ語法指南ノ名詞ノ條ニ委シ。

たいめん (名) 對面 (一)相對フコト。對顏。…

たいめん (名) 體面 體裁。面目。

たいめんし (名) 對面所 大小名ノ邸ナドニ、賓客ニ對面スルニ用キル表座…

書ヨミ。 近代世事談「太平記讀、江戸ニテハ、見付ノ外ニ名和清円ト云者始也、年來、淺草御門傍ニ出テ、太平記ヲ講ズ、此モノハ、理盡鈔ト云太平記ノ評判ノ書ヲ以講尺セリ、又、ソノ頃、赤松青龍軒ト云フ者、堺町ニテ小屋ヲカマヘ、原昌元ト名乘テ軍談ヲ講ズ、貞享ニ至テハ、原永惕ト云フ者、世ニ鳴ル」 人倫訓蒙圖彙(元祿)七「太平記讀、近世ニ始レリ」 義理物語(貞享)濟領竹田カラクリノ見物雨水ガ太平記ヲヨコメル處」 好色萬毛(元祿)四「倍河原太平記讀、諸ノ講釋、諸ノ五郎兵衞ガ夜談義」

たいへい-せう(タイヘイシヨウ) (名) [太平簫] チャルメラ。

たいへい-らく (名) [太平樂] (一)雅樂ノ曲ノ名。又、破陣樂 宇津保物語、菊宴「十一、式部卿宮ノ御方太郎君太平樂、次郎君皇麞(ワウヂヤウ)、猿ノ師二人、樂人十人バカリ」 (二)魚䈰(エビラ)。(魚口ニ矢ヲ立ツ意)正德四年四月、鳩巢ノ人ニ贈ル書ニアリ。(三)デタラメ。デハウダイ。浮世風呂(文化)二篇、上「他人宿ニ、雜用ヲ拂ッテ、マゴツイテ居ルニハマシダカラ、居テヤルンダナゾト、太平樂サ」

たい-べう(タイビヤウ) (名) [大廟] (一)君主ノ祖先ノオタマヤ。又、天子ノ祖先ノ廟。太廟 論語、八佾篇「子入ニ大廟ニ毎レ事問」 (二)特ニ、伊勢ノ大神宮。 驢尻、一「日本國大廟、見ニ神皇實錄ニ伊勢神宮也」

だい-へう(ダイヒヨウ) (名) [代表] 他ニ代リテ、其意思ヲ示スコト。又、其モノ。

たい-へき (名) [大辟] 重キ刑罰。死刑ニ同ジ。書經、呂刑篇「大辟之罰、其屬二百」 天武紀、下、八年十二月「由ニ嘉禾ニ以親王諸臣、及百官人等、給レ祿各有レ差、大辟罪以下悉赦レ之」

たい-べつ (名) [大別] オホワケ。大凡ニ別ツコト。又、大イナル區別。

たい-へん (名) [大變] 大ナル變事。オホゴト。 戰國策、燕策「恐ニ天下之將ニ有ニ大變ニ也」

たい-へん (副) [大變] 澤山ニ。非常ニ。甚シク。「大變大キイ」「大變小サイ」

だい-べん (名) [大辨] 官ノ名。オホイオホトモヒ。べん(辨)ノ條ヲ見ヨ。

だい-べん (名) [大便] (元來、道路ノ稱ト云フ) 糞(クソ)ヲマルコト。又、クソ。フン。大用。(便所ノ條ヲ見ヨ) 著聞集、十六、興言利口「黑﨑宜、大便ヲモヨホシケレバ、頭ヲツツミナガラ、猿澤ノ池ノハタニ行テ、シリヲカキアゲテカマヘケル」

だい-べん (名) [代辨] (一)他ニ代リテ、辨償スルコト。(二)代理スルコト。

たい-ほ (名) [台輔] さんたいせい(三台星)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 後漢書、桓帝紀「永惟太宗之重、深思ニ嗣續之福、詢ニ謀台輔、稽ニ之兆占ニ」 太平記、廿一、天下時勢粧事「朝廷ノ政、武家ノ計ニ任セテアリシカバ、三家ノ台輔モ、奉行頭人ノ前ニ媚ヲナシ、五門ノ曲阜モ、執事侍所ノ邊ニ諂フ」

たい-ほ (名) [逮捕] 罪人ヲ召取ルコト。 史記、陳餘傳「上皆詔書ニ捕趙王貫高等十餘人ニ」

たい-ほ (名) [退步] 「進步ノ反」 アトシザリ。アトモドリ。退却。 宋史、李熠傳「不レ上ニ善處ニ者、退一步耳」

たい-ぼ (名) [大母 太母] そぼ(祖母)ニ同ジ。 漢書、文三王傳「李太后、親平王之大母也」注「大母、祖母也」 老學庵筆記「太母、祖母也、熙寧元豐間、稱ニ曹太皇ニ爲ニ太母ニ」

たい-ほう (名) [大封] 廣大ナル封土。 周禮、天官篇「大封之禮、合レ衆也」

たい-ぼう (名) [大寶] 佛家ニテ、加持ニ用ヰル護摩壇ノ異稱。 庭訓往來、九月「可レ被レ用意ニ物者、云云、大寶、高座、禮盤、瓔珞」

たい-ぼく (名) [大木] 太ク高ク生立チタル樹。オホキ。大樹。巨樹。 孟子、梁惠王、下篇「爲ニ巨室ニ則必使ニ工師求中大木上」

だい-ほふ(ダイホウ) (名) [大法] 〔大乘深妙ノ法ノ意〕 (一)佛ノ教法ヲ敬ヒテ云フ語。 法華經、序品「今佛世尊、欲レ說ニ大法ニ」 (二)だいじよう(大乘)ニ同ジ。 (三)密教ノ大修法。 平家物語、三、赦文事「醫家藥ヲ盡シ、大法、祕法、一トシテ殘ル所ナウ被レ修ケリ」

たい-ほん (名) [大本] (一)オホホン。大キナル書物。(二)オホモト。基本。 中庸、第三十二章「立ニ天下之大本ニ」

だいほん-えい (名) [大本營] 戰時、又ハ大演習ニ、大元帥陛下ノ居マス軍營。

たいぼん-げ-じよう (名) [退凡下乘] 〔退凡ハ內、下乘ハ外〕 此四字ヲ制札トシテ、格アル寺院ノ門前ニ立ツルモノ。凡人ヲ退ケ、下乘下馬セシムル意ナリ。卒堵婆ヲ學ビテ、立テタルモノト云フ。(壽命院抄)略シテ、退下。 西域記、九「如來御レ世、垂ニ五十年ニ、多居ニ此山ニ(靈鷲山)廣說ニ妙法ニ、頻毘娑羅王、爲ニ聞法ニ、故興ニ發人徒ニ、自ニ山麓ニ至ニ峰岑ニ、跨レ谷凌レ巖、編レ石爲レ階、廣十餘步、長五六里、中路有ニ二小卒都婆ニ、一謂ニ下乘ニ、即王至レ此徒行以進、一謂ニ退凡ニ、即簡(エラビ)ニ凡人ニ不レ令ニ同往ニ、其山頂則東西長南北狹」 拾玉集、五「鷲ノ山、退凡下乘ノ、卒都婆マテ、跡アル跡ヲ、見ルゾ嬉シキ」 徒然草、二百一段「退凡下乘ノ卒都婆、外ナルハ下乘、內ナルハ退凡ナリ」 平家物語、二、山門滅亡事「退凡下乘ノソトバモ、苔ノミムシテ傾キヌ」 貞丈雜記、九、書札「下馬札立ル事ハ、退凡下乘ノ卒都婆ニ、ナラヒテ立始ケル事カ、是モタシカニ定メガタシ、云云、下馬札ハ、モシ此退凡下乘ノ卒都婆ヲ學ビテ立始メタルカ、イツ頃ヨリ始リタルカ詳ナラズ」 野槌、下、四「下乘ハ王ノ車馬ヨリオルル義也、ソコニアル卒都婆ヲ云、退凡ハ凡人ヲ、シリゾクル義也、ソコニアル卒都婆ヲ云、下乘ハ山下ニ有ルユヘニ外也、退凡ハ山中ニアルユヘニ內ナリ」

だいほん-ざん (名) [大本山] 佛教ニテ、其宗派ノ大本トスル寺、寺格ニテハ、總本山ノ下、本山ノ上トス。(末寺、別院ナドニ對ス) 「日蓮宗大本山本門寺」

たい-ま (名) [大麻] (一)オホヌサ。幣(ヌサ)ヲ美メテ云フ語。(二)麻(アサ)ノ漢名。

たい-ま (名) [對馬] 將棋ノ語。雙方、對對ニ、同ジ數ノ駒(コマ)ヲ置キテ差スコト。即チ優劣ナキナリ。(優レル方ニテ、駒ヲ落スコトアルヨリ云フ) 對手

たい-まい (名) [瑇瑁 玳瑁] 龜ノ屬、熱帶ノ海ニ產ズ。形、うみがめニ似テ、首ハ鳥ノ如ク、嘴尖リ、前肢長ク、後肢短シ。甲、十三片、鱗次シ疊ミテ、一片ナラズ、甲ノ邊、缺ケテ鋸齒アリ、色、黃褐ニシテ、黑キ斑アリ、粗、透明ナリ。煮テ柔皮ノ如クニシテ、櫛笄ナド、飾物ニ用ヰテ珍重ス。極メテ美麗ナリ。俗ニ、鼈甲(ベツカフ)。 字類抄、四、太、雜物「瑇瑁、代昧(タイマイ)」 史記、春申君傳「趙使欲レ夸レ楚、爲ニ瑇瑁簪ニ」 嶺南雜記、清、吳震方「玳瑁出ニ南番海洋ニ、狀如ニ龜黿ニ、背負ニ十二葉ニ、側身以滾、踏滾レ之、逐片應レ手而落」

だい-まい (名) [大枚] 〔古へ、餅銀(ベイギン)ノ大ナルヲ云ヒシニ因ルト云フ〕 高(タカ)ノ多キコト。(多ク金錢ニ云フ) 多額 七十一番職人盡歌合、中、三十六番「ゑた、此ノ革ハだいまいカナ」

たい-まう(タイモウ) (名) [大望] オホイナルノゾミ。心ニ非分ノ事ヲ企ツルコト。 非望 狂言記、花子「コレ程ニ思ヒ立ッタ大望ヲ」

だい-まち (名) [代待] 〔代祭(タイマツリ)ノ轉訛カ〕 物ヲ畏ルル人ニ代リテ、神佛ヲ祭ル一種ノ族(ヤカラ)。 雅筵醉興集、春「野ベマデモ、メグル代待ち、草臥レテ、オトシタルカト、見ルツクシ」

たいまつ（名）［松明］〔燒き松ノ音便。松明ハ通鑑、唐肅宗紀、註「松枯而油存、可ニ燎、之以爲ル明」ト云フ語句アリ、正字通「滇人以ニ松心ー爲レ炬、號曰ニ松明ー」〕略シテまつ。松明ニテ作レル炬火。（手火松ト云フ說アレド、ひト書キタル例ヲ見ズ）トモシビ。タテアカシ。タビ。ツイマツ。炬火　松炬　火把　倭名抄、十二十五燈火具「松明音、今之燭松乎」　撫州錄、保山老松之心、有油者如蠟、山西人多以代、燭、謂ニ之松明ー」　宇津保物語、初秋、下六六「たいまつノ光リニ、中將見ルニマシテ更ナリ」　同、吹上、下廿「アハセノ袴ヒトへ、ソレヨリ下ハ、ヒトヘナル物ナド、タマハラヌ人ナシ、夜ニ入リテついまつマイル」　盛衰記、廿六、祇園女御事「續松ヲ出ダシテ見レバ、實ニ七十計リノ法師ナリ」

たいまつ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［奉］たてまつる（奉）ノ音便。　土佐日記、二月五日「幣ニハ御心ノイカネバ、御舟モ行カヌナメリ、ナホ、ウレシト思ヒタブベキモノたいまつりタベ」

たい-まん（名）［怠慢］オコタルコト。ナマケ。オコタリ。怠惰。　左傳、僖公三十一年「牲成而卜、郊、上怠慢也」

たい-みん-ちく（名）［大明竹］めだけノ一種。長サ一丈許、葉短ク細ソク、上ニ向ヒテ叢生スルモノ。

だい-みやう（名）［大名］〔名田ノ稱ニ起ルト云フ〕平安朝ニハ、多クノ名田ヲ所有スルモノノ名。少キヲ小名ト云フ。鎌倉時代ニハ、名田ニ限ラズ、唯多ク土地ヲ領シ、家子郎黨ヲ養ヒ居ルモノ、少キヲ小名ト云ヒシガ、後ニ唯、大名小名ト連稱シテ、武門ノ領袖ノ號トナレリ。江戸時代ニ至リテハ、領地知行ノ持高一萬石以上ノ者ノ總稱、外樣、譜第ノ別ナク、其土地人民ヲ私有シテ、一地方ノ君タリ。　白川燕談上記、寛元二年四月「諸國大名不レ應ニ國役ー」　ホのびね、上「大みやうノ事ハ、キコシメシタレバ、受引キ聞エシニ、カカル人ニ思ヒツキヌルコトト」　貞丈雜記、一「人品、大名ノ事、今萬貫ノ人ノ事ヲシテ云、古キ詞ナリ、云云、大名トハ、一國ノ主ヲ云ナルベシ、大名トハ、田地ノ名ヲ多ク持チタルナルベシ、名トハ田地十三石ヲ云」

だい-みやう（名）［大明］〔大明日ノ略〕曆ノ語。至テ吉ナル日ノ稱。何事ニ用キテモ、皆利アリトゾ。

だいみやう-おもと（名）［大名萬年青］おもとノ一種、斑入ノモノノ稱。

だいみやう-けんどん（名）［大名倹飩］けんどん（倹飩）ノ條ヲ見ヨ。ゴゼンソバ。　江戸名物誌、明和「大名けんどん、新ソバヤ、二本道具ノ汁辛味」

だいみやう-じま（名）［大名縞］細カキ竪縞ノモノ。　衣食住記「大名島、市松、小六染」

だいみやう-じん（名）［大明神］みやうじん（名神）ノ條ヲ見ヨ。

だいみやう-だけ（名）［大明竹］大隅國始良郡清水村、大明寺山中（一ニ、臺明寺山）ヨリ出ヅ、又、大明寺竹、臺明寺竹。九州ニ多シ、幹ハ雄竹ニテ、葉ハ雌竹ナルモノナリ、因リテ業平竹トモ云フトゾ。　松屋筆記、百三、第一條「大明竹ハ大隅國大明寺ト云フ寺ヨリ出ル故、大明竹トモ、大明寺竹トモ云ヘリ、九州ニオホシ、天智天皇ノ御宿ノ宮ニテ、笛ニ作ラセ給ヘルモ、此竹也トゾ、青葉ノ笛、ハタ此竹ニテ造レル也ト云ヘリ」

だいみやう-づきん（名）［大明頭巾］そでづきんヲ男ノ被ブルモノ。（袖頭巾ノ條ヲ見ヨ）　嬉遊笑覽、三「袖頭巾、オコソ頭巾トモ云フハ、寶曆元年、カブキ役者中村富十郎、大阪ヨリ下ル、此者ちりめんニテ帽子ヲ作リテ着タリ、若キ女、是ヲ學ビテカブレリ、男モカブルモノアリシ、其時、是ヲ大明頭巾ト云フ、[illegible]云ヘリ、ソノカミ、寶元頭巾ト云ヒシモ是歟、サラバコレモ富十郎ニ始マルニハアラデ、日蓮ノ頭巾ニ似タリトテ、頭デお高祖ト呼ビタリ」

だい-みやく（名）［代脈］醫者ノ、弟子ノ、師ニ代リテ患者ノ脈ヲ診スルコト。代診。　浮世風呂、文化、二ノ下「[illegible]ゴザッタガ、夫レカラ後ハ、一日置キニ代脈ダハナ」

たいめ（名）［對面］たいめん（對面）ノ約。　[illegible]「[illegible]ルニカアリケム、たいめセザリケル時、[illegible]」　源、十、賢木「世ノ中、定メナケレバ、たいめスルヤウモアリナンカシナドオボス」　伊勢物語、九十五段「イカデ物ゴシニたいめシテ、云云、女イト忍ビテ物ゴシニアヒニケリ」

だい-め（名）［大目］〔四分ノ三ノ多キ方ニテ、大目ノ意ナラムト云フ、少キ方、四分ノ一ニモ名アルカ〕（一）藥種ノ目方ノ名。一斤ノ四分ノ一ヲ減ジタルモノ。（二）〔臺子ノ疊目ト云フ意〕茶室ニテ用キル疊一疊ヲ、四分ノ一減ジタルモノ。此疊ハ茶人紹鷗、利休ノ始メシモノナラム。二人共ニ堺ノ人ナレバ、藥ノ目方ノ稱ヲ用キタルナリ。（大目ノ疊目トモ記ス）茶室ノ大目疊ハ、長サ四尺八寸、幅二尺四寸、一間六尺三寸（中間ナリ）ノ四分ノ一ヲ除キテ四尺八寸ナリ、コレヲしはびき（四八引）ト云フ。（四分ノ三ハ四尺七寸二分五厘ニテ、七分五厘ノ差アリ）　[illegible]ト云ハ、一疊ヲ四ツニ分チ、一分減タルナリ、圍ニテ[illegible]一斤ヲ四分、一分減タルヲだいめト云、文字可ニ書ト云ヘリ」（三）曲尺ノ裏目ノ稱。

たい-めい（名）［大命］天皇ノ命令。[illegible]

たい-めい（名）［台命］三公ノ命令。又、將軍ノ命令。今ハ皇族ノ命令。

たい-めい（名）［大名］スグレタル名譽。大イナル名譽。　[illegible]

たい-めい（名）［待命］（一）官吏ノ現職ヲ罷メ、次ノ辭令ヲ待タシメオクコト。[illegible]（二）官吏ノ任用、職務ノ未定ナル[illegible]

だいめい-し（名）［代名詞］語學ノ語。名詞ニ代ヘ用キテ、ソレヲ指シテ云フ語。即チ、人ニ、我、汝、彼、誰ノ如ク、事物、地位、方向等ニ、これ、それ、あれ、ここ、そこ、かしこ、こなた、そなた、かなたナドノ別アリ。[illegible]名詞ノ條ヲ見ヨ。

たい-めん（名）［對面］（一）相對スルコト。對顏。[illegible]互ヒテ話スコト。[illegible]

たい-めん（名）［體面］體裁。面目。

たいめん-じよ（名）［對面所］大小名ノ邸ナドニ、來客ニ對面スルニ用キル表座[illegible]

數ノ稱、應接所。[illegible]年以來申次記、正月朔日、御對面所ヘ御出座」

だいめゆき (名) 〔大目行〕 裏尺(ウラガネ)ヲ用ヰルコト。すがりがね(曲尺)、及、だいめ(大目)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

だいもく (名) 〔題目〕 (一)書物、カキモノノ表題、外題。白氏文集、廿九、詠興五首序「各以首句命爲題目」 (二)日蓮宗ニテ、特ニ、法華經ノ表題ニ、南無ノ二字ヲ加ヘテ、南無妙法蓮華經ノ稱。コレヲ七字ノ題目ナド云フ。故ニ、日蓮宗ヲ題目宗、又ハ、唱題宗トモ稱ス。(三)トナヘ。名目。謠曲、弓八幡「先先メデタキ題目ナリ」 (四)提案。案件。平治物語、三、賴朝遠流事「叶ヒ難キ題目ナル由、申サレケレバ」

だいもくこう (名) 〔題目講〕 日蓮宗ノ信徒ノ組合。「題目講中」

だいもつ (名) 〔代物〕 (一)シロモノ。アタヒノシロ。代料。價錢。狂言記、寶笠「ソレナラ求メマセウガ、代物ハ何程ゾ」 (二)錢(ゼニ)ノ稱。武者物語「周防國大內義隆公、御幼少ノ時分ハ、御前丸殿ト申シツルガ、下下ノ子供、代物ヲモテアソブヲ御覽有テ、御前丸殿モ御モテアソビアラントノ御意ナリ」

たいもん (名) 〔體文〕 ぼんじ(梵字)ノ條ヲ見ヨ。

だいもん (名) 〔大紋〕 (一)大形ノ紋柄。平家物語、二、教訓事「小松殿烏帽子直衣ニ、大文ノ指貫ノソバ取ッテ、サヤメキ入リ給ヘバ」太平記、三十七、新將軍京落事「六條ノ會所ニハ、大紋ノ疊ヲ敷キ雙ベ」 (二)本名、ヌノビタタレ。布製ノ直垂ニテ、家ノ紋ヲ大キクツクルモノ、上ノ紋ハ五ツ處ナルコト、素袍ノ如ク、下ハ長袴ニテ、腰板ニ紋ナク、合引(アヒビキ)ト尻ト股腋ノ左右トニ紋アリ、諸大夫ノ服トス。風折烏帽子ニ小サ刀、布直垂ナリ。武家ニノミ用ヰル。德川幕府ノ制ニハ、狩衣ノ次ニ、武士ノ第三級ノ禮服、諸大夫已上ガ着ス。ひたたれ(直垂)ノ條ヲ見ヨ。後松日記、十三「兵部卿範輔卿記云、直垂、元武士之服也、爲二直仕一聽レ之、文門直衣相同也、宣旨部類記曰、天慶度平貞盛聽二直垂着一」宇津保物語、藤原君曰、さぶらひの人ドモハ、ハタケツクルトテ、オトドクリアゲ、クレノ足駄ハキテ、サイ杖ツキテ布の直衣キテ立給ヘリ」ト、直垂ノ起原ヲ考フルニ、上古武官ノ着服ニ襖ト云フモノアリ、其製闕腋ニシテ直垂ニ同ジ、是ヲマタイヅレノ御時ヨリヤひたたれトハ云ヒ初ケン、其襖ヲ改名付シコトハ、イマダサダカニ所見アラズ」(武官ノ位襖ト、武士ノ直垂トハ、其服制ノ懸隔スル事云フニ及バズ、又當時ニ至リテモ武官ノ儀服ハ必ズ襖ヲキル事ナレバ改名トモ云フベクモナシ、位襖ハ朝廷ノ大中少儀ノ公事ニ服ス、冠ヲ被リ、半臂下襲等ヲカサネ、表袴ノ上ニ着ルナリ、其體製ハ上首ニシテ尻長シ、元日、卽位ニハ武禮冠裲襠ヲ着ルヲ禮服ト云フ、又、官ニヨリテハ挂甲(カケヨロヒ)ヲ着ルナリ、直垂ハ武士ノ宿直ニ夜ノミ着タルモノナレバ、袖ノ裁縫ニ同ジ垂リクビニテ、身前後共ニ短シ、全ク下衣ノ體製ナレバ、袴ニ着コムナリ、如此懸隔スレバ一口ニ云フベカラズ、素襖ノ襖モ、襖子ノ襖ヨリ取リタルト云フガ近カルベシ、襖子ハ賤服ニシテ、其體、直垂ニ同ジ、裏有リ、綿モ入ルナリ) 夏山雜談、五「直垂ハ元來、武家ノ製作ノヨシナレドモ、堂上方ニモ內內是ヲ用ヒラルル由ナリ、堂上ハ練精好ヲ用ヰラル、地下ノ諸大夫ハ布ノ垂直(俗云、大紋)ナリ、武家方ニテモ、四位五位ノ侍從以上ハ、練精好ノひたたれヲ着用セラル、五位ノ諸大夫ハ布直垂ヲ用ヒラルトナリ」

だいもん (名) 〔大門〕 大寺ナドノ總門。又、其外郭ノ大ナル門。榮花物語、廿七、衣珠「法住寺ニハ、ソノ北ノ方ノ大門ニ、ソノ日ノウチニ築地ツキ」

だいもんじ (名) 〔大文字〕 (一)大ナルカタチノ文字。著聞集、七、能書「硯引ヨセサセ給テ、墨ヲシバシスラセ給テ、中ニモチイサカリケル筆ヲ、トラセ給テ、紫蓋之峯嵐疎ト云フ句ヲ、大文字ニテ四枚ニ書キミテサセ給テ、マイラセラレタリ」 (二)大ト云フ文字。沙石集、七、上、第一條「大文字ヲシラデ、またふりノヤウナル文字ハ、ナニゾト問ヘル僧アリケリ」 (三)古へ、陰曆七月十六日(今ハ、陽曆八月十六日)ニ、京都ノ如意嶽ニテ行ヒシ點火。大ノ字狀ノ大イナル火ヲ點ズ。近代世事談「東山大文字、弘法大師始テコレヲ作ル、淨土寺村蔡昭寺村ノ上ノ山ニ有リ、毎年七月十六日、兩村ノ土人四百餘人松明ヲ燈ス、聖靈ノ送リ火ト云フ、七月六日山ニ入テ、松木ヲ二三尺ニ切テ、日ニ乾ス、十六日ノ晩、コレヲ携ヘ山上ニ至ル、大ノ字ノ跡アリ、弘法大師ノ畫スル所ナリ、所所ニ少キ穴ヲ穿チ、小石ヲ以テ徵トス、凡大ノ一字、橫ノ一畫其長四十間ニ及ブ、炬火十箇餘也、左竪ノ一畫八十間餘、其間炬火二十箇、右ノ一畫六十八間、其間炬火二十九箇餘ナリ、所謂携ル所ノ薪ヲ、徵ノ石ノ上ニ積、同時ニ火ヲ點ス、其光赫奕タリ」 (四)偉大ナル文章。

たいや (名) 〔逮夜〕 〔逮ハ及ナリ、明日ノ茶毘(ダビ)ニ逮(オヨ)ブ夜ノ意〕 元來ハ、物故ノ次ノ夜ニテ、茶毘ノ前夜ヲ云ヘリ。轉ジテ、忌日ノ前夜ヲ、佛事供養スルニ就キテ云フ語。宿忌 齋宿

タイヤ (名) 〔英語、Tire, or Tyre.〕 護謨ニテ造リタル車ノ輪。又、鐵製ノ輪ヲモ云フ。

だいや (名) 〔臺屋〕 (一)食物ヲ調理スル臺所。鎌倉年中行事「西之御臺屋ハ兆須、東之御臺屋ハ宇都宮、御臺所ハ三浦介役所也」 (二)遊郭ニテ、臺ノ物ヲ調理スル家。

ダイヤ (名) だいやもんどノ略。

たいやう(タイヨウ) (名) 〔太陽〕 ひ(日)ニ同ジ。日輪。晉書、王導傳「太陽下同二萬物一、蒼生何由仰レ照」

たいやう(タイヨウ) (名) 〔大洋〕 (一)だいかい(大海)ノ條ノ(一)ニ同ジ。耶律楚材詩「北溟經二鄭城一、西闕抵二大洋一」 (二)大陸ヲ圍繞スル地球上ノ五ツノ大洋。卽チ大西洋、太平洋、印度洋、北氷洋、南氷洋、コレナリ。

たいやう(タイヨウ) (名) 〔對揚〕 (一)匹敵(ツリアヒ)スルコト。庾信、樂章「南斷對揚、人神咫尺」太平記、廿、越後勢越前ニ打越事「然レドモ敵ニ對揚スベキ程ノ勢ナラネバ」 著聞集、七、能書「抑、天下ニ道ニタヅサハル人、オホケレドモ、御邊ノ道ニオキテハ、又對揚ナシ」 (二)ソレニ答ヘテ、其旨ヲ稱揚スルコト。書經、君牙篇「奉二若于先王一、對二揚文武之光命一」 同、說命、下篇「敢對二揚天子之休命一」 (三)佛敎ノ語。法會ナドノ時ニ、佛前ニテ偈(ゲ)ヲ唱フルコト。又、其僧。江家次第、七、最勝講「散華師申二對揚一」 庭訓往來、九月「梵音、錫杖、對揚、呪願師」 (四)禪林ニテ、學人ニ對シテ、宗旨ヲ舉揚(コヤウ)スルコト。碧巖錄、第十九則「對揚深愛老俱胝」

たいやうけい(タイヨウケイ) (名) 〔太陽系〕 天文學ニ、太陽ヲ中心トシテ、ソノ周圍ニ運行スル天體群ノ稱。卽チ、諸ノ惑星、衞星、彗星、流星等ヲ合ハセテ、一大區ト見テ稱スル語。

たいやうれき(タイヨウレキ) (名) 〔太陽曆〕 こよみ(曆)ノ條ヲ見ヨ。

たいやく (名) 〔大役〕 勤メノ重キ役柄。重大ナル役目。傾城島原蛙合戰(享保、近松作)一「二人共ニ大役ウケタマハリ」

たいやく (名) 〔退役〕 職ヲ辭シテ退クコト。退職。罷官

ダイヤモンド (名) 〔英語、Diamond.〕 (一)金剛石。 (二)とらんぷノ札ノ名。赤色菱形ノ模樣アルモノ。

たいゆれい (名) 〔大庾嶺〕 ごれい(五嶺)

ノ條ヲ見ヨ。

たいよ (名) 貸與 カシアタフルコト。

たいよう (名) 體用 (一)支那ノ理學ニテ、本體ト作用ト。程頤、易傳序「體用一源、顯微無間」(二)文法ノ語ニテ、體言ト用言ト。各條ヲ見ヨ。

たいよう (名) 胎孕 ミコモルコト。ハラムコト。懷胎。姙娠。書言、堯典篇、疏「産生爲レ乳、胎孕爲レ化」

だいよう (名) 代用 其物ニ代ヘテ用キルコト。「代用教員」

だいよう (名) 大用 クソ。大便。(小用ニ對ス)

たいよく (名) 大欲 大イニ欲ノ深キコト。又、其人。禮記、禮運篇「飲食男女、人之大欲存焉」徒然草、二百十七段「究竟ハ理卽ニヒトシ、大欲ハ無欲ニ似タリ」狂言記、三人片輪「取ラウ取ラウト、大欲ニカカッテ」

たいらう タイ・ロウ (名) 大老 (一)豐臣氏ノ時ニ、執政ノ最高官。大年寄。豐臣秀吉譜「天正十九年以二大權現、前田利家、浮田秀家、毛利輝元、小早川隆景一、爲二天下大老一」(二)德川氏ノ時ニ、執政無上ノ職。老中ノ上ニアリ、一人ニ限ル。將軍幼少ノ時ナドニ置キテ、常ニハ闕ク。寬翰譜、五、土井「大炊頭源利勝、云云、寬永十五年六月蒙二ノ事許サレ、大老ト稱セラル」

たいらう タイ・ロウ (名) 退老 隱居スルコト。老年トナリテ、官途ヲ退クコト。白居易、洛城池上篇「西開北垣第一第、白氏叟樂天、退老之地」

たいらう タイ・ロウ (名) 太牢 大牢 (一)支那ニテ、天子ノ社稷ノ祭ノ犧牲、牛、羊、豕ヲ供フ。諸侯ハ羊ヲ備フ、少牢ト云フ。禮記、王制篇「天子社稷、皆大牢、諸侯社稷、皆少牢」(二)鄭重ナル饗膳。史記、項羽紀「項王使者來、爲二太牢具一、擧欲レ進レ之」太平記、廿八、漢楚合戰事「先酒ヲ勸メントシケルニ、大牢ノ具ヘヲナシテ」(三)德川氏ノ時、戸籍ヲ有スル人民ノ犯罪者ヲ入レタル牢屋。牢獄秘録、一、「大牢ハ宿有レ之者、武州牢ハ宿無レ之者」

だいらぼっち (名) 大太郎法師 だいだぼっち(大太郎法師)ノ條ヲ見ヨ。

たいらん (名) 台覽 覽ルコトノ敬語。(三公、公方ニ、今ハ皇族ニ)

たいらん (名) 大亂 國中大イニ亂レテ、相戰フコト。戰國策、燕策「大將攝二兵於外一、而内有二大亂一、則君臣相疑」太平記、十二、兵部卿親王流刑事「大亂ノ後ハ弓矢ヲ嚢ミテ、干戈ヲ袋ニストコソ申スニ、何ノ用トモナキニ、強弓射ル者、大太刀仕フ者トダニ申セバ」

たいらん (名) 頽瀾 瀾(ナミ)ノ頽(クヅ)レオチムトスルコト。

たいり (名) 大利 大ナル利益。左傳、昭公三十一年「竊レ邑叛レ君、以徼二大利一而無レ名、貪冒之民、將レ寘レ力焉」「大利ヲ博ス」

だいり (名) 内裏 大内裏ノ内、朝堂院ノ東北ニアリ、紫宸殿、清涼殿、後宮等、此中ニアリ、古ヘノ天子ノ常ノ御所ナリ。今ノ京都ノ御所ハ、應仁ノ亂後ヨリ、定メサセラレタル土御門ノ里内裏(サトダイリ)ナリ。大内。大内山。内。九重。禁中。禁裏 モモシキ。ココノガサネ。紫禁。紫ノ庭 コモギガホラ 宮城。皇城。[illegible] 續紀、廿三、年四月「[illegible]」頭面、詠物惡詩」[illegible]カカルツイデニ、だいりニ奏スベキ事ニヨリテナン、イソギノボリスルトテ」後拾遺集、[illegible] 今物語モ「此藏人ハだいりノ六位ナドヘテ、ヤサシキ藏人トイハレケルモノナリケリ」

だいり (名) 代理 他ニ代リテ事ヲ理(サバ)メ扱フコト。又、其人。代理人。

だいり (名) 大理 (一)裁判ノ役ヲナスモノ。保元物語、三、「[illegible]大理ノ[illegible]ルコトアランニ、時ノ大理ナレバ、[illegible]コレヲ捕ヘテ罪ヲ發セン時」(二)檢非違使別當ノ唐名。(別當ハ、其長官) 平家物語、十二、紺搔沙汰事「獄舍ノ前ナル[illegible]ラフ人モ、ナカリシヲ、時ノ大理ニツケテ申シウケ」

たいりう タイ・リュウ (名) 滯留 (一)トドコホルコト。荀子、王制篇「[illegible]物粟米、無レ有二滯留一」(二)とうりう(逗留)ノ條ノ(二)ニ同ジ。[illegible]

だいりき (名) 大力 人ノ力ノ勝レテ強キモノ。強力。怪力。[illegible] 保元物語、一、[illegible]器量人ニ越エ、心猛クマデ剛ニシテ、大力ノ強弓、矢次早ノ手キキナリ」

たいりく (名) 大陸 (一)廣大ナル陸地。[illegible] (二)大洋ニ對シテ、陸ノ大キク廣キヲ就キテ云フ時ノ語。卽チ東大陸、西大陸ト云フガ如シ。

だいりけい (名) 大理卿 (一)けびゐしのべったう(檢非違使別當)ノ唐名。職原抄、下「檢非違使、別當一人、唐名、大理卿」(二)ぎゃうぶきゃう(刑部卿)ノ唐名。[illegible]ハ、刑部省ノ長官。[illegible]人、相當正四位下、唐名、刑部尚書、大理卿」

だいりこうし (名) 代理公使 公使ノ歸國中ナドニ、一時、其代リテ、[illegible]ノ處理ヲナス外交官。辦理公使ノ次ニ位ス。

だいりさま (名) 内裏樣 三月ノ雛祭ニ、天子皇后ナドニ擬シテ飾ル雛人形ノ稱。内裏雛。[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

たいりせき (名) 大理石 [illegible]ノ礦石。[illegible]白色ナルアリ、斑文アルアリ、磨ケバ、光澤アリテ、甚ダ麗シ。種種ノ飾ニ用キル。

だいりびな (名) 内裏雛 [illegible]

たいりやう タイ・リョウ (名) 大量 大ナル度量。[illegible]

たいりやう タイ・リョウ (名) 大領 コホリノミヤツコ。郡ノ長官。其次官ヲ少領ト云フ。ぐんじ(郡司)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

たいりやく (名) 大略 勝レタル智略。大ナルハカラヒ。[illegible]

たいりやく (副) 大略 オホヨソ。オホ[illegible]

たいりよ (名) 大呂 たいろ(大呂)ニ同ジ。

たいりよく (名) 膂力 身體ノ勢力。

たいゐ タイ・ヰ (名) [illegible] [illegible]

たいれい (名) 〔台嶺〕 支那、浙江省ノ天台山ノ稱。又、支那ノ天台山ハ、天台宗ノ本山ナレバ、我ガ邦ニテモ、天台宗ノ根本道場タル比叡山ノ異稱トス。 通憲、春日遊二天台山一詩「一辭二京洛一登二台嶺一、遍僻路深隔二俗塵一」

たいれい (名) 〔頽齡〕 老衰(オイハラフ)レタル年。老齡。 陶潜、九日閑居詩「酒能祛二百慮一、菊解制二頽齡一」

たいれい (名) 〔儓隷〕 〔儓モ隷モ、同義ナリ〕 シモベ。ヤトヒニン。

たいれい (名) 〔大禮〕 (一)朝家ニ關シタル重キ儀式、即チ、即位、立后、等ノ如キ類。 史記、樂書「大禮與二天地一同レ節」 禮記、樂記篇「大樂必易、大禮必簡」 (二)重大ナル、ワタクシノ儀式 即チ、冠婚喪祭等ノ如キ類。

たいれいふく (名) 〔大禮服〕 重キ儀式ノ時ニ著用スル禮服、西洋服ノ製ニシテ、官等、又ハ、文武官ノ區別ニ因リテ徽飾(カザリ)ニ差アリ。

だいれう (名) 〔代料〕 だいきん(代金)ニ同ジ。

たいれつ (名) 〔隊列〕 隊ノ列。列(ナラビ)。列(レツ)。

だいれつ (名) 〔大烈〕 〔爾雅、釋詁篇「烈、業也」〕 大イナル事業。大業。 書經、立政篇「以揚二武王之大烈一」

たいろ (名) 〔大呂〕 (一)十二律(ジフニリツ)ノ一。其條ヲ見ヨ。 周禮、春官篇、大司樂「乃奏二黃鍾一、歌二大呂一」 (二)陰曆、十二月ノ異名。 禮記、月令篇「季冬之月、云云、律中二大呂一」 (三)大イナル鐘ノ稱。 史記、平原君傳「使二趙重一於九鼎大呂一」注「大呂、周廟大鐘」

たいろく (名) 〔大祿〕 高多キ祿。 禮記、表記篇「君子不下以二小言一受中大祿上」 太平記、廿六、藺相如事「大祿ヲ與ヘ、高官ヲ授ケ給ヒシカバ」

たいろん (名) 〔對論〕 相對(ムカ)ヒテ論ジ合フコト。又、對抗シテノ議論。

たいわ (名) 〔對話〕 相對(ムカ)ヒテ話シ合フコト。 藤都剩詩「山僧對話夜未レ央、不レ知風露濕二衣裳一」「對話者」

だいわう (名) 〔大王〕 支那、晉ノ王羲之ノ稱。其子王獻之ヲ小王(セウワウ)ト云ヒテ別ツ。羲之ハ、書ニ於イテ最モ能書ノ名アルモノ、獻之モ然リ 東大寺ノ延暦曝曬目錄ニ、御書廿五卷ノ中ニ、大小王書共半紙背面書一卷アリタリト。 東征傳、唐僧鑒眞來朝ノ時、齎シシ物品中ニ「小王眞蹟一帖」 萬葉集、四、四十一「石上、云云、妹ニ逢ハムト、言義之(イヒテシ)モノヲ」(手師ノ戲書) 同、七、三十一「世間ハ、常ニカクノミカ、結(ムスビ)大王(テシ)、白玉ノ緖ノ、絶エラク思ヘバ」

だいわう (名) 〔大王〕 (一)王ノ敬稱。 史記、樊噲傳「沛公先入定二咸陽一、暴二師霸上一、以待二大王一」 (二)親王ノ敬稱。 康富記、嘉吉三年四月六日「親王ヲバ大王ト申ス」

だいわう (名) 〔大黃〕 古名、おほし(大羊蹄)。 支那原產ノ多年生草ノ名。葉、根上ニ叢生ス、白桐葉ニ似テ、闊大ニシテ、鋸齒アリテ光ル。夏、中心ヨリ圓キ莖ヲ出ス、高サ六七尺、其葉互生ス。莖ノ頂、及、梢ノ葉ノ間每ニ、小花ヲ開キ、穗ヲナス、綠色ナリ。根ヲ胃腸ノ藥トス。

だいわうじやう (名) 〔大往生〕 少シノ苦モナク、往生スルコト。イト安ラカナル往生。 大原問答靑葉笛(寶永、近松作)五「中品中生コソ、世ニアリ難キ大往生ノ素懷ナレ」

たいわんばうず (名) 〔臺灣坊主〕 〔明治二十七八年戰役ノ際、臺灣に出征セシ兵士ノ、此病ニ罹リ、つるつる坊主ニナリテ歸國セシ故ニ云フト〕 古ヘニ云フ、鬼舐頭(キシツ)。禿髮病。コレハ頭部ノ寄生性皮膚病ニテ、髮ノ一二錢銅貨大ニ禿ゲ落ツ。精神過勞、榮養神經等ノ障害ニテ續發ス。傳染スルモノ故、注意ヲ要ス。禿頭病。禿髮症

だいゐとく (名) 〔大威德〕 〔惡ヲ伏スル勢アルヲ大威ト云ヒ、善ヲ護ル功アルヲ德ト云フ〕 大威德明王ノ略。佛經ニ、明王ノ一、西方ヲ護ル。六面、六臂、六足ニシテ、全身青黑色ナリ、一切ノ惡毒龍ヲ摧伏スト云フ。 榮華物語、八、初花「淸禪阿闍梨ハ大威德ヲヰヤマヒテ、腰ヲガカメタリ」

だいゐとくみやうわう (名) 〔大威德明王〕 略シテ、だいゐとく。前條ヲ見ヨ。 謠曲、道成寺「東方ニ降三世明王、南方ニ軍荼利夜叉明王、西方ニ大威德明王、北方ニ金剛夜叉明王、中央ニ大日大聖不動」

たいゐん (名) 〔大院〕 〔小院ニ對ス〕 太上天皇ノ住居シ給フ所ヲ云フ。 三代實錄、七、貞觀五年正月三日「太上天皇所レ居爲二大院一、尙侍所レ居、爲二其次一」

たいゐん (名) 〔大韻〕 〔小韻ニ對ス〕 漢詩作法上ノ一病。即チ詩ノ一聯中ニ、雙聲ヲ犯スコトヲ云フ。例ヘバ、五言詩ニ於テ、新ノ字ヲ以テ韻トスル時ハ、餘ノ九字ノ內ニ、更ニ同韻中ノ人、又ハ、津ノ字ヲ着クヲ、大韻を犯すト云ヒテ忌ム。 詩轍(三浦安貞)二「大韻トハ、其詩ニ押シタル韻中ノ字ヲ、上九字ノ內ニ用ユル也、胡姬年十五、春日獨當壚、端坐苦二愁思一、攬レ衣起二西遊一ノ類也」 江談抄、四「胡角一聲霜後夢、漢宮萬里月前腸、霜字、此韻要須字也、然而犯二大韻一作レ之」

だいゑんきやうち (名) 〔大圓鏡智〕 佛經ノ語。四智ノ一。大圓鏡ガ衆影ヲ現ズルガ如ク、普ク萬法ヲ照シテ、知ラザル所ナキ智。 心地觀經、二「如來眞智之中、能現二衆生諸惡業一、以二是因緣一、名爲二大圓鏡智一」 法華經科注「四無礙智、成所作智、平等性智、妙觀察智、大圓鏡智」 水鏡、下、仁明天皇「大鏡巻モ凡夫ノシワザナレバ、佛ノ大圓鏡智ノカガミニハ、ヨモ及ビ侍ラジ」

たいをん (名) 〔體溫〕 動物ノ體ノ溫度、人類ノハ攝氏三十七度ヲ常溫ト定ム。

たう (名) 〔薹ノ字音ノたいノ音便ト云フ、或ハ塔(タフ)ノ五輪ニ似タレバ塔(タフ)カト云フ、(俚言集覽ニ、季瓊日錄ヲ引キテ、布直垂地紫紋桐塔ト見エタリ)又、頭(トウ)ト云フ說モアリ〕 (一)古言、ククタチ。菜(ナ)、ふき、けし、ちのね、ちさナドノ中心ヨリ出デテ花ヲ生ズベキ莖。薹心。花莖 節用集(饅頭屋本)「款冬、フキノたう」 合類節用集、六、生植門「薹、本草ニ米囊(ケシ)、三四月抽レ薹」「菜ノ花ガたうニタツ」 (二)淺葱(アサツキ)ハ九輪ニ似タリ、故ニ塔立(タフタツ)ト云フ。コレ園菜ノ莖ノ伸ブルコトヲ、たうニ立ツト云フナリ。たうが立つト云フハ、サダスグ、時過グ、ト云フ意。

たう (名) 〔纛〕 オホカシラ。(其條ヲ見ヨ) 名義抄「纛、オホカシラ」(字類抄、同ジ)

たう (名) 〔黨〕 (一)歸趨、共ニ同ジキ者ドモ。一類。トモガラ。クミ。ナカマ。ムレ。 史記、齊太公世家「與二其黨一奔二營丘人一、襲二攻殺胡公一」「黨ヲ結ブ」 (二)古ヘ、武士ノ一團ノ稱。又、武士住人ノ土地ヲ有スル少キモノ。小名ノ類。 盛衰記、三十七、平家開ニ

城戸ロ二事「第二ハ小淵、横山、兒玉黨、猪俣、野與、山口ノ音共」「武藏ノ黨」丹ノ黨」

たう（トウ） （名） 刀 （一）カタナ。「刀ヲ把ル」刀ヲ脫ス」（二）支那ノ古ヘノ貨幣。錢ナリ、又、布アリ、卽チ刀ハ◎ー、布ハ[illegible]ノ如キモノ。くゎせん（貨泉）ノ條ヲ見ヨ。漢書、食貨志、下「利ニ於刀、流ニ於泉ニ也」註「如淳曰、名錢爲刀者、以其利於民也、泉者流行如泉也」周、西域傳「罽賓國以金銀爲錢、文爲騎馬、幕爲人面」 好古雜誌「刀、支那ノ貨幣ノ名、趙ノ甘丹邑ニテ鑄タル明刀ト云フハ、形、劍刀ヲ刀ノ古ヘ、中央ニテ少シ折リタレ如クニシテ薄シ、銅製ニテ古文字アリ、刀ノ字ナリト云フ」

たう（トウ） （名） 盜 ヌスミ。ヌスビト。論語、顏淵篇「季康子患盜、問於孔子」「盜ヲ防グ」

たう（トウ） （名） 當 （一）事ノ理ニ當ルコト。史記、禮書「喜怒以當」「其當ヲ得ズ」（二）ソノ事ニ當ルコト。「當ノ相手」當ノ主人」

たう（トウ） （名） 唐 〔古ヘノ支那歷朝ノ代號ノ一。李淵ト云フ者ヲ高祖トシ、子孫相承クルコト、二十代、凡ソ二百九十餘年（我ガ推古天皇ヨリ醍醐天皇ノ御代マデ）。文化最モ開ケ、本朝モ、當時、交通盛ニナリシカバ、唐朝亡ビテモ、長ク其號ヲ存シテ呼ビシナリ〕（一）カラ。モロコシ。卽チ、支那國ノ稱。唐土、唐國。漢土。隨ツテ、其國ノ物事ニ冠シテ云フ語。「唐物」唐本」唐紙」唐音」唐船」唐人」支那ニテモ自國ヲ唐ト云ヘリ。明ノ宋景濂、櫻賦「賞櫻日本盛於唐、如被牡丹兼海棠」（二）轉ジテ、江戸時代ニ至リテハ、支那ヲ専ラ南京（ナンキン）ト稱シテ、唐物、唐人ノ語ノ如キハ、南洋、又ハ、歐羅巴ノ稱トシ、支那人ニ暴少ナク、歐羅巴人ニ與多ケレバ、專語ニハ、毛唐人、其婦人ヲ女唐（メタウ）ナドト呼ブニ至レリ。

たう（トウ） （名） 鴇 〔玉篇「鴇、音鴇」字ノ音。鴇ヲ鴇ニ誤リ、又、鴇ニ誤ル、鴇、鴇ハ皇國字ナリ、南部地方ニハ、たうト云フ〕 鳥ノ名。ツキ。又、トキ。倭名抄、十八、羽族名「鵇、音鴇、本草、俗用鴇字二字通」字鏡「[illegible]、又、鵇字」名義抄「鴇、ツキ、タウ、タヲ」

たう（トウ） （動） 給 たぶ（給）ノ音便。タマフ。平家物語、八、鼓判官事「和殿ヲ鼓判官ト云フハ、萬ノ人ニ打タレたうカ、ハラレたうカ」

たう（トウ） （接頭） 當 名詞ノ上ニ冠シテ、此の、其の、今の、ナドノ意ヲ表ス語。「當六月」當年」當日」當人」當地」當國」當家」當山」

たう（トウ） （接頭） 唐 （一）唐土（モロコシ）、卽チ、支那ノ物ニ冠シテ云フ語。「唐人」唐船」唐墨」唐本」（二）轉ジテ、スベテ、諸外國ノ物ニモ云フ。「唐物」唐木綿」（三）又、形ノ、或ハ常ニ異ナリタル物ニ冠スル語。「唐草」唐鍬」唐臼」

たう（トウ） （接尾） 湯 煎藥ノ名ニ添ヘツクル語。倭名抄、十二、藥名類「湯藥、[illegible]、小豆湯、白石湯」「葛根湯」桂枝湯」

だう（ドウ） （名） 堂 （一）大ナル家。高ク顯レタル家。寢殿（モヤ）。倭名抄、十、居宅類「堂、俗云、猶ニ堂高顯ニ也」（二）寺ニ、佛像ヲ祀ル家。伊勢物語、七十七段「ソコバクノサゝゲモノヲ、木ノ枝ニツケテ、堂ノ前ニ立テタレバ、山モサラニ堂ノ前ニ動キ出デタルヤウニナン見エケル」「本堂」[illegible]迎堂」（三）雅號。「養浩堂」順天堂」大雅堂」

だう（ドウ） （名） 道 （一）ミチ。「正道」邪道」（二）ヲシヘ。宗旨。「儒道」佛道」修驗道」（三）京都ヨリ四方ヘ行クベキ道ニ當レル國ヲ總ベテ云フ稱。卽チ全國ノ大別ナリ。畿内ヲ本トシテ、東海、東山、北陸、山陰、山陽、南海、西海ノ七道トシテ、明治二年、新タニ北海道ヲ加フ。

だう（ドウ） （名） 道 支那ニ行ハルル一種ノ宗敎ノ名。老子ヲ祖トシテ、玄元皇帝ト云フ、其流ヲ道家ト云ヒ、其信奉者ヲ道士ト云フ、奇異ノ術ヲ主トシ、[illegible]等ノ事ヲ行フ。だうけう（道敎）ノ條ヲモ見ヨ。

だう-あく（ドウ・アク） （名） 獰惡 [illegible]

たう-あみ（トウ・アミ） （名） 唐網 とあみ（投網）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]ノたう網ニカラマレテ、浮カミモヤラヌ、お龜トハ」

たう-い（トウ・イ） （名） 擣衣 砧ニテ衣ヲ擣ツコト。李白詩[illegible]

だう-い（ドウ・イ） （名） 道衣 道士ノ着用スル衣服。道服。

たう-い-そく-めう（トウ・イ・ソク・ミョウ） （句） [illegible] ノ氣轉、甚ダ妙ナリ。卽座ノ氣轉、トンチ。頓才。[illegible]

たう-いつ（トウ・イツ） （名） 蕩逸 はういつ（放逸）ニ同ジ。後漢書、班超傳「宜蕩佚簡易、寛小過、總大綱而已」（佚ハ、逸ニ同ジ）

たう-いと（トウ・イト） （名） [illegible]

たう-いん（トウ・イン） （名） 唐音 たうおん（唐音）ニ同ジ。[illegible]

だう-いん（ドウ・イン） （名） 導引 〔血氣ノ流行ヲ導[illegible]ケバ云フトゾ〕按摩。揉療治（モミレウヂ）ニ同ジ。

だう-いん（ドウ・イン） （名） 堂印 （一）[illegible] （二）[illegible]錢ノ面ヲ紙ニ拓シ、其傍ニ押スナドニ云フ。

だう-う（ドウ・ウ） （名） 堂宇 〔說文「宇、屋邊也」〕[illegible]

たう-うす（トウ・ウス） （名） 唐臼 すりうす（磨臼）ニ同ジ。

たう-うちは（トウ・ウチワ） （名） 唐團扇 [illegible] ぐんばいうちは（軍配團扇）ニ同ジ。[illegible]「行司ノ唐うちはヲ[illegible]」

たう-えう（トウ・ヨウ） （名） 桃夭 〔下ノ例ノ詩經ノ語ニ因ル〕ヨメイリドキ。婚期。詩經、周南、桃夭「桃之夭夭、灼灼其華、之子于歸、宜其室家」[illegible]

たう-えう（トウ・ヨウ） （名） 蕩搖 [illegible]

だう-おつ-てん（ドウ・オツ・テン） [illegible]

嘗乙嘗ニ」

たうおん（トウオン）（名）［唐音］ かんおん（漢音）ノ條ヲ見ヨ。唐音、

たうか（トウカ）（名）［稻荷］（一）稻荷ノ神。（二）東國ニテ、狐ノ異名。狐ヲ稻荷ノ神ノ使トス）いがたうめ（伊賀專女）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

たうか（トウカ）（名）［蹈歌］ たふか（踏歌）ニ同ジ。

たうか（トウカ）（名）［棹歌・櫂歌］ 船頭、舟子ナドノ歌フ歌。舟ウタ。漁歌。 漢武帝、秋風辭「簫鼓鳴兮發棹歌」 南史、羊侃傳「侃、云云、性豪侈、善音律、自造采蓮棹歌兩曲、甚有新致」

たうか（ドウカ）（名）［道歌］ 訓戒ノ意味ヲ含メル歌。道德教訓（通俗ノ）ノ寓意歌。「手習ハ、坂ニ車ヲ、押ス如ク、油斷ヲスレバ、後ヘモドル」ノ類。

だうか（ドウカ）（名）［道家］ 道教ヲ奉ズル人。道士。らうさう（老莊）ノ條ヲ見ヨ。 史記、武安侯傳「推儒術、貶道家言」

たうがい（トウガイ）（名）［當該］（一）ソノコト。 狂言記、松讓葉「正月ノ御飾リノ當該ニナル、禁廷ノ松ヲ拜ケマスル」（二）ソノカカリ。「當該官署」

だうがう（ドウゴウ）（名）［道號］ 入道シテ後ノ稱號。僧侶ナドノ、字ノ外ニ附クル號。ほふみやう（法名）ノ條ヲ見ヨ。 釋書、宋僧東嗣、號霽月堂」

だうがう（ドウゴウ）（名）［堂號］ 堂ノ號。齋號。屋號。だう（堂）ノ條ノ（三）ヲ見ヨ。

たうかうぎやくし（トウコウギヤクシ）（句）［倒行逆施］ ヨコガミヤブリ。無理ヲ押通スコト。 史記、伍子胥傳「吾日暮途遠、吾故倒行而逆施之」

だうかうだな（ドウコウダナ）（名）［道幸棚］〔創意者ノ名ニ起ル〕 茶室ノ爐傍ノ壁ニ、袋戸棚ノ如ク、茶器ヲ載スベク作レル所。常ハ壁後ニアルベキ水屋ヲ、此ニ置ケルナリ。 書言字考節用集、一、乾坤門、上「道幸棚、ダウカウダナ」註「茶室所言、蓋道幸者、泉南人、嗜茶、老後使匠工作之座右、以貯茶器、故名、或云、道幸業茶、俳偏所用者、則其匣而已」 嬉遊笑覽、十、下「だうこハ道公ト書ベシ、千家、だうこう棚ニ道幸トカクハ誤リナリ、ソハ別ニ說アリ」

たうがき（トウガキ）（名）［唐柿］ いぬびは（犬枇杷）ニ同ジ。

たうがく（トウガク）（名）［唐樂］ 唐朝ヨリ傳來シタル雅樂。ががく（雅樂）ノ條ヲモ見ヨ。 宋史、外國傳「左曰唐樂、中國之音也」 續紀、廿七、天平神護二年十月「舍利之會、奏唐樂也」

だうがく（ドウガク）（名）［道學］ 儒學ノ稱。又、支那、宋ノ世ノ程氏朱氏ノ學派ノ稱。性理ヲ以テ經義ヲ說クモノ。宋學。朱子學ノ條ヲモ見ヨ。 癸辛雜識 宋、周密「宋沈仲固云、道學之名、起於元祐、盛於淳熙」「宋史、道學傳」

たうがさ（トウガサ）（名）［唐瘡］〔唐人ノ長崎ニ來リテ、其毒ヲ傳ヘシヨリ起ルト云フ〕 ばいどく（黴毒）ニ同ジ。 東海道名所記（萬治）六「唐瘡ヲカキ出ダシテ、コレヲ防ガントテ、輕粉、大風子ナンド、アラケナキ藥ヲ飲ミテ」

だうがた（ドウガタ）（名）［堂形］ 三十三間堂ノ矢ヲ射ル形。やかず（矢數）ノ條ヲ見ヨ。 古[illegible]（延享）「三十三間堂、云云、矢數ノ初、コレ京都ノ堂形也」

たうかん（トウカン）（名）［盜汗］ ねあせ（寢汗）ノ條ヲ見ヨ。 外科祕法「盜汗不止、五倍末以唾調、塡滿臍中、以帕縛定、一宿止」

たうがん（トウガン）（名）［唐雁］ がてう（鵝鳥）ノ一名。其條ヲ見ヨ。

たうがらし（トウガラシ）（名）［唐辛］〔豐公、征韓ノ時、加藤清正携ヘ來ルトモ云フ〕 草ノ名。春ノ半ニ種ヲ下ス。高サ二三尺、葉ハ柳ニ似テ小サク、又、胡椒ニ似テヤハラカナリ、叢生ス、枝脆シ。夏ノ半ニ小白花ヲ開ク、實ハ莢ニシテ、ささげノ如クニシテ、圓ク長シ、初メ青ク、熟スレバ赤シ。又、黃ナルモアリ、子ヲ併セテ食フ、味極メテ辛シ。食ニ添ヘテ、味ヲ助ク。又、葉ヲモ食フ。種類多シ。トンガラシ。別名、高麗胡椒。南蠻胡椒。南蠻ガラシ。ナンバンこ。番椒 辣椒 蕃椒 近代世事談、三「番椒、秀吉朝鮮征伐ノ時、ハジメテ取來ルト云フ（上欄ニ加藤清正携來リシト云フト記ス）又、慶長十年、たばこト同ジク蠻國ヨリ渡ルトモアリ、南蠻胡椒ト云フ、中華ニハ番椒ト云フ、番ハ南蠻ノ事也、中華ニモ、大明ノ末ニ、ハジメテ見ルト云フ、因ッテ本綱ニ未レ載レ之」 太祇全集「唐辛、疊ノ上へ、ハカリケリ」

たうがらしみそ（トウガラシミソ）（名）［唐辛味噌］ 唐辛ノ子ヲ、ホドヨク燒キテ擂リ、味噌ヲ加ヘテ擂リ、味醂ニテ伸バシタルモノ。他ノ食物ニツケテ食ス。（風呂吹大根ナドニ） 孕常盤（正德、近松作）二「唐辛味噌ハアルケレド、是レデハ咽セテ堪ルマイ」

たうがらす（トウガラス）（名）［唐鴉］ かささぎ（鵲）ニ同ジ。（九州）

たうき（トウキ）（名）［陶器］ スエモノ。ヤキモノ。（つちやきニ云フ）やきもの（燒物）ノ條ヲ見ヨ。 禮記、月令篇「仲冬之月、云云、陶器必良」

たうき（トウキ）（名）［當歸］〔箋注倭名抄、十、草「當歸、李時珍曰、當歸調レ血、爲二女人要藥一、有二思レ夫之意一、故有二當歸之名一、陳承曰、氣血昏亂者、服レ之即定、能使二氣血各有一レ所レ歸」〕 草ノ名。古名、ヤマゼリ。ウマゼリ。オホゼリ。芹ノ屬。苗高サ二三尺、葉互生シ、厚ク細長ク、數葉ヲ一葉トス、深綠ニシテ光澤アリ、夏、枝ノ頭ニ、小白花簇リ開キテ、傘ノ狀ヲナス。根ヲ藥用トス。 下學集、下、草木門「當歸、タウキ」 書言字考節用集、六、生植門「當歸、タウキ」 芭蕉句集、春「當歸ヨリ、哀レハ塚ノ、菫草」

たうぎ（トウギ）（名）［讜議］〔讜ハ、說文「直言也」玉篇「善言也」〕 正シキ議論。 唐書、李絳傳「[illegible]時時讜議、移二人主一」

だうぎ（ドウギ）（名）［道義］ 人ノ踐ミ行フベキ正シキ道。 史記、太史公自序「春秋以二道義一」

たうきう（トウキユウ）（名）［討究］ 事物ノ眞理ヲ尋ネ究ムルコト。研究。 唐書、韓愈傳、贊「治二荒剔蠹、討二究儒術一、以興二典憲一」

たうきび（トウキビ）（名）［唐黍］（一）もろこしきび（唐黍）ノ一名。（京都）（二）なんばんきび（南蠻黍）ノ一名。（筑前、加賀、仙臺）

たうきん（トウキン）（名）［韜鈐］（一）弓ノ袋（韜）ト、矛ノ柄（鈐）ト。（二）轉ジテ、武術。兵法。 張說詩「禮樂逢二明主一、韜鈐用二老臣一」

たうぎん（トウギン）（名）［當今］ 當代ノ今上。キンジヤウ。イマノウヘ。今上陛下。 保元物語、三、新院御遷幸事「[illegible]ノ御事、猶其ノ末マテモ[illegible]ヒアランニハ、當今ハ誰ニ讓リマシマサン」

たうきうじゆつ（トウキユウジユツ）（名）［淘宮術］〔淘宮ハ十二宮、即チ十二支ニ因リテ氣癖ヲ淘ナ

ぐる義」 己レガ惡シキ性ヲ正シ、己レガ善キ性ヲ助長シ、克己ヲ修養スル術。コレ支那ノ天源術ヨリ起レル一種ノ性理學、且、道德學、故ニ實踐躬行ヲ旨トス。德川幕府ノ留守居番、同心組頭春龜齋横山丸三ノ、天保五年ニ、始メテ此術ヲ說キ始ム。其法ハ、人ノ氣質ヲ十二ニ分チ、十二宮ト云ヒ、コレヲ十二支ニ配當シ、別ニ十ノ性ヲ立テ、十干ニ當テ、人ノ生日ヨリ定メノ日數ヲ溯リテ、受胎ノ日ヲ小輪ト云ヒ、其月ヲ中輪ト云ヒ、其年ヲ大輪ト云ヒ、其年月日ノ十二支ニ因リテ、種種ノ氣癖ヲ持チテ發動スト云フ。ソレヲ矯メテ、邪念苦勞ヲ拂ヒ、性ノ正シキニ歸セシメ、克己修養スト云フモノナリ。此法ヲ修ムルモノハ、讖悔會日ヲ定メテ、互ニ其氣質ヲ滿ゲ得タルヲ語合フト云フ。

たうきよ（トウ・キヨ）（名）［刀鋸］（一）かたなト、のこぎりト。〔國語、魯語「中刑用刀鋸、其次用鑽笮」〕（二）轉ジテ、死罪ニ行フ刑具。

たうきよく（トウ・キヨク）（名）［當局］（一）碁盤ニ相對シテ、勝負ヲ爭フコト。唐書、元澹傳「當局者迷、[illegible]」（二）其事ヲ受持ニ當リ居ルコト。

たうぎり（トウ・ギリ）（名）［唐桐］ひぎり（緋桐）ニ同ジ。

だうぐ（ドウ・グ）（名）［道具］〔禪僧ノ語ニ起ルト云フ。[illegible]器物[illegible]門「凡三衣[illegible]、一切資助進道之身物具、名爲道具」〕（一）佛家ニ用キル佛道ノ具。釋氏要覽、[illegible]

[illegible]

出シ、是レハ山伏ノ御道具カト云ヘバ、兒ヲ具シタル[illegible]ナレバ、[illegible]ノ具足ヲ持ツマジキハレガアラバコソ」「山代ニ道具、俗ニ具足ト云フ、[illegible]ナリ」讃岐典侍日記、上「道具ナド取リノケテ、皆人人打チヤスメトテオリヌ」（二）武家ニテ、專ラ槍、[illegible]ニ、武道第一ノ具トシテ云ヒ、槍ハ武士ノ出行ニ特有ナルヲ、二本道具、三本道具ト云フ。又、七ツ物ノ武器ヲ、七ツ道具トモ云フ。（弓矢ヲ調度ト云フ）[illegible]代ヒ[illegible]ニ」（三）轉ジテ、一切ノ器ノ稱。調度、用器、什具。[illegible]中齊記（伊勢貞陸）「御だうぐモメウゼン所[illegible]フタオヤ、レキレキニテ、[illegible]コシラヘ[illegible]オカレ[illegible]ヒツレドモ、ヨロツ[illegible]トトノヘ取リカネ候テ」[illegible]記「伊勢[illegible]「ミヅシノタナ、云云、二[illegible]ニアルだうぐ、[illegible]、カウバシ、[illegible]、[illegible]記、[illegible]、ワラハガ持ツテ[illegible]道具、小袖ヲ代ナセ、代ナセト言ウテ、皆ニサシマシタ」「大工道具」「家財道具」（四）芝居ニ云フハ、道具方ノ條ヲ見ヨ。

だうぐおとし（ドウグ・オトシ）（名）［道具落］戰場ニテ、軍卒、槍、其他ノ武器ヲ遺失スルコト。[illegible]山ノ井（[illegible]）「ヤリ梅モ、風ニハ道具、おとしカナ」

だうぐかた（ドウグ・カタ）（名）［道具方］芝居ニ用キル器ヲ道具ト云フ、ソレヲ取扱フ者ノ稱。家屋等ヲ大道具ト云ヒ、刀劍ナドヲ小道具ト云フ。[illegible]

たうぐし（トウ・グシ）（名）［唐櫛］梳櫛ノ一種。竹ヲ極メテ細ク削リ、[illegible]

だうぐだて（ドウグ・ダテ）（名）[illegible]

調ヘ竝ブルコト。

たうぐは（トウ・グワ）（名）［唐鍬］鍬ノ一種。頭、及、[illegible]、[illegible]、柄アリ、樹ノ根ヲ掘起スナドニ用キル。[illegible]鍰

だうぐまく（ドウグ・マク）（名）［道具幕］芝居ニテ用キル[illegible]

だうぐもち（ドウグ・モチ）（名）［道具持］やりもち（槍持）ニ同ジ。[illegible]

だうぐや（ドウグ・ヤ）（名）［道具屋］古道具ヲ賣買スル[illegible]、トリウリ、[illegible]心中[illegible]衛トハ、思ヘバ近キ町ツヅキ」

たうくらげ（トウ・クラゲ）（名）［唐水母］水母ノ、形ノ大ナルモノ。好色一代女（西鶴）五「[illegible]ナドノ吸ヒ物、唐水母デバカリ、酒飲ンダ事ハナイ」

たうくるみ（トウ・クルミ）（名）［唐胡桃］くるみ（胡桃）ノ條ヲ見ヨ。

たうくわ（トウ・クワ）（名）［倒戈］（一）戈ヲ倒ニシテ、味方ヲ攻ムルコト。[illegible]（二）轉ジテ、敵ニ内通スルコト。

たうぐわ（トウ・グワ）（名）［唐畫］［やまと畫ニ對ス］からゑ（唐繪）ノ條ヲ見ヨ。

たうくわい（トウ・クワイ）（名）［韜晦］（韜ハ、つつむ、晦ハ、くらます）自己ノ才能、又ハ地位ナドヲ秘ムルコト。クラマスコト。[illegible]

たうくつく（トウ・カツク）（名）［湯鑊］［漢書、刑法志[illegible]］[illegible]人ヲ煮[illegible]レ人也」）湯ヲ沸騰セサセテ、罪人ヲ煮殺ス用キル具。[illegible]

たうくわせん（トウ・クワ・セン）（名）［導火線］（一）又、[illegible]口火ヲ點ズル用ヰル[illegible]。（二）[illegible]成事件ヲ生ズルニ至ル起因。

たうくわでん（トウ・クワ・デン）（名）［桃花殿］攝家ノ、一條家ノ[illegible]

たうくわのせつ（トウクワ・ノ・セツ）（名）［桃花節］上巳ノ節ノセック。三月ノ節句。

たうくわん（トウ・クワン）（名）［唐冠］から[illegible]ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

だうくわんさう（ドウ・クワン・サウ）（名）[illegible]

[illegible]ニシテ對生ス。春ニ至リ、莖ノ梢、紅白小花ヲ開ク。後、房ヲ結ブ、[illegible]、熟スレバ黑シ、[illegible]藥用トス。王不留行。

たうけ（トウ・ケ）（名）［當家］コノ家、我ガ家。[illegible]

たうけ（トウ・ケ）[illegible]

コ、又、嶽ノ延カ。峠ハ國字。（一）坂路ノ登リツメタル處。嶺。 堀河百首、兼昌ノ「足柄ノ山ノたうげニ、今日來テゾ、富士ノ高嶺ノ、程ハ知ラルル」（二）上リ下リノ山ノ境。國モ多ケコロニテサカフ。路行ク人ノ國津神、道祖神ニ手向スル所。 古今集、序、「松塚山ニイタリテ手向ノ祈リ」 木工權頭爲忠家百首、「吉野山、春ノヨルベト、見エツルハ、たうげニ花ノ、咲ケルナリケリ」（三）俗ニ、モノノ極。果。「嶮ノ峠」

だうけ（名）〔道家〕 だう（道。宗教ノ）ノ條ヲ見ヨ。

だうけ（名）〔道化〕〔齋藤道三、義子義龍ト不和ノ時、我ニ同ゼム者ハ剃髪セヨト令ス、道化某、髪ヲ半剃シ、兩屬ノ意ヲ示セルヨリ云フト云フ、サレド牽強ナラム、おどけ（戲）ノ轉ナルベキカ〕 戲レヲ行ヒ、人ノ笑ヲ起スコト。戲ルルコト。オドケ。滑稽 東海道名所記（萬治）一、「堺町ノ勘三郎トカヤ、圖エシだうけモノガ、女形トヤラン、コトゴトシキ芝居、云云、夕九郎右衛門之介、云云、コレヲ道化者腹筋ヲヨラスル」 人倫訓蒙圖彙、七、役者「道化、ウツケヲ第一トシ、ウソガマシキ事ノミイヒ、ナリフリマデヲカシゲニ見エ、見物ノ方方、笑ヒヲ催サス」

たうけい（名）〔刀圭〕（一）藥ヲ盛ル匙。今ノ剃刀ニ似、端ニ圓形ノ容器ヲ有ス。又、其匙一杯ノ、藥ノ目方。卽チ方寸匕ノ十分ノ一。 夢溪筆談、中「刀圭」（二）轉ジテ、醫術ノ稱トモシ、醫者ヲ刀圭家ナドト云フ。

たうけう（名）〔道教〕 又、道家。支那ニ行ハルル一種ノ宗教。支那民族ノ古來ノ祭天ノ俗、天體ノ崇拜、神仙ノ思想等ガ、秦ノ世ノ頃ヨリ次第ニ混和シ、後漢ノ世ニ、印度ヨリ佛教ノ入レルヨリ、其感化ヲ受ケテ、一ノ宗教トナレリ。陰陽五行ヲ元トシ、不老長生、富貴トナルヲ旨トシ、老子ヲ崇ム。陰陽道ト云フモノ、此教ヨリ移リテ成レルモノナリ。だう（道）ノ條ヲモ併セ見ヨ。

だうけがた（名）〔道化形〕〔だうけハ、おどけノ轉、道外、道戲、童戲トモ書ス〕 歌舞伎ニ、滑稽ノ役ヲナスモノ。タハケタル技ヲ演ズルモノ。丑。 歌舞伎事始、二「道戲がた、ムカシハ立役ノオモ役ナリ、人品ヨク發邏邏トシテ、心ニ足ラハヌ所作スルヲ道戲ト云ヒシ也、云云、今ノ道外ト云フハ、丁稚三太、カゴ舁、チッチ兵衞、アルヒハ庄屋ノ松兵衞ナド云フ如キノ端役ニナリテ、意趣タガヘリ」

たうげしゃく（名）〔桃花石〕 白キ石ニ淡紅點アルモノト云フ。 本草「桃花石出二申州鍾山縣一、今信州亦有レ之、其狀若二桃花鮮紅一可レ愛」 倭名抄、一九、鑛石類「桃花石、此間云二道卦尺一」 名義抄「桃花石、タウクヱジャク」

たうげつ（名）〔當月〕 コノツキ。今月。 北史、晉永安簡平王浚傳「初神武納二浚母一、當月而有レ孕」

たうげづる（名）〔峠蔓嶺蔓〕〔尾ノ如クウネル義。甲斐ノ方言。信濃ニテハ、峯ね、駿河ニテハ、峯づね、丘づるみねト云フ〕 ヤマツヅキ。さんみゃく（山脈）ノ條ヲ見ヨ。

たうけん（名）〔唐犬〕〔舶來種ナリ〕 犬ノ一種、大ナルモノハ、高サ三四尺ニ至ル。力殊ニ強ク、多ク狩ニ用ヰル。オランダ犬。 獒 和泉屋權兵衞ト云フ町奴、唐犬ヲ毆リ殺シタリトテ、唐犬權兵衞ト呼バル。

たうけん（名）〔刀劍〕 カタナ。ツルギ。 史記、春申君傳「刀劍室、以二珠玉一飾レ之」

たうけん（名）〔倒懸〕 手足ヲ縛リテ倒ニ懸クルコト。轉ジテ、至極ナル困苦ヲナスニ喩ヘテ云フ語。 孟子、公孫丑、上篇「當二今之時一、萬乘之國行二仁政一、民之悅レ之、猶レ解二倒懸一也」 太平記、三十八、太元軍事「縱令水火ノ責ニ逢フトモ、暫クハ落ツル事ナカレ、倒懸身ヲ苦メ、炮烙骨ヲ碎ク時ニ致リテハ、我ハ伯顔將軍、賈丞相等ガ使トシテ」

たうげん（名）〔桃源〕〔支那ノ、今ノ湖南省武陵道ニ桃源縣アリ、桃源山ハ縣ノ南十里ニアリト云フ〕 人間以外ノ里ノ意。人間ト離レタル別天地。仙境。（下ノ出典ヲ見ヨ） 陶潛（晉）、桃花源記「晉太元中、武陵人、捕レ魚爲レ業、緣レ溪行、忘二路之遠近一、忽逢二桃花林一、夾レ岸、數百步中無二雜樹一、芳草鮮美、落英繽紛、漁人甚異レ之、復前行、欲レ窮二其林一、林盡、水源便得二一山一、山有二小口一、髣髴若レ有レ光、便捨レ船從レ口入、初極狹、纔通レ人、復行數十步、豁然開朗、土地平曠、屋舍儼然、有二良田美池桑竹之屬一、阡陌交通、雞犬相聞、其中往來種作、男女衣著、悉如二外人一、黃髮垂髫、並怡然自樂、見二漁人一、乃大驚、問レ所二從來一、具答レ之、便要レ還レ家、設レ酒、殺レ雞作レ食、村中聞レ有二此人一、咸來問訊、自云、先世避二秦時亂一、率二妻子邑人一、來二此絕境一、不二復出一焉、遂與二外人一間隔、問、今是何世、乃不レ知レ有レ漢、無レ論二魏晉一、此人一一爲具言レ所レ聞、皆歎惋、餘人各復延至二其家一、皆出二酒食一、停數日辭去、此中人語云、不レ足下爲二外人一道上也、既出得二其船一、便扶レ向レ路、處處誌レ之、及二郡下一、詣二太守一、說レ如レ此、太守卽遣二人隨二其往一、尋二向所レ誌、遂迷不二復得一レ路」（此文ハ想像ノ神仙說ナリ）

たうげん（名）〔套言〕（一）陳套ノ言。フルクサキコトバ。（二）キマリテアル言葉。キマリモンク。套語。

たうげん（名）〔讜言〕〔說文「讜、直言也」〕 正シキ詞。直言。 後漢書、班固傳、下、注「讜言、謂二善言、忠說、含レ和壯一レ氣」

たうけんぐみ（名）〔唐犬組〕 町奴六法男達ノ組ノ名。其長ヲ唐犬權兵衞（旗本屋敷ノ唐犬二疋ヲ、毆リ殺シタリシ故ニ名ヅク）ト云ヒキ。唐犬額ハ此男ノ額ニ起ルトゾ。

たうけんぐゎけい（句）〔陶犬瓦雞〕 外貌ノミ勝レテ見エテ、何等ノ働キモナキ人ヲ、嘲弄シテ云フ語。 成語考「空存無レ用、何殊二陶犬瓦雞一」 金樓子、梁、元帝、立言、上篇「陶犬無レ守レ夜、瓦雞無レ司レ晨之益」 古老軍物語、五「武士ト名ヲカカリナガラ武篇ナクバ、陶犬瓦雞トテ、譬ヘバ石ニテ造リシ犬ハ、名ノミ犬ニシテ、盜人ヲ咎メズ、瓦ニテ造リシ雞ハ、名ノミ雞ニシテ、八聲ヲトナヘズガ如シ」

たうけんびたひ（名）〔唐犬額〕 唐犬組ノ唐犬權兵衞ノ額付ノ大額。卽チ、大キクヌキアゲタル額。 洞房語園（享保）「唐犬權兵衞ト云フ男立モ、額付ノ異風ナルニ因リテ名高ク、唐犬びたひト云フト、今ニ言傳フ」 俠客傳「江戸ニ唐犬組ト云フ男達アリシ、云云、大方男ブリヨク美男ナリシ、額別シテ大キク、カッカウヨロシク、今稀ナリ」

だう・ける ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下一）〔道化〕〔道化ヲ活用ス、牛耳るト同趣〕 滑稽ヲナス。戲ル。フザケル。戲謔

たうこ（名）〔鞀鼓〕〔集韻「鞀、音陶、小鼓、持二其柄一搖レ之、兩耳還自擊」〕 フリツヅミ。 書經、益稷篇「下管鞀鼓、合止柷敔」

たうご（名）〔套語〕〔正字通「套、同レ套、

凡物重沓者爲[illegible]」定リタル語。當[illegible]ノ語。たうげん(套言)ニ同ジ。

たうこう (名) 刀工 カタナカヂ。刀匠。劍匠。

たうこう (名) 陶工 ヤキモノシ。陶器ヲ造ル工人。本朝陶器攷證、三「頴川、大黑町五條ノ南ニ住ス、陶工ニアラズ、好ンデ陶ヲナス、海老清ニ陶法ヲ學ビ、能ク唐物ヲ寫ス」

だうこう (名) 堂構 家業ヲ承ケ嗣グコト。[illegible]「[illegible]仲翔、肯[illegible]堂構、能負[illegible]析薪[illegible]」

たうこぎ (名) 〔田ノ五加木ノ義〕 草ノ名、春ノ末、濕地ニ生ズ、莖、秧ノ如シ、成長スレバ、莖、方ニシテ、細長キ五葉、排生シテ一葉ヲナシ、粗キ鋸齒アリ、節ニ對シテ生ズ。秋、高サ二三尺、枝ノ梢毎ニ黄花ヲ開ク、後、數十ノ毬ヲナス。コノ草ハ、毛髮ヲ黑クスル效アリ、又、肺結核ヲ治スト云フ。狼把草

たうごく (名) 唐國 たう(唐)ノ條ヲ見ヨ。

たうごく (名) 當國 コノ國。我ガ住ム國。源、廿二、玉鬘「大貳ノ北ノ方ナラズバ、たうごくノ受領ノ北ノ方ニナシ奉ラン」

だうこのばう (名) でくのばう(木偶坊)ノ條ヲ見ヨ。ト養千句「石臼ニ、何ヤラ入レテ、マハスラン」だうこのばうハ、コマカナルベシ」

たうごばう (名) 唐牛蒡 やまごばう(山牛蒡)ニ同ジ。商陸

たうごま (名) 唐胡麻 古名、カラエ。カラガシハ。春分ニ種ヲ下ス。苗ノ高サ丈餘、莖、直上シテ、中空シク節アルコト竹ノ如シ、皮白クシテ粉アリ。葉ハ節ニ互生シ、大イサ一尺、九岐ニ分レテ鋸齒アリ 秋、莖ノ梢、又ハ、葉ノ間ニ花アリ、黄白ニシテ、簇リ開クコト神樂鈴ノ如シ。實ニ毬アリ、中ニ三子アリ。ひましのあぶらヲ採ル。蓖麻

たうゴマ (名) 唐獨樂 こま(獨樂)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]山の井(置文)「たうごまノ、花ノウナルヤ、アブノ聲」

たうこん (名) 刀痕 かたなきずノ痕。宋史、韓世忠傳「刀痕箭瘢、如[illegible]」

たうこん (副) 當今 イマ。今ノ時ニ。現時 史記、淮南王安傳「當今[illegible]」

たうざ (名) 當座 (一)其座ニ當リテノコト。座上。席上。狂言記、[illegible]「[illegible]」(二)和歌ノ題ノ、其會ノ席上ニテ出スモノ。(兼題ニ對ス) [illegible]「順徳院御位ノ時、當座ノ歌合セ有リケリ」 (三)當分ノ中、假初ニ數日ノ間。狂言記、千鳥「足下ノ左樣仰セラレウト存ジ、當座ノ代リハ持ッテ參[illegible]タ」 (四)たうざよきん(當座預金)ノ略。其條ヲ見ヨ。

だうさ (名) 陶砂 どうさ(礬水)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。字類抄「陶砂、タウサ」節用集、[illegible]「陶砂、タウサ」[illegible]

たうざい (名) 當歳 [illegible]

たうさう (名) 對策 たいさく(對策)ノ[illegible]其條ヲ見ヨ。[illegible]ゴトニオキテハ、シキジニモ入リ、たうさうシ、及第シ、[illegible]料タマハリ」

たうざう (名) 當[illegible] [illegible]シタリケル」たうざうナリト、人ハイヘドモ二(論[illegible]ミソハ、法論ミソナリ)

たうざかしこし (名) 當座貸越 銀行ニテ、當座預金者ト約定シテ、其預金ノ盡クルニモ拘ラズ、信用ヲ以テ其振出セル小切手ノ支拂ヲナスコト。コレニ對シテ銀行ハ、擔保物ヲ提出セシムルコトアリ、又、其利子ハ普通ヨリ高キヲ當トス。當座預金貸越

だうさがみ (名) 陶砂紙 礬石紙 どうさがみ(礬水紙)ニ同ジ。[illegible]

たうささげ (名) 唐豇 いんげんささげ(隱元豇)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

たうざちやう (名) 當座帳 [illegible]ノ、賣買取引金錢ノ事ヲ、假初ニ記シ置ク帳面ノ名。後ニ、臺帳、其他ニ分ケ記ス。

たうさん (名) 倒[illegible] (一)[illegible]。(二)サカゴ。逆産。

たうさん (名) 當[illegible] [illegible]人。[illegible]アリテ、一級ヲ加ヘラル、加之、[illegible]ヘル兵共ニ至ルマデ、或ハ[illegible]ヲ進メラレケレバ」

たうざん (名) 當山 (一)コノヤマ。(二)[illegible]

たうざん (名) 唐山 〔支那僧ノ山城宇治ノ黄檗山ニ住職シ、其故國ノ黄檗山ヲ指シテ云ヘル語ヲ襲用セシナリト云フ〕 もろこし。カラ。唐土。支那。

たうザン (名) 唐棧 さんとめぢま(棧留縞)[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

たうさんぼん (名) [illegible] さんぼん(三盆)ノ條ヲ見ヨ。

たうさんゆ (名) [illegible] [illegible]味噌汁ヲ飲ミテ了レル器ニ、注シテ飲ム湯。

たうざよきん (名) 當座預金 預金ノ一。銀行ナドニテ、期限ヲ定メズ、何時ニテモ預ケ主ノ請求ニ應ジテ支拂フモノ。タウザアヅケキン。(當座預金通帳)

たうし (名) [illegible] 新竹ヲ水ニ浸シ、[illegible]ノ皮ヲ[illegible] [illegible]色ナルヲ毛邊ト云ヒテ、上品トシ、白クシテ堅キヲ連史ト云ヒテ、下品トス。カラノカミ。竹紙 [illegible]

たうし [illegible]

ラウタ[illegible]詩ト云フニ同ジ。特ニ、支那、唐代ノ人ノ作リタル詩。漢詩。

たうし 島司 (名) モト府縣知事ノ指揮監督ノ下ニ、島地ノ行政事務ヲ取扱ヒシ官吏。今ハ支廳長ト云フ。

たうし 蕩子 (名) 惡シキ遊ビニ耽ルモノ。道樂者。文選、古詩「青青河畔草」云云、「昔爲倡家女、今爲蕩子婦、蕩子行不歸」

たうし 刀子 (名) コガタナ。小刀。短刀。晉書、衛瓘傳「得一利刀子、足以殺賊」

たうじ 當事 (名) 其事件ニ關係スルコト。其事務ヲ擔當スルコト。儀禮、特牲饋食禮「佐食當事、則戶外南面」

たうじ 當寺 (名) コノテラ。當山。本寺。謡曲、田村「スナハチ當寺ノ佛力ナリ」

たうじ 當時 (名) 差當リタル今ノ時。タダイマ。現時。宇治拾遺、五、第八條「何事モ申セ、又偏ニ頼ミテアラムズルゾ、マヅ當時、寒ゲナリ、此衣着ヨトテ」ニ、大永記、大永七年正月七日「室町殿出仕、云云、某以、片衣小袴也、當時、毛無[illegible]之間不可然之躰也」雄略紀、七年八月「盛稱稚媛於朋友曰、天下麗人莫若吾婦、[illegible]云云、當時秀者也」

たうじ 當時 (副) ソノカミ。ソノ頃。過ギシ其時ニ。[illegible]、上元田家[illegible]「[illegible]」

だうし 導師 (名) (一)佛敎ニ、能ク衆生ヲ說キテ、無生死ノ道ニ導ク者。又、佛菩薩ノ通稱トス。所問經「[illegible]」[illegible]法華經[illegible]「[illegible]導師」法[illegible] (二)法會ナドノ時、其主トナリテ事ヲ執ル僧。古今集、十六、哀傷「シモツイヅモ寺ニ、人ノ業シケル日、眞靜法師ノだうしニテイヘリケル詞ヲ歌ニ」 (三)佛事ノ時ニ、法儀ノ主トナル僧。枕草子、十一、百四十六段「宮ノ御名ノ、ソヤノ御導師聞キテ、出ヅル人ハ」

だうし 道士 (名) (一)道敎ヲ修ムルモノ。だう(道)ノ條ヲ見ヨ。漢書、王莽傳「衛將軍王涉、素養道士西門君惠」 (二)仙人。後赤壁賦「夢一道士羽衣蹁躚、過臨皐之下」

だうし 道志 (名) 古ヘ、大學ノ明法道ヲ卒業シ、左右衞門ノ志ニ任ジテ、撿非違使ノ志ヲ兼帶スルモノ。朝野群載、九「改氏姓任道志者、明法博士資清、是也」書言字考節用集、三、官位門「道志、ダウシ、注「明法道舉、爲六位時、任衞門志、謂之道志」」

たうじき 當色 (名) (一)位階相當ノ服ノ染色。一位ハ何色、四位ハ何色ナドト制定アルナリ、卽チ位色ノイヒナリ。(出典ヲ見ヨ) 衣服令「位袍、一位深紫、二位三位淺紫(紫色深クシテ共ニ黑ク見ユ)、四位深緋、緋ノ色極メテ深クシテ黑ミタリ、以上ハ皆見ニハ一樣ニ見ユ)、五位淺緋(緋色)、六位深緑(木賊色)、七位淺緑(萌葱)、八位深縹(濃縹)、初位淺縹(縹)」 (二)儀式ニ、官位卑キ者ニハ、其當色ノ服ヲ臨時ニ貸サルルニヨリ、後ニハ色ニ拘ラズ、スベテ拜借ノ公物ヲ指シテ云フ語トナル。紫式部日記「御湯殿ハ酉ノ時トカ、火トモシテ宮ノ下部ミドリノ衣ノ上ニ、白キたうじき著テ御湯マヰル」節抄、小忌、仁平元年十一月廿五日「秘記曰、臨時祭、舞人陪從、青摺、私調之、當色頭紙不合期故也」後松日記(天保、松岡行義)二「當色ト云フニ二樣アリ、衣服令云(省略)トイヘルハ、當位ノ色ト云フ事ニテ、皇太子ハ黄丹、已下親王及一位、王臣ハ紫、已下ノ色ハママニ用ユル事ヲ得、其當色ヨリ上ノ色ハ、用ユル事ヲ聽ザル令ナリ、サテ、又、榮花物語、初花卷、上東門院御產條ニ、御湯殿ハ、酉ノトキトゾアル、ソノギシキアリ樣エイヒツヅケズ、火トモシテ宮ノ下部ドモ、ミドリノキヌノウヘニ白キたうじきトモニテ、ミユマイル、又、紫式部日記云(省略)ト見ユ、又、節抄、小忌條(省略)[illegible]當色、云、仁平元十一廿五、或說記曰、舞人陪從、青摺、私調之、當色[illegible]之故也)、云云、是ハマタク公物ヲ云フナリ、公物ヲ下シ賜ルニ不相當ノモノヲ賜フベキニハアラズ、必相當ノ(緣縫紺)衣ヲ賜ルニヨリ、當色トハ云ヒケルヲ、中頃ヨリハ、色ノサタニ及バズ、公物ヲサシテ云フナリケリ、位アル人ハ位色トモ位袍トモ云ヒテ、モトヨリ高キ身ナレバ、公物ヲカリ用ユベキニハアラズ、位ナキイヤシキモノハ、私ニハエソナフマジケレバ、公ヨリ臨期ニカシ給フナリ、サテツヰニカリモノノ名ニナリニタルベシ、今モ下部ハ、ミナ當色ヲキルナリケリ(紺黑ノ衣、相當ノ色也、自餘ノ色ハアシシ)」 (三)陰陽家ニテ、其年ノ吉方ニ當レル色。

たうじき 陶磁器 (名) 陶器ト、磁器ト。ヤキモノ。セトモノ。スヱモノ。

たうしせん 當四錢 (名) 寬永錢ヲ云フ。卽チ當時、通用スル四文錢ノ稱。草茅危言(中井竹山)、三「怪シキハ見行ノ當四錢也、是レハ今迄曾テ無カリシヲ、明和中、始鑄ナレバ、其ノ年號ヲ用ヒラルベキニ、ヤハリ寬永也」

たうじつ 當日 (名) ソノ日。其事ニ當ル日。陸游詩「惟有築城詞、哀怨如當日」

たうしう 蹈襲 (名) 前通リ、フミツグコト。其通リマスルコト。金史、李經傳「經作詩極刻苦、喜出奇語、不蹈襲前人」

たうしん 盜心 (名) 人ノ物ヲ盜マムト欲スル心。ドロバウ根性。盜情。

たうしん 刀身 (名) カタナノ中身。

たうじん 唐人 (名) (一)もろこしノ人。支那ノ人。「唐人醫」唐人笛」 (二)轉ジテ、諸外國ノ人。罵リテハ、毛唐人。 (三)唐人の寢言トハ、チンプンカン、ワケノワカラヌ語、理ヲ解セヌ人ノ語ノ意。

たうじん 刀刃 (名) カタナノ刃。[illegible]詩「[illegible]刀刃光」

たうじん 蕩盡 (名) (一)ツカヒハタスコト。(二)スタレツクルコト。

たうじん 討尋 (名) 討ネ究ムルコト。討究。討窮。

だうしん 道心 (名) (一)事ノ是非善惡ヲ識別シテ、正善ニツク心。道德心。良心。(私心タル人心ニ對ス) 書經、大禹謨篇「人心惟危、道心惟微、惟精惟一、允執厥中」 (二)佛敎ノ語。佛道ニ歸依スル心。菩提心。榮花物語、[illegible]、十三「普[illegible]衆生、發道心」二、花山「幼クヨリ、イミジウ道心オハシテ、法華經ヲ明ケ暮レ誦ミ奉リテ」枕草子、二、廿九段「尊キ事、道心多カリトテ、說經スト云フ所ニ、サイソニイキスルコソ」 (三)十三歲、或ハ十五歲以上ニシテ、佛道ニ入リシ者ノ稱。一寺ノ住職トナルコト能ハズトゾ。新ニ道心トナレル者ヲ、今道心ト云フ。狂言記、俄道心「俄カニ斯樣ニ、道心ニ成ッテ御座ル」

だうじん 道人 (名) (一)佛門ニ入リテ得道シタル者ノ稱。其未ダ得道セザル者ヲ道者ト云フトゾ。智度論「得道者、名爲道人、餘出家者、未得道者、亦名道人」 (二)〔漢書、京房傳、注「道人有道術之人也」〕支那ニテ、道家ニ入レル人。又、世俗ノ事ヲ棄テタル人ノ自稱。(僧ナドノ號ニ添ヘテ用ヰル) 推古紀、三十二年四月「道人猶犯法、何以誨俗人」

たうじんがさ (名) [唐人笠] 陣笠ノ中央高ク尖リ出シタルモノ、頂ニ紅作ナドツケテ、鉄[illegible]、[illegible]ニ、唐人囃子ナドニ[illegible]。[illegible]

たうしん-だん-だん-ゑ (句) [刀身段段壞] 法華經ノ語。刀ノ中身ノ幾片ニモ折ルルコト。[illegible]

たうじんばやし (名) [唐人囃子] 唐人ノ太鼓、笛、鉦ナドヲ奏シテ、囃子タツルコト。又、其ハヤシ。

たうじんぶえ (名) [唐人笛] 一種ノ笛。嗩吶(チャルメラ)。喇叭(ラッパ)。嗩吶ノ條ヲ見ヨ。

たうじんまげ (名) [唐人髷] 少女ノ結ビ髪ノ一種。卽チ髷ノ中間ヲ、タスキガタニ、毛ニテカガリテ結ヒタルモノ。[嬉遊笑覽、一、下「クシ巻、田舎、[illegible]、メウト曲、唐人曲、オバコムスビ、樂屋結」]

たうじんまめ (名) [唐人豆] らくくわしやう(落花生)ニ同ジ。

だうしや (名) [道者] (一)だうにん(道人)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。又、禪家ニテハ行者(アンジャ)ヲ云フ。[illegible] (二)打連レテ神社、佛閣ニ詣ヅル旅人ノ稱。道衆。[illegible] (三)伊勢ニテ、他國ノ參宮人ノ稱。

だうしや (名) [導車] 機械場ノ多クノ車ニ、動力ヲ傳フル車。

たうしやう (名) [刀匠] カタナカヂ。刀工。劍匠。[北史、[illegible]觀之、乃召州内刀匠示之」]

たうしやう (名) [刀傷] カタナキズ。

たうしやう (名) [湯傷] 熱湯ノ爲ニ火傷(ヤケド)スルコト。

たうしやう (名) [堂上] (一)四位以上、昇殿ヲ聽サレタル官人ノ稱。意、殿上ニ同ジ。又、ダウジャウ。(地下ニ對ス) (二)轉ジテ、汎ク搢紳(シンシン)家ノ稱。

たうしやうがた (名) [堂上方] [堂ハ石林燕語(宋、葉夢得)「古者、天子之居、總言レ宮、而不レ名、其別名皆曰レ堂、明堂是也、初未レ有ニ稱レ殿者一、秦始皇作ニ阿房甘泉前殿一、蕭何作ニ未央前殿一、其名始見、而阿房甘泉未央、亦以レ宮ヒ] 堂上ノ御方。クモノウヘビト。クゲシュウ。

だうじやうじ (名) [道成寺] 能樂、及、歌舞伎ノ曲ノ名。紀伊國日高郡矢田村、道成寺ノ僧安珍ト清姫トノ傳説ヲ脚色シタルモノ。

だうじやうてん (名) [堂上點] くんてん(訓點)ノ條ヲ見ヨ。

たうしやく (名) [唐尺] 大小二種アリ、大尺ハ曲尺ノ九寸六分四厘、小尺ハ八寸三厘アリ。猶、しやく(尺)ノ條ヲ見ヨ。

だうじやく (副) [瞠若] [illegible]瞠、直視也、若ハ[illegible]、呆レテ目ヲ見張ル狀、又ハ、アッケニトラレタル狀ニ云フ語。瞠然 莊子、田子方篇[illegible]夫子步亦步、夫子[illegible]、夫子[illegible]、[illegible]而回[illegible]」

たうしゆ (名) [當主] イマノアルジ。當代ノ戸主。現在ノ戸主。

だうしゆ (名) [illegible] [illegible]ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

だうしゆう (名) [堂衆] 比叡山、延暦寺ノ三塔ニ結番シテ、花ヲ奉リ[illegible] [illegible]九、山門堂衆ハ、學生ノ中ミハ、[illegible]ル童部ノ法師ニナリタルヤ、若シハ中間法師ナドニテ有リケルガ、[illegible]付キナドシテ、以テノ外ニ過分ニナリ」

だうしゆんてん (名) [道春點] 林道春ノ、漢籍ニ施シタル訓點(訓點ノ一)。最モ國文ニ近キモノ。猶、くんてん(訓點)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「世間ニ四書ノ道春點ト云フハ、慢說ノ文義ヲ[illegible]ヘラレタルヲ、道春、直ニ送付假名ニ[illegible]シタレバ、先生ノ附點ナリ」

たうしよ (名) [島嶼] しまト、おしまト。

たうしよ (名) [當處] [illegible] コノ土地。當地。又、ソノトコロ。[illegible]レモ當所ノ名物ナリ」

たうしよ (名) [當初] ソノカミ。ハジメ。[illegible]

たうしよく (名) [當職] 其職ニ當リ居ルコト。又、現在ノ職務。[illegible]記、廿四、[illegible]合戰事、前官、當職ノ公卿殿上人、十ガ八九ハ平氏トシテ、春日大明神ノ氏人ナリ」

たう・ず・ズル・ズレ・セ・シ・セヨ (自動、[illegible]) [illegible] [illegible] 相助ケテ非ヲ掩フ。タスク。カバヒアフ。[illegible]

たう・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、[illegible]) [illegible] [illegible]

だうせ (名) [陶砂] どうさ(礬水)ノ條ヲ見ヨ。

たうせ (名) [illegible] [illegible]り(純綿)ニ同ジ。

たうせい (名) [當世] [illegible] コノナカ。イマドキ。今世。[illegible]

たうせい (名) [illegible] [illegible]

たうせい (名) [陶製] 陶ニテ造リタル物。

たうせいふう (名) [當世風] (一)イマヤウ。ウキヨスガタ。コノゴロヤウ。(二)當世ノ風習。

たうせき (名) [黨籍] [illegible]

たうせつ (名) [illegible] [illegible]

たうせん (名) [illegible] [illegible]

ネ。支那ノ船。カラフネ。平家物語、十一、先帝御入水事「平家ノ方ノ謀ニハ、ヨキ武者ヲバ兵船ニ乘セ、雜人バラヲバたうせんニ乘セテ」(二)支那風ニ造レル船ノ稱。慶長見聞集(寛永)「昔、慶長年、當國ヘ、唐船ヲ作ラシメタマヒ、淺草川ノ入江ニツナガセタマフ、カカル大船ヲ作リ、海ヘ浮ムル事計ニテハ、人力モ及ビガタカルベシ、云云」

たうせん (名) 唐扇 支那製ノ扇。

たうせん (名) 當選 エラビニアタルコト。選拔セラルルコト。唐書、高崇文傳「顯功宿將、人人自謂當選、及詔出、皆大驚」

たうせん (名) 當籤 鬮ニアタルコト。

たうせん (名) 當千 一人ノ勇ニテ、千人ノ敵ニ當ルコト。文選、李陵答蘇武書「疲兵再戰、一以當千」吉野忠信(寶永、近松作)三「當千ト賴ミヲカケシ小早川、其ノ外、手廻ハリ多ク討タセ」「一騎當千」

たうぜん (名) 當然 マサニ然ルベキコト。理ノ善ク當ルコト。アタリマヘ。中庸、三十三章、注、各盡當然之實」「理ノ當然」

たうぜん (副) 陶然 〔陶ハ正韻「餘昭切、音、搖」えうぜんノ誤〕心ウットリシテ、樂シキ狀ニ云フ語。陶潛、時運詩「揮茲一觴、陶然自樂」「陶然トシテ醉フ」

たうぜん (副) 蕩然 (一)空シク廣キ狀ニ云フ語。(二)形跡ノ無クナリタル狀ニ云フ語。「蕩然トシテ地ヲ掃フ」

だうぜん (副) 憧然 だうぢゃく(憧若)ニ同ジ。鶴林洪喬「入ㇾ門見女嘲、憧然以自得作ニ直視ニ」

たうそう (名) 逃走 逃ゲ走ルコト。ノガレ走ルコト。遁走。

たうぞく (名) 盜賊 ヌスビト。ドロボウ。禮記、月令篇「季秋之月、云云、行ニ冬令ニ則國多ニ盜賊、邊竟不ㇾ寧、土地分裂」(竟ハ境ナリ)

だうぞく (名) 道俗 〔出家ノ人ヲ道ト云ヒ、在家ノ人ヲ俗ト云フ〕僧侶ト、俗人ト。魏書、李同軌傳「道俗咸以爲ㇾ善」中論疏、一「道俗者、智度論云、聲聞法中、未ㇾ說ニ生死卽涅槃、衆生則是佛、故二乘不ㇾ能ニ一ニ道俗ニ也、道則涅槃、俗則生死」大鏡、上、序「入道殿下ノ、御アリサマノ、世ニスグレテオハシマス事ヲ、道俗男女ノ御前ニテ申サント思フガ」

だうそじん (名) 道祖神 二神竝ビ立テル像ヲ石ニ刻リ、岐路ニ立ツルモノ。サヘノカミ。幸ノ神。道陸神。さへのかみ(道神)ノ條ヲモ併セ見ヨ。倭名抄、二神靈類「道祖、佐倍乃加美」運歩色葉集「道祖神、ダウソジン」

たうた (名) 田歌 田唄 たうゑうた(田植歌)ニ同ジ。枕草子、九(一本)田歌「ホトトギスハ、オレヨ、カヤツヨ、オレ鳴キテゾ、我ハ田ニ立ツ」徹書記物語「旅行ケバ、サオリノ田歌、國ニヨリ、所ニツケテ、聲ゾカハレル」蕪村句集「午ノ貝、田唄音ナク、ナリニケリ」俳諧新選、夏「背ノ子モ、田唄覺エツ、少シヅツ」

たうた (名) 淘汰 洮汰 ヨナゲワクルコト。ヘラスコト。アラヒスグコト。又、ヨキモノヲ取リ、不用ノモノヲ除クコト。後漢書、陳元傳「解ニ釋先聖之積結ニ、洮ニ汰學者之累惑ニ」「冗員淘汰」

たうだい (名) 當代 (一)イマノヨ。當世。今世。後漢書、耿弇傳「弇兄弟六人、皆垂ニ靑紫ニ、省ニ侍帷幄ニ、當代以爲ㇾ榮」狂言記、八尾「地藏、當代ハ、人間ガ利根ニナッテ、八宗九宗ニ法ヲ分ケ」(二)當今ノ世繼。源、十三、明石「當代ノ御子ハ右大臣ノ御女、承香殿ノ女御ノ御ハラ」(三)今ノアルジ。現在ノ戶主。

だうたい (名) 導體 熱、又ハ、電氣ヲ傳ヘ導ク物體。傳導體。

たうたう (副) 堂堂 (一)嚴ニ盛ニ。立派ニ。論語、子張篇「曾子曰、堂堂乎張也、難ニ與並爲ニ仁矣」太平記、十二、公家一統政道事「凡ソ事ノ體、嚴重ニ見エテ堂堂タリ」「威儀堂堂」(二)高ク顯ルル狀ヲ云フ語。廣大、咸盛ノ意。又、大ニシテ備ヘヨロシク、一點ノ虛ナキコト。

たうたう (副) 滔滔 (一)水ノ漫ク、大イニ流ルル狀ニ云フ語。詩經、齊風、載驅篇「汶水滔滔、行人儦儦」「水勢滔滔」(二)世ノ風潮ノ、抗セラレヌ狀ニ云フ語。又、世ノ中、一般ナルコト。論語、微子篇「滔滔者、天下皆是也、而誰以易ㇾ之」(三)經行ク狀ニ云フ語。楚辭、七諫篇「年滔滔而日遠兮」(四)辯舌ノ滯ラヌ狀ヲ云フ語。「發音流暢、辯舌滔滔」

たうたう (副) 蕩蕩 (一)廣大ナル狀ヲ云フ語。漢書、禮樂志「大海蕩蕩」書經、堯典篇「湯湯洪水方割、蕩蕩懷ㇾ山襄ㇾ陵」(二)平カナル狀ヲ云フ語。書經、洪範篇「無ㇾ偏無ㇾ黨、王道蕩蕩、無ㇾ黨無ㇾ偏、王道平平」

たうたう (感) 丁丁 木ヲ伐ル音ニ云フ語。詩經、小雅、鹿鳴之什、伐木篇「伐ㇾ木丁丁、鳥鳴嚶嚶」祇園女御九重錦(寶曆、若竹笛躬)三「風カ持テ來ル斧ノ音、伐木丁丁テウテウト、木ヲ伐ル音ヤコタヘケン」蕪村句集、秋「胡錫ヤ、杭打ツ音、丁丁タリ」

たうたう (感) 鞺鞳 鏜鏜 (一)鼓ナドノ音ニ云フ語。續世集、講武賦「振ニ鞺鞳之音ニ」(二)波、又ハ瀑布ノ音ニ云フ語。鞺鞳

たうだう (名) 當道 (一)コノ道。我ガ學ブ道。太平記、廿四、天龍寺供養事「中ニモ荒序ハ當道ノ深祕ニテ、容易雖ㇾ不ㇾ奏ㇾ之」(荒序ハ、雅樂ノ曲名)(二)醫家ニ、內科ノ稱。

だうだう (副) 堂堂 物事ノ盛大嚴重ナル狀ニ云フ語。孫子、軍爭篇「無ㇾ邀ニ正正之旗ニ、勿ㇾ擊ニ堂堂之陣ニ」「堂堂タル大廈」「議論堂堂」

だうだう (副) 呶呶 〔說文「呶、讙聲也」〕クドクドシキ狀、又ハ、言葉、數多クシテ、カマビスシキ狀ニ云フ語。韓愈、言箴「汝不ㇾ懲耶、而呶呶以害ニ其生ニ邪」

たうたうたらりら (句) 謠曲ノ翁ノ神歌ニ唱フル語。笛ノ譜ヲ云フ語ナリト云フ。ちりやたらりモ同ジ。(とうとうたらりノ條ヲモ見ヨ)謠曲、翁「とうとうたらりたらりら、たらりあがりららりとう、ちりやたらりたらりら、たらりあがりららりとう、處千代マデオハシマセ」謠曲抄「翁ノ謠物ニ、ちりやたらり、たらりちりや、たうたうたらりらト云フ詞アリ、是レハ催馬樂、風俗等ニアルヲ移シテ、其本ハ笛ノ譜ノ音振ヲ記セル詞ヨリ出デタル也」體源抄、青海波「聲歌、太良利、知良利利、太良利良利」催馬樂、大宮「たりやりたんな」同、酒飲「たんなたりや、たんなたりちりら」注「笛譜也」

たうだうは (名) 當道派 まうくゎん(盲官)ノ條ヲ見ヨ。

だうだうめぐり (名) だいだうめぐり(大道廻)ノ轉。其條ヲ見ヨ。

たうたつ (名) 到達 イタリツクコト。トドキイタルコト。到着。

たうたどり (名) 田歌鳥 ホトトギス。拾忠集「早苗取ル、頃シモ小田ニ、折リハヘテ、打チシキリ鳴ク、田歌鳥カナ」

たうたふ (感) 鞺鞳 たうたう(鞺鞳)ニ

同ジ。入蜀記（宋、陸游）「夜[illegible]、[illegible]有[illegible]」

たうち（名）［當地］コノ土地。コノ地。當處。本地 神仙傳（晉、葛洪）、皆[illegible]奇異之物、非當地所有」

たうち（名）［島地］シマグニ。シマ。

たうち（名）［倒置］サカサマニ、オクコト。史記、留侯世家「倒置干戈、覆以虎皮、以示天下不復用兵」

たうぢ（名）［湯治］（一）藥湯。庭訓往來、十一月「五木八草湯治風呂」（二）溫泉ニ浴シテ、病ヲ治スルコト。保元物語、下、[illegible]生捕事「近江國或山寺ニ立寄リ湯治シケルニ」[illegible]集、二、[illegible]「壺坂ノ僧正ノモトニ、湯治ノタメニ忍ビテ湯ノ期限ヲ待チ候ホドニ」吾妻鏡、五十一、弘長三年十月八日「和泉前司行方、此間湯治之處、依以[illegible]中[illegible]所勞」

たうぢさ（名）［唐萵苣］草ノ名。葉ハ菘ニ似テ、圓クシテ尖リ、甚ダ厚シ、四時食フベシ。故ニ不斷菜、不斷草ノ名モアリ。夏ノ初メ、莖ノ高サ、一二三尺、葉ノ間ニ、黄緑色ノ花簇リ開ク、はうれんさうノ花ニ似タリ、根ハ紡錘ノ形ヲナシテ、色赤シ、食フベシ。一名、捺萵苣。［莙薘］

たうちゃ（名）［唐茶］（一）德川時代ニ、支那ヨリ輸來シタル茶ノ稱。（二）紅茶ノ一稱。（三）僧家ニテ、酒ノ隱語。

たうチャウ（名）［唐茶宇］こはくおり（琥珀織）ノ條ヲ見ヨ。

だうぢゃう（名）［道場］［梵語、菩提曼拏羅（Bodhimanda.）ノ譯語］（一）モト釋迦ノ、聖道ヲ成ゼシ處ヲ云フ。轉ジテ、沙門ノ、心ヲ靜ニシテ道ヲ修スル處。寺。[illegible]「道場」三代實錄、[illegible]、貞觀[illegible]年正月十日「[illegible]、以爲道場、賜額[illegible]寺、許之」（二）武道ノ諸術ヲ習フ場所ノ稱。「劍術ノ道場」［[illegible]］

だうちゃうとせつ（句）［道聽塗說］［論語、陽貨篇「道聽而塗說、德之棄也」］又、だうていとせつ。道ニテ聞キタルコトヲ、其儘、又、途ニテ語ス意、淺薄ナルモノハ、善言ヲ聞クト雖モ、心ニ留メテ己レノ有トセザルヲ云フナリ。

だうぢゃうほふし（名）［道場法師］怪力ノ鬼神ノ如キモノノ稱。靈異記、上、第三縁「[illegible]亡時、[illegible]、[illegible]引[illegible]、故十餘人可荷作鋤柄[illegible]持也、[illegible]鋤柄[illegible]杖而往、立[illegible]門口、而居、[illegible]王等鋤柄引[illegible]、[illegible]門口、而不入[illegible]寺田、[illegible]石、[illegible]於[illegible]門、入[illegible]於寺田、王等恐[illegible]之力、而終不犯、故寺田不[illegible]湯而能得之、故寺[illegible]令[illegible]得度出家、[illegible]道場法師、後世人傳謂、元興寺道場法師[illegible]力多有、是也、當知、誠先世[illegible]修[illegible]所[illegible]之力也、是日本國奇事也」

だうぢゃうやぶり（名）［道場破］武道ノ稽古所ニ[illegible]、滿座ヲ壓倒スルコト。

たうちゃく（名）［到着］イタリツクコト。トドキタルコト。

たうちゅう（名）［[illegible]蟲］［條、正音ハ他刀切、タウ］サナダムシ。俗ニ、條蟲。

たうぢゅう（名）［當住］げんぢゅう（現住）ニ同ジ。

だうちゅう（名）［道中］（一）道路ニアルコト。旅行ノ道スガラ。旅中。旅上。[illegible]書、王嘉傳「[illegible]」[illegible]食」[illegible]、[illegible]、九十五、[illegible]元年、[illegible]月、[illegible]中[illegible]大名衆、幷在番衆之飛脚之由、假名ヲ申シ罷リ通リ候モノ有之由」（二）遊女ノ揚屋入ニ云フ。語ハ、江戸新吉原ニテ、花魁ノ[illegible]、遊女ノ、己レガ家ヨリ揚屋引手茶屋ヘ往來スルコト。此步行ニ法アリ、八文字ヲ蹈ムナド云フ、先ヅ花魁ノ高キ黑塗[illegible]ノ駒下駄ヲ穿キ、コレヲ運バスルニ內外アリ、外八文字ト云フハ、爪先ヲ開ヘテ、外側ヘ蹈出スモノ、內八文字ト云フハ、兩足ノ爪先ヲ內ヘ向ケテ、後ヲ蹴テ蹈出シテ、前ニテ結ブモノ、外八文字、及、八文字ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]「[illegible]」[illegible]二「都ノ二夕、[illegible]世界ノ[illegible]中[illegible]、內八文字[illegible]ドリ」[illegible]カイドリ、八文字[illegible]實（寶永）「先、內ヲ蹈出スヨリ世界ヲ我物ニシテ、云云、道中ナカナカニ[illegible]」[illegible]、云云、八文字ヲ蹈ム」女ノ揚屋通ヒノ往來ヲ、どうちうト云フ、云云、八文字ヲ蹈ム」

だうちゅうき（名）［道中記］（一）旅路ノ宿宿、里程、名所、古跡ナド記シテ、旅人ノ導トスル小本。旅行案內記。[illegible]東海道中膝栗毛（享和、一九）初編、下「[illegible]ノ中デ、道中記ヲ見テ井サッシャルハ」（二）旅ノ日記。道ノ記。[illegible]コキンプリ[illegible]紀行

だうちゅうざうさ（名）［道中[illegible]作］（造作ハ、入費ノ意）道中ニテ使用スル金[illegible]旅費。

だうちゅうし（名）［道中師］（一）[illegible]ト地トノ間ヲ旅行シテ、他人ノ用事ヲ達スルモノ。[illegible]（二）ゴマノハヒノ[illegible]。（三）汽車中ノ小盗人。

だうちゅうすごろく（名）［道中雙六］繪雙六ノ一。東海道五十三次ノ繪ヲ方形ノ渦卷ノ內ニ書キ、品川ヲ下方ノ端ニ振出トシ、中央ヲ京都トシテ上リトシ、[illegible]日ニ出ヅル數ニテ宿宿ヲ進ミ、早ク京都ニ入リタルヲ勝トス、[illegible]六ニ倣ヒテ作リタル、[illegible]ニ[illegible]テ作リタルモノト云フ。[illegible]

たうちょく（名）［當直］トノヰ。當番。[illegible]

たう[illegible]（名）［[illegible]］[illegible]馬鹿正直ナルコト。[illegible]

たうちりめん（名）［唐縮緬］メスリン。モスリン。メリンス。

たうづ（名）［刀途］さんづ（三途）ノ條ヲ見ヨ。

たう・つ（動）擲ヲ打ツ。博奕スル。だ[illegible]

たうつうじ（名）［[illegible]］[illegible]江戸時代[illegible]長崎ニテ[illegible]タルモノ。長崎志、[illegible]

たうづゑ（名）［[illegible]］[illegible]

たうつばめ（トウツバメ） (名) 〔唐燕〕 あまつばめ(雨燕)ニ同ジ。

たうてい（トウテイ） (名) 〔棠棣・唐棣〕 ハネズ。ニハウメ。各條ヲ見ヨ。「似白楊、江東呼夫移」、詩疏、「唐棣、奧李也、一名雀梅、亦曰車下李、所在山、皆有、其華或白或赤、六月中熟、大如李、可食」

たうてい（トウテイ） (副) 〔到底〕 〔底マデ到ル意〕 ツマルトコロ。トドノツマリ。トテモ。ショセン。陸游詩「更事老翁頑到底」

だうてい（ドウテイ） (名) 〔道程〕 ミチノリ。カウテイ。ギャウテイ。旅程

だうてう（ドウチョウ） (名) 〔堂頭〕 だうどう(堂頭)ノ條ヲ見ヨ。

たうでき（トウデキ） (名) 〔盪滌・蕩滌〕 アラヒ、ススグコト。洗滌。史記、樂書「萬民咸蕩滌邪穢、斟酌飽滿、以飾厥性」

たうてつ（トウテツ） (名) 〔饕餮〕 〔左傳、文公十八年注「貪財爲饕、貪食爲餮」〕 (一)飲食飽クコトナキコト。又、其人。朱穆詩「饕餮貪汚臭、是食」 (二)古へ、支那ニテ、多ク鼎ナドニ刻ル模樣ノ名。カク稱スルハ、飲食飽クナキ惡獸ノ象ト云フ。呂氏春秋「周鼎著饕餮、有首無身」

たうてん（トウテン） (名) 〔唐天〕 〔天ハ、天鵞絨ノ下略〕 舶來ノ天鵞絨。

たうてん（トウテン） (名) 〔滔天〕 天ニ至ルマデ、ハビコルコト。書經、堯典「湯湯洪水方割、云云、浩浩滔天」 漢書、班固敍傳、下「…滔天」 晋書、…帝紀、…「…之秋、…滔天之勢」

たうど（トウト）・(名) 〔刀途〕 たうづ(刀途)ニ同ジ。さんづ(三途)ノ條ヲ見ヨ。

たうど（トウド） (名) 〔唐土〕 モロコシ。カラ。唐山。支那。たう(唐)ノ條ヲ見ヨ。謠曲、白樂天「唐土ノ詩賦ヲ以テ我ガ朝ノ歌トス」

たうど（トウド） (名) 〔陶土〕 陶器ヲ作ルニ用ヰル一種ノ土。宋史、黎峒傳「婦人服緝繢、績木皮爲布、陶土爲釜」

だうど（ドウト） (名) 〔道途・道塗〕 ミチ。道路。往還。杜甫詩「不畏道途永」

たうどう（トウトウ） (副) 〔到頭〕 トドノツマリ。終ニ。羅隱詩「浮世到頭須適性、男兒何必盡成功」

だうどう（ドウトウ） (名) 〔堂頭〕 禪家ニテハ、だうてうト訓ム。方丈ノ異名ニテ、住持ノ人ノ居所。轉ジテ、現在ノ寺主ヲ云フ稱。禪林象器箋、殿堂門「方丈稱堂頭、住持人居處」同、稱呼門「方丈和尚、稱堂頭也」

だうどうじ（ドウドウジ） (名) 〔堂童子〕 (一)南都諸寺ノ下部。靈異記、下、廿四緣「山階寺、云云、堂童子、…」 …「南部諸寺ニハ、堂童子トイフ、下部侍也」 雅亮裝束抄、二、東帶裝束事「御堂供養千僧ナドノだうどうじ」 (二)禁中ノ御法會等ニ華筥ヲ受授スル者、五位殿上人勤ム。榮花物語、三十、鶴林「僧タチ御だうどうじニ至ルマデ、云云、數ヲツキ佛ヲイリモミ奉ル」 建武年中行事、最勝講「堂童子ハ、カネテソノ人ヲ定メテ、五日マデノ人ヲ書キテ、殿上ノ柱ニオスナリ」 增鏡、第十二、老波「道師、高座ニノボリヌレバ、堂童子、花籠ヲワカツ」

たうどうばつい（トウドウバツイ） (句) 〔黨同伐異〕 同ニ黨シテ、異ヲ伐ツコト。我ガ黨類ト組合ヒテ、反對者ヲ攻撃スルコト。後漢書、黨錮傳、序「至有石渠分爭之論、黨同伐異之說」

たうとく（トウトク） (名) 〔逃匿〕 ニゲカクルルコト。孟子、滕文公、上篇「益烈山澤而焚之、禽獸逃匿」

だうとく（ドウトク） (名) 〔道德〕 ヒトノミチ。人ノ世ニ處スルニ、履ミ行フベキ行爲ノ規範。卽チ本務意識ヲ原因トシテ成シ遂ゲラルベキ行爲。又、人ガ社會ノ中ニ生活シテ、己レガ位地境遇ニ應ジテ成シ遂グベキ行爲。人道。道義。德義。論語、述而篇「志於道、據於德」 易經、說卦傳「和順於道德、而理於義」 禮記、王制篇「一道德以同俗」

たうとつ（トウトツ） (名) 〔唐突〕 〔唐ハ、にはか、遽ニ突ク意〕 不意ニ、モノスルコト。ダシヌケ。突然。不意。イキナリ。馬融、圍碁賦「守規不固、爲所唐突」 後漢書、桓帝紀「所唐突壓溺物故、七歲以上、賜金人二千」

たうとのとり（トウトノトリ） (句) 〔遠處鳥〕 〔たうハ、とほ(遠)ノ音便轉 又、唐土鳥トモ書ス。たうとのとりハ、うずめ(姑獲)ナドノ妖鳥ナリト云フ〕 古へ、一月六日ノ夜、明日(七日)ノ粥ニ入ルル七種ヲタタク、其ハヤシノ語。ななくさ(七種)ノ條ヲ見ヨ。桐火桶(定家)「たうとの鳥ト、ニホンノ鳥ト、ワタラヌサキニ、七種薺、手ニ摘ミ入レテ、カウシトチヤウ」 俗言考、たうとのとり「遠處ノ鳥ト、庭邊ノ鳥ト、食ラヌサキニ、七草薺、手ニ摘ミ入レテ」末ノ一句ハ俎ヲ叩キテ如此シトトントンチャンノ拍子ナリ」(近世マデハ、ストトントン) 松屋筆記、二「七草ナヅナ、唐土ノ鳥ガ、日本ノ土地ヘ、渡ラヌサキニ」 守武千句「たうとの鳥ノ、サヘヅレル聲」「敎ヘツツ、七草ナヅナ、打笑ヒ」 ななくさの著「異國ヨリ妖鳥來リテ、諸國ノ人惡シキ病ヲ受ク前ニ」 隨意錄、四「荊楚歲時記云、正月七日爲人日、以七種菜爲羹、云云、正月夜、多鬼鳥度、家家搥牀打戶、捩狗耳、滅燈燭以禳之、云云、玄中記云、此鳥名姑獲、一名天帝女、一名隱飛鳥、一名夜行遊女、好取人女子養之、有小兒之家、卽以血點其衣以爲誌、故世人名爲鬼鳥、云云、我方俗、正月六日夜、至七日曉、搥七種菜、以驅爭鳥不令度、…原乎此也」

たうとん（トウトン） (名) 〔逃遁〕 ニゲカクルルコト。遁逃。戰國策、燕策「…逃遁走…」 …「…僅以身免」

たうな（トウナ） (名) 〔唐菜〕 又、スズナ。ツケナ。フユナ。シロナ。又、單ニ、菜トノミモ云フ。形、あぶらなニ似テ大キク、色淺ク、葉最モ厚クシテ、筋白シ。專ラ鹽漬トス。モト東京、三河島ノ產、最モ名アリ、故ニ、三河島菜トモ云フ。高サ二尺餘ニ至ル。菘。隱元菜。

だうな（ドウナ） (副) 無益ニ、物ヲ費ス狀ニ云フ語。ムダ。保元物語、二、白河殿攻落事「オノレ程ノ者ヲバ矢だうなニ、手取ニセン」 平家物語、九、坂落事「只今ノ矢一筋デハ、敵十人ヲバ防ガンズル物ヲ、罪ツクリニ、矢だうなニトゾ制シケル」

たうなげ（トウナゲ） (名) 〔投壺〕 ツボウチ。ツボナゲ。とうこ(投壺)、及、つぼうち(投壺)ノ條ヲ見ヨ。男重寶記(元祿)「手ナグサミニハ、十六目石、十不足、百五藏、郎等打、盜人隱、有哉立、島立、左左立、下牛打、投壺、虎子渡シ、三十二十ノママ子立ナド云フコトアリ」

たうなす（トウナス） (名) 〔唐茄〕 南瓜ノ一種。形、稍扁ク大キクシテ、味甘シ。茄トハ云ヘド、瓜ノ類ナリ。明和年中ヨリアリ。(東京)京都ニ、カボチャ。蕃南瓜

たうなん（トウナン） (名) 〔盜難〕 盜ミニ遇フワザハヒ。賊難。「盜難除ケ」、

たうにん（トウニン） (名) 〔當人〕 事ニ當ル其人。ム

ザネ。サウジミ。タマ。本人

たうにん（名）［桃仁］桃ノ仁ヲ藥用トスル時ニ云フ稱。[illegible]

たうにゆう（名）［糖乳］コンデンスミルク。煉乳。

たうねうびやう（名）［糖尿病］血液ノ中ニ過剩ノ糖分溜リテ、ソレガ絶エズ、尿ノ中ニ出デ來ル病。尿ノ分量ノ增スニ隨ヒテ、煩渴、食慾進ミ、身瘦セ、眠ヲ催ス、身體痒シ。尿ハ平素ト變ジテ、一日ニ二升乃至四升ニ至リ、甘ク、尿氣ヲ催ス。尿ハ淡黃色ヲ呈シ、泡沫ヲ生ズ、卽チ糖分ノ證ナリ。舊稱、消渴。

たうねつ（名）［鬧熱］〔說文「鬧、不レ靜也」〕非常ニ雜沓スルコト。熱鬧。[illegible]

たうねん（名）［當年］コトシ。今年。[illegible]「[illegible]當年モ相變ラズ幸ラウト存ズル」

たうねん（副）［當年］ソノカミ。ソノコロ。當時。[illegible]

だうねん（名）［道念］（一）人ノ道タル五倫五常ニ對スル觀念。道義心。[illegible]（二）道ヲ求ムル念。求道ノ心。盛衰記、十八、龍神守三種ノ心ニ事「本意ハ只至孝、報恩ノ道念ヨリ起レリ」

だうねんぶし（名）［道念節］貞享ノ頃、京都ノ道念山三郎ノ始メシ小唄。初、木遣ノ音頭取ナリシガ、盆踊ノ口說ト云フヲ、唄ヒ出シテ、踊ノ拍子ニ、合ハセテ唄ヘリ。（本朝世事談綺）

たうのいも（名）［唐芋］又、アカイモ。芋ノ[illegible]、さといも[illegible]

たうのつち（名）［唐土］鉛ヲ薄片トシ、醋ニテ蒸シテ採レルモノ。白キ粉トナリテ、薬料ナド種種ノ用ヲナス。京都ニ、オシロイ、下品ナルハ、白堊ニ、下品ノ鉛粉ヲ少シ合ハセテ作ル。ハフニ。キヤウオシロイ。胡粉

たうは（名）［黨派］（一）仲間徒黨ノワカレ。（二）クミ。團結。

たうは（名）［蹈破］〔破ハ、助辭。禪家ニテハ、たッぱト云フ〕蹈むト云フニ同ジ。アルキマハルコト。跋涉。踏破。

たうば（名）［湯婆］たんぽ（湯婆）ニ同ジ。[illegible]

だうは（名）［道破］イヒヤブルコト。イヒキルコト。道ふト云フニ同ジ。[illegible]

たうはい（名）［刀背］カタナノミネ。南史、梁、邵陵攜王綸傳「賊以二刀背一毆二其髀一」

たうはう（名）［當方］コナタ。我ガ方。

たうばう（名）［逃亡］逃ゲテ身ヲ隱スコト。出奔。逐電。史記、[illegible]

だうばう（名）［道傍］ミチバタ。ミチバ。[illegible]

たうばさみ（名）［唐鋏］鋏ノ一種。二刃ヲ打違ヘ向ヒ合ハセテ、其中央ニ釘シ、木ノ兩端ニ孔アリ、コレニ大指ト人差指トヲ、差シ入レテ用ヰル。燕尾剪

たうばし（名）［[illegible]］[illegible]

たうはぜ（名）［唐黃櫨］なんきんはぜ（南京黃櫨）ノ一名。

だうはち（名）［道八］[illegible]

たうばつ（名）［討伐］敵ヲ攻メ討ツコト。征伐。史記、[illegible]

たうばつ（名）［盜伐］他人ノ所有セル竹木ヲ伐リ採ルコト。北史、趙[illegible]

だうばと（名）［[illegible]］[illegible]

たうはん（名）［鐺飯］〔鐺ハ三足ニテ柄アル小鼎ナリ〕アシナベニテ、炊グトコロノ飯。[illegible]

たうばん（名）［當番］勤メニ當ルコト。[illegible]

たうばり（名）［賜］タウバルモノ。賜物ノ類。源氏、廿一、少女[illegible]たうばりノツカサ、カウブリ、何クレノ事ニ觸レツツ」大和物語、上「正月ノ加階たうばりノ事、イトユカシウ[illegible]」

たうば・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［似］先人[illegible]

たうば・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［賜］たば[illegible]

たうひ（名）［逃避］逃ゲ避ケルコト。逃レサクルコト。[illegible]

たうひ（名）［當否］事物ノ理ニ當レルト、當ラザルト。[illegible]

たうひ（名）［唐檜］松柏科ニ屬スル常綠喬木ノ名。深山ニ自生シ、高サ六七十尺ニ達ス。[illegible]開キ、[illegible]、其他、製紙ノ原料トナル。[illegible]

たうひ（名）［橙皮］柚橙ノ皮ヲ乾シタルモノ。藥用ニ供ス。

たう・ひ［[illegible]］[illegible]〔絵、上二段〕ノ條ヲ見ヨ。

たうひつ［[illegible]］[illegible]唐時代ノ筆。[illegible]

たうひつ（トウ-ヒツ）(名) 刀筆 (一)支那上代ニ、竹簡ニ字ヲ記ス爲ニ用ヰシ小刀。(二)轉ジテ、小官吏ノ仕事ヲ云フ語。書記、又ハ、低キ官吏ヲ、刀筆ノ吏ト稱ス。戰國策、趙策「臣少爲二秦刀筆一」史記、蕭何世家「太史公曰、蕭相國、何於二秦時一爲二刀筆吏一」

たうビン（トウ-ビン）(名) 湯瓶 〔びんハ、瓶ノ唐音〕ユツカシ。撮壌集、下、家具「湯瓶、タウビン」倭訓栞「たうびんハ、湯瓶ノ音也トイヘリ」

たうひやくせん（トウ-ヒヤク-セン）(名) 當百錢 てんぽうせん(天保錢)ノ條ヲ見ヨ。貨幣通考「當百錢之事、天保六年乙未九月、金座ニ於テ當百錢ヲ鑄ル、壹枚ヲ以テ鐚錢百文ニ換フ、世ニ是レノ百文錢ト云フ」大日本貨幣史、八「天保當百錢ハ、舊貨幣表ニ據ルニ、其鑄造ノ總額四億八千四百八十四万四千零五十四枚ナリ、而シテ最初ノ鑄造ノ當百錢貨幣ハ、大凡百分中、銅七十八分、錫十分、鉛十二分ナリ」

たうふ（トウフ）(名) 當否 理ニ當ルト、當ラヌト。たうひ(當否)ニ同ジ。

たうぶ（トウ-ブ）(名) 蹈舞 ヲドリ。マヒ。舞蹈。唐書、杜審言傳「武后召二審言一將レ用レ之、問曰、卿喜否、審言蹈舞謝」

たう・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・べ（トウ-ブ）(他動、四) 賜 たぶ(賜、四段)ノ延。賜フ。古今集、八、別「上ノヲノコドモ、酒たうびケルツイデニ」枕草子、五、四十六段「笙ノ笛、云云、ソレハ隱岡ニたうべ」

たう・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・べ（トウ-ブ）(自動、四) 給 たぶ(給、四段)ノ延。給フ。他ノ動作ニ添ヘテ云フ敬語。宇津保物語、蟻通「物ノカタメト侍りたうぶ人ナリ」土佐日記、一月九日「[illegible]館ヨリ出デたうびシ日ヨリ」

たう・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（トウ-ブ）(自動、上二) 給 前條ノ語意ニ同ジ。源、廿一、少女「[illegible]座ヲ引キテ起ちたうびナムナド、オドシ云フモ、イトヲカシ」大和物語、下「深キ山ニ棄テたうびよトノミ責メケレバ、責メラレワビテ」

たう・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ（トウ-ブ）(自動、下二) 給 たまふ(給、下二段)ニ同ジ。己レガ動作ニ添ヘテ云フ敬語。宇津保物語、藏開、下「斯ク申シ侍りたうべバ、云云、惡念深ク侍りたうぶラム」

たう・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ（トウ-ブ）(他動、下二) 食 たぶ(食、下二段)ノ延。食フ。飲ム。催馬樂、酒飲「酒ヲたうべテ、食ベ醉ウテ」

たうふう（トウ-フウ）(名) 當風 當時ノ風俗。當流。後日男草子(正德)二「當風ノ衣、彼女ノサガヲ隱シテ」賤小手卷(寛政)「袖口ノ淺黄ヲ云ヒテ「イカニモ當風ニテ、伊達ニ覺エシ」

たうふう（トウフウ）(名) 唐風 カラヤウ。カラフリ。又、支那ノ風。鮑照詩「唐風久不レ渝」

たうふく（トウ-フク）(名) 當腹 今ノ妻ノ腹ニ生レタルコト。又、其人。平治物語、二、待賢門軍事「太刀ヲ拔ケテ大蛇ヲ追ヒテ、池ノ汀ニ立ナテケリ、忠盛是ヲ見給ヒテコソ、拔丸トハ附ケラレケレ、當腹ノ妻子ニ依ッテ、賴盛、是ヲ相傳シタマフ」

だうぶく（ドウ-ブク）(名) 道服 (一)道路ノ服ノ義。古ヘノうちかけ、今ノ羽織。中世、貴人ナド、道路ニテ、塵ノ衣ニカカラジノ爲ニ、上ニ被フ服。廣袖ニテ羽織ノ長キモノノ如ク、腰ヨリ下ニひだアリ、直綴ノ如シ。[illegible]抄、二、十六、道服事「道服ハ乘馬スル上ニ、打着テ帶セヌモノナリ、灰ホコリノタチテ衣裳ヲ垢スヲ防グ心ナリ、コトサラニ內ニテ可レ著モノニハアラズ」(二)佛道者ノ服ノ義。角領ニテ前ヲ合ハス、腰以下、ひだアリテ、襟左右ニ開キテ製セリ。三光院內府記「道服、衣ハ不定候、大中納言法體之人着用候」西三條裝束抄「道服、地ハ狩衣ノ如シ、出家着用ノ衣ノ如シ、云云、大臣在通ノ褻ニ用ユ、立烏帽子ヲ着用ス」六物圖「或名二袈裟一、或名二道服一、或名二出世服一、或名二法衣一」又、本願寺派ニテハ、白、黑、又ハ紫色ナドノ直綴ヲ云フ。

たうぶつ（トウ-ブツ）(名) 唐物 支那、及、諸外國ヨリ舶來セル品物ノ稱。舶來品。舶貨。類聚三代格、十九、延喜三年八月一日「太政官符、應レ禁下遣二諸使一越レ關、私買中唐物上事」

たうぶん（トウ-ブン）(名) 當分 今ヨリ行先數日ノ間。當座。イマノマ。國性爺後日合戰(享保、近松作)二「此ノイロイロハ當分ノタマモノ」

たうへい（トウ-ヘイ）(名) 湯餅 ウドン、ウンドン。青箱雜記「宋、吳處厚二「湯餅、溫麪也、凡以レ麪爲レ食、煮レ之、皆謂二之湯餅一」

たうべに（トウ-ベニ）(名) 唐紅 支那ヨリ輸入シタル紅。あにりんヨリ製シタルモノ。カラノベニ。

たうへんぼく（トウヘンボク）(名) 唐偏僕 道理ノ分ラヌ者ヲ罵リ呼ブ語。七偏人(安政、金鷲)「石町ノ愚鈍人、其ノ唐偏僕チャアネエカ」

たうぼく（トウ-ボク）(名) 唐墨 カラスミ。支那製ノ墨。支那渡來ノ墨。

たうぼふし（トウ-ボ-シ）(名) 唐法師 だいたうまい(大唐米)ニ同ジ。

だうほふ（ドウ-ホウ）(名) 道法 佛教ニテ、涅槃ニ至ル正道ノ法。無量壽經、下「當ニ持[illegible]受ニ行道法ニ」

たうほん（トウ-ホン）(名) 唐本 支那ヨリ舶來セル書物。漢籍。

たうぼんぢゅうべう（トウ-ボン-ジュウ-ビョウ）(名) 唐梵重標 漢語ト梵語トヲ、重ネテ一語トナスコト。徒然草、百六十段「[illegible]タク」註「梵語ノ[illegible]ハ漢語ニたくト云フ心ナレバキラフ也、サレドモ梵語ト漢語トニツ重ネテ呼ベル多シ、此レヲ華梵雙擧トモ唐梵重標トモ云フ、佛書ニ、其例數多侍リ」

だうま（ドウマ）(名) 駄馬 〔駄ハ駄ノ誤〕(一)又、だば。駄荷ヲツクルニ用ヰル馬。ニウマ。荷着馬。(二)乘馬トナラズ、駄馬トスル意ヨリ轉ジテ、力劣レル下等ナル馬ノ稱。駑 (三)牝馬。ざふやくうま(雜役馬)ノ條ヲ見ヨ。

だうまう（ドウ-モウ）(名) 獰猛 〔獰ハ、惡ナリ。ねいまうト云フハ、誤讀〕ワルヅヨキコト。凶惡ナルコト。

たうまちくゐ（トウ-マ-チク-イ）(名) 稻麻竹葦 物ノ甚ダ羣リ入リ亂レタルヲ譬ヘテ云フ語。法華經、方便品「如二稻麻竹葦一、充二滿十方刹一」太平記、三、赤坂城軍事「二十萬騎、稻麻竹葦ノ如ク城ヲ取リ卷イテゾ責メタリケル」

たうまんぢゅう（トウ-マン-ジュウ）(名) 唐饅頭 餅菓子ノ名。かすていらノ製ノ如クニテ、圓キモノヲ皮トシ、內ニ餡ヲ包ム。形圓ク扁シ。又、かしはもちノ如ク包ミテ、兩頭ノ尖リタルヲ中華饅頭ト云フ。

たうまめ（トウ-マメ）(名) 唐豆 ふぢまめ(藤豆)ニ同ジ。

たうまる（トウ-マル）(名) 唐丸 〔舶來種ナリ〕(一)鷄ノ屬ノ最モ大ナルモノ。形、ちゃぼニ似テ、高サ二尺、尾短シ、鬪ニ最モ強シ。鶤鷄 此一種、冠ニ大鋸ノ齒ノ如キアルヲ大切ト云フ。本朝食鑑、五、原禽「雞、云云、大抵、平生所レ畜者、俗呼稱二地鳥一、大者稱二唐麻呂一、是蓋自二華來一之謂乎、唐麻呂者、古男子之通稱」

也、唐嶋昌之中、有下冠如二大鍋蓋一者上、呼稱二大（サイヅチ）鍋二」

（二）次條ノ語ノ略。

たうまるかご（トウマル-カゴ）（名）［唐丸籠］［鶤鶏籠］（一）鶤鶏（タウマル）ヲ入ルル圓キ竹籠。（二）又、形、夫レニ似テ人ヲ載スル駕籠。江戸時代ニ、平民ノ重罪ノ者ヲ送ル用トス。上ニ網（アミノリモノ）ヲ被フ。（網乘物トハ異ナリ）［囚轎］

たうみ（トウ-ミ）（名）［唐箕］ 穀ノ實ト粃（シヒナ）トヲ分クル具。圓キ匣ノ中ニ風車ノ如キモノアリ、穀物ヲ上ノ漏斗（ジヤウゴ）ヨリ落シテ、風車ヲ廻セバ、精ナルハ下ニ落チ、粃、塵埃ハ一方ヘ飛ビ去ル。又、磨リタルヲ落セバ、米トもみがらトヲ相分クル。又、搗キタル米ト糠トヲモ分クル。扇車 颺扇 風櫃 農術鑑正記（享保、砂川野水）「唐箕、千石ドホシノ事也、コナシタル籾ヲ入ルレバ、モミ、ホコリ、粃、段段ニ分カル、ヒルニ及バズ」

たうみの（トウ-ミノ）（名）［唐蓑］ 蓑ノ一種。農夫ノ、肩ヨリ背ヲ覆ヒテ、日光ヲ凌ギ、又ハ、雨ヲ防グニ用キルモノ。

たうみやう（トウ-ミヤウ）（名）［唐名］ カラナ。唐土（モロコシ）ノ稱。タウメイ。職原抄、上「黄門ハ中納言ノ唐名」

だうみやうじ（ドウ-ミヤウ-ジ）（名）［道明寺］（道明寺糒ノ下略）糒ノ、河内國南河内郡道明寺村ナル道明寺（尼寺）ヨリ製出スルモノノ稱。精製ナリトテ名アリ。現時、其村内ヨリ盛ニ產出ス。洛陽集「道明寺、喫ウテモ涼シ、備後表」

だうん（名）［朶雲］（朶ハ、樹木ノ垂ルル貌。）朗チ、五色ノ垂雲ノ義）返書ニ、他ノ手紙ヲ敬稱スル語。芳翰 尙、出典ヲ見ヨ。 [illegible]

苦ニ五畿ニ時人謂レ之、[illegible]公ハ、[illegible]ノ郁國公ニ封ゼラレシ故ニ云フ）

たうめ（トウメ）（名）［專］ 〔次次條ノもはら（專）ノ意ナルたうめヨリ移ル〕 老女ノ異稱。老女ハ、多クハ專ラ家事ヲ司ルニ因リテ稱セシナリ。 倭名抄、[illegible]「[illegible]女、今時ニ老女ノ稱ニ太宇女ニ」 土佐日記、一月九日「淡路ノたうめ一人、たうめ一人」 同、二月七日「淡路ノたうめノ歌ニメデテ」 東寺文書、寬治四年二月廿七日「[illegible]家地立券文、賣人[illegible]」

たうめ（トウメ）（名）［狐］ 〔いがたうめノ上略。常（アテジ）ニ當字ニ專女ノ字ヲ記スハ、老女ノ專女ト音通スルニ因リテ、附會セルナリ〕 狐ノ異名。いがたうめ（伊賀專女）ノ條ヲ見ヨ。百練抄、九、延久四年十二月七日「藤原仲季[illegible]罪名[illegible]於二齋宮[illegible]射[illegible]專女也」 宇治拾遺、四、第一條、「狐ノ[illegible]、タマハリテ、コレ包ミテマカリテ、たうめヤ子供ナドニ食ハセム」 御鎭座傳記ニ「宇賀能美多麻神、云云、三狐（ミケツ）神同座神也、齋宮專女此[illegible]也」トアリ、宇[illegible]御魂神、即ナ[illegible]稻荷神、女神ヲ[illegible]、狐神ト書キナラベルニ因リテ狐神トシ、齋宮ニテ畏ミタマヒ、いかたうめノたうめト音同ジキニ因リテ、老女ノ專女ヲ引付ケテ隱語ニ專女神ト云ヒシナルベシ（[illegible]）ト云フ、然レドモ、御鎭座傳記ハ六七百年前ノ僞書ニテ、ソレヨリ遙ニ前ナル源氏物語ニ、いがたうめノ語アリ、スベテ附會ナリ。

たうめ（トウメ）（副）［專］ 〔たくめノ音便〕 モハラ。モッパラ。（たくめノ條ヲ見ヨ）名義抄「專、タウメ」 古事記、上「[illegible]」 景行紀、五十六年八月「[illegible]」 [illegible]紀、十二年三月「遷[illegible]」 古事記傳ニ云フ、此語ハ、老女ノ專（前前條ノ）ヲ、專一ノ義ノ古言ナリト、誤リ心得誤レルニテ、アルマジキ訓ナリ、スベテもはらト訓ムベキナリ、たくめ

トアルモ然リト。（前前條ヲ見ヨ）

たうめい（トウ-メイ）（名）［唐名］ たうみやう（唐名）ニ同ジ。

たうめん（トウ-メン）（名）［當面］ マノアタリ。サシアタリ。目前。 水滸傳、[illegible] 謠曲、歌占「當面黃泉ノ嘲リ、[illegible]子ハ子ナリケリ」「當面ノ事」

たうも（トウ-モ）（名）［搨摸］ 〔正韻「搨、[illegible]」〕 莫、摸索也」トアリ。正シクハ、たくナルベシ」スリ。キンチャクキリ。ザボ。 [illegible]

たうもく（トウ-モク）（名）［湯沐］ 湯ヲ浴ミ、髮ヲ洗フコト。貴人ノ湯沐ノ料ニアツル圍ノ邑、又ハ、湯沐の地ト云フヲ、湯沐の邑、又ハ、湯沐の地トモ云フ。 [illegible]

たうもくのいふ（トウモク-ノ-ユウ）（名）［湯沐邑］ 前條ノ語ヲ見ヨ。 [illegible]

たうもくのち（トウモク-ノ-チ）（名）［湯沐地］ 前條ノ語ニ同ジ。前前條ヲ見ヨ。 [illegible]「越ノ國ヲ、吳王ニ獻ジテ、湯沐の地トナシ」

だうもく（ドウ-モク）（名）［瞠目］ 〔瞠ハ、[illegible]〕 [illegible]

たうもめん（トウ-モメン）（名）［唐木綿］ 西洋ヨリ渡來ノ綿布。[illegible]

だうもり（ドウ-モリ）（名）［堂守］ 堂ヲ守ル人。

たうもろこし（トウ-モロコシ）（名）［玉蜀黍］ 〔もろこし

きびノ下略〕 [illegible] なんばんきび（南蠻黍）ノ一名。[illegible]

たうや（トウ-ヤ）（名）［陶冶］ [illegible] 文「治、木器[illegible]陶、治[illegible]金器[illegible]」 （二）陶器ヲ造ルト、鑄物ヲ鑄ルト。[illegible] （三）陶器師ト、鑄物師ト。[illegible] 養成スルコト。[illegible]

たうや（トウ-ヤ）（名）［當夜］ ソノ夜。其事ニ當ル夜。[illegible]

たうやう（トウ-ヤウ）（副）［蕩漾］ タダヨヒ、ウゴク狀ニ云フ語。 [illegible]

たうやく（トウ-ヤク）（名）［當藥］ 〔當ク病ニ當ル意〕 （一）藥ノ名。せんぶり（二）ニ同ジ。（二）草ノ名。すいば（酸模）ノ一名。

たうやく（トウ-ヤク）（名）［齊藥］ かうやく（膏藥）ニ同ジ。[illegible]

たうやく（トウ-ヤク）（名）［湯藥］ せんじぐすり。煎[illegible]

たうやく（トウ-ヤク）（名）［當役］ （一）其ノ役。其カカリ。當職。（二）當番ノ役。

たうやく（トウ-ヤク）（名）［唐藥］ 正月ノ齊藥ヲ呼ブ語。[illegible]

ル事侍ルニヤ、答、たうやくハ膏藥ナリ、かうやくト云フハ、キヤワロキニヨリノ、たうやくト云ヒカヘタリ、醫書ニモ八十□膏藥ヲ□□云ヘリ、ヒロヒロノカサ、ヨロヅノ病ヲナホス功ノウアルニヤ」〕

たうやく-じしや（トウヤク-ジシヤ）(名) 湯藥侍者 禪家ニテ、和尚ノ傍ニ付添ヒテ、藥ヲ煎ル役僧。侍藥侍者。〔庭訓往來、十月「禪家者、云云、堂主、維那、知客、浴主、燒香侍者、書狀、請客、湯藥、衣鉢等侍者」〕

たうゆみ（トウユミ）(名) 唐弓 わたゆみ(綿弓)ニ同ジ。

たうよ（トウヨ）(名) 黨與 クミ。ナカマ。徒黨。〔韓子、八說篇「高爵得于上、同黨與于下」〕

たうよう（トウヨウ）(名) 當用 差當リタル用事。〔太平記、二、[illegible]「呉子、孫子、六韜、三略ナンドコソ、可ㇾ然當用ノ文ナレトテ」「當用日記」〕

たうよう（トウヨウ）(名) 盜用 盜ミテ使用スルコト。「印影盜用」

たうよし（トウヨシ）(名) 唐蘆 竹ノ一種。蘆ノ形ニ似テ、甚ダ大キクシテ厚シ。海外ヨリ海濱ニ漂着ス、採リテ花插（ハナイケ）ナドトス。根甚ダ大イナリ。蘆竹

たうらい（トウライ）(名) 當來 (一)マサニ來ルベキ時。後來。未來。〔[illegible]、此又關ニ當來之事一也〕〔盛衰記、十八、[illegible]「第八今生一旦ノ榮物、是ハ當來得脫ノ資糧ナリ」〕(二)後妻(安房) (三)佛教ニテハ、當（マサ）ニ來ルベキ世ノ意ニテ、來世ヲ云フ。

たうらい（トウライ）(名) 到來 (一)イタリキタルコト。〔[illegible]、到來[illegible]〕「[illegible]ヨリ名簿ノ[illegible]到來シケルホドニ」「時節到來」(二)他ヨリ贈リ來（コ）シタルコト。〔[illegible]、到來[illegible]〕「音物到來」「到來物」

たうらいもの（トウライモノ）(名) 到來物 他ヨリ贈リ來シ物品。モラヒモノ。オクリモノ。

たうらう（トウロウ）(名) 蟷螂・螳蜋・螗蜋 (一)カマキリ。イボムシリ。イボジリ。かまきり(蟷螂)ノ條ヲモ見ヨ。〔太平記、十六、多々良濱合戰事「此ノ兵ヲ以テ彼ノ大敵ニ合ハン事、蚍蜉動ニ大樹ヲ、蟷螂遮ニ流車ニ不ㇾ異」「蟷螂ノ斧」〕(二)瘦馬ノ異名。〔尺素往來「蟷螂、甘走、齊ニ進之ㇾ候」〕(卑下シテ云フ)

たうらうのをの（トウロウノオノ）(名) 蟷螂斧 〔爾雅、釋蟲篇、註「蟷蜋、有ㇾ斧蟲」〕かまきり(蟷螂)ガ己レノ斧ヲ振ヒテ、隆車ニ刃向フコトヨリ轉ジテ、自己ノ微力ヲモ顧ミズシテ、妄リニ大敵ニ當ル喩ニ云フ。かまきり(蟷螂)ノ條ヲ見ヨ。〔後漢書、袁紹傳、上「乃欲ト運ニ蟷螂之斧ニ禦ニ隆車之隧上」心中天網島(享保、近松作)上「十貫目近イ金出シテ、請ケ出スノ根ビキノトハ、蟷螂ガ斧テゴザル」〕

だうらく（ドウラク）(名) 道樂 (一)其道ヲ學ビテ、耽（フケ）リ樂シムコト。好事。モノズキ。又、佛教ニテハ、道ヲ解シテ、自ラ樂シムコト。〔阿育王經、八「今已得ニ道樂ニ」〕(二)轉ジテ、惡シキ遊ビニ耽ルコト。放埒。放蕩。(或ハ云フ、墮落ノ音ト。薩摩ニテハ、沒落ト云フトゾ)ゴクダウ。遊蕩。(三)オコタルコト。ナマケルコト。(畿內) 懶惰。

だうらくもの（ドウラクモノ）(名) 道樂者 (一)不品行ノ人。放蕩ノ人。道樂人。〔[illegible]月紅葉(寶永、近松作)廿一、討道「又シテハ、又シテハ、道樂者テ、ノラ者テ、在所へ戾セ去ナセ」〕(二)ナマケモノ。懶惰（ランダ）ナルモノ。

たうらん（トウラン）(名) 濤瀾 オホナミ。巨浪。〔[illegible]賦「鼓ニ千尺之濤瀾ニ、襄（ノボル）百仞之陵谷ニ」〕

たうり（トウリ）(名) 棠梨 コリンゴ。其條ヲ見ヨ。〔羣芳譜「棠梨、野梨也」〕

だうり（ドウリ）(名) 駄賣 駄荷ノママニテ賣ルコト。オロシウリ。

だうり（ドウリ）(名) 道理 道ノ理（ミチ）。スヂミチ。ワケ。ユエ。〔荀子、修身篇「其行ニ道理ニ也、勇」源氏、帚木「世ノ道理ヲ思ヒトリテ恨ミサリケリ」〕

たうりう（トウリユウ）(名) 當流 (一)技藝ノ者、我レト我ガ流儀ヲ云フ語。(二)當時流行ノ略。當風。〔娘容儀(享保)「當流ノ釣島田、針金入ノヒ元（ハネモトユヒ）結」色三味線(自笑)「向カラ來ル男、當流ノ跡アガリノアタマ」(文金風ノ髮ナリ)〕

たうりてん（トウリテン）(名) 忉利天 〔梵語、多羅夜登陵舍天(Trayastriṃśa)ノ訛。又、怛利耶怛利奢天ニ作ル。三十三天ト譯ス〕欲界六天中ノ第二、須彌山ノ頂、閻浮提ノ上、八萬由旬ノ處ニアリ、帝釋天ノ居所トス。〔无量壽經「四天王及忉利天、依ニ何而住」慧苑音義、上「忉利、訛言、正云ニ怛利耶怛利奢」言ニ怛利耶者此云ニ三也、怛利奢者十三也、謂須彌山頂、四方各有ニ八天城ニ、當ニ中有ニ一天城ニ、帝釋所ニ居、總數有ニ三十三處ニ」〕

たうりん（トウリン）(名) 桃林 (一)モモノハヤシ。(二)〔次條ノ語ノ出典ヨリ出ヅ〕牛ノ異名。〔下學集、上、氣形門「桃林」注「牛異名也、尙書云、放ニ牛桃林野ニ」後深心院關白記、延文三年九月十日「桃林一頭、引ニ遣一品許ニ」〕

たうりんのや（トウリンノヤ）(名) 桃林之野 桃林ノ原野。〔書經、武成篇「偃ニ武修ニ文、歸ニ馬于華山之陽ニ、放ニ牛于桃林之野ニ、示ニ天下弗ニ服」〕

たうるい（トウルイ）(名) 黨類 ナカマ。クミ。徒黨。〔後漢書、陳蕃傳「左右黨類、[illegible]」盛衰記、二十、日向太郎通良懸ニ頸事「通良以下ノ黨類三百三十五人、討チ取ルノ由、義貞ガ許ヨリ交名ヲ注シ申上ゲ」〕

だうれ（ドウレ）(名) 道理 だうり(道理)ノ訛。〔浮世風呂(文化、三馬)二編、上「道理（ダウレ）テ色ガ惡イ」〕

だうれ（ドウレ）(感) 〔誰（ダレ）ノ延轉〕門戶ニ、ものまう、たのむト、オトナフニ答フル聲。

たうろ（トウロ）(名) 當路 要路ニ當リテ居ルコト。〔許棠詩「當路公卿誰見ㇾ待、故鄕親愛自疑ㇾ非」〕

だうろ（ドウロ）(名) 道路 ミチ。街道。往還。〔禮記、月令篇「季春之月、云云、開ニ通道路ニ」〕

だうろくじん（ドウロクジン）(名) 道陸神（ダウロクジン） だうそぜん(道祖神)ノ訛。〔鹿島志、道路神[illegible]〕

たうろん（トウロン）(名) 討論 (一)互ニ批難シ、議論スルコト。(二)道理ヲ討究シ論ズルコト。〔論語、憲問篇「世叔討ニ論之ニ」〕

たうろん（トウロン）(名) 讜論 〔玉篇「讜、善言也」〕正シキ議論。道理ニ適シタル議論。〔宋史、蘇軾傳「忠規讜論、挺挺大節、羣臣無ニ出ニ其右ニ」〕

だうわ（ドウワ）(名) 道話 きんがく(心學)ノ條ヲ見ヨ。

たうわく（トウワク）(名) 當惑 事ニ差當リテ、惑ヒ苦シムコト。思案ニ盡クルコト。途方ニ暮ルルコト。

たうわた（トウワタ）(名) 唐綿 〔德川時代ニ、眞綿（マワタ）ト區別シテ、普通ノ綿ヲ云ヒシ語〕きわた(木綿)ニ同ジ。

たうゑ（タウエ）(名) 田植 早苗（サナヘ）ノ七八寸ナル頃ニ、苗代ヨリ常ノ水田ニ移シ植ウルコト。種蒔ヨリ五十日前後ナリ、四五根ホドヅツ一株トシ、數寸ヲ隔テテ、正シク

並ベ植ウ。揷秧。 百練抄、六、大治二年五月十一日「兩院幸ニ八條大宮水閣ニ、有ニ田植事ニ」、補八、植ニ同ジ)

たうゑうた タウヱ・ウタ (名) 〔田植歌〕 田植ニ、早乙女ナドノ、打連レテウタフ歌。田歌(タウタ)。 上總、山植歌「十七ガ今年始メテ田ヲ作リ、其田ガ富リテ八重穗咲キ、丈ガ六尺穗ガ五尺、コナラノ御庭ニ霰七ツ、御藏ノ番ヲバ誰ガスル、一ニ大黑、二ニ惠比須神、升ハイランデ箕(ミ)デハカル」 陸前、名取郡、田植歌「今日ノ田植ノ田主樣ハ大米持ダ、奥ヤ奥州ヤ南部ヤ津輕、外ガ濱マデモ、サイサイ」

た・え (動) 〔絕〕 たゆ(絕)ノ條ヲ見ヨ。

たえ・い・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔絕入〕 息絕ユ。死ヌ。 蜻蛉日記、上、上廿八「イカナルニカアラム、足手ナド、タダ竦ミニスクミテ、たえいるヤウニシテ」

だえき (名) 〔唾液〕 唾腺ヨリ分泌シテ、口腔ヲウルホシ、食物ノ消化ナドヲ助クル液。ツバ。ツバキ。

だえき・せん (名) 〔唾液腺〕 だせん(唾腺)ニ同ジ。

〜**たえ・す**・スル・スレ・セ・シ・セ・セヨ (自動、左變) 〔絕〕 絕ユルコトトナル。絕ユ。 [illegible] 清正集「人知レヌ、音ヤハ絕する、時鳥、唯明ケヌ夜ノ、ココチノミシテ」 萬葉集、十四、東歌「常陸ナル、浪逆ノ海ノ、玉藻コソ、引ケバ絕えせレ、アドカ絕えせム」 續後撰集、十七、雜、中「神代ヨリ、流レ絕えせヌ、川竹ニ、色マス言ノ、葉ヲゾソヘケル」

たえず (副) 〔不絕〕 續キテ。常ニ。 萬葉集、廿「ハフクズノ、多要受(タエズ)シヌバム、大君ノ、召シシヌベニハ、シメ結フベシモ」「絕えず送ッテ來ル」

たえだえ (副) 〔絕絕〕 殆ド絕エムトシテ、トギレトギレニ。 [illegible] たえだえニ [illegible] 新古今集、一、春、上 [illegible] 新古今集、八、[illegible]、下「[illegible]レ、筧ノ水ノ、たえだえニ、ナリユク程ノ、心細サヲ」

たえて (副) 〔絕〕 サラサラニ。一向ニ。一圓ニ。少シモ。 古今集、一、春、上「世ノ中ニ、たえて櫻ノ、無カリセバ、春ノ心ハ、ノドケカラマシ」 竹取物語、下「此ノ女ノ童ハ、たえて宮仕ヘツカウマツルベクモアラズ」

たえて (副) 〔殊〕 「前條ノ語意ノ轉」 殊ニ離レテ、絕倫ニ、 [illegible]、十三、[illegible]、三「玉ノ緒ノ、たえて短キ、夏ノ夜ハ、夜半ニナル迄、待ツ人ノコヌ」 六帖、五「マテト言ハバ、たえてカシコシ、花ノ山、暫シトナカム、鳥ノ音モガナ」

たえは・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (自動、下二) 〔絕果〕 (一)全ク絕ユ。 後撰集、九、戀、一「たえはつる、モノトハ見ツツ、蜘蛛(ササガニ)ノ、絲ヲ頼メル、心細サヨ」 (二)死ニキル。息全ク絕ユ。

☆**たえは・てる** (動) 〔絕果〕 前條ノ語ノ口語。

たえま (名) 〔絕間〕 絕ユル間。中絕ノ間。トダエタル間。キレマ。間斷(アヒダ)。 拾遺集、十四、戀、四「イカバカリ、クルシキモノゾ、カツラギノ、久米路ノ橋ノ、中ノたえまハ」

☆**た・える** (動) たゆ(絕、下二)ノ口語。

たおひ タオイ (名) 〔手蓋〕 籠手(コテ)。其條ヲ見ヨ。 榮花、十一月「[illegible]」

だおひ ダオイ (名) 〔駄負〕 馬ノ尻ニカクル被(オホヒ)。 [illegible]紗、又ハ、革ニテ造ル。

たおほひ タオオイ (名) 〔垂覆(タレオホヒ)ノ約〕 馬ノ具。ゆがけ(弓懸)ニ同ジ。 手束杖、中「たおほひ」

タオル (名) 〔西班牙語、Toalla. 英語、Towel ノ訛〕 手拭ノ一種。木綿ノ縱絲(タテイト)ヲ[illegible]織リタルモノ。[illegible]

だおろし (名) 〔駄卸〕 一駄ノ荷ヲ、ソノママニ卸賣(オロシウリ)スルコト、オロシウリ、小賣ニ對ス)

たか (名) 〔鷹〕 〔高(タカ)ノ義ニテ、高ク飛ビアガル意ノ名カ、古事記、下「仁德」ニ高行クヤ隼(ハヤブサ)」、或ハ云フ、猛キ意カ、[illegible]〕 鷹飼部アリ」 (一)鷙鳥ノ名。養ヒテ狩ニ用ヰル。其鳥[illegible]ナリ、性、猛クシテ、目、[illegible]故ニ、鳥ヲ捕フルニ最モ良シトス。頭[illegible]、頂[illegible]リ、眼、圓ク大キク鋭ク、金色ニシテ稜(カド)アリ、嘴、曲リテ利ク、脚、剛クシテ黃ニ、爪、堅ク鋭シ。背、蒼白[illegible]、尾ニ、黑白ノ[illegible]、黑斑或ハ赤斑アリ、[illegible]、古ヘ、[illegible]ヒキ。一歲ナルヲ[illegible]鷹ト云フ。[illegible] 二歲ナルヲかたかへりト云フ。(胸ノ斑、橫サマニカハル) 〔撫鷹〕 三歲ナルヲもろがへりト云フ。(斑、細(コマカ)ニカハル) 〔靑鷹〕 羽ノ白キハ、雌雄共ニしらたか 〔白鷹〕 ト云フ。[illegible] (二)鷹狩ノ略。雌ハ形大ナリ、おほたか(大鷹)、又、だい(大)ト云ヒ、雄ハ小サシ、せう(小ノ音)、兄鷹ト書ク)ト云フ。(以上、倭名抄、袖中抄、字類抄、林逸節用集) [illegible] タカ(鶚)、コノリ(雄)、ツミ(雌)、スズミダカ、ノセ、ハヤブサ、[illegible]ナド[illegible]。 [illegible] 樂、鸇子ハ、マロニタウバラン、手ニスヱテ、[illegible]ノミクルスノ、メグリノ里、トラサンヤ、サキンダサヤ」 [illegible]

(三)[illegible]

たか [illegible]

[illegible]田)ノ如ク、たニ高ノ意アリ、高嶺ナリ、中嶺(ナカ)ニ同ジ」 (二)天ノ意。ソラ。「高御座」「高光ル日」 (三)數量ヲ總ベククリテ云フ語。 〔額〕 (三)嵩ヲ、田畠物成ノ[illegible]ノ稱。[illegible] [illegible]ノ略。[illegible] [illegible]、ヤンナセエ、高ガ知レタ人物、高ガ[illegible]、高ヲ括ルト云フハ、スマシテホル、ミクビル、アナドル意。 [illegible]

たか (名) 〔竹〕 たけ(竹)ニ同ジ。熟語ニノミ用ヰル。[illegible]

たが (名) 〔箍〕 〔綰(ワガ)ヌル意。又、竹輪ノ略〕 竹ヲ割リテ、[illegible]、桶、樽、[illegible]、ナド、圓キ器ノ外ニハメテ、締メカタムル用トス。又、木皮、銅、鐵ナドヲ用ヰルモアリ。京ニテ、カツラ。箍がゆるむト云フハ、老イテ鈍クナル、オイボレル意。

たかあし (名) [illegible]

メサレ、將軍ニ御覽ヲ願サセ給ヒ、ヨナヨナ御遊事アリ」[illegible]（天正八年）[illegible]月十七日、[illegible]、昔南都[illegible]九月廿七日、春日祭之時、[illegible]高[illegible]南大門[illegible]人皆以爲レ奇」品字[illegible]清[illegible]井、俗[illegible]以[illegible]木[illegible]射於[illegible]、謂之[illegible]高[illegible]」攝州[illegible]、[illegible]以[illegible]謂之[illegible]」漢口叢談「楚俗、以レ木繋レ足、[illegible]地行舞、作レ戲、名曰[illegible]」以上、高蹺、高[illegible]ハ竹馬ノ[illegible]」

たか-あしだ　(名)　|高足駄|　足駄ノ歯ノ高キモノ。異本今昔物語、廿三、第廿二語「雑許ヲ着テ、中結テ高足駄ヲ履テ、杖ト云物ヲ突テ」

たか-あふぎ（タカ-オウギ）　(名)　|高扇|　田楽ニ用キル大イナル扇。みたあふぎ(御田扇)ノ條ヲ見ヨ。洛陽田楽記、基忠卿、捧二九尺高扇一」

た-かい　(名)　|他界|　〔人間界ヲ去リテ、他ノ界ニ行ク意〕　攝政、關白、大臣、及、武家ノ征夷將軍ノ薨ジタルコト。(古クハ、上下ニ通ゼシナリ。海人藻芥、下ニ、常ノ人ニモ逝去、他界ト申ベキ也ナド見ユ)　逝去、遠行。吾妻鏡、十二、建久三年八月廿二日「雑色成里者、云云、去夏比他界」同、十五、建久六年七月四日「稲尼三郎重成妻、於二武藏國一他界」後深心院關白御記、應安五年三月十八日「去十三日、頓阿法師他界」海道記(鴨長明)「ツヒニ、十念相續ニテ、他界ニウツリヌ」

だ-かい　(名)　|打開|　紛擾ノ場面ノ、打チクツログコト。「局面打開ノ域ニ進ム」

たかい-たかい　(名)　|高高|　小兒ノ、手ヲ天ザマニ上グルコト。

たか-うすべう-の-や（タカ-ウスビョウ-ノ-ヤ）　(名)　|鷹護田鳥斑矢|　鷹ノ尾羽ノ中黒ノ文アルモノニテ矧ギタル矢。うすべう(護田鳥斑)ノ條ヲモ見ヨ。平家物語、十一、嗣信最期事「二十四差タルたかうすべうの矢負ヒ」平義器談(義[illegible]記ノ誤)たかうすびやうの矢の事「うすびやうトハ、假名遣アヤマリ也、うすべうハオスメフノ轉語ナリ、鶏ノ羽ノ本ト末ノ薄ク黒キヲ、うすべうト云フナリ、云云、たかうすべうト云フハ右ノ如ク本末ウス黒クシテ、眞中ニ一所ウス黒ク、クマ鷹ノ羽ノ文ノ如クナル文アルヲ云フ也」

〜たかうな（タコウナ）　(名)　|筍笋|　たかむな(筍)ノ音便。辨乳母集「絶エテ音セヌ人ノ、今ノ帝居サセ給ヒテ、たかうなヲシゲウオコスレバ」

たかうな-がたな（タコウナ-ガタナ）　(名)　|笋刀|　〔神代紀、下ニ「以二竹刀一截二其兒臍一」ヨリ起リシナルベシ〕　元服ノ理髪ニ用キル具。竹ベラノ如キモノ。雅亮装束抄、二「ダンシヲ二枚タタミナガラシキテ、ソノウヘニ、たかうながたな、モトユヒ、クシ二枚」

たか-がき　(名)　|竹垣|　竹ニテ造レル垣。タケガキ。夫木抄、九「山ガツノ、スドガたかがき、枝モセニ、夕顔ナレリ、スガヒスガヒニ」

たか-がひ（タカ-ガイ）　(名)　|鷹飼|　鷹ヲ養ヒテ、狩ニ用キル者。鷹匠。|鷹師|　伊勢物語、百十四段「オホタカノ鷹がひニテ候ハセ給ヒケル」源、三十三、藤裏葉廿五「藏人所ノたかがひ」拾遺集、七、物名「鷹がひノ、マダモコナクニ、ツナギ犬ノ、ハナレテイカむ、なくるまツホド」夫木抄、十八「キギスタツ、カタノノフユノ、ミたかがひ、ケフモイクヨリ、アハセクラシツ」

〜たかかひ-べ（タカカイ-ベ）　(名)　|鷹飼部|　古へ、獵用ノ鷹ヲ飼ヒシ職。仁徳紀、四十三年九月「甫定二鷹甘部一、故時人號二其養レ鷹之處一、曰二鷹甘邑一也」(甘ハ餌ノ省カト云フ、餌ハ餌也)　職員令「兵部省主鷹司、掌下調二習鷹犬一事上」

〜たか-がり　(名)　|鷹狩|　鷹ヲ使ヒテ狩スルコト。冬ノモノナリ。小鷹狩ニ對シテ大鷹狩ト云フ、小鷹狩ハ秋ノモノヲ云フ。初鳥狩。略シテ、小鷹トモ云フ。鷹野。タカセウエウ。鷹の鳥狩。(我ガ朝ノ人ハ鷹ヲ左手ニスエ、唐ノ人ハ右ニスウ。ソノ栽スルコトヲ居うト云フ)　放鷹。松屋筆記、八十八、八十六條、大鷹狩小鷹狩「持明院基春卿[illegible]書ニ、鷹ヲ使フ時節ハ冬ヲ本トス、田野無[illegible]ノ[illegible]ヲ用ルナリ、ソノヨシ昌泰ノ記ニモ見エタリ、小鷹狩ハ秋ノモノナリ、サレバ歌ノ題ニモ鷹狩ハ冬ノモノ也、小鷹狩ハ秋ノモノ也、サレド現在、大鷹モ小鷹モ、夏ノ外ハ、三季ニワタリテミナ使フ也、云云、按、歌ニハ小鷹狩ハ秋、鷹狩野行幸ナドハ冬ノ季ニヨミテ、夫木抄ノ類、スベテ歌題ノ書ニサヤウニ載タリ、サレバ小鷹狩ハ必ズ秋ト心得ベク、冬ハ小鷹モ大鷹モ使フ事ト、心得テ歌ニモヨムベキナリ、サレバ古今六帖(第二)ニモ大鷹狩ニハ冬ノ歌、秋ノ歌ヲマジヘテノセ、小鷹狩ニハ秋ノ歌ノミヲ載タリ」吾妻鏡、十五、建久六年九月廿九日「可レ停二止鷹狩一之旨、被レ仰二諸國御家人一」源、五十二、手習[illegible]「八月十日アマリノホドニ、小鷹狩ノツイデニ」徒然草、百七十四段「小鷹ニヨキ犬、大鷹ニツカヒヌレバ」

〜たか-き　(名)　|高城|　地ノ高キニ、一構ヲ成シタル所。山岳ニアル城。き(城)ノ條ヲ參見セヨ。古事記、中(神武)[illegible]「宇陀(地名)ノ多加紀ニ、シギワナハル」同、下(仁徳)[illegible]「三諸(山名)ノ、其多加紀ナル、オホヰコガハラ」顯宗即位前紀「忍海ノ、コノ拖可紀ナル(大宮ナリ)、角刺ノ宮」萬葉集、三[illegible]「三吉野ノ、高城ノ山ニ、白雲ハ、イユキハバカリ、タナビキテ見ユ」續現葉集、一、春、上「三吉野ノ、たかきノ櫻、咲キヌラシ、空ヨリカカル、峯ノ白雲」

たか-き　(名)　|喬木|　タケノタカキ木。ケウボク。貫之集、九、雑「東風ニ、氷解ケナバ、[illegible]ノ、たかきニウツル、聲ヲ告ゲナム」詩經、小雅、鹿鳴之什、伐木篇「伐木丁丁、鳥鳴嚶嚶、出レ自二幽谷一、遷二于喬木一、嚶其鳴矣、求二其友一聲」

た-がく　(名)　|多額|　嵩ノ多キコト。多クノタカ。カサダカ。「多額納税者」

〜たか-くら　(名)　|高座|　たかみくら(高御座)ニ同ジ。萬葉集、三[illegible]「高座ノ、御笠ノ山ニ、鳴ク鳥ノ、止バ繼ルル、戀モスルカモ」

〜たかくら-の　(枕)　|高座之|　〔高御座ニハ御蓋アリ〕　みかさニ掛クル枕詞。萬葉集、三[illegible]長歌「春日ヲ、カスガノ山ノ、高座之、ミカサノ山ニ、アササラズ、雲居タナビキ」

たか-け　(名)　|篁|　〔竹箇ノ義〕　竹ニテ造リタル小筐。タケカゴ。天治字鏡、八「篁、籠也、[illegible]篁、力曰、篁、太加介」

たか-ゴタツ　(名)　|高火燵|　こたつ(火燵)ノ條ヲ見ヨ。

た-がさ　(名)　|田笠|　插秧ノ時、被ブル笠。散木集、十、雑、下「田笠ト云フモノ著タル男ノ」

たか-さご　(名)　|高砂|　〔高いさごノ約〕　(一)山、又、岡ノ沙ノ多ク高キヲ云フ。峯ノ上。新六帖、三「須磨明石、浦ノ眞ワタシ、近ケレド、アユミ苦シキ、高いさごカナ」拾遺集、八、雑、上「をのへナル、松ノ梢ハ、打ナナビキ、浪ノ聲ニゾ、風モ吹キケル」　(二)〔播磨ノ地名ニ、高砂、又、尾上、アリテ名高ク、常ニ相連ネテ呼ブヨリシテ、遂ニ、尋常ノ山ノ尾上ニ掛ケテ、歌ニ多シ。古今集、四、秋、上「高砂ノ、尾上ノ鹿」後撰集、二、春、中「高砂ノ、尾上ノ櫻」同、十四、戀、六「高砂ノ、尾上ノ小松」(轉ジテハ、高砂ノ峯)ナド詠ジテ、唯、山ト云フ意ニ用キル　猶、古今集、十四、戀、四「陸奥ノ、しのぶもぢずり」同、十四、戀、四「津ノ國ノ、なには思ハズ」ノ類ノ如シト云フ。(砂長爲レ山ナド云フ說ハ拙シトゾ)　古今集、四、秋、上「秋萩ノ、花咲キニケリ、高砂ノ、をのへノ鹿ハ、今ヤ鳴クラム」拾遺集、八、雑、上「イタヅラニ、世ニフルモノト、高砂ノ、松モ我ヲヤ、友ト見ルラム」後拾遺集、一、春、上「高砂ノ、をのへノ櫻、咲キニケリ、外山ノ霞、タタズモアラナム」　(三)播磨ノ高砂ノ地、風景好ク、高砂の松ト云フモアリテ、名高ク、古今集ノ序ニ「高砂住江ノ松モ、

相生ノヤウニ覺エ」ナド記セルヨリ、更ニ相老ノ意ニ寄セテ、謠曲ニモ作リ、又、松ニ老翁、老嫗、鶴龜ナドノ象ヲ畫キ、常ニ祝賀ノ事ニ用ヰル。（四）〔催馬樂ノ歌曲ノ名。催馬樂、高砂「[illegible]古ノ、太加左己ノ、乎乃上ニ立テル白玉、玉椿、玉柳」（五）臺灣島ノ舊名。打狗（西岸南部ノ港）ノ原名たあかうヲ訛シテ、明人、打鼓山ト云ヒシヨリ起リシト。又臺灣全島ヲ東寧トモ云フ。天竺德兵衛ノ天竺渡航ノ紀行ニ、たかさぐん（高砂國）トアリ（長崎港草）、又、秀吉臺灣文書ニ、高山國トアリ、又、沖繩ニテハ、たかさぐト云ヘリ。和漢三才圖會、十三、異國人物「搭島沙古」俚言集覽、塔伽沙古」臺灣形勢一班「臺灣ハ、云云、古代日本航海者ノ高砂（培加沙古トモ書ナリ）ト云ヒ」

たかさご-ぞく（名）［高砂族］ばんざん（蕃人）ノ條ヲ見ヨ。

たかさぶらう（名）草ノ名。春ノ末ニ生ズ、高サ一二三尺、葉ハをぐるまニ似テ、厚クシテ毛茸アリ、枝葉對生ス。夏、枝ノ端毎ニ、白キ花ヲ開ク、小サクシテ菊ノ花ノ如シ、莖ヨリ黑キ汁出ヅ。鱧腸うまきたし（鱧腸草）ノ條ヲモ見ヨ。

たか-し（名）［鷹師］たかがひ（鷹飼）ニ同ジ。倭訓栞「[illegible]飼也、日本紀ニハ、[illegible]甘部ト見ユ、所謂[illegible]師是也、今、[illegible]匠ト云ヘリ」

たか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［高］（一）〔上ヘ延ビテアリ。重ナリ多シ。（低シノ反）名義抄「聳、タカシ、ソビク、アガル」萬葉集、十五三十長歌「大船ヲ、漕ギ我ガ往ケバ、沖ツ浪、多可久立チ來ヌ」「山高し」「齒高し」（二）〔貴シ。尊貴キ、アマタアリ」同、十三、明石三十「都ノたかき人ニ源、十四、澪標三十「心ガケ聞エ給フ人、たかき、賤シ奉ラムト思フ心深キニヨリ」同、四、夕顏三「命長クテ、[illegible]位高くナドモ見ナシ給ヘ、サテコソ九品ノ上ニモ、障リナク生マレ給ハメ」「官高し」（三）〔強シ。烈シ。萬葉集、十七四十長歌「海人ノ小舟ハ、入江漕グ、楫ノ音多可之、ソコラシモ、アヤニトモシミ」「聲高し」（四）〔長ク。ツモル。[illegible]宗紀、[illegible]二年八月「[illegible]」[illegible]不[illegible]、[illegible]不[illegible]、[illegible]、[illegible]也」「[illegible]高し」（五）勝レタリ。マサリタリ。スルドシ。聰「心高し」「見識高し」「眼高し」（六）價、多ク貴シ。價昂 狂言記、[illegible]「コレマタ高イコトデ御座ル、チットネギリマセウ」（七）榮エテ饒シ。大和ノ都會ヲ高市、人ノ多ク集ルヲ物見高しト云フ。「江戸ハ人だかイ」鼻が高しトハ、譽レヲ得。得意 頭が高いトハ、高ブル。傲

〔たか-ー・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［高敷］〔たかハ、尊ブ意。太敷ニ對ス」著シク敷キ竝ブ。イカメシク設ケ建ツ。萬葉集、六十長歌、長柄ノ宮ニ、眞木柱、太高敷キテ、食國ヲ、收メタマヘバ」

たか-ー（名）［竹矢籠］竹ニテ造リタル箙。ーさ（尻籠）ノ條ヲ參見セヨ。[illegible]集、十二、偸盗「小殿、たかーカキオヒテ、マユミウチカタゲテ」長門本、平家物語、十「[illegible]キタル男一人來テ、湯屋ノ東西ヲミマハル、文覺ハ目モ、モテアゲズ、カマノ火打タキテ、居タリケルニ、又、たかーオツケタル男ノ、黑漆ノ弓持タル一人來ル」

〔たか-しほ（名）［高潮］海潮ノ高ク滿チ來リテ陸ニ上ルモノ。津浪。海嘯 [illegible]十二、[illegible]「今シバシカクダニアラバ、濱ニヒカレテ入ヌベカリケリ、たかしほト云フモノニナントリアヘズ、人ソコナハルルトハ聞ケド」今昔物語、十二、十四[illegible]年ト云フ年六月十六日ニ、[illegible]大二[illegible]テ、雨多ク降ル、コレニ依テ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]木、多ク河ヨリ流レ下ル」增鏡、二、新島守「ミカタノ軍破レヌ、荒磯ニたかしほナドノサシクルヤウニテ」扶桑略記、三十、寬治六年八月三日「大風、[illegible]洪水、高潮之[illegible]、民[illegible]田畠、[illegible]」[illegible]「[illegible]六年六月下旬ノ比、[illegible]ト[illegible]、[illegible]、[illegible]二滿チ、[illegible]」[illegible]永[illegible]八月[illegible]、[illegible]、[illegible]烟、人[illegible]八月廿[illegible]日[illegible]攝、[illegible]津、[illegible]亡、云云」

たかしま-いし（名）［高島石］近江ノ高島郡阿彌陀山、同郡[illegible]、[illegible]山ナドニ產ズル石。硯石トシテ良シ。色黑ク、緻密ナリ。[illegible]

たかしま-だ（名）［高島田］島田髷ノ高キ結ヒ[illegible]。[illegible]代[illegible]、[illegible]、田イトハデニ、袂カイドリテ、八文字ノ踏ミヤウ、髮メル頭、類ナク作レリ」

たか-ぢやう（名）［鷹匠］〔たかがひ（鷹飼）ノ宗匠ノ意カ〕鷹飼ノ職、タカガヒノ頭。タカビト。狂言記、[illegible]野「[illegible]匠ニ仰セ付ケラレ、[illegible]物ノ[illegible]ヲ合ハセケレドモ」[illegible]十[illegible]ヲトドメサセタマヒシトキ、鷹匠ノ頭モ大番ノ士トセラレ、鷹匠ハミナ小十人組ニ入レラレケル」

たが-ぢやう（名）［多賀城］陸前國宮城郡市川村（後、多賀城村ト改ム）ニ、天平寶字六年、[illegible]守府[illegible]ノ築キシ城ナリト。本城ハ、中古ニハ多賀國府ト呼バレ、廢棄ノ條トイヘドモ、[illegible]尚、[illegible]ノ[illegible]テ、[illegible]（高森氏）遷[illegible]後、全ク荒墟トナレリ。（此[illegible]城[illegible]ト、[illegible]コト、[illegible]筆記、八十七、七十三條、及、七十四條ニ辯論アリ、就キテ見ルベシ）

〔たか-しら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[illegible]ノ數ニ[illegible]、八[illegible]ノ、高知ル、芳野ノ宮ハ、タタナヅク」

〔たか-しる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［高知］〔高ハ領（[illegible]）領有ス。治メ給フ。[illegible]（上）高知」萬葉集、二十長歌「高照ラ、高知マシテ」[illegible]

たかすき（名）［高坏］たかつき（高坏）ニ同ジ。大嘗祭式、多加須伎八十口」[illegible]八枚」

たか-せ（名）［高瀨］（一）川ノ瀨ノ淺キ處。新古今集、三、夏、[illegible]川、高瀨[illegible]、[illegible]レヤ、ふえ[illegible]行ク、[illegible]火ノ影」（二）［高瀨舟］ノ略。[illegible]リツミ、云云、[illegible]ノ、心ワクミテ、たかせサス、棹ノ[illegible]ス高瀨ノ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]

たか-せうえう（名）［鷹逍遙］たかがり（[illegible]）ニ同ジ。[illegible]

たかせ-ぶね（名）［高瀨舟］〔高背舟ノ義〕小船、瀨ノ高キ處ヲモ、自在ニ通ゼラルルヨリ云フ」（一）〔瀨ノ小サクシテ深キモノトスフ。今ハ底ヲ平ニ淺ク作リ、高瀨ヲ乘リ越ス。[illegible]たかせ[illegible]ナリ、川ノ瀨ノ高キ所モユクヤウニ、[illegible]テ、[illegible]月十六日、[illegible]二、[illegible]、新古今集、六、冬、たかせぶね、シブクバカリニ、モミヂ葉ノ、流レテクダル、[illegible]川カナ」（二）今、又、川船ノ一種、[illegible]大イナルモノノ稱。荷足船。

たがそで（名）［誰袖］匂袋ノ名。[illegible]

絹ヲ欄シテ袖ノ形ニ作リ、ソノ二ツヲ、紐ノ兩端ニツケテ、佳菩ノ如クシ、夏ノ物トス。 用捨箱、下、保、時行 古今集ニ、色ヨリモ、香コソアハレト、オモホユレ、誰ガ袖フレシ、宿ノ梅ゾモ、ニ因テ名ヅク、後ニ小楊枝刺トナル」ト蓑狂歌集、古田屋マヰリテ、色色ノ香具ヲ出シケル、云云、御溝、誰袖、女重寶記、元祿五年、「匂袋誰袖」ト蓑狂歌集、誰袖花ノ露匂袋ヲ「梅ノ木ハ、ミメノ木ヤラン、花ノ露、たが袖風ノ、匂ぶくろう」 海錄、十六、七十、條、女子ノ細工物ニ、たが袖、貝張、花袋ノ類アリ、今ハ何ノヨシトモ思ヒ分ネド、ソノカミノ匂袋ナルベシ、云云、たが袖ハ、古今集ノ歌ニヨリテ名ヅケシナルベシ、古キ物ニ、半袖、浮世袋ニモ、ミナ紐ヲ附タリ、之ニテ身内ニカクル物ナルヲ知ルベシ」

たかだい (名) 高臺 地面ノ高クシテ平タキ所。高地。丘陵地。

たかだか (副) 高高 十分ニ積リテ。セイゼイ。「高高十人位」

たかだかみ (副) 高高 (一)高ク仰ギテ、遙ニ見遣ル狀ニ云フ語。 萬葉集、十一 四十「高山ニ、高部サワタリ、高高ニ、吾ガ待ツ君ヲ、待チ出ナムカモ」 (二)跂テテ待ツニ云フ語。(常ニ、物ヲネガフコトヲ望ムト云フガ如シ)又、マチコガルルニ云フ語。 萬葉集、十二 廿「石ノ上、フルノ高橋、高高ニ、妹ガ待ツラム、夜ゾ深ケニケル」(居丈高ニ、伸ビアガリテ) 同、四 五十「白雲ノ、タナビク山ノ、高高爾、吾ガ思フ妹ヲ、見ム由モガモ」 同、十五 四十「ハシケヤシ、妻モ子ドモモ、多可多加爾、待ツラム君ヤ、島隠レヌル」 同、十三 三十「母父モ、妻モ子ドモモ、高高二、來ムト待チケム、人ノ悲シサ」

たかたかゆび (名) 高高指 〔丈高指ノ轉カ〕 なかゆび(中指)ニ同ジ。(京都ニテモ云フ) [illegible]、下ニ大[illegible]ノヲバ、たかたかゆびニクラブベシ:

たかだすき (名) 高襷 (一)ゆがけ(弓懸)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。(二)襷ニテ、袖ヲ高ク括リ上グルコト。 日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)二「袖引キ絞リ、狩袴マクリ上ゲ、クリヲ解イテ高襷」

たかだぬき (名) 鞲 〔鷹手貫ノ義〕 鷹ヲ使フニ用キル手貫。今ノ弓懸ノ如キモノ。 倭名抄、十五、調度類「鞲、太加太奴岐、臂衣也」 童蒙頌韻「鞲、タカタヌキ」 鷹開書「鷹たぬき、長サ四寸八分、但シ身ニヨルベシ、ヘリ廣サ四分、裏ニ二寸許リ皮ヲ返シタルベシ」

たかだま (名) 竹玉 竹ヲ管玉ノ如ク輪切ニシ、緒ニ貫キテ、神ニ奉リシモノト云フ。 萬葉集、三 三十七 長歌「榊ガ枝ニ、シラガツク、木綿取リツケテ、イハヒベヲ、イハヒホリスヱ、竹玉ヲ、シジニヌキタリ、シシジモノ」

たかだんし (名) 高檀紙 だんし(檀紙)ノ條ヲ見ヨ。 乳母草子「料紙トアランニ、ヒキアハセ、高檀紙、コタカダンシ、スギハラ、出ダスベシ」

だかつ (名) 蛇蝎蛇蠍 〔へびトさそりト、共ニ毒蟲ナリ〕 又、ジャカツ。 忌ミ厭フベキモノニ譬ヘテ云フ語。 陳陶、小笛中書「蛇蠍[illegible]」

たかつかさ (名) 鷹司 古ヘ、鷹ヲ養ヘル役所。兵部省ニ屬セリ。

たかつかひ (名) 鷹使 (一)鷹狩ニ、鷹ヲ使フ人。 たかぢやう(鷹匠)ニ同ジ。(二)鷹狩ナドニツキテノ使者。

たかつき (名) 高坏 食物ヲ盛ル器。檜ノ木ノ輪ヲ臺ニシタル坏。臺ヲモ、かはらけニ作付ケニシタルヲ土高坏ト云フ。(秋草、伊勢貞丈)後ニハ、木ニテ臺ヲ作付ケニ造リ、朱黑ノ漆塗ナドニス、菓子ナド盛ルニ用キル。一名、腰高。タカスキ。御臺トモ云フ。 萬葉集、十六 廿九 長歌、能登國歌「小螺ヲ、いひろひ持來テ、云云、たかつきニ盛リ」 源、三十五、柏木 十「御ウブヤシナヒ、世ノ常ノヲシキ、ツイガサネ、たかつきナドノ心バヘモ」 同、四十八、寄生 八十七「紫タンノ高つき」 伊勢物語、八十七段「女方ヨリ、ソノ海松ヲたかつきニ盛リテ、柏ヲオホヒテ、出シタル柏ニカケリ」

たかて (名) 高手 おて(小手)ノ條ヲ見ヨ。 狂言記、生捕鈴木「小手ノ繩ヲユルシ、高手バカリニテ、御前ニ引キスユル」

たかてこてみ (副) 高手小手 人ヲ後手ニ、嚴シク縛リ上グル狀ニ云フ語。 太平記、廿四、壬生地藏事「抱手三人走リ寄ッテ、中ニ擧ゲ打チ倒シ、高手小手ニ禁メテ」「高手小手ニ縛ル」

たかてら・す ・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 高照 〔日ニ寄セテ云フ語〕 高ク照シ給フ。

たかてら・す ・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 高照 天ノ下ヲ治メ給フ。(帝王ガ)

たかとうだい (名) 高燈臺 (一)〔とうだいぐさノ類ニテ、高ケレバ云フ〕 草ノ名。春、宿根ヨリ叢生ス。莖圓ク、高サ四五尺、葉ハ披針形ニテ小サク、色、深綠微黑ニシテ、中道白シ。葉ヲ斷テバ白汁出ヅ。夏ニ至リ、莖梢ニ、四瓣ノ淡紫黃色ノ花ヲ開キ、疣狀ノ凸起アル實ヲ結ブ。ハヤヒトグサ。ハヤクサ。ネビス。 大戟 (二)燈臺ノ腰高キモノ。 盛衰記、廿、八牧夜討事「侍ヲ見入レタレバ、高燈臺ニ火白ク掻キ立テタリ」

たかとうろう (名) 高燈籠 人ノ死去ノ後、大略、七回忌マデ毎年七月、點ズルモノ。(下ノ出典ヲ見ヨ) 昔昔物語(享保)「歷歷ノ衆死去ノ人アルハ、大カタ七回忌マデ、毎年七月高灯籠ヲ立ル、長サ七八間バカリノ杉ノ丸太ノ上ニ、三角ニイラカ結、杉ノ葉ニテ包ミ、シデヲ切テ附、灯籠ハ辻番ノ行灯ノ類ニテ、小クコシラヘ、上ヲ開キ、下ヲスボマセ、屋根ハ板ニテコシラヘ、玄關ト臺所ノ間ノ、廣キ所ヘ立ル、七月朔日ヨリ晦日マデ、毎夜暮六ツ時ヨリ、明六ツマデ灯ス、一向宗ニハ此事ナシ、他宗ハ何モ如此、身分アハレニ見ユルモノナリ、トアリ、其サマヲカケルハ、畫本月並遊ト云モノニ、七月玉祭ノ處ニ出タリ」

たかどころ (名) 鷹所 古ヘ、鷹ノ事ヲ掌リシ役所。 新修鷹經「嵯峨天皇、弘仁二年ニ鷹所ヘ出サレ、是ヲ天下ニ弘行セラル」(原本漢文)

たかどの (名) 樓閣 〔高殿ノ義〕 高ク作レル殿。家ノ上ニ、又、家ヲ重ネテ作レルモノ。眺望ノ爲ニス。二階ヨリ三四五階ナルニモ通ジテ云フ。 倭名抄、十一 十「樓、太加止乃、一云、呂」 字類抄「樓閣、タカヤ」 神代紀、下 廿二「臺」 仁徳紀、四年二月「高臺」 貴人ノナルニ云フ、平人ニハ高屋。 萬葉集、一 十九 長歌「高殿ヲ、高知座シテ、上リ立チ、國見ヲスレバ」 靈異記、中、第五緣、訓釋「樓閣、多加度野」

たかとび (名) 高飛 (一)高ク空中ヲ飛ブコト。(二)遠國ニ逃走スルコト。

たかとび (名) 高跳 (一)高ク跳リ上リテ、越ユルコト。(二)〔英語、High jump ノ譯語〕 體操、又ハ、運動競技ニテ、ナルベク高ク跳リ上リテ、越ユルコトヲ主トスルモノ。(幅跳ニ對ス)

たかどま (名) 高土間 東京ノ芝居ニ云フ語。どま(土間)ノ條ヲ見ヨ。

たかどり (名) 高取 知行、領地等ノ高ヲ、多ク所帶スルモノ。

たかな (名) 大芥 〔高菜ノ義、春來リテ長大トナル〕 (一)大葉芥ノ古名。(今モ九州ニテ云フトゾ) からしな(芥菜)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十七 十七 菜類「辛芥、[illegible]、大芥ハ小菩謂之辛芥ハ太加奈」(たかなハ大芥ナリ) (二)フユナ。たうな(唐菜)ノ條ヲ見ヨ。 本草和名、上 三十六「菘、多加奈」 字鏡 五十「菘、多加奈」

たかに (名) [高荷] 木綿反物賣。即チ、木綿反物ヲ高サ一丈アマリニ、積ミカサネタルヲ背負ヒテ、市中ヲ賣リ歩クモノ。志道軒傳(寶曆)「夏ノ景色ヲ荷ヒ出ス剣ジ團扇、遊團扇、仰ケバイヨイヨ高荷ノ蚊屋賣」 下手談義「木綿賣ノ高荷ホド事事シキ裳ヲ負ヒ、云云」

たがに (名) [[illegible]] たがね(鑽)ノ條ヲ見ヨ。

たがぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ(他動、下二) [綰] 綰グ。束ヌ。一ツニ集ム。萬葉集、五[illegible]長歌「手束杖、腰ニ多何禰テ、斯ク行ケバ、人ニ厭ハエ、斯ク行ケバ、人ニ惡マエ」

たかね (名) [高根] 高キ嶺。高嶺。峻嶺。萬葉集、三[illegible]「田子ノ浦ユ、打チ出デテ見レバ、眞白ニゾ、富士ノ高嶺ニ、雪ハフリケル」

たかね (名) [高音] (一)高キ音。(音樂ノ調ニ) (二)三絃ヲ合奏スルトキニ、互ニ交フル一種ノ調子ノ名。甲音、乙音ノ調子ヲ互ニ用キルモノニテ、即チ、本調子ニハ、二上リヲ用キ、二上リニハ、三下リヲ用キ、三下リニハ、本調子ヲ用キルモノ。又、上調子。うはでうし(上調子)ノ條ヲモ見ヨ。

たがね (名) [飴] [束ねノ義ト云フ、水ニ和シテ煉リマゼテ一團ニスル意ト云フ、或ハ云フ、束煉ノ約轉カト] 固飴ノ古名。神武紀位前紀「以二八十平甕一[illegible]」 延喜式、三、左京皇別、下「小野朝臣[illegible]米[illegible]」

たがね (名) [束ノ義] シトギニシンコモチ。米ノ粉ヲ材料ニシテ搗キタル餅。(水戸) 比古[illegible]立神社ノシトギ」

たがね (名) [[illegible]] [[illegible]斷金ノ略ナド云フ] 鋼ニテ製セル小サキ刀ノ名。鑿ノ如ク用キテ、金、鐵等ノ器ニ、文字、模様ナド彫ルニ用キル。[illegible] 小右記、長和五年四月十日「以二鐵槌鉗等一可レ破二大石一」 [illegible]「錢、太加爾」 天治字鏡、六「錖、太加爾」 同卷二十「[illegible]、太加爾」

たかの (名) [鷹野] 鷹ヲ使ヒ、山野ニテ鳥ヲ狩ルコト。鷹狩。放鷹。[illegible]「義就、嵯野ニ出デタリト云フ沙汰アリ、イカナレバ上[illegible]シケン」

たかのつかひ (名) [鷹使] 敕使ニヨリテ、鷹狩ニ赴クモノ。[illegible]本朝外)「昔シハ、諸國へ敕使ヲ下シテ鷹狩セシム、是ヲ鷹の使ト云フ、[illegible]アタリヘ、カリノ使下ルコト見ユ、國ノヲサメカタ、民ノウレヘヲ聞ン爲ナリ」

たかのつめ (名) [鷹爪] 末茶ニスル製茶ノ一種。上品ナルモノノ銘。

たかのは (名) [鷹羽] 鷹ノ尾ノ羽。黑白ノ斑、重ナリテ列ヲナス、矢ニ矧ギ、又紋ニ畫クナドニ云フ。[illegible]「一、矢ニ鷹の羽付ル事、トガリ矢、カブラ矢、カリマタガラナドニハ、鷹の羽付ルコト本儀ナリ、其ホカハ略儀ナリ」 今川大雙紙「一、鷹の羽ニテ、ハギタル矢ニテ、常ニ的射ベカラズ、子細アリ」

たかのは (名) 魚ノ名。[illegible]ニテ[illegible]

たかのはだひ (名) [鷹羽鯛] 魚ノ名。形、略、鯛ニ似テ、大イナルハ一尺五六寸ニ至ル。淺黑クシテ紫ヲ帶ビ、[illegible]文アリテ、鷹ノ羽ノ文ニ似タリ。[illegible]、背、肩、腹、[illegible]、上ニ迫リテ、口、小サク、[illegible]出シ、尾ニ白[illegible]、味、美ナラズ。[illegible]

たかのはどぢゃう (名) [鷹羽泥鰌] 攝津國、三島郡、東大寺ノ川ナドニ産ス。[illegible]常ノどぢゃうノ如ク、大サ五六寸、頭、背ヨリ尾ニ至ルマデ、[illegible]鷹羽ノ紋ノ如シ。味、佳ナリ。シマドヂャウ。[illegible]

たかのみ[illegible] (名) [[illegible]] [illegible]ノ使ナリト云フ[illegible]「たかのみ[illegible]、イトモアヤシト、見マシケリ、嶺マロヲシモ、引キタテテトヤ」

たかのめゆわう (名) [鷹目硫黃] ゆわう(硫黃)ノ條ヲ見ヨ。

たかば (名) [鷹場] 鷹狩スル場所。[illegible]鏡、九、文治五年十一月十七日「雪降、已以後、[illegible]晴、[illegible]」

たかば (名) [高場] 芝居ニテ、棧敷、土間ナドノ見物席ヲ賣ルトコロ。階上階下兩方ニアリテ、場代ヲ集メタリ。不正ノモノノ檢擧ヲナス所トゾ。

たかば (名) [竹葉] 竹ノ葉。[illegible]河百首「立チカヘリ、駒ノ行キカフ、栢ナラバ、たかば刈リ敷キ、ヒトリネマシヤ」

たかばうき (名) [竹箒] 竹ノ小枝ヲ束ネテ作レル箒。地上ヲ掃フニ用キル。

たかばかり (名) [尺] [竹量ノ義] 竹ニテ作レルものさしノ古言。裁縫ニ用キル。[illegible]カリ」(後撰集、たかばかり[illegible]) [illegible]二寸上ニ枝ヲ置テ、其枝ニ居テ倒ヲオトス、サナケレバ、[illegible]サテ一尺二寸ヲ[illegible]ト云ヘリ[illegible]

たかばかりむし (名) [蠖] しゃくとりむし(尺取蟲)ニ同ジ。字鏡集、蟲「[illegible]、シャクトリムシ、タカバカリムシ」

たかばた (名) [高機] [illegible]等、花紋アルモノヲ織ルモノ。大キクシテ上ニ[illegible]ノ架アリ、人、其上ニ居リテ、機ヲアヤツル、其人ヲ空引ト云フ。[illegible]機、タカハタ」

たかバチ (名) [高鉢] 飯椀ノ形シタル大イナル飯鉢。

たかばなし (名) [高話] 高聲ニテ談話スルコト。[illegible]役所ノ火鉢ニ高話ノ」

たかばやし (名) [竹林] 竹ノ林。タカヤブ。タカハラ。タケヤブ。チクリン。

たかはら (名) [竹原] タカバヤシ。竹林。[illegible]

たかはらやき (名) [高原燒] 茶碗師高原彌兵衛ノ作リ燒ケル陶器。[illegible]推擧ニ因リテ、江戸淺草ニ地ヲ賜ヒ、開窯セリ。高原屋敷ト云ヒ、後、高原町ト云フ。[illegible]

たかはり (名) [[illegible]] [illegible]

たかはりデウチン (名) [高張挑燈] [illegible]

燈ニ、長キ竿ヲ添ヘテ、高ク揭グルモノ。略シテ、たかはり。

たかひ（名）劒柄　たかみ（劒頭）ノ轉。劒ノ柄。萬葉集、九、十長歌「燒太刀ノ、手頴押シネリ、白檀弓、靫取リ負ヒテ」

たがひ（名）違差　タガフコト。チガヒ。相違。差異。「違僞ノ差」

たがひ（名）田貝　どぶがひ（溝貝）ニ同ジ。蚌　本草和名、下、卅「蚌蛤、多加比（今モ、加賀美濃ニテ云フ）字鏡、九十「蚌、長田加比」

たかひかる（枕）高光　〔高ハ天ノ意〕天照ル、アマテラスニ同ジ意。日ト云フ語ノ枕詞。天皇、皇子ヲ申ス上代ノ稱辭。然レドモ皇太子ニ申スガ多シ。古事記、下（雄略）九三十「多加比加流、日ノ宮人」同、中（景行）五十「多迦比迦流、比能美古」（倭建命ヲ指シ奉ル）同、下（雄略）十「多加比加流、比能美古」（天皇ヲ指シ奉ル）萬葉集、一、廿長歌「八隅知シ、吾大王ノ、高光ル、日ノ御子」同、二、八廿「高光、我ガ日ノ皇子ノ、イマシセバ、島ノミカドハ、荒レザラマシヲ」同、五、十三長歌「高光、日ノ御朝廷」

たかびく（名）高低　又、たかひく。たかきト、ひくきト。タクボク。デクボク。デコボコ。凹凸。

たかひしらす・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）高日知〔貴人ノ此地ニアルハ、天降リテアルナレバ、其逝去ハ、歸リテ高天原ヲ知ロシメス義〕崩ズ。薨ズ。萬葉集、二、十六「泣澤ノ、社ニ神酒スヱ、祈レドモ、我ガ大君ハ、高日知らしぬ」

たかびしゃ（名）高飛車　上段ヨリ、ビシャリト、押シヒシグ態度、又ハ、命令。抑壓。高壓手段　「高飛車ニ出ヅル」

たがひせん（名）互先　圍碁ノ語。代ルガハル先手トナリテ、碁ヲ打ツコト。卽チ優劣ナキ相手ノ稱ナリ。カタミセン。〔將棊ニモ云フ〕書言字考節用集、十、「衞門「互先、タガヒセン、カタミセン」慶長見聞集、六、「武與左衞門、鳴衞木、齋藤ナド云ヒテ、碁ヨク打ツモノ共アリ、馬鹿山田ニたがひせんノ碁、イヅレモ眞野ニハ三ツ四ツノ碁ナリ」

たがひちがひに（副）互交　五ニ入リ交ヒテ。カハルガハル。交互　交錯　堀川狂歌集「朝ナタナ、窗ノ戶障子、己レサヘ、たがひちがひに、タチゾワカルル」

たかびと（名）鷹人　たかおさう（鷹匠）ニ同ジ。定家卿鷹三百首「トサケビノ、ケシキニシルシ、此ノ秋ハ、マダたかびとノ、入ラヌ山トハ」

たがひに（副）互　〔違ひノ義、又、手交カ〕此方ヨリシ、又、彼方ヨリシテ。カタミニ。カハルガハル。又、アヒトモニ。靈異記、中、第二緣、訓釋「遞、タガヒニ」名義抄「遞、タガヒ、遞、タカヒニ」

たかひねり（名）高捻　相撲ノ手ノ一。己レノ片手ヲ、相手ノ腋ノ下ニ入レ、片手ニ相手ノ手ヲ抱ヘ込ミテ押セバ、相手ハ、コレヲ押シ返サムトテ、一足フミ出ダシ來タルトキ、急ニ捻ルモノ。

たがひめ（名）覗　〔違ひ目ノ義〕正シク見ザル目ツキ。字鏡、六「覗、太加比目」同、六十「邪見、太加比目」「眯、惡見也、太加比目」

たがひめ（名）違目　相違セル箇所。チガヒメ。ユキチガヒ。源、十七、繪合「カカルたがひめノアルヲ、イカニオボスラン」同、三十四、上、若菜、上十九「物ノたがひめアリテ」

たかひも（名）高紐　鎧ノ右ノ脇後ニアル紐。脫ギタル兜ナド懸ク。又、鎧ノ綿

ガミニアル鈎紐。綿ガミノ上ヨリ、肩ノ前ヘ出シ、胸板ノアヒビキノ緒ニ、取合ハセテシムル紐。又、あひびきの緒トモ云ノ。平家物語、七、經政都落事「萌黃匂ノ鎧着テ、云云、兜ヲ脫ギテ高紐ニカケ、御前ノ坪ニカシコマル」保元物語、二、白河殿攻落事「件ノ大鏑ヲ以テ、ヒャウト射給フガ、高紐ニ弦ヤセカレケン、思フ矢ツボニ下リ」長門本、平家物語、十六「汀ニオリ立テ、刀ヲヌキ、鎧ノ引合オシ切リ、高紐ハヅシテ、云云、自害セン」吾妻鏡、三、壽永三年正月十七日「藤判官代邦通、一品房、並神主兼重等、相ニ具嚴常之甲ニ自ニ上總國一宮ニ歸ニ參鎌倉ニ卽召ニ御前ニ覽ニ彼甲ニ（小櫻皮威）結ニ付一封狀於高紐ニ」

たかふ（名）竹生　〔ふハ、園生、芝生ト同趣〕竹ノ林。タカムラ。タカハラ。安閑紀、元年閏十二月「奉ニ獻上御野、下御野、上桑原、下桑原、幷竹村之地、元合肆拾町ニ」

たか・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）高　たかぶる（高）ノ條ノ（二）ニ同ジ。安閑紀、元年閏十二月「阻ニ有逆、心高無順一」

たがふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）違差　〔たハ發語、交ふノ義〕（一）二ツノ物ノ互ニ入リカハル。互ニナル。相合ハズ。カナハズ。チガフ。相違ス。竹取物語「カクヤ姬ノタマフヤウニ、たがはズ造リ出デツ」（二）背ク。外ル。マチガフ。萬葉集、十四、五「駿河ノ海、磯邊ニ生フル、濱ツヅラ、イマシヲ賴ミ、母ニ多我比ヌ」古事記、中（崇神）九「歌、曰、云云、伊由岐多賀比」新萬葉集、下、冬「神女等ガ、日カゲノ上ニ、降ル雪ハ、花ノ紛ニ、イヅコ違倍里」字鏡、二「湖、太加不」「法ニ違ふ」約ニ違ふ」

たが・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）違　（一）〔違フヤウニナス。相合ハシメズ。チガハス。枕草子、四、四十三段「ソゾロナルメノハシヲツツミテ給ヘリシカバ、とりたがへタルニヤト云フニ」源、四十四、橋姬七三十「ヒトコトモ、カク打出聞エサセテンサマヲ、たがへ侍ルマジクナム」（二）背カシム。外ス。「約ヲ違ふ」

たかふだ（名）高札　（一）かうさつ（高札）ニ同ジ。たてふだ（建札）ノ條ヲ見ヨ。和簡禮經、八、高札事「大形制札之外、押並而札書ノ總名之樣ニ、上古ハ存處候處、近代ハ徵罰之事ヲ書顯シ、市町ニ打ヲ耳、名付申ト相見候、是ハ賣物買物ニ付而、可ニ致ニ沙汰一樣ヲ書付、板ニ書テ、路頭ニ打ヲ高札ト申也」平治物語、三、賴朝義兵舉事「鎌田正家ト書キタル高札ヲコソ立テタリケレ」（二）入札ノ價高キモノ。

たかぶる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）高　（一）高ク強クナル。亢　狂言記、針立雷「嫁ガ殊ノ外高ぶりマスガ」「痢ガたかぶる」（二）〔誇ル、驕ル。押柄ナリ。傲　繼體紀、廿一年六月「驕而自矜」保元物語、二、左府御最後事「人臣ニ矜ルニ能ヲ以テシ、天下ニ高ぶるニ聲ヲ以テス、ト云ヘリ」

たかべ（名）鸍沈鳧　小鴨ノ古名。今モ地方ニテハ、たかぶト云フ所アリト云フ。刁鴨　字鏡、六十「鳧、太加戶」萬葉集、三、六十「人漕ガズ、有ラクモ著シ、潛スル、鴦ト高部ト、船ノ上ニ住ム」同、十一、四十三「高山ニ、高部サワタリ、高高ニ、余ガ待ツ公ヲ、待チイデムカモ」赤染衞門集「水鳥ハ、をしモたかべモ、カヨヒケリ、あしかもノミハ、スマヌナルベシ」

たかべ（名）魚ノ名。體、細長クシテ橫ニ扁ク、大イサ五六寸許、背ハ青綠、腹ハ銀白色ヲ帶ビ、近海ニ產ズ。味、佳シ。

たがへし（名）相扠　〔手返しノ義、打返ス意ト云フ〕拳ヲ人ニ加フル技ト云フ。サレド、拗腕ヲモ訓ズルヲ見レバ、今ノうでおしノ類カト云フ。倭名抄、四、十八、雜藝類「相扠、拗腕、多加閉之、以レ拳加レ人也」

たがへす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）耕　〔田返すノ義〕田ヲツクル。たがやす（耕）

ニ同ジ。字鏡六十「䅰、耕也、田加戸須」耕、加戸須」名義抄「耕、タカヘス」字類抄「耕、カヘス、タカヘス」[illegible]私記[illegible]「耕、田反」

たがへり (名) 〔手返〕 タガヘルコト。(次條ヲ見ヨ) 堀河百首「御狩スル、野中ノ木居ノ、繁ケレバ、空取ル鷹ノ、たがへりモセズ」

たがへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔手返〕 合ハセ遣リタル鷹、鷹飼ノ手ニ返ル。夫木抄、十八「オボツカナ、たがへる鷹モ、イウナラム、狩場ノ小野ノ、夕暮ノ空」長能集「鷹狩スル、末野ニ立テル、一ツ松、たがへる鷹ノ、古居ニヤモセム」

たが・へる (動) 〔違〕 たがふ(違、下二段)ノ口語。

たかほこ (名) 〔鷹架〕 鷹ヲ据エ置ク木。春ハ梅、夏ハ樫、秋ハ檜、冬ハ松ヲ用ヰル。字鏡集「架、タカホコ」字類抄「架、タカホコ」

たかぼり (名) 〔高彫〕 彫刻ノ、高ク浮キ上ガリタルモノ。〔隱起〕

たかまがはら (名) 〔高天原〕 たかまのはら(高天原)ニ同ジ。夫木抄、三十四「ヤホヨロヅ、四方ノ神タチ、集マレリ、たかまがはらニ、キキ高クシテ」

たかまきゑ (名) 〔高蒔繪〕 まきゑ(蒔繪)ノ條ヲ見ヨ。七騎虎狩物語(元禄、近松作)[illegible]馬揃「ア、バレ馬ヤ、鞍足ヤ、梨子地ノ鞍ニ高蒔繪」

たかまくら (名) 〔高枕〕 (一)丈ヲ高ク造リタル枕。(二)枕ヲ高クシテ眠ルコト。太平記、廿二、[illegible]ヲ[illegible]、[illegible]立テ、屋形ノ内ニ高枕シテ、[illegible]カキテゾ臥シタリケル」(三)安心シテ眠ルコト。楚辭、九[illegible]「[illegible]皆有[illegible]」[illegible]保、近松作)下「刀ノ刃ニ血モ附ケズ、高枕デモ寝サレズ」

たかまげ (名) 〔高髷〕 女ノ髪風。即チ、島田髷ノ根ヲ高ク結ヒタルモノ。

たかまのはら (名) 〔高天原〕 〔たかまハたかあまノ約、原ハ廣キ義、天原ヲ高キニ就キテ云フ語〕(一)天ト云フニ同ジ。アマノハラ。オホゾラ。大殿祭祝詞「高天原ニ[illegible]」 大祓祝詞「高天原ニ耳振リ立テテ、聞クモノト、馬ヒキ立テテ」(二)天ツ神ノ坐シマストコロ。アマツクニ。神代紀、上「高天原所生神名曰天御中主尊」同、上「天照大神者、可以治高天原也」云云、(三)御殿[illegible]大宮[illegible]あまのはら(天原)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。祈年祭祝詞「高天原ニ、千木高知リテ」

たがまはし (名) 〔籠廻〕 小兒ノ遊戯、細ソキ割竹ノ先ヲ、立鼓ノ形ニ曲ゲタルヲ持チテ、樽ノ籠ヲ地上ニ、マロバシ押シ行クコト。昔ノ毬杖ノ遺ナルガ如シ。其角の句、たが廻し、タガタガ廻シ、始メケム」

たかま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔高〕 高クナル。アガル。

たかみ (名) 〔劍頭〕 〔手上カ、握ノ轉カ〕 劍ノ柄。又、タカヒ。古事記、上「[illegible]刀之手上、血、自手俣漏出」[illegible]神代紀、上「[illegible]」[illegible]萬葉集、九[illegible]長歌[illegible]刀ノ、手[illegible]シネリ、白檀弓[illegible]負ヒテ」[illegible]宮埼郡[illegible]日村、昔者[illegible]於此地[illegible]云云、曰[illegible]日村[illegible]也」[illegible]

たかみ (名) 〔高處〕 高キトコロ。高キ部分。「たかみノ見物」

たかみくら (名) 〔高御座〕 〔天照大神ノ御座ヲ受傳ヘマシマス義〕(一)天津日嗣ノ御座。天位。[illegible]

[illegible]元」(二)後ニ、元日、即位等ノ大儀ノ時ニ、大極殿(後ニハ紫宸殿)ノ中央ニ設ケラルル莊嚴ナル天皇ノ御座[illegible]府黒漆[illegible]、廣サ東西二十四尺、南北二十二尺、高サ一尺[illegible]欄アリ、上ニ八角造ノ御帳ヲ安ク[illegible]四二金鳳アリ、其他、大小ノ鏡、玉[illegible]ナド、金具、華鬘ヲ懸ク。内[illegible]六、雜[illegible]上「高御座[illegible]カケテ[illegible]」[illegible]

たかみそぎ (名) 河原ニ棚ヲカキ、[illegible]神供ヲソナフルコト。

たかみや (名) 〔高宮〕 [illegible]

たかみやめの (名) 〔高宮布〕 麻布ノ名。[illegible]

たか・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 〔高〕 高クナス。モタグ。アグ。

たかむしろ (名) 〔竹席〕 竹ヲ削リテ編メル席。[illegible]

たかむな (名) 〔竹萌〕 〔竹芽菜ノ轉ト云フ〕 又、たかんな。たけのこヲ菜トシテ食フ時ノ稱。[illegible]かんな[illegible]、ヨマセ給フトテ、ヨマセ給ヒケル、花山院御製「世ノ中ニ、フルカヒモナキ、たけの子ハ、我ガヘ

ムトシツ[illegible]

たかむなさか (名) 〔高胸坂〕 〔坂ノ如ク高クナレル胸ノ意〕 仰ニ臥シタル胸。[illegible]

たかむら (名) 〔篁〕 〔竹叢ノ義〕 竹ノ叢立テル所。タカハラ。タカバヤシ。[illegible]

たかめ (名) 〔田鼈〕 蟲ノ名。[illegible]

たか・める (動) たかむ(高)ノ口語。

たかもがり (名) 〔竹虎落〕 竹ニテ作リタル[illegible]

たかもり (名) 〔高盛〕 膳部ノ儀式ニ[illegible]ク盛リ上グルコト。ヤマモリ。[illegible]

たかや (名) 〔高屋〕 高ク造レル家。二階屋。[illegible]

たかや (名) 〔鷹屋〕 鷹ヲ飼ヒ置クトコロ[illegible]

たかやうじ（名）［竹楊枝］歯ヲ掃除スル具。薄ク狭ク竹ヲ削リ、其ノ端ヲ側ニ毛ヲ[illegible]ヘタルモノ。タケヤウジ。

たかやうじ（名）［高楊枝］食事シタル後ニ、小楊枝ヲ使フコト、満腹ノ状ニ云フ語。醒睡笑(寛永)「長居ハ毀レ、アリトコソ聞ケ」折リステヨ、貴人ノ前ノ、高楊枝」「武士ハ食ハネド、高楊枝」

〔**たか-やか-に**（副）［高］高キサマニ。高ク。タカラカニ。狭衣、四、下四十「物語、高やかニシタマフニ」源、三十四、若菜、下廿七「イト白ク枯レタル荻ヲ、高やかニカザシテ」同、三十五、柏木五「コノ聖モ、丈高やかニ、マブシ、ツベタマシクテ、荒ラカニオドロオドロシク、陀羅尼讀ムヲ」

タガヤサン（名）〔比律賓語、Tamburian.（緬何鐵木ノ意）ノ訛ニテモアルカ〕熱帯地ノ樹。（或ハ云フ、南亜細亜ニ産ズル藤黄科植物ノ幹材ト）棕櫚ノ属。樹ハ木斛ニ似テ、花ハさべらノ如ク、黄色ニシテ、後、莢果ヲ結ビ、香高シトゾ。材ハ唐木トシテ、舶來スルヲ珍重ス。黒褐色ニシテ、木理、くっりんニ似テ、紋多ク、堅ク重シ。鐵刀木　鐵樹

たがや・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［耕］〔たがへすノ轉〕田畠ノ土ヲ掘リ返シテ、穀菜ヲ植ウルニ備フ。

たか-やぶ（名）［竹藪］竹籔］タカムラ。タカバヤシ。タケヤブ。ヤブ。竹叢

〔**たかゆく-や**（枕）［高行］〔高ハ天ノ意〕早クト云フ語ノ枕詞。古事記、下(仁德)ト「多迦由久也、はやぶさ(はやくノはやニ、はやぶさノはやヲカク)ワケノ、ミオスヒ料」

たから（名）［寶］〔田自出ヅル意ニテ、穀ヲ本ニ云ヘル語カ、又ハ、力ノ轉カ、田從、公民ノ語アリ、或ハ云フ、貴キ意カト〕（一）〔物ヲ甚シク美メテ云フ語。貴キモノ。大切ナルモノ。マレナルモノ。財寶。寶物。仲哀紀、八年九月「有寶國、譬如美女之睩」榮花物語、二、花山「我ガ寶ノ君ハ、イヅコニアカラメセサセタマヘルゾ」同、十七、音樂「イロイロノ寶ノ香ドモ、タカセ給ヘレバ」（二）〔金銀ナド貴重ナルモノ。財貨。天治字鏡、十「寶、財、太加良」名義抄「貨、財、タカラ」皇極紀、三年七月「財寶、タカラ」竹取物語「右大臣阿部ノミウシハ、たからユタカニ、家ヒロキ人ニゾオハシケル」（三）〔人ヲ愛デテ云フ語。子女ノ稱。落窪物語、二「衛門ガ思ヒシカギリノ事ヲセサセ給ヘバ、ゲニオマヘヨリモたからノ君トゾ思ヒ奉リタマフ」萬葉集、十六八長歌「ヲミノ兒ラ、蟻衣ノ、寶之子等ガ、打ツ栲ハ」同、五八「銀モ、金モ玉モ、何セムニ、マサレル多可良、子ニ若カメヤモ」（四）〔兒アルヲ幸福トシテ云フ語。宇津保物語、俊蔭、上三十九「寶ノ王ゾトテ、此子ヲササゲテ養フ」榮花物語、一、月宴「故朱雀院ノ御寶物ハ、只此宮ノミコソ、アンナレ」（五）蒼生。人民。大御寶。

たから-あはせ（名）［寶合］寶物ニヨソヘテ、各狂文ヲ作リ、勝劣ヲ競フ會。奴師勞之(文化、蜀山人)「安永二年、寶合ト云フ戯ヲナシテ、狂文ヲ書シタルコトアリキ」

たから-か-に（副）［高］高ク。タカヤカニ。落窪物語、一「衣高らかニ引キ上ゲテ」狭衣、三、上廿六「イト高らかニ打笑ヒテ」平家物語、五、勸進帳事「クヮンジンチャウヲ、ヒキヒロゲテ、たからかニコソ、ヨウダリケレ」謡曲、安宅「笈ノ中ヨリ往來ノ巻物一巻取リ出シ、勸進帳ト名付ケツツ、高らかニコソ讀ミ上ゲケレ」

たから-がひ（名）［寶貝］〔古代ハ貨幣ノ用トセリ、故ニ名アリト云フ〕貝ノ名。小サキハそらまめノ如ク、大イナルハ小兒ノ拳ノ如シ。兩頭狭クシテ圓ク、背ハ高シ。腹ハ平ニシテ、左右ヨリ卷キテ内ニ向ヒ、中央、縦ニ長キ孔ヲナス。其左右ニ、歯ノ如キ刻ミアリ、故ニ歯貝ノ名モアリ。色ハ、白質紫點、紫質白點、黄質縞絲文等、斑文數百品ニ至ル。質硬ク、紙ヲ磨リテ滑ニスルニ宜シ、故ニ紙磨貝ノ名モアリ。多ク臺灣、琉球ナドノ暖海ニ産ズ。貝子

た-がらし（名）［田芥］（一）草ノ名。多ク水田中ニ生ズ。花、葉、共ニ芹ニ似テ、直上スルコト五六寸、田植ノ頃ニ開花ス。故ニたねつけばなノ名モアリ、後ニ小サキ莢ヲ結ブ。食用トナル。碎米薺　（二）いぬがらし（犬芥）ノ一名。

た-がらし（名）［田枯］〔田ノ稲ヲ枯セバ云フ〕草ノ名。ウシノヒタヒ。シシノヒタヒグサ。フカツミ。秋冬ヨリ水田ナドニ生ズ。葉ハ、きんぽうげニ似テ、毛ナクシテ光リ、黄緑ニシテ厚ク、叢生ス。春、莖ヲ出ス、高サ一二尺、中空シ、葉、互生ス。葉ノ間ニ、枝ヲ生ジ、枝ノ末毎ニ、五瓣ノ黄花ヲ開ク、亦、きんぽうげニ似テ小サシ。實ノ形、楊梅ノ如クニシテ小サク長ク、熟スレバ深緑ナリ。一名、田芹。有毒植物ナリ。石龍芮

たから-づくし（名）［寶盡］繪ニ、種種ノ寶物ノ象ヲ集メテ畫クモノ。卽チ如意寶珠、寶鑰(吉祥天ノ)、打出ノ小槌、金囊(大黒天ノ)、隱囊、隱笠、丁子(異邦ノ黄金ノ形ナリトゾ)、花輪違(圓形ニ方孔アリ、錢ナリトゾ)等ナリ。又、鍵玉、嚢、笠、丁子( )、七寶(㊆)、袋、槌子等ナリ。

〔**たから-の-くに**（名）［寶國］韓國ノ異稱。仲哀紀、八年九月「有寶國[illegible]、云云、金銀[illegible]在[illegible]其國[illegible]」[illegible]

たから-の-やま（名）［寶山］佛經ニ云フ所、寶ノ多クアル山ノ稱ト云フ。智度論、一「經中說、信如手、如人有手入寶山中、自在取寶、云云、無信亦如是、入佛法寶山、都無所得」五雜組(明、謝肇淛)「在燕朝、云云、眞入寶山而空手却回」虛齋四書蒙引(明、蔡清)「所謂入寶山空手回者也」智覺全集「亦是寶山空回」三代實錄、六、貞觀四年十月七日、伴善男奏聞「悲寶山之徒歸、痛刀林之永割」今昔物語、廿、第十四「此レ寶の山ニ入テ、手ヲ空クシテ出デ」魚山䜌芥集、讃嘆、聖主世尊の誠め「寶の山ニ昇ル人、手ヲ空シク歸ランヤ」

たから-ひき（名）［寶引］昔、大名屋敷ニテ行ヒシ福引。正月三日ノ夜、大書院ニ近臣共ヲ集メ、襖障子ノ内ヨリ、五色ノ長緒數百筋ヲ投出スヲ、手毎ニ一筋ヅツ引ケバ、緒ノ末ニ織物、刀、印籠、巾着ナドノ種種ナルモノノ付キタルヲ與ヘラル。ハウビキ。

たから-ぶね（名）［寶船］往時ハ内裏ヨリ、宮方、及、堂上家ニ賜ハレル米俵、寶貨ヲ載セタル帆掛船ニ、帆ニ徽章ノ如ク、摸ノ字ヲ書キタル船。又、寶貨ト七福神トヲ載セタル船ノ繪。迴文ノ俗歌ヲ記ス。(迴文ノ條ヲ見ヨ)俗間ニ、正月二日ノ夜、コレヲ枕ノ下ニ敷キテ、吉夢ヲトス。(商家ハ、大晦日ニハ終夜、寐ネズ、元日ヲ空シク過シ、二日ヲ元旦トスル故ニ、初夢トシタルカト云フ)昔ハ、節分ニ、舟ヲ畫キテ、窮鬼ヲ棄テタルナリ。中世ニハ、米俵ノミ積ミタル船ヲ畫キテ、除夜ニ枕ニ敷ケリ。若シ惡夢ヲ見レバ、繪ヲ水ニ流ストゾ。還暦阿彌覺書(大

永、天文二[illegible]節分御舟、禰所ハ一兩年上京小川藤屋ニ被[illegible]」 [illegible]集、節分ノ夜、云云、舟ヲヱガキテ敷キナドスル」 若竹、十五二「たから舟」 佐夜中山集(寛文)「節分ト、人ニハ告ゲヨ、たから舟」 [illegible]日ノ夜ノ[illegible]ニ、大晦日ノ夜、[illegible]、アス(二日節分)ハ福藏、式作法」 好色一代男(天和、西鶴)「夢違ヒノ獏ノ札、寶舟賣」 續江戸砂子(享保、正月二日「たから舟賣」

たからぶね-うり (名) 【寶船賣】 寶船ノ繪ヲ賣リ歩クモノ。(前條ノ出典ヲ見ヨ)

タカラマン (名) 比叡山ニテ灌木、胡鬼子(ツクバネ)ノ異名。(コノ木ノ芽ヲ鹽漬ニシテ食フ) 山法師ノ歌「ウンタラヤ、無動寺山ノ、たからまん、韲(ア)ヘテハ魚ニ、マサリコソスレ」

たから-もの (名) 【寶物】 (一)〔寶トスル物。〕 ハウモツ。寶貨 神代紀、下二十「巡ニ滿瓊潮涸瓊二種寶物(タカラモノ)」 (二)生兒ノ稱。たから(寶)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

たか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【集】 〔立チカカル意カト云フ〕 アツマリツク。ヨリアツマル。 蝟集 吉野都女楠(正德、近松作)五「熟柿ニたかる目白ドモ、捻リ殺シテ見セウ」「蠅ガたかる」人ガたかる」

〔**たか・る**・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二)〕 【集】 前條ノ語意ニ同ジ。 神代紀、上十「膿沸虫流(ウナワキウジタカレトロロギテ)」 古事記、上十「[illegible]多加禮[illegible]ギテ」

たが・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【欲】 動詞、形容詞ノ下ニ添ヒテ、欲シ望ム意ヲ云フ語。助動詞ノ如シ。度(タ)シト思フ。 宇治拾遺、五、第八條「故殿ニ、年頃候ヒシ某ト申ス者コソマキリテ候ヘ、御見參ニ入リたがり候トイヘベ」「行キたがる」聞キたがる」眠(ネム)たがる」

〔**だか・る**・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)〕 【抱】 〔抱(イ)かるる(被抱)ノ約マリテ、四段活用ニ變ジ、自動トナレルモノ。はぶかる、さるるノ例〕 イダカルル。ダキツカル。 土佐日記、二月十六日「舟人モ皆子だかりテノノシル」

たか-わらひ (名) 【高笑】 聲高ク大ニ笑フコト。タカヱミ。タカヱ。 哄笑 國性爺合戰(正德、近松作)二「僧ハ大[illegible]ヒ、アア嬉シヤ本望ヤ」

たか-ゑ (名) 【高笑】 前條ノ語ニ同ジ。 宇[illegible]噺、[illegible]木[illegible]、太[illegible]」

たか-ゑみ (名) 【高笑】 前條ノ語ニ同ジ。前前條ヲ見ヨ。

〔**たかを-ぶね** (名) 【高尾舟】 兵船ノ小ナルモノ。ハヤブネ、略シテ、たかせ。 倭名抄、十五三舟類「舸、高尾舟、一云、戰士可乘之輕舟也」

〔**たき** (名) 【瀧】 〔たぎる意、濁ルベキヲ清ム〕 (一)河瀬ノ水ノ疾ク奔リ流ルルモノ。急流ノ響アルモノ。疾キ瀬。 奔湍 倭名抄、一[illegible]水土類「南人名湍日瀨、[illegible]」 萬葉集、二[illegible]「東ノ多藝ノ御門ニ、[illegible]石走ル[illegible]ノアル方ノ御門」 (二)轉ジテ、垂水。即チ懸崖ヨリ流レ落ツル水。又、水ノ高キヨリ直ニ落ツルモノ。 懸泉 飛泉 瀑布 伊勢物語、七十八段「たき落シ、水走ラセナトシテ」

たき (名) 【丈】 たけ(丈)ニ同ジ。 景行紀、二年三月「身長一丈」 名義抄「長」

〔**たぎ** (名) 【急瀬】 〔激(タギ)ち流るる義〕 山川ノ沸キテ流ルル所。 催馬樂、[illegible]川、[illegible]八十島ノたぎヲ、皆人ノ、メグルモ早クヤ、時ニ逢ヘル、時ニ逢ヘルカモヤ」

たぎ (名) 【多岐】 (一)道ノ岐(ワカ)レノ多キコト。 列子、說符篇「大道以多岐亡羊」 (二)事ノ多方面ニテ、煩ハシキコト。

〔**たぎ** (名) 【彈碁】 たんき(彈碁)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

ナド、田舍ワザニシナシテ」 同、四十五、榎木、[illegible]、雙六、たぎノ盤ドモナド取出デ、心心ニスサビクラ[illegible]

だき (名) 【唾壺】 [illegible] 云、局方二尺、中高」

だき (名) 【惰氣】 オコタルココロ。ナマケル心。イヤキ。

〔**たき-あかし** (名) 【炬火】 〔焼明ノ義〕 たてあかし(立明)ニ同ジ。 紫式部日記「たきあかしノ光ノ、心モトナケレバ、云云、[illegible]テ、人人ハ見ル」

たき-あげ (名) 【焚上】 神社ニテ、庭燎(ニハビ)ヲ焚クコト。(白膠木(ヌルデ)ナド用ヰル、ハシリハタメキテ、ヨク燃ユト)

だ-きう (名) 【打毬】 (一)〔又、まりうち。〕 木造ノ杖ニテ、振振(ブリブリ)ノ如キモノヲ打チテ遊ブ類ノ行事。 [illegible] 府騎ニ[illegible]及打毬之態」 (二)又、數人、騎馬ニテ毬ヲ投ゲ爭フ技。馬場ノ一端ニ、的トスル孔ヲ設ケ、紅白ニ分テル若干ノ毬ヲ場ニ投ゲ出シ、馬ニ騎リ、[illegible]柄ノ叉手ヲ用ヰテ、左ニ、[illegible]ノ抄フ[illegible]、早ク抄ヒテ、孔ニ投ゲ入レ了リタル方ヲ勝トス、[illegible]ト云フ。又、まりだまトモ云フ。ギッチャウアソビ。入レ了リテ、奉行吏ニ一毬ヲ出シ、あげまりト云フ、コレヲ入ルルハ、敵將ノ首ヲ[illegible]ニ比ストゾ。

だきう-らく (名) 【打毬樂】 舞樂ノ曲ノ名。[illegible] 樂家錄、廿八、中腹曲、大食調、[illegible] トキ奏ス。

たき-おとし (名) 【焚落】 [illegible] ノアタル火ト共ニ、焚きおとしノ灰トナリシハ」

だき-おもだか (名) 【抱澤瀉】 紋所ノ名。二首ノ澤瀉ノ葉ノ[illegible]、向ヒ合ヒテ[illegible]キタルモノ。

だき-かご (名) 【抱籠】 竹籠ノ[illegible] 人 [illegible]

だき-がしは (名) 【抱柏】 紋所ノ名。[illegible] 葉二片、左右抱キ合ヒたるガ如ク象リ[illegible]

たき-がは (名) 【瀧川】 たきつせ、瀧津瀬ニ同ジ。 [illegible] ルル、瀧川ノ、ワレテモ末ニ、逢ハムトゾ思フ」

たき-がら (名) 【焚殼】 焚キ了ヘテ、灰トナレルモノ。香ナドノ[illegible]。 [illegible]

たき-ぎ (名) 【薪】 〔焚木ノ義、[illegible]〕 燃料ナドニ焚クベキ木。[illegible] タキギ。カマキ。ワリキ。 [illegible]

〔**たきぎ-きる** (他、[illegible]) 【樵薪】 [illegible]

「多伎木樵ル、香具山ノ、コタル木ヲ、松（待ツニカク）トナガイハバ、思ヒツツヤアラム」

〜たきぎ-こ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［薪樵］（一）薪ヲ伐採ス。 榮花物語、八、初花「六位衞府ナド薪こり、水ナドモタルヲカシ」 月清集「岩ガネノ、コリシク苔ノ、フミナラシ、たきぎこる男ノ、イカニ苦シキ」 （二）〔法華經、提婆品「時有二仙人一、來白レ王言、我有二大乘一、名二妙法蓮華經一、若不レ違レ我、當二爲宣說一、王聞二仙言一、歡喜踊躍、卽隨二仙人一、供二給所須一、採レ果、汲レ水、拾レ薪、設レ食、乃至以レ身而作二牀座一、身心無レ倦、于レ時奉事經二於千歲一、爲二於法一故、精勤給侍、令レ無レ所レ乏」ノ故事ヨリ出ヅ〕 佛敎ノ語、名詞形トナリテ、講式ノ名。法華八講ノ第三日、卽チ第五卷ノ日ニ、行基菩薩ノ作ト稱スル歌「法華經ヲ、我ガ得シコトハ、薪こり、菜ツミ水汲ミ、仕ヘテゾ得シ」ヲ歌ヒナガラ、下郎ヲシテ薪ヲ負ヒ、水桶ヲ擔ハシメテ、衆僧ノ末ニ列ネテ行道スルコト。故ニ、コレヲ、薪の行道トモ云フ。 源、三十九、御法「薪こる讃歎ノ聲モ、ソコラ集ヒタル響キ、オドロオドロシキヲ、ウチヤスミテ、シヅマリタルホドダニ」

〜たきぎ-つ・く・クル・クレ・キ・キ・キヨ（自動、上二）［薪盡］〔法華經、序品ニ「佛此夜滅度、如二薪盡火滅一」トアルヨリ起ル〕 釋迦ノ入滅ヲ云フ語。 源、三十四、上、若菜、上「ナホたきぎつきケル世ノ、マドヒハフカカリケルヲ」 後拾遺集、廿、釋敎「ケフヨリモ、ケフノカスミゾ、アハレナル、たきぎつきニシ、ケブリト思ヘバ」 千載集、十九、釋敎「たきぎつき、ケブリモスミテ、去リニケン、コレヤナゴリト、見ルゾカナシキ」 [illegible]「[illegible]ハナル、鶴ノ林ヲ、ハカナクモ、たきぎつきヌト、オモヒケルカナ」

〜たきぎ-の-ぎやうだう（名）［薪行道］ 法華經八卷ヲ、朝夕ニ一卷ヅツ讀誦シテ、三日目ニ至レバ、朝ノ讀誦ハ第五卷ニ相當ス。故ニ此日ヲ五卷の日ト稱ス。元來、此卷ハ提婆品ヲ以テ始マル。サレバ提婆、及、八歲ノ龍女ノ成佛ヲ記シ、且ツ釋尊ガ、因位ノ際、苦行シタマヒタル事ヲ說ケリ。卽チ阿私仙人ニ給仕シテ、薪水ノ勞ヲ取リ、以テ法華經ヲ聽聞シタマヒタルコトヲ詳述セリ。其故事ニ倣ヒ、五卷の日ニハ、薪の行道トテ、水桶薪ナドヲ負ヒテ續佛ノ式ヲナス。前前條ヲモ見ヨ。（佛敎辭林） 榮花物語、八、初花「例ノ三十講行ハセ給フ、五月五日ニゾ五卷の日ニアタリケレバ、云云、キタナゲナキ六位衞府ナド、薪コリ、水ナドモタルヲカシ、殿バラ僧ゾク歩ミツヅキタルハ、サマザマヲカシウメデタウ尊クナン見エケル」 五代帝王物語「五卷の日、薪の行道アリ、其儀、心モ詞モ及バズ」 延德御八講記「第三日、ケフハコトニ正忌ノ正日、法會ノ中日ナレバ、云云、誠五卷日ハ採薪及菓蓏、隨時恭敬與ノタメシナレバ、たきぎの行道ナド有テ、舞樂ヲモ奏セラル」

たきぎ-の-のう（名）［薪能］ 奈良ノ興福寺ノ南大門前ノ芝生ニテ、陰曆二月ニ、七日間行フ法會（夜陰ニ入ル）ノ後、寺僧、薪ヲ焚キ俳優ヲナス。次ギテ猿樂ノ能アリ（金春、金剛、觀世、寶生ノ四座）。昔、猿澤ノ池邊ニ、土穴出來テ、黑煙起リ、觸ルル者、疫ニ染ム。穴ニ薪ヲ積ミ焚キテ鎭マリシヨリ始マルト云フ。 至德二年記「二月四日、今日新猿樂社頭（春日）ヘ參候、云云、二月五日、南大門ニテ猿樂ヲ令レ奏、云云」 風俗文選、[illegible]「西金堂ノ樂ヲ改メ、南大門ニ移シテ、薪の能ヲ始ム、七度半ノ使ニ四座ノ猿樂ヲ責ス、南天ニハ紙ヲ頼ンデ試ミ、夜陰ニハ、薪ヲ積ンデ焚ク」

〜たきぐち（名）［瀧口］〔清涼殿ノ艮、御溝水ノ落合、卽チ瀧口ニ候ス〕 禁中、瀧口ニ候スル侍。院ノ北面、東宮ノ帶刀ノ如シ。平安朝ノ末、多クハ源平兩家、重代ノ武士ノナルモノ。六位ノ侍ナリ。 西宮記、十四、臨時、二、瀧口 注「本所在二御所近邊一、寬平御時、被レ置、衆十人若二十人一」 江家次第、一、四方拜「寅一刻出御」注「六位候二仙華門瀧口戶下一、備二非常一」 源、四、夕顏「此カウ申スモノハ、瀧口ナリケレバ、ユヅル、イト、ツギツギシク、ウチナラシテ」 注「藏人ノ被官也、云云、御湯殿ノ瀧ノ下ニ勤番スル故ニ、此ノ名アリトゾ」

だき-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［抱込］（一）抱キテ逃サズ。カカヘ入ル。 擁 （二）味方ニ引キ入ル。連坐セシム。 關取千兩幟（明和、近松半二）二「鐵ガ錢ヲ抱き込むデ、アッチノ身受ケヲ延バシテ貰ハウ」

たき-さし（名）［焚殘］ 焚キ殘シタルモノ。モエサシ。 燼 謠曲、敦盛「是レハ須磨ノ鹽木ノ海士ノ燒きさしト思シ召セ」

〜たぎし（名）［舵］〔たぎしト云フ形容詞ノ、終止形ノ名詞トナレルナリ、（明し、燈火。淸し、生絹）手ヲ上下左右スル意ノたぐト云フ動詞ノたぎヲ、形容詞ニ活用セサセタル語。（忌、いみじ）常陸國風土記、行方郡當麻鄕「車所レ經之道狹地深淺」註「俗曰二多支多支斯一」トアリ、たぎ間ニテ、道路ノ曲折凹凸ナル意ナリ。履中卽位前紀ニ「迴レ自二當摩徑一踰之」トアル地名モ、屈折路ノ義ナリ。古事記ニ、足、當藝斯ノ形ヲ成シ、「三重ノ曲ヲ成ストアル、卽チ屈折ノ意ナリ」 舵ノ古名。音便ニ、たいし。上古ノ製、詳カナラザレド、屈折セル物ナリシガ如シ。（古事記、上五十六「出雲國之多藝志之小濱」コレニ緣アル語ナルカ） 倭名抄、十一、舟具「舵、正舵木也、船尾也、多伊之」 古事記、中（景行）六十「吾足不レ得レ步、成二當藝斯形一」云、吾足如二三重勾一而甚疲」

たき-しま（名）［瀧縞］ 織物ノ縞ノ名。次第ニ太キヨリ細ソキニ至レル筋ノ竝行シタルモノ。 本朝世事談綺（享保）三「たきしまノ着物ニ、梅ガヘシノ袖羽織」

〜たき-し・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［薰染］ 香ヲ焚キテ、衣ニ染ミサス。略シテ、しむ。 源、十九、薄雲「エナラヌ御ゾ、ヒキカサネテ、たきしめサウゾキタマヒテ」 同、四十八、寄生「ヨノツネノ香ノカニイレ、たきしめタルニ[illegible]倶ス、[illegible]ホヒナルヲ」

だき-し・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［抱締］ 強ク抱ク。抱持

だき-し・める（動）［抱締］ 前條ノ語ノ口語。 俳諧新選、秋「抱き占める、子ニ稻妻ノ、響カナ」

だき-すく・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［抱竦］ イダキテ竦ムヤウニス。 浦島年代記（元祿、近松作）二「ウント伸ブルヲ抱きすくめ」

たき-すさ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［焚荒］ 焚火ノ盛ンニ燃ユ。焚エサカル。 新千載集、十一、戀、一「たきすさむ、我ガ下燃ノ、煙コソ、人目ニ絕エヌ、思ヒナリケリ」

〜たぎち（名）［湍］ タギツコト。ワキアガルコト。サカマキ。 萬葉集、三十七長歌「富士川ト、人ノ渡ルモ、其山ノ、水ノ當ゾ、日ノモトノ」

〜たぎ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）［滾］（一）沸キ上ル。逆卷ク。タギル。（川瀨ノ水ノ） 萬葉集、七、三「泊瀨川、シラユフ花ニ、落チたぎつ、瀨ヲサヤケクト、見ニ來シ吾ヲ」 同、十二長歌「天ノ川、白浪凌ギ、落ちたぎつ、速瀨渉リテ」 同、三十七「小浪、磯越道ナル、能登瀨川、音ノサヤケサ、多藝津瀨每ニ」 同、三十七長歌「富士川ト、人ノ渡ルモ、其山（富士）ノ、水ノ當鳥」 同、六十九「石走り、多藝知流ルル、泊瀨川、

絶ユル事ナク、亦モ來テミム」同、九ニ「落ナ多藝知、流ルル水ノ、磐ニ觸リ、淀メル淀ニ、月ノ影見ユ」(二)心烈シク苛ツ。躁急 萬葉集、七ニ「歎キセバ、人知リヌベミ、山川ノ、瀧つ情ヲ、塞敢ヘタルカモ」古今集、十一、戀、一「アシビキノ、山下水ノ、コガクレテ、たぎつ心ヲ、塞キゾカネツル」

たき・つ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［焚付］（一）火ヲ燃ス。「火ヲたきつく」（二）俗ニ、ソゾノカス。オダツル。又、アフル。煽動 教唆 夕霧阿波鳴渡（正德、近松作）中「コ無ヤクシイアタブノ惡イ、コリャ御無用ニ遊バセト、焚き附けラルル」

だき・つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［抱着］イダキツク。トリツク。狂言記、花子「ヒッタリト抱きついタレバ」

たきつけ（名）［焚付］火ヲ焚キツクルニ用ヰル枯柴ナドノ、燃エ易キ物。タキギ。京ニテハ、柴。梢柴 用明天皇職人鑑（寶永、近松作）玉世姫道行「硫黃ガ島ニ立ツ烟、同ジ思ヲたきつけニ、ナレモコガルル姫島ヤ」

⁘**たきつ・ける**（動）［焚付］〔たきつく（焚付）ノ口語〕（一）燃シツケル。（二）アフル。煽。火上添加

たきつせ（名）［瀧津瀬］〔滾之瀨ノ義〕瀧ト云フニ同ジ。又、瀧ノ川ノ中ニ滾リテ落ツル所ヲ云フト。タキガハ。古今集、六、冬「降ル雪ハ、カツゾケヌラシ、足引ノ、山ノたきつせ、音マサルナリ」同、十三、戀、三「逢フコトハ、玉ノ緒バカリ、名ノ立ツハ、吉野ノ川ノ、瀧津瀨ノゴト」拾遺愚草員外（定家）七「ミヅモナキ、小阪ヲオツル、夕立ノ、たきつせウクル、モトノ谷川」

たきつと（名）［瀧津戸］川ノ水ナドノ、瀧リ流ルル口ノ所。散木集、九、雜、上「カツシカノ、ママノ浦回ノ、たきつとニ、アケノソホブネ、カラロオスナリ」

たきつぼ（名）［瀧壺］タキ水ノ、流レ落ツ

ル處。瀧ノ下ノ淵。瀑潭 平家物語、五、文覺荒行事「文覺、瀧壺ニ下リヒタリ、頸際ツカリテ、慈救ノ呪ヲ滿テケルガ」

だきて（名）［抱手］イダク人。太平記、廿四「[illegible]」[illegible]スハヤ、此所ニコソ善人ハアリケレトテ、抱手三人走リ寄リテ、中ニ舉ゲ打チ倒シ、高手小手ニイマシメテ」

たきどの（名）［瀧殿］瀧ノホトリニアル殿。寢殿造ノ庭ノ瀧ノアル邊ノ亭。源、十八、松風「[illegible]ダウハ、大カク寺ノ南ニアタリテ、瀧どのノ心バヘナド、オトラズ面白キ寺ナリ」後拾遺集、十八、雜、[illegible]瀧殿ヲ見テ、ヨミ侍リケル」今昔物語、廿四、第五語「百濟川成、云云、瀧殿ノ石モ此川成ガ立タルナリケリ」

たきなみ（名）［瀧波］瀧ノ落下スル水。又、轉ジテ地名ニナレリ。鶴岡千首、岩ニカケ、河セニ音ヤ、アマルラン、雨サヘソヒテ、フルノ瀧なみ」荒木田[illegible]「瀧波ノ、山[illegible]ニキク、[illegible]ノ音ニ、ネザメサビシキ、岡本ノ里」（伊勢外宮岡本ノ巽ノ方ニアル地）

ダキニ（名）［荼吉尼］次條ヲ見ヨ。

ダキニ-てん（名）［荼吉尼天］〔梵語、Dakini. 陀祇尼天、陀吉尼天、吒枳尼天トモ書ス、飲血鬼ノ意。〕經文ニ白辰狐王菩薩トシテアルニ因リテ狐トシ稻荷トス。或ハ云フ、大黑神ニ屬セル女鬼ノ總稱ト」天竺ノ鬼神。（夜叉、赤黑色ノ餓鬼ノ形ス）俗ニ野干トシ、稻荷ニ祭リ、福ヲ求メ幸ヲ祈ルト。略シテ、だきに。荼吉尼ハ通力自在ノ夜叉神ナレバ、此法ヲ修スレバ、其人、亦、通力ヲ得ト云フ。[illegible]

たきのいと（名）［瀧絲］[illegible]

ト云フモノ也、[illegible]自在ニシテ、速疾身ヲ自由ニセリ、我ガ朝ノ飯綱ノ神ト云フト同類ナルベシ」平家物語、一、[illegible]

たきのいと（名）［瀧絲］[illegible]

たきのぼり（名）［瀧登］[illegible]ト。猶、とうりゅうもん（登龍門）ノ條ヲ見ヨ。狂言記、鬮罪人「山ヲ拵ヘマシテ、夫レヘ瀧ヲ落シマシテ、鯉ノ瀧登リヲ致ス所ヲ致シマセウ」

たきのみづ（名）［瀧水］（一）タギリ落ツル水。（二）酒ノ異名[illegible]モト江戸和泉町四方ガ店ノ銘酒。文化の川柳[illegible]

だきばしら（名）［抱柱］竹矢來ナドニテ、主ナル柱ノ反對ノ側ニ建ツル柱。

たきび（名）［焚火］（一）[illegible]（二）爐、又ハ地上ニ燒ク薪ノ火。當リテ暖ムルナドニ云フ。謠曲、安達原「山ニ上ガリ木ヲ取リテ、焚き火ヲシテアテ申サウズルニテ候」

たきぶさ（名）［[illegible]］〔髮ヲ上グルヲたくト云ヒ、ふさハ總スル意〕[illegible]

たきぼし（名）［炊干］〔炊キテ[illegible]〕[illegible]

たきま（名）［當摩］〔たぎし（舵）ノ轉〕[illegible]

たきまくら（名）[illegible]

だきみやうが（名）［抱茗荷］[illegible]

たきもと（名）[illegible]

たきもの（名）［薰物］[illegible]

實木抄、二十二、[illegible]ノ、コノドケムリ、フスブトモ、ワレヒトリヲバ、シラスベシヤハ」

たきもの （名） [illegible] タメテ飲マントシケルニ、燒物ナカリケレバ」

たきものあはせ （名） 〔薫物合〕 又、香合（カウアハセ）。種種ノ香料ヲ賜ヒテ、人人ノ思ヒ思ヒニ合ハセサセ、判者ソレヲ燒キテ、其合ハセタル香ノ深淺過不及ヲ定メ、配剤ニテ勝負ヲ定ムルコト。源、三十二、梅枝「香（カウ）ドモハ昔今ノ取リナラベサセタマヒテ、御方方ニクバリ奉ラセタマフ、二種（フタクサ）ヅツ合ハセサセタマヘト聞エサセタマヘリ、云云、人人ノ心心ニ、合ハセタマヘル、深サ淺サヲ嗅ギアハセタマヘルニ、イト興アルコト多カリ」紫式部日記「御たきものあはせハテテ、人人ニモクバラセ給フ」

たきもののこ （名） 〔薫籠〕 今ノふせご。倭名抄、十四、二十四「薫籠、多岐毛乃乃古」

だきもり （名） 〔抱守〕〔懐子〕 兒ヲ抱キ守ル人。カシヅキ。モリ。傅。

たきやう （名） 〔他鄕〕 我ガ故鄕（フルサト）ナラヌ地。異鄕。王勃詩、九月九日[illegible]「他席他鄕送客杯」太平記、四、備後三郎高德事「百官無罪、愁ヒノ涙ヲ[illegible]所月二人鳥、位、衰襟ヲ他鄕ノ風ニ給フラム」

たぎやう （名） 〔他行〕 家ヲ出デテ、外ヘ行クコト。ヨソユキ。他出。魏書、列女、魏溥妻傳「以善[illegible]、[illegible]云、他行二」[illegible]十九、[illegible]内裏女房ノ事「都ノ落チ下ダリシ時、友[illegible]ガ他行シテ侍リシ」

たぎやう （名） 〔多行〕 五十音圖ノ第四ノ行ノ名。卽チ、た、ち、つ、て、と。

だぎよ （名） 〔打魚〕 〔打ハ、宋代ノ俗語、作ニ同ジ〕 スナドリスルコト。網ヲウツコト。汪元量詩「半擬[illegible]看打魚」

たぎらかす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四） 〔滾〕 滾（タギ）ルヤウニナス。煮エ立タス。[illegible]下、[illegible]長谷寺ノ[illegible]面ニ、[illegible]テ、[illegible]たぎらかし」

たきる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四） 〔健切〕 〔たけきるノ略〕 健切（タケキ）ル。タケクキル。

たぎる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四） 〔滾〕 〔瀧（タギ）ノ活用〕 （一）たぎつ（滾）ニ同ジ。逆卷ク。萬葉集、九、十「河ノ瀬ノ、激（タギ）ルヲ見レバ、玉モカモ、散リ亂レタル、此ノ河門（カハト）カモ」（二）湯、沸キカヘル。煮エ立ツ。ニエアガル。沸騰。大和物語、下「此ノ水、熱湯（アツユ）ニたぎりヌレバ」（三）殊ニ勝（スグ）ル。卓越。「藝たぎる」（四）心イラダツ。セキコム。六帖、三「打經エテ、落ツル涙ニ、ナルタキノ、たぎりテ人ヲ、見ヌガワビシサ」

たく （名） 〔栲〕 〔字ハ、栲（タヘ）ノ條ヲ見ヨ。朝鮮語、楮、たく〕 木綿（ユフ）ニテ作レル繩、綱ナドヲ云フ語。穀（カヂ）ニ同ジ。其樹ノ皮ニテ作ルモノ。（多ク熟語ニ用ヰル） 萬葉集、五、三「水沫（ミナワ）ナス、モロキ命モ、栲繩ノ、千尋ニモガト、ネガヒクラシツ」古事記、上、九十「地下者、於二底津石根一[illegible]之千尋繩打延」萬葉集、十五、十「多久夫須麻（タクブスマ）、新[illegible]ヘイマス、君ガメヲ、今日カ明日カト、イハヒテ待タム」仲哀紀、八年九月「栲衾（タクブスマ）、新羅國」古事記、上、二「多久[illegible]（綱）ノ、白キ腕（タダムキ）」萬葉集、三、五十長歌「栲角（タクヅヌ）（綱）ノ、新羅國」同、十三、三長歌「白栲（シロタヘ）ノ、袖振ル見エツ」同、三、五十九長歌「白細（シロタヘ）（綱布ノ略）ノ、袖サシカヘテ」同、六、七十七長歌「荒栲（アラタヘ）ノ、藤井ノ浦ニ、鮪（シビ）釣ルト、海人船トヨミ」

たく （名） 〔託〕 タノミ。タヨリ。委任。依託。依賴。「託ヲ受ク」

たく （名） 〔宅〕 （一）家（イヘ）。スミカ。スマヒ。書經、召誥「惟太保、先、周公ニ相レ宅」（二）[illegible]レガ家。自宅。運歩色葉集「宅、私宅」（三）轉ジテ、他人ニ對シテ、妻ガ其夫ヲ云フ稱。

たく （名） 〔澤〕 （一）サハ。周禮、地官篇「有ニ山虞澤虞一、以掌ニ山澤一」（二）ウルホヒ。シメリ。メグミ。書經、[illegible]（三）ツヤ。ヒカリ。「光澤」

たく （名） 〔鐸〕 （一）ぬて（鐸）ノ條ヲ見ヨ。鈴ノ大イナルモノ。淮南子、時則訓「振レ鐸以令二於兆民一」（二）風鈴（フウリン）ニ同ジ。開元遺事、五代王仁裕「宮中簷間、懸二碎玉片一、云云、名二占風鐸一」

たく （名） 〔卓〕 シヨク。ツクエ。テエブル。

たく （名） 〔柝〕 ひやうしぎ（拍子木）ニ同ジ。

たく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四） 〔焚〕 〔梵語ニ、陀呵、此云レ燒、トアルモ似タリ〕 （一）火ヲモヤス。燃（モ）シツクル。（火ヲ） 新後撰集、十一、戀、一「ホノカナル、難波ノ蘆火、イカナレバ、たきソムルヨリ、身ヲコガスラン」（二）火ニ燒ク。クベテ燒ク。（薪ヲ） 後拾遺集、六、冬「都ニモ、初雪フレバ、小野山ノ、マキノ炭カマ、たきマサルラン」（三）炊（カシ）グ。煮ル。（通例ハ、白米一升ニ、水一升二合ヲ入レ、數分間煮立タシメ、火ヲ去リテ數十分、ソノママニ蒸ス） 爨 「飯ヲたく」（四）〔燒キテ薫（クユ）ラス〕 炷 源、四十八、寄生、五十九「イミジキ香ノカコソスレ、尼君ノたき給フニヤアラム」「香ヲたく」

たく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二） 〔長〕 〔高（タカ）ノ活用、深（フカ）ノふくるノ類〕 （一）高クナル。長（チヤウ）ズ。十分ニ延ブ。字鏡、十「卓、日高也、日太介奴」山家集、上「たけノボル、朝日ノ影ノ、サスママニ、都ノ雪ハ、消エミ消エズミ」夫木抄、四「春たけテ、紀ノ川白ク、ナガルメリ、ヨシノノ奥ニ、花ヤチルラム」永久四年百首、賀「我ガ君ノ、齡たけタル、ウレシサハ、大宮人ノ、身ニアマルラム」「日長く」「春長く」「智長く」「德たく」（二）〔事ノ至リ極マル〕 盛リ過グ。闌ニナル。闌 字類抄「闌、タク、タケヌ」萬葉集、十、五十「朝霜ニ、咲キスサビタル、鴨頭草（ツキクサ）ノ、日斜（タク）るナベニ、消ヌベクオモホユ」常陸風土記、新治郡「言痛（コチタ）けバ、ヲバツセ山ノ、イハキニモ、キテ籠ラナム、ナ戀ヒソワギモ」古今集、[illegible]「夜フケテ、半たけユク、[illegible]ノ、月フキカヘセ、秋ノ山風」[illegible]

たく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四） 〔綰〕 〔手ノ活用〕 （一）手ヲ上下左右前後ニ、一定ノ動作ニ[illegible]動カス。取リ上グ。束ネ掻キ上グ。萬葉集、十一、廿一「振別ノ、髪ヲ短ミ、青草ヲ、髪ニ多久（タク）ラム、妹ヲシゾ思フ」同、九、十長歌「小放（ヲバナリ）ニ、髪多久（タク）マデニ、並ビ居ル」同、二十、六十「多氣（タケ）バヌレ、多香（タカ）ネバ長キ、妹ガ髪、比（コノ）コロ見ヌニ、ミダリツラムカ」（髪ヲ[illegible]ルトテ手ヲ動カス） 同、二、廿「人皆ハ、今ハ長シト、多氣（タケ）トイヘド、君ガ見シ髪、亂レタリトモ」古事記、上、四十「胸見（ムナミ）ル時、袖多多岐（ハタタキ）モ、此モ適（フサ）ハズ」（二）手綱ヲ掻イ繰リテ行（ヤ）ル。六帖、三「伊勢ノ海ノ、海人ノたく繩、繰リシアヘバ、人ニ[illegible]ラム、我ハ思ハナクニ」萬葉集、十九、十長歌「石瀬野ニ、馬太（タキ）行キテ、ヲチコチニ」（手綱シテ、馬頭ヲ引上グ） 古今集、十八、雜、下「思ヒキヤ、鄙ノ別ニ、オトロヘテ、海人ノ繩たき、漁（イサリ）セムトハ」（手繰ルトテ手ヲ動カス） （三）骨折リテ漕ギテ行（ヤ）ル。土佐日記、二月五日「住吉ノワタリヲ漕ギ行ク、云云、ユクリナク風吹キテ、たけドモたけドモ、シリヘシゾキニシゾキテ」（漕グトテ手ヲ動カス） （四）掘ル。萬葉集、十六、十「手寸（タキ）備ヘ、植エシモシルク、出デ見レバ、宿ノワサ萩、咲キニケルカモ」（掘ルトテ手ヲ動カス）

たぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二） 〔擧〕 〔手揚（タア）グノ約カ〕 （一）揚グ。モタグ。萬葉集、二、四十「妻モアラバ、採リテ多宜（タゲ）マシ、佐美ノ山、野上（ヌノヘ）ノ菟芽子（ウハギ）、過ギニケラズヤ」皇極紀、二年十月「巖上（イハノヘ）ニ、小猿米燒ク、米ダニモ、多[illegible]テ通ラセ、山羊（カマシシ）ノ老翁（ヲヂ）」萬葉集、七、五十「大船ヲ、荒海ニ漕ギ出テ、八船多氣（フネタケ）」（櫂（カイ）ヲ揚グルニテ、前後ニ掻キ動カスナリ） （二）手綱ヲタグリテ歩マス。萬葉集、十四「[illegible]左奈都良ノ、岡ニ粟マキ、カナシキガ、駒ハ多具（タグ）トモ、我ハソト思ハジ」（手綱ヲ揚クルナリ）

たぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二） 〔食〕 くふ（食）ノ古語。飲ム。喫 常陸風土記、香島郡「神ノ御酒（ミサケ）ヲ多氣（タゲ）ト、言ヒケバカモ、我ガ醉ヒニケ

ム」雄略紀、十四年四月「其食(アヒアゲヒト)者、誰好乎」皇極紀、二年十月「米ダニモ、多(タ)ゲテ通ラセ、カマシシノヲヂ」(太子傳暦ニ此句ヲ「喫而イマサネ」トアリ)上宮法皇帝說「斑鳩ノ、トミノ井ノ水、イカナクニ、多(タゲ)[illegible]マシモノ」

だく (名) [跑] 馬術ニ云フ語。だくあし(跑足)ノ略。

だく (名) [諾] ウケガフコト。ウベナフコト、承引。論語、陽貨篇「孔子曰諾、吾將仕矣」

だく (名) [駄句] 拙劣ナル句、

だ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [抱] (いだくノ略) ウダク。ムダク。他ノモノヲカカフ。[illegible]紀、七年九月「我ガ手ヲバ、妹ニマカシメ、マサキツラ、多多企(手抱)アザハリ」宇津保物語、嵯峨院「十「イヅレノ宮ヲカ、マヅだきタマフト、イドミカハシテ見ルニ」著聞集、十、相撲強力「時弘かきだきテ、地ニナゲフセタリケレバ」

たく-あん(タク・ワン) (名) [澤庵] 次次條ノ語ノ略。

だく-あし (名) [跑足] 馬術ノ語 馬ノ足並ノ拍子ノ、稍、忙シクナリテ、未ダ驅足トナラヌコト。笠懸日記「馬ノ事ハサクリ走リナリ、常ノ稽古ニハ、だく足ニテモヨシ」

たくあん-づけ(タクワン・ズケ) (名) [澤庵漬] 〔澤庵和尚ノ創意ニ出ヅト云フ。或ハ云フ、たくは(ワ)へ(ズ)づけノ轉カト〕乾シタル大根ヲ、糠ト鹽トヲ加ヘテ、壓シテ漬ケタルモノ、永ク貯ヘテ、香の物トス。俗語考(守貞漫稿)澤庵漬「和尚ノ墓一箇ノ圓石ニシテ、其石ノ形、大根ノ香ノ物ニ似タリ、故ニ此澤名ヲ(アダナ)オフセタルガ、和尚ノ名ト共ニ世ニ廣クヒロマリタル也、云云、香ノ物ハ古クアルベシ」

たく-い (名) [卓異] 〔說文「卓、高也、早匕(爲卓)」〕他ヨリスグレテタカク、異ナルコト。[illegible]

だく-おん (名) [濁音] 語學ニ、音(オン)ノ濁レルモノ。卽チ、が、ぎ、ぐ、げ、ご。ざ、じ、ず、ぜ、ぞ、だ、ぢ、づ、で、ど。ば、び、ぶ、ベ、ぼ、ノ二十音ノ稱。(清音ニ對ス)

たく-きょ(タッ・キョ) (名) [謫居] 〔謫ハ廣雅「責也」、玉篇「咎也、罪也、過也」、類篇「罰也」〕謫責ヲ受ケテ、籠リ居ルコト。罪セラレテ僻地ニ居ルコト、[illegible]

たく-けい(タッ・ケイ) (名) [磔刑] 磔(ハリツケ)ノ刑ニ同ジ。はりつけ(磔)ノ條ヲ見ヨ。

たく-けん(タッ・ケン) (名) [卓見] 人ヨリ高ク勝レタル見識。卓識。

たく-ご (名) [卓午] 〔說文「卓、高也」ト、[illegible]〕マヒル。卽チ、日、最モ高ク南ニ在ル意〕マヒル。日中。正午。王士禎詩「蜂聲滿院日卓午」

たく-ご (名) [橐吾] ツハブキ。やまふふき(山蕗)、及、つはぶき(ワ)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

たぐさ (名) [手草] 手ニ持チテ遊ブベキ料ノ物。テズサミ。テワルサ。古事記、上廿五「手(タグサニユヒテ)草結 天香山之小竹(ヲザサ)葉而」神樂歌、採物、篠「篠ノ葉ヲ、たぐさニ取リテ、遊ビケラシモ」

たぐさ (名) [田草] 田ニ生ヒタル草ノクサ。萬代集、十四、雜、一「たぐさヒク、ヲカノ卯ノ花、散ルマデニ、猶コヱシノブ、時鳥カナ」

たく-さつ (名) [磔殺] 磔(ハ)ニシテ殺スコト、磔刑ニ處シテ殺スコト。

たくさ-づき(タクサ・ヅキ) (名) [多草月] 陰曆五月ノ異稱、[illegible]五月ハ、草モスクナキ、サクモ月、たくさづきトハ、コレヲイハマシ」

たぐさ-の-えだ (名) [手草枝] 御湯(探湯(クカダチ))[illegible]

ニ持ツ、ササノハエダ。[illegible]十八、神樂「シラニギテ、手草の枝ニ、トリカザシ、ウタヘバアクル、アマノイハカド」

たく-さん (副) [澤山] 〔多山(サハヤマ)ニ當字シテ、音讀セル語ナラムト云フ〕多ク。アマタ。サハニ。ココラ。十分ニ。太平記、十六、新田中將被(ヲ)責(セ)赤松(ヲ)事「木モ兵粮モ卓山ナル上、播磨、美作ニ名ヲ得タル射手ドモ、八百餘人マデ籠リタリケル間」

たくさん-さうに(タクサン・ソウ・ニ) (副) [澤山狀] 物ノ數多アル狀ニ云フ語。[illegible]第五「在ル時ハ、在(アリ)ノすさびニ、語ラハデ、ピクテゾ人ハ、戀ヒシカリケル。ツレソフ人ノ世ニアリシホドハ、イツマデモナガラヘアルモノト、思ヒタノミテ、俗ニ澤山さうニ、在ルニ乘ジテ、ツラクモテナシツル時モアリシガ」(篠舍、下)

たく-し (名) [托子] [illegible]托子ハ[illegible]

たく-し (名) [卓子] ツクヱ。シヨクタク。[illegible]

たく-し (副) [卓爾] スグレタル狀ニ云フ語。[illegible]

たく-しか・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) [illegible]ツノケザマニ云フ[illegible]リ代ハッテ、たくしかけたくしかけ、[illegible]ナク此方ノ利[illegible]

たく-しき (名) [卓識] たくけん(卓見)ニ同ジ。

たく-しつ (名) [濯漆] とうだいぐさ(燈臺草)ニ同ジ。

たく-しや (名) [澤瀉] サジオモダカ、常[illegible]

たく-しゃう(タク・シヤウ) (名) [托生] 身ヲ其物ニ托シテ生ヲ遂グルコト。佛教ニテハ、[illegible]生ヲ托スルコト。[illegible]

だく-しゅ (名) [濁酒] 〔清酒ニ對ス〕ニゴリザケ。ドブロク。白馬。[illegible]

たく-しゅつ (名) [卓出] 他ニ傑出シタルコト。[illegible]

たく-しゅ (名) [illegible] [illegible]

たく-しょく (名) [拓殖] [illegible]土地ヲ開墾シテ、[illegible]

たく-じり (名) [手抉] [illegible]作ルニ、[illegible]抉リテ作ルコト。卽チ左ノ掌ニ土ヲ置キ、右ノ指先ニテ穴ヲ穿ツガ如クニ、ツジレバ、[illegible]

たく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、不規) [託] (一)寄ス。任ス。委ヌ。アヅク。タノム。[illegible](二)[illegible]コトヲ[illegible]

たく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、不規) [illegible]

だく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、不規) [諾] ウケガフ。ウベナフ。ウケヒク。[illegible]

たく-せい (名) [illegible]

だく-せい (名) 【濁世】 (一)穢レ多キ世。風教ノミダレタル世。 漢書、東方朔傳「非有先生論、接輿避世、箕子被髮佯狂、此二人者皆避濁世以全其身者也」 (二)佛敎ニテハ、ヂヨクセト讀ム、卽チ、コノ世。浮世。娑婆。

だく-せい (名) 【濁聲】 濁リタル音聲。ダミゴエ。

たく-せつ (名) 【卓說】 他ニ勝レ、ヌキ出デタル說。「名論卓說」

たく-ぜつ (名) 【卓絕】 他ニ勝レ、ヌキンデタルコト。卓越。卓拔。 晉書、孫楚傳「楚才藻卓絕、爽邁不羣」

たく-せん (名) 【託宣】 神靈ノ、人ニ託リテ、其意ヲ宣フコト。カムガカリ。オツゲ。神託。神憑。 續紀、十七、天平勝寶元年十一月「八幡大神託宣向京」 後紀、廿二、弘仁十二年九月「太政官符、應檢察神託宣事」 增鏡、第十、百島守「ヲサナキ童ノ臥シタリケルガ、俄ニオビエアガリテ、院ノ御前ニタダマヰリテ、走リマヰリテたくせんシケリ」

たく-せん (名) 【謫遷】 官位アル人ヲ、貶シテ僻地ニ流スコト。島流。配流。

たく-せん (名) 【謫仙】 (一)天上ヨリ下界ニ貶サレタル仙人。(二)都ヨリ遠ク離レタル地ニ、謫遷セラレタル詩人。 唐書、李太白傳「知章見其文、歎曰、子謫仙人也」

たく-ぜん (副) 【卓然】 高クヌキ出デタル狀、又、獨リ抽ンデタル狀ニ云フ語。 漢書、成帝紀「使卓然可觀」

たく-そう (名) 【託送】 人ニ託シテ送ルコト。タノミ送ルコト。

たく-だ (名) 【橐駝】 (一)らくだ(駱駝)ノ異名(其背ニ、橐ヲ負ヒタル如キ瘤アル故ニ云フ) 史記、匈奴傳、注「橐駝背肉似橐、故云橐駝也」 戰國策、楚策「趙代良馬橐駝、必實於外廐」 (二)轉ジテ、せむし。クグセ。(其脊骨、後方ニ凸起シテ、駱駝ノ背ニ似ル故ニ云フ) (三)ウヱキヤ。ニハツクリ。橐駝師。 柳宗元、種樹郭橐駝傳「郭橐駝、云云、病僂隆然伏行、有類橐駝者云云、因捨其名、自謂橐駝」

たく-たく (副) 【濯濯】 (一)ツヤアル狀ニ云フ語。 世說、容止篇「濯濯如春月柳」 (二)フトリタル狀ニ云フ語。 詩經、大雅、文王之什、靈臺篇「麀鹿濯濯」朱注「濯濯、肥澤貌」 (三)モノノ禿ゲタル狀ニ云フ語。 孟子、告子、上篇「是以若彼濯濯也」趙注「濯濯、無草木之貌」

だく-だく (名) 【諾諾】 (一)他人ノ言ヲ、ウベナフコト。盲從。 史記、商君傳「千人之諾諾、不如一士之諤諤」「唯唯諾諾」 (二)應對ノコトバ。ハイハイ。 古詩、焦仲卿妻「媒人下床去、諾諾復爾爾」

だく-だく (副) ダラダラ(汗ノ)ト流レ出ヅル狀、又、ダブダブト滯リタル狀ニ云フ語。 淀鯉出世瀧德(寶永、近松作)下「オナカノツカヘだくだくト、胸ニ踊ルヲサスリ下ゲ」

たくだ-し (名) 【橐駝師】 たくだ(橐駝)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

たく-ち (名) 【宅地】 住居ニ用ヰル地。家屋建築ノ敷地。屋敷地。 續紀、十四、天平十三年九月「班給京都百姓宅地」

たく-ち (名) 【謫地】 (謫居ノ語原ヲ見ヨ) はいしょ(配所)ニ同ジ。

たく-づぬ (名) 【栲綱】 栲ニテ綯ヒ作リタル綱。 出雲風土記、楯縫郡「天日栖宮、云云、千尋栲繩持而百結結、八十結結下而」

たく-づぬ-の (枕) 【栲綱】 〔栲ノ綱ノ色白シ〕 白、又ハ、しらト云フ語ノ枕詞。 古事記、上、四「たくづぬの、白キタダムキ」 萬葉集、廿、三十六 長歌「たくづぬの、白鬚ノ上ユ、涙タリ」 同、三、四十六 長歌「たくづぬの、新羅ノ國ニ」

だく-てん (名) 【濁點】 (一)ニゴリテン。經文ノ文字ニ、橫ニ○○ヲツケタルハ本濁ニテ、竪ニ○○ヲツケタルハ連濁(又ハ、新濁ト云フ)ナリ。(二)濁音ノ標ニ、假名ノ右傍ニ附クル二ツノ點。ば、バ、び、ビ、ノ類。

たく-なは (名) 【栲繩】 タクヅヌ。栲ノ木ノ皮ニテ綯ヘル繩。 神代紀、下、十三「以千尋栲繩、結爲百八十紐」「海人ノたくなは」

たく-なは-の (枕) 【栲繩】 長キ、又ハ、千尋ト云フ語ノ枕詞。 萬葉集、二、四 長歌「たくなはの、長キ命ヲ、ツユコソハ、朝ニオキテ」 同、五、三十 「水沫ナス、モロキ命モ、栲繩の、千尋ニモカト、ネガヒ暮シツ」 古事記、上、五十七「たくなはの、千尋繩打延へ」

たくなみ (名) 【巧】 タクナムコト。

たくな-む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 【巧】 〔たくらむノ轉〕 タクム。クハダツ。モクロム。計畫ス。

たく-ぬの (名) 【栲布】 楮ノ皮ナドニテ織リタル白布。 字類抄「太久布、タクヌノ」 夫木抄、三十三「イカナレバ、コヒニムサたル、たく布ノ、ナドサユミナル、人ノ心ゾ」

だく-のり (名) 【跑乘】 馬ノ足竝ノ拍子ヲ、稍、急ニシテ乘ルコト。跑足ニテ馬ヲ乘リマハスコト。

たく-はつ (名) 【托鉢】 〔正字通ニ「托同拓、拓、手承物也」ト。卽チ手ニ鉢ヲ承ケ食ヲ乞フ意。又、鉢をひらく義ト〕 僧ノ、鉢ヲ持シテ、人家ニツキテ米錢ヲ乞フコト。化飯。 五燈會元「闍ニ托鉢乞食未聞、安堂以事」 武江咄聞書、十三歳[illegible]、洛中名外ナ、衣鉢ノ上ニ刀[illegible]差シテ、鉢ヲひらく」 又、粥飯ノ時、僧ノ鉢ヲ擎ゲテ僧堂ニ赴クコト。 聯燈會要、雪峯章「師在德山作飯頭、云云、見德山托鉢至法堂前」

たく-ばつ (名) 【卓拔】 他ニ勝レ、ヌキンデタルコト。卓越。卓絕。

たくは・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 【貯】 次條ノ語意ニ同ジ。 萬葉集、十九、廿九 長歌「ワタツミノ、神ノ命ノ、御櫛笥ニ、多久波比置キテ、イツクトフ、珠ニマサリテ、思ヘリシ」

たくは・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 【貯・儲・蓄】 〔足し加ふる意カト云フ〕 (一)物ヲ積ミ納メ置キテ、後ノ用ニ供フ。溜ム。ツミタカム。 名義抄「儲、タクハフ」 靈異記、下、第三十緣、訓釋「畜、タクハヘ」 宇津保物語、藤原君、廿九「ソノ物ヲたくはヘテ、市ニ商ハバコソ、カシコカラメ」 (二)ヤシナヒオク。

たくはへ (名) 【貯】 タクハフルコト。又、貯ヘタル物。 源、十八、松風、四「ソノアタリノたくはへノ事ドモヲ、アヤフゲニ思ヒテ」 宇津保物語、祭使、廿「御心マタク、タシカニ物ツクサズ、たくはへ心ヨクシリテ、コトモナキ人ナリ」

たぐひ (名) 【比・屬・類】 タグフコト。同ジ竝ナル物事。ルヰ。シュルヰ。 字類抄「類、屬、比倫」 名義抄「比、タグヒ」 字鏡「儔、輩類也、太久比」 垂仁紀、八十八年七月「所獻神寶之類也」 土佐日記、正月廿九日「ココヤイヅコト問ヒケレバ、土佐ノトマリトゾ云ヒケル、云云、昔シバシ在リシ所ノ名たぐひニゾアナル、アハレトイヒテ」 源、四十六、總角、四十八「ワガ心ノヤウニ、ヒガヒガシキ心ノたぐひヤハ、又世ニアベカメル」 榮花物語、九、岩蔭「トマルたぐひハ、多クシテ戀ヒカナシト思ヘドモ」

だく-ひ (名) 【諾否】 諾フカ否カ。

たくひれ-の (枕) 【栲領巾】 (一)掛くト云

フ語ノ枕詞。萬葉集、三廿「栲領巾乃、かけマクホシキ、妹ガ名ヲ、コノセノ山ニ、懸ケバイカガアラム」　(二)白キ意ヲ云フ語ノ枕詞。萬葉集、十一　廿三「栲領巾乃、白濱浪ノ、ヨリモアヘズ、アラブル妹ニ、戀ツツゾヲル」　(三)鷺ノ枕詞。鷺ハ色、白キガ故ナリ。萬葉集、九「栲領巾乃、鷺坂山ノ、白躑躅、吾ニニホハネ、妹ニシメサム」

〜たぐ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）比類偶　(一)同ジ並ニナル。並ビ副フ。[illegible]集、十二、[illegible]「ツレナキヲ、歎クモ苦シ、白露ノ、消ユルニたぐふ、命トモガナ」佛足石歌「イカヅチノ、光ノ如キ、コレノ身ハ、死ニノ大王、常ニ多具[illegible]」[illegible]紀、五年三月「其子[illegible]」萬葉集、十七　三十　長歌「妹モ吾レモ、心ハ同ジ、多具[illegible]」新拾遺集、十九、雜、中、小弓ノ會ニ來ラザル人ノ歌ノ返シ「梓弓、君シマトキニ、たぐはネバ、我ハナレタル、心地コソスレ」孝德紀、大化五年正月「山川ニ、鴛鴦二ツ居テ、陀虞陛[illegible]妹ヲ、誰カ率ニケム」萬葉集、八　三十二「事繁キ、里ニ住マズハ、今朝鳴キシ、雁ニ副ひテ、往ナマシモノヲ」同、十廿「雨晴ノ、雲ニ副而、霍公鳥、春日ヲ指シテ、コヨ鳴ワタル」同、十七　三十「春日野ノ、萩シ散リナバ、朝東風ノ、風ニ副而、ココニ散リ來ネ」(風ト共ニ)　(二)相副ヒ具スル。ツレダツ。トモナフ。仁德紀、廿二年正月「道行ク吾モ、多誤[illegible]テゾ可キ」萬葉集、四「[illegible]、旅行ク君ヲ、メヅラシミ、副ヒ來シ、志賀ノ[illegible]ニ」

〜たぐ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）比件偶副　並べ副フル。連レ伴ハシム。相具ス。一處ニス。[illegible]集、十八　長歌「[illegible]ヒトツ、たぐふる風ヲ、八十島ノ、松ノ嵐ニ、アフギクラベヨ」催馬樂、竹河「花園ニ、我ヲバ放テ、[illegible]たぐへテ」[illegible]紀、四十九年三月[illegible]之」古今集、一、春「花ノ香ヲ、風ノタヨリニ、たぐへテゾ、鶯サソフ、シルベニハヤル」同、八、別「思ヘドモ、身ヲシワケネバ、目ニ見エヌ、心ヲ君ニ、たぐヘテゾヤル」

〜たくぶすま（枕）栲衾　〔栲布ノ衾ノ白キニカク〕白シ、又ハ、白キト云フ語ノ枕詞。仲哀紀、八年九月「栲衾、新羅ノ國」萬葉集、十四「[illegible]、[illegible]ヘイマス、[illegible]」同、十四「[illegible]今日カ明日カト、イハヒ[illegible]」夫ニ[illegible]、白山風ノ、ネナヘドモ、子ロガオソキノ、アロコソエシモ」

たくぶら（名）[illegible]　たなむら(手腓)ノ轉。雄略紀、四年八月、[illegible]「[illegible]ニ、アムカキツキツ、ソノアムヲ、アキツハヤクヒ」

たくぼく（名）啄木　(一)鳥ノ名。テラツツキ。きつつき。[illegible]　(二)組ノ緒、又、鼓ノ調ノ緒ナド、色ヲ斑ニ高ビクニウネリタルモノ。鳥ノ木ヲ啄ミタル[illegible]ガ如シ。タクボクグミ。(些物、掛物ナドニ[illegible]キル)[illegible]「黄金ノ菊ガタ打ッタル鋼拍子ニ、たくぼくノ緒ヲ入レテ」[illegible]「[illegible]ノ緒ニハ、天ノたくぼくヲ以テ、云云、杏葉(京様)ニ結ンデ下ゲラレタリ」　(三)琵琶ノ祕曲ノ名。盛衰記、三十一、「[illegible]啄木ト云フ曲モ、[illegible]也、本名、[illegible]ト云フ、云云、[illegible]山ニ、仙人多ク集マッテ、僅カニ此ノ曲ヲ彈ジケルニ、山神、[illegible]ニ[illegible]ジツツ、木ヲ啄ム[illegible]ニモテナシテ、此ノ[illegible]ケルヨリ、啄木トハ申ス也」

だくぼく（名）凸凹　たかびく(高低)ノ訛。デコボコ。丹波與作(寶永、近松作)中「胸ハダクダク、だくぼくノ、坂ノ下ヘト別カレケル」

たくぼく・てう（名）啄木鳥　きつつき(啄木鳥)ノ異名。略シテ、たくぼく。

たくぼく・の・いと（名）啄木絲　啄木打ノ絲。たくぼく組ノ絲。

たくぼく・をどし（名）啄木緘　鎧ノ札ヲ、啄木ノ絲ニテ緘シタルモノヲ云フ。[illegible]「[illegible]ノ[illegible]ニ對面アリテ、云云、たくぼくノ絲ニテ緘シタル鎧ヲ」

たくほん（名）搨本　[illegible]法帖ナド、石碑[illegible]

たく・ま（名）琢磨　[illegible]「[illegible]之琢、[illegible]之磨」[illegible]玉ノ[illegible]研ク[illegible]。學術ヲ深ク研究スルコト。[illegible]

たくま・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）逞　(一)十分ニ滿チ足レリ。勢、壯ンナリ。[illegible]「[illegible]太クたくましきガ」夫木抄、廿六、[illegible]「[illegible]ノ、岩モトユスリ、[illegible]」[illegible]　(二)ココロ[illegible]「[illegible]クマシク」同、下、序、[illegible]「廿、太久[illegible]之比」

たくも（名）江浦草　つくも(江浦草)ニ同ジ。

たくま・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（他動、下二）工巧　たくむ(工)ニ同ジ。平家物語、一、殿上[illegible]「[illegible]アレカシ」

たぐま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[illegible]　[illegible]マル。ツモル。

〜たくみ（名）工巧　(一)タクムコト。イトナムコト。[illegible]　(二)[illegible]一切ノ物ヲ造ルヲ業トスル者ノ總稱。職人。工匠。[illegible]「[illegible]能匠名ニ」雄略紀、十二年十月、長歌「我命モ、ホクモガト、云ヒシ[illegible]、可惜比[illegible]」竹取物語「作物所ノ司ノたくみ」　(三)專ラ、木工ノ稱。即チ、木材ニテ、家、橋ナド作ルヲ業トスル者。大工。番匠。木工頭、[illegible]木工ノ[illegible]ノたくみノ、[illegible]心ニ[illegible]セテ、ツクリ出ス[illegible]」夫木抄、[illegible]ハ[illegible]ハズ、[illegible]たくみ、[illegible]ノ、タダ一[illegible]」

〜たくみ・づかさ（名）内匠寮　たくみれう(内匠寮)ニ同ジ。[illegible]

〜たくみ・どり（名）[illegible]　[illegible]巧緻ナレバ名アリ、即チ[illegible]ナリ。[illegible]

たくみ・[illegible]（名）[illegible]

たくみ・の・かみ（名）内匠頭　ウチノタクミノカミ。[illegible]

たくみ・れう（名）内匠寮　ウチノタクミノツカサ。タクミノツカサ。古ヘ、中務省ノ[illegible]

たく・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）工　[illegible]むノ義、[illegible]

樣、闘爭、挑戰、タクミテ」 (二) 企ツ、タクラム。 企圖 太平記、八、山徒寄京都事「武士ハ、カネテヨリ巧みタルコトナレバ、敵ノカカル時ハ、馬ノ引キ返シニ、闘ヲたくむ」

たくめ (副) 專 〔語原、考ヘ得ズ、(若シクハ副ノ轉ニモアラムカ) もはら(專) ト云フ意ナル上代ノ副詞ニテ、たうめハたくめノ音便ナリ〕 モハラ。モツパラ。專一ニ。 倭名抄、二十老幼類「専領、字、亦作太宇女、又、手佐女、專制ニ太宇女ニ責、毛波良之古也」 繼體紀、廿一年八月「筑紫以西汝制之、專行賞罰、勿煩頻奏」 欽明紀、五年三月「移那斯、麻都、是小家微者、專擅日本府之政、又、制任那、障而勿遣」 景行紀、五十六年八月「汝專領東國」 應神紀、十三年三月「天皇遣專使、以徵髮長媛」

たくも (名) 焚藻 燃料トシテ、焚ク藻。 千載集、三、夏「サミダレハ、たくもノ煙、ウチシメリ、汐垂レマサル、須磨ノ浦人」 新古今集、六、冬「フル雪ニ、たくもノケブリ、カキタエテ、サビシクモアルカ、鹽カマノ浦」 續拾遺集、十一、戀、一「シラレジナ、たくもノケブリ、下ニノミ、ムセブ思ヒノ、セメテ憂キ身ハ」

たくゆ (名) 託喩 物ニ、ヨソヘテサトスコト。 晉摯、七啓「假譬以託喩」

たくよう (名) 擢用 衆人ノ中ヨリ、抜キ擢シテ用ヰルコト。 後漢書、公孫述傳「程烏李育、以有才幹、皆擢用之」

だくらう (名) 濁醪 ニゴリザケ。濁酒。 白居易、魏都賦「清酤如濟、濁醪如河」

たくらく (名) 卓犖 卓躒 他ニ超エ優リタルコト。 卓越。 晉書、王坦之傳、卓犖不羈、負世之度」 三國志、吳志、張溫傳「識為之翔、卓躒冠群」 太平記、十五、園城寺戒壇事、此寺四海ノ大寺ノ其一ツトシテ、論場ノ公請ニ隨ヒ、當鋒ノ論場ヲ致ス事、諸寺ニ卓犖セリ」

たくらだ (名) 田藏田 獸ノ名。 麝香ニ似タルモノニテ、人ノ麝香ヲ獵ル時、此獸、出デテ人ニ殺サル。故ニ我ガ事ナラデ、好ミテ死スルヲ田藏田ト云フ。(節用集大全、延寶) オロカモノ。バカ。アハウ。 靜岡縣ニテハ、たはけもの、たくらんたあト云フ) 室町殿日記、六「聊ノフシヲ言ヒタテテ、舅ノ方ニ、己ヲたくらだニ、世間へ流布セルガ憎サニ」 可笑記(寛永)「狂亂、スヰ狂、バカ、たくらだ」 足新翁記、一「子孫鑑(寛文)ニ、一人ノ文珠ヨリ十人ノたくらだトアリ」 最明寺百首「たくらだト、人ヲ思ヒテ、アナヅレバ、猶たくらだト、我ゾ成リヌル」 同「道スガラ、バカたくらだヲ、見ヌノミゾ、佛諂ヲセヌ、利生ナリケル」 御伽草紙、物ぐさ太郎「扨モ、是レ程ノたくらだハナシト思ヒテ」 三河物語、大久保彥左衛門、下「我ガトマラントイフハサルニ、トマラントイフ奴バラメハ、たくらだメキテ」

たくら・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ(他動、下二) 較比 〔たハ發語〕 くらぶ(比)ニ同ジ。 字鏡「倫、比也、等也、太久良不」 名義抄「比、タクラブ」 方丈記「我ガ身一ツニトリテ、昔ト今トヲたくらぶるナリ」

たくらみ (名) タクラムコト。クハダテ。 計畫 企畫

たくら・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 〔たくむノ延〕 タクム。企ツ。クハダツル。考ヘ計ル。(多ク惡意ニ) 計畫

たくらん (名) 澤蘭 サハアララギ。 謝靈運、遊南亭詩「澤蘭漸被徑、芙蓉始發池」

たぐり (名) 吐 〔搔キ上グル意ノたぐるノ名詞形ト云フ〕 吐クコト。反吐ツクコト。タグルコト。タマヒ。 歐吐 嘔吐 古事記、上「多具理ニ生ナリマセル神名、云云」 神代紀、上十「悶熱懊惱、因爲吐」 私記「爲吐、太久里須」

だくりう (名) 濁流 濁リタル流。 陳陽修、朋黨論「盡殺朝之名士、投之黃河、曰、此輩清流、可投濁流」

たぐりおみ (名) 手繰込 相撲ノ手ノ一。敵ノ突キ進ム右手ヲ、我ガ方へ引キ手繰リ込ミナガラ、我ガ足ヲ内ヨリ掛ケ、片手ニテ敵ノ高股ヲ取リテ倒スコト。又、たぐりおみナガラ敵ノ出足ナル右足ヲ蹴ルヲ、蹴手繰ト云フ。

たくりお・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 手繰込 たくるト云フニ同ジ。奪ヒ取ル。

たくりつ (名) 卓立 抜キ出デテ立ツコト。スグレテ高ク立ツコト。 文心雕龍(梁、劉勰)「清詞轉而不窮、巧義出而卓立」

たく・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 〔手繰る義カ〕 奪フ如ク引キ寄ス。奪ヒ取ル。タクリコム。 名義抄「綆、タクル」 堀川波鼓(寶永、近松作)中「何事カ存ゼネドモ、御勘忍ト縋リ付キ、帶ヲたくれバ」「引キたくる」搔キたくる」

たく・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 挈 〔たぐノ轉カ〕 布、衣ナドノ端ヲ揭ゲ止ム。マクル。「裾ヲ引キたくる」

たぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 吐 口ヨリ吐ク。反吐ツク。吐キ出ス。

たぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 手繰 手許へ搔キアゲ繰リ寄ス。我ガ方ヘカナグリ寄ス。 遊仙窟、唐、張鷟「線、綰葛」 曾丹集、春「ミホノ浦ノ、綱引ノ綱ノ、たぐれドモ、長キハ春ノ、ヒト日ナリケリ」「縄ヲたぐる」綱ヲたぐる」

た・ぐる・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) 崖 シヘタグ。サマタグ。

だ・く・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 駄句 〔駄句ノ名詞ヲ動詞ニ活用シタル語。ぎうぎう(牛耳)ヲ、ぎうぎるト云フ類ナリ〕 駄句ヲ作ル。ツマラヌ句ヲ作ル。

たくれい (名) 鐸鈴 古ヘ、軍令ナドヲ觸ルル時ニ、振リ鳴ス大イナル鈴。形ハ鐘ノ如ク、中ニ舌アリ、上方ニ柄アリ。 たく(鐸)、及、ぬて(鐸)ノ條ヲモ見ヨ。 韋昭注、國語吳語「鐸、鈴也」 三十六宮敲秋曲」

たくれいふうはつ (句) 踔厲風發 議論ナドガ人ニ勝レテ鋭ク、風ノ如ク勢ヨクロヨリ出ヅルコト。 韓愈、柳子厚墓誌銘「議論證據今古、出入經史百子、踔厲風發、率常屈其座人、名聲大振」

たくれう (名) 宅料 (一) 住宅ノ借家賃金。ヤチン。 (二) 住宅料。住宅ノ借家料トシテ、官公吏、會社員ナドニ、官衙、又ハ、會社ヨリ給與スル金。

たく・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ(自動、下一) 捲レテ皺ガ寄ル。「皮ガたくれる」

たくろん (名) 卓論 他ニ勝レ、ヌキンデタル議論。卓絶シタル論。

たくゎ (名) 多寡 おほきト、すくなきト。 孟子、滕文公、上篇「五穀多寡同、則賈相若」

だくゎく (名) 拿獲 〔正字通「拿、俗拏字」增韻「拏、攫也」〕 トリオサフルコト。拿捕ルコト。 福惠全書、清、黃六鴻「拿獲盜賊逃人」

だぐゎし (名) 駄菓子 品質ヨカラヌ菓子。下等ノ菓子。

たくわん (名) たくあんづけ(澤庵漬)ノ略稱。其條ヲ見ヨ。

だくゎん (名) 兌換 〔正韻「兌、貿易也」〕 トリカヘルコト。ヒキカヘルコト。多ク日本銀行ニテ、紙幣ト正金トヲ引換

フルコトニ云フ。雨替。「[illegible]」

たくゐ（名）【卓偉】 他ニヌキンデ、エラキコト。「三國志、魏志、[illegible]」

たくゑつ（名）【卓越】 他ニ抽ンデ勝ルコト。卓絶。「晉書、華譚傳「[illegible]」」

だくを（名）【濁汚】 ニゴリ、ケガルルコト。「[illegible]、東方朔「余方[illegible]」」

たけ（名）【嶽・岳】〔高嶺ノ約〕 萬葉集、三「[illegible]降リ、吉志美ガ高嶺ヲ、險シミト、草トリカネテ、妹ガ手ヲ取ル」同、十三「ミ雪フル、吉野ノ高ニ、居ル雲ノ、ヨソニ見シ子ニ、戀ヒワタルカモ」 山ノ高大ナルモノ。ミタケ。訛シテ、だけ。倭名抄、一「山谷類「嶽、山高名也、[illegible]」」[illegible]元年五月「[illegible]」[illegible]歌「久方ノ、天ノ戸開キ、高千穂ノ、多氣ニ天降リシ、皇ノ、神ノ御代ヨリ」 源、五、若紫「フジノ山、ナニガシノたけナド、カタリキコユルモアリ」

たけ（名）【丈】〔高背ノ約、長ノ義〕（一）上ニ長キコト。立テル高サ。[illegible]長、タケ「古[illegible]記、中「[illegible]」」[illegible]源、四、夕顔「たけタカキココチゾスル」 伊勢物語、廿三段「ツツヰヅツ、ヰヅツニカケシ、マロガたけ、スギニケラシナ、イモ見ザルマニ」「身ノ丈」（二）[illegible]シテ、長サ。「布ノ丈」（三）十分ノ程。アルカギリ。[illegible]三十六、[illegible]たけ見エテ、シノブシラヌハ、[illegible]「ウキ世トハ、イツモサコソハ、思ヘドモ、心ノたけヲ、月ニシリヌル」[illegible]「八千年ヲ、マツカヒノ、オヨブたけナキ、夏ノ瀧ツ瀬」「心ノたけ」思ヒノたけ」 たけなる馬トハ、丈高キ馬。謡曲、羅生門「たけなる馬ニ打乗ッテ」

たけ（名）【竹】〔長け生フル義、成長ノ早キニツキテ名アルカ。又、高生ノ約トモ云フ〕 植物ノ名。眞竹ト云フハ、蘆ニ似テ大ナルコト木ノ如ク、幹、圓クシテ直立シ、中空シクシテ、處處ニ節アリテ隔ヲナシ、節毎ニ枝葉ヲ生ズ。數十年ニシテ、花ヲ開キ實ヲ結ビテ枯ル、其實ヲねんごト云フ。（其條ヲ見ヨ）幹ハ、管トナリテ堅キガ故ニ、桶、筒、柄、竿、笛、ナドトシ、或ハ籬トシ、或ハ割キテ籠、席ナドヲ編ミ、縮ネテ箍トシ、肉ヲ叩キテ火繩トスルナド、其用甚ダ多シ、其芽ヲたけのこト云フ。（其條ヲ見ヨ）竹ノ類ニ、はちく、めだけ、やだけ、かんちく、まうそうちく、ちの、ささ等、尚多シ、各條ニ注ス。倭名抄、廿「竹類、竹[illegible]」古事記、下（雄略）三十「イクミたけ」

たけ（名）【茸・菌・蕈】〔牡陰ノ略、形似タリ〕（一）キノコ。椎茸、榎茸ノ類ヲ木のたけト云ヒ、松茸、初茸ノ類ヲ土たけト云ヒ、岩茸ノ類ハ岩たけト云フ。（各條ヲ見ヨ）[illegible] 萬葉集、十四「[illegible]芳（芳ハ茸ノ誤ト云フ）「高松ノ、此ノ峯モセニ、[illegible]」[illegible]シタ、シヒたけ、シメジたけ、クハたけ、ネズミテ、月夜たけ、マデモ[illegible]」（二）齋宮ノ忌詞ニ、宍、卽チ獸肉ノコト。（獸ト同ジク、茸ノ山ニ生ズルヨリ通ハセタルカ）[illegible]多氣」（上古、獸肉ヲ忌マズ、然レドモ後嫁命世記ニ、[illegible]宍[illegible]」[illegible]

リ、[illegible]ト云フ」

たけ（名）【他家】 ホカノイヘ。[illegible] 太平記、三十、[illegible]ゾ催サレケル」

たけ（接尾）【丈】 量ノ高、又ハ限リヲ云フ語。「ソレたけ」成ルたけ」

たげ（動）【食】 たぐ（食）ノ條ヲ見ヨ。

だけ（名）【嶽】 たけ（嶽）ニ同ジ。

だけ【丈】 たけ（丈）ノ訛。[illegible]附錄「遊バルル、だけハ遊ブヤ、秋ノ蝶」「コレだけ取ル」アルだけ使フ」

たけい（名）【多慶】 [illegible]

たけうま（名）【竹馬】（一）小兒ノ玩具[illegible]、手綱トシ、コレニ跨リテ走ルナリ。後ニ竹竿ニ、馬ノ頭ヲ作レルモノ。胯ニ挾ミ行キテ、[illegible]馬觸」（二）又、一種。二竿ノ竹ニ、岐ヲ作リ、兩足共ニ騎リ、兩手ニテ竹ノ上端ヲ持シテ歩ムモノ。高足。鷺足。さぎあし（鷺足）、及、たかあし（高足）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]カナ、竹馬遊ヲ、思ヒ出デツツ」[illegible]タカゲニ、乘リテマホラム」（三）[illegible]ケテ、路ニ立テテ、荷ナヒ賣ル具。木馬[illegible]

たけがき（名）【竹垣】 竹ニテ造リタル垣。[illegible]ル、雪ニシリルル、ココサシテ、タガホリケル、[illegible]竹垣」同、二十[illegible]、[illegible]ノたかがき、アミメヨリ、ゼリクル秋ノ、[illegible]」

たけかご（名）【竹籠】 [illegible]

たけがさ（名）【竹笠】 竹ノ網代笠。[illegible]

たけかは（名）【竹河】 催馬樂ノ歌曲ノ名。[illegible]「竹河ノ、ハシノツメナルヤ、ハシノツメナルヤ、花ソノニ、ハレ、花ソノニ、ワレヲバハナテヤ、ワレヲバハナテヤ、メザシタグヘテ」

たけかんむり（名）【竹冠】 漢字ノ冠ノ一、字ノ上ニアル竹ノ字ノ稱。卽チ竿、箆、筒、箱ナドノ如シ。竹字頭。

たけがらす（名）【竹烏】 [illegible]

たけがり（名）【茸狩】 山野ニ遊ビテ、茸類ヲ尋ネテ採ルコト。キノコトリ。[illegible]古今集[illegible]たけがりニマカレリケルニ」

たけき（名）【打擊】（一）[illegible]

たけきり（名）【竹伐】 [illegible]蜂延、大蛇ノ來レルヲ、見ツケテ、ズタズタニ斬リタルヨリ、竹伐リト云ヒ、[illegible]

た、披ニ山刀一截レ之、倭俗以ニ鐵鑿刀一、忝伐ニ山木一、是謂ニ山刀一、用ニ其鑿處一、[illegible]得[illegible]倭俗以ニ苦竹一、[illegible]之、是謂ニ竹山刀一[illegible]也」

たけくぎ (名) 竹釘 竹ヲ削リ、油ニテ煎（コガ）リテ作レル釘。主ニ、指物、屋根ノ桧皮葺ナドニ用ヰル。

たけくぎいくさ (名) 竹釘軍 〔竹釘ニ、鐵釘ノ如キ頭ナシ〕首領タル人ノナキ戰、又ハ評議。 瀧鶴譜 新井君美「たけくぎいくさ」 島原日記「此ノ列座ノ衆評議ノ體ハ、口口言ヒ勝ナニテ、竹釘軍ト申ス者ニテ、頭無レ之候」

たけくらべ (名) 丈較 身丈（タケ）ノ長短ヲ比較シテ、優劣ヲ定ムルコト。セイクラベ。 御伽草子、猫の草子「カヤウニ申シ候ヘバ、鼠トたけくらべノヤウニ候ヘドモ」

たけざいく (名) 竹細工 竹ニテ、種種ノ器物ヲ造ルコト。又、其造リタル種種ノ器物。 蘭花畠集記、八「竹細工」注「府中ノ町ニテ作ル、花入、硯箱、餌フゴ、イロイロアリ」

たけざを（タケ・ザヲ） (名) 竹竿 竹ノサヲ。

〜**たけ・し**・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 健猛 強シ。烈シ。壯（サカン）ニ勇マシ。雄雄シ。 古今集、序「たけきモノノフノ心ヲモ、ナグサムルハ歌ナリ」 竹取物語「たけく思ヒツル、ミヤツコマロモ、物ニ醉ヒタル心地シテ、ウツブシニフセリ」 夫木抄、廿二、鳥「モノノフノ、八十宇治川ノ、エビス島、オチクル水ノ、たけくモアルカナ」

たけす (名) 竹簀 竹ニテ造リタル簀（スノ）子。タケノスノコ。タケスノコ。

たけすがき (名) 竹簀搔 竹ニテ造リタルスガキ。タカスガキ。すがき（簀搔）ノ條ヲモ見ヨ。 夫木抄、十七、寒「ヒマヲアラミ、竹のすがきノ、下サエテ、ヨナヨナフルハ、ミゾレナリケリ」 新六帖、一「冬キテハ、アネコガ閨ノ、竹すがき、イクヨネザメノ、風カサムケキ」

たけすだれ (名) 竹簾 細ク割リタル竹ヲ編ミテ造リタル簾。 湘簾

〜**たけそかに** (副) 不意 思ヒガケナク。不意ニ。又、タマサカニ。偶然ニ。 萬葉集、六、十四「玉シキテ、待タマシヨリハ、多鷄蘇香（タケソカ）爾、キタルコヨヒシ、タヌシクオモホユ」

たけたかゆび (名) 丈高指 タカタカユビ。なかゆび（中指）ニ同ジ。

たけだけ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔猛猛ノ義カ〕 押シガ強シ。シブトシ。ヅプトシ。「盜人たけだけし」

〜**たけだち** (名) 丈立 立チタル身ノ高サ。タケ。セ。セイ。 竹取物語「菜種ノ大イサオハセシヲ、我ガ丈立竝ブマデ養ヒ奉リタル我子ヲ」 源、廿九、行幸、十五「たけだちソゾロカニ物シ給フニ、太サモ合ヒテ」 同、三十四、下、若菜、下、十一「舞人ハ、云云、貌清ゲニ、たけだち齊シキ限リヲ擇ラセ給フ」 宇津保物語、初秋、下、六十九「たけだちヨキホドニ、姿ノキヨラナルコト、サラニナラビナシ」 大和物語、下「たけだちイトヨキホドナル人ノ、髮タケバカリナラントミユルガ」

たけだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 長立 カタチノ、タケノボル。成長スル。

たけだづきん（タケダ・ズキン） (名) 竹田頭巾 江戸時代、大阪ノ人形芝居ニテ使用シタル頭巾。頭ヨリ覆面マデ一幅ノ製ノモノトゾ。 守貞漫稿、十四、男服、下「竹田頭巾、本名、大阪頭巾、又、かめや頭巾ト云フ、云云、浪速ノ、戲場ニテ用ユトアルハ、歌舞伎芝居ニハ非ズ、淨瑠璃ノアヤツリ芝居ニ用ヒシ物也、故ニ竹田ノ名アリ」

たけたば (名) 竹束 竹ヲ束（タバ）ネタルヲ楯トスルモノ。銃丸ヲ防グニ用ヰル。（天文ノ頃、甲斐ノ武田氏ノ士、米倉丹後守ノ創意ト云フ） 竹牌 武將感狀記（熊澤正興）

五、信玄の軍使の事「米田、竹束ノ内ヲ行ク、云云、井臼、何ソ竹束ノ外ヲ行カサルヤ、米田曰、鐵砲シゲシ、中リテ益ナキコトナリ、云云」 三河物語、下、[illegible]徳川[illegible]天文十九年安[illegible] 竹たばヲ付ケ而[illegible]時之[illegible]モ沮[illegible]ナク」

たけだびし (名) 武田菱 ヨツビシ。甲斐ノ武田氏ノ紋所ノ名。菱形ノ中ニ、斜ニ十文字アルモノ。又、割菱（ワリビシ）、四割菱（ヨツワリビシ）。さいはひびし（幸菱）ノ條ヲモ併ハセ見ヨ。 甲陽軍鑑、十、下、品第三十二「武田びしヲ大キニ蒔繪シタル箱ノ紅ニテ」

たけち (名) 高市 〔たかいちノ略轉、たかハ物見（モノミ）たかし、集（タカ）るノたかノ意、いちトハ、四方ヨリ人ノ多ク集マル所ノ名〕 人ノ群集シテ賑フ地。（皇都（ミヤコ）ナドモ） 古事記、下（雄略）、二十「倭ノコノ多氣知ニコダカル市ノ堆（ツカサ）（朝倉宮）」 神代紀、上、廿九「會二八十萬神於天高市一」 大和國ノ郡名ノ高市モ、元ハ都會ノ名ナリ。（市街（マチ）ヲいち（市）ト云フ）

たけつ (名) 多血 〔貧血ニ對ス〕 人ノ體ニ、生得ニテ血ノ多キモノ。「多血質」

たけづつ（タケ・ズツ） (名) 竹筒 （一）竹ヲ輪ギリニシタル筒。（二）竹包（タケヅツミ）。タケノカハ。（筒（ノツ）ノ條ヲ見ヨ）

たけづつぼう（タケ・ズツホウ） (名) 竹筒坊 〔坊ハ、擬人シテ云フ〕 竹ヲ輪（ワ）ギリニシタルモノ。タケヅッパウ。

たけづっぽう（タケ・ズツポウ） (名) 竹筒坊 前條ノ語ノ急呼音。（東京）

たけなが (名) 丈長 （一）紙ノ名。奉書紙ノ屬、厚クシテ糊ナク、丈ハ普通ノヨリ長シ。 紙譜「尺永紙（タケナガ）、奉書ノ屬ナリ」 [illegible]錄「延享二年正月八日、白記院樣、烏丸樣ヘ御出、云云、尺長（タケナガ）十枚ヅツオソヘ獻對枚數」 持統天皇歌[illegible]

法（正德、近松作）一「此ノ萬九ニ向カヒテ候[illegible]ハ、香長、丈長」 （二）其紙ニテ作レルひらもとゆひ。 [illegible]岩瀬京山）四「ケノたけながト云フ物、近キムカシハ、元祿ノ云ヘリ、ソレヲ髻ヘムスビテ、ハネソラシタルヲ、はねもとゆひトテ賞トシタルナリ」 [illegible]羽子板（寶永、近松作）上「小枕捨テ、丈長モ、ヨリ元結ニ夫婦[illegible]」

たけながし (名) 竹流 金銀ヲ鎔（トカ）シテ、竹筒ニ鑄込ミ、入用ノ都度、切リテ貨幣ニ用ヰタルモノト云フ。タケナガシキン。サヲガネ。 昆陽漫錄、百六「竹ヲ切リ、其中ヘ黃金ヲ鎔（トカ）シテ、流シ込ミタルモノ、所謂、竿金ニ作レルモノ（慶長ノ頃）」 お蔭物語「金ニテモアラバ出セヨト云フニヨリ、懷中ノ竹流し二本、持ツテ有リシヲ出ダシ遣ハス」

たけなは（タケ・ナワ） (名) 竹繩 竹ヲ割キ、肉ヲタタキテ、繩ニナヒタルモノ。物ヲ束ヌルニ用ヰ、又ハ、火繩トス。

〜**たけなはに**（タケ・ナワ・ニ） (副) 酣 〔たけハ、長（タ）くる意、なはハ成るノ意、おそなはるノ類〕 （一）盛リニ至リテ。酒宴ノ最中ニ。 名義抄「酣、タケナハニ」 字類抄「酣、タケナハナリ」 古事記、中（景行）、四十七「當二其樂（ウタゲ）、酣（タケナハナル）時一」 同、下（清寧）、四十一「盛樂（ウタゲ）、酒酣（タケナハ）」 神武紀、十三「酒酣之後、吾則起歌」 （二）轉ジテ、盛リ過ギテ、稍、シメリタル程ニ。ウスラギスガレテ。 闌 名義抄「闌、タケナハナリ」 景行紀、廿七年十二月「擧レ坏令レ飲而戲弄、于レ時也、更深、人闌（ヨフケヒトウスラギヌ）」 顯宗即位前紀「白髮天皇二年十一月、居二竈傍左右一乘レ燭、夜深酒酣（タケナハニシテ）、次第舞訖」「夜たけなはに」 [illegible]たけなはに」

たけにすずめ (名) 竹雀 公家衆勸修寺家ノ紋。笹竹ノ丸ノ中ニ、雀ノ向合ヒテアルモノ。鎌倉管領ノ上杉氏ニ移リ、又、長尾氏、伊達氏、最上氏ニ移ル。 曾我五人兄弟（元祿、近松作）小袖紋盡「竹ニ雀ハ、陸奧ノ

五十四郡ノ總政所」

たけのかは(タケ・ノ・カワ) (名) 竹皮 (一)竹ノ幹ノ皮ヲ裂キタルモノ。[illegible] 倭名抄、廿竹具「箬、竹乃加波、竹皮也」 (二)たけのこニ纏ヒテ生ズル皮。長ズルニ隨ヒテ自ラ脱ス。淡褐色ナリ、まだけナルニハ紫ノ斑アリ、はちくニハ無シ。物ヲ包ミ、或ハ綱ソク割キテ笠、履ナドヲ編ム。籜 倭名抄、廿五竹具「籜、音乃宇波加波、竹上大皮也」

たけのきりよのたまりみづ(タケ・ノ・キリヨ・ノ・タマリ・ミズ) (名) 竹切節溜水 切リタル竹ノ節ト節トノ間ヲ、切節(キリヨ)ト云ヒ、ソコニ溜リタル天水。きのうつほのみづ(半天河)ト同趣ニテ、藥用トナルモノ。古今著聞集(延壽)「大筒(ササエ)ハ、竹のきりよのたまり水」

たけのこ (名) 竹子 〔語路ハ木の子、菰(ハエ)の子ト同趣〕 竹ノ初生ノ名。孟宗竹ハ、最モ早ク、春ノ初ニ生ジ、はちく、コレニ次ギ、まだけ、又、コレニ次グ。皆、皮ヲ去リテ、煮テ食フベシ。食フニ就キテハ、たかむなトモ云フ。筍 笋 古今集、十八、雜、下「今更ニ、何オヒ出ヅラン 竹の子ノ、ウキフシシゲキ、ヨトハ知ラズヤ」 詞花集、九、雜、上「冷泉院へ、たかむな奉ラセ給フトテ、ヨマセ給ヒケル、花山院御製、世ノ中ニ、フルカヒモナキ、たけの子ハ、我ガヘムトシヲ、奉ルナリ」 赤染衞門集「オヤノタメ、昔ノ人ハ、ヌキケルヲ、竹の子ニヨリ、見ルモメヅラシ」 伊勢集、十二「ウメノ木ノ、カタハラナル、たかむなヲヌク」

たけのこいしや (名) 筍醫者 〔藪醫者ニモナラヌ程ナル義〕 術ノ極メテ拙劣ナル醫者ヲ嘲リテ云フ語。

たけのこがさ (名) 竹子笠 竹籜(タケノカハ)ヲ綴リテ作レル笠。箬笠 宗長手記、大永、[illegible]「床ニ褒、竹のこ笠カケ、ワラウダヲ敷キテ」

たけのこがひ(タケノコ・ガイ) (名) 竹子貝 螺(ニシ)ノ類。形、たけのこニ似テ、長サ三四寸、美シキ斑アルモノアリ。近海ニ産ズ。

たけのこぎり (名) 竹鋸 (一)竹ニテ作リタル鋸。(二)古ヘノ刑具。竹ニテ作リタル鋸ニテ、罪人ノ首ヲヒキ斬ルモノ。東武實錄、[illegible]、松平忠之[illegible]、云云、捕ヘテ路頭ニサラシ、竹鋸ヲ以テ首ヲ引ク事、七日ニシテ之レヲ殺ス」

たけのその (名) 竹園 〔史記、梁孝王世家「孝王、竇太后少子也、愛レ之、賞賜不レ可二勝道一、於レ是、孝王築二東苑一、方三百餘里」注「正義曰、云云、俗人言二梁孝王竹園一也」ノ故事ニ起ル〕 親王、皇子ノ異稱。皇族。 夫木抄、三十五、親王「色カヘヌ、竹の園ナル、幾萬代ノ、春ヲ待ツラム」(親王ヲ賀セル歌) 同、廿二、園「竹の園、マガキノ菊ノ、ニホフ神、イク千代露ニ、ヌレテホスラン」

たけのそのふ(タケ・ノ・ソノウ) (名) 竹園生 前條ノ語ニ同ジ。竹生。 徒然草、第一段「竹の園生ノ末葉マデ、人間ノ種ナラヌゾ、ヤンゴトナキ」 玉葉集、七、賀「ツカヘツツ、行スヱ遠ク、タノムカナ、竹のそのふニ、代代ヲカサネテ」 新後拾遺集、十七、雜、下「サモコソハ、竹のそのふノ、末ナラメ、身ニウキフシノ、ナド繁ルラム」

たけのと (名) 竹戸 竹ニテ造リタル戸。貧家ノ狀ニ云フ語。 夫木抄、三十、山家「フシナレヌ、替ヲバユルセ、竹の戸ニ、風モ[illegible]ノ、時モ來ヌラム」

たけのともしび (名) 竹燈 むすびとうだい(結燈臺)ニ同ジ。 夫木抄、十八、俳名「アマタタビ、竹のともしび、カカゲテゾ、三世ノホトケノ、名ヲバトナフル」

たけのは (名) 竹葉 〔酒ノ異名、[illegible]文字讀ニセル語。支那ニテ、竹葉靑(セウコウ)酒ノ三年目ナルヲ、〔其色アリ〕竹葉靑(チクエフセイ)ト云ヒシニ出ヅ〕 酒ノ異名。ササ。ちくえふ(竹葉)ノ條ニ見ヨ。[illegible] 竹の葉ニ、雛ノ菊ヲ、折リソヘテ、花ヲフクラム、玉ノ盃」 同、同「たけの葉ニ、ウカベル菊ヲ、カタブケテ、ワレノミシヅム、ナゲキヲゾスル」

たけのひ (名) 竹樋 竹ニテ造リタル樋(トヒ)。 [illegible]、四、中云「山ヨリワヅカニ落クル水ヲ、オノオノ竹のひドモヲ、銘手ニヤリツツ」

たけのふし (名) 竹節 [illegible]かげ([illegible])ニ同ジ。

たけのまる (名) 竹丸 紋所ノ名。竹ノ葉ノツキタル幹ヲ[illegible]ネテ、圓[illegible]タルモノ。

たけのみ (名) 竹實 おねんご(自然粳)ニ同ジ。[illegible]

たけのみや (名) 竹宮 次條ノ語ニ同ジ。

たけのみやゐ (名) 竹宮 伊勢[illegible]ノ御座所。又、竹のみや。[illegible] 名) 竹宮 [illegible] スル所ハ、たけのみやゐトナム云ヒケル、云云、天照大神、御座ノ代ナレバ、都ヲサシテ、多氣の都ト云フト云ヘリ」 [illegible] 散木集、五、祝「トキハナル、竹のみやゐノ、石ナレバ、ウレシキフシヲ、カゾヘテゾシル」

たけばやし (名) 竹林 たかばやし(竹林)ニ同ジ。

たけび (名) [illegible] 神代紀、上「[illegible]」

たけふ(タケ・ウ) (名) 竹生 (一)竹ノ生フルコト。(二)たけのそのふ(竹園生)ニ同ジ。

たけ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(自動、四) 健猛 [illegible]

[illegible]、[illegible]ヲ出ス、[illegible] 紀、十八年八月、[illegible]、於軍中云云 [illegible]

だけふ (名) 妥協 〔正韻「妥、安也」說文「協、衆之同和也」〕 雙方ノ折合[illegible]コト。[illegible] ツレアヒ。トケアヒ。

たけぶんがに (名) 武文蟹 〔尊良親王ノ臣、秦武文、元弘ノ亂ニ兵庫ノ海ニ死セル靈ガ化セリトテ、名ツク〕 へいけがに(平家蟹)ニ同ジ。 [illegible]、十八、[illegible] 秦武文[illegible] 武文ノ事[illegible]

たけべ (名) [illegible] 古代ノ[illegible]

たけべら (名) 竹篦 へら(篦)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

たけほら (名) [illegible] 竹ヲ切リテ作リ[illegible]シテ、吹キ鳴スモノ。又、[illegible]

たけみかづち (名) 武甕槌 [illegible]ノ神ノ名。[illegible]

たけみつ (名) 竹光 [illegible] 竹ヲ削リ、刀身ニ代ヘテ用ヰルモノ。(二)[illegible] 又、其刀身。[illegible]

中「弱者ハたけみつ故、浮キテ流レル」(二)鈍刀ヲ嘲リテ云フ語。

たけん (名) 他見 他人ニ見スルコト。又、他人ノ見ルコト。好色一代男(貞享、西鶴)二「長レ語リウナヅキテ、他見ツナサズ、秘シテ箱ニ納メ置キクル」「他見ヲ許サズ」

たげん (名) 多言 多ク物言フコト。口數ノ多キコト。饒舌 詩經、鄭風、將仲子篇「仲可レ懷也、人之多言、亦可レ畏也」 左傳、昭公十三年「言以レ考レ典、典以志レ經、忘レ經而多レ言」

たげん (名) 他言 たごん(他言)ニ同ジ。 國語、楚語「凡百箴諫、吾盡聞レ之矣、寧聞二它言一」(它ハ、他ニ同ジ)

たけや (名) 竹屋 (一)竹ヲ賣ル人、又其家。(二)竹ニテ、カリソメニ造リタル家。竹小屋。 菅聞集、十九、草木「たけやヲ造リテ、黑木ノ屋ニナゾラヘテ」

たけやがみ (名) 竹屋紙 紙ノ一種。羊羹ト云フ油紙。煙草入ヲ製スルモノ。やうかん(羊羹)ノ條ヲ見ヨ。

たけやり (名) 竹槍 竹ノ幹ノ梢ヲ殺ギ尖ラセ、油ヲ塗リテ炙リテ、槍ノ用トスルモノ。 信長公記「其ノ折リ節、竹槍ニテ扣キ合ヒ御覽ジテ」

たけり (名) 陰 〔猛りノ義。靜岡縣ニテハ遊牝ト云フ〕 牛、鯨、膃肭獸ナドノ陰莖ヲ藥用トスル稱。牡陰。勢

〜たける (名) 梟帥建 〔建ハ健ノ省字。たけるハ、猛るノ意ニテ、武勇者ノ義〕 猛キモノ。威勢アリテ猛キ者。上代、己レガ猛キヲ恃ミテ、其地方ニ威ヲ奮ヒ居リシ夷族ノ長ノ稱。 神武紀「時國見岳上、則有二八十梟帥一」註「梟帥、此云二多稽屢一」 景行紀、十二年十二月「厚鹿文、迮鹿文者、是兩人、熊襲之渠帥者也、衆類甚多、是謂二熊襲八十梟帥一」 古事記、中

(神武)上「土雲八十建在二其室一云云、故爾天神御子之命以、饗レ賜八十建二」(以上、八十ハ數多ノ意) 同、同卷(景行)中「倭建命、誂云伊奢合レ刀、爾各拔二其刀一之時、出雲建不レ得レ拔二詐刀一」

たけ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 猛 猛クナル。アバレル。 宗良千首、戀「アラチヲノ、カル矢ノ先ニ、猛る猪モ、人ノ憂キニゾ、身ヲバカフナル」

たけ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 哮 聲高ニ、ノノシル。タケリチラス。たけぶ(健)ニ同ジ。 名義抄「吼、哮、タケル、サケブ、ホユ」 字鏡二二「讀、噪、言也、伊比保己留、又、太介留」

たけ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 物ニ觸レテ情セマル。感ズ。 雄略紀、廿二年正月「大龜便化爲レ女、於是、浦島子、感以爲レ婦、相逐入レ海」

✤たけ・る (動) 長 たく(長)ノ口語。

〜たけを (名) 猛夫 猛キ武士。壯士。マスラヲ。 萬葉集、二十「物部ノ、臣ノ壯士ハ、大王ノ、ヨサシノママニ、聞クト云フモノゾ」 同、十九「カラ國ニ、行キ足ラハシテ、歸リ來ム、マスラ多家乎ニ、ミキ奉ル」

〜たこ (名) 馬脊瘡 馬ノ病ノ名。荷摩ノ胼胝。 倭名抄、十一 牛馬病「馬脊瘡、多胡」

たこ (名) 凧 〔風巾、又、鳳巾ノ合字〕 風烈シキ時、顚倒セサセジトテ、繩ノ尻尾、數條ヲ附ク、狀、蛸ノ如クナレバ云フカ。たこのぼり(凧幟)ノ略。いかのぼり(紙鳶)ニ同ジ。紙鳶。紙老鴟。此種類ニ、字だこ、繪だこ、とんびだこ等アリ、繪ニハ龍、鶴、蘭、武者ナドアリ、奧州ニテハ、天狗旗ト云ヒ、上野信濃ニテハ、鷹ト云フトゾ。(天曆、天延ノ頃ニハ、和名ナカリシガ、倭名抄、四、雜藝具ニ「紙老鴟、世間云二師勞之一」ト見エタリ) 明曆二年正月町觸「町中ニテ子供、たこのぼり堅ク

アゲサセ申間敷候」又、いとめノ工合惡クシテ凧ノ俯仰スルヲ、水を汲む、又、めんくらふト云フ。(舞狂ふノ訛カト云フ) 寶鐵輪二享保「水を汲む、袖凧備レム、御菜ノ水」

たこ (名) 胼胝 〔堅凝ノ略〕 肉ノ堅ク凝リタルモノ。又、物ニ常住摩レタルニ因リテ、其局部ノ皮肉ノ強ク固クナレルモノ。胝 荀子、子道篇「手足胼胝、以養二其親一」 岩淵夜話「家康公、右ノ御手ノ指ノ中節四ツナガラたこニナリ、云云、強バリテスグニ延ビカネ候ヲ」 耳にたこト云フハ、度度聞クノ意。

たこ (名) 蛸䱇 〔たハ、手ノ轉、こハ、許多ノ意カ、或ハ、海鼠ノ義カト云フ。蛸ハ、漢名、海蛸子ノ略、蟰蛸ニ似テ、海中ニアレバ云フ。魚偏ニ作レルハ和訓ナリ〕 (一)海產ノ動物。烏賊ニ似テ差大キク、八脚、長大ニシテ、二鬚ナシ、足毎ニ、二條ノ疣相連リ、凸クシテ累累タリ。體小サク骨ナク、眼口ハ大キクシテ、身ト足トノ間ニアリ、全身白クシテ赤ミアリ、煮レバ深紅トナル。章魚 䱇 又、いひだこ、くもだこ、かひだこ、てながだこナドアリ。各條ニ注ス。 倭名抄、十九 鱗貝類「海蛸子、太古」 本草和名、下「海蛸、多古」 字鏡「䱇、太古」 齊明紀、四年七月「賜二沙尼具那等、鮹旗二十頭、鼓二面、弓矢二具、鎧二領一」 (二)天蓋ノ異名。其條ノ(三)ヲ見ヨ。 (三)地形ナド突キ固メ、又ハ、杙ナドヲ打込ムニ用ヰル具。圓柱形ノ木ニ、二本乃至數本ノ角ヲ付ケタルモノ、形、蛸ニ似ル故ニ云フ。又、かめトモ云フ。

たこ (名) 多故 事故ノ多キコト。雜儀ノ多キコト。 白居易詩「天時人事常多故」 史記、陳丞相世家「及二呂后時一事多故矣、然平竟自脫」

〜たご (名) 田子 〔子ハ舟子、馬子ノ子ト

同趣〕 田ヲ作ル者。苗ヲ植ウル女。田人。農民。 堀河百首、早苗「早苗取ル、たごノモスソモ、アラナクニ、濡衣ヲノミ、ナドカ着ルラム」 相模集「早苗引キ、モスソヨゴルト、云フ田子モ、我ガゴト袖ハ、シホトカラジナ」 題季集「ミチトホミ、山田ノサナヘ、ヒキツレテ、イソギテ見ユル、田子ノケシキハ」

たご (名) 擔桶 〔田籠ノ義ト云フ。或ハ云フ、田子桶ノ義、駿河田子ノ浦ノ汐汲桶ニ起ルト〕 (一)專ラ水ヲ擔フニ用ヰル桶。ニナヒヲケ。 (二)おえたご(肥桶)ノ略。其條ヲ見ヨ。

だこ (名) 唾壺 室ノ隅ナドニ置キテ、唾ヲ吐ク承トスル壺。又、灰吹。 世說、豪爽篇「王處仲每二酒後一云云、以二如意一打二唾壺一、壺口盡缺」 倭名抄、十四 澡浴具「唾壺」 內匠寮式「唾壺」 雅亮裝束抄、一「シタノコシノ奧ニ、だこノハコノフタヲ置キテ、唾壺ヲスヱタリ」

だご (名) 團子 だんご(團子)ノ略。其條ヲ見ヨ。 「エンセウ看ニだご中サウ」(ココハ銃丸ノ意、九州ニテ)

たごがしら (名) かごがしら(鉸具頭)ノ訛。かこ(鉸具)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

たごからげ (名) 蛸絡 衣ノ裾ヲ、所所マクリ上ゲテ、カラグルコト。 東海道名所記(萬治)三「濡レカタビラヲシボリ、たごからげニ裾ヲ絡ゲテ」

たこく (名) 他國 (一)我ガ生レノ國ナラヌ國。他鄉。異鄉。 禮記、曾子問篇「若宗子有レ罪、居二于他國一、庶子爲二大夫一、其祭也」 (二)ホカノ國ヘ行クコト。 狂言記、仁王「當所ノ住居モ成リマセヌニ因テ、他國イタサウト存ジテ、御暇乞ニ伺候イタシマシテゴサル」

たごさく (名) 田吾作 田子作 〔作ハ、太郎作、耕作、平作ナドノ作ト同意。作ノ

條ヲ見ヨ」農民ヲ卑シメテ呼ブ語。又、田舎人ヲ嘲リ呼ブ語。

たこし (名) 【鰖】 魚ノ名。詳ナラズ。今ノさごし(青箭魚)カト云フ。 倭名抄、十九「鱗介類「鰖、太古之、魚名也」」

たごし (名) 【腰輿】 〔手輿(タゴシ)ノ義。〕肩ニテ擔グ肩輿ト別ツ」 輿(コシ)ノ、人ノ手ニテ擡(モタ)ゲ行カシムルモノ。其高サ、腰ニ至ル。主上ハ鳳輦ナラヌ時、又ハ中宮ナド乗ラセタマフ。 倭名抄、十一「車類「腰輿、太古之」」 太神宮儀式帳「手輿」 内匠寮式「腰輿一具、注、長一丈二尺、廣二尺九寸、斗内長三尺、脚高五寸」 榮花物語、廿九、玉節「謁信皆歳候イツクシウシテマヰリタル、九十九歳ハたごしト云フモノニ乗セ奉リテ」

たごし (名) 【手越】 手ヨリ手ニ傳ヘテ運ブコト。 崇神紀、十年九月「運二大坂山石一云云、人民相踵、以手遞(ギテ)傳(ゴシ)而運焉、時人歌之曰、云云、多誤鮮ニ越サバ、云云」

たこたこ‐あゆみ (名) ヨタヨタアユミ。ヨヂヨヂアユミ。(おなべノ條ヲ見ヨ) 西行和歌談抄「兒ノたこたこあゆみタル歌ナリ」

たこ‐づきん (タコ・ズキン) (名) 【蛸頭巾】 頭巾ノ一種。頂ヲ圓クシ、縁ヲたこからげノ如ク、上ヘ、ククリ上ゲタルモノ。 常照愚草、頭巾御免ノ事「モトモトハ蛸頭巾ヲ專ラ用ヒ候ヒシ」

たこ‐つぼ (名) 【蛸壺】 蛸ヲ捕ル器。陶製ノ壺ニ、桐ノ木ノ浮(ウキ)ヲツケテ、一晝夜、海中ニ置キ、蛸、自ラ其中ニ入ルヲ捕ル。 猿蓑集、夏「蛸壺ヤ、ハカナキ夢ヲ、夏ノ月」

たごと‐のつき (名) 【毎田月】 信濃國更級郡冠着山(カムリキヤマ)ノ麓ニテ、中秋、稻ヲ刈リ、水ヲマカスレバ、田面一箇毎ニ、一ツノ月影ノ映ツルコト。イハユル十三景ノ一ナリト。 わがこころ(天明、菅江眞澄)ニ「[illegible]ノ謎ハ、トハズトモ知リナム、イツノ頭ヨリ誰イヒ初メシトモナウ、田毎ニ月ノウツレルハヲカシナド」

たこ‐にふだう (タコ・ニユウドウ) (名) 【蛸入道】 (一)たこ(蛸)ト云フニ同ジ。其頭、圓ク、入道頭ニ似タルヨリ云フ。(二)轉ジテ、坊主頭ヲ嘲リ云フ語。蛸坊主。

たこ‐のき (名) 【露兜樹】 樹ノ名。喬木又ハ灌木ニシテ直立シ、或ハ偃臥シ、幹枝ヨリ氣根(イキ)ヲ出ス。葉ハ革質細長ニシテ線形ヲナシ、頂ハ鋭クシテ基部ハ鞘トナリ、邊緣ト葉背ノ中肋脈トニハ齒牙アリ。花ハ雌雄異株ナリ、雌花ハ葉狀ノ花苞ノ腋部ニ攢簇着生シテ數多ノ小サキ穗狀花序ヲナシ、數花密生シ、頂生ノ複穗狀花序ヲナス。花蓋ナク、雄蕊ハ數多アリテ、花絲ハ相分離シ又ハ相連合ス。雌花ハ數多密集シテ圓頭狀ヲナシ、又ハ長橢圓形ノ肉穗花序ヲナシ、花蓋ト雄蕊トヲ有セズ。子房ハ數多アリテ、各其中ニ單一ノ倒生胚珠ヲ藏ム。柱頭ハ無柄ニシテ直ニ子房ノ扁平ナル上部ニ附着ス。此ノ植物ハ熱帶ノ產ニシテ、あふりかヨリぽりねしあニ至ルマデ廣ク播布ス。我國ニテハ、小笠原島特產ノ喬木ニシテ、山中ニ多シ。幹ノ高サ二丈乃至四丈許、幹枝ヨリ長キ氣根ヲ生ジ、下垂シテ地上ニ達シ、遂ニ土中ニ入ル狀、恰モ蛸ニ似タリトテ、此名アリ。雌木ハ葉間ニ花軸ヲ垂レ、球形ノ大ナル集合果ヲ結ブ。葉ヲ採リ、曬乾シテ席ニ織リ、又、提籃等ヲ製ス。幹ト氣根トノ纖維ハ強クシテ繩索トナル。又、果實ヨリハ砂糖ヲ製ス。又、臺灣、琉球ノ阿且(アダン)ナドモ、コレニ隷屬スト。(日本百科大辭典)

たこ‐のて (名) 草ノ名。さはをぐるま(澤紫菀)ノ異名。

たご‐のぼう (名) 【擔桶棒】 テンビンボウ。 今宮心中「賣人、辻[illegible]ミサ、[illegible]荷ウテ持ツヤ、擔桶ノ棒ニ」

たこ‐のぼり (名) 【凧幟】 いかのぼり(紙鳶)ノ條ヲ見ヨ。

たこ‐のまくら (名) 【蛸枕】 〔本朝食鑑、十、介「蛸枕、俗稱如レ字、[illegible]名、[illegible]俗[illegible]細、蛸魚得レ此物、當レ枕而眠故名、以見女之職[illegible]也乎」〕 介ノ名。海ニ產ス。形、圓ク高クシテ、大イサ四五分ヨリ二三寸ニ至ル。灰白色ナリ。面ハ、中央ヨリ、高クシテ、櫻ノ花ノ如キ紋アリ、腹ハ、平ニシテ、荷ノ葉ノ紋アリ、中央ニ小サキ穴アリ、是レロナリ。生ケルハ、外ニ短キ刺(トゲ)多ク、綠色、又ハ紫色ナリ。 [illegible]海燕 [illegible]

たこ‐ぼうず (タコ・ボウズ) (名) 【蛸坊主】 たこにふだう(蛸入道)ノ(二)ニ同ジ。

たこ‐はた (名) 【[illegible]】 [illegible]ノ、蛸ノ如キ旗ト云フ。たこ(蛸)ノ條ノ(二)ノ出典ヲ見ヨ。 [illegible]

た‐ゴフ (名) 【多劫】 [illegible]ナリ。こふ(劫)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]至ッテ多クノ歲月。 [illegible]

たこ‐ぶね (名) 【[illegible]】 [illegible]蛸ニ似テ、別ニ薄キ殼アリ、殼ノ形ハ、あうむがひノ如ク、黃白ニシテ文理アリ、大イナルハ七八寸、晴天ニ海面ニ浮ビ、二脚ヲ帆トシ、[illegible]脚ヲ櫂トシテ[illegible] [illegible]

たこ‐まくら (名) 【蛸枕】 たこのまくら(蛸枕)ニ同ジ。

た‐こん (名) 【多恨】 怨恨ノ情ノ多キコト。 [illegible]

た‐ごん (名) 【他言】 他人ニ語リ告グルコト。 [illegible]

た‐ごん (名) 【多言】 多クモノヲ云フコト。たげん。 [illegible]

たこ‐むら (名) 【[illegible]】 [illegible]

雄略紀、四年八月、虻(アム)疾飛來、嚙天皇臂(タヾムキ)、云云、天皇乃曰、讃曰、陛倶有前臓、云云」

たさめ (名) [眵] タダレメ。字鏡「眵、眵、万久、自、又、太太己目、又、太己目」

たご-をけ (名) [擔桶] 田子ノ擔ノ桶　ニナヒヲケ、タゴ。

たさい (名) [多才] 才智ノ勝レタルコト。書經、金縢篇「予仁若考、能多材多藝、能事鬼神」(材ハ、才ニ通ズ)「博學多才」

たさい (名) [多妻] 一人ノ夫ガ、二人以上ノ妻ヲ有スルコト。「一夫多妻」

たざい (名) [多罪] 罪多キコト。(過失、無禮ヲ詫ブルニ用ヰル詞) 書經、多方篇「要囚殄戮多罪、亦克用勸」

だざい (名) [墮罪] 罪人ニオツルコト。ツミビトトナルコト。謡曲、鵜飼「無間ノ底ニ墮罪スベカッシヲ、一僧一宿ノ功力ニ引カレ」

だざい-のそち (名) [太宰帥] 又、だざいのそつ。太宰府ノ長官、中古以來、多ク親王ヲ以テ之ニ任ズ。そつ(帥)ノ條ヲモ見ヨ。官位令「親王、云云、三品四品太宰帥、諸王諸臣、云云、從三位太宰帥」拾芥抄、中、本「大宰帥」注「大宰府、大都督府、都督、都督尹」

だざい-のそつ (名) [太宰帥] 前條ニ同ジ。

だざい-ふ (名) [太宰府] 又、宰府。オホミコトモチノツカサ。古ヘ、筑前國御笠郡ニ置カレタル府。更ニ古クハ、鎭西府ト云ヘリ。九國二島ノ事ヲ管領シ、兼テ(ソアテ)外蕃朝貢ノ事ヲ掌ル。四等ノ官ハ、帥、貳、監、典ニテ、帥ハ親王ノ任タリ。倭名抄、五「官名、太宰府、於保美古止毛知乃司」推古紀、十七年四月「筑紫太宰奏上言、百濟僧道欣、惠彌爲首、一十人、俗人七十五人、泊于肥後葦北津」原抄、下「聖武天皇天平十五年、始置筑紫鎭西府、先是有太宰府焉」文德實錄、四、仁壽二年二月、夫太宰府者、西極之大壤、中國之領袖也」

たざく (名) [短冊] たんざく(短冊)ノ中略。宇津保物語、國譲、中「銀(シロガネ)ニ作リモノシタル鑰(カギ)ドモ、たざく付ケツツ、イト多カル中ニ」

ださく (名) [駄作] 拙劣ナル製作。又、ツマラヌ著作。

だざけ (名) [駄酒] 風味ノアシキ酒。惡酒。雪女五枚羽子板(寶永、近松作)上「駄酒デモ打チクラッテ、唐辛ヲカッ嚙リ」

たざん (名) [他山] (一)他ノ山。ヨソノヤマ。(二)他ノ寺。ヨソノテラ。ホカノ寺院。謡曲、鞍馬天狗「一寺ノ賞翫、他山ノ覺エ、時ノ花タリ」

ださん (名) [打算] [打ハ助字ナリ] ソロバンヅク。見積ルコト。計リ數フルコト。計算。錢塘遺事(元、劉一淸)「賈似道忌害一時任事閫臣、行打算法以汙之」

ださん-てき (名) [打算的] 物事ヲナスニ、計算シテ取リ掛ルニ云フ語。ソロバンヅクニスルコト。

たざん-のいし (名) [他山之石] [詩經、小雅、彤弓之什、鶴鳴篇「他山之石、可以攻(ヲサム)玉」] 他ノ山ヨリ出デシ石ニテモ、我ガ玉ハ磨キ得ベシトノ意。轉ジテ、外ノ物ニ接シテ、自己ノ品性ヲ陶冶スルニ云フ語。

たし (名) [足] 足(タ)スコト。增シ加フルコト。又、オギナヒ。タスケ。補闕。狂言記、磁石「路錢ノたしニ致サウト存ジテ」「腹ノたし」

たし (名) [牛] [田鹿(カシシ)ノ義ト云フ] 牛ノ異名。東國ニ云フ。東雅、四、畜獸、牛「東國ノ俗ニハ、牛ヲたしト云フナリ、たしトハ田鹿ナリ」

たし (名) [他志] アダシゴコロ。コトゴコロ。フタゴコロ。異心。左傳、襄公二十一年「令尹似君矣、將有他志、雖獲其志、不能終也」史記、吳太伯世家「伍員知光有他志」

たし (名) [多士] 多クノ人士。アマタノ人才。詩經、大雅、文王之什、文王篇「濟濟多士、文王以寧」書經、多士篇「爾殷多士、弗弔、旻天大降喪于殷」

〜たし (動) [立] たつ(立)ノ活用、たちノ訛。(東國ノ古言) 萬葉集、廿 長歌「アラシヲモ、多志ヤハバカル、不破ノセキ、クエテワハ行ク、ウマノツメ」同、同四十「足柄ノ、ミ坂ニ多志テ、袖振ラバ、イハナルイモハ、サヤニ見モカモ」

〜たし・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 動詞ニ屬(ツ)キテ、望ミ欲スル意ヲ云フ語。其用法ハ、接尾語ノ如シ。月詣集「キキたしヤ、宿ヲタドリテ、ナクナミダ、ワスレ水トヤ、ナガレユクラン」萬葉集、六廿「オホナラバ、カモカモセムヲ、恐(カシコ)ミト、振痛(フリタキ)袖ヲ、忍(シノ)ビタルカモ」千五百番歌合「イザ如何ニ、深山ノ奥ヲ、尋ネテモ、心知りたき、秋ノ夜ノ月」徒然草、第一段「アリたき事ハ、マコトシキ文ノ道、作文、和歌」忠見集「夢ヲコソ、寐覺ノ程ニ、語リケメ、見たくマデニモ、ナリニケルカナ」

〜たし・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 痛(イタ)し、甚しノ意ニテ、接尾語ノ如ク用ヰル語。ハナハダシ。萬葉集、二十八「丹生ノ河、瀨ヲバ渡ラデ、ユクユクト、戀痛(コヒノイタガセ)吾弟、コチ通ヒ來ネ」(戀ヒシキリニテ、強ク云フ)「憂(ウ)たし」「愛(メデ)たし」「コチたし」「ラウたし」「後めたし」

たし (副) [慥] [正(タダ)しノ略ト云フ。たしニ、氣(ケ)ヲ冠ラシテ、けだしトナリ、氣(カ)ノ轉ノ氣ヲ添ヘテ、たしかトナル] タシカ。シカト。又、丁寧ニ。たしゝ(慥)ノ條ヲモ見ヨ。出雲國造神賀祝詞「倭文能大御心毛多親(タシ)ニ、彼方能古川岸」

たし (名) [他事] アダシゴト。ホカノコト、國事。史記、淮夫 [illegible]」

たし (名) [多事] (一)コトオホキコト。仕事ノ繁キコト。莊子、天地篇「富則多事、壽則多辱」(二)事變ノ數多(カズオホ)クアルコト。久、多難ナルコト。「國家多事」

たし (名) [多時] 多クノ時間。王安石詩「留連山水立多時」「沈思スルコト多時」

だし (名) [出] (一)出(イダ)スコト。(二)出風(ダシカゼ)ノ略。陸地ヨリ海上ニ向ヒテ吹ク風。北陸道ニテハ、東南ノ風。山陰道ニテハ、辰巳ノ風ノ稱。(南風) 船ヲ西北ナル日本海ヘ吹キ出ス風。(靜岡縣ニテハ西北ヲだしト云フ) (三)戰陣ニ、指小旗、幟ノ竿頭ニ種種ノ物ヲ着クルモノ。雜兵物語「指物ノ眞先ニ、出しト云フモノガアル、且那ノ出しハ酒林(サカバヤシ)ダ、見失ハヌヤウニ、云云」武者物語(元祿、松田秀任)「松田金七郎秀宣、云云、鹿ノ角ノ金ニテダミタルだしヲ出シ、武者押ヲシタリ」(四)冑人形ノ冑ノ上ニツケタル飾物。犬筑波集(寛永)三「ケヅリカケノ、冑ノだしハ鰹節」(五)にだしぢる(煮出汁)ノ略。三輪猶遊(享保、西河祐吉)謎「麵類ノ汁」ト隱シテ色茶屋、云云、是ヲ「端午ノ幟」ト云フ、心ハ「だし」ガイリマス」(筠庭雜考、四)

だし (名) [山車] [飾物ニ出ス意カ。だしぐるまノ略] 祭禮ノ附物(ツケモノ)、牛ニテ引カス馬鹿囃子、だんぢり。サンシャ。花車(ツクリ)。犬筑波集(寛永)三「上ニ付キタル人物草木等ノ作物(モノ)ノ名ナリ」狂歌(明和)「モトヨリモ、鹽ニマジハル、かみナレバ、祭祭ヘ、張リヌイテ出し」

だしあひ (名) [出合] 仲間同士、互ニ物ヲ出スコト。專ラ金錢ニ云フ。狂言記、八句連歌「夫レナレバ、出し合ひニ、致シマセウ」

✣だし-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [出合]

五ニ金錢ナドヲ出ダス。醵金ス。

だしいれ (名) [出入] いだすト、いるるト。シュツニフ。出納。俳諧新選、春「出し入れハ、雲ノ仕事ヤ、山櫻」

だしか (名) [出] 税金ノ稱。(靜岡)

だしかぜ (名) [出風] 〔船ヲ出スニ都合ヨキ風ノ意〕辰巳ノ風ノ稱。だし(出)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

たしかに (副) [慥] 〔字彙「慥、誠信也、守レ實而言行相應貌」たしか(一)ノ條ヲ見ヨ〕カタク。サダカニ。シカト。カナラズ。キット。字類抄「慥、タシカニ」字鏡、十二「切切、太志加爾」[illegible]紀、元年正月「馬子宿禰即便隨去、到於蘇我余而切謂之」孝徳紀、大化二年三月「有民明直心、懷國士之風、切陳諫、納於設置上」宇津保物語、嵯峨院、三十「人ヅテナラデ、御手ニたしかに奉レ」同、國讓、上、五十八「八月バカリニトハ承ハレド、たしかにハマダウケ給ハラズ」源、四、夕顔、四十「たしかにソノ車ヲゾ見マシ」同、九、葵、二十「タレトコソシラネ、たしかにノ給へ」宇治拾遺、六、第一條「たしかに妻ノタメニ、佛經ヲ書キ、クヤウシテ、トブラフベキナリ」萬葉集、十一、三十「慥たる、使ヲ無ミト、情ヲゾ、使ニヤリシ、夢ニ見エキヤ」

たしか・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [慥] 〔慥みるノ轉カ〕念ヲ入レテ慥ニ定ム。

✣**たしか・める** (動) [慥] 前條ノ語ノ口語。タシカナル所ヲ見屆ク。

たしき (名) [多識] 多ク事物ノ理ヲ識ルコト。易經、上象傳「天在山中、大畜、君子以多識前言往行、以畜其德」[illegible]「[illegible]之[illegible]身、不可不以[illegible]、[illegible]多識君子也」「[illegible]多識」

たしぎ (名) [田鴫] 鴫ヲ山鴫ニ別チテ云フ語。しぎ(鴫)ノ條ヲ見ヨ。

だしきて (名) [出切手] 德川時代、掛屋ガ[illegible]ヲ持チ來リテ、代金ヲ提出シタ[illegible]

ルモノニ交付セル領收書。(此書ハ現米、又ハ米券ヲ受取ルコトヲ得ルモノ)

だしぐるま (名) 〔飾物ヲ出ス車ノ意カ〕だし(山車)ニ同ジ。

だしこ (名) [出子] 金錢ヲ互ニ出シ合フコト。ダシアヒ。ダシッコ。

たしし (名) [田猪] 〔田獸ノ義〕牛ノ一名。(東國) 又、牛肉。(長崎)

だししぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [出澁] 金錢ナドヲ出スコトヲ澁ル。又、金錢ナドヲ出スヲ吝ム。

だしじる (名) [出汁] にだししる(煮出汁)ニ同ジ。

たしだか (名) [足高] 德川時代、役役ニ二千石高、三千石高ト定リアリ。家祿二千石ノ者ガ三千石ノ役ニ就ケバ、別ニ千石ヲ足シテ給セラルルモノ。

たじたじ (副) 小兒、醉人、ナドノ、タジロギ、ヨロメキ歩ム狀ニ云フ語。狂言記、米市「胸板ヲホウト突キ、たじたじトスル所ヲ」

たしだしに (副) [慥] たしに(慥)ノ條ヲ見ヨ。たしヲ重ネテ云フ語。たしに(慥)ノ條ヲ見ヨ。古事記、下(允恭)十二「笹葉ニ、打ツヤ霰ノ、多志陀志爾」霰、笹ヲ打ツ音ノ、ドシドシニノ意)

だしちゃ (名) [出茶] 煎ジ出シテ用ヰル茶ニ、センジチャ。インゲンチャ。泡茶[illegible]茶[illegible]、[illegible]、下、[illegible]ニ[illegible]シテ[illegible]、[illegible]元茶ト號ス、是ハコレ出し茶ナリ」

たじつ (名) [他日] ホカノ日。後ノ日。イツカ。[illegible]

だしづくゑ (名) [出机] [illegible]ノ[illegible]ク[illegible]

ドヲ做スル床。今ノ書院の床ナリト云フ。イダシフヅクエ。

だしゐ (名) [出居] [illegible]

たしな・し・キ・ケレ・ク・ク (形) [窘] [illegible] シ。スクナシ。[illegible]「醋鹹、タシナシ、サスラフ、シナケル」仁徳紀、六十七年十月「[illegible]」[illegible]

たしなみ (名) [窘] 窘ムコト。[illegible] 困阨。顯宗紀、白髮天皇二年十一月「[illegible]」

たしなみ (名) [嗜] (一)嗜ムコト。コノミ。スキ。嗜好。高野日記「リンチ・ラモ、我ガたしなみニ、思フナヨ、迎ヘ取ラムノ、誓ヒ損ミテ」(二)[illegible]「[illegible]」「武士ノたしなみ」女ノたしなみ」(三)ツツシミ。裝飾。「身ノたしなみノ良キ人」

たしな・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [窘困] 〔足無ノ意カ〕(一)窮シテ、セム、クルシム。辛苦ス。名義抄「窘、タシナム、セム、シメヨル」字類抄「[illegible]、タシナム」[illegible]「[illegible]」[illegible]コトハ、子ヲメグミテ親ノワザヲツガシメムトナリ」[illegible]紀、五年七月、注「不[illegible]、[illegible]」[illegible]、七年[illegible]月[illegible]古事記、中[illegible]神代紀、上、十「辛苦[illegible]」欽明紀、六年十一月「[illegible]」

(二)[illegible]

たしな・む [illegible]

たしな・む [illegible]

みテ好ム意カ〕(二)タシム。コノム。[illegible]

たしな・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [窘] [illegible]

たしに (副) [慥] 〔窘しノ略ト云フ〕カタク。シカト。シッカリト。丁寧ニ。[illegible]

だしぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [出拔] [illegible]ノ隙ヲ窺ヒ、先ンジテ事ヲナス。[illegible]

だしぬけ (名) [出拔] [illegible]

たしふ [illegible]

シブ、タシナブ」

たしまへ (名) 【足前】 足ラヌニ足ス分。オギナヒ。ツクロヒ。補闕。

たしみ (名) 【嗜】 タシムコト。タシナミ。コノミ。スキ。嗜好。

〔たしみだけ (名) 〔たハ發語、繁竹ノ義〕 繁ク生ヒ立テル竹。いくみだけ(叢竹)ノ條ヲ見ヨ。古事記、下(雄略)三十「モトニハ、イクミダケ生ヒ、末ベニハ、多斯牟陀氣生ヒ」

たし・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 【嗜】 〔たしなむノ約カ〕 タシナム。コノム。スク。字鏡「嫺、太志牟、又、阿支太留、又、己乃牟」

たしん (名) 【他心】 (一)他ノ存意。他意。戰國策、齊策、[illegible]其利乃有二他心一不可」 (二)フタゴコロ。アダシゴコロ。異心。

だしん (名) 【打診】 醫師ナドガ、内臓ノ健否ヲ診察スル爲ニ、局部ヲ指先ニテ輕ク打チ、其音響ヲ聽クコト。

たしんけう (名) 【多神教】 〔英語、Poly-theism. ノ譯語〕 多數ノ神ノ存在ヲ信ジ、ソレヲ崇拜スル宗旨。

だしもの (名) 【出物】 芝居ノ狂言ナドニ出ス戯曲ヲ云フ語。

たしや (句) 【多謝】 深ク忝ナキ意ヲ述べテ禮ヲ云フ語。厚ク禮ヲ述ブルコト。漢書、趙廣漢傳「至府、爲我多謝問趙君」

たしやう (名) 【多生】 數多ノ生死ヲ經ルコト。イクタビモ、生レカハリテ、出ヅルコト。蘇軾詩「多生宿業盡、一夜中氣存」

たしやう (名) 【他生】 〔今生ニ對ス〕 佛說ニ、來世ニ生レ出ヅルコト。今生以外、諸ノ世界ニ生ルルコト。又、他生ニ生レ出デタル際ニ結ビシ因縁ヲ、他生の縁ト云フ。(他生ハ、多生ノ誤用) 李商隱詩「海外徒聞更九州、他生未卜此生休」 袖振り合ふも他生の縁トハ、互ニ見モ知リモセヌ人ニ遭ウテ世話ニナルモ、皆因縁ニヨルト云フコト。謠曲、田村「一河ノ流レヲ汲ンデ、他生の縁アル旅人ニ」 同、遊行柳「草ノ枕ノ一夜ノ契リモ、他生の縁アル上人ノ御法」

たじやう (名) 【多情】 (一)情多キコト。情愛ノ深キコト。韓愈詩「多情懷酒伴、餘事作詩人」 (二)心ノ移リ易キコト。ウハキナルコト。ウツリギ。「多情多恨」

だしやう (名) 【駄餉】 〔餉ノ字ノ偏ヲ除キテ、讀ミタルハ、誤讀〕 馬ニツケテ送ル餉。旅中ノ食物。下學集、下、態藝門「駄餉、旅中食物、向或作着」 厨事類記(群書類從)十二「八幡行幸之時、於桂河駄餉供之、云云、馬ニツケテオクル餉ナレバ、駄餉ト云也」 吾妻鏡、一、治承四年七月廿四日「箱根山別當行實、差遣弟僧永實、令持御駄餉、參尋武衛」 同、六、文治二年九月七日「二品令出北深澤給、岡崎四郎義實獻駄餉」

だじやういつぺん (句) 【打成一片】 〔打ハ作スノ義〕 禪宗ニテ云フ語。物ニ打込ミテ、一意三昧ナルコト。又、一切ノ念慮ヲ忘ジテ、專心ニ坐禪工夫スルコト。碧巖錄、第六則「長短好惡、打成一片、一一拈來、更無異見」 坐禪用心記「如來端坐、少林面壁、打成一片、都無他事」

だじやうくわう (名) 【太上皇】 天子、位ヲ降リ居サセ給ヘル後ニ奉ル尊號。オリヰノミカド。オホキスメラミコト。太上天皇。略シテ、上皇。又、仙洞。ハコヤ。ヤマノミカド。カスミノホラ。出家サセ給ヘルヲ院ト申ス。又、太上法皇。法皇。史記、秦始皇紀「追尊莊襄王爲太上皇」 漢書、高帝紀「羣卿大夫、已尊朕爲皇帝、而太公未有號、今上尊太公曰太上皇」 紀略、前篇、弘仁十四年九月「皇帝再三苦請、太上皇固辭」 菅家文草、八「奉[illegible]院太上皇(宇多)勅、重請停尊號事」

だじやうくわん (名) 【太政官】 だいじやうくわん(太政官)ニ同ジ。

だじやうくわんさつ (名) 【太政官札】 明治元年閏四月ヨリ翌二年六月マデノ間ニ、太政官ヨリ發行セシ不換紙幣ヲ、十兩札、五兩札、一兩札、一分札、一朱札ナドノ種類アリ。同八年五月三十一日(一兩以下ハ九年五月三十一日)ヨリ共通用ヲ廢止セリ。

だじやうくわんちやう (名) 【太政官廳】 だいじやうくわんちやう(太政官廳)ニ同ジ。

だじやうくわんぷ (名) 【太政官符】 又、だいじやうくわんぷ。古へ、詔書ヲ頒布スル時、太政官ヨリ其被官ニ下ダシタル文書ノ稱。詔書御畫日ノ後、中務省ヨリ中務省ノ印ヲ捺シテ太政官ニ送リ、太政官、覆奏ノ後、御畫可訖リテ、詔書ヲ直寫シ、別ニ太政官ノ符文ヲ副ヘテ下ダス。コレヲ謄ト云フ。謄シ終リテ後、諸國ニ下ダス。コレヲ施行ト云フ。類聚三代格、十四、太政官符(天平勝寶三年九月四日)「應禁斷出擧私稻事、云云」

だじやうだいじん (名) 【太政大臣】 だいじやうだいじん(太政大臣)ニ同ジ。

だじやうてんわう (名) 【太上天皇】 前ノ天皇ニ奉リタマフ尊號。持統天皇ヲ初トス。オホキスメラミコト。サキノスメラミコト。上皇。だじやうくわう(太上皇)ノ條ヲモ見ヨ。公武大體略記「仙洞、天子御位ヲスベラセ給ヒ、太上天皇ノ尊號マシマシテ、院ノ御所ニ渡ラセ給フヲ、上皇、仙洞ナド申ナリ、又、和歌ノ道ニ、藐姑射山、綠ノ洞ナド申奉ルハ、院ノ御事ナリ」 源、三十三、藤裏葉「其秋、太上天皇ニナゾラフル御位、エ給ヒテ」 同、三十四、上、若菜、上「六條院モ、云云、御タウバリノ御封ナドコソ、皆同ジゴト、おりゐのみかどトヒトシク定マリ給ヘレド、マコトノ太上天皇ノ儀式ニハウケバリ給ハズ」 小右記、長和五年二月十四日「昨日、云云、被行太上天皇三條尊號之詔書事」 執次諸所記「享保廿年三月廿三日、尊號太上天皇、奉稱仙洞」

だじやうにふだう (名) 【太政入道】 太政大臣ノ入道シタルモノ。平家物語、一、殿下乘合事「タダ驕ケ破ッテ通ラントスル間、クラサハクラシ、ツヤツヤ太政入道ノ孫トモ知ラズ」

だじやうほふわう (名) 【太上法皇】 だじやうくわう(太上皇)ノ條ヲ見ヨ。類聚三代格、二、太政官符(延喜七年七月四日)「應加眞言宗年分度者四人事、右太上法皇(宇多)勅命曰」

たしやく (名) 【他借】 外ヨリ金錢ナド借入ルルコト。新永代藏(寶永、[illegible])二「他借ノ返辨、律義ナルヲ以テ」

だじやく (名) 【墮弱】【懦弱】【惰弱】 (一)氣性ノ弱キコト。勇ミ勵ム氣ノナキコト。イクヂナキコト。漢書、息夫躬傳「御史大夫賈延、墮弱不任職」 (二)勢力ノ弱キコト。左傳、昭公廿年「水懦弱、民狎而翫之、則多死焉」

だしやぐら (名) 【出矢倉】【出櫓】 (一)郭ノ外ニ出シ構ヘタル櫓。太平記、十四、將軍御進發大渡山崎等合戰事「寶寺ヨリ川端マデ、堀ヲ塗リ、堀ヲホリテ、高櫓、出櫓三百箇所ニカキ雙ヘタリ」 (二)やぐらノ最モ簡略ナルモノ。昇キテ移動シ得ルモノナレバ、かきやぐら

(昇幣)トモ云フ、(三)和船ノ艫ノ方ニ突キ出デタル矢倉、出屋根。

だしやね (名) 出屋根 前條ノ語ノ(三)ニ同ジ。

＊＊だ-じゃれ (名) 駄洒落 拙キ洒落。實ノナキ洒落。だ(駄、第二語)ノ條ヲ見ヨ。

た-しゅ (名) 多趣 趣多キコト。面白味多キコト。陳後主詩「園林多趣賞、桃李榮遊尋」

だ-しゅ (名) 舵手 カヂトリ。船ノ舵ヲ取ル人。カイトリ。カンドリ。

だ-しゅ (名) 唾手 事ヲナス時ニ、手ニ唾シテ勢ヲツクルコト。 唐書、褚遂良傳「遼[illegible]唾手可取」

た-しゅう (名) 他宗 己レノ信奉スル宗教ノ外ノ宗旨。アダシ宗教。

た-しゅつ (名) 他出 たぎゃう(他行)ニ同ジ。ヨソユキ。 酉陽雜俎(唐、段成式)「四日他出夜歸、中路忽遇一虎」

た-しょ (名) 他所 ホカノトコロ。ヨソ。 宋史、郭諮傳「俱諳三御史、皆徙居他所」 [illegible]

た-しょう (名) 他稱 「自稱ニ對ス」 文法ノ語。己レト相手トノ談話ノ上ニ、出ヅル人ヲ云フ稱。又、二人ノ間ニ話シ出ス他ノ人ノ名ニ代ヘテ云フ稱。即チ彼カれ、そやつ、かやつ、あやつナドノ類ナリ。第三人稱。「我、汝ト俱ニ彼ヲ訪ハム」

たしらか (名) 𤭖 「手瓮ノ轉」 瓦器ノ名。水ヲ盛ル瓶。 [illegible]

主計寮式、[illegible]」

たするし (名) 田印 田舎者ヲ云フ語、タノジ。キナカモノ。

たすれ-る (動) ずれッたしヲ倒ニシテ動詞トス。

〔たずろぎ (名) グヅグヅスルコト。ドサクサスルコト。 源、二、帚木「サルカタノヨスガニ思ヒテモアリヌベキニ、サヤウナランたゆろぎニ、タエヌベキワザナリ」

たずろ-ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) 逡巡 退轉 〔立チ動ク意ト云フ。ゆすろぐ、ゆずろぐナドト同ジ〕 (一)退キ引ク。退キテ、其所ヲ去ル。ヒルム。シリゴミスル。 退避 [illegible] 莊子、讓王篇「子貢逡巡而有愧色」 夫木抄、十九「雲晴レヌルカ、たゆろぐ雲ノ、絶間ヨリ、星見エソムル、村雨ノ空」 濱松中納言物語「イトドヨロヅたゆろぎ住ミタマヘル事ナドノ、アトカタモナクナリ」 [illegible]「朝夕ニ、ツタフ板田ノ、橋ナレバ、桁サヘタエテ、たゆろぎニケリ」 (二)敵シガタクアリ。劣ル。 宇津保物語、俊蔭、上廿「文ノ道ハ少シたゆ(ち、流布本)ろぐトモ、其ノスヂハ多カリ」 (三)カタムク。ナナメニナル。 著聞集、十、相撲「弘光、引キヌカント身ヲ動カシケレドモ、たゆ(ち、流布本)ろがザリケレバ」 月詣集、七、七月「風吹ケバ、カカルマガキモ、たゆろぎテ、イトドアダナル、朝顔ノ花」

だしをしみ (名) 出惜 金錢ナド出スヲ惜ムコト。シハキコト。リンショク。

た-す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 足 缺ケタルニ補フ。増シ加フ。ひたす(浸)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

だ-す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 出 いだす

(出)ノ約。或ハ熟語トシテ自動ニモ用キル、飛ビだす、逃ゲだす、ノ類、又、始ムルノ意ニモ云フ。書キだす、讀ミだす、ノ類ノ如シ。

た-ぜい (名) 多勢 [illegible] 人多キコト。又、人數ノ多キコト。

たぜう-けつ (名) 多數決 會議ニ、同意ノ人ノ多數ナル方ニ決ムルコト。

たすか-る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 助 〔たすけらる(被助)ノ約轉ナルト同例〕 (一)助ケラレテ免ル。救ハレテ用立ツ。 命拾ヒシタリ。死ヲ免ル。 [illegible] (二)手助ケトナル。

たすき (名) 手繦 手襷 [illegible] (一)上代、神事ノ時、肩ニ懸クル紐ノ如キモノ。背ニテ打交ヘタルガ如シ。謹ミテ物奉ルニ、手ノ力ヲ助クルナリト云フ。(上代ノ衣ハ筒袖ナリ、又、膳部ノ供物ナドヲ[illegible]ニ觸レムヲ恐レテ束ヌルモノ。 [illegible]

[illegible] 文、染文ナドニ、線ヲ斜ニ打交ヘタル [illegible]

たすき [illegible]

たすきがけ (名) 襷掛 (一)タスキヲカケテ立チ働クコト。タスキヲカケタル状 [illegible] (二)欄ナドノ絡ガヤウ、又、物ノ模様ナドニ、斜ニ十文字ニ打違ヘタルモノ。(三)小兒ノ裝置ノ祝ニ用ヰル、[illegible]

たすきぞり [illegible] ニ手ヲ掛ケ、敵ノ手ヲ殺シテ、[illegible]カケタル如ク、敵ノ體ヲ負ヒツツ、後ロ反リナガラ投グルコト。タスキガケ。

たす-く・ク・ケ・カ・キ・ケ [illegible]

シム。テツダフ。助力ス。扶助ス。萬葉集、十三「シキシマノ、ヤマトノ國ハ、コトタマノ、たすくる國ゾ」竹取物語「旅ノ空ニ、たすくべキ人モナキ所ニ、イロイロノ病ヲシテ」(二)助ケテ免レシム。救フ。救。宇津保物語、菊宴「御身ハ戒ミ給ハジ、人ノ命ヲたすくトオモホシテ、此ノ事ナシタバカリ給ヘ」源、十五、蓬生「人ノ右ノ戸モヨロボヒ倒レタレバ、ヲノコドモたすけテ、トカクアゲサワグ」

たすけ (名) 助扶 タスクルコト。スケ。テツダヒ。助力。竹取物語「汝ガたすけニトテ、片時ノ程トテ、クダシシヲ」

たすけ-あごば (名) 助詞 ぢよどうし(助動詞)ニ同ジ。

たすけ-のほね (名) 肕 (助けの骨ニモアラムカ) かたはらぼね(肋骨)ニ同ジ。今、あばらぼね。倭名抄、三「身體類、肕、太須介乃保禰」

たすけ-ぶね (名) 助舟扶舟 難破ノ船、溺レムトスル人ナドヲ救ハムトテ出ヅル舟。スクヒブネ。救助船。救生舡 平家物語、九、六箇度合戰事「助舟ニ乘ラントテ、細道ニ懸カリテ、汀ノ方ヘ落チ行ク」盛衰記、三十七、「經俊、船ノ事、濱ノ汀ニ迯出ツツ、沖ノ船ニ馳人、船ニ乘ラントゾ迷ケル、助舟モ多ク有ケレドモ、ソモ然ベキ人人ヲコソ乘ケレ」

たす・ける (動) 助 たすく(助)ノ口語。

た-せい (名) 他姓 ホカノウヂ。己レト異ナル姓。異姓。

た-せい (名) 他世 [今世ニ對ス] 又、たせ。佛教ノ語。未來ノ世。アノ世。觀無量壽、捨身他世、必生淨國、心得無疑」

た-せい (名) 多勢 人數ノ多キコト。オホゼイ。平治物語、一、紀州早馬立事「多勢ヲ以テ無勢ヲ擊ツコト、常ノコトナリ」史記抄(文明)十四「多勢ニ無勢ハ、カナハヌモノヂャホドニ」

だ-せい (名) 惰性 (一)物理學ノ語。運動ノ第一定律ノ性ニテ、物體ガ外ヨリ力ノ作用ヲ受ケザル間ハ、ソノ靜止、又ハ、運動ノ狀態ヲ變ゼザルコト。慣性。習慣性。(二)在來ノ癖、又、イキホヒ。

た-せう (名) 多少 (一)多キト、少キト。史記、南越尉佗傳「越素聞ニ伏波名、日暮、不レ知ニ其兵多少」(二)多キコト。杜牧、詩「南朝四百八十寺、多少樓臺烟雨中」孟浩然、詩「夜來風雨聲、花落知ニ多少」(以上ノ詩ノ少ノ字ハ、帶說ナリ)

た-せう (副) 多少 幾何カ。イクラカ。

た-せん (名) 多錢 (一)金錢ノ多キコト。(二)金錢ヲ多ク所有スルコト、又、資本金ヲ多ク有スルモノ。ちやうじや(長者)ノ條ヲ見ヨ。韓非子、五蠹篇「鄙諺曰、長袖善舞、多錢善賈」

だ-せん (名) 攤錢 略シテ、攤ト云フ。ぜにうち。だ(攤)ノ條ヲモ見ヨ。杜甫詩「白日攤錢高浪中」

だ-せん (名) 兌錢 [正韻「兌、貤易也」] 金錢ヲ換フル賃錢。兩替錢。曾清錄、五、食貨「大板金ヲ以テ小板金ニ易ヘ、小板金ヲ步金ニ易フルニハ、皆兌錢ヲ出ス、俗ニ是レヲ切賃ト云フ」

だ-せん (名) 唾腺 唾液ヲ分泌スル腺。口腔內ノ耳ノ下ト、顎ノ下ト、舌ノ下トニ、左右各一對アリ。唾液腺。

た-ぜり (名) 田芹 (一)せり(芹)ニ同ジ。(多ク田ニ生ズル故ニ云フ) 更級日記「イクチタビ、水ノ田ぜりヲ、摘ミシカド、思ヒシコトノ、露モカナハヌ」(二)石龍芮ノ異名。

たそ (句) 誰なるぞト、問フ語。源、八、花宴「アナムクツケキ、コハたそトノ給ヘバ」後拾遺集、十六、雜、二「人ノ局ヲ、シノビテタタキケルニ、たそト問ヒ侍リケレバ」宇治拾遺、二、十一條「ココニ人ノ音スルハ、たそトシノビヤカニ、イフケハヒ」

だ-そう (名) 馱送 荷ヲ馬ニ負ハセテ送ルコト。

た-そ-がれ (名) 黃昏 [誰そ、彼カト見分ケ難キ義。たそがれ時ノ下略。弓張月ノゆみはりト同例] 夕。暮方。タソガレドキ。源、四、夕顏七「ヨリテコソ、ソレカトモ見メ、たそがれニ、ホノボノ見ユル、花ノ夕顏」同、廿六、常夏七「たれがれノオボオボシキニ」同、三十三、藤裏葉六「たそがれモ過ギテ心ヤマシキホドニ、マウデ給ヘリ」新古今集、三、夏「たそがれノ、軒端ノ荻ニ、トモスレバ、穗ニ出デヌ秋ゾ、下ニコトトフ」

たそがれ-ぐさ (名) 黃昏草 ゆふがほ(夕顏)ノ異名。

たそがれ-づき (名) 黃昏月 夕方ニ入ル月。陰曆二四日頃ノ月。謠曲、源大夫「忍ビ出ヅルヤ、キサラギノ、たそがれづきモ、ハヤ入リテ」

たそがれ-どき (名) 黃昏 [たそがれハ、誰そ彼ノ義、彼人ハ、誰たるぞ、ノ意、薄暗クシテ、人ノ顏ノ、見ツケラレスヲ云フナリ。曉ニ云フかはたれどきト同ジ心ナリ] ユフ。ユフガタ。クレガタ。彼は誰時ト云フニ同ジ。略シテ、たそがれ。源、四、夕顏廿四「光アリト、見シ夕顏ノ、白露ハ、たそがれ時ノ、ソラメナリケリ」宇津保物語、菊宴四十六「夕暮ノ、たそがれ時ハ、ナカリケリ、カクタチヨレド、トフ人モナシ」拾遺集、十六、雜、春「足引ノ、山ホトトギス、里ナレテ、たそがれどきニ、名ノリスラシモ」六帖、五「墨染ノ、たそがれ時ノ、朧夜ニ、アリテシ君ニ、サヤニ逢ヒ見ツ」源、廿三、初音二「御前ノ梅、ヤウヤウ、紐解ケテ、あれはたれどきナルニ」河海抄「たそがれどきナリ」

たそがれ-どり (名) 黃昏鳥 ほととぎす(時鳥)ノ異名。

た-そく (名) 多足 (一)少ナキヲ多クシ足スコト、オギナヒ。タシマヘ。補足 (二)足ノ多キコト。又、其モノ。「多足類」

だ-そく (名) 蛇足 だそく(蛇足)ニ同ジ。

たそぶ (名) [田遊ノ轉カ] ぢあそぶ(地遊)ニ同ジ。

だ-ぞめ (名) 馱染 染物師ノ、他ノ色ハ染メズ、紺ノミ染ムルヲ業トスルモノ。又、紺物ヲ染メズ、木綿ノミヲ染ムルコト。嬉遊笑覽、二、上「昔ハ紺屋ニハ、サマザマノ染物ハセサリシナルベシ、後世ハ紺バカリ染ルヲ、だぞめト云ヘリ」

たそや-アンドウ (名) 誰也耶行燈誰哉行燈 (一)古へ、江戶吉原遊郭ニテ、各妓樓ノ戶ノ前ニ挑ゲテ、往來ヲ照シタル木製方形ノ燈籠。屋根雨下作リナリ。守貞漫稿、二、娼家、下、たそや行燈「或人曰、たそやあんどうハたそがれあんどうノ訛ニ也、元吉原町ニアリシ時ヨリ、每院ノ戶前ニ建レ之、云云、今ニ至リテ江戶町及ビ以下妓館每ニ、戶前往來ノ正中ニ、此行燈一基ト天水桶上ニ手桶十バカリ積タルヲ必ズ置レ之、行燈ニハ終夜、燈ヲ挑テ往來ヲ照ス」(二)芝居ニテ、大道具方ヨリ造リテ、舞臺ニ出ダス木造ノ燈籠。

たた (名) はは(母)ト云フニ同ジ。(中國)

たた (名) 楯 たて(楯)ニ同ジ。古事記、中(神武)九「多多ナメテ、イナサノ山ノ、木ノ間ヨモ、イ行キマモラヒ、戰ヘバ」仲哀即位前紀「盾列陵(盾列、此云ニ多多那美ニ)」

たた (名) 縱 たて(縱)ニ同ジ。

た-た (副) 多多 [少少ニ對ス] 物ノ多キ狀ニ云フ語。史記、淮陰侯傳「上問曰、如ニ我能將ニ幾何ハ、信曰、不レ過ニ能將ニ十萬ハ、上曰、於レ君何如、曰、臣多多而益善耳」「多多益辨ズ」

〜ただ（名）徒 （一）何ノ廉モナキニ云フ語。何トモナキコト。ムナシキコト。宇津保物語、藏開、下廿「トキテヤル、衣ノ袖ノ、色ヲ見ヨ、ただノ涙ハ、カカルモノカハ」（二）ヨノツネ。ツネナミ。奇ラシカラヌコト。宇治拾遺、三、第十六條「ただ事ニハアラザリケリ」伊勢物語、六段「マダ、イト若ウテ、后ノ、ただニオハシケル時トヤ」源、五、若紫、「アマ君ただ人ト見エズ、四十アマリバカリニテ、イトシロウアテニヤセタレド」枕草子、九、九十七段「ただノ勝ヨリハ、ホコリカナリ」

ただ（副）徒 （一）何トモナク。何ノ事ナシニ。イタヅラニ。千載集、三、夏、時鳥、「鳴キツルカタヲ、ナガムレバ、ただ有明ノ、月ゾ殘レル」（二）價金ヲ出サズシテ。ロハ。狂言記、薩摩守「コナタニ、ただ乘セル秀句ヲ、ヲスヘテ進ゼウ」「ただ取ル」「ただ貰フ」

〜ただ（副）唯・惟・只 （一）是レノミ。外ニハ無ク。モハラ。萬葉集、十六廿「モノミナハ、アタラシキヨシ、唯人ハ、フリタルノミシ、ヨロシカルベシ」源、一、桐壺廿「ただ此人ゆゑニテ、アマタサルマジキ人ノウラミヲオヒシ」（二）イッソノコトニ。餘事ヲ措キテ。ヒタスラ。竹取物語「ココチただシレニシレテ、マモリアヘリ」[illegible]、一、上「ただ泣キニノミ泣キマサル」續古今集、十二、戀、二「憂キ身ヲバ、我ダニ厭フ、厭へただ、夫ヲダニ同ジ、心ト思ハム」同、十三、戀、三「ただ頼メ、タトヘバ人ノ、僞ヲ、重ネテコソハ、マタモ恨ミメ」「ただ泣キ伏スノミ」（三）[illegible]。萬葉集、十七五廿「山カヒニ、咲ケル櫻ヲ、多太ヒト目、君ニ見セテバ、何ヲカ思ハム」源、一、桐壺六「日日ニオモリタマヒテ、ただ五六日ノ間ニ、イトヨワウナレバ」「ただ二三日ノ間」

〜ただ（副）直 （一）ヂキニ。タダチニ。スグニ。萬葉集、六十八長歌「淡路ノ島ノ、直向フ」源、三十、若菜、一「ただ、此ノ[illegible]ニシモ、[illegible]テ行フ尼ナリケリ」枕草子、六、五十八段「タタミナド、ホウトタテオクト見レバ、ただツボネニ出デテ」

（二）マルデ。ソックリ。アタカモ。萬葉集、六廿「月タチテ、唯三日月ノ、眉ネカキ、ケ長ク戀ヒシ、君ニ逢ヘルカモ」源、三十六、[illegible]「[illegible]頭ツキノヲカシサ、ただ、兒ノヤウニ見エ給ヒテ」

だだ（名）父 チチ（父）。越後岩船ニテ、だだ。安房ニテ、だだァ、父、ごご。安房、下總ニテ、チャチャ。テテ。

だだ（名）駄駄 「否だ否だ、ノ轉カ」小兒ノ、クネリムヅカルコト。又、ワガママノリ、スネルコト。やんちゃんニ同ジ。其條ヲ見ヨ。「だだヲコネル」

〜たたあはせ（名）立合 相撲ノ行司。江家次第、八、相撲召合「立合進出（裝束同相撲長）」日本書手鑑、七、相撲召合「立合、今之行司[illegible]」[illegible]忠百首、下「たたあはせ、弓トル方ヲ、カタヒカン、左ズマヒノ、強ク見ユレバ」

ただい（名）多大 甚シク多キコト。寡カラヌコト。タクサン。「多大ノ困難」

だたい（名）墮胎 産婦ノ分娩期ヲマタズシテ、人爲ニヨリテ、胎兒ヲ産ミ出スコト。コオロシ。[illegible] 四十九、天保十三年十一月晦日、御觸「女醫師ト唱ヘ懷妊[illegible]、云云、其ノ中ニハ、[illegible]カリオキ、[illegible]ニ相聞エ」

だたいこ（名）大太鼓 オホダイコ。[illegible]六尺三寸ノ[illegible]太鼓[illegible]。たいこ（太鼓）ノ條ヲ參見セヨ。[illegible]

〜ただいま（副）只今 今、マノアタリ。今、スグサマ。[illegible]イマ、[illegible]時也」[illegible]七年八月「[illegible]於朋友曰、天下[illegible]一、第四段「此ノ翁丸打チテウジテ、犬島ニ遣ハセ、ただいまト仰セラルレバ」

だたう（名）[illegible] 〔[illegible]〕[illegible]コト。

たたうがみ（名）疊紙 〔たたみがみノ音便〕（一）又、フトコロガミ。紙ヲタタミテ懷中シ、不時ノ用ニ供フルモノ。ハナガミ。（常ニ懷中シテ鼻紙トスルハ、杉原紙二十枚ヲ五ツニ折リ[illegible]ハ鳥子紙、檀紙、又ハ、[illegible]ム、五色ナル[illegible]。又、[illegible]箔ナド散ラシタルモ用ヰル。束帶衣冠ノ時ハ、懷中スルハ多ク色目ノモノヲ用ヰ、布衣ナドニハ[illegible]ヲ用ヰル）源、[illegible]（二）[illegible]又ハ、漆ナド塗リテ、折目ツケテ、四ツニ[illegible]ノ用トシテ、種種ナル物ヲ入ル。[illegible]たうナドモ、コレナリ。

〜ただうど（名）徒人 [illegible] 徒然草、第一段「一ノ人ノ御アリサマハ更ナリ、ただうどモ、舍人ナド給ハルキハハ、ユユシト見ユ」

〜ただか（名）直處 アリサマ。起居。消息。[illegible] 又、カナタニアル人ノ上ノコトヲ、コナ[illegible]

〜たたかひ（名）鬪戰 （一）タタカフコト。[illegible]合戰。戰爭。[illegible]

たたかひのには（名）鬪庭 [illegible]山ノ廣キ地ヲ云フ」[illegible]イクサノニハ。

たたかふ・ふ・フ・へ・ハ・ヒ・へ（自動四）鬪戰 [illegible]

（二）[illegible]合戰ス。戰爭ス。[illegible]

たたかは（名）[illegible]

たたき（名）[illegible]

きつち(叩土)ノ略。あはせつち(合土)ノ條ヲ見ヨ。(五)石切ノ語ニ、石面ニ、鑿キタル痕ノ如キ細カキ文ヲ作レルモノ。(六)漆塗ノ語ニ、細カキ皺ノ、又ハ、からおり(纐纈)ノ如キ文ヲ作レルモノ。(七)牛鳥肉ナドノ叩キタルモノ。(八)昔、編笠ヲ着テ、扇子ヲ持チ、手ニテ打叩キテ唄ヒシ物貰。(人倫訓蒙圖彙)

たたき‐あ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) 叩上 (一)タタキテ造リアグ。(二)技藝ヲ鍛ヘ練リテ上達ス。

✣**たたき‐あ・げる** (動) 叩上 〔大工ノ語カ〕 前條ノ口語。「長年たたきあげテ來タ腕」「見習カラたたきあげテ局長」

たたき‐がね (名) 鉦 〔敲金ノ義〕 佛具。鉦鼓(シヤウコ)ニ似テ、地ニ伏セテ、撞木ニテ敲キ鳴ラスモノ。又、ふせがね。略シテ、かね。本朝若風俗(貞享、西鶴)六「首ニ懸ケタル叩鐘ノ音マデ、シヲラシク」

たたき‐ゴマ (名) 叩獨樂 こま(獨樂)ノ一種。竹、或ハ木ノ端ニ木綿ノ細長キ切レヲツケ、コレヲ鞭トシテ、打チ擲キテ回ラスモノ。下ノ出典ヲ見ヨ。守貞漫稿、廿五「叩き獨樂、是レ亦獨樂ノ一種也、昔ヨリ在レ之歟、詳カナラズ、江戸等ニテ、天保頃、童部弄レ之、京阪ニハ行ハレザリシ、木ノ挽物也、白木ノママ彩リナシ、高サ一寸五分バカリ、是レヲ回轉セシムルニハ、上ノ如キ竹、或ハ木ノ端ニ木綿ノ細長キ截レヲツケ、是レヲ鞭トシテ、打チ擲キ回ラス故ニ、たたきごまノ名アリ、右ノ叩き獨樂ハ貝獨樂ヨリ工ミ出セル物歟、ト覺ユ、其形、乃チ貝ニ似タリ」

✣**たたき‐だいく** (名) 敲大工 腕ノ、未熟ナル工匠(ダイク)。

たたき‐つち (名) 叩土 あはせつち(合土)ノ條ヲ見ヨ。

〰**ただ‐ぎぬ** (名) 徒衣 染メ、又ハ、練リナドセヌ衣。天治字鏡「□、□也、綃也、阿也奈支ただきぬ」 宇津保物語、あて宮「二年ノ十一月ノウチ、装束(サウゾク)、カラアヤ、ただぎぬ、一ツマゼズ皆赤色」

たたき‐ばなし (名) 敲放 敲(タタキ)ノ刑ニ行ヒテ、乃チ、放(ハナ)チ遣(ヤ)ルコト。タタキバラヒ。(他ノ刑ヲ加ヘヌ意) 牧民金鑑、廿、文化元年三月、敲御仕置仕形「敲候者、スグリ箒ヲ親世ヨリニテ巻、長サ壹尺九寸、太サ四寸五分廻シイタシ、肩脊尻ヲ五ヒ遣ヒニ、背骨ヲ除、絶入不レ致樣敲、尤百姓町人者、其所役人共江爲レ見置、敲相濟、其役人共江引渡、無宿ニ候ハバ追拂候事」

たたき‐ばらひ(タタキバライ) (名) 敲拂 前條ノ語ニ同ジ。

たたき‐よぶらう(タタキヨジロウ) (名) 敲與次郎 とりおひ(鳥追)ノ條ヲ見ヨ。

✣**たたき‐わけ** (名) 敲別 叩分 所得ヲ雙方ニ分チテ、各其一分ヲ所有トスルコト。兩分スルコト。ヤマワケ。

たた・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 叩 敲 (一)〔シバシバ續ケテ打ツ〕 論語、子罕篇「我叩二其兩端一而竭焉」(盡與ノ義) 同、憲問篇「以レ杖叩二其脛一」孔安國注「叩、擊也」 史記、伯夷傳「叩レ馬而諫」(叩ハ扣ヘル意、諷見諫告也) 內裏式、元正朝賀、逢春門「左右兩門開訖、云云、大舍人詣二門外一叩(タタキテ)レ門曰、御履進」 竹取物語「門ヲたたきテ、車持皇子オハシマシタリト告グ」「鉦ヲたたく」「太鼓ヲたたく」「戸ヲたたく」 手をたたくトハ、兩ノ掌ヲ打チ合ハス。拍手。(二)傷(イタ)メムト擊ツ。毆。狂言記、河原新市「打ツナリトモ、叩くナリトモシヤレ」「人ヲたたく」(三)鳴ク。(水鷄(クヒナ)ニ) 拾遺集、十三、戀、三「たたくトテ、宿ノ夏戸ヲ、アケタレバ、人モ梢ノ、クヒナナリケリ」 金葉集、二、夏「夜モスガラ、ハカナクたたく、クヒナカナ、サセルトモナキ、柴ノカリヤヲ」 和泉式部集、上「夏ノ夜ハ、槙ノ戸たたき、門たたき、人ダノメナル、水鷄ナリケリ」 (四)オトナフ。訪問ス。款 賈島詩「僧敲月下門」(敲ハ訪フナリ) 孟子、盡心、上篇「民非二水火一不二生活一、昏暮叩二人之門戸一求二水火一、無レ弗レ與者、至足矣」 呂氏春秋「□□門而□」(款、叩也) 史記、太史公自序「海外殊俗、重レ譯款レ塞、請レ來獻見者、不レ可二勝道一」應劭注「款、叩也、皆叩二塞門一來服從也」 風のたたくトハ、風ノ吹ク意。衣笠內大臣「マバラナル、マシバノ扉、アケクレバ、峯ノ嵐ノ、何たたくラム」 水のたたくトハ、水ノ打ツ意。千載集、一、春、上「三室山、谷ニヤ春ノ、立チヌラム、雪ノ下水、岩たたくナリ」 口をたたくトハ、セハシク言ヒツヅクル。口ヒビラカス。物言フヲ罵リ云フニモ用ヰル。その說を叩くトハ、其說ヲ問フ意。底を叩くトハ、拂ヒ盡スノ意。

たたく・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) タタクレルヤウニス。破レ損(ソコナ)フヤウニス。傾城反魂香(寶永、近松作)上「裃ノ裾蹈ミたたくって、ニラミツケ」

たたくれ (名) タタクレルコト。又、タタクレタルモノ。破損。東海道名所記(萬治)六、島原「敝足袋(ウス)ノ筒ノたたくれヲナホシ」(其頃ノ筒ハ長カリキ)

たたけ (名) 狸 たぬき(狸)ノ異名。(家貓(ネコ)ト混ズ、注意スベシ) 本草和名、下、八「狸骨、虎狸、猫狸、又、有狐、一名、雜材、一名、鼠豹、一名、鼠狼、和名、多多介」 名義抄、三「狸、タヌキ、タタケ、ネコマ、イタチ」 同、四「貍、タヌキ、タタケ」 字類抄「狸、タヌキ、タタケ、猫狸、タタケ」 康頼本草、下、獸部下品「狸、一名猫、ネコ、又、太太計」 十二類歌合繪巻物「拔毛たぬき、カラキ命生キテ、塚ニカクレ居タリケルガ、云云、萬ノ鳥ケダモノヲカタラヒツツ、云云、たたけノ筆ヲソメ、花ノ紙ニ文ヲカキテ、云云」 塵袋(弘安)四「帝範ト云フ文ニモ、鼠ヲトラフルたたけト云ヘリ」

たた‐け (名) 狸毛 タヌキノ毛。宇津保物語、藏開、下「三十筆ユヒノザイナン侍ル、イデツカマツレ、ワタリガタキカキモノハ、たたけユフコトナリ」 運歩色葉集「狸毛筆、タタケノフデ」

〰**ただ‐ごと** (名) 徒言 何ト云フ事(コト)モナキ言葉。アリノママノ詞。枕草子、十、百三十三段「□□ハ宮ニ、ヲカシウモ云フカナ、ナトズンゼサセ給フ、ただごとニハ、ウルサク思ヒヨリテ侍ルカシ」

〰**ただ‐ごと** (名) 徒事 ヨノツネノコト。普通ノ事。(變事ニ對ス) 竹取物語「此比(コノゴロ)トナリテハ、ただごとニモ侍ラザメリ」 宇治拾遺、三、第十六條「ただ事ニハアラザリケリ」

ただごと‐うた (名) 徒言歌 アリノママニ云ヘル歌。(歌ノ六義ノ一。六義(リクギ)ノ條ヲ見ヨ) 古今集、序「五ツニハ、ただごとうた」

〰**たた‐さ** (名) 縱 〔竪樣(タテサマ)ノ義〕 縱(タテ)ト云フニ同ジ。横ヲ、よこさト云フ。名義抄「衰、タタサ」 倭名抄、十七、道路類「道路、南北曰レ阡、多知之乃美知、東西曰レ陌、與古之乃美知」 成務紀、五年九月「隔二山河一而分二國縣一、隨二阡陌一以定二邑里一、因以二東西一爲二日縱(ヒタタシ)一、南北爲二日横(ヒヨコシ)一」(阡(南北ノ道)ニ「タタサノミチ」ト訓ジ、陌(東西ノ道)ニ「ヨコサノミチ」ト訓ズ) 孝德紀、大化二年三月「墓者、其內長九尺、濶五尺、其外域(メグリハタタサヨコサ)方九尋、高五尋」 萬葉集、十八、六二十「多多佐ニモ、カニモ與己佐モ、奴(ヤツコ)トゾ、吾ハアリケル、主(ヌシ)ノ殿(トノド)外ニ」(縱ニモ横ニモ、彼ニモ此ニモナリ)

〰**たた‐さ‐み** (副) 縱 タテザマニ。タテニ。前條ノ語ヲ見ヨ。

たた‐さま (名) 縱方 タテザマ。竪ナルサマ。名義抄「縱、タタサマ」

〰**ただ‐ざま‐み** (副) 徒樣 普通ノ如クニ。ナミノトホリニ。枕草子、五、四十七段「トノアキタルガアラハナレバ、琵琶ノ御琴ヲ、ただざまみモタセ給ヘリ」 同、九、百十段「澤水モゲニタダイトアヲク、見エワタルニ、上ハツレナク草生シゲリタルヲ、ナガナガトただざまみユケバ」

たたし（名）［縦］ たて（縦）ニ同ジ。成務紀、五年九月「因以東西爲日縦」

たたし（名）［糺］ 糺スコト。糺明。詮議。吟味。

ただ・し・シキ・シケレ・シク シク（形、二）［正］（一）直シ。アリノママナリ。曲レルコトナシ。（よこさまノ反）（二）〔善ク理ニ適ヘリ。〕邪ナラズ。正直ナリ。字鏡 卄「讜、太太志支己止、又、萬佐之支己止」土佐日記、十二月廿三日「此人、國ニ必シモ、イヒツカフ者ニモアラズ、コレゾただしきヤウニテ、ウマノハナムケシタル」今物語「當時、ただしき歌ヨミ多ク聞コユル中ニ」

ただし（接）［但］〔しハ、抑フル意ナル天爾波ノしナラム〕（一）〔上文ニ添ヘテ、別ニ其意義、或ハ條件ヲ強ク說ク語。名義抄「但、タダシ、タダニ」竹取物語「仰セノコトハ、イトモタフトシ、ただし、此ノ玉タハヤスクエ取ラジヲ」宇津保物語、俊蔭、上 卅「誰レカ、イヒマツハシ知ラセン、ただし命ノ後、女子ノタメニ、ケヂカキ寶トナラム物ヲ奉ラム」（二）又ハ。或ハ。若シクハ。「行クカ、但し止マルカ」

ただ・ぬ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［直知］ スグニ知ル。直ニ知ル。

たた・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）［立］（一）立ツノ敬語。古事記、上 三「故、於是天浮橋多多志弖」［illegible］神代紀、下［illegible］「臣ノ子ハ、帛ノ袴ヲ、七重著シ、庭ニ陀陀始（立し）テ、アユヒ化マモ」同、四年八月、長歌、［illegible］ヲ［illegible］カシテ、玉［illegible］ノ、［illegible］ニ陀陀伺（立し）、云云、サ［illegible］ツト、我ガ陀陀［illegible］バ」萬葉集、十三 卄 長歌［illegible］シニ、［illegible］ハ立志、［illegible］ニ、吾ハ立チテ」同、十九［illegible］「［illegible］川、［illegible］ヲ［illegible］ハ、［illegible］心ナグサニ」同、廿 六十「高圓ノ、峯ノ上ノ宮ハ、荒レヌトモ、多多志シ君ノ、［illegible］志レメヤ」同、二［illegible］長歌

「吾大君ノ、立たせバ、玉藻ノゴトク、コロブセバ、川藻ノ如ク」（二）出立ツ、出發ス、ノ敬語。萬葉集、［illegible］長歌「［illegible］」テ」

ただ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［正］（一）［正］シクナス。善ク改ム。ナホス。源、三十四、下、［illegible］、トモスレバ［illegible］ツ、［illegible］ヲサヘ拭ヒただしテ」「誤ヲ正す」「容ヲ正す」（二）誤レリヤ否ヤヲ問フ。質問ス。［質］字類抄「質、タダス」（三）〔理非ヲ究メ分ツ。〕糺明ス。詮議ス。吟味ス。［糺］名義抄「［illegible］、タダス、カムガフ」源、十、榊 九「國ツ神、ソラニコトワル、物ナラハ、ナホザリゴトヲ、マヅヤたださン」新古今集、十八、雜、下「車ヨリ紅ノ衣ヲ出ダシタリケルヲ、撿非違使ノたださントシケレバ」「邪正ヲただす」「罪ヲただす」

たたすつかさ（名）［彈正臺］〔糺司ノ義〕 だんじやうたい（彈正臺）ニ同ジ。倭名抄、五 五 官名「彈正臺、太太須豆加佐」

たたすのかみ（名）［糺神］ 御祖ノ神。京都ノ下賀茂ノ神。枕草子、八、九十一段、「イカニシテ、イカニ知ラマシ、僞リ、空ニただすの、神ナカリセバ」［illegible］內侍集「イノリクル、我カ片［illegible］ノ、ナカゴトヲ、オソクただすの、神ニモアルカナ」

たたずまひ（名）［佇］（一）タタズマフコト。［illegible］立チタル容子。アリサマ。源、十、榊 五「庭ノたたずまひモ、ゲニエンナルカタニウケバリタルアリサマナリ」同、一、桐壺 三十「里ノ殿、云云、モトノ木立、山ノたたずまひオモシロキ所ナルヲ」同、二、帚木 十「公私ノ人ノたたずまひ、善キ悪シキコトノ、目ニモ耳ニモトマルアリサマヲ」同、五、若紫 二「山ノ櫻ハ、マダ盛リニテ、云云、霞ノたたずまひモ、［illegible］カシウ［illegible］ユレバ」同、十九、［illegible］タガヘル、月日星ノ光見エ、雲ノたたずまひアリトノミ、世ノ人オドロクコトオホクテ」狭衣、三、上 廿八「月モオソク出、空モスミワリタレバ、雲ノたたずまひダニ、ハカバカシウモ見エズ」濱松中納言物語、

一「［illegible］ノたたずまひヲノツネナラズ」

たたずま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［佇］ たたずむノ延［illegible］子、一、第三段「女房ノノゾキケシキバミ、與ノカニたたずまふヲ」

たたずみ（名）［佇］ タタズムコト。タチドマルコト。［illegible］

たた・ず・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［佇］〔立チ息むノ約〕 暫シ立ツ。行クニ立チ止ル。イ。佇立。名義抄「徒倚、タタズム、佇、タタズム、マツ、トトマル、タテリ、ヤスラフ」源、六、末摘花 卄「ソノアレタルスノコニ、たたずまホシキナリ」［illegible］

たたたと（副） ヒタバシリニ走ル狀ニ。［illegible］ニ散［illegible］ヤアマチセムカラニ、出家スベキヤウヤアルト思フ心マタツキテ、たたたたと走リ出デラレニケリ」

たたち（名）［徑路］〔直通の路ノ義〕 スグミチ。［illegible］多多知」字鏡 十「徑、小路也、太太知」萬葉集、十二 廿四「月夜好ミ、妹ニ逢ハムト、直道カラ、吾ハ來ツレド、夜ゾ深ケニケル」後撰集、十六、雜、二「ただちトモ、頼マザラナム、身ニ近キ、衣ノ關モ、アリトイフナリ」

たたちに（副）［直］〔直路ニノ義〕（一）迂遠ナク。［illegible］（二）時ヲ歷ズニ。［illegible］接ニ。字鏡 十「徑、急也、太太知」［illegible］直ちに「萬事ヲ放下シテ」

ただっこ（名） ただヲ云フ小兒。ヤンチヤ。

ただっぴろい（形）［徒廣］ シマリナク廣

［illegible］「［illegible］」

たたて（名）［illegible］ 直直［illegible］ 入［illegible］「錦ガ［illegible］ノ、ハエマウマヤノ、ツツミ井ノ、ホリタマ［illegible］

たたなか（名）［直中］ 中［illegible］ 真中［illegible］セサテモ、太郎冠者メガ、中ムカシノ、ただ中ノ中シタ［illegible］ただ中ヘ［illegible］

たたなづく（他）〔疊就くノ約トイフ〕 タタナハリ周レル山ノ中ナル國、ト［illegible］ツクル語。青垣山ノ枕詞。古事記、中［illegible］山ノカサナレル［illegible］山ノ［illegible］ツレバ、シバシバ［illegible］河内ゾ」

たたな・は・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［疊］〔ただハ、重ナル義、なはるハ、おそなはる、うすなはるノなはるト同意〕 物ナドノ、縮マリ倚リ合ヒテ、タタマル。カサナル。［褻積］字類抄「［illegible］、タタナハル、クハシ、ツマヤツカ」［illegible］ノ、［illegible］「［illegible］」［illegible］ズツヤツヤトたたはり」

たたなめて（枕）［楯並］〔楯ヲ並べテ〕 楯ヲ並めて射ルトイフノ語。［illegible］ノ枕詞。古事記、中［illegible］萬葉集、十七［illegible］［illegible］

たたならず（句）［illegible］ 尋常ナ

ラズ、不實ナリ。六書故「宋、徽偁「今、呉方言、凡已詞、加ニ字、猶言不但已也」」 源、三、空蟬「ニツキホドニ、カクテトヂメント思フモノカラ、ただなかなかナカメガナナリ」 同、五、若紫「ソコノミルメモ、物ムツカシウナドノ給ヒテ、ただならずオモホシタリ」

ただなるよりは (句) 世ノ常ニハ。一通リニハ。普通ニハ。 源、五、若紫四十三「ウシロヤスクツカウマツレ、心ヲサナクモテナシ聞ユナナドノ給ハセツルモ、イトワヅラハシウ、ただなるよりは、カカル御スキゴトモ思ヒ出デラレ侍リツルナドイヒテ」 同、十三、明石四十「都ノ人モただなるよりは、イヒシニ違フトオボサンモ、心恥シウ思サルレバ」

ただみ (副) 徒 イタヅラニ。ムダニ。 六帖、五「君ガタメ、出デテ來ザリシ、月ダニモ、入ラテハただみ、歸ルモノカハ」

ただみ (副) 直 (一)タダチニ。ヂキニ。 萬葉集、四九十「吾妹兒ガ、形見ノ衣、下ニ着テ、ただみ逢フマデハ、吾レ脱ガメヤモ」 古今集、十四、戀、四「御シトハ、誰カ名ヅケケム、事ナラム、死ヌトゾただみ逢フベカリケル」 (二)ヂカニ。マノアタリニ。マサシク。直接ニ。 古事記、中(神武)二十「嬢女ニ、多陀ニ逢ハムト」 萬葉集、十一五十「吾背子ニ、直ニ逢ハバコソ、名ハ立タメ、事ノ通フニ、何カソコユヱ」 同、十七二十 長歌「夢ニハ見レド、現ニシ、多太ニアラネバ、戀シケク」 (三)眞直ニ。 古事記、中(景行)四十「尾張ニ、多陀ニ向ヘル、尾津ノ崎」

ただみ (副) 啻 ヒトリ。タダ。 漢籍讀ヨリ轉ジタル語、此語ノ下ニハ、ノミナラズ、ノミナラムヤ、ト云フ語ヲ用ヰル例ナリ。 書言、秦誓篇「不啻如自其口出」

ただみ (副) 徑 ただみ(直)ノ條ノ(二)ニ同ジ。 神代紀、上十二「徑坐席上」

たたぬ・ヌ・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ (他動、下二) 疊 重ネテ立ツヤウニナス。タタム。

ただのり (名) 只乘 賃錢ヲ出サズシテ舟、車ナドニ乘ルコト。 狂言記、薩摩守「只乘ルニヨッテただ乘り」

たたは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔滿ふ狀ヨリ云フ〕 (一)大イニ滿ツ。滿チ足フ。 萬葉集、二廿七長歌「春花ノ、貴カラムト、望月ノ、滿波之ケムト」 同、十三七長歌「イツシカモ、日足ラシマシテ、十五月ノ、多田波思ケムト、吾カ思ヘル、皇子ノ命ハ」 (二)轉ジテ、大キク嚴ナリ。 名義抄「偉、タタハシ、タクマシ、イカシ」 字鏡「傀、偉也、勢也、太太波志」 綏靖卽位前紀「少有雄拔之氣、及壯容貌魁偉」 景行紀、二年三月「容貌魁偉、身長一丈、力能扛鼎焉」 靈異記、上、第一縁「當放光明炫、天皇見之、恐倖進幣帛」訓釋「偉、多タ波シク」 源、十四、澪標廿二「ノノシリテマウデ給ヒトノケハヒ、ナギサニミチテ、たたはしきカンタカラヲモテツヅケタリ」(或本)

ただびと (名) 凡人 〔徒人ノ義〕 (一)音便ニ、ただうと。ナホヒト。ヨノツネノヒト。アリノママナル人。ナミノヒト。 名義抄「凡俗、タタヒト」 遊仙窟「凡俗」 神代紀、下廿「樹下有一貴客、骨法非常」 垂仁紀、九十九年十二月「常世國、則神仙祕區、俗非所臻」 推古紀、廿一年十二月「先日臥于道飢者、其非凡人、必眞人也」 同、三十二年四月「夫道人猶犯法、何以誨俗人」 源、三十四、上、若菜、上「コノ宮ヲ預リテハグクマム人モガナ、ただ人の中ニハアリガタシ」 (二)官ナドニ就カヌ人。 源、五、若紫八「イトナヤマシゲニ讀ミ居タル尼君、ただ人ト見エズ」

だたひらほふし (名) 大太郎法師 だいだらぼっち(大太郎法師)ノ條ヲ見ヨ。

ただひろい (形) 駄駄廣 徒廣 座、徒ニ廣キナリト云フ。音便ニ、ただっぴろい。 文化の川柳「ただ廣い、蚊屋ニ風雅ナ、後家一人」(加賀千代「起キテミツ、寐テミツ蚊屋ノ、廣サカナ」)

たたふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 湛 滿ツ。充滿ス。滿チテ流レズ。 名義抄「湛、タタフ、張、タタヘリ、渗、タタフ、タタヒアガル、タタヒカヘル」 夫木抄、廿四、雜「キヨミ川、出ヅル瀨ニ、潮滿テバ、堰カレテたたふ、浦ノ入海」 最勝王經音注「盈、多多不、溢、太太不」 山家集、下「世ノ中ニ、スマヌモヨシヤ、秋ノ月、濁レル水ノ、たたふサカリニ」 神代紀、上廿七「時伊弉冊尊脹滿太高」私記「波禰多多倍利」 新古今集、十八、雜、下「海ナラズ、たたへる水ノ底マデモ、淸キココロハ、月ゾ照サム」

たたふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 湛 塞キ止メテ滿ス。 山家集、上「シノビネノ、ナミダたたふる、袖ノウラニ、ナヅマズヤドル、秋ノ夜ノ月」 同、下「ヨモスガラ、ウラミヲ袖ニ、たたふれバ、枕ニ波ノ、音ゾキコユル」 高陽院歌合判詞序「池ノ水ヲモたたへシメ給ヘルヲ」

たたふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 稱 〔前條ノ語意ニ同ジ。物事ヲ滿テ足ラハシテ言フノ意〕 褒メテ言フ。 太神宮儀式帳「天津祝詞ノ大祝詞ノ厚キ廣キ事ヲ、多多倍申ス」 推古紀、元年四月「父天皇愛之、令居宮南上殿、故稱其名謂上宮廐戶豐聰耳太子」

たたぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) ハカリゴトメカス。(策めくノ義)或說ニ、田ヲ賜ナフ(田賜ノ意) 萬葉集、廿四十「アカネサス、ヒルハ多多碑テ、ヌバタマノ、ヨルノイトマニ、摘メル芹コレ」

だだぶ (名) 小兒ノ、僧ノ讀經スル聲ヲ眞似テ云フ語。「ダダブタブダブト云フ」

たたふしのまひ (名) 楯節舞 吉士舞ニ同ジ。手ニ楯ヲ持チテ、節度トナスガ故ノ名ナリト云フ。タテフシノマヒ。 但シ、葬事、佛事ニモ奏ス。 持統紀、二年十一月「諸蕃賓客、適濱宮而慟哭焉、於是奏楯節儛」 續紀、十八、天平勝寶四年四月「盧舍那大佛像成、云云、雅樂寮及諸寺、種種音樂並咸來集、復有王臣諸氏五節、久米儛、楯伏、踏歌、袍袴等歌儛」

たたぶら (名) 胥 ただむき(胥)ノ古語 其條ヲ見ヨ。

たたへごと (名) 稱辭 德ヲ擧ゲ盡シテ、美メ言フコト、又、神德ヲ崇メタテマツル詞。 祈年祭祝詞「稱辭竟奉」 神代紀、上十二「使忌部首遠祖太玉命云云、廣厚稱辭祈啓矣」

たたへる (動) 湛 たたふ(湛)ノ口語。

たたへる (動) 稱 たたふ(稱)ノ口語。

たたま (名) 策 ハカリゴト。策略。 欽明紀、十六年二月「於是、天皇命神祇伯敬受策於神祇」

ただま (名) 手玉 古へ、飾トシテ手ニ着ケタル玉。 萬葉集、十四十「アシダマモ、手珠モユラニ、織ルハタヲ、君ガミケシニ、縫ヒアヘムカモ」

たたま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 立チサワグ貌ニ云フ語。 ホドバシリ立ツナリ。 夫木抄、廿六「荒磯ノ、岩モトユスリ、立ツ波ノ、たたましきマデ、濡ルル袖カナ」

たたまり (名) 疊 タタマルコト。カサナルコト。積ルコト。

たたま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 疊 疊ミタルヤウニナル。カサナル。積ル。 重 疊 積 重

たたみ (名) 疊 〔たたみ薦ノ略、重ネテ敷ク意〕 (一)〔タタミタルモノ〕 上代ハ、帛茵、草席、毛皮ノ類、スベテ重ネテ坐リ臥ス敷物。 古事記、上六十七「美智皮之疊敷八重、亦絁疊八重敷其上」 同、中(神武)二十二「葦原ノ、醜キ小屋ニ、菅多多美、彌清敷キテ、我ガ二人寢シ」 同卷(景行)十五「弟橘比賣命、云云、將入海時、以菅疊八重、皮疊八重、絁疊八重、敷于波上而、下坐其上」 萬葉集、十六九廿長歌「韓國ノ、虎ト云フ神ヲ、

云云、其皮ヲ、多多弱ニ刺シテ」(二)〔薦ヲ幾重モ重ネテ、一ツニ作リタルモノ。萬葉集、十二廿「逢フヨシノ、出デ來ムマデハ、疊薦、重ネ編ム數、夢ニシ見テム」枕草子、二、廿段「イト艶カナル板ノ端近ウ、鮮カナルたたみ一枚、カリソメニ打チシキテ、三尺ノ几帳、奥ノ方ニ押シヤリタルゾアヂキナキ」小馬命婦集「たたみノ中ヨリ、キリギリスノ五月バカリニ出デ來タレバ」(疑ナリ)源、十二、須磨十「ダイバンナドモ、カタヘハチリバミテ、たたみ所所ヒキカヘシタリ」(アゲテ裏ヲアラハシ、壁ナドニヨセテオク)(三)中古ニハ、藁ナドヲ心トシテ疊表ヲ表裏ニ着ケテ、縁ヲ添ヘテ刺シタルモノヲ、重ネテ用ヰキ。長疊、短疊、厚疊、薄疊、繧繝縁、錦縁ナド種種アリ。今ハコレヲ、あげだたみト云フ。一枚、二枚、幾帖トイヒキ。〔重席〕後ニ、敷詰トナリテ、貴人ノ爲ニ、敷詰ノ上ニ、又、座ヲ敷ク。上疊ト云フ。(總ジテ、古ヘハ、室中、スベテ板敷ニテ、主客ノ坐スベキ所所ニ疊ヲ設ケタリ。後ニ室中、敷詰トナル) 淨るり物語、使のだん「[illegible]緣ト高麗緣、二疊重ネテ敷カセツツ、云云、御曹司、ムズト直ラセタマヒケル」(四)又、草履、雪駄、下駄、ノ表ニ付クルモノ。藺、藁、籐、又ハ、竹ノ皮ヲ細ク裂キテ、編ミ作ル。

たたみあふぎ (名) 〔摺扇〕〔漢語、摺扇ノ文字讀ナラムカ。漢語、扇ハ、團扇ナリ、たたむうちはノ意。廣韻「摺、疊也」〕 あふぎ(扇)ニ同ジ。疊ムユエニ云フ。 雍州府志(貞享)七、土產門、檜扇「古、男女共用ニ蝙蝠扇、云云、其後用ニ摺扇、從ニ其輕一也」 [illegible]、二「摺扇、たたみあふぎ、撒扇、云云、三才圖會、卷十二(服玩具、扇)摺疊扇、一名撒扇、蓋、收則摺疊、用則撒開」摺疊扇、たたみあふぎ、一名、腰扇」

❖**たたみいほ** (名) クルブシ。つぶたき(踝)ニ同ジ。(仙臺地方)

たたみいわし (名) 〔疊鰯〕 鰯ヲ煮テ、薄ク、密ニ、縱横ニ並ベテ、乾シ固メテ帖トシタルモノ。(或ハ云フ、鯷ナリト) 重修本草[illegible]、廿九、いさざ、云云、[illegible]捺ヘ乾シタルヲ、ちらすぼし(江戸)ト云ヒ、又、たたみいわし(江戸)ト云フ」

たたみおもて (名) 〔疊表〕 藺草ノ類ノ莖ヲ緯トシ、麻絲ヲ經トシテ織レル席。疊ノ床ノ表面ニ被ヒテ綴リツク。備後表、近江表、琉球表等アリ。各條ニ委シ。

たたみかく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) 〔疊掛〕 ツヅケザマニナス。 [illegible]二重帷子(享保、近松作)上「帶グルグルト引キホドキ、疊みかけテ擲リ捨テ」「たたみかけテ斬ル」

たたみこむ・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 〔疊込〕 (一)タタミテ中ニ入ル。 好色二代男(貞享、西鶴)五「定家ノ三首、物ノ裏具外シテ、挾ミ置ニ、たたみ込み」(二)胸ニ摺ヘ込ム。心中ニ思ヒ入ル。 日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)五「故郷ニ語ル事ヅトハ、[illegible]シテカウシテ斯クシテト、女心ニ疊み込む、箱根ノ山ノ此方ナル」

〔**たたみこも** (枕) 〔疊薦〕 へト云フ語ノ枕詞。 古事記、中(景行)「[illegible]、多多美許母、平群ノ山ノ」 萬葉集、十一 四十長歌「疊薦、隔テ編ム數、通ハサバ、道ノシバ草、生ヒザラマシヲ」

たたみさし (名) 〔疊刺〕 疊ヲ刺シ作ルヲ業トスルモノ。タタミヤ。 七十一番職人盡歌合、中、四十四番、たたみさし「九條殿ニ何事ノ御座アルヤラン、帖ヲ多クササセラル」

たたみざはり (名) 〔疊觸〕 疊ニ足ナドノアタルコト。 [illegible]「色[illegible]ク手足荒レ、[illegible]」 〔疊觸〕りよしト云フハ、輕薄ナラズシテ、愛アル人ヲ云フ。(俚言集覽)

たたみざん (名) 〔疊算〕 婦女子ノスル古事、簪ナドヲ偶然ニ疊ノ上ニ落シ、落チタル處ヨリ、疊ノ編目ヲ端マデ數ヘテ、其丁半ノ數ニテ、事ヲ占フ。 佐夜中山集「目ヲスルスルモ、妹思フラシ、待ツコロハ、たたみニモ問フ、占ヤサン」心中重井筒(寶永、近松作)上「逢ゼウカ逢ゼマイカト、疊算置イテ見テ」 [illegible]ス、ソノフシニ、忘レヌ君ヲ疊算」

たたみ[illegible]る (名) 〔[illegible]水汁〕 たたみ[illegible]ノ[illegible]」

たたみすゐれん (名) 〔疊水練〕 はたけ[illegible]ゐれん(畠水練)ニ同ジ。

たたみち (名) 〔縱道〕 「たたハ、たて(縱)ニ同ジ」 タテノミチ。タテノスヂ。

たたみめ (名) 〔疊目布〕 わかめ(稚和布)[illegible]ヲ集メテ、干海苔ノ如クシタルモノ。 [illegible]集、十八、[illegible]アリケル[illegible]、たたみめニコモノコヲ、君ニシタリケルヲ見テ」

たたみや (名) 〔疊屋〕 たたみさし(疊刺)ニ同ジ。又、疊ヲ賣ルヲ業トスル家。

たたみら (名) 〔[illegible]〕 [illegible]ノ苗ノ[illegible]精米、[illegible]ト云フ[illegible]同ジ[illegible]上ノ[illegible]ノ條ヲ見ヨ」[illegible]小苗ニ同ジ[illegible]

たたむ・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 〔疊〕 (一)折返シテ重ヌ。積ミカサヌ。 夫木抄、廿六「山ハサマ、キビシクたたむ、岩角ニ、年經テ切レズ、[illegible]ノ絲カナ」山家集「月サユル、明石ノ瀬戸ニ、風吹ケバ、氷ノ上ニ、たたむ白浪」夫木抄、三十、[illegible]、九重ニ、たためル玉ノ、御階ヨリ、カタブク月ノ、ネリノボルカナ」「衣ヲ疊む」「屏風ヲ疊む」(二)俗ニ、取片付ケテ他ヘ移ス。「所帶ヲたたむ」(三)セメツク。イヂメル。 好色一代女(貞享、西鶴)三「[illegible]ノ別チモナク數レカケテ、云云、蛇ノ如ク、此ノ男、次第次第ニたたまレテ」

たたん (名) 〔[illegible]〕 [illegible]ハ、仕事ノ[illegible]コトナド、[illegible]事件、[illegible]

〔**ただむき** (名) 〔臂腕〕 ハ手ト[illegible]ノ義、[illegible]ニ合ハスレバ、肩ヨリ臂ヲ向股ト云フ如シ。[illegible]臂、[illegible]曲、[illegible]也、[illegible]ベキモノニテ、うでくびナレド、通ズルベシ」肘ヨリ腕頸マデノ間。[illegible]ニ[illegible] 「[illegible]、末末是肱、一云、[illegible]」[illegible]ゲ、タダムキ、[illegible]

たたんつき (名) 此月ノ次ノ月。來月。 [illegible]所ニマカリ、たたん月バカリニサムマカリカヘルベキトイヒケレ」[illegible]、アフコトノ、カタサザリケル、ミドリゴノ、たたんつきニモ、アハジトヤスル」

〔**ただめみ** (副) 〔直目〕 マノアタリ。目前ニ。直面ニ。 萬葉集、十六「[illegible]目見ソ、[illegible]、[illegible]

ただもの (名) 〔只物〕〔直物〕 尋常ノ人。 [illegible]、二「[illegible]ヤアランドコソ思ヒツレ、サラニコレハ、ただもの ニハアラズ」[illegible]

ただもの (副) 〔直物〕 ヒタスラ。ヒタスラ一向ニ。 [illegible]あめアテ ク、[illegible]カル」

たたゆら (副) [illegible]

ただよは・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [漂] (一)漂フ狀ニテアリ。(二)〔堅固ナラズ〕落着カズ、浮キテアリ。定マラヌ狀ナリ。源、三十四、下、若菜、下「タダ御後見ナクテ、ただよはしくオハシマサムヨリハ」同、七十七「頼ミタル親ノ顔ナドノヤウニ、マダ、イト、ただよはしケニオハス」(病後ノ狀)

ただよは・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [漂] 漂フ如クニナス。名義抄「瀁、タタヨハス」萬葉集、十二廿「秋風ノ、吹キ漂蕩ス、白雲ハ、タナバタツメノ、アマツヒレカモ」源、一、桐壺「無品親王ノ外戚ノヨセナキニテハ、ただよはさジ」

ただよ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [漂] 〔湛ふニ通ズ〕浮ビテ一處ニ止ラズ。動キテ定ラズ。イサヨフ。タユタフ。源、四、夕顔「直人ナマテハただよふナルノ、イヅレノ道ニサダマリテ」後拾遺集、十五、雜、一「岸トホミ、ただよふ浪ハ、中空ニ、ヨル方モナキ、ナゲキヲゾセシ」齊明紀、六年十月「唐人乘[illegible]我[illegible]、[illegible]蕩[illegible]我[illegible]、[illegible]長君臣[illegible]」同、七年五月、注「[illegible]西南風、[illegible]海中迷途、漂蕩辛苦」續紀、下、[illegible]「[illegible]東風頻降[illegible]、漂流大洋、流出[illegible]」「[illegible]多[illegible]比天」源、二、帚木、十「アシキ道ニモただよひヌベクゾオボユル」同、四十三、竹河、十「フムソラモナウ、ただよひアリキテ」「舟漂ふ」雲漂ふ」波漂ふ」

たたら (名) [蹈鞴] 〔叩き有りノ略轉、蹈ミ鞴カス義〕 ふいがうノ大ナルモノ。足ニテ蹈ミテ、空氣ヲ送ル、大ナル鑄物ヲ造ルニ用ヰル。倭名抄、十三、鍛冶具「蹈鞴、太太良、用韛字、非也」神代紀、上、四「蹈鞴、此云多多羅」字鏡保[illegible]、吹上、下、二「コレハ[illegible]鑄物師ノ所、[illegible]トモ集リ、たたら蹈ミ、物ノコカタ鑄ナドス」堀河百首「たたらたて、フケバマガネモ、ワクモノヲ、戀ニトケセヌ、人ヤナニナル」

たたら (名) [爐] 爐ノ類ナルベシ。字類抄「鑪(爐ナリ)、タタラ」塵袋抄、二、廿四、造酒事、付、古來雜寶破損事「大嘗會ノ火桶、元三ノ御藥温ムルたたらナドハ、世ノ始マリノ物ナリシガ」

たたら (名) [鑢] 田ノ器。からすき(犂)ニ同ジ。

だだらあそび (名) [駄駄羅遊] (一)無意味ナル遊ヲナスコト。ツマラヌアソビ。(二)豪奢ナル遊。豪遊。

ただらか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [爛] 爛ルルヤウニナス。

たたらふ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 〔祟りおきノ義〕 モノノ煩ハシキナドノアルサマ。たたらめ(䓀)ノ條ヲ見ヨ。

✣**だだらだいぢん** (名) [駄駄羅大盡] 遊郭ナドニテ、金錢ヲ浪費シテ、豪遊スル客。猶、大盡ノ條ヲモ見ヨ。

たたらづか (名) 〔たたりがた(楯)ヨリ轉ズ〕 勾欄ノ柱ノ、方木ヲ戴クモノ。

たたらへい (名) [蹈鞴塀] 築城法ノ一。下ノ出典ヲ見ヨ。築城記「大手ノ口ニサシ出ダシ候ウテ、中町許ニ内ニ塀四五間許付ケ、外ニカガリヲ搆ク也、是レヲたたら塀ト云フ也、又ハ出ばりの塀トモ云フ也」

たたらめ (名) [䓀] 〔爐ニテ、火ノ赤キニ云フカト云フ〕 今ノ田枯。紅、黃、二色アリ、專ラ紅花ヲ云フ。字鏡、廿六「䓀、太太良女」政事要略、六十七、衞門府、風俗歌「多多良女ノ、花ノ色ノ如、搔練好ムヤ、滅紫ノ色好ムヤ」源順集「ヲリヲリニ、匂フたたべノ、梅ナレバ、惜シメドカヒナ、花ノ匂ヒヤ」(たたべハたたらめノ約、紅梅ナラムト云フ、富士谷成章ノ歌仙家集) 內膳司式、漬[illegible]菜二料、多多良比賣花搗、三斗、料鹽三升」(紅梅ノ蕊ヲチギリテ、鹽漬ニシタルナラムト云フ) 神樂歌、得錢子(御廚子所女官)「得錢子ガミヤナル、志米結フ檜葉ヲ、誰カ手折リシ、得錢子ヤ、太太良古支ヒバヤ」(たたらめノ花葉ヲ扱クヲ職トスル名ナラムト云フ) 源、六、末摘花、二「たたらめノ花ノゴト、(風俗歌二、笠ノ山ノ處女ヲバステテ(亦風俗歌)ト歌ヒスサビテ出デタマヒヌルヲ、ナホ命婦ハイトヲカシト思フ、云云、寒キ霜朝ニカイネリ好メル花ノ色合ヤ見エツラム」(常陸ノ君ノ鼻ノ赤キニ添ヘテ云ヘリ)

ただらめ (名) [䝞] 〔爛目ノ義〕 ただれめ(爛目)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

たたり (名) [祟] 祟ルコト。鬼神、又ハ、もののけナドノ禍ヲナスコト。宇治拾遺、四、第一條「物ノケニツキテ云フヤウ、オノレハたたりノ物ノケニテモ侍ラズ、ウカレテマカリ通リツル狐ナリ」大和物語、上「ナラノハノ、ハモリノ神ノ、マシケルヲ、シラデゾヲリシ、たたりナサルナ」夫木抄、三十六、旅「道ノベニ、たたりナスナト、ミソギシテ、關モル神ニ、ヌサ奉ル」

たたり (名) [絡垜] 〔立有ノ約〕 (一)方ナル臺ニ、柱ヲ立テ、絲ヲ絡ヒ引キカクルモノ。關西ニテハ今モ云フ。絲卷。關東ニ、繰臺。倭名抄、十四、蠶絲具「絡垜、多多理」字類抄、太「絡垜、タタリ」天治字鏡、七、廿六「梶、絲、絲柎、太太利」肥前風土記「絡垜、謂多多利」大神宮式「金銅多多利、高一尺一寸六分、土居徑二寸六分」(臺板ニ柱ヲ立ツ) 神祇令義解「臺杜」龍田風神祭祝詞「金ノ椯」萬葉集、十二、十六「ヲトメラガ、ウミヲノ多田利、ウチソカケ、績ムトキ無ニ、戀度ルカモ」源、四十七、總角「ムスビアゲタルたたりノ、スダレノツマヨリ」(二)たたりがた(楯)ノ略。

たた・り・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、良變) 立ちてありノ約。萬葉集、廿、卅「松ノ木ノ、並ミタル見レバ、イハ人ノ、吾ヲ見送ルト、立たりシモコロ」枕草子、十一、百四十三段「ツクヅクトクシウ立たれタリシ」

たたりがた (名) [楯][楯欄] 〔絡垜形ノ義、形似タリ〕 (一)柱ノ上ニ置ク方形ノ木。枡ノ上ノ枓。ますがた(枡形)ノ條ヲ見ヨ。略シテ、たたり。倭名抄、十居宅具「楯、多多利加太」名義抄「楯、タタリガタ」字鏡、一「楯、タタリ」(二)[illegible]ノ[illegible]所ト、[illegible]トノ間ニアル木。下ノ出典ヲ見ヨ。和漢三才圖會、三十五、農具、耒耜、和名、太太利加太、自二[illegible]一達二耒底一、[illegible]也」

たた・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [祟] 〔絶つノたたニ、敬語助動詞ノるるノ附キテ、絕ちたまふノ意〕 四段活用ニ變ジ、自動トナレルモノナルベシ。たばる、たまはる、たはるノ例、受身ナレド、はぶかる、だかるノ例モアリ〕 鬼神、禍ヲ降ス。罰ヲアツ。名義抄「祟、タタル」天治字鏡、十一、五「祟、神禍」祝、[illegible]、遂、[illegible]、祟、神祭」古今集、十九、誹諧「石ノ上、フリニシ戀ノ、神サビテ、たたるニ我ハ、イゾ寢カネツル」續紀、十四年十一月「卜筮對、[illegible]祟、於父時所祭佛神之心也」同、[illegible]集、六「柏木ノ、葉モリノ神ノ、たたらバヤ、ミカサノ山ヲ、サシハナルラン」

ただ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [爛] 〔徒荒るノ約カト云フ〕 腫レテ、皮肉傷ル。膚破ル。水氣湛フル。字鏡、七十二「䱟、魚乃爛[illegible]」新[illegible]集記、[illegible]年[illegible]爛、一日無休」竹取物語、十「目モただれニケリ」

だだ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [駄駄] 小兒ナドノ、ムヅケテ、ヤカマシクブリ。又、ダダヲコネル。

ただれ (名) [爛] タダルルコト。タダレタル狀。糜爛。

ただれぢ (名) [爛痔] 肛門ノ周圍ニ生ズル濕疹。

ただれめ (名) [爛目] 又、ただらめ。充血シテ、爛レ傷ルル目ノ病。タコメ。眵矇 字鏡、二「眵、太太禮目」倭名抄、三、九病「矇、多多良女」宋玉、風賦「中レ唇爲レ胗、得レ目爲レ矇」

✣**ただ・れる** (動) [爛] ただる(爛)ノ口語。

〔ただ-わたり (名) 直渡 水ヲ歩渉(カチワタリ)スルコト。徒渉。萬葉集、十四「利根川ノ、河瀬モ知ラズ、多多和多里、浪ニ逢フ如ス、逢ヘル君カモ」後撰集、五、秋、上「今日ヨリヤ、天ノ河原ハ、アセナナン、ソコヒトモナク、ただ渡りナン」

ただ-ゑもん (名) 只右衞門 〔擬人語〕 デンバウ。アブラムシ。アヲタ。

ただ-なり (名) トドマリ居ルコト。名義抄「止、タダヲリ、トドマル」

たち (名) 立 (一)立ツコト。(二)〔旅立〕首途(カドデ)。發程 萬葉集、廿「タチコモノ、多知ノ騒ギニ、相見テシ、妹ガ心ハ、忘レセヌカモ」(三)イデタチ。「二人立ノ往來」「二頭立ノ馬車」「三挺立ノ舟」(四)過ギ行クコト。經過 「月日ノたち」(五)燃エテ盡クルコト。消盡 「油ノたち」「蠟燭ノたち」

たち (名) 性質 〔おひたちノ略カ〕(一)ウマレツキ。モチマヘ。性(シャウ)。性質 又、馬ノ産地ヲ云フ語 七戸(シチノヘ)立、彦間(ヒコマ)立ノ類。(二)物ノ自然ノ成立。シヤウ。シヤウアヒ。「紙ノたち」

たち (名) 館 〔建(タチ)ノ義カ〕(一)〔又、ムロヅミ。官使ナドノ假ニ寓スル家。旅館。ヤカタ。倭名抄、十三居宅類「館、多知、一云、無呂豆美、客舍之也」[illegible]紀、六年十二月「物部大連方、欲發向難波館、宣勅於百濟客」欽明紀、三十一年七月「館[illegible]於相樂館」(二)貴人ノ第宅 源、十三、明石「娘ナドハ、岡邊ノ宿ニウツシテ住マセケレバ、コノ濱ノたちニ心ヤスクオハシマス」(三)城ニ似テ狹小ナルモノ。タテ。徒然草、六十八段「敵襲ヒ來タリテ圍ミ攻メケルニ、館ノウチニ、ツハモノ二人出デキテ、命ヲ惜シマズ戰ヒテ」

たち (名) 太刀 〔斷(タチ)ノ義〕(一)刃物(ハモノ)、細ソク長クシテ人ナドヲ斷チ斬ルベキモノノ稱。劒(ツルギ)。〔其條ヲ見ヨ〕上代ニハ、刀劒ノ總稱ニテ、スベテ諸刃(モロハ)ナリシガ如シ、其片刃ナルヲかたなト云フ。刀劒 倭名抄、十三、征戰具「刀、能太知」名義抄「劒、タチ」古事記、上、八千矛長歌「多知ガ緒モ、イマダ解カズ」景行紀、四十年十月「[illegible]一劒、[illegible]松下、云云、劒猶存、故歌曰、云云、一ツ松アハレ、一ツ松、人ニアリセバ、衣著セマシヲ、多知佩ケマシヲ」武烈即位前紀「(大太刀)ヲ、垂レ佩キ立チテ、拔カズトモ、末果シテモ、遇ハントゾ思フ」(二)〔後ニハ、片刃(カタナ)ナル刀ノ大ナルモノノ稱。大刀 倭名抄、十三征戰具「刀、似劒而一刃曰刀、大刀、太知、小刀、加太奈」天武紀、十三年二月「大氏之氏上、賜大刀、小氏之氏上、賜小刀」六帖、第五、大刀歌「カラ國ノ、フタヘノ太刀ハ、ムカシヨリ、君ノマモリニ、サダメヲキテキ」(三)後世ニハ、一種ノ製ノ大刀、窩ノ形ノ鍔ニ、縁頭(フチガシラ)、鐺(コジリ)、其外、金物多ク、嚴シク作リ、鍍金ナドシテ、鞘ニ二所ノ鐶ヲツケ、一ノ脚、二ノ脚(アシ)ト稱シ、緒(オビトリ)モ脚緒(アシヲ)ト稱シテ、鐶ニ通シテ佩ク。刃ノ銘モ、中心ノ表(佩キテ外ニ向フ方)ニ切ル。(かたなハ裏ニ切ル)太刀ニハ佩クト云ヒ、かたなハ帶ブト云フ。(かたなノ條ヲ見ヨ) 横佩 其製法ハ、打チアゲテ燒刃土(ヤキバツチ)ヲ附ケテ、火ニ入レテ燒キ、湯加減ト云ヒテ、湯ト水トニ合ハセタルニ、差入ルルコトナリ。是レ鍛刀ノ終ニテ、甚ダ大事トス。

たち (接頭) 立 〔接頭語。うち(打)ノ語原ヲ見ヨ〕動詞ノ意味ヲ強クスル語。「たち別レ」たち越エテ」たち添フ」たち消ユ」

〔たち (接尾) 達 〔立ノ義カ〕人ニ係ル名詞ニ添ヒテ、其黨ヲ統ベ云フ接尾語。等 萬葉集、十九三十五「大船ニ、眞梶シジヌキ、此ノ吾子ヲ、唐國ヘヤル、齋ヘ神多知」[illegible]公達コソ御送リ候フニ」「皇子達」「友達」「親達」「人達」

〔たち-あかし (名) 立明 たてあかし(炬火)ニ同ジ。炬火 名義抄「炬、タチアカシ」字類抄「炬火、タチアカシ」紫式部日記「立あかしノ、光ノ心モトナケレバ、[illegible]」[illegible]、立あかしノ[illegible]シロクセヨトイヒ」

たち-あが-る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 立上 (一)坐(スワ)レルヨリ起ツ。座ヨリ身ヲ起コス。復起 狂言記、富士松「ヤイ、ソコナヤツ、立ち上がれ」(二)タチマサル。勝ル。

たち-あはせ (名) 立合 相撲ニ云フ語。行司(ギャウジ)ノ古稱。タタアハセ。ぎゃうじ(行司)ノ條ヲ見ヨ。

たち-あひ (名) 立合 (一)タチアフコト。出合フコト。[illegible](二)江戸幕府ノ、評定所ニ會合スル日ノ稱。[illegible]毎月寄合日「立合、六日、十四日、廿五日」(三)取引所ニテ、仲買人ノ會シテ、賣買取引ヲ始ムルコト。

たち-あ-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 立合 (一)〔互ニ行キ會フ。萬葉集、六四十長歌「山ナミノ、ヨロシキ國ト、川ナミノ、立合ふ里ト、山シロノ、カセ山ノマニ」(二)事ノ際ニ向ヒテ行キ會フ。檢使ナドニ[illegible](三)相手ニ相向ヒテ、鬪フ。相撲、劒術ナドニテたちあふトハ、互ニ立チテ技ヲ競フコト。水鏡、上、神功皇后「ソノ國ノツハモノナルベシ、ワレ[illegible]」

たち-あふひ (名) 立葵 はなあふひ(花葵)ノ一名。[illegible]

[illegible]木氏ノ說。[illegible]

たち-いへ (名) 立家 又、タチヤ。たてや(建家)ニ同ジ。

たち-いり (名) 立入 其家ニ親シク出入スルコト。又、其モノ。堂上方ニ[illegible]

たち-い-る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 立入 (一)入ル。深ク入ル。[illegible]

たち-おゐ (名) [illegible]

たち-うち (名) 太刀打 (一)太刀ニテ闘フコト。[illegible]

たち-うち (名) [illegible]

たち-うり (名) 立賣 [illegible]

たち-うり (名) 裁賣 切リテ賣ルコト。「西瓜ノ裁賣」まぐろノ裁賣[illegible]

たち-うを (名) 太刀魚 [illegible] 刀魚ニ同ジ。

たち-え (名) 立枝 [illegible]

たち-えり (名) [illegible]

〜**たちおく・る**・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [立後] (一)後方ニツク。劣ル。枕草子、六、五十八段「ンハシ人ノオハシマス、カクハマジラメワザナリナド云フヲ、ゲニトテ少シ立ちおくれゐたりし」源、帚木「ヨルヒル學問ヲモ、アソビワザヲモ、モロトモニシテ、ヲサヲサ立ちおくれズ」(二)オクレテ立ツ。立ツベキ時機ヲ失ス。源、三十五、柏木「オボシイリタルサマノ、イトユユシキマデ、シバシモたちおくれ給フマジキヤウニ」宇津保物語、俊蔭、上「人ニたちおくれテ、ミナ人ワタリハテヌルニ」

たちおくれ (名) [立後] タチオクルルコト。立ツベキ機ヲ逸スルコト。

たちおと (名) [太刀音] 太刀ニテ鬪フ音。浦島年代記(元祿、近松作)二「火影俄ニナラメキ出、切リ合ヒ打チ合フ太刀音、ツバ音」

〜**たちかき** (名) [擊刀] たちうち(太刀打)ニ同ジ。崇神紀、四十八年正月「登二御諸山一向レ東、而八廻弄槍、八廻擊刀」

たちがく (名) [立樂] 立チテ居テ、吹奏スル音樂。建武年中行事「亂ヲハリテ、立樂アリ」著聞集、六、管絃歌舞「御賭弓ノ方ニテ、立樂ノ時ニナリテ、皇帝ヲ吹キ出ダサセオハシタリケリ」

たちかぜ (名) [太刀風] 太刀ヲ振ヒテ發ル風。大友興廢記「國光ノ刀スルリト拔キ、二三人ノ耳ニ太刀風ヲアテラレケレバ」

たちかつぎ (名) [太刀擔] (戰場ニテ、木ノ大太刀ヲ擔ギタル世ノ語ト云フ) 左ノ肩ノ中程ノ名所。

✣✣**たちかはり** (名) [立代] 彼此、交替スルコト。「入リカハリたちかはり」

〜**たちかは・る**・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [立代] 交替ス。カハル。萬葉集、九、十「立替ろ、月重ナリテ、逢ハザレド、核ワスラレズ、面影ニシテ」拾遺集、一、春「吉野山、ミネノ白雪、イツ消エテ、ケサハ霞ノ、立ちかはるラン」源、廿一、少女「子ノオトナブルニ、親ノたちかはりシレユク事ハ」

たちかへり (名) [立返] (一)カヘリゴト。返書。又、返歌。(二)物へチョット行キテ、直ニ歸リ來ルコト。行キツキテ止マラズ、直ニ歸リ來ルコト。源、四十五、椎本「たちかへりコソ參リナメト、イソゲバイトホシウテ」枕草子、七、六十四段「イト、夜フカク侍リケル鳥ノ聲ハ、マウサウクンノニヤトキコエタレバ、立かへり、マウサウクンノ庭鳥ハ」兼輔集「敷妙ノ、枕ニ塵ノ、井サルカモ、立ちかへりニゾ、人ノ訪ハマシ」

〜**たちかへ・る**・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [立返] 行キツキテ止マラズ、直ニ歸ル。戾ル。源、十四、澪標「內侍ノ、カンノ君ヲ、猶エ思ヒハナチ聞エ給ハズ、コリズマニたちかへる御心バヘモアレド」萬葉集、十五、三十五「多知可敝里、ナケドモアレハ、シルシナミ、思ヒワブレテ、ヌル夜シゾ多キ」後撰集、十一、戀、三「ワカレツル、ホドモヘナクニ、シラナミノ、たちかへりテモ、ミマクホシキカ」

〜**たちがみ** (名) [鬣] (立髮ノ義) たてがみニ同ジ。又、ウナガミ。倭名抄、十一、牛馬體「鬣、宇奈加美、多知賀美」字鏡、八十一「鬣、馬頭上毛也、立加美」天治字鏡、三十五「鬣、太千加美」

たちから (名) [立柄] 九州邊ニアル、古文書ニ見ユル語。景況、形勢ナドノ意。

〜**たぢから** (名) [手力] 力ト云フニ同ジ。萬葉集、十七、四十「春ノ花、今ハ盛リト、匂フラム、折リテカザサム、多治可良モガモ」同、三十五、四十「石戶破ル、手力モガナ、手弱キ、女ニシアレバ、スベノシラナク」

〜**たぢから** (名) [稅] (男ノ字ヲ、田ト力トニ二分シテ訓ミタル語ニアラヌカ。說文「男用二力於一レ田」トアリ、男耕女織ノ語モアリ、民ノ力以テ、田ヲ耕シ稻ヲ作リテ奉ルモノノ意) 略シテ、ちから。そ(租)ノ條ヲ見ヨ。雄略紀、十三年八月「文石小麻呂有力強心、云云、恣以奪取、余違國法、不輸租賦」顯宗即位前紀「一云、逃行播磨、[illegible]」安閑紀、二年九月「詔、難波吉士等、主掌屯倉之稅」(稅ハ屯倉人ノ米) 天智紀、元年七月「大水、是秋、復租調」同、八年十二月「修高安城、收畿內之田稅」

たちがらみ (名) [太刀絡] 鐙ノ上ニ太刀ヲ佩ブル時、用キル具。籐ナドニテ造リ、太刀ヲ絡ミツケテ、鐙ニツクル環。

〜**たちがれ** (名) [立枯] 樹ノ、立チナガラ枯ルルコト。天治字鏡、八、三十「桯、木立死也、太知加禮」夫木抄、廿九、櫨「檜山ノ、檜ノたちがれ、枝ヲナミ、オノレゾ白キ、雪ハタマラズ」

たちき (名) [立木] (材木ニ對シテ云フ) 地ニ生ヒ立チ居ル樹。タツキ。

たちぎえ (名) [立消] (一)火ノ半ニシテ消ユルコト。本朝若風俗(貞享、西鶴)二「オノヅカラ、蠟燭立ち消え、心ハ闇トナリ」(二)轉ジテ、事ノ半途ニシテ止ムコト。中絕。

〜**たちぎき** (名) [立聞] 物陰ニ立チテ、他ノ話ヲ竊ミ聽クコト。隱聽。傍聽。源、六、末摘花、七「同ジクハ、ケヂカキ程ノケハヒ、立ちぎきセサセヨ」

〜**たちぎ・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) [立聞] 物陰ニ立チ居テ、他人ノ話ヲ密ニ聞ク。隱聽。傍聽。類政集「我ノミカ、松ノネタゲニ、言ノ葉ヲ、立聞く波ノ、ウラミヤハセヌ」伊勢物語、廿七段「コザリケル男たちぎきテ」

〜**たちぎみ** (名) [立君] 遊女ノ異名。切見世ノ女郎。ツジギミ。ヨタカ。ソウカ。夜發。きみ(君)ノ條ヲ見ヨ。七十一番職人盡歌合(文安)中、三十番、たち君「宵ノ間ハ、エリアマサルル、立君ノ、五條ワタリノ、月ヒトリ見ル」

たちき・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [斷切] (一)斷チテ切リ離ス。新後拾遺集、五、秋、下「唐錦、オリハヘ染メヨ、山姫ノ、たちきる袖ノ、露モシグレモ」(二)シキル。カギル。

〜**たちく・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [立漏] くく(漏)ト云フニ同ジ。萬葉集、八、廿一「足引ノ、木ノ間たちくく、霍公鳥、カク聞キソメテ、ノチ戀ヒムカモ」同、十七、廿「足引ノ、山邊ニ居レバ、ホトトギス、木ノ間たちくき、ナカヌ日ハナシ」

〜**たちくだ・る**・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [立下] くだる(下)ト云フニ同ジ。源、三十二、梅枝、十八「此ノ御箱ニハ、たちくだれるヲバマゼ給ハズ」同、三十三、藤裏葉、十七「御子達ニモたちくだり打アユミナド、人ワロカルベキヲ」

たちくらみ (名) [立暗] 立チナガラ眩暈スルコト。

たちこみ (名) [立込] タチコムコト。入リコムコト。(多ク人、馬、車ナドノ)

〜**たちこ・む**・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [立込] 入リコム。群ガリ集ル。(人、馬、車ナドノ) 源、九、葵、二「ケフモ所モナク、たちこみニケリ」榮花物語、十七、音樂「此アヤシノモノドモ、アマリナルマデ、オマヘチカウ立こみタリ」狹衣、四、下二十五「たちこみタル物見車ドモ」

〜**たちこ・む**・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(自動、下二) [立込][立籠] タチコモル。タチオホフ。萬葉集、一、十七長歌「國原ハ、ケムリ立籠、ウナバラハ、カマメタチタツ、オモシロキ國ゾ、アキツ島、ヤマトノ國ハ」金葉集、四、秋「河霧ノ、たちこめツレバ、高瀨舟、ワケユク棹ノ、音ノミゾスル」

たちこ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) [立越] (一)マサル。スグル。優。(二)出向ク。タチコス。狂言記、通圓「サラバ、たちこえトムラウテ、通ラウズルニテ候」

〜**たちさか・ゆ**・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) [立榮] 草木生ヒ繁ル。萬葉集、七、八十一「山シロ

ノ、クセノヤシロノ、草ナ手折リソ、すノガ時、立榮(タチサカ)ゆトモ、草ナ手折リソ」古今集、廿、神樂歌「霜八タビ、置ケド枯レセヌ、[illegible]ノ、たちさかゆべキ、[illegible]キネカモ」 續千載集、廿、[illegible]キマキ[illegible]、サラニ花咲ク、[illegible]ノ、立さかえユク、ケフニモアルカナ」

たち-さき (名) [太刀先] 太刀ノホサキ。太刀ノキ、サキ。 本朝[illegible]俗、[illegible]「何カ浮世ノ思ヒ出デ、カク申セシ心根、潔ク太刀先ニテ拵開ケン」

たち-さばき (名) [太刀捌] 太刀ノ取扱ヒカタ。[illegible]

たち-さは・る(タチサワル) ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [立障] 他ノ事ニタチヨルコト。干渉。干與。

〜たち-さ・ふ(タチソウ) フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) [立障][立塞] タチテ、サヘギリトドム。 萬葉集、十三、長歌「シキ浪ノ、立ち[illegible]、誰ガ心、イトホシトカモ、タダ濆リケム」 土佐日記、正月八日「浪たちさへテ入レズモアラナン」

〜たち-さまよ・ふ(タチサマヨウ) フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [立] [徘徊] 立チテウロツク。タチモトホル。 榮花物語、廿六、楚王夢「サスガニ、エ聞ニハツキ給ハヌモノカラ、サルベキ所ニたちさまよひ」

たち-さ・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [立去] 立チ退ク。其所ヲ離レ去ル。 宇津保物語、[illegible]「退ク[illegible]ルママニ、カク時モたちさるヘクモアラズ」 源、廿四、[illegible]ツヘシヤハ、此春ハ花ノアタリヲ、たちさらデ見ヨ」 同、十三、明石「イソギノボ[illegible]ヌル[illegible]、たちさ[illegible]」

たち-さわ・ぐ グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) [立騒] (一) サワギタツ。 源、十五、蓬生「アメノ下ノ[illegible]ニテたちさわぐ」 後撰集、九、[illegible]、[illegible]モ、イサヤ白浪、たちさわぐ、我ガ身ヒトツハ、ヨル[illegible]モナシ」 小町集「ナハヤブル、[illegible]モミマサバ、たちさわぎ、アマノトガハノ、ヒグチ明ケタマヘ」 (二) [illegible]キ[illegible]レテ落チッカズ。

〜たち-し・く ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [立頻] 頻リニ立ツ。[illegible]

〜たち-の-みち (名) [縦道] 南北ニ通ズル街道。タテノミチ。[illegible] 南北日阡、日本紀私記云、多知之乃美知」 名義抄「阡、ヨコシノミチ、阡、タチシノミチ」

たち-しゅう (名) [立衆] 能狂言ナドニテ道ノ一種、舞臺ニ數人、相並ビテ登ルモノ。狂言記、[illegible]罪人「御苦勞デ御座リマス」立衆、御當、日出タウ御座ル」

たち-すがた (名) [立姿] (一)立チテ居ルスガタ。(二)舞ノスガタ。狂言記、笠下「何ニテモ立姿ガ見タウ御座ル、此ノ[illegible]カラデ[illegible]ニ、一ツ舞ヒマセウ」

たち-すくみ (名) [立竦] 二 タトスクムコト。 太平記、廿八、[illegible] 己レガ首ヲ[illegible]シ、[illegible]、立ち[illegible]くみニコソ死ニ給ヒケル」 (二)佛ヲ云フ稱。 [illegible]ノ忌詞[illegible] 沙石集、[illegible]、上、第一[illegible]「佛ヲバ立すくみ(堂中ニ蛇立スル貌ニ云フ)云云ト云ヒテ」 [illegible]

たち-すく・む ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [立竦] (伊勢勅使部類、長治二年八月) 立チタル儘ニテスクム。 榮花物語、十七、[illegible]樂「見佛聞法ノ人人、日ニアタリテたちすくみ、カシラ痛ウ思フニ」 新六帖、二「人シレヌ、山田ノソホヅ、サノミヤハ、立ちすくみテモ、世ヲバツクサム」

〜たち-そば-の (枕) [立柧稜] 實無し、ノ枕詞。[illegible]「[illegible]」

たぢ-たぢ(タジタジ) (副) 又、たぢたぢ。ヨロメク状ニ云フ語。(たづたづ、たどたど卜同趣)

たち-つかひ(タチツカイ) (名) [太刀遣] 太刀ヲ巧ニツカフコト。又、其人。

たち-つけ (名) [裁着] [illegible]。旅行用ニ仕裁テツケタルモノト云フ。伊賀袴ノ類。音便ニ、たッけ、[illegible] 鉢叩ヲムツトシメ」 [illegible]「[illegible]」 たちつけヤ、スギヌル[illegible]ノ、日モ[illegible]

たち-つ・る ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [立連] [illegible] 「[illegible]」 二、立ち連れイザヤ通ハン」

〜たち-ど (名) [立處] 立ツトコロ。アシダチ。[illegible] ノ、張ラロ川戸ニ、汝ヲマツト、セミドハ浪マズ[illegible] トモス火ハ、[illegible]ノたちどノ、シルベナリケリ」 夫木抄、二一、[illegible]「ミヨシノハ、春ノ霞ノ、立どニテ、ドエヌニキユル、峯ノシラ雪」

〜たち-どころ (副) [立所] 立ナカラ[illegible]、モアラセズ。頓ニ速ク。急ニ。タダチニ。タチマチニ。スグニ。即時ニ。 [illegible]

〜たち-どま・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [立止] 行キナガラ止マル。 [illegible] 六、[illegible]「ヨワキ御心チハ、イトド世ニ立ど[illegible] ウモ覺エズ」 同、十五、蓬生「イトカウ物オソロシカラヌ御スマヒニ、オボシウツロハナン、たちどま[illegible]リサフラフ人モ、イトタヘガタシナド聞ユレド」 古今集、二、春、下「[illegible]ノ花サケリケルヲ、人ノ立ち[illegible]

どまりテ見ケルヲ」

たち-どり (名) [太刀取] (一) [illegible] [illegible]「太刀取、[illegible]ハリツツ、[illegible]」 (二) 相撲ニ[illegible]ノ力士、土俵入リノ時、太刀ヲ持サテ、其後ニ從フ力士ノ稱。タチモチ。

〜たち-な・む [illegible] (自動、四) [立並] タチナラブ。タチツラナル。 [illegible] 「[illegible]」 宇治拾遺、十一、第九條、たちなみタル[illegible]ノドモ、ウチマホリ[illegible]

たち-なら・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [立馴] 馴レ親シムヤウニナス。 [illegible] ニケフサヘヤ、[illegible]、ヒコボシノ、たちならシ[illegible] 源、九、[illegible] ドテ、今マデたちならサリツランド、[illegible] クヤシウ[illegible] 拾遺集、八、[illegible]、上、午ノ[illegible]ナ、たちならしツル、[illegible]ノ、イカナルカ[illegible]

〜たち-なら・ぶ ブ・ベ・バ・ビ・ベ(自動、四) [立並] (一)立チテナラブ。(二)タグブ。比ブ。 源、九、[illegible]「たちならぶ[illegible]人ナクテ、心ヤスゲナリ」 [illegible] 「[illegible]」

たち-ぬひ(タチヌイ) (名) [裁縫] 衣服ヲ裁チテ縫フコト。[illegible] ナドニ縫ヒ作ルコト。ハリシゴト。 [illegible]

〜たち-ぬ・ふ(タチヌウ) [illegible] [裁縫] [illegible]

〔たちぬ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二)〕 ［立濡］ 濡レツツ立ツ。立チナガラ濡ル。萬葉集、二、「足引ノ、山ノ雫ニ、妹待ツト、吾レ立濡ヌ、山ノ雫ニ」 催馬樂、東屋「東屋ノ、眞屋ノアマリノ、雨ソソギ、我レたちぬれヌ」

たちのうを (名) ［太刀魚］ 形、はもニ似テ、細長ク、薄ク扁ク、鱗ナク、青クシテ雲母ノ色アリテ、刀ノ刃ノ如シ。大ナルハ、長サ五六尺ニ至ル。中國ノ遠海ニ多シ。タチイヲ。タチウヲ。帶魚。鱭魚

たちの・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) ［立退］ 他處ニ移ル。タチサル。 源、五十、浮舟「アシガキノ方ヲ見ルニ、例ナラズ、アレハタソト云フ聲聲、イザトケナリ、たちのきテ、心シリノヲトコヲ入レタレバ」 宇治拾遺、一、第十八條「マシテたちのきタルズサドモノ多サヲ思ヒヤルベシ」

たちのを (名) ［太刀緒］ 太刀ノ、オビトリノヲ。アシノヲ。アシヲ。 大和物語、上「良少將、たちのをニスベキ革ヲ、求メケレバ、監命婦、我ガモトニアリトイヒテ」

たちは (名) ［立葉］ 荷葉ノ一莖ヅツニ立チタルヲ云フ語。 堀河百首、夏、雨「フレバ、蓮ノ立葉ニ、居ル玉ノ、タエズコボルル、我ガ涙カナ」 夫木抄、九、蓮「猶イトヘ、ハスノ立葉ノ、露ダニモ、此ヨノ池ハ、風チラシケリ」

たちは (名) ［起端］ 起チテ去ルベキ機。起ツベキ機會。 信州川中島合戰(享保、近松作)三「立ツニ立ち端ナク」「起端ヲ失フ」

たちば (名) ［立場］ 立チテ居ル所。タチド。立脚地。 浮世風呂(文化)三、馬三端、下「踏ミ込ミニ、下駄ガ重ナリ合ツテ、足ノ立端ガネエダ」

たちはき (名) ［帶刀］ (太刀佩ノ義) 春宮坊ノ侍衞ノ士。三十人アリ。音便ニ、タテアキ。タテワキ。其長ヲ帶刀先生ト云フ。禁中ノ瀧口、院ノ北面ノ如シ。 職原抄、下「春宮坊、云云、帶刀者、撰ニ重代侍ニ補レ之」 古今集、二、春、下「春宮ノたちはきノ陣ニテ」

たちはき (名) なたまめ(鉈豆)ノ一名。(九州)

〔たちはきべ〕 (名) ［太刀佩部］ 物部氏ノ物部ヲ率ヰテ仕ヘ奉ル部。 垂仁紀、三十九年十月、注「大刀佩部」

たちは・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) ［佩刀］ 太刀ヲ佩ク。タチヲ帶ブル。帶刀ス。 狹衣、三、下「河ノ瀬見ルトニヤアラン、たちはきタル人ノ、キタナケナキ」

〔たちはしり〕 (名) ［立走］ (たちハ、接頭語) はしる(走)ニ同ジ。 萬葉集、五、二十「靑波宿ニ、伊蘇都ニ、紐解キサケテ、多知婆志利セム」

〔たちはし・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)〕 ［立走］ 立チテ走リ歩ク。 古事記、中(神武)十「其美人驚而、立走伊須須岐伎」 萬葉集、九、十長歌「白雲ノ、箱ヨリ出デテ、トコヨベニ、タナビキヌレバ、立走り、叫ビ袖振リ、コヒマロビ」 源、廿九、行幸、九「下ラウワラハベナドノ、ツカウマツリタヘヌ雜ヤクヲモ、たちはしりヤスク、マドヒアリキツツ、ココロザシヲツクシテ」

たちはだか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) タチテ、足ヲヒログ。タチフサガル。 女殺油地獄(享保、近松作)上「顏色變ハリ、眼モ据ワリ、門口ニ立チはだかり」

たちはづし (名) ［裁端］ サイデ。布帛ナドノ、タチクヅ。タチタルコギレ。

たちばな (名) ［橘］ (外國ヨリ求メ來シ田道間守ト云フ人名ニ因リテ、田道間花ノ約轉カト云フ) (一)［トキジクノカグノコノミ。今ノ通名、柑子、又、柑子蜜柑］樹ノ名。暖地ノ產ニテ、高サ丈許、枝ニ刺多ク、葉ハ、冬モ凋マズ、雨頭尖リ、綠ニシテ光ル。長サ二寸許。夏ノ初、五瓣ノ小白花ヲ開ク、甚ダ馨シ。實圓ク、瓢ハ數箇ノ瓣ニ分ル。皮薄ク、皺細カク、光リテ、瓣ノ形、襞トナリテ外ヨリ見ルベキコト、柑類ト相反ス。ニハコグサ。(漢字ノ橘ハ、古ヘニ、たちばなト云ヒ、今ハ、かうじト云フ、即チ木條ナリ柑ハ、古ヘニかうじト云ヒ、今ハ、みかん類ノ總名トス。惑ヒ易シ) 倭名抄、十七、五菓類「橘、太知波奈」 古事記、中(垂仁)「登岐士玖能迦玖能木實、是今橘者也」 萬葉集、六、十「橘花ハ、實サヘ花サヘ、其葉サヘ、枝ニ霜降レド、彌常葉ノ樹」 垂仁紀、九十年、二月「天皇命田道間守、遣常世國、令求非時香菓、今謂橘是也」 田道間花ノ義ナリト云フ、はヲ清ミテ云フハ、婆ト濁音重ナルニ因ルト云フ、神代紀、上十四「二日向小戸橘之檍原トアレド、地名ナレバ論ゼズ」 (二)今俗間ニ、通ジテたちばなト云フハ、前項ノ一種、小サキモノニテ、庭際ニ植エ、春盤ニ用キル。(好事ノ音ニ據ル)形、きんかんヨリ稍、大キクシテ、皮ノ皺粗クシテ、みかんノ如シ。一名、はなたちばな。 ［猴橘］ (三)又、中古、なつみかんノ一名。 ［盧橘］ (四)今、又、からたちばなノ略稱。 ［百兩金］ (五)襲ノ色目ノ名。表ハ朽葉ニテ、裏ノ黄色ナルモノ。一說ニ、表ハ白ニテ、裏ノ青ナルモノ。(六)紋所ノ名。井伊氏ノ定紋。

たちはな・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) ［立離］ 遠ク離ル。 ［隔絕］ 拾玉集、一「イカニセム、オモヒ出ヨト、イヒオキテ、たちはなるべキ、人ダニモナシ」 落窪物語、二「着ル人ノ、變ラヌ身ニハ、唐衣、立ちはなれニシ、ヲリゾ忘レヌ」 源、二、帚木十「サシムカヒテ見ンホドハ、云云、たちはなれテハ、サルベキ事ヲモイヒヤリ」

〔たちはめ〕 (名) ［靮］ (皮ヲ裁ち塡むる義カ) 草履、雪駄ノ類ヲ繕フコト。セッタナホシ。 倭名抄、十二、履襪具「靮、補履下也、下賤人以牛皮補著履下云太知波女、宜用此字乎」(靮ハせったなほしナリ) 名義抄「靮、タチハメ」

たちばら (名) ［立腹］ (一)［怒リ易キコト。 落窪物語、三「オノガ心本性、たちばらニ侍リテ、オモヒヤリナク」 とりかへばや、三「たちばらニオハスル大殿ニテ、此御娘ヲ勘事シテ、見給ハズナリヌ」 (二)立チナガラ腹切ルコト。 傾城反魂香(元祿、近松作)中「武家ニ生レタ不祥ニハ、大門口デ立腹切リ、新造衆ヤ禿共、芝居デスルヤウナ事シテ見セウ」「立腹ヲ切ル」

〔たちはれ〕 (名) ［腹瘇］ (立腫ノ義) 馬ノ病ノ名。 倭名抄、十一、八牛馬病「腹瘇、多知波禮、黑腫立腹下腫、是也、道人騎相、同注出師説」

〔たぢひ〕 (名) ［多遲比］ いたどり(虎杖)ノ古名。スカンボウ。 反正即位前紀「瑞齒別天皇、云云、多遲比者、今虎杖花也、故稱謂、多遲比瑞齒別天皇」 同紀、元年十月「都於河內丹比」(古事記ニハ、丹治比ニ作ル、比ヲ省略シテ丹治トシ、書紀ニハ治ヲ省略シテ丹比トシタルナルベシ)

〔たぢひ〕 (名) ［蝮］ (たちばみノ約) 蛇ノ一種。ハミ。クチバミ。マムシ。古事記、下(仁德)「蝮之水齒別命」 民部省式「蝮部」 姓氏錄、第二帙、十八「大和國神別、天孫、蝮王部首、火明命孫、天五百原命之後也」

たちびな (名) ［立雛］ 上巳ノ雛ノ立姿ノモノ、木彫ニテ帛綾ノ服ナルナリ。

たちふ (名) ［䑥䑨］ 次條ノ語ノ略。 小大君集「前ニアリケルたちふトイフ瓜ヲ、黄ナル色紙ニツツミテ」

〔たちふうり〕 (名) ［䑥䑨］ (䑥モ䑨モ、瓜ノ小ナルモノ) 小サキ瓜。 倭名抄、十七、六蓏類「䑥䑨、兼名苑注云、䑥䑨、多知布宇利、小瓜名也」

〔たちぶくろ〕 (名) ［太刀袋］ 太刀ヲ藏メ入

ル袋。倭名抄、十三「弓餌具、餌嚢、太知不久路、餌衣也」

たちふるまひ（名）［立振舞］起ツタリ、居タリスル動作。擧動。信乃川中島合戰（享保、近松作）三「敵ノ國ヘ入ル時ハ、起ち振舞ニモ氣ヲ附ケ、一言半句ノ詞ヲモ謹ミ」

たちまさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［立勝］まさる（勝）ト云フニ同ジ。源、十四、澪標三「たちまさる人、マタ御ボイアリテ見給フトモ」後撰集、三「山櫻、咲キヌル時ハ、ツネヨリモ、峯ノ白雲、たちまさりケリ」

〰**たちまじ・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［立交］其群ニ入ル。相伍。榮花物語、歌合「百敷ノ、花ヤオトレル、キリワケテ、立ちまじるラム、野ベノ錦ニ」源、十二、須磨「サル心ボソカラン、海ヅラノ浪風ヨリ外ニ、立まじる人モナカランニ」同、三十四、下、若菜、下「此度ハカク大方ノヒビキニ立まじらンモ、カタハライタシ」

たちまち（名）［立待］［待トハ、其時ニナルマデ、眠ラズ居ルヲ云フ］事ノナル時ヲ待ツコト。「立待月」

〰**たちまちぐさ**（名）［牛扁］〔藥效ノ忽チアル意カト云フ〕又、うまぐさ。草ノ名。葉ハ石龍芮ニ似テ、夏ノ末ニ花アリ、秋ノ半ニ實ヲ結ブモノナリトゾ。今、れいぢ、ハさう　本草和名、上「牛扁、太知末知久佐」（倭名抄、[illegible]）[illegible]久佐、一名、宇之久佐」（倭名抄、蔛蓄、宇之久佐）案ズルニ、牛扁ハ、牛ノ病ヲ治ス、蔛蓄ハ然ラズ。たちまちぐさ、うまぐさ、共ニ牛扁ノ類ナルベシ。

たちまちに（副）［忽］［立待ノ義カト云フ、或ハ云フ、立間道ニテ立所ノ意ト］俄ニ。急ニ。スグニ。卽チ。早速。相撲集「イサヨヒモ、たちまちにヤハ、出ヅルマデ、寢待ノ月ヲ、臥シテ見ルカナ」安康御位前記「忽」源、三十四、上、若菜、上「メヤスキ事ニナル折ハ、カクテシモアシカラザリケリト見ユレド、猶たちまちにフトキキツケタル程ハ、[illegible]ニ知ラセズ」狹衣、一、上「[illegible]忽ニコソイハレザラメ、サノ給ハセテンヲ知ラズ顏ナランハ、ヒガヒガシカルベキ」

〰**たちまちのつき**（名）［立待月］〔立チヤスラヒテ山ノ端ヲ出ヅレバ、云フ〕陰曆、十七日ノ夜ノ月ノ稱。和爾雅、一「立待月」注「十七日也」源、四、夕顏「たちまちの月サシ出テ」新六帖、一、たちまち、「ワガ門ノ、サシツヅラヒテ、ネルヲノコ、サゾ立待の、月モ見ルラン」

たちまはり（名）［立廻］（一）タチマハルコト。歌舞伎狂言ニテ、たたかひ、たて。三芝居樂屋雜苫「大たて、試合、立廻リ、名目」歌舞伎始、三「大爨、相手ニシテ太刀打ナスルヲ、たてト云ヒ、少シキ事ハ、立ち廻りト云フ」（二）ツカミアヒ。トックミアヒ。喧嘩。格鬪。

たちまは・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［立廻］アチコチ往キメグル。タチメグル。［徊］　菩蘭集、廿、[illegible]「[illegible]ヲ立ちまはり見テ、アハレ遺物、上ナキモノナリ」

〰**たちまふ**・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［立雜］入リ交ル。タチマジル。相伍。源、三十五、柏木「遂ニ、ナホ、世ニたちまふベクモ覺エヌ物思ヒノ、一方ナラズ身ニソヒタルハ」夫木抄、四、春「咲キニケリ、[illegible]ノたちまふ、[illegible]山、花ノ林ノ、春ノ曙」同、十二、秋「タツタ山、ミネニハゲシキ、木枯シニ、たちまふ[illegible]ノ、[illegible]ノ夕暮」

たちま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［立舞］[illegible]（一）[illegible]（二）[illegible]同ジ。夫木抄、十八、[illegible]小倉山、[illegible]　永久四年百首、[illegible]エテ、たちまふホドニ、明ケヌ此夜ハ」[illegible]たちまふ[illegible]人ヲ、モテハヤスナリ」年中行事歌合「ワスレメヤ、二代ニコエシ、位山、君ガメグミニ、立まひシ世ヲ」

⁂**たちまへ**（名）［立前］（一）人夫ナドノ、其勞働ニ相當スル賃錢。工賃。[illegible]（二）[illegible]者ノ、其日ノ生活費、[illegible]

たちみ（名）［立見］立チテ居テ、見物スルコト。（芝居ナドノ）

たちみ（名）［立身］起チ上ラムトスル身構。立チカカラムトスル身構。

だちん（名）［駄賃］（一）[illegible]　[illegible]四拾五貫匁ニ付、京錢廿八文[illegible]（二）[illegible]［駄錢］[illegible]貫、米一斗六升」（三）送リ屆ケシ報酬。

たちむか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［立向］起チ上リテ向フ。相手ニナル。手向ヒ[illegible]二、舍人二人居テ、人ナ入レソト破トテ、たちむかひタリケレバ」

たちんばう（名）［立坊］路傍ニ立チ居テ、荷車ナドノ後押ニ雇ハルル勞働者。

〰**たちめぐ・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［立回］タチマハル。マハリ歩ク。メグリ歩ク。新千載集、十八、[illegible]ドモモ、見トガメズ」

たちもち（名）［太刀持］（一）主君ノ太刀ヲ持チテ[illegible]「太刀持ハ、[illegible]ニコロンデ、見エヌナリ」（二）[illegible]

〰**たちもとほ・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［徘徊］一略シテ、たもとほる。もとほる（徘徊）ニ同ジ。[illegible]

たちもど・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［立戾］タチカヘル。[illegible]

たちもの（名）［斷物］[illegible]禁忌シテ食セザルモノ。[illegible]

たちもの（名）［建物立物］たてもの（建物）ニ同ジ。朝野群載、[illegible]

たちもの（名）［裁物］紙、布、帛ノ類ヲ裁チ斷ツコト。「裁物板」

たちものばうちやう（名）［裁物庖丁］紙、布帛ナドヲ裁ツニ用ヰル刀。其刃、廣ク[illegible]

たちやく（名）［立役］[illegible]普通ノ善人ニ扮スルモノ。實事、荒事、和事、和實ナドヲ演ズ。[illegible]主人公ナリ」[illegible]

〰**たちやすら・ふ**・[illegible]

日」名義抄「踟蹰、タチヤスラフ、タチモトホル」

たちゆ・く ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [立行] (一)過ギ行ク。[經] (二)年月ニ[經過]。會我九人兄弟 九ノ卷、近松作二、「立ち行く年も長月や、闇闇ハル氣ヒ月」 (三)生活ノ道ヲ得。

たちよ・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [立寄] (一)寄リ沿フ。古今集、五、秋、下「ワビ人ノ、ワキテたちよる、木ノ下ハ、タノム蔭ナク、紅葉チリケリ」六帖、一「春霞、立ちよらネバヤ、三芳野ノ、山ニ今サヘ、雪ノ降ルラン」「小蔭ニ立寄る」 (二)行キスガラニ、オトヅル。途スガラ訪フ。[過訪] 源、二、帚木廿「サテ、イト久シク罷ラザリシニ、モノノ便リニたちよりテ侍レバ」

たちわうじやう タチ・オウジヨウ (名) [立往生] (一)立チナガラ死ヌルコト。(二)立チタルママ、スベキ術ナキコト。[進退維谷]

たちわか・る ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [立別] 別レ行ク。源、廿二、玉鬘廿「中中イト心アワタダシクテ、たちわかるる」金葉集、一、春「思ヒヤレ、メグリ逢フベキ、春ダニモ、立ちわかるるハ、カナシキモノヲ」竹取物語「ツカハルル人モ、年ゴロナラヒテ、たちわかれナンコトヲ」月清集、上「クレヲマツ、空モクモラジ、横雲ノ、立別れヌル、ケサノ嵐ニ」

たちわき (名) [立涌] (中央ニ、雲ヲ描ク雲立涌ニ起ルト) 織模樣ノ名。中、豐レテ、兩端窄マリタル線ヲ連接ス。袍ニハ、大立涌、小立涌、雲立涌、龍膽立涌等アリテ、仙洞、親王、攝關等、各其別アリトゾ。タテワキ、タテワク。名目抄「雲立涌」

たちわた・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [立亘] 立渡 立チテ此方ヨリ彼方ニ行ク。古事記、中(神武)「サヰ川ヨ、雲タチ知祖多渡、ウネビ山、木ノ葉サヤギヌ、風吹カムトス」後拾遺、十、哀、二「阿武隈ノ、霧トハナシニ、終夜、立ちわたりツツ、ヨヲモフルカナ」

たちわづら・ふ タチ・ワズロ・ウ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [立煩] 立チ居テ困シム。大和物語、中「逢フコトノ、形見ニ植ウル、ナヨ竹ノ、立ち煩フト、聞クゾ悲シキ」

たちゐ タチ・イ (名) [起居立居] (一)起チタリ、又、居タリスルコト。古今集、十二、戀、二「秋霧ノ、ハルル時ナキ、心ニハ、立ゐノ空モ、オモホエナクニ」 (二)立チテ居ルコト。輔親集「行ク人ハ、影ヤ宿ルト、龍ツ瀬ノ、浪モロトモニ、立居コソミレ」起居振舞ト云フ。擧動、動作ヲ云フ。

たち・ゐる タチ・イル ヰル・ヰレ・ヰ・ヰ・ヰヨ(自動、上一) [起居立居] 起チ、又、居ル。起居シテ、居ル。竹取物語「ヨゴトヲ放チテ立ち居、泣ク泣クヨバヒ給フコト、千度バカリ申シ給フケニヤ」

たつ (名) [龍] [起つ義カ] (一)リヨウ。リュウ。想像ノ動物ノ名、鱗蟲ノ長ト云フ。常ニ蟄ク所ハ、身、大蛇ノ如ク、背ニ九九、八十一鱗アリ、四足、各、五指アリ、耳アリ、二角アリ、長キ鬚アリ、面甚ダ長ク、最モ猛猙キ相ヲ見ハス。能ク雲ヲ興シ、雨ヲ致シ、水ニ潛ミ、天ニ上リ、神靈測ルベカラズト云フ。りゅう(龍)ノ條ヲモ見ヨ。高龗神(建津神ノ略) 蛇蠍。倭名抄、十九「龍魚類「龍、太都」齊明紀、元年五月「空中有乘龍者、貌似唐人、著青油笠、而自葛城嶺、馳隱膽駒山」 (二)紙鳶ノ異名。(九州)

たつ (名) [辰] [龍ノ義] (一)干支ノ名。其條ヲ見ヨ。枕草子、五、四十六段「たつの日ノアヲズリノカラギヌ、カザミヲ着セ給ヘリ」 (二)時ノ名。今ノ午前八時。猶、時ノ條ヲモ見ヨ。竹取物語「海ニタダヨヒテ、五百日ト云フ辰ノ時バカリニ」 (三)方角ノ名。東東南ノ方。猶、えと(干支)ノ條ヲモ見ヨ。

たつ (名) [縱竪] たて。日ノ縱ハ、比乃多都志。(養老私記、水戸本、書紀校合)

た・つ タテ ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) [立] (一)直ク竪ニナル。古事記、中(景行)五十「燃ユル火ノ、ホナカニ多知テ、問ヒシ君ハモ」 (二)組立テテ成ル。建「家たつ」 (三)坐レルヨリ起ク。[起] 狂言記、針立雷「立ノテ見ヨウ、手ヲ取ッテクレ」 (四)オキアガル。尖リ生フ。竪立「毛ガ立つ」圭ガ立つ」穗ニ立つ」 (五)突キ刺ル。[刺] (針、刺、矢ナドニ) (六)オコル。タチアガル。トビノボル。(烟、霞、霧、氣、沙、埃ナドニ) [上騰] 新勅撰集、四、秋、上「天ノ河、星合ノソラモ、見ユバカリ、たちナヘダテソ、夜ハノ秋霧」 (七)動キ出ヅ。發ル。(風、波、泡、人氣ニ) [發] 伊勢物語、第七段「波ノイト白クたつヲ見テ」 (八)顯ニナル。人ニ知ラル。[發露] 「目ニ立つ」名ガたつ」 (九)始マル。開ク。[開] 「市立つ」會立つ」 (十)成リ定マル。慥ニナル。全クナル。[成立] 「法立つ」規則立つ」證據立つ」家立つ」身立つ」志ガ立つ」 (十一)モチヰニナル。[有用] 「用ニ立つ」役ニ立つ」 (十二)位ニソナハル。(帝、后、太子、世嗣ニ) (十三)閉ヂラレテアリ。シマル。(戸、障子ニ) [閉] (十四)旅ニ出ヅ。首途ス。[發程] (十五)罷ル。退キ去ル。[退出] 「席ヲ立つ」 (十六)飛ビ去ル。(鳥ニ) [飛去] (十七)過グ。歷。(年月日時ニ) [經過] (十八)燃エテ盡ク。[燼] 「油ガたつ」蠟燭ガたつ」 (十九)來ル。至ル。其時ニナル。[到來] 萬葉集、廿五十六「時ノ花、イヤメヅラシモ、カクシコソ、見シアキラメメ、秋多都毎ニ」同、同卷五十七「アラタマノ、年行キカヘリ、春多多婆、マヅ我ガ宿ニ、鶯ハ鳴ケ」「立ちスル月」立たム月」 (二十)意義ナクシテ他ノ動詞ト熟語トナル。轉ジテ、接頭語ニ用ヰラル。「立ち勝ル」立ち越ユ」立ち歸ル」立ち戾ル」腹が立つトハ、怒ル。[怒] 刀が立つトハ、

切ラル。齒が立つトハ、嚙マル、叉、手向ヒ得。湯が立つトハ、タギル。[滾] 男が立つ、顏が立つトハ、面目ヲ失ハズ。

た・つ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) [立] (一)竪ニ据ウ。(二)倒レタルヨリ起ス。[起] [竪] (三)組上ゲテ作ル。築ク。[建] 「家ヲ建つ」門ヲ建つ」 (四)引キオコス。尖ラス。[起] 「圭ヲ立つ」鋸ノ目ヲ立つ」 (五)刺ス。貫ク。[刺] 「矢ヲ立つ」針ヲ立つ」 (六)オコス。動カス。飛バス。揚グ。イキホハス。[發揚] 「波ヲ起つ」沙ヲ起つ」埃ヲ起つ」烟ヲ起つ」人氣ヲ起つ」心ヲ引起つ」名ヲ立つ」 (七)始ム。開ク。發ス。[開發] 「市ヲ立つ」會ヲ立つ」願ヲ立つ」 (八)停ム。[停] 「馬ヲ立つ」車ヲ立つ」杖ヲ立つ」 (九)去ラス。遣ハ、追ヒ、退カス。[遣] 「座ヲ立つ」逐ヒ立つ」 (十)成シ定ム。慥ニナス。全クス。[成立] 「法ヲ立つ」規則ヲ立つ」證據ヲ立つ」義理ヲ立つ」家ヲ立つ」身ヲ立つ」志ヲ立つ」名ヲ立つ」 (十一)モチヰニナス。「用ニ立つ」役ニ立つ」 (十二)位ニ在ラシム。(帝、王、后、太子、世嗣) (十三)閉ヅ。トザス。サス。シム。[閉] 萬葉集、三二四五「豐國ノ、鏡ノ山ノ、石戸立て、隱レニケラシ、待テド來マサズ」「戸ヲたつ」障子ヲたつ」 (十四)心ヲ立テ通ス。思ヲオシ通ス。夫木抄、廿九、櫻「イササラバ、茂リ生ヒタル、トガノ木ノ、トガトガシサヲ、たてテ過サム」沙石集、五、上、第五條「便宜ヲウカガヒテ、太刀ヲ拔テ走リカカリケルヲ、何事ゾト問ヘバ、一日恥ヲシタリシタメシ、たてムズルゾカシ、ト云ヒケル(憤ヲ)」 (十五)[役立ツル。萬葉集、一十九長歌「上ツ瀨ニ、鵜川ヲ立て、下ツ瀨ニ、小網刺シ渡シ、山川モ、依リテ奉ル、神ノ御代カモ」同、八三十七「射目立てテ、跡見ノ岳邊ノ、瞿麥ノ花、總手折リ、吾ハモチイナム、寧樂人ノ爲」 (十六)出デ立ツ。(十七)生ヒ延ブ。 曾丹集「御園生ノ、薺ノ葉モ、たちニケリ、今朝ノ朝菜ニ、何ヲ摘ママシ」 (十八)[主ト

ス。 源、十七、總角「イトヨシアリテオハスル中ニ、[illegible]ナン立てテ、[illegible]マセ給ヘバ」(十九)タチマツル。サザグ。 千五百番歌合、一「九重ニ、今日たてソムル 氷コソ、風ニモ溶ケヌ、タメシナリケレ」 六百番歌合、春「松ガ崎、タエヌヒムロニ、スベラギノ、千代ノタメシト、今日ゾたてツル」 (二十)据エック。(庭石ニ云フ) 作庭記(藤原良經)「石ハ荒涼ニ立つベカラズ、云云、延[illegible]阿闍梨ハ、石ヲ立つる事相傳ヲ得タル人ナリ」 山家集「庭ノ石ニ、目立つる人モ、ナカラマシ、カドアルサマニ、立てシオカネバ」(二十一)他ノ動詞ト熟語トナリテ、事ヲ盛ンニスル意ヲナス。 「作リ立つ」「突キ立つ」「切リ立つ」 髪を立つトハ、剃ラズシテ生ヒシム。 聲を立つトハ、高ク呼ブ。喚 茶を立つトハ、抹茶ヲ湯ニカキマズ。點茶 腹を立つトハ、怒ル。怒 男を立つ、顔を立つトハ、面目ヲ全クス。

た・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) [絕斷裁] (一)切リハナス。分ケテ兩ツニナス。 萬葉集、七廿「夏蔭ノ、ネヤノ下ニ、衣裁つワギモ、裏マケテ、吾ガタメ裁たバ、イヤヒロニ裁テ」「絲ヲ斷つ」 布帛ヲ裁つ」交リヲ絕つ」 (二)トドム。ヤム。禁斷 後拾遺集、六、冬「サビシサニ、烟ヲダニモ、たたジトヤ、柴折リクブル、冬ノ山里」「酒ヲ斷つ」 「毒ヲ斷つ」 (三)絕ヤス。 ホロボス。「一命ヲ絕つ」 (四)遮リトドム。 遮斷ス。「糧道ヲ絕つ」 (五)横ギル。 「河ヲ絕つ」

たづ(タズ) (名) [鶴] 「鳴ク聲カト云フ」 當字ニ田鶴。 鶴ト云フニ同ジ。 歌詞ニ多ク用キラル。 つるヨリハ、古キ語ナルガ如シ。 又、古ヘニハ、鵠(クグヒ)ヲモ鶴(オホトリ)ヲモ云ヘリ。 萬葉集、三[illegible]「[illegible]キヲ、[illegible]ギタミ[illegible]バ、近江ノ海、八十ノ湊ニ、鶴サハニ鳴ク」 [illegible]字ニハ、鶴、[illegible]、鵠遙ズルコトアリ) 同、四[illegible]「闇キ夜ニ、鳴クナル鶴ノ、外ニノミ、聞キツツカ有ラム、逢フトハナシニ」 同、六[illegible]「和歌ノ浦ニ、潮[illegible]レバ、潟ヲナミ、葦邊[illegible]ヲサシテ、鶴(タヅ)鳴キワタル」

たづ(タズ) (名) [接骨木] たづのき(接骨木)ノ略。 其條ヲ見ヨ。

た・づ(タ・ズ)・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ(他動、下二) [illegible]ナドノ底ヲ、火ニテ乾カス。

だつ (名) 魚ノ名。形、さよりニ似テ、大キク長ク、二三尺ニ及ブ。上青長シ。鱗細ク、腹白ク、背青クシテ黄ヲ帶ブ。味佳ナラズ。近海ニ產ズ。一名、オキザヨリ。ナダザヨリ。[鱵魚一種]

だつ (接尾) 他ノ語ニツキテ、其狀態ノ意ヲ表ハス語。メク。 源、二、帚木「[illegible]、[illegible]廳ノ責子だつモノニ引カケテ」 同、同、同「[illegible]ガ家だつ事ヲシテ、前栽ナド、ココロトドメ[illegible]タリ」 同、廿四、胡蝶「[illegible]子[illegible]ヒテ、[illegible]だちテ」 枕草子、二、廿段「ヤスチカノ宰相ナドモ、若ヤギだちテ」

たつ・い (名) [達意] 己レガ意思ヲ、十分ニ人ニ通ズル樣ニ述ブルコト。 史記、滑稽傳、序「[illegible]以達意、[illegible]以神化、春秋以道義」「文ハ達意ヲ貴ブ」

だつ・えい (名) [脫營] 兵士ガ、兵營ヨリ脫走スルコト。

だつ・えば (名) [奪衣婆] さんづのかは(三途河)ノ條ヲ見ヨ。

た・つか (名) [手束] むぎなは(麥繩)ノ條ヲ見ヨ。

たつか (名) [手束] 弓ノ握。又、とつか。 [illegible]、[illegible]ヲ[illegible]レニシ、たつかノ[illegible]ノ、[illegible]ヲ、キノカハユスリ、コヒヌ日ゾナキ」 散木集、九「引キナカス、たつかノ弓ノ、矢ヲハヤミ、トモネニマトノ、[illegible]スカナ」

たづか(タズカ) (名) [方便] たづき(方便)ニ同ジ。

だつ・かう(ダツ・コウ) [illegible] [illegible]キ[illegible]コト。 續紀、十七、天平勝寶元年四月、詔「[illegible]乃御代[illegible]、[illegible]

たつ・がく (名) [竪額] たてがくノ訛。 [illegible]ニ長キ額[illegible]

たつ・がしら (名) [龍頭] 器ノ飾ニ、龍ノ頭ヲ作レルモノ。兜ノ立物ニスルハ、鍬形ノ中ニ据ウ、大將ノ用トス。りゅうづ。 太平記[illegible]「[illegible]ニ、鍬形打[illegible]、[illegible]ヲ、諸首ニ召サレ」「龍頭ノ兜」

たつか・づゑ(タツカ・ヅエ) (名) [手束杖] 手ニ握リ持ツ杖。 萬葉集、[illegible]「[illegible]ニ[illegible]テ、カククユキバ」

たづか・な・し(タズカ・ナ・シ)・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [方便無] [illegible]

たづ・がね(タズ・ガネ) (名) [鶴音] [illegible] ツルノ鳴キゴエ。 古事記、下(允恭)「天飛ブ、鳥モ使ゾ、多豆賀泥ノ、聞コエム時ハ、吾ガ名問ハサネ」 萬葉集、十三[illegible]「多頭我鳴ノ、ケサ鳴クナベニ、雁ガ鳴ハ、何處サシテカ、雲隱ルラム」

たづ・かひ(タズ・カイ) (名) [田使] [田使ノ義] 古ヘ、[illegible]

たつか・まき (名) [illegible] [illegible]

太ク卷クコト。

たつ・がみ [illegible] [illegible] 拾玉集、下「[illegible]カカル、[illegible]シゲキ、[illegible]ユク、[illegible]ノ[illegible]

たっ・かん (名) [illegible] [illegible]

だっ・かん (名) [脫監] ラウヤブリ。脫獄。

たつか・ゆみ (名) [手束弓] [弓ヲ手ニ握[illegible]] [illegible] 神中抄、五、たつか弓「[illegible]」 [illegible]ガ持ツ弓ナリトゾイヘル」

たつ・き (名) [立木] [illegible] 古今集、十七、雜「[illegible]ソルバタノ、ソバノたつき[illegible]ノ、夜[illegible]ゾ[illegible]」

たつ・ぎ (名) [鑷] [「立削ノ義カト云フ」] 杣人ノ用キル手斧ノ、刃ノ廣キ大ナルモノ。木材ヲ竪ニ切ルモノ。(横ニ切ルヲ、よきトス) [illegible] 大和物語、上「マカリケル、ヒガノタクミノ、たつぎ音ノ、アナカシガマシ、ナゾヤ世ノ中」 [illegible]集、十一、[illegible]「[illegible]ノ[illegible]テ、たつぎ[illegible]リカカゲテ、大木ヲ切リタルアリ」

たづき(タズキ) (名) [方便] [illegible] 便リテ寄附クベキスヂ。ヨリ。ヨルベ。ヨスガ。タヅカ。タドキ。テヅル。 ヨキツイデ。便宜。 [illegible]

倭名抄[illegible]「[illegible]ラズモ」

だつきう（ダツ・キュウ）（名）［脫臼］骨ノツガヒノスグルコト。（骨節ノぬけ、顎ノはづれナド）

だつきやく（名）［脫却］（一）脫ギスツルコト。（二）ステサルコト。（三）ニグルコト。ノガルルコト。

たつくり（名）［田作］（田ノ肥トスレバ云フト）ごまめ（鱓）ニ同ジ。御伽草子、猫の草子「マタ、ヲリヲリハ、たつくり、ニシン、カラ鮭ナドヲ、朝タノエジキニハ如何」

たづくり（タ・ズクリ）（名）［手作］てづくり（手作）ニ同ジ、

たつくわん（タツ・カン）（名）［達觀］世ノ形勢ナドニ、廣ク大キク見通シヲツクルコト。書經、召誥篇「周公朝至于洛、則達觀于新邑營」

たつけ（名）［鐙立削］たつぎ（鐙）ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。太神宮儀式帳「立削一柄」

たつけん（名）［達見］事物ノ理ニ精通シタル意見。晉書、賈充傳「充雅量弘高、達見明遠」

だつけん（名）［脫劍］帶劍ヲ脫クコト。賈至詩「脫劍升明堂、郁郁被霞雲」

だつご（名）［脫誤］文字ナドノ、脫落ト、誤寫ト。脫字ト、誤字ト。後漢書、安帝紀「整齊脫誤、是正文字」

だつとう（名）［脫肛］シリイヅルヤマヒ。病ノ名。肛門內ノ筋肉ノ、外ヘ脫ケ出ヅルモノ。出痔（デヂ）、直腸脫。外科[illegible]、治脫肛[illegible]」倭名抄、三、病類「脫肛、[illegible]、和名之利以豆流夜萬比」

だつごく（名）［脫獄］ラウヤブリ。

～たつこも（名）［立薦 防壁］行幸、神事等ノ時、假ニ構（カコ）ヒテ、風ヲ防グ具ナリトオボシ。几ト薦ヲ續ギ合ハセテ、屛風ノ如クニ立ツルコト、右トナリテ、後ニハ持チ運ビスル几帳ノ如ク成リシモノナルベシ。倭名抄、十四、坐臥具「[illegible]、多都古毛、以席薦者於[illegible]也」古事記、下、履中「[illegible]多遲比野ニ、寐ムト知リセバ、多都其母モ、持チテ來マシモノ、寐ムト知リセバ」大神宮儀式帳「蒿立薦三張」主計寮式「防壁一枚、長四丈、廣七尺」

たつさい（名）［達才］事物ノ理ニ精通シタル才（ハタラキ）、又、其人。史記、田敬仲完世家「易之爲術、幽明遠矣、非通人達才、孰能注意焉」

だつさいぎよ（名）［獺祭魚］（一）略シテ、獺祭トモ云フ。獺（カハウソ）ノ魚ヲ捕ヘテ、食スル前ニ、コレヲ陳列スルコト。人ガ祭リヲナストキニ、物ヲ陳列スルニ似タレバ云フ。禮記、月令篇「孟春之月、云云、獺祭魚」（二）前項ヨリ轉ジテ、文章ナドヲ作ルニ、參考ノタメ、多クノ詩文書ヲ座右ニ集メ展グルコト。又、詩文集ヲ左右ニシテ、獺祭魚ニナラヒテハ、氣象モ自ラ滯ルナリ、達意流暢ニ一氣ニ呵成スベシ、トノコト。談苑（宋、孔平仲）「李商隱爲文、多檢閱書册、左右鱗次、號獺祭魚」

～たづさはる（タズ・サワ・ル）ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［携］［携ハ俗字。手障ル意カ］（一）～たづさふ（携、四段）ニ同ジ。連（ツ）ルル。トモナフ。ツレダツ。名義抄「携、タヅサハル」萬葉集、九ノ廿八長歌「妙（タヘ）ナル殿ニ、携はり、二人入リ居テ、老イモセズ」同、十ノ卅「人言ハ、夏野ノ草ノ、繁クトモ、妹ト吾トシ、携はり寝バ」同、十七ノ十七長歌「オモフドチ、馬打チ群レテ、多豆佐波理、出テ立チ見レバ」[illegible]、上、第廿八話「携仙賓遊億載之蒼」訓釋「携、太ツ左波リ」（二）カカハル。カカラフ。關係（カカ）ス。［係 干涉］

～たづさふ（タズ・ソ・ウ）フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［携 攜］相連ル。トモナフ。［連］名義抄「携、タヅサフ」萬葉集、四「人モナキ、國モアラヌカ、吾妹子ト、たづさひユキテ、タグヒテ居ラム」同、九ノ三十二「モミヂ葉ノ、過ギ往ク子等ト、携ひテ、遊ビシ磯マ、見レバ悲シモ」六帖、五「雨降リテ、[illegible]モアシキニ、鴨鳥ノ、たづさひ來ルハ、メグリヤハアラヌ」夫木抄、三十二、杖「男山、鳩ノ杖ニハ、たづさひヌ、ナラ坂ノボル、シルシアラセヨ」

たづさふ（タズ・ノ・ウ）フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［携］［手取支（タトリサ）ふル意カ］（一）手ヲ取リテ引キ連レテ行ク。伴ヒ行ク。（二）手ニ下ゲテ持チテ行ク。ササグ。

✣たづさへる（タズサ・エル）（動）［携］たづさふ（携、他動）ノ口語。

たつし（名）［達］官ヨリ下ニ事ヲ通ズルコト。フレ。通達。

だつし（名）［脫屣 脫蹝］〔孟子、盡心、上篇「舜視棄天下、猶棄敝蹝也」〕帝王ノ位ヲ降（オ）リ居給フニ云フ語。天子ノ御位ヲ讓リタマフコト。敝（ヤブ）レタル履（クツ）ヲ脫ギ棄ツルガ如ク、露惜ミ給ハヌ意。淮南子、主術訓「堯年衰志憫、擧天下而傳之舜、猶卻行而脫蹝也」[illegible]芥、上「脫屣、タ シ」

だつじ（名）［脫字］ヌケジ。闕字。落字（ラクジ）。蘇軾詩「脫字欲補知無緣」

たつしがき（名）［達書］官ヨリ下ニ事ヲ通ズル文書。フレガキ。

たつしき（名）［達識］事物ノ理ニ精通シタル見識。達見。崔融、報李少府書「僕每覽此、輒[illegible]其風旨、重其達識」

たつじま（名）［縱縞］たてじま（縱縞）ニ同ジ。好色一代女（貞享、西鶴）二「たつじまノ布子ニ、錫無シノ脇指」

たつじん（名）［達人］（一）學術、技藝ノ奧義ニ達（トド）キタル人。達者。（二）明達ノ人。人生ヲ達觀シテ、情ヲ開キタル人。嵇康、與山濤絕交書「柳下惠東方朔、達人也、安乎卑位」徒然草、百九十四段「達人ノ、人ヲ見ル眼ハ、スコシモアヤマル所アルベカラズ」

だつしめん（名）［脫脂綿］外科ノ治療ナドニ用ヰル脂ヲヌキ消毒シタル綿。

たつしや（名）［達者］（一）才學藝能ノ達人。左傳、昭公七年「吾聞將有達者、曰孔丘、聖人之後也」吾妻鏡、一、治承四年十二月十九日「爲弓馬達者之士、臨戰場廻智謀勝人」同、十一、建久二年八月一日「鎭西八郞者、吾朝無雙弓矢達者也」（二）專ラ、步行ニ勝レタルコト。健脚。健步。[illegible]保元物語、二、白河殿攻落事「鎭西ソダチノ者ナレバ、步行立ナハ定メテ達者ニゾアラム」（三）轉ジテ、身ノスコヤカナルコト。ヂヤウブ。壯健。狂言記、[illegible]「日比、達者ナ者デアッタガ」（四）ヨドミ無クシテ、疾（ハヤ）キコト。「口ガ達者」「文章ガ達者」

だつじやう（ダツ・ジョウ）（名）［奪攘］ウバヒ、ススムコト。書經、呂刑篇「鴟義姦宄、奪攘矯虔」

だつじやうじゆうこう（ダツ・ジョウ・ジュウ・コウ）（名）［奪情從公］〔服喪ノ情ヲ奪ヒテ、公事ニ從ハシムルノ義〕忌御免。喪中ニ、除服出仕ヲ命ズルコト。も（喪）ノ條ヲ見ヨ。玉葉、承安二年閏十二月十二日「奪情從公之輩、指何人哉」

だつしゆ（名）［奪取］ウバヒトルコト。唐書、尉遲敬德傳「奪取殷矟、還刺之」

ダツシユ（名）〔英語、Dash〕文章中ノ横線。即チ、——、句點法。

タツス（名）［塔主 塔司］〔字ノ宋音〕（一）禪林ニテ、祖師ナドノ塔ヲ守ル役僧。臨濟錄「師到達磨塔頭、塔主云、長老先禮佛、先禮祖」（二）轉ジテ、塔主ノ人ノ居ル房。尺素往來「塔主（タッス）」運步色葉集「塔主」

たッ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) [達] トドク。イタル。オヨブ。[illegible]、禹貢篇「浮于[illegible]、達于河」[illegible]」

たッ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) [達] (一)トドクル。オヨボス。史記、太史公自序「是故、禮以節人、樂以發和、書以道事、詩以達意」(二)告ゲ知ラス。(官ヨリ) 史記、孝文帝紀「自於賤之德薄、而不能遠達也」

だッ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) [脱] (一)ヌクル。ヌケイヅ。「皮ヲだッす」俗ヲだッす」(二)漏レ落ツ。「文字だッす」(三)逃グ。免ル。漢書、高五王傳「[illegible]其婿道邊、自以爲不得脱長安」

だッ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) [脱] (一)ヌグ。トキハナス。陸游詩「新年脱帽始覆幘」(二)漏ラス。オトス。ヌカス。(三)ヲハル。「稿ヲ脱す」

だつ-ぜい(名) [脱税] 納税ヲ脱ルルコト。納ムベキ税ヲ納メヌコト。逋税。

だッ-せき(名) [脱籍] 名ノ人別帳ニ脱ケタルコト。戸籍ヨリ離脱スルコト。

だッ-せん(名) [脱線] (一)列車ナドガ、鐵道線路ヨリ外レ出ヅルコト。(二)演説ナドノ、枝葉ニ走ルコト。

だッ-そ(名) [脱疽] 病ノ名。手足ノ端等、血ノ運行絶エ、生機ヲ失ヒテ腐ルモノ。病名彙解、三「脱疽、手足ノ指ニ生ジ、甚ダシキトキハ、節ヨリ落レ脱ケル也」

だッ-そう(名) [脱走] 逃グルコト。逃走。出奔。易林(漢、焦贛)八、蹇「[illegible]後、集於[illegible]、[illegible]不得脱走」

だつ-ぞく(名) [脱俗] 世俗ヲ、モヌケタルコト。俗氣ヲ、ハナレタルコト。凡俗ヨリ超越シタルコト。[illegible]俗人作[illegible]云、[illegible]其脱俗」

だッそ-ちりめん(名) 織物ノ名。木綿絲ヲ緯トシ、絹絲ヲ經トシテ、縮緬ノ如クニ織リタルモノ。

たッ-そん(名) [達尊] 天下ニ通ジテ、最モ尊バルルモノノ稱。其中、朝廷ニ在リテハ爵位、鄕黨ニ在リテハ年齒、世ノ中ニ在リテハ學德ナリ。コレヲ三達尊ト云ノ。孟子、公孫丑、下篇「天下有達尊三、爵一、齒一、德一、朝廷莫如爵、鄕黨莫如齒、輔世長民莫如德」

✡だッ-た(副) [唯] ただノ音便。コレノミ。コレバカリ。僅。[illegible]「[illegible]貫スラ、ソトコトモ、死ヌレバた、た、五匱(五[illegible])ニゾナル」「たッた一ツ」

だッ-たい(名) [脱退] ヌケサルコト。「聯盟脱退」

だッ-たい(名) [奪胎] 換骨ノ大體ハ、他人ノ作ヨリ取リテ、其形式ノミヲ換フルコト。(詩文ニ云フ) [illegible]宋、[illegible]「文章雖[illegible]、[illegible]古人一言一句[illegible]換骨等法、所謂靈丹一粒、點鐵成金也」

たッ-たいま(副) [唯今] [ただいまノ急呼音] イマガタ。イマシガタ。サイゼン。

たつ-だう(名) [達道] 人生ニ於テ、必ズ一般ニ通ジ行ハルベキ道德。卽チ君臣、父子、夫婦、兄弟、朋友ノ五倫ノ道。中庸、第二十章「天下之達道五、所以行之者三、曰、君臣也、父子也、夫婦也、昆弟也、朋友之交也、五者天下之達道也」

だッ-たう(名) [脱刀] 帶ビタル刀ヲ脱グコト。又、帶刀ヲ廢スルコト。

たづ-たづ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)

たどたどしニ同ジ。萬葉集、四「夕闇ハ、路たづたづし、月待チテ、イマセ吾ガ背子、ソノ間ニモ見ム」

たつた-ひこ(名) [龍田彦] 大和ノ平群(今ハ、生駒郡)ニ座ス男神。風ヲ司ル神トス。今、生駒郡三郷村立野ノ官幣大社、龍田神社ハ、コノ神ヲ祀レルナリ。

たつた-ひめ(名) [立田姫] 大和ノ平群(今ハ、生駒郡)ニ座ス女神。秋ヲ司ル神トス。さほひめ(佐保姫)ノ條ヲ見ヨ。古今集、五、秋、下「立田姫、タムクル神ノ、アレバコソ、秋ノ木ノ葉ノ、ヌサト散ルラメ」

だつ-ぢん(名) [脱塵] 人間ノ塵ヲ離レ、遁ルルコト。俗塵ヲ脱シ遁ルルコト。

たッち-もん(名) [達智門] [たていもんト讀ムヲ讀癖トス] 大内裏ノ外郭ニアル十二門ノ一。北面ノ東端ノ門。拾芥抄、中、[illegible]「達智門[illegible]」

タッ-チュウ(名) [塔頭] [字ノ宋音。] [illegible]禪宗ニテ、高僧ノ寂後、其弟子、師德ヲ慕ヒテ、塔ノ頭ヲ去ラズ、坊ヲ構ヘテ住セシ[illegible]ノアル處ノ稱。[illegible]

たッ-つけ(名) [裁着] たちつけノ音便。

たつつ-まひ(名) [殊儛] 舞ノ一種。[illegible]「[illegible]」出、此云陀豆豆八儛、[illegible]老私記云、今東舞、是也」

たつ-づみ [illegible]

たッ-て(副) [illegible]

だッ-て(副) ソレダトテ。「ソレだッて」

たッ-と [illegible]

たッ-とく(名) [達德] 人生ニ於テ、一般ニ尊ビ行ハルル德。卽チ、知、仁、勇ノ稱。[illegible]

たッと・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [貴] [illegible]

たッと・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(他動、四) [貴] [illegible]

たッと・ぶ [illegible]

たッと・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) [尊] たふとむ(貴)ノ音便。タットブ。タットム。[illegible]

たつ-な [illegible]

馬ニ乘レル者、コレヲ取リテ、馬ヲ進退セシムルモノ。クツワヅラ。後世、公卿ハ平絹、武家ハ麻布、色色ニ染ム。手綱染ト云フアリ。馬具 名義抄「䪊、タヅナ」 吉田家日次記、應永元年正月十四日「八幡御幸、操手綱、蘇芳、無文、俗用繪鈴、紺布手綱」 (二)立烏帽子、侍烏帽子ニ鉢卷スル布、結ビ固ムルナリ。抹額 盛衰記、三十四、木曾可追討由事「サシモノ院宣ノ御使ニ、小袴ニ鎧直垂、烏帽子ニ綱ヲ以テ、鉢ニカキツツ、白綾ノ腹ヲ深クカイタル」 曾我物語、九、敵討條「十郎ハ白キ手綱打タセテ」 (三)相撲取ル時ナド、陰部ヲ掩ヒ、腰ヲ縛ル布。力綱トスルナリ。音便ニ、たんなトモ云フ。ソノ縛ルヲ締クト云フ。褌 曾我物語、一、相撲事「股引カ褌マツカンテ、差シツケ、荒クモ働カバ、たづなモ腰モ切レヌベシ」 鶴岡放生會職人歌合、七、筆結「一番手綱、二番小袖、三番大口」 守武千句「手綱ソバ、カカズ褌ハ、縫ビテ」 新撰犬筑波集、雜「手綱モカカヌ、高砂ノ松」 誹諧ニ、フラメキワタル、松フグリ」

たづなかまぼこ (名) 手綱蒲鉾 蒲鉾ヲ小サク短册形ニ切リ、食紅ニテ、チョット煮テ、中程ニ庖丁目ヲ入レテ、一方ノ端ヲ、其切目ニ通シタルモノ。

たづなぞめ (名) 手綱染 古クハ、取染。布帛ニ、斜ニ巾一寸許ノ線ヲ、ブサギ、モエギ、ナドニテ、段段ニ染メタルモノ。馬ノ手綱ニ、多クコレヲ染ムト。

たつなみ (名) 立波 模樣ニ、波ノ起チタル像。飛沫ノ圖端ナド多シ。

たづ・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ (他動、下二) 尋 (一)物事ノ跡ヲ認メ行ク。靈異記、下、第一緣、訓釋「撰、タツネ」 菅家私記音義「尋、多豆奴」 名義抄「逍、タヅヌ、還、タヅヌ、尋、タヅヌ、原、タヅヌ、尋、タツヌ」 萬葉集、廿二「ウツセミハ、カズナキミナリ、山川ノ、サヤケキ見ツツ、道ヲ多豆禰テ」 (二)物事ノ見エス知ラレヌヲ探ル。サガス。搜索 繹 名義抄「繹、タヅヌ」 拾遺集、三、秋「オボツカナ、イヅコナルラン、蟲ノ音ヲ、たづねバ草ノ、露ヤ亂レン」 (三)問フ。聞キタダス。質問 源、十五、蓬生「御消息ドモモ、コダイニナレタルガ、云云、其ノ人、カノ人ニ、セサセ給ヘルト、たづね聞キテ」 (四)オトヅル。トブラフ。訪 夫木抄、十三、月「嵐吹ク、月ノ主ハ、我レヒトリ、花コソ宿ト、人モたづぬれ」

たつね (名) 竪根 樹ノ根ノ、眞直ニ下ヘ延ブルモノ。ボウネ。ゴバウネ。命根 横ニ延ビタルヲ小根ト云フ。鬚根

✤たづ・ねる (動) たづぬ(尋)ノ口語。狂言記、膏藥煉「其方ノ尋ねる部ノ膏藥煉デオリャルガ」

〜たつのいぐさ (名) 龍膽 〔龍膽草ヲ文字讀ニシタル語〕 りんだう(龍膽草)ノ古名。字鏡八十五「龍膽、太豆乃伊久佐、山比古奈」

たつのいち (名) 辰市 古ヘ、大和國、添上郡ニテ、辰ノ日毎ニ、立ッ市。八雲御抄「たつの市、辰日たつ也」 夫木抄、三十一、市「玉ボコヤ、多クノ民ノ、たつの市ニ、クルレバカヘル、カズモ見エケリ」

〜たつのいってん (名) 辰一點 今ノ午前八時過ノ稱。ろうこく(漏刻)、及、とき(時)ノ條ヲ見ヨ。宇津保物語、嵯峨院九十五「辰の一てむバカリニ、朱雀院ニ、上達部、皇子達、ヒキヰテ參リ給フ」

たつのうま (名) 龍馬 勝レテ良キ馬。リュウメ。タツノマ。夫木抄、廿七、馬「山高ミ、石フム道ノ、ハルケサニ、たつの馬ヲモ、今エテシガナ」

たつのおとしご (名) 〔龍の落子ノ義〕 海産ノ動物。長サ一二寸ヨリ三四寸、首ハ馬ノ如ク、身ハ蝦ノ如ク、全身甲皮ニシテ、稜アリ、腰ヨリ下、四稜ニシテ節アリ、尾ノ末、長ク尖ル。褐色ナリ、或ハ銀色、白色ナルモアリ、乾セバ尾ヲ内ニ卷ク。雄ハ腹部ニ囊アリ、其中ニ卵ヲ容レテ孵化ス、雌雄ヲ對トシテ、婦人、鏡奩ニ納メテ安産ノ守トス。タツノコマ。タツノステゴ。タツノオロシゴ。カイバ。畿内ニ、ウミウマ。海馬

たつのおろしご (名) 前條ノ語ニ同ジ。

たつのかど (名) 龍門 大和國、龍門ノ瀧ヲ文字讀ニシタル語。夫木抄、廿六、瀧「雲トミエテ、光マドハズ、流レ出テテ、たつのかどヨリ、キケル水カモ」

〜たづのき (名) 接骨木 〔幹、ネヂレテ段段アレバ、繼續ノ意ニモアルカ、イカガ〕 にはとこ(接骨木)ノ古名、略シテ、たづ。接骨草ニ對シテ、木たづ、山たづトモ云フ。又、みやつこ木トモ云フ。本草和名、上五十二「女貞、美也都古岐、一名、多都乃岐」 倭名抄、廿九「女貞、太豆乃木(女貞ハひめつばきナレド、二木相似タリ) 接骨木、美夜都古木」 康頼本草、上五十一「接骨木、ニハトコ」 古事記、下(允恭)二「山多豆、是今造木者也」

たつのくち (名) 龍口 (一)銅鐵ナドニテ龍頭ヲ作リ、其口ヨリ水ヲ吐ク如ク出サシムルモノ。(二)堰ノ水ヲ吐キ出ス所。

たつのくるま (名) 龍車 〔文字讀ニシタル語〕 天子ノ車。リュウシャ。

たつのこま (名) 龍駒 たつのおとしご(海馬)ニ同ジ。(薩州)

たつのすてご (名) 龍棄兒 たつのおとしご(海馬)ニ同ジ。

〜たつのひげ (名) 石龍芻 石龍芻 龍鬚 草ノ名。おひげ(小髭)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。字鏡六十「石龍芻、太都乃比介」 本草和名、上三十「石龍芻、太都乃比介」

たつのほね (名) 龍骨 又、リュウコツ。(一)まぎりがはら(間切骨)ニ同ジ。(二)前世界ニ棲息セシト云フ象類ノ、巨獸ノ骨ノ化石セシモノ。藥用トス。本草和名、下六十「龍骨、多都乃保祢、出大宰二」

〜たつのま (名) 龍馬 〔文字讀ニシタル語〕 走ルコトノ、ハヤキ馬。スグレタルウマ。リュウメ。周禮、夏官司馬篇、廋人「馬八尺以上爲龍、七尺以上爲騋、六尺以上爲馬」 萬葉集、五十一「多都乃馬モ、今モ得テシガ、アヲニヨシ、奈良ノ都ニ、行キテ來ムタメ」

たつのみかほ (名) 龍御顏 天子ノ御顏ヲ申ス語。リュウガン。玉顏。長秋詠藻、下「ハジメテ君ガ、ミヨニコソ、雲ノ梯、フミカヨヒ、たつのみかほニ、近ヅキテ」 永久四年百首、長歌「アハレ我君、マシシ時、たつのみかほニ、近ヅキテ、照ル日ノ光、身ヲ照ラシ」

たつのみや (名) 龍宮 〔文字讀ニシタル語〕 りゅうぐう(龍宮)ニ同ジ。

たつのみやこ (名) 龍都 (一)水邊ノ稱。(二)りゅうぐう(龍宮)ニ同ジ。謠曲、合浦「ワタツミノ、底トモイサヤ白浪ノ、龍の都ヲ出ヅルナリ」

たつのみやひめ (名) 龍宮姫 女ノ龍神。夫木抄、廿七、龍「契リアレバ、鵜ノ羽フキケル、産屋ニモ、たつのみやひめ、通ヒシモノヲ」

たっぱい (名) 答拜 〔たふはいノ音便〕 (一)大饗ノ折ニ尊者ノ來ル時、主人ノ降リ逢ヒテ共ニ拜スルコト。大臣大饗者「大饗之儀、大殿關白殿、相共令答拜之間事」 林逸節用集「答拜、タッハイ」 (二)轉ジテ、丁寧ナルアシラヒ。手アツキ取リ扱ヒ。平

家女護島、享保、近松作）ニ「女房アツマヤガ[illegible]走、答拜受ケナガラ御心ニ從ハズ」

だつぼう（ダツボウ）（名）脫帽 帽子ヲヌグコト。又、帽子ヲヌギテ、敬禮スルコト。[illegible]

たつび（名）田中螺 〔田螺ノ義〕 たにし（田螺）ニ同ジ。倭名抄、十九、[illegible]「田中螺、太都比」本草和名、下[illegible]「田中螺、多都比」

たっぴつ（名）達筆 書、畫、文章等ヲ巧ミニカクコト。能筆。健筆。

たつぶ（名）田螺 たにし（田螺）ニ同ジ。

だつぶん（名）脫文 脫ケタル文句。

たっぷり（副）〔たふたふ（滿溢）ノ音便轉〕 多ク滿チテ。溢ルルホド。十分ニ。不足ナク。タクサン。湛湛 男女色競馬（寶永）二「タビタビ此邊ヘマイル者ニアラズ、たつぷり面白イ事ヲ、ウタフテ聞セタマヘ」

たつべ（名）竹瓮 〔たけへノ訛カ〕 筌ノ類。魚ヲ捕ルニ用キル具。タツメ。

たっぺえ（名）[illegible]氷 〔仙臺ニテ、立氷ト云ヒ、秋田ニテ、たつぺえト云フ〕 コホリスベリ。

たつべん（名）達辯 辯舌ノ巧ミナルコト。淀滯ナキ辯舌。

たつぼ（名）田螺 たにし（田螺）ニ同ジ。

だつま（名）達摩 〔達摩ハ、達磨ナリ。達磨ハ、禪ノ親玉ナレバ云フカ。又、其目玉ノ大ナリト云フ意カ〕 數珠ニ貫ク大玉。數珠ノオヤダマ。大鏡、五、伊尹「小サキ柑子ヲ大サノ玉ニツラヌカセ給ヒテ、だつまニハ大柑子ヲシタル御ズズ、イト長ク」

だつもう（ダツモウ）（名）脫毛 毛髮ノ脫ケ落ツルコト。又、ソノ毛。ヌケゲ。

たつまき（名）龍卷 烈シキ旋風ノ爲ニ、海水ノ卷キ上ゲラレテ、柱ノ狀ヲ成シテ空ヘ昇ルモノ。龍ノ天ヘ昇ルモノト想像シテ名アリ。陸上ニテモ、土沙ヲ卷キ上グルコトアリ。

たつまつふう（名）辰松風 享保ノ頃、流行セシ男子ノ髮風ノ名。髻ニコトゴトシク、元結ヲ長ク卷キ、髻ノいちヲ上ノ方ヘ高ク、立テタル狀。コレ人形遣、辰松八郎兵衞ノ結ヒ始メタルニ起ル。（人形遣ハ、アヲノクニ因リテ、いちノ襟ニ觸レザルヤウニセシコトナリ。近代世事談）又、女ノ島田髷ノ根ヲ、高ク結ヒタルモノヲ、辰松島田ト云フ。享保年中ニ流行ス。（我衣）

たつみ（名）辰巳 （一）方角ノ名。辰ト巳トノ間、即チ東南ノ間。巽 名義抄「巽、タツミ」續紀、廿六、[illegible]元年八月、[illegible]「東南之隅」（二）德川時代ニ、江戸城ノ辰巳、即チ東南方ニアタル深川邊ノ遊里ノ稱。ココノ藝妓ヲ、辰巳藝者ト云ヘリ。

たつみあがり（名）〔龍蛇ノ騰ルニ比シテ云フカト云フ〕 氣象、言語ノ暴ク荒キコト。長町女腹切（正德、近松作）中「花メガ父、西陣ノ九兵衞デゴザルト、巽上ニ云ヒケレバ」

たづむら（タヅムラ）（名）鶴群 鶴ノ群リ居ルコト。ツルノムレ。（あぢむらノ類） 萬葉集、九、三十「タビビトノ、宿リセム野ニ、霜降ラバ、吾ガコハグクメ、天ノ鶴群」

たつめ（名）竹瓮 たつべ（竹瓮）ニ同ジ。

たづら（タヅラ）（名）田面 田ノ表面。タノモ。タンボノオモテ。伊勢物語、五十八段「ウチワビテ、落穗拾フト、聞カマセバ、我モたづらニ、[illegible]カマシモノヲ」

だづら（ダヅラ）（名）駄面 ツマラヌカホ。クダラヌ面相。（罵リテ云フ語） 浮世風呂（文化、三篇）上、下「アノ[illegible]」

だつらく（名）脫落 ヌケオチルコト。[illegible]

だつり（名）脫離 脫ケ離ルルコト。

だつりゃく（名）奪略 ウバヒトルコト。

だつろ（名）脫路 ヌケミチ。ニゲミチ。

だつろう（名）脫漏 漏レ脫ケタルコト。[illegible]

たて（名）竪縱 〔立ノ義〕 （一）物ノ上下ノ距離。（左右ノ横ニ對ス）（二）[illegible]

たて（名）楯 〔立テテ矢ヲ防グ意〕 （一）古製ナルハ長大ナリ。（たてぬひノ條ヲ見ヨ）後世ノ楯ハ、古ヘノ手楯ナリ。左手ニ手楯ヲ執リテ、[illegible]ノ防キ、右手ニ手矛ヲ以テ戰フト。倭名抄、十三[illegible]也」[illegible]萬葉集、一[illegible]「マスラヲノ、[illegible]」[illegible]

たて（名）[illegible]

たて（名）[illegible]

たて（名）立 漁スル法。たてぼし（立[illegible]）[illegible]

たて（名）[illegible]

たて（名）立 [illegible]

たて（名）立 （一）たてもの（立者）ノ略。（二）たて[illegible]ノ略。其條ヲ見ヨ。

たて（名）[illegible]

たて（名）[illegible]

朝日(寶永、近松作)上「鐵[illegible]ノ淡火ノオフリたて」五十年忌歌念佛(寶永、近松作)中「心ノ鏽ビモ荒砥ノ研ギ立て」「煮たて」炊キたて」切りたて」生レたて」

たで (名) [蓼] 〔爛れノ意ニテ、口舌ニ辛キヨリ云フト云フ〕草ノ名。水邊ニ生ズ、秋、苗ノ高サ、二尺許、枝ノ梢毎ニ、長キ穗ヲ出ス、花ハ白クシテ、蓼ハ綠ナリ、葉ノ圓キヲ蒸蓼ト云ヒ、細長キヲ柳蓼ト云フ、共ニ、葉ノ味辛シ、食用トス、異種ノモノニ對シテ、眞蓼、本蓼等ノ名モアリ。南蓼 又、色ノ紫ナルヲむらさき蓼ト云フ。 倭名抄、十六「蓼、多天」本草和名、下十六「蓼實、多天」字鏡九十「蓼、太伝」 蓼食フ蟲トハ、蓼ヲ食ヒテ、ソノ辛味ヲ覺エザル意。 孔叢子、[illegible]「是蟲幼長二斯蓼一不ㇾ得ㇾ辛」 白氏長慶集、自誡「食ㇾ蓼不ㇾ知ㇾ苦」是苦」同集、三「[illegible]蟲避ㇾ[illegible]不ㇾ言ㇾ苦不ㇾ言ㇾ非」

だて (名) [伊達] 〔たてだてしきノ上下略シテ濁ル、男ヲ立ツル意。即チ男立、腕立、心中立ナドヨリ移ル、世ニハ伊達政宗卿ノ部兵ノ服裝華麗ナリシニ起ルト云ヘド、此語、政宗卿ノ時代ヨリハ、古クアリシガ如シ、且ツ慶長ノ頃マデハ、伊達氏ハいだてト唱ヘタリ〕 (一)意氣アリテ、男立シ腕立ツルコト。游俠 俠氣 堀川波鼓(享保、近松作)上「サスガハ薬人ノ妻、茶湯モ好ク、氣モ伊達ニ」 (二)ハデナルコト。ケバケバシキコト。又、ミエヲ張ルコト。華美 華奢 豪華 冶遊 艷冶 容冶 (三)ハヤリ風俗。時粧 曾我五人兄弟(元祿、近松作)四「是サ大罪人ノ牢獄人、此ノ袈裟衣ハ伊達ニ着ルカ、化粧ニ着ルカ」

だて (接尾) [立] 他語ト熟シテ名詞トナリ、其風スル意ヲ云フ語。 狂言、[illegible]「オノレノ分デ、古風だてヲ云ヒヲル」「カシコだて」カマヒだて」男だて」

たてあかし (名) [立明] 〔立燈ノ義〕 薪ヲ束ネテ、燒キテ明ヲ取ルモノ、タキアカシ。炬火 倭名抄、十二「燎火、太天阿加之、束ㇾ薪灼ㇾ之」

たてあき (名) [帶刀] たちはき(帶刀)ノ音便。又、たてはき。

たてあげ (名) [立擧] 臑當ノ一種ニテ、膝ヨリ上ノ部マデアルモノ。總體、鐵ニテ造ル。又、立擧ヲ更ニ大キク造リ、外側ヲ殊ニ長クシテ、股ヲ覆フヤウニシタルヲ、大立擧(具ニハ、大立擧臑當)ト云フ。 太平記、八、四月三日合戰事「鎖ノ上ニ[illegible]ヲ重ネテ著、大立擧ノ臑當ニ膝鎧掛ケテ、[illegible]頭ノ胄ヲ猪頸ニ著ナシ」

たてあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [立合] ハリアフ。抵抗ス。 著聞集、十二、偸盜「汝、ワレニたてあはン、心ヲサナキ事ナイヒソ」

たてあみ (名) [立網][建網] 〔刺網ニ對ス〕 魚網ノ一。垣網ト袋網トヨリ成ル大規模ノモノ。即チ魚ノ來襲スベキ一定ノ場所ニ、垣網ヲ岸ヨリ沖ヘ張リ亙シテ、コレヲ袋網ノ口ノ中央ニ結ビ附ケ、魚ノ垣網ヲ恐レテ、沖ヘ逃レムトシテ、袋網ノ中ヘ入リ來ルヲ捕フ。

たであゐ (名) [蓼藍] あゐ(藍)ニ同ジ。 倭名抄、十四四十染色具「蓼藍、多天阿井」

たてい (名) [侘傺] 〔韻會「侘傺、失意貌」〕 失意、困窮スルコト。 屈原、離騷「忳鬱邑余侘傺兮」 [illegible]、十七、藤原[illegible]「カカル亂ニ逢幸、遷都、內裏造營、山海ノ財力ノ盡キヌルノミニアラズ、人民ノ侘傺イクソバクゾ」

たていし (名) [立石] (一)道シルベノ爲ニ立テテ、方角、地名ナド刻ミタル石。標石 (二)庭ニ飾リ居エタル石。 源、十三、明石「木立、立石、前栽ナドノアリサマ、エモ言ハヌ入江ノ水ナド、繪ニカカバ」

たていた (名) [立板] (一)物ニ立テ掛ケテアル板。立板に水トハ、辯舌ノ澁滯ナキニ云フ語。 (二)牛車ノ車箱ノ兩側ノ稱。 今昔物語、廿八、第二十一語「三人彼ニ振合ニテ、或ヒハ立板ニ頭ヲ打チ、或ハ己等ドチ頰ヲ打合セテ」

たていれ (名) [立入] 〔竪入ノ轉〕 大工、庭師ノ語、下繩シテ墨繩、又ハ、植木ノ直キカ、否カヲ見ルコト。タテリ。直否

だてう (名) [駝鳥][駝鳥] 〔形、稍、駱駝ニ似タレバ云フト。又、正字通ニ「漢元帝時、有ㇾ鳥、如ㇾ馬駒、散名ㇾ駝鳥、因ㇾ羽族ㇾ作ㇾ駝」〕 鳥ノ名。亞弗利加、亞刺比亞等ノ原野沙漠ニ棲ム。鳥類ノ最大ナルモノ。高キハ七八尺ニ及ビ、力強シ、馳スルコト極メテ速ナリ。形、稍、鶴ニ似テ、頸、甚ダ長ク、脚、長ク太クシテ、二指ナリ、羽、黑色ニ、白色ヲ交ヘテ長シ、土人コレニ騎ル。現今、羽ヲ婦人ノ裝飾用トス。鳳五郎鳥。

たてうす (名) [立臼] 地上ニ据エ立テテ、米ナドヲ舂クニ用キル大イナル臼。 曠野(荷兮)二「立臼ニ、若菜見タル、明屋カナ」

たてうた (名) [立唄] 江戸長唄ヲ、連坐シテウタフ時、首席ニ居ルモノノ稱。次次ナルヲ二枚目、三枚目ナド云フ、立三味線モ亦同ジ。共ニ藝人ノ上ニ云フ。

たてうた (名) [立歌] 略シテ、たて(立)。歌ヲウタフ主タルモノ。即チ仕手ナリ。長唄ナド唄フ者ノ、立者ト同ジ。

たてえぼし (名) [立烏帽子] ヒキタテエボシ。えぼし(烏帽子)ノ條ヲ見ヨ。

たておもだか (名) [立澤瀉] 紋所ノ名。立チタル澤瀉ノ葉ト花トヲ取合ハセタル狀ヲ描キタルモノ。タチオモダカ。

たてか・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) [立掛] 立テテ、寄リ掛カラス。

たてがく (名) [竪額] 〔橫額ニ對ス〕 竪ニ長キ額。がく(額)ノ條ヲ見ヨ。

たてかけ (名) [立掛] (一)タテカクルコト。 (二)男ノ結髮ノ一種。延寶ノ頃ニヤ、淨瑠璃語ノ、江戸半太夫ノ結ヒ始メシモノ。 好色一代男(天和、西鶴)一「鬘切シテ、立かけニ結フ事ハヤリケルニ」

たてがさ (名) [立傘] 長柄ノ傘ヲ、スボメテ袋ニ入レタルモノ。又、被笠ヲ袋ニ入レ、棒ヲ添ヘタルモノヲ臺笠ト云フ。共ニ、貴人ノ行列ニ立テテ持タス。 日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)二「臺笠、立かさ、オ長刀」

たてガハラ (名) [竪瓦][立瓦] 瓦ノ面ノ平ナルモノ。壁ノ腰ナドニ添ヘテ覆フニ用キル。

たてか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) [立替] 一時、他ニ代リテ、財ヲ出シ置ク。他ニ代リテ支拂フ。「金子ヲ立替フ」

たてか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) [建替] 建築ヲ爲直ス。タテナホス。改築ス。 新勅撰集、十二、戀「クリカヘシ、天照ル神ノ、宮柱、たてかふるマデ、逢ハヌ君カナ」

たてかへ (名) [立替] 立テ替フルコト。他ニ代リテ支拂ヒオクコト。又、其金。

畿內邊ニテハ、取替(トリカヘ)ト云フ。

たてかへ(タテカエ) (名) 〔建替〕 建テ替フルコト。改築。又、改築シタル建物。

たてがみ (名) 〔鬣〕 〔立髪ノ義〕 古言、項髪(ウナガミ)。タチガミ。タツガミ。馬、又、獅子ノ項(ウナジ)ニ叢生スル長キ毛。[illegible]「[illegible]カル、涙ヤシゲキ、戀路行ク、駒ノたてがみ、露フシニケリ」

たてがみ (名) 〔立髪長髪〕 〔立てゐむる髪ノ意〕 剃リタル髪ヲ、久シク剃ラズニオキ、殊更ニ生シ立ツルモノ。丹前者ナド、風流容色ノ事トス。然レドモ、無禮ノ姿ナリ。(色道大鑑) コレヲ作リ奴(ツクリヤッコ)ト云ヒ、皆頰髭ヲ生セリ。好色一代男(貞享、西鶴)二「立髪ノ小者、ベンガラノ縞ノ風呂敷包ニ、竹ノネヂ杖ヲ持チ、へ」東海道名所記(萬治)六「當世ノ作リ奴ニ、着替ノ草履(ハキカヘ)ヲ持タセ、云云」

たてかり (名) 〔立刈〕 鎌ノ柄ノ、長クシテ、立チテ刈リ得ルモノ。長鎌

だてぎ (名) 〔伊達着〕 葉手(ハデ)ナル衣服、備、だて(伊達)ノ條ノ(二)ヲ併ハセ見ヨ。

⁂たてきり (名) 〔立切〕 タテキルコト。

⁂たてき・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔閉切〕〔立切〕 (一)シメキル。「障子ヲたてきる」(二)カギル。(三)オシトホス。ヤリキル。遮グ。「襖ヲ立てきる」

たてぐ (名) 〔建具〕 〔閉つる具ノ意〕 戸、障子、襖ナド、スベテ、家屋ノ敷居、鴨居ノ間ニ、引(ヒ)キ閉(タ)テスル物ノ總名。[illegible]選、冬「立具皆、[illegible]神無月」

たてくび (名) 〔項〕 ボンノクボ。ウシロクボ。ウナジ。宇治拾遺、一、十五條「竈ノたてくびヲトリテ、引キ[illegible]」

たてこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 〔立込〕 コミアフ。雜沓ス。「客ガたてこむ」

〔二〕たてこ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 〔閉込〕 戸、障子、等ヲ閉メ切ル。竹取物語「たてこめタル所ノ戸、スナハチタダアキニアキヌ」

たてこも・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔楯籠〕 城ニ入リテ防ギ守ル。籠城ス。守城。保元物語、一、「[illegible]事、近江國甲賀山ニ立籠リ候ヒシヲ、承テ發向シ」

たてさくしゃ (名) 〔立作者〕 劇場ニテ、第一流ノ狂言作者。座附ノ第一ノ脚本作家。タテヅクリ。

たてし (名) 〔立師殺陣師〕 中役俳優ノ役。たて(殺陣)ヲスルモノノ頭。

だてし (名) 〔伊達師〕 俳優(タチ)ナル役ヲナス役者。伊達ノ條ノ(一)ヲモ見ヨ。

〔二〕たてじとみ (名) 〔竪蔀〕 いたじとみ(板蔀)ニ同ジ。源、廿八、野分「ヒハダ、カハラ、所所ノたてじとみ、スイガイヤウノモノ」

たてじま (名) 〔縱縞竪縞〕 〔横縞ニ對ス〕 竪(タテ)ニ織リ表ハシタル縞模樣。タツジマ。守貞漫稿、下、「織染、今世、島ト云フハ、[illegible]」まト云フ、昔ハ筋ト云フ」好色一代男(天和、西鶴)三「イツゾヤノ立縞ノ着物ノ[illegible]ルカ」

だてしゃ (名) 〔伊達者〕 華美ヲ好ム人。見エヲ張ル人。着飾ル人。ハデシャ。ダテモノ。[illegible]「[illegible]三ハ伊達者デ御座ル」

たてしゅ (名) 〔立衆〕 [illegible]俳優[illegible]

たてず (名) 〔[illegible]〕 料理ノ法、[illegible]ニ、少シノ[illegible]ヲ加ヘ、[illegible]シ、[illegible]ト酢トヲ入レ、更ニ擂リテ[illegible]ルモノ。酢ニ漬ケタル魚ノ生肉ニ[illegible]テ用ヰル。

だてすがた (名) 〔伊達姿〕 伊達ナル[illegible]。寬闊ナルスガタ。くゎんくゎつ(寬闊)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

たてずな (名) 〔立沙〕 車寄ノ前、[illegible]ニ、沙ヲ築キ立テタルモノ。[illegible]ノ轅ナド持スルタメニ、設クルナリト云フ。今、盛沙(モリズナ)。伊勢家[illegible]たてずな、[illegible]ツノ間ヲすざト遁ラヌモノナリ、雨ガノワキヨリ通ルベシ」[illegible]

たてすゑ(タナスエ) (名) 〔立居〕 茶ノ會ニテ、茶ヲ點ズルコト。點茶。

だてぞめ (名) 〔伊達染〕 [illegible]モノ。又、[illegible]小袖ナド。[illegible]保、近松作)二「裝束脫ゲバ、肌ニ松浦ノ伊達染ヤ」

たてだし (名) 〔[illegible]〕 [illegible]建ツルコト。又、其建テタル家。

たてだて・し・キ・ケレ・シク・シ (形) 〔心ヲ立てトホス意〕 意氣地ヲ[illegible]レ身ヲ捨テタレドモ、心ハナホ昔ニカハラズ、たてだてしきモノヲ」同、十四條「播州[illegible]ノ中ニ祇候ノ女房アリケリ、[illegible]シク、たてだてしかりケルガ」

たてちゃ (名) 〔[illegible]〕 [illegible]タル茶。ひきちゃ[illegible]

たてつき (名) 〔楯突〕 (一)戰場ニテ、楯ヲ立ツルヲ事トナスモノ。[illegible]記、廿、八若佐[illegible]「スクヤカナラン楯突ヲ一人タビ候ヘ」(二)楯突クコト。敵對スルコト。ハリアフコト。[illegible]

たてつ・く・ク・カ・キ・ケ (自動、四) 〔楯突〕 ハリアフ。アタル。敵對ス。對抗ス。[illegible]「[illegible]」

たてつ・く・クル・クレ・ク・ケ・ケヨ (他動、下二) 〔立附〕 (一)戸、障子ナドヲ閉ヂ[illegible]。(二)[illegible]

たてづくり(タテヅクリ) (名) 〔立作〕 芝居ノ狂言作者ノ首位ノモノ。タテサクシャ。

たてつけ (名) 〔立附〕 (一)[illegible]ト。戸、障子ナドヲ閉ヂテ、其ニ合フ工合。[illegible]

たてつぼ (名) 〔立坪〕 土沙ナドノ、六尺立方ノ積ノ稱。

たてつぼ (名) 〔建坪〕 建家ノ坪數。

〔二〕たてて (副) 〔立〕 殊ニ。[illegible]

たてど (名) 〔立處〕 立ツル場所。[illegible]

たてどひ (名) 〔[illegible]〕 [illegible](二)地中ニ竪ニ伏セタル用水ノ樋。

たてとほ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔立通〕 [illegible]

たでながし（名）〔蓼流〕川ニテ魚ヲ捕ルタメニ、蓼ヲ搗キタル汁ヲ川ニ流スコト。夫木抄、廿七、鮎「ミ山川、上ル小鮎ノ、たでながし、カラクモ濁ル、世ニ生レケム」

たてぬき（名）〔經緯〕機ノ絲ノ經ト緯（ヌキ）トタテヨコ。又、樣樣ニ亂ルル意ニモ云フ。貫之集、六、贈歌ニ、亂レテゾ思フ、戀シサヲ、たてぬきニシテ、織レル我身カ」古今集、六、冬「立田川、錦織リカク、神無月、シグレノ雨ヲ、たてぬきニシテ」和泉式部集、上「ササガニノ、スガクイトヲヤ、秋ノ野ニ、ハタオル蟲ノ、たてぬきニスル」

たてぬひ（名）〔楯縫〕古ヘ楯ヲ作ルヲ職トセシ者。古製ノ楯ハ長サ丈餘、幅三四尺餘、コレヲ作ルヲ縫ふト云フハ、其製、牛皮ヲ板ノ表ニ縫合ハセテ、裏ニ布ヲ張レルガ如クナルニヨル。（兵庫寮式）兵庫寮式「踐祚大嘗會新造神楯、云云、丹波國楯縫氏造之」（寸法、材料、其式ニ見ユ）出雲風土記、楯縫郡「楯桙造而奉レ於二皇神一、故云二楯縫一」

たてぬひべ（名）楯部　楯ヲ縫ヒ作ル部曲。垂仁紀、三十九年十月、注「楯部（タテヌヒベ）」

たてば（名）〔立場〕（一）驛路ニテ、人夫ナドノ杖ヲ立テテ、駕籠、長持ナドヲ停メテ息フベキ所。浮世風呂（文化、三馬）四編、上「アスコハ虎ヤ根ノ前テ、前ハ定九郎ノ立場ダス」（二）屑屋ナドノ、其日ニ買ヒ集メタル品物ヲ賣渡ス問屋。

たてはき（名）〔帶刀〕たちはき（帶刀）ノ音便。榮花物語、十二、木綿四手「宮司、たてはきナドハ、ワレモ我レモト、キホヒ給ヘド」

たてはてふ（名）〔立羽蝶〕翅（ハネ）ノ表面、赤褐色ニシテ、黑點アル一種ノ蝶。ヒヲドシテフ。蛺蝶

たてばな（名）〔立花〕（一）佛前ニ供スル生花（イケバナ）。謠曲、半蔀「面影バカリ亡キ跡ノ、立花ノ陰ニ隱レケリ」（二）りっくゎ（立花）ニ同ジ。

たてひき（名）〔立引〕（一）義理ヲ立ツルコト。浮世床（文化、三馬）初編、中「上方ノ達引ノザマヲ見タガイイ」（二）意氣地ヲ張ルコト。イヂハルコト。

たてひ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）〔立引〕（一）人ノ爲ニ出費ヲ辨ズ。（厚意、俠氣ニテ）代償ス。（二）〔立替引請ノ意カ〕意氣地ヲ張リアフ。

たてひざ（名）〔立膝〕坐シタル儘ニテ、一方ノ膝ヲ立ツルコト。

たてひやうご（名）〔立兵庫〕女ノ髮ノ結ヒ方ノ名。多ク遊女ノ結フモノ。ひやうごわげ（兵庫髷）ノ條ヲ見ヨ。

たでひわ（名）〔蓼鶸〕鶸ノ一種。眞鶸（マヒワ）ヨリ、稍、大キクシテ、處處、青黃色ナリ。好ミテ蓼ノ子ヲ食フ。

たでふ（名）〔蓼斑〕斑ノ、青ミヲ帶ビタル鷹ノ羽。

たてふう（名）〔伊達風〕（一）ハデナルフリ。特ニ、江戸時代ヲ通ジテ、流行セシ華美ナル風俗。ハデフウ。（二）俠氣アル風。

たてふしのまひ（名）〔楯節舞〕たたふしのまひ（楯節舞）ノ條ヲ見ヨ。

たてふだ（名）〔建札〕高札。木ノ札ニ法度ノ箇條ナドヲ記シ、路傍ニ高ク建テオキテ、一般人民ニ示スモノ。タカフダ。掲示板。掲牌。憲教類典、四「享保七年二月、評定所前箱之際建札」

〜たてぶみ（名）〔竪文〕書狀ニ就キテ云フ語、奉書紙、杉原紙、糊入紙ナドノ紙ノママニ書キテ、竪ニ卷キテ折リタルモノ。（ひねりぶみノ條ヲ見ヨ）ソレヲ横ニ二ツニ折リテ用キルヲ折紙（ヲリガミ）ト云ヒ、ソノ折目ヲ切リテ用キルヲ切紙（キリガミ）ト云ヒ、其紙ハ半切（ハンキレ）ニテ、ソレヲ横ニ糊ニテ長ク繼ギテ、卷キタルガ卷紙ナリ。源、五十、浮舟「包（ツツミ）文ノ大キヤカナルニ、云云、又、スクスクシキたてぶみ取添ヘテ」枕草子、二、十四段「アリツル文ノ、結ビタルモ、たてぶみモ、イトキタナゲニ、持チナシフクダメテ」

たてへうぐ（名）〔竪表具〕書畫ノ軸物ヲ、竪ニ長ク表具スルコト。又、其モノ。（横表具ニ對ス）

たてぼし（名）〔立干〕漁（スナドリ）ノ一法。遠淺ノ海中ナドニ簀ヲ立テテ、汐干（ヒ）テ後ニ、ソコニ魚ノ止レルヲ捕ル。タテ。

〜たてまだ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔立遣〕〔獻て遣（マダ）すノ義〕送リ奉ル。たてまつる（奉）ニ同ジ。名義抄「遣使、タテマタス」雄略紀、五年二月「顯賜二君婦一而後奉遣」欽明紀、五年十一月「故以、共二日本府任那執事一議二定任那之政一奉奏（タテマクサム）天皇」皇極紀、元年正月「奉遣弔使」三代實錄、二十一、元慶元年六月「使乎奉出世利」續日本後紀、嘉祥三年二月「差レ使天、奉出賜此狀乎」同、天長五年八月「禮代乃幣乎令二捧齎一天、獻出事乎」高光集「ただきよノ衞門督、五節ニたてまたしタマフニ、薫物（タキモノ）カウバシウアハストテ、云云、ソレニ入レテたてまたすトテ」

〜たてまつら・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）〔令奉〕たてまつる（奉）ノ敬語。（崇敬相ノ動詞）古事記、上、三十「モモナガニ、イヲシナセ、トヨミキたてまつらせ」

たてまつ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔奉〕己レガ動作ノ動詞ニ添フル敬語。續後紀、十五、承和十二年正月八日、尾張連濱主ノ舞ゼシ歌「七種ノ、萬代ニ榮（マウヘ）ル、百（モモチ）マリ、十ノ翁ノ、舞ヒ多天萬川〔利〕テ」拾遺集、九、雜、下「御碁遊バシケル、負ケ奉リテ」太平記、五、大塔宮熊野落事「辻堂ノ内ニ置キたてまつりテ」「奉テ步キ奉リ」「見奉る」「拜ミ奉る」

〜たてまつ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔奉獻〕〔獻奉（タテマツ）るノ意〕（一）贈るノ敬語。マヰラス。進ズ。獻上ス。音便ニ、たいまつる。古事記、上、四十五「立（タテマツリ）二奉天神之御子一」萬葉集、十六、廿九長歌「小樂（シタク）ヲ、云云、高坏ニ盛リ、机ニ立テテ、（机ヲ設ケテ）母ニ奉リツヤ」「御酒奉る」「物奉る」（二）着セ申ス。召サセマヰラス。増鏡、第十二、老道「六條殿ノ長講堂モ燒ケニシヲ作ラレテ、其頃御ワタマシシタマフ、云云、女院ノ御車ニ離宮モたてまつる」竹取物語、下「帝、カクヤ姬ヲ止メテ、云云、カヘラセ給ヒケル、御輿ニ奉リテ後ニ」源、一、桐壺「御褥着ノ事、一ノ宮ノ奉リシニ劣ラズ」同、五十、浮舟「ソレヨリゾ御馬ニハ奉リケル」同、三十四、下、若菜、下「御衣ナド奉リ直ス」同、十三、明石「夜ノ明ケハテヌ前（サキ）ニ御舟ニ奉れトテ」（三）キコシメス。召シ給フ。食ス。古事記、上、三十「豐御酒、多弖麻都良世（奉ル御酒ヲ、キコシメセ）」

〜たてまつれ（動）〔被奉〕たてまつられノ略。前條ヲ見ヨ。宇津保物語、國讓、上、七十六「海松（ミル）、茨（フフキ）ナドたてまつれ給ヘリ」

たてまへ（名）〔立前〕茶ノ湯ノ立テ方。

たてまへ（名）〔建前〕家屋ノ建築ニテ、柱、梁、等ヲ組立ツルコト。

たでみづ（名）〔蓼水汁〕蓼（タデ）ノ葉ヲ絞リテ得タル汁。

たでむし（名）〔蓼蟲〕おがねむし（黃金蟲）ノ一種。形小サク、一分許ニシテ、色ノ黑キモノ。

たてむね（名）〔立棟〕圓棟（マルムネ）ニ對シテ、直

材ニテ作レル搏風。(棟門ノ條ヲ見ヨ)

たてもくろく (名) [獻目錄] 獻上物ナドノ、目錄文書ノ、奉書紙ナドニ書キテ、ソノママ竪ニ折リ、竪文ニシタルモノ。二ツ折ノ折紙ナドニ對シテ云フ。

たてもと (名) [建元] 興行主。(仙臺)

たてもの (名) [立物] (一)埴輪ノ一稱。垂仁紀、三十二年七月「號₂是土物₁謂₂埴輪₁、亦名₂立物₁也」(二)兜ノ目庇ノ上ニ、角ノ如ク左右ニツクルヲ、兩立物、(鍬形、鹿角、劍ナド)ト云ヒ、後ニアルヲ、うしろ立物、中央眞向ニ一ツナルヲ、前立物(龍頭、半月、家ノ紋ナド)ト云フ。略シテ、前立。和漢三才圖會、廿三、兵器「立物、太天毛乃、胄眉所₂立裝₁、名₂立物₁、鍬形、半月、天衝等、自₂古用來矣」

たてもの (名) [立者] (一)芝居ノ名題役者ノ中ノ主タルモノ。卽チ看板ノ繪ニ入ル。其上ナルモノニシテ、大立者ト呼ビ、座頭ノ事ナリ。又、女形ノ大立者ヲ、立女形ト云フ。略シテ、たて。(立頭、二枚目。立三味線、脇三味線。立笛、脇笛ナド云フアリ) 魁長 役者全書(八文字屋自笑)上「初若女形ノ立者高井吉十郎」新撰古今役者大全、一「藥屋ノ列ニ座頭ト立ルハ、其中ノ大だて物、又ハ其土地褄生ニテ、筋アル類ナリ」(二)長唄ナドヲ連坐シテ、ウタフ時、其首座ニ居ルモノ。

たてもの (名) [建物] (一)宮、殿、堂、社、家、藏等、スベテ造リ建テタルモノノ總稱。タチモノ。(二)取引所ノ語。定期市場ニテ、賣買取引ノ目的ノ標準。

たてもの (名) [竪物] (一)軸物ナドノ、竪長ニシタルモノ。(橫物ニ對ス) 竪幅。直幅。(二)曲藝ノ一種。劍尖ヲ額上ニ、又、藁楷、鉄撲等ヲ鼻上ニ立テテ、倒レヌヤウニ動作スルモノ。和漢三才圖會、十六、[illegible]常不₂倒₁」

だてもの (名) [伊達者] だてしゃニ同ジ。(戰爭止ミテ、傾者ニ移ル) 當物語(武田氏ノ事ヲ記ス)「馬、物具、或ハ衣類マデ辻ツマヲ合ハセ、萬事心ヲツケテ、見苦シク見エザルヲ、伊達者ト云フ」 松屋筆記、八十八、廿四條、だて「[illegible]小六、云云、按、[illegible]州府志、[illegible]云云」[illegible]「甲陽軍鑑、十三卷、四十、上、品廿七丁裏ニ、二番ニだてものト云ハ、武道ノ役ニ立ツ人ニテ候、云云」

だてもやう (名) [伊達模樣] 大形ニテ、葉手ナル模樣。尙、だて(伊達)ノ條ヲ見ヨ。御所櫻堀川夜討(元文、文耕堂)三「下着ノ衣ノ紅ニ、大振袖ノ伊達模樣」

たてや (名) [建家] 建テテアル家。建物。家作。タチヤ。(建坪ヲ測ル時ナドニ云フ語)

たてやく (名) [立役] (一)役ノ重立テルモノ。(俳優ナドノ)[illegible]目「立役ハ、狂言ノ立藝ヲスル故ノ名ナリ」(二)次條ノ語ノ略。

たてやくしゃ (名) [立役者] (一)重立チタル役者。(二)立役ヲスル役者。[illegible]役者[illegible](八文字屋自笑)下「[illegible]指折リアゲラルル一座若衆ノ立役者ニナル市川團[illegible]」

たてやのじ (名) [竪や字] 女ノ帶ノ結ビ方ノ名。寬政ノ役者、二代目瀨川菊之丞ノ創メタル[illegible]結、卽チ通常、やの字ヲ縱ニ眞直ニ背負ヒタル形ニ結ブモノ。德川時代ニハ、御小性等ニ、今ハ、十三四歲ノ少女ノ盛裝ニ用キル。

たてやま (名) [立山] とやま(外山)ニ同ジ。

たてよこ (名) [縱橫] (一)たてト、よこト。ジュウワウ。(角違ニ對ス) (二)タテイトト、ヨコイトト。經緯 百合若大臣野守鏡(寶永、近松作)殿島八郎[illegible]たてよこニ、赤イベベ織リテ著セウ」

だてら (接尾) [だてハ、たてだてしノだて、らハ助辭] 其身ニ似ツカハシカラヌ、ワザヲスルヲ云フ語。身ノ分際ニ負ハヌ、[illegible]云フ語。[illegible]給フナリ、法師だてら、斯クアナガチナル事ソシタマヘバ」(法師ノ、女ヲヌスミテ、車ニノリテ、モノスルコトニ云ヘリ)「女だてら」子供だてら」

たてり (名) [立入] [たていりノ約] たていれ(立入)ニ同ジ。懷子[illegible](明曆)[illegible]柱ノ、たてりヲ見ルヤ、サガリ簸」

たてる (動) 立つ(他動、下二)ノ口語。狂言記、雷「針、云云、何ヂヤ、人間ガ立てる」

たでる・デル・デレ・デ・デ・デヨ(他動、下二) (一)藥汁ヲ熱湯セシメ、[illegible]湯ノ熱ニテ蒸シ濡ス[illegible](二)船底ヲ外ヨリ灼ク。

たてわき (名) [立涌] たちわき(立涌)ニ同ジ。

たてわり (名) [楯割] 矢ノ根ノ一種。尖[illegible]ハ、劍尻ノ類ナリ」

たてをやま (名) [立女形] [illegible]テ、第一流ノ女形。たてもの(立者)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

「[illegible]十郎日ク、千歲八[illegible]ナリ、云云、千歲八一座ノ立女形、我ハ其ヨリ[illegible]」

たゞう (名) [他動] [illegible]見ヨ。

たゞう [illegible] 又、乳酒切、背輕、又、汝朱切、[illegible]ガ、今、[illegible]せんどう [illegible]同ジ。[illegible]見ヨ。

たどうし (名) [他動詞] [illegible]どう(自動)ノ條ヲ見ヨ。

たどき (名) [方便] たづき(方便)ニ同ジ。[illegible]

たどころ (名) [田所] [illegible]

たどころ (名) [田莊田所] (一)莊園ノ古語ナリトゾ。[illegible]

たど・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [貴] [illegible]

たどしへなし・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [illegible]

「たどしへたく小暗シ」同、廿二、玉蔓、四十「心ノ限リ盡シタリシ御スマヒナリシカド、アサマシウ田舍ビタリシモ、たどしへたくゾ思ヒクラベラルルヤ」

たど-たど・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）迪ル状ナリ。オボツカナシ。慥ナラズ。慥トセズ、タヅタヅシ。宇津保物語、樓上、下、卄「目モ、たどたどしく、今ハ覺エ侍ルヲ」枕草子、八、八十一段「經ナド習ヒテ、イミジク、たどたどしくテ、忘レガチニテ」源、三、空蟬「夕闇ノ路、たどたどしーゲナル」

たどひ（名）假令〔立合ノ約〕物ト物ト對立スル時ハ、優劣、異同、眞假等、明ラカナルヨリ、先ヅ試ニ對立スルコト。（他動トシテ、物事ヲ立合ハセ比ベ見ルヲ譬へ（たちあはせノ約）ト云ヒ、ソノ如ク立合ハセ比ベム方ナキコリ、たとひナキモノトハ我ゾナリヌベキナド云ヒ、たたし（立タセ）比ベムヤウナキヲ、たどしへナキ（無ニ合レ立方ニ）ナド云フ。

たどひ（名）譬喩〔譬ふ（四段）ノ名詞形〕たとへ（譬）ニ同ジ。又、コトワザ、イヒグサ。宇津保物語、吹上、上、三十二「巢代ノたどひニモヤナラムトテ」源、三十四、下、若菜、下、五十「世ノたとひニ言ヒアツメタル昔語リドモ、云云」同、三十八、夕霧、四十二「昔ノたとひノヤウニ、惡シキ事善キ事ヲ」枕草子、三、廿一段、木の花は「梨ノ花、云云、愛敬オクレタル人ノ顏ナド見テハ、たとひニ言フモ、ゲニソノ色ヨリシテアイナク見ユル」拾玉抄、一「春ノ雨ニ、ウツレル月ノ、たとひニテ、アルカナキカノ、世ニモアル哉」榮花物語、十五、うたがひ「世コゾリテ信ゼズトイフ、たとひノヤウナリ」

たどひ（副）假令 縱使〔譬ハ、ニテ、假ニ設ケテ云フ意ナルベシ〕難波江、四、下「和訓栞ニ、たとふ、たとひ、一方ニワカチ截セテ云ヘルハ、共ニ設クル詞ナレド、たとひハ未來トイフ意也トアリ、云云、古今序ノ、たとひ時移ト有ルたとひナドヲ指シテ云フニコソ」（一）若シ。蓋シ。名義抄「假使、假令、タトヒ」字鏡「儻、若也、若也、太止比、又、介太志」（二）事ヲ設ケテ、豫メ料ル意ヲ云フ語、イマダ其事ノナキ時ニ、若シ、云云ノ事アラムニノ意。ヨシヤ。（下ニ反語ヲ受ク）神代紀、上、二十八「假使、汝治此國、必多所殘傷」同、上、三十「吾使、吾見所、勿之闚」源、四十九、東屋、廿「斯ル老法師ノ身ニハ、たとひ憂ヘ侍リトモ、何ノ悔カ侍ラム」古今集、序「たとひ時移リ、事去リ、樂シミ、悲シビ、行キカフトモ」

たど・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）譬 次條ノ語意ニ同ジ。（名詞形ニ、たとひアリ）名義抄「譬、タトヒ、タトフ」加茂保憲女集「或ハ、心ボソキ宿ニ、ツレヅレト、雨ノ降ルヲナガメイタルヲナム、マナコヲバ流ルル水ニたとへリ」

たど・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）譬喩 意ノ述ベツクシガタキヲ、或ハ、アラハニ言ヒガタキヲ、他ノ物事ヲ假リ比ベテ云フ。他事ニ擬ヘテ言フ。寄セ比ブ。拾遺集、廿、哀傷「昔人ノ、命ヲ露ニ、たとふるハ、草ムラ毎ニ、オケバナリケリ」信明集「程モナク、ヤミヌル雨ニ、たとふるハ、イカニ悲シキ、ナミダナルラム」拾遺集、廿、哀傷「世ノ中ヲ、何ニたとへン、朝ボラケ、コギユク船ノ、跡ノ白波」

たとへ（名）譬喩 譬フルコト。他事ニ擬ヘテ言フ話。萬葉集、七、十「宇治人ノ、譬ノ網代、吾シアラバ、今ハヨラマシ、木屑ナラズトモ」（木屑ハ、木積ニ同ジ）源、三十四、上、若菜、上、九十「古ヘノ世ノたとへニモ、サコソハウハベニハ、ハグクミゲナレド」榮花物語、三、樣樣悦「世ノ中ニ言フたとへノヤウニオボスニヤ」新永代藏、貢永、國水）一「初メハ僅ノ事ガ、末ニ至リテハ、大河、海ヲナスたとへ、目前ナリ」

たとへ（副）縱 たとひ（假令）ニ同ジ。宇津保物語、藏開、下、四十「たとへスマズト云フトモ」

たとへ-うた（名）譬歌 歌ノ六義ノ一。物ニ、ナゾラヘテ詠ミタル和歌。古今集、序、たくぎ（六義）ノ條ヲモ見ヨ。古今集、序、たとへうた「我戀ハ、數ムトモ盡キジ、アリソ海ノ、濱ノ眞砂ハ、ヨミツクストモ」

たとへ-ば（副）例〔譬へば、ノ義〕（一）物ニ譬ヘテ言ヘバ。例ヲ示セバ。古今集、序「たとへば、繪ニカケル女ヲ見テ、徒ラニ心ヲ動スガ如シ」伊勢物語、九段「其山ハ、ココニたとへば、比叡ノ山ヲ、ハタチバカリ重ネアゲタラムホドシテ」（二）ソハ。卽チ。盛衰記、五、一行流罪「大唐ノ一行阿闍梨ハ、無實ノ訴ニ依テ、火羅國ヘ流サレ給ヒケリ、たとへば、一行ハ玄宗皇帝ノ御加持ノ僧ニテ御座シガ、云云」

たとへ-ば（副）假令〔前條ノ語ノ訛ナラム〕縱。ヨシヤ。千載集、十八、雜、下、長歌「今行末ハ、稻妻ノ、光ノ間ニモ、定メナシ、たとへば獨リ、ナガラヘテ、過ギニシバカリ、過ストモ、夢ニ夢見ル、心ナシテ、猶行ク駒ニ、異ナラン」新古今集、十三、戀、三「タダ頼メ、たとへば人ノ僞リヲ、重ネテコソハ、又モ恨ミメ」

たどほ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）遠〔たハ發語〕とほし（遠）ニ同ジ。萬葉集、十七、長歌「玉鉾ノ、道ヲたどほミ、山河ノ、隔リテアレバ」

タドン（名）炭團〔字ノ宋音、たんどんノ略訛。炭團ハ、炭ノ團子カ。又、愚雜組（田宮仲宣）二「炭ノ團メシヲたどんト云ニ從ヘバ、團、聚也カ」蒲團ノ條ヲ見ヨ〕（一）又、たんどん。消炭、又ハ、堅炭ノ屑ヲ、海蘿ノ汁、又ハ、濃キ米汁ニテ捏ネテ、丸トシテ乾シタルモノ。火ヲ點ジテ久シキヲ保ツ、火力弱シ。

淨、不淨ヲ問ハズ、炭屑ヲ集メテ製スレバ、神佛ノ前、食物ヲ煮ルニハ用キラレズ、然レドモ、昔、支那ニテハ、コレヲ香火炭、又ハ、香炭墼ト云ヒテ、佛事ナドニモ用キシモノノ如シ。炭墼、黑炭團。タドンダマ。易林節用集「炭團、タンドン、香火炭」好色一代男（天和、西鶴）二「烟草盆ニ炭團ノ埋火絶エズ」（二）相撲ノ負星。たどんノヤウニ、●ノ標ヲ用キル故ニ云フ。黑星。

タドン-だま（名）炭團玉 前條ノ語ノ（一）ニ同ジ。俗耳鼓吹（蜀山人）「光ロカノ、菊葉ト[illegible]、炭團玉テモ、フグリ玉デモ」

たどり（名）迪（一）タドルコト。尋ネ迷ヒ行クコト。[illegible]ノ當テテ、見ルダニ明キ、夜牛ノ月、入ラム山路ニ、たどりアラスナ」（二）其筋道ヲ知リ分クルコト。源、廿六、常夏、十九「心ワカキ、たどりノ少キナド」同、三十四、下、若菜、下、九十「ソノたどり深キ人ノ」（棹ノ道ニ）

たどり（名）鶍〔田鳥ノ義カト云フ〕鳥ノ名。ノ字ハ、雲雀ニテ、當ラズ）倭名抄、十八、羽族名「鶍、多土利」字鏡「鶍、比波利、又、太止利」林逸節用集「田鳥、鶍、タドリ」

たど・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）迪〔手取ル義〕（一）尋ネ探リ取ル。摸索 源、三十八、夕霧、十「御障子ノ外ニ居サリ出テサセ給フヲ、イト、ヨウ、たどリテ引キトドメ奉リツ」（二）知ラヌ道ヲ色色ト迷ヒ尋ネ行ク。尋 宇治拾遺、十五、第一條「道モ知リ給ハネバ、五六日ニゾ、たどるたどる、オハシ着キニケル」（三）知リ分ケムト樣樣ニ思フ。尋思 源、三、空蟬、六「たどらム人ハ心得ツベクモ」同、三十四、上、若菜、上、二十「今ハ漸ク古ヘノ事ヲモたどり知り給ヒヌレド」

たな（名）棚〔板並ノ略カ〕（一）物ニ、板ヲ平ニ亙シカケテ、物ヲ截セ置ク用

トスルモノ。特ニ床間ト竝ベテ設ケタルニ云フ。多クハ床間ト同ジク三方壁ニシテ中ニ棚ヲツリ、書物、卷物、筆、硯、香爐ナドヲ載セ、又ハ、廚子棚、書棚ナドヲ作リツケニシタルモノ。倭名抄、十二十居宅類「棚閣、多奈」字鏡「[illegible]、太奈」(二)船ノ名所。ふなだな(船棚)ノ略。其條ヲ見ヨ。[illegible] 榮花物語、三十一、殿上花見「舟ニコトゴトナルたたナド云フモノ、ヲカシク作リテ」

たな (名) 店 (一)〔みせだな(見世棚)ノ略。其條ヲ見ヨ。倭名抄、十二十居宅類「店、[illegible]物舍也」[illegible]、古今注、店、[illegible]也、所ニ以[illegible]貨[illegible]物也」 土佐日記、二月十六日「山崎ノたなナル小櫃ノ繪モ」 宇津保物語、藤原君、三十「空車ニ[illegible]ミテモテ來タリ、アヅカリドモ數トリテたなニヲエテ賣ル」 (二)轉ジテ、商家ノ稱。(三)〔借家〕 享保集成[illegible]、二十九、慶安四年十二月「棚之者致[illegible]候ハバ、[illegible]人ニ[illegible]カリ可ニ被ニ成ト御事ニ候」「店賃」店借リ」

たな (名) 蒲公草 〔田菜ノ義カ〕 たんぽぽ(蒲公英)ノ古名カ、フヂナ。倭名抄、廿八草類「蒲公草、不知奈、一云、太奈」 本草和名、上四十九「蒲公草、布知奈、多奈」

たなうけ (名) 店請 棚請 店借ノ人ノ身元引請。「店請人」店請狀」

たなうけにん (名) 店請人 棚請人 店子ノ身元保證人。請負人 たな(店)ノ條ノ(三)ノ出典ヲ見ヨ。

たなうち (名) 掌 〔手之內ノ義〕 たなごころ(掌)ニ同ジ。神代紀、上「[illegible]」

たなうら (名) 掌 〔手之裏ノ義〕 たなごころ(掌)ニ同ジ。神代紀、上「[illegible]」[illegible] 保安語、忠社二「母君ハ、頂ノ上ヲ、蓬萊ノ山ニナサン、たなうらノ內ニコガネノ大殿ヲ造ラント云フ」

たなおろし (名) 棚卸 (一)商家ニテ、盆、暮ナドニ、店頭ニアル貨物ヲ、悉ク取リオロシテ、其數ヲ調ブルコト。[illegible]代藏、[illegible]「例年店おろしノ[illegible]ニ附ケカヘタルバカリニテ」 (二)商家ノ年中行事ノ一、每年正月、昨年中ノ金銀出納損益等ヲ調べ檢ムル儀式。[illegible] (三)轉ジテ、俗ニ、他人ノ失ヲ擧ゲテ、一一、述べ立ツルコト。アルコト、ナイコトヲ云フワルクチ。鳩翁道話、一、上「今アナタ方ノ、御心ノ店おろしヲ致シテ居リマスルノヂャ」 浮世風呂(文化、三篇)二編、下「何モソンナニ棚卸しヲスルニハ、及バネエヨ」

たなか (名) 田中 田ノ中。又、田舍。永久四年百首「ハカナシヤ、田中ノサトハ、イナヅマノ、ホドナキカゲヲ、タノメテゾフル」

たなが (名) 手長 〔たハ、[illegible]〕 長ク久シク榮ユルコトヲ云フ語。[illegible]「天皇[illegible]」

たなかどり (名) 田中鳥 ほととぎす(杜鵑)ノ異名。

たながのみよ (名) 手長御世 長久ナル御世。新年祭祝詞「又皇御孫命ノ御世ヲ、手長ノ御世ト、[illegible]ニ[illegible]ヒ奉リ」

たながり (名) 店借 他人ノ家ヲ借リテ住ムコト。シャクカ。シャクヤ。僑寓 戲居 好色一代女(貞享、西鶴)三「ソレヨリ末末ハ店借ノ沓ト見エテ、裏附ノ上ニ、麻ノ裃ヲ着ルモアリ」

たなぎゃう (名) 棚經 盂蘭盆會ノ[illegible]ノ[illegible]ニ向ヒテ、[illegible]ノ[illegible]スルコト。[illegible]ルト、孫子ノ代ニハ[illegible]ミヤウモ知レズ、[illegible]ノ坊サマニ尋ネテモ、サレバデ御座ル、何[illegible]」

たなぎらひ (名) [illegible]「曉、[illegible]也、[illegible]日光[illegible]使[illegible]明也」 タナギラフコト。タナグモルコト。

たなぎらふ・ふ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [illegible] ハリイ)ニ、ソヘテダニ見ム」

たなぎる・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [illegible]

たなぐも (名) 棚雲 雲ノ中天ニ棚引キテ、棚ヲワタセルガ如キニ云フ語。古事記、上「[illegible]」

たなぐも (名) [illegible] [illegible]脊、[illegible]ハ白シ。家屋ノ隅、草木ノ間ナドニ、大キナル網ヲ張リ、昆蟲ヲ捕ヘ食フ。其狀、商人ノ店ヲ張リテ客ヲ待ツニ似タリ、故ニ、たなぐもト云フ

たなぐもり (名) 棚曇 〔棚引曇ノ義ト云フ〕 雨雲ノタナビキ合ヒテ曇レルコト。トノグモリ。(雲ノ、中空ニツタルコト棚ノ如シ)

たなぐもる・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 棚曇 [illegible]

たなこ (名) 店子 借家 [illegible] 借家人 [illegible]ニ對シテ云フ

たなご (名) (一)魚ノ名。川たなごハ、淡水ニ棲ム。長サ一二寸、首小サク、身扁ク[illegible] 帶ブルアリ、又、全身、黃ヲ帶ブルモアリ。シロタヒラ。[illegible]魚 字鏡[illegible]、タナゴ」 (二)海たなごハ、海ニ生ズ。長サ四五寸ヨリ尺ニ至ル。形、鯛ニ似テ小サク、頭小サク、身扁ク、色白シ。海鯽

たなごころ (名) 掌 〔手之心ノ義〕 手ノ裏面。タナソコ。タナウラ。タナウチ。[illegible] サウラ、タナソコ」[illegible] ウン人人ノ、マドヘル代ワノ見ジコト、たなごころノ上ノ物ワ見ンガ如シ」 掌ヲかへすトハ、容易キ意ヲ云フ語。掌ヲ指ストハ、[illegible]ニシテ分明ナル意ヲ云フ語。

たなごつり (名) 鰱魚釣 川たなごヲ釣ル[illegible] ハ多ク釣レテ興アルモノナリ、寒中、日本ノ[illegible]

たなごひ (名) 手拭 てぬぐひ(手拭)ニ同ジ。[illegible] 人ニ、たなごひノハコ、ツカハストテ」

たなさき (名) [illegible] 古今著聞集、十五、[illegible]のたたなさき[illegible] たたなさきトイフハ、[illegible]ナリ」

たなさらし (名) 棚晒 商家ノ店頭ノ賣物ノ、久シク賣レズシテ、傷ビタルモノ[illegible]

たな[illegible] (名) 掌 〔掌間ノ義〕 [illegible]

たな[illegible] [illegible]

〔たな-しる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〕 棚知 〔ただしるノ轉カ〕 十分ニ知ル。サヤウニハ得。萬葉集、九　十「金門ニシ、人ノ來立テバ、夜中ニモ、身ハ田名不知、出テテゾ會ヒケル」同、同、長歌「何ストカ、身ヲ田名知リテ、浪ノ音ノ、騷ク湊ノ、奧津城ニ、妹ガ臥セル」同、十三「筆知ノ、末遂ケ割ケテ、君惑ユト、人ニナ告ゲソ、事ハ棚知」

〔たな-すゑ〕（名） 手末 〔手之末ノ義〕 手ノ端。手ノサキ。テサキ。倭名抄、三　六手足類「手子、太奈須惠」古事記、上　五十「手引石擊手末」神代紀、上　廿七「手端、此云多那須衞」

〔たなすゑ-の-みつぎ〕（名） 手末調 〔女ノ手末ニテ、造レルモノナレバ云フ〕 調ニスル布帛ノ稱。古事記、中（崇神）三十「於是初令貢男弓端之調、女手末之調」

〔たな-そこ〕（名） 掌 〔手之底ノ義〕 たなごころ（掌）ニ同ジ。倭名抄、三　六手足類「掌、太奈曾古」類聚名義抄「手掌、陀那則擧」

たな-だて（名） 店立 家主ナドガ、借家ヨリ店子ヲ逐ヒ立ツルコト。催腳房

たな-ちん（名） 店賃 やちん（家賃）ニ同ジ。本朝若風俗（貞享、西鶴）七「貸錢、棚賃ニテ世ヲ渡ル人メキテ」新撰漬入柳樽、初篇「ヒトリモノ、棚賃ホドハ、内ニ寢ズ」

〔たな-つ-もの〕（名） 種子 〔種之物ノ義〕 種ニ同ジ。上古ハ專ラ稻ノ種ヲ云フ。畠ニ植ウル粟、稗、麥、豆ノ類ノ種ヲ、はたつもの、はたけつものト云フ。倭名抄（一本ノ）九　十八稻穀具「水田種子、太奈都毛乃、陸田種子、波太介豆毛乃」神代紀、上　廿一「乃以粟稗麥豆、爲陸田種子、以稻爲水田種子」又、田畠ノ物ニ通ジテ、五穀ヲ統べテモ云フ。崇神紀、七年十一月「疫病始息、國内漸謐、五穀既成、百姓饒之」

〔たなな-し-をぶね〕（名） 棚無小舟 船棚無キ小舟。（船ノ條ヲ見ヨ）萬葉集、一　廿五「何所ニカ、船泊スラム、安禮ノ崎、漕ギタミ行キシ、棚無小舟」古今集、十四、戀、四「堀江コグ、棚なし小舟、コギカヘリ、同ジ人ニヤ、戀ヒ渡リナン」同、廿、大歌所「シハツ山、打出テ見レバ、笠ユヒノ、島漕ギカクル、棚無小舟」散木集、七「蘆間行ク、たななしをぶね、人知レズ、コガルトスレド、サハリガチナリ」

〔た-なは〕（名） 手繩 鵜飼ノ、鵜ニツケテ使フ繩。玉葉集、上、下「篝火ノ、早瀬ニ下ス、鵜飼舟、サバクたなはノ、影ゾ亂ルル」夫木抄、八、鵜河「久方ノ、月ノカツラノ、鵜飼舟、川風ハヤシ、たなは亂ルナ」同「篝サシ、ヨルベノたなは、打チハヘテ、後ヲモ知ラヌ、鵜飼舟カナ」

〔たな-ばし〕（名） 棚橋 欄干ナク、只、板ヲ打渡シタル橋。（棚ノ如ク構ヘタレバ云フ）萬葉集、十三　三十「アマノガハ、棚橋ワタセ、タナバタノ、イワタラサムニ、棚橋ワタセ」夫木抄、二十六、旅「たなばしニ、カツガツ駒ヲ、ウナガシテ、ウヒウヒシクモ、出ヅル旅カナ」

たな-ばた（名） 棚機 〔其構ヘニ棚アレバ云フ〕 （一）〔機ト云フニ同ジ。〕（二）〔棚機津女ノ略〕機織ル女。萬葉集、十　卅三「棚機ノ、五百機立テテ、織ル布ノ、秋去リ衣、誰レカ取リ見ム」（三）〔轉ジテ、七夕ニ祭ル織女ト云フ星ノ稱。又、オリヒメ。初秋ノ頃ニ、牽牛（彥星）織女ノ二ツノ星、天河ノ邊ニ現ハル、支那ニテ、想像ノ說ニ、七夕ニ、烏鵲、翼ヲ延べテ橋トシ、織女渡リテ、牽牛ト交會スト云フ、其織女ノ字ヲ、棚機津女ニ附會シ、且、略シテ呼べルナリ。七夕の祭、又、乞巧奠トモ云フ。庭ニ机ヲ立テ、物ヲ供へ、香ヲ炷キ、五色ノ絲ヲ竿ニ懸ク、ねがひの絲ナド云フ。又、梶ノ葉ニ文字ヲ記シテ、水ニ流シナドス。今、俗間ニハ、五色ノ紙ニ、文字（歌ナド）ヲ記シテ、竹枝ニ繫ケテ揭グ。萬葉集、十七　八「多奈波多ノ、舟ノリスラシ、マソ鏡、淸キ月夜ニ、雲立チ渡ル」

〔たなばた-つ-め〕（名） 棚機津女 （一）古へ、機織ル女ノ稱。萬葉集、十　卅七「我ガ爲ト、織女ノ、其屋戶ニ、織ル白布ハ、織リテケムカモ」（二）織女ト云フ星ノ稱。天媛。織娥（前條ヲ見ヨ）萬葉集、十　卅二「牽牛ト、織女ト、今夜逢フ、天ノ河戶ニ、波立ツナユメ」

〔たなばた-まつり〕（名） 棚機祭 昔ハ五節句ノ一トス。七月七日ノ夕（牽牛星ト織女星ト、年ニ一度、天ノ河ヲ渡リテ、會ス）庭前ニ机ヲ置キ物ヲ供へ、五色ノ紙ヲ、色紙、短冊ノ形ニ切リ、歌ヲ記シテ葉竹ニツケ、高ク竿頭ニ揭ゲアグ。（前前條、及、乞巧奠ノ條ヲモ見ヨ）乞巧奠 綺節 星夕 巧夕 温故録、七「梶ノ葉ニ歌ヲ書ク、芋ノ葉ノ露ヲ硯ニ滴シテ書ク、公卿モ、梶ノ葉七枚ニ歌七首ヲ書キ、其葉ヲ索麵ニテ結ブ」宇津保物語、樓上、下　廿「七月七日、云云、たなばたまつり、コナタカナタトセサセ給ヘリ」

たなばた-をどり（名） 七夕踊 おまちをどり（小町踊）ニ同ジ。還魂紙料（種彥）下「正保ノ頃ノ畫卷ニ、七夕踊ノ圖ヲ載テ、云云、七ツ八ツバカリナル小姬タチ、美シク出立、太鼓ヲ手每ニ持チツレ、面白ク歌ヲウタヒ踊リマハル、云云、案ニ、七夕踊トテ別ニアルニ非ズ、小女ノ人情ニ、盆ヲ待チカネテ、七夕ヨリ踊ル故ノ名ナルベシ」

〔たな-び・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〕 薄靡 〔棚延くノ義カ、起ち靡くノ略カ、或ハ云フ、たハ發語ナリト〕 薄ク橫ニ長ク靡ク。（雲、霞、烟ナドニ）靉靆 名義抄「靉靆、タナビク」字鏡抄「靉靆、タナビク」萬葉集、三　二十「三吉野ノ、高城ノ山ニ、白雲ハ、ユキハバカリテ、棚引けル見ユ」神代紀、上　二「其淸陽者、薄靡而爲天」

〔たな-ひぢ〕（名） 手肱 〔手之肱ノ義〕 ひぢ（肱）ト云フニ同ジ。萬葉集、三　十六「手肱ニ、水沫カキタリ、向股ニ、泥カキ寄セテ」（田ヲ作ル事）

たな-ぶるまひ（名） 店振舞 商家ニテ、移轉セシ時ナドニ、祝ノ爲ニナス饗應。

〔たな-また〕（名） 手股 〔手之股ノ義〕 指ト指トノ間。指ノ股。倭名抄、三　七手足類「扨、於與比乃萬太、指間也」古事記、上　卅一「自手俣漏出」神代紀、上　四十「自指間漏墮」

たな-もの（名） 店者 商家ニ勤ムル番頭、手代ナドノ稱。オタナモノ　浮世風呂（文化、三馬）二編、上「生カ入澄タノニ、店者上ガリダカラ、女房ラシイノヨ」

たな-らし（名） 田均 （一）田植スル前ニ、田ノ表面ヲ平スコト。（二）農具ノ一。前後ノ雨板ニ跨リ乘リテ、牛ニ曳カセ、中輔ノ轉ズルニシタガヒ、羽板ニテ田土ヲ平カニスルモノ。碌碡（成形圖說）

〔たな-れ〕（名） 手馴 手馴レタルコト。萬葉集、五　十三「コトトハヌ、木ニハアリトモ、ウルハシキ、君ガたなれノ、琴ニシアルベシ」後撰集、十、戀、二「我ガ門ノ、ヒトムラススキ、刈リカハム、君ガ手なれノ、駒モ來ヌカナ」夫木抄、三、春「冬カヒノ、手馴ノ駒モ、ハナチテン、岡部ノヲザサ、ハエヌトナラバ」同、十八、冬「トヤカヘル、手馴ノ鷹ヲ、手ニスヱテ、キギスナクナル、カタ野ヘゾユク」

〔たな-ゐ〕（名） 種井 〔たねゐノ轉、或ハ云フ、田之井ノ轉〕 春、苗代ヲ起ス時、稻ノ種ヲ漬サムガ爲ニ、田ノ側ニ掘ル井。夫木抄、五、春「秋刈リシ、ムロノヲシネヲ、思出テ、春ゾたなゐニ、種ヲカシケル」

たな-を（名） 手馴緒 〔手馴緒ノ略〕 手ニ馴レタル緒。夫木抄、三十三、雜「岸高ミ、ツリノたなをノ、ウチハヘテ、ナガキ日アカズ、クルル

〔一カナ」〕

たなをぶね (名) 〔棚小舟〕 棚ノアル小舟。ふなだな(船棚)ノ條ヲ見ヨ。

たに (名) 〔谷澤〕 〔水ノ垂ノ意ト云フ、朝鮮ノ古言、たん〕 (一)〔兩山ノ間ノ窪キ地。ヤ。ヤツ。ハサマ。山澗〕 倭名抄、一四山谷類「谿谷、水出レ山入レ川曰レ谿、又、作レ溪、太爾、水與レ谿行曰レ谷」字鏡、七「溪、太爾」和漢三才圖會、五十六、山類「宋均曰、無レ水曰レ谷、有レ水曰レ谿(溪ニ同ジ)」新六帖、二、谷「シヅカナル、谷ノ心ノ、深キヲモ、イラデハ人ノ、シラムモノカハ」 (二)屋根ノ谷。屋ノ端端ノ行合ノ、雙方ヨリサガリテ、一條ノ凹ミタル所、卽チ屋根ノ、二流ノ相會スル處。又、瓦ノ面ノ、反リタル處。

たに (名) 〔壁蝨〕 〔背、凹ミテ、谷ノ如キ意ト云フ〕 蟲ノ名、藪林ニ生ジ、犬、牛、馬等ニ着キテ、皮中ニ食ヒ入ル、大イサたうごまノ如ク、八足ニシテ黑白ノ斑アリ、飢エタルハ扁ク、飽キタルハ圓シ。今、訛シテ、だに。蜱 狗蝨 牛蝨 八脚子 倭名抄、十九十蟲豸類「蜱、太仁(蜱ハ、ぬかがナリ)」沙石集、五、上、畢尼之實蝨之問答事「蓄曰、背上谷、故名、蜱」和漢三才圖會、五十二、蟲部、卵生類「壁蝨、和名、太仁、和名抄、用蜱字者非也、蜱音豉之蝨」

たに (名) 〔丹〕 〔たぬノ轉〕 たん(丹)ノ條ヲ見ヨ。本草和名、上三「鉛丹、多爾」

たに (名) 〔商布〕 〔手布ノ轉ト云フ、手作ト云ハムガ如シ〕 調、庸ニ納ルル外、自用トシ、又ハ、交易ニ用キル布ノ稱ト云フ。倭名抄、十二廿絹布類「商布、多邇」 大藏省式、主稅寮式「商布」 續紀、六、和銅七年二月「以商布二丈六尺爲段、不得用常」 三代實錄、十八、貞觀十二年十二月「定交易商布直法十段二」

タニ (名) 〔太泥〕 〔暹羅語〕 又、支那人ハ、大泥、巴大尼、巴大年ニ作ル。西洋人ハ、Patani. ト云フ〕 麻剌加半島ナル暹羅ノ一州ナル Patani. ナドヨリ産ズル使君子科ノ木。古巴梯斯ノ一種ニシテ、一名、巴旦ト云フモノナリト。川楝

だに (名) 〔壁蝨〕 蟲ノ名。たに(壁蝨)ノ訛。

だに (名) 〔馱荷〕 馱送ノ荷。馱馬ニ、ツケ送ル荷物。源氏十二、賢木「今宵ノ中、馱荷ドモ數多積ヘテ」

だみ (副) 〔安齋隨筆、十二「だみト云フハ、ただみト云フヲ略シタルナリ、唯ノ字等ナリ」〕 第二類ノ天爾波。輕キヲ擧ゲテ、餘ノ重キヲ、言外ニ引證スル意ノ語。(さへハ多キニツキテ、ソレガ上ニ添フルモノ、だみハ少キヲアゲテ、示スモノ)デモ。ナリトモ。竹取物語、其物ノ垣ニモ家ノ邊ニモ居ル人だに、容易ク見ルマジキモノヲ」古今集、一、春、上「深山ニハ、松ノ雪だに、消エナクニ、都ハ野邊ノ、若菜ツミケリ」新古今集、十二、戀、二「忍ヂ身ヲバ、我だに厭フ、歎ヘタダ、哀ヲだに同ジ、心ト思ハム」

たにあひ (名) 〔谷間〕 谷ト谷トノ間。タニマ。溪間 夫木抄、廿二「シゲ山ノ、ソカヒノ道ノ、たにあひハ、夏トテ風ノ、吹カヌマモナシ」

たにかぜ (名) 〔谷風〕 谷間ヨリ吹キ來ル風。拾遺集、一、春「氷タニ、トマラヌ春ノ、谷風ニ、マダ打チトケヌ、鶯ノ聲」

たにがは (名) 〔谷川〕 谷間ヲ流ルル水。溪流 澗水 後拾遺集、一、春、上「谷川ノ、氷モイマダ、キエアヘヌニ、峯ノ霞ハ、タナビキニケリ」

たにぎ・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔手握〕 拳ヲ握リ固ム。萬葉集、十一、戀「誰レ、タニモ得ヤト、手握リテ、打テドモ懲リズ、戀ノ奴ハ」

たにぎ・る ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 〔手握〕 手ニ握ル。萬葉集、廿、長歌「波自由弓ヲ、多爾藝利持タシ、眞鹿兒矢ヲ、手挾ミ添ヘテ」

たにぐく (名) 〔谷蟆〕 〔谷間ニ棲ミテ、くくト、鳴ケバ云フト云フ〕 又、たにぐく、谷蟇ニテ、蟇草ニハ、棲息セル、谷地所在ニ生ツトノ說モアリ〕 蝦蟆ノ古名。萬葉集、五、長歌「……谷蟆ノ、サワタルキハミ」 同、六、長歌「谷蟆ノ、狹度極」

たにざく (名) 〔短册〕 たんざく(短册)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

たにし (名) 〔田螺〕 (一)古名、たつび。今、又、たつぶ。タツボ。ツブ。田澤ニ生ズ、湖海ニモアリ、形、[illegible]、但、[illegible]、一頭ハ圓ク、一頭ハ漸ク尖ル、長サ一寸許、殼薄クシテ蒼黑色ナリ。肉ハ頭黑ク、身白シ、春夏ノ交ニ多ク、煮テ食用トス。[illegible] (二)女ノ[illegible]

たにぜり (名) 〔谷芹〕 ぜんこ(前胡)ノ異名。其條ヲ見ヨ。

たにそこ (名) 〔谷底〕 谷ノ底。[illegible]八、瓜生[illegible]ヘオヒキ入レ」「高イ山カラ谷底見レバ」

たにのと (名) 〔谷戶〕 谷ノ入口。谷口 [illegible]フラム、高キ峯ニハ、日影サスナリ」

たにふけ (名) 〔谷深〕 谷ノ深キ處。平家物語、八、瀨尾最期事「谷ふけヲモ不嫌」

たにふところ (名) 〔谷懷〕 谷間ノ圍マレタル如キ處。[illegible]「子持山、谷ふところニ、生ヒタテテ、木木ノハグクム、花ヲコソ見レ」

たにべ (名) 〔谷邊〕 タニノホトリ。[illegible]

たにま (名) 〔谷間〕 ハサマ。タニアフトコロ。溪裏 たにあひ(谷間)ニ同ジ。

たにみづ (名) 〔谷水〕 谷間ヲ流ルル水。澗水 [illegible]

たにん (名) 〔他人〕 (一)ホカノヒト。我レナラヌ人。史記、[illegible] (二)血筋無キ人。[illegible] (三)見ズ知ラズノ人。關係ナキ人。[illegible]

たにんぎゃうぎ (名) 〔他人行儀〕 (一)他人ニ對スル如キ、親族ナラザル、他人ニ對スル如キモテナシ。

たにんず (名) 〔多人數〕 多クノ人數。オホゼイ。タイゼイ。タゼイ。衆

たにんのそらに [illegible] ラザル他人ノ、何シトナク、顔面、容貌ノ似テ居ルコト。

たにんむき (名) 〔他人向〕 他人ニ對スル[illegible]

たにゅう [illegible]

たにわたし [illegible]

たぬき (名) 〔狸〕 [illegible]

今ノゆがけ(弓懸)。鷹手貫アリ。臂韝

たぬき (名) 狸貛 〔皮、鞴ニ作ナルヨリ名トスルカト云フ〕 (一)〔獸ノ名。狐ニ似テ、毛色暗灰ニシテ、黒褐ナル長毛ヲ雜ノ、鼻ノ邊黒ク、目ノ邊白シ。尾太クシテ、脚ハ犬ノ脚ニ似ル。夜出デテ食ヲ求ムルコト、狐ノ如シ。毛ヲ筆トシ、皮ヲ鞴ノ用トス。人家ニ近ク穴居スルモノハ、頭瘦セテ狐ノ如ク、肉食ソベシ。頭ノ圓クシテ猫ノ如キハ、臭氣アリ、食フベカラズ。タタケ。 倭名抄、十八「毛群名、貍、太奴木」本草和名、下八「貍骨、多多介」名義抄「貍、タヌキ、タタケ」牛飼物語、六、藏問女御事「思フニ、其たぬきノシワザニテゾアルラン」觀たけ山、寛正六、十二月廿日「御徒官ト但馬入道、狸ヲ上」 (二)〔俗ニ僞ルコト〕。佯。又、其モノ。 隔住吉夜日合戰、享保、近松作「ヤイヤイ、其處ナ狸メ」 (三)たぬきねいり(狸眠)ノ略。 假名文章娘節用(文政、曲山人)初編、下「且那モシ、モウ狸デ御逃ゲナサルネ」嬉遊笑覽、十二、「眠りの眞似をしてネブリヲたぬきト云フ」 (四)次條ノ語ノ略。 瓦礫雜考(文化)二、狸汁「守武千句ニ、小間ニ云フ、四位ノ少將、たぬきニテ、百夜モ同ジ、丸ネ丸ヤキ、ト云ヘル、コレナルベシ」

たぬき-ぢる (名) 狸汁 略シテ、たぬき。 (一)狸ノ肉ニ、大根、牛蒡ナド、ツマニ煮込ミタル味噌汁。 料理物語(寛永)「狸汁、云云、味噌ニテ仕立候、妻ハ大根牛蒡」隨筆工隨筆(安永)「狸ヲ汁ニ煮テ食フニ、其肉ヲ入レヌ先ニ、鍋ニ油ヲ引キテ炒リテ後ニ、牛蒡大根ナド入レテ煮ルガヨシ」 瓦礫雜考(文化)二、狸汁「又たぬき汁ハ、云云、今ノ、蒟蒻ヲ味噌汁ニテ煮タルニハ非ズ」 青青の句「祭ルベキ、雲ノ氣色ヤ、狸汁」 (二)蒟蒻ヲ味噌汁ニテ煮タルモノ。 隨筆工隨筆(安永)「蒟蒻ナドヲ油ニテイタメテ、牛蒡大根ナドマジヘテ煮ルヲ狸汁ト云フ」 莫囂ノ集(寶曆)「今ハたぬき汁ト化シテ、舌鼓ヲ打タスル、一際風流ノ沙汰」 狸親輪(寶曆)「狸汁ニバケルこんにゃく」

たぬき-ねいり (名) 狸眠狸寐入 眠リタル風スルコト。ソラネブリ。略シテ、たぬき。佯睡。詐睡 松山の井(寛文)「ツヅミ草、狸ねいりノ、寝入かな」浮世物語(寛文)「たぬきねいりヲシテ居タルモノアリ」

たぬき-の-はらつづみ (名) 狸腹鼓 狸ガ腹ヲ打チテ、鼓ノ音ヲ發スト云フ怪。 雲萍雜志(柳澤淇園)「予筑紫ニマカリシ頃、或寺ニ宿リケル夜、アルジノ僧ノ、アレ聞キ給ヘ、今宵八月ノサヤケキニ、狸ドモノ集リテ、はらつづみヲ打ツナリトイフニ、耳ヲスマセバ、其音遙カニ響ケリ、砧ノ音ニヤアラント疑ヘバ、サニモ非ズ、向ヒタル岡ノコナタニ、一ムラノヤブアリテ、他ニハ人家ナシ、狸モ其所ニ集リテ打ツナリ」

たぬき-の-はらなげ (名) 多怒氣之腹投 相撲ノ手ノ一。敵ニ後ヨリ抱込マレタル不利ノ體勢ヲ、有利ニ轉換スル身合。 相撲傳書(享保、木村守直)「敵ノ左右手ヲ我腹ニ巣キ締メテ敵ヲ後ラセ、急ニ諸手ヲ拔シテ、前ニマハリナガラ、我手ヲ敵ノ脇ニサシ込ムモノ(大意)」

たぬし (名) 田主 田地ノ持主。 夫木抄、十二、秋「早苗取、己ガ作ラヌ、秋ノ田ヲ、刈ニ來ヌトヤ、田ぬし咎メム」 陸前國名取郡田植歌「今日ノ田植ノ田主樣ハ、大米持ダ」

たぬ-し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 樂 たのし(樂)ニ同ジ。 萬葉集、五、四十「睦月立チ、春ノ來ラバ、斯クシコソ、梅ヲ折リツツ、多努之岐終ヘメ」 古事記、下(仁德)「山縣ニ、蒔ケル菘モ、吉備人ト、共ニシ摘メバ、多怒斯久モアルカ」

たぬま-がけ (名) 田沼懸 〔田沼主殿頭ノ工夫セシヨリ云フトゾ〕 淺キ口ヲ一ツ付ケテ、楊枝ナドヲ入ルルヤウニシタル鼻紙袋。 賤のをだ卷(享和、森山孝盛)「鼻紙挿ニモ品品工夫出來テ、中ノ所ヘ又一ツ淺キ口ヲ付テ、楊枝ナドヲ入ル、是ヲ田沼ト云ヘリ(田沼主殿頭殿、用ヒ始メラレシトゾ)」

たぬま-ばり (名) 田沼張 髷髻ノ拵ヘノ一種。 嬉遊笑覽、二、當用ニ士せる八池ノ端ノ住吉屋市兵衞ガ、田沼ばりトモ、出世張トモ云ヘルガ流行リ、云云」

たね (名) 種 〔稻種ヲ本トスル語。田根ノ義カト云フ〕 (一)〔稻ノ實。 箋注倭名抄、九「稻穀具「水田種子、太奈都毛乃、種、太禰」 出雲風土記、飯石郡多禰郷「稻種墮、北處、故曰種」 天智紀、元年正月「稻種」 (二)核。「柿ノたね」 (三)〔生物ノ子孫ヲ生ズル基。 胤 源、廿六、常夏「アナメデタノワカ胤ヤ、カカリケルたねナガラ、アヤシキ小家ニオヒ出ケルコト」 (四)〔種菓物ヲ作リ成スベキ基トナルモノ。〕 〔種菓子ノ出典ヲ見ヨ〕 「菓子ノ種」「麪包ノ種」「手品ノ種」 (五)〔事ノ發生スル基。事ノオコリ。 起因 古今集、序「大和歌ハ、人ノ心ヲ種トシテ、萬ノ言ノ葉トゾナレリケル」「思ヒノ種」「議論ノ種」「爭ヒノ種」 (六)事ノ據リドコロトシテ用キルモノ。 案 「著述ノ種」「工夫ノ種」 (七)蕎麥切、汁ナドニ加ヘタル實。「たね物」

たね-あかし (名) 種明 手品師ナドガ、手品ノ種ヲ說キ明スコト。

たね-あぶら (名) 種油 〔なたねあぶら(菜種油)ノ略〕 あぶらな(油菜)ノ條ヲ見ヨ。 女殺油地獄(享保、近松作)上「トロリトセイモ種油、梅花紙コシ荏ノ油」

たね-いた (名) 種板 寫眞ノ像ヲ撮影スルニ用キル硝子、又ハ、せるろいど板。

たね-おろし (名) 種卸 たねまき(種蒔)ニ同ジ。 名義抄「稼、タネオロシ」 蕪村句集「古川ノ、流レヲ引キツ、種おろし」

たね-がき (名) 種柿 賤民ノ賭事ニ、柿ノ核ノ奇偶ノ數ナドヲ豫メ言ヒ中テテ、切リテ見テ勝負ヲ決スルコト。柿戰トモ云フベシ。瓜戰 唐歡笑言、上「近頃市中ノ苔、柿ヲキリテ、ソノ種ノ數ヲアテテ、勝負ヲ爭ル事アリキ、名ヅケテたねがきト云フ」

たね-かし (名) 種貸 稻種ヲ貸付クルコト。カシツケマイ。

たね-かし (名) 種浙 八十八夜前後ニ、稻ノ籾種ヲ蒔クニ當リ、ソノ前、一旦、俵ノママ水ニ浸スコト。種ヒタシ 其角の句「種かしヤ、大神宮ヘ、一ツカミ」

たね-がしま (名) 種子島 〔天文十二年、南蠻船ニテ、葡萄牙人、牟良叔舍等、大隅國種子島ニ來リテ、始メテ鐵砲、及、砲術ヲ島主北條時堯ニ傳フ。コレ其名ノ起ル所ナリ。(種子島家譜)〕 (一)元ハ、鳥銃ノ稱。銃 理齋隨筆、六、廿七條「百六代後奈良院、天文十二年、始テ種ケ島ノ鐵砲ヲ傳フ」 (二)後ニ、其短ク小サキモノ。ピストル。袖鐵砲。小鐵砲。短銃

たねかす (名) 櫌 農具ノ一。つちわり(櫌)ニ同ジ。 字類抄「櫌 タネカス、田器也」

たね-がはり (名) 胤變 兄弟姉妹ノ內ニ、母ハ同ジクシテ、父ノ異ナルモノ。同母異父ナル兄弟姉妹。タネチガヒ。異父 はらがはり(腹變)ニ對ス。

たね-がみ (名) 種紙 蠶ノ雌蛾ノ、卵ヲ生ムニ當リ、紙ヲ與ヘテ、コレニ生ミツケシメタルモノ。一蛾、二三百餘ヲ生ム。日ヲ歷レバ、色、黃黑ニシテ、けしのみヨリ大キク、粒粒均シク敷キテ堆積セズ。シテ扁シ、來春ノ種トス。蠶卵紙 康頼本草、下七三十 蟲魚部、中「蠶退、已太爾乎加美仁川久」

たね-ぎれ (名) 種切 (一)品切ニ同ジ。 (二)材料ノ全クナクナリタルコト。

たね-ぐわし (名) 種菓子 菓子ノ原料ト

スル製品。酥酪、道明寺、餡ナド。[illegible]〔本居内遠〕「菓子類ニモ、クサグサアリテ、干菓子、蒸菓子ノミナラズ、種菓子トテ、種ノミ製スル者モアレバ」

たね-せん（名）種錢　錢ヲ鑄ル時、先ヅ其形ヲ精美ニ作レル模型。以テ鑄型ト成ス。母錢〔錢譜〔安永〕「種錢ハ上錢也、時ノ能書ニ寛永通寶ノ文字ヲ書カセ、之ヲ鑄テ種錢トス」〕

たね-ちがひ（名）胤違　たねがはり（胤變）ニ同ジ。

たね-つけばな（名）種付花　たがらし（碎米薺）ニ同ジ。

たね-とり（名）種取　新聞紙ニ載スベキ事柄ヲ採リ來ルコト。探訪。採訪

たね-なし（名）種無　うきくさ（水萍）ノ異名。

たね-ばん（名）種版　たねいた（種板）ニ同ジ。

たね-ふくべ（名）種瓠　ふくべノ種ヲ採ルタメニ、實ヲ軒下、又ハ、爐上ニ弔シ置クモノ。〔俳諧の句「[illegible]カヌモ、動クモ寂シ、種ふくべ」〕

たね-ほん（名）種本　著述、書畫、ナドノ據リドコロトスル書物。原本

たね-まき（名）種蒔　（一）稻ノ籾種ヲ、苗代ニ蒔キツクルコト。種ヲ水ニ浸シ、熟シテ芽萌トシテ、八十八夜前後ニ、蒔ク。タネオロシ。〔俳諧の句「種まきや、夜ノ小雨ノ、若イ加減」〕（二）穀、菜蔬ナドノ種子ヲ畑地ニマクコト。下種。撒種。播種

たねん（名）多年　久シキ年月。ナガネン。トシゴロ。永年。〔[illegible]物ニ爲レ容貫ニ多年ニ」「多年ノ苦心」

た-ねん（名）他念　ホカノココロ。餘念。〔平家物語、一、妓王妓「朝夕佛前ニ向カヒ、花香ヲ供ヘテ、他念ナク願ヒケルガ」〕

た-ねん（名）他年　未年以後ノ年。未來ノ年。後年〔[illegible]〕

たねん-こん（名）多年根　植物ノ根ノ、多年ニ亙リテ、生存スルモノ。

たねん-さう（名）多年草　多年根ヲ有スル草。多年生草。多年生草本。

たね-もの（名）種物　（一）畠ニ蒔クベキ蔬菜ノ種。種子兒（二）蕎麥切ナドノ、實ヲ加ヘタルモノ。

たね-ゐ（名）種井　種籾ヲ漬ケオク井。タナヰ。たたゐ（種井）ノ條ヲモ見ヨ。〔[illegible]「[illegible]たねゐカナ」〕

た-のう（名）多能　人ニ藝能ノ多キコト。〔論語、子罕篇「固天縱之將聖、又多能也」〕

たのうだ-ひと（名）賴人　ワガタノミトシタル人。主人。狂言記、末ひろがり「コチノ頼うだ人ノ樣ニ、物ヲ急ニ仰セ附ケラレル御方ハ御座ラヌ」

たのき（名）狸　たぬき（狸）ノ訛。

た-の-くさ（名）田草　稻田ノ中ニ生ズル雜草。タグサ。農民、コレヲ去ルニ甚ダ力ム。ハグサ。[illegible]タノミノヒエ。

たのくさ-ずまふ（名）田草相撲　クサズマフ。其條ヲ見ヨ。

たのごひ（名）手巾〔手拭ひノ義〕てぬぐひ（手拭）ニ同ジ。[illegible]「手巾、[illegible]乃己比」[illegible]下、十二縣、調度「巾、太乃己比」

たの・し・シヤ・シケレ・シク・シク（形、二）[illegible]〔日神、天磐屋戸ヲ出デ給ヘル時、諸神、手伸シテ悦ビ歌ヘルニ起ルトゾ〕（一）喜バシク快シ。ウレシク、オモシロシ。心ニ滿足ノ感アリ。[illegible]ノ下コソ、たのしかるラシ」（二）ユタカナリ。[illegible]マデ、たのしく持チタリケリ」

たのこ（名）田子　田舍者ヲ云フ。[illegible]タジルシ。

たのしび（名）樂　次次條ノ語ニ同ジ。[illegible]トヒ時移リ、事去リ、たのしび、カナシビ、行キカフトモ」

たのし・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（自動、四）樂　次次條ノ語ニ同ジ。[illegible]

たのしみ（名）樂〔田物代ニテ、田實ノ意カト云フ〕タノシムコト。タノシビ。ナグサミ。興。字類抄「樂、タノシミ」夫木抄、十七「たのしみヤ、實ノ池ニ、深カランニ[illegible]」

たのし・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）宴娛歡　[illegible]感ズ。快キニ滿足ス。[illegible]

たのし・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）樂　[illegible]キモノニ思フ。樂シキモノトナス。好ミ喜ブ。「道ヲ樂しむ」「琴ヲ樂しむ」

たのこ-も（名）田字藻　カタバミモ。デンジサウ。かつみ（萹）ノ條ヲ見ヨ。

たの-ひえ（名）稗　たのくさ（田草）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

たのまう（感）賴〔賴まむノ音便〕たのむニ同ジ。モノマウ。アンナイマウ。[illegible]乃美乃」

たの-まひ（名）田舞　タマヒ。でんぶ（田舞）ノ條ヲ見ヨ。

たのみ（名）恃憑〔田實ノ義、稻ノ實ヲ、新タニ實ノリシヲ、田實シテ、賴ム方ヘ奉リシヨリ起ルトモ云フ〕[illegible]

たのみ（名）賴（一）タノムコト。[illegible]リ。アテ。信賴。[illegible]

たのみ-い・る・ルル・ルレ・レ・レヨ（他動、下二）賴入　深ク賴ム。タノミコム。

たのみ-だる（名）賴樽　婚禮ノ時ノ結納[illegible]

たの-みの（名）[illegible]たのくさ（田草）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

たのみの-せつ（名）田實節　[illegible]八[illegible]

たの・む　[illegible]

〔たハ、發語、のむハ、祈む意ナラムカ〕

(一)〔助ケトセムトタヨル。力ト思ヒ寄ル。タヨリニオモフ。身ヲマカセル。夫木集、十九、風「たのむトモ、イマハたのまジ、アフミヂノ、シノノヲフブキ、人ハカルナリ」竹取物語、下「船ニ乘リテハ、カヂトリノ申スコトヲコソ高キ山トモたのめ」夫木抄、九、荒和祓「御祓セシ、ナゴシノ夜ヨリ、人シレズ、たのみワタルト、人ニシラスヤ」

(二)語ラヒ誂フ。今昔物語、四「尼ニ向ヒテ、ツレヅレナルニ、女ノ童求メテ得サセヨト頼むニ」同、二三「或日、人アリテ此忠行ヲ頼みテ、祓ヲセサスル事アリ、云云、祓終リヌレバ、頼みタル人歸リヌ」

嘱 (三)主君トス。謠曲、錦戸「今マデ頼まレ申ス主君ニ心ヲ引キカヘテ」「頼む人」

〔たの・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 頼
頼ミニ思ハス。アテニセサスル。(人ヨリ) 後拾遺集、十二、戀二「たのむるヲ、頼ムベキニハ、アラネドモ、待ツトハナクテ、待タレモヤセム」萬葉集、四、四「初ヨリ、長ク言ヒツツ、たのめズハ、カカルオモヒニ、遇ハマシモノカ」同、十四、五十「遠江、引佐細江ノ、ミヲツクシ、(深キモノニ云フ)我ヲ多能米テ、淺マシモノヲ」後撰集、九、戀、一「女、病、今年ヲダニ待チ暮ラセトたのめケルヲ」後拾遺集、十二、戀、二「人ノたのめテ來ズ侍リケレバ」新古今集、十、羈旅「マダ知ラヌ、古郷人ハ、今日マデニ、來ム(行カム)トたのめシ、我ヲ待ツラム」續古今集、十四、戀、四「マツカケテ、たのめシコトハ、ナケレドモ、浪ノ越ユルハ、猶ゾカナシキ」

たのむ (感) 頼 〔案内ヲ頼む意〕 人家ヲ訪(オトナ)ヒ案内ヲ請フ聲。ものまうニ同ジ。

たのむ-の-いはひ(タノムノイワイ) (名) 田實祝 八朔ノ日、其年ノ早稲ヲ産土神(ウブスナノカミ)ニ供ヘテ祭ルコト。又、たのむのせち(頼節)ヲモ云フ。(古ヘ行ヒシ新嘗祭ノ名殘ナラムカト云フ) 安齋隨筆、一、八朔頼之祝「鴨長明四季物語ニ云ク(秋上ノ部八月)朔日ニハ、たのむの御祝トテ、昔ハサシテモノシ給ハザリシヲ、小松ノ帝、タダビトニテマシマセシ頃、奉リ初メテ、御世ニツカセ給ヒテ、昭宣公ノカクモノセサセ奉ラレシナリ、イロイロノ果物ヲ、其年ノ御早稲ニ添ヘ奉リ、五種ノ餅ナド、コノ事ニツカウマツル、云云、貞丈云ク、長明ガ四季物語ハ僞書ナリ、云云、桃花蘂葉ノ說、正トス可シ」 貞丈雜記、一、祝儀之部「桃華蘂葉ニ云ク、八朔ノ事、正應二年御記ニ云ク、今日家家ノイトナミニテ、たのむ人ニ物奉ル、コノ事始リテ、三十年ニモオホウ侍リケント覺ユ、云云、又、公事根源ニ云ク、云云、始ハ田のみトテ、米ヲ折敷土器ナドニ入レテ、人ノ許ヘツカハシケルトカヤ、云云、貞丈云ク、モトハ田の實トテ、米穀ノ成就ヲ祝フ事ニテアリシヲ、田の實トイフヲ頼みニ取直シテ、主君ト頼ミ奉ル人ニ物奉リ、君ヨリ臣ト頼ム者ニ物賜リテ、君臣和合シ睦ジクスル祝ナリ」

たのむ-の-せち (名) 頼節 〔田面ノ實リヲカツカツ見ソメテ待チ喜ブヨリ出デタレバ、田面の節カ、又ハ田の實ヲ頼むニカケテ云フニモアルカ。元來公事ニアラズ、田家ニテ祝ヒシ事ノ流例トナリシナルベシ〕 コノ節ハ、君臣朋友相互ニ憑ムヨリ、其間ニ贈答アリタリ、室町時代ニハ、八朔ニ幕府ニ獻ズルヲ御頼ト云ヒ、其返物(カヘシモノ)ヲ賜ハル事ヲ掌ル職ヲ、御憑奉行ト云ヒキ。鎌倉年中行事ニ、在國ノ方方ニモ、皆皆御頼み進上ト云フコト見エタリ。 空華日工集(義堂)「侍怙の節、後嵯峨帝潛龍時、外戚源通方近習男女、密爲二斯儀一以慰二閑寂一」 辨内侍日記、寶治元年八月一日「中宮ノ御方ヨリマヰリシ御薫(タキモノ)物ノ、世ノツネナラズ匂ヒウツクシウ侍リシカバ「今日ハ又、空燒物ノ、名ヲカヘテ、たのめハ深キ、匂トゾナル」

たのむ-の-ひ (名) 頼日 八月朔日ヲ呼ブ稱。(下ノ出典ヲ見ヨ) 難波鑑(延寶)四「初八、田の實トテ、土器ニ米ヲ入レテ、人ノ許ヘ送リケルトカヤ、其後、次第次第ニ、世人盛ニ今日(八月朔日)ヲモテアツカヘリトナリ」 梅松論(足利時代)下「足利尊氏ノ、八月一日憑ナドノ進物ヲ皆人人ニ與フ」

〔たの-も (名) 田面 田ノオモテ。タヅラ。 萬葉集、十四、卅八「坂コエテ、阿倍ノ田能毛(タノモ)ニ、居ルタヅノ、トモシキ君ハ、明日サヘモガモ」

たのも-アンドン (名) 田面行燈 〔田ノ面(モ)ヲ照ラス行燈ノ意〕 江戸時代、吉原ニテ、郭外ノ堤ニ點ゼシ行燈。

たのもし (名) 頼母子 〔相救ヒテ頼もしキ意〕 數人相結ビテ、先ヅ期限何箇月、金錢何ト定メ、月每ニ、各、其一分ノ金ヲ出シテ、鬮ヲ引キ、當リタルモノ、其金ヲ得テ利用シ、斯クシテ、順番ニ、且ツ出シ且ツ得ルコト。貧困ノ人ヲ助ケムトスルコトナリ。融通盡クルコトナシトテ、無盡(ムジン)トモ云フ。古クハ、人民仲間ヲ組合ハセ、貧富平等ニ、若干ノ米錢ヲ出シテ、村役所ニ預ケ、貧民ノ年貢ヲ缺キ食ナキニハ出シテ救フコト。サレバ富メル者ハ、出スノミニテ取ルコトナシ、貸稻(イラシノイネ)ノ遺風ナリ。(海錄) 百千會 字類抄「頼、タノモシ」 下學集、下、態藝門「憑子(タノモシ)、日本俗、出二少錢一取二多錢一謂二之憑子一也」 建武式目、三「無盡錢、田乃毛志」 尤草子(慶長)上「ウレシキモノ、たのもしノ札ツキアテタルハウレシ」 心中萬年草(寶永、近松作)中「多能母志(タノモシ)ノ懸錢七十四文アッタノモ、定メテ狗賓(グヒン)ニ攫マレタデゴザラウ」

〔たの-も・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 頼 頼ムベクアリ。恃(タノミ)トスベク見ユ。 拾遺集、十、長歌「たのもしき、蔭ニニタビ、オクレタル、二葉ノ草ヲ」 宇津保物語、忠社、上「内ニモオハシマサバコソ、たのもしくテ、宮ヅカヘモツカウマツリヨケレ」

たのもし-かう(タノモシコウ) (名) 頼母子講 たのもし(頼母子)ノ組合。 德川禁令考後聚、廿四、寛政七年仰渡「頼母子講ト名附ケ、無盡取リ立テ候一件」

たのもし-むじん (名) 頼母子無盡 たのもし(頼母子)ニ同ジ。 慶長見聞集、三「關東江戸マデ流行(ハヤ)リシハ、たのもし無盡ト名附ケテ、貧ナルモノガ、有德ナル者ヲカタラヒ」

たのもの (名) 田物 鷹狩ニ云フ語。雁、鴨、等ノ水禽ノ總稱。 貞丈雜記、十五、鷹鶻之部「鷹飼ノ詞ニ、山の物トイフハ、雉子、山鳥、兎ナドノコトナリ、田の物トイフハ、雁、鴨、鶴、鷺ナドノ類ヲイフナリ」

〔たば (名) 把 〔手張(タハリ)ノ略、手ニ滿ツル意〕 束(タバ)ネタルモノ。又、ソレヲ數フル語。 孝德紀、二年正月「租稻(タヂカラ)二束(ツカ)二把(タバリ)」 天武紀、下、五年八月「每戸麻一條(タバリ)」「把」「竹ノ把」「五把」

たば (名) 髱 たぼ(髱)ニ同ジ。 孝經樓漫筆、四、たば。 金葉集ニ、物言ヒケル女ノ髪ヲ、カキコシテミケル、津守國基「朝寢髪、誰ガ手枕ニ、たばツケテ、今朝ハカタミニ、フリコシテミル」

だは (名) 打破 ウチヤブルコト。ブチコハスコト。 王守仁詩「金山一點大如レ拳、打破維揚水底天」「情弊打破」

だ-ば (名) 駄馬 (一)駄送ニ用ヰル馬。荷馬。(二)牝馬ヲ云フ。

た-はう(タホウ) (名) 他邦 ホカノクニ。ヒトノクニ。外國。 韋莊詩、謫二宦總藏一異二於他邦一

た-はう(タホウ) (名) 他方 他ノ方面。別ノ方向。ホカ。 杜甫詩「萬里各他方」

た-はう(タホウ) (名) 多方 (一)種種ノ方面。多クノ事件。百方。 左傳、昭公三十年「亟肄以罷レ之、多方以誤レ之」 (二)多クノ國國。萬國。

た-ばう(タボウ) (名) 多忙 甚ダイソガハシキコト。繁用。繁多。繁忙。匆忙。

た-ばう(タボウ) (名) 多望 將來ニ、多クノ希望アルコト。「前途多望」

た-はう-めん(タホウメン) (名) 多方面 種種ノ方面。多クノ方面。多方。

〔たばかり (名) 〔たハ發語〕 (一)タバカルコト。思ヒ計ルコト。計畫 神代紀、上、廿九「有二高皇産靈尊之息思兼神云者一有二思慮之智一」 竹取物語「車持ノ御子ハ、心たばかりアル人ニテ」 宇津保物語、藏開、上、一「[illegible]ナケレバ、明クベキたばかりヲシツツ、藏ヲ明ケサセ給フ」 (二)謀リ欺クコト。タブラカシ。欺罔 竹取物語「此ノ女ノたばかりニヤ負ケントオボシメシテ」 新拾遺集、十六、神祇「ナモヒカネ、たばかりゴトヲ、セザリセバ、天ノ岩戸ハ、開ケザラマシ」 世俗用心記、序例「頭ノ黒イ偽者ニ用心シ御座セトヤ」

たばか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 〔たハ發語、安齋隨筆、卷一ニハ「たくみはかるノ略語カ」トアリ〕 (一)〔計ル。ハカラフ。思ヒメグラス。思案ス。計畫 名義抄「測、タハカリ、ハカル」 字類抄「謀、タハカル」 靈異記、上、序、訓釋「測、多波加り」 神代紀、下、廿「吾當下爲レ汝計上レ之」 同、上、廿「思兼神深謀遠慮」 續紀、廿四年二月「有二大略一者、不レ問二其所一レ短」 皇極紀、四年六月「欺二俳優一方便令レ解」 竹取物語、上「此ノ燕ノ子安貝ハ、惡シクたばかりテ取ラセ給フナリ、サテハ、エ取ラセ給ハジ」 宇津保物語、菊宴、下、廿「人ノ命ヲ助クト思シテ、此事、成シたばかり給へ」 (二)〔語ラフ。相談ス。諮詢 源、五十、浮舟、三十六「時方ニたばからセ給ヒテ」 伊勢物語、七十七段「彼ノ大將出デテ、人ニたばかり給フヤウ」 (三)謀リテ欺ク。タブラカス。欺罔

たは・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) 戲 (一)タハムル。アザル。オドケル。フザケル。 (二)〔淫ル。義ニ違ヒテ交通ス。色ニ溺レテ世ノ許ヲ顧ミズ。 古事記、下、允恭「[illegible]其伊呂妹輕大郎女一」 景行紀、四年二月「[illegible]」 [illegible]

たはけ (名) 戲 (一)タハクルコト。オドケ。(二)他ノ淺慮ナルヲ罵リ呼ブ語。アハウ。シレモノ。ウツケモノ。バカ。 狂言記、伊文字「ココナたはけハ、欠伸ハイラヌ」 柳樽、七「河豚汁ヲ、食ハヌたはけニ、食フたはけ」

たはけ-もの (名) 戲者 アハウモノ。シレモノ。 百合若大臣野守鏡(寶永、近松作)四「サテモ猟ウタたはけ者ト、可笑シサ堪へ兼ネニケリ」

タバコ (名) 烟草 〔西班牙語、Tabaco. 西印度諸島中ノとばお (Tobago.) 島ニ起ル。歐洲人、始メテ此ニテ得タリト〕 (一)草ノ名、春、種ヲ下シテ、夏、移シ植ウ。夏ノ季ニ、莖、高サ三五尺、圓ク太ク木ノ幹ノ如シ。葉ノ形、橢圓形ニシテ、末尖リ、互生シテ柄短ク、葉ノ面ニテ葉共ニ毛茸アリ。秋、莖ノ頭ニ極ヲ出シ、數多ノ花ヲ開ク、大イサ寸許、漏斗狀ニテ、淡紅紫色ナリ。實ノ內ニ、無數ノ細子アリ、黃褐色ナリ。相思草。 蕪村の句「綿ツミヤ、煙草ノ花ヲ、見テ休ム」 (二)秋、前項ノ葉ヲ晒シ、火ヲ點ジテ烟ヲ吸フ。今、世界中ニ用ヰザル地ナシ。之ヲ用ヰルニ、きざみ烟草、まき烟草、かぎ烟草等アリ。各條ヲ見ヨ。又、葉ヲ蒸シテ、丸トシテ嚼ムヲ、嚼烟草ト云フ。

タバコ-いれ (名) 烟草入 刻烟草ヲ盛ル小キ袋、行クニ攜フ。烟袋 好色二代男(貞享、西鶴作)三「松屋町燒ノ火イレニ、ソリ橋ノ煙草入」

〔たは-こと (名) 戲言・妄語・狂言 戲ケタル言。 字鏡「[illegible]」 [illegible] 宇津保物語、藏開、上、六十「此ノ朝臣ソソメキタリ、ナレバ、イトマメナリトモ、モノフ、ナ[illegible]たは[illegible]ハ多クシツル」

たは-こと (名) 戲事 戲ケタル所業。

タバコ-ばうちやう (名) 烟草庖丁 烟草ヲ切リ刻ムニ用ヰル庖丁。刃廣クシテ極メテ厚シ。[illegible] トハ泉州堺)

タバコ-ぼん (名) 烟草盆 (一)火入、灰吹、ナド、烟草ヲ吸フベキ要具ヲ載スル器。[illegible] 貞丈雜記、七、膳部之部「たばこ盆トイフ物、京都將軍ノ時代ニハ無カリシナリ、寬永年中、南蠻國ヨリ渡リシトナリ、其故、舊記ニ[illegible]」 (二)少女ノ髮ノ結ヒ方ノ名。

〔たばさ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 手挾 手ニ挾ミ持ツ。又、腋ニ、カカへ持ツ。 萬葉集、一、廿「丈夫ノ、得物矢手挿、立向ヒ、射ル的形ハ、見ルニサヤケシ」 同、十六、長歌「[illegible]、八ツ多婆佐彌、ヒメカブラ、八ツ多婆佐[illegible]」

たはし (名) 束子 〔束ネタルモノノ意ナラム。「手押ノ轉ト云フハアラジ」〕 藁、又ハ棕櫚ノ毛ナドヲ短ク束ネテ、物ノ汚レヲ磨リ落シ洗フ具。

〔たは・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 淫 淫レタル狀ナリ。 名義抄「淫、タハシ」 [illegible] 「[illegible]ノオトド、イトたはしくオハシテ」

〔たばし・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 手走 〔たハ發語、或ハ、飛走るノ略カト云フ〕 [illegible]

[illegible]フ」トビハシル。ホドバシル。 迸 [illegible]

〔たば・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) [illegible] 竹取物語、下「[illegible]」 [illegible]

〔たばな・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 手放 てばなすニ同ジ。鷹ヲ放シ試ミル。[illegible]

〔たばな・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 手離 手ヲ離ル。離レ別ル。[illegible]

たば・ぬ [illegible]

たばね (名) 束 (一)タバヌルコト。[illegible] (二)[illegible] (三)[illegible]

ケズ、未嫁ニ書ヒア、たばノフ、クリト出シ、ハケサキノバソリト寄ソン、マゲノ、ノ上ノサヘソラシテ懸フナリ」

たばねのし（名）[東熨斗] 紋所ノ名。

たばふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）[持]〔たくはふノ略カ〕俗字正韻ニ「貯、たばふ」トアリ、靜岡ニテハ、貯ふるヲ、たばふト云フ〕保ツ。カバフ。字類抄「持、タバフ」盛衰記、十七、始皇燕丹勾踐夫差宮事「コレヲ後日マデたばひ置クニ由ナシ」

たはぶる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）[戲]〔たハ發語、はふるハ放逸るノ義〕タハルル。タハクル。たはむる（戲）ニ同ジ。名義抄「戲、タハブル」字鏡「戲也、太波夫留」景行紀、廿七年十二月「戲弄」私記、太波不禮末左久留」萬葉集、五、長歌「シキタヘノ、床ノ上去ラズ、起テレドモ、居レドモトモニ、戲禮」

たはぶれ（名）[戲] たはむれ（戲）ニ同ジ。源、二、帚木「遊ビたはぶれヲモ、人ヨリハ心ヤスク、馴レ馴レシクフルマヒタリ」

たはむる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）[戲]〔たはぶるノ轉〕興トシテ、可笑シキ事ヲナス。タハル。タハブル。アザル。ザル。タハク。オドク。ダウケル。フザケル。瑞眼、春田「春田ニ、シ、ボリ濡ルル衣ノ、羽風ニ匂フ梅ガ香ノ、花ニたはむれシホラシヤ」

たはむれ（名）[戲] タハムルルコト。ザレ。オドケ。枕草子、三、廿八段「ユゲヒノスケ、云云、嫌疑ノモノヤアルト、たはむれニモ咎ム」

たはもの（名）[狂者] タハレタルモノ。タハクル人。天治字鏡、十二、廿六「狂癡、太波毛乃」

たはやす・シ・キ・ケレ・ク・ク（形、二）[容易]〔たは、共ニ發語ナラム〕たやすし（容易）ニ同ジ。ヤスシ。事故ダナシヤスシ。源、六、末摘花「ナミナミノたはやすき御フルマヒナラネバ」欽明紀、元年九月「有誓、憶持年、不可ニ輙爾而伐」雄古紀、十六年六月「輙不可罪」竹取物語「たはやすク人寄リ來マジキ家ヲ造リテ」宇津保物語、藏開、下、上「ウチノ名ナラデハ、たはやすクマカリアリカズ」後撰集、八、冬「霰降ル、ミヤマノ里ノ、サビシキハ、來テたはやすく、訪フ人ゾナキ」

たはら（名）[俵]〔東藁ノ略カ。田原藤太ヲ俵藤太ニ通ゼリ。鋸屑譚（谷川士清）ニハ「米苞ヲ俵トイフ、云云、今たわらト訓ズ、田藁也、蒼頡篇ニ田實之苞苴ト耳トアリ」〕（一）藁ニテ編ミ作レル大ナル袋。穀物ヲ盛リ包ム。俵。米囊。米苞。又、炭俵ハ、蘆ナドヲ用ヰル。字類抄「俵、タハラ」四時祭式「俵一俵」延喜雜式「凡公私運米五斗爲ㇾ俵」尊卑分脈「俵藤太」帝王編年記「田原藤太」（田原ハ秀郷ノ出身、近江ノ地名）古事談、四、勇士「俵博ノ實物アリ、其中ニ取レドモ盡キヌ米苞アリ、サレバ俵藤太ト云フ」前太平記「寶永三「將門ハ、米カミヨリゾ、斬ラレケル、田原藤太ガ、ハカリゴトニテ」（二）玩具ノ名。次條ノ語ノ略。

たはらがへり（名）[俵返] 玩具ノ名。紙ニテ、極メテ小サキ俵ノ如キモノヲ作リ、内ニ土ノ玉ヲ込メタルモノ。盆ナドニ載セテ傾クレバ、轉ビテハ立チ、轉ビテハ立チス。ひょこりひょこりのたはらトモ云ヒ、初ハいもむしト云ヒキ。略シテたはら。江戸二色（明和）「玩具ニいもむしト云フアリ」浮世くらべ（安永）「長キ日ノナグサミ評判ノ俵ハ豐年ノ笑草」評判ノたはらがへりガ一文」

たはらこ（名）[俵子]〔形、俵ニ似タレバ名アリ〕ほしこ（乾海鼠）ノ異名。正月ノ祝物ニ用ヰル。安齋隨筆、八「たはらこ（タワラコトヨム）、海鼠ノ乾シタルナリ、云云、其形少シ丸ク、少シ細長ク、米俵ノ形ノ如クナル故、たはらト名ケテ、正月ノ祝物ニ用フ」

たはらめぬき（名）[俵目貫] けさうめぬき（假粧目貫）ニ同ジ。

たはらもの（名）[俵物] 江戸幕府ノ頃、昆布、干鮑、煎海鼠等ノ海産物ヲ長崎ニ送リ、支那ニ輸出シタルモノノ稱。多クハ蝦夷地ノ産ナリ。ヘウモノ。夕霧阿波鳴渡（正徳、近松作）上「總ジテ重タイ俵物、材木デモ、牛馬ガ負フハ珍ラシカラヌ」

たばり（名）[條] すぢ（筋）ノ、たば（把）ニ同ジ。天武紀、下、五年八月「毎戸麻一條」

たはる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[倒] タフル。ヨコニナル。「横たはる」

たはる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）[戲][狂][淫]（一）タハムル。アザル。タハク。古今集、十九、誹諧「秋來レバ、野邊ニたはるる、女郎花、イヅレノ人カ、ツマデ見ルベキ」萬葉集、九、十七長歌「人ノ皆、斯クマドヘレバ、容艶、縁リテゾ妹ハ、多波禮タリケル」源、三十三、藤裏葉「オホヤケサマハ、少シたはれテ、アザレタル方ナリシ」徒然草、三段「たはれタルカタニハアラデ」（二）男女、禮ナラズシテ交ル。淫。字鏡「淫、遊也、戲也、多波留」天治字鏡、十二「婬、奴通也、戲也、私通也、多波禮」名義抄「淫、タハル」遊仙窟「淫、タハレ」夫木抄、十五「山姫ヤ、岩垣隱レ、たはるラン、モミヂガサネノ、袖ノ見エツル」

たばる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[廻]〔たハ發語〕メグル。マハル。萬葉集、廿四十「色深ク、セナガコロモハ、染メマシヲ、ミ坂多婆良バ、マサヤカニ見ム」

たばる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）[給賜]〔給ぶノたばニ敬語助動詞ノるるノツキテ（たびたまふノ意）四段活用ニ變ジタルモノ。たまはる、くださるノ例〕音便ニたうばる。クダサル。モラフ。萬葉集、四「千磐破、神ノ社ニ、我ガ掛ケシ、幣ハ賜ラム、妹ニ逢ハナクニ」同、十六「コノ頃ノ、ワガ戀力、記シ集メ、功ニ申サバ、五位ノ冠」同、十八「三十「都ヘ、京ニ出デテ、ヘマヲサム」同、十八「コレハ多婆リ、今ハ得ナシサ、宮サビセム」

たはれうた（名）[戲歌] 滑稽ノ意ヲ含メテ、詠メル歌。狂歌。夫木抄、三十五「たはれ歌トテヨミクル中ニ」

たはれごま（名）[戲駒] 野原ニ戲レ遊ベル駒。夫木抄、廿七「草シゲミ、粟津ノ野ベノ、たはれ駒、ヨハニイバユル、聲聞ユナリ」

たはれな（名）[戲名]（一）猥リガハシキ名。ウキナ。淫名。好忠集、遠江山、宮城原ノ、萩ミルト、秋ハカナキ、たはれ名ゾタツ」（二）狂歌師等ノ、雅號トシテ用ヰル、タハレタル名。狂名。ト戲狂歌集、哀傷、同書「コノ島田氏、安永二年、寶合トナンイヘル戲レヲナセシ時、酒上熟寢トたはれ名ヲツキ侍リキ」

たはれね（名）[戲寢] 戲レニ寢ルコト。カリネ。ウタタネ。好忠集「ワギモコガ、衣ウスレテ、ミエシヨリ、たはれねセジト、思ヒナリニキ」

たはれびと（名）[戲人] 戲ルル人。タハレヲ。榮花物語、三、淺緑「タイノ御方、イト色メカシウ、世ノたはれ人ニイヒ思ハレ給ヘルニ」

たはれめ（名）[遊女]〔淫女ノ義〕ウカレメ。アソビメ。イウヂョ。六百番歌合、寄遊女戀、二番「浪ノウヘニ、ウカレテ過グル、たはれめモ、頼ム人ニハ、タノマレヌカハ」

たはれものがたり（名）[戲物語] 小説、戲曲ノ類ヲ云フ。婦女今川（文政、眞仙子作）「女今川ト稱フル文ハ、云云、古クヨリ世ニ行ハレテ、兒女ノ弄トナルコト既ニ久シ、方今ソノ名ヲカリテ、作リマウケシ小説モ、亦何人ノ筆ズサミナル事ヲ知ラネド」

たはれを（名）[蕩子]〔狂れ男ノ意〕タ

ハルル男子。放蕩ナル者。好色風流ノ男。遊冶郎 倭名抄(一本)二、「思心、[illegible]、[illegible]」[illegible]、たはれをナリ、[illegible]ニヤクル、アヤメグサ、ネヨゲナリトヤ、人ノ見ルラン」

たはわざ タワ・ワザ (名) 〔狂事〕 狂レタル擧動。又ハケゴト。及ビモナキ、ザカシラゴト。萬葉集、廿五+六「イザ子ドモ、多波和射ナセソ、天地ノ、固メシ國ゾ、大和[illegible]ハ」

たひ タイ (名) 〔鯛〕 〔平魚ノ意ト云フ〕 延喜式ニ平魚トアリ 玉篇ニ、魚名、[illegible]、食[illegible]鯛、似鯽而紅鱗」トアリテ當レリ 鯛[illegible]ニテ道味魚」[illegible]ノ魚、形、鯽ニ似テ、[illegible]ク、鱗、[illegible]、淡紅ニシテ、潮ヲ離ルレバ赤ク變ジ、鬣、殊ニ紅ナリ。同類ニ對シテ、眞鯛、又、赤鯛、金鯛、金時鯛ノ名アリ。古ク、赤女ト云ヘルモコレナリ。肉白シ、味ハ、春ヲ最美トスレドモ、四時皆佳ナレバ、慶賀ノ魚ノ第一トス。大イナルハ二尺餘ニ至ル。又、相似テ小サキヲかすごト云フ。鯛ノ類名、種類、甚ダ多シ。各條ニ註ス。 赫鬣 倭名抄、十九二[illegible]「鯛、太比」本草和名、下「[illegible]鯛、多比」字鏡二「[illegible]、太比」古事記、上、六「[illegible]」[illegible]、六[illegible]二」萬葉集、九[illegible]「[illegible]リ、鯛釣リホコリ、七日マデ」 神樂歌、磯等前「イソラガサキ、太比鈞ルアマノ」

たひ (名) 〔褊〕 〔字ノ音、たふノ轉〕 なふのけさ(褊袈裟)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十三[illegible]坊具「褊、[illegible]云、[illegible]、一云、太比」

たび (名) 〔旅〕 〔[illegible]日ノ義〕 家ヲ出デテ、遠キニ行キ、途中ニアルコト。家ヲ離レテ、一時、他處ニ在ルコト。 萬葉集、十五[illegible]「秋ノヌヲ、ニホハスハギハ、咲ケレドモ、見ルシルシナシ、多[illegible]ニシアレバ」

たび (名) 〔度〕 〔回ノ轉。回むノ條ヲ見ヨ〕 一事ヲ數數ナシ、一處ヲ數數メグルコト。ヲリ。トキ。度。回。次 萬葉集、廿七+[illegible]「[illegible]」古今集、九、羇旅「コノたびハ、ヌサモ取リアヘズ、手向山、紅葉ノ錦、神ノマニマニ」 新千載集、十九、[illegible]、イ[illegible]ニモ、[illegible]、[illegible]、モ、たび重レバ、愛ル契ヲ」風流志道軒傳(風來山人)一「立カハリ入リカヘテ出ルたびニ、酒肴ノ數數、[illegible]シ」

たび (名) 〔手火〕 手ニテ乗ル炬火。トモシビ。タイマツ。松明。 神代紀、[illegible]「[illegible]」萬葉集、二、四十長歌「天皇ノ、神ノ御子ノ、御[illegible]ノ、手火ノ光ゾ、[illegible]リタル」

たび (名) 〔單皮、踏皮、足袋〕 (單皮、踏皮ハ當字、足袋ハ、襪ヲあしぶくろト云ヒシニ、當テタル字ナリ。語原ハ、旅沓ノ略カ) 倭名抄ニ、野人、鹿皮ニテ半靴ヲ作ル、多鼻ト云フトアリ、モト旅行用ノモノナルベシ。重之集ニ、たびト云フくつヲ花ニツケテ得サセタル「足引ノ、山ノ櫻モ、見ニ行カジ、コノたび得タル、くつノ、惜シサニ」トアリ。足利慈照院殿記錄ニ、十里單皮ト云フハ、遠足ノ用ナル由云ヘリ、ソレヲ後ニ室内用トセシモノノ如シ。(皮製ナルト、古製ナルトハ、筒ノ長カリシコトニテ知ルベシ)、貴人ノ前ニハ用ヰルヲ憚リシモ、元來、野服ナレバナルベシ」 室内ニテ防寒用トシテ、足ヲ包ムニ用ヰル皮製ノ袋。制、襪ノ如ミ。但シ足ノ第一指ト第二指トノ間ニ當ル所ニ割目ヲツケオク、履物ニ用ヰル時、鼻緒ヲ挾マムガタメナリ 鞋ヨリ上、踝ノ下ニカカルヲ筒ト云フ、ココハ割リオキテ着キテ後ニ、鞐ヲ掛ケテ結ブ。かはたび(革足袋)ノ條ヲ見ヨ。足袋 [illegible]皮[illegible] [illegible]チルベキカトアルハ、附會ナリ)[illegible]「[illegible]」[illegible]。[illegible]二歸ヒ入レテ、踏皮行騰脱ガセ、足洗ハセテ、[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]バ不レ可レ用」貞順故實集(室町時代)「貴人御前へハ[illegible]八年十二月廿九日」上池院民部卿被足袋御免事」[illegible]江戸時代、貞享、天和ノ頃ヨリ、木綿足袋行ハレ、皮ノ價高クナリシヨリ、羽織ハ[illegible]、[illegible]、次ギテ[illegible]、綿[illegible]トナリ[illegible]。 將軍家御元服記、明應三年十二月廿日「[illegible]」云、足袋御免事、葉萩年[illegible]以後可、被レ免[illegible] [illegible]。[illegible]、ソレヲ足袋トヒトツニ心得タルハ、武家事ナリ」

だひ (名) 〔打碑〕 〔打ハ作ノ意〕 碑文ヲ石摺ニ取ルコト。蠟墨ニテ摺リ取ルヲ乾打碑ト云ヒ、[illegible]

ダビ (名) 〔茶毘〕 〔梵語、[illegible]〕 火葬ノ略、焚燒ノ義 くつさう(火葬)ニ同ジ。[illegible]

たひあきなひ タビ・アキナイ (名) 〔旅商〕 貨物ヲ持チ行キテ商ヒスルコト。諸國ヲ巡リテ商賣スルコト。客商 [illegible]九、法皇御葬送「[illegible]化ノ山陰へ御下リアリテ、[illegible]」

タビイ (名) 〔[illegible]〕 [illegible]ノ轉。[illegible]

たびいし (名) 〔礫〕 〔粒石ノ轉、たぶて、つぶて(飛礫)ノ例〕 ツブテ。小石ノ名 [illegible]、礫、タビイシ、ツムレイシ、飛礫、タツブテ」[illegible]「飛礫、ツブテ」[illegible]、上、序、[illegible]、[illegible]、タビイシ」同、中、第十七縁[illegible]

たびうど (名) 〔旅人〕 たびびと(旅人)ノ音便 [illegible]「[illegible]」

たびかさな・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔度重〕 重事、シバシバトナル。度數カ、カサナル。[illegible]、たび重れバ、[illegible]

たびかず (名) 〔度數〕 [illegible]

たびかせぎ (名) 〔旅稼〕 他郷ニ行キテ、勞働スルコト。デカセギ。

たひがは (名) 〔[illegible]〕 [illegible]、古へ、十里以外ニ旅行スル時ニ用ヰシ合羽。[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

たびがへり タビ・ガエリ (名) 〔旅歸〕 旅行ヨリ我家ニ[illegible]

たびがらす (名) 〔旅烏〕 (二)旅行ニ馴レタル人。又、多ク旅ニ日ヲ送ル人ノ譯名。(京がらす、阿波岸のからすノ類) [illegible] (二)他郷ヨリ來レル人ヲ卑メテ云フ語。[illegible]

たびおち (名) 〔旅心地〕 旅ニ在ル氣持。[illegible]クレバ、スムワレサヘゾ、[illegible]

たびおろも (名) 〔旅衣〕 旅ニ着ル衣服。

寄衣 征衣　萬葉集、廿「多比己呂母、ヤツ著重ネテ、イヌレーモ、ナホ肌寒シ、妹ニシアラネバ」

たび-さき　(名)　旅先　(一)旅行ノ時、指シテ行ク場所。旅行サキ。旅行中。(二)たびのそら(旅空)ニ同ジ。

たびし-がはら　(名)　〔たびしハ、日本靈異記ニ、礫ヲたびいしト訓メル飛礫ノ轉ニテ、其約メナリト云フハ、イカニヤ。傍厢後篇ニハ、たひしハ茶毘師ニシテ、今ノ隠坊、かはらハ屠兒等ニシテ、ゑとりナドノ賤者ナリト云ヘリ〕石瓦ナド云フニ同ジ。ソレニ寄セテ、數ニモアラヌ下賤ノ民ヲ云フ。瓦礫　源、十五、蓬生「たびしがはらナドマテヨロコビ思フナル」元輔集「筑紫ニテ、大貳ノ、御門ニ蕎提子ヲ奉リアケラルニ「磨クラム、玉ノ光ヲ、タノム哉、數ニモアラヌ、たびしがはらヲ」枕草子、一、十三段「長女、御厠人、たびしがはらト云フマデ、イツカハ、ソレヲハヂカクレタリシ」大同類聚「山賤、たびしがはらマデモ」

たび-じたく　(名)　旅支度　(一)旅ニ出ヅル支度、門出ノ用意。旅裝　治行　辨裝　(二)旅中ノ身形。旅中ノ服裝

たび-しばゐ　(名)　旅芝居　他郷ヲ巡リテ行フ芝居。旅ニテ興行スル芝居。　家内喜多留、四編「一村ヲ、縁ニシテ立ツ、旅芝居」

たひ-じほ　(名)　鹽　〔たひびしほ(鯛醬)〕ナルベシ〕タヒノヒシホ。　名義抄「鹽、タヒヒシホ、シシヒシホ」天治字鏡、三十「鹽、肉比志保、又、太比比志保」

たび-しやうぞく　(名)　旅裝束　旅ニ出ヅル時ノ服裝　宇治拾遺、九、第三條「旅裝束シナガラ掻ヒテ、後ノ堂ニ參リテ」

たび-しよ　(名)　旅所　古ク、旅の宮。祭禮ニ、神輿ヲ暫シ駐ムル所。オタビ。行廟

ダビ-しよ　(名)　茶毘所　火葬スル所。火葬場。ヤキバ。　吾妻鏡、二、養和元年十二月十一日「武衛御哀傷之餘、自令向其茶毘所給」

たび-すがた　(名)　旅姿　旅ニ出立ツ裝ヒ。旅裝束ノスガタ。　源、十六、關屋三「關屋ヨリ里ハヅレ出タルたびすがたドモノ、イロイロノアヲノ、ツキヅキシキヌヒモノ、括染ノサマモ、サル方ニヲカシウ見ユ」

たび-すずり　(名)　旅硯　旅ニ携フル小サキ硯。矢立ノ硯ナドモコレナリ。懐中硯　續草庵集、羇旅「年頃花見侍ル時、懐ニ入レテ、思ヒ出ヅルニ隨ヒ、歌書キハベル旅硯ヲ、云云」

たび-ずまひ　(名)　旅住　タビサキノスマヒ。タビズミ。僑居　客居　索居

たび-ずみ　(名)　旅住　前條ノ語ニ同ジ。　源、三十一、槇柱上「年頃ナラヒ給ハヌたびずみニ、セバクハシタナクテハ、イカデカアマタハサブラハム」夫木抄、三十六、旅「アハレナル、春ノアケボノ、アサタチヌ、カスミノソコヤ、クレノ旅ずみ」

たひ-せんべい　(名)　鯛煎餅　鯛ノ肉ヲ磨リ碎キテ、煎餅ノ如キ形ニ製シタル一種ノ食品。

たび-ソウ　(名)　旅僧　旅行ノ僧。客僧

たび-だち　(名)　旅立　旅路ニ出立ツコト。門出。發足。出立。發程　首途　太祇全集「旅だちヲ、人モ羨ム、袷カナ」

たび-だ・つ　・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四)　旅立　旅行ヲナス。發程　首途　登程　玉葉集、十九、釋教「イカニセム、トヲノサカヒニ、旅立ちテ」

たび-たび　(副)　度度　シバシバ。毎度。再再。屢次　伊勢物語、廿三段「ヨロコビテ待ツニ、たびたびスギヌレバ」　後撰集、十一、戀、三「徒ニたびたび死ヌトイフメレバ」春秋二季種(三亭春馬)初編、上、一段「たびたび參ッテモ、約束ガ相違イタス樣ニナマギレ、御挨拶モ致シマセンデ」

たび-たま・ふ　・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四)　賜給　賜ぶヲ更ニ敬ヒ云フ語。　太平記、二、阿新事「其ノ船是レヘ寄セテたびたまへ」

たび-ぢ　(名)　旅路　旅行ノ路。行路　俳諧新選、春「見初メルト、日日ニ蝶見ル、旅路カナ」

たび-づかれ　(名)　旅疲　旅中ノ疲勞。　狂言記、惡坊「旅疲れニ、疲レマシテ、チト眠リマシテ」萬載狂歌集、羇旅「たびづかれ、休メテ寢タリ、オキ炬燵、薄キ蒲團ヲ、掛川ノ宿」

たび-づきん　(名)　旅頭巾　旅行ニ被リ用ヰル頭巾。　大井川集(延寶、維舟)「山ノ姿、波ノナガメヤ、旅頭巾」

たび-づと　(名)　旅苞　旅行ヨリ持チカヘル家苞。旅ノミヤゲ。又、旅行ニ携フルつつみもの。　夫木抄、三十六「たびづとニ、モタル乾飯ノ、ホロホロト、涙ゾ落ツル、都思へバ」

たび-と　(名)　田人　田ヲ耕シ作ル人。田子。百姓。農夫　農民　田夫　田父　古事記、中(應神、十九)「送田人之食耳」榮花物語、十九、御裳着「コノ田人ドモノ、ウタフ歌ヲキコシメセバ」

たび-と　(名)　旅人　たびびと(旅人)ノ約。　推古紀、廿一年十二月「臥セル、ソノ多比等アハレ」萬葉集、三、四十「家ナラバ、妹ガ手マカム、草枕、旅ニ臥シタル、コノ旅人アハレ」

たび-どころ　(名)　旅所　旅ノヤドリ。　源、十二、須磨、四十「カカル旅どころトモナク、人サワガシケレドモ」榮花物語、三十九、布引瀧「御對面アルベク思シメセド、たびどころニオハシマセバ」

たび-にっき　(名)　旅日記　旅中ニ、記シ置ク日記。旅行日記。タビニキ。　家内喜多留、四編「追剝ニ、逢ウタモ記ス、旅日記」

たび-ね　(名)　旅寢　旅ノ宿リニ寢ルコト。タビマクラ。羇宿　萬葉集、四、四十「神風ノ、伊勢ノ濱荻、ヲリフセテ、客宿ヤスラン、荒キ濱邊ニ」古今集、二、春、下「コノ里ニ、たびねシヌベシ、櫻花、チリノマガヒニ、家路ワスレテ」

たひ-のくもゐ　(名)　旅雲居　假ノ皇居。行在所。行宮　增鏡、第七、烟末末「御たびのくもゐナレバ、ナカナカイト輕ラナリ」

たび-のそら　(名)　旅空　旅行シテ居ル土地。タビサキ。客中　源、十、榊、廿「マシテたびのそらハ、イカニ御心ヅクシナルコトオホカリケム」躬恒集「古郷ノ、霞トビワケ、ユク鴈ハ、たびのそらニヤ、ハルヲクラサム」

たび-のみや　(名)　旅宮　たびしよ(旅所)ニ同ジ。

たひ-のむゐ-げんぱち　(名)　〔佐渡ノ方言〕魚ノ名　海底岩石ノ間ニ產ズ　形狀、小鯛ニ似テ、圓クシテ肥エ、鱗大キクシテ硬ク、全身、うみすずめニ類ス。鱗毎ニ稜アリテ文ヲナシ、形、松ノ實ニ似タレバ、長崎ニテ、まつかさうをト名ヅケ、皮ヲ剝ギテ食フ。肉硬ク、味美ナラズ。背ノ首ニ近キ處ニ、針三本アリ、中ナルハ一寸許、兩邊ナルハ五六分許、又、腹ニ二大針アリテ角ノ如シ、開ケバ左右ニ分レ、小魚ヲ刺シ食フ。一名、オニダヒ。伊勢ニ、キリンウヲ。君魚

たひ-のゑ　(名)　鯛餌　古名、ゐ蟲ノ名。淺キ泥海ノ底ニ生ズ。蚯蚓ノ如クニシテ大キク、長サ六七寸アリ、漁人、捕リテ、專ラ鯛ヲ釣ル餌トス。ユムシ。

たび-はだし　(名)　足袋跣足　履物ヲ穿カズ、足袋ノママニテ、途上ヲ歩ムコト。

た-ひばり　(名)　田雲雀　古名、タドリ。雲雀ニ似テ稍小サク、全身、灰色ニシテ黑

ミアリ。但シ、胸ハ黄白ニシテ、黒キ斑アリ。イナヒ。イヌヒバリ。イヌヒ。

たび-びと (名) 旅人 旅ニアル人。タビウド。タビンド。タビト。リョジン。旅客。行人。行客。遊子。倭名抄(一本)一、男女類「賓客、旅客、太比比止」孝徳紀、大化二年二月「還都未久、還似三客」萬葉集、九三十「客人ノ、宿リセムヌニ、霜フラバ、我ガ子ハグクメ、アメノ鶴ムラ」

たび-ま (名) 度間 ヒマ。アヒダ。タエマ。榮花物語(一本)峰月「宮宮ノ御ツカヒ、シキリテ、東宮ヨリハ、たびまモナケレドモ」

たび-まくら (名) 旅枕 たびね(旅寐)ニ同ジ。客枕 玉葉集、四、冬「たびまくら、フシミノ里ノ、朝ボラケ、カリ田ノ霜ニ、鶴ゾ鳴クナル」

たび-まね・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 度遍 度數多シ。間斷ナシ。萬葉集、四三十「ママラヲノ、思ヒワビツツ、遍多、嘆ク嘆ヲ、負ハヌモノカモ」同、十九三十長歌「イニシヘユ(流)、無カリシシルシ、多婢末禰久、マヲシ給ヒヌ」續紀、四、慶雲四年七月「[illegible]多久門重而、[illegible]賜倍婆、[illegible]美、威美、今年六月十五日爾」同、三十二、寶龜三年五月「魘魅大逆之事、一二過能味仁不在、[illegible]年久[illegible]奴」

たひ-ミソ (名) 鯛味噌 鯛ノ肉ヲ煮テ、乾シテ碎キテ、砂糖ナド加ヘ、味噌ト擂リ和ゼタルモノ。青青の句「鯛味噌ヤ、イハケナキ身ノ、食好ミ」

たび-んど (名) 旅人 たびびとノ音便。

たひ-めん (名) 鯛麵 索麵ニ鯛ノ肉ヲ交ヘテ煮タルモノ。八笑人(文化、鯛丈)三編、上「コレガ即チ鯛麵デゴザリマス」

たびやう (名) 多病 病氣勝ナルコト。ヤマヒガチ。[illegible]「[illegible]年來身多病」「テチ多病」[illegible]

たび-やかた (名) 旅館 旅人ノ宿泊スル所。ヤドヤ。リョクヮン。旅亭。旅舍。月[illegible]集、[illegible]「[illegible]サレノ、[illegible]引キムスブ、旅やかた、時雨[illegible]レズ、たびのやかたニ、日數ヘテ、[illegible]コヒシキ、夕[illegible]ノ空」

たび-やく-しや (名) 旅役者 他郷ヘ出デテ興行スル役者。行旅戲子。

たび-やつれ (名) 旅窶 旅行シテ、顏貌ノ窶ルルコト。草根集「幾夜サテ、ウキオモカゲノ、旅やつれ、人ニハナクテ、[illegible]ヒキヌラム」

たび-やどり (名) 旅宿 旅ノ宿。逆旅。夫木抄、三十六「ヒマモナク、[illegible]思フ時ノ、たびやどり、イカナルマニカ、月ノモルラン」

たび-よそほひ (名) 旅裝 たびしやうぞく(旅裝束)ニ同ジ。行裝。

たひら (名) 平 「直平ノ約カ」(一)高低ナキコト。ヒラタキコト。神代紀、下「平字、此云三陀毗邏二」伊勢物語、八十二段「オシナベテ、峰モたひらニ、ナリナナン、山ノ[illegible]ナクバ、月モ入ラジヲ」(コレハ副詞ニ用井タルナリ)(二)山間ニアル縱橫數里ノ平地ノ稱、信濃國ニテ、佐久平、善光寺平、ナド云フ)平野。(三)サグラカクコト。ロク。

たひら-か-ニ (副) 平 (一)タヒラニ。ヒラタク。名義抄「平、タヒラカニ、平坦、タヒラカニ、徂、タヒラカナリ」(二)オダヤカニ。シヅカニ。ヤスラカニ。恙ナク。治平。平穩。[illegible]兵文、六[illegible]「天皇ガ御世ノ[illegible]ハ、[illegible]シテ[illegible]ゾナハサムト、思ホス[illegible]ニ、別レ行ケリ」[illegible]、[illegible]「[illegible]宮ノ[illegible]世ヲ、たひらかニオハシマサネトオボシツツ」「[illegible]治マル[illegible]」

たひら-がひ (名) 玉珧 介ノ名。たひらぎ(玉珧)ノ條ヲ見ヨ。

たひらぎ (名) 玟 一平ギノ義一和睦。和解。ナカナホリ。[illegible]

「[illegible]」

たひら-ぎ (名) 玉珧 江瑤 〔平介ノ約ニテ、殻ヲモテ云フト云フ〕介ノ名。海ニ産ズ、形、ござがひニ似テ大キク、長サ一尺餘、一頭ハ尖リ、一頭ハ漸ク闊クシテ、幅五六寸アリ、殻薄クシテ黒ク、肉ハ腥クシテ、食フベカラズ。訛シテ、たひらがひ。大阪ニテ、エボシガヒト云フ。其中央ニ、肉柱アリ、白ク圓ク、徑一寸許、輪切ニスレバ、形、團扇ノ如シ。故ニ、東京ニテ、だんせんト云フ、炙リ、又、煮テ食フ、味美ナリ。別ニ、柱アリ、小サシ、江瑤柱[illegible]「[illegible]、タイラギ」[illegible]「[illegible]、[illegible]」チラト見初メシ蟹貝ニ、一筆書イテ遣リたひらぎ」

たひら・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) 平 一たひら(平)ノ活用、うすらぐ、やはらぐナド同趣一 タヒラカニナル。治マル。亡ブ。名義抄「戡、タヒラグ」天治字鏡、五[illegible]「壞、太比良久」「亂平ぐ」「賊平ぐ」

たひら・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) 平 不服者ヲ討チ治ム。[illegible]ノ亂ナドヲ討チ鎭ム。[illegible]治ス。平定ス。討滅ス。萬葉集、[illegible]「[illegible]マクハ、アヤニ[illegible]」[illegible]シ姫、神ノミコト、カラ國ヲ、ムケ多比良宜テ、ミ心ヲ、シヅメ[illegible]フト」[illegible]、[illegible]、天ドナ[illegible]タマヒ、[illegible]、[illegible]ミタマヒ[illegible]

たひら-け・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 平 靜ナリ。オダヤカナリ。字鏡[illegible]「平[illegible]、[illegible]」[illegible]吾ガ來ルマデニ、多比良氣久、親ハイマサネ、ツツミナク、妻ハ待タセト」春日祭祝詞「[illegible]久、安ラケク[illegible]」

だひら・げる (動) 平 たひらぐ(平)ノ[illegible]「[illegible]、[illegible]、下女ノ[illegible]」

たびらこ (名) 田平子 [illegible]、[illegible]草」ノ一名、正月ノ七草ノ時ノ稱ナリ、[illegible]トケノザ[illegible]ノたびらこ、佛ノ座、五行リセトノ、[illegible]カヘシア」

たびらこ (名) 鰤 鯽ニ似テ、脊黒ク、腹白ク、[illegible]、[illegible]、[illegible]三寸、[illegible]、[illegible]。[illegible]名、たなご。[illegible]

たひら-み (副) 平 [illegible]

たびらひろ (名) 平廣 [illegible]名[illegible]、[illegible]シテ、だんびら物ト云ノ。[illegible]

たびろか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [illegible]メクヤウニスル。[illegible]

たびゐ (名) [illegible]

たふ (名) [illegible]

ナルモノニテ、蚊屋ナドニ作ル) 加茂保憲女集「窓ニアハヌ鳥ハ、窓ヲヨキたふトオモヘリ」

たふ (名) 答 〔答ニ同ジ〕(一)コタヘ。(二)[illegible]。源、四十八、蛍生「下リテたふノ舞シタマフ」(三)返報。仕返シ。枕草子、十、百三十三段「我ハト思ヒテ、シタリ顔ナル人、謀リ得タル、云云、コレガたふハ、必ズセムズラムト、常ニ心ヅカヒセラルルモヲカシキニ」 宇治拾遺、十二、廿一條「悲シキ目ヲ見セシカバ、ソノ答ニ炙リ殺サムズルゾトテ、火ヲ山ノ如ク焼キケレバ」「答ノ矢」

たふ (名) 榻榻 コシカケ。ネダイ。 焦仲卿妻詩「移我琉璃榻、出置前窓下」

タフ (名) 塔 〔卒塔婆ノ略ナル塔婆ノ略〕 佛殿ニ添ヘテ建ツル家。多クハ、狭ク高ク、地、水、火、風、空ノ五層ニ作ル。五重の塔ト云フ。又、三重、十三重ナドモアリ。(卒塔婆ノ條、見合ハスベシ)アララギ。浮圖。 萬葉集、十六、廿九「香塗レル、塔ニナヨリソ、川隈ノ、クソ鮒ハメル、イタキメヤツコ」 [illegible]「昔物語ニ、塔コボチタル人モアリケレ」

たふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(自動、下二) 堪任 耐勝 當リ得。撓マズ支フ。コラフ。忍ブ。 名義抄「耐、タフ、堪、タヘナリ」 源、三十四、下、若菜、下「命モたふマジク、身ヲクダキテ、思シ惑フラシ」 古今集、序「多ク家家ニツモレル言ノ葉ハ、五ツノ車ニ載ストモたふマジ」 續紀、八年正月「起臥ニ床、辭沈痾痛、不能自勝」 萬葉集、十二、廿長歌「長息シ、嘆ニ不勝者、後リ居テ、吾ガ戀フル君」 千載集、十三、戀、三「思ヒ侘ビ、サテモ命ハ、アルモノヲ、ウキニたヘヌハ、涙ナリケリ」「著ニたふ」「寒サニたふ」「見ルニたへズ」

たふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(自動、下二) 勝 〔前條ノ語ノ轉〕 勝ルル。堪能ナリ。(其事ニ堪フル時ハ、其事ニ勝ルニ至ル)言語ニ絶ス。 名義抄「勝、タフ」 宇津保物語、祭使、十一「たヘタル事ナキ人ダニ、身ノ沈ムヲバ、憂シトスルコト、コトワリナリ」

たふ・フ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 遮斷 遮 塞フ。サフ。サヘギル。支ヘ止ム。 垂仁紀、二年二月「新羅人、遮之於道而奪焉」 雄略紀、十三年八月「[illegible]、遮以奪取」 武烈即位前紀「大伴連、將數千兵、遮之於路、戮鮪臣於乃樂山」 繼體紀、廿一年六月「新羅知是、密行貨賂于磐井所、而勸防遏毛野臣軍」 [illegible]「[illegible]遮於船路、機檻」 天武紀、上、元年五月「命菟道守橋者、遮皇大弟宮舍人運私粮事」

たぶ (名) 髻 (たわノ轉) たぼ(髱)ニ同ジ。 [illegible]「都ニテハつとト云ヘド、東國ニテハたぶト云ヘリ」

たぶ (名) やぶにくけい(天竺桂)ノ一名。 和漢三才圖會、八十二、香木類「樟、俗云太布」

たぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(自動、四) 賜給 (一)君、親、又、貴マウケスル人ヨリ賜ハルニ就キテ、崇メ云フ語。音便ニ、たうぶ。 雄略紀、九年二月「香賜(人名)此云舸拖夫」 萬葉集、十八、三十七「針袋、コレハ多婆利ヌ、スリ袋、今ハ得テシガ、翁サビセム」 (二)飲ミ食フノ敬語。 催馬樂、酒飲「酒ヲ太宇戸テ、太戸醉ウテ」 (三)敬語ノ助辭トナリテ、たまふノ意。 萬葉集、二十、五十「吾聞シ、耳ニヨク似バ、アシカビノ、足ナヘグ吾ガ夫、自愛メ多扶ベシ」 同、十六、三十長歌「陶人ノ、作レル瓶ヲ、今日往テ、明日取リ持チキ、ワガ目ラニ、鹽ヌリたベト、マウサモマウサモ」 土佐日記、二月五日「御舟ヨリ、仰セたぶナリ、朝北ノ、出デ來ヌ先ニ、綱手早引ケ」 同、二月五日「幣ニハ御心ノ行カネバ、御船モ行カヌナリ、ナホウレシト思ヒたぶベキモノ奉ツリたべ、ト云フ」 同、正月十七日「斯ル歌ヲナム、神代ヨリ神モ詠ミたび」

たぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(他動、四) 賜 たまふニ同ジ。アタフ。 宇津保物語、蜻蛉院、中八三十「破子屯食イト多クアリ、云云、人人ニたぶ」 宇治拾遺、一、第三條「貢ノコブカヘシたぶゾトテ」 [illegible] 竹取物語、上「竹取ヲ呼出シテ、女ヲ我ニたベト伏シ拜ミ」 台記、康治元年、大嘗會中臣壽詞「見食ベ聞食ベ」 [illegible] 竹取物語、下「此女、若シ奉リタルモノナラバ、翁ニカウブリヲ、ナドカ、たばセザラム」 宇津保物語、藏開、上四「宮シテ奉リツルカハラケモたばムトテ」 同、藏開、上四十八「制シテたばネバ、マタコソ食ベ醉ハネ」 月詣集、九「友ダチニ馬ヲたばムト申シタリケルヲ」「只ノ舍人ノ馬副ニハ二匹たばス」

たぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(他動、四) 食 (賜ぶノ轉) 食フ。飲ム。 宇津保物語、忠社、二十二「物モエたばデ痩レ臥シ」 宇治拾遺、七、第四條「大柑子ヲ、コレ、喉乾クラム、たベテ、云云、取ラセタリケレバ」

たぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ(他動、下二) 食 前條ノ語ニ同ジ。 夫木抄、十一、秋「人人アマタ、マウデ來テ、酒ナドたぶるツイデニ」 月次祭祝詞「長ク平ケク、作食留、五ツノ穀ヲモ」 宇津保物語、藏開、上三十四「カノ、ヒルクサキ御サカナコソ、たベマホシケレ」 狹衣、二、下五十七「鳥ノ聲モ聞エヌ木ノ空洞ナドニテ、苔ノムシロヲ敷キ、松ノ葉ヲたベテ」

だふ (名) 懦夫 氣ノ弱キ人。臆病者。イクヂナシ。 孟子、萬章、下篇「聞伯夷之風者、頑夫廉、懦夫有立志」

だぶ (名) 打歩 打歩ノ條ヲ見ヨ。

たふあん (名) 答案 答ノ案文。コタヘ。

たふか (名) 踏歌 古ヘ、正月、禁中ノ公事。十五日ニ男踏歌、(中古ヨリ絶ユ)十六日ニ女踏歌アリ、少年童女、年始ノ祝言ヲ歌ヒテ舞フ。其曲ノ終ニ、必ズ重ネテ萬年阿良禮(有ラレヨ、ノ意)ト唱フ。故ニ、あらればしりト云ヒ、後ニ萬歳樂トモ云ヘリ。此日、節會アリ。蹈歌。

たふか (名) 榻下 僧侶ニ宛ツル書狀ノ宛名ノ脇付。床下。玉榻下。 貞丈雜記、九、書札「出家ナドヘ遣ス狀ノ書ニ、玉床下、又、床下ナド書ク事ハ、其狀ヲ其人ノ床ノ下ヘ遣スト云フ心ナリ、云云、榻下、又、玉榻下ナドイフ榻ノ字モ、床ノ字ト同ジ心ナリ、書ヲ讀ム時、上リテ居ル臺ナリ」

たふかふ・と (副) 割符 渡ナドノ音ナル狀ニ云フ語。 [illegible]「割符割符[illegible]」注「割符、重疊也」 源氏十二段長生島臺(元祿、近松作)二「渡割符ト、橋柱ユスルガ如ク寄セケルニゾ」

たふさ (名) 踏査 實地ニ臨ミテ測量スルコト。勘量。踏勘。「實地踏査」

たぶさ (名) 腕 〔たぶしノ轉カ、或ハ云フ、手總〕ウデブシ。又、手首ニ同ジ。 遊仙窟「大腕」名義抄「腕、タフサ、ウデ」 天治字鏡、十二「捥、太不佐」 神代紀、上、廿二「以八坂瓊之五百箇御統、纏其髻及腕」 仁德紀、四十三年九月「着其尾於居腕上」 神樂歌、採物、篠「篠ノ葉ソ、太布佐ニ取リテ」 後撰集、三、春、下「折リ取レバ、たぶさニ汚ル、タテナガラ、三世ノ佛ニ、花タテマツル」 宇津保物語、俊蔭、六「たぶさノ血ヲサシアヤシテ」

たぶさ (名) 髻 〔古言、たきぶさノ略〕 髪ヲ頂ニ束ネタル處。又、髪ノ髻ノ曲リタル所。モトドリ。 字鏡集「髻、タブサ、モトドリ」 金槐集、戀「結ヒソメテ、馴レシたぶさノ、コムラサキ、思ハズ今ニ、アサカリキトハ」 新撰繪入柳樽、初篇「胸倉ト、たぶさヲ分ケル、兩國」

たふさい (名) 搭載 船舶ナドニ、荷物ヲ積ミ載スルコト。

たふさぎ (名) 犢鼻褌 〔股塞ノ略カト云フ〕 股引ノ短キガ如キモノ。膚ニ着テ陰部ヲ掩フ。猿股引ノ類、今モ總房ニテ、たうさぎ、(犢鼻褌ノ條ヲ見ヨ)スマシモノ。チヒサキモノ。シタモ。シタノハカマ。ハダバカマ。トクビコン。トフサギ。 倭名抄、十二、衣服類「褌、小褌

也、毛乃之太乃太不佐岐」、〔褌、下帯（ハ褌）〕字鏡抄「褌　犢鼻褌、タフサキ一字頭ニ[illegible]、太不佐支」神代紀、下「[illegible]」私記「太布佐岐」雄略紀、十三年九月「[illegible]」[illegible]萬葉集、十六[illegible]土佐日記[illegible]

褌ニテ、たふさぎバカリヲシテ」[illegible]ナリ、たふさぎバカリカケテ」[illegible]キ肌袴ナリ、又、手綱トイフモノハ、今ノ下帯トテ、とふさきト同物ニアラヌ歟、[illegible]とふさきトイフモノハ、[illegible]紀ニ、火酢芹命ノ、犢鼻褌ヲツケ給フコトアリ、[illegible]近代[illegible]説モ是ニ同ジ、道ガ口訣ニ肌袴ト注シ、此說ヲ得タリト云ベシ」

たふさ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〔褌〕〔たふさぎヲ活用ス、語新ラシケレバナリ。〕乞食ヲこぶくト云ヘル例〕褌ヲスル。下帯ヲスル。古本、袖中抄、一、ひをりの日「褐ノ尻（裾）ヲ脇ヨリ前ザマニ引キ、たふさきテ、前ニハサメリ」（ツヨク引キたふさくナリ）

たぶ・さし（名）〔髻差〕たぼさし（髱差）ニ同ジ。[illegible]「延享ノ頃ナリケリ、女子ノたぶさしト云フ物、初メテ流行リ出デ」

たぶさ・とり（名）〔手房取〕相撲ノ手ノ一。[illegible]

たふ・じ（名）〔答辭〕ヘンジ。特ニ、式場ナドニテ、述ブル返答ノ辭。答詞

たぶし（名）手ノ節。ウデブシ。萬葉集、一「[illegible]手節ノ崎ニ、今モカモ、大宮人ノ、玉藻刈ルラム」（志摩ノ答志郡ニ云フ）

たふ・しん（名）〔答信〕答ノ音信。返信。

たふ・じやう（名）〔答狀〕問狀（申狀、訴チ[illegible]）ニ對シテ、[illegible]書ニ、不審ノ廉アルトキ、奉行所、評定所ガ差出人ニ對シ發スル詰問書）ニ對スル答申書、回數ニヨリ、ソレゾレ初問狀、初答狀、二問狀、二答狀、三問狀、三答狀ナドト云フ。陳狀。（[illegible]記、九、書札部）

たふ・しよ（名）〔答書〕コタヘノカキモノ。返事ノ文書。返書。十八史略、東晉、孝宗「答書[illegible]」

たふ・じよう（名）〔搭乘〕船舶ニ乘込ムコト。搭船。乘船。

たふ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔倒〕〔たふるノ他動、潰るノ潰すノ類〕（一）立テルヲ横ニス、伏サス。ネカス。[illegible]「秋風ハ、何ノウラミニ、野山ナル、草木ヲナベテ、吹キテたふせル」（二）コロバス。コケサス。[illegible]神記、九年四月「[illegible]」（三）斬リ倒シ殺ス。[illegible]（四）人ノ家門ノ衰ヘ、滅ブルヤウニスル。クツガヘス。ホロボス。[illegible]

たふ・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（自動、[illegible]）〔搭〕[illegible]船ニ乘込ム。乘船スル。[illegible]

たぶせ（名）〔田屋〕田ヲ守ル伏屋。萬葉集、八「[illegible]」同、十六「[illegible]ニ、吾兒子ハ、ニフブニ笑ミテ、立チマセリ見ユ」注「田蘆音、多夫世反（反、一本作レ也）」

たふ・せい（名）〔[illegible]〕[illegible]、竹褡切、以レ鍼刺也」イレボクロ。イレズミ。ホリモノ。文身。刺文。[illegible]

たふ・せい（名）〔踏青〕たうせい（蹈青）ニ同ジ。（唐、段成式「蜀小將韋少卿、韋二好[illegible]」）

たふ・せん（名）〔搭船〕たふじよう（搭乘）ニ同ジ。[illegible]

たふ・たふ（副）〔滔滔〕[illegible]、又、[illegible]、たふたふ、たふたふト[illegible]リ、宇津保物語[illegible]タマフナ」同「思フ心バヘアリテナリ、たふたふニ[illegible]ふト[illegible]辭ウテ、たふと[illegible]リンゾヤ」

だぶ・だぶ（副）「[illegible]」湯、又ハ、水ナドヲ[illegible]小兒ナド[illegible]（文化、三馬）初編、上「手桶デだぶだぶヲ浴ンデ」

だぶ・だぶ（副）〔滿溢〕〔たふたふノ訛〕茶漬飯ノ、茶湯ノ、多キ、又、衣服ノ[illegible]廣キナドニ云フ語。アリアマル意。「水ガだぶだぶアル」「ズボンガだぶだぶスル」

だぶ・だぶ　[illegible]

だぶ・つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〔溢〕（一）アフフル。アリアマル。有餘。[illegible]（二）樽ノ酒[illegible]

たぶて（名）〔飛礫〕〔手打ノ轉カト云フ〕つぶて（飛礫）ノ古言。手ニツカミテ投グルコト。萬葉集、八「[illegible]多夫手ニモ、投ゲ越シツベキ、天ノ川、隔テレバカモ、アマタスベナキ」[illegible]ノフルヤウニ、東ニ投ゲカケテ」

たふ・と（副）〔滿溢〕たふたふ（滿溢）ニ同ジ。[illegible]

たふとゐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔[illegible]〕

たふと・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔貴〕〔尊〕[illegible]八[illegible]語、ふとハ、太ニテ、[illegible]太キ串ナドノ類〕[illegible]萬葉集、[illegible]

たふと・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔貴〕〔尊〕條ノ語ノ轉〕品位高ク、崇イ重ンズベシ。勝レテ價アリ。タットシ。[illegible]「タフトシ[illegible]」[illegible]

たふと・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（他動、四）〔尊〕〔貴〕[illegible]

たふと・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（他動、上二）〔尊〕前條ノ語ニ同ジ。[illegible]

たふと・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）〔尊〕〔崇〕重ンズ。敬ヒテ、大切ニ扱ノ。タットブ。タットム。[illegible]

たぶね（名）〔田舟〕田ノ中ニテ用ヰル小舟。[illegible]

たぶ・わづり（名）〔田舟[illegible]〕[illegible]田舟ノ如キ、[illegible]

[illegible]

ハ、滿豐ノ論ヲ根本ト云フ」

たふのき（トウノキ）（名）やまくす（山楠）ニ同ジ。

タフのこし（トウノコシ）（名）［塔層］こし（層）ノ條ヲ見ヨ。

タフのひさくがた（トウノヒサクガタ）（名）［火珠］（塔ノ瓢形ノ義）塔ノ頂ニスヱオクモノ。形、瓢ノ長項葫蘆ト云フモノニ似タリ。クッシュ。倭名抄、十三 佛塔具「火珠、塔乃比散久加太」名義抄「火珠、ヒサクカタ」

たふのや（トウノヤ）（名）［答矢］敵ノ射タル矢ニ對シテ、此方ヨリ射返ス矢。平家物語、九、梶原二度懸事「弓手ノ眼ヲ、云云、射附ケラレナガラ、ソノ矢ヲ拔カテ、當の矢ヲ射返シ、其敵ヲ射落シ」

タフバ（トウバ）（名）［塔婆］（一）そとば（卒塔婆）ノ條ヲ見ヨ。釋氏要覽、浮屠、梵語塔婆、此云高顯、今稱塔」盛衰記、十九、開性橋ニ八員ノ事「藥王菩薩ハ八萬ノ塔婆ヲ立テ」因果物語、上、二「幽靈夢中ニ僧ニ告ゲテ、塔婆ヲ書直ス事」（二）五輪塔ノ稱。（三）墓ノ稱。

たふはい（トウハイ）（名）［答拜］賀儀ノ時、拜スル人來リテ、先ヅ殿ニ向ヒテ、拜セムトスル時ニ、主人モ庭ニ下リテ、コレニ答ヘテ拜スルコトナルベシト云フ。（後松日記、二）此語、たふはいナレドモ、ツメテたっぱいトヨム。大臣大饗考ニ、關白殿答拜ノ事ヲ示スナドアリ。關白殿、御出アレバ、下リアヒテ互ニ拜スルコトナリ。俗ニ、をがみたっぱいスルト云フ。（安齋隨筆、十六）書紀、顯宗紀「授宗人同拜、…」曲禮、下篇「君於士、不答拜也、非其臣則答拜之、大夫於其臣、雖賤必答拜之」名目抄「答拜、タウハイ、賓客來拜之時、降還共拜スルヲ云フ也」禮正儀式「凡親王大臣及一位二位、於三五位以上答拜、於六位以下不須」源、四十八、寄生七十九「喜ビニ所所アリキタマヒテ、此宮ニモ參リタマヘリ、云云、御直衣御下襲ナドタテマツリ引キツクロヒテ、下リテ（庭ニ）たうノはいシタマフ」（主客一同ニ拜スルナリ）

たふはう（トウホウ）（名）［答砲］答禮ノ爲ニ、發射スル砲。

タフばと（トウバト）（名）［塔鳩］（鳩ノ堂塔ノ檐ナドニ棲ムヨリ云フ）又、ツチクレバト。ドバト。はと（鳩）ノ條ヲ見ヨ。鴉鷺合戰物語、文明 法勝寺の塔鳩修理亮事「我等ガ一名字、云云、つちくれ鳩ノ藤大夫、云云、生得ノ風情土チカニシテ、塊鴿ト言ハレテ」

たふぶ（トウブ）（名）［答舞］ツガヒマヒ。雅樂ノ案摩ノ舞ノ二舞ナドコレナリ。二舞ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。歌儛品目、九「番」注「左ノ舞一曲ニ、右舞一曲ヅツ奏スルヲ一番ト云ヒ、二番、三番等同ジ、コレヲ答トモ、答舞トモ云フ」

たふべん（トウベン）（名）［答辯］コタヘ。イヒとラキ。辯答。

たふほん（トウホン）（名）［搨本］石摺ニシタル書冊。拓本。徐浩、古跡記「搨本大行於世」

たぶみ（名）［田文］田畠ノ段別、山川、藪原、ナド記セル官府ノ牒。圖帳。水帳。田籍 又、全國ノ田文ヲ集メテ一冊トシタルヲ、大田文ト云フ。北條九代記、二、田文評定「將軍家ニハ、諸國ノ田文ヲ召シ出サレ、源姓ニ仰セテ勘定セシメ」

たぶん（名）［他聞］外ニ聞ユルコト。

たぶん（名）［多聞］（一）多クノ事ヲ聞キ知ルコト。多ク種種ノ説ヲキクコト。博聞。書經、說命、下篇「人求多聞、時惟建事、學于古訓、乃有獲」（二）多クノ人ニ漏レキコユルコト。太平記、一、中宮御產御祈事「事多聞ニ及ババ、武家ニ漏レ聞コユル事ヤ有ラント」

たぶん（名）［多分］數量ノ多キコト。諸經要集「我與汝多分」「多分ノ恩賞」

たぶん（副）［多分］オホカタ。オホクハ。オソラクハ。大抵 大率 多分に漏れずトハ、衆人ト同ジクナル。

だふん（名）［打扮］（正字通「今俗以裝飾爲打扮」）イデタチ。種種ニ飾ルコト。扮裝。何應龍詩「尋常打扮最相宜」

たぶやかに（副）餘ル程ニ。タップリ。盛衰記、四十五、重衡向南都被斬事「齋飯、たぶやかニ取テ、佛前ニ供ヘテ」

たぶらか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［誑］〔狂るノ他動、たハ發語、ふらかすハ、放かすノ略〕タムラカス。タブロカス。誑ルヤウニナス。字鏡集「狂、タムラカス」名義抄「誑、タブロカス、ヘツラフ、イツハル、アサムク」「誑、タブロカス、イツハル、アザムク」「謟、タブロカス、アザムク、イツハル」歟、タブロカス」源、三十五、柏木「日頃モカクナンノ給ヘド、邪氣ナドノ人ノ心たぶらかしテ、カカル方ニ進ムルヤウモ侍ル」

だぶり（感）波、水ノ動ク音ニ云フ語。

たふりやう（トウリョウ）（名）［納涼］なふりやう（納涼）ニ同ジ。字類抄「納涼、タフリャウ」

たふ・る（タオル）・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［倒］［仆］［僵］（一）（立テルモノ横ニナル。伏ス。コロブ。コケル。字鏡、八「蹶、僵也、豆万豆支天太不留」同、十九「踣、顛倒也、太夫留」靈異記、上、第十五縁、訓釋「顚沛、太不禮ヌ」同、中、第十縁「躃、地而臥、一訓 太布禮奴」源、四、夕顏「衣ノ裾ヲ物ニヒキカケテ、ヨロボヒたふれテ」（二）（死ヌ。斃 殪 倭名抄、十八 牛馬病「斃、多布流、死也」名義抄「殪、タフル」拾玉集「世ヲワタル、我ガ身ノサマハ、弱ケレド、たふれヌモノハ、我ガ身ナリケリ」（四）クツガヘル。ホロブ。平家物語、一、鹿谷事「大納言立返リテ、平氏たふれ候ヒヌト申サレケル」

たぶ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［狂］〔倒るニ通ズルカ〕心クルフ。モノグルヒニナル。キチガヒニナル。倭名抄、三十二 病類「狂、太布流」名義抄「癲、タフル、クルフ」萬葉集、十七 四十五 長歌「多夫禮タル、醜ツ翁ノ、コトダニモ、吾ニハ告ケズ」

ダブル（名）［二重］〔英語、Double〕（一）フタヘニナルコト。ヤヘニナルコト。重複。（二）庭球ノ複試合。單試合（Singles）ニ對ス。普通ニ、ダブルスト云ヒテ、複數ニ用キル。

✧✧**ダブ・る**（動）前條ノ語ヲ動詞ニ用キル。モノ、二重ニナル。重複ス。

たふれい（トウレイ）（名）［答禮］先方ノ禮ニ答ヘテ、禮スルコト。漢書、儒林傳「於是諸侯以答禮行誼」

たぶれおころ（名）［狂心］ミダレクルヒタル心。タハレゴコロ。齊明紀、二年九月「時人謗曰、狂心渠損功夫三萬餘矣」

たぶろか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［誑］たぶらかす（誑）ニ同ジ。名義抄「謟、誑、欺、タブロカス」發心集、八、第二條「人ヲたぶろかしテ作リシホトケナレバ、云云、ワガ苦患マサルナリ」

たふわ（トウワ）（名）［答和］コタフルコト。アヘシラフコト。返答。答應。長門本、平家物語、八、第七條「コレヲ知ラズシテ、ヌケヌケト取ラレテ、たふわヲセラレタルコソ安カラネ」

たへ（タエ）（名）［栲］〔堪ニテ、切レズノ義カ、又、妙ナル意カ〕字ハ本草云「栲實、一名、然則栲實」説文解字「紵字或从糸省作紵、作栲亦應作紵、又省從木作栲也」トアリ、緒紵ノ旁ヲ省キ、合シテ木

偏トシタルモノ」(一)又、たく。穀ノ木ノ絲(祭ニ用キルトキハ木綿ト云フモノ)ヲ以テ織リ成セル布。(甲信邊ニテ穀皮ニテ織レル布ト云フ)白栲、和栲、栲の袴ナド云ヒテ、色白ケレバ、常ニ白キ意ノ語ニ代ヘ用キル。 雄略即位前紀「臣ノ子ハ、多倍ノ袴ヲ、七重著シ」萬葉集、一廿九長歌「サヤカニ見レバ、栲ノ穗ニ、夜ノ霜フリ」同、二十四長歌「イカサマニ、念ヲリテカ、栲綱ノ、長キ命ヲ」同、一十三長歌「栲角ノ、新羅國ユ、人事ヲ、ヨシトキカシテ、問ヒサクル」同、七廿「白栲ニ、ニホフ信土ノ、山川ニ、ワガ馬ナヅム、家コフラシモ」同、七二「ヲトメラガ、オル機ノ上ヲ、眞栲モテ、カカゲ栲島、波間ヨリミユ」(二)布帛ノ總稱。後ニ絹布ヲ和たへト云ヒ、麻布ヲ荒たへト云ヘリ。 太神宮式「麻績氏造二荒妙衣一服部氏造二和妙衣一」新年祭祝詞「御服ハ、云云、和妙、荒妙ニ」

たへ (名) [妙] 微妙ナルコト。アヤシク勝レタルコト。 名義抄「妙、タヘナリ」古今集、序「山部赤人トイフ人アリケリ、歌ニアヤシクたへナリケリ」

た・へ (動) [堪] たふ(堪)ノ條ヲ見ヨ。

~たべ (名) [田部] 屯倉ニ屬シテ官田ヲ佃ルモノ。上古、國毎ニ公田ヲ置キ、民ヲ役シテ佃ラシメ、其稻ハ屯倉ニ納メ、別ニ衣糧ヲ給ス。其部曲ヲ田部ト云フ、諸國ノ地名ニ田部トアルハ、皆コレナリ。 安閑紀、元年十月「以二小墾田屯倉與二毎レ國田部一給二妃紗手媛一」倭名抄、八、長門國、豐浦郡「田部、多倍」 景行紀、五十七年十月「令二諸國一興二田部屯倉一」

~たへ・おも・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [堪籠] 堪へ忍ビテ、籠リ居ル。 源、五十一、浮舟「斯ル山里ニ、今ハト思ヒたへおもるハ難キ事ナリ」

~たへ・に (副) [妙] 〔感ニ堪ヘノ義カト云

フ」愛デ、美ムベク。感ズベク、勝レテ。 源、三十四、上、若菜、上「萬ノ物ノ音、調ヘヲ、たへニ面白ク、アヤシキマデヒビク」

たへ・のほ (名) [栲穗] 白キヲ云フ。たへ(栲)ノ出典、萬葉集、一ノ例ヲ見ヨ。

た・べん (名) [多辯] 多ク物言フコト。クチマメ。オシャベリ。多言。饒舌。 史記、淳于髠傳「滑稽多辯、數使二諸侯一未二嘗屈辱一」

だ・べん (名) [駄辯] 無駄ナル辯舌。役ニモタタヌ辯口。贅言。贅辯。

たべ・もの (名) [食物] クヒモノ。ショクモツ。 拾遺集、十六、雑、春「松ヲ簀ニテ、たべ物ヲ出シテ侍リケルニ」

た・へる (動) [堪] 堪ふノ口語。

た。べる (動) [食] 食ぶノ口語。

たべろ (名) [食事] 「食ゐノ訛」食事ノ物、即チ辨當ヲ云フ。「横濱外人ノ語」

~たべ・ゑ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [給醉] 酒ヲ飲ミ醉フ。 催馬樂、酒飲「酒ヲタウベテ、たべゑうテ」 宇津保物語、藏開、下「一日アサマシクたべゑひテ、對面タマハリケルヲ」

たぼ (名) [髱] 〔たわノ轉カ〕(一)又、たぶ。髮ヲ結ヒテ、頂ト頸髮トノ間ニ、髮ヲ撓メテ張出スモノ。畿内以西ニ、つと。又、たぼ。 俚言集覽、たぼ「下髮。女ノ髮ノ、後ヘマドカニ、サシ出タル所ヲ云フ」 (二)婦人。女ノ稱。 東海道中膝栗毛、[illegible]、「[illegible]中「イイたぼデモアッタラ、此ノ息子ヲダシ抜クメエヨ」「[illegible]ハたぼニ限ル」

だ・ほ (名) [拿捕] 捕メ取ルコト。捕フルコト。捕獲。 拿獲ノ條ヲモ見ヨ。

だ・ほ (名) [出帆] 出帆ノ[illegible]。

たほう (名) [多寶] たほうにょらい(多寶

如來)ノ略。 法華經、見寶塔品[illegible]

たほう・タフ (名) [多寶塔] 多寶如來ノ舍利塔。釋迦如來、靈鷲山[illegible]ヲ說キシ時、其下ニ[illegible]塔、地下ヨリ涌出シ、空中ニ住ス、塔中[illegible]リテ、釋迦ノ說法ヲ證明シ讚嘆セリト。(下ノ出典ヲ見ヨ)又、コレニ擬シテ作リタル塔。[illegible] 迦、多寶、座ヲワケテナラバセ給ヘル程」

[illegible]

たほうにょらい (名) [多寶如來] [illegible] Prabhūtaratna. ノ[illegible] 東方ノ寶淨國ニ住ス[illegible] 覺エテ」

[illegible] 世尊如二所說一者、皆是眞實」 [illegible] 頭文「心中發願之後、新結二構多寶塔一基二」

だ・ぼく (名) [打撲] 打ツコト。[illegible] ト。又、ウチ[illegible]。

だぼく・しょう (名) [打撲傷] [illegible]

たぼ・さし (名) [髱差] 女ノ髮結フニ、髱ノ内ニ入レテ、髱出サ[illegible] 具。文化ノ初ヨリ、針金ニテ[illegible]ノトキ

ニ用キル面ノ如ク作リ、紙ヲ捲キテ、漆塗ニシタルモアリ、又、撞木ノ如クニシ、頭ノ兩端尖リテ内ニ反リ、尾モ少シ反ルモアリ、髱ニサシテ結ヘ[illegible] [illegible]トハ[illegible] [illegible]リ。ツトハ[illegible] [illegible]

[illegible]

たほ・どめ (名) [髱留] 髱ノ毛ヲ散リヌタメニ、挾ミ留ク具。金屬、鼈甲、護謨等ニテ叉狀ニ造ル。(小片割箸ノ如シ

たほ・はせ [illegible]

[illegible]

~たほめか・す [illegible] ソムヤウニスル。又、ソソメカス[illegible] [illegible]モ、たほめかしコボメクコソ[illegible]クレ」

たほら (名) [illegible]

たま (名) [illegible]

[illegible]

生靈ナド云フ、是レナリ。故ニ鎮魂ヲ行フ。又、魂ノアクガレ出ヅルコトアリト、タマシヒ　徒然草、十九段「亡キ人ノ來ル夜トテ、たま祭ルワザハ、此頃、都ニハ無キヲ」

たま (名) 玉 (妙圓ノ略カト云フ) (一)玉、瑪瑙、ナド、石類ノ美シキモノノ總名。多クハ圓ク彫琢シテ飾トスルニ云フ。禮記、學記篇「玉不レ琢不レ成レ器」 (二)〔眞珠〕珠。萬葉集、十三「吾ガ欲リシ、野島ハ見セツ、底フカキ、阿胡根ノ浦ノ、珠ゾ拾ハヌ」 (三)〔轉ジテ、スベテ物事ヲ美メテ云フ語〕 源、一、桐壺「玉ノヲノコ御子サヘ生レタマヒヌ」「玉ノ臺」「玉垣」「玉裳」「玉床」 (四)又、轉ジテ、スベテ圓キ體ヲ成セルモノノ總稱。珠。丸。 (五)銅鐵製ノ圓キモノ、鐵砲ノ中ニ込メテ放ツ。彈丸　銃丸 (六)タクラミ、又ハ、計畫ノたね。 [illegible] (七)[illegible]ナルホド[illegible]、如何樣トモナル馬鹿殿ノ千太郎樣、玉ニ遣フハ、アッパレ御思案」「カヘ玉」 七タマゴ。 (八)蒟蒻ノ女房詞。 [illegible]六、[illegible]「たまトハこんにゃくノ事、云云、享保六年九月二十七日、法皇、林丘寺ヘ御幸ノ記ニ見エタリ」 (九)眼鏡ノ玉。レンズ。 萬載狂歌集、秋、月影ヲ、ウツス眼鏡ノ、たま兎、額ノ波ニ、カケテコソ見レ」

だま (名) 凧ノ絲ヲヤルコト。(小兒ノ語)

たま-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 魂合 氣ガ合フ。心ト心ト合フ。 萬葉集、十二 廿七「魂あへバ、相寐ムモノヲ、小山田ノ、鹿猪田守ルゴト、母シ守ラスモ」

たま-あられ (名) 玉霰 (一)アラレヲ美メテ云フ語。 [illegible]「[illegible]ケサヤ、[illegible]ニマシル、玉あられ」 (二)霰ノ形ニ拵ヘタル菓子。

たまう・ける (動) 正シクハ、給ひける。 落窪物語、二「着ル人ノ、變ハラヌ身ニハ、唐衣、タチハナレニシ、時ゾ忘レヌ、ト言ハレたまうける」

たまえ-あし (名) 玉江葦 蘆ノ異名。 [illegible]、八、[illegible]「玉江の蘆、たま枝也、江ニアラズ、但、寄レ江多詠ト、云云」

たまか (名) 旦暮勘 (一)始末ノヨキコト。 新水代藏(正徳)二五「カヤウニ手廣ク商ヲスル事、皆一心ノたまかサヲ、天知リ地知リ、人知ラズト云フコトナシ」 (二)マメヤカナルコト。 生玉心中(正徳、近松作)上「心モたまかニ育テ上ゲ」

たまか (副) 偶 たまさか(偶)ノ略。

たまがき (名) 玉垣 (靈垣ノ義) (一)〔神ノ御靈ノ鎮マリタマフ杜、即チ神籬。瑞籬。神籬。〕 古事記、下(雄略)三十「御諸ニ、齋クヤ玉加岐、齋キアマシ」 (二)後世、神社ノ前ニ木材ニテ作リ、赤ク塗リタルヲ、朱の玉垣ナド云フ。 (三)〔皇居、神社ノ垣ヲ稱ヘテ云フ語。〕ミヅガキ。 古事記、中(垂仁)三十「坐ニ師木玉垣宮ニ」

たまかぎる (枕) 玉蜻蛉 〔玉ハ頭、かぎるハ蜻蛉ノ略轉、今俗ニ、やんまト云ウテ、頭ノ大ナルモノヲ云フ〕 ほのか、はるか、ノ枕詞、(蜻蛉ノヒラメキ飛ブ狀ニ寄セテ云フカト云フ) 萬葉集、八 四十「玉蜻蛉、髣髴ニ見エテ、別去者、モトナヤ戀ム、アフトキマデハ」 同、十一 五「朝影ニ、吾ガ身ハナリヌ、玉垣入、ホノカニ見エテ、往ニシ子故ニ」 靈異記、上、第二縁「多萬可岐留、逢ニ見エテ、往ニシ子故ニ」

たまがしは (名) (たまハ、圓キ意カ、かしはハ、堅磐ノ略ト云フ) 石ノ稱。 千載集、十一、戀、一「難波江ノ、藻ニ埋ルル、たまがしは、アラハレテダニ、人ヲ戀ヒバヤ」 夫木抄、廿二、石「知ラセバヤ、思ヒ入江ノ、たまがしは、舟サス棹ノ、下ニコタヘテ」

たまがしは (名) 玉柏 (一)〔槲ヲ美メテ云フ語。〕 催馬樂、美濃山「ミノ山ニ、シジニ生ヒタル、たまがしは、豐ノ明リニ、會フガ樂シサヤ、會フガ樂シサヤ」 (二)萬年草ノ一名。(漢名、玉柏ヲ、文字讀ニシタル語)

だまか・す (動) 騙 だますノ(二)ニ同ジ。

たまかつま (枕) 玉勝間 〔玉ハ美稱、勝間(竹籠)ニ身ト蓋トアルヨリ云フト〕 合ふ、ニ掛カル枕詞。 萬葉集、十二 四十「玉勝間、相登云者、誰ナルカ、アヘル時サヘ、オモカクシスル」 同、十二 四十「玉勝間、安倍島山ノ、夕露ニ、旅宿エセメヤ、長キコノ夜ヲ」(蓋ノ合フト、又、島ニカカル、籠ノ目ノ締リタルニ)

たまかつら (名) 玉桂 (一)月中ニアリト云フ桂ノ樹。 (二)月ノ異名。 菅家萬葉集、下「戀ヒ侘ビヌ、カゲヲダニ見ジ、玉桂、コトハ根サヘニ、掘リテステテム」 同卷「後ツヒニ、イカニセヨトカ、玉桂、戀スル宿ニ、生ヒマサルラム」

たまかづら (名) 玉縵 玉鬘 (一)古ヘ、玉ヲ緒ニ貫キテ、頭ニ懸ケ垂レテ飾トセシモノ。 安康紀、元年二月「捧ニ私齋名押木珠縵、附ニ所使臣根使主、而敢奉レ獻」 萬葉集、二 廿四「人ハヨシ、思ヒヤムトモ、玉縵、影ニ見エツツ、忘ラレヌカモ」 (二)鬘。カモジ。 (三)華鬘。

たまかづら (名) 玉葛 玉蔓 〔實アレバ玉ト云フ〕 (一)葛ニ同ジ。 伊勢物語、三十六段「谷狹ミ、峯マデ延ヘル、たまかづら、絶エムト人ヲ、ワガ思ハナクニ」 (二)蔓草。蔓、地ニ布キ、葉ハ、忍冬ニ似テ厚ク、春、青綠ノ小花ヲ開ク、愛スベシ。 和漢三才圖會、九十六、蔓草類「玉蔓」

たまかづら (枕) 玉蔓 懸く、ト云フ語ノ枕詞 萬葉集、十二 廿七「玉蔓、懸ケヌ時ナク、戀フレドモ、如何ニゾ妹ニ、逢フ時モ無キ」

たまかづら (枕) 玉葛 (玉ハ美稱) 絶ゆ、絶えぬ、長し、匍ふ、ナドニ用キル枕詞。 萬葉集、三 廿九 長歌「玉葛、絶ユルコトナク、アリツツモ」 同、十三 廿二「玉葛、絶エヌモノカラ、サ寐ラクハ、年ノ度リニ、直一夜ノミ」 同、三 五十 長歌「玉葛、彌遠長ク、祖ノ名モ、續ギユクモノト」 同、十 [illegible]「谷セバミ、峯邊ニハヘル玉葛、延ヘテシアラバ、年ニ來ズトモ」 同、二 三十「玉葛、實ナラヌ樹ニハ、千早振ル、神ゾ著クチフ、ナラヌ樹ゴトニ」 後撰集、十四、戀、六「クルコトハ、常ナラズトモ、たまかづら、頼ミハ絶エジト、思ボユル哉」

たまかま (副) 〔手全マノ義ト云フ〕 (一)貞實ニ。小心 (二)ツヅマヤカニ。儉約ニ。儉

たまがひ (名) 珠貝 あこやがひ(阿古屋貝)ニ同ジ。

たまき (名) 手纏 (一)上代ノ服裝、玉、又ハ、鈴ヲ緒ニ貫キテ、筒袖ノ上、肘ノ邊ニ卷キタリ、足結ノ如ク、袖ヲ結ヒ固ムル用ナルベシ。クシロ。タダマ。ヒヂマキ。ヒヂダマ。タユヒ。 名義抄「釧、タマキ、ヒヂマキ」 字鏡 六十「釧、太萬支」 華嚴經私記音義「釧、手卷」 古事記、上 廿四「次於レ投棄左御手之手纏ニ所レ成神名、與味神」 同、中(垂仁)三十六「[illegible]、玉纏、三[illegible]手」 仁德紀、五十五年「有二從者一取二得田道之手纏一、[illegible]葉乃抱二手纏一而縊死」 (二)後ニ、專ラ、射藝ノ具ニ云フ。又、小手。即チ、今ノ弓籠手。射韝。 倭名抄、四 十六 射藝具「射韝、多末歧、一云、小手也」 三代實錄、十七、貞觀十二年正月十三日「壹岐島胄弁手纏、各二百具」

たまき (名) 環 鐶 〔手卷ノ義〕 輪ノ如ク孔アル玉。古ヘ、指ナドニ着ケテ飾トセシガ如シ。環。今ノゆびわ。 倭名抄、十四 翫具「鐶、[illegible]也、環、玉[illegible]也」 名義抄「環、タマキ、ユビマキ」 [illegible]記、上、第五[illegible]「[illegible]徒木子、云云、比丘、捧ゲ玉環ニ之」 四季物語、正月「小車ノトドマルコトナク、たまきノ端無キ例シ」

たまぎちやう (名) 玉毬打 〔玉ハ美稱、毬打ハ毬杖(其條ヲ見ヨ)ニ同ジ〕 正

月ノ遊戲トシテ、兒童ノ弄ビタルモノ。催馬樂の上(山階元讃)ニ「[illegible]島ノ、浦リワラベノ、玉總打、ブリブリ振リシ、佐保姫ニ、云云、遊事ヤアルト松ノ内」

〜**たまぎぬ** (名) [珠衣] 玉ニテ飾レル衣。美麗ナル衣服。萬葉集、四「珠衣ノ、サヰサヰシヅミ、家ノ妹ニ、モノ言ハズキテ、思ヒカネツモ」夫木抄、九、雪「白妙ノ、露ノたまぎぬ、ウヘニキテ、カラナデシコノ、花ヤネヌラム」

〜**たまきはる** (枕) [靈尅] 〔魂來經ルノ轉ト云フ。魂極ル義ニテ、生ルルヨリ死ヌルマデノ内〕内、命、世ナド云フ語ノ枕詞。萬葉集、一「玉尅春、内ノ大野ニ、馬數(ナメ)テ、朝フマスラム、ソノ草深野」同、五「[illegible]靈尅、内限(ウチノカギリ)ハ、平氣久、安久モアラムヲ、事モ無ク[illegible]」同、四「[illegible]直ニ逢ヒテ、見テバノミコソ、靈尅、命ニ向フ、吾ガ戀止マメ」同、五「靈尅、伊乃知多延奴禮、立乎許利」同、十一「[illegible]年 [illegible] 切、世マデ定メテ、恃メタル、君ニヨリテシ、言ノ繁ケク」同、十七「[illegible]長歌「多末伎波流、幾代經ニケム、立チテ居テ」

たまきりう (名) [玉置流] 書法ノ一流。御家流ヨリ分レ、玉置半助ヲ祖トス。

たまぎ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [魂消] 驚ク。肝ヲ潰ス。ビックリスル。タマゲル。[illegible] 平家物語、四、[illegible]「[illegible]河院[illegible]在位ノ[illegible]時、主上シカノ如クナビエたまぎらせ給ヒケリ」[illegible]記、十六、三位[illegible]「[illegible]森ヨリ、[illegible]起リ、[illegible]ノ上ニ[illegible]ヒ、ヌエト云フ鳥ノ[illegible]ヲ鳴ク時ニ、必ズ[illegible]ヒたまぎらせ給ヒケリ」

たまぐし (名) [玉串][玉籤] 〔手向串(タムケグシ)ノ約〕(一)榊ノ枝ニ木綿ヲ付ケタルモノ。後ニハ紙ヲツク。神ニ奉ツル[illegible]。[illegible]太玉串(フトタマグシ)[illegible]云フ。[illegible]

「オノヅカラ、猶木綿懸ケテ、神山ノ、玉串ノ葉ニ、ヰルル白雪」[illegible]

〜**たまくしげ** (名) [玉櫛笥] 櫛笥ヲ美メテ云フ語。夫木抄、三十二、櫛「少女等ガ、玉櫛笥ル、[illegible]ノ、メヅラシゲナク、妹ニ逢ハズアレバ」

〜**たまくしげ** (枕) [玉櫛笥] 〔玉ハ美稱〕明ク、身、蓋(フタ)、ナドノ枕詞。萬葉集、十二「戀ヒツツモ、今日ハアラメド、玉匣(タマクシゲ)、明ケナムアスヲ、イカデ暮サム」古今集、十三、戀、三「たまくしげ、明ケバ君ガ名、立チヌベミ、夜深クコシヲ、人見ケンカモ」萬葉集、二「[illegible]ノ山ノ、[illegible]サ寢ズハ遂ニ、有リガテマシモ」[illegible]「明ナガラ、年フル事ハ、玉くしげ、身ノイタヅラニ、ナレバナリケリ」萬葉集、十七「[illegible]バタマノ、夜ハフケヌラシ、多末久之氣、二上山ニ、月傾キヌ」古今集、九、[illegible]「タヅク夜、[illegible]、二見ノ浦ハ、明ケテコソ見メ」

〜**たまくしろ** (枕) [玉釧] 〔釧ハ、臂、又ハ、手ニ卷クモノ〕卷くニ掛ケル枕詞。萬葉集、十二「玉釧(タマクシロ)、卷キヌルイモモ、アラバコソ、夜ノナガケキモ、ウレシカルベキ」同、九「[illegible]手ニ纏キモテ[illegible]」同、十[illegible]「[illegible]、月モヘズ、置キテヤ越エム、コノ山ノ岫」(以上、三首、共ニ、古[illegible]ニヨル)

たまぐすり (名) [彈藥] 彈丸ヲ發射スルニ用ヰル火藥。[illegible]

〜**たまくせ** (名) [玉久世] 〔玉ハ美稱〕くせ(曲瀨)ノ條ヲ見ヨ。

〜**たまくら** (名) [手枕] 腕(カヒナ)ヲ枕トスルコト。テマクラ。萬葉集、六「[illegible]」[illegible]

⁂**だまくらか・す** (動) だます(欺)ノ條ノ(二)ニ同ジ。眩惑。

〜**たまけ** (名) [玉笥] 笥ヲ美メテ云フ語。[illegible]ハ、飯サヘ盛リ、玉盌ニ、水サヘ盛リ」

⁂**たま・げる**・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (自動、下二) [魂消] 〔たまぎるノ約〕驚ク。肝ヲ潰ス。ビックリスル。[illegible]二十「[illegible]ユヲ約メタルナリ(きゆノ切ヨ、けナリ)古歌ニ、[illegible]ヲゆきげト云ヒ、[illegible]上ニト詠メル類ナリ」心中宵庚申(享保、近松作)上「先お獻立ヲ一見ト、長長ト書キツケタル、生バ[illegible]サシ、大キニたまげ、コリャナンヂャ」

たまご (名) [玉子] (一)古名、カヒコ。鳥ノ卵ハ、生ミテ後、[illegible]ヒテ孵ス。[illegible]多クハ、橢圓形ニシテ、内ニ水ノ如キ凝液アリテ、黄ニシテ玉ノ如キ濃液ヲ包ム[illegible]。[illegible]きみ(蛋黄)ト云フ。卵 魚モ、亦、昔卵ニテ産ミ、蟲類ニモ、卵ニテ産ムモノ多シ。[illegible]「卵生」(二)專ラ、鷄ノ卵。鷄卵(ケイラン)。「玉子色」(三)物事ノ起コリはじめ、又ハ、たね。[illegible]

たまごいろ (名) [玉子色] (一)鷄卵ノ殼ノ色。[illegible]。(二)[illegible]鳥子紙ノ色ナド[illegible]卵ノ蛋黄(キミ)ノ如キ色、卽チ、黄。ウスキイロ。卵黄色。淡黄色。黄 好色一代男(天和、西鶴)五「卵色ノ縮緬ニ、思ヒ入レノ數[illegible]」

たまござけ (名) [玉子酒] 酒ニ、鷄卵ノ[illegible]非情(寶永、近松作)上「カハイヤ[illegible]ガ、ドウゾ[illegible]ノ首尾ナッテ、玉子酒飲ム樣ニ仕度イ事ヂャ」

たまごすし (名) [illegible]

たまごとぢ (名) [玉子綴] 料理ニ、汁物ノ上ニ、鷄卵ノ液ヲ注ギテ、煮タルモノ。

たまごなり (名) [玉子形] 卵ノ如キ形、[illegible]

たまごやき (名) [玉子燒] 鷄卵ノ液ニ、砂糖、醬油ナド加ヘテ攪キマゼ、油ヲ延キタル玉子燒鍋ニテ、炙リ燒キタルモノ。

たまごゆ (名) [玉子湯] 鷄卵ヲ[illegible]糖ヲ加ヘ、熱湯ヲ注ギテ攪キマゼタルモノ。

たまさかどり (名) [illegible] (時鳥)ノ異名。

〜**たまさかみ** (副) [illegible] そかみノ轉、おろそかみ、おほそかみノ[illegible] 偶ニ同ジ。稀ニ。[illegible]

〜**たまざさ** (名) [玉篠] [illegible]

たまざん (名) [珠算] ソロバンニテ行フ算用。

だまされた-ふう (名) [騙風] 男ノ髮風ノ一。 賤の苧環、享和、森山孝盛ニ「又だまされた風トテ、町家ノ若者ナトハ、髮口ヲ甚高ク剃下ケ、夫ヨリ段段、後口高ニタテ、髮ヲ結ヒタリ、是ヲだまされたふうト云ヘリ」

だまし-うち (名) [騙討] 人ヲ欺キ誘ヒ、不意ヲ狙ヒテ、殺スコト。 鎌田兵衞名所盃(元祿、近松作)名所屛風四季「鎌田ホドノ武士ニ、ナド詰メカケテ腹ヲモ切ラセズ、騙し討ちハ何事ゾ」

たま-しき (名) [玉敷] 玉ヲ敷キタル如ク、美シキコト。又、ソノ所。 夫木抄、三十、故宮「アレニケル、高津ノ宮ノ、アサヂハラ、ナホたましきノ、ムラサメノ音」

たま-し・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [玉敷] 玉ヲ敷キタル如ク美シキナリ。 夫木抄、三十、禁中「萬代ニ、たましく庭ノ、松ノカゲ、春ノ日影モ、ノドカニゾサス」

たま-しづめ (名) [鎭魂] 次條ノ語ノ略。 竹亭の句「此日降ル、雪モ靜ケシ、たましづめ」

たましづめ-の-まつり (名) [鎭魂祭] ミタマシヅメ。ミタマフリ。オホムタママツリ。チンコンサイ。現在ニアリナガラ、天皇ノ御魂ノアクガレ行カムコトヲ恐レテ、招キテ身體ニ鎭メ留ムル齋事。方今、十一月中ノ寅ノ日ノ申ノ時ニ、宮內省ニテ行ハル。コレ兩陛下ヲ初奉リ、皇太子、及、妃殿下ノ御魂ヲ鎭メ、御壽命ノ長久ヲ禱ラセタマフ御祭儀。 職員令義解、神祇官「中冬寅日鎭魂祭」註「招ニ離遊之運魂ー、鎭ニ身體之中府ー」 臨時祭式「鎭魂祭」 天武紀、下、十四年十一月丙寅(廿四日)「是日爲ニ天皇ー招ㇾ魂之」

たま-しひ (名) [魂靈] (魂し靈ノ義ニテ、たまハ美稱、しハ氣息、びハ奇ノ意) (一)又、たま。動物ノ身ニ生得ニ宿レル知感ニテ、心ノハタラキヲ主ル力ト稱セラルルモノ。心ノアルジ。時トシテ身ヲ離ルト云ヒ、人死スレバ、身ハ地ニ歸シ、魂ハ天ニ歸ス、ナド云ヘリ。コレ、心トノ差ナリ。精靈。精魂。 倭名抄(一本)、二、識別類「魂神、多末之比」 名義抄「魄、タマシヒ、精靈、タマシヒ、靈、タマシヒ」 萬葉集、十五 三十六「多麻之比ハ、朝タニ、タマフレド、吾ガ胸痛シ、戀ノシゲキニ」 拾遺集「イツマデカ、形ニノコル、たましひノ、離レヌホドヲ、アリト賴マム」 (二)又、心神。氣力。精神。 雄略紀、十三年八月「神色不ㇾ變」 宇津保物語、俊蔭 十八「一世ノ源氏ノ、心たましひ、人ニスグレ給ヘリケルヲ得テ」 增鏡、第十二、老の波「たましひアルサマニハ、イタク侍ラザメレド、譽ニハ見ユルト」「大和魂」「負ケジ魂」

たま-しろ (名) [靈代] 神、人ノ靈ニ代ヘテ、標トシテ祭ルモノ。レイダイ。

だま・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [默] (默るノ他動) (一)默ルヤウニス。スカス。スカシナグサム。ナダム。ウラガス。「小兒ノ泣ク聲ヲ默す」 (二)轉ジテ、アザムク。タブラカス。ダマカス。ダマクラカス。騙 狂言記、子盜人「だますカモ知レヌ、見トドケテ坐ラウ」 柳樽、二編「だますノモ、だまされるノモ、山師ナリ」

たま-すり (名) [玉工] 玉ヲ磨リ作ル工人。タマツクリ。玉師。 神代紀、下 十四「櫛明玉神爲ニ作玉者ー」 垂仁紀、三十九年十月、註「玉作部」

たま-た (名) [指間] [手股ノ意] たなまた(手股)ノ條ヲ見ヨ。

たま-だすき (名) [玉襷] 襷ノ懸ケヤウノ名。衣ノ內、背ヨリ左右ノ袖ヲトホシテ、後ノ方ニ、袖ヲ、甚シク項ノ下ニ、引締メテ結ブモノ。 古今集、十九、誹諧「コトナラバ、思ハズトヤハ、言ヒハテヌ、ナゾ世ノ中ノ、たまだすきナル」 盛衰記、十八、文覺高雄勸進事「長七尺バカリナル法師ノ、然モ大刀ニテ、衣ノ袖ニ玉だすき上ゲ、眉ノ毛ヲ逆ニナシ、血眼ニ見エテ」 十訓抄、中、第六、第十九條「桂川ノ邊ニ臨ミテ、衣ニたまだすきシテ、魚ヲウカガヒテ、小サキ鱗ヲ一ツ二ツ取リテ、持チタリケリ」

たま-だすき (枕) [玉襷] (一)懸く、ニ掛クル枕詞。 萬葉集、一 八長歌「珠手次、カケノヨロシク、トホツカミ、我大君ノ」 同、八 廿長歌「玉手次、懸ケヌ時ナク」 (二)うね、又ハ、畝火山ノ枕詞。(襷ハ、袖ヲ肩ト頸根トニ結ヒカカグルモノナレバ、頸根ヲ約シテ、うねトカケタリト云フ) 萬葉集、一 廿六長歌「玉手次、畝火之山ノ、カシハラノ、ヒジリノ御代ユ」 同、四 廿三長歌「玉田次、畝火ヲ見ツツ、アサモヨシ」

たま-たて (名) [商布] 交易スル布。 字類抄「商布、タマタテ」(一本)

たま-だな (名) [魂棚] 祖先ノ靈位ヲ安置セル棚。位牌棚。 俳諧古選、秋「魂棚ノ、奧ナツカシヤ、親ノ顏」

たま-たま (副) [適遇會] [絕間絕間ノ義] (一)稀ニ時ニ遇ヒテ。タマニ。タマサカニ。(しばしばノ反) 萬葉集、四 四十「心ニハ、忘レヌモノヲ、偶、見ザル日マネク、月ゾヘニケル」 婦女今川、一、一回「一ツ家ニ居レバ、イヤデモ、たまたまハ傍ヘモ寄ラウシ、一ツ所ニ飯モ食ハズバナルメエ」 (二)ユクリナク。偶然ニ。フト。 宇津保物語、俊蔭 四十七「たまたま開キツクルケダモノ、タダ此ノアタリニ集マリテ」 史記、高祖紀「高祖適從ニ旁舍ー來」

たま-だれ (名) [珠簾] (たますだれノ略、小簾ニト云フ。サレド、次條ノ枕詞ヲ、小簾ニ掛ケテ、言ヒ馴レテ、轉ゼル語ナラム) 簾。又、玉ナド飾レル簾。 後撰集、十六、雜、二「たまだれノ、編目ノ間ヨリ、吹ク風ノ、寒クバソヘテ、入レンオモヒヲ」 拾玉集、二「軒近ク、紛フ螢ノ、透影ニ、ゲニたまだれノ、簾掛ケテケリ」

たまだれ-の (枕) [玉垂] (玉ヲ、緒ニ貫キテ物ニ掛ケ垂レテ、飾トスレバ云フトゾ) 小簾、又ハ、緒ト云フ語ノ枕詞。 萬葉集、七 三「玉垂の、小簾ノ間通シ、獨居テ、見ル驗ナキ、暮月夜カモ」 同、十一 廿「玉垂の、小簾ノ垂簾ヲ、ユキガチニ、寐者ネネトモ、君者通ハズ」 同、二 二十一「敷妙ノ、袖易シ君、玉垂の、越野ヲ過ギテ、マタモアハメヤモ」

たま-ぢはふ (連體) [靈幸] (神ハ、人ノ靈ヲ幸ひ保ツノ意ト云フ) 神ノ枕詞。 萬葉集、十一 廿「靈治波布、神モ我ヲバ、打棄コソ、シヱヤ命ノ、惜ケクモナシ」 此語、先輩、皆、枕詞トスレド、或ハ不語ナラムカ。サルハ其用例、萬葉集、一處ノ外ニ見當ラズシテ、且、歌詞モ、靈ト命トヲ對照セシメテ、十分ニ意味アレバナリ。試ニ、千速振ト代ヘテ見ヨ、歌意ノ索莫タルヲ覺エム。

たま-つき (名) [玉突] (英語、Billiards.ノ譯語) 近年、西洋ヨリ傳ヘタル戲。(東京ニテハ、明治六年頃ヨリト) 普通、二人ニテ之ヲ行フ。卽チ、机ノ如キ大イナル盤(玉突臺ト云フ)ニ、若干ノ象牙ノ紅白ノ丸ヲ置キ、各自、棒ノ頭ニテ、一丸ヲ突キ、他ノ丸ニ中テテ、勝負ヲ爭フモノ。撞球。 瓊浦雜綴(大田南畝)中「出島ノ水門ヨリ、紅毛加比丹ノ部屋ニ入リテ、臺ノ上ニテ玉ヲ突ク戲(玉突ノ戲ヲ「まりえッとすべえる」ト云フ)ヲ見ル」

たま-つくり (名) [玉作][玉造] 上古ノ職名。玉ヲ作ルモノ。たますり(玉工)ニ同ジ。次條ヲ參見セヨ。

たまつくり-べ (名) [玉作部] 上古、玉ヲ作ルヲ職トシタル部曲。 神代紀、上 十二「玉作部遠祖豐玉者、造ㇾ玉」 姓氏錄、第一帙、左京神別上、天神、忌玉作部「天明玉命之後、太古造ニ作玉璽ー以

傷三神祭二(一本)」

たまづさ (名) 玉梓 〔次條ノ枕詞ノ轉〕(一)〔直ニ、使ト云フ意ニ用ヰル。萬葉集、三、四十長歌「玉梓ノ、人ゾ言ヒツル」同、卷十一、五十「イツシカト、待ツラム妹ニ、玉梓ノ、事ダニ告ゲズ、往ニシ君カモ」(二)〔フミ。手紙。書狀。消息。文。玉章(昔ノ文ハ、結文ニシタリ)古今集、五、秋、上「秋風ニ、初カリガネゾ、聞コユナル、誰ガたまづさヲ、懸ケテ來ツラム」(漢ノ蘇武ガ雁使ノ故事)(三)竪文ノ眞中ヲ捻リ結ビタル艶書。嬉遊笑覽、三、書畫「艶書ヲバ、文ノ眞中ヲネヂリテ結ブナリ、俗ニ是ヲ玉づさト云」(四)からすうり(烏瓜)ノ核。形、艶書ノ結文ニ似タリ。料理物語(寛永)「玉章ハ、からす瓜ノ核ナリ」佐夜中山集(寛文、松江維舟)「玉章ハ、添ヘズト送レ、烏瓜」

たまづさの (枕) 玉梓 〔たまづさハ飛翅ノ略轉。(ハヤツバサ、ハヤブサ)古事記、下(允恭)二十輕太子ノ御歌ニ「阿麻陀牟、輕嬢女」(雁ニカケタリ)、又「阿麻登夫、鳥モ使ゾ」(使ハ速ク行クヲ主トスレバ、鳥ヲ使トアルナリ)、神代紀、下廿ニ、雉ノ頓使トアリ、萬葉集、十五廿ニ「天飛ブヤ、雁ヲ使ニ、得テシガモ、奈良ノ都ニ、言告ゲヤラム」ナドアルヨリ起リタルナリ〕書ヲ遣ハス使ノ枕詞。萬葉集、二、三十長歌「玉梓の、使ノ言ヘバ、梓弓、音ニ聞キツツ」同、十三十五「玉梓の、君ノ使ノ、手折來ル、此秋ハギハ、見レド飽カヌカモ」同、十一廿「人事ヲ、シゲケキ君ニ、玉梓の、使モ遣ラズ、忘ルト思フナ」同、十二廿九「アハザラム、シカハ有トモ、玉梓の、使ヲダニモ、待チヤカネテム」同、十七廿長歌「多摩豆佐の、使絶エメヤ、隱リコヒ、息衝ワタリ、シタ思ニ」

たまづさむすび (名) 玉章結 きこちやむすび(吉彌結)ニ同ジ。吉原徒然草(寶永)「吉彌結ハ、モト玉章結ナリ」

たまづし (名) 薏苡子 〔薏苡ノ古名。ツシダマ。字鏡九十「薏苡子、玉豆志」同十六「苡、玉豆志」〕

たまつばき (名) 玉椿 (一)〔つばき(椿)ヲ美メテ云フ語。林葉和歌集、草木「玉椿、タマツバキ」催馬樂、高砂「尾ノ上ニ立テル、白玉椿、玉柳」(二)つばき(椿)ノ一種。しらたまつばき(白玉椿)ニ同ジ。(三)香椿ノ一名。其條ヲ見ヨ。

たまて (名) 玉代 〔魂代ノ義、代ノ語原ヲ見ヨ〕命ニ代フルモノ。仁德紀、四十年三月「阿俄能古、乃獻己之私地、請免死、故納其地、赦死罪、是以號其地曰玉代」

たまで (名) 玉手 手ノ美シキヲ稱ヘテ云フ語。古事記、上十四「麻多麻傳、多麻傳サシマキ、モモナガニ、寢ヲシナセ」

たまてばこ (名) 玉手箱 〔魂出匣ノ意カ〕水江ノ浦島子ガ、常世ノ國ヨリ携ヘ歸レリト云フ玉匣ト云フモノ。雄略天皇ノ御世ニ、丹後國與謝郡水江ノ浦ノ島子ト云フモノ、海中ノ島ニテ、美女ト三年共棲シ、別ニ臨ミテ玉匣(魂櫛笥)ヲ與ヘラレ、再會セムトナラバ、開クコト勿レト言ハル。故郷ニ歸リタレバ、已ニ三百年ヲ經タリ、匣ヲ開ケバ、雲出テデ、身ハ、忽チ老衰トナレリト云フ(雄略紀、萬葉集、釋紀、丹後風土記)此事ヲ世ニ傳ヘテ、浦島太郎、龍宮ニ到リ、乙姫ト棲ミ、玉手箱ヲ得テ歸レリトス。因リテ、祕密ヲ藏スル匣ヲ、玉手箱ト云フ。萬葉集、九廿長歌「玉篋、少シ開クニ、白雲ノ、箱ヨリ出デテ」古今著聞、一、下道后宮、[illegible]代「君ニアフ、夜ハ浦島ガ、玉手箱、アケテ悔シキ、ワガ涙カナ」[illegible]光陰ヲ、ツメタ[illegible]女ノ、たまてばこ」

たまどこ (名) 玉床 〔床ヲ美メテ云フ語〕玉ノ寢床。萬葉集、十[illegible]「[illegible]玉床ヲ、打拂ヒ、君トハネズテ、獨リカモ寐ム」

たまどこ (名) 魂床 古ヘ、死者ノ床ヲ、其魂ノ留リテアリト信ジテ、一定時間ソノママニシテオクモノ。萬葉集、二[illegible]「家ニ來テ、吾ガ屋ヲ見レバ、玉床ノ、外ニ向キケリ、妹ガ木枕」(妻ノ死ヲ傷ム歌ナリ)

たまどの (名) 靈殿 (一)〔神ノ靈ヲ鎭メ祀ル處。源、五十三、夢浮橋「ムカシ物語ニ、たまどのニ置キタリケム人ノタトヒヲ思ヒ出デ」(二)葬禮ヲ行フ前ニ、暫ク棺ヲ藏ムル所。もがり。靈ノ宿殿。タマヤ。モガリ。殯宮。[illegible]

たまどり (名) 弄丸 〔玉取ノ義〕[illegible]ノ丸ヲ空中ニ投ゲ、手ニ受ケ取リテ上下スル技。品玉。又、其技ナル[illegible]

たまな (名) 玉菜 甘藍ノ一種[illegible]

たまみ [illegible] 〔たまハ、絶間ノ義カト云フ〕[illegible]

(歴ノ反) [illegible]

たまねぎ (名) 玉葱 [illegible]下ノ鱗莖ハ大ナル球ヲナスモノ。食用トナル。近年、舶來セル西洋種ナリ。

たまのあせ (名) 玉汗 汗ノ劇シク出テ、玉ノ如キ形ニ凝リタルモノ。[illegible]の汗、時雨村雨夕立ノ、一度ニ降リ來ル如クニテ」

たまのうてな (名) 玉臺 樓臺ノ美シキヲ云フ稱。ウルハシキウテナ。(天皇ノ御座所ナド)玉樓。金殿。源、三十[illegible]「カノ通ヒ侍ル所ノ、イトマバユキ玉の臺ニ、[illegible]ヒシウトスグサル樣ニテ」[illegible]バ、玉の臺モ、ナカリケリ、アヤメノ草ノ、庵ノミシ[illegible]

たまのおび (名) 玉帶 〔玉帶ノ訓讀〕[illegible]

たまのかうぶり (名) 玉冠 〔玉冠ノ訓讀〕冠ニ珠ヲ飾リ垂レタルモノ[illegible]

たまのかほばせ (名) 玉顏 [illegible]

たまのかんばせ (名) 玉顏 前條ノ語[illegible]

たまのかんむり (名) 玉冠 たまのかうぶり(玉冠)ニ同ジ。[illegible]「[illegible]クグリシ人ハ[illegible]むり」

たまのくくり (名) 【玉括】 狩衣ノ袖ノ、括リノ緒ニ、玉ヲ飾レルモノ。増鏡、第十、飛鳥川「萌黄ノ赤色ノ狩衣、玉のくくりヲ入レ、青キ魚綾ノ指貫」

たまのこし (名) 【玉輿】 (一)貴人ノ乗ル輿ノ美稱。(二)轉ジテ、富貴ナル身分ヲ云フ。俚言集覽「氏ナウシテたまのこし」

たまのこゑ (名) 【玉聲】 ウルハシキコヱ。ウルハシキコトバ。(詩歌、文章ヲ美ムル語) 【玉音】 夫木抄、三十二、雜「水草ノ、跡ニノコレル、たまのこゑ、イカガモ寄キ、秋ノ頃カナ」

たまのさかづき (名) 【玉盃・玉杯】 玉ニテ造リタル盃。ギョクハイ。玉巵。徒然草、第三段「色好マザラン男子ハ、イトサウザウシク、たまのさかづきノ、ソコナキ心地ゾスベキ」 鳩思百首「思フドチ、カリバノ小野ニ、マト居シテ、サシコソカハセ、玉の盃」 韓非子、外儲說、右上「爲人主、而漏其羣臣之語、譬猶玉巵之無當」(當ハ底ナリ) 抱朴子、外篇、三十九、廣譬「無當之玉盌、不如全用之埏埴」

〰たまのすがた (名) 【玉姿】 ウツクシキスガタ。玉容。玉貌。萬葉集、廿七「月日ヤハ、スグハユケドモ、母父ガ、多麻乃須我多ハ、忘レセナフモ」 夫木抄、三、椿「露スケル、春ノ柳ハ、サホ姫ノ、たまのすがたヲ、見スルナリケリ」

たまのちり (名) 【玉塵】 雪ノ異名。(俳諧歳時記)

たまのとぼそ (名) 【玉樞】 ウツクシキトボソ。好忠集「淺茅ガ原ト露シゲクテ、アシタニカヨヒシたまのとぼそモ、ユフヘニハヤヘムグラニウヅモレテ」 榮花物語、廿五、峰の月「黄金ノ扉ナラベ寄セテ、玉のとぼそヲトヂテヨリ此ノカタ、供養スルヤナニゾノ人」

たまのはた (名) 【玉幡】 (玉ハ美稱) 儀式ノ時ニ建ツル旗幟ノ、美麗ナルヲ云フ語。増鏡、第八、北野の雪「玉の幡、瑠璃ノ天蓋、天ニ光ヲカガヤカシ」

たまのみぎり (名) 【玉砌】 玉ヲ敷キタル如ク、美シキ石疊。又、ソノ庭。玉葉集、一、春、上「春クレバ、玉のみぎりヲ、ハラヒケリ、柳ノ絲ヤ、トモノミヤツコ」

たまのみとの (名) 【玉御殿】 玉ノ如ク、美シキ御殿。夫木抄、十四、菊「カタソギヤ、たまのみとのノ、初霜ニ、マガヒテ咲ケル、白菊ノ花」

たまのみやこ (名) 【玉都】 美シキ都會。夫木抄、三十、都「イサギヨキ、たまのみやこヲ、イヅル日ハ、ワガタツ杣ノ、ヒカリナルラム」

たまのみやゐ (名) 【玉宮居】 玉ニテ飾リタル如キ、美シキ宮殿。

たまのむらぎく (名) 【玉叢菊】 美シク、ムラガリ生フル菊。榮花物語、十二、玉村菊「ウチハヘテ、庭オモシロキ、初霜ニ、同ジイロナル、玉のむらぎく」

たまのよどこ (名) 【玉夜床】 たまどこ(玉床)ニ同ジ。右京大夫集「ミガキコシ、たまのよどこニ、塵ツミテ、フルキ枕ヲ、見ルゾカナシキ」

たまのよどの (名) 【靈夜殿】 たまどの(靈殿)ノ(二)ニ同ジ。榮花物語、廿五、峰の月「アリトテヤ、人ハトフラム、オクリオキシ、たまのよどのニ、ソヒニシモノヲ」

たまのり (名) 【球乘】 大イナル圓球ノ上ニ立チ、足ニテ其球ヲ轉シナガラ、種種ノ曲藝ヲ演ズルコト。又、其人。

たまのゐ (名) 【玉井】 美シキ井。一說ニ、井ノ美稱。新後撰集、九、釋教「スミソメシ、元ノ心ノ、消ケレバ、濁リモハテヌ、玉の井ノ水」

〰たまのを (名) 【玉緒】 玉ヲ貫ケル緒。萬葉集、七三十「葦ノ根ノ、ネモゴロ念ヒテ、結ビテシ、玉の緒トイハバ、人解カメヤモ」 古今集、十九、長歌、四「寒ク日毎ニ、ナリユケバ、玉の緒解ケテ、コキチラシ、霰亂レテ、霜コホリ」

〰たまのを (名) 【玉緒】 〔魂ノ緒ノ義、魂ヲ放ラサズ持チツヅクル意。單ニ、緒トノミモ云フ〕 生命ノツヅクコト。命。イキノヲ。萬葉集、十九、廿八長歌「珠緒ノ、惜シキ盛リニ、立霧ノ、失セユク如ク、置ク露ノ、消エユクガ如」 新古今集、十一、戀、一「たまのをヨ、絶エナバ絶エネ、ナガラヘバ、忍ブル事ノ、ヨワリモゾスル」 古事記、中(崇神)三十「己ガ緒ヲ、竊ミ弑セムト」

たまのをぐし (名) 【玉小櫛】 玉ニテ裝飾シタル櫛。又、美シキ櫛。萬代集、十八、雜、五「ユクヘナキ、玉のをぐしヲ、カタミニテ、猶ソノカミヲ、忘レワビヌル」

たまのをごと (名) 【玉小琴】 玉ノ如キ美シキ琴。萬葉集、七二十寄日本琴「膝ニ伏ス、玉之小琴ノ、事ナクバ、イトココバクニ、ワガコヒメヤモ」

〰たまのをの (枕) 【玉緒】 〔玉ヲ貫キタル緒ノ意〕 長き、短き、絶え、亂れ、間、顯ナド云フ語ノ枕詞。萬葉集、十八廿「玉緒の、長き春日ヲ」 古今集、十九、雜、長歌「玉の緒の、短き心、思ヒアヘズ」 萬葉集、十一、二四十二「玉緒之、絶えタル戀ノ」 同、十一、三「ウチヒサス、宮道ニアヘリシ、人妻ユヱニ、玉緒之、思ヒ亂れテ、ヌル夜シゾ多キ」 同巻、二四十「玉緒之、間モオカズ、見マクホリ、吾思フ妹ハ、家遠クアリテ」 同、十二、二四十「玉緒之、うつし心ヤ、ヤソカカケ、コギ出デム船ニ、オクレテヲラム」

〰たまのをばかり (副) 【玉緒許】 〔枕詞ニテ、玉緒の短きト云フヨリ云フ〕 ミジカキノ意。少シノ間。暫ノ程。萬葉集、十二、廿七「ナカナカニ、人トアラズハ、桑子ニモ、ナラマシモノヲ、玉のをばかり」 古今集、十二、戀、二「死ヌル命、生キモヤスルト、心ミニ、玉のをばかり、逢ハムト言ハナム」 同、十三、戀、三「逢フコトハ、玉の緒ばかり、名ノ立ツハ、吉野ノ川ノ、瀧津瀬ノゴト」

たまのをやなぎ (名) 【玉緒柳】 柳ノ枝ヲ、玉の緒ニ擬シテ云フ語。新古今集、十七、雜、中「山藤ノ、カタ岡カケテ、シムル野ノ、サカヒニ立テル、たまのをやなぎ」

〰たまはす スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) 【賜】 頂戴セシム。タマハラス。類聚國史、廿五、大同五年九月「罪ナヘタマヒ、勘賜波須」 源、十七、繪合二十「緣ドモハ、中宮ノ御方ヨリたまはす」 竹取物語「たまはせタル物ハ、オノオノ分ケツツ取リ」 源、三十三、藤裏葉廿「菊ノイトオモシロクテ、ウツロヒタルヲ給はせテ」 枕草子、四、四十四段「衣ヒトツ給はせタルヲ」(后宮ヨリ) 落窪物語、一「果物ナド侍リヌベクバ、少シたまはせヨ」

たまばはき (名) 【玉箒】 〔圓ク生ヒ出ヅレバ、玉ト云フカト云フ〕 (一)〔地膚ノ古名ニテ、箒トスレバ云フトゾ。萬葉集、十六「玉箒、苅來鎌麿、室ノ樹ト、棗ガ本ヲ、搔キ掃カムタメ」 (二)〔又、古へ、正月初子ノ日ニ、蠶飼スル屋ヲ掃ク箒ノ稱。前項ノ草ヲ用ヰタルナルベシ。或ハ云フ、著草ヲ用ヰタリト。萬葉集、廿、五十八「初春ノ、初子ノ今日ノ、玉箒、手ニ取ルカラニ、搖ラグ玉ノ緒」 (コレハ玉ヲ以テ飾レルモノノ如シ) 堀河百首、子日「玉ばはき、春ノ初子ニ、手折リモテ、玉ノ緒長ク、榮ユベラナリ」 夫木抄、一、子日「玉ばはき、初子ノ松ニ、取リ添ヘテ、君ヲゾ祝フ、賤ノ小屋マデ」 (三)酒ノ異名。(憂ヲ掃ヒ除クヨリ云フ語) 酒は愁へを掃ふたまばはきト云フハ、支那、蘇東坡ノ詩句ニ據ル語ナリ。東坡集、飲酒詩「應呼釣詩鈎、亦號掃愁帚」 下學集、下、飲食門「掃愁帚、酒異名也」(箒、帚同ジ) さかばうき(酒帚)ノ條ヲ併ハセ見ヨ。

〰たまはぶり (名) 【魂葬】 魂ヲ葬ルコト。萬葉集、二三十五長歌「コトサヘグ、百濟ノ原ユ、神葬、葬リイマシテ、アサモヨシ、キノヘノミヤヲ、常宮ト、サダメマツリテ」(寛永版ニヨル)

〰たまはやす (枕) 【玉囃】 むこニ掛クル枕

詞。古へ、玉ヲ纏クニ、椋ノ葉ヲ用ヰタルヨリ、むくノ轉、むこニ通ス。萬葉集、十七[illegible]「[illegible]、アマヅタフ、日ノクレユケバ、家ヲシゾオモフ」

たまはら・す (動) 賜 たまはす(賜)ニ同ジ。

〜たまは・る ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 賜 〔賜ふノ未然形たまはニ、敬語ノ助動詞るノ附キテ、四段トナル〕受く、貰ふ、さづかる、ノ敬語。タバル。タウバル。イタダク。クダサル。頂戴ス。古事記、中(景行)「小碓命、給[illegible]其姨倭比賣命之御衣御裳」萬葉集、十六廿「寺寺ノ、メガキ申サク、オホミワノ、男餓鬼賜而(タマハリテ)、其子将播(ウマハム)」龍田風神祭祝詞「皇御孫命乃宇豆乃幣帛乎、神主祝部等、被賜氏」續紀、廿六、天平神護元年十一月、宣命「[illegible]ノ物ヲ賜利以(タマハリテ)退レト」同、三十、神護景雲三年十一月、宣命「酒幣ノ物賜禮(タマハレ)トシテ」平家物語、四、競事「小舎人ヲ召シテ、是レ給はれト言ハレケレバ」(仲綱ヨリ蛇ヲ)

〜たまひ (名) 歐吐・嘔吐 反吐(ヘド)ツクコト。アゲルコト。ハクコト。タグリ。倭名抄、三十病類「歐吐、倍止都久、又、太萬比」同、十八廿[illegible]「犬舌、以叡乃太末比、犬吐也」名義抄「嘔、タマヒ」[illegible]心中、三十四「嘔吐、ヘトツク、ムカツキハク、タマヒ」皇極紀、四年六月「以水送飯、恐而反吐(タマヒツ)」

〜たまひ (名) 田舞 舞ノ名。古へ、大嘗祭ノ時、主基ノ八ナドノ奏セシモノ。又、田植ノ舞。田樂。儀式、四、[illegible]大嘗祭儀、下「巳日、云云、主基人等、[illegible]中臣[illegible]田舞[illegible]」天智紀、十年五月「天皇御西小殿、皇太子群臣侍宴、於是再奏田儛」續紀、十四、天平十四年正月「宴[illegible]」[illegible]「作[illegible]田舞[illegible]」三代實錄、[illegible]元慶七年十一月十九日「多治氏奏田舞」

たまひかげ (名) 玉日蔭 女蘿ノ美稱。[illegible]たまひかげ、昔ノアトヲ、尋ネテゾクル」

たま-ひま (名) 玉間 あさ(朝)ノ異稱。[illegible]「たまひまニ、オキツツミレバ、庭ノ面ニ、ミナ白妙ニ、雪フリニケリ」

たま-ひめ (名) 玉姫 〔玉ハ美稱〕 はしひめ(橋姫)ノ條ヲ見ヨ。

〜たま・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 賜 〔賜ぶノ延〕與ふ、畀る、取らす、授く、ノ敬語。賜ブ。タウブ。クダサル。萬葉集、十八三十長歌「アマノ白雲、ワタツミノ、オキツミヤヘニ、タチワタリ、トノグモリアヒテ、雨モ賜ハネ」

〜たま・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 給 〔賜ふノ轉〕他ノ動作ノ動詞ニ、敬語トシテ言ヒ添フル語。宇津保物語、祭使「賜ハりたまふ司(ツカサ)ハ」古事記、上三「言依(コトヨサ)シ賜(タマ)ひキ」「思シ給ふ」「聞シ召シ給はズ」「賜ビたまへ」

〜たま・ふ フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(自動、下二) 給 (一)己レガ動作ノ動詞ニ、敬語トシテ言ヒ添フル語。「見たまふる」「見たまふれバ」「思ヒたまへツル」「聞キたまへテ」ハ、「見奉ル」「見奉レバ」「思ヒ奉リツル」「聞キ奉リテ」ナド言ハムガ如シ。(此語、多クハ、見る、思ふ、聞く、ノ三語ニツク) 源、十二、須磨「[illegible]ル御事ヲ見給ふるニツケテ」同、三十、藤袴「イトイトホシクナム、[illegible]給ふる」同、同、「思ヒ給へ[illegible]アリシ[illegible]アリサマヲ見給ふれバ」宇津保物語、俊蔭五十三「マコト、ソラゴト、見給へニマウデ來ツルナリ」源、同、夕顔[illegible]」同、二、帚木八廿「主ノ娘共多カリト[illegible]給へツル事ハ」(二)飲ミ食フ。續紀、廿六、[illegible]神護元年十一月、宣命[illegible]

たま-ぶち (名) 玉縁 (一)物ノ縁(フチ)ナド、圓打(マルウチ)ノ紐ヲメグラシタル如キ、[illegible]其[illegible]ニ[illegible]持[illegible]ノ如ク、更ニ一種ヲ施シ[illegible]メグラシタルモノ。[illegible]デ行ハル) 又、ソノ玉縁ノ中ニ通ス紐ヲ、くちひも(口紐)ト云フ。(巾着ノ口紐ノ類) (二)一文字笠ノ縁ヲ、玉縁ニ作リタルモノ。又、白皮[illegible]縁ヲ取リタル[illegible]笠。[illegible]

たまぶちがさ (名) 玉縁笠 [illegible]ナル美少、玉縁笠ニ淺黄紐ノ化出シ」

たま-ふり (名) 魂振 みたまふり(御靈振)ノ條ヲ見ヨ。

たま-へん (名) 玉偏 漢字ノ偏ナル王ノ字ノ稱。王ハ、玉ノ省ナリ。玩、瑛、珠、球、理ノ如シ。玉字旁。[illegible]松作)四、狂女道行「其美シサ、天人偏ノ、磨キ立テタル玉偏(タマヘン)故ニ、手偏指ス人、山偏ナレド、トテモ金偏ナケレバナラヌ」

たま-ほ (名) 古草 山野自生ノ木本草、葉ハちがやニ似テ、三稜ヲ有シ、質柔カニシテ、[illegible]ナリ。莫草。蕎茅。[illegible] 和漢三才圖會、九十二下[illegible]

〜たまほこの (枕) 玉桙 [illegible]道[illegible]ヲ携フレバナリ。此語、道ニ續クハ、出征ニ矛ヲ賜ハルニ因ル。(みちノ條ヲ見ヨ) 後ニ節刀ヲ賜ハルコトトナレリ。[illegible]ド持チ行キタルナラム。門ノ南旁ノ木ヲほさだちト云フモ、ソレヲ立テオキタル故ノ名ナルベシ。神代紀、下三天孫著用[illegible]國[illegible]、古事記、中(景行)「倭健命東征ニ[illegible]給比比羅木之八尋矛[illegible]」神功皇后ノ杖セル矛ヲ、新羅王ノ門ニ樹テタルコトアリ[illegible]ヲ冠ラスル語トナリシナルベシ」(二)道[illegible]

〜たままき (名) 玉纏 玉ニテ飾レルモノ。[illegible]

たままつり (名) 魂祭 [illegible]魂ノ祭。古へハ、十二月晦日ニ行ハル、後ニハ七月十五日、其外、一年ニ十六度アリシト云フ。今ハ專ラ七月中元ノ精靈祭ノ[illegible]

隨筆、七、除夜鬼祭「十二月晦日鬼祭、枕草紙、徒然草等ニモアリ、昔ハ十二月晦日先祖ヲ祭ル、是レ聖靈祭ナリ、七月十五日ハ、餓鬼祭ナリ、盂蘭盆會ト云フ」西遊記(橘南谿)二「七月ノ魂祭ハ、何レノ地ニテモアルガ中ニ、長崎ハ殊ニ勝レテ仰山ナリ」

〔たま-まり (名) 玉鋺 〔まり(鋺)ノ條ヲ見ヨ〕 たまもひ(玉盌)ニ同ジ。 神代紀、下 廿「有二一美人一、排レ闥而出、遂以二玉鋺一來、當汲レ水」

たま-みぐさ (名) 玉見草 はぎ(萩)ノ異名。 藻鹽草、八「玉見草、萩異名也」

たま-ミソ (名) 玉味噌 煮タル大豆、一斗ヲ臼ニテ搗キテ玉トシ、數日ヲ經テ、表ノ黄色ニナリタル時、水ニテ洗ヒ、搗キ碎キ、篩ヒテ粉トシ、鹽三升ヲ入レ、水ヲ合ハセ、ドロドロトナレルヲ、桶ニ入レオキ、數日ニシテ成レルモノ。(民間備荒錄、下) 瓦礫雜考、二「古ノ味噌ハ、今ノ玉味噌ナドノ様ニ、カタク造リタルモノナルベシ」

たま-みづ (名) 玉水 (一)シタタル水。アマダリ。點滴 簷滴 後撰集、九、戀、二「雨ヤマヌ、軒ノ玉水、數シラズ、戀シキコトノ、マサルコロカナ」 好忠集「峯ニ(ノィ)日ヤ、今朝ハウララニ、サシツラム、軒ノ垂氷ノ、下ノたまみづ」 堀河百首、春雨「ツレヅレト、ナガメテゾ降ル、春雨ノ、ヲヤマヌ空ノ、軒ノ玉みづ」 (二)水ヲ美メテ云フ語。 謠曲、養老「ケニヤ、玉水ノ、水上澄メル御代ゾトテ」 (三)涙ヲ形容シテ云フ語。 增鏡、第十六、久米のさら山「ゲニトオボシメシヤルニ、イト悲シクテ、玉水ノ流ルルヤウニナム」

たま-みづ-やき (名) 玉水燒 樂燒陶器ノ一。山城國、綴喜郡、井手村(今ハ町)玉水ノ地ヨリ産ズルモノ。 嬉遊笑覽、二、下、器用「樂屋隨筆ニ、樂燒屋一入ノ妾ハ、南山城玉水ノ産ナリ、云云、一入死去ノ後、云云、妾少ノ子ヲ懷ニシテ、在所玉水ニ歸リ、育上ゲ、成長ニ隨ヒ、樂燒ヲ仕習ハセ、玉水彌兵衞ト云ヒテ、茶碗ナド燒キシナリ」

たま-むかへ (名) 魂迎 七月十三日ノ夕、亡魂ヲ迎フルトテ、門前ニテ、薪、又ハ、苧殼ヲ焚クコト。迎火。 改正月令博物筌、七月「十三日、魂迎」注「迎火、今、夕方ニ亡人ノ聖靈ヲ迎フルトテ、麻柯ヲ折リテ火ニ燒ク、是レヲ迎火ト云フ也」五篇の句「魂迎、芒ニ風ノ、來ル時ニ」

たま-むかへ-どり (名) 魂迎鳥 ほととぎす(時鳥)ノ異名。

たま-むし (名) 玉蟲 (一)山中ニ生ズ。多ク榎ノ木ニ生ズト云フ。叩頭蟲ニ似テ、長サ一寸許、幅三四分、六足ナリ。背ニ硬キ甲アリテ、竪ニ、碧ト綠トノ條アリ、腹ハ綠ナリ、甲、腹、共ニ金光ヲ帶ブ。婦人、粉匣中ニ收ム、人ヲシテ相愛セシムト云フ。其幼蟲ハ、松ノ害蟲ナリ。吉丁蟲 名義抄「蛭、タマムシ」 天治字鏡、八 四廿「蠼、玉虫」 異本、四季物語、蟲撰「形ハ美シウシテ玉蟲ナド云ヒテ、云云、御櫛笥ノ中ナル白ふんノ中ニマロビテ、云云、包マセオカセタマフコトヨ」 (二)玉蟲色(次條)ノ略。 好色二代男(貞享、西鶴)五「十八九ナル大振袖ノ娘、肌ニハ黄ウコンノヒッカヘシ、中ニ玉蟲色ノ綸子、上ニハ福島絹ヲ空色ニシテ」

たま-むし-いろ (名) 玉蟲色 金綠色。又、むしあを(蟲青)ニ同ジ。 貞丈雜記、三、小袖部「貞順豹文書ニ、云云、玉むし色、キネリギヌ、トカゲ色ナドヲモ着候トアリ」

〔たま-むすび (名) 魂結 遊離セル魂ヲ結ビ留ムルコト。招魂 伊勢物語、百十段「思ヒアマリ、出デニシ魂ノ、アルナラム、ヨフカク見エバ、たまむすびセヨ」 三代實錄、四、貞觀二年八月丧、丼主上結御魂緒等」 袋草子、四「見二人魂一歌、玉ハミツ、ヌシハ誰トモ、知ラネドモ、ムスビトドメツ、下カヒノツマ、三返誦レ之、男左、女右ノツマヲ結ビテ、三日ヲヘテ解レ之」

たま-むらさき (名) 玉紫 (一)枝、葉、共ニ桂ニ似タル木、夏、五瓣ノ小紫花ヲ開キ、秋季、紫色ノ小サキ果實ヲ簇生ス。女兒茶 (二)薤ノ異名。(俚言集覽、增)

〔たま-も (名) 玉裳 裳ヲ美メテ云フ語 宮人ノ袴ノ腰ニ卷クモノ。 萬葉集、一 廿二「英虞ノ浦ニ、船乘リスラム、ヲトメラガ、珠裳ノスソニ、シホミツラムカ」(英虞ハ、志摩國ニアリ)

〔たま-も (名) 玉藻 藻ヲ美メテ云フ語。 萬葉集、一 廿五「ウツセミノ、命ヲ惜ミ、波ニヌレ、伊良虞ノ島ノ、珠藻刈リヲス」 同、二 六十「タサラバ、潮ミチ來ナム、住吉ノ、淺香ノ浦ニ、玉藻刈リテナ」同、十四 十二「常陸ナル、ナサカノ海ノ、多麻毛コソ、引ケバ斷エスレ、アドカ斷エセム」(以上、海ノ藻) 同、一 二十一 長歌「飛鳥ノ河ノ、上ツ瀨ニ、生フル玉藻ハ」 夫木抄、廿八、藻「イツシカモ、ケフヲクラシテ、飛鳥川、ワタリテハヤク、たまもカヅカム」(以上、川ノ藻)

たま-もく (名) 玉目 くす、けやきノ材ナドノ、木理ノ、渦卷キテ、數多、密ニ文ヲナセルモノ。「玉目ノ火鉢」

〔たま-も-なす (枕) 玉藻成 〔玉藻ノ如クノ意〕 (一)浮ぶニ掛ル枕詞、 萬葉集、一 廿二 長歌「モノノフノ、八十宇治川ニ、玉藻成、浮倍ナガセレ」 (二)寄るニ掛ル枕詞。 萬葉集、二 二十八 長歌「ナミノムタ、カヨリカクヨリ、玉藻成、依宿之妹ヲ」 (三)靡くニ掛ル枕詞。 萬葉集、二 廿 長歌「玉藻成、靡きワガ寐シ、シキタヘノ、妹ガタモトヲ」

たま-もの (名) 賜物 賜フ物。賜ハリタル物。賚 名義抄「賜、タマヒモノ」賚、タマ物」

〔たま-もひ (名) 玉盌 盌ヲ美メテ云フ語。もひ(盌)ハ、水ヲ盛ル器。(其條ヲ見ヨ) タママリ。 武烈即位前紀「玉笥ニハ、飯サヘ盛リ、抱𢈘盛比ニ、水サヘ盛リ」

〔たま-も-よし (枕) 玉藻吉 〔玉裳よニテ、しハ助辭〕讚岐ニ裳ノ名產アリシカ、又、玉裳を差脫ぎトカケタル語カト云フ〕 讚岐ノ枕詞。 萬葉集、二 四十 長歌「藻玉吉、讚岐ノ國ハ、國柄カ、見レドモアカヌ」

たま-や (名) 靈屋 帝王、公侯ノ亡キ靈ヲ祀ル建物。(多ク、其墓ノ側ナドニ建ツ)高貴ノ牌子(位牌)ヲ安置スル建物。タマドノ。廟 靈廟 祠堂 榮花物語、七、鳥邊野、崩じたまひしことを云ひて「鳥部野ノ南ノ方ニ二町バカリサリテ、たまやト云フモノヲ作リテ、築地ナンドツキテ、ココニオハシマサセムトセサセタマフ」 玉勝閒、十一、靈屋「榮花物語、鳥邊野卷ニ、一條天皇ノ皇后宮ノカクレサセ給ヘルヲ、云云、今ノ世ニおたまやトイフ名、此たまやナリ、然レドモ、カノたまやトイヘル物、今ノ御靈屋ト、全ク同ジトハ聞エズ、イササカ事カハリテゾ聞ユル」

たま-や (名) 玉屋 椋ノ實ヲ磨リ碎シタル水、又ハ、石鹼水ヲ管ニ附ケテ、泡ヲ吹ク兒戲。又、ソレヲ賣ル人。

たま-や-かぎや (感) 玉屋鍵屋 花火ノアガルヲ賞シテ叫ブ聲。 かはびらき(川開)ノ條ヲ見ヨ。

たま-やなぎ (名) 玉柳 柳ヲ美メテ云フ語。 後撰集、三、春、下「鶯ノ、絲ニヨルテフ、玉柳、吹キナ亂リソ、春ノ山風」 萬代集、一、春、上「靑ニヨシ、ナラノ都ノ、玉柳、色ニモシルク、春ハキニケリ」

〔たま-ゆら (副) 玉響 〔物ニ着ケタル玉ノ、搖ギ觸レ合フ音ノ、幽ナルヨリ云フ語ト云フ〕 (一)幽ニ。 風雅集、十一、戀、二「玉響ニ、昨日ノタ、見シモノヲ、今日ノ朝ハ、戀フベキモノカ」 (二)轉ジテ、暫シバカリ。暫時間、(玉ノ動ク間)瞬間。 八雲御抄、三、上「下ゆら、シバシ」 堀河百首、雪「搖キ暮ラシ、玉ゆら止マズ、降ル雪ノ、幾重ツモリヌ、越ノ白山」 風雅集、六、秋、中「露シゲキ、鳥羽田ノ面ノ、秋風ニ、玉ゆら宿ル、宵ノ稻妻」 新古今集、八、哀傷「玉ゆらノ、露モ淚モ、トドマラズ、亡キ人戀フル、宿ノ秋風」(露ノ風ニサワグ、淚ノコボルル、共ニ、玉ノゆらぐニ似タレバ、兼ネテ云フ)

たまよけ (名) |丸除| 敵ノ彈丸ヲ防グニ用ヰル具。彈丸除。|堡籃|

〔たまよばひ (名) |魂喚| 死者ノ魂ヲ呼ビ返スコト。招魂。|復| 野府記、萬壽二年八月七日「陰陽師恆盛、云云、昇二東對上一（原注、侍侍住所）魂呼」（五日ニ侍侍嬬子、カクレラレキ）安齋隨筆、七、招魂「招魂、たまよばひトヨム、死人ノ魂ヲ呼ビカヘスナリ、禮記ノ檀弓篇ニ云ク、復、盡二愛之道一、云云、鄭玄註ニ云ク、復、招レ魂復レ魄也トアリ」

たまり (名) |溜| (一)〔タマルコト。物ノ集ルコト。又、其場所。宇津保物語、藤原君十六「タグレニ雨ウチフリタルコロ、中島ニ水ノたまりニ、鳰ト云フ鳥ノ心スゴク鳴キタルヲ」「水ノ溜り」(二)ため(溜)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。(三)人ノ集リテ、控ヘ居ル所。

たまり (名) |溜| 醬油ノ一種。製ハ、略、常ノ醬油ニ同ジク、釀シ成レル後、籠ヲ差入レテ、其中ニ汁ノ溜リタルヲ取ル。即チ醬油ノ古製法ナリ。クキ。|豆醬|

たまりか・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ（自動、下二） |堪兼| コラヘキレズ。忍耐シキレズ。タヘラレズ。狂言記、こんくゎい「玉藻ノ前ハコレヲ見テ、御前ニたまりかね、御幣一本オ、トリ、下野國那須野ノ原ヘ落チテ行ク」

たまりづめ (名) |溜詰| 次次條ノ(二)ヲ見ヨ。今ノ麝香間祗候ノ如シ。

たまりづめかく (名) |溜詰格| 徳川幕府ノ制ニ、溜間詰ニ準ゼラルル者ノ稱。コレハ例外ニテ、其身一代ニ限ラレ、御臺所ノ所縁ノ者ナド任ゼラレタリ。 續王代一覽、後編、二「文化十四年三月十七日、奥平大膳大夫昌高、實ハ松平薩摩守重豪二男ニシテ、御臺所之御弟）、云云、溜間詰格仰付ラレ、云云」

たまりのま (名) |溜間| (一)人ノ集ル所。(二)徳川幕府ノ制ニ、江戸城中、大名ノ詰所ノ名。等級ハ、松の間ニ次グ。井伊、會津、姫路、高松、松山、其他、譜代大名、此ニ入ル。コレヲ溜詰ト云ヒテ、老中ト共ニ政事ヲ議セリ。 有司勤仕録「溜詰、常時[illegible]門ヘ在リ之、内證人ヅツ在府、於二江戸一定代也、[illegible]日之外ニ二度日、登城有リ之、則五日一度宛之諸也」 職掌鑑「溜詰ハ役名ニアラズ、人數不同也、御當代ノ[illegible]、御中書院溜間ニ詰ル故ニ此名アリ、溜松（井伊）、會津（保科）、高松（松平）ノ三家ハ、代代、溜間ニ候ズ、其外ハ、當職間席ヨリ、家柄、年功等ニヨリテ、此席ニ進ムコト也」

たまりみづ (名) |溜水| 溜リテ、流レヌ水。|潦| |瀦| 名義抄「潦、汪、瀦、タマリミヅ」和漢三才圖會、五十七、水類「潦、瀦、[illegible]、俗云二太末利美豆一」 散忠千首「底濁ル、ナハシロ小田ノ、たまり水、澄スミエテ、ミユル月カナ」

たま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四） |溜| 〔止ル、積ルニ通ズト云フ〕 (一)止マル。積ル、集ル。タタナハル。|溜| |集| |委積| 續拾遺集、六、冬「山風ニ、時雨ヤトホク、ナリヌラム、雲ニたまらヌ、有明ノ月」堀河百首、若菜「野邊ニ出デテ、春ノ日摘メド、たまらヌハ、マダウラワカキ、若菜ナリケリ」曾丹集「鎌山、雪ハ暇ナク、降リシケド、火ノ氣ヲ近ミ、たまらザリケリ」盛衰記、四十二、那須與一射扇事「自代ニモたまらネバ、クルリクルリトマハリケリ」 (二)水、一處ニ止マリテ流レズ。タタフ。|渟| |湛| 宇津保物語、吹上、上、十「底清ク、流ルル水ニ、スムイヲノ、たまれル沼ヲ、イカガ見ルラム」 (三)堪ヘ止マル。コラヘモツ。 [illegible]「オレモ[illegible]たまるモノカ」[illegible]「[illegible]コノヤウニ[illegible]、是カラ五ニ京大阪ヘ行キナバ、足モ腰モたまるマイ」 拾遺集、[illegible]「[illegible]山ハ、紅葉ノ錦、たまらザリケリ」 宇治拾遺、九、第三條「此女ヲ、云云、男アハセケレド、男モたまらザリケレバ、コレヤコレヤト、四五人マデハ、アハセケレドモ、猶たまらザリケレバ、思ヒ侘ビテ、後ニハアハセザリケリ」 山家集、下「ハラハラト、オツル涙ゾ、アハレナル、たまらズ物ノ、悲シカルベシ」 夫木抄、廿七、蛙「思ハジト、荒タル宿ニ、カキクラス、蛙ノ聲ニ、[illegible]」 平家物語、十、[illegible]「伊賀伊勢兩國ノ官兵等、シバシモたまらズ攻メ落サル」

だま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四） |默| 〔默居ルノ略轉カ〕 (一)物言ヒヲ止ム。モダス。|嘿| |默| 曾關集、十二、[illegible] (二)音、止マル。鳴リヤム。 [illegible]「風鈴ガ、だまり霰ハ、寢ツカレズ」

〔たみ (名) |民| 〔田部ノ轉、田ヲ作ル群生ノ意ト云フ〕 一國中ニ住メル程ノアラユル人ノ稱。君主政府ニ治メ管ヘラレテアルスベテノ人人。オホミタカラ。ヒトクサ。アヲヒトクサ。人民。百姓。萬民。|黔首| |黎民| 續日本紀、[illegible]作田部之戸 [illegible]日本書紀、[illegible]「オホササギ、[illegible]フカセヌコトヲ、多美ハヨロコブ」

たみ (名) |稻實| 〔田實ノ義、稱（田根）ト同例〕 稻ノ稱。

たみ (名) 木ノ實ノ名。樹ハ、楠ニ似タリ、實ハ指頭大、又ハ、豆ホドノモノ。伊豆七島ニテハ、食物ノ糧トス。伊豆國、白濱村邊ニテハ、實ヲ蠟燭トスト。アカダモ。クロダモ。アヲキ。

だみ (名) たむ（訛）ノ條ヲ見ヨ。「濁だみ」「舌だみ」「シラだみ（添）」

だみかへ・す [illegible] 幾度モ、クリカヘシ、イロドル。 [illegible]十、飛鳥川「紅ノ打チヌリ、輝クバカリだみかへしテ、[illegible]」

たみぐさ (名) |民草| 〔[illegible]〕 人草ノ條ヲ見ヨ。

だみごゑ (名) [illegible] 訛ミタル音聲。[illegible]

たみぞ (名) |田溝| 田ノ中ニアル溝。[illegible]

たみち (名) |田道| 田ノ畔ノ道。[illegible]

〔たみのつかさ (名) みんぶしやう（民部省）ニ同ジ。[illegible]

たみん (名) |惰眠| (一)ナマケ、ネムルコト。(二)遊惰ニシテ、働カヌコト。

たみやう (名) |他名| (一)ホカノ名。別名。(二)他ノ家ノ名跡。「他名ヲ嗣グ」

だみゑ (名) |彩畫| 彩ミタル畫。彩色[illegible]

〔た・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四） |回| 〔撓むノ意〕 トホリ[illegible] クネリメグル。迂回ス。[illegible]

〔た・む [illegible]

ノ間、伊多牟流ニ、ヨロヅタビ、顧ミシヤツ、ハロバロニ、別レシ來レバ、伊ハ、(驚ク)

たむ・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 訛 〔舌たむノ略、故ニ濁ル〕 物言ヒ訛ル。コトバダム。 字鏡「訛、タミタリ」 源、廿二、玉鬘「ヲカシク書キタリト思ヒタル詞ゾ、イト、たみタリケル」 同、四十四、竹河「聲色惡シク、言たみテ」 山家集、下「聲ハ、田舍ノ谷ノ、鳥ナレドモ、たみタル聲ハ、鳴カヌナリケリ」 今ハ、專ラ、濁リテ、だむト云フ。 拾遺集、七、物名「東(アヅマ)ニテ、養ハレタル、人ノ子ハ、舌だみテコソ、物ハイヒケレ」 風雅集、序「だみタル言ノ葉ニテ、思得タル心バカリヲ言ヒアラハス」

たむ・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 彩 イロドル。彩色ス。イロフ。 著聞集、十一、畫圖「源氏繪十帖、たみタル料紙ニ書キテ、色色ノ色紙ニ、詞ハ書カレタリ」「繪ヲ書キたむ」 今、濁リテ、だむ。即チ、だみ繪、たび繪、薄だみ、金だみ、銀だみ、ナド云フ、コレナリ。 彩色 正治百首「色ヲフル、繪島ガ浦ノ、月ヲマタ、霞だみワタル、夕霞哉」

たむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 揉 〔撓(タワ)むノ略ノ他動〕 (一)〔木竹ナド、炙リ、又ハ、濡シナドシテ、伸ベ、或ハ屈(カガ)メテ、形ヲ改ム。囘(タムル)。曲(タムル)。 倭名抄、十三、弓劒具「揉、太無、以火屈中木也」 後撰夷曲集(天明)「ヒガラメヲ、ためツケ密リテ、刺ス竹ノ、ヤブニラミトハ、コレヲ申サム」 (二)轉ジテ、スベテ、物事ヲ改メ正シクス。責メテナホス。 矯「角ヲ矯めテ牛ヲ殺ス」 (三)僞(イツハ)ル。「言ヲ矯む」(即チ、いつはるト訓ムベキ誤ト云フ) (四)控ヘ支ヘ持ツ。 持滿 支持 〔狙ヒテ未ダ放タズニ云フ〕 後拾遺集、十九、雜、五「ミチノクノ、安達ノ眞弓、君ニコソ、思ヒためタル、コトハ語ラメ」 常山紀談(元文)四「千介(朝日)鐵炮ヲためスヱ、西鄕(伊豫)ヲ馬ヨリ打落シ」「弓ヲたむ」「鳥銃ヲたむ」 (五)轉ジテ、片目塞ギテ狙ヒ見ル。「ためツ、スガメツ」

たむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 溜 (一)留ム。集ム。積ム。 集 蓄積 太平記、八、山崎合戰事「赤松打負ケテ、山崎ヲ指シテ落チ行キシヲ、ヤガテ追懸ケテ、討手ヲダニ、下ダシタラバ、敵足ヲたむマジカリシヲ」 夫木抄、三、蕨「山人ノ、ユクテノワラビ、手ニためテ、シバシゾ休ム、岩ノホトリニ」 (二)塞キ止メテ流サズ。湛フ。 湛 瀦 夫木抄、五「水たむる、春ノ山田ニ、流レ來テ、イホ白タヘニ、散ル櫻カナ」「水ヲ溜む」

たん (名) 丹 (一)支那ニテ、丹砂。即チ、硫黄ト水銀トノ化合物タル赤土、辰砂。 書經、禹貢篇「礪砥砮丹」注「丹、朱類」 (二)今、鉛ニ硫黄、硝石ヲ加ヘテ、燒キテ製セルモノ。鉛丹トモ云フ。即チ、鉛ノ酸化物ナリ、色、赤クシテ黄ヲ帶ブ、繪ノ具トシ、藥用トス。和泉國堺ノ産ナル長吉丹ヲ上品トス。 黃丹 和漢三才圖會、五十九、金類「丹、黄單、黄丹、鉛丹、丹粉、朱粉、鉛華」 (三)赤色、又、赤色繪具。 漢書、蘇武傳「竹帛所載、丹青所畫」 謠曲、鐵輪「身ニハ赤キ衣ヲ著、顏ニハ丹ヲ塗リ」 (四)不老不死ノ藥。仙丹。 白居易詩「藥爐有火丹應伏」 (五)煉藥、丸藥ノ名ニ付クル語。「五靈丹」「長生丹」「萬金丹」

たん (名) 段反 〔反ハ段ノ草體ノ誤〕 (一)距離(ヘダタリ)ノ名。即チ、六間。一町ノ十分ノ一。 和漢名數「六尺五寸爲一間、六間爲一段、六十間爲一町」 近代世事談「六尺ヲ一間、六間ヲ一段、六十間ヲ一町トス」 矢頃(ヤゴロ)三段ト云フハ、弓杖(ユンヅヱ)一間ノ割ニテ云フ。 平家物語、十一、那須與一事「海ノ中、一たんバカリ打チ入レタリケレドモ、ナホ扇ノアハヒハ七段バカリモアリツラントコソ見エタリケレ」 (二)田畠ノ段別ノ名目。町ノ十分ノ一。古ヘハ、長サ三十歩、廣サ十二歩、即チ、三百六十歩。後世ハ、三百歩、即チ、十七間一尺九寸二分四方。畝(セ)ノ十倍。(天文中、足利義輝、國國ノ所領ヲ糺(タダ)シ、コレヲ天文繩ト云ヘリ。後、天正、文祿ノ頃、豐臣氏、古制ヲ改メ、段ノ地、三百六十歩ナリシヲ、三百歩トナス、世ニ、コレヲ太閤檢地ト云フ。今ニ至ルマデ然リ) 孝德紀、大化二年正月、詔「凡田、長三十歩、廣十二歩爲段、十段爲町」 田令「凡田、長三十歩、廣十二歩爲段、十段爲町」 伊勢國渡邊文書「田畝屋敷、六尺三寸棹ヲ以テ五間ニ六拾間、三百歩ヲ壹反ニ可致檢地事」

たん (名) 端反 〔布帛ニハ端ナリ、田數ノ段ヲ借字シテ、段ヨリ反ト誤ル〕 (一)布帛ニ云フ一定ノ長(タケ)ノ稱。即チ、鯨尺二丈六尺(今、或ハ二丈八尺乃至三丈二尺)幅九寸ナリ。コレヲ、尋常、一人ノ衣服ヲ作ル料トス。(寛文五年ニ、二丈六尺ト定メラル) コレヲ倍ニセルヲ匹(ヒキ)トス。 禮記、曾子問篇ノ疏ニ、束帛ヲ十端トシ、杜預ガ二端ヲ一兩ト爲ス、イハユル匹ナリト云ヘリ。 湖山野錄(宋、僧文瑩)「束帛則卷其帛爲二端、五匹遂見十端」 字類抄「端、タン、五丈」 同「端、又、用段字、謂布四丈二尺爲段、曹布二丈八尺爲段、商布二丈五尺爲段」 續紀、六、和銅七年二月、制「以商布二丈六尺爲段」 玉勝間、八「台記ニ布二反、布二反ナドアリ、ソノ頃モ、端ヲ反ト書キシナリ」(台記ハ近衛天皇ノ康治元年ヨリ久壽二年迄ノ記) 嬉遊笑覽、二、上「寛文四年七月十二日、絹紬ノ事、大工曲尺ニテ、長サ三丈四尺、巾一尺四寸、木綿ノ事、同、長サ三丈四尺、巾一尺三寸ト制定セラル」 (二)帆ノ幅ヲ數フルニ云フ語。筵一枚ノ幅、三尺ヲ云フ。 甚句「三十五端ノ帆ヲハリアゲテ、行クヨ仙臺石卷」

たん (名) 坦 平カナルコト。「平坦」「坦途」

たん (名) 痰 體内ノ老廢物、咳(セキ)ニ伴ヒテ肺、及、氣管ヨリ出ヅル膿ノ如クニシテ粘リアル液。色色ノ黴菌ヤ組織ノ破壞物ナドヲモ吐出ス。 名義抄「痰、タム」 狂言記、[illegible]「痰ヲ切ライテ、聲聲ノ出デ候」

たん (名) 膽 (一)イ。キモ。肝臟。 史記、越世家「置膽於坐、坐臥即仰膽、飲食亦嘗膽也」 (二)心。キモダマ。タマシヒ。 三國志、蜀志、姜維傳、注「子龍、一身都是膽也」 文章軌範、一、放膽文小序「初要膽大、終要心小」

たん (名) 單 (一)ヒトヘ。〔複ニ對ス〕 高適詩「不知邊地別、祇訝客衣單」 (二)複雜ナラヌコト。ヒトリ。ヒトツ。 唐書、薛仁貴傳「驟先入擊、以衆擊單」「單獨」「單位」

たん (名) 短 〔長ニ對ス〕 (一)ミジカキコト。 戰國策、秦策「秦地形斷長續短、方數千里」「長短」「短日」 (二)劣レルコト。弱點。缺點。 史記、灌夫傳「言丞相短」 崔子玉、座右銘「無道人之短、無說己之長」

たん (名) 蛋 タマゴ。 字彙補「蛋、鳥卵也」

だむ (動) 訛 たむ(訛)ノ條ヲ見ヨ。

だむ (動) 彩 たむ(彩)ノ條ヲ見ヨ。

だん (名) 男 (一)ヲトコ。丈夫。 易經、繫辭、上傳「乾道成男、坤道成女」 (二)セガレ。ムスコ。 易經、說卦傳「震一索而得男、故謂之長男」云云、「坎再索而得男、故謂之中男」 (三)爵(シャク)ノ名。其條ノ(第一語)ヲ見ヨ。

だん (名) 斷 (一)オシキリテナスコト。決行。斷行。敢爲。 (二)キリモリ。サバキ。裁決。 易經、繫辭、上傳「易開物成務、云云、以斷天下之疑」

だん (名) 暖煖 アタタカナルコト。アタタマリ。暖氣。 韓愈、進學解「冬暖而兒號寒、年豐而妻啼饑」 禮記、王制篇「凡居民材、必因天地寒煖燥濕」「煖ヲ取ル」

だん (名) 談譚 ハナシ。モノガタリ。談話。 漢書、東方朔傳、非有先生論「於戲、可乎哉、可乎哉、談何容易」「同日ノ談ニアラズ」

(だん (名) 緞 種種ノ色絲ニテ組ミタル平組ノ緒。鐙ノたどしノ絲、平緒、馬ノおーかけナドニ云フ。倭名抄、十四、服玩具「緞、[illegible]也」名義抄「緞、タム二孫、[illegible]」「だんノ唐組ノ緒」(谷物ノ緒) [illegible]「紫緞平緒[illegible]、嘴時着之」「花田ノ緞」[illegible]ノ緞」

(だん (名) 毯 毛織物。今ノ毯子(ダンツウ)ノ類。布帛ヲ染メテ、コレニ代用スルヲ、毯代(ダンダイ)ト云フ。白居易、紅線毯詩「織作披香殿上毯」倭名抄、十四、坐臥具「毯、此間、名如字、毛席以五色錦二[illegible]之」造酒司式「八尺毯一領」

だん (名) 段 (一)キダ。キザハシ。級「階(ハシ)ノ段」(二)科(シナ)。尊卑優劣ノ差(ケヂメ)。等級。(三)横縞ニ染メ分ケタル織物。貞丈雜記、三、小袖部「段ノ物ノ事、練貫ニテ、肩ヨリ裾マデ、横筋ヲ一寸餘ノ幅ニ織リタルナリ、地、黒ベニ、筋ハ白シ(云云、女房故實條條ニ云ク、だんト紅梅ナドハ、だんノ方上カヘニナリ候、女房内内記ニ云ク、十二月何ニテモ、白、紅ノだんノ袷ハ、裏モ表ノ如ク染メワケ候)」(四)武道、碁、將棋ナドノ技ニ、巧拙ノ等級ノ名目。最下ヲ初段ト云ヒ、ソレヨリ二段、三段トナリテ、八段、九段ニ至ル。(五)文章中ノ大イナル切目(キレメ)。段落(六)轉ジテ、手紙、又ハ、口上ノ語ニ、件(クダリ)。廉(カド)。春花五大力(並木五瓶)淵崎滿壽屋場「是ハ毎度ナガラ御入リ下サレマスル段、冥加ニ叶ヒ、難有ウ存ジマスル」「右ノ段」「此ノ段」(七)語物、又ハ、小説ノ一章。(謠物(ウタヒモノ)ノ番ニ對ス)「淨瑠璃十二段」「春秋二季[illegible]初編卷上、第一段」

(だん (名) 壇 (一)土ヲ盛リアゲテ構ヘタル祭場。又、其場所。史記、封禪書「[illegible]一壇、壇三垓、五帝壇環居其下」倭名抄、十、屋宅具「壇、[illegible]反、俗云、[illegible]」[illegible]「壇ヲ[illegible]」[illegible]ノ幣帛ヲ立テ、玉藻ニ御幣ヲ持タセツツ、肝膽ヲ碎キ祈リシカバ」壇浦ハ[illegible]軍團ノ跡、スベテ地ノ壇、段ハ、其地方ニテ率キル軍團ノ跡ナリト。(二)物ヲ据エムガ爲ニ、少シ高ク構ヘ作レル處。[illegible]「だんコボチテ、カヘリイランコトノ、メイボクナク」「石灰ノ壇」「佛壇」「護摩壇」

だん (名) 團 (一)圓(マロ)キコト。又、其モノ。(二)一聚(ヒトムレ)ノモノ。范成大、[illegible]「團結」(三)ぐんだん(軍團)ノ條ヲ見ヨ。

たん-あい (名) 淡靄 ウスガスミ。ウスキモヤ。陸游詩「淡靄[illegible]」

だん-あつ (名) 彈壓 惡事ヲタダシ、抑壓スルコト。唐書、柳仲郢傳「[illegible]」「彈壓ヲ加フ」

だん-あん (名) 斷案 (一)決斷ノカンガヘ。終結ノ判斷。斷定。(二)(英語、Conclusion.ノ譯語)論理學ノ語、三段論法ニテ、前提(第一、及、第二ノ命題)ヨリ引キ出ダサレタル結論。

たん-い (名) 單衣 ヒトヘモノ。ヒトヘギヌ。ヒトヘ。世說、雅量、上篇「[illegible]」後漢書、[illegible]「[illegible]衣草帶」[illegible]

だん-い (名) 暖衣 衣服ヲ暖ク重ネ着ルコト。又、暖キ衣服。孟子、滕文公、上篇「人之有道也、飽食暖衣、逸居而無教、則近於禽獸」

たん-いつ (名) 單一 ヒトヘナルコト。雜レルモノナキコト。ヒトリ。ヒトツ。

だん-う (名) 彈雨 彈丸ガ雨ノ如ク飛ビ來ルコト、「[illegible]」

だん-うん (名) 斷雲 キレギレノ雲。チギレグモ。[illegible]

たん-えう (名) 單徭 〔六書故「徭、役也、

亦作繇」〕一日限リノ夫役、日雇人夫。ソノヒカセギ。三代實錄、四十七、仁和元年三月「[illegible]」

たん-えき (名) 膽液 たんぢふ(膽汁)ニ同ジ。

たん-えふ (名) 單葉 (一)草木ノ葉ノ、一枚一葉ナルモノ。(複葉ノ對)(二)飛行機ノ翼ノ、左右各一葉ナルモノ。單葉[illegible]

だん-えん (名) 談燕 知友相會シテ、飲ミ、且、談ズルコト。又、其宴會。[illegible]

だん-えん (名) 斷煙 キレギレノ煙。[illegible]

たん-おん (名) 單音 〔複音ニ對ス〕單獨ナル音。即チ、五十音中ノ、あ、い、う、え、おノ五音ノ稱。又、母韻(ボイン)(言海ノ語法指南ノ初ヲ見ヨ)

(たん-か (名) 短歌 (一)ミジカウタ。即チ、五、七、五、七、七ノ三十一字ヨリ成ル歌。ミソヒトモジ。萬葉集、[illegible]「[illegible]」(二)長歌ノ末ニ附スル短キ歌、即チ反歌。萬葉集[illegible]歌ノ事、[illegible]、假字ニテ[illegible]キタリ、サレバ、[illegible]假名ニテハ[illegible]ト見エタリ。[illegible]キタルハ、見及バザルナリ。然レバ短歌トイフモ、ナガウタト云フモ一ツ事也。古今集[illegible]、イトオボツカナシ。萬葉集ニハ、[illegible]リ詳ナラヌ事ト見エタリ」秋齋閑語、二「短歌長歌ノ事、[illegible]十一字ヲ長歌ト云ヒ、何ツツキ長キヲ[illegible]短歌ト[illegible]三十一字ヲ短歌ト云フ。今案ズルニ、三十一字ノ歌ハ、萬葉集ニ反歌トアリ、[illegible]歌モ載セラレシヲ見ルニ、トモニ今云フ長歌ニテ、何故分ケタルモ見エズ、云云、其後、拾芥抄ニテゾ、ソト考ヘ得タリ。此書ノ外ニハ、確カナルコトモ見エズ[illegible]五、七、五、七、七、[illegible]七、五、七、七、七、是ニテ古今集ノ[illegible]晴レタル心地シ侍リヌ」

たん-か (名) 單[illegible] [illegible]

たん-か (名) 擔架 負傷者、又ハ、病者ナドヲ載セテ運ブ具。

ダン-か (名) [illegible]

だん-かい (名) 段階 (一)キザハシ。(二)順序、次第、等級。

だん-かい (名) 斷崖 キリギシ。ガケ。

たん-がい (名) 彈劾 公職ニ在ル人ノ非ヲ訐キテ訴フルコト。[illegible]

たん-かい-とう (名) 探海燈 一種ノ電燈、巨大ナルあーく燈ヨリ強大ナル光

線ヲ生ゼシメ、器底ノ反射鏡ニヨリテ、強ク其光線ヲ平行ニ放射セシメテ、遠距離ノ物體ヲ照射スル裝置ノモノ。多クハ軍艦、又ハ、砲臺ニ於テ、夜間、敵ノ來襲ヲ警戒スルニ用ヰラル。探照燈、サアチライト。

たん-かう（名）【炭坑】石炭ノ出ヅル坑。石炭坑。煤礦

たん-かう（名）【單行】（一）單獨ノ旅行。ヒトリタビ。後漢書、李郃傳「和帝即位、分遣使者、皆微服單行」（二）唯、單一ニ發行スルコト。（書物ナドノ）「單行本」（三）單獨ニ行フコト。「單行犯」

だん-かう（名）【斷行】決斷シテ實行スルコト。思ヒキリテ行フコト。史記、李斯傳「狐疑猶豫、後必有悔、斷而敢行、鬼神避之」

だん-かう（名）【檀香】梅檀、眞檀、白檀、紫檀、黃檀、赤梅檀等ノ香木ノ總稱。（和漢三才圖會、八十二、香木類）

たんかう-ぼん（名）【單行本】單獨ニ刊行セラレタル本。（叢書中ナドニ編入セラレタル本ニ對ス）

〰たむかひ（名）【手向】てむかひ（手向）ニ同ジ。神武紀「夷、云云、多挙備眦モセズ」雄略紀、三年四月「根蒿喉由、斷得、曾子罪、遭備、殺子、蟄二殺、剛旧二」

たん-かく（名）【端愨】端正ニシテ、至誠ナルコト。淮南子、主術訓「其民樸重端愨」

たん-かつ（名）【短褐】タケノ短キ、ヌノコ。韓非子、五蠹篇「短褐不完者、不待文繡二」

だん-がふ（名）【談合】〔かたりあふニ當テタル字ヲ音讀セル語〕カタラヒ。ハナシアヒ。相談。保元物語、一、新院御謀反思召立事「御心ノユカセ給フ事トテハ、近習ノ人人ニ、イカニセンズルゾト、常ニ御談合アリケリ」

たん-がん（名）【赧顏】〔說文「赧、面慚赤也」〕せきめん（赤面）ニ同ジ。

だん-かん（名）【斷簡】キレギレノ文書。斷編。殘簡。李紳詩「故篋蔵深開斷簡、秋堂月曙掩遺塵二」「斷簡零墨」

だん-がん（名）【斷岸】だんがい（斷崖）ニ同ジ。鮑照、蕪城賦「崒若斷岸、矗似長雲二」

タンガラ（名）【丹売丹殼】〔蕃語ナラム。売ハ殼ノ省字〕熱帶地方ノ常綠木ナル紅樹ノ皮。交趾ヨリ舶來ス。皮ノ厚サ三四分、紫赤色ナリ。元來、外皮ハ黑ケレドモ、多ク削リ取リテ來ル、煮テ汁ヲ取リテ、染料トス。紅樹皮

たん-き（名）【單騎】唯、一人ノ騎者。一騎。後漢書、鮮卑傳「異部大人、抄二取其外家牛羊、檀石槐單騎追二擊之二」「單騎、敵陣ニ入ル」

たん-き（名）【膽氣】肝太キコト。勇氣。晉書、周處傳「大軍卒至、奪其膽氣二」

たん-き（名）【短氣】キミジカナルコト。心ノ急キガチナルコト。セッカチ。性急。短慮。躁急。王羲之、帖「當今人物眇然、而還疾如此、令二人短氣二」他我身乃上（山岡元隣）五「一、短氣ハ未練ノ事」新永代藏（正德、北條團水）六「第一、商人ノ慎ム可キハ、短氣、朝寢、色狂ヒ、云云」

たん-き（名）【短期】短キ期間。「短期卒業」

たん-き（名）【彈弓】だんぐう（彈弓）ノ約轉。其條ヲ見ヨ。

〰たん-き（名）【彈碁】古クハ約メテ、たぎ。（其條、見合ハスベシ）遊戲ノ具。兩人、盤ニ對坐ス、盤ノ面、凸起ナリ。（正倉院寶物圖ニ、雙六盤ノ如クニテ、中高ナルモノアリ）黑白ノ碁子、各、六枚（一說ニ八枚）アリ、雙方、盤ノ隅ニ、一枚ヲ置キ、指ニテ彈キテ、中ノ央起ヲ越シテ、敵ノ碁子ニ打チテ當ツレバ、敵ノ其碁ヲ取ル。當テ損ズレバ我ガ碁ヲ取ラル。斯クシテ、碁ノ早ク盡キタルヲ負トストゾ。後漢書、梁冀傳「能挽滿、彈棊、格五、六博、蹴鞠、意錢之戲二」倭名抄、四、雜藝類「彈棊、今一名、指石」

たん-ぎ（名）【赧愧】顏色ヲ赤クシテ、愧ヅルコト。愧赧。世說、雅量、上「人言二鬼可憎、果然、鬼赧愧而退」

だん-き（名）【暖氣煖氣】氣候ノアタタカナルコト。又、アタタカミ。禮記、月令「仲春之月、云云、行二夏令、則乃大旱、煖氣早來」張華詩「重衾無二暖氣、挾纊如懷冰」

だん-き（名）【彈機】ばね（彈機）ニ同ジ。

〰だん-ぎ（名）【團喜】くゎんぎだん（歡喜團）ニ同ジ。

だん-ぎ（名）【談義】（一）事ノ義理ヲ語ルコト。講釋。中御門宣胤卿記、文明十二年十月廿一日「今日於二禁裏一日本紀御談義、余俱參仕之」太平記、一、玄慧文談事「昌黎文集ノ談義ヲヤメテケリ」（二）淨土宗ニテ、其宗旨ヲ信者ニ說キ聞カスルコト。說教。說法。徒然草、六十段「盛親僧都、云云、談義ノ座ニテモ」

ダン-ぎ（名）【檀木】せんだんのき（梅檀樹）ノ略。其條ヲ見ヨ。

タンキイ（名）【蜑虬】〔字ノ支那音〕臺灣土人ノ間ニ、巫女ノ如キモノノ稱。

たん-きう（名）【探求】タヅネモトムルコト。サガシモトムルコト。孫資別傳「割二大衆、舉二大事、云云、且於二探求一稱一廣」

たん-きう（名）【探究】タヅネキハムルコト。元行沖、釋疑「雖レ存二探究、咨謀靡レ所」

だん-ぎ-ばう（名）【談義坊】（一）杜父魚ノ類。東京ニテ、だぼはぜ。彥根ニテ、どぼ。京都ニテ、小兒、水鉢ナドニ放チテ玩トス。ダンギバウズ。（二）凡僧ノ經ヲモ見ズニ話スヲ、水ニ放スノ諺語。油糟（松永貞德）「水ノ中ニモ、智音ハアリケリ、談ノ魚ニ、敎化ヲスルヤ、談義坊」

だん-ぎ-ばうず（名）【談義坊主】（一）前條ノ（一）ニ同ジ。（京都方言）嬉遊笑覽、十二、漁獵「大倭本草、杜父魚ノ條ニ、京師ノ方言ニ、だんき坊主トイフ魚アリ、杜父魚ニ似テ、其形、背高ク、是亦杜父魚ノ類ナリ」（二）談義ヲスル僧。談義僧。說敎師

たんき-ぼし（名）〔運氣星ノ誤カト〕星ノ名。なぎなたぼし（長刀星）ニ同ジ。大日本王代記（延寶）百九、太上皇帝、元和五年「たんきぼし出ル、なぎなたぼしト云フ」

だんぎ-まゐり（名）【談義詣】寺院ニ參詣シテ、說法ヲ聽クコト。浮世親仁形氣（享保、自笑等）四「ヨロヅノ事ヲ御子息ニマカセテ、チトだんぎまゐりデモナサレ」

だん-きん（名）【斷金】〔だヲ清ミ、きヲ濁ルヲ讀癖トス〕（一）契約ノ堅キニ云フ語。交際ノ親睦ナルコト。易經、繫辭、上傳「二人同レ心、其利斷レ金」晉書、簡文帝紀「協レ契斷レ金」推古紀、廿九年二月「我雖二異國一心在二斷金二」（二）十二律ノ一。次次條ニ同ジ。

だん-きん（名）【彈琴】コトヲヒクコト。禮記、檀弓、上篇「孔子既祥五日、彈レ琴而不レ成レ聲」

だん-ぎん（名）【斷吟】十二律ノ一。ぢふにりつ（十二律）ノ條ヲ見ヨ。

だん-ぎょ（名）【團魚】すっぽん（鼈）ノ條ノ

(一)ニ同ジ。 嬉遊笑覽、或問附錄「毬ヲ丸ト與名ヲ附ケテ呼ブ、濵名ニモ團魚ト云フト等シ」丸濮韓湯ハ文化、喜多村信節ニ「毬ハ土器ニテ、今ナ、ほんト云フモノ也、團魚ト云ヘルモ、コノ物ノ一名也」

たん-きょう (名) |端拱| (一)端然トシテ、兩手ヲ拱クコト。 南史、王球傳「球終日端拱、未ニ嘗相往來ニ」 (二)轉ジテ、人君ガ無爲ニシテ、天下ヲ治ムルコト。 垂拱 隋煬帝詩「端拱朝ニ萬國ハ守文饗ニ百王ニ」

たん-きょく (名) |丹棘| 〔詩詁ニ「棘、云云、木堅、色赤」トアルヨリ、ソノ丹キ心ニ因ム〕 赤キ心。マゴコロ。丹心。赤心。 太平記、十七、山門牒送ニ南都ニ事「自ニ聚華北率ハ抽ニ丹棘於中庭ハ專祈ニ寶祚之長久ニ」

たん-きり-あめ (名) |痰切飴| 固飴ヲ引キ延ベテ、五七分ニ切レルモノ。痰ヲ治スル效アリトゾ。

たん-きり-まめ (名) |痰切豆| 黑豆ノ類。野生ニシテ甚ダ小サキモノ。苗モ小サクシテ、末ハ蔓トナル。痰ヲ治ストテ名アリ。一名、ウヰラウマメ。 穭豆 大和本草、四、穀類、「大豆ニ穭豆、たんきり豆ト云フ、野豆也、三葉アリ、ほどノ葉ニ似テ蔓生ス、野ニ多シ、其子ハ黑大豆ノ如クニシテ小ナリ」 和漢三才圖會、百四、菽豆類「穭豆、小黑豆、俗云ニ痰切豆ニ」

たむ・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) |手向| 〔手ニ捧ゲテ供フレバ云フトゾ。コレ多クハ、山、又ハ津ニテ、さへの神、道の神へ、我ガ旅行ノ恙ナカラムコト祈ルニナス〕 (一)神佛ニ奉ル。 獻 (幣物ヲ) 夫木抄、十三、秋「立田山、神ノ御衣ニ、たむ……ヤ、錦行ク秋ノ、錦織ルラム」 因果物語(鈴木正三)上、死シテ二七日ニナレドモ、火ヲトボシ香華ヲ手向くる者ナシ」 (二)旅立ツ人ニ餞ス。 餞 (行ク路ノ神ニ、手向クベキ料ニ贈ルヨリ轉ズ) 新古今集、十六、雜、上「老イヌトテ(モイ)、マタモ逢ハムト、行ク年ニ、涙ノ玉ヲ、たむけツル哉」

たん-く (名) |短軀| タケノヒクキカラダ。ヒクキセイ。 矮軀

タンク (名) 〔英語、Tank.〕 (一)瓦斯、石油ナドヲ貯ヘ置ク大イナル槽。「瓦斯たんく」石油たんく」 (二)裝甲自動車ノ一。箱形ノ車ニ完全ニ裝甲シ、無限軌條ヲ設ケ、數門ノ火砲ヲ備ヘ、數人ノ兵士ガ乘リ込ミテ、敵ノ障礙物ヲ突破シ、ソノ陣地ヲ蹂躙スルモノ。歐洲大戰ノ際、即チ西紀千九百十六年、英國軍隊ノ使用シ始メシモノナリ。裝甲車。戰車。

だん-ぐう (名) |彈弓| 竹弦ヲシテ丸ヲ飛ス弓。射鳥ノ具ト。 倭名抄、十三ヶ征戰具「彈弓、俗音、以宮、敢、丸弓也」名義抄「彈弓、タンクウ」

タングステン (名) 〔英語、Tungsten.〕 (一)金屬鑛物ノ名。たんぐすてん鑛中ニ含マレテ產ズ。鋼色ノ光澤アリ、硬クシテ熔解シ難ク、電燈ノ線條トシテ賞用セラレ、又、ソノ少量ヲ鋼ニ加ヘテ、ソノ硬サヲ增シ、殊ニ銃砲身ノ製造ニ必要ノモノトス。從來ノ原料ニテハ、砲身、千發ノ壽ヲ保ツガ、コレヲ配合スレバ、二千發ノ壽ヲ保ツト云フ。化學名ハ、Wolfram. (二)次條ノ語ノ略。

タングステン-ランプ (名) 〔英語、Tungsten lamp.〕 電球ノ一種。たんぐすてんト云フ金屬線ヲ以テ、普通ノ炭素線ニ代ヘタルモノ。光、白熱ス。

たん-くゎ (名) |炭火| スミビ。 十八史略、一、[illegible]

たん-くゎ (名) |旦過| 〔タニ來リテ、翌朝、行キ過グル意〕 禪家ニテハ、たんぐットト云ヒ、行脚僧ノ、宿泊スルコト。 其處ヲ、旦過寮ト云フ。 謠曲、木賊「我レ等ガ私宅ハ旦過ニテ候、一夜ヲ明カシテ御通リ候ヘ」

たん-くゎい (名) |坦懷| 心樞リニミテ、少シノ、ワダカマリモナキコト。 宋書、[illegible]

たん-くゎう (名) |炭礦| 石炭ヲ礦物トシテ云フ稱。煤礦

たん-くゎう (名) |蛋黃| 卵ノキミ。卵黃。

たん-ぐゎん (名) |歎願| ナゲキテ、ネガフコト。哀願。

だん-ぐゎん (名) |彈丸| (一)ハジキ玉。又、テッパウダマ。 [illegible]

だん-ぐゎん-こく-し (名) |彈丸黑子| 〔彈丸ト黑子ノ如ク、狹キ地〕 少シバカリノ地。 [illegible]

たむけ (名) |手向| (一)手向クルコト。 [illegible] 「周防ナル、磐國山ヲ、越エム日ハ、手向好クセヨ、[illegible]」 [illegible] 「近江路ノ、逢坂山ニ、たむけシテ、我ガ越エ行ケバ」 夫木抄、三十四、神祇「三笠山、逢ツ宮居ノ、神サビテ、風ノミ花ノ、たむけヲゾスル」 (二)旅ノ餞。 [illegible] 神無月ノ朔日頃ニ下ル、女房ノ下ラムニトテ、たむけ、心コトニセサセ給フ」 (三)越エテ行ク山ノ、坂路ノ登リ果テタル處。 峠 (ソコニテ、神ニ手向ヲスレバ云フ)今、普便ニ、峠。 萬葉集、三、[illegible]佐保過ギテ、寧樂ノ手祭ニ、[illegible]幣ハ、妹ヲ目離レズ、相見シメトゾ」同、十五、[illegible]ミト、告ゲズアリシヲ、ミ越路ノ、[illegible]立チテ、妹ガ名告リツ」

たむけ (名) |手治| 〔たハ、發語〕 手ヅカラ治ムルコト。 [illegible] 「[illegible]原ノ、瑞穗ノ國ニ、たむけストト、[illegible]」

ダン-け (名) |檀家| (一)其寺ニ屬キタル[illegible]。 (二)[illegible]

たん-けい (名) |短檠| 燈臺ノ短ク低キモノ。其長ク高キモノヲ、高檠、長檠ナドト云フ。 貞丈雜記、八、調度部「短檠ト云フハ、燈臺ノ短キヲ云フナリ、長キヲバ長檠ト云ヒ」[illegible]

たん-けい (名) |端溪| [illegible] 硯ノ名石。[illegible] 唐宋時代ニハ、專ラ硯ニ作リテ、[illegible] 質、極メテ緻密ナリ、水ヲ蓄ノルコト、數日ニシテ乾カズ。 端硯 [illegible]

たん-けい (名) |端倪| 〔莊子、大宗師篇、[illegible]〕 [illegible] 推測スルコト。ハカリシルコト。 [illegible]

鬼神ハ不レ可ニ端倪一」

〜たむけ-ぐさ (名) 手向種 手向ニスル品。 萬葉集、十三、長歌「ヲトメラニ、アフサカ山ニ、手向草、幣トリオキテ、ワギモコニ」 新古今集、十三、戀「逢事ヲ、ケフ松ケ枝ノ、手向草、イクヨシヲルル、袖トカハ知ル」

たん-げつ (名) 端月 〔秦始皇ノ諱、政(政ハ、正ト音同ジ)ヲ憚リテ端ト唱ヘシト〕 正月ノ異名。 玉燭寶典「秦避レ諱、謂ニ正月一爲ニ端月一」 歳華紀麗譜「元、貫著「位正ニ元陽一、氣和ニ端月一」

だん-けつ (名) 團結 團體ヲ結ブコト。又、同志ノ人人ノ組合。 正字通「團、結共事曰レ社」 唐代紀「與ニ義士人一、謂ニ之團結一」

だん-けつ (名) 斷決 トリキムルコト。確ト定ムルコト。サバクコト。決斷。 後漢書、馮異傳「時以ニ私心一斷決、未ニ嘗不レ有レ悔」

〜たむけ-の-かみ (名) 手向神 道ノ山嶺ナドニアリテ、行ク人ノ幣ヲ手向クル神。道祖神。サヘノカミ。 倭名抄、二十神靈類「道神、太無介乃加美」 萬葉集、十七、長歌「礪波山、多牟氣能可味ニ、幣マツリ」 源、十五、蓬生「玉カヅラ、タエテモヤマジ、ユク道ノ、たむけのかみモ、カケテチカハン」 河海抄「道祖神、世俗號ニ佐部乃神一、又云、手向神」 今昔物語、十九、第十二語「闇ニ坂ト云フ所ニ道祖神アリケリ」

たむけ-の-みづ (名) 手向水 佛ニ供スル水。閼伽。 因果物語(鈴木正三)上「何寺ヘナリト行當リ次第ニ、手向の水ヲ受ク可キナリト」

たん-けん (名) 探險 危險ヲ冒シテ、探リ索ムルコト。

たん-けん (名) 探檢 〔英語、Exploration.ノ支那譯語〕 (一)サグリ、シラブルコト。(二)前條ノ語ト同ジク用キル。

たん-けん (名) 短見 アサハカナル見識。目前ノ考へ。淺見。 張融、與ニ豫章王一牋「陋短見、深有ニ慙矣一」

たん-けん (名) 短劍 ミジカキツルギ。アヒクチ。匕首。 劇談錄(唐、康駢)「抽ニ短劍一」

たん-けん (名) 端硯 支那、廣東省ノ端溪ヨリ出ヅル硯。たんけい(端溪)ノ條ヲモ見ヨ。 華夷通商考(元祿、西川忠英)二「廣東省土産、端硯、肇慶州ノ端溪ヨリ出ル硯石ナリ」 古硯考「端硯、宋時假以惑レ人」

たん-げん (名) 端嚴 正シクシテ嚴カナルコト。 舊唐書、韋陟傳「敦敏直方、端嚴峻整」

だん-げん (名) 斷言 確ト言フコト。イヒキルコト。「斷言シテ憚ラズ」

だん-げん (名) 斷絃 (一)琴ナドノ絲ノ切ルルコト。元稹詩「孤琴在ニ幽匣一、時迸斷絃聲」 (二)〔絃ハ琴瑟ノ絃、琴瑟ハ詩經、周南、關雎篇ノ文句(琴瑟ノ條ノ例ヲ見ヨ)ヨリ、夫婦ノ義トス〕 絃ノ斷絶スル意ヨリ、妻ニ死別スルコトニ喩フ。(再娶ヲ、續絃ト云フニ對ス)

〜たむ-ける (動) たむく(手向)ノ口語。

たん-こ (名) 短古 こし(古詩)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

たん-こ (名) 短袴 ミジカキハカマ。 隨都剌詩「催租縣吏夜打レ門、荊釵布裙夫短袴」

たん-こ (名) 淡湖 〔鹹湖ニ對ス〕 淡水ノ湖。淡水湖。ミヅウミ。

たん-ご (名) 端午 〔風土記「端午、註、端、始也」韻會「説文、午、啎也、五月陰氣午逆、陽冒レ地而出、此矛矢同意、徐云、人爲レ陽、一爲レ地、地爲ニ陰氣一、貫レ地午ニ逆陽一也、五月陽極陰生、午者正衡レ之也」拾遺記「端午之午字、非ニ十二支之中之午義一、只逆義也」歳時記「京師人、以ニ一日一爲ニ端一日一、端二日、端三日、端四日、端五日、共同」(滑稽雜談、九)ト見エタレバ、初五ノ義ナリ〕 五節句ノ一。五月五日ナリ、重五トモ云フ。菖蒲、粽ナドヲ節物トス。俗間ニテハ、男子ノ節句トシ、鯉幟、甲、冑、刀、軍人形ナド飾リ、粽、柏餅ヲ食フ。端五。端陽節 類書纂要「五月初五爲ニ端午一」 太平記、廿四、朝儀年中行事「五月ニハ、云云、五日ハ端午ノ祭」 孝經樓漫筆(嘉永、山本北山)一「端午、かざりちまき、拾遺集、雜賀ノ部ニ、五月五日、小キカザリチマキヲ山スゲノ籠ニ入レテ、云云」 旨原の句「釣塀モ、藁人形モ、端午カナ」

たん-ご (名) 單語 一箇ノ言。單一ノことば。例へバ、人、馬、こころ、ナドノ類。

だん-ご (名) 團子 〔團喜(歡喜團)ノ條ヲ見ヨ〕ノ轉ナルベシ。或ハ、粉團ハ、形ノ團キ故ニ號ケシト云フ説ハ非ナリ、云云、字典ニ、團ハ聚也、集也ト云ヒ、米麥ノ粉ノ、ネリ團シ故、たんごト云ノト(愚雜俎、二)〕 (一)米ノ粉ヲ水ニ捏ネテ、搏メテ丸トシタルモノ。蒸シテ食フ。イシイシ。糕。粢。團餌(異苑) 又、數箇、串ニ貫キテ、醬油ニテ附燒ニシ、或ハ、餡、きなこナド塗シテモ食フ。 類聚往來「團粉、ダンゴ」 運歩色葉集「團粉、ダンゴ」 俳諧の發句(紹巴)「花ヨリハ、だんごト誰カ、イハッツジ」 (二)銃丸。(團子火矢ナド) 銃丸

たん-こう (名) 單勾 文字ノ執筆法ノ一。さうこう(雙勾)ノ條ヲ見ヨ。

たん-こう (名) 淡紅 うすくれなゐ(薄紅)ニ同ジ。 韋莊詩「淡紅香白一羣花」

たん-こう (名) 鍛工 金屬ヲ鍛フ職工。カヂヤ。 南史、侯景傳「謂ニ東冶鍛工一、欲ニ更營造一」

だん-こう (名) 斷口 (一)キリクチ。キレクチ。(二)鑛物ノ、不規則ニ割レタル裂口。

だん-こく (名) 暖國 氣候ノ暖キ國。

だん-ごく (名) 斷獄 罪狀ヲ判決スルコト。又、死罪ノコト。斷罪。 漢書、文帝紀、「贊、斷獄數百、幾致ニ刑措一」

たんご-じま (名) 丹後縞 丹後國、與謝郡邊ヨリ産出スル縞織物。多クハ紬ナリ。 萬金産業袋(享保、三宅也來)四「丹後島、京織幅九寸五分、丈五丈六尺位、黒地多シ、アルヒハ茶地ニシテ、島絲多クハ朽葉色也、モエギ絲ナドモ入ル」

たんご-ちりめん (名) 丹後縮緬 丹後國、與謝郡、峯山町附近ヨリ産出スル縮緬。享保ノ頃、峯山ノ絹屋佐平治(一説ニ、加悦町ノ牛米屋千右衛門、又ハ、三河内村ノ山本屋佐兵衛)、京都ノ織法ヲ傳ヘシモノト云フ。

たんご-つむぎ (名) 丹後紬 紬ノ一種。丹後國、與謝郡、岩瀧村(今ハ町)ヨリ産出スルモノ。 蜷川記(天文、蜷川親俊)「つむぎノ事、紋ヲ附ケ候ウテ染メタルハ、御前へモ不レ苦候、丹後紬トテ變事有ル間敷ク候」

だんこ-と (副) 斷乎 決定シテ。思ヒ切リテ。斷然。「斷乎とシテ行フ」

だんご-とり (名) 團子取 〔談合取ナラム〕 土木請負ナドノ入札者ガ、數人申合ハセ、一人ニ落札サセテ、其利益ノ内ヲ、他ニ分配セシムルコト。

だんご-ばな (名) 團子鼻 人ノ鼻ノ先、團子ノ如ク圓キ形シタルモノ。

〜だんご-びや (名) 團子火矢 〔丸、團子ノ如クナレバ云フ〕 中世、鳥銃ノ一稱。

小銃。銃

⁂たん-あふ (名) あふ(瘂)ト云フニ同ジ。

たん-ごん (名) [端嚴] 佛教ニテ、莊飾ノ、正シク嚴ナルコト。 [illegible]「金山ハ端嚴甚微妙」

だん-こん (名) [男根] なんこん(男根)ニ同ジ。いんきやう(陰莖)ノ條ヲ見ヨ。

だん-こん (名) [斷魂] (魂ヲ斷チ切ル程、悲シキ意) 悲シク哀レナル情ノ切ナルコト。カナシミニタヘヌコト。斷腸。 [illegible]「自、是春愁正斷魂」

たん-さ (名) [丹砂] あんあや(辰砂)ニ同ジ。支那ニ、仙術アリテ、コレヲ煉ルコト數返シテ白銀トシ、九返シテ黄金トス、人コレヲ服スレバ、精神ヲ養ヒ、魂魄ヲ安ンズナド云フ。 抱朴子、內篇、四、金丹「丹砂燒ケ之成ニ水銀、積變又還成ニ丹砂、其去ニ凡草木ニ亦遠矣、故能令ニ人長生ニ」

たん-さ (名) [探査] [探索調査ノ略] サグリ、シラブルコト。

たん-ざ (名) [端坐] 行儀正シク坐スルコト。正坐。 北史、高[illegible]「[illegible]端坐[illegible]」 [illegible]「端坐念ニ實相ニ」

だん-ざ (名) [團坐] マドヰ。圓坐。 文獻通考、[illegible]「[illegible]」

たん-さい (名) [短才] 劣レル才。足ラヌ智慧。 [illegible]「[illegible]短才ニ」

たん-さい (名) [淡菜] イガヒ。ニタリガヒ。いがひ(貽貝)ノ條ノ出典ヲ見ヨ。

だん-ざい (名) [斷罪] ざんざい(斬罪)ニ同ジ。死罪ノ條ヲ見ヨ。 太平記、廿一、佐渡判官流刑事「アハレ斷罪流刑ニモ行ハセバヤ」

たん-さう (名) [淡粧] うすげあやう(薄假粧) ニ同ジ。 [illegible]「淡粧濃抹、兩総相宜」

たん-さう (名) [端莊] 端正ニシテ、莊嚴ナルコト。タダシク、オゴソカナルコト。 [illegible]「[illegible]端莊」

だん-さう (名) [男裝] [女裝ニ對ス] 女子ガ、殊更ニ男子ノ風ヲ裝フコト。

たん-さく (名) [探索] (一)サグリモトムルコト。タヅネサガスコト。 [illegible]「探索[illegible]以定ニ天下之吉凶ニ」 (二)罪人ノ行方、罪狀ナドヲサグルコト。「探索掛」

たん-ざく (名) [短籍短冊短尺] (一)木、又ハ、紙ノ小札ニ、物ノ題名、目錄ナドヲ書キテ、種種ノ用トセシモノ。タンジャク。タザク。 三代實錄、廿七、貞觀十七年四月七日「[illegible]文武官[illegible]短籍ニ」 [illegible]「[illegible]」 三代實錄、三十五、元慶三年四月七日「式部兵部[illegible]短冊ニ」 江家次第、四「[illegible]」 北山抄、六「[illegible]」 [illegible]字[illegible]短冊一作尺、短尺、[illegible] [illegible]「何ノ御短冊ニカ侍ラム、物イクラバカリニカ、ト云ヘバ、マヅ讀メカシ」 明月記、文[illegible]年九月一日「短冊一枚、[illegible]十一口」 (二)ひねりぶみ(短籍)ニ同ジ。 (三)和歌ヲ書ス料ノ紙、普通ハ、厚キ紙ヲ、竪、一尺一寸五分、幅一寸八分ニ裁ツ。(和歌深祕抄ニヨレバ、長サ一尺、廣サ一寸八分、定家流ハ、長サ一尺二寸、廣サ一寸二分、家隆風ハ、長サ一尺三寸、廣サ一寸三分、其他、種種アリ。現今ハ、長サ一尺二寸、幅二寸ノモノヲ多ク用キル)多クハ、面ニ[illegible]ヲ施シ、或ハ、金銀ノ箔ナドオク。タンジャク。 [illegible]「[illegible]」 [illegible]レバ、短冊、[illegible]ニ、[illegible]テ、[illegible]ノ[illegible]篇ニ、題ヲ見レバ短尺ヲ附ラレタリト作リシヲ、[illegible]キナラヒテ、[illegible]ノ比モ有リシモノノヤウニ思フ者多シ、[illegible] [illegible]師ト、兩人ノ作ナリトイフ、云云、如ニ此ナレバ、後[illegible]ノ比ヨリ[illegible] [illegible]段「古人ノ短冊ニ、細字ニ書キタルハタエテ無シ、云云、太ク書クコト故實ナリ、近頃ノ古學者、短冊ヲイト細ク書クハ、故實ニカナハズ」 北窻瑣談(橘南谿)三「短冊寸法、貴人ハ長サ一尺一寸八分、幅二寸、平人ハ長サ一尺一寸五分、幅一寸八分」

たんざく-きり (名) [短冊切] 昔、五山ノ僧ノ詩會ノ稱。引合紙ヲ廣ゲテ短冊ニ切リタルヲ、三枚ヅツ一座ノ人人ニ配布シ、所定ノ題ニテ、各、之ニ作詩ヲ記シ、一座ニ回覽ス。終リテ酒宴ニ移リ、亂舞、夜ニ入ルトイフ。(翁草、五)

⁂たむ-ざけ (名) [甜酒] [ためざけノ音便、多米ノ條ヲ見ヨ] 味旨キ酒。 [illegible]、十六「[illegible]」 [illegible]「[illegible]」

たん-さん (名) [炭酸] 化學ノ語。炭酸[illegible]ト水トノ化合物ヲ云フ。炭素ト酸素ト水素トヨリ成ル。

たん-ざん (名) [炭山] 石炭ノ出ヅル山。炭坑山。[illegible]

たん-さん-ガス (名) [炭酸瓦斯] [瓦斯ハ、英語、Gasノ音譯] 化學ノ語。[illegible]炭素ト酸素トノ化合物、[illegible]。シテ、清涼飲料水ノ製造ナドニ用ヰル。[illegible]

たん-さん-ソウダ (名) [炭酸曹達] [曹達ハ、英語、Sodaノ音譯] 食鹽ヨリ、製出セル白キ粉ノ[illegible]、結晶シテ、無色透明ナルモノ。[illegible]ニ用ヰ、又、[illegible]硝子、[illegible]ニ用ヰ、又、藥用、化學用トス。學名ハ、炭酸ナトリウム。略シテ、曹達。

たん-さん-ナトリウム (名) [炭酸曹達] [曹達ハ、英語、Natriumノ[illegible]] 前條ノ語ニ同ジ。

たむ-し (名) [田蟲] (一)田ニ發生シテ稻ヲ害スル蟲類。 [illegible]「[illegible]ハヤツル、卯月八日ハ、吉日ヨ、かみさけむしヲ、成敗ゾスル、トイフ歌ハ、田蟲ヲ禁フ歌ニテ、二月八日ニ[illegible]ヨリ出ル呪也トイフ說アリ(卯月ハ二月、かみさけハ神作也)」 (二)[illegible]ノ狀、田ニ蟲ノ入リタルガ如クナレバ云フトゾ] 古ク、錢[illegible]一種ノ[illegible]ニ生ジ、[illegible]痘ヲ生ジ、後ニ[illegible]ノ如キアリサマトナリ、甚シク痒シ。陰部ナルヲ、いんきんたむしト云フ。[illegible]

たん-ち (名) [竹[illegible]] 竹器ニ人レタル飯。[illegible]マノアタリニ[illegible]ルハイカニ」 [illegible]

たん-ち (名) [短[illegible]] ミジカキコトバ。[illegible] [illegible]之[illegible]

⁂たん-ち (名) [[illegible]] 古ク、[illegible]ノカ[illegible]ノ一種。上品ナル。

出デテ、激シク咳ソスル病氣。[illegible]六十九、四[illegible]、採[illegible]ノ[illegible]、[illegible]クシ[illegible]、[illegible]キタルニ、[illegible]、[illegible]ノカケホシヲ當分ニ合セ煎ジ、湯茶ノ如ク頻ニ用レバ必ズ驗アリ」

たん-せき (名) 儋石 〔儋、正韻「音擔、負也」史記、貨殖傳、注「一儋、兩甖也」通雅「一石爲レ石、再石(二石)爲レ儋」〕 米穀ノ僅カナル量。轉ジテ、イササカナルコト。漢書、揚雄傳「家產不レ過二十金一、家無二儋石之儲一、晏如也」「儋石ノ祿」

たん-せき (名) 袒裼 〔儀禮、鄕射禮篇、注「袒、左免レ衣也」詩話、去二上衣一曰レ裼」〕 衣ヲ脫ギテ、肌ヲスグコト。孟子、[illegible]「[illegible]袒裼[illegible]於我側[illegible]」

たんせき-びやう (名) 膽石病 膽囊ノ中ニ膽汁色素、石灰質ナドノ、各種ノ成分凝固シテ、一種ノ石トナリ、體內ノ變調ニ連レテ、急性發作ヲ起スモノ。初、心窩ノ部ニ激痛ヲ覺エ、背ニ及ビ、發熱シ、惡心ヲ催シ、進ミテ黃疸トナル。石ガ膽道ヲ流出スレバ、痛ミ止ムト。膽石症

たん-せつ (名) 短折 〔書經、洪範篇「六極、一曰、凶短折」疏「未レ齓曰レ凶、未レ冠曰レ短、未レ昏曰レ折」〕 ワカジニ。夭折。

だん-せつ (名) 斷截 タチキルコト。截斷。[illegible]

だん-ぜつ (名) 斷絕 キレタユルコト。又、タチキルコト。[illegible]漢書、王符傳「[illegible]、不レ能[illegible]何也」

たん-せん (名) 段錢 武家ノ田地、一段ニ就キテ、幾何ト云フ租稅ヲ課スルモノ。應仁記、上「土民百姓ニ課役ヲカケ、たん錢棟別ヲ色色ノ[illegible]ヲ[illegible]ヘテ[illegible]スレバ、[illegible]ノ名主百姓ハ耕作ヲシ得ズ」花營三代記、上「諸國段錢、洛中邊土、土[illegible]三十貫、[illegible]百文」親元日記、寬正六年八月「[illegible]、[illegible]伊[illegible]段錢事、一段別拾疋宛、令レ支二配之一」貞丈雜記、十五、鳥目類「段錢トイフコト舊記ニアリ、(段ノ字、濁ミテ讀ムベシ、云云)凡[illegible]往來ニ、[illegible]小名田ハ[illegible]分莫大之段錢天役ニ事、難澁之次第也トアリ、云云、段ハ段町ノ段ナリ、田一段ニ付キテ、錢何程ト割リ付ケテ取ルヲイフナリ、今時ノ高割ニ同ジ事ナリ」

たん-ぜん (名) 丹前 〔丹前ノ語原、丹前姿ノ條ヲ見ヨ〕 (一)男達風ノ服裝。厚ク綿入レタル廣袖 モノニテ、羽織ノ類ノモノ。常ノ衣服ヨリハ大形ニ、掛襟ハ、男ハ黑八丈、女ハ黑天鵞絨、又ハ、黑繻子ナドヲ用キル。ドテラ。理非鑑(寬文)下「當世ノ若キ人人ノ衣紋ツクロヒ身ヲカサルコト、云云、皆好色ノ爲ナラズヤ、云云、たんぜん風トヤラン、勝山風トヤラン云フテ、刀、脇差、月代マデモ、古ニチガヒテセラルルト見エタリ」守貞漫稿、十三、男服、中「丹前、京坂ノ服名、どてら、江戶ノ服名也、共ニ下民ノ略服也、云云、丹前ハ竊紬、或ハ竊木綿ヲ專トス、染形モ稀ニ用レ之、又男女トモニ着レ之、芝居ノ服也、裏、竊絹、或ハ竊木綿、男用ハ黑八丈ヲ專ノ掛襟、婦女ハ黑ノ天鵞絨ヲ專トス」 (二)芝居ニ、立變ノ變ノ稱。(六法組ノ旗本奴、町奴ナド、丹前風呂ニ通フ者、立髮ナド異風ヲナシ、六法ヲ蹈ミテ徘徊セシカバ、コレヲ丹前六法風ト呼ビタリ、芝居ニ丹前風トテ學ブト) (三)轉ジテ、役者ノ稱。寫本、洞房語園「多門庄左衞門(初代、明曆萬治ノ頃)ト云フ芝居者モ、勝山ガ風ヲマネシ故、丹前ノ名ハ此勝山ヨリ始ル」 昔昔物語(享保)丹前の[illegible]呂「此[illegible]呂屋ヘ通フ者ノ風俗ヲ移シタルガ、丹前トテ[illegible]ノ異名トナレリ、丹前ニ來ルヘト云フニテ、丹後殿前ト云フ心ナリ、何ニテモ伊達道具ヲ丹前ト云フ、是ヨリノ事ナルベシ」

たん-ぜん (副) 赧然 慚ヂ入リテ、赤キ顏色ヲナス狀ニ云フ語。赧赧然。

たん-ぜん (副) 湛然 (一)水ナドノ、十分ニタタヘタル狀ニ云フ語。蘇軾詩「湛然如二古井一、終歲不二復潮一」 (二)深クシテ靜カナル狀、オチツキテ重ミアル狀ニ云フ語。

たん-ぜん (副) 淡然澹然 モノノ、アッサリトシタル狀ニ云フ語。淡如。澹如。李白詩「天地皆得レ一、澹然四海清」

だん-せん (名) 團扇 (一)ウチハ。晉書、樂志「捉二白團扇一」 (二)玉珧ノはしら。たひらぎ(玉珧)ノ條ヲ見ヨ。

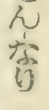
だん-せん (名) 斷線 線ノ切ルルコト。特ニ電車ノ架空線、電線(電話線、電信線、電燈線ナド)ノ切レタルヲ云フ語。

だん-ぜん (副) 斷然 決定シテ オシキッテ。思ヒ切ッテ。敢然。

たんぜん-おび (名) 丹前帶 幅廣キ帶。腰ニ絡ヒ、又、前ニ廻ハシテ、骨牌結ニス。天和笑委集、八、上野花見「腰ニ餘レル丹前帶、ウシロニキリリト引キマハシ、吉彌ヤウニ結ブモアリ、前ニマハシテ、カルタムスビニシケルモアリ」同、十一、八百屋お七「橫幅廣キ丹前帶、ウシロニマハシテ吉彌結」

たんぜん-すがた (名) 丹前姿 〔昔、江戶、神田、松平丹後守上屋敷前ニ、町屋風呂アリテ湯女居リ、其遊客ヲ、異名ニ丹前ニカカル人ト云ヘルニ起ル。丹後殿前ノ意〕 昔、江戶ノ遊治郎、又ハ、遊俠ノ間ニ流行セシ一種ノ風俗ノ稱。後ニハ、コレガ歌舞伎狂言、小唄ナドニ移リテ、丹前立變、丹前節ナド起ルニ至レリ。丹前風。

たんぜん-と (副) 端然 行儀ナドノ、整ヒテ、正シキ狀ニ云フ語。

だんせん-なり (名) 團扇形 ノ如キ形。昔ハ團扇ノ形、皆此ノ如シト。嬉遊笑覽、二、中、器用「團扇形ト云フ、今ノ酒瓢ノ形ニ似タリ、今ノ團扇ニ此形ナシ、古畫ヲ見ルニ、寬文、正保ノ頃モ、團扇ハ皆だんせんなりトイフモノナリ」

たんぜん-ふう (名) 丹前風 たんぜんすがた(丹前姿)ニ同ジ。嬉遊笑覽、九、娼妓「丹前風ト申スハ、江戶ニテ、丹後殿前ニ風呂アリシ時、勝山トイヘル女、スグレテ情モ深ク、髮形、トリナリ、袖口廣ク、ツマ高ク、ヨロヅニ付ケテ、世ノ人ニカハリテ、一流コレヨリ始テ、後ハモテハヤシテ、吉原ニ出世シテ、例ナキ女ナリト」守貞漫稿、八、男扮「[illegible]ニ元禄多ク化立テ、五分月代ニテ、[illegible]ヲ拔キタルハ、俠客風ニテ、俗ニ丹前風ト云ヒシナリ、云云、今モ[illegible]場、名古屋山三、不破伴左衞門トイフニ扮スル者、必ズ如レ此也」

たんぜん-ぶし (名) 丹前節 丹前ノ桔梗風呂ノ風呂屋女吉野ト云フガ、唄ヒ始メシモノ。(色道大鑑) 東海道名所記(萬治)「二、歌比丘尼「たんぜんトカヤイフ曲節ナリトテ、タダあああと長タラシクヒキヅリタルバカリナリ」 好色三代男(貞享、西鶴)二「昔ノかつ山、芝がき節ノ唱歌ニ、勝山ガ小歌ニウタヒシ頃、云云、芝がきト云フ同「此頃ハたんぜんぶしヲ道中ニモウタヒツレ」 事ヲ作リ入レシユヱ、丹前節トイフニヤアラン」

たんぜん-ぶろ (名) 丹前風呂 〔丹後殿ノ前ノ風呂ノ略〕 德川時代ニ、江戶、神田(本名ハ、神田四軒町、今ノ雉子町ノ西) 松平丹後守邸ノ前ニアリシ町風呂ノ名。容色勝レタル勝山ナドト云フ湯女ヲ多ク抱ヘ、浴客ノ垢ヲ搔キ、髮ヲ洗ハセ、席ニ侍ラセナドシテ、非常ニ繁昌セシモ、良風ヲ害スルトテ、明曆三年、禁止セラル。

たん-そ (名) 炭素 化學ノ語。元素ノ一。結晶ノモノト、無定形ノモノトアリ、遊

離シ、又ハ、化合物トナリテ、廣ク自然界ニ存シ、動植物ノ體中ニ必須ナルモノ。大氣中ニテ燃セバ、炭酸瓦斯トナル。金剛石、石墨、石炭、木炭等ニハ、最モ多ク含マル。

だん-そう (名) 斷層 地殼ノ割目ニ沿ヒテ、地盤ニ喰違ヲ生ズルコト。又、其喰違。喰違ヒタル面ヲ、斷層面ト云ヒ、喰違ヲ生ズル際ニ起ル地震ヲ、斷層地震ト云フ。

だん-そう (名) 彈奏 (一)彈劾シ、奏聞スルコト。晉書、劉毅傳「[illegible]」(二)琴、三味線ノ類ヲ、彈キ奏ヅルコト。

たん-そく (名) 歎息 歎キテ、溜息スルコト。禮記、祭義篇「愾然必有聞乎其歎息之聲」

たん-そく (名) 短息 周旋スルコト。盡力スルコト。(慶長頃ノ用語)

だん-ぞく (名) 斷續 きれるトつづくト。又、キレタリ、ツヅイタリスルコト。唐太宗詩「哀笳時斷續、悲旌乍卷舒」虞世南、琵琶賦「[illegible]」

たんそく-し (名) 歎息詞 かんどうし(感動詞)ニ同ジ。

たん-そこ (名) 旦底 「旦ノ字ハ、底ハ一ナリノ義」(一)支那ノ數目ノ異名。横川ノ類トゾ。よこかは(横川)ノ條ヲモ見ヨ。(二)拳ノ語。一ヲ云フ。

ダンソン・ジョヒ だんそん-ぢょひ (句) 男尊女卑 社上ニテ、男女、權力ガ、不平等ニテ、男ハ女ヨリ權威アリ、因リテ女ハ男ニ屈服スルコト。列子、天瑞篇「男女之別、男尊女卑」孔子家語、六本篇「孔子問曰、先生所以樂者何也、對(曰)[illegible]」

[illegible]對曰、天生萬人、惟人爲貴、吾得爲人、一樂也、男尊女卑、吾得爲男、二樂也、人生有不免襁褓者、吾行年九十五矣、三樂也」

たん-たい (名) 單體 化學ニテ、二種以上ニ分ツベカラザル物體。げんそ(元素)ノ條ヲ見ヨ。

たん-だい (名) 探題 (一)内宴、重陽ノ宴ナドニテ、詩歌ヲ賦スル時、題ヲ探リテ分チ取ルコト。[illegible]「探題得[illegible]字」類聚名物考「探題、タムタイ、サクリアラハス」名目抄「探題、内宴重陽宴等時、探作文之事也、天台宗有此名目、其事太相違」後撰集、十八、雜、四「左大臣ノ家ニテ、カレコレ題をさぐりテ歌ヨミ侍リケルニ、露トイフ文字ヲ得侍リテ、云云」(二)鎌倉、北條氏ノ頃ニ、六波羅探題(京都)、中國探題(長門)、筑紫探題(筑前)、陸奧探題ナドアリテ、遠隔重要ノ地方ニ置ケル職名。其一地方ノ事ヲ奉行シ、訴訟成敗ヲ掌リ、外寇ナドノ鎭トス。大和事始、二、官位「[illegible]代北條ノ御時、北條貞時、始テ北條兼時ヲ六波羅ヨリ筑紫ニ遣シ、鎭西ノ探題トシ、西國ノ[illegible]リ、異賊ノオサヘトス、又一族ノ内、一人ヲ長門ノ探題トシ、中國ノ事ヲ掌ラシム、是レ探題職ノ始也」(三)佛家ニテ、法華會、又ハ、維摩會ナドノ時、論議ノ題ヲ出シ、其答辯ノ判定ヲスル役僧。江家次第、五、[illegible]「行狀[illegible]、五[illegible]判斷者アリテ、是ヲ謂ベラル、是ヲ題者ト稱シ、又探題ト云フ」[illegible]「探題ノ名義ハ、歌道ニ出ル歟、其人ヲ指シテハ、必ズ題者ト云フベシ、高座ニテハ精義者ト云フベシ」

だん-たい (名) 團體 目的ヲ共ニスル多人數ノ結合。ヒトムレ。クミ。

ダン-だい (名) [illegible] [illegible]ニ代用シタル敷物。[illegible]ノ條ヲ參照セヨ。江家次第、一、小朝拜「敷二色綾毯代二」

タン-トウ たん-たう (名) 短刀 刀ノ短クシテ小サキモノ。ミジカキ刀。ミジカガタナ。[illegible]、小刀。[illegible]但低視、[illegible]刀劍記、上「短刀ヲ耳クジリト唱ヘ[illegible]」

タン-トウ たん-たう (名) 擔當 ウケモツコト。ヒキウケ。擔任。「擔當人」

タン-ドウ たん-だう (名) 坦道 平カナル道路。坦途。[illegible]

ダン-ドウ だん-だう (名) 彈道 彈丸ノ通過スル道。發射シタル彈丸ノ發シテ行ク筋。

タントウ・チョクニュウ たんたう-ちょくにふ (句) 單刀直入 (一)他物ニ目モフレズ、一物ヲ當ノ敵トシ、千萬人ノ陣中ヘ、一刀ヲ揮ヒテ、直ニ突キ入ルコトニ云フ。[illegible] (二)文章、言論ナド、直ニ本題ニ說キ入ルニ喩フ。[illegible]

たむだ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 摑 [手ニテ身ヲ抱ク、意]兩手ヲ組ム。[illegible]ク。音便ニ、タンダク。[illegible]ク、テヲタムダク、ウタク、コマスク」新撰、タムダク」[illegible]、六[illegible]長[illegible]、[illegible]ク退リナバ、平ケク、吾ハ遊バム、手抱キテ、我ハ在サム」同、十九「[illegible]長歌「手抱テ、事ナキ御代ト」

たんだ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 摑 前條ノ語ニ同ジ。[illegible]、千引、人間ノ水、南ニ流レ、天上ノ星、北ニたんだく」[illegible]「手ヲたんだきナ[illegible]」

タンドウ たんだ・ふ・フル・フレ・[illegible] [illegible]ツネユク。[illegible]、此血ヲたんだへ、化生ノ[illegible]」

たん-たん (副) [illegible] 鼓、[illegible]、ホドノ打ツ音ニ[illegible]、[illegible]ノ語。[illegible]リ、岩打ツ音ハ、たんたんト鳴ル」

たん-たん (副) 淡淡 [illegible] モノゴトニ、アッサリトシタル狀ニ云フ語。[illegible]

たん-たん (副) 湛湛 水ナドノ、十分ニタタフル狀ニ云フ語。[illegible]

たん-たん (副) 潭潭 水ナドノ、深クナミナミタタフル狀ニ云フ語。[illegible]

たん-たん (副) 坦坦 平カナル狀ニ云フ語。[illegible]

たん-たん (副) [illegible] [illegible]

だん-だん (名) [illegible] [illegible]

[illegible]

たん-たん (副) [illegible] [illegible]

たん-たん [illegible]

たんたん-ぜん (副) [illegible] [illegible]

ダムダム-だん (名) [illegible] [illegible]

Dumdum bullet. 英領印度、かるかったノ附近ノだむだむ造兵廠ニテ、創製セシ故ニ云フ」銃彈ノ一種。普通ノ小銃彈ノ頭部、即チ藥莢ノ上ニ着キ居ル白銅ニテ包マレタル被套(中ニ鉛アリ)ノ尖端ヲ、少シ切リテ扁平トシタルモノ。人體ニ中リタル時、中ノ鉛、容易ニ突出シ、害ヲ大ナラシメ、傷口、六花形ニ開ク。慘害ノ甚シキモノトテ、萬國平和會議ニテ、嚴禁ヲ決議シタリ。

だんだん-づけ (名) 【段段附】 もぢりづけ(捩附)ニ同ジ。 嬉遊笑覽、三、書畫「同(享保)十年ノ頃、もちりトイフコト流行ル、字もちり、本もちりアリ、云云、先題ヲ出シ、一句ヲ附ル、一句ノ終ヲ又題ニシテ附ル、今ノ段段附ナリ」

だんだん-ゑ (名) 【段段壞】 刀劍ニテ、段段ニ切ルコト。又、刀劍ナドノ、段段ニ折ルルコト。 觀音經、普門品「彼所レ執刀杖、尋段段壞」文政の川柳「長芋ノ、疎忽タウジン、だんだんゑ」

だんだら-すぢ (名) 〔綟綟筋ノ訛カト云フ、綟ノ條ヲ見ヨ、或ハ、綟垂ノ訛カ〕 染模樣ナドニ、數筋ヲ、一筋ヅツ異ナル色ニ染メタルモノ。或ハ、幕ヲ、一幅ヅツ異ナリタル色ノ布ヲ以テ、縫ヒ列ネタルモノ。略シテ、だんだら。 竹齋物語(寛永、烏丸光廣)舟歌「御女郎衆達ノナリフリハ、肩ニ鹿ノ子ノだんだら筋」 東國太平記(寶永、杉原親清)十三「山口軍兵衞、黑段段ノ母衣ヲ掛ケ、一番乘ト名乘リテ、塀ヘ上リ」

たんち (名) 【探知】 樣子ヲサグリテ知ルコト。カギツクルコト。偵知。

たんち (名) 【丹墀】 〔墀ハ、宮殿階上ノ空地。支那、漢ノ代ニ、宮殿ノ階上ノ地ヲ、一面ニ、丹朱ニテ塗リカタメタルヨリ出ヅ〕 宮殿ノ階上。轉ジテ、宮殿ノ稱。赤墀。 張衡、西京賦「青瑣丹墀、刊層平堂」注「丹漆地、故稱ニ丹墀ニ」太平記、四、吳越軍事「冠佩瑲ニ丹墀月、堂上堂下如ニ再開花ニ」

だんち (名) 【暖地】 〔寒地ナドニ對ス〕 氣候ノアタタカナル土地。 吳融詩「自是孤根非ニ暖地ニ、莫レ驚他木耐ニ秋風ニ」

たんちゃ (名) 【磚茶】 〔正字通「磚、俗甎」正音せん。たんハ慣用音〕 綠茶、又ハ、紅茶ヲ、板狀ニ固メテ製シタルモノ。削リテ飲料ニ供ス、專ラ西比利亞、蒙古地方ニテ用キラル。

だんちゃ (名) 【團茶】 茶ヲ碾キテ粉末トシ、コレヲ煉リカタメテ、團餅トシタルモノ。 茶道要錄「蔡襄君謨ト云フ者、始メテ好茶ヲ碾キテ、煉リテ煎餅ノ如ク作リ、重サ一斤ヲ、團餅八ツ、或ハ二十餘トシ、上ニ龍ト鳳トヲ印文シ、大龍、小龍、大鳳、小鳳ト名ヅケ、慶曆中(宋仁宗)ニ獻ズ」(後朱雀天皇ノ頃) 空華日工集「謝ニ白雲林翁惠ニ團茶ニ、故人猶賜小團龍、一啜冷然欲レ御レ風」二陣淸風吹レ雨過、小團嘗月試ニ新涼ニ」

たんちゃう (名) 【丹頂】 〔丹頂鶴ノ略。頂、赤キ故ニ云フ〕 鶴ノ一種。形大キクシテ白ク、頂、深紅ニ、嘴、青綠ニシテ、脚、蒼黑ナリ。翼ノ下ノ羽、色黑シ。仙鶴。

だんちゃう (名) 【斷腸】 悲シク哀レナル情ノ切ナルコト。ハラワタヲタツ程ノカナシミ。 魏文帝、燕歌行「念ニ君客遊ニ思斷レ腸」 菅原道眞詩「秋思詩篇獨斷腸」

だんぢゃう (名) 【壇場】 (一)壇ヲ設ケテ、祭ヲ行フ所。 史記、淮陰侯傳「擇ニ良日ニ、齋戒設ニ壇場ニ、具レ禮乃可耳」 (二)佛敎ニテハ、修法ノ場ニ壇ヲ設ケタルコト。又、其壇。

だんちゃく-きょり (名) 【彈着距離】 發射セラレタル彈丸ノ、發射地ヨリ到着スル所マデノ距離。

ダン-ちゅう (名) 【檀中】 檀家ノ中。

だんぢょ (名) 【男女】 男ト女ト。ナンニョ。 禮記、曲禮、上篇「離坐離立」云云、男女不ニ雜坐ニ」 神代紀、上「一書曰、男女耦生之神」

だんぢょ-どうけん (句) 【男女同權】 男子ト女子ト、其權利ノ同等ナルコト。

ダン-ツウ (名) 【毯子】 〔字ノ唐音。今、段通ナド記ス〕 天鵞絨ニ似テ、一層、長キ毛ヲ有スル毛織物。(麻織、又ハ、木綿織物)モト舶來ス。厚クシテ五彩ナリ。室內裝飾ノ敷物トス。

たん-つぼ (名) 【痰壺】 たんはき(痰吐)ニ同ジ。

たん-てい (名) 【探偵】 (一)ヒソカニ事情ヲサグリウカガフコト。又、其人。(二)敵ノ事情ヲサグリウカガフコト。又、其人。シノビノモノ。オンミツ。間諜。

たん-てい (名) 【端艇短艇】 (一)ハシケブネ。コブネ。 陸游詩「短艇湘湖自采レ蓴」 (二)西洋形ノ小艇。ボウト。

だん-てい (名) 【斷定】 (一)判斷シテ定ムルコト。思ヒ切リテ定ムルコト。 裴夷直詩「斷定今年不レ看レ花」 (二)〔英語、Judgment. ノ譯語〕 論理學ニテ、思惟ノ最モ簡單ナル發表形式ニテ、表象、又ハ概念ノ結合ノ、眞僞ニ關シテ下ダス評價。判斷。

たん-てう (名) 【單調】 單純ナルオモムキ。變化曲折ナク、只、一樣ナルオモムキ。一本調子。

たん-てき (名) 【端的】 〔諸錄俗語解ニ「端ハ正也、的ハ實也ト注ス、眞實、眞正等ノ義、ほんのト譯スベシ」ト〕 (一)果シテ。果然。 宋毛滂詞「端的[illegible]家ニ」 (二)明白ニ。マノアタリ。テキメン。 楊萬里詩「酒香端的似ニ梅無ニ」

たん-でふ (名) 【短疊】 疊ノ三尺四方ナルモノ。御座ナドニ用キラル。緣白シ。

たん-でん (名) 【丹田】 〔道家ノ說ニ、人身ノ臍下三寸ヲ丹田ト曰フ、修煉內丹ノ地トナス。又、止觀、八「十二病、皆止ニ丹田ニ、丹田去レ臍下二寸半」〕 臍ヨリ一寸程下ノ處。シタハラ。 黃庭外景經「丹田之中精氣微、玉池淸水上生肥」

たん-でん (名) 【單傳】 (一)唯、其人ニノミ傳フルコト。 楊萬里詩「句法何曾問ニ外人ニ、單傳山谷當家春」 (二)禪家ノ宗旨ハ、言語文字ニヨラズ、心ヨリ直ニ心ニ傳フルコト。 碧巖錄、第一則「達磨、云云、遂泛レ海、得得而來、單ニ傳心印ニ、開ニ示迷塗ニ」 祖庭事苑「達磨西來、不レ立ニ文字ニ、單ニ傳心印ニ、直ニ指人心ニ、見性成佛」

たん-でん (名) 【炭田】 炭層ノ多クアル一帶ノ地方ノ稱。煤田。炭山。

だんてんもん (名) 【談天門】 〔だってんもんト讀ムヲ讀癖トス〕 大內裏ノ外郭ニテ、西面ノ南端ニアリシ門。

たん-と (名) 【坦途】 たんだう(坦道)ニ同ジ。 韓愈詩「近來自說尋ニ坦途ニ、猶上ニ虛空ニ跨ニ騄驥ニ」

たんと (副) 【多】 〔膽斗ノ音ト云フハ牽強ナラム。或ハ云フ、梵語ナリト。或ハ云フ、葡萄牙語、Tanto.(多)ノ移レルナリト〕 オホク。澤山ニ。ドッサリ。アマ

タ。 夥多 許多 〔後撰夷曲集(寛文)貧窮「此程ノ、チチトニアラヌ、雨ニワガ、カシラツヅミゾ、たんとウツナル」 柳樽、七編「イイ酒屋、ホド貧乏ヲ、たんと持チ」(貧乏ハ貧乏徳利ナリ)〕

ダン-と (名) 檀徒 檀家ノ人人。檀中。 狂言記、ごちはぐれ「檀徒ハ、是レ萬行ノ宗門」

だんとう-だい (名) 斷頭臺 罪人ノ首ヲ斬ル臺。クビキリダイ。「斷頭臺ノ露」

だんとう-ぢやう (名) 斷頭場 罪人ノ首ヲ斬ル場所。クビキリバ。刑場。

たん-どく (名) 丹毒 丹毒菌ト云フ黴菌ガ、潰瘍部、又ハ、創部ニ侵入シテ、發生スル一種ノ傳染病。皮膚ニ紅色ノ斑紋ヲ發シテ、稍、ハレ、疼痛ヲオボエ、同時ニ發熱シ、其斑紋、次第ニ全身ニ蔓延スルニ至ル。丹毒瘡。赤遊 天火

たん-どく (名) 單獨 (一)ヒトリ。(二)ヒトツ。 趙師秀詩「單獨一身常不定」「單獨旅行」

ダンドク (名) 檀特 〔梵語、Dantaloka. ニ起ルカ〕 亞細亞洲、熱帶地方原産ノ草ノ名。高サ三四尺。葉ハ、芭蕉ニ似テ、稍、硬シ、長サ尺餘、幅三四寸。秋ノ初、莖ヲ抽キテ、深赤ノ花ヲ穗狀ニ開ク、愛スベシ。圓ク黑キ子ヲ結ブ、圓クシテ、數珠トスベシ。一名、花カンナ。檀特草。 蘭蕉 曇華 〔大和本草、七、花草類「檀特花、是亦紅蕉ノ類ナリ、葉ハ恰モ芭蕉ニ似テ小ナリ、葉長キ事一尺許、五月抽ニ葉、高キ事四五尺、或六七尺許、鮮紅花ヲ開ク、云云」 芳春の包[illegible]檀特ヤ、花ヲ包ミシ、葉ノ襲重」〕

たんどく-さう (名) 丹毒瘡 たんどく(丹毒)ニ同ジ。 倭名抄、二十瘡類「丹毒瘡、惡毒之氣、其色無常」 萬安方「丹毒、俗云、[illegible]、毒云、毛衣手、毒云、火一

ダンドク-さう (名) 檀特草 だんどく(檀特)ニ同ジ。 和漢三才圖會、九十四、濕草類「檀特草、高二四尺、葉似二芭蕉二而小、云云」

たん-ざん (名) 炭團 たどん(炭團)ニ同ジ。 古本節用集「炭團(香火炭)」

⁂**だん-どり** (名) 段取 〔階段ヲ設ケテ、次第ニ踏ミ上ル意〕 (一)仕方ヲ思ヒハカリテ進ムコト。ココロガマヘ。工夫。計畫。施設。意匠 (二)モノゴトノス ル順序。テクバリ。テハズ。テジュン。

だん-ど・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 段取 手段ヲ取ル。工夫スル。

たん-な (名) 手綱 〔たづな(手綱)ノ音便。たづねよ、たんねよノ類〕 はだのおび(腐帶)ニ同ジ。フンドシ。 似勢物語(寛永)「オカシ男、[illegible]ニモナラヌ[illegible]取リケリ、云云、[illegible]ノたんなヲシテ、トドロ足踏ミシ出デテ取リヌ」 貞室正章千句、[illegible]安)、[illegible]トリトリ、アカシコシ中」カヘサルル、カタミノたんな、[illegible]ケテ」用捨箱(柳亭種彦)下「今ノ下帶ヲ手[illegible]トイヒシ事、[illegible]ヲ記シテ後、[illegible]子ノ[illegible]ルニ、[illegible]シケレバ、カイ[illegible]捨ント思ヒシガ、近クたんなト音便ニイヒシ事ナド、俗書ニ見エタル、云云」

ダンナ (名) 檀那 旦那 〔梵語、陀那鉢底(Dāna-pati)ノ略轉。布施、又ハ、施主ノ義〕 (一)僧ヨリ、其道ニ志ミヲ與フル信者ヲ稱スル語。檀越。[illegible]「梵云陀那鉢底、[illegible]施主、[illegible]」[illegible]施主、徒然草、五十一段「法師ノ無下ニ能ナキハ、檀那スサマジク思フベシ」 (二)檀家。檀中。檀方。 [illegible] (三)轉ジテ、家人、[illegible]ヨリ、其主君、主人ヲ、[illegible]

ダンナ ニ就キテ用フル語。主公。[illegible]近松作)上「旦那ノ身上デ、一年二千兩三千兩ハ、[illegible]デモ有ルコト」 (四)又、轉ジテ、商人ノ顧客ヲ敬ヒテ呼ビ、又、藝人ヨリ貴人ヲ尊ビテ呼ブ語。或ハ、其代名詞ノ如クモ用ヰル。顧主 花主 [illegible] 主君ニ非ザルモ、常ニ扶助ヲ受ル人ヲ指テ旦那トイヒ、近世ハ、小民ヨリ官戸ノ主人ヲ旦那トイフハ誤也[illegible] (五)妻ヨリ夫ヲ呼ブ稱。 家内喜多留、四編「[illegible]、旦那ドコフノハ、アノ旦那ノ事ダネエ」 [illegible]ゾヘ、行キナサレ」

⁂**だん-ない** (形) 〔だいじなし(大事無)ノ略音便。(京都)〕 サシツカヘナシ。カマハヌ。 狂言記、柿賣「カヤウナモノハ、アガリマシテモ、苦シウ御ザリマセヌ、だんないカ、一ツ食ハウニ」 浮世床(文化、三馬)初編、中「アシタニナリマスゼ、ヤア、だんない、チョッ、ママヨ」

たん-なう (名) 膽囊 肝臟ノ右下部ニアリテ、一時、膽汁ヲ溜ムル囊。い(膽)ノ條ヲ見ヨ。

たむなで (名) 空手 〔たハ、接頭語〕 何モ手ニ持タヌコト。[illegible] 行基、四十年[illegible]

ダンナ-デラ (名) 檀那寺 檀那ノ墓アル寺ナルヲ、[illegible] 我ガ[illegible]スル寺。[illegible] 華院 狂言記、宗論、此方ノ御檀那寺モ御座ラウ[illegible]ニ、夫レヘ賴マセラレイ」 風流志道軒傳(風來山人)一「何トゾ此子ヲ出家サセバ、自ラ長命ナル可ク、又[illegible]レバ、光明院トイヘル寺ヘゾ、ツカハシケル」

たん-み (名) 單[illegible]

たん-にん (名) 擔任 〔任務ヲ擔當スル意〕 (一)ウケモチ。ヒキウケ。擔當。 (二)ヒキアテ。或ル契約ヲ確實ナラシ[illegible]

たん-にん (名) 堪忍 〔正音、かんにん〕 たんにんハ、堪忍〔々〕ヘシノブコト。[illegible]

たん-ぬ (句) 〔足りぬノ音便〕 知りぬ、たんぬ。足りぬる十日、たんぬる十日ノ類〕 充滿トナル。 [illegible]滿、タンヌ、ミツ[illegible]足、タンヌ、タル」

たん-ねん (名) 丹念 [illegible] 事細カニ、心ヲ付ケテモノスルコト。

だん-ねん (名) 斷念 思ヒ切ルコト。ア[illegible]

たん-のう (名) 堪能 〔かんのうノ訛讀。〕 (一)十分ノ滿足。タラフク。 [illegible] 事ヲ爲スニ堪ヘテ能クスル意。 (二)[illegible]ツハラスコト。氣ノスムコト。 [illegible]

たん-のもの (名) 段物 [illegible]ノ一。緯貫[illegible]ヨリ[illegible]ニ、一寸餘リノ幅ニ織リタルモノ。[illegible]紅、筋ハ白シ。(貞丈雜記……小袖部)

たん-ぱ (名) 丹葩 〔說文、葩、華也〕 赤キハナビラ。又、赤キ花。[illegible]

たん-ぱい (名) 探梅 [illegible]ソサグルコト。梅花ノ名所ヲ尋ネ[illegible]コト。[illegible]

たんばう (名) 探訪 事ノ容子ヲサグリ聞クコト。又、其人。「探訪記者」

だんばう (名) 男房 〔女房ニ對ス〕又、ナンバウ。宮仕ヘスル男子。盛衰記、四十二、「與一射ル扇ハ拔テ潮ニアリ、云云、平家ハ舷ヲ叩イテ、女房モ男房モ、ア、射タリ射タリト感ジケリ」

だんばう (名) 煖房 (一)ワタマシノイハヒ。轉宅祝。王建詩「太儀前日煖房來」(二)室内ヲ、アタタムルコト。「煖房裝置」

ダンばう (名) 檀方 だんけ(檀家)ニ同ジ。だんな(檀那)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

タンバカ (名) 〔蘭語、Tombak.〕(一)銅二百目ヲタタラニテ鍊リ鍛ヘテ、四匁ホドニ精鍊シタルモノ。サスレバ、銅ハ餘リ堅カラズシテ、少シモ損スルコトナシトゾ。紫赤色トナル。(二)銅ト亞鉛トノ合金 一種ノ眞鍮。

たんはき (名) 痰吐 唾、又ハ、痰ヲ吐キ入スル壺。タンツボ。唾壺(ダコ)。

たんぱく (名) 淡泊 澹泊 アッサリシタルコト。サッパリトシタルコト。衒(テラ)ハズ飾ラヌコト。諸葛亮、誡子書「非澹泊無以明志、非寧靜無以致遠」

たんぱく (名) 蛋白 (一)卵ノシロミ。卵蛋白(ランタンパク)。(二)蛋白質ヨリ成ル有機物。

たんぱくしつ (名) 蛋白質 動植物ノ主要ナル成分。炭素、水素、窒素、酸素、及、硫黄ナドヨリ成ル化合物。

たんばぐり (名) 丹波栗 栗ノ一種。實大キク、味最モ美ナリ、料理栗。オホグリ。テテウチグリ。〔丹波國、船井郡和知村、同國氷上郡和田村ナドヨリ產ズト〕

タンバコ (名) 淡婆姑 たばこノ音便。

たんばごえ (名) 丹波越 〔京ヨリ山ヲ越シテ、丹波ヘ行ク意〕京都ノ諺ニ、亡命(カケオチ)ノ事。京ノ島原ノ遊郭ヨリ起レル語ナルベシ。(柳亭記、下)野良蟲(萬治)「親ノ貯ヘオキシ金銀ヲ盜出シテ、ヒタモノニカカル程ニ、後ニハ親ニ勘當セラレ、たんばごえニオモムク」大坂雪千句(寛文)「借錢ヲ、スマサジ樣ノ、謀」所ヲ去リテ、行ク丹波ごえ」江戶八百韻(延寶)「別路ヤ、浮雲ヲマク、御座一枚」昨日ノ富貴、ケフ丹波越」

だんばしご (名) 段階子 段梯子 木ニテ段(キザ)ヲ造リ成セル階子。キザハシ。ハシゴダン。(棧(サン)ナル梯子ニ對シテ云フ)假名手本忠臣藏(寛延、出雲等)七「段階子ヘ下リタラバ、仲居ガ見ツケテ、酒ニセウ」

たんばタバコ (名) 丹波烟草 丹波國ノ各郡ニ產ズル烟草。名產トス。福知山、篠山、山木ナドヲ最トス。色音論草子(寛永)下「丹波たばこニ、肥後ギセル」

たんばたらう (名) 丹波太郎 大阪ニテ、夏季、北方ナル丹波國ノ方ニ立ツ雲ノ稱。コノ雲出ヅレバ、夕方ニ雨フルト云フ。物類稱呼、一、天地「夏雲、ナツグモ、江戶ニテ、坂東太郎ト云フ、大坂ニテ、丹波太郎ト云フ、云云、九州ニテ、比古太郎ト云フ、近江及越前ニテ、信濃太郎ト云フ」大江丸の句「先キニ立ツ、たんばたらうヤ、ミチシルベ」

だんぱつ (名) 斷髮 (一)髮ヲ切リテ垂レオクモノ。キリカミ。ザンギリ。散髮。(二)髮ヲキルコト。斬髮。左傳、哀公七年「仲雍嗣之、斷髮文身、贏以爲飾、豈禮也哉」

だんばな (名) 段鼻 鼻筋ニ高低ノ段アルモノ。

たんばほほづき (名) 丹波酸漿 〔丹波ハ、色ノ丹ナル意〕陰曆、六月頃ヨリ、赤ク色ヅク、ホホヅキ一名、江戶酸漿。嬉遊笑覽、六、下、兒戲「今丹波酸漿ノ名ヲイヒテ、江戶ほほづきノ名ヲイハズ、今六月ヨリ色ヅキタル酸漿アルハ、是卽チ江戶酸漿カ、江戶ハ總エテ、丹波ノ國ノ種ヲ求メテ植エケルモノカ、云云、按ルニ、古キ俳諧紅葉ノ句ニ、丹波ヲ言ヘルコト多シ、丹ノ赤キニ取ルナリ、丹波酸漿ノ名モ、コレト同例ナルコト知ベシ」

たんぱん (名) 膽礬 礦物ノ名。卽チ、硫酸銅ニテ、毒物ナリ。銅山ノ坑中ニ垂レテ生ズ。長サ數分ヨリ寸ニ至ル。形、細長ク、稜アリテ石英ノ如シ。或ハ、單生シ、或ハ、長、短、雜リテ叢生ス。深藍碧色ナリ。醫療、電池、銅鍍金(メッキ)、染色術、材木ノ防腐ナドニ用ヰル。石膽 君石。夢溪筆談 宋、沈括「烹膽礬則成銅」和漢三才圖會、六十一、雜石類「膽礬、石膽、鍋勒、云云、本綱、膽礬生於山穴中、大者如拳、小者如桃栗、云云」

だんぱん (名) 談判 談(カタ)ラヒテ、事ヲ判(ワカ)ツコト。カケアヒ。

たんぱんかん (名) 擔板漢 板ヲ擔グ男ノ、其板ニ妨ゲラレテ、他方ノ見エザル如ク、一面ノミヲ見テ、全體ヲ見渡ス能ハザルニ喩ヘテ云フ語。大智禪師偈頌「敎ニ得擔板漢上ニ藕絲空裏須彌ニ」

だんび (名) たび(度)ノ音便訛。柳樽、七編「負將棊、逃ゲルたんびニ、御手ハ何」

たんび (名) 歎美 たんしゃう(歎賞)ニ同ジ。

だんぴ (名) 團匪 匪徒ノ一團結ヲナセルモノ。支那ニテ、拳匪、義和團ノ類。

だんびら (名) 段平 〔平廣(タヒラヒロ)ノ轉訛カト云フ〕又、だびら。太刀、打刀ナドノ刃ノ、幅廣キモノノ稱。闊劍。太平記、三十二、神南合戰事「七尺三寸ノ太刀だびら廣ニ作リタルヲ、鐔(ツバ)モト三尺許リオイテ、蛤齒ニ搔合ハセ」續太平記、廿二、日吉神輿入洛事「三尺許ニ見エタルだびら廣ノ薙刀振リカケ」貞丈雜記、十二、刀劍「太刀打刀ナドノ幅廣キヲ、だんびら物トイフハ、だびらひろトイフ詞ヲ略シタルナリ、云云、だびらひろトイフハ、太平廣ナルベシ、大ニ平ク廣キナリ」

たんぷ (名) 擔夫 荷物ヲカツグ人夫。ニカツギ。ニモチ。唐書、李白傳、張旭「公主擔夫爭道、又聞鼓吹而得筆法意」

だんぷう (名) 暖風 煖風 アタタカキ風。禮記、月令篇「行春令則煖風來至、民氣解惰」

たんぷく (名) 單複 (一)單一ト、複雜ト。(二)單數ト、複數ト。

だんぶくろ (名) 段袋 〔駄荷袋ノ訛〕(一)布製ノ大ナル袋。絹、綿ナド盛ルニ用ヰル。古今夷曲集(寛文)「何モイラヌ、身形(ミナリ)ナガラニ、今日ノ世ヲ、ヘチマノ皮ノ、だんぶくろカナ」(絲瓜ノ皮モテ縫合ハセタル袋ハ、物モ入ラズ、破レテ用ヲナサヌ意カ)(二)廣クユルヤカナル股引。洋袴(ズボン)ノ如クニテ太シ。そぎ袖羽織ニ對ス。嘉永明治年間錄、十五、慶應二年五月「だんぶくろハ袴股有之分、不苦候事」

だんぺい (名) 團平 荷船ノ一種。平タク堅固ニ作リタルモノ。イシブネ。風俗文選、實永、湖水賦「高瀨、傳馬ハ川舟ナリ、段平ニ大石ヲ積ミ、艀(ヒラタ)ハ耕作ノタスケナリ」

だんぺい (名) 談柄 (一)僧侶ナドノ、談話ノ時ニ、手ニ執ル拂子(ホッス)。(一說ニ、支那、棲雲寺ノ大朗法師、談話スル每ニ、手ニ松ノ枝ヲ執リシニ起ルトモ云フ。傳燈錄)天祿識餘(清、高士奇)「古人、清談多執麈尾、故有談柄之名」(二)轉ジテ、ハナシノタネ。カタリグサ。話柄。

だんぺい-きさご (名) 〔團平細螺〕 きさごノ大ナルモノ。

たんぺい-きふ (副) 〔短兵急〕 〔短兵ハ、刀ナリ、長槍ノ長兵ニ對シテ云フ〕 刀ヲ振リ持チテ手詰ニ。又、ニハカニ。ヤニハニ。「短兵急ニ攻メカカル」

たんべつ (名) 〔段別〕〔反別〕 (一)田、一段毎ニ、別ツコト。(二)轉ジテ、地積ノ名。即チ田、畠ノ町、段、畝、歩等ノ類。

たんべつ-に (副) 〔段別〕 一段毎ニ。平家物語、十二、吉田大納言沙汰事「鎌倉ノ前右兵衛佐頼朝、日本國ノ惣追捕使ヲ給ハッテ、段別ニ兵粮米ヲ宛テ行フベキ由、公家ヘ申サレケレバ」

たんべつ-わり (名) 〔段別割〕 田、畠ノ段別ヲ標準トシテ、賦課スル租稅。

たんぺん (名) 〔短篇〕 章編ノ短キモノ、又、短キ著作物。文心雕龍(梁、劉勰)「士龍朗練、故能布采鮮淨、敏于短篇」

だんぺん (名) 〔斷片〕 キレギレニ、ハナレタル一片。キレハシ。キレ。破片。「斷片的ナ話」

ダンベル (名) 〔英語、Dumbbell.〕 體操ノ器具。長サ一尺許ノ棒ノ兩端ヲ、球形ニ造リタルモノ。左右兩手ニ、各一箇ヲ持チテ運動ス。啞鈴。

たんぼ (名) 〔田圃〕〔田面ノ轉〕 田畠ノアル地。田ノアル土地。

たんぼ (名) 〔旦暮〕 (一)たんせき(旦夕)ニ同ジ。隋書、[illegible]傳「[illegible]旦暮[illegible]」 (二)朝ヨリ暮マデノ間。即チ僅少ノ時間。宋書、[illegible]「千載一遇、是旦暮也」

たんぽ (名) 〔蒲公英〕 たんぽぽノ略。

たんぽ (名) 「蒲公英ノ絮ノ形ヨリ云フカ、或ハ云フ、佛蘭西語、Tampon.(砲口ノ塞)ニ起ルト」 革、又、布ニ、綿ナド包ミテ丸ヲナセルモノ。稽古槍ノ頭ニ付ケ、又、石摺ノ墨ヲ塗ル用ナドトス。

たんぽ (名) 〔擔保〕 (一)法律ノ語。債權ニ附隨シテ、ソノ辨濟ヲ確保スルコト。(二)ヒキアテ。抵當。担保。

タンポ (名) 〔湯婆〕 〔字ノ唐音〕 又、タウバ。金屬、又ハ、陶器ナドニテ造リ、大イサ枕ノ如ク、口アリテ、中ニ湯ヲ盛ル。冬月、腰、脚ヲ暖ムルニ用ヰル。一名、湯湿石。重言ニ、ユタンポ。(清、[illegible])「今人用銅錫器、盛湯置衾中[illegible]婆子」 和漢三才圖會、三十二、家飾具「湯婆、[illegible]保、唐音乎、按、湯婆以銅作之、大如枕、[illegible]盛湯置衾傍、以暖腰脚、因得婆之名」 五月の句「曉ニ、踏ミ出サレタル、湯婆カナ」

たんぼく (名) 〔淡墨〕 ウスズミ。孔武仲[illegible]「[illegible]」「淡墨ノ畫」

たんぼなし-キ・ケレ・グ・ク (形、二) 〔無旦暮〕 タノ靄ヘナク、朝ノ用意ナク、其期ニ臨ミテ奔走ス。ヨタンポ。[illegible]五、[illegible] 日[illegible]云、世話盡[illegible]たんぽなきト云フ」

たんぽぽ (名) 〔蒲公英〕〔蒲公草〕 「古名、たなナリ、たんハ、其轉ニテ、ぽぽハ、花後ノ絮ノほほけタルヨリ云フカト云フ」 古名、タナ。又、フヂナ。草ノ名。原野ニ多シ、葉ハ、冬ヨリ、盛ニ地ニ布キテ叢生ス、[illegible]ノ葉ニ似テ大ナリ、切レバ白キ汁出ヅ、春、煮テ食フベシ、春ノ末、莖ヲ出ス、高サ五寸許、內空シク、頂ニ一黄花アリ、[illegible]ノ菊花ノ如シ、[illegible]白花ナルモアリ。後ニ、[illegible]トナリテ、[illegible]頭ニ[illegible]、風ニ飛ブ。[illegible]

[illegible]

だんぽん (名) 〔斷[illegible]〕 イシミ。イカキ。[illegible]七條、いしみハ、[illegible]ニハ斷トカケリ、斷斧ト云フ[illegible]也、但、佐留ト可レ讀、別字」

たんぽ-やり (名) 槍ノ先ニ、たんぽヲ付ケタルモノ。稽古ニ使用ス。[illegible]

だんぽらぼ [illegible] 多小女郎波枕(享保、近松作)上「火勢カカッテだんぽらぼ、ホトリモ知レス海ノ中、眞ッ逆様ニ打込ンデ」

だんま (名) 〔駄馬〕 〔だま(駄馬)ノ音便〕 [illegible]ル馬。ダバ。荷馬。

たんまつま [illegible] ヲ斷、肉ノ裂クルヲ末、骨ノ摺リ碎クルヲ磨ト云フ、千百ノ戈劍ニテ、身ヲ切リ裂クガ如キニ譬フ。或ハ、末磨ハ梵語 Marman. 節節ノ義ニシテ、人間ノ身中ニ[illegible]

[illegible]

たんまつま-ねんぶつ [illegible] 死苦ヲ脫スル修法。惠心僧都ニ始マルト云フ。[illegible]

たんまどり (名) 〔手取〕 〔たんまハ、たま[illegible]〕 [illegible]ノ音便。など(抔)、なんど、[illegible]

だんまり (名) 〔だまり(默)ノ音便〕 (一)[illegible]、かんなり、[illegible]

たんまり-と (副) (一)タクサンニ。アリ。多ク。「たんまりと[illegible]」[illegible]

たんめ [illegible]

僊)二云「今人ノ短命ナルハ、遥遥甍蓐ノ御物ズキヨリ起リシハ、イトモイトモ口惜シキコトナリカシ」

たん-めい (名) 旦明 アケガタ。儀禮、小牢饋食禮「宗人曰、旦明行事、主人曰、諾、乃退」

たん-めん (名) 〔耽湎〕耽酒 酒色ニ耽リ荒ムコト。耽溺 書、泰誓「沈湎冒色」酒、嘗與親友書云、今年田得七百秫米、不足了麴蘖事、其嗜酒如此」

だん-めん (名) 断面 切口ノ面。截斷面。

たん-もち (名) 痰持 痰ノ出ヅル病アル人。ゼンソクモチ。

たん-もの (名) 段物反物 〔布帛ハ段ヲ以テ數フレバ云フ。反ハ段ノ草體ノ誤〕衣服トスベキ織物ノ總名。段ニナリ居ル布帛。太物。段匹。貨段

だん-もん (名) 断紋 雷氏ノ琴ヲ製作シタルニヨリ、其姓ヲ記シタルモノナラム力。下ノ出典ヲ見ヨ。松屋筆記、百六、百九條「嚴島名所圖會六卷、琴ノ條ニ、玉堂雜記ニ、嚴島神社ニ重物ノ琴ヲ藏マル、予、上御市正トイフ神家ニテ觀タリ、六七百年ノモノ斷紋フリテ、實ニ雷家ナドノ製ナルベシ、平家ノ時、琴行ハルトイヘリ、コノ雷家ハ、唐ノ世ノ琴匠ニ雷氏ナルモノアリテ、代代ソノ名ヲ擅ニセシヨリ、雷氏ノ製ナラデモ、斷紋ナドアラハレテ、フルキモノヲバ、トモスレバ、雷琴トイフユヱ、玉堂モカクイヘル也、云云、雷文ハ雷字文ナルベケレド、マタ雷氏ノ斷文ナドヨリイヒソムモ、知ルベカラズ」

だん-もん (名) 段文 漆塗ノ上ニ生ズル龜甲形ノ文。

〜たん-や (名) 鍛冶 カヌチ。カヂ。倭名抄、二十四工商類「鍛冶、段夜」下學集、上、人倫門「鍛冶、カチ、タンヤ」注「打、鐵造、器者也」

たん-や (名) 短夜 夏ノ短キ夜。楚辭、九章、抽思「望孟夏之短夜兮、何晦明之若歳」

だん-やく (名) 彈藥 銃砲ノ丸ト合薬ト。

〜たむら (名) 黨 たむろニ同ジ。神武紀、三十「十數群」推古紀、十二年四月「人皆有黨」皇極紀、四年六月「說於賊黨令知所起」

たむらかす (副) 屯 ムラガリテ。ウチムレテ。萬撰集 たむらか(くィ)ユ、オクラレタラバ、都ヨリ、神ノ心ヲ、オモヒオコセヨ(シィ)」

だん-らく (名) 段落斷落 (一)件ノ段。文章ノ中ノ大ナル切目。品字箋、清、虞德升)「篇有斷、亦日節」萍村文話(海保元備)「行文ノ間、段落尤モ緊要ナリトス、文ニ段落アルハ、猶、人ニ骨格アルカ如シ」(二)モノ事ノキレメ。クギリ。シキリ。キリ。

たむら-さう (名) 田村草 山野ニ多クアリ。脚葉ハ地ニ布キテ叢生シ、霜雪ノ時ニハ、背、紫色ニシテ、暖氣ニ向ヘバ、緑ニ變ズ。葉ハ、五葉、七葉、鋸歯アリ、春後、方莖ヲ出スコト七八寸、葉、對生ス。秋ノ中ニ、長キ穂ヲナシ、淡紫花ヲ開ク、六七蕚、一節ニ連リ、層層、尺餘ニ至ル。コレヲ秋の田村草ト云フ。鼠尾草 又、夏の田村草ト云フアリ、幽谷ニ生ジ、夏、深紫ノ大花ヲ開ク。又、春の田村草ハ、形、小サク、莖、葉、靑シ。春ノ末、花ヲ開ク、白クシテ小サシ。

たん-らん (名) 貪婪 〔離騷經、注「愛財曰貪、愛食曰婪」〕慾深キコト。ムサボルコト。屈原、離騷經「衆皆競進、以貪婪兮」

だん-らん (名) 團欒 圓坐ニ相集リテ娛ムコト。親シキモノノ圓居。陸游詩「却憶兒女話團欒」「一家團欒」

だん-りう (名) 暖流 洋中ノ潮流ノ、南ヨリ北ニ流レ、溫度ノ常ニ附近ノ水溫ヨリ高キモノ。(寒流ニ對ス)八丈島ノ黑潮ノ如キ、是レナリ。又、北海ヨリ南流スルアリ、水溫ハ冷シ、コレヲ寒流ト云フ。北海道ノ親潮ナド、是レナリ。

だん-りん (名) 檀林 〔栴檀林ノ略。學侶ヲ栴檀ニ喩ヘ、コレヲ敎養シテ、芳香ヲ放タシムル意ニ起ル〕(一)寺ノ稱。李紳詩「世人遙禮二檀林」西域記、跋「業光上首、擢秀檀林、德契中庸、騰芳蘭室」(二)寺院ニテ、僧侶ノ學問スル所。僧林。談林。學寮。檀場。元亨釋書、八、祖圓「雲堂、庫院、山門、檀林、凡叢門富有者」孝經樓漫筆、四「檀林ノ字、觀佛經、六譬品ニアリ、今淨土宗ニイフ十八檀林ハ、神祖聖君ノ台命ニヨリ、昌國師ノ撰也」

だんりん-ふう (名) 檀林風談林風 〔西山宗因、嘗テ江戸ノ田代松意ノ家ニ寓ス、松意、號ヲ談林軒ト云フニ基ヅク。大阪古風、蕉風ニ對ス〕俳諧ノ一派。西山宗因ニ始マル。コレ松永貞德以來、カケコトバ、緣語ニ汲汲シ、辭句ノ修練ニノミ腐心セシヲ破リ、秀句、口合、漢語ナドヲ交ヘ、措辭多ク滑稽ニ流レ、謠曲ノ文句ノ如ク、怪調トナリタルモノ。宗因風。嬉遊笑覽、三、詩歌「西山宗因出テ、其古風ヲ變ジ、談林風ヲ起ス、其ヨリ文字アマリ、或ハ漢句ノヤウニテ、怪調ナルコトヲイヘリ、ココニ於テ、桃靑コレヲ改メテ正風體トナシ」

たん-りゃく (名) 膽略 肝太ク、思慮アルコト。梁書、鄱陽王世子範傳「性驍果、有膽略」

たん-りょ (名) 短慮 (一)思慮ノ足ラザルコト。カンガヘノ淺キコト。淺慮。後漢書、袁紹傳、上「愚佻短慮、輕進易退」謠曲、景淸「只今ハチト心ニカカルコトノ候ヒテ、短慮ヲ申シテ候」淸元、其小唄夢廓「生レ故鄕ハ因幡ノ國、後先思ハヌ若氣ノ短慮、甍ニ依テ人ヲ害シ、遙遙下リシ此吾妻路」(二)たんき(短氣)ニ同ジ。假名手本忠臣藏(寬延、出雲)二「主人ハ生得、此短慮ナル御生レツキ」

たん-りょく (名) 膽力 大事ニ會ヒテ、驚カズ臆セズ構フル氣力。キモダマノ太キコト。どきよう。三國志、吳志、朱桓傳「甘五處、以膽力稱」

だん-りょく (名) 彈力 (一)ハジクチカラ。ハネカヘスチカラ。(二)壓迫セラレタルモノノ、舊ニ復スル力。酉陽雜俎(唐、段成式)五「爲曹、張芬、曾爲韋南康親隨行軍、云云、常于福感寺趯鞠、高及半塔、彈力五斗」(三)彈丸ノ勢力。

たんりょく-ぼん (名) 丹綠本 德川時代、寬永ヨリ元祿ニ亙リ、刊行セラレシ草雙紙類ノ、插繪ノ色彩ニ就キテ稱セシ名。モト、丹、綠靑、黃土ノ三色ニテ彩色セシガ、丹ト綠トノ色、最モ多ク用キラレシニ因リ、然云ヘリ。又、ゑどり本トモ云フ。此類ニハ、幸若舞の本、古淨瑠璃本、假名草子等、種種アリ。

たん-れい (名) 端麗 端正ニシテ、美麗ナルコト。南史、褚蓁傳「風儀端麗、眉目如畫」

たん-れん (名) 鍛錬 (一)鍛ヘ錬ルコト。論衡(漢、王充)二、率性篇「治工鍛錬、成爲銛利」(二)藝術ニ、稽古ノ功ヲ積ムコト。善ク習ヒ究ムルコト。錬磨。方干詩「文章鍛錬猶相似、年齒參差不較多」國性爺合戰(正德、近松作)五「元ヨリ日本弓矢ニ長ジ、武道鍛錬隱レナク、韃靼夷聞怖シテ」(三)デッチ上グルコト。揑造。十八史略、南宋、理宗「承旨鍛成之」注「承順余晦旨意、鍛錬以成其獄」

〜たむろ (名) 屯 〔手群ノ轉、其手其手ニ群レ居ル義ト云フ〕(一)人ノ集ル處。軍兵ノ陣處。名義抄「屯、タムロ」「局、タムロ、ツボネ、マトヰル」字類抄「營、屯、旅、隊、局、タムロ」

欽明紀、七年七月「見ニ良駒ニ、云云、及ニ壯鴻驚避ケ、別レ輩越レ群、服御隨レ心、馳驟合レ度」 孝德紀、四年十二月「[illegible]」 （二）モト東京市中ニテ警察署ノ稱。又、巡査ノ詰所。

だんろ （名） 煖爐 冬時、室內ヲ暖ムル具。西洋造ノ家ニソナフ。鐵製、或ハ、煉瓦製ニテ、竈ノ如シ。石炭火ヲ熾ス。烘爐子。ストウブ。カッヘル。

だんろん （名） 談論 談話ト議論ト。言論。 後漢書、郭太傳「三年業畢、博通墳籍、善談論、美音制」

だんわ （名） 談話 ハナシ。モノガタリ。會話。 北齊書、崔㥄傳「言詞正雅、談授到、一坐無復談話者」 陶潛詩「談話終日夕」

だんわ （名） 暖和 氣候ノ、アタタカニシテ、長閑ナルコト。和暖。

たんゐ （名） 單位 數、及、量ヲ測ル目當。長サニハ尺、時ニハ秒、量ニハ貫ナド。スベテ物ノ基本トナルベキモノニテ、ソレヨリ分割シテ、獨立スベカラザルモノ。卽チ、人百人ノ單位ハ一人、家十五軒ノ單位ハ一軒ナリ。

たんゐん （名） 探韻 韻字ヲ探リテ、漢詩ヲ作ルコト。 源、八、花宴「空ノ氣色、鳥ノ聲モ、心地ヨゲナルニ、親王タチ上達部ヨリハジメテ、其ノ道ノハ、皆、探韻給ハリテ、文（詩ノ意）作リ給フ」 西宮記、九、九日宴「王卿探韻、以下文人次第探之」

たんゑ （名） 丹繪 板行ノ一枚繪ヲ、丹黃汁ニテ彩色シタルモノ。歌舞伎役者ノ繪ニ多シ。元祿ノ初ヨリ起リテ、鳥居清信ナド畫ケリ。後ニハ紅繪出ヅト。 燕石雜志「丈八、馬六ト、一筆ニ[illegible]ヘ、ミ一筆ニテ彩色シタル、コレヲ丹繪トイヒ、又、紅繪トイヘリ」

だんゑん （名） 團圓 （一）マルキコト。 元稹詩「[illegible]」 （二）ヲハリ。終局。「大團圓」 （三）一家ノ和合スルコト。 白居易詩「[illegible]團圓」

ダンヲチ （名） 檀越 〔梵語、Danapati ノ舊音譯ナリト云フ。施主ト譯ス。越ハ、施ノ功德ニヨリテ、生死ノ海ヲ越ユル義〕 又、だんをつ。だんのつ。だんな（檀那）ニ同ジ。 南海寄歸傳、一「梵云陀那鉢底、譯爲施主、陀那是施、鉢底是主、而云檀越者、本非正譯、略去那字、取上陀音、轉名爲檀、更加越字、意道、由行檀捨、自可越渡貧窮、妙釋雖然、終乖正本」

ため （名） 爲 又、た。（一）所以。ワケ。 萬葉集、五「龍ノ馬モ、今モ得テシガ、アヲニヨシ、奈良ノ都ニ、行キテ來ム丹米」 拾遺集、十一、戀、一「戀ヒ死ナム、後ハ何セム、生ケル日ノ、ためコソ人ハ、見マク欲シケレ」 （二）タスケ。タヨリ。利益。 源、六、末摘花「後ノ爲ノためマデ、カミミモ、思シヤリテ、許リ給フ」 同、二十、[illegible]「君達ノ御爲ニハ、ハカバカシク、シタタカナル御後見ハ、何ニカハセサセ給ハム」 新永代藏（正德、團水）一「是ホドニ銀親ノためニナル仕カタ、世ニ又ト聞カズ」 （三）其上ニ係ハルコト。 枕草子、四、四十四段「コレハ身ノためニモ、人ノためニモ、サテイミジキ喜ビニハ侍ラズヤ」「我ガ爲ニハ、父ナリ君ナリ」

ため （名） 溜 （一）溜ムルコト。又、集メ置ク所。「水溜、肥溜」 （二）江戶時代ニ於ケル牢屋ノ一。病囚、及、幼囚ヲ收容セシ所。モト非人、無宿ノ囚徒ヲ置キシ所ト云フ。淺草千束村（淺草寺境內ノ北ノ畑ノ中）ト、品川驛トニアリキ。罪人ノ病者ヲ入レオキ、[illegible]療養セシメ、全治スレバ、再ビ入牢セシム。又、兒罪者十五歲未滿ナレバ、其年齡ニ達スマデ、ココニ預ケ置キ、十五歲ニ至ルヲ待チテ、本刑ニ處シタリ。淺草ノ方ハ、吉原郭外ノ東南ナル非人小屋ノ頭車善七、コレヲ管シ、品川ノ方ハ、非人頭松右衛門、コレヲ管轄セリ。故ニ、コレヲ非人溜トモ稱セリ。當時ハ、普通人ヲ非人ノ列ニ落ストテ、制アリテ、[illegible]、其レ、小傳馬町ノ牢ニ屬セリト。 德川禁令考後聚、[illegible]

ため （名） 多米 〔食ノ義ナルベシ〕 淸ク旨キ飮食ヲ稱スル語。 古事記、上「[illegible]」 [illegible]

ため （名） 兆 龜卜ニテ、割レ目ノ稱。 さほかみゑみため（登保加美惠美多米）ノ條ヲ見ヨ。 師時歌「思ヒカネ、龜ノマスラニ、寄トヘバ、ためアヒタリト、嬉クゾ嬉シキ」

だめ （名） 駄目 〔むだめ（無目）ノ上略カト云フ〕 （一）碁ニ、雙方ノ地界ニアリテ、何レノ所有ニモナラヌ目（地）。閑目。 [illegible] ヲ言ヒテ、ソレヲモエ知ラデ、だめヲモササシスマシ勝負シテ」 （二）轉ジテ、俗ニ、何ノ益モナキコト。[illegible] 可カラズコト、イケヌコト。不可。

ためいき （名） 溜息 [illegible] ヘキレズナレル時、鬱積シタル息ヲ洩ラスコト。[illegible] 長息。太息。 [illegible] ため いきツイテゾ[illegible]

ためいけ （名） 溜池 川水ヲ溜メテ置ク池。 [illegible]

だめさ・す [illegible] 閑暇ニ、交互ニ、行ツ入レテ、駄目ヲ塞ギ、結局ヲ[illegible]ルヲ結局トイヘバ、だめさすハセヌヨリナレヤ」

ためし （名） 試 [illegible] 試ミルコト。試驗。

ためし （名） 例 [illegible] ノ意〕 嘗テ試ミテアリシ先蹤。[illegible]

ためしぎり （名） 試斬 試切 刀ノ銳キ鈍キヲ試ミムトテ、罪人ナド斬ルコト。[illegible] 又、闇夜ニ、行人ヲ斬リ殺スコト。[illegible] ナ、すたすたニ人ヲ試斬ニスル[illegible]

ため・す [illegible] ノ折ルルカ、折レザルカヲ、撓メ試ム[illegible]

ヨリ、廣ク云フ」用ニ立タムヤ、否ヤヲ、ココロミル。試驗 十訓物語、三、「文覺上人行者、俗ニトテ云フハ、イカ程ノ事ヤラン、ためしテ見ントテ、六月ノ日ノ草モユルガズ」風來假名文選、當世輪廓ノ評「ヘバ弓ノ稽古スル者、云云、我身ヲ以テ試スニハ、云云、的ニカカリテ射テ見レバ」

ためだし (名) 捲出 相撲ノ手。敵ノ諸差ノ腕ヲ、下ヨリ撓メアゲテ、押出スコト。又、泉川。

ためつもの (名) 什物味物 タベモノ。ウマキモノ。ため(多米)ノ條ヲモ見ヨ。古事記、上、「種種味物取出而」儀式、四、「踐祚大嘗祭儀、多米都物、謂菓子乾物等」

ためなし キ・ケレ・ク・ク(形、二) 無且暮 家ヲ治ムルニ、貯蓄ナシ。俚言集覽「寄束俗諺、且暮勘、俗ニ、且ハ暮ノ儲ナク、暮ハ且ノ蓄ナキヲ且暮なしト云フ、其用意スルヲ且暮勘ト云フ」

ためみ (副) 爲 其故ニ因リテ。ソレユエニ。ソノタメニ。「爲ミ賈セル金若干」

ためぬり (名) 溜塗 漆塗ノ一。中塗面ニ朱漆ヲ塗リ、乾キタル後、木炭ニテ研キテ艶消ヲ行ヒ、コレニ透漆、又ハ、梨子地漆ヲ塗リテ、仕上ゲタルモノ。

ためみる ミル・ミレ・ミ・ミ・ミヨ(他動、上一) 矯見 ウカガヒミル。ノゾキミル。盛衰記、十九、文覺頼朝對面事「兩目ニテハ睨ミ、片目ニテハ睨ミ、立サトガッテハ睨ミ、サシウツブキテハ睨ム、云云、文覺ハ頼朝ニ加様ニためみテ」

ためらふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 依違躊 躇躊躇 〔矯めテ居ル意カ。潘岳、射雉賦「躊躇而徐來」徐爰註「乍行乍止、不迅疾之貌也」〕 心ニ決着セズシテアリ。タユタフ。イサヨフ。猶豫。増鏡、第十八、村時雨「タカマノ山ト云フワタリニ、シバシ御心地ヲためらふ所ニ」源、一、桐壺十「ヤヤためらひテ、仰言傳ヘキコユ」賞長記、廿、八、使者書「寄手モ多ク討タレテ負ケレバ、五六度マデ引キ返シ引キ返シ、躊躇タリ」

ためる (動) 撓む、又、溜むノ口語。小銃、棒ナドヲ平直ニ出シテ、手ニ持チコタヘテ居ル。

ためる (動) 矯揉矯 (一)たむ(揉)ノ條ノ(二)ノ口語。(二)たむ(揉)ノ條ノ口語。火ニアブリテ木ヲ屈伸ス。和漢三才圖會、五十八、火具「揉、太女留、以火屈申木也」

ためをけ (名) 溜桶 (一)てんすゐをけ(天水桶)ニ同ジ。海錄、七、第八條、天水桶「寛政卯年十月廿八日、梅與左衛門殿申渡、町町ヨリ溜桶へ町名可書勿論、何丁目ト申事書記可申候、且一町限、家主ノ内順ヲ立テ、毎月鑿バ一六ヨリ其町内申合、何レニモ六度ホドヅツ、定日ヲ立テ見廻リ、桶損候分ハ爲結、水不足ハ汲入可申候」(二)肥料ヲ入レ置ク桶。コエタメ。耕稼春秋(寶永、土屋又三郎)七「溜桶、コエヲ入レ置ク桶也」

たも (名) 攩網 〔沖縄ニテ、たぷ、たあぷう、博多ニテモ、たぷ、又、たま〕 サデアミ。スクヒダマ。さで(小網)ノ條ヲモ見ヨ。散木集(異本)二、夏「篝火ノ、火影ニ見レバ、マスラヲハ、たもモ暇ナク、鮎子汲ムラシ」西鶴置土産(元祿、西鶴)二、江戸池端金魚屋「手玉ノ掬網ニ小桶ヲ持添ヘ」

たも (名) 〔實ノ玉ノ如キノ轉カト云フ〕 (一)樹ノ名。やぶにくけい(藪肉桂)ニ同ジ。一名、タマ。ダモ。タブ。ダモノキ。竹亭の句「だもノ實ノ、タノモシゲナル、色香カナ」(二)又、草ノ名。とろろあふひ(黄蜀葵)ノ一名。

たも (動) 給 たまへノ俗訛。下サレ。タモレ。常盤津、お俊傳兵衞、堀川段「サア、キリキリ此家ヲ退廻シ、マサル日出度ウ何時マデモ、命全ウシテたもト、日ハ見エネドモ、近ル母」

たも (名) 田面 〔たおもノ略〕 田ノオモテ。タノオモ。タノモ。タノム。上總、白挽歌「花ハ小稲ノたもニ咲ク」

だも (辭) だヱト、もトヲ重ネテ、中略セル語。左傳、隱公元年「蔓草猶不可除、況君之寵弟乎」大學「可以人而不如鳥乎」待賢門院堀川集「古鳥木ニ夢ノゴト、見シ人ニだも、語ラメヲ、イカニチガヘテ、アハヌナルラム」萬葉集、九、三十四長歌「髪だにも、搔キハ梳ラズ」同、十三、二十三「君ガ行ナシ、秋萩咲キヌ、今だにも、匂ヒテ行カナ、ヲチカタ人ニ」

たもぢ (名) 蛸 〔たハ、蛸ノ頭字、もぢハ文字。すもぢ(鮨)、ゆもぢ(湯具)ノ類〕 たこ(蛸)ノ女房詞。貞丈雜記、六、飲食部「禁中女房ノ詞、食物異名品品、禁裏女房内内記ニ云ク、云云、たもぢ(たこノ事)」

たもち (名) 保 タモツコト。永ク堪へ續クコト。保持。百合若大臣野守鏡(寶永、近松作)一「纜フッツト切ケレバ、風ノたもちニ彈カレテ、船ハ沖ヘ十町バカリ、帆ピラキ打ッテ走リシハ」

たもつ ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 存 保持 保 永ク續ク。失セズシテアリ。榮花物語、十二、玉村菊「カクテ御門ハ猶御心地苦シウ、久シウモたもつマジキナンメリト思シメスニ」遊柿、文覺上人消息「サスガ我身ヲたもたバヤト思フ人、僧侶ニアツラヘテ、諸道ニ仰セテ祈禱ス」

たもつ ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) 保 〔手持ツ義〕 (一)〔護ル。永ク持チコラフ。中庸、第十七章「舜、云云、尊爲天子、富有四海之内、宗廟饗之、子孫保之」齊明紀、六年十月「必存拯救」源、十、榊廿一「必ズ世ノ中たもつベキ相アル人ナリ」續紀、七(元正天皇)靈龜元年九月「欲保社稷」源、十三、明石四十八「世ヲたもちタマハムニ」「身ヲ保つ」「家ヲ保つ」「國ヲ保つ」「城ヲ保つ」 (二)有 我ガ物トシテアリ。所持シテアリ。[illegible]

たもと (名) 袂 〔手本ノ義、手末ニ[illegible]〕 (一)〔袖ノ本ノ方。肘ヨリ肩マデノ間、即チ肱ニ當ル所。(上古ノ衣ハ、筒袖ニテ、袖ノ肱ニ當ル邊ヲ云ヒシガ如シ) 倭名抄、十二、廿衣服具、袂「[illegible]居伸也」[illegible]屈伸ノ上ニ受ノ字アリ、臂受ノ誤倒カト云フ) 名義抄「袂、タモト、ソテ」萬葉集、五、九長歌「漢玉ヲ、多母等ニ卷カシ、白妙ノ、袖振リカハシ」同、十五、廿八「我ガ袖ハ、多毛登トホリテ、濡レヌトモ、戀忘レ貝、採ラズバ行カジ」宇治拾遺、一、十八條「若キ男ノ、袂ヨリ手出シタル、薄ラカナル刀ノ長ヤカナルモタルガ」(腋ナリ) (二)混ジテ、袖。(三)フモト。麓「山ノ袂」(四)キハ。ソバ。際 側 才藏狂歌集、夏「夏ノ夜ノ、月ヲミハシノ、たもとニテ、フイタル汗モ、風ニヒタタレ」(五)〔支那、隋唐ノ風移リ、大袖トナリテ下ニ垂ルルモアリ。萬葉集、十四、十「風ノ音ノ、遠キ吾妹ガ、着セシ衣、多母登ノ行、マヨヒキニケリ」腋ノ)

たもとおとし (名) 袂落 烟草入、汗拭、ナドヲ挿ム小サキ袋ノ名。ソノ二個ヲ、紐ノ兩端ニ付ケテ、懷中ヨリ雙ノ袂ノ中ニ落シ置ク。

たもとくそ (名) 袂屎 〔袂屑ノ轉〕 袂ノ底ニ溜ルホコリ。屎ノ條ヲモ見ヨ。

たもとどけい (名) 袂時計 時計ノ、甚ダ小サク製造セルモノ。圓ク扁シ、懷中ニ持チテ、行クニ携フ。懷中時計。根付時計。ヲッチ。

たもとほる ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 徘徊 〔たハ發語〕 もとほる(回)ニ同ジ。メグル。萬葉集、十七、四十六長歌「多古ノ島、飛ビ多毛登保里、葦鴨ノ、集ク古江ニ」同、十八、三十「乎敷ノ岬、漕ギ多母登保里、終日ニ、見トモ飽クベキ、浦ニアラナク

ニ」同、三五十「若キ子ノ、[illegible]保ヘ保里、[illegible]ニ、哭ノミゾ吾ガ泣ク、君ナシニシテ」同、七三「見渡セバ、近キ里廻ヲ、田本欲、今ゾ我ガ來シ、領巾振リシ野ニ」同、廿三「春霞、井上ヨ直ニ、道ハアレド、君ニ逢ハムト、他回リ來モ」同、十一廿七「徘徊、往箕ノ里ニ、妹ヲ置キテ、心空ナリ、土ハ蹈メドモ」

だ-もの (名) [獸物] 劣リタルモノ。ツマラヌモノ。だ(獸)ノ條ヲ見ヨ。

だ-も-の-き (名) 樹ノ名。たもノ條ノ(一)ニ同ジ。

た-もん (名) [多門] 〔永祿中、松永久秀、大和ノ志貴山ノ毘沙門堂(多聞天)ノ上ニ、コノ構造ノ城ヲ築キ、多門城ト名ヅケタルニ起ルト云フ〕(一)城ノ周垣ヲ、長屋造ニシタル處ノ稱。又、城門ノ渡櫓。 理齋隨筆、六、十一條「松永久秀、云云、和州志貴ノ城主トナリ、始テ天守ヲ造リ、又、長家ヲ作ル、志貴ニ毘沙門アリ、ヨリテ之ヲ多門ト名ク」(二)轉ジテ、本宅ノ外周ニ建造シタル長屋ノ稱。大和事始、四、居處門「今世、宅外ノ長屋ヲ多門トイフ、松永彈正久秀、云云、多門ノ城ヲ築キ、長屋ヲ立テシヲ、後世、是ヲ法トシテ多門ト號ク」(三)部屋方ノ女ノ稱。渡櫓ハ雜具ヲ納メオク所、ソノ出納ヲ司ル名ナルカ。(四)次條ノ語ノ略。 謠曲、紅葉狩「多門ハ鉾ヲ横タヘテ、惡魔ヲ降伏シ、災難ヲ拂ヒ給ヘリ」

た-もん-てん (名) [多聞天] 〔恒ニ如來ノ道場ヲ護リテ、法ヲ聞クコト最モ多キ故ニ云フ〕多聞天王ノ略。四天王ノ一。びしやもんてん(毘沙門天)ニ同ジ。 謠曲、鞍馬天狗「浮世ニ遠キ鞍馬寺、本尊ハ大悲多聞天」

た-もり (名) [田守] 田ヲ守リ居ルコト。又、其モノ。 基佐集「秋ノ田ノ、稻刈リ初メテ、引キムスビ、田守ノ神ニ、マツリオクナリ」 召波の句「秋ノ夜ヲ、アハレ田守ガ、鼓カナ」

た-も・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [賜] 〔たば

る(賜)ノ轉〕タマハル。 狂言記、人馬「必ズ重イ物ヲ負フセテたもるナ」 東闕子(田宮仲宣)五「[illegible]内ノ[illegible]ニ、云云、[illegible]たもれ、イヤ、たまはれ[illegible]リ」 古俗[illegible]「コレ[illegible]レバ、近江ガ見ユレ、[illegible]買ウテたもれ、近江[illegible]」上總、[illegible]歌「[illegible]買ウテたもれ[illegible]、[illegible]へカラマル」狂言記、栗田口「ハテ扨、遠路ノ處ヲバ、オヂャッテたもり、ソノ上、書ニ合ウテ[illegible]シウオヂャル」

た-や (名) [他家] 婦人、月經ノ時ニ籠ル家。又、月經。伊豆七島ナドニハ、今モ、住居ヨリ、離レタル地ニ、[illegible]ニテ小家ヲ作リ、月經時ニハ七八日、產婦ハ五十日モ籠ルト云フ。(伊勢ニテ、月經ヲ終ヘテ清マルヲ、たやすぎト云フ、コレハたや[illegible](スズギ)ノ意カト) [illegible]句帳「たや色ノ、紅葉八月ノ、さはりカナ」立田娘「たややヤコボス、下紅葉」 年年[illegible](享保、石原正明)「[illegible]月[illegible]、云云、當時、社ニ因リテハ、云云、此禁忌イミジウ嚴ニテ、たやトカ云ヘル小屋ニオロシテ、[illegible]七日、[illegible]ノ[illegible]七日、火ヲ改メテ一日、十五日ハ同宿同火セヌ所モアリト聞ク」

た-や・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [絶] 絶ユルヤウニナス、斷ツ。[illegible]ス。狂言記、武[illegible]「[illegible]日ニ知ルルト、[illegible]煩ヲ絶やすゾヨ」

たやす-く (副) [輒] 〔たやすしノ副詞法〕憚ルベキ事ヲ憚ラズ、[illegible]シク。易ク。難キコトナク。容易ニ。 欽明紀、元年九月「新羅怨曠積年、不可輕爾而伐」 繼紀、廿五、天平寶字八年九月、[illegible]「[illegible]手使、多使[illegible]久、退[illegible]良[illegible]」

た-やす・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [容易] 〔たハ發語ナリ〕(一)易シニ同ジ。爲ルニ難カラズ。ヤウイナリ。カヤスシ。タハヤスシ。 萬葉集、十一廿「言ニイヘバ、耳ニ田八酢四、スクナクモ、心ノウチニ、ワガモハナクニ」竹取物語「但シ此玉ハたやすく得トラジヲ」(二)カロガロシ。[illegible]ナリ。 古今集、序、[illegible]

キ人ヲバ、たやすきヤウナレバ入レズ」

た・ゆ・ユ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) [絶] (一)[illegible]ズ。[illegible]ル。[illegible]、十[illegible]し、長歌「見レドモ飽カヌ、秋サラバ、[illegible]ノ[illegible]ニ、春サラバ、花ノ盛ニ、カモカクモ、君ガマニマト、カクシコソ、ミモアキラメメ、絶ユル日アラメヤ」[illegible]古今集、十四、戀、四「山高ミ、谷ベニ這ヘル、玉カヅラ、[illegible]ゆるコトナク、[illegible]」 日本[illegible]歌「ササナミノ、寄スル渚邊ニ、宮ハジメ、世世ニ多江ヌカ、君ガミ命ハ」(二)[死ヌ]。 源、一、桐壺「夜中打過グル程ニナム、[illegible]ヒヌル」竹取物語「たえ入リニケリ、[illegible]アワテニケリ」(三)[通]

た・ゆ・ユ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (他動、下二) [illegible] [illegible] 源、十[illegible]、[illegible]ニ[illegible]ル」[illegible]ノたえタル[illegible]ニウツロヒ[illegible]」

た・ゆ [illegible] [illegible]続カヌヤウニス。[illegible]クルヤウニス。 [illegible]實記、元年六月、[illegible] [illegible] 其日[illegible]」同、十[illegible]三日[illegible]」[illegible]

た・ゆ (自) [堪] 堪フノ[illegible] [illegible]

たゆう-れい (名) [大庾嶺] たいゆれい(大庾嶺)ノ訛。これい(五嶺)ノ條ヲ見ヨ。

たゆげ-み (副) [弛氣] タユキヤウニ。タユサウニ。[illegible] [illegible] [illegible] ナトモ、イトたゆげナリ、イト[illegible]、[illegible]ノ ケシキニテフシタレバ」

たゆ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [illegible] [illegible] ニ通ズルカ」(一)疲レテ萎ユルヲ覺ユ。[illegible] [illegible] [illegible] 古今集、十一、戀、一「思フトモ、コフトモアハム、モノナレヤ、結フ手モたゆく、解クル下紐」伊勢集、若[illegible]ニ、ウツラバウツレ、手モたゆく、[illegible]ミヤ人レマシ、撫子ノ花」小町集「宵宵ノ、夢ノ魂、足たゆく、有リテモ待タム、訪ヒニ來ヨ」(二)[心、行キ屆カズ。心ノ[illegible] [illegible] [illegible]

セハ、タユタヒテ[illegible] [illegible] [illegible] [illegible]ト[illegible]リオレオレシ、たゆき心[illegible]リ[illegible] 同、[illegible]十四、下、[illegible]

たゆた・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [猶豫] (一)[illegible]カナタヘ、[illegible]カナタヘ、[illegible]ヒテ、方ヘ定リテハ進マズ。[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] 同、十二[illegible]レバ、[illegible]セル、[illegible]アラズ」 [illegible]、[illegible] [illegible] [illegible] [illegible]大[illegible]ノ、[illegible] [illegible]ノふサ、[illegible]バ[illegible]シ[illegible] 同、十五[illegible]大[illegible]ノ[illegible]山[illegible]比來レバ、九月ノ、[illegible]ノ山モ、ウツロヒニケリ」[illegible]情、[illegible]、玉、[illegible]ノミ、[illegible]ハ[illegible]ヒテ、[illegible]ノ、[illegible]ノ[illegible]、たゆたひニケリ」(二)[illegible]トヤカクヤト、思ヒマシト、思ヒヤスラヒテ、進マズ。思ヒテ、決セズ。タメラフ。[躊躇] [猶豫] [依違] 源、三十四、上、若菜、上「心弱ク思ヒ惑ヘテ、たゆたひニコ[illegible] [illegible] [illegible] [illegible]ハ、宮ノ御ウツクシサ、イクカ、トカ、[illegible] [illegible] [illegible]ノ[illegible]レバ、[illegible]聞コエサセ給ヘ[illegible]、ツツ[illegible]シキ[illegible]ノ[illegible]シたゆたふベシ」[illegible] [illegible]人ハ[illegible]二[illegible]ヒ、シバシたゆたひクルガ、カクテハ[illegible]時[illegible]ツベキト、[illegible]マシ」

たゆ-ひ [illegible] [手結] たまき(手纏)ニ同ジ。[illegible] [illegible] [illegible]

たゆ-み (名) [弛] [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

たゆ・む・ム・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [illegible] [illegible]ル、[illegible]。[illegible] [illegible] [illegible]

ゆむナルラム」源、十三、明石「入道モエ堪ヘデ、供養法たゆみテ、イソギマヰレリ」（二）眠ル。新後撰集、六、冬「マドロマヌ、須磨ノ關守、アケヌトテ、たゆむ枕モ、ウチシグレツツ」

たゆ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［弛］弛ムヤウニナス。怠タラス。油斷セサス。源、三十八、夕霧「御物ノケノたゆめケルニヤ」同、七、紅葉賀「コリヌヤト、イハントオモヒテ、たゆめキコユ」枕草子、十、百三十三段「ナニトモオモヒタラヌヤウニテ、たゆめスゴスモヲカシ」

たゆら‐み（副）タヨラニ。ウゴキテ。ユラユラトシテ。又、タルミテ。ナマケテ。萬葉集、十四、十一「筑波ネノ、岩モトドロニ、落ツル水、世ニモ多由良爾、ワガ思ハナクニ」

たよう（名）［多用］用事ノ多キコト。事シゲキコト。多事。多端。

たよく（名）［多欲］欲ノ深キコト。韓詩外傳「顏、蕭曰、獨以予無德、而患生予多欲」

たよせ‐み（副）［遥］（たハ發語、寄する意カト云フ）（一）遥ニ隔テテ。遠クニテ。天武紀、下、元年六月「於朝明郡迹太川邊、望拜天照大神」夫木抄、三十四、神祇「白雲ニ、色見エ紛フ、幣帛ヲ、たよせみ受ケヨ、神ノ此神」同、十一、秋「忍ヒカネ、摘ミシラスルヲ、女郎花、たよせみ折ルト、思ヒ疎ムナ」（二）ツイデニ。タヨリニ。惠慶法師集「神ノ社ニ、舟ヨリ行ク人ノ、波ノ高ケレバ、たよせみ幣帛奉ル」源賢法眼集「たよせみヤ、今日ハ貸サマシ、タナバタノ、空ニタナビク、ササガニノ絲」

たよたよ‐と（副）［婀娜］ナヨナヨト。タヲタヲト。本朝若風俗（貞享、西鶴）七「殊更一座客ノコナシ、タハブレ、シメヤカニ、たよたよとシテ鼻カラズ、ウナマカセ、身ニモ心ヲ置クゾカシ」松の葉（元祿）一、青柳「サテモ其方ノ立姿、春ノ青柳絲櫻、心ガたよたよと」

たよら‐ふ（副）たゆらみニ同ジ。萬葉集、十四、二十「アシガリノ、土肥ノ河内ニ、イヅル湯ノ、世ニモ多欲良爾、兒ロガイハナクニ」

たより（名）［便］（一）［タヨルコト。ヨルベ。タノミ。テヅル。名義抄「依、タヨリ」伊勢物語、廿三段「女ノオヤナクナリテ、たよりナクナルママニ、諸共ニ」更級日記「エ云ヒヨラヌニ、サルベキたよりヲ尋ネテ、七月七日云ヒヤル」所縁の藤浪（文政、一九）初編、上「サハ言ヒナガラ悲シキハ、一人ノ母、外ニ子トテハナク、私一人ヲたよりニシテ」（二）［ツイデ。都合好キ時。便次］名義抄「便、タヨリ」源、十、榊五十「此ノツイデニ、サルベキ事ドモ構ヘ出デムニ、ヨキたよりナリ」夫木抄、三十二、祓庭「此森ノ、紅葉ノ錦、立テナガラ、道ノたよりニ、幣タテマツル」拾遺集、六、別「たよりアラバ、イカデ都ヘ、告ゲヤラム、ケフ白河ノ、關ハ越エヌト」（三）テダテ。便宜。方便。徒然草、三十段「山里ナンドニウツロヒテ、たより惡シク狹キ所ニ」因果物語（寛文、鈴木正三）序「正三老人、因果歷然ノ道理、面前ノ事ドモ記シ認メテ、以テ諸人發心ノたよりト爲サント誓フ」（四）オトヅレ。消息。音信。字類抄「風、タヨリ」李花集「誰レカハト、思フモノカラ、フルサトノ、たより待タルル、初カリノ聲」（五）ユカリ。エニシ。緣。元眞集「霞タツ、野ベノ若菜ヲ、今日ヨリゾ、松ノたよりニ、千代ハツムベキ」

たより‐や（名）［便屋］まちびきゃく（町飛脚）ノ條ヲ見ヨ。守貞漫稿、四、生業、上「江俗ノ方言ニテ便り屋ト云、元來、町飛脚ト唱ヘ、昔ヨリ貧民ノ一助トシテ、諸業ニ兼行ス」

たよ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［便］（手縁ノ義、スガリ寄ル意）緣ヲ求ム。ヨルベニツク。傳ニ頼ム。スガル。頼 赤染衛門集「笛ノ音ニ、神ノ心モ、たよるラン、森ノコ風モ、吹キマサルナリ」因果物語（寛文、鈴木正三）上、一「亡者、人ニたよりテ弔ヲ頼ム事」

たよわ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［手弱］（たハ發語）弱シ。カヨワシ（老人、婦人、小兒ナドニ）萬葉集、三、四十一「岩トワル、タヂカラモガモ、手弱キ、ヲミナニシアレバ、スベノ知ラナク」

たら（名）［鱈］（雪魚ノ合和字、或ハ云フ、肉色、雪ノ如キニ因ルト）魚ノ名。北海ニ産ズ。形、略、鱸ニ似テ、長サ三尺許、頭ト口ト大キク、鱗細カク、青黄ニシテ白ミアリ、皮薄ク、肉白ク、冬ヲ時トス。頭ニ白石ノ如キ骨、二枚アリ、多クハ、乾シ、又ハ、鹽漬ニシテ、遠キニ送ル、干鱈、棒鱈ナド云フ。鰵魚 大口魚 牛馬問（新井白蛾）三「鱈ハ和字也、云云、大口魚、大巨魚ナド書ク也（大巨ハ、巨口ノ誤カト）」

たら（名）［楤］倭名抄（廿、木類）ニ、小木叢生シテ刺アルモノトス。詳ナラズ。今別ニ、たらのきアリ。其條ヲ見ヨ。本草和名、下、三十「楤子、一名、白楤、小木也、多良」字類抄「楤、莰、タラノキ」天武紀、上、元年六月「莿萩野」

タラ（名）［多羅］たらぢゅ（多羅樹）ノ條ヲ見ヨ。

だら（名）［陀螺］バイゴマ。（獨樂ノ條ヲ見ヨ）帝京景物略「陀螺者、木製、如小空鐘、中實而無柄、繞以鞭之纒、卓于地、急掣其鞭一掣、陀螺則轉、無聲也、視其緩而鞭之、轉之疾、正如卓立地上」嬉遊笑覽、六、下、兒戲「陀螺ト漢土ニ云モ、螺ヲマハシタルニコソ、今ノバイゴマハ、木ニテ作レリ」

ダラ（名）［弗］（一）どろらる（弗）ノ訛。ソノ條ヲ見ヨ。（二）轉ジテ、明治ノ初年、西洋ノ貨幣ニ法リテ、鑄造セラレタル貨幣ノ俗稱。

ダライ‐ラマ（名）［達頼喇嘛］（英語、Dalai Lama. 達頼ハ、蒙古語ニテ大海ノ義、其德、廣大ナルコト海ノ如シト云フ意ニ因ル。喇嘛ハ西藏語ニテ無上、又ハ勝者ノ義、乃チ其長老ヲ云フ）西藏ノ喇嘛教（黃教）ノ教主ノ稱。略シテ、達頼。俗ニ活佛ト稱シテ、同國ノ政權、及、教權ヲ握リ、首府、拉薩ノ布達拉寺ニ居ル。らま（喇嘛）ノ條ヲモ見ヨ。

たらう（名）［太郎］（一）物ノ魁、又ハ、大ナルモノノ稱。即チ利根川ヲ坂東太郎、富士山ヲ富士太郎、又ハ、駿河太郎、大刀ヲ太郎太刀、すっぽんヲ沼太郎、堀河院百首ヲ堀河太郎百首ト云フガ如シ。用捨箱、下、十三「非情ノ物ノ雄ナルヲ太郎ト呼ビ、ソレニ次グヲ次郎ト云フコト種種アリ、刀ニ太郎太刀、次郎太刀、蟲ニ太郎貝、次郎蝶、利根川ヲ坂東太郎ト名ケシモ、關東ノ大河ナレバ也」隱蓑、雜夏「初雪ノ、花ノ兄キヤ、富士太郎」續賢集「噴澤ヤ、ヒトリ時雨ルル、沼太郎」（コノ沼太郎ハ、廣澤ノ池ヲサス」（二）物ノ第一ナルモノノ稱。八專ノ第一日ヲ八專太郎ト云フ。用捨箱、下、頭書「占候ニ天一太郎、八專次郎アリ、但、是ハ一二ノ次第ヲ云フニテ、大小ヲ云フニ非ズ」（三）擬人シタルモノニ、白髮太郎（天蠶）、河太郎（河童）ナドノ如シ。用捨箱、下、附記「近江國ノ方言ニ、雁ヲ沼太郎ト云フ」

たらう（名）［太郎］長男ノ稱。其次次ヲ二郎（次郎）、三郎ナドト云フ。貞丈雜記、二、人名「太郎ハ惣領ノ子也、次郎ハ二男也、三郎ハ三男也」同、頭書「父ノ名、太郎ナレバ、其子ハ小太郎ト云フ、其小太郎ニ子アレバ、又太郎也」太子傳曆「入鹿、時人稱太郎」（皇極紀ニ、入鹿ヲ君太郎ト云ヘリ、蘇我入鹿ハ蝦夷ノ嫡子ナリ）宇津保物語、藤原君「女、九トコロ、マヅ宮ノオホイ君、太郎、次郎、三郎、四郎、取リツヅキ生ミタマフ、大イ殿ニ、九郎、宮二十郎、云云」榮花物語、一、月宴「大臣（時平）ノ御子、云云、太郎ハ今ノ左大臣ニテ、實頼ト聞ユ」

たらう‐くゎじゃ（名）［太郎冠者］（冠者ノ若者ナルヨリ云フ）能ノ狂言ニ、大名ナドノ從僕ノ稱。其脇ナルヲ二郎（次郎）冠者ト云フ。貞丈雜記、二、人名「蒲冠者、

木會冠者、河内冠者ナドノ冠者ハ、くヮぼヽヽト訓ムナリ、冠者トハ、近キ頃、元服シタル若キ者ノ事也、猿樂狂言ニ、ワカキ侍ノ事ヲ、太郎冠者ト云フモ同ジ事也」狂言記、狐塚「太郎冠者、次郎冠者ヲ山田ヘ遣ハシテ御座ル」

たらう-づき（名）［太郎月］〔最初ニ生レタル子ヲ、太郎ト云フヨリ、擬人シタル語〕正月ノ異名。　書言字考節用集、二、時候門「太郎月」注「本朝俗、序二正月一云レ爾」　誰身の上（明暦）四季短歌「ツナ引ワコハ太郎月、二郎モヨコレルホウビキハ、セチブルマヒニ、事ハジメ」

たらう-ばう（名）［太郎坊］〔擬人語〕富士山ナドノ天狗ノ名。二郎（次郎）坊ト云フモアリ。　俚言集覽「太郎坊（愛宕山）、次郎坊（比良嶽）、共ニ天狗ヲ云フ」

タラ-えふ（名）［多羅葉］（一）貝多羅葉（バイタラエフ）（其條ヲ見ヨ）（二）又、樹ノ名。幹、青白ク、高キハ二三丈ニ達シ、葉ハあをき（オ）ノ如ク、鋸齒細カクシテ、厚ク堅シ。夏、小白花ヲ開ク。子ハ赤小豆（アヅキ）ノ如ク簇（ムラガ）リ、冬、熟シテ赤黑シ。　和漢三才圖會、八十三、喬木類「多羅葉、たらえう、云云、是亦桹多羅之類乎、今多人家庭園栽レ之」

たらか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）　たらすニ同ジ。　東海道中膝栗毛（文化、一九）七編、下「吉彌メニたらかさレクサッテ、キリモン貸シタマデノコッチャアロゾイナ」

だ-らく（名）［墮落］（一）オツルコト。墜落。落下。墜下。　曹松詩「欲レ知便是銀河水、墮二落人間一合却迴」（二）零落スルコト　オチブルルコト。落魄。淪落。　荀子、富國篇「徒毀壞墮落、必反無レ功」（三）佛經ノ語。法心ヲ失ヒテ、俗心ニ墮ツルコト。又、惡道ニ陷リテ止マルコト。　法華經「當レ墮二落惡[illegible]火所レ燒」（四）品性ノ卑シクナルコト。

又、身ヲ持チクヅスコト。

ダラクマ（名）〔羅甸語、Drachma. 英語、Drachm. 或ハ Dram. 元來、古代ぎりしあノ、銀貨ノ名稱ナリシガ、轉ジテ重量ノ稱トナリタリ〕西洋ニテ、藥材ニ用ヰル秤目ノ名。英、米ナルハ、我ガ一匁〇三厘六毛半強。佛ナルハ、一匁〇二厘強。普魯士ナルハ、九分七厘四毛半強。だらむノ條ヲ參見セヨ。

だらけ（接尾）〔滴滴（タラタラ）スル意カ〕名詞ノ接尾語。塗（マミ）レ汚レタル意ヲ云フ。又、一面ニ散在ス。秩序ナク多クノ意。　玉塵、四十四「木ニ榾（ホダ）ト云フアリ、ネヂリスヂリ節だらけデ、深山ノ奧ニ、ナン年ト云フコトモナク、伐ラレイデ、長生キシテ居ルゾ」　曾根崎心中（元祿、近松作）「戀口だらけ言ヒ散ラシ、喚イテコソハ歸リケレ」　新永代藏（正德、團水）五「[illegible]だらけノ[illegible]洗ハズ、垢ツキ着物ニテ遊ビ歩ク」　柳樽、七編「川竹ノ、文ハ御ゲンノ、フシだらけ」　風流志道軒傳（風來山人）二「ソコラだらけカ、[illegible]だらけナル顔打チ振リ」

✣だら・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下一）〔弛（タユ）ク垂ルル意〕締（シマリ）ナク弛（ユル）ム。怠（タユ）クナル。ナマケル。オコタル。弛慢。

たら-コブ（名）［鱈昆布］鹽鱈ノ肉ト、刻（キザミ）昆布トヲ、混ゼテ調理シタル吸物。こぶたら（昆布鱈）ノ條ヲ見ヨ

たらさ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）［欺］イツハルヤウニス。アザムクヤウニス。　天治字鏡、三十二「誑、惑也、欺也、タラサス、イツハル」

〰たらし（名）［帶］〔垂らしノ義、結ビ垂らすノ意〕（一）帶ヲ結ビ垂ラスコト。古事記、序「於二名帶字一、謂二多羅斯一」[illegible]萬葉集、十一「イニシヘノ、倭文機帶ヲ、結ビタレ、タレトフ人モ、君ニハマサジ」（二）弓ノ古稱。（執（ミトラシ）らしニテ、手ニ執ル意）[illegible]

一「弓[illegible]、[illegible]云云、タラシトイフハ、轉語ニテ、實ハ執ノ字也、ミタラシトイフハ、弓ノ御執ル[illegible]也」

✣ダラシ（名）〔[illegible]たらしノ轉訛。其條ヲ見ヨ〕行儀ノ檢束（シマリ）。[illegible]（文化、三馬）初編、上「ナンノだらしモネエクセニ」

たらし-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［垂込］液體ヲ滴ラシ入ル。

✣たらし-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）　タブラカス。タノ[illegible]。　平家女護島（享保、近松作）三「色ニ迷フハ男ノナラヒ、欺マシスカシたらし込み、心ヲ見屆ケ」　春花五大力（寛政、並木五瓶）[illegible]者ヲたらし込み、源五兵衛メニ恥辱ヲ與ヘ、小万メガ吼エヅラヲ、タッタ今見セマセウ」

タラ-ぼゅ（名）［多羅樹］〔梵語、[illegible]〕又、貝多羅樹。天竺ノ樹ノ名。佛經ニ、[illegible]所、形、椶櫚ノ如ク、直ニシテ八九丈ニ達シ、花ハ黄[illegible]ノ如シトゾ。國人、其葉ヲ採リテ字ヲ寫ス。貝多羅葉（バイタラエフ）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]云云、其樹[illegible]、極高者八十尺、[illegible]、人多食レ之、東印度界其樹最多」　西域記、十一「其[illegible]」

〰たら・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）［足］足るノ[illegible]。　萬葉集、二十[illegible]「[illegible]、[illegible]見レバ、[illegible]、御齡（ミヨハヒ）ハ長ク、天足（アマタ）らしタリ」

たら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［垂］（一）[illegible]垂ルルヤウニス。「涎ヲたらす」（二）流シ落ス。シタタラス。滴。　俚言集覽「水ヲたらすハ弔スノ義也、たトつト通ズ、弔すハ[illegible]」

✣たら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔足ラシメ[illegible]、欺クヲ[illegible]、又、[illegible]ノ約トモ〕甘キ言葉ヲ以テ人ヲ欺ク。賺（スカ）ス。[illegible]

[illegible]タラス」　孟子抄（文明）九「[illegible]物ヲたらさレタゾ」[illegible]ハたら[illegible]ゾ、リアルゾ、リサヤトイフ心ゾ」　史記抄（文明）十[illegible]ト云フ事也」　新米代藏（正德、團水）六「人ヲたらし、[illegible]ニアラズ[illegible]、イカデ[illegible]可キ[illegible]ハナシ」[illegible]泣クヲたらし、其[illegible]人ヲ殺シ捨ハズ」

ダラ-すけ（名）［陀羅助］だらにすけ（陀[illegible]）[illegible]同ジ。

たら-ず-まへ（名）［不足前］補ノ分。不足ナル分。足ラヌ分。

たら-たら（副）［滴滴］（一）水ナドノ滴ル狀ニ云フ語。[illegible]（二）物事ヲ、ツツケ[illegible]

だら-だら（副）（一）[illegible]

〰たらち-め（名）[illegible]

たらちね（名）[illegible]（二）女親。母親。母。　今鏡、藤波下「たらちねハ、イカニ[illegible]」[illegible]ちめト相對シテ、父親ノ義[illegible]「[illegible]らちねモ、又たらちねモ、ウセハテテ、タノムカゲナキ、ナゲキヲゾスル」

〰たらちね-の（枕）［垂乳根］（一）[illegible]

根ノ、母ガ養フ蠶ノ、眉隱リ、イブセクモアルカ、イモニアハズテ」同、九卄「垂乳根乃、母ノミコトノ、コトナレバ、年ノ緒ナガク、憑ミスギムヤ」古今集、八、離別「たらちねの、親ノ守リト、アヒソフル、心バカリハ、關ナトドメソ」(母親ナリ)　後ニハ兩親ニ通ジテモ用ヰ、父、別ニ、たらちめ(母)、たらちを(父)ナド云フ語モ出デ來テ、ソレヲ、父、直ニ、名詞トシテ、父母ノ事ニモ用ヰル　萬葉集、七、卄「足乳根の、母ノソノナル、桑モナホ、願ヘバ衣ニ、着ルトイフモノヲ」同、十一、卄「カクシノミ、戀ヒバ死ヌベシ、足千根の、母ニモ告ゲツ、ヤマズ通ハセ」同、十五、卄「長歌「多良知禰乃、母ニマヲシテ」新萬葉集、下「足千種之、親モツラシナ、カクバカリ、思ヒニ迷フ、世ニトドメタル」

〜たらちめ　(名)　〔母〕　〔妄造語ナリト云フ〕　たらちね(足乳根)ノ條ヲ見ヨ。　金葉集、十、雜「たらちめノ、歎キヲツミテ、我ハカク、思ヒノ下ニ、ナルゾ悲シキ」千載集、九、哀傷「たらちめヤ、トマリテ我ヲ、惜マヽシ、カハルニカフル、命ナリセバ」仲文集「たらちめノ、昔ノ親ハ、サモアラバアレ、サテヤハウマノ、カミノコハヨキ」

〜たらちを　(名)　〔父〕　たらちねの(足乳根)ノ條ヲ見ヨ。　元輔集(一本)「世ノ、煙ニ身ヲヤ、比ヘマシ、我ガたらちをモ、サテゾタエニシ」貫之集「世ノ中ニ、誰レカ名ダカキ、たらちをト、我トガ中ヲ、人ハ知ルラム」

ダラニ　(名)　〔陀羅尼〕　〔梵語、Dhāraṇi. 能持、又、總持多含、等ノ義。善法ヲ持シテ散ゼザラシメズ、惡法ヲ持シテ起ラザラシメザル力用ヲ云フ。智度論、五「陀羅尼者、秦日 能持、云云、能持集二種種善法、能持令二不レ散不レ失」〕　諷誦スベキ經文ノ名。其用、聲音ニアリ、コレ佛、菩薩ノ說ケル呪語ニシテ、萬德ヲ包藏ス。呪ハ、如來眞實ノ語ナレバ眞言ト云ヒ、呪語ナレバ、誦スベク解スベカラズ、故ニ翻譯セズ。初ニ那謨、或ハ唵ノ如キ、敬禮ヲ表スル語ヲ置キ、諸佛ノ名號ヲ列ネ、一二三ノ祕密語ヲ繰返シ、末ニ娑縛訶ノ語ヲ以テ結ブヲ常トス。又、阿鑁覽哈欠ノ五字ハ、大日如來ノ眞言ニテ、五字陀羅尼トモ云ヒ、コノ五字ハ阿鼻羅吽欠ノ如ク、地、水、火、風、空ノ五大ニシテ、大日如來ノ自體トナス。　祕藏記「諸經中說ニ陀羅尼、或陀羅尼、或明、或呪、或密語、或眞言、如是五義、其義如何、陀羅尼者、佛放光、光之中所說也、云云、今持ニ此陀羅尼、人、能發ニ神通、除ニ災患、與ニ呪禁法ニ相似、是故曰レ呪、云云」源、五、若紫、九十「功ヅキテだらにヨミタリ」

ダラニ-すけ　(名)　〔陀羅尼助〕　〔僧ノ、陀羅尼ヲ誦スル時、睡ヲ防グ助トシテ、口ニ含ミタルニ起ルト云フ〕　黃蘗ノ生皮ヲ煉リツメテ製セル藥ノ名。色、黑ク、味、極メテ苦シ。吉野大峯ノ洞川ニテ作リ、大峯ニテ燒キタル香ノ烟煤ニ、百草ヲ交ヘ、加持シタルモノト僞ル。或ハせんぶりノ根ニテモ製ス。腹痛ニ效アリ。今、俗ニ御百草トモ云フ。ダラスケ。　一話一言(大田南畝)十三「ココ(大峯)ニ陀羅尼輔ト云フ藥アリ、其ヲ調ジスル所ヘ至リテ見ルニ、黃蘗ノナマナマシキ皮ヲ煉リツメタルモノ也、大峯ニテ燒ケル香ノ煙ノ溜マレルニ、百草ヲ雜ヘ、加持シタルモノナリナド言ヘルハ、ヨシモ無キコトナリ」

たら-の-き　(名)　〔楤、楤木〕　樹ノ名。山ニ多シ、一幹直立シテ枝條無シ、大ナルハ丈餘ニ至ル。幹ニ刺多シ、故ニ「小鳥止らず」ノ名モアリ。春、幹ノ上ニ芽ヲ生ズ、ふきのたうノ如シ、食用トス、味、獨活ノ如シ、故ニ、うどもどき、又、うどめ(吻頭)ト名ヅク。葉、長ズレバ、數條、幹ノ頭ニ布キテ傘ノ如ク、葉ハ枝ヲ分チテ、小葉多ク排生ス、あふちノ葉ニ似テ大キク、刺多シ。夏、葉ノ間ニ、穗ヲ垂レテ、小白花ヲ開ク、實ハ小サク圓ク、熟スレバ黑シ。又、木ニ刺アリテ、葉大キクシテ刺ナク、背ニ毛アルヲ、雌たらのきト云フ。木中ニ心アリテ、やまぶきノ心ニ似テ大ナリ、採リテ、酒中花ナド製ス。又、たろのきト云フ。　和漢三才圖會、八十四、灌木類「楤木、俗云二太良乃木一」

〜たら-は・す　ス・セ・サ・シ・セ(自動、四)　〔足〕　〔足ふノ敬語〕　タラヒタマフ。　萬葉集、十九、四十「唐國ニ、行キ多良波之テ、歸リ來ム、マスラタケヲニ、御酒奉ル」同、同四十「アメツチニ、足之照リテ、ワガオホギミ、シキマセバカモ、タヌシキ小里」

〜たら-は・す　ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)　〔足〕　足フヤウニナス。十分ニスル。滿足セサスル。　萬葉集、十三、十長歌「葦立ツ、長キ春日ヲ、天地ニ、思ヒ足椅、タラチネノ」

たらひ　(名)　〔盥〕　〔手洗ノ約〕　(一)水、又ハ湯ヲ盛リテ、手、又ハ面ヲ洗フニ用ヰル扁キ器。左右ニ、持ツベキ二本ヅツノ角ノ如キモノ横出ス、洗灌だらひナド出來テ、コレニ別ツタメニ角だらひノ名アリ。テウヅダラヒ。今、又、誤リテ半插ノ名ヲ附ス。承盤　和漢三才圖會、二十五、容飾具「盥、音管、和名、多良比、盥、洗レ手器也、字从二臼水臨レ皿也」(二)〔轉ジテ、スベテ、製、桶ノ如クニシテ扁ク、湯水ヲ盛リテ、物ヲ洗フ器。　倭名抄、十四、二十澡浴具「盥、多良比、俗用二手洗二字一」名義抄「手洗、タラヒ」大嘗祭式「手洗」伊勢物語、廿七段「女ノ手洗フ所ニ、貫簀ヲ打チヤリテ、投ゲステケレバ、たらひノ蔭ニ見エケルヲ」千五百番歌合、十七、戀、二「シノブレド、ヨソメヤイカニ、麻手洗フ、たらひノ水ノ、影モハヅカシ」新六帖、一「老イニケル、程モハカナシ、朝每ノ、たらひノ水ニ、ウカブ面影」　枕草子、六、五十八段「はんざふニ手水ナド入レテ、たらひノ手モナキナドアリ、御供ノ人ハ(二)「(耳盥)」「(見盥)」

〜たら・ふ　フ・へ・ハ・ヒ・へ(自動、四)　〔足〕　(一)足るノ延。不足ナク滿ツ。　顯宗紀、元年二月「僕ハ、使ハ、無レ乏少二」萬葉集、十八、十長歌「八十伴ノ男ヲ、マツロヘノ、ムケノマニマニ、老イ人モ、メノワラハ子モ、シガ願フ、心太良比ニ、撫デ給ヒ、治メ給ヘバ」同、同三十「コノ見ユル、雲ホビコリテ、トノグモリ、雨モフラヌカ、心太良比ニ」(二)其分際ニ堪フ。　源、廿九、行幸、廿「大臣ト言ハムニ、たらひ給へり」同、四十一、匂宮、五「心バヘナドモ、たらひテ生ヒ出デ給フ」

⁂たら-ふく　(副)　〔足らひ服るノ意〕　タンノウ。たっぷり。腹一パイニ。十分ニ。　東海道中膝栗毛、享和、一九、二、下「吉田ノ尚場テ、たらふく酒ヲ掛舞ハシャノタ」俚言集覽「たらふく、饜足ヲ云フ、大飽ヲたらふく孫左衞門ト云フ」

ダラム　(名)　〔英語、Dram. 或ハ Drachm. 羅甸語、Drachma ノ略轉〕　(一)又、だらくま。英國ノ重量ノ名。藥劑用ノ秤目ニテハ、六十げれいん、卽チ八分ノ一おんす、卽チ我ガ一匁〇三厘六毛半強。(二)貴金屬、寶石、藥劑ナド以外ノ物品ノ重量ニテハ、二十七・三分ノ一ぐれいん、卽チ十六分ノ一おんす。だらくまノ條ヲモ見ヨ。

だらり-と　(副)　シマリナキ狀、又、ナマケタル狀ニ云フ語。取締ナク。定度ナク。　著聞集、十六、興言利口「サマザマノ勸メニ、身モクタビレニケルニヤ、其夜ハ、だらりとシテ寢タリケリ」「だらりと下ル」だらりと延ヒテ」

〜たり　(名)　〔疣〕　〔垂ノ義カ〕　いひぼ(疣)ニ同ジ。いぼ(疣)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。　字鏡、上「疣、腫也、伊比保、又、太利」

たり (名) 【鶏】〔血ノ垂下ノ意カ〕 馬ノ脚ノ屈マレ病。倭名抄、十一、牛馬病「鶏、[illegible]云、太利、馬脚屈重也」(鶏、又、鶏ニ作ル) 名義抄「鶏、タリ、ナツム」 史記、晉世家「惠公馬鶏不レ行」

たり (名) 【罇】〔酒ノ、口ヨリ垂り出ヅル義〕 酒ヲ盛リテ杯ニ注グ器。瓶子、銚子ノ如ク用ヰラル。後ニ、酒ヲ貯ヘ置ク器ヲ樽ト云フハ、其遺ナリ。古事記、下(雄略)「ミナソソグ、オミノヲトメ、本陀理トラスモ、本陀理取リ、堅ク取ラセ、下堅ク、ヤ堅ク取ラセ、本陀理取ラス子」、ほだりハ、秀罇ノ義、上ノ高キ罇

たり・る・れ・ら・り・れ (助動) 〔と、ありノ約〕 物事ヲ指シ定ムル意ヲ云フ助動詞。常ニ、名詞、又ハ、漢語ニノミ付ク、論語、顔淵篇「君君、臣臣」 中庸、第廿六章「天之所三以爲二天」 詩經、大雅、蕩之什、常武篇「赫赫、明明」 同、周南、葛覃篇「維葉莫莫」 同、衞風、淇奥篇「瑟兮僩兮」 十訓抄、下、可レ停二怨望一事「古今ノ歌たるニヨリテ限アリ」 平家物語、二、烽火事「君君たらズト云ヘドモ、臣以テ臣たらズンバアルベカラズ、父父たらズトイフトモ、子以テ子たらズンバアルベカラズ」

たり・る・れ・ら・り・れ (助動) 〔て、ありノ約〕 動作ノ過ギ去レル意ヲ云フ助動詞。意、つ、ぬナドニ同ジ。萬葉集、二十三「我レハモヤ、ヤスミコ得タリ、ミナ人ノ、得ガテニストフ、ヤスミ子得多利」 同、十八 六十「ツネ人ノ、戀フトイフヨリハ、餘リニテ、吾レハ死ヌベク、ナリニ多良ズヤ」 同、九 八十「雪コソハ、春ビ消ユラメ、心サヘ、消エウセ多列ヤ、コトモ通ハヌ」「行キたり」「受ケたり」「見たり」

たり (接尾) 【人】〔箇ノ約轉カト云フ〕 人ヲ數フル詞ニ添ヒテ、人ヲ數フルニ用キル語。古事記、中、三 [illegible]ノ、シケコキヲヤニ、菅タダミ、イヤサヤ敷キテ、ワガ布多理ネシ」 [illegible]紀、十二「蝦夷ヲ、比多利、百ナ人、人ハイヘドモ、手對モセズ」 萬葉集、五 [illegible]「[illegible]ノ、お多利[illegible]、カタラヒシ」「二たり」「五たり」「幾たり」

たりう (名) 【他流】 自己ノ流儀以外ノ流儀。外ノ流儀。「[illegible]」

たりき (名) 垂木 屋ノ棟ヨリ、軒ノ端マデ、幾筋モ竝ベ垂レ亘ス木。たるき(垂木)ノ條ヲモ見ヨ。字鏡 [illegible]「[illegible]、太利木」 [illegible]記、[illegible]年十一月 [illegible]、比[illegible]志乃太利木」 [illegible]「取置椽棕、此家長御心之齊也」

たりき (名) 【他力】 (一)他人ノ力。他人ノチカラ。(二)特ニハ、阿彌陀佛ノ本願ノ力。「他力ヲ仰グ」 教行信證(元仁、[illegible])「[illegible]他力[illegible]、如來本願力也」 [illegible]文章、[illegible]「[illegible]生セント思ハン人ハ、マヅ他力ノ信心ト云フコトヲ存知スベキナリ」 [illegible]記、四十八、女院六道[illegible]物[illegible]事「[illegible]クモ[illegible]他力本願ヲ信ズ、[illegible]、此世ハ假ノ宿ナレバ」

たりくち (名) 脣ノ垂レサガリタルコト。字鏡 [illegible]「[illegible]、太利久知」

たりくび (名) 【垂領】〔盤領ニ對シテ、背ニ垂ルル意〕 カクエリ。方領。ばんりゃう(盤領)ノ條ヲ見ヨ。

たりゐ (名) 【[illegible]】 お[illegible]り(御舎利)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

たりゐご (名) カマビスシキコト。サワガシキコト。サウザウシキコト。[illegible]「[illegible]、太利己止」 字鏡、[illegible]「[illegible]、太利己止」 天治字鏡、二十二「[illegible]、太(利)己止」

たりふし (副) 〔垂伏ノ義ト云フ〕 切ニ。ネンゴロニ。平家物語、四、競事「宗盛卿、法皇ノ御事たりふし申サレケレバ、入道相國ヤウヤクニ思ヒ直シテ、同十三日[illegible]出シ奉リ、八條烏丸美福門院ノ御所へ御幸成シ奉ル」(一本)

たりほ (名) 垂穂 稲ノ垂レタル穂。[illegible]代紀、上、十「[illegible]、[illegible]云、[illegible]」

ダリヤ (名) 〔英語、Dahlia.〕 西洋[illegible]來ノ草ノ名。球根ヨリ生ジ、[illegible]ノ花アレドモ、花ノ[illegible]ハ[illegible]ノ木トス。[illegible]ハ馬鈴薯ニ似タリ。世ニ天竺牡丹ト稱ス。

たりゃう (名) 【多量】 分量ノ多キコト。

たりやかに (副) 【足】 十分ニ滿チ足リテ。[illegible]、[illegible]、口六[illegible]、たりやか[illegible]ヲヌ笛ノアルユエナリ」

たりよ (名) 【足夜】 [illegible] 終夜 萬葉集、十三 長歌「ウツツニハ、[illegible]、[illegible]ズ、イメニダニ、逢フトミエコソ、アマノ足夜ニ」

たり・る (動) 〔足るノ四段活用ヲ、上一段活用ニスルモノ。借りる、飽きるノ類〕 足るノ口語。[illegible] 足るノ[illegible]、[illegible]女ノ事ダト云ッテモ、アノ伴シノ中ニ居テ、[illegible]モ足リネヘ所ヲ、半分此方へ分ケテ見サァ、[illegible]ニセツナイコトハナウ」[illegible]ハアハレ、[illegible]ノ[illegible]ハ[illegible]

たりを (名) 垂尾 垂レサガリタル尾。萬葉集、七 四十「ニハツトリ、カケノ垂尾ノ、シダリシノ、ナガキ心モ、思ホエヌカモ」

たる (名) 【樽】 [illegible]「古事記、下」、[illegible]、本[illegible]トアルハ、秀罇ニテ、瓶子ノ類、口ヨリ酒ノ垂り出ヅル意。たるハ其轉ナリト云ヘ[illegible]、又、[illegible]ト云フト[illegible]」 [illegible]製、桶ノ如ク、酒、醤油、油ナドヲ貯フルニ用ヰル[illegible]、常ニ[illegible]ヲ[illegible]ヒ、別ニ口ヲ[illegible]。[illegible]ニ、酒入レテ」 宗長手記(大永)「樽五荷、代五百疋」 [illegible]以テ樽ト云ヒ、無、黄ヲ樽ト云フ、然レドモ、亦形ニ[illegible]之モアリ、[illegible]

たる・る・れ・ら・り・れ (自動、四) 【足】 (一)十分ナリ。滿チ調フ。缺ケタルコト無クテアリ。不足[illegible]足[illegible]ウヤウ御ヨハヒたりオハシマシテ、何事モワトキマヘサセ給フベキ時ニ當リ」 (二)其分際ニ堪フ。[illegible]、十八、[illegible]タリヤナ[illegible]ル[illegible]ムニモ足リヌベシ」「用ヰルニ足る」

たる・る・れ・ら・り・れ (自動、四) 【垂】 (一)物ノ端、下ヘオモムク。サガル。ブラサガル。[illegible] サキノカスコシたりテ[illegible]タルニ[illegible] 滴ル。[illegible] ノミコトハ、タクヅヌノ、白[illegible]ノ上ニ[illegible]

たる・るる・るれ・れ・れ・れよ (自動、下二) 【垂】 (一)前條ノ語意ニ同ジ。サガル。カカル。「[illegible]」 (二)流レ落ツ。シタタル。滴ル。「水垂るる」 (三)糞尿ヲ放ル。[illegible]。「[illegible]」 [illegible]、小便たれ[illegible]

たる・るる・るれ・れ・れ・れよ (他動、下二) 【垂】 (一)下ゲ[illegible] [illegible]、七、[illegible]、小[illegible]ノ[illegible]、[illegible]上ニ出テ歎ク」 [illegible]立サテ、[illegible]カズトモ、[illegible] [illegible]萬葉集、六、[illegible]ノ、[illegible]ヲ、[illegible]」 ア、ナキモ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]」 (二)[illegible] (三)[illegible]

たるがき (名) 樽柿 [illegible] [illegible]ニシタルモノ。「[illegible]」ノ[illegible]ヲ見ヨ。

たるかひ (名) 【樽買】 空樽ヲ買ヒ集メテ、明樽問屋ニ賣ル商賈。又、其人。[illegible]

たるき (名) 【垂木】 [illegible] レ瓦又板ヲ[illegible]

「樋、椽、大流岐」榮花物語、十八、玉臺「十餘間ノ瓦ブキノ御堂アリ、たるきノハシバシハ金ノ色ナリ」

たる・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔怠〕〔垂るる意カ〕たゆし（弛）ニ同ジ。倦怠　兩吟一日千句、芭蕉「手ヤ、怠懈、たるうナリタル、中ヨリモ」賭句、其傳ノ、見レバ半ニ」伊勢集、夜モスガラ、物思フ時ノ、ツラヅエハ、腕たるさゾ、知ラレザリケル」津國女夫池（享保、近松作）二「流レ三味線ノ手モたるく、本歌、投ク節、流行唄」

だるし（形）〔怠〕前條ノ語ノ俗語。玉勝間、八「手足ノタユキヲ、俗言ニだるいト云フ、伊勢ナドニテハ、かいだるいト云ヘリ」「乾だるし」「閒だるし」「腕だるし」

たるだい（名）〔樽代〕酒ヲ買フベキ料ノ金錢ノ稱。贈物ニスルニ云ノ。拔樽ノ代。松屋筆記、九十五、百五十四條「今俗、樽代トイヘルハ、柳代トイフベシ、飯尾宅御成記ニ、折十合、柳代二千疋ト見エタリ、柳樽ノ代トイフ心也」壽門松（享保、近松作）下、與次兵衛あづま道行「其ノ禮トテ目腐リ金、樽代トシテヨコシタ」

たるてんわう（名）〔樽天王〕たるみこし（樽御輿）ニ同ジ。

たるなむし（名）たるらむしノ條ヲ見ヨ。

たるにんぎやう（名）〔樽人形〕にんぎやうだる（人形樽）ノ條ヲ見ヨ。世事百談（山崎美成）樽人形「樽ニ小兒ノ小袖、又ハ、羽織ナド打著セ、人形マハシノ戲レヲナシシガ、遂ニ一ツノ遊戲トナリテ、云云、人形樽ノ詞ヲ轉ジテ、樽人形トイヒケルトゾ」

たるぬき（名）〔樽拔〕さはす（醂）ノ條ヲ見ヨ。新撰咄入柳樽、初編「醂ガ同ッテ、たるぬきハ、皆ツブレ」

たるひ（名）〔垂氷〕雨、雪ナドノ水ノ、軒、岩角ナドヨリ、滴リナガラニ、凍リテ垂レ下リタルモノ。（今モ仙臺ニテハ云フ）今、誤リテ、ツララ。氷柱　源、六、末摘花三十「朝日サス、軒ノたるひハ、トケナガラ、ナドカツララノ、ムスボホルラム」堀河百首、冬「浪カクル、岩マヒマナク、たるひシテ、氷トヂタル、山川ノ水」平家物語、五、文覺荒行事「瀧ノ白糸たるひトナッテ」

たるひ（名）〔足日〕圓滿ナル良キ日。出雲國造神賀詞「今日ノ生日ノ足日ニ」

たるひろひ（名）〔樽拾〕酒屋ノ少年奴、諸家ニ賣リ込ミタル樽ノ明キタルヲ集メ歩クコト。又、ソノモノ。續俳家奇人談（安藤冠里の句「雪ノ日ヤ、アレモ人ノ子、たるひろひ」

ダルマ（名）〔達磨〕〔梵語、Dharma. 道法ノ義、具ニハ菩提達磨（Bodhidharma.）、天台ニテハ、たるまト云ヒ、眞言ニテハ、だらまト云フ〕（一）天竺ノ僧ノ名。（南天竺、香至王ノ第三子）梁ノ普通元年、支那ニ入リテ、梁ノ武帝ニ見エ、江ヲ渡リテ、魏ノ少林寺ニ入リ、面壁九年、足ナシトス。禪宗ノ開祖ニシテ、後、惠可ニ法ヲ傳フ。梁ノ大同二年十月五日寂スト云フ。世ニ、其緋衣ヲ着テ、面壁坐禪シタル像ヲ畫キテ、種種ノ家ニ用ヰル。（二）荷船ノ一種。一名、周平船。（三）賣淫婦ノ稱。（關東、三陸ナドニ）コロビ。轉ぶノ條ノ（四）ヲモ見ヨ。川柳「友禪ヲ、着タだるまアリ、田舍チャウ」

たるまか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）ダマス。ダマクラカス。欺ク。大職官物語「サシモ賢キ萬子トハ申セドモ、ヤガテたるまかされ、ゲニケニ、ソレハサゾアラン」

ダルマがへし（名）〔達磨返〕女ノ髮風ノ名。

ダルマき（名）〔達磨忌〕毎年、十月五日、達磨ノ忌日ニ、禪宗ニテ勤行スル法會。召波の句「達磨忌ヤ、和尚イヅチヲ、尻目ナル」家内喜多留、四編「達磨忌ヘ、善イ供ヘモノ、九年母」

ダルマぎく（名）〔達磨菊〕次條ノ語ニ同ジ。

ダルマさう（名）〔達磨草〕莖、直立シテ枝ナク、葉、圓ク段刻アリ、色、淺綠ニシテ厚ク、柔カニシテ潤ハズ、文理、皺ノ如シ。數十葉、叢叢、莖ヲ抱キテ生ズ、狀、はまぎくニ似タリ。秋冬ノ交ニ、單瓣ノ白花ヲ開ク、頗ル菊花ニ似タリ、一名、達磨菊、ザゼンサウ。佛頭菊　池涌金蓮　和漢三才圖會、九十四、濕草類「佛頭菊、俗云達磨草」

ダルマづきん（名）〔達磨頭巾〕御高祖頭巾、及、そでづきん（袖頭巾）ニ同ジ。

たるみ（名）〔垂水〕たき（瀑布）ノ條ノ（二）ニ同ジ。萬葉集、七廿七「命ヲ、幸クアラムト、石バシル、垂水ノ水ヲ、結ビテ飲ミツ」同、八廿四「石バシル、垂見ノ上ノ、サ蕨ノ、萌エ出ヅル春ニ、ナリニケルカモ」增鏡、第十六、久米のさら山「塩屋、垂水トイフ所ヲカシキヲ」

たるみ（名）〔弛〕タルムコト。ユルミ。艷狩御本地（寶永、近松作）二「足本クラク賀茂川ノ、深ミニダンブト浸ノ、タリ、云云、褌ニ張ノたるみナク、心バカリハセキノボリ」

たるみこし（名）〔樽御輿〕酒ノ薦樽（空ナルモノ）ヲ倒ニシ、上ニ草鞋ヲ以テ胴ト尾トヲ作リ、左右翼ヲ澁團扇ニテ作リタル鳥ヲ載セ、下ニ丸太ヲ縱横ニ結ビ附ケタル御輿。タルテンワウ。

たる・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）〔弛〕〔たゆむノ轉。たゆむ（弛）ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕引張ル力弱ル。タユミタワム。拾玉集、七「梅ガ枝ハ、土ニツクマデ、降ル雪ニ、松ノ梢ハ、たるまザリケリ」「鞭たるむ」「天幕たるむ」

たるもち（名）〔樽餅〕空キタル酒樽ニ入レテ貯フル切餅。曾呂利狂歌咄、寛文「酒樽ニ餅ヲツメテ越シケルニゾ、上戸ドモハ驚キ、力ヲオトシヌ」

たるらむし（名）蛇ノ異名。薩摩國ノ女子ノ語。（越後ニテハ、まだらむし）又、たるなむし。合類節用集、五、氣形門「蚖蛇、タルラムシ」物類稱呼、二、蛇「薩摩ノ女詞ニ、蛇ヲたるらむしト云フ」河東節、水調子（玉菊追善）「父ノ心ハ、戀シ虫、戀シュカシノ一聲ヲ、我ハマツ虫、忘レズバ、涙オコセヨたるら虫、泣カネバ戀ウイフコトカ、知ルモ知ラヌモ、オシナベテ、惜シマヌモノハ、アラシ吹ク」久安六年百首、物名、たるなむし「君ガタメ、ムレテキたるな、むしロ田ノ、鶴ノ毛衣、千代ヲカサネテ」

たるわり（名）〔樽割〕酒、醬油ナド、一樽賣ノ直段ノ割ヲ以テ、一合、二合ノ小賣ヲスルコト。我衣（文化、曳尾庵）「酒樽割、醬油樽割トテ、一樽賣ノ代物割ヲ以テ、一合二合ノ小賣ヲシ、云云、當分計リニテ、末ハ外ノ酒店ニカハルコトナシ」守貞漫稿、四編、生業、上「枡酒屋ノ内看板ニ、上酒、樽割ト書キタルアリ、升賣モ樽賣ニ準ジテ、廉價ニ鬻グノ意也」

たれ（名）〔垂〕（一）垂ルルコト。垂レタルモノ。（二）垂駕籠ノ簾戸。常盤津、千兩幟、角力之段「サ、籠ノ簾ヤッテ、ト北野屋ガ、機轉キカシテ籠ノたれ、内ハ歎キニ暮近ク、入相告グル鐘諸共」

たれ（名）〔たれみそヨリ轉ズ〕（一）蒲燒ニ付ケテ燒ク汁物ノ名。醬油ニ味醂ヲ加ヘ、白油蔴ヲ擂リ入レテ用ヰル。（二）又、味噌ニ、醬油、味醂ナド加ヘテ、擂リタルモノ。肉ヲ煮ル時、味ヲ添フルニ用ヰル。

たれ（代）〔誰〕ソレト定メズ、又ハ、其名

ヲ知ラヌ人ノ名ニ用ヰル代名詞。ダレ。何人。甚麼人 古事記、中「大和ノ、タカサジヌヲ、七行ク、少女ドモ、多禮ヲシマカム」雄略紀、四年八月「大和ノ、ヲムラノ嶽ニ、シシフスト、拖例カコノ事、大前ニ申ス」萬葉集、二「ツレモナキ、サダノ岡邊ニ、カヘリキバ、島ノ御橋ニ、誰カ住マハム」

だれ（名）〔垂〕（一）ダレルコト。（二）相場ナドノ、下落スルコト。低落。

だれ（代）〔誰〕前條ノ語ノ訛。

たれ-あま（名）〔垂尼〕髮ヲソギテ、垂レタル尼。台記、久安四年七月廿日「於二法成寺東北院一有二御出家事一（先雙垂尼歟）」

たれ-かご（名）〔垂籠〕鶉籠ノ、形、稍、小サクシテ、左右ノ戸ヲ、席ニテ作リ、垂レカケタルモノ。

たれ-がし（代）〔誰〕それがし（某）ノ條ヲ見ヨ。辨内侍日記「たれがしハ、何色何色ト、少少萩ノ戸ニテシルシ侍リシニ」著聞集、八、好色「ソノ年ソノ頃、たれがしヲ御使ニテ召サレテ候ヒシハ、ヨモ御アラガヒハ候フマジ」

たれ-がみ（名）〔垂髮〕童ナドノ髮ノ、結ヒ上ゲズニ、垂レタルモノ。垂髻

たれ-かもの（名）ナマケモノ。ナマクラモノ。ワウチャクモノ。懶惰人。

たれ-ぎだ（名）〔たれハ女陰ノ異名ト云フ〕女義太夫ノ略稱。（嘲ル意ヲ含ム）

たれ-ぎぬ（名）〔垂絹〕とばり（帳）ニ同ジ。

たれ-こ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（自動、下二）〔垂籠〕帳、簾ナド垂レカケテ、內ニ籠ル。榮花物語、二、花山「たれこめテ、オハシマシテ」六帖、六、下「たれこめテ、春ノ行方モ、知ラヌ間ニ、待チシ櫻ハ、ウツロヒニケリ」

〔たれしのひと（代）〔誰人〕〔しハ助辭〕たれびと（誰人）ニ同ジ。萬葉集、十一 卅「イニシヘノ、サナリノ帯ヲ、ムスビタレ、誰之能人モ、君ニハマサジ」

〔たれ-す（名）〔垂簾〕すだれ（簾）ニ同ジ。萬葉集、十一「タレノ、ヲスノ毎ヲ、ユキガテニ、イヲバ眠ネドモ、君ハカヨハズ」

〔たれ-どき（名）〔誰時〕タソガレドキ。かはたれどき（昧爽）ニ同ジ。

たれどき-ぼし（名）〔誰時星〕金星ノ異稱、明の明星。[illegible]、中「アカツキノ、たれどきぼしモ、山ノ端ニ、マダイデナクニ、カヘルセナカナ」

たれ-ながし（名）〔垂流〕直腸、尿道等ノ括約筋ノ麻痺シテ、糞、尿ナドヲ、常ニ思ハズ垂ルルコト、

たれ-ぬの（名）〔垂布〕トバリ。タレギヌ。タレマク。ノレン。幌幔 宇治拾遺、三、第五條「湯殿ノたれぬのヲトキオロシテ、コノ帶ヲミナトリイレテ」[illegible]寛永「[illegible]ノイトノ、長ヤたれぬの」

〔たれ-の-ひと（名）〔誰人〕たれびと（誰人）ニ同ジ。榮花物語、四、月の宴「大臂殿、ワガ君ヲバ、たれのひとカ、オロカニ思ヒキコユル」同、廿五、嶺の月「黄金ノ車ナラベヨセテ、玉ノトボソヲ閉ヂテヨリ、コノ方、供養スルヤナニゾノ人、閻浮ノ月ノアカキノカケ、ケイセンスルヤたれのひとゾ、喩林ノ風ノユフベノ眾ナド、イミジクアハレナリ」

たれ-ばり（名）〔放尿〕尿ヲスルコト。放尿。撒尿。[illegible]、廿二「遺尿」

たれ-びと（名）〔誰人〕イカナル人。何人。

たれ-ミソ（名）〔垂味噌〕物ヲ煮ルニ用ヰル汁物ノ名。味噌一升ニ、水三升ヲ合ハセ、三升ニ煮ツメテ、袋ニ入レ、滴ラシメタルモノ。後世、醬油ノ製、起リテ、此法、廢ヘタリ。[illegible]

[illegible]

たれ-むし（名）〔垂蒸〕[illegible]ニ同ジ。ノレン。本朝若風俗（貞享、西鶴）六「たれむしノ裏クグリテ、緋張リノ障子引キアケテ」

⁂だれ・る（動）〔垂〕垂る（下二段）ノ口語。

⁂だれ・る（動）〔怠〕ダラケル。

だ-ろう（名）[illegible] 大船ノ艪尾ニ[illegible]ケテ、舵ヲ指揮スル者ノ居ル小高キ[illegible]

たろのき（名）楤木ノ[illegible]

たろ-べゑ（名）〔太郎兵衛〕田舍人ノ異稱。ごんべゑ（權兵衛）ノ條ヲ見ヨ。

〔たわ（名）〔撓む意〕（一）又、タワリ。山ノ頂ノ撓ミタルガ如キ處。今モ、中國、西國ニテハ、[illegible]（二）[illegible]

たわいな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔利分無シノ轉カト云フ〕出雲ニハ、とわいないト云フ語アリ」思慮辨別ナシ。[illegible]リ合ヒナシ。見當ガツカヌ。ハテガナイ。トリトメナシ。ネモハモナシ。[illegible]

〔たわす・る・ル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）〔忘〕〔たハ發語〕わする（忘）ニ同ジ。萬葉集、[illegible]

〔たわ-たわ（副）〔撓〕木ノ枝ナドノ撓ム狀ニ云フ語。タワタワ。シナヤカ。萬葉集、[illegible]

〔たわ・み [illegible]

たわま・す [illegible]

たわ・む・ム・メ・ム・メ [illegible] 壓シテ屈メ曲グ。[illegible]

〔たわや・し [illegible]

スベノ知ラナク」

〜たわやめ (名) [手弱女] 〔たハ發語、わやハよわト通ズト云フ〕 丈夫ニ對シテ、女ヲ、手弱キニ就キテ云フ語。タヲヤメ。 萬葉集、十五 三十四「逢ハム日ノ、形見ニセヨト、多和也女ノ、思ヒ亂レテ、縫ヘル衣ゾ」 古事記、上 卅「集所、生之子、得、手弱女二」 垂仁紀、八十七年二月「大中姫命辭曰、吾手弱女人也、何能登二天神庫一耶」

〜たわらは (名) [童] 〔たハ發語〕 母ノ手ニ抱キテ育ツル一二歲位ノ小兒。わらは(童)ニ同ジ。 假字拾要、村田春海「たわらは、手バサメ童ヲイフ」 萬葉集、二 二十八「古リニシ、嫗ニシテヤ、カクバカリ、戀ニシヅマム、手童ノゴト」 同、四 三十四 長歌「タワヤメト、イハクモシルク、手小童ノ、ネノミナキツツ」

〜たわゝ (副) [撓] たわヲ重ネテ約メタル語。撓ムマデニ。タワタワ。 古今集、四、秋、上「折リテ見バ、落チゾシヌベキ、秋萩ノ、枝モたわゝニ、置ケル白露」 拾遺集、四、冬「足引ノ、山路モシラズ、シラガシノ、枝モたわゝニ、雪ノ降レレバ」 新續古今集、五、秋、下「タレユヱニ、ウツロハントカ、初霜ノ、たわゝニオケル、白菊ノ花」 音ヲ轉ジテ、とをゝトモ云フ 萬葉集、八 四十六「秋萩ノ、枝モ十尾ニ、置ク露ノ、消ナバ消ヌトモ、色ニ出デメヤモ」

〜たゐ (名) [田居] (一)田ノアル所。田ト云フニ同ジ。タンボ。 萬葉集、九 三十二「筑波嶺ノ、裾曲ノ田井ニ、秋田刈ル、妹ガリヤラム、黄葉手折ラナ」 同、同 廿 長歌「尾花散ル、シヅクノ田居ニ、雁ガネモ、寒ク來鳴キヌ」 (二)里離レタル田ドコロニ、秋、假廬ヲ作リテ居ル所ト云フ。又、泛ク、田舍ノ意。 萬葉集、十 二十六「春霞、タナビク田居ニ、廬シテ、秋田刈ルマデ、思ハシムラク」 千載集、十八、雜、下「呉竹ノ、伏見ノ田居ノ、カリノ世ニ、思ヒ知ラデヤ、モリ明スラム」

〜たゐなか (名) [田居中] 田居ノ中。田舍

たゐに (名) [大爲爾] 假名四十七ヲ重複セヌヤウニ作レル歌。平安朝時代、あめつちノ歌ニ次ギテ出デ、後ニ以呂波歌ニ移リタルガ如シ。 口遊(天祿)大爲爾ノ歌「大爲爾伊天(田居ニ出デ)、奈徒武和禮遠曾(菜摘ム我レヲゾ)、支美女須止(君召スト)、安佐利(於)比由久(求食リ追行ク)、也末之呂乃(山城ノ)、宇知惠倍留古良(打醉ヘル兒ラ)、毛波保世與(藻ハ乾セヨ)、衣不祢加計奴(得船繫ケス)」注ニ「謂二之借名文字一」

だゑん (名) [楕圓] 圓クシテ長キコト。又、其形。玉子形。小判形。楕圓形。

〜たを (名) 〔古言、たをりノ略〕 山頂ノ路アル處。峠。(中國) [嶺]

たを (名) [凹] 〔前條ノ語意ニ同ジ〕 山ト山トノ間ノ、窪マリタル處。

たを (名) [髱] たぼ、又ハ、つとニ同ジ。

たをさ (名) [田長] (一)田ヲ掌ルモノノ長。(二)たをさどり(田長鳥)、又ハ、しでのたをさ(時鳥)ノ略。

たをさどり (名) [田長鳥] ほととぎす(時鳥)ノ異名

〜たをたをと (副) たをやかニ同ジ。 源、五十、浮舟 六十四「子メキ、オホトカニ、たをたをと見ユレド」 狹衣、一、上 十五「指貫ノ裾マデ、たをたをと、貴ニナマメカシウ着ナイ給ヘリ」 濱松中納言物語、二、下「ナホイトたをたをと、アクマデアテニナマメキテ」

〜たをめかす (他動、四) ス・セ・サ・シ・セ タヲヤカニナス。[婀娜] 枕草子、二、十七段「アシウアクレバ、サウジナドモ、たをめかしコボメクコソシルケレ」

たをめく (自動、四) ク・ケ・カ・キ・ケ タヲタヲス。タヲヤカニナル。[婀娜]

〜たをやかに (副) 〔たをハ撓ム意〕 (一)シナヤカニ。 枕草子、三、三十四段「萩ハ、イト色深ク、枝たをやかニ咲キタルガ」 (二)擧止アラアラシカラズ。シナヤカニ。シトヤカニ。タヲタヲト。(婦人ニ) [婀娜] 名義抄「嫋、タヲヤカナリ」同「娜、タヲヤカニ」窈窕、タヲヤカナリ」 遊仙窟 七「婀娜、タヲヤカナル」窈窕、タヲヤカニシテ」 源、二、帚木 三十「コノ方ノたをやかならマシカバト見ユカシ」

〜たをやぐ (自動、四) グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ [婀娜] タヲヤカナル狀ニナル。 源、二、帚木 四十「人ガラノ、たをやぎタルニ、強キ心ヲ強ヒテ加ヘタレバ」 同、六、末摘花 四十二「君モスコシたをやぎ給ヘルケシキモテツケ給ヘリ」 同、八、花宴 二「女モワカウたをやぎテ、強キ心モシラヌナルベシ」

〜たをやけし (形、一) キ・ケレ・ク・ク タヲヤカナリ。ヤサシ。[婀娜] 加茂保憲女集、序「女郎花、たをやけき野邊ニ、ハナススキ、ウナナビク」

〜たをやめ (名) [手弱女] たわやめ(手弱女)ニ同ジ。タヲヤカナル女。柔和ナル女。 倭名抄、二 二十 男女類「婦人、手弱女人、太乎夜米」 名義抄「女人、タヲヤメ」 神功攝政前紀「吾婦女之加以不肖、然暫假二男貌一、強起二雄略一」

〜たをり (名) 山ノ頂ナドノ、低ク撓ミタルガ如キ處。(靜岡縣ニテハ、谷ヲたをト云フ) タワ。 字鏡 三十六「垰、曲岸也、太乎里、又、井太乎利」 萬葉集、十三 十六 長歌「高山ノ、峯ノ手折ニ、射目立テテ、鹿待ツガゴト」 同、十八 三十二 長歌「足引ノ、山ノ多乎理ニ、此ノ見ユル、天ノ白雲」 同、十九 六十 長歌「山ノ多乎理ニ、立ツ雲ヲ」

〜たをる (他動、四) ル・レ・ラ・リ・レ [手折] 〔たハ發語〕 折ルト云フニ同ジ。(歌詞) 萬葉集、八 二十一「吾ガ宿ノ、瞿麥ノ花、盛リナリ、手折リテ一目、見セム兒モガモ」 同、七 廿八「湊ナル、葦ノウラ葉ヲ、誰カ手折リシ、吾ガ背子ガ、振ル手ヲ見ムト、我ゾ手折リシ」 古今集、一、春、上「岩垂ル、瀧無クモガナ、櫻花、手折リテモ來ム、見ヌ人ノタメ」

ち

ぢ

ち 五十音圖、多行第二ノ假名。たノ條ヲ見ヨ。

ぢ ちノ濁音ノ假名。だノ條ヲ見ヨ。

〜ち (名) [風] 〔ちハ(風)ノ轉〕 かぜ(風)ニ同ジ。熟語ニノミ用ヰル。 神代紀、下 廿七「汝兒沙海時、吾必起二沙風洪濤一、令二其沒溺一」 枕草子、八、七十六段、名おそろしき物「疾風」 拾遺集、十六、雜、春「東風吹カバ、匂オコセヨ、梅ノ花、主ナシトテ、春ヲ忘ルナ」

〜ち (名) [路道] 〔津ニ通ズ〕 みちニ同ジ。熟語ニノミ用ヰル。 祝詞「道饗祭」 神代紀、下「稜威之道別」 古事記、中、開化 四十四「道守ノ臣」 連聲ニハ濁ル。ぢ(路)ノ條ヲ見ヨ。

〜ち (名) [靈] 〔持ノ約〕 神、人ノ靈、又、德ヲ稱ヘ贊メテ云フ語。野之靈(野槌)、水靈、尾呂靈(蛇)ナドノ類ノ如シ。ちノ轉ジテ、みトナルコトアリ、海之靈(海神)ノ如シ、又、轉ジテ、びトナルコトアリ、高皇產靈、神皇產靈ノ如シ。 孝德紀、十九年十月「キコシモチヲセ、麻呂カ智」ニ、同樣人ノ天皇ヲ指シテ、吾ガ君ト申シタル語、父ヲちちト云フモ、是レナリ)

〜ち (名) [父] 父。常ニ重ネテ、ちちト云フ。熟語ニハ、連聲ニテ濁ル、大父、小父ナドコレナリ。 欽明紀「吾夫父」

〜ち (名) [血] 〔とりノ約、刺シテ取ルノ意、

體ニ通ズルカ」（一）動物ノ體中ニ在リテ、常ニ心臟ヨリ動脈、靜脈ニ通ジ、全身ヲ循環運行スル紅ナル液ノ名。生活ヲ保ツニ大切ナルモノナリ。人、獸、鳥、等ニアリテハ溫ニシテ、魚ナルハ冷ナリ。但シ、蟲ニハ血ナキモアリ。倭名抄、三 肉類「血、知、肉中赤汁也」神代紀、上 二「劍刃垂血（シタタルチ）」（二）病ノ名。ちのみち（血道）ニ同ジ。血に泣くト云フハ、世ニ、涙（ナミダ）ノ色カハルト云フ意。韓非子、和氏篇「和乃抱其璞、而哭於楚山之下、三日三夜、泣盡而繼之以血」禮記、檀弓、上篇「高子臯之執親之喪也、泣血三年、未嘗見齒」注「言泣無聲、如血出」

ち (名) 乳 〔血、化シテ成ルト云フ〕（一）女人、兒ヲ生メル後、其乳房ヨリ出ヅル白ク濁レル汁。生兒コレヲ吸ヒテ育ツ。獸類モ亦皆然リ。乳汁（チシル）。チチ。倭名抄、三 身體類「乳、知、母所以飮子之汁也」康頼本草、下 三「人乳、知」萬葉集、十二 二十「緑兒ノ、スモリ乳母ハ、求ムテフ、乳飮メヤ君ガ、母モトムラム」後拾遺集、廿、雜、六「女ノ乳ノホソク侍リケレバ」同、同、讀人「ハカナクモ、思ヒケルカナ、ちモナクテ、博士ノ家ノ、乳母セムトハ」（二）乳房。榮花、二六、上 三十「單ヘノ御衣ノ、胸少シ明キタルヨリ、御乳ノ、例ナラズ黑ウ見ユルニ」

ち (名) 鉤 〔釣りノ約、其條ヲ見ヨ〕ツリバリ。神代紀、下 十二「兄、火闌降命、云云、乞己鉤、弟時既失兄鉤（ハリ）云云、責其故鉤（モトノチ）」神功攝政前紀「皇后勾針爲鉤、取粒爲餌」

ち (名) 乳 〔形、乳首ニ似タレバ云フ。手（テ）ノ轉カ〕幟（ノボリ）、旗、帳、幕、帆、草鞋、ナドノ緣ニ、數多竝ベテ付クル小サキ環ノ如キモノ。棹、竿、帆綱、綱、繩、ナドヲ貫キテ引キ張ルニ用トス。又、乳形。耳。耳。倭名抄、十二 [illegible] 耳 [illegible] 塵添壒囊鈔、五、四十二條「物ニ付ルちト云フハ、耳ノ字ヲ書也、云云、ワランヂノち、ワラウツノチ」

ナドニハ、必、耳ヲ用ル也」 [illegible]、十二、木工 [illegible]「[illegible]ノ長サ二丈五尺、ちノアヒ一尺二寸」

ち (名) 茅 〔千ノ義ニテ、叢生スルヨリ云フカト云フ〕草ノ名。禾本ニシテ、葉ハ稻ニ似テ薄シ。高サ三四尺、叢生ス。春、新芽ヲ出ス、葉ノ中ニ花ヲ包ムコト細筍ノ如シ、コレヲ、茅花（ツバナ）ト云フ。夏、穗ヲ出ス、長ク白キ絮アリ、火口（ホクチ）ヲ作ル。又、莖葉ニテ屋ヲ葺ク。一名、チガヤ。チネ。白茅。倭名抄、廿 草類「茅、智」本草和名、上 二十「茅根、知乃禰」天治字鏡、十二「茅、知」

ち (名) 様 モノノ様子ヲ云フ語。「心ち」「思モち（オモモチ）」「タチマち」

ち (名) 之 〔つノ轉〕モノノ親シム時ニ用キル語。「伊ち子」

ち (名) 地 〔一ニツチ。ヤガテ、大地。濁リテ、ぢ〕（一）（天ニ對ス）易經、文言傳「本乎天者親上、本乎地者親下」「地ニ墮ツ」（二）地面。土地。（三）境土、ソノ處。「當地」「此地ノ人」「當地」地に墜つトハ、全ク廢タル。論語、子張篇「文武之道、未墜於地、在人」「名譽地ニ[illegible]」

ち (名) 治 （一）世ノヲサマリ。太平。易經、繫辭、下傳「君子安而不忘危、存而不忘亡、治而不忘亂、是以身安而國家可保也」（二）マツリゴト。政治。神皇正統記「[illegible]天下ノ治」

ち (名) 智 〔釋名、四、釋言語「智、知也、無所不知也」〕五常ノ一、三德ノ一。心ニ物事ノ理ヲ敏ク覺リテ、是非ヲ分別スルヲ得ル力。智慧。名義抄「智、サトシ、サトル、サカシ」字鏡「智、サ[illegible]」神代紀、上「有[illegible]之[illegible]」

ち (名) 知 （一）シルコト。知覺。（二）シリアヒ。知人。知友。左傳、昭公廿八年 [illegible]

「叔向[illegible]」[illegible]

ち (名) 癡 〔正字通「癡、俗癡字」說文「癡、不慧也」〕オロカナルコト。バカ。[illegible]

ち (名) 徵 五音ノ一。[illegible]

ち (名) 笞 刑具ノ一。[illegible] 笞罪ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ち (名) 魑 說文「獸上有[illegible]」[illegible]

ち [illegible] （一）百ノ十倍セル數。千。[illegible]（二）數多キコト。[illegible] テハ、[illegible]ノ使モ、ウレシカリケリ」

ち [illegible]

ぢ [illegible]

ぢ [illegible]

ぢ [illegible]

山吹ノちノカギリオレル御コウチギナド」「白地」紺地」素地」、七、文章ノ中ノ記者ノ詞ノ稱、(文中ノ人ノ問答ノ詞ナドニ對シテ云フ)「草子地」(草紙ノ中ノ地ノ文ヲ云フ)」地ノ文」

ぢ (名) [治] (一)ち(治)ニ同ジ。(二)病ヲナホスコト。療治。治療。榮花物語、十二、玉村菊「コノ殿ハ、小クヨリ、風重クオハシマス人トテ、風ノちドモヲセサセ給フ」

ぢ (名) [痔] 直腸ノ病。肛門ニ腫ヲ發シ、時ニ、血、或ハ、精液ヲ瀉ス。其內部、又ハ、肛門ニ結節スルヲ、痔核ト云フ。或ハ豌豆大、鷄卵大トナリタルモノニ、膿ヲ持テバ、孔ヲ穿チテ、痔瘻トナル。又、肛門ノ、ただれ、又ハ、潰瘍スルヲ、切痔(裂痔)ト云フ。ソノ他、穴痔、蓮痔、疣痔ナドアリ。各條ニ註ス。倭名抄、三十病類「痔、知乃夜萬比、俗云、之利乃夜萬比」下學集、上、支體門「痔、尻之病」

ぢ (名) [持] (一)歌合ニ、雙方、優劣勝負ナキコト。アヒモチ。亭子院歌合「左ハらんニツアリ、右ハ山ザクラ又アリトテ、ちニス」天德歌合「左右トモニ、ヨクツカマツリタリ、仍爲持」(二)圍碁ノ語。ぢご(持碁)ニ同ジ。(支那ニテ持ト云フハ、不能相害ニテ、せきナリ)左傳、昭公元年「子羽謂子皮曰、叔孫絞而婉、宋左師簡而禮、樂王鮒字而敬、子與子家持之」同、正義「爽棋、謂不能相害、爲持」

ぢ (接尾) [箇] つ(箇)ノ轉ノち(箇)ヲ連聲ニ濁ルモノ。竹取物語「翁、コトシハ、いそちバカリナリケレドモ」「三十ち」

ちあき (名) [千秋] ちとせ(千歲)ニ同ジ。古事記、上、四十八「豐葦原之千秋長五百秋之水穗國者、伊多久佐夜藝弖有祁理」

ぢあたま (名) [地頭] (鬘ニ對ス) 地髮ノアタマ。何モ被ラス毛髮ノ頭。

ちあなき (名) 「血足塞ノ約。馬ノ病ノ名。下ノ出典ヲ見ヨ。倭名抄、十一、牛馬病「馳病、知阿奈岐、馬有此病、則欬嗽、衣毛焦、折前足、而不能行」

ちあはせ (名) [血合] 血脈ヲタメスタメニ、器ニ水ヲ入レテ血ト血トヲマゼ合ハセ、其混ジタルヲ血脈トスルコト。言葉書 雛屋立圃「ちあはせ。血合、ワガ子、人ノ子定メガタキトキ、器ニ水ヲ入レテ血ヲアハスル事ナリ」

ちあひ (名) [血合] まぐろ、かつを、ナドノ肉ノ一部ニ、紫黑ナル血ノ色ヲナセル處。血管ノ集マルトコロ。紫血肉本朝食鑑、元祿、平野必大 八、鱣「肉中有紫血色一條、內有細刺、如鯖鰹之紫血肉、俱號曰血合也」同、九、鰹「肉色有深紅、有淺紅、深紅者味必厚、背上兩邊肉中、有黑血肉一條、呼稱血合、味不及紅肉」

ぢあひ (名) [地合] 布帛ヲ織リ成セル程合、卽チ布帛ノ地質。

ちあへのまつり (名) [道饗祭] みちあへのまつり(道饗祭)ニ同ジ。

ぢあみ (名) [地網] 地引ニ用ヰル大ナル網。海上ニ、其一邊ヲ泛子ニテ浮ベ、一邊ヲ錘子ニテ水底ニ沈メ、大勢ニテ海岸ヘ引寄セテ、內ニ入レル魚ヲ捕ル。一名、ヒキアミ。ヂビキアミ。ヂビキ。

ちあん (名) [治安] 國內ノ治平安泰。漢書、賈誼傳「令臣得孰數之於前、因陳治安之策」

ちあらし (名) [血荒] 次條ニ同ジ。

ちあれ (名) [血荒] 流產ノ穢レニ云フ語。但シ、胎兒ノ未ダ形ヲ成サズシテ墮リタルニ云フ。チアラシ。大同類聚方、六十八「知阿禮病」御改正服忌令「血荒、夫七日、婦十日、云云、形體有之者、可爲流產、形體無之者、可爲血荒」

ちい (名) [鉤] [鉤ノ延] 斤量ノ稱。下ノ出典ヲ見ヨ。天治字鏡、六、廿七「鉤、卅斤爲鉤、法也、知伊也」(但シ、鉤ハ、鈞ノ誤カ)

ちい (名) [茅] [茅ノ延] チガヤ。其條ヲ見ヨ。名義抄「茅、チイ」

ちい (名) [地異] 地上ニ起ル異變。(地震、海嘯、洪水ナド)地妖。地變。「天變地異」

ちい (名) [地衣] 又、ちえ。コケ。蘚苔。

ぢい (名) [祖父] (一)小兒ノ語。ぢぢノ音便。オホヂ。ヂヂ。釋親考「父之考爲王父、父之妣爲王母、云云、丘氏曰、今稱祖父祖母」(二)スベテ、小兒ヨリ老人ヲ呼ブ語。老爺 爺爺 譬喩笑、元和、安樂庵策傳、一「年ノ暮ニ、孫ノ七ツ八ツナルヲ近ヅケ、云云、日本ノカナトコハ、皆ちいノカナトコト云ヘト懇ニ敎ヘシ」

ちいう (名) [知友] 互ニ深ク知リ合ヒタル友。漢書、江充傳「大見信用、威震京師、遷爲水衡都尉、宗族知友、多得其力者」

ちいう (名) [置郵] (韻會「馬傳曰置、步傳曰郵」) 宿場。宿驛。ウマツギ。孟子、公孫丑、上篇「德之流行、速於置郵而傳命」孔平仲詩「晉問月三四、東西交置郵」范成大、康縣堆詩「舟楫避湍漆、置郵狄飛鳩」

ぢいき (名) [地息] 地ヨリ立チ騰ル蒸發氣。地氣。

ちいく (名) [智育] (德育、體育ニ對ス) 智能ヲ啓發スルタメニ行フ敎育。

チイズ (名) [乾酪] (英語、Cheese.) 牛酪ノ固キモノ。牛乳ノ蛋白質ニテ製ス。

ちいちい (名) [蟲] 小兒ノ蟲ヲ指シテ云フ語。浮世風呂(文化、三馬)前、上「風ノ、トノオ指示ノシテ、蟲ノ火ヒ附カネエヤウニ」

ちいちい (名) [吝] (けちノちヲ重ヌ) 吝キ人。ヤブサカナル人。ケチンバウ。

ちいっと (副) [少] (ちとノ音便急呼) チト。スコシ。イササカ。セウセウ。

ぢいと (副) ちっとニ同ジ。狂言記、茶壺「團ヲ指イテ下レバ、昆陽野ノ宿ノ遊女ガ、袖ヲちいちいとヒカヘテ」(一本、ちっとニ作ル)

チイハア (名) [字花] (字ノ淸音) 又、七八。又、一八。富籤ニ類スル一種ノ賭事。催主ヨリ詩句ノ如キ隱語ヲ出シ、買主ハ解答ヲ作リ、金ヲソヘテコレヲ催主ニ送ル。答案中タレバ、催主ヨリ數十倍ノ報酬ヲ得、中タラザレバ、買主ノ損トナル。催主ヨリ、諸方ノ希望ニコレヲ配布スルヲ、運送(關西ニテ蟻走)ト云フ。我國ニテハ、賭博トシテ禁ゼラル。用語、三十六アリト。

ちいばり (名) [血尿] 血ノマジリタル小便。ケツネウ。大同類聚方、一「智以波利」

ちいほ (名) [千五百] (一)數ノ甚ダ多キコト。(二)數限リ無キコト。無數。

ちいみ (名) [血忌] 次條ノ語ノ略。曆林問答集、下、釋血忌「或問、血忌者何也、答曰、福壽堪輿經云、血忌者天精也云、河之精也、有二名、一曰殺忌、二日血忌、三曰血忌、從丑始至子一終、來往十二辰、運而復始、主殺伐、故刑戮及針灸出血等、犯之凶也」日次紀事(延寶、黑川道祐)臨時「良賤商婦抱小兒、血忌明日、宮參、或寺參」大經師昔曆(正德、近松作)おさん茂兵衞勝状「コレデソモジヲ殺スカヤ、ちいみモ今ハイツハリト」

ちいみび (名) 【血忌日】 暦ノ下段ニ記ス語。鍼、灸、療、瀉、等ヲ入ルニ忌ム日。略シテ、ちいみ。「血忌日」馬注「春三月寅午戌日、夏三月巳酉丑日、秋三月申子辰日、冬三月亥卯未日、春土用申日、夏土用戌日、秋土用寅日、冬土用巳日」 [illegible]丑未寅申卯酉辰戌巳亥午子、右今血忌日、專自三人馬身一不レ取レ血、九坎日滅門不レ去、肉身垢一、故前洗凶、後不レ犯二針灸一日也」 玉海(藤原兼實)建久三年正月五日「昨日最上吉日也、雖レ得二血忌日一、於レ炙者不レ可レ憚、仍昨日招二醫師一今日令レ炙給宜歟」

ちいん (名) 【知音】 〔列子、湯問篇「伯牙善鼓レ琴、鍾子期善聽」云云ノ故事ニ起ル〕 (一)心ノ友。親シキ友。同心ノモノ。親シク交ハル友。知人。知友。 辭灘、漢、揚雄「師曠之調レ鐘、俟二知音者之在一也」 李中、廬山詩「他年如遂隱、五老是知音」 菅昭集、十六、與言利曰「高倉宰相茂通卿ト榮性法眼トハ、ムカシヨリノ知音ニテ有リケルニ」 (二)シルベ。シリアヒ。知ル人。ナカマ。チカヅキ。 知人 同黨 盛衰記、三十四、佐佐木賜二生唼一事「親シキ者トイヒ、知音ト申シ、人人面面ニ打チ立ツ間」 今昔物語、二、廿七語「阿闍世王、提婆達多ト得意知音ニシテ」 鵯鵜合戰物語(文明)「祇園林ニハ一揆知音ノ輩、皆死出立ヲシ、云云、中間ヲ攻落サズバ生キテカヘラジト」 (三)情交。又、ナジミ。情人。 丹波與作(寶永、近松作)中「小マンノ知音ノ與作モ」 似我物語(寛永)「男、傾城ニ知音シテ、帥時モ離レズアリワタルニ、云云、終ニ知音離ルヘシトテ」 高尾區管物語(萬治)遊女高尾「花鶯遣ノ散所マデ聞ラレシ人ハ、久シキちいん衆ナリ」 後撰夷曲集(寛文)一「サホヒメノ、モシ傾城ヲ、メサルナラ、息太郎月ヤ、知音ナラマシ」

ちいん (名) 【遲引】 ナガビクコト。延引ニ遲延。 盛衰記、四、白山神輿登山事「貫首、[illegible]雖レ有二沙汰一、其後、成敗自然遲引、重可レ有二御沙汰一也」

ぢいろ (名) 【地色】 下地ノ色。ヂ。

ちう (名) 【宙】 (一)アメ。ソラ。オホゾラ。中空。轉ジテ、中有ノ語ニ通ジ用キル。 [illegible]「[illegible]宙ニサマヨフ」「宙ニ浮ブ」 (二)ソラオボエ。暗記。 [illegible]記、[illegible]「[illegible]ノ[illegible]シテ五百側ノ質ノ目ヲ、ちうデ申ス人ガアラバ、壻ニトラウトゾンズル」 堀川波鼓(寶永、近松作)中「コノ々シナミガワロケレバ、四書五經ヲちうデ讀ム女子デモ、役ニ立タヌゾヤ」

ちう (名) 【鈕】 (一)字鏡「鈕、印鼻也」 印、又ハ、鏡ナドノつまみ。印璽ナルハ、龜、虎ナドノ動物ノ種種ノ像ヲ用ヰル。又、凸起シタル孔ヲ作リ、紐ナド通スヲ鼻紐トイフ。 (二)コハゼ。ボタン。

ちう (名) 【籌】 (一)カズトリ。又、クジ。 (二)ハカリゴト。籌策。籌算。

ちうい (名) 【注意】 ちゅうい(注意)ニ同ジ。 史記、田完世家「孔子晩而喜レ易、易之爲レ術、幽明遠矣、非二通人達才一孰能注意焉」 劉禹錫、[illegible]「[illegible]謁二神像一注意陳二正詞一」 史記、[illegible]傳「天下安[illegible]相、天下危注二意將一」 [illegible]

ちういん (名) 【胄胤】 (一)正統ノ子孫。 (二)遠キ子孫。後胤。後裔。後昆。

ちうか (名) 【晝下】 ヒルスギ。午後。

ちうがへり (名) 【宙返】 かへり(う)ち(反打)ノ條ヲ見ヨ。

ちうかん (名) 【晝閒】 ヒルマ。日中。 周必大詩「[illegible]」 [illegible]

ちうざう (名) 【鑄造】 〔ちう(ハ)、ちゅノ[illegible]〕 金屬ヲ鑄テ、器具ヲ造ルコト。ジュザウ。

ちうさく (名) 【籌策】 ハカリゴト。計略。 [illegible] 史記、[illegible]「[illegible]」 [illegible]「今四海一時ニ定マッテ、萬民徳ニ撫事化ニ依ニ陛下休明德[illegible]」

ちうさく (名) 【註釋】 ちうしゃく(註釋)ニ同ジ。

ちうさん (名) 【籌算】 (一)ちうさく(籌策)ニ同ジ。 (二)籌算。計算。 [illegible] 必究「籌算ハ九九ノ數ヲシルシタル籌ヲ用フル法ニテ、乘除一理、歌括ヲ唱フルコトナク、惣テ簡易ク、且ツ懷ニセナルベキ當然、[illegible]ニ御實使、[illegible]ルコトナク、目ト意トヲモッテ、朝暮ヘバ算ニハ、ハヤ虎ク其ノ理ヲ知リテ、イクヤウナルムヅカシキコトモ、割レズト云フ事ナシ」

ちうさん (名) 【晝餐】 ヒルゲ。ヒルメシ。チウジキ。午飯。午餐。午餉。 白居易詩「日長晝加レ餐、夜短朝餘レ睡」

ちうさん (名) 【晝三】 (一)古ヘ、遊女ノ揚代。晝、夜ニテ金三分ナリシヨリ云フ。 (二)轉ジテ、江戸時代ノ遊女ノ名稱トナル。散茶女郎。 [illegible]ノメス氣デ、女房出ル」

ちうし (名) 【乳牛】 子ヲ生ミタル牝牛ノ乳ヲ採ルベキモノ。ニュウギウ。牸。 倭名[illegible]

ちうし (名) 【胄子】 (一)家ヲ嗣グベキ子。カトク。ヨツギノ子。 [illegible] (二)長子。總領。 [illegible]命レ汝典レ樂、教二胄子一」

ちうし (名) 【倅兒】 〔倅ハ他ノ韻切ニテ、そ[illegible]

うホト讀ムヲ正音トス〕 ヌスビト。盜賊。 [illegible] 名義抄、[illegible]「[illegible]」ヌスビト」

ちうぜき (名) 【晝食】 ちうさん(晝餐)ニ同ジ。 [illegible]

ちうじん (名) 【稠人】 オホクノヒト。衆人。 [illegible]

ちうしゅう (名) 【抽出】 多クノ人ノ中ヨリ、抽キ出スコト。 [illegible]

ちうしょう (名) 【抽象】 〔英語、abstraction. ノ譯語〕 個個特殊ノ具體的觀念ノ内容ヲ比較對照シテ、此等ヨリ共通ナル屬性ヲ抽出、把捉スルコト。(具象、又、具體ノ對)

ちうじゃく (名) 【籌石】 [illegible]ニ同ジ。[illegible]

ちうじつ (名) 【晝日】 [illegible] 倭名抄、十一、[illegible]

ちうせき (名) 【晝夕】 ヒルト、ヨルト。 [illegible]

ちうせん (名) 【抽籤】 クジノヒクコト。クジビキ。クジトリ。 [illegible]

ちうぜん（副）惆然 失敗シテ、悲シム狀ニ云フ語。荀子、禮論篇「案屈然已、則其於志意之情者、惆然不ㇾ嗛、其於禮節者、闕然不ㇾ具」

ぢうた（名）地唄 ほふしうた（法師唄）ノ條ヲ見ヨ。

ちうたう（名）偸盜 〔とうたうト讀ムヲ正音トス〕又、ちゅうたう。佛教ノ語。十惡、又ハ、五惡ノ一。物ヲ盜ムコト。

ぢうたひ（名）地謠 能ニ、舞フ者ノ傍（地謠座）ニ居テ、其謠曲ノ地ノ文ノ所ヲ謠フコト。又、其謠、又ハ、其人。花傳書（觀世、世阿彌）三「地謠ノウタヒ候時、扇ヲバ逆手ニ持チ、カナメニテ、ソト心ノ拍子ヲ打ツベシ」猿樂傳記「觀世、寶生ガ下ノ地謠ニ目吉多シ」

ぢうたひぶし（名）地謠武士 自分ハサマデ働キモナキニ、他人ノ働キヲ難ズル武士。武者物語（元祿、松田秀任）「此レヲ譏ル人ハ、昔武田信玄ノ御住國甲州ノハヤリ詞ノ如ク、地うたひ武士トヤランニテ有ルベシ」

ちうちやう（名）惆悵 イタミナゲクコト。失意ヲ悲ムコト。ウラミ悲ムコト。後漢書、馮衍傳「風波飄其並興兮、情惆悵以增ㇾ傷」易林「內懷惆悵、憂摧肝腸」揚雄、逐貧賦「揚子遁ㇾ世、離ㇾ俗獨處、惆悵失志、呼ㇾ貧與ㇾ語」張衡詩「路遠莫ㇾ致、倚惆悵、何爲懷ㇾ憂心煩傷」

ちうちよ（名）躊躇 タメラフコト。タユタフコト。躑躅。漢書、外戚傳、上、孝武李夫人傳「上又自爲作ㇾ賦、以傷悼夫人、其辭曰、云云、哀裴回以躊躇」思舊賦「惟古昔以懷ㇾ今兮、心徘徊以躊躇」杜甫詩「從來多古意、臨ㇾ眺獨躊躇」高適詩「聖代卽今多雨露、暫時分ㇾ手莫躊躇」

ちうてつ（名）鑄鐵 「ちうハ、ぢゅノ誤」炭素ヲ多量ニ含ミテ、性、脆キ鐵。鍋、釜ナドヲ鑄造スルニ用キル。アラガネ。銑鐵。せんてつ（銑鐵）ノ條ヲモ見ヨ。

ちうのり（名）宙乘 芝居、輕業ナドニテ、身體ヲ宙ニシテ、サナガラ空中ヲ行クガ如ク見スル藝。

ちうはん（名）晝飯 ヒルゲ。ヒルメシ。チウジキ。中飯。晝餐。午飯。午餐。午餉。蘇轍詩「春寒燒ニ黃茅ニ、晝飯煮ニ青茹ニ」

ちうびう（名）綢繆 密ニ絡フコト。マトヒツクコト。詩經、唐風、綢繆篇「綢繆束ㇾ薪、三星在ㇾ天」漢書、張敞傳「進退則鳴ニ玉佩ニ、內飾則結ニ綢繆ニ」注「謂ニ衣裳結束綢繆ニ也」

ちうぶん（名）籀文 〔支那、周ノ宣王ノ時、太史籀ノ作ト云フ。籀ヲ、又、籒ニ作ルハ誤〕支那ノ古文字。一種ノ古キ字體。てんしょ（篆書）ノ條ヲ見ヨ。學古編（元、吾丘衍）「李斯既作ニ小篆ニ、遂以ニ籀文ニ爲ニ大篆ニ」法書攷「籀文者、史籀所ㇾ作也、與ニ古文大篆ニ小異、後人以ㇾ名稱ㇾ書、謂ニ之籀文ニ」

ちうみ（名）血膿 血ノ雜リテ出ヅルウミ汁。ウミチ。ケツノウ。

ちうみつ（名）稠密 シゲキコト。コミアフコト。北史、北海王詳傳「詳、云云、讌淫好往來稠密」謝朓、侍ニ宴華光殿ニ詩「高殿弘敞、禁林稠密」（綢、稠、通用ス）「人家稠密」

ちうや（名）晝夜 （一）ひるト、よるト。（二）ヒルモ、ヨルモ。ヒル。ヨル。日夜。孟子、離婁、下篇「原泉混混、不ㇾ舍ニ晝夜ニ」易經、繫辭、上傳「剛柔者、晝夜之象也」太平記、廿、諸葛孔明事「孔明、此ノ炎暑ニ向カッテ、晝夜心身ヲ勞セシムルニ、温氣骨ニ入リテ、病ニフサズト云フ事アルベカラズトイヒテ」

ちうやおび（名）晝夜帶 〔白色ヲ晝ニ、黑色ヲ夜ニ譬ヘテ云フ〕本來ハ、黑繻子ニ、白裏ヲツケタル帶。クヂラオビ。ハラアハセノオビ。

ちうやけんかう（句）晝夜兼行 （一）晝夜ヲ論ゼズ、急ギテ道ヲ行クコト。三國志、吳志、呂蒙傳「蒙伏ニ其精兵𦪇䑽中ニ、使ニ白衣搖ㇾ櫓、作ニ商賈人服ニ、晝夜兼行至ニ羽所ニ」（二）晝夜働クコト。夜ヲ晝ニ繼ギテ事ヲ行フコト。

ちうりやく（名）籌略 ハカリゴト。策。策略。謀略。籌策。計略。籌算。三國志、吳志、呂蒙傳「果敢有ㇾ膽而已、及ニ身長大、學問開益、籌略奇至、可ㇾ以次ニ於公瑾ニ」

ちうりよ（名）儔侶 同ジトモガラ。ナカマ。張華、情詩「不ㇾ曾遠離別、安知慕ニ儔侶ニ」

〜**ちえ**（名）千枝 多クノ枝。チエダ。堀河百首「五月來バ、シノダノ森ノ、ホトトギス、木ヅタフ千枝ノ、數ゴトニ鳴ケ」六帖、二「和泉ナル、信太ノ森ノ、クスノ木ノ、千枝ニ分レテ、物ヲコソ思ヘ」枕草子、三、廿四段「クスノ木ハ、云云、千枝ニワカレテ、コヒスル人ノタメシニ、イハレタルコソ、タレカハカズヲシリテ、云ヒハジメケム」

ちえ（名）地衣 木、石ナドニツク下等ノ植物。うめのきおけ、さるをかせ、はなおけ、いはたけ等。チイ。

ちえう（名）治要 國ヲ治ムルニ最モ大切ナル事柄。治國ノ要。史記、曹相國世家「其治要用ニ黃老術ニ、相ㇾ齊九年」

ちえう（名）地妖 ちい（地異）ニ同ジ。保元物語、二、將軍塚鳴動事「天變、地妖、占文ノ指ス所、愼ミ更ニ輕カラズ」

チエ（數）七 〔字ノ唐音〕猜拳ノ語。ナナツ。七。

チエン（名）鎖 〔英語、Chain. Chian. ハ、本來ハくさりナリ、故ニ鎖ノ字ヲ當テ用キル〕英國ノ里程、測量ノ度名、六十六英尺。（二十二碼）我ガ六丈六尺三寸八分四二。（十一間三寸八分四二）

ちえぐさ（名）千枝草 まつ（松）ノ異名

ちえだ（名）千枝 多クノ枝。チエ。夫木抄、廿二、森「山姬ノ、ちえだノ錦、織リハヘテ、タツタノ森ハ、神サビニケリ」

チエッキ（名）〔英語、Check.〕鐵道ナドニテ、手荷物ノ預リ切符。引替券。チッキ。

ちえん（名）遲延 オソナハルコト。オクルルコト。ナガビクコト。

〜**ちおも**（名）乳母 ウバ。メノト。チツケ。オチノヒト。倭名抄、二、男女類「乳母、嬭母、米乃止、知於毛」名義抄「嬭、乳母、チオモ、メノト」神代紀、下三十四「彥火火出見命取ニ婦人ニ爲ニ乳母、湯母、及、飯嚼、湯坐ニ」

ぢおり（名）地織 （一）其地ニテ織出ス織物。（二）大ナル機場ニ對シテ、一家ノ機場ニテ織出スモノ。

⁂**ちおろし**（名）血下 おおろし（子卸）ニ同ジ。好色一代女（貞享、西鶴）六「サテハ昔、血おろしヲセシ親ナシ子カト悲シ、無菲ニソダテ見バ、和田ノ一門ヨリ多クテ、目出タカルベキモノヲ」

ちか（名）地下 （一）ツチノシタ。地ノ下。地中。土中。史記、大宛傳「其東水、東流注ニ鹽澤ニ、鹽澤潛ニ行地下ニ、其南則河源出焉」（二）ヨミヂ。冥道。黃泉。

ちか（名）地價 （一）地面賣買ノ價。土地ノ賣買ノネダン。地代。北夢瑣言（宋、孫光憲）「以ニ此地ニ奉ㇾ之、殊不ㇾ言ニ地價ニ」（二）土地臺帳ニ記載シタル土地ノ價格。地租ノ賦課ハ、コレヲ以テ標準トス。

ちか（名）［治下］其支配ノ下。其政治ノ下。統治下。

ぢかい（名）［持戒］佛教ノ語。佛教ノ戒律ヲ守ルコト。法華經、譬喩品「持戒淸潔、如ニ淨明珠ニ」太平記、廿九、師直師泰出家事「禪侶御出家候ウテ、如何ナル持戒、持律ノ僧トナラセ給ヒテ候フトモ、三條殿ノ御意モヤスマリ、云云、憤ヲ散ジ候フベシトハ覺エ候ハズ」

ちかう（名）［地窖］あなぐら（穴藏）ニ同ジ。

ちかう（名）［知行］知ルト、行フト。又、知識ト、行爲ト。「知行合一」

ちかうがふいつ（句）［知行合一］ちとくがふいつ（知德合一）、及、やうめいがく（陽明學）ノ條ヲ見ヨ。

ちかうちかう（副）［近近］〔近く近くノ音便〕貴人ノ、臣下ナド、側近ク召スニ云フ語。コチコチ。

ちかおとり（名）［近劣］ちかまさり（近優）ノ條ヲ見ヨ。源、四十六、總角「人ニ見エ給ハンニ、サリトモちかおとりシテハ、思ハズヤアラム」和泉式部日記「ちかおとり、イカニセムト思フコソ、苦シケレ」

〜ちかきまぼり（名）［近衞］〔皇宮ノ近ク守ル意〕古ヘ、近衞府ニ屬シテ、禁中ノ警衞、行幸ノ警備ナドニ任ジタル軍隊。コノエ。チカキマモリ。

〜ちかきまぼりのつかさ（名）［近衞府］このゑふ（近衞府）ニ同ジ。續世繼、六、[illegible]賀「舞人ハ、ちかきまぼりのつかさ、雲ノ上人」

〜ちかきまもり（名）［近衞］前前條ニ同ジ。源、三十一、眞木柱「カウ、イトキビシキちかきまもりコソ、ムツカシケレト、ニクマセ給フ」同、三十六、横笛「ナホヤケノ御ちかきまもりヲ、ワタクシノ隨身ニリヤウゼント、アラソヒ給フヨ」年中行事歌合「フケナバト、ナニギリケム、九重ヤ、ちかきまもりノ、メグリケル夜ヲ」

〜ちかきまもりのつかさ（名）［近衞府］このゑふ（近衞府）ニ同ジ。宇津保物語、[illegible]、下九十八「ちかきまもりのつかさノカミ藤原の仲忠ト申給フ聲、イト高ウイカメシ」

ちかきみより（名）［近身寄］きんしん（近親）ニ同ジ。チカキユカリ。

〜ちかきゆかり（名）［近緣］前條ノ語ニ同ジ。源、四十三、竹河「カンノ君ノ御ちかきゆかり、ソコラコソハ、世ニヒロゴリ給ヘド」同、五十三、夢浮橋「カノセウトノワラハ、云云、是ナンソノ人ノちかきゆかりナルヲ」

ちかく（名）［知覺］（一）知リ覺ルコト。後漢書、杜喬傳「[illegible]」（二）耳目等ノ五官ニ、外物ノ觸ルルヲ感ジテ知ルコト。「[illegible]」

ちかく（名）［地殼］地質學ノ語。地球ノ外部ヲ構成スル固キ部分。地皮。

ちかく（名）［地角］土地ノ一方ノ遠キハテ。地ノ一角。徐陵、[illegible]「[illegible]」書「天涯海角、地角[illegible]」

ちかく（名）［地核］地質學ノ語。地球ノ內部ヲ占ムル高熱ノ部分。地球ノ中圏。地心。

ちがく（名）［地學］ちりがく（地理學）ニ同ジ。

ぢかく（名）［痔核］イボヂ。ぢ（痔）ノ條ヲ見ヨ。

〜ちかごと（名）［誓言］チカヒゴト。チカヒノコトバ。せいごん（誓言）ニ同ジ。後撰集、十一、戀、三「必ズ後ニ逢ハムト、ちかごとヲ立テサセテ」源、三十四、下、若菜、下「[illegible]思フ事申スハ、[illegible]アル[illegible]カハト、イミジキちかごとナドヲシツツ」清輔集「女ヲ[illegible]根ミテ今ハ逢ハジナド、ちかごと立テテ後、モトヨリゲニ、難シカリケレバ」[illegible]

ちかごろ（副）［近頃］（一）コノゴロ。近來。[illegible]（二）甚ダ。タイヘン。謠曲、鉢木「近頃ヨキ火ニアタリ、寒サヲ忘レテ候」「近頃嬉イ」

ちか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［近］〔手所シノ義、手ノトドク所。着クニ通ズ〕（一）〔距離短シ。隔ナシ。遠カラズ。[illegible]七、雜「見ワタセバ、近キ里ワヲ、タモトホリ、今ゾワガコシ、ヒレフリシ[illegible]」源、[illegible]「[illegible]攝津ノアカシノ浦コソ、コトニ侍レ」同、六、末摘花「行幸ちかくナリテ、試樂ナドノノシル頃ゾ、命婦ハ參レル」（二）〔時、多ク隔タラズ。[illegible]、十七[illegible]「[illegible]アラバ、七日ノ內ハ、過ギメヤモ」（三）〔親シ。[illegible]（四）[illegible]近似「[illegible]近し」（五）殆ド屆ク。及バムトス。庶幾「百年ニ近シ」目近シトハ、近眼ナリ。短視

ちか・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［近］交リ近シ。親シ。ムツマジ。[illegible]「ちかしき中ニ」ちかしくスル」

ぢかし（名）［地貸］借地ニテ、地代ヲ取ムルコト。（地借ニ對ス）

ちかしつ（名）［地下室］西洋建ノ建築ニテ、地面ヨリ下ニ設ケタル室。

ちかた（名）［血方］ちのみち（血道）ノ條ノ（二）ニ同ジ。

ちがた（名）［乳形］[illegible]人ノ乳首ノ如キ形。又、ソノモノ。乳（第二[illegible]）ノ條ヲ見ヨ。

ぢかた（名）［地方］（一）室町時代、京中ノ家屋、宅地[illegible]ノ事ナドヲ掌リタル役所。[illegible]（二）江戶時代、都府市中ニ對シテ、其國國、田舍ノ地ヲ稱スル語。轉ジテ、其地方ノ行政。支配スルナドニ就キテ云フ。「地方役人」（三）海上ヨリ陸地ノ方ヲ[illegible]

ちがたな（名）［血刀］血ニ塗レタル白刃。[illegible]

ぢかたん（名）［直談］ぢきだん（直談）ノ條ヲ見ヨ。

ぢかため（名）［地固］[illegible]

ちかちか [illegible]

ちかぢか [illegible]

ちかぢん [illegible]

ちかづき（名）［近付］（一）近ヅキ相知ル[illegible]

コト、シリアヒ。[illegible]「持チ合ハセガ無ケレバ、此處ニ近付きト云ウテハナシ」（二）知ル人。シリビト。知人

ちかづく（チカヅク）・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）近付 （一）〔チカクナル。チカヨル。接近 土佐日記、二月九日「京ノちかづくヨロコビノアマリニ」[illegible]集、三「[illegible]カル、ミヌメヲ過ギテ、[illegible]ノ、ヌシマノ[illegible]ニ、[illegible]可[illegible]メ」同、六「アカシガタ、[illegible]手ノミサフ、アスヨリハ、下ウレシケム、イヘちかづけバ」（二）〔時、來ラムトス [illegible]九、[illegible]長ト夜ノ、フケ行ク月ヲ、ナカメテモ、ちかづくヤミヲ、知ル人ゾナキ」萬葉集、十八「藤波ノ、咲キユク見レバ、ホトトギス、鳴クベキ時ニ、知可[illegible]ニケリ」（三）親シクナル。懇意ニナル。親密ニナル。近ク寄リ添フ。昵近

ちかづく（チカヅク）・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）近付 （一）近ク寄ス。近ク來ラス。（二）親シクセシムル。親密ニナラシムル。

ぢかづけ（ジカヅケ）（名）直着 汽船ナドヲ、棧橋ニ寄セズシテ、直ニ岸ニ着クルコト。

ぢかづけ（ジカヅケ）（名）直付 （一）直接ニ手ヲ下スコト。（二）妓樓ニ遊ブニ、茶屋ニカカラズ、直ニ遊女屋ニ上ガルコト。

ちかつて（副）誓 カナラズ。決シテ。古詩、焦仲卿妻詩「誓不_相_隔卿ニ」

ちかどなり（名）近隣 チカキトナリ。近邊。源、十四、澪標「オトドノ御トノ井所ハ、昔ノシゲイサナリ、梨壺ニ春宮ハオハシマセバ、ちかどなりノ御心ヨセニ」貫之集、源ノミヤコガ、年頃スミケルちかどなりヲ、外ヘウツルト聞テヤル」拾遺集、十七、雜、秋「西ナルとなりニ住ミテ、ちかどなりニアリケルコトナド、云ヒオコセ侍リテ」同、同「ちかどなりナル所ニ方違（カタタガヘ）ニワタリテ」

ちかながら（副）近クアリナガラ。後撰集四、夏「時鳥、來居ル垣根ハ、近ながら、待遠ニノミ、聲ノ聞エヌ」六帖、三「ミチノクノ、千賀ノ鹽ガマ、ちかながら、ハルケクノミモ、オモホユルカナ」

ちかなもの（名）乳金物 門ノ扉ナドニ打ツ釘（クギ）隱（カクシ）ノ如キ金物ニテ、乳首（チクビ）ノ如キ形セルモノ。

ぢかに（ジカニ）（副）直 ぢきに（直）ノ訛、其條ノ（一）ヲ見ヨ。

ぢがね（ジガネ）（名）地金 （一）貨幣、かなもの、ナドニ作リ成スベキ、下地ノかね。（二）鍍金（メッキ）ノ臺トスルかね。（三）轉ジテ、俗ニ、本心。本性。浮世風呂（文化、三馬）四編、中「賣物ダカラ、ナグサマレテモ、虫ヲサスノテルケレト、是ガ又、地がね同志ノ遣リ取リデ見ネエ、直（チキ）サマ横ゾノポウダ」「地金ヲ出ス」

ちかひ（チカイ）（名）誓盟 （一）〔チカフコト。神佛ヘ掛ケテノ約束。史記、孔子世家「子貢曰、盟可_負耶」源、四十九、東屋五十六「深キちかひヲヤブリテ、人ノネガヒヲミテ給ハムコソ、タフトカラメ」（二）佛、又ハ、神ガ、衆生ヲ救ハムトスル誓願、弘誓（グゼイ）。謠曲、千手「忝クモ北野ノ御作、此ノ詩ヲ詠ゼバ、聞ク人迄モ守ルベシトノ御誓ひナリ」「佛ノ誓」（三）將來、或事ヲ成就シ、又ハ、履行セムコトヲ期スルコト。

ちがひ（チガイ）（名）違 チガフコト。タガフコト。同ジカラヌコト。チガヘ。相違。

ちがひだな（チガイダナ）（名）違棚（チガヘサマ） 棚ヲ、左右ヨリ上ト下トニ、交互ニ釣リ出シテ作レルモノ。床閒（トコノマ）ノ傍ナドニ作リ添フ。其一徑庭 狂言記、武惡「永久シウ覺エノ者ヲバ、斯樣ニシテ置カッシャルノハ、殿ノ違ひヂャトアッテ」

文字ニ渡シタルヲ通棚（トホリダナ）ト云フ。チガヘダナ。犬筑波（永正）「草紙一帖、ウセハテニケリ」我ガ部屋ノ、時時物ノ、ちがひ棚」 橘庵漫筆、初編、三「元來、違棚ハ、月卿雲客ノ家ニ設給フ物ナリ、客有リテ正寢（ショウキン）ニ入來ノトキ、客ノ[illegible]ノ棚ニ置[illegible]、烏帽子ハ下ノ棚ニ置カルル爲ニ設ラルルモノトカヤ」

ちかひのあみ（チカイノアミ）（名）誓網 佛ノ衆生ヲ濟度スルヲ、網ニテ物ヲ救ヒ上グルニ譬ヘテ云フ語。謠曲、俊寛「コハイカニ、罪モ同ジ罪、配所モ同ジ配所、非常モ同ジ大赦ナルニ、一人誓ひの網ニモレテ、沈ミハテナン事ハイカニ」

ちかひのうみ（チカイノウミ）（名）誓海 ぐぜいのうみ（弘誓海）ニ同ジ。法華經、普門品「弘誓深如_海、歷劫不思議」拾遺愚草、下「歷劫ノ、ぐぜいのうみニ、舟ワタセ、生死ノ波ハ、冬アラクトモ」新千載集、九、釋敎「世ニコユル、ちかひのうみノ、ミヲツクシ、立ツルシルシハ、イソモ朽チセジ」同、同「今ハマタ、ちかひのうみノ、ワタシモリ、クルシキ波ニ、人ハシヅメジ」

ちかひのふね（チカイノフネ）（名）誓船 ぐぜいのふね（弘誓船）ニ同ジ。玉葉集、十九、釋敎「ヨニコユル、ちかひの船ヲ、タノムカナ、クルシキ海ニ、ミハシヅメドモ」風雅集、十八、釋敎「シヅミコシ、ウキ身ハイツカ、ウカブベキ、ちかひの船ノ、ノリニアハズバ」夫木抄、三十三、舟「ワタシ守、ちかひのふねハ、心セヨ、ノリカタブクル、人モコソアレ」

ちがひめ（チガイメ）（名）違目 （一）違ヘル箇所。違フ部分。（二）筋違ヒニ組ミタル所、榮花物語、十八、玉臺「犬フセギハ、ミナ金ノ漆ノヤウニ塗リテ、ちがひめ每ニ、螺鈿ノ花ガタヲスヱテ」

ちがひめ（チガイメ）（名）交目 入リ亂レ目。入リ亂レタル箇所。夫木抄、廿八「刈リテ乾ス、淀野ノ眞菰、綱繇ノ、ちがひめ多キ、我ガウレヘカナ」

ちかふ（チカウ）・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）誓盟 〔手交（テカ）ふ意カ〕 然（シカ）ク心ニ決メテ、ソレヲ違ヘジト堅ム。眞心ヲ定メテ、其事ヲ違ヘジト堅ム。又、神佛ヘ掛ケテ、或事ヲ欺カスヲ契ル。誓約ス。古詩、焦仲卿妻詩「誓天不_相負」[illegible]紀、[illegible]「[illegible]」六帖、三「[illegible]」「クルル閒ヲ、ハカナクイソグ、心カナ、アフニカヘント、ちかふ命ニ」拾遺集、十四、戀、四「何センニ、命ヲカケテ、ちかひケン、何（イカ）バヤト思フ、折モアリケリ」後拾遺集、十二、戀、四「誓ひテモ、猶思フニハ、負ケニケリ、誰ガタメ惜シキ、命ナラネバ」

ちがふ（チガウ）・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）違 たがふ（違）ノ轉。相違ス。マチガフ。

ちがふ（チガウ）・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）違 （一）タガフヤウニナス。ハヅス。アヤマツ。（二）異ニナス。別ニス。

ちがふ（チガウ）・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）交 〔打交（ウチカ）ふノ略〕（一）互ニ外（ハヅ）レテ入リマジル。行キ合ハズ、交（カ）フ。夫木抄、二十三、筏「程モナク、立チヌル跡ヘ、返ル波、筏ニちがふ、アヂノ村鳥」同、八、鵜河「鵜飼舟、ちがふ手繩ヲ、サバクトテ、トモシゾカヌル、ヨハノカガリ火」續政集「吾妹子ガ、狹路（セバチ）ニちがふ、移香ノ、イツノマニシム、心ナルラム」玉葉集、五、秋、下「浮雲ニ、早クちがひテ、行ク月ノ、ハレマニナレバ、風ゾ靜マル」「行キちがふ」「摩レちがふ」（二）打チチガフ。交叉ス。

ちがふ（チガウ）・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）交 （一）行キ合ハヌヤウニ入レ交（マ）ズ。交（カハ）ス。夫木抄、廿七、鵲「鵲ノ、ちがふる橋ノ、間遠ニテ、ヘダツル中ニ、霜ヤオクラム」金葉集、九、雜、上「隱シ男ヲ傍ノ局ノ壁ノ崩レヨリニガシタレバ、其局ノ主（中略）「寐ヌル夜ノ、壁（夢）サワガシク、見エシカド、我ガちがふれバ、事ナカリケリ」源、五十一、蜻蛉三十「木丁ドモノ、立テちがヘタルアハヒヨリ、見通サレテアラハナリ」蜻蛉日記、上、下、四「見シ夢ヲ、ちがへワビヌル、秋ノ夜ハ、寐ガタキモノト、思ヒ知リヌル」「刺シちがふ」「ちがへ遣戶」（二）打チチガヘル。タガフル。交叉ス。（三）外（ハヅ）ス。「筋ヲちがふ」

ちかふらくは（チカウラクハ）（副）誓 チカフニハ。

約束スルニハ。撰集抄、一、第八條「ちかふらくゑ、身ハタトヒ那落ノ底ニ、シヅムトモ、コノ佾都ノ芳志ヲバ、忘レタテマツラジ」

ちがへ（名）〔違〕チガフコト。タガフコト。相違スルコト。チガヒ。

ちがへ（名）〔交〕互ニ行キ合ハスコト、交叉スルコト。伽草子、四、吉備大臣入唐諺文「アラチヲノ、カル矢ノ前ニ、立ツ鹿モ、ちがへヲスレバ、ちがふトゾ聞ク」比古婆衣、七「ソノちがへトハ、如何ナル事ヲスルニカト問フニ、鹿ノ猟人ニ遭タル時、此方ニ向キテ、前足ヲやりちがへて、ツキ立テ見オコセテアル事ヲスルヲ、ちがへヲスルト云フナリ、カレガ然シテ立向ヘル時ハ、如何ニヨクシタタメネラヒテモ、イツモ射ハヅシハベルナリ」

ちがへだな（名）〔違棚〕ちがひだな（違棚）ニ同ジ。嫁入記「クロダナトハ、ちがへだなノ事ナリ」

ちがへやりど（名）〔違遣戸〕敷居ノ二筋溝ノ上ニテ、左右ヨリ打交ヘテ引クベキ遣戸。新六帖、五「ココヨヒサヘ、コトシゲシトテ、アフコトヲ、ちがへやりどノ、タテルカラカミ」

ちがへる（動）違ふ（下二）、交ふ（下二）等ノ口語。

ちがほ（名）〔地顔〕假粧セヌ顔、生地ノカホ。スガホ。好色[illegible]代男（貞享、西鶴）四「中折ノ鼻ナキ、拭ヒ白粉ノ地顔ナト[illegible]テ」

ちかま（名）〔近邊〕近キ處。近處。

ちかまさり（名）〔近優〕遠ク見タルヨリハ、近寄リテ見テ優ルコト。源、三十一、眞木柱「ココヨナキちかまさりヲ、初ヨリサル御心ナカランニテモ、[illegible]シスグスマジキヲ」同、三十三、藤裏葉「イトドシキちかまさりヲ、美シキ[illegible]ニ思シテ」紫式部集「折リテ見バ、ちかまさりセヨ、桜[illegible]」[illegible]「呼バレテ、寄リ來マ、ちかまさりシテ、ラウタキコト、物ニモ似ズ」コレト反對ナルヲ近劣ト云フ。源、四十六、總角「人ニ見エ給ハムニ、サリトモ、ちかおとりシテハ、思ハズヤアラム」

ちかまはり（名）手近ナル所。ヂマハリ。チヂカキホトリ。チカマ。近處。近邊。

ぢがみ（名）〔地髪〕髱ナドニ對シテ、生得ノ髪。好色一代女（貞享、西鶴）三「コレ見ヨト、引キホドキタマヘバ、かもじイクツカ落チテ、地髪ハ十筋右衛門ト、恐メシサウニ、御涙ニ袖クレテ」百日曾我（元禄、近松作）三「髱、小枕取リ捨テ、地髪バカリヲ鉢卷シ」「地髪ノ薄キ」[illegible]

ぢがみ（名）〔地紙〕扇ノ地紙、おふぎがみ（扇紙）ノ條ヲ見ヨ。狂言記、末ひろがり「コレコレおがみ好クトハ、此ノ紙ノ事デオリャル、師走狐ノ如ク、コンコント云フ程張ッテゴザル」

ぢがみうり（名）〔地紙賣〕安永、天明ノ頃マデ、江戸市中ヲ、扇ノ地紙ヲ賣リアルキシ商人、地紙形ノ箱、五ツ六ツ重ネテ肩ニシ、賣リアルキタリ。注文スレバ、即座ニ折リ立ツ。伊達衣裝シテ、役者ノ聲色、物眞似ナドシタルモアリ。後昔話（享和、手柄岡持）二「今ナクナリシモノ、[illegible]、扇地紙賣ノスタスタ坊主、ちがみうり[illegible]」[illegible]

ちかみち（名）〔近路〕（一）路程ノ近キ路。（迂路ニ對ス）タダヂ。スグヂ。[illegible]

ちかん（名）[illegible]

ちかめ（名）〔近眼〕眼球ノ凸ナリテ、近キ物ノミ能ク見エテ、遠キ物ノ朧朧トシテ見エヌモノ。生得ナルアリ、年來、細カキ物ヲ見ツヅケテ成ルアリ。キンガン。[illegible]

ちがや（名）〔茅〕[illegible]

ちかやかま（名）[illegible]

ちかよる（自動）（ル・レ・ラ・リ・レ）[illegible]近ク寄リツク。チカヅク。接近ス。[illegible]

ちから（名）〔力〕[illegible]

[illegible]〔成熟〕キキメ。驗。效驗。效力。竹取物語[illegible]

ちから（名）[illegible]

ぢから（名）[illegible]

ちからあし（名）[illegible]

ちからあはせ（名）[illegible]

ちからいし （名）［力石］ 力ヲ試ス爲ニ、抱ヘ上グル石。

ぢがらうす （名）［地碓］ （臼ヲ地ニ埋ムレバ云フ）からうす（碓）ト云フニ同ジ。略シテ、ぢがら。

ちからおとし （名）［力落］ 望ヲ失ヒ、恃ミ無クナリナドシテ、氣力ヲ喪フコト。キオチ。落膽

ちからがね （名）［力金］ 逆頰ニ刺ス鐵ノ金具。びぢよがね（鉸具）ノ條ヲ見ヨ。

ちからがは （名）［逆頰］ （力革ノ義）（一）鐙頭ノ鉸頰ニ繫グモノ、蓋シ、古ヘノ鐙ハ、鐙頰ノ上ニ、逆頰トテ韋皮一條ヲ、懸ケテ助ケトス。後世ハ、二ツヲ二重ニ縫ハセテ、ソレヲ力革ト云フ。（二）［个、誤リテ、鐙頰ノ稱。倭名抄、十五、鞍馬具「逆頰、知賀良加波」 天治字鏡、十二「逆頰、力加波」 馬具式「力革」 盛衰記、廿九、平家方上所所軍事「河ノ案内知タルラン、淘汰仕レト仰ケル、光明仰承テ、逸キ馬十匹試ヘ、手綱結ヒ懸ケテ、追ヒ入レタリ、鞍爪、力革ヲバ、過ギザリケリ」

ちからがみ （名）［力紙］ （一）相撲取ノ髻ヲ結ブ紙。（二）相撲場ノ四本柱ノ左右ノ柱ニ釣リオク紙。伽羅油、文七元結モナキ頃ハ、角力取ル者、亂髮ニナリヤスケレバ、此紙ヲシゴキテ、髻ヲ結ヒタルナルベシト云フ。今ハ、假粧紙ト云ヒテ、唯、鼻カムナドニ用ヰル。假粧バカリニ釣リオク意ニヤ。又、土俵場ノ下ニ桶ニ水ヲ湛ヘオキ、力士ノ用ヰルニ任カスルヲ、力水ト云ヒキ。コレモ、今ハ假粧水ト云フ。 鷹筑波集（寛永）五「相撲取、頸ミヤカクル、ちから紙」（神ニカク） 團十郎ノ暫ノ狂言ノ際、ソノ髮ニ、白紙ヲ切リテハネサセタルガ、侍烏帽子ノ下ヨリ出デタルハ、其遺風ナラム。（三）力ノ強クナラムコトヲ祈願スル爲ニ、佛寺ノ仁王尊ノ像ニ、嚙ミテ投ゲツケ、又ハ、ヒネリテ、仁王尊ノ金網ナドニ縛リツクル紙。（四）綴目ナドヲ丈夫ニスル爲、間ニ張ル力強キ紙。

ちからぐさ （名）［力種］ タヨリ。タノミ。己レガタヨリトスルモノ。取リスガリテ、賴ミトスル料。

ちからぐさ （名）［力草］ すまふとりぐさ（相撲取草）ニ同ジ。ひぢはノ條ヲ見ヨ。

ちからくらべ （名）［力競］ 力ノ優劣ヲ競フコト。力ヲクラベアフコト。角力。 字鏡「捔、以力相爭也、知加良久良邊」 同、七十八「扛、擧鼎、知加良久良邊」 垂仁紀、七年七月「當麻邑有勇悍士、曰當麻蹶速、云云、恆語衆中曰、云云、何遇強力者、不期死生、頓得爭力焉」

ちからぐるま （名）［力車］ 物ヲ積ミテ、人ノ力シテ引ク車。荷物ヲ運ブニ用ヰル車。 萬葉集、四「戀草ヲ、力車ニ、七車、積ミテ戀フラク、吾ガ心カラ」 狹衣、四、下「道ノ程ニ、戀草ツムベキレウニヤト見ユル力車ドモモ、アマタオシヤリツヅケツツ行チガフ」 榮花物語、十五、疑「力車ニ、エモイハズ大木ドモニ、綱ヲツケテ、喚ビノノシリ、引キモテノボル」 同、廿九、玉の飾「中尊ハ皆金色ニテ、丈六ニテオハシマス、云云、丈六力車ト云フニ、サルベキカマヘヲシテ」（一丈六尺ノ佛ヲ力車ニノセタルナリ） 右京大夫集「ヤブニ逃入リテ、力車ノアリケルニ、マギレヌルトイヘバ」

ちからげ （名）［力毛］ （一）強壯ナル人ノ胸、腕、脛ナドニ生ズル毛。（二）筆ノ先ニ用ヰル主要ナル毛。

ちからこぶ （名）［力瘤］ 力ヲ出ス時、二ノ腕ノ邊ニ、筋肉ノ張リテ凸ク脹レアガルモノ。 蝦蟇兒 吉野忠信（寶永、近松作）一「モロハダ脱イデ膊口ニ、左右ノ手ヲ置キ肱ヲ張リ、五ヒニ臂ヲ嚙ケ合ハセ、一シメ締ムル力瘤、兩ノ腕首節立ノテ、胸ノ骨骨肉合ヨリ、一汗サットナガレシハ」 力瘤を入れるトハ、熱心ニ盡力ス。

ちからこぶし （名）［力拳］ 力ヲ入レタルコブシ。 曾我物語、一、角觝事「モノモノシヤ、ちからこぶしノコタヘンホドハ、命コソ限リヨト云ヒ」

ちからしね （名）［稅稻］ 年貢ニ上納スル稻。稅トシテ納ムル稻。

ちからしば （名）［力芝］ （引キ扱キ難ケレバ云フ） 草ノ名。路傍ニ多シ、高サ一尺許、葉ハ長クシテ麥ノ如ク、多ク叢生ス、根甚ダ固シ。秋、數莖ヲ出シ、梢ニ穗ヲナス、ゑのころぐさノ穗ニ似テ長大ナリ、紫黑ニシテ、粗ク長キ毛多ク、毛毎ニ小子アリ。狼尾草

ちからしろのぬの （名）［庸布］ ［力代の布ノ義。ちから（稅）ノ條ヲ見ヨ］ 又、ちからぬの。庸ニ奉ル布。（租ノ條ヲ見ヨ） 孝德紀、大化二年正月「一戶庸布一丈二尺」 天武紀、下、十四年十一月「庸布四百常」

ちからぞへ （名）［力添］ 力ヲカスコト。助力 助勢 援助

ちからだて （名）［力立］ 力ワザヲシテ見セカクルコト。力アルヲ、自慢スルコト。 國性爺合戰（正德、近松作）二、千里竹「神國ニ生レテ、神ヨリウケシ身體ハップ、畜類ニ出逢ヒ、力立シテ怪我スルナ」

ちからだめし （名）［力試］ 力ノ程ヲ試スコト。 博多小女郎波枕（享保、近松作）上「皆ノ衆、ヌカルナ、心得タト、鉢卷、襷、尻褰ケ、腕骨試シ力試シ、合ノ舳切ヲ小楯ニテ」

ちからぢから・し ・キ・シケレ・シク・シ…［力力］ 力ヲ入ルル狀ナリ。 落窪物語、二「老イ給ヘルホドヨリハ、ツマハジキヲイト力力しくシ給ヒテ、イト云フガヒナキ事ヲモノシタルカナ」

ちからづく （名）［力盡］ ［づく（給）ノ條ヲ見ヨ］ 力ノ限リヲ盡クシテ、勝負ヲ爭ハムトスルコト。ウデヅク。腕力 （道理ノ爭ヒニ對ス）

ちからづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ （自動、四）［力付］ 氣力ヲ生ズ、勢ヲ得、健ニ成リ始ム。（病ノ快氣ニ趣クナドニ）

ちからづ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ （他動、下二）［力付］ 力ノツクヤウニ、ハゲマシ、又、ナグサム。援助ス。力ヲツク。

ちからつぐのひ （名）［力償］ 勞力ニテ、償フコト。賃仕事、勞働ノ報酬。 靈異記、下、第廿五緣、訓釋「傭賃、知加良豆玖乃比」

ちからで （名）［力手］ 力アル手。力強キ腕。 山家集、下「山クヅス、ソノちからでハ、カタクトモ、心ダクミヲ、ソヘコソハセメ」

ちからなげさ （名）［力無氣］ 力ノナキ容子。 榮花物語、三十、鶴林「御心地ハ、ちからなげさノイミジキニコソアンメレ、御心地ハユメニカハラセ給フコトナシ」

ちからぬの （名）［庸布］ ちからしろのぬの（庸布）ニ同ジ。

ちからのつかさ （名）［主稅寮］ ちかられう（主稅寮）ニ同ジ。 倭名抄、五、官名「主稅寮、知加良乃豆加佐」

ちからびと （名）［力人］ （一）力ノ強キ者。勇健ナル者。強壯ナル者。リキシ。 垂仁紀、七年七月「當麻蹶速者、天下之力士也」 皇極紀、元年七月「命健兒、相撲於翹岐前」（翹

岐、百濟王ノ子）[illegible]三年十一月「入鹿臣、云云、使漢直[illegible]力人[illegible]、[illegible]八月[illegible]日本[illegible]、[illegible]二年[illegible]、[illegible]健兒ニハアラズ）（二）こんでい（健兒）ノ條ヲ見ヨ。字類抄「烏獲、チカラヒト」楊雄[illegible]大健兒[illegible]古事記、中（垂仁）「選[illegible]士之中、力士[illegible]」

ちから-まけ（名）［力負］角力ナドニ、分外ニ力ヲ入レタルガ爲ニ、却テ其機ニテ負クルコト。

ちから-みづ（名）［力水］角力ノ土俵際ニ桶ニ水ヲ湛ヘ置キテ、力士ニ與フルモノ。假粧水。日本語手鑑、上「今使ᴸ蒼頭奴、東西持ᴸ水桶各一ᴸ[illegible]飮ᴸ[illegible]、曰ᴸ之力水ᴸ、是也」

ちから-もち（名）［力持］石ナド、スベテ重ク大イナル物ヲ擡ゲテ、種種ノ技ヲナシ、觀場トスルモノ。（天保ノ頃ヨリ、明治十年頃マデアリキ）史記抄（文明）十三ノ四十「京（倉園）ノ下ニアル方石ヲ見テ、力もちヲスルゾ」（コレハ實ニ行トシタルニアラズ、力ダメシニシタルナリ）酒食論（足利時代）「相撲、目カクシ、ちからもち、ヒダルクナリテハ、カヒモナシ」

ちから-もち（名）［力餅］山越シナドニ、携ヘ行キテ、力ヲ添ヘル爲ニ食フ餅。

ちから-れう（名）［主稅寮］チカラノツカサ。古ヘ、民部省ノ被管ノ寮、租稅ノ事、及、倉廩ノ出納、諸國ノ田租、舂米ノ事ナドヲ掌ル。職員令「主稅寮、頭一人、掌ᴸ倉廩出納、諸國田租、舂米、碾磑事ᴸ」職原抄、上「主稅寮、云云、實[illegible]也、依ᴸ之多[illegible]任ᴸ之」

ちから-わざ（名）［力業］（一）體力ヲ使ヒテスル作業。勞働。力作（智ヲ用ヰル業ニ對ス）（二）強キ力ヲタノミテ行フ

[illegible]、太平記、三十二、山名右衛門佐[illegible]ニ牙ヲ嚙ミテ、無ᴸ益力態故ニ、組ンデ討ツ可カリツル[illegible]ヲ、[illegible]ラシツル事ノ[illegible]」

ぢ-かり（名）［地借］他人ノ地面ヲ借リテ住ムコト。借地。（地貸ニ對ス）御定書百箇條（寬政）「[illegible]、地借、[illegible]」

ちき（名）［杠秤］［扛秤］［釣木ノ義カト云フ］天治字鏡、六卅「鉤、卅斤爲ᴸ鉤也、法也、知伊也」トアルモ、是レカ］秤ノ一種。能シテ、ちぎ、又、ちぎばかり、今、ちきりトモ云フ、其條ヲ見ヨ。[illegible]（天和、永井如[illegible]）[illegible]「[illegible]、チキ」[illegible]名物考、[illegible]二[illegible]ハ大秤ナリ、鐵ノ付タルヲ云フナリ」

ちき（名）［地氣］地ヨリ立チ騰ル蒸發氣。チイキ。禮記、月令篇「孟春之月、云云、是月也、天氣下降、地氣上騰、天地和同、艸木萌動」

ちき（名）［知己］己レノ心ヲ善ク知レル友。心ノ友。シリビト。チカヅキ。[illegible]策、[illegible]「士爲ᴸ知ᴸ己者ᴸ死、女爲ᴸ悅ᴸ己者ᴸ容」

ちき（名）［稺氣］［稚氣］コドモラシキコト。ヲサナゲナルサマ。「稺氣未ᴸ去ラズ」

ちぎ（名）［千木］「氷木（行合ヘバ、合木ノ約）ト共ニ、肱木ノ上略、又ハ、中略ニテ、其形、屈折スレバ云フトゾ（枡トハ別ナリ）或ハ、風木（搏風、搏ハ、槖持也、垂ナハカラゲ、防風ノ料）ノ義ト云ヒ、垂木、又ハ、交木（木ト木ト、十文字ニ組合ハセルモノ、契合フ木）ノ約、ナド云フハ、スベテイカガ」一名、氷木。上代ノ家作ニ、切棟作リノ屋根ノ、左右ノ端ニ用ヰル長キ材ニテ、其末ハ、前後ノ軒ヨリ上リテ、棟ニテ行合フヲ組交ヘ、其組目以上、其梢ヲ、ソノママ長ク出シテ空ヲ衝クモノ。其組目ヨリ下ハ、椽ト竝

ビ、又、屋ノ妻ニナルハ、搏風トナル、千木ハ、今、神社ニノミ用ヰル。其梢ノ一角ヲ殺グヲ、[illegible]ト云フ、伊勢ノ内宮ナルハ内角ヲ殺ギ、外宮ナルハ外角ヲ殺グ、共ニ風穴ヲ明ク。[illegible]「[illegible]於高天之原ᴸ」祈年祭祝詞「高天ノ原ニ千木高知リテ」大神宮[illegible]「[illegible]、長二丈八尺、廣八寸、厚四寸、[illegible]」[illegible]大神宮[illegible]「[illegible]」[illegible]壹[illegible]、十九、神武[illegible]ドモ、[illegible]ハ同ジ、伊勢ノ神風」新古今集、十九、神祇「夜ヤ寒キ、衣ヤウスキ、かたそぎノ、行合ノ間ヨリ、霜ヤ置クラン」

ちぎ（名）［乳木］にうぼく（乳木）ニ同ジ。ごま（護摩）ノ條ヲ見ヨ。

ちぎ（名）［地祇］［說文「地祇、提ᴸ出萬物ᴸ者也」正韻「祇、地神」トアリ、國土ノ神ナリ。天神ニ對ス］地ノ神。クニツカミ。地神。史記、司馬相如傳「故聖王弗ᴸ替、而[illegible]、[illegible]」[illegible]神武[illegible]

ちぎ（名）［遲疑］タメラフコト。タユタフコト。グヅグヅスルコト。

ぢき（副）［直］ヂキニ。タダチニ。スグニ。倒卧ニ[illegible]

ち-きう（名）［地球］吾人ノ棲メル此大地ノ名。廣大無邊ナル土ノ球ナリ。即チ、太陽ヨリ第三番目ニ位セル遊星ニシテ、西ヨリ東ヘ旋リ、二十三時五十六分ニシテ自轉ス、コレヲ一晝夜トス、又、三百六十五日五時[illegible]、其軌道ヲ行キテ、太陽ヲ一週ス、コレヲ一年トス、[illegible]其大キサ、赤道ノ[illegible]周、凡ソ一萬二百四里、直徑、凡ソ三千二百四十八里アリ。

ぢ-きう（名）［持久］久シク保ツコト。ナガクタモツコト。[illegible]

ち-きう-ぎ（名）［地球儀］地球ノ模型、[illegible]ヲ作リテ、其海陸、山川等ノ形象、經緯度等ヲ圖シタル球。

ち-きう-せつ（名）［地久節］（天長節ニ對シ奉ル語）皇后陛下ノ御誕辰日。

ち-きう-らく（名）［地久樂］舞樂ノ曲ノ名。一名、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]拍子ナリ[illegible]、[illegible]代、[illegible]拍トアリ）又、舞樂ニテ、屆四ガ手アリ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]帶貴德ナドト同ジク、渤海樂ニヤアラム。（舞樂圖說）[illegible]、[illegible]南申アリ、又、[illegible]アリ、[illegible]アフトキ、[illegible]カタメツ[illegible]事、[illegible]ナリ」

ぢき-げんざん（名）［直見參］直接ニ面會スルコト。[illegible]

ぢき-さつ（名）［直札］宛名ノ人ノ、直接開封スベキ書狀。[illegible]ルノ[illegible]ナタルニヨリノ、[illegible]ノ[illegible]

ぢき-さん（名）［直參］（一）直ニ其主君ニ仕フル者。（陪臣ニ對ス）[illegible]（二）江戶時代ノ武家ノ、直[illegible]人。（但シ萬石以下ノモノ）即チ、旗本、御家人ノ稱。[illegible]（三）古ヘ、帶旗ナドノ名門出身ノ[illegible]僧ニシテ、最[illegible]ナルモノノ稱

ぢき-しはい (名) 直支配 直接ニ支配スルコト。ヂカシハイ。直轄。

ちき-しやう (名) 畜生 〔ちくしやう(畜生)ノ轉〕 (一)禽類、獸類ノ稱。(二)人ヲ罵リ云フ語。「コンちきしやう」

ぢき-しよ (名) 直書 (一)直筆。自筆。(二)直筆ノ書狀。又、直筆ノ文書。

ぢき-しよ (名) 直書 主君ヨリ臣下ヘ直ニ宛テタル書狀。(内書、奉書ニ對ス)

ぢき-そ (名) 直訴 中次ヲ歷ズシテ、直ニ上ニ訴フルコト。カッコミネガヒ。 建武以來追加式目、應中所目、本所寺社領「頭人并奉行緩怠、空經二廿箇日一者、任二本條一宜レ經二直訴一」

ぢき-そう (名) 直奏 他人ノ手ヲ經ズシテ、直ニ奏聞スルコト。直接ニ上奏スルコト。 民部省式、下「官下」符、省造二奏文一付二内侍令レ奏之」 式部省式、釋簿「省錄二五位已上見參簿一附二内侍一奏之」(古事類苑ニ、按ズルニ、省、太政官ヲ經ズシテ奏スルヲ、直奏ト云ヘルナリト)

ぢきそ-きやう (名) 直訴狂 直訴ヲナス癖ノアル狂漢。

ぢき-だう (名) 直道 (一)佛教ノ語。迂曲セズシテ、直ニ涅槃ノ域ニ達スル道。 盛衰記、三十九、參二高野粉川寺一並高野法然房一事「法華、眞ノ妙義ハ、云云、衆生正覺ノ直道、即身成佛ノ要路ナリ」 (二)他ヲ賴マズ、直接ニ佛ノ道ヲ知ルヲ得ルモノ。即チ、人間。 謠曲、巴「御法ノ功力ニ、草木國土モ、成佛ナレバ、況ンヤ生アル直道ノ弔ヒ、彼レ是レイヅレモ賴モシヤ」

ぢき-たつ (名) 直達 人傳ナラズニ屆クルコト。直接ニ傳達スルコト。

ぢき-だん (名) 直談 人傳ニ因ラズシテ、直接ニ話シ合フコト。直談。直話。

ぢきぢき-に (副) 直直 他人ヲ煩サズシテ、直接ニ行フ狀ニ云フ語。 凱陣八島(貞享、近松作)四「トハ云ヘ、ちきちきに還座アレバ、御屈ナガラ今暫ク、其儘衣ヲ冠リテ居ヨ」

ぢき-ちやう (名) 直丁 古ヘ、番直ニアタレル仕丁。官省寮司ニアリ、官内ノ驅使ニ供ス。ツカヘノヨボロ。 雄略紀、十一年十月「信濃國直丁與二武藏國直丁一、侍宿、相謂曰、嗟乎我國積鳥之高、同二於小墓一、旦暮而食、尚有二其餘一」

ぢき-でん (名) 直傳 餘人ノ手ヲ歷ズ、直ニ其師ヨリ傳フルコト。直接ノ傳授。(藝術ナドニ) 織留(元祿、西鶴)一「總ジテ、音曲、鳴物ノ四座ノ直傳ヲナラヒ請ケ」

ぢき-とつ (名) 直綴 直裰 〔上衣ノ偏衫ト、下衣ノ裙子トヲ、直ニ綴リ合ハセタルモノ〕 僧ノ服ノ名。即チ、普通ノ法衣ナリ、腰以下ニひだアリ。衣服ノ上ニ着ル。道服ノ如シ。 勅修百丈清規、五「直裰、相傳、前輩、見下僧有二偏衫一而無上レ裙、有レ裙而無二偏衫一、遂合二二衣一爲二直裰一」 關太曆、延久四年四月十五日「公賢大臣、脫二直衣一、次着二法衣一、鈍染大直綴也、其色濃」

ぢき-なふ (名) 直納 直接ニ納入スルコト。 運歩色葉集「直納、ヂキナフ」

ぢき-に (副) 直 (一)間ニ他ノ物事ヲ插マズニ。タダチニ。ヒタト。ヂカニ。(二)ヤガテ。タチマチ。スグニ。間ナク。マモナク。

ぢき-にん (名) 直任 等ヲ超エテ、直ニ其官ニ任ズルコト。 官職知要、中、直任「直任トハ、超二官次第一任ズル也、准大臣直任二大臣、左右大臣、二三位中將、直ニ中納言ニ任ジ給ヒ、僧官ニテハ、先可レ任二律師一ヲ、直ニ僧都ニ任ズルヲ云フナリ」 太平記、廿五、自二伊勢一進二寶劍一事「圓成阿闍梨、次第ヲ不レ經、直任ノ僧都ニナサレ」

ちぎ-ばこ (名) 千木匣 〔社ノ千木ノ餘材ニテ作ルヨリ云フ〕 東京ノ芝ノ大神宮ニテ、九月十一日ヨリ廿一日マデノ祭(生姜祭ノ條ヲ見ヨ)ニテ賣ル小櫃。小判形ノ小サキ檜ノ曲物ニ、藤花ヲ丹緑、青胡粉ニテ畫キ、中ニ飴ヲ入ル。上巳ノ遊ノ繪櫃ノ遺ナリ。後世、圓クカブセ蓋アルモノトナル。チギビツ。婦人コレヲ簞笥ノ中ニ祕メ置キ、衣服ノ增加ヲ祈ル禁厭ニストゾ。(其藤花ヲ描クハ、モト本願寺門主ガ、京都六條ノ名物飯鮓ヲ、毎年、藤ノ花ト共ニ禁中ニ獻ゼラレシ故事ニ因ルト) 土佐日記、二月十六日「山崎ノ店ナル小櫃ノ繪」 小窗雜志「芝神明社中ニテ賣ル小櫃ヲ、社人ハちぎばこトイフ、モト雛ノ具ナル故ニ、藤ノ花ヲヱガクナリ、一年、上方ヨリ下セシ船、遲延トシテ雛ノ節ヲ過ギテ着船セシ故、此ノ市ニ賣リタルガ、例トナリタリ、右小櫃ヲ、京大阪ニテハ、オダイビット云フ」

ぢき-ひ (名) 直披 手紙ノ表書ニ記ス語。他見ヲ許サズ、必ズ自身ニ封ヲ披キ給ヘトノ意ナリ。チョクヒ。親展。

ぢき-ひつ (名) 直筆 自ラ書キタルコト。自筆。直書。(代筆ニ對ス) 親書 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)二「サル大名ノ、直筆ニテ、連署ヲマハサルル事アリ」

ぢ-きん (名) 地錦 〔葉ハ霜ニ逢ヒテ、紅色トナリ、錦ニ似ル故ニ云フ〕 つた(蔦)ノ條ヲ見ヨ。

ち-ぎやう (名) 知行 〔政治ヲ知り行ふ意〕 (一)上命ヲ受ケテ、其土地ヲ支配シ、年貢、運上ヲ取ルナドノ政治ヲ行フコト。莊園ヲアヅカルニモ云フ。 明月記、文曆二年正月十日「左衞門尉俊淸、云云、蒙二殿下御勘當一、子息四人相共被レ追二却知行二所一、他人已給、其身出家了」 十訓抄、上、第一、十八條「後德大寺左大臣、小侍從ト聞エシ歌ヨミニ通ヒ給ヒケリ、云云、サレバコソ便ニハ計ラヒツレトテ、後ニハ知る所ナド給ヒタリケルトナム」(知る所ハ知行所ナリ) (二)室町時代ニ至リテ、土地ヲ與ヘラレテ我ガ物トス。爾後、德川時代ニ至リテハ、萬石以下ノモノニ知行ト稱シ、萬石以上ノ大名ニハ領地ト稱ス。領分地。知行所。 譽中御日記、寛永二年六月二日「渡邊山城守、二條御城代被レ仰付一、取リ來タル知行五千石、養子監物ニ被レ下レ之」 (三)轉ジテ、扶持。俸祿。

ち-ぎやう (名) 智行 智慧ト德行ト。又、智慧ト修行ト。 太平記、二、三人僧徒關東下向事「顯密兩宗ノ才、一山ニ光アルカト疑ハレ、智行兼備ノホマレ、諸寺ニ人無キガ如シ」

〜ぢ-きやう (名) 持經 常ニ身ヲ放タズ讀ム佛經。 源、七、紅葉賀「人ノミカドマデオモホシヤレル、御居所ノカネテモトホホエマレテ、持經ノヤウニヒロゲテ見居給ヘリ」 同、三十七、鈴蟲二「ミヅカラノ(女三宮)御持經ハ、院ゾ御手ヅカラ書カセ給ヒケル」 榮花物語、十五、疑「持經ニシ奉ラメ」

ぢ-ぎやう (名) 地形 家屋ヲ建テムトスルトキ、其下ノ地面ヲ平ニシ、築キ固ムルコト。ヂガタメ。 番匠往來(安政、鈴木鵬撰)「地形方、云云、樽地形、云云、平地形」「地形ヲ平ス」「地形ヲ固ム」

ぢきやう-じや (名) 持經者 經、特ニ、法華經ヲ讀誦スル僧。 宇治拾遺、十二、第五條「叡實ト云フ持經者ナン、ワラハヤミハヨク行ヒオトシ給フト、申人アリケレバ、コノ持經者ニ行ハセントテ」

ちぎやう-しよ (名) 知行所 知行スル土地。領分。領地。采地。采邑。食邑。

ちきやう-だい (名) 乳兄弟 他人ニテ、同ジ乳母ニテ育チタル者ノ、互ニ呼ブ稱。阿嬭兒 鶴之頭佐美(享保、室直清)二「神崎與五郎ハ、故淺野內匠頭殿ノ乳兄弟ナリシトゾ」

ちぎやう-どり (名) 知行取 祿ヲ知行ニテ受ケテ居ルコト。又、知行所ヲ有スルコト。又、ソノモノ。(扶持方ニ對ス)

ちぎやう-やく (名) 知行役 知行ヲ受クルモノガ、主君ノタメニ、夫役、金錢ヲ出ダスコト。 北條五代記(三浦茂信)五、七篇「毎年七月ニハ、七夕ノ矢ト號シ、大名、小名、知行役ニ主人ヘ上ル十節ノ內、五ツハスキヤ」

ちぎよ (名) 池魚 (一)池水ノ中ノ魚。 潘岳、秋興賦「譬猶池魚有江湖山藪之思」 (二)次條ノ語ノ略。

ちぎよ-の-わざはひ (名) 池魚之殃 〔東魏ノ杜弼ノ檄梁文ニ「楚國亡レ猿、禍延林木、城門失レ火、殃及池魚」トアル句ニ因ルト〕 昔、支那、宋ノ城門ガ燒ケシ時、池ノ水ヲ汲ミテ消火セシ故、池中ノ魚、皆、死ニキト云フ故事ニ因リ、不慮ノ災難ニ遭フ喩ニ云フ語。(サレド、呂氏春秋、及、淮南子ニヨレバ、池ニ寶珠ヲ捨テ、ソレヲ求メムガ爲ニ、池水ヲ吸ミ干シタルニヨリテ、魚、死セリトナス。又、廣韻ニヨレバ、城門、火ヲ失シテ、魚仲池ト云フ者ガ燒死セリト)オモヒガケナキワザハヒ。ソバヅエ 鶴作集(山崎宗吉、宗榮作)二「三四番日記、[illegible]」

ちぎり (名) 巾 〔[illegible] 頭ヲ包ミ髮ノ所ニテ結ヒテ、上下、開ケタル縢ノ形スル意カ〕 帽ノ類。 孝德紀、大化二年四月「[illegible]中於前」

ちきり (名) らんご(亂碁)ニ同ジ。[illegible]

ちきり (名) 縢 〔交切ノ略轉〕 (一)機ノ具。經絲ヲ卷キ持ツモノ。即チ(工)。今ハ、中括レテ兩頭廣シ。即チ(X)。關東ニテハ、緒卷。 倭名抄、十四12織機具「縢、知岐利、織機卷レ經之木也」名義抄「縢、チキリ」 (二)チキリジメ。其條ヲ見ヨ。

ちきり (名) 杠秤 〔杠秤ノ轉、其條ヲ見ヨ。或ハ云フ、乳切秤ノ略ニテ、乳切木ニ掛クレバ云フト〕 (一)又、ちき。桿秤ノ一種。秤ノ大イナルモノニテ、盛出(秤ノ目ノはかりめ)ヲ一貫目トシ、桿上ノ紐ニ棒ヲ通シ、二人ニテ擔ヒテ掛ケテ用ヰル。(二)小サキ秤ヲ云フ。 成形圖說、十四、農事「[illegible]小秤ナリ、關東ニテハ、佐ヲ濁音ニ呼ベリ」

ちぎり (名) 契 (一)〔チギルコト〕契約。約束。 源、六、末摘花「マタ、ちぎり給ヘルカタヤアラン、イトシノビテカヘリタマフ」 宇津保物語、嵯峨院「二三年コロ契リキコエシコトヲ、タカヘ給フルメルコソ」 (二)〔約束ガ本ナルヲ、後ニハ「前ノ世ノ御ちぎりヤ深カリケム」ナド〕前世ニ轉用ス。宿世ノ緣。因緣。 竹取物語「昔ノ契リアリケルニヨリテナン、コノ世界ニハマウデ來タリケル」 新古今集、四、秋、上「[illegible]秋風ノ、吾ヅレソムル、ツマトナルラム」 源、四十七、總角「コレヤ、人ノ言フメル、逃レ難キ御契ナリケム」同、一、桐壺「サルベキちぎりコソハ、オハシマシケメ」 (三)夫婦[illegible] [illegible]作)二、濱傳「此ノ日ノ本ニ云紫式、老一官ト名ヲ改メ、浦人ニ契リヲコメ、此ノ男子ヲ設ケシユエ」

ちぎり (名) 乳切 又、次條ノ語ノ略。

ちきり-かうぶり (名) 幗 古ヘ、老婦人ノ用ヰタル一種ノカブリモノ。 倭名抄、十二[illegible] 字類抄「幗、チキリカウブリ、[illegible]」

ちぎり-き (名) 乳切木 〔丈ソ己レガ胸ノ乳マデニ比ベテ、切リタルモノナレバ云フ〕 棒ノ如キ杖。防禦ナドニ用ヰル。 [illegible]何ノ用ニカアフベキ、六日ノ[illegible]サカヒ[illegible]りきノ風情ナリトテ、人皆口ヲスクム」

ちきり-じめ (名) 縢締 物ノ合目ニ塡メ込ミテ、かすがひノ用ヲナサシムルモノ。形、中括レテ、兩頭廣ク、縢ニ似タリ、又、分銅ノ如シ。又、[illegible]略シテ、ちきり。チキリドメ。 補

ちぎ・る ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 契 〔手握ルノ約ト云フ。[illegible] 神代紀、上[illegible]〕 [illegible]約シテ行末ノ事ヲ定メテ、互ニ言ヒ固ム。契約ス。約束ス。 源、一、桐壺「イトキナキ、ハツモトユヒニ、ナガキヨヲ、ちぎるココロハ、ムスビコメツヤ」 後拾遺集、十、哀傷「アリシコソ、限リナリケレ、逢フコトノ[illegible]」 [illegible]「泣クちぎりノタマハスレド」 古事記、中[illegible]

ちぎ・る ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [illegible] 手ニテ引キ斷ツ。モギトル。捩斷

宇治拾遺、三、[illegible]ノ、如クちぎりタルゾ」「油引キちぎる」

ちぎ・る ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 斷 [illegible] 「只今ニテモアレ、御前ニ御大事アラバ、ちぎれタリトモ[illegible]ヤミヌベシ、[illegible]」

ちぎ・れる レル・レレ・レ・レ・レヨ (自動、下一) [illegible]ラレテ切ルル。捩斷

ちきわ (名) 直諫 人傳ニ因ラズシテ、直ニ諫ムルコト。[illegible]

ちく (名) 筑 [illegible] 二、ササラトハ、用竹ト書、或ハ、竹ト書ク、筑子ハ、コキリコ也トアリ、筑ハ樂器ニアリ」

ちく (名) 軸 〔集韻「[illegible]」〕 リタシホカラ。[illegible]

ちく (名) 逐鹿 〔詩經、大雅、生民之什、板篇「敬天之渝、無敢馳驅」[illegible]〕

ちぐ (名) 智愚 智者ト、愚者ト。カシコキト、オロカナルト。[illegible]

ちぐ (名) 値遇 (一)ちぐう(値遇)ニ同ジ。(二)佛教ノ語ニテ、前世ノ宿[illegible]

ラス契リナリ」

ぢく（ジク）（名）**軸**〔說文「軸、持レ輪也」〕（一）古名、ヨコガミ。車ノ心木。轂ノ中ニ貫キテ、車ヲ持スル棒。車軸。（車、及、轂ノ條ヲ見ヨ。）西記六「三位已上者、云云、黄楊軸、云云、五位以上者、云云、草木軸」（二）織機ノ經絲ヲ持ツモノ。（三）〔スベテ、貫キモノ、又ハ、巻クモノノ心木。倭名抄、十三、文書具「軸、陰陽書云、軸」黄庭侍「年ノ終リニ、…ノちくノモトマデ巻キ寄セタル心ヲ人人ヨムニ」「地軸」「書物ノ軸、掛物ノ軸」（四）轉ジテ、直ニ、掛物、巻物。鷹司侍、集古今目序、…「之」晴記、寛保、山科…寛保十一年九月廿三日「昔ハ掛物トハ云ハズ、掛物ヲ軸ト云フ」（五）筆ノ管。ツカ。筆管 下學集…「巴カイタル筆ノちく」（六）蔕。「青軸の梅」（七）羽ノ莖。（八）俳句、又ハ、川柳等ノ最後ニ、其點者ノ記ス句ノ稱。

ぢく（ジク）（接尾）**軸** 掛物ヲ數フルニ云フ語。「…幅…」

ちく-いち（副）**逐一**（一）ヒトツビトツニ。一ツ毎ニ。一一。運歩色葉集「逐一、チクイチ」（二）ツバラニ。クハシク。詳細ニ。朱子語錄「逐一點檢、使二一一合一於理一」

ちく-いん（名）**竹印** 竹ニ刻ミタル印。

ち-ぐう（名）**值遇** 出會フコト。デクハスコト。チグ。廣韻「值、遇也」偶、…「偶爾值遇」太平記、廿、結城入道墮二地獄一事「佛前佛後ノ二難、大悲大悲ノ薩埵ニ值遇シ奉ラバ」

ち-ぐう（名）**知遇** 己レノ人格、或ハ、學力ヲ見ヌカレテ、厚ク待遇セラルルコト。厚遇。殊遇。南史、南康王…傳「…之任…知遇二」

ちく-えふ（名）**竹葉**（一）竹ノ葉。（二）支那ニ、酒ノ異名。（色ヲ以テ名トス。）白居易「…竹葉…春…」…字彙…用集、六、喫「…」「竹葉、チクヨフ」…宣城九醞酒、…竹葉酒二 吾妻鏡、三、壽永三年四月廿日「及二乘燭之期一、稱レ爲二慰二徒然一、被レ遣二藤判官代邦通、工藤一臈祐經、并官女一人（號二千手前一）等、於二羽林之方一、剰被レ副二送竹葉、上林已下一、羽林殊喜悅、遊興移レ刻」同、六月五日「池前大納言被レ歸洛、武衛令レ…於亞相一給上、逗留之間、連日竹葉勸二宴醉一、…所レ被レ獻レ之」（三）轉ジテ、辨當。太平記、廿六、四條縄手合戰事「胡籙ニ差シタル竹葉取出シテ、心閑ニ兵粮ツカヒ」

ちくおん-き（名）**蓄音器** 一度發セラレタル音聲ヲ、他ノ形ニ變ジテ、コレヲ物質内ニ蓄ヘ置キ、必要ニ應ジテ、幾回モ元ト同ジ音聲トナシテ、コレヲ發出シ得ル裝置ノモノ。ソハ一ノ喇叭管ノ底ニ薄キ膜ヲ張リ、コレニ垂直ニ動キ得ルヤウニ針ヲ固着シ、其尖端ヲ、蠟、或ハ、錫ノ如キ軟キ固體ノ面ニ觸レシム。今此喇叭管ノ前ニテ音ヲ發スレバ、膜ハコレニ共鳴シテ、其音ト同一ノ振動ヲナシ、從ッテ、コレニ附着スル針モ、亦同樣ノ振動ヲナスヲ以テ、其尖端ニ觸ルル固體ヲ、一樣ニ滑動セシムルトキハ、音ノ振動ニ應ジテ、波狀ノ溝ヲ、其固體ノ面ニ穿ツ。此固體ヲ蓄ヘ置キ、必要ナル際、コレヲ取出シ、其溝ヲ、此針ノ尖端ニ強ク當テ、前ト同ジ速サニテ、同ジ方向ニコレヲ滑動セシムルトキハ、其波形ヲナスニヨリ、針ハ前ト同ジ運動ヲナシ、從ッテ、膜モ亦共ニ振動シテ、前ト同ジ音聲ヲ發スルナリ。此器ハ西曆千八百七十六年、あめりか人えぢそんノ案出スル所ニシテ、爾後、改良ニ改良ヲ加ヘ、今日、流布スル所ノモノトナレリト。（日本百科大辭典）

ちく-かう（チッコウ）（名）**築港** 港ヲ築造スルコト、又、築造セラレタル港。

ちく-かん（チッカン）（名）**竹簡**〔簡ハ、古ヘ、支那ニテ、紙ナカリシ時代ニ、文字ヲ書キ記シタル竹ノ札〕タケノフダ。又、書籍。爾雅、釋器疏「簡、竹簡也、古未レ有レ紙、載二文字一、謂二之簡札一」書經、孔安國序「更以二竹簡一寫レ之」

ちく-かん（チッカン）（名）**竹竿** 竹ノサヲ。詩經、衞風、竹竿篇「籊籊竹竿、以釣二于淇一」太平記、一、資朝俊基關東下向事「宮人ノ風俗、竹竿ニ嫋ヒノ絲ヲ懸ケ、庭前ニ嘉菓ヲ列ラネテ、乞巧奠ヲ修スル夜」

ぢく-ぎ（ジクギ）（名）**軸木**（一）掛物ノ軸ニツクル木。茶道筌蹄（弘化、默默齋主人）二、表具名所「軸木、軸ニ付ク木ナリ、杉ヲ用フ」（二）まっちノちくぎヲ云フ。多ク、どろやなぎナドノ材ヲ用ヰル。

ぢく-けつ（ジッケツ）（名）**衄血**〔說文「衄、鼻出血也」〕ハナヂ。鼻ヨリ出ヅル血。

ちくご-がらす（名）**筑後鴉** かささぎ（鵲）ニ同ジ。（筑後國ニ多キ故ニ云フ）

ちくさ（名）**千草**（一）種種ノ草。古今集、二、春、下「サク花ハ、ちくさナガラニ、アダナレド、誰カハ春ヲ、ウラミハテタル」千載集、四、秋、上「心ヲバ、ちくさノ色ニ、ソムレドモ、袖ニウツルハ、萩ノ花ズリ」（二）ちくさいろ（千草色）ノ略。

〔**ちくさ**（名）**千種** クサグサ。サマザマ。萬葉集、十九（五十）長歌「八ちくさニ、草木花咲キ」古今集、十二、戀、二「秋ノ野ニ、亂レテ咲ケル、花ノ色ノ、ちくさニ物ヲ、思フ頃哉」竹取物語「ワガ袂、今日乾ケレバ、ワビシサノ、千くさノ數モ、忘ラレヌベシ」後拾遺集、四、秋、上「ワガヤドニ、千くさノ花ヲ、ウヱツレバ、鹿ノ音ノミヤ、野ベニノコラン」同、六、冬「霜ガレハ、ヒトツ色ニゾ、ナリニケル、ちくさニ見エシ、野ベニハアラズヤ」

ち-ぐさ（名）**乳草**〔莖ヲ切レバ、乳ノ如キ汁出ヅト〕ががいも（蘿藦）ノ異名。其條ヲ見ヨ。

ち-ぐさ（名）**草薗茹** ねあざみ（薗茹）ニ同ジ。

ちく-さい（名）**竹齋**〔古ヘ、竹齋ト云フ藪醫アリシニ因ルト〕ヤブイシャ。ヤブクスシ。庸醫「竹齋物語（寛永、烏丸光廣）」芭蕉の句「木枯ノ、身ハ竹齋ニ、似タルカナ」

ちく-ざい（名）**蓄財**〔金錢ヲ、タクハフルコト。カネヲタメルコト。

ちくさ-いろ（名）**千草色**〔鴨跖草色（ツキクサイロ）ノ訛カトモ云フ〕アヲイロ。ハナイロ。ハナダイロ。モエギイロ。チクサ。

ちく-ざう（チクゾウ）（名）**築造** キヅキツクルコト。

ち-くさ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）**乳臭**（一）乳汁ノ臭アリ。（二）イトケナシ。ヲサナシ。（三）思慮、未熟ナリ。年少ニシテ、經驗ナシ。アヲシ。（少年ヲ罵ル語）

ち-くさ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）**血臭** 血ノ臭アリ。ナマグサシ。腥

ちく-さん（名）**畜産**（一）家ニ飼養スル動物。家畜。雜令「凡畜産、觝レ人者、截二兩角一、蹹レ人者、絆レ之、嚙レ人者、截二兩耳一」（二）家畜ヲ飼育、繁殖セシムルコト。

ちく-し（名）**竹紙**（一）鳥子紙ノ薄キ製ノモノ。（二）又、雁皮紙ノ異名。（其條ヲ見ヨ）薄キコト竹ノ中ノあまかはノ如シト云フ意。（三）たうし（唐紙）ニ同ジ。（其條ヲ見ヨ）紙箋譜「竹紙」

ちく-し (名) [竹枝] (一)タケノエダ。(二)唐ノ劉禹錫、元和中、朗州ニアリテ、其地ノ俚歌ノ鄙俚ナルヲ以テ、騷人ノ九歌ニヨリテコレヲ作レリト[illegible]。樓詩話ニ、竹枝詞ハ唐人ニ起ル、竹枝ヲ打ッテ、神ヲ賽スルヨリ創レリ、故ニ詞中ニ竹枝ノコトヲ言ハズ、ヒロク楚國ノ風土ヲ賦スト云ヘリ」風土ヲ詠ズル漢詩ノ稱。卓氏藻林(明、卓明卿)「劉禹錫、在二沅湘一、以二俚歌鄙陋一、乃依二騷人九歌一作二竹枝一八篇、里中小兒[illegible]之、本巴[illegible]也」

ちく-じ (副) [逐次] 次第ニ隨ヒテ。順順ニ。ツギツギニ。ジュンニ。

ちく-しゃう (名) [畜生] [畜ハ正音きく、許六切、又、勅六切、養ノ義。梵語、底栗車(Tiryagyoni.)ノ譯語。畜養スル生類ノ意、倭名抄、十八毛群類「畜、俗云、畜生」] (一)禽獸、蟲魚等、人ニ畜ハルルモノノ總稱。梵網經、下「佛子常起二大悲心一、若見二牛馬猪羊一切畜生一、應二心念口言一、汝是畜生發二菩提心一」 (二)佛經ノ語、六道ノ一。亡者此道ニ行ケバ、生前ノ業ニ因リテ、畜生ニ生レカハリ、呵責ヲ受クト云フ。畜趣。謠曲、求古、濱鳥ノ苦シミモ無邊ナリ、畜生修羅ノ悲シミモ、我レ等ニイカデ増サルベキ」 (三)[illegible]シテ、獸。三十二番、職人歌合、十八番、猿曳「ちく生モ、ツカヒハルレバ、ナカナカニ、我ニハマシノ、能ノ多サヨ」 (四)人ヲ獸ト罵リ呼ブニ用ヰル語。涅槃經「[illegible]大夫六行同二畜生一」 (五)憎ミ嫉ミテ云フ語。狂言記、河原太郎「ココナ男畜生め、云云、我ガ物ヲ賣レヌヤウニスレハ、畜生モ同ジ事デハナイカ」 (六)親子、ハラカラ、[illegible]ハルル時ニ云フ語。[illegible]

ちく-ぢゃう (名) [築城] (一)城ヲ築クコト。又、其城。[illegible] (二)地形ヲ利用シテ、堅固ナル陣地ヲ構フルコト。又、其陣地。コレニハ永久築城、半永久築城、臨時築城ノ三アリ。

ちく-しゃう-だう (名) [畜生道] 佛説ニ、冥土ノ六道ノ一。亡者、此ニ行ケバ、其生前ノ業ニ因リテ、生ヲ畜生ニ變ヘ、呵責ヲ受クト云フ、畜趣。盛衰記、四十八、女院六道廻物語事「兒ノ宗盛ニ名ヲ立ツト云フ聞キニクキ事ヲ云フヲモ、又、九郎判官ニ囚レテ、心ナラヌ名ヲ立テ候ヘバ、畜生道ニ云ヒナサレタリ」謠曲、大原御幸「駒ノ蹄ノ音聞ケバ、畜生道ノ有樣ヲ、見聞クモ同ジ人道ノ、苦シミトナリ果ツル」

ちく-しゃう-ばら (名) [畜生腹] 次條ニ同ジ。

ちく-しゃう-ばらみ (名) [畜生孕] 俗ニ、多産、又ハ、一産ニ數子ノモノヲ、獸ノ如シト嫌ヒテ云フ語。畜生腹。

ちく-しゅ (名) [畜趣] [趣ハ、衆生ノ趣ク國土ノ義] (一)ちくしゃうだう(畜生道)ニ同ジ。(二)畜生。盛衰記、三十六、[illegible]原忠日事「[illegible]ハ畜趣ナリケレドモ」

ちく-すい-じつ (名) [竹醉日] 支那ニテ、陰暦、五月十三日ノ異稱。此日ニ竹ヲ植ウレバ、繁茂スト云フ。竹迷日、龍生日トモ云フ。又、一説ニ、八月八日。[illegible]

ちく-せき (名) [蓄積] [一音、チクシ] タクハヘ、ツムコト。又、其タクハヘ。[illegible]

ちく-せふ (名) [illegible]

ちく-ぜん-びは (名) [筑前琵琶] [明治ノ初年、筑前國福岡ヲ中心トシテ起リシ故ニ云フ] 四絃ノ彈奏樂器、及、其歌曲ノ稱。此器、棹、比較的長ク、乘絃ヲ除キテ五柱アリ、乘絃ト第一柱トノ間ヲ、木ト云ヒ、第一柱ト第二柱トノ間ヲ、火ト云ヒ、第二柱ト第三柱トノ間ヲ、土ト云ヒ、第三柱ト第四柱トノ間ヲ、金ト云ヒ、第四柱ト第五柱トノ間ヲ、水ト云フ。火ノ間ハ一寸六分、木、土、金、水ノ間ハ各一寸七分トス。柱ノ高サハ、薩摩琵琶ヨリモ低ク、絃ノ觸ルル所ニ竹ヲ貼リ、絃ノ切込ヲ防グ。全長二尺八寸、胴ノ最モ廣キ所、八寸六分トス。但シ、女子用ノモノハ、胴幅ヲ狹クス。材ハ桑ヲ最上トシ、欅コレニ次グト。胴面ニハ桐ヲ張ルナリ。

ちく-そ (名) [血屎] りびゃう(痢病)ノ條ヲ見ヨ。

ちく-たう (名) [竹刀] (一)竹製ノ刀。[illegible]「[illegible]竹刀骨刀一四破レ之」 (二)シナヒ。(劍術ノ)

ぢく-ぢ (名) [忸怩] 自ラ心ニ恥ヅルコト。[illegible]、孟子之[illegible]「[illegible]」註「[illegible]」

ぢぐち (名) [地口] 世ニアリフレタル諺ニ、聲音ノ似寄リタル、別語ヲ當テテ、一語ニ二樣ノ意味ヲ含マシムル詞。[illegible]

ぢぐちアンドン (名) [地口行燈] [illegible]

ちく-ちく (副) (一)[illegible]物ヲ刺スコト。(二)[illegible] 縫物ヲスルコト。(小兒語)

ちく-ちく (副) 少シヅツ[illegible]

ちく-でう (副) [逐條] [illegible] 條條ヲ順順ニ。[illegible]

ちく-てん (名) [逐電] [illegible]

ちく-てん (名) [illegible]

ノ感應ヲ利用シテ、電氣容量ヲ大ニスル裝置。らいでん罎、ぱらふぃん蓄電器ナドノ種類アリ。

ちくでんち （名）［蓄電池］ 電池ノ分極作用ヲ利用シタルモノ。卽チ格子狀ノ鉛板ノ凹所ニ、一酸化鉛ヲ詰込ミタル數枚ヲ、稀硫酸ノ中ニ對立セシメ、一枚オキニ連ネテ二組トシ、ソノ各ヲ電極トシテ、電流ヲ送レバ、一方ノ極板ハ、水ノ電解ニ基ク酸素ノタメニ酸化セラレテ、二酸化鉛トナリ、他ノ方ノ極板ハ、水素ノタメニ還元セラレテ、鉛板トナル。カクシテ二酸化鉛ヲ陽極トシ、鉛板ヲ陰極トスル電池ヲ得ラルルナリ。

ちくど （名）［竹奴］ ちくふぢん（竹夫人）ニ同ジ。王安石 竹奴夏日涼、眠慶冬夜寒」

チクドン （名）［筑登子］ 昔、琉球ノ宮名。里之子（サトノシ）ノ次ニテ、最下ノ宮ナリ。

ちくの （名）［知久箟］ 古ヘ、信濃國伊那郡知久ヨリ製出シタル箟。上品トス。七十一番職人歌合、五十四番、矢細工「コレハちくのトテ、アツラヘラレテ候」

ちくば （名）［竹馬］ タケウマ。其條ヲ見ヨ。後漢書、郭伋傳「有童兒數百、各騎竹馬、道次迎拜」同、陶謙傳「年十四、猶綴帛爲幡、乘竹馬而戲」白氏文集、卷十「一見竹馬戲、每思童騃時」書叙指南「七歲之戲曰竹馬之戲、五歲之戲曰鳩車之戲」平治物語、一、[illegible]「竹馬ニ鞭打ツテ、道心ヲ催スト云ヘリ」竹馬の友トハ、ヲサナトモダチノコト。ワラハトモダチ。

ちくはい （名）［竹牌］ 矢ヲ防グ竹束。 [illegible]

ちくはく （名）［竹帛］ 〔支那ノ古代ニハ、書ヲ竹簡、又ハ、帛ニ記シタレバ云フ。後漢書、和熹鄧皇后紀「故雖聖明、必書功於竹帛」注「竹謂簡冊、帛謂縑素也」〕 書物ノ異名。歷史。（名ヲ永ク歷史ニ傳ヘムトノ意ナリ） 淮南子、本經訓「著於竹帛、鏤於金石、可傳於人者、其粗也」後漢書、鄧禹傳「禹曰、但願明公威德、加於四海、禹得效其尺寸、垂功名於竹帛耳」

ちぐはぐ （名）〔値遇反遇ノ義、七顚八倒（チクハグ、チクバタ）ト同趣〕 物ノ、カナタコナタニ入リ交リテ、揃ハヌコト。又、對（ツキ）ナルベキ器ノ不揃ナルコト。かたちぐトモ云フ。（箸、葢物ナド） 靜岡ニテハ、ちぐたぐト云ヒ、博多ニテハ、ちんだはんだト云フ。

ちくはつ （名）［蓄髮］ 髮ノ毛ヲ生（ハヤ）スコト。髮ヲ延スコト。（剃髮ノ人ノ）

ちくひ （名）［竹皮］ （一）タケノカハ。籜。史記、高祖紀「高祖爲亭長、以竹皮爲冠」 （二）さひつ（左筆）ノ條ヲ見ヨ。

ちくび （名）［乳首］ 乳房ノ中央ニ、小サク突キ出デタルモノ。女ナルハ、極メテ細カキ孔、數多アリテ、乳汁ヲ出ス。乳頭。

ちくふぢん （名）［竹夫人］ 〔湯婆（ユタンポ）ニ對ス〕 暑中ニ衾中ニ入レテ涼ヲトル具。ダキカゴ。 陔餘叢考「編竹爲筒、空其中、而竅其外、暑時置牀席間、可以憩手足、取其輕涼也、俗謂之竹夫人」蘇軾詩「聞道床頭惟竹几、夫人應不解卿卿」自注「世以竹几爲竹夫人也」

ちくへい （名）［竹篦（シッペイ）］ （一）佛家ニテ用ヰル罰具。竹篦ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。揮麈前錄「打竹篦二十」 （二）支那ニテ、宮中ニ用ヰシ罰具。西湖志餘「上怒曰、拔藍之徒、乃敢對[illegible]、命內侍決竹篦二十、遂逐之」

ちくべい （名）［竹米］ タケノミ。ジネンゴ（自然粳）ノ條ヲ見ヨ。皮日休、夏初訪魯望詩「野客病時分竹米、鄰翁齋日乞藤花」

ちくへう （名）［竹豹｜筑豹］ 豹ノ毛皮ノ、圓キ文ノ大ナルモノ。 宇治拾遺、五、第五條「ちくへうゾ、ちくへうゾ、ト言ヒテ、豹ノ眞似ヲ盡クサントイヒケレバ」節抄「尻鞘事、舞人之時、竹豹皮不憚之由」百練抄、寬治二年十月十七日「宋人張仲所獻竹豹廻却、官符請印」

ぢぐも （名）［地蜘蛛］ つちぐも（土蜘蛛）ニ同ジ。

チクラ （名）［舳艫｜筑羅］ 〔筑ハ筑紫、羅ハ新羅ナリ〕 新羅ニモツカズ、日本ニモツカズ、其間ニアルコト。日本ノ外ニシテ、唐土ニモアラズ、判然、別チガタキ境。 南留別志（文政、荻生茂卿）「日本紀ノ文モちくらナリ、佛經ノ文モちくらナリ、儒書ニ點付ケテ讀ムモちくらナリ、世ノ學者、ちくらガ沖ニタダヨヒテ、唐ニモやまとニモ、船ノ着カヌハ、是ナヤ、生死ノ苦海ニ流浪ストハ云フベキ」嬉遊笑覽、三「唐人ノ詞ヲモテ、ココノ事ヲ書カムニハ、手ヅツニシテ、何ノ文トモ云ヒガタキヤウナルヲ、ちくらト云フ」淨瑠璃物語、笛のだん「唐土ノ猿ハ、日本へ越サムトス、日本ノ猿ハ、唐土へ越サムトス、唐ト日本トノ潮境ナルヲ、ちくらノ沖ニテ行キ逢ヒテ、越サウ越サジノ境ヲバ」博多小女郎波枕（享保、近松作）上「頭ハ日本、胴ハ唐トノ潮界ヒ、ちくら手クラノ一夜檢校」甲子夜話（文政、松浦靜山）「隱州視聽合紀ニ云、隱州在海中、故隱岐ト云、云云、然則日本之乾以此州爲限矣、[illegible]東涯ニ曰ク、距隱岐一卅餘里、有磯竹島、朝鮮海東諸國記圖所載竹島、隋書所謂[illegible]、卽似斥此島云云、コレ世俗ニ、兩端アリテ、一ニ歸シガタキ者ヲ、舳羅ノ沖ト云フ、蓋此ニ由ルカ」金平淨瑠璃「唐ト日本ノ潮合ヲ、ちくらガ沖トセリ」

チクラがおき （名）［舳艫沖］ 前條ヲ見ヨ。（虎ニモアラズ、猫ニモ似ザルヲ、ちくらものトモ云フモ、同趣）

ちくらのおきど （名）［千座置戶］ 〔置戶（オキト）ハ置處ノ義〕 古ヘ、祓物（ハラヘモノ）ヲ載セタル數多ノ臺。又、チクラオキド。 古事記、上「於速須佐之男命、負千位置戶（チクラノオキド）」神代紀、上「諸神歸罪過於素戔嗚尊、而科之以千座置戶（チクラノオキト）」

チクラもの （名）［舳艫者］ 性質、素性ノワカラヌモノ。 國性爺合戰（正德、近松作）四「唐ト日本ノ潮サカヒ、ちくら者カト疑ヘリ」

ちくり （副） イササカ。スコシ。 犬子集「月ハちくりト、萩ニウツロフ」狂言記、居杭「コナタノ顏ヲちくり、私ノ算ヲオク所ヲジロリジロリト見テ居ルト御座ル」「ちくりト刺ス」

ちくりん （名）［竹林］ タケノハヤシ。タケバヤシ。タケヤブ。タカヤブ。 史記、司馬相如傳「覽衆樹之蓊薆兮、覽竹林之榛榛」

ちくりんてう （名）［竹林鳥］ ルリテウ。

ちくりんのしちけん （名）［竹林七賢］ 支那、晉ノ世ニ、竹林ノ中ニ入リテ遊ビ、酒ヲ飲ミテ樂シミシ七人ノ賢人。下ノ出典ヲ見ヨ。 晉書、嵇康傳「嵇、云云、所與神交者、惟陳留阮籍、河內山濤、豫其流者、河內向秀、沛國劉伶、籍兄子咸、瑯琊王戎、遂爲竹林之游、世所謂竹林七賢也」

ぢぐるま （名）［地車］ 大石ナド、スベテ、至ッテ重キ物ヲ運送スルニ用ヰル車ノ名。四輪ニシテ、車臺ハ低シ。 本朝若風俗（貞享、西鶴）一「都ハ地車ノ響キ、天秤ノ音サヘ物ノカシマシキニ」

ちくるい （名）［畜類］ （一）家ニ畜（カ）フけもの。家畜。（二）獸類。ケダモノ。

ちくろ （名）［蟋蟀］ おほろぎ（蟋蟀）ノ異名。又、ちくろと。 藻鹽草、十二「蛬、ちくろ（是モ異名也、藏玉）」藏玉集「堀川院、ちくろ、滿十」

ぢくろ （名）［舳艫］ 船ノヘサキト、トモ

ト。蘇軾、赤壁賦「舳艫千里、旌旗蔽ㇾ空」

ちくろく (名) 逐鹿 〔史記、淮陰侯傳「秦失ニ其鹿ㇾ、天下共逐ㇾ之」トアルヨリ出デタル語。鹿ヲ以テ帝位ニ譬フ〕(一)政權、又ハ、地位ヲ獲ムトシテ爭ヒ合フコト。今ハ、專ラ、代議士ノ選擧ナドニ云フ。魏徵、述懷詩「中原還逐ㇾ鹿、投ㇾ筆事ニ戎軒ㇾ、縱橫計不ㇾ就、慷慨志猶存」(二)競爭場裏ノコト。

ちくろと (名) 蟋蟀 ちくろ(蟋蟀)ニ同ジ。夫木抄、十四、旅宿蟲「サラヌダニ、草ノ枕ハ、露ケキニ、爭ヒテナク、ヨハノちくろと」

ちくわ (名) 竹輪 竹輪蒲鉾ノ略。かまぼこ(蒲鉾)ノ條ヲ見ヨ。雍州府志、六、土産門「以ㇾ竹貫ㇾ之曰ニ竹輪ㇾ、其名蓋ニ相當ㇾ實蒲鉾是也」

ぢくゎ (名) 地火 陰暦ノ上ニ云フ語。地ニ火氣アル時ナリトテ、此日ニハ、樹ヲ植エ、礎ヲスヱ、柱建ナドスルヲ忌ム。

ちぐゎいはふけん (名) 治外法權 〔英語、Exterritoriality.ノ譯語〕一國ヲ代表スル人、又ハ物ガ、他國ノ領土內ニ滯留シナガラ、其國ノ法律ニ服從セザル特權。君主、使節、軍艦、軍隊ナドハ、コノ特權ヲ有ス。又、兩國ノ條約ニ因リテ、其國ノ法廷ガ、渡來セル外國人ニ對シテ、裁判スルコト能ハザルコト。

ちくゎん (名) 遲緩 ノロキコト。晉書、謝安傳「植温語ㇾ安、値ニ其理髮ㇾ、安性遲緩、久而方罷」

ちくゎろ (名) 地火爐 ぢひろ(地火爐)ニ同ジ。榮花物語、十八、玉臺「ちくゎろノモトニ居寄ミテ、オモノノ事、イソグメリ」

ちくゐ (名) 竹葦 竹ト、アシト。モノノ多ク群集スル狀ヲ云フ。法華經、方便品「如ニ稻麻竹葦ㇾ、[illegible]」 [illegible]

ちくゑん (名) 竹園 (一)竹ノ生ヒタル所。タカヤブ。タケノソノ。(二)タケノソノ。(竹園ノ條ヲ見ヨ) 親王、皇子ノ異稱。[illegible]

ぢげ (名) 地下 (一)堂上、殿上ニ對シテ、五位以下ノ未ダ清涼殿ノ殿上ニ、昇殿ヲ聽サレザル官人ノ稱。地下人。源、七、紅葉賀「垣代ナド、殿上人、地下モ心コトナリト世ノ人ニ思ハレタル、イウソクノ限リ整ヘサセ給ヘリ」枕草子、一、第五段「殿上人、地下ナルモ、陣ニ立チソヒ見ルモネタシ」(二)轉ジテ、禁裏ニ仕フル公家衆ヨリシテ、其以外ノ人ヲ云フ稱。(三)平民。(四)治下ノ誤。

ぢげ (名) 治下 (一)支配下。配下。次條ヲ見ヨ。庭訓往來、二月「地下目錄」(二)支配下ノ村村。

ちけい (名) 地形 土地、山川ノ高低遠近ナドノ狀、クニガタ、地勢。[illegible]

ちけい (名) 地頸 ちけふ(地峽)ニ同ジ。

ちけい (名) 笞刑 むちニテ打ツ刑。ちざい(笞罪)ノ條ヲ見ヨ。

ちけい (名) 智慧 ちゑ(智慧)ニ同ジ。老子、第十八章「大道廢有ニ仁義ㇾ、智慧出有ニ大僞ㇾ」

ちけい (名) 智計 カシコキハカリゴト。智謀。智數。智術。晉書、陶侃傳「[illegible]」

ちけい (名) 致景 景色。又、好キ景色。[illegible]「サテ雖設ノ[illegible]」

ちげさ (名) [illegible]「[illegible]」ラ。又、クズヌノ。[illegible]

ぢげざむらひ (名) 地下侍 侍ノ身分卑キモノ。[illegible]

ちけぢ (名) 知家事 (一)古ヘ、伊勢大神宮ノ職。[illegible]「知家事分ニ一段カ三分一」公文[illegible]「大神宮司、[illegible]」(二)古ヘ、親王、攝關家ノ政所ノ職。[illegible] (三)鎌倉時代、政所ノ職。[illegible]

チケット (名) 〔英語、Ticket〕切符。乘船乘車券。又、入場券。

ぢげにん (名) 地下人 (一)ぢげ(地下)ノ(一)ニ同ジ。(二)官ニ奉仕セヌ、賤シキモノ。太平記、廿七、雲景未來記事「見物ノ[illegible]」(三)土著ノ人民。土着ノ百姓。[illegible]「ソノ比、攝津國[illegible]トイフ所ニ、地下人、代官ヲ背キテ、合戰ニ及ブ事アリ」

ちけふ (名) 地峽 [illegible]カフ。けふハ慣用音〕湖、海ノ上ニ、兩ノ陸地ノ間ヲ[illegible]地頸。「[illegible]地峽」「[illegible]地峽」「パナマ地峽」

ちけぶり (名) 血烟 血ノホドバシルヲ、[illegible]

ちけん (名) 地券 官ヨリ授クル土地所有ノ證書。(現今ナシ、沽券) [illegible]

ちけん (名) 智劍 佛教ノ語。清淨ノ智ヲ以テ、煩惱ノ絆ヲ斷ツコト、智ヲ以テ物ヲ斷ツヲ、劍ニ譬ヘタル語。[illegible]

ちけん (名) 知見 (一)知ルコト、見ルコト。[illegible]

ちけん (名) 知言 (一)善ク物事ニ通ジタル言詞。(二)道理ヲ知得シタル言語。[illegible]

ちご (名) 兒 〔乳子ノ義〕(一)乳ヲ飮ムホドノ子。[illegible] 孩兒。嬰兒。[illegible](二)ワラハ。子供。稚子。稚兒。童子。童兒。[illegible]「[illegible]ハベ、兒ドモ、イトメヅラカニ」[illegible]

ちご (名) 持碁 〔もちご(持碁)ノ義〕碁、打果テテ、持トナリテ、勝負ナキコト。和局　帯 四六碁品、六、題目「闘碁無勝ナキヲ持碁トイフハ、正字ニアラズ、歌合セニ勝負左右ニコレナキヲ持ちト云フニ、ナラヘルナルベシ」

ちご (名) ちごく(地獄)ノ略。其條ノ(三)ヲ見ヨ。

ちごいしや (名) 兒醫者 小兒科ノ醫者。チゴクスシ。 傾城酒呑童子(享保、近松作)三「御幸町ノちご醫者」

ちごおひ (名) 兒生 ヲサナキ時ノオヒタチ。ヲサナオヒ。ヲサナダチ。 榮花物語、二、花山「上ノ女房ナド、兒奉リテ、上ノ御ちごおひ、タダ斯ウゾオハシマシシナド、老イタル人ハ聞エサセアヘリ」同、六、耀く藤壺「今宮見奉ラセ給フニ、ウヘノ御兒おひニゾ、イトヨウ似奉ラセタマヘル」増鏡、第一、おどろの下「故院ノ兒おひニモ、マミナドオボエ給ヘリ」狭衣、三、中四十三「大將ノ御ちごおひニ、タガフ所ナク似サセ給ヘルゾ」

ちごかひ (名) 兒買 乳ヲ持チタル女、里子トリタキ望ミアルモノニ、肝煎スル人。(下ノ出典ヲ見ヨ) 嬉遊笑覽、附錄「閩州瑣語云、閩、京都六七十年前、有下呼二拾赤子一者上、貧民子棄、即付二小資一予レ之、乃出レ門、又呼レ賣二赤子一、欲レ子者復以レ財易レ之、後官禁レ之、蓋以レ有二不レ售而殺レ之者一云云、ココニ六七十年已前トイヘルハ、元祿中ニアタル、子ヲ拾フニハアラズ、コレハ乳子買ト呼ルモノニテ、職人繪本ニ、圖モ出テ注シテ云フ、子ヲ生シテ思案アルヲバ、里ニツカハスハ、昔ヨリノ習ヒナルベシ、然レ共、イヅクニ里子ヲアヅカルト、サダメガタキハ此事ナリ、然ルヲ乳ヲ持タル女、里子トリタイノゾミナレバ、其者ノ肝煎ニタノム、ソノ肝煎ヲ乳子買ト云フナリ、折節、入口ノ當ナケレバ、則彼乳アル女ヲ引連テ、何所ヲサストモナク、町町ニテ、おおかはふトワメキメクル也」

ちこく (名) 治國 國ヲ治ムルコト。又、治マレル國。 淮南子、說山訓「治レ國者、若下鋤レ田、去レ害レ苗者上而已」同、同「亡國之法、有レ可レ隨者、治國之俗、有レ可レ非者」盛衰記、同卷「五戈ノ計、四義ノ品、皆是レ治國ノ術、保位ノ基ナリ」 治國平天下トハ、國ヲ治メ、天下ヲ平カニスルコト。即チ儒敎ノ理想トスル所ナリ。(大學)

ちこく (名) 遲刻 刻限ヨリ遲クナルコト。定メノ時刻ヨリオクルルコト。

ちごく (名) 地獄 〔梵語、Naraka. 奈落ノ譯語、地下ノ獄ノ義〕(一)佛敎ノ語。冥土ナル六道ノ一。亡者ノ呵責ヲ受クル處。等活、黑繩、合會、叫喚、大叫喚、焦熱、大焦熱、阿鼻ノ八大地獄アリト云フ。又、冥府。 翻譯名義集、二「地下之獄、名爲二地獄一、故婆沙云、贍部州下過二五百踰繕那一、乃有二其獄一、然此地獄有レ大有レ小、如二大論云一、言二八大獄一者、一等活、二黑繩、三合會、四叫喚、五大叫喚、六熱、七大熱、八阿鼻地獄、如レ是等種種、八大地獄、復有二十六小地獄一爲二眷屬一」宇津保物語、吹上、上卅「シカアリケルムクイニ、カカル身トナリヌ、コム世ニハ地ごくノソコニ沈ミテ、ウカム世アラジト云フニ、云云、地ごくノ苦シビヲモ、スクヒ申サン」(二)硫黄ノ出ヅル山ナドノ、常ニ燒ケテ烟ノ出ヅル處ノ稱。 今昔物語、十四、第七語「越中國新川郡ニ立山ト云フ所アリ、昔ヨリ彼山、地獄アリト言傳ヘタリ、云云、其谷ニ百千ノ出湯アリ、深キ穴ノ中ヨリ涌キ出ヅ」(三)隱賣女ノ異名。闇キ處ニ入ルヨリノ名ト云フ。(東京) くらもの。私窩子 我衣(天和)二「中洲ニ三股ヲ築立テ、三股富永町ト云フ、云云、賣女數多有レ之、是ヲ地獄ト名ヅク」好色一代女(貞享、西鶴)二「借屋ニ住メル女、云云、世間ニ忍ブ暗物女トイヘリ、云云、佛ノ中宿ニ呼バレテ、カリソメノ契ヲ結ブ」

ちごくおとし (名) 地獄落 鼠ヲ捕フル具。鋸齒ノ食ヒ合フガ如ク造リタルモノ。 浮世風呂(文化、三馬)四編、下「鼠押シノ茄子ヲ、地獄落しへ掛ケタト云フ、ヒシャゲタ野郎」犬子集「ちごくハヨソカ、目ノ前ニアリ」カケオクニ、其ノ儘オツル、鼠トリ」

ちごくてん (名) 持國天 次條ノ語ノ略。

ちごくてんわう (名) 持國天王 佛經ニ、四天王ノ一。東方ヲ守護スト云フ。四天王ノ條ノ(一)ヲモ見ヨ。 運歩色葉集「四天、注「東方持國天下、南增長、西廣目、北多聞」」

ちごくみみ (名) 地獄耳 一度、聞キタルコトハ、ノガサヌコト。強記。 犬子集「地獄耳ニ、ヲチカヘリ鳴ケ、郭公」

ちごくゑのびやうぶ (名) 地獄畫屛風 地獄ノ有樣ヲ畫キタル屛風。 枕草子、四、四十三段「御佛名ノアシタ、地獄畫の御屛風トリワタシテ、宮ニ御ランゼサセ奉リ給フ」榮花物語、三、樣樣悅「御佛名トテ、地獄畫の御屛風ナド、トウデテシツラフモ、目トドマリ、アハレナルニ」(地獄變の屛風ト云フモノアリ、近江國滋賀郡坂本村來迎寺ニ存スル惠心僧都作ト言ヒ傳フルモノハ、古來、世ニ名高シト云ヘリ)

ちごけ (名) 地苔 こけ(苔)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ちござくら (名) 兒櫻 稚兒櫻 山櫻ノ一種。其瓣、內へ反ル、一重ニシテ、花小サク、白クシテ疎ナリ。 心中萬年草(寶永、近松作)上「松ヨリ梅ヨリ櫻ヨリ、オ寺小姓ノ稚兒櫻」

ちござさ (名) 兒笹 根笹ノ一種。高サ七八寸、葉細カク長クシテ、白色ノ縱線アリ。シマザサ。

ちごすがた (名) 兒姿 小兒ノトキノ容子。ナホ、ちご(兒)ノ條ノ(二)ヲモ參見セヨ。 元服法式「兒すがたト云フハ、髮ヲ喝食ノヤウニ短クセズ、生レノママニ長クシテ、平元結ニテ結ビテ、コレモ下ゲ髮ニスルナリ」

ちこつ (名) 恥骨 無名骨ノ一部。骨盤前部ニ於テ、二骨、相癒着シテ成ル骨。陰毛ノ生ズル下ニ當ル。

ちこつぴ (名) 地骨皮 枸杞ノ根ノ皮ヲ藥トスル時ノ稱。

ちごばな (名) 兒花 おきなぐさ(白頭翁)ノ異名。(畿內) 其條ノ(一)ヲ見ヨ。

ちごばみ (名) 兒食 乳呑兒ガ乳首ナドヲ咬ミテ傷ツクルコト。 宇津保物語、國讓、下六十「ちごばみニ、ハミタマフ、オソロシトテ、イタミタマハズ」

ちぶ (名) 血瘤 動脈瘤ノ一名。

ちごまげ (名) 兒髷 からこわげ(唐子髷)ニ同ジ。からわ(唐輪)ノ條ヲ見ヨ。

ちごわ (名) 兒輪 童男女ノ髮ノ結ビ方。頭上ニ高ク左右ニ輪ヲ造ルモノ。モト、寺ノちごノ結ビタルモノト云フ。チゴワゲ。からわ(唐輪)ノ條ヲモ見ヨ。

ちごわげ (名) 兒髷 前條ヲ見ヨ。 古今夷曲集、序「ウラ盆ニナレバ、ヲノコ童ハ山寺ノ御兒縮、折カラ攝待ノ茶筅髮ニ結ヒ」

ちごゑ (名) 千聲 アマタノコヱ。多クノ聲。 堀河百首「ワギモコガ、手玉モユラニ、ウツ衣、ちごゑニナリヌ、夜ノナガケレバ」

ちごゑ (名) 地聲 〔作聲ニ對ス〕ウマレツキノコヱ。モチマヘノ聲。

ちさ (名) 萵苣 〔ちハ、莖葉ヲ斷ツ時ハ、乳汁ノ如キモノ出ヅルヨリ云フ〕菜ノ名。苗ノ高サ三四尺、初メ地ニ布キテ四散シ、長ズレバ薹ヲ起ス、葉ハ芥ニ似テ、厚ク軟ニシテ、皺アリ、互生ス。生

食、又ハ煮食スベシ。又、鹽ニ漬ケテモ食フ。春ノ末、梢ニ多ク淡黄花ヲ開ク、小菊花ノ如シ。訛シテ、ちさ。 倭名抄、十七十八菜類「苣、知散」 本草和名、下卅「白苣、知佐」 字鏡五十二「苣、知佐」 同六十五「萵、知左」

ちさ (名) 樹ノ名。ちさのきノ條ヲ見ヨ。

〜ちさ (名) 智者 ちさや(智者)ニ同ジ。 宇津保物語、忠社廿六「カシコキちさナリケレバ」 同、嵯峨院、中六十一「ミドキャウニ、モノノハジメナリトテ、僧綱タチ、ナアルちさドモナドメシテ」

ちさい (名) 致齋 マイミ。(あらいみノ條ヲ見ヨ) 禮記、祭義篇「致ニ齋于內一、散ニ齋于外一、齋之日、思ニ其居處一、思ニ其笑語一、思ニ其志意一、思ニ其所一レ樂、思ニ其所一レ嗜」(齋、齋ニ通ズ) 神祇令「凡天皇卽位、總祭ニ天神地祇一、散齋一月、致齋三日」

ちざい (名) 笞罪 古ヘノ刑罰ノ名。五刑ノ中ノ、最モ輕キモノ。笞ニテ、背、臀、腿等ヲ打ツ。打ツ數、十ヨリ五十ニ至ルマデ、五等アリ。笞ヨリ重ク、徒ヨリ輕キヲ、杖罪ト云フ。杖ニテ其數六十ヨリ百マデ、五等アリ。(ちもと、つゑノ條ヲモ見合ハスベシ) 獄令「笞杖、大頭三分、小頭四分、杖、削ニ去節目一、長三尺五寸」

ちざいはふ (名) 治罪法 犯罪ヲ處置スル手續ヲ規定シタル法律。明治二十三年、改メテ刑事訴訟法トナス。

ちさう (名) 地相 (家相ノ類) 土地ノ吉凶ヲ相スルコト。さう(相)ノ語原ヲ見ヨ。 塵添壒囊抄、四、四神相應地事「地相ニ、四神具足ト云フハ、四神ノ體ナニモノゾ、北斗ノ星宿羅、貪狼星ヲ圖スルニハ、四方ニ四神ヲ書ケリ」

ぢざう (名) 地藏 〔梵語、乞叉底蘗婆 (Ksitigarbha.)〕。地藏十輪經ニ、安忍不動、猶如ニ大地一、靜慮深密、猶如ニ秘藏一」 釋迦如來ノ付囑ヲ受ケテ、六道ノ能化ニ坐ス菩薩。左手ニ寶珠ヲ持シ、右手ニ錫杖ヲ執ル。ソノ姿、六趣四生ノ苦患ヲ救フモノナリト。地藏尊。地藏菩薩。 地藏本願經「至心瞻ニ禮地藏像一、一分瞻[illegible]、[illegible]於夢中ニ求得ニ安、衣食豐足、神鬼護」 右京大夫集、下「ヅカラ地藏六體、繪書キニ書キマヰラセ」 宇治拾遺、一、十六條「地藏ゴトニ地藏見奉ラントテ、一夜カイマドヒアリクニ」

ぢざうがほ (名) 地藏顏 地藏ノ如クにおにおシテ、嬉シゲナル顏。

ぢざうまゆ (名) 地藏眉 根太ク、末細ソクシテ、長ク彎曲シタル眉。

ぢさがし (名) 地搜 早天ニ、前夜路ニ落チタル物ヲ拾ヒ、賣リテ生活スル者。

ちさし (形) 小 ちひさし(小)ノ約。 經信卿母集(寫本)「ちさき家ニ桃ノ花ヲ見テヰル、馬ニ乘レル人」

ちさと (名) 千里 (一)數多ノ里。 萬葉集、十六十一「アワ雪ハ、千里フリシケ、コヒシクノ、ケ長キ吾ハ、見ツツシヌバム」 (二)長キ里程。 [illegible] 六帖、五「ハルバルト、ちさとノホドヲ、ヘダテテハ、マレノツカヒモ、ウレシカリケリ」

ちさとおり (名) 千里織 織物ノ名。古ヘ、大江千里ガ外國人ヲ招キテ、織ラシメタルモノナリト云フ。

ちさのき (名) 樹ノ名。山野ニ多シ、高サ丈餘、枝、四方ニハビコル。春、新葉ヲ生ズ、形、橢圓形ニシテ尖リ、鋸齒アク、互生ス。夏、葉ノ間ニ、五瓣ノ白花ヲ開ク、蕚、長ク垂レ、大イサ六七分、形、柑橘ニ似テ、香アリ。實ハ、あかがしノ如ク、長サ三分許、熟シテ黑ク、上ニ白キ斑アリ、仁ニ油アリ、小鳥ノ食トス。木、膚、白クシテ、青ト黑トノ細カキ斑アリ、器物ニ造リ、又、多ク傘ノ轆轤トス。故ニろくろぎノ名モアリ。ヂシャノキ。エゴノキ。萵苣樹 [illegible] 萬葉集、十八[illegible]長歌「知左ノ花、咲ケル盛リニ、ハシキヨシ、ソノツマノコト、アサヨヒニ」

ちさのき (名) [illegible] 古名、[illegible] 暖國ニ産ズル木。高サ三四尺、枝葉對生シ、葉ハ梔子ノ葉ニ似テ、淺緑色、花ハ深紅色ニシテ、枝梢ニ簇リ開ク。チシャノキ。紅繡毬 山丹 [illegible]八十二「[illegible]遼子木、チサノキ、和名、加波知佐乃木」

ちさん (名) 遲參 期限ヨリ遲ク參ルコト。時刻ニ、オクレテ來ルコト。 平家物語、七、維盛都落事「[illegible]兎角、措ヘ置カント仕ル程ニ、存ノ外ノ遲參候」

ぢさん (名) 持參 物ヲ持チテマヰルコト。タヅサヘ行クコト。

ぢさんきん (名) 持參金 嫁、壻ノ緣ヅク時ニ、自ラ持參シテ行ク金銀。 [illegible]

ぢざむらひ (名) 地侍 土着ノ武士。追方ノ侍。 [illegible]「彈正忠ヲバ、近郷ノ地侍ニ仰セ附ケラレテ」

ちさわらは (名) 小童 ちひさわらは(內豎)ニ同ジ。 建武年中行事「[illegible]、ちさわらはヲ召ス」

ちし (名) 智齒 成人シタル人ノ最奧ニ生ズル齒。臼齒ノ一ニテ、上下ニテ四枚アリ。オヤシラズ。オニバ。智慧齒。

ちし (名) 地誌 [illegible] 理書、風土記、[illegible]「日本地誌、外國地誌」

ちし (名) 致死 死ニイタラシムルコト。[illegible]

ちし (名) 致仕 (一)仕ヲ致スコト。官職ヲ辭スルコト。辭職スルコト。退役。退職。又、チシ。 [illegible]
(二)七十歳ノ稱。(古ヘ、年齡、七十ニ達スルトキハ、官ヲ辭シテ退クコトヲ禮トシタルヨリ出ヅ) [illegible]

ちじ (名) 知事 (事務ヲ知(知ハつかさどる)ル意) (一)事ヲ知ルコト。(二)明治ノ初年、府藩、縣ノ長官。(三)[illegible] (四)支那ニテ、地方(州、又ハ縣)ノ長官。

ぢし (名) 地子 (地ニ生ズル息ノ義) [illegible]ヲ輸スノ租。卽チ地子ナリ」(二)古ヘ、[illegible]

田口廿ノ一束、現有田一段ニ後ヲ、廿、弘仁元年九月「勅、大和國、田租地子、永充二中宮御用一」 弘仁式「上田一段地子十束、中田八束、下田六束、下下田三束」 大學寮式「（上略）除博士十五文、先生十文、後生五文、用二諸國營田五十町地子物一充レ之」 榮花物語、十五、疑「國國ノ守ドモ、地子、官物ハオソナハレドモ」（二）土地ニ課スル雜税。 式目新編追加、「雜物、居地子、二箇度、春夏二、地頭可レ取否事」 地子錢トハ、地子ノ租ニ代ヘテ納ルル錢。地子田トハ、民ニ貸シテ、地子ヲ納メシムル田。

ち-しき（名）|智識|知識| （一）智ト、識ト。 宋史、李庭芝傳「少有二智識一、日鳥數千言、而智識佐出二長老之上一」「智識ヲ世界ニ求ム」 （二）知ト識トヲ具ヘタル僧。多知有識ノ僧。道俗ニ知ラレタル高徳者ニテ、人ヲ佛道ニ導クモノ。善知識。 盛衰記、十八、文覺高雄勸進事「智識奉加ノ勸進ニテ、自他ノ利益ヲ遂クセント思ヒツツ」 靈異記、中、第三十一縁「國司郡郷悉喜、引二率知識一建二七重塔一」「名僧知識」 （三）知音ノ人。知己ノ人。（四）信徒ノ團結。講中。（前項ノ交友ニ因ミテ、勸進ニ奉加セサスル意ニテ、組ヲナシタルモノ） 結社 法隆寺釋迦佛光後銘「信レ道知識現在二安穩一」 靈異記、第三十五縁「率二知識一奉二皇太子大臣百官一、皆悉加二入其知識一也」 古京遺文、高田里結知識碑「上野國、云云、如レ是知識結而天地誓願仕奉石文」 （五）結縁ノタメニ、錢稻ヲ出スコト。 續紀、十七、天平十九年九月「河內國人大初位下河俣連人麻呂、錢一千貫、越中國人无位礪波臣志留志、米三千碩、奉二盧舍那佛智識一」 棄捐ヲ募ル文ヲ、知識文ト云フ。 募縁疏

ち-しき（名）|知識| 心理學ノ語。意識ノ或事物ニ關シテ認識シ、又ハ、理解スル作用。「知識欲」

ぢ-しき（名）|地敷| 敷物ノ名。唐筵（唐製ノ筵）ニ、大紋ノ高麗縁ヲ付ケタルモノト云フ。 源、三十四、上、若菜、上「御ちしき四十枚、御シトネ、ケフソクナド、スベテ其御具ドモ」 榮花物語、廿、御賀「寢殿ノ中ニ、オノオノ御ちしきヨソヒテ、御シトネマヰリツツ」

ぢ-しき（名）|地敷| （モト、地上ニ敷クモノノ義） サシムシロ。蓙、ウスベリナドノ類。 後松日記（天保、松岡行義）十「ヤムゴトナキ人ノオマシニハ、高麗ノ帖ニ褥ヲ敷、サラヌニハ、紫端ニ褥座敷タル時ハ、直衣、宿衣、アルハ狩衣、立烏帽子、隨意役送ハ、布カリギヌニ細立ナルヘシ、御マヘノモノハ、衝重、高坏、アルハ折敷、高坏、地敷等モアルベシ」

ち-しき-ぶつ（名）|知識物| 結縁ノタメニ佛寺ニ寄進スル財物。奉加。勸進。勸化。 續紀、十七、天平勝寶元年五月「伊豫國宇和郡人外大初位下凡直鎌足等、各獻二當國國分寺知識物一」

ち-しご（名）|知死期| 陰陽家ニテ、人ノ死期ヲ知ルト云フ法。其人ノ生年月ノ支干ヲ推シテ云フ。 後漢書、謝夷吾傳「郭鳳亦好二圖讖一、善說二災異吉凶占應一、先自知二死期一、豫令二弟子市二棺斂具一、至二其日一而終」

ぢ-し-せん（名）|地子錢| ぢし（地子）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

ち-しつ（名）|地質| 土地ノ性。土質。 易經、坤卦、王弼注「居レ中得レ正、極二於地質一、任二其自然一而物自生、不レ假二修營一而功自成」

ち-しつ（名）|遲日| （日暮ルルコト、オソキ意）えいじつ（永日）ニ同ジ。 陸贄、登二春臺一賦「媚二遲日之未一レ下、鬱二輕風之未一レ過」

ぢ-しつ（名）|痔疾| ぢ（痔）ト云フニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

ち-しつ-がく（名）|地質學| 理學ノ一部。地質、即チ、地殼ノ成立、地殼ヲ形成セル諸物ノ位置、及、其創造、變化、並ニ其發達ノ歷史等ヲ究メ知ル學。

ぢ-し-でん（名）|地子田| ぢし（地子）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

ぢ-しばり（名）|地縛| （根、土中ニ延蔓スレバ云フ）（一）草ノ名。園庭ニ自生ス。形、にがなニ似テ長ク、根細ソク白クシテ、土中ニ蔓延スレバ、つるにがなノ名モアリ。一葉ヲ生ジ、或ハ叢生ス。春、莖ノ高サ四五寸、細ソクシテ直上シ、頭ニ黄花ヲ開ク、たんぽぽノ花ニ似タリ。 |剪刀股| （二）又、草ノ名。ひしはノ一名。

ぢ-しぶ（名）|地澁| 田、溝ナドノ溜水ノ面ニ、鐵銹ノ如ク光リテ浮ブモノ。又、ソブ。田ソブ。 |地渋| |地漿|

ち-しほ（名）|血汐| 血ノ流レ出ヅルモノ。チシル。 |流血| 國性爺合戰（正德、近松作）一「劍拔キ持ッテ、云云、脇腹ニ押シ當テ、十文字ニ劃キ破レバ、血潮ノ中ノ初聲ハ、玉ノ樣ナル男子皇子」「血汐ニ染マル」

ち-しほ（名）|千入| （しほ（入）ノ條ヲ見ヨ） 幾度モ染ムルコト。 新勅撰集、十一、戀「クレナヰノ、千しほモアカズ、三室山、イロニ出ヅベキ、言ノ葉モガナ」 夫木抄、十三「秋風ノ、ゲニモ身ニシム、色ナラバ、ちしほノホドヤ、タナルラン」 續後撰集、八、冬「奧山ノ、千しほノ紅葉、色ゾコキ、宮古ノ時雨、イカガ染ムラン」「千入ニ染ム」

ち-しま（名）|千島| 數多ノ島。又、其島。 袖中抄、十八、とくきのや「エビスノ島ハ多カレバ、千島ノエゾトハ云フナリ「アサマシヤ、ちしまのえぞノ、作ルナル、鳥莖ノ矢コソ、ヒマハモルナレ」

ち-しま-かいりう（名）|千島海流| おやしほ（親潮）ニ同ジ。

ち-しま-の-えぞ（名）|千島蝦夷| 北海道ノ、チシマニ居住スル蝦夷。 拾玉集、二「秋ノ月、アマネキカゲノ、ナカメテソ、ちしまのえぞモ、アハレシルラン」 前前條ノ出典ヲモ見ヨ。

ち-しん（名）|池心| 池ノ中央。イケノソコ。池ノココロ。 皎然、經二永安法華寺一詩「夜池心生二素月一、春天樹色出二悲風一」 朗詠集、上、夏「苔生二石面一輕衣短、荷出二池心一小蓋疎」

ち-しん（名）|地神| クニツカミ。地祇。（天神ニ對ス） 皇代記、一「地神五代」

ち-しん（名）|知人| しりびと（知人）ニ同ジ。 漢書、東方朔傳「朔雜二於朱儒一」注「朱儒、知人也」

ち-しん（名）|痴人|癡人| （正字通「痴、俗癡字」說文「癡、不慧也」） タハケビト。バカモノ。ウツケモノ。 丹鉛總錄（明、楊愼）「癡人前不レ可レ說レ夢、達人前不レ可レ言レ命、宋人就月錄、以爲二陶淵明一詩不レ知二何據一」

ぢ-しん（名）|地震| （一）古言、ナヰ。大地ノ震ヒ動クコト。火山ノ破裂、又ハ、地盤ノ陷落、ナドヨリ起ル。 國語、周語「陽伏而不レ能レ出、陰迫而不レ能レ烝、于レ是有二地震一」 春記、長久元年十一月一日「早旦參內、依二去夜地震事一也」 （二）明治ノ頃、免官、廢局ナドノコトアリテ、一時ニ、多クノ職員ノ移動アリシ稱。

ぢ-しん-ぐち（名）|地震口| 雨戶ノ內、所所ニ設ケタル小サキ樞戶。カケガネヲハヅセバ、直ニ開ク。地震、其他、變事アル時、急ニ逃レ出ヅル戶口。

ち-しん-ごだい（名）|地神五代| てんしんしちだい（天神七代）ノ條ヲ見ヨ。

ち-しゃ（名）|知者| 事物ノ道理ヲ、能ク心得テ居ル人。知慧ノアル人。 中庸、第四章「道之不レ行也、我知レ之矣、知者過レ之、愚者不レ及也」

ちしゃ (名) ちさ(萵苣)ノ訛。其條ヲ見ヨ。名義抄「苣、チシャ」

ちしゃ (名) 智者 智アルモノ。カシコキ人。智者。[illegible]史記、商君傳「智者作法、愚者制焉」

ちしゃ (名) 治者 〔被治者ニ對ス〕 國家ヲ統ベ治ムルモノ。統治者。主權者。

ぢしゃ (名) 持者 (一)ぢきゃうざ(持經者)ノ略。其條ヲ見ヨ。著聞集、二、釋教「本ハ叡山ノ學徒也ケリ、多年法花ノ持者也、住山ヲイトヒテ、道心ヲオコシテ、此所ニ來リテ、年ヲオクリケレバ、人皆歸依シケリ」[illegible]記、十八、文覺清衣狀「天神金剛[illegible]我レ昔ヨリ千手經ノ持者トシテ、深ク觀音ノ悲願ヲ憑ミ、龍神八部、正シク知來說教ノ誨ニシテ、千手ノ持者ヲ守護セント云フ[illegible]二非ズヤ」(二)一種ノ行者。山伏、市子ナドノ類ナルベシ。七十一番職人歌合、ぢしゃ「アラオンカナカナ、ニトコロ、三島モ御覽ゼヨ」

ぢじゃう (名) 地上 ツチノオモテ。地ノ上。地面。地表。易經、象上傳「地上有水比、先王以建萬國」

ちじゃう (名) 痴情 色ニ、ホダサレル情愛。色情ニ迷フ心。イロゴト

ちしゃがたな (名) 小刀 ちひさがたな(小刀)ノ訛。其條ヲ見ヨ。

ぢしゃく (名) 地借 ぢがり(地借)ニ同ジ。

ちしゃご (名) 細螺 きさご(細螺)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。大和本草、十四、介類「ちしゃご、小螺ナリ、云云、赤白ノ紋アリ、云云、小兒、其殻ヲツラヌキアツメテ玩トス」

ちしゃのき (名) (一)ちちのき(乳木)ニ同ジ。(二)ちさのきニ同ジ。

ちしゅ (名) 置酒 酒宴ヲ開クコト。多人數、集リテ酒飮ムコト。サカモリ。史記、[illegible]十八史略、西漢、[illegible]」

ちしゅ (名) 地種 其所有者ニヨリテ分チタル土地ノ種別。卽チ官有地、公有地、民有地、ナドノ稱。

ぢしゅ (名) 地主 (一)其土地ヲ有スルモノ。(二)其土地ヲ守ルモノ。主人、ヌシ。(二)其建立前ニ、其地ニアリシ神ヲ、地主ノ神トシテ祀リ、寺ヲ鎭守セシム。コレヲ鎭守、伽藍神、土地神、ナドト云フ。卽チ、比叡山ノ日吉山王(大山咋神)、高野山ノ天野神社ノ類ナリ。二十二社註式「日吉社」注「延喜神名式云、近江國滋賀郡日吉[illegible]地主」「地主ノ神」地主權現、其祭禮ヲ地主祭ト云フ。

ぢしゅぢん (名) 地主神 地主ノ神。ウブスナノカミ。鎭守ノ神。生土神。

ちしゅつ (名) 治術 (一)病ヲ療治スル仕方。治療ノ方法。治療法。[illegible]記、十一、大[illegible]所奉達「命ハ天ノ與フル事ナレバ、必ズシモ治術ニ依ルベカラザルカ」(二)國ヲ治ムル術。治國ノ法。治法。[illegible]律[illegible]徒[illegible]行、有古人[illegible]治[illegible]」

ぢしゅっけつ (名) 痔出血 ハシリヂ。

ちしょ (名) 治所 政務ヲ執リ居ル場所。

ぢしょ (名) 地所 土地。地面。

ちしょく (名) [illegible] ハヂ、ハヅカシメ。[illegible]

ぢじり (名) 地尻 一クギリノ地面ノ後ノ方。地面ノ[illegible]ノカタ。浮世風呂、(文化、[illegible])初編、下「オメヘノ内ノ地尻ヘ這入ッタ」

ちしる (名) 乳汁 女ノ乳首ヨリ出ヅル汁。チチシル。略シテ、ちち。乳漿。[illegible]汁。古事記、[illegible]

ちしる (名) 血液 ちしほ(血汐)ニ同ジ。

ぢしろ (名) 地代 ぢだい(地代)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

ぢしろ (名) 地白 織物、衣服ノ地ノ白キモノ。白地。[illegible]

ぢす (名) 帙簀 竹ノ簀子[illegible]名。錦ナドノ緣ニ、金欄ナドヲ裏ニシテ、緒アリトヅ。物ノ本、經卷ナドヲ包ム。[illegible]

ぢす ス・ル・ス・レ・セ・シ・セヨ [illegible] 治 [illegible]

ぢす ス・ル・ス・レ・セ・シ・セヨ [illegible] 治 (一)イヤス[illegible] (二)[illegible]治ナル。[illegible]イミジウ[illegible] ド一[illegible] 九、[illegible]

ぢす ス・ル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 持 (一)[illegible] 「頭政」若、野首[illegible]」(二)固ク守ル。主張[illegible]

ちすぢ (名) 血筋 [illegible] 血脈。血統。[illegible] 代代相續[illegible]

チストマ (名) 〔羅甸語、Distoma〕[illegible]

ぢすべり (名) 地辷 山崩[illegible]

ぢすり (名) [illegible]

ちすゐ (名) [illegible] 流水ヲ通ズルコト。[illegible]

ちすゐ (名) 智水 〔如來ノ智ヲ水ニ譬[illegible]

へテ、修行者ニ注入スル義」佛教ニテ、灌頂ニ用ヰル水ノ名。盛衰記、八、法皇三井灌頂事「大日觀上ノ智水ノ流レニ身ヲモ不レ洗」

ちすゐくゎふうくう（名）｜地水火風空｜ごだい（五大）ノ條ヲ見ヨ。

ちせい（名）｜地勢｜（一）ちけい（地形）ニ同ジ。史記、秦始皇紀「地勢既定、黎庶無レ繇」（二）一門地勢力。盛衰記、一、一族官位昇進事「太政大臣ハ、云云、地勢大ナリトイヘドモ、賢慮足ラザル者ハ、其仁ニ當ルコトナシ」

ちせい（名）｜治世｜（一）治マレル世ノ中。太平ノ世。（亂世ニ對ス）禮記、樂記篇「治世之音、安以樂、其政和」（二）世ヲ治ムルコト。三國志、蜀志、武帝紀、注「治世之能臣」（三）世ヲ統べ治メ給フ間。政事ヲ執リ給フ年月。在位。「治世五十年」

ちせき（名）｜治績｜政治ノデキバエ。政治上ノ功績。又、政治ノ成績。三國志、蜀志、鄧芝傳「芝所在清嚴、有二治績一」

ぢせつ（名）｜持說｜自分ノ意見ヲ固ク守ルコト。又、常ニ主張スル意見。

ぢせった（名）｜地雪踏｜江戸ニテ作リタル雪踏ノ稱。我衣（文化、曳尾庵）「貞享頃マデハ、ちせったト云フハ、エタ雪踏ノ事ナリ、眞竹ノ皮ニテ裂ヲ作リ、革ハ馬皮ナリ、下品ナルモノハ、皮草履ニ裏ヲ付ケタルモノナリ」

✣**ちそ**（名）志そ（紫蘇）ノ訛。（東京）

ちそ（名）｜地租｜土地ニ課スル租稅。地稅。そ（租）ノ條ヲモ見ヨ。唐書、魏徵傳「蜂洛陽宮一勞レ人也、收二地租一厚レ歛也」

ちそう（名）｜馳走｜〔設ケニ奔走スル意〕（一）馳セ走ルコト。騷ギ立ツルコト。晉書、苻堅載記「涼北人、能捕二六畜一善二馳走一逐二水草一而已、何堪レ爲レ將」百練抄、十四、仁治三年正月十九日「今夕關東飛脚來洛、洛中馳走、不レ辨二是非一」（二）〔專ラ饗應ニ力ヲ盡スコト〕モテナシ。フルマヒ。アルジマウケ。饗。天武紀、下、八年八月「看二群卿儲細馬、於二迹見驛家道頭一云云、皆令二馳走一」總見記（元祿、遠山信春）「町ハヅレマデ迄リ參リ、御馳走申シ」狂言記、居杭「コレヘ參レバ、ヨウ來タトアッテ、御馳走ハナサルレドモ、參ル度度ニ、頭ヲハラセラルル」

ちそう（名）｜地層｜地質學ノ語。地殼ヲ構成セル各種ノ土石等ノ、順ニ相重ナリテ居ルコト。又、ソノモノ。其時代ヲ表ハスニ、紀ノ字ヲ用ヰテ、第三紀層、第四紀層ナド云フ。

ちそく（名）｜遲速｜おそきト、はやきト。緩急。禮記、王制篇「剛柔輕重、遲速異レ齊」

ちそばへ（名）｜血戲｜勇士ナドガ、血ノ出ヅルヲ見テ、イヨイヨ戲レサワグコト。義經記、八、衣川合戰事「辨慶ハ血ノ出ヅレバ、イトドちそばへシテ、人ヲモ、人トモ思ハズ」

ちそら（名）｜地空｜地ト云フニ同ジ、大地。釋迦如來誕生會（元祿、近松作）三「アルヒハ怒リ、アルヒハカコチ、恨ミ悲シミ、ちそらヲ叩キ、聲ヲモ惜シマズ泣キケレバ」

ちたい（名）｜遲滯｜オソナハリ、トドコホルコト。ナガビクコト。ノビノビ。遲延。延引。李商隱雜纂、遲滯「新婦見レ客」

ちたい（名）｜痴態｜バカゲタルサマ。

ちたい（名）｜遲怠｜オクレ、オコタルコト。ナマケ、オクルルコト。盛衰記、四、白山神輿登山事「訴訟ノ遲怠、心元ナシトテ」

ぢたい（名）｜地體｜モトネ。オホネ。根本。又、元來。本來。盛衰記、四十二、玉蟲賜レ扇與一射レ扇事「地體脚氣ノ者ナル上ニ、此ノ間、馬ニフラレテ、氣分ヲサシ、手アラハニ覺エ侍リ」

ぢだい（名）｜地代｜（一）土地ノ借賃。借地ノ料金。借地料。ヂシロ。世事見聞錄（文化、武陽隱士）五、上、諸町人「一箇月地代、壹坪ニ付、銀五匁、拾匁ト云フ」（二）土地ノ賣買價格。土地ノ代金。土地代。地價。

ちたう（名）｜池塘｜イケノツツミ。南史、謝惠連傳「嘗於二永嘉西堂一思レ詩、竟日不レ就、忽夢見二惠連一、便得二池塘生二春草一、大以爲レ工」謝靈運、登二池上樓一詩「池塘生二春草一、園柳變二鳴禽一」

ちたう（名）｜薙刀｜ナギナタ。

〔**ちだう**（名）｜馳道｜天子ノ行ク所ノ道。御幸格。御成道。輦道。史記、秦始皇紀「二十七年、賜二爵一級一、治二馳道一」倭名抄、十七、道路類「馳道、天子所レ行之道也」江家次第、二、七日節會、頭書「馳道ハ蹕ノ道、南庭ノ中ニアリト云フ、階ノ通リノ正中ナリ」式部省式「進退皆揖、餘堂准レ此、但北向堂昇降、皆避二馳道一」

ちだう（名）｜治道｜國ヲ治ムルシカタ。禮記、樂記篇「審レ樂以知レ政、而治道備矣」

ぢたたら（名）｜地蹈鞴｜たたら（蹈鞴）ト云フニ同ジ。

ちたつ（名）｜笞撻｜ムチウツコト。鞭撻スルコト。書經、益稷篇「撻以記レ之」傳「笞二撻不レ是者一、使レ記二識其過一」

ちだつ（名）｜褫奪｜〔韻會「褫、奪レ衣也」〕ハグコト。ウバフコト。（官位ナドヲ）

ぢだて（名）｜地立｜貸人ガ、自分ノ貸地ヨリ借人ヲ立チ退カシムルコト。

ぢたばた（名）｜七顚八倒｜〔七顚八倒ノ義、値遇反遇ト同趣〕ぢたんだニ同ジ。

〔**ちたび**（副）｜千度｜アマタタビ。千遍。千回。萬葉集、四、廿長歌「ワガセコガ、ユキノマニマニ、追ハムトハ、千遍オモヘド、タワヤメノ、ワガ身ニシアレバ」竹取物語「ヨゴトゾハナチテ立チ居、泣ク泣クヨバヒ給フコト、千たびバカリ申シ給フ」拾玉集、一「タマサカニ、花サク桃ノ、君ガ代ニ、ナルテフコトハ、ちたびモモタビ」夫木抄、九「ハシリ井ノ、川瀨ニちたび、ミソギシテ、ハヤクゾイノル、神ハウケヨト」同、三十四「君ガ代ハ、山田ノ原ニ、タツチギノ、千たびカハラン、ホドハ限ラジ」

ちだま（名）｜血珠｜珊瑚珠ノ色ノ、血ノ如キモノ。卽チ赤色ノ珊瑚珠。

ぢだんだ（名）〔ぢたたらノ音便訛〕又、ぢだだ。兩脚ヲ互交ヒニ、足蹈ミスルコト。（多クハ怨、悔ナドニ）ヂタバタ。頓足。狂言記、磨塊「草刈ノ童、云云、ぢだむだフンダリ、コロビ打チ飛ビ上リ走リ廻リテ」道二、賓生物語（天正、山直海道三）「折、庭中ニテ地だだヲ蹈ムベシ」ぢだんだ蹈むトハ、怒リ躍リテ、烈シク地ヲ蹈ム。アシズル。雁が飛べば、石龜もぢだんだ蹈むトハ、身ノ程ヲ思ハズシテ、人ノスルコトニ、ナラハムトスル意。

ちだらけ（名）｜血｜〔だらけノ條ヲ見ヨ〕チマミレニナルコト。血ニソマルコト。

〔**ちだり**（名）｜血垂｜竈ナドノ烟ヲ、屋外ニ出ス窓。ケムリダシ。ケブダシ。烟窓。大殿祭祝詞「天乃血垂、飛鳥乃禍無久」

〔**ちた・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）｜千足｜種種ニ足ラヒテ不滿ナシ。十分ニトトノヒ居ル。トトノヒ足ル。神武紀、十九「昔伊弉諾尊目二此國一曰、日本者浦安國、細戈千足國」

ちち（名）｜父｜〔靈ヲ重ネテ云フ語。其條ヲ見ヨ。小兒ノ語ニ起ルカ。應神紀、十九年ニ、國巢人ガ天皇ヲ指シ奉リテ、麿ガ知ト云ヘリ、カク云フちヲ重ネタルハ、乳ヲちち、又、うまうまヲまま、愛し

愛しヲはは卜云フ類ナリ。梵語ニモ比多ト云ヒ、(梵語雜名)沖縄ニハ、ちゃちゃト云ヘリ」(一)〔我ヲ生メル男。男親。カゾ。トト。ドド。テテ。ダダ。チャン。阿爺。爹爹(母ニ對ス)倭名抄、一、父母類「父、知知」萬葉集、五、長歌「父母ヲ、見レバタフトシ、妻子見レバ、メグシウツクシ」宇津保物語、俊蔭「父オトド、限リナクカナシウシ給ウテ」源、二、帚木「父ノトシ老イ、物ムツカシゲニフトリスギ、兄人ノ顔ニクゲニオモヒヤリ」(二)子アル男。「人ノ父タルモノ」

ちち (名) 乳 〔乳ヲ重ネタル語。小兒ノ語ニ起ル〕(一)ちしる(乳汁)ニ同ジ。狂言記、子盗人「此方ヘゴザレ、此方ヘゴザレ、ウバガ、ちちヲ進ゼマセウ」(二)ちぶさ(乳房)ニ同ジ。織留(元祿、西鶴)六「心ヲシヅメテ食ナド喰ハレタラバ、乳モハルベシ」

ちち (名) 帙 ちつ(帙)ニ同ジ。字類抄「帙、チチ、書帙也」

ちち (名) 致知 〔致ハ、きはむる意〕(一)朱子學ニテハ、事物ノ道理ヲ研究シテ、コレヲ知リ覺ルコト。「致知格物」(二)陽明學ニテハ、本然ノ良知ヲシテ、完全圓滿ナラシメテ、其活動ヲ、敏捷ナラシムルコト。傳習錄、中「若鄙人(陽明ノ自稱)所謂致知格物者、致吾心之良知於事事物物也、吾心之良知、即所謂天理也、致吾心良知之天理於事事物物、則事事物物皆得其理矣、致吾心之良知者、致知也」

ちち (副) 遲遲 (一)モノゴトノオクルル狀、又、道程ノ速度ニ云フ語。オソキコト。グヅグヅスルコト。詩經、小雅、鹿鳴之什、采薇篇「行道遲遲、載渴載飢」[illegible]記、四、山王祭禮事「[illegible]遲遲之[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]殿ニ向ケ奉ニ[illegible]居ニ」(二)ユッタリシタル狀ニ云フ語。禮記、孔子閒居「無體之禮、威儀遲遲」(三)ノドカニシテ、日ノ永キ狀ニ云フ語。詩經、豳風、七月篇「春日遲遲、采蘩祁祁」

ちぢ (數) 千 〔千箇ノ轉〕アマタ。サマザマ。イロイロ。クサグサ。古今集、四、秋、上「月見レバ、ちぢニ物コソ、悲シケレ、我身ヒトツノ、秋ニハアラネド」同、五、秋、下「白露ノ、色ハヒトツヲ、イカニシテ、秋ノ木ノ葉ヲ、ちぢニ染ムラン」同、十四、戀、四「ちぢノ色、ウツロフラメド、シラナクニ、心シ秋ノ、紅葉ナラネバ」後撰集、七、秋、下「秋ノ野ニ、イカナル露ノ、置キツメバ、ちぢノ草葉ノ、色變ルラン」新古今集、四、秋、上「ナガムレバ、ちぢニ物思フ、月ニマタ、我身ヒトツノ、嶺ノ松風」山家集、下「ステヤラデ、命ヲヲフル、人ハミナ、ちぢノ黄金ヲ、モテカヘルナリ」

ぢぢ (名) 祖父 〔おほぢヲ略シテ重ヌル語。小兒ノ語ニ起ル〕(一)おほぢ(祖父)ニ同ジ。父ノ父。ソフ。王父 (二)又、母ノ父。外祖。(三)泛ク、老年ノ男子ヲ呼ブ語。オキナ。翁 老爺

ちちうへ (名) 父上 己レガ父ノ尊稱。オトウサマ。父君。大人 家大人 嚴君

ちちうま (名) 父馬 牡ノ馬。ヲウマ。名義抄「牡馬、チチウマ、ヲマ」

ちちおとど (名) 父大臣 父ニテ、大臣ノ職ニアル人。枕草子、一、十三段「マダ姬君ニオハシケル時、ちちおとどノ敎ヘキコエサセ給ヒケルハ」

ちちかくぶつ (句) 致知格物 ちち(致知)、及、かくぶつ(格物)ノ條ヲ見ヨ。大學「致知在格物」

ちちかた (名) 父方 父ノ血系ニ屬キタル族。テテカタ。(母方ニ對ス) 內戚 仁賢紀、六年九月、注「[illegible]」[illegible]、[illegible]十四、[illegible]ノ[illegible]ハ父方ニツケテ、[illegible]侍リシカベ」「父方ノをぢ」「父方ノいとこ」

ちちかぶり (名) 鰍 かぢか(鰍)ニ同ジ。近江ノ石部ニテ、今、ちちんかぶり、ごちんかぶりナド云フ。京ニ、ふぐりくらひ。又、東京ニ、だぼはぜアリ、此類ナリ。又、杜父魚ヲ、近江、伊勢ニ、ちちかぶ、ちちんかぶ、さちんかぶ、阿波ニ、ちちかぶナド云フモ、此轉ナリ。サチフ。倭名抄、十九、[illegible]「[illegible]」字鏡抄「[illegible]、チチカブリ」[illegible]

ちぢかまる (ル・レ・ラ・リ・レ)(自動、四) 縮 ちぢむ(縮、四段)ニ同ジ。シジカマル。チヂコマル。

ちぢかむ (ム・メ・マ・ミ・メ)(自動、四) 縮 ちぢむ(縮、四段)ニ同ジ。シジカム。

ちちぎみ (名) 父君 ちちうへ(父上)ニ同ジ。萬葉集、六、長歌「父公ニ、吾レハマナ子ゾ、母トジニ、吾レハマナ子ゾ」源、六、末摘花「父ぎみノモトヲ、里ニテユキカヨフ、コヒタチノミコノトニマウケアー」

ちぢく (名) 地軸 地球ノ中心ヲ、南北ニ貫ケル軸ノ如キモノアリト想像セラレタル直線。地球ハソレヲ中心トシテメグルト云フ。坤軸。[illegible]

ちぢく (ク・ケ・ク・ク・ケ)(自動、下二) 縮 ちぢまる(縮)ニ同ジ。シジク。卷局 [illegible]「[illegible]、チヂク」「[illegible]ちぢく」

ちちくさ (名) 乳草 〔[illegible]白汁出ブ[illegible]〕[illegible]ニ同ジ。(二)がかいも(蘿藦)ノ一名。又、チグサ。

ちちくさし (キ・ケレ・ク・ク)(形、二) 乳臭 ちくさし(乳臭)ニ同ジ。

ちちくび (名) 乳首 ちくび(乳首)ニ同ジ。

ちちくふ (フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ)(自動、四) 矢[illegible]ノ語ニ同ジ。

ちちくる (ル・レ・ラ・リ・レ)(自動、四) 乳繰 男女、私ニ情ヲ通ズ。[illegible]通ハス。私通ス。ヂキアフ。チチクリアフ。〔博多ニテ、てでくる〕

ちち・ける [illegible]

ちちご (名) 父御 他ノ父ノ尊稱。テテゴ。尊父。尊公 尊君 尊大人 [illegible]

ちちのくさ [illegible]

ナデシコノ一名カ。

ちぢおま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［縮］ ちぢむ（縮、四段）ニ同ジ。チヂカマル。

ちちお（名）［父字］ はんせつ（反切）ノ條ヲ見ヨ。

ちちぢゃ・ひと（名）［父人］〔父である人ノ約。親愛ノ意ヲ含ム。ははぢゃひと、あにぢゃひとノ類〕父ニテアル人。父御。

ぢぢっけ（名）〔散氣ノちヲ重ネテ、け（毛）ヲ加ヘ、急呼シタル語。だだおト云フニ同ジ〕 ごんべゑ（權兵衛、第二語）ノ條ヲ見ヨ。京阪ニテ、ぼんのくぞ。（ぼんのくぼノ訛）

ちちと（副）［遲遲］（一）ユルユルト。ソロソロト。ユッタリト「遲遲トシテ進マズ」（二）春ノ日ノ長閑キ狀ニ云フ語。

ちちなしお（名）［父無子］（一）父ナクシテ、母ノ手一ツニテ育ツル子。多武峯物語「ココニコソ、人數ニ侍ラネド、父なし子ヲ、モテワヅラヒヌレ」（二）公然タル父ノナキ私生兒。てゝなしお。

ちちのき（名）［乳木］ 公孫樹ノ異名。此樹ノ老イタルニハ、乳房ノ形シタル瘤ノ垂ルレバ云フト云フ。チシャノキ。

〔**ちぢのおがね**（名）［千千金］ アマタノカネ。タクサンノ金錢。源、十七、繪合「アベノオホシ（安倍多）ガ、ちぢのおがねヲステテ、ヒ鼠ノオモヒ、カタ時ニ消エタルモ、イトアヘナシ」永久四年百首「見ルママニ、ワガ袞ヲバ、カキテマシ、おちのおがねヲ、ヲシマザリセバ」

〔**ちちのはぐさ**（名）［紫參］ 今、はるとらのお。其條ヲ見ヨ。倭名抄、廿、草類「紫參、知知乃波久佐」本草和名、上「紫參、知知乃波久佐」與槃豫式「若狹國、紫參（チチハグサ）一斤二兩」

〔**ちちのみの**（枕）〔今モ、箱根ノ邊ニテ、銀杏樹ヲ、乳の木ト云フ。（老樹ニハ、乳房ノ如キモノ垂ルレバ云フカ）或ハ、又、其實ヨリ乳汁ノ如キモノ出ヅルヨリ云ヘルナラムトモ云フ〕 父ノ枕詞。萬葉集、十九、四十長歌「知智乃實乃、父ノミコト、ハハソバノ、母ノミコト」（松ヶ枝ノ實ナラムト云フ、公孫樹ナラムト云ヘド、コレ後世ノ外來物ナリ）同、廿、三十六長歌「知知能未乃、父ノ命」

〔**ちちはくる**（名）［癮疹］ ほろおう（痱子）ノ條ヲ見ヨ。チチホム。倭名抄、三、三十四、瘡類「癮疹、知知保無、一云、知知波久留、皮外小起也」

ぢぢばばのものがたり（名） 小兒ノ昔話。異制庭訓往來（虎關、遊戲）「祖父祖母之物語」

ちちふ（名） ちちかぶり（鰍）ノ一名カ。其條ヲ見ヨ。名義抄「鮒、チチフ、鮎鱒、チチフ、鮗、チチフ」字鏡、七十「鮦、知知夫」同、七十二「鰻、知知夫」鈔、知知夫、父、伊佐佐古」

ちちぶぎぬ（名）［秩父絹］ 絹布ノ、稍、粗ナルモノ。常ニ縹色ナドニ染メテ、衣服ノ裏地ナドトス。武藏國、秩父郡、大宮（今ハ秩父町）邊ノ產ナリ。チチブウラ。略シテ、チチブ。絹布重寶記「秩父絹、チ印、關東秩父ヨリ織リ出ダス、云云、絹ノ性スキ勝チニテ、地合ムサクロシ、裏地ニハナリニクシ、裏絹ナリ、云云、全體、地太キユヱ強シ」

ちちぶめいせん（名）［秩父銘仙］ 武藏國、秩父郡、大宮（今ハ秩父町）地方ヨリ產ズル銘仙。地質、染色、堅牢ニシテ、衣服、蒲團地ナドニ用ヰル。一名、秩父縞。

ちちほむ（名）［癮疹］ ほろおう（痱子）ノ條ヲ見ヨ。チチハクル。名義抄「斷、チチホムギル、タツ」

ちぢま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［縮］ ちぢむ（縮、四段）ニ同ジ。シジマル。

ちぢみ（名）［縮］（一）チヂムコト。チヂミタルコト。又、ソノモノ。（二）縮織ノ略。縮織ノ織法ニ從ヒ、其緯絲ニ強撚ノモノヲ用ヰテ織リ、織上ノ後、種種ノ工程ヲ經テ、縮マセタル布帛。瓦斯縮、絹縮、木綿縮ナドアリ。明石縮、越後縮ナド名アリ。（但シ、越後縮ハ製異ナリ、其條ヲ見ヨ）

ちぢみあが・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［縮上］（一）チヂレテ上ガル、發心集、五、第三條「髮赤ク縮み上がりタル小童ノ」（二）至ッテ、恐レチヂマル。オソレチヂコマル。

ちぢ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［縮］〔おおむノ轉〕短ク狹ク小サクナル。皺ミ寄ル。（延ぶノ反）シジム。チヂマル。シジマル。チヂカム。シジカム。チヂカマル。シジカマル。チヂコマル。

ちぢ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［縮］ 短ク狹ク小サクナス。皺寄ラス。シジムル。チヂムル。チヂコマス。

ちぢ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四） トドム。催馬樂、櫻人「サクラ人、ソノ舟知知女、シマツ田ヲ、トマチツクレル、見テカヘリコンヤ」催馬樂入綾（播守部）「ソノ舟チヂメ、考曰、其船トドマレト云ナリ」

ちちんお（名）〔ちちかぶり（鰍）ノ條ヲ見ヨ〕 杜父魚ノ異名。チチコ。トチンコ。（近江、伊勢ニテ）

ぢちんさい（名）［地鎭祭］ 地ヲ守ル神ヲ齋ヒ鎭ムル祭。又、建築ノ地形ニ着手スル前ニ行フ祭事。ヂマツリ。石鎭祭。

⁂**ぢぢむさ・し・キ・ケレ・ク・ク**（形、一）［爺穢］ 甚ダ穢シ。キタナゲナリ。キヨラカナラズ。ババ、チイ。不潔。浮世床（文化、三篇）初、中「おぢおむさい女房ヲ持テル者モ損ダヨ」

ちちんぷいぷい（句） 小兒ノ身ヲ痛メナドセシ時、撫デサスリテ、スカシナグサムルニ云フ語。ちちんぷいぷい御代の御寶ト云フ。

⁂**ちぢ・める**（動）［縮］ ちぢむ（縮、下二段）ノ口語。シジメル。チヂコマセル。

ちぢょう（名）［笞杖］（一）おもとト、つゑト。捶楚。令義、四、獄令「凡司內所令笞杖、每年十一月、役物部丁令採備」（二）笞罪ト、杖罪ト。（各條ヲ見ヨ）

ぢぢょう（名）［治定］（一）ヲサマリ、サダマルコト。ヲサメ、サダムルコト。オチツキ、キマルコト。盛衰記、六、丹波少將被召捕事「罪科治定ノ程ハ、申シ預カリ候ハバヤ」（二）サダマリテアルコト。必然。太平記、十五、三井寺合戰事「鬨ヲ作ッテ攻メ入ルホドナラバ、御方、治定ノ勝軍トコソ存ジ候へ」

ぢぢょう（副）［治定］ 定メテ。キット。カナラズ。必定。太平記、十、三浦大多和合戰意見事「今日ノ軍ニハ、治定勝ツベキ謂レ候」

ちちゃお・い（形）［小］ チヒサシ。

ちちゅ（名）［蜘蛛］ くも（蜘蛛）ニ同ジ。會我物語、八、祐經が屋形へ行きし事「祐經ニ思ヒカカランハ、蜘蛛ガ斧ヲ取ッテ龍車ニ向カヒ、ちちゅ（ちぃ）ガ網ヲハリテ、鳳凰ヲ待ツ風情ナリ」

ちちゅう（名）［躑躅］〔躑、正音ハ直隷切、ちゅ〕 タチモトホルコト。タメラフコト。躊躇。禮記、三年問篇「大鳥獸、云云、必反巡過其故鄉、翔回焉、鳴號焉、蹢躅焉、然後乃能去之」詩經、邶風、靜女篇「搔首蜘蹰」

ぢちょう（名）［持重］輕輕シク動カスコト。大事ヲトリテ、輕率ニセヌコト。史記、韓長孺傳「安國持重、以故梁不能過趙」後漢書、任光傳「同心戮力、持重慎世」[illegible]

ちぢり（名）［松毬］〔縮リノ義カ〕まつふぐり（松毬）ニ同ジ。（畿内、西國）マツカサ。[illegible]「[illegible]スヤ、猿フグリ」松ノちぢりノシルキタ露」

ちぢ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［縮］シワミ寄ル。カガマリメグル。シジル。チヂクル。シジクル。卷局

ちぢれげ（名）［縮毛］縮ルル癖アル毛髮。チヂレガミ。チヂレッケ。卷髮

ちちろむし（名）［蟋蟀］〔ちちろハ、其鳴聲〕こほろぎ（蟋蟀）ノ異名。其條ヲ見ヨ。[illegible]「ちちろむし、夜フク[illegible]ヤ、[illegible]カラシ、フクレバイトド、ヨワル聲カナ」

（一）**ちちわくゝに**（副）［千千分］トヤカウト。ムヅカシク。メンドウニ。拾遺集、八、雜、上「ちちわくゝに、ハイフトモ、[illegible]リニキム、ワガハタモノニ、シロキアサギヌ」

（二）**ちつ**（名）［帙］〔說文「帙、書衣也」〕文卷。書物ノ損傷ヲ防グタメ、ソノ被トスルモノ。今多クハ、厚キ紙ニ布ヲ貼リ、折リテ包ム。チチ。[illegible] 帙を繙くトハ、書物ヲ開キテ讀ムヲ云フ。

ちつ（名）［秩］〔說文「秩、積也、次也、官也」〕（一）ツカサ。シヨク。左傳、文公六年「委之常秩」[illegible]（二）クラヰ。又、扶持。[illegible]（三）十年間ノ稱。六十歲以上ヲ七秩ト云ヒ、七十歲以上ヲ八秩ト云ヒ、餘ハ、コレニ準ズ。[illegible]

ちつ（名）［膣］［腟］〔膣ハ肉室ノ合字、音、ちつナルベシ。玉篇「腟、壯一切、音挃、肉生也」トアルハ、異義ノ字ナリ。膣ハ腟ト同ジク用ヰル。辭源ニ「膣、女子陰道、上通子宮」〕一名、生殖口。婦人ノ陰門ノ一稱。

ちつ（名）［蟄］スゴモルコト。又、蟲類ナドノ、地中ニ隱レ居ルコト。轉ジテ、とぢこもるコト。外出セザルコト。易經、繫辭、下傳「龍蛇之蟄、以存身也」

ちづ（名）［地圖］地球上ノ海陸、山川、國郡等ノ位置、形狀ヲ、天ヨリ平面ニ見タル狀ニ書キタル圖。[illegible]

ちづか（名）［千束］タバネタルモノノ多クノ數。倘、にしきぎ（錦木）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「錦木ニ、又モナゲキノ、數ソヒテ、ちづかカギラヌ、妹ガ門カナ」堀河百首「思ヒカネ、ケフタテソムル、錦木ノ、ちづかモマタデ、アフヨシモガナ」

チッキ（名）〔英語、(Check.)〕汽車ニ於イテ用ヰル所荷物ノ引換證。合札。

ぢつき（名）［地突］[illegible]（地形）ニ同ジ。事跡合考（柳田勝久）「元祿中、上野中堂ノ地突」

ぢっきん（名）［𠝏金］〔てっきんノ誤讀〕沈金彫ノ類。[illegible]

ぢっきん（名）［昵近］[illegible]マジカク、ナジムコト。又其人。韓非子[illegible]

ぢっきんしゅう（名）［昵近衆］（一）貴人ノ側ニ召シ使ハルルモノ。側役。近習。[illegible]（二）昔、將軍ノ上洛、又ハ、[illegible]ノ使者、出京ノ時、其接待ニアタル役。直近衆。

ちっきょ（名）［蟄居］（一）[illegible]コト。[illegible]（二）德川氏ノ制、士族ノ閉門ノ上ニ、其期限ノ間、[illegible]閉門ヨリ重ク、改易ヨリ輕シ。[illegible]

ちっくり（副）チト。スコシ。[illegible]

ちつけ（名）［乳附］（一）[illegible]乳[illegible]如ク稱フ。チオモ。メノト。オチノヒト。ウバ。哺乳 [illegible]

ちっけん（名）［秩限］任職ノ年限。任限。任期。[illegible]

ちっ・い（形）［小］チヒサシ。[illegible]

[illegible]

ぢっこん（名）［昵懇］[illegible]

ちっし（名）［窒死］窒息シテ死ヌルコト。

ちつじょ（名）［秩序］[illegible]

ちっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）［蟄］[illegible]退キテ隱レ居ル。[illegible]

ちっそ（名）［窒素］[illegible]

ちっそく（名）［窒息］呼吸ヲ塞ギ止ムルコト。又、呼吸ノ塞ガリ止マルコト。

ちつ-ちつ (副) [秩秩] (一)常アル狀ヲ云フ語。詩經、大雅、生民之什、假樂「威儀抑抑、德音秩秩」毛傳「秩秩、有ㇾ常也」(二)知識ノアル狀ヲ云フ語。詩經、秦風、小戎「厭厭良人、秩秩德音」毛傳「秩秩、有ㇾ知也」(三)流レ行ク狀ヲ云フ語。詩經、小雅、祈父之什、斯干「秩秩斯干、幽幽南山」毛傳「秩秩、流行貌」(四)進ミ知ル狀ヲ云フ語。詩經、小雅、小旻之什、巧言「秩秩大猷、聖人莫ㇾ之」毛傳「秩秩、進知也」(五)秩序ノ整備シタル狀ヲ云フ語。荀子、仲尼篇「貴賤長少秩秩焉」(六)ツツシム狀ヲ云フ語。詩經、小雅、甫田之什、賓之初筵「賓之初筵、左右秩秩」毛傳「秩秩、肅敬也」

ちつ-ちつ (副) [蟄蟄] (一)數多アル狀ヲ云フ語。詩經、周南、螽斯「宜爾子孫、蟄蟄兮」毛傳「蟄蟄、多貌」(二)靜肅ナル狀ヲ云フ語。莊子、天運篇「蟄蟲始作、吾驚ㇾ之以二雷霆一」

ちっ-ちゃ・い (形) [小] チヒサシ。

ちっ-ちょく (名) [黜陟] 「說文「黜、貶下也」同「陟、登也」」 人ヲ官途ナドニ、上グルト、下グルト。書經、舜典篇「三載考ㇾ績、三考黜陟幽明」「任免黜陟」

ぢっ-つゞき (ジツヅキ) (名) [地續] 土地ノ連リツヅキタルコト。土地ノ連續スルコト。

ちっ-と (副) [些] ちと(些)ノ急呼。其條ヲ見ヨ。史記抄、十二「從兄ハイトコドシゾ、兄トハちつとヲヤカタゾ、我ヨリ下ナラバ從弟也」平家物語、七、實盛最後事「鞍ノ前輪ニオシツケテ、ちつとモハタラカサズ」狂言記、むねつき「アア、ちつと胸ガクツロイダヤウニ御座ル」

ぢっ-と (ジット) (副) 動カズ、移ラヌ狀ニ云フ語。凝坐。凝視。又、ジット。狂言記、太刀奪「ちつとトラマヘテ、ゴザリマセイノ、離ナヒマスルハイノ」「ちつとシテ居ル」「ちつと見アッテ」

ちっ-と-も (副) スコシモ。イササカモ。毫モ。狂言記、關大夫「コノ御娘子ニ免ジテ御免ナサレ、イヤイヤ、ちっとも苦シウゴザラヌ」

チップ (名) 〔英語、Tip〕 給仕ナドヘノ心付。ハナ。祝儀。

ちっ-ぷく (名) [蟄伏] スゴモルコト。トヂコモリ隱ルルコト。蟲ナドノ、冬、地中ニ伏シ隱ルルコト。淮南子、天文訓「至ㇾ秋三月、地氣不ㇾ藏、乃收二其殺一、百蟲蟄伏、靜居閉ㇾ戶」

ぢっ-ぷく (ジップク) (名) [衵服] 〔玉篇「衵、女人近ㇾ身衣也」〕 支那ニテ、婦人ノ着用スル襦袢。左傳、宣公九年「陳靈公與二孔寧儀行父一通二於夏姬一、皆衷二其衵服一以戲二于朝一」

ちっ-ぺい (名) 小兒ヲ罵リテ云フ語。國性爺後日合戰(享保、近松作)四、相生琴宮「思ヒモ寄ラヌちつぺい奴ニ、可惜ラ骨ヲ折ッタヨナ」

ぢ-つぼ (ジツボ) (名) [地坪] 地面ノ坪數。(建坪(タテツボ)ナドニ對ス)

ちっ-ぽけ (名) 小(チヒ)サキコト。寛政の川柳「ちつぽけナ、口デ大キナ、山ヲ詠ミ」(和泉式部ノ大江山)

ち-つぼね (名) [乳局] 貴人ノ子供ノ乳母トスル女官。甲陽軍鑑、十、上、品第三十一「萬ヅ若君ニ育テ參ラスル樣ニトテ、上方ヨリ御乳局ヲ呼ビ被ㇾ成候」

ちつ-まん (名) [秩滿] 在職ノ年限ノ畢リタルコト。又、國司ナドノ任期ノ滿ツルコト。著聞集、一、神祇「北野宰相殿ハ、云云、秩滿ノ後、都ヘ歸(カヘリタマヒ)給テ、長德二年ニ參議ニ任ジ」

ちつ-りょう (名) [蟄龍] 蟄伏シテ居ル龍。英雄ナドノ、時期ヲ得ザルニ譬フル語。朱熹詩「君看蟄龍臥三冬、頭角不ㇾ與蛇爭ㇾ雄」

ちつ-ろく (名) [秩祿] 官ニ仕フル者ニ給セラルル俸祿ノ稱。扶持。食祿。史記、貨殖傳「今有二無秩祿之奉、爵邑之入一、而樂與ㇾ之比者、命曰二素封一」同、霍去病傳「定ㇾ令、令二驃騎將軍秩祿、與二大將軍一同上」

ち-てい (名) [馳騁] 馬ヲ馳セアハスルコト。又、馬ヲカケマハスコト。戰國策、楚策「馳二騁乎雲夢之中一、而不下以二天下國家一爲上ㇾ事」

ち-てい (名) [地丁] (一)たんぽぽ(蒲公英)ニ同ジ。宜禁本草、乾、五葉「蒲公草、云云、一名二地丁一、解二食毒一」(二)支那ニテ、土地ニ賦課スル稅。地租。地稅。丁賦。

ち-てふ (チチョウ) (名) [雉堞] 〔左傳、隱公元年「都城過二百雉一」杜注「一雉之牆長三丈、高一丈」韻會「堞、城上女牆」〕 城ノ堵(カキ)ト、城上ノ垣ト。ヒメガキノアル土塀。又、城上ノ女牆(ヒメガキ)。鮑照、蕪城賦「板築雉堞之殷、井幹烽櫓之勤、格高二五嶽一、袤廣三墳一」盛衰記、三十一、平家都落事「雉堞一萬里中、洛城不ㇾ固、多年ノ經營、一時ニ破滅シヌ」

ち-と (副) [些] (一)スコシ。ワヅカニ。イササカ。チット。チョット。(量ニ) 建禮門院右京大夫集、上「八條二位殿御マヰリアリシモ、御所ニサブラハセタマヒシヲ、御椅筍殿ノウシロヨリ、オヅオヅちと見マヰラセ、云云」今物語(文治)「ちと聞コシメシテ、イカデ御覽ゼムトオボシケルママニ」孟子抄(文明)二「ちと氣ガチガヘバ、徒(イタヅ)ラ物チャ」醒睡笑(元和、安樂庵策傳)二「此ゾウスイハ、云云、ソレナラバちとタベウ」(二)シバシ。シバラク。暫時。(時ニ) 少時。

ぢ-とう (ジトウ) (名) [地頭] (一)源賴朝ノ時ヨリ、諸國ノ莊園ニ置ケル職。卽チ軍役ヲ勤メ、部內ノ盜賊、兇徒ヲ捕ヘテ、コレヲ守護ニ交付セリ。賴朝、自ラ之レヲ統ベテ、總地頭トナル。初ハ、田畠、一段步ニ就キ、五升ノ兵粮米ヲ取リテ、軍役ヲ勤ムルノミナリシガ、後ニ變ゼリ。(守護(シュゴ)ノ條ヲ見ヨ) 續古事談、二、臣節「諸國ノ地頭ト云フ名心得ズ、イカニツケタルヤラント、年來思ヒシ程ニ、或ル書ノ中ニ、云云、兵粮米ノタメニ、國王、郡鄕ヲ領メテ集メタルヲ、地頭ト云フト云フ文アリ、是レ今ノ地頭ノ儀ニカナヘリ」(二)後ニハ、一區ノ地ノ領主ノ稱。玉海(藤原兼實)文治元年十一月廿八日「北條丸以下郎從等、相分賜五畿、山陰、南海、西海諸國、不ㇾ論二庄公一可ㇾ充二催兵粮一(段別五升)、非二啻兵粮之催一、惣以可ㇾ知二行田地一、云云」吾妻鏡、五、文治元年十一月廿八日「補二任諸國平均守護地頭一、不ㇾ論二權門勢家庄公一、可ㇾ宛二課兵粮米一(段別五升)之由」

ちとく-がふいつ (チトクゴウイツ) (句) [知德合一] 不德ハ無知ナルニ因リテ生ジ、知レバ必ズ善ヲ行フ、畢竟、知ハ德ナリ、眞正ノ知識ハ卽チ道德ナリ。故ニ、行フト知ルトハ、兩者合一ニシテ、一體ナリト云フコト(希臘ノそくらてすノ敎旨)又、支那ニテ、明ノ王陽明ハ、知ト行トハ二ニアラズ、知ハ行ノ主意、行ハ知ノ工夫ナリト云ヒテ、知行合一ノ說ヲ主張セリ。

ち-とせ (名) [千歲・千年] (一)千(セン)ノ年(トシ)。センザイ。センネン。萬葉集、六ノ三十七「オクマヘテ、吾レヲ思ヘル、ワガセコハ、千年イホトセ、アリコセヌカモ」拾遺集、五、賀「三千歲ニ、ナルテフ桃ノ、今年ヨリ、花咲ク春ニ、アヒニケル哉」(二)數ヘツクセヌ程、多クノ年。萬葉集、十八ノ三十七「アシビキノ、山ノコヌレノ、ホヨ取リテ、カサシツラクハ、知等世ホグトゾ」拾玉集、四「嬉シクモ、ツミ水無月ノ、今宵カナ、千歲ノ命、ノブルハラヘニ」貫之集、六、賀「物每ニ、影水底ニ、ウツレドモ、千年ノ松ゾ、先ハ見エケル」

ちとせ-あめ (名) [千歲飴・千年飴] せんざいあめ(千歲飴)ニ同ジ。

ちとせ-がひ (チトセガイ) (名) [千歲貝] 螺ノ類。殼ノ大イサ七八寸、淡黃ニシテ褐色ノ橫線アルモノ。南海ニ產ズ。

ちとせのこゑ (名) 千年聲 千秋樂、萬歳樂、ト頌スル聲ナリト云フ。[illegible]集、廿、賀「琴ノ音モ、竹モ千年ノ、聲スルハ、人ノ思ヒニ、カヨフナリケリ」 續後拾遺集、廿、賀「伊勢ノ海ノ、渚ヲ淸ミ、スム鶴ノ、ちとせの聲ヲ、君ニ聞カセン」

ちどん (名) 遲鈍 ノロクシテ、ニブキコト。オロカナルコト。遲頓。

ちどめ (名) 血止 (一)傷ツキテ出ヅル血ヲ止ムル藥。止血藥。(二)さんきちさう(山漆草)ニ同ジ。

ちどめいし (名) 血止石 むみやうい(無名異)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

ちどめぐさ (名) 血止草 べんけいさう(辨慶草)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

ちどり (名) 千鳥 〔千ハ群飛スル意カ〕アマタノ小鳥。多クノ鳥。モモトリ。モモチドリ。 萬葉集、十六「吾ガ門ノ、榎ノ實モリハム、百千鳥、千鳥ハ來レド、君ゾ來マサヌ」 同、十七長歌「朝狩ニ、五百津鳥立テ、夕狩ニ、知登理(群鳥)蹈ミ立テ」 同、十九「夜降ニ、寢覺メテ居レバ、河瀨尋メ、心モシヌニ、鳴ク知等理カモ」 神代紀、下「沖津藻ハ、邊ニハ寄レドモ、眞床モ、能ハヌカモヨ、濱ツ智耐理ヨ」

ちどり (名) 千鳥 鵆 〔交鳥ノ義、飛ブ狀ヨリ云フ、或ハ云フ、鳴ク聲ヲ名トスト。鵆ハ鵆ノ異體ナリ。但シ、玉篇ニハ「鵆、荒鳥」トアリ、ちどりハ國訓〕(一)水禽ノ名。冬月、多ク河海ノ上ニ群リテ鳴ク。飛ブニ回旋リタル列ヲナス。鴫ニ類シ、鶺鴒ニ似テ小サク、頭、背、蒼黑ニシテ、頰白ク、眼ノ後ニ黑キ條アリ、背ハ青黑クシテ、胸翅ハ黑シ。腹白ク、尾短ク、脛、黄蒼ニシテ細長シ。脚ハ前三指ノミニテ、後指ヲ缺ク。種類多シ。海千鳥(呼潮)、河千鳥(水喜鵲)等アリ。 [illegible]「鵆、チドリ」 和玉篇「鵆、チドリ」 古事記、上「[illegible]浦渚ノ鳥ゾ、今コソハ、千鳥ニアラメ」 萬葉集、六、[illegible]長歌「濱淸ミ[illegible]ニハ、千鳥妻呼ビ」 同、十一、[illegible]「明ケヌベク、千鳥シバナク、シロタヘノ、君ガ手枕、イマダアカナクニ」 和泉式部集、四、水ノホトリニ千どりノタダヒトツ立テルヲ見テ「友ヲナミ、河瀨ニノミゾ、立居ケル、モモちどりトハ、誰カイヒケム」 (二)名香ノ名。ぢんノ一種。質ハ伽羅ナリト云フ。

ぢどり (名) 地鳥 にはとり(鷄)ノ條ヲ見ヨ。

ぢどり (名) 地取 〔うちどり(内取)ノ略〕(一)相撲ノ技ヲ習フニ云フ語。左ハ左同士、右ハ右同士ニテ取ルコト。又、各自ノ屬スル部屋ニテスル、相撲ノ稽古。 傾城買二筋道(寬政、梅暮里谷峨)一「下手觀音ヘ瘦ダチシテ、ちどりヲ六年モミ」 (二)圍碁ニテ、地ヲ廣クトルコト。ぢ(地)ノ條ノ(四)ヲモ見ヨ。(三)地面ノ區劃ヲナスコト

ちどりあし (名) 千鳥足 〔千鳥ハ、前三指ノミナレバ、兩足ヲ打交ヘテ走リ、歩ミノ亂ルルモノナレバ云フトゾ〕(一)馬ノ足並ノ、はらはらトシテ、千鳥ノ飛ブ羽音ノ如クナルヲ云フト。(五武器談) 太平記、十三、公家一統政道事「白瓦毛ナル馬ノ、云云、侍十二人ニ雙口ヲサセ、千鳥足ヲ踏マセテ、小路ヲ狹シト蹴歩」 (二)路ヲ行クニ、右ヘ片寄リ、又、左ヘ片寄リテ歩ムコト又、歩ムニ兩脚ヲ左右ヘ打チチガヘテ行クコト。ヨロメキ歩クコト。(醉人ナドニ) 蹣跚 類從往來「爛醉、チドリアシ」 新六帖、五「シホガレノ、[illegible]ノ浦ノ、千鳥足、踏ミタガヘタル、道モハヅカシ」

ちどりがけ (名) 千鳥掛 〔千鳥ノ足ニ[illegible]、歩ムニ兩足ヲ打チチガヘテ行ク狀ヨリ云フ〕(一)左右ニ列坐スル時ナド、斜ニ、第一右、第二左、第三右、第四左ノ如ク、交第ニ列ナルコト。 櫻陰比事(元祿、西鶴)四「東ヘ向クカト思ヘバ、南ノヤウノ時モアリ、サマザマ千鳥がけニ、道筋覺エヌヤウニ」 (二)縫ニ、絲ヲ斜ニ打交ヘツツ懸ケユクコト。エビスガケ。カこせこヌヒ。 [illegible](寶永、近松作)中「小袖ノ、云云、紅ノ調ベ緒、千鳥がけニカケサセ」

ちどりがひ (名) 千鳥貝 こぶがひ([illegible]貝)ノ類。形、鳥ノ如ク、色白クシテ、紫色ノ條アリ。コメガサノ。

ちどりぐさ (名) 千鳥草 いかりさう(碇草)ニ同ジ。

ちどりのかうろ (名) 千鳥香爐 千鳥ノ形シタル香爐。モト太閤秀吉ノ所持セシモノ。今ハ宮中ノ御物トナレリ。

ちどりはふ (名) 千鳥搏風 はふ(搏風)ノ條ヲ見ヨ。

ちどりやき (名) 千鳥燒 蛤ノ田樂ニ[illegible]ノムキミヲ、千鳥ノ形ニ見タツルモノ[illegible]

ぢない (名) 地內 一區ノ地ノ構內。境內。「寺ノ地內」

ちのう (名) 智囊 チエノフクロ。智謀ニ富メル人ヲ稱スル語。チエブクロ。 史記、樗里子傳「樗里子滑稽多智、秦人號曰智囊」

ぢなし (名) 地無 小袖ニ云フ語。[illegible]ノ地ニ、明キタル所ナク、一面ニ、縫物、摺箔ノ模樣アルモノ。 [illegible]「地無ノ小袖ト云フハ、婚禮、又ハ、年始ナドニ、[illegible]著タル時ハ、女ハ着ルモノナリ、コレ[illegible]」

ちなは (名) 千繩 [illegible] こきなは(扱繩)ニ同ジ。[illegible] 久安六年御百首[illegible]ちなは[illegible]

ちなまぐさし (形、二) 血腥 (一)鮮血ノ臭アリ。血ノ臭アリ。[illegible](二)轉ジテ、戰亂多シ。

ちなみ (名) 因 チナムコト。ユカリ。 [illegible]世ノ[illegible]リ備ハズ、御ちなみリ申スベシ」

ちなみみ (副) 因 コリテ。ツイデニ。[illegible]

ちなむ (自動、四) 因 〔[illegible]縁ニ結ブノ義〕 縁ニツク。ツナガル。[illegible]

ぢならし (名) 地平 (一)地面ヲ高低ナク平ニスルコト。(二)農具ノ一種。田畠[illegible]

ぢなり (名) 地鳴 地震ナドノ時ニ、地ノ下ニテ、鳴リ響キテ音スルコト。

ぢなり (名) 地形 チケイ。[illegible]

ぢにげ (名) 地逃 居住地ナドヲ逃ゲルコト。又、ソノモノ。流民。[illegible]

ちぬ (名) 茅渟魚 〔和泉國ノ古名、茅渟ノ海ニ出ヅルヲ佳トセシ[illegible]〕魚ノ名。鯛ノ色黑キモノ。くろだひ(黑鯛)[illegible]

闘ノ條ヲ見ヨ。チンダヒ。倭名抄、十九ニ「韻雌(?)、胡部(?)」字鏡「(?)、(?)」

ちぬけ (名) [稍抜] ぬけち(脱持)ニ同ジ。

ちぬし (名) [乳主] ウバ。メノト。源、三十四、上、若菜、上「ツネニ、コノ小侍從トイフ御ちぬしノモ、イヒハゲマシテ」

ぢぬし (名) [地主] 其土地ヲ所有スル主、土地ノ所有者。ヂシュ。享保集成絲綸錄、三十九、享保六年九月「町中人口之事ハ、地主共ヨリ差出シ候可ゝ被」

ちぬ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [衅] (血塗ルノ義) 刀劍ニ血ヲ塗ル。又、牲ノ血ヲ器ニ塗リテ神ヲ祭ル。(支那ニテ) 名義抄「衅、チヌル」孟子、梁惠王、上篇「牛何之、對曰、將以衅ㇾ鐘」史記、高祖紀、注「衅、祭也、殺ㇾ牲以血塗ㇾ鼓、曰ㇾ衅」韓非子「不ㇾ血ㇾ刃、虜必自敗矣」

ちね (名) [茅根] (ねハ根、羽ね、杵ね ノ類) 茅ト云フニ同ジ。

ぢねずみ (名) [地鼠] ひみず(地鼠)ニ同ジ。

ちねつ (名) [地熱] 地球内部ノ固有ノ熱。地中深キ所ノ熱。

ちのあまり (名) [血餘] すゑこ(末子)ニ同ジ。用明天皇職人鑑(錦木、近松作)二「子ニオロカハナケレドモ、ワケテ御身ハ血のあまり」

ちのあめ (名) [血雨] 刀傷ナドニテ、死傷多ク、流血ノ夥シキニ云フ語。「血の雨ヲ降ラス」

ちのいけ (名) [血池] 佛經ノ語。血ノ多ク湛ヘ居ルト云フ池。地獄ニアリトテ、世俗ノ人ヲ戒ムルニ云フ。懺悔ノ語トゾ。血盆經ニ「目連尊者、昔日遊、到羽州追陽縣、見一血盆池地獄、ノ中ニ、女人、許多受苦ノ罪ヲ受ケル見テ悲哀シ、獄主ト問答ス」「血の池地獄」

ちのう (名) [智能] (荀子、正名篇「所三以知ㇾ之、在ㇾ人者謂二之知一、所三以能ㇾ之、在ㇾ人者謂二之能一」) (一) チエノハタラキ。又、智慧ト、才能ト。戰國策、秦策「竭二智能一、示二情素一」史記、馮唐傳「得二盡二其智能一」「智能ヲ啓發シ、德器ヲ成就シ」(二) 物事ヲ正當ニ辨識シ得ル能力。智能犯トハ、智力才能ヲ利用シテ、罪ヲ犯スコト。

ちのなみだ (名) [血淚] 淚ツキテ、血出ヅルコト。又、血ノマジリテ出ヅル淚。甚シク哀ミテ、泣クトキノ淚。ケツルイ。紅淚 古今集、十六、哀傷「血の淚、落チテゾ瀧ツ、白川ハ、君ガ世マデノ、名ニコソアリケレ」大和物語、下「夜ㇾ夜泣キアカシ、朝ニ見レバ、淚ノカカリタル所ハ、ちの淚ニテナムアリケル」陸機詩「揮ㇾ腐涕泣、血淚彷徨」韓非子、卞和篇「抱二其璞一、而哭二於楚山之下一、三日三夜、淚盡而、繼ㇾ之以ㇾ血」

ちのひと (名) [乳人] メノト。ウバ。

ちのぼせ (名) [血逆] (一) 血風ノ爲ニ逆上スルコト。(二) のぼせ(逆上)ニ同ジ。

ちのみご (名) [乳呑兒] 乳ヲ呑ミテ居ルホドノ兒。乳兒。アカゴ。乳兒 孩兒 嬰兒 津國女夫池(享保、近松作)三「浪人ノウキ世踏、乳飮子二人ノ養育、心ニ任セズ」

ちのみち (名) [血道] (一) [脈] 血液ノ運ル道。血管。血脈。脈管。脈。倭名抄、三、肌肉類「血脈、脈、知乃美知、肉中血理也」名義抄「脈、チノミチ」天治字鏡、一、二「脈、脉也、血乃美知」同、四「脉、血道」書字千字文「經脈、チノミチ」(二) 多ク婦人病ニ云フ。(血の滿ノ義カトモ云フ) ヒステリイ、神經衰弱、腦貧血、腦充血、貧血症、婦人生殖器病、ナドヲ含ミタル病名。月經不順ニシテ、月經ノ時ハ、下腹痛ミテ胸ノ邊ニ迫リ、足腰引キツリ、手足ノ先冷エ、顏ノミホトリ、頭痛、逆上、眩暈シ、小事ニ怒リ、泣キ、苦慮ス。チノヤマヒ。チカタ。血風

ちのみば (名) [乳呑齒] 小兒初生ノ齒。六七歲ノ頃、永久齒ガ生フレバ脫スト。ミソッパ。乳齒

ちのめ (名) [乳目] 乳首ノ表面ニアル微細ナル孔。乳汁ノ出ヅル處。

ちのやまひ (名) [血病] ちのみち(血道)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

ちのり (名) [血精] スラスラト、血ノ粘リ附キタルモノ。粘リ附キタル血。

ぢのり (名) [地乘] 馬術ノ語。(一) 馬ヲ足竝揃ヘテ、步マスルコト。馬道捷徑秘傳集、二「馬ニ下乘、地乘、ス乘、庭乘ト云フ事有リ、云云、地乘ト云フハ、口ノワロキ馬ヲ乘リナホスヲ云フ」(二) ぢみち(地道)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

ちのりのゆぎ (名) [千箭靫] (千箭入の靫ノ約ト云フ) 矢ノ多ク入リタル靫。神代紀、上、廿「千箭之靫」注「千箭、此云二知能梨二」古事記、上、十「千人之靫」注「訓ㇾ入曰二能理一」

ぢのりぶね (名) [地乘船] (船乘ノ、沿海ヲ乘リマハシテ、唯、地山ヲ目當トスル船ノ義) 寬永年間ノきりしたんノ禁ニ伴ヒタル外國通交ノ停止後、五百石以下、一本柱ヲ最上ノ船制トスルモノ。

ちのわ (名) [茅輪] 又、菅拔。夏越ノ祓ニ用ホル具。茅ニテ大イナル輪ヲ作リ、人コレヲクグル、疫ヲ避クトゾ。(蘇民將來ノ條、見合ハスベシ) 世俗、コレヲ胎内潛ト云フ。每年、六月晦日ニ、諸方ノ神社ニテ行フ神事トス。淺茅ニテ大キナル輪ヲ鳥居ノ内ニ作リ、參詣人ニコレヲ潛ラセテ祓ヲスルナリ。其輪ヲ潛ル人ハ、左足ヲ踏ミ入レテ「水無月ノ、和(?)(?)ノ祓、スル人ハ、千トセノ(?)ハヒ、延ブト云フナリ」ト稱ヘテ、右足ヲ踏ミ入ルルモノトス。(此歌、三度繰リ返シ云フヲ例トス) コレヨリ、神官ノ持チタル茅麻ノ祓ニテ、總身ヲ清ムルト云フ。古ヘハ、コレヲ小サク作リ、腰ニモツケ、又、首ニモ懸ケシトゾ。現今ハ大イニ衰ヘタリ。アサヂノワ。アサヂノナハ。左繩。夫木抄、九、荒和祓「思フコト、あさぢのなはニ、トキツケテ、淸キ河瀨ニ、夏祓ヘシツ」同、同「(?)禮スル、今日ノあさぢの、左たは、荒フル神モ、心トクラシ」同、十一、女郞花「初秋ノ、あさぢのわこソ、ウレシケレ、女郞花ニモ、カケテ祈ラム」釋紀、七「以二茅輪一令ㇾ著二於腰上一、隨ㇾ詔令ㇾ著」

ちは (名) [痴話] (は(話)ハ、せわ(世話)ノ條ノ語原ヲ見ヨ) 夕ハケタル、ハナシ。寶永(?)集(寬永二十)二「道カクル、人ノサイカク」ちはナガラ、指セル六指ハ、上手ニテ」俳、俳諧 淫戲ヲちはト云、假字未ㇾ詳、云云、亦ちわニモ收ム」

ちはう (名) [地方] 都以外ノ地。ヂカタ。キナカ。又、其一方ノ地。

ちはうぎゃうせい (名) [地方行政] 地方官廳(府縣ナド)ノ行フ行政。

ちはうくゎん (名) [地方官] 國郡府縣ノ地方ヲ支配スル官。又、地方行政ノ事務ニタヅサハル官吏。

ちはうくゎんちゃう (名) [地方官廳] 一地方ヲ其區域トシテ、國家ノ政務ヲ行フ役所。道廳、府廳、縣廳ナドノ類。

ちはうけいさつ（チハウ・ケイサツ）（名）［地方警察］〔國家警察ニ對ス〕地方官廳ノ權限ニ屬スル警察。又、一地方ニ限ラレタル警察。

ちはうじ（チハウ・ジ）（名）［地方時］地球上、或地點ニ於ケル平均太陽時。

ちはうぜい（チハウ・ゼイ）（名）［地方稅］租稅ノ一。地方自治團體（道、府、縣、市、町、村ナド）ノ、其經費ヲ支辨スルタメニ、其住民ニ賦課シテ徵收スルモノ。其賦課ノ方法ニヨリテ、特別稅ト、附加稅トニ分カツ。（國稅ニ對ス）

ちばしる（ル・レ・ラ・リ・レ）（自動、四）［血走］（一）血、ホドバシル。（二）充血シテ、眼ノ色、赤ラミテ鋭クナル。（烈シク怒レル時ナドニ）明明天皇職人鑑（寶永、近松作）一、職人づくし「眼ノ内ハ八角ノ、池ノ水ニ紅葉バノ、散リ敷リ血筋血ばしッテ、スキマモガナト、覗ミヨル」

ぢはだ（ジ・ハダ）（名）［地肌］（一）生得ノ皮膚。持統天皇歌軍法（正德、近松作）二「詞ハ山家育ナニモ、天ノナシタル顏カタチ、花ノ地肌ノ雪ト、目元ニ位備ハリテ」（二）刀劍ノ刃文。刀劍ノ身ノ［illegible］、義經記、五、判官吉野山落事「金作ノ太刀ノ、云云、ちはだ心モ及バザルヲ取リ出ダシ」

ちはつ（名）［薙髮］〔薙ハ他計切、正音てい、ちハ慣用音〕ていはつ（剃髮）ニ同ジ。［illegible］

ちばな（名）［茅花］茅ノ花。ツバナ。萬葉集、八「茅花拔ク、淺茅ガ原ノ、ツボスミレ、今盛リナリ、吾ガ戀フラクハ」

ちばなれ（名）［乳離］小兒ノ哺乳ヨリ、［illegible］

升波眞作（寶永、近松作）上「大將ノ御姬様ノ乳離れ、御病氣モ出しハイカヽトテ」

ちはふ（チ・ハ・フ・ウ）（フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ）（他動、四）［幸］〔さちはふノ略〕いちはやぶる、ちはやぶるノ例〕幸ヲ與フ。（神ヨリ）名義抄「朋、チハフ、カタチハフ、トモ」［illegible］

ちばむ（ム・メ・マ・ミ・メ）（自動、四）血、マサニ出デムトス。血ヲ含ム。血、ニジム。

ぢばん（ジ・バン）（名）［地盤］（一）地球ノ外部ノ固形ナル部分。（二）土臺トナル處。シタグミ。非難抄「堂ハ上ヨリ組ムコトナシ、地盤ヨリ組ミアゲタルヤウニ、下句ヨリヨムナリ」（三）基礎トスル地。事ヲモノスル根據地。

ちはや（名）［襅］〔逸速ノ約、袖ヲ束ネテ動作ニ使ニスル意ト云フ〕神ニ事フル婦女ノ襷ナルベシ。倭名抄、十二「衣服具「襅、［illegible］」」司式「細布襅一條」

ちはや（名）［千早］〔前條ノ語ノ轉〕巫女ノ着ル衣。即チ小忌衣ナリト云フ。一重ノ布ニテ作ル。身一幅、袖一幅ニテ、木型モテ、山藍ニテ春草、水草、蝶鳥ノ類ヲ摺ル。袖ハ縫ハズ、紙縒ニテ括ル。拾遺集、十、神樂歌「御社ヨリトテ、ちはや着タル老女ノ、文モテマデ來リケルヲ」讃岐典侍日記「ちはや着タル者ドモ」

ちはやびと（枕）［千早人］〔最速人ノ約。〕次條ヲ見ヨ〕宇治（山城ノ地名）ノ枕詞。［illegible］ヲトリニ、ハヤケム人シ、ワガモコニコム」萬葉集、七「千早人、宇治川浪ヲ、清ミカモ」

ちはやぶる（枕）［千早振］〔最速ぶるノ約、勢鋭キ意、神ニモ人ニモ、猛卑善惡共ニ用キル〕［illegible］神トアリ、宇治、［illegible］ちはやきト云フ［illegible］ニアラズト云フ說モアレド、［illegible］冠スレバ、枕詞ト認ム［illegible］（古語拾遺）天平神護［illegible］ラケキ時ニ仕ヘマツリ［illegible］人カ仕ヘマツラフ［illegible］夜キ時ニ、命ヲ惜マズ［illegible］ヲモチテ、朝廷ヲ守リツカヘマツル人ドモヲコソ［illegible］神、人、宇治（山城ノ地名）ノ枕詞［illegible］同、中（景行）四「到于相武國之時、其國造詐曰、於此野中有大沼、住是沼中之神、甚道速振神也」萬葉集、十一「千早振、神ノ保テル、命ヲモ、誰ガ爲ニカハ、長クホリスル」同、二十［illegible］ヌレバ」［illegible］渡リニ、サヲトリニ、ハヤケン人シ、ワガモコニコム」

ちはら（名）［茅原］茅ノ生ヒタル野原。茅生。新六帖、六「春山ノ、フル野ノちはら、今日ヨリハ、レバ、ツバナ摘ムベク、ナリゾシニケル」

ちばわらひ（チ・バ・ワラ・ヒ）（名）［千葉笑］古ヘ、毎年、十二月晦日ノ夜、諸人、［illegible］千葉寺（今ノ千葉市ニアル、眞言宗、海上山ト號ス）ニ集リ、各、面ヲ覆ヒテ、地頭、村長ナドノ奸曲ヨリ、人人ノ不良ノ行事［illegible］ト。其怠慢ヲ譏ムルナリトゾ。［illegible］

［illegible］

ちび（名）［小］身長ノ矮小ナルモノヲ、嘲リテ云フ語。

ちび（名）［禿尾］［illegible］

ちびき（名）［千引］［illegible］

ぢびき（ジ・ビキ）（名）［地引］地網ヲ海ニ張リ、陸ヘ引寄セ、魚ヲ捕ルコト。其網。

ぢびきあみ（ジ・ビキ・アミ）（名）［地引網］前條ニ同ジ。［illegible］マキアミ。地引網。

ちびきいし（名）［千引石］次條ノ語ニ同ジ。又、ちびきのいし。［illegible］

ちびきのいは（チ・ビキ・ノ・イハ）（名）［千引石］チビキノイシ。［illegible］イサル磐ナビキノイシ。古事記［illegible］

ちひさう（チイ・サウ）（名）［illegible］ちひさし小ノ條ノ（三）ノ音便。［illegible］

ちひさがたな（名）［小刀］［illegible］

[illegible]、云ム、[illegible]子、上ドノ時、ちひさ刀ニハドケラレタリ」[illegible]、小刀ノ[illegible]、是モ柄ヲ下ニナシ、刃ヲ人ノ左ニシ、左ノ手ノ[illegible]ニ[illegible]ヘテ[illegible]ソスル也」

〔ちひさ-あけ（チイサキ・コケ） (名) 石ナドノ上ニ生フル小ナル苔。 倭名抄、廿、苔類「石衣、知比佐木古介」一本苔和名、上四十五「鳥韭、知比佐岐古介」

〔ちひさ-もの（チイサキ・モノ） (名) 褌 〔或ハ云フ、形、小サキ帷子(カタビラ)ニテ作ル故ノ名ナリト。字鏡集、六ニ、松、ユカタヒラ、シタノハカマ、ト見ユ〕 下(シタ)ノ袴。たふさぎ(犢鼻褌)ニ同ジ。 倭名抄、十二、衣服類「褌、知比佐岐毛能」 名義抄「褌、チヒサキモノ」

〔ちひさ-あどねり（チイサ・コドネリ） (名) 小小舍人 チヒサキコドネリ。 神樂歌、大宮「大宮ノ、ちひさ〻どねりヤ、テラニヤテラニヤ、玉ナラバテラニヤ」

ちひさ・し・キ・ケレ・ク・ク（チイサ・シ） (形、二) 小 〔禿狹(チビサシ)ノ義カ〕 (一)〔嵩(カサ)、少シ。大キカラズ。 字鏡七十五「閾、知比佐支井」 伊勢物語、六十九段「ちひさきワラハヲ、サキニタテテ、人タテリ」 拾遺集、九、雜、下、三「位閑章、ちひさき瓜ヲ扇ニオキテ、藤原カネノリニモタセテ」 (二)低(ヒク)シ。幽(カスカ)ナリ。狂言記、鐘音「鐘、云云、コレハ又、ちひさい音デゴザル」「聲小さし」 (三)〔幼(ヲサナ)シ。イトケナシ。チッコイ。チッチャイ。チチッコイ。チサイ。 倭名抄、七人倫、中國婦負部「小子、知比佐古」 字類抄「小、チヰサシ」 天治字鏡、三十一「小兒、知比佐伊人也、又和良波」 源、四、夕顏四十「ちひさき子ドモナドノ侍ルガ」 雄略紀、六年三月「汝宜二自養(ヒタシ)一嬰兒、蜾蠃(スガル)即養二嬰兒於宮墻下一、仍賜レ姓爲二少子部連(チヒサコベ)一」 (四)イササカナリ。ワヅカナリ。スクナシ。(事ニ) 名義抄「小、チヒサシ」

〔ちひさ-やか-に（チイサ・ヤカ・ニ） (副) 小 小サキ狀ニ。 源、四十九、東屋十八「年十五六ノ程ニテ、イトちひさやかニ、フクラカナル人ノ」 落窪物語、一、上「草子(クサモチ)二種、御遣ニ種、ちひさやかニ、ラカシウテ、サマザマナリ」 源、十三、明石八「渚ニちひさやかナル舟寄セテ、人二三人バカリ」

〔ちひさ-わらは（チイサ・ワラハ） (名) 内豎 〔小童ノ義〕 官名。童ニテ、禁中殿上ニ仕ヘ奉ルモノ。チサワラハ。ナイジュ。 倭名抄、五四官名「内監(豎ノ誤)、知比佐利(和ノ誤)良波」

ちひさ-わらは（チイサ・ワラハ） (名) 小童 小サキワラハ。子供。小兒。幼童。セウドウ。

ぢ-びた（ジビタ） (名) 地邊 ぢべた(地邊)ノ訛。

⁂ちび-ちび (副) 少少 少シヅツ。ワヅカヅツ。チビリチビリ。

ちひちゃ・い（チイチャ・イ） (形) 小 ちひさし(小)ノ條ノ(三)ノ小兒語。チッチャイ。

〔ち-びと (名) 千人 センニン。多クノ人。 源、十、榊四十四「ちびとニモカヘツベキ御サマニテ」

ぢ-ひびき（ジ・ヒビキ） (名) 地響 地面ニ響ヲ立ツルコト。地面ノ動キ響クコト。又、ヂナリ。 浮世風呂(文化、三馬)二編、下「イイ背ダノ、ケ、ズッシリト地響きガシテ、格別ナモンダ」

ちび-ふで (名) 禿筆 毛ノスリキレタル筆。先ノナクナリタル筆。先ノチビタル筆。トクヒツ。敗筆

ぢ-びゃう（ジ・ビョウ） (名) 持病 〔身ニ持ツ病ノ意〕 モチマヘノヤマヒ。常ニ病ミ艱ム病。宿痾 宿疾 痼 痼疾 明月記、文暦二年正月四日「持病相發、常如二絶入一、非三出仕之身一」

ちびり-ちびり (副) ちびちび(少少)ニ同ジ。「ちびりちびり飲ム」

⁂ち・びる (動) 禿 ちぶ(禿)ノ口語。

〔ち-ひろ (名) 千尋 極メテ長ク、又、測リ難ク深キコト。倘、ひろ(尋)ノ條ヲ見ヨ。 神代紀、下二十「以二千尋栲繩(チヒロノタクナハ)一結爲二百八十紐一」 萬葉集、十九四十長歌「ナグ矢モチ、千尋射ワタシ、劍タチ、腰ニトリハキ」 後撰集、十三、戀「伊勢ノ海ノ、千尋ノ濱ニ、拾フトモ、今ハ何テフ、カヒカアルベキ」 夫木抄、三十三、繩「エゾシラヌ、ちひろノ繩ヲ、沈メテモ、及バヌ海ノ、底ノ心ヲ」 拾玉集、五「ナカナカニ、モモニココノツ、足ラヌコソ、ちひろニ餘ル、ナサケナリケレ」 賴政集、上「君ガ代ハ、ちひろノ底ノ、サザレ石ノ、鵜ノヰルホドニ、アラハルルマデ」

ぢ-ひろ（ジ・ヒ・ロ） (名) 地火爐 地上ニ設ケタル爐。ユルリ。ヰロリ。チクヮロ。地爐 字鏡七「爐、火呂、又、可可利」 榮花物語、十八、玉臺「御厨子所ノ方ヲ見レバ、云云、袂アゲタル法師バラノ、ツキヅキシキ五六人、ちひろノモトニ居ナミテ、食物(オモノ)コトイソグメリ」(一本、ちくゎろト讀ミタリ) 宇治拾遺、二、第五條「地火爐(チホロ)ニ、火オコシナドシテ」(一本作二地火爐一)

ちひろ-ぐさ (名) 千尋草 竹ノ異名。

ぢひろ-ついで（ジヒロ・ツイデ） (名) 地火爐次 饗應スルコト。(海錄、十六ニハ、國司ヲ饗應スルコトト見エ、碩鼠漫筆ニハ、興宴ニテ一種物ノ類カ、ト見エタリ) 續古事談、一、王道后宮「皇[illegible]祭所ニテ、地火爐ついで」 奧州後三年記(永保)「陸奧ノナラヒ、地火爐ついでトナム云フナリ」

ちひろ-の-かみ (名) 千尋神 深キ海ノ底ナル神。 新千載集、八、羇旅「渡ツ海ノ、千尋の神ニ、手向スル、ヌサノ追風、ヤマズ吹カナム」

〔ち-ふ (名) 乳癰 妬乳 〔乳生(チフ)ノ義カト云フ〕 婦人ノ、乳ノ腫ルル病。ニュウヨウ。 倭名抄、三三十瘡類「乳癰、知布、婦人乳腫也」(一本作二乳府一) 名義抄「乳府、チフ」

ち-ふ (名) 地膚 はうきぐさ(帚草)ニ同ジ。

〔ち-ふ（チュウ） (句) と言ふノ音便約。奈良朝以前ノ語。(歌詞)後ニ、てふ(チョウ)。 萬葉集、十六廿九長歌「韓國ノ、虎(トラ)云(チフ)神ヲ、生取ニ、八頭取リ持チ來」 同、五七長歌「フミヌギテ、行ク智布人ハ」 同、十八四十四「オキツ島、イユキ渡リテ、潛(カヅ)ク知布、[illegible]玉モガ、ツツミテヤラム」 同、六三十四「我ヤドノ、梅咲キタリト、告ゲヤラバ、來(コ)云(チフ)ニニタリ、散リヌトモヨシ」

〔ち-ぶ (名) 茅生 ちはら(茅原)ニ同ジ。 萬葉集、十二、四十「アサヂハラ、茅生(チフ)ニ足フミ、ココログミ、吾念フ兒等ガ、家ノアタリ見ツ」

〔ち・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 禿 〔小(チビ)ノ活用、潰(ツブ)ルト通ズト云フ〕 摩レテ潰(ツブ)ル。ツブ。 字鏡集「禿、ツブ」 和玉篇「禿、ツブル」 塵添壒囊抄、五、四十九條、和泉式部歌「筆モちび、ユガミテ物ノ、書カルルハ、コレヤ難波ノ、惡筆(アシデ)ナルラム」 太平記、十一、書寫山行幸事「齒ちびテ、僅ニ殘レル杉ノ履(アシダ)アリ」 雄略紀、七年八月「役(ツブレナル)以二小雄鷄一、呼爲二天皇鷄一、拔レ毛剪レ翼、云云、見レ禿、鷄勝、亦拔レ刀而殺」 盛衰記、四十四、癩人法師口說言事「扉號カクニ爪つびズ、勘當カブルニ齒カケズ」 三代實錄、三十四、元慶二年九月八日「改二鑄鋼印一面一、賜二安藝國一、以二前印文字刓(チビル)滅一也」 同、四十二、元慶六年十月十日「新二鑄鋼印一面一、賜二土佐國一、以二前印文字漫刓一也」 續後紀、纂詁、十九、嘉祥二年三月「伊賀國言、國印文歷二年代一、文字刓缺、行用不レ明、[illegible]宜二鑄造充一レ之」「筆ノ毛ちぶ」

ぢぶ-きゃう（ジブ・キョウ） (名) 治部卿 古ヘ、治部省ノ長官。ヲサムルツカサノカミ。 續紀、四、和銅元年三月「從四位下彌努王、爲二治部卿一」

ぢ-ふく（ジ・フク） (名) 地幅 〔地伏(シキミ)ニテ、地中ニ埋マル意カ〕 (一)門ノ閾。ケハナシ。 庭訓往來(寫本、古注、永祿天正)「藥醫門ハ左右ニ二ツノ柱ヲ立テ、上ヲ重ク、地伏ノ木ニ鋼ヲクルミ、地ニ埋ムルナリ」 甲陽軍鑑、十五、品第四十二「門ちふくノ事」 (二)土地ノ質。地質。 東海道名所記(萬治)一「砂ホコリハタチアガル、サレドモ地ふくノヨキ所ト聞コエタリ」 (三)土臺。モト 源氏冷泉節(寶永、近松作)下「子ノ五人ヤ十人ハ、地幅サヘヨケレバ、年年ニモ出來ル事」

ちぶくら（名）［乳服］（一）つづみ（腰鼓）ノ條ヲ見ヨ。（二）三味線ノ、棹ノ上、絲倉ノ下、左右ヘ圓ク脹レタル處ノ名。訛シテ、チブクロ。

ぢぶくろ（名）［地袋］床ノ間ノ側ノ下方ニアル小サキフクロ戸棚。

ちぶさ（名）［乳房］人ノ胸ノ左右ニ凸ク出デタルモノ。小サキ頭アリ、乳首ト云フ。男ナルハ、低小ニシテ更ニ用ナシ。女子ナルハ、大キク出デ、兒ヲ生メバ、乳首ヨリ乳汁ヲ出ス、兒ヲ哺育スルニ、大切ナルモノナリ。獸ナルハ、胸、腹ニアリテ、其數、許多アルモアリ。遊仙窟「奶房、チブサ」靈異記、上、第廿三縁、訓釋「姻房、チブサ」會丹集、長歌「乳母刀自ノ、ちぶさノムクイ、スルホドニ、クルナツゴトニ」拾遺集、廿、哀傷「人ナシシ、ムネノちぶさヲ、ホムラニテ、ヤク墨ゾメノ、衣キヨ君」同、同卷「モモ草ニ、ヤソ草ソヘテ、給ヒテシ、ちぶさノ報、今日ゾワカスル」宇津保物語、俊蔭、上三十六「アガ佛ノ御ユカリニハ、骨舍利ノ中ヨリモ、アマキちぶさハ出來ナム」

ちぶしやう（名）［智部省］天平寶字二年、宮内省ノ改稱。後、幾許モナクシテ舊名ニ復セラル。續紀、廿一、天平寶字二年八月「幸勅改二易官號一云云、宮内省、供二諸産業一、廻二聚供御一、習水周流、生物相似、故改爲二智部省一」

ぢぶしやう（名）［治部省］ヲサムルツカサ、古ヘノ八省ノ一。吉凶ノ禮儀、雅樂、僧尼、及、蕃人、陵墓ナドノ事ヲ掌ル。職員令「治部省、卿一人」注「掌二本姓、繼嗣、婚姻、祥瑞、喪葬、贈賻、國忌、諱、及、諸蕃朝聘事一」

チフス（名）［窒扶斯］「希臘語、τῦφος. ヲ語原トスル羅甸語、Typhus.」急熱性傳染病。一種ノ菌（窒扶斯菌）ヨリ起ル。症狀、最モ腸ヲ犯シヤスシト。ちやうちふす（腸窒扶斯）ニ同ジ。チブス。

ぢ-ブツ（名）［持佛］奉持ノ佛。常ニ、身ニ添ヘ持ツ佛。源、五、若紫「此西オモテニシモ、持佛スエ奉リテ、行フ尼ナリケリ」同、四十四、橋姫五「持佛ノ御カザリバカリヲ、ワサトセサセ給ヒテ」榮花物語、廿三、駒競「トシ頃、多寶ノ御塔ヲ、一尺バカリニ造リミガキタテサセ給ヒテ、ヤガテ御ぢぶつニト、すゑシオキテサセ給ヘリケル」

ぢブツだう（名）［持佛堂］持佛、又ハ、祖先ノ位牌ナドヲ安置スル堂。佛壇。祠堂。狹衣、三、中五「入道ノ宮ハ、御持佛だうノ妻戸、押シアケサセタマヒテ」

ヂフテリア（名）［實布的里亞］〔希臘語、διφθέρα. ヲ語原トスル佛蘭西語、Diphthérie. ヨリ轉ジタル英語、Diphtheria.〕傳染病ノ一。一種ノ菌（實布的里亞菌）ノタメニ、扁桃腺ニ、灰白色ノ膜ノヤウナルモノ出來テ、喉ニ痛ミヲ感ジ、甚シキハ鼻喉頭ニ及ビテ、窒息スルアリ。血清注射ニテ治ス。ばひふう（馬脾風）ノ條ヲ見ヨ。

ぢぶと（名）［地太］太キ絲ニテ織リタル織物（地細ニ對ス）

ちふね（名）［千船］アマタノフネ。萬葉集、六、四十七「濱キヨミ、ウラナツカシミ、神代ヨリ、ちふねノトマル、大ワダノハマ」散木集、五、戀「キミガ代ハ、ちふねノヨスル、オホワタニ、タツサザナミノ、カズモシラレズ」

ちぶみ（名）［血文］血ニテ書キタル文（起請、契約ナドニ）血書。[illegible]

ちぶりのかみ（名）［道觸神］旅路ニ、海、陸、共ニ、其路ニ行キ罷ルル所ノ神ヲ、手向ケスルニツキテ云フ稱ナラム ト云フ。袖中抄、十九「行ク今日モ、歸ラム時モ、[illegible]」土佐日記、正月廿一日「ワタツミノ、ちぶりノ神ニ、手向スル、[illegible]ノ追風、ヤマズ吹カナム」

ちぶるひ（名）［血振］（一）婦人ノ産後、血ノ道ニテ、身ノフルフ病。血暈。[illegible]年代記（元祿、近松作）三「セキ上ゲセキ上ゲ、涙ヲ絞リ氣ヲ揉ミ上ゲ、血ぶるひ頻リニ息騷リ」（二）人ヲ斬リタル時ナド、刀ノ血ヲ振ヒ落スコト。（三）猛獸ナドガ、他ノ生物ヲ咬ミタル後、其口ニ附キタル血ヲ、身振ヒシテ落スコト。

ちへ（名）［千重］アマタ重ナリタルコト。萬葉集、五、卅「ハロバロニ、オモハユルカモ、白雲ノ、千重ニ隔テル、筑紫ノ國ハ」同、十七、四十二「[illegible]ル、事ハ知敷重ク、シカノミニ、オモヒテ君ヲ、アガマタナクニ」同、廿、[illegible]「[illegible]ハ、[illegible]ニ隔リ[illegible]、コヒシクノ、オホカルワレハ、見ツツシメバム」

ちへ（名）［立ノ字ヲ、二字ニ、ちへ、ト云フ］立ツコト。[illegible]二云フ語。伊勢物語、九十四段「秋ノ夜ハ、春日ワスルル、モノナレヤ、[illegible]ヤ、[illegible]」

ちへい（名）［治平］世ノ治リテ、タヒラカナルコト。和平。太平。[illegible]

ちへい（名）［地平］（英語、[illegible]ノ譯語）大地上ノ平面、天空ト地ノ平面ト、相接スルガ如ク見ユル所。地平線。

ちへう（名）［地表］地球ノ表面。

ぢべた（名）［地面］[illegible]ノ俗ナリ。[illegible]ニハ、[illegible]ノ轉訛シテ、ぢびた。地面。地ノホトリ。

ちほ（名）［地歩］タチバ。地位。立脚地。

ちほ（名）[illegible] 路上ノ[illegible]キンチャクキリ。すり（掏摸）ニ同ジ。（大阪）

ちほわき（名）［[illegible]］[illegible]

ちほいお（名）[illegible] [illegible]ちほいお、[illegible]ノ訛。[illegible] ウツコトリツおほいおトホフハ、[illegible]訛リナリ」

ちほう（名）［智謀］[illegible]

ちぼく（名）［雉口］クロゴメ（玄米）ノ異稱。[illegible]

ぢほそ（名）［地細］細ソキ絲ニテ織リタル織物（地太ニ對ス）

ちほゆ[illegible]［小[illegible]］[illegible]代ノ奴詞）[illegible]

ちまう（名）[illegible]

ちまき（名）［粽［illegible］］[illegible] 刈ル故ハ、[illegible]ノサ[illegible]、イツカ忘レン」[illegible]ト云」[illegible]

キザミテ、シャウブノ葉ノ若キヲ割リテ、其中ニ入レテ結ヒ、本ニ色色ナル糸ニテマキテ、時ノ花ノ、ウツクシキナテシコ、アツサキ、シモツケ、アフヒ、シャウビノ花ヲモチテ飾リタルヲ云フ」[illegible]

ちまき-うま (名) [茅卷馬] 茅、又ハ、菰ナドニテ作リタル馬（古ヘ、端午ニ用ヰタル小兒ノ玩具。後ニハ七夕ノ手向トストゾ） 散木集、十、雜、下、連歌「ヲサナキチゴノ、ちまき馬ノ持チタルヲ見テ、ちまきむまハ、クヒカラキハゾ、ニタリケル」胡瓜ノ牛ハ、引ナカラナシ」 [illegible]集、十九、夏「五月五日、人ノ許ヘ菖蒲ヲ遣ハストテ、ヨミ侍リケル、ワリナクゾ、アヤメノフチヲ、心ザス、ちまき馬ヲヤ、引キ出ダストテ」

ちまき-ざさ (名) [粽笹] 熊笹ノ異名。此葉ニテ、粽ヲ包ムガ故ニ名トス。

ちまた (名) [岐][衢][巷] （道股ノ義） (一) 路ノ支アリテ、方方ヘ分ケ行クベキ所。路ノ岐トナレル所。ワカレミチ。字鏡「岐、知万太」靈異記、上、序、訓釋「岐、知万太」古事記、上「[illegible]所成神名、道俣神」 (二) 衢、里ノ中ノ路。ワウライ。ワウクワン。倭名抄、十「道路類、巷、知末太、里中道也」字鏡「[illegible]、所、知万太」靈異記、下、第十[illegible]、訓釋「巷[illegible]」萬葉集、十一「橘ノ、蔭履ム路ノ、八衢ニ、物ヲゾ思フ、妹ニ逢ハズテ」同、十二「海石榴市ノ、八十ノ衢ニ、立チナラシ、結ビシ紐ヲ、トカマク惜シモ」 武烈即位前紀、仁賢天皇十一年八月「海柘榴市巷」 (三) 水ノ別ルル所。字鏡「汊、水別也、[illegible]、知万太」 (四) トコロ。場所。場。北條五代記「[illegible]」七、河越にて鏡軍事「關ノ聲、矢サケビノ音ノミヤムコトナク、修羅ノちまたトナレリ」「合戰ノ衢」

ちまた-の-かみ (名) [衢神][岐神] (一) 衢ヲ守ル神。道ノ神。さへのかみ（道祖）ノ條ヲ見ヨ。 (二) 猿田彦神ヲ云フ。其條ノ(一)ヲ見ヨ。

ちまちまと (副) チンマリシタル狀ニ云フ語。コヂンマリト。

ちまつり (名) [血祭] (一) 戰、出陣ナドノ前ニ、牲ノ血ヲ以テ、軍神ヲ祭リ、將ヲ祈ルコト。[illegible] 關東八州古戰錄、三、武州村岡河原軍「首共實檢シテ、軍神ノ血祭ニ、イシクモ能クセリト悅喜ヲナシ」 (二) 最初ニ敵ナドノ首ヲ切ルコト。 曾我物語、四、不レ得レ語ニ小次郎ニ事「小次郎カ細クビ打落シ、九萬八千ノイクサ神ノちまつりニセン」 軍神問答「合戰ノ日、最初ニ敵ノ首ヲ切ル事ヲ、軍神ノ血祭ニスルト云フ事アリ」

ぢまつり (名) [地祭] ぢちんさい（地鎭祭）ニ同ジ。

ちまつり-ばうず (名) [血祭坊主] 江戸時代、將軍、及、三家、三卿ノ行列ニ、必ズ伴フ一人ノ同朋ノ稱。其道中ニ、不慮ノ爭鬪、起ル時ハ、先ヅ此ノ同朋ヲ斬リテ、血祭ニ供セシ故ノ名ナリトゾ。 俚言集覽「俗ニ、同朋ヲ血祭坊主ト云フ」

ちまなこ (名) [血眼] (一) 怒リ、又ハ、逆上シテ、血バシリタル眼。 盛衰記（異本）二六、日向太郎通良懸首事「眉ノ毛ヲ逆ニナシ、血眼ニ見エテ、庭上ヲ狂ヒ廻リケレバ」 (二) 狂奔スル狀ニ云フ語「血眼ニナッテ探ス」

ぢまはり (名) [地廻] (一) 其土地ノ近邊ノ地方ヨリ送リ來ルコト。（海路遠隔ノ地ナドヨリ來ルニ對ス）「地廻ノ米」地廻ノ酒」 (二) 其土地ノ近邊ニ住メルコト。土地ノ子。「地廻ノ若者」 (三) 其地方ノ近邊ヲ巡廻スルコト。「地廻ニ出ヅ」地廻ニ出デ」地廻船」地廻商人」

ちまぶれ (名) [血塗] 血ニ染ミ塗ルルコト。血ダラケニナルコト。チマミレ。チミドロ。[illegible] 吉野都女楠（正德、近松作）三「血まぶれノ中箱、御前ニサシ出シ」

ちまみれ (名) [血塗] 前條ノ語ニ同ジ。

ちまやかに (副) モノヲ狹クスル狀ニ云フ語。チヂマヤカニ。「廣キ所ヲちまやかに構ヘ（ワカツ）」ちまやかに引キツボムル」

ちまよ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [血迷] 烈シク怨ミ怒リナドスルヨリ、上衝テ、精神、狂フ。逆上シテ、精神錯亂ス。感情亢進ス。ノボセル。

ちま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [とまるノ東詞] アツマル。トドマル。滯在ス。 萬葉集、廿、長歌「馬ノ爪、筑紫ノ崎ニ、ちまり居テ」

ちみ (名) [地味] 地質ノ肥瘠、土質ノ良否。 盛衰記、廿四、南都合戰同燒失事「那蘭陀寺ノ戒壇ノ土ニ、ヒトシキ地味ヲ本朝ニ被レ尋シニ、今ノ戒壇院、地味オナジキニ依テ」

ちみ (名) [魑魅] （魑ハ、山ノ神ノ、獸ノ形シタルモノ、魅ハ、澤ノ神ノ、人ニ祟ルモノト云フ） スダマ。山ノ神。 玉篇「魑魅、老精物也」史記、五帝紀「乃流ニ四凶族ニ遷ニ于四裔ニ以御ニ魑魅ニ」張衡、西京賦「禁ニ禦不若ニ以知ニ神姦ニ魑魅魍魎、莫ニ能逢ニ旃」

ぢみ (名) （素地ノ飾ラス意ナラム、或ハ、老成染ナドノ略語カトモ云フ） (一) 人ノ裝飾、氣象ナドニ、衒ハズ、華ヤカナラヌコト。（華美ノ反） 木地ノ味。[質][樸][樸素] (二) スコヤカナルコト。（眞羽ノ達者。[健全] (三) コメ（米）ノ一稱。 易林節用集（慶長）食服門「地味、ヂミ（米也）」

ちみち (名) [血道] 血ノ通フミチ。チスヂ。血管。血脈。血道をあぐトハ、痴情ノ爲、ノボセアガル、有頂天ニナル意。

ぢみち (名) [地道] (一) 徐ニ歩ムコト。[緩步] (二) 馬術ノ語ニ、馬ノ足並ヲ常ノ如ク歩マスルコト。地乘。 (三) 權變ヲ用ヰズ、尋常ノ程度ヲ守リ行クコト。

ちみつ (名) [緻密] (一) キメノ、コマカナルコト。又、細工ノコマカキコト。[illegible] (二) 精密。ヌケメノナキコト。綿密。

ちみどろ (名) [血塗] ちまぶれ（血塗）ニ同ジ。 今昔物語、廿五、第四語「寄リテ見レバ、血肉ニテ死テ臥タリ」同、廿六、第九語「互ニヒシヽヽト咋フ程ニ、共ニ血肉ニ成ヌ」沙石集、一、下、第十條「我舌モ、クチビルモ、皆クヒキリテ、血みどろニ成テ、クルヒ死ニニケリ」 著聞集、十六、興言利口「アルナマ職人ノ妻、云云、鑑ノ首ヲ投ゲ出シタリケリ、血みどろ成ル物ノ、三四寸バカリナレバ」 舊今昔物語、三十、第五語「[illegible]腥ニハ、蛭ト云フ物食付テ血肉也」同、廿九、第三語「杖ニ隨テ、血走リ肉亂ケルヲ、八十度打チテケリ」

ぢみやうゐん-りう (名) [持明院流] せそんじりう（世尊寺流）ノ條ヲ見ヨ。 日本教育史資料、十九「書體、云云、和様ハ御家流、持明院流、近衛流、蜂喰流」

ちみゃく (名) [地脈] 地形ノ連レルスヂ。又、地層ノ連レル筋道。 史記、蒙恬傳「城壍萬餘里、此其中不レ能レ無レ絕ニ地脈ニ」

ちん (名) [珍] メヅラシキコト。 禮記、儒行篇「儒有ニ席上之珍ニ以待レ聘」「希世ノ珍トス」

ちん (名) [賃] (一) 錢ニテ雇ヒ使フコト。 (二) 作業、借用ナドニ報ユル錢。チンセン。備功錢「船賃」手間賃」駄賃」運賃」 (三) 他人ノモノヲ借リ、又ハ、使用シタルタメニ、其償ヒニ拂フ錢。「店賃」借屋賃」

ちん (名) [鴆] 支那ニテ、鳥ノ名。梟ニ似、紫黑ニシテ、喙赤黑ク、頸ノ長サ

七八寸、大毒アリ。羽ヲ以テ酒ヲ攪キテ人ニ飲マシムレバ、卽時ニ死スト云フ。(或ハ云フ、鴆毒トハ、孔雀ノ頭毛ノ毒ナリト) 國語、晉語「置鴆於酒ニ」左傳、莊公三十二年「使鍼季酖ニ之」本草集解、陶弘景曰、鴆鳥出ニ廣之深山中ニ、啖蛇、人誤食ニ其肉ニ立死、昔人用ニ鴆毛ニ爲ニ毒酒ニ、故名ニ鴆酒ト云云、蘇恭曰、鴆鳥出ニ商州以南江嶺間ニ、其肉腥有レ毒、不レ堪レ啖」

チン (名) 亭 〔字ノ宋音〕 園庭、丘陵ナドニ立ツル小サキ家ノ名。方形ノ四阿ニテ、四柱ニシテ壁ナク、床ナシ。アヅマヤ。あづまや(東屋)ノ條ノ(四)ヲモ見ヨ。 下學集、上、家屋門「亭、チン」 謠曲、定家「時雨ノ亭トテ、ヨシアル所ナリ」「紅葉ノ亭」

チン (名) 狆 〔小犬ノ略約ノ、ちいぬノ略。又、狆ハ中犬ノ合字ニテ、中ノ支那、近世音、(Chung) ノ音ヲ借ルト〕 狗ノ一種。舶來ノ一種ヨリ繁殖シ、家中ニ畜フコト猫ノ如シ。大イサ猫ノ如クナレドモ、小サキヲ貴ブ。毛長クシテ、白毛ニ黑斑アルヲ常トス、性、怜悧活潑ナリ。 猧子狗 其至ッテ小ナルヲ、まくら狆ト云フ。 倭狗 馬鐙狗 續纂國史、百九十四、天長元年四月「渤海國使物、云云、又契丹、大狗二口、猧子二口」 續山の井「珍花トテ、アイス、べいかノ、犬哉」

ちん (代) 朕 (一) 支那ニテ、古ヘ、自己ノ稱。貴賤、トモニ稱セリ、秦ノ始皇、皇帝ノ自稱ト定メシヨリ、歷代コレニ因ル。 書經、皐陶謨篇「皐陶曰、朕言惠、可レ底レ行」 (二) 天皇ノ自稱シ給フ代名詞。マロ。ワレ。(文章ノ上ニ) 史記、始皇紀「天子自稱曰レ朕」 續紀(稱德天皇)廿五、天平寶字八年十月壬申、詔「朕ガ天ノ先帝ノ御命モチテ、朕ニ勅トタマヒシク、天ノ下ハ、朕ガ子汝ニ授ケタマフ」 萬葉集、三ニ「イナトイヘド、強フルシヒノガ、強語ヲ、此頃聞カズテ、朕戀ヒニケリ」

ぢん (名) 陣 (一) 戰爭ニ軍勢ヲ列ヌルコト。隊伍ヲ編制スルコト。 論語、衞靈公篇「衞靈公問ニ陳於孔子ニ」 唐太宗、帝範序「躬擐ニ甲冑ニ親當ニ矢石ニ、夕對ニ鳴鏑ニ、晨臨ニ鐵陣ニ」 「長蛇ノ陣」 (二) 軍勢ノ屯スル所。陣所。陣屋。 營 江濃記「備前守毛川ヲシヅシヅト越シ、御舍寺村ニ陣ヲ移ス」「陣ヲ取ル」「陣ヲ張ル」 (三) 〔近衞、衞門等、武衞ノ官人ノ居ル所。〕 枕草子、一、第三段「左衞門ノぢんナドニ、殿上人アマタ立チナドシテ」 禁祕抄「左近ノ陣」 古今集、二、春、下「春宮ノ帶刀ノ陣ニテ、櫻ノ花ノ散ルヲ」

ぢん (名) 沈 沈香ノ略。 拾遺集、十九、雜、戀「ちんノ枕ヲソヘテ侍リケルヲ、返シオコセタリケレバ」 後拾遺集、十九、雜、五「ちんノ筋」 源、十七、繪合卷「ちんノ箱ニ、センカウノ下机、青地ノコマノニシキ、アシユヒノクミケソクノ心バヘナド、イトイマメカシ」 太平記、三十七、畠山道誓事「沈ノ枕ニ錦子ノ宿直物」 榮花物語、八、初花「ちんノ脇息、シロガネノカウガイ」 枕草子、九、九十一段「宮ハ、ちんノ御火桶ノ、梨繪シタルニ向カヒテオハシマス」

ちん-あ (名) 沈痾 久シク癒エヌ病氣。沈痾。 晉書、樂廣傳「沈痾頓愈」

ぢん-あい (名) 塵埃 チリホコリ。アクタ、ゴミ。 莊子、逍遙遊篇、野馬也、塵埃也、生物之以息相吹也」 戰國策、齊策「[illegible]」 平家物語、十、維盛出家事「流水清流裏着レ塵埃ヲ、ン共覺エタリ」

ちん-あつ (名) 鎭壓 〔壓ハ、乙甲切、音あふ。あつハ入聲音〕 オシシヅムルコト。オサヘツクルコト。 晉書、[illegible]傳「[illegible]巳、是以[illegible]」

ちん-い (名) 珍異 メヅラシキコト。珍奇ナルコト。又、其モノ。珍奇。 [illegible]、[illegible]「凡[illegible]」

ちん-うつ (名) 沈鬱 [illegible]

ぢん-えい (名) 陣營 (一) ぢんや(陣屋) ニ同ジ。(二) 陣ヲシクコト。[illegible] 二[illegible] 後漢書[illegible]、[illegible]凡八萬、六千陣中、[illegible]武[illegible]」

ちん-えふ (名) 椿葉 〔椿ハ、[illegible]〕 莊子、逍遙遊篇ニ「上古有ニ大椿者ニ、以ニ八千歲ニ爲レ春、八千歲爲レ秋」トアルヨリ、珍シキ、稀ナル意ニ云フ」 メヅラシキコト、稀ナルコト。 平家物語、[illegible]

ぢん-おし (名) 陣推 軍隊ヲ進ムルコト。チカヂン。進軍。 續撰清正記「陣おしノ道中ニテ、相陣ニハ、或ヒハ父子、或ヒハ兄弟」

ぢん-かい (名) 塵芥 (一) チリアクタ。ゴミ。 太平記、六、[illegible]「[illegible]命ヲ塵芥ヨリモ輕クス」 (二) 輕キモノニ、喩ヘテ云フ語。 [illegible]行「[illegible]塵芥」

ぢん-かう (名) 沈香 熱地ニ產ズル香木ノ名。樹ハ、常綠喬木ニシテ、もちのきニ似タリト云フ。材ヲ舶來ス、其質、木心、堅ク重クシテ、水ニ沈ムガ故ニ名アリ、香料トス。黑色、赤色等、品類多シ。沈水。略シテ、ぢん。一名、伽羅。 [illegible]

ぢん-かう-ぼく (名) 沈香木 [illegible] 「[illegible]フ、海中ニ入リテハ、沈香トモ號セリ」

かしはノ如ク、秋、紅葉スルモノ。きゃら(伽羅)ノ條ノ諸原ヲモ見ヨ。

ちん-かく (名) 珍客 メヅラシキ客人。稀ニ來ル客人。チンキャク。

ぢん-がさ (名) 陣笠 (一) 古ヘ、戰場ニ用キ[illegible] [illegible]ノ用トス。 戎ハ、木製、漆塗ニテ、將士ノ用[illegible] [illegible]

ぢん-がさ-れん (名) 陣笠連 (一) 雜兵ノ仲間。(二) 部下ノ僕。(三) 黨ノ主義、意見モナク、頭立タルモノノ下ニ、甘ンジテ居ルモノノ稱。

ちん-かし (名) 賃貸 賃ヲトリテ、ヤノ[illegible]コト。損料貸。

ぢん-がね (名) 陣鐘 [illegible] 古ヘ、陣中ニ用キ[illegible]

ぢん-がね (名) 陣鉦 ヒキガネ。軍隊ヲ退ク時ニ打ツ鉦。

ぢん-がひ (名) 陣貝 陣中ニテ、軍勢ヲ進退スルニ吹キ用キル法螺貝。時螺。

ちん-が-ちん-が (副) 燈火ノ閃ニ、サビシゲニ閃ク狀ニ云フ語。(出雲方言)

ちん-がら (名) 珍柄 メヅラシキ織物[illegible]

ちん-がらり (副) 物ノルシテ鏡リアラ[illegible] 狀ニ云フ語。 [illegible]、[illegible]ちんがらり[illegible]、アリタケ[illegible]

ちん-がり (名) 賃借 賃ヲ出シテ物ヲ借

ルコト。チンシャク。損料借。

ちん-き (名) 沈毅 〔沈着剛毅ノ略〕 オチツキテ、モノニ臆セザルコト。三國志、明帝紀、註「明帝沈毅斷識、任レ心而行」注「明帝天姿秀出、立髮垂レ地、口吃少レ言、而沈毅好斷」

ちん-き (名) 珍奇 メヅラシキコト。又、其モノ。珍異。後漢書、竇融傳「大官致二珍奇一」

ちん-き (名) 珍貴 珍シトシ、タフトブコト。珍シク、タフトキコト。三國志、魏志、荀彧傳、注「不レ意衰宗近出二老蚌一、甚珍二貴之一」

ちん-き (名) 珍器 珍シキウツハモノ。戰國策、燕策「珠玉財寶、車甲珍器、盡收入二燕一」

チンキ (名) 丁幾 〔英語、Tincture.ノ下略語、丁幾ハ、其支那譯〕 あるこおるニテ、或藥材ヲ溶キタル液。「沃度丁幾」「樟腦丁幾」

ぢん-きち (名) 陣吉 〔武田信玄ノ命名セル所ト云フ〕 布ノ財布ノ稱。長キ袋ニテ腰ニ帶ブルモノ後ニ革トナルト、(靜岡縣ニテハ、麻布ナドノ大イナル錢入ノ稱)

ちん-きん (名) 沈金 漆器ニ、畫樣ヲ毛刻リニシテ、刻目ニ金粉ヲ込メタルモノ、赤地ナルヲ金朱ト云ヒ、黑地ナルヲ金黑ト云フ。香合、印籠等ニアリ、多ク、琉球ニ產ズ。又、沈金蒔繪。沈金彫。鏤金

ちん-きん (名) 珍禽 常ニ異ナリテ珍シキ鳥。書經、旅獒篇「珍禽奇獸、不レ育二於國一」

ちん-ぎん (名) 賃銀 ちんせん(賃錢)ニ同ジ。

ちん-ぎん (名) 沈吟 (一)クリカヘシテ、口遊スルコト。カスカニ、口中ニテ吟ズルコト。李白詩「笑讀曹娥碑、沈吟黃絹語」(二)考ヘ込ムコト。ウレヘナゲクコト。魏武帝、短歌行「但爲レ君故、沈吟至レ今」

ちんきん-ぼり (名) 沈金彫 ちんきん(沈金)ニ同ジ。戧金 剩金 嬉遊笑覽、二、下「張汝弼ガ楊義士ノ傳ニ、宣德間ニ、人ヲ倭國ニ遣ハシテ、泥金畫漆ノ法ヲ傳ヘテ歸ラシム、楊埍コレヲ習ヒテ、又自己ノ意ヲ出シ、五色金鈿ヲ施シ、物色天眞ニ稱ヘリト有リ、然ラバ、泥金畫漆ハ、ココヨリカシコヘ傳ヘタルナリ、樁井モソレラノ時ニ來テ、遂ニココニ止マリシニヤ、彼國、泥金畫漆ナキ頃ニハ、皆戧金ノ漆器ノミナリ、戧金ハ鎗金トモイフ、コレ沈金彫ニテ、堆朱ノ類ニ非ズ」

ちんきん-まきゑ (名) 沈金蒔繪 ちんきん(沈金)ニ同ジ。

ちん-きゃく (名) 珍客 タマサカニ來レル客。チンカク。

ちん-くゎ (名) 鎭火 火災ノ鎭マリ消ユルコト。又、火事ヲ鎭メ消スコト。

ぢん-くゎい (名) 塵灰 (一)チリト、ハヒト。(二)轉ジテ、火ニ燃エテ、形ノナクナルコト。盛衰記、十六、三井寺燒失事「カクヤン事ナキ聖跡ニ、兵俗亂レ入リツツ塵灰トナス事、有レ心人皆歎キケリ」

ちん-くゎ-さい (名) 鎭火祭 ヒシヅメノマツリ。其條ヲ見ヨ。

ちんけい-ざい (名) 鎭痙劑 神經ノ中樞、末梢ナドニ作用シテ、痙攣ヲ鎭ムル藥。鎭痛劑。鎭靜劑。

ちんけい-ざい (名) 鎭經劑 神經ノ興奮ヲ鎭ムル藥劑。

チンケウ (名) 聽叫 〔字ノ宋音。住持ノ叫呼ヲ聽キテ、使令ヲ受クル意〕 佛經ノ語。禪家ニテ、住持ノ側ニ侍シテ、使命ヲ受クルモノ、聽呼。易林節用集(慶長)人倫門「聽叫、チンキョウ」運步色葉集「聽叫(禪家童子之名)」南庭燕語、下「勅脩淸規云、左右住持、聽二叫呼一、受二使令一者也」庭訓往來(玄惠)九月「侍者、聽叫、請客」

ちん-げん (名) 陳玄 〔陳ハ古、玄ハ墨ノ義。唐ノ世、絳州ヨリ墨ヲ貢シ、弘農ヨリ瓦硯ヲ貢シ、會稽ヨリ紙ヲ貢ス、故ニ各品ヲ人ニ擬シテ云フ〕 (一)墨ノ異名。韓愈、毛穎傳「穎與二絳人陳玄、弘農陶泓、及、會稽楮先生一友善」(二)誤リテ、硯ノ異名トス。下學集、下、器財門「陳玄、チンゲン、硯異名也」

ちん-こ (名) (一)袖ナシ半纏。(靜岡)(二)陰莖ノ稱。(小兒語)

ちん-ご (名) 鎭護 禍難、兵亂ナドヲ鎭メ守ルコト。盛衰記、廿五、行二御齋會一事「南都北嶺ハ、國家鎭護ノ道場」「王城ノ鎭護」

ぢん-ご (名) 陣伍 ぢんだて(陣立)ニ同ジ。

ちん-こ-きり (名) 賃粉切 賃錢ニテ、烟草ヲ刻ムヲ業トスルコト。又、其モノ。

ちん-こつ (名) 枕骨 耳後ノ高キ骨。

ちん-こん-さい (名) 鎭魂祭 タマシヅメノマツリ。其條ヲ見ヨ。

ぢん-こふ (名) 塵劫 〔塵點劫ノ略〕 佛經ノ語。極メテ永遠ナル年代。エイゴフ。ヤウゴフ。無量劫數。楞嚴經、一「縱經二塵劫一、終不レ可レ得」法華經、化城品「如人以レ力、磨二三千大千土一、盡二此諸地種一、皆悉以爲レ墨、過二於千國土一、乃下二一塵點一、如レ是展轉點、盡二此諸塵墨一、如レ是諸國土、點與二不點一等、復盡末爲レ塵、一塵爲二一劫一」齊書、顧歡傳「稱二已成佛一有二塵劫之數一」

ちん-ころ (名) 小犬子 〔いぬころ(犬兒)、及、ちん(狆)ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕 チヒサキイヌコロ。俳諧金毫錄(享保)「八瀨ノ薪繩ヲ、齧ルちんころ」

ちん-ざ (名) 鎭座 神靈ノ其地ニ鎭マリ座スコト。神留リマスコト。古事記、中(景行)五十「於二其地一作二御陵一鎭坐也」崇神紀、十年九月「以二忌瓮一鎭二坐於和珥武鐰坂上一」

チンサウ (名) 頂相 〔字ノ宋音〕 禪家ニテハ、ちんざう。祖師ナドノ半身ノ眞影。梁簡文帝文「結縄披髮、頂相光明」天林集(笠仙和尚)「畫二宗師頂相一、宜二面西向一」易林節用集(慶長)器財門「頂相(御影)」

ちん-ざう (名) 珍藏 珍器ナド、愛シテ藏メ置クコト。珍襲。後漢書、宦者傳、序論「南金和寶、氷紈霧穀之積、盈仞珍藏」

ちん-さつ (名) 鴆殺 鴆毒ヲ呑マセテ殺スコト。(鴆、鴆ノ條ヲ見ヨ)毒殺。漢書、高五王傳「呂太后徵レ王、到二長安一、鴆二殺之一」

ちん-し (名) 沈思 深ク考フルコト。思ヒニ沈ムコト。南史、傅縡傳「縡篤レ學、未レ嘗起レ草、沈思者無二以加一焉」「沈思默考」

(ちん-し) (名) 鎭子 筵席ナドノ鎭壓ニスルモノカ。徐氏筆精「鉤照白紵歌、香味瑤席鎭二屏渠一、鎭壓レ席之物、卽今之鎭子也」倭名抄、十四、八坐臥具「鎭子、陳之」雅亮裝束抄、一「柱ノモトゴトニ、柱ヨセノ外ニ、ちんしヲオク」

ちん-し (名) 珍事 (一)メヅラシキコトガラ。高歡庭、瑞麦賦「夫瑞也、百王之珍事、其生也、二儀之大德也」(二)變事。椿事。平治物語、一、光賴卿參内事「若臣共ニ自然ノ事モアラバ、天下ノ珍事、王道ノ滅亡、此ノ時ニアルベシ」珍事中夭トハ、珍事、中ニシテ止ムノ意。

ぢ-むし (名) 地蟲 (一)園圃ノ土中ニ生ズ。形ハいもむしノ如ク、長サ一寸許、色白クシテ、首赤ク、尾黑シ、草ノ根ヲ食ヒ、嫩苗ヲ切リテ害ヲナス。故ニねき

りむしノ名モアリ、土上ニ出ヅレバ、竦ミテ動カズ、故ニ、古名ヲすくもむしト云フ。春ノ後、土中ニテ腹蛸(ニシドチ)ニ化シ、後ニ羽化シテ蟬トナル、其一種、長サ三寸許ナルハ、秋蟬、山蟬トナル。蠐螬 運歩色葉集「地蠶、ヂムシ、ネキリムシ、スクモムシ、ニシドチ」(二)又、蟲ノ名。アマンジャコ。地面ニ、一分許ノ穴ヲ作リテ棲ム。燈心ヲ油ニ浸シテ入ルレバ、付キテ出ヅ長サ一寸許、黃白色ニテ、首ハ赤黑シ、形、むかでノ如ク、背ニ二ツノ封(ヤマ)アリテ、駱駝ノ如シ。又、アマノジャコ。一名、ニフダウムシ。

ぢん-じ(ジン-ジ) (名) 【塵事】 世間ノ俗事。世俗ノ煩ハシキ事。(厭ヒテ云フ) 陶潛、赴假還江陵夜行塗中作詩「閑居三十載、遂與塵事冥」

ちん-しう(チン-シユウ) (名) 【珍羞】 〔周禮、天官篇、膳夫、注「羞、有滋味者」〕(一)メヅラシキクヒモノ。珍饌。後漢書、和帝紀「遠國珍羞、本以薦奉宗廟」遊仙窟「海陸之珍羞」注「羞、美食也」(二)メヅラシキ膳部。珍膳。

ちん-じん (名) 【陳人】 〔陳ハ、古(フル)シ、即チ時代オクレノ無用ノ人ノ義〕雅號ノ下ナドニ添フル語。莊子、寓言篇「人而無以先人、無人道也、人而無人道、是之謂陳人」蘐園隨筆、歸來且喜是陳人

ちん-しゃ (名) 【陳謝】 ワビヲ云フコト。アヤマルコト。隋書、梁睿傳「主者多獲罪、睿陳謝」太平記、三十三、菅田左兵衞佐義興自害事「竹澤ガ所帶ヲ沒收シテ、其ノ身ヲ被追出ケリ、竹澤、一言ノ陳謝ニモ不及」

ちん-じゃう(チン-ジヨウ) (名) 【陳狀】 (一)狀況、有樣ナドヲ陳述說明スルコト。漢書、劉向傳「顯[illegible]之[illegible]、指[illegible]陳狀」(二)武家時代ニ、訴訟ノ際、原告ノ訴狀ニ對シテ、被告ノ提出スル答辯書ノ稱。(訴狀ニ對ス) 吾妻鏡、七、文治三年八月八日「梶原平三景時、原二郎行能、押領於長野、淳晴寺領之由、有寺家訴之旨、被仰下之間、就彼寺家、兩人、各被陳狀、以之可被付職事」

ちん-じゃう(チン-ジヨウ) (名) 【陳情】 情實ヲ述ブルコト。楚辭、九章篇、惜往日「願陳情以白行兮」

ちん-しゅ (名) 【鎭守】 (一)兵ヲ以テ其地ヲ鎭(シン)メ守ルコト。晉書、武帝紀「鎭守要害」(二)其土地ヲ鎭メ守ル神。(古ヘノうぶすなのかみノ轉)又、其社。盛衰記、三、一院女院嚴島御幸事「當社ハ是レ當國第一ノ鎭守ニ御坐ス」(三)寺院內ノ魔障ヲ拂フタメニ、其境內ニ勸請スル神。伽藍神。土地神弘法大師正傳、上「於高野金剛峯寺、先勸請鎭守」

ちん-じゅつ (名) 【陳述】 言葉ニ述ブルコト。マウシノブルコト。陳說。五代史、韓建傳「與建、前自陳述」

ちん-じゅ-ふ (名) 【鎭守府】 (一)古ヘ、陸奥國、多賀城ニ、後、膽澤(イサハ)郡ニ置カレタル府邊要ヲ守リ、蝦夷ヲ鎭メ、國司ト並ビテ事ヲ行フ。四等ノ官ハ、將軍、副(スケ)將軍、軍監(ケンジヨウ)、軍曹(サクワン)、ナリ。此將軍、三位以上ノ人ノ任ズルトキハ、鎭守府大將軍ト云フ。續後紀、三、承和元年七月「[illegible]陸奧鎭守府南一面」(二)今ハ、各軍港ニ置カレ、鎭守府司令長官ノ統率ノ下ニ、防禦計畫、出師準備、海軍區警備、等ノ事ヲ管掌ス。

ちん-しょ (名) 【珍書】 世ニ珍シキ書物(シヨモツ)。

ちん-しょ (名) 【枕杵】 キヌタト、キヌタノツチ[illegible]。古[illegible]「[illegible]」

ぢん-しょ(ジン-シヨ) (名) 【陣所】 陣ヲ[illegible]ケタル所。陣屋。陣營。兵營。軍營。[illegible]

ぢん-しん(ヂン-シン) (名) 【塵心】 俗界ノケガレタル心。俗懷。俗念。塵慮。塵襟。白居易詩「[illegible]」ヨロコビ、淺井御所へ[illegible]」

ちん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變) 【陳】 (一)[illegible]ニ陳ブ。[illegible]。(二)言ヒシロフ。[illegible]。抗言。太平記、二、俊基朝臣再關東下向事「[illegible]」八事」(三)言譯(イヒワケ)ス。曾我物語、四、三浦のかたかひが事「陳ずるトハ[illegible]」

(一)ちん-すゐ(チン-スイ) (名) 【沈水】 ぢんかう(沈香)ニ同ジ。榮花物語、十六、本雫「イロイロノ花ノ枝ヲ、深ク淺ク、ニホハシカヲリ、樹陰、ちんすゐニシミカヘリ」同、十七、音樂「サマザマノ寶ノ香ヲタキタレバ、[illegible]ノウチ、庭[illegible]、沈水ノ香ニ充チ滿テリ」

ちん-すゐ(チン-スイ) (名) 【沈醉】 酒ニ醉ヒツブルルコト。酩酊。後漢書、[illegible]傳「[illegible]、不[illegible]」平治物語、一、源氏勢汰事「イツモノ沈醉ナレバ、カカル一大事ヲ思ヒ立チナガラ、醉ヒ伏シテ」

ちん-せい (名) 【珍星】 そんせい(存星)ニ同ジ。[illegible]

ちん-せい (名) 【鎭星】 どせい(土星)ニ同ジ。淮南子、天文訓「中央、土也、[illegible]」「太[illegible]」

ちん-せい (名) 【鎭靜】 シヅマリ靜ナルコト。治メシヅムルコト。晉書、高密傳「[illegible]」

ちん-ぜい (名) 【鎭西】 [illegible]。大宰府ヲ、一時、筑紫鎭西府ト改メシヨリ云ヘリ」九州ノ稱。[illegible]「鎭西九國佐人等」「鎭西奉行」

ぢん-せい(ジン-セイ) (名) 【塵世】 世俗ヲ厭ヒテ云フ[illegible]

[illegible]ナリノ[illegible]タル[illegible]。

ちん-ぜいは (名) 【鎭西派】 淨土宗ノ一派。[illegible]ノ[illegible]ノ開山、[illegible](法然ノ弟子)ニ起ル。後、分レテ六派トナル。

ちん-ぜいふ (名) 【鎭西府】 (一)古ヘ、筑紫ニ置キテ、其地方ノ鎭撫トセラレタル府。將軍、判官、主典等ノ官ヲ立ツ。[illegible](二)後ニ、大宰府ノ一稱。

ちん-せき (名) 【陳迹】 ソノアト。昔ノアト。古蹟。舊蹟。[illegible]

ちん-せき (名) 【枕席】 マクラト、シキモノ。[illegible]枕席ニ侍ストハ、婦人ガ男子ノ夜トギヲナスツ、ハノ。

ちん-せつ (名) 【珍說】 メヅラシキハナシ。珍談。荀子、正名篇「小家珍說之所願、皆衰矣」

ちん-せん (名) 【[illegible]】 [illegible]

ぢん-せん (名) 【[illegible]】 [illegible]

ぢん-ソウ (名) 【[illegible]】 [illegible]

ぢん-ぞく (名) 【[illegible]】 [illegible]

ちん-た [illegible]

り、其語ナリト。

チンダ　(名)　〔葡萄牙語、Vinho-tinto.ノ略訛、Vinho.ハ、葡萄酒、tinto.ハ、赤色ノ義〕往時、南蠻人、蘭人等ノ舶來セシ葡萄酒ノ名。長崎港草(寛政、熊野正紹)「珍酡(チンダ)酒」

ちん-たい　(名)　沈滯　(一)沈ミ滯(トドコホ)ルコト。後漢書、袁安傳「久議沈滯、各有ㇾ所ㇾ志」(二)久シク下位ニアリテ、昇級セザルコト。論衡(漢、王充)「在ㇾ下不ㇾ遊、故有二沈滯之留一」

ちん-だい　(名)　鎭臺　(一)一地方ノ鎭守ノ兵營。又、明治二十一年五月以前ノ師團ノ稱。「大阪鎭臺、熊本鎭臺」(二)又、一地方ヲ治ムル官。(文官ニ)

ぢん-だい(ジン-ダイ)　(名)　陣代　(一)陣屋ヲ留守スル役、地方ノ代官。奧羽永慶軍記(戸部正直)三十三、慶長五年大森合戰「由利ノ人人、早打ヲ以テ、秋田ニ告ゲシカバ、城之介實季、陣代トシテ」(二)出陣ノ代官。軍代。

ぢん-だいこ(ヂン-ダイコ)　(名)　陣太鼓　昔、陣中ニテ、軍勢ノ進引ヲ示スニ打チシ太鼓。カカリダイコ、オシダイコ、戰鼓。

ちん-たう(チン-トウ)　(名)　陳套　フルキ事物ノ範圍。フルキカタ。フルクサキコト。舊套。

ぢん-だて(ジン-ダテ)　(名)　陣立　軍勢ヲ列ネテ、戰ニ備フル法。ヂンゾナヘ。排陣。陣伍。嬉　川中島傳記、天文八年七月廿七日、興國御陣立之見物」

ちん-だひ(チン-ダイ)　(名)　魚ノ名。ちぬ(海鯽魚)ニ同ジ。クロダヒ。

ちん-だん　(名)　珍談　メヅラシク、面白キ話。珍話。珍說。

ぢん-たんばう(ジン-タン-ボウ)　(名)　陀螺　ブシャウゴマ。バイゴマ。こま(獨樂)ノ條ヲ見ヨ。燕居雜話、六、陀螺「陀螺ハ、江戸ニテハ、ばいごまト云フ物ナリ、田舍ノ方言ニ、ぢんだんばう、又ハ、ぢんぐりナド云フニヤ、其形小サキ丸木ヲ削リ立テ、細キ鞭ノ先ニ一條ノ紐ヲツケテ、クルクルトカラミテ引起シ、紐モテ鞭スレバ、轉スルニ隨テ廻ル」嬉遊笑覽、六、下「陀螺ト漢土ニ云フモ、獨樂ヲ廻シタルニコソ、今ノばいごまハ木ニテ作レリ、云云、廻ス紐ハ、ハカタゴマノ緒ノ如シ、コレニテハ、コマノマヒ終ハラムトスル時、打タタクニ不便ナルベシ、今ハ作リ華ヲ細ク截テ、短キ竹ノ先ニツナギタリ、越谷ヨリ日光山ノワタリニテ、ぢたむばうト云フ、其形尖リタル處、イササカクビレテ、木口ニ穴ヲホラズ、紐ヲ竹ニ付タルコトハ同ジ、ぢたんばうトハ、地蹈蹈房ナルヘシ、地蹈蹈ハ、俗ニぢだんだふむト云ヘル是ナリ、房ハ、側ノ人ニ准ヘテイヘルコト、常ニ多シ」

ぢん-ち(ジン-チ)　(名)　陣地　軍隊ヲ配備シテ、攻擊、防禦スル地。陣取ル場所。陣所。

ちんちく-りん　(名)　矮小　ズングリミジカキコト。ヒキビト。小男。吉原五十四君(其角)「大女房およめト聞タルちんちくりんガ妹小鶴トヤ」一休諸國物語「江州ニ竹林寺ト申ス寺アリ、此ノ住持ノセイハ三尺バカリアリケリ、云云、一休立チテ踊ラレケル、君ガ來タトテ枕ガ知ロカ、枕ナ投ゲソ音ハナシ、ちくりん、チクリン、ちんちくりん、サアチクリンヂャ程ニ、キソンナ、踊リハナンヨ、サテチ、センヤコロサ、ト唄ヒカナデテ」

ぢんぢ-ばしより(ジンジ-バショリ)　(名)　〔爺端折(ヂヂハシヨリ)ノ音便〕衣ノ脊縫(セヌヒ)ノ、裾ヨリ七八寸上ノ處ヲ摘ミ蹇ゲテ、帶ノ結目ノ下ヘ插(ハサ)ミ端折(ハショ)ルコト。ぢんぢんばしょり。アヅマカラゲ。東海道中膝栗毛(享和、一九)二編、下「多クハ股引、草鞋ニテ、イヅレモちんちばしょりナリ」

ちん-ちん　(名)　(一)嫉妬(ヤキモチ)ニ狂フコト。(二)支那人ノ、人ニ別ルル時、珍重(チンチン)ト云ヒテ拱(コマヌ)クコト。(兩ノ手先ヲ共ニシテアゲル)(三)犬ノ後足(アトアシ)ニテ立チテ、前足(マヘアシ)ヲアグルニ云フ語。(四)ちんちんかもノ略。(五)陰莖ノ稱。(小兒語)

ちん-ちん　(感)　踊ニ狂亂アリ、安名(ヤスナ)ノちんちんト云ヒテ、多クハ、戀ノ物狂ヒヲナス時、舞人ノ舞臺ニ狂ヒ出ヅル際ノ三絃ノかけり、卽チちんちんちんちんちん、ツンツンツンツン、ツツンツンツンツント彈ク音ナリ。

ちんちん-かもかも　(句)　男女間ノ親密ナル狀ヲ云フ語。チンチン。松の葉(元祿)三、祭文「寢ニ寄セ來ル浪ノ音、ナノ、タル千鳥ノ聲ノ響ガ、ちんちんちん、かもノアシ、愛ハルマジマジ、此世ハサテオキ、後ノ世モ」

ちんちん-と　(副)　沈沈　(沈ハ、深ナリ)(一)夜ノ更(フ)ケ行(ユ)ク狀ニ云フ語。李白詩「月寒天淸夜沈沈」(二)靜マリテ、音モナキ狀ニ云フ語。ヒッソリト。平家物語、七、福原都落事「雲海沈沈とシテ、靑天既ニ暮レナナントス」(三)奧フカキ狀ニ云フ語。(コノ場合ニハ、たんたんトモ讀ム)史記、陳涉世家「夥頤、涉之爲ㇾ王、沈沈者」(夥頤ノ頤ハ助字ナリ)

ちんちん-と　(副)　陳陳　物ノ古ビタル狀ニ云フ語。漢書、食貨志「太倉之粟、陳陳相因」

ぢんぢん-と(ジンジン-ト)　(副)　陣陣　(一)風ノ吹キシキル狀ニ云フ語。(二)キレギレニ續ク狀ニ云フ語。トギレトギレ。林逋詩「陣陣寒香壓ㇾ麝臍」

ぢんぢん-ばしより(ジンジン-バショリ)　(名)　ヤジカラゲノ類。ぢんぢばしょりニ同ジ。

ちんちん-ぶし　(名)　小唄ノ節ノ一種。下ノ出典ヲ見ヨ。松の葉、三、ちんちんぶし「ナラヌ戀ナラ、ヤメタモマシヨ、沖ノチンチン千鳥ガ、ハネ打チガヘノ濡衣、投ヨイ中、ソレガジヤウヨ」

ちんちん-もがもが　(名)　次條ノ語ニ同ジ。

ちんちん-もんがら　(名)　又、ちんちんかもかも、チンガラコ。兒童ノ遊戲、片足ヲ後(ウシロ)ニアゲ、他ノ片足ノミニテ飛ビユクコト。(チグハグ)後撰夷曲集(天明)「伊勢參、アコギガ浦ニ、引ク足モ、タビカサナレバ、ちがちがゾスル」長唄、隣取問宅「ちんがらこ」

ぢん-ちゃう-げ(ジン-チョウ-ゲ)　(名)　沈丁花　〔香、沈香(チンカウ)ノ如ク、花、丁子(チャウジ)ニ似タリトテ名トス〕樹ノ名。高サ三四尺、枝幹繁茂シ、多ク三叉ヲナス。葉、細長クシテ厚ク、互生シ、冬ヲ經テ凋マズ、春ノ半ニ、枝ノ頂ニ花アリ、數十、聚リ開ク、筒咲ニシテ、末、四瓣ニ分ル、丁子ノ如シ、大イサ四五分、內ハ、粉紅、外ハ紫赤ニシテ、香氣烈シ、實ヲ結バズ。山礬。瑞香。

ちん-ちゃく　(名)　沈着　落チツキテ、輕率ナラヌコト。法書苑「世稱二沈著痛快一」

ぢん-ぢょ(ジン-ジョ)　(名)　塵除　てんぢゃう(天井)ニ同ジ。甲子夜話(松浦靜山)五「今世ニ、天井ト謂フモノハ、塵除(チンヂョ)ト唱フヘシ」

ちん-ちょう　(名)　沈重　オチツキテ、物事ニ動ゼスコト。沈厚。後漢書、劉愷傳「伏見二前司徒劉愷、沈重淵懿、道德博備一」

ちん-ちょう　(名)　珍重　(一)珍(メヅラ)シト重ンズルコト。朗詠集、下「珍重紅房透二曉簾一」(二)メデタシト喜ビ祝フ語。學山錄(藤原明遠)六「俗間書牘、有二珍重語一、此有ㇾ所ㇾ本、文粹載、裴度寄二李翺一書、末云、胆猶希只顧、珍重珍重、刀書無ㇾ餘、又壕崎賜臣、珍重識二人保貴自重如二珍寶一也」九條殿遺誡「在ㇾ朝也、欲ㇾ珍重矜莊一、在ㇾ私也、欲ㇾ寬容仁愛一」拾遺集、十八、雜、賀「流(ウ)俗ノ、色ニハアラズ、梅ノ花、珍重スベキ、モノトコソ見レ」「珍重ノ至」「珍重ニ存ズ」(三)人ニ自重自愛ヲ勸ムル敬語。釋氏要覽、中「釋氏相見將ㇾ退、卽口云二珍重一也、言二安置一也、言二珍重一、卽是善云二善

切ニ保重スル也」(二)轉ジテ、我ガ身ヲ大切ニスルコト。自重スルコト。王僧孺、與二何[illegible]書「[illegible]」

ちんちろりん (感) 松蟲ノ鳴聲、[illegible]下僧「誰ヲまつむし、ちんちろりん」懐子集(萬治)「春ヨ秋ヨトイツノマニヤラ、子ノ日セシ野邊ノ松蟲ちんちろり」犬筑波集(永正)「花ノ下ニモ、松蟲ノ聲」口髭ヲ、ちんちりりんト、ヒネリタテ」

ちん-つう (名) 【沈痛】 (一)胸ニアタリテ切ニ感ズルコト 謝靈運、廬陵王墓下作詩「眷言懷二君子一、沈痛切二中腸一」(二)ウレヒニ沈ミテ、胸ヲ痛マシムルコト、

ぢん-つう (ジン-ツウ) (名) 【陣痛】 「陣陣トシテ痛ムノ意」婦人ノ子ヲ産マムトスルトキノ痛ミ。ムシノカブルコト。ムシカブリ。

ちんつう-ざい (名) 【鎭痛劑】 痛ミヲトドムル藥。鎭痛藥。

ちん-づき (チン-ズキ) (名) 【賃搗】 賃錢ヲ取リテ、餅、又ハ、米ナドヲ搗クコト。

ちん-てい (名) 【鎭定】 シヅマリ、定ルコト。シヅメ、定ムルコト、(戰亂ナド)

ちん-でき (名) 【沈溺】 (一)沈ミ、溺ルルコト。[illegible] 潘岳、寡婦賦「[illegible]之沈溺、[illegible]」(二)轉ジテ、困苦ナルコト、司馬相如、難二蜀父老一文「夫拯二民於沈溺一、奉二至尊之休德一」(三)フケリ、オボルルコト。耽溺。後漢書、陳元傳「今論者、沈二溺所一レ習、翫二守所一レ聞」

ちん-でん (名) 【沈澱】 水中、又ハ、液中ノ夾雜物(マザリモノ)ガ、其底ニ沈ミヨドムコト。

ちん-と (副) スマシテ、手ヲ膝ノ上ニ置ク狀ニ云フ語、チャント、(若狹、越前地方ニテハ、小兒ノ正シク坐スルヲ、おちんト云ヒ、出雲ニテハ、ちゃんおト云フ)

ぢん-ど (ジン-ド) (名) 【塵土】 (一)塵(チリ)ト、土(ツチ)ト。詩[illegible]「[illegible]」、大風[illegible]塵土、從二上下一也」(二)轉ジテ、價値ナキモノ。

ぢん-とう (ジン-トウ) (名) 【陣頭】 (一)陣備ノ前、陣ノ前、又、軍隊ノ先頭、先鋒。[illegible]「[illegible]頭[illegible]用二奇兵一」(二)公卿ノ朝廷ニ出仕シテ列坐スル所、保元物語、一、[illegible]「[illegible]反思召立事「又禁中陣頭ニテ、公事ヲ行ハセ給フ時」

ちん-どく (名) 【鴆毒】 (一)鴆ノ毒。酒ニ加ヘテ人ヲ殺スニ用ヰル。ちん(鴆)ノ條ヲモ見ヨ。太平記、十九、[illegible]「[illegible]カニ鴆毒ヲ進ラセテ、失ヒ奉レ」(二)鴆ノ如キ毒。後漢書、霍[illegible]傳「[illegible]、所二鴆毒一」

ぢん-どり (ジン-ドリ) (名) 【陣取】 ヂンドルコト。陣立。甲陽軍鑑、八、品第十七「陣取リノ場所見合スコト、御家中ノ諸大將、殊ニスグレタリ」

ぢん-ど・る (ジン-ド・ル) ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【陣取】 (一)陣所ヲ設ク。陣ヲ張ル。陣立ヲナス。敷陣。太平記、三十七、[illegible]「東寺ニ陣取ッテ著到ヲ付ケラレケル」(二)座ヲ占ム。

ちん-にふ (チン-ニュウ) (名) 【闖入】 〔説文「闖、馬出レ門貌」突然ノ意ハ、俗用ナリ〕 突然ニ入込ムコト。不意ニハイリコムコト。

ぢん-の-ざ (ジン-ノ-ザ) (名) 【陣座】 禁中ニテ、節會、神事、叙任、等ノ公事ノ時、上卿(シヤウケイ)ノ其事ヲ執行フニ着ク座。左近衞ノ陣座ハ、日華門ノ内、右近衞ノ陣座ハ、月華門ノ内ニアリ。仗座(ヂヤウザ)。著聞集、十一、畫圖「陣の座ノ上ニ、李將軍ガ虎ヲ射タル障子ヲ寄セ立テタリ」

ぢん-の-さだめ (ジン-ノ-サダメ) (名) 【陣定】 大臣以下、陣の座ニテノ評定 [illegible]、[illegible]「アノマニモ闘エ聞キテ、例ノちんのさだめナドヤウニ」

ちん-ば (名) 【跛】 〔ちぐはぐノ語ニ出ヅルカト云フ〕 (一)不具ノ名。片足蹇(ナ)ヘテ、歩ムニ正シカラザルモノ。カタチンバ。ビッコ。アシナヘ。甲陽軍鑑、三十、品第十[illegible]「[illegible]」(二)轉ジテ、俗ニ、ス[illegible]ノ物ノ揃ハヌコト。

ちん-ばう (チン-ボウ) (名) 【陳防】 イヒワケスルコト。辯解。申シヒラキ。曾我物語、四、箱王下向ノ事「[illegible]ちんばうノ[illegible]」

ちん-ばう (チン-ボウ) (名) 【[illegible]】 (一)[illegible]シキな[illegible]カラモノ。[illegible] (二)[illegible]【小兒[illegible]】

ぢん-ばう (ジン-ボウ) (名) 【陣亡】 ウチジニスルコト、戰死。戰沒。陣沒。[illegible]

ちんばう-きり (チンボウ-キリ) (名) 【入勞切】 〔陰莖切(アンバウギ)リノ義。人、水中ニ入レバ、食ヒック故ニ云フ〕 水蠆(ヤゴ)(蜻蛉ノ幼蟲)ノ異名。[illegible]

ぢん-バオリ (ジン-バオリ) (名) 【陣羽織】 陣中ノ服。製、羽織ニ似テ、袖無シ、鎧、具足ノ上ニ着ル。將士ノ用ナルハ、絹、羅紗ナドニテ作リ、緋縅ナドシテ飾ル。[illegible] 雜錄(難波宗建)「信長其ノ日ハ、陣羽織ト云フ御具足、甲ノ[illegible]カレ、[illegible]」

ぢん-ぱふ (ジン-ボウ) (名) 【陣法】 陣立、又ハ、陣取ノ法、[illegible]

ぢん-ばらひ (ジン-バライ) (名) 【陣拂】 陣ヲ引拂ヒテ退クコト [illegible]

ちん-ぴ (名) 【陳皮】 〔陳ハ、ふるし、久ナリ。即チ陳久ナルヲ良トスレバ云フ〕 柑子(カウジ)ノ、熟シテ黃ニナレル皮ヲ乾シテ、[illegible]ヘ用ヰル。[illegible]ンゾ加ヘテ、[illegible]

ちん-ぴん (名) 【珍品】 メヅラシキシナモノ。珍稀ナル品物。珍物。

ちん-ぷ (名) 【[illegible]】 [illegible]ルコト。史記、[illegible]

ちん-ぷ (名) 【陳腐】 (一)フルクナリテ、クサルコト。(二)[illegible]

ちん-ぷ (名) 【[illegible]】 [illegible]

ちん-ぶつ (名) 【珍物】 ちんぴん(珍品)ニ同ジ。[illegible]

ちん-ぶん (名) 【珍聞】 メヅラシキ、ウハサバナシ。椿聞。

ちんぷん-かん (名) 【陳紛漢】 聞キテ、[illegible]ケノ分ラヌコト。唐人ノ寢言。チンプンカンプン。[illegible]

ぢん-ぶれ (名) 【陣觸】 出陣ノ號令。又、其命令。[illegible]「[illegible]」

ちん-ぺい (名) 【鎭兵】 古ヘ、諸國ヨリ[illegible]發シテ、陸奧、出羽ノ兩國ノ守備ニ[illegible]

ちん-ぼつ (名) 【沈沒】 水ニ入リテ沈ムコト。[illegible]

ぢん-ぼつ (名) 【陣歿・陣沒】 ぢんばう(陣亡)ニ同ジ。 宋史、理宗紀「陣沒者、贈上[illegible]姓名、[illegible]陣八、陣ニ預ズ」

ぢん-まく (名) 【陣幕】 陣營ニ張ル幕。 國[illegible]正德、近松作、五「八町四方ノ本城ヲカラクミ、陣幕、戶幕、鶴ノ幕」

ちん-まり (副) 【つづまり(約)ノ音便】 ツヅマヤカニ。程好ク小サク。マトマリテ小ナリ。 好色五人女(貞享、西鶴)二「三條ノ曲ヅメニ、ちんまりトシタ座敷ヲ借リテ」

ちん-み (名) 【珍味】 メヅラシキクヒモノ。又、珍シキ料理。 禮記、王制疏、八十常珍註「常食、皆珍味也」「山海ノ珍味」

ちん-むるい (名) 【珍無類】 メヅラシクシテ、他ニ類ナキコト。

ちん-めん (名) 【沈湎】 酒ニ耽ルコト。エヒツブルルコト。サカビタリ。 書經、泰誓、上篇「沈湎冒色、敢行暴虐」

ちん-もく (名) 【沈默】 オチツキテ、モノイハヌコト。 晉書、嵇康傳「沈默自守、無所言說」

ぢん-もく (名) 【沈木】 沈香ノ木。

ちん-もち (名) 【賃餅】 搗賃ヲ取リテ餅ヲ搗クコト。又ソノ餅。

ぢん-や (名) 【陣屋】 (一)軍勢ノ屯スル假屋。陣營。 盛衰記、廿三、義經軍陣來事「兵衛尉義國八、云云、陣屋ニ弦袋ヲ懸ケテ逃ゲ下リテ」 (二)館ノ小サキモノ。(萬石以上ノ大名ニテ、城ナキモノ) (三)地頭ナドノ役所。 (四)郡代、代官ナドノ役所。

ちん-りん (名) 【沈淪】 沈ミテ浮バヌコト。(多ク、立身ノ道ヲ得ヌ意ニ云フ)オチブレ、ハツルコト。淪落。 杜甫詩「鵬飛超二等級一、容易失二沈淪二」

ちん-れい (名) 【椿嶺】 〔椿ハ正音、チュン、慣用音、チン、大椿ノ義。だいちゅん(大椿)ノ條ヲ見ヨ〕 はこやのやま(藐姑射山)ニ同ジ。 太平記、三十、持明院殿吉野遷幸事「共ニ椿嶺ノ陰ニモ寄リ、遠ク花山ノ跡ヲモ追ハバヤトコソ、思シ召シツレドモ」

ちん-れつ (名) 【陳列】 ナラベタツルコト。ナラベツラヌルコト。 易經、繫辭、上傳「卑高以陳、貴賤位矣」疏「卑高既以陳列、則物之貴賤得二其位一矣」「物産陳列所」

ぢん-れつ (名) 【陣列・陳列】 軍勢ノ配置ノ列。陣立ノクバリ。排陣。配陣。

ちん-わん (名) 【枕腕】 書道ノ語。左手ヲ右手ノ下ニ置キテ書クコト。 古今法書苑「枕腕者、以二左手一枕二右手一而書レ之、提腕者、肘著レ案、虛二提手腕一而書レ之、懸腕者、懸二著空中一而書レ之、枕腕以書二小字一、提腕以書二中字一、懸腕以書二大字一」

ぢん-ゑ (名) 【塵穢】 塵ニケガルルコト。 後漢書、列女、曹世叔妻傳「盥浣塵穢、服飾鮮潔、沐浴以時」

ちめ (名) 【血眼】 (一)逆上シテ、充血シタル眼。ノボセメ。 (二)眼病ノ一。結膜ガ充血シテ、分泌物(ヤニ)ノ出ヅルモノ。タダレメ。眼瞼結膜炎。

ちめい (名) 【地名】 土地ノ名。 續紀、六、和銅六年五月、詔「畿內七道諸國郡郷名著二好字一」 民部省式「凡諸國部內郡里等名、並用二二字一、必取二嘉名一」

ちめい (名) 【知命】 (一)天命ヲ知ルコト。 易經、繫辭、上傳「樂レ天知レ命、故不レ憂」 (二)五十歲ノ異稱。 論語、爲政篇「子曰、吾十有五而志二於學一、三十而立、四十而不レ惑、五十而知二天命一」 潘岳、閑居賦「自二弱冠一涉二乎知命之年一、八徙二官而一進レ階、云云」

ちめい (名) 【致命】 (一)命ヲ差出スコト。身ヲ犧牲ニ供スルコト。 易經、下象傳「澤無レ水困、君子以致レ命遂レ志」 (二)其爲ニ死ヌルコト。「致命傷」

ちめい (名) 【知名】 名ヲ世間ニ知ラレテアルコト。名高キコト。 三國志、魏志、曹爽傳「少以二才秀一知レ名」「知名ノ士」

ちめい-しやう (名) 【致命傷】 死ヌル原因トナルベキ傷。急所ノキズ。

ちめ-ぐさ (名) 【敗醬】 「血眼草ノ義、赤眼膜障ヲ治ストゾ」 女郎花ノ古名。オホツチ。 倭名抄、廿、草類「敗醬、知女久佐」 本草和名、上、廿九「敗醬、於保都知、一名、知女久佐」

ぢ-めん (名) 【地面】 (一)平地ノ面。土地ノ平面。 (二)一區ノ地。田宅ノ地。地所。(多ク其廣狹ヲ量ルニ云フ) 又、土地。地所。「地面ヲ買フ」

ち-も (名) 【知母】 古名、ヤマシ。ヤマドコロ。草ノ名。春、宿根ヨリ叢生ス、葉ハ芒ノ葉ノ如クニシテ、狹ク厚ク、深綠色、長サ一二三尺、夏月、葉ノ中ニ莖ヲ起ス、高サ二三尺、其端ニ、一尺許ノ小サク長キ花、繁ク綴リテ穗ヲナス。其色、淡紫碧、後ニ、長サ三四分ノ細莢ヲ結ブ、內ニ三稜ノ黑子アリ。ハナスゲ。

ぢ-もく (名) 【除目】 〔官ニ除シ、目錄ニ記ス意〕 古ヘ、諸臣、任官ノ公事。(大臣ノ外)正月十一日ヨリ十三日マデニ、縣召ノ除目アリ、春の除目トモ云フ、諸國司ヲ召シテ任官アリ。秋ニ、京官ノ除目アリ、秋の除目トモ云フ、(元ハ三月三日前ニ行フベキヲ、後ニ、秋トナリ、或ハ冬ニモ亙レリ) 在京諸司ノ官人ヲ任ゼラル。又、大臣ヲ任ゼラルルナドヲ、臨時の除目トス、小除目トモ云フ。 又、ヂヨモク。 夢溪筆談(宋、沈括)四「除、拜レ官職一謂レ除二其舊籍一、不レ然也、除猶レ易也、以レ新易レ舊曰レ除、如二新舊歲之交一謂二之歲除一、易、除二戎器一戒二不虞一、以二新易レ弊、所二以備一不虞也、階謂二之除一者、自レ下而上、亦更易之義」 五代史、劉延朗傳「[illegible]除目[illegible]」 枕草子、一、[illegible]「除目ノ程ナド、內ワタリハイトヲカシ」

ち-もと (名) 【千本】 イクホントモナク、數多キコト。 夫木抄、一、子日「オナジクハ、ちもとヲ引カン、姬小松、君ガヨハヒノ、數ニマカセテ」

ぢ-もん (名) 【地紋】 織物、染物ナドニ、地ノ模樣。

ち-もり (名) 【道守】 (一)道路ヲ守ルモノ。ミチモリ。(山守、野守ノ類) 神代紀、上、九「泉道守者」 古事記、中(開化)廿「道守臣」 (二)道路ヲ巡リテ、非違ヲ警ムルモノ。又、敵ノアリサマナドヲ、候ヒアルカスルモノ。遊邏。 倭名抄、十七、道路具「遊邏、知毛利」 名義抄「遊邏、チモリ」

ぢ-もり (名) 【地守】 持主ニ代リテ、土地ヲ守リ世話スル者。土地ノ差配人。

ちや (名) 【茶】 (一)樹ノ名。古ク支那種ヲ移シテ、今、諸州ニ遍シ。樹高サ四五尺、さざんくわニ類ス、花モ相似テ小サク、色白クシテ黃ヲ帶ブ、黃蘂多シ、秋ノ末開ク。實圓クシテ褐色ナリ。葉、長サ寸許、深綠ニシテ光ル。此嫩葉ヲ製シテ、熱湯ヲ加ヘ、其氣ヲ飲料トス。其味、甘苦芳香、今上下、日常、愛シ用ヰル所ナリ。製法、夏ノ初ヨリ嫩葉ヲ摘ム。又、二番芽、三番芽アリ、葉ヲ蒸シ、手ニテ

採ミ、火ニテ乾ス、コレヲ、製茶、葉茶ナド云フ。品位、製法、種種ナリ、湯ニ煎ジ、或ハ熱湯ヲ注ギテ飲ムヲ、煎茶ト云フ。又、粉末ニシ、湯ニ攪キマゼテ用ヰルヲ、末茶、碾茶ナド云ヒ、コレニ濃茶、薄茶ノ品アリ。各條ニ注ス。倭名抄、十六、水漿類「茶茗、其葉可煮為飲、今呼早採為茶、晩採為茗」字類抄「茶、チャ」類聚國史、三十三、弘仁六年六月「令畿内并近江丹波播磨等國、殖茶毎年獻之」西宮記、三月「勘承和例云、三月一日差造茶使」雍州府志、六、土産門「茶、凡本朝賞茶也尚矣、嵯峨天皇時既玩之、中世建仁禪寺開祖千光國師入宋、得茶而歸本朝、治源實朝公之疾、明惠上人種茶實於栂尾、其所種之深瀬等園名至今存矣、曾來胡僧清拙正澄與夢窓國師遊栂尾之詩中、稱栂尾為茶山、宜哉、義満公適在伏見時、夢羽仙傳受植茗摘鮮之術、始使大内介某植茗於苑道、爾後宇縣有森祝長井氏之人而製茶、其中森川下頂公方家之茶事、武備家之闘謂朝日、京極家之闘謂祝奥山、至法住寺義澄公、特賞之、故命彼等益精選之」(二)茶ノ樹ノ葉。「茶ヲ摘ム」「茶ヲ製ス」(三)蒸シ製シタル茶。葉茶。「茶ヲ賣ル」「茶ヲ碾ク」「茶ヲ入ル」(四)煎ジ出シタル茶汁。煎茶。「茶ヲ飲ム」「茶ヲ勸ム」(五)色ノ名。ちゃいろ(茶色)ノ條ヲ見ヨ。茶を挽くトハ、娼妓ナドノ、客ナクシテ休業スルコトナリ。コレ徳川時代ノ初ニ、評定所ニ遊女ヲ召シ、茶辨當ノ給仕セシム。為ニ遊女、休業シテ、其進ムベキ茶ヲ挽キシニ起ルト云フ。

ぢゃ (助) 〔であるノ約〕ダ。ヤ。一休歌「世ノ中ハ、貧者有徳者、苦ちゃ楽ちゃ、何ちゃかちゃトテ、末ハ無茶苦茶」

チャアチ (名) [寺] 〔英語、Church.〕耶蘇教ノ寺。基督教ノ教會。

チャアム (名) [魅力] 〔英語、Charm.〕人ノ心魂ヲ迷ハス力。人ノ心ヲ恍惚ナラシムル力。又、愛嬌。

ちゃいれ (名) [茶入] 茶家ニ、末茶ヲ盛ル小サキ器ノ名。濃茶、薄茶ニ因リテ、其形、製作、種種ニシテ、棗、大海、肩衝ナドノ品アリ。各條ニ注ス。多クハ、漆器、陶器ナリ。茶注 注春 梵舜日記、慶長五年正月十六日「茶入れ持チ來ル」

ちゃいろ (名) [茶色] 〔煎茶汁ノ濃キ色ヨリ云フカ〕赤黄ノ混和シテ、稍、黒ミアル色。略シテ、茶。茶褐色

チャウ (名) [茶宇] ちゃうぢま(茶宇縞)ノ條ヲ見ヨ。

ちゃう (名) [長] (一)ヲサ。カシラ。第一ナルコト。又、ソノモノ。易經、文言傳「君子體仁、足以長人」「百夫ノ長」「獅子ハ百獸ノ長」「酒ハ百薬ノ長」(二)齢、長ケタルコト。又、ソノモノ。トシウヘ。年長 禮記、祭義篇「敬長慈幼」「長ト、幼ト」(三)長ケ勝レタルコト。戰國策、齊策「何擅足下之短、而[illegible]足下之長」「長ヲ取リ、短ヲ補フ」(四)驛ノ長者ノ略。ちゃうぢゃ(長者)ノ條ノ(五)ヲ見ヨ。古淨瑠璃、をぐりの判官(元祿頃刊本)「中山道ハ美濃ノ國、大ハカノ宿、萬屋長ガ下ノミヅシニ」

ちゃう (名) [帳] 〔釋名「帳、張也、張施於牀上也」玉篇「帳、幃也」〕帳臺ナドノ上ニ垂ルルとばりノ類。タレギヌ。倭名抄、十四、幃帳具「帳、[illegible]、張也、施張於床上也」名義抄「帳、チャウ、トバリ、カタヒラ」履中紀、仁徳天皇八十七年正月「乃入寢殿[illegible]床ニ」竹取物語「帳ノ内ヨリモ出サズ、イツキカシヅキ養フ」催馬楽、我家「我家ハ、帷帳モ垂レタルヲ、大君來マセ、ムコニセン」

ちゃう (名) [帳] 〔正字通「俗會計事物之數曰帳」品字箋「登記之簿亦曰帳」〕金銭勘定ノ事ナド記ス書物。帳面。又、日記、書留ノ類ヲモ云フ。大福帳。金銭出入帳。心中天網島(享保、近松作)中「算盤片手ニ、帳引キ寄セ、二一天作ノ五九引ガ三サン」

ちゃう (名) [疔] 腫物ノ名。面部ニ發スルヲ面疔ト云ヒテ、疼痛劇甚ニシテ、腫、惡寒、發熱ヲ伴ヒ、極メテ險症ナルモノトス。疔瘡 (俗ニ、瘍ト混ジ誤ル)

ちゃう (名) [腸] ハラワタ。大腸ト、小腸ト。史記、扁鵲傳「上古之時、醫有[illegible]」倭名抄、三[illegible]

ちゃう (名) [廳] (一)ツカサ。役所。官廳。保元物語、二[illegible]等ヲバ、別當廳ニテ拷問セラレケリ」「太政官ノ廳」「檢非違使ノ廳」(二)特ニ、檢非違使ノ廳ヲ云フ。使廳。[illegible]、十八[illegible]金堂「下部共不安思ヒテ、和僧ノサノミ、廳ノ御使ヲ欺クベキ事ヤハアル」

ちゃう (名) [町] (一)段別ノ名目。即チ、十段。古ヘハ、三千六百歩、今ハ、三千歩。天正年中ヨリ減ジテ、今ノ[illegible]ノ條ヲモ參見セヨ。(二)[illegible]、六十間、一里ノ三十六分ノ一。(三)市街ノ區分ノ名。元ト、六十間ヨリ起リテ、今ハ、[illegible]アリ、一町目、二町目ナド云フ。略字ニ、丁ト記ス。又、市街ノ小區分ノ稱。「神田區錦町」「小石川區春日町」(四)村ト共ニ、最下級ノ地方自治團體。マチ。[illegible](五)[illegible]ノ略。[illegible]山ナ、外ヘ聞ユル、町ノ事」

ちゃう (名) [丁] (一)數ノ名目。ちゃうはん(丁半)、及、ちゃうびゃく(丁百)ノ條ヲ見ヨ。(二)町。前條ノ(三)ヲ見ヨ。

ちゃう (名) [丁] ヨボロ。人民ヲ課役ニアツル[illegible]王朝時代、正丁[illegible]正丁ハ男ノ年廿一歳ヨリ六十歳マデノモノ。次丁ハ六十一歳ヨリ六十五歳マデ[illegible]者。中男(少丁)ハ十七歳ヨリ廿歳マデ[illegible]トナリ。次丁二人、中男四人ヲ以テ、正丁一人ニ准ズ。種種、賦役ノ差アリ。「戸令、賦役令」「仕丁」[illegible]

ちゃう (接尾) [丁] 書物ノ中ノ紙ヲ數フル[illegible]ヲ云フ語。枚。

ちゃう (接尾) [挺] [illegible]

ちゃう (接尾) [張] (一)弓、琴ナド[illegible]ヲ數フル語。[illegible](二)幕、蚊帳ナドノ[illegible]さばりナド、ツリテ張ル物ヲ數フル語。「箇ノ類」又、はりトモ云フ。

ちゃう (名) [丈] (一)度ノ名目。尺ノ十倍。(二)タケ。ナガサ。[illegible](三)長老ノ稱。丈人。[illegible](四)[illegible]

ぢやう (名) 〔定〕 (一)夫レト定メタルコト。然アルベキコト。平家物語、五、富士川事「大將ト申スぢやうノ者ノ、十五束ニ劣ッテ引クハ不レ候」「定ノ中リヲ知ラズ」有ルベキコト定ナリ」何レモ其ノ定ナルベシ」定前段」定得意」定客」 (二)ソノゴトクナルコト。ソノ通リナルコト。宇治拾遺、一、第二條「里ノ人ノ夢ニモ、此定ニ見エタリ」著聞集、九、武勇「例ノ定ニシケルニ」 (三)禪定ノ略。(定ハ、心ヲ一境ニ定止シテ、散動セシメザルコト)「定ニ入ル」

ぢやう (名) 〔杖〕 (一)ツエ。(二)五刑ノ一。杖罪ノ條ヲ見ヨ。(三)鎌倉、室町時代ノ田積ノ稱、六十歩。遠江國御神領記「田壹四杖」字中島高田」」

ぢやう (名) 〔娘〕 〔集韻「娘、少女之號」〕 (一)ムスメ。年若キ女。唐書、諸公主傳、高祖十九女「平陽昭公主、太穆皇后所レ生、下嫁二柴紹一、云云、分二定京師一、號二娘子軍一」 (二)人ノむすめヲ稱スル語。「おちやうサン」 (三)母ヲ稱スル語。阿娘(阿母ノ條ヲ見ヨ)

ぢやう (名) 〔諚〕 オホセ。指圖。命令。殊ニ、上ノオホセ。平家物語、十一、那須與一「御諚デ候ヘバ、仕ッテコソ見候ハメ」

ぢやう (名) 〔錠〕 ぢやう(鎖)ノ俗體。(其條ヲ見ヨ) 鑰ノ當字。宇治拾遺、二、第九條「門ノモトニ走リヨリテ、ぢやうヲネヂテ引キメキテ」

ちやう-あひ (名) 〔帳合〕 帳面ノ金錢出入ヲ引合ハセ取調ブルコト。對帳。浮世床(文化、三馬)二編、下「娘ヲ張リニ往ッテ、他家ノ帳合ひマデシテヤッタリ」

ちやう-あん (名) 〔長安〕 〔支那、前漢ノ代ニ、蜀ノ長安ノ地ニ都アリシヨリ云フ〕 右京ノ異名。左京ノ條ヲ見ヨ。

ちやう-いつ (名) 〔漲溢〕 漲リ溢ルルコト。氾濫。汎濫。金史、馬諷傳「境有二河、曰二八尺口、每二秋潦一、漲溢害二民田一」

ちやう-いふ (名) 〔長揖〕 手ヲ拱キテ、ソレヲ上下シ、丁寧ニ敬禮スルコト。(支那ノ禮法) 史記、高祖紀「酈生不レ拜長揖」

ぢやう-いん (名) 〔定印〕 佛教ノ語。印ヲ結ビテ、定ニ入ルコト。又、入定ノ相ヲ標スル印契。印相ノ條ヲ見ヨ。盛衰記、十九、文覺入定京上事「威儀亂レズ、定印違ヘズ」

ちやう-うち (名) 〔町打〕 町間ノ數ヲ定メ、的ヲ建テテ、銃砲ヲ打チ習フコト。

ちやう-か (名) 〔町家〕 マチヤ。商人ノ家。

ちやう-か (名) 〔長歌〕 ながうた(長歌)ノ條ヲ見ヨ。

ちやう-かう (名) 〔長庚〕 ヨヒノ明星。きんせい(金星)ノ條ヲ見ヨ。詩經、小雅、小旻之什、大東篇「東有二啓明一、西有二長庚一」

ちやう-かう (名) 〔定考〕 かうぢやう(考定)ノ條ヲ見ヨ。

ちやう-かう (名) 〔聽講〕 講義ヲ聽クコト。齊書、裴昭明傳「弟子少有二異操一、云云、于レ時明觀聽レ講」「聽講生」

ちやう-かく (名) 〔聽覺〕 聽神經ニヨリテ、音響ヲ大腦ニ傳ヘテ、知覺スルコト。

ちやう-かく (名) 〔頂角〕 數學ノ語。三角形、又ハ、多角形ノ底邊ニ對スル角。

ぢやう-がく (名) 〔定額〕 〔額ハ、數ノ義〕 數ヲ定ムルコト。又、定リタル數。テイガク。續紀、二、大寶元年八月「皇親年滿者、不レ論二官不一、皆入二賜レ祿之額一」兵部省式「太宰府定額、兵馬二十疋、云云」「定額大納言」定額女嬬」定額寺」

ぢやうがく-じ (名) 〔定額寺〕 數定レル官寺。即チ本願主アリテ建立シタルニ、官稻ヲ施入シ、年分度者ヲ置キ、隨ッテ官寺トシ、其數ヲ制限シタルモノ。本朝文粹、五「請下被レ以二施無畏寺一爲中定額寺上狀」

ちやう-カタル (名) 〔腸加答兒〕 〔加答兒ノ條ヲ見ヨ〕 腸ノ粘膜ニ炎症ヲ起ス病。腹部ゴロゴロト鳴リテ痛ミ、或ハ緑、或ハ黄、或ハ水樣、又ハ液樣ノ便、一日、數回ヲ瀉シ、裏急後重ニナリ、胸ワロク、嘔氣ヲ催ス。コレニハ急性ト慢性トアリ。クダリバラ。下痢。

ちやう-かん (名) 〔聽感〕 ちやうかく(聽覺)ニ同ジ。

ちやう-き (名) 〔長期〕 期限ノ長キコト。(短期ニ對ス)

ちやう-き (名) 〔長跪〕 支那ノ禮法ノ一。兩膝ヲ地ニツケ、上半身ヲ伸スヤウニシテ、禮ヲスルコト。釋氏要覽、中「長跪、即兩膝著レ地、亦先下二右膝一移レ禮」史記、留侯世家「因長跪履レ之」古詩、焦仲卿妻「府吏長跪造」

ちやう-ぎ (名) 〔長技〕 得意トスル技術。エテノワザ。殊技。

ぢやう-き (名) 〔定器〕 (一)日常、定リテ用ヰル食器。甲陽軍鑑、十一、品第三十八、元龜二年陣中振舞停止法令「定器之外、碗、折敷以下無用之荷物、帶來禁法之事」 櫻陰比事(元祿、西鶴)五「昔、都ノ町ニ、云云、春ノ事ドモ取リイソグニ、丹波ノ奥山家ヨリ、常器ノ椀賣リニ來リシガ」 (二)佛具ニテ、飯ナドヲ盛リテ佛ニ供フルモノ。大鏡、上、實賴「供米、三十石、ちやうきゴトニオカレテ、タユル事ナシ」

ぢやう-き (名) 〔仗旗〕 古ヘ、朝廷ニテ、元日、即位ナドノ儀式ニ、大極殿(後ニ紫宸殿)ノ庭中ニ樹テシ旗。日像幢、月像幢、纛幡、萬歲旗ナドノ種類アリ。儀仗ノ旗。はた(旗)ノ條ヲ見ヨ。

ぢやう-ぎ (名) 〔定木 定規〕 (一)物ヲ眞直ニ裁チ、或ハ、眞直ナル線ヲ作ルニ、當テテ用ヰル、直ク細長キ材。界尺。界方。其樋ノアルヲ樋定木ト云フ。書言字考節用集、七、器財門「定木、ヂャウギ」 (二)メアテ。テホン。模範。

ちやう-きう (名) 〔長久〕 ナガク、ヒサシキコト。イツマデモ絶エヌコト。トコシヘ。永久。左傳、昭公廿五年「哀樂不レ失、乃能協二于天地之性一、是以長久」太平記、廿四、依二山門嗷訴一公卿僉議事「南北兩門之和睦、先表二當時之太平一、自他一揆之始終、欲レ約二將來之長久一」「武運長久」

ちやう-きち-ぶね (名) 〔長吉船〕 ちよきぶね(猪牙船)ニ同ジ。本朝世事談綺、二、器用「猪牙船。明暦ノコロ、兩國橋筋屋利兵衞、見付ノ下屋敷五兵衞ト云フモノ、コレヲ作ル。押送リノ長吉ト云フモノ、船ヲ藥研ノカタハラニ作リ、魚荷ヲ積テ押ニ至テハヤシ、コレヲ考ヘテ作ルモノ也。長吉船ト云フベカリケルヲ、ちよき舟ト云ヘリ。近年、猪牙ノ二字ヲ用ユ。猪牙ニ、狀、似タル故カ」洞房語園異本考異、下「山谷通ヒノ小舟ハ、長吉ト云ヘルモノ作リ出セシ故ニ、長吉舟ト云ヒタルヲ、イツノ頃ヨリカ、ちよき舟ト云ヒ習ハシ、文字サヘ猪牙ト書替タリ」

ちやう-ぎん (名) 〔挺銀 丁銀〕 〔挺ハ韻會「挺、直也」左傳、襄公五年「周道挺挺」廣韻「鋌、金鋌也」〕 慶長年中ニ作レル銀貨ノ名。一枚、四十二匁アリ、棒、又ハ板ナリ、切リテ通用セリ。慶長ナルハ百分

中、銀八十分、銅二十分、縦二寸六分五厘、横一寸、重三十九匁、大黒屋常是ノ極印、四ケ所ニ押セリ、故ニ、コレヲ大黒銀ト云ヘリ、後ニ丁銀三十九匁ニテ、一枚ノ目方ニ達セザレバ、豆板銀ヲ足シテ、四十三匁トシ、コレヲ一枚包ト云ヒキ。紙ニ包ミテ封ジタルヲ、授受通用セシム。銀幾枚ト云フ、是レナリ。紙ノ封破ルレバ通ゼズ、銀座ニ持行キテ、改メ包マシム、銀錠 嘗清録(享保、六年版)五「當代ノ銀幣ハ、國初以來、二品アリ、一ハ銀丁、二ハ碎銀ナリ、云云、銀丁八十兩ヲ一挺トス、重サ四十參錢也、俗ニ丁銀ト云フ」

ちやうぎやう（チヨウギヨウ）(名) 張行 (一)オシハリテ事ヲナスコト。遠慮ナク事ヲ行フコト。勝手氣儘ノ振舞ヲスルコト。侈リテ恣ニ行フコト。平家物語、一、鵜川合戰事「國務ヲ行フ間、非法非禮ヲ張行シ」吾妻鏡、一、治承四年八月十九日「張行非法、令侮亂土民」(二)決行スルコト。尊圓法親王消息「連歌御張行候哉」尺素往來(寛文版、一條兼良)「南面偶御會合之次、將棋、雙六、楊弓等、終日可被張行申候」(三)主張スルコト。白河文書、觀房卿奉書「因幡八如法狼藉候ヲ歎キ申候、云云、一向爲越前張行、及此義之由聞候也」(四)興行スルコト。其殘後覺(文祿)五「内野七本松ニテ、勸進相撲ヲ張行ス」

ぢやうきやうれき（ジヨウキヨウレキ）(名) 貞享曆 靈元天皇ノ貞享元年、宣明曆ニ易ヘテ用ヰラレシ太陰曆、安井春海、支那、元ノ郭守敬ノ授時曆ニ據リテ新ニ作リシモノナリ。後、寶曆、寛政、天保ニ改曆アリテ、明治ノ太陽曆トナル。 貞享曆、二「奉勅依改曆、[illegible]大統曆[illegible]、可[illegible]貞享曆[illegible]道傳士[illegible]」

ちやうきよ（チヨウキヨ）(名) 聽許 聽キ入ルルコト、ユルスコト。キキトドクルコト。聽納。 魏武帝、[illegible]九錫[illegible]「情上聞、不蒙聽許」

ちやうきより（チヨウキヨリ）(名) 長距離 トホキヘダタリ。遠距離。「長距離競走」

ちやうく（チヨウク）(名) 長驅 (一)遠ク驅ケ行クコト。戰國策、燕策、[illegible]「[illegible]長驅至齊」同、[illegible]「長驅到齊」王褒詩「飛遠似征客、千里自長驅」(二)敵ヲ遠ク追ヒ行クコト、ナガオヒ。

ちやうくわい（チヨウカイ）(名) 町會 (一)自治團體タル町ノ決議機關。其町ノ議員ヲ以テ組織シ、自治ニ關スル一切ノ件ヲ議決シ、ソレヲ執行スルヲ監督スルモノ。(二)町ノ隆盛、發展ナドヲ圖ラムガタメ、其町ノ住民ヲ以テ組織スル會。

ちやうぐわい（チヨウガイ）(名) 帳外 人別帳ヨリ削ラレタルモノ。除籍セラレタルモノ。無宿 寛政八年七月町觸「町方ニテ久離[illegible]出候者共數多ク候、云云、欠落帳外ニナリ候者、多クハ眼前ニ無宿ニナリ、飢渇ニ及ビ、云云」「帳外者」

ちやうくわうぜつ（チヨウコウゼツ）(名) 長廣舌 ナガナガト、シャベリタツルコト、多言、多辯、長舌(又、廣長舌ノ誤用ト云フ。其條ヲモ見ヨ)

ちやうくわん（チヨウカン）(名) 長官 (一)官ノ長。上官。(長官ノ條ヲ見ヨ) 唐書、顏眞卿傳「[illegible]長官[illegible]」(二)諸官廳ノ上官。

ちやうぐわん（チヨウガン）(名) [illegible] 院中ノ職官ニテ、主典代ノ次席ノモノ。[illegible]

ぢやうぐわんでん（ジヨウガンデン）(名) 貞觀殿 古ヘ、紫宸殿中殿舍ノ名。元、皇后宮ノ正廳ノアル所ナリキ。中宮廳トモ、又、御匣殿トモ云ヘリ。コレ備當、其他、後宮ニ關スル書類ヲ收メタル箱ヲ收メ置ク故ニ名ヅク。後世、衣服ノ裁縫ナドモ、此處ニテ行ヒ、ココニ勤ムル女房ノ長ヲ、御匣殿ノ別當ト云ヒ、略シテ、御匣殿トモ呼ベリ。殿ハ內裏ノ北方ニ位シ、常寧殿ノ北ニアリ。兵範記(平信範)仁安三年十一月廿日「[illegible]」

ちやうけ（チヤウケ）(名) 茶請 煎茶ヲ飲ム時ニ、併セテ食フ菓子ノ類。茶ノ子。茶菓子、點心 [illegible]「[illegible]如ク、フチタカニ入レ候ウテ出ヅルモアリ」

ちやうけい（チヨウケイ）(名) 長兄 (一)第一ノ兄。ソウリヤウノ兄。伯兄。[illegible] (二)年長ノ人ヲ敬ヒ稱スル語。

ちやうけい（チヨウケイ）(名) 長計 (一)長久ノ計畫。永遠ナルハカリゴト。[illegible]「國家之長計」(二)スグレタルハカリゴト。

ぢやうけい（ジヨウケイ）(名) 杖刑 ぢやうざい(杖罪)ニ同ジ。

ちやうけいし（チヨウケイシ）(名) 長慶子 [illegible] 長慶年中ノ作ナル故ニ云フト[illegible]曲ノ名、ちやうげ[illegible]曲ノ[illegible]

ちやうけし（チヨウケシ）(名) [illegible] ナドトナリテ、帳面ノ記事ヲ抹消ニス[illegible]

ちやうけづり（チヨウケズリ）(名) 帳削 人別帳ヨリ削リ去ルコト。離籍スルコト。かんだう(勘當)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。

ちやうけん（チヨウケン）(名) 長絹 (一)古ヘ、一種ノ絹布ノ名。美シキ生絹、精好ノ類ノ如ク光澤アルモノトイフ。平絹ナドト別ツ。[illegible] (二)服ノ名。[illegible]長絹の水干ノ略ナリ。直垂ノ如クニシテ、前ニ四處、背ニ三處[illegible]長絹ニテ作レリ、後ニハ、紗、練ナド、定メナシ。色、多クハ白キヲ用ヰル。胸紐ハ、袖ノ內ニテ、左右ヘ打交ヘ、頂サイグラシ、左右ノ肩ヨリ下ゲテ、兩脇ヨリ袂ノ外ヘ出シテ胸ニテ結ブ[illegible]ノ如シ。[illegible]

ちやうけん（チヨウケン）(名) 長劍 長大ナル劍。[illegible]

ちやうけん（チヨウケン）(名) [illegible]

ちやうげんぼう（チヨウゲンボウ）(名) [illegible] クソトビ。マクソトビ。[illegible]

ちやうこうこ[illegible] [illegible]

ちやう-ごぢふ (名) 丁五十 ちやうびやく(丁百)ノ條ヲ見ヨ。

ぢやう-ごふ (名) 定業 佛教ノ語。前世ヨリ定レル業報。コレニハ善惡ノ二アリ、善ノ定業ハ、樂果ヲ得、惡ノ定業ハ、苦果ヲ受クト云フ。理趣釋經、下「現世惡報、及來生惡報、定業、疾病、無上菩提、也」沈約、形神論「夫憑一之衆、皆有定業二」著聞物語、四「ちやうごふノ命モ延ベ給ヘト、人ニモ願タテサス」

ちやう-ざ (名) 長座 長ク其座ニアルコト。ナガヰ。

ちやう-ざ (名) 長者 ちやうぢやノ(長者)ノ條ノ(三)ニ同ジ。枕草子、一、第三段「イミジクちやうざト云フ法師ナドノ樣ニ、ネリサマヨフ」

ぢやう-ざ (名) 定者 ぢやうぢや(定者)ニ同ジ。

ぢやう-ざ (名) 仗座 陣ノ座。其條ヲ見ヨ。盛衰記、三、滑樂所 南部、帥卿、仗座ニ參着セラレケリ」

ぢやう-さい (名) せうさい(小齋)ノ訛。其條ヲ見ヨ。

ぢやう-ざい (名) 錠劑 粉藥ヲ、扁平、又ハ、圓板形ニ製シタルモノ。

ぢやう-ざい (名) 杖罪 古ヘノ五刑ノ一。笞ヨリ重ク、徒ヨリ輕シ。杖ニテ擊ツ。其數、六十ヨリ百ニ至ルマデ、五等アリ。杖刑。宋史、太宗傳「詔減二南京諸州罪一、円流以下一等、杖罪釋レ之」法曹至要抄、上、五罪「杖罪者始レ從二六十一、竟二於一百一、以二十一爲二一等一」

ぢやう-さい-ぐすり (名) 定齋藥 ぢやうさいぐすり、及、ぜさいぐすり(定齋藥)ノ條ヲ見ヨ。

ぢやう-さう (名) 定相 佛教ノ語。常住不變ノ相。定レルカタチ。キマリタルサマ。太平記、三十五、青砥左衞門事「物ノ定相ナキ喩ヘニモ、如夢幻泡影、如露亦如電トコソ、金剛經ニモ說カレテ候ヘ」

ぢやう-ざう (名) 釀造 酒、又ハ、醬油ナドヲ釀シ造ルコト。「釀造試驗所」

ちやう-し (名) 長子 第一ノ子。長男、或ハ長女。總領ノ子。史記、趙世家「家有二長子一、曰二宗督一」詩經、大雅、文王之什、大明篇「纘女維莘、長子維行、篤生二武王一」

ちやう-じ (名) 丁子 (一)丁香ト云フ樹ノ實、熱帶地ノ產ナリ。樹ハ肉桂ニ似テ、高サ二三丈、葉、稍、細ソク、柳ノ葉ニ似タリ。花ハ枝ノ端ニ簇ル、初、白ク、後ニ綠ニシテ、香極メテ高シ、終ニ萎ミテ落チズ、色赤ク固マリテ、遂ニ變ジテ實トナル、即チ丁子ナリ。其形、小サキ釘ノ如シ、多ク實ヲ舶來シテ、香料、藥料トス。丁香 倭名抄(一本、六、十上)香具「丁子香」(二)チャウジゾメ。(三)チャウジビキ。(四)チャウジガシラ。

ちやう-じ (名) 停止 差止ムルコト。禁ズルコト。南史、梁武帝紀「停郊之禮、多命二宮人一、自今停止」續古事談、一、王道后宮「諸國ノ重任ノ功ト云フ事、ナガク停止セラレケルトキ」「鳴物停止」

ちやう-じ (名) 聽事 (一)事ヲ治ムルコト。事ヲ聽キテ、是非曲直ヲ判定スルコト。漢書、宣帝紀「令二群臣得一レ奏二封事一、以知二下情一、五日一聽事」(二)ヤクショ。官府。廳 晉書、謝奕傳「遂携二酒就二聽事一、引二一兵帥一共飮」三國志、吳志、諸葛恪傳「所レ坐聽事、屋棟中折」

ぢやう-じ (名) 娘子 (一)少女ノ稱。ムスメ。處女。北齊書、祖珽傳「老馬十歲、猶號二騧駒一、一妻耳順、尙稱二娘子一」(二)妻ノ稱。細君。輟耕錄(明、陶宗儀)「都下自二庶人妻一、以及二大官之國夫人一、皆曰二娘子一」(三)ヲンナ。女子。婦人。「娘子軍」(四)古ヘ、支那ニテ母ノ稱。溫公書儀(宋、司馬光)「古稱レ父爲二阿耶一、母爲二娘子一」

ぢやう-し (名) 場師 園圃ヲ治ムル者。ウヱキヤ。ニハシ。ニハツクリ。孟子、告子、上篇「今有二場師一、舍二其梧檟一、養二其樲棘一、則爲二賤場師一焉」注「場師、治二場圃一者」

ちやう-しう (名) 長袖 (一)ナガソデノ衣物。韓非子、五蠹篇「鄙諺曰、長袖善舞、多錢善賈」曹植、七啓「長袖(一本、裾)隨レ風、悲歌入レ雲」(二)長袖ヲ着タル人。即チ堂上方、又、僧侶ヲ呼稱シタル語。曾我會稽山(享保、近松作)二「イマ遁世、長袖ノ身ナガラ、賴朝公ノ御弟」

ちやう-しう-かん (名) 長秋監 (後漢書、馬皇后紀、長秋宮ノ注ニ「長者、久也、秋者、萬物成熟之初也、故以名焉」ト見ユ)中宮大夫ノ唐名。二中歷、七「中宮大夫」注「內侍省內侍、內宮主人、長秋監」

ちやう-しう-ぐう (名) 長秋宮 皇后宮ノ唐名。アキノミヤ。後漢書、皇后紀、上、馬皇后「有司奏、立二長秋宮一」拾芥抄、中、末「后宮、長秋宮」二中歷、七「中宮(長秋宮)」

ちやう-しう-しや (名) 長袖者 ながそで(長袖)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

ちやう-じ-がしら (名) 丁子頭 燈心ノ燼ノ先、結ビテ塊ヲナシテ、形、丁子ノ如クナレルモノ。俗間ニ、コレアレバ、明日、財貨ヲ得ルコトアリトテ祝ス。燈花 浮世床(文化、三馬)二編、上「昨夜ノ吉丁子頭ヲ喜ビ、今朝ノ烏ヲ氣ニヤムタグヒ」今物語(藤原信實)「油澤ノ煮油ニシテ…リケル一、イトカウバシク…ヒケレバ「燈火ハ、藥物ニコソ、似タリケレ」附句「丁子がしらノ、香ヤ匂フラム」西京雜記(漢、劉歆)「陸賈曰、目瞤得二酒食一、燈花得二錢財一」…今朝有二喜報一…

ぢやう-しき (名) 定式 又、ていしき。定リタル儀式。イツモノキマリ。潘岳、西征賦「由二此觀一レ之、土無二常俗一、而教有二定式一」

ちやう-じ-ざくら (名) 古名、かにひ。灌木ノ名。高サ一二三尺、枝、對生シ、春、節每ニ、密ニ四瓣ノ紫花ヲ着ク、筒子狀ノ丁子形ナリ。花落チテ、新枝葉ヲ生ズ。葉ハ、いぼたニ似テ、小サク厚ク、毛アリ、長サ八九分、對生ス。サツマフヂ。シゲンジ。フヂモドキ。芫花

ちやう-じ-ぞめ (名) 丁子染 かうぞめ(香染)ニ同ジ。源、三十三、藤裏葉「丁子そめノコガルルマデ、シメル白キアヤノ、ナツカシキヲ着給ヘル」犬子集(寬永)「風カヲル、雲ノ衣ヤ、丁子染」

ちやう-じつ (名) 長日 (一)夏ノ長キ日。長時日。陸游詩「此生猶著幾兩屐、長日惟消一局棊」(二)榮花物語、一、月宴「七壇ノ御修法、長日ノ御修法、オホヤケヨリハ、長日ノ御修法、オホヤケ方、宮方ト行ハセ」同、十、日蔭蔓「オホヤケヨリハ、長日ノ御修法、ハジメサセ給フ」

ちやう-じ-つつじ (名) うんぜんつつじ(溫泉躑躅)ニ同ジ。

ちやう-じ-びき (名) 丁子引 唐紙ナドノ染色ノ名。白地ニ、茶色ノ橫線ヲ細カク引ケルモノ。

ちやう-じ-ぶろ (名) 丁子風爐 陶製ノ小サキ風爐。丁子ヲ煮テ、室內ヲ薰ズルモノト云フ。治平金訓「井伊直道ヘ、二人ノ許ヨリ丁子風爐ヲ贈リケレバ、甚祕藏セラレ、云云」

ちやうじばう（名）［丁子棒］ミミハラヒ（耳拂）ニ同ジ。

チヤウジマ（名）［茶宇縞］〔モト印度ノ西海岸ナル［illegible］國（Chaul）ノ産ニシテ、蘭領牙人ノ舶載セルヨリ、其名、起ル〕絹布ノ名。舶來品ナリ。琥珀織ニ似テ、輕ク薄ク、甚ダ精美ナリ。縞チャウ、紋チャウ、ナドアリ、多ク袴ニ用ヰル。［椒花散］和漢三才圖會、二十七、絹布類［illegible］チャウシマ、云云、按、嶋也宇、西南外夷國名、［illegible］南京、［illegible］一代男（天和、西鶴）二「茶宇島ノ切レニテ、［illegible］テクレシ鈔巾着」

ちやうしん（名）［聽診］醫師ナドガ、體內ノ心音（心臟ノ鼓動）ヲ聽キテ、病氣ノ有無ヲ診斷スルコト。多ク聽診器ヲ用ヰテ行フ。

ぢやうしん（名）［杖身］〔正韻「［illegible］、曰レ杖」〕王朝時代、五位以上ノ家ニ給セラレタル護衞ノ官。續紀、八、養老三年十二月「五位已上家、補二事業、防閣、仗身、自是始矣」

ぢやうじん（名）［丈人］〔丈ハ杖ナリ、老イテ杖ツク人ノ意。或ハ云フ、倚仗ノ義ニテ、尊稱ナリト〕（一）長老ノ尊稱。トシヨリ。老人。易經、師卦「師貞、丈人吉、无咎」論語、微子篇「子路從而後、遇丈人［illegible］」（二）妻ノ父。舅父。史記、［illegible］人行世二［illegible］丈人、メカタノシウト、丈母」

ちやうしんき（名）［聽診器］心臟ノ動靜ヲ聽クニ用ヰル器。喇叭狀ノモノヲ身體ニ當テ、ソレヨリ通ズル二條ノ護謨管ノ端ヲ耳ニ挾ミテ、音響ノ耳ニ通ズル裝置ノモノ。

ちやうしや（名）［長者］（一）年長ノ人。［illegible］（二）衆人ニ長タル德アル人。［illegible］（三）身分ノ貴キ人。貴顯ノ人。史記、陳丞相世家「門外多有長者車轍」

ちやうじや（名）［長者］（一）長タル人。（二）京都ノ東寺ノ長ノ稱。［illegible］（三）氏上（其條ヲ見ヨ）（四）〔富貴有德ノ人〕カネモチ。モノモチ。チャウザ。［富豪］［素封］［illegible］竹取物語「モシ天［illegible］トブラヒ［illegible］ニ、ナキモノナラバ」［illegible］吹上、下「ソレハ、カレヨリ給ハレル物ノ千分ガ一ナリ、云云、何心モナクマカリ出タチ侍リテ、オモホエヌちやうじやニナリ侍リテナン、マウノボリタルヲト、ウチワラヒ給ヒテ」宇治拾遺、九、第八條「長者ノ家ニカシヅク女ノアリケルニ、顏ヨカラム聟トラムト、母ノモトメケルヲ」（五）古ヘ、ウマヤノヲサ。驛長ノ稱（富豪ニシテ公役ニ堪フル者ヲ用ヰラレシ故カ）太平記、二、俊基朝臣再關東下向事「池田ノ宿ニ着キ給フ、元曆元年ノ比カトヨ、重衡中將ノ東夷ノ爲ニ囚レテ、此宿ニ着キ給シニ、東路ノ、埴生ノ小屋ノ、イブセキニ、古郷イカニ、戀シカルラント、長者ノ女ガ詠タリシ、其古ヘノ哀マデモ、思殘サヌ泪也」（六）宿ノ驛ノ長者ハ、女主ニテ、宿スル人ノ世話、傳馬ノ繼立ナドヲ當シ、又ハ、官人、貴人ノ旅宿ノ時ハ、遊女ヲ給仕トシ、或ハ管絃、歌舞ナドヲ行ヒ、［illegible］、娼家トナリ、又、移リテ、遊女ノ異稱トモナリ［illegible］時ハ遊君ノ［illegible］人ニテ、御氣色ヨキ女房ナリトゾ申シケル」浄瑠璃物語、まうし玉、母ハ、矢矧ノ長者トテ、海道一ノ遊君ナリ」

ぢやうしや（名）［定者］佛家ノ語、大法會ノ行道ノ時ニ、香爐ヲ取リテ前行スル役。ヂャウサ。又、ヂャウジャ。定者沙彌。［illegible］書類從本）「次定者二人、自東西二［illegible］了、就二殿下一取二火舍二立」榮花物語、卅二、［illegible］コシフタツヲサキニタテ參リテ、定者左右ヨリ、イミジクヲカシゲニテ、アユミツツ來ルニ」

ちやうしやう（名）［長殤］〔正韻「殤、未ニ成人一而喪也」〕十六歲ヨリ十九歲マデノ男女ノ、イマダ嫁娶セズシテ死スルコト（儀禮、喪服傳［illegible］）

ちやうじやう（名）［頂上］（一）イタダキ。テッペン。絕頂。（二）上ナキコト。最上。極度。

ちやうじやう（名）［長上］（一）〔ナガツカヘ〕常番スルコト。［illegible］番上ト云フ。［illegible］匠寮雜工、長上雜工一人、番上雜工二人」（二）人ノ上ニ立ツモノ。孟子、梁惠王、下「親其上、死其長」（三）［illegible］ノ。（四）目上ノモノ。［illegible］

ちやうじやうくゎん（名）［長上官］（一）散官ノ稱。古ヘ、職掌ナクシテ長ク上（出仕）スルモノ。（御番サスルモノ）（二）［illegible］長官。

ぢやうしやく（名）［丈尺］（一）［illegible］アル尺。尺杖（大形ノモノサシノコト）［illegible］コリセ［illegible］リケリ」（二）［illegible］寸法。

ちやうじやせん（名）［長者宣］攝政、關白（藤原氏）ガ、氏ノ長者トシテ下シタル御教書。［illegible］興福寺ナドニ宛テタルモノナリ。［illegible］

ちやうじゅ（名）［長壽］イノチナガキコト。ナガイキ。延壽。長年。長命。長生。

ちやうしゅう（名）［聽衆］（一）キキテ、聽聞スル人人。（說法ナドヲ）［illegible］

ちやうしゅう（名）［長袖］［illegible］ニ同ジ。

ちやうしゆん (名) [長春] (一)トコシナヘニ、春ナルコト。四時ニ花アルコト。四季咲。日本書紀「天皇宮殿曰長春」(二)薔薇ノ一種。木本ニシテ、葉ハ、一蔕毎ニ、三、五、七葉ヲ生ズ。花ニ、一重モ八重モアリテ、多クハ紅ナリ。早春ヲ候トスレドモ、四時ニ花アリ。庚申薔薇。長春花。月季花。月月紅。

ちやうしゆんくわ (名) [長春花] (一)前條ノ(二)ニ同ジ。(二)舶來ノ金盞花ノ一名。其條ヲ見ヨ。

ちやうしよ (名) [長所長處] 長ジタル所。スグレタル所。得意ナル所。或物ノ他ノ物ヨリ、トリワケ秀デタリト見ユル所。(短所ニ對ス)トリエ。長。五家正宗贊、宋、錦溪二、南宗頓禪師「將二金彈子一換二銀彈子一、長短無レ多、伊與二做高低程一知識二」

ちやうじり (名) [帳尻] 帳簿ノ決算ノ結果。總計。合計。新永代藏(正德、北條團水)六「店卸シノ帳尻、面白クナッテクルヨリ、イヨイヨ心マメシク精出サレテ」

ちやうす (名) [茶臼] 末茶トスベキ葉茶ヲ碾クニ用ヰル石臼。山城國、宇治ノ朝日山ノ石ヲ良シトス。茶磑。倭名抄、十六 木器具「茶研、茶磑子」 高尚、放下僧「都ノ牛ハ車ニモマルル、茶臼ハ挽木ニモマルル」

ちやうず・ずる・ずれ・ぜ・じ・ぜよ(自動、左變) [長] (一)タク。生ヒ立ツ。成長ス。左傳、昭公六年「君子曰、善不レ可レ失、惡不レ可レ長」「日ニ長ず」(二)巧ニナル。他ニ勝ル。晉書、樂廣傳「樂廣每レ人、必先稱二其所一レ長、則物不レ言而自見」

ちやうず・ずる・ずれ・ぜ・じ・ぜよ(他動、左變) [打] ウチタタク。ナグル。打擲ス。竹取物語「車持皇子、血ノ流ルルマデ、ちやうぜサセ給フ」

ちやうすう (名) [丁數] (一)丁ノ數。偶數。(奇數ニ對ス)(二)綴ヂタル書物ノ中ノ紙數。枚數。

ちやうすげい (名) [茶臼藝] いしうすげい(石臼藝)ニ同ジ。浮世風呂(文化、三馬)初編、下「高慢ニ人ヲ見クダシテ、文盲ダノ、ヤレ俗物トカヤラ云ッテ、茶臼藝ヲ鼻ニカケタガル」

ちやうせい (名) [長生] ちやうじゆ(長壽)ニ同ジ。莊子、在宥篇「無レ勞二汝形一、無レ搖二汝精一、乃可二以長生一云云、汝神將レ守レ形、形乃長生」

ちやうせい (名) [長逝] (長ク逝キテ返ラザル義) 死スルコト。(稍、敬ヒテ云フ)永逝。逝去。永眠。李白、夏日諸從弟登二汝州龍興閣一序「屈宋長逝、無レ堪二與言一」

ちやうせいち (名) [長生地] 殺生禁斷ノ土地。禁獵地。禁獵區。持統紀、五年十月「畿內及諸國、置二長生地各一千步一」

ちやうせいでん (名) [長生殿] 支那、唐ノ殿名。此殿ハ、今ノ陝西省、臨潼縣、驪山ノ上、華清宮ノ中ニアリキ。朝元、閣ニ事アル時ハ、此殿ニ齋沐スト云フ。白樂天、長恨歌「七月七日長生殿、夜半無レ人私語時」朗詠集、下「長生殿裏春秋富、不老門前日月遲」

ちやうせう (名) [長嘯] ナガク、ウソブクコト。後漢書、向栩傳「不レ好二言語一、而喜二長嘯一」

ちやうせき (名) [長石] 斜長石、正長石ナドノ汎稱。造岩鑛物ノ最モ普通ナルモノニシテ、白色、又ハ、淡紅色ヲ呈シ、其大塊ナルモノハ、陶器ノ原料トナリ、美麗ナルモノハ、裝飾用ニ供セラル。倭名抄、一五 鑛石類「長石、一名、方石」

ぢやうせき (名) [定席] (一)定レル席。一定ノ會合、(二)人寄席ナドノ定連ノ人ノ席。又、其人。

ぢやうせき (名) [定石] 圍碁ノ語。定リノ石ノ打方ノ一定ノ規則。

ちやうぜつ (名) [長舌] シタナガシ。多言ナルコト。多辯ナルコト。詩經、大雅、蕩之什、瞻卬篇「婦有二長舌一、維厲之階」保元物語、三、無鹽君事「婦人長舌アル、是レ禍ノ階ナリ」

ちやうせん (名) [丁錢] [九六錢ニ對ス] 古ヘ、錢、百文ヲ百文ノ値トスルコト。丁百。丁百錢 (德川氏ノ初世ニ至リ、錢九十六文ヲ以テ、百文ニ當テテ通用スルニ至レリ。コレヲ九六錢、又ハ、九六百ナドト云ヘリ)てうびやく(調百)ノ條ヲモ併セ見ヨ。田園類說「或書ニ云フ、九十六文ヲ以、百文トスル事ヲ始シハ、鎌倉上杉ノ家臣、領分ヘ他國ノ商人入込テ、領分ノ錢ヲ他國ヘ持行トテ、百文ノ所ヘ、四文宛ハブイテ渡セシヨリ始リタリトアリ、云云、東國、北國筋ノ內、今以、調百錢ヲ通用ス、云云、又云、古來、調錢四貫文ニ拔錢百二十文取、其後、九六之錢トナル、四文ノ出目有レ之トアレバ、上杉ノ家臣始タリトハ附會ノ說ニテ、寬永新錢ノ頃ヨリ、九六錢トナリタルト見エタリ」地方落穗集、一、鐚錢之意味、幷九六目拔之事「古ヘハ、丁百ヲ以テ通用ス、今ニ遠國ニハ其實殘リ、丁百ヲ以テ、通用スル處アリ、此ノ丁錢ヲ鐚錢ト云フ」

ちやうせん (名) [廳宣] (一)撿非違使別當ヨリ達スル公文。敕宣ニ準ジテ、コレニ違フモノヲ違敕トセリ。別當宣。職原抄、下「別當宣則廳宣也、古來稱二勅宣一」(二)院ノ廳ヨリ下ス公文。官職難儀「院ノ廳ノ下文ヲモ廳宣ト云フ、去リナガラ撿非違使別當宣ノ如ク、オシ出シテハ申サヌ也」(三)國司ヨリ下ニ達スル公文。朝野群載、廿二「初任國司廳宣」

ぢやうせん (名) (一)ぢわうせん(地黃煎)ノ音便。(京都)(二)ミヅスマシノ一名。マヒマヒムシ。(西國)

ちやうぜんと (副) [悵然] 恨ミ悲シム狀ニ云フ語。惆悵。悵悵。李白詩「停レ梭悵然憶二遠人一」傅玄、感物賦「悵然有レ懷、感レ物興レ思」

ちやうそ (名) [張訴] 江戶時代、訴訟ヲ起スタメニ、訴狀ヲ、評定所、又ハ、他ノ官衙ノ門ナドニ張リツクルコト。牧民金鑑、廿、文化十一年六月申渡書付「各役所、陣屋等江張訴、捨訴有レ之節、取計方之儀」

ちやうそく (名) [長足] (一)速カナル步ミカタ。ハヤアシ。(二)轉ジテ、進步ノ速カナルコト。「長足ノ進步」

ちやうそくりう (名) [長束流] 〔南蠻人ノ名「ジョン」ニ起ルトモ云フ〕馬術ノ一流ノ名。昔、南蠻人ノ傳ヘシ所ト云フ。

ちやうだい (名) [帳臺] 〔臺ハ濱床ノコトナリ〕寢殿ノ內ニ少シ高ク造レル一構ノ稱。主人、常住ノ所ニテ、入口ニ帳ヲ垂レ、寢所ニ用ヰラル。書院造ニハ、上段ノ間ノ傍ニ設ク。平治物語、二、義朝野間下向事「塗籠ノ口マデ攻入リケレドモ、美濃尾張ノナラヒ、用心嚴シキ故ニ、帳臺ノ構ヘ、シタタカニ拵ヘタレバ力ナク、長田父子ヲバ討ナ得スシテ」(塗籠ノ寢所ノ帳臺ニ用ヰ居タルナラムト云フ)

ちやうだい (名) [頂戴] (一)頂ニイタダキ、ササグルコト。梁武帝、金剛般若懺文「見二金牒之深經一、頂戴奉持、終不二捨離一」(二)貰フコトノ敬語。イタダクコト。狂言記、八句連歌「折角下サルル物ヲ、頂戴致サネバ、却ッテ無禮ヂヤ」

ちやうだい (名) [町代] 町役人ノ名主ニ

次グモノ。市中ノ町ノ書役。(江戸) 織留(元祿、西鶴)二「ハヤ町中ノ思入レ替リテ、町代モ以前ニハ變リテカガメズ」

ちゃうだい (名) 長大 (一)長ク大イナルコト。高ク大イナルコト。史記、[illegible] (二)年タケタルコト。大人トナルコト。成長。盛衰記、廿六、木曾謀叛事「七八歲ノヲサナ心ニ安カラズ思ヒテ、云云、長大ノ後、兼遠ニイヒケルハ」

ちゃうたいそく (名) 長太息 長クタメイキツク息。長歎。屈原、離騷「長太息以掩涕兮、哀民生之多艱」

ちゃうだいのこころみ (名) 帳臺試 古ヘ、五節ノ舞ノ下稽古。五節、及、五節舞ノ條ヲモ見ヨ。公事根源、下「五節、中ノ丑ノ日ヲバ、五節ノ帳臺ノ試ト云フ、常寧殿ニテ、主上、御覽アリ」 中右記、寬治元年十一月十七日「五節舞姬參、云云、有帳臺試」

ちゃうだいのよ (名) 帳臺夜 古ヘ、帳臺の試みヲ行ヒシ夜。五節、及、五節舞ノ條ヲモ見ヨ。枕草子、五、四十六段「ちゃうだいの夜、行事ノ藏人、イトキビシウモテナシテ」

ちゃうたう (名) 長刀 (一)脇差ヨリ長キ刀ノ總稱。長キカタナ。宋書、武帝紀「手奮長刀、所殺傷甚衆」 (二)ナギナタ

ちゃうたつ (名) 暢達 (一)ノビ、ソダツコト。(二)ノビノビシテアルコト。[illegible]

ちゃうたん (名) 長短 (一)長キト、短キト。孟子、梁惠王、上「[illegible]」 (二)スグレタルト、オトレルト。得手ト、不得手ト。長所ト短所ト。[illegible]

ちゃうたん (名) 長歎 長キタメイキヲツクコト。長太息。[illegible]

ちゃうたんく (名) 長短句 (一)長キ句ト、短キ句ト。(二)古詩、又ハ、樂府ナドノ句ノ、或ハ長ク、或ハ短ク、字數ノ一定セザルモノ。宋史、周邦彥傳「邦彥好音樂、能自度曲、製樂府長短句、詞韻淸蔚、傳于世」

ちゃうチフス (名) 腸窒扶斯 「窒扶斯」ハ、羅甸語、Typhus ノ音譯 病理學ノ語。傳染病ノ一種。一種ノ菌(窒扶斯菌)ヨリ起ル。初、全身ノ倦怠ヲ覺エ、ヤガテ惡寒、發熱シ、頭痛、眩暈ヲ感ジ、發病ノ腸部腫レテ、便祕ヲ起シ、遂ニ精神、朦朧トシテ、譫語ヲ發スルニ至ル。

チャウチン (名) 挑燈提燈 〔字ノ宋音。佛寺ヨリ起ル〕 又、チウチン。蠟燭ヲ點ジテ、夜行クニ携フル具。初ハ框ニ紙張ノ燈籠ナルベシ。後、變ジテ、紙張ノ籠挑燈トナレリ。又變ジテ、數多ノ細ソキ竹ノ輪ヲ骨トシテ、紙ニテ貼レルモノヲ被ヒトス。形、圓クシテ、伸縮、自在ナリ。燭籠 小田原提燈、弓張提燈、高張提燈、箱提燈、ぶら提燈、手ぼづき提燈、岐阜提燈、馬上提燈、ナドアリ。各條ニ註ス。[illegible]「挑燈、ツリドウロウ」下學集、下、器財門「挑燈、チャウチン」朝野群載(永久、三善爲康)、四、應德二年十月二十日、[illegible] 挑灯ト書テ、チャンチント讀ミ、行灯ヲアンドント讀ミ、[illegible] うちん本ナリ、平生揩ノちゃうちんハ後日ニテ候ナリ」秋の夜長物語(玄惠作ト云フ)「月ノ西ニメグルマデ、云云、ぎゃうちゃうちんニ燈ヲ入レテトモシタリ、ソノ光カスカナルニ、云云、古鳥木、魚臘[illegible]」天文十九年「中間ニ挑灯ヲトモサセタルバカリニテ、忍ビヤカニ出シ奉ル」[illegible]十、下、品第三十三、永祿六年「小荷駄馬一匹ニ、挑灯ニツバカリ」[illegible]ド、ちゃうちん程ノ影アル火ノコロビハシルノミニテ、外ハ見エズ、唯暗キバカリナリ」後花園院永享九年行幸記「御會所ノ西ノ馬道ノ庇ニ、魚臘の挑燈アマタカケラル」古今夷曲集(寬文)八「寄人ノ、歸ルサ送ル、挑燈ハ、中シツケネド、出ヅシ月影」

ちゃうちゃう (名) 町長 (一)ぼうちゃう(坊長)ニ同ジ。(二)其町ヲ統轄シ、其行政事務ヲ擔任スル人。

ちゃうちゃう (副) 丁丁打打 物ヲ打ツ響ニ云フ語。自身坊「鐘口ちゃうちゃうト、ウザナラシ」「ちゃうちゃうハッシト打ツ」

ちゃうちゃうと (副) 悵悵 恨ミ悲シム狀、又、望ヲ失ヒ、心ニ恨ム狀ニ云フ語。悵然。惆悵。晉書、荀勗傳「及得侍書[illegible]悵悵」

ちゃうちゃうはっし (句) 丁丁發矢 [illegible]

ちゃうちゃく (名) 打擲 [illegible]

ちゃうぢょ (名) 長女 第一ノ女。總領ノ娘。史記、[illegible]世家「以長女妻重耳」

ちゃうつう (名) [illegible] 〔名目抄ニ、[illegible]、チャウトウ、とうノ字、つト云フヤウニ[illegible]

ドルベシト見エタリ」近衞舍人ヲ取締ル役。[illegible]

ちゃうづかけ (名) 頂頭掛 (一)烏帽子ノ上ヨリカクル緒。[illegible]「ちゃうづかけトハ、[illegible]」(二)ちゃうづがけ(頂頭掛)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

ぢゃうづかひ (名) 定使 役所ナドニテ、常ニ雇用ニ使役セラルルモノ。[illegible]

ちゃうづけ (名) 丁付 書物ノ枚數ノ順ヲ記スコト。ヘイジツケ。

ちゃうづめ (名) 腸詰 [illegible] 牛ノ腸(腸膜ニシタルモノ)ノ中ニ詰込ミテ、湯煮、又ハ、ふすべニシタルモノ。

ぢゃうづめ (名) 定詰 (一)役所ニ詰切リニテ勤ムルコト。又、ソノ人。[illegible]

ちゃうてい [illegible]

ちゃうてい (名) 長汀 長キナギサ。[illegible]

ちゃうていきょく (句) [illegible]

ノ途ニ歸キタルヲ云フ語。〔太平記、五、大塔宮[illegible]「ケラノタニ、[illegible]ノ旅ノ路、[illegible]砕ク習ヒナルニ」〕

ちやうてん（名）〔頂點〕（一）イタダキ。頂上ノ所。最上點。極點。絶頂。（二）數學ノ語。二直線交ハリテ、角ヲナストキ、其交點ヲ云フ。又、多面角ヲナス數面ノ相會スル點ヲモ云フ。

ちやうと（名）〔長途〕ナガキ道ノリ。遠キ旅路。ナガヂ。〔史記、司馬相如傳「靡道豫園、北海周流、長途中宿」〕〔太平記、五、大塔宮熊野落事「其中、香中ノ外ヲ出テサセ給ハヌ御事ナレバ、御歩行ノ長途ハ、定メテ叶ハセ給ハジ」「長途ノ疲レ」〕

ちやうと（副）〔丁打〕相撃ツ響ニ云フ語。チャント。〔平家物語、三、小督教訓事「障子ノ丁ト引キタテテ」〕〔鴨鶯言葉物語（文明）大太刀の刈「追取リ延ベテちやうと打ツニモ、便宜ニ因リテカ、パト突クニモ、拮ハ長キカ吉ク候ナリ」〕

ちやうど（副）〔丁度〕〔或ハ、調度ノ音ニテ、揃フ意カ〕（一）好キ程ニテ。ホドヨク。恰度。適。〔狂言記、鎌倉勾當「サラバ抜マウ、ツガシマセ、是レ是レ一ツアリサウナ、ちやうどゴザル」〕（二）マサシク。アタカモ。サナガラ。宛然。〔狂言記、布施無「ちやうど貧僧ノカサネ衣ト申スガ、コレデゴザル」〕（三）名詞形トシテハ、ハシタ數ノナキコト。「十圓丁度」

ちやうとくじ（名）〔長徳寺〕〔駿河國府中（今ノ靜岡市）ニ在リシ寺ノ名。此寺ノ門前ニテ、金一歩ノ借賃ヲ、一日ニ金一歩ニ定メタルニ起ルト云フ〕江戸吉原ノ遊郭ニテ、金一歩ノ稱。〔吉原つれつれ草、夜見セニ出テ、フミカケル顔ノ白キヲ見テ、ちやうどくぶヲ失ヒケルトカヤ」〕

ちやうどころ（名）〔町所〕己レノ住ミテ居ル町。〔[illegible]、[illegible]政、[illegible]甲[illegible]、ちやうどころマデ書イテアル」〕

ちやうない（名）〔帳内〕（一）トバリノ内。〔南齊書、紀僧眞傳「使僧眞領二千人在帳内」〕（二）古ヘ、親王、皇子ニ朝廷ヨリ附ケ置カレテ、召シツカハルル者ノ稱。舍人ノ如シ。諸臣ニハ、資人ヲ附ケラル。後ノ家司ニ相當ス。〔雄略即位前紀「市邊押磐皇子帳内」〕〔軍防令「凡給帳内、一品一百六十人、二品一百卅人、三品一百廿人、四品一百人」〕

ちやうない（名）〔町内〕其町ノ内。マチウチ。マチヂュウ。「町内ヅキアヒ」町内安全」

ちやうなふ（名）〔聽納〕キキイルルコト。〔奈良、讓、[illegible]書、表「陛下天地之大德、聽納大臣」〕

ちやうなみ（副）〔町竝〕町毎ニ。各町。

ちやうなん（名）〔長男〕第一ノ息子。總領ノムスコ。長子。〔易經、說卦傳「震一索而得男、故謂之長男」〕〔太平記、十一、五大院右衞門宗繁賺相模太郎事「此人未幼稚ノ身ナレバ、何程ノコトカアルベケレドモ、朝敵ノ長男ニテオハスレバ、闇クベキニアラズト」〕

ぢやうにち（名）〔定日〕約束シテ定メタル日。〔平治物語、三、牛若奧州下事「但シ、ちやうにちハ、同道ノ人ノハカラヒニテ候フベシ」〕

ちやうにん（名）〔町人〕町ニ住ミ居ル人。アキウド。アキンド。商賣人。商賈。市民。〔吾妻鏡、廿六、延保三年七月十九日「町人以下、鎌倉中諸商人、可定員數之由、被仰下」〕

ぢやうのざ（名）〔仗座〕ぢんのざ（陣座）ニ同ジ。〔達幸故實抄（正長、藤原定親）二「仗座人多之時、依上卿命、上薦公議著端座、爲[illegible]例之事」〕

ちやうのせん（名）〔廳宣〕ちやうせん（廳宣）ノ條ノ（一）ニ同ジ。又、別當宣。

ちやうば（名）〔町場丁場〕（一）人夫ノ、役ニ宛テラレテ、運送、路普請ナドスベキ路程ノ間。（二）一ノ宿場ト次ノ宿場トノ距離。〔東海道中膝栗毛（文化、一九）四編、下「コレカラ二里半ノ長丁場ヂヤ、安ウシテ召サヌカイ」〕

ちやうば（名）〔帳場〕商家ノ店先ナドニテ、帳附、出納ノ事ナドスル所。勘定場。會計場。

ちやうはうけい（名）〔長方形〕四角ニテ長キ形。サシガタ。矩形。

ちやうはつ（名）〔長髮〕月代ヲ剃ラズシテ、長ク生ヒシメタルコト。又、ソノ髮。タテガミ。〔唐書、玄宗紀「禁三白衣長髮會」〕

ちやうはん（名）〔丁半〕〔或ハ重半トモ記ス、賽ハ調端ノ轉ナリト云フ。又、調半カ〕（一）雙六ノ采目ノ數ニ云フ語。數ノ相遇ヒテ二ツニ分クベキ二、四、六、八、十等ヲ、丁（偶）ト云ヒ、コレニ反シタル一、三、五、七、九等ヲ、半（奇）ト云フ。轉ジテ、汎ク數ニ用ヰテ、二日、四日等ヲ丁日（偶日、雙日）ト云ヒ、三日、五日等ヲ半日（奇日、隻日）ナドト云フ。（二）采ヲ用ヰテスル博奕ノ名。采ノ目ノ數ヲ、丁ト呼ビ、半ト呼ビ中テテ賭ク。長半博奕。〔有德院殿御實紀、附錄、四「近年ノ惡習ニテ、賭蒲、長半、三笠ヨミナド名ヅケテ、サマザマノ賭ノ遊ビニフケリ」〕

ちやうび（名）〔丁日〕前條ノ（一）ヲ見ヨ。

ぢやうびきやく（名）〔定飛脚〕武家ナドノ、日ヲ定メテ必ズ發スル飛脚。〔長曾我部元親百箇條、掟「定飛脚事、其在所之庄屋、還近可召遣、急用之時者、聊遲延仕候者、忽可斬頸事」〕

〔[illegible]月ニ二度ノ定[illegible]〕

ちやうびけい（一）〔長尾鷄〕たうまる？

（長尾鷄）ノ條ヲ見ヨ。

ぢやうびけし（名）〔定火消〕江戸幕府ノ職名。江戸市内ノ消防ヲ掌ルモノ。若年寄ノ支配ニ屬ス。定火消役。〔憲教類典、[illegible]、武鑑、五「諸事定火消之定メ、二、寬永元年ヨリ定火消十組被仰付、一組與力六騎ヅツ、同心三拾人宛、內二人ヅツ時替リニ而、火之見番勤之」〕

ちやうびやく（名）〔丁百〕〔調百ノ訛ト云フ〕錢、百文ヲ百文ノ値ニ用ヰルコト。（九六百ナドニ對ス）足百錢。其五十文ナルヲ丁五十ト云フ。丁錢ノ條ヲモ見ヨ。〔和漢三才圖會、五十九、金有、本朝亦古者、丁百爲陌、中古以來、以九十六文爲陌、云云、如今亦伊州有用丁百地〕

ちやうぶ（名）〔町步〕段別ノ町ヲ數フル語。町ト云フニ同ジ。「五十町步」百町步」

ぢやうふ（名）〔定府〕德川時代、大小名ノ主從ノ中ニテ、常ニ、江戸ニ居着キテ參覲交替スルモノニ對ス）えどづめ（江戸詰）ノ條ヲ見ヨ。ル稱。（領地ヨリ年年參覲交替スルモノニ對ス）

ぢやうふ（名）〔丈夫〕〔支那ノ古へニ、人ノ長、周制ノ尺ニテ一丈ナルヲ正制トス、故ニ云フ。大丈夫ト云フモコレナリ。〔韻會「周制以八寸爲尺、十尺爲丈、人長八尺、故曰丈夫」〕（一）男子ノ稱。一人前ノ男。〔孟子、滕文公、下篇「丈夫之冠也、父命之、女子之嫁也、母命之」〕（二）スグレタル男。一人前ノ立派ナル男子。マスラヲ。大丈夫。〔詩經、小雅、北山之什、甫田篇、箋「是夫者有傅相之德、而可倚仗、謂之丈夫」〕〔孟子、滕文公、下篇「富貴不能淫、貧賤不能

[illegible]、寛武不能屈、此之謂大丈夫」

ぢやうぶ（名）［丈夫］（一）スコヤカナルコト。身體ニ病ナキコト。達者。壯健。狂言記、[illegible]「マコトニ[illegible]、丈夫ナモノデ[illegible]ルガ、何ト致イテムツケマシタゾ」（二）確トシテ[illegible]レ難キコト。強固。堅固。堅牢。

ちやうぶそうし（名）［長奉送使］齋王ノ伊勢ノ神宮ニ行キ給フ時、添ヒ送リ奉ル官人。チャウホウソウシ。監送使。拾芥抄[illegible]「長奉送使、チャウフソウシ、送[illegible]勅使」拾遺集、五、賀「[illegible]、齋宮クダリ侍リケル時ノ長奉送使ニテ、マカリ歸ラントテ」

ちやうぶつ（名）［長物］餘ニ立タヌモノ、ムダナルモノ。晉書、王恭傳「[illegible]曰、吾平生無長物」「其身長物如此」「無用ノ長物」

ちやうへん（名）［長篇］（一）一篇ノ文章、詩ノ長キモノ。（二）古詩ノ一體。（其條ヲ見ヨ） 文心雕龍（梁、劉勰）ニ[illegible]長篇、李[illegible]切于短篇」

ちやうぼ（名）［帳簿］ちやうめん（帳面）ニ同ジ。唐書、百官志「句[illegible]會功課及[illegible]帳簿」

ぢやうぼ（名）［丈母］〔丈ハ丈人ノ意〕（一）シウトメ（姑）ノ尊稱。（二）妻ノ母ノ稱。

ちやうほん（名）［張本］「[illegible]故事、六「預爲[illegible]地、曰張本」」（一）事ノ起ル原由。オコリ。シタヂ。左傳、[illegible]公五年、杜注「[illegible]、不[illegible]、[illegible]不[illegible]、[illegible]其[illegible]張本」（二）次際ノ語ノ略。平家物語[illegible]、[illegible]、[illegible]人、[illegible]メ[illegible]ゼラレ」「盜人ノ張本」事件ノ張本」

ちやうほんにん（名）［張本人］事ヲ起セル人ノ略シテ、張本。發頭人。（多ク惡事

ニ云フ）[illegible] 首[illegible]

記（[illegible]、[illegible]）[illegible]、[illegible]

ちやうまへ（名）［帳前］京都ノ三十三間堂ニテ、通シ矢ノ矢數ト、其射手ノ名トヲ記シタル札ヲ、堂上ニカクルコト。京[illegible]三十三間堂ノ[illegible]ニテ、[illegible]射ルナリ、ちやうまへト云フハ、一筋ヲトホスヲ爲ムナリ」

ぢやうまへ（名）［錠前］〔錠ハ、[illegible]ノ當字〕ぢやう（錠）ト云フニ同ジ。[illegible]（元祿、西鶴）四「先ヅ錠前ヲ開ケサセテ、御覽ナサレケルニ」

ちやうまん（名）［脹滿］病ノ名。水腫ノ一種。水樣液ノ腹膜ニ溜リテ、腹、大イニ脹ルルモノ。腹膜炎ニ起因スル腹水症。倭名抄、三、病類「[illegible]、[illegible]不[illegible]」[illegible]長文十九年五月[illegible]日「[illegible]、[illegible]、脹滿也」

ぢやうみやう（名）［定命］佛家ノ語。前世ノ因ニテ、限ラレ定メラレタル人間ノ命數。八萬四千歳ヲ最長トシ、十歳ヲ最短トシ、百歳毎ニ一歳ヲ増減ス。釋迦ノ出世ハ、定命百歳ノ時ナリ。常人ノ定命ヲ五十歳トスルハ、釋迦、故ラニ二十歳ヲ減ジテ、八十歳ニテ入滅セシ故、八十ヲ以テ起點トナシ、ソレヨリ凡ソ三千年ヲ經過スト見テ、三十歳ヲ減ジタルモノナリ。御文章（蓮如）四「夫レ人間ノ壽命ヲカゾフレバ、今ノ時ノ定命ハ五十六歳ナリ」

ちやうみやうとう（名）［長明燈］ぢやうとう（常燈）ニ同ジ。

ちやうめい（名）［長命］ナガキイノチ。ナガイキ。長生。長壽。[illegible]「已[illegible]」[illegible]長命[illegible]」[illegible]十、[illegible]

事[illegible]長[illegible]ト[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]

シ、サレバ今ハ[illegible]、[illegible]

ちやうめいしゆ（名）［長命酒］生酒一升ト、氷砂糖百匁ト、洗ヒタル梅干二三十トヲ壺ニ封ジ、五十日カ或ハ百日ノ間、土中ニ埋メテ成ル。風味好ク、[illegible]、[illegible]ジ、氣血ヲメグラシ、腎水ヲ增シ、痛氣ヲ治スル功アリト云フ。

ちやうめいる（名）［長命縷］くすだま（藥玉）ニ同ジ。[illegible]、[illegible]五[illegible]、[illegible]、[illegible]五月五日[illegible]命縷」[illegible]府[illegible]、七、[illegible]、小川[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]

ちやうめん（名）［帳面］[illegible]ノナ[illegible]、又、帳簿。帳。[illegible] [illegible] （享保、近松作）二「御帳面ノ流人ト上使トノ喧嘩、[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]ケ[illegible]上スル」

ぢやうめん（名）［定免］（一）定式ニ免スコト。定リタル免。（二）江戸時代、納税ニ一定ノ率ヲ立テ置キ、豐凶ニ因リテ增減セヌ法。檢見取ニ對ス。[illegible]、[illegible]上ナドニ）[illegible]、[illegible]、[illegible]ハ、十年廿年程ノ内ニテ、上熟、下熟ノ中ヲトリテ、之ヲ定法トシテ、年年定法ノ如クニ收納スル也」[illegible]方要集錄、定免之事、[illegible]メ候ニハ、[illegible]年之取[illegible]均ヲ以テ、[illegible]ツ之定免ト、百姓用[illegible]ヲ以テ[illegible]メ申シ候」

ちやうも（名）［[illegible]］草木[illegible]、[illegible]ヒシゲ[illegible]コト。[illegible]、[illegible]、[illegible]

ちやうもと（名）［[illegible]］（一）勘定ノ帳面ヲ掌ルモノ。（二）芝居ニ云フハ、芝居孟子、滕文公、上篇「草木暢茂、禽獸繁殖」

内ノ[illegible]ヲ[illegible]

ちやうもん（名）［聽聞］キクコト。（說法）[illegible]、[illegible]、小[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、ちやうもんノ所ニ[illegible]リナクツ[illegible]ニ、[illegible]間ノ女房、早リツミ侍リケレバ」[illegible]、[illegible]、六[illegible]

ぢやうもん（名）［定紋］もん（紋）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]中ノ、[illegible]、[illegible]、[illegible]同[illegible]付サセタルベク候」

ちやうや（名）［長夜］（一）冬ノ長キ夜。[illegible]キ夜。コミザ。メイド。南史、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]迷ノサメザル闇ヲ云フ。[illegible]、[illegible]、[illegible]長夜ノ夢トハ、佛說ニ、生死ノ闇ニ迷ヒテ、一生[illegible]

ぢやうやく（名）［定役］（一）武家ニテ、諸役所ノ勘定掛ナドノ儲事ノ下役。（二）定例ノ公役。又、常ニ設ケタル役目。[illegible]

ぢやうやど（名）［定宿］（一）常ニ同ジ[illegible]ル旅宿。[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]ナレヤ。

ちやうやのいん（名）［長夜飲］又、長夜ノ宴。[illegible]、[illegible]、[illegible]

ちやうやのゆめ（名）［長夜夢］ナガキヨノユメ。[illegible]ノ一生ヲ[illegible]ノ内[illegible]スコト。

ちやうらい (名) 頂禮 (頂戴禮拜ノ略) 古ヘ、印度ノ最敬禮 五體ヲ地ニ投ジ、頭ヲ地ニツケ、他ノ足ヲ拜禮スルコト。ヲロガムコト。ヲガムコト。 歸敬儀、下「云頂禮佛足者、我所貴者頂也、彼所卑者足也、以我所尊、敬彼所卑者、禮之極也」沈約、顯德「佛屍精舍、懷足頂禮」 顯驗風土記「元、周達觀」「上人最朴、見唐人、頭加敬、云云、則伏地頂禮」

ちやうらう (名) 長老 (一)年長ケテ尊ムベキ人ノ稱。先生ト云ハムガ如シ 史記、孝文本紀「賞賜長老、收恤孤獨」 (二)禪宗ニテ、歯、學德、並ニ高キ僧ノ稱號 傳燈錄、禪門規式「凡具道眼有可尊之德者、號曰長老、如西域道高臘長、呼須菩提等之謂也」 (三)禪宗ニテ、住持、又ハ、先輩ノ僧ヲ呼ブ稱。 庭訓往來、十月「律僧者、長老、知事」 異制庭訓往來「京都、鎌倉五山、建長寺、云云、名刹、禪興寺、大慶寺、東勝寺、善福寺、等長老」 祖庭事苑「今禪宗住持之者、必呼ニ長老ニ」

ぢやうらかく (連體) (丈六ノ佛像ノ趺坐(アグヰ)ルヨリ云フ語) アグラヲカク。

ぢやうらくむ (連體) 前條ノ語ニ同ジ。

ちやうらくもん (名) 長樂門 禁中十二門ノ一。せうめいもん(承明門)ノ條ヲ見ヨ。 江家次第、二十、七日節會「長樂門南面中披東一間、東柱下設外辨上公兀子座」

ちやうり (名) 長吏 寺務ヲ統ブル長(ヲサ)。卽チ寺主。(勸修寺、園城寺等ニ) 釋家養記、三十四、木曾可ニ追討一由事「法皇ハ、天台座主明雲僧正、寺ノ長吏、八條宮ヲ法住寺ノ御所ニ招請シ」

ちやうり (名) 長吏 縣吏、又ハ、町村吏ノ頭立タル役人。 白居易、吏長史久手政、然役使往亡 白樂天、長恨歌傳「出入禁門、不間、京師長吏、爲是側目」 平家物語、一、禿童事「京師ノ長吏、是レガ爲ニ目ヲ側ムト見エタリ」

ちやうり (名) 長吏張里 (張里ハ馬醫ノ名、ゑたコレヲ兼ヌレバ云フト」) (一)ゑた、非人ノ頭。 彈左衞門由緒書(享保)「長吏以下之者依爲頭、勢ハ私先祖ニ支配被爲仰付、云云、鎌倉八幡宮御祭禮御神樂先立之供奉ニ、長吏共、烏帽子、素袍、或ヒハ麻上下著シ、相勤メ申シ候」 (二)直ニ居兒、ゑたノ稱。

ぢやうり (名) 定離 ゑしやぢやうり(會者定離)ノ條ヲ見ヨ。

ちやうりつ (名) 町立 町ニテ取立ツルコト。町ノ設立。「町立ノ病院」

ぢやうりやう (名) 丈量 地積、及、物品ノ測量。又、大キナ標準。 漢書、枚乘傳「寸寸而度之、至丈必過、石稱丈量、徑而寡失」

ぢやうれい (名) 定例 常ニカハラズ定マレル例式。キマリノ行事。定式。恆例。

ちやうれき (名) 長曆 後ノ曆法ヲ以テ、逆ニ推シテ、上古ノ曆日ナカリシ世ノ、年年ノ月次、日次ヲ紀スルコト。後年ノ曆ヲ、アラカジメ作ルモ然リ。

ぢやうれん (名) 定連 (一)定レル連衆。(二)寄席(ヨセ)ニ、定リテ來ル連中。

ぢやうろく (名) 丈六 (書言字考節用集、三、神祇門「丈夫、八尺爲度、云云、如來倍之」卽チ一丈六尺ハ、化身佛ノ普通ノ身丈ナリト」) (一)長(タケ)一丈六尺ノ佛像。常ニ、趺坐(アグラ)ノ坐像ニ作ル。コレヲ丈六足組、又、丈六居(キ)、ナド云フ。 欽明紀、六年九月「百濟造丈六佛像」 觀無量壽經「阿彌陀佛、神通如意、於十方國、變現自在、或現大身、滿虛空中、或現小身、丈六八尺、所現之形、皆眞金色」

業疏、四、上「佛在世人倍、人長八尺、佛則丈六、並依周尺」 古事談、五、神社佛寺「某奉造三立數體之丈六、於御菩提不可疑思召」 (二)轉ジテ、アグラカクコト。ロクニヰルコト。趺坐

ぢやうろくゐ (名) 丈六居 前條ノ(二)ヲ見ヨ。 親長卿記(文明—明應)明應六年三月廿六日「籠居、籠居、丈六居」

ちやうわん (名) 茶碗 茶碗(チヤワン)ノ字音ヲ延ベタル語。 大和物語、下「菜ヲツミテ、ムシモノト云フ物ニシテ、ちやうわんニモリテ、箸ニハ、梅ノ花ノ盛リナルヲ折リテ、云云」

ちやうゐ (名) 腸胃 (一)腸ト、胃ト。 五代史、王仁裕傳「嘗夢剖其腸胃、以西江水滌之」 (二)必要ノ土地。肝要ノ地。 戰國策、秦策「夫取三晉之腸胃、與出兵而懼其不反也、孰利」

ちやがけ (名) 茶掛 ちやせきがけ(茶席掛)ノ略。其條ヲ見ヨ。

ちやかす (名) 茶滓 ちやがら(茶殼)ニ同ジ。

⁂ちやか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) (戲(チヤリ)(茶利)ヲ活用ス」) (一)嘲リ侮ル。嘲弄ス。ヒヤカス。ナブル。侮弄 浮世床(文化、三馬)二編、下「人ヲ茶かす男ダゼ」 (二)マンチヤクス。ゴマカス。 俳諧緬卯月紅葉(寶永、近松作)上「十貫目ト云フ敷金ヲ、アノ女メニちやかさりョカ」

ちやかつしよく (名) 茶褐色 チヤイロ。

ちやかぶき (名) 茶加夫幾 茶道七事ノ法式ノ一。卽チ廻花之式、廻炭之式、茶かぶき之式、花月之式、數茶之式、且座之式、一二三之式コレナリ。此法ハ、千宗佐ノ定ムルトコロナリトゾ。其法式ハ下ノ出典ヲ見ヨ。 茶人大系譜「千宗佐」注「號天然、稱宗左、又、丁丁軒、原叟男也、仕紀州侯、嘗與數寄者秀三、於樂人書與第一燈議、定茶道七事之

法、至今茶道家之重寶、寬延四年八月十一日歿」 茶道七字要書「茶かぶき之式。一、茶四種ニ客一種ヲ合セ、宛ニ分ケ(但、四種ハ試ノ茶也)客一種加ヘテ都合九ツ(但、三種ニ客ハ、二種ニ客、一種ニ客也)長盆ニノセ、棗子又ハ棚ニ飾リ置キ出シ、切掛ノ札紙ヲ用テ茶ヲ打合スナリ(但、試之茶ハ、札ノ裏ニ印)一、茶ハ茶師ノ名字ヲ用、札紙記錄何レモ名字ヲ書也、(但、札紙ハ上ニ茶師ノ名字ヲカキ、下ニ人人ノ名ヲ書ナリ)一、掛板ハ其日組合セタル茶師ノ名字ヲ書付、書院、違能所柱ニ掛ル、(但、勝手ノ方ニテモ、客ヨリ見ユル所、見合タルベシ、後屏風ニ掛ル)一、札紙ハ人數ニ合セ切、掛紙勿論、折居五ツ共ニ重ネ、奉書硯箱、其上ニ折居札紙ヲ重ネル也、文鎭ニテ押ヘ、書院、次ノ間ノ床、或違棚ナドヘ飾ル、尤床ナキ所ハ、違能所ヲ見合セ飾ル、又ハ勝手ヨリ持出テモヨシ。一、通ツキ通ナシ、勝手二人(但、一人ハ客方、一人ハ主方、一人ノ時ハ、主方ノ勝手兼ル)座席、間諸在テモヨシ」(他ノ法式ハ本書ニツキテ見ヨ)

ちやがま (名) 茶釜 釜ノ一種。上ノ方、窄(スボ)クシテ、口、狹キモノ。專ラ茶ヲ煮ルニ用ヰル。鐵、又ハ眞鍮ナドニテ作リテ鍔(ツバ)アリ。(關東ノ稱)畿內、西國ニ、鑵子(クワンス)。

ちやがゆ (名) 茶粥 茶ノ煎汁ヲ入レテ煮タル粥。畿內邊ニテ、朝飯ノ常用トス。 傳咸、司隷教「聞、南方有蜀嫗、作茶粥賣之」

ちやがら (名) 茶殼 茶ヲ煎ジ出シタル滓(カス)。チヤカス。

ちやき (名) 茶氣 (一)茶道ノ氣。又、其心得。(二)變人ノ氣。又、チヤメ。

ちやき (名) 茶器 茶道ニ必要ナル具。急須、茶碗、茶釜、茶柄杓、等。茗器 翁卷、歸道茅秀詩「一甌黃且香不厭、詩興茶器每隨身」

ちやきちやき (名) 仲間ノ中ニテ、ハブリノヨキモノ。ハバキキ。キケモノ。ちやくちやく(嫡嫡)ノ條ヲモ參見セヨ。

ちやきん（名）茶巾 茶室ニテ、茶碗ヲ拭フ麻布。朝鮮照布ヲ上トス。拭盞巾 受汚 下學集、下、器財門「茶巾、チヤキン」

ちやきんづつみ（名）茶巾包 沙金裹ノ訛、沙金ノ條ヲ見ヨ。

ちやきんづつみ（名）茶巾包 餅菓子ノ名。大唐米ヲ餅ニシテ、丸ク小サクヒラメ、餡ヲ茶巾ニテ包ミタル如ク包ミ、上下ヨリ少シ燒キテ作リタルモノ。

ちやく（名）笛 〔てきノ吳音〕フエ。テキ。名義抄「笛、音敵、チヤク、フエ」謠曲、羽衣「シヤウ、ちやく、キン、クゴ、孤雲ノ外ニ充チ滿チテ」玉造小町壯衰書「鐘、笛、琴、箜篌、其音宜宜」

ちやく（名）著 〔春秋直音「著、俗作レ着」〕ツクコト。到着スルコト。到

ちやく（接尾）着 （一）衣服ナドノ數ヲ數フルニ云フ語。「袴一着」洋服一着」（二）到着ノ順序ヲ云フ語。「第一着」

ぢやく（名）持藥 其人ノ常ニ服用スル藥。（強壯劑ナド）浮世風呂（文化、三馬）三編、上「延壽丹ト申スネリ藥ヲ、持藥ニタベマス」

ちやくい（名）着意 考ヘヲツクルコト。思ヒツキタル考案。オモヒツキ。着想。落想。陳簡齋詩「[illegible]着意弄[illegible]音」

ちやくい（名）着衣 着タル衣服。着服。

ちやくがん（名）着岸 船ノ岸ニ着クコト。太平記、三十九、高麗人來朝事「牒使十七人、云云、出雲ニ着岸ス」

ちやくがん（名）着眼 目ノツケドコロ。着目。蘇軾詩「塗車芻靈皆假設、着眼細看君勿誤」

ちやくぎよ（名）着御 天子ノ御座ニ着キタマフコト。又、オツキ。太平記、八、[illegible]合戰事「先帝已ニ船上ニ着御成テ」

ちやくこ（名）着袴 袴ヲハクコト。又、ハカマギ。名目抄「御着袴、ゴチヤクコ」

ちやくざ（名）着座 座ニツクコト。座ニスワルコト。着席。平治物語、一、光賴卿參內事「如何事ノ御定ゾト聞ヒケレドモ、信賴卿モ宣ハズ、着座ノ公卿モ、一言ノ沙汰ナカリケレバ」

ちやくさい（名）嫡妻 妾ニ對シテ、本妻ノ稱。嫡妻。嫡室。正妻。正室。嫡配。

ちやくさう（名）着想 考ヘヲツクルコト。思ヒツキタル考案。着意。落想。

ちやくし（名）嫡子 嫡妻ノ腹ニ生レタル長男ニテ、父ノ後ヲ嗣グベキモノ。嫡子。嫡男。嫡嗣。周禮、春官伯、宗伯「凡諸侯之適子誓於天子、攝其君、則下其君之禮一等、未誓、則以皮帛繼子男」選叙令「凡五位以上子出身者、一位、嫡子從五位下、庶子正六位」

ちやくしつ（名）嫡室 ちやくさい（嫡妻）ニ同ジ。

ちやくじつ（名）着實 落着キテ輕率ナラザルコト。マジメニ實體ナルコト。

ちやくしゆ（名）着手 手ヲツクルコト。トリカカルコト。事業ヲ始ムルコト。晉書、杜預傳「今兵威已振、譬如破竹、數節之後、皆迎刃而解、無復着手處也」

ちやくしゆつ（名）嫡出 嫡妻ノ腹ノ出生ナルコト。本妻ノ腹ノ出生。嫡出。

ちやくしよく（名）着色 彩色ヲ施スコト。イロドリ。又、其色。設色。傅色。劉禹錫詩「[illegible]着色屏風[illegible]、人在[illegible]文[illegible]字中」

ちやくしよくぐわ（名）着色畫 彩色ヲ施シタル繪。イロエ。彩色畫。

ちやく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）着 （一）ツク。イタリツク。到着ス。到[illegible]（二）[illegible]執着ス。[illegible]郎不レ得、語事「ソレ大海ノホトリノ堀ハ、酒ニちやくし[illegible]」（三）[illegible]附着ス。

ちやく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）着 ツク。キル。着用ス。穿衣 紫式記（永曆）[illegible]小袖ノ事「男八人ニ[illegible]十日[illegible]着し」[illegible]「衣服ヲ着す」

ちやくせき（名）着席 席ニツクコト。座ニスワルコト。着座。

ちやくそん（名）嫡孫 嫡子ノ嫡子。アトトリノ孫。嫡孫。[illegible]

ちやくだ（名）着鈦 〔說文「鈦、鐵鉗也」廣韻「鈦、以レ鎖加レ足」〕即チあしかし。古ヘ、徒役ノ罪人ニあしかしヲ着ケ、[illegible]四人相連ネテ、使役シタルコト。囚獄司式「凡罪人着鈦[illegible]」

ちやくたい（名）着鈦 〔鈦ハ鈦ノ誤、徒[illegible]〕鈦ヲ着クルコト。[illegible]「鈦、カナキ、[illegible]」

ちやくたい（名）着帶 懷妊ニテ五箇月、或ハ七箇月目ニ、いはたおび（[illegible]）ヲ締ムル式。古ヘハ、懷妊ノ標ニ、衣服ノ上ニ結ビシガ如シ。後ニ肌ニ結ヒ、腹帶トモ云ヒ、岩田帶トモ云フ。[illegible]月ニテ御帶賜御座テ、六月廿八日吉日トテ御着帶アリ」玉海[illegible]「[illegible]二尺」山槐記、治承二年六月廿八日「中宮御懷妊着帶[illegible]」[illegible]萬葉集、五「筑前國怡土郡ニアル鎭懷石[illegible]見レナ[illegible]」

ちやくたう（名）着到 （一）イタリツクコト。馳セ付クコト。[illegible]ニ軍勢ノ從ヒ着クコト。其名字ヲ記ス[illegible]着到ニつくト云ヒ、着到ノ官ヲ記シテ本人ニ附スルヲ、着到狀トス。[illegible]（二）古ヘ、宮中ニ[illegible]出勤スル官吏ノ姓名ヲ記入シタル帳簿。[illegible]

ちやくだのまつりごと（名）着鈦政 古ヘ、朝廷ノ公事。着鈦トハ、元來、囚獄司ニテ、徒役ノ罪人ノ足ニ、鈦（鐵鉗）ヲ着ケテ、二三四人相連ネ置クコトナリ。[illegible]ニテ、其儀式ノ行ハル。[illegible]ヲ濟マス意ナルベシ。[illegible]

ちやくちやく（名）嫡嫡 （一）代代、嫡子ニテ承ケ繼グコト。嫡流。正系。[illegible]

ナリトノ誇語。(三)又、移リテ、腕利ノモノニ云フ。官僚派ノちゃきちゃき、實業界ノちゃきちゃきナド云フガ如シ。

ちゃく-ちゃく (副) [着着] モノゴトノ次第次第ニ、ハカドリユク狀ニ云フ語。一歩ヅツ順序ヨク。「着着進行ス」

ちゃく-ちゃく (副) 手早ク、手マメニ。サッサト。源氏烏帽子折(元祿、近松作)四「サア、ちゃくちゃくト咄サバ咄セト、不承顏ニテ聞キ居タル」

ちゃく-ぢょ (名) [嫡女] 嫡妻ノ腹ヨリ生レタル長女。本腹ノ長女。嫡出ノ長女。國語、晉語「一介嫡女、執箕箒、以晐姓於王宮」

ちゃく-でん (名) [着電] 到着シタル電報。

ちゃく-と (副) スミヤカニ。タダチニ。ヅキニ。スグニ。醒睡笑(元和、安樂庵策傳)六「嬉シゲニ手ヲ出シ、憚カラズツカマントシケルヲ、小兒、ちゃくと手ヲトラヘ」

ちゃく-なん (名) [嫡男] 嫡子ニ同ジ。國語、晉語「一介嫡男、奉槃匜以隨諸御」平家物語、一、祇園精舍「刑部卿忠盛ノ朝臣ノ嫡男ナリ」

ちゃく-ひつ (名) [着筆] 筆ノ下シカタ。紙ナドニ、筆ノケツヤウ。カキカタ。

ちゃく-ふく (名) [着服] 着物ヲ、キルコト。又、着タル衣服。着衣

ちゃく-ふく (名) [着腹] 自腹ヲコヤスコト。ゴマカシトルコト。東海道中膝栗毛(文化、一九)三編、下「ソット彼ノ一本ヲ、オノガ懐へちゃくふくシテ、ソ知ラヌ顏ヲシテヰル」

ちゃく-ぼ (名) [嫡母] 妾腹ノ子ヨリ父ノ正妻ヲ呼ブ稱。嫡母。儀制令「凡五等親者、父母、養父母、嫡母、繼母、爲一等」

ちゃく-もく (名) [着目] 目ヲ着クルコト。目ノ着ケカタ。著眼。

ちゃく-よう (名) [着雍・著雍] 十干ノ戊ノ異名。爾雅、釋天篇「太歲在戊、曰著雍」

ちゃく-よう (名) [着用] 衣服ヲ着ルコト。搜神記(晉、干寶)「好著五色衣服、裁制著用」

ちゃく-りう (名) [嫡流] (一)嫡子ノ血系。本家ノ家筋。(末家、分家ナル庶流ニ對ス) チャクチャク。嫡流。太平記、三十、梶井宮事「此ノ宮ハ本院ノ御弟、慈覺大師ノ嫡流ニテ」(二)正シキ流派。正統 正系

ちゃ-くゎ (名) [茶菓] 茶ト、菓子ト。晉書、陸納傳「所設只惟茶果而已」(菓、果、相通ズ)「茶菓ノ饗應」

ちゃ-くゎい (名) [茶會] 茶ノ湯ノ會。茶會。喫茶往來(僧、玄惠)「昨日茶會、無光臨之條」

ちゃ-ぐゎし (名) [茶菓子] 煎茶ニ添フル菓子。茶ノ子。茶請。點心

ぢゃ-やけ (名) [地燒] オニビ。キツネビ。燐(世言考)

ぢゃ-げな (句) デアルサウナ。狂言記、烏帽子折「イカウヒマノイル物ちゃげな程ニ、急イデ來テ結ヘ」「サウちゃげな」

ちゃ-こし (名) [茶漉] 茶滓ヲ漉ス具。小サキ篩ニ、柄ヲ附ケタルモノ。

ちゃ-し (名) [茶師] 葉茶、又ハ、末茶ヲ製シ、又、ソレヲ賣ルヲ業トスル者。好色一代男(天和、西鶴)一「宇治ノ茶師ノ手代メキテ、カカル見ル目ハ違ハジ」

ちゃ-しき (名) [茶式] 茶ノ湯ノ式。室町時代、足利義政ガ同朋ノ相阿彌、眞阿彌、藝阿彌、珠光、堺浦ノ僧武野紹鷗、千利休、ナドヲ召シテ茶式ヲ定ム。天正ニ至リテ、千利休、茶式ヲ大成スト。コレ、モト禪僧ヨリ起リタレバ、(俗說贅辨ニ、筑前國崇福寺ノ開山南浦紹明、正元ノ頃入宋シ、徑山寺虛堂ニ嗣法シ、文永四年ニ歸朝ス。ソノ頃、臺子一カザリ徑山寺ヨリ將來シ、崇福寺ノ什物トス。是レ茶式ノ始メナルニヤ。後、臺子ヲ京都紫野大德寺ヘ送リ、又、天龍寺ノ開山夢窓ヘ渡リ、夢窓コノ臺子ニテ茶ノ湯ヲ始メ、茶式ヲ定ムト)禪味ヲ尙ビ、和敬清寂ヲ旨トスト云フ。コノ流ニ千家、有樂流、遠州流、石州流、三齋流、山田宗遍流、鎭信流、不白流、金森流ナドアリ。本朝談「コノコロ(後醍醐)ヨリ茶禮ト云フ事、イヒソメタレバ、ソノマトヰニテハ、イフモサラナリ、サラヌ時、人ノ前ニススムルニモ、ヤウヤウ其手ワザ、ユヱヨシアルコトトハ成ニケム、應永ノ比、大勝金剛院ノ僧正、閼伽井ノ顯辨上人ニ、茶タツルヤウ學ビツタヘテ、シルシオカレタリ、カク世世ニツタハルウチニ、慈照院ノオトド(足利義政)トリワキテモテハヤサセ給ヘリシカバ、ソノコロ奈良ノ稱名寺ニ、世ノ中ウチワビテコモリヰタル珠光ト云フモノ、イミジクコノミテ、コレヲモテアツカフココロシラヒ、ハタ至リフカキ聞エアリシヲ、イトケウアル事ニ聞シメシテ、チカク召シ給ヒツツ、ソレニ仰セテ、コヲモテ遊ブ種種ノ定メドモ、サタシオキテサセ給ヘルヨリ、世ニ茶の式ハ定マレリトナム、云云、サテ珠光ガトリナシツルオキテヲ、宗悟、紹鷗ナド云フモノ學ビツギツツ、紹鷗ヨリ千ノ宗易ニ傳ヘテ、ツヒニ今ノ世ノ式ノ如クニハ移リ來シナリケリ」茶人大系譜「按舊記、普廣院義教公之世、令眞能掌茶事、其道未盛於當時、至義政將軍時、令珠光定臺子之規矩、而茶禮大備焉、從是眞能、珠光之流分爲二、眞能之流、傳于空海(右近ト稱ス)、空海傳之荒木道陳、道陳傳之宗易、珠光之流傳于宗陳、宗悟、宗陳、宗悟傳之紹鷗、紹鷗傳之宗易、然則宗易傳眞能、珠光之二流、而大成於其道者也」

ちゃ-しつ (名) [茶室] 茶ノ湯ノ會ニ用ヰル室。カコヒ。數寄屋。南浦文集(慶安、僧玄昌)上「比來引余於茶室、……室之陋狀、外設重門、內設主賓」

ちゃ-しぶ (名) [茶澁] 茶碗ノ裏ナドニツク煎茶ノ滓。

ちゃ-ぢん (名) [茶人] (一)茶道ヲ好ム人。茶道ニアキラカナル人。(支那ニテハ、茶ヲ採製スル人ヲ云フト、閑田次筆、三、ニ見エタリ)鑓權三重帷子(享保、近松作)上「サスガ茶人ノ妻、物數寄モ能ク、氣モ伊達ニ」(二)茶人ハ、禪悟好事ヲ以テ世俗ニ異ナルヨリシテ、俗ニ、尋常ニ異ナル嗜好アル人ノ泛稱。モノズキ。好事家。畸人 奇人

ちゃ-しゃく (名) [茶杓] 小サキ匙ノ、末茶ヲ汲ミ取ルニ用ヰルモノ。竹、又ハ、象牙ナドニテ、甚ダ細ソク作ル。チャビシャク。茶匙 撩雲 狂言記、通圓「末茶タテント茶杓ヲオットリ、ヒクヅドモヲチャチャット打チ入レテ」

ちゃ-せき-がけ (名) [茶席掛] 茶席ニ掛クル、形ノ小ナル書畫ノ幅。多クハ橫物ヲ用ヰル。略シテ、茶掛。

ちゃ-せん (名) [茶筅] (一)末茶ヲ湯ニ點ツルニ用ヰル筅。三寸許ナル竹筒ノ、半以上ヲ、極メテ細ソク割キテ穗ニ作リ、其末端ヲ少シ內ニ曲ゲタルモノ。謝宗可、茶筅詩「此君一節瑩無瑕、夜聽松聲漱玉華」海人藻芥、中「建盞ニ、茶一服入テ、湯ヲ半斗入テ、茶筅ニテタツル、云云」(二)ちゃせんがみ(茶筅髮)ノ略。其條ヲ見ヨ。今川大雙紙(今川了俊)「ゑぼしヲ着サル時ハ、髮ヲちゃせんニ結フナリ」

ちゃ-せん (名) [茶筅] 一種ノ賤民ノ稱。ゑたノ如シ。平將門ノ殘黨、誅セラレムトス、空也上人、命乞ヒシテ諸國ニ配置

ス。罪人ノ後トテ、一種ノ賤民トナル。空也念佛宗ニテ、彼等ニ茶筅ヲ作リ賣ラシメシヨリ名トストゾ。一名、土師。

ちゃせん-うち (名) [茶筅打] 濃茶、淡茶ニ、初、茶筅ノ穗ヲ、茶椀ノ中ノ湯ニ漬ケ、シヤハラゲ、茶筅ノ軸ヲ茶椀ノフチニ落シ、打チカヘシテ音ヲ立テサスルコト。後ニハ、水ニテ茶筅ヲススグ時モ、同ジクスト。

ちゃせん-がみ (名) [茶筅髮] 髮風ノ名。總髮ヲ頂ニ束ネ、髻ヲ長クシ、二三ケ所結ヒテ曲ゲズ、其端ヲ揉ミテ總ノ如クセシモノ。形、茶筅ノ如シ。烏帽子下ノ體ナリ。洛陽田樂記ニハ放髻トアリ、曲ゲザル意ナルベシ。織田信長ガ美濃ノ齋藤氏ニ行キシ時、茶筅髮セシヲ不禮ナルモノトセリ。(老人雜話ニ)又、後室ナド此髮ニ結フコトアリ。略シテ茶筅。(童男女モスルコトアリ) 増補松の落葉(寶永、大木扇德)四、小野村彦惣踊「アタマハ茶筅、フトモトデホソモトデ、(元結)フトモトホソモト引キシメテ、瑁ドデヒトリノ伊達男」 桃の實(元祿、石峰)「吉原ハ、ワサトモホドク、茶筅髮」 雅遊醉狂集、春「上林門ニ茶筅髮」

ちゃせん-たて (名) [茶筅立] 茶器ノ一。四角ナル竹針、三本打チタル板ニ、茶筅ヲ立テオクモノ。 千家茶事不白筆記、貴、茶筅立之事、一、杉ノ板ニ竹四角ナル針、三本打タル物也、大違棚ニ置キテ、茶筅ヲ立ル物也」

ちゃせん-なす (名) [茶筅茄子] 料理ニ、茄子ヲ丸ナガラ竪ニ切目ヲツケテ、煮タルモノ。形、茶筅ノ如シ。コレヲ竪ニ、二ツニ割リタルモノヲ、蓮花茄子トス。蓮ノ花ビラニ似タリト。

ちゃ-そば (名) [茶蕎麥] 蕎麥切ノ、蕎麥粉ニ末茶ヲ入レテ打チタルモノ。

ちゃ-ぞめ (名) [茶染] 茶色ニ染ムルコト。又、茶色ニ染メタル布帛。 [illegible]「茶染、チャゾメ」

ちゃ-だい (名) [茶代] (一)茶店ナドニ息ヘル時ニ與フル錢。(二)轉ジテ、飲食店、旅館ナドニテ、飲食料、又ハ、旅宿料ナドノ外ニ與フル心ヅケノ錢。チップ。

ちゃ-だい (名) [茶臺] 茶碗ヲ載スル臺。圓クシテ、鍔アリ、胴アリ、漆器ナルモノ多シ。ちゃたく(茶托)ノ條ヲモ見ヨ。托子。茶托 世間手代氣質(享保、江島其磧)四「連レテ來タ腰元ニ、茶臺ニテ茶ヲハコバセ」

ちゃ-たう (名) [茶湯] (一)朝毎ニ、佛前、又ハ、亡靈ノ前ニ獻ズル煎茶。サタウ。 禪林[illegible]、祭供門「凡佛前、靈前、[illegible]、每日供[illegible]湯[illegible]」 (二)或ハ、云フ、茶ト蜜湯トナリト。(蜜湯トハ、米粉、砂糖、乾薑等ノ物ヲ、湯ニ浮メタルモノ。[illegible]ニ云フ)

ちゃ-だう (名) [茶道] (一)茶會ノ技。ちゃのゑ(茶會)ノ條ヲ見ヨ。茶事。茶技。サダウ。(二)ちゃばうず(茶坊主)ニ同ジ。

ちゃ-たく (名) [茶托] ちゃだい(茶臺)ニ同ジ。木製アリ、銅製アリ、銀製アリ。托子 茶船 茶船兒 [illegible]

ちゃ-だし (名) [茶出] きふす(急須)ニ同ジ。[illegible]「茶ツマミ込ム、注ギ出ス色ハ薄ケレド」

ちゃたて-むし (名) [茶立蟲] 昆蟲類ノ一種。能ク人家ニ住シ、顎ヲ用ヰテ、障子ヲ[illegible](下ノ出典ヲ見ヨ) 海錄、十七、四條「[illegible]人家有小蟲[illegible]」

ちゃ-だな (名) [茶棚] 茶道具ヲ載スル棚。[illegible]

ちゃ-だんす (名) [茶簞笥] 棚アル匣ニテ、特ニ茶道具ヲ、載セ置クニ用ヰルモノ。茶厨

ちゃち (名) ミスボラシキコト。ヤツヤツシキコト、[illegible]コト。貧弱 「[illegible]見タイナ、コチコチノ[illegible]事ちゃちダ、劣ッテ居ル拙イ」何シロちゃち[illegible]デハモチキレヌ」ハレヤカニカヲイレマスト、誠ニちゃちナ[illegible]」

ちゃ-ちゃ (名) [父] チチ。ナナ。ダダ。テテ。トト。チャン。

ちゃ-ちゃ (名) (一)サマタゲ。ジャマ。妨害。(二)ちゃちゃほうちゃノ略。

ぢゃ-ぢゃ (名) [illegible]

ぢゃぢゃ-うま (名) [騍馬] [illegible](騍馬)ニ同ジ。

ちゃちゃ-く・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) (一)[illegible] (二)男女、相互ニ戲レ合フ。チチクル。(三)サンザンニスル。フミニジル。[illegible]

[illegible]

ちゃちゃ-と (副) キソニ。サッサト。ニ。ハカニ。急卒ニ。手バヤニ。 細川両家記[illegible]「凡アル人ハ、ちゃちゃと呼バレズ」

ぢゃぢゃ-ば・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) ガミガミ。パル。剛氣ヲ出シテ、言ヒ張ル。 淨瑠璃、[illegible]「ソンナ事シテモアルガ[illegible]、オレガちゃちゃばッテ、合點シネエ」

ちゃちゃ-ぶちゃ (名) [illegible]ニ同ジ。

ちゃちゃ-ほうちゃ (名) [illegible]

ちゃちゃ-むちゃ (名) ムチャクチャニスルコト。ダイナシニスルコト。

ちゃちゃむちゃ-かう (名) [illegible]

ちゃちゃ-れいれる (他) [illegible]

チャ-ツ (名) [楪子] (字ノ唐音) 又、ちゃっつ。木製ノ漆器。菓子ナド盛ルモノ。皿ノ如シ、根來塗ノ朱[illegible]。キモノアリ。[illegible]

ちゃ-つ[illegible]

ちゃづけ (名) 【茶漬】 飯ニ煎茶ヲ注ギテ食フコト。又、其飯。湯漬ニ對ス。

ちゃっちゃと (副) サッサト。スバヤク。

ちゃっと (副) チョット。急速ニ。タダチニ。早ク。 狂言記、木闘「扨乞ヒニハ踊ヲ踊シウノ、イヤ相撲ヲトラウト、ロロニ云ウテ、ちゃっと埒ガ明キマセナンダ」

ちゃつぼ (名) 【茶壺】 製茶ヲ貯ヘ置ク壺。茶人。末茶ニスベキヲ納ルルニハ、茶家ニ種種ノ名目アリテ、形狀、一ナラズ。

ちゃつみ (名) 【茶摘】 茶樹ノ芽ヲ摘ミ取ルコト。又、ソノ人。 炭俵(元祿、芭蕉)夏「木ガクレテ、茶つみモ聞クヤ、郭公」

ちゃみす (動) チャリニス。チャカス。

ちゃのくゎい (名) 【茶會】 喫茶ノタメニ會合スルコト。(後ニ紹鷗、利休ノ時代ニ、ちゃのゆト稱フルコトトナレリ) 太平記、廿四、天龍寺造立事「身ニハ五色ノ褂リ、食ニハ八珍ヲ盡シ、茶の會、酒宴ニ若干ノ費ヲ入レ」

ちゃのこ (名) 【茶子】 (一) 茶ウケノ菓子。點心。 簾中舊記、伊勢貞陸「入江殿ヨリ御ちゃのこ參リ候」 尺素往來(一條兼良)「菓子者、茘枝、龍眼、胡桃、榧實、云云」 (二) 朝茶子ト云フハ、朝食ニ、茶粥ヲ用キルコトナルベシ、略シテ、ちゃのこトノミモ云ヒ、朝飯ノコトトス。(今、靜岡縣ニテハ、朝飯ヲあさぢゃトモ、ちゃのこトモ云フ) (三) 朝ノ空腹ニ粥ナレバ消化レヤスク、腹ニタマラヌ意ヨリシテ、容易キコト、骨折ラズデキルコト、又、朝腹の茶の子ト云フ諺モ、容易ナル意ニ云ヒ、お茶の子ナドトモ云フ。 尋常茶飯事 淺井三代記(山實子)十四「淺井ガ城ハ、チヒサイ城ヤ、アアヨイ茶の子、朝茶の子」(容易キコト) 土佐節、草摺引「鬼ヲ茶の子ノ金平ダンベイ」 傾城反魂香(寶永、近松作)中「是レ程ノ喧嘩ハ、お茶のこ、お茶のこ、茶の子ゾヤ」

ちゃのま (名) 【茶間】 (一) 人家ニ、奥ノ間ト臺所トノ間ナドニアル食事ナドスル室。 懸八卦柱暦(正德、近松作「大經師昔暦」改題、元文)上「茶の間、中ノ間、スミズミ見廻シ」 (二) 轉ジテ、下女ノ居ル室。女中部屋。 槍權三重帷子(享保、近松作)上「玄關ニ物マウ、茶の間ノまんガ、ドレイト應へ、出迎ヘバ」

ちゃのみ (名) 【茶飲】 (一) 茶ヲ飲ムコト。又、多量ニ茶ヲ飲ムコト。又、其人。 冥途飛脚(正德、近松作)下「荷持擱ノ傳ガ婆、アアイカイ茶喫チャガノ」 (二) 茶人。茶ノ宗匠。 太平記、三十、梶井宮事「茶飲、連歌師ヲ集メテ、朝夕遊ビ興ゼサセ給ヒシカバ」 (三) 次條ノ語ノ略。

ちゃのみぢゃわん (名) 【茶飲茶碗】 ちゃわん(茶碗)ノ條ヲ見ヨ。

ちゃのゆ (名) 【茶湯】 〔茶の會ノ訛、或ハ茶湯ト別チ云フト〕 (一) 蒸シ作レル茶ヲ煎ジタル湯。麥湯ト云フガ如シ。佛ニ供スルニ、音讀シテ、ちゃたうト云フ。 喫茶養生記(建保、榮西)「茶湯不飲、則生二種病」 (二) 茶ノ湯ヲ飲ムニツキテノ一種ノ技。 異本洞房語園(享保、庄司勝富)「茶の湯、茶の會、末茶ヲ點ズル一種ノ作法」 伊勢守貞忠亭御成記、大永三年八月五日「貞忠亭へ御成、云云、御ちゃの湯」 俳諧錦繡緞(其角)「利休ガ茶湯道具、新古ノ目利」 香海味(天文)「或ハ大名、或ハ御家門ナドノ御茶の湯ニモテナシ、結構ニ木具、土器、金銀ノ鶴足、云云」 茶話指月集(元祿、藤村庸軒)「雜用カケテ、還キ處ヨリ、孤戸求メテ、中垣ノ釣戸ニセシヲ、利休サミシテ、カヤウノ事ニテ、其人ノ茶の湯見エ侍ル」 雜俳狂集、柱暦「千尋アル、陰ノ花ト、カクレテヤ、浮世ニ佗ノ、茶湯スル宿」 東國紀行(天文、谷宗牧)「數寄ノ御茶湯、名物數ヲ盡サレ」 茶湯ノ心得書「見渡セバ、花モ紅葉モ、ナカリケリ、浦ノ苫屋ノ、秋ノ夕暮」(武野紹鷗)「花ヲノミ、待ツラム人ニ、山里ノ、雪間ノ草ノ、春ヲ見セバヤ」(千利休)

ちゃのゑ (名) 【茶會】 又、ちゃのゆ。特ニ客ヲ會シテ饗應シ、濃茶、薄茶ヲ點テテ供スルコト。特ニ其作法アリテ、技藝ノ一トス。コレ茶式ナリ。其條、及、前條ヲ見ヨ。 老人雜話(享保、江村專齋)木綿踏皮「茶の會出デラレム時、足冷エムトテナリ」 武野燭談、廿七「其時、秀吉公ハ伏見ニテ利休ト茶の會アリ」 茶ノ會ヲ行フニ、朝會、晝會、夜會ノ三種アリ。其他、不時會ト云フモアリ。此會ニハ、客人ヲ一時、待合ニ控ヘサセ、茶室(四疊半、四疊、三疊、二疊ナドノ種類アリ)ノ廣狹ニヨリテ、客人ヲ分チテ初座、後座トナシ、室內整頓ナサバ、客ヲ初座ノモノヨリ招キ入レ、點茶ノ式、終リテ室外ニ退ク。次ギテ後座ノモノヲ招キ入ルルナリ、コレヲ後座入ト云フ。其室內ノ裝飾ナル床ノ間ノ掛物、插花ハ初座、後座ト相互ニ變遷スルモノトス。下ノ出典ヲ見ヨ。 南方錄、二、不時之會「後座掛物卷テ、客ヘ花所望スベシ、又ハ初座花ナラバ取入テ、秘藏物抔外題ヲカザリテモヨシ、カ樣ノ事、時宜ニ寄ルベシ」 同、同、獨客之會「客腰掛ニ來ラバ、早ク迎入レ、或ハ懷石ヲモ挨拶ノ上相伴シ、或ハ中立ノ跡仕廻ヲ急テ、腰掛ヘ出テ挨拶スル類、色色主客共ニ心ヅカヒ有也、後座入ノ事、右ノ如ク腰掛ニ一所ニ居ル故、漸湯相能成申ベシ、御入アレト云テ先ニ歸ルベシ」 貞要集、二、一客一亭之事、附、花所望次第之事「客、座入著座ヲ聞合、茶道口ヨリ出(主人ノ)、此時ハ客、功者ナレバ、炭所望之事有、又、初座ニ花所望ノ事モ有リ、イヅレモ二品ノ內、所望可申、若客炭辭退アラバ、後座ニ花所望可申」 又「客本座ヘ直ル時ニ、亭主、床前ヘ寄、一覽申、花臺ヲ取入、勝手次第、會席ヲ出ス、後座ノ時ハ、其儘、水覆ヲ取出、茶ヲ立ル也、花ヲ若客生不申候ハバ、亭主花ヲ生申候、カナラズ後座ニ炭所望可有之ナリ」

ちゃばい (名) 【茶梅】 サザンクヮ(茶梅)ニ同ジ。

ちゃばうき (名) 【茶帚】 小サキ羽帚。特ニ茶爐ノ邊ヲ拂フニ用キルモノ。

ちゃはうじ (名) 【茶焙】 葉茶ヲ火ニ焙ルニ用キル具。曲物ニ、紙、又ハ、金網ノ底アリテ、柄ヲ有スルモノ。

ちゃばうず (名) 【茶坊主】 武家ニテ、茶道ノ事ヲ掌ル者ノ稱。剃髮ナルガ故ニ云フ。茶道。オサダウ。坊主。茶禿

ちゃはかせ (名) 【茶博士】 (一) 茶ノ湯ノ名人ノ稱。略シテ、茶博。茶伯。サハカセ。 西湖志餘「杭州先年有二酒館一、而無二茶坊一、然富家燕會、猶有下專供二茶事一之人上、謂二之茶博士一」 (二) 茶ヲ賣ル人。茶商。茶師。 水滸傳、第二回「史進便入二茶坊裏一來、揀二一副坐位一坐了、茶博士問道、客官喫二甚茶一」 封氏聞見記「李公(李季卿)、心鄙レ之、茶罷、命二奴子一取二錢三十文一、酬二煎茶博士一」

ちゃばこ (名) 【茶箱】 葉茶ヲ詰メテ運送スルニ用キル箱。濕氣ヲ防グタメニ、內外ヲ紙張リニシ、柿澁ヲヒク。 茶道筌蹄(默默齋主人)五「茶箱、桐無地、大小トモ利休形」

ちゃばしら (名) 【茶柱】 番茶ナドノ煮花ノ中ニ、偶、茶ノ莖ノ雜レルガ、豎ニ立チテ浮ブモノ。俗ニ、吉事ノ兆トス。

ちゃばなし (名) 【茶話】 煎茶ヲ飲ミナガラ、話シ合フコト。チャワ。サワ。

ちゃばん (名) 【茶番】 (一) 茶ヲ煎ズル役ノ者。 (二) 次條ノ語ノ略。一種ノ道化芝居ナリ。茶番狂言ハ、仕形、身振ヲ以テ、地口ノ事ヲスルコト。立ち茶番、口上茶番ナドアリ。 蜘蛛の絲卷(弘化、山東京山)「茶番、天明元年ノ十二月、アル所ナル劇家ニテ、年忘レトテ茶番ト云フ事アリシニ、云云、茶番ノ趣

ハ、[illegible]二當棒、二[illegible]カラ日[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ヘ[illegible]ナド云フ、卑俗ノ語ナリ」

ちゃばんきゃうげん（チャバン・キヤウ・ゲン）（名）［茶番狂言］江戸ニテ、芝居ノ役者共、顔見世ノ頃、樂屋ニテ茶番、酒番ナドトテ、其番ニアタリシ者ヨリ饗スルコトアリ、色色タハレタル趣向ヲ盡ス、此時、茶番ニ當リシ役者ノ、工夫思ヒツキニ、景物ヲ出シテセシヲ、云ヒシナルベシ。略シテ、ちゃばん。にはか、（京都）　俗耳鼓吹（天明、大田南畝）「俄カト茶番トハ、似テ非ナルモノ也」

ちゃばら（名）［茶腹］（一）茶ヲ多ク飲ミタル時ノ腹工合。（二）茶ヲ飲ミテ、一時、空腹ヲ凌グコト。「茶腹モ一時」

ちゃひき（名）［茶挽］茶ヲ挽ク藝娼妓ノ稱。オチャヒキ。おちゃ（御茶）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。　文化の川柳「おちゃひきノ、アハレ陰ミセノ、東ヤマ」

ちゃひきぐさ（名）［茶碾草］〔小兒、爪ノ上ニ唾ヲツケ、此實ヲ栽セテ吹ク時ハ、旋グルコト茶臼ヲ碾クガ如シ。因リテ名ヅクト云フ〕原野ニ多シ。秋冬、苗ヲ生ジ、春ニ至リテ甚ダ繁リ、麥ノ苗ニ似タリ。春ノ末、一二尺ノ莖ヲ出ス。葉、互生シ、莖ノ末ニ、長キ穗ヲナシ、細枝ヲ分チテ、多ク小苞ヲ垂ル、長サ六七分、末尖レリ。後、苞中ニ小實アリ。コレヲ春の茶碾草トモ云フ。雀麥　夏の茶碾草ハ、又、畑ニ栽培シ、葉長ク、夏ノ初ニ穗ヲ出ス。莖ノ高サ二三尺、其末、七八寸ハ穗トナル。穗ノ形ハ狹ク、枝多ク、苞、多ク連リテ下垂ス。實ハ牛馬ノ飼料トナ

ル。カラスムギ。燕麥　[illegible]

[illegible]二、[illegible]

ちゃびしゃく（名）［茶柄杓］茶ヲ點ズル時、湯ヲ釜ヨリ汲ミ取ルニ用ヰル小サキ柄杓。　百日曾我（元祿、近松作）五「水新折汲運ベバ虎少將、母上モ諸共ニ取ル茶柄杓ノ同同ノ念佛」

ちゃビン（名）［茶瓶］（一）茶ヲ煎ズルニ用ヰル土瓶。　槍狩劍本地（寶永、近松作）二「茶瓶、茶碗ノ割物、諸物、一所ニ置クハアブナモノ」（二）又、外出ノ時、茶瓶、[illegible]、茶道具、一切ヲ備へテ、從者ニ擔ヒ行カシムル具。辨當ヲモ加ヘタルヲ、茶辨當ト云フ。（三）結髮ノ一。前髮ヲ甚ダ高ク前ニ押出シ、後ノ髷ト合ハセテ、其形、茶瓶ノ手ニ似タルモノ。（文化、文政頃ノ風俗）

チャブ（名）［喫飯］〔ちゃぶハ、茶飯ノ支那音（Cha fan.）ノ訛カ、或ハ云フ、支那語、卓袱（Cho fu.）ノ訛カ、又、米國邊ニテ、支那料理ノコトヲ、ちゃぷすい（Chop-suey.）ト云フヨリ、轉ゼシナラムト云フ〕食ベルコト。

ちゃぶくろ（名）［茶袋］（一）葉茶ヲ貯フル紙袋。　御伽草子、一寸法師「ミツモノノウチマキ取リ、茶袋ニ入レ」（二）葉茶ヲ入レテ、湯中ニ煎ズルニ用ヰル布ノ袋。　好色二代男（貞享、西鶴）一「選ヒ葉テノ茶袋ニ小[illegible]ヲ入レ」

チャブだい（名）［食卓］〔ちゃぶ（喫飯）ノ條ヲ見ヨ、或ハ云フ、卓袱臺ノ支那音ノ訛ト〕食事用ノ脚アル臺。食卓。飯臺。

ちゃぶね（名）［茶船］〔ちゃろト云フ舟アリ、其轉カ〕運送ニ用ヰル一種ノ川船ノ名。モト、大船ノ荷物ヲ分ケ載セテ、運送スル舟ナリ。上荷舟ヨリ小サシ、十石積ナリト云フ。　[illegible]

[illegible]作）上「ハヤ本[illegible]ノ伊丹酒、茶船デ下ダル[illegible]」

チャブや（名）［飲食店］〔ちゃぶ（喫飯）ノ條ヲ見ヨ〕[illegible]ナド[illegible]外國人ヲ目的トスル[illegible]飲食店。

ちゃべんたう（チヤ・ベン・タウ）（名）［茶辨當］茶瓶、[illegible]當。ちゃびん（茶瓶）ノ條ヲ見ヨ。提燈　[illegible]

[illegible]

チャボ（名）［矮鷄］〔舶來種ナリ、占城國（ヘノ佛領印度支那）ヨリ渡來セシナラムカ。西藏語ニ、ちゃも、沖繩ニテ、ちゃあま、伊豆下田ニテ、ちゃぼ〕（一）鷄ノ類ニシテ、形、極メテ小サ[illegible]ノ前、僅ニ一二寸、其小サクシテ美シキヲ愛ス。[illegible]脚ノ黄ナルヲ上品トス。[illegible]トス、眼、脚、黄ナリ。[illegible]南京矮鷄、又ハ、地摩ト云フ。其最モ小サキヲ、[illegible]リ。（二）[illegible]ノ名。[illegible]二「中[illegible]、土瓶、小[illegible]」[illegible]シテ、丈ノ低キコトヲ云フ語。

チャボひば（名）檜ノ一[illegible]高サ二十尺許、多クノ短キ小枝ヲ生ジ、觀賞用ニ栽培セラル。[illegible]

ちゃぼん（名）［茶盆］[illegible]ナド載スルニ用ヰル[illegible]

ぢゃぼん（ジヤ・ボン）（感）水ノ聲。ドブン。ドンブリ。

ちやほや（副）寵ク、[illegible]スコト。

ちやほや（副）アマヤカシ[illegible]云フ語（小兒ヲ）

ぢゃまや（ヂヤ・マ・ヤ）（名）［地山］（一）地方、卽チ、陸地ノ山。（海船、舟子ノ語、島山ニ對シテ云フカ）（二）[illegible]付テ[illegible]

ちゃまか（名）[illegible]

ぢやまつだけ（ヂヤ・マ・ツ・ダケ）（名）［地山松蕈］其地ノ山ヨリ産ズル松蕈。

チャまる（名）［茶丸］[illegible]ノ一種。閃色　[illegible]

ちゃみせ（名）［茶店］[illegible]

ちゃん（名）[illegible]（文化、[illegible]、七坊ハちゃんニオンブ」

チャン（名）［瀝青］[illegible]ノ略ナラム。（[illegible]ハ一名、[illegible]加ヘテ、煮テ煉リ合ハセタルモノ。粘リテ固ク黑シ。材ニ塗リテ、朽ツルヲ防ギ、其隙ヲ塞グナドノ原料ニ用ヰル。[illegible]ドワ合ハセテ、[illegible]引ク、引キタルーツ、大[illegible]ニテオシツクルナリ」

ちゃんきり（名）〔[illegible]ヲ名トセルナラム〕俗間ニ、一種ノ樂器。[illegible]合ハセ用ヰル、卽チ、[illegible]ナリ。但シ、[illegible]アルツ以テ、其内面ツ摩リ、[illegible]

ぢゃんこ（ヂヤン・コ）（名）[illegible]〔めっちゃ。みっちゃ。[illegible]

上略、んお〻ハ添語、濁音ナラム」又、ぶ〻ャんお。イモガホ。アバタヅラ。ミッチャヅラ。（尾張ニ、いもくた、いもくし、越後ニ、ぐぶ〻ャト云フ）

チャン-ぶろ（名）〔ちゃん（錢）ハ字ノ支那音、Chien.ノ轉、ぶろハ添語〕卑語ニテ錢ノ稱。春花五大刀（寛政、並木五瓶）「錢ト云ッチャ、缺ケタちゃんぶろモナイ」

ちゃん-ぶろ（感）錢ヲ落ス音ニ云フ語。コロガル。チリリン。

チャンコロ（名）〔中國人（廣東語）ノ訛〕殘音ノヲカシキヨリ、支那人ヲ侮蔑スル語トナル。西洋人ヲ毛唐人ト侮稱スルガ如シ。

チャンス（名）〔機會〕〔英語、Chance.〕キッカケ。ヨキ場合。ヨキヲリ。

チャン-チン（名）〔香椿〕樹ノ名。支那、北京音、ひゃんちん（香椿）ノ訛。

ちゃん-ちゃん（名）〔其鉦ノ音ニ起ル〕（一）支那（清國）人ノ服裝（唐人笠ニ、筒袖ノ衣ニ、紅布ノ芥子括）シテ、江戸市中ヲ、鉦ヲちゃんちゃん叩キテ、飴ヲ賣リ歩キシモノ。「ちゃんちゃんガ來タ」（二）其服裝ヨリ移リテ、小兒ノ袖ナシ羽織ノ稱。チャンチャンコ。（三）其髮風（辮髮）ヨリ移リテ、小兒ノ頂ノ左右ニ、髮ヲ圓ク剃リ殘シオクモノ。ケシバウズ二ツオクナリ。（四）轉ジテ、直ニ支那人ノ稱。「ちゃんちゃん坊主」

ちゃん-ちゃん（副）（一）物事ノ順序ヨク整フ狀ニ云フ語。キチン。チャント。（二）刃物ナドノ打合フ音ニ云フ語。

ぢゃん-ぢゃん（感）（一）モト、江戸、町町ノ火見梯子ノ半鐘、鎭火ノ時ハ二ツ打ツ音。（二）轉ジテ、事ノ終ハリヤムコトニ云フ語。多クハ失敗ノトキニ用キル。おぢゃんになるト云フガ如シ。

ちゃんちゃん-ぶ（名）〔ぶハ紙子、布子、刺子ナドヨリ移リタルモノ〕ちゃんちゃんノ條ノ（二）ニ同ジ。

ちゃん-ちゃら（副）次條ノ語ノ略。

ちゃん-ちゃら-をか・しい（形）取ルニ足ラヌト嗤笑スル語。笑止千萬ナリ。

ちゃん-と（副）〔てうどノ轉。其條ヲ見ヨ〕聢ト。オゴソカニ。タシカニ。正シク。浮世風呂（文化、三馬）初編、上「私ガ傍ニ、ちゃんと落チテアッタノサ」

チャンバ（名）〔占城〕〔占城ハ、英語、Champa, 又ハ、Chamba. 占不勞（Champura）ノ略、古人ノ都城ノ義〕古ヘノ林邑、今ノ佛領印度支那地方。增譯采覽異言、八「占城ハ古ヘノ林邑國ニシテ、唐ノ初ニ至テ、改テ環王國ト云フ、唐ノ憲宗ノ元和年中ニ、安南都護張丹ニ破ラレ、因テ都ヲ占ト云處ニ遷シテ、改テ占城國ト號ス、云云、此國、西語、ちゃむば、又名、ぶ〻ャばあ、一名、ちょんばト云フ」

チャンバ-ぎく（名）〔占城菊〕〔占城地方ノ原產ニテモアルカ〕ささやきぐさ（薄落廻）ノ異名。其條ヲ見ヨ。（此草、我ガ國ニ野生アルニ、舶來モアリテノ後ノ稱ナルカ。菊ト云ヘド、花、葉ノ似タルコトモナシ、不審。亞米利加、歐羅巴ニテハ、觀賞用トシテ栽培スト云フ）

チャンピオン（名）〔英語、Champion.〕（一）戰士。（二）競技ノ選手。（三）競技ノ優勝者。

※ちゃん-ぶくろ（名）〔茶袋〕ちゃぶくろ（茶袋）ノ音便。其條ヲ見ヨ。

ちゃん-ぽん（名）彼ト此ト交互ニ混ズルコト。互ニ打込ムコト。（鉦ト鼓ナドヲ）

チャン-メラ（名）〔嗩吶〕ちゃるめら（嗩吶）ニ同ジ。長崎歲時記（寛政、野口文龍）「當所ニテ嗩吶ヲ吹ク者ハ、唐人葬送ノコトアレバ、コレヲ吹キテ」

ちゃ-め（名）〔茶目〕（一）フザケルコト。オドケヲナスコト。ダウケ。滑稽　諧謔・（二）イタヅラナコドモ。

ちゃ-めし（名）〔茶飯〕（一）番茶ヲ煎ジタル湯ニテ炊ギタル飯。但シ、鹽、少許ヲ加フ。又、奈良茶飯、きがら茶飯、ナドト云フアリ。各條ニ注ス。（二）今專ラ、きがらちゃめし（黃枯茶飯）ノ稱。

ちゃ-や（名）〔茶屋〕（一）製茶ヲ賣ル家。葉茶屋。チャドコロ。茶肆（二）路傍ニ、旅人ヲ息ハシメ、一服何錢カニテ、茶ヲ供スル屋。茶店。茶亭（室町時代ヨリ）東關紀行（天文、谷宗牧）「日坂トカ云フ茶屋ニヤスミテ、云云、此山ノ名物ナリトテ、蕨モチヒト云フ物ヲ、シスマシテ出シタリ」（三）總ベテ、飲食、遊興等ノ客ヲ邀スル家。（路傍ノ茶見世ヨリ變ジタル語カ）女重寶記（元祿、高井伴寛）「紅ナド頰サキロビル爪サキニヌルコト、云云、濃ク赤キハ賤シク、茶屋ノ女房ニタトヘタリ」心中天網島（享保、近松作）上「ナントクッシャ殿、ちゃやへ來テ產所ノ夜トギスルコトハ、ツヒニナイ」「茶屋小屋」料理茶屋」芝居茶屋」引手茶屋」

ちゃや-ぞめ（名）〔茶屋染〕〔當世模樣ト云フ程ノ語カト云フ〕歌繪ヲ染メ成シタルモノ。「我ガ見テモ久シクナリヌ」ト書キテ、住吉ノ社ノ體ヲカキ、「岸ノ姫松」ト云フニ、松ヲカケル類ナリ。好色三代男（貞享、西鶴）四「茶屋染ノ帷子ニ、黑ノ帶ヒラタク」

ちゃや-つじ（名）〔茶屋辻〕茶屋染ノ辻が花ノコト。卽チ、茶屋染ノ間間ニ、鹿子ヲ入レテ畫キ染メタルモノ。つじがはな（辻花）ノ條ヲモ見ヨ。浮世風呂（文化、三馬）三編、下「ちゃやつじトハエ、サラシノ總模樣サ」

ちゃら（名）人ヲ眩惑セシムルコト。デタラメ。デマカセ。チャラホラ。

ちゃら-くら（名）辯舌ニテ、イヒ紛ラカス狀ニ云フ語。デマカセ。デハウダイ。あほだら經「說法談義ハ都都一端唄デ、ちゃらくらゴマカシ」俳諧名物鑑（寛延）「何モカモ、ヤミ雲助ノ、旅ノ空、雨ヲ月ヨト、ちゃらくらノ夢」

ぢゃら-くら（名）男女相互ニ、痴話スルコト。又、ジャラクラ。

ちゃら-ちゃら（副）（一）雪駄ニテ、急ギ歩ク足音ニ云フ語。（二）辯舌ニヨドミナク話ス狀ニ云フ語。ペラペラ。

ぢゃら-ぢゃら（副）女ノ淫猥ノ風ヲナスニ云フ語。又、ジャラジャラ。

ちゃらっ-ぽお（名）（一）デタラメ。デハウダイ。デマカセ。虛言　虛誕　浮世風呂（文化、三馬）四編、下「矢場ノ姉ヤ水茶屋ノ小女ヲ對人ニシテ、ちゃらっぽおヲヌカストハ、的ガ違フ」（二）デマカセヲ云フ人。

ちゃら-ほら（名）虛言ヲ云フコト。デマカセヲ云フコト。嬉遊笑覽、五、下「今エシレヌ浮言ヲ言フヲ、ちゃらほらト云フモ是ナリ、省キテハ、唯ほらヲ吹クトモイヘリ、又、くらほおト云フコトトコレト混ジテ、ちゃらほおト云フ」

ちゃ-らん（名）〔茶蘭〕一名、ぶんぶ〻ュらん（眞珠蘭）。又、魚子蘭トモ云フ。多年生

ノ草本。莖ノ高サ二三尺、明ラカナル節ヲ有シ、葉ハ對生ニシテ、橢圓形ニテ鋸齒アリ、夏、黄緑色ノ小花ヲ開ク、觀賞用トシテ、庭園ニ栽培セラル。

ちやらん (感) 金屬ナドノ、互ニ觸レ合ヒテ發スル音ニ云フ語。チャリン。

ぢやらん (感) 金屬ナドノ、強ク相觸レテ發スル音ニ云フ語。

ちやらん-ちやらん (感) ちやらんノ餘韻。

ぢやらん-ぢやらん (感) ぢやらんノ餘韻。

ちやらん-ぽらん (名) 散ラシテ仕舞フコト。跡仕末ヲツケズ、ゴマカスコト。

ちやり (名) 血槍 烈シク戰ヒテ、血ニ塗レタル槍。血ダラケナル槍。

⁂**ちやり** (名) 茶利 〔戯ノ轉〕 洒落。オドケグチ。諧謔 又、オドケタル文句。

ちやりん (感) ちやらんニ同ジ。

チャルメラ (名) 嗩吶 〔葡萄牙語、Charamela.〕 支那ノ樂器。モト囘囘族ノ用キシモノト云フ。長サ一尺二三寸、喇叭ニ似テ七孔アリ、頭尾ハ銅ニテ、管ハ木ナリ。チャンメラ。唐人笛。銅角哱囉 太平籥 嬉遊笑覧、五、ちやるめら「今、軽わざノ鳴モノニ用フル銅角ヲ、ちやるめらト云フ、コハ茶話[illegible]ノ轉訛ニヤ、清俗ニ、銅角、一名、[illegible]ト云ヘリ」 好色二代男(貞享、西鶴)八「喇叭、ちやるめら、萬ノ物ノ言マデモ聖カニ」 浮世床(文化、三馬)二、「和唱、中ニ桃色ノ肩衣ヲ羽織ッテ、ちやるめらヲ吹カウト云フ人ダ」

ちやれう (名) 茶寮 スキヤ。カコヒ。

ちやわ (名) 茶話 ちやばなし(茶話)ニ同ジ。 [illegible]「茶話到黄昏二」

ちやわん (名) 茶碗 (一)茶ヲ飲ムニ用ヰル磁器ノ稱。(室町時代以後、搢紳ノ爭ヒテ支那ニ瓷器ヲ仰グモノ、大抵、茶器ナリ。因リテ茶碗、亦、瓷器ノ總稱トナル)末茶ニ用ヰルモノハ、形狀、大小、種種ナリ、今、專ラ煎茶ヲ飲ムニ用ヰルハ、多クハ形、小ナリ、茶飲茶碗ト云フ。茶甌 茶盌 其稍、大キクシテ、飯ヲ盛ルニ用ヰルヲ、飯茶碗、又、茶漬茶碗ナド云ヘリ。 伊曾保物語(文祿)「ナマヌルイ湯ヲ一杯、大茶碗ニ持ッテ來テ」「珈琲茶碗」「紅茶茶碗」 (二)〔古クハ、泛ク磁器ヲモ云ヒ、茶碗の枕ナド云ヘリ。 字類抄「茶碗、チャワン」 民部省式、年料雜器「尾張國、長門國進物、茶碗、廿口」 [illegible]一、王道后宮、大井川御幸「御膳設ケラレケリ、茶垸ニテゾアリケル」 江家次第、五、春日祭使途中次第、關白「飲、水、兼時依、無、土器、以、茶垸、獻、之」 菅家集、五、和歌「德大寺右大臣、云云、師子ノ形ツクレリケル、茶わんの枕ヲ奉ルトテ」

ちやわん-ぐすり (名) 茶碗藥 やきものぐすり(燒物藥)ニ同ジ。

ちやわん-バチ (名) 茶碗鉢 どんぶりばち(丼鉢)ニ同ジ、(仙臺、安房) [illegible]記、秋「夏ハ瓜ナド、又ハ、何ニテモ、鍋ノ鉢、或ヒハ茶碗鉢ナドニ水ヲ入レ、冷ヤシテ出ダスモノナリ」

ちやわん-むし (名) 茶碗蒸 料理ノ一種。鷄肉、蓮根、芹、長芋、銀杏ナドヲ下煮シタルニ、玉子ヲトカシ、味醂、醬油ニテ味ヲツケ、煮出汁八分目ニ注ギ、大イナル茶碗ニ盛リテ蓋ヲナシ、蒸セルモノ。

ちやわん-もり (名) 茶碗盛 料理ノ一種。肉、菜ヲ澄シ汁ニテ煮テ、大イナル茶碗ニ盛レルモノ。

ちやゑん (名) 茶園 チャバタケ。茶畑

ちゆ (名) 治癒 病ノナホルコト。平癒。

ちゆ (名) 地楡 アヤメタム。われもかう(吾木香)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]名玉鼓醯」

ちゆう (名) 中 (一)ナカ。マンナカ。カタヨラヌコト。ナカホド。(上下、前後、左右ナドニ對ス) 中庸 中庸、第一章「中也者、天下之大本也」 [illegible]物「[illegible]ナドハ我ホカ中ゾ」 (二)内。ナカ。(外ニ對ス) 「[illegible]中 [illegible]中」

ちゆう (名) 空中 〔佛語ノ語。中有ノ轉カ、又、宙ヲ當字ニス〕 (一)ナカゾラ。空虛ノ間。中天。空中。 [illegible]、十八、[illegible]川相模守討死事「[illegible]孫四郎ヲ中ニ[illegible]、其ノ[illegible]二[illegible]ントスル[illegible]アリ」「[illegible]」 (二)[illegible]足ノ地ニツカザルコト。宙 「ちゆうヲ飛ブ」

ちゆう (名) 忠 (一)[illegible]ヲ[illegible]シテ[illegible]カナルコト。心ノ[illegible]キコト。 [illegible]記、元年[illegible]「以[illegible]」 (二)[事]ノ[illegible]心ヲ以テ主君ニ仕フルコト。 [illegible]「[illegible]」 [illegible]之何[illegible]天[illegible]「以忠事君[illegible]」 平家物語、二、[illegible] (三)[illegible]正[illegible]ノ官 [illegible] [illegible]

ちゆう (名) 注註 文句ノ意ノ解シ難キヲ說キ論ス文。ワケガキ。トキアカシ。 [illegible]

ちゆう [illegible] 罪アルモノヲ成敗スルコト。 [illegible]

ちゆう (名) 住 [illegible]スムコト。住ミテ居ルコト。 [illegible]

ちゆう [illegible] [illegible]ニ同ジ。 [illegible]

ちゆう (名) 柱 [illegible]ニ云フ語。琴ニハ柱ト云フ、コレ樂人ノ用ヰルハ圓柱、[illegible]傳法師ナルハ方柱ニテ、形異ナリ。而シテ共ニ棹ニツクリツケタリ。即チ胴ノ上ニ立テテ、絃ヲ支ヘシムル具。 [illegible]四十三、紅梅[illegible]ハ、云云、[illegible]ド、[illegible]リ[illegible]レタリケレバ、ヒトツ[illegible]ニケリ」

ちゆう [illegible] [illegible]

ちゆう [illegible] 數ノ語。 [illegible]

ちゆう-あい (名) [illegible] (一)[illegible] (二)[illegible]

ちゆう-あう (名) 中央 (一)マナカ。マンナカ。 [illegible] (二)中心。中樞。 [illegible]

ちゆう-あう-しゆけん (名) 中央集權 [illegible] ノ[illegible] 政務ノ[illegible]、中央政府ニ[illegible]シ、地方官ノ自由ニ[illegible]

ちゆう-あう-せいふ [illegible]

一般ニ渉ル行政ヲ統轄スル官府。各省大臣、內閣ナドノ類。中央官府。中央行政府。中央行政官府。中央行政官廳。

ちゅうい (名) [注意] (一)ココロヲトドムルコト。氣ヲツクルコト。留意。 史記、陸賈傳「陸生曰、天下安注意相、天下危注意將」 (二)用心スルコト。警戒スルコト。 杜甫詩「朝廷當寸意、擬近賊名將」 (三)(英語、Attention. ノ譯語) 心理學ノ語。精神ノ作用ガ、或事物ニ集注スルコト。ソレニハ、外界ノ刺戟ニヨルト、自己ノ意思ニヨルトニ因リテ、所動的(無意注意)ト、能動的(有意注意)トニ分ツ。

ちゅういん (名) [中陰] 〔此ニ死シテ彼ニ生ズル中間ニ於テ受クル陰形ノ義。七日ヲ以テ其一期トナス。陰ハ五陰(五蘊)ノ陰ナリ〕 佛家ニ、人ノ死後ノ、七七、四十九日ノ間ノ稱。中有。 往生要集「命終之人在中陰中、身如小兒、罪福未定」 大乘義章、八「生前死後名爲本有、兩身之間所受陰形、名爲中有」 大藏法數「此色身死後、未託生前、名爲中陰」 保元物語、一、新院御謀叛露顯事「舊院ノ御中陰ヲダニ過ギサセ給ハデ」 徒然草、三十段「人ノナキ跡バカリ、悲シキハナシ、中陰ノ程、山里ナンドニウツロヒテ、便アシク狹キ所ニ、數多アヒ居テ、後ノワザドモ營ミアヘル、心アワタダシ」

ちゅうう (名) [中有] (一)佛經ノ語。現世ト冥途トノ間ニアル暗キ界。 倶舍論「死生二有中、五蘊名中有」 謠曲、刈萱「今ハ歸ラヌ道ニ出デテ、中有ノ闇ニ赴ク後ヘノ跡、悲シミテモ猶餘リアリ」「中有ニ迷フ」 (二)前條ニ同ジ。

ちゅうえう (名) [沖幼] ヲサナキコト。イトケナキコト。幼沖。幼稚。幼少。 漢書、[illegible]帝紀「帝雖沖幼、而[illegible]」

ちゅうえう (名) [中夭] 壯年ニシテ死ヌルコト。ワカジニ。夭折。 雲笈七籤、宋、張君房「得三百六十歳之壽、無有中夭之命」

ぢゅうえう (名) [重要] 物事ノ、最モ大切ナルコト。カナメ。肝要。

ちゅうえふ (名) [中葉] ちゅうせい(中世)ニ同ジ。 詩經、商頌、長發篇「昔在中葉」 注「葉、世也」 陸機、五等諸侯論「逮至中葉、二室其失節」

ぢゅうえん (名) [重緣] 親類、緣家ト、重ネテ緣組スルコト。重親 新永代藏(正德、開永)三「先代ヨリノ分カレニ重緣トナリ、故宿トハサシワタシノ從弟ナリ」

ぢゅうおく (名) [住屋] ぢゅうたく(住宅)ニ同ジ。

ぢゅうおん (名) [重恩] オモキメグミ。厚キ恩顧。高恩。大恩。 後漢書、劉虞傳「吾被重恩、未能清雪國恥、諸君各據州郡、宜共勠力」

ちゅうか (名) [仲夏] 夏、三箇月ノ中ノ月。陰曆、五月ノ異稱。 書經、堯典篇「日永星火、以正仲夏」

ちゅうか (名) [中夏] 〔夏ハ華夏ノ略ニテ、支那、古代ノ國名。又、夏ハ大ナル意〕 ちゅうくゎ(中華)ニ同ジ。 三國志、蜀志、張裔傳「商幹理敏捷、是中夏鍾元常之倫也」

ちゅうか (名) [柱下] 〔老子、周ノ圖書室ノ吏トナリ、柱下ニ執務セシ故ニ云フ〕 支那、三代ノ周ノ老子ノ異名。轉ジテ、官名トナル、卽チ後ノ侍御史。 史記、老子傳「周守藏室之史也」索隱(漢書)「張蒼傳、老子爲柱下史、卽藏室之柱下、因以爲官名」

ちゅうかい (名) [註解][注解] 註ニテ、文義ヲ說キ明カスコト。注釋。注疏。 後漢書、儒林傳、上、「撰論、鄭玄注解」「孝經注解」

ちゅうかい (名) [仲介] 兩者ノ仲ニ立チテ、物事ヲマトムルコト。ナカダチ。

ちゅうがい (名) [蟲害] 蟲ノ爲ニ受クル害。害蟲ニヨリ被ル損害。

ちゅうかう (名) [忠孝] ヨク君ニ事フルト、ヨク親ニ事フルト。忠ト孝ト。 李義山集、賈三忠孝之南金、則忠可移孝、正文武之二道、則武可輔文」 漢書、金日磾傳「[illegible]是著忠孝節」 徒然草、百廿二段「身ヲ養ヒ人ヲ助ケ、忠孝ノツトメモ、醫ニアラズバ有ルベカラズ」

ちゅうがく (名) [中學] 小學ト大學トノ間ニテ教フル普通學科。

ちゅうがくかう (名) [中學校] 中學ノ學科ヲ教フル學校。

ちゅうがた (名) [中形] (一)凡テ形ノ大ト小トノ間ナルモノ。(二)染模樣ノ名。大形、小形ニ對シテ、其中間ノモノヲ云フ。 好色一代女(貞享、西鶴)三「黃枯茶ニ刻ミ稻妻ノちゅうがた、身セバニ仕立テ、平曲ノ中島田ニ掛捨ノ元結」「中形染」

ちゅうかん (名) [忠諫] 忠義ノ心ヲ以テ、諫ムルコト。 莊子、至樂篇「忠諫不聽、蹲循勿爭、故夫子胥、爭之以殘其形」 諸葛亮、出師表「塞忠諫之路」 太平記、四、呉越軍事「君王、臣ガ忠諫ヲ忽ニシテ、吾レニ賜死事、是レ天已ニ棄君ナリ」

ちゅうかん (名) [中間] アヒダ。ナカ。物ト物トニ、ハサマリタルコト。 戰國策、韓策「韓與衛相去、中間不遠」

ちゅうき (名) [中氣] 〔惡氣ニ中ル意〕 ちゅうぶう(中風)ニ同ジ。ふういっけつ(腦溢血)ノ條ヲ見ヨ。 狂言記、針立雷「御持病ハ中氣ガアルト見エマシタ」

ちゅうき (名) [注記][註記] (一)モノヲ記錄スルコト。 後漢書、和熹鄧皇后紀「微令早有注記、上書安帝」 (二)寺院ニテ、論議ノ時ニ、題ヲ讀ミアグル役僧。又、比叡山ニテハ、其論議ヲ書キ記ス職。 盛衰記、廿八、八牧夜討事「八牧ヲ恐ミテ、筆執リシテアリケル吉山法師ニ、某ノ注記ト云ヒケルガ」

ちゅうぎ (名) [忠義] 眞心モテ君ニ仕フル節義。忠節。 唐書、馬周傳「不幸、早失父母、犬馬之養、已無所施、顧可以[illegible]忠義而已」 謝靈運詩「本自江海人、忠義感君子」

ちゅうきう (名) [誅求] 〔誅ハ責ムル義〕 誅メ求ムルコト。嚴シク求ムルコト。ムゴク取リタツルコト。苛求。 左傳、襄公三十一年「以敝邑褊小、介於大國、誅求無時」 杜甫詩「朝廷防[illegible]、供給[illegible]誅求」

ちゅうぎだて (名) [忠義立] 〔心中立ト同趣〕 (一)マゴコロヲ立テトホスコト。(二)忠義ナルオモモチ。忠義ラシキ振舞ヲスルコト。

ちゅうきん (名) [忠勤] 眞心ヲ以テ、職ヲ行フコト。マメヤカニ勤ムルコト。マメヤカナル奉公。 諸葛亮、與張裔蔣琬書「姜伯約忠勤時事、思慮精密」 平家物語、二、敎訓事「君ノ御爲ニハ、彌、奉公ノ忠勤ヲツクシ」

ぢゅうきょ (名) [住居] 住ミ居ルコト。スミカ。スマヒ。住所。居處。

ちゅうくう (名) [中空] (一)ソラノ高キ所。ナカゾラ。オホゾラ。中天。半空。半天。(二)中ノカラナルコト。 雲笈七籤(宋、張君房)「以其中空、故出聲音」

ちゅうぐう (名) [中宮] (一)ナカノミヤ。內裏。禁中。 續紀、九、神龜元年正月「御中宮、宴五位以上」 同、廿、天平勝寶六年五月「於中宮安殿、請僧一百口、講仁王經」 (二)三宮ノ稱。 中右記、長承三年三月十九日「明法勘文云、帝祖母謂太皇太后宮、母謂皇太后、帝妻謂皇后、此立后總名中宮」 (三)皇后宮ノ稱。アキノ

ミヤ。長秋宮。續紀、十、神龜四年十月「天皇御中宮、賜皇子誕生、赦天下大辟罪以下」（四）皇后ノ別稱。醍醐天皇、藤原穩子ヲ中宮ト稱シタマフ。當代ノ御妻ヲ中宮ト稱スル初ナリ。康江入道（顯長、中院通重）「醍王源家大臣ノ女、云云、先女御入内トテ參リタマフ、云云、ヤガテ后ニ立ツナリ、是ヲ中宮ト云フ」公卿補任、延長元年、癸諱扶幹「四月廿六日（穩子立后ノ日）兼中宮大夫」榮花物語、三十九、布引瀧「中宮ニ參子内親王）コソハ故院（後三條天皇）ノきさきニモオハシマシ、云云」（五）後ニ皇后ノ外ニ、中宮ヲ並ベ立テラレ、御妻二宮トナル。桓武天皇ノ時ヨリ、后宮ノ次ニ並ベテ中宮ヲ置カル。一條天皇ノ御時、藤原道隆ノ女、定子ヲ皇后トシ、後、又、藤原道長ノ女、彰子、入内アリテ、コレヲ中宮トセラル、是レ兩后、並立スルノ初ナリ。

ちゅうぐう-しき（名）［中宮職］ナカノミヤノツカサ。古へ、中務省ニ屬セル職。皇太后、皇后宮ノ事ヲ掌ル。太皇太后、皇太后オハスレバ、分レテ三宮ニ、各、其職ヲ置カル（四等ノ官ハ、大夫、亮、進、屬ナリ。後ニ、皇后、中宮、並ビ立テラルルニ及ビテハ、皇后宮職、中宮職、並ビ置カル。職員令、義解「中宮職、謂、皇后宮、其太皇太后、皇太后亦自中宮也」續紀、三十六、天應元年五月「始置中宮職」

ちゅうくん（名）［忠君］國君ノタメニ眞心ヲ捧ゲ、忠義ヲ務ムルコト。戰國策、秦策「孝己愛其親、天下欲以爲子、子胥忠乎其君、天下欲以爲臣」「忠君愛國」

ちゅうぐん（名）［中軍］左右、又ハ、前後ノ兩部隊ノ中間ニアル軍隊。古へ、多ク大將、自ラ之ヲ率シタリ。本陣。中堅。[illegible]

ちゅうくゎ（名）［中華］一支那、古代ノ華夏ノ昔、多ク都ヲ黃河ノ南北ニ奠メ、後世、コノ地ヲ中華ト稱セシニ起ル」（一）天地ノ間ノ正中ニテ、開化（華）セル國ト云フ語。又、四方ノ夷狄ニ對シテ、中央ノ開ケタル國。中夏。中國。三國志、蜀志、諸葛亮傳、注「若使游步中華、騁其龍光、豈夫多士所能沈翳哉」（二）支那人ノ自國ヲ誇稱スル語。大唐。中國。元典章「冠履中華、[illegible]」

ぢゅうくゎ（名）［重科］ぢゅうざい（重罪）ニ同ジ。南史、王弘傳「弘以爲、小吏無知、[illegible]重科」

ちゅうぐゎい（名）［中外］うちト、そとト。又、國内ト、國外ト。内外。史記、平準書「行者齎、居者送、中外騷擾而相奉」三代實錄、四、貞觀二年四月廿九日「中外和平、妖孽不生」

ちゅうくゎ-まんぢゅう（名）［中華饅頭］たうまんぢゅう（唐饅頭）ノ條ヲ見ヨ。

ちゅうくゎん（名）［中澣中浣］さんくゎん（三澣）ノ條ヲ見ヨ。

ぢゅうくゎん（名）［重患］オホワヅラヒ。重キ病。重病。重疾。大病。大患。

ちゅうけい（名）［仲兄］第二番目ノ兄。ナカノアニ。次兄。仲兄。[illegible]

ちゅうけい（名）［中啓］扇ノ親骨ノ頭ヲ外ヘ反ラシテ作レルモノ。摺ミテモ、尙頭ノ方、中バ啓ケリ。カハホリ。ボンボリ。浮折。折疊扇

ぢゅうけい（名）［重刑］重キ刑罰。オモキシオキ。嚴刑。[illegible]

ちゅうげ-え（名）［中價衣］「時衣、三衣ノ中ノ中間ナリトノ意」佛教ノ語。三衣ノ一ナル七條ノ袈裟ノ異稱。[illegible]十二「七條ヲバ鬱多羅僧ト云フ、又ハ名ニ中價衣ニ」

ちゅうけん（名）［中堅］（一）ちゅうぐん（中軍）ニ同ジ。[illegible]（二）社會ノ中等ニ位スル人人ノ稱。

ちゅうげん（名）［中原］野原ノ中央。轉ジテ、近畿地方。[illegible]「中原還逐鹿、投筆事戎軒」中原の鹿トハ、支那ニテハ、帝王ノ位、我ガ國ニテハ、[illegible]幾爭場裏ノ目的物ナドニ譬ヘテ云フ。

ちゅうげん（名）［中元］節日ノ一。七月十五日ナリ。さんげん（三元）ノ條ヲ見ヨ。唐六典「道士齋有七名、其四日三元齋、正月十五日天官爲上元、七月十五日地官爲中元、十月十五日水官爲下元」[illegible]

ちゅうげん（名）［忠言］眞心ヨリ諫ムル言。忠諫ノ言。[illegible]

ちゅうげん（名）［中間］（一）何方ヘモツカズ、中程ナルコト。中間。[illegible]「ギジト」沈草子、一、第四段「ちゅうげんナル折ニ、モノ聞エントアリト」（二）ちゅうげんをとこ（中間男）ノ略。[illegible]

ちゅうげん（名）［中間］（中間男ノ字ヲ[illegible]）（一）[illegible]

仕ヘシ下級ノ職。（番衆ノ條ヲ見ヨ）[illegible]

ちゅうげん-ほふし（名）［中間法師］[illegible]ハ、奴隷ノ中ニ頭立チタルモノ。[illegible]ザマナル法師。著聞集、五、和歌[illegible]

ちゅうげん-をとこ（名）［中間男］古へ、侍ト小者トノ中間ニ[illegible]（はしたもの）ト言ハムガ如シト云フ）略シテ、中間トモ云フ。[illegible]

ちゅうこ（名）［中古］ナカムカシ。中世。易、繫辭、下傳「易之興也、其於中古乎」

ちゅうこ（名）［中戶］（大戶ニ對ス）（一）王朝時代、戶ヲ四等ニ分チ、其一戶ノ內、四丁、若シクハ五丁ノ丁ノアル戶ヲ云フ。丁ハ成年ノ男子。[illegible]（二）中流ノ時代ノ[illegible]

ちゅうこう（名）［中興］衰ヘタルヲ中頃ニ[illegible]

ちゅうこく（名）［忠告］[illegible]

ちゅうこく（名）［中國］王朝時代、國ヲ四等ニ分チ、其第三位ノ國。卽チ安房、若狹ナドナリ。拾芥抄、中、本「中國、十一」

ちゅうごく（名）［中國］〔史記、五帝紀、注「帝王所レ都爲レ中、故曰ニ中國ニ」〕（一）國ノ中央ノ部。轉ジテ、我ガ日本國ノ稱。中州。中原。雄略紀、七年八月「新羅不レ事ニ中國ニ」（二）山陽道ノ一稱。（山陰道ト南海道トノ間ナレバ云フトゾ）後ニハ、山陰道ヲ籠メテモ云フ。類聚三代格、五、元慶二年二月三日官符「陸奥出羽之在ニ邊遠ニ、備限ニ五年ニ、因幡出雲之屬ニ中國ニ、何得ニ六年ニ」（三）支那人ノ自國ヲ誇稱スル語。中華。中夏。中庸、第三十一章「聲名洋ニ溢乎中國ニ、施及ニ蠻貊ニ」（四）國中ノコト。國內。孟子、滕文公、上篇「當ニ堯之時ニ、天下猶未レ平、洪水横流、氾ニ濫於天下ニ、草木暢茂、禽獸繁殖、五穀不レ登、禽獸偪レ人、獸蹄鳥跡之道、交ニ於中國ニ」

ちゅうごし（名）［中腰］腰ヲ半バ屈メタルカラダツキ。

ちゅうこん（名）［忠魂］忠義ヲ盡クス精神。又、忠義ノタメニ死シタル人ノ魂。忠肝。忠膽。「忠魂碑」

ちゅうごん（名）［中言］忠言ニ同ジ。

ぢゅうこん（名）［重婚］正當ナル配偶者アル男子、又ハ、女子ガ、更ニ他ノ女子、又ハ、男子ト結婚スルコト。周易兼義、上經、屯卦「六二、匪レ寇婚媾」疏「重婚曰レ媾」

ぢゅうごん（名）［重言］言葉ノ重ナルコト。卽チ、同ジ言葉ヲ重ネテ云フコト。半紙ノ紙、後ノ後悔、蓮華ノ花、寶珠ノ玉、ブチ打擲、屋財家財、娑婆世界ノ如シ。捨櫃三重櫃子（享保、近松作）上「馬カラ落チテ落馬致シタト、片言ヤラ重言ヤラ忠太衞ヲカシサ」

ちゆう

ちゅうざ（名）［中座］寄合ノ座ヲ、中途ニ去ルコト。又、中途ニ座ヲハヅスコト。

ちゅうさい（名）［仲裁］爭ヒノ間ニ立入リテ、雙方ノ意見ヲ聽キ、事ヲアツカヒ濟マスコト。和解。調停

ちゅうざい（名）［駐在］（一）其地ニトドマリテ居ルコト。「巡査駐在所」（二）官吏ナドガ、職務ノタメ、外國ニトドマリ居ルコト。駐劄。（公使ナドニ）

ぢゅうざい（名）［重罪］〔輕罪ニ對ス〕オモキツミ。重科。重辟。史記、周紀「殷有ニ重罪ニ不レ可ニ以不レ畢レ伐」「重罪犯人」

ぢゅうさう（名）［重創］オモキキズ。イタデ。オモデ。フカデ。重傷。北史、宇文福傳「延寧ニ叔客ニ逆戰、身被ニ重創ニ」

ぢゅうざかな（名）［重肴］重詰ノ肴。好色一代女（貞享、西鶴）二「高蒔繪ノ重肴ハ、大座敷ヘ出セトイウタニ、誰ガ才覺ゾ」

ちゅうさつ（名）［駐劄駐剳］「類書纂要（淸、周魯）十一「駐劄、使止宿處也」。劄ハ剳ニ同ジク用キル」　ちゅうざい（駐在）ノ條ノ（二）ニ同ジ。

ぢゅうさん（名）［重三］雙六ノ采ノ目ガ、二ツナガラ、三ノ數ノ出ヅルコト。朱三。平治物語、一、叡山物語事「五位ハ赤衣ヲ着レバトテ、重三、重四ノ目ニ朱ヲ差サレテヨリ以來、朱三、朱四ト呼ブトコソ見エテ候へ」

ちゅうざを（名）［中棹］さを（棹、三味線ノ）ノ條ヲ見ヨ。

ちゅうし（名）［中止］中途ニテ止ムルコト。晉書、杜后傳「長猶無レ齒、有ニ來求レ婚者ニ輒中止」易林（漢、焦贛）「求ニ桑車馬ニ、道闕中止」

ちゆう

ちゅうし（名）［中祀］古へ、祭祀ヲ行フタメニ、大、中、小ノ三等ニ分チタル其一。三日間、潔齋ヲナスモノ。卽チ祈年祭、月次祭、神嘗祭ナドナリ。神祇令「凡一月齋爲ニ大祀ニ、三日齋爲ニ中祀ニ、一日齋爲ニ小祀ニ」

ちゅうし（名）［中使］禁中ノ使。ちょくし（敕使）ニ同ジ。江家次第、二、大臣家大饗「主人於ニ使所ニ逢ニ中使ニ」太平記、三十九、光嚴院禪定法皇行脚御事「光嚴院へ御歸リ有テ、暫ク御座有ケルガ、中使頻リニ到ッテ、松風ノ夢ヲ破リ」

ちゅうし（名）［忠死］忠節ヲ盡クシテ、死スルコト。忠義ノタメニ死スルコト。

ちゅうし（名）［注視］目ヲツケテ、放サザルコト。ミツムルコト。凝視。韓愈詩「天陽熙ニ四海ニ、注視首不レ頷」

ぢゅうじ（名）［重二］重二ニ同ジ。

ちゅうしう（名）［仲秋］秋、三箇月ノ中ノ月。陰暦、八月ノ異稱。ナカノアキ。仲商。書經、堯典篇「宵中星虛、以殷ニ仲秋ニ」

ちゅうしう（名）［中秋］陰暦、八月十五日ノ稱。其夜ノ滿月ヲ賞スルニ就キテ云フ。じふごや（十五夜）ノ條ヲ見ヨ。月夕。白居易詩「中秋三五夜、明月在ニ前軒ニ」

ちゅうしう（名）［中州］日本國ノ中央ノ地。中國。神武紀、七「雖ニ邊土未レ淸、餘妖尙梗ニ而中洲之地無ニ復風塵ニ」（洲ハ、州ニ通ズ）

ちゅうじき（名）［中食］ヒルノ食事。ヒルゲ。ヒルメシ。晝食。晝飯。

ちゅうしゃ（名）［中飽］あらまし（粗剷）ノ條ヲ見ヨ。

ちゅうじつ（名）［忠實］マメヤカニシテ、懇ナルコト。史記、李廣傳「余睹ニ李將軍ニ云云、彼其忠實心、誠信ニ於士大夫ニ也」

ちゅうしん（名）［忠信］忠義ト、信實ト。又、眞心ヲ盡クシテ、僞ラザルコト。論語、學而篇「主ニ忠信ニ、無レ友ニ不レ如レ己者ニ」

ちゅうしん（名）［忠臣］忠義ノ道ヲ守ル臣。戰國策、趙策「忠臣不レ愛レ死、以成レ名」

ちゅうしん（名）［衷心］マゴコロ。衷情

ちゅうしん（名）［注進］（一）事ヲ注シテ上ニ進ムルコト。（陰陽寮ヨリ天文ノ異變ナドヲ注シ進ムル）巻起レル事件ヲ、急ギ上ニ告グルコト。申報　謠曲、忠度「都へ注進申ス事ノ候間」（二）急速ナルヨリ、常ノ事ニモ、急報ノ意ニ用キル。

ちゅうしん（名）［注心］ココロヲソソグコト。氣ヲツクルコト。曹植、求通親親表「至下於注ニ心皇極ニ、結中情紫闥上、神明知レ之矣」

ちゅうしん（名）［中心］（一）心ノソコ。胸中。（二）マゴコロ。本心。（三）マンナカ。中央。（四）物事ノ集注スル所。中樞。（五）圓周、又ハ、球面ノスベテノ點ヨリ等距離ニアル一點。

ちゅうじん（名）［中人］（一）中等ノ身分ノ人。漢書、文帝紀、贊「上曰、百金、中人十家之產也」（二）中等ノ知力アル人。論語、雍也篇「子曰、中人以上、可ニ以語ニ上也、中人以下、不レ可ニ以語ニ上也」（三）ナカウド。チュウニン。仲介者。媒妁人。月下氷人。平家物語、十、千手事「兵衞ノ佐殿、ウチ笑ミ給ヒテ、サテモ昨夜、中人ヲバ、面白クモシツル物カナト、宣ヘバ」

ぢゅうしん（名）［重臣］身分ノ重キ臣。重役ノ臣。國家ニ大切ナル臣下。蘇洵文「權臣者不レ可ニ一日有ニ、重臣者不レ可ニ一日無ニ也」保元物語、一、新院御謀反事「文才世ニ知ラレ、諸道ニ淺深ヲ探ル、朝家ノ重臣、攝籙ノ器量ナリ」

ちゅうしんじゃう (名) 注進狀 注進ノ書狀。吾妻鏡、十八、元久元年七月廿六日「[illegible]守護人宗左衛門尉孝親、注進狀、今日、於二御前一披二讀之一」

ちゅうしゃ (名) 注射 〔ちゅうせきト讀ムナルベシ〕(一)ソソギコムコト。ツギイルルコト。注入。唐書、陸扆傳「扆工二屬辭一、敏速若二注射一然」(二)器具ヲ用ヰテ、藥液ヲ身體内ニ注ギ込ムコト。「血精注射」

ちゅうしゃ (名) 中社 たいしゃ(大社)、及、くゎんぺいしゃ(官幣社)ノ條ヲ見ヨ。法曹至要抄(坂上明兼)上、六、神社「[illegible]、大社門一番徒一年、中社小社各遞二減一等一」

ちゅうしゃう (名) 中傷 ナキコトヲ言ヒタテ、他人ノ名譽ヲ傷ツクルコト。漢書、尹翁歸傳「[illegible]吏中傷、莫レ有二怨言一」「讒謗中傷」

ちゅうじゃう (名) 衷情 ちゅうしん(衷心)ニ同ジ。

ちゅうじゃう (名) 中將 (一)古へ、近衛府ノ官。少將ト共ニ、次官ナリ、正、權アリ。後紀、八、延暦十八年四月「勅、近衛府、云云、加二中將一員一」(二)今、陸、海軍ニ、第二等ノ武官。卽チ大將ノ下、少將ノ上ノモノ。

ぢゅうしゃう (名) 重賞 オモキ賞與。厚賞。テアツキ褒美。莊子、讓王篇「楚國之法、必有二重賞大功一而後得レ見」三略、上「重賞之下、必有二勇夫一」

ぢゅうしゃう (名) 重傷 オモキキズ。イタデ。オモデ。フカデ。重創。

ぢゅうしゃう (名) 重症 病氣ノ容體ノ重キコト。重患。重病。重疾。

ちゅうしゃうぎ (名) 中將棊 常ノ將棊ヨリハ、線モ駒モ多キモノナルベシ。下ノ出典ヲ見ヨ。中右記[illegible]、中將棊[illegible]八ノ十六目ヅツ九ツニ分カチ、コレヲ九宮ニ配シ、都ベテ一百四十四目ニ[illegible]ナレバ、十二支ヲ以テ[illegible]トス、コレヲ[illegible]合戰物語(文明)「[illegible]セメタル中將棊ノ[illegible]スサマジク、駒ノ足並入リミダレテ、鳳凰八奔王ト成テ八方ヲ[illegible]、[illegible]八[illegible]ヲ振ヒテ、云云」

ちゅうしゃく (名) 注釋・註釋 (一)ちゅうかい(注解)ニ同ジ。(二)調理ノ味ヲタスクルからみ。七十一番職人盡歌合、七十番、ところてん賣「ちうしゃくモ[illegible]レテ候」(判詞ヨリ出デタル語ニテ、聖經ノ注釋ニナゾラヘテ云ヘルカ)

ちゅうじゃく (名) 鍮石 しんちゅう(眞鍮)ノ條ヲ見ヨ。書言字考節用集、七、器財門「鍮石、チウジャク」太平記、三十九、道譽大原野花會事「コノ下ニ、一丈餘ノ鍮石ノ花瓶ヲ鑄カケテ」

ちゅうじゃくもん (名) 鍮石門 〔中雀門、中尺門、中柵門ナドトモ書ス〕扉ニ眞鍮ノ金具ヲ打付ケタル門。神社ナドニアリ、又、武家ノ邸ニモアリト。書言字考節用集、一、乾坤門「鍮石門、チウジャクモン」[illegible]筆記(高田與清)八十三、四十四條「武家ニ中雀門ト云フハ、城ニ有リシ中[illegible]柵門ノ事也、云云、城中ノ柵門ヲ、古代ノ中門ニトリナシテ作リ出タルヨリ、名ハ中柵門ニテ、實ハ中門也」

ちゅうしゅ (名) 中酒 飯ヲ食ヒシ後ニ、酒飲ムコト。[illegible]「飯後飲酒[illegible]之中酒、古語曰、不レ醉不レ醒[illegible]中二」醒睡笑(元和、安樂庵策傳)五「フルマヒノアル時、亭出デ、中酒ナンベン通リ候ヤトウカガフ」

ちゅうじゅ (名) 中壽 じゃうじゅ(上壽)ノ條ヲ見ヨ。

ちゅうしゅん (名) 仲春 春、三箇月ノ中ノ月。陰曆、二月ノ異稱。中春。仲陽。書經、堯典「日中星鳥、以殷二仲春一」

ちゅうじゅん (名) 中旬 じゅん(旬)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ちゅうしょ (名) 中書 (一)支那、漢代ノ官名。宮廷ノ文書、詔敕ナドヲ掌リシモノ。(二)中務省ノ唐名。[illegible]中書、中務ノ唐名」

ちゅうしょ (名) 中暑 暑氣ニ中リテ病ムコト。シヤアタリ。[illegible]

ちゅうじょ (名) 誅鋤 (一)スキトリテ、絕ヤスコト。[illegible](二)惡者ヲコロシツクスコト。[illegible]鋤手」

ちゅうじょ (名) 忠恕 〔中庸、朱熹注「盡二己之心一爲レ忠、推レ己及レ人爲レ恕」〕メヤカニシテ、オモヒヤリアルコト。忠實ニシテ、同情心ノアルコト。中庸、第十三章「忠恕違レ道不レ遠、施二諸己一而不レ願、亦勿レ施二於人一」論語、里仁篇「夫子之道、忠恕而已矣」

ぢゅうしょ (名) 住所 住ム所。スミカ。スマヒ。住居。居處。[illegible]「[illegible]」

ちゅうしょう (名) 中稱 文法ノ語。指示代名詞ノ四稱ノ一。稍隔タリタル物事、又ハ、場所ナドヲ指示スルモノ。卽チ、そ、それ、そこナドノ類ナリ。

ぢゅうしょく (名) 重職 重大ナル職務。オモヤク。[illegible] 平家物語、二、烽火事「朝恩ト云ヒ、重恩ト云ヒ、カタガタ極メサセ給ヒヌレバ」

ぢゅうしょく (名) 住職 (一)住持職ノ略。一寺ノ主僧タル住持ノ役目。[illegible]

ちゅうしょわう (名) 中書王 中務卿ナル親王ナル皇族ノ稱。太平記、十四、箱根竹下合戰事「是レニテ、中書王ノ[illegible]ル大將中將[illegible]レ給ヒケレバ」

ちゅう・す (自動、左變) 沖 タカク、アガル。ヒヒル。[illegible]

ちゅう・す (他動、左變) 誅 法ニ由リテ殺ス。成敗ス。又、兵力ヲ以テ、攻メ討ツ。[illegible]「[illegible]之威也」曾我物語、十、[illegible]「[illegible]ノガレガタシ、然レバ向後ノタメニ、彼ノおちうすベシ、剩ミヲ殺スベカラズ」

ぢゅう・す (自動、左變) 住 スム。スマフ。[illegible](元和、安樂庵策傳)二「或ル山寺ニ、[illegible]住年ワク久シク住セシガ」

ちゅうすう (名) 中樞 [illegible]ルニ重要ナルモノ。又、[illegible]中心。[illegible]動スル根本トナルモノ。「中樞神經」[illegible]

ちゅうすけ (名) 忠助 〔其鳴聲ヨリ擬人シタル語〕鼠ノ異名。

ちゅうせい (名) 中世 上代ト近世トノ間ノ世。中頃ノ世。ナカムカシ。中葉。[illegible]

ちゅうせい (名) 中正 過不及ナキ度合。

ホドヨキコト。偏頗ナキコト。中庸 易經、文言傳「大哉乾乎、剛健中正、純粹精也」 春秋繁露「心平和、不失中正」

ちゅうせい (名) [忠誠] マゴコロ。マコト。忠實ニシテ正直ナルコト。 徐陵、勸進元帝表「忠貫於日月、孝感於冰霜」

チユウ・シヨウ
ちゅうせう (名) [中宵] ヨナカ。夜半。 晉書、祖逖傳「與語世事、或中宵起坐」

ちゅうせき (名) [柱石] (一)柱ト、礎(イシズヱ)ト。柱礎。 杜甫詩「扶顚待柱石」 (二)國家ノ依賴トナル大臣ナドヲ、譬ヘテ云フ語。 漢書、元后傳「前丞相樂昌侯商、云云、行篤有威重、位歷將相、國家柱石臣也」

ジユウ・セキ
ぢゅうせき (名) [重石] 〔英語、Scheelite.ノ譯語〕 鑛物ノ名。たんぐすてんノ原料トナルモノ。灰重石。

ちゅうせつ (名) [忠節] 忠義ノミサヲ。 晉書、元后傳「唯晉[illegible]正有忠節」

ちゅうぜつ (名) [中絕] ナカホドニテタユルコト。半途ニ止ムコト。 張衡、西都賦「咸[illegible]而中絕」 陸[illegible](元和、安樂庵策傳)二「久シク変リテ中絕す」

ちゅうせんきょく (名) [中選擧區] 〔大、小選擧區ニ對ス〕 次條ヲ見ヨ。

ちゅうせんきょくせい (名) [中選擧區制] 〔大、小選擧區制ニ對ス〕 一府縣內ヲ數區ニ分チ、ソノ一選擧區域ヨリ、數人ノ衆議院議員ヲ選出スル制度。卽チ大選擧區制ニ小選擧區制ヲ加味シタル制度ナリ。

ちゅうそ (名) [柱礎] ちゅうせき(柱石)ニ同ジ。 [illegible]「[illegible]柱礎」

ちゅうそ (名) [註疏][注疏] 又、疏註。 ちゅうかい(註解)ニ同ジ。(傳、註(チユウ)、及、疏(ソ)ノ條ヲ見合ハスベシ)「十三經註疏」

ジユウ・ソウ
ぢゅうそう (名) [住僧] 其寺ニ住メル僧。 謠曲、三井寺「是レハ江州園城寺ノ住僧ニテ候、又コレニ渡リ候幼キ人ハ、愚僧ヲ賴ム由」

ジユウ・ソウ
ぢゅうそう (名) [重曹] ぢゅうたんさんそうだ(重炭酸曹達)ノ略。其條ヲ見ヨ。

ちゅうそん (名) [中尊] 〔諸尊ノ中ノ中央ニ位スル尊體ノ義〕 又、ちゅうぞん。佛敎ノ語。三尊佛ノ中、阿彌陀佛ノ稱。(密敎ニテハ、五佛ノ大日如來、五大明王ノ不動明王ナドヲ云フ) 榮花物語、廿九、玉臺「中尊ハ皆金色ニテ、丈六ニテオハシマス」

ちゅうたい (名) [中隊] 現時、軍隊ノ編制ニテ、三、乃至、四小隊ヲ以テ一中隊トナス。乃チ平時、歩兵ニテハ、二百、乃至、二百五十人、騎兵ニテハ、百、乃至、百五十騎、砲兵ニテハ、砲六門ヨリ成ル軍隊ヲ云フ。猶、大隊(ダイタイ)、及、小隊(セウタイ)ノ條ヲモ參見セヨ。 宋史、兵志「中隊用命、大隊應援」

ジユウ・タイ
ぢゅうたい (名) [重體][重態] 病氣ノオモキ容體。危篤ナル病狀。ぢゅうてい(重體)ニ同ジ。

ジユウ・ダイ
ぢゅうだい (名) [重代] 先祖ヨリ代代傳ヘタルコト。相世。傳家。 謝莊表「重代列聖、威由三[illegible]道」 參考盛衰記、劒卷「別當ハ重代スベキ者ナリ」 塩尻(天野信景)下「古ヘヨリ源平ノ武將ニ屬シ、王ノ師ヲ勸メ、勳功ノ名ヲ立テシモノノ子孫ニシテ、民家ニ落チズ、武業ヲ傳ヘテ家譜ヲ失ハヌ家ヲ、重代ノ武士ト云フ、又、譜第トモ稱ス」 [illegible]物語、その管[illegible]「源氏重代ノ黃金造ノ古年刀(コンネントウ)」「重代ノ厚恩」「家重代ノ太刀」

ジユウ・ダイ
ぢゅうだい (名) [重大] オモクオホイナルコト。重要。又、事柄ノ容易ナラヌコト。「重大事件」

ちゅうたいふ (名) [中大夫] 從四位下ノ稱。 治平金訓「松平遠江守忠喬、云云、五十六年皆勤セル功ニ因リテ、其家ニ例ナキ中大夫ト成ル」

チユウ・トウ
ちゅうたう (名) [偸盜] 佛敎ノ十惡ノ一。卽チ盜ミスルコト。又、ソノモノ。ヌスビト。ドロバウ。盜賊。 法界次第、上、上「盜者、取他財物、故名爲偸盜」 謠曲、東岸居士「殺生、偸盜、邪婬ハ、身ニ於テ作ル罪ナリ」

チユウ・ドウ
ちゅうだう (名) [中道] (一)ちゅうと(中途)ニ同ジ。途中。半途。 論語、雍也篇「力不足者、中道而廢、今女畫也」 (二)富士山ノ半腹ヲ橫ニメグルコト。富士講(フジコウ)ノ條ヲ見ヨ。 (三)カタヨラザル正シキ道。 孟子、盡心、下篇「孔子豈不欲中道哉、不可必得、故思其次也」 (四)佛家ノ語。有ニ偏セズ、空ニ偏セザル不二對絕ノ稱。非有非空。 中論、偈「因緣所生法、我說卽是空、亦名爲假名、亦是中道義」 摩訶止觀「一色一香、無非中道」 (五)道路ノ中央。 禮記、曲禮、上篇「步路馬、必中道、以足蹙路馬芻」

チユウ・ドウ
ちゅうだう (名) [中堂] 天台宗ノ寺ノ中央ノ堂。眞言宗ノ金堂(コンダウ)ニ同ジ。比叡山延曆寺ノ根本(コンポン)中堂ニハ、藥師如來ヲ安置ス。 叡嶽傳抄、下「桓武五年(延曆四年)乙丑、七月、傳敎大師、登叡岳ハ、結草庵、始建立中堂矣」 塵袋抄、十一「比叡山ノ根本中堂ト云ハ、一山ノ中心ト云義歟」 字類抄「中堂、號根本一乘止觀院、俗云此中堂」 宇津保物語、藤原君「比叡ノ中堂ニ常燈ヲ奉リ給フ」

ジユウ・タク
ぢゅうたく (名) [住宅] スマヒスル家。住居ノ家。スミカ。住家。住屋。又、スマヒスルコト。居住。 新永代藏(正德、團水)二「近キコソヨケレト、知ラヌ町本ニ住宅シテ、手前ノ物七分ニ買ヒ、道具三分ノガラクタ屋」

ちゅうたん (名) [忠膽] 忠義ニ厚キ心。

ちゅうたん (名) [沖淡][沖澹] (一)心ノ潔クシテ、無欲ナルコト。 晉書、儒林傳「杜夷清虛沖淡、與俗異軌」 (二)柔軟ニシテ清爽ナルコト。 吳澂、熊君佐詩話序「詩、沖澹簡散、不求工、而有理致」

ちゅうだん (名) [中段] (一)ナカノキダ。(二)暦ノ中段ト云フハ、建(タツ)、除(ノゾク)、滿(ミツ)、平(タヒラ)、定(サダム)、執(トル)、破(ヤブル)、危(アヤフ)、成(ナル)、納(ヲサム)、開(ヒラク)、閉(トヅ)ト云フ十二語ヲ、陰曆ノ中段ニ書入ルルモノ。コレヲ十二直ト云ヒテ、日每ニ配當シテ、各事ニ吉凶アルヲ云フ。陰陽師ノ語ナリ。(三)劍術、槍術ノ語。上段ト下段トノ間ニ、劍、又ハ、槍ヲ構フルコト。又、其構ヘ方。(四)書院造リニテ、上段ノ間ヨリ、一段低ク造リタル所。ぢゃうだん(上段)ノ條ノ(二)ヲ參見セヨ。 秦山集、雜著「上段、中段、下段、各高差二尺許」

ちゅうだん (名) [中斷] (一)眞中ニテ切ルコト。 韓愈詩「大蛇中斷喪前王」 (二)中途ニテ、タチキルコト。 水經注「其山中斷、兩岸雙闕」 (三)法律上ニテハ、或期間ニヨリテ、從來ノ效力ヲ失ハシムルコト。

ジユウ・タンサンソウダ
ぢゅうたんさんソウダ (名) [重炭酸曹達] 白色ニシテ細粒狀ヲナス結晶體。藥用、化學用トス。略シテ、重曹。炭酸ナトリウム。炭酸水素ナトリウム。

ちゅうち (名) [蟲豸] 〔爾雅、釋蟲篇「有足謂之蟲、無足謂之豸」〕 むし(蟲)ノ類。 漢書、五行志「蟲豸之妖、謂之孽」

ジユウ・ジ
ぢゅうぢ (名) [住持] 〔世ニ安住シテ法ヲ保持スル意〕 寺ノ主タル僧。住職。

寺主]山城名勝志「住持者、住ニ一切者所住境ハ[illegible]持者、持之正法位ハ所[illegible]佛子住持」敕修百丈清規、住持章「佛教入ニ中國ニ四百餘年、云云、或巖居穴居、或依ニ律寺、未ニ有ニ住持之名ハ云云、叫師法不[illegible]、始奉ニ其師(百丈)ハ爲ニ住持ニ」 拾遺集、七、物名「クマノクラト云フ山寺ニ、賀縁法師ノヤドリテ侍リケルニ、ちゅうちシ侍リケル法師ニ、歌ヨメト云ヒケレバ」

ちゅう-ちん (名) [中鎭] 〔大、小鎭ニ對ス〕 佛家ノ語。古ヘ、寺院ノ役僧ノ鎭ノ第二階級ノモノ。[illegible]十四日、太政官符、定ニ[illegible]十大寺三綱法華寺鎭等從僧ハ幷可レ充ニ童子食ニ事」同、同、承和二年十一月七日、太政官符、[illegible]不レ能レ行ニ拜ニ綱之外、更置ニ雜職ニ事「今[illegible]所從儀官員、諸寺雜職制置、又、大中少鎭[illegible]之類、其[illegible]、同レ光[illegible]已多ニ[illegible]、此則[illegible]使ニ格制ハ充ニ[illegible]從行ニ」

ぢゅう-ちん (名) [重鎭] オモキオサヘ。又、一方ニ雄タル人。一方ノ旗頭。杜甫詩「重鎭還須ニ濟世オニ」唐書、韓弘傳「二父居ニ重鎭ハ我以ニ[illegible]子ハ又富ニ款金ニ」「[illegible]ノ重鎭」

ちゅう-ぢゃう (名) [拄杖] 又、しゅぢゃうトモ云フ。ツエ。專ラ、禪僧ノ用キル杖ノ稱。祖庭事苑「佛在ニ靈鷲山ハ有ニ老苾芻ハ登レ山上下、[illegible]、[illegible]、云云、[illegible]之[illegible]也、云云、佛聽[illegible]ニ拄杖ハ有ニ[illegible]因緣ハ一爲ニ老[illegible]、二爲ニ病苦[illegible]故」續[illegible]「[illegible]、[illegible]道、古佛到ニ這裏ハ爲ニ什麽ハ不ニ肯住ニ」 [illegible]記、拄杖「ソレガシ、イツゾヤ[illegible]ヘ[illegible]アリテノボリ、ソノ[illegible]手ニ、ちゅぢやうヲ[illegible]ヘオキマシタ」

ぢゅう-ちゃくえ (名) [中着衣] 〔梵語、安陀會ノ譯語〕 五條ノ袈裟ノ一稱。尙、けさ(袈裟)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ちゅう-ちゅう (感) 雀、又ハ、鼠ノ鳴キ聲。[illegible]、雀、鼠、[illegible](小兒ノ語)

ぢゅう-ぢゅう (名) [重重] カサネカサネ。タビタビ。娘敵加留多(正德、近松作)ニ「重重ノ罪科ハ、侍ナレバ仕樣アレ共」「重重恐レ入ル」

ちゅうちゅう-たこ-かいな (句) 〔ちうぢちうぢ、たこのくはへノ訛カ〕 女兒ナドノ、細螺彈ノ遊ビニ、ソレヲ二ツ宛、數フル時ニ云フ語。きさゃごはじき(細螺彈)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]、六、下、きさゞはじき「キサゴハジキニ、つまト云フハ、つまづくノ略、云云、キサゴヲ數フルニ、ちうぢちうぢ、たこのくはへガ十テウト云フ、ちうぢハ重二ナリ、ソレヲ重ヌレバ八ツトナル、章魚ノ足ノ數ナリ、是ニ又二ツ加ヘテ十トナルヲ云フ」

ちゅう-ちょ (名) [躊躇] ちうちょ(躊躇)ニ同ジ。

ちゅう-ちょく (名) [忠直] 〔忠義正直ノ略〕 マゴコロニシテ、タダシキコト。リチギ。書經、[illegible]「[illegible]逆、忠直[illegible]德ニ」

ちゅう-くらゐ (名) [中位] モノノ中庸ナル程合。ナカノ位置。チュウクラヰ。

ちゅうっ-ぱら (名) [中腹] (一)イサミハダ。デンバウハダ。(二)怒リヲフクムコト。ムカッパラヲ立ツルコト。浮世風呂(文化、三馬)三編、上「ちゅうっぱらノ中ドシマ」

ぢゅう-づめ (名) [重詰] 重箱ニ詰ムルコト。又、其品物。

ちゅう-つゐはう (名) [中追放] つゐはう(追放)ノ條ヲ見ヨ。御定書百箇條、御仕置[illegible]一、中追放、[illegible]、武藏、山城、[illegible]津、和泉、大和、肥前、東海道筋、木曾路筋、下野、日光道中、甲斐、駿河(從ニ[illegible]之儀)[illegible]、[illegible]、家屋敷闕所、家財[illegible]」

ぢゅう-つゐはう (名) [重追放] つゐはう(追放)ノ條ヲ見ヨ。御定書百箇條、御仕置仕[illegible]、[illegible](重[illegible])[illegible]、[illegible]上

ちゅう-てい (名) [忠貞] (一)忠義ト貞節ト。(二)マメヤカニシテ、志操ノ正シキコト。[illegible]「[illegible]」[illegible]野、下野、安房、上總、下總、常陸、山城、攝津、和泉、大和、肥前、東海道筋、木曾路筋、甲斐、駿河、[illegible]之[illegible]、[illegible]、田畑、家屋敷、[illegible]

ぢゅう-てい (名) [重體] 重キ容體。(病ノ)

ぢゅう-てい (名) [住邸] スマヒ。ヤシキ。

ちゅう-でう-りう (名) [中條流] 劍術ノ一流。中條兵庫助長秀ノ祖トスルモノ。[illegible]、刀術、中條流、中條兵庫[illegible]」

ちゅう-てん (名) [中天] (一)オホゾラ。ナカゾラ。空中。[illegible]「[illegible]下成[illegible]」(二)天ノマ[illegible]。中空。天心。杜甫詩「中天懸ニ明月ニ」

ちゅう-てん (名) [沖天] 空ニ高クアガルコト。天ニヒヒルコト。[illegible]、[illegible]傳「[illegible]人」

ちゅう-でん (名) [中殿] 清涼殿ノ異名。[illegible]、又、中殿[illegible]」

ぢゅう-てん (名) [重典] (一)[illegible]ナル法律。[illegible]。(二)オモキ制度、又ハ儀式。大典。[illegible]秋官[illegible]、大司寇「亂國用ニ重典ニ」

ちゅう-と (名) [中途中道] (一)行ク路ノ中程。途中。[illegible]。(二)事ノ半ナルコト。中途。中道。

ちゅう-とう (名) [仲冬] 冬三箇月ノ中ノ月。陰暦、十一月ノ異稱。書經、[illegible]「日[illegible]」

ちゅう-とう (名) [中等] 〔下等、上等ニ對ス〕 中間ノ等位。又、中位ノ程度。[illegible]、[illegible]、[illegible]公[illegible]上等[illegible]於中等[illegible]下等ニ」

ちゅう-どく (名) [中毒] 毒ニアタリテ、身體ノ健康ヲソコナフコトハドクアタリ。[illegible]病名[illegible]ニ中毒。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ類ナド[illegible]ノ[illegible]、中タルコトナリ」[illegible]

ちゅう-どほり (名) [中通] [illegible]

ちゅう-とん (名) [駐屯] [illegible]

ちゅう-なごん (名) [中納言] ナカノモノマウスツカサ。太政官ノ官、令外ノ官ナリ。[illegible]、大納言ニ近ク、[illegible]。[illegible]門。だいなごん(大納言)[illegible]

ちゅう-に (名) [中二] [illegible]

ちゅう-にかい (名) [中二階] (一)二階ノ低ク造リタルモノ。階下ハ多ク物置ナド[illegible]。(二)[illegible]ハ、[illegible]ノ中二階[illegible]

ちゅう-にく (名) [中肉] 人ノ體ノ、肥エズ、痩セズ[illegible]

ちゅうにち (名) [中日] 佛家ニ、彼岸七日間ノ、正中ニ當ル日ノ稱。卽チ、春分、秋分ノ日ナリ。七日間、法會ヲ行フニ、此日、最モ勤ム。好色二代男(貞享、西鶴)五「サアサア中日ぢや、參ラッシャレト、是非ニ誘ヒテ行クニ」

ぢゅうにち (名) [重日] 陰暦ノ上ニ云フ語。巳亥ノ日ニアリ。此日、凶事ニ用ヰ、又、惡シキ事ヲ奏聞スルヲ忌ム。太政官式「御本命日、及、朔日、重日、復日、亦不レ申ニ凶事ニ」

ちゅうにふ (名) [注入] (一)ソソギイルルコト。ツギコムコト。(二)事物ノ記憶ト諳誦トニヨリテ、智識ヲ增長セシメントスル教授ノ一法(開發ニ對ス)

ちゅうにん (名) [仲人] (一)爭ヒノ間ニ立チテ、調停スル人。仲裁人。「仲人ハ時ノ氏神」(二)結婚ノナカダチスル人。ナカウド。媒介人。媒酌人。月下冰人。

ぢゅうにん (名) [住人] (一)初、京都ヨリ國司ニ赴任スルモノノ任期ハ、三四年ナリシガ、中世ハ大抵、重任シ、其子孫ノ、其國郡ニ貫スル者ヲ、住人ト稱ス。其土地ヲ有スルコトノ多キモノヲ、大名ト云ヒ、高家ト云ヒ、少キヲ、小名ト云ヒ、黨ト云フ。小右記、寛仁三年六月廿九日「筑前國志麻郡住人、文室忠光」平家物語、七、篠原合戰事「越中國ノ住人、入善ノ小太郎行重、生年十八歳トゾ名乘リケル」(二)其土地ニ住メル人。

ぢゅうにん (名) [重任] (一)重大ナル任務。オモキヤクメ。大任。史記、信陵君傳「擁ニ十萬之衆ヲ、屯ニ於境上ニ、國之重任、今單車來代レ之」(二)中世、國司ノ任期ノ盡クルニ臨ミ、造營等ノ費用ヲ奉リテ、再任ヲ請フコト。ちょうにん(重任)ニ同ジ。宇治

拾遺一、第六條「ソノ御原破レニケレバ、有賢大藏卿、備後ノ國ヲシラレケル、重任ノ功ニ修造シケレバ」(三)引キツヅキテ、再ビ官衙ノ職務、會社ノ重役ナドニ任ゼラルルコト。

ちゅうねん (名) [中年] (一)人ノ生立ノ兒童ト老人トノ間、卽チ三四十歳ノ程。列子、周穆王篇「宋陽里華子、中年病レ忘、朝取而夕忘、夕與而朝忘、在レ塗則忘レ行、在レ室則忘レ坐、今不レ識レ先、後不レ識レ今」(二)年季奉公ナドニ、年、稍、長ケテヨリ入リタルコト。(子養ニ對ス) 淀鯉出世瀧德(寶永、近松作)下「クツワヘ、中年四年ニ百兩、命ガラリニ身ヲ賣リテ」

ちゅうのり (名) [中乘] 芝居、輕業ナドニテ、空中ニ懸リテ、技ヲ演ズルコト。宙乘。

ぢゅうはう (名) [重寶] 大切ナルタカラモノ。貴重ナル寶物。重器。史記、越世家「懷ニ其重寶ヲ、間行以去」戰國策、東周策「西周者、故天子之國也、多ニ名器重寶ニ」

ぢゅうはう (名) [重砲] 野戰重砲、陣地、又ハ、攻守城重砲、海岸重砲ナドノ總稱。けいはう(輕砲)ノ條ヲモ見ヨ。

ぢゅうばこ (名) [重箱] 食物ヲ盛ル器。方形ニシテ淺ク、同ジ製ノ物ヲ三箇、又ハ、五箇重ヌ。多クハ漆器、蒔繪ナドナリ。略シテ、重。[食榼盒] 林逸節用集「重箱」狂言記、菊花「結構ナ蒔繪ノ重箱ニ、色色ノ肴入レテ」

ぢゅうばこよみ (名) [重箱訓] ゆとうよみ(湯桶訓)ノ條ヲ見ヨ。東牖子(田宮仲宣)四「今船場ノ重箱讀み、當タラズ」

ちゅうばつ (名) [誅伐] 罪アルモノヲ誅メ伐ツコト。史記、律書「教笞不レ可レ廢ニ於家ニ、刑罰不レ可レ捐ニ於國ニ、誅伐不レ可レ偃ニ於天下ニ」百合若大臣野守鏡(寶永、近松作)四「密カニ軍勢ヲ催シ、

近日、別府御誅伐ノ御用意アリ」

ちゅうはん (名) [中飯] ヒルゲ。ヒルメシ。晝食。晝飯。午飯。午餐。午餉。橘德興詩「山僧相訪期ニ中飯ニ、漁父同遊或夜歸」

ぢゅうはん (名) [重版] (一)原版ノアルヲ、更ニ版行スルコト。又、其モノ。[覆刻] [翻刻] (二)他ノ版行セル本ヲ、竊ニ別ニ刻リテ、賣出スコト。[僞版]

ぢゅうはん (名) [重犯] (一)オモキ犯罪。[重罪] (二)カサネテ罪ヲ犯スコト。

ちゅうひつ (名) [駐蹕] (周禮、夏官、隷僕篇、注「蹕、謂下止ニ行者ニ清上レ道」卽チ、さきばらひ) 天子ノ行幸中ニ、車駕ヲ止メ給フコト。天子ノ御逗留。駐輦。駐鑾。北史、周宣帝紀「一昨駐ニ蹕金墉ニ」

ぢゅうびゃう (名) [重病] オモキヤマヒ。オホヤマヒ。オホワヅラヒ。大病。大患。史記、倉公傳「中藏無ニ邪氣及重病ニ」盛衰記、廿六、入道得レ病事「入道重病ヲ受ケ給ヒタリトテ、六波羅京中物騷シ」

ちゅうぶ (名) [中部] マンナカノトコロ。中央部。後漢書、鮮卑傳「分ニ其地ヲ爲ニ三部ニ、云云、從ニ右北平ニ以西、上谷十餘邑爲ニ中部ニ」

ちゅうぶ (名) [中風] 次條ノ語ニ同ジ。

ちゅうぶう (名) [中風] (惡風ニ中リテ發スル病ノ意) 病ノ名。身體ノ一部、或ハ、半身ノ、痲痺レテ、功用ノ止ムモノ。(腦溢血ノ條ヲ見ヨ) 莊子、達生篇「中レ身當レ心、則爲レ病」注「猶ニ醫書中風中暑ニ是也」著聞集、七、能書「中風シテ手ワナナキテ、手跡モ異ヤウニ成リニケリ」吾妻鏡、五十一、弘長三年十月八日「和泉前司行方、此間湯治之處、俄以煩ニ中風ニ所勞ニ」

ちゅうふく (名) [中伏] (小學紺珠「伏者、金氣(秋氣)伏藏之日也」) 三伏ノ一。卽

チ夏至ノ後ノ第四ノ庚ノ日ノ稱。夏至ノ後、第三ノ庚ノ日ヲ初伏、立秋ノ後、第一ノ庚ノ日ヲ末伏ト云フ) さんぷく(三伏)ノ條ヲモ見ヨ。唆然詩「六月正中伏、水軒氣常凄」

ちゅうふく (名) [中腹] 山ノ頂上ト、麓トノ間。山ノナカホド。山腹。[半腹]

ぢゅうぶく (名) [重服] (一)喪ニ輕重ノ二アリ、重服ハ其一ニシテ、父母ノ忌服ヲ云ヒ、コレニ對シテ、其餘ノ服ヲ輕服ト云フ。名目抄(藤原實熙)「重服、父母、夫、主君」天武紀、下、七年十月「重服」軍防令義解「凡衞士、云云、其上番年、雖ニ有ニ重服ニ(謂ニ父母喪ニ也)、不レ在ニ下限ニ」(二)忌服中ニ、又、更ニ、忌服ノカカルコト。保元物語、三、謀叛人各遠流事「兄第四人、各重服ノ裝束ニテ」

ちゅうぶらり (名) 何レニモツカズニ、中間ニフラリトアルコト。ドチラニモツカザルコト。チュウブラリン。清水物語(寛永、朝林庵)「アルニテ候ハズ、ナキニテ候ハズト中サバ、中ぶらりト云ヘルモノニテ、譬モ聞コエズ」

ちゅうぶらりん (名) 前條ノ語ニ同ジ。

ちゅうべん (名) [中辨] 古ヘノ官名。ナカノオホトモヒ。べん(辨)ノ條ヲ見ヨ。

ちゅうぼう (名) [中棒カ] 陰莖ノ異名。チンボ。チンボコ。著聞集、十六、興言利口「年ハヨリタレドモ、ちうぼうハ六寸バカリニテ、ワカキモノヨリハ、シタタカニ、シタリツルハ」

ぢゅうほう (名) [重奉] 主君ノタメニ、力ヲ盡クスコト。吾妻鏡、一、治承四年八月「雖レ有ニ重奉輩ニ、于レ今遲參」

ちゅうぼく (名) [忠僕] 忠義ナル僕。

ちゅうほん (名) [中本] (一)小菊紙ニ摺リテ、其大イサニ仕立テタル書物。近世

物之本江戸作者部類、一、洒落本并中本作者部「洒落本ノ最後ニ[illegible]ラレシモ[illegible]ハ、[illegible]、時化子ノマナル、浄世物真似トカ云フゴトメキタル、根ナシ話說ヲ、イトヲカシク綴リナシタルモノ、各一二巻ヲ壹編トセシヲ、中本ト唱ヘタリ、コハ半紙半枚ノ小册ト、半紙本ノ間ナルモノナレバ、中本ト云フナリケリ」(二)人情本ノ異名。(常ニ中本ノ仕立ナレバ云フ)(三)今、又、半紙判ノ本。

ちゅうぼん (名) 中品 〔上品、下品ニ對ス〕佛教ノ語。くぼんぢゃうど(九品淨土)ノ條ヲ見ヨ。

ちゅうま (名) 中間 〔四寸角ノ柱ヲ中間ニ用ヰルヨリ名トス〕上方地方ニテ、曲尺六尺五寸ヲ一間トシ、コレヲ京間(キャウマ)ト云ヒ、其所ニ四寸角ノ柱ヲ中間ニ用キ、コノ柱ノ中心ヨリ計リテ、二寸ヲ減ジ、疊ノ長サ六尺二寸トシタル間ノ稱。けん(間)ノ條ヲ參見セヨ。

ぢゅうみん (名) 住民 其地ニ住(ス)メル民。土着ノ人民。トコロノモノ。居民

ちゅうめつ (名) 誅滅 罪アルモノヲ、ウチホロボスコト。コロシ、タヤスコト。戰國策、秦策「挾ニ其恐懼ニ、伐ニ其驕慢ニ、誅ニ滅無道ニ、以令ニ諸侯ニ、天下可レ定、何必以レ趙爲レ先乎」

ちゅうもく (名) 注目 目ヲツクルコト。ミツムルコト。注視。晉書、孫惠傳「天下喁喁、四海注レ目」杜甫詩「側身注目長風生」

ちゅうもん (名) 中門 「總門中ノ中ノ門ノ義カ」(一)寢殿造(シンデンヅクリ)ノ東西ノ長廊下ノ中程ヲ、切通シテ開キタル門。屋根アリテ、冠木(カブキ)モ閾(シキミ)モナシ。軍ノ通行ニ便ニスルナリ。又、壁中門(カベチュウモン)ト云フ。同ジ地位ニテ、廊ナク築地ナル間ニ設クルヲ、屛中門(ヘイチュウモン)(屛重門ト書キテ、へいぢゅうもんト讀ムト云フ。武家、即、多クハ然リ。[illegible]アリテ屋根ナキハ、[illegible]、其外ノ武[illegible]ノ出[illegible]、[illegible]ニセムタマナリ、[illegible]三十三、藤袴「[illegible]山ノ[illegible]ハ、イヅクモ[illegible]ネドモ、云云、中ノ[illegible]シ、中門ヲ開キテ、[illegible]ノヘダテナクテ御覽ゼサセタマフ」著聞集、九、武勇「家古クナリテ築地クヅレ、門カタブケリ、車寄ノ妻戸ヲアケテ、其内ニテアヒタリケリ、宗任ハ中門ニ侍ケリ」源、六、末摘花「御車ヨセタル中門ノ、イトイタウユガミ、ヨロボヒテ」宇津保物語、藤原君「中門押シアケ、二所並ビ立ナ給ヘルヲ見給ヒテ」太平記、一、賴員回忠事「小門ヨリ内ヘツト入テ、中門ノ方ヲ見レバ、宿直シケル者ヨト覺エテ、物ノ具太刀カタナ、枕ニ取散シ」吾妻鏡、十六、建仁二年九月十五日「將軍家又出御于石御壺(昇中門內)」家屋雜考、二「中門ノ事ハ、云云、正殿ノ東西ニアル長廊下ノ内ヘ開キタル往來ニテ、屋根アリ、扉ナシ、俗ニ、イハユル切通(キリトホシ)ナリ、云云、スベテ中門ニ、檐、閾(トガミシキミ)ナク扉ヲモ設ケザルハ、車ノ往來ニ便ナラシムベキタメナリ」(二)後ニ中門、又、中門の廊ト云フハ、車寄(クルマヨセ)、即チ今ノ玄關式臺ヲ云ヒ、(三)神社、寺院ノ樓門ト拜殿トノ間ニ設ケタル門。榮花物語、廿一、後悔大將「ソノ僧坊ヨリ火ノ出デキタルナリケリ、云云、ウヘノ御堂ノ廊テノ中門マデゾ燒ケタリケレバ」

ちゅうもん (名) 注文 (一)事ヲ記シ付ケタル文書。「新恩所領注文」(二)物ヲ誂(アツラ)ヘ作ラスルニ、其形、寸法ナド注セル書付。(三)轉ジテ、直ニ、誂ヘ作ラスルコト。製造ノ好ミ。室町殿日記(楢林長教)「[illegible]注文」(四)事ヲ註シタル文。又、注釋シタル文。ちゅうぶん。[illegible]、廿五、行[illegible]會ニ[illegible]「官ノ外記ノ注文ヲ召ス、カノ申狀ニツイテ」[illegible]、[illegible]年八月廿九日「[illegible]」

ぢゅうやく (名) 重役 (一)重(オモ)キ役目。(二)特ニ、銀行、會社ナドニテ、社長、取締役、支配人、監査役等ノ[illegible]。

ちゅうやくしゃ (名) 中役者 芝居ノ俳優ノ、立者ノ次、下廻ノ上ニ位スルモノ。チュウドホリ。

ぢゅうゆ (名) 重油 原油ヲ、攝氏ノ三百度ヨリ三百六十度マデノ間ニ蒸溜シテ、其溜出スル油狀ノ重キ液。[illegible]燃料トシ、又、更ニ分溜シテ、機械油、わせりん、ぱらふぃんナドヲ製ス。

ちゅうゆう (名) 忠勇 忠義ト、勇氣ト。又、忠義ニ厚ク、勇氣ニ富ムコト。晉書、安帝紀「[illegible]」

ちゅうよう (名) 中庸 (一)何レニモ片寄ラズシテ、善キ中程ナルコト。中庸、第二章「君子中庸、小人反ニ中庸ニ」注「中庸者、不レ偏、不レ倚、無ニ過不及ニ」(二)經書ノ名。四書ノ一。けいしょ(經書)ノ條ヲモ見ヨ。

ぢゅうよう (名) 重用 オモキ地位ヲ與ヘテ使フコト。オモク用ヰルコト。

ちゅうらう (名) 中老 (一)武家ニ、[illegible]ノ女ノ役目。老女ノ次ニ居ル。(二)ごたいらう(五大老)ノ條ヲ見ヨ。豐臣秀吉[illegible](三)中年ノ人ノ稱。四十歲ノ稱。[illegible]

ちゅうらうしゃう (名) 中郎將 近衞ノ中將ノ唐名。羽林中郎將。

ちゅうらふ (名) 中臈 〔臈ハ臘ノ俗字、臘ハ冬至ニ百神ヲ祭ルノ名、轉ジテ、[illegible]ノ意、因リテ年功ヲ積ミタルニ云フ〕(一)[illegible]ニアルモノ。即チ、内侍ニアラザル侍臣以下ノ女ヲ云フ。[illegible]「[illegible]」(二)江戸幕府ノ大奥ノ女中、又、武家大名ノ女中ニ[illegible]下臈ノ[illegible]。「大奥女儀ノ[illegible]、御中臈頭、御中臈、[illegible]」

ちゅうりう (名) 中流 (一)川ナドノ流ノ中。[illegible]「中流[illegible]」(二)中等ノ階級。[illegible]

ちゅうりく (名) 誅戮 法ニ由リテ殺スコト。罪ヲ糺シテ殺スコト。[illegible]

ちゅうりつ (名) 中立 (一)マンナカニ立ツコト。何レニモ片寄ラヌコト。中庸、第十章、[illegible]「中立而不レ倚」(二)イヅレニモ、味方シ、又ハ、反對セ[illegible]

ちゅうりゃう (名) 忠良 忠誠ニシテ、善良ナルコト。又、其人。[illegible]

ちゅうりゃう (名) [illegible]

ちゅう-りゃく (名) [中略] ぢゅうりゃく(上略)ノ條ヲ見ヨ。

ぢゅう-りょく (名) [重力] (一)重キチカラ。大イナル力。史記、張儀傳「夫以重力相壓、猶烏獲之與嬰兒」 (二)理學ニテハ、地球ガ地球上ノ物體ヲ引ク力。支ヘザル物體ノ落下スルハ、重力ノ作用ナリ。

ちゅう-れつ (名) [忠烈] 忠義ノ心ノ、最モ烈シキコト。極メテ、忠義ナルコト。誠忠ニシテ、義烈ナルコト。杜甫詩「相[illegible]將軍、伏讀忠烈」

ちゅう-れん (名) [柱聯] ハシラカケ。ハシラカクシ。甲乙剩言(明、胡應麟)「環慶御史[illegible]」

ちゅう-れん (名) [注連] シメ。シメカザリ。しめなは(注連)ノ條ヲ見ヨ。

ちゅう-れん (名) [駐輦] 天子ノ、御輦ヲトドメタマフコト。天子ノ御逗留。駐蹕。唐太宗詩「[illegible]駐輦」

ちゅう-ろ (名) [仲呂][中呂] (一)十二律ノ一。其條ヲ見ヨ。(二)陰暦四月ノ異稱。禮記、月令篇「孟夏之月、云云、律中中呂」

ちゅう-わ (名) [中和] 〔中庸、第一章「喜怒哀樂之未發、謂之中、發而皆中節、謂之和」〕 (一)程ヨク物ノ調和ヲ得ルコト。(二)人ノ性情ノ、中正ニシテ和平ナルコト。中庸、第一章「致中和、天地位焉、萬物育焉」 (三)化學ニテ、酸トあるかりトヲ作用セシメテ、ソレラニ特有ナル反應ヲ、互ニ消殺セシメテ、中性トナスコト。

ちゅうわ-ゐん (名) [中和院] 古ヘ、大内裏ノ内ノ内裏ノ西ニアリシ御殿。其正殿ヲ神嘉殿ト云フ。新嘗祭、神今食ナド、天神地祇ノ御親祭ヲ行ハセラルル所。略シテ中院。江家次第、七、中和院神今食御裝束事「戌時御腰輿、幸中和院」

ちゅう-ゐん (名) [中院] (一)ゐん(院)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。名目抄「本院(ニムト可レ申也)中院、新院(是レモ、ニムト有ルベキ也、連聲)」 (二)前條ノ語ノ略。(三)齋宮寮ノ官吏ノ詰所。新任辨官抄「齋宮寮、内院(齋王御レ之)中院(寮頭在レ此)外院」

ちゅう-ゑ (名) [中衛] 中衛府ノ略。初、近衛、中衛ト並ベ置カレタルヲ、大同二年四月ニ、近衛ヲ左近衛ニ、中衛ヲ右近衛ニ改メラル。(日本紀略) 職原抄、下「左右近衛、元者、近衛、中衛也、平城天皇御宇大同二年、勅以近衛爲左近衛、以中衛爲右近衛、唐朝重此職、統領諸宿衛禁軍故也、本朝又爲重任」

ちょ (名) [豬][瀦] (一)水ヲセキトメテ、タタヘシムルコト。(二)水ノ停ルトコロ。書經、禹貢篇「大野既瀦、東原底平」 宋史、河渠志「星宿海流出後瀦、曰哈剌海」

ちょ (名) [著] 書物ヲ、アラハスコト。ノベツクルコト。又、其モノ。「著作」「著述」

ちょ (名) [樗] (一)樹ノ名。ゴンズイニ同ジ。其條ヲ見ヨ。(二)誤リテ、楝ノ稱。(三)又、誤リテ、白膠木ノ稱。

ちよ (名) [千代][千載] チトセ。千年。又、數多ノ年月。萬葉集、廿、六十「タカマドノ、野邊ハフクズノ、末ツヒニ、知與ニ忘レム、吾ガ大君カモ」伊勢物語、八十四段「世ノ中ニ、サラヌワカレノ、ナクモガナ、ちよモト祈ル、人ノ子ノタメ」

ちよ (名) [千夜] 數多ノ夜。タクサンノ夜。萬葉集、十一、五十「サネヌ夜ハ、千夜モアリトモ、吾ガセコガ、思ヒ悔ユベキ、心ハ持タジ」續古今集、十三、戀、三「秋ノ夜ノ、千夜ヲ一夜ニ、ナセリトモ、言葉殘リテ、鳥ヤ鳴キナム」

ちよ (名) [千節] 〔よ(節)ハ、竹ノ節ト節トノ閒〕數多ノ節。タクサンノ節。新勅撰集、七、賀「我ガ宿ノ、ちよノ川竹、節遠ミ、サモ行末ノ、ハルカナルカナ」拾遺集、五、賀「一節ニ、ちよヲ籠メタル、杖ナレバ、ツクトモツキジ、君ガ齡ハ」

ちよ (名) [地輿] 〔說文「輿、車底也」地輿ハ、地ヲ載スル意〕大ナル地。地球。坤輿。淮南子、原道訓「以天爲蓋、以地爲輿」

ぢょ (名) [女] (一)ヲンナ。ヲナゴ。ヲミナ。メ。女子。女人。婦人。婦女。易經、繫辭、上傳「乾道成男、坤道成女」「美女」女アリ、玉ノ如シ」 (二)ムスメ。處女。漢書、張耳傳「外黃富人女甚美、庸奴其夫」「張氏ノ女」

ぢょ (名) [除] 算術ノ語。ワリザン。除法。算法新書、用字凡例「除、法ノ位數、多少ニ拘ハラズ、割ルヲ云フ、歸除、合名ナリ」

ぢょ-い (名) [女醫] 婦人ノ醫師。ヲンナイシャ。王建詩「隔簾教喚女醫人」

ぢょ-いう (名) [女優] (一)ヲンナヤクシャ。(二)舞ヲスル女。マヒコ。夢溪筆談(宋、沈括)「陳和叔除學士時、和叔知開封府、遂不用女優、學士院勅設不用女優、自和叔始」

ちょい-ちょい (副) 閒ヲ隔テテ、絶エズ續ク狀ニ云フ語。ヲリヲリ。チョクチョク。

ちょい-ちょい (感) 〔一能ノ約ト云フ〕物ヲ見、聲ヲ聞キテ褒ムル聲。吉原新鏡(寛文)遊女ノ評「運慶ノ御作ちょいちょい」 追善湍十郎奴俳諧「ちょいちょいヤ、花ノヤウナル、茶屋ノカカ」

ちょい-と (副) ちょッと(鳥渡)ニ同ジ。浮世風呂(文化、二篇)初編、上「手スクヒハ丸クシテ、アタマヘちょいとノセ」

ちょう (名) [寵] メデ、イツクシムコト。オボエ、メデタキコト。左傳、隱公四年「求寵於諸侯、陳桓公、方有寵於王」「寵ニ誇ル」

ちょう (名) [徵] (一)シルシ。キザシ。徵候。論衡(漢、王充)「雲霧、雨之徵也」「徵トス」 (二)アカシ。證據。(三)マネクコト。モトムルコト。メシ。「徵ニ應ズ」 (四)メシアグルコト。トリタツルコト。「徵稅」

ちょう (名) [丁] 數ノ名目。ちゃう(丁)ニ同ジ。ちゃうはん(丁半)ノ條ヲ見ヨ。枕草子、二、廿段、心ゆくもの「ちょうばみニ、ちょう多ク打チタル」

ちょう-あい (名) [寵愛] 非常ニ、メデイツクシムコト。カハユガルコト。晉書、馮紞傳「紞得幸于武帝、云云、承顏候色、寵愛日隆」

ちょう-あく (名) [懲惡] くゎんぜんちょうあく(勸善懲惡)ノ條ヲ見ヨ。漢書、賈山傳「慶賞以勸善、刑罰以懲惡」

ちょう-えい (名) [寵榮] 特別ノ寵愛ヲ受ケテ、榮ユルコト。榮寵。

ちょう-えい (名) [冢塋] ハカ。墳墓。後漢書、中山簡王傳「詔、大爲修冢塋、開神道」

ちょう-えき (名) [懲役] 刑ノ名。古ヘノ徒罪ナリ。監獄(今ハ刑務所)ニ拘置シテ、種種ノ工事ニ役使ス。無期懲役ト有期懲役トニ分チ、輕キハ一月ヨリ、重キハ十數年ニ亙リ、終身ナルヲ極トス。

ちょう-おん (名) [寵恩] 寵愛ノメグミ。恩寵。

ちょう-かい (名) [懲戒] (一)コラシ、イマシムルコト。コラシメ。漢書、諸侯王表「漢興之初、海内新定、同姓寡少、懲戒亡秦孤立之敗、於是剖裂疆土」 (二)不正ナル行爲ニ對シテ、制裁ヲ加フルコト。「懲戒處分」

ちょうかう（名）〔寵幸〕特別ニ、カハユガラルルコト。寵愛セラルルコト。史記、佞幸傳「[illegible]」

〔ちょうかくもん（名）〔重閣門〕朱雀門ノ舊稱。倭名抄（一本）三、居宅具「[illegible]朱雀門」拾芥抄（古本）「朱雀門、伴氏造、號重閣門」[illegible]年正月「天皇御重閣門、[illegible]宴文武百官」扶桑略記、廿三、昌泰元年十月「出宮門、至重閣門所、[illegible]」

ちょうきう（名）〔重九〕ちょうやう（重陽）ニ同ジ。即チ、九月九日ノ節句ノ稱。陶潛、九日閑居詩、序「余閒居、愛重九之名」

チョウク（名）〔白墨〕〔英語、Chalk.〕はくぼく（白墨）ニ同ジ。

ちょうぐう（名）〔寵遇〕イツクシミノ深キモテナシ。特別ニ、イツクシミノコモレルトリアツカヒ。後漢書、黄香傳「寵遇甚盛、議者譏其過僭」

ちょうくゎ（名）〔重過〕オモキニスグルコト。重キニ失スルコト。過重。

ちょうけん（名）〔寵眷〕特別ニ、ナサケヲカケラルルコト。寵遇。眷遇。

ぢょう・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）ダウケル。ジャウケル。フザケル。[illegible]名抄（[illegible]）「ちょうける、[illegible]ナレドモ、[illegible]語ニ就イテ充テタル字ニテ、徴スルニ足ラズ」

ちょうご（名）〔重五重午〕たんご（端午）ニ同ジ。即チ、五月五日ノ節句ノ稱。[illegible]客叢書（宋、王楙）「今言五月五日、日重五」

ちょうこう（名）〔徴候〕シルシ。キザシ。徴兆。兆徴。

ちょうさい（名）〔冢宰〕支那、周代ニテ、天子ヲ輔佐シテ、百官ヲ統御スル職。

[illegible]「百官[illegible]以聽冢宰」[illegible]天官、冢宰[illegible]、任[illegible]、[illegible]ヒタルノチ、百官[illegible]冢宰ニ任セテ」

ちょうさん（名）〔重三〕ぢゃうし（上巳）ニ同ジ。即チ、三月三日ノ節句ノ稱。[illegible]「暮春三月日重三」

ちょうし（名）〔徴士〕（一）朝廷、又ハ、官衙ニ召シ出ダサレタル士。後漢書、周燮傳「周[illegible]」[illegible]「[illegible]」（二）明治維新後、朝廷ニ召シ出ダサレタル諸藩士、又ハ地方ノ有才ノモノノ稱。

ちょうじ（名）〔寵兒〕（一）特ニ、カハユガルコドモ。（二）時メク人。仕合ナル人。

ちょうしう（名）〔徴收〕トリタツルコト。トリタテ。「租税ノ徴收」

ちょうしふ（名）〔徴集〕（一）メシアツムルコト。ヨビアツムルコト。（二）現役兵ヲ召シ集ムルコト。

ちょうしん（名）〔寵臣〕寵愛ノ臣。氣ニ入リノ家來。キリビト。キリモノ。漢書、[illegible]「[illegible]」[illegible]「[illegible]寵臣之節也」[illegible]「[illegible]」文德實錄、一、嘉祥三年三月「左近衛少將從九位上良岑[illegible]、[illegible]也、先皇之寵臣也、[illegible]後、哀慕無已、[illegible]以求[illegible]時人[illegible]」古事談、一、「[illegible]後一條[illegible]寵臣也、天皇崩給之後、忠臣不仕二君トテ、七七[illegible]之後、登天台楞嚴院、落飾入道」

ちょうしょう（名）〔徴證〕シルシ。アカシ。證據。

ちょう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）〔徴〕（一）[illegible]

[illegible]（二）召ス。招ク。呼ビ出ス。[illegible]「[illegible]」（三）トリタツ。トリアグ。[illegible]成傳「徴至長安」[illegible]（四）[illegible]トム。[illegible]。請求ス。要求ス。[illegible]

ちょうずり（名）〔重[illegible]〕[illegible]ヲ、幾ツモ重ネタルモノ。和歌ノ會ナドニ、座上ノ人人ノ前ニ置クト。

ちょうせう（名）〔徴招〕呼ビ招クコト。ヨビヨスルコト。[illegible]

ぢょうせん（名）〔地黄煎〕ぢわうせん（地黄煎）ノ訛。

ちょうそ（名）〔重祚〕〔正韻「祚、位也」ト。〕帝王、位ヲ退キ給ヘル後、再ビ位ニ即カセラルルコト。再祚。復祚。復辟（齊明天皇ニ始マル）太平記、十二、公家一統政道事「我朝天武[illegible]」[illegible]

ちょうてい（名）〔重訂〕再ビ改正スルコト。（著書ナドニ）再訂。

ちょうでいけん（名）〔[illegible]〕[illegible]ノ一種。[illegible]

ちょうてつ（名）〔[illegible]〕[illegible]

ちょうでふ（名）〔重疊〕（一）カサナリ、タタマルコト。平治物語、一、信西信頼不快事「外[illegible]重疊タル大[illegible]」（二）事ノ[illegible]

ガヒトナリテ、滿足ナルコト。[illegible]「[illegible]」

ちょうちょうし（名）〔[illegible]〕[illegible]二重ニアルコト。カサネヒトミ。[illegible]リケレバ」

ちょうにん（名）〔重任〕[illegible]國司ナド、四年ノ任限ヲ[illegible]リテ、重ネテ[illegible]ニ任ゼラルルコト。[illegible]延任ト云ウ。[illegible]テ、任ヲ延ベラルルコトモアリ」

ちょうねん（名）〔重年〕奉公ノ年期ヲ、重ネテ勤ムルコト。

ちょうはう（名）〔重寶〕（一）ぢゅうはう（重寶）ノ訛。（二）利用ノ途ノヒロキコト。便利ナルコト。（三）[illegible]パ、重寶ヲナサザルゾ」

ちょうはつ（名）〔徴發〕（一）戰時、又ハ事變[illegible]

ちょうはつ（名）〔[illegible]〕[illegible]

ちょうばみ（名）〔[illegible]〕[illegible]雙六ノ勝負ニ云フ語。てうばみ（調半）ノ條ヲ見ヨ。

ちょうはん（名）〔重半〕ちゃうはん（丁半）ノ條ヲ見ヨ。

ちようふく (名) 【重複】 同ジ物事ノ一重ニナルコト、ヤヘニナルコト。晉書、桓沖傳「臣輒較二量畿甸一、守衛重複」

ちようへい (名) 【寵嬖】 氣ニ入リテ愛スルコト。又、氣ニ入リノ人。拾遺記「石虎、云云、共二宮人寵嬖者一、解二媟服一、宴戲、彌二於日夜一」

ちようへい (名) 【徵兵】 國中一般ヨリ、丁年ノ男子ヲ徵シ、コレヲ擇リテ、年限ヲ定メ、兵役ニ就カシメラルルコト。隋煬帝、白馬篇「徵兵集二薊北一、輕騎出二漁陽一」

ちようべん (名) 【重瓣】 ヤヘザキノ花。

ちようぼ (名) 【徵募】 (一)メシツノルコト。呼ビ集ムルコト。(二)現役ニ服セシムルタメニ、召集スルコト。

ちようま (名) 【水黽】 ミヅスマシ。東京ニテ、アメンバウ。物類稱呼(安永、越谷吾山)二、動物「水黽、畿内ニ、水スマシ、又、カツヲムシ、江戸ニテ、てうま、西國ニテ、シホトリ、云云」又、兒童ノ石瓦ヲ水上ニ投ゲテ、水面ヲ縫ヒ掠ムルヤウニ、飛バスヲ、ちようまヤルト云フ。(水馬ヲ追ヒヤル意カ)

ちようめ (名) 【重目】 雙六ノ語、采ノ目ノ同ジ目ガ、二ツ一度ニ出ヅルコト。(下ノ出典ヲ見ヨ) 和漢三才圖會、十七、雙陸「重一、重二、朱三、朱四、重五、重六、俗謂二之重目一」

ちようめい (名) 【澄明】 スミテ、アキラカナルコト。梁元帝詩「月華似レ璧星如レ珮、流影澄明玉堂内」方干詩「一泓瀲灔復澄明」

ちようやう (名) 【重陽】 〔九ヲ陽數トス。卽チ陽(九)ヲ重ヌル意〕 又、重九。五節句ノ一。九月九日ノ節句ナリ。菊、茱萸ヲ節物トス。魏文帝、與二鍾繇一書「歲往月來、忽復九月九日、九爲二陽數一、而日月竝應、故日二重陽一」杜甫詩「舊日重陽日、傳レ杯不レ放レ杯」

ちようやく (名) 【重譯】 一度譯セラレタル語ヲ、更ニ他國語ニ譯スルコト。其重譯セルモノヲ、更ニ他國語ニ譯スルヲ三譯ト云フ。又、通譯ヲ再三、重ヌル意ヨリ、遠ク隔リタルニモ云フ。九譯ト云フモ、亦同ジ。史記、三王世家「遠方殊俗、重譯而朝」漢書、張騫傳「廣地萬里、重二九譯一、至二殊俗一」

ちようよう (名) 【懲膺】 〔懲ハ戒、膺ハ擊ノ意。孟子、滕文公、上篇「戎狄是膺、荊舒是懲」ノ句ニ基ヅク〕 ウチコラスコト。ウチハラフコト。膺懲。

ぢようろ (名) ぢよらう(女郎)ノ訛。(東京) キミ。傾城。遊女。遊君。娼妓。

ちようろぎ (名) 【草石蠶】 〔朝露葱ノ義カ〕トモ云フ、イカガ」 草ノ名。春、苗ヲ生ズ、莖、方ニシテ、葉ト共ニ毛刺アリ、葉ハ荏ノ葉ニ似テ、狹クシテ皺アリ、黃綠ニシテ對生ス。秋ニ至リ、苗ノ高サ一二尺、梢ニ、一二寸ノ穗ヲナシ、淡紫ノ花ヲ開ク、紫蘇ノ花ニ似テ大ナリ。冬ニ至リ、根ノ下ニ、別ニ蠶ノ繭ニ似タル根(地下莖)ヲ生ズ、長サ一寸許、連珠アリテ、一頭ハ狹ク尖リ、一頭ハ蜷ノ形ニ似テ、色白シ。冬、春、採リテ食フ、生、熟共ニ佳ナリ。東京ニテハ、赤ク漬ケテ、新年ノ料理ニ用ヰル。チヨロギ。甘露子 本朝食鑑(元祿、平野必大)三「知也宇呂岐、草石蠶、古來未レ聞レ有、近世華船移レ種」

ぢようろく (名) 【重六】 又、疊六。雙六ニテ、二ツノ簺トモ六ノ目ノ出ヅルコト。さいのめ(簺目)ノ條ヲモ見ヨ。

ちようゐ (名) 【重圍】 幾重ニモ、トリ圍ムコト。又、ソノカコミ。ヂユウヰ。皇甫冉詩「誰能談笑解二重圍一」

ぢよかい (名) 【女誡】 女子タルモノノイマシメ。女訓。後漢書、曹世叔妻傳「扶風曹世叔妻、云云、作二女誡七篇一、有レ助二内訓一」

ぢよがく (名) 【女學】 女子ノ修ムベキ學問。錄異記(唐、杜光庭)「長安富縣、云云、一名二東女學一、一名二西女學一」

ぢよがくかう (名) 【女學校】 女子ニ須要ナル敎育ヲ施ス學校。ニヨガクカウ。

ちよがみ (名) 【千代紙】 西内紙ニ、種種ノ花紋ナドヲ、五彩ニ摺リ出シタルモノ。女兒ノ玩トス。大江俊矩記、文化十二年六月四日「千代紙百枚」

ちよぎ (名) 【千代木】 松ノ異名。又、チヨミグサ。祕藏抄(躬恒)下「君ガ經ム、ヤホヨロヅヨノ、タメシカナ、ちよぎノ枝ニ、鶴スクフナリ」

ちよき (名) 【猪牙】 ちよきぶね(猪牙舟)ノ略。其條ヲ見ヨ。

ちよきちよき (副) (一)小手廻ヨキニ云フ語。シヤキシヤキ。心中宵庚申(享保、近松作)下「打チ鱶出シテ、ちよきちよきト打テ」(二)剪刀ナドヲ使フ音ニ云フ語。

ぢよきふ (名) 【女給】 ヲンナノ給仕。

ちよきぶね (名) 【猪牙舟】 〔ちよきハ艪ノ音ノ形容。(小早ノ條ヲ見ヨ) ちよろト云フ小舟モコレナリト云フ。或ハ云フ、長吉ト云フ者、作リ始ム、故ニ長吉船トモ云ヘリト、或ハ、形、猪牙ニ似タレバ云フト云フハ、皆、附會ナリ、猪牙ト云フ湯桶訓アルベクモアラズ〕 小舟ノ名。細長クシテ、舳尖レリ。往時、專ラ江戸、山谷通ニ用ヰタリ、進ムコト至テ早ケレバナリ。サレド甚シク動搖セリ、艪ヲ二挺立テテ漕ギタルハ更ニ早シ、因リテ舟ヲ二挺立トモ云ヒ、此舟ニ屋根ヲツケタルヲ、きりぎりすト云ヒキ。舟搖レテ二挺ノ艪ノ、きりきりト鳴ル故ナリ。又、三挺立モアリキ。共ニ正德三年ニ禁止セラレタリ。松の葉(元祿、三、)船歌「ちよきヤちよ、ちよきヤ、ち、きりヤありあり」川柳「我ヲ俔ヤ、筑波オロシニ、歸ル猪牙」享保年成、絲綸錄、四十六、正德四年八月「ちよき船之儀、當夏中令二停止一、不レ殘解舟ニ申シ付ケ候之處」

ちよきん (名) 【貯金】 金錢ヲタクハフルコト。カネヲタムルコト。錄異記(唐、杜光庭)「貯金多則草木焦枯」

ちよきゆう (名) 【儲宮】 ちよくん(儲君)ノ條ノ(一)ニ同ジ。晉書、賀循傳「太子太傅、詔曰、循躬訓二儲宮一、獻替二化成一」

ぢよきよ (名) 【除去】 ノゾキサルコト。トリノケニスルコト。禮記、經解篇「除二去天地之害一、謂二之義一」

ちよく (名) 【敕】 〔說文「臿レ地曰レ敕」又「从レ攴作レ敕」玉篇「本作レ勅、今相承皆作レ勅」〕 (一)ミコトノリ。天子ノ御言葉。拾遺集、九、雜、下「敕ナレバ、イトモカシコシ、鶯ノ、宿ハト問ハバ、イカガ答ヘン」夫木抄、四、花「敕トカヤ、クダス帝ノ、イマセカシ、サラバ恐レテ、花ヤ散ラヌト」(二)種種ノ語ノ上ニ添ヘテ、天子ノ親シクセサセタマフ意ヲ示ス語。「敕願」敕許」敕筆」敕授」敕任」敕裁」

ちよく (名) 【直】 (一)ナホキコト。正直。書經、舜典篇「直而溫、寬而栗」(二)カザリケノナキコト。氣ガルナルコト。素樸。率直。浮世風呂(文化、三馬)四、中「折折毒性ナ事イハンスケレド、一體ノ性根ハ直ナオカタヂヤナ」

ちよく (名) 〔安直ノ略語ニ起レルカ〕ツ

ツマヤカナルコト。オモオモシカラヌコト。テガル。(東京) 簡易

チョク (名) 猪口 〔鍾ノ字ノ入聲ノ呉音ナリ、猪口ハ當字〕(一)酒杯ノ、陶製ニテ、形、小サク、上、開キ、下、窄ミタルモノ。訛シテ、チョコ。鍾子 酒盞 持統紀、三年七月「鍾、婆羅、寶帳、香爐、幡等物」 海人藻芥「應永、憲命院宣守ニ下「親王ト大臣トノ參會、云云、被勸二獻、三獻ナガラ各鍾也」 後撰夷曲集(寛文)「菊盆ニ、檗ノちょく、桔梗皿」 (二)陶製ノ小サク深キ器。膳部ニ用ヰル。

ちょく-おん (名) 直音 語學ノ語。拗音、及、促音ナラヌ常ノ音ノ稱。篇尾ノ語法指南ノ條ノ初ヲ見ヨ。

ちょく-か (名) 直下 (一)眞下。マッシタ。盛衰記、廿八、經正竹生島詣事「溶漫漫トシテ、直下ヲ見下ロセバ底モナシ」「赤道直下」 (二)直ニ下ルコト。一直線ニ下ルコト。李白詩「飛流直下三千丈、疑是銀河落二牛天一」「急轉直下」

ちょく-かう (名) 直航 途中ノ港ニ寄ラズ、直ニ目的地へ向ケテ航行スルコト。

ちょく-かう (名) 直行 (一)途中ニテ乘換、又ハ、停留セズシテ、直ニ目的ノ地へ進行スルコト。「直行ノ汽車」 (二)正直ナル行動。スグナル行ヒ。史記、屈原傳「屈平正道直行、竭忠盡智、以事其君」 管子、法法篇「人主不周密則正言直行之士危」

ちょく-かく (名) 直角 鐵尺ノ角ノ如キ、正シキ角、即チ九十度ノ角。カギノテ。かくど(角度)ノ條ヲ見ヨ。

ちょく-かく (名) 直覺 〔英語、Intuition.ノ譯語〕 哲學上ニテ、推理、經驗、等ニ因ラズシテ、直接ニ事物ヲ知覺スルコト。ちょくくゎん(直觀)ニ同ジ。

ちょく-がく (名) 敕額 敕筆ノ額面。天子ノ御親筆ノ額面。又、敕賜ノ額面。通鑑、周紀「世宗敕、天下寺院、非敕額者悉廢之」注「敕許建寺賜額、謂之敕額、非[illegible]也」 親長卿記、文明八年二月廿六日「多武峯中勅額事(一、小多武峯大明神、一、大多武峯)御出來之間、可遣[illegible]白之由、被下女房奉書、仰申[illegible]了、件額事、被仰世尊寺前宰相(行康)書下書[illegible]、被付[illegible]御[illegible]也」 [illegible]寺文書(近衞右大臣拜賀公具狀之[illegible])「[illegible]源法常兩禪寺者、一[illegible]道人(佛[illegible]師)之開基也、太上法皇(後水尾)[illegible]賜勅額於兩寺、加之別染神翰一通、以被收[illegible]源寺、可謂[illegible]矣」「敕額門」

ちょく-かつ (名) 直轄 直接ニ管轄スルコト。直支配。「直轄學校」

ちょく-かと (副) 直下 眼下ニ見下シテ。目ノ下ニ。保元物語、二、大相國御歎事「詩歌ハ閑中ノ弄ビ、能書ハ賢オノ好ム所ニ非ズナドトテ、直下と思シ召サレゲメ」

ちょく-かん (名) 敕勘 敕命ノ勘當。天子ノ御勘氣。百練抄、五、鳥羽「保安元年七月廿一日、少將實衡與兵部大輔資信、於殿上[illegible]、實衡以扇打資信、資信取御椅子棒追實衡、實衡除籍、資信勅勘」 愚管抄、四「知足院殿(藤原忠實)ハ、當時關白ナルヲ、ハタト勅勘アリテ、十一月十三日(保安元年)ニ内覽トドメテ、閉門セラレケリ」 平家物語、五、伊豆院宣事「ソモソモ賴朝敕勘ヲ不許ズ赦シテハ、イカデカ謀叛ヲ可起」

ちょく-かん (名) 直諫 〔直言極諫ノ略〕打付ケニ諫言スルコト。(諷諫ナドニ對ス) 史記、項羽紀「今將軍、内不能直諫[illegible]外[illegible]亡國將[illegible]」 [illegible]ノ無道ナルヲナゲキテ、シバシバ直諫スレバ、忠言耳ニ逆フ習ニテ、主君ノ心ニアハヌ程ニ、常ニイトヒ[illegible]ハレテ、[illegible]ラハレ、[illegible]ニナ[illegible]モノナリ」[illegible]

ちょく-きょ (名) 敕許 敕命ノ免許。天子ノ御許可。南史、[illegible]傳「[illegible]」 太平記、十[illegible]「[illegible]」[illegible]コノ[illegible]之、[illegible]コノ[illegible]仰[illegible]附他人[illegible]候トゾ申サレケル」

平定信)平居、人ノ[illegible]ルコトナク、[illegible]下ノ[illegible]ヲ[illegible]ルコト[illegible]、[illegible]ヲ聞ンコトヲ[illegible]シ、寛政八年[illegible]月、[illegible]録ヲ[illegible]シテ、群下ニ示シ玉フ」

ちょく-くゎく (名) 敕畫 詔書、敕書、敕符等ノ[illegible]ニ、年號、年代月ノ書ヘ、日ノ字ノ上ノ空ニ、[illegible]ヘ[illegible]御畫ジテ、宸筆ニテ、日次ノ數字ヲ畫キテ、返シタマフ、コレヲ御畫日ト申ス。ソレヲ覆奏シ奉ル式アリテ、返シ下シタマフ時、年號ノ上旁ニ可ノ字ヲ書カセタマフヲ、可御畫ト申シ、論奏ニ聞ノ字ヲ書カセタマ[illegible]ヲ、聞御畫ト申ス、[illegible]コレヲスベテ、敕畫、又ハ、御畫ト申ス。(公式令、[illegible]御抄) [illegible]四[illegible]四月[illegible]内ノシルスツカサ(内記)、[illegible]内侍ノカミニ傳へ侍レバ、主上、云云、[illegible]ミオハシテ、可ノ字ヲ御手ヅカラソヘサセタマヘバ」

ちょく-くゎん (名) 直觀 〔英語、[illegible]ノ譯語〕 哲學上ノ語。[illegible]推理、經驗、等ニ[illegible]ズシテ、直接ニ事物ヲ感得スルコト。直覺

ちょく-ぐゎん (名) 敕願 [illegible]天子ノ御祈願。[illegible]年代記(元祿、近松作)五「[illegible]主、[illegible]ラ南乞ヒノ敕願[illegible]スゾ[illegible]シキ」

ちょく-ぐゎん-じ (名) 敕願寺 [illegible]願ニヨリテ、國家ノ鎭護、玉體安穩ノ祈願ノタメニ、建立セラレタル寺。[illegible][illegible]

[illegible]

ちょく-ぐゎん-しょ (名) 敕願所 敕願ア[illegible]セタマフ寺、又ハ、社。天子ノ御祈願所。[illegible]

[illegible]位牌ト申シ、當今ノヲバ御壽牌ト申也」

ちょく-けい (名) 直徑 數學上ニテハ、圓ノ中心ヲ[illegible]、圓周ニ[illegible]直線、即チ圓ノ弦。球ニテハ、大圓ノサ[illegible]

ちょく-けい (名) 直系 〔傍系ニ對ス〕親子ノ關係ヲ以テ、一直線ニ、祖先ヨリ、子孫ニ後裔ニ至ル系統。「直系尊屬、直系卑屬」

ちょく-げん (名) 直言 憚ラズ、在ルマヽニシテ、己レノ信ズル所ヲ言フコト。正言。左傳、成公十五年「伯宗[illegible]朝、其妻必戒之曰、[illegible]」[illegible]主人[illegible]民[illegible]其上、子好直言、必及於難」[illegible]

ちょく-ご (名) 敕語 天子ノ仰セゴト。[illegible]ミコトノリ。綸言。宋史、[illegible]「[illegible]」

ちょく-さい (名) 敕裁 敕命ノ裁許。天皇ガ、直接ニオサバキナサルルコト。[illegible]

ちょく-さい (名) 敕祭 敕命ノ祭。

ちょく-さい (名) [illegible] [illegible]

ちょく-し (名) 【敕使】 敕命ノ使。中使。天使。續紀、何宣…竹取物語「司司ニ仰セテ、敕使ニハ少將高野ノオホクニト云フ人ヲサシテ」

ちょく-し (名) 【敕旨】 ミコトノリノ御旨意。後漢書、太子、勅、敕賞制旨大涅槃經講疏一啓「伏願聖、恭、太傅子奉宣敕旨」 公式令義解「詔書式、謂、詔書、敕旨、同是綸言」

ちょく-し (名) 【直視】 マッスグニ、見ツムルコト。晉書、阮籍傳「籍散髮箕踞、醉而直視」

ちょく-し-でん (名) 【敕旨田】 王朝時代、敕旨ニヨリテ、諸國ノ荒廢地ナドヲ開墾シテ、公領トナシタル田地。敕旨開田。主稅寮式、上「勅旨田、云云、稻 不輸租田」 類聚國史、百五十九、田地「天長五年十一月丙申、伊勢國員辨郡、空閑地一百町、爲勅旨田」

ちょく-しん (名) 【直進】 (一)直ニ進ムコト。管子、法法篇「明君公國一、民、以聽、於世、忠臣直進、以論其能」 (二)マッスグニ進ムコト。孫綽、遊天台山賦「濟楢溪而直進」

ちょく-しゃ (名) 【直射】 (曲射ニ對ス) (一)マトモニ射ルコト。(二)眞直ニソソグコト。ヂカニ照ラスコト。「日光ノ直射」 (三)彈道ノ殆ド直線ヲナスコト。

ちょくじゃう-けいかう (名) 【直情徑行】 (集韻「徑、直也」) 他ノタメニ、己レガ情ヲ枉グルコトナク、事ヲ行フコト。心ノ在リノ儘ヲ、包マズ飾ラズ、コレヲ擧動ニ表ハスコト。イッポンギ。禮記、檀弓、下篇「子游曰、云云、有直情而徑行者、戎狄之道也」

ちょく-じゅ (名) 【敕授】 (一)古へ、天子親シク位ヲ授ケサセ給フコト。五位以上、是レナリ。又、六位、七位ヲ奏授ト云ヒ、八位以下ヲ判授ト云フ。其別ハ、今ノ敕任、奏任、判任ノ如シ。敕任、及、行位ノ條ヲ見ヨ) 選敍令「凡内外五位以上敕授」 (二)現今ハ、敕命ニヨリ、宮内大臣ノ奉行シ授ケラルルモノ。(從四位以上ニ)

ぢょく-しゅ (名) 【濁酒】 だくしゅ(濁酒)ニ同ジ。犬筑波集(永正)「誰ノ國スイタノ堤ヲユクトテ、風寒シ、ちょくしゅナリトモ、スイタ哉」

ちょく-しょ (名) 【敕書】 敕命ノ文書(カキモノ)、敕命ノ語ヲ認(シタタ)メタル文書。江家次第、十八、勅書「先奏草、次奏淸書、次給中務輔、如前、件勅書下後、又可仰左右近」

ぢょく-せ (名) 【濁世】 五濁惡世ノ略。佛敎ノ語。濁レル世、卽チ、此ノ人間界。チリノヨ。法華經、勸持品「世尊自當知、濁世惡比丘」 往生要集、上、本「往生極樂之敎行、濁世末代之目足也」 字類抄「濁世、ヂョクセ」 盛衰記、廿七、天下餓死事「誠ニ濁世亂漫ノ折リト云ヒナガラ」

ちょく-ぜい (名) 【直稅】 (間稅ニ對ス) 直接國稅ノ略。國庫へ直接ニ納ムル稅。地租、所得稅、營業收益稅、資本利子稅、相續稅等。又、直接稅。

ちょく-せつ (名) 【直接】 (間接ニ對ス) ウチツケ。サシツケ。ヂカ。「直接取引」

ちょくせつ-ぱふ (名) 【直說法】 語學ノ語。動詞ノ法ニ、動作ヲアリノママニ説キテ、言ヒ切ル態(サマ)ノモノ。卽チ、行く、受く、落つ、見る、來(ク)、爲(ス)、死ぬ、有り、ナドノ如シ。截斷言(サイダンゲン)。終止言。(篇尾ノ語法指南ノ動詞ノ條ヲ見ヨ)

ちょく-せん (名) 【敕宣】 ミコトノリ。敕命ノ宣旨(センジ)。參考、盛衰記、劍卷「天下ヲ守護スベキノ由、敕宣ヲ蒙リテ」

ちょく-せん (名) 【敕撰】 敕命ニテ書物ヲ作ラセラルルコト、欽定。敕旨ニテ作レル撰集、敕撰ノ和歌集ハ、醍醐天皇ノ延喜五年、紀貫之、凡河内躬恒、紀友則、壬生忠岑ニ命ゼラレテ撰集セラレタル古今和歌集ヲ第一トシ、後花園天皇永享五年、新續古今集ニ至ル、御歷代、前後二十一度ノ撰アリ、コレヲ二十一代集ト云フ。八代集(ハチダイシフ)、及、十三代集(ジフサンダイシフ)ノ條ヲ見ヨ。

ちょく-せん (名) 【敕選】 天子、親シク選拔シ給フコト。

ちょく-せん (名) 【直線】 (一)眞直ナル線(スヂ)。引キ張リタル絲ノ如ク、曲ラヌスヂ。(二)スミナハ。マッスグ。眞一文字。

ちょく-たふ (名) 【敕答】 (一)天子ノ臣下ニ御答(コタヘ)セサセタマフコト。南史、謝子雲傳「勅答曰、此是主者守株、宜急改也、仍使子雲撰定」 西宮記、臨時、一「天曆太子初立獻表、以中納言給敕答」 (二)誤リテ、臣下ヨリ敕諚(チョクヂャウ)ニ答ヘ奉ツルコト。平治物語、一、許由事「許由ツヒニ敕答ヲダニ申サズ」 傾城酒呑童子(享保、近松作)一「御イラヘ申ス人モ無カッシ所ニ、常陸介平安盛、瀧口ニ候ヒシガ、安盛ト敕答シテ、御庭ニ跪ク」

ちょく-だん (名) 【敕斷】 ちょくさい(敕裁)ニ同ジ。

ちょく-ちゃう (名) 【直腸】 はらわた(腸)ノ條ヲ見ヨ。

ちょく-ぢゃう (名) 【敕諚】 (諚ハ言定ノ合字) 天子ノ仰セ。ミコトノリ。敕命。盛衰記、四十八、法皇大原入御事「イカニ イカニト、度度勅諚アリケレバ」

ちょく-ちょく (副) チョイチョイ。

ちょく-つう (名) 【直通】 (一)一地方ヨリ他地方へ異狀ナシニ通ズルコト。(二)汽車ガ、直接ニ目的地ニ通ズルコト。

ちょく-にん (名) 【敕任】 (一)古ヘ、天子、親シク官ニ任ゼサセ給フコト。大納言以上、辨官、諸長官等、是レナリ。其以下、大抵、主典以上、大臣ノ奏聞ニ因リテ任ズルヲ、奏任ト云ヒ、又其以下、奏聞ニ及バズ、太政官ノ判斷ニテ任ズルヲ判任ト云フ。又、式部省ノ判斷ニテ補(フ)スル舍人、史生等ヲ判補ト云フ。選敍令、義解「勅任、云云、大納言已上、左右大辨、八省卿、五衞府督、彈正尹、大宰帥」 (二)現今ハ、最高ナルニ親任官アリ、其以下、敕任ニ二等、奏任ニ六等、判任ニ四等ノ差アリ、各官衙ノ官、各、此別ニ從フ。

ちょく-ひ (名) 【直披】 ぢきひ(直披)ニ同ジ。

ちょく-ひつ (名) 【敕筆】 天子ノ御手蹟。宸筆。宸翰。醒睡笑(元和、安樂庵策傳)三「後奈良院殿、後柏原院殿ノハ、皆敕筆ト仰セ候ガ」

ちょく-ひつ (名) 【直筆】 (一)筆ヲ眞直ニ持チテ字ヲ書クコト。「懸腕直筆」 (二)事柄ヲ在リノ儘ニ書キ記スコト。晉書、郭璞傳「臣以人乏、忝荷史任、敢忘直筆、惟義是規」

ちょく-ふ (名) 【敕符】 敕命ニヨリテ下ス符。續紀、十三、天平十二年九月「更遣勅符、喚十條、檄、獨諸國、百姓見者早宜承知」

ちょく-ふう (名) 【敕封】 敕命ニヨリテノ封印。小右記、寛仁三年九月廿九日「彼是卿相云、今曉東大寺敕封御倉匙、大監物惟忠申給鑰匙」 百練抄、十三、寛喜二年十二月六日「左少辨時兼朝臣、爲開東大寺敕封倉、下向南都」

ちょ-くん (名) 【儲君】 (一)天子ノ御世嗣。マウケノキミ。皇太子。東宮。春宮。

儲嗣。儲貳。儲皇。儲宮。儲闈。公羊傳、[illegible]「世子[illegible]」[illegible]、[illegible]之[illegible]「[illegible]」[illegible]記、天和二年三月廿五日「入レ夜有レ召参內、仰云、儲君事[illegible]第五宮(東山)中御門亞相息女、大[illegible]典侍局御腹也」百一錄、寶永四年三月廿三日「增宮御方(中御門通誠公記、長宮ニ作ル)可レ爲二儲君一之由、諸家中ヘ被二仰渡一」朝野群載、一、文筆、延曆寺奉[illegible]「儲君始立[illegible]延曆寺沙門延昌[illegible]、代[illegible]、儲君殿下(冷泉)去月廿三日、正二太子之[illegible]、[illegible]位一」

(二)諸侯ニ、ヨツギノコ。世子。

ちょく-めい (名) 勅命 天子ノ御命令。ミコト。ミコトノリ。敕諚。書經、舜典「帝曰、咨、汝二十有二人」孔傳「特敕二命之一」

ちょく-めん (名) 勅免 (一)敕命ニヨリテ免許スルコト。敕許。(二)敕命ニヨリテ赦免スルコト。太平記、十九、相模次郎時行敕免事「[illegible]二下情ヲ照サレバ、枉ケテ敕免ヲ蒙リテ、朝敵誅罰ノ計略ヲ廻スベキヨシ、綸旨ヲ成シ下レバ、宜ク官軍ノ義戰ヲ扶ケ」

ちょく-もん (名) 勅問 天子ノ臣下ニ問ハセタマフコト。天皇ヨリノ御尋ネ。後漢書、馬嚴傳「嚴案二其虛妄一[illegible]、[illegible]、[illegible]「[illegible]、[illegible]」徒然草、百七段「此所ノ神ナリト云ヒテ、事ノ由申シケレバ、イカガアルベキ、ト敕問アリケルニ」

ちょく-やく (名) 直譯 原書ノ文言ヲ、其ママニ翻譯スルコト。又、其翻譯シタルモノ。(意譯、義譯ニ對ス)

ちょく-やく (名) 勅約 天子、親ラセサセ給フ約束。盛衰記、十八、[illegible]「[illegible]名[illegible]シテ[illegible]シケルハ、カネテノ敕約ハアリシカトモ、八幡大菩薩ノ御[illegible]背[illegible]スベキ」

ちょく-ゆ (名) 勅諭 天子、親シク人民ニ諭シ給フコト。又、天皇ノ御告諭。ミコトノリ。漢書、東平思王宇傳「上於レ是、[illegible]」

ぢょく-らん (名) 濁亂 佛經[illegible]、[illegible]、[illegible]盛ニ[illegible]リ、人ヲ濁ミ、世ヲ亂スコト。又、五濁ノ[illegible]レ[illegible]ルルコト、[illegible]、[illegible]「[illegible]亂ノ衆生ナレバ、此ノ經ハ保チ難シ」

ちょく-りう (名) 直流 (一)眞直ニ流ルルコト。スグナルナガレ。(二)理學ニテハ、電氣ノ同一方向ニ流ルルコト。乃チ電流ノ方向一定ナルモノ。(週期的ニ反對ノ方向ニ流ルル交流ニ對ス)

ちょく-りつ (名) 直立 眞直ニ突立ツコト。詩經、小雅、祈父之什、斯干[illegible]「如レ[illegible]、斯[illegible]」[illegible]「如二[illegible]手直立一」「直立不動」

ちょく-れい (名) 勅令 (一)天子ノ御命令。敕諚ノ命令。宋史、[illegible]「[illegible]、[illegible]」[illegible]敕令式、[illegible]所、[illegible]、[illegible]敕命[illegible]」(二)議會ノ協贊ヲ經ズシテ、天皇ガ直ニ發セラルル命令。

ちょく-れい (名) 直隸 直接ニ隸屬スルコト。天子、又ハ、中央政府ニ直屬スルコト。宋史、[illegible]「[illegible]、[illegible]」皆直二隸京師一」

ちょく-ろ (名) 直廬 古ヘ、禁中宿直ノ曹司。攝關、大臣、大納言等ノ宿直、又ハ、休息スル所。江家次第(十七、江匡房)[illegible]「[illegible]」[illegible]二[illegible]二直廬一」二十代實記、十九、[illegible]十[illegible]年[illegible]月十八日「陛下不レ許二臣就二私第一、賜二直廬於禁中一」

ちょく-くゎう (名) 儲皇 ちょくん(儲君)ノ條ノ(一)ニ同ジ。[illegible]

ぢょく-くゎん (名) 女官 にょうくゎん(女官)ニ同ジ。[illegible]

ぢょく-けい (名) 女兄 あね(姉)ニ同ジ。[illegible]

ぢょく-けつ (名) 女傑 女ノ豪傑。サトコマサリノ女。女丈夫

ちょく-げん (名) 緒言 ちょげん(緒言)ノ誤。其條ヲ見ヨ。

ぢょく-げん (名) 女衒 ぜげん(女衒)ニ同ジ。東[illegible]子(田宮仲宣)二「[illegible]東部ニテ[illegible]、[illegible]人ノ[illegible]スル[illegible]ヲ、女衒トムフ、[illegible]ハ[illegible]ナリ」

✣チョ-コ (名) 猪口 ちょく(猪口)ノ訛。

ぢょ-こう (名) 女工・女紅 (紅ハ、工ニ通ズ)(一)女子ノ手仕事。漢書、[illegible]帝[illegible]、女紅[illegible]女工ノ昔ヲ思ヒ出ヅル」(二)女子ノ職工。

ぢょ-こう-ぢゃう (名) 女工場 女工ノ仕事場。女工ノ仕事場。

ちょ-こ-ざい (名) チョコチョコ才。コザカシキフルマヒ。サシデガマシキコト。又、スバシコキモノ。女殺油地獄(享保、近松作)上「ムツト[illegible]メバ[illegible]放シ、ヤ、ちょこざいナゲサイ六、エラ[illegible]ヒッカイテ[illegible]レベイ」

ちょこ-ちょこ (副) (一)チョロチョロ。小兒ナドノ小足ニ歩ムサマ。又、小股ニ歩ム狀ニ云フ語。[illegible]「[illegible]ヲヒキアゲ、ちょこちょこトアルクナリフリ」(二)動作ノオチツカヌ狀ニ云フ語。

ちょこっ-と (副) スコシバカリ。少少。

チョコレエト (名) 〔英語、Chocolate.〕

[illegible](二)[illegible]

[illegible]

ぢょさい-ぐすり (名) [illegible] (一)[illegible]いぐすりノ訛)[illegible]太閤、征韓ノ時、其侍醫村田定齊ガ、邦人ニ適スルヤウ製劑セシ散藥。村田ノ子孫、京都東洞院ノ靑木屋ト云ヒテ賣ル。又、江戸日本橋稲荷町ノ大丸屋ニテモ賣リキ。此藥ヲ行商スルモノハ、每年五月ヨリ九月マデ、藥箱ヲ天秤[illegible]、[illegible]踏ミ出スハズミニ、箱ノ引出シノ鐶ニ音サセテ、街ヲ賣リアリク。帽子ナク傘ナク、暑ニ中ラズトノ、[illegible]ニ、カタカタト音サセテ賣リ行クナリ。[illegible]

ぢょ-ざう (名) 貯藏 タクハヘ、ヲサムルコト。物ヲ聚メ[illegible]

ぢょ-さう (名) 女裝 男子ガ婦人ノ風ヲスルコト。女ノヨソホヒ。

ちょ-さく (名) 著作 [illegible]ニ同ジ。[illegible]

ちょ-さん-ぼく (名) 樗散木 (莊子、逍遙遊篇「吾有二大樹一、人謂二之樗一、其[illegible]、[illegible]」[illegible]「其無用」同、人間世篇「匠石之レ齊、至二乎曲轅一、見二櫟社樹一」[illegible]、散木也、[illegible]不材之木也」ノ意ニ起ル)役ニ立タヌ木。無能ノモノ[illegible]ヲ[illegible]フ語。[illegible]

内一パイニ擴リ、生育セズ」

ちょ-し（チョ-シ）（名）［儲嗣］ちょくん（儲君）ニ同ジ。唐制、節、皇太子文「建ニ立儲嗣一、崇ニ廣國本一」

ちょ-じ（チョ-ジ）（名）［儲貳］ちょくん（儲君）ニ同ジ。晉書、禮志「太子儲ニ副於君所一、所ト以重ニ儲貳一、四海膽ニ望正嫡一」高九、儲ニ東宮一書「殿下國之儲貳、四海膽心」拾芥抄、中、本、唐名「春宮、注「春闈、青宮、明陽、少陽、儲君、儲副、儲貳、儲事、龍樓、鶴禁、前星、明兩」續紀、廿四、天平寳字六年十月「夫人正三位縣犬養宿禰廣刀自姓、云云、聖武皇帝儲貳之日、納ニ夫人一生ニ安積親王一」

ぢょ-し（ジョ-シ）（名）［女子］（一）ヲンナノコ。女兒。孟子、滕文公、下篇「女子生、而願ニ爲ニ之有一レ家」（二）ヲンナ。婦人。論語、陽貨篇「唯女子與ニ小人一爲レ難レ養也、近レ之則不遜、遠レ之則怨」

ぢょ-し（ジョ-シ）（名）［女史］（一）女ノ書記。周禮、天官篇、冢宰篇「女史掌ニ王后之禮職一」鄭注「女史、女奴曉レ書者」後漢書、皇后紀「女史彤管、記レ功書レ過」（二）女ノ學者ノ稱。詩經、周南、召南譜「謂ニ之周南中之樂一者、云云、女史歌レ之、以節ニ義序一故耳」

ぢょ-じ（ジョ-ジ）（名）［女兒］ヲンナノコ。コムスメ。ヲトメ。女子。少女。漢書、灌夫傳「女嘗兒呫囁耳語」注「女曹兒猶レ言ニ女兒輩一也」古詩、焦仲卿妻「昔作ニ女兒時一、生小出ニ野里一」

ぢょ-じつ（ジョ-ジツ）（名）［除日］〔舊年ヲ除ク意〕十二月ノ晦日（ミソカ）。オホツゴモリ。大晦日。王安石詩「年光除日又元日、心事今吾非ニ故吾一」

ちょ-しゃ（チョ-シャ）（名）［著者］書物ヲ著ハシタルモノ。著述シタル者。カキテ。作者。

ぢょ-しん（ジョ-シン）（名）［女神］メガミ。女ノ神。

ちょ-しゃう（チョ-シヤウ）（名）［儲餉］タクハヘノ糧食。太平記、十一、書寫山行幸事「兵庫ノ福嚴寺トイフ寺ニ、儲餉ノ在所ヲ點ジテ、且ラク御座アリケル處ニ」

ぢょ-しゃう（ジョ-シヤウ）（名）［女牆］ひめがき（姫牆）ニ同ジ。杜甫詩「傷高墜ニ女牆一」釋名「城上垣日ニ睥睨一、亦日ニ女牆一」

✧✧**ぢょ-しゃう**（ジョ-シヤウ）（名）［女將］旅宿、待合、又ハ、飲食店等ノ女主人。ニョシャウ。オカミ。

ちょ-じゅつ（チョ-ジュツ）（名）［著述］アラハシ、ノブルコト。事ヲ記シテ、書物ニ作リ、世ニ出スコト。著作。述作。漢書、司馬遷傳「古人遭ニ阨厄一而有ニ著述一」班固、答賓戲「以ニ著述一爲レ業」

ちょ-しょ（チョ-シヨ）（名）［著書］書物ヲ著述スルコト。書ヲアラハスコト。又、其書物。著作物。史記、司馬相如傳「口吃而善ニ著レ書」同、老子傳「關令尹喜日、子將レ隱矣、彊爲レ我著レ書」

ぢょ-しょく（ジョ-シヨク）（名）［女色］（一）女ノ色香（イロカ）。婦人ノ容色。史記、鄒世家「若ニ君疾一、飲食哀樂女色所レ生也」「女色ニ耽ル」（二）イロゴト。女トノ情事。

ぢょ・す（ジョ・ス）・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動　左變）［除］（一）官ニ任ズ。（任（ニン）ず、ノ條ヲモ見ヨ）史記、武安侯傳「卿除レ吏盡未」（二）ノケサル。ノゾク。左傳、隱公元年「蔓草猶不レ可レ除、況君之寵弟乎」（三）算術ノ語。割算（ワリザン）ヲナス。ワル。

ぢょ-すう（ジョ-スウ）（名）［除數］割算（ワリザン）ニテ、甲數ヲ乙數ニテ割ル時、乙數ノ稱。卽チ法。

ちょ-すい（チョ-スイ）（名）［貯水］水ヲ貯ヘ置クコト。又、貯ヘタル水。「貯水池」

ちょ-すい（チョ-スイ）（名）［瀦水・豬水］堰止（セキト）メテ、水ヲ溜ムルコト。又、ソノ水。タメミズ。タマリミヅ。書經、禹貢篇「大野既豬」注「往前漫溢、今得ニ豬水一爲レ澤也」

ぢょ-せい（ジョ-セイ）（名）［女生］〔男生ニ對ス〕ヲンナノ生徒。女生徒。女學生。

ぢょ-せい（ジョ-セイ）（名）［女性］（一）女ニ生レツキタルコト。（二）女ノ性質、ヲンナノ氣質。（三）ヲンナ。女子。婦人。ニョシャウ。

ぢょ-せい（ジョ-セイ）（名）［女壻］ムスメノムコ。娘ノ夫。ムコ。漢書、淮陽憲王欽傳「張博女壻京房、以レ明ニ易陰陽一得レ幸ニ於上一」

ぢょ-せい（ジョ-セイ）（名）［女靑］ヘクソカヅラ。

ぢょ-せき（ジョ-セキ）（名）［除夕］大晦日（オホツゴモリ）ノ夕。除日ノ夜。除夜。風土記（晉、周處）ニ「至ニ除夕一達レ旦不レ眠、謂ニ之守歲一」陳朝集書「除夕燃ニ燈床下一、謂ニ之照虛耗一」（年中行事故實考、十二）書言字考節用集、二、時候門「除夜（臘月、晦夜也、言、此夜所ニ以除一舊年一也）除夕（同レ上）」歲時記（寛文、廸齋道允）七「晦日、云云、今夜ヲ除夜ト云フ、又、除夕トモ云フ」

ぢょ-せき（ジョ-セキ）（名）［除籍］（一）王朝時代、殿上人ノ昇殿ヲ停止セラルルトキ、日給ノ籍（フダ）ヨリ除名セラルルコト。法性寺攝政記、寛弘三年六月十三日「民部大輔爲任、從ニ去年三月一不ニ參內一、無ニ病、仍被ニ除籍一」（二）戸籍ヨリ其名前ヲ除（ノゾ）クコト。

ちょ-せん-じゃう（チョ-セン・ジヤウ）（名）［楮先生］又、チョセンセイ。紙ノ一稱。韓愈、毛穎傳「穎與ニ絳人陳玄、弘農陶泓、及會稽楮先生一友善」易林節用集（慶長）器財門「楮先生（チヨセンジヤウ）、楮國公（二共紙名）」

ぢょ-ぞく（ジョ-ゾク）（名）［除族］罪ニ因リテ、華族、士族タル身分ヲ除（ノゾ）カルルコト。

ぢょ-たい（ジョ-タイ）（名）［除隊］現役兵ガ、服役ヲ免除セラルルコト。「除隊兵」

ぢょ-ち（ジョ-チ）（名）［除地］江戸時代、除（ノゾ）キテ年貢ヲ取ラヌ地。ノゾキ地。地方凡例錄、一「除地ト申スハ、御朱印地ニ續キ重キ事而、寺社境內竝ビニ堺田畑屋敷等、無年貢之御證文有レ之類、又ハ前前檢地帳外書ニ、除地ト記シ有レ之分ハ、高有無共除地ニ而、其ノ外之無年貢地ハ見捨地ト唱フ」

ちょ-ちく（チョ-チク）（名）［貯蓄］タクハフルコト。金錢、穀物ナドヲ溜ムルコト。

ぢょ-ぢゃうふ（ジョ-ジヤウフ）（名）［女丈夫］ぢょけつ（女傑）ニ同ジ。

ぢょ-ちう（ジョ-チユウ）（名）［女中］（一）婦人ノ泛稱。稍、敬ヒテ云フ。織留（元祿、西鶴）二「一門ノ女中、花ヲ飾ル」（二）仕官奉公スル女ノ稱。花營三代記、應永廿八年六月七日「自ニ女中一五重色々被レ下レ之」園太曆（中園公賢）文和四年十一月十一日「吉田神主兼豐、進ニ狀於女中一」「奥女中」「御殿女中」（三）下女。ハシタメ。下婢。續猿簑集（元祿、芭蕉）春「七ツヨリ、花見ニオキル、女中哉」

ぢょ-ちう-ぎく（ジョ-チユウ・ギク）（名）［除蟲菊］菊ノ類、舶來種ニテ、莖ノ高サ二三尺、葉ニ缺刻甚シ。花ハ白ク、中央ニ黃色ノ筒狀花冠アリ、乾シテ粉トシテ蒔ケバ、蚤（ノミ）、其他ノ蟲ヲ驅除スル效アリ。又、赤花種モアリ。ムシヨケギク。

ぢょちう-ことば（ジョチユウ-コトバ）（名）［女中詞］にようばう（女房）詞ニ同ジ。

ちょっ-かい（チヨツ-カイ）（名）〔一能搔（イチコツカイ）ノ意カ〕カカヅラフコト。猫ノ前ノ片足ヲアゲテ、物ヲ搔キ寄スルコト、其形、杓子ニ似タレバ、猫も杓子もト云フ諺アリ。御節介（オセツカイ）。洛陽集（延寶）二「ちょっかいニ、立ツ名ゾ惜シキ、猫ノ夢」

チョッキ（名）〔英語、Jacket. ノ訛ト云フ〕洋服ノ上着（ウハギ）ノ下ニ着ル短キモノ。腹、背ヲ被ヒテ、袖無シ。

ちょっきり（副）〔きっちりノ倒語カ、きっかりノかっきりノ倒語ト同趣〕、（一）鋏（ハサミ）ニ

テ剪ル狀ニ云フ語。(二)モノノ手輕キ狀ニ云フ語。(三)丁度。カッキリ。

ちょっくら (副) チョット。チョイト。

✣**ちょっくり** (副) 次次條ノ語ニ同ジ。

ぢょっちゃん (名) [孃樣] ムスメゴヲ敬フ語。ヂャウチャン。オヂャウサン。

ちょっと (副) [鳥渡][一寸] (一寸ハ、一時ノ省字、鳥渡ハ當字) 少シ。暫シ。チット。チョイト。チョックラ。チョックリ。[些][霎時] 狂言記、箏瀧拳「ちょっと歸ッテ參ラウ」

ちょっぴり (副) 次次條ノ語ニ同ジ。

ちょっぺい-づきん (名) [頭盔頭巾] (ちょっぺいハ、とっぱいノ訛) 胄ノ頭盔ノ如キ頭巾、武藏國ノ秩父地方ニテ、からむしづきんヲ云フ。 嬉遊笑覽、二、上、服飾「ヲクソ頭巾ハ苧屑ニテ製リ、云云、江戸ニテ、枲ヅキン、又、ガンタウ頭巾ト云フ、云云、武州秩父ニテ、ちょっぺいト云フトアリ、越後ニテハ菅ヲ以テ作ル、云云、是ヲ、いっぱいト云フ、ちょっぺいモ、ぱいモ、共ニ胄ノ頭盔ニナラヘテ名ケタルヲ、訛レルナリ」

ちょっぽり (副) 小サキ、又ハ、少キ狀ニ云フ語。チョッピリ。 狂言記、鱸庖丁「ちょっぽりト、口デモテナイテ長サウ」

ぢょてい (名) [女弟] (一)いもうと(妹)ニ同ジ。 史記、李延年傳「延年女弟善舞、云云、其女弟亦幸」 (二)女ノ弟子。女弟子。

ぢょてい (名) [女帝] にょてい(女帝)ニ同ジ。

ぢょてい (名) [女貞] ネズミモチ。

ちょと (副) [一寸] ちょっと(一寸)ニ同ジ。

ちょとつ (名) [豬突][猪突] 猪ノ如ク、前後ヲ見ズ、一方ノミニ突進スルコト。又、ムカフミズニ事ヲナスコト。ムテッペウ。「豬突猛進」

ぢょなん (名) [女難] 男子ガ婦女ニ關係シ、其事ヨリ被ムル厄難。女禍 七偏人(安政、金鵞)中、二「女難ハ[illegible]、盗難、水難」

ちょにく (名) [豬肉] ヰノシシノニク。 歸田錄(宋、歐陽修)「[illegible]六、[illegible]レ人、尤嗜ニ肥豬肉、每食ニ數斤」

ぢょにち (名) [除日] 江戸時代、祝日、又ハ、將軍ノ忌日ナドニテ、死刑ヲ行ハザル日ノ稱。 [illegible]令、公事方「御仕置除日之儀、文化元子年相達シ置候」

ちょび (名) 小ナルモノヲ云フ語。チビ。

ちょびすけ (名) [擬人語] モノノ小ナルモノノ稱。又、矮小ナル人ヲ嘲リテ云フ語。チビ、チビスケ。チビッチョ。

ちょびっと (副) 次條ノ語ノ急呼。

ちょびと (副) ホンノ少シ。ワヅカ。チロット。チョビット。チョボット。 東海道中膝栗毛(文化、十返舍一九)四編、下「今ノヤツヲ、風呂場デちょびと契ッテ置キハ、早カラウ」

ぢょふく (名) [除服] (一)喪服ヲ脱グコト。喪ニ籠レル日ヨリ起ツコト。イミアケ。キアケ。キメイ。 水左記(源俊房)承曆五年八月十八日「此日、予出ニ河原ニ(近衛ト二條、東)[illegible]服業君、[illegible]除服者」 (二)服忌ノ日數中ニ、官ヨリ、除服シテ勤仕スベシト命ゼラルルヲ、除服出仕ト云フ。又、忌アケテ出仕スルニモ云フ。 [illegible]起復 宜胤卿記、文應[illegible]年四月十九日「可レ令[illegible]除服出仕[illegible]給之旨、依ニ天氣ニ執啓如レ件」

ちょへい (名) [徵兵] [illegible]令札[illegible]

[illegible]ハ利稅之第一ニテ、實ハ公儀ニテ御施行相成候樣仕度候得共、一體猪帑ハ百萬兩ナリ、[illegible]之實貨備ヘ置、猪帑ニ代ヘ候事故、引替之節、何時成共差支無之[illegible]

✣**ちょぼ** (名) [點] (一)歌舞伎ニ演ズル淨瑠璃ニ云フ語。[illegible]ニ、傍ニ居テ、其脚本ノ中ニ、文ヲ、淨瑠璃ニテ語ルモノ、能ノ地謡ニ[illegible]。芝居ノ義太夫語ハ、丸本ヲ全部語ラズ、役者ノせりふニ、文中ニテ語ルノトヘハ、自分ノ語リノ所ヲ、本ノ中ニ點ヲツケ、ソコヲ語リシニ云フ。 書初機嫌(天保、西澤一鳳)下、小幕間書樓、歌舞伎ノ來客ニ、ちょぼノ文句マデ聞キトル人ハナケレド[illegible] (二)[illegible]蒲ノ[illegible]ノ目ノ打方ニ似ル故ニ云フ)

ちょぼ (名) 江戸ノ佃島ニテ、白魚ノ廿一疋ノ稱。コレヲ一堆ニシテ、一ちょぼ、二ちょぼト云フ。([illegible]日、廿一[illegible]出ヅルヲ勝トス、コレヨリ出デシカ) 安永の川柳「佃島、女房ハ二十、筋カゾヘ」女ハ名クシテ、一筋少クカゾフルニト云フナリ、サルニ、後ニハ、實地ニ二十筋トナレリ)

チョボ (名) [樗蒲] (一)[illegible] (二)カリウチ。かり(樗蒲子)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible] 嬉遊笑覽、同、雜伎「樗蒲ト云フモノハ和名抄ニモ出、令ナドニモアレド、ココニハ[illegible]ハレタルモノトモ見エズ、サレド、[illegible]ヲ假名ニ用ヒタル事見ユレバ、マレマレ此戲シタル事ナキニハ[illegible]代ニハ滅ビテ、其制ヲ知ルモノナシ」 (二)次條ノ語ノ略。个ハ一個ノ博奕ノ名。

✣**チョボ-いち** (名) [樗蒲一] [illegible]ノ轉) 賽ニテ行フ博奕ノ名。 [illegible]「樗蒲乙ハ、一個ニシキル、ギリギリス」

チョボ-うち (名) [樗蒲打] かりうち(樗蒲子)ノ條ヲ見ヨ。

ちょぼ-がたり (名) [點語] 芝居ニテ、淨瑠璃[illegible]ヲ語ルコト。又、ソノ語ルモノ。略シテ、ちょぼ。[illegible]ニ赤紙ト青紙トニテ、本人、[illegible]ヲ付クル故ノ名トゾ。

ちょぼく (名) [樗木] [illegible] 無用ナルモノノ譬ニ云フ語。ちょさんぼく(樗散木)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

✣**ちょぼくれ** (名) [illegible]ノ物語ヲ、節ヅッケテ、快活ニ速ニ語ル[illegible]ヲ云フモノ。チョンガレ。あほだらきょう(阿房陀羅經)ニ類ス。[illegible]はくれト云フモノ、[illegible]ノミ多シ、[illegible]

✣**ちょぼちょぼ** (副) [illegible] (一)[illegible]ツ狀ニ云フ語。(二)[illegible]トコロドコロニ[illegible]ト、穴アル物ノ、ウスクヒノ、ハスノ[illegible] (三)小サキ、又ハ、少キ狀ニ云フ。

ちょぼっと (副) ちょびと(ニ同ジ。

ぢょまく (名) [illegible] [illegible]ハンタル人ノ[illegible]、又ハ、[illegible]

ドヲ建設シ、其落成後、四方ニ幕ヲ披ヒテ、吉日ヲ選ビ、其幕ヲ撤去スル儀式

ちよみぐさ (名) 千代見草 (一)菊ノ異名。一ハ、ヒグサ。 (二)松ノ異名。チヨグサ。 葉傳抄ニ後撰「神山ノ、フモトニ生フル、ちよ見草、植ヱ置キテコソ、御調モノナレ」

ちよん (副) (一)事ノ終ルヲ云フ語 (芝居ノ幕切ノ相圖ニ、拍子木ヲちよんト打ツヨリ起リシカ) (二)ワヅカ。スコシ。

チヨンガア (名) 童蒙 (朝鮮語) おんがみ(大人)ノ條ヲ見ヨ。

ちよんがけ (名) 手斧掛 相撲ノ手。ておなかけノ訛。其條ヲ見ヨ。

ちよんがれ (名) 又、ちよぼくれ。俗謡、うかれぶし(浮節)、又ハ、なにはぶし(難波節)ニ同ジ。

ちよんきな (名) 狐拳ヲ打ツトキニ唱フル語。即チ、ちよんきな、ちよんきな、ちよんちよん、きなきな、ちよんがなのはで、ちよちよんがほいト云フ。

ちよんぎ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) チョットキル。手ガルニ切ル。

ちよんちよん (副) [ちよんヲ重ネタル語] (一)ちよんニ同ジ。 (二)拍子木ヲ續ケザマニ打ツ音ニ云フ語。

ちよんのま (副) 一寸ノ間。ワヅカノアヒダ。シバシ。刹那。短時間 假名文章娘節用(天保、曲山人)二、下「煙管トテ云フモノハヨイモノデ、ちよんの間ノ樂シミガアリマス」

ちよんびり (副) 次條ノ語ニ同ジ。

✣✣**ちよんぼり** (副) 少シバカリ。ヒトツマミホド。チヨンビリ。ワヅカ。 撰補 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「火イレ、云云、中ニちよんぼりト火ノイケテアル」

ちよんまげ (名) 丁髷 [ちよんハ、ちやうノ音便ノ誤] 男子ノ結ブ小サキマゲ。又、其マゲヲ結ヒタル人。

ちよめい (名) 著名 世ニ名ノアラハルコト。名高キコト。有名。高名 說苑(漢、劉向)「立レ身著レ名、無レ顧ニ利害ニ而後能成レ之」

ちよめい (名) 著明 イチジルシク、明ラカナルコト。イチジルシク、著ハレタルコト。 史記、司馬相如傳「憲度著明、易レ則也」

ぢよめい (名) 除名 (一)其名前ヲ帳面ナドヨリ除キ去ルコト。(官吏ナドノ) 通鑑、梁武帝紀「魏高肇、奏除ニ李平名ニ」胡注「除、名、不レ得レ通ニ籍禁門ニ」 賦役令「凡除名未レ叙人、免レ役輸レ庸」 (二)仲間ヨリ除キ去ルコト。「除名處分」

ぢよもく (名) 除目 「品字箋「拜レ官曰レ除、除書曰ニ除目ニ」 ぢもく(除目)ノ條ヲ見ヨ。 姚合詩「一日看ニ除目ニ、終年損ニ道心ニ」 五代史、劉延朗傳「唐廢帝欲ト罷ニ晉高祖管ニ、徙鎭ニ鄆州ニ、乃令ニ學士文遇ニ手書除目ニ」

ぢよや (名) 除夜 [除ハ易ノ義] (一)大晦日ノ夜。 增續山井、下、十二月「除夜」注「歳ノクレ、歳末、歳尾、暮年、大晦日、除歳、ユク年、ナガルル年、年ミツ、晩年」 俳諧歳時記、十二月「除夜、十二月晦日、コレヲ除夜ト云フ、言ココロハ、此夜舊年ヲ除ク也、本邦ノ俗、コノ日ツグミヲ燒テ食フ、是鶫身ノ訓ニヨリテ賀スル也」 松屋筆記(高田與清)二「除夜ノ鐘ハ、元旦ノ鐘、元旦ノ寅ノ一點ニ撞キ始メ、百八響ツク、終ハレバ、昇堂ノ太鼓鳴リテ、讀經始マル、送歳ナラズ、迎歳ナリ」 杜審言詩「季冬除夜接ニ新年ニ、帝子王孫捧ニ御筵ニ」 (二)支那ニテハ、冬至ノ前夜ヲ云フ。 老學庵筆記「是夕冬至除夜、乃知唐人、冬至前一日、亦謂ニ之除夜ニ」

ぢよら (名) 女蘿 サルヲガセ。又、ヒカゲノカヅラ。 詩經、小雅、桑扈之什、頍弁篇「蔦與ニ女蘿ニ、施ニ于松柏ニ、云云、[illegible]、女蘿、施ニ于松上ニ」

ぢよらう (名) 女郎 [女童ヲめろト約シテ、女郎ノ字ヲ當テテ、音讀セル語ナラムトモ云フ] (一)婦人ノ稱。「京女郎」 (二)遊女ノ稱。(東國)賣色婦女。上等ナルヲ傾城、大夫、おいらんナド云ヒ、下等ナルヲ辻君、よたかナド云フ。いうぢよ(遊女)ノ條、參見セヨ。 我衣(文化、山尾庵)「賣女ハ女郎ト書クベシ」 (三)支那ニテハ、男子ノ如キ才能アル女ノ稱。 白居易詩「色借ニ天下艷ニ、人是女中郎」 古木蘭詩「不レ知木蘭是女郎」

ぢよらうぐも (名) 女郎蜘蛛 蜘蛛ノ一種。身瘦セテ、長サ一寸許、黄赤斑ニシテ、八脚ニ黄斑アリ。樹ノ間ニ巣ヲ張リ、晝夜、蟲ヲ捕リ食フ。絲、黄ニシテ強ク、粘リアリ。ヂョログモ。マダラグモ。花蜘蛛 絡新婦

ぢよらうしゆう (名) 女郎衆 訛シテ、ヂョロシュ。ぢよろしゆ(女郎衆)ノ條ノ(一)ニ同ジ。 好色一代女(貞享、西鶴)四「如何ナル男ナリトモ、來ルヲ幸ヒト思ヒシニ、無用ノ女郎衆バカリ訪ネ來テ」 長唄、元祿花見踊「鹿子ノ開嶋女郎衆」

ぢよりう (名) 女流 女性ノ人。ヲンナ。又、女ノナカマ。女ノ一派。「女流小說家」

ちよりふ (名) 佇立 久シク、立チテ居ルコト。タタズムコト。 詩經、邶風、燕燕篇「瞻望弗レ及、佇立以泣」

ちよる (句) ト云ウテ居ル。又、シテ居ル。(九州地方ノ語) 「食ツちよる」

ぢよれい (名) 女禮 女子ノ、タチヰフルマヒノ作法。女ノ心得ベキ禮儀作法。

ちよろ (名) [猪牙舟ノ條ヲ見ヨ] 傳馬舟ノ甚ダ小サキモノ。二挺立ニテ、極メテ速シ、海ニ用ヰル。こばや(小早)ノ條ヲ見ヨ。

ちよろ (副) モノヲ手早クスル狀ニ云フ語。 新永代藏(正德、北條團水)二「[illegible]ノ帶ヲ、イツノマニヤラ、ちよろトハヅシテ」

ぢよろ (名) 女郎 ぢよらう(女郎)ノ訛。

ぢよろぐも (名) 女郎蜘蛛 ぢよらうぐも(女郎蜘蛛)ニ同ジ

ちよろぎ (名) 草石蠶 ちようろぎ(草石蠶)ニ同ジ。

チヨロケン (名) 著羅絹 [刹兀兒 (Chaul.印度ノ國名)絹ノ訛ニテモアルカ] (一)絹布ノ類。初、和蘭、廣東ヨリ來レリ、改機ニ似テ模文アリ。鎖服 華東通商考「廣東省、產物、鎖服」 唐船噺今國性爺(享保、近松作)上「チヨロチヨロちよろけん」 好色一代男(天和、西鶴)七「一日ニ、日過ギテ、著羅絹一巻有リ合ヒテ送ルノヨシ、其ノ中ニ一歩五十」 和漢三才圖會、廿七、絹布類「鎖服、知與呂介牟、出ニ於阿蘭陀及廣東ニ、似ニ加伊岐ニ而有ニ楷文ニ」 (二)德川時代ニ、大形ノ張拔籠ニ人ノ顏ヲ描キタルヲ被リ、黑色ノ大笠ヲ頂キ、兩手ニ割竹ヲ持チ、數人コレニ附添ヒ、太鼓ヲ鳴ラシ、調子ヲ取リテ囃シ作ラ、ちよろガ參ジマシタト、往來ヲ歩キシ物貰ノ稱。

ちよろ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) (一)小サキ物ノ疾キ狀ニ云フ語。不角の句「ちよろけれド、覗キノ地獄、マノアタリ(ノ句ニ)、硝子ノ中、金魚肺肝」 (二)テヌルシ。ノロシ。愚鈍ナル。 關八州繫馬(享保、近松作)二「ネツソリノ牛遣人、ちよろいエミノアメダ牛」

ぢょろ-しゅ（ジョロ-シュ）（名）〔女郎衆〕「ぢょらうしゅう」ノ訛」（一）女ノ人人ノ敬稱。武邊咄聞書、延寶、國枝淸軒）四「秀吉公、女郎衆四五人御供ニテ、御數寄屋ヘ入リタマヒ」竹齋物語（寬永、烏丸光廣）舟歌「御若イ衆ノ御女郎達ノナリフリハ、肩ニ鹿ノ子ノダラダラ節」（二）遊女ノ輩。女郎ダチ。

ちょろちょろ（名）（一）少シ水ノ流ルルコト。（二）早ク進ムコト。（三）スズメアリキ。チョコチョコアルキ（小兒ナド）（四）盪ク弛キコト。トロトロ。寶藏（寬文）三「古キ女ノ眞ノナゾナゾニモ、四方白壁、中ちょろちょろ、（行燈）ナトコソ云ヒツレ」

ちょろちょろ（副）前條ノ語意ニ同ジ。

ちょろちょろあるき（名）スズメアリキ。コマタアルキ。（小兒ナド）

ちょろづ（チ-ヨロズ）（名）〔千萬〕數ノ、カギリナク多キコト。センマン。萬葉集、二、世長歌「久カタノ、天ノ河原ニ、八百萬、千萬神ノ、カムツドヒ、ツドヒイマシテ、神ハカリ、ハカリシ時ニ」同、十三、長歌「アモリマシケム、五百萬、千萬神ノ神代ヨリ」

ちょろっか（副）輕率ナル狀ニ云フ語。

ちょろっかもの（名）輕率ニ事ヲ行フ人。假名文章娘節用（天保、曲山人）初編、上「ナンボオイラノヤウナ、ちょろっかものデモ、武士ノ種ダカラ」

ちょろまか-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）（一）ゴマカシ、カスメル。人目ヲカスメテ、取ル。（二）己レノ責任ニナラヌヤウ、當座ノガレヲ言フ。寝花語（貞享）「ちょろまかすト云フ流行詞、云云、罪ニナラサル當座ノ償フ、マギラカストイヘル替詞ト、聞エタリ」

ちょろり（副）（一）水ナドノ少シヅツ流レ出ヅル狀ヲ云フ語。チロリチロリ。（二）ちょろりちょろりニ同ジ。[illegible]「葉ノ八ツ[illegible]ヲ、アチラヘちょろり」（三）僅少ノ間ニ。好色三代男（貞享、西鶴）一「淋キ云ヒマハリシ[illegible]

モ、ちょろり暮レテ、ナキ嘗祭リ、子[illegible]」

ちょわう（チョ-ワウ）（名）〔儲王〕ヨツギトナルベキ親王。父ハ王。ヨツギノキミ。マウケノキミ。〔儲君〕太平記、一、儲王御事「儲君、儲王ノ選ビ、竹苑、椒庭ノ備ヘ」

ちょゐ（チョ-イ）（名）〔儲位〕（一）皇太子ノ御位。東宮ノ御身分。儲君ノ地位。唐書、太宗諸子、鬱林上皆傳「皆上仁厚、守文之良主、且皇業不定則敗、況儲位乎」（二）世子ノ位。諸侯ノ嫡子ノ身分。

ちょゐ（チョ-イ）（名）〔儲闈〕〔闈ハ宮中ノ小門。轉ジテ、東宮〕ちょくん（儲君）ノ條ノ（一）ニ同ジ。沈約、奏彈王源「父[illegible]升[illegible]儲闈、亦[illegible]」[illegible]清[illegible]」[illegible]九日八日「逆臣謀亂、[illegible]究由緒、事關儲副」拾芥抄、中、本、唐名、春宮「儲君、儲闈、儲式」

ぢょゐ（ジョ-イ）（名）〔女萎〕ぼたんづる（牡丹蔓）ニ同ジ

ちらい（名）〔地籟〕天籟ニ對ス。地上ニ發スル種種ノ音響。莊子、齊物論「[illegible]人籟、[illegible]地籟、[illegible]天籟、[illegible]」

ちらい（名）〔地雷〕地上ノ雷鳴ノ意ニテ、妖誘ノ響ヲ喩フル語。[illegible]「[illegible]天[illegible]、海後出[illegible]雷」

ぢらい（名）〔地籟〕「集韻「籟、田閒也」アマレル土地。[illegible]林[illegible]集（[illegible]）[illegible]」（[illegible]）」

ぢらい（名）〔地雷〕次條ノ語ノ略。兵略[illegible]「[illegible]、穴[illegible]、[illegible]中[illegible]、[illegible]」以[illegible]」

ぢらいくゎ（ジライ-カ）（名）〔地雷火〕地中ヲ掘リ、其中ニ火藥ヲ埋メ、[illegible]、敵來リ[illegible]時ニ、火ヲ發スル如ク仕掛クルモノ

ちらか-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔散〕チラカルヤウニナス。バラバラニナス。ヂラシミダス。[illegible]、太平記、十[illegible]、[illegible]「東山ノ勢共、上京ヘ打ナ入ッテ兵粮ヲ取ル由聞エケレバ、[illegible]散らかさントテ」

ちらか-る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔散〕散リ亂ル。チラバル。チリボフ。

ちらし（名）〔散〕（一）チラスコト。チラシタルモノ。（二）弘ク配ル引札。

ちらし（名）〔散〕[illegible]湯中[illegible]散ス[illegible]、[illegible]ノ湯[illegible]タルモノ[illegible]、京阪ヘ[illegible]遊女[illegible]、客[illegible]手ニスルヲ、御[illegible]よくたてるト云ヒ、其遊女ヲ、利休ト云ヒキ、[illegible]ニ反シテ、客ナキヲ御[illegible]くト云フ、[illegible]、[illegible]方[illegible]ルナリ。此ちらしヲ散茶トモ云ヒテ、江戸ノ湯女ノ客ニ供スルニ云ヒ、終ニ湯女[illegible]トセリ。湯女、[illegible]ニ入リテ、一種ノ遊女ノ稱トナ[illegible]んちゃ（散茶）ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]（天和、西鶴）一「風呂屋者、ちらしヲ飲マセ、浴衣ヲ取りサバキ」同、五「煙草盆片手ニ、ちらしヲ[illegible]テ」好色二代男（貞享、西鶴）四「役者マジリノ人ゴミ、サット揚銭ニちらしナド飲ミ、浴衣タタム[illegible]」

ちらしがき（名）〔散書〕色紙、短册ニ、歌ヲ散ラシテ書クヨリ、文ニモ書クコトナリ、三遍返、五遍返ナドアレドモ、定法トテハナキコトナリ。文字ノ太キト細ソキトニテ、見ワカルヤウニ書クコト。チラシブミ。毛吹草（正保、松江重頼）「夏ノ手モ、いろはノ後ヤ、ちらしがき」

ちらしがみ（名）〔散髮〕[illegible]二同ジ。

ちらしぐすり（名）〔散藥〕[illegible]

テ、其腫、疼痛ナドヲ散ラス藥。

ちらしごもく（名）〔散五目〕ごもくずし（五目鮨）ノ一種。其條ヲ見ヨ。

ちらしずし（名）〔散鮨〕すし（鮨）ノ條ノ[illegible]ヲ見ヨ。

ちらしだいこ（名）〔散太鼓〕芝居ナドニテ、其日ノ演藝ノ終リシ時、觀客ヲ歸シ散ラス爲ニ打ツ太鼓。ハテダイコ。[illegible]中[illegible]散らし太鼓ノドドドロ中、[illegible]日ハトウヤウ[illegible]」

ちらしぶみ（名）〔散文〕ちらしがき（散書）ニ同ジ。[illegible]、花[illegible]、[illegible]ナドカ、ちらしぶみ」

ちらしもの（名）〔散物〕金屬、又ハ、寶物ニ、金ヲ沙子ノ如ク蒔キツケタルモノ。[illegible]散[illegible]物ハ、クロメニ金ノ、スナゴノ如ク[illegible]

ちらしもやう（チラシ-モヨウ）（名）〔散模樣〕[illegible]形ヲ亂雜ニ染メ出シタルモノ。

ちらしよね（名）〔散米〕うちまき（打撒）ノ條ノ（二）ニ同ジ。

ちら-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔散〕（一）散[illegible]

[illegible]

ナラネド」榮花物語、四、見はてぬ夢「ハヅカシウオボサレテ、此事ちらさジ、後代ノ恥ナリト、忍バセ給ヒケレド」(三)ヤリチラス。シャベリチラス。(四)腫物ノ膿ヲナクス。

ちら-ちら (副) (一)雪、落花、ナドノ飛ビ散ル狀ニ云フ語 紛紛 霏霏 天神記(正德、近松作)三「梅ガちらちら散ル風情、ドウモイハレヌ最ナレド、オ目ガ疎ウテ、花モ柳モ、ヘンテツモナイ」(二)燈火ノ光ナドノ、閃メク狀ニ云フ語。チロチロ。閃閃 天神記(正德、近松作)一「渦ノ座所道行「蒲ニ傳フ、蜑士ノ漁リ火、ちらちらト、見カ覺カ、影ウスク」(三)目前ニ、何モノカ隱見スルヤウニ、感ゼラルル狀ニ云フ語 狂言記、佛師「兎角今日ハ何トヤラ、物ガちらちらト致スヤウニ御座ル」

ちら-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 閃 チラチラスル。ヒラメク。チロメク。心中天網島(享保、近松作)下「灣リノ透間サシ覗ケバ、内ニちらつく人影ハ、小春ジャナイカ」

ちら-と (副) ちらりと二同ジ。好色三代男(貞享、西鶴)四「御姿ヲちらと見染メシヨリ」

ちら-ば・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 散亂 散リ亂ル。散リ散リニナル。チリボフ。

ちら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 散 〔散る、ノ延〕 緩ク散ル。萬葉集、十七長歌「吉野ノ園ノ、花散相、秋津ノ野邊ニ」 同、十四「花知良布、此向峯ノ、ヲナノヲノ、ヒジニツクマデ、君ガヨモガモ」 同、十五「モミヂ葉ノ、知良布山邊ユ、漕グ舟ノ、爾保比ニ愛デテ、出テ來ニケリ」 同、同、長歌「秋萩ノ、知良敝流野邊ノ、初尾花、カリホニフキテ」

ちら-ほら (副) 疎ニ。彼處此處ニ、少シヅツ、モノノ有ル狀ヲ云フ語。チラリホラリ。チョイチョイ。往往。間間。稀疎 點點 浮世風呂(文化、三馬)三編、下「女中ガ眞似テスル物ダカラ、見ヤウ見マネニ、江戸ノ女マデガ、此ノ頃ハちらほら眞似ヤス」

ちらん (名) 治亂 世ノ治マルト、亂ルルト。書經、說命、中「惟治亂在二庶官一、官不レ及二私昵一」 …興亡治亂之迹、爲二人君一者、可二以鑑一矣」 史記、屈原傳「博聞彊志、明二於治亂一」

ちら-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) チラチラス。チラツク。狂言記、鶴比奈「某ガ目ノ前ヲ、チラリチラリト、ちらめくハ何者ぢゃ」

ちらり (副) 影、光ナドノ、瞬時ニ見ユル狀ニ云フ語 ちらと。ちょと。瞥見 本朝當世風俗(貞享、西鶴)六「女駕籠ノ窓ヨリ、鹿ノ子ノ下裳ノちらりト透キウツリテ」「ちらりと認ム」「ちらりと見ユ」「ちらりト聞ク」

ちらり-ちらり (副) 前條ノ語ノ重ナリタルモノ。狂言記、長光「ウス雪ガ、ちらりちらりちらりト、フリカカッタガ如クデ御座リマスル」

ちらり-と (副) 視線ノ一寸向フ狀ニ云フ語。ちらと。ちろり。瞥見

ちらり-ほらり (副) ちらほらニ同ジ。鑓權三重帷子(享保、近松作)上「ちらりほらりト馬ノ先、ヨケル振リシテ邪魔ヲスル」

ちりゃ-どってくりょ (句) 小兒ノ戲。ことろことろノ條ヲ見ヨ。

ちり (名) 塵 〔散ノ義〕(一)土沙ナドノ飛ビ散レルモノ。ホコリ。倭名抄、一八塵土類「塵埃、揚レ土也、知利」 枕草子、八、七十四段「三ツツバカリナル兒ノ、イソギテハヒクル道ニ、イトチヒサキちりナドノアリケルヲ、目ザトニ見ツケテ」 伊勢集「ナゴリナク、ミガカレニケル、白玉ハ、ハラフ袖ニモ、ちりダニモヰズ」(二)芥。ゴミ。(三)〔人生ノウルサキヲ、塵ニ譬ヘテ云フ語〕ケガラハシキコノ世。枕草紙、九、百十三段「硯ワヅカニ墨ノヰタル、ちりノ此ノ世ニハ、ハラヒカタゲナルニ、水ウチ流シテ、アヲジノカメノ口オチテ」 新千載集、雜、下「足引ノ、山ヲウキ世ノ、隔テニテ、ちりノ境ニ、アトハタエニキ」(四)佛家ニテ、世俗ノ人事ヲ厭ヒテ云フ語。濁世、六塵、ナドト云ヒテ、染ミ汚ルルニ譬ヘテ云フ。續古今集、十六、哀傷「行キトマル、宿ト定ムル、方モナシ、風ノ上ナル、塵ノ身ナレバ」 新續古今集、雜、中「此ノママニ、スマバスムベキ、山水ヨ、ウキ世ノ塵ニ、ニゴラズモカナ」 拾玉集、三「數ナラヌ、ミクヅモステズ、テラスコソ、塵ニ交ル、光リナリケレ」 新古今集、八、哀傷「秋風ノ、露ノ宿リニ、君ヲオキテ、塵ヲ出デヌル、コトゾ悲シキ」(五)〔小サキ由ヲ、甚シク云フ語〕ワヅカナルコト。ツユホド。リヅカ。源、五十一、蜻蛉「ちりバカリ、隔テナクテ、ナラヒタルニ」 續世繼、波上、「大ナル琵琶ノちりバカリニゾ見エ侍リケル」 宇治拾遺、十五、第四條「矢ヲ拔キテ見ルニ、ウルハシク、戰ナドスル時ノヤウニモアラズ、塵バカリノ物ナリ」「塵ホドモ無シ」(六)ネウチナキモノ。取ルニ足ラヌモノ。

塵積りて山と成るトハ、ワヅカナルモノモ、積リ積レバ、高大ナルモノトナル意。古今集、序「高キ山モ、麓ノちりひぢヨリ成リ」 說苑(漢、劉向)「土積成レ山、則豫樟生」 塵をむすぶトハ、心バカリ、ワヅカナルモノヲ贈ル意。こころざしは、松の葉に包めト云フト同趣。落窪物語、三「北ノ方ヨリ女君ヘマヰラスル文「コレハ、女ノカクマメナル物ヲ引キ出デケルト、ちりをむすぶト聞エテ侍ルハ」

ちり (名) 散 チルコト。散リ亂ルルコト。萬葉集、二、長歌「渡ノ山ノ、黃葉ノ、散之亂ニ、妹ガ袖、サヤニモ見エズ」 拾遺愚草、上「トマラヌハ、櫻バカリヲ、色ニイデテ、ちりノ迷ヒニ、クル春カナ」 金槐集、上「咲キシヨリ、カネテゾヲシキ、梅ノ花、ちりノ別レハ、ワガ身ト思ヘバ」

ちり (名) 料理ノ名。魚肉ナドヲ茹デテ、酢、又ハ、醬油ナドヲツケテ食フモノ。牡蠣ノちりナド云フハ、洗ヒテ、少シノ酒ヲ入レタル水ニテ、ザット煮タルヲ、藥味醬油ツケテ食フモノ。又、饂飩ヲ十數時間、水ニ漬ケテ切リ、昆布ノ煮出汁ニテ煮テ、柚子醬油ニ浸シテ食フモアリ。其他、種種アリ。

ち-り (名) 地理 (一)地球ノ形狀、海、陸、山、川、地質、人種、動植鑛物、國、都、人口、物產等ノ形勢狀態。(二)土地ノ狀態、山川、海陸ノスヂミチ。易經、繫辭、上傳「仰以觀二於天文一、俯以察二於地理一」

ち-り (名) 地利 (一)土地ノ利便。地勢ノ便利。(戰爭ナドニ) 孟子、公孫丑、下篇「天時不レ如二地利一、地利不レ如二人和一」(二)土地ヨリ生ズル利益。卽チ耕作、牧畜、山林、鑛物等ノ生産。書經、周官篇「司空掌二邦土一、居二四民一、時二地利一」「地利ヲ盡クス」(三)地代。地子。吾妻鏡、六、文治二年九月五日「有レ限地頭、地利之外、不レ可二相交一、乃貢以下、不レ可レ存二懈緩一」

ちり-あか・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 散別 チリヂリニナル。ハナレバナレニナル。チリヂリニ別レ去ル。チリワカル。源、十五、蓬生「サマザマニキホヒちりあかれシ、ウヘシモノ人人、ワレモワレモト爭ヒ」

ちり-あくた (名) 塵芥 (一)チリト、アクタト。ゴミクタ。チリヒヂ。(二)トリアグルニ、足ラヌモノ。ヤクザモノ。

ちり-がく (名) 地理學 地理ノ事ヲ研究スル學問。自然地理學(地文學)、人文地理學、天文地理學等ニ分ル。地學。

ちり-か・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 散交 カナタコナタヘ飛ビチガフ。所所ニ、チラバル。古今集、二、春、下「春ノ野ニ、若菜ツマント、來シモノヲ、ちりかふ花ニ、道ハマドヒヌ」 長秋詠草、中「足ガラノ、山ノ手向ニ、イノレドモ、ヌサトちりかふ、花櫻カナ」 風雅集、十五、雜、上「カミナヅキ、時雨ニマジル、紅葉バハ、ちりかふホドモ、色ヤソフラン」 古今集、七、賀「櫻花、ちりかひクモレ、老ラクノ、來ムトイフナル、道マガフガニ」

〔ちりがま・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔塵如〕 塵、積リ易シ。 [illegible]、十五、[illegible]「人サヘナクテ、ヨルモちりがましき御帳ノ内モ」

ちりがみ（名）〔塵紙〕 粗製ナル紙ノ名。楮ノ外皮ノ内ノ粗皮ヲ溲ヘテ漉ク。紙ニ塵滓アリ。精紙。楮皮紙 好色一代男（天和、西鶴）四「塵紙ニテ細工ニ、雙六ノ盤ヲ拵ヘ」

ちりけ（名）〔身柱〕〔散毛ノ義ニテ、髮ノ散リテ屈ク處ノ意カ。或ハ云フ、散氣ノ義、又、塵氣ノ義ニテ、此點ニ灸スレバ、塵氣生ゼズトモ云フ。逆上スルヲ、ちるトモ云フトゾ〕（一）小兒ノ病名。血ノ頭ニ逆上スルモノト云フ。（二）灸穴ノ名。（散氣ヲ治スル）項ノ下、兩肩ノ中央、脊骨ノ上ノ處。塵氣。 狂言記、目利左衛門「南無三寶、ちりけノヤイトヲ、ムイテノケタ」

ちりしく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〔散敷〕 散リテ一圓ニオホハル、一面ニチラバル。 風雅集、二、春、下「駒トメテ、過ギゾヤラレヌ、清見潟、ちりしく花ヤ、波ノ關守」玉葉集、二、春、下「春ノ夜ノ、カスメル空ノ、月カゲニ、ちりしく花ノ、色ハマガヒヌ」千載集、二、春、下「池水ニ、ミギハノ櫻、ちりしきテ、浪ノ花コソ、サカリナリケレ」

ちりしよ（名）〔地理書〕 地理ノ事ヲ記シタル書。地理學ノ書物。 [illegible]「可中密與芸香客、便是江南地理書」

ちりせうせき（名）〔智利硝石〕 又、ちれ硝石（Chili saltpetre.）、又、曹達硝石（Sodium-nitrate.）トモ云フ。硝酸ナとうりむヨリ成ル鑛物。斜方六面體ニテ、天然ニハ、塊狀、又ハ、粒狀ナドニテ産ズ。無色透明、或ハ、淡色ヲ帶ビ、潮解性アリテ、冷涼味ヲ具フ。炭火中ニ投ズレバ爆發ス。火藥、肥料ノ原料トナル。南亞米利加洲ノちり、ぺるうナドノ地ニ産出ストゾ。

ちりせん（名）〔散錢〕 アチラコチラニ、バラリトシタル錢。散ラバリ居ル錢。

ちりたり（感） 笛ノ曲ノ譜ニ云フ聲。チリヤタラリ。 後拾遺集、廿、誹諧「笛ノ音ノ、春面白ク、聞ユルハ、花ちりたりト、吹ケバナリケリ」

ちりぢ（名）〔塵地〕 漆塗ノ語。なしぢ（梨地）ニ同ジ。薄塵地ハ、略シテ薄塵トモイフ。村梨地ニ同ジ。各條ヲ見ヨ。

ちりちりと（副）〔縮縮〕 物ノ縮ミ皺寄ル狀ニ云フ語。 松風村雨束帶鑑（元祿、近松作）金角司前道行「明石潟ノちりちりと、上ル朝日ノ東山」「ちりちりと寄ル」ちりちりとチヂム」

ちりぢりに（副）〔散散〕 散リニ散リテ。チラバリテ、バラバラニ。離散 源、三十三、藤裏葉四「心アワタダシキ雨風ニ、ミナちりぢりニキホヒ[illegible]」[illegible]中[illegible]物[illegible]、四「カカルヨカラヌ山ゴモリニ、オクレジト思フ人ハ、ナキワザナリケレバ、ちりぢりニナリテ」蜻蛉日記、中、上三「アマタノ御子ドモ、アヤシキ國國ノゾウニナリツツ、ユクヘモシラズ、ちりぢりニワカレ[illegible]フメル」[illegible]集、下「イツシカト、待ツシルシナシ、[illegible]ハ、オノガちりぢり、たりヤシナマシ」

ちりちりばらばら（名）〔支離滅裂〕 モノノ散亂スルコト。支離滅裂ノ條ヲ見ヨ。

ちりづか（名）〔塵塚〕 塵芥ヲ捨テテ、一處ニ積ミ置ク處。ハキダメ。ゴミタメ。[illegible]アクタ[illegible]。[illegible]、七十二段「多クテ見苦シカラヌハ、文車ノ文、塵塚ノ塵」

ちりつぼ（名）〔塵壺〕 [illegible]ノ石灰壇ノ一隅ニアル穴。塵ナドヲ掃キ溜ムル所。

ちりてうづ（名）〔塵手水〕 相撲ノ語 [illegible]

ちりどり（名）〔塵取〕 （一）塵芥ヲ載セテ[illegible]ト、上俵ヲ上リテ、土俵ヲ[illegible]、[illegible]手ニテ後、兩手ヲ掌ヲ開キテ[illegible]カキ、[illegible]取リ捨ツル具。ゴミトリ。塵斗 [illegible]「トハレネバ、ウチモ掃ハズ、床ユエニ、ナド塵ごりノ、名ノミ立ツラム」 （二）方形ノ蓮ノ四隅ニ綱ヲツケテ、[illegible]寶ト云ヒテ、馬曾ヲ取ルモノ、是レナリト云フ。（三）塵取輿ノ略。竹造ノ輿。鹿眼ノモノナルベシ。筵輿ノ類ナラム。 太平記、廿九、師直[illegible]下被誅事「河津左衞門ハ小清水ノ合戰ニ痛手ヲ負ヒタリケル間、[illegible]ニ八[illegible]テ、[illegible]ヲ[illegible]テ」師門物語（室町時代）上「御輿ヲ妻戶ノ口ヘ立テマウス、御供ノ女房達ノちりどりマデ、十六挺コソ昇キスヱタレ、輿昇ノ者ドモ、云云、妻戶ヘちりどりノ輿ヲ昇キ昇キスヱ、立テナラベ」 庭訓往來抄（寬永）「手輿ハ輦、ちりどりナンドノ類ナリ」

ちりどりこし（名）〔塵取輿〕 前條ノ語ノ（三）ニ同ジ。略シテ、ちりどり。

ちりなみ（名）〔散[illegible]〕 [illegible]

ちりにたつな（句）〔立塵名〕 塵ノ如クニ、世上ニ名ノ立ツ。世間ニ噂ノ立ツコト。 後撰集、十八、雜、四「ちりにたつ、ワガ名キヨメン、モモシキノ、人ノ心ヲ、枕トモガナ」

ちりにつぐ（句）〔繼塵〕 アトヲツグ。 新六帖、二「數シラズ、誰モカキオク、名ノミシテ、ちりにつぐベキ、コトノハモナシ」古今集、十九、長歌「今モオホセノ、クダレルハ、ちりにつげトヤ、塵ノ身ニ、ツモレル事ヲ、トハルラム」三代實錄、四、貞觀二年十二月廿九日「廢朱沒後、唐書猶存」トコミテアリ）續古今集、十九、雜、下「今モ又、ツモレル事ヲ、トハルルハ、塵につげトヤ、ヤマトコトノハ」

ちりにまじはる（句）〔同塵〕 此世ノ人ワ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]フ） 風雅集、十九、神祇「モトヨリモ、ちりにまじはる、神ナレバ、月ノサハリモ、何カクルシキ」長明[illegible]

[illegible]ヤマトナル、[illegible]メニ[illegible]ヒテ、君ガ代ニ、ちりにまじはる、神ナラバ、[illegible]、ちりにまじはナリ[illegible]ル、[illegible]

ちりのさかひ（名）〔塵境〕 [illegible]世）ニ同ジ。 新千載集、十八、雜、[illegible]「[illegible]ノ、[illegible]、ちりのさかひニ、[illegible]」

ちりのすみか（名）〔塵住處〕 ウキ世ノスマヒ。ちりのよ（塵世）ノ條ヲ參照セヨ。

ちりのすゑ（名）〔塵末〕 [illegible] 十七、雜、中「ツリニケム、昔ヲ知ラバ、櫻井、ちりのすゑノモ、アハレトハ見ヨ」 續古今集、八、釋敎「[illegible]スピオク、鶴リトナラバ、法ノ花、ちりのすゑマデ、[illegible]ニモラスナ」 [illegible]

ちりのほか（名）〔塵外〕 ウキ世ノ外。世外。 風雅集、十七、雜、上「[illegible]ニナシテ、ウキヨノ外ニ、[illegible]」

〔ちりのまがひ（副）〔散紛〕 散リ飛ビ、[illegible]「[illegible]」 十七、雜「世ノ中ハ、[illegible]ヤモノカ、[illegible]ノ、[illegible]」古今集、[illegible]シツベシ、櫻花、ちりのまがひニ、[illegible]

ちりのまよひ（名）〔散迷〕 散リテ[illegible] [illegible]ノ、[illegible]シツ[illegible]ちりのまよひ[illegible]、[illegible]イアリ、ちりのまよひニ、クル[illegible]カナ」

ちりのみ（名）〔塵身〕 塵ノ如ク[illegible]身ノ[illegible] [illegible]

ちりのよ（名）〔塵世〕 世ノ中ヲ、ケガラ[illegible]セレルコトノ、[illegible]

ハシキ事ノ多キニツケテ云フ語。ケガレタル此世。チリノナカ。コノナカ。ウキヨ。俗世界。現世。濁世。娑婆。塵寰。謠曲、小鍛冶「色ソフ春ノ霞ヲ得テ、神モマジハル塵の世ノ、花ヤ心ニ、マカスラン」

ちりばかり (副) 塵許 甚ダ少シバカリ。イササカ。ツユホド。源、七、紅葉賀「御覽ゼサセテ、タダちりばかり此ノ花ビラニト聞ユルヲ」同、五十、浮舟「アナカマカマ、ゲスナドノちりばかりモ聞キタランニ、イトイミジカラン」同、五十一、蜻蛉「ヲサナカリシホトヨリ、露心オカレ奉ル事ナク、ちりばかりヘダテナクテ、ナラヒタルニ」

ちりはす・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 散放 チリハフル。チリナクナル。榮花物語、八、初花「ソノカミノ物ナレド、只今ノヤウニちりはさズ、アザヤカニ用ヒサセタマヘリシニ」

ちりばむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 塵ニ染ム。埃ニ塗ブ。塵汚 源、十六、關屋「カタヘハちりばみテ、タタミ所所引キカヘシタリ」和泉式部集「人ニ會ヒテ物言ヒシ所ノ、日頃、外ニアリテ來テ見レバ、イタウちりばみタルヲ見テ、云ヒヤル」

ちりばむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 鏤 「散食むるニテ、金銀ナド、散ラシ食メタル意ナラム。」正韻「鏤、彫刻也」細カク刻ミツクル。刻リツクル。彫リキザム。字鏡「鏤、刻也、金乃知利波女」欽明紀、廿二年八月「鏤鐙」左傳、哀公元年「器不彫鏤」注「鏤、刻也」

ちりはらひ (名) 塵拂 ほたりはらひ(埃拂)ニ同ジ。

ちりひぢ (名) 塵泥 (一)塵ト、泥ト。チリアクタ。字鏡「塵、埃也、塵也、知利比治」萬葉集、十五、十二「知里比治ノ、數ニモアラヌ、我故ニ、思ヒワブラム、妹ガ悲シサ」古今集、序「高キ山モ、麓ノちりひぢヨリ成リテ」(二)ツマラヌモノニ譬ヘ云フ語。トルニ足ラヌモノ。宇津保物語、藤原君「イトオソロシキ事、カカル聞エアラバ、兵衛ガ身ハ、何ノちりひぢニカナラン」

ちりぼふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 散亂 (一)散リ亂ル。チラバル。チラカル。チロボフ。好忠集、序「春ハ、ちりぼふ花ヲ惜ミ」枕草子、二、廿段「陸奥紙、云云、几帳ノ許ニちりぼひタル」永久四年百首、紫ノ「ミカリ場ユユシ、眞白ナル、鷹ノハガヒニ、雪ちりぼひテ」曾丹集「庭ノ面ニ、薺ノ花ノ、ちりぼへバ、春マデ消エヌ、雪カトゾ見ル」(二)散散ニナル。流離フ。離散 流離 源、四十九、東屋「打棄テ侍リナム後ハ、思ハズナル状ニ、ちりぼひ侍ラムガ悲シサニ、尼ニナシテ」同、廿二、玉鬘「京ヨリちりぼひ來タルナドヲ、タヨリニツケテ、呼ビ集メ」

ちりまがふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 散紛 チリミダル。チリマヨフ。又、散リミダレテ、見アヤマル。萬葉集、五、廿七「梅ノ花、知利麻我比タル、岡ビニハ、鶯ナクモ、春カタマケテ」

ちりまじる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 散交 散リテ色色ニマジル。源、五、若紫「名モ知ラヌ木草ノ花ドモ、イロイロニちりまじり、錦ヲシケルトミユル」

ちりみだる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 散亂 散リテミダル。ミダレ散ル。散亂スル。萬葉集、十七「阿保山ノ、サネキノ花(古義ハ、サクラノ花)ハ、今日モカモ、散亂ルラム、見ル人ナシニ」同、十九、世長歌「モミヂバノ、散亂レタル、神名火ノ」

ぢりん (名) 地輪 (一)こんりん(金輪)ニ同ジ。ごりん(五輪)ノ條ヲモ見ヨ。撰集抄「地輪九億萬里、第四是地輪、第五水輪、第六風輪」(二)五輪ノ塔ノ最下ノ層。大日經、十四「次地輪正方、水輪圓、火輪三角、風輪半月形、最上虛空作二一點一」盛衰記、四十七、北條上洛「一年孫ニ事「首ヲバ、古キ石ノ卒都婆ノ地輪ニスヱテ」

ちりん‐ちりん (感) 風鈴ノ聲。チリリン。

ちりめん (名) 縮緬 「ちぢめんノ訛カト云フ」絹ノ織物ノ名。經絲ニ撚ナキ生絲ヲ用ヰ、緯絲ニ強ク撚リタル生絲ヲ用ヰテ織リ、後ニ練リテ縮マシタルモノ。縐紗 兵範記、保元三年十月廿二日、石清水臨時祭使装束「着二有文下襲、縮緬袴等一」書言字考節用集、六、服食門「縮緬、注「又、作二縐紗一、並和俗所レ用」萬金産業袋、四、京織物類「縮緬、京ちりめん二品有、名乘テ、京縮緬ト云フハ、總體細コマカニソロヒテ、ウツクシ、幅貳尺、丈五丈ヨリ六丈ノウヘマデモ有リ」

ちりめんがみ (名) 縮緬紙 縮緬ノ如ク、皺ヲ寄ラセタル紙。寛天見聞記「享和ノ頃、云云、縮緬紙トテ、ちぢまりタル紙ニ、彩色ノ模様シタル美シキ紙ヲ製ユヒニス、田舎ニテハ、雛ノ幕ニ用ヰケル」

ちりめんざこ (名) 縮緬雜魚 鰯魚ヲ煮テ乾シタルモノ。白子乾。

ちりめんじそ (名) 縮緬紫蘇 じそ(紫蘇)ノ條ヲ見ヨ。

ちりめんまめ (名) 縮緬豆 うづらまめ(鶉豆)ニ同ジ。

ちりめんゑ (名) 縮緬繪 縮緬紙ニ畫キタル錦繪。嘉永ノ頃ヨリ起リ、明治ノ初年、盛ンニ外國ニ輸出セラレタリ。

ちりゃく (名) 智略 カシコキ、ハカリゴト。才智謀略。智謀。智數。北齊書、高乾傳「倜儻、有二智略一」六韜、文韜、上賢篇「無二智略權謀一而重二賞尊爵一之、故強勇輕戰、僥二倖於外一」

ちりやたらり (感) ちりたりニ同ジ。

ちりょ (名) 智慮 知慮 カシコキ、オモンパカリ。智慧深キ考ヘ。戰國策、趙策「寡人以二子之智慮一、爲二辨足一以道二人一」

ちりょう (名) 螭龍 〔說文「螭、若レ龍而黄、云云、或曰、無レ角曰レ螭」又、蟠龍ヲ螭ト云フト〕アマリョウ。ミヅチ。曹植詩「高夜浸云云、浮氣、螭龍二」

ちりょく (名) 智力 〔才智勇力ノ略〕智ト力ト。又、チエノハタラキ。嵆康、難二宅無二吉凶攝生一論「決二知命于行事一、定二吉凶于智力一」

ちりよけ (名) 塵除 (一)塵埃ヲ除クル器。(二)いんばねすノ異名。

ちりりん (副) ちりんちりんニ同ジ。女殺油地獄(享保、近松作)中「鈴、錫杖ヲちりりん、ガラガラ、急急如律令トゾメカカル」

ちりれんげ (名) 散蓮花 陶製ノ小サク短キ匙。形、蓮花ノ一瓣ノ如シ。湯匙。

ちりをいづ (句) 出塵 ウキヨヲ遁ル。新千載集、十八、雜、下「オノヅカラ、人ニ背ケル、心ニテ、ツヒニウキ世ノ、ちりをいでヌル」

ちる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 散 (一)別レ行ク。離レ去ル。バラバラニナル。源、十四、澪標「スベテ見シ人人、ヒキカヘ、花ヤカニ何事オモフラムト見エテ、打チちりタルニ」「人散る」(二)落チ亂レ飛ブ。萬葉集、二十「梅ノ花、サキテ落リヌト、人ハイヘド、ワカシメ結ヒシ、枝ナラメヤモ」「花散る」「紅葉散る」(三)亂レテアリ。チラバル。(調度ナド) 散亂 枕草子、九、九十一段「殿マヰラセ給フナリトテ、ちりタルモノドモ、取リヤリナドス」(四)外ヘ漏レ聞ユ。源、二、帚木四十七「心ヨリ外ニちりモセバ、輕輕シキ名サヘ取添ヘム」(五)染ミヒロガル。「墨ガ散る」(六)頭ヘ逆上ス。(血ニ云フ) ちりけ(身柱)ノ條ヲ見ヨ。

ちれう (名) 治療 れうぢ(療治)ニ同ジ。北齊書、清河王岳傳「時岳遇二疾患一、高祖令レ還二治療一、疾差、復令レ赴レ職」

ぢ・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ(自動、下一) じれる二同ジ。

ぢ・ろ (名) 地爐 床ニ切リタル爐。ヰロリ。チクヮロ。チヒロ。(風爐ニ對ス) 岑參「暖屋濁爐紅ニ地爐ニ」(註八爐ニ同ジ)

ぢ・ろう (名) 痔瘻 病ノ名。直腸ニ腫ヲ生ジ、孔ヲナシ、膿ヲ出スモノ、アナヂ。ハスヂ。王羲之、[illegible]帖「[illegible]瓜灸入[illegible]、煎ニ飲酒一盞一服レ之、治ニ痔瘻ニ有レ驗」

ぢろ・ぢろ (副) ちらちら二同ジ。

ぢろぼ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 散亂 ちりぼふ(散亂)ノ條ノ(一)ニ同ジ。宇治拾遺、四、第一條「カヤウノ所ニハ、クヒ物ちろぼふモノゾカシトテ、マウデキツルナリ」

ちろめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) ちらつく(閃)ニ同ジ、[illegible]一千句「詠バカリゾ、月ニちろめくノ句ニ「サ夜フケバ、心カケ夜ノ、火ノメグリ」

ちろ・り (名) 銚釐 (銚ノ音ノ轉カ、或ハ地爐裏ニテ溫ムレバ云フトモ云フ、或ハ容易ク溫マル意ノ語カ) 銅、又ハ、眞鍮製ノ、筒形ニシテ注口アル器。專ラ酒ヲ溫ムルニ用ヰル。銚 後撰夷曲集(寛文)八「淋シサニ、友松蟲ノ、ネザケコソ、ちんちろりニテ、爛ヲスルナレ」風流曲三味線(寶永、八文字屋自笑)一「戸棚カラ備前燒ノ大德利出シ、ちろりへウツシ」

ちろ・り (副) ちらりと二同ジ。吉原[illegible](正德、近松作)三「[illegible]ノ[illegible]ガ、西へちろり東へちろり、ちろりちろりトスル時ハ」[illegible]、大[illegible]、下[illegible]酒「下戸ナレト、サイツ三夜ノ、月ニ、ちろりト酒ノ、蔭モ見エケリ」

ちろり・ちろり (副) [酒ノ槽ノ口ヨリ、少シヅツ、ちろちろちょろちょろト出ヅルヨリノ名] 短キ、又、少キ、又、カスカナル[illegible]二、云フ[illegible] [illegible]集、八[illegible]ハちろの二[illegible]、ちろりちろり[illegible]

ラム」春コソちろり、ちろりナリケレ」曉ノ、明ボカスミ、[illegible]レ出デテ」(、[illegible]ル)

ぢ・わ (名) 痴話 戲レテ話シ合フコト。ナレシタシム男女ノ情話。イロバナシ。(男女ノ中ニ) 情話。艶話 津國女夫池(享保、近松作)二「少シノ痴話ハ御免ナリマセ、皆樣」

ぢ・わう (名) 地黃 宿根草。春、地ニ就キテ叢生ス。葉ハ、かいしニ似テ、厚クシテ皺アリ、鋸齒、粗ク、淡綠ニシテ、面、背、毛アリ、後ニ莖ヲ出ス、高キハ一尺許、葉、互生ス。夏、莖ノ梢ニ、枝ヲ分チテ花ヲ開ク、胡麻ノ花ニ似テ、黃白、或ハ、淡紫ナリ。實アレドモ熟セズ、莖ノ傍ノ芽ヲ分チテ植ウ、根ヲ藥用トス。サホヒメグサ。淮南子、[illegible]訓「今夫地黃主[illegible]骨、而甘草主[illegible]生肉[illegible]之藥也」倭名抄、廿[illegible]「地黃、一名、地髓、[illegible]幸地對[illegible]「水ニ沈ムハ地黃、中ニアルハ人黃、浮クハ天黃、人黃天黃共ニ地黃ノ若ク不[illegible]宜也」延喜式、[illegible]「[illegible]保[illegible]サホヒメ」

ぢわう・せん (名) 地黃煎 (一)[illegible]ノ粉ニ、地黃ノ汁ヲ合ハセテ、煉リタルモノ、腸胃ヲ潤シ、氣血ヲ增ストス。訛シテ、ぎうせん、ぢゃうせん。クダリ。倭名抄、十[illegible]「地黃煎」[illegible]「[illegible]黃煎[illegible]」(二)地黃煎飴ノ略。飴ニ、地黃ノ根ヲ加ヘテ、製煉シタルモノ。東京ニテ、くだりあめト云フ。

ち・わき (名) 道別 次條ヲ見ヨ。

ち・わ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 道別 道路ヲ開ク。進路ヲ別ケ開ク。古事記[illegible]「[illegible]八重多[illegible]、伊都[illegible]」

ちわ・ぐるひ (名) [illegible] [illegible]テ、[illegible]コト。[illegible] ラレ、[illegible]ちわぐるひ」

ちわ・げんくゎ (名) 痴話喧嘩 痴話ヨリ起ル喧嘩、男女ノ痴情ニ基ヅク喧嘩。

ちわ・ぶみ (名) 痴話文 男女間ノ情事ヲ書キテ送ル文。イロブミ。艶書。艶狀。情信 情書 井[illegible]「[illegible]保、[illegible]作」「[illegible]キサキ捨テシハ、遊女ノ千話ぶみ」

ち・わらぢ (名) 乳草鞋 乳アツヘタル草鞋、[illegible]作レル草鞋トモ云フ) 布衣記、中間「[illegible]ニハ、ククリヲ入レ上ゲル也、ちわらおノハクナリ」日本[illegible]、[illegible]、[illegible]ニモ、[illegible]、乳わらおナドノ[illegible]」

ぢ・わり (名) 地割 土地ヲ、道路、宅地ナドニ、割リックルコト。

ち・ゐ (名) 地位 (一)オドコロ。位置。場所。[illegible]山上[illegible]仙[illegible]下土[illegible]地位[illegible](二)身分。身柄 クラヰ

ち・ゐき [illegible] 地域 土境ノ區域。又、土地ノサカヒ。[illegible]「[illegible]、[illegible]下土[illegible]」

ち・ゑ (名) 智慧 [孟子、公孫丑、上篇、疏「大面[illegible]、[illegible]智、小面[illegible]、之[illegible]慧」] (一)ち(智)ニ同ジ。サトリ。[illegible]子、[illegible]十八[illegible]十[illegible]、[illegible]文ノ[illegible]トスル故ニ」 (二)(梵語、Tnān.(智)、Prajñā(慧)ノ[illegible]) 佛教ノ語、[illegible]ヲ智ト云ヒ、簡擇スルヲ慧ト云フ。又、俗諦ヲ知ルヲ智ト云ヒ、眞諦ヲ知ルヲ慧ト云フ。通ジテ一ナリ。(又、智ハ進ム[illegible]、[illegible]、[illegible]無我ノ理ヲ知ルヲ云フト) 大乘[illegible]、[illegible]智、[illegible]

[illegible]

ち・ゑ・いかだ [illegible] 智慧筏 [illegible]同ジ。武江年表、嘉永、[illegible]「[illegible]子供ノモテ遊リザエノ板ナリ」

ち・ゑ・ざさら (名) (ささら(簓)ノ條ヲ見ヨ) 智慧アリテ、辯舌ノヨキコト。[illegible]抄、八、十四[illegible]、ムカシ[illegible]心ノ[illegible]トイフ人イマソカリケリ、智慧ささらナクビサトノミニアラズ、[illegible]ルマコトノリサミ(以イ)テ、四方ノ[illegible]ヲモ心ノ中ニケヤ(キヤイ)シ給フ」

ち・ゑの・いた (名) 智慧板 小兒ノ智慧ヲ[illegible]ル用ヰル玩具、方圓、[illegible]ニ[illegible]レル木ノ板ヲ寄セ集メテ、種種ノ物ノ形ヲ象リ作ラシムルモノ。ヂヱイカダ。大江俊[illegible]記、享和四年正月六日「子供[illegible]人ヘ[illegible]智慧板一箱、智慧板一箱」

ち・ゑの・ひ (名) 智慧火 [illegible]

[illegible]

ち・ゑの・わ (名) 智慧輪 [illegible]

ち・ゑひ (名) 血醉 [illegible]

衣川合戰事「尋常ノ人ナドハ、ちゑひナドスルゾカシ、辨慶ハ、血ノ出ヅレバ、イトド血ソバヘシテ、人ヲモ人トモオモハズ」

ちゑ-ぶくろ（名）｜智慧袋｜（智慧ノ入リタル袋ノ義）チエ、ノ、其分量。又、智慧ニ富メル人。チエノフクロ。智嚢 艶容女舞衣、近松作）二「ワシ一代ノ智慧袋」

ち-を（名）乳緒 草鞋ノ緒。

つ　づ

つ 五十音圖、多行第三ノ假名。たノ條ヲ見ヨ。此音ハ、他ノ音ノ間ニアルトキ、促聲ノ如ク呼ブコトアリ、やつこ（奴）ノ、やっこトナリ、はつはう（發砲）ノ、はっぱうトナルガ如シ。

づ つノ濁音ノ假名。だノ條ヲ見ヨ。

ッ 五十音ノ外ノ一種ノ假名。此假名ノ聲ハ、他ノ音ノ間ニテ、促ルガ如クシテ發ス、故ニ之ヲ促聲ト名ヅク。もはら（專）ノ、もっぱらトナリ、もとも（最）ノ、もっともトナルガ如シ 或ハ他ノ音ヲ轉ジテ發スルコトアリ、かへりて（却）ノ、かへってトナリ、をうと（夫）ノ、をっとトナリ、はふと（法度）ノ、はっとトナルガ如シ。

つ（名）津 〔附く、集ふ、ナドノ意〕（一）船ノ泊ツル處。フナツキ、フナツキバ。フナバ、ミナト。トマリ。湊 港 萬葉集、十四八「埼玉ノ、津ニ居ル船ノ、風ヲイタミ、綱ハ絕ユトモ、事ナタエソネ」同、十九、三十六「與ツ浪、邊浪ナタチソ、君ガ船、漕ギ歸リ來テ、津ニ泊ツルマデ」神功紀、六十二年「百濟記云、云云、新羅人莊ニ飾美女二人一、迎ニ誘於津一」「難波津」「安濃ノ津」（二）轉ジテ、渡リ。渡シ場。渡船場。津 濟 渡口 倭名抄、十一 濟渡具「津、豆、渡、水處也」

つ（名）｜唾｜ つばき（唾）ニ同ジ。字類抄「吒、ツ、口中液也」「唾、同」本朝武鑑（享保）七「又六ガ門ノ酒バヤシニハ、往來ノ人ノ津ヲヒクラム」「固唾」「唾吐キ」

つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（助動）｜了｜〔止ノ轉カ〕 動詞ノ連用形ニ連續シテ、動作ノ現在ニ完了セル意ヲ云フ助動詞。粗、たりニ同ジ。「行キつ」「受ケつ」「落チつ」「見つ」

つ（辭）｜之｜ 第一類ノ天爾波。意、のニ同ジク、名詞ト名詞トノ係屬ヲ示スモノ。多ク借字シテ、用法古シ。多ク借字シテ、津ト記ス。神代紀、下九「アマサカル、ヒナつメノ、イ渡ラス瀨戶」「天津風」「國津神」「內つ國」「時つ風」「沖つ風」「下つ方」「畫つ方」 又、濁音ニ用ヰラレタリ、續紀、十五、天平十五年五月、大御歌「阿麻豆可未」倭名抄、二十神靈類「久爾豆加三」

つ（接尾）｜箇｜個｜ 數詞ノ下ニ付キテ、言ヒ据エテ數ヘユク語。又、數ヲ分ツ辭。神代紀、上廿「五百箇御統」景行紀、四十年十月「尾張ニ、タダニムカヘル、比苫適麻菟、アハレ、比等菟麻菟、人ニアリセバ、衣キセマシヲ、太刀ハケマシヲ」「フタつ」「イツつ」「ナナつ」「幾つ」 此語、十進以上ニテハ、ち、又、ぢトモ轉ズ。「ハタち」「ミソぢ」「百ち」「千ち」

づ（名）｜水｜〔みづノ上略〕 ウナミヅ（海水）、ウナヅ、ウヅミヅ（埋水）、ウヅ（渦）、ノ類ノ如シ、又、肥後國玉名郡ノ鄕名ニ、大水ト云フアリ」此語、熟語ニノミ用ヰラル。

づ（名）｜圖｜（一）紙面ニ、海陸、山川、城池、人居、等ノ形狀ヲ、天ヨリ俯シ見タル狀ニ畫キタルモノ、其位地、廣狹等ヲ知ル用トス。地圖。繪圖。史記、廉頗藺相如傳「秦王召ニ有司一按レ圖、指ニ從レ此以往十五城一予レ趙」續紀、十三、天平十年八月「令下天下諸國、造ニ國郡圖一進上」（二）轉ジテ、畫、繪畫。倭名抄、五廿八圖繪具「圖、音徒、畫ニ物像一也」「寒鴉枯木ノ圖」

づ（名）〔圖ノ音ニテ、圖ル所ノ意カ、或ハ度ノ音轉カ〕 思フトコロ。見込ノトホリ。ミコムツボ。オモフツボ。心算 「圖ニ中ル」「圖ニ外ル」「圖ボシ」「圖ニ乘ル」

づ（名）頭 カシラ。カウベ。狂言記、針立雷「人間ノ脈ハ、手ニ御サル、雷殿ノ脈ハ、頭脈ト申シテ、頭デトリマス」「頭ヲアグ」「頭ガ高イ」

づ（名）｜徒｜ づざい（徒罪）ノ條ヲ見ヨ。字類抄「徒、ツ、限年也、徒年也」獄令「凡犯ニ徒應レ配ニ居役一者」 類聚三代格、廿、弘仁十三年二月七日、太政官符「應レ定ニ罪人配役年限一事、右撿ニ非違使解ニ偁、案ニ賊盜律一云、強盜不レ得ニ財徒二年、一尺徒三年」

づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（自動、下二）｜出｜〔出づノ約〕 出ヅ。デル。武烈即位前紀「鮪（人名）ノ若子ヲ、阿娑理逗（求食出ヅ）ナ猪ノ子（鮪ヲ葬リタルナリ）」 萬葉集、十四八「戀シケバ、袖モ振ラムヲ、武藏野ノ、ウケラガ花ノ、色ニ豆ナユメ」同卷廿二眞間「悲シミ、寐レバ言ニ豆、サ寐ナヘバ、心ノ緒ロニ、乘リテカナシモ」同、七三十「磯ニ立チ、沖ベヲ見レバ、海藻刈舟、海人擠出ラシ、鴨翔ル見ユ」同、廿九廿「防人ノ、堀江漕豆流、伊豆手船、楫トル間ナク、戀ハシゲケム」古事記、中（應神）八七十「モトヘハ、君ヲ思ヒ傳、末ヘハ、イモヲ思ヒ傳」 孝德紀、大化五年三月「幹每ニ、花ハ咲ケドモ、何トカモ、愛シ妹ガ、復タ咲キ涅來ヌ」 萬葉集、十四五廿「河上ノ、根白高草、アヤニアヤニ、サ寐サネテコソ、言ニ低ニシカ」同、十八七廿「長歌「ヤホコロモ、舞ヒ泥コシトキ」 繼體紀、七年九月「水下經、魚モ、上ニ堤テナゲク」

づ-あん（名）｜圖案｜ 形狀、彩色ナドヲ、種種ニ配合シテ、裝飾用ニ供スル意匠。又ハ、考案。即チ、裝飾ノ目的ヲ以テ、案出シタル圖。「[illegible]」

つい（動）突くノ熟語法ナル、突きノ音便。多クハ、意輕ク、そのまま、ちょっとノ意ヲナス。轉ジテ、接頭語ニ用ヰラル。 落窪物語、二「暫シ立テルニ、人騷ガシク、つい倒シツベク步キ交ヘバ」 宇治拾遺、四、第一條「紙ヲ、云云、腰ニついハサミタレバ」 狹衣、二、下三十六「琵琶ヲ、云云、撥ヲついサシ給ヘルヲ」 枕草子、十二、百五十六段、言ひにくき物「土器ハつい据ヱツベキニ」 和泉式部集「筆モついユガミテ」 著聞集、九、弓箭「卽チ、矢ヲ取ラセタリケレバ、つい立チテ、甲矢ヲ射ルニ」 今物語「ついヒサマヅキテ」 宇治拾遺、一、第十條「ワレニモアラデ、つい居ラレヌ」

つい（副）〔前條ノ語ノ轉〕（一）ソゾロニ。思ハズ。ハカラズ。「ついシタコト」「ついカウナッテ」（二）ヂキニ。スグニ。狂言記、二人大名「ヨイ殿見レバ、殿サヘ見レバ、ヤヨ、ガテンカ、ガテンカ、ついコロブ」「ついソコニアル」「つい今シガタ」

つい-がき（名）｜築墻｜〔つきがきノ音便〕 ツイヒヂ。ついぢ（築地）ニ同ジ。次條ヲモ參見セヨ。倭名抄、十五十墻壁具「築墻、都以加岐、一云、豆以比知」 字類抄、五十二「垣、豆伊加支」 木工寮式「築垣、高一丈三尺、長一丈」家屋雜考、二「築墻（ツイガキ）、云云、モト築垣ト云フ事ナルヲ、音便ニテ、ついち、ついがき、ついがいナド呼ブナリ」

つい-がさね（名）｜衝重｜〔つきがさねノ音便（築地、ついぢ。搔敷、かいしき）〕 ツイカサネタルモノ、さんばう（三方）ノ條ヲ見ヨ。又、四方ノ、形、小サキモノヲ、小四方ト云フ。名目抄「衝重、ツイガサネ」 名義抄「衝、ツイカサヌ」 源、四十八、寄生四十「ついがさねヲバサルモノニテ、檜破子三十、サマザマシツクシタル事ドモアリ」 天德內裏歌合、序「左右方頭辨、備ニ衝重一、各給ニ公卿、幷男女方人一」

つい-くさ (名) 〔つきくさノ音便〕 つきくさ(鴨頭草)ニ同ジ。 [illegible]「[illegible]鴨頭草、ツイクサ」

ツイコエ (名) [水雞] 〔字ノ南支那音〕 すゐけい(水雞)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

つい-さう ツイソウ (名) [追従] 〔つゐしょう(追従)ノ音便訛〕 つゐしょう(追従)ノ條ヲ見ヨ。 大鏡、中、師輔「[illegible]ノミゾ、追従深キ古狐カナ、アナ、アイケウナ、ト申シタマヒケル」

〰つい-さ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) ソノママニサス。 [illegible]、二、下[三十六]「バチついさしタマヘルヲ」 枕草子、七、六十四段「物忌ナレバ エ見ズトテ、カミニついさしテ置タルヲ」

〰つい-しゐ (名) [鎚子] 〔字音、正シクハ、つゐしナルベシ〕 餅團子ノ類、形、芋ノ子ノ如シト、(東雅) 倭名抄、十六[五]飲食類「餅子、都以之」 名義抄「餅子、ツイシ」

つい-しゐろ (名) [土代] 地上ニ敷ク物一切ノ稱。 皇太神宮儀式帳「[illegible]土代敷布[illegible]一條」

〰つい-す・う・ウル・ウレ・ヱ・ヱ・エヨ(他動、下二) [突据] ソノママニ据エ置ク。又、サシオク。 宇治拾遺、一、第十七條「カキイダキテ、雨ダリニついすうト思ヒシニ」 宇津保物語、樓上、六上[二十]「カキイダキテ、火ノホドマナカバカリサガリテ、ついすゑ奉リ給ヘルヤウダイ」

つい-たけ (名) 〔對丈ノ音便訛カ〕 衣服ヲ作ルニ、布帛ヲ身ノ丈ホドニ裁チテ作ルコト。(婦人ノ服ナド、丈ヨリ長ク作ルニ對ス) 松竹問答(竹屋光俊)二「寸法抄、下襲事、大納言ヨリ參議マデ一丈、殿上人八尺、地下七尺、但、辨少納言ノ人、可レ尋ニ其人ハついたけモアリ」

〰ついたち (名) [月立] 〔つきたちノ音便〕 西ノ方ノ空ニ、日ノ入リヌルアトニ、月ノホノカニ見エ初ムル日ヲ初トシテ、

ソレヨリ十日バカリヲカケタル程ノ稱、月ノ上旬。(ハジメツカタ[illegible]) [illegible]十一月、[illegible]日」 [illegible]「[illegible]ノついた ちニ、[illegible]ノ日」 [illegible]ノついたちゴロ」 [illegible]「[illegible]ついたちゴロノ夕月夜」 [illegible]物語、廿八、[illegible]「ついたちモ過ギユケバ、云云、十日ノ程ツカタ云云」 同、四、見はてぬ夢「ついたち六日ノ夜中ニゾ、二條殿ニ[illegible]」 同、廿七、衣珠「此ノついたち八日ヨリ、世ノ中、心ナワヅラヒ給ヒシ」

〰つい-たち (名) [朔] 〔前條ノ語意ニ同ジ〕 正シクハ、ついたちの日。陰暦ニ、月ノ第一ノ日。一日(イチジツ)。 名義抄「吉、朔日、ツイタチ、[illegible]、ツイタチ」 欽明紀、十一年四月「四月一日(イミア)」

〰つい-たち-さうじ ツイ-タチ-ソウジ (名) [衝立障子] ついたてさうじ(衝立障子)ノ條ヲ見ヨ。 著聞集、十一、畫圖「清涼殿ノ弘庇ニ、ついたち障子ヲ立テテ、昆明池ヲ畫セラレタリ」

つい-た・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) [突立] 〔つきたつノ音便〕 ソノママ立ツ。急ニ起ツ。 宇治物語、一、光[illegible]内裏[illegible]テ光[illegible]ついたちテ、惡シウ參ッテ候ヒケリトテ、シヅシヅト歩ミ出デラレケリ」 詠詞「ついたちテミタレバ、ミハシノ月ノアカサヨ」

つい-たて (名) [衝立] 〔次條ノ語ノ略〕 [illegible]さうじ(障子)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

〰つい-たて-さうじ ツイ-タテ-ソウジ (名) [衝立障子] 又、ついたちさうじ。[illegible]障子ノ如クニシテ、臺アリ、廊上ニ立テテ物ヲ遮ルモノ、屏風ノ一片ナルガ如シ、今、略シテ、ついたてトノミ云フ。硬屛 掩障 枕草子、九、百十三段「人ノ家ニツキヅキシキ物、ついたてさう[illegible]」 宇津保物語、[illegible]「[illegible]」 [illegible]、ついたて障子[illegible]

つい-ぢ ツイ-ジ (名) [築地] 〔[illegible]〕 [illegible] [illegible]ノ如ク、上ニ瓦ヲ葺キタル[illegible]イヒヂ。築墻。柱ヲ立テ、板ヲ添ヘ、泥土ニテ其間ヲ塡メテ築キタル垣。上ヲ瓦ニテ葺ク、[illegible]コレニ、[illegible]、細ソキ横筋ヲ[illegible]ニ入[illegible]ヲ、築屛ト云ヒ、御所、宮家、門跡[illegible]用ヰラル。 [illegible]「[illegible]ついぢノ[illegible]」 [illegible]中、[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]ニ マカセタマヘリケレバ、思ヒカケズ、四方ニイロイロニ、錦繡ヲ引キカケタルヤウニ、咲キタリシナド[illegible]」 [illegible]、十九、[illegible]「西南ノついぢノ上ニ[illegible]ヲヒシト植エラレタリケレバ」 沙石集、三、上、第二[illegible]、藏(クロガネ)ノついぢノ[illegible]」 [illegible]「[illegible]、ツイチイタ[illegible]」

つい・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ(他動、下二) [次序] 〔次(ツ)イ出(イ)ヅノ音便約〕 上下、前後ノ段ヲ分ツ。次第ヲ立ツ。順番ヲ定ム。 大日本史、三十八(一條天皇、寬弘二年)「以ニ從ニ位[illegible]」 [illegible](ツイヅアマツ)[illegible]上下、[illegible]」

つい-て (接) [就] 夫ニ就きてノ音便略〕 ソレユエニ。然ルニ因リテ。(主ニ、手紙ノ文ニ用キル)

〰ついで (名) [次序 次第] 〔つぎつノ音便[illegible]〕 順番。 名義抄「弟(第)ツイデ、次、ツイデ、ツイヅ、班、ツイヅ、秩、ツイデ、序、ツイデタリ、ツグ、叙、ツイヅ、ツイデ」 崇峻紀、十二年三月「[illegible]長幼之次第」 [illegible]

[illegible] 日「京ヘノボルついでニ見レバ、山崎ノ店ナル小櫃ノ[illegible]」 [illegible] [illegible]でニ、事ノモトナレバ、松ヲナホザリニ引キテ置ル [illegible]

[illegible] いでニ[illegible]ついで[illegible]ついでニスル」

〰ついで (接) [次] 〔次ぎてノ音便轉〕 [illegible] [illegible]

つい-と (副) (一)ついハ、ついゐる、ついたつノついト同趣。(二)イヤナリトツットニ[illegible] [illegible]

づい-と (副) [illegible]、ずいと[illegible]

つい-とほり ツイ-トオリ (名) ヒトトホリノ[illegible]ノット[illegible] [illegible] 源氏物語[illegible]、十、末「[illegible]常ノ如ク咲キテ[illegible]」 [illegible]、つい通リノ說ハ用ナリ」

〰つい-ば・む・ム・メ・マ・ミ・メ [illegible] [illegible] 又、ツツキクフ。 倭名抄、十八[illegible] 名義抄「[illegible]、ツイバム」

〰つい-ひぢ ツイ-ヒジ (名) [築地] 〔築泥ノ音便〕 ついぢ(築地)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible] 竹取物語「[illegible]ノ、竹取ガ家ニツカハシ[illegible]」 [illegible]、ついひぢノ上ニ[illegible] 伊勢物語、五段「ついひぢノ崩レヨリ通ヒケリ」

〰つい-まつ (名) [續松] 〔つぎまつノ音便〕 [illegible]明)ニ同ジ。 [illegible]、七、[illegible] [illegible]

ついまつマヰル、云云、ついまつニナシタルヲ、夜一夜トモシタリ」此語ハ、モト松明ノ燃エ盡キムトスル時、續ギ足スベク用意スル松明ノ名ナラム。江家次第、廿「次理髪着座、次脂燭二人候、理髪左右、各具ニ土器、前レ燈、續脂燭回置ニ土器上」(諸大夫持參」ト見エタリ。(二)歌骨牌ノ異名。二人シテ一首ノ歌ヲ詠ムコト。伊勢物語、六十九段ニ、齋宮ノ方ヨリ、盃ニ歌ノ上ノ句書キ出シタマフヲ、業平ノ「ついまつノ炭シテ」其下ノ句ヲ書ク、トアルヲ、本トシテ名トス。然ルヲ本ノ句ニ末ノ句ヲ對セシムルニ因リテ、對末ナリト云フハ、附會ナリ。(もとすゑノ條ヲ見ヨ)　女用教訓、繪本花の宴「ついまつ、歌ガルタノ事ナリ、百人一首ノホド、小町花合、三十六歌仙、ソノタビタビ數數ツネニモテアソビテ、ソランジヌベシ」貞丈雜記、八、調度、歌カルタト云フモノハ古ナシ、近代出來タルモノナリ、本ハ貝オホヒノ貝ヨリ思ヒヨリテ作リタル故、本名ヲバ歌貝ト云也、又、伊勢物語ニ、松明(たいまつノ事)ノ歌ニテ、歌ノ下句ヲ書タル事アル故、歌貝モ上ノ句ニ下ノ句ヲトリ合スルニヨリテ、ついまつトモ名付也」

つゐり (名) 梅雨　〔梅雨入ノ約〕つゆ(梅雨)ニ同ジ。　易林節用集(慶長)上、乾坤門「墜栗花、ツイリ、霖雨」　曠野集、釋奠「雙六ノ、アヒテ呼ビコム、ついりカナ」

つゐ・ゐる ツイ・イル　ヰル・ヰレ・ヰ・ヰ・ヰヨ(自動、上一)〔突き居るノ音便〕(一)ツクバフ。カシコマル。　源、四、夕顔「獨リゴト給フヲ、御隨身つい居テ、カノ白ク咲ケルヲナンタ顔ト申侍ル」宇津保物語、初秋、下「仲忠、簀ノ子ニつい居ル」(二)只、チョット居ル。其儀ニ居ル。　源、四十六、總角「侍ヲトリモ果テズ、つい居給ヘレバ」同、五十二、手習「木丁ノ下ニつい居給ヘバ」

つう (名) 通　(一)通力。神通。　徒然草、第

八段「久米ノ仙人ノ、物洗フ女ノ脛ノ白キヲ見テ、通ヲ失ヒケンハ」(二)其事ニ善ク通ジタルコト。又、其モノ。「芝居通」「消息通」(三)俗ニ、人ト交ルニ、善ク他ノ内情ナド察シテ、頓ナラスコト。又、其モノ。(野暮ノ反)(四)音ノ他ノ音ニ通ヒタルモノ。(通音ノ條ノ(一)ヲ見ヨ)(五)サハリナキコト。トドコホリナキコト。　易經、繫辭、上傳「一闔一闢、謂二之變一、往來不レ窮、謂二之通一」

つう (接尾) 通　證文、手紙、ナドヲ數フル語。　後漢書、崔寔傳「凡爲二人主一者、宜下寫二一通一、置中之坐側上」　主稅寮式「造二損益帳一、一通留レ寮」　左右京式「田籍造二三通一」

つうあい (名) 痛哀　甚シク痛ミカナシムコト　哀痛　哀傷

つういう ツウ・ユウ (名) 通有　廣ク通ジテ有スルコト　總ベテノ物ニ通ジテ具ハルコト。

つういん (名) 痛飲　多量ニ酒ヲ飲ムコト。大酒ヲ飲ムコト。　世說新語(南朝宋、王義慶)下、任誕篇「名士不二必須一奇才一、但使下常得二無レ事痛飲酒、熟讀離騷上便可レ稱二名士一」

つういん (名) 通音　次次條ノ(一)ニ同ジ。

つううん (名) 通運　物ヲ運ビ送ルコト。運送。　晉書、懷帝紀「始修二千金堤於許昌一、以通レ運」

つうおん (名) 通音　(一)語學ノ語。音ト音ト相通ヒテ變ハルモノ。きみ(君)ノきびトナリ、あれ(我)ノわれトナルガ如シ。(二)音信ヲ通ズルコト。　雲笈七籤、宋、張君房「月明可下以上聞二大椿一、通中音上清上」

つうか (名) 通家　昔ヨリ懇親ヲ通ズル家。父祖ノ代ヨリ、懇ニ交際スル家。　後漢書、孔融傳「我是李君、通家子弟、云云、則融與二君累世通家一、衆坐莫レ不二歎息一」「通家ノ好ミ」

つうかう ツウ・コウ (名) 通行　(一)カヨヒユクコト。トホルコト。往來。　漢書、高帝紀「足下通行無レ所レ累」(二)アマネク通ジテ行ハルルコト。一般ニ通リテ行ハルルコト。　漢書、王吉傳「非レ有二禮義科指可二世世通行一者上也」

つうかう ツウ・コウ (名) 通好　通交　好ヲ通ズルコト。マジハリヲムスブコト。　吳錄(晉、張勃)「今南北通好」

つうかう ツウ・コウ (名) 通航　船舶ノカヨヒユクコト。航行。通船。

つうがく (名) 通學　學校、又ハ、私塾ナドニ通ヒ修學スルコト。カヨヒゲイコ。

つうかん (名) 痛諫　イタク、イサムルコト。手強ク、イサムルコト。コハイケン。強諫。極諫。苦諫。

つうかんす (名) 都監寺　都監守　又、つかんすト云フ。佛教ノ語。禪宗ノ六知事ノ一。一寺ノ總監ニシテ、一切ノ寺務ヲ監督スル役。ツウクヮン。ツウス。都寺　勅修百丈清規、都監寺「古規、惟設二監院一、後因二寺廣衆多一、以總二庶務一」　備用清規、都監寺、山門重任、責任レ得レ人、百丈監院、幹二辦公私一、今都寺是也」

つうき (名) 通規　一般ニ通ズル規定。又、一般ニ關スル規則。通則。

つうぎ (名) 通義　人間押シナベテノ道理。一般ニ通ズル義理。　孟子、滕文公、上篇「治二於人一者食レ人、治レ人者食二於人一、天下之通義也」

つうぎ (名) 通誼　一般ノ人ノ履行スベキ道。　漢書、董仲舒傳「春秋大二一統一者、天地之常經、古今之通誼也、今師異レ道、人異レ論、百家殊レ方」

つうきん (名) 通勤　カヨヒヅトメ。

つうく (名) 通衢　(一)通行ノ便アルチマタ。通路。街道。道路。(二)往來ノ

盛ナル通路。　陳陶詩「[illegible]小[illegible]夾二通衢一」　宋史、高宗紀「[illegible]交趾所レ貢[illegible]於二通衢一」

づうくに ズウ・クニ (名) 同國　〔どうこくノ湯桶讀〕オナジクニ。又、生國ヲ同ジクスルモノ。　東海道中膝栗毛(文化、一九)六編、上「旅へ出テハ、兎角づうくにガ懐カシイ」

つうくわ ツウ・カ (名) 通貨　通用ノ貨幣。通寶。　管子、輕重、乙篇「黃金刀布者、民之通貨也」

つうくわ ツウ・カ (名) 通過　(一)トホリスグルコト。トホリコスコト。(二)官廳ニテ、願書ナドノ採用セラルルコト。(三)議會ニテ、議案ノ可決セラルルコト。

つうくわい ツウ・カイ (名) 痛快　イタク心地ヨキコト。甚シク快ク感ズルコト。　楊萬里詩「能爲二蓬萊老仙伯一、一杯痛快吸二湖山一」

つうくわん ツウ・カン (名) 通患　一般ニ通ズルウレヘ。總ベテノモノノ弊害。通弊。

つうくわん ツウ・カン (名) 都官　都管　又、つくゎん。佛家ノ語。つうす(都寺)ニ同ジ。　庭訓往來、十月「都管」　同、具注抄「都管、都聞ハ、共ニ僧ノ名ヲツクルトキ、諸事ヲ取ハカラフ役ナリ」

つうけい (名) 通計　(一)總數ヲ一ツニ合ハセ計ルコト。總計。合計。　白居易詩「百年通計老時多」(二)全體ニワタルコト。　盛衰記、十三、熊野新宮軍事「國内通計ノ事ナレバ、平家ノ祈ノ師ニ、本宮大江法眼之(是イ)ヲ聞キ」

つうげう ツウ・ギヨウ (名) 通曉　(一)夜ヲ通シテ曉ニ及ブコト。ヨドホシ。終夜。徹宵。徹夜。通宵。　三國志、吳志、闞澤傳「白日接二賓客一、夜讀二文書一、或通曉不レ寐」(二)事物ニ通ジテ、悟ルコト。深ク知リ得ルコト。　易經、繫辭、上傳、疏「通二曉于幽明之道一、而無二事不一レ知也」

つう-けん (名) 通券 通行ニ用ヰル手形。
つう-けん (名) 通見 全體ニ通ジテ見ルコト。ヒトトホリ目ヲトホスコト。
つう-げん (名) 痛言 イタク感ズルホドニ直言スルコト。手強ク言フコト。
つう-げん (名) 通言 世間一般ニ通ズル言語。トホリコトバ。
つう-ご (名) 通語 世間普通ノ言語。トホリコトバ。
つう-こく (名) 通告 ツゲシラスルコト。又、シラセ。通知。
つう-こく (名) 痛哭 イタク歎キ悲ムコト。晉書、閻纘傳「張華遇害、纘撫華尸而痛哭曰、云云」漢書、賈誼傳「可爲痛哭者一、可爲流涕者二、可爲長太息者六」
つう-こん (名) 痛恨 甚シク恨ムコト。イタク殘念ニ思フコト。南史、陶子鏘傳「痛恨備哭久之」諸葛亮、出師表「未嘗不歎息痛恨於桓靈也」
つう-さう (名) 通草 あけびノ異名。
つう-さつ (名) 通察 總ベテヲアキラカニミルコト。全體ニワタル觀察。
つう-さん (名) 通算 統ベ寄セテ計フルコト。全體ヲマトメテ計算スルコト。シメ。ソウジメ。通計。總計。元稹詩「通算衣食費、不計遠近程」
つう-さん (名) 通三 人ヲ選ブト、民ニ因ルト、時ニ從フト、ノ三ツニ通ズルコト。鹽鐵論、十一、「聖人者[illegible]道、[illegible]通三ノ主、[illegible]一ノ君、爭デカ[illegible]ニ、私ヲ存ジ[illegible]スベキ」漢書、五行志「政不可不慎也、務三而已、一曰、擇人、二曰、因民、三曰、從時」
つう-じ (名) 通 (一)通ズルコト。カヨヒ。トホリ。(二)他ノ說ヲ理解スルコト。[illegible](三)大小便ノカヨヒ。便通。
つう-じ (名) 通事・通詞 (一)古言、ヲサ。外國ノ言語ヲ學ビ知リテ、談合ノ間ニ立入リ、雙方ノ言ヲ相通ジ告グルコト。又、其人。通辯。舌人。象胥 周禮、秋官、司寇、下「掌蠻夷閩貉戎狄之國使、掌傳王之言而諭說焉」[illegible]通事之吏」三代實錄、九、貞觀三年正月廿八日「散位正六位上藤原朝臣春岳、兵部少錄正七位下嶋井連善宗、爲、領渤海客使、通事少目大初位上春日朝臣宅成爲通事」七十一番職人歌合、四十六番、通事「唐大和、シルベスル身ノ、甲斐ゾナキ、思フ中ニハ、言ヒカヨハサデ」支那ノ通辯ヲ唐通事ト書シ、つうぜト云フ。又、德川時代ニ、長崎ニテ、我ガ國人ト阿蘭陀人トノ間ニ、通譯セシモノヲ、阿蘭陀通詞ト云ヘリ。「沖繩通事」おらんだ通詞」又「おらんだ通辯」(二)[illegible]ノ小サキモノ
つうじ-ぐすり (名) 通藥 大小便ノつうじヲツクル藥。クダシグスリ。下劑。
つう-じて (副) 通 行キ亙リテ、ヒキクルメテ。スベテ。アマネク。オシナベテ。
つう-しん (名) 痛心 心ヲ痛ムルコト。心配スルコト。唐書、劉蕡傳「痛心泣血」
つう-しん (名) 通信 音信ヲ通ズルコト。又、オトヅレ。タヨリ。晉書、王濬傳「上[illegible]曰、何[illegible]、通信、[illegible]、[illegible]自可[illegible]」
❖つう-じん (名) 通人 〔達人ノ意〕(一)博識ノ人。モノシリ。學者。史記、田敬仲[illegible]世[illegible]、[illegible]通人[illegible]ハ[illegible]」(二)人情ニヨク通ジ、世故ニナレタル人。俗ニ、善ク他ノ內情ナド察シテ、頑ナ(カタクナ)ナラヌ人ノ稱。野暮ナラヌ人。[illegible]、つうし[illegible]。(京、大阪)すゐ、[illegible]。[illegible]化、藤原守信)「安永ノ頃、[illegible]ノ人アリ、其名ヲ自[illegible]シテ通人ト云フ、云云、忠ト云ヘバ、[illegible]下行[illegible]、[illegible]ト云ヘバ、本[illegible]、[illegible]へ[illegible]三ツ紋、云云、三枚ウラノ八幡黑、云云、穴知ラズノ穴バナシ、[illegible]、[illegible]、[illegible]通人ノ不通ナルベシ」三[illegible]居[illegible]判記、文政、三馬)「通トハ、萬事ニ通達スルヲ云フ故ニ、[illegible]ノ頃マデハ、通り者ト呼ビ來リシガ、明和[illegible]來、通人ト稱シ、其[illegible]、[illegible]人、又ハ[illegible]トト[illegible]、[illegible]、通トバカリ、云云」川柳、通りもの、小袖ノ下へ、[illegible]衣ノ[illegible]」[illegible]通りものハ、テレンモナク、シャレモナシ、カケモナク、ナジミモナシ、云云、行ク者ハ[illegible]ヤボナリ、行カヌコソ通りものナレ」
つう-しかう (名) 通市 [illegible]國ノ人、[illegible]相賣買スルコト。交易。[illegible]公、[illegible]、[illegible]、[illegible]
つう-しゃう (名) 通常 つうれい(通例)ノ條ノ(二)ニ同ジ。
つう-しゃう (名) 通情 世間一般ノ[illegible]テノ人情、又ハ、事情
つう-しゃう-でうやく (名) 通商條約 兩國ノ間ノ通商ニ關シテ、締結セル條約。
つう-じゃう-れいふく (名) 通常禮服 〔大禮服ニ對ス〕燕尾服ノ一稱。卽チ、參賀、敍任御禮、御用召ナドノトキニ着用スルモノ。えんびふく(燕尾服)ノ條ヲ見ヨ。
つう-しょう (名) [illegible] (一)普通ニトナフル名。俗稱。俗名。(名ノ條ヲモ見ヨ)(二)物事一般ノ[illegible]。[illegible]名。[illegible]「[illegible]、一[illegible]十[illegible]、[illegible]之[illegible]田[illegible]此天下之[illegible]也」
❖つう-じる (自動) [illegible] [illegible] [illegible]
つう-じ (名) [illegible] 大小便ノ[illegible]。
つう-せ (名) [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]。[illegible]、[illegible] [illegible] 事務中商ノ取締リスル[illegible]中役ナリ」[illegible] [illegible]
つう-ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(自動、左變)通 (一)カヨフ。トホル。トドク。[illegible] [illegible] (二)[illegible] [illegible] (三)善ク知ル。巧ミナル。習ヒテ精シ。後漢書、董鈞傳「[illegible]古今、[illegible]」「[illegible]二通ず」(三)密通ス。左傳、桓公十八年「齊人(文姜)如齊、齊侯通焉、公謫之」(四)大小便、排出ス。「便、つうず」
つう-ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變)通 (一)[illegible] [illegible]
つう-せい (名) 通性 一般ノモノノ共有スル性質。[illegible]
つう-せう (名) 通宵 ヨドホシ。ヨモスガラ。[illegible] [illegible] [illegible]
つう-せき (名) [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] 宮門ノ出入ヲ許サルルコト。[illegible]
つう-せき (名) 痛惜 イタクヲシム。[illegible]
つう-せつ (名) 痛切 (一)[illegible] [illegible]

楚元王傳「劉向、云云、在位大臣、其言多痛切、發二於至誠一」(三)身ヲイタメラルルホドノ苦痛。晏貫文、備其不遑、可レ爲二痛切一」

つう-せん (名) 通船 カヨヒブネ。河海ヲ往來スル船。

つう-そく (名) 通則 一般ニ通ズル規則、全般ニ適用セラルル法規。共通ノ規則。通規。沈約、立二左降詔一「滅二秩居一官、前代通則」

つう-そく (名) 通塞 通ルト、塞ガルト。轉ジテ、運ノヨキト、惡シキト。幸ト、不幸ト。窮通。窮達。否泰。太平記、廿七、雲景未來記事「上驕タレ下驕ッテ、是非ヲ辨フル事ナシ、然レバ師直師泰ガ安否、將軍兄弟ノ通塞モ知ル難トゾ語リケル」北史、孫惠蔚傳「雖二久滯二小官一、深體二通塞一、無二孜孜之望一、儒者以レ是尙焉」

つう-ぞく (名) 通俗 高尙ナラズシテ、世俗ニ通ズルコト。世間(ヨノナカ)ニカヨフコト。誰ニモ、ワカルコト。「通俗文」通俗ノ體」

つう-たう(ツウ-トウ) (名) 痛悼 人ノ死ヲイタククカナシムコト。哀悼。梁簡文帝、與二劉孝儀一令「但思二痛悼之誠、亦當二何已一」

つう-だつ (名) 通達 (一)告ゲヤルコト。又、シラセ。通知。周禮、地官篇、司徒、掌節「凡通二達於天下一者、必有レ節」(二)習ヒテ精シキコト。造詣深キコト。熟達。禮記、學記篇「知レ類通達、强立而不レ反、謂二之大成一」(三)トドコホリナク通ルコト。莊子、則陽篇「通達之中有レ魏、於二魏中一有レ梁」

つう-たん (名) 痛歎 甚シク歎クコト。

つう-ち (名) 通知 シラセ。沙汰。通報。

つう-ちぼ (名) 通知簿 人ノ動作、及、學業ナドノ狀況ヲ、通知スル簿。通信簿。

づうづう・し(ズウズウ・シ)・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 圖 〔圖太しノ語ノ下略ヲ重ネテ、活用シタルモノ〕恥ヲ知ラヌ。恥ヲ恥トモ思ハヌ。アツカマシ。ヅブトシ。

つう-てふ(ツウ-チョウ) (名) 通牒 書面ヲ以テ告ゲ知ラスルコト。又、其書面。「最後通牒」

つう-てん (名) 通天 又、ツテン。楓ノ一種。下ノ出典ヲ見ヨ。地錦抄(享保、伊藤伊兵衞「つうてん、葉ハ山紅葉ナリ、洛陽東福寺通天橋ノ名木ナリ、通天ノ橋ヨリ見下シテ眺ムル、此ノ種ナルト云フ、秋ノ紅葉、世ニスグレテヨシ」

つう-と (副) モノノ障リナキ狀、又、人ノ注意セヌ内ニ運ブ狀ナドニ云フ語。狂言、三本柱「何カノコトハ入ルマイ、つうと内ヘモチコメ、ゲニモサアリ、ヤヨ」

つう-どく (名) 通讀 ヒトトホリ讀ムコト。始メヨリ終リマデ通シテ讀ムコト。

つう-ば (名) 痛罵 ハゲシク、ノノシルコト。イタク罵倒スルコト。熱罵。世說補(明、李卓吾)「武帝謂二和嶠一曰、我欲ド先痛二罵王武子一、然後爵中之、嶠曰、武子雋爽、恐不レ可レ屈」

つう-はう(ツウ-ホウ) (名) 通寶 (一)錢ノ面ニ鑄付(エツ)クル語。世ニ通用スル寶ノ義。金史、食貨志「更作二通寶一、準レ銀幷用」「寛永通寶」永樂通寶」(二)つうくゎ(通貨)ニ同ジ。唐會要「武德四年、廢二五銖錢一、行二開元通寶錢一」

つう-はう(ツウ-ホウ) (名) 通報 告ゲ知ラスルコト。又、シラセ。通信。通知。報知。

つう-はふ(ツウ-ホウ) (名) 通法 (一)一般ニ通ズル法則。世間ノキマリ。說苑(漢、劉向)「爵レ人干レ朝、論レ人干レ市、古之通法也」(二)數學ニテ、種種ノ單位ニテ表ハサレタル量ヲ、一ツノ單位ニテ表ハスコト。

つう-ふう (名) 通風 カゼノ、フキトホスコト。カゼノトホリ。カザドホシ。カゼドホシ。「通風採光」

つう-ふう (名) 痛風 病ノ名。傷寒毒ノ類。小關節ヲ侵シ、痛ミ急ニシテ、痙攣ヲ起ス。重ニ足ノ拇指ニ烈シキ痛ミヲ起スト、フシイタミ。風患。内科祕錄、四「歷節風、白虎歷節風、痛風。歷節風ハ古名ニテ、金匱要略ニ載ス、後世ニ至リ、痛風ト通稱ス」

つう-ぶん (名) 都聞 都文 又、つぶん。禪宗ノ僧職。都寺(ツウス)ノ下、監寺(カンス)(一寺ヲ監督スルモノ)ノ上ニアリ。僧ノ名ヲ撰ブモノ。庭訓往來、十月「都聞」運步色葉集「都文(ツウブン)(禪家、東班官也)」東福清規「都聞轉位、則令二都寺退一、而都聞立二班其位一、新住持入院、則都聞立二都寺之班一」庭訓往來精注鈔「都管、都聞ハ、共ニ僧ノ名ヲ作ルトキノ諸事ヲ取リハカラフ役ナリ」

つう-へい (名) 通弊 世間一般ノ弊害、一般ニ通ジテ存在スル弊害。通患。

つう-べん (名) 通辯 つうぢ(通事)ニ同ジ。「通辯人」

つう-ぼう (名) 通謀 シメシ合ハセテ、事ヲタクラムコト。「外國ニ通謀ス」

つう-ぼう (名) 痛棒 (一)坐禪ノ際、師ガ心ノ定ラザルモノヲ、打チ懲ラスニ用ヰル棒。(二)嚴シキ叱責ノ稱。

つう-や (名) 通夜 (一)つうせう(通宵)(ショ)ニ同ジ。晉書、佛圖澄傳「通夜不レ寢、恩欲レ見レ澄、澄知二勒意一」(二)つや(通夜)ニ同ジ。

つう-やう(ツウ-ヨウ) (名) 痛痒 痛癢 (一)イタサト、カユサト。(二)轉ジテ、自己ニ及ス利害ノ影響。晉書、范宏之傳「於二下官之身一、有二何痛癢一、而當レ爲二之犯一」「痛痒相關セズ」

つう-やく (名) 通譯 (一)つうぢ(通事)ニ同ジ。(二)ホンヤクスルコト、

つう-よう (名) 通用 (一)雙方ニカヨハシモチヰルコト。兩樣ノモチヰニナルコト、論語、八佾篇、集注「亡、古(字)通用」(二)金錢ノ、世ノ賣買ノ媒ニ用ヰラレ、行ハルルコト「通用貨幣」(三)カヨヒユクコト。トホルコト。通行。「通用門」(四)心ヲ通ハスコト、意ヲ屬スルコト。盛衰記、十九、文覺入定京上事「ヨソ目ニハ、物狂ノ僧トテ、憚ル樣ナレドモ、内心ハ皆通用セリ」

つう-らん (名) 通覽 全體ニ目ヲ通スコト。通見。晉書、范汪傳「少篤學、多レ所二通覽一」

つう-り (名) 通理 一般ニ通ズル道理。唐書、皇甫鎛傳「得レ政據二通理一、不二復作二條敎一」

つう-りき (名) 通力 〔通ハ無礙自在ノ義、力ハ修定ニ因リテ感得スルトコロノ意〕神佛ノ萬事ニ自在ナル不可思議ノ威力。阿毘達磨「若離二通力一」謡曲、鐵輪「責メヲ蒙ル惡鬼ノ神通、通力自在ノ勢ヒ絕エテ」

つう-れい (名) 通例 (一)一般ノ規則。(二)一般ノナラハシ。世ノシキタリ。(三)ヨノツネナルコト。ナミ。通常。

つう-ろ (名) 通路 カヨヒヂ。通行ノ路。晉書、杜預傳「開二楊水道一、推漢通二江陵一千數百里、北無二通路一」李尤、路銘「帝都通路、建國南鄉」

つう-ろん (名) 通論 (一)一般ニ通ジテノ議論。馮衍賦「論二聖哲之通論一兮」(二)世間一般ニ通ジテ定レル議論、公論。

つう-ろん (名) 痛論 手強ク論ズルコト。激シク論ズルコト。

つう-わ (名) 通話 談話ヲ通ズルコト。(電話ニ云フ)「長距離通話」

つう-ゐん(ツウ-イン) (名) 通韻 (一)語學ノ語。五十音圖中、同列ノ韻(ヒビキ)ヲ互ニ通ハシテ用

キルコト。卽チおなじ(同)ヲおやじ。けむり(烟)ヲけぶりト云フ類ナリ。(二)漢詩ニテ、兩韻ヲ互ニ通ハシテ用ヰルコト。卽チ、一東ノ韻字ト、二冬ノ韻字ト、相通ハス類ナリ。

ツェッペリン (名) 「獨逸語、Zeppelin.」 飛行船ノ名。つェッペりん飛行船ノ略」 此船ハ、獨逸ノ伯爵ツェッペリン氏ノ、千八百九十一年ヨリ研究シ始メタルモノニテ、長サ七百七十呎餘、平均馬力ハ五百五十馬力、最大速力ハ一時間八十哩內外ナリ。完成ノ後、世界一周ヲ行ヒ、其日數、二十一日七時間餘ヲ要セリト。

つえ・る (動) つゆ(潰)ノ口語。

つか (名) 塚 〔車塚、兜塚ナドアリ、築城ノ略轉ト云フ」 (一)上代ノ墓、土ヲ高ク盛リテ築キタルモノ。(二)〔泛ク〕墓。倭名抄、十四「葬送具「墓、豆加、塚、墓地也、葬地也、墳、壟、冢塚名也」 萬葉集、九、三十「墓ノ上ノ、木ノ枝ナビケリ、聞クガゴト、チヌ男ニシ、ヨルベケラシモ」 源、四十三、川竹廿「つかノ上ニモ、掛ケ給フベキ、御心ノ程ト、思ヒ給ヘマシカバ」 (三)スベテ、物ノ標ナドニ、土ヲ高ク盛リ築ケルモノ。壠。 倭名抄、前出「つか、塚ヲヨムハ、築ノ義ナルベシ、墳ハ冢ノ高キ也、平日、墓、封日、塚、高日、墳ト見エタリ」「一里塚」

つか (名) 柄 〔劍頭ノ略轉ト云フ、或ハ、束ノ義カ」 (一)刀劍ナドノ柄ノ掴ムベキ處 卽チ、鍔ヨリ上、刀心ノ入レル處 ツカサ。刀欛 長門本、平家物語、十六、一谷合戰事「刀ハ浪平ガ作也、つかニハ桑ニ竹ヲアハセ」 [illegible] (二)筆ノ管。 [illegible] ナラヒテ、腰ニマウケタルつか短キ筆ナド、御車ト [illegible]

つか (接尾) 握 〔掴ム義」 (一)〔四指ヲ合ハセテ握リタル長サノ名。幾握リト度ルニ云フ。束。把 神代紀、上十「十握劍」 古事記、上九「十拳劍」 神代紀、上十五「蛇韓鋤劍、年已長矣、生八掴鬚髯ニ」 古事記、上廿七「八掬須、至于心前ニ」 (二)〔たば(把)ニ同ジ。神代紀、上三十「賤、賀、束、草、以入、乞入家內ニ」 孝徳紀、二年正月「租稻二束」 (三)束柱ノ略。其條ヲ見ヨ。

つか (接尾) 〔ふつつか、あはつか、おぼつかナドノつかナリ」 モノヲ、オボメカシテ云フ語。

つが (名) 栂 とが(栂)ノ條ヲ見ヨ。

つか-あな (名) 塚穴 屍ヲ埋ムルタメニ掘ル穴、死者ヲ葬ル穴 墓穴、壙 壙穴

づ-かい (名) 圖解 (一)圖ヲ示シテ、解キ明カスコト、又、ソノ文言。(二)圖ノ意味ヲ、解キ明カスコト。エトキ。(三)系圖ノ書方ナドニ、主タルモノヨリ線ヲ引キテ、他トノ關係ヲ示スモノ。

づ-がい-こつ (名) 頭蓋骨 頭部ヲオホフ骨ノ總稱。卽チ前頭骨(一箇)、顱頂骨(又、頭頂骨、二箇)、後頭骨(一箇)、顳顬骨(又、側頭骨、二箇)、蝶形骨(一箇)、篩骨(一箇)ヨリ成ル。

つか-いと (名) 柄絲 刀ノ柄ニ卷クニ用ヰル一種ノ組絲。緱 [illegible] 八「[illegible]ウチノ柄絲、ナデ角ノ[illegible]」

づ-かう (名) 塗香 佛道六供養ノ一。佛像、又、行者ノ身ニ香ヲ塗リテ穢ヲ去リ、邪氣ヲ近ヅケヌヤウニナスコト。又、塔ノ壁柱ナドモ塗ルトゾ。 大智度論、九十三 [illegible]

僧ニ」同、三十[illegible] [illegible]服、並塗ニ地獄ニ」

づ-かう (名) 頭香 修驗者ナドノ荒行ノ一。頭上ニ香ヲ焚クコト [illegible] 香ナリトモ、腕香ナリトモ、焚カセラレイ」

つかうど-み (副) ブアイソニ。ジャケンニ。ケンドンニ。ツッケンドンニ。 持統天皇歌軍法(正德、近松作)二「有馬ノアタリ、ココカシコ、ウソウソ覘キ佇ミ、つかうどみ大聲上ゲ」

つかう-まつ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 奉仕 つかへまつる(奉仕)ノ音便。仕ふノ敬語。 [illegible]「[illegible]つかうまつりハカバカシキ[illegible]」 神代紀、下十三「吾當 事 汝爲 奴僕ニ」

つかう-まつ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 仕 〔前條ノ語ノ轉」 爲、爲す、行ふノ敬語。約メテ、更ニ、音便ニ、ツカンマツル。 [illegible]「世ニ、ウハノソラナルヤウニ候ヘドモ、ミヤツカヘつかうまつらムトテ」 竹取物語「モハラ、サヤウノ宮仕へ、つかうまつらジト思フヲ」 源、廿三[illegible]「此和歌ハつかうまつりタリトナム」 拾遺集、五、賀 [illegible]

つか-がしら (名) 柄頭 刀ノ柄ノ頭ヲ包ム金具。略シテ、かしら。 [illegible]

つかさ (名) 高處 〔積聚ナル意ニテ、今、塚ト云フ語モ、此略ナリト云フ」 (一)高キ處。古事記、下[illegible] [illegible] 官ノ、[illegible]ナ刈リソ、在ツツモ、ハルシ來ラバ、立[illegible]

ガネ」同、十[illegible]「[illegible]ノ、山ノ司ノ、色ヅク見レバ」同、十七、三十「足引ノ、山[illegible]野[illegible]」 (二)首長 [illegible] 重立チタルモノ。ツサ。カシラ。首長 [illegible]

つかさ (名) 官司 〔前條ノ語ニ同ジカラムト云フ」 (一)政府ノ政事ヲ掌ル所。官、省、[illegible]、坊、寮、司、監、署、府、[illegible] テ、字ヲ異ニス。役所。官衙。 萬葉集、八 [illegible] チリコスナユメ」同、十六[illegible]、官コソ、サシテモヤラメ、サカシサニ、行キシ荒雄ラ、波ニ袖フル」同、十 [illegible] 竹取物語 [illegible]つかさ [illegible] 役目。勤メ。ヤク。職務。官職 竹取物語 [illegible]

つかさ (名) 柄 つか(柄)ニ同ジ。小大君集 [illegible]

つかさ-ど・る [illegible] 司 [illegible]

つかさ-びと (名) 官人 朝廷ニ勤ムル人。 [illegible]

つかさ-め (名) 柄[illegible] [illegible]

つかさ-めし (名) [illegible] 官符ノ[illegible]

もく（除目）ノ條ヲ見ヨ。 後撰集、三、春、下「ヤヨヒニ閏月アルト、つかさめしノ頃」

つかさ-やっこ（名）官奴 古へ、官ニテ召シ使ヒシ奴婢。賤者ニシテ、罪人ノ妻子ナドヲ之ニ使用セリ。 神功紀、五年二月「貴土以生口、臣久不還、而悉没妻子爲奴」

つか-つか（副）遠慮ナク、勢ヨク大股ニ歩ム狀ニ云フ語。ヅカヅカ。ヅカト。 狂言記、礎石「其ノ大石ヲ、つかつかトイッテ伏シ拜ム」

づか-づか（副）前條ノ語ヲ強メテ云フ語。

つかつみ（名）せり（芹）ノ異名。

づか-と（副）前前條ノ語ニ同ジ。

つかなぎ（名）搯〔つかかなぎ（握搯）ノ略轉〕かなぎ（搯）ノ條ヲ見ヨ。 舒明紀、六年九月「兵書二前星八、故以搯戰、新羅軍破」

つがな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）無束 つがもなし（無束）ニ同ジ。 片倉小十郎宛、將軍侍臣内藤外記狀（寛永中）「少モ御苦勞被成間敷ト、其段ハ能能陸奥守殿御存知ニ候間、人人つがなき事申上テ、御構有間敷候」

つかなみ（名）藁楷〔束並ノ義〕藁ニテ編ミタル敷物。ワラグミ。ネコガキ。ネコダ。 散木集、四、冬「嵐ノミ、絶エヌ深山ニ、住ム民ハ、幾重カケケル、十綟ノつかなみ」 同、九、雜、上「つかなみノ、上ニ夜夜、旅寐シテ、クロツノ里ニ、馴レニケルカナ」 方丈記「束ニソヘテ、ワラビノホドロヲ敷キ、つかなみヲ敷キテ、夜ノ床トス」

づがに（名）津蟹〔常ニ唾ヲ吐ケバ云フトゾ〕蟹ノ一種。河、海、共ニ生ジ、石間ニ棲ム。殼、圓クシテ、緣ニ缺アリ、螯最モ大キクシテ、螯ト脚トノ本ニ、黑褐ナル細毛アリ。食フベカラズ。 毛蟹 大同類聚方、五十三「豆加適」

つか・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ（他動、下二）束〔握ヲ活用セサスル語〕ヒトツニククル。タバヌ。絡ヒ縛ル。結フ。 神代紀、上、二十「素戔嗚尊、結束青草、以爲笠蓑、而」 萬葉集、十六、八長歌「カ黑ナル、髮ヲ眞櫛モテ、ココニカキ垂ル、取リ束ね、アゲテモ纏キミ」「薪ヲ束ぬ」 手を束ぬトハ、コマヌク。又、爲スベキコトナクテアリ。 拱手 束手

つか-の-あひだ（名）束間 つかのま（束間）ニ同ジ。 萬葉集、二十、四十四「大名兒ヲ、ヲチ方ノベニ、刈草ノ、束ノ間モ、吾忘レメヤ」 同、十一、三十九「紅ノ、淺葉ノノラニ、苅ル草ノ、束ノ間モ、吾忘ラスナ」

つが-の-き（名）〔栂ノ古名カト云フ〕又、とがのき。とが（栂）ノ條ヲ見ヨ。 萬葉集、六、十長歌「繁ニ生ヒタル、刀我乃樹ノ（古義）」 同、十七、四十長歌「神サビテ、立テル都我能奇、幹モ枝モ」

つが-の-きの（枕）樛木〔黃楊ノ轉ニテ、常葉ナレバ、繼ぐニ掛ケテ云フトゾ〕彌繼繼ニ、ト云フ語ノ枕詞。 萬葉集、三、二十九長歌「繁ニ生ヒタル、都賀乃木乃、彌繼繼ニ」 同、一、六十長歌「樛木乃、彌繼嗣ニ」

つか-の-ま（名）束間〔一握程の間ノ意〕シバシノアヒダ。シバシノホド。シバラク。チョット。ツカノアヒダ。 霎時 萬葉集、四、四十四「夏野行ク、牡鹿ノ角ノ、束間モ、妹ガ心ヲ、忘レテ念ヘヤ」 散木集、四、冬「つかのまニ、積ル網代ノ、コノ葉ニテ、日ヲ經テヨラン、程ヲ知ルカナ」

つかはしめ（名）神佛ノ使役スルト云フモノ。（比叡ノ猿、熊野ノ烏、稻荷ノ狐、八幡ノ鳩、春日ノ鹿ノ類）又、ツカヒ。 三島宮御鎭座本緣「白鷺、三島使女云」 天王寺御靈記「鵄ノつかはしめ」 和漢三才圖會、七十一、地部「近江國、日吉山王權現、天智天皇御宇、始鎭座、云云、以猿爲使者、耐傍資之」

つか-ばしら（名）束柱〔握むノ義、短クシテ、握ミテ度ルベキ意〕梁ト棟トノ間、又ハ、緣側ノ下ナドニ立ツル短キ柱。今、專ラ、略シテ、束。 倭名抄、十四、居宅具「束柱、豆加波之良」 著聞集、十七、變化「或ハ緣ノつかばしらノカクレ、或ハ長押、垂木ノ間ナンドニ」

つかは・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）遣〔使ふノ延ト云フ〕（一）他ヘ送ル。遣ル。贈物トス。此語、他ヨリ我ガ方ヘ致スルニモ云フ。 名義抄「遣、ツカハス、マタス、ヤル」 後撰集、三、春、中「オモシロキ櫻ヲ折リテ、友ダチノつかはしタリケレバ」 新古今集、十六、雜、上「月明ク侍リケル夜、人ノ、螢ヲ包ミテつかはしケレバ、雨降リケルニ、申シつかはしケル」 同、十八、雜、下「マダ淸書モセヌ本ヲ、つかはし侍リケルヲ、見テ返シつかはすトテ」（他ヨリ致スル方ナルハ、次條ノ敬語ノ方ナラムカ） （二）上ヨリ下ヘ與フ。賜フ。與ルル。 下賜

つかは・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）遣 使ふ、遣るノ敬語。遣リ給フ。此語、語體、既ニ敬語ナレバ、下ニ、給ふヲ添フルコトナシト云フ。 推古紀、廿年正月「大君ノ、兎伽破須羅志枳」 古事記、下（仁德）「天皇ノ所使之妾者」 伊勢物語、七十七段「御隨身舍人シテ、取リニつかはす」 古事記、中（景行）九、四十「擊遣」 同、上、五十四「天照大神、高木神之命以、問使之」 萬葉集、五、三十一長歌「オホミコト、イタダキモチテ、モロコシノ、遠キ境ニ、つかはさレ」 同、十九、六三十長歌「住吉ノ、三津ニ船ノリ、タダ渡リ、日ノ入ル國ニ、つかはさル、我兄ノ君ヲ」 同、二、二十五長歌「神宮ニ、カサリマツリテ、つかはしシ、朝廷ノ人モ」 古今集、序、左注「葛城ノ王ヲ陸奥ヘつかはしタリケルニ」

つかひ（名）使（一）ツカフコト。モチヰ。（二）他ヘ送リ遣リテ、用事ヲ辨ゼシムル者。使者。 古事記、下（允恭）二十二「アマ飛ブ、鳥モ都加比ゾ」 萬葉集、十五、三十長歌「袖ニハ入レテ、歸シヤル、都可比ナケレバ、持テレドモ、シルシヲナミト、マタモキツルカモ」 （三）つかはしめニ同ジ。 和漢三才圖會、二十八、鷹、鹿、猿、春日神使、奈良八重、多卿鳩上ハ八二」 （四）〔メシツカヒ。ソバメ。妾。 竹取物語「御つかひトオハシマスベキカクヤ姬ノ」 宇津保物語、藤原君「妻モマウケズ、つかひ人モツカハヌ人アリ」

つがひ（名）番（一）番フコト。組ムコト。 名義抄「番、ツガヒ」 欽明紀、十四年六月「遣内臣使於百濟、云云、勅云、所請軍者隨王所須、別勅、醫博士、易博士、曆博士等、宜依番上下、今上件色人、正當相代年月、宜付還使相代」 （二）番ヒタルモノ。クミアヒ。ツギメ。フシ。骨節。 關節「腰ノ番」 （三）禽獸ノ牝牡一對。 匹偶 源、四十四、橋姬「池ノ水鳥ドモノ、云云、つがひ離レヌヲ羨マシク眺メ給ヒテ」 檜垣嫗集「一つがひ、ナラハサリケル、鴛鴦ノ、ミヅカラ來タル、モノト知ラナム」

つかひ-がら（名）使柄 使者ノ品ト樣。 平治物語、三、頼朝遠流に宥めらるる事「一ツハ使がらト申ス事ノ侍レバ」

つかひ-こな・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）用ヰ難キヲ、善ク用ヰル。巧ミニ使フ。工夫シテ用ニ立タス。 活用 運用

つかひ-ざね（名）使眞〔さね（實）ノ條ヲ見ヨ〕使ノ中ノ宗ト重キ人。ツカヒノヲサ。 正使 伊勢物語、六十九段「つかひざねトアル人ナレバ、遠クモ宿サズ」

つかひ-ずたり（名）遣廢 過度ニ消費スルコト。ツカヒスゴスコト。 消耗

づかひ-すて（名）遣捨 カケナガシニスルコト。少シ遣ヒタルノミニテ捨ツルコト。 好色一代男（天和、西鶴）七「つかひずての新シキ道具モ、所ニヨリテ面白シ」

つかひ-だち（名）［遣太刀］祝儀ノ禮物トスル太刀。眞ノ太刀ニハアラズシテ、假初ニ作リタルモノ。當代記、慶長十六年四月二日「右兵衛主常陸主、大阪秀頼公ヘ爲二禮謁一云云、御太刀一腰（注、遣太刀也）」

つかひ-で（名）遣出　金銭ナドヲ遣フニ、餘分ノアルコト。略シテ、で。

〜つかひ-と（名）［資人］〔つかひびとノ略〕つかひびと（資人）ニ同ジ。志ぶん（資人）ノ條ヲモ參見セヨ。[illegible]守屋大連資人捕鳥部萬」持統紀、十年十月「賜位右大臣丹比眞人、資人一百二十人」

つがひ-の-ぬけ（名）〔つがひ（番）ノ條ヲ見ヨ〕骨節ノ脱スルコト。脱臼。

つがひ-ば（名）［番葉］ムキアフ葉。相互ニ偶スル葉。對生スル葉。聖徳太子繪傳記享保、近松作「眞立花「正眞ハ水仙ニ、陰ト陽トノつがひ葉ハ、爰ニ口傳ト岩戸ヲ表シ」

つかひ-ばん（名）［使番］（一）戰國時代ニハ、本陣ノ號令ヲ、諸陣ニ傳フル役。傳令使。又、使者ノ事ヲ掌ル役。信長記、三、姉川合戰之事「合戰ノ次第、御使番ノ者ニ、急度仰渡ラルルニ、諸卒ハ心得ズガホ也ケレドモ、御下知ナレバ、悉ク西ヲ指テ勢ヲ押廻シケル」松隣夜話、下「謙信公ハ、日頃ニ相替リ、人數ヲモ掛玉ハズ、亂レタル諸軍ヘ、各使番一手ニ三人宛遣ハサレ」（二）江戸時代ニハ、合戰ノトキ、軍中使命ノ職ニ從事シ、平素ハ、將軍ノ代替リ毎ニ、諸國ヲ巡廻シテ、大名ノ治績動靜ヲ視察シ、或ハ幼稚ナル大名ヲ後見監督シ、或ハ城請取渡ノ時ニ臨監シ、又、二條、大阪ナドノ要地ニ、目付トシテ出張シ、遠國諸役人ノ能否ヲ考察シ、其他、江戸市中ニ火災アル時ハ、火勢ヲ視察シテ之ヲ報告シ、及、目付ト共ニ、大名[illegible]ノ消防夫ヲ指揮シ、又ハ、定火消、火事場ニ於ケル動靜ヲ考察シ、[illegible]ナドノ諸勤務ヲナス役。若年寄ノ支配ニ屬ス。[illegible]（三）江戸將軍家ノ大奧ノ女中、其職名、古今、多少沿革アリ、其階級モ亦[illegible]ズ。使番ノ如キハ、大奧ニテ使ヒ是レト使マナスモノナレバ、中等級ノモノナリ。此モノノ頭ヲ、御使番頭ト云フ。[illegible]付ト同様也、御中老江昇ル」

つかひ-びと（名）［使人］（一）使ヒスル人。使者。相模集「つかひびとヲトドメテヨメル」（二）〔召使フ者〕メシツカヒ。源、十五、蓬生ハ「コノ君ヲ、ワガムスメドモノ、つかひびとニナシテシガナ」枕草子、五、四十八段「開キ居タルヲモ知ラデ、人ノ上イヒタル、ソレハ、イカバカリナラン、つかひ人ナレド、カタハライタシ」

〜つかひ-びと（名）［資人］官位高キ人ニ、朝廷ヨリ賜ハリ、其使役ニ供シタル人。略シテ、つかひと。萬葉集、五[illegible]資人金明軍不レ勝二犬馬之慕心一中二感緒一作歌」

つがひ-まひ（名）［番舞］雅樂ニテ、左方ト右方ト、[illegible]奏スル舞。たふぶ（答舞）ノ條ヲモ見ヨ。樂家錄、三十六「舞樂有二番舞一也、其法、[illegible]」

[illegible]

つかひ-みち（名）［使途］（一）使用スル方法。つかひかた。使用法。（二）使用スル[illegible]ニ遣スル場所。つかひどころ。用途。

つかひ-め（名）［使女］召使ノ女。[illegible]メ。ミヅシメ。下女。下婢。

つがひ-め（名）［番目］番フ處。組合。部[illegible]アハセメ。關節「骨ノ番目」

つかひ-もの（名）［遣物］人ノ許ニ遣シ贈ル物。[illegible]進物。贈遺。贈賄

つかひ-やつこ（名）［使奴］[illegible]ミモベ。下人。下男。家僕。僮僕

つかひ-わけ（名）［遣分］モノノ[illegible]ヘテ、コレヲ用ヰルコト。又、巧ニ使用スルコト。

つか-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［使遣］（一）役ニ立テムト用ヰル。動カシ扱フ。[illegible]使用。[illegible]六十二年五月「[illegible]」同、六十五年「四手[illegible]」竹取物語「野山ニマジリテ竹ヲ取リツツ、萬ノ事ニつかひケリ」[illegible]（二）召[illegible]トス。伊勢物語、六十二段「人ノ國ナリケル人ニつかはレテ」竹取物語、かぐや姫の天子の召しに「己ガ身ハ此國ニ侍ラバコソ、つかひタマハメ」[illegible]へリケリ」榮花物語、二、花山「大臣ト云フ人ノ、つかひツケサセタマヒテ」（三）行フ。[illegible]

「手品ヲ使フ」魔法ヲ使フ」「傀儡ヲ使フ」（四）俗ニ、[illegible]

〜つか-ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（自動、下二）［事仕］〔使はるノ約ト云フ〕（一）謹ミテ尊長ニ侍リテ、其用ヲナス。目上ノ人ノタメニ[illegible]閒ニ、樂隊、つかふる時ニ」同、十八「[illegible]八十氏人モ、日シス川、タユルコトナク、都可倍牟ツツ[illegible]ニ朝ヘテ職ヲ行フ。仕[illegible]十八[illegible]長歌[illegible]可布流國ノ」同、同[illegible]長歌[illegible]仕ヘ[illegible]

つか-ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（自動、下二）［支閊］〔衝くヲ延ベテ自動トス〕（一）妨ゲアリテトホラズ。障ル。サシツカフ。[illegible]（二）病ガ起ル。痞

つか-ふ（名）［都合］〔手當ノ略轉ニテ、字ハ假借ナリト云フ〕（一）手當ヲ調フルコト。テツヅキ。「都合ヲスル」都合ガヨイ」都合ガワルイ」（二）ヤウス。グアヒ。ナリユキ。ソノ時ノ都合[illegible]

つが-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［番］〔[illegible]合フノ約、或ハ云フ、次ぐノ延〕（一）二ツノモノ相合フ。組合フ。對ヲナス。匹偶。[illegible]

つが-ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［番］（一）番ノヤウニナス。組合ハス。（二）弦ニ當テハム。[illegible]

ル、信州川中島合戰（享保、近松作）二「一國ノ大名ノ番ひシ詞、失念ハアルマジ」「言葉ヲ番ふ」

つが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）〔繼〕〔つぐノ延、ほぐ、ほがふ。なげく、なげかふ。むく、むかふト同趣〕引キツヅキツグ。萬葉集、十三、廿長歌「萬代ニ、語リ都我部ト、始メテシ、此ノ九月ノ、過マクヲ」同、五、二十一長歌「コトダマノ、サキハフ國ト、語リツギ、イヒ都賀比ケリ」

つがふ（副）〔都合〕スベアハセテ。數ヘ締メテ。總計シテ。全部デ。保元物語、一、新院御所各門門固事「父子五人、並ビニ多田藏人大夫賴憲、都合二百餘騎ニテ固メタリ」

つかぶくろ（名）〔柄袋〕刀、又ハ、脇差ノ柄ヲ被フ袋。多クハ、鍔マデ掛ケテ被フ。雨、雪、又ハ、旅行ノ時ナドニ用ヰル。日本永代藏（元祿、西鶴）二「中脇指ニ柄袋ヲハメテ」

つかぶな（名）〔束鮒〕一束ホドアル鮒ナリト云フ。もぶしつかぶな（藻伏束鮒）ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、四、三十九「奧ヘ往キ、邊ニユキイマヤ、妹ガタメ、ワガスナドレル、モブシ束鮒」

つかふまつ・る（動）〔仕〕つかうまつる（仕）ノ誤。其條ヲ見ヨ。

つかへ（名）〔仕〕ツカフルコト。官ニ就キテアルコト。仕官。「仕ノ道」仕ヲ辭ス」

つかへ（名）〔支閊〕(一)ツカフルコト。トドコホリ。フサガリ。ササハリ。サシツカヘ。牴牾　(二)苦ミ、胸ニ迫リテ、塞ガル如キ感ヲナスコト。痞。信州川中島合戰（享保、近松作）衛門娘道行「戀瀨ノ思ヒノ痞ヘモ下ガリ、落チツキマシタト云フ折シモ」

つかへどころ（名）〔仕所〕(一)仕フル所。又、仕フルニ、適當ナル所。(二)古ヘ、院ノ廳ニテ、院ニ仕ヘシ無位無官ノ人ノ伺候スル所。又、其無位無官ノ人。紀略、後篇、三、天曆元年五月三日「朱雀院定主典代、仕所、御書所別當等」(三)轉ジテ、仕丁、雜人ヲ掌リシ所。

つかへのよぼろ（名）〔仕丁直丁〕(一)志ちゃう（仕丁）ニ同ジ。孝德紀、大化二年正月「凡仕丁者改舊每卅戶一人、而每五十戶一人、云云」(二)當直ノヨボロ。雄略紀、十一年十月「信濃國直丁與武藏直丁侍宿」

つかへまつ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔奉仕〕仕ふノ敬語。仕へ奉ル。專ラ、音便ニ、ツカウマツル。天治字鏡、十二、廿五「祗承、豆加戶萬豆留」華嚴經私記音義「事、仕奉也」萬葉集、十七、三十二「降ル雪ノ、白髮マデニ、大皇ニ、都可倍麻都禮バ、貴クモアルカ」雄略紀、十二年十月「天皇ニ、堅ク都柯陪麻都羅武騰、我ガ命モ、永クモガト、イヒシタクミハヤ、アラタタクミハヤ」

つかへまつ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔奉仕〕造リタテマツル。作リマヰラス。造營シ奉ル。萬葉集、十九、四十四「天地ト、相榮エムト、大宮ヲ、都可倍麻都禮バ、貴クウレシキ」大殿祭祝詞「造奉仕れる瑞ノ御殿」古事記、中（垂仁）十四「仕奉假宮而坐」萬葉集、十三、廿九長歌「大殿ヲ、都可倍奉テ、殿隱、隱リイマセバ」遷奉太神宮祝詞「廿年爾一遍比大宮新仕奉氐」

✣✣つか・へる（動）事ふ、又、支ふノ口語。

✣✣つが・へる（動）番ふ（下二）ノ口語。

つかまつりびと（名）〔仕人〕スベテ、上ニツカフル人。ツカヘビト。宇治拾遺、九、第四條「ケフヨリハ、ナガクタノミマヰラセムズルナリ、つかまつりびとトナリタレバ」

つかまつ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔仕〕つかうまつる（奉仕）ノ約。つかふ（仕）ノ敬語。神武卽位前紀、十五「吾以饒速日命爲君而奉焉、夫天神之子、豈有兩種乎」

つかまつ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔仕〕つかうまつる（仕）ノ約。爲、爲す、行ふノ敬語。名義抄「仕、ツカマツル」宇津保物語、藤原君、二十「カシラ白キ女水汲ム、女童一人オ物ホリつかまつる」同、祭使、廿「御神樂ノ召人、催馬樂つかまつるべキ右近尉松方」

つかまへぼ（名）〔捉坊〕童女兒ノ遊戲。おにごと（鬼事）ニ同ジ。

つかま・へる・ヘル・ヘレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）〔摑むノ延〕とらふ（捕）ニ同ジ。ツラマヘル。捉。用明天皇職人鑑（寶永、近松作）四「風ヲつかまへるヤウナ、トンデモナイ問ヒヤウカナ」

つかまりだち（名）〔捉立〕幼稚ノ小兒ノ、戶障子ニ捉マリテ、辛ウジテ立ツコト。

つかま・る（動）〔摑むノ延〕つらまるニ同ジ。

つかみあひ（名）〔摑合〕ツカミアフコト。素手ニテ鬪フコト。紛拏

つかみあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）〔摑合〕互ニ摑ミテ鬪フ。素手ニテ鬪フ。徒手ニテ、打チアフ。相拏攫。平家物語、五、文覺荒行事「左右ノ手ヲ取ノテ、引上ゲントシ給ヘバ、サンザンニ摑合ウテ上ラズ」淀鯉出世瀧德（寶永、近松作）上「男思ヒノ女房ト、主思ヒノ男ト、誠餘リテ摑みあひ、女夫イサカヒ犬食ハヌ」

つかみかか・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔摑掛〕他ノモノニ、ツカミツク。萬葉集、四、四十五「戀ハ今ハ、アラジト吾ハ、念ヒシヲ、イヅクノ戀ゾ、つかみかかれル」

つかみざし（名）〔摑差〕大小二本ノ刀ヲ左手ニ摑ミテ差スコト。天和笑委集、八、上野花見「ヨシヤ風俗つかみざし」（町奴ノ吉尾組）好色三代男（貞享、西鶴）二「撫谷笠、大小ノつかみざし、いづれ都男ニカハリ風俗」

つかみどり（名）〔摑取〕アラアラシク、摑ミテ取ルコト。源氏烏帽子折（元祿、近松作）三「大判小判ノ摑み取りト、山モ見エメ胸算用」日本永代藏（元祿、西鶴）二「ソノ分際ホドニ富メルト云云、今コノ後ニ摑み取りハ無シ」

つか・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）〔摑〕〔爪嚙むノ略カト云フ〕襲ヒ握ル。抑ヘムト取ル。捽　攫　萬葉集、十六、十五「家ニアリシ、櫃ニカギサシ、ヲサメテシ、戀ノ奴ノ、束見カカリテ」

つかんまつ・る（動）〔仕〕つかうまつる（仕）ノ音便。景行紀、四年二月「形姿穢陋、久之不堪於掖庭」江家次第、五、十「所掌奉仕」神功紀、五十年五月「雖逮萬世何年非獻」

つがもな・い（形）〔無束〕〔次條ノ口語〕(一)オボツカナシ。タワイナシ。ムチャナリ。寰被輪（寶曆、方鏡樓千梅）二「つがもない、物事缺ニ用ラレ、急ナ店カヘ、座頭跡目」今宮心中（寶永、近松作）上「サキモ一所ニ二郎兵衛ト連レダッテ參ノタカ、アアつがもない」下手談義（寶曆）二　靑を袋るに「サテモサテモ見事ナ御細工、シヤル時ハ、痛ミマシタデ御座リマショ、ハテ、つがもない、ソンナ事デ刻ラルルモノカ、是レガ、キホヒノ表道具」文化の川柳「つがもなく、利ク筈藥、灸ナリ」（團十郎交）(二)他ヲ卑シメ、又ハ、侮リテ云フ語。或ハ、惡少年等ノ誇ルヤウノ事ニ用ヰル語。又、つがもねえ。バカバカシ。バカラシ。「長町女腹切（正德、近松作）上「ソナタハ牛七ガ女房カ、ハアつがもない、私ハ大阪者、牛七ガ伯母デゴザリンス」東海道中膝栗毛（文化、一九）七編、上「オイラヲ狐附タア何ノコッタ、江戶ッ子ダゾ、つがもねえ」文化の川柳「つがもねえ、ハネタ道ノ出ル、飾海老」（正月、市川海老藏）

つがもな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）〔無束〕又、つがなし。ツマラヌ。タワイナシ。ワケモナシ。クダラナシ。吉原雜話（天明）「五六十年モ昔ノ事ヲ思ヘバ、つがもなく馬鹿ナル

事ノミ多ク、タハイモナキ遊興ノ費モアリケリ」

❖**つか・ゆる** (動) つかふ(支)ノ口語。

〜**づから** (接尾) 〔之自ノ義〕 名詞ニ添ヘテ副詞トシ、自、又、從、ノ意ヲナス語。萬葉集、五十長歌「一ツノ石ヲ、世ノ人ニ、示シ給ヒテ、萬世ニ、イヒツグガネト、云云、コフノ原ニ、御手づから、置カシ給ヒテ」「己づから」「身づから」「心づから」

つからか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 疲 (一)次次條ノ語ニ同ジ。平治物語、一、惡源太上洛事「信頼、義平ガ中マ狀荒儀ナリ、其上、安部野マデ馬ノ足疲かしテ何カセン」 (二)轉ジテ、缺乏セシム。疲弊セシム。太平記、十六、正成下向兵庫事「兩方ヨリ京都ヲ攻メテ、兵粮ヲつからかし候程ナラバ」

〜**つから・し・シキ・シケレ・シク・シク** (形、二) 疲 疲レタル狀ナリ。續紀、四、慶雲四年七月、詔「朕御身勞坐、故暇間得而」同、三十、神護景雲三年十月、詔「朕波御身都可良之久於保麻之麻須爾依天」又、名詞形ニ用ヰルコトアリ。萬葉集、二十六「見マクホリ、吾セシ君モ、アラナクニ、奈ニ何カ來ケム、馬疲ニ」

〜**つから・す・ス・セ・サ・シ・セ**(他動、四) 疲 疲レシム。ツカルルヤウニス。

つがり (名) 連鎖綴 (一)聯綴ルコト。舞人ノ摺袴ニつがり組アリ、スザリ。新六帖、六「今朝ハマタ、誰着テ見ヨト、藤袴、玉貫ク露ノ、つがりシツラム」兵範記、保元三年三月「石清水臨時祭舞人、摺袴皆立津加留也」 (二)〔鏈ノ轉〕鐵ツガリ、組絲ニテ鎖ノヤウニ纏フ。(袋ノ口ナド) 組カガル。鎖 倭名抄、十三、刑罰具「鎖、賀奈都加利」名義抄「鎖、カナツガリ、クサリ」仁德紀、四十一年三月「百濟王[illegible]」[illegible]茶人袋ノこゝニモモタチヲ、イロイロニ組ミタル絲シテツガリタリ、つがりヤウナラフベシ」 (三)今、茶入袋ナドニ、口ヲ鏈ノ如ク作レルモノ。又、絲ニテ綴リ作レル袋ヲモ云フ、共ニ訛シテ、すがりトモ云フ。

〜**つがり・ぐさ** (名) 秦芁 〔鎖草ノ義〕 支那、秦州(今ノ甘肅省、天水縣)ノ產ヲ良トス。故ニ名ヅク」又、はかりぐさ。苗、葉、げんのしようこニ似テ、高サ四五尺、夏秋ノ交、紫花ヲ開ク、葛ニ似タリ、實ヲ結ブ。根、皆、網ノ如ク相交ル。根ハ赤色ニシテ、其莖、樹皮、根ナドヲ藥用トス。倭名抄、廿草類「秦芁、一云、波可里久散」本草和名、上廿「秦芁、一名秦膠(蘇敬注云、字或作〻利、或作〻糺、正作〻芁)都加利久佐、一名、波加利久佐」

づかり・と (副) 又、ズカリト。すかりとニ同ジ。

つか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 漬 〔漬けらるノ約轉、棄にらる、すたるト同例〕 (一)ウルホフ。浸ル。榮花盛衰記、卅卷「宇治ノ河瀨ニ行キテ、三七日漬かれト、示現アリ」 (二)漬ケテ熟ス。

〜**つか・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ**(自動、下二) 疲勞 〔使はるノ約ヨリ轉ジタル語カ、或ハ云フ、唾涸るノ義カト〕 體ニ氣力ヲ失フ。勢無クナル。クタビル。ヨワル。字鏡「[illegible]」「僨、疲也、勞也、豆加留」(古義ノ訓) 同、七廿八「春日スラ、田ニ立チ疲る、君ハアハレ、若草ノ、ツマナキ君ガ、田ニ立チ疲る」蜻蛉日記、中、上廿「ヲサナキ人ヒトリ、つかれタル面ニテヨリキタレバ」[illegible]ヒ立ツ者分ニハ、少シ水ガナウテモ田ガ疲れ(ヨワルノ意)マスルニ依ッテ、隨分精ヲ出ス事デゴザル」

〜**つが・る・ル・レ・ラ・リ・レ**(自動、四) [illegible] 〔番ふト通ズト云フ、或ハ云フ、連續るノ略カト〕 (一)相繫リ連ル。ツヅル。貫ル。萬葉集、九[illegible]同、十八[illegible]ヒテ、鳩鳥ノ、二人並ビ居」(伊ハ發語)

つがる・いし (名) 津輕石 陸奧國、津輕地方ヨリ產スル瑪瑙、琥珀ニ似タリト。

つがる・ぬり (名) 津輕塗 一名、紋漆。陸奧國、弘前市ヨリ產ズル漆器。中塗ノ上ニ、絞漆ニテ、種種ノ模樣ノ凹凸ヲ作リ、幾回モ彩漆ヲ塗リテ仕上ゲ、紅、黄、綠、黑等、混看シテ、文彩ヲ亂ノ如ク、鮮美ニシテ、堅固ナリ。俗ニ、ばかぬり。

つがる・ふえ (名) 津輕笛 びやぼん(琵琶笛)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

つがる・めなう (名) 津輕瑪瑙 玉髓ノ類。うづらいし(鶉石)ニ同ジ。

つかれ (名) 疲勞 ツカルルコト。クタビレ。ヨワリ。新六帖「草ニ入ル、疲れノ鳥ヲ、カリタテヨ、カタ野ノミ野ハ、今日暮レヌトモ」

つかれ・ごひ (名) 疲乞 [illegible]疲レ果テテ、食ヲ乞フコト。太平記、三十三、飢人投身事「中門ノ前ニイミテ、つかれ乞ヲゾシタリケル」

❖**つか・れる** (動) 疲 つかる(疲)ノ口語。

つき (名) 月 〔大ノ義、[illegible]、日ニ對シ、ノ意〕 (一)[illegible]衛星ノ名。我ガ地球ニ常ニ從ヒ、相離ルルコト、約十萬里[illegible]、直徑、八百八十六里許、二十七日七時四十三分十一秒餘ニテ地球ヲ周リ、同ジ日數ニテ自轉シ、又、地球ト共ニ、一年ニテ、太陽ヲ周ル。太陽ノ光ヲ得ル時ニ因リテ、地球ヨリ、新月、滿月ノ晦明ヲ見ル。ササラエヲトコ。ツキヒトヲトコ。カツラヲトコ。[illegible] 嫦娥 [illegible]

つき (名) 月 (二)一年ヲ十二分シタル[illegible]。太陰曆ニテ、凡ソ月ノ朔ヨリ晦ニ至ル間ニテ、三十日、乃至、二十九日(およみノ條ヲ見ヨ)[illegible]四月、六月、九月、十一月ヲ三十日トシ、他ノ月ヲ三十一日トス。但シ二月ハ平年、二十八日ニテ、四年(閏年)毎ニ一日ヲ加フ。[illegible]

〜**つき** (名) 調 〔續ギノ義、供給ノ意ト云フ[illegible]〕[illegible]ノ物ヲ收スル故ナリ[illegible]物ヲ、下ヨリツケテ奉ルコト。[illegible]みつぎトモ云フ。[illegible]

つき (名) 槻 [illegible]

~つき（名）坏 杯 〔十器ノ、高坏カト云フ、土杯ノ合字。〕貝合ナド、陶瓦木レ（焼物）ノ「坏」〕物ヲ盛ル器ノ名。古ヘ、専ラ土器ナリ、後ニハ、種種ノ製ナルニモ云フ。スキ。萬葉集、三「験ナキ、物ヲ念ハズハ、一坏ノ、濁レル酒ヲ、飲ムベクアルラシ」源、三十二、梅枝「沈ノ箱ニ、瑠璃ノつき二ツスヱテ、大キニマロガシツツ入レ給ヘリ」「酒坏」「高坏」「片坏」

つき（名）さいで（裂帛）類ナリト云フ。加茂保憲女集「…ノ衣、木ノ葉ノつきニシテ」

~つき（名）机 ツクエ。古事記、下（雄略）十四「ユフトニハ、イヨリ立タス、ワキ豆紀ガ、下ノ板ニモガ」

~つき（名）鴇 䳄 桃花鳥 〔鴇ハ國字〕鳥ノ名。又、とき。たう。とき（桃花鳥）、攷、たう（鴇）ノ條ヲモ見ヨ。倭名抄、十八、羽族、名「…、豆木、俗用一鴇字、桃花鳥、紅鶴一字鏡…、…、豆支、又、太宇」…記、中、廿六…、…、桃花、…、安寧紀、元年十月「倭桃花鳥田丘上陵」

~つき（名）槻 〔強木ノ略カト云フ〕落葉喬木ノ名。けやきノ類、甚ダ相似テ、葉ノ刻缺多クシテ細カク、木理、縦横ニシテ、けやきノ木理ノ縦ナルト異ナリ。古ヘ、弓ノ材トセリ。ツキノキ。ツキゲヤキ。ツク。倭名抄、廿、木類「槻、豆木乃木、堪作弓也」字鏡…「槻、豆支」神功紀「伐ニ新羅ニ之明年三月「苑區弓ニ、末利郡ヲタグヘ」皇極紀、三年正月「偶預ニ中大兄於法興寺槻樹之下、打毱之侶ニ」播磨風土記、揖保郡、邑智驛家「…槻折山、…山以ニ…弓ニ射…猪、弓折、故名ニ槻折山ニ」

~つき（接尾）付 名詞ニ添ハリテ、其容子ノ意ヲ表ハス語。スガタ。狀 源、二、帚木「…手つき、口つき、皆タドタドシカラズ」枕草子、一、第三段「鳥、蟲ノ額つき、イトウツクシウテ、トビアリクヲカシ」「顔つき」「腹つき」「眼つき」「歩キつき」

つぎ（名）次 （一）次グコト。後ニ付クコト。スギ。「次ノ日」「次ノ年」「次ノ事」「次ノ品」「次ノ官」（二）江戸時代、旅路ニテ、馬、又ハ、駕籠ニ乗ルトキハ、或ル宿場ヨリ或ル宿場ニ行キ、ソコニテ、馬ナリ駕籠ナリヲ、次立スルヨリ、宿場ヲ云フ稱トナレリ。驛。「東海道五十三次」「花街篇五十三驛」

つぎ（名）繼 （一）〔接グコト〕ツヅクコト、合ハスルコト。萬葉集、七…「ミモロノ、ソノ山ナミニ、兒等ガ手ヲ、巻向山ハ、繼ノヨロシモ」（二）〔世繼〕家督スベキ子。繼嗣 源、三十四、下、若菜、下「つぎノ君トナラセ給フヘキ皇子オハシマサズ」狹衣、四、下「三年頃モ、つぎノオハシマスマジキニヤト」（三）故衣ノ破レムトスル所ニ、他ノ布帛ヲ當テテ、綴リ補フコト。補綴 東海道名所記、萬治「カミ衣、キツツヤレニシ、つぎシアレバ、針メキレヌル、タチヲシゾ思フ」「つぎヲアテル」

つき-あかり（名）月明 月ノ光。月影。

つき-あが・る（動）つけあがる（附上）ニ同ジ。得隴望蜀

つき-あげ-ど（名）突上戸 戸ノ上ニ、蝶番、又ハ、壷金ナドヲ附ケ、閉鎖スレバ、ソレガ垂レ下グルヤウニ作リ、晝ハ、斜ニ棒ニテ突キ上ゲテ、庇ノ用ヲナサシムルモノ。ツキアゲビサシ。アゲビサシ。活蒼

つき-あげ-びさし（名）突上庇 前條ノ語ニ同ジ。

つき-あげ-まど（名）突上窓 （一）常ノ窓ノ戸ヲ蝶番ニテ垂レ、突上戸ノ如ク、棒ニテ外へ突上グルヤウ作リタルモノ。筆の靈、後篇、十三「窗ノ戸ヲツキ上テ、卽ガテ日掩ニ備ル物ヲ、今つき揚げ窗ト云ヘリ」大工書、坤、座鋪張付之事「一、欠込之突上窗、中ニテ垂木ヲ夾、一コマ切、脇之エツリ振リ分ケ6三分宛除テ、窓之中一コマニ成ル如ニ切ル也、一コマト云ハ、壹尺五寸七歩半ノ事也」（二）屋根ヲ切リ取リテ、明リ取リトナシタルモノ。茶道早合點、上、茶室「突上窓、テンマドナリ、尺八竹トテ七寸二三分ナリ、又鴫ノハシトテ木ニテモ作ル」茶道筌蹄、一、小座鋪之部「突揚窓、北向道陳ノ好トモ、居士ノコノミトモ云フ也、オモヤノ雪ヲ見ルタメニ、道陳つき上げ窓ヲコノムトモ云ヘリ、窓上ゲノ木ハ萱ブキニ用ユ、長短トモ杉ノ角」

つぎ-あし（名）承足 ミダイ。志うそく（承足）ノ條ヲモ見ヨ。江戸次第、一、正月、小朝拜事、注「幼主時、御倚子前、置ニ承足ニ」

つき-あたり（名）突當 （一）ツキアタルコト。行キ合ヒテ、相當ルコト。衝突（二）ユキアタリ。「路ノ突當」

つき-あた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）突當 行キ合ヒテ相當ル。ユキアタル。衝突

つき-あはせ-ぎんみ（名）突合吟味 原告ト被告ト、雙方ヲ對坐セシメテ、吟味スルコト。對審。對決。對理。

つき-あひ（名）付合 （一）ツキアフコト、互ニ付クコト。（二）交リ。交際 交接 甲陽軍鑑、七、品第十六、喧嘩仕置之條「第一、諸人ノ付合ニ慮外ナキ事肝要故、云云」

つき-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）付合 （一）互ニ付ク。（二）交ル。交際ス。

つき-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）突合 互ニ突ク。兩方ヨリ突ク。

つぎ-いと（名）繼絲 補綴ヲスルニ用キル絲。又、ツギ合ハセタル絲。

つき-う（動）急居 つきゐる（急居）ノ條ヲ見ヨ。

つき-うす（名）搗臼 うす（臼）ノ條ヲ見ヨ。

つぎ-うた（名）次歌 元祿時代、江戸、吉原ニテ流行シタル小唄。其節ヲ、つぎぶし（次節）ト云フ。

つき-うま（名）附馬 妓樓ヨリ、遊興費ナドノ全部、又ハ、不足ヲ受取ルタメ、客ニ附キ從ヒテ行クモノ。（遊里ニテ、時メク人ニ、タガハザルヤウニスルヲ、馬つなぎト云フヨリ轉ジテ、シカ云フ）ツケウマ。ウマ。浮世風呂（文化、二篇、…）「イツデモ附き馬ヲ曳キ連レテ、アタリ近所ノ恰好モワリイニ」

つぎ-うるし（名）繼漆 物ヲ接ギ合ハスル時、用ヰル漆。主ニ、石漆ニ、小麥粉ヲ混ゼタルモノ。脂灰

つき-おくり（名）月送 今月ノ事ヲ、來月ヘト、次次ヘ送ルコト。

つぎ-おくり（名）繼送 驛ヨリ驛ヘ、繼ギテ送ルコト。シュクツギ。遞送。驛遞

つき-おとし（名）突落 相撲ノ手ノ一。相手ノ差シタル手ヲ抱ヘ込ミ、己レガ差シタル手ニ力ヲ入レ、身體ヲ寄スルト見セカケテ、相手ノコラフル際、兩手ニテ、ソノ體ヲ捻リナガラ、抱ヘタル方ノ手ヲモテ、肩ニマレ、首ニマレ、嫌ヒナク突キ落スコト。

つき-かか・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）突掛 〔音便ニ、つっかかる〕（一）ソレヲ目掛ケテ、突ク。向ヒテ突ク。（二）セメカカル。ウッテカカル。（三）突キアタル。ブツカル。（四）クッテカカル。イドミカカル。

つき-か・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）突掛 突キ加ヘル。ツッカク。

つきかげ (名) 月影 (一)月ノ光、ツキアカリ。源、一、桐壺十「月かげバカリゾ、八重葎ニモ障ラズサシ入リタル」謠曲、安達原「松風ハゲシク吹キ荒レテ、月影タマラヌ閨ノ内ニハ」(二)月ノ光ニテ、物ノ影ノ窓紙ナドニ映ルコト。濱松中納言物語、一「簾アゲテ見タル月かげトモ何レトモナク」(三)薄墨ニテ、竹ナドノ模樣ヲ摺リ出シタル紙。

つきがけ (名) 月掛 毎月、掛金ナドスルコト。猶、ひがけ(日掛)ノ條ヲ見ヨ。

つきかけ-じじゅう (名) 突懸侍從 國持大名ノ元服シテ、直ニ侍從ニ任ゼラルルモノ。四季草(安永、伊勢貞丈)五「國持大名ノ子元服シテ、初メヨリ直ナニ侍從ニ任ズル事ヲ、江戸ノ人ハ、つきかけ侍從トイヒナラハシタリ、云云、初任侍從ト云フベキナリ」

つきがしら (名) 月頭 〔月末ニ對ス〕月ノハジメ。ツキハジメ。ツイタチ。月初。謠曲、藤戸「河瀨ノ樣ナル所ノ候、月がしらニハ東ニアリ、月の末ニハ西ニアルト申ス」

つきがた (名) 月形 弦(ユミハリヅキ)月ノ形。(一)圓キモノノ半バナル形。弦月形。(二)數學ニテ、二ツノ圓弧ニテ圍マレタル球面形ノ稱。

つきがね (名) 鐘 〔撞鐘(ツキガネ)ノ義〕つりがね(釣鐘)ニ同ジ。梵鐘。名義抄「鐘、ツキガネ」徒然草、二百三十八段「常在光院ノつき鐘ノ銘ハ、在兼卿ノ草也」

つきがはり (名) 月替 一月毎ニ、替リ合フコト。ヒトツキガハリ。

つき-か・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(自動、下二) 月易 其月過ギテ、次ノ月ニ移ル。月ガハハル。萬葉集、十二、三十一「月易ヘテ、君ヲバ見ムト、オモヘカモ、日モカヘスシテ、戀ノシゲキ」

つき-か・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 突支 カフ。ササフ。アテナフ。

つぎがみ (名) 繼紙 (一)繼ギ合ハセタル紙。(二)繼ギ合ハセタル紙ニ、字、又ハ、繪ナドヲ書キタルモノ。源、三十二、梅枝廿「サマザマノつぎがみノ本ドモ、選リ出サセタマヘル、云云」

つぎがみしも (名) 繼上下 裃(カミシモ)ノ肩衣ト、袴ノ色ト異ナルモノ。小紋、縞類、取交ズト。(享保ノ頃ヨリ起ル)麻上下ニ對シテ、役人ノ平服トス。かみしも(裃)ノ條ヲモ見ヨ。四季草(安永、伊勢貞丈)秋草、中「繼上下ノ事、今世、肩衣ト袴ト色ノ違ヒなルヲ、繼上下ト云フ、是レハ古風ナリ」幕朝故事談、公方家「田安樣、五日一朝ノ時、繼上下也、御前樣ノ御機嫌伺ノ時ハ、長袴ナリ」

つきがんな (名) 突鉋 かんな(鉋)ノ條ヲ見ヨ。出世奴消(貞享、近松作)一「天ノ河原ニ檜柱、シラゲ立ツルヤつき鉋、雲ヲソナタニ遣鉋」

つぎき (名) 接木 立木(タチキ)ノ幹ニ、他ノ木ノ小枝ヲ切リ取リテ、接ギテ生(オ)ヒシムルコト。大抵、同種ノ木ニテ接グ。幹ノ方ヲ接臺(ツギダイ)、又ハ、臺木(樹砧 盤砧)ト云ヒ、枝ノ方ヲ接穗(ツギホ)(接頭)ト云フ。幹ノ皮肉ノ間ヲ裂キテ、穗ヲ挿ミ、縮ヒ置ケバ、數日ニシテ粘着ス、此法ナルヲ臺接(揷臺)ト云フ。又、他ノ立木ニ生ヒタルママナル穗ヲ寄セテ接ギ、粘着シテ後ニ斷チ切ルヲ、呼接(ヨビツギ)、又、寄接(コセツギ)ト云フ。天治字鏡、十二廿六「接樹」明月記、寛喜二年三月七日「八重櫻[illegible]實シテ、つぎ木ニセントナラセケレニコソ」

つぎきず (名) 突傷 [illegible]突キ、又ハ、[illegible]テ生ジタル傷。[illegible]「身内ニ、ウノ毛デ突き傷モ切り傷トテモ」

つぎギセル (名) 繼煙管 煙管ノ繼ギ[illegible]タルモノ。即チ、打延ノきせるヲ三繼ヘシテ、(中、末、次第ニ細ソシ)携出ニ用キル。懷中煙管。好色一代女(貞享、西鶴)五「繼ぎせる、云云、合羽ノ切ノ烟草入」

つきぎめ (名) 月極 其月[illegible]ト計算スルコト。又、毎月[illegible]其始末[illegible]ルコト。

つききり (名) 突切 情ナク云ヒ切ルコト。スゲナク云ヒ放ツコト。[illegible]、下、若葉、下五十八「世ノ中ハ、イト常ナキモノソ、云云、ハシタナクつききりナル事ナノタマヒソ」

つぎきれ (名) 繼切 補綴(ハギ)ニ用キル切レ。心中天網島(享保、近松作)中「アリタケコタケ引キ出シテモ、繼ぎ切れ一尺ナ、ハコツ」

つぎく (名) 繼句 れんが(連歌)ニ同ジ。

つきくさ (名) 鴨頭草 (一)又、つゆくさ。露草(ツユクサ)ノ古名。花、朝ニ開キ、晝ニ萎ム。碧色ニシテ、採リテ衣ニ摺ル、善ク染ミ着ケバ、着草(ツキクサ)ト云フ。(月影ニ開ケバ、月草ト云フト云フハ、非ナリ)又、ウツシバナ。ウツシグサ。花色、花色衣ナド云フモコレナリ。つゆくさ(露草)ノ條ヲモ見ヨ。鴨跖草 倭名抄、十四廿五「染色具 鴨頭草、都岐久佐、押赤草(鴨頭草ノ假字)」本草和名、下[illegible]萬葉集、[illegible]ニ、衣色取リ、摺ラメドモ、移フ色ト、言フガ苦シサ」同、同廿「月草ニ、衣ゾ染ムル、君ガタメ、色ドル衣、摺ラムト念ヒテ」同、十六「朝咲キ、夕ハ消ヌル、鴨頭草ノ、消ヌベキ戀モ、吾ハスルカモ」續千載集、十二、戀二「夕サレバ、山ノ端出ヅル、月草ノ、ウツシ心モ、君ニ染メテキ」(二)襲ノ色目ノ名。表裏共ニ縹ナルモノ。一說ニ、裏ハ薄縹ナルモノ。一名、アサガホ。

つきくさの (枕) 鴨頭草 [illegible]花ノ色、容易ニ物ニ移ルト云フ草ナル[illegible]故ニ云フ」移ス、うつろふナドニカカル。[illegible]

つきげ (名) 鴇毛 〔月毛ト書クハ借字〕[illegible]馬ノ毛色ノ名、葦毛ノヤヤ赤ミテ白ミ帶ビタルモノ。桃花馬 駮毛 [illegible]

つきげやき (名) [illegible]ト同ジ。

つきごし (名) 月越 [illegible]

つきこみおび (名) 突込帶 一名、さしこみ。帶ノ先ヲ結バズシテ、折リ込ミオクコト。ハサミオビ。[illegible]「つき込み帶ト云ヘリ[illegible]」

つきこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 突入 [illegible]場ノ深ク下押ニナル。

つきこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [illegible] (一)サンイル。リンコム。(二)彼レト此レトヲ平均ス。

つきこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) [illegible] (一)ソソギイル。器中ナドニ、[illegible]。(二)事物ノタメニ、多ク金ヲ出ス。

つきこめ (名) 舂米 精白米。白米。[illegible]

つきこめや [illegible]

キ精ゲテ賣ル商家。ツキヤ。(玄米ニテ賣ルニ對ス)

つき-ごもり (名) 晦 月ノ末日。ミソカ。ついたち(朔)ノ條ヲ見ヨ。 靈異記、下、廿七縁「晦、都支己毛利」字鏡「晦、晦也、豆支己毛利」同「晦暮、豆久己毛利、又、加久氣」

つき-ごろ (副) 月頃 數月コノカタ。 萬葉集、四「白鳥ノ、トバ山松ノ、待チツツモ、吾コヒワタル、コノ月比ヲ」宇津保物語、忠社「ワビシゲニ待チワタリ給ヘド、御文ヲダニ聞コエテ、月ごろニナリヌ」 枕草子、三、廿三段「オナジハシラニ額ヒツケテ、月ごろアル事ドモ取リカヘテスツメル」 濱松中納言物語、一「ナドテ月ごろ聞キナラサザリツルゾ」「月頃日頃」

つぎ-ざを (名) 繼竿 繼棹 三味線、釣竿ナドニ、トリハヅシ、又ハ、タタミコミ得ルヤウ造リタルさを。(釣竿ノハ、入子ニシテ、細ソキハ太キニ、ヲサマル。三味線ノハ、端ト端トガ、差込ミニナル) 山の端千句(延寶)「タタミテコレヲ、作ル繼竿」「タバコ盆、輕ウ小サキ、我ガ住居」 好色一代男(天和、西鶴)四「挟箱ヨリつぎ竿ノ黑塗六筋掛ヲ取出シテ」

つき-しむ・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 憑染 物怪ツク。又、執着心深クツツキマトフ。 源、五十二、手習、十「死ヌマジカリケル人ヲ、つきしみリヤウジタルモノノ、サラヌニコソアメレ」

つぎ-しゃみせん (名) 繼三味線 又、ツギザミセン。繼棹ノ三味線。

つき-しらひ (名) 觝 〔つきしらふ意〕 牛ノ、角ニテ物ニ觸ルルコト。ツキサハルコト。 倭名抄、十八、廿毛群體「觝、牛相觝、豆木之良比、以レ角觸レ物也」

つき-しら-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 觝 突キ觸ル。フレサハル。フレアタル。 名義抄「角觝、ツキシラフ」

つき-しり (名) 月尻 其月ノ終リ。ツキズエ。ゲツマツ。 盛衰記、四十一、盛綱渡二藤戸兒島一合戰事「つきしりニハ西ガ瀨ニナリ候フ」

つき-しろ (名) 月代 月ノ出デムトスル時、空ノ白ムコト。 悦目抄(藤原基俊)沓冠「[illegible]立テ、湊モ知ラヌ、夕闇ニ、船漕ギ出ス、夜半ノつきしろ」 今川了俊落書「遅ク出ヅル月ノ、月代バカリ見エテ、山ノ端ノ松ナドヲ、出デモヤラヌヲ」

つき-しろ (名) 月代 〔形、圓ケレバ、月ノ代ニテ、月樣ノ意ナルベシト云フ。倭訓栞、つきしろ「月代ト云ヒシガ、冠下ニ勁月(初月ノ誤カ)ノ如ク剃ルナルベシ。似タルヲ以テ名ヅクル也」宇津保物語、藏開、上、上、四歲ノ姫君「髮ヲ掻キヤリタマヒテ、つきイト、ウツクシゲナリ」切禿ノ頂ノ毛ヲ圓ク拔キタルナルベシ〕 古ヘハ、男子、頂髮ノ中央ノ毛ヲ、圓ク拔キ去リオクモノ。後世ニ云フ中剃ナリ。古ヘハ、男子ハ皆總髮ニテ、全髮ヲ頂ニ束ネテ髻トシ、冠ノ巾子ニ插シタリ。然シテ逆上ヲ漏サムタメニ、中剃ヲシタルナリト云フ。又、冠ノ額ニ當ル髮際ヲ、半月形ニ拔ケルヲ額月ト云ヒキ。さかやき(月額)ノ條ヲ併セ見ヨ。 三代實錄、十、貞觀七年三月廿五日、東大寺戒壇院受戒「頭臨ニ受戒日ハ、總下ニ官符ハ新剃ニ頭髮ハ初着ニ冠袈ハ冠積之痕、頭額猶存」(頭ハ月代ノ痕、額ハ額月ノ痕ナルベシ) 玉海、安元二年七月八日、建春門院崩御「闈門出ル自ニ簾中ハ時忠卿指ニ出首ニ」註「其鬚不レ正、月代甚見苦、面色殊損」(平大納言時忠ハ門院ノ兄ナリ) 貞丈雜記(天保、伊勢貞丈)二、人物「月代ノ事、玉海、云云、時忠卿ノ月代、剃ラセシ事、冠烏帽子ナド着ルニ、逆上ノ氣ヲ、ヌキニ堪ヘカネテセシナルベシ」 撰集抄、四、第二條「アサマシク、ヤツレタル僧ノ、近ク寮ヲ出デニケリト見エテ、つきしろナド、アザヤカニ見エタルガ、出デ來レリ」 同、六、第五條「年傾キテ、髻ヲ切リ、つきしろ見エワタリ、麻ノ衣ニヤツレツルハ」

つき-しろ (名) 月白 つきびたひ(月額)ノ條ノ(二)ニ同ジ。(馬ノ) 戴星馬

つき-しろ-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 突合 〔しろふ(合)ノ條ヲ見ヨ〕 互ニ突ク。互ニ、背中、膝ナド、ツツキアフ。 狹衣、一、下、上「君、宜ヘ宜ヘト、つきしろひ、ササメキテ」 源、四十四、橋姫、廿「若キ人人モ、傍痛ク、差過ギタリト、つきしろひ侍ルメルモ、コトワリニナムトテ」 同、四、夕顔、五「つきしろひ目クハス」 宇津保物語、國讓、中、四十「つきしろひテ、爪彈キヲシ」

つき-す ス・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 盡 盡クルコトトナル。盡ク。ナクナル。 濱松中納言物語、二、下「つきす可クモアラネバ、ナカナカ、片端モ、エマネバズ」 源、十四、澪標、十八「つきせズゾ語ラヒ慰メ聞エ給フ」「盡きせヌ流レ」

つき-ずゑ (名) 月末 〔月頭ニ對ス〕 月ノスエ。ゲツマツ。ツキジリ。 平家物語、十、藤戸事「川ノ瀨ノ樣ナル所ノ候ガ、月頭ニハ東ニ候、月ずゑニハ西ニ候」

つき-そで (名) 突袖 手ヲ袖ノ中ニ突キ入レ、前方ヘ張リ出ダスコト。 賤小手卷(享和、森山盛孝)「袖口モ突袖シタル時、リント立チ、袖ノ折レヌヤウニシタリ、人ニ因リテハ、袖口ノ綿ノ中ヘ針金ヲ入レテ、ククルモアリトゾ」

つき-そひ (名) 附添 附添フコト。又、附添ヒ護ル人。カシヅキ。傅

つき-そ-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 附添 (一)附キ從フ。傅ク。(貴人、又ハ、幼稚ナル人ナドニ) (二)附屬ス。 狂言記、寶笠「隱笠、云云、是レニつきそうタ隱蓑、打出ノ小槌」

つぎ-だい (名) 接臺 (一)つぎき(接木)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]年代記(…、近松作)三「人間ノ養子ト花ノ接木ト同ジ事、我レハ接臺、諸宗ハ接穗」 (二)フミダイ。アシツギ。

つき-だし (名) 突出 (一)モノヲ突キ出ダスコト。(二)吉原ノ大夫(遊女)ナドノ、始メテ勤ニ出ヅルコト。 寫本洞房語園(享保、遊女勝山)「始メテ勤ニ出ヅル日、云云、つき出しノ日、黑繻子ノ小袖ニ歌ヲ縫ハセシトゾ」 (三)相撲ノ手ノ一。兩手ヲ以テ、相手ヲ土俵ノ外ヘ突キ出ダスコト。

つぎ-たし (名) 繼足 足ラス部分ヲ補フコト。補足

つき-だ-す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 突出 (一)突キテ外ヘ出ダス。ツンダス。(二)勢鋭ク出ダス。 平家女護島(享保、近松作)三「夜フケヌ内ニ突カラト、杉戸開イテ突出セバ、一足行ッテハ顚キ」 (三)遊女トシテ、始メテ勤ニ出ダス。

つぎ-た-す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 繼足 繼ギテ足ス。增シ補フ。補足ス。

つき-た-つ ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 突立 音便ニ、ついたつ。其條ヲ見ヨ。 盛衰記、四十五、重衡向二南都一被レ斬事「中將涙ヲ流シつき立チテ、東ノ妻ヲ後戸ノ方ヘオハス」

つき-た-つ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(自動、下二) 突立 イソギタツ。急ニ立ツ。急起

つぎ-た-つ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 繼立次立 驛ニテ、人馬ヲ繼ギ替ヘテ出ダス。宿繼ヲナス。

つぎ-たて (名) 繼立次立 驛ニテ、人馬ヲ繼ギ替ヘテ出ダスコト。宿繼。

つき-たら-ず (名) 月不足 胎兒ノ十箇月ニ滿タズシテ生レタルコト。 榮花物語、廿五、嶺月「タダナラヌ人ノ、つきたらずナドシテ」

つきぢ（名）［築地］海、沼ナドヲ埋メテ、築キ立テタル地。

つぎ・づ・ツル・ツレ・デ・デ・デヨ（自動、下二）［次第序］（次ぎ出づノ音便約）次第ス。音便ニ、ついづ。萬葉集、廿、長歌「天ノ日嗣ト、繼ギテ來ル、君ノ御代御代、云云、見ル人ノ、語リ繼ギテ、聞ク人ノ、鑑ニセムヲ」

づきづき（副）［疼］腫物ナドノ、絶間ナク痛ム狀ニ云フ語。づきんづきん。

つきづき・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［付付］似合ハシ。似付カハシ。フサハシ。適合（つきなしノ反）名義抄「擧、ツキツキシ」源、五、若紫、五十「ソノ方ニつきづきしきハ、皆擇ラセ給ヘレバ」枕草子、九、百十三段「人ノ家ニつきづきしき物、肘ノアタラシキ、懸盤、大キヤカナル童女（ワラハメ）、好キハシタモノ」同、二、廿段「人ノ消息、つきづきしく言ヒツベカラム者一人、ト召セバ」

つぎつぎ‐に（副）［次次］相次ギテ、續キテ。オヒオヒニ。逓次。

つき‐つ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［突付］（一）目前ニ差シ出ス。サシツク。狂言記、こんくゎい「出家ノ鼻ノ先ヘ、ムサイモノヲ突きつけヤル」（二）シヒテ人ニススム。ムリジヒスル。オシツク。

つきつけ（名）［突付］ツキツクルコト。差シ出ダスコト。東海道名所記「[illegible]ニ比丘尼ノ方ヨリ、つきつけノ切リ賣リヲ致シ侍ル事ノ悲シサヨ」日本永代藏（元祿、西鶴）四「[illegible]ヘバ利ヲ得ルニ、云云、出賣人等ノつきつけ、[illegible]モタセー」

つきつけ‐うり（名）突付賣　押シ賣リ。買ハムトモセザルニ、強ヒテ賣ラムトスルモノ。略シテ、つきつけ。人倫訓蒙圖彙（元祿）七「つきつけ賣」[illegible]「[illegible]ニ、ココカシコヨリ來タリ、[illegible]トつきつけ賣り」

つきつ・ける（動）［突付］つきつく（突付）ノ口語。

つきつ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［突詰］（一）つきとむ（突止）ノ條ノ（二）ニ同ジ。（二）一途ニ思ヒ込ム。思ヒ詰ム。染模樣妹背門松（明和、菅專助）質屋「つきつめタ氣デ、ヒヨット又、刃物三昧シデカサウカト」

つきつ・める（動）［突詰］前條ノ語ノ口語。

つぎて（名）［繼手］つぎめ（繼目）ノ條ノ（一）ニ同ジ。

つぎて（名）［次第］シダイ。順序。今、ついで。推古紀、廿年、二月「[illegible]次第[illegible]」

つきと・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［突止］（一）確（シカ）ト突キテ、動カサズ。[illegible]（二）根元マデ押シ究ム。極（キハ）ヲ押ス。ツキツム。尋究（三）確（タシカ）ナル所ヲ見トドク。（四）ツキ殺ス。

つきとも‐な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［無付］ツキワルシ。似合シカラズ。便（ビン）ナシ。ツキナシ。心中二枚繪草紙（寶永、近松作）中「[illegible]季デモ有ル事カ、つきともない今日ニ限リ、此ノ樣ニセカムノハ、ムム合點ヂャ、合點ヂャ」

つき‐な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［無付］（一）寄付ク便（スベ）無シ。タヨリナシ。古今集、十九、誹諧「逢フコトノ、今ハハツカニ、ナリヌレバ、夜深カラデハ、つきなかりケリ」（二）似合ハシカラズ。フサハシカラズ。竹取物語、下「親[illegible]トモ、[illegible]つきなき事ヲ仰セ給フコト[illegible]」[illegible]十一、戀、一「行末ハ、遂ニスギツツ、逢フコトノ、年つきなきゾ、ワビシカリケリ」[illegible]カラ、つきなき戀ヲ、セザリセバ、逢ハデヤミニハ、逢ハザラマシ」宇津保物語、藤原君[illegible]「オキナヤモメニテ、つきなくオボユレバ」[illegible]ノアリサマヲ思フニ、イト、つきなく、ママ、ハユキ心地シテ」後撰集、十四、戀、六「世ノ中ニ、ナホアリアケノ、つきなくテ、闇ニマドフヲ、トハヌツラシナ」

つきなみ（名）［月並］（一）月月。[illegible]年中ノ月月、又、毎月。枕草子、十一、百四十六段「きらきらしきもの、月次ノ御屏風モヲカシ」（二）尋常一樣。平凡。[illegible]キマリキリタルコト。（月並ニ題ヲ設ケナドシテ、歌、俳諧ノ會ノ詠出[illegible]）

つきなみ‐の‐まつり（名）［月次祭］（一）古ヘ、陰曆、六月、十二月、兩度行ハルル神事。其月ノ朔日ニ、天皇、忌火ノ御飯ヲ聞召ス。コレヲ神事ノ初トシ、十一日、神今食（ジンコンジキ）ヲ行ハルル前ニ、神祇官ニテ、祝詞ヲ宣ベ、全國、官、國幣ノ諸社ニ、幣物ヲ奉ル。同夜、神今食ヲ行ハセ[illegible]ノ刻ニ、神嘉殿ニテ、伊勢ノ大神ニ、[illegible]膳ヲ供シ、祭ラセ[illegible]ナリ。其式、大抵、大嘗會ニ同ジ。（二）古ヘ、京畿諸國、三百四座ノ神神ヘ、月毎ニ奉リタマフベキ幣ヲ、陰曆六月ト十二月トノ十一日ニ、諸國ノ神主、祝部ヲ神祇官ニ集ヘテ頒チタマフナリ。六月ニハ、其年ノ七月ヨリ十二月マデノ分、十二月ニハ、翌年正月ヨリ六月マデノ分ヲ頒ツ[illegible]文武天皇ノ大寶二年ニ始マリ、足利氏ノ末ニ至[illegible]廢絶シ、[illegible]伊勢神宮ニ[illegible]テ、大祭トシテ、六月、十二月ノ十七日ニ之ヲ行ヒ、官、國幣社以下ニアリテハ、ソノ社限リニ行フトゾ。

つきな・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［着並］ナラビテスワル。[illegible]梅花笑[illegible]御社ニマウデツト給ヒテ、云云、[illegible]ナドノヤウニ、つきなみ[illegible]

つきに‐けり（句）（謠曲、及、淨瑠璃ノ文ノ末ニ、何ノ里、何ノ浦ニ着きにけりト云ヒテ終ルヨリ云フ。そもそも（抑）ニ對ス）終リ。シマヒ。コレギリ。略シテ、けり。（けりガツクナドトモ云フ）[illegible]

つきぬき（名）［突拔］ツキヌクコト。[illegible]

つきぬきたんぽ（名）[illegible]ツキヌキ、コシツハヘタル圓子。

つきぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［突拔］[illegible]

つきぬの（名）［調布］つきのぬの（調布）ニ同ジ。名義抄「調布、ツキヌノ」

つきね‐ぐさ（名）［及已］（擣根草ノ義カ）草ノ名。今、ふたりしづか。[illegible]

つきね‐ふ（枕）[illegible]木根ハ木ナリ[illegible]山代ハ木ヲ伐リテ、[illegible]山代ノ[illegible]

つきの‐[illegible]（名）[illegible]

〔つきのえん (名) 月宴 月ヲ眺メツツ酒宴スルコト。觀月宴。榮花物語、一、「月宴」源、三十七、鈴蟲「今夜ハ月の宴アルベカリツルヲ」

〔つきのかさ (名) 月暈 薄暈ノ夜ナドニ、月球ノ周圍ニ生ズル虹ノ如キ輪。水蒸氣ノ關係ニヨリテ生ズ。倭名抄、一、「暈、音運、日月旁氣也」十六夜日記「旅人ノ、同ジ道ニヤ、出ツラム、笠ウチキタル、有明ノ月」

〔つきのかつら (名) 月桂 支那ニテ、想像ノ說ニ、月ノ中ニ生ヒテアリト云フ桂。其樹下ニ人アリト云フ、月面ニ婆娑タル影ヲ認メテ云フナルベシ。サレバ、目ニハ見エテ、手ニハ取ラレヌモノニ譬フ。又、其人ヲ月人、月人壯子、つくよみをとこ、さゝらえをとこナドト云フ。酉陽雜俎(唐、段成式)前集、一、天咫「舊言月中有桂、(中略)異書云云、高五百丈、下有一人、常斫之、樹創隨合、人姓呉、名剛、西河人、學仙有過、謫令伐樹」三藏聖教序、桂生、月也、月中有丹桂、故指桂輪ニ、圓珠庵雜記」萬葉集、四、六十二「目ニハ見テ、手ニハ取ラエヌ、月ノ內ノ、楓ノ如キ、妹ヲイカニセム」古今集、四、秋、「ヒサカタノ、つきのかつらモ、秋ハナホ、モミヂスレバヤ、照リマサルラム」萬葉集、十四、「黃葉スル、時ニナルラシ、月人ノ、楓ノ枝ノ、色ヅク見レバ」同卷四十八、詠月「天ノ海ニ、月ノ船浮ケ、桂梶、懸ケテ漕グ見ユ、月人壯子」轉ジテ、直ニ、月ノ異名トス。萬葉集、十六、廿「夕星モ、通フ天道ヲ、イツマデカ、仰ギテ待タム、月人壯子」同卷廿八「秋風ノ、淸キ夕、天ノ川、舟漕ギ渡ル、月人壯子」又、かつらをとこ、かつら男ナドトモ云フ、卽チ月人壯子ナリ。而シテ略シテ、かつらトノミモ云フ。伊勢物語、七十三「目ニハ見テ、手ニハ取ラレヌ、月ノ中ノ、桂をとこノ、君ニモアルカナ」(塗籠本) 狹衣、四、下、八「かつら男モ同ジ心ニアハレトヤ見奉ツルラム、曾氣ニ立登リツル霧霽レテ、月影ハナヤカニ差出テタルニ」夫木抄、十三、月「かつらをノ、月ノ船漕グ、天ノ海ヲ、秋ハ明石ノ、浦ト言ハナム」かつらの影ト云フハ、月ノ影ナリ。かつらのまゆト云フハ、三日月形ノ眉ナリ 謠曲、檜垣「翡翠ノ髮花萎ミ、桂の眉モ霜降リテ」又、前出ノ伊勢物語ノ歌ニ因リテ、思ヒ寄リテモ、戀ノカナハヌ男ヲ、かつらをとこト云フ。

〔つきのかほ (名) 月顏 ツキノオモテ。ツキノカゲ。月光。源、十三、明石八「人モナクテ、月の顏ノミキラキラトシテ」竹取物語「アル人ノ、月のかほ見ルハ忌ムコトト制シケレドモ」

〔つきのさはり (名) 月障 子宮ヨリ、月每ニ、日數ヲ定メテ、暗赭色ノ血水ノ下ルコト。通例、二十八日目ニ一回トシ、二三日乃至四五日ニテ終ル。我ガ邦ノ女子ハ、大抵、十四五歲頃ニ起リテ、五十歲前後ニ絕ユ。サハリ。ケガレ。ツキノメグリ。メグリ。ツキノモノ。テナシ。タヤ。ヒマヤ。カリヤ。ツキヤク。月經。經水。經行。月水。月事。月信。信水。天癸。癸水。紅潮。潮花。名義抄「月水、ツキノサハリ」風雅集、十九、神祇、和泉式部「熊野ヘ詣デケルニ、障ニテ奉幣カナハサリケレバ「晴レヤラヌ、身ノ浮雲ノ、タナビキテ、月のさはりト、ナルゾ悲シキ」トヨミテ寐タリケル夜ノ夢ニ、告ゲサセタマヒケルトナム「モトヨリモ、塵ニマジハル、神ナレバ、月のさはりモ、何カ苦シキ」古事記、中(景行)五十二「襲ノ襴ニ著ニ月經」

つきのさむしろ (名) 月狹席 野宿ナドスル時ノ狀ニ云フ語。(和歌ノ語) 夫木抄、三十二、枕「ヤドカラニ、蟬ノ羽衣、秋ヤタツ、風ノ手枕、月のさむしろ」(月ノ寒シニカク)

つきのしづく (名) 月雫 葡萄ノ實ノ砂糖漬。甲斐國ヨリ產ズルモノ。

つきのでしほ (名) 月出汐 月ノ出ヅル共ニ差シ來ル潮。新古今集、十六、雜、上「和歌ノ浦ニ、月のでしほノ、サスママニ、ヨル鳴ク鶴ノ、聲ゾ悲シキ」

つぎのとし (名) 次年 アクルトシ。

〔つきのぬの (名) 調布 調トシテ上ル布。テウフ。テヅクリ。ツキヌノ。(租ノ條ヲ見ヨ) 倭名抄、十二、廿七、絹布類「調布、豆岐乃沼能」名義抄「調布、ツキヌノ、ツキノヌノ」

〔つきのはた (名) 甌 〔坏の端ノ義〕器ノヘリ。ウツハノフチ。倭名抄、十六、二十五、瓦器類「甌、都岐乃波太、器緣、謂口邊也」

つぎのひ (名) 次日 アクルヒ。

〔つきのふね (名) 月船 大空ヲ海ニミナシ、月ノ空ヲ行ク狀ヲ、ソノ漕ギ行ク船ニ譬ヘテ云フ語。萬葉集、七、二「天ノ海ニ、雲ノ波立チ、月船、星ノ林ニ、コギカクル見ユ」

つぎのま (名) 次間 君ノ居間ナラズ、隔リタル室。敬稱シテハ、御次ト云フ。

つきのみやこ (名) 月都 (一)〔月ノ中ニ在リト想像スル宮殿。月宮殿 竹取物語「オノガ身ハ、此ノ國ノ人ニモアラズ、月の都ノ人ナリ」(二)月宮殿ニ譬ヘテ、都ヲ美ムル語。金槐集、春「ナガムレバ、衣手カスム、久カタノ、月の都ノ、春ノ夜ノ空」

つきのめぐり (名) げっけい(月經)ニ同ジ。其條、及、月障ノ條ヲ見ヨ。

つきのもの (名) 前條ノ語ニ同ジ。

つきのわ (名) 月輪 (一)圓キ形。後拾遺集、廿、釋教「月の輪ニ、心ヲカケシ、夕ベヨリ、萬ノ事ヲ、夢ト見ルカナ」(二)熊ノ喉ノ下ニアル半月形ノ白キ斑毛。(熊ノ條ヲ見ヨ) 夫木抄、廿七、熊「奧山ニ、住ム荒熊ノ、月のわニ、ヨメコソイトド、曇ラザルラメ」(三)袈裟ノ、胸ノアタリニ飾ル環。象牙ナドニテ作ル。(四)藁モテ輪ニ作レル釜敷。(五)硯ノ石ノ名。(六)げつりん(月輪)ニ同ジ。

つぎば (名) 繼場 驛ノ、人馬ヲ繼ギ替フル處。宿場。宿繼。問屋場。天明集成絲綸錄、三十二、明和九年四月「甲州道中ハ、江戸、高井戸宿ト、人馬繼ギ來リ候處、內藤新宿繼場ニ相成り」

〔つきばえ (名) 月映 月光ノウルハシク輝クコト。源、四十三、竹川三十「閣ハアヤナキヲ、つきばえ、今少シ心コトナリ」

つぎはぎ (名) 繼接 〔接ハ矧ヨリ移リタル語〕繼グコトト、接グコトト。縫ヒ繕フコトト、綴リ合ハスコトト。

〔つぎはし (名) 繼橋 處處ニ柱ヲ立テ、板ヲ幾所モ繼ギテ、渡セル橋ナリトゾ。萬葉集、十四、廿「足ノ音セズ、行カム駒モガ、カツシカノ、眞間ノ繼橋、ヤマズ通ハム」同、四十、「ママノ浦ノ、ヨドノ繼橋、ココロユモ、思ヘヤ妹ガ、イメニシ見ユル」金葉集、二、夏「五月雨ニ、水マサルラシ、澤田川、槇ノつぎ橋、浮キヌバカリニ」

〔つきばな (名) 洟 ハナシル。ハナミヅ。枕草子、七、七十一段、きたなげなるもの「白キつきばな」

つきはむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 啄 〔突き食むノ義〕鳥、口ニ食ヲ取ル。ツイバム。靈異記、上、第九緣、訓釋「不啄、ツキハマズ」

つきばん (名) 月番 役人ナドノ、一箇月ヅツ、受持ヲ定メテ、交代ニ勤ムルコト。又、其人。直月。職掌錄、老中「月番ノ時ハ、諸御用一切司レ之」

つきひ (名) 月日 (一)天ノ月ト、日ト。日月。「月日ノ光」(二)〔年ノ月ト、日ト。グワッピ。光陰。源、三十四、上、若菜、上八十二「明石入道ノ文ノ奧ニ、月日ヲ書キタリ」「月日ヲ送ル」

つきひがひ (名) 月日貝 蛤ノ類。大イ

サ二三寸、殼圓ク、半片ハ白ク、半片ハ紅ナリ。柱、一寸許、味美ナリ。本邦ノ南海ニ産ズ。日月貝。

つきびたひ (名) 月額 (一)月代ニ同ジ。(二)馬ノ額ニ、白キ斑毛アルモノ。古名、ウビタヒ。今、又、額白。月白。ホシヅキ。戴星馬 夫木抄、廿七、馬「闇ナレド、イモガ宿ヘゾ、サシテユク、月びたひナル、駒ニマカセテ」

つきびと (名) 附人 附添ヒ護ル人。カシヅキ。モリヤク。傅。

つきびと (名) 憑人 狐ナドニ、ツカレタル人。枕草子、十二、百五十六段「つきびとノシリウド(人イ)ナドハ、ラウタクオボエテ」

つきひとをとこ (名) 月人壯子 〔擬人語〕月中ニ居テ、桂ヲ伐ルト云フ想像ノ壯子、轉ジテ、月ノ異名。萬葉集、十「タヅツモ、通フ天道ヲ、イツマデカ、仰ギテ待タム、月人壯子」同、廿「秋風ノ、サヤケキタ、天ノ河、舟漕ギワタル、月人壯子」同、四十「天ノ海、月ノ船浮ケ、桂梶、懸ケテ漕グ見ユ、月人壯子」同、廿九「天ノ原、往キテヤ射ルト、白眞弓、引キテ隱セル、月人壯子」淨瑠璃物語(足利時代)「月ニ住ム桂男」

つぎびは (名) 繼琵琶 繼竿ニ造リタル琵琶。方丈記「其傍ニ筝、琵琶、オノオノ一張ヲタツ、イハユル折筝、つぎ琵琶コレナリ」

つきふ (名) 月賦 げつぷ、つきわり、ねんぷ(年賦)ノ條ヲ見ヨ。

つぎぶし (名) 次節 つぎうた(次歌)ノ條ヲ見ヨ。

つぎぶみ (名) 繼文 祖先ヨリ、代代ニ其家ヲ繼ギタルコトヲ、記シオケル文書。氏文。系圖。系譜。

つきべり (名) 搗減 舂減 米ナドヲツキテ、其量ノ減ズルコト。

つきへん (名) 月偏 漢字ノ偏ノ稱、即チ朕、朧、腊、胸、眺ノ類ナリ。雙生隅田川(享保、近松作)狂女道行「松ヲ木偏ニ書キ初メテ、何時ノ月偏、日偏ヨリ」

つぎほ (名) 接穗 つぎき(接木)ノ條ヲ見ヨ。

つきまうで (名) 月詣 毎月、神佛ニ參詣スルコト。ツキマヰリ。著聞集、十六、興言利口「クダンノ男、賀茂ノ月詣ヲシケリ」

つきまち (名) 月待 〔月祭ノ約ト云フ。又、待ハ、まち設ケテ物スル意。稻荷待ナドモ同ジ〕衆人集リテ、月ノ出ヅルヲ待チテ拜スルコト。十七夜待、二十三夜待ナドアリ。待月。日次紀事(延寶)一、正月三日「俗間、三日、月待」同、正月「是謂ニ日待ニ云云、待月、其式粗同」二川分流記、上、永正四年六月廿三日夜、御月待ノ御行水アリシ」實隆公記、延德二年九月廿三日「今夜待月看經、曉鐘之後[illegible]獻、寢」

つぎまつ (名) 續松 たいまつ(松明)ニ同ジ。音便ニ、ついまつ。字鏡抄「續松、ツギマツ」今鏡、六「つぎまつトリテ、サラニ火ヲトモシテ」三代實錄、四十七、仁和元年四月、貢[illegible]續松等」伊勢物語、六十九段「ソノ盃ノウラニ、ついまつノスミシテ、歌ノスヱヲカキツグ」宇津保物語、吹上、上「ヨニイリテ、ついまつマヰル」

つきまゐり (名) 月參 日參ニ對ス。毎月、一定ノ日ニ、社寺ニ參詣スルコト。ツキマウデ。好色一代男(貞享、西鶴)四「佛ヘ月參モ[illegible]」

つきみ (名) 月見 月ノ光ヲ眺メテ賞ズルコト。多クハ、秋ノ空ノ澄ミワタル月、特ニ陰曆八月十五夜[illegible]ト云フ。九月十三夜ナルヲ、後の月見ト云フ。觀月 其觀月ニハ、民間ニテハ、[illegible]ニ三方ヲ据エ、上ニ一升桝ヲ置キ、大キナル白團子十五(十三夜ニハ十三)ホド山盛ニシ、一方ニハ花瓶ニ薄、女郎花ナドノ秋草ヲ插シ、一方ニハ[illegible]ノ芋ノ莢デ[illegible]ヲ置キテ、月ニ供ヘ、[illegible]明月ノ條ヲ併セ見ヨ。貴人ハ詩歌、俳諧ナド作リ、酒宴ナド開クヲ、觀月の宴(觀月宴)ト云フ。又、十五歳程ノ女兒、月ノ光ニテ、絹針ノ孔ニ赤キ絹絲ヲ通シ、輪ヲ結ビ得レバ、幸ヲ得ルナド云ヒ傳フ。[illegible]スハ、月見、花見ノ遊興」

つきみぐさ (名) 月見草 (一)萩ノ異名。(二)[illegible]ノ草、高サ二三尺、葉長ク、粗鋸齒アリテ互生ス。花ハ[illegible]ニ名アリ。一名、待宵花。ツキミサウ。

つきみさう (名) 月見草 前條ノ(二)ニ同ジ。

つきみずづき (名) 月不見月 陰曆、五月ノ異名。此月ハ、梅雨多クシテ、月ヲ見ル事ナキニ付テノ稱。藤玉集(二條良基)「サミダレノ、晴レ間モ見エズ、雲間ヨリ、[illegible]ケン」

つきみづき (名) 月見月 陰曆、八月ノ異稱。藤玉集(二條良基)「名ニシ負ハバ、秋ノ半バノ、空晴レテ、光リコトナル、月ニ見ル月」

つき・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 拒 コバム。[illegible]

ずきん (名) 頭巾 〔玉篇「頭巾、本以拭[illegible]物、後人著之於頭」〕(一)カブリモノ。カウブリ。即チ、古ヘノかんむり、[illegible]黒羅ニテ製セルヲ、官人ノ用トシ、[illegible]ヲ製シ、漆ヲ塗リタルヲ、庶人ノ用ト[illegible]。(二)[illegible]僧ノカブリモノ、[illegible]テ製シ、頭ヲ包ム。[illegible]ニ被リテ、寒氣ヲ防ギナドスルモノ。布帛ニテ縫ヒ作ル。製ハ、方、圓、種種ナリ。「ソデずきん」[illegible]

ずきん[illegible]

ずきん[illegible]

ずきんづきん[illegible]

つきめ[illegible]

つきもの (名) 付物 (一)其物ニ附屬シテアルベキ物。附屬物。(鎖ニ鑰、硯ニ墨ナド) (二)附キ從ヒテアル人。從屬 (三)鬼神ノ靈ノ、人ニ憑キカカレルモノ。ツキ。モノノケ。カミカカリ。鬼憑 邪祟 女殺油地獄(享保、近松作)中「アノつきものガ、其方衆ノ身ヨリ退イタラ、此與兵衛ガ首カケ」

つぎもの (名) 繼物 故衣ノ破レニ、布帛ヲ當テテ、綴リ補フコト。又、ソノモノ。補綴 浮世風呂、文化、三編、上「此ノ肌ハネ、繼ぎ物ヲ致スヨ」

つきや (名) 舂屋 つきおめや(舂米屋)ニ同ジ。

つきやく (名) 月役 げっけい(月經)ニ同ジ。

つきやく (名) 月役 木材ノ名。杉ヲ片ヘギ出シタルモノ。柿葺ノ下ニ用ヰキ。形、方ニシテ細長シ(享保ノ頃) 塵塚談文化、小川顯道「月役ト云ウテ、長サ一間ニ幅一寸四五分ノ割木ヲ、のちニシ、ソレヨリ板ニテ書キ、其上ニ瓦ヲ敷キ並ベル事也、田舎ニテ、婦女ノ經行ノ節、別居シテ、其時ノ仕業ニ、屋根ニ葺フ割木ヲ拵ヘシモノ故、月役ト號ストナリ」

つきやけ (名) 月燒 月ノ光ノタメニ、顏色ノ黑クナルコト。

つきやま (名) 築山 園庭ナドニ、土沙、岩石ヲ以テ築キ立テタル小サキ山。假山 推古紀、廿年「是歲、云云、令構須彌山形、及、吳橋於南庭」 園太曆、康永四年十一月七日「坤方不可築山之旨、先達口傳也」

つきゆきはな (名) 月雪花 月ト、雪ト、花ト。せつげっくゎ。 前齋院集「幾トセノ、イク萬代カ、君ガ世ニ、月雪花ノ、友ヲ待チケン」

つきゆみ (名) 槻弓 又、ツクユミ 槻ノ材ニテ、造レル丸木ノ弓 神樂歌、採物、弓「弓トイヘバ、品ナキモノヲ、梓弓、眞弓つきゆみ、品コソアルラシ」 延喜式、二十三、甲斐國、槻弓八十張 新續古今集、十五、戀、五「引ク方ニ、人ノ心ハ、つき弓ノ、思ヒカヘサヌ、中ゾ苦シキ」 拾遺愚草「ケサ見レバ、弓キル岡ニ、ナリニケリ、植エシ岡邊ノ、つきノ片枝」 兵庫寮式、踐祚大嘗會新造雜物「梓弓、長七尺六寸、槻、柘ノ傳准之」 射學大成、二「槻ハ柔ニシテ強シ、苗ヨリ七八年立テ、八九尺迄ハ、木ノ先タハミテ土ニツク、凡、弓尺程ニナル頃、一夜ノ内ニ自然立上ルモノ也」

つきよ (名) 月夜 〔つくよ(月夜)ノ條ヲ見ヨ〕 月ノ光明アル夜 (闇夜ニ對ス)

つきよがらす (名) 月夜烏 夜半ナドニ、月ノ光ヲ見テ、栖ニ鳴ク鴉。ウカレガラス。夜月烏 夫木抄、廿七、烏「吹ク風ニ、霜オキマヨフ、深山邊ニ、月夜がらすノ、聲モ寒ケシ」

つきよどみ (名) 月澱 オロシグスリ。墮胎ノタメニ用ヰル藥。墮胎藥。

つきよみ (名) 月讀 つくよみ(月讀)ノ條ヲ見ヨ。 萬葉集、十五「月余美ノ、光リヲ清ミ、神島ノ、イソマノ浦ユ、船出スワレハ」 同、同、十「月余美ノ、光リヲ清ミ、タナギニ、カコノ聲ヨビ、浦マコグカモ」

つきよみをとこ (名) 月讀男 つくよみをとこ(月讀男)、及、つきひとをとこ(月人壯子)ノ條ヲ見ヨ。 萬葉集、六廿八「アメニマス、月讀壯子、マヒハセム、今夜ノ長サ、五百夜ツギコソ」 同、七三十「ミソラユク、月讀壯子、夕サラズ、目ニハ見レドモ、ヨルヨシモナシ」

つぎらう (名) 繼羅宇 〔らうハ、さをヲ云フ〕 羅宇ノ繼ギタルモノ。ツギザヲ。らう(羅宇)ノ條ヲモ見ヨ。 賤小手卷(寬政)「女ハ繼らうトテ、長キらうヲ二ツニ切テ、夫ヲ相口ヲ拵ヘ繼テ、長キ煙管ニシテ香タリ、仕舞時ハ、二ツニシテ懷中スル、ソノ繼目ノ相口ヲ、角ニテスルモアリ、又、銀ニテスルモアリ」

つきる (動) つく(盡)ノ口語。

つきわり (名) 月割 月每ニ割リ當ツルコト。又、月ノ數ニ分割スルコト。月賦。

つきゐる・ヰル・ヰレ・ヰ・ヰ・ヰヨ(自動、上一) 急居 「突き居るノ意、急起ニ對ス」 膝ヲツク。低クスワル。シャガンデ居ル。音便ニ、ついゐる。 崇神紀、十年九月「倭迹迹姬命、仰見而悔之急居、則箸撞陰而薨」注「急居、此云菟岐于」(聲ヲ突キタルナリ、サテ、此訓つきうナレバ、動詞上二段活用トスル說アレド、つきうト云フコト、此外ニ用例更ニナシ、稍稍ニ、唯一箇所ニアルヲ證トスルハ、首肯シガタシ) 宇治拾遺、二、第十條「刀ヲヌキテ走リカカル時ニ、ソノタビ笛ヲ吹キヤミテ立チカヘリテ、コハ何者ゾト問フニ、心モ失セテ、ワレニモアラデ、ついゐラレヌ」 今昔物語、廿九、第八語「撿非違使ヲミテ、突居タル氣色ノ怪カリケレバ」

つく (名) 月 つき(月)ニ同ジ。 萬葉集、十四三十四「彼ノ子ロト、寢ズヤナリナム、ハタススキ、ウラ野ノ山ニ、都久カタヨルモ」

つく (名) 賭 〔つくのふ(償)ノ語根〕 ツクノフコト。ウメアハスコト。又、ソノモノ。

つく (名) 賃 ちん(賃)ニ同ジ。 字類抄「賃、ツク」「舟つく」

つく (名) 船ノ艪栓。卽チ、艪ノ頭ニアリテ、艪繩ヲ掛クル凸起。又、ロヅク。 萬葉集、廿四十九「堀江漕グ、伊豆手ノ船ノ、艪都久米、音數立チヌ、水脈速ミカモ」〔艪ヲつくヘカケテ動カスヲ、つくむるト云フナルベシ〕

つく (名) 銑 折釘ノ如キ金具。弓ノ握ノ上ニ打チツケテ、番ヘタル矢ノ、拳ヨリハヅレヌヤウニスルモノ。丸木弓ニスルコトトゾ。 保元物語、一、新院御所各門門固ノ事、付、軍評定「五人張リノ弓、十五束三伏ヲ、つく打チタルニ、三十六差シタル黑羽ノ矢負ヒ」

つく (名) 〔明ラカナラズ。つくハつかノ訛ニテ、束柱トモ云ヒ、或ハ、一しノ訛カトモ云フ〕 上古、梁ヨリ上ヲ云フ稱。 竹取物語「大炊寮ノ飯炊ク屋ノ棟ノつくノ穴每ニ、燕ハ巣クヒハベリ」

つく (名) 木菟 みみづく(木兎)ニ同ジ。訛シテ、づく。 倭名抄、十八羽族名「木兎、都久、或云、美美都久」 字鏡六十「木兎、豆久」 名義抄「木兎、ツク、ミミツク」 仁德紀、元年正月「天皇生日、木兎入于產殿」

つく (名) 巧婦鳥 功婦 巧婦 タクミドリ。ミソサザイ。 天治字鏡、八十二「巧婦、豆久」 字鏡六十「功婦、豆久」 名義抄「巧婦、ツク」

つく・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 齋 いつく(齋)ノ略。 萬葉集、一廿四「藤原ノ、大宮ヅカヘ、アレ衝ヤ、少女ガトモハ、トモシキロカモ」

つく・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 着 附 付 就 卽 (一)〔直ト相合フ〕 接合ス。共ニ寄ル。ネバル。クッツク。 古事記、下(雄略)三十四「タコムラニ、あむ掻キ都伎」 (二)〔行キ到ル〕 トドク。及ブ。到着ス。到 萬葉集、十五廿二「ワギモコヲ、行キテハヤ見ム、淡路島、雲居ニ見エヌ、家都久ラシモ」 堀河百首「五月雨ハ、宿ニつく間ノ、アヤメグサ、軒ノ雫ニ、カレシトゾ思フ」 伊勢物語、廿四段「シリニ立チテ追ヒ行ケド、エ追ヒつかデ」「都ニ着く」洪水、床ニ着く」 (三)〔從フ〕 カシヅク。附屬ス。附隨 服屬 古事記、下(允恭)「天下人等、皆背輕太子、而歸穴穗御子」 安康卽位前紀「群臣不從、悉隸穴穗皇子」 後撰集、五、秋、上「二人ノ男ニ物イヒケル女ノ、一人ニつきニケレバ」「身方ニ歸く」敵ニ隸く」師ニつく」親ニつく」 (四)感ズ。カブル。感染 「病菌ガつく」 (五)〔憑ル〕 カカル。ノリウツル。狐憑 萬葉集、二十七「玉カツラ、ミナラヌ木ニハ、チハヤブル、神ゾ着クトフ、ナラヌ木ゴトニ」

宇治拾遺、四、第一條「物ノ怪（ケ）、モノニつきテ云フヤウ」「邪祟（モノノケ）つく」狐ガつく」（六）土ト馴染（ナジ）ム。「根ガつく」（七）籠（コモ）ル。「巣ニつく」塒ニつく」（八）登ル。卽位 大鏡、上、清和帝「父帝ノ御位ニつかセ給ヘル、五日ト云フ日」「位ニ卽く」（九）勤メニ掛ル。就（たづさはる、ノ反）「職ニ就く」「業ニ就く」（十）價（アタヒ）ス。直ル。直 「價、百圓ニつく」（十一）記ス。「帳面ニつく」（十二）負ハス。「馬ニ荷ヲつく」（十三）添フ。加ハル。「勢附く」力附く」（十四）ツタハル。沿フ。「岸ニつきテ下リ行ク」（十五）係ル。關ス。「身上ニつきテ」（十六）定マル。立ツ。成立ス、「思案ガつく」見當ガつく」氣が付く、性（シヤウ）が付くトハ、ヨミガヘル。蘇生 座に着くトハ、坐（スワ）ル。坐 手に附くトハ、從フ。屬 火が附くトハ、燃（モ）ユ、トボル。目につくトハ、目ニトマル、見ユ。

つ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）著附付就卽 （一）着（ツ）クヤウニナス。直（ヒタ）ト相合ハス。接合セシム。共ニ寄ス。ネバス。枕草子、八十三段、心もとなきもの「トミノ物縫フニ、クラキヲリ針ニ絲つくる」萬葉集、廿、[illegible]「ナニハヂヲ、行キテクマデト、ワギモコガ、都氣シ紐ガ緒、絶エニケルカモ」（二）添フ。加フ。負ハス。附加 添加 「人ヲ附く」力ヲ附く」勢ヲ附く」惡名ヲ著く」（三）塗（マ）ル。マブス。染ム。塗 染 「粉ヲ着く」墨ヲ着く」色ヲ着く」オシロイヲ着く」（四）貼ル。貼 「藥ヲ貼く」張紙ヲ貼く」（五）記ス。書キ載ス。記入 「帳面ニ付く」標（シルシ）ヲ付く」（六）達（トド）クル。及ボス。（熟語ニ）「待チ付く」聞キ付く」（七）從フ。從屬ス。（八）〔コトヅク。古今集、二、春、下「吹ク風ニ、誂ヘつくる、モノナラバ、此一本ハ、ヨキヨト云ハマシ」古事記、上[illegible]萬葉集、廿、[illegible]「常陸サシ、行カム雁モガ、吾戀ヲ、シルシテ都祁テ、妹ニ知ラセム」伊勢物語、第九段「宇津ノ山ニ至リテ、云云、修行者ニ逢ヒタリ、云云、京ニ其人ノ許ニトテ文書キテつく」（九）設ク。施ス。作ル。「節ヲつく」蹈ヲつく」（十）後（アト）ヲ追フ。尾ス。「つけテ行ク」（十一）着ル。裝フ。著 「衣服ヲ着く」袴ヲ着く」心を付く、氣を付くトハ、守リ思フ。注意 手に附くトハ、從（シタガ）ハル。服 目を付くトハ、狙ヒ見ル。注目 火を附くトハ、燃（モヤ）ス、トボス。點火 値をつくトハ、直段ヲ定ム。

つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）突衝 （一）一氣ニ押シ遣リテ當ツ。「槍ニテ突く」（二）勢ハゲシク進ミ入ル。「敵陣ヲ突く」（三）棒ノ末ヲ當テテ鳴ラス。撞 「鐘ヲ撞く」（四）杵ノ末ニ當テテ碎ク。ウスヅク。擣搗舂 [illegible]記、中、[illegible]「搗、舂、擣、ツク」「麥ヲ舂く」餅ヲ搗く」藥ヲつく」（五）吐ク。歐嘔 宇治拾遺、三、第十六條「食ヒト食ヒタル人人モ、子共モ、我モ、六六、物ヲつきマドヒ合ヒテ、死ヌベクコソアレ」竹取物語、上「反吐ヲつく」息をつくトハ、呼吸ス。嘘（ウソ）をつくトハ、僞ル。惡對（アクタイ）をつくトハ、罵ル。

つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）漬 （一）浸（ヒタ）ル。萬葉集、十七[illegible]「立山ニ、雪シクラシモ、ハヒツキノ、河ノ渡瀨、鐙漬（ツ）カスモ」「水ニ漬く」[illegible]漬く」（二）漬物ヨク熟ス。ツカル。

つ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）漬 （一）ヒタス。ウルホス。字鏡[illegible]「漬、比太須、又、[illegible]、又、宇留保須」名義抄「漬、ツク、ウルフ、ヒタス」仁德紀、十二年十月「掘大溝於山背[illegible]」萬葉集、七[illegible]川、[illegible]リ、淺キヲヤ、心深メテ、吾念ヘラム」神功攝政前紀「[illegible]」（二）漬物ニ製ス。[illegible]

つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）築 〔突くノ義〕土石ヲ突キ固メテ、積ミ建ツ。キヅク。[illegible]萬葉集、[illegible]「ミモロニ、築クヤ玉垣、[illegible]、神ノ宮人」[illegible]

つ・く・クル・クレ・キ・キ・キヨ（自動、上二）盡 〔止（ト）ニ通ズルカ〕（一）無クナル。費エ失ス。消ユ。源、一、桐壺「イトド心苦シウ、心肝モつくるヤウニナン」（二）終ハル。果ツ。シマフ。字鏡[illegible]「盡、竭、窮、罄、殫、ツク」萬葉集、十七[illegible]「冬都藝、春ハキタレド、梅ノ花、君ニシアラネバ、折ル人モナシ」「年盡く」花事盡く」

つぐ（名）桄榔 桄榔子 棕櫚科ノ常綠喬木ノ名、亞細亞ノ暖地ニ生ズ、高サ二丈餘、全體、棕櫚ニ似テ、葉ハ羽狀複葉ニテ革質ナリ。花ハ綠色小形、實ハ青珠ニ似ル。其花序ノ汁ヨリハ砂糖ヲ製シ、莖ノ髓ヨリ澱粉ヲ採リ、葉柄ノ纖維ニテ繩ヲ製ス。我ガ國ニテハ、薩摩ノ南島ニ產ス。其毛ヲ[illegible]刷トシ、又ハ、船ノ綱ニ用ヰテ、久シキニ堪フ。一名、[illegible]。

つ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（自動、四）次 [illegible]後ニ付ク。其下ニ位ス。從フ。ツヅク。接續ス。[illegible]神代紀、上[illegible]萬葉集、[illegible]五十「ウツツニハ、逢フヨシモナシ、ヌバタマノ、ヨルノイメニヲ、都伎テ見エコソ」

つ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）繼續接 （一）添ヘテ付クル。斷エタルヲツヅクル。（二）代リテ、後ヲ承ク。相續ス。嗣 承 「位ヲ嗣ぐ」跡ヲ承グ」名ヲ襲ぐ」（三）補ヒ、縫ヒ繕フ。補綴 「缺片ヲ接ぐ」破綻（ホコロビ）ヲ補ぐ」つぎモノ」（四）後ヨリ加フ。足ス。「炭ヲつぐ」骨を接ぐトハ、骨ノ折レ、又ハ、關節ノ外（ハヅ）レヲナオス。整骨

つ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）[illegible]〔[illegible]ノ義〕[illegible]

[illegible]

つ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）注 〔繼ぐノ義〕減ジタルニ、繼ギ補ヒ加ヘ入ル。注ギ入ル。注込ム。[illegible]大ナル器ノ取リテつぐベシ、六六、大カタ七八分モつぎタランヲ見テ、[illegible]、酒ヲ注ぐ」湯ヲ注ぐ」

つ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）告 言葉ヲ次ニ傳ス。人ニ、[illegible]カタリキカス。[illegible]

づく（名）銑 ずくせん、銑鐵、及、ずくてつ（銑鐵）ノ條ヲ見ヨ。

づく（名）[illegible] カケモノスルコト。[illegible]ツグコト。[illegible]

づく（名）木菟 つく（木菟）ノ訛。[illegible]

づく（名）豆蔻 （草豆蔻ノ略）植物ノ名。[illegible]

づく（接尾）【盡】名詞ニツキテ、アル限リヲ盡クス意ヲ云フ語。浮世床（文化、十）二編、下「金づくデハアルマイス、又、修行づくヤ、功づくデ、長ク號ケルナラ」「力づく」相談づく」

づく（接尾）【續】名詞ニツキテ、其物ノミツグ意ヲ云フ語。「心づく」

づく（接尾）就 名詞ニツキテ、其物ノ成リ進ム意ヲ云フ語。萬葉集、十九、長歌「面影ニ、モトナ見エツ、カクコエバ、老づく吾身、ケダシアヘムカモ」「秋づく」曲節づく」三諸づく」

つくいも（名）【佛掌薯】つくねいも（佛掌薯）ニ同ジ。

つくいもさんすゐ（名）【佛掌薯山水】（其山水畫ハ、多クつくねいもニ似ル故ニ云フ）文人畫ヲ嘲リ云フ語。

つくさし・キ・ケレ・ク・ク（形、二）【餲】腐敗シテクサシ、スエテニホフ。魚肉ダダレニホフ。アザレクサシ。天治字鏡、一三十「餲、魚肉爛也、臭也、豆久佐之」名義抄「餲、ツクサシ、アサル、ナマクサシ」字類抄「臊、腥、ツクサシ」

つくし（名）【筑紫】（築石ノ約ト云フ。筑前續風土記（貝原益軒）ニ、筑紫ハ、モト、モロコシノ敵ヲ拒ガム爲ニ、石垣ヲ築キタルヨリ、築石ノ義ヲ以テ、筑紫ノ國ト云ヒタリトアリ）古ヘ、筑前、筑後ノ兩國ノ稱。轉ジテ、九州一圓ノ名稱。筑紫島。神代紀、上「先生大日本豐秋津洲、次生伊豫二名洲、次生筑紫洲」古事記、上「次生筑紫島、此島亦身一而有面四、每面有名、故筑紫國謂白日別、豐國謂豐日別、肥國謂建日向日豐久士比泥別、熊曾國謂建日別」萬葉集、五、廿二「ハロバロニ、思ホユルカモ、白雲ノ、千重ニ隔ツル、都久紫ノ國ハ」同、廿、長歌「天皇ノ、遠ノミカドト、シラヌヒ、筑紫ノ國ハ、アタ守ル、オサヘノ城ゾト」同、三

二十「シラヌヒノ、筑紫ノ綿ハ、身ニツケテ、イマダハ着ネド、アタタカニ見ユ」

つくし（名）【土筆】つくづくし（土筆）ノ略。其條ヲ見ヨ。

づくし（接尾）【盡】名詞ニツキテ、其一類ノ物ノミ、悉ク擧グル意ニ云フ語。遍ク集メタルモノ。「國盡」紋盡」寶盡」ニノ字盡」七十一番職人盡歌合」

つくしぐし（名）【筑紫櫛】薩摩櫛ナルベシ、お六櫛ノ類カト云フ。國華萬葉記ニ、薩摩櫛、たうぐしトモ云フトアリ。古ヘ、筑紫ヨリ産ゼシモノ。七十一番職人盡歌合、四十二番、櫛挽「出ヤラデ、イトド心ヲ筑紫櫛、ハワケノ月ニ、山風モガナ」

つくしくゎん（名）【筑紫館】こうろくゎん（鴻臚館）ノ條ヲ見ヨ。

つくしごと（名）【筑紫琴】（一）箏ノこと ノ一稱。宇多帝ノ頃、筑紫ノ石川色子ト云フ命婦、豐前ノ彥山ニテ、異朝ノ人ニ習ヒテ、妙術ノ名ヲ得タルヨリ云フトゾ。（二）又、俗間ニ行ハルル十三絃ノ琴ノ名。樂箏ヨリ轉ジテ異ナリ、別ニ曲アリ、俗謠ナリ。後奈良院、永祿以前、肥前ノ人賢順、此術ヲ創シ、後、寬文ノ頃、筑後ノ善導寺ノ僧法水ヨリ弘マレリト云フ。近代世事談（享保、菊岡沾涼）二「十三絃ハ、廿五絃ヲワリテ半略シタル也、十二ノ調子ヲアハセリ、初ノ一絃、名ノミバカリデ彈クコトナシ、因テ半琴ト云フ、寬文ノ頃、筑後國善導寺ノ僧法水ト云フモノ、箏ヲ學ンデ妙術ヲ得タリ、後ニ東武ニ下リ、上永橋檢校ニ傳フ、（上永、後ニ八橋ト改ム）八橋檢校是ヲ得テ、始メテ三線ニウツシ合ハス、今以テ筑紫樂ト稱ス」今、山田流、生田流ナドアリ、三絃ニ合ハセテ唄琴唄トテ唱歌アリ、本ノ調子ヲ、平調子ト云ヒ、變體ナルヲ、雲井ナドト云フ。

つくしさぶらう（名）【筑紫三郎】ばんどうたらう（坂東太郎）ノ條ヲ見ヨ。

つくす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【盡竭悉】（一）盡クルヤウニナス。用キテ、殘リ無クス、終ハル。ナクナス。萬葉集、十八、二十長歌「馬ノ爪、イ都久須キハミ、フナノヘノ、イハツルマデニ」（二）盡クルマデスル。アルカギリナス。ハタス。竹取物語「心ヲツクダキテ、千餘日ニ力ヲつくしタルコト少ナカラズ」「義ヲ盡す」心ヲ盡す」財ヲ盡す」身ヲ盡す」忠ヲ盡す」

つくだ（名）【佃】（作田ノ義、つくりだ（佃）ノ略）人ノ耕作スル田。墾田 熟田 倭名抄、一 六田園類「佃、作レ田也、豆久太」古事記、上廿二「天照大神之營田」孝德紀、二年三月「凡始二畿內一及二四方國一、當二農作月一、早務レ營レ田、不レ合レ使レ喫二美物與一レ酒、宜差二清廉使者一、告二於畿內一」

つくだ（名）【佃】小唄ノ名。隅田川ヲ上下スル屋根舟ノ行交フ時、南方ノ船頭ガ互ニ唄ヒツツユクモノ。卽チ、「佃佃トイソイデ漕ゲド、汐ガソコリテ、艣ガ立タヌ」（一方ノ舟）「吹ケヨ川風、揚ガレヨ簾、中ノ小唄ノ顏見タサ」（一方ノ舟）ノ類ノ如シ。コレヲ、佃を流すト云フ。（士分ノ簾ヲ垂ルル屋根舟ハ、低障子ヲタテテユク。平民ナルハ、障子ヲ禁ゼラレテ、竹簾ナリ）

つくだに（名）【佃煮】（東京佃島ニ起ル）極メテ小サキ沙魚、小蝦ナドヲ、醬油ニテ、シホカラク煮染メタルモノ。（東京）

つくづく（副）【熟】（就くヲ重ネタル語）物ヲ打チ守ル意ニ云フ語。善ク善ク念ヲ入レテ見マモル。ツラツラ。熟思 熟視 白氏文集「坐寂無レ語」源、四十三、竹川八十

「サヤカナラネド、つくづくト見レバ、櫻色ノアヤメモソレト見ワキツ」和泉式部集「暮レヌナリ、幾日ヲカクテ、過ギヌラム、入相ノ鐘ノ、つくづくトシテ」濱松中納言物語、四「つくづくト外ヘモ見ヤラレズ守ラルルニ」「つくづく思ふ」つくづくト見ル」

つくづくし（名）【土筆】（突くヲ重ヌ、突出ノ意。其形、筆ノ頭ニ似ル故ニ、土筆ト書ス）杉菜ノ花。其條ヲ見ヨ。ツクシ。筆頭菜 字類抄「土筆、ツクツクシ」易林節用集（慶長）、草木門「天花菜、ツクヅクシ」源、四十七、早蕨「蕨、つくづくしヲカシキ籠ニ入レテ」

つくつくぼうし（名）【蛁蟟】（其鳴聲、つくつくぼうしト聞ユル故ニ名トス）蟬ノ一種。體小サク、長サ一寸許、灰黑色ニシテ、黃綠ノ斑紋アリ。夏ノ末ヨリ秋ノ頃ニカケテ、鳴ク。寒蟬 一名、クツクツボウシ。ホウシイツクツク。オウシイツクツク。（各條ヲ見ヨ）又、ウックシ、ウツクショシ、トモ云フ。和玉篇「蛁蟟、ツクツクボウシ」夫木抄、九、蟬、家ノツマニ、つくつくぼうしノ鳴クヲ聞キテ「我宿ノ、ツマハ寢ヨクヤ、思フラム、ウツクシト云フ、蟲ノ鳴クナル」鶉衣（横井也有）百蟲譜「つくづく法師ト云フ蟬ハ、つくし戀シトモ云フナリ、筑紫ノ人ノ旅ニ死シテ、コノ物ニナリタリト、世ノ諺ニ云ヘリケリ」

づくてつ（名）【銑鐵】ずくてつノ訛。せんてつ（銑鐵）ノ條ヲ見ヨ。

つくと（副）つくねんとニ同ジ。義經記、七、三の口の關通り給ふ事「ムラムラト內ニ入ッテ、つくとシテゾ居タル」

つぐなふ（動）【償】つくのふ（償）ノ誤。

づくにふ（名）【木菟入】（又、ずくにふだう（俗入道）ノ約轉トモ云フ）づく（木菟）ノ如ク肥エ太リテ、ニクニクシゲナ

ル坊主頭ノ人ヲ罵ル語。 東海道中膝栗毛（文化、一九）七編、上「づくにう、ニヤシテヤッテクレベイカ」（づくにうハ、づくにふノ訛）

つくね-いも （名） 佛掌薯 佛掌藷 〔形、つくねタルガ如シ〕薯ノ屬。蔓、葉、形狀、全クやまのいもニ似タリ。但シ、葉、稍、圓シ、根、最モ肥大ニシテ、尺餘ニ至ルモアリ、老薑、芋魁ノ如ク、扁クシテ枝アルアリ、肥厚ニシテ人ノ掌ノ形ノ如キモアリ、味モ美ナリ、但シ粘リ少シ。略シテ、つくいも。ウダイモ。

✤✤つくねん-と （副） 〔つくづくト念ジ居ル意〕爲ルコト無クテ、徒ニ居ル狀ニ云フ語。獨リ、淋シゲニ坐リ居ル。ツクト。ポツネント。孑然 兀然 徒爾 東海道名所記（萬治）六「古キセルニ、煙草ヲ取リソヘテ前ニ置キ、つくねんとシテ居ルモアリ」「つくねんと日ヲ送ル」「つくねんと坐リテ居ル」

つくね-めし （名） 捏飯 にぎりめし（握飯）ニ同ジ。 世間子息氣質（正徳、江島其磧）一「件ノつくねめしヲ、シタタカセシメ」

つく・ねる・ネル・ネレ・ネ・ネ・ネヨ（他動、下一） 捏 〔束ぬノ訛カ〕手ニテ押シコネテ作ル。コネテ作ル。デッチル。（靜岡縣ニテハ、秩序ナク束ヌルヲ、つくねるト云フ）「土ヲつくねる」「團子ヲつくねる」

つくのひ （名） 償 ツクノフコト。マドフコト。アガナヒ。ウメアハセ。 靈異記、下、第廿五縁、訓釋「償貨、[illegible]乃比乎」

つくのひ-びと （名） 〔償ヲ受ケテ、勞力ニテつくのふ人ノ意〕傭工ノ人。ヤトヒニン。傭夫。 倭名抄、二十 工商類「客作兒、豆久乃比比止」名義抄「客作兒、ツクノヒヒト」

つくの・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四） 償 〔賭ノ物ヲ出ス義〕（一）物ノ報ニ物ヲ出ス。所値ヲ還ス。ウメアハセヲスル。マドフ。賠償。 天治字鏡、一「[illegible]、[illegible]、豆久乃布」同、同九「償、還也、復也、報也、豆久伊、又、豆久乃布」史記、[illegible]「[illegible]」 字類抄「[illegible]」 [illegible] （二）財物ヲ出シテ、責任、又ハ、罪過ヲ免ル。アガナフ。マドフ。 漢書、[illegible]「不足償、[illegible]償之」 沙石集、七、上、[illegible]事「先世ニ、國王トシテ民ヲ僞マシタリシ報イ也、タトヒ牛ヲカフルトモ、昔ハノガレ難シ、今三年アリテ、つくのひヲハルベシ」

つぐ-の-ふね （名） 貢船 〔つぐハ、調ノ轉ニテ、調貢ノ物ヲ運送スル舟ノ意ト云フ〕海上ニ浮ブ大船。今ノ廻船。 倭名抄、十一、船類「舶、都具乃布禰、海中大船也」名義抄「舶、ツクノフネ、今云フ、オホフネ」

つくば-おろし （名） 筑波颪 常陸國、筑波山ノ方ヨリ吹キ來ル風。

つくばね （名） 衝羽根 （一）羽子板ニテ、ハネツクコト。又、ハゴ。ハネ。 [illegible]「つくばねノ、[illegible]コノモ、カノモ」 （二）灌木ノ名。諸國ノ深山ニ多シ、高サ七八尺、葉ハいぼたニ似テ、末尖リ、兩對ス。立夏ノ後、枝ノ頭ニ、四瓣ノ淡綠色ノ花ヲ綴リ開ク。大イサ三分許、實ハささげまめノ如クニシテ、上ニ細長キ四翅アリ、羽子ノ如シ、コレヲ胡鬼子ト云ヒ、鹽漬ニシ、或ハ炙リテ食フベシ、味、榧ノ實ノ如シ。常陸國、筑波山ニ産ズルモノ名アリ。一名、コギノキ。又、ハゴノキ。（日光山ニテ、おきのき、比叡山ニテ、異名、たからまん）胡鬼子 後水尾院御製「つくばねノ、ソレニハアラテ、おきのき、ノ、今宵ノ月ニ、[illegible]」

つくばね-さう （名） 衝羽根草 草ノ名。東北地方ノ深山ニ生ズ。一根ニ莖[illegible]テ、葉ハささゆりノ葉ニ似テ薄ク、縱文アリ、四枚、莖ノ端ニ集リテ、傘ヲ張レルガ如シ。又、三尤草、七八葉[illegible]アリ。五六月頃、其上ニ一莖ヲ出シ、一花ヲ開ク、四出、綠色ニシテ、內ニ金線、八條、長ク出デ、別ニ蘂アリ。王孫

つくば-の-みち （名） 筑波道 連歌ノ異稱。古ヘ、日本武尊、甲斐ノ酒折ノ宮ニテ「新治、筑波ヲ過ギテ、幾夜カ寢ツル」ト歌ヒタマヒシニ、[illegible]ノ、御歌ノ末ヲ續ギテ「日日並ベテ、夜ニハ九夜、日ニハ十日ヲ」ト歌ヒケル（景行紀）ヨリ、之レヲ連歌ノ初トシテ云フ。 連歌[illegible]「[illegible]、連歌ヲ筑波ノ道トモ云フ[illegible]、[illegible]ハ、イカナル[illegible]ニヤ、[illegible]、日本武尊ノ、[illegible]、老人ノ、スエヲ繼奉リケルヨリ、連歌ヲ筑波の道トモ云ヒテ、是ヲ人ノ代トナリテ、正シク連歌ノハジメニハスル也」 筑波問答、日本紀ニ、景行天皇ノ御代、日本武ノ尊ノ、アヅマノエビス鎭メニ向給テ、此新治筑波ヲ過ギテ、[illegible]ト[illegible]、[illegible]ヲ比比利、多豆波須[illegible]、スベテ付申人ノナカリシニ、火ヲトモスイハケナキワラハノ付テ、[illegible]、[illegible]、日[illegible]、[illegible]、[illegible]ト申侍ケレバ、勝ホメ給ケルトナン」

つくばひ （名） 蹲 （一）ツクバフコト。 （二）茶室ノ露地ノ手水鉢。「つくばひて、[illegible]ノ[illegible]」

つくば・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四） 蹲踞 〔突這ふノ義、はひつくばふノ略〕（一）蹲ミテ手ヲ地ニ突ク。平伏スル。ヘイツクバル。 狂言記、二人大名「汝等ガつくばうて[illegible]」 [illegible] （二）[illegible]ニ蹲」ニ同ジ。

つくば・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四） 蹲踞 〔うづくまるノ略轉〕うづくまる 蹲 ニ同ジ。

つくひ （名） 月日 つきひ（月日）ニ同ジ。 （字鏡「時、豆支（久）比（ヒ）[illegible]」） [illegible]

つぐ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四） 噤 [illegible]ル。ツマル。トヅ。 [illegible]

つくぶし （名） 踝 〔突節ノ義〕くるぶし（踝）ニ同ジ。

つくぼう （名） 突棒 古ヘ、罪人ナドヲ捕フルニ用ヰシ武器。木ノ柄ニテ、頭[illegible]、一名、ソデガラミ。又、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ヲ押ス。別名、[illegible]、[illegible]。 [illegible]

つくま-まつり （名） 筑摩祭 近江國、坂田郡ノ筑摩神社ノ祭。鍋祭トモ云フ。[illegible]

ム、ツレナキ人ノ、鍋ノ數見ム」 諸國圖會年中行事大成、三、上、四月、八日筑摩祭、近江國坂田郡ニアリ、祭神御食津神、當社ノ祭式、往古ハ四月朔日ニシテ、云云、村婦各其男ニ逢タル數ニ隨ヒテ、土ノ鍋ヲ戴キ、祭祀ニ供奉セシトナリ、今ハ今日十二三歳バカリノ少女、首下紙ニ狩衣、掛ノ袴ノ如キモノヲ着シ、紙ヲモツテ造リシ鍋ヲ戴キ、手ニ鍋取ヲ提ル者十二三人、筑摩ノ里ヨリ出テ、四五町バカリナル本社ニ詣デ、未ノ刻バカリ神輿渡御ノ供奉ヲナス」

つぐみ (名) 【鶫】〔噤みノ義、夏至ノ後、聲無ケレバ云フ〕又、馬鳥。鳥ノ名。山中ノ樹孔、巖穴ニ棲ム。形、もずヨリ大キク、全身、紫灰ニシテ、腹ハ、黄白ニ紫黄ノ斑アリ、翼、尾、黒ク、脚、背、青シ。秋、羣ヲ成シテ來リ、立春ヨリ囀リ、夏至ノ後、聲無シ。一名、鳥馬。又、黒鶫ハ、全身、灰黒ニ黒斑アリ、頭、翼、尾、純黒ニシテ、頰、白ク、背、脚、黄ナリ。山ニ棲ミ、善ク囀ル。人捕ヘテ飼フ、能ク諸鳥ノ音ヲナス。 倭名抄、十八羽族名「鶫、豆久見、馬鳥」 字鏡「鶫、豆久彌」 拾遺集、七、物名「ワガ心、怪シクアダニ、春クレバ、花ニつぐみト、イカデナリケン」

つぐみ-の-いひね (名) 【白英】〔鶫ノ飯根ノ義カ〕 草ノ名。多年生蔓草。有毒植物ナリ。ほろし(白英)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、廿草類「白英、保良(呂ノ誤)之、豆久美乃伊比禰」 本草和名、上「白莫(英ノ誤カ)保呂之 都久美乃以比禰」 醫心方、一、白莫、保呂之、都久美乃以比禰」 字鏡「白英、保呂志草、豆具彌乃伊比禰」

つぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 【噤】〔唾含むノ約カト云フ〕 默リテ、口ヲ開カズ。口ヲ閉ヂテ言ハズ。モダス。ダマル。 名義抄「噤、ツグム」 字類抄「噤、ツグム、閉口也」 太平記、四、呉越軍事「君、惡ヲ積メドモ、臣、敢ヘテ不レ諫、只諂臣、口ヲ噤ミ、萬人目ヲ以テス」

つぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【蹲踞】 地ニカガム。クグマル。カガマル。ウヅクマル。 天治字鏡、十四「撙、己夫志、手豆久牟」

づくめ (接尾) 【盡】〔づく(盡)ニ、めノ附キタル語。め(接尾語)ノ條ヲモ見ヨ〕 物ノ悉クト云フ意ヲ表ハス語。多クハ熟語名詞ヲ作ルモノ。 傾城酒呑童子(享保、近松作)四「色づくめ、金づくめナル身ノ榮華」

つくも (名) 【江浦草】 又、タクマモ。淡水産ノ水菜ノ名。詳ナラズ。 倭名抄、十七水菜類「江浦草、豆久毛、一云、太久萬毛」 本草和名、下「江浦草、都久毛」 林逸節用集「揺藻汁、ツクモジル」 延暦、神宮儀式帳「伊勢國、都久毛島」 一説ニ、莞ノ異名トス。 重修本草綱目啓蒙、十六、水草「香蒲、云云、莞、ツクモ」

つくも (數) 【九十九】 次條ヲ見ヨ。

つくも-がみ (名) 【九十九髮】〔老媼ノ白髮ノ、江浦草ニ似タルヲ云フ語ナリト。〕 伊勢物語、六十三段、老女ノ歌「百年ニ、一年足ラヌ、つくもがみ、我ヲ戀フラシ、俤ニ見ユ」(盡百ト言ヒ掛ケタルモノカト云フ)此歌ニ因リテ、九十九ヲつくもト訓メリ」 百ノ字ニ一畫足ラヌ白ノ字ニ因ミテ、老人ノ白髮ノコト。 源、五十二、手習「浮舟ノ髮ノウルハシキニ、尼ノ詞「一年足ラヌつくも髮多カル所ニテ、目モアヤニイミジキ天人ノ天クダレルヲ見タラムヤウニ思フ」

つくも-がみ (名) 【付喪神】 器物ノ古ビテ、精靈ヲ得タリト云フ神。付喪神記(古キ繪卷物)ニ、陰陽雜記ニ云フ、器物、百年ヲ經テ、化シテ精靈ヲ得テヨリ人ヲ化ス、コレヲ付喪神ト號ス、トアリ。

つくも-どころ (名) 【作物所】 古ヘ、禁中ニアリテ、調度ナドノ製造、彫刻、鍛冶ナド、種種ノ細工スル所。別當、預、ノ職アリ。又、ツクモンドコロ。 字類抄「造物所、ツクモトコロ、在禁中永安門内」 西宮記、十二、改錢「令書字樣奏聞、賜作物所彫定、鑄官符下鑄錢司」 榮花物語、三十一、殿上花見「つくも所ニテ、女房ノ裳唐衣ニ、繪カキ、作リ繪ナド、イミシクセサセタマフ」

つくゆみ (名) 【槻弓】 つきゆみ(槻弓)ニ同ジ。 古事記、下「都久由美ノ、コヤルコヤリモ、梓弓、タテリタテリモ、ノチモ取リ見ル、思ヒ妻アハレ」 神功紀、攝政元年三月「遠方ノ、アララ松原、松原ニ、渡リユキテ、槻弓ニ、マリ矢ヲタグヘ」

つくよ (名) 【月夜】〔古言ニハ、月ヲつくト云フ。つくひ(月日) 但シ、熟語ニ限ル。黃金ヲ久我禰ト云フ例ナリ。槻弓、つくゆみナドモアリ〕 (一)つくよみ(月夜見)ノ條ノ(二)ノ略。 萬葉集、十八「時鳥、此從鳴キ渡レ、燈火ヲ、都久欲ニ擬ヘ、其影モ見ム」 同、二「去年見テシ、秋ノ月夜ハ、照ラセレド、相見シ妹ハ、イヤ年サカル」 (二)月ノアル夜。 萬葉集、廿「ウチナビク、春ヲ近ミカ、ヌバ玉ノ、今夜ノ都久欲、霞ミタルラム」 同、十五「夕豆久欲、影立寄リテ、天ノ川、漕グ舟人ヲ、見ルガ羨シサ」 古今集、十四、戀、四「月よヨシ、夜ヨシト人ニ、告ゲヤラバ、コテフニ似タリ、待タズシモアラズ」

つくよみ (名) 【月夜見月讀】〔月夜靈ノ義、日靈(日靈)ニ對ス。夜ト云フハ、夜ノ食國ヲ、知ラシメスヨリ云フナリ〕 (一)天ツ月ヲ、保チ知ラシメス神ノ御名。月ノ神。(日ノ神、山ノ神、海ノ神ノ類) 神代紀、上「生日神號大日靈貴云云、此子光華明彩、云云、次生月神(註、一書云、月夜見尊、月讀尊)其光彩亞日」 古事記、上「洗右御目時、所成神名、月讀命」 萬葉集、十三「月夜見ノ、持ル越水、伊取リ來テ、君ニ奉リテ、變若得シムモノ」 (二)月ノ一稱。略シテ、つくよ。 萬葉集、七「海原ノ、道遠ミカモ、月讀ノ、光スクナキ、夜ハクダナツツ」 同、十五「月余美ノ、光ヲ淸ミ、ユフナギニ、水手ノ聲呼ビ、浦廻漕グカモ」

つくよみ-をとこ (名) 【月讀男】 (一)つきひとをとこ(月人壯士)ニ同ジ。つきのかつら(月桂)ノ條ヲ見ヨ。 萬葉集、六「天ニ坐ス、月讀壯子、幣ハセム、今夜ノ長サ、五百夜繼ギコソ」 (二)月ノ異稱。 萬葉集、七「三笠行ク、月讀壯子、夕去ラズ、目ニハ見レドモ、寄ルヨシモナシ」

つくら (名) 魚ノ名。いな(鯔)ノ小サキモノ。今モ伊勢ニテハ云フ。關東ニ、すばしり。 小鯔魚 倭名抄、十九「鯔魚、都久良」 天治字鏡、九「鯔、豆久良」

つぐら (名) (一)藁ニテ組ミタル筵。ネコダ。ネコガキ。 散木集、九、雜、上「山カツノ、つぐらニ居タル、ワレナレヤ、心狹サヲ、ナゲクト思ヘバ」 (二)射術ノ語。藁筵ヲ卷キ、垜ニ代ヘ、小日ニ小的ヲ立ツルニ用ヰルモノ。 射御拾遺抄「的立ベキ物ナキアヒダ、つぐらト云フ物ヲ組ミテ立ツルナリ、(中略)つぐらハ定マレルアヅチニモ用フベシ」 (三)腰掛ノ具。土器ナルベシ。 松屋筆記(高田與清)七十四、三十一條「つぐらハ土座ニテ、兒カクル具ナルベシ、今モ武藏相模ノ方言ニ、曲物、器ヲつぐらト云ヘリ、是モ土座ノ器ノ形ニ似タレバ、然イフニヤ」

つくら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【作】 作るノ敬語。作リタマフ。 萬葉集、一「吾ガ勢子ハ、借廬作良須、草無クバ、小松ガ下ノ、草ヲ苅ラサネ」 同、二長歌「吾ガ大王ノ、萬代ト、思ホシメシテ、作良志シ、香來山ノ宮、萬代ニ、スギムト念ヘヤ」

つくり (名) 【作造】 (一)作ルコト。 神代紀、下「天日隅宮、作木綿者」」 (二)作リタル狀。コシラヘ。體裁 古今著聞集、十一「御ワタマシアリケリ、作りドモモ、少シ改メラレケリ」 (三)ヨソホヒ。粧飾 「ワカづくり」ハデづくり」 (四)つくりみ(作身)ノ略。サシミ。

つくり (名) 【字旁】〔作リノ義カ〕 へん

(偏)ノ條ヲ見ヨ。文化の川柳「水無月ノ獻、罎ノつくりナリ」(加州侯ヨリ、六月一日ニ、氷室ノ雪ヲ幕府ニ獻ジキ、罎ノ字旁ノ雪ナリ)

つくり-あはせ (名) 造合 屋ノ棟ノ、兩方ヨリ合掌形ニ造リ合ハセタル所。搏風。盛衰記、五、澄憲祈雨事「十禪師ノ宮ノ造リ合セヨリ、白髪タル老女一人現ジテ」

つくり-いし (名) 砧 きぬた(砧)ニ同ジ。名義抄「砧、ツクリイシ、キヌタ、カナシキ、カラウス」

つくり-おや (名) 作親 カリノオヤ、義父。狭衣、一、下「心ニマカセタルつくりおや」

つくり-かた (名) 作方 (一)作ル方法。作リ工合。「文ノ作リ方」(二)作ラレタル體裁。出來工合。「巧ミナル作リ方」

〜つくり-かは (名) 革 (作皮ノ義) なめしがは(韋)ノ古言。其條ヲ見ヨ。倭名抄、十五七漆膠具「革、都久利加波、獸皮去レ毛也」

つくり-かへ (名) 作替 改メテ作ルコト。作リナホスコト。改作 改造

つくり-がほ (名) 作顔 生得ニアラヌ、顔ツキヲナスコト。又、其顔。好色一代男(貞享、西鶴)八「黒木賣リ庄左衛門ハ鳥帽子著テ、目鼻忙シキ作顔」

〜つくり-ごと (名) 作事 無キヲ有リタル如ク作リ出セル事。コシラヘゴト。假作。假託 源、四、夕顔五十「見ン人サヘカタホナラズ、物ホメガチナルト、つくりごとメキテ、取リナス人、物シタマヒケレバナン」

つくり-ごと (名) 作言 無キヲ有リタル如クニ言ヒナスコト、イツハリ、ウソ。いつはりごと。虚言 虚語 盛衰記、四十一、[illegible]

つくり-ごゑ (名) 作聲 生得ナラヌ聲ヲナスコト。粧聲 好色一代女(貞享、西鶴)六「身ニ答ヘテ恥カシク、物靜カニつくり聲ヲシテ」

つくり-ざけ (名) 釀酒 酒ヲ釀造スルコト。酒ヲカモスコト。又、釀造シタル酒。カモシタル酒。名義抄「釀酒、ツクリサケ」

つくり-ざ (名) 作字 (一)文字ヲ作ルコト。又、其文字。(二)わざ(和字)ノ條ノ(二)ニ同ジ。[illegible]「玉章ノ、中ニ作字、カキ入レテ」アカヌイトマニ、ヤル八田畠」

〜つくり-だ (名) 佃 (作田ノ義) つくだ(佃、第一語)ノ條ヲ見ヨ。墾田 箋注倭名抄、一二十七田野類「佃、豆久利太」名義抄「佃、ツクリタ」夫木抄、廿、山「作リ田ノ、刈ルベキ時カ、御代ナレバ、イナフサ山ノ、ユタカナリケリ」

つくり-だち (名) 造太刀 木ニテ太刀ノ狀ニ造リタルモノ。ぎぢやう(儀仗)ノ條ヲ見ヨ。將軍德川家典禮附録(富重作山本合編)五「造リ御太刀一腰、御馬代黄金二枚」

つくり-た・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 作立 (一)作リ上グル。コシラヘ上グル。(二)盛ニ粧フ。飾ル。徒然草、[illegible]十八段「侍フ女房ノ、つくり立テテ出シ給ヒテ」

つくり-たて (名) 作立 (一)作リ立テタルコト。又、コシラヘタテ。デキタテ。(二)ツクリタルサマ。粧ヒタルサマ。飾リタルサマ。ツクリヤウ

つくり-つけ (名) 作付 取放シノナラヌヤウニ、取付ケテ作リタルコト。又、其物。小右記(小野宮實資)寬仁二年六月廿八日「朱[illegible]」

つくり-づめ (名) 作爪 箏ノカケヅメ。筑紫琴ノコトヅメ。象牙ナドニテ作ル。おとづめ(琴爪)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible](安永、土肥經平)上、箏の作り爪「大鏡ニハ、箏ノ引人ハ、ベチニ爪作リテ、指ニサシ入テ、引クコトニ侍リシト、菅川御幸ノ物語ニ見エタレバ、昔モ必ズ一樣ニモナク、作リ爪ヲモ、マタ用ヒシナリ」

つくり-どり (名) 作取 田畠ヲ耕作シテ、其收納ヲ全ク己レノモノトシテ取ルコト。(無年貢ノ田ナドニ云フ)

つくり-な (名) 作名 詐リテ云フ名。僞名。又、假ニ付ケタル名。假名。隣廉紙(元祿、近松作)下「媒介頼ミ、作リ名シテ、言ヒ入レノ結納送ッタハ、此ノ三五兵衛デアッタゾヤ」

つくり-ばな (名) 造花 (一)花結、蒔繪ノ類、綵花、[illegible]烏丸西入家造之、所々書ニ長絹ニ之等有之由等ニ」職人圖彙、造花師「諸ノ糸ヲモテ作ル、むすび花トモ云フ」(二)「五彩ノ紙、帛ナドニテ、實ノ花葉ノ形ヲ作レルモノ、生花ニ對ス。ザウクヮ。綵花 綵華 剪綵 花[illegible]語、上「前ナル鉢ノ、ヒタ黒ニ煤ツキタルヲ取リテ、錦ノ袋ニ入レテ、つくり花ノ枝ニツケテ」

つくり-ばなし (名) 作話 無キヲ有リタルヤウニ作レル物語。假作ノ[illegible]

つくり-ひげ (名) 作髭 (一)髭ナキ人ノ、別ニ毛モテ髭ノ狀ニ作リ、絲ニテ兩耳ニ懸クルモノ。カケヒゲ。ツケヒゲ。(俳優ナドニ) 假髯 諸艶大鑑(貞享、西鶴)八、日本堤「忍ブ人ノタメトテ、懸髭、布頭巾賣ル」諸袖海、三「日本堤、頭巾ニ作リ髭かけテ、鬢ノ毛ノ刷立トナル」(二)油墨ニテ、顔ニ畫キタル髭。髭ヲ剃ルヤウニナリテ後、奴ナドノシタル[illegible](江戸時代ニ)[illegible]瓜食フ、奴ノ髭ノ、濃レケリ」好色一代女(貞享、西鶴)二「作リ髭ノ奴ニ、草履モタス」

つくり-み (名) 作身魚肉 (切ルヲ忌ミテ作ルト云フカ、刺身モ同ジカルベシ、みハ肉ナリ) 略シテ、つくり。料理ニ、切リタル魚肉。ナマス。サシミ。[illegible]

〜つくり-みづ (名) 暵 (造水ノ義) 水ヲ沸カシテ、冷シテ飲ムニ用ヰルモノ。又、煮御水。サマシミヅ。ユザマシノ水。[illegible]於毛比」名義抄「暵、ツクリ水、ユオモヒ」

つくり-め (名) 作眼 ワザト、眼ヲ怒ラシテ、睨ミ視ルコト。ツクリマナコ。太平記、三十九、光嚴院禪定法皇行脚御事「つくり眼シテ[illegible]ル者ニテゾアルラムト、覺エタル武士七八人」

つくり-もの (名) 作物 (一)[illegible] (二)人ノ作リ出セル物。[illegible] (三)[illegible]テ、作リタル物。僞物。[illegible]盤ノ上ニ、昔ハ來ニケリ[illegible] (四)[illegible]作物。さくもつ。

つくり-ものがたり (名) 作物語 [illegible]

つくり-や (名) [illegible]

つくり-やまひ (名) 作病 病メリト、僞ルコト。病氣ナリト、僞リテソノコトヲ[illegible]。ニセビャウ。ヤミツクリ。ケビャウ。詐病 佯病 好色一代男(天和、西鶴)六、[illegible]

〜つくり-ゑ (名) 作繪 [illegible]

つく・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［作造］〔付ノ意ナリト云フ、精ジタル語カ〕（一）物ヲ構ヘ成ス。コシラフ。イトナム。調フル。デカス。竹取物語「カグヤ姫ハ罪ヲつくり給ヘリケレバ」「家ヲ造る」「身代ヲ造る」「米ヲ作る」（二）〔營ヘ粧フ〕粧 宇津保物語、初秋、下六十「顔ヲつくる」「毀ヲつくる」（三）書キツヅル。詠ム。述作「書ヲ作る」「歌ヲ作る」「詩ヲ作る」（四）〔擬ヘ成ス〕イツハリデカス。擬作 古今集、四、秋、上「庭ヲ秋ノ野ニつくりテ」「病ヲ作る」「つくり話」「つくり聲」（五）〔切リキザム。料理ス。割肉 宇治拾遺、四、第七條「イザ此雉子ヲ、イケナガラつくりテクハム」 高橋氏文「甚味清造、欲供御食」（叉魚、蛤ヲ） 宇津保物語、吹上、下三十「組ドモタテテ魚鳥つくる」「魚ヲつくる」「つくり肉」（六）告ゲ鳴ク。時夜「時ヲつくる」（七）耕ス。耕 古今集、十九、誹諧「幾何ノ、田ヲ作レバカ、時鳥、シデノ田ヲサヲ、アサナアサナヨブ」

つくろひ（名）繕 ツクロフコト。倭名抄、十八、羽族體「瓝、波都久呂比」 嘉野集（荷兮）雜「鳴キ聲ノ、つくろひモナキ、鶉カナ」

つくろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）繕〔作ル、ノ延〕（一）補ヒ作ル。修メナホス。修復ス。名義抄「修理、ツクロフ」 欽明紀、廿二年「脩＝治穴門館＝」 天武紀、上、元年六月「繕＝兵於＝百濟家＝自＝南門＝出之」 今鏡、第四、白川のわたり「紫檀ノ切、殿ニ申シテ、ソノ高欄ノ折レタル、つくろはム」（二）整ヘ粧フ。修飾ス。又、引キ繕フ。着カザル。箋注倭名抄、七「眉毛、波豆久路比」 名義抄「繕、ツクロフ、ツクル、シツラフ」「刷、ツクロフ」 雄略紀、七年八月「天下麗人、云云、鉛花弗御」 源、九、葵、十「姫君ノイトウツクシゲニつくろひタテテオハスルヲ」 同、廿三、初音、五「御髪ナドモイタク盛リ過ギニケリ、ヤサシキ方ニアラネドモ、エビ染ノ」 同、廿六、常夏、十「紅ト云フモノ、イト赤ラカニツケテ、髪梳りつくろひタマヘリ」 同、三十四、下、若菜、上五十「御髪沐シテ、引キつくろひテオハスル」「衣紋ヲ繕ふ」「容子ヲ繕ふ」（三）病氣ヲナホスコト。治療ス。源、五十、浮舟、廿「御風ヨクつくろはセ給ヘ」（四）氣ヲツクル。用意ス。支度ス。皇極紀、元年十二月「足結手纏（タツク）リ、腰豆師實符モ」（足結ヲツクロヒ、腰ノモマデモ引キアゲテ、身ノ用意スルナリ）

つくゑ（名）［机案几］〔坏居ノ約ト云フ、飲食器ヲ居ウ。古事記、上、六十二「百取机代之物トアリ」〕（一）飲食ノ器ヲ居ウル臺。食案 倭名抄、十六、木器類「机、都久惠、案屬也」 萬葉集、十六、廿九、長歌「タカツキニ盛リ、机ニタテテ、母ニマツリツヤ」（二）フミヅクヱ。フヅクヱ。專ラ、書籍ヲ載セ、又ハ、字ヲ書クニ用ヰル臺。書案 文案 案几 几案 庭訓往來、九月「造花、卓、机」

つくゑしろもの（名）［机代物］〔机實物ノ意〕又、つくゑもの。食案ニ置ク物。大嘗祭ノ時ナド、諸國ヨリ奉ル穀果蔬魚鳥ナド、祭宮外ノ南庭ニテ、机ノ上ニ積ミテ供セラルルモノ。コレヲ庭積ノ机代物ト云フ。ツクヱシロノモノ（前條ヲ參見セヨ）クラシロノモノ。臨時祭式、鎭魂祭「大膳職造酒司、供ニ几代物ニ」 神代紀、下十五「百机飲食」

つくゑばなれ（名）［机離］書ノ成熟シタルコト。又、其筆蹟。

つけ（名）［附］（一）附拍子ノ略。其條ヲ見ヨ。「つけヲ打ツ」（二）勘定書附ノ略。かんぢゃうがき（勘定書）ノ條ヲ見ヨ。「つけガワルイ」

つげ（名）［黄楊］〔次ノ轉〕常綠ノ灌木。山ニ多シ、高サ五六尺、枝葉繁茂ス、故ニ多ク墻トス。葉、深綠ニシテ、小サク細長ク、厚クシテ、細鋸齒アリ、互生ス。夏、葉ノ間ニ、小白花ヲ開ク、實圓ク、熟スレバ黑シ。材、堅ク白ク、諸ノ器ニ作ル。他名ニ對シテ、いぬつげトモ云フ。梓木 又、姫黃楊アリ、多ク庭際ニ植ウ、枝、葉、對生シ、葉、小サク、長サ二三分許、鋸齒無シ、花、無シ。材、黃ヲ帶ビテ、最モ堅緻ナレバ、印版、櫛、入齒ナドトス。黃楊 倭名抄、廿、木類「黃楊、豆介」 字鏡、八十二「黃楊、豆介乃木」 萬葉集、九、廿七「君ナクバ、ナゾ身カザラム、櫛笥ナル、つげノ小櫛モ、取ラムト思ハズ」

つげ（名）［告］（一）〔告グルコト。イヒキカセ。シラセ。萬葉集、十四、廿「秋田苅ル、トマデ動クナリ、白露ハ、置ク穗田ナシト、告げニキヌラシ」（二）神佛ナドノ知ラセ。オツゲ。託宣 謠曲、鐵輪「忽チ鬼神ト御ナリアラウズルトノ御告げニテ候」「神ノ告」

つけあが・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［附上］相手ノ寛大ニ附ケ込ミテ、增長ス。ツキアガル。圖ニ乘ル。愈傲

つけあげ（名）［附揚］あげもの（揚物）ノ條ヲ見ヨ。蜘蛛の絲巻（弘化、京山）「大坂ニテ、つけあげト云フ物、江戸ニテハ、胡麻揚トテ辻ウリアレド、イマダ魚肉アゲ物ハ見エズ」

つけあは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）［附合］竝ベ合ハス。添ヘテアヘシラフ。トリ添フ。附ケ添フ。配置

つけあはせ（名）［附合］ツケアハスルコト。添ヘアシラフコト。又、ソノモノ。配置「燒魚ニ新生姜ナドヲつけあはせニスル」

つけあひ（名）［附合］連歌ヲ誹諧體ニ附ケ合フモノ。卽チ、歌ノ下ノ二句ヲ出シテ、上ノ三句ヲ他ニ附ケサスルモノ。出スヲ前句ト云ヒ、附クルヲ附句ト云フ。コレ連歌ニ起ルト。梵灯庵主返答書、上「一、連歌ノ付合ノ事、タダ前ノ句ニヨクカカリテ聞ズヘキ物歟、一句ヲナミナミトシタテテ、前句ヲ捨ベキカト、初心ノ人、アマネク是ヲ尋ラレ侍ナリ、イカナル異邉ノ人モ、イヅレニゾヨリ侍ベキトハ、兼テ申ガタキ事也、唯トリヨルハ、作者ノ調法ニヨルベシ」 犬筑波集（寛永）「月隱ス、花ノ小枝ノ、繁キヲバ、（附句）伐リタクモアリ、伐リタクモナシ」（前句）又、前句附ト云フアリ。其條ヲ見ヨ。

つけいし（名）［附石］かねつけいし（金附石）ノ略。其條ヲ見ヨ。

つけいり（名）［附入］（一）ツケイルコト。（二）城ヲ攻ムルニ、敵ノ退キ入ルニ、隙アラセズ、附キテ攻メ入ルコト。ツケコミ。唐船噺今國性爺（享保、近松作）下「門ヲ開キ城中ヘ入レタレドモ、付け入りニ逢ウテハ、難儀ノ難儀」「つけいりノ槍」

つけい・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［附入］（一）機ヲ便次ニ事ヲ爲ス。ツケコム。乘ズ。乘機（二）敵ノ退クニ附キテ、城ニ攻メ入ル。前條ノ（二）ヲ見ヨ。

つけうた（名）［附歌］神樂、管絃樂ナドニ、ツケソヘテウタフ歌。又、ソノ人。樂家錄、一、神樂修法之次第「庭燎作法、云云、次掃部寮撤レ軾、次附歌次第著レ座」 郢曲相承次第、大納言資賢「內大臣宗能、天仁保安兩度候ニ付歌ニ云云、有道卿爲ニ付歌ニ被レ催レ之」 只秉往來（兼良）「有ニ神樂ニ御葉、其駒、庭燎等之謠曲、本拍子者、一條中納言、末拍子者、中御門宰相、付歌者、子息達」 平家物語、五、文覺被流事「風俗、催馬樂、云云、法皇モ付歌セサセ座シマス」 菅翁集、六、管絃「主上、笛ヲ吹カセオハシマシケル、殿下等、宗忠卿拍子、宗通卿付歌」

つけうま（名）［附馬］〔つきうま（附馬）ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕妓樓ニテ、遊客ノ

遊興費ナド、不足、或ハ不拂ノ時、其客ニ附ケテ、揚代ヲ取リニ遣ル人。ツキウマ。略シテ、うま。

つけ-おち (名) 「附落」 次條ノ語ニ同ジ。

つけ-おとし (名) 「附落」 帳面ナドニ、價、及、其他ノ事ヲ記シ付クベキモノヲ、脱落スルコト。ツケオチ。記載漏。

つけ-おと・す・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) 附落 附クベキヲ脱ス。記シ漏ラス。

つけ-おび (名) 附帶 さげおび(提帶)ノ條ノ(一)、及、(二)ヲ見ヨ。

つけ-かけ (名) 附掛 「附落ニ對ス」 帳面ナドニ、價ヲ增シテ記シ付クルコト。(五十ヲ、六十ニ詐リ記スナド)

つけ-がみ (名) 附髮 (一)生得ノ髮ノ短キタメニ、附ケ添ヘタル髮。雅亮裝束抄、二、「みづらをゆふ事、チゴヲサナクテ、カミ短クバ、ベチニつけがみト云フモノヲ、モトユヒタル上ニ結ヒツケテ結フナリ」 (二)歌舞伎ノ若衆、前髮ヲ剃ラセ野郎頭トセラレタルガ、女形ナドスル時ナド、他髮ニテ作リ、月代ヲ覆フヤウニセシモノナルベシ。寛文六年午六月町觸「町中ニ、似せ野郎ヲ拵へ、付髮裝束ナド致…云云、狂言致サセ候由」 江戶雀(延寶、菱川師宣)二「…髮ヲ剃ラセラル、此故ニ…頭巾ヲナセリ、狂言ニ出ヅル時ハ、付髮ヲスルナリ」

つけ-がみ (名) 附紙 (一)文書ノ中ノ心當テノ處ナドニ、標ニ紙ヲ付ケ置クモノ。不審紙。紙簽。(二)さげがみ(下紙)ニ同ジ。(三)門口ナドニ、目標トシテ、取リ附ケタル紙。好色二代男(貞享、西鶴)六「…ノ門口ニ附け紙ヲシテ置キケレ、、遣手ノ…男ニ、小宿ニ歸ッタ間ヲ知ラスタメナリ」

つけ-がもゐ (名) 附鴨居 昔ノ上長押、又、書院面ニ、取附クル假作鴨居。

つけ-がらう (名) 附家老 江戶時代、幕府ヨリ親藩ナドニ、又ハ、大名ノ本家ヨリ其分家ニ、附ケ添ヘタル家老職。

つけ-ぎ (名) 附木 燧火、炭火ヲ燃シ付ケテ、他ノ焚物ナドニ移ス具。檜、又ハ、松ノ材ヲ薄片トシ、硫黃ヲ其端ニ塗リテ乾ス、一名、ユワウギ、引火奴、發燭。又、すり附木、はや附木ナドアリ。各條ニ註ス。和訓栞、五「…ユワウド、ツケギ」 好色一代女(貞享、西鶴)四「若手ニ…附木ヲ持チ」

つけ-く (名) 附句 (一)連歌ニ云フ語。其條ヲ見ヨ。翁草(安永、神澤杜口)二十八、里村昌程、連歌ノ附句ニ、イヅクノ山ニ、カクレ住ムラン、トイフ句ニ、卯ノ花ノ、咲ケドモ鳴カヌ、郭公ト附ケラレシヲ、一座感ズ」 (二)つけあひ(附合)ニ云フ語。其條ヲ見ヨ。

つけ-くさびら (名) 〔漬菜蔬ノ義〕 野菜ヲ、鹽ニテ漬ケタルモノ。ニラギ。スズホリ。漬物。名義抄「菹、ツケクサビラ」

つけ-ぐすり (名) 附藥 肌ノ患部ナドニ貼ケテ用キル膏藥ナドノ稱。(のみぐすりニ對ス) 外用藥。貼藥

つけ-ぐち (名) 告口 人ノ隱事、過失ナドヲ、竊ニ他ノ人ニ告グルコト。イヒツケグチ。密告 當世、竹齋、オコトハ、殿へ、…ガ惡クアタルナドト、告口ヲシテ有ルナ」

つけ-くは・ふ・フル・フレ・へ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 附加 サシソフ。マス。タス。附加ス。

つけ-くはへ (名) 附加 サシソフルコト。マシ、ヤスコト。附加スルコト。

つけ-けいき (名) 附景氣 ウハベノミ、景氣ヨク見セカクルコト。好景氣ツクリ、ヨソホフコト。又、其景氣。

つけ-こ (名) 附子 鶯ヲ飼フニ云フ語。鳴聲ノ美ナラヌ鶯ノ雛ヲ、聲ヨキ鶯ニ附ケテ、其鳴聲ヲ習ハシムル鶯ノ稱。(鳴…)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「三光ヲ鳴ル鶯カゴ持チテ、つけこノ鶯取リテ」

つけ-こみ (名) 附込 (一)附ケコムコト。(二)つけいり(附入)ノ條ノ(二)ニ同ジ。[illegible]「…マデ攻メ入リ」 (三)帳簿ニ仕譯セズニ、記入スルコト。「附込帳」

つけ-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 附込 (一)つけいる(附入)ニ同ジ。(二)仕譯ヲセズニ、帳簿ニ記入ス。

つけ-ごろも (名) 付衣 〔衰付ノ衣ノ義、常ノ僧衣ニ對ス〕 裙ヲ長ク仕立テタル僧衣。色ハ多ク黑ナリ。坐具。法體裝束抄(藤原永行)「付衣事、無裏、丈數六丈五尺、クビ立タル裂付衣ノ事、タタミ樣、常ノゴトシ、[illegible]」

つけ-ざし (名) 附差 飲ミカケタル烟草、又ハ、酒ノ杯ヲ、人ニ與フルコト。霞筑波集(寛永)「戀コソ胸ノ、烟トハナレ、シノヘルカ、飲ミシ烟草ノ、つけざしニ」

つけ-しょゐん (名) 附書院 [illegible] 作附ノ書院カ、書院ハ、モト書物棚ノ名ナリ〕 又、書院床、向ヒ…明障子ヲ立テ、[illegible]床、明書院ノ名モアリ。コレハ、床ノ間ノ側面ナドニ、窓ノ如ク緣側ニ張出シテ、下ヲ板ニシ、机ノ如ク作レル所。モト机トシタルモノ。出文机(其條ヲ見ヨ)ノ變名ナリ。出文棚トモ云フ。書院ノ[illegible] 卿ニ、附書院、一名、出房机。

つけ-じる [illegible]

つけ-じろ (名) 附城 でじろ(出城)ニ同ジ。[illegible]

つけ-すまひ [illegible]

つけ-たけ (名) 附竹 (一)ほくち(火口)ニ同ジ。[illegible] (二)竹ノ尖ニ硫黃ヲ塗リタルモノ。古ヘ、附木ノ代リニ用ヰシトゾ。[illegible]

つけ-だし (名) 附出 (一)帳面ナドニ記シ付ケ始ムルコト。ツケハジメ。起首。(二)若干ノ數ヲ除キテ、殘ノ分ヲ、賣リテ記シ付クルコト。(三)賣掛金ノ請求書。カキダシ。勘定書。ツケ。

つけ-だ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 附出 (一)商品ノ賣上代金ヲ請求スルタメニ、書キテ出ダス。[illegible]

つけ-た・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 附立 [illegible]

つけたて (名) 附立 芝居ニテ、狂言ノ稽古ニ、何役ニ衣裝ハ何、小道具ハ何、出端入ノ鳴物ハ何ト、衣裝方、小道具、囃子方ナドノ手帳ニ附立ツルコト。又、衣裝道具ナド、一式、入用ノモノヲ書キアゲテ、シラブルコト。其つけたてタル帳面ヲ、囃子附、又ハ、下座附ト云フ。

つけたり (接) 附 添ヘ加ヘテ。竝ニ。

つけぢゑ (名) 附智慧 いれぢゑ(入智慧)ニ同ジ。サシヂエ。ツケヤキバ 浮世風呂(文化、三馬)三編、下「側カラ附け智慧ガゴザイマスカラ、イトドオシャベリニナリマス」

つけつけ (副) 無遠慮ニ、又ハ、無愛想ニモノヲ云フ狀ニ云フ語。ツンケンドン

つけとどけ (名) 附届 交際上、又ハ、義理上ヨリ贈物ヲナスコト。又、時ヲ定メテ贈ル、謝禮ナドノ金錢。浮世床(文化、三馬)二編、上「聞ノテ能ク働キモネエカラ、相應ノ附け届けヲシテ、預ケテ置イタノサ」

つけな (名) 漬菜 漬物ニ用ヰル菜。又、鹽漬シタル菜。

つけね (名) 附根 物ト物トノ接合シタル根モト。又、木ノ枝ノ、幹ニ接グ處ツケモト。國性爺後日合戰(享保、近松作)一「股ノ附け根ヲチョット切リ」

つけね (名) 附直 賣物ニ對シテ、買方ヨリ付ケタル値段。

つけばな (名) 付鼻 鼻ノ缺ケタルヲ、人造ニテ補ヒタルモノ。假鼻

つけび (名) 附火 窃ニ人家ニ火ヲ放チテ燒クコト。ヒツケ。放火

つけびと (名) 附人 傅ニ添フル人。

つけひぼ (名) 附紐 次條ノ語ニ同ジ。

つけひも (名) 附紐 小兒ノ衣ノ、帶スル所ニ、縫ヒ付ケテ置ク紐。絡ヒ結ヒテ、其上ニ帶ス。七歲ニシテコレヲ去ルヲ、ひもとき、又、おびとき祝ヒト云フ。

つけびやうし (名) 附拍子 略シテ、つけ。芝居ノ演藝ニテ、役者ノ立廻、出入ノ時ナド、拍子木ニテ板ヲタタキテ、其足拍子ニ合ハスコト。操人形ノ遺ナリ。

つけふだ (名) 附札 目標ナドニ附クル札。サゲフダ。ツケガミ。附箋

つけぶみ (名) 附文 イロブミ。艷書。

つげぶみ (名) 告文 こうもん(告文)ニ同ジ

つけまげ (名) 附髷 他ノ髮ニテ髷ヲ作リテ、髮ニ添フルモノ。ツケワゲ。

つけまつり (名) 附祭 (一)德川時代、江戸、山王社、神田社ノ祭禮ニ、町町ノ山車ノ外ニ、踊屋臺ニテ、娘子供ニ手踊ナドサセテ、餘興トシタルモノ (二)附ケ添ヘテ言ヒ、又、行フコト。浮世風呂(文化、三馬)二編、下「南京ノ鉢ヲ割ッタコトガ、イツノ小言ニモ附け祭りダ」

つけまは・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 附廻 ドコマデモ、アトヲツク。シフネク、アトヲツケアルク。

〜**つけまめ** (名) 漬豆 漬物ニシタル豆。宇津保物語、藤原君 世「つけまめヲ一莢宛ニ出ス」

つけめ (名) 附目 乘ズベキトコロ。メアテ。メド。浮世風呂(文化、三馬)四編、上「禮者ノ強飯ヲ付け目ニシテ、買ッテ食フハズ」

〜**つけもの** (名) 漬物 蔬菜ノ鹽ニ漬ケタルモノ。香ノ物。菹 名義抄「漬、ツケモノ」字類抄、漬物、ツケモノ」宇津保物語、吹上、下 二十「酢、ヒシホ、つけもの、皆同ジゴトシタリ」

つけもの (名) 附物 (一)添フル物。菊綴ノ類。海人藻芥、中、兒裝束「狩襖等ノ付物、云云、狩襖、水干、直垂等著用ノ時ハ、髮ヲ下ルナリ、髮ニサハルニ依テ、付物等ノ菊トヂヲバ令ν略也」(二)京都、賀茂ノ祭ノ放免ノ飾物。はうめん(放免)ノ條ヲ見ヨ。徒然草、二百廿一段「建治弘安ノ頃ハ、祭ノ日ノ放免ノつけものニ、異ヤウナル紺布四五端ニテ、云云、コノ頃ハつけもの年ヲ送リテ、過差殊ノ外ニナリテ」(三)舞踊ニ合ハスル樂器、即チ、催馬樂ナドニ、笙、篳篥等ヲ合スル類ナリ。(四)祭禮ノ際ニ出ヅルネリモノ。

つけやき (名) 附燒 醬油ヲ塗リ付ケテ炙ルコト。又、其炙リタルモノ。

つけやきば (名) 付燒刃 つけぢゑ(附智慧)、又、いれぢゑ(入智慧)ニ同ジ。

✣**つ・ける** (動) つく(付、下二)、つく(漬、下二)等ノ口語。

✣**つ・げる** (動) つぐ(告)ノ口語。

つけわたり (名) 附渡 其所ニ附屬シテ傳ハルモノ。

つごごゑ (名) ツカウドナル聲。ツケ云フ聲。心中宵庚申(享保、近松作)下「キリキリサシャレトつごごゑ」長町女腹切(正德、近松作)中「オ客ノ前デ恥チカカサウカト、苦造リノつごごゑ、お花ハ人目ノ恥カシク」

〜**つごもり** (名) 晦 〔月隱ノ略。字鏡「曦、晦也、豆支己毛利」〕(一)陰曆ニテ、月ノ下旬。又、毎月ノ下旬ノ十日バカリノ程ノ稱。月ノ下旬。(ついたち、もちニ對ス) 古今集、二、春、下「彌生ノつごもりガタニ、山ヲ越エケルニ」蜻蛉日記、下、中ニ「つごもりニナリヌレト、人ハ卯ノ花ノカケニモ見エズ、云云、廿八日ニゾ」榮花物語、七、鳥邊野「つごもりモ近クナリヌレバ、世ノ中、物騷シウ聲ム頃ナルニ、カウオコタラセ給ハスヲ、安キソラナク、公私御ナゲキナリ、カクテ行幸アリ」狭衣、二、下「九月モつごもりニナリヌレバ、タダ今日明日バカリコソハ」伊勢物語、四十一段「シハスノつごもりニ、袍ヲ洗ヒテ」(二)陰曆ニテ、一箇月ノ末ノ日。又、月次ノ最終ノ日。三十日。靈異記、上、第十二緣、訓釋「晦、ツゴモリ」名義抄「晦、ツゴモリ」敏達紀、十二年「十二月晦」古今集、二、春、下「彌生ノつごもりノ日、雨ノ降リケルニ」

づざい (名) 徒罪 古ヘ、五刑ノ一。杖ヨリ重ク、流ヨリ輕シ。年限ヲ定メテ使役ス、一年ヨリ三年ニ至ル。半年毎ニ、一等トシテ、總ベテ五等アリ。略シテ、徒ト云フ。律疏「徒罪五」天武紀、下、五年八月「徒罪以下、已發覺、未ν發覺、悉赦ν之」

づさう (名) 頭瘡 天窓ニ發スル一種ノ瘡。カシラガサ。

ヅザン (名) 杜撰 〔宋音ナラム。禪林寶訓音義、下「杜撰、上、寒也、下、造也、謂也、言不ν通ニ古法ニ而自造也」無冤錄 五十「杜撰、杜、借也、撰、集也」〕(一)詩文、著述ナドニ、妄ニ典故、出處モ無キ事ヲ述ブルコト。類書纂要、十一「杜撰作ν文、無ν所ニ根據ニ」野客叢書(宋、王楙)廿「杜默爲ν詩、多不ν合ν律、故言ニ事不ν合ν格者、爲ニ杜撰ニ」禪林寶訓集、下「今人杜ニ撰四句落韻詩、喚作ニ釣話ニ」事文類聚、六「或云、唐皇甫某、撰ニ八陽經、其中多載ニ無ニ本據ニ事ニ、如ニ儒字、分ニ之爲ニ林四郎ニ、故事無ニ本據ニ謂ニ之杜撰ニ」(二)轉ジテ、ソロウ。ゾンザイ。碧巖錄、第四十八則「杜撰禪和、如ν麻似ν粟」

つし (名) 榧 〔相思ノ合字〕樹ノ名。大木ニシテ、材質堅ク、理文アリ、器ヲ作

ルニ宜シ。其實、珊瑚ノ如クニテ、年ヲ歴ルモ饐ゼズト、タウブヅキ。字鏡[illegible]「[illegible]、豆志」天治字鏡、十二、廿七「[illegible]、豆志」[illegible]、[illegible]、[illegible]之木、相思之樹」

つじ (名) 【旋毛】 つむじ(旋毛)ノ略。其條ヲ見ヨ。易林節用集(慶長)上、支體門「旋毛、ツジ、(馬)」猿源氏色芝居(享保)「髮ハアタマノ辻ニ立テカケ、オシロイコテリ」(辻ハ旋毛ナリ)

つじ (名) 【辻】 「旋毛ト通ズ、其略ナリ、辻ハ逵ノ省、或ハ云フ、十字衢ノ十ニ、之繞セルナリト」 (一)〔古言、つむじ。路ノ縱横ニ通ジタル處。數條ノ路筋ノ打違ヒタル處。ヨツツジ。十字街 倭名抄、十八、道路類「十字、東西南北相分之道、其中央似二十字一也、俗用二辻字一、一本、都毛之」 名義抄「辻、ツムシ」字類抄「十字、ツムジ」辻、ツジ」 宇津保物語、俊蔭、三「三條京極ノつじニ立チタマヘリ」(古寫本)
(二)道。道端。 枕草子、三、廿三段「つじアリク、ワラハベ」 (三)染模樣ナドニ、横竪筋違ノ筋ヲ打違ヘタルモノ。 好色一代女(貞享、西鶴)一「惣鹿子、此辻ヲヒトツヒトツ紙燭ニテ焦シヌキ」 (四)馬ノ鞦ノ、三頭(其條ヲ見ヨ)ノ上ニテ、斜十字(みつト云フ)ニ打違ニナル所。ココニックル總ヲ、辻總ト云フ。 紹正臺式「六位以下鞍鞦總不レ得二連著一、但[illegible]著二[illegible]及[illegible]一」(ふさまりがいノ條ヲ見ヨ)

つじ (三) 【辻】 [illegible]ヲ、合ハセ[illegible]タル高ニ合計。結果。結局。「つじ[illegible]二つじ合ハス」

づし (名) 【廚子】 「厨、厨ニテ食物ヲ[illegible]スルモノナリ、子ハ助辭」 (一)【[illegible]戸[illegible]ノ如ク、持運バルルヤウニ造レル一種ノ戸棚。コレニ四脚アリ、前ニ兩開キノ扉アリ、コレヲ[illegible]廚子ト云フ。戸ノ内ニ層アリ、[illegible]ナド入ル。又、下ハ袋戸棚ニテ、上ハ[illegible]面ニ板ナキヲ、二階廚子ト云フ。

又、二層、三層ニシテ、上下共ニ、四面、板ナキヲ、置物廚子ト云フ。コノモノニハ、香合、藥匣、料紙、硯ナド、手近キ調度ヲ置クト。(後松日記、二) 散語ニ、御廚子ト云フ。 倭名抄、十六、木器類「廚子、[illegible]、[illegible]子別名也」源、五十、浮舟「[illegible]ナドヘキ[illegible]、[illegible]モ[illegible]出デテ、コナタナルづしニツムベキコトナド宣ハセテ」 (二)又、製、ソレニ似テ、佛像ヲ安置スルニ用ヰル櫃、佛龕。 太平記[illegible]、[illegible]三年三月廿日「安[illegible]五大力佛[illegible]、其中二」注「件佛[illegible]、[illegible]子也、[illegible]、其中[illegible]」[illegible]三[illegible]物[illegible]、在[illegible]、其中立二一尺余五大力[illegible]等二」 [illegible]明集、十八 十[illegible]五[illegible]、其[illegible]二[illegible]」 宇治拾遺、八、第三條「山ノ中ニ、エモイハズ行ヒテスグス程ニ、スズロニ小サヤカナル廚子佛ヲ行ヒ出ダシタリ、毘沙門ニテゾオハシマシケル」

づし (名) 【途子】【圖子】 ヨコマチ。横町、ヨコミチ。コウヂ。横巷 節用集(古寫本)「圖子、通次(小路也)」 書言字考節用集、一、乾坤門「通次」注「[illegible]、[illegible]、通次、又作二途子一」

づし (名) 【圖師】 指圖、又ハ、手引スルコト。又、ソノ者。 庭訓往來、下、八月「公所出仕、諸亭經廻、可レ申二圖師一也」

つじ-あきなひ (名) 【辻商】 路傍ニ物品ヲ列ベテ、商フ店。ツジウリ。ツジミセ。ホシミセ。テンタウボシ。大道店。露店

つじ-うら (名) 【辻占】 (一)〔古ヘノ夕衢占(ゆふけ)辻ニ立チテ、往來ノ人ノ無心ノ言語ヲ聞キテ、事ノ吉凶ヲ占フコト。 [illegible]十六廿三「トベヲモ、八十ノ衢モ、ト問ヘド、君ヲ相見ル、タドキ[illegible]ラズモ」[illegible]「辻うら、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]ニテ、[illegible]、[illegible]、四辻ニ出デ、吾ガ思フコトノ叶フヤ否ヤヲ占フ、辻ヤ辻、[illegible]、[illegible]、ウラ[illegible]、[illegible]うらノ神、カク三返唱ヘテ、其辻ヘ先ニ來ル人ノ言葉ニヨリ、吉凶ヲウラナフ」 心中[illegible]

道行思ひの短夜「ヲヲソレヂヤト諸ヒシハ、彼ト其方ガ名[illegible]川、[illegible]イ、[illegible]ヘト」 [illegible]、俗間ニ、小サキ紙ニ、[illegible]ノ語句ヲ[illegible]、タルヲ、卷キタル煎餅ナドノ内ニ插ミ(コレヲ辻占煎餅ト云フ)、偶然ニ探リ取リテ、當座ノ事ヲ占ヒテ興トスルモノ。

つじ-うらなひ (名) 【辻占】 うらなひあ(古者)ノ條ヲ見ヨ。

つじ-うり (名) 【辻賣】 つじあきなひ(辻商)ニ同ジ。 [illegible]「[illegible]ノ[illegible]ア[illegible]菓子、一夜[illegible]」

つじ-がうしやく (名) 【辻講釋】 昔、辻ニ出デテ、軍談ナドシテ錢ヲ乞ソコト。又、ソノモノ。大道講釋。たいへいきよみ(太平記讀)ノ條ヲモ見ヨ。

つじ-かご (名) 【辻駕籠】 まちかご(町駕籠)ニ同ジ。此モノ、[illegible]ノ[illegible]、江戸市中ニテ、[illegible]ハ[illegible]、[illegible]トヨル。コレ武士、老人、女、病人ニ限リテ乘ルヲ得ト[illegible]代世事談[illegible][illegible]山人[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]ト云フ[illegible]レ之、本名、町駕籠、古名、カクレカゴ、今俗ニ、ハイ駕籠ト云フ」

つじ-かぜ (三) 【[illegible]】 つむじかぜ(旋風)ノ略。其條ヲ見ヨ。 名義抄「[illegible]、ツシカゼ」[illegible]ジカゼ」 宇津保物語、俊蔭、上、[illegible]「花園ヨリ西ノサシテ行ケバ、大ナル川アリ、其河ヨリ孔雀出デ來テ、其川ヲ渡シツ、[illegible]ヲバ、[illegible]ノつじ風ヲオクル」 大鏡、下、[illegible]ニシタリケル」 方丈記「治承四年卯月廿九日、中御門京極ノ程ヨリ、大ナル辻風起リテ、六條ワタリマデ、イカメシクフキケル」 著聞集、十一、[illegible]、[illegible]ノ不法ノ事有ケル時、[illegible]ニカカレケル、辻風ノ吹タ

ルニ、[illegible]ノ[illegible]吹上タルガ[illegible]代實録、廿八、貞觀十八年五月十[illegible]日、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]門」 扶桑略記、廿五、[illegible]、[illegible]十[illegible]年七月十[illegible]日、[illegible]風吹[illegible]右近陣火[illegible]、[illegible]

つじ-がため (名) 【辻固】 昔、辻辻ニ備ソ[illegible]

つじ-がはな (名) 【辻花】 帷子ノ染模樣ノ名。白地ニ藍ト紅トニテ、紅ノ花、青葉ヲ一面ニ辻ニ染メタルモノ。又、[illegible][illegible]ヲ、イタダキテ、其モつじが、花ノ[illegible]ルカナ」[illegible]花」[illegible]日記(辻花)[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ハサルル品ノ中、辻ガ花」[illegible]記、十五、[illegible]、[illegible]、つじが花、[illegible]、[illegible]、[illegible]ナドノ[illegible]、[illegible]人ノ[illegible]ヒニ[illegible]ルベシ」

づし-がまへ (三) 【[illegible]】 [illegible]ニトル形式。圖取ノカタ。

つじ-ぎみ (名) 【辻君】 〔[illegible]君トモ云ヘ[illegible]辻ニ立チ居ル意ナラム〕 へはち(夜發)ニ同ジ。七十一番[illegible]、[illegible]、[illegible]、つじ君」

つじ-ぎり (名) 【辻斬】 夜、辻ニ待チテ、往來ノ人ヲ斬ルコト。往時、武士ノ試斬ナドニセシコトナリ。[illegible]

つじ-ばん (名) 【辻番】 昔、町ノ辻ニ小屋掛シテ、[illegible]行シタル番所。[illegible]

つじ-ずまふ (名) 【辻相撲】 昔、町ノ辻[illegible]

ドニテ、興行シタル相撲。吾妻鏡、三十六、寬元二年、二月三日、「辻相撲事、停止條條」(武家名目抄)「辻相撲事(島津本)」

つじ-せっぽふ（ツジセッポウ）(名)［辻說法］辻ニ立チテ、往來ノ人ニ經文ノ趣意ヲ說キ聞カシムルコト。大道ニテ行フ說法。辻談義。

つじ-だう（ツジドウ）(名)［辻堂］路傍ニ建テテアル佛堂。太平記、七、船上合戰事「江州番馬ノ辻堂ニテ、腹搔キ切ッテ失セニケリ」

〜つし-だま(名) よくい(薏苡)ノ古名。タマヅシ、ツス。倭名抄、廿、草類「薏苡、豆之太萬」本草和名、上、十七「薏苡子、都之太末」字鏡、八、五十一「薏苡子、玉豆志」古言拾遺、慕、古語、都須

つじ-だんぎ(名)［辻談義］說經師ナド、辻ニ立チテ談義スルコト。ツジセッポフ。信長記、十四「辻談義、坊主ノ、倚子ニ上リテ、イカシガホニ說法シ」一雪獨吟(寬文)「法師ノタタク傘、月ノカサ、後ノ彼岸說ク辻談義」

つじ-つま(名)［辻妻］「つじハ、縫目ノ十文字ニナリタルトコロ、つまハ褄(其條ヲ見ヨ)ニテ、裁縫(ハリシゴト)ヨリ起レル語」始メト、終ハリト。結局ノ所、スヂミチ。「つじつまヲ合ハセル」「つじつまガ合ハヌ」

つじ-とり(名)［辻取］路ノ辻ニテ、女ヲ取リ籠メテ、婬行スルコト。強奸。貞永式目、三十四、密懷他人妻事「次於道路辻捕女事、於御家人者、百箇日之間、可止出仕」御伽草紙、物臭太郎「つじとりトハ、男ヲモツレズ、輿車ニモ乘ラヌ女房ノミメヨキガ、我ガ目ニカカルヲ取ルコト、天下ノ御ユルシニテアルナリ」

つじ-はうびき（ツジホウビキ）(名)［辻寶引］正月、商人ノ、街頭ニテ、行人、小兒ナドニ、錢ヲ取リテ寶引セシメテ、菓子、玩具ナド與フルモノ。コレ、さあございございト云ウテ、子供ヲ呼ビ集ムルニ因リテ、さございトモ云ヒキ。後ニ禁ゼラル。世のすがた(古事類苑本)「辻寶引トテ、寬政ノ初マデハ、元日ヨリ中旬コロマテ、辻町ニテ、麻繩長サ三尺許リナルヲ、數十本ヨセ、本ヲ括リテ、其內一スヂニ、橙ヲ結ビ付ケ、其括リノ所ヲ握リ居テ、人ヲ集メ、麻繩何條ニテ、錢何ホドト定メ、銘銘繩ヲヒカヘ居ル時、賣人其橙ノ付キタル一條ヲ引キ、其繩ニ當リタルヲ勝トシテ、錦繪、カンザシ、雙六、鞠ノ類、其餘、種種ノ品ヲトラス、程ナクシテ停止セラル」狂詩(明和)「サゴザレヨッツジ、早來四逵街寶引、物中年始御祝儀」天明の川柳「さございハ、長屋デイノチ、稼グヤツ」

つじ-ばなし(名)［辻噺］滑稽輕口噺(カルクチバナシ)ナリ。コレ神社、佛閣ノ地ナドニ腰掛ヲスエテ、昔話ナドシテ、人ニ聞カセ、錢ヲ得ルコト。又、ソノモノ。延寶、天和ノ頃、京都ノ祇園眞葛ガ原、又ハ、北野神社ニ出デシ露五郎兵衞(又、露休ト云フ、元祿十六年死)ト云フ者ヲ、元祖トス。露噺、露休噺、露休置土產、露の新話ナドノ書アリ、後ノ落噺ノ初ナリ。本朝文鑑(享保)「露五郎兵衞、世ニ云フ辻噺ノ元祖ナリ」

つじ-ばん(名)［辻番］(一)次條ノ語ノ略。寬永十三年、始メテ大小名共、小路小路ニ建テラル。敎令類纂、初、五十六、寬永十年六月廿九日「頃日、辻番油斷ニ相見エ候、端端ニ而人ヲ切リ候間、辻番之儀、入念急度可被申付候」(二)行火(アンクワ)ノ一種。形、辻番所ニ似タルモノ。

つじ-ばんしよ(名)［辻番所］往時、江戶ノ屋敷町ノ辻辻ニ立テ置ケル番所。ココニ辻番人ヲ置キテ、路上ノ警備トス、略シテ、辻番。御定書百箇條(寬政、松平右京亮)「辻番所ニオイテ博奕イタシ候番人、遠島」

つじ-びら(名)［辻枚］辻ニ張リ出ス紙ノ札。びら(枚)ノ條ヲ見ヨ。

つじ-ぶさ(名)［辻總］ふさまりがい(總鞦)ノ條ヲ見ヨ。

つしま-おん(名)［對馬音］又、ツシマゴエ。ヤマトゴエ。つしまよみ(對馬讀)ニ同ジ、かんおん(漢音)ノ條ヲモ見ヨ。對馬貢銀記「此島有二比丘尼、以吳音傳之、因號日域經論、皆用此音、故謂對馬音」吾妻鏡、二、寬和、僧覺彥ト云「初金剛、來、留對馬國、傳吳音、學國學之、因名曰對馬音」

つしま-ぎり(名)［對馬桐］いっさき(梧桐)ニ同ジ。あをぎり(靑桐)ノ條ヲ見ヨ。

つしま-ごゑ（ツシマゴエ）(名)［對馬音］ごおん(吳音)ニ同ジ　前前條、及、かんおん(漢音)ノ條ヲ見ヨ。貞永式目抄、一「吳音ヲバ、對馬音(ツシマゴエ)ト云フ」江家次第(大江匡房)四、正月除目「大臣召參議一人」註「對馬音召之」後京極攝政記、正治三年十二月十三日「年號用對馬音、御諱用唐音」唐音(カンオン)ハ漢音ナリ)水左記(源俊房)永保元年二月十日「人人申云、永長(エウチヤウ)對馬音、似笛名(ヤウチヤウ)(橫笛ノコト)」

つじ-まつり(名)［辻祭］(一)田植ノ前ノ神ノ祭。明月記(藤原定家)建仁二年四月八日「此邊辻祭、社祓、渡御前、其中一方顚倒田樂等供奉、土民等每年營此事云云、施種種風流」(二)辻ニ立テアル道祖神(サヘノカミ)ヲ祭ルコト。夫木抄、三十二「辻まつり、今日ヲハレトモ、ミセ鞘(ザヤ)ノ、サキ折カケテ、ネルヤ誰ガ子ゾ」公家新制(弘長)「可停止京辻諸社祭過差狼藉事」「就中道祖神已下、辻祭幣帛外、風流過差、飛礫一向從停止」

つしま-ど(名)［對馬砥］剃刀砥(カミソリド)ノ一種。對馬國ヨリ出ヅ。漆器ノ中塗シタルヲ磨ギ、又ハ、研出(トギダシ)ナドニ用キル。一名、ムシクヒド。鷄肝石　毛吹草、三「對馬(砥)靑砥、唯師利屋用之」

つしま-よみ(名)［對馬讀］古ヘ、藤原鎌足ノ執政タリシ時、百濟ノ尼法明、對馬ニ來リ、維摩經ヲ敎ヘタリ。コレヲ對馬讀ト云フ。吳音ノ初ナリ。(政事要略)

〜つじ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四)「血染むノ轉ナラム」肌ニ色ノキ染ム。古今著聞集、ツジメリ、クロシ、マダラナリ」鑑、ツシメリ、クロム」クロシ、ツクロシ(血黑し)」躰、ツジム、」艶、ツジム、疲、積血、ツジム」字類抄「疲、瑕、ツシム、梨痢、ツツジミ、クロシ」字鏡廿「艶兒、阿乎彌豆志本」今昔物語、一(增補續史料大成)「前ノセンヲ見レバ、つじみタルモノアリ、コレハ瘡ニテコソアリケレ」太平記、廿四、壬生地藏事「六道能化ノ地藏菩薩ノ御身、所所ニ刑鞭ニ瘡(クロミ)黑、高手小手ニ禁シ其體」

づしん-と（ズシント）(副) 重キ物ノ落チテ、響ク音ニ云フ語。ドシント。ドシリト。

づ-じやう（ズジョウ）(名)［頭上］アタマノウヘ。ナウテン。イタダキ。盛衰記、四十四、時忠卿罪科事「於內侍所者、前內大臣人、海時、可奉撥海中之由、再三雖示之、奉持頭上歸降畢」

づ-しやうじ（ズショウジ）(名)［通障子］ぢやうじ(障子)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

〜づし-やか-に（ズシヤカニ）(副) 奧深ク引入リテ。愼ミ深ク。强ク憐ニ。重重シク。ヅノシリト。宇津保物語、國讓、上、廿一「御心地モサワダチ給ヒ、云云、づしやかニテ、貴(アテ)ニナリマサリ給ヒ」源、三十一、槇柱、卅六「白キ薄樣ニ、づしやかニ書イ給ヘレド、殊ニヲカシキ所モナシ」同、四十八、宿木、卅「姬君ノ、イト、シドケナク、物ハカナキ狀ニノミ何事ヲモ覺シ宜ヒシカド、心ノ底ノづしやかなる所ハ、コヨナクモオハシケルカナ」

つじ-やしろ(名)［辻社］路傍ニ設ケタル社。道祖神(サヘノカミ)ナドヲ祀ルモノ。夫木抄、三十四、社「道ノヘノ、木ノ下蔭ノ、つじやしろ、誰ナホサリノ、ヌサ手ムクラム」

づ-しよ（ズショ）(名)［圖書］(一)としよ(圖書)ニ同ジ。(二)古ヘ、朝廷ニテ、大禮ノトキ、香ヲ焚ク職。江家次第、十四、即位「主殿圖書、就鑪焚香」

づしょのかみ（名）〔圖書頭〕 づしょれう（圖書寮）ノ長官。次條ノ語ヲ見ヨ。下學集、上、官位門「圖書頭、ヅショノカミ」

づしょれう（名）〔圖書寮〕 （一）フミノツカサ。古ヘ、中務省ニ屬セル寮、宮中ノ圖書、修史、佛典、校寫、裝潢、紙、筆、墨ナドノ事ヲ掌ル。續紀、廿（淳仁）「天平寶字二年八月甲子、云云、圖書寮、掌、持ニ典籍ヲ、供ニ奉内裏ニ」 （二）宮内省ノ一局。皇統譜、陵籍、及、墓籍、世傳御料臺帳、皇室典範、皇室令、及、詔書、敕書ノ正本ノ保藏、天皇、及、皇族實錄ノ編輯、圖書ノ保管、出納、公文書類ノ編纂、及、其保管等ニ關スル事務ヲ掌ル。トショレウ。

つす（名）〔薏苡〕 つしだま、及、よくい（薏苡）ノ條ヲ見ヨ。

ヅス（名）〔豆子〕〔字ノ唐音〕 漆器ノ名。ちゃつ（楪子）ノ條ヲ見ヨ。庭訓往來、十月「豆子」毛吹草、寛永「赤キモノ、チャツカ、づすカ」

づす（名）〔天井〕〔頭上ノ簀ノ子ノ意〕 伊豆國地方ニテ、天井ヲ、簀ノ子張リニシタルモノノ稱。ココニ、生木ノ薪ヲ上ゲオキ、下ニテ焚火ヲスレバ乾ク。今ハ、板張トナリタレド、尚、舊稱ヲ存ス。越前國ニテハ、百姓家ノ一階ヲ、つしト云フ。

づせつ（名）〔圖說〕 文章ノ外ニ、圖ヲ示シテ、說明シアル書物。

つた（名）〔蔦〕〔傳ハル意ト云フ〕 （一）〔多年生蔓草。鬚根ヲ以テ、岩石、土壁等ニ着キテ延フ。葉ハ互生シ、三尖ニシテ鋸齒アリ、光澤アリ、小サキハ二三寸、大イナルハ、尺許、夏、葉ノ間ニ、淡黄花、數十、簇リ生ズ、五瓣ニシテ二分許、實圓ク、熟シテ黒シ。紅葉美シ、人家ニ植エ、樹、壁等ニ延ハシメテ賞ス。地錦 倭名抄、廿「蔓類「絡石、豆太」本草和名、上「絡石、都多」 萬葉集、十七 三十六 長歌「フタガミ山ニ、ハフ都多ノ、ユキハ別レズ」伊勢物語、第九段「宇津ノ山ニ至リテ、我イラントスル道ハ、イト暗ウ細キニ、蔦楓ハ茂リテ、物心細ク」盛衰記、四十八、法皇大原入御事「軒ニハ蔦茂リ、庭ニハ葎カタシキテ」 （二）紋所ノ名。蔦ノ葉ヲ象リ描キタルモノ。

つた（名）〔寸莎〕〔寸寸ノ義カ、或ハ、傳ニテ、繫グ意カ〕 壁土ニ加フルモノ。苆。すさ（寸莎）ノ條ヲ見ヨ。

ヅダ（名）〔頭陀〕〔梵語、Dhūta. 修治、修行、抖擻ナドト譯ス〕 （一）煩惱ノ塵垢ヲ去リ、衣、食、住ニ貪着セズシテ、清淨ニ佛道ヲ修行スルコト。卽チ、僧ノ旅行シテ、行ク行ク食ヲ乞ヒ、露宿ナドシテ、修行スルヲ云フ。又、抖擻。禪宗ニ、行脚ト云フ。或ハ、其狀ニ因リテ、雲水トモ云フ。時宗ニ、遊行ト云フモコレナリ。行事鈔、頭陀行儀「頭陀者、譯云抖擻、[illegible]也、正言杜多、譯云洮汰、[illegible]」沙石集、三、上、第一條「[illegible]ノ門ニ立チテ、[illegible]頭陀ヲ行ズレバ、無盡ノ食アリ」西行物語、下「諸國、[illegible]ノ頭陀、山林斗藪ノ行ヲ立テ」[illegible]增鏡[illegible]六、雲居和尙、吉野ガ原ニテ、強盜ニ強ヒラレ金ヲ[illegible]フル所、出家ハ頭陀ニテモ道中ハスベシ、云云、頭陀ヲ振ヒテ七兩アリシヲ」 （二）づだぶくろ（頭陀袋）ノ略。其條ヲ見ヨ。

つたうるし（名）〔蔦漆〕 多年生蔓草。山野ニ多シ。蔦ノ如ク鬚根ヲ出シテ、樹石ニ取リツキテ生ジ、物ニ絡ハズ、葉ハ三葉ヅツ簇リ生ジ、漆ノ葉ニ似テ、大ナリ。夏、葉ノ間ニ、黄白花ヲ開ク、蔦ノ花ニ似テ、實モ亦似タリ。有毒植物ナリ。一名、ヤマウルシ。蔓生鈎吻 野葛

つたかづら（名）〔蔦葛〕 蔓草ノ總名。かづら（蔓）ニ同ジ。

づたぎり（名） 寸寸ニ切ルコト。キレギレニスルコト。又、ズタズタギリ。

つたきる（ル・レ・ラ・リ・レ）（他動、四） ツタツタニキル。切レ切レニス。ヅタギリニス。名義抄「段段、ツタキル、ツタツタ」

づだけ（名）〔圖竹〕 てうしぶえ（調子笛）ニ同ジ。歌舞品目、[illegible]調べ、竹管ニツケ、音調ノ目盛トシタルモノ、コレヲ圖竹ト稱ス」

つだし（名）〔津出〕 荷船ヲ津ヨリ出スコト。出港。

つたつた（副）〔寸斷〕 細カク切レ切レニ。ヅタヅタニ。又、スタスタニ。キダキダ。キザキザ。名義抄「寸、ツタツタ、キダキダ、[illegible]」[illegible]

づたづたみ（名）[illegible] たづたみ切り給フ」「づたづたみ斬ル」 山つたつたみ、見ユル秋哉」

つたなし（キ・ケレ・ク・ク）（形、二） 拙 （一）巧ナラズ。精シカラズ。劣ル。鈍シ。未熟ナリ。下手ナリ。名義抄「拙、[illegible]ツタナシ」[illegible]十七、[illegible]ホンサイノカタガタノ、[illegible]ヘサセ給ヒシニ、つたなきコトモナク、マタトリタ

ナ、此コトト心得ルコトモ侍ラザリキ」[illegible]

[illegible]ノコトハ、スベテカクスレ侍ルルヲ、[illegible]

バカリつたなき身ノアリサマ」伊勢物語、六十五段「カカルオニツカウマツリテ、宿世つたなくカナシキコト」 （三）臆セリ。卑怯ナリ。[illegible]

[illegible]

つためる（ル・レ・メ・ミ・メ）[illegible]

[illegible]

つたのほそみち（名）[illegible] 蔦ノ生ヒ茂リタル所ノ、細ツキ道。夫木抄、廿、山「ウツノ山、サコソハカネテ、聞キシカド、蔦ヅクル、つたのほそみち」伊勢物語[illegible]ウ細キニ、蔦楓ハ茂リテ、物心細ク、云云、トアルヲ、スルガ國ノ宇津山ニ、其ノコトトナレリ

つたはり（名）〔傳〕 ツタハルコト。[illegible]「年ゴロノ事つたはりノ[illegible]」

つたはる（ル・レ・ラ・リ・レ）（自動、四）〔傳〕 傳ふ（自）ノ延 （一）往時ヨリ移リ來タル。[illegible]つたはれル代ノ、クキリアラメヤ」[illegible]「[illegible]代ノ宮ヅカヘニつたはりノル」[illegible]ハルカナル世界ヨリ、つたはりマウデキタ」 「先祖ヨリ傳はる」 （二）[illegible]

[illegible]行ク。[illegible]

[illegible]つたはり[illegible]

[illegible]

つた・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [傳] 〔一續キ合フノ意〕 行キタル所ヨリ、又他所ヘ行ク。ツタハル。 萬葉集、六、秋、中「タエダエノ、雲間ノつたふ、影ニコソ、行クトモ見ユレ、秋ノ夜ノ月」 古事記、下(仁德)「自其島一傳而、幸二行吉備國一」 萬葉集、廿、長歌「海原ノ、カシコキ路ヲ、島ヅタヒ、イ漕ギワタリテ」 同、廿「於保伎美ノ、ミコトカシコミ、ウツクシケ、麻古ガ手ハナリ、島ヅタヒ行ク」 古事記、中(垂仁)「乃越二三野國一、自二尾張國一傳、以追二科野國一」 源、十、榊三「御簾風ノハサマニ、つたひ入リタマヒヌ」 徒然草、六十六段「大硼ノ石ヲつたひテ、雪ニ跡ヲツケズ」

つた・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) [傳] (一)受ケテ授ク。教フ。傳授ス。 宇治拾遺、一、第三條「イヅコナル醫師ノ取リ申シタルゾ、我レニ傳ヘ給ヘ」 (二)〔受ケ續グ〕 公忠集「逢フコトヲ、ヨヨニつたふる、呉竹ノ、節ノ數ナキ、戀モスルカナ」 源、三十四、下、若菜、下廿七「ハカバカシク、つたへ取リタルコトハ、ヲサヲサナケレド」 同、廿四、胡蝶五「モテハナレヌサマニつたへ聞キ給ヒテ」

ヅダ-ぶくろ (名) [頭陀袋] (一)頭陀ノ行ヲ修スル僧ノ、雜具ヲ入レテ頸ニ懸クル袋。略シテ、ヅダ。打包 (二)今、又、死者ヲ葬ムルトキニ、其頸ニ懸クル袋。(幣袋ノ誤カトモ云フ)

つたへ (名) [傳] (一)ツタフルコト。受ケ授クルコト。 源、三十四、下、若菜、下廿七「サルベキ人ノつたへドモヲモ、殘サズ心ミシ中ニ」 同、十三、明石廿八「延喜ノ御つたへニテ、女五ノ宮、サル世ノ中ノ上手ニモノシ給ヒケルヲ」 (二)コトヅテ。傳言。 萬葉集、十一廿六「ヌバタマノ、夜渡コモリテ、遠クトモ、イモガ傳ハ、ハヤク告ゲコセ」 (三)イヒツタヘ。傳說。 源、三十六、横笛廿「夜カタラズトカ、女房ノつたへニ云フコトナリ」

つたへ-ぞり (名) [傳反] 相撲ノ手ノ一。たすきぞり(襷反)ニ同ジ。

つた・へる (動) つたふ(傳、下二)ノ口語。

つ-だみ (名) [哯吐] 〔つハ乳ノ轉、たみハ歐吐ノ約ト云フ〕 小兒ノ、胸惡ヲセズシテ、乳ヲ吐クコト。乳兒ノ、乳ヲ口ヨリ餘マスコト。今ハ、乳ヲあますト云フ。 倭名抄、三十病類「哯吐、豆太美、小兒由二哺乳冷熱不調一所レ致也」 名義抄「哯吐、ツタミ、チハク」 醫心方、十四廿二「吐哯、ツタミ」 字鏡五十「哯、小兒歐レ乳也、乳久良不」 源、三十六、横笛十四「此君イタク泣キ給ヒテ、つだみナドシ給ヘバ、メノトモ起キサワギ」

つた・よ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 〔傳ヒ蕩フ意カト云フ〕 尋リサマヨフ。タダヨフ。又、モコヨフ。トドコホル。逗留ス。 散木集、九、雜、上「ワブル山、世ニフル路ヲ、蹈ミタガヘ、惑ヒつたよふ、身ヲ如何ニセム」 孝德紀、白雉五年二月「分二乘二船一、留二連數月一、取二新羅道一、泊二于萊州一」 垂仁紀、二年十月、一云「不レ知二道路一、留二連島浦一、自二北海一廻レ之」

つち (名) [土] (一)此地球ノ大塊ヲ組成シ、山野ヲ成スモノ。(二)或ハ、其中ノ岩石、鑛物ト別チテ、地球ノ表面ヲ被ヒ、柔カクシテ草木ヲ生シ立ツル土壤ノ稱。(三)五行ノ一。(其條ヲ見ヨ) 土ニ成ルト云フハ、物ノ腐敗シテ、土ニ化スルコト。又、人ノ死スルコト。

つち (名) [土] (一)人ノ容貌ノ見惡キヲ卑メテ云フ語。ツチクレ。[土芥] 源、五十一、蜻蛉九三十「御前ナル人ハ、マコトニ土ナドノココチゾスル」(楊貴妃ノ前ニハ、外ノ宮女ハ皆、土ノ如ク見ユトノ意) 狹衣、一、下十二「日ゴロ見ツル殿上人ナドハ、タダつちナリケリト、サザメキアヘル」 宇治拾遺、六、第九條「ソコバクノ女御、后ヲ御覽ジクラブルニ、皆つちくれノ如シ、コレハ玉ノゴトシ」 (二)重代ノ侍ニ對シ、諸國ヨリ上リシ大番ノ侍ヲ卑メテ云フ語。落窪物語、一「六位トイヘド、藏人ニダニアラズ、つちノ帶刀ノ年ハ二十バカリニ」(職原抄、下、春宮坊「帶刀者、撰二重代侍一補レ之、自二公家一被レ補レ之」)

つち (名) [地] 〔續泥ノ約カト云フ〕 (一)大地ノ、天ニ對スル稱。即チ、地球。地。 古事記、上「天地初發之時」 萬葉集、五七長歌「阿米ヘ行カバ、汝ガマニマニ、都智ナラバ、大王イマス」 (二)〔泥ノ堅マリテ國土トナレルモノ〕 萬葉集、十二廿一「我妹子ガ、夜戸出ノ姿、見テシヨリ、心空ナリ、地ハフメドモ」 天智紀、元年十二月「此州柔者、遠隔二田畝一、土地磽确、非二農桑之地一」 (三)陸地。リクチ。(海ニ對ス)

つち (名) [槌] 又、ツツヒ。物ヲ叩クニ用キル木製ノ具。頭ノ形、圓筒形ニテ、中央ニ、丁字形ニ木柄ヲスグ。頭、柄共ニ木ナルヲ、さいづち(木槌)ト云フ。頭、鐵製ナルヲかなづち(鐵槌)ト云フ。[椎] [鎚] (各條ヲ見ヨ) きぬたノ槌ハ、形、異ナリ。 倭名抄、十四十四裁縫具「擣衣杵、都知」 景行紀、十二年十月「時人、其作二海石榴椎一之處、(曰二海石榴之市一)」 拾玉集、二「コロモウツ、アハレハココニ、トマラジナ、つちノ音ヲバ、風ニユヅリテ」

つち-いっき (名) [土一揆] 又、どい、っき。 いっき(一揆)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 建內記、嘉吉元年九月六日「土一揆柄二籠洛中洛外堂舍佛閣一」 看聞御記、永享五年四月八日「抑自二去比一炭山堺相論事、未二落居一之間、地下郷民等、柴荊ニ此間山ヘ不レ入、仍今日地下人炭山ヘ押寄、云云、所詮地下張本人可レ被二召進一之由承、云云、土一揆所行之間、誰ヲ張本トモ難レ申、珍事珍事」 師郷記、康正二年九月十九日「坂本土一揆、此間號二德政一、閉二籠八王子社頭一、仍被レ催二山門使節井山徒等一、被二對治一之間、今日發向、取二籠土一揆等一、欲レ討之間、放二火社頭一云云」

つち-いみ (名) [土忌] 古ヘ、陰陽家ニテ、土公(土公神ノ條ヲ見ヨ)ノ居ル方ヲ犯シテ、工事ヲナスヲ忌ムコト。若シコレヲ犯ストキニハ、家人ハ暫ク他ニ避ケ居ルヲ例トス。 簾中抄、下、[illegible]ム事、我家ノカキノウチハ、四十五歩ヲ忌ム、トナリハ廿五歩ヲ忌ム、八卦御忌方ハ三百歩ヲ忌ム、三百歩ハ四町アマリナリ、但シ、ツチヲ三尺スギテ掘ルヲ忌ムナリ」 更級日記「三月ツゴモリガタ、つちいみニ、人ノモトニワタリタルニ」

つち-おほね (名) [土大根] だいこん(大根)ノ異名。 徒然草、六十八段「土おほねヲ、ヨロヅニイミジキ藥トテ、朝每ニ二ツヅツ燒キテ食ヒケル事、久シクナリヌ」

つち-か・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [培] 〔土養ふ義〕 土ヲ被ヒテ養フ。培養ス。(草木ニ) 倭名抄(一本)、田野類「壅、豆知加布」 字類抄「壅、ツチカフ、或云、壅二瓜茄一」 內膳司式「壅茄一段、云云、壅二瓜一遍、第一遍三人、五月」

つち-かぶり (名) [土被] 酒ノ名。あさぢざけ(淺茅酒)ノ條ヲ見ヨ。

つち-がへる (名) [土蛙] 今、いぼがへる(疣蛙)、がま(蝦蟇)ナドヲ云フ。 倭名抄、十九十蟲豸類「黑蝦蟇、豆知加閉流」

つち-ぎみ (名) [土公] 地主ノ神。どくじん(土公神)ノ條ヲ見ヨ。 運歩色葉集「土公」注「春三月在レ竈、夏三月在レ門、秋三月在レ井、冬三月在レ庭」 臨時祭式「鎭二土公一」 吾妻鏡、廿六、貞應二年三月三日「勝長壽院奧地、今日被レ行二土公祭一」

つち-ぐも (名) [土蜘蛛] 蜘蛛ノ一種。頭大キク、體痩セ、赤黑クシテ、足ニ爪アリ。巢ハ袋ノ如クニシテ、半ハ地ニ入ルコト三五寸、子ヲ其內ニ育ス。袋ヲ引出セバ、子、四方ニ散ズ。蜘蛛の子を散らすが如しトテ、衆ノ散亂スルニ譬ヘテ云フハ、コレナリ。一名、アナグモ。又、フクログモ。又、チグモ。

つち-ぐも (名) [土蜘蛛] 〔其土地ニ公ト

シテ、勢アリシ者ノ名ナラムト云フ、土公(地主ノ義)ノ轉。一說ニ、土籠ノ意ニテ、土中ニ籠リ住ムガ故ノ名ナリト」上古、我ガ國土ニ住ミシ未開ノ民族。穴居ノ人ノ稱。 神武即位前紀「高尾張邑、有土蜘蛛、其爲人也、身短而手足長、與侏儒相類」 景行紀、十二年十月「碩山有大石窟、曰鼠石窟、有二土蜘蛛、住其石窟、一曰青、二曰白」 攝津國風土記「土蜘、此人恆居穴中、故賤號曰土蛛」 常陸風土記、茨城郡「古老曰、昔在國巣(俗語曰、都知久母、又、夜都賀波岐)、山之佐伯、野之佐伯、普置掘土窟、常居穴、有人來則入窟而竄之、其人去、更出郊以遊之」

つちくら (名) 【脾】 「土座ノ義カ」 ヨコシ。ひ(脾)ノ條ヲ見ヨ。 桑家漢語抄、六「脾、都智俱良、於五行屬土、故名之」

つちぐら (名) 【窖】 (一)地ヲ穿チテ穀ヲ藏ムル所。今ノ穴藏ノ類。 倭名抄、一本、居宅類「窖、都知久良、土中藏穀也」 名義抄「窖、ツチクラ」 (二)土ニテ塗リ作レル藏。土藏。(石藏、板藏ニ對ス) 主税寮式「土倉若干宇」 (三)室町時代、質屋ノ稱。 建武以來追加、「諸土倉沙汰人等事、所所土倉沙汰人等、兒ニ用本主納物、令居住洛中邊土莊田舍」

つちくれ (名) 【土塊】 〔土石ノ義ニテ、土ノ石ニ似タルヲ云フ、石、又ハ、海石ヲいくりト云フ類〕 (一)土ノ大小方圓ノ塊。 倭名抄、一七、屋土類「土塊、土片也、豆知久禮」 字鏡七五「塊、豆知久禮」 金葉集、十、雜、下、連歌「瓦屋ノ、板ブキニテモ、ミユル哉、つちくれシテヤ、造リソメケン」 (二)齋宮ノ忌詞ニ、墓ノ稱。 齋宮寮式「忌詞、云云、墓稱壤」

つちくればと (名) 【土塊鳩】 どばと(土鳩)ニ同ジ。はと(鳩)ノ條ヲ見ヨ。

つちけむり (名) 【土煙】 土沙ノ、風ニ吹キ揚ゲラレテ、煙ノ如ク見ユルモノ。 井筒業平河内通(享保、近松作)總角分髮「花ヲ吹キ散ラスハ、風、沙ハ、[illegible]ル土煙」

つちざうが (名) 【土生薑】 生薑ノ根ノ土付ノママナルモノ。

つちすり (名) 【腴】 〔水底ノ土ヲ摩ル義〕 魚ノ腹ノ肥エタル處。スナズリ。 倭名抄、十九、龍魚體「腴、豆知須里、魚腹下肥也」 名義抄「腴、ツチスリ」

つちたけ (名) 【土茸】 松茸、初茸ノ類。たけ(茸)ノ條ヲモ見ヨ。

つちだら (名) 【獨活】 〔土楼ノ義カト云フ〕 草ノ名。うど(獨活)ノ古名。其條ヲ見ヨ。 倭名抄、廿、草類「獨活、宇止、一名、豆知太良」

つぢつま (名) 〔綫褄ノ訛ナラム〕 又、つじつま。衣服ノ裁縫ヨリ起リテ、俗ニ物事ノ理ノ合フ所。スヂミチ。條理。 「つぢつまガ合ハヌ」

つちど (名) 【土戸】 土藏ノ戸口、窓、等ニ用キル引戸。面ヲ泥土、漆喰ニテ塗リ作ル、其前ニ、別ニ更ニ、土戸ヲ設ク、其左右ニ開クベク作レルヲ、觀音開キト云ヒ、同ジク引戸ナルヲ、大坂戸ト云フ。 土扇 宇治拾遺、五、第三條「高僧達ノカタノ土戸ヨリ、童子ナドモイレズシテ、僧バカリゾマヰリケル」

つちどの (名) 【土殿】 天子ノ、諒闇ナドノ時、宮殿中ノ板敷ヲハナチ、土間ニシテオハシマス所。(倚廬ナドモ然リ) ヌリヤ。 榮花物語、三、樣々ノ悦「東三條院ノ御、ワタドノヲ皆つちどのニシツツ、宮、トノバラ、オハシマス」 同、十三、木綿四手「宮宮、つちどのニオハシマシ」 同、三十三、著るは侘しと歎く女房「一品宮ナドノオハシマスベキ、つちどののツクル音ヲキキテ」

つちならし (名) 【土均】 田畠ナドノ、土塊ヲ碎キテ、平カニナラスコト。

つちにんぎやう (名) 【土人形】 泥土ニテ人物ヲ作リテ、燒キ成シタルモノ、土偶ノ人形。土偶。泥孩兒。 [illegible]

つちのあぶら (名) 【土油】 せきゆ(石油)ニ同ジ。 [illegible]明集、二、[illegible]、石油、ツチノアブラ [illegible]

つちのえ (名) 【戊】 〔土の兄ノ義〕 えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。

つちのかみ (名) 【土神】 土ヲ司リ護ルト云フ神。ハニヤスノカミ。ドジン。地祇。 神代紀、上「生土神埴山姬」 [illegible]

つちのこ (名) 【槌子】 薦、筵ナドヲ編メル經ノ絲。

つちのと (名) 【己】 〔土の弟ノ義〕 えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。

つちのらう (名) 【土牢】 土窟ヲ以テ牢屋トスルモノ。ツチラウ。 [illegible]「姑蘇城ニ著給ヘバ、即、叔城ヲ入テ、土の籠ニゾ入奉リケル」 同、十[illegible]「[illegible]土牢ヲ掘テゾ籠進セケル」 參リテ、二階堂ノ谷ニ、土牢ヲ掘テゾ籠進セケル」

つちはし (名) 【土橋】 どばし(土橋)ニ同ジ。 倭名抄[illegible]、圯、土橋也[illegible] 之」 謠曲、張良「下邳ト云フ所ニ土橋アリ」

つちはじかみ (名) [illegible] 志やうが(生薑)ノ古名。はじかみ(薑)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible](寛文、[illegible])八「干薑、ツチハジカミ」

つちばち (名) 【土蜂】 蜂ノ一種。[illegible]黒色ニシテ、能ク花間ヲ飛ビ廻ハリ、地ニ小サキ穴ヲ穿チテ、其中ニ深ク大イナル巣ヲ作ル、[illegible]ノ如シ。赤巣ヨリ蜜ヲ採ルベシ。古名、ユス

ルバチ。今、又、アナバチ。

つちばった (名) 蟲ノ名。形、いなごニ似テ、淺黒色ニシテ黒キ斑アリ、能ク高ク飛ブ。一名、トビムシ。[illegible]

つちはんめう (名) 【土斑猫】 古名、[illegible]。斑猫ノ類。山野、土石ノ間ニ棲ミ、時ニ出デテ行ク。長サ一寸餘、幅三四分、色黒クシテ碧色ナリ、短キ翅アレドモ飛バズ。地膽。

つちはらひ (名) 【土拂】 古ヘノ車ノ具。泥ヲ除クルモノ。即チ、下簾ナラムト云フ。泥障。屛泥。 倭名抄、十一、車具「[illegible]」 名義抄「[illegible]、クルマノツチハラヒ」

つちはり (名) 【土榛】 (一)榛ノ木ハ、枝ノ本ナル、此草モ枝杵トナルナドニテ、土榛ノ意カト云フ。野榛モ同ジ」 草ノ名。又、ハリグサ。ノハリ。今、つくばねさう。(衝羽根草)ト云フ。其條ヲ見ヨ。 倭名抄、廿、草類「王孫、[illegible]、豆知波利」 本草和名、十[illegible] [illegible]」 [illegible]

つちひさし (名) [illegible] まなびさし(誘)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible] [illegible]

つちぶね (名) 【土船】 [illegible]

つちふまず (名) 【土不踏】 [illegible]

つちふ・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【霾】 [illegible]

降ルノ義」 土沙、大風ニ吹キ揚ゲラレテ降ル。（[illegible]）雨レ土」名義抄「霾、ツチフル」字鏡集「霾、ツチフル」

つちぶるひ（名）土篩 土ヲ篩ヒ分クル、目ノ荒キフルヒ。土籭

つちへい（名）土屏 土塀 土ニテ造レル塀。ドベイ。土牆

つちへん（名）土偏 漢字ノ偏ニアル土ノ字ノ稱。卽チ、地、坂、垣、埃、城ノ如シ。

つちぼこり（名）土埃 土沙ノ飛散セルホコリ。スナボコリ。砂塵

つちぼたる（名）地螢 〔翼ナク、地ニアル意カ〕螢ノ幼蟲ニテ、水中ニ生ジ、形、細長クシテ、翼ナク、尾ニ光アリ、筑前ニ、ミヅボタル、ミゾボタル。螢蛆

つちボトケ（名）土佛 泥土ニテ作リテ、燒キ成セル佛像。土佛

つちまぶれ（名）土塗 土ニマミルルコト。土ニ一面ニ汚レタルコト。曾我虎が磨（寶永、近松作）上「サリナガラ、土塗れノ此ノ小石、朝比奈カチハ汚サジ」

つちまめ（名）土豆 らくくわしやう（落花生）ノ異稱。其條ヲ見ヨ。

つちむろ（名）土室 土ヲ塗リ固メテ作リタル室。ツチヤ。ツチノムロヤ。土窟

つちもん（名）土門 門ノ屋根ナクシテ、左右、築地ナルモノ。上東門ヲ東ノ土御門ト云ヒ、上西門ヲ西の土御門ト云ヒシモ是レナリ。枕草子、五、五十段、くちをしきもの「雨マコトニ降リヌ、ナドカ異御門ノヤウニアラデ、コノつちみかどシモ、上モナク作リソメケムト、今日コソイトド憎ケレ」屋根ナクテ、雨露ノナフスヲ云ヘルニテ、上東門ヲ評シタルナリ」明月記、藤原定家、文曆二年五月一日「自中院一頰招請、雖怖二壽耳、依難遁、乘輿、入北土門二」

つちや（名）土屋 （一）〔つちむろ（土室）〕ニ同ジ。（二）壁土ナドヲ賣ル商店。又、其人。

づちやう（名）圖帳 古ヘ、民部省ニ備ヘ付ケアリシ帳簿。國郡ノ圖アリテ、其間ニ郡鄕ノ牓、並ニ租稅、貢賦ノコトナド、詳細ニ載セタルモノ。ミヅチャウ。水帳。圖籍 職原抄、上、民部省「民部省、云云、邦國土地之圖、戶口人民之數、此官之所知也、云云、又、有圖帳國郡牓示、職以明白、謂之民部省圖帳」東寺文書、延喜十五年十月「丹波國多紀郡大山庄圖帳」玉海、安元三年四月「內裏燒亡、民部省圖帳不燒亡」職員令、民部省「橋道、津濟、渠池、山川、藪澤」義解「唯據地圖、知其形界」孝德紀、大化二年八月「宜觀國國疆堺、或書、或圖、持來奉示」後紀、五、延曆十五年八月「諸國地圖、事跡疎略、云云、宜更令作之、夫郡國鄕邑、驛馬遠近、名山大川、形體廣狹、具錄無漏焉」續紀、十三、天平十年八月「令天下諸國、造國郡圖進」

つちやき（名）土燒 又、ドヤキ。やきもの（燒物）ノ條ヲ見ヨ。陶

つちやぐら（名）土屋倉 どざう（土藏）ノ古稱。ツチグラ。大和物語、下「五間バカリナルヒハダヤノ下ニ、つちやぐらナドアレド」

つちやぐら（名）土櫓 土ニテ塗リタル櫓。土ヌリノ樓。會津陣物語「背炙ノ峠ニ、土矢倉ヲ立テ、大筒、野砲ヲ籠メタリ」

つちらう（名）土牢 つちのらう（土牢）ニ同ジ。

つちわり（名）土割 農具ノ一。槌ノ柄ノ長キモノ。土塊ヲ割リ碎キテ、田ヲ平ニスルニ用ヰル。タネカス。櫌 櫌 和[illegible]櫌、ツチワリ、[illegible]、同」

づちゐ（名）土居 （一）泥土ヲ築キ廻ラシタル所。ついぢノ類。方丈記「其家ノアリサマ、云云、つちゐヲ組ミ、ウチ覆ヒヲ葺キテ」（二）帳臺ナドノ柱ノ下ノ土臺。宇津保物語、藏開、上「御帳ノトノつちゐニ押シカカリテ、ヰネブリシ給ヘリ」（三）どゐ（土居）ノ條ヲ見ヨ。

つつ（名）筒 〔包ム意ナラム〕（一）管ナドノ如キ、中ノ空ナル器。竹ノ節ト節トノ間。ヨ。字鏡六十「筩、竹乃與、竹乃豆豆」散木集、九、雜、上「吳竹ノ、つつヲノミ見ル、セハシサニ、ヨモコノフシハ、アラジトゾ思フ」（二）スベテ、形ノソレニ似タルモノ。「筒袖」煙管筒」（三）鐵砲ノ體。卽チ、玉藥ヲ込ムル處。「大筒」小筒」（四）轉ジテ、直ニ、銃、鐵砲。（五）轂ノ一名。（六）〔井戶側〕伊勢物語、廿三段「つつゐづつ、ゐづつニカケシ、マロガタケ、過ギニケラシナ、イモ見サルマニ」狹衣、一、下「此ノ井ハ、五六日ニモナリヌベカメリ、筒ナドタテンホドマデコソハオハシマサメ」（七）鎖ノ鎖須ヲ受クルモノ。ヒツ（鎖ノ條ヲ見ヨ）（八）花瓣ノ筩。（九）足袋ノ踝ヲ被フトコロ。（昔ハ筒ハ長カリキ）東海道名所記（萬治）六、島原衣紋馬場「此馬場ニ差シカカリテ、小袖ノ衣裏裾ノ亂レヲツクロヒ、[illegible]足袋ノ筒ノタダクレヲナホシ」

づつ（辭）乍 「現在完了ノ意ヲ云フ助動詞ノつヲ重用セル語」（一）第三類ノ天爾波。動詞ノ間ニアリテ、コノ事ヲシナガラ、彼ノ事ヲモスル意ヲ云フ語。ナガラ。古事記、上、二十「走乍讀度」神功紀、十三年二月「歌ヒ菟菟、舞ミケメカモ、コノ酒ノ、アヤニウタタノシ、ササ」齊明紀、四年五月「飛鳥川、瀰ヒ都都、行ク水ノ、間モナクモ、オモホユルカモ」源、十八、松風、廿「イクカヘリ、行交フ秋ヲ、過シつつ、浮木ニ乗リテ、我歸ルラム」後撰集、七、秋、下「モミヂ葉ヲ、ワケつつ行ケバ、錦着テ、家ニ歸ルト、人ヤ見ルラム」「行キつつ見ル」（二）同ジ動作ノ繰リ返サルルニ云フ語。卽チ、降リツ降リツノ類ノ如シ。萬葉集、十四、廿「シマラクハ、ネ都追モアラムヲ、イメノミニ、モトナ見エ都追、アヲネシナクル」（三）動作ノ現在進行形ヲアラハスタメニ用ヰラルル語。

つつ（數）十 〔十箇ノ轉カト云フ〕（一）トヲ。十。「つつヤ二十歲」或ハ、十九ノ意トス、誤ナラム。（二）官吏ノ制限ノ日數ヲ、皆勤シタルコト。（三）數矢ノ皆中シタルコト。（騎射ニ五度ノ十ト云フハ、諸矢モテ五度馳セテ、皆中シタルコトナリ）太平記、十二、北野物語事「矢處一寸モハヅサズ、五度ノつつヲ鶴縣ヒケレバ」笠掛記（群書類從本）「公方樣、又ハ、主ナドト射ルニ、十度ニ十ヲメサルレバ、一ツハヅシ、九ツ遊バサルレバ、八ツ、カヤウニ劣リ申スヤウニ射ル」

つづ（名）約 〔つづしき意〕物事ノ滿チ足ラハヌガ如キ意ヲ云フ語。卽チ、手技ノ足リトトノハヌヲ、手つづト云フガ如シ。

ヅツ（名）豆子 〔字ノ唐音。豆ハ高坏ノ類〕小サキ椀ノ如キモノ。中深シ。猪、ちやつ（樏子）ノ條ヲモ見ヨ。

づつ（接尾）宛 〔箇箇ノ義ナラム、宛ハ充ノ誤用〕各自ニ配リ充ツル意ヲ云フ語。アテ。伊勢物語、四十八段「鳥ノ子ヲ、十づつ十ハ、重ヌトモ、思ハヌ人ヲ、思フモノカハ」詞花集、二、夏「下紅葉、一葉づつ散ル、木ノ下ニ、秋ト覺ユル、蟬ノ聲カナ」源、二、帚木、四「片端づつ見ルニ」同、四十七、早蕨、五「少シづつ語リ聞エ給フ」壬二集、中「トソヂづつ、四ツノ社ノ、クハヘマス、玉ノ緖長ク、君ゾツカヘム」「一ツづつ取ル」五ツづつ分クル」

づつう（名）頭痛 （一）頭ノ痛ム病。單ニ頭重クシテ、一種ノ精神壓迫、或ハ、

烈シク鑽ムガ如ク、刺スガ如ク、打ツガ如ク、脹ヘラルルガ如ク感ズル痛。ヅフウ　史記、倉公傳「齊侍御史成、自言病二頭痛一」(二)轉ジテ、心配。難儀。　浮世風呂、文化、三馬、二編、上「何モ角モ、只今カラハ、大人頭ニ持ヘ直シマスカラ、イヤハヤ、大頭痛デゴザイマス」

つづうらうら（名）【津津浦浦】　何レノ津、何レノ浦。到ル所ノ海邊。國ノハテ。

つつえり（名）【筒領】　ばんりやう（盤領）、及、くびかみ（領曲）ノ條ヲ見ヨ。

つつおまい（名）【筒落米】〔つつおちまいノ略〕米さしヨリ落チコボレタル米ノ稱、ツツオチゴメ。ツツオゴメ。略シテ、つつお。　嬉遊笑覽、文政、喜多村信節）七「つつおトハ筒落歟、今、米さしトイヒテ、竹ニテ作リ、俵ニサシコミテ、米ヲ出ス筒アリ、ソレヨリ落チコボレタルヲ、つつお米ト云フ、永代藏ニ、だ掃ノヲリフシ、コボレスタレタル筒落米ヲ、ハキ集ルモノヲ、筒落籌ト云フトアリ、モトハ、筒ヨリ落チタルナレド、後ニハ唯、落チコボレタルヲモ云ヘリト聞ユ」

つつが（名）【恙】〔病ヲつつみト云フ、其轉カ〕　病ナドノ禍難。又、ヤマヒ。ワヅラヒ。　源、四十一、匂宮七「事ニフレテ我ガ身ニつつがアル心地スルモ、タダナラズ物ナゲカシクノミ、思ヒメグラシツツ」　宇津保物語、藏開、下廿一「大將、イササカノ足手ノ恙モアラバ、アソンノスルト思ハン」　平家物語、四、嚴島御幸事「異ナル御恙モワタラセ給ハザリシヲ」「一向恙シ」「恙アラセズ」

つつが（名）【恙】〔つつがむし（恙蟲）ノ略〕　毒蟲ノ名。蜱ノ類。越後國ノ信濃川、阿賀川等ノ水邊ニ棲ム、形様メテ小サク、圓形ニシテ三對ノ足ヲ具ヘ、全體ニ[illegible]ヲ生ジ、[illegible]ニテ辛ウジテ見ユ。截髮ホドノ大イサニテ、紅色ナリ、人ニ[illegible]テ血ヲ吸ヒ、毒ヲ施セバ、[illegible]、恙蟲病トナリ、患者ハ遍ク [illegible]腫レテ熱ヲ發シ、精神障害ヲ來タシ、其十中ノ四五ハ斃ル。つつがなし（無恙）ノ條ヲモ見ヨ。ツツガノムシ。ケダニ。赤蟲。　林道節用集、牛門「恙蟲、ツツガムシ」

つっかかる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【突掛】　つきかかる（突掛）ノ急呼。

つっかく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）【突掛】　つきかく（突掛）ノ急呼。

つっかけ（名）【突掛】　(一)ツキカクルコト。(二)突然ニスルコト。ダシヌケニスルコト。(三)芝居ニテ、花道ヨリ役者ガ、「見參、見參」ナドト呼バハリ出ヅル時、又ハ、赦免狀ナドヲ持チテ出ヅル時ニ、笛、鼓ナドニテ、ナス囃子。

つっかける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下一）【突掛】　(一)つっかく（突掛）ノ口語。(二)突然ニ、シカクル。一氣ニモノス。　狂言記、伯母酒「食ベタイ食ベタイト存ズル所へ、つっかけテ飲ウダニヨッテニ」(三)下駄ナドヲ、足ノ爪先ニカケテ穿ク。

つつがなし・キ・ケレ・ク・ク（形、一）【無恙】〔痛處無しノ義、障なしノ轉〕　障ナシ。無事ナリ。　隋書、倭國傳「日出處天子、致二書日沒處天子一、無レ恙」ノ無恙ハ、相問ヒテ云フ語ニテ、御無事ナドト云ハムガ如シ。　名義抄「恙、ツツガ」　新撰六帖、一「岩ツボニ、濡フバカリノ、山ノ井ノ、つつがなく（筒ナシ）テモ、世ヲ過サバヤ」[illegible]ニ「恙、憂也」トアリテ、憂ノ義トシ、又、[illegible]ノ義トシ、[illegible]、[illegible]善ノ心、吉昔、草居ノ[illegible]ニ風俗通ニ云ク、恙、噬蟲、能ク人ノ心ヲ食フ、古昔、草居露宿、此蟲ニ[illegible]、故ニ相問ヒテ日ク、無恙ニトアルハ、更ニ據ナキコトナリ。其恙ヲつつがトシ、蟲ノ名トスルハ、全ク誤レリ。隨ヒテ、今、越後國ニ、恙蟲ニ、つつがト名ヅクルアルハ、其誤ヲ受ケタルナリ。　史記、匈奴傳「[illegible]」　漢書、匈奴傳「[illegible]」　[illegible]、春秋戰國[illegible]　萬葉集、十[illegible]下「[illegible]」[illegible]長歌「無[illegible]恙、幸クイマサバ」(つつがなくハ、つつみなくノ誤訓ナリ)　源、四十九、東屋七「アタラシク惜シケレバ、つつがなくテ思フゴト見ナサント思ヒニ」普通ニ、無恙ト用キルベキヲ、有恙ト用キタルハ、源、四十一、匂宮七[illegible]、身ニつつがある心地[illegible]ルモ、タダナラズ」

つつガハラ（名）【筒瓦】　まるがはら（丸瓦）、及、ながはら（牡瓦）ニ同ジ。

つっかひ（名）【突支】　ツッカフコト。又、支フモノ。ツッパリ。支柱。

つつがひ（名）【筒貝】　たけぼら（竹法螺）ニ同ジ。

つっかふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）【突支】　[illegible]キ當テテ支フ。支フ。又、傍ヨリ支ヘ拒ツ。ツッパル。支持ス。支

つつがむし（名）【恙蟲】　ケダニ。ツツガノムシ。つつが（恙、第二語）ノ條ヲ見ヨ。

つづき（名）【續】　ツヅクコト。又、ツヅクモノ。　新古今集、廿、釋教、朝日サス、峯ノつづきハ、メグメドモ、マダ霜フカシ、谷ノカゲクサ」

つづきあひ（名）【續間】　[illegible]ラニ相互ノ關係。[illegible]ツ[illegible]　タガヒノ關ガ

つつきり　[illegible]

つつく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）【突】〔突き切ルコト、輪切リ、ツミギリ〕　突くノ略〕(一)[illegible]ク、ツツケテ突ク、[illegible]　[illegible]集、十六[illegible]長歌、小[illegible]、イヒロヒ持來テ、石持ツ[illegible]通[illegible]リ」(二)ケシカクル。指嗾スル。

つづく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）【續】〔[illegible]〕[illegible]ノ略[illegible]　[illegible]續[illegible]、[illegible]ケ[illegible]ル、[illegible]シツキハ、流ルルゴトシ、トリ部部役、頭ヒクルモノハ、モモクサニ、セメヨリキタル、サトメワガ[illegible]同、九[illegible]長歌、ナメ明、ソノ夜明[illegible]トリ來[illegible]、頭ヒコキケレバ、オクレタル、ウナヒ明[illegible]

つづく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）【續】　[illegible]續クヤウニナス。連ヌ。ツナグ。[illegible]スヤウニ[illegible]ル。[illegible]ス。　萬葉集、十八[illegible]リ數、オヒ部部[illegible]ナガリ、里[illegible]ニ、アクリヒアルクド、人モ[illegible]メズ」

ツック（名）【蘭語、Doek】　又、[illegible]。[illegible]麻[illegible]テ[illegible]袋、靴、鞄、ナドノ材料ニ用キル。

つづくる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）【繕】　ツクリヒ合ハス。修繕ヲナス。

つつぐれ（名）【小晴】　[illegible]ヤミドキ。[illegible]　今昔物語[illegible]廿七、四十一語[illegible]ヨツレバ、つつぐれニナリメ」

つつげ（名）【[illegible]】〔[illegible]しき毛ノ義〕　鳥ノ羽ノ初生ノモノ。[illegible]　[illegible]

つづけうた（名）【[illegible]】　[illegible]

つづけがき (名) 續書 筆ヲ手ニテ、續ケテ書クコト。又、其書キタルモノ。

つづけさまに (副) 續樣 ツヅケテ。止メズニ、ツヅケサマニ。連次 謠曲、土蜘蛛「膝丸ヲ抜キ開キ、チャウト切レバ、ソムクル所ヲ、つづけざまに、足モタメズ薙ギフセツツ、得タリヤオウト喜ル聲ニ、形ハ消エ失セニケリ」新續犬筑波集、夏部「つづけさまに、十六ツラヤ、ハリヌラム」サセルムサシニ、助言云ヒケリ」

つっけんどん (名) 突慳貪 つけつけト、愛想ナク物言ヒ、又、振舞フコト。

つづける (動) つづく(續、下二)ノ口語。

つつこ (名) 玄孫 〔續子ノ義〕 やしはご(玄孫)ニ同ジ。字鏡「玄孫、やしは子」

つっこみ (名) 突込 (一)男子ノ髮風ノ名。此髮ハ、元祿ノ頃、村木屋ナドノ結ヒタルモノニテ、元結一寸餘モ卷ク故、油ニテ元結ノ汚レヌヤウニナスヲ、手際ナリトス。我衣(文化、寬尼處)「つっこみト云フハ、元祿ゴロ村木屋風ナリ」 (二)つきこみ(突込)ニ同ジ。

つっこみおび (名) 突込帶 はさみおび(挾帶)ニ同ジ。

つつさき (名) 筒先 (一)銃砲ノ筒ノ端。筒口。筩口。銃頭「筒先ヲ搦ヘテ打ツ」 (二)筒ノ先端。(三)ぽんぷノ筒ノ先端。又、ソレヲ受持ツ消防夫。

つつざき (名) 筒咲 花ノ瓣ノ、裂ケズシテ、筒ノ如キ狀ニテ咲クコト。又、ソノモノ。(朝顏ナド) 筒瓣

つつじ (名) 躑躅 〔羊躑躅(いはつつじ)ノ略〕 (一)灌木ノ名。山ニ自生シ、人家ニモ植ウ、高サ丈餘、葉ハ桃ニ似テ掛生シ、花ハ春夏ノ交ニ開ク、五瓣、一重ニシテ、紅ト白トアリ。又、花ノ紫ナルヲ、淀川躑躅ト云ヒ、黃ナルヲ、もちつつじ、又、れんげつつじト云フ。本草和名、上四「羊躑躅、羊誤食二躑躅而死、故以名之、和名、以波都都之、又、之呂都都之、一名、毛知都都之」(倭名抄、廿同訓) 字鏡五十二「茵芋、岡豆豆志、伊波豆豆自」 萬葉集、十三廿四長歌「青山ヲ、振リサケミレバ、都追慈花、ニホエル少女、櫻花、榮エ少女」同、二十三「水ツタフ、イソノ浦マノ、石ツツジ、モクサクミチヲ、マタモ見ムカモ」古今集、十一、戀、一「思出ヅル、トキハノ山ノ、いはつつじ(序)、云ハネバコソアレ、戀シキモノヲ」(古今集注「羊躑躅」) (二)襲ノ色目ノ名。表ハ蘇芳ニテ、裏ノ青ナルモノ。又ハ、裏ノ紅打ナルモノ。枕草子、十一、百四十段、下がさねは「冬ハつつじ」後照念院殿裝束抄「躑躅張下襲事(近代制符以後、朝夕著ニ此下重)」西三條裝束抄「下襲、云云、躑躅、表白瑩、裏濃打、冬ヨリ春ニ至テ用、拜賀春日祭例有」

つづし (形、二) ・シキ・シケレ・シク・シク 約 イササカ不足ナリ。今少シニテ足ラズ。又、イヅツシ。大殿祭祝詞「夜目ノイススキ、伊豆都志伎事ナク」(伊ハ發語、豆都ハ清濁顚倒、眼ノ足ラヌコトナクノ意) 裝束寸法口傳抄(貞治)「淨衣ヲ狩衣ヨリつづしくスベシ」

つつしまる (動) 愼 つつしむ(愼)ノ延音。續紀、三十、神護景雲三年十月「諸東國乃人等、謹之末利奉侍禮」

つつしみ (名) 愼 (一)ツツシムコト。(二)モノイミ。榮花物語、二、花山「ヨロヅ御つつしみモ、御里ニテ心安クト思ボスニ」 (三)刑ノ名。ひっそく(逼塞)ノ條ヲ見ヨ。

つつしみいろ (名) 黯色 黑キ色。運歩色葉集「黯、ツツシミイロ」

つつしむ (他動、四) ・ム・メ・マ・ミ・メ 愼 謹 〔約め締むノ意〕 (一)又、愼ム。心ヲ付ケテ、モノス。恭シク守リテ、ナス。過チナクモノセムト、心ヲ入ル。大切ニス。名義抄「齋、ツツシム、イム」 (二)心ノ上ニ、禮容ニ、凶シキ事アラセジトス。セマホシク、言ハマホシキコトヲ憚リテ、エセズ、エ言ハズ。(三)失ラヌヤウ、氣ヲヒカヘメニス。(四)モノイミス。源、二、帚木「伊豫ノ守ノ朝臣ノ家ニ、つつしむコト侍リテ、女房ナンマカリウツレル比ニテ」

つつしよろひ (名) 躓服 〔つつしハつつしみノ略、よろひハよそほひノ略〕 ツツシミ、ヨソホフコト。又、謹直ノ御服。江家次第、七、三「昇豆豆志余呂比御服ニ」

つづしりうた (名) 嘰歌 〔つづしる(嘰)ノ條ヲ見ヨ〕 一二句ヅツ切リ切リニ、外ノ歌ヲモ取リマジヘテ歌フウタ。一口歌。源、六、末摘花二十二「タタラメノ花ノ色ノゴト、(風俗歌)三笠ノ山ノ處女ヲバステテ(亦風俗歌ナルベシ)ト、歌ヒスサビテ出デタマヒヌルヲ、云云、御つづしり歌ノイトヲカシキト云ヘバ」(たたらめノ條ヲ見ヨ)

づつしりと (副) 〔づしやかまノ轉〕 重ク、重重シクッテ、量ノ多キ狀ニ云フ。

つづしる (他動、四) ・ル・レ・ラ・リ・レ 〔續クルノ意〕 (一)少シヅツモノス。一言ヅツ歌フ。源、二、帚木三十二「影モヨシナド、つづしり歌フホドニ」 (二)少シ嚼ミ切リテ、口中ニ含ミ食フ。休ミ休ミ食ヒ、ススル。少シヅツ食フ。一口ヅツ食フ。嘰 啄 字類抄「嘰、ツヅシル、嘰、嘰咀、ツヅシル」名義抄「嘰、ツツシル、小食、咀、嚼、ツヅシル」字鏡二十一「嚼、左加奈豆豆志留」今昔物語、九、十九話「物欲シキママニ、急ギテ此ノ鮭、鯛、鹽辛ナドヲ、つづしるホドニ」

つづしろふ (他動、四) ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ 〔つづしるノ延〕 萬葉集、五卅長歌「堅鹽ヲ、取リツヅシロヒ、糟湯酒、打チススロヒテ」

つつそで (名) 筒袖 袂袖ノ無クシテ、筒狀ノ如キモノ。ソギソデ。コテソデ。ツツ、ボウ、ツボソデ 又、其衣服。窄袖

つつだい (名) 筒臺 銃身、又ハ、砲身ヲ据エオク臺。

つったつ (自動、四) ・ツ・テ・タ・チ・テ 突立 〔つきたつノ音便〕 眞直ニ立チアガル勢ヨク立ツ。卓立 平治物語、一、待賢門軍事「惡源太、弓ヲバ小脇ニ搔イ挾ミ、鐙フン張リつつたちト上リ、左右ノ手ヲ擧ゲ」

つつたび (名) 筒足袋 足袋ノ筒狀ナルモノ。沓足袋ナドニ對ス。

つっつく (動) 突 つつく(突)ノ音便。

つつっぽう (名) 筒袖 つつそで(筒袖)ニ同ジ。又、ツッポ。ツッポソデ。

つっと (副) 〔つとノ音便〕 (一)速カニ入リ込ム狀ニ云フ語。ヅント。ズット。堀河波鼓(寶永、近松作)下「二三度モマセテ是迄ト、射ル矢ノ如クつっと入リ、弓手ノ肩先、馬手ノ下リニ、サンブト切ッテ打落セバ」 (二)つとニ同ジ。狂言記、菊の花「酒ハクレズ、振舞ハ食ハセズト存ジ、ソレヨリつっと立ッテ歸リマシタレバ」

つつどり (名) 鳲鳩 〔鳴聲ニヨリテ名トス〕 かっこうどり(郭公)ニ同ジ。林逸節用集、生門「鳲、ツツドリ」和漢三才圖會、四十三、林禽「鳲鳩、フフドリ、ツツドリ」 夫木抄、廿七、雜、都鳥「コレモマタ、サスガニ物ゾ、アハレナル、片山陰ノ、つつ鳥ノ聲」

づつなし (形、二) ・キ・ケレ・ク・ク (一)ぢゅつなし(術無)ノ訛。女殺油地獄(享保、近松作)中「勘當ナサレト評議ノ聲ニ目ヲ醒シ、アアづつな

い、母様（カカサマ）、母様（ヲウサマ）、カカ様ハマダ論ラズカトー（二）ナマケテアリ。「づつなし者ノ節句バタラキ」

つつなはせどり（名）［鶺鴒］ とつぎをしへどりノ條ヲ見ヨ。釋日本紀、十六、秘訓「鶺鴒、トツキトリ、ツツナハセトリ、ツツマナバシラ」

つつぬき（名）［管貫］ 幕ノ柱ヲ立テ、其頭ヲ枝ニテ何本モ結ヒ固ムル事。江家次第、一、元日節會「春興殿南廊西面引二管貫一、張二同幔一」

つつぬけ（名）［筒拔］（一）通リヌクルコト。夕霧阿波鳴渡（正德、近松作）「ココノ咄ガ、奥ノ座敷ヘつつぬけ、お客様ハ不興ガホ」（二）聞キタルコトヲ、直ニ他ニ漏ス人。生玉心中（正德、近松作）上「惚レラレ自慢デ、モウ、ソノ事ヲ觸レ歩ク、ソレデ、アイツガ名ヲ、つつぬけト付ケテオク」（三）金錢ヲ得ルニシタガヒ、濫リニ費スコト。

つつね（名）［筒音］ 尺八ナドノ、五孔、皆塞ギタルニ出ヅル音。

つづのき（名） やぶにくけい（天竺桂）ニ同ジ。又、ツチ

つっぱり（名）［支］ ツッパルコト。ツッカヒ。又、ソノモノ。支フル棒。支柱

つっぱり（名）［突張］ 相撲ノ手。兩腕ニテ、敵ヲ突クコト

つっぱ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［突張］（「突き張る」ノ音便）（一）棒ナドヲオシアテテ、支ふ。物ヲツッイテオス。支持ス（二）ツヨク、ハリアフ。強抗ス。（三）ツヨク、ハル。ツル。「腕ノ筋がつっぱる」

つつひ（名）［槌］ つち（槌）ニ同ジ。

つづ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四） トドマル。又、コル。名義抄「渟、ツツフ、トドムー」字鏡集「凝、ツツフ、コラス、ココル、コル」

つつま・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［可愼］ 愼ムベクアリ。心、差控ヘラル。恥カシ。落窪物語、四「人傳ラバコソ、つつましくモ思サメ」源、五十二、手習「人ヤ怪シマムト、つつましうテ、奥ニ向ヒテ居給ヘリ」蜻蛉日記、上、上「文ゾアル、参リ來マホシケレド、つつましうテナム、タシカニ來トアラバ、怖怖モ」源、二、帚木「イト恥カシク、つつましゲニ紛ラハシ隱シテ」

つつま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［障］〔障むノ延〕 つつむ（障）ニ同ジ。萬葉集、廿、長歌「事シ終ラバ、都都麻波ズ、歸リ來マセト」

つつまもり（名）［筒守］ 小サキ竹ノ筒ニ守ヲ入レテ、布帛ノ袋ニ入レ、ソノ兩端ニ紐ヲツケタルモノ。娥方之帖「筒ノ首尾ニ環アリ、總アル緒ヲ通シテ、貴人ノ嬰兒ノ宮参ノ輿ノ先ニ懸ケ行クモノ、常ノ他行ニモスルナリ、金物ノ飾、松竹、家紋ナド毛彫ニシ、錦ノ帝ノ左ニ鶴、右ニ龜ヲ刻ル（鶴文）」筠庭雜考「身分アル人ノ子ニ、乳母ナド付添ヒタルニハ、著シカクル様ニモ付ク、祇園守トイフ」

つづまやか（副）［約］（一）約ル狀ニ云フ語。（二）狹ク小サク手輕ナル狀ニ云フ語。（三）ヒキシマル狀、又ハ、儉約ノ狀ニ云フ語。女大學「人ノ妻トナリテハ、云云、萬事儉（つづまやか）ニシテ、費ヲ作ルベカラズ」

つづまり（名）［約］（一）ツヅマルコト。（二）小サクシテ、マトマルコト

つづま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［約］〔詰マリ詰マルノ略、おちつまるト通ズ〕狹ク小サクマトマル。簡約ニナル。又、短クナル。名義抄「約、ツツマル」林葉集（治承、俊惠）六「戀メオキシ、ソノ日ソノアレ、タヒゴトニ、イカニつづまる、命ナルラム」

つつみ（名）［堤塘］〔水ヲ積ミテ湛レシメヌ意、或ハ、ツフ、十積ノ約〕（一）土ヲ長ク高ク築キテ、水ノ流レヲ止ムルモノ。田ノ用水ヲ湛ヘ、或ハ、川水ノ溢ルルヲ防ギ、且ハ、道路ニ用ヰル。土手。[illegible]名抄、一、河海類「堤塘、[illegible]、土也、[illegible]、隄、又作堤」萬葉集、二、長歌「堤ニ立テル、槻ノ木ノ、コチゴチノ枝ノ、春ノ葉ノ、茂キガ如ク」[illegible]紀、五十七年九月「[illegible]池堤上」持統紀、四年二月「天皇、幸二[illegible]池堤上一、觀二公卿大夫之馬一」（二）用水ノ溜池、タメ。

つつみ（名）［愼］〔心ノ中ニ包む意〕（一）ツツムコト。ツツシミ、憚カルコト。（二）ツツシミ。遠慮。濱松中納言物語、四「姫君オハスルト見ル方ニ、つつみ無ク入リ給ヒテ」（三）モノイミ。齋戒。字鏡「齋、[illegible]」

つつみ（名）［病］（恨ノ義）ヤマヒ。ワヅラヒ。病氣。萬葉集、十三、長歌「[illegible]ク、恙無ク、幸ク坐サバ」

つつみ（名）［陣］ リハリ、ツツムコト。萬葉集、五、長歌「[illegible]」サシツカヘ。[illegible]

つつみ（名）［包］（一）包ムコト。（二）物ヲ包ム物。專ラ衣ヲ包ム布帛ヲ云フ。ツツミ。ヒラブツミ。風呂敷。衣襆。又、袋包アリ。[illegible]

つづみ（名）［鼓］ [illegible] 今ハ、三ノ鼓ト云フ、[illegible] 大ナルヲ大鼓ト云フ。[illegible] 太鼓ノ[illegible]

つづみ（名）［鼓］ [illegible]

つつみいひ（名） [illegible]

二集、云云、寄餘四百襲、已上六月祭之」新儀式、四、臨時、野行幸事「又給二王卿以下等大宮管領寄餘一」台記、別記、仁平三年八月八日「佐保殿御裝束寳、云云、寄餘千果」

つつみ-うち（名）［包討］敵ヲ圍ミ討ツコト。包圍攻撃。淺井三代記、十三、「今度勢軍評定事、上坂信濃、道卜、俊孝ハ脇備ニナリテ、亮政（淺井）ガ働ク色ヲ見テ、雙方ヨリ包討ニ可レ討トノタクミナリ」籾井日記「伏兵ヲコシラヘ、包み討トニ云ヒテ、一番ニ明智ガ勢、尼張、美濃ノ山闇トモ、先ヘメケタル者共取リ集メ」

つつみ-がね（名）［包金］包ミタル金錢。又、價ヲイクラト定メズニ、アテガフ金錢。ツツミキン。若風俗、貞享、西鶴「包ミガネノ細マルヲ、アダニ使フモヨシナシトテ」

つつみ-ガハラ（名）［蹄瓦］［包瓦］［棟ヨリ軒ニ至ル狀、堤ノ如クナレバ云フ］大棟、又ハ、隅棟ヲ葺ク瓦ノ稱。即チ、棟ヲ包ノ瓦。又、ソノ葺キタルモノ。牡瓦、筒瓦ニ同ジ。かはら（瓦）、及、をかはら（牡瓦）ノ條ヲモ見ヨ。倭名抄、十三居宅具「蹄瓦、都都美加波良」

つつみ-がみ（名）［包紙］物ノ上ヲ包ム紙。又、專ラ書狀ヲ包ムニ云フ。らいし（禮紙）ノ條ヲ見ヨ。狹衣、四、下「（歌）ト御料ナルハ、ベチナルつつみ紙ニ書キツケサセ給ヒテモ」

つつみ-せんべい（名）［包煎餅］今、がらがらせんべいト云フ。其條ヲ見ヨ。

つつみ-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）［無恙］つつがなし（無恙）ニ同ジ。萬葉集、五、三十長歌「大伴ノ、御津ノ濱ビニ、タダハテニ、御船ハハテム、都都美無久、サキクイマシテ、ハヤ歸リマセ」同、廿、三十八長歌「ワガクルマデニ、平ケク、親ハイマサネ、都都美無久、妻ハ待タセト」

つつみ-ぶみ（名）［包文］［竪文ニ對ス］疊ミテ、更ニ紙ニテ包ミ、ソレニ墨ヲ引キタル文。源、五十、浮舟「つつみ文ノ大キヤカナルニ、云云、又、直直シキ立文取添ヘテ」

つつみ-もの（名）［裹物］ツト。金銀、布帛ナドヲ、裹ミタルモノ。萬葉集、四、五十八「紀女郎裹物贈友」吾妻鏡、十九、承元二年七月五日「裹物二、上「各納二奥布三段一」

つつみ-やき（名）［裹燒］物ヲ裹ミテ燒クコト。炮魚　倭名抄、十六、廿魚鳥類「炰、豆豆三夜木、裹燒也」字類抄「炮、ツツミヤキ」宇治拾遺、十五、第一條「鮒ノつつみやきノアリケル、腹ニチヒサク文ヲカキテ押入レテ、奉リ給ヘリ」新六帖、三、鮒「古ヘハ、イトモカシコシ、堅田鮒、裹燒ナル、中ノタマヅサ」醒睡笑、元和、安樂庵策傳、白鷺「法師、餌ヲ反古ニつつみ、燒テ飯ニソヘテ食ハムトス」

つつみ-ゐ（名）［包井］（一）周圍ニ垣ヲユヒタル井。萬葉集、十四、廿七「スズガネノ、波由馬ウマヤノ、都追美井ノ、水ヲタマヘナ、妹ガタダテヨ」（二）井ニ蓋ヲシテ、封ジオクコト。立春ニ開キテ若水ヲ汲ム用トス。小町踊（寛文）春、元日「つつみ井ノ、井ノ字モ今朝ノ、門ガマヘ」

つづみ-をけ（名）［鼓桶］かづらをけ（鬘桶）ニ同ジ。又、コシヲケ。

つつ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［障］［齋む ノ意ヨリ轉ズ］障リ泥ム。サシツカフ。萬葉集、十八、三十「荊波ノ、里ニヤドカリ、春雨ニ、籠リ都都美ト、妹ニ告ゲツヤ」同、十五、四「大船ヲ、荒海ニ出シ、イマス君、都追牟事ナク、早還リマセ」同、廿、三十六「蒼海原、風浪靡キ、行クサ來サ、都都牟コトナク、船ハ早ケム」續紀、三十六、天應元年二月「罷リマサム道ハ、平ケク幸ク、都都牟事ナク、ウシロモ輕ク、安ク通ラセ」蜻蛉日記、下、上三「カクテ、ナカナカナル身ノヒマナキニつつみテ、世人人ノサリテ行ヒモセデ、二七日ハ過ギヌ」

つつ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［愼］［包む意］（一）ツツシム。憚カル。タシナム。後撰集、四、夏「カレモコレモ、志ハアリナガラ、つつむコトアリテ、エ逢ハザリケレバ」源、五、若紫、七十七「恥カシケナルニ、つつまレテ、トミニモ、エ打チ出デ給ハズ」宇津保物語、國讓、上、七十三「猶、世ノ人ノ心ヲつつみテ、北ノ方ニハ物モ聞エ給ハズ」（二）祕ム。隱ス。［隱匿］枕草子、十、百三十三段「ナドカハ心シラサランモノコソつつまメ」「つつみカクス」

つつ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［包裹］［詰め詰むノ略、約むニ通ズ］物ノ全體ヲ被ヒ圍ム。被セテ内ニ籠ム。天治字鏡、四、十一「裹、豆豆弥」竹取物語「藥、云云、ヌギオク衣ニつつまントスレバ、アル天人ツツマセズ」

つづ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［約］［詰め詰むるノ略、ちぢむ（縮）ト通ズ］狹ク小サクマトム。簡易ニナス。名義抄「約、ツツム」太平記、七、赤松蜂起事「兵庫ノ北ニ當リテ、摩耶ト云フ山寺ノアリケルニ、先ヅ城郭ヲ構ヘテ、敵ヲ六十里ガ間ニ縮メタリ」

つつめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［囁］又、ツツヤク。ささやく（私語）ニ同ジ。名義抄「詞、ツツメク、ツツヤク、ハヅ、アサムク」蠡文抄「囁嚅、ツツメキ、ツブヤク、ツツヤク、ササメク」土佐日記、二月朔日「船君ノ、カラクシテ、ヒネリ出シテ、善シト思ヘルコトヲ、エシモコソ誦ヘネトテ、つつめきテヤミヌ」

∴つつ-もたせ（名）［美人局］［筒爲持ノ義カ、（博徒ノ語ナリト）善ク轉ブヲ云フトゾ］俗ニ、騙姦ヲシテ、金錢ヲ強奪リ取ルコト。男、合點シテ、女房ヲウマクコシラヘテ、スソバリナル者ヲ引込ミ、首尾ヨキ時分、夫、出合ヒ、ネダリテ金錢ヲ取ルコト。（嬉遊笑覽、九）奸囮　局騙　武林舊事「游手奸黠、有二所謂美人局一、以二倡優一爲二姫妾一、引二誘少年一爲レ事」伊達稙宗塵芥集、天文五年「つつもたせ之儀有レ之者、當方之御有闕敷也、申カケタル輩ヲ可レ有二御成敗一事」日本永代藏（貞享、西鶴）四「ワロキモノ、人參ノツキツケ、筒もたせ」後日男（正德）六「タハケガ心ニ有頂天ニシテ、筒もたせト出テ、金銀ヲネダリ取ル」

つつや・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［囁］又、ツツメク。ささやく（私語）ニ同ジ。名義抄「詞、ツツヤク、ツツメク」字類抄「讒嫌、ツツル、ツツヤク」長門本、平家物語、十四、第一篇「ササヤキ、つつやきセンホドニ、源氏モ事ノ謂ヲ存ジテ」

つつ-やみ（名）［眞闇］シンノヤミ、クラヤミ。マックラヤミ。マックラ。［闇黑］［暗黑］落窪物語、一「つつやみニテ、笑フ笑フ道ノ惡シキヲ、ヨロボヒオハスル程ニ」今昔物語、第廿六、十三「つつやみニシテ、物モ見エズ」（雅言集覽）

つづら（名）［葛］［綴葛ノ約ニテ、組ミ綴ルヨリ云フカト云フ］（一）又、つづらふぢ。アヲカヅラ。アヲツヅラ。蔓性ノ灌木。山野ニ甚ダ多ク、蔓、極メテ長ク延フ。葉、互生シ、へくそかづら（女青）ニ似テ、厚クシテ、短キ毛アリ、形、圓尖、楕、三尖等、種種ナリ。春夏ノ交、新葉ノ間ニ小花ヲ開ク、さるとり（拔葜）ノ花ノ如シ。實、圓ク、大キサ三分許、熟シテ黑色淡青ニシテ粉ヲ帶ブ。蔓ニテ籠ヲ織ル。木防己　本草和名、上、三十「防已、阿乎加都良」倭名抄、廿、四十「同ジ」典藥寮式「防已、アヲツヅラ」古事記、中（景行）四十八「佩ケル太刀、都豆良多卷」萬葉集、十四、十六「上毛野、安蘇夜麻都豆良、野ヲヒロミ、ハヒニシモノヲ、アゼカ絶エセム」古今集、十四、戀、四「ヤマガツノ、垣ホニハヘル、青つづら、人ハクレドモ、言傳モナシ」拾遺集、七、物名、こにやく「野ヲ見レバ、春メキニケリ、青つづら、籠ニヤ組ママシ、若菜ツムベク」宇津保物語、俊蔭、四十九「あをつづらヲ、大キナル籠ニ組ミテ」（青葉ナルヲ云フ）（二）襲ノ色目ノ名。表ハ青黑色ニシテ、裏ノ淡青色ナルモノ。

つづら（名）［葛籠］［つづらこノ略］前條ノ草ノ蔓ニテ織レル籠。まるづるヲ

経トシ、わりづるヲ緯トス。或ハ、削リタル竹、又ハ、檜ノ薄板ニテ編ミ作リ、紙ニテ貼ルモアリ。多ク、衣服ナド納ル。「ツヅラコ、衣箱 運歩色葉集、[illegible]、ツツラ」

つづら-うま（ツヅラ・ウマ）（名）葛籠馬 馬ノ背ニ、方形ナル籠ヲ置キテ、上ニ蒲團ヲ敷キ、乘リテ旅行ナドスルモノ。又、ソノ葛籠ヲ負ヒタル馬。松の葉（元祿）馬方小唄「春ハゴザセノおつづらうまヨ、おつづらうまヨ、アケ七歳ノ薄鐙葦毛」東海道中膝栗毛（文化、一九）五編、下「つづら馬ヲ引キナラベ」

つづら-がさ（ツヅラ・ガサ）（名）葛笠 天和ノ頃流行セシ水口（近江國）細工ノ被笠。水口笠トモ云フ。黒漆ニ塗リタルアリ、塗ラヌヲ木地のつづらがさト云フ。風流旅日記（貞享）三、水口「已前ハヤリシつづら笠、今ハ見苦シ」好色一代男（天和、西鶴）四「當世女、木地のつづら笠ニ、白キ紐上ニ結ハズ」俗徒然草（元祿）二「水口ノ八兵衛殿ノ木地のつづら笠ニ、千筋紙捻ノ紙紐」

つづらか-に（ツヅラカ・ニ）（副）圓 つぶらかに（圓）ニ同ジ。靈異記、下、第四縁「見之、目漂青、面赫然、懼恐而[illegible]」訓釋「漂青、ツツ良可爾」字鏡、十「盱、張目之良（目豆良加爾須）」榮花物語、二、花山「惟成ノ辨ナド、花山ニ尋ネ參リニケリ、ソコニ、目モつづらかなる小法師ニテ、ツイヰサセ給ヘルモノカ」

つづら-こ（ツヅラ・コ）（名）葛籠 つづら（葛籠）ノ條ヲ見ヨ。加茂保憲女集「野山ユキ、マツタケクメル、つづらこノ、イクフシ秋ヲ、クリカヘスラム」夫木抄、九、瓜「霜ビオク、青つづらこノ、ホホ瓜ハ、サゾナメナラフ、タグヒノミシテ」宇津保物語、俊蔭五十「あをつづらヲ、大キナル籠ニ組ミテ」

つつら-と（副）知ラヌフリシテ、居ル狀ニ云フ語。愚管抄、三十「スコシノトガモナクテ、つつらとシテアルベシヤ」

つづら-ふぢ（ツヅラ・フジ）（名）葛藤 つづら（葛）ノ條

ノ（一）ニ同ジ、

つつら-め（名）羅 ツヅラカナル目。圓ク見張リタル目。名義抄「[illegible]、ツツラメ、ツツラメ、ツツシム、[illegible]、ツツラメ」字鏡抄「[illegible]、ツツラメ」[illegible]「[illegible]ツツラメニシテアワテ[illegible]」

つづら-をり（ツヅラ・ヲリ）（名）葛折 「折レ曲リタル狀ノ、葛ノ蔓ノ形ニ似タルヨリ云フカト云フ」（一）〔甚シク、ウネリマガリタル坂路。九折坂 羊腸 枕草子、八、八十六段「近クテ遠キ物、鞍馬ノつづらをり」政宗集「ナカナカニ、つづらをりナル、路ヲ越エテ、雪ニ隔ノ、近キ山里」名義抄「五折、ツヅラヲリ」字類抄「五折、ツツラヲリ、云二坂之曲一也」易林節用集（慶長）[illegible]「盤、ツヅラヲリ」（二）馬術ニ、幾遍モ左右横歩ミニ折返シテ、馬ヲ乘廻ハス法。名目抄「葛折（ツヅラヲリ）、御幸之時、馬打樣」

つづり（ツヅリ）（名）綴 （一）ツヅルコト。ツギ合ハスルコト。又、ツギ合ハセタル衣。字類抄「褸衣、ツツリ」字[illegible]「[illegible]、衣[illegible]也、小[illegible]、豆利」（二）綴リ仕立テタル衣。即チ僧ノ衣。コロモ 法衣 法服 衲衣 古今集、九、羇旅「手向ニハ、つづりノ袖モ、截ルヘキニ、紅葉ニ飽ケル、神ヤカヘサム」夫木抄、廿「手向スル、紅葉ノアケル、ミカミ山、つづりノ袖ヲ、哀レトモ見ヨ」

つづり-かた（ツヅリ・カタ）（名）綴方 言語、及、文字ヲ綴リテ、文章、又ハ、文句ヲ作ル方法。

つづり-させ（ツヅリ・サセ）（句）衣ヲ綴リ刺セニ寄セテ、冬ノ設ケニ衣ヲ作レトノ意。きりぎりす（蟋蟀）ノ鳴ク聲、然聞ユトテ、歌ニ詠メリ。古今集、十九、誹諧「秋風ニ、綻ビヌラシ、藤袴、つづりさせテフ、キリギリス鳴ク」[illegible]「[illegible]、つづりさせトゾ、鳴クナレド、ムラギヌモタル、我ハ聞キ入レズ」[illegible]、上、秋「秋風ノ、吹キ[illegible]レバ、[illegible]りぎりす、[illegible]ノつづりト、[illegible]」[illegible]、十四、つづりさせ[illegible]きりぎ

りす鳴クトハ、世俗ニ、きりぎりすハ、つづりさせ、カカハ拾ハムト、鳴クト云ヘリ」（カカハ、破帛ナリ）

つづり-ゑ（ツヅリ・エ）（名）[illegible]

つづ・る（ツヅ・ル）ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）綴 （一）ツヅル。綴ギアハス。補綴ス。名義抄「補、ツツル」[illegible]（二）〔連ネ作ル〕詩歌、文章ナドヲ、[illegible]。[illegible]廿九、行幸「今ニテモ、中文ヲトリつづりテ、ビビシウ書キ出ダサレヨ」宇津保物語、[illegible]「[illegible]りナドシテ、ヨミアゲテ、さんニアハセテ、モロゴエニズンジ給フ」「詩歌ヲ綴る」「文ヲ綴る」

つづれ（ツヅレ）（名）綴 〔綴ノ活用〕縫ヒ綴レル衣。（つづり（綴）、竝ニ、てでられノ條ノ語原ヲ見ヨ）襤褸 出觀集[illegible]「[illegible]アレ、マコモガ中ノ、つづれ[illegible]シモ」心中宵庚申（享保、近松作）上「源氏ヲ捨テ平家ヘ返リ出ノ武士、心ハ汚レシつづれ同然」

つづれ-の-にしき（ツヅレ・ノ・ニシキ）（名）綴錦 [illegible]人物、花鳥ナド、種種ノ模様ヲ織リ込ミ[illegible]京都、本圀寺所藏ノ[illegible]道ノ模様ノ類、[illegible]又、色ヲツクシテ織ル、地合ハ薄地ナリ、故ニ[illegible]不[illegible]

つつゐ（ツツ・イ）（名）筒井 [illegible]ル井。夫木抄、五、蛙「ハカナシヤ、筒井ノ蛙、ワレバカリ、外ヲモ知ラズ、淺キ心ハ」

つつゐ（ツツ・イ）（名）筒居 膝ヲツカズ、ツクバヒ[illegible]

[illegible]

つつゐつつ（名）[illegible]伊勢物語、[illegible]「つつゐつつ、井筒ニカケシ、マロガタケ、過ギニケラシナ、妹見ザルマニ」[illegible]

つて（名）傳 （つたへノ約）（一）人傳[illegible]

つて（動）傳 傳ふノ轉化ノ〈つたへノ約〉[illegible]

つてごと（名）傳言 イヒツタヘノ言[illegible]

つてん（名）通天 楓ノ一種。[illegible]

つてん-[illegible]（通天ノ條ヲ見ヨ）[illegible]

シドウ。スデイドウ。ズデイドウ。トバ狂歌集「カミナリノ畫ニ、オノガウツ、太鼓ノバチヤ、アタリケン、ヅハとうとモ、落チテケルカナ」

〽つと（名）〔苞〕〔包ノ轉〕（一）物ヲ藁ナドニ包ミタルモノ。裹ミモノ。アラマキ。ワラヅト。ニへ。名義抄「苞、ニヘ、ツト」字鏡、十七「苞、豆止」天治字鏡、十七「蕢、豆止」新六帖、五「淵シトテ、山井ノ淸水、ムスビツツ、乾飯ノつとヲ、取リゾ出デツル」（二）轉ジテ、其土地ノ産物ヲ、携ヘ行クニ就キテ云フ語。土産。萬葉集、廿「アシビキノ、山行キシカバ、山人ノ、ワレニエシメシ、夜麻都刀ゾコレ」同、三十「嘆干ナバ、玉藻苅リツメ、家ノ妹ガ、濱裹乞ハバ、何ヲ示サム」同、八三十五「ヲミナヘシ、秋萩手折レ、玉梓ノ、道行裹ト、コハン兒ノタメ」夫木抄、三十六、旅「旅つとニ、モタルカレイヒノ、ホロホロト、淚ゾ落ツル、都オモヘバ」（三）又、其土産ヲ携ヘテ、人ニモ贈リ、家ヘモ持テ歸ルニ就キテ云フ語。イヘヅト。ミヤゲモノ。萬葉集、二十五「伊勢ノ海ノ、沖津白浪、花ニモガ、裹ミテ妹ガ、家裹ニセム」源、十三、明石四十「マコトノ都ノつとニシツベキ御贈物ドモ、故ヅキテ思ヒヨラヌ隈ナシ」拾遺集、七、物名「筑紫ヨリ、此マデ來レド、つとモナシ、痛ノヲ川ノ、橋ノミゾアル」

つと（名）〔髱〕〔苞ノ意ト云フ〕女ノ髮ヲ結ヒテ、後ト左右トヘ張リ出シタル所ナ。たぼ（髱）ノ條ヲ見ヨ。書言字考節用集、五、肢體門「髻髻、ツト」歷世女裝考、四「つとト云フハ、カミノツドヒ出タル名ナルベシ」色之居草子、享保「髻ハ、云云、出シ髻モ少シつと有ッテ」文武五人男（元祿、近松作）一「髮ノ髻サへ、ナリアヒニ、神ニ擲ツ身ハ構ハヌト、生レツキナル伊達風情」

〽つと（副）〔ついとノ約〕（一）動カズ移ラヌ状ニ云フ語。ヂット。ツイト。ヅット。ツット。ソノママ。タダチニ。源、一、桐壺八「御胸ノミつと塞ガリテ」同、三、空蟬五「目ヲシつと付ケ給ヘレバ、オノヅカラ傍目ニ見ユ」同、七、紅葉賀廿八「イデ、此直衣着ム、ト宣ヘド、つと捉ヘテ、サラニ許シ聞エズ」竹取物語「つと影ニナリヌ」大和物語、下「外ヘモサラニ行カデ、つと居ニケリ」「つと寄リ添ヒテ」（二）急ニ身ヲ動カス狀ニ云フ語。ツット。宇津保物語、國讓、下廿六「宮キコシメシテ、女君ヲつとカキヨセテノ給フヤウ」

つ-ど（副）〔都度〕其度每ニ。每度。每回。「其都度」事アル都度」

つと-いり（名）〔突入〕押込ムコト。入リ込ムコト。下ノ出典ヲ見ヨ。滑稽雜談（正德、其諺）十三、九十條「（七月）十六日、昔ハ諸國ニ、つと入トテ、家家ノ秘藏セル器物、道具、或ハ其家ノ嫁、ムスメ、妻、妾ノ類マデ、常常見タキモノヲ望ミテ、客殿、居間ニ限ラズ、深ク入リテ浪藉ニ見ルコトナリ、近頃マデ勢州ノ山田ニ侍リシ故ニ、俗ニ山田ノつと入ト云傳フ、云云、今世ハ絶テナキコトナリ」續山井（寬文、北村湖春）「花ノ宿ヤ、コレモつと入、伊勢櫻」口寄艸（元文）「ソサウナリケリ、ソサウナリケリ、つと入ハ、伯母ノ眼ニ、カシコマリ」

つと-さし（名）〔髱差〕又、ツトウラ。ツトダシ。たぼさし（髱差）ニ同ジ。

つと-どうふ（名）〔苞豆腐〕固クシボリタル豆腐ヲ、藁苞ニ入レタルモノ。

〽つと-め（副）〔夙〕〔初時ヲノ略。字鏡ニ「暾、日初出時也」〕朝ニ早ク。早朝ニ。名義抄「夙、ツトニ、アシタ、ハヤク」字類抄「夙、ツト、ツトメテ、早旦也」萬葉集、十一九十「人目モル、君ガマニマニ、ワレトモニ、夙ニ興キ乍、裳ノ裾濡レヌ」同、十八三十「朝ニ行ク、雁ノ鳴ク音ハ、ワガゴトク、物オモヘカモ、聲ノカナシキ」崇神紀、六年「其勢難ニ以ニ德治ニ之、是以晨興、夕惕」（夙志ニ于學ナドヲ、つとめト讀ムハ、非ナリ）仁德紀、六十七年十月「天皇夙興夜寐、輕ニ賦薄ニ歛、以寬ニ民萌ニ」

〽つど-ひ（名）〔集聚〕ツドフコト。アツマルコト。集合。萬葉集、十八四十「白玉ノ、イホツ都度比ヲ、手ニ結ビ、オコセムアマハ、ムカシクモアルカ」同、十六廿「秋、雜「白玉ノ、イホツ集ヲ、解キモ見ズ」

〽つど-ふ・フ・へ・ハ・ヒ・へ（自動、四）〔集聚〕〔津訪ふノ義、舟ニ起ル〕集マル。寄リ會フ。源、四十五、椎本「人人、アマタ參リつどひテ」神功紀、四十九年三月「集ニ于卓淳ニ擊ニ新羅ニ」萬葉集、二廿七長歌「アメツチノ、初ノ時シ、久堅ノ、天ノ河原ニ、八百萬、千萬神ノ、神集、集ヒイマシテ」

〽つど-ふ・フル・フレ・へ・へ・ヘヨ（他動、下二）〔集聚〕集ム。寄ス。召集ス。源、八、花宴十「上達部、みこたち、多クつどへ給ヒテ」古事記、上四十八「於ニ天安河之河原、神ニ集八百萬神ニ集而」

つとま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔勤〕〔勤めらるノ約マリテ四段活用ニ變ジ、自動トナレルモノ。止る、負る、調るノ例ノ如シ〕勤ムルコトヲ得。役目ヲ遂グ。

つと・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）〔務勉〕〔夙ヲ活用シ、早朝ヨリ事ヲ行フヨリ云ヘル語〕（一）〔氣ヲ勵マシテ行フ。精ヲ出シテスル。努力 天治字鏡、十二十四「孜孜、豆止女天」源、二、帚木「此トノ井所ノミヤヅカヘヲ、つとめタマフ」萬葉集、廿五十「敷島ノ、大和ノ國ニ、アキラケキ、名ニオフトモノヲ、ココロ都刀米ヨ」（二）君ニ仕フ。奉公ス。役目ヲ行フ。勤 新千載集、十六、雜、上「中務大輔ニテ、賀茂臨時祭ノ舞人、つとめテ侍リケル時」（三）〔愼ム。自愛ス。舒明卽位前紀「汝叔父大臣、常爲ニ汝愁言、百歲之後、嗣位非ニ當ニ汝乎、故愼以自愛矣」（四）〔勤行ス。（佛道ニテ）源、四十六、總角七「松ノ葉ヲスキテ、つとむる山伏ダニ、イケル身ノ捨難キニヨリテコソ」（スキハ、食フナリ）

つとめ（名）〔務勤〕（一）ツトムルコト。爲スベキ事。（二）君ニ仕フルコト。役目。奉公。職務（三）〔每日、佛前ニテ、誦經、禮拜スルコト。勤行。修行。（佛道ニテ）源、五、若紫六「後ノ世ノつとめモイトヨクシテ」義經記、五、靜吉野山に被ニ捨事ニ「寺中ニハ道者、六門ニミチミチタリ、云云、つとめモ果テシカバ、靜モ起キテ、念誦シテゾ居タリケル」秋の詩篇（四）遊女ノ稼業。又、ソノ揚代。

犬木扇（延德）田舍客「イナカ客衆ヨリモ、云云、御屬リノアトヲ見レバ、贔付一貝鼻毛拔、小菊ノ草子ヲ置カレタ、是レガ花カヤ、タタシ今宵ノつとめカ」

つ-どめ（名）〔津留〕船舶ノ港ニ滯留スルコト。武家嚴法度「私之關所、新法之津留、制禁事」

〽つと-めて（名）〔夙設けてノ約、翌朝ヲ待設ケテノ意〕又、夙見えてノ約、朝ノ方ニナリテノ意カ。沖繩ニテ、黎明ヲすとみてト云フ〕（一）前夜事アリテ、其翌朝。明早。明旦 名義抄「旦、ツトメテ、アシタ、アケヌ」朝、ツトメテ」夙、ツトメテ、アシタ、ハヤク」字鏡「暾、豆止女天」宇治拾遺、三、第一條「今宵モナホイラズナリヌ、又つとめてモ同ジヤウニ」枕草子、一、第一段「冬ハつとめて、雪ノ降リタルハ言フベクモアラズ」同、三、廿一段「雨ノ降リタルつとめてナドハ、ココロアルサマニヲカシ」宇津保物語、あて宮十五「明クルつとめて、御盤ドモ御方方ニ參ラセ給フ」同、藏開、中廿六「宮つとめてヨリ暮ルルマデ御髮スマス」源、四、夕顏七「つとめて少シ寢過シ給ヒテ」古事記、中、神武四「如ニ夢教ニ而、旦見ニ己倉ニ者、信有ニ横刀ニ」土佐日記、正月九日「つとめて、大湊ヨリ那波ノ泊ヲオハムトテ」（二）曉。アサ。

つとめて（副）〔勉〕シヒテ、心ヲハゲマシテ。オシテ。無理ニモ。

つ-どり（名）〔津取〕りんどり（厘取）ニ同ジ。信府統記（享保、水野忠恒）十六、松本領收納の事「タトヘバ、高十石ノ處ニテ一石取ルヲ、一ツノ取リト云フ、然レドモ、高十石ノトコロニテ、端ナシニ、一石ハ取レザルモノナリ、故ニ、一石何斗何升何合ト端米ヲ付ク、是レヲ一ツ何分何厘何毛ノ取リトイフ、故ニ厘取リトモ、又、津取リトモ云フ」

づ-どり（名）〔圖取〕物ノ形ヲ、圖ニ寫シ作ルコト。

〽つな（名）〔綱索〕〔強縄ハ連長カ、蔦ニ通

ズ」(二)繩、紐ノ太キモノノ稱。藁、棕櫚ノ毛ナドニテ綯ヒテ作ル。(古ヘ、綱ト云ヘルハ、楮ネ藤、葛ヲ以テ作レル)鐵線ナルモアリ。萬葉集、十五「アキハギニ、ニホヘルワカモ、ヌレヌトモ、君ガ御舟ノ、綱シトリテバ」後拾遺集、十六、雜、二「綱タエテ、ハナレ果テニシ、陸奥ノ、ヲブチノ駒ヲ、昨日見シカナ」貫之集、上「つなハヘテ、モリワタリツル、ワガ宿ノ、ワサダカリガネ、今ゾナクナル」新六帖、二「峯ゴシノ、谷ノ柚木ノ、つなヨワミ、アガラデステシ、名コソヲシケレ」(二)縋リテ、賴ミトスルモノ。源、四十九、東屋「オボシ放ツマジキつなモ侍ルヲ、トラヘ所ニ頼ミキコエサスル」「命ノ綱」

※※づない(形)(一)嚴シ。大キシ。偉大 (二)強シ、(伊豆、富戸)

づなう(名)【頭腦】(一)あうずゐ(腦髓)ニ同ジ。保元物語、一、新院御謀反露顯事「我當[illegible]頭腦ニ備ヘ、清和帝祚ハ、龍意振ニ智劍ニ」(二)物事ヲ識別、判斷スル精神作用。腦力。「頭腦明晰」(三)カシラ。ヲサ。首領。

つながる・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)【繫】(一)連リテ續ク。ツラナル。(二)シバラル。トラヘラル。「獄ニつながる」

つなぎ(名)【繫】(一)ツナグコト。又、ツナグモノ。(二)取引所ノ語。追敷金ヲ納メテ、賣買ヲ續クルコト。

つなぎぐさ(名)【牛膝】ゐのこづち(牛膝)ノ條ヲ見ヨ。

つなぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(他動、四)【繫】〔綱ヲ活用ス〕(一)綱、繩、紐、絲、ナドニテ、離レヌヤウニ結ヒ付ク。繫ケ止ム。萬葉集、十四「アズノ上ニ、駒ヲ繫ギテ、アヤホカ、人マツコロヲ、イキニ吾ガマル」(二)永ク續ケ保ツ。[illegible]これいぞいぶし、山田ノ畔ニ落穗ヲ拾ヒ、繫ぐ命ノ憂キ三トセ、今ヤタヨリ、イマヤヒンギト待ツ侍ノ」「命ヲ繫ぐ」(三)トラフ。シバル。イマシム。獄ニ入ル。禁縛ス。「監獄ニつなぐ」

つなぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(他動、四)【認】〔繫グノ意〕心ニ標シオク所ヘ認メユク。追ヒ認ム。字類抄「認、ツナグ」[illegible]記、四年九月「所射鹿ヲ、都揚過河邊ノ、菅草ノ」

つなし(名)【鰶】〔正字通「鰶、鯆魚、魚之不美者」〕魚ノ名。このしろ(鰶)ノ類。腹、薄ク、形、小サシ。(中國、九州)さばノ條ヲモ見ヨ。萬葉集、十七[illegible]長歌「都奈之取ル、比美ノ江過ギテ、多古ノ島、飛ビタモトホリ、アシカモノ」慈元抄、[illegible]「八島ニ、起ツ煙、讃カ子ノ代ニ、つなし燒クラム」

つなし・キ・ケレ・ク・ク(形、一) つれなし(強顏)ニ同ジ。源、十四、澪標「タカナラハシニカアラン、つなしニククゾ見エ給フヤ」(湖月本) 同、十八、松風「家守、[illegible]ガナニつなしニクキ[illegible]ドウチ赤メツツ、ハチブキイヘバ」

づなし(名)【頭無】物ノ大サノ、度ヲ外レテ大ナルコト。コノ上ナキコト。最上等。狂言記、樂阿彌「尺八吹ハづなしナリ」

つなそ(名)【綱麻】一年生草ノ名。高サ三五尺、葉ハ榎ニ似テ、長クシテ尖リ、本ニ、鬚ノ如キモノニツアリ。花ハ苘麻ニ似テ小サク、實ハいちぢく(無花果)ノ小サキガ如ク、子ハ胡麻ニ似テ小サク扁シ。海邊ニテ多ク植ヱ、皮ヲ剝ギテ船ノ繩トシ、又、疊ヲ刺ス絲トス、質、粗ナレドモ、至リテ強シ。一名、イチビ。又、カナビキヲ。黃麻

つなで(名)【綱手】具ニハ、つなでなは。船ニ繫ケテ挽ク綱。引舟ノ引綱。[illegible]撰集、八、旅「世ノナカハ、常ニモガモナ、渚コグ、海人ノ小舟ノ、つなで愛シモ」萬葉集、六[illegible]古今集、廿、東歌「ミチノクハ、イヅクハアレド、鹽ガマノ、浦コグ舟ノ、つなでカナシモ」[illegible]源、十二、須磨「[illegible]綱、タユタフ心、君知ルラメヤ」[illegible]殿上の花見、淺瀨ユク、綱手の繩モ[illegible]行幸ヲ、タメシニハ引ケ」

つなでぶね(名)【綱手船】流ニ溯ル舟ナドノ、綱手ヲ繫ケテ曳カレ行クモノ。つなで船、引ク人[illegible]

つなぬき(名)【綱貫】[illegible]皮履ノ[illegible]

つなぬく・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四)【貫】[illegible]

つなね(名)【綱根】[illegible]上代ノ殿造ハ、[illegible]綱根ニテ結ヒ固メシ[illegible]

つなひき(名)【綱曳】(一)物ニ綱ヲ繫ケテ曳キ行クコト。(二)數人、又ハ、數十人、大綱ノ兩端ヲ曳キ合ヒテ、勝負ヲ爭フ戲。昔、江戸、千住大橋ニテ、大綱ノ兩端ニ、小綱十餘ヲ付ケ、數人方分ケテ、兩端ヲ引合ヒセシ事アリ。勝チタル方、其年ノ福ヲ得トイフ。[illegible]

つなみ(名)【津浪】昔々、高潮。海水ノ大イニ起リテ、陸ニ上リ、人家、田畠ナドヲ[illegible]カヲ受ケ、或ハ、海底ニ地震ナドアルニ起ルトイフ。タカシホ。ウミアクレ。[illegible]

つなむ・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四)[illegible] たしむ(嗜)ニ同ジ。[illegible]

づなり(名)【頭形】兜ノ鉢[illegible]形[illegible]

つなわたし(名)【綱渡】[illegible]

[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]、[illegible]シアリ一條ノ[illegible]中つなわたし、兩岸ニ綱ヲ亙シ、船ヲ通ハスヲ云フ、駿州富士川、播州西ノ川ナドノ如シ、楊升菴モ、立二兩岸兩岸中一以レ繩組レ之、循レ繩而渡ト云ヘリ」

つな-わたり（名）【綱渡】（一）輕業ニ、空中ニ綱ヲ張リテ、其上ヲ渡リ行キ、又ハ、渡リナガラ種種ノ藝ヲ演ズルコト。又、ソノモノ。高絙伎　戯繩　踏索　和漢三才圖會、十六、藝能「高絙、ツナワタリ。三才圖會云、漢有高絙伎、今上索戯繩、是也、事物紀原云、後漢天子、正旦受賀、以二大繩一繫二兩柱一、相去數丈、兩倡女對舞、行二繩上一、相逢比レ肩而不レ傾」（二）轉ジテ、危險ナルコトヲスル譬ニ云フ。

つぬ（名）【角】（突き貫くノ意）つの（角）ノ古言。萬葉集、二、長歌、角障經、石見ノ海ノ、コトサヘグ」同、四、夏ヌユク、ヲ鹿ノ角ノ、ツカノマモ、イモガ心ヲ、忘レテモヘヤ」

つぬ（名）【葛蔓】（藤葛ノ類ノ蔓ヲ、つぬトモ、つなトモ云ヒ、蔦トモ云フ。壁ツナギノつたモ、同ジ）ツタ、ツナ、ツラ、

つぬ（名）【綱】（葛蔓ヲ用ヰル遺風）つなノ古語。（蔦葛ノ類）古事記、上「多久豆怒能、斯路岐多陀牟岐、阿和由岐能、和加夜流牟泥遠」

づ-ぬけ（名）【圖拔】（度拔ノ轉カ）物ノ大キサノ、尋常ノ程ヲ外レタルコト。又、ソノモノ。ナミハヅレ。（東京ノ鄙語）

づ-ぬ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下一）【圖拔】尋常ノ程ヲハヅレル。ヅバヌケル。ナミハヅレル。又、モヌケル。

つぬ-さはふ（枕）【角障經】〔絡石刺し蔓ノ約。絡石ハつぬトモ云フ、石ニハヒカカルニヨリ起ル〕石ノ枕詞。繼體紀、七年九月「都奴娑播符、以簸例能伊開能」仁德紀、三十年十一月「嗚呼能[illegible]、都奴娑播赴、伊破能臂謎餓、オホロカニ聞サス」萬葉集、二十、角障經、石村モ見ズ、ハツセ川、イツカモ越エム、ヨハ深ケニツツ」

つね（名）【常恆】（一）何時モ、ソノママナルコト。トコシヘナルコト。變ラヌコト。萬葉集、十七、長歌「世ノ中ノ、常無シナケレバ、ウチナビキ」（二）朝夕ノ習ヒ。平生。平日。フダン。平常　萬葉集、七「常ハカツテ、思ハヌモノヲ、コノ月ノ、過ギ隱レマク、惜シキ宵カモ」（三）並ニ、異ナラヌコト。ヨノツネ。アタリマヘ。尋常　伊勢物語、八十八段「つねノ使ヨリハ、此ノ人ヨクイタハレト、イヒヤリケレバ」狂言記、河原太郞「氣遣ヒヲナサルルナ、つねトハ申シナガラ、當年ハ取分ケ風味ガ能ウ出來タ」

つね-ごてん（名）【常御殿】古ヘ、京都ノ御所中ニテ、聖上ノ日常、座シマシシ御殿。清涼殿ニ對シテ申ス。

づ-ねつ（名）【頭熱】頭ニ熱アルコト。頭部ニアルねつ。ノボセ。

つね-づね（副）【尋常】イツモカハラズニ。フダン。イツモ。イツモイツモ。平生。居常　狂言記、連歌毘沙門「身共ハ、汝ヲカつねづね信仰スル多門天、現ハレ出デテ有ルゾトヨ」昨日は今日の物語（天正）「或人ノ女房、腹ヲサイサイ痛ガリケレバ、つねづね針立ヲ呼ビ立テサセケル」

つね-てい（名）【常體】平生ノ狀。尋常ノ姿。ヨノツネ。ツウレイ。夕霧阿波鳴渡（正德、近松作）中「サテモ氣高イ好イお子ヤ、聞及ビシヨリオトナシサマ、常體ノ者ノ子ガ、七ツヤ八ツデ斯ウアラウカ、人ハ筋目ガ恥カシイ」

つね-に（副）【常】〔つねハ、蔓ノ如ク連ル意〕（一）トハニ。イツモ。平生。フダン。永久ニ。時變ハラズニ。萬葉集、五九長歌「遊ビアルキシ、世ノ中ヤ、都禰爾アリケル、ヲトメラガ、サナス板戶ヲ、押開キ」同、廿、十九「ハシキヨシ、ケフノアロジハ、磯松ノ、都禰爾イマサネ、今モ見ルゴトー」同、五、十「常知ラヌ、道ノ長手ヲ、クレグレト、イカニカユカム、カリテハナシニ」（二）今マデモ。イツモ。フダン。平生。日頃。神代紀、上十一「常以啼泣恚恨」續紀、廿八、天平神護三年八月、改元宣命「天地ノ境ハ、シタマフ物トナモ、常モ聞シメス（瑞雲ノ事ヲ）」

つね-ひと（名）【常人】タダビト。ナミナミノ人。普通ノ人。凡人。常人。萬葉集、十八、十「都禰比等ノ、戀フト云フヨリハ、アマリニテ、ワレハ死ヌベク、ナリニタラズヤ」同、同七、同十七「ワガセコガ、コトトルナベニ、都禰比登ノ、云フ歎キシモ、イヤシキマスモ」同、十九、十七「常人モ、起キツツ聞クゾ、ホトトギス、此曉ニ、來鳴ク初聲」

づ-ねん（名）【頭燃】頭腦ニ燃ユル火。ハゲシキ俗念。太平記、二、阿新殿事「人間ノ事ニ於イテハ、頭燃ヲ拂フ如クニ成リヌト覺ッテ」

つね-めづら・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）常ニ珍ラシ。とこめづらしニ同ジ。

つ・ねる（動）抓るノ口語。（東京）

つの（名）【角】〔つぬノ轉〕（一）〔古言、ツヌ〕牛、羊、鹿、犀等ノ頭ニ生ズル骨ノ如キモノ。堅クシテ長ク、端尖ル。倭名抄、十八三毛群體「角、豆乃」（二）〔草木ノ芽立。倭名抄、廿六、草類「菼、蘆初生也、阿之豆乃」同卷二十草類「菰首、古毛豆乃」（三）冠ノ笄。（かんむりノ條ヲ見ヨ）（四）刺。「榮螺ノ角」（五）婦人ガ、夫ノ情事ナドニヨリテ、起ス嫉妬。角を折るトハ、我ヲ折ル、屈伏スノ意。角を出すトハ、嫉妬心ヲ起ス意。心の角トハ、心中ニ生ズル悋氣ヲ云フ。

つの-うり（名）【越瓜】〔角瓜ニテ、羊角ニ似タル故ノ名カ〕しろうり（白瓜）ニ同ジ。本草和名、下、二十「越瓜、羊角、都乃宇利」名義抄「越瓜、ツノウリ」字類抄「越瓜、ツノウリ」倭名抄、十七、蓏類「白瓜、羊角之路宇利」

つの-かくし（名）【角隱】婦人ノ佛參ナドノ時ニ用ヰル一種ノ製ノ帽子。今ハ、結婚ノ式ニ、新婦ノ被ル一種ノ頭飾ヲモ云フ。すみかくし（角隱）ノ條ヲ見ヨ。

つの-がみ（名）【角髮】小兒ノ髮風。あげまき（總角）ニ同ジ。字類抄「角髮、ツノガミ」

つの-ぎり（名）〔角切ノ義ニテ、其ノ裂ケタル形ニ云フカ〕ががいも（蘿藦）ノ實ノ稱。其條ヲ見ヨ。

つの-ぎ-わり（名）【角木割】鏃ノ一種。角ニテ造リ、形、木割ニ似タルモノ。貞丈雜記、十、弓矢「一、つのぎト云フハ、角のきわりト云フ事也、角ニテきわりヲ作ル也、箆ニサシコム所ノナカゴハ、竹ヲ削リテ角ノ中ヘサシコミ、箆ニサシコム也」盛衰記、廿二、衣笠合戰事「歩走ノ者共ハ、角ぎわりヲコシラヘ置キ、云云、敵、一ノ橋ヲ打渡ッテ、二ノ橋マテヨルナラバ、角ぎわりヲ以テ馬ノ太腹ヲ射ヨ」義經記、四、住吉大物二ケ所合戰事「矢鏑一合、セガイノ上ニ、カラトオキテ、蟇目トリテノケケレバ、箆ヲモタメデ、節ノ上ヲカキコソゲテ、云云、つのぎわりヲ五六寸イレタリケル」

つの-ぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）〔角含むノ意、芽ぐむニ同ジ〕草木ノ芽、角ノ如ク出デ初ム。蘆、荻、薄、菰ナドノ芽、始メテ生ノ。後拾遺集、一、春、上「ナニハガタ、浦吹ク風ニ、浪タテバ、つのぐむ蘆ノ、見エミ見エズミ」夫木抄、二、若草「春風ノ、吹クニツケテモ、思ヒ出ヅル、つのぐむ荻ノ、行末ノ秋」後拾遺集、一、春、上「三島江ニ、つのぐみワタル、蘆ノ根ノ、一夜バカリニ、春メキニケリ」詞花集、一、春「マコモグサ、つのぐみワタル、澤邊ニハ、ツナガヌ駒モ、ハナレザリケリ」

つの-ぐり（名）【角髻】女ノ髮風ノ名。兜ノ鍬形ノ如キ形ニ、笄ノ先ヲ反シ、ソレニ、髮ヲ卷キ結フモノ。嬉遊笑覽（天和）「枯藻髮、榮螺ノ角ヲ、卷クナラム」女重寶記（元祿二）「髮ノ結ヒヤウ、兵庫、フキアゲ、角ぐり」鸚鵡籠（元祿）「遊

女ノ粧、つのぐりわげ」

つのざいく (名) 角細工 角ニテ細工スルコト。又、其細工シタルモノ。

つのざめ (名) 本名ハ、銀鮫。鮫ノ屬。皮膚ニ沙無クシテ、色、白クシテ光ルコト、銀箔ノ如シ。背鰭ニ長キ鋸刺アリ、尾ハ次第ニ細長クナリテ、絲ノ如ク、たちのうを(太刀魚)ニ似タリ。盤ニ置ケバ、平假名ノつノ字ノ形ヲナス、因リテ名トス。一名、箭鮫。劍鯊

つのだらひ (名) 角盥 小サキ盥。深クシテ、左右ニ柄アリテ、角、又、耳ニ似タリ。下ニ座アリ、多クハ漆器ナリ。手ヲ洗ヒ、齒黑メニ口ヲ嗽グナドニ用ヰル。又、ミミダラヒ。俗ニ、ハンザフ。テウヅダラヒ。書言字考節用集、七、器財門「角盥、ツノダラヒ」女重寶記、五、女用器財「角盥、ツノダラヒ」筆の靈、前篇、三十、手水の事「今、半插ニ具スルタラヒヲ、はんざうだらひト云ヒ、略シテ、はんざうトノミ云フハ、古ノはんざうト異ナリ、サテ右ニ角與ノ角ニツキテ、盥樣ノ法アル事見エタリ」

つのだる (名) 角樽 「樽ノ兩ノ柄、角ノ如クナレバ名トス。古ク天野酒ヲ盛リシ天野樽ノ製、是レナリト」 樽ノ上ノ左右ニ、角ノ如ク柄ヲ出シテ作リ、朱塗ナドニシタルモノ。兩柄ノ間ニ横木ヲワタシテ、持ツニ便ニス。エダル。ヤナギダル。えだる(柄樽)ノ條ヲ見ヨ。

つのつき (名) 角突 (一)ウシノ角アハセ。ウシアハセ。鬪牛 (二)轉ジテ、人ノ交ニ、隙アリテ相逆フコト。仲惡シク衝突スルコト。ツノツキアヒ。怨隙

つのつきあひ (名) 角突合 前條ニ同ジ。

つのづきん (名) 角頭巾 (一)すみづきん(角頭巾)ノ條ヲ見ヨ。(二)角頭巾ノ形シタル冑。武具[illegible]「角頭巾、鐵サビ色カ、又黑塗カ、但シ鋼ノハヅレ總吹返シ付キテ」

つのはず (名) 角筈 〔髮ノ形ニ因リテ云ヘルカ〕 (一)齋宮ノ忌詞ニ、優婆塞。齋宮寮式、別忌詞、云云「優婆塞稱角筈」(二)弓、又、矢ノ、筈ヲ角ニテ造リタルモノ。東大寺獻物帳[illegible]「[illegible]」[illegible]八年[illegible]、云云、[illegible]クロ羽ノソ矢ノ、つのはず入レタル、廿四サシテ」

つのふくし (名) 腹立ツコト。立腹。

つのふで (名) 角筆 字指、字突、ノ類。江家次第、十七、御書始、又讀[illegible]

つのまき (名) 角卷 髮風ノ一。あげまき(總角)ノ條ヲ見ヨ。

つのまた (名) 角叉 〔角股ノ義カ、鹿ノ角ニ似タレバ、名トストヱフ〕 海草ノ名。東海ニ産ズ。形、ふのり(布海苔)ニ似テ、廣ク大ナリ。色、蒼灰ニシテ、乾セバ黑シ、食フベシ。サレド、大抵、煮テ糊ニ用ヰル。倭名抄、十七、海藻類「鹿角菜、[illegible]乃萬太」(鹿角菜ハ、ふのりナリ) 本草和名、下[illegible]「鹿角菜、都乃末多」天治字鏡、十二[illegible]「[illegible]鹿角菜、角鳥太」大隅風[illegible]「[illegible]角菜一俵九斗、角俣、卅四斤」

つのむし (名) 蛩蠰 油蟲ノ古名。其條ヲ見ヨ。倭名抄、十九、[illegible]「[illegible]」[illegible]本草和名、下[illegible]「[illegible]、一名、都乃牟之」

つのむし (名) 角蟲 (一)カミキリムシ。(薩摩)(二)カブトムシ。(大和)

つのむすび (名) 角結 あげまき(總角)ニ同ジ。カラワ。チゴワゲ。

つのめだつ ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 角目立 (一)[illegible] (二)[illegible]

つのもと (名) 角本 兜ノ名所。鍬形ナドヲサシコムトコロ。左右ニツアリ。武器[illegible]「鍬形ノ角元ハ菊座[illegible]」

つのゆみ (名) 弭 弭ニ角ヲ塡メタル弓。(小弓ナリ) 倭名抄、十[illegible]

つのり (名) 募 (一)ツノルコト。招キ集ムルコト。募集。「募ニ應ズ」(二)愈、烈シクナルコト。愈劇

つのる ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [illegible] シクナル。[illegible] 來歷生首(元祿、近松作)ニ「ウハベハ淸キ心ノ水底ニ、サカマク瞋恚ノ波、立居ニつのる恨心ニ、上下ノ[illegible]、思ヒ思ヒノ」好色一代女(貞享、西鶴)三「我ト身ヲ燃セシガ、猶此事つのりテ、[illegible]ツケタルロニ、云云」「病つのる」「寒氣つのる」

つのる ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 募 〔強ク言ヒ立テル意カ、又、告ゲ言ル意カ〕 招キ集ム。力メテ招キ集ム。募集ス。字鏡[illegible]「募、豆乃留」源順集「大和歌十首ヲつのる」

つは (名) 草ノ名。[illegible]

つば (名) 唾 つばき(唾)ニ同ジ。

つば (名) [illegible] つばき(椿)ノ[illegible]

つば (名) 鍔 [illegible]ノ轉カ、或ハ抓刃ノ義カト云フ」(一)古ク、ツミハ。刀劍ノ金具。扁クシテ孔アリ、形、方、圓、種種ナリ。刀心ヲ貫キテ、刃ト柄トノ間ニ挿メテ、[illegible]

ツハイホウ [illegible]

つばいもちひ (名) 椿餅 [illegible]

つばいもも (名) [illegible]

つはがたな (名) 鍔刀 [illegible]

な(打刀)ノ條ノ(二)ニ同ジ。貞順故實集「打刀ヲ鍔刀トモ申候」

つばき(名)椿〔艶葉木ノ義ニテ、葉ニ光澤アルヲ以テ云フカ。椿ハ春木ノ合字ナリ、春、花アレバ作ル。或ハ云フ、香椿ヨリ誤用スト。然レドモ、香椿ハ、ひゃんちんト、唐音ニテモ云ヘバ、後ノ渡來ノモノナラム。海石榴ノ如ク、花木ノ海ノ字ヲ冠スルハ、皆、海外ヨリ來レルモノナリ〕(一)常綠木ノ名。高サ丈餘、枝、幹、交加ス。葉ハ茶ニ似テ、硬ク大キク厚クシテ光リ、面ハ綠ニ、背ハ淡シ。秋、冬、花アレドモ、春、最モ多シ。花瓣、木ハ筒ニシテ、端ハ分ル、花甚ダ鮮麗ニシテ、重瓣、單瓣、大、小、形、色、種類多シ。實ハ無果花ノ實ノ如シ、油ヲ榨リ取ル、鐵器ニ塗リテ銹ヲ止メ、或ハ、髮ヲ梳クナドニ用ヰル。山茶　倭名抄、廿木類「椿、海石榴、豆波木」本草和名、下四「椿、都波岐」字鏡、六四「椿、豆波木」景行紀、十二年十月「則採海石榴樹、作椎爲兵」萬葉集、廿、五十「足引ノ、ヤツヲノ都婆吉、ツラツラニ、見トモ飽カメヤ、植ヱテケル君」同、一、廿四「巨勢山ノ、ツラツラつばき、ツラツラニ、見ツツ思フナ、巨勢ノ春野ヲ」(二)襲ノ色目ノ名。表ハ蘇芳ニシテ、裏ノ赤キモノ。一說ニ、裏ハ紅。

つばき(名)唾津〔唾吐ノ義。吐クトキニ云フ〕又、單ニ、唾。口内ノ唾液腺ヨリ出ヅル液。粘リアリ、口舌ヲ濕シ、食物ニ和シテ、胃ニ入リ、消化ヲ助ク。又、ツバクコト。ツバクモノ。ツバ。ツハ。ツバシル。唾液。倭名抄、二、三集口類「唾、豆波岐、口中津也」字鏡、九十「液、小兒口所出汁也、豆波支」天治字鏡、六「津人津也、汗也、豆波支」神代紀、上十一「以唾爲白和幣、以洟爲青和幣」天智紀、二年六月「福信即唾於執得曰」

つばきあぶら(名)椿油　椿ノ實ヲ榨リテ、取リタル液。黃色無臭ニシテ、不乾性ナリ、髮ニ塗リ、又ハ、食用トス。犬子集、寛永「シボリ出ス、椿油カ、花ノ露」

つばきあゐ(名)椿藍〔ソノ葉、光澤アルヨリ云フ〕藍ノ一種。さまつなぎ(馬棘)ノ屬ニシテ、灌木狀、高サ五六尺、葉ハ槐ニ似、赤色ト黃色トヲ交ヘタル小花ヲ開キ、莢果ヲ結ブ。葉ハ染料トナル。一名、キアヰ。又、インドアヰ。倭名抄、十四、十四染色具「木藍、都波岐阿井」名義抄「木藍、ツハキアヰ」

つばきばひ(名)椿灰　椿ノ葉ヲ燒キテ造リタル灰。字類抄「椿灰、ツバキハヒ、燒木葉作也、用染色也」倭名抄、十四、十五染色具「柃灰、燒柃木葉作之、並入染用、今案、俗所謂、椿灰等、是也」

つばきむし(名)〔唾蟲カ、椿蟲カ〕あわふきむし(泡吹蟲)ニ同ジ。

つばきもも(名)椿桃〔實、光ルヨリ名トス〕づばいもも(椿桃)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、十七、五菓類「李桃、都波木毛毛」

つば・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四)唾〔津吐くノ義〕ツバキハク。唾ヲ吐ク。ツバス。ツバキス。神代紀、上十八「所唾」同、下十六「磐長姬、恥恨而唾泣之曰」古事記、上三十六「含赤土唾出」

つばく・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四)ハヅレテ合ハズ。クヒチガフ。又、タカヒクアリ。名義抄「凸、ツハクム、アカル、オコス、舛、ツハクム、タカフ」字鏡集「[illegible]、ツハクム、ミネタカシ」

つばくら(名)燕　つばくらめ(燕)ノ略。字類抄「鷰、ツバクラメ」壒囊抄、一、五十八條「鷰、ツバクラ」竹取物語「中納言くらつ麿ニノ給ハク、つばくらハ、イカナル時ニカ子ヲ產ムト知リテ、人ヲバアグベキト、ノ給フ」喚子鳥、上「つばくら、此鳥二月前後、江戶ニテ子ヲ生立候テ、秋ノ節、何國ヘカ飛カヘルナリ」

つばくらぐち(名)燕口　又、つばくろぐち。一種ノ製ノ袋ノ名。布帛ニテ作ル。其口、開クコト、燕ノ尾狀ノ如シ。

つばくらめ(名)燕、玄鳥、乙鳥〔つばくらハ鳴ク聲、めハ群ノ約ト云フ。或ハ、土喰黑女、翅黑女、光澤黑女、ノ略轉ナド云フハ、イカガ〕或ハ、ツバビラコ。ツバビラク。略シテ、ツバクラ。ツバクロ。ツバメ。小鳥ノ名。春分ニ暖地ヨリ來リ、秋分ニ去ル。紫黑ニシテ、翅長ク、尾モ長クシテ、又ヲナス。人家ノ檐ニ巢クヒテ子ヲ育ツルモノハ、形小サク、腹ノ下白ク、胸、紫ナリ。小つばめト云フ。越燕　又、堂舍ノ垂木ノ間ニ、土ニテ巢ヲ結ブハ、形大キク、聲大キク、ひばりノ如キ斑アリ、腹ノ下、黃ナリ。雨ノ前ニハ、必ズ群リ飛ブ。大つばめト云フ。胡燕　倭名抄、十八、六羽族名「鷰、豆波久良米」本草和名、下十三「鳦、玄鳥、都波久良女」字鏡、六十三「鳦、豆波比良古」竹取物語「中納言石上麿呂ハ、家ニ使ハルル男ドモノ許ニ、燕ノ巢クヒタラバ告ゲヨト、ノ給フ」風雅集、二、春、中「つばくらめ、簾ノ外ニ、數多見エテ、春日ノドケミ、人影モセズ」

つばくろ(名)燕　つばくらめ(燕)ノ略訛。前條ヲ見ヨ。

つばくろぐち(名)燕口　つばくらぐち(燕口)ノ轉。同條ヲ見ヨ。

つばさ(名)翼、翅〔鳥總ノ轉カト云フ〕(一)鳥ノ、左右ノ手肢ノ變化シタルモノ。ハ。ハネ。羽翼。コレニ因リテ飛ビ、又、雛ヲハグクミ、育ツル。倭名抄、十八、十羽族體「翼、翅、都波佐」字鏡、六十八「翮、豆波佐」靈異記、中、序「翮、ツバサ」萬葉集、十五、十「天飛ブヤ、雁ノ翅ノ、オホヒ羽ノ、イヅクモリテカ、霜ノ降リケム」唐太宗、帝範序「夕對魚鳥之陣、朝臨鵝鸛之圍」(二)轉ジテ、鳥ノ稱。(三)左右ノタスケ、又ハ、ソナヘトナルモノ。

づはづれ(名)圖外　大キニ過グルコト。又、普通ニ異ナリタルコト。又、ソノモノ。ヅヌケ。ナミハヅレ。櫻陰比事(元祿、西鶴)一「世ヲ夢ノ如クワタリテ、夜ヲ晝ニナシ、世界ノ圖はづれナル者」

づばと(副)ずばとニ同ジ。靈異記、下、第廿三緣「生取忍勝、井投彼釜」訓釋「井、ヅバト」

つばな(名)茅花〔ちばな(茅花)ノ轉〕(一)茅草ノ花。其芽ヲ、小兒、好ミテ食フ。後、白花トナル。茅針　(二)轉ジテ、直ニ、茅ノ稱。萬葉集、八、九十「つばなヌク、淺茅ガ原ノ、ツボスミレ、今盛ナリ、吾戀フラクハ」枕草子、三、三十三段「草、云云、つばなモヲカシ」堀河百首「昔見シ、妹ガ垣根ハ、荒レニケリ、つばなマジリノ、菫ノミシテ」

つばなか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)〔茅花ノ穗ノ如クスル意カト云フ〕摘ミ弘ゲテ、ホホケサス。(固マレル綿ナドヲ)綰

づばぬ・ける(動)づぬける(圖拔)ニ同ジ。

つばひ(名)燕　つばめ(燕)ノ異名。天智紀、六年六月「葛野郡獻白鷰」私記「鷰、津波比」

つばびらか・ま(副)詳、審　つまびらかニ同ジ。名義抄「詳、ツバビラカニ、審、ツバビラカナリ」

つばびらく(名)燕　つばめ(燕)ノ異名。天智紀、六年六月「葛野郡、獻白燕」

つばびらけ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一)詳、委曲

つまびらけし(詳)ニ同ジ。舒明卽位前紀「佗曲、擧山背大兄之語二」雄略紀、中、第五巻、訓「委曲、ツ婆比良計苦」

〜つばびらこ (名) [燕] つばくらめ(燕)ニ同ジ。字鏡「鷰、豆波比良古」

つは-ぶき (名) 〔艶葉蕗ノ義ニテ、葉ニ光澤アルヲ以テ云フカト云フ〕又、つは。草ノ名。莖、葉、略、蕗ニ似テ、莖ノ色、灰紫ニシテ、葉厚ク、深綠色、ヤハラカニシテ光ル。秋、莖ヲ出シ、花ヲナスコト二三尺、單瓣ノ黄花ヲ開ク、形、略、をぐるま(小車)ノ花ニ似タリ。槖吾

〜つばめ (名) [燕] 〔めハ、やまからめ、ひからめト同趣〕 つばくらめ(燕)ノ略。拾芥抄、上「玄鳥、ツバメ」萬葉集、十九「燕來ル、時ニナリヌト、鴈ハ、本郷シヌビツツ、雲ガクリ鳴ク」

つばめ-がひ (名) [燕貝] 蛤ノ類。形、小サク、稍、長シ、褐色ニシテ、殼、薄シ。

つばめ-ぐち (名) [燕口] 漆塗ノ椀ノ名。易林節用集(慶長)上、器財門「燕口、ツバメグチ」雁筭波集(寛永)「十ぜんノ、位モひヲバ、改メテ」(ひハ破目ナリ)燕口ナル、椀ノカズカズ」犬子集(寛永)「椀モ折敷モ燕口ナリ」

つは-もの (名) [兵] 〔鐔物ノ略ニテ、兵器、特ニ、鐔アレバ云フトゾ〕 (一)戰ニ用キル刀鋒ノ類ノ總名。武器 兵器 字鏡「兵、ツハモノ、兵仗也、戟也、物名也」名義抄「兵、ツハモノ」繼體卽位前紀「設二兵仗一夾二衞乘輿一」同、八年三月「築二士卒兵一以遏二新羅一」神武紀「皇師勒兵」同「鋒刄」同「兵甲」豐後風土記、大野郡「伐二海石榴一作二椎爲一兵」 (二)轉ジテ、武器ヲ執ル人。イクサビト。軍ニ出ヅル者。兵士 軍士 軍人 武士 武人 字鏡「兵、ツハモノ、戎、ツハモノ」宇津保物語、俊蔭、下四十「四五百人ノつはものニテ、人ハナレタル所ヲモトムルニ」 (三)〔更ニ轉ジテ、〕剛キ者。勇士。源、五十、浮舟、十「國ニモ、イミジキアタラつはものヒトリ失ヒツ」

〜つはもの-くら (名) [庫 兵庫] 軍器ヲ入レオク庫。ヒヤウゴ。武器庫。倭名抄、十 居宅類「庫、[illegible]都波毛乃久良」皇極紀、三年十一月「家外作二城柵一、門傍作二兵庫一」天武紀、上、元年五月「百足居二小墾田兵庫一、運二兵於近江一」

つはもの-の-とねり-の-つかさ (名) [兵衞府] ひやうゑふ(兵衞府)ニ同ジ。中務省式「時服、左兵衞府、ツハモノノトネリノツカサ」

〜つはもの-の-くら-の-つかさ (名) [兵庫寮] ひやうごれう(兵庫寮)ニ同ジ。倭名抄、五 官名「兵庫寮、豆波毛乃久良乃官」天武紀、下、朱鳥元年正月「失火之引、及二宮觸一、唯兵庫職不レ焚」

〜つはもの-の-つかさ (名) [兵部省] ひやうぶしやう(兵部省)ニ同ジ。倭名抄、五 官名「兵部省、都波毛乃乃都加佐」

〜つばら-か-に (副) [委曲] 〔つハ、一個一個ノつ、はらハ、散散ノはらノ意〕 つまびらか(詳)ニ同ジ。ツバラニ。ツブサニ。ツブツブニ。ツバビラカニ。名義抄「副、ツバラカニ」萬葉集、一 二十長歌「委曲に(古義ノ訓)見ツツ行カムヲ、シバシバモ、見サケム山ヲ」同、九 二十長歌「委曲爾、示シタマヘバ、ウレシミト、紐ノ緒トキテ」同、十九 二十長歌「奥山ノ、ヤツヲノ海石榴、都婆良可爾、今日ハ暮ラサネ、マスラヲノトモ」

〜つばら-つばら-に (副) [曲曲] 〔つばらつばらハ、つぶつぶ(委曲)ノ轉音ニ、らノ接尾語ノ添ヒタルモノ。〕 [illegible] (一)ネンゴロニ。切ニ。[illegible] 萬葉集、三 二十「淺茅原、曲曲[illegible]物念ヘバ、フリニシ里ノ、[illegible]思ホユルカモ」 (二)ツマビラカニ。委曲ニ。ツバラカニ。ツブサニ。ツブツブト。萬葉集、十八 二十「アサビラキ、入江コグナル、楫ノ音ノ、都婆良都婆良爾、吾家シオモホユ」

〜つばら-に (副) [詳 委曲] つまびらかに(詳)ニ同ジ。萬葉集、一 二十長歌「山ノ末ハ、イ隈[illegible]ルマデ、道ノ隈、イ[illegible]曲モ、[illegible]訓)見ツツ行カムヲ、數數モ、見サケム山ヲ」

つはり (名) (一)萌芽ルコト。芽グムコト。[illegible]スコト。散木集、九 雜「[illegible]つはり[illegible]ニカケタリ)セシ、二兒ノ山ノ、柞原、世ニウミ出ス[illegible]テ、消エヌベキカナ」 (二)婦人、懷妊シテ、二三箇月後ニ、他ニ病ナクシテ、起ル生理的嘔吐症。胸惡シク、頭重ク、酸味ヲ欲ス。ヲソ。惡阻 [illegible] 字鏡「[illegible]、孕始兆也、豆波利乃留支」[illegible]トテ、物モ聞シメサザリケルニ」

つは-る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔銜を張る意カト云フ〕 (一)芽ム。キザス。金葉集、九 雜、上「[illegible]レニ、つはる(懸田ニカケタリ)ト見エシ、程モナク、子ハウミ[illegible]ニ、ナリニケル哉」枕草子、百五十五段「木ノ葉ノ落ツルモ、先ヅ落チテメグムニハアラズ、下ヨリキザシつはるニ堪ヘズシテ落ツルナリ」 (二)[illegible]ヲ起ス。[illegible]

つは-る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔[illegible]意カト云フ〕 熟ム。うむ(熟)ニ同ジ。「[illegible]」

〜つひ (名) [終] [illegible] 身ノ果。死スルコト。[illegible] 十五、櫻木「世ノ事トシテ、つひノ別レヲ、ノガレヌワザナメレド」[illegible]一茶句集、下「是ガマア、つひノ栖カ、雪五尺」「終ノ棲」

〜つび (名) [粒] 〔つぶ(粒)ニ通ズ〕 又、つミ。[illegible] 伊奈豆比」靈異記、上、序、訓釋「粒、ツビ」[illegible] 記資料、鴻、都州、米粒出」

〜つび (名) [上門] [illegible]

〜つび (名) [illegible]

つひ-え (名) [illegible]

つひ-える [illegible]

つひ-さ [illegible]

つひ-ぢ-か [illegible]

タシラガオ寺サマハ、つひぞ御化事ヲサシ、タコトガネエカラ」

つび-ぢらみ（名）蝨ノ、陰毛ノ中ニ生ズルモノ。形、扁ク、八脚ニシテ、色、白キアリ、紅ナルアリ。ツブジラミ。|陰蝨| 或ハ、頭髮中ニモ生ズ、ケジラミ、トビジラミ。

つひ-ぞ（副）|終| 未ダカツテ、ツヒニ。

つひ-たれ（名）礫 沙利、コイシ。名義抄「礫、ツヒタレ、タフテ、タヒイシ、ツフテ」

つひ-つひ（副）|不知不識| シラズシラズ。

つひ-ど（副）つひぞ（終）ニ同ジ。長町女腹切（元祿、近松作）上「姉サヘつひど來ヌ内ヘ、騙リラシイコトイウテ來タ故ニ、コンナ事」

つひ-に（副）|終遂竟|（一）終リニ。果ハ。ツマルトコロ。タウトウ。トウトウ。名義抄「遂、ツヒニ」「終、ツヒニ」竟、ツヒニ」畢、ツヒニ」畢竟、ツヒニ」續紀、下、第廿五詔、訓釋「畢、川比爾」古事記、下 仁徳二十「都毘爾知ラムト、聞ハ子ムラシ」萬葉集、廿六十「タカマドノ、野邊ハフクズノ、スヱ都比爾、千代ニ忘レム、吾ガ大君カモ」幻住庵記（芭蕉）「暫ク生涯ノ計トサヘナレバ、つひに無能無才ニシテ、コノ一筋ニツナガル」「遂ニ成ル」終ニ行ク」（二）未ダ。マダ。今マデ絶エテ、ツヒシカ。狂言記、寶笠「眼ノ前ニ奇特ノアル寶物ハ、つひに見タ事ガ御座リマセヌ」「つひに逢ハズ」つひに見ヌコト」

つひに-ゆくみち（句）生死ノ道ハノガレヌト云フ意。結局、死ンデ行ク道。古今集、十六、哀傷「つひにゆく、みちトハカネテ、聞キシカド、キノフケフトハ、思ハザリシヲ」

づ-ひねり（名）|頭捻| 相撲ノ手ノ一。敵ノ胸ニ、頭ヲ當テテ、押シテ行き、敵ノ上手ニ、掛カラムトスル氣合ヲ計リ、腕ヲ抱キ込ミテ、捻リ倒スコト。多クハ、敵ノ大兵ナルニ用ヰル、まへづけト云フモ、コレナルベシ。古ク、腹くじりト云ヒシモ、此類ナリ。

つひ-の-はて（名）|終死| 死ヌルコト。

つひ-の-わかれ（名）|終別| 最後ノワカレ。死別。玉葉集、八、旅「歸リ來ム、定メナキ身ハ、此ノ度ヤ、つひの別れニ、ナラムトスラン」

つひや・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）|潰費|（一）崩レ落ツルヤウニナス。ヤブル。名義抄「潰、ツヒヤス」（二）費ユルヤウニナス。次第ニ用ヰ盡ス。ツカヒナクス。續紀、廿三年八月、權勢自由、費二用官物一」方丈記「家ヲ作ルトテ、寶ヲつひやし、心ヲナヤマス事ハ」

つひ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動、下二）|弊|〔潰ゆノ延〕（一）惡シクナル。ヨワル。瘦セ衰フ。亂レ壞ル。字類抄「弊、ツイユ」天治字鏡、三「瘠、瘦也、豆比由」源、十五、蓬生十二「年頃、イタウつひえタレド、猶物淸ゲニ」「風俗弊ゆ」政事弊ゆ」（二）用ヰテ次第ニ減リ行ク。費 名義抄「費、ツヒユ」匱、ツヒユ」「時費ゆ」力費ゆ」錢費ゆ」（三）ウミテツブル。散ル。潰 字類抄「潰、ツイユ、ツイエ」「果、熟エテ潰ゆ」軍潰ゆ」又、崩レ破ル。敗レ走ル。

つぶ（名）|粒|〔つぶら（圓）ノ義〕（一）米穀ヲ、其形、圓ナルニ就キテ云フ語。「米ノ粒」（二）轉ジテ、玉、丸藥、ナド、スベテ、小サク圓ナルモノ。又、ソノモノヲ數フルニ云フ語。顆（三）算盤ノ珠。（四）むくろぢ（無患子）ノ實。（五）博奕ノ簺。心中萬年草（寶永、近松作）上「腰袋ハオレニ下サレ、巾着ニシテ、穴市ノ骰子入レマス」

つぶ（名）|壺| つぼ（壺）ニ同ジ。敏達紀、十三年九月「錦織壺之女」注「壺、此云二都符一」

つぶ（名）|螺|〔古言、つびノ轉〕螺、ばい（貝）等ノ總稱。

つ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）|禿| 毛、脫ケ落ツ。スリキル。チブ。源順集「つびニケル水莖シテ奉リオク」建保職人盡歌合、塗師「つびハテシ、文字カタモナキ、スリカタ木、コヨイノ月ニ、アラバカサバヤ」名義抄「弊、ツビタリ」

つ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）|刓| 名義抄「刓、ツブル」字類抄「刓、ツビタリ」史記、淮陰侯傳「印刓弊、忍不レ能レ予」「版木ノ文字つぶる」觚稜磨レテナクナル。磨滅ス。

つぶ（副）|圓|〔つぶらノ略、全ノ義、濁リテづぶト云フ〕マルデ。スベテ。マッタク。大鏡、中、師輔「藤壺ノウヘノ御局ニ、つぶトモイハヌウチ出デドモ、ワサトナクコボレ出デテ」

づぶ（副）|圓| 前條ノ語ニ同ジ。「づぶ素人」

づ-ふう（名）|頭風| づつう（頭痛）ニ同ジ。倭名抄（一本）病類「頭風、加之良以太木也万比、俗云、豆封」名義抄「頭風、ヅフウ」庭訓往來、十一月「脚氣、中風、上氣、頭風」

つぶ-ぎん（名）|粒銀| こだまぎん（小玉銀）ニ同ジ。

つぶさ-に（副）|具備|〔詳ニニ通ズ。落ツルコトナク、調ヘ備フル意〕物ニ就キテハ漏ルルコトナク、調ヒソナハリ、事ニ就キテハ、委シク丁寧ナル狀ヲ云フ語。ツマビラカニ。ツバビラカニ。ツバラカニ。ツバラニ。クハシク。字類抄「具、委、ツブサニ」淸寧卽位前紀「濱逢乃、具爲陳二於大伴大連一、不レ入二刑類一」古事記、上五十「言委曲、如二天神之詔命一」人丸集「記メ行カム、つぶさに跡ハ、見エズトモ、鹿ノハカリハ、知ルト云フナリ」宇津保物語、祭使十二「イッシカ、マノアタリニテ、つぶさなる身カタリモ、申シウケ給ハラントナンナゲキ申ス」

つぶし（名）|潰|（一）ツブスコト。キズテ崩スコト（二）無クスルコト。絕ヤスコト。潰ボスコト。廢滅（三）金類ノ器ヲ鎔シテ、地金トスルコト。浮世床、文化、二編、初、上「錆ビガ、聽ク錆ビ込ンテ、地鐵ヘ廻タカラ、つぶしニシカナラネエ」（四）或地位ノ人ガ、其地位ヲ離レシ時ノはたらき。融通。「つぶしノ利カヌ人」

つぶし-アン（名）|潰餡| あん（餡）ノ條ヲ見ヨ（漉餡ニ對ス）

つぶし-しまだ（名）|潰島田| 島田髷ノ一種。髷ヲ扁クシタルモノ。ツブシマダ。

つぶ-ぢらみ（名）つびぢらみニ同ジ。

つぶ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）潰 禿す ノ意、つぶるノ他動〕（一）オシテ崩ス。抑ヘテコハス。ヤブル。竹取物語「長キ爪シテ、マナコヲつかみつぶさン」赤染衞門集「蟲ノチヲ、つぶしテ身ニハ、ツケズトモ、思ヒ染メツル、色ナタガヘソ」「家ヲ潰す」溝ヲ潰す」町ヲ潰す」（二）アル物ヲ無クス。絕ヤス。滅ボス。廢毀 浮世風呂（文化、二、馬）初編、上「ワッカ二十年ノ間ニ、地面ガ三十二三箇所、土藏ガ三十、云云、ソレヲタッタ二三年デつぶしタネ」（三）金類ノ器ヲ鎔シテ、地金トス。（四）鷄ナドヲ殺ス。（食用ニ）（五）壓搾ス。（つぶし麥ナド）肝を潰すトハ、驚ク。

つぶ-ぞろひ（名）|粒揃| 粒ノ揃フコト。ヨキモノバカリ、集ムルコト。ヒトツブエリ。又、精選シテ、優劣ノナキモノ。

つぶ-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）|粒起| アハダツ。許多ノ粒ニナリテ、發リ起ツ。古事記、上六十二「其沸水之都夫多都時、名謂二都夫多都御魂一」宇治拾遺、二、第七條「六掛子ノ膚ノヤウニ、つぶだちテ腫レタリ」「肌つぶだつ」

つぶ-つぶ （名）【粒粒】 山城國ノ伏見ノ稲荷山ノ土ヲ田ニ入ルレバ、保食神ノ加護ニテヨク實ルトテ、諸國ノ農民、乞ヒ求ムルヨリ、其社邊ノ人、社ニ申シ、土ヲ丸メテ、粒トシテ賣ル。コレヲ粒粒ト云ヒ、中ヲ空ニ缶（ホトギ）ノヤウニセシヲ、田甕（ンガウ）ト云フ。終ニ、コレヲ以テ、人物、鳥獸ノ玩具ヲ作ルニ至レリ。又、鍛冶、鑄物師ナドハ、此土ヲ燒刃、鑄形ニ用キル。

つぶ-つぶ-と （副）【委曲】【委細】 ツバラカニ。ツブサニ。クハシク。コマゴマト。 源、四十六、總角［二十一］「珍ナル由ヲつぶつぶと聞ユレバ」 同、五十三、夢浮橋［十一］「つぶつぶと書キ給ヘル狀」 落窪物語、三［一］「片端ヨリつぶつぶと語リテ」

つぶ-つぶ-と （副） （一）圓（ツブラ）カニ脹レテ。 源、三十五、柏木［十三］「つぶつぶと肥エテ」 まごのをしへ「つぶつぶと胸脹レテゾオハシケル」 （二）鳴ル狀ニ云フ語。 狹衣、一、上［三十九］「胸つぶつぶと鳴リサワゲド、能ク忍ビ隱シテ」 濱松中納言物語、三「御胸つぶつぶと鳴ル心地セラレ給ふ」

つぶ-つぶ-と （副） （一）〔ツブヤク狀ヲ云フ語。〕 落窪物語、一、下「女ノイラヘモセテ、つぶつぶと泣キタマヒヌ」 （二）血、又ハ、水ナドノ粒トナリテ出ヅル狀ヲ云フ語。 宇治拾遺、[illegible]、第七[illegible]、[illegible]ニ[illegible]ヒテ血ノつぶつぶと出テキケルヲ[illegible]ヒ[illegible]ニ、岩間ノ水ノ、つぶつぶと、云ハバヤ行カム、思フ心ノ」 [illegible]集、六、[illegible]レバ、[illegible]ノ[illegible]、つぶつぶと、言ハバヤ物ヲ、心行クマデ」 （三）〔針ヲ刺ス音ナドニ云フ語。〕 宇津保物語、俊蔭、上［二十］「ソノ[illegible]ヲ、云云、[illegible]ヒノ[illegible]クビニ、つぶつぶと縫付ケテ」 （四）つぶだつ狀ニ云フ語。

づぶ-づぶ-と（ズブ-ズブ-ト） （副） 前條ノ語ノ（二）、及、（三）ヲ、[illegible]メテ云ヒタル語。

つぶて （名）【[illegible]】〔[illegible]打（ツブウチ）ノ約轉〕 タブテ。タビイシ。タビシ。ツビタレ。ツムレイシ。石粒ヲ手ニテ打ツコト。小石ヲ投ゲツクルコト。又、投ゲ遣ル小石。 字類抄「飛礫、ツブテ」 宇津保物語、藏開、中［四十］「カルつぶてドモシテ、[illegible]ニゾ打タセ給ヘルニ」 風俗文選（寶永）八、天狗礫「嫁トリモセヌ宿ニ礫ヲ打カケ、火事ヲスカレタルコソ」

つぶて-うち （名）【飛礫打】 ツブテヲウツコト。小石ヲ投ゲツクルコト。 源氏鳥帽子折（元祿、近松作）四「雷ノクリ石ヲ追ヒ取リ追ヒ取リ飛礫打、雨ヤ霰ト投ゲカクル」

つぶて-もじ （名）【礫文字】 一字ヅツ切リ離シテ書キタル文字。放書（ハナチガキ）ノ文字。

づぶ-ど・し（ズ-ブト-シ） ・キ・ケレ・ク・ク（形、二）【圖太】〔或ハ、ずぶとしノ轉カ〕 憎氣ニ肝太（キモ）シ。

つぶ-なき （名）【踝】〔つぶの際（キハ）ノ略轉〕 くるぶし（踝）ニ同ジ。ツブブシ。アナヒラ。 天治字鏡、[illegible]、[illegible]、足上也、[illegible]、[illegible]不[illegible]、又、[illegible]、又、[illegible]比良[illegible]

つぶね （名）【奴】〔局居（ツボヰ）ノ略轉、宮仕ヘスル女ニ云フ。〕 後撰集作者、おほつぶね（作者部類ニ、在原棟梁ノ女トアリ）アリ、コレ童名ニ屎ト付クル類ナルカ、抑、賤者ノ名ヲ付クレバ、ソノ子、能ク成育スナドノ義ニヤ。 ヤ・コ、下部、下女[illegible] 倭名抄、[illegible]奴僕[illegible]、奴僕、豆布禰、人之下也」 [illegible]ナルベシ） 名義抄[illegible]、ヤツコ、ツブネ（奴、ツブネ、ヤツコ） 大和物語、上[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]、[illegible]つぶねト云フ、イマゾカリケリ」 [illegible]、[illegible]、[illegible]「怪シノ宿ノ、云云、何事ニモ心得タリケレバ、人人、[illegible]モト、[illegible]、云云、[illegible]ノ程、心ヤスキつぶねトナリテ、イマゾカリケン」

つぶね-ぐさ （名）【杜蘅】〔箋注倭名抄、十「其根、成レ窠」トアレバ、窠根（ツブネ）ノ意カ〕 又、フタマカミ。草ノ名。今、かんあふひ（寒葵）ト云フ。其條ヲ見ヨ。 杜衡[illegible] 倭名抄、[illegible]「[illegible]、[illegible]、[illegible]、本草[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]」

つぶ-ぶし （名）【踝】〔顆節（ツブフシ）、或ハ、粒節（ツブフシ）ノ義ト云フ〕 くるぶし（踝）ニ同ジ。ツブナキ。 倭名抄、三十手足類「踝、[illegible]、豆不奈岐、俗云豆布布之」 字鏡八十「踝、趺、豆夫不志、豆不奈支」

つぶ-み （名） 刀ノ鞘ナドヲトリテ、身バカリナルコト。 甲陽軍鑑、十四、品第四十、下「刀ヲツケテサスハ、人ヲ斬ランド申ス事ナレドモ、常ハ鞘ヲセネバササレ申サズ候、人ヲ斬ル物トテつぶみニテササバ、サス人モブヤヤマ[illegible]致シ[illegible]」

つぶ-め・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四） [illegible]ノ語ニ同ジ。 ささめごと（[illegible]、心敬）上「イササカモ時ウツリ侍レバ、道ナラズヤウニつぶめく好士侍リ」

つぶ-や・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）【呟】〔委曲（ツブ）ト言フ意〕 獨リ、クドクド物言フ。ツブツブ[illegible]。 [illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]八十「[illegible]、今作[illegible]、呟不也久」 源、十二、須磨[二十]「タハブレニテモ、アルマジキ事ナリト云フヲ入道、イトイタクつぶやく」 同、九、葵[二十]「ナゾヤ、カクカタミニ、ソバソバシカラデ、オハセヨカシト、ウチつぶやかレ給フ」 紫式部日記「親ノアレバコソ子モ[illegible]ケレト、[illegible]つぶやきマス

つぶら （名）【圓】〔[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ轉〕 角ナクナリテ圓（マロ）キコト。又、ソノモノ。マドカ。[illegible]、[illegible]。 [illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible] 其圓キガ目立チテ見ユルヤウノ時ニ云フ[illegible] [illegible] [illegible]其[illegible]不良[illegible]」

つぶら （名）【藥籠】 藥ニテ[illegible]形ニ[illegible]リタル籠。田舍ニテ、中ニ幼兒ヲ入レ置[illegible]

つぶら-か [illegible]【[illegible]】 [illegible]、[illegible]、[illegible]、東北地方[illegible] [illegible]さ。又、いづさ。

つぶら-か-み （副）【圓】 マドカニ。ツブラ[illegible]ニ[illegible]ロ[illegible]マルクアルト。 宇津保物語、藏開[illegible] [illegible]メノト音シテ、見ヒ奉リ給フ、マダイカ[illegible] [illegible]リ給ハズ、イトつぶらかニ白ク肥エ給ヘリ」

つぶら-み （副）【圓】〔粒ノ如キ意〕 圓（ツブ）[illegible]。[illegible]ツブラ[illegible]ニ[illegible]ト[illegible]カニ。[illegible]ロヤカニ。マロ[illegible]ニ。[illegible]

つぶら-は・し（ツブ-ラ-ハ-シ） ・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）【圓】〔つぶるノ延〕 ツブルヤウナリ。 蜻蛉日記、上、下［二十］「[illegible]ナカヤウニムネつぶらはしきヲ」 源、十、賢木［二十二］「人人シゲクナミ居タレバイト胸つぶらはしくオボシ」

つぶら-ゐ （[illegible]）【圓井】 圓[illegible]、[illegible]ニ[illegible]レタル井。[illegible]

つぶり （名）【[illegible]】 [illegible] [illegible]ニ似テ、白斑アリ。今、つぐり[illegible]ノ、コレナリトゾ。 倭名抄、十八[illegible] [illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]

つぶり （名）【[illegible]】 [illegible] [illegible]ノ[illegible]ナラムト云フ[illegible]カウベ[illegible] ツムリ。アタマ。[illegible]

づぶり-と（ズブリ-ト） [illegible] [illegible]

つぶ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 潰 (一)壓サレテ水氣出ヅ。押サレテ崩ル。コハレヤブル。ヒシグル。ヒシャグ。著聞集、十一、「…ウミ枯レ云云、イタダキニ落チテつぶれテ、サンザンニチリス」(二)稜アルモノ、摩レテ滅ブ。禿ブ。禿 摩滅「印ノ字潰る」「鑓ノ目潰る」(三)アルモノ、無クナル。スタル。ホロブ。絶ユ。廢滅「家ガ潰る」「國ガ潰る」 肝潰るトハ、驚ク。驚愕 胸潰るトハ、悲ミ悼ム。痛心 源、四、夕顏、二十「胸ウチつぶれ給ヒテ」 耳潰るトハ、聾トナル。目潰るトハ、盲トナル。失明

つぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 瞑 塞グ、閉ヅ。「目ヲつぶる」

つぶれ (名) 潰 (一)ツブルルコト。ヒシグルコト。(二)摩レテ禿ブルコト。スリキルルコト。摩滅 雄略紀、七年八月「以二小刀一呼侍、天皇嫌拔毛剪翼、云云、見二禿雅勝一」(三)ホロブルコト、廢レ絶ユルコト。廢滅「家ノ潰」「國ノ潰」(四)ムダニナルコト。損スルコト。損失 浮世風呂(文化、三四)、初編、下「シカシ跡ハ、遠クテモ近クテモ一日ノ潰サ、歸ッテカラ何ノ用モ達セヌヤツサ」

つぶれ (名) 陵 つむれ(培塿)ニ同ジ。字鏡、七七「陵、乎加、又、豆不禮」

つぶれ-いし (名) 圓石 〔つぶれハ、つぶらノ轉〕圓キ石。字鏡集「礫、ツブレイシ、サザレイシ、タイシ、タブテ」萬葉集、十六、廿「ワガセコガ、タフサギニスル、都夫禮石ノ、吉野ノ山ニ、ヒヲゾサガレル」

つぶ・れる (動) 潰 つぶる(潰)ノ口語。

づぶ-ろく (名) 〔擬人語。濁六ノ轉カ、耄六、宿六ノ類〕酒ニ全ク、醉ヒツブレタルコト。ヒドク酒ニ醉フコト。泥醉。

つべ-こべ (副) シカツベラシキ狀、又、カレコレト、言ヒダテスル狀ヲ云フ語。どうべいかうべい。ベチャベチャ。ベチャクチャ。ツベラコベラ。傾城反魂香(寶永、近松作)上「ホンニつべこべつべこべ、べト、私ガ云コトバッカシ、コチノ人ノ吃ト私ガ饒舌ト」

つべた-がひ (名) 又、ツメタガヒ。うつぼがひ(靭貝)ニ同ジ。

つべた・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 冷 つめたし(冷)ノ轉。其條ヲ見ヨ。

つべたま・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 恐ロシ。氣味ワルシ。源、三十五、柏木五「丈高ヤカニ、目ブシ、つべたましくテ、荒ラカニ、オドロオドロシク」 蜻蛉日記解環(天明、坂徵)「アサマシウつべたましく思フ思フ見レバ」(冷しニ通ズ) 盛衰記、十二、一院鳥羽籠居事「國國ヨリ駈上セタル夷ドモナレバ、云云、つべたましゲナル顏、氣色、ウトマシゲナルコトザマナリ」

つべら・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) ムゴタラシ。史記抄(文明)四、九「車裂、アマリニつべらしい刑ゾ」同、十五、四十四「至惡ト云ヒタリナンドスルハ、ツヨクアラウつべらしい者ヲ云フゾ、惡五郎、惡源太ナンド、日本ニ云フ樣ニゾ」同、十五、廿七「酷吏ハ、キツクつべらしく人ニアタル事ガ、慘酷ナル者ヲ云フゾ」同、三、三「高后ノアマリつべらしうテ、妬忌ノアマリニ、戚夫人ノ手足ヲヲロシ、目ヲ抉リ」

つぼ (名) 壺 (一)〔漆器、又ハ陶器ノ、體圓ク、口ノ窄ミタルモノ。ツブ。倭名抄、十六九漆器類「壺、都保、所二以盛一レ飲也」同卷十九器類「坩、都保、木謂二之壺一、瓦謂二之坩一」 字鏡、五三十「壺閫、豆保」 源、五、若紫、十七「紺瑠璃ノ壺ドモニ、御藥ドモ入レテ」 謠曲、猩猩「コノ壺ニ泉ヲタタヘ、唯今カヘシ與フルナリ」(二)つぼざら(壺皿)ノ略。膳部ニ、菜ヲ盛ル小サク深ク高キ器。(三)〔笙ノ匏、(笙ノ條ヲ見ヨ) 倭名抄、四廿管絃類「匏、豆保」(四)ヒヂツボ。ツボガネ。太平記、十五、正月廿七日合戰事「一枚楯ノ、云云、板ノ端ニ、懸金ト壺トヲ打テ」(五)狙フ所。見込ノ所。ヅボシ。好色一代女(貞享、西鶴)二「昔勤メシ遊女ノ道ハ、サシテ取ル比翼連理ノ根ゴコロヲワキマヘテ、其壺ヘハマリタル文ガラニ惱マセ」「思フ壺」「謀ル壺」

つぼ (名) 坪 〔坪ハ、平土ノ合字〕(一)殿中ノ間、或ハ、垣ノ內ノ庭ナド、一區ノ窄マリタル地ノ稱。(常ニ壺ノ字ヲ借書ス) 續拾遺集、六、冬「臺盤所ノつぼニ、雪ノ山作ラレテ侍リケル朝」 山家集、下「君ガ住ム、宿ノつぼニハ、菊ゾカザル、仙ノ宮ト、云フベカルラム」 枕草子、二、十七段「御マヘハつぼナレバ、前栽ナド植ヱ、籬結ヒテイトヲカシ」 大鏡、中、伊尹「馬ヲ、云云、朝餉ノ壺ニ引キオロサセタマヒテ」「坪ノ內」「桐壺」「梨壺」「壺前栽」(二)地面ノ廣狹ヲ量ル語 六尺四方ニシテ、卽チ、段別ノ步ニ同ジ。其十分ノ一ヲ合ト云ヒ、合ノ十分ノ一ヲ勺ト云フ。(三)轉ジテ、スベテ、物ヲ度ルニ、縱橫同ジ寸尺、卽チ、平方形ノ稱。錦繡、古渡リノ更紗ナドニ、一尺四方、又ハ、一寸四方、彫刻、製版ナドニハ、一寸四方ナルヲ云フ。(四)土沙ノ立積ノ單位。六尺立方ノ稱。タテツボ。

つぼ-あぶみ (名) 壺鐙 古代ノ鐙ニ、形、壺ノ如ク、足首ノ半ノミ懸クル製ノモノ。卽チ、沓ノ末ヲ斷チタルガ如シ。馬寮式「大壺鐙一具」 物具裝束抄、和鞍具事「鐙、大滑之時壺鐙」 鑒泥、六「壺鐙、憲(本多忠憲)云、朝倉景衡說ニ、足ノ先ノ入ルホド壺ヲ付シ鐙也ト、云云、先年其家(江戶淺草、片山某)ニ詣テ其鐙ヲ見タリシニ、マサシク其形、沓ノゴトク、壺鐙ト云フモノ也」

つぼ-いり (名) 壺入 (一)酒屋ニ入リテ、酒ヲ飲ムコト。居酒。(二)轉ジテ、うどん、そばきりナドノ、飲食店ニ入リテ、飲食スルコト。內喰。(三)又、轉ジテ、遊郭ニテ、揚屋ニ上ラズシテ、遊女ノ家主ナドノ所ニ行キテ、遊女ト相見ズルコト。嬉遊笑覽、九、「壺入ト云フハ、室山云、揚屋ニテ遊興セズ、傾城ノ家主ノ館ヘ行テ、女郞ト興ズルナリ、此名目、酒屋ヨリ出デタリ」

つぼ-いり (名) 壺煎 つぼやき(壺燒)ニ同ジ。易林節用集(慶長)食服門「壺煎、ツボイリ」 寬永發句帳「汲クム、其つぼいりヤ、ニシ肴」

つぼ-うち (名) 投壺 〔壺打ノ義〕又、ツボナゲ。トウコ。タウナゲ。壺ノ中ヘ矢ヲ投ゲ入ルル技。禮記、投壺篇「投壺之禮、主人奉レ矢、司射奉レ中、使二人執一レ壺」注「矢所二以投一者也」 倭名抄、四十雜藝類「投壺、豆保宇知、一云、都保奈介」 名義抄「投壺、ツボウチ、ツボナケ」

つぼ-がね (名) 壺金 ひぢつぼ(肘壺)ノ條ヲ見ヨ。

つぼ-かり (名) 坪刈 田、一坪ノ稻ヲ刈リテ、其年ノ豐凶ニ因リテ收穫ノ量ヲ定メ、納租ノ高ヲ定ムルコト。又、步刈。(檢見ノ條ヲ見合ハスベシ) 地方要集錄「壹坪ノ籾ヲ刈リ、イカホド有レ之トタメシ候ヲ、坪刈、舂法、モミ摺リト云フ」

つぼ-きり (名) 壺切 又、キリツボ。壺切御劍ノ略。次次條ヲ見ヨ。

つぼ-ぎり (名) 壺錐 錐ノ一種。刃ノ形、管ヲ半ニ割リタル如シ。圓キ孔ヲ揉ミ穿ツニ用ヰル。

つぼきり-の-ごけん (名) 壺切御劍 御劍ノ名。皇太子御歷代相傳ノ寶劍。御守刀トシ、皇位繼承ノ際ノ神器ノ如シ。海浦ノ蒔繪ニ、龍ノ如キ摺貝アリ、裝束ハ靑滑革ナリト。コレハ、太政大臣藤原基經ノ、其父長良ヨリ讓リ受ケタルモノヲ、宇多天皇ニ獻ジ、立太子(醍醐

ノ時ニ、天皇ヨリ授ケラレタルヲ初トス。略シテ、つぼきり。つぼきりのつるぎ。[illegible]、代代東宮ニ傳フ[illegible]也、又時時在ニ公家ニ延喜以ニ少將定方ニ被ニ渡ニ東宮ニ是始歟」 甚量卿記「天和二年三月二十七日、今日壺切御劍被ニ進、以ニ宗儀ニ土御門兵部少輔令ニ持參ニ也」

つぼ-くさ (名) 〔積雪草 連錢草〕 〔其花、形、壺ニ似タレバ名トスト云フ〕 蔓草ノ名。かきとほし(垣通)ニ同ジ。大和ニテ、くつくさ。 本草和名、上三十四「積雪草、連錢草、都保久佐」(倭名抄、廿ニ同ジ)

つぼ-くち (名) 〔壺口〕 人ノ、口ヲ窄メ尖ラセタルコト。又、ソノ口ツキ。ツボメタル口。ちょぼくち。 好色一代男(貞享、西鶴)三「癸ニ壺口ノおなべトテ、世ヲ煤シテ渡ルモノ」

つぼ-さうぞく (名) 「衣ヲつぼね折ル意ト云フ」 古へ、垂レタル髮ヲ、小袖ニ着コメテ、兩ノ褄ヲツボヲリテ前ニ挾ミ、市女笠ヲ被リタル裝束 (コノ裝束ニテ、女ノ徒歩ノ時ニハ、衣ノ裾ヲ取ルナリ) 源、廿二、玉鬘十八「つぼさうぞくシテ、ヒスマシメクモノ、フルキゲス女フタリバカリトゾアル」 枕草子、十二、百五十七段、見ぐるしきもの「つぼさうぞくシタルモノノ、イソギテアユミタル」同、二十、廿段、心ゆくもの「初メツカタハ、徒アルキスル人ハナカリキ、タマサカニハ、つぼさうぞくナドバカリシテ、ナマメキ假粧シテコソアリキシカ」

つぼ-さかづき (名) 〔壺盃〕 つぼノ形セル盃。 後撰草抄(寛文、加藤磐齋)「菊亭右府晴季公、つぼ酒盃ヲマガリト云フ」(徒然草諸抄大成)

つぼ-ざら (名) 〔壺皿〕 (一)博奕ノ錢ヲ伏スルニ用キル器。(二)膳部ノ上ニ具スル器。略シテ、つぼ。

つぼ・し キ・ケレ・ク・ク(形、二) 心解ケ易シ。又、心ヤスシ。 謠曲、大江山「ウチ見ニハ、恐ロシゲナレド、馴レテつぼいハ山伏」

づ-ぼし (名) 〔圖星〕 〔圖ニアタル星ノ義、上略シテ、ほしト云ヒ、下略シテ、づト云フ〕 (一)書キタル黑點。的ノ中ノ黑點。(二)見込ノ處、的。 〔圖星ニ中ル〕

つぼ-ぢやうじ (名) 〔壺床子〕 ふくろぢやうじ(袋床子)ニ同ジ。 江家次第、十「新障子北、敷ニ同長疊一枚、其西立ニ壺(或ハ床子)、脚ニ」

つぼ-すみれ (名) 〔壺墨入ノ義、花ノ形、ツボヤカナル木匠ノ墨斗ノ墨芯ニ似タレバ云フト〕 (一)菫ト云フニ同ジ。 萬葉集、八46「山吹ノ、咲キタル野邊ノ、都保須美禮、此春ノ雨ニ、盛ナリケリ」 同、卷十九「茅花拔ク、淺茅ガ原ノ、都保須美禮、今盛リナリ、吾ガ戀フラクハ」 枕草子、三、三十四段、草の花は「つぼすみれ、スミレ、オナジヤウノ物ゾカシ」 (二)襲ノ色目ノ名。表ハ紫ニテ、裏ノ青ナルモノ。又、表ハ紫ニテ、裏ハ薄青ナリトモ云フ。

つぼ-せんざい (名) 〔壺前栽〕 壺(坪ノ條ノ(一)ヲ見ヨ)ニ植ヱコミタル前栽。又、庭、中庭。ツボセザイ。 源、一、桐壺十「御前ノつぼせんざいノ、イトオモシロキサカリナルヲ」 同、四十九、東屋三十六「コナタノ廊ノ中ノ壺前栽ノ、イトヲカシウ、色色ニ咲キ亂レタルニ」

つぼ-そで (名) 〔壺袖 窄袖〕 (一)つつそで(筒袖)ニ同ジ。 鏡山井(寛文)「花瓶ニモ、サスヤつぼ袖、初尾花」 (二)鎧ノ袖ノ一種。卽チ、上方ツボミテ、下方開キタルモノ。 大内[illegible]、黑革圖ノ腰卷二、つぼ袖ツェヒツケ」

つぼ-づけ (名) 〔坪附〕 〔田地ノ坪附ノ義〕 荒[illegible]ノ場所ノ書附ニヤアラム。 [illegible]年中行事[illegible]

つぼ-つぼ (名) 〔壺壺〕 小兒ノ玩具。卽チ、底平ニ、中程ハ張レ、口狹ク上高[illegible]。[illegible] 撰フクレ、口狹ク、李ノ實シタル物ヲ、つぼつぼト名[illegible]、[illegible]ニ書リケリ」[illegible] 名謂「部保部保ハ此土器於ニ兩手掌內[illegible]轉之[illegible]則有[illegible]部保部保[illegible]」[illegible]ノ、撲ニテクルフ、藥師堂」モテ遊ビヌル、瑠璃ノつぼつぼ」

つぼ-な (名) 〔坪名〕 村ノ內ヲ更ニ小別タル名。字(地名ノ)ノ條ヲ見ヨ。[illegible] 小倉、三、今、村中ノ小地名ヲ、坪名ト稱ス」

つぼ-なげ (名) 〔投壺〕 つぼうち(投壺)ニ同ジ。

つぼ-なほし (名) 〔坪直 坪稼〕 竊カニ、自己ノ惡シキ田地ヲ、他人ノ善キ田地ニ、クリカフルコト。 成形圖說(島津重豪)二三「坪移ト云フコトアリ、陰ニ、オノレノ惡シキ田所ヲ、他ノヨキ田ニ、クリカヘルヲ云フ」

つぼ・ぬ ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ(他動、下二) 〔局〕 〔つぼ(壺)ヲ活用ス〕 窄メ閉ム。シキリカコフ。 [illegible]木丁バカリヲ引キつぼねテ、[illegible]モナク當ミ居タリ」 紫式部日記「屛風一具ヲ引キつぼねテ」

つぼね (名) 〔局〕 〔引キつぼねタル處ノ意〕 (一)宮殿ナドノ中ニ、別ニ隔テテアル室。長キ屋ヲ幾ツニモ分チタル部屋。曹司。用部屋。 名義抄「局、ツボネ、タムロ」 [illegible] ホドナキ遣戸口ニ寄リ居タマヘル」 (二)局ヲ有スル女官ノ稱。又、宮女、御殿女中ナドノ一部構ヘテ在ル者。局長「長橋ノ局」丹波ノ局」 (三)〔ツボネ中ノモノ〕、局居スル[illegible]

[illegible] 人ノ休息所。「[illegible]」 (四)[illegible] (五)局女郎ノ居ル部屋。卽チはし女郎ノ居ル所。[illegible] (六)つぼねぢよらう(局女郎)ノ略。[illegible]

つぼね-がさ (名) 〔局笠〕 ツボミタル狀ノ笠。[illegible]

つぼね-かひ (名) 〔局買〕 局女郎ヲ買フコト。[illegible]

つぼね-ぢよらう (名) 〔局女郎〕 [illegible] ヨリ下等ノ遊女。[illegible] 若シクハ、六尺ノ局ニ居ルヨリ名トス[illegible]

つぼね-まち (名) [illegible]

つぼね-ゐ (名) 〔局居〕 [illegible]

つぼ-の-いしぶみ (名) [illegible]

領七戸(今ハ陸奥國下北郡七戸町ナリ、沼崎驛ノ西二里ナル舊邑)ニテ、驛路ハ三本木ヘ二里半、野邊地(ノヘヂ)ヘ五里ナル所)ニ壺村(今ノ天間林(テンマバヤシ)村大字天間舘ノ坪(ツボ)村)ト云フ所アリ、ココニ石文ノアリシカバ、壺石文(イシブミ)ト名ケシナラン。此所在ニツキテハ、從來、諸說紛紛タルガ、就中、高田眞清ノ說ニ「按(眞清)、壺碑ノ在所、說說オホカレド、盛岡領北郡七戸ト野邊地トノ間ナル壺村、石文村、其古跡ナルコト疑ナシ。ソハ、古歌ニ、津輕ノ遠(トホ)ニアリトキクトヨミ、歌ノいしぶみソトノ濱風トヨミ合セタルナドニテモ、宮城郡多賀城ナラヌ事明也。又、日本中央トシルシタリト云フモ、多賀城碑ニ叶ハズ、壺石タエケンハ稍古キ世ニテ、ソハ缺崩タリトモ、土中ニ埋タリトモ、戰國ノ比、打碎テモノニ用タリトモ、今ハ知ルベキヤウナシ。雲葉抄ナドノ物語ハ、碑ノ失セタル後ニ作リ出タルモノナルベケレバ、トリ用ベクモアラズ。壺村、石文村ノ名存(ノコ)レルハ正シキ證ニテ、千引明神、ハタ石ノ緣アレバ旁疑ナシ。千引ハ、云云、千人シテ引バカリノ大石ノ名ナリ、碑石ハ長四五丈バカリト云ヘバ、千引石トモ云ツベキ也、坪ト云フヨシハ、石ノ形橢(ダ)圓ナルママヲ碑ニシタレバ、圓ノ碑ノ義ニテ、坪モ壺モ借字ナルベシ。サテ此碑ヲ建ケンハ、イヅレノ代トモ知ベカラズ、田村將軍、書ツケタリトモ、神代ヨリアリトモ云ヘルナドハ、正シキ說トモ聞コエズ」ト云ハレタリ。又、年年隨筆、二「多賀城碑ハ天平ノ古物ニテ、イトイトメデタケレド、壺の石文ニハアラズ、つぼの碑ハ、古歌ドモニ、オホクハ、エゾヲヨミアハセタルニテモ、云云、津輕近キ所ナルコトヲ知ルベシ。云云、南部殿ノシラス地ニ、つぼ村アリ、ソコニ石文大明神ト云フ社アリ、石文湮滅シテ後、ソノ跡ヲ神ニ祭リタリト云ヒ傳ヘタリトナン。コレヨクカナヒテオボユ」ト見エタリ。コレラニテ知ラルルナリ。 山家集、下「ムツノクノ、奥ユカシクゾ、オモホユル、つぼのいしぶみ、ソトノ濱風」 拾玉集、五「思フコト、イナミチノクノ、エゾイハヌ、つぼのいしぶみ、カキツクサネバ」 [illegible]、先、壺石文「陸奥ノ、イハデシノブハ、エゾシラヌ、書ツクシテヨ、つぼの石ぶみ」

つぼ-のみ (名) 〔壺鑿〕 鑿ノ一種。刃ノ一片ハ平ニシテ、一片ハ圓シ。圓キ孔ヲ鑿(ホ)リ穿ツニ用ヰル。

つぼ-はばき (名) 〔壺脛巾〕 ハバキノ一種。 江家次第、二、大臣大饗「[illegible]注「綿帽子、紫纈狩衣、白布袴、壺脛巾」

つぼ-ま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔窄〕 ツボムヤウニナル。スボマル。ツボム。

つぼみ (名) 〔蕾〕〔莟〕 (一)花ノ初生ノ未ダ開カザルモノ。 萬代集、一、春、上「白妙ノ、花ノつぼみヲ、目ニカケテ、イソヂノ峯ヲ、オリゾワヅラフ」 (二)前途行望ニ見ユレドモ、未ダ年齡ノ弱冠ナルモノニ喩ヘテ云フ語。 井筒業平(寶永、近松作)上「東ノ高家入間殿ヨリ、御養子分ノ約束ニテ、蕾(ツボミ)カラトル花嫁子」

つぼみ-がさ (名) 〔窄笠〕 スボミタル狀ノかぶりがさ。 盛衰記、三十四、明雲八條宮人人被レ討事「濃キ墨染ノ衣ニ、つぼみ笠著テ、六條河原へ行、軍兵見物ケル」 古今要覽稿、器財部、二百十、かさ「つぼみ笠ハつぼ笠ト同ジク、女ノ所用ニシテ、壺笠ト書クニヤ、新撰六帖ノ衣笠内府ノ歌ニ、フリヤマヌ、雪間ノ梅ノ、つぼみ笠、トヨマレタルニテモ、其形、大方ハ知ラレタリ、何レニモ、其笠ノツボヤカナルヨリ、シカ名付シモノ成ベシ」

つぼ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 〔窄〕 〔壺(ツボ)ヲ活用ス〕 (一)狹ク小サクナル。聚マリテ圓クナル、スボム、ツボマル、スボマル。 博多小女郎波枕(享保、近松作)中「老[illegible]ノ貝、別住(ツボミ)ヒモ異ナモノト、一所ニつぼむ談合デ」 (二)蕾ニテアリ。ツボミニナル。含(フフ)ム。

つぼ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 〔窄〕 ツボムヤウニナス。スボムル。「傘ヲ窄む」

つぼ-むし (名) 〔壺蟲〕 すりばちむし(擂鉢蟲)ノ一名。其條ヲ見ヨ。

〔**つぼ-や** (名) 〔壺屋〕 古ヘ、人ハナレタル、物置ノ如キ家。 今昔物語、十八、三十語「オノレガ(ワレガイ)つぼやニイリ居テ、キキ(居テ侍リイ)ツレバ」 今昔物語、十九、廿四語「身貧シクシテ壺屋ニ住テアル者有ケリ」 同、十九、廿三語、[illegible]ウケタル僧「憚リテ御前ニモ不二罷出一、後ノ壺屋ナドニ候」

つぼや-がみ (名) 〔壺屋紙〕 加工油紙ノ一種。(伊勢國產)天明年間、同國、飯野郡、稻木村(今ノ飯南郡漕代村稻木)ノ人ニテ、壺屋清兵衞ト云フ人、創メタリ。

つぼ-やき (名) 〔壺燒〕 榮螺(サザエ)ノ肉ヲ刻ミ、其殼ヲ用ヰテ鍋トシ、醬油ナド注ギ入レテ煮タルモノ。ツボイリ。 易林節用集(慶長)食服門「壺炙、ツボヤキ」

つぼ-やなぐひ (名) 〔壺胡籙〕〔壺胡簶〕 やなぐひ(胡籙)ノ條ヲ見ヨ。 名義抄「胡、ツボヤナクヒ、ユキ」 桃華蘂葉「一、衞府具足事、壺胡籙、[illegible]位衞府等警固時、衞府公卿帶レ之、但大將、撿非違使別當ハ不レ負レ之」 [illegible]、六、弓矢「壺胡籙、[illegible]裝束具也、俗ニ[illegible]ト、近世云、衞府具足ニシテ、征戰ノ具ニアラズ」 後撰集、十八、雜、四、源善歌小序「中將ニテ内ニサブラヒケル時、アヒ知リケル女、云云、つぼやなぐひ、オイカケヲ宿シ置キテ」

つぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔窄折〕 [illegible]ノ語ノ略。 [illegible]「[illegible]ヤ、ウララニ雨ノ、フルワラヂ、裾カイつぼり、歸ル草刈」

つぼ-を・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔窄折〕 〔つぼめ折るノ義〕 婦人ノうちかけヲ着テ、途中ナドニテ、手ヲ以テ、其前ヲ斂(ヲサ)メ行クコト、衣ノ褄ヲマトムルコト。カイドリ。略シテ、つぼる。

つま (名) 〔端〕 〔詰間(ツメマ)ノ略、間ハ家ナリ、(其條ヲ見ヨ)家ノ詰ノ意〕 (一)〔棟アル一ツノ家。寢殿造ノ寢殿、對屋(タイノヤ)ナドヲ云フ。 催馬樂、此殿「此殿ハ、宜モ富ミケリ、サキクサノ、アハレ、サキクサノ、ハレ、サキクサノ、みつばよつばノ中ニ、殿造セリヤ」 三棟四棟(ミツマヨツマ)ナリ」 其催馬樂抄ニ一條兼良ニコレヲ釋キテ「棟ヲ三棟四棟ニ造ル意ナルヘシ」 古今集ニモ此歌アリテ、顯昭注ニ「みつばよつばハ、三間四間也」トアリ、ばヲまト轉ジタルハ可シ、但シ柱ト柱トノ間ニテ、三間四間ニテハ、富メリトハ云フベカラズ) 源、四十七、早蕨「日モカカヤク心地スル、殿造ノ三つば四つばナル中ニ引キ入レテ」(車ヲ) 枕草子、三、廿四段、花の木ならぬは「楠木、云云、みつばよつばノ殿造」 北畠親房抄「みつばよつばハ、三棟四棟ト書クナリ」 (二)〔端(ハシ)。緣(ヘリ)。際(キハ)。〕 源、九、葵「ヨシアル扇ノつまヲ折リテ」 更級日記「つま近キ花橘ノ、イト白ク散リタル」 狹衣、四、上「木丁ヨリ琴ノつまバカリサシ出デテ」「軒ノつま」「簾ノつま」 (三)〔緣(エン)トナル端緒(イトグチ)〕 ミチビキ。テビキ。端緒。 源、十二、須磨「ワガ心ニナカナカ物思ヒノつまナルベキヲ、ナド思ヒカヘスヲ」 同、三十四、下、若葉、下「驚サソフつまニシツベシ」 同、四十七、早蕨「昔思ヒ出デラルルつまナリ」 同、五十一、蜻蛉「此人ゾ、又例ノカノ御心亂レベキつまナメリ」 狹衣、一、下、九「夕暮ノ、[illegible]キニ、サブ、木ノ葉ヤ、身ニ染ム秋ノ、[illegible]ノつまナリ」 拾遺集、三、秋「白露ノ、置クつまニスル、女郎花、アナ煩ハシ、人ナ手フレソ」 千載集、四、秋、上「秋風ヤ、涙催ス、つまナラム、音ツレシヨリ、袖ノカワカヌ」 貫之集、下、一「君ニヨリ、ヌレテ

ゾワタル、カラ衣、袖ハ涙ノ、つまニザリケル」

つま (名) 〔連身ノ略轉、物二ツ相竝ブニ云フ〕 (一)〔夫婦互ニ相呼ブ稱。メウト。ツレアヒ。他ノ動物ノ雌雄牝牡ニモ云フ。配偶 匹偶 萬葉集、四廿長歌「物部ノ、八十伴ノ雄ト、出デ行キシ、愛シ夫ヘ」同、十三十九「此日ノ、秋ノ朝アケニ、霧ガクリ、妻呼雄鹿ノ、音ノサヤケサ」同、十四十「上ツ瀬ニ、蛙妻呼ブ、暮去レバ、衣手寒ミ、妻マカムトカ」同、十五十長歌「沖ニナヅサフ、鴨スラモ、都麻トタグヒテ」同、十七四十「ミナトカゼ、サムク吹クラシ、奈呉ノ江ニ、都麻呼ビカハシ、鶴サハニ鳴ク」拾遺集、一、春「春ノ野ニ、アサル雉子ノ、妻戀ニ、オノガ在處ヲ、人ニシラレツ」(二)〔夫。ヲット。 古事記、上四十「汝ヲ除テ夫ハナシ、汝ヲ除テ都麻ハナシ」萬葉集、九十九長歌「唯獨リ、伊渡ラス兒ハ、若草ノ、夫カアルラム、橿ノ實ノ、獨リカ寐ラム」土佐日記、正月十三日「老海鼠ノつまノ胎鮨」(三)〔専ラ、妻ノ稱。妻。ニョウバウ。婦 妻 名義抄「妻、ツマ」神代紀、下十「汝、妻」景行紀、四十年十月「吾嬬者耶」注「嬬云二菟摩一」仁德紀、十六年七月「何能愛二汝之妻一乎」同、三十年九月「山背ニ、イシケ鳥山、イシケシケ、我ガ思フ菟摩ニ、イシキ遇ハムカモ」(皇后)
(四)料理ノ點綴ニ配フル蔬菜ノ類。

つま (名) 〔褄〕 〔二ツ相對スルモノニ云フ。前條ノ語意ニ同ジ〕 衣ノ、衽ノ腰(卽チ襟先)ヨリ下ノ緣。衣裔 繼體紀、七年九月「[illegible]シテ」[illegible]「カラ衣、[illegible]レニシ、つま(褄ニサクニシテ)レハ、ハルバル來ヌル、旅ヲシゾ思フ」夫木抄、三十五、衣「少女子ガ、袖ノ、カクレ簑、[illegible]キ[illegible]ニ、[illegible]ミワビツツ」「衣ノつま」つま先」

つま (名) 〔爪〕 爪ノ轉。熟語ニノミ用ヰル。 萬葉集、三三十「シホツ山、ウチ越エユケバ、ワ[illegible]、[illegible]ソ[illegible]ク、[illegible]フラシモ[illegible]、[illegible]、[illegible]ジキ」爪ビキ」爪先」爪立ツル」爪繰ル」

つま-あがり (名) 〔爪上〕 爪先タテテ、上ガルコト。 史記抄(文明)十八「[illegible]北八塊ガ高キホドニ、つまあがりニ高テ遠ゾ」

つま-いり (名) 〔蹄踊 蹄滿〕 〔爪入ノ義ト云フ〕 牛馬等ノ蹄ノ病。 倭名抄、十一、牛馬病「蹄踊、[illegible]、以利」[illegible]注倭名抄、十一、牛馬病「[illegible]名義抄、[illegible]、[illegible]」齊民要術、有下治二驢漏蹄一方上」

つま-おと (名) 爪音 (一)琴ヲ彈ク音。源、四十三、竹川「[illegible]ノ音、云云、今メカシウ、つまおと好ク[illegible]」夫木集[illegible]ノ音ノ、つまおとノカズ、思ヒセバ、シメノウチニゾ、ヒキトドメマシ」 (二)馬ノ蹄ノ音。 續拾遺集、上、木葉散ル、山路ノ石ハ、見エネドモ、猶アラハルル、駒ノつまおと」

つま-がうし (名) 抓格子 〔建物ノ端ニアル格子ノ義ト云フ〕 搏風ノ中ニ作リタル格子。一名、きつねがうし。

つま-がくし (名) 〔爪隱〕 草履ノ一種。淡竹ノ皮ニテ作レル京草履ト云フモノノ、前緒ヲ引キ詰メテ、前ノ方ヲ上ヘソラシ、足ノ指ノ向ヨリ見エヌヤウニ作リタルモノ。享保ノ頃、江戶、新吉原町ノ遊女ノハキタルモノトゾ。

つま-がけ (名) 〔爪掛〕 (一)藁ニテ作リ、草鞋ナドノ爪先ニ懸クルモノ。雪中、泥塗ノ用ナリ。(二)革、又、漆塗ノ厚紙ニテ作リ、下駄、足駄ノ爪先ニ懸ケテ、泥ヲ防グモノ。雨雪ノ用トス。ツマカハ。

つま-かは (名) 〔爪革〕 前條ノ語ノ(二)ニ同ジ。

つま-ぎ (名) 〔爪木〕 〔爪先ニテ折リタル木ノ義〕 折取リタル薪。[illegible]

つま-ぎさき (名) 〔妻后〕 きさき(后)ト云フニ同ジ。[illegible]、廿八、[illegible]「[illegible]ギサキ、つまぎさきヲハナチテハ」

つま-ぐし (名) 〔爪櫛〕 〔密齒櫛ノ略〕 目ノ詰リタル櫛。齒ノ細カキ櫛。[illegible]上十「[illegible]ニ[illegible]」

つま-ぐち (名) 〔褄口〕 衣ノ褄ノ[illegible]波問答(二條良基)序「御簾ノ內ヨリ、紅ノ袴、衣ノつまぐち押出シテ」

つま-ぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔爪繰〕 爪先、又ハ、指先ニテ繰ル。 [illegible]「水晶ノ珠數ヲつまぐり、鳩ノ杖ニスガリツツ」狂言記、福渡、香ノ衣ニ、香ノ袈裟、ミナスホシャウノ珠數ヲつまぐり」「矢ヲつまぐる」

つま-くれなゐ (名) 〔端紅 妻紅〕 (一)つまべに(端紅)ニ同ジ。「端紅ノ扇」 (二)[illegible]ノモノ。「端紅ノ[illegible]子」

つま-くれなゐ (名) 〔爪紅〕 (一)つまべに(爪紅)ニ同ジ。(二)鳳仙花ノ異名。古ヘ、女兒、此花[illegible]ト[illegible]テ、爪ヲ染メタル故ニ名ヅクト。 [illegible]笑覽、下、一、容儀、大和本草ニ、鳳仙花、女兒、此花ト[illegible]タリニハ、其如クスル故ニ、つまくれなゐト[illegible]ナリ」

つま-ぐろ (名) 〔端黑〕 端ノ黑キコト、又、ソノモノ。 [illegible]記、廿、石橋山合戰事「青塩ノ鎧ノ直垂ニ、赤縅ノ鎧白ノ鎧ノ、スソ金物打、タルノ首テ、つま黑ノ箭負ヒ」「つまぐろの征矢」

つま・げる (動) 〔摘み上ぐるノ約轉〕 ハ[illegible]

つま-ごと (名) 〔妻琴〕 〔爪琴ノ義〕 常ノ箏ノ、爪ニテ彈クコト[illegible]曲、犬無月戰、不思議ヤサテハ別レニシ、ソノ妻琴ノヒキ[illegible]ニシ妻琴ノ、綿ノ別レトナリニケルゾヤ」

つま-ごひ (名) 〔妻戀〕 (一)匹偶ヲ相戀フコト。[illegible]集、八四十[illegible]山鳴ク山邊ノ、[illegible]ハ、[illegible]盛リ過ギユクカ」[illegible]、[illegible]、[illegible]、山ノ邊ニ、立チハナレテ、[illegible]鳴クナル」(二)匹偶ヲ戀ヒ慕ヒテ呼ブ聲。萬葉集、八、春ノ野ニ、アサル雉ノ、妻戀ニ、己ガアタリヲ、人ニ知レツツ[illegible]

つま-ごみ (副) 〔夫隱〕 夫婦共ニ住ム隱[illegible]ニ、旅客ノ夢モ覺メヌベシ」

つま-ごめ-み (副) [illegible] 八重垣、津風基礎樹、八重垣ツクル、ソノ八重垣ヲ」ジ」 神代紀、上、ヤクモ立ツ、出雲ヤヘガキ、[illegible]

つまごめみ、ヤヘタサリタル、[illegible]ノ[illegible]

つま-ごも・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔夫隱〕 [illegible]集、一、春、上、春日野ハ、ケフハナヤキソ、若草ノ、つまもごもれリ、我モコモレリ」[illegible]ウグヒスノ[illegible]ルル、[illegible]ノシゲ[illegible]、[illegible]、つまごもれリト、人ニ知ラセジ」

つま-ごもる (枕) 〔夫隱〕 夫ごもる屋ト云フヨリ、や(屋、矢)ニ掛ケル枕詞。 萬葉集、[illegible]ノ、ノシケヤ[illegible]、[illegible]、[illegible]

つま-ごゑ [illegible]

つまさき (名) 〔爪先〕 足ノ指ノ端。足尖 [illegible]スノヤウニ、[illegible]ノ[illegible]ガン一 字[illegible]、[illegible]作文[illegible]、[illegible] 三寶、つまさきヲ、濡ラスマイトシタレバ、ボンノクボマデヌレタ、シナシタル姿カナ」

つまさき-あがり (名) 爪先上 (一)ナダラカナル登リ路ノ稱。(二)爪先ヲ上ニアグルコト。曾我虎鞠(寶永、近松作)上「御公家ハ鞠ニ御覽ゼト、爪先上リニハタト蹴ル」

〔つまざ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔爪指〕 指ザス。曾我物語、十二、「非出屋形御見物」(翁、アル方ヲつまざしテ、アレコソ非出ノ屋形ニテ候へ」

つまさ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 〔抓せらるノ約カ〕 引ル。引サル。ホダサル。牽制 「身ニつまさる」情ニつまさる」

つま・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 〔約しノ意カ〕 ツヅマヤカナリ。シマツナリ。儉約ナリ。儉 節約 好色、代男、(貞享、西鶴)五、[illegible]ニ[illegible]ノつましくナリメベキハ」

※つまし・い (形) 〔儉〕 前條ノ語ノ口語。

つましらべ (名) 〔爪調〕 箏ナド彈ク初メニ、先ヅ調子ヲトトノフルコト。盛衰記、三十九、重衡酒宴事「中將、琵琶ヲ取寄セ、云云、爪調ベシテ、云云、ト云フ朗詠二三、返シ給ヒケリ」

つましるし (名) 〔爪標〕 (一)標ニトテ、爪ニテ痕ヲツクルコト 即チ、歌ノ點ヲ乞フ人アル時、優レタリト思フニハ、食指ニテ爪形ヲツケ、再吟シテ定ムルトキニ云フ。(二)文ノ氣ヲツクベキ所ニ、爪ニテ印ヲツクルコト。甲印 源、廿一、少女「方方ニ通ハシヨミ給ヘル樣、つましるし殘ラズ、アサマシキマデアリガタケレバ」

つましろ (名) 〔端白〕 端ノ白キコト。又、ソノモノ。字類抄「騸、ツマシロ」長門本、平家物語、十六、義經自一谷院坐[illegible]「梶原源太景季、[illegible]ヒノ[illegible]ニ、[illegible]キノ[illegible]ノ[illegible]、つましろノ征矢オヒタリ」

〔つま・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔摘〕 摘むノ延。(敬語) 萬葉集、一 長歌「[illegible]ノ岳ニ、菜採須兒」[illegible]、十七 長歌「少女カ、佐保部[illegible]ト、紅ノ、赤裳ノ裾ノ[illegible]」同、十四[illegible]「キハツクノ、[illegible]ノ[illegible]菲、ワレツメド、籠ニモ滿タナフ、夫ト都麻佐ネ」

〔つまだ・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(自動、下二) 〔爪立〕 足ノ指ヲ立テテ立ツ。セイノビスル。翹足 景行紀、四十年十月「是以朝夕進退、佇[illegible]日、何罪兮、不意之間、倏亡我子」

つまづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 〔躓・蹉跌〕 「爪突く義」(一)歩ミテ、過チテ物ニ蹴當ツ。ケツマヅク。字鏡八「蹶、僵也、豆萬豆久」天治字鏡、十二「蹐蹶、顛倒也、豆萬豆久」萬葉集、四 卅三長歌「道守ノ、問ハム答ヲ、言ヒヤラム、スベヲ知ラニト、立チテ爪衝」(二)事ヲ行フニ、妨ゲニ會フ。障ル。蹉跌ス。新續古今集、十五、戀、五「駒ノアシモ、つまづくトテヤ、青ツヅラ、クルヨシモ知ラヌ、中トナリケン」宇治拾遺、十三、第二條「心バセアル人ダニモ、物ニつまづき倒ルルコトハ、常ノコトナリ」

〔つまづま (名) 〔端端〕 モノノハヅレ。ハシバシ。源、六、末摘花「[illegible]フルメキタル直衣、云云、イトナホナホシウ、つまづまゾ見エタル」此語、副詞ニモ用キラル。徒然草、七十三段「言言シク所所ウチオボメキ、ヨク知ラヌヨシシテ、サリナカラ、端端合セテ語ル虚言ハ、恐シキ事ナリ」

つまづり (名) 〔端摺〕 (づりハ、ずりノ訛) 端ニ摺模樣ヲツクルコト。又、其モノ。夫木抄、六、杜若「東路ノ、伊香保ノ沼ノ、カキツバタ、袖ノつまづり、色ゴトニ見ム」同、十一、萩「吾妹子ガ、袖ノつまづり、色ゴトニ、亂レテ映ル、萩ノ朝露」

つまで (名) 〔抓手〕 〔配偶手ノ義、つまハ二本組合ハスコト、でハ屋材ニ用キルモノノ意〕 (一)〔杣人ノ斧ニテ、析キテ、麤ゾ木造セシ上ニ、二本ヅツ組合ハセ、麤ゾ木ニテ結ヒタル材木 家ヲ作ル料ニ、木取リタル材。倭名抄、廿 木類「[illegible]、[illegible]稜、四方木也」神代紀、上「抓津姬命(抓取)、凡此三神亦能分布木種」萬葉集、一 長歌「田上ノ山ノ、眞木ノ裂ク、檜ノ嬬手ヲ、云云、泉ノ河ニ、持チ越セル、眞木ノ都麻手ヲ、百足ラズ、筏ニ作リ、上スラム」(二)材木ニナラヌハシクレ。

〔つまど (名) 妻戶 〔端戶ノ義〕 簷ノ戶。舞戶ニテ兩方へ開クモノ 即チ、寢殿造ナドノ廂ノ四隅ニアリテ、主客、共ニ出入スル戶口。戶ハ厚板ニテ作リ、兩開キニシテ、內外ニ金具アリ、外ノ方ヘ開キ、閉ヅル時、繫金ス。一名、小脇戶。字類抄「妻戶、ツマト」源、三、空蟬「コノタビハ、つまどヲタタキテ入ル」同、四、夕顏「西ノつまどニ出テ、戶ヲオシアケ給ヘレバ」枕草子、九、九十八段「曉、格子、つまどナドオシアケタルニ」曾丹集「知ラマシヤ、明ケニケリトモ、春ノ夜ノ、閨ノつまどニ、朝日刺サズバ」拾遺集、十三、戀、三「タタクトテ、ヤドノつまどヲ、開ケタレバ、人モコズヱ(來ずニカク)ノ、水鷄ナリケリ」宇治拾遺、三、第十五條「西ノ方ナル妻戶ロニゾ、常々人ニアヒ、モノナドイフ所ナリケリ」

〔つまどひ (名) 〔妻問〕 (一)ツマドフコト。男女、相語ラフコト。懸想。萬葉集、三 長歌「シヅハタノ、帶解キカヘテ、伏家立テ、妻問シケム、カツシカノ」(二)妻ノ許ヲ問フコト。妻ノ許ヘ通フコト。萬葉集、十三「コマニシキ、紐トキカハシ、天人ノ、妻問ノ夜ゾ、我モシヌバム」同、十八「ヤスノカハ、イ向ヒ立チテ、年ノ戀、ケナガキ兒等ガ、都麻度比ノ夜ゾ」

つまど・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 〔妻問〕 (一)男女、相語ラフ。男女、戀慕ヒテ言寄ル。萬葉集、九「古ヘノ、ササダ男ノ、妻問シ、ウナヒヲトメノ、オクツキゾコレ」(二)〔匹偶ヲ求ム、妻ヲ求ム。[illegible]、六、冬「[illegible]鳥、セトノ[illegible]、サムカラシ、[illegible]、[illegible]ナレナリ」同、四、秋、上「哀レナル、時シモ秋ノ、寐覺カナ、妻問ふ鹿ノ、明方ノ聲」拾遺愚草、中「狩人ノ、[illegible]ニタトル、春ノ日ヲ、[illegible]ふ[illegible]子ノ、[illegible]ニ立ツラム」萬葉集、九 長歌「古ヘノ、マスラヲノコノ、アヒ競ヒ、妻問ひシケム」(三)妻ノ許ヘ通フ。

つまど・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 〔褄〕 衣ノ褄ヲ手ニテ取ル。

つまど・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 〔端取〕 鎧ノ袖、又ハ、草摺ノ兩ノ端ヲ、廣サ一寸バカリ、別色ノ絲、又ハ、革ニテ緘ス。太平記、二十二、山名右衞門佐爲[illegible]敵事「洗革ノ[illegible]ノ端ノ意取リタルニ、[illegible]頭ノ胄ノ緒ヲシメ、五尺バカリナル太刀ニ振帶テ」「卯花緘ノ端取リタル鎧」

つまど・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 〔抓取〕 榑木ニ角稜ツクル。角ドル。柢

つまなし (名) 〔妻梨〕 〔妻ヲ端ニカケ、梨(無)ニ添ヘタル語〕 なし(梨)ト云フニ同ジ。鶴井集「サテハハヤ、軒ノつまなし、咲ニケリ、花ノ門ヲ、トヂテ見エツツ」

つまなし-ぐさ (名) 〔妻無草〕 蓮ノ異名。

〔つまね (名) 〔爪根〕 つまもと(爪本)ニ同ジ。後京極殿三百首「鷹ノ取ル、コブシノ內ノ、ヌクメ鳥、コホルつまねノ、ナサケヲゾ知ル」

つまねばな (名) ほうせんくゎ(鳳仙花)ニ同ジ。續猿蓑集(元祿)下「サヨ姬ノ、ナマリモユカシ、つまね花」

つまばぐし (名) 〔密齒櫛〕 齒ノ細カニ密ナル櫛。略シテ、つまぐし。

〔つまはじき (名) 〔爪彈〕 爪ヲ大指ノ腹ニカケテ彈クコト。心ニ叶ハヌ意、又ハ、賤シミ嫌フ意ヲ示ス。轉ジテ、排斥シ、

又、譏誹スルコト。指彈　[illegible]、二、[illegible]「カノ人ノ心ヲ、爪はじきヲシツツ恨ミ給フ」同、二、帚木「鬼トコソ向ヒ居タラメ、ムクツケキコト、爪はじきヲシテ、云ハムカタナシト、式部ヲアハメ憎ミテ」宇津保物語、藤原君[illegible]「市女笑ヒテ、爪はじきヲシテキコユ」土佐日記、正月廿七日「日一日風ヤマズ、つまはじきヲシテネヌ」[illegible]、四、下、非侍「直政ガ士、骨法ナシト、人皆爪彈シタリ」

つま-はづれ（ツマ-ハズレ）（名）［褄外］（褄ノサバキ方ノ義）身ノコナシ。取リマハシノ有樣。フルマヒ。擧動。本朝若風俗、貞享、西鶴、六「つまはづれユタカニ、物ゴシシトヤカニ」

つま-ばらみ（名）［代指］次條ノ語ニ同ジ。[illegible]色葉集「代指、ツマバラミ」

〔つま-ばらめ（名）［代指］〔爪孕（ツメハラミ）ノ義ト云フ〕指ノ病ナルベシ。一說ニ、指先、腫レテ化膿シ、重キハ、爪ミナ脫落スル病ナリト。ツマバラミ。倭名抄、三[illegible]瘡類「代指、豆萬波良米、無毒、由二筋骨中熱盛一所二生一也」名義抄「代指、ツマハラメ」字類抄「代指、ツマハラミ」[illegible]「つまばらみ、うむハコユビノ、卯月カナ」

〔つま-びき（名）［爪彈］つめびき（爪彈）ニ同ジ。[illegible]、四十二、紅梅[illegible]「若シト思シタル氣色ナガラ、つまびきニイトヨクアハセテ、[illegible]コシカキ鳴ラシ給フ」

〔つまびらか-ゐ（副）［詳審］〔委曲ニ通ズ〕ヒトツビトツニ、事ヲ分ケテ事ユマカニ。委細ニ。詳細ニ。クハシク。ツバラニ。ツバラカニ。ツブサニ。ツブツブト。ツバビラカニ。皇極紀、三年正月[illegible]　[illegible]議」欽明紀、十一年二月「依二奏德久貴、固德馬次文等所一上表意一　一数示、如二[illegible]中二

〔つまびらけ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［詳］ツマビラカナリ。ツバビラケシ。クハシ。[illegible]部位前紀「曲　舉一」[illegible]記、中、[illegible]「委曲、ツ波比良計苦」

つま-べに（名）［端紅妻紅］扇子ナドノ頭ノ端ヲ、紅ニ染メタルコト。又、ソノモノ。ツマクレナヰ。

つま-べに（名）［爪紅］元ハ、爪ヲ染メシガ、後ニハ、指頭ノ爪ギハニ、紅ヲサスコト。ツマクレナヰ。嬉遊笑覽、一、下、容儀「爪べにトテ、爪ノ先ニ紅ヲサセドモ、爪ヲ染ルガモトナリ」俳子俳諧集（明曆）九「爪べにヲ、サスヤ蝦ヂノ、モミヂ葉」[illegible]、冬「ワギモコガ、爪紅ノコス、雪マロゲ」女鏡（慶安）「爪ノ切リヤウ、云云、べにイカニモ薄クサシ給フベシ」

〔つま-ま（名）磯ナドニ、生フル木ナルベシ。萬葉集、十九、廿二「磯ノ上ノ、都萬麻ヲ見レバ、根ヲハヘテ、年深カラシ、神サビニケリ」夫木抄、廿九、妻摩「カミサブル、イソノつままノ、ネヲハヘテ、深クヤ人ヲ、シタニ忍バン」新六帖、六「磯ノ上ノ、ココロシテユケ、[illegible]チヤ、根ハフつままニ、[illegible]ゾツマヅク」現六帖、つまま「タヅノヰル、磯べノつまま、世世カケテ、イヅレカヒサニ、年ノヘヌラン」

つまみ（名）［撮］（一）ツマムコト。指ノ先ニテ取ルコト。又、ソノ分量。「一撮」（二）器ノ撮ミ取ルベキ處ニ、高ク付ケタルモノ。取手（トッテ）。鼻鈕「鏡ノ撮」印ノ撮」

⁂つまみ-ぐひ（ツマミ-グイ）（名）［撮食］食物ヲ撮ミテ、食フコト。又、盜食（ヌスミグヒ）スルコト。偸嘴

つまみ-だ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）撮出追ヒ出スノ輕侮語　ツカミテ、外ニ出ダス。[illegible]今國性爺、享保、近松作）二「つまみ出シテクレント、兩足、兩手ヲ引キ立ツル」

つまみ-な（名）［撮菜］はたけなノ芽生ノ、密ク生ヒタル斷ヲ、撮ミ透カシテ取レルモノ。マビキシタル菜。鷄毛菜　[illegible]

つま・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［撮］〔爪（ツメ）ヲ活用ス〕（一）爪ニテ取ル。指ノ先ヲ聚

メテ、挾ミ取ル。（二）要用ノ部ノミ、約メ取ル。摘要。撮要。（三）[illegible]　[illegible]　人ヲバカス。[illegible]　[illegible]　ル）「狐ニつままレタ」

〔つま-もと（名）［爪木］爪ノ木（モト）。爪ノネモト。ツマネ。宇津保物語、梅花笠[illegible]「散落ツルハナビラニ、爪木ヲリ、[illegible]サシテヤ[illegible]

〔つま-や（名）［妻屋］夫婦同寢ノ室。閨房。萬葉集、[illegible]　[illegible]　[illegible]

つま-やうじ（ツマ-ヨウジ）（名）［爪楊枝］さやうじ（小楊枝）ニ同ジ。[illegible]　[illegible]　爪楊枝ヲ差シコミ」

〔つま-やしろ（名）［端杜妻社］[illegible]　小サキ社。夫木抄、[illegible]　ノ、つまやしろ、コヤ花ススキ、穗ニ出ヅル神」

つま-やり（名）［爪遣］（一）爪試スコト。（ならすノ條ヲ見ヨ）（二）ツマヨルコト。卽チ、弓ノ矢ヲ、左手ノ爪ノ甲ニ置キテ、右手ニテ、コレヲ[illegible]、ソノ曲直、硬軟ヲ試ムルコト

つま-よ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（自動、四）［妻呼］獸、蟲ナドノ、ツマヲヨブ。[illegible]　ノブ山、[illegible]　ソニヤハ見ル」永久四年百首、谷川ノ、アサヤ[illegible]トニ、ミガクレテ、妻よぶ蛙（カハヅ）、コヱキコユナリ」續古今集、十八、雜、中「ミナト風、サムクフクラシ、ナゴノ江ニ、つまよびカハシ、鶴サハニナク」

つま-よ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［爪撚］弓ノ矢ヲ、左手ノ爪ノ上ニ載セ、右手ニテ、コレヲ[illegible]、ソノ曲直、[illegible]ヲ試ミル。宇治拾遺、三、第一條、[illegible]ノ内ニ、矢ツつまよ[illegible]　テ」平家物語、十一、遠矢條「此矢、只今沖ヨリ射ノ

[illegible]

つまら-ぬ　[illegible]　又、困リタリ。ツマラナシ。[illegible]　[illegible]　[illegible]

つまり（名）［詰］（一）ツマルコト。ツマリ。（二）[illegible]　[illegible]　[illegible]

つまり（副）［詰］[illegible]

つま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［詰］[illegible]

〔つまるごころえ（副）[illegible]

つまなり（名）［端折爪折］[illegible]

つまなりがさ（名）［端折笠爪折笠］[illegible]

ノ端ヲ、下へ折リ曲ゲタルモノ。

つまをり-がさ（名）［端折傘］［爪折傘］　又、ツマヲリタテガサ。長柄ノ傘ノ、骨ノ端ヲ、内へ爪折リ作レルモノ。官人ノ用トス。（從四位以上）我衣（文化、曳尾庵）「爪折ノ傘出ヅル、コレ、カリソメナガラ從四位以上ノ傘ニテ、平人不レ用モノナリ、云云、白張」

つまを・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［端折］　端ヲ折ル。ハシヲル。

つみ（名）［罪］〔障ノ約、愼むノ意〕（一）人ノ惡行、穢レ、禍ナド、スベテ、厭ヒ惡ムベキ、凶シキ事ノ稱。大祓祝詞「天津罪止、畔放、溝埋、樋放、頻蒔、串刺、生剝、逆剝、屎戶、云云、國津罪止八、生膚斷、死膚斷、白人、胡久美、己母犯罪、己子犯罪、云云、許許太久乃罪出武」（二）專ラ、政府ノ法律ヲ破ル所行。源、十三、明石「罪ニオチテ、都ヲ去リシ人ヲ、三年ヲダニ過サズ、ユルサレンコトハ、世ノ人モ、イカガ言ヒ傳へ侍ラムナド」（三）神ニ對シテ、恐ルベク愼ムベキコトヲ、犯シタルコト。（四）又、佛ノ教法ヲ破ル所業。後ニ、其罰ノ果ヲ受クトス。罪業　源、廿二、玉鬘「イトつみフカキ身ニテモ、カカル世ニサスラフラン」金葉集、三、秋、下「イノチヲモ、つみヲモ露ニ、タトヘケリ、消エバトモニヤ、消エントスラン」（五）人ニ對シテ、道德ニ背キタル行爲。

つみ（名）柘〔食ノ義、蠶ノ、其葉ヲ食フモノノ意ト云フ〕やまぐは（山桑）ニ同ジ。倭名抄、廿、木類「柘、豆美、」字鏡、八「柘、豆美乃木」萬葉集、三、廿九「此夕、柘ノ左枝ノ、流レ來バ、梁ハ打タズテ、取ラズカモアラム」同、十、十八長歌「神南備山ニ、アケクレバ、柘ノサ枝ニ、タサレバ」

つみ（名）［抓］　ツメルコト。ツネルコト。つむ（抓）ノ條ヲ見ヨ。古事記、中（應神）二十「ヌヒル都美ニ、ヒル都美ニ、ワガ行ク道ノ」

つみ（名）［摘］　ツムコト。ツマムコト。ツマミトルコト。萬葉集、八、五十「春ノ野ニ、須美禮採ニト、來シ吾ゾ、野ヲナツカシミ、一夜寢ニケル」

つみ（名）［積］　船、又ハ、車ナドニ載セ込ムコト。又、其物。山家集、下「京ヨリ商人ドモノ下リテ、ヤウヤウノつみノ物ドモ商ヒテ」

つみ（名）［錘］〔摘ノ義〕　つむ（紡錘）ニ同ジ。倭名抄、十四、織紝具「錘、紡車、收レ絲者也、字亦作レ槌、都美」

つみ（名）［雀鷂］　鷹ノ雌。えっさい（悦哉）、及、たか（鷹）ノ條ヲ見ヨ。新六帖、二「トヤガヘル、つみヲ手ニスヱ、粟津野ノ、鶉カラント、此ノ日クラシツ」

つみ-いし（名）〔積石ノ義カ、或ハ詰石カ〕（一）積ミ重ネタル石。（二）〔又、ツミシ。ツメイシ。イシズヱ。ツミシ。柱礎。倭名抄、十五、居宅具「磌、柱礎、都美以之、一云、以之須惠」名義抄「磌、ツミイシ、礎、ツミイシ、ツメイシ、イシスヘ」

つみ-いし（名）［積石］　罪人ノ拷問ノ一。坐セシメテ、膝ノ上ニ、石ヲ積ムコト。

つみ-いれ（名）［抓入］　捏ネタル小麥粉、又ハ、擂リタル魚肉ナドヲ、少シヅツ摘ミ取リテ、汁ニ入レテ煮タルモノ。「うどんノ抓入」「鰯ノ抓入」

つみ-おか・す（動）　おく（壓）ノ條ヲ見ヨ。

つみ-きん（名）［積金］　金錢ヲ、時時、若干ヅツ積ミ貯フルコト。又、其金錢。ツミキン。ツミタテキン。貯金。

つみ-くさ（名）［摘草］　春ノ野ニ出デテ、蕨ノ芽、薺、餅草、土筆、芹、草花ナドヲ摘ミテ遊ブコト。蹈青　米爺全集「つみ草ヤ、ヨソニモ見ユル、母ムスメ」

つみ-し（名）〔つみいし（積石）ノ略〕　いしずゑ（礎）ニ同ジ。ツミイシ。推古紀、元年正月「以二佛舍利一、置二于法興寺刹柱礎中一」

つみ-しろ（名）［罪代］　ツミノアガナヒ。宇津保物語、藏開、上「里ヨリ待遠ナル心地セラルラムモノヲ、ソノつみしろニハ、ヨロコビヲシテヨ」

つみ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［罪］　罪ニ當テ、刑ニ行フ。ツミナフ。罰ス。神武紀、四年六月「誅」皇極紀、四年六月「誅」宇津保物語、國讓、上、下、七十九「御返リキコエズトテ、御使ヲ罪シ給ハバ、ワガタメニゾアラン」

つみ-た（名）［摘田］　田ノ、水深クシテ、田植スル能ハザル處ニ、苗代ヲ起サズ、直ニ穀ヲ蒔キツケテ、苗ノ七八寸ニ至レル頃、其繁キ處ヲ摘ミ去リテ、其餘ヲ長ゼシムルモノ。卽チ、實蒔シテ稻ヲ育ツル田。地方凡例錄、二「植田、蒔田、摘田共、田ノ名目ニモ位ニモ非ズ、仕形之違ヒタルヲ云フ」

つみ-た・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）［積立］　次第ニ、積ミ貯へ行ク。

つみ-たて（名）［積立］　ツミタツルコト。

つみ-つくり（名）［罪作］〔罪ほろぼしニ對ス〕（一）罪ヲツクルコト。罪トナルワザヲシテ、人ヲ欺クコト。榮花物語、十六、本雫「イドミワザノヤウニテ、ナカナカつみつくりニ見エタリ」（二）人（禽獸モ）ヲ殺シ、又ハ、苦シムルコト。室町殿日記、大森傳七切死「寄ルホトノ奴バラ討タレテ、云云、傳七今ハ罪つくりニ何カセント、出居へフット走リアガッテ」

つみ-とが（名）［罪科］　つみト、とがト。ザイクワ。忠見集「つみとがハ、日ニシ見エネバ、フル雪ノ、消エヌ朝ヲ、見ルバカリナリ」謠曲、「罪ヲ助ケテタビ給へ、イヤ罪とがハ人間ニアリ」

つみ-な（名）［摘菜］　はたけなノ芽出シヲ、摘ミ取レルモノ。

つみな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［罪］　罪ニ行フ。罪ス。名義抄「誅、ツミナフ」天武紀、十年九月「汝逆、天無道、欲傾王室、故擧兵討之」神代紀、下「誅、不順鬼神等」同卷「惟先誅、此神、然後下撥葦原中國」

つみな・ふ・フル・フレ・へ・へ・へヨ（他動、下二）［罪］　罪ニ會ハス。罪ス。景行紀、四十年十月「將誅、暴虐首」武烈即位前紀「長好刑理、法令分明、日晏坐朝、幽枉必達、斷獄得情」政事要略（惟宗允亮）八十二「法律乃任爾罪奈倍給不倍之」

つみ-に（名）［積荷］　舟、又ハ、車ナドニ積メル荷。積載貨物。載貨。

つみ-は（名）［鐔］〔留刃ノ轉、刃ヲ止ムル意〕　つば（鐔）ノ古言。其條ヲ見ヨ。倭名抄、十三、八、弓釣具「鐔、都美波、刀鼻也」神代紀、上、十二「復劍、鐔垂血激越」

つみ-びと（名）［罪人］　罪アル人。トガニン。罪人。拾玉集、二「つみ人ハ、法ノ御舟ノ、ナカリセバ、クルシキ海ヲ、ワタラマシヤハ」

つみ-ほろぼし（名）［罪滅］〔罪つくりニ對ス〕　佛敎ニ、善根ヲ行ヒテ、罪業ヲ消滅セシムルコト。滅罪　娥歌加留多、正德、近松作、五「中宮様ノ御慈悲、御恩報ジ、罪ほろぼし、出家、沙門トモナリハセズ」

つみ-もの（名）［積物］（一）祭禮ノ飾、又ハ、芝居興行ノ時、役者へ贈物トシテ、酒樽、餅、菓子、蒸籠ナドヲ、路傍ニ高ク積立ツルモノ。（二）スベテ、積ミカサネタルモノ。

つみ-やぐ（名）［積夜具］　江戶吉原ノ遊郭ニテ、客人ガ、娼妓ノ馴染ノシルシトシテ、新調ノ夜具ヲ贈物トシ、コレヲ店頭ニ飾リ積ミアゲタルモノ。文政の川柳「仲ノ町、簾デカスム、夜具ノ富士」清元、梅の春「辨天

サント添臥ノ、花ノ錦ノ飾やぐ、ハタチ計リモ積ミ重ネ、蓬萊山トイハフナル、フジヲセナカニ」

つみゆみ (名) [柘弓] ヤマグハニテ、作レル弓。兵庫寮式「[illegible]、柘弓一張、長七尺六寸、[illegible]、柘、[illegible]、之」

つみわた (名) [摘綿] 眞綿ヲ摘ミヒロゲタルモノ。小袖ノ綿入ナドニ、入ルル用トス。傾城酒呑童子(享保、近松作)三「人ノ小娘失ヒテ、未來ノつみ綿、親ノ恨ミハ、サナガラ[illegible]ニテ、首縮メラルル思ヒナリト、涙ヲ流シ」

つみゑ (名) [柘殖] 〔ゑハげノ義、伊賀ニテ木ヲ毛ト云フ〕黄楊ノ樹ノ稱。倭名抄、六、伊賀國八十「柘殖、ツミエ、ツゲ」

つみゑ (名) [摘餌] 鳥ノ、ツイバミ食フ餌。よぶこどり、上「つみゑト云フハ、粟、[illegible]、[illegible]、米、エノゴマ、クルミ、此ノ類ニテ」

つむ (名) [紡錘] 〔つみノ轉、摘ム意。沖繩ニテつみト云フ〕(一)古名、ツミ。紡車ノ具。太キ鐵針ヲ竿ニ插シタルモノ。又、紡車ニ用ヰル鐵串、綿ヲ抽キテ、絲ニ紡ギ出シテ卷ク、又、ツモ。闘雨ニ、絲卷、いとよりぐるま(綿搓車)ノ條ヲ見ヨ。(二)うまおひむし(馬追蟲)ノ異名。其條ヲ見ヨ。

つむ (名) [紬] 大紬ノ古言。名義抄「紬、ツム、フネ、フナバタ、トモ」[illegible]古記、廿六年八月、遣二河邊臣於安藝國一、令レ造[illegible]」

つ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [積] 次第ニ、高ク重ナル。ツモル。タマル。古今集、十七、雜、上「笹ノ葉ニ、降リ積む雪ノ、末ヲ重ミ、本クダチユク、ワガ盛リハモ」[illegible]千載集、十、[illegible]「[illegible]積めル、人ヲシ渡ス、舟ナレバ、西ノ流レニ、棹ヤサヽランニ」古今集、一、春、上「降リ積みシ、高嶺ノ深雪、融ケニケリ、キヨタキ川ノ、水ノ白浪」

つ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [積] (一)次第ニ、高ク重ヌ。上ニ上ニト置ク。次第ニ盛リアゲ[illegible]。[illegible]記、十一年十[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]餘ニ」萬葉集、十六、廿「アラキ田ノ、シシ田ノ稻ヲ、クラニ擧[illegible]テ、アナウタウタシ、吾ガ戀フラクハ」謠曲、百萬「力車ニ七車、積むトモ盡キジ、重クトモ」(二)運ビテ載ス。[illegible]、二年九月「自二香山西一至二石上山一、以二舟二百隻一、載二石上山石一、順レ流控二引於宮東山一」萬葉集、四、[illegible]「[illegible]、ナナ車、積みテ[illegible]フラク、吾ガ心カラ」「[illegible]ヲ[illegible]ニ積む」(三)增ス。[illegible]ス。「[illegible]ヲ積む」「功ヲ積む」(四)集メ儲フ。[illegible]ム。[illegible]、三年十一月「穿レ池[illegible]レ城、起二[illegible]儲一[illegible]、[illegible]、[illegible]將三五十兵士一、[illegible]身出入」「金錢ヲ積む」

つ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [抓] 〔爪ノ活用〕爪ニテ、膚ヲヒネル。爪ト爪トニテ、強ク挾ム。ツメル。ツネル。字鏡、[illegible]「抓、豆牟、掐、以レ爪取也、豆牟」千載集、十八、雜、下、女房足ヲつみ侍リケレバ「人ノ足ヲ、つむニテ知リヌ、我ガ方へ、ふみオコセヨト、思フナルベシ」夫木抄、十二、鹿「身ヲつめバ、アハレトゾ聞ク、夜モスガラ、タタズム[illegible]ノ、[illegible]ノ[illegible]」[illegible]、[illegible]十九、[illegible]「手ヲ、イタク、つませ給ヘルコソ」同、七、紅葉賀「[illegible]ヲトラヘテ、イトイタウつみタマヘレバ」後拾遺集、廿、[illegible]、女ノ[illegible]、[illegible]ナテ、[illegible]リ、イトアサマシク、つみケル」寶方集「[illegible]、云云、女親開キツケテ、イミジウ[illegible]チテ、つみナトスルト聞ク」

つ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [切] キル。短クスル。カル。[illegible]五元使「寶永二年[illegible]、髮ヲつむ」

つ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [摘] 〔前前條ノ語ノ轉〕指ニテ取ル。撮ミ去ル。萬葉集、廿、長歌「御裳ノ裾、都美アゲ掻キナデ」古今集、二、春、下「[illegible]タメ、春ノ野ニ出テ、[illegible]つむ、我ガ衣手ニ、雪ハフリツツ」「綿ヲ摘む」「菜ヲ摘む」

つ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [齧] 向齒ニテ噛ム。カジル。[illegible]フ。カブル。[illegible] 字[illegible]、[illegible]、ツム、カム」[illegible]

川もヅ[illegible]ミツ、[illegible]、川[illegible]、[illegible]、[illegible]、廿八[illegible]、[illegible]氣たきもの「サヤウニ[illegible]ガチナル男ノ、[illegible]つみタル、[illegible]、[illegible]リヤウノ[illegible]ハ、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]、[illegible]ヘ[illegible]トモ[illegible]」

つ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [詰] ツマル。セマル。「[illegible]ノ[illegible]、[illegible]」

つ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (自動、下二) [詰] 〔職務一方ニ打掛リ居ル意カ〕(一)勤メニ出ヅ。常直。[illegible]、[illegible]ノ中、[illegible]ニつめテアレバ、心ガ何トヤラ畑シテゴザル」「役所ニ詰む」(二)ユキツマル。逼迫スル。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]レクン、[illegible]ノ[illegible]ハ[illegible]

つ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [詰] (一)集フ。入ルル。込ムル。滿ス。オシコム。隙ヲ塞グ。塡。落窪物語、[illegible]「ヤリ戶、云云、ウチタタキ、オシヒケド、內外ニつめテケレバ、ユルギダニセズ」(二)[寬ギ無クス。]迫ムル。究。促迫。伊勢物語、九十五段、オボツカナク思ヒつめタルコト、[illegible]、[illegible]ケレバ」謠曲、[illegible]、太刀ウチ合セ、つめツ開キツ戰ヒシガ」「言ヒ詰む」追ヒ詰む」詰め寄ス」[illegible]「將棋ヲ詰む」(三)約メ縮ム。短ク小サクナス。縮。約。「丈ヲ詰む」目ヲ詰む」(四)其事ニノミ打掛リ居ル。[illegible]、[illegible]クル「[illegible]」(五)止ム。塞グ。屏息「息ヲ詰む」

つ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [積] [illegible] つむ[集]ノ[illegible]、[illegible]リズマニ、[illegible]刈りつむる、物語ソハ」新撰吉今集、十九、[illegible]、[illegible]、[illegible]めテダニ、[illegible]ミヤセム」拾遺集、十七、[illegible]、[illegible]山木ツ、[illegible]ナクナニ、伐リつめテ、[illegible]サンコフル、ソノノ[illegible]、[illegible]、[illegible]キ、[illegible]ケム春日ハ、身モヤ遠レム」

つむがりのたち (名) [illegible] 〔つ

むがりハ、利ク截ル狀ヲ云フ語ニテ、今、づかりナド云フ意ナリトゾ〕[illegible]劍ノ利キヲ、直ヶテ云フ稱。利劍。古事記、上、[illegible]、[illegible]、[illegible]

つむぎ (名) [紬] 〔紡ギノ義〕[illegible]、又ハ、粗ナル繭ヨリ、紡ギ取リタル絲、即チ、つむぎいとニテ、織レル絹布。[illegible]、[illegible]シクテ、つむぎノ衣ノ[illegible]、[illegible]國産、廿七、[illegible]、[illegible]、[illegible]

つむぎおり (名) [紡織] ツムギ絲ニテ、[illegible]

づんぎり (名) [頭切] 〔頭切ノ音便〕すんぎり(寸切)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]田門、[illegible]、ヅギリ」[illegible]

つ・む・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) [紡] 〔摘ミ績ぐ意カト云フ〕[illegible]、又ハ、綿ヲ、紡車ニ[illegible]引キ[illegible]、[illegible]キテ絲トス。[illegible]

つむくり (名) [獨樂] 〔旋ノ[illegible]、つんぐり、こまつぶり(獨樂)ノ條ヲ見ヨ。今、陸中國南部ニテ、ツングリ。

づんぐり (名) 物ノ丈ノ短短ナルコト。ズングリ。ズングリムックリ。

づんぐりと (副) [illegible]

つんさ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [劈] [illegible]

破ル」昔松日、男ニ保東圻意ニ有レ餘ー　太平記、七、新田義貞賜ニ綸旨ニ事「龍伯公ガ力ヲ不レ得バ、山ヲモ導キ難シ、餘ニ爲方ヤナカリケン」

つむぢ (名) 旋風 〔つむぢかぜノ略〕 四方ヘメグリテ吹ク風。つむぢかぜ(旋風)ノ條ヲモ見ヨ。萬葉集、二ノ十四 長歌「ミ雪フル、冬ノ林ニ、飄カモ、イマキワタルト、思フマデ」

つむじ (名) 旋毛廻毛 馬ナドノ毛ニ、旋リ生ヒテ、渦ノ形シタル處。人ナルハ、頂ノ百會ノ邊ニアリ。ツジ。倭名抄、十一 七 馬體「徊毛、旋毛、都無之」 姓氏錄、左京神別、下、天神、額田部湯坐連「獻ニ御馬一疋ニ額有ニ町形廻毛ニ」

つむじ (名) 十字 〔前條ノ語ト通ズ〕 今、約メテ、辻ト云フ。其條ヲ見ヨ。倭名抄、十八 道路類「十字、云云、俗用ニ辻字ニ一本、都无之」 名義抄「辻、ツムジ」

つむぢかぜ (名) 旋風 〔つむハ屯ノ意、ぢハあらぢ(暴風)ノぢナリ〕 地球ノ一局部ニ於テ、急ニ低氣壓ノ生ズル時、其周圍ノ空氣ガ氣壓ノ平衡ヲ得ントテ、急激ニ此點ニ向ヒテ、螺旋狀ニ吹キ來ルヨリ起ル風。其方向ハ、北半球ニテハ、時計ノ針ノ廻轉ト反對ニシテ、南半球ニテハ、コレト同一方向ナリ。暴風ノ旋リテ吹クモノ。略シテ、ツムジ。又、ツジカゼ。センプウ。倭名抄、一ニ 風雪類「飄、飆、豆無之加世」 字鏡「飄、飆、豆牟志加世」 神功攝政前紀「自ニ橿日宮ニ遷ニ于松峽宮ニ時、飄風忽起」

つむじまがり (名) 旋毛曲 〔髪ノ旋毛ノ、正頂ニハヅレテアル者ハ、心拗ケタル象トス〕 心ノネヂケタル人ヲ云フ語。カタイヂナルコト。エコヂナルコト。又、其人。スネモノ。執拗 偏性

つんだす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 突出 つきだす(突出)ノ音便。其條ヲ見ヨ。心中宵庚申(享保、近松作)上「今日君ガオ情ヲつん出シテ、未來デハ奴ガレメヲ、御念者ニナサル」

つんつん (副) (一)人ノ大イニ、スマス狀ヲ云フ語。「つんつんト澄マシテ居ル」(二)無愛想ノ狀、又、多少怒リヲ含ミテ、物ヲスル狀ニ云フ語。「つんつんトシテ居ル」

づんづん (副) (一)ヅキヅキト、痛ムサマニ云フ語。ヅキンヅキン。(二)重キモノノ、ヒビク狀ニ云フ語。

づんづんと (副) モノノ進ム狀ニ云フ語。今物語「イトド恐ロシクテ、づんづんとカミヘヲドリタルナリ」 堀河百首「相坂ノ、關路ニ今日ヤ、秋ノ田ノ、穗坂ノ駒ヲ、づむづむと引ク」(ツブツブナリ)

づんづらみじかい (形) 約シク短シ。

つんつるてん (名) 〔天鈎るカ、約シクアルノ意〕 着物ノ丈ノ短クテ、脚ノアラハレテ居ルコト。ツルツルテン。テンツルテン。ツッテンテン。チンチクリン。(京都)テンツルテン。チョンチョラチョン。(大阪)ツンツク。(仙臺) おらが春(文政、一茶)「タノモシヤ、てんつるてんノ、初袷」 新著聞集(寶永)僧辯世「世ノ中ハ、シャノシャノ衣、つってんてん、デクル坊主ニ、殘ル松風」 史記抄、文明「長袖、云云、てんつるハギナ者ノ舞ハ見ラレヌゾ」 東海道名所記(萬治)一「紙子一重、帷子一枚、てつるてんノ獨身トナル」

つんと (副) (一)聞入レヌサマシテ、餘所ヲ見ル狀ヲ云フ語。「つんとスマス」(二)ツレナキ狀スルニ云フ語。(三)クント、鼻ニ感ズル狀ニ云フ語。(四)ヅント、頭ニ感ズル狀ニ云フ語。「コノ酒ハ、頭へつんと來ル」

づんと (副) 〔づっとノ音便〕 至極。烈シク。平治物語、二、待賢門軍事「熊手ノ柄ヲ、手モト二尺許リ置イテ、づんと切ッテ落サレケレバ」

づんどぎり (名) 〔頭筒切ノ音便〕 又、ズンギリ。ヅンギリ。木ノ幹ヲ、中程ヨリ直截スルコト。又、ソノモノ。

ツンナン (名) カタツブリ(蝸牛)ノ方言。(琉球) 其條ヲ見ヨ。

つんぬき (名) 突拔 つきぬき(突拔)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

つんぬく・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 突拔 つきぬく(突拔)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

つんぬける (動) 突拔 つきぬく(突拔)ノ音便ノ口語。其條ヲ見ヨ。

つんのめす (動) 〔つんハ、語意ヲ強ムルニ添ヘタル語、つきノ音便〕 のめすヲ強メテ云フ口語。前へ倒ス。

つんのめる (動) 〔つんハ、語意ヲ強ムルニ添ヘタル語。つきノ音便〕 のめるヲ強メテ云フ口語。前へ倒ル。

づんばい (名) 飄石 〔飛礫石ノ訛ニモアラムカ〕 竿ノ端ニ綵ヲ付ケ、コレニ小石ヲ掛ケテ、礫トシテ投ゲ付クルモノ。フリヅンバイ。易林節用集(慶長)上、器財門「時石」 貞德獨吟千句「ヤミヤミト、打タレニケリナ、花ノ雨、松ニ礫ヲ、ふりづばい桃」 寛永發句集「礫ニテ、花ノ鳥打テ、ずばい抛」

つんばう (名) 聾 次條ノ語ヲ見ヨ。

つんぼ (名) 聾 〔聞入レズ、つんトシテ居ル坊ノ意〕(一)ミミシヒ。不具ノ名。耳ニ聲ヲ聞クベキ、感覺ヲ失ヘルモノ。ツンバウ。聾者 狂言記、聾座頭「身共ノ仕フ者ハ、つんぼデゴザル」(二)烟管ニ、ヤニノ附キテ通ラヌコト。誹諧雜巾、延寶「つんぼキセル、甲斐ヤナカラム、苦煙草」 [illegible]發句集、寛永「次第次第ト、ツマル世ノ中」タバコヲバ、飲メドサラヘヌ、キセル竹」

つんぼがさ (名) 壺傘 〔壺屋傘ノ訛カ〕 だいこくがさ(大黒傘)ノ條ヲ見ヨ。

つんぼさぢき (名) 聾棧敷 モト芝居ニテ、向正面棧敷最後方ニアル入込ノ觀覽席ノ俗稱。追込トモ云フ。

つんまはす (動) 〔つんハ、語意ヲ強ムルニ添ヘタル語。つきノ音便〕 まはす(廻)ト云フヲ強メテ云フ語。

つんもる (動) 積 つもる(積)ノ音便。奴俳諧「雪ノつんもる、此ノ屋形船」

つむり (名) 頭 〔圓ノ轉ト云フ〕 つぶり(頭)ニ同ジ。カウベ。カシラ。頭顱 狂言記、六人僧「死ンデイラザルコト、つむりヲ剃ッテナリトモ、念佛ヲ申シテ御トムラヤレ」

つむれ (名) 培塿 〔土群ノ略ト云フ〕 又、つぶれ。土ノ小高クナレル處。小サキ岡。倭名抄、一 六 田園類「培塿、田中小高也、豆牟禮」 字鏡 三十六「坻、乎加、又、豆牟禮」

つむれいし (名) 礫 つぶて(礫)ニ同ジ。名義抄「礫、ツムレイシ、タブテ、タヒイシ」

つめ (名) 爪 〔端ノ意、橋端ヲはしづめ、軒端ヲのきのつまト云フ類。沖繩ニテつみ〕(一)指ノ尖ニ生ズル堅キ角質ノモノ。倭名抄、三 八 手足類「爪、豆米」 同、十八 廿 毛群體「蹄、爪甲、豆米」 竹取物語「長キ爪シテ、マナコヲ攫ミ潰サン」 土佐日記、十二月廿九日「爪イト長クナリニタルヲ見テ、日ヲ數フレバ、今日ハ子ノ日ナリケレバ切ラズ」(二)琴爪ノ略。其條ヲ見ヨ。假甲 大鏡、下、道長「琴ヒク人ハ、別ニつめ作リテ、オヨビニサシ入レテヒクコトニテ侍リ」

シ」(三)鉤、牙籤ノ類。スベテ、物ヲ鈎リカケ、又ハ引キカクルモノノ稱。鉤

つめ (名) [詰端頭] (一)詰ムルコト。好色一代女(貞享、西鶴)二「松ノ風、江戸ヲ鳴ラサズ、東國ニハ年、或大名ノ御前」(二)〔ツマ、ツメ〕端。際。萬葉集、九「大橋ノ、頭ニ家アラバ、心悲ク、獨リ去兒ニ、屋戸借サマシヲ」催馬樂、竹河「竹河ノ、橋ノ川女ナルヤ、橋ノ川女ナル、花園ニ」天智紀、九年五月「打橋ノ、都梅ノ遊ビニ、出デマセ子」參考盛衰記、劒卷「一條堀川ノ戻橋ヲ渡リケル時、東ノ詰ニ齡、廿餘ト見エタル女ノ」「橋ノ北詰」(三)上客。末席。末座。(茶湯ニ)「茶湯ノつめ」(四)年增女ノ稱。(腦詰ノ義)丹波與作(寶永、近松作)中「枕ノオ伽ガ御用ナラバ、振袖ナリトつめナリト、足サスッテ腰打テ」(五)廁ノ稱。(江戸獄屋ニテ)轉ジテ、大便ヲ云フ。

つめ-あと (名) [爪痕] (一)モノニツキタル爪ノ痕。(二)爪ニテ搔キタル疵アト。

つめ-あひ ツメ・アイ (名) [詰合] (一)同ジ所ニ、共ニ勤メニ出デ居ルコト。(二)論ジ合フコト。狂言記、富士松「汝トソレガシト、千日千夜、詰合ひヲ云ウタトモ、埒ハアクマイ」

つめ-いし (名) つみいしノ條ノ(二)ニ同ジ。イシズヱ。天治字鏡、五「碩、柱下石、豆女石、礩、豆女石」字鏡集「礎、ツメイシ、ツミイシ、イシダタミ」字類抄「礎、柱礎、イシズヱ、ツメイシ」榮花物語、十七、音樂「瑠璃ノ壇ノ内クヱリ、瓦光リテ、空ノカゲ見エ、大[illegible]ノつめ石、金銀ノ礎、金色ノ[illegible]」

つめ-いん (名) [爪印] 文書ノ中ノ己レガ名ノ下ニ、拇指ノ爪ニ墨シテ印シテ證トスルコト。又、其印。婦人、罪人ナドノ、實印ナキ者ノスルコトナリ。爪判。[illegible]、申渡、其方儀、[illegible]ニオキテ差出ス口書ニ、[illegible]、同イタシ差出候[illegible]之儀」

つめ-えり (名) [詰襟] 「詰襟服ノ略」洋服ノ襟ヲ、立テテ仕立テラレタルモノ。タチエリ。「詰襟ノ洋服」「詰襟ヲ着ナ」

つめ-か・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) [詰掛] (一)近ク迫マリ寄ル。ツメヨス。[illegible]篇(享保、近松作)下「互ヒニ柄ニ手ヲカケナガラ、云云、詰めかけ詰めかけ」(二)多クノ人ニテ、オシヨス。ツメヨス。

✣✣**つめ-か・ける** (動) 前條ノ語ノ口語。

つめ-きり (名) [詰切] ツメキルコト。休ミナク勤メニアルコト。常詰。常直。

つめ-きり (名) [爪切] 次次條ノ語ノ略。本朝二十不孝(貞享、西鶴)五「母モ今ハ貴忍ナラズ、手許ニアリシ爪切取ッテ起タレシヲ」

つめ-きり-がひ ツメ・キリ・ガイ (名) [爪切貝] 赤貝ノ一種。さるぼほ(猿頰)ノ條ノ(四)ニ同ジ。

つめ-きり-ばさみ (名) [爪切鋏] 爪ノ先ヲ切リ取ルニ用ヰル鋏。ツメトリバサミ。略シテ、ツメキリ。又、ツメトリ。

つめ-き・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [詰切] 休ミ無ク勤メニアリ。常直。

つめ-き・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [詰切] 詰メコミヲハル。殘ラズ詰メコム。

〔**つめ-く・ふ**・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [爪食] 爪ヲ齧ム。臆シテ恥ラフ。恥ラフニスルワザナリ。童ノハニカムニスルワザナリ。源、四十三、竹川「[illegible]ニ和琴ヲ彈カシムル所「アマエテつめくふべキコトニモアラズヲト思ヒテ」同、二、帚木「ナマ人ワロク、爪くはルレト[illegible]」

つめ-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) [詰込] (一)入レ得ラルルダケ、詰メ入ル。(二)飲食物ヲ食フ。又、[illegible]ヲ食フ。

つめ-しゅう (名) [詰衆] (一)室町時代、番衆ノ一。毎夜、將軍ニ侍近シタルモノ。若シ將軍タルベキモノ、幼稚ナルトキハ、詰番ノ中ニテ、器量アルモノ、此職ヲ補ストゾ。文安年中御番帳、公方樣御番衆(自一番至五番)「詰衆、一色宮内少輔、大内修理亮、陶山[illegible]」[illegible](二)關ケ原時代[illegible](三)江戸時代ノ詰衆[illegible]

つめ-しょ (名) [詰所] (一)詰ムル席。人ノ多ク集フ所。(二)役人ナドノ勤メニ出ヅル所。直所。

つめ-そで (名) [詰袖] [illegible]ヲ縫ヒ合ハセタル短キ袖。又、ソレヲ着タル人。新永代藏(寶永、北條團水)六「娘ノ振袖ノトル名ヲツケテ、美形、つめ袖ニ襲サスラセ」

つめ-た (名) [冷ノ義] 麻布ノ夜具。又ハ、綿入。布子、及、おひえ(御冷)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

つめ-た-がひ ツメ・タ・ガイ (名) つべたがひニ同ジ。うつぼがひ(靭貝)ノ條ヲ見ヨ。

つめ-た・し・キ・ケレ・ク・ク (形) [冷] 「爪痛し」ノ約。ヒヤヤカナリ。ツベタシ。字類抄「冷、ツメタシ」下學集、六、冬「霜ヲ踏ンデ、ワレニ作フ冬ノ月、風ヤ身ニシム、霜ヤつめたき」[illegible]一、上「ヒトヘモナクテ、イトつめたければ、ヒトヘツ脫ギシテ[illegible]」

つめ-ちゃ (名) [詰茶] [illegible]

つめ-つめ (名) [抓抓] 小兒ノ語。[illegible]

つめ-とり (名) [爪取] [illegible]

つめとり-ばさみ (名) [爪取鋏] つめきりばさみ(爪切鋏)ニ同ジ。

つめ-の-あか (名) [爪垢] (一)爪ノ間ニ、[illegible](二)物ノ少ナキ[illegible]

つめ-はん (名) [爪判] つめいん(爪印)ニ同ジ。[illegible]

つめ-ばら (名) [詰腹] [illegible]

つめ-びき (名) [爪彈] [illegible]

つめ-びらき (名) [illegible]

前ヨリ退ク時、立ッ前ニ、左カ右カヘ、身ヲ開キマハリテ、退キ下ルコト。[illegible] (二)談判。[illegible] 好色一代女[illegible]、[illegible]ナルつめびらき、少シ物モツケ、[illegible]カシク見セ[illegible]享保、近松作)上「ノフ、オ傾城ノ詰め開きハ、ムヅカシサウナ事ヤトテ」

つめ-ひら・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 詰開 ツメヒラキヲナス。談判ス。心中二枚繪草紙(寶永、近松作)上「默ッテ居ルハヒケタ事、摑ガッテ一ツ詰め開かント、脇差オットリ出ントスレバ」

つめ-よ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(自動、下二) 詰寄 つめかく(詰掛)ニ同ジ。

つめ-らう(名) 詰牢 辛ウジテ、身ヲ容ルル程ノ狹キ牢。太平記、十三、北山殿謀叛事「一間ナル所ヲ詰牢ノ如クニ拵ヘテ、押籠メ奉ル」

つめ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 抓 〔爪ヲ活用ス〕抓むニ同ジ。ツネル。浮世風呂(文化、三馬)二編、上「吾身ヲつめつテ見ネバ、他ノ痛サガ知レマセンワナ」

つめ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 續 ツヅクル。スキマナクスル。

✣つ・める(動) 詰む、集む、(下二)等ノ口語。

✣つめれんげ(名) 爪蓮華 草ノ名。形、いはれんげニ似テ、葉尖リ、多ク聚リ重ナル。葉ノ長サ二寸許、幅三分許、甚ダ厚クシテ、鳳尾ノ如ク、淡綠ナリ。春以後、莖ヲ出ス、高サ七八寸、白花、長穗ヲナシテ開ク。山中、原野ニ生ジ、人家ニ盆栽ニス。或ハ、古キ瓦屋ノ上ニモ自生ス、因リテ、かはらまつノ名モアリ。瓦松 昨葉何草 向天草

つも(名) 紡錘 つむ(紡錘)ニ同ジ。

✣つもごり(名) 晦 つごもり(晦)ノ訛。

(上方)其條ヲ見ヨ。生玉心中(正德、近松作)中「[illegible]ハつもり[illegible]、カフ、[illegible]ニハ[illegible]ラ[illegible]」

つもじ(名) 鶫 〔おもじ(鯉)ト同趣ノ語。母、及、文字ノ條ヲ參見セヨ〕 鶫ノ女房詞。つぐみ(鶫)ノ條ヲ見ヨ。海人藻芥、下「鯉ハコモジ、鯛ハフモジ、鶫ハつもじ」

つもぢ(名) 津綟子 麻ノ綟子ノ一種。伊勢ノ津ヨリ產出スルモノ。夏羽織ナドトス。和漢三才圖會、廿八、衣服類「肩衣、云云、經緯以二麻線一織レ之、目麤如二蚊帳一、暑月著レ之、出二於勢州津一、[illegible]名二津毛知一」

つもり(名) 津守 〔守ハ關守、野守、道守ナドノ守ト同ジ〕 船舶ノ泊スル所、卽チ、港ヲ守ルモノ。

〜つもり(名) 積 (一)〔ツモルコト〕カサナリ。タタマリ。源、廿、朝顏六「ヨハヒノつもりニハ、オモナクコソナルワザナリケレ、ヨニ知ラメヤツレヲ、云云」續後撰集、十一、戀「思ノミ、つもりノアマノ、ウケノ緒ノ、絕エネバトテモ、クル由モナシ」(二)豫算。(三)思ヒハカルコト。ココログミ。心算。浮世風呂(文化、三馬)二編、下「鐵砲デ打チ殺シタ物ガ、藥位デ屆クモノヂャアナイハナ、つもりニモ知レタモンダ」(四)酒宴ニテ、其酌ヲ止マリトシテ、收メトナスコト。「オツモリトナス」

つもり-がき(名) 積書 豫ノ計算ヲ、書キ記シタル文書。ミツモリガキ。

〜つも・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 積 〔たまるノ轉〕積ミテ、嵩多クナル。カサナル。タタマル。萬葉集、十七、三十二長歌「ウツツニシ、タダニアラネバ、コヒシケク、千重ニ積母里ヌ」伊勢物語、八十八段「大カタハ、月ヲモメデシ、コレゾコノ、つもれバ人ノ、老トナルモノ」「雪積る」「功積る」「勞積る」「苦勞積る」「金錢積る」「年月積る」

つも・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 積 〔積み

盛る意〕(一)數ヘ計リ試ミル。算用ス。計算。[illegible]「[illegible]少モ積もらレナ」(二)心ニ思ヒ計ル。豫メ考フ。心算。(三)人ヲ賤シメテ欺ク。一杯クハス。夕霧阿波鳴渡(正德、近松作)中「[illegible]マデ、ヨウモヨウモ二ノ年近ヲ積もりシナ」

つや(名) 艶 (一)〔色、鮮ニ麗ハシク、潤フガ如ク光ルコト、水氣ヲ帶ビテ、光ヲ生ズルコト〕光澤。源、廿五、螢九「つやモ色モ、コボルバカリナル御衣」枕草子、七、廿六段「火ノカゲニ半臂ノ緒、キヌノつやモ、畫ヨリハコヨナウ勝リテ見ユル」同、十一、百四十六段「コキ衣ノ、イトアザヤカナルつやナド、月ニハエテ、ヲカシウ見ユル」(二)男女ノ情事ニ關シタルコト。色メキタルコト。「艷モノ」「艷モノガタリ」「艷ダネ」つやヲ云ふトハ、世辭ヲ云フ意。

〜つ-や(名) 津屋 〔集屋ノ義〕津ニテ荷ヲ扱フ家。諸方ノ貨物ヲ停メ、賣リテ賃ヲ取ル家。後ノ問丸。問屋。トンヤ。

つ-や(名) 通夜 (一)ヨドホスコト。ヨスガラ、イネズニ過スコト。終夜 終宵 徹宵 徹夜 通宵 沙石集、一、上、第三條「高野ノ明遍僧都、高野ノ事、後世ノ物語ナンド、通夜セラレケリ」(二)道場ニ行キテ、佛前ニ夜ヲアカスコト。又、神社、佛堂ニ參籠シテ、終夜祈誓スルコト。台記、久壽二年十二月十一日「詣ニ北野、奉ニ白妙幣、權寺主相圓申祝、次皆登宣讀ニ祭文、了押ニ御殿隔子、內參、通ニ夜寶前、讀ニ心經」謠曲、龍田「神ノ御前ニ通夜ヲシテ、アリツル告ヲ待タントテ」(三)死者ノ殯ノ前ニ、終夜、打守リ居ルコト。

つや-けし(名) 艶消 光澤ヲ消シテ、ナクスルコト。又、其物。「つやけし硝子」

つや-つや(副) 一切 サラサラニ。イササカモ。スコシモ。毫モ。全ク。一向ニ。

絕エテ。(下ニ否定ノ語ヲ置ク) 盛衰記、[illegible]十、中宮御産事「二位殿ト大納言殿トハ、つやつや物モ覺エズゲニテ、人ノ物申シケレ共、アキレ給テ」[illegible]

〜つやつやぎぬ(名) [illegible] つやつやトシテ、光澤アル美麗ナル衣。[illegible]つやつや。榮花物語、三十、鶴林「つやつや[illegible]六千疋」同、十六、本雫「薄ニビノ織物、云云、又コノ今樣ノつやつやナド云フヲゾ、六ツバカリヅツ、綿薄ラカニテ着セタル」同、廿三、駒競「此今ヤウノつやつやト云フ衣ヲ、アルカナキカニ染メサセ給ヒテ」

〜つや-つや-と(副) 艶艶 光澤多ク、ツヤツヤカニ。狹衣、一、下四十三「黑バカリゾ、つやつやとシテ、只今書キ給ヘル狀ナルニ」宇津保物語、樓上、上六十五「髮ノ裾ニタマリタル髮、つやつやとシテ、スソホソカラズ」源、五十一、手習廿「御グシ、云云、つやつやとケウラナリ」同、五、若紫十二「コボレカカリタル髮、つやつやとメデタウ見ユ」落窪物語、二「ヒタヒハハゲ入リテ、つやつやと見ユレバ」

つや-ぶきん(名) 光澤布巾 綿布ニいぼたらふ(蟲白蠟)ヲ染マシメタルモノ。器物ヲ拭ヒテ、光澤ヲ生ゼシムルニ用ヰル。光澤布。

〜つや-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 艶 ツヤヤカニ見ユ。麗ハシク光ル。枕草子、三、廿四段「讓葉ノ、イミジウ、フサヤカニ、つやめきタル」落窪物語、一「女君ヲウチ見オコセタレバ、イトイタウ泣キつやめきタルヲ見テ」

つや-もの(名) 艶物 淨瑠璃ニテ、男女ノ情事ニ關スル、ハナヤカナル語物。

〜つや-やか-に(副) 光澤アリテ。艶ハシク光リテ。瑩 名義抄「瑩、ツヤヤカニシテ」「照、ツヤヤカナリ」字類抄「光、ツヤヤカナリ」宇津保物語、國讓、上六廿「つややかにテ貴ニナリマサリ」同、俊蔭、上八三十「イトウツクシゲニ、つややかにナメ

ラカナルクケバリ、ハナダノイトヲ瀧ヒタリ」源、十五、蓬生云「カクイミジキノラ藪ナレドモ、サスガニ[illegible]ノ門ハカリハ、アリシ調シツラヒカハラズ、つややかニカイハキナドスルヒトモナシ」同、三十四、上、若菜、上七十四「日つややかニ泣キハレタルケシキノ」枕草子、七、六十八段「イマ片枝ハコクつややかニテ、スハウノ日カゲニ見エタルガ」

つゆ (名) 梅雨 〔露けき時節ノ義、梅實ノ熟ユル時ニ寄セテ云フ〕サミダレ、サツキアメ。ウノハナクタシ。ツイリ。バイウ。陰暦五月、陽暦六七月ノ間ニ、東方亞細亞ノ北緯三十度ヨリ四十度ノ間ニ起ル霖雨ノ名。又、其期間ノ稱トモス。日數ハ凡ソ三十日間、陰暦ニテハ、芒種(バウシュ)ノ後ノ初ノ壬(ミヅノエ)ノ日ニ始マリ、コレヲつゆいり、又、入梅ト云ヒ、小暑ノ壬ノ日ニ終ル、コレヲつゆあけ、又、出梅ト云フトスレド、其說、區區ナリ。陽暦ニハ、太陽ノ最高度ナル日(大抵、六月ノ十二日前後)ヲ入梅トス。サレド、コレニ定マレリト云フニハアラズ、雷アルヲ終トス。此期間、雨極メテ少キ時アリ、からつゆト云フ。此雨、裏日本ニハ少ク、樺太、北海道北部、朝鮮北部、臺灣ニハ、梅雨ナシ。抑、梅雨ハ、支那ノ揚子江邊ノ低氣壓ガ、陸續トシテ起リ、季節ノ風ニ因リテ東行シ、一方、北太平洋ニ起ル高氣壓ガ、本邦東方ノ洋上ニ迫ルニ因リテ、連日ノ雨トナル。黴雨 梅霖 唐太宗詩「梅[illegible]三芳田二」歳時[illegible]、閩人以[illegible]達庚[illegible]入梅、芒種後逢壬[illegible]出梅二」[illegible]「霖、ツユ」日本歳時記、四「此ノ月、淫雨フル、コレヲ梅雨トナヅク、又、黴雨トモカケリ」

つゆ (名) 液津 (一)シル。水氣。濕(シメ)リ。(二)煮出汁(ニダシ)ニ醬油ヲ加ヘタルモノ。吸物ナドニ用ヰル「つゆ餅」又、其一種、濃ク浸セルモノ。蕎麥切、饂飩、素麪(サウメン)ナド浸シ食フ汁。

つゆ (名) 露 〔前條ノ語ノ(一)ニ同ジキカ、或ハ、云[illegible]、粒[illegible]ノ意ニ[illegible]〕(一)〔空氣中ノ水蒸氣ノ、濕メリテ津(シル)トナレルモノ。多ク、夏秋ノ夜ニ、草木ノ葉ナドニ凝リツキテ、珠ヲナス、ソノ凝リツクヲ、[illegible]ト云ヒ、又、置くト云フ。倭名抄、一[illegible]露[illegible]由」萬葉集、廿[illegible]「秋ノ野ニ、[illegible]ヘル萩ヲ、タ折ラズテ、アタラ盛リヲ、スグシテムトカ」後撰集、十五、雜、一「コト繁シ、暫シハ立テレ、宵ノ間ニ、置クラン露ハ、出デテ拂ハン」貫之集「置ク露ヲ、別レシ君ト、思ヒツツ、朝ナ朝ナニ、悲シカリケル」六帖、一「秋ノ夜ノ、夢路ニ露ゾ、置キケラシ、通フトシツル、袖ヒヂニケリ」(二)〔スコシナルコト。イササカナルコト。竹取物語「つゆモ物ソラニカケラバ、フト射殺シ給ヘ」「露ノ間」露バカリ」露程モ」(三)〔ハカナク、消エ易キコト。源、九、葵「[illegible]トマル身モ、消エシモ同ジ、つゆノ世ニ、心オクラン、ホドゾハカナキ」「露ノ命」露ノ身」(四)狩衣、水干、直垂ナドノ袖括ノ端ノ、袖ノ端ニ餘リテ垂ルルモノ。卽チ、袖ノ下、三四寸下グ。略シテ、袖先、バカリニモツク。其使用ニハ、此露ヲ結ビテ肩ニカクト。[illegible]物語、六、[illegible]比奈行[illegible]虎[illegible]「[illegible]烏帽子オシ直シ、[illegible]ノつゆヲ結ビテ肩ニカク」相撲大全、古代行司裝束ハ、侍烏帽子ヲ着キ、[illegible]着シ、露ヲ結ビテ襷トシ」(五)太刀ノ頭ニ下ゲル、金[illegible]ノオモリノ稱。

つ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 潰熟 〔露けくナル意カ〕(一)熟(ウ)ム。ツハル。(二)熟ミテツブル。[illegible]「[illegible]ツエタリ[illegible]、ツエ、ヒタル[illegible]」果物ナドノ熟ミテ潰ルル。ウム。ジュクス。

つゆ (副) 露 少シモ。イササカモ。露モ。チットモ。(下ニ反語ヲ用ヰル) 宇津保物語、忠仕二「御タメニイササカナル過サモ仕ラズ、露[illegible]バカリノケシキヲ見エズ、イカニ重キ罪アリト、キコシメシテ」源、一、桐壺「御ムネノミ、ツトフタガリテ、露マドロマレズ、アカシカネサセ給フ」山家集、上「秋ノ夜ニ、聲モ惜マズ、鳴ク蟲ヲ、露[illegible]

つゆ-あけ (名) 出梅 つゆ(梅雨)、及、ばいう(梅雨)ノ條ヲ見ヨ。

つゆ-あふひ (名) 梅雨葵 はなあふひ(花葵)ニ同ジ。

つゆ-いささかも (副) 露聊 [illegible]スコシバカリモ。少シモ。毫モ。

つゆ-おとし (名) 露落 面頰(メンボオ)ナドノ顎(アゴ)ノ下ニ明ケタル孔。汗流シノ孔ナリト。

つゆ-くさ (名) 露草 〔[illegible]〕原野ニ多シ[illegible]、莖、幹、[illegible]節毎ニ、葉ヲ互生シ、葉、竹ノ葉ニ似テ、厚シ。夏、長柄ノ[illegible]ヲ開キ、花ヲ生ジ、[illegible]開キ、午前ニ[illegible]リ、形ニ因リテ、帽子花、螢草ノ名アリ。古名ヲつきくさ(鴨頭草)ト云フ、(其條ヲ見ヨ)染料トス。莢ヲ結ブ。實、小豆ノ如ク、豆中ニ[illegible]子アリ、[illegible]ナ。ウツシグサ。アヲバナ。アイバナ。鴨跖草 又、[illegible]花、[illegible]、其[illegible]大[illegible]ノアリ、大露草ト云フ。[illegible]ス。字類抄「鴨頭草、ツユクサ」[illegible]、八、露草」[illegible] 宇津保物語[illegible]

つゆけ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 露氣 〔露[illegible]ノ意〕露ノ濕氣(シッケ)多クアリ。シメリ[illegible]

つゆ-ざき [illegible]

つゆ-じも (名) 露霜 [illegible]

つゆ-ぢもの [illegible] 消ゆノ枕詞[illegible]

つゆ-ぢらう (名) [illegible] 〔天、太郎〕ノ條ヲ見ヨ。

つゆ-だま (名) 露玉 露ヲ玉ト見立テ[illegible]

つゆ-ちり (名) 露塵 [illegible]

ササカ。　平家物語、一、妓王事「日來ノ科ハ、露塵ホドモ不レ殘、今ハ往生疑ナシ」　(二)棄テテ少シモ顧ミザル譬ヘニ云フ語。　信州川中島合戰覺書、越後作ニ「受ケツ外シツ命ヲ露塵ト、上砂踏ミ立テ、一寸去ラズ挑ミ合フ」

つゆ-ねぶり (名) 【露舐】 〔兎(ウサギ)ノ子ハ露ヲ吸ヒテ育ツトテ云フ〕兎ノ子ノ異名。つゆむすびみみ(露結耳)ノ條、參見セヨ。

〔**つゆ-の-いのち** (名) 【露命】 露ノ如ク、消エ易キ命。ハカナキイノチ。モロキイノチ。露命(ロメイ)。　萬葉集、十七、六「アリサリテ、ノチモアハムト、思ヘコソ、都由能伊乃知モ、ツギツツワタレ」　後撰集、十三、戀「ナガラヘバ、人ノ心モ、見ルベキニ、露の命ゾ、カナシカリケル」

つゆ-の-うてな (名) 【露臺】 〔文字讀〕ろだい(露臺)ノ條ヲ見ヨ。　夫木抄、十、秋「玉敷ノ、つゆのうてなモ、時ニアヒテ、千代ノ初ノ、秋ハ來ニケリ」　辨内侍日記「仁壽殿ノ露臺、云云、ヨノツネノ、月モ光ヤ、マサルラム、四年ノ秋ノ、つゆのうてなハ」　新葉集、二十、賀「塵ナキ、露の臺ノ、月ハアレド、君ノ御蔭ハ、ナホマサリケリ」

つゆ-の-ま (名) 【露間】 (一)露ノオケル間。　續千載集、三、夏「夏草ノ、アカツキオキノ、露の間ニ、移レバ明クル、山ノ端ノ月」　(二)ヤガテ消エムトスルシバシノ間。ワヅカノ間。　古今集、五、秋、下「ヌレテホス、山路ノ菊ノ、つゆのまニ、イツカ千年ヲ、我レハ經ニケム」

つゆ-の-み (名) 【露身】 露ノ如ク、消エ易キハカナキ身。命モロキ身。　後拾遺集、十七、雜、三「草ノ葉ニ、オカヌバカリノ、つゆの身ハ、イツソノ數ニ、入ラムトスラム」　隆信集「草ノ庵ニ、消エモ果テ、ナデ、露の身ノ、何フル里ニ、オキアカスラム」　小大君集「秋ノ夜ノ、草葉ノ上ノ、露の身ヲ、ソレニツケテモ、語リオカナム」

つゆ-の-やど (名) 【露宿】 露ノオク處。露シゲキ野末ノ宿。ツユノヤドリ。　續千載集、八、羇旅「草枕、露の宿トフ、月影ニ、ホサヌ旅寝ノ、袖ヤカサマシ」　新千載集、四、秋、上「袖ヌラス、篠ノ葉草ノ、假庵ニ、つゆのやどかフ、秋ノ夜ノ月」

つゆ-の-やどり (名) 【露宿】 前條ノ語ニ同ジ。　後撰集、十三、戀、五「言ノ葉モ、ミナ霜枯ニ、ナリユケバ、つゆのやどりモ、アラジトゾ思フ」　新拾遺集、十八、雜、上「秋サムキ、頃トヤヨワル、アサヂフノ、露のやどりノ、松蟲ノ聲」　壬二集、上「アヅマノニ、アヂサヰサケル、夕月夜、露のやどりハ、ケサナラズトモ」

つゆ-の-よ (名) 【露世】 露ノ如ク、ハカナキ世ノ中。無常ノコノ世。　源、三十九、御法「秋風ニ、シバシトマラヌ、露の世ヲ、タレカ草葉ノ、上トノミ見ム」　同、四十六、總角「つゆのよニ、カカヅラハム限リハ、聞エ通ハムノ心アレバ」

〔**つゆ-ばかり** (副) 【露許】 イササカ。スコシ。ツユチリ。　源、三十四、下、若菜、下「御髪(グシ)洗(スマ)シテ、云云、つゆばかり打チフクミ紕(マヨ)フ筋モナクテ」　後撰集、十三、戀、五「つゆばかり、ヌルラム袖ノ、カワカヌハ、君ガ思ヒノ、ホドヤ少キ」

つゆ-はらひ (名) 【露拂】 (一)古ヘ、禁裏ニ蹴鞠ノ御會アル時、賀茂人參リテ、出御以前ニ、先ヅ鞠ヲ蹴テ、懸(カカリ)ノ樹ノ露ヲ拂ヒ落スコト。又、ソノモノ。　(二)先導(サキゲア)シテ路ヲ開クコト。(貴人ノ前驅ノ)　源、十五、蓬生「御先ノ露ヲ、馬ノ鞭シテはらひツツ」　甲陽軍鑑全集、高坂昌信上)廿二、將來之軍記、下「酒井左衛門尉、云云、軍ノ露拂大將也」　(三)能(ノウ)、操(アヤツリ)ナドノ演藝ニ、先ヅ最初ニ勤ムルコト。又、ソノ人。　(四)相撲ニテ、横綱ノ土俵入ノ時、ソノ先導スル力士。

つゆ-ばれ (名) 【梅雨晴】 梅雨ノ候過ギテ、晴天トナルコト。

つゆぼったい (形) 【露】 つゆけし(露氣)ニ同ジ。ツユッポイ。

つゆ-むすび-みみ (名) 【露結耳】 兎(ウサギ)ノ子ノ異名。　秘藏抄、下「宮城野ノ、小萩ガモトヲ、床トミテ、親ヲモ知ラヌ、つゆむすびみみ、露むすびみみトハ、兎ノ子ノサイサキ也、兎ハウミテ後、子ヲミル事ナシ、子モオヤニ逢事ナシ、露ヲクラヒテソダツ也」

〔**つゆ-わ・く**・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 【露分】 露ノ中ヲ押シ分ケ行ク。　萬葉集、廿、十「女郎花、秋萩シヌギ、サヲ鹿ノ、都由和氣鳴カム、高圓(タカマト)ノ野ゾ」　拾遺集、十二、戀「朝マダキ、露わけキツル、衣手ノ、ヒルマバカリニ、戀シキヤナゾ」

つゆ-わけ (名) 【露分】 (一)野路ナドノ、草茂キ處ノ露ヲ、押シ分ケ行クコト。　(二)先ニ立チテ、事ヲナスコト。發起。

〔**つゆわけ-ごろも** (名) 【露分衣】 露深キ野路ヲ分ケ行クニ、着ル衣。　萬葉集、十、廿四「夏草ノ、露別衣、キセナクニ、ワガ衣手ノ、ヒル時モナキ」　新古今集、十五、戀、五「夏草ノ、露分衣、キモセヌニ、ナド我ガ袖ノ、カワク時ナキ」　續拾遺集、九、羇旅「移リユク、日數知ラレテ、夏草ノ、つゆわけごろも、秋風ゾ吹ク」　玉葉集、八、旅「アヅマ野ノ、露分衣、ハルバルト、來(着ニカク)ツツ都ヲ、戀ヒヌ日モナシ」

つよ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 【強】 〔突能(ツキヨ)しノ略、弱しニ對ス〕 (一)撓マズ、挫(クジ)ケズ、弱カラズ。スコヤカナリ。ヂャウブナリ。　字鏡「佷、堅也、固也、豆與志」　(二)〔猛シ〕コハシ。キツシ。勇氣多シ。【剛】　源、二、帚木「人ガラノ、タヲヤギタルニ、つよき心ヲ、シヒテ加ヘタレバ」　同、三十八、夕霧「心ヒトツニハ、つよく思セド、ソノ比ハ、御ハサミナドヤウノ物ハ、ミナトリカクシテ」　(三)烈シ。甚シ。アラシ。【暴】　拾玉集、五「ワガ秋ノ、フクレバ冬ノ、山オロシ、つよく身ニシム、山オロシノ空」　拾遺愚草、上「ミチノベノ、日影ノつよく、ナルママニ、ナラスシノダノ、杜ノシタカゲ」「雨風強し」

つよ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 【強】 強クナス。ツヨクス。強メル。

つよ-ゆみ (名) 【強弓】 弦(ツル)ノ張リ強クシテ、引キヤスカラザル弓。又、ソレヲ用キル人。ガウキュウ。　太平記、十七、山門攻事「東國西國ノ精兵ノ強弓、手足ヲ[illegible]ヘテ、土矢[illegible]ノ上ニ[illegible]キ」　平家物語、十一、遠矢事「中ニモ山鹿兵藤次秀遠ハ、九國一ノ強弓、精兵ナリケレバ」

〔**つより** (名) 【強】 ツヨルコト。ツヨミ。【剛】ミ。　源、七、紅葉賀「母宮ヲダニ、[illegible]キナキサマニ、シオキ奉リテ、つよりニト思スニナムアリケル」

〔**つよ・る**・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【強】 強クナル。　狹衣、四、上「切ニ思ヒつより給ヒテ、起キ出デ給ヘレド」　發心集、三、第四條「北風ノ、タユミナク吹キつよりヌラム時ハ」　今物語「仁和寺殿ノ、基房ノ思ハセタマヒケル女房、カレガレニナリタマヒテ後、云云、日頃ノ絶キセヌ歎キモアラハサメト思ヒつよりテ、長(タケ)ニアマリタリケル髪ヲ押切リテ、云云」

〔**つよ・る**・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 【強】 心ヲ引キ立ツ。精神ヲ奮ヒ起ス。　源、三十四、上、若菜、上、廿五「院ニハ、イミジク待チ悦ビ聞エサセ給テ、苦シキ御心(ココチ)ヲ、思シつよりテ御對面アリ」

〔**つら** (名) 【頰】 〔左右ニ列(ツラ)ナル意〕 ほほ(頰)ニ同ジ。顏ノ兩旁、目ノ下ノ所。　倭名抄、三、頭面類「頰、豆良、一云、保保、面旁目下也」　字鏡、十二「頰、豆良」　醫心方、十九、廿「頰車、ツラカマチ」　神代紀、上、四十二「頰時有二一箇小男一、云云、大己貴神、卽取置二掌中一而翫レ之、則跳嚙二其頰一」　義經記、三、書寫山炎上の事「武藏坊ガつらニ、二、クダリ物ヲカキタリケリ、片頰ニハ、足駄トカク、片つらニハ、書寫法師ノ足駄ニハクトカキテ、云云」「頰骨」頰カマチ」

〔**つら** (名) 【面】 〔前條ノ語ノ轉〕 (一)顏(カホ)。オモテ。　枕草子、三、廿八段「五ツ六ツバカリナルガ、云云、つらイトアカウフクラカナル」　續膝栗毛(文化、一九)十二編、上「コイツハ[illegible]ナつらニナ[illegible]」　(二)スベテ、物ノ上ノ平ナル端。オモテ。表面。　[illegible]「[illegible]ノつらニ、不用ニテ捨テタル舟アリ」　源、二、帚木「深キ山里、世バナレタル海づらナドニ、ハヒカクレヌカシ」　源順集「蘭モ枯レ、菊モカレニシ、秋ノ野ノ、萌エニケルカナ、サ

ホノ山づら」家持集「河づらニハラヘスル所」中務集「河づら松オホウタテリ」ニ熟語トナルトキハ濁音トナル）（三）ホトリ。アタリ。大和物語、上「サウシノ端ノつらニ、立チヨリ給ヘリケルヲ」狭衣物語、二、下、四十「ソバノ柱ノつらニ、ケフソクニオシカカリテ、見出サセ給ヘリ」能宣集「ヒトノ家ノセンザイノつらニ侍リテ」宇津保物語、俊蔭、[illegible]「イヅミノつらニ、ヲカシキホドノ岩ホ立テヾ」

〜つら（名）〔列〕〔連行〕ツラナルコト。又、並ビタルモノ。並。列。連中。源、十二、須磨、三十五「常世出デテ、旅ノ空ナル、雁ガネモ、つらニ後レヌ、程ゾナグサム」同、四十三、竹川、三「同腹ノつらニ思ヒ聞エタマヘレバ」狭衣、一、下、十六「殿ニサブラフ人人ノ、つらニテヤアラセマシ」同、廿二、玉鬘、六十「マロモ、ソノつらゾカシ、更ニヒトスヂニ隠ハレテ」後拾遺集、七、秋、下「秋ゴトニ、つらヲハナレヌ、雁がねハ、春カヘルトモ、カハラザラナム」

〜つら（名）〔弦〕〔連ノ義、葛ト通ズ〕弓ノツル。ユミヅル。萬葉集、二十「梓弓、都良絃取リハケ、引ク人ハ、後ノ心ヲ、知ル人ゾ引ク」同、七、二十二「陸奥ノ、吾田多良眞弓、著絃テ、引カバカ人ノ、吾ヲ事ナサム」同、十四、二十六「陸奥ノ、安太多良眞弓、ハジキ置キテ、反ラシメ置ナバ、都良著カメカモ」

〜つら（名）〔葛〕「連ノ義」今、つる（蔓）ト云フ。カツラ。ツヅラ。拾遺集、九、雑、下「サダメナク、ナルナル瓜ノ、つら（蔓）見テモ、立ヤヨリコム、コマノ好キ物」伊勢集「タマカヅラ、我ガクル事ヲ、君知ラバ、つらナカラニモ、絶エジトゾ思フ」倭名抄、廿、[illegible]「千歳蘽、阿末豆良、俗用ニ甘葛ニ字」字鏡、五十八「忍冬、久比豆良」古事記、中（景行）五十六「野老豆良」續紀、七年九月「我ガ手ヲバ、妹ニマカシメ、眞拆遍遍、タタキアザハリ」

つらあかり（名）〔面燈火〕古ヘ、芝居ノ舞臺ニテ、夜闇ニ、俳優ノ顔ヲ、看客ニヨク見スルタメ、長柄ノ燭臺ニ蠟燭ヲ點ジテ、其前ニ差シ出シタルモノ。ツラビサシダシ。

つらあて（名）〔面當〕悪シト思フ人ナドノ眼前ニテ、其恥トモナルベク、物事ヲアツカヒホスコト、反抗ノ意ヲ、外ニホスコト。アテツケ。ツラウチ。面詆 [illegible]記、文山だち「弓矢ヲ大地ヘ打ナ付ケタハ、某ヘノ面當カ、つら當ナラバ、つら當デアラウ迄ヨ」

〜つらがまち（名）〔輔車〕〔輔頷骨〕口中ノ上下ノ歯牙ノ生ヒタル骨。略シテ、かまち、又、かはち。下學集、上、支體門「輔車、ツラガマチ」鹽嚢、六「輔車トカキテ、かまちトヨメル事モアリ、文集ニハ、輔有ニ輔車、非レ无ニ齗齶一云云」和漢三才圖會、十二、支體部、面「云云、輔車、和名、豆良加末知、耳下曲頰端也」孕常盤、寶永、近松作、一「捕メ捕ッテ候ト引出ス面がまち、筋骨高ク、頬骨黒レ」

つらがまへ（名）〔面構〕顔ノ格好。顔ノ貌。カホツキ。ツラツキ。[illegible]、元祿、西鶴、五「つらがまへノカシコキ男猫一疋飼フベシ」

〜つらき（名）〔列樹〕なみき（並木）ニ同ジ。

〜つらぐし（名）〔面櫛〕櫛ヲ前髪ニサスコト。又、ソノ櫛。大和物語、下「イトアヤシキ樣ナル衣ヲ着テ、大櫛ヲつらぐしニサシカケテ居リ」

〜つら・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）〔つれなしノ約〕（一）他ニ對シテ酷シ。ナサケナシ。〔酷〕〔悽〕源、二、帚木、廿「ツレナクテ、つらしト思ヒケルモ知ラデ」拾遺集、十四、戀、四「長ヤ憂キト、人ヤつらきト、千早振、神テフ神ニ、問ヒ見テシガナ」神代紀、上、四十「一兒最悪、不順教養ニ」新撰[illegible]集、六、冬「つらかりシ、秋ノ別レニ、ツレナクモ、枯レナデ菊ノ、何殘ルラム」（二）堪フルニ苦シ。難儀ナリ。我ガ心ニ憂ク悪シ。〔艱苦〕源、二、帚木、[illegible]「見ル目ノ前ニつらき事アリトモ」古今集、十七、雑、上「オホカタノ、ウキミハ時モ、ワカネドモ、タグレつらき、秋風ゾフク」同、十三、戀、三「[illegible]ネバ、夢ニモ見エズ、[illegible]アカツキ[illegible]ネツル、身コソつらけれ」玉葉集、十一、戀、三「ウラミテモ、ナグサメテマシ、ナカナカニ、つらくテ人

ノ、アハヌトオモハバ」

〜つら・す（助）〔釣〕〔釣るノ敬語〕釣リタマフ。萬葉集、[illegible]「[illegible]御立シセリシ、石ヲ誰レ見キ」

つらだましひ（名）〔面魂〕面ニ、其勇氣ノ現ハレテアルコト。[illegible]

〜つらつき（名）〔頰〕「つきハ、かほつき、めつきト同趣」頰ノサマ。カホノヤウス。カホツキ。ツラガマヘ。源、四十五、[illegible]クテアル」同、一、桐壺、廿「ミヅラユヒ給ヘルつらつき、顔ノニホヒサマ、カヘ給ハンコトヲシゲナリ」濱松中納言物語、二、下、[illegible]ルニ、ハヅレタルつらつき、カタハラメ」

〜つらつら（副）〔倩〕〔連連ノ義〕[illegible]キテノ意、念ヲ入レ、押シ[illegible]ニ、其[illegible]ヲ見、又、思ウ[illegible] [illegible]エテケル君」榮花物語、廿一、後悔大將「つらつらアサマシウ思サル」徒然草、三十八段「つらつら思ヘバ、ホマレヲ愛スルハ、人ノ聞ヲヨロコブナリ」

つらつら（副）〔滑滑〕[illegible] ツルツル。スベスベ。

〜つらつらつばき（名）〔列列椿〕〔枝葉ノ繁ク生ヒ列リタル椿ノ意〕[illegible] 古ヘハ、椿ノ[illegible]ニ用ヰ[illegible] 海石榴市ト云フガ立チタルホドナレバ、列

ネテ植エシナルベシト云フ。萬葉集、[illegible]「巨勢山ノ、列列椿、ツラツラニ、見ツツ思ハナ、巨勢ノ春野ヲ」[illegible]

〜つらづゑ（名）〔頰杖〕ほほづゑ（頰杖）ニ同ジ。支頤 [illegible]

〜つらな・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下、二）〔列竝〕行列セサス。ツラナラブル。[illegible]

つらな・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔列〕[illegible]

つらにく・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）〔面憎〕[illegible]

〜つら・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ（他動、下、二）〔連〕〔列〕[illegible]

廿五「只ハカリノガリタルホトニ、立テつらねタリ」(二)引連ル。伴フ。宇津保物語、俊蔭二「俊蔭トつらね給ヒテ、フタツトイフ山ニ入リ給フ時ニ」源、一、桐壺廿九「ミハシノモトニ、ミコ、カンタチメ、つらねテ、祿ドモ品品ニ給ハリ給フ」玉葉集、十七、雜、四「名ヲ知ラズ、ウキ身モカナシ、古ヘニ、つらねシ枝ノ、花ニワカレテ」

つら-ぬき (名) 頰貫 〔紐ニテ、貫キ結フ意ニヤ〕 武用ノ具。鎧着タル時ニ、着ク毛皮ノ沓、足ノ上ヲ覆ヒ、又、開クヤウニ作レルナリ。モミタビ。ツナヌキ。 源平盛衰記、三十五、義經院參事「熊皮ノつらぬきヲ履キ」太平記、廿七、田樂事、新座小童「赤地ノ金襴ノ打懸ニ、虎ノ皮ノ連貫ヲ蹈ミ開キ」貞丈雜記、十二、武具之部「御つらぬきトモ、御つなぬきトモ云フハ、大將ノ御沓ノ事也、大將ナラズモ、常ノ人モ、つなぬきトモ、つらぬきトモ云フ」長秋記「大治五年十月十四日、云云、二人敵、弓帶ニ胡籙、又著ニ頰貫ニ」高僧草子「熊ノ皮ノもみたび、銀ニテ縫ノワタシ、開口高ニ縫ン込ウタリ」

つら-ぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 貫 〔列ヲ拔ク義ト云フ〕(一)端ヨリ端マデ通ス。突キ穿ツ。貫ク。 名義抄「擐、ツラヌク、ツナヌク、ヨロヒコロモキル」古今集、四、秋、上「秋ノ野ニ、オク白露ハ、玉ナレヤ、つらぬきカクル、蜘蛛ノ絲スヂ」枕草子、七、六十四段「カイタル蜘ノ巣ノコボレ殘リテ、所所ニイトモタエザマニ、雨ノカカリタルガ、白キ玉ヲつらぬきタルヤウナルコソ、イミジウ哀ニヲカシケレ」後撰集、六、秋、中「シラ露ニ、風ノフキシク、秋ノ野ハ、つらぬきトメヌ、玉ゾチリケル」(二)初ヨリ終マデ仕遂グ。果ス。

つら-ね (名) 連 〔言葉ヲつらぬる意〕 芝居ニテ、役者ノ、物ノ趣意、由來、功能ナド、長ク述ブルコト。(一種ノ語調ニテ) 昔ハ、コレヲせりふトノミ云ヒキ。 後は昔物語(享和、手柄岡持)「昔ハ定式せりふナクテハナラズ、昔ハせりふトノミイヒシガ、今ハ多ク常ノ言葉ヲせりふ付けト云フテ、せりふヲバつらねトイフ」 頑鼠漫筆(黑川春村)九「延年舞ノ曲名ニ、白拍子連事ト云フアリ、ソレヨリ遺ルナリト云フ」

つらね-うた (名) 連歌 れんが(連歌)ノ條ヲ見ヨ。 書言字考節用集、八、言辭門「連歌、ツラネウタ」 倭訓栞「つらねうた、連歌ヲイヘリ」 豐鑑、二「長岡兵部大輔(細川藤高)、つらね歌ヲナシテ云、スミゾメノ、夕ベヤナゴリ、袖ノ露、云云」 金言和歌集「都ニハ、高キ卑シキ、モロモロノ家ノ人人、折リ折リハ、ウタヒ、サカモリ、つらねうた」

〜**つらね-こ** (名) 鼴鼠 〔列リ行ク小鼠ノ義〕 小鼠、相銜ミテ行クモノトアリ。詳ナラズ。肥前ノ島原ニ、七郎鼠ト云フアリ、コレナリトモ云フ。 倭名抄、十八ニ毛群名「鼴鼠、豆良禰古、小鼠相銜而行也」 和漢三才圖會、三十九、鼠「鼴鼠、和名、豆良禰古、豆良者連也、禰者鼠也、古者小之通稱、云云、小鼠相啣而行也」 重修本草綱目啓蒙、三十五、鼠「鼴鼠、ツラネコ、七郎ネズミ(肥前)、云云、小鼠、尾ヲ啣ミ、多ク連行シ、或ハ移行ク、云云」

つら-の-かは (名) 面皮 顏ノ表皮。メンピ。又、アツカハ。アツカマシキコト。 好色一代女(貞享、西鶴)五、大坂問屋ノ蓮葉女ノコトヲ云ヒテ「面の皮アツクシテ、人中ヲ恐レズ」 面皮をむくトハ、厚皮ヲ剝ギテ、恥カシムト云フ意。面皮厚いトハ、アツカマシ。恥ヲ恥トモ思ハヌ。ヅウヅウシイ。

つら-び (名) 面火 つらあかり(面燈火)ニ同ジ。

つら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 拏 〔萬葉集、十三、十六「散釣相」同、十二、廿「丹頰合」ノ釣合ニテ、牽合ふノ約(關合ふ、かからふ)、纏合ふノ意ナリ。同趣ニテ、あらふ、あらふト云フ語アリ、併セ見ルベシ〕(一)爭フ。カニカクトアツカフ。此語、他語ト熟語トナリテ用キラル。「引づらふ」(牽)、擧ゲつらふ」(論)、關づらふ」爲つらふ」詫ビつらふ」言ヒづらふ」讓つらふ、へつらふ」(諂)、ナドノ類ナリ。各條ヲ見ヨ。(二)色ノ映合フニモ云フ。「狹丹つらふ」丹つらふ」(其條ヲ見ヨ)

つら-ぶち (名) 面扶持 江戶時代、家族ノ人頭ノ數ニ因リテ、與フル扶持米。メンプチ。口米

〜**つら-ぼね** (名) 頰骨 顴 ほほぼね(頰骨)ニ同ジ。 倭名抄、三、頭面類「顴、頰骨、豆良保禰」

✢✢**つらま・へる・ヘル・ヘレ・ヘ・ヘ・ヘヨ**(他動、下一) 捉 〔とらまへる(捕)ノ轉〕 捕フ。ツカマヘル。トリオサフ。拿捕

つらま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 捉 (一)捕ヘラル。トラマヘラル。ツカマル。(二)スガル。ツカマル。倚持 縋

つら-み (名) 辛苦 ツラキ氣味ノアルコト。クルシキ風ナルコト。セツナキ容子ナルコト。 艷姿女舞衣(安永、竹本三郎兵衞)酒屋段「ワシャコノヤウニ思フテ居ルト、恨ミつらみハ露ホドモ、夫ヲ思フ眞實心」

つら-みせ (名) 顏見世 〔連見せノ義カト云フ〕 かほみせ(顏見世)ヲ、つらみせト云フハ、奴詞ナルベシ。(元祿頃)かほみせ(顏見世)ノ條ヲ見ヨ。 俗耳鼓吹「元祿ノ頃ノ板ニテ、月次ノ遊ト云ヘル繪本アリ、菱川吉兵衞畫也、中ニ芝居ノ顏みせノ事ヲシルシテ、つら見世ト云ヘリ」 後は昔物語(享和、手柄岡持)「或老人、顏見世ノ事ヲつらみせトノミイヘリ」 色芝居(正德)野郞ノ事「つらみせノ所作事」

つら-よごし (名) 面汚 顏ニ泥ヲ塗ルコト。名譽ヲ毀損スルコト。顏汚。

〜**つらら** (名) 氷 〔滑滑ノ約ト云フ〕 氷。コホリ。 源、六、末摘花卅六「朝日サス、軒ノ垂氷ハ、融ケナガラ、ナドカつららノ、ムスボホルラム」 同、四十五、椎本六十「つらら閉ヂ、駒踏ミシダク、山川ヲ、シルベシガテラ、マヅヤ渡ラム」 六百番歌合、春、十三番「つららヰシ、汀ヲ渡ル、春風ニ、池ノ心モ、融ケヤシヌラム」 拾遺集、六、冬「片敷ノ、霜夜ノ袖ニ、思フカナ、つららノ床ノ、鴛鴦ノ獨寢」

つらら (名) 氷柱 〔前條ノ語ノ誤用。又、此語ニ銀竹ノ字ヲ充テタルアルハ、李白ノ詩ニ、白雨如銀竹トアルヲ、誤リ取リタルモノニテ、元來ハ、夕立ノ雨ノ脚ナリ〕 垂氷。其條ヲ見ヨ。

つらら-いし (名) 氷柱石 古名、石乳。山中ノ洞穴ナドニ、酸ヲ含有スル水ノ、タメ、石灰岩ナドガ溶解シ、ソノ液ノ、滴リナガラ凝リテ、氷柱ノ如ク垂ルルモノ。大イナルハ、柱ノ如ク、臼ノ如ク、小サキハ、筆ノ管ノ如シ。其中、皆、實ス。白クシテ、黃、又、赤ミアルアリ、透明ナルコト瑪瑙ノ如キヲ、上品トストゾ。石鐘乳 鐘乳石 又、其內ノ空ナルモアリ。鵝管石 きょうにゅうせき(鐘乳石)、及、いしのち(石鐘乳)ノ條ヲモ見ヨ。 本草和名、上三「石鍾乳、一名、公乳、云云、石鍾乳者、水精也」 本草綱目譯義、九、石「石鍾乳、ツラライシ、イシノツララ、石ノヨダレ、イシノチ、云云」

つら-らか-に (副) 眼ヲ見張ル狀ニ云フ語。 字鏡、十二「眄、張レ目之貌、目豆良良加爾須」 大鏡、中、兼通「コノ殿ノ門ヲ通リテ、參リテ申奉ルホドニ、堀川ドノノ、目ヲつららかニサシ出給ヘルニ、帝モ大將モ、イトアサマシクオボシメス」

〜**つらら・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ**(自動、下二) 連列 〔つらら(列)ニ、接尾語ノくノ添ヘタルモノ〕 ツラナル。ナラビツヅク。 古事記、下(仁德)三「沖邊ニハ、小舟都羅羅玖、黑崎ノ、マサヅコワギモ、國ヘ下ラス」

〔つらゝ〕(副) [列連] 列列ニ、多ク並ビテ。ツラナリテ。ヅラリト。萬葉集、十五「長歌「イサリスル、蜑ノヲトメハ、小船ノリ、都良良爾ウケリ、アカトキノシホ」

づらりと (副) 又、ズラリト。長ク列リテ。打續キテ。「づらりと並ブ」

〔つらを〕(名) [弦緒] ゆみづる(弓弦)ニ同ジ。ツルヲ。萬葉集、二十「アヅサユミ、都良絃トリハケ、ヒク人ハ、ノチノ心ヲ、知ル人ゾヒク」

つり (名) [釣] (一)釣ルコト。引キ懸クルコト。吊 (二)物ヲ釣リ懸クルニ用キル絲、又、紐ノ類 吊絲 (三)〔釣絲ニ餌ヲツケテ、魚ヲ釣リ捕ルコト。釣 萬葉集、十二「志賀ノアマノ、釣りニトモセル、イサリ火ノ、ホノカニ妹ヲ、見ムヨシモガナ」同、十七「ナゴノアマノ、都里スル舟ハ、今コソハ、フナダナウチテ、アヘテ漕ギデメ」宇津保物語、俊蔭「つりヲカマヘテ釣ルニ」伊勢物語、八十七段「シホガマニ、イツカ來ニケン、朝ナギニ、つりスル舟ハ、ココニヨラナム」謠曲、羽衣「風向フ、雲ノ浮浪タツト見テ、釣セデ人ヤ歸ルラン」(四)つりせん(釣錢)ノ略。拂ヒタル貨幣ノ、品物ノ價ヨリ多キ時ニ、其不足ノ釣合ヲ補ハムガ爲ニ、返ヘス錢 剩錢 補足 寶永花洛細見、六「道ノ、辻デつり取レ、四文ヅツ、コノ世テキカヌ、大錢ノハテ」(十文錢ヲ云フ)(五)相撲ノ手。敵ノまはしニ兩手ヲカケテ、其體ヲ釣リ上グルコト。

〔つり〕(名) [鉤] 「釣りノ義」魚ヲ釣ルニ用キル曲リタル針。ツリバリ。倭名抄、十五「漁釣具「鉤、都利」(鉤ノ字ハ鈎ノ字ナルベシ)神代紀、下「失ニ兄鉤一、由ニ吾鉤一(ちハつナノ訓)」神功皇后紀「[illegible]」

つりあひ (名) [釣合] (一)ツリアフコト。[illegible] [illegible]コンデハ中中擔ハレマセヌ、何卒今一ツ、コレ程ノ物ガゴザッタナラバ、つりあひガヨウ調ウテウガ」(二)物理學ニテ、一物體ガ、平衡、又ハ、坐リヲ持チテ、現在ノ有樣ヲ續クルコト。即チ、其物體ニ、多數ノ力ガ同時ニ作用シテ、ソレ等ノ力ガ作用セザルト同一ノ結果ヲ來タシタル時ノ狀態ヲ云フ。

つりあひにんぎやう (名) [釣合人形] 玩具ノ名。竹ヲ骨トシ、紙ニテ人ノ形ヲ作リ、兩脚ノ端ニ、無患子ヲおもりニツケタルモノ。中心ノ骨ヲ以テ立ツルニ、兩脚ノ重サノ釣合ニテ、倒レズ傾カズ。東京ニ、彌次郎兵衞、京都ニ、彌之助、伊賀ニ、張合人形、其他、水汲人形、正直正兵衞等ノ名モアリ。定風珠。

つりあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [釣合] (一)兩方、相對シテ平等ナリ。互ニ平均ヲ持ツ。割合、互ニ相應ス。モチアフ。カネアフ。(大小、輕重、多少ナド)平均 均衡 (二)相應ス。似合フ。適

つりいと (名) [釣絲] 釣竿ノ端ニ結ヒツケテ、魚ヲ釣ルニ用キル絲。[illegible]、綸絲、緡絲、てぐす等ヲ用キ、端ニ鉤ヲツク。ツリノヲ。緡 釣綸 名物六帖、器用門「緡、ツリイト」詩品字箋「緡、釣綸也」

つりがき (名) [釣柿] つるしがき(釣柿)ニ同ジ。

つりかご (名) [釣籠] (一)釣スヤウニシタル籠。又、ツルシタル籠。(二)魚ヲ釣ル時、携ヘ行キテ、釣リタル魚ヲ入ルル籠。ビク。

つりがね (名) [釣鐘] からかねニテ鑄成シタル大イナル鐘ノ如キモノ、鐘樓ナドニ倒ニ釣リカケテ、椿ニテ撞キテ、大イナル響ヲ出サシム。多ク寺院ニ用キル、カネ。オホガネ。ツキガネ。[illegible] 書言字考節用集、七、器財門「鐘、ツキガネ、ツリガネ」俳諧句集、春「釣鐘ニ、トマリテ眠ル、胡蝶カナ」

つりがねさう (名) [鐘草] (一)又、サキクサ。多年生草ノ名。苗、高サ二三尺、葉ハ橢圓形ニシテ、尖リ、鋸齒アリ、互生ス。夏ノ末、莖梢ニ長ク連リテ鐘狀ノ花ヲ開ク、[illegible]花ニ似テ大ナリ、淡紫碧色ニテ垂ル。根ノ形、人參ニ似テ輕虛ナリ。ミノハ。ソバナ。薺苨 (二)つりがねにんじん(沙參花)ノ一名。

つりがねずみ (名) [鐘墨] (常ニ、其形ヲ小サク、鐘、又ハ、半鐘ヲ押シヒラメタル如ク作ル) 松烟ニ、蠟ヲ和シテ、墨ノ如ク作レルモノ。墨ノ製ニ同ジクシテ、只、[illegible]ト[illegible]ノ差アルノミ。[illegible]、[illegible]紙ヲ當テテ、其上ヨリ摺ルニ用キル。文字ナドノ高キ所、黑ク低クアラハル。半鐘墨。乾打碑。(蠟墨ノ條ヲモ見ヨ)

つりがねにんじん (名) [沙參花] (一)山野ニ多シ。春、宿根ヨリ芽ヲ生ズ、形、圓クシテ、鋸齒アリテ、わさびノ葉ニ似タリ、[illegible]、莖ハ[illegible]梗ニ似テ、大ナル鋸齒アリ、互生、或ハ、對生ス。秋、高サ二三尺ニ[illegible]、又ヲ分ヲテ花ヲ開ク、[illegible]、枝上ニ連リテ垂ル、色ハ藍紫、淡[illegible] [illegible]

(二)ぼたんづる(牡丹蔓)ノ一名。

つりがねむし (名) [釣鐘蟲] 原生動物ノ一、淡水中ニ生ジ、[illegible]、下部ニハ長柄アリテ、物ニ定着シ、上端ノ周圍ニ纖毛[illegible]、[illegible]動シ、又ハ、食物ヲ取リ食フ。

つりがま (名) [釣釜] 吊シ下ゲテ用キル釜。サガリ。

つりぎつね (名) [釣狐] [illegible]コト。

つりこし (名) [釣輿] 輿ノ一種。[illegible]釣リ下ゲテ、昇クモノ。[illegible]長元年、[illegible]

つりこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [釣込] (一)ダマシコム。サソヒ入ルル。(二)欺キテ仲間ニ引キ入ル。

つりざを (名) [釣竿] [illegible]コレニハ、伸竿、繼竿ナドアリ。[illegible]

つり[illegible] (名) [illegible] [illegible]

つり[illegible] (名) [illegible] [illegible]草)ノ條ヲ見ヨ。

つりせん (名) [釣錢] [illegible]

つりだい (名) [釣臺] [illegible]

變化セシモノ。

つりたいこ（名）[釣太鼓] 外側ノ枠ニ釣リサゲテ、打鳴スニ鼓、たいこ、太鼓ノ條ヲ見ヨ。[illegible]、十八、大鼓、今所用太鼓、凡有二種、[illegible]一日、釣太鼓、舞樂及、常[illegible]

つりだうぐ（名）[釣道具] 魚ヲ釣ルニ用ヰル一切ノ道具。釣鉤、釣絲、釣竿、釣籠、浮子、ナドノ類。

つりだし（名）[釣出] （一）ツリダスコト。誘ヒ出スコト。オビキ出スコト。浮世風呂（文化、三編）初編、下「折角、内ニ仕事ヲシテ居ルモノヲバ、釣出しニ來テ、ナリマセン」（二）相撲ノ手ノ一。四手ニ組ミ、上手ニ相手ノ褌ヲ引キ、其引キタル手ト、抱ヘ込ミタル手トニテ、釣リ上ゲテ出スモノ。

つりだな（名）[釣棚] （一）天井ヨリ吊シ下ゲタル棚。（二）床脇ナドニ設クル一種ノ棚。中央ヲ高ク、左右ヲ低ク、三枚ノ棚ニ釣ルモノ。

つりて（名）[釣手] （一）釣スル人。（二）蚊屋ナド釣リ懸クルニ用ヰル紐。帳緌。大磯虎稚物語（元祿、近松作）譚道行「丸寢スル、蚊帳ノ釣手ニ風絶エテ、夢モ我ガ名モ靜カナル」五十念忌歌念佛（寶永、近松作）中「貧僕ハお夏ニ氣深ク、神ノ告ゲノ蚊帳ノ釣手カト、脈レ変ス手枕モ」

つりてんじやう（名）[釣天井] 家ノ天井ヲ上ヘ吊シ置キ、下ニ居ルモノノ隙ヲ見テ、其つりヲ放シテ壓シ殺ス裝置ノモノ。「宇都宮釣天井」

つりてをけ（名）[釣手桶] 手水鉢ニツカフ手桶ヲ、釣リカケタルモノ。

つりど（名）[釣戸] 上ノ方ニ、蝶番、又ハ、蝶ガネアリテ、開クトキニハ、上ヘ釣リアゲテオキ、閉ヅルトキニハ、下ヘ垂レ居ルヤウニ作レル戸。

つりどうろう（名）[釣燈籠] （一）燈籠ノ、軒端ナドニ釣リ垂ルベキモノ。吊燈。本朝俗諺志、貞享、西鶴、六「木ノ間、木ノ間ノ釣燈籠ニ影移リテ」（二）妾ノ異稱。（釣リ上ゲラレテ、光アリト云フ意ナリト）

つりどけい（名）[釣時計] 柱ニ懸クル時計。二錘アリ、機ノ廻ルニ隨ヒテ、一錘ハ下リ、一錘ハ上ル仕掛ノモノ。

つりどこ（名）[釣床] はんもつくニ同ジ。吊床。

つりどの（名）[釣殿] 寢殿造ノ西ノ廊ノ端、池ニ臨メル所ニ構ヘタル家。釣ヲ垂ルルニ設ケタルモノ。字類抄「釣殿、ツリトノ」宇津保物語、祭使六廿「つり殿ニマウデ給ヒヌ、女君タチモイデタチ給ヘトキコエ給ヘバ」同、同五十「中島ニ、片端ハ水ニノゾキ、片端ハ島ニカケテ、イカメシキ釣殿ツクラレテ、ヲカシキ舟ドモオロシ、浮橋渡シ、暑キ日ザカリニハ、人人涼ミナドシ給フ」榮花物語、廿三、駒競「高陽院ドノ、云云、寢殿ノ北南西ヒンガシナドニ皆池アリ、中島ニつりどの建テサセタマヘリ」宇治拾遺、十二、廿二條「大キナル池ノアリケル釣殿ニ、番ノモノネタリケレバ」

つりどほし（名）[釣篊] 篊ノ大ニシテ、綱ニテ釣リ下ゲテ用ヰルモノ。和漢三才圖會、三十五、農具類「篰簎、ツリトホシ、今云鈎篰、云云、按、篰簎、即篰之大者、不堪以手振故、係抗之、其底今多用銅線網爲之」

つりなは（名）[釣繩] （一）スベテ、物ヲ釣ル繩。（二）魚ヲ釣ルタメニ、釣針ヲツケテ、河、又ハ、海ノ中ニ打チハヘル繩。古今集、十一、戀、二「伊勢ノ海ノ、海人ノ釣繩、打チハヘテ、クルシトノミヤ、思ヒワタラン」拾遺集、九、雜、下、長歌「アマノつりなは、打チハヘテ、ヒクトシキカバ、物ハオモハジ」

つりのを（名）[釣緒] つりいと（釣絲）ニ同ジ。字類抄「綸、ツリノヲ」續古今集、十一、戀、二「伊勢ノ海ノ、ナミ間ニ下ス、つりのをノ、打チハヘ人ヲ、戀ヒワタルカナ」新拾遺集、十二、戀、二「ウラミテモ、トシフルアマノ、つりのをノ、ウケクニウカブ、涙トヲシレ」

つりばし（名）[釣橋] （一）兩岸ヨリ綱ニテ釣リ懸ケテ互セル橋。柱ナシ、藤葛ナドニテ釣ルモアリ、西洋製ナルニハ、鐵綱ヲ用ヰル。吊橋。視聽草、五集、六「越中、正明川藤ノ釣橋ハ、立山ヘ行ク道ニ渡セリ、長サ凡二十七八間、唯藤蔓ニテ造リ掛ケタルナレバ、其危キ事云フバカリナシ」美濃名細記、一、川筋、大野郡「東横山村谷川、藤ノ釣橋アリ」（二）溝、塹ナドノ岸ニ、平常ニハ吊リ上ゲテ置キ、用アル時ニ下ゲテ架ス橋。

つりばしご（名）[釣梯子] 梯子ノ、綱ニテ作リ、壁、垣、ナドニ釣リ懸ケテ用ヰルモノ。鉤梯

つりはないけ（名）[釣花生] 花生ノ、絲ニテ宙ニ釣ルベク造レルモノ。銅製、舟形ノモノナド多シ。ツリクヮビン。

つりばり（名）[釣針] （一）魚ヲ釣ルニ用ヰル針。釣絲ノ端ニツケテ、餌ヲ貫ク。針ノ端、内ニ向ヒテ、倒ナル刺アリテ、魚ノ脣ニ懸ルヤウニ作ル。釣鉤。魚鉤。神功皇后紀前紀「皇后、勾レ針爲レ鉤、云云、登二河中石上一而投レ鉤祈レ之曰」和漢三才圖會、二十三、漁獵具「鉤、鉤、都利波利、按、鉤設二鉤餌一取レ魚也、云云、其針曰レ鉤」（二）逆鉤。鉤ノ先ニ、逆ニ鋩アルモノ。鐖 合類節用集（元祿）七、器財門「鐖」

つりひげ（名）[釣鬚] クチヒゲノ先ヲ、上ニハネアゲタルモノ。（寛永頃ノ奴ナドノナシシモノ）[illegible]「釣鬚ノアル男、太夫殿ヨリ禮ニ來テ」

つりぶね（名）[釣舟] 釣漁ニ用ヰル小舟。倭名抄、十一、[illegible]「[illegible]、小[illegible]也」[illegible]、七、上「四可ノ白太郎ノ、釣舟ノ綱、堪ヘズシテ、[illegible]ニ念ヒテ、出テ[illegible]來ニケリ」[illegible]之集、下、讀ニノミ、ヌレツル物ヲ、吹風ノ、タヨリウレシキ、海人ノつり船」伊勢物語、七十段「ミルメカル、方ヤイヅコゾ、竿サシテ、我ニヲシヘヨ、アマノつりぶね」

つりぼり（名）[釣堀] 池ニ諸魚ヲ放チオキテ、價ヲ定メテ、人ニ釣ラシムル所。

つりめ（名）[吊眼] アガリメ。眼ジリノ、生得、ツリアガリタルモノ。

つる（名）[弦] （蔓ノ義カ、吊る意カ）ゆみづる（弓弦）ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、七、十[illegible]「ミチノクノ、アダタラマ弓、つるハケテ、ヒカバカ人ノ、我ヲコトナサム」保元物語、二、白河殿攻落事「御曹司、件ノ大鏑ヲ以テ、ヒョウト射給フガ、高紐ニ弦ヤ堰カレケン、思フ矢ツボニ下リツツ」

つる（名）[鉉] （前條ノ語ノ轉）（一）鍋、土瓶ナドニツケタル弓形ノ取手。提梁。狂言記、通圓「銚子ノつるノアツキニモ、煮ユル茶ノ湯ハ面白ヤ」（二）枡ノ上面ニ、斜ニ互シテ作リツケタル鐵線。斗掻ヲ用ヰル準トス。斗梁

つる（名）[鶴] （聲ヲ以テ名トス。古今集注（顯昭）ニ、鶯、郭公、雁、鶴ハ我名ヲ鳴クナリトアリ。朝鮮語、つり）（一）又、田鶴。水鳥ノ名。大イナルハ、高サ五六尺、頸、嘴、脚、共ニ甚ダ長シ。高ク翔リ、又、能ク水ヲ渉リ、魚ヲ食トス。世ニ、長壽瑞祥ノ鳥トシ、肉ヲ饗膳ノ珍貴ナルモノトス。種類多ク、羽色、形狀モ種種ナリ。眞名鶴、白鶴、黑鶴、丹頂、鍋鶴等、（鹿兒島縣出水郡阿久根町ニ眞名鶴、丹

頂鶴、[illegible]鶴、山口縣熊毛郡八代村ニ鍋鶴住メリ）其他、各條ニ註ス。倭名抄、十八[二十三]「[illegible]」字鏡[illegible]（二）[illegible]鶴ノ略。其條ヲ見ヨ。

つる（名）蔓 〔吉言、一ニ、[illegible]ノ轉、述ノ意、朝鮮語、つる〕（一）蔓草ノ莖ノ總稱。甚ダ細長ク生ヒテ、地ニ這ヒ、又ハ、物ニ絡ハル。夫木抄、九、蔓「ミサビマジル、蔓ノウキヅる、トニカクニ、ミダレテ夏ノ、淀サビニケリ」狂言記、瓜盗人「南無三寶、瓜づるヲモ引立タ」「藤ノ蔓」「葛ノ蔓」「イモノ蔓」（二）鑛山ノ鑛物ノアル脈。鑛脈（三）マギ、系統。（四）ツテ。タヨリ。テヅル。

つ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）釣 一處ニ引ク如ク寄ル。引カレチヂム。攣急 拘攣「筋つる」「髪ノ毛つる」

つ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）釣（一）垂レ懸ケテ持ツ。ツルス。吊「棚ヲつる」「蚊帳ヲつる」（二）魚鉤ニ懸ケテ、魚ヲ上グ。釣 字鏡「釣、伊乎豆留」（三）欺キ誘ヒテ捕フ。狂言記、[illegible]「[illegible]、ソナタハ、狐ヲつりヤルト云フコトヲ、キイタガ」首をつるトハ、縊ル。吊死 目をつるトハ、空目ヲツカフ。上へ見ツム。天吊

つ・る・ル・ルレ・レ・レヨ（自動、下二）釣 前條ノ語意ニ同ジ。攣急「髪ノ毛つる」

つ・る・ル・ルレ・レ・レヨ（自動、下二）連 伴フ。ツヅキ從フ。ツレダツ。伴ナフ 源、四十三、竹川 廿「夕暮ノシメヤカナルニ、藤侍從トつれテアリクニ、カノ御方ノ御前近ク、見ヤラルル」曾我物語、八、富士野への[illegible]、[illegible]ハ手[illegible]ヲ捨テラレテ、[illegible]ニつれテ落チテ行ク」心中宵庚申（享保、近松作）上「[illegible]ノ[illegible]モ世ニつれテ、[illegible]ムルトハナケレドモ[illegible]つれテ[illegible]」

つ・る・ル・ルレ・レ・レヨ（他動、下二）連 從へ行ク。携フ。トモナフ。具ス。提携 源、二十四、胡蝶上「[illegible]サマ、[illegible]ノ小[illegible]、引キつれテ[illegible]」

つる（助）[illegible] 現（[illegible]）ノ動詞、つノ[illegible]化。つ(了)ノ條ヲ見ヨ。「鳴キつる」「見つる」

つる-あぢさゐ（名）蔓紫陽花 蔓性灌木ノ名。莖ハ高ク伸ビ、蔓トナリテ他物ニ攀緣シ、葉ハ廣卵圓形、鋸齒アリ、花ハ白クシテ、紫陽花ヨリ美シ。觀賞用トシテ栽培シ、葉ハ食用ニ供ス。一名、ツルデマリ。又、ゴトウヅル。藤繡毬

つる-あまちゃ（名）蔓甘茶 〔莖、葉ノ汁ニテ甘茶ヲ作ル。古へ、甘葛ト云ヒシ植物、是レナルベシ〕蔓草ノ名 原野ニ生ズ、卷鬚ヲ出シ、他物ニ倚リテ登ル。五小葉、合シテ一葉ヲ成シ、質、ヤハラカニシテ、淡綠色、粗ナル鋸齒アリ。秋、葉腋ニ數多ノ細花ヲ綴ル、五瓣ニシテ、淡黃綠色ナリ。莖、葉ノ汁、甘シ、甘茶ヲ作リテ、四月八日ノ灌佛會ニ用ヰル。一名、アマチャヅル、又、アマクサ。絞股藍 コレニ對シテ、きあまちゃ(木甘茶)ト云フアリ。(はあまちゃノ條ヲ參見セヨ)、ござうどん(土常山)ノ條ヲモ見ヨ。倭[illegible]、あまづら、[illegible]、云云、[illegible]あまちゃトモ云フ、[illegible]「つるあまちゃハ、救荒本草ノ絞股藍ナリ」

づる・い（形）〔ずるし(狡)ノ音便轉〕ずるし(狡)ノ條ヲ見ヨ。

つるうち（名）弦打（一）[illegible]、弦音ノミセシメテ、敵ヲ欺キ、油斷ニ乘ジテ射ルコト。[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]ヲ引キ鳴ラシテ、[illegible]「隨身モ、つるうちシテ、タエズコワヅクレト仰セヨ」[illegible]ヲ讀ム、つるうち二十人、五位十人」成氏年中行事「若君姬御料様御誕生之時、云云、鳴弦之役兩人當御前ハ一度ニ[illegible]」[illegible]（三）[illegible]ユヅル[illegible]ニ、天子、將軍ニ[illegible]

つる-おと（名）弦音 矢ヲ放ツ際、弦ニ立ツ音。[illegible]

つる-がき（名）鶴柿 柿ノ一種。實ハ細長クシテ、早ク熟ス[illegible]

つる-かけ（名）弦懸 弦ヲ弓ニ懸クルコト。鉤弦

つる-がしは（名）蔓柏 戎ノ神ノ紋所。文化の川柳「商ヒノ、ツルヲ守ルハ、蔓柏」

つる-かぶら（名）弦鏑 又、ツルカムラ。弓弦ノ名所。弦輪ノ根モト、絲ニテ卷キタル太キ所。今川大雙紙（今川了俊）「弓ヲ張ルベキ次第ノ事、凡人ノ弓ナラバ弦かぶらヲクハエ」

つる-かめ（名）鶴龜 つるト、かめト。共ニ長命ノモノトシ、緣起ヲイハヒテ用ヰル。[illegible] 淮南子、說林訓「鶴壽千歲、以極其遊」[illegible]古今集、七、賀「つるかめモ、チトセノ後ハ、知ラナクニ、アカヌ心ニ、任セハテテム」[illegible]マケヲ、君コソ知ラメ、ヨロヅヨヲヘテ」

つる-ぎ（名）劍 〔吊佩ノ約、即チ、垂佩〕ノ[illegible]ノ義。古クハ、太刀ノ緒ヲ長クツケテ、足ノ脛ノ邊マデ垂ラシテ佩ケリ。法隆[illegible]トヅ[illegible]ニテ[illegible]（一）上古ハ、刀劍[illegible]ジ。古事記、中[illegible]、[illegible]ノ太刀、ソノ太刀ハヤ」[illegible]、[illegible]ノ太刀ヲ、下ゲ佩キテ、[illegible]ノ[illegible]、徐ガルハ[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]片刃ノ刀[illegible]ノ稱トナリ、殊ニ、其頭ノ[illegible]ノ[illegible]ノ如クナルモノヲ云フ。劍（たち、かたなノ條ヲモ見ヨ）倭名抄、[illegible]、劍、[illegible]「[illegible]、ツルギ」

つるぎ-たち（名）劍刀 [illegible]

つるぎ-たち（枕）劍刀 （一）[illegible]枕詞。（男子ハ、劍刀ヲ[illegible]）[illegible]（二）[illegible]ノ枕詞、[illegible]

つるぎ-ば（名）劍刃 [illegible]

つる-くさ (名) [蔓草] 莖ノ蔓トナリテ、生ヒ出ヅル草ノ稱。マンサウ。

つる-くび (名) [鶴頸] (一)德利ナドノ口ノ、細長ク、鶴ノ頸ノ如キモノノ稱。犬子集「雪ホ山ニナリテモ、ナガキ鶴くび [illegible]、カツラハ蜘ニ、カラマトヒ」 (二)ゆふがほノ一種、實ノ形、圓ク、徑、四五寸ニシテ、二尺餘ノ柄ノ如キ蔕アルモノ。乾シテ、二ツニ割キ、中ヲ空ニスレバ自然ノ杓ヲナス。コレヲ、ひたえのひさご(直柄瓠)ナド云フ。 長柄葫蘆 長頸葫蘆

づる-こ・ける (動) [ずるこける(摩倒)ノ音便轉] 結ビ解ケ下ル。又、垂レ下ル。ヅルッコケル。「帶ガづるこける」

つる-さいで (名) [弦裁出] (さいでハ、割出ノ音便略) 弓ノ弦輪ニ卷キタル紙、又ハ、絹ノ、裁チハヅレノ小ギレ。 弦絹 闘本記(天文)「つるさいでニハ、モンノアル物ヲバ、スマジキ事也、ムラサキナトニ、カケシロウ儀ニアラズ」 四季草、三、射儀「弦さいでの事、一、弓ノ弦輪ニ卷クキヌヲ、つるぎぬト云フ、本名ハつるさいでト云フ也」 小笠原弓記 光清「弦さいでノ事、步射ノ時ハ、ウラ筈、本筈、靑キ絹ニテスル」

つる-さし (名) [弦匠] 弓弦ヲ造ル人。弓弦匠。

つるし-がき (名) [釣柿] 又、ツリガキ。サラシガキ。エダガキ。秋、澁柿ノ半熟ナルヲ採リ、皮ヲ剝キ、竿ニ釣リテ乾シタルモノ、初メ乾スコト、一月許ニ、色、黑褐ニシテ潤ヒ、味甘クナルヲ、あまぼしト云ヒ、亦食フ。コレヲ、又乾シ、又收メテ、冬ニ至レバ、全ク黑クナリテ、上ニ白粉ノ如キモノヲ生ジテ成ル。味最モ甘シ。 白柹 露柿 竹庭祕錄、甲、河東、云云、性、好ミテ胡瓜、及、白柹ヲ食フ、白柿三ツヲ食ヘバ、醉ト云ヘリ」

つるし-ぎり (名) [吊切|釣切] (一)人、或ハ、物ヲ吊シ置キテ切ルコト。サゲギリ。 (二)魚ノあんかう(鮟鱇)ヲ割ク法。繩ニテ下脣ヲ貫キ、梁ニ懸ケ、腹ニ水ヲ滿タシメテ後ニ、皮、骨、肉、ヲ割キ、最後ニ、胃ヲ破リ水ヲ去ル。然セザレバ、肉、皮骨ヲ離レズト云フ。

つる-しんばう (名) [吊坊] [擬人語] 古着屋ノ店先ニ、吊リテアル古衣。

つる・す・セ・サ・シ・セ (他動、四) [吊] 釣リテ下グ。ブラサゲル。 三議一統、上、步射門「御座所ノ壘ハ白綠也、ソレヲつるしテ矢所トス」

つる-だち (名) [蔓立] 本草學ノ語。草ノ莖ノ、蔓トナリテ生ズル性ノモノノ稱。(木本ニ對ス) 藤本 蔓生

づるっ-こ・ける (動) づるこけるノ急呼音。

つる-つる (副) 滑ラカニスベル狀ニ云フ語。スルスル。ツラツラ。ツルリト。 七十一番職人盡歌合、上、十六番、弦うり「夕暮ノ、山ノ端見レバ、松坂ヤ、つるつるトコソ、月ハ出デケレ」

つるつる-てん (名) つんつるてんニ同ジ。

つる-な (名) [蔓菜] つるぶ(蕃杏)ニ同ジ。

つる-なべ (名) [鉉鍋] 上ニ鉉ノアル鍋。 浦島年代記 元祿、近松作、二「是レヨリハ弦なべガヨイ物ト、ドット笑ヒモ時ノ御祝儀」

つる-にがな (名) [蔓苦菜] ぢしばり(地縛)ノ(一)ニ同ジ。

つる-の-かみ (名) [鶴髮] [鶴髮ノ文字讀] シラガ。カクハツ。白髮。 [illegible]記、承安「つるのかみ、カシツクコトハ、古ヘノ、カセキノ[illegible]ノ、フルコトソコレ」カセキノ[illegible]ハ、天笠ノ鹿野[illegible])

つる-の-けごろも (名) [鶴毛衣] 隱者ナドノ着ル服。被風ノ長クシテ、總體、白地ニテ、黑布ニテ緣取リタルモノ。一說ニ、鶴ノ毛ヲ以テ織リタル布帛ニテ、作リタル衣ト。かくしやう(鶴氅)ノ條ヲモ見ヨ。 鶴氅衣 源、三十四、上、若菜、上、五十「白キモノヲ品品カツキテ、山際ヨリ池ノ堤、過クル程ノヨソメハ、千年ヲカネテ遊ブ鶴の毛衣ニ、思ヒマガヘラル」 後拾遺集、七、賀「雲ノ上ニ、ノボラムマデモ、見テシガナ、つるのけごろも、年フトナラバ」

つる-の-こ (名) [雲孫] [瓜葛の子ノ義。雲孫ト書スルハ、其遠クシテ浮雲ノ如シト云フ意] 玄孫ノ玄孫、卽チ、八代ノ孫。うんそん(雲孫)ノ條ヲモ見ヨ。 書言字考節用集、四、人倫門「雲孫」

つる-の-すごもり (名) [鶴巢籠] 虛無僧ノ吹ク尺八ノ曲ノ名。(モト胡弓ノ曲)

つる-の-はうちやう (名) [鶴庖丁] 料理ノ一。鶴ノ肉ヲ料理スルコト。素袍ヲ着テ、大ナル眞魚板ニ、庖丁、眞名箸取リテ、イカメシキ式ヲ行フ。(貴人ノ家ニテ) 其時季ハ、多クハ、陰曆正月(日ハ不定)ナリトゾ。 諸國圖解年中行事大成、一、正月「鶴庖丁、云云、今朝(十九日)六位二人、末那板ニ末那箸、檀紙ヲノセテ、舞臺ヘ昇スヘ、扱、鹽鶴一羽、末那板ノ上ニ置ク、御廚所高橋大隅兩家ノ人、參入シテ、隔年ニコレヲツトム、其體、衣冠ヲ著シ、先座シテ後、庖丁、魚箸ヲ取テ、鳥ノ兩羽ヲシゴク、俗ニ是ヲホネヌキト云フ、次ニ兩翼ヲ切テ肉案ノ上ニ置二置、十字ノ形ヲ作ル、次ニ兩足ヲ切リテ、肉ノ下ヘ、庖丁、箸ニテカキ寄ス、次ニ頭ヲ切テ、サキノ兩翼、十字ノ上ニ置テ、千ノ字ヲツクル、是ヲ千年切ト云フ、又、萬年切トモ云フ、扱、肉ヲ一寸ニ[illegible]シテ退ク、サテ清涼殿ノ階下ニノゾミテ、太刀、[illegible]ヲ四フ、左手ニ取テ庭上ニ退キ、拜シテ退出ス」 [illegible]祕錄草、八集、三、庖丁ト[illegible]「寛文五己巳年十二月十二日、御黑書院、鶴庖丁上覽、天野五郎太夫勤之」 有德院殿御實紀、廿二「享保十年十一月廿一日、[illegible]書院ニテ鶴ノ庖丁御覽アリ、鶴ニ庖丁、魚箸ヲ組ニ載セテ、中奧ノ小姓二人ニテ持出テ、[illegible]緣ノ下段ノ間ノ外ニスユ、トキニ御廚所頭小林貞右衛門勝良、[illegible]斗目長ノ袴ツケテ出テ、鶴ヲ調理ス、事ハテテ初メノ如ク、中奧小姓出テ徹ス」

つる-の-はぎ (名) [鶴脛] ツルノスネ。 莊子、駢拇篇「長者不レ爲レ有レ餘、短者不レ爲レ不レ足、是故鳧脛雖レ短、續レ之則憂、鶴脛雖レ長、斷レ之則悲」 沙石集、五、上、第八條「サレバ、鶴のはぎモ切ルベカラズ、鴨ノ脛モ續クヘカラズト云ヘリ」

つる-の-はし (名) [鶴嘴] 地ヲ穿ツニ用キル具、頭、鐵製ニシテ、長ク曲リ尖ルコト、鶴ノ嘴ニ似、中央ニ木ノ柄ヲツク。又、つるはし。略シテ、つる。 鶴觜鋤

つる-の-はやし (名) [鶴林] [文字讀ノ語] 沙羅雙樹ノ林ノ異稱。世尊入滅ノ所。釋迦牟尼ガ涅槃ニ入リタル時、樹色、鶴ノ毛ノ如ク白クナリタリト云フ。カクリン。 涅槃經、一「爾時、拘尸那城娑羅雙樹林、其林變白、猶如二鶴林一」 増鏡、第一、おどろの下「キサラギノ中ノ五日ハ、つるのはやしニタキ木盡キニシ日ナレバ」 榮花物語、三十、鶴林、御堂關白薨逝「煙絕エ、雪降リシケル、鳥邊野ハ、鶴の林ノ、ココチコソスレ」 謠曲、西行櫻「鷲ノ御山ノ花ノ色、枯レニシ鶴ノ林マデ、思ヒ知ラレテアハレナリ」

つる-の-まる (名) [鶴丸] 紋所ノ名。鶴ノ翼ヲ延ベタル形ヲ、環ノ如ク畫ケルモノ。 曾我扇八景(寶永、近松作)上「コノ朝比奈ガ鶴の丸、今迄ヨリハ猶大キニ、飯原ガ紋カ一尺ナラバ、朝比奈ハ八尺」

つる-はぎ (名) [鶴脛] 衣ノ裾短クテ、脛ノ長ク現ハレタルコト。 [illegible]葉集、十、連歌「[illegible]川ヲ、馬ノ袴ヲ脫ギテ、手ニサゲテ渡ルヲ見テ」「[illegible]淺川ヲ、鶴脛ニテモ、渡ル哉、[illegible]ハ、コシト思ヒテ」 宇治拾遺物語、[illegible]上、上「カイネリノ[illegible]キ 社

バカリ着タマヒテ、つるはぎニテ、イトホヒサクヲカシゲナル指貫ヲカキイダキテ」同、蔵開、中「[illegible]ギタマヒテ、ハダカつるはぎニテ、走ラセタマヒテ、殿上マデ笑ハセ奉リタマフ」

つる-はくか（ツル・ハッカ）(名) 蔓薄荷 かきどほし。

つる-はし (名) 鶴嘴 つるのはし(鶴嘴)ノ(一)ニ同ジ。

(十)(一)ニ同ジ。 柴田退治記(天正、大村由己)「或以三鍬、鑁、[illegible]鑿、鶴嘴、笑[illegible]築地ニ」

つる-はじき (名) 弦彈 ゆがけ(弓懸)ノ一名。 其條ヲ見ヨ。

つる-ばしり (名) 弦走 〔弓弦ノ觸ルル意ノ名カ〕 (一)弓ニカケタル弦ノ、自然ニ切ルルコト。(二)鎧ノ胴ノ前面ノ、皮ニテ包メル部分。弦走ノ板。 貞丈雜記、本朝軍器考、九、上「弦走ハ、鎧ノ札ニ、弓弦ノ障ランコトヲ恐レテ、革ヲ以テ札ヲ覆ヒテ、弦ヲ走ラシムル意ナリ」 保元物語、二、白河殿攻落事「障子ノ板カ、栴檀、弦走カ、胸板ノ眞中カ」 太平記、三、笠置軍事「足利殿ノ御弓勢、日来、承傳ヒシ程ハ無リケリ、此ヲ遊バシ候ヘ、御矢一筋受テ、物ノ具ノ實ノ程、試候ハント欺テ、弦走ヲ蔽テゾ立タリケル」 (三)やどまり(矢止)ノ條ヲ見ヨ。

つるばしり-の-いた (名) 弦走板 前條ノ(二)ヲ見ヨ。 本朝軍器考、九、甲胄「鎧ノ前ノ第一ノ板ヲ、一ノ板トモ、胸板トモ云フ、胸板ノ次ヲバ、弦走の板ト云フ」

〜つるばみ (名) 橡 〔[illegible]ノ義〕 (一)今ノどんぐり(團栗)ノ稱。どんぐり(團栗)ノ條ヲモ見ヨ。 倭名抄、十、菓[illegible]色具「橡、[illegible]美」[illegible] 本草和名、下「[illegible]」「ドングリ」 (二)黑染色ノ名。どんぐりノ實ノ梂ヲ煮、其汁ヲ用ヰテ染メタルモノニテ、衣服ナドニ用ルニ、[illegible]、鈍色ナドト云ヒテ、家人、奴婢ナドノ衣ノ色トス。 ニビイロ。 衣服令[illegible]「家人奴婢、橡墨衣」[illegible]橡、[illegible]ニ、[illegible]集、七「橡、衣人皆、コトナシト、イヒシ[illegible]ヨリ、キホシク思ホユ」 同、十八「クレナヰハ、ウツロフモノゾ、都流波美ノ、馴レニシ衣ニ、ナホシカメヤモ」 (三)四位以上ノ袍ノ色、相似タレバ、つるばみト云フ。 [illegible]百首、[illegible]、つるばみノ衣ノ色ハ、カハラネド、一重ニナレバ、メヅラシキカナ」(顯仲ノ歌ナリ) 續世繼物語、はらはらの御子「つるばみノ衣ハ、王ノ四位ノ色ニテ、云云、今ノ人、心オヨスゲテ、四位ハ王ノ衣ニナリ、五位ハ四位ノ衣ヲ着ルベシ」 (四)藤ノ衣ノ色、相似タレバ、喪服ノ時ニ打チマカセテ、つるばみト云フ。 源氏、二十八、夕霧「[illegible]女房服、喪ノ色イト濃クテ、つるばみノ喪服ヒトカサネ、小袿着タリ」 榮花物語、十、日蔭[illegible]「世ノ中、皆諒闇ニナリヌ、殿上人ノつるばみノウヘノ袍ノアリサマナドモ、烏ナドノヤウニ見エテ、アハレナリ」

〜つるび (名) 交尾 遊牝 ツルブコト。ツルムコト。ツルミ。 鳥獸ノ交接。 倭名抄、十八、毛群[illegible] 遊牝、日本紀私記云、[illegible]、[illegible]羽族[illegible]、孳尾、尙書云、[illegible]孳尾、孔安國注曰、乳化曰孳、交接曰尾、[illegible]、[illegible]比ニ[illegible]、靈異記[illegible]寶典十リ 名義抄「孳尾、ツルミス、ツルビ」 [illegible]、八年三月「[illegible]遊牝」

つる-ぶ (名) 蔓荇 番杏 〔蔓荇ハ、番杏ノ誤用〕 多年生草ノ名。暖地ノ海岸ニ自生シ、莖ハ肉質ニシテ高サ一二尺、地上ニ蔓延シ、葉ハ卵形ノ三角狀ニテ、互生ス。花ハ葉腋ニ生ジ、黃綠色ノ萼アリ、實ハ堅クシテ角アリ。葉ハ食用トス。ツルナ。ハマナ。

〜つる・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 婚 交合ス。交接ス。[illegible]ム。[illegible]

つる・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 交尾 遊牝 [illegible]〔連[illegible]〕[illegible]ノ[illegible]ヘ、[illegible]ヘ[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]かるも）番ふノ意トス[illegible]〕 鳥獸ノ[illegible]遊牝ノ[illegible]ヲ併セ見ヨ〕 [illegible]交接ス。(鳥獸ニ云フ) 靈異記、中[illegible]「[illegible]」[illegible]

つる・ぶ・ブ・ル・ブ・レ・ベ・べ・ベ [illegible] 〔[illegible]〕[illegible]テニシ、つるべシカバ、脚カヒカヘテゾ見エケル」

つる-ぶくろ (名) 弦袋 古へ、弓ノ懐ヲ入ルル袋。革ニテ作リ、革ノ緒ヲ以テ太刀ニ着ケ、後ニハ、[illegible]リ、刀ノ鞘ニ貫キテ携フ、藤蔓ニテ作ル。宿衞ノ官人、弓箭ヲ帶ブル時、太刀ニツクルモノ。ツルマキ。 貞丈雜記、十一、武具「太刀ニ弦袋付ルニハ、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノワナニ太刀ノ帶どりヲ通シテ、太刀ヲハク也」 [illegible]、六、[illegible]、[illegible]ヒキケリ、イトマヲ申テ下ラントシケルヲ、ツタヘキキケリ、イトマヲ申テ下ラントシケルヲ、御許ナカリケレバ、兵衛尉ヲ辭シ申テ、陣ニつるぶくろ[illegible]ノ[illegible]ノ尉家貞ト云フ者有、ウスアヲノ狩衣ノ下ニ、モヨギヲドシノ腹卷ヲ着、つるぶくろ付タル太刀脇挾ンデ」 [illegible]ニトメテ、金澤ノ城ヘハセ下リ給ヒケル」

〜つる-べ (名) 釣瓶 〔[illegible]〕 井ノ水ヲ汲ミテ、釣リアグル桶。釣瓶繩、或ハ、竿ノ先ニツケテ釣リ上グ。元ハ瓦器ナリキ。[illegible] [illegible]「[illegible]」(良作[illegible]「チウチンハ釣瓶ナリ、[illegible]トカクハ[illegible]事ナリ、つるべモ[illegible]ナリ」 [illegible]、[illegible]、[illegible]シト、釣瓶ニカカル、[illegible]カナ」[illegible]

つるべ-うた (名) 釣瓶打 [illegible]〔連[illegible]〕[illegible]ナドヲ打ツ出スニ、[illegible]ノ[illegible]ク[illegible]、[illegible]ニ打ツコト。[illegible] 雜錄[illegible]「[illegible]川十郎[illegible]八郎[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、國ニ入カリケ、つるべうちニ打ツ出ル」

つるべ-おとし (名) 釣瓶落 釣瓶ヲ井戸ノ中ニ落スガ如ク、[illegible]物ノ落ツルコト。「つるべおとしノ秋ノ日」

つるべ-ずし (名) 釣瓶鮓 [illegible] 名、大和國、吉野川ノ鮎ヲ、下市町ニテ作ル[illegible]リ、[illegible]ルモノ。其形、釣瓶ニ似タレバ云フ。[illegible] [illegible]千本櫻[illegible]、竹田出雲等合作[illegible]

つるべ-なは (名) 釣瓶繩 釣瓶ニツケテ、水ヲ汲ムニ用ヰル繩。ホツナ。ホドノ[illegible]。 [illegible]、[illegible]、[illegible]曲、金札「[illegible]」[illegible]ナルハ、[illegible]井ノ釣瓶[illegible]、[illegible]山ノ山下水[illegible] [illegible]イトノ[illegible]ガリヤ」

つる-ぼ (名) [illegible] 草ノ名。[illegible]ニ[illegible]、[illegible]根ヨリ叢生ス。葉、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]

つる-まき (名) [illegible] [illegible]ハ[illegible]ナドニ[illegible]ノ[illegible]リ、[illegible]ドニ下ゲテ[illegible] [illegible]

ルマキ、[illegible]ツルマキ 〔[illegible]〕[illegible]ハエビラノ脇皮ニ付レ之、刀ノサヤヘ引トホシテ、矢ヲオフナリ、弦まきノツケヤウ口傳アリ」 小笠原入道宗賢記「つるまきノ事、籠ノ時ハ、コシカハノサキニツクル也、ウツボノ時ハ、フタノウチノつる袋ニ入ベキ也」 [illegible]康治元年十月廿六日、宇槐記云、[illegible]十人、云云、自左肩懸弦不當胸結之」

つるまさき (名) まさきのかづら(扶芳藤)ノ條ヲ見ヨ。

〜つる・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 交尾 〔つるぶノ轉、(悲ぶ(カナシ)、かなしむ。浮ぶ、うかむ)つるぶ(交尾)ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕 つるぶ(交尾)ニ同ジ。 運歩色葉集「交接、ツルム」 字類抄「交、ツルム」 持統卽位前紀、朱鳥元年十二月「是歲、蛇犬、相交、俄而俱死」

つるむらさき (名) 蔓菜 蔓草ノ名。春、種ヲ下ス。葉ハ、卵圓形、先端、尖リ、厚クシテ光リ、淡綠ニシテ、互生ス。夏ノ末ニ、葉ノ間毎ニ穗ヲ出シ、圓小顆ヲツヅル、白クシテ、頭ニ五瓣アリ、其色、粉紅ニシテ、漸ク長ジテ實トナル、初ハ綠ニシテ、圓扁、大キサ三分許、堅ニひだ多シ、後ニ紫ニ變ジ、熟スレバ黑シ。此汁ニテ物ヲ染ム、深紫ニシテ美ナレドモ、久シカラズシテ色變ズ。錦畫ニ用ヰルむらさきがみ、コレナリ。 落葵

つるめそ (名) 弦召 〔弦召(ツルメセ)ノ訛。行賣シテ呼ブニ起ル〕 犬神人(イヌジンニン)ノ一名。(平生ハ弓弦ヲ作リテ行賣スルヨリ云フ)京都、祇園祭ノ行列ニ、甲冑着テ、先驅スルモノ。犬神人ノ條ヲモ見ヨ。 貞德文集、六月一日、「祇園會、云云、弦召」 閑田耕筆(寛政、伴蒿蹊)二「五條(京都)ノ東、[illegible]寺ノ内ニ一群アリ、弓ノ弦ヲ賣ルヲ業トシ、弦めそト云フ、是ハ、賣聲ニツキテ、名ニ呼ブ成ベシ、めそハめせノ音通ニテ、昔ハつるめそト賣歩キシナラン」 和漢三才圖會、

七十二、山寺、弦女會、住[illegible]仁寺ハ、女會者、女世也、[illegible]日、傳教大師、[illegible]後、數ニ人作レ者、又造ニ弓弦[illegible]業、最後業也、子孫相續住ニ建仁寺町ニ、每六月祇園會、彼等[illegible]神輿ニ以爲ニ恒例ニ、世稱ニ之犬神人ニ」 俳諧職人盡、弦賣「つるめそカ、蜩ノ威光ヤ、祇園ノ會」 七十一番職人盡歌合、上、十六番「弦賣詞、つるめし候へ、フセヅルモ候」

つるりと (副) (一)つるつるニ同ジ。 著聞集、十六、興言利口「僧、ヒヘドリヲカヒケリ、毛ヲオソクカヘケルヲ、イウイウシキ物ニテ、其ノ鳥ヲトラヘテ、毛ヲつるりとムシリテケリ」 (二)拔ケイヅル狀ヲ云フ語。

つるれいし (名) 蔓荔枝 〔普通、錦荔枝(ツルレイシ)ノ名ニ據リテ呼ブ〕 蔓草ノ名。春、種ヲ下ス、莖、細ソクシテ絲ノ如シ。葉ノ大キサ三寸許、五七岐ニシテ鋸齒アリ、淺綠ナリ、葉每ニ一鬚アリ。葉ノ間ニ五瓣ノ黃花ヲ生ズ、大キサ六七分、後ニ瓜ヲ結ブ、皮ニ疣(イボ)多ク、長サ三寸、徑二寸許、初ハ綠ニシテ、末ヨリ漸ク黃ニ變ジ、熟スレバ、自ラ裂ケテ紅肉ヲ見(アラ)ハス。肉ハ六七分許ノ大キサニシテ、多ク重ナル、味甚ダ甘シ。内ニ、皆一核アリ。 苦瓜 錦荔枝 大和本草、七、園草類「錦荔枝、ツルレイシ、一名、苦瓜ト云フ」 和漢三才圖會、百、蓏菜類「苦瓜、ツルレイシ、ニガコウリ、錦荔枝、一云、蔓荔枝、云云、苦瓜原出ニ南番ニ今閩廣皆有レ之」

つるれんげ (名) 佛甲草 草ノ名。路傍、陰處、林下、水側ニ多ク生ズ。雄ナル者ハ、苗、高サ六七寸、叢生ス。葉細ソクシテ厚ク、末尖リ、長サ八九分、黃綠色、三葉ゴトニ相對ス。莖ヲ切リ捨テテ枯レズ、自ラ根ヲ生ズ。四五月ノ頃、梢ニ花ヲ開ク、五瓣黃色、大イサ三分許、多ク枝ニ盈テ美ハシ、苗ハ冬ヲ經テ枯レズ。雌ナル者ハ、苗、高サ二三寸、葉、雄ナル

者ヨリ狹小ニテ、長サ三分許、厚クシテ尖ラズ、葉、密ニ攢(アツマ)リ生ジ、冬ヲ經テ枯レズ。冬、春ニ至リ、葉、紅紫色ニ染メテ美ハシ。四五月ノ頃、花ヲ開ク、形、雄ナル者ニ同ジ。又、佛指甲(ブツシカフ)トモ云フ。マンネンサウ。マンネングサ。 重修本草綱目啓蒙、十六、石草類「佛甲草、總名、マンネンケサ、ツルレンゲ、イツマデグサ、云云」 廣益地錦抄、七「佛甲草、ブツカフサウ、葉、冬ハ地ニ付テれんげノゴトク、云云、尺ニタラヌ小草ナリ、云云、一名佛指甲共云、又ノ名、一夏草(イチゲサウ)トモ云、又つるれんげ共云」

つるわ (名) 弦輪 弓弦ノ端ニ輪ヲ作レルモノ。(弓ノ本筈(モハズ)、末筈(ウラハズ)ニ懸クルモノ) 小笠原入道宗賢記「ツル卷ニ弦ヲマク事、マヅ、モトハズヨリ卷クベシ、カケ候時、ウラハズヨリカケカヘ候タメ也、弦ヲ二卷キテ入候事モ、ウラハズノつるわヨリ卷クベカラズ、本ハズノつるわヨリ卷ハジメテ、ウラハズノつるわヲ上ニナルヤウニ卷トメテ入ルル也」 岡本記「ツルノ出シヤウノ事、サシテ法ナキト申ナガラ、つるわノアルカタヲ、人ノカタヘナシテ出スベシ」 高忠聞書(多賀高忠)「弓ヲハル時ハ、ウラハズノつるわヲヨク見テ、スグニカカリタラバ、其ノママオキ」

つれ (名) 連 (一)連(ツ)ルルコト。伴(トモナ)ヒテ、行クコト。同伴。 伴隨 隨伴 「道連」二人連」 (二)伴(トモ)。ナカマ。 伴侶 侶伴 儔侶 凱陣八島(元祿、近松作)二「イカニオチブレタレバトテ、御身づれノ緣組ハ、チト推參ナラメト、赤面シテコソオハシケレ」 (三)能、狂言ニテ、仕手(シテ)ニ伴ヒテ、技(ワザ)ヲ演ズル者ノ稱。(仕手(シテ)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ) 謠曲、鉢木「シテ詞、イカニ申シ候、オ宿ハ申シテ候ヘドモ、何ニテモ候ヘ、參ラセウズル物モナク候フハイカニ、ツレ詞、折節コレニ粟ノ飯ノ候フホドニ、苦シカラズハ、參ラセラレ候ヘ」

つれあひ (名) 連合 (一)ツレアフコト。 (二)夫婦、互ニ呼ブ語。偶(ツマ)。メウト。メヲト。 匹偶 配偶 昨日は今日の物語(天正)

「アル人、久シキつれあひニ離レテ」 鑓門松(享保、近松作)上「貧乏ハセマイモノ、連合ハ船場デ隱レモナイ、[illegible]」

つれあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 連合 (一)伴(トモナ)フ。互ニ連(ツ)ル。同伴。 伴隨 隨伴 (二)夫婦トナル。ツレソフ。 配偶

つれこ (名) 連子 再緣ノ婦ノ、連レテ來レル前夫ノ子。ツレッコ。

つれこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 連込 (一)伴(トモナ)ヒテ入リ込ム。 (二)情婦ナドヲ伴ヒテ入リ込ム。

つれそ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 連添 夫婦、相連レテ住ム。夫婦トナリテ暮ス。ツレアフ。 配偶 織留(元祿、西鶴)五「內證ノ事ハ女ノ取廻シニテ、連れ添ふ男ノ世間向キヲヨクスルコソ本意ナレ」 大職冠(正德、近松作)三「一期連れ添ふ大事ノ男、スヒガラニセマイト、本女房サヘ懸引スル」

〜つれだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 連立 相連レテ出ヅ。伴(トモナ)ヒテ行ク。トモナフ。タグフ。 攜伴 伴隨 隨伴 枕草子、八、七十四段「にはとりノヒナ、云云、親ノモトニつれだちアリク、見ルモウツクシ」 同、九、百十段「イツシカトマツニ、御社ノカタヨリ、赤キ衣ナド着タルモノドモナド、つれだちテクルヲ」

〜つれづれ (名) 〔連連(ツレヅレ)ノ義ニテ、思ヒ續クル意カ、或ハ、つらつら(熟)ト同意カ〕 (一)獨リ物ヲ思ヒツヅケ、ナガメテアルコト。 古今集、十三、戀、三「つれづれノ、ナガメニマサル、淚川、袖ノミ濡レテ、逢フ由モナシ」 (二)[illegible]ジテ、獨リ事ナクシテ、淋シキコト。空シクシテ、居ルコト。スベキワザナクシテ、ヒマナルコト。 徒然 名義抄「徒然、ツレヅレ」 字類抄「徒然、無事、ツレヅレナリ」 字鏡八「[illegible]、獨單也、比止利、又、豆禮豆禮」 源、廿三、初

昔、十「東ノ院ニ籠レ給ヘル御方ニハ、年月ニ添ヘテ、つれづれノ數ノミマサレド」 六百番歌合、遲日「春ノ日ノ、ナガサメザタキ、つれづれニ、幾度今日モ、[illegible]シツラン」 玉葉集、一、春、上「詠メスル、綠ノ空モ、カキ曇リ、つれづれマサレ、春雨ゾ降ル」 讃岐典侍日記「云ヒアヒツツ、つれづれノ慰メニ、法華經ニ花タテマツリ給フ」

〜つれ-づれ-と (副) 〔前條ヲ見ヨ〕 (一)思ヒツツ、打チナガメテ。ツクヅク。ツレヅレニ。 貫之集、上「つれづれと、年フルヤドハ、ヌバ玉ノ、夜モ晝モナガク、ナリヌベラナリ」 萬代集、十、戀、二「つれづれと、空ゾ見ラルル、思フ人、天降リ來ム、物ナラナクニ」 (二)獨リ淋シク。ツレヅレニ。 徒然 源、十三、明石「ヒトリネハ、君モシリヌヤ、つれづれと、思ヒアカシノ、ウラサビシサヲ」 枕草子、二、十四段「己カつれづれと、暇アルママニ」 躬恒集「春クレテ、サビシキ宿ハ、つれづれと、庭シロタヘニ、花ゾ散リケル」

〜つれ-づれ-に (副) 前條ノ語ニ同ジ。 源、三十五、柏木「つれづれニ思ヒツヅクルモ、打返シ、イトアヂキナシ」 同、四十九、東屋「イト、つれづれニ、人目モ見エヌ所ナレバ心ヤスク」 大鏡、序、「[illegible]ツ君ニ、我モ人モ久シウつれづれなるニ」

〜つれ-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 强顔 (一)つれもなしノ(一)ノ語意ニ同ジ。 宇津保物語、國讓、上、下「ツカウマツラデ、久シウナリヌレバ、カキナラサン事ナン、オモホエズ侍ルナド、つれなく云フ」 千載集、下「アダニノミ、人ハカレ行ク、我宿ニ、つれなく見ユル、庭ノ松カナ」 (二)つれもなしノ(二)ノ語意ニ同ジ。 拾遺集、十一、戀、一「イカニセン、命ハ限リ、アルモノヲ、戀ハ忘レズ、人ハつれなし」 新勅撰集、十二、戀、二「アヒミテモ、サラヌ別レノ、アルモノヲ、つれなしトテモ、何ナゲクラン」 源、二、帚木「コトサラニ、情ナクつれなきサマヲ見セテ」 伊勢物語、百廿段「近江ナル、ツクマノ祭、トクセナン、つれなき人ノ、鍋ノ[illegible]ン」 [illegible]「ゲニ[illegible]ハズヤ、つれなく[illegible]モノセラレソ」 [illegible]、[illegible]ノ、つれなく見エシ、ワカレヨリ、曉バカリ、憂キモノハナシ」

つれ-びき (名) 連彈 琴、三味線ナド、人ノ彈クニ、相合ハセテ彈クコト。合奏 [illegible]機嫌ノヨロシク、琴ノつれびき遊バシケル」

つれ-ぶし (名) 連節 相共ニ謠フコト。合唱 又、元祿頃、流行セシ小唄ヲモ云フ。 好色一代男(貞享、西鶴)二、「夜サヘ[illegible]笠ヲ着テ、つれぶしノ諷ひ」

〜つれ-も-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 〔連レ緣ルベキナキ意カ〕 (一)故由モ無シ。思ヒガケナシ。何ノ關係モナシ。人氣ナク寂シ。 萬葉集、二、長歌「イカサマニ、思ホシメセカ、由縁母無き、眞弓ノ岡ニ、宮柱、太シキマシテ」 同、三、長歌「都禮毛奈吉、佐保ノ山邊ニ、泣兒ナス、慕ヒ來マシテ」 同、六、長歌「押照ルヤ、難波ノ國ハ、葦垣ノ、舊リヌル里ト、人皆ノ、思ヒイコヒテ、都禮母無、アリシ間ニ」 (二)轉ジテ、情ナク、ココロゴハシ。キスグナシ。無情 情薄シ。ツレナシ。スゲナシ。 名義抄「[illegible]」 萬葉集、十一、[illegible]「つれもなき、思ヒシノブノ、サネカヅラ、ハテハクルヲモ、イトフナリケリ」 清正集「つれもたき、人ニ負ケジト、セシホドニ、我モアダナハ、立チゾシニケル」 萬葉集、四「都禮毛無久、アルラム人ヲ、片思ニ、吾ハ思ヘバ、惑シクモアルカ」 同、十九「山吹ノ、花トリモチテ、都禮毛無久、離レニシ妹ヲ、シヌビツルカモ」

※つ・れる (動) つる(連、釣、下二)ノ口語。

づ-ろう (名) 杜漏 「杜撰ヨリ轉ジタル語カ、或ハ、杜撰脫漏ノ略語カ」 事ヲ行フニ、取締リナキコト。ナゲヤリ。ヤリパナシ。無檢束

つわ-ぶき (名) 「[illegible]遣、作カナラズ、[illegible]蕗カ、[illegible]蕗カ」 つはぶき、[illegible]

(蕗)ノ條ヲ見ヨ。

つゐ (名) 對 ムカヒテ、ソロフコト。又、其物。ツガヒ。[illegible]

つゐ、[illegible]

つゐ-おく (名) 追憶 昔アリシ事、又ハ、知人ノ身上ナドヲ、思ヒ起スコト。過去ノ事柄ヲ思ヒ出スコト。追思。追念。追想。追懷。 [illegible]

つゐ-か (名) 追加 後ヨリ加ヘ補フコト。オヒツギ。ツギタシ。アトオヒ。 [illegible]

つゐ-かう (名) 追考 後ヨリ、以前ノ事ニ就キテ考フルコト。

つゐ-かう (名) 追孝 死シタル親父ナドニ、孝道ヲ盡スコト。菩提ヲ弔フコト。 [illegible]

つゐ-き (名) 追記 後ヨリ書キ加フルコト。追錄。 [illegible] (梁、劉勰)「仲尼微言、門人追記」

つゐ-きう (名) 追窮 何處マデモ、追ヒ究ムルコト。オシキハムルコト。

つゐ-きう (名) 追求 何處マデモ追ヒ求ムルコト。[illegible]

つゐ-きふ (名) 追及 後ヨリ、オヒツクコト。[illegible]

つゐ-く (名) 對句 詩、文ニ於テ、言語ノ[illegible]ドノ類。猶、りつ(律)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

つゐ-ぐ (名) [illegible]

つゐ-くゎい (名) [illegible]

つゐ-ぐん (名) [illegible]

つゐ-けい (名) [illegible]

つゐ-げき (名) [illegible] (二)ヲ見ヨ。

つゐ-とう (名) [illegible] 條ヲ見ヨ。[illegible]

つゐ-こく (名) [illegible]

つゐ-さう (名) 追想 [illegible]

つゐ-し（ツイ-シ） (名) 追思 つゐおく(追憶)ニ同ジ。 三國志、魏志、[illegible]所レ作術修レ備、賊以破走、揚州士民益追二思之一」

つゐ-し（ツイ-シ） (名) 追謚 人ノ死後、謚ヲ追贈スルコト。 漢書、平帝紀「孔子後孔均、爲二褒成侯一奉二其祀一、追二謚孔子一曰二褒成宣尼公一」

つゐ-し（ツイ-シ） (名) 餻子 又、ツイシ。米ノ粉、又ハ、小麥粉ヲ捏ネテ、丸ニシテ煎タルモノ。團子ノ類。 倭名抄、十六、飯餅類「餻子、[illegible]以之」 [illegible]倭名抄、四、[illegible]「玉篇、蜀人呼二蒸[illegible]、[illegible]、俗丸[illegible]也、唐僧令欽教坊記云、蘇五奴[illegible]、但多與、喫二[illegible]子一、亦首、不レ[illegible]、酒也」

つゐ-しつ（ツイ-シツ） (名) 追失 つゐはう(追放)ニ同ジ。 信長公記、十三「天正八年八月十七日、信長公、大坂ヨリ御出京、京都ニテ、御年老林佐渡守、云云、遠國へ被二追失一」

つゐ-しやう（ツイ-シヨウ） (名) 追賞 後ヨリ賞ヲ與フルコト。ブトヨリ其功績ヲ賞スルコト。

つゐ-しゆ（ツイ-シユ） (名) 堆朱 漆器彫鏤ノ一種。其刻ラムト思フ深サホド、朱漆ヲ厚ク塗リアゲテ、繪樣ヲ刻上ニシタルモノ。多ク、盆、香合、印籠、ナドニアリ。又、底ニ朱ヲ塗リテ、上ニ黒漆ヲ塗リカケ、刻リテ、朱ノ處マデ刻リツメタルヲ堆紅ト云ヒ、其黒漆ナルヲ堆黒ト云フ。又、其文ノ渦ノ連リタル如ク、又、唐草ノ蔓ノ如クナルヲ、屈輪(金絲花トモ云フ)ト云フ。 下學集、下、器財門「堆朱、ツイシユ」 尺素往來「一條兼良「堆朱、堆紅」」

つゐ-じよ（ツイ-ジヨ） (名) 追敍 生前、功勞アリシ人ニ、死後、敍位セラルルコト。

つゐ-しよう（ツイ-シヨウ） (名) 追蹤 (一)つゐせき(追跡)ニ同ジ。(二)舊事ヲ尋ヌルコト。往事ヲ追想スルコト。 杜甫詩「追蹤話渺茫」

~つゐ-しよう（ツイ-シヨウ） (名) 追從 人ノ後ニ服キ從フコト、コビヘツラフコト、オモネルコト。又、つゐそう。音便ニ訛シテ、つゐせう。諂諛 源、廿一、乙女十六「雛遊ノつゐしようヲモ、懇ニマツハレアリキテ」 同、十二、須磨三十九「彼ノ鹿ヲ馬ト言ヒケム人ノヒガメルヤウニ、つゐしようスルナド」 大鏡、中、師輔「前ノ帥殿ノミゾ、つゐしよう深キ老狐カナ、云云、ト申シ給ヒケル」 源、廿一、乙女「時ニ從フ世ノ人ノ、下ニハ鼻マジロキヲシツツ、つゐせうシ、氣色取リツツ從フ理ハ」

つゐ-す（ツイ-ス） 對 スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) ムカヒ合ヒテ、ソロフ。相對ス。

つゐ-ずゐ（ツイ-ズイ） (名) 追隨 (一)後ヨリ追ヒシタガフコト。 曹植詩「淸夜遊二西園一、飛蓋相追隨」 (二)死者ナドヲ、後ヨリ慕フコト。追慕 (三)追ヒツクコト。「他ノ追隨ヲ許サズ」

~つゐ-せう（ツイ-シヨウ） (名) 追從 つゐしよう(追從)ノ音便訛。其條ヲ見ヨ。 源、二、帚木四十六「ハハノアリサマヲ、アタラシキモノニ思ヒテ、つゐせうシヨル心ナレバ」

つゐ-せき（ツイ-セキ） (名) 追跡 後ヲツケテ追ヒ行クコト。追尾。追蹤。追躡。

つゐ-せき（ツイ-セキ） (名) 追惜 死後、其人ヲカナシミ惜ムコト。 三國志、魏志、郭嘉傳、注「或書曰、追惜奉孝、不レ能レ去レ心、其人見二時事一」

つゐ-ぜん（ツイ-ゼン） (名) 追薦 〔死者ノタメニ、追ヒテ福ヲ薦ムル義〕 死者ノ忌日ニ、佛事ヲ營ミ、佛ニ齋ヲ薦ムルコト 釋氏要覽「人亡毎レ至二七日一、必營二齋追薦一、謂二之追七一、又曰二齋七一」 盂蘭盆經、宗密疏、上「[illegible]聖賢之救一、度求二追薦之方一」

つゐ-ぜん（ツイ-ゼン） (名) 追善 〔死者ノタメニ、追ヒテ善事ヲ修スル義〕 死者ノ年回ナドニ、佛事供養スルコト。亡者ノ爲ニ、冥福ヲ修スルコト。追福。 無量壽經、[illegible]、孝子追善、尙以如レ此」 康頼寶物集、中「一期ノ後ノ追善ハ、七分ガ一ニゾ當ルト申シヌル佛喩ヲ以テ」

つゐぜん-の-くやう（ツイゼン-ノ-クヨウ） (名) 追善供養 亡者ノ冥福ヲ祈ルタメニ、衆僧ヲ會シテ佛事ヲ修スル供養。ツヰゼンクヤウ。

~つゐ-そう（ツイ-ソウ） (名) 追從 つゐしよう(追從)ニ同ジ。 源、三、空蟬三「ワラハナレバ、トノヰ人ナドモ、コトニ見イレつゐそうセズ」 同、二、帚木四十六「コノママ母ノアリサマヲ、アタラシキモノニ思ヒテ、つゐそう(活字本)シヨル心ナレバ」 同、十六、關屋三「此河内守ニ、云云、つゐそうシヨリテ、イトアサマシキ心ノ見エケレバ」

つゐ-ぞう（ツイ-ゾウ） (名) 追贈 國家ニ功アリシ人ニ、死後朝廷ヨリ官位ヲ贈ラルルコト。 後漢書、公孫述傳「初、常少、張隆、勸二述降一、不レ從、並以憂死、帝下レ詔追贈、少爲二太常一、隆爲二光祿勳一」

つゐ-たう（ツイ-トウ） (名) 追討 賊徒ヲ追ヒカケテ、討チ取ルコト。(官軍ニ云フ) 追罰。 後漢書、光武紀「郡縣追討、到則解散」 保元物語、一、主上三條殿行幸事「早ク凶徒ヲ追討シテ、逆鱗ヲ休メ奉ラバ」 盛衰記、三十二、法皇自二天台山一還御事「昨日マデハ源氏ヲ追討セヨト、諸國七道ニ被レ下二院宣一、今日ヨリハ可レ追二討平家一之由」

つゐ-たう（ツイ-トウ） (名) 追悼 死者ヲ追憶シテ、悼ミ惜ムコト。 魏文帝、追二封鄧公一策「追悼之懷、愴然攸傷」「追悼會」「追悼演説」

つゐたう-し（ツイトウ-シ） (名) 追討使 朝敵追討ノタメニ、差遣ハサルル使。ウテノツカヒ。 盛衰記、廿四「近江源氏追討使事」

つゐ-たけ（ツイ-タケ） (名) 對丈 〔身ノ丈ニ對スル意〕 衣服ヲ作ルニ、布帛ヲ身ノ丈ト同ジホドニ裁チ作ルコト。(婦人ノ服ナド、丈ヨリ長ク作ルニ對ス) 又、ツイタケ。 踐祚抄、延享「羽織モ長クナリ、頗テ對たけ位ノ羽織ヲ着ルヤウニナリタリ」

つゐ-ぢく（ツイ-ジク） (名) 對軸 ふく(幅)、接尾ノ條ヲ見ヨ。對幅。雙幅。

つゐ-ちやう（ツイ-チヨウ） (名) 追徵 (一)後ヨリ不足額ヲ取立ツルコト。「追徵金」 (二)追加トシテ取立ツルコト。 韓愈、論二太早一書「有[illegible]、[illegible]追徵一」

つゐ-てう（ツイ-チヨウ） (名) 追弔 人ノ死後ヲ弔フコト。死者ノ生前ヲ、シノビテ弔フコト。

~つゐ-な（ツイ-ナ） (名) 追儺 おにやらひ(鬼遣)ノ條ヲ見ヨ。儺遣。 字類抄「追儺、ツイナ」 掃部寮式「十二月晦日夜、追儺」 北山抄、十二月「追儺事、云云、陰陽寮以二桃枝弓、葦矢等一、頒二親王以下一、云云、陰陽師率二齋郎六人一、自二月華門一入、候二祭場一讀二呪文一畢、方相先作二儺聲一、郎以レ戈擊レ楯三度、群臣相承、和呼追レ之」 榮花物語、一、月宴「今ノ上、童ニ坐セバ、晦日ノ追儺ニ、殿上人フリ鼓ナドシテマヰラセタレバ」 宇津保物語、菊宴八十「ツゴモリノ夜、つゐなノ後、ウチヨリマカデテ、カク聞エタリ」

つゐ-な（ツイ-ナ） (名) 都維那 〔梵語、羯磨陀那(Karmadāna.)ノ轉化語。都ハ統都、維ハ綱維ノ義、那ハ羯磨陀那ノ那〕 又、ツキノ。略シテ、維那、又、維那。さんがう(三綱)ノ條ヲ見ヨ。

つゐ-なふ（ツイ-ノウ） (名) 追納 (一)不足額ヲ、後ヨリ納附スルコト。 (二)追加トシテ、納附スルコト。

つゐ-はう（ツイ-ホウ） (名) 追放 (一)オヒハナツコト。 (二)德川氏ノ世ノ刑ノ名。罪人ヲ一定ノ區域ヨリ追拂フコト。コレニハ

數等アリ、所拂_所構_、江戸拂_江戸構_、輕追放、中追放、重追放等ナリ。敲ヨリ重ク、遠島ヨリ輕シ。皆、鄕里ヨリ追ヒ拂ヒテ、永ク本籍ヘ歸ルコトヲ免サズ。又、其輕キモノニ、門前拂ナドモアリ。追失。 御定書百箇條、追放モノ御郭外ニテ放遣、侍ハ其場所ニテ大小渡遣候事」 科條類典、下、七「追放者御構場之内、甲斐國前前入候處、松平美濃守江被_下候以後、只今以入不_申候、自_今甲斐國入_可_然、[illegible]、存候、依_之奉_伺候、則追放御構場所書付入_御覽_申候」

つゐはく (句) 追白 つゐけい(追啓)ニ同ジ。

つゐばつ (名) 追罰 (一)後ヨリ罰ヲ加フルコト。(二)つゐたう(追討)ニ同ジ。 太平記、十四、節度使下向事「義貞朝臣、朝敵追罰ノ宣旨ヲ下シ賜リテ、兵ヲ召具シ、參内セラル」

つゐび (名) 追尾 後ヲ追ヒテ行クコト、追跡、追蹤、追躡。 後漢書、西羌、東號子麻「輕兵以_萬騎之衆_逐_數千之虜_、追尾掩截、其道自窮」

つゐぶ (名) 追捕 (一)官ヨリ吏ヲ遣シテ、不良ノ徒ヲ追ヒ捕フルコト。ツヰブク、ツヰホ。 後漢書、光武紀「更相追捕、賊並解散」 續紀、一、文武天皇四年十一月「天下盜賊往往而在、遣_使追捕_」 (二)ウバヒトルコト。カスメトルコト。奪略、劫略。 [illegible]記、剝十一、被_行_大嘗會_事「諸國七道ノ人民百姓、或ハ平家ノ爲ニ被_追捕_、或ハ源氏ノ爲ニ被_掠略_ケレバ」 [illegible]、亂入シ候テ、云云、神殿神寳ヲ追捕シ」 [illegible]太曆、文和四年二月十[illegible]、山ノ[illegible]、[illegible](吉田)ニ[illegible] 廿六日「[illegible]亂_入禁中女房局_、被_追捕_」

つゐふく (名) 對幅 ふく(幅、接尾)ノ條ヲ見ヨ。雙幅。對軸。

つゐふく (名) 追福 つゐぜん(追善)ニ同ジ。

同ジ。 北史、隋文帝[illegible]「[illegible]」 [illegible]ノ爲ニ、建サセ給フ所ナリ」

つゐぶく (名) 追捕 (一)つゐぶ(追捕)ノ條ノ(一)ニ同ジ。 大鏡、下、道長「大炊御門ヨリ西ザマニ、人人ノササト走レバ、云云、サハ大キナルつゐぶくカナト、[illegible]ニ心モナキマデ、[illegible]ヒマカリシカバ」 愚管抄、四「院ノ第一ノ寵人、家成中納言ノ家、つゐぶくシタリケレバ」 (二)つゐぶ(追捕)ノ條ノ(二)ニ同ジ。 [illegible]、[illegible]「カノ家ニ亂入シ、資財雜具ヲ追捕シ」

つゐぶし (名) 追捕使 武家ノ職名、古ヘ、國國ニアリテ、其部内ノ人民ヲ保護シ、奸徒追捕ノ事ヲ行ヒシ職、ソノ殊ニ地ヲ廣ク預リ領スルヲ、總追捕使(其條ヲ見ヨ)ト云フ。 源頼朝、奏請シテ、諸國ニ總追捕使ヲ置キ、自ラ六十六國總追捕使ニ補シテ、全國ノ追捕ノ事ヲ統ベタリ、(後ニ守護、地頭ノ職ヲ置クニ及ビテ、其名、遂ニ廢セリ) [illegible]

つゐほ (名) 追捕 つゐぶ(追捕)ニ同ジ。

つゐぼ (名) 追慕 死ニタル人、又ハ、去リタル人ヲ、追ヒ慕フコト。 [illegible]

つゐまつ (名) 對末 〔つゐまつハ、ついまつ(續松)ノ訛〕 骨牌ノ一種。ついまつ(續松)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

つゐらく (名) 墜落 オツルコト。墮下。

つゐりん (名) [illegible] [illegible]、出ヅルコト。 [illegible]

つゐろく (名) 追錄 後ヨリ書キ加フルコト。 [illegible]

つゑ (名) 杖 〔突居ノ略カト云フ。或ハ[illegible]〕 (一)竹木ノ細ソク長キモノ。地ニ突キツツ行キテ、身ノ扶ケトシ、[illegible]ミナラズ、突ケバ力ヲ添ヘ、[illegible]、故ニ扶助ノ意ニテ、[illegible]代トシテ、大神宮ニ奉リタマフモ、是レナリ」 [illegible]之、所_輔_老人_也」 [illegible]、加奈都惠」 [illegible]杖ハ、山人ノ、千年祈リニ、切レル杖ナリ」 (二)[illegible]ヘノ尺度ノ名。杖ヲ以テ、[illegible]リシヨリ出デタルモ、其長サ、サダカハ知リガタシ。略、後ノ一丈ニ當レルガ如シ。 古事記、中(垂仁)「御身長、一丈二寸」 萬葉集、十三、長歌「杖不足、八尺乃嘆」 (一丈ニ足ラヌ八尺) [illegible] (三)古ヘ、杖罪ノ[illegible]ヲ[illegible]、小[illegible] [illegible] 孝徳紀、大化二年三月「杖、フトツエ」 [illegible]下、十一年十一月「杖、フトツエ」 (四)タヨリトスルモノ。「杖トモ柱トモ賴ム人」

つゑたらず (枕) 杖不足 〔杖ハ丈ナリ〕 八尺ノ枕詞、[illegible]

つゑつきえび (名) 杖突蝦 [illegible] てながえび(手長蝦)ニ同ジ。

つゑつきむし (名) [illegible] [illegible] ニ同ジ。

つゑはしら (名) 杖柱 (一)杖ト、柱ト。(二)最モ賴リトスル人。 [illegible]「[illegible]しらトモ賴ミツル、海士ノ此世ヲ去リヌレバ」

つゑはらひ (名) [illegible] [illegible] 貴人ノ旅行、又、公用ノ荷物ナドヲ行クニ、驛ノ役人ナド、其先拂スルコト。

て で

て 五十音圖、多行第四ノ假名。(たノ條ヲ見ヨ)此ノ音ハ、下ニ、[illegible]轉ズルモノ)ヲ受クレバ、ちノ如ク轉ズルコトアリ、てう(手水)、てふ(蝶)ノ如シ。

で てノ濁音ノ假名。(だノ條ヲ見ヨ)此ノ音ハ、う、又ハ、ふ(ウト呼ブモノ)ニ連ナルトキハ、ぢノ如ク呼ブコトアリ、でう(條)、でふ(帖)ノ如シ。

て (名) 風 風ノ轉、[illegible]ニ用ヰ[illegible]

て (名) 手 〔取ノ約トスル[illegible]〕 (一)人類ノ兩肩ヨリ出デ、指ニ至ル總名。人間ノ上肢。 [illegible]

中ニ」「手ヲ打ツ」手ヲ叩ク」手ヲ合ハス」（四）〔物ノ手ニ取ルベキ處〕柄。取手。鉉。提梁　枕草子、三、廿八段「南ノ遣手ノソバニ、几帳ノ手ノサシイデタルニサハリテ」「鍋ノ手」桶ノ手」鋤ノ手」（五）蔓草ヲ絡ハスベキ爲ニ立ツル竹、又ハ木。「胡顏ノ手」胡瓜ノ手」（六）〔手ニテ文字ヲ書クコト〕。フデノアト。手跡。書　漢書、郊祀志「天子識二其手一」注「謂二所レ書手跡一」持統紀、五年九月「書博士」大鏡、上、實頼「大方コレニゾ、イトド日本第一ノ御手ノオボエハ、取リタマヘリシ」（佐理、夢ニ、神告ヲ受ケテ額ヲ書ク）源、十七、繪合「繪ハ巨勢ノアフミ、てハ紀貫之」枕草子、一、十三段「一ニハ御手ヲ習ヒタマヘ、次ニハ琴ノ御コトヲ」「男手」女手」葦手」手本」手ヲ習フ」手習」手ヲ書ク」手ガ上ル」手者」（七）行フコト。爲ルコト。シワザ。行爲　「手ヲ盡クス」手ヲ出ス」手ヲ入ル」手ヲ引ク」手ヲ付ク」（八）事ヲスル手。仕事。作業　「手ガ明ク」手ガ無イ」手ガ塞ガル」人手ヲ假ル」手ヲ空シウス」（九）〔事ヲ行フ方法〕。スベ。術　宇津保物語、俊蔭、四十「琴ノ手、母ニモマサリ、母ハ父ノ手ニモマサリテ」同、同七十三「相撲ヒ出デテ、イツ手六手バカリ取リテ、最手出デ來テ布引ナドスルニ」著聞集、十、相撲強力「時弘頻リニ宗平ヲてコヒ、若シ負クルナラバ、時弘ガ首切ラン」古事談、六、亭宅諸道「伊成弘光相撲「弘光、左手ヲ指出テ手乞ヒケル」狂言記、相撲「ヲてツマヰノタ、タてツ勝ノタ」「將棋ノ手」舞ノ手」手ヲ易ヘテスル」コノ手デ行ク」（十）手ヅカラスルコト。自ラ行フコト。自　「手織リ」手作リ」手打チ」手賄ヒ」（十一）己レニ屬ク者。配下。部下　部衆　「手ノ者」手下」（十二）人ノ一組。兵士ノ隊。隊　「先手」一手ノ大將」二手ニ分カル」手ヲ分クル」水ノ手」（十三）方。向。（傳ノ約カト云フ）方　「山ノ手」行ク手」上手」下手」（十四）タグヒ。品。品類。品　様　「錦手ノ皿」金襴手」稻ノ中手」奥手」（十五）的矢ニテ、矢二筋ノ稱。「矢、一手」（十六）〔刀、矢、ナドニテ傷ツクルコト。切疵。創傷　古事記、中、神武「賤奴ガ手ヲ負ヒテヤ死ナム」神武紀「被二傷於手一」保元物語、一、親治等被二生捕一事「郎等、數多ニ手ヲ負ハセ」「痛手」薄手」深手」淺手」手疵」（十七）マジハリ。カカハリ。交際　關係　「手ヲ切ル」手ガ切ルル」手ガ放ル」（十八）手マハリ。ソバマハリ。「手箱」手簞笥」手帳」手紙」手カケ」（十九）ハカリゴト。「其手ハ食ハズ」其手ニノセテ」（廿）旗ノ竿付ノ緒。乳。耳。太平記、廿九、小清水合戰事「絹三幅ヲ長サ五尺ニ縫合セテ、兩方ニ赤キ手ヲ付タル旗ヲゾ差シタリケル」手を下ぐトハ、手ヲ突ク。負ケテ從フ。謝ル。屈服　謝罪　手を燒くトハ、仕損フ。シクジル。物ニ懲ルル意。失敗　四十二章經「佛言、夢欲人猶三執レ炬逆レ風而行、必有二燒レ手之患一」手を下すトハ、爲始ム。下手　手を合はすトハ、拜ム。合掌　合十　手を濡さずトハ、骨折ラズニ。袖手　手に入る、手に落つトハ、我ガ物トナル。獲　手に餘るトハ、手ニ合ハズ。我ガ力ニカナハズ。扱ヒ難シ。手に汗を握るトハ、甚シク氣遣ヒと思フ。手に取るばかりトハ、甚ダ近ク。手がこむトハ、細工ノコマカキヲ云フ。手に立つトハ、手應アリ。相手トスルニ足ル。謠曲、橋辨慶「手に立つカタキノ戀シサヨ」手の定りトハ、腕ノツヅカム限リ。盛衰記、三十三、兼康板藏城戰事「郎等宗俊モ手の定り戰ウテ」手に合はずトハ、戰ニ會セズ、又、敵シガタシノ意。甲陽軍鑑、九、品第廿六、笛吹峠合戰事「合戰ニ手は合はざる者、手柄ノ者、上中下ヲ沙汰シテ、上ノ手柄ニハ三膳、或ハ二膳、赤椀ニテ振舞ヒ、又、手に合はざる人ニハ黑椀ニテ」手を合はせずトハ、鬪ハザル意。明良洪範、二、信玄の侍岩間左衞門頭痛「七度マデ大切ノ場ヲ逃ゲテ一度モ手を合はせず」手を下だすトハ、爲ル。行フノ意　手を打つト云フハ、兩ノ掌ヲ打當テテ、音ヲ立タス。拍手　喜ブトキナドニスルワザナリ、移シテ禮拜ニモス。八開手。

て（名）〔手〕〔之方ノ約、面手、後手ノ類〕方。方角。「浦手」海手」山手」追フ手」搦メ手」

て（名）〔手〕〔路ノ轉〕ミチ。街路。萬葉集、十二、三十「ナ行キソト、歸リモ來ヤト、顧ミニ、行ケド歸ラズ、道ノ長手ヲ」「繩て」行クて」鐙ノて」

て（名）〔手〕工。細工。「手人」伊豆手船」

て（名）〔指〕〔たノ轉、たなまた、あた(咫)ノ類〕指ノ異稱。萬葉集、八、五十五「秋ノ野ニ、咲キタル花ヲ、指折リテ、可伎數フレバ、七種ノ花」伊勢物語、十六段「手ヲ折リテ、アヒ見シコトヲ、數フレバ、十トイヒツツ、四ツハヘニケリ」

て（名）〔人〕〔人ノ略、とノ轉〕普通、手ノ字ヲ借リ用ヰル」（一）其業ニツク人。當事者。崇神紀、七年十一月「以二物部八十手所レ作祭神之物一」史記抄、文明、四十五「昔ノ攻てト、今ノ攻てトモ大ニ異ナレドモ、守リてガ昔ト大ニ異ナホドニ、秦ハ亡タゾ」「射て」騎て」歌て」舞て」寄て」討て」先て」聞て」見て」（二）スベキ限リヲ盡クスコト。轉ジテ、其事スル人。竹取物語「皆手ヲワカチテ求メ奉レドモ」宇津保物語、忠社、廿七「只今、アヤシガリ求メサセ侍ルト奏セサセ給ヒテ、手ヲワカチテ、大願立テテ求メサセ給ヘド無シ」

て（名）〔様〕〔形ノ約轉カ〕カタチ。様。品類　「錦で」金襴で」南京で」

て（名）〔うち(打)ノ約、たぶて、つぶてノてノ意〕モノヲウツコト。多ク熟語ニ用ヰル。

て（名）〔直〕〔栲ノ約、布ニテ交易スレバ云フ〕アタヒ。直。直段。

て（名）〔代〕〔充ノ略〕（一）カハリ。物ヲ買フカハリ。仁徳紀、四十年三月「佐伯直阿俄能胡、[illegible]死、乃[illegible]部下[illegible]玉手[illegible]以請レ之、故納二其地一[illegible]號二其地一曰二玉代一」（古文）（二）料。[illegible]上、夏歌「郭公、ナキタツ夏ノ、山邊ニハ、[illegible]イダサヌ、人ヤ住ムラム」「餉代」酒代」

て（名）〔隊〕〔手人ノてノ義〕ヒトムレノ人。又、ツハモノドモ。て（手、第一語）ノ條ノ（十二）ヲモ見ヨ。平家物語、九、木曾最後事「アレニシグラウテ見ユルハ、誰ガ手ヤラム、甲斐ノ一條次郎殿ノ御手トコソ承リテ候ヘ」滿濟准后日記、正長二年五月三日「於二室町殿御所一笠懸馬場、觀世大夫兩座一手、寶生大夫十二五郎一手ニテ出合申樂在レ之」「一て」二て」三て」

て（辭）〔而〕〔現在完了ノ助動詞ノつノ變化ナルてノ轉〕第三類ノ天爾波。事終リテ後ニ、他ニ移ル意ヲ云フモノ。「雨降りて、地固マル」嬉シクて、獨リ笑ム」

で（名）〔出〕（一）出ノ約。出ヅルコト。「水ノ出」入ノ出」（二）物ヲ用ヰテ盡キ難キコト。嵩ノ足フコト。「出ガ無イ」出ガアル」

で（名）〔出〕出身。「貴族ノ出」政黨出ノ大臣」

で（動）〔出〕〔いでノ約、づノ活用〕いづ(出)、及、づ(出)ノ條ヲ見ヨ。

で（辭）第三類ノ天爾波。打消ノ助動詞ノず(不)ト、天爾波ノて(而)トノ約。竹取物語「ヲヂナキ事スル船人ニモアルカナ、エ知ラデ、カク云フト思シテ」更級日記「ムゴニ、エ渡ラデ、ツクヅクト見ルニ」續後拾遺集、十六、雜、中「カキスツル、藻屑ナリトモ、此度ハ、歸ラで止マレ、和歌ノ浦波」「行カでアリ」歸ラでヤミナム」

で（辭）まてノ約轉。其條ヲ見ヨ。平家物語、一、妓王事「今生で物ヲオモハスルダニアルニ、後生でサヘ惡道ヘオモムカンズル事ノカナシサヨ」著聞集、五、和歌「紙屋紙ニタテブミで使ニカヘシタビテ」「筆で書ク」二人で行ク」何でアル」

てあき（名）〔手明〕仕事ノ絕エテアルコ

ト。閑暇ニテ居ルコト。又、ソノ人。遊手 大友興廢記(一本)方々御手遊衆、義鎭公、カラメテヲ手明ニ仰セツケラレ」

であし (名) |出足| 相撲ノ語。足ヲ相手方ヘ出スコト。「出足ガ早イ」

てあそび (名) |手遊| (一)物ヲ、手ニ持チテアソブコト。テスサビ。玩弄 俳諧新選、秋「手遊びノ、中ニ匂フヤ、菊ノ塵」 (二)バクチ。博奕。賭博。テナグサミ。

てあたり (名) |手當| (一)手ニ觸レ當ルコト。手ニ、サハルコト。「手當次第ニ」 (二)テザハリ。觸手 狹衣、二、下「髮ノ手あたりナドモ、今モ思出デラレテ」 (三)手ニ觸レ當ル程ノ場所。テヂカ。今昔物語、十二「てあたりニ候ハム物ヲバ、何カトラセ給ハザラム」

てあつ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) |手厚| アツカフコト、丁寧深切ナリ。鄭重

てあて (名) |手當| (一)豫メ其用ニ備フルコト。マウケ。支度。用意。準備 天正記、秀吉競ニ向柴田軍記「池田紀伊守、ネモゴロ坂ノ手あてトスルナリ」「軍ノ手當」旅ノ手當」 (二)手當ニ與フルコト、又、ソノ金錢。資給 天保集成絲綸錄、八十六、寬政四年閏二月「小普請組支配組頭之儀、高三百俵ヨリ以下之分ハ、御手當御扶持方廿人扶持」 吏徵別錄、下、川船改役「天明八年戊申三月廿四日、爲御手當、御年貢之內ヨリ一ケ年五十兩被下」 (三)こゝろづけ(心付)ノ條ノ(二)ニ同ジ。(四)其場合ニ應ジテ施ス手段。「應急ノ手當」病氣ノ手當」

てあはせ (名) |手合| (一)相手トスルコト。又、相對シテ勝負スルコト。對手 [illegible]記、廿、百韻合戰事「今日ノ軍ノ先陣仕テ、後陣ノ人ガ爲ニ[illegible]メ、[illegible]兵ノ軍ノ手合也、兩合セヨトゾ宣ヒケル」 太平記、三十二、山名右衞門佐爲敵事「宮方ノ手合ノ軍ニ打勝テ、氣ヲ揚ゲ勇ニ乘テ、東ノカヲ見タレバ」「碁ノ手合ひ」相撲ノ手合」 (二)賣買ノ約束ヲ結ブコト。

∴てあひ (名) |手相| (相手ノ倒語) トモガラ。ナカマ。モノドモ。連中。徒輩 浮世床、文化、三篇、初編、上「コレ主人、噺家トハドウシタモノダ、落話ヲスル手あひサ、ムム笑話カ、笑話ハ漢ガオモシロイ」

であひ (名) |出合| (一)デアフコト、相會フコト。出會。會合 (二)男女ヒソカニ相會スルコト。密會「出合茶屋」 (三)並ベテ善ク合フコト。配合「色ノ出合」

であひがしら (名) |出合頭| 雙方ヨリ礑ト行キ合フ機。ハチアハセ。デアヒビャウシ。 織留(元祿、西鶴)六「中通リ女トテ、出合ひ頭ニ二人、一度ニ連レテ來タリ」 [illegible]妻女[illegible](安永、竹本三郎兵衞等合作)酒屋の段「子故ニクラム[illegible]時、主ノ妻ハ燈ヲトモシ、裳ヲ締メニイソイソト、出合頭ニ、是ハ是ハ宗岸サマ」

であひびゃうし (名) |出合拍子| 前條ノ語ニ同ジ。 女殺油地獄(享保、近松作)上「ハイハイノ聲ヲモ聞カズ、與兵衞ガタグリカケテ打ツ泥波、であひびゃうしニ馬上ノ武士ノ袴上下、皆具マデ、ザックト掛カルモ時ノ運」

であ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) |出合| (一)互ニ出デテ會フ。ユキアフ。出會ス。會合 狂言記、胸突「アイタ、人殺シ、出合ヘ、出合ヘ」 同、宗論「ハレサテ、ヨイ御坊ニ出合ウタ事カナ、シテ、此方ハ、都ハ何處許ニゴザルゾ」 (二)男女ヒソカニ相會フ。アヒビキス。密會 (三)並ベテ善ク合フ。ヨクウツル。配合「色ト色ト出合ふ」

てあぶら (名) |手油| 手ニ唾ヲスルコト。てぐすねひくノ條ヲモ見ヨ。

てあぶり (名) |手焙| 手ヲ焙ルニ用ヰル

小サキ火鉢ノ類。透刻リナドノ蓋アリ。手爐 [illegible]う瑠五郎作、樂ノ[illegible]ハ宗入[illegible]シナリ」

てあま・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) |手餘| 己レガ力ニ扱ヒ得難シ。モテアマス。

〔デアマン (名) 次條ヲ見ヨ。

デアマンテ (名) |金剛石| (蘭語、Diamant. ノ譯語ヲ金剛石ト云フ、英語、Diamond.) (一)略シテ、でぁまん。訛リテ、ぎやまん。こんがうせき(金剛石)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]來ノ寶石ノ名也、水晶ニ似テ甚ダ堅ク、玉石命ヲ切ルニ至妙ナリト云ヘリ、色、紫赤、阿蘭陀ヨリ持來ル、[illegible]ノ物ハ[illegible]リト云ヘリ、又、でやまんトモ云ヘリ、[illegible] (二)金剛石ヲ以テ、硝子ニ彫刻シタルモノ。ぎやまん彫。 (三)硝子。ぎやまんト云フ。ガラス。玻璃 玻璃

てあやまち (名) |手過| 燒亡ノコト。ソサウビ。失火。又、過失。 [illegible]メキケリ、[illegible]デ候ヘバ、手過ニテハヨモ候ハジ、イカサマニモ、敵ノ寄セテ火ヲ懸ケタルト覺エ候」 太平記、三十八、[illegible]ヲ越エタリトハ、思ヒモ寄ラズ、燒亡ハ御方ノ軍勢ドモノ手過ニテゾ有ルラン」 [illegible](安永、小栗百[illegible])「燒亡ヲ手あやまちト云フ事、平家物語ニ[illegible]エタリ」 心中刃氷朔日(寶永、近松作)「屋根ヘ上レノ何ノト云フ、手あやまちカ氣遣デ、ソレ故ニ風ッタ」

てあら (名) |手荒| (てあらし(手荒)ノ略) シワザノ、荒荒シキコト。粗暴ナルコト。 [illegible] 新居[illegible]四郎宗長ハ、ルシテあらナレドモ、[illegible]久ハ[illegible]國第一トテ召サレタリ」 [illegible]、十八、鈴木、[illegible] [illegible]らナルガヨキト存ジ候テ、[illegible]ノ[illegible]申セシニ」

てあら・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) |手荒| 扱フ[illegible] [illegible]

てあらひ (名) |手洗| (一)手ヲ洗フコト。又、其湯、又ハ、水。 (二)たらひ(盥)ノ條ヲ見ヨ。

てい (名) |帝| [illegible]

てい (名) |悌弟| [illegible] 又ハ、[illegible]レヨリ年長ケタル人ヲ、敬ヒア[illegible] 伊勢平[illegible] [illegible]ハ兄ノヲヤマヒテ兄ノオソノクズ、何事モ兄ノ[illegible]ニ付テ[illegible]

てい (名) |體| (たい)ノ轉音) カタチ。スガタ。アリサマ。ヤウス。[illegible]

てい [illegible]

又、第四位ノモノ。えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。爾雅、釋天篇「太歳在レ丁、曰二彊圉一」(二)ちやう(丁)ノ條ヲ見ヨ。

てい (名) 【亭】 (一)ヤシキ。スマヒ。海人藻芥「[illegible]亭ノ事、四足上中門不レ可レ有レ之」吾妻鏡、廿二、建保三年八月廿二日「仍去二御所一入二御相州御亭一」(二)亭。アヅマヤ。あづまや(東屋、第一語)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。(三)逆旅ノ舍。旅館。風俗通「漢、[illegible]「亭、留也、行旅宿會之所館也」釋名「亭、停也、道路所レ舍、人停集也」後漢書、百官志「十里一亭、十亭一郷、有二亭長一」(四)あばらや(客亭)ノ條ヲ見ヨ。(五)亭主ノ略。醒睡笑、元和、安樂庵策傳ニ「亭、出テテ挨拶シ、卽チ一句所望セシヲ」(六)文人、藝人ナドノ號。「古今亭」「[illegible]曲亭馬琴」(七)寄席、料理店ナドノ屋號。「若竹亭」「瓢亭」

てい (名) 【邸】 ヤシキ。第宅。特ニ、諸侯、又ハ、高貴ノ人ノ宅。說文「邸、屬國舍也」徐注「諸侯朝所レ舍日レ邸」漢書、文帝紀「至二邸而議レ之」注「郡國朝宿之舍、在二京師一者率名レ邸、邸至也、言所二歸至一也」

てい (名) 【第】 ダイ。ヤシキ。漢書、高帝紀「爲二列侯一者、賜二大第一」宋史、陳恕傳「躬至二恕第一、[illegible]」字彙補「第、テイ」

てい (名) 【艇】 ハヤフネ。コブネ。ハシケ。和玉篇「艇、ハヤフネ、フネ、コブネ」說文「艇、小舟也」[illegible]「艇、小而長」淮南子、俶眞訓「蜀艇、一版之舟、若今豫章是也」宋史詩「晴湖泛レ艇[illegible]」

てい (名) 【底】 的ノ條ヲ見ヨ。

てい (名) 【檉】 (一)樹ノ名。柳ノ一種。高サ丈餘、葉ハ青綠色ニシテ披針形、枝、垂レ、夏日、粉紅色ノ細花ヲ總狀花序ニ綴ル。一名、カハヤナギ。ギョリウ。和漢三才圖會、八十三、喬木類、檉柳、云云、生二水邊一、小幹[illegible]枝、[illegible]云云、[illegible](二)誤リテ、むろ(檉)ノ條

でい (名) 【泥】 (一)泥。ドロ。ヒヂ。ヒヂリコ。(二)金銀ノ粉ヲ、膠水ニ溶シタルモノ。コレヲ金泥、又ハ、泥金、銀泥、又ハ、泥銀ト云フ。落窪物語、二「黃金ノ泥」宇津保物語、嵯峨院「白金ノ泥シテ書カキタリ」榮花物語、八、初花「匣ノ中ニ、泥ニテ葦手ヲ書キタルハ」泥の如く醉ふトハ、十分酒ヲ飲ミテ、醉ヒクヅルル意、又、大醉シテ、正體ヲ失フ意。グデングデンニ醉フ。泥醉スル。康熙字典「泥、蟲名、出二南海一、得レ水則活、失レ水則醉、如二一塊泥一」五色線(宋、無名氏)「南海有レ蟲、無レ骨、名曰レ泥、在二水中一則活、失レ水則醉、如二一堆泥一然」杜甫詩「先拚二一飲醉如レ泥」宇津保物語、藏開、上、六「斯クテ、皆人、でいノ如醉ヒテ、足ヲサカサマニ、倒レヨロボヒツツ」

てい-あつ (名) 【低壓】 〔高壓ニ對ス〕 壓力ノ低キコト。低キ壓力。

てい-あん (名) 【定案】 (一)定リタル考。(二)確定シタル案。

てい-あん (名) 【提案】 考案ヲ提出スルコト。又、提出スル議案。

てい-い (名) 【涕洟】 ナミダト、ハナシルト。涕泗。禮記、檀弓、上篇「主人深衣練冠、待二于廟一、垂二涕洟一」

てい-いう (名) 【帝猷】 (一)帝王ノ道。帝道。帝綱。庾闡、樂賢堂頌「洋洋帝猷、恢恢天造」盛衰記、廿七、大神宮祭文事「無レ指二過怠一、何故被レ讓、帝猷二抽二臣忠一、自今以後、莫レ信二浮說一、兼存二[illegible]」(二)帝王ノハカリゴト。帝圖。帝謨。

てい-いう (名) 【丁酉】 ヒノトノトリ。えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。

てい-いう (名) 【悌友】 いうてい(友悌)ニ同ジ。

てい-いん (名) 【帝胤】 帝王ノ血統。又、帝王ノ子孫。皇系。[illegible]

デイウス (名) 【天主】 でうす(天主)ノ條ヲ見ヨ。

てい-えう (名) 【提要】 要領ヲ擧ゲ示スコト。摘要。韓愈、進學解「記レ事者、必提二其要一」

てい-おん (名) 【綴音】 しらぶるニ同ジ。

てい-か (名) 【定價】 定メテアル價。定直。梁書、[illegible]傳「納[illegible]官用[illegible]皆有二定價一」

てい-か (名) 【低下】 サガルコト。クダルコト。低キ方へ行クコト。

てい-か (名) 【低價】 〔高價ニ對ス〕 あんか(安價)ニ同ジ。

てい-か (名) 【遞加】 〔遞減ニ對ス〕 順次ニ加ヘ增スコト。累進スルコト。

てい-がい (名) 【丁亥】 ヒノトノヰ。えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。

てい-かう (名) 【抵抗】 サカラフコト。ハリアフコト。ハムカヒ。テムカヒ。敵對。

てい-かう (名) 【丁香】 丁子ノ條ヲ見ヨ。

てい-かう (名) 【締交訂交】 交リヲ結ブコト。交際ヲ始ムルコト。賈誼、過秦論「天下之士、合從締交、相與爲レ一」唐書、魏和初傳「和初與二張炎一締交、能保二終始一」

ていか-かづら (名) 【定家葛】 〔謠曲ノ定家ヨリ名トストゾ。或ハ云フ、庭下カト〕 蔓性ノ灌木。山野ニアリ、物ニ絡ヒテ延フ。葉ハ長橢圓形ニテ兩對シ、冬、凋マズシテ、紅紫色ニ變ズ。夏、葉ノ間ニ細ソキ莖ヲ出シ、枝ヲ分チテ、[illegible]ノ花ヲ開ク、大キサ錢ノ如ク、[illegible]テ、後ニ黃トナル、香氣アリ、莢果ヲ結ブ。絡石。謠曲、定家「是ハ式子內親王ノ御墓ニテ候、又コノかづらヲバ定家葛ト申シ候」和漢三才圖會、九十六、蔓草類、絡石、テイカカヅラ、云云、俗云、定家葛、相傳、黃門定家卿之古墳石生、因名之、葉似二藪柑子葉一、而無[illegible]白[illegible]

てい-がく (名) 【停學】 學校ガ、懲罰トシテ、或期間內、其生徒ノ通學ヲ差止ムルコト。長期ト短期トアリ。「停學處分」

てい-がく (名) 【定額】 定リタル高。一定ノ額。ヂャウガク。五代史、劉審交傳「租有二定額一、而天下比年無二閏田一」

ていかん-の-ま (名) 【帝鑑間】 德川幕府、江戶城中ニテ、諸大夫ノ詰所ノ名。等級、溜の間ニ次グ。筆頭ハ櫻井、榊原ニテ、本多、小笠原等ノ譜代大名、ココニ詰ム。支那ノ歷代ノ賢帝ノ事跡ヲ、襖ニ畫ケリ。

ていか-りう (名) 【定家流】 書風ノ名。京極黃門藤原定家ヲ祖トスルモノ。近世事談、四「定家流、京極黃門定家卿ノ手跡ナリ」

てい-き (名) 【定期】 定メタル日限。一定ノ期限。「定期預金」「定期刊行物」

てい-ぎ (名) 【廷議】 朝廷ノ評議。朝議。廟議。後漢書、桓榮傳、論「佚、廷議[illegible]、自居二全德一、意者以レ廉不レ足乎一」魏書、孫惠蔚傳「廷議得失一」

てい-ぎ (名) 【定義】 (一)事物ニ關スル概念ノ範圍ヲ說明スルコト。(二)數學ニテ、其用語ノ意義ヲ限定スルコト。又、其命題。

てい-ぎ (名) 【提議】 言議、又ハ、議案ヲ提出スルコト。又、提出シタル言議、議案、

ていきあつ (名) [低氣壓] きあつ(氣壓)ノ條ヲ見ヨ。

ていきう (名) [低級] 〔高級ニ對ス〕 等級ノ低キコト。程度ノ低キコト。下級。

ていきう (名) [庭球] 〔英語、Tennis ノ譯語〕 テニス。ろんてにすノ條ヲ見ヨ。

ていきとりひき (名) [定期取引] 取引所ニ於ケル賣買取引ノ一種ニシテ、將來ニ於ケル一定ノ受渡期日ヲ定メテ、賣買契約ヲ行フモノ。

ていきふ (名) [涕泣] 涙ヲ流シテ泣クコト。泣涕。 漢書、韓信傳「人有疾病、涕泣分食飲」 同、賈誼傳「引經義、陳諷諫、至于涕泣寒聲不已」 戰國策、燕策「高漸離擊筑、荊軻和而歌、爲變徵之聲、士皆垂淚涕泣」

ていきまい (名) [定期米] 定期取引ノ目的物タル米。略シテ、期米。

ていきん (名) [庭訓] 〔論語、季氏篇「嘗獨立、鯉趨而過庭、曰、學詩乎、對曰、未也、不學詩、無以言、鯉退而學詩、云云」ヨリ出デタル語〕 家庭ノ教訓。父ヨリ子ニ對スル教訓。家庭教育。庭教。ニハノヲシヘ。 晉書、孫盛傳「雖子孫斑白、庭訓愈峻」 明月記、寬喜三年三月三日「昔聞庭訓、郎如此事歟」 太平記、七、吉野城軍事「宮ノ御先途ヲ見ハテ進ラセヨト、庭訓ヲ殘シケレバ」 [illegible]子、三ノ兒ガ云ヒ置キシ事ヲ忘ルルナト、泣ク泣ク庭訓ヲ殘シ、サテ姑ニ向ヒ」

ていきん (名) [提琴] (一)支那ノ樂器。製、鼓弓ノ如シ。胴ニ蛇皮ヲ張リ、四弦ニシテ、馬尾ヲ張レル小弓ニテ、擦シテ奏ス。明ノ神宗ノ時代ノ創製ト云フ。(二)ばいおりん(提琴)ニ同ジ。

ていぎん (名) [丁銀] ちやうぎん(丁銀)ニ同ジ。

でいきん (名) [泥金] 金泥ニ同ジ。でい(泥)ノ條ヲ見ヨ。「泥金畫」

でいぎん (名) [泥銀] 銀泥ニ同ジ。でい(泥)ノ條ヲ見ヨ。

ていきやう (名) [提供] 持チ出シテ、其場ニ供スルコト。サシ出スコト。

ていくわい (名) [低回][低徊] 首ヲ垂レテ、フリカヘリミルコト。行キツ戻リツ、立チ去リカヌルコト。ウナダレスガタ。 屈原、九章、抽思篇「低回夷猶宿北姑兮」 白居易詩「[illegible]撫拭、[illegible]步猶低徊」

ていくわく (名) [鼎鑊] (一)アシノアルカナヘ(鼎)ト、アシノナキカナヘ(鑊)ト。 周禮、天官、上篇、亨人「掌共鼎鑊、以給水火之齊」 (二)古へ、支那ニテ、罪人ヲ此器ニテ煮殺セシヨリ、轉ジテ、極刑ヲ云フ語。 蘇軾、[illegible]「以刀鋸鼎鑊待天下之士」 史記、廉頗藺相如傳「臣請就湯鑊」 [illegible]無道、諫者鼎鑊」 [illegible](享保、近松作)「弱敵ノ強木ナレバ、鼎鑊ノ罪ニ行フベシ」

ていくわん (名) [定款] 社團法人ノ組織、及、ソノ事業等ニ關スル規定。

ていけ (名) [天氣] 〔字ノ音ノ轉〕 てんき(天氣)ニ同ジ。約メテ、てけトモ云フ。 土佐日記、正月廿六日「追風ノ、吹キヌル時ハ、行ク船モ、帆手打チテコソ、嬉シカリケレ、トゾ、ていけノ事ニツケテ祈ル」 同、正月九日「ていけノ事、楫取ノ心ニ任セツ」

て-いけ (名) [手活] (一)手ヅカラ、草木ノ花ヲ、花瓶ノ水ニ挿スコト。「手活ノ花」 又、ソノモノ。 淀鯉出世瀧徳(寶永、近松作)上「萬事ニ[illegible]」 (二)[illegible]妓ナドヲ身請シテ、[illegible]妻妾トスルコト。「手活ノ花トシテ眺メル」

ていけい (名) [帝系] 天子ノ血統。帝統。 [illegible]

ていけい (名) [梯形] 數學ノ語。相對スル一對ノ邊ガ、互ニ平行スル四邊形。

ていけい (名) [提攜] (一)提ゲ攜フルコト。攜帶スルコト。提挈。 禮記、王制篇[illegible] (二)互ニ扶助スルコト。又、共同シテ事ヲ行フコト。 [illegible]

ていけつ (名) [提挈] 左ト右トニ提挈スルコト。コレヲ左提右挈ト云フ。相扶ケテ行クコト。互ニタスケアフコト。 史記、張耳陳餘傳「況以兩賢王、左提右挈、而責殺王之罪、[illegible]」

ていけつ (名) [締結] (一)シメムスブコト。(二)條約、又ハ、約束ヲ取リ極ムルコト。 江淹、[illegible]官衙、締結民社」

ていけつ (名) [帝闕] 宮城ノ門。又ハ、宮城。宮禁。帝闕。 [illegible]

ていげふ (名) [帝業] 天子ノ天下ヲ統ベ給フ事業。帝王ノ國家ヲ[illegible]事業。 [illegible]

ていけん (名) [定見] 一定ノ意見。キマリタル識見。

ていげん (名) [定限] カギリ。キマリ。

ていげん (名) [低減] [illegible]

ていげん (名) [遞減] [illegible]次ニ減ズルコト。累減スルコト。

でいけん (名) [泥犬] 支那製ニテ、[illegible]

ていご (名) [亭午] [illegible]

ていこ (名) [illegible]

ていこう (名) [illegible]

ていこがゆめ (句) [丁固夢] [illegible]

ていこく (名) [帝國] 皇帝ノ知シ召ス[illegible]

國。（王國ニ對ス）特ニ、天皇陛下ノ統治シ給フ我ガ日本國。皇國。スメラミクニ。欽明紀、十三年十月「百濟王臣明謹遣ニ陪臣怒唎斯致契一、奉レ傳ニ帝國一、流ニ通畿內一」

ていとく（名）【定刻】一定ノ時刻。定時。

ていとく（名）【啼哭】聲ヲタテテ、啼キサケブコト。王建、原上新居詩「春來梨棗盡、啼哭小兒飢」白居易、寄ニ微之一詩「秦女笑歌春不レ見、巴猿啼哭夜常聞」

ていとく-がくしゐん（名）【帝國學士院】（テイコク-ガクシイン）文部大臣ノ管轄ニシテ、學術ノ發達ヲ圖リ、教化ヲ輔佐スルヲ目的トスルトコロ。第一部（文學、及、社會的諸學科）ト、第二部（理學、及、其應用諸學科）トニ分レ、會員ハ、碩學ノ中ヨリ、同院ノ推薦ニヨリ、敕旨ヲ以テ任命セラレ、其專攻ノ學科ニヨリテ分屬ス。

ていとく-ぎくゎい（名）【帝國議會】（テイコク-ギカイ）衆議院議員（民選議員）、及、貴族院議員（皇族議員、有爵議員、敕任議員ヨリ成ル）ヲ以テ組織シ、天皇ノ立法行爲ニ參與シ、豫算ノ成立ニ協贊スル憲法上ノ合議機關。國會。

ていざ（名）【鼎坐】三方ニ相對シテ坐スルコト。ミツカナヘ。ミツカナワ。

ていさい（名）【體裁】（一）アリサマ。スガタ。タイサイ。舊文原詩「上ニ下漢唐ニ體ニ變、古今李杜權ニ雄豪一」（二）ミエ。外見。外觀。

ていさい-ぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、二）【體裁】體裁ヨク見ユルヤウニ振舞フ。

ていさう（名）【貞操】（テイ-ソウ）ヲンナノ、タダシキミサヲ。貞節。節操。晉書、張天錫傳「親ニ松竹一則思ニ貞操之賢一、臨ニ清流一則貴ニ廉潔之行一」古

今注（晉、崔豹）「杞梁戰死、妻、云云、遂投レ水而死、其妹明月、悲ニ其姉之貞操一、乃爲作レ歌」

ていさつ（名）【偵察】敵狀ヲ密ニ探リウカガフコト。斥候。偵候。偵伺。

ていし（名）【丁巳】ヒノトノミ。えと（干支）ノ條ヲ見ヨ。

ていし（名）【弟子】（一）師ニ從ヒテ、學業ヲ受ケ習フモノ。デシ。ヲシヘゴ。門人。門下生。門弟。管子、弟子職篇「先生施レ教、弟子是則」論語、雍也篇「哀公問、弟子孰爲レ好レ學」（二）年、若キモノ。してい（子弟）ニ同ジ。論語、學而篇「弟子入則孝、出則弟」

ていし（名）【諦視】〔說文「諦、審也」〕ツラツラト、ミルコト。熟視。諦觀。三國志、魏志、明帝紀「君諦ニ視之一、勿レ誤也」

ていし（名）【涕泗】〔詩經、陳風、澤陂篇、傳「自レ目曰レ涕、自レ鼻曰レ泗」〕ていい（涕洟）ニ同ジ。詩經、陳風、澤陂篇「寤寐無レ爲、涕泗滂沱」沈佺期詩「涕泗湘潭水、淒涼衡嶠烟」

ていし（名）【偵伺】ていさつ（偵察）ニ同ジ。

ていし（名）【停止】（一）中途ニテヤムルコト。中止。（二）トドムルコト。差止ムルコト。停止（チヤウジ）。唐書、令狐楚傳「所レ宜ニ停止一」「發行停止」「公權停止」

ていし（名）【底止】トドマルトコロ。詩經、小雅、祈父之什、祈父篇「祈父、予王之爪士、胡轉ニ予于恤一、靡レ所ニ底止一」（注疏本ニハ底ヲ底ニ作ル）

ていじ（名）【定時】（一）ていこく（定刻）ニ同ジ。（二）一定ノ時期。定期。「定時刊行物」「定時總會」

でいしう（名）【泥鰌】（デイ-シユウ）ドヂョウ。

ていじけい（名）【丁字形】丁ノ字ノ如キ形。

ていしつ（名）【帝室】天子ノ御家。皇室。王室。孔融、薦ニ禰衡一表「鈞天廣樂、必有ニ奇麗之觀一、帝室皇居、必畜ニ非常之寶一」

ていしん（名）【挺進】多數ノモノヨリ、ヌキイデテ、進ムコト。

ていしん（名）【挺身】身ヲヌキンヅルコト。自ラ進ミ出ヅルコト。蘇軾、留侯論「匹夫見レ辱、拔レ劍而起、挺身而闘」

ていしん（名）【鼎臣】三公ノ位置ニアル臣。大臣。後漢書、李膺傳「聞、上帝震怒、貶ニ黜鼎臣一」盛衰記、十一、大臣所勞事「三公ノ一分ヲケガシ、丞相ノ位ニ昇ル、本朝鼎臣ノ外相ヲ以テ、異國浮遊ノ來客ニ見エン事、且ツハ國ノ恥也」

ていしん-しやう（名）【遞信省】（テイ-シン-シヨウ）遞信大臣ノ統轄ノ下ニ、郵便、電信、電話、及、航路標識、發電水力、航空ナドニ關スル事務ヲ掌リ、電氣、造船、水陸ノ運輸ニ關スル事業、及、航路、船舶、海員ナドヲ監督スル中央官廳。

ていしん-だいじん（名）【遞信大臣】國務大臣ノ一。遞信省ノ長官トシテ、其行政ヲ監督スルモノ。遞相トモ云フ。

ていしや（名）【停車】車ヲ停（トド）ムルコト。杜牧詩「停レ車坐愛楓林晚、霜葉紅ニ於二月花一」

ていしや（名）【亭榭】〔說文「榭、臺有レ屋也」華嚴經私記音義「榭、堂上起レ屋也」〕アヅマヤ。チン。又、ウテナ。方干詩「杉蘿色裏遊ニ亭榭一、瀑布聲中閱ニ簿書一」李昌符詩「匝岸青蕪掩ニ古苔一、面レ山亭榭枕レ潭開」李中詩「亭榭跨ニ池塘一、泓澄八月涼」

ていしやう（名）【遞相】（テイ-シヨウ）遞信大臣ノ異稱。

ていしやう（名）【低唱】（テイ-シヨウ）小聲ニテ唱フル

コト。コゴヱニテ、ウタフコト。低吟。蘇軾詩「試問高吟三十韻、何如低唱二三杯」薩都剌、西湖詩「水面夜涼銀燭小、越娘低唱月生眉」

ていしやう（名）【提唱】（テイ-シヨウ）意義ヲ說キ聞カスコト。又、宗旨ノ大綱ヲ提起シテ說クコト。提綱。（禪家ニテ）元叟端禪師錄「上堂提唱、務在ニ單ニ提綱要一、開ニ悟人天上一」

ていじやう（名）【帝城】（テイ-ジヨウ）帝王ノ居マス城。皇城。王城。宮城。東觀漢記「河南帝城多ニ近臣一、南陽帝鄉多ニ近親一」太平記、十七、山門牒送ニ南都一事「今賊黨再窺ニ帝城一、官軍暫術ニ復征途一」

ていじやう（名）【呈上】（テイ-ジヨウ）人ニ物ヲ贈ルコトノ敬語。マヰラスルコト。進上。進呈。呈。北周書、宗懍傳「即日呈上」

ていしや-ぢやう（名）【停車場】（テイ-シヤ-ジヨウ）ステエション（停車場）ニ同ジ。テイシヤバ。

ていしゆ（名）【亭主】（一）家ノ主人ノ稱。店主。首楞嚴經「譬如ニ有レ客寄ニ宿旅亭一、暫止便去、終不ニ常住一、而掌レ亭人、都無レ所レ去、名爲ニ亭主一」諸大名衆御成中入記「式三獻終テ、亭主ニ御盃被レ下時、白太刀ヲ進上、亭主必持參ナリ」魚板記（天文）「御折ハ、云云、ソノ亭主ノ聞召候時ハ、人ニヨリテ被レ出間敷候」醒睡笑（元和、安樂庵策傳）五「亭主ヨリノ指圖ナレバ、客ハ仰セノ儘ニ受クルト」（二）俗ニ、夫（ヲツト）（農、工、商ニ）

ていしゆく（名）【貞淑】女子ノ節操（ミサヲ）、堅クシテ、容子ノシトヤカナルコト。漢書、匡衡傳「故詩曰ニ窈窕淑女、君子好逑一、言能致ニ其貞淑一、不レ貳ニ其操一」

ていしゆつ（名）【提出】持チ出スコト。サシ出スコト。呈出。

ていしよく（名）【停職】公務員ニ對スル懲戒處分ノ一。一時其職務ノ執行ヲ停止シ、又ハ一時其職務ヲ罷免スルコト。

ていちよく (名) 【牴觸・抵觸】 サシサハルコト。互ニサシツカヘルコト。 周禮、地官、封人、註「牛觸、所以持二牛令一不レ得レ抵二觸人一」 [illegible]其狀如二大人一、有二德行一而往抵二觸之一、則往依二憑之一」

てい・す ・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 【呈】 (一)サシ出ス。示ス。(二)贈るノ敬語。(三)アラハス。表示ス。 晉書、元帝紀「天時先二諸人事一者也、顯章獻瑞、[illegible]陰、星斗呈祥、金陵表慶」

でいすゐ(ディスイ) (名) 【泥醉】 甚シク酒ニ醉ヒタルコト。エヒツブレ。エヒドレ。でい(泥)ノ條ヲモ參看セヨ。 元稹詩「明二長時節一君須レ策、泥醉風雲我要レ眠」 陸游詩「泥醉醒常少」

ていせい (名) 【定星】 (一)こうせい(恆星)ニ同ジ。(二)立冬ノ節。(陰暦十月) 江都督顯文集「定星之候、小雪之天」 榮花物語(寫本)十五、疑「剋二十月定星之期一、廻二萬代不朽之計一」

ていせい (名) 【定省】 〔昏定晨省ノ略。定ハ親ノ寢具ヲ設クルコト、省ハ晨朝ニ親ニ禮スルコト〕 朝夕、善ク父母ニ事フルコト。善ク父母ニ孝養スルコト。 禮記、曲禮、上篇「凡爲二人子之禮一、冬溫而夏凊、昏定而晨省」注「定、安二其牀衽一也、省、問二其安否何如一」 三國志、魏志、武帝紀、注「每每定省從容常言、人好レ學則思專、長則善忘」

ていせい (名) 【提撕】 (一)サグルコト。サゲモツコト。(二)後進ノモノヲ指導スルコト。 詩經、大雅、蕩之什、抑篇「言提二其耳一」注「箋云、親提二撕其耳一、此言以二教道一之、[illegible]」 (三)佛家ニテハ、ていぜいト訓ミ、師ノ、弟子ヲ警覺シテ、教ヘ導クコト。 性靈集、八[illegible]

ていせい (名) 【訂正】 誤リヲ調ベ正スコト、校訂。(文章ナドニ) 晉書、荀崧傳[illegible]有レ所二訂正一」

ていせい (名) 【鄭聲】 〔鄭ハ、支那、古代ノ國名、此地方ノ詩曲ニハ、淫聲多キ故ニ云フ〕 淫奔ナル音樂。又、ミダラナル俗曲。淫聲。 論語、陽貨篇「子曰、云云、惡二鄭聲之亂一雅樂一也」 同、衞靈公篇「樂則韶舞、放二鄭聲一、遠二佞人一」 [illegible] 太平記、十三、北山殿謀叛事「鄭聲ノ雅樂ヲ亂ル故ニ、一唱三歎ノ曲ニアラズ」

ていせつ (名) 【貞節】 ヲンナノ、タダシキミサヲ。貞操。節操。 [illegible]朱氏墓誌銘「用二曹大家之明訓一、守二宋伯姬之貞節一」 三代實錄、四十八、仁和元年十二月廿九日「節婦、加賀國加賀郡大野郷人道今古、授二位二階一、免二戶內田租一、表二其門閭一、以旌二貞節一也」

ていそ (名) 【帝祚】 〔正韻「祚、福也、祿也、位也」又、歲ナリ〕 帝王ノ御位。帝位。又、帝王ノ御歲。 史記、秦楚之際月表[illegible] 保元物語、一[illegible]

ていそ (名) 【梃楚】 〔孟子、梁惠王、上篇「可レ使三制レ梃、以撻二秦楚之堅甲利兵一矣」趙岐注「梃、杖也」〕 ツヱ。棒。 太平記、十一、佐介貞俊事「久シク天下ヲ保チ、威ヲ四海ノ內ニ振ヒシカドモ、國ヲ治ムル心ナカリシカバ、堅甲、利兵徒ラニ梃楚ノタメニ被レ摧テ」

でいそ (名) 【泥塑】 泥土ヲ用ヰテ造リタル肖像、土製ノ像。 近思錄(宋、朱熹、呂祖謙)[illegible]明道先生、坐如二泥塑人一」

ていそう (名) 【遞送】 遞次ニ送ルコト。順ツギニテ、送ルコト。遞傳。 [illegible]

ていそく (名) 【鼎足】 (一)カナヘノアシ。

(二)管子、大匡篇「管仲、鮑叔、召忽)者之於二齊國一也、譬レ之、猶二鼎之有一足也、去二一焉、則必不レ立矣」 鼎ノ足ノ如ク、物ノ三ケ所ニ相對シ居テ、相持チナルコトニ云フ。其相對シテ居ルヲ鼎立(テイリツ)、又ハ、鼎峙、又ハ、三分鼎足(サンブンテイソク)ナドト云フ。 史記[illegible]利而俱存レ之、三二分天下一鼎足而居」

ていそく (名) 【定則】 定マレル則。一定ノ法則。オキテ。定規。

ていた (名) 【手板】 (一)小サキ板ノ、朱漆、黃漆ナドニテ塗リタルモノ。字ヲ記シテハ拭ヒ、拭ヒテハ記ス用トス。ヌリイタ。漆板。(二)しやく(笏)ニ同ジ。手板(シュバン)。 [illegible]和訓ニ、ていたトヨム」

ていたい (名) 【停滯】 (一)物事ノ一所ニトドコホルコト。 [illegible] (二)食物ノ胃中ニテ、消化レカヌルコト。

ていたう(ナイトウ) (名) 【抵當】 債務ノ不履行ヨリ生ズル損害ヲ償フタメ、債務者ヨリ債權者ニ、物權ヲ擔保トシテ提供スル行爲。ヒキアテ。今ハ專ラ不動產ナルヲ云ヒ、動產ナルヲ擔保ト云フ。 [illegible]

ていたう(ナイトウ) (名) 【堤塘】 ツツミ。ドテ。堤防。 [illegible]

ていたう (名) 【棣棠】 やまぶき(山吹)ニ同ジ。

ていたく (名) 【邸宅】 イヘヤシキ。スマヒ。第宅。 [illegible]

[illegible]

てい・た・し ・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 【手痛】 仕向クルコト烈シ。テアラシ。テヒドシ。アツヨシ。激烈。 太平記、十七、山門攻事[illegible]ていたからンズリント、アグンデ思ヒケルニ」

でいたふ(アイトウ) (名) 【泥塔】 佛語ノ語。泥土ニテ造リタル塔婆。密教ニテハ、延命滅罪ノタメニ、コノ塔ヲ作リテ供養ストイフ。 [illegible]

でいたん (名) 【泥炭】 石炭トナルベキ地中ニ埋レル植物ナドノ、未ダ全ク炭化セザルモノ。沼澤ノ地ニ多シ。即チ草木ノ土中、又ハ、水底ニ埋マリテ、腐ツナスモノナリ。暗褐色ニシテ軟質ナリ。多ク枝葉ヲ雜フ。又、[illegible] 伊賀、伊勢ニテ、[illegible]

ていたらく (名) 【爲體】 〔體たる、ノ延〕 ナリユキ。アリサマ。スガタ。[illegible]トアルコト。 [illegible]

ていち (名) 【低地】 地面ノ低キ所。ヒクキ地。 [illegible]

ていぢ（名）【鼎峙】ていりつ（鼎立）ニ同ジ。ていそく（鼎足）ノ條ヲ見ヨ。

ていちう（名）【丁丑】ヒノトノウシ。えと（干支）ノ條ヲ見ヨ。

ていちやう（名）【亭長】（一）宿驛ノ長。驛長。史記、項羽紀「項王乃欲ニ東渡ニ烏江一、烏江亭長艤ニ船待」 後漢書、百官志「十里一亭、十亭一鄕、亭有ニ亭長一」 李華文「亭長告ニ余、曰、此古戰場也」 大鏡、上、時平「亭長無ニ驚時變改、一榮一落是春秋」（二）料理店、又ハ、茶店ノ主人ノ稱。

でいちゆう（名）【泥中】ドロノナカ。詩經、邶風、式微篇「微ニ君之躬一、胡爲ニ乎泥中一」 本朝書風俗（貞享、西鶴）七「用捨モナク、モギ取ッテ、泥中ニ投グレバ、沈ミテ跡形モナシ」

でいちゆうのはす（句）【泥中蓮】泥中ニ生ズル蓮ノ花。轉ジテ、汚穢ノ中ニアリテモ、ソレニ感染セズ、能ク潔白ヲ保ツニ喩ヘテ云フ。古今集、三、夏「蓮葉ノ、ニゴリニ染マヌ、心モテ、ナニカハ露ヲ、玉トアザムク」 傳燈錄「鳩摩羅什、云云、譬如ニ臭泥中生ニ蓮花一、取ニ蓮花一勿ニ取ニ臭泥一」 維摩經、佛道品「譬如下高原陸地、不レ生ニ蓮花一、卑濕淤泥、乃生中此華上」 四十二章經「吾爲ニ沙門一、居ニ于濁世一、當レ如ニ蓮華不一レ爲ニ泥所一レ汚」 周茂叔、愛蓮說「陶淵明獨愛レ菊、予獨愛ニ蓮之出ニ淤泥一而不レ染、濯ニ清漣一而不レ妖、中通外直、不レ蔓不レ枝、香遠益清、亭亭淨植、可ニ遠觀一而不レ可ニ褻翫一焉」

ていぢよ（名）【貞女】貞節ヲ守ル女。貞操ノ堅キ女子。貞婦。節婦。史記、田單傳「貞女不レ更ニ二夫一」 太平記、一、「雖ニ貞臣忠事一我ガ身、ハカナク成リヌト聞キ給フ事アラバ、無カラン跡マデモ、貞女ノ心ヲ失ハデ、我ガ後世ヲ弔ヒ給ヘ」

ていちやうに（副）【鄭重】丁寧ニ。テアツク。テオモク。又、シキリニ。シバシバ。漢書、王莽傳「然非ニ皇天所一ニ以鄭重降一ニ符命一之意ニ」 白居易詩「千里古人心鄭重」

ていつぱい（副）【手一杯】爲シ得ルカギリ。力ノ及ブカギリ。デキルダケ。能フカギリ。狂言記、右近左近「村デノロキキデ御座ル、其ノ上、地頭殿ヲバ手一杯ニセラレマスル」

ていてい（名）小兒ノ物ナド乞フ時ニ、手ヲ重ヌルコト。タイタイ。

ていてい（名）【廷丁】裁判所ニテ、法廷、又ハ、訴訟事務ナドニ使ハルル最下級ノ吏員。

でいでい（名）（手入れ手入れノ略）雪駄ナホシノ呼聲。又ハ、ソレヲ職業トスルモノ。（京都ニテハ、なほしなほしト云フ） 嬉遊笑覽、十一、商賈「江戸ニテ、云云、何トモ聞キワキガタキハ、雪駄ナホシノ呼聲ナリ、悲田院ト云フコトナリト云ヘレド、江戸ニハ、サル處モナシ、是ハモト手入手入ト云ヒシガ訛リテ、でいでいトナリシナリ、京ニテハ唯なほしなほしト呼べり」

ていていと（副）【亭亭】高クソビエ出デタル狀ニ云フ語。（樹木ナド）矗立。六朝、鳥雲錄「過ニ高山磐石一、其上亭亭、無レ有ニ草木一」 周茂叔、愛蓮說「亭亭淨植、可ニ遠觀一」

ていていと（副）【丁丁】杙、又ハ、碁ヲ打ツ音、又、水時計ノ音ナドニ云フ語。白居易詩「丁丁漏向レ盡、鼕鼕鼓年過」

ていてつ（名）【蹄鐵】カナグツ。馬ノ蹄ニウチツケテ、其傷害ヲ防グ鐵。

ていでん（名）【遞傳】遞次ニ送リ傳フルコト。又、宿ツギニテ、送リ傳フルコト。遞送。

ていでん（名）【停電】故障ナドノタメニ、送電ノ暫時トドマルコト。

ていと（名）【帝都】皇帝ノ居給フ都。輦轂ノ下。帝京。皇京。皇都。京師。輦下。李白詩「日本晁卿辭ニ帝都一」 杜甫詩「龍媒眞種在ニ帝都一」 太平記、二、俊基朝臣再關東下向事「年久シクモ住ミ馴レシ、九重ノ帝都ヲバ、今ハ限リト顧ミテ」 同、十六、正成下ニ向兵庫一事「然レバ唯、戰ヒヲ帝都ノ外ニ決シテ、敵ヲ鈇鉞ノ下ニ滅ボサン事」

ていと（副）チガヒナク。キット。シカト。タシカニ。（京都ニテ、てんと） 耳底記、幽齋「制ノ詞ト云フハ、ていと禁制スルナリ」 醒睡笑（元和、安樂庵策傳）七「高キ所ヨリ落チザマニ、云云、先ノ落ザマニハ、ていと死ヌルト思フタ」

ていど（名）【程度】ホド。ホドラヒ。ホドアヒ。適當ノカギリ。「程度問題」

でいと（名）【泥塗】（一）ドロマミレトナルコト。又、ドロミチ。スカルミ。論衡（漢、王充）「蹤ニ蹈文錦于泥塗之中一、聞ニ見之一者、莫レ不レ痛レ心」 白居易詩「失レ足陷ニ泥塗一」 （二）轉ジテ、卑シキ位地、又ハ、境遇。左傳、襄公三十年「使ニ吾子辱ニ在泥塗一久矣、武之罪也」

でいど（名）【泥土】（一）ドロ。ドロツチ。ヒヂ。宋書、禮志「雖レ有ニ糜粥一、糠粃泥土相和、半不レ可ニ飮食一」 徒然草、一、百三十八段「馬ヲ引キ倒シテ、乘ル人、泥土ノ中ニコロビ入ル」 秋夜長物語「假ニモ未ダ泥土ヲ歩ミ給フ事ナケレバ」（二）轉ジテ、ツマラヌモノ。糞土。塵土。太平記、十九、青野原軍事「此ノ一戰ニ利ヲ失ハバ、度度ノ高名、皆泥土ニマミレヌベシ」

ていとう（名）【低頭】頭ヲ下グルコト。頭ヲ低レテ、禮スルコト。（猶、次條ヲ參見セヨ） 後漢書、梁鴻傳「妻曰、常聞ニ夫子欲ニ隱居避一レ患、今何爲默默無レ乃欲レ低レ頭就レ之乎」 北史、薛憕傳「低頭傾首、俯仰而向レ人也」

ていとうへいしん（句）【低頭平身】頭ヲ低レ、身ヲ平カニシテ、詫ビ入ルコト。又ハ、甚ク謙遜ルコト。信州川中島合戰（享保、近松作）二「師弟ノ禮儀細ヤカニ、低頭平身手ヲ束ネ、世ニシミジミト述べケレバ」

ていとく（名）【提督】艦隊ナドノ總督。艦隊ノ司令官。

ていない（名）【第内邸内】ヤシキノウチ。宋書、符瑞志「甘露降ニ彭城王義康第内一、衆官畢賀」

ていねい（副）【丁寧】善ク善ク心ヲツケテ、ネンゴロニ。深切ニ。晉書、郭永傳「二者日食、地震、以ニ丁寧陛下一」 後漢書、郎顗傳「丁寧再三、留ニ神於此一」 名義抄「丁寧、ネムコロ」 盛衰記、四十六、時忠流罪忠快免事「近江國鏡ノ宿ヨリ始テ、宿宿ノ設ケ共丁寧ナリ」

でいねい（名）【泥濘】泥深キコト。スカルミ。左思、吳都賦「流汗霡霂、而中逵泥濘」 抱朴子（晉、葛洪）「夜光起ニ乎泥濘一」

ていねん（名）【丁年】（一）人ノ一人前ニ達セル年齡。又、一人前ニ成長シタルコト。古ヘハ、二十歲、今ハ、滿二十年。成年。李陵、答ニ蘇武一書「丁年奉レ使、皓首而歸」（二）一人前ノ男子。二十歲以上ノ男。

ていねん（名）【停年】（一）實役停年ノ略。陸海軍ノ現役武官ガ、同一ノ官等ニ停マリテ服役スベキ年限。（二）退職スベク定メラレタル一定ノ年齡。

ていのう（名）【低能】（能ハ腦ノ意）アタマノ、ハタラキノ鈍キコト。又、智ノ足ラヌモノ。痴愚ト正常狀態トノ中間ニアルモノ。ウスバカ。ウスノロ。

ていばう（名）【丁卯】ヒノトノウ。えと（干支）ノ條ヲ見ヨ。

ていばう（名）【堤防】堤ヲ築キテ水ヲフセグコト。又、其物。史記、秦始皇記「壞ニ城郭一、決ニ通隄防一、其辭曰」（隄、堤、相同ジ） 管總令「凡近ニ大水一有ニ堤防一之處、國郡司以レ時檢行」

ていばう（名）【綈袍】厚キ絹ノ上衣。又、厚キ綿入ノ上衣。史記、范雎傳「乃取ニ其一綈

德以歸之」正義「[illegible]、今之[illegible]」

ていはく (名) 碇泊 船ガ碇ヲオロシテ泊ルコト。フナガカリ。

ていはつ (名) 剃髮・薙髮 髮ヲ悉ク剃リ去ルコト。カザリヲ、オロスコト。多クハ、佛門ニ入リテ、僧トナルニ云フ。チハツ。剃髮。落髮。落飾。隋書、房崇吉傳「剃髮爲沙門」毘尼母論、三「剃髮法、但除頭上毛及鬚、餘處毛、一切不聽却也、所以剃髮者、爲除憍慢自恃心故」有部毘奈耶、四十六「剃髮染衣、其事未辨」盛衰記、十八、文覺高雄勸進事「況ヤ剃髮染衣ノ僧ヲヤ」太平記、十二、公家一統政道事「次ニ剃髮ノ事、兆前ニ不驗、撥音、定テ舌ヲ翻サン歟」

ていび (名) 丁未 ヒノトノヒツジ。えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。

でいびき (名) 泥引 物ニ金泥、銀泥ヲ薄ク塗ルコト。傾城反魂香(寶永、近松作)三熊野かげろふ姿「繪ノ具皿、クマ筆、ワラ筆、泥引き筆、ソノ筆先ニ金銀モ、ワキテイヅミノ壺ノ印」

ていひゃう (名) 定評 一定ノ批評、又ハ、評判。世人ノ是トスル評。

ていふ (名) 貞婦 ていぢょ(貞女)ニ同ジ。漢書、黄霸傳「孝子、弟弟、貞婦、順孫、日以衆多」

ていふつ (名) 鼎沸 鼎ノ湯ガ沸キ立ツ如ク、騒ギ立ツコト。天下ノ亂ルルコトニモ云フ。漢書、霍光傳「羣下鼎沸、社稷將傾」

ていべん (名) 楃頭 サゲヂュウ。[illegible]學集、下、器財門「楃頭、或、楃[illegible]」只要[illegible]「一樣兼良二六鶉遷花、三ノ葛箱等、感得仕候」

ていべん (名) 睇眄 ていめん(睇眄)ニ同ジ。

ていぼ (名) 帝謨 帝王ノ策略。帝王トシテノ畫策、天皇ノ御事業、帝圖、帝猷。法言「漢、撰帝謨以[illegible]」

ていぼく (名) 貞木 凡テ、スグレテ良質ノ樹木、四季、色ヲ變ヘザル木、トキハギ、顏氏之書「疾風知勁草、歲寒見貞木」十訓抄、中、第六、十七條「抑、松ヲ貞木ト云フ事ハ、マサシク人ノ爲ニ、彼ノ木ノ貞心アルニハ非ズ」

ていほん (名) 底本 「春明退朝錄(宋、敏求)「公家文書之稾、中書謂之草、樞密院謂之底」」(一)控ヘ本。(二)原稿シタガキ。(三)タネホン。原本。

ていめい (名) 締盟・訂盟 盟ヲ結ビテ相交ルコト、條約ヲ結ブコト。「締盟國」

ていめい (名) 低迷 サ迷フコト。李商隱詩「悵望無悅明又暗、低迷不已斷還連」

ていめん (名) 睇眄 又、テイベン。フリムキテ見ルコト。見カヘルコト。又、ナガシ目ニ見ルコト、ヨコ目ニ見ルコト。阮籍詩「睇眄有光華」

ていもん (名) 貞門 連歌、俳諧ノ師ナル松永貞德ノ門下ノ稱。

ていや (名) 丁夜 かう(更)ノ條ヲ見ヨ。唐書、天文志「太和九年、自昏至丁夜、流星二十餘、縱橫出沒、多近天漢」

ていやく (名) 締約・訂約 約定ヲ結ブコト。又、條約ヲ結ブコト。唐書、[illegible]「締約國」

ていら (名) 偵邏 偵察ノタメニ、巡回スルコト。又、ソノモノ。巡邏。後漢書、南匈奴傳「[illegible]偵邏耳目」毛史「[illegible]擁大中[illegible]偵邏之路」

テイラ (名) 鯨皮 〔梵語ニ、油ヲ帝羅ト云フ〕テエラ。肥前ノ平戸ニテ鯨ノ皮ノ稱。膏液、最モ多シ、煮テ油ヲ取ル。

ていらく (名) 低落 (一)ていか(低下)ニ同ジ。(二)げらく(下落)ニ同ジ。

ていらず (名) 手不入 (一)手ノカカラヌコト。爲ルニ及バヌコト。(二)未ダ一度モ用ヰタルコトナキコト。

ていらん (名) 提籃 籐、又ハ、竹製ノ籠ノ手提、テサゲカゴ、手籠。

ていり (名) 低利 〔高利ニ對ス〕安キ利息。低キ利率。「低利資金」

ていり (名) 偵吏 探偵ニ從事スル官吏。

ていり (名) 提理 スベヲサムルコト。又、其職。「鐵道提理」

でいり (名) 出入 (一)いづるト、いるト。デハヒリ。出入。娘敵討[illegible](享保、近松作)二「出入り厭シキ御門ヲ忍ビ」(二)ウッタヘ。訴訟。公事。(法律ニ違ヒテ、出入アル意カ) 御定書百箇條、目安裏書初判「支配違江懸カリ候出入りハ、[illegible]」(三)常ニ親ミテ、其家ニ出入スルコト。[illegible]風俗(貞享、西鶴)四「書院ニハ、御心ヤスキ出入りノモノ」(四)常ニ買付ケラレテ、主顧トシテ出入スル家。(商人ヨリ云フ)(五)モツレ。モメ。紛糾。(六)[illegible]

ていりう (名) 檉柳 御柳。又、カハヤナギ。てい(檉)ノ條ヲ見ヨ。唐書、[illegible]

ていりう (名) 停留 トマルコト、トドマルコト。又、トムルコト、トドムルコト。史記「[illegible]」

でいりこ (名) 出入子 鮫ノ子ノ稱。胎生ニ[illegible]出入スト云フ。鯛子

ていりつ (名) 鼎立 ていそく(鼎足)ノ[illegible]

ていりつ (名) 定律 定マリタル法律、又ハ、法則。サダメ。オキテ。

ていりつ (名) 定率 [illegible]

ていりやう (名) 定量 一定ノ分量。

ていりゐ (名) [illegible]

ていれ (名) 手入 (一)ツクロヒ。ナホシ。修補。[illegible](二)[illegible]保存スル上ノ注意[illegible](三)[illegible]踏ミ込ムコト。「バクチ場ノ手入」

ていれい (名) [illegible]

ていれい (名) [illegible]ノ條ヲ見ヨ。(二)[illegible]

ていれつ (名) [illegible]

ていれき (名) [illegible] いぬなづな[illegible]

ていれつ (名) [illegible]

「家綱公ノ御臺所ハ、伏見一品親王式部卿ノ姫君ニ[illegible]シマシテ[illegible]」

ていれだ [illegible] 〔名〕 テヘレバ トニヘレバ。 [illegible]、治承四年九月九日「感[illegible]眼、[illegible]世、其後有[illegible]次」

ていれん （名） 低廉 直段ノヤスキコト。ヤスネ。下直。安直。安價。廉價。廉。

ディレンマ （名） 〔英語、Dilemma.〕 又、ヂレンマ。（一）論理學上ニ云フ兩刀論法。即チ、大前提ニ二ツノ假言的命題ヲ立テ、小前提ニ、コレヲ選言的ニ承認シ、若シクハ拒否シテ、斷案ヲ得ル三段論法。コノ論法ニ於テ、小前提ガ大前提ノ前件ヲ肯定スル時ハ、構成的ト稱シ、否定スル時ハ、破壞的ト稱ス。（二）進退ノキハマルコト。進退兩難。絶體絶命。板挾。「ディレンマニオチ入ル」

でいろ （名） 泥路 ドロミチ。ヌカルミノミチ。泥途。泥塗。

ていろん （名） 定論 定マリテアル議論。 淮南子、原道訓「士有二一定之論一、女有二不易之行一」 傳習錄、下「朱子晩年定論、定論首刻二於南贛一」

ていわう （名） 帝王 國家ヲ統治スル元首。ミカド。帝。皇帝。 戰國策、秦策、「文王果收二功於呂尙一、卒擅二天下一、而身立爲二帝王一」 神皇正統記、六「日本ハ五百九十四都コソアレ、云云、イハンヤ日本ノ半ヲココロザシ、皆ナガラノゾマバ、帝王ハイヅクヲ知ラセ給フベキニカ」

ていゐ （名） 帝位 てんゐ(天位)ニ同ジ。

ていゐ （名） 庭闈 王宮ノ小門。又、王宮內。 張九齡文「從レ此拜二庭闈一」

ていゐ （名） 廷尉 〔漢書、百官表、注「聽獄必質二諸朝廷一、與レ衆共レ之、兵獄同制、故稱二廷尉一」云云、尉、平也」〕 撿非違使ノ佐ノ唐名。 職原抄、下、撿非違使「佐二人」注「左右、唐名、廷尉」 盛衰記、廿五、此君賢王、善「去バコソ、大キナル御不審蒙リナンズ、如何樣ニモ廷尉ニ下サレ、馬部吉祥ニ仰セテ、禁獄流罪ニモヤト、恐レヲノノキ居給タリケリ」

ていゐのすけ （名） 廷尉佐 衞門府ノ權ノ佐ニテ、撿非違使ノ宣旨ヲ蒙リタルモノノ稱。 著聞集、三、政道忠臣「光方、廷尉佐ニテ、著鈦ノ政ニツキタリケルニ」

ていゐん （名） 定員 定マリタル人數。 南齊書、崔思祖傳「正樂定員、唯置二三百八十八人一」

でいゑ （名） 泥繪 花鳥ナドヲ、金泥、又ハ、銀泥ニテ畫クコト。又、ソノ繪。 新勅撰集、七、賀「泥繪屛風」 平家物語考證「カハホリノ扇、紙ノ色サマザマナリ、云云、或ハ泥繪、或ハ彩色、云云」 遊覽錄「明和ノ「京難波ノ富家ノ婦人、又、遊君體ノ者マデ、襃模樣ト稱シテ、泥繪ヲカキ、繡ヲ施シ、東坡流ノ蘭竹ノ墨繪ナド、風流善ク盡セリ」

ていゑいさうかん （句） 鄭衞桑閒 〔鄭衞ハ、支那春秋時代ノ鄭國ト衞國トノ音樂ニテ、共ニ淫猥ナルモノ。桑閒ハ、支那古代、桑林ノ閒ニテ行ハレシ淫猥ナル音樂〕 淫猥ニテ風俗ヲ亂ス音樂。鄭衞ノ音。桑閒濮上。桑濮ノ音。

ていゑん （名） 貞婉 女ノ、ミサヲ正シク、シトヤカナルコト。 晉書、愍懷太子妃王氏傳「貞婉有二志節一」

てう （名） 朝 〔爾雅、釋言篇「陪、朝也」註「臣見レ君曰レ朝」周禮、春官篇、大宗伯「春見曰レ朝」註「朝、猶レ朝也、欲二其來之早一」〕 （一）朝廷。 謠曲、松尾「明神ハ靈神ニテ御座候ヘドモ、朝ニ隙ナキ身ナレバ」「朝ニ立ツ」 （二）天子ニ拜謁スルコト。朝見。 論語、郷黨篇「朝、與二下大夫一言、侃侃如也」 （三）君主ノ治世ノ間。御代。御宇。「奈良ノ朝」 （四）支那、朝鮮等ニテハ、或ル一系ノ君主、代代ノ治世ノ間。唐朝、淸朝、李朝ト云ハムガ如シ、即チ時代ノコト。

てう （名） 調 （一）ツキ。古ヘ、諸國ノ土產ノ布帛等ヲ、定規ニ因リテ、官ニ納メシムルモノ。(租ノ條ヲ見ヨ) （二）音樂ノ調子。シラベ。 吉野吉水院樂書「琵琶ノ調ハ、調子調子ニ可レ彈樣、風香調ハ、ハナヤカニケダカク、云云」 （三）雙六ニテ、二ツノ賽ニ、同ジさいのめノ出デタルコト。「調半」

てう （名） 兆 キザシ。シルシ。前表。 關尹子「習二治亂于未然一、算二成敗于無レ兆」「豐年ノ兆」

てう （名） 蜩 蟬ノ一種。ヒグラシ。

てう （名） 貂 てん(貂)ノ條ヲ見ヨ。

てう （數） 兆 （一）數ノ名。十萬ヲ億ト云フ、其十倍。兆ノ十倍ヲ京ト云フ。 戰國策、楚策「此兩策者、相去遠矣、有二億兆之數一」 （二）或ハ億億。又、萬萬ヲ億ト云ヒ、萬億ヲ兆ト云ヒ、萬兆ヲ京ト云フ。 五經算經(北周、甄鸞)上「按黃爲レ法、數有二十等一、及二其用一也、乃有二三焉、十等者謂二億、兆、京、垓、秭、穰、溝、澗、正、載一也、三等者謂二上、中、下一也、其下數者、十十變レ之、若レ言二十萬曰レ億、十億曰レ兆、十兆曰レ京也、中數者、萬萬變レ之、若レ言二萬萬曰レ億、萬萬億曰レ兆、萬萬兆曰レ京也、上數者、數窮則變、若レ言二萬萬曰レ億、億億曰レ兆、兆兆曰レ京也」

でう （名） 條 （一）古ヘ、洛中ノ區劃ノ名。一坊ヲ竪ニ四ツ合ハセタルモノ、長サ十六町、橫四町ナリ。(坊ノ條ヲ見ヨ) 捨芥抄、中末、宮城「凡一條之內有二四坊一、一坊之內、有二十六町一」 海東諸國記、山城州「今爲二國都一、云云、都中、閭巷、道路、皆方通四達、每二一町一有二中路一、三町爲二一條一、條有二大路一」 （二）スヂ。クダリ。 [illegible]、書[illegible]、上[illegible]、在[illegible]、有[illegible]「右ノ條條」

でう （接） 條 ニ就キテ。ニ依リテ。間。 (手紙ノ文ニ) 「到着候條、差出申候」

でう （接尾） 條 事柄ノ條、或ハ、絲、帶、繩、又ハ、路、川、ナド、スベテ、ホソ長ク連リタルモノヲ數フルニ云フ語。 「規則、三條」「帶、一條」「數條ノ路」

てうあい （名） 朝靄 アサノ程ニ立ツカスミ。アサガスミ。アサモヤ。

てうい （名） 朝衣 朝廷ニ出ヅル時着ル衣服。朝服。 岑參詩「北山疎雨點二朝衣一」

てうい （名） 弔意 カナシミ、トムラフココロ。哀悼ノ情。「謹ミテ弔意ヲ表ス」

てういん （名） 調印 印ヲ押スコト。(證書ナドニ) 押印。捺印。 地方凡例錄、七、諸帳面寸法「綴目、御老中御調印有レ之ニ付、平亭綴、切付帳ニテ、綴目不レ高樣ニ致ス」

てうおん （名） 朝恩 天朝ノ恩。朝廷ノ恩澤。天恩。君恩。皇恩。聖恩。聖澤。 舊唐書、李元通傳「吾荷二朝恩一、作レ藩二東夏一」

てうか （名） 朝家 帝王ノ御家。王家。皇室。 戴復古詩「朝家遣レ使職二祀典一」 平家物語、一、二代后事「源平兩氏、朝家ニ被レ召仕ニテ」

てうが （名） 朝賀 天皇ノ、元日、辰ノ刻ニ、大極殿ニ出御アリテ行ハルル儀式。群臣、禮服シテ位ニ列シ、主上、高御座ニ就キ給ヒ、群臣再拜ス。次ニ舞蹈スレバ、武官、萬歲ノ旗ヲ揮フ。又、ミカドヲガミ。朝拜。 史記、秦始皇紀「改二年始一、朝賀」 儀式、六「元正朝賀儀」 後紀、廿二、弘仁四年「春正月

乙卯朔、皇帝御二大極殿一受二朝賀一」

チョウ・カイ
てうかい (名) [超邁] 度ヲ超エタルコト。分限ニ過ギタルコト。過分。 太平記、廿、宸下綸旨被レ下二於義貞一事「義貞朝臣、綸旨ヲ拜見シテ、云云、當家超邁ノ面目也」

チョウ・コウ
てうかう (名) [朝綱] 朝廷ノ綱紀、朝廷ノ重要ナル規則。

ジョウ・コウ
でうかう (名) [條項] クダリ。カデウ。

チョウ・カ・ハ・カ
てうかはか (名) [藏鉤藏鉤] 遊戲ノ一種。ざうこう(藏鉤)ニ同ジ。名義抄「藏鉤、テウカハカ」字類抄「藏鉤、テウカハカ」

チョウ・ゴウ
てうがふ (名) [調合] 藥、又ハ、顏料ナドヲ分量ニ合ハセテ盛ルコト。 狂言記、針立雷「宿デ御座ラバ、藥ヲ調合致シマセウズレドモ」

チョウカン・ズ
てうかんづ (名) [鳥瞰圖] 天空ヨリ下界ヲ瞰シテ、畫キタル圖。トリメエ。

チョウ・キ
てうき (名) [朝曦] アサヒ。旭。旭日。朝旭。朝陽。朝暾。朝暉。旭暉。

チョウ・ギ
てうぎ (名) [朝儀] (一)朝廷ニテ、行ハセラルル儀式ノ總稱。公ノ儀式典禮。 太平記、廿四、朝儀年中行事事「公家ハ逐レ日衰微セシカバ、朝儀悉ク廢退シテ、政道サナガラ塗炭ニ墮ニケリ」 (二)朝見ノ儀式。 周禮、夏官、下篇「司士正二朝儀之位一辨二其貴賤之等一」

チョウ・ギ
てうぎ (名) [朝議] 朝廷ノ評議。朝廷ニ於ケル相談。廟議。廷議。 漢書、竇嬰傳「嬰、云云、每レ朝二議大事一條侯、魏其、列侯、莫二敢與亢禮一」

チョウ・ギ
てうぎ (名) [調義調儀] (一)モクロムコト。タクラムコト。 甲陽軍鑑、十一、上、品第三十四「信玄ヲバ、殊ノ外、調儀(謀イ)ノナソロシキ(恐)人トロサレ候ヒツル間」 日本永代藏(元祿、西鶴)「スコシモ俤ラセマジキ調義、是レ此ノ德ノイクコト」 (二)出陣シテ、攻ムルコト。 北條五代記、四、佐竹對陣事「天正十三年四月下旬、其高ノ皆川山城守ガ城ヲ調儀之時、小田原ヨリ御馬ヲ被レ出、野州藤岡ニ御陣ヲ張リ給フ」

チョウ・ギ
てうぎ (名) [調戲] カラカフコト。ナブルコト。アザケリ戲ルルコト。 左傳、襄公六年「宋華弱與二樂轡一少相狎、長相優、又、相謗也」注「狎、親習也、優、調戲也」 宋書、劉敬宣傳「飲酒調戲」 馮衍、與二婦弟任武達一書「房中調戲、布二散海外一」

ジョウ・キ
でうき (名) [條規] 條文ノ規定。ノリ。オキテ。規則。

チョウ・キ・セキ・イン
てうきせきいん (句) [朝暉夕陰] 朝日ノ光リト、夕暮ノ暗キト。 范仲淹、岳陽樓記「朝暉夕陰、氣象萬千、此則岳陽樓之大觀也」

チョウ・キン
てうきん (名) [貂錦] 貂ノ皮ヲ冠ニツケテ、飾トスルモノ。古ヘ、支那ニテハ、北狄ヲ征セシ武士ノ被リシ冠ト云フ。又、其冠ヲ被リタル武士。 陳陶詩「誓掃二匈奴一不レ顧レ身、五千貂錦喪二胡塵一」 太平記、九、越後守仲時已下自害事「彼已亥ノ年、五千ノ貂錦、胡塵ニ亡ビ、潼關ノ戰ニ、百萬ノ士卒、河水ニ溺レナンモ」

チョウ・キン
てうきん (名) [朝覲] (一)諸侯ノ天子ニ見ユルコト。 史記、五帝紀「諸侯朝覲者、不レ之二丹朱一而之レ舜」 舊唐書、顏眞卿傳「禮所レ記、諸侯朝覲耳」 (二)朝覲の行幸ト云フハ、主上、年ノ初(正月二日)ニ、上皇、國母、等ノ宮ニ行幸アルコト。東宮モ成人ノ時ニハ、此儀アリ。(或ハ年始ナラヌニモ申ス) 續後紀、三、承和元年正月「天皇朝二覲後太上天皇於淳和院一太上天皇逢迎」 本朝世紀、久安五年二月十三日「今日朝覲行幸也、云云、於二寢殿一有二御拜事一」 爾元年中行事「東宮朝覲事」

チョウ・キ
てうきん (名) [彫金] タガネヲ用ヰテ、金屬ニ彫刻ヲ施スコト。又、ソノ技術。

チョウ・キン
てうきん (名) [調金] 金錢ノ調達スルコト。[illegible]

チョウ・トヤク
てうきやく (名) [弔客] 死ヲイタミ、トムラフモノ。ヤミニ來ルモノ。弔者。

でう・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [出洋] 出デアルク。ウカレアルク。又、外出スル。

チョウ・カ
てうくわ (名) [超過] (一)他ニ越エルコト。勝ルルコト。 [illegible]、南部[illegible] 太平記、三、[illegible]「[illegible]道ガ振ル舞ヒ、日來ノ不覺二超過セリ」 (二)程ニ過グルコト。

チョウ・カ
てうくわ (名) [調和] トトノヘ、ヤハラグルコト。程好ク、和ゼ合ハスルコト。又、トトノヒ、ヤハラグコト。テウワ。 漢書、丙吉傳「三公典レ調二和陰陽一」 賈誼新書「[illegible]調和」 王建詩「金鼎調和天膳美」

チョウ・カ
てうくわ (名) [潮花] 月經。月水。ツキノサハリ。ツキノメグリ。ツキヤク。

チョウガ・イ・イナイ
てうぐわいいない (名) [朝外異內] 古ヘ、朝臣ノ姓ハ、內位ニ敍スベキナレドモ、例ヘバ、車持ノ如ク、外位ニ敍シ、朝臣ノ姓ニ非ザルモノハ、外位ニ敍スベキナレドモ、例ヘバ、清原眞人ノ如ク、內位ニ敍シタルコト。 江家次第、二、敍位「若有下姓二者、經二奏聞一可レ敍二外階一[illegible]位一云云」 同、二、[illegible] 內階、[illegible]外階[illegible] 敍二外階一也、車持類也、異內(是非二朝臣姓一敍二內階一也、如二清原眞人一)」

チョウ・カン
てうくわん (名) [朝官] [illegible]

[illegible]

チョウ・カ・ロ
てうくわん (名) [illegible] [illegible]

チョウ・ケ
てうけ (名) [朝家] (武家ニ對シテ)帝王ノ家。皇室。王室。又、朝廷。公家。

チョウ・ケン
てうけん (名) [朝見] (一)大儀アル時、百官、御前ニ謁シ、[illegible] (二)天子ニ謁見スルコト。[illegible]

チョウ・ケン
てうけん (名) [朝憲] 朝廷ニテ定メラレタル[illegible]。國家ノ法則。[illegible]

チョウ・ケン
てうけん (名) [朝譴] 朝廷ヨリ咎メラルル[illegible]

ジョウ・ケン
でうけん (名) [條件] (一)物事ヲ制約シテ、規定シタル事柄。クダリ。ヌデ。事柄ノ摘條。 (二)其事ヲ[illegible]

「條件ヲ附ク」「無條件」

チョウ・コウ
てうこう (名) [潮候] 潮ノ干滿スル時刻。ウシホドキ。シホアヒ。潮信。 太平記、宋、蔡廷「[illegible]潮候不レ同」

チョウ・コウ
てうこう (名) [illegible] [illegible]

チョウ・コウ
てうこう (名) [朝貢] 他國ヨリ來朝シテ、貢物ヲ獻ズルコト。來貢。

チョウ・コウ
てうこう (名) [illegible] [illegible]

チョウ・コウ
てうこう (名) [illegible] [illegible]

チョウ
てう[illegible] (名) [illegible] [illegible]

ルコト。國家ヲ開キハジムルコト。建國。書經、酒誥傳「乃穆考文王、肇國在西土」」

てう-こく（チヨウ-コク）(名) 〔雕刻〕〔彫刻〕 文字、圖畫、及、物ノ像ナドヲ、刻リキザムコト。三國志、吳志、賀齊傳「好爲軍事、兵甲器械極爲精好、所乘船、雕刻丹鏤、青蓋絳襜」 北史、齊幼主紀「其嬪嬙諸院中、起鏡殿、寶殿、瑇瑁殿、丹青雕刻妙極當時」 洛陽伽藍記「寶光寺、云云、有三層浮屠一所、以石爲基、形製甚古、畫工雕刻」

てう-さ（チヨウ-サ）(名) 〔調査〕 〔漢書、王莽傳、注「求事物之實情、曰調査」〕 取調ブルコト。シラベタダスコト。

てう-ざ（チヨウ-ザ）(名) 〔朝座〕 天皇ノ政事ヲ聞シメシ、羣臣ニ謁ヲ賜ハル所。又、朝堂ノ座。朝堂。 式部省式、上「凡在京文官、皆就朝座」 同「凡次侍從以上職事、陪從行幸、開朝座、者、待中務移、乃聽之、近衞行幸者、朝座罷後追參」 彈正臺式「凡諸司官人開門以後、就朝座、者、即加糺彈、但參議以上、左右大辨、八省卿、彈正尹、不在彈限」

てう-さい（チヨウ-サイ）(名) 〔超歲〕 年ヲコユルコト。越年（新年ノ祝詞ニ） 超年。

てう-さい（チヨウ-サイ）(名) 〔調菜〕 副食物ノさいヲ調理スルコト。又、ソノさい。マハリ。メグリ。アハセ。 下學集、下、態藝門「調菜、テウサイ」注「調味者也」 紅梅千句 承應「急ギッツ、蕪ヲ齋ノ、調菜」 懷子俳譜集 明曆「今日緣日ト、登ル淺草、調菜モ、精進物ノ、海苔（法ニ掛ク）ノ道」

てう-ざい（チヨウ-ザイ）(名) 〔調劑〕 藥ヲ調合スルコト。又、調合シタル藥。調藥。

てうさい-ばう（チヨウサイ-ボウ）(名) 〔嘲齋坊〕 〔擬人語〕 嘲弄スルコト。愚弄スルコト 嬉遊笑覽、十一、乞士「方齋ノ齋ハ、人ヲ嘲弄スル嘲齋ト云ヒシヲ、是ニハ下ニ坊ヲ付テ、ちやうさい坊ト云フ、是ト同例ニテ、人ノ名メカシタルナリ」

てう-さん（チヨウ-サン）(名) 〔朝參〕 (一)アサマツリゴト。通鑑、北齊、高歸彥傳「至明欲參」注「參、朝參也」 (二)官人ノ朝廷ヘマヰルコト。ミカドマヰリ。參內（サンダイ）。參朝。 雄略紀、廿三年八月「臣連伴造每日朝參」 舒明紀、八年七月「群卿及百寮、朝參已懈、自今以後、卯始朝之、巳後退之」 公式令「凡文武職事散官、朝參行立、各依位次爲序、位同者、五位以上、即用授位先後、六位以下以齒」

てう-さん（チヨウ-サン）(名) 〔朝餐〕 アサメシ。アサゲ。 下學集、下、態藝門「朝餐、テウサン」注「朝飯之義也」

てう-さん（チヨウ-サン）(名) 〔朝三〕 てうさんぼし（朝三暮四）ノ略。其條ヲ見ヨ。 太平記、三十九、神木入洛事「一寺時イノ學徒、是レヲ以テ朝三ノ資ケヲ得テ、僅ニ餐霞ノ飢エヲ止メ」

てう-さん（チヨウ-サン）(名) 〔逃散〕 〔逃、漢音、たう、吳音、てう〕 又、タウサン。江戸幕府ノ頃、村里ノ者、多數、相謀リテ、出デ奔リシコトノ稱。 御成敗式目、第四十二條「一、百姓逃散時、稱逃毀、令損亡事、右諸國住民逃脫之時、其領主等稱逃毀、抑留妻子奪取資財、所行之企甚背仁政、若被召決之處、有年貢所當未濟者、可致其償、不然者、早可被糺返損物、但於去留者、宜任民意也」 慶應四年三月政府ノ高札「或ハ申合、居町、居村ヲタチノキ候ヲ、てうさんト申ス、堅ク御法度タリ」（法律進化論、二）

てう-ざん（チヨウ-ザン）(名) 〔凋殘〕 シボミ、ソコナフコト。 杜甫詩「秋疏擁霜露、豈敢惜凋殘」

てう-さん-だいぶ（チヨウ-サン-ダイブ）(名) 〔朝散大夫〕 (一)從五位下ノ唐名。 唐書、百官志「從五品下曰朝散大夫」 拾芥抄、中本、官位唐名「從五位下、朝散大夫、武游擊將軍」 (二)大名ノ、從五位下ニシテ、無役ナルモノノ稱。 要隱辨志、下、諸家官位昇進之次第「從五位下、朝散大夫」

てうさん-ぼし（チヨウサン-ボシ）(名) 〔朝三暮四〕 〔列子、黃帝篇「恐衆狙之不馴於己也、先誑之曰、與若芧朝三而暮四、足乎、衆狙皆起而怒、俄而曰、與若芧朝四而暮三、足乎、衆狙皆伏而喜」ヨリ出ヅ〕 (一)詐欺ヲ用キテ、人ヲ愚弄スルコト。同ジ事ヲ言ヒマギラシテ、人ヲ欺クコト。又、朝四暮三。 莊子、齊物論篇「狙公賦芧曰、朝三而暮四、衆狙皆怒、曰、然則朝四而暮三、衆狙皆悅」 (二)眼前ノ差違ヲ爭ヒテ、結局ノ同一ニ歸スルヲ知ラザル譬喩。 (三)生計。生活。クラシ。タヅキ。 太平記、三十八、畠山兄弟修禪寺城籠事「夜ヲ重ヌベキ宿モナク、道路ニ袖ヲ廣ゲヌ許リニテ、朝三暮四ノ資ケニ、心有ル人モガナト、身ヲ苦シメタル有樣」

てう-し（チヨウ-シ）(名) 〔調子〕 (一)〔樂器ノ音ノシラベ。〕 即チ、其高低、長短ノ程（ホド）。 源、七、紅葉賀「カタキ調子ドモヲ、タダ一ワタリニ習ヒトリ給フ」 教訓抄、五「古鳥蘇、先欲此曲奏時、吹高麗調子、但依爲祕事、常吹心調子、又此調子、與福寺常樂會之後日、西樂門奏之」 花傳書 應永、世阿彌、六「聲ヲ忘レテ曲ヲ知レ、曲ヲ忘レテ調子ヲ知レ、調子ヲ忘レテ拍子ヲ知レト云ヘリ」 (二)轉ジテ、事ノホドラヒ。 (三)ハヅミ。動機。工合。程度 謠曲、舟辨慶「其時、靜ハ立チ上リ、時ノ調子ヲ取リアヘズ、渡口ノ郵船ハ、風靜ツテ出ヅ」 調子おろ下すトハ、俗ニ相手ヲミクビルノ意。

てう-し（チヨウ-シ）(名) 〔銚子〕 (一)酒ヲ盛リテ盃ニ注グ器。古ヘノ銚子ハ、金類（カネ）ニテ作ル。長キ柄アリテ、小サク造リ、柄ヲツケタルモノ。金類（カネ）ニテ作ル。長キ柄アレバ、柄ナキ提子（ヒサゲ）ニ對シテ、長柄の銚子トモ云フ。注口（クチ）ノ兩方ニアルヲ兩口（モロクチ）ト云ヒ、一方ナルヲ片口（カタクチ）ト云フ。 字類抄「銚子、テウシ」 名目抄「銚子、テウシ」注「元三御藥之時用之」 貞丈雜記、七、酒盃「兩口の銚子ハ略儀也、古、殿中ニテハ片口ヲ用ラレシ也、云云、公方樣ニテハ、正月五日、其外、節朔ニハ、かた口ノ御銚子白シ（白トハ白メッキ也）、御酒モ白酒也、云云、もろ口ノてうしハ、大酒モリニテ、客人入ミダレテ呑時、右ノ人ヘモ、左ノ人ヘモ、酒ヲ盃ヘ入ベキ爲ニ、兩方ニ口ヲ付タル也」 廚子類記、銀器「片口銚子、記曰、口徑六寸、柄長」 宗五大雙紙、上、式三獻、常ノ三ノ御盃ノ時モ、御銚子ハ、かた口ナルベシ、公方樣ニハ正月五ケ日、其外、節朔ニハ、かたロノ御銚子白、御酒モ白酒ナリ、云云、祝言ニモ、かたロノ銚子ヲ可用」 増鏡、十三、今日の日影「一條ドノ御ハイゼン、ソノノチ女御殿モ、御てうしニ、テカケサセ給事侍リ」 續世繼、四、小野の行幸「カサミキタルワラハニ人、ヒトリハシロガネノてうしニ、ミキイレテモテ參リ」 (二)轉ジテ、泛ク、酒瓶（トクリ）ノ稱。 好色一代男（天和、西鶴）一「更ニ又所ヲ替ヘテト思フ中ニ、セハシク銚子ヲカヘル事アリ」

てう-し（チヨウ-シ）(名) 〔弔詞〕 人ノ死ヲトムラフタメノコトバ、文章、又ハ、詩歌。弔辭。

でう-し（ジヨウ-シ）(名) 〔笛師〕 〔字音、てきしノ音便〕 笛ヲ吹クモノ。 義經記、六、靜若宮八幡ヘ參詣の事「時ノでうしハ大事ノモノニテ候ニ、誰ニカ音取ヲフカセバヤ」

てう-じう（チヨウ-ジユウ）(名) 〔鳥獸〕 鳥ト、獸ト。トリケモノ。トリケダモノ。禽獸。 書經、堯典篇「日中星鳥、以殷仲春、厥民析、鳥獸孳尾」 論語、微子篇「鳥獸不可與同群」

でうじ-さだめ（ジヨウジ-サダメ）(名) 〔條事定〕 箇條、箇條ノ事柄ヲ定ムルコト。逐條決定。

てうし-じう（チヨウシ-ジユウ）(名) 〔鳥嘴銃〕 略シテ、てうじう。其條ヲ見ヨ。 和漢三才圖會、廿一、兵器「鐵砲、テッパウ」注「鳥嘴銃、鳥銃、今云鐵砲」

てうし-ちぢみ（チヨウシ-チヂミ）(名) 〔銚子縮〕 木綿縮ノ一種。常陸國、鹿島郡、波崎ニ產ジ、其對岸ナル下總國ノ銚子湊ヨリ諸方ヘ出ス。經（タテ）ヲ二線（フタコ）ニス、強シトテ名アリ。

てうし-はづれ（チヨウシ-ハズレ）(名) 〔調子外〕 (一)調子ノ

トトノハヌコト。調子違(チガヒ)。(二)工合ノ尋常ト異ナルコト。ナミハヅレ。

チョウ-シュウ
てうしふ (名) 調習 てうれん(調練)ニ同ジ。 詩經、秦風、[illegible]「遊于北園、四馬既閑」疏「諸馬皆須調習也」 續紀、廿四、天平寶字六年十一月「以爲征新羅調習軍旅也」

チョウシ-ブエ
てうしぶえ (名) 調子笛 長短十二ノ細管ニ、各、機アリテ、十二律ノ音ヲ發スルモノ。樂器ノ調子ヲ合ハスル時、吹キテ、其調ヲ定ムル用トス。闘竹(タケ)。律管

チョウシュウ-シ
てうしふし (名) 朝集使 四度(シド)ノ使(ツカヒ)ノ一。諸國ヨリ貢物ヲ奉ジテ、京ニ入ル者ノ稱。 貞觀政要、八、貢賦「貞觀二年、太宗謂朝集使曰、任土作貢、布在前典」注「唐制、諸州歲貢物入京者、謂之朝集使」 通鑑、唐紀、注「自外入朝、與朝班一者、曰朝集使」 孝德紀、大化二年三月「東國朝(マヰウゴナハル)集使(カヒ)」 續紀、十二、天平七年閏十一月「天皇臨朝、召諸國朝集使等」 萬葉集、十八、十三「國掾久米朝臣廣繩、以天平二十年、附朝集使入京」 同、十九、三十「十六日(天平勝寶三年十月)、餞之朝集使少目秦伊美吉石竹」 同、廿、四十「上總國朝集使大掾大原眞人今城、向京之時、郡司妻女等餞之」

チョウシュウ-ドウ
てうしふだう (名) 朝集堂 古ヘ、禁中、朝堂院ノ南部ノ第一門、應天門ノ第二門ニ方リ、會昌門ノ閤ノ東西兩堂ノ稱。 有職抄、二、宮中殿門、朝集堂「九間、應天門ノ內、會昌門ノ外、東西ニ二宇アリ、各九間ノ堂、是ヲ東西ノ堂ト云フナリ」 北山抄、三、拾遺雜抄、朝拜事「外辨大臣以下、入自含耀門(閤、朝集堂東小門)就朝集堂座」 後紀、廿四、弘仁六年正月「於朝集堂饗王孝廉(渤海使)等、賜宴及祿」 紀略、後篇、一、延喜廿年五月十六日「於朝集堂、饗渤海客徒」

チョウ-シン
てうしん (名) 調進 トトノヘテ、マヰラスルコト。注文ノ品ヲトリソロヘテ屆クルコト。調達。 太平記、四、妙法院二品親王事「遷幸以前ニ、法體ニ可下武トテ、香染ノ御衣ヲ、武家ヨリ調進シタリケレドモ」

チョウ-シン
てうしん (名) 朝臣 朝廷ニ出デ仕フル臣下。 史記、灌夫傳「上問朝臣、兩人孰是」

チョウ-シヨウ
てうしやう (名) 朝章 朝廷ノ法章(サキテ)。朝典。 後漢書、胡廣傳「達練事體、明解朝章」 [illegible]物語、二、一「[illegible]朝敕事、楊國忠ガ叡慮ニ背キ、安祿山ガ朝章ヲ亂リシ惡行モ、カクノ如クノ事ハナシ」

チョウ-ジャク
てうじゃく (名) 朝夕 (一)てうせき(朝夕)ニ同ジ。(二)次條、又ハ、次次條ノ語ノ略。 年中定例記、正月十七日「御てうじゃく、白キ大帷(オホカタビラ)ヲ着シテ」 鹿苑院殿御元服記、永和元年四月廿五日「御參內始、云云、御てうじゃく、細川右馬助滿基」 注「今日被仰小侍所、召其朝夕畢」 普廣院殿御元服記、永享二年七月廿五日「大將御拜賀、云云、御路掃除事、任先規、被仰付侍所也、奉行人諏訪[illegible]書、以朝夕、送遣之」

チョウジャク-ゾウシキ
てうじゃくざふしき (名) 朝夕雜色 武家時代ニ、役所ニテ奉行ニ使役セラレ、雜務ヲ扱ヒシモノ。略シテ、朝夕。 吾妻鏡、四十三、建長五年正月二日「今夕被催供奉人、是以元日著庭衆所被撰也、小侍所司平岡左衛門尉實俊、令朝夕雜色等觸其散狀」 太平記、二、[illegible]「僧徒六波羅召捕事、青竹ヲ破リテ敷竝ベ、少隙ヲアケケレバ、猛火炎ヲ吐テ烈烈タリ、朝夕雜色左右ニ立チ雙ンデ、兩方ノ手ヲ引キ張リテ」

チョウジャク-ニン
てうじゃくにん (名) 朝夕人 (一)武家ニテ、役所ノ小使 (二)江戸時代ニテハ、將軍ノ參內ノ節、便器ヲ携ヘ從フモノ。略シテ、朝夕。 貞丈雜記、四、役公「朝夕人ハ、ちゃうじゃくにんトヨム也、云云、公事ノ時、政所ニテ、コマヅカヒスル役人也、云云、又、朝夕人ハ參內ナドノ時ハ、尿筒ヲ持ツ也、尿筒ト云ハ、小便筒也」 [illegible]「[illegible]代官殿ノ[illegible]ニヨリ右京之、其キハニテ御下[illegible]也、御輿ノ御アトヘンニ、御尿筒タマキル也」

チョウ-ジュウ
てうじゅう (名) 鳥銃 〔鳥嘴銃(テウシジュウ)ノ略。モト、鳥類ヲ擊チシ故ノ名ナラム。火槍(クワサウ)ノ條ヲ見ヨ〕 テッパウ。小銃。 [illegible] 記、五「鳥銃起於嘉靖中、傳自倭人、前癸」

てうず (名) 手薄 手ニアルモノノ少キコト。モトデノ足ラザルコト。ハタラキテ不足ナルコト。

チョウ-ス
てうす・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 朝 (一)朝廷ヘマヰル。朝參(テウサン)ス。參內ス。 孟子、梁惠王、下篇「諸侯朝於天子曰述職」 [illegible]孫丑、下篇「孟子將朝王」云云、朝將視朝」 (二)貢物ヲ獻ズ。朝貢ス。(三)向ヒ行ク。流レ入ル。河ノ水、海ニ注グ。朝宗ス。

チョウ-ス
てうす・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 弔 トブラフ。トムラフ。人ノ死ヲイタミ、クヤミヲ述ブ。 [illegible]

チョウ-ズ
てうず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變) 調 (一)物ヲ調(トトノ)ヘテ、其用ニ供フ。トトノフ。調達ス。 [illegible]調度アルベキ限リてうじ、コキ人ノ朝、云云」(二)調伏(テウブク)ス。マジナヒ、ノロフ。 枕草子、九、九十七段「コハキ物ノケてうじタル驗者」

デウス (名) 天主 〔又、でいうそ(提宇子)、[illegible]語、神ノ意ナル[illegible]〕 舊教ニテ尊奉スル諸知善能ノ神ノ稱。造物者ナリト云フ。ダイウス。 西洋記聞、下「天主ノ教、云云、其主宰、名ヅケテでうすト云フ、(でうす、漢ニ天主ト譯ス)、でうす、初ニ天地萬物ヲ造リソントスル[illegible]ニ、諸天ノ上ニ、はらいそヲ作リ[illegible]世界ハ衆生濟度ノタメニ、天クダリ給フリ、御子でうすト申[illegible]」

チョウ-セイ
てうせい (名) 朝政 朝廷ニテ行フ政事。アサマツリゴト。 [illegible]

チョウ-ショウ
てうせう (名) 嘲笑 シリ笑フコト。アザワラフコト。冷笑。 [illegible]

チョウ-セキ
てうせき (名) 朝夕 (一)[illegible] トヽ。アケクレ。アサバン。てうじゃく。 [illegible]

チョウ-セキ
てうせき (名) 鳥跡 (一)トリノアシアト。 [illegible] (二)文字ノ[illegible] 支那ノ古、[illegible]ガ、鳥ノ足跡ヲ見テ、始メテ文字ヲ作リシト云フ故事ニ因ル」 [illegible]

てうせつ [illegible]

コト。白居易詩、奉傳白羽毛、撃悠世事」

チョウ-ゼツ
てう-ぜつ (名) 【超絶】 (一)コエスグルル コト。超エ出ヅルコト。魏文帝、彈棊賦「超群倫」(二)英語、Transcendence.ノ譯語」哲學上ニテ、認識、又ハ、經驗ノ範圍外ナルコト。超越。「超絶的」

チョウ-セン
てう-せん (名) 【朝鮮】 古ヘ、三韓ト云ヒキ。東國(支那ヨリ)鷄林。されあ。史記、宋世家「武王乃封箕子於朝鮮」索隱註「朝音潮、鮮音仙、以有汕水故名」和漢三才圖會、十三、朝鮮國「周武王封箕子於朝鮮云云、名馬韓、辰韓、卞韓、謂之三韓、是即百濟、高勾麗、新羅也、既而高麗王建爲三韓統一、後至李成桂、復改名朝鮮國」

チョウ-セン
てう-せん (名) 【挑戰】 戰ヲイドムコト。史記、高祖紀「若漢挑戰、愼勿與戰」

チョウセン-アサガホ
てうせん-あさがほ (名) 【朝鮮朝顏】 有毒植物まんだらげ(曼陀羅華)ニ同ジ。

チョウセン-アブミ
てうせん-あぶみ (名) 【朝鮮鐙】 鐙ノ一種。西洋鐙ノ如クニテ、足ノ蹈ム所、幅廣シ。我ガ邦ノ古代ノ鐙、此形ナリキ。貞享中、朝鮮ヨリ渡ルト云フ。カラアブミ。ワアブミ。

チョウセン-アメ
てうせん-あめ (名) 【朝鮮飴】 牛皮飴ノ類

チョウセン-ウグイス
てうせん-うぐひす (名) 【朝鮮鶯】 かうらいうぐひす(高麗鶯)ニ同ジ。

チョウセン-ガラス
てうせん-がらす (名) 【朝鮮鴉】 〔多ク朝鮮地方ニ棲ム故ニ云フ〕かささぎ(鵲)ノ一名。其條ヲ見ヨ。

チョウセン-ギボシユ
てうせん-ぎぼしゅ (名) 【朝鮮擬寶珠】 草ノ名。紫萼ノ一種。春、舊根ヨリ生ジ、高サ四五尺、葉ハ卵形ニテ叢生シ、長キ柄ヲ有ス、葉ノ面ニ白粉アリ、夏、莖開ニ花莖ヲ抽キ、淡帶紫色ノ花ヲ總狀ニ着ク。タウギボシ。玉簪

チョウセン-グミ
てうせん-ぐみ (名) 【朝鮮茱萸】 又、へビグミ。うぐひすのき(鶯木)ニ同ジ。

チョウセン-ゴマ
てうせん-ごま (名) 【朝鮮駒】 小鳥ノ名。形、さまどりニ似テ、頭ト背トハ赤ク、咽ハ黑ク、胸ト腹トハ白シ。一名、リウキウゴマ。アカヒゲ。

チョウセン-ザクロ
てうせん-ざくろ (名) 【朝鮮石榴】 石榴ノ一種。高サ尺ニ滿タズシテ、花、實ヲツク。肥地ナレバ丈許ニ至ルモアリ。花ノ色、殊ニ赤シ、不時花アリテ、花、實、常ニアリ、形、共ニ、小サシ。一名、ナンキンザクロ。ヒメザクロ。火石榴

チョウセン-サワリ
てうせん-サハリ (名) 【朝鮮鈔鑼】 古銅器ノ一。さはり(鈔鑼)、幷ニ、さふら(沙羅)ノ條ヲ見ヨ。

チョウゼン-ト
てうぜん-と (副) 【超然】 (一)物事ノ範圍外ニ、超エ抽ヅル狀ニ云フ語。漢書、董仲舒傳「人受命于天、固超然異於羣生」(二)世間、又ハ、事物ニ關係セヌ狀ニ云フ語。宋玉、對楚王問「夫聖人瑰意琦行、超然獨處」

チョウゼン-ト
てうぜん-と (副) 【惆然】 失望シテ恨ム狀、又、イタミ、憂フル狀ニ云フ語。荀子、禮論篇「其於志意之情者、惆然不嗛」注「嗛、足也」

チョウセン-ナツメ
てうせん-なつめ (名) 【朝鮮棗】 オホナツメ。タイサウ。なつめ(棗)ノ條ヲ見ヨ。

チョウセン-ニンジン
てうせん-にんじん (名) 【朝鮮人參】 〔多ク朝鮮ニ產ズル故ニ云フ〕 にんじん(人參)ニ同ジ。

チョウセン-ハマグリ
てうせん-はまぐり (名) 【朝鮮蛤】 蛤ノ一種。殼、大キクシテ、三四寸ニ過ギ、厚ク、色白ク、斑アリ、肉、美ナリ。殼ヲ貝合ニ用キ、又、碁ノ白石ニ作ル。故ニ、碁石貝、又、碁石蛤ノ名モアリ。多ク、九州、南海ニ產ズ。蛤蜊

チョウセン-ベッコウ
てうせん-べっかふ (名) 【朝鮮鼈甲】 擬製ノ玳瑁ノ稱。うみがめノ甲ノ斑アル處ニ、水牛ノ角ニテ黑キ斑ヲ入レ作ル、或ハ、牛角、又ハ、馬爪ヲ用キルモアリ。

チョウセン-マツ
てうせん-まつ (名) 【朝鮮松】【海松】 一名、朝鮮五葉、又、葉長五葉。からまつ(唐松)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

チョウセン-ヤライ
てうせん-やらい (名) 【朝鮮矢來】 〔正德元年、朝鮮人、來朝ノ時、横小路ニ、板垣ヲ廢シ、此狀ノ矢來ヲ設ケタルニ起ルト云フ〕 細ソキ丸竹、又ハ、四ツ割竹ニテ組ミ作レル矢來。掘立柱ヲ建テ、横ニ胴緣ヲ數本互シ、ソレニ、竪ニ竹ヲ一本毎ニ、互とチガヒニカラマセ作ル。繩ヲ用キズト。朝鮮垣。大津垣。

チョウ-ソウ
てう-そう (名) 【朝宗】 (一)諸侯ノ、天子ニ朝覲スルコト。周禮、春官篇、太宗伯「諸侯朝於天子、春見曰朝、夏見曰宗」(二)河水ノ海ニ流レコムコト。ソソグコト。朝。書經、禹貢篇「江漢朝宗于海」詩經、小雅、沔水篇「沔彼流水、朝宗于海」

チョウ-タイ
てう-たい (名) 【調帶】 シラベカハ。おびかは(帶革)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

チョウ-ドウ
てう-だう (名) 【鳥道】 〔鳥ナラデハ通ハレヌ程、險シキ道ノ意〕 山中ノ險シク細ソキ道。王維詩「鳥道一千里、猿聲十二時」

チョウ-ドウ
てう-だう (名) 【朝堂】 (一)てうざ(朝座)ニ同ジ。後漢書、明帝紀「帝於朝堂」... 持統紀、四年七月「甲申詔曰、凡朝堂座上、見親王者、如常、大臣與王、起立堂前、二王以上、下座」(二)次條ノ語ノ略。□紀、十、天寶元年正月「宴皇親及百寮於朝堂」

チョウドウ-イン
てうだう-ゐん (名) 【朝堂院】 略シテ、朝堂。はっしゃうゐん(八省院)ニ同ジ。紀略、前篇、十三、延曆十四年八月「幸朝堂院、觀匠作」後紀、廿四、弘仁六年正月「發尾張、參河、越前、但馬、美作、備前等國、役夫一萬九千八百人、修理朝堂院、其食并往還路粮、竝用正稅」掃部寮式「凡朝堂院、昌福、含章、延休等堂、云云、竝以寮料鋪之」

チョウ-タク
てう-たく (名) 【彫琢】【雕琢】 〔詩經、大雅、文王之什、棫樸篇、毛傳「金曰雕、玉曰琢」〕 キザミ、ミガクコト。彫刻琢磨スルコト。孟子、梁惠王、下篇「今有璞玉於此、雖萬鎰、必使玉人彫琢之」司馬遷、報任安書「今雖欲自雕琢、曼辭以自飾」

チョウ-タツ
てう-たつ (名) 【調達】 (一)トトノヒ、トホルコト。阮籍、樂論「陰陽調達」(二)てうしん(調進)ニ同ジ。

チョウ-ダツ
てう-だつ (名) 【超脫】 世俗ナドヨリ超エ出ヅルコト。スキンヅルコト。劉克莊詩「從今詩律應超脫、議吹蕭湘入肺腸」

てう-ち (名) 【手打】 〔此語ハ、喜怒哀樂ノ心ニ感ズル時、表ハスワザナリ〕 (一)兩ノ掌ヲ打チ鳴スコト。敬ヒテ行フモノ。神拜ノ拍手モ是レナリ。持統紀、四年正月「皇后即天皇位、公卿百寮羅列、匝拜而拍手」貞觀儀式、三、踐祚大嘗會「皇太子以下五位以上、就庭中版、跪拍手四度」(二)喜ビ樂ミテ行フモノ。古事記、下(雄略)三十六「一言主大神、手打受其捧物」顯宗即位前紀「手掌擄亮拍上賜、吾常世等」三代實錄、三十六、元慶三年十月「殘賤工等二

十許人、不ㇾ任ㇾ怨咒、(以)墨汁ㇾ手塗ㇾ之」(三)契約スルニ、商人ノ物ノ賣買スル時ニ行フモノ。名義抄「拍、テウチ」(四)爭ヒアリシ後、中直リスル時、互ニ手ヲ拍チテ、詫ハラザルヲ證トスルコト。(五)〔思ヒアタリテ、然リト云フ時ニ行フコト。水鏡、中(敏達)「太子、前ノ世ノオボエ侍ルヲ申スナリ、ト申シ給ヒシ時ニ、帝ヲ始メタテマツリ、聞ク人、手ヲうちアサミ申シキ」源、廿二、玉鬘「此女、手ヲうちテ、アガオモトニコソオハシマシケレ、アナウレシトモウレシ」今昔物語、十六、第廿八語「コハ何カセムトスルトイヘドモ、甲斐ナクテ死能ヌレバ、手ヲ打チテ泣クバカリ思ヒテ」同、廿八、第三語「走ル後ニ立チテ追ヒ次ギテ、手ヲ叩キテ咲フ」(六)空手ニテ搏チテ殺スコト。手搏 暴 詩經、小雅、小旻之什、小旻篇「不ㇾ敢暴ㇾ虎、不ㇾ敢馮ㇾ河」(七)手ヅカラ人ヲ斬ルコト。(貴人ニ云フ、手討ナド記ス) 手刃 狂言記、あかがり「只今、御手打ちニナルト申シテモ、エ渡リマスマイ」川柳「オ手討ノ、夫婦ナリシヲ、衣更」(八)手ヅカラ作ルコト。手製。(蕎麥切ナド)

てうちてうち (名)

手打手打ノ音便」兩ノ掌ヲ打合ハスルコト。小兒ヲ弄スルニ云フコトナリ。長唄、面かぶり「てうちてうち、アワワ、カブリカブリ、シホノメ」孕常盤(寶永、近松作)露の世禍「眼ハ四方ヘ付ケナガラ、てうちてうちアワワ、ネンネンコロロトスカシケリ」好色一代男(天和、西鶴)二「二人ノ謡曲、てうちてうち、カブリノアタマモ定マリ、四ツノ年ノ霜月八髪置」

テウ-チン (名)

挑燈〔字ノ宋音〕ちやうちん(提燈)ニ同ジ。古今著聞集、巻文、八「客人ノ、歸ルヲ送ル、てうちむハ、田ツケネド、出シ月カゲ」

でうちゆう (名)

條蟲〔條系ノ合字。正體「條、音韜」說文「條、亡絡也」〕たうちゆう ニノ誤讀〕さなだむし(眞田蟲)ノ條ヲ見ヨ。「裂頭條蟲」無鉤條蟲」有鉤條蟲」

てうちゆうてんこく (名)

彫蟲篆刻 蟲ノ形、又ハ、篆字ナドヲ彫刻スル如ク、詩文ナドヲ作ルニ、字句ヲ修飾スルコト。揚子法言、吾子篇「或問、吾子少而好ㇾ賦、曰然、童子彫蟲篆刻、俄而曰、壯夫不ㇾ爲也」

てうづ (名)

手水〔てみづノ音便〕(一)〔テミヅ。手、又ハ、顏ヲ洗ヒ淨ムル水。(神佛ノ拜ニ、朝起ニ、廁ニ) 允恭紀、元年十二月「皇后、辟之事時、(而)執ㇾ洗手水ㇾ進ㇾ于皇子前」源、十二、須磨「四十、後フカク御てうづマヰリテ」同、四十、幻「御てうづメシテオコナヒ給フ」蜻蛉物語、一、下「ハヤウ御てうづマヰレトノタマヘバ」(二)廁ニ行クコトヲ、憚リテ稱スル語。更ニ轉ジテ、尿(小便)ノ稱。(婦人ノ語)

てうづがけ (名)

頂頭掛〔正シクハ、ちやうづがけ」(一)烏帽子ノ緒ノ稱。宗五大雙紙「エボシハ、コユヒナシデ、てうづかけノスベシ、てうづかけトハ、一寸マダラニ、白ク黑ク打マゼタルクミノ、サゲ緒ヨリ細キヲカケニスル也」(二)座敷ノ床柱ニ折釘ヲ打チテ、烏帽子ヲカクルモノ。

てうづだらひ (名)

手水盥 手水ヲ盛ル盥。本名、たらひ。今ノ角ダラヒ。洗面器 洗手盤 女用[illegible]「一、御樋子黑漆ノ役ハ、小上﨟ノ役ナリ、ケシャウノマノカザリ、一番ニみみだらひ、ワタシガネ、二ニてうづだらひ」好色五人女(貞享、西鶴)四「御寺ニ這入リ、云云、閼クレバ鏡鉢、鉦ヲてうづだらひニシ」

てうづば (名)

手水場 (一)廁ノ傍ナドニテ、手水ヲツカフ所。(二)轉ジテ、廁。便所。又、ハバカリ。略シテ、てうづ。(婦人ノ語) 守貞漫稿、三、家宅「廁、俗ニ雪隱ト云フ、京坂俗ハ、常ニ說テせんちト云フモアリ、[illegible]」

てうづバチ

手水鉢 [illegible]ハ、てうづ皿ト云フ也」[illegible]

てうてい (名)

朝廷〔朝ニ[illegible]〕帝王、後ニ雜事ニワタル意カト云フ〕帝王ノ、百官ノ政ヲ行フ所。政ヲ布キ施ス所。一國ノ政府。ミカド。廟堂。朝庭。朝。[illegible]

てうてい (名)

調停 仲裁ノ扱ヒ。ナカナホリヲサスルコト。ワボク。講和。和解 宋史、[illegible]

てうてう (名)

出停〔[illegible]〕他行スルコト。外出スルコト。デカケルコト。

でうでうがき (名)

條條書 事ノ[illegible]書キタルモノ。カデウガキ。

てうてうと (副)

迢迢 (一)ハルカナル狀ニ云フ語。[illegible]

四、[illegible](二)高キ狀ニ云フ語。[illegible]

でうでうと (副)

嫋嫋 (一)ナヨヤカナル狀ニ云フ語。[illegible](二)風ノソヨ吹ク狀ニ云フ語。[illegible]

てうてき (名)

朝敵 朝家、朝廷ニ叛クモノ。君主ニ叛キテ兵ヲ起ス者。謀反人。反賊 [illegible]

てうてん (名)

[illegible] 朝廷ノ制度、又ハ、[illegible]

てうでん (名)

弔電 弔意ヲ通ズル爲ニ打ツ電報。クヤミノ電報。

てうど (名)

調度 (一)手許ノ所用ノ具。什器。[illegible]

ルママニテ、てうどヲ負ヒテ、イトツキヅキシウ、ヲカシウテオハス」 西宮記、六月、中院儀、注「近衛將監、調度ヲ負フ獻者」

てうど（チョウド） (副) 〔假名遣詳カナラズ、今、ちゃうど、ト云ヘバ、丁度ナドカ〕 恰モ、ヨク合ヒテ。キッカリ。マルデ。シカト。チャント。 高陽草紙、三、卯花威ノ鎧、云云、ザックト著搖ッテ、上帶てうど締メ」「てうど工合ガヨイ」

てうどがけ（チョウドガケ） (名) 〔調度懸〕 (一)弓矢ヲ懸ケ飾ル具。弓、二張ヲ左右ニ並ベ立テ、其中央ニ、箙ヲ飾リ付ケタルモノ。調度持。 貞丈雜記、十一、武具之部「弓矢ヲ立テ置ク道具ニ、調度掛ト云フ道具アリ、云云、太田道灌ノ歌ニ、矢ヲサシテ、左右ニ弓ヲ、調度ガケ、奥ノナラヒハ、家ニヨルベシ」 (二)主君、他行ノ時、其調度(弓矢)ヲ肩ニカケテ、持チテ從フ役。 今昔物語、廿六、第十七語「利仁ガ供ニモ、調度がけ一人、舍人男一人ゾアリケル」 吾妻鏡、廿、建曆二年正月十九日「將軍家御二參鶴岡八幡宮一、云云、召二大須賀四郎胤信一、被レ仰下可レ懸二御調度一由上」 (三)朝廷ノ儀式ノ時、弓矢ヲ持チテ列スル役。

てうどきふかん（チョウドキュウカン） (名) 〔超弩級艦〕 〔英語、Super-dreadnought. ノ譯語〕 攻擊力、防禦力、其他、種種ノ設備ガ、弩級艦ニ超越セル軍艦。弩級艦以上ノ軍艦。どきふかん(弩級艦)ノ條ヲモ見ヨ。

てうとん（チョウトン） (名) 〔朝暾〕 てうぎ(朝曦)ニ同ジ。 鄭谷詩「睡起朝暾屋角升」

てうな（チョウナ） (名) 〔手斧〕 〔てをのノ音便〕 テヲノ。工匠ノ具。木ヲ斧ニテ削リタル後ヲ、平ニスルニ用ヰル刃物。今ノ製ナルハ、刃ノ徑、三寸許、木柄、長サ二尺餘、頭、内ヘ曲リ、刃ヲ内ヘ向ケテ用ヰル。釿

てうながけ（チョウナガケ） (名) 〔手斧掛〕 相撲ノ掛ノ手ノ一。敵ノ左手ヲ取リ、前ヘ引クト同時ニ、右手ヲ延バシテ、敵ノ左足ヘ外掛ニシテ、掻拂フ如クシ、持チタル手ヲ、向ヘ押シテ倒スコト。訛シテ、チョンガケ。

てうなはじめ（チョウナハジメ） (名) 〔手斧始 釿始〕 (一)家ヲ作リ始ムル日ニ行フ儀式ノ稱。又、ソノ日。(二)往時、木匠ノ家ニテ、新年ニ、手斧始トテ、仕事始ノ儀式ヲ行ヘリ。 看聞御記、應永廿四年十一月十三日「上棟儀式、云云、次、釿初、其儀、柱一本打レ墨、次、釘三所打レ之、次、三拜了引二太刀一事了」 當今(中御門)年中行事、正月五日「御釿始」注「南座於二内侍所前一、修理職催レ之、木子播磨惣官常陸勤レ之」 榮花物語、十二、玉の村菊「此殿ハ、ヤガテ八月ヨリてをのはじめサセタマフ」

てうねん（チョウネン） (名) 〔超年〕 年ヲ超スコト。越年。超歲。

てうば（チョウバ） (名) 〔調馬〕 馬ヲ乘リ馴ラスコト。 鹽鐵論、漢、桓寬「御之良者善調レ馬」

てうはい（チョウハイ） (名) 〔朝拜〕 ミカドヲガミ。てうが(朝賀)ニ同ジ。朝拜ナキ年ニ、清涼殿ノ東庭ニテ、殿上人ノ拜賀スルヲ、小朝拜ト云フ。(昔ハ大極殿ニテ、後ニハ清涼殿ノ庭上ニテ) 李商隱、中元詩「絳節飄颻空國來、中元朝拜上清迴」 式部省式、上「凡賀正之日、云云、皆聽二朝拜一」 源、七、紅葉賀九「男君ノ朝拜ニマヰリ給フトテ、サシノゾキ給ヘリ」

てうばう（チョウボウ） (名) 〔眺望〕 ナガメ、ノゾムコト。景色ヲ見渡スコト。遠クナガメ、ノゾムコト。ナガメ。ミハラシ。 禮記、月令「仲夏之月、可三以居二高明一、可二以遠二眺望一」 蔡文姬詩「登二高遠眺望一、魂神忽飛逝」 費良、遊二龍山一詩「登臨富二浦餘一、眺望屬二秋暮一」 太平記、十六、兵庫海

陸寄手事「イサリニ歸ル海人ガ、淡路ノ追戸ヲ渡ル船カト、海邊ノ眺望ヲ詠メテ、鹽路遙カニ見渡セバ」

てうばみ（チョウバミ） (名) 〔調半〕 〔調半ノはにノ轉、さうさぬノ正身、かにさぬノ汗衫ノ類〕 雙六ノ勝負ニテ、二ツノ骰ヲ振リテ、同ジ目ノ揃ヒテ出ヅルコト。コレヲ勝トス。重食。調食。 枕草子、五、四十九段「てうばみニドウ取ラレタル」 同、二、廿段、心ゆくもの「てうばみニてう多クウチタル」 拾遺集、十九、雜、戀「雙六ノ、いちばに(一半ト市場トヲ兼ヌ)立テル、人(一)妻ノ、逢ハデヤミナム、モノニヤハアラヌ」 油糟(寛永、貞德)「握ラレム、物カヤタダハ、置カマシヤ、調半トフモ、ツラキ碁敵」 異制庭訓往來「重啾」 撮壤集、下、遊樂部「雙六、下貽、重啾」 はんハ、はみノ誤。

てうび（チョウビ） (名) 〔調日〕 〔重日ノ義〕 重ル日。雙日(半日ヲ隻日ト云フ) 通雅、廿八、禮儀「唐制以二隻日一視レ朝、文宗用二雙日一」 百練抄、十、建久二年三月十五日「依二御遺誡一、不レ被レ憚二重日一」

てうび（チョウビ） (名) 〔掉尾〕 魚ナドノ、尾ヲ掉ルコト。轉ジテ、最後ノ活動ナドノ、勢強キコトニ云フ。 司馬相如、上林賦「擢レ鰭掉レ尾、振レ鱗奮レ翼、潛二處乎深巖一」 孔武仲詩「悠然掉尾波間去、須レ信人生不レ及レ魚」

てうび（チョウビ） (名) 〔調尾〕 魚ナドヲ料理スルコト。 平家物語(正保版)一、鱸事「自ラ調尾シテ、我身食ヒ、家子、郎黨トモニモ食ハセラル」

てうびゃく（チョウビャク） (名) 〔調百〕 又、丁百。古ヘ、錢、百文ヲ百文ノ値ニ當テタル稱。コレヲ丁錢、又ハ、丁百錢ナドト云ヘリ。後世、德川氏ニ至リテ、錢九十六文ヲ以テ百文ノ値ニ當テ、コレヲ九六錢、又ハ、九六百ナドト云ヒ、其半ノ四十八文ヲ五十文ニ當テタリ。天文ノ頃、上杉憲政ノ家老、長尾意言、始ムト云フ。又、鎌

倉、上杉氏ノ老臣、長尾景春、百文ニ四文ヅツ運上ヲ取レルヲ初トスト云フ。コレヲ省百、除百、折百ナドト云フ。ちゃうせん(丁錢)ノ條ヲモ見ヨ。

てうふ（チョウフ） (名) 〔調布〕 ツキノヌノ。つき、即チ、調ニ奉ル紵布、麻布ノ稱。テヅクリ。(租ノ條ヲ見ヨ) 主稅寮式「調布」 西宮記、臨時、十一、成二勘文一「調布一端直百文」 續紀、十二、天平八年五月「諸國調布長二丈八尺、闊一尺九寸」 擁書漫筆、一「近世ノ人、調布ト白絲布ト混雜テ同物トセルハ、イミジキヒガコト也、和名抄ニモ、調庸布ハ豆岐乃沼能ト讀テ、白絲布トハ別ニ載タリ、豆岐乃沼能ト云フハ、貢調ノ布ナレバナリ」

てうふく（チョウフク） (名) 〔朝服〕 參內スル時、着用スル服。朝衣。 論語、鄉黨篇「吉月必朝服而朝」 宇津保物語、初秋(十八)「懷ヲ捕ヘテ、朝服ノ袖ニツツミテ」 彈正臺式「凡綾者、聽レ用二五位已上朝服一」 倭名抄、十二(二十八) 衣服類「袍、宇倍乃岐沼、一云、朝服」

てうぶく（チョウブク） (名) 〔調伏〕 (一)佛敎ノ語。身、口、意ノ三業ヲ調和シテ、諸ノ惡行ヲ征服スルコト。 法華經「調二伏其心一乃敎二大響一」 (二)佛力ヲ賴ミ禱リテ、怨敵、邪祟ナドヲ降伏セシムルコト (眞言宗、天台宗ニ) 保元物語、一「新院御謀反露顯并調伏事」 太平記、一、中宮御產御祈事「關東調伏ノタメニ、事ヲ中宮ノ御產ニ寄セテ、加樣ニ祕法ヲ修セラレケル」 謠曲、殺生石「安倍泰成、調伏ノ祭ヲ始メ、壇ニ五色ノ幣帛ヲ立テ、玉藻ニ御幣ヲ持タセツツ、肝膽ヲクダキ祈リシカバ」 (三)人ヲ呪詛シテ殺スコト。マジナフ。ノロフ。 賀古敎信七墓廻(元祿、近松作)二「呪詛、調伏ノ願ヲ充テシメ」

てうへい（チョウヘイ） (名) 〔朝聘〕 (一)諸侯ノ朝覲ト、大夫ノ聘問ト。 公羊傳、隱公十一年「諸侯來曰レ朝、大夫來曰レ聘」 (二)諸侯ガ朝見シテ、物ヲ獻ズルコト。 中庸、第二十章「朝聘以レ時、厚

ノ往而薄レ來、所ニ以懷ニ諸侯ニ也」 (三)朝廷ヨリ聘セラルルコト。

チヨウ・ヘイ
てうへい (名) 凋弊 生氣ヲ喪ヒ、衰フルコト。オトロヘ、ツカルルコト。シボミ、ヤブルルコト。衰弊。荀悦、神怪論「當ニ武帝之世ニ、賦役煩衆、民力彫弊」(凋、彫、通用ス)

チヨウ・ヘイ
てうへい (名) 吊瓶 つるべ(釣瓶)ニ同ジ。

チヨウ・ホウ
てうほふ (名) 調法 (一)事ヲ調フベク考フルコト。オモンパカルコト。天正本節用集、下「調法、料簡ノ義」 高野山文書、二「急度合力候樣ニ調法候者、可レ爲ニ祝着ニ候」 (二)調伏ノ呪法。謠曲、鐵輪「佛神ニ祈、數ツモツテ、御命モ今夜ニ究ツテ候フ程ニ、某ガ調法ニハ叶ヒ難ク候」 (三)用ヰテ甚ダ便利ナルコト。用ノ足ルコト。狂言記、文相撲「コレガ書カ、書イタ物ハ調法ヂヤ」 浮世風呂(文化、三馬)二編、下「鬠搔ダノ張籠ダノト、調法ナコトニナリマシタ」

チヨウ・マ
てうま (名) 鳥馬 〔倭名抄、十八(五十二)「都久美、馬鳥」トアリ、其轉倒カトモ云フ、イカガ〕鳥ノ名。つぐみ(鶇)ニ同ジ。本朝食鑑「鶇、釋名、馬鳥、鳥馬也」

チヨウ・ミ
てうみ (名) 調味 食物ニ味ヲツクルコト。鶡冠子「調レ味、章レ色、正レ聲、以定ニ天地人事ニ」 論衡(漢、王充)「狄牙之調味也、酸則沃レ之以レ水、淡則加レ之以レ鹹、水火相變易、故膳無ニ鹹淡之失ニ」 平家物語、一、鱸事「精進潔齋ノ道ナレドモ、自ラ調味シテ我身クヒ、家ノ子、郎黨ドモニモ食ハセラル」

てうみん (名) 兆民 多クノ人民。世ノ中ノスベテノ人。衆庶。黎民。萬民。億兆。書經、周官篇「觀ニ爾有政、以佑ニ乃辟、永康ニ兆民、萬邦惟無レ斁」 又、呂刑篇「一人有レ慶、兆民賴レ之」

チヨウ・メイ
てうめい (名) 朝命 ミカドノオホセ。朝廷ノ命令。北史、高允傳「[illegible]朝命ニ[illegible]

[illegible]、文明太后[illegible]」

チヨウ・モク
てうもく (名) 鳥目 〔がかん(鵝眼)ノ條ヲ見ヨ〕ぜに(錢)ノ異名。鹽尻、十、三十八條「鳥目、云云、是錢足ノ異名也、鳥ノ目ハ圓キ故ニ爾云、鳥ノ大小同ク目ノ圓ナル故ニ、錢モ其品異ナレドモ、其形共ニ同ジキガ故也」 貞丈雜記、十五、錢目「鳥目錢貫文ヲ百疋ト云ヒ、百文ヲ十疋ト云フ」 狂言記、河原太郎「定メテオビタダシウ賣レタデアラウ、鳥目モアマタアラウ、是レヘ御出シヤレ」

ジヨウ・モク
でうもく (名) 條目 事ノ條條ヲ立テ、書キ連ヌルモノ。箇條ガキノ項目。式目ノ類ハ、一ツ書キニ條條ヲ擧ゲテ、目錄、條數ニ就キテ箇條ト云ヒ、元和ノ式目ヲ、官署ノ詞ニ、御條目ト云フ。大學衍義「綱、論條目工夫」 漢書、公孫賀傳、贊「[illegible]條目ニ」 晉書、刑法志「[illegible]」 明良洪範、廿四「[illegible]御條目ヲ御違ヘ不レ被レ成候テ、天下ノ御政事、人ニ後指ヲササレヌ樣ニ」

チヨウ・モン
てうもん (名) 弔問 遺族ヲ訪ウテ、悔ミヲ述ブルコト。弔臨。

チヨウ・ヤ
てうや (名) 朝野 朝廷ト、民間ト。又、在朝ト、在野ト。晉書、杜預傳「陛下聖明、朝野清晏、吳主驕淫、當レ今討レ之、可ニ不レ勞而定ニ」

チヨウ・ヨウ
てうやう (名) 朝陽 (一)てうき(朝曦)ニ同ジ。呂溫詩「背寄ニ朝陽滿ニ、心[illegible]」 太平記、一、武家繁昌事「北條ニ服セズト云フ者ハナカリケリ、朝陽不レ犯ドモ、殘星光ヲ奪ハルル習ヒナレバ」 (二)山ノ朝日ニ向フ所。山東。爾雅「山東日ニ朝陽ニ」

チヨウ・ヤク
てうやく (名) 調藥 てうざい(調劑)ニ同ジ。唐書、馬周傳「周病ニ消渇ニ、云云、帝躬爲調レ藥」

ジヨウ・ヤク
でうやく (名) 條約 (一)條目ヲ立テテ、約定スルコト。又、其約定。唐書、[illegible]中、南詔傳「數改ニ條約ニ、衆不レ悅」 (二)國家ト國家トノ間ニ締結セラレタル約定。

てうら (名) 手占 てうらなひ(手占)ニ同ジ。狂言記、[illegible]「[illegible]占ヲ置イテ見マセウ、夫ガ能カラウ」

チヨウ・ラ・カ・ス
てうらか・す ・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 嘲 〔手ニテうらかす意〕(一)イジル。イロフ。モテアソブ。マサグル。セセル。(二)カラカフ。[illegible]ナグサムル。ナダムル。(小兒ヲ)

チヨウ・ラク
てうらく (名) 凋落 (一)[illegible]ルコト。凋零。衰落。[illegible]成」 (二)オチブルコト。零落。落魄。(三)ヤセ、オトロヘルコト。凋悴。(四)[illegible]リ、死ヌルコト。[illegible]死。

てうらなひ (名) 手占 手ノ筋ヲ見テ占フコト。又、其ヲスル人。[illegible]ヒ。テノスヂミ。テウラ。人倫訓蒙圖彙(元祿)三、作業部、占師「都ニハ所所ニ名人アリ、俗[illegible]」

チヨウ・リ
てうり (名) 調理 (一)事ヲ程善ク調ヘ治ムルコト。[illegible] (二)[illegible]ラヘルコト。料理スルコト。割烹。

ジヨウ・リ
でうり (名) 條理 事ノスヂミチ。スヂメ。スヂ[illegible]

チヨウ・リユウ
てうりう (名) 潮流 (一)潮ノ流レ。海水ノナガレ。[illegible] (二)時勢ノナリユキ。世間ノ風潮。

チヨウ・リン
てうりん (名) 超倫 ぜつりん(絶倫)ニ同ジ。[illegible]

チヨウ・リヨウ
てうりやう (名) 跳梁 飛ビ走ルコト。[illegible]烈シクハネマハルコト。跋扈。[illegible]

てうれい (名) 凋零 (一)てうらく(凋落)ノ(一)ニ同ジ。[illegible] (二)[illegible]

ジヨウ・レイ
でうれい (名) 條例 條目ニ立テタル[illegible]

てうれいぼかい (句) 朝令暮改 法令ノ屢變ズルヲ云フ語。朝ニ[illegible]

てうれう (名) [illegible]

てうれん (名) [illegible]

てうろ (名) [illegible]

てうろう (名) [illegible]

センガ口惜シサニ、命ニカヘテ取ノタルゾカシ」

でう-ろく (名) 【調六】 雙六ノ勝負ニ、六ノ目ガ二度、續キテ出ヅルコト。大鏡、中、師輔「コノ孕マレ給ヘル御子、男ニオハシマスベクバ、でうろくイデコトテ、ウタセタマヒケルニ」

てう-わ (名) 【調和】 てうく(調和)ニ同ジ。

てう-ゐ (名) 【朝威】 ミカドノ威光。朝廷ノ威力。後漢書、趙岐傳「郁郁出レ國、專命ニ朝威ニ」平治物語、一、信頼信西不快事「竟季ニ及ビテハ、人耆ッテ朝威ヲ蔑如シ、民猛クシテ野心ヲ挾ム」

てう-ゐ (名) 【弔慰】 死者ヲ弔ヒ、存者ヲ慰ムルコト。梁書、劉昭傳「劉昭祖伯龍、居ニ父憂一以ニ孝聞、宋武帝敕ニ皇太子諸王一並往弔慰」

てう-ゐき (名) 【兆域】 〔孝經、喪親篇、注「兆、塋墓界域也」〕ハカバ。ハカドコロ。墓所。三國志、魏志、武帝紀「公卿大臣列將有レ功者、宜下陪ニ葬壽陵一、其廣爲ニ兆域一、使上レ足ニ相容一」

てう-ゑつ (名) 【超越】 ヌキイヅルコト。コエマサルコト。超絕。石崇詩「超ニ越三代一」唐庾比、讚」謝靈運詩「凛凛無ニ端倪一、虛舟有ニ超越一」議起詩「重巒轉森爽、幽步更超越」

てう-をつ (名) 【超越】 前條ノ語ニ同ジ。三國志、魏志、管寧傳「超ニ越成周一」(成周ハ周ノ成王) 平家物語、一、鹿ケ谷事「次男宗盛、中納言ニテオハセシガ、數輩ノ上臈ヲ超越シテ、右ニ加ヘラレケル」

デエ (名) 〔英語、Day.〕日。又、日取リ。

「稿引でえ」

でえ-でえ (名) 〔手入手入ノ訛カ〕雪駄ナホシ。でいでいノ條ヲモ見ヨ。

テエスト (名) 〔英語、Taste.〕味。風味。味覺。又、趣味。嗜好。

デエト (名) 〔英語、Date.〕日附。

テエブル (名) 【卓】 〔英語、Table.〕机ノ脚ノ高キモノ。食事、書見ナド、種種ノ用トス。タアフル。卓子。

テエル (名) 【兩】 〔英語、Tael. 主トシテ在東洋歐米人ノ用語〕支那ノ重量、及、貨幣ノ單位ノ名。目方ハ、十六斤。貨幣ハ、凡ソ我ガ一圓ニ當ル。リヤン。

て-おき (名) 【手置】 常常、心ヲ用ヰテ、取扱ヒ置クコト。

て-おくれ (名) 【手後】 物事ヲ爲ルニ、機ノ後ルルコト。手當ノ後ルルコト。失期

て-おち (名) 【手落】 (一)仕業ノ仕殘シ。シオチ。テヌケ。ヲチド。脫誤 遺失 (二)手段ノ不十分ナルコト。

て-おひ (名) 【手負】 闘ヒテ創ヲ負ヒタルコト。又、ソノモノ。負傷

ておひ-じし (名) 【手負猪】 創ヲ負ヒタル猪。ヤミシシ。古事記、下(雄略)五十「天皇ノアソバシシ、猪ノ夜美斯志ノ」

て-おぼえ (名) 【手覺】 豫テ物事ヲ爲テ、其手段ヲ覺エテ居ルコト。テゴコロ。傾城島原蛙合戰(享保、近松作)旅素足「一騎モ殘ラズ打ミシャガレ、手覺えモナキ手柄ダテ、敵ノ手柄トナリタリシ」

て-おも・し キ・ケレ・ク・ク(形、二) 【手重】 (一)爲ルニ容易ナラズ。ムヅカシ。困難ナリ。オッコフナリ。難 (二)扱フコト丁寧ナリ。鄭重 「手重クモテナス」

て-おり (名) 【手織】 布帛ノ、己レ手ヅカラ、織リ成セルコト。又、ソノモノ。(機械ニテ織レルニ對ス) 好色一代女(貞享、西鶴)三「脇差ヲ差サズ、手織縞ノ帷子ノ上ニ、綿入羽織着ル」「手織ノ綿布」

て-か (名) 【手下】 てした(手下)ニ同ジ。

でか・い (形) 【大】 〔でかノ口語〕デッカイ。イカイ。「筑波山、ツクバッテサヘ、でっかいニ、ツイタッタラ、ナホでっかカルベイ」

で-がいちゃう (名) 【出開帳】 かいちゃう(開帳)ノ條ヲ見ヨ。

で-がうし (名) 【出格子】 窓ヨリ外ニ張出シテ設ケタル格子。ソノ子ノ細カキヲ蟲籠窓ト云フ。丹波與作(寶永、近松作)中「竹欞子ノ出格子ニ、首ヲノバシテ取付ケバ、内ヨリ顏ガニョット出ル」

て-かがみ (名) 【手鑑】 〔書鑑ノ義〕古人ノ歌切、書寫ノ經文ノ切ナド、貼リ込ミタル帖。書風ノ目利スルニ、鑑トシテ照シ合ハス。繪ナルヲ繪鑑ト云ヒ、錦繡ナルヲ切鑑ト云フ。昨日は今日の物語(天正)「今程世間ニ、手かがみガハヤル、色色サマザマノ古筆ヲ集メテ奔走スル中ニモ、近衞殿ノ御手跡ホド、見事ナルハアルマイ」

て-がかり (名) 【手懸】 (一)物事ヲ探リ索ムル緣トナルモノ。テヅル。(二)手ヲカクル所。曾我虎磨(寶永、近松作)上「面五尺餘リナル露滑カニ苔蒸シテ、手懸リモナキ野面ノ石、ムズト抱イテ引上グルニ」

て-かき (名) 【手書】 文字ヲ巧ニ書ク人ノ稱。手者。能書。大鏡、上、實賴「經任君ノ母上、大貳ニオトラズ、女手かきニテオハス」重之集「三位ノ大貳、云云、大貳ニナラレテ下リタマヘルヲ、道風ハナチテハ、イトカシコキ手書ニオハシテ、手本ナドハ、筑紫ヘゾ書キニツカハシケル」

て-か・く ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 【手書】 文字ヲ巧ニ書ク。徒然草、百廿二段「手書くコト、旨トスルコトハナクトモ」

て-が・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 【手懸】 我ガ仕事トシテ爲ス。與奪

で-か・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) 【出掛】 行カムトテ、立チ出ヅ。赴カムトテ、出デ行ク。デムク。

て-かくばかり (名) 手ヲ懸クルホド。手ノトドクホド。後拾遺集、廿、誹諧「雲居ニテ、イカデアフギト、思ヒシニ、てかくばかりニ、ナリニケルカナ」狹衣、四、下卅「名ヲ惜シミ、人ダノメナル、アフギカナ、てかくばかりノ、契ナラヌニ」

デカ-グラム (名) 【瓧】 〔佛蘭西語、Décagramme. 瓧ハ、瓦ト十トノ合字〕一ぐらむノ十倍ノ稱。我ガ二匁六分七厘弱ニ當ル。

て-かけ (名) 【手懸】 (一)スベテ、物ノ手ヲ懸クル所。「戸ノてかけ」(二)手懸孔ノ略。手ヲ懸ケテ持ツニ便利ノタメ、設ケタル孔。「火鉢ノ手懸」(三)手懸金物ノ略。持ツニ便利ノタメ、手ヲ懸クル箇所ニ取附ケタル金物。「襖ノ手懸」

て-かけ (名) 〔手ニ懸ケテ愛スルモノノ意〕そばめ(妾)ニ同ジ。三議一統、下、宮仕門「白拍子、妾、傾城ナドニ料足ヲ出ス事」世間娘容氣(享保、江嶋其磧)三「色狂ヒヲススメ、妾ニ自ラ膳ヲ据エテ、壻ニ氣ニ入ル樣ニ」

で-がけ (名) 【出掛】 出デムトスル時。デシナ。デシマ。デギハ。

でか・ける (動) 【出掛】 〔でかく(出掛)ノ口語〕外出ス。ソトヘ出ル。

て-かご (名) 【手籠】 物ヲ入レテ提ゲ行クニ用キル小サキ籠。手提ノ籠。提籃 五人女(貞享、西鶴)四「近キ里ノ子ト見エテ、松露、土筆ヲ手籠ニ入レテ、世ヲ渡ル業トテ賣リ來レリ」

てがさ (名) 手傘 さしがさ(傘)ニ同ジ。

てかし (名) 梏桎 〔手枷ノ義〕テカセ。テガネ。手錠。かし(枷)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、十三、刑罰具「梏、天加之、桎、手械也」字鏡「鎖、手加志」續紀、廿四年九月「梏桎」

❖**でか・し・キ・ケレ・ク・ク**(形、二) 大 オホイナリ。又、イカメシ。イカシ。

てかず (名) 手數 爲ルニ、次第ノ多キコト。手段ノカズ。手數。

でか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 出來 〔でく(出來)ノ他動〕(一)出來ルヤウニナス。起ス。狂言記、佛師「其儀デ御座ルナラバ、明日でかしテ進ゼウ」(二)仕遂グ。成ス。果ス。成功ス。狂言記、暈簺「一段トでかいた」

てかせ (名) 桎 てかしノ訛。太平記、四、呉越軍事「經ㇾ日姑蘇城ニ着給ヘバ、スナハチ桎梏ヲ入レテ、土ノ牢ニゾ入レ奉リケル」

でかせぎ (名) 出稼 家ヲ出デ、他所ニテ稼グコト。「出稼人」「出稼人足」

てがた (名) 手形 〔押手ト、意同ジ〕(一)文字ヲ書キ得ザル者、己レガ手指ノ形ヲ、紙ニ押シテ印トスルモノ。(二)證據トスル書キモノ。證文。證券。切手。券。永代藏(元祿、西鶴)二「世上ニ金銀ノ取遣リニハ、預リ手形ニ請判、慥ニ何時ナリトモ御用次第ト相定メ」博多小女郎波枕(享保、近松作)中「コレ見サ、指印ニ入置キシ割符ノ手形、是カアレバ一大事」新永代藏(正徳、北條團水)四、世間取ヤリノ證手形ノ文言ヲ書習ヒ、云云、證書ニハ證手形ヲ取ルコト」諸國御關所覺書「伊勢參宮、佛詣、湯治、聽聞之女者、手形ニ上リ下リト申文言無之候而モ、番所ヨリ口書之手形有證被候節、右手形引合相通候」(三)一定ノ時刻、一定ノ場所ニテ、定メタル金額ヲ自ラ支拂ヒ、又ハ、他人ヲシテ支拂ハシムルコトヲ記載シタル有價證券。爲替手形、約束手形、小切手ノ三種アリ。(四)馬ノ鞍橋ノ、前輪ノ左右側面ニ、續ケテ二ケ所ヅツ、圓ク刳リタル所。乘ル時、手ヲ懸クルニ便ニシタルモノト云フ。保元物語、二、待賢門軍事「十二月二十七日ノ巳ノ刻バカリノ事ナルニ、云云、鎌田ガ鞍ノ前輪ニモ、氷柱キタレバ、乘リカネタリ、惡源太コレヲ見給ヒテ、手形ヲツケテ乘レヤト宣ヒケレバ、打物拔イテツブツブト、手形ヲ切ッテゾ乘リタリケル、鞍ニ手形ヲツクルコト、コノ時ヨリゾ始マレル」(五)牛車ノ前後ノ入口ノ左右ニアル木。平家物語、八、猫間事「牛飼、云云、ソレニ候手がたニ取着カセタマヘト申シケレバ、木曾、手がたニムズト取着テ」盛衰記、三十三、光隆卿木曾許向事「何處ヲ手形トモ知ラズゲニ見エケル時ニ、ソレニ候フ方立ノ孔ニ取リツカセ給ヘト云フ」

でかた (名) 出方 (一)シムクルサマ。シムケヤウ。デヤウ。シカタ。「相手ノ出方ニヨル」(二)芝居ノ座ニ附屬シテ、客ノ案内、其他ノ用ヲ辨ズルモノ。

てがた・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 手堅 爲ルコト慥ニテ、危カラズ。堅固ナリ。

デカダン (名) 〔佛蘭西語、Décadents. 頽廢者ノ義〕十九世紀ノ末、佛蘭西文藝界ニ起リシ病的ナル衰頽墮落ヲ特徴トスル藝術家ノ一派ノ稱。頽廢派。又、ソノ派ノ文學。「可ナリノでかだん生活ヲシテ居タ文士」「新ラシイ女ト云フでかだん式ノモノ」

でがたり (名) 出語 芝居ニテ、舞臺ニ淨瑠璃語ノ一段ノ座ヲ設ケ、面ヲ現ハシテ語ルコト。又、ソノモノ。(河東節ノ簾内ニテ語リシニ對シテ、常磐津節、淸元節ナドノ) 浮世床(文化、三馬)二編、上「水ノ手向ハ、出語ノ[illegible]テハナケレド」

てかてか (副) (一)日ノ照リ輝ク狀ニ云フ語。テラテラ。(二)滑カニシテ、艶光ル狀ニ云フ語。ピカピカ。

でかでか (副) 大キク。デコデコ。

てがね (名) 手鎖 手枷。德川幕府ノ制ニ、庶人ノ閏刑ノ名。鐵環、二箇、連合シタルニテ、兩手ヲ束ネ、錠ヲオロスモノ。三十日、五十日、或ハ、一百日ニ至ル。又、手錠。手鎖。

てがはり (名) 手代 ダイ。カハリノモノ。代人。[illegible]、寬文四年、[illegible]「以ニ手代玄圓法師ニ可ㇾ令ニ勤修ニ云云」

てがはり (名) 手替 仕事ニ替リ合フ人。

でがはり (名) 出替 (一)我レ出デテ、彼レ入ルコト。入リカハルコト。交替。(二)奴婢ノ、年毎ニ、雇期限ヲ終ヘテ、相代ハルコト。昔ハ、二月ナリキ。近世デハ三月トス。又、半季奉公トテ、三月三日ト、九月朔日(京攝ニテハ、八月)トヲ期日トシ、コレヲ出替リ時トスルモアリキ。近代世事談、四、歲時門、出替「古來八二月二日ナリ、近年三月五日トス」松屋筆記、六十[illegible]中十二月廿六日下下奉公人出入、三月五日被仰付[illegible]候、云云、[illegible]、出代大[illegible][illegible]事ニ、[illegible]云、奉人得ニ本家[illegible]之、公與ニ[illegible]國家大富貴也、本家貧、[illegible]歸、後復本家富、[illegible]乃貧、和俗二月二日、[illegible]之節ニ」嵐雪の句「出替ヤ、ヲサナ心ニ、モノアハレ」

てがひ (名) 手飼 手ヅカラ飼フコト。[illegible]ナルル、手がひノヲシヤ、コレナラン、タチホルムレニ、タタヌツガヒハ」「手飼ノ犬」

てがひ (名) 手蓋 さて(箭手)ニ同ジ。長門本平家物語、十六、[illegible]

てがひのとら (名) 手飼虎 猫ノ事ナリト云フ。[illegible]ニ、アリネドモ、馴レシモナドカ、戀クナルラム」六帖「[illegible]アサヂフノ、ソノノ[illegible]、イカナレバ、てがひのとらノ、フシドコロナル」

てかふ (名) 手甲 てっかふ(手甲)ニ同ジ。

でかへり (名) 出歸 かへりしんざん(歸新參)ニ同ジ。[illegible]

てがみ (名) 手紙 〔半切紙ノ義ト云フ〕(一)古クハ、半切紙ノ稱。(二)今ハ、用[illegible]ヲ記シテ、他ニ[illegible]。[illegible]ミ。タマヅサ。ミヅグキ。消息。書面。書狀。書簡。尺牘。[illegible]

デカ・メエトル (名) 〔佛蘭西語、Décamètre.〕一めえとるノ十倍ノ稱。我ガ三丈三尺ニ當ル。

てがら (名) 手柄 〔手幹ノ義カト云フ〕[illegible]

てからみ [illegible]

てがる (名) [illegible]

手重カラスコト。簡易 輕便

てがる・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 手輕 又、てがろし。爲ルニ、容易シ。扱フコト、重重シカラズ。簡易 浮世床(文化、三馬)初編、中「舌切雀ノ葛籠ト云フ物デ、手輕い方ガ德ダ」

てき (名) 敵 (一)カタキ。我ニ寇ナス者。仇。孟子、梁惠王、上篇「仁者無敵」(二)戰ヒノ相手。寇。孫子、作戰篇「智將務食於敵、食敵一鍾當吾二十鍾、萁秆一石當吾二十石」平家物語、七、俱利伽羅落事「前後ヨリ敵ハ攻メ來ル、キタナシヤ、返セヤ返セヤト」(三)我ト爭フモノ。(四)遊女ト客ト、互ニ呼ブ語。相方。オテキ。延寶二十歌仙「花ニイサ、貴妃ノお敵ノ、玄樣ト」(玄樣ハ盧首ノ事、玄宗皇帝ヲ寄ス) 淋敷座の慰(延寶)のほほん節「敵ト見ルナラ、ヒャクライ切ル氣、敵ヂャナイモノ、君ヂャモノ」松の葉(元祿)三、濃紫「おてきタチ、浮世ヲシノブ、目セキ笠」

てき (接尾) 的 〔支那、宋元以後ノ小說ナドニ用ヰラレシ俗語。驀地、怪底、ナドノ、地、底、ト同意ノ語ナリ〕(一)ニ就キテノ、上ノ。「教育的設備」(二)ノ振ナル。風。「獨逸的教育」(三)ノ如キ樣。然。陸九淵語錄「這裏是刀鋸鼎鑊的學問」傳習錄、上「知是行的主意、行是知的工夫」「學者的態度」「都會的風俗」又、副詞ニ用ヰラルルハ。「比較的好シ」

てぎ (名) 手木 ボッて(十手)ニ同ジ。

でき (名) 出來 (一)デクルコト。作リテ、成レル狀。出來。(二)デキタルサマ。デキバエ。成績 (三)ミノリ。サク。收穫 (四)出來合ノ略。「出來ノ品」

できあがり (名) 出來上 デキアガルコト。作リテ、成ルコト。成就

できあが・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 出來上 作リテ、成ル。出來ス。成就 竣功

できあき (名) 出來秋 秋ニ、稻、實リテ刈入ルル時。又、陰暦四月、麥ノ熟スル時ニモ云フ。秋收

できあひ (名) 出來合 (一)作リテ、成リテアルコト。作リ置キテ、賣ルニ備ヘテアルコト。(誂ヘニ對ス)デキ。狂言記、末廣がり「スヱヒロノ出來合ハゴサルカ、ナカナカゴザル」(二)クッツキアヒ。野合。「出來合ノ夫婦」(三)アヒタイフギ。私通。

できあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 出來合 (一)アラカジメ、作リ設ク。(二)男女密通ス。クッツク。チチクル。

てきい (名) 適意 (一)ココロニカナフコト。思フトホリニナルコト。適心。(二)心ノママニスルコト。隨意。晉書、張翰傳「人生貴得適意爾、何能羈宦數千里、以要名爵乎」韋應物詩「適意在無事、携手望秋田」

てきい (名) 敵意 敵對スル意志。仇セント思フ心。害セントスル心。

てきえう (名) 摘要 肝要ノ處ヲ、摘ミ取ルコト。又、ソノ書物。撮要。

てきがい (名) 敵愾 〔左傳、文公四年「諸侯敵王所愾、而獻其功」注「愾、恨怒也」〕敵對スル意氣込ミ。主君、國家ノタメニ、其敵ト爭ハントスル元氣。

てきがいしん (名) 敵愾心 先方ニ向ッテ、敵視、慷慨スル心。敵愾ノ心。

てきかく (名) 的確 〔品字箋(清、虞德升)「的、白也、的確、明且確也」〕タシカナルコト。タダシキコト。的當。

てきがふ (名) 適合 恰モ好クアテハマルコト。ヨク適應スルコト。

てきき (名) 手利 手技ノ、敏クシテ巧ナルコト。器用ナルコト。又、ソノ人。ウデキキ。巧手 今昔物語、廿六、第五語「數度射ルトイヘドモ、例ハ極メテ手聞ニテ、此樣ノ者ハ外ス事モナカリケルニ」保元物語、一、新院御所各門門固事「心飽クマデ剛ニシテ、大力ノ強弓、矢次早ノ手ききナリ」永代藏(元祿、西鶴)一「優レテ都ノ手利アリテ、綿綿ココニ持チ集ヒテ」

てきき (名) 摘記 要點ヲカイツマンデ記スコト。又、ソノモノ。摘錄。

てきき (名) 適歸 從ヒタヨルコト。行キテ身ヲ寄スルコト。史記、伯夷傳「神農虞夏、忽焉沒兮、我安適歸矣」適從。

てきぎ (名) 適宜 ホドヨキコト。相應。

てきくゎ (名) 荻花 ヲギノハナ。白居易、琵琶行「潯陽江頭夜送客、楓葉荻花秋瑟瑟」太平記、廿七、直義朝臣隱遁事「茅茨煙ニ籠ッテ、夜ノ月朦朧タリ、荻花風ニ戰イデ、暮ノ聲蕭踈タリ」謠曲、養老「其ホカ離ノ荻花ハ、林葉ノ秋ヲ汲ムナリヤ」

てきけつ (名) 剔抉 〔說文「剔、解也」玉篇「剔、解骨也」抉ハ、クジル〕エグリホルコト。ホジクルコト。セセルコト。韓愈、進學解「爬羅剔抉、刮垢磨光、蓋有幸而獲選、孰云多而不揚」唐書、楊於陵傳「於陵爲嶺南節度使、云云、筈吏剔抉其贓、吏呼曰楊公」

てきこう (名) 剔紅 堆朱ノ一種。細ヤカニ水、雲、菱、輪違ナド刻リテ、其上ニ、人物、家屋、花鳥ナド、刻レルモノト云フ。誤リテ、ちっこう。

てきこく (名) 敵國 我國ノ敵ナル國。カタキノ國。孟子、告子、下篇「無敵國外患者、國恆亡」史記、吳起傳「君不修德、則舟中之人、皆敵國也」同、淮陰侯傳「敵國破、謀臣亡」戰國策、齊策「明君之攻戰也、甲兵不出於軍、而敵國勝」

できごころ (名) 出來心 不圖起レル思ヒツキ。偶然ニ起リタル考ヘ。(普通、善カラヌ場合ニ用ヰル) 吉野都女楠(正德、近松作)二「今少シニ手ヅカヘ、フト、シタ出來心、後悔先ヘタタキ金」好色五人女(貞享、西鶴)四「ヨシナキ出來心ニシテ、惡事ヲ思ヒ立ツコソ因果ナレ」

できごと (名) 出來事 (一)不圖起レル事柄。(二)事柄。事件。事故。椿事。

てきさい (名) 嫡妻 正妻(妾ニ對ス) 儀禮、喪服篇「妾爲女君」鄭注「女君、君適妻也」ちゃくさい(嫡妻)ニ同ジ。

てきざい (名) 適材 其業務ニ最モ適シタル材能。又、其人。「適材適所」

てきし (名) 嫡子 ちゃくし(嫡子)ニ同ジ。

てきし (名) 笛師 でうし(笛師)ニ同ジ。

てきし (名) 敵視 敵トシテ視ルコト。敵ト見ナスコト。アタムコト。

できし (名) 溺死 水、湯ナドニ、溺レテ死ヌルコト。

てきしつ (名) 嫡室 又、チャクシツ、ちゃくさい(嫡妻)ニ同ジ。

てきしん (名) 敵心 敵對スルココロ。

てきしゅ (名) 敵手 相手。敵トスル人。杜荀鶴、觀棋詩「有時逢敵手、對局到深更」張喬詩「海東誰敵手、歸去道應孤」

てきしゅう (名) 適從 てきき(適歸)ニ同ジ。左傳、宣公十二年「專行不獲、聽而無上、衆誰適從」汪遵、南陽詩「隴畝泥蟠未適從」

てきしゅつ (名) 摘出 摘ミ出スコト。

てきしゅつし (名) 嫡出子 今ノ民法ニテハ、夫婦結婚後ニ生レタル子、即チ公

生子。夫婦ニアラザル者ノ間ニ、生レタル子ヲ、私生子ト云ヒ、妾ノ子、或ハ、私生子ニシテ、父ガ我ガ子ト認知シタル子ヲ庶子ト云フ。明治以前ハ、嫡妻ノ長男ヲ嫡子ト云ヒ、次男、三男、又ハ、妾腹ノ子ヲ庶子ト云ヒキ。チャクシュツシ。

てき-しょ (名) 適所 最モ適當シタル地位。「適材ヲ適所ニ置ク」

てき-しょう (名) 的證 分明ナル證據。確カナル證據。的確ナル證據。確證。

てき・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 敵 (一)敵トナル。抗フ。テムカフ。敵對ス。左傳、桓公六年「小之能敵レ大也、小道大淫」 (二)比べ得。匹敵ス。 樓鑰詩「陳侯之富可レ敵レ國」

てき・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 適 カナフ。アタル。相應ス。 詩經、鄭風、野有蔓艸篇「有二美一人一、清揚婉兮、邂逅相遇、適二我願一兮」

てき-ず (名) 手疵 手モテ斬ラレタル疵。又、闘ニテ負ヒタル切疵。負傷

てき-せつ (名) 適切 極メテ善ク適當スルコト。善クアテハマルコト。剴切。

てき-ぜん-と (副) 倜然 品格ノ高キ狀、又、高ク擧ガル狀ヲ云フ語。 荀子、君道篇「倜然乃擧二太公於州人一而用レ之」 同、非十二子篇「倜然無レ所二歸宿一」

てき-ぜん-と (副) 的然 アキラカナル狀、又、ハ、キリトシタル狀ヲ云フ語。 中庸章句、第三十三章「小人之道、的然而日亡」 太平記、十三、龍馬進奏事「捨(取ィ)捨ノ間、一凶一吉、的然トシテ在レ耳」

てき-ぜん-と (副) 適然 (一)〔康熙字典「正韻、適然、猶二偶然一也」〕 偶然ナル狀ヲ云フ語。不圖(フト)。(二)理ノ當然ナル狀ニ云フ語。[illegible]

できそこなひ (名) 出來損 [illegible]キソコナフコト。又、其モノ。不出來。

できそこな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 出來損 出來上リガ全カラズ。シソコナフ。不出來ニ終ル。仕損ズ。

てき-そん (名) 嫡孫 ちゃくそん(嫡孫)ニ同ジ

てき-たい (名) 敵對 敵トナルコト。反抗スルコト。テムカヒ。ハムカヒ。 法苑珠林(唐、道世)「敵對而除」 太平記、九、大塔宮熊野落事「即時ニ運ヲ開カセ給フベキ親王ニ敵對申シテハ、一天下ノ間、何レノ處ニカ身ヲ置カント思フ」

てき-たう (名) 適當 好ク程ニ當ルコト。アテハマルコト。テッケ。相當。

てき-たう (名) 倜儻 〔說文「倜儻、不レ羈也」〕 氣象ノスグレ出デタルコト。人格ノ大ナルコト。又、獨立シテ束縛セラレザルコト。 司馬遷、報任少卿書「唯倜儻非常之人稱焉」 晉書、劉殷傳「性倜儻、有二濟世之志一」

てき-たう (名) 滌蕩 ススギサルコト。 晉書、成公綏傳「心滌蕩而無累、志離俗而飄然」 [illegible] 李白詩「滌蕩千古愁、留連百壺飮」

できだか (名) 出來高 (一)出來アガリタルカサ。シゴトダカ。(二)收穫ノ總額。

できたて (名) 出來立 出來テ、アヒダモナキコト。又、其物。ツクリタテ。

てき-た・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 敵對 [illegible]ノ字ノ音ヲ活用ス〕 敵對ヲナス。テムカフ。ハムカフ。ハリアフ。抗敵

てき-だん (名) 敵彈 敵ノ銃砲ヨリ出デタル彈丸。敵丸。「敵彈ニ斃ル」

てき-ぢん (名) 敵陣 敵ノ陣營。[illegible] 陣地。敵營。 保元物語[illegible] ラルル[illegible] ハシトテ、引返スヤウヤアルベキ」

てき-ちゅう (名) 適中 正シク中(アタ)ルコト。

てき-ちゅう (名) 的中 (一)マトニ中(アタ)ルコト。命中。(二)ウマク中ルコト。

てき-ちょく (名) 躑躅 (一)[illegible]コト。[illegible] (二)アシブミスルコト。ヂダンダフムコト。 荀子、禮論篇[illegible] (三)つつじ(躑躅)ニ同ジ。 王建、宮詞[illegible] ちょくハ、夜遊ノ人ノ折リヲ得テ、[illegible]春ノ[illegible]」

てき-ちょく (名) 彳亍 〔潘岳、射雉賦「彳亍中輟」徐注「彳亍、止貌」〕 タタズムコト。佇立。 [illegible]「彳亍」[illegible] タタズムト讀ム」

てき-てう (名) 糴糶 米ヲ賣買スルコト。 漢書、食貨志「[illegible]、以利二百姓一」

てき-てき (名) 嫡嫡 佛教ニテ、[illegible] 正統ノ弟子ノ正統ノ師匠ヨリ、代代、承ケ繼グコト。 大方便佛[illegible]

てき-でん (名) 嫡傳 [illegible]

できない-さうだん (名) 不出來相談 [illegible]

てき-にん (名) 適任 其務ニ相應スル[illegible]

てき-ね (名) 手杵 (搗杵ニ對ス) 杵ノ一種。木幹ノ、中括レテ、手ニ握リ、直ニ搗クベク作レルモノ。細腰杵 [illegible]

てき-ぱ [illegible] 仕業ノ成リタル狀 [illegible]

でき-ば (名) 出場 [illegible]

できばえ (名) 出來映 出來榮 [illegible]

てきぱき (副) [illegible] 又、てきぱき。[illegible]

てき-はつ [illegible]

キ出スコト。 後漢書、賈復傳「司以擒ニ其甚愛ニ」北史、齊宗室高祖上傳「湯迸[illegible]勝當方、臨習ニ於吏事、[illegible]」

てきひゃう（名）［適評］ 適當ナル批評。

できぶげん（名）［出來分限］ にはかぶげん（俄分限）ニ同ジ。デキボシ。

てきぼ（名）［嫡母］ ちゃくぼ（嫡母）ニ同ジ。 南史、劉[illegible]傳「[illegible]嫡母及[illegible]」

できぼし（名）［出來星］ デキブゲン。ニハカブゲン。ナリボシ。デボシ。 毛吹草（正保、維舟）「出來星ト、見ヤハ咎メヌ、揚燈籠」

できぼつ（名）［溺沒］ 水、湯ナドニ、溺レテ沈ムコト。溺レ死スルコト。 搜神記「僧、于寶「[illegible]、溺沒不レ返」

てきほん（名）［敵本］ 次條ノ語ノ略。

てきほん-しゆぎ（名）［敵本主義］ （一）敵ノ同情ヲ得ムタメニ、又、相手ヲ我ガ利益ニ供セムガタメニ行フ主義。（二）（敵本ハ、敵ハ本能寺ニアリノ意。即チ、明智光秀ガ、備中ノ敵ヲ討タムトシテ出陣シナガラ、途中ヨリ俄カニ馬首ヲ旋シ、吾ガ敵ハ本能寺ニアリトテ、遂ニ織田信長ヲ弑セシ故事ニ因ルト云フ）眞ノ目的ハ、彼方ニアルニアラズシテ、卻ッテ此方ニアリトナス主義。即チ、目的ハ他ニアル如ク裝ヒツツ、俄カニ其目ザス方面ニ向フコトニ云フ語。

てきん（名）［手金］ てつけきん（手付金）ノ中略。其條ヲ見ヨ。

てきめん（名）［覿面］ （韻會小補「於レ君謂ニ之覿、於レ衆謂ニ之面ニ」爾雅、釋詁、廣、下「覿、見也」疏「覿者、下見レ上也」）（一）マノアタリ。目ノ前ニ。驗ノ著キコト。

五燈會元「覿面相呈、更無ニ餘事ニ」碧巖錄、六十六則「垂示云、當機覿面、提ニ陷虎之機ニ」太平記、十一、筑紫合戰事「人ニ先ヲセラレテハ叶フマジ、此方ヨリ遣リテ博多ヘ寄セテ、覿面ニ勝負ヲ決セント」「因果覿面」覿面ニ藥ガ利ク」（二）轉ジテ、今ハ、マミユルコトヲ云フ。

できもの（名）［出來物］ 皮膚ニ生ズル瘡ノ類ノ總名。ハレモノ。腫物。フキデモノ。瘡瘍 瘍腫 好色一代男（貞享、西鶴）一「御目ノ上ノできもの、小サイトテ其ノママ置カンスガ惡イト、藥センサクスル時」

てきや（名）［香具師］ 一種ノ大道ナドニテ、齒磨、石鹸、陶器、鼠取ナド、多ク、ゴマカシモノヲ賣ル商人。其仲間ニテ云フ語。だいだうあきんど（大道商人）ノ條ヲモ見ヨ。

てきやく（名）［適役］ 最モ其役ニアテハマルコト。又、ソノ人ニ適シタル役。ハマリヤク。

てきやく（名）［敵役］ かたきやく（敵役）ニ同ジ。

てきやく（名）［敵藥］ （一）配合シタル藥ノ、互ニ害トナルモノ。（二）くひあはせ（食合）ニ同ジ。

てきやく（名）［適藥］ 最モ其病ニ適シテ、能ク利ク藥。アヒグスリ。

てきよう（名）［適用］ 當テハメテ、用キルコト。アテハムルコト。應用。 漢書、項籍傳「相聚數千人、欲レ立レ長無ニ適用ニ」

てきりう（名）［嫡流］ ちゃくりう（嫡流）ニ同ジ。

できりう（名）［出寄留］ （入寄留ニ對ス）きりう（寄留）ノ條ヲ見ヨ。

で・きる・キル・キレ・キ・キ・キヨ（自動、上二）［出來］ （一）でく（出來）ニ同ジ。 史記抄（文明）四「上アラウ勢ハ下ニクダリ、黨與ガ下ニできるゾ」（二）外出ス。他行ス。デアルク。（仙臺、安房）

てきるゐ（名）［敵壘］ 敵軍ノとりで。

て-ぎれ（名）［手切］ 相互ノ關係、交渉ヲ絶ツコト。絶交 甲陽軍鑑、十一、下、品第三十七「一兩年ノ間ニ、手ぎれヲセント被仰」

で-ぎれ（名）［出切］ 衣ヲ裁チテ餘リタル切。タチアマリ。

てきれい（名）［適例的例］ 分明ナル例。ヨクアテハマル例。適切ナル例。

てきれい（名）［適齡］ （一）規定ノ年齡ニ適スルコト。（二）法律ノ定ムル丁年（滿二十歲）ニ達シタルコト。「徵兵適齡」

て-ぎれい（名）［手綺麗］ 手際ノ綺カラヌコト。手際ヨキコト。又、出來上リノヨキコト。 傾城買ニ筋道（寬政、谷峨）二「てぎれいニ突キ出シテ見セロ」

てきろく（名）［摘錄］ てきき（摘記）ニ同ジ。摘載。

でき-わく（名）［溺惑］ 其物事ニ、心ヲ奪ハレ惑フコト。マドヒテ、惡道ニ陷ルコト。マヨヒ、溺ルルコト。惑溺

てく（名）［徒歩］ （てくてくあるきノ略。てくハ、歩ム足ノ狀。又、動詞ニ、てくるナドト用キル）歩行スルコト。

でく（名）［木偶］ （でくるばうノ略カ）にんぎやう（人形）ニ同ジ。又、デコ。

でく（名）［重五］ 又、でっく。でっく（重五）、及、さいのめ（賽目）ノ條ヲ見ヨ。

で・く・クル・クレ・キ・キ・キヨ（自動、上二）［出來］ （出で來ノ約ニテ、語尾ノ變化ヲ轉ズ）（一）出デ來。顯ハレ出ヅ。發生 孟子抄（文明）一「三十「利ヲオコシタイガ、惡クスレバ害ガでくるホドニ」同、十一「十「麥、云云、日至ハ夏至ノ事ゾ、其時分ニでくるモノゾ」（二）作リテ成ル。デキル。シュッタイス。成就 狂言記、六、地藏「明日ノ今頃できサシテ下サレ、心得タ」（三）爲スコトヲ得。ナシ得。ナシ能フ。デキル。可能。能爲

で・く・クル・クレ・コ・キ・コヨ（自動、加變）［出來］ （出で來るノ約）（一）前條ノ（一）ニ同ジ。出現 史記抄（文明）六「天子ハ尊トイヘドモ、父カナウテハトコカラでおウゾ」孟子抄（文明）八「人ノ惡事ヲアナグリ求テ云フハ、後ニ惡イ事ガでおウゾ」 中庸抄「混沌未分ノ一念起ラヌ、未ダ形ノでおヌ先ゾ」孝德紀、五年三月「花ハ咲ケドモ、云云、後夕咲キ出來ズ」 萬葉集、廿、「時時ノ、花ハ咲ケドモ、ナニスレゾ、母（ハハゴクサ）トフ花ノ、咲キ出來ズケム」（コザリケム）（二）前條ノ（二）ニ同ジ。 孟子抄（文明）五「農人ハ、我百畝ノ田ノヨクでおヌヲ、憂トスルマデゾ」

でく-ぐつ（名）［木偶傀儡］ デクグツ。人形。次條ノ語ヲ見ヨ。

でくぐつ（名）［傀儡］ （木偶傀儡ノ略カ。木偶人或ハ、手ニテ遣フ傀儡ノ意カ）木偶人形。（手遣ヒノ）又、ソレヲ舞ハス人。デククグツ。くぐつ（傀儡）ノ條ヲ見ヨ。 易林節用集（慶長）人倫門「傀儡、テクグツ」梁塵秘抄、雜「ヨクヨク目出タク舞フモノハ、云云、傀儡、手傀儡、花ノ園ニハ蝶小鳥」 看聞御記、應永廿三年三月廿五日「掬手くくつ參、猿樂仕、小童一人、天骨者也、リウコヲ舞ス、又師子ヲ舞、又クセ舞ヲ舞、種種施ニ藝能、[illegible]種種馬之」 續史愚抄、四十、文明十一年五月八日「儲皇若宮、覽ニ手傀儡ニ」注「後花園院御時、三春外[illegible]之」 よだれかけ（慶安）一「或ヒテ舞ハス人形ノ、手くぐつメケル手エノ坊主ノスエスエハ」

てぐさ (名) 手種 手ナグサミ。又、玩弄物。オモチャ。聖徳太子繪傳記(享保、近松作)三「スベリヨリ、火箸手ぐさノ火ぜせリシテ」

テグス (名) 天蠶絲 〔天絲、又ハ、蟲絲ノ唐音カト云フ〕 (一)てぐすむし(天蠶)ノ略。其條ヲ見ヨ。(二)天蠶ノ腹中ヨリ取ル絲ノ名。其蟲ノ繭ヲ作ラザル前ニ、其頭ヲ斷チ、脊ヲ竪ニ割キ、腹中ヨリ二條ノ絲ノ如キモノヲ引出シテ、酢ニ浸シテ延バス。大抵、長サ六尺ニ至ル、光澤アリテ、透明ナリ。多ク釣緡ノ端ニ用ヰル。和漢三才圖會、二十三、漁獵具「天蠶絲、訓二天久須一、出二於廣東一」嬉遊笑覽、十二、漁獵「釣絲ニ用ルてぐすハ、弓弦ノくすねニタトヘテ、手くすねノ意ナルベシ、嶺外代答(宋、周去非)、蠶絲、廣西山葉初生、上多二食葉之蟲一、似二蠶而赤黑色一、四月五月、蟲與明、如二蠶之熟一、橫州人取レ之、以二醋浸而擘取二其絲一、就二醋中一引レ之、一蟲可レ得二絲長六七尺一、光明如レ煮、或二弓弩之弦一、以レ之繋二弓刀紐額一、固且佳、又天蠶絲ト云フ」

てぐすね・ひ・く・ク・ケ・カ・キ・ク (自動、四) 〔手ニくすねヲヒク義〕 力ヲ入レムトスル時、掌ニ唾シテ物ヲ執ル、コレくすねハ滑ル故ナリト。心ニアリテ待ツ。用意シテ機會ヲ待ツ。テアブラヲツク。保元物語、二、白河殿攻落事「伴ノサキ網打番ヒ、手ぐすね引テゾ控ヘタル」同、三、爲朝最期事「弓勢事ノ外弱リテ覺エケレドモ、大鎧ヲ打クハセテ、手ぐすね引テタメラヒ見ル程ニ」井蛙抄、六、雜談「西行ト申スモノニテ候、云云、參テ候トイヒケレバ、上人、内ニテ手ぐすね引テ、思ヒツル事カナヒタル體ニテ、アカリ障子ヲアケテ待出ケリ」[illegible]、六、三十七、手ぐすね引ト云[illegible]「弓ノ握ノスベラサルヲ[illegible]シテ、[illegible]ト云ヘルモノヲ、弓手ノユガケニツクル」

てぐすびょう (名) 天狗巢病 又、デングスビャウ。[illegible]ノ枝ニ生ズル病菌 其病菌ノタメ、枝ノ一部分ヨリ多クノ細枝、叢生シ、葉ハ捲キ込ミテ枯ルルニ至ル。

テグスむし (名) 天蠶 又、テグスサン。栗、楠、くぬぎ、こなら、楢等ニ棲ミテ、其葉ヲ食フ蟲、形、略、いもむし(芋蟲)ニ似テ、長サ三寸許、背ニ長キ白毛アリ、故ニ白髮太郎ノ名モアリ。色、初、黑ク、後ニ綠ニ變ジ、頭ト足トハ紫黑ナリ。四度ノ起眠ヲナシ、毛ヲ脫シテ、繭ヲ作ル、拇指ノ大イサニテ、暗褐色ナリ、固クシテ、かなあみノ如シ。絲ニ紡ギテ、コレヲ緯トシ、絹絲、山繭ノ絲ヲ經トシテ織レルモノヲ、むしのす(すハ、網ノ如キ袋ナリ、天蠶繭(透俵)ト云フ)織ト云フ。又、此蟲ノ腹ヨリ、專ラ、てぐすヲ取ル。(其條ヲ見ヨ) 略シテ、テグス。

てくせ (名) 手癖 (一)手ノクセ。手ノ習癖。浮世床(文化、三馬)二編、下「[illegible]カラ小鳥ノ[illegible]ヲ、[illegible]木指デ撫デルガ手癖サ、其手ヲ[illegible]サナイト合セテ」 (二)轉ジテ、盜ミスル惡習ニツキテ云フ語。「手癖ガワルイ」

てぐそく (名) 手具足 てだうぐ(手道具)ニ同ジ。めのとの草子(明和)「ムカシハ、總ジテ御志ナドニハ、身ニ持タレケル手具足、御衣ヲ、御布施ニハ致サルルコトニテ候」

てくだ (名) 手管 〔手段ノ轉カ、或ハ云フ、手管ノ義ニテ、機織ヨリ起レル語ナリト〕 人ヲ扱ヒテ駈引スル手段。相手ヲ蕩ス方法。シュダン。テレン。テクラ。テクロ。好色二代男(貞享、西鶴)二「[illegible]二日[illegible]ハ、頭カライヤト云ハセヌ手管アリ」 手管で蕩すトハ、アヤナス意。

でぐち (名) 出口 (一)スベテ、外部ニ出ヅル所。(二)門戶ナド、外ヘ出ヅベキ所。[illegible]二代男(貞享、西鶴)[illegible]「[illegible]出口ノ小間物店ニ、佇ミケルニ」

てくてく (副) 〔てくノ[illegible]ヲ見ヨ〕 徒歩ヲ速カニスル狀ヲ云フ語。スタスタ。

てくてくあるき (名) 乘物ナドニ乘ラズニ、徒歩ニテ行クコト。

テクニックス (名) 〔英語、Technics.〕 專門語、學術語、術語。

でくのぼう (名) 木偶坊 〔でくるぼうノ訛〕 (一)傀儡。デクルバウ。ダウコノバウ。一話一言、補遺(大田南畝)二「今ノ見人形ノ頭ヲでくのぼうト云フハ、でくるぼうノ訛ニヤ、でくるぼハ、モトてくぐつノ訛ナルベシ」 (二)技藝ニ拙キモノ、又ハ、氣轉ノ利カヌモノナドヲ、嘲リ呼ブ語。昔ノ傀儡ハ、後ノ操人形ノ如ク、巧ニ、ハタラカザルヨリ云ヘルカ。デコノバウ。

でくは・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 出交 〔出食ひ合はすノ約轉、交す(下二段、他動)ノ、四段、自動ニ變ジタルモノ。出ガ自動ナレバ然ルナリ〕 不圖、出デ會フ。不圖ト逢フ。偶然ニ出逢フ。ユクリナク逢フ。デックハス。邂逅 遭逢 遭遇

てくばり (名) 手配 事ヲ行フニ、ソレゾレノ備ヘヲ爲スコト。テワケ。テハイ。部署 [illegible] ズ、我レ先ニトゾ寄セタリケル」

てくび (名) 手頸 (一)手ノ頸ノ、甲、掌、指ノ部ト、臂トノ關節[illegible]キ。今、又、ウデクビ。うで(腕)ノ餘ノ語 [illegible] (二)手ノ[illegible]

でくぼく (名) 高ク低ク、平カナラヌコト。デクマヒクマ。デコボコ。タカビク。タクボク。凹凸 凹凸

でくまひくま (名) 凹凹凹凹 前條ニ同ジ。[illegible]マモ、でくまひくまノアル、イメエマシイ形ダナア、ヂャンコロリハ邪ガ惡イ」

てくら (名) てくだ(手管)ニ同ジ。[illegible]

てくらがり (名) 手暗 [illegible]ラレテ、暗クナルコト。[illegible]ザカヒ、ザクリすぐらノ一役[illegible]

てくらまぐら (名) 手暗目暗 前後ノ思案ナキコト。見込ノタタヌコト。[illegible]

てぐり (名) 手繰 (一)手ニテ操リ取ルコト。タグルコト。[illegible]ぐり、マダシヤニ、よるハ短ク、ナリニケルカナ」[illegible] (二)仕事ノ暇ヲ繰合ハスルコト。仕事ノ都合。[illegible]タスケニ前メリ」 (三)物ソ一人ノ手ヨリ、[illegible]

でくるぼう (名) 傀儡 〔人形ノ操リ[illegible]〕 [illegible]ニテ、嘲リ、又ハ、視[illegible]

(柳亭種彦)一「でくる坊、(大井川)マハサルル、花ニ心ヤ、出狂ばう、柳云、是ハでくるばうニテ、木偶ノ事ナリ」 似我蜂物語(寛永)下「世ノ中ノ、人ハでくるぼ、アヤツリテ、マハシマハセバ、後ハガックリ」

でくるぼ-まはし (名) ｜傀儡子｜ クグツマハシ。ニンギャウツカヒ。クヮイライシ。くぐつ(傀儡)ノ條ヲモ見ヨ。

てぐるま (名) ｜輦｜ 「手車ノ義、牛ニ駕セズ、人ノ手ニテ舁ケバ云フ」 屋形車ニテ、小サキ輪アリ、人ノ手ニテ挽キ行クモノ。太子、親王、大臣、妃、夫人、女御ナド、特ニ宣旨ヲ蒙リテ乘用ス。又、轉ジテ、屋形車ノ、輪ナクシテ、人ノ舁キ行クモノ。天子、乘御ノ用ニテ、大抵、行幸ニ用ヰラル 親王、大臣等ニ許サルルコトモアリ。其屋形ハ、方袵造ニテ、四隅ノ檐角ニ、蕨手アリ、頂ニ金鳳ヲ立ツルモノヲ、鳳輦ト云フ。又、頂ニ葱花、即チ葱寶珠ノ如キヲ、金ニテ作リテ付クルヲ、葱花輦ト云フ。 倭名抄、十一、車類「輦、天久流萬、周禮注云、后居宮中、從所乘、謂之輦、爲人挽以行也」 輿車圖考、一「輦ハてぐるまトヨム、宮城門ヨリノルモノナリ、云云、マタ腰車トモ云フハ、轅ヲ腰ノホドニアテテ、手ヲモチソヘテ引ク故ニ、カクモ云ヘルナルベシ」 年中行事歌合、五十番、輦車「雲井ニモ、サハラデ通フ、てぐるまヤ、君ニヒカルル、シルシナルラム、云云、輦車ト申ハ、輪ヲカケテ輿ノヤウニ作タル車也、是モサリヌベキ宿老、大臣、又、女御、更衣ナドノ、ユルサレテ、大内ノ内ヲ乘テ通給フモノ也」 紀略、後篇、一、延喜十年正月四日「皇太子保明、參覲、於玄暉門乘輦、於殿北下輦」 榮花物語、廿八、若水「一品ノ宮(三條皇女禎子内親王)イミジウ美シゲニオハシマス、云云、オハシマシテ(萬壽四年四月爲後朱雀妃)オリサセ給ホドノ儀式、ココロコトニ、オドロオドロシ、御てぐるまヤ、ナニヤトアルホドニ」 輦の宣旨。輦旨トハ、輦ニ乘ルコトヲ許シ給フ宣旨。

源、一、桐壺「てぐるまの宣旨ナド宣ハセテモ、マタ入ラセ給ヒテハ、更ニエ許サセ給ハズ」

てぐるま (名) ｜手車｜ (一)自分所用ノ人力車。自用車。(二)手ニテ押シ、又ハ、輓ク小サキ車。コグルマ。(三)遊戲ニテ、二人、兩手ヲ、サシチガヘニ組合ハセ、其上ニ人ヲ乘ラシメ、ハヤシ行クコト。テングルマ。 狂言記、手車「コノ分デハ歸ルコトモアルマイ、手車ニ載セテ、囃子物シテ、連レテ歸レ、何ト、囃子物ハ、某カ、コレハ誰ガ誰カ手車ト云ヘバ、兩人ハ、鈍太郎殿ノ手車ト云ウテ囃サシメ、心得テゴザル、コリヤ誰カ手車、鈍太郎殿ノ手車」

でぐるわ (名) ｜出郭｜ 本城ヨリ、更ニ外郭ニ張リ出シテ築キ、塹壕ナドヲ構ヘ、外衞トスルクルワ。デマル。デジロ。 北條五代記、十、四篇「堀ヲホリ、土手、芝手ヲツケ、塀ヲカケ、城ノ内ヨリ橋ヲ一ツ渡シ、是レヲ出曲輪ト名付ケ、山角上野守ノ嫡男四郎左衞門尉、次男左近大夫、父子三人ノ持口ノ内ニアリ」

てぐろ (名) てぐだ(手段)ニ同ジ。 毛吹草、正保、維舟編「雪ヲ花ト、知ラスハ風ノ、手くろカナ」

てけ (名) ｜天氣｜ 〔ていけノ約〕 ていけ(天氣)ノ條ヲ見ヨ。 土佐日記「夜フケテ、西東モ見エズシテ、てけノコト、檝取ノ心ニ任セツ」

でける (動) ｜出來｜ できる(出來)ノ訛。 狂言記、佛師「何時頃でけマセウ、サレバ、十年許リセズバでけマスマイ」

てこ (名) ｜梃｜ 〔手木ノ義ト云フ。沖繩ニテ、てく〕 物ヲコジアゲナドスルニ用ヰル棒。鐵梃、梃鋤ナドアリ。又、物理學ニテハ、支點ト稱スル一點ヲ支持シタル丈夫ナル棒ニテ、其支點ノ周圍ニテ、自由ニ廻轉シ得ルモノ。テコボウ。 梃子。木梃 槓杆 和漢三才圖會、廿四、百工具

「梃、テコ、鐵梃、カナテコ、寨、梃(天古)、手楊也、有二木梃、有二金梃、運二材木及石一者、使二之搖行一也」 薩摩歌(元祿、近松作)中「カウ並ンダ妹背ノ中、云云、千人萬人妨ナシ、手こヲ入レテモ、離レハセヌ」 見聞集(慶長)九、唐船作らしめ給ふ事「石ヲバ臺ニ載セ、云云、手こぼうヲ持テ石ヲ押シヤリ」

てこ (名) ｜手兒｜ 〔妙子ノ約カ、又、照子ノ略カ〕 年ワカキ女。ヲトメ。少女。 萬葉集、十四、廿二「人皆ノ、コトハタユトモ、埴科ノ、石井ノ手兒ガ、コトナ絶エソネ」 同、同、十「遲渡ノ、手兒ニ伊行キアヒ、吾ガ駒ガ、足搔キヲ早ミ、言問ハズ來ヌ」 夫木抄、七、卯花「ウツギ原、てこラガ布ヲ、晒セルト、見エシハ花ノ、サケルナリケリ」 續歌林良材集(延寶、長流)「駿河國風土記、てこノ呼坂、てこトハ、東俗ノ詞ニ、女ヲてこト云フ」

てご (名) ｜手兒｜ 母ノ手ニ抱カルルバカリノ子。抱スル兒。タワラハ。 ｜嬰兒｜ 萬葉集、十四、廿二「都流伎多知、身ニ副フ妹ニ、取見カネ、哭ヲゾ泣キツル、手兒ニアラナクニ」

でこ (名) ｜出子｜ 〔出ハ、でびたひノ略、子ハ、張子、刺子ナドノ子ノ如シ〕 又、オデコ。デビタヒ。デビ。オデコ。

てごころ (名) ｜手心｜ (一)心ノ覺エニテ、好キ程ニ、事ヲ行ヒテユクコト。手加減。 新六帖、二「岩ハザマ、住ムアラ熊ノ、手心ヲ、見ネバヤ人ノ、アダニカルラン」 (二)ておぼえ(手覺)ニ同ジ。

でこさく (名) ｜出小作｜ いりさく(入作)ノ條ヲ見ヨ。

てごし (名) ｜手輿｜ たごし(手輿)ニ同ジ。

でこすけ (名) ｜出子助｜ 〔擬人語。でこ(デビタヒ)ノ語原ヲモ見ヨ〕 出額ノ人ヲ嘲リ云フ語。デビタヒ。デボチン。デボカン。オデコ。

てこずり (名) ｜梃摺｜ てこずるコト。 浮

世床(文化、三馬)初、下「其デモロハ大騒ダ、アノコノ内ニ、オレガ居ネエデハ、大てこずり、萬事オレ獨リテ、家内ヲクリマハシテヰルトカ」

てこず・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) ｜梃摺｜ 〔梃ノ利カヌ意カト云フ〕 手ニアマル。處置ニ困却ス。 モテアマス。モチアグム。テアマス。 半日閑話(安永)十三「此頃、云云、困窮、コマルコトヲ、てこずるト云フ語、流行ス」 浮世床(文化、三馬)二編、下「剃刀ヲ持ッタ手ガ、棒ノヤウニナッテ、梃ヘ移ル時、手子摺り切ルハナ」

てごたへ (名) ｜手應｜ (一)矢、鳥銃ニテ、物ニ射中テ、又、槍ニテ突キ止メタル時ナドニ、我ガ手ニ應フル感覺。 平家物語、四、鵺の事「矢取リテ番ヒ、南無八幡大菩薩ト、心ノ中ニ祈念シテ、能ク引キテ、ヒャウト放ツ、手ごたへシテ、ハタト中タル、得タリヤオウト、矢叫ビヲコソシテンゲレ」 (二)轉ジテ、反應。

てこづる (名) ｜秀鶴｜ 〔擬人語。てこづるハ、てこずるノ轉ニテ、手ニ餘ル意。遊女ニ、千代鶴、雛鶴、花鶴、若鶴ナド云ヘルガ多キ故、ソレニ擬シテ、美貌ナラザル端女郎ヲ、素見客ナドノ云ヒ初メシモノト云フ〕 手ニアマル遊女ノ渾名。 寛政の川柳「てこ鶴ト、云フ傾城ヲ、淺黄買ヒ」(あさぎハ、田舎侍ヲ云フ)

でこでこ (副) 物ノ盛リアガリテ、見苦シク、大ナル狀ニ云フ語。デカイ。澤山。 倒語ニシテ、こてこてト云フ。「でこでこナ丸髷」でこでこ太ル」

てこと (副) 砂糖店ニテ、店先ニ、箱ニ天光砂糖ナドヲ、杉形ニ、高ク溢ルルバカリニ、盛リオク狀ヲ云フ語。 倒語ニシテ、こてとト云フ。

てごと (名) ｜手事｜ 琴、三味線ノ彈方ノ技倆ヲ逞シウスルコト。唄ニ連レテ奏

スル時、唄、暫シ中斷シテ、其間、手事ノミ奏スルヲ、間の手事、又、あひのてトノミモ云フ。

てゐな (名) 手兒奈 〔てゐハ、手兒ノ條ヲ見ヨ、なハ、親愛ノ語。又、俚言集覽「てゐな、津輕ニテ胡蝶ヲ云フ、萬葉集ノままのてゐなノ名義ハ、胡蝶ニヤト云ヘリ」云云、或説ニハ、「手兒奈ハ、果子女ノ略ナラムトノ説アリ」又、一説ニ、てゐなハ、あいぬ語ナリト〕 ミメカタチノ、愛ラシキ少女。萬葉集、十四九「カツシカノ、眞間ノ手兒奈ヲ、眞實カモ、吾ニヨストフ、眞間ノ手兒奈ヲ」同、三四十「葛飾ノ、眞間ノ入江ニ、ウチ靡ク、玉藻刈リケム、手兒名シ思ホユ」

てゐ・ねる・ネル・ネレ・ネ・ネ・ネヨ(自動、下一) 死ヌ。ゴネル。〔本朝廿四孝(明和、近松半二等合作)三「時ニ幸ヒト、鳴ノソケメハ、てゐねテシマフ」〕

でゐのばう (名) 木偶坊 〔でくのばうノ轉〕 木偶坊ノ條ノ(二)ニ同ジ。丹波與作(寶永、近松作)上「堺町木挽町ノテンツクテンツクでゐのばう、辨慶ヤ公平ガ、エイヤットトトエナドト」嬉遊笑覽、六、上「でゐのぼうハ、モト、ダウコノバウト云ヘリ」

てゐのもの (名) 梃者 梃ヲ持チテ、大石ナドヲ動カシ働クモノ。人倫訓蒙圖彙、三、作業部「梃者、普請ノ場、又ハ大木、大石ヲ引キ動カス役人ナリ」大叔住、木遣聲「てゐの衆」

てゐは・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 手強 相手トシテ勝チ難シ。手ニアハズ。手ニアマル。テヅヨシ。若子物語(天明)一、「曽ジテ、手おはい内ノ者ヲ、持ッテハサテゾ」

でゐぼゐ (名) でくぼくニ同ジ。

てゐまひ (名) 手古舞 (一)祭禮ナドノ時、踊屋臺ニテスル、一種ノヲドリ。ステテコノ囃子ニ、合ハセテ行フ。(二)祭禮ノ山車ノ前ニテ、木遣ヲ唄ヒ、人先ノ、露拂ヒヲスル男裝ノ婦人。

てゐまへ (名) 梃前 梃ヲ持ツ役ノ者。

てゐ・む・ムル・ムレ・メ、メ、メヨ(他動、下二) 手込 手ゴメニス。謠曲、懸源太「思ヘバ悔シヤ、てゐめタル敵ヲ打チモラシ」

てゐめ (名) 手込 手籠 (一)手ヒドキメ。手イタキメ。役井會日記「[illegible]長嘯ドモ、軍ノ度ニ手ゐめニ逢ヒシ」(二)他ノ承諾ナキニ、理不盡ニ、其人ノ身體、又ハ、所有ノ物ナドヲ、處分スルコト。日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)二「見レバ梟帥ガ手込めニシテ」

てゐら (名) 〔照濃ノ意ト云フ。又、てゐらハ、可愛、美しノ義ト〕 (一)色ノ光澤ノ照リテ濃キコト。(二)稱美ノ語。美シキコト。羽後國、雄勝郡ノ地名ニ、言語同斷ト書キテ、てゐら、又ハ、てくらト讀ム。コレモ稱美ノ語ナリ。尚、ごんごだうだん(言語道斷)ノ條ヲ見ヨ。

てゐらけ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) ウツクシク、愛ラシ。四季物語、九月「菊ハ、其名クサグサアレド、ソガヒニ立テルソガ菊ナド、てゐらけき色ハ、帝ノ御目ニトマル御事ヨ」

てゐらさ (名) 〔てゐらノ條ノ語原ヲ見ヨ〕 ウツクシク、愛ラシキサマ。テコマケキサマ。拾遺集、十七、雜、秋「[illegible]ニ見ユル、池邊ニタテル、ソガ菊ノ、シゲミサエダノ、色ノてゐらさ」夫木抄、十五、紅葉「尋ネツツ、イサミノ山ノ、モミヂ葉ノ、シグレニアヘル、色ノてゐらさ」

てゐろ (名) 手頃 己レガ手、又ハ、力ノ程ニ適フコト。ココロヤヒ。[illegible]「躁ヲウタウ、コレニ幸ヒ手頃ナ石ガアル、是ヲウタウ[illegible]ノ棒」

デザアト・コオス (名) 〔英語、Dessert course〕 洋食ニ、[illegible]菓子、果物。又、ソレヲ喫スル時間。

てざいく (名) 手細工 手先ニテスル細工。テワザ。手技 手工 手藝 好色五人女(貞享、西鶴)二「無常ハ、我ガ手細工ノ棺桶ニ覺エ、世ヲ渡ル業トテ、錐、鋸ノセハシク」

てさう (名) 手相 (一)人ノ手(主ニ掌)ニアラハレタル筋、紋ノ樣、手ノ相。(二)人ノ手筋ヲ相シ、其人ノ運命ヲ占ヒ言フコト。テウラ。中右記、元永元年八月七日「[illegible]」

でさかり (名) 出盛 盛ニ出デ來ル頃。又、盛ニ出デ來ルコト。「人ノ出盛」

てさき (名) 手先 (一)手ノ先。指先。(二)召捕ノ役人ノ使ノ奴。メアカシ。イヌ。ヲカヒキ。ヲカッピキ。[illegible]「召シ仕ヒ、捕リモノ等イタシ候由」(三)他人ノ手下トナリテ、使ハルルモノ。

でさき (名) 出先 家ヲ出デテ、外ニ居ル處。外出シタル先方。

てさく (名) 手作 (一)テヅクリ。手製。自作。[illegible]作カト仰セラレタ、[illegible]イカニモ手作ノ瓜デゴザル」(二)自ラ耕作スルコト。自作農。三河物語(大久保彦左衞門)上「大久保一名ノ知行、又ハ手作マデモ、根ヲホリ給ヘバ」

でさく (名) 出作 いりさく(入作)ノ條ヲ見ヨ。

てさぐり (名) 手探 暗夜ニ、又、盲人ナド、手先ニテ、物ヲ探リモトムルコト。[illegible]

てさげ (名) 手提 (一)物ヲ入レテ、手ニ提ゲ持ツ[illegible]。(二)小サキ手桶。

てさばき (名) 手捌 (一)手ニテ物ヲ[illegible]コナスコト。又、ソノ手ツキ。(二)[illegible]

てざはり (名) 手障 手ニ觸ルル感ジ。[illegible]

てし (名) 手師 〔書の師ノ義〕 テカキ。[illegible]

でし (名) 弟子 [illegible]師ニ從ヒテ教ヲ受クル人。門下生。門弟。[illegible]門人 [illegible]

「メノトコノ大ドコ、ソレガヲヂノアザリ、ソノでしノムツマシキナド」 大和物語、上「歌、云云、トヨミタリケレバ、彼ノ室ニトマリタリケル弟子ドモ哀ガリ[illegible]序ハ、八[illegible]、カノ子共ノ[illegible]ナンノセノハ、コレヲ映事ナシ」元亨釋書、九[illegible]弟子ニ」

でし-いり (名) 〔弟子入〕 始メテ師ノ門ニ入リテ、弟子トナルコト。入門

デシ-グラム (名) 〔瓰〕 〔佛蘭西語、Déci-gramme. 瓰ハ、瓦ト分トノ合字〕 一ぐらむノ十分ノ一ノ稱。我ガ二厘六毛七絲弱ニ當ル。

てし-ごと (名) 〔手仕事〕 テワザ。手先ニテスル仕事。手工 手藝

てし-た (名) 〔手下〕 己レガ使フモノドモ。コブン。コカタ。手下。配下。部下 「桐井家日記、四國備前忠吉歸國「毛利殿モ織田殿ノ手下ニ成ラセラレ」 雙生隅田川(享保、近松作)三「道理ナシ、シト列ベ、手下ノ者ニ働カセ、其身ハ寵ニノサバリ臥シ」

てし-な (名) 〔手品〕 (一)遊藝ノ一。品玉ノ類、人ノ目ヲクラマシテ、種種ノ奇妙不思議ナル技術ヲナスコト。卽チ、手ニテ物ヲ弄シ、空ヲ示シテ、忽チ其中ヨリ物ヲ現ハスナド、種種ノ技ヲナス。テヅマ。 〔幻戲〕 人倫訓蒙圖彙、元祿、七、幻戲「一ツ三ツ四ツノ竹ヲ以テ、上下ヘアゲオロス手品ヲ云フナリ」 (二)手ノサマ。テツキ。手ブリ。 音曲俳授手習鑑(延享、出雲等合作)二「チョキチョキチョキト、てしなヨク、咲唱ル音モ、賑ハシ」

でし-な (名) でぎは(出際)ニ同ジ。

てしほ (名) てしほざら(手鹽皿)ニ同ジ。

でしほ (名) 〔出汐〕 〔いでしほノ約〕 月ノ出ヅルト共ニ、潮ノ滿チ來ルコト。續古今集、四、秋、上「里ノアマノ、タクモノ煙、ココロセヨ、月ノでしほノ、空ハレニケリ」 新後撰集、六、冬、明石潟、月ノ出汐ヤ、滿チヌラム、須磨ノ波路ニ、千鳥門渡ル」 續後拾遺集、四、冬「アリ明ノ、月ノ出汐ノ、タナギニ、春ノカスミノ、カギリヲゾシル」

てしほ-ざら (名) 〔手鹽皿〕 〔てしほハ、付鹽ノ約〕 膳ニ添ヘテ、食フ人ノ心ニテ、食物ニ加フベキ鹽ヲ盛リタル皿ナリト云フ〕 皿ノ小サキモノ。香ノ物ナド盛ル。略シテ、てしほ。 小碟 緩山の井(寛文、北村湖春)下「霜オケル、菊ヤサナガラ、手鹽皿」

てしほ-に-かけて (句) 手ヅカラ、世話ヲシテ。又、手ニ懸ケテ養育シテ。 御所櫻堀川夜討(元文、三好松洛等合作)三「オ小サイカラ夫婦ノモノガ、てしほにかけて、オ育テ申シタ京ノ君」「てしほにかけ夕親ヂャモノ」

でし-ま (名) でぎは(出際)ニ同ジ。

デシ-メエトル (名) 〔粉〕 〔佛蘭西語、Déci-meter. 粉ハ、米ト分トノ合字〕 一めえとるノ十分ノ一ノ稱。我ガ三寸三分ニ當ル。

てしゃ (名) 〔手者〕 (一)てかき(手書)ニ同ジ。 (二)武藝ニ達シタル者。腕マヘノ、スグレタル人。大友興廢記(甲斐武則)「イカヅチトイフ手者ト、大隅スマウヲトル聞コエアリテ」 (三)術數ニ長ズル人。術ノアル人。

てしゃう (名) 〔手性〕 手先ニテスル業ノ巧拙。手ノスヂ。「手性ガ良イ」

てしゃう (名) 〔手鎖〕 刑具ノ一。てがね(手鐵)ニ同ジ。 御定書百箇條、御仕置仕形之事「一、手鎖、其掛ニテ手鎖カケ、封印附、五日目切ニ封印改、百日手鎖之分ハ、隔日封印改」

てしゃく (名) 〔手酌〕 手ヅカラ酌ヲシテ、酒ヲ飮ムコト。獨酌 東海道中膝栗毛(文化、一九)七編、上「ソノシビン、コッチャヘクダンセ、手酌ニヤリマショカイ」

でしゃば・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔出娑張〕 差出ル。遠慮ナク出ル。出ハバカル。 浮世風呂(文化、三馬)二編、下「チット默ルガイイワナ、老年ノクセニ、出しゃばッテカラニ」

てしゅ (名) 〔手酒〕 手ヅカラ釀セル酒。手ヅクリノ酒。テザケ。家釀

てしゅび (名) 〔手首尾〕 事ノ都合ヨキコト。具合ノヨロシキコト。 甲陽軍鑑、四、品第十二「物ノスベヲ能知リ、一言申スコトモ、手首尾逢ウテ殘ベシ」

てしゅん (名) 〔手順〕 事ヲ爲ルコトノ次第。テツヅキ。ダンドリ。

てしょく (名) 〔手燭〕 燭臺ノ、小サクシテ柄アリテ、室内ナド持チ行クニ用キルモノ。テトボシ。 諸國咄(貞享、西鶴)一「手燭トモシテ見ルニ、誰トモ知レズ取ッテ歸リヌ」

でしろ (名) 〔出城〕 本城ヨリ出張シテ築ケル郭。出丸。附城。エダジロ。出郭。別堡 武用辨略、二、城郭「城中ヨリ出張シテ、小城ヲ築ヲ出城ト云フ、又、敵ノ攻來ヲ防ン爲ニ、内ヨリ城ノ近見ニ小城ヲ築ヲ、取出ト云フナリ」 柴田退治記(天正、大村由己)「與力者大金藤八山路將監、遣ニ越前境目片岡天神山、掛、出城、對、修理亮勝家ニ」

で・す (助動) 〔でありますノ略〕 デゴザリマス。 狂言記、腰祈「是レ出羽ノ羽黑山ヨリ出タル斷出シノ山伏です」

でぞ (名) 〔出洲〕 洲ノ出デタル所。沙嘴

てぞう (名) 〔手數〕 てかず(手數)ニ同ジ。

てすき (名) 〔手透〕 手ノアキテアルコト。仕事ノ暇。手隙。閒隙 本朝若風俗(貞享、西鶴)三「手透ヲ待チ兼ネシ人ヲサシ置キ」

ですぎ (名) 〔出過〕 出スギルコト。イキスギ。又、サイマクレ。サクジリ。

です・ぎる・ギル・ギレ・ギ・ギ・ギヨ (自動、上一) 〔出過〕 (一)適度ノ所ヨリ超エ出ヅ。 (二)さしいづ(差出)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

てすさび (名) 〔手遊〕 (一)手ニテスルナグサミ。モテアソビ。テナグサミ。 金葉集、二、夏「夏ノ夜ノ、月待ツホドノ、てすさびニ、岩漏ル清水、幾結ビシツ」 伊勢集、前後ナドノ、ヲカシカリケルヲ、花ナン手すさびニムスビタリケル」 信明集「手すさびニ、火桶ノオキヤ、ワリテケン、戀シキ人ニ、アハヌ頃カナ」 (二)手ワザノ、心ヤリ。爲進ミテ、慰ミ樂シムコト。 榮花物語、十六、本雫「昔ノ御手すさびニ、書キ給ヘリケル御經ヲゾ、供養シ給ヒケル」 新續古今集、十三、戀、三「契リシヲ、待チツル宵ノ、手ずさびニ、カキナス琴ノ、音ゾ更ケニケル」

てずさみ (名) 〔手遊〕 前條ノ(一)ニ同ジ。 宇治拾遺、十三、第六條「矢ノ箆ノ荒作リタルガ、二三十バカリアルヲ取リテ、てずさみニ、節ノ本ヲオヨビニテ、板敷ニオシアテテニジレバ」

てすぢ (名) 〔手筋〕 (一)手、特ニ掌ニアラハレタルスヂ。手相。掌理 (二)書ヲカク天品。(筆跡ノ巧拙ニツキテ云フ) テシャウ。字體。「てすぢノヨシアシ」 (三)書ノ巧拙ノ、遺傳的血統。 (四)テダテ。手段。方法。 春花五大力(寛政、並木五瓶)「其儀ニ付イテ、拙者方ニ手筋モゴザレバ」

てすり (名) 〔手摺〕 〔縋るヨリ云フ〕 (一)欄干ノ笠木。 (二)らんかん(欄干)ニ同ジ。 (三)人形芝居ノ舞臺ニテ、其前面ニ相並行セル三段ノ欄。轉ジテ、人形遣ノ異名。昔ノ人形ハ足ナク、裾ヨリ手ヲ入レテ遣ヒ、遣フ者ハ、手摺ノ下ニカクレテ、身ヲアラハサザルヨリ云フ。 後はむかし物語(享和、手柄岡持)「デンツクデ

ントハ芝居ノ事也、云云、人形つかひヲ手摺とノミ云フモ、右ニ同ジ」 錦の山[illegible]、践、尼子ノ舗ヲ行人ハ、道行ツカフ手摺カト、見ル目涼シ」

てずり (名) 手刷 (一)木版ナドヲ、手ニテ印刷スルコト。手摺。(二)動力印刷機ニヨル機械刷ニ對シテ、手働ノ印刷機械、及ビ、器具ヲ使用シテ行フ印刷。

てせい (名) 手製 テヅクリ。自作。

てぜい (名) 手勢 手下ノ軍勢。部下ノ兵隊。テノモノ。部兵 手兵 太平記、三、主上御夢事「サレドモ未名アル武士、手勢百騎トモ、二百騎トモ打タセタル大名ハ、一人モ不參」

てぜま (名) 手狹 〔てぜましノ略〕 仕事ニ對シテ、場所ノ割合ニ狹キコト。

でせん (名) 出錢 物資ノタメニ、金錢ヲ出スコト。出費。散財

でぞめ (名) 出初 始メテ出ヅルコト。(新年消防、水防ナドニ云フ)「出初式」

でそろ・ふ デ・ソロ・ウ ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 出揃 悉ク出ヅ。齊出 「人ガ出揃ふ」穗ガ出揃ふ」

てだい (名) 手代 (一)他人ニカハリテ、事ヲナスコト。又、ソノ人。テカハリ。(二)代理。(三)代官ノ手代。又、小普請方ノ手代。(江戸時代) 折焚柴記(正德、白石)中「御代官所ノ手代」 [illegible]「小普請方手代四十五人」 (四)商家ニテ、番頭ト丁稚トノ間ニ使ハルルモノ。 善庵隨筆(朝川鼎)二「大賈ノ重立チタル手代ヲ、番頭ト云フ」 世間[illegible]容氣(享保、江島其磧)二「有德人ノ息子、唐譫ヒハ手代ニ任セテ、毎日ノ野遊山」

てだうぐ テ・ドウグ (名) 手道具 手廻ノ器 調度 手具足。 世間[illegible]容氣(享保、江島其磧)二「スズシノ敷屋、ビロウドノ長枕、手道具マデ、何處ヘヤリシカ一ツモナク」 好色一代男(天和、西鶴)八「書棚、香箱、文匣、[illegible]草盆、其ノ外、手道具」

てだか (名) 手[illegible] 手間ノ[illegible]、手ヅカラ[illegible] 間違セシ[illegible] 大[illegible]、上「[illegible]ナウ黒シテ[illegible] ニシ給ウケリ、名ヲバ[illegible]トナンツケ給ヘリケル」

てだし (名) 手出 (一)他ノ事ニカカヅラヒテ爲ルコト、イロフコト。干渉 (二)我ヨリ先ヅ仕掛クルコト。下手 三河物語(大久保彦左衞門)上「小田之彈正之忠ト一身可有トテ、早手出しヲシ給ヒテ」「打擲ノ手出」

てだすけ (名) 手助 他ノ仕事ヲ、助ケテスルコト。テツダヒ。幇助 世間娘[illegible]氣(享保、江島其磧)二「此年マデ、手助ノ子ガナイカシテ、白身、木ノ葉カキカタゲテ」

でたち (名) 出立 いでたち(出立)ノ約。いでたち(出立)、及、いでたち(扮裝)ニ同ジ。 本朝若風俗(貞享、西鶴)八「若キ男一人、大脇指ノ出立ち、町人トハ見エケル」

でたちばえ (名) 出立榮 イデタチノ、ハエバエシキコト。飾リタテテ、美シサノマスコト。 曾多小女郎[illegible](享保、近松作)上「チクラ手クラノ一夜検校、終ニ目馴レヌ出立ちばえ、[illegible]田屋ニ[illegible]ギ込ミ」

てだ・つ テ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(自動、下二) 行 「てだて(手段)ヲ活用ス」 衞ヲ行ノ、 名義抄「行、テタツ、テタテ、道、テタツ」

でた・つ (動) 出立 いでたつ(出立)ノ約。其條ヲ見ヨ。

てだて (名) 形楯 手楯 〔手ニ持ツ楯ノ義。手鉾ニ對ス〕 たて(楯)ノ條ヲ見ヨ。 名義抄「[illegible]、テタテ」 [illegible]記、廿九、天[illegible]三年二月十[illegible]日「[illegible]、[illegible]物、手楯三百枚二」

てだて (名) 手段 〔手立ノ義ニテ、[illegible]ナドノ意カ〕 (一)事ヲ爲ス次第。テツヅキ、シュダン、テクダ、術 名義抄「行、テタテ」 字類抄「行、テタテ」 太平記、三、赤坂城軍事「[illegible]具足ヲモ支度セデ、責ムレバコソ、ソゾロニ人ハ損ジツレ、今度ハ質ヲ皆ヘテ責ムベシトテ」 (二)シカタ。ヤリカタ。方法。 花傳[illegible](世阿彌)三「申樂ノ勝負ノ立合ノてだてハ如何」

でた[illegible]うぶ (名) 出所勝負 〔傳奕ノ語ナラム〕 一六勝負。トッタカミタカ、イチカバチカ、いちかはちか(投機)ノ條ヲモ見ヨ。

でだな (名) 出店 でみせ(出店)ニ同ジ。

てだま (名) 手玉 (一)數箇ノ玉ヲ、兩掌ニテ、更、投ゲアゲ、受ケ取ル技藝。伎ノ品ニモ云フ、玉取、鈴取、刀玉、品玉、八玉、一二ナド、皆コレナリ。コレヲ行フヲ、とるト云フ。手玉ヲ取るトハ、人ヲ捕ヘテ投ゲヤリ、又ハ、人ヲ自由ニアヤナスヲ云フ。 [illegible]手玉ヲ、手玉ニ寄セテ、突キヤラム、ツレナキ人モ、取リヤ入ルルト」 (二)兒女ノ戲。小サキ石ヲ、若干、撒キテ、一ヲ空ニ投ゲ上ゲ、ソノ落チヌ間ニ、下ノ石ヲ[illegible]取リテ、落ツルモノト合ハセテ[illegible]コト。イシナドリ。イシナゴ。イシナゴトリ。 [illegible] (三)女兒ノ戲ニ、赤小豆ヲ包ミタル布帛ノ小サキ袋ヲ、いしなご(擲石)ノ如ク、弄ビテ、遊ブモノ。オテダマ。(四)手ノ飾ニ、附ケタル玉。足ナルヲ、足玉ト云フ。 仁德紀[illegible] [illegible] ヲ、君ガ御衣ニ、縫ヒアヘムカモ」 [illegible] タノ、手玉モユラニ、織ル[illegible]ヲ、[illegible]シモナラフ、[illegible] [illegible]

てだんす (名) 手簞笥 手マハリニオク小サキ簞笥。ヨウダンス。

てだゆ・し ・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 手[illegible] 手[illegible] レテ、[illegible]感ズ。[illegible] [illegible] ナオホセ[illegible]、[illegible]ノ、[illegible] 何カセクベキ」

でたらめ (名) 出鱈目 〔でたら[illegible]〕 [illegible]ノ[illegible]。出鱈目ハ、當字[illegible] 出ヅルマヽニ、虚言ナド述べ、又、[illegible] 出マカセナルコト[illegible] [illegible]

てだり (名) 手足 〔手ニ十分、足リ具ハル意〕 又、てだれ。技術、武術ナドノ熟達シタルコト、腕前ノスグレテ居ルコト。 [illegible]

てだれ (名) [illegible]

てち (名) [illegible]

てぢか (名) [illegible]

てぢか・し [illegible]

てちがひ (名) 手違 爲ルコトノ、違ヒタルコト。手段ノ、往フコト、ユキチガヒ。テチガヘ。齟齬 百合若大臣野守鏡、寶永、近松作)四「十分ニ勝チ誇ッテモ、只一日ノ手違ひニノ、勝チカ負ケニ打チ返ッテ」

てちゃう (名) 手帳 手マハリニ用キル帳。手控ヘニ、雜事ヲ書キ留ムル小本。オボエチャウ。手册 掌記册

てぢゃう (名) 手錠 刑具ノ一。てがね(手鐵)ニ同ジ。 盛記拾要集、二、元祿七年戌七月十日、云云、手鎖之モノ改之儀、七月十三日ヨリ十五日迄、儘中御免被成候、云云」

てぢゃうぶ (名) 手丈夫 (一)造リ方ノ、堅固ナルコト。堅牢 (二)テガタキコト。タシカナルコト。安全

でぢゃや (名) 出茶屋 路傍ニ出デテ、煎茶ヲ賣ル店。(一服一錢ナド) 本朝若風俗(貞享、西鶴)七「出茶屋ノ吉ガ許ニ腰ヲ掛クレバ」

てつ (名) 鐵 銕 「鉄ハ紩ト同ジ、鐵ノ俗字トナスハ誤ナリ」 (一)クロガネ 金屬ノ名、金屬ノ中ニテ、最モ廣ク世ニ用ヲ成スモノ。鐵分ヲ含メル種種ノ鑛ヨリ製煉シテ得 鑄鐵、鍛鐵、鋼、ノ三アリ。鑄鐵ハ、古名、アラガネ。先ヅ其鑛ヲ鎔シテ鐵分ヲ取リ成レルモノ。コレヲ銑トモ云フ、最モ多ク炭素ヲ含ミ、堅クシテ折レ易ク、折目、粗ク粒立ッ、灰色ナリ、鍋釜ノ類ヲ鑄テ造ル、故ニ名アリ。又、銑鐵 生鐵 鍛鐵ハ、古名、ネリガネ。鑄鐵ヲ更ニ鍛錬セルモノニテ、コレヲ鍒トモ云フ、殆ド炭素分無シ、水ヨリ重キコト、七倍八分、銀白色ニシテ、折レ難ク、折レバ折目、竹ヲ折レル

ガ如シ、展ベ易キガ故ニ、コレヲ鍛ヒテ種種ノ器ヲ作ル、故ニ名アリ。又、ヤハラカガネトモ云フ 熟鐵 柔鐵 鋼モ、生鐵(素鐵)ヨリ鍛錬シテ成ル。但シ、炭素ノ量、熟鐵ヨリ多シ、灰色ニシテ白ク、極メテ堅クシテ、彈力アリ、折レバ、折目、細カク粒立ッ。刃物ノ刃、又ハ、諸器械ナドニ作ル。刀劍、斧、鉋、庖刀、剃刀、小刀、等ニテ、鍛錬ノ法、種種ナリ。 鋼鐵 剛鐵 (二)鐵色ノ略。其條ヲ見ヨ。(三)ハモノ。キレモノ。兵器。「寸鐵」鐵血」 (四)堅キ狀、又、不動ノ狀ニ云フ語。「鐵腸」鐵心」

てつ (名) 轍 〔增韻「車輪所レ碾迹也」〕 車ノ輪ノアト。ワダチ。 淮南子、道應訓「絕二塵弭一轍」莊子、人間世篇「蟷螂怒レ臂、以當二車轍一」 史記、陳平傳「門外多二長者車轍一」

てつ (名) 手詰 〔てつめノ略〕 (一)碁、將棊ニ云フ語。王手。(二)相撲ノ手。

てつあん (名) 鐵案 堅クシテ動カザル案。又、確乎タル意見。

てつい (名) 鐵衣 (一)ヨロヒ。戎衣。戎服。鐵甲。 木蘭歌「朔氣傳二金柝一、寒光照二鐵衣一」 白居易、送二令狐相公赴一太原一詩「六纛雙旌萬鐵衣、并汾舊路滿二光輝一」 (二)クサリカタビラ。鎖甲。(三)鐵ノサビ。鐵甲。 本草「鐵鏽、釋名、鐵衣、藏器曰、此鐵上赤衣也」

てついで (名) 手序 他ノ仕事ノ便次ニスルコト。手次

てついろ (名) 鐵色 黑ニ赤ミアル色ノ略シテ、鐵 晉書、劉毅傳「東府摴蒱、各四子俱黑、其一子轉躍未レ定、云云、毅意殊不レ快、面如二鐵色一」 范成大、趙州石橋詩「石色如二磨鐵色新、渡河南北街通レ津」 宋史、賀鑄傳「鑄、長七尺、面鐵色、眉目聳拔」

てつえふ (名) 鐵葉 ブリッキ(鐵葉)ニ同ジ。

てつおなんど (名) 鐵御納戸 染色ノ名。おなんど色(其條、參看)ニ、紺氣多キモノ。鐵色ニ綠ヲ含ムモノ。

てっか (名) 鐵架 てっきう(鐵橋)ニ同ジ。

てっかい (名) 鐵枴 〔枴ハ、老人ノ拄杖ナリ〕 鐵ニテ作レル杖。鐵杖。

でっかい (形) でかい(大)ノ急呼。 かたなど(慶安、安原正章)二「物ノイカメシク大キナルコトヲ、でかい、でっかい、ニクジナドト云フコト、イトサモシウ聞コユ」

てつがく (名) 哲學 〔英語、Philosophy. ノ譯語、希臘語、φιλοσοφία・愛智ノ義〕 總ベテノ智識ヲ統一シ、其事物ニ關シテ、究竟的ノ原理ヲ求メ、根本的ナル說明ヲ與フル所ノ學。

でっかち (名) 出勝 頭ノ、身體ニ比シテ、割合ニ勝ッテ居ルコト デビタヒ、デコ。「アタマでっかち」

てつがひ (名) 手番 勝負事ニ雙方ヲ組合ハスルコト。相撲ナドニ云フ。取組。

てつがひ (名) 手結 騎射ニ云フ語。射手ヲ、二人ヅッ組ミツガヒテ、矢ヲ射ルコト。(あらいみノ語原ヲ見ヨ) 枕草子、五、五十段「何事スルゾト問ヘバ、てつがひニテ眞弓射ルナリ」 源、廿五、螢十「中將ノケフノツカサノ手つがひノツイデニ」 西宮記、正月「兵部手結事」

てづかひ (名) 手遣手使 (一)〔手ノツカヒカタ、テノハコビ 源、七、紅葉賀三「カタテモ、ケシウハアラズコソ見エツレ、舞ノサマ、手づかひナン、家ノ子ハコトナル」同、六、末摘花四「キンヲソナツカシキカタラヒ人ト思ヘルト聞ユレバ、

云云、オシナベテノ手づかひニハアラジト思フト」同、廿一、少女四十「サルイミジキ上手ノスグレタル、御手づかひドモノツクシ給ヘル、物ニタトヘン方ナシ」(二)手下ノモノヲ、ツカハスコト 大友眞鳥(甲斐武則)「小原鑑元カタヘ、手遣ひセシ故ニ、鑑元ガ逆心顯レテ、早速誅罰セラル」(三)テクバリ。テハズ。 娥歌加留多(正德、近松作)五「刈藻心得テ、高ヲサヘノミコメバ、其ノ上ハ時ノ才覺、手づかひヨウシ給ヘト乘物ニ入レバ」

でづかひ (名) 出遣 (一)人形芝居ニテ、人形遣ガ幕ノ内ナドニ隱レズニ、見物人ノ前ニ現ハレテ、人形ヲ遣フコト。操人形ノ條ヲモ見ヨ。 嬉遊笑覽、六、上、音曲「出づかひハ辰松(八郎兵衛)ニ始ル、人形ノ動クニ從ヒ、オノレガ身ヲモ、ソノサマニウツスモノ、云云、辰松ハ人形ニ手練シ、上下ヲ着シ、手摺ヲハナレテ、無量ノ手ヅマヲ遣フニ、全身少シモ亂ルル事ナシ、古今ノ妙手ト云ヘリ」 (二)多クノ金錢ヲ出シテ費消スルコト。「出遣ヨリ小遣」

てっかふ (名) 手甲 (一)鎧ノ籠手ノ手先ヲ包ム手袋ノ如キモノ。布帛ニテ作リ、甲ノミ被ヒテ、小鐵板、鎖ナドニテ綴ル、テカフ。(二)手袋ノ、手ノ甲ノミ被フモノ。布帛ニテ作ル。テカフ。

てつかふ (名) 鐵甲 (一)鐵製ノヨロヒ。 呂氏春秋、開春論「衣二鐵甲一操二鐵杖一以戰」 (二)鐵ノサビ。鐵衣。

てつがふ (名) 手都合 〔手番ノ轉ト云フ〕 (一)手許ノ都合。(二)爲ルコトニ、順序ヲ立ツルコト。テツヅキ。テツイデ。略シテ、つがふ。手次

てづかへ (名) 手支 (一)手許ノ差支。(二)仕事ノ差支。

てづかまへ (名) 手捉 てどり(手捕)ニ

同ジ。テヅラマヘ。

てづかみ（名）［手掴］手ニテ、掴ムコト。（箸ヲ用ヰヌニ云フ）古事談、四、勇士「御料ノ御オロシヲ鼓シ出タリケルヲ、職人所ノ盤ノ上ニ置タリケルヲ、清盛、手づかみニツカミ喰テ」源氏冷泉節（正徳、近松作）上「イザヤ面面、雪ノ下伏スル[illegible]、手づかみニ引キ掴ミ、[illegible]ヲ[illegible]ニシテ」

てっかミソ（名）てっくゎみそ（鐵火味噌）ノ條ヲ見ヨ。

てっかん（名）［鐵艦］かふてつかん（甲鐵艦）ニ同ジ。

てっかもの（名）［鐵火者］てっくゎもの（鐵火者）ノ條ヲ見ヨ。

てづから（副）［手］「手之自ノ義」已レガ手ニテ。自ラ。自身ニ。名義抄「手、テヅカラ」伊勢物語、四十一段「ウヘノキヌヲ、洗ヒテ手づから張リケリ」榮花物語、十一、蒼花「サバカリウツクシキ御グシヲ、てづから[illegible]ニナシ[illegible]フニ、ウキ事数シラズ[illegible]エタリ」[illegible]、十一、[illegible]モ[illegible]ヘリケル扇ノ打オカレタルガ、手習セラレタルハ、手づからノシワサニヤト、ユカシウテ[illegible]ヘバ」宇治拾遺、[illegible]、第十八[illegible]シ程ニ、手づから仰セ候ヤウ、云云、オノレハ狐ナリ」同、八、第四條「此僧マコトヲイタシテ、手づからミヅカラ[illegible]手づから[illegible]ク」

てっかり（名）［禿頭］（一）テカテカト、禿ゲタル頭。キンカアタマ。ハゲアタマ。（静岡）（二）てかてかニ同ジ。（三）ヤブニラミ（仙臺）

てっき（名）［鐵騎］最モ勇猛ナル騎兵。[illegible]

てっき（名）［鐵軌］レエル。鐵ノ軌道。

てっき（名）［鐵器］[illegible]

てつき（名）［手付］手ノ、事ヲ爲サムトスル風。手ノサマ。源、二、帚木「ウチヨミ、[illegible]ガキ、[illegible]手つき、[illegible]タドシカラズ」同、五、若紫「[illegible]トリタマヘルサマノ」同、七、紅葉賀「サウノ琴ハ、[illegible]云云、ユシタマフ御てつき、イトウツクシケレバ」

てつき（名）手附　徳川幕府ノ時、代官ノ手ニ附キテ、書記ナドスル小吏。代官ノ手附ナド、是レナリ。更ニ、其下ニ付ク者ヲ手代ト云フ。明良帯録（嘉永、山形[illegible]）「[illegible]手附ト云リ」[illegible]十六、[illegible]三年正月「[illegible]手代ノ儀」

デッキ（名）［英語、Deck.］船艦上ニ、平ラニ板ヲ張リツメタル所。屋根、又ハ、床ノ用ヲナス。甲板。

てっきゅう（名）［鐵橋］［字ノ音ノ轉、或ハ、鐵弓トモ書ス］細ソキ鐵ニテ作レル格子ノ如キモノ。火ノ上ニ几シテ、肉ナド炙ルニ用ヰル。鐵架［illegible］

てっきん（名）［剔金］ぢっきん（剔金）ノ條ヲ見ヨ。

てっきん（名）［鐵筋］鐵ノ筋ガネ。

てっきん-コンクリイト（名）［鐵筋混凝土］［英語、Reinforced concrete.］建築法ノ一種。混凝土、及、鐵材ヲ、[illegible]組合ハセテ、互ニ其特質ヲ發揮セシメ、[illegible]

分ニ、鐵筋ヲ入レテ、[illegible]力ハ、主ニ混凝土ニ負ハシメ、鐵筋ヲ[illegible]置ニ[illegible]、混凝土ノ[illegible]、故ニ、其建築物ノ特徴ハ、耐火、耐震[illegible]、面モ永久的ナリ。

てっきゃく（名）［撤却］取リ除クコト。撤去。撤除。[illegible]「戒壇ノ事ヲ申シ達セントシ、山門モ亦只前ノ如ク[illegible]ヲ例トシテ、理不盡ニ是レヲ撤却セント欲ス」

てっきょ（名）［撤去］前條ノ語ニ同ジ。宋史、[illegible]

てつぎょ（名）［轍魚］ワダチノ中ノ魚。轉ジテ、[illegible]ノ地位ニ居ルモノニ云フ。太平記、十六、將軍筑紫へ御開きの事「氣疲レ、事盡キヌレバ、轍魚ノ泥ニ喘キ、[illegible]ノ[illegible]ニ入リシ[illegible]、[illegible]宮方蜂起事「病雀花ヲ喰ヒテ、飛揚ノ翅ヲ伸べ、轍魚雨ヲ得テ、噞喁ノ唇ヲ濕スト、悦ビ思ハヌ人モナシ」

てっきり（副）［的切確適］［適ノ音ニ、はッきりノ音調ヲ取リタル語］（一）てっきり[illegible]（二）[illegible]果シテ。必定。キット。浮世床（文化、三馬）初編、中「てっきりソンナコトト思ッタノサ」

でっく（名）［重六轉］［二字音ノ轉連］雙六ニテ、二個ノ采ノ目ニ、共ニ五ノ[illegible]ノ出ヅルコト。さいのめ（采目）ノ條ヲ見ヨ。デク。平治物語、一、叡山物語事「二ガニツオリタルヲバ重ニトイフ、五六ヲモ畳五畳六ト申ス、是レ皆重ナル儀ナルニ」此筆ヲ振ル時、口ズサミ「サット散レ山櫻」ト云フ、コハ、五ノ目ハ櫻花ニ似タリ、二ツ並ブハ落花ニ似タレバ云フトゾ。

てづくね（名）［手捏］ [illegible]

遣ルコト。又、ソノモノ。[illegible]

でくはす（動）（でくはす ノ急呼）デアソ。[illegible]

てづくり（名）［手作］（一）手作の布。[illegible]「[illegible]手作布[illegible]」[illegible]、手作布、テヅクリノヌノ[illegible]、[illegible]河ニ、[illegible]コダカナシキ」（二）又、ソレヲ調布トスルモノ。[illegible]

てっくゎ（名）［鐵火］（一）鐵ヲ火ニテ[illegible]ニ、訴訟ノ實否、判明シ難キ時、其眞僞ニテアラザルヲ證明セシムルタメ、[illegible]ニ於テ、やきがねヲ握ラシメシコト。古へノくかだちノ遺風ナリ。其條ヲ見ヨ。[illegible]

ト、鐵砲ト。（四）彈丸ノ火。

てっくゎう（名）[illegible]

てっくゎう（名）[illegible]

てづくミソ [illegible]

[illegible]性質・剛・牛等ヲ[illegible]屑ヘ[illegible]妙リタルモノ。[illegible]

てつ-くゎん（名）［鐵管］ 鐵製ノくだ。鐵［illegible］ノ間筒。［illegible］道ノ鐵管」

てつ-くゎ-もの（名）［鐵火者］ デンバウハダナルモノ。ナラズモノ。羽織ゴロ。テッカモノ。無賴漢。

て-つけ（名）［手付］ てつけきん（手付金）ノ略。其條ヲ見ヨ。

てっ-けう（名）［鐵橋］ 鐵ニテ作レル橋。鐵ヲ材料トシテ架設シタル橋梁。カネノハシ。蘇軾詩「鐵橋本無柱、石樓豈有門」

てつけ-きん（名）［手付金］ 物ヲ買フベシト約シタル證ニ、先ヅ其價ノ中ノ若干分ヲ拂ヒ置ク金子。コレヲ拂フヲ、打ツト云フ。略シテ、手付。又、手金。賺金。

てっ-けつ（名）［鐵血］ 「鐵ハ火器、血ハ人血ノ義。普魯西ノ宰相びたまるくガ「今日ノ事ハ、多クノ政治家ノ演說ヤ投票ノ能ク決スル所ニアラズ、タダ鐵ト血トニヨリテ、コレヲ決スルノミ」ト主張シテ、軍備ヲ擴張セシ故事ニ基ヅク」（一）銃砲ト士卒ト。（二）軍備。又、兵力。

てっけつ-せいりゃく（名）［鐵血政略］ 軍備ヲ擴張シ、兵力ヲ強盛ニシテ、國威ヲ伸張セントスル政略。

てっ-けん（名）［鐵拳］ コブシヲ強メテ云フ語。ニギリコブシ。ゲンコツ。ゲンコ。

てっ-ゐ（名）［手子］ て（手）ト云フ ニ同ジ。

てっ-とう（名）［鼈紅］ ぢっこう（鼈紅）ノ條ヲ見ヨ。

てっ-こう（名）［鐵工］ 鐵ノ製煉、又ハ、鐵器ノ製造等ニ從事スル工人。[illegible]「鐵工比肩、[illegible]工精絕」

てつ-ゐろ（名）鐵色シタル轉太石（ゴロタイシ）。瀨戶內海ニ產ジ、庭ノ鉢前ナドニ用キル。

てっ-さ（名）［鐵鎖］ 鐵製ノ鎖（クサリ）。鐵ノクサリ。クロガネノクサリ。カナグサリ。[illegible]書、王莽傳、下「以鐵鎖琅當其頸、傳詣鍾官」

てっ-さう（名）［鐵窓］ （一）鐵格子ノ窓。（二）ラウヤ。ゴクヤ。ヒトヤ。

てっ-さく（名）［鐵柵］ 鐵ニテ作レル垣。

てっ-さく（名）［鐵索］ 鐵製ノナハ。宋史、張永德傳「以鐵索千餘尺、橫截長淮」

てつ-さび（名）［鐵銹］ （一）鐵ノ銹ビタルコト。又、ソノモノ。（二）塗色ノ名。兜（カブト）ナド鐵ノ銹ビタル色ニ塗ルモノ。

デッサン（名）〔佛蘭西語、Dessin.〕 油繪ノ下地（シタヂ）トナルべキ素描（ソベウ）。下畫。（鉛筆畫、ぺん畫ニモ云フ）

でっ-ゐ（名）［涅齒］ 〔說文「涅、黑土在水中者也」玉篇「涅、染也」〕 齒ヲ黑ク染ムルコト。ソメバ。

でっ-ゐ（名）［弟子］ でゐ（弟子）ノ音便。其條ヲ見ヨ。鎌倉大雙紙、下「狂言者ノでッゐヲモテ扱フゴトク、心ノママニシテアリシカドモ」

てっ-ゐん（名）［鐵心］ 鐵ノ如ク極メテ堅固ナル精神（ココロ）。鐵石心。石心。鐵腸。蘇軾、與李公擇書「僕本以鐵心石腸待公」

てつ-ゐん（名）［哲人］ 智慧深ク、見識高クシテ賢明ナル人。哲士。書經、伊訓篇「敷求哲人、俾輔于爾後嗣」詩經、大雅、抑篇「其維哲人、告之話言、順德之行」程頤、動箴「哲人知幾」

てっ-ゐゃ（名）［鐵沙］ 鐵ノ、沙ノ如クナリテ、地中ニアルモノ。[illegible]沙鐵

てっ-ゐゃう（名）［鐵漿］ 鐵ヲ酒ニ浸シテ作レル液。ハグロメ。オハグロ。カネ。本草「取諸鐵於器中、水浸之、經久色青沫出、可以染皂者、爲鐵漿」伏見宮系譜「瑞子女王、云云、寬政四年九月廿一日、御著帶、同年十一月廿一日、御鐵漿初」有栖川系譜「職子八癸卯年十一月十六日、鐵漿初」[illegible]享保[illegible]江戶市ケ谷尾州屋形ヘ御著輿、

てっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）［徹］ トホル。トドク。ツラヌク。〔說文「徹、通也」廣韻「徹、達也」〕論語、顏淵篇「有若對曰、盍徹乎」注「周法什一而稅、謂之徹、徹、通也、爲天下之通法」左傳、成公十六年「養由基蹲甲而射之、徹七札焉」註「箭達七札也」

てっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［撤］ 取リ除クル。除キ去ル。論語、鄕黨篇「不撤薑食」唐書、高宗紀「以旱避正殿、減膳撤樂」

でっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［涅］ 〔でっゐ（涅齒）ノ語原ヲ見ヨ〕 黑ク染ムルコト。齒ヲ染ム。論語、陽貨篇「有是言也、不曰堅乎、磨而不磷、不曰白乎、涅而不緇」

てっ-せう（名）［徹宵］ ヨドホシ。ヨモスガラ。つうせう（通宵）ニ同ジ。徐鉉、春雪詩「晴去便爲經歲別、興來何惜徹宵吟」陸游、詩「過棣船事明旦市、蹋車人廢徹宵眠」

てっ-せう（名）［鐵蕉］ 蘇鐵（ソテツ）ノ一名。

てっ-せき（名）［鐵石］ （一）鐵ト、石ト。太平記、五、大塔宮熊野落之事「御身モ草臥ハテテ、流ルル汗如水、云云、御伴ノ人人モ、皆其身鐵石ニ非レバ、皆飢疲レテ」（二）甚ダ堅固ナルコト。テガタキコト。晉書、忠義傳、序「能守鐵石之深衷、厲松筠之雅操」

てっ-せん（名）［鐵扇］ 骨ヲ鐵ニテ作レル扇子。古ヘ、軍中ナドニ用キシモノ。

てっ-せん（名）［鐵錢］ ナベセン。鐵ニテ[illegible]八、[illegible]百[illegible]云云」[illegible]陳書、沈烱傳「[illegible]百二十六萬二千五百八十九貫文餘」「酬所獲者、鐵錢十萬」

てっ-せん（名）［鐵線］ （一）鐵ノはりがね。通俗編（唐、郭橐駝）「[illegible]以鐵線一尋、[illegible]」用石部杉木、釘其策之」（二）次條ノ語ノ略。

てっ-せん-れん（名）［鐵線蓮］ 又、鐵線花。蔓草ノ名。人家ニ植エテ花ヲ賞ス。春、舊根ヨリ叢生シ、色赤ク、竹木ニ絡（マト）ヒテ甚ダ長シ。葉ハ、三葉、一葉ヲナシ、夏、一莖一花ヲ開ク、大キサ二寸餘、六瓣、或ハ、八瓣、色、碧、或ハ、白ニシテ、中心ニ、小紫瓣簇リテ、菊ノ花ノ如シ。略シテ、てっせん。キクガラクサ。近代世事談（享保、菊岡沾凉）二、生植門「鐵線花、寬文年中、中華ヨリ渡ル、紫白ノ二種アリ、四月、花開ク、又、紫白相マジルモアリ、蔓草也」一葉集（天和、芭蕉）「散ラバ散レ、萬里一風ノ、鐵線花」

てっ-たう（名）［跌宕］［跌蕩］ （一）細事ニカカハラヌ氣質ナルコト。物事ニ頓着セヌ性質ニ云フ語。漢書、揚雄傳「爲人簡易跌蕩」三國志、蜀志、簡雍傳「雍優游風議、性簡傲跌宕」後漢書、孔融傳「融負其高氣、志在靖難、而才疏意廣、迄無成功」注、跌蕩、放言云云、無檢也」（二）常ノ度ニ過グルコト。不覊。

てつ-だう（名）［鐵道］ 汽車、又ハ、電車ナドヲ走ラスルタメニ、鐵材ヲ以テ敷設セル軌道。其車輛、運轉ノ原動力ニヨリ、索條、電氣、蒸氣、瓦斯、壓榨空氣等ノ別アリ、又、軌間ノ廣狹ニヨリ、廣軌（四呎八吋二分一）ト、狹軌（三呎六吋）

トノ別アリ。[illegible]

てつだうしやう（名）［鐵道省］鐵道大臣ノ統轄ノ下ニ、國有鐵道、及、其附帶ノ業務ヲ管理シ、地方鐵道、軌道、其他ノ陸運ヲ監督スル中央官廳。

てつだうだいじん（名）［鐵道大臣］國務大臣ノ一、鐵道省ノ長官。鐵相。

てつだうばしや（名）［鐵道馬車］鐵道ヲ造リテ、其上ヲ走ラスル乘合ノ馬車。

てつたうぼく（名）［鐵刀木］タガヤサン。其條ヲ見ヨ。一話一言、十八「鐵刀木出ニ廣東、色紫黑、性堅而沈重、東莞人多以作レ屋」天工開物「此乾桿必用ニ鐵刀木ニ」

てつだひ（名）［手傳］（一）テツダフコト。助ケテ、爲ルコト。テダスケ。スケ。加巧　幇助　家持集（異本）「鶯ノ、梅ノ花笠、縫ヒ居レバ、手つだひスルハ、百舌鳥」（二）助ケテ、爲ル人。スケテ。手傳人。（京都ニテ、人夫ヲ云フ）助手　副手　白雲歌、宗祇、注「俊成卿ノムスメハ、俊成卿ノ千載集ヲエラビシ時、てつだひシタル人ナリ」（三）仕事師。鳶ノ者。（畿内）（四）徳川時代、大名ニ、土木ノ費ナドヲ課スルコト。一萬石ノ大名ニ、千八百兩ナド課スル類。

てつだふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［手傳］他ノ仕事ヲ、助ケテ爲ス。[illegible]　今昔物語「イソガシゲニ物染メ、ハリナドスルニ、女モてつだひテ、四五日ニナリケリ」（[illegible]）

でっち（名）［調一重一］（字ノ音ノ轉）雙六ノ語。二ツノ采ノ目ニ、共ニ一ノ數ノ出ヅルコト。さいのめ（簺目）ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]集、十二、[illegible]「[illegible]ススミテ、ヨク[illegible]ヲフリテ、[illegible]一ヲ、ヲリカサネタリケリ、凡夫ノシワザニアラズトテ、九郎三トリテケリ」

でっち（名）［丁稚］「弟子ヲ、でっちト云ヒシヨリ、轉ズト云フ。法師ヲほっち、私ヲわっち、[illegible]ヲおっち、末子ヲばっちト云フト同趣」職人、商人ナドノ弟子ノ稱。幼少ヨリ年季ヲ定メテ、且、養ヒ、且、教ヘ、且、使役スルモノ。小廝　小奴　[illegible]（享保、西鶴）一「我等ガ世帶ノ時ハ、雀ノナカヌウチニ、鐵漿ヲ付ケテ髮ヲ結ヒ、下女ガ水汲ムウチニ、茶ノ下ヘ燒キ付ケ、米炊グ間ニ、蚊帳ヲアゲ、でっちニ行燈掃除サセ」

てっちやう（名）［鐵腸］てっしん（鐵心）ニ同ジ。[illegible]皮日休、桃花賦、序「宋廣平貞姿勁質、[illegible]鐵腸石心、不レ解吐婉媚辭」

でっちり（名）［出尻］〔でしり（出尻）ノ音便轉〕尻ノ後方ニ出デ居ルコト。又、ソノモノ。タナッチリ。

でっちり（副）ドッサリト、坐ル狀ニ云フ語。[illegible]（二）ちりスワルナド云フ、[illegible]ノ義ヨリ出タル言ニ似タリ」

でっちる・チル・チレ・チ・チ・チヨ（他動、上二）［捏］手捏ルノ轉カ」コネル。ツクネル。ネヅル。マロメツカス。

てづつ（名）［手ノ約シキ意］手業ノ足リトトノハヌコト、爲ル事ノ、ハカバカシカラヌコト。拙キコト。不調法。不細工。下手。紫式部日記「一トイフ文字ヲモ書キワタシ侍ラズ、イトてづつニテ、アサマシク侍リ」宇治拾遺、十四、第十一條「己レハ、口てづつニテ、人ノ笑ヒ給フバカリノ物語ハ、エシ侍ラジ」[illegible]十三「[illegible]」[illegible]ぬ學「アナてづつ、隣白ノ人笑ハレナルコトヲ」今[illegible]、[illegible]中、[illegible]日本ハユユシウてづつナル[illegible]カナ」

てづつ（名）［手筒］主將ノ自ラ用キル銃。

てつづき（名）［手續］[illegible]爲キコトノ次第。テハズ。手順

てつづみ（名）［[illegible]］[illegible]ニ、[illegible]テ擊ツニ對ス」コシツヅミ。ホソツツミ。つづみ（腰鼓）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]記、三十四、知康經態事「アノ知康ハ、九重第一ノ手鼓トニトノ上手ト聞ク」

てつつい（名）［鐵椎鐵槌］（[illegible]文「椎、擊也」又、鐵椎也」）カナヅチ。ゲンノウ。[illegible]史記、[illegible]四十[illegible]

てってい（名）［徹底］（一）底ノ底マデ徹ルコト。ユキトドクコト。ソコイタリ。[illegible]「[illegible]故」李白、秋登巴陵望洞庭詩「明湖映天光、徹底[illegible]」[illegible]（二）其志ノ、ヨク行キ通ルコト。又、蘊奥ニ達スルコト。事理ノ玄底ヲ究ムルコト。「[illegible]徹底」

てってい（名）［鐵蹄］カナグツ。蹄鐵。

てってう（名）［撤朝］はいてう（廢朝）ニ同ジ。[illegible]「[illegible]公事根源、上「[illegible]ト申スハ、諸司ノ政ハ、ヨノツネニカハラズ、トリ行侍レドモ、天子ミヅカラ朝ニノゾミテ、政ヲキコシメサヌ也、コレハ[illegible]」

てつでうまう（名）［鐵條網］[illegible] entanglement. ノ譯語）堅固ナル代ニ、[illegible]ノ如ク引キ[illegible]、主トシテ、[illegible]ノ用トス。

でってふほん（名）［粘葉本］（粘葉ノ急呼）やまととぢ（大和綴）ニ同ジ。なりほん（折本）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

てっこうてつぴ（句）［徹頭徹尾］最初ヨリ[illegible]

てっとりばやく（副）［手取早］[illegible]ク。敏捷ニテ、スバヤク。

てつば（名）［鐵場］（一）戰事ニ用キル馬。[illegible]（二）[illegible]ノ如キヲ云フ。（三）風鈴ノ異稱。鐵馬[illegible]

てっぱい（名）［撤廢］てつきよ、撤用[illegible]

てっぱう（名）［鐵砲鐵炮］（一）武器ノ名。[illegible]筒、[illegible]ニ、火藥ト玉トヲ込メ、火門ヨリ火ヲ通ジテ、丸ヲ遠キニ放ツ。其大ナルモノヲ、大筒ト云ヒ、[illegible]

[illegible]

佐佐木□□ニ命ジテ、江州國友村ニ居住サセラル」一欄外注「銃器ハ、天文十一年ニ蕃人ノ來リ傳ヘタルヲ始メトス、其外ノ說ハ、皆誤リナリ」 壒囊抄、一、十三條「てつはうト云フ字ハ何ソ、鐵炮ト書也、紙ニテ作ルノ鐵炮ト云フ也」 懲毖錄(朝鮮、柳相國)ニ「日本天正十八年庚寅三月、對馬守ヨリ孔雀ト鳥銃ヲ送ル、吾國鳥銃アルハ、此時ヨリ始ル」 (二)居風呂桶ニ仕掛ケテ、火ヲ焚ク金屬製ノ筒「鐵砲風呂」 (三)相撲四十八手ノ一。手ヲ突出シテ、敵ヲ突クコト。多クハ、敵ノ身備ヘノ決マラヌ間ニ行フ。(四)河豚ノ異名(中レバ死ヌ意) 寛政の川柳「鐵砲ノ、干物、兜ニ、添ヘテヤリ」(端午ノ贈物、飾兜ニ干河豚ヲ添フル習ヒナリキ) 安永の川柳「雪ノ押込、鐵砲ノサケテ來ル」(雪ニ河豚汁、飲仲間ノ來訪) (五)遊女ヲ買フコト。洞房語園考異「伏見町ハ今モ繁昌ス、價銀貳朱、鐘四ツ過ヨリ孔ナ四百、ウカレ人、コレヲ鐵炮ト云フ」 (六)虛言ヲ云フコト。空砲。 後撰夷曲集(天明)ニ「僞リヲ云フヲ、世話ニテ、てつはうヲ放スト云ヘハ、僞リト、思ヒナガラモ、てつはうノ、ハナシニ肝ヲ、ツブシヌルカナ」

てっぱう-がしら (名) 鐵炮頭 豐臣時代、鐵炮衆ノ長。 清正記、一、天正十一年三月「於ニ尾州、大山、及ニ合戰ニ云云、主計頭モ、先勢ノ鐵炮頭ナレバ」ト書記、下「鐵炮頭、二萬石、三萬石、大垣ノ伊藤長門(盛景)ハ八萬石」

てっぱう-ぐみ (名) 鐵炮組 鐵炮ヲ持チテ戰フ軍隊。 東職記聞、二「百人組鐵砲頭四人、領ニ人別鐵砲組與力二十人(或二十五人)、同心百人ニ也、云云」

てっぱう-さう (名) 鐵炮草 ふなはらさう(白薇)ノ異名。其條ヲ見ヨ。

てっぱう-ざま (名) 鐵炮狹間 さま(狹間)ノ條ヲ見ヨ。銃眼。 甲陽軍鑑、十五、品第四十二「鐵砲ざま、土一俵ヲモテス」

てっぱう-ざる (名) 鐵炮笊 紙屑ヲ入レオク笊。カミクヅカゴ。

てっぱう-しゅう (名) 鐵炮衆 豐臣時代、鐵炮ノ事ヲツカサドルモノ。 西國御發向記「名陳人數算ニ之、織田大納言信雄、云云、九鬼右馬允嘉隆等也、外昵近衆、前備後備、鐵炮衆、弭精兵也」

てっぱう-だま (名) 鐵炮玉 (一)鐵炮ニ込メテ打ツ彈丸。銃丸。(二)駄菓子ノ名。飴ヲ固メテ、玉ノ如クシタルモノ。(三)行キテ、カヘラヌコト。又、ソノモノ。「鐵炮玉ノ使」

てっぱう-ぶすま (名) 鐵炮衾 やりぶすま(槍衾)ノ條ヲ見ヨ。

てっぱう-むし (名) 鐵炮蟲 髮切蟲ノ幼蟲。形、圓筒狀ニシテ、頭小サク、顎、發達シ、桑、柑橘ナドヲ食害ス。日本ノ各地ニ產ズル害蟲ナリ。

てっぱう-やはち (名) 鐵炮矢八 〔擬人語。鐵砲ハ噓、矢八ハ連發ノ義カ〕 噓ツキ。

てっぱう-ゆり (名) 鐵砲百合 百合科ノ多年生草本。高サ二三尺ニ達ス。葉互生シ、花ハ白色、香氣高ク、形ラッパ狀ヲナス。觀賞用トシテ栽培セラル。琉球ニハ野生アリ。

てっ-パツ (名) 鐵鉢 〔鉢ハ梵語、鉢多羅(Patra)、應量器ト譯ス。各自ノ身量ニ應ジテ、施食ヲ受クル器ノ意〕 鐵製ノ鉢。僧ノ食器ナリ。外ニ、瓦鉢、石鉢、木鉢ナドアリ。 緇門警訓、六「智律師鐵鉢賦、吾有ニ鐵鉢ニ、裁製合レ徹、斗升爲レ量、不レ大不レ小、竹烟熏治、唯光深、云云」 戴叔倫、贈ニ行脚僧ニ詩「木杯能渡レ水、鐵鉢肯降レ龍」 大明一統志「昔有ニ一僧ニ、攜ニ鐵鉢ニ、鐵鉢ハ、入ニ於幽谷ニ」 僧貫休送ニ僧之湖外ニ詩「惟鑿ニ一鐵鉢ニ、背亦講ニ金剛ニ」

でっ-ぱな (名) 出鼻 〔ではな(出鼻)ノ急呼〕 山、岬ナドノ、高クシテ、斗出シタル所。

てっ-ぴつ (名) 鐵筆 (一)印刻ニ用ヰル小刀。ホリモノコガタナ。印刀。(二)轉ジテ、篆刻スルコト。印刻。 姜紹書韻石齋筆談「我明鐵筆之妙、莫レ過ニ于文三橋(彭)、何雪漁(震)ニ」 (三)ペンニ同ジ。(四)鐵ニテ、筆ノ形ニ作リタルモノ、謄寫版ナドノ原紙ニ、原稿ヲ書クニ用ヰル。

てっぴつ-ばん (名) 鐵筆版 とうしゃはん(謄寫版)ニ同ジ。

てつ-ビン (名) 鐵瓶 香湯ヲ沸カスニ用ヰル鐵製ノ器。鐵製ノ湯沸。注口アリ、鉉アリ。鐵鑵。

てっ-ぷ (名) 轍鮒 〔莊子、外物篇「莊周、顧ニ視車轍中有ニ鮒魚ニ焉、云云、曰、我東海之波臣也、君豈有ニ斗升之水ニ而活レ我哉、周曰、諾、我且下南遊ニ吳越之王ニ、激ニ西江之水ニ而迎レ子、可乎、鮒魚忿然作レ色曰、云云、君乃言レ此、曾不レ如ニ早索ニ我於枯魚之肆ニ」ト云フ故事ヨリ出ヅ〕 ワダチノ中ノ鮒。危急存亡ノ目前ニ迫ルモノノ譬ヘニ云フ語。 李白詩「無レ事坐愁苦、塊然涸ニ轍鮒ニ」 杜甫詩「眞成窮ニ轍鮒ニ、或似ニ喪家狗ニ」 李子卿、水蟹賦「自得ニ非蚌之樂ニ、何慮ニ轍鮒之憂ニ」

てつ-ぶん (名) 綴文 〔綴ハ正音、ていナレド、今暫ク俗音ニ從フ〕 文ヲ綴ルコト、書物ヲ著ハスコト。又、綴リタル文章。又、作文。 漢書、楚元王傳、贊「自ニ孔子ニ後、綴文之士衆矣」 杜甫詩「陸機二十作ニ文賦ニ、汝更少年能ニ綴文ニ」

てっ-ぷん (名) 鐵粉 鐵ヲ碎キテ粉トセルモノ。鐵ノ粉末。藥用トシ、又、花火ノ合藥ニ加ヘ、或ハ蒔繪ノ用トス。

でっぷり-と (副) 〔たふたふと、だぶだぶとノたふ、だぶハ、てっきり、はっきりノ音調〕 體ノ肥エ太リタル狀ニ云フ語。デブデブ。デブリト。

てっ-ぺい (名) 撤兵徹兵 派遣シタル軍隊ヲ、其地ヨリ引キ上グルコト。 宋史、張浚傳「金人屯ニ河南ニ、有ニ刻日決戰之說ニ、聞ニ張浚來ニ、亟徹兵歸」

てっ-ぺき (名) 鐵壁 鐵板ヲ張レル壁。又、甚ダ堅固ナル城壁。 羅湖野錄(宋、僧曉瑩)「毒蛇猛虎當前立ニ鐵壁ニ、銀山在ニ後橫ニ」 楊維楨詩「花凝ニ鐵壁ニ堅、木根山谷冷」 徐積詩「金敢不レ可レ破、鐵壁不レ可レ奪」 謠曲、熊坂「鐵壁モ徹レト突ク」

てっ-ぺん (名) 天邊 〔兜ノ天邊ノ音便〕 イタダキ。頭上。頂。 浮世床(文化、三馬)初篇、中「親ガアラバ、親御タチヘ不孝ノ天邊ヂャ」

てっぺん-かけたか (感) 杜鵑ノ鳴聲ノ調ニ云フ語。然、聞ユトゾ。(關東)ホゾンカケタカ。

て-づま (名) 手妻 〔てだま(手玉)ノ轉カ〕 てじな(手品)ニ同ジ。 天和笑委集、堺町「曲鞠、曲桴、云云、鎌、鍬、刀ノ手づまゴト」

て-づまり (名) 手詰 (一)手許ノ、苦シクナルコト。金ノ融通ニ詰ルコト。(二)方法ニ窮スルコト。手段ノ盡クルコト。

て-づめ (名) 手詰 嚴シク、詰メ寄スルコト。猶豫セサセヌコト。促迫。 壽門松(享保、近松作)中「包ム涙モ手見セ禁、命手詰めト見エニケル」「手詰ノ勝負」「手詰ノ談判」

で-づめ (名) 出爪 他行セムトスルニ臨ミテ、爪ヲ剪リ取ルコト。コレヲ忌ムコ

トトス。金錢、資財、出ツヅクト云フ事ノ名詮ナリ。

てつめんぴ (名) [鐵面皮] (顏ノ皮ノ厚キ意) 恥ヲ知ラヌコト。アツカマシキコト。アツカハ。厚顏。無恥。[illegible]（宋、[illegible]）「[illegible]鐵面皮、從來下、[illegible]」北夢瑣言「時人云、光遠顏厚、如二十重鐵甲一」

てづもり (名) [手積] 手ニテ、大凡ヲ量リ試ルコト。(枡、秤、ナド借ラヌ意) 手量

てつや (名) [徹夜] ヨモスガラ。ヨドホシ。ヨアカシ。つうせう(通宵)ニ同ジ。[illegible]「[illegible]夕魚食[illegible]、徹夜龍街[illegible]」[illegible]「[illegible]夜、好花[illegible]春[illegible]」三百歎、清宵徹夜讀二農書一」

てづよ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [手強] 爲向クル仕方烈シ。テゴハシ。テイタシ。

でづら (名) [出面] (一)(面ヲ出ス意) かほ出シスルコト。出席スルコト。(二)デシャバリガホ。最明寺殿百人上臈(元祿、近松作)「女せいぞろへ「東八ケ國ヨリ集マ[illegible]タル[illegible]ノ軍兵、是ヲ見テ、如何ナル者ゾ、見苦シヤ、アノサマデ此中へ出づらハ何事ト、一度ニドット笑フコヱ」(二)でめん(出面)ノ條ヲ見ヨ。

てづらまへ (名) [手捉] てどり(手捕)ニ同ジ。テヅカマヘ。

てつり (名) [哲理] 哲學上ノ道理。玄妙ナル理義。[illegible]「哲理精深、[illegible]」

てづり (名) [手釣] 魚ヲ釣ルニ、竿ヲ用キズ、絲ノミ手ニ取リテ釣ルコト。

てづる (名) [手蔓] 縋ルベキ緣。傳手。テガカリ。タヅキ。ユカリ。

てつるてん (名) 又、テンツルテン。つんつるてんノ條ヲ見ヨ。

てて (名) [父] ちち(父)ノ轉。(一)(父[illegible]) ニ同ジ。宇津保物語、[illegible]「[illegible]ノ手、[illegible]ニセサリ、[illegible]ハ、ててノ[illegible]ニモマサリ[illegible]」大鏡[illegible]、下「ててハハノ愛シクスル人ナリケレバ」宇治拾遺、一、第十三條「田舍ノ兒ノ、云云、我ガててノ作リタル麥ノ花散リテ、實ノ入ラザラムニ思フガ、ワビシキト云ヒテ」「父[illegible]」(二)遊女ノ親方。遊女屋ノ主人。オヤヂ。[illegible]（享保、[illegible]）上、四「[illegible]親方、又、遊女長、傾城屋ノ亭主ヲサシテ、古來、大人ノ仰セラレシ[illegible]ナリ」

てて (名) [手手] (手ヲ重ヌ、乳ヲちちト云フ類) 小兒ノ語。手ト云フニ同ジ。

てうちぐり (名) [手手打栗] (てんでニ採ル意ト。又、握リテ手中ニ補ツルノ意ニテ、手内栗ナリト。或ハ、其實ハ、自ラ毬ヨリ脫シテ、地ニ落ツルヨリ、出でて落ち栗ノ意ト) 丹波產ノ栗ノ名。たんばぐり(丹波栗)ノ條ヲ見ヨ。ゑかた咄(萬治)四「丹波ノてて打ち栗」日次紀事(延寶)九月「此月、[illegible]山林出[illegible]、丹波[illegible]、[illegible]其中[illegible]、稱[illegible]出[illegible]、士俗[illegible]、古[illegible]不[illegible]子[illegible]以[illegible]栗[illegible]、[illegible]父[illegible]之、[illegible]小女[illegible]（享保、近松作）長[illegible]、オランガ在所ハノ、奥山ノてうちノ、でんぐりでんぐり[illegible]ノ木ノ、木ノ[illegible]ヲ代ニ[illegible]」

ておや (名) [父親] 男ノ親。チチオヤ。天神記(正德、近松作)三「角ニ小竹筒ノ[illegible]ブラリ、八十一ニテ日ノウトキ、てて親ノセテ孝行ノ、猪ノ[illegible]ノ[illegible]ビニ、[illegible]ノ面モ[illegible]ワタリ」

てがかふ (名) [手手甲] せせがこふ(手手甲)ニ同ジ。

ててき (名) [父[illegible]] ててぎみ(父君)ノ略ニ父ヲ敬ヒテ云フ語。宇津保物語、[illegible]、中「ててきハ、ウツクシウシ給フヤ一[illegible]」語「コレヤててき、ナドははきノモトニオハセヌ」

ててぎみ (名) [父君] ちちぎみ(父君)ニ同ジ。宇津保物語、[illegible]「[illegible]」

ててご (名) [父御] ちちご(父御)ニ同ジ。[illegible]、下、[illegible]「[illegible]」

てなしご (名) [無父子] (一)父ナクシテ、母ノ手ノミニテ育ツル子。ミナシゴ。孤。(二)父ノ不明ナル私生兒。[illegible]天皇職人鑑(寶永、近松作)四「宮嶋大夫ヲ付讃シ、其カヒモナク、長者ガ娘ガ父無子ヲハランデ、何ト[illegible]」

でむし (名) [蝸牛] (でんでんむしノ約。元、角ノ、出よ出よむしガ、でいでいむしトナリ、でんでんトナリ、でんでトナリ、ででトナリタリ」かたつぶり(蝸牛)ニ同ジ。[illegible]集「ででむしノ、住ミハテシ宿ヤ、ウツセ貝」日次紀事(延寶)[illegible]、[illegible]出不[illegible]出則打[illegible]破[illegible]云[illegible]、此[illegible]貝、俗稱[illegible]」小兒ノ[illegible]「まひまひつぶり、角出セ槍出セ」

てら (名) [父] [illegible]ちち(父)ニ同ジ。[illegible]作)初春[illegible]「ててら、カカラニ、[illegible]」

てら (名) [つづる(綴)ノ轉訛カ。又、[illegible]] (一)シタノオビ。フンドシ。[illegible]てれ」(二)[illegible]ばん(襦袢)[illegible]、[illegible]ダツケトモ云フ、越中ニテ、ハダコト云フ、北國及東奥ノ所所ニテ、ててらト云フ、云云、[illegible]集(寶ナラム)ノ歌ニ、[illegible]ミハ、夕[illegible]ノ、下涼ミ、男ハててら、女ハ[illegible]」

ててれ (名) [illegible] [illegible]

ててれ (名) [襦袢] てれノ轉カト云フ。(北國) [illegible]てれ[illegible]てハててれテ、[illegible]

ててれ (名) [illegible]ナルコト。[illegible]シキコト。サカシラナルコト。[illegible]、伊勢ナドニテ、人ノサカシラ[illegible]スルヲ、ててれヲナスナドト云フ。

でどころ (名) [出處] 物事ノ出ヅル原ノ處。シュッショ。デドコロ。

てどは (名) [手[illegible]] [illegible]

てどほし (名) [手[illegible]] て[illegible]く、手[illegible]、[illegible]、時刻ヲシウツリケリ」

てどり (名) [手取] (一)技ニ巧ナルコト。又、其モノ。(角力ナドニ) (二)人ヲアヤナスニ、長ジタルコト。又、其人。

てどり (名) [手取] (一)手ニ取ル[illegible]ノ[illegible]手ニ入ル[illegible]、(二)[illegible]ナドヤ、[illegible]機ニカケズニ、手ニテ繰リ取ルコト[illegible]

てどり (名) [手[illegible]] [illegible]トアソカマヘ[illegible]

てどりあしどり (句) [手取足取] 手ヲ取リ、足ヲ取ルコト。[illegible]

てどりがま [illegible]

世人皆云、侍ニ陰士ニ也、常事以ニ一鐵提釜ニ喫レ茶」

てとりなべ (名) 手取鍋 提梁(ツル)アル鍋。テナベ。守貞漫稿、四、炊器「江戸ニテてあなべト云フ、京坂ニテ、てとりなべト云フ、云云、草庵ノ鳥羽、一遍上人ノモトヨリ蓄財ナシ、手取鍋ヒトツアリケルヲ、窓前ニ掛置テ、食ヲ乞フ、云云、一首ノ歌アリ、てとりめヨ、オノレガ口ハ、サシデタゾ、サフスキタクト、人ニ語ルナ」

てなが (名) 手長 (一)古ヘ、禁中、又ハ、貴族ノ酒宴ノ時、料理品ヲ、席上ニ持チ運ビナドシタル給仕ノ類。江家次第、二、六、三宮「大納言、中納言、參議、辨、少納言等手長、隨位遞用」地下五位(等吉主人手長、地下四位」 宇治拾遺、十三、第十二條「今日ノ齋筵ハ、てながノ役アルベカラズ」 建武年中行事、下「若君婦御所樣御誕生事、御饗膳大御所樣、又ハ、上﨟、中﨟、下﨟、次ニ、手長、小袖上等ニ至ルマデ」 大諸禮(小笠原秀政)「膳部ノ方ヨリ請取リ、通(カヨヒ)ノ方ヘ渡スヲ手長ト云フ也、又、手長ノ方ヨリ請取リ、御座敷ヘ參ルヲ通ト云フナリ、給仕トイフコトハ、公方衆ノ言也」 (二)神官ノ祭祀ニ神饌ヲ運ブモノ。(三)想像ノ人種。其手脚、甚ダ長シトス。てながぢま(手長島)ノ條ヲモ見ヨ。枕草子、一、十三段「清涼殿ノ、云云、北ノヘダテナル御障子ニハ、荒海ノカタ、イキタル物ドモノオソロシゲナル、手長、足長ヲゾカカレタル」 和漢三才圖會、十四、外夷人物「長臂國在ニ焦僥國東ニ、人垂レ手至レ地」 (四)手ノ長キコト。又、ソノモノ。轉ジテ、盜癖アル人。盜心アルモノ。

てながえび (名) 手長蝦 かはえび(川蝦)ノ一種。長サ二三寸、首大キク、前ノ兩脚、身ヨリ長シ。黑ト白トアリ、雄ニハ螯(ハサミ)アリ、味、淡クシテ佳ナリ。夏ノ初、多ク漁ス。ツニツキエビ。草蝦

てながぐも (名) 手長蜘蛛 蜘蛛ノ一種。體細長ク、手脚、特ニ長クシテ、全身灰色ヲ呈ス。土窟ナドノ暗キ所ニ棲ム。喜蛛

てながざる (名) 手長猿 〔英語、Gibbon. ノ譯語〕 猴(サル)ノ屬。印度、南洋諸島ニ產ズ。背黑クシテ、長(タケ)、三四尺、多クハ步立ス。手長クシテ地ニ達ス、常ニ樹上ニ棲ミ、數十匹、手ニ手ヲ握リ、連リ下リテ、溪水ヲ飲ム。性、常ノ猴ニ異ナリテ、溫柔ナリ。猿

てながぢま (名) 手長島 想像ノ異人國ノ稱。其國人、臂甚ダ長ク、垂レテ地ニ至ルナド云フ。(又、其脚モ甚ダ長キ故、あしながトモ云フ) 長臂國 てなが(手長)ノ條ノ(三)ヲモ見ヨ。

てながだこ (名) 手長蛸 蛸ノ一種。長サ五六寸、第一對ノ足、甚ダ長大ナリ。人コレヲ食ヘバ醉フト云フ。一名、アシナガダコ。クモダコ。石距

てなし (名) 手無 (一)今ノそでなし(袖無)ノ類ノ衣服。下人ノ用トス。著聞集、廿、魚蟲禽獸「近比、常陸國、云云、下﨟ノ著ルてなしト云フ布ノ着物ヲ着テ」 (二)禁中ニテ、月經ノ時ノ婦人ノ稱。(女房詞、供御、調度ニ手ヲ觸ルルコトナラヌニ起ル) 御湯殿上日記、慶長三年二月十二日「女中、御手なしニテ、御陪膳二三條實枝召ス」

てなづく テナズク ク・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 手懷 懷(ナツ)ケテ親(シタ)シマス。

✣てなづける テナズケル (動) 手懷 前條ノ語ノ口語。

てなは テナワ (名) 手繩 (一)旗、又ハ、幕ノ乳(チ)ニ貫キテ、串(クシ)ニ打五ス繩。武家事記「旗、高端ニ旗ニ用ノ器、籠籐アリ、手繩アリ、息衣アリ」 (二)捕吏ナドガ、人ヲ捕ヘテ縛ルニ用ヰル繩。ハヤナハ。トリナハ。

てなへ テナエ (名) 手萎 〔あしなへ(足萎)ニ對ス〕手ノ萎(ナ)ヘギタルコト、手ニ病アリテ、自由ノ利カヌコト。なへぐ(萎)ノ條ヲ見ヨ。字鏡、八「攣、手奈戸」 天治字鏡、九「攣、手奈戸」 靈異記、下、第廿縁、訓釋「攣、手奈へ」

てなべ (名) 手鍋 てとりなべ(手取鍋)ニ同ジ。手鍋を提(サ)ぐトハ、貧シキ暮シヲナス。釋迦如來誕生會(元祿、近松作)「イツソ夫婦カケ向ヒデ、瑠璃ヨリ安樂ニ手鍋サゲテ」

てなほし テナオシ (名) 手直 (一)圍碁ニテ、相手ニ一目、置キ增サシムルコト。(二)建築ナドニテ、大方、出來上リタル後、小部分ノ仕上ヲナスコト。

でなほす デナオス ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) 出直 一度、家ニ引キ返シテ、更ニ外出ス。又、デナホル。浮世風呂(文化、三馬)初編、上「人ヲツケヘニシタ、何時ダト思フ、モウ納豆賣ハ出直シテ、金時ヲ賣リニ來ル時分ダァ」

てなほる テナオル ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 手直 碁、將棋ニ云フ語。伎倆(ワザ)ノ改マルコト。(今ハ碁ニハ云ハヌヤウナリ) 似雛物語(寬永)「オカシ男アリケリ、名人ノ碁ウチヘ石直サレニイキケリ、云云、ウテドエカタデ、手モナホラザリケリ、サテヨメル、一二ツ、ワガ手なほらヌ、モノナラバ、ヨヒヨヒゴヲバ、ウチモシナラン、トヨメリケレバ、イトヤサシカリケル、アルジユルシニケリ」

でなほる デナオル ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 出直 でなほす(出直)ニ同ジ。

てなみ (名) 手並 技(ワザ)ノ程。ワザマヘ。ウデマヘ。テギハ。ウデ。伎倆 技量 義經記、八、衣川合戰事「アヅマノカタノヤツバラニ、手なみノ程ヲ、ミセテクレウズ」

てならす ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 手馴 (一)手ヅカラ育テテ馴ラス。(鳥獸ナド) 源、三十八、夕霧「…」 (二)〔ツカヒナラス〕 「…ノてならし給ヘリシ、ラデンノ箱ナリケリ」

てならす ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 手鳴 手ニ觸レ鳴ラス。中務集「年ノ暮ニ、琴ニ觸キツル、琴(コト)ノ音ヲ、てニならしツル、秋ゾウレシキ」

てならひ テナライ (名) 手習 (一)〔文字書クコトヲ習フコト〕。書學 習字 源、三、空蟬「タダ手習ノヤウニ書キスサビタマフ」 宇津保物語、國讓、中、廿八「御手ならひナトハシ給フヤ」 堤中納言物語「白キ扇ノ、墨黑ニ眞名ノ手習シタル差出デテ」 下充、論衡「文吏幼則筆手習」 (二)轉ジテ、學問スルコト。稽古。修業。 芭蕉の句「朝ナ朝ナ、手習ススム、キリギリス」

てならひご テナライコ (名) 手習子 手習兒 師匠ニ就キテ、手習スル子供。又、學問修業スル兒童。手習子供。 乙由の句「卯ノ花モ、はシテ行クヤ、手習子」 日本新永代藏(寶永、團水)「手習子ノ筆ノ軸ヲ拾ヒ溜メテ」

てならひざうし テナライゾウシ (名) 手習草紙 紙ヲ帳面ノ如ク綴ヂテ、手習スルニ用ヰルモノ。習字ノ草紙。

てならひししやう テナライシショウ (名) 手習師匠 てらおや(寺子屋)ノ條ヲ見ヨ。鹽尻談(文化、小川顯道)下「弦筆、手習師匠ニ、一向ニ文字ヲ知ラズ、短日ヲ丹日ト書クノ類多シ、故ニ筆ハ錐ヲ立ルガ如シ」 日本教育史資料、十九、學制、正德元年達「御府內ニ於テ、手習師匠ヲ立、渡世致モノ、其町內ノ弟子子供ハ不レ及レ申、他所ヨリ通ヒ弟子迄モ、依怙贔屓ナク、心ヲ用ヒ敎ヘ可レ申候」

てならひはじめ テナライハジメ (名) 手習始 手習ヲ始ムルコト。始メテ手習スルコト。吾妻鏡、廿六、貞應三年四月廿八日「有ニ若君御手習始之儀ニ、云云、摺レ墨染レ筆被レ進、取レ之習始給、長ハ御詞」

〔て-なら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) |手習| 文字書クコトヲ習フ。習字スル。古今集、序「ナニハヅノ歌ハ、云云、アサカ山ノコトノハハ、云云、コノフタ歌ハ、ウタノ父母ノヤウニテゾ、てならふ人ノ初ニハシケル」海人藻芥、下「朝夕緊務ノ間、手を習ふ事ナカルベシ」芭蕉の句「小田炎ヤ、手習ふ人ノ、灰セセリ」

て-な・る・ルル・ルレ・レ・レヨ(自動、下二) |手馴| 用キルニ馴ル。使ヒ馴ルル。慣用

て-なれ (名) |手馴| 手馴レタルコト。使ヒ馴ルルコト。慣用 和泉式部集、二「イハマシヲ、我レガてなれノ、駒ナラバ、人ニシタガフ、アユミスレドモ」「手馴ノ琴」 狂言記、箕潜「ソナタガ朝夕、手馴れタ箕ガアル」

て-なれ-ぐさ (名) |手慣草| あふぎ(扇)ノ一稱。莫傳抄(俊頼)夏「てなれぐさ、人ノカタミニ、ナルナラバ、涙ノ露ハヌ、時モアレカシ」

でに (名) |錢| 〔ぜに(錢)ノ轉〕伊豆東岸ノ網代附近ノ方言。(同國賀茂郡、西岸地方ニテハ、でねト云フ)

テニス (名) |庭球| 〔英語、Tennis.〕ろおんてにすノ條ヲ見ヨ。

て-ん-て-ん (副) |手手| オノオノ。メイメイ。各自。テンデニ。平家物語、九、老馬事「源氏手ン手ニ陣ヲ取ッテ」

〔て-ん-とる-ばかり (句) 手ニ取ルホド近クニ。又、ハッキリト。源、十八、松風「メグリ來テ、手ニ取ルばかり、サヤケキヤ、淡路ノ島ノ、アハト見シ月」夫木集、十三、月「池水ニ、雲居ノ空ヲ、ウツシモテ、てにとるばかり、月ヲ見ルカナ」

てには (名) |天爾波| てにをは(天爾遠波)ノ略。海人藻芥(寶永、京合院實守)下「手爾波ノ事、昔ハ更ニ沙汰ニ及ハズ、只其ノ書樣、云云、テニハ一ノ事、皆沙汰スレ也」

て-にもつ (名) |手荷物| 手廻リノ荷物。

て-に-を-は (名) |天爾遠波| 〔漢字ノ四聲、平、上、去、入ノ圏發(をことてんノ條、參見)ニ因ルカ、梵字、摩多ノ八囀聲(其條ヲ見ヨ)ニ因ルカ〕(一)〔語學ノ語。言語、文章ノ間ニアリテ、上ノ意ヲ承ケテ下ニ接(ツヅ)クル一類ノ語ノ稱。例ヘバ「行キて見ル」「馬に乘ル」「花を觀ル」「風は吹ク」ノて、に、を、はノ如シ。其類、尚多ク、凡ソ三類ニ分ル。詳ニ、語法指南ノ天爾遠波ノ條ヲ見ヨ。略シテ、天爾波、又、助詞。萬葉集、十九「我ガ門ユ、鳴キ過ギワタル、ホトトギス、イヤ懷シク、聞ケドアキ足ラズ、毛能波氐爾乎六箇辭闕之」萬葉集、仙覺抄(文永)「古語之點、并、手爾乎波之字」(二)モノノ云ヒカタ。詞遣(コトバヅカヒ)ノ法。又、てにをはノ用法。語法「てにをはカ合ハヌ」

て-ぬかり (名) 手脫 手續ノ屆カザルコト。不注意ヨリ來ルシクジリ。テヌケ。テオチ　ヌカリ　遺漏

て-ぬき (名) |手貫| てぶくろ(手袋)ト云フニ同ジ。

て-ぬき (名) |手拔| ナスベキ手數ヲ省(ハブ)キテ、行ハヌコト。女夫草「作ラント、切リヒロゲタル、大田原、賣ルニハぬきヲ、業ノ數數」

て-ぬぐひ (名) |手拭| 一幅(ヒトノ)ノ綿布ヲ、鯨尺三尺ニ切リタルモノ。コレヲ、三尺手拭トモ云フ。手、顏ヲ洗ヒタル後ヲ拭ヒ、或ハ浴(ユアミ)ニモ用ヰル。昔ノ手拭ハ長カリキ。能ノ狂言ノたノのぼうる[illegible]、其掛迴ノ事ニテ、手拭ニテ頭ヲ包ミナ、其[illegible]條ヲ結ビナ[illegible]、五尺、六尺[illegible]リキ[illegible] 手巾 手帨 [illegible] 手拭形見ニセヨト、置イテ行ク」浮世出世織德(元祿、近松作)上「[illegible]ノ中[illegible]、二尺手拭、[illegible]帶トテ進上ス、是レハ、カノ五尺イヨコノ手拭ト、唄ニウタヒシ手拭カ」増補松の落葉(寶永、大木扇徳)五、五尺手拭「五尺イヨコノ手ぬぐひ、五尺手ぬぐひ、中[illegible] 江戸[illegible]、[illegible]コアル[illegible]道具、五尺手拭ヲシボリヌ」

て-ぬぐひ-かけ (名) |手拭掛| 手拭ヲカケ置クモノ。テノゴヒノカセ。好色一代男(貞享、西鶴)四「手拭懸ノ竹コソ枯レツレ」

て-ぬけ (名) |手拔| てぬかり(手落)ニ同ジ。

て-ぬる・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) |手緩| 爲(ス)ルコト、緩(ユル)ヤカナリ。[illegible]キビシカラズ。(手痛し・ノ反)[illegible]寛[illegible] 緩 失[illegible] 好色五人女[illegible]、四[illegible]モ、[illegible]ヲ助クルガ故ニ、此ノ事止ミ難シ、世ニ[illegible]アリ、[illegible]

〔て-の-あや (名) |胸| 〔手の文ノ義〕 てのすぢ(手筋)ニ同ジ。[illegible]

て-の-うち (名) |手内| (一)タナゴコロ。テノヒラ。掌 [illegible]ウシテ、手の内ノ持チヨイ樣ニシタシ、日近ト云フ」(二)手並 ワザマヘ。ウデマヘ。伎倆 國性爺合戰(正德、近松作)四「上段下段ノ太刀[illegible]陽炎稻妻獅子奮迅、足取ル手の内、[illegible]寸八寸、身ノ[illegible]キ、踏込デ打入身ノ木刀」「刀ノ手の内」(三)乞食僧ナドニ、[illegible]コト。[illegible]總傳記(享保、近松作)岸植后道行「聞コエズカ、手の内モ施サズ」(四)モツコト。ニギルコト。[illegible]ニ、マロメ込ム」(五)心ノウチ。方寸ノ內

〔て-の-うら (名) |手裏| タナゴコロ。テノヒラ。掌 枕草子、二、十七段、にくきもの、火桶[illegible]スビツナドニ、手のうらうちかへし、[illegible]

[illegible]ハ、急ニ事ヲ辨ズルニ、[illegible] 後漢書、[illegible]鼎傳、[illegible] 平[illegible]ズルゾト、御[illegible]アリケレバ」

て-の-くぼ (名) |手窪| 掌ノ中心ノくぼみ。

て-の-ごひ (名) |手拭| てぬぐひ(手拭)ニ同ジ。[illegible] 川柳、[illegible]、六、[illegible]

て-の-こう (名) |手甲| こふ(甲)ノ條ノ(六)ヲ見ヨ。

て-の-すぢ (名) |手筋| 古ク、テノアヤ。[illegible]ノ皮ニアル[illegible]、[illegible]人ノ吉凶、禍福ナドヲ說クコトアリ。

て-の-ちから [illegible]

て-の-はかせ (名) [illegible]

て-の-はら (名) [illegible]

て-の-び (名) |手延| 當ルコトノ、遲ク延ルルコト。アヤカレ。失期 平家物語[illegible]

〔て-の-ひら (名) 掌 手の平ノ義 タナゴコロ。タナソコ。テノウラ。テノハ[illegible]

て-の-もの (名) 手者 自ノ手ニ屬スル[illegible]

一ノ木戸ヲ堅タリシカバ、角テハ叶ハジトヤ思ケン、同宿、手の者引キソレテ、六波羅ヘ降參ス」

て-の-もの（名）［手物］手ニ入リタルモノ。又、得意ノモノ。エテノモノ。　艶狩劍本地（寶永、近松作）三「ソナタノ胎内ハ金山ヂヤ、オレモ隨分精出シテ、マ一人ニ人掘出サウ、ソチモ手の物、灸シテ山ノ腰暖メヤ」

で-は（名）［出端］（一）立チ出ヅベキ機。「出端ヲ失フ」（二）能樂ニテ、役者ノ登場ニ用ヰル一種ノ囃子。犬子集（寛永）三「アリキナガラモ、鬪ク笛ノ聲」淸經ノ、能ノ出端コソ、大事ナレ」（三）轉ジテ、芝居ニテ、丹前姿ノ俠客、又ハ、立役、若衆方ナドノ登場ニ、三味線ニ合ハセテウタフ唄ノ稱。　好色一代男（天和、西鶴）三「品之丞ガ出端ノ唄ニ、人ナミニ頭ヲフッテ、間ヲ合ハスコソヲカシ」

で-ば（名）［出齒］（一）前齒ノ前ヘ反リ出デタルコト。又、ソノモノ。反齒。デッパ。［露齒 反齒］（二）でばぼうちやう（出齒庖丁）ノ略　其條ヲ見ヨ。

デパアトメント-ストオア（名）〔英語、Department-store. 百貨店、又ハ、百貨商店ト譯ス〕巨大ナル建物ノ中ニ、種種ノ商品ヲ集メ、ソレゾレ部門的ニ分ケ、陳列シテ販賣スル商店

⁂**で-はうだい**（名）［出放題］〔放題ノ條ヲ見ヨ〕口ニ任セテ、虚言ナド云フコトデタラメ。　浮世風呂（文化、三馬）四編、上「出放題ノ文句ヲ作ルニ仍ッテ、アノヤウニ鄙シクナルヂヤ」

では-ぎぬ（名）［出羽絹］古ヘ、出羽ノ國ヨリ織出セシ絹。　吾妻鏡、五十、文應二年二月廿日「今日於鶴岡八幡宮被行仁王會云云、佛布施、出羽絹百疋」

て-ばこ（名）［手箱］手廻リノ小キ調度ナド入ルル匣。　字類抄「手筥、テハコ」女重寶記、七五、女用器財「手箱、テバコ」類聚名物考、調度、七「てばこ、コレハ手具足ヲ入ル故イフナリ、今ハ俗ニハ、手道具ト云フニ同ジ、手筥トモ云フナリ」　嫁入記「一手ばこノ内ニ、小バコ四ツアリ、其内ニ入物、一ニハオシロイ、一ニハタウノツチ、一ニハマユズミ、一ニハワケメノイトナドノヤウノ、オケハヒグソクノ類ナリ」

て-ばし-こ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［手敏捷］てばやし（手早）ニ同ジ。快手

て-はじめ（名）［手始］（一）事ヲ爲初ムルコト。開手　着手　盧管抄、五「コノ内亂、云云、手はじめニ、ソノ大内造營ノ事ヲ、マヅ申シ沙汰セン」（二）兒童ニ始メテ、以呂波假名ヲ書キ習ハスルコト。初步

て-はず（名）［手筈］事ヲ行フ前ニ、其順序ヲ定メ置クコト。テクバリ。テツガフ。テジュン。ダンドリ。部署　冥途飛脚（正德、近松作）上「今日迄、トドカヌ故、大事ノ御用ノ手はずガ違フ」

て-ばたき（名）［手拍］（一）兩ノ掌ヲ打合ハセテ、鳴スコト。手タタキ。手打。拍手（二）俗ニ、所持ノ物無クナリテ、空手ニナルコト。

⁂**て-ばな**（名）［手鼻］紙ナドヲ用ヰズニ、指ニテ鼻ノ端ヲ抑ヘテ、洟液ヲ噴リ去ルコト。（鄙人ノスルコトナリ）手洟。　冥途飛脚（正德、近松作）上「延ノ鼻紙二折三折、結構ナハナヲカマンスモノ、何ノワシ等ニ、手鼻モカミタウアルマイ」

で-はな（名）［出端］（一）出デ行カムトスル機。デギハ。デガケ。（二）モノゴトノ、ナシハジメ。シハジメ。

で-ばな（名）［出花］茶ヲ煮タル初、又ハ、番茶ニ湯ヲ注ギタル初ニ、香味ノ好キコト。ニバナ。イレバナ。　心中二枚繪草紙（寶永、近松作）下「色茶屋ノ、色ノ出花ノ、里ソトハ、サメヌ花香ヲ、汲ミテ知レ、ゲニヤ士農工商ノ、品數數ノ其中ニ」「番茶モ出花」

て-ばなし（名）［手放］テバナスコト。手ヲ添ヘズシテアルコト。放手

て-ばな・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）手放（一）持チタルヨリ放ス。放手（二）己レガ管理ヲ放シテ遣ル。放遣（三）賣リハラフ。又、アタフル。

で-ば-ぼうちやう（名）［出齒庖丁］〔創意者、堺ノ鍛工、某ノ露齒ナリシニ起ルト云フ〕庖丁ノ刃ノ、幅廣ク厚キモノ。魚鳥ノ骨ナド切ルニ用ヰル。略シテ、でば。　本朝世事談綺、二、器用門、出齒庖丁「庖丁ハ所所ニアリトイヘドモ、泉州堺ヲ良トス、名譽ノ庖丁鍛冶アリ、一流ヲ鍛フ、世コソリテ、コレヲ用ユ、カノ男ノ向齒出タルニヨリ、出齒ガ庖丁ト呼ケルヨリ、終ニソノ器ノ名トナル」

で-はひり（名）［出這入］でいり（出入）ニ同ジ。イヅサ、イルサ。出入

て-ばや・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［手早］事ヲ爲ルニ疾シ。スバヤシ。テバシコシ。快手　著聞集、十二、偸盜「大殿小殿、云云、ソレ程、手ばやく、心剛ナル者見候ハズ」

で-はらひ（名）［出拂］デハラフコト。悉ク出デタルコト。出切ルコト。

で-はら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［出拂］悉ク出ヅ。殘リナク出デ行ク。出切ル。

で-ばり（名）［出張］デバルコト。出張。

て-ば・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［手張］仕事、分ニ過グ。手ニ餘ル。

で-ば・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［出張］本所ヨリ他ノ場所ヘ出デ行ク。出向ク。

て-びかへ（名）手控（一）手許ニ控ヘトシテ留メオクコト。（二）手控ニ事ヲ書キ留メ置ク小本。手帳　手冊（三）袖控ノ略。袖書ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

て-ひき（名）［手引］（一）〔手ヲ引カレテ行クコト。　榮花物語、十七、音樂「てひきニテオハシマス殿バラ、オシコラセタマヘルニ」同、十九、御裳着「御車ハ、陣ヨリ昇キオロシテ、てひきニテ入ラセタマフ」（二）ヒキタスクルコト。引援。エンビキ。（三）盲人ヲタスクル人。

て-びき（名）手引（一）手ニテ引出スコト。　古今集、十四、戀、四「夏引ノ、手引ノ絲ヲ、繰返シ、コト繁ク共、絶エムト思フナ」（二）他ノ手ヲ引キテ導クコト。誘引。案内。接引　太平記、十七、山門攻事「山門ヲ亡サント企テケル、心ノ程コソアサマシケレ、サレバ惡逆怨チニ顯ハレテ、手引きシツル同宿共、或ヒハ討タレ、或ヒハ生虜ラレヌ」（三）敎へ導くこなり。指導。

で-びたひ（名）［出額］額ノ尋常ヨリ張リ出デタルモノ。額ノ廣ク高ク出デタルモノ。デビ。デコ。デボチン。デボカン。オデコ　デコスケ。降額　好色一代女（貞享、西鶴）六「枯木ノ下ニ小才覺ラシキ顏ツキヲシテ、でびたひノ頭ヲ自剃シテ居ル所、物言ハヌバカリ」

て-びと（名）［手人］（一）諸ノ物ヲ造ルモノ。（二）〔工匠。職人。　雄略紀、七年八月「汝宜往罰新羅、於是西漢才伎歡因知利在側、乃進而奏」　仁賢紀、六年九月「遣日鷹吉士、使高麗召巧手者」（三）藝ノスグレタルモノ、伎倆アルモノ。上手。巧者。　公事根源新釋、下、駒牽「コノ駒牽ハ、來月ノ騎射ノ手人ナドヲ、今日御覽ゼラルル」（四）手下ノ人。支配ノ下。手ノ者。配下。手下　部下

て-びど・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）手強シ。手

痛シ。手アラシ。ヒドシ。手酷。劇烈
堀川波鼓(寶永、近松作)中「手ひどくナレバ、昔ハジト、大道ヘコソ飛ンダリケレ」

てびゃうし (名) 手拍子 歌舞ニ、掌ヲ打チテ拍子ヲ取ルコト。 謡曲、櫻川「長閑ウツクシク着ナイテ、[illegible]、テ打チカヅキ、手拍子、人ニ囃サセテ、扇オットリ、鳴ルハ瀧ノ水」

てびろ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 手廣 (一)構ヘ廣シ。(家、屋敷ナドノ) (二)造詣深シ。藝ニ達ス。 盛衰記、十六、三位入道歌道ノ先達、既ニ達ストテ、出家シテ、源三位入道トモ云レケリ、大方、此頼政ハ、歌ニ於テハ、手廣き者ニゾ思召サレケル」

てふ (名) 蝶 (一)蟲ノ名。けむし、いもむし、いらむし、等ノ羽化セルモノ。身小サク、四翅大キク、六脚ナリ。其形、色、大、小、種種ナリ。好ミテ草木ノ花ニ飛ビ集ル。後、菜葉ニ黄ナル小卵ヲ遺ス。卵、化シテ蟲トナリ、蛹トナリ、後ニ、又、羽化ス。古名、カハビラコ。コテフ、テフマ、テフテフ。 詩語纂(宋、[illegible]) [illegible] 字鏡八十「蝶、加波比良古」 倭名抄、十九「蟲豸類、蝶」 (二)河豚ノ體中ニ居ル蟲ノ名。(河豚ノ條ヲ見ヨ) (三)蠶ノ蛾。 花よ蝶よト云フハ、子ヲ一方ナラズ、愛スルコトヲ云フ語 [illegible]祭文(安永、近松半二)「[illegible]蝶よ花よト、育ンダ一人娘ヲ尼ニシテ」 [illegible]、一、[illegible]花[illegible]ニツケテモ、今ハ、唯オリナバヤトノミゾ思サレケル」

てふ (名) 牒 〔說文「牒、札也」〕(一)文書ヲ記シタル、ふだ。 左傳、昭公二十五年「右師不敢對、受牒而退」 (二)官府ノ間ニ、往復スル文書。官府ノ移文。 鶴林玉露(宋、羅大經)「今世、官府移文、謂之牒」 儀式、[illegible]「[illegible]宮符并牒、事急[illegible]」

てふ (動) 〔ちふ、とふ(といふノ約)ノ轉〕 ト言フニ同ジ。テヘ。テヘリ。テイレバ。 (平安朝ヨリノ歌詞ニ云ヘリ) 古今集、十二、戀二「ウタタネニ、戀シキ人ヲ、見テシヨリ、ユメてふモノハ、タノミソメテキ」 伊勢物語、[illegible]「[illegible]てふ[illegible]」 枕草子、十、百三十一段「誰レゾ、ヨソニナルてふ」 「てふ物グルヒカ、ワレ人ニサ思ハレントハ思ハン」 平家物語、十一、[illegible]小兵といふ條」

てふ (接尾) 貼 藥ヲ調合シテ包ミタルヲ數フル語。ツツミ。服。 「藥三貼」

でふ (名) 帖 (一)折本。折手本。 輟耕錄(明、陶宗儀)「[illegible]帖云」 (二)法帖ノ略。

でふ (接尾) 帖 紙、又ハ、海苔ナドヲ賣ルニ、若干枚ニ分ツ稱。半紙ハ二十枚、美濃紙ハ四十八枚ヲ一帖トス。其他、種類ニ因リテ、種種ナリ。又、十帖ヲ一束トシ、海苔ハ十枚ヲ一帖トス。 字類抄「帖、デフ」 [illegible] 供物於北野[illegible]「[illegible]百帖」

でふ (接尾) 疊 〔疊ハ帖ニ通ズ、たたみ(疊)ノ條ヲ見ヨ〕 疊ヲ數フル語。 三内口訣[illegible] [illegible]ニハアラズ。「壹三疊」十疊敷」

てふあし (名) 蝶脚 〔銀杏脚ノ上略〕 花足ノ變ジタルモノ。蝶花形ニ似タレバ名トス。銀杏脚ノ條ヲ見ヨ。

デフィニション (名) 〔英語、Definition.〕 定義。又、釋義。

てふう (名) 手風 文字ノカキブリ。又、筆跡ノ風。字形ノ癖。書風。

てふうきん (名) 手風琴 〔英語、[illegible] organ. ノ譯語〕 風琴ノ一種。モト西洋ヨリ傳來ス。長方形ノ箱、中央、伸縮スル蛇腹ヲ備ヘ、其兩面ノ鍵ヲ押シ、兩手ニテ伸縮シテ鳴ラス。

てふがた (名) 蝶形 (一)蝶ノ形。(二)てふはながた(蝶花形)ノ條ヲ見ヨ。

でふぎ (名) 帖木 [illegible]扉、[illegible]ニ着ケテ、雨扉、相合ヘル所ノ隙ヲ掩フモノ。今、食障子ニ用ヰル帖木板ト云フモノ、是レナリ。 倭名抄、十「[illegible]戸帖木」

でふぎいた (名) 帖木板 前條ヲ見ヨ。

でふくうた (名) 疊句歌 一首ノ内ニ同語ヲ重ネテヨム歌。 奥義抄、上「疊句歌、同事ヲカサネヨムナリ、ココロコソ、ココロヲハカル、ココロナレ、ココロノアダハ、ココロナリケリ」ノ類。

てぶくろ (名) 手袋 手首ニ被ヒ、指、相分カルルヤウニ作レルモノ。拇指ノ外、四指合スルモノ、又、指ダケ出シタルモノナド、種種アリ。テヌキ。手套

でふざう (名) 捻像 〔集韻「捻、押也」〕 [illegible]土ヲ押ネ用ヰテ造リタル像。 [illegible]

てふざめ (名) 蝶鮫 〔皮ノ沙ヲ薄ク剝ゲバ、蝶ノ形ヲナセバ云フトゾ〕 鮫ノ類。北海ニ産ズ。長サ四五尺、身長ク、[illegible]尖リテ出デ、[illegible]シテ、首ヨリ尾ニ[illegible]

でふし (名) 楪子 [illegible]ベキ木皿ノ類。今、楪子ト云フモノカ。

[illegible]

てふじ (名) [illegible] [illegible]即時。即座。 [illegible]

てふじゃ (名) 諜者 (一)シノビノモノ。マハシモノ。間者。(二)刑事巡査ニ使ハレテ、探偵スルモノ。イヌ。手先。

てふじゃう (名) 牒狀 (一)マハシブミ。廻狀。廻章。移文。 平家物語、四、山門牒狀「[illegible]」 (二)ウッタヘブミ。訴狀。

てふ・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、規、二) 牒 牒ヲ送ル。牒狀ヲマハス。書通ス。 [illegible]

てふせん (名) [illegible] 棚ノ類ニテ貼リ附ク。

てふそく (名) 手不足 [illegible]

てふだ (名) 手札 [illegible]

でふたて (名) [illegible]

てふち (名) [illegible]

てふ-つがひ（チョウ-ツガイ）(名) 蝶番 〔元ハ多ク蝶ノ象ニ製シタルカ〕開戸ナドノかまちト柱トニ瓦シテ打チ付ケ、機アリテ、開閉ノ關節トスル金具。屛風ナルハ紙ニテ作ル、屈鉸 運歩色葉集「蝶交挍、テフツガヒ、蝶番」好色一代男(貞享、西鶴)三「屛風、てふつがひモ離レ」

てふ-てふ（チョウ-チョウ）(名) てふ(蝶)ト云フニ同ジ。俳諧新選、春「蝶蝶ヤ、野山ノ花ノ、乳房ヨリ」

てふ-てふ（チョウ-チョウ）(名) 喋喋 クチヤカマシク、シャベルコト。ベチャベチャ。史記、匈奴傳「喋喋而佔佔」注「喋、音牒、利口也、服虔曰、口舌貌、喋一」宋書、顧覬等傳、贊「小心翼翼、可以祗二事上帝一、喬夫喋喋、終不レ離二乎虎口一」 范仲淹、明堂賦「三代以還、習者開闢、諸儒爭レ協議、音喋喋」

でぶ-でぶ (副) 〔だぶだぶノ轉〕肉ノシマリナク、肥エ太リタル狀ニ云フ語。

てふ-てふ・し・シキ・シケレ・シク・シク（チョウ-チョウ・シ）(形、二) 喋喋 多言リテ喧シ。クチマメナリ。漢文帝文「言語元レ窮、應答不レ窮、云云、天下之人、唯事二口舌一、喋喋而已」

てふ-てふ-わげ（チョウ-チョウ-ワゲ）(名) 蝶蝶髷 又、てふてふまげ。髮ノ結ヒ方ノ一。左右ニワガネテ、蝶ノ翅ヲヒロゲタルサマヲナス。少女ノ結フモノ。略シテ、てふてふ。

〜てふ-どり（チョウ-トリ）(名) 蝶鳥 (一)蝶ヲ、羽アリテ飛ブヨリ、鳥ト見做シテ云フ語。源、廿二、玉鬘四十「梅ノ折枝、蝶鳥飛ビチガヒ」 紫式部日記「少將ノ君ハ、秋ノ草ムラ、蝶鳥ナドヲ、白銀シテ作リ輝カシタリ」 古事記、下(仁德)八「變二三色一蟲(蠶)ノ事ヲ擧ゲテ「一度爲二飛鳥一」 (二)てふとりのまひ(蝶鳥舞)ノ略。舞樂ノ迦陵頻ト、其答舞ノ胡蝶トノ稱。こてふらく(胡蝶樂)ノ條ヲ見ヨ。榮花物語、十七、音樂「ワラハベノ、蝶鳥の舞ドモ、タダ極樂モカクコソハト、推シ量リ思ヒヤリヨソヘラレテ」

で-ふね (名) 出船 〔入船ニ對ス〕湊ヲ乘リ出ス船。港ヲ出帆スル船。出港船。好色二代男(貞享、西鶴)五「ナジメバ出船ヲ悲シミ、松浦サヨ姫ガ思ヒヲナス」「出船千艘、入船千艘」

てふ-はな-がた（チョウ-ハナ-ガタ）(名) 蝶花形 祝儀ノ瓶子、銚子、提子ナドノ蓋ニ飾ルモノ。白紙ニテ、蝶ノ翅ヒロゲタル形ニ折リ作リ、紅白ノ水引ニテ結ブ。蝶ハ酒毒ヲ解ストテ用ヰルト云フ。婚禮ニハ雌蝶、雄蝶ナドトテ、折法アリ。烏帽子折草子(室町時代)「瓶子一具、てふはながたニ口包ミ、小結トリ添ヘ」 國性爺後日合戰(享保、近松作)嫁入式三獻「案ジ重ヌル蝶花形、銚子クハヘ、目馴レヌ作法」 四條流庖丁書(長享)「瓶子ノ蝶形ノヒダ」 舞草子、夢合(室町時代)「白キ瓶子ニテてふ形ニ口ツツマセ」

てふ-ふ（チョウ-フ）(名) 貼附 貼リ附クルコト。「郵便切手貼附」

てふ-ま（チョウ-マ）(名) てふ(蝶)ト云フニ同ジ。(相摸、下野、奧羽地方ノ方言)

て-ぶんこ (名) 手文庫 手箱ニ用ヰル文庫。

てふ-むすび（チョウ-ムスビ）(名) 蝶結 紐ノ結ビ方ノ一。蝶ノ形ニシタルモノ。孕常盤(正德、近松作)二「八色五色ノ組絲ニテ、十二ノ菊綴、四ツノ紐付、蜻蛉結ビ、蝶結び、女蝶男蝶ノ翼ヲマナビ」

てふ-よう（チョウ-ヨウ）(名) 貼用 貼リ附ケ用ヰルコト。「印紙貼用」

✤て-ぶら (名) 〔手振ノ訛〕手ニ何モ持タヌコト。空手。素手。徒手

て-ふり (名) 手振 (一)〔トモビト〕從者。宇津保物語、祭使三「御厩ドモヒキタテ、手ふりドモ立チナミタリ」長門本、平家物語、一、清盛捕二化鳥一事「家ノ子、郎等、てふり、強力ニ至ルマデ、一人モ殘サズ賞ハセケリ」 (二)セリ市、取引所ナドニテ、直段、相場ヲ、手ヲ振リテ表示スルコト。又、ソノモノ。

て-ぶり (名) 手振 手ヲ振ルサマ。樣子。顯季集「霞タツ、クラマノ山ノ、ウス櫻、手ぶりヲシテナ、ヲリゾワヅラフ」 猪忠集「天ノ川、ワタラセ廣ク、乘ル舟ノ、遲シト招ク、雲ノてぶりハ」

〜て-ぶり (名) 手風 フルマヒノコト。風俗。ナラハシ。風習。萬葉集、五 廿六「アマサカル、鄙ニ五年、住ヒツツ、都ノ提夫利、忘ラエニケリ」 袖中抄、四、左京兆歌「ウキ身ニハ、都ノてぶり、ワスラレテ、鄙ヘサソハム、アヅマヘモガナ」 方丈記「衣冠、布衣ナルベキハ、直垂ヲ着タリ、都ノてぶり忽ニ改リテ、唯鄙ビタル武士ニ異ラズ」

でふ-ろく（ジョウ-ロク）(名) 疊六 又、重六。雙六ニテ、二箇ノ塞トモ、六ノ目ノ出ヅルコト。大鏡、中、右大臣師輔「コノハラマレ給ヘルミコ、男ニオハスベクバ、疊六出デコトテ、打タセ給ヒケルニ、タダ一度ニ出デクルモノカ」

でふ-ゐん（ジョウ-イン）(名) 疊韻 (一)さうせい(雙聲)ノ條ヲ見ヨ。(二)漢詩ヲ作ルニ、同韻ノ字ヲ用ヰルコト。又、ソノ詩。次韻。和韻。

〜てへ（テエ）(動) 〔「と言へ」ノ約〕てふ(といふ)ノ條ヲ見ヨ。六帖、四、戀「戀てへバ、知ラヌ道ニモ、アラナクニ、怪シク惑フ、我心哉」 拾遺集、十八、雜、賀「我ノミヤ、子モタルてへバ、高砂ノ、尾上ニ立テル、松モ子モタリ」 命令法ナルハ。古今集、十八、雜、下「今更ニ、訪フベキ人モ、オモホエズ、ヤヘムグラシテ、門サセリてへ」

✤で-べそ (名) 出臍 臍ノ高ク出デタルモノ。初生兒ノ、胞ヲ斷チ損ジテ起ルト云フ。突臍 雙生隅田川(享保、近松作)三「色里ヘ向カヌデ、カイ綻物、臍ガ出[illegible]、大[illegible]ノ[illegible]ナク、腹ノ上ニ一番水瓜置イタ如ク」

て-へん (名) 手偏 漢字ノ偏ニアル才ノ字ノ稱。即チ、手ノ字ノ省ナリ。打、折、押、拔ナドノ如シ。挑ミ 挑手傍 雙生隅田川(享保、近松作)[illegible]女道化「其人ノ、[illegible]木ニ立テタル玉章故ニ、手偏指ス人山偏ナレト、トテモ命無ケレバナラヌ」

て-へん (名) 天邊 兜ノ名所、鉢ノ頂ノ處。即チ、其處ノ眞中ノ穴ナ、カシヤドリ、八幡座、天空の穴ナドト云フ。平治物語、二、待賢門軍事「兜ノてへんニ熊手ヲ打チカケ打チカケ、ツヅイテ走リケレバ」 盛衰記、三十五、高綱宇治河渡事「痛ク仕シテ手ヲ射ラルナ」 太平記、八、三月十二日合戰事「木寺相摸ハ、逆卷ク水ニ馬ヲ彼レ放テ、胄ノ天邊バカリ僅ニ浮ンデ見エケルガ」 關ケ原記、關原合戰「横井作左衞門、云云、甲ノ天邊ニツニ切リワラレナガラ、其儘討目見エ被レ仕」

〜てへ-り・ル・レ・ラ・リ・レ（テエ-リ）(他動、良變) 者 〔「と言へり」ノ約〕古ク、詔敕、奏書ナドニ云フ語。テイレバ。ト云ヘレバ。テヘレバ。てふ(といふ)ノ條ヲモ見ヨ。字類抄「者、テヘリ」 雄略紀、十六年七月「詔聚二漢部一、定二其伴造一者」 古事記、序「撰二錄稗田阿禮所レ誦之勅語舊辭一、以獻上者、謹隨二詔旨一、子細採摭」 宣旨「奉レ勅件人宜レ令レ任二河内守一者、年月日」 平戸記、寛元三年二月十日「諸社祭禮等、皆可レ有二行之儀一者、先幣物、褒物、庭積等、於レ今者無實也」 北條五代記(三浦茂信)三、房州里見家事「イヅレモ在名ヲ名乘ルてへれど、夜討曾我ノ舞ニ、下總ノ國ニハ、安西金鞠丸東條トアリ、是ハ相違ナリ、云云」

〜てへれば（テエレバ）(接) 者 〔「と言へれば」ノ約〕然レバ。サレバ。サテ。(前條ヲ見ヨ) 朝野群載、永久三年、齋院 延長三年十一月十四日、太政官符、風土記勘進「探二求部内一、尋二問古老一、早速言上者、諸國承知、依レ宜不レ得二遲回一」

て-ぼう (名) 手棒 手ニ持チタル棒。音

便ニ、てんぽうト云フ。杖。 狂言記、若市「上人、腰ヲ揺エカネテ、手棒ヲ振リ上ゲ、カカリ給ヘバ、若市ハ是ヲ見テ、モノモノシヤト云フママニ」

でぼかん (名) でびたひ(出額)ノ條ヲ見ヨ。デコ。デボチン。

〔**てぼこ** (名) 手鉾 〔手楯ニ對ス〕ほこ(鉾)ノ小ナルモノ。片手ニ持チテ使用ス。 倭名抄、十三八征戰具「手戟、天保古、人所持也」 盛衰記、六、入道院参企事「銀ノ蛭巻シタル手鉾ノ、秘藏シテ常ノ枕ヲ不放被立タル、鞘ハヅシ、左ノ脇ニ挾ミテ」 義經記、二、伊勢三郎義經の臣下に初て成事「萠黄威ノ腹巻ニ、太刀佩イテ、大手ほこヲ杖ニツキテ」 同、四、土佐房義經の討手に上る事「身ハ、一尺二寸アリケル手ほこノ、蛭巻白クシタルヲ、綱貝ヲ目貫ニシタルヲ持テ參ル」

てぼそ (名) 手細 (一)手、又ハ、把手ナドノ、細ソヤカナルコト。又、ソノモノ。(二)綿帽子ノ小舟ノ形シタルモノ。(船綿ノ條ヲ見ヨ) 好色二代男(貞享、西鶴)四「紅打ノ手細ニ目ヲ塞ギ、裏附ノ袴裾高ニ」 物類稱呼、四「綿帽子、江戸ニテ てぼそト云フ」 色三味線(元祿、自笑)五「紅打ノ手ぼそニテ目ヲ塞ギ」 (三)女ノ扱ノ腰帶。 松の葉(元祿)四、半太夫節、上野花見(狂女)「白繻子、縫揩箔ノ幅廣ヲ、ユカリノ色ヤ紫ノ、チリメンてぼそ結ビサゲ」 物類稱呼、四「肥後ニテてぼそト云フハ、腰帶ノコトナリ」 (四)京都ニテ、筒袖ノ襦袢。

でぼちん (名) でびたひ(出額)ノ條ヲ見ヨ。デボカン。デコ。

てほどき (名) 手解 教ヘ初ムルコト。(藝術ヲ) 又、物事ノ初歩ヲ、教ヘ說クコト。又、ソノタメノ書物。

てほん (名) 手本 (一)〔手習ノ標準トスルモノノ義〕文字ヲ書ケル帖。敬ヒニ、御本、又ハ、御手本ナド云フ。習字本。習字帖。[illegible]本 字帖 源、三十二、梅枝二「手本多クツトヘタリ シ中ニ、中宮ノ母御息所ノ、心ニ入レズ走リ書イタマヘリシ」 同、五、若紫「今メカシキ手本習ハバ、イトヨウ書イタマヒテムト見給フ」 日本紀纂疏(一條兼良)上、三「伊呂波讀、和字四十七字[illegible]四十七二」 (二)倣ヒテ作ルベキ基トナルモノ。様式 (三)倣ヒテ行フベキ事。タメシ。ノリ。カタ。シキタリ。先例 鑑 模範 枕草子抄(文明)七「何ノ手本ニセウゾナレバ、親ヲ手本ニセウゾ」 太平記、十、高時井一門以下於東勝寺自害事「早早御自害候ヘ、高重先キヲ仕リテ、手本ニ見セ進ラセ候ハンニ」

てま (名) 手間 〔いとま(暇)ノ略轉カ、手暇ノ意〕(一)物スルヒマ。事ヲ爲スニ、費ユル暇。 貫之集、三「ホトトギス、鳴クナル聲ヲ、早苗取ル、てまウチオキテ、アハレトゾ聞ク」 六帖、二、關「八雲タツ、出雲ノ關ノ、てまノ關、イカナルてまニ、君サハルラム」 狂言記、宗論「廿日、三十日、手間モ取レウモ知レヌ程ニ」 (二)工匠ノ勞作。勞力。手工 (三)てまちん(手間賃)ノ略。 好色二代男(貞享、西鶴)八「小判三兩、守本尊様ノ手間、九兩二分、揚屋ノ取替」 (四)てましごと(手間仕事)ノ略。

てまかなひ (名) 手賄 自ラ、自分ノ食事ヲマカナフコト。自炊

てまくら (名) 手枕 腕ヲ曲ゲテ、枕ニ代ヘテ臥スコト。ヒヂヲ枕トスルコト。タマクラ。 好色一代男(天和、西鶴)五「下ヲ聞ケバ、物ヲ云フ男モ見エズ、手枕シテ、[illegible]香ミ鹽シ」 好色一代女(貞享、西鶴)一「[illegible]ヲ聞ジテ、獨リ手枕ノ夢モマダ見ズ」 一茶の句「アシマクラ、手枕[illegible]ノ、[illegible]マシヤ」

〔**てまさぐり** (名) 手弄 手ニモテアソブコト。手先ニテ弄スルコト。 枕草子、九、九十一段「扇ヲ てまさぐりニシテ、書ハ誰ガ書キタルゾ、ナドノタマヒテ」 宇津保物語、田鶴村鳥上「[illegible]ヲ手まさぐりニ[illegible]」 [illegible] 集、十七、[illegible]「[illegible]モノナド[illegible]、手まさぐり[illegible]」 [illegible] 二、御飯ヲマロガシテ、鳥ノ卵ノ形ヲシテ」 [illegible] ニ、スズシノ絲ヲ長ウ結ビテ」

てましごと (名) 手間仕事 (一)手間ノカカル仕事。 (二)手間賃ヲ貰ヒテ、スル仕事。又、工匠ノ、手間ノカカルニ應ジテ賃ヲ受ケ、仕事スルコト。入仕事。(日メ、日限、金高ヲ定メテ請負仕事ニ對ス) 略シテ、テマ。

てまだい (名) 手間代 次條ノ語ニ同ジ。

てまちん (名) 手間賃 手間ノ報ニ取ル賃錢。仕事ニテ得ル錢。てまだい。作料。工錢 [illegible]「[illegible]一日ノ手間賃デモ、中中買ハルルモノカイノ」

てまど (名) 手窓 ヒイラケマド。[illegible]

でまど (名) 出窓 外部ヘ張リ出ダシテ[illegible]

〔**てまどひ** (名) 手惑 [illegible]トマドフト云フ意ヲ云フ語。狼狽ヘ惑フコト。 宇津保物語、[illegible] 宇治拾遺、四、第三條「弟子ドモ、てまどひシテ[illegible]」 [illegible]ドモモ步人モ、てまどひシ泣キサワギテ」

てまどり (名) 手間取 一時、手間賃ヲ取リテ、他人ノ仕事ヲスルコト。[illegible] リテ何處ニテモ、役場ノ[illegible]ノサ」

てまどる [illegible] 手間取 [illegible]

てまね (名) 手眞似 [illegible]眞似テ、人ニ示スコト。手話。[illegible]

てまねき (名) 手招 手ニテ招クコト。[illegible]

てまはし (名) 手廻 [illegible]

てまはり (名) 手廻 [illegible]ナセト。テヅカラ。ソバ。マハリ。 [illegible] (二)主將ノ傍ヲ護ル兵士。[illegible]

てまはりにもつ (名) 手廻荷物 [illegible]荷物。(旅行ナドニ)

てまへ (名) 手前 (一)我ガ手ノ前[illegible] [illegible]

てまへ (代) 手前 [illegible]

浮世風呂(文化、三馬)二編、下「スベテ手前ノ子ニ理ヲツケテハ濟ミマセン」(二)轉ジテ、對稱ノ代名詞。下輩ニ用キル。其方。汝。貴樣。訛シテ、てめえ。

でまへ (名) |出前| 飲食店ニテ、品ヲ、註文シタル家ヘ、送リ屆クルコト。又、ソノ品モノ。仕出シ。(見世賣、內喰ニ對ス) 江戶名物詩、初編、瓢簞茶漬「俳諧之關小集筵、浮世茶漬江ニ出前ニ」「出前持」

てまへ-がって (名) |手前勝手| 自身ノミ、氣儘勝手ヲスルコト。自分勝手。剛愎自用。(次條ヲ參見セヨ)

てまへ-かん (名) |手前勘| (手前勝手ノ訛カ) 物事ヲ、自己一人ニテ、考ヘキメルコト。又、ソノ癖ノ人。

てまへ-みソ (名) |手前味噌| 自分ニテ、自分ノコトヲ、ホムルコト。自慢。

てまめ (名) |手實| 事ニ實ナルコト。勞力ヲ厭ハズ、働クコト。浮世風呂(文化、三馬)三編、上「着物ナドモ、手まめニ洗濯テモ致シテ」

てまもり (名) |手玩| テアソビ。オモチャ。新六帖、六「道ノベノ、芝生ノツバナ、ヌキタメテ、ウナヰ子ドモガ、手守リニセン」

てまり (名) |手毬|手鞠| (一)玩具ノ一種。綿ヲ心トシ、彩絲ニテ絡ヒカガリテ飾リタル毬。女兒、コレヲ掌ニテ地ニ打チカヘシテ弄ブ。コレヲ手毬ヲつくト云フ。紗毬 明月記(藤原定家)安貞元年十一月十九日「其間被二置二懸物一、令二從日一(原注)手鞠、檜扇、五節櫛、枕」 尺素往來(一條兼良)「面面偶御會合之次、圍碁、將棋、双六、下貽、楊弓、手鞠等、終日可二張行申一候」 平治物語、三、惡源太爲二雷事「手鞠許ノ物、我ノ方ヨリ飛ビツルハ、面面ハ見給ハサヌカ」 吾妻鏡、廿六、貞應二年正月二日「於二若君御方一、有二手鞠御會一」 當所遊達(堀波道圓)六、今木元(寬永廿年)「詠懷、兒女不レ知二復識事一、毬摧、羽笠聲譁ニ」 (二)樹ノ名。高サ五七尺、葉ハはさねうつぎ(箱根空木)ニ似テ、圓クシテ鋸アリ。夏ノ初、小花、簇リ開ク、圓サ一二寸、手毬ノ如ク、初、青クシテ、後ニ白シ。ってまりばな。繡毬 繡毬 (三)櫻ノ一種。千瓣ニシテ、數十花、簇リ開キ、形、手毬ノ如シ、遲ク開ク。其花ノ、小サクシテ淡紅ナルヲ、小手毬ト云ヒ、大キクシテ白キヲ、大手毬ト云フ。てまりざくら。

でまり (句) までもあれノ略轉カ。平家物語、九、谷落事「何でまり、敵ノ方ヨリ出來ラム者ヲ、遁スベキヤウナシ」 孟子抄(文明)二、廿「何でまり道ヲ失テバ、ナンデモナイ事ゾ」 同、十三、廿「舜、云云、一言でまり、善言ヲ人ガイヘバ、マ一度ヨウ聞ウトセラレタゾ」 同、十四、廿「ワレハ、アレニでまり、是ニでまり、ヨウ云ハルル事ガナイゾ」 史記抄(文明)十五「當世ノイカナ宿學でまり、ナンでまり、云イマクルホドニ、アタルカタキモナイゾ」 同、十廿「君若今でまり、不脩德ゾ、此舟中ノ人モ皆御カタキニテアラウゾ」 東海道名所記(萬治)三「メシモチ出デ、ツレナイ御旅人ニナンでまりナクテ、ウッカキニクカルベイ」(カキトルトハ、食フヲ云フ)

てまり-うた (名) |手鞠唄| 女兒ナドガ、手鞠ヲツクトキニ、ウタフ唄。 大祇全集「口馴レシ、百ヤ孫子ノ、手鞠歌」 長唄、初子日「東風ソヨグ門松ニ、追羽根ノ音、手毬唄、添ヘテ盡セヌ萬代ノ聲」 常磐津、子寶三番叟「突クヤ手毬の數ヘ唄、一ツト云ヒテ如月ノ」 嬉遊笑覽、四、雜伎「手まり唄、オラガ姉サマ三人ゴザル、云云イヘルハ、カゾヘ歌ノ類ナリ」 守貞漫稿、廿三、手鞠唄「ヒトツトヤ、ヒイトヨアクレバ、ニギヤカニ、カアザリタテタル松飾、マツカザリ、マツカザリ、云云」

てまり-くわ (名) |手鞠花|手毬花| てまり(手毬)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。大和本草、十二、花木「繡毬花、テマリクハ」

てまり-ざくら (名) |手毬櫻| てまり(手毬)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。 覆醬集(丈山)下「手毬櫻、櫻ノ一種、花點綴シテ、手毬ノ如シ」

でまる (名) |出丸| でまろ(出城)ニ同ジ。(丸ノ條ヲモ見ヨ) 松隣夜話、上「謙信、池ノ西端ニ、云云、辨當ヲ取リ寄セ、茶ヲ喫セラルル所ヲ、金澤ト云フ者、出丸ヨリ鐵砲十挺計リ連ネテ」

てみきん (名) (手見禁ノ意カ) てみせきんニ同ジ。博多ニテ、てびんきんト云フ。

てみじかに (副) |手短| クダクダシカラズ。カイツマンデ。簡略。簡單。

てみせ (名) |手爲見| 技前ノホドヲ、例ニ示スコト。テダレヲ見スルコト。

でみせ (名) |出店| 本店ヨリ、他ヘ出張リテ、開キタル店。デダナ。支店。支鋪。 塵塚談、下「上方筋ノ豪富ナル者ハ、皆諸國ニ出店ヲ置事ナリ、江戶ハ過半彼等ガ出店多シ」 御觸帳(享保九年)二「町中商賣人之內、關東筋ニ出店等有レ之、商賣ヲモ致シ候者、遂ニ吟味ニ書付」

てみせきん (名) 碁、將棋、雙六ナドノ盤ニワタリテ云フ語。待手ナシト云フコト。テミキン。 嬉遊笑覽、四、下「世話盡(明曆)ニ、手みせきんトアリテ、註ニ、三盤ニワタルト書タリ、今略キテ、手みきんト云フ、廣ク賭博ニ用トカヤ」

てみづ (名) |手水| (一)手ヲ洗フベキ水。テウヅ。 允恭紀、元年十二月「親執二洗手水一、進二手皇子前一」 (二)手ヲ洗ヒテ、手ヨリ滴ル水。「手水ヲカクル」 (三)餅ヲ搗クトキ、杵、又ハ、捏取ノ手ヲ濡ス水。

でみづ (名) |出水| 大雨ニテ、川、池ナドノ水ノ、大イニ增スコト。マシミヅ。溢流 一茶句集「ウカウカト、出水ニアヒシ、木槿哉」

て・む・ム・メ (助動) 現在完了ノ助動詞ノへノ變化ナルてニ、未來ノ助動詞ノむノ添ハリタルモノ。萬葉集、八 五十「沫雪ニ、フラレテ咲ケル、梅ノ花、君ガリヤラバ、ヨソヘてむカモ」「行キてむ」見てむ」

てん (名) |天| (說文「天、顚也、至高無上、从二一大一也」) (一)アメ。ソラ。虛空。 荀子「天無二實形一、地之上至虛者、皆天也」 白居易、長恨歌「在レ天願作二比翼鳥一、在レ地願爲二連理枝一」 程子遺書「天之蒼蒼、豈是天之形」 十訓抄、中、第六、可レ存二忠信、廉直一「獨リ生ケリトテモ、何ノ益カアラン、天ニ仰ギサケビテ、自ラハカナクナリニケリ」 (二)支那ニテ、コレヲ上天、皇天トモ云ヒ、天ヲ萬能ノ神トシテ稱スル語。又、コレヲ上帝、后帝、天神帝トモ云フ。又、造物者トモ云フ。造化。天然。自然。コレニ對シテ、地ノ神ヲ后土ト云フ 中庸、第廿章「誠者、天之道也」 論語、八佾篇「獲二罪於天一、無レ所レ禱」 同、同篇「天將下以二夫子一爲中木鐸上」 同、詩經、大雅、蕩之什、蕩篇「蕩蕩上帝、下民之辟」 同、小雅、北山之什、小明篇「明明上天、照二臨下土一」 同、大雅、蕩之什、抑篇「肆皇天弗レ尙、如二彼泉流一、無二淪胥以亡一」「天ノ爲セル所」天命」天運」天才」天質」 (三)天子ニ係ル物事ニ添ヘテ、尊稱シ奉ル語。「天覽」天顏」天盃」天朝」 (四)俗ニ、初。最初。(天窓ヨリ轉ジタルカ)「天カラ出來ヌ」天デイケヌ」 (五)天鵞絨ノ略。(文字ニツキテ云フ)「唐天」本天」 (六)ところてん(心太)、又、かんてん(寒天)ノ略。

てん (名) |點| (一)墨、朱ナドニテ記ス小サク圓キ標。チョボ。 塵添壒囊抄、四、四十六條「土字ニ點ヲウツアリ、不レ打アリ、何レカ正ゾ、先ヅ不レ打、唐書ニ點ナシ」「點ヲ打ツ」點ヲツク」 (二)漏刻ニテ時ヲ計ルニ云フ語。(漏刻ノ條ヲ見ヨ) 謠曲、天鼓「夜遊ノ舞樂モ時去リテ、五更ノ一點、鐘モ鳴リ」「寅ノ一點」丑ノ二點」 (三)漢文ヲ訓讀スルニ、字ノ傍ニツク

ル標(シルシ)、返點、オホカヘリ、かさてん等ヲ云フ。(ふりがなノ條ヲ見ヨ)「點ヲ付クル」「道春點」「一齋點」「後藤點」 (四)詩文(連歌、俳諧ナド)ニ批點スルコト。添削。ナホシ。優劣ノ判。 後漢書、禰衡傳「衡覽、筆而作、文無加點、辭采甚麗」 俳諧染糸(元祿)「連歌俳諧ノ點ハ、古法ハ點ヲ引ク、長ト云フハ秀句ニテ、二點ヲカケ、珍重ト云フハ、一點半、平ハ一點ヲカクルナリ」 (五)指シ示シタル箇所。部分。「コノ點ヲ直セ」 (六)點數。評點。(物ノ成果ニ)「及第點」「點ガ足リヌ」 (七)〔人ノ瑕(キズ)ヲ摘ミ指ヲサスコト。批難。 源、三十四、上、若菜、上「人ニてんツカルベキ振舞ハセジ」 同、廿五、螢「々ダ光源氏ノ、てんツカレ給フマジクト、萬ニ思シノタマフ」 河海抄、注「世俗ニ點サスト云事也」。 (八)きう(キュ)てん(灸點)ノ略。

てん (名) 〔轉〕 (一)字ノ音ノ、他ノ音ニウツリタルモノ。ウツリ。カハリ。(木(キ)の葉ヲこの葉、黄金(キガネ)ヲこがねト云フ類) (二)てんく(轉句)ノ略。

てん (名) 〔篆〕 支那、古代ノ文字ノ一體。てんしよ(篆書)ノ條ヲ見ヨ。

てん (名) 〔典〕 (一)ギシキ。サホフ。「大典」 (二)ノリ。オキテ。 禮記、月令篇「孟春之月、云云、乃命太史守典奉法」 (三)フミ。ショモツ。 書經、五子之歌「明明我祖、萬邦之君、有典有則、貽厥子孫」 (四)質物ヲ抵當ニシテ、金ヲ借ルコト。シチニ入ルルコト。 杜甫詩、「朝回日日典春衣」

てん (名) 〔殿〕 「清音ニ讀ムヲ法トス」 一でん(殿)ニ同ジ。「てん奏」「てん上」「てん下」

〜**てん** (名) 〔[illegible]〕 たかむしろ(竹席)ニ同ジ。 倭名抄、十四、坐臥具[illegible]

テン (名) 〔天〕 「梵語、提婆、(Deva)、又、素羅(Sura.)、光明ノ義」 (一)人間以上ノ勝妙ノ果報ヲ受クル處。即チ、天竺ノ神ノ住所トナス。總ジテ、天趣ト名ヅケ、六道ノ一。天道。 大乘義章、六本「天者如[illegible]淨心得、自光明、故名之爲天」[illegible] (二)轉ジテ、其住所ニ拘ハラズ、天竺ノ一切ノ鬼神(神)ヲ天ト云フ。即チ、帝釋天、毘沙門天、辨財天、四天王、三十三天ノ類ノ如シ。

〜**テン** (名) 〔貂〕 〔貂(テウ)ノ朝鮮音ハ、貂(トン)。和字ニ獏ノ字ヲ用ヰル〕 いたちニ似タル獸ノ名、毛深ク、黄黒ニシテ光ル、尾、粗大ナリ。山地ノ樹木、又ハ、古屋ナドニ棲ム。ノイタチ。黄鼬 倭名抄、十八、毛群名「貂、天、似鼠黄色、皮堪作裘」 字鏡抄「貂、テン」 萬葉集、九、武藏「天井ニ鼬ヨリモ大キニ、てんヨリモ小サキモノ」

でん (名) 〔傳〕 (一)事歷ヲ記シテ、世ニ傳フルモノ。傳記。 孟子、梁惠王、下篇「武王伐紂、有諸、孟子對曰、於傳有之」 (二)史ニ、人臣ノ一代ノ事ヲ記スモノ。(本紀ニ對ス) 史記、太史公自序「扶義俶儻、不令己失時、立功名於天下、作七十列傳」 (三)ツタフルコト。サヅクルコト。「家傳」「傳授」 (四)シュクバノ車馬、又ハ、人夫。「驛傳」「傳馬」 (五)經書ノ解釋。「春秋左氏傳」「春秋公羊傳」 (六)シカタ。ヤリカタ。「ソノ傳デ來タ」

でん (名) 〔殿〕 (一)貴人ノ邸宅、又ハ、寺社ノ宮殿ノ稱。トノ。又、おほとの、ごてん。 [illegible] (二)[illegible]

てんあん (名) 〔恬安〕 ヤスラカナルコト。安穩。 [illegible]心、心既和平、其性恬安不、[illegible]

てんい (名) 〔天意〕 (一)天帝ノ心。神意。 [illegible] (二)天然自然ノ理。又、造化ノ心。「上ハ天意ニ違シ、下ハ人望ニカナハン」 [illegible] (三)天子ノ意見 [illegible]

てんい (名) 〔典衣〕 (一)支那ニテ、衣服ナドヲ掌ル役 [illegible] (二)衣服ヲ質ニ入ルルコト。てん(典)ノ條ノ(四)ヲ參見セヨ。

てんいう (名) 〔天佑〕〔天祐〕 天帝ノタスケ。神明ノ加護。天ノ佑助(タスケ)。 易經、上經、大有卦 [illegible]

てんいちじん (名) 〔天一神〕 なかがみ(天一神)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

てんいちたらう (名) 〔天一太郎〕 [illegible] 天一天上ノ朔日(最初ノ日)ノ稱。(八專ニ入リテ二日目ツ[illegible]) [illegible]

てんいちてんじやう (名) 〔天一天上〕 [illegible]

[illegible]ノ稱。 小右記(小野宮實資)[illegible]

てんいん (名) 〔天胤〕 天帝ノコツヤ。又、帝王ノ胤(タネ)。 [illegible]

てんうん (名) 〔天運〕 (一)天然ノ理ノ循[illegible] (二)天ノ定メタル運命。天然ノ運命。 [illegible]

てんえ (名) 〔天衣〕 天人ノ着ル衣。羽衣。天ノ衣。天ノ羽衣。 ごろも(五衣)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]

でんえふ (名) 〔粘葉〕 又、でつてふ。冊ノ仕立方ノ一種。紙ヲ中央ヨリ折リテ、折目ニ孔ヲ穿チ、ソノ折目ニ糊ヲ附ケテ重ネ、孔ニ絲ヲ貫キテ綴ヂルコト。 [illegible]

てんおん (名) 〔天恩〕 (一)造化ノ恩。上帝ノメグミ。 [illegible] (二)[illegible]

てんか (名) [illegible]

(二)日本、支那ニテ、其國内ノ稱。書經、大禹謨「奄有四海、爲天下君」保元物語、一、新院御謀反ノ事「思食立ツ事ニ、仁義ヲ以テ位ニ即ケ奉リテ、天下ヲ我儘ニ取行ハバヤト思シ立チ給ヒケレバ」「天下ヲ取ル」天下太平」天下一統」(三)德川時代ニ、將軍ヲ指シテ云ヒシ語。(四)我儘ニ振舞フコトニ云フ語。「嬶天下」

てんか (名) 添加 添ヘ加フルコト。添ハリ加ハルコト。附加。附益

てんか (名) 轉嫁 (一)二度、嫁入リスルコト。再緣組スルコト。再嫁。再緣。再婚。再醮。(二)我受クベキ罪、又ハ、責任等ヲ、他人ニ轉ジ負ハシムルコト。

てんか (名) 天河 アマノガハ。銀河。天漢。沈佺期詩「曉月臨レ窗近、天河入レ戶低」

てんか (名) 殿下 〔上ヲ清音ニ、下ヲ濁音ニ呼ブヲ例トス。今ハ皇太子、皇族ニ限リ、でんかト讀ム。直接、太子、三后ニ啓スルハ、恐アルヲ以テ、其殿下ニアル人ニ言上スル意ヨリ轉化セシ語〕皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃、親王、親王妃、內親王、王、王妃、女王等ノ名宛ノ下ニ記シ(又、呼稱ノ時)テ、尊稱トスル語。醍醐天皇以後、外ノ攝政、關白ニモ、僭シテ用キラル。(後世、秀吉ヲ天下様(テンカサマ)ト云ヒ、住吉ノ天下茶屋ハ、豐臣關白ノ休ミシ所ト云ヒテ、てんがぢゃやト云フモ、殿下(テンカ)ノ意ナリ)或ハ、單ニ記シテ、代名詞ノ如クニモ用キル。儀制令「率土之內、於三后皇太子上啓、稱殿下」集解「殿下皇太子所レ稱」名目抄「殿下、テンガ」

てんが (名) 典雅 オモオモシクシテ、品ヨキコト。タダシク、ミヤビヤカナルコト。後漢書、東平憲王蒼傳「以其文典雅、特令ト校書郎賈逵爲之訓詁」文心雕龍(梁、劉勰)「原夫顯附典雅、辭必清議」

てんが (名) 天鵞 ククヒ。ハクテウ。

でんか (名) 田家 キナカヤ。三國志、魏志、夏侯惇傳「汝田家子、今仕至二千石、物大爲不祥」

でんか (名) 傳家 かでん(家傳)ニ同ジ。蘇軾與通聯句「傳家詩律細、已自過宗武」

でんか (名) 殿下 (一)宮殿ノ下。又、殿堂ノ階ノシタ。史記、荊軻傳「群臣侍殿上者、不レ得レ持尺寸之兵、諸郎中執レ兵、皆陳殿下」溫庭筠詩「披レ香殿下櫻桃熟。結レ綺樓前芍藥開」(二)支那、漢代以後、皇族ノ敬稱ニ用キル。猶、てんが(殿下)ノ條ヲモ參見セヨ。高允、諫東宮書「殿下、國之儲貳、四海瞻レ之」事物紀原「漢以來、皇太子、諸王、稱殿下、漢以前未レ聞」

てんかい (名) 展開 (一)ノビヒラクコト。ノベヒラクコト。廣ク擴ガルコト。「局面展開」(二)軍隊ニテ、密集セル部隊ノ散兵トナルコト。

てんがい (名) 天涯 ソラノハテ。至ッテ遠キ地。李華、弔古戰場文「布レ奠傾レ觴、哭望天涯」徐陵、爲陳武帝與嶺南酋豪書「天涯藐藐、地角悠悠」

てんがい (名) 天蓋 〔蓋ハ覆蓋ノ義、モト天人ノ供養ニ用ヒシ故ニ云フ〕(一)キヌガサ。高キ柄ノ先、大イニ曲リテ、其端ニ蓋(ヤネ)ノ如キ物ヲ釣リ下ゲテ、飾リヲ垂レ、佛像ノ上、或ハ、葬送ノ棺ノ上ナドニカザス。佛蓋。寶蓋 增鏡、北野雪「玉ノ幡、瓔珞ノ天蓋、天ニ光ヲカガヤカシ」太平記、廿七、田樂事「樂屋ノ幕ニハ纐纈ヲ張リ、天蓋ノ幕ハ金襴ナレバ、片片ト風ニ散滿シテ、炎ヲ揚グルニ異ナラズ」(二)虛無僧(コムソウ)ノ被ル編笠ノ名。高ク深クシテ、全ク面ヲ覆フ。(三)僧家ニテ、たこ(蛸)ノ隱語。形、相似タレバ云

フ。文化の川柳「本堂ノ、たこハ新場ガ、施主ニツキ」(本堂ハ、淺草觀音堂、新場ハ、新場魚市場)

てんがい-ざめ (名) 天蓋鮫 はたざめ(幡鮫)ニ同ジ。

てんか-いち (名) 天下一 天ノ下ニ、ナラビナキコト。世一(ヨイチ)。日本一。無雙 信長記、六「天下一號ヲ取ル者、何レノ道ニテモ大切ナルコトナリ、但、京中諸名人トシテ、內評議有テ可レ相定事」同、十三「信長、鏡屋宗白ノ鏡ノ裏ニ、天下一ト銘シタルヲ見テ、去春何レノ鏡屋ヤラン捧ゲシニモ、裏ニ天下一ト銘シツル、天下一ハ唯一人アッテコソ、一號ニテアルベケレ、二人アルコトハ、猥ナルニアラズヤ」(工匠ノ天下一ノ銘ヲ禁ゼラレタルハ、天和二年七月ト、盛衰鏡ニ見エタリ)甲陽軍鑑、二、品第五「猿樂ニ高安ト云フ者、此頃天下一ノ太鼓打ナリ」昨日は今日の物語(天正)「此マジナヒ、チトオソクバ、アブナカッタガ、サリトテ天下一程デアル」武邊咄聞書(延寶、國枝清軒)五、秀康卿阿國歌舞伎踊御覽事「今天下ニ幾千萬ノ女アレドモ、天下一ノ女ト、世ニ譽メラレ、名高キハ、此女ナリ、吾天下第一ノ男ト、世ニ言ハレズ、アノ女ニサヘ、劣リ果テタルヲ思ヘバ、泣カレケル、云云」鷹筑波集(寛永)三「念中入レ、結ヒタル筆ハ、天下一」難波鶴(延寶)「筆師、天下一、備後町、浦辻河內等」同「天和二年ニ、賣物ニ天下一ノ字ヲ記スヲ禁ゼラル」

てんがい-ばな (名) 天蓋花 まんぢゅしゃげ(曼珠沙華)ニ同ジ。

てんがう (名) 惡作 〔田樂(テンガク)ナラムト云フ〕ザレゴト。クチテンガウ。(戲言)又、フザケ。イタヅラ。ワルサ。(若越地方ニテ、惡戲、不良ノ所業、イタヅラヲ、てんごくト云ヒ、伊豫國宇摩郡東部ニテハ、惡戲、イタヅラヲ、てんごト云フ)好色二代男(貞享、西鶴)一「烟草吸ヒ付ケテ、烟ノ輪ナドヲ吹キ出シ、又ハ鼻カラ通ハセ、てんがうノアルホド盡クシテ後」心中天網島(享保、近松作)上、北新地「てんがうノ念佛」丹波與作(寶永、近松作)

上「彼レハ人ノ口てんがう、花ノお江戸ハ京優リ」女殺油地獄(享保、近松作)下「小唄、淨瑠璃、口てんがう、西口、南、口口ニ、行クモ歸ルモサハリ無キ」閑節(延寶)寛活一休「サテ、山賓カナ山賓カナ、ククラケイワンてでんがう、今時ソノ手ヲクンベイカ」

てんがく (名) 篆額 石碑ナドノ上部ニ、篆書ニテ記シタル題字。舊唐書、李華傳「華嘗爲魯山令元德秀墓碑、顏眞卿書、李陽冰篆額、後人爭摸寫之、號爲四絕碑」

でんがく (名) 田樂 (一)一種ノ伎藝。田儛(デンブ)ヨリ變ズ。古ヘ、田樂法師ト云フ者起リ、春日祭ノ時ナドニ行ヘリ。堀河院ノ頃ハ、殿上人モ御覽ジ、ナグサミタリ。コレニ高足、鷺足ナドノ技アリ。鎌倉北條ノ末、足利將軍ノ初ナドニハ、盛ニ上下ニ、モテハヤサレキ。貞和五年ニ、京都ノ四條河原ニテ、近江ノ本座、新座(奈良ニモ本座、新座アリ、本座ハ法師ニテ、新座ハ總髮ナリ)ノ田樂セシ時、猿樂ヲ合ハセテ舞出セシガ、後ハ田樂衰ヘテ、猿樂ノ能、專ラニ行ハルルニ至レリ。今モ地方ノ神祭ナドニ、編木(ビンザサラ)ヲ弄スル田樂、所所ニ遺レリ。洛陽田樂記「永長元年之夏、洛陽大有田樂之事、初レ自閭里、及於公卿、高足、一足、腰鼓、振鼓、銅鈸子、編木(ササラ)、殖女、賤女之類、日夜無レ絕、喧嘩之甚、驚人耳」尺素往來「新座本座田樂、和州江州田樂、可レ播所能候」百練抄、永長元年七月「殿上侍臣有田樂事、凡近日上下所所、莫レ不レ翫田樂」滿濟准后日記、應永廿六年三月十七日「今日田樂在レ之、六角堂勸進、云云、新座增阿之沙汰也、御棧敷管領奉行」同、永享四年九月九日「雨降、仍一物等用レ笠了、師子之間無相違、田樂、刀玉計也、自餘一向略レ之了」(二)田樂ニ用キル田鼓ノ名。(田鼓ハ、腰ニ結ビツケテ、打鳴ラス鼓ノ一種)榮花物語、十九、御裳着「マタ田樂ト云ヒテ、アヤシキ様ナル鼓腰ニ結ヒツケテ」今昔物語、廿八、第七語「或ハ、ヒタ黑ナル

田樂ヲ襲ニ結付テ、法ヨリ出ヲ取出シテ、左右ノ手ニ桴ヲ持タリ」 (三)田樂ヲナス者。田樂法師。 [illegible] (四)次條ノ語ノ略。

でんがく-どうふ (名) [田樂豆腐] (田樂法師ノ鷺足ニ乘ルニ、白袴ニ色アル衣ヲ着タルノニ、豆腐ニ味噌ヲ塗リタルガ、似タレバ云フ) 昔ハ豆腐ヲ方ニ切リ、竹串ノ中央マデ、裂キタルニ刺シテ、味噌ヲツケ、爐中ノ灰ニ立置キテ、火ニアブリ焼キタルモノ。(徳川幕府ニテハ、短冊豆腐、田樂焼トモ云フ) 略シテ、田樂。 [illegible] 由來「高足ヲ、フミソコナヘル、面白ヲ、灰ニマブセル、冬ノ田樂」 宗長手記、下、大永六年十二月「爐邊ニ [illegible]」 [illegible]「豆腐ヲ程ヨク切リ、串ニサシ、簾ノ上ニ並べ、上ニスダレヲ置キ重ヲシテ、水氣ヲ去リ、甘味噌、辛味噌、半々ニマゼ、裏ゴシニシ、鍋ニ取リテ、砂糖ト煮出汁トヲ入レ、マゼナガラ火ニカケ、アサクラ山椒ヲ少シ入レ、程ヨクネリツメ、サメタル時、又、味噌百匁ニ、玉子一個ノ割合ニ入レ、木ノ芽ヲ少シ刻ミ込ム。後、豆腐ヲ鐵橋ニノセテ、狐色ニ焼ケタル時、カヘシテ前ノ味噌ヲヌリ、他ノ一方モ同ジクナスナリ」 [illegible]「アブレタル、山遣ドモガ、出テ合ヒテ、串刺シヤセム、田樂ガクボ」 後ニ、おでん(御田)ト云フモ、田樂ヲ略シテ、丁寧ニ云ヒシ語ナリ。其條ヲ見ヨ。 東海道中膝栗毛(文化、一九)[illegible]ダ今おでんガデケマス、マアーツ上リナサレ」

てん-が-じゅう (名) [天鵝絨] ビロオド。

てんか-たいへい (句) [天下太平][天下泰平] 天下ガ平穏ニ治マルコト。 禮記、仲尼燕居 [illegible] 「天下太平也」 [illegible]

てむかひ (名) [手向] テムカフコト。ハムカヒ。タムカヒ。敵對。抗抗。 保元物語、三 [illegible] 敵ヘテ手向ひスル者モナシ」

てむか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [手向] 逆ヒ敵ス。ハムカフ。テキタフ。反抗スル。敵對ス。抗敵。抵抗。

てんがふ (名) [轉合] てんけつ(轉結)ニ同ジ。

でむか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [出向] (でむくノ延) でむく(出向)ニ同ジ。

でむか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [出迎] 立チ出デテ、人ヲ迎フ。 [illegible]「コレマテ御迎ヘマシ[illegible]」

てむかへ (名) [手向] テムカフコト。ハムカフコト。抵抗スルコト。テムカヒ。抗敵。 今昔物語 [illegible] 取タリケル者共ナレバ、手迎ヘセムト不思」 [illegible] 記、二、額打論「其庭ニシテ手向ヘスベキニ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]アレカ、一言モ云ハザリケリ」

でむかへ (名) [出迎] 立チ出デテ、人ヲ迎フルコト。又、其人。

てんか-まつり (名) [天下祭] 江戸時代、山王祭(サンワウマツリ)[illegible]ノ[illegible]見ヨ。

てん-かん (名) [天漢] (詩經、小雅、谷風之什、大東篇「維天有漢、監亦有光、跂彼織女、終日七襄」) [illegible]ニ同ジ。 [illegible]

てん-かん (名) [天鑑][天監] 天帝ノ、ミソナハスコト。 詩經、大雅、文王之什、大明篇「天監在下、有命既集」 [illegible] 「若シ天鑒誠ヲ照ラサレバ、臣ガ渡ニ溺ナシ 罪ヲ宜ミ思シ召シテ、龍顔ヲ九重ノ月ニ廻ラサレ」

てん-かん (名) [癲癇] 病ノ名。精神ニ、一種不快ノ感覺ノツヅキ、眩暈シ、俄ニ [illegible] 以テ覆フ。漸ク呼吸靜カニナレバ、顔色、常ニ復シ、眠覺ムレバ、常體ニ復スルアリ。[illegible] 其原因、[illegible] 血、又、多血ナドヨリ起ルト。

てん-がん (名) [天顔] 天子ノ御顔。龍顔。 [illegible]

てん-がん (名) [天眼] 又、てんげん。神通力アリテ、[illegible] 眼。てんがんつう(天眼通)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]

てん-がん (名) [點眼] 眼ニ藥液ヲ注ギ入ルルコト。

てんがん-きやう (名) [天眼鏡] 人相見ノ用ヰル柄アル[illegible]、透シテ影ヲ大キク見スル[illegible]

てんがん-すい (名) [點眼水] メグスリ。

てんがん-つう (名) [天眼通] 又、てんげん[illegible] 通ノ一。肉眼ヲ超越シテ、物事ヲ洞見スル得ル眼力。てんがん(天眼)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]

てん-から (副) 初ヨリ。アタマカラ。てん(天)ノ條ノ(四)ヲモ見ヨ。

てん-き (名) [天氣] (一)天ノ陰晴、風雨等ノアリサマ。[illegible] (二)[illegible] 晴レタル空。天晴。 [illegible]

てん-き (名) [天機] (一)造化ノ機密。又、自然ノ機[illegible]

儀」張載、秋賦「雲像二天儀一(日月如二微塵一)」「天儀ヲ迴ラス」(二)天子ノ御機嫌。天子ノ御心。天子ノ御氣色。(或ハ云フ、天氣ノ義ナリト) 百合若大臣野守鏡(寶永、近松作)「一四天下八ツ國ガ一時ニ寄來ル共、一戰ニ驅ケ散ラシ、萬里ノ雲ノ切リ拂メ、天機ヲ安ジ奉ラン」、百合若ガ方寸」「天機ヲ伺フ」

てんき (名) 天癸 (一)少年男女ノ、始メテ淫慾ノ起ル時ノ稱。 黄帝素問「上古天眞論、女子二七而天癸至、丈夫二八而天癸至」(二)ツキノサハリ。メグリ。月經。癸水。

テンキ (名) 〔蝦夷語、Tenki.(籠ノ意)ナラム〕北海道ニ産ズル一種ノ草ノ名。高サ三四尺、葉、極メテ細ソク、麗ハシ。夾袋(カレイレ)、提籃、ナドヲ編ミ作ル。

でんき (名) 傳記 人ノ一生ノ事蹟ヲ書キ記シタルモノ。一代記。傳。 韓愈、上二兵部侍郎一書「牛角之歌、辭鄙而義拙、堂下之言、不レ書二於傳記一」

でんき (名) 傳奇 想像ヲ以テ作リタル小說。支那ニ云フ傳奇ハ、古ヘニアリシ奇事ヲ、興アルヤウニ詞ニ作リナシテ、歌ヒ舞ヒシナリ。院本。戲曲。 后山詩話(宋、陳師道)「傳奇體」 輟耕錄(明、陶宗儀)「唐有二傳奇一、宋有二戲曲諢詞小說一、金有二院本雜劇一」 五雜組(明、謝肇淛)「胡元瑞曰、凡傳奇以レ戲文爲レ稱也」「傳奇小說」

でんき (名) 電氣 常ニ相異ナル二物質ヲ摩ル時ニ生ズルモノ。硝子ヲ絹布ニテ摩リ、えぼないと(護謨ニ硫黄ヲ吸收セシメタルモノ)ヲ毛皮ニテ摩リテ生ズ。コノ際、硝子ニ生ジタルヲ、陽(正)電氣、えぼないとニ生ジタルヲ、陰(負)電氣ト云フ。摩擦ニヨリテ生ジタル電氣ハ流動セズ、コレヲ摩擦電氣、又ハ、靜電氣ト云ヒ、コレニ對シ、化學作用、ソノ他ニヨリテ生ズル流動セル電氣ヲ、動電氣ト云フ。エレキテル。エレキ。

てんきう (名) 典廐 左右馬寮の頭ノ唐名。めれう(馬寮)ノ條ヲ見ヨ。 隋書、百官志「改二龍廐一曰二典廐一」二中歷、七「左右馬」注「駕部、大僕、乘黄、典廐」職原抄、下「左右馬寮、唐名、典廐」

てんぎう (名) 天牛 かみきりむし(髮切蟲)ニ同ジ。一名、角蟲(ツノムシ)。 酉陽雜俎(唐、段成式)「天牛、黑角蟲也」

でんきうちは (名) 電氣團扇 せんぷうき(旋風機)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

でんきてつだう (名) 電氣鐵道 電氣ヲ動力トシテ、車輛ヲ運轉スル鐵道。卽チ、電車ノ走ル鐵道。略シテ、電鐵。

でんきとう (名) 電氣燈 電氣ノ發熱作用ヲ光ニ利用シタル燈。電燈。

てんきん (名) 轉筋 こむらがへり(轉筋)ニ同ジ。

てんきゃう (名) 癲狂顚狂 キチガヒ。 杜甫、寄二滕中王一詩「尙憐詩警策、猶憶酒顚狂」元稹詩「嗅亭今日顚狂醉、舞引二紅娘一亂打人一」

てんきょ (名) 轉居 てんたく(轉宅)ニ同ジ。

てんきよはう (名) 天氣豫報 各地ノ測候所ヨリ、同時刻ニ、電報ニテ、其時ノ氣壓、溫度、天氣ノ晴雨、風向、風力、雨量ナドヲ中央氣象臺ニ報ジ、氣象臺ニテハ、之ヲ綜合シテ天氣圖ヲ作リ、翌日マデノ氣象ヲ、豫メ報ズルコト。

でむく・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 出向 出デテ、其方ヘ趣ク。デムカフ。

てんく (名) 轉句 略シテ、轉(テン)ぜっく(絕句)ノ條ヲ見ヨ。

てんく (名) 天鼓 佛經ノ語。忉利天(タウリテン)ニアリト云フ鼓ニテ、擊タズシテ自然ニ妙音ヲ發ストゾ。 法華經、序品「天雨二曼陀華一、天鼓自然鳴、諸天龍鬼神、供二養人中尊一」榮花物語、十八、玉臺「聲如二天鼓俱尸羅一、故吾頂二禮彌陀尊一」

てんぐ (名) 天狗 (一)流星ノ一種。天狗星ト云フモノ。 史記、天官書「天狗、狀如二大奔星一有レ聲、其下止レ地類レ狗」舒明紀、九年二月「大星從レ東流レ西、便有レ音如レ雷、時人曰二流星之音一、云云、僧旻曰、非二流星一、是天狗(アマツキツネ)也」(二)一種ノ山獸ナリト云フ。 山海經、二「陰山有レ獸焉、其狀如レ狸而白首、名曰二天狗一、其音如二榴榴一、可二以禦一レ凶」太平記、五、相摸入道弄二田樂一事「燭ヲ挑ゲサセテ遊宴ノ座席ヲ見ルニ、誠ニ天狗ノ集リケルヨト覺エテ、踏汚シタル疊ノ上ニ、禽獸ノ足迹多シ」(三)一種ノ魔物。空中ヲ飛行シテ自在ナルモノト云フ。魑魅。魍魎。變化(ヘンゲ)。コダマ。 源、五十三、夢浮橋「てんぐ、木魂(コダマ)ヤウノモノノ欺キ率テ奉リケルニヤ」宇津保物語、俊蔭「遙ナル山ニ、誰カ物ノ音調ベテ、遊ビ居タラム、てんぐノスルニコソアラメ」後ニ圖スル所ハ、人ノ如クニシテ兩翼アリ、手足ノ爪長ク、頭巾ヲ戴キ、篠掛ヲ着テ、金剛杖、太刀、羽團扇ナドヲ携帶シ、一見修驗者ノ裝ノ如ク、其鼻ノ突出シタルヲ、大天狗ト云ヒ、尖リタル觜ナルヲ、小天狗ト云ヒ、又、其小サキヲ烏(カラス)天狗、木の葉(コ)天狗ナド云ヒ、深山ニ棲ムト。鞍馬山ノ僧正坊、愛宕山ノ太郎坊、比叡山ノ次郎坊、飯綱(イイヅナ)山ノ三郎、大山ノ伯耆坊、彥山ノ豐前坊、白峯ノ相摸坊、大峯ノ前鬼ナド、大天狗ナリ。而シテ天狗ヲ、讚岐ノ金毘羅ノ使トス。 台記、久安二年八月廿七日「愛宕護山天公像」愚管抄、六「物クルハシキウツハ物ノ候フニ、必、狐、天狗ナド申物ハ又候フコトナレバ」謠曲、松山天狗「魔緣ミナ近ヅキ奉リ、アノ白峯ノ相摸坊ニ從フ天狗ドモ參ル」風俗文選(寶永)九、天狗讚「嵐ノ峯ノ雪アル物、何レカ畫圖ニ寫サレヌ物ハアラジ、サレド眞向ノ天狗許リハナルマジトテ、擒カク人ハ常ニ笑ヒ侍リケリ、云云、世ノ人ノ我慢長ズレバ鼻ニ現レ、天狗トナリテ杉ノ木梢ニ居ヲトシ、愛宕、高雄ノ山住ヲ好ミ、云云、木の葉天狗ゾ譏ハルル、又ハ大峰葛城ヤ」(四)怨靈ノ稱。 保元物語(寬本)三、崇德天皇事「怨念ニ因リテ、生ナガラ天狗ノ姿ニナラセ給ヒケル」太平記、廿五、宮方怨靈會二六本杉一事「愛宕山、比叡嶽ノ方ヨリ、云云、南都ノ智教上人、云云、左右ノ脇ヨリ長キ翅生出デタリ、往來ノ僧是ヲ見テ、怪シヤ我天狗道ニ落チヌルカ、將(ハタ)天狗ノ我ガ目ニ遮ルカハト、肝(キモタマシヒ)心モ身ニソハデ、目モハナタズ守居タル程ニ、又空中ヨリ五(イツツ)緒ノ車ノ鮮カナルニ、乘リテ來ル客アリ、云云、兵部卿親王ノ未ダ法體ニテ御座アリシ御貌ナリ、先ニ坐シテ待奉ル天狗共、皆席ヲ去テ蹲踞(ソンコ)ス」(五)佛說ニ、夜叉ノ類ナリト云フ。 地藏經「夜叉天狗」尙書故實(唐、李綽)「飛天夜叉」寂照堂谷響集(元祿)二「此邦天狗、從二我教一見レ之、闍波句臘、云云、然世人迷レ名、漫生二多義一、皆非、理矣、所謂天狗、非二星非一レ獸、名同物異、其名二天狗一者、只此邦俗名耳」(六)己レガ技ニ誇ルコト。ハナタカ。(鼻ヲ高クスト云フ意) 自慢。自負。

てんくう (名) 天空 ソラ。オホゾラ。

てんくうかいくゎつ (句) 天空海闊 (一)天ノ空シク、海ノ闊キコト。(二)度量廣ク、氣宇大ナルコト。

てんぐさ (名) 天草 ところてんぐさ(心太草)ノ略。其條ヲ見ヨ。

てんぐすびゃう (名) 天狗巢病 てぐすびゃう(天狗巢病)ニ同ジ。

てんぐだひ (名) 天狗鯛 鯛ニ似テ、觜

ノ出デタルモノ。東南ノ海ニ產ジ、其味、冬春ノ候ヲ美ナリトス。

てんぐ-だふし(テングダオシ) (名) 天狗倒 深山ニテ、俄ニ大風ノ如キ、スサマジキ音ノ聞ユルコト。天狗ノ怪異ヲナスコトナリト云ヒ傳フ。太平記、廿七、田樂事「エイヤエイヤト推スト見エケルガ、二百餘間ノ棧敷、皆天狗倒ニ逢ヒテケリ」 嚴島道芝記、七「諸國ヨリ集レル人ノ中ニ、亂シ過ケン雜ノ罪穢氣不淨ノ業ヲナシ、其人ノ宿シケル家鳴渡リ、棟ハ倒ニナリ、軒場ハ横ニ臥テ、云云、人上ニナリ下ニ顚ビ、魂モ失セ、心モ消ル許リナル事、云云、是ヲ天狗だふしト云言ハセリ」

てんぐ-つぶて (名) 天狗礫 天狗ノ打ツト云フ礫。何處ヨリトモ知レズ、飛ビ來ル礫。犬子集(寬永)「木ノ葉ウツ、礫ハ天狗、[illegible]カナ」

てんぐ-でふ(テングジョウ) (名) 天貝帖 典工帖 天郡上 紙ノ一種。美濃國、武藝(今ハ武儀)郡、及、土佐國、吾川郡ナドニ產ズルモノ。白ク楮ノ皮ヲ精製シ、極メテ薄ク製ス。白ク美シクシテ強シ。紙布トシ、漆ヲ漉ス用トシ、又、版木ニ貼ルニ用キル。サレド、今ハ糊ヲ多ク加ヘテ、吉野紙ニ似タルアリ。又、胡粉(ゴフン)ニテ模樣ヲ押シタルヲ、緻(?)天貝帖ト云フ。 毛吹草(正保、[illegible])四「美濃中[illegible]、天貝帖ト云フ」

てんぐ-の-つめ (名) 天狗爪 太古ノ鮫類ノ齒牙ノ化石ナリト云フ。三角形ニテ、中央尖リテ鋸齒アリ、下部ニ肉着アリ、色、紫黑ナル多シ。大ナルハ一二寸アリ、小ナルハ一二三分ナリ。 一話一言(大田南畝)十五「能州石動(イスルギ)山ノ林中ニ、天狗の爪ト云物アリ、[illegible]ニシテ、[illegible]ニシテ、[illegible]

てんぐ-の-まさかり (名) 天狗鉞 らいふせき(雷斧石)ニ同ジ。

てんぐ-の-めん (名) 天狗面 天狗ノ容貌ニ擬シタル假面。

てんぐ-はいかい (名) 天狗俳諧 〔天狗ハ、思ヒカケヌ不思議ノ意〕 數人集リテ俳諧ヲ作ルニ、一人、初ノ句ヲ記シテ隱シ置キ、又、一人、次ノ句、一人、下ノ句ヲ作リ、開キテ見テ、意味ノ更ニ連續セヌモノノ、成ルヲ興トスルコト。隱句(カクシク)ニテ作ルモノ。 [illegible]、享保、[illegible]「オノガ毛、年[illegible]ラズ、[illegible]ラズ、作リケリ、天狗ばいかい」(少シ知レバ、天狗トナル)

でん-くん (名) 電訓 電報ニテ、訓令スルコト。又、ソノ訓示。

でん-ぐん (名) 殿軍 殿(シンガリ)スル軍勢。晉書、王坦之傳「孟反范燮、殿軍後入、而全ᵥ身」

てんくらう(テンクロウ) (名) 天九郎 延文ノ頃、近江國、犬上郡、甘露ノ住人、天九郎俊長ト云フ者ノ作レル槍ノ稱。名作ナリトテ名アリ。 近江國與地志略、九十九、土產 甘露物刀、甘露村在住ノ鍛冶工也ト[illegible]、今ハナシ、云云、甘露村ニ住セシ故ニ此稱アル也、刀ノミナラズ、鑓ハ殊ニ妙手ナリ、天九郎俊長ト號セルハ是也」 桂川地震記(弘治)上「[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、天九郎也」 狂歌堀川百首、敷遣火「家家ノ、軒ニ敷遣火、立テナラヘ、天くらうナル、夕[illegible]カナ」(天くらうハ、日暮レテ、天暗クナル意)

でんくらう-ぞめ(デンクロウゾメ) (名) 傳九郎染 染模樣ノ一。寶珠モヤウ・[illegible]ノ頃、[illegible]役者ノ、中村傳九郎、[illegible]メテ染メナサセタルモノト云フ。[illegible]、[illegible]内ニ、玉ヲ大小イクツモ、交ヘ染メタルモノ。 [illegible]、二、上「[illegible]ヲ立テ、其内ニ玉ヲ大小イクラモ交ヘ染タルヲ、歌舞伎役者中村傳九郎ガ染タリトテ、傳九郎染ト云ヒ」

でんぐり-がへし(デングリガエシ) (名) 轉覆 兩掌ヲ地ニ立テ、兩脚ヲ[illegible]、[illegible]トモ、又、デングリガヘリ。かへりうち(反打)ノ條ヲモ見ヨ。又、手ヲ地ニ付ケズシテ、空中ニテ[illegible]、宙返(チウガヘリ)ト[illegible]。

でんぐり-がへり (名) 轉覆 次條ノ語ニ同ジ。

でんぐり-かへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 轉覆 前前條ノ[illegible]。

てんぐるま (名) 手車 てぐるま(手車)ノ訛。其條ノ(三)ヲ見ヨ。 正章千句(慶安)「少人ドモノ袖ニ集リ、手車(テングルマ)ノ果ノ後ノドドメグリ」

てんぐ-れん (名) 天狗連 [illegible] 俊[illegible]ナドニ、[illegible]、上手[illegible]ヲ[illegible]レ自慢スル連中。

てん-くゎ(テンカ) (名) 天火 (一)てんくゎにち(天火日)ノ略。[illegible]、[illegible]、[illegible]、陰陽道ニテ、此日ニハ、[illegible]、棟上、屋造ナドヲ忌ムト云フ。(二)落雷ニテ起ル火災。雷火。又、[illegible] [illegible]年「凡[illegible]、[illegible]、[illegible]水)六「嵐ヲ誘ヒテ、時ナラヌイナビカリ、天火、[illegible]ニ[illegible]、云云、[illegible]」

てん-くゎ(テンカ) (名) 甜瓜 マクハウリ。 本草「甜瓜、一名、甘瓜、一名、果瓜」

てん-くゎ(テンカ) (名) 天瓜 カラスウリ。 爾雅、[illegible] 本草綱目啓蒙「栝樓[illegible]、今[illegible]人、呼ンデ[illegible]、天瓜ニ」 [illegible]名、上[illegible]「栝樓、一名、天瓜、[illegible]名、[illegible]」

てん-くゎ(テンカ) [illegible] [illegible] [illegible] 正[illegible] [illegible]ナマリテカハルコト、[illegible]ノ[illegible]コロサマ。

てん-くゎ(テンカ) (名) 點火 (一)火ヲ點(トモ)スコト。(二)アカリヲツケルコト。[illegible]

てん-ぐゎい(テンガイ) (名) 天外 ハルカナル空。[illegible]、又、[illegible]ト[illegible]。 [illegible]、[illegible]、乃令[illegible]乎天外」

てん-くゎう(テンコウ) (名) 天光 (一)日ノヒカリ、日光。[illegible] [illegible]

でん-くゎう(デンコウ) (名) 電光 イナビカリ。イナヅマ。 [illegible] 太平記、八、山徒寄京都事、甲冑ニ映ゼル[illegible]、電光ノ激スルニ不異、[illegible]山嵐ハ、[illegible]ノ[illegible]クニ相似タリ」 (二)赤砂糖ノ名。

でんくゎう-せつくゎ(デンコウセッカ) [illegible] 電光石火 [illegible]時間[illegible] [illegible]ニモトマラズ、早キコト。 [illegible]、又、石火[illegible]、[illegible] [illegible] (二)佛教ニテ、世事ノハカナキニ譬ヘテ云フ語。 [illegible]、[illegible]、電光石火ノ[illegible]ノ中ハ、[illegible]ノ[illegible]ヲ見ルコト、[illegible]

てん-くゎく(テンカク) (名) [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

てん-くゎ-ふん(テンカフン) (名) 天花粉 〔天瓜[illegible]〕 瓜ツ俗用シテ、雪ノ粉ニ用キル、[illegible] [illegible] [illegible] [illegible]

[illegible]烏瓜ノ根ニテ作リ[illegible]モアリ、痱(アセモ)ナドニツクト。

てんくゎん(ナンカン)(名) |天冠| 一種ノ冠(カウブリ)。圓頂ニシテ、中央ニ飾物ヲ立テタルモノ。倭名抄、十二[illegible]天冠、俗云天和[illegible]」名義抄「天冠、テムクヮン」菅家集、六、管絃並物、小野宮右大臣、童ニテオハシケルガ、天冠ヲシテ、納蘇利ヲ仕リ給ヒケリ」

てんくゎん(ナンカン)(名) |展觀| (一)ヒラキノベテ、ミルコト。ノベツラネテ、ミルコト。(二)物品ヲ陳列シテ、見ルコト。展覽。

てんくゎん(ナンカン)(名) |轉換| ウツシカフルコト。カヘウツスコト。

てんけ (名) |天氣| 天子ノ御勘氣、敕勘。朝譴。蜻蛉日記、中、上「如何ナル咎マサリタリケム、てんけノ(ノ、ナシ、ィ)人人流サルルト、ノノシル事出デ來テ」

てんけい (名) |天啓| 天ノ、人ノ運命ヲヒラクコト。天ノミチビキ。神ノシメシ。

てんけい (名) |天惠| てんおん(天恩)ニ同ジ。

てんけい (名) |典經| (一)ノリ。テホン。(二)けいしょ(經書)ニ同ジ。晉書、儒林傳「祖二述虞玄一、揖二讓閥里之典經一」潛夫論(漢、王符)「徒以二其能一、自託二於先聖之典經一、結二心於夫子之遺訓一也」傅咸、青鐘賦「幸從容以閑居、且遊二心乎典經一」

てんけい (名) |典刑| 〔廣韻「典、法也」爾雅「刑、常也、法也」〕 (一)古來ノオキテ。ノリ。テホン。カタ。ヒナガタ。常法。模範。典型。詩經、大雅、蕩之什、蕩「雖レ無二老成人一、尚有二典刑一」朱注「舊法也」 (二)一定シテ變ラザル刑罰。常刑。

てんけい (名) |典型| 〔廣韻「典、法也」〕

前條ノ語ノ(一)ニ同ジ。

てんけい-ぢんぶつ (名) |點景人物| 文人畫ニ描キタル人物ノ稱。(山水ニ添ヘテ描キタルモノ) 芥子園畫傳「山水華點景人物諸式、不レ可レ太工、亦不レ可レ太無レ勢、全要下與二山水一有中照應上」

てんけい-びゃう(ナンケイビヤウ) (名) |天刑病| らいびゃう(癩病)ニ同ジ。

でんけう(デンキヤウ) (名) |傳敎| 佛敎ノ語。宗敎ノ旨ヲ傳ヘ廣ムルコト。皇甫冉、贈二普門上人一詩「聖力堪二傳教一、禪功久伏レ魔」

でんげき (名) |電擊| (一)イナヅマノ如ク、急激ニ、敵ヲ攻ムルコト。(二)電氣ニ擊タルルコト。

てんけつ (名) |天闕| (一)天帝ノ居所ノ門。天門。(二)宮城ノ門。宮門。禁闕。

てんけつ (名) |轉結| 漢詩ノ轉句ト、結句ト。轉合。きく(起句)、及、ぜっく(絕句)ノ條、見合ハスベシ。

てんけん (名) |點檢| ヒトツビトツニ、檢(アラタ)ムルコト。臨濟錄、序「點檢將來、故無二差舛一」從容錄、第十一則「子細點檢將來、有二甚麼氣息一」

てんけん (名) |天嶮| 天然ノ險阻。自然ノ要害。形勝ノ地。難所。天阻。北史、于宣敏傳「三蜀二齊、古稱二天險一」潘岳、西征賦「蹟二函谷之重阻一、看二天險之襟帶一」水經注「函谷關側道之嶮、車不レ方レ軌、號曰二天險一」

てんけん (名) |天眷| てんおん(天恩)ニ同ジ。

てんげん (名) |天元| 碁盤ノ目ノ、九ツノ黑星ノ中、其中央ノ點。

てんげん-じゅつ (名) |天元術| (一)古法ノ數學。スベテ、算木ヲ以テ行フ。(二)後ニ、算盤ノ出來テヨリ、算盤ニテ行フベキモノト、點竄(テンザン)トヲ除キテ、其餘ノ、尙、算木ヲ用キテ行フ高尙ナル術ノ稱。古今算鑑、乾、自序「有二闢口一之哲、遺二[illegible]」世傳算學[illegible]、而始發二揮天元術、著二古今算法一」算法新書、三、天元術定則「太極ノ下ニ一算ヲ立テ、是ヲ天元ノ一ト云フ、太極ハ實級、一ハ法級ヘ置ナリ」

てんこ (名) |典故| 事ノ舊例アルモノ。又、典例ト、故實ト。故實。後漢書、東平憲王蒼傳「陛下至德廣施、慈二愛骨肉一云云、事過二典故一」南史、何尙之傳「世還好二典故一、學與二王儉一至交」北史、邢劭傳「每公卿會議、事關二典故一、邵援筆立成、證引」宋史、宋敏求傳「藏書云云、皆略誦、習二熟于朝廷典故一、士大夫疑必就正焉」

てんこ (名) |點呼| (一)一人一人、指名シテ呼ブコト。姓名ヲ呼ビテ、人員ヲ調ブルコト。「指名點呼」(二)かんえつてんこ(簡閱點呼)ノ略。其條ヲ見ヨ。

てんこ (名) |天鼓| (一)星ノ名。河鼓。晉書、天文志「河鼓三星、在二牽牛北一、天鼓也、主二軍鼓一」(二)天ノツヅミ。謠曲、帝王「拌主ヲ川ニ沈メテ、天鼓ヲ奪取リタレド鳴ラズ」(三)ナルカミ。カミナリ。イカヅチ。雷。史記、天官書「天鼓有レ音、如レ雷非レ雷」雲仙雜記(唐、馮贄)「雷曰二天鼓一、雷神曰二天公一」

でんこ (名) |傳呼| 多クノモノノ傳ヘ呼ブコト。漢書、蕭望之傳「仲翁出入、從二倉頭廬兒一、下レ車趨レ門、傳呼甚寵」唐書、儀衛志「朝日御史大夫領二屬官一、至二殿西廡一、從官朱衣、傳呼促二百官就班一」元稹、賀二降誕日一德音狀「百官承レ式、萬歲傳呼」

でんご (名) |傳語| コトヅケ。コトヅテ。傳言。隋書、牛弘傳「上曰、傳語小辯、故非二宰臣任一也」杜甫詩「傳語風光共流轉、暫時相賞莫二相違一」王建詩「殿頭傳語金階遠、因進二詞來謝二聖人一」

てんこう (名) |天公| (一)てんてい(天帝)ニ同ジ。范成大詩「一曲打開紅杏蕊、須レ知天公[illegible]」(二)雷神(三)ノ出典ヲ見ヨ。

てんこう (名) |天工| 造物者ノシワザ。自然ノ作用。天造(人工ニ對ス)[illegible]火[illegible]人[illegible]巧[illegible]天工」

てんこう (名) |天候| ソラモヤウ。天氣。

てんこく (名) |詔曲| 〔こくハ、呉音〕己レノ意思ヲマゲテ、人ニコビ詔フコト。佛家ニテハ、てんごくト讀ム。法華經、方便品「我慢自矜高、詔(テンゴク)曲心不レ實」無量壽經、上「[illegible]曲之心、和顏愛語」大鏡、下、道長「我ヲ、アルガ中ニザエナク、心てんごくナリト、カクイフハ恥カシキ事ト、仰セラレケルハ」

てんこく (名) |篆刻| 〔多ク篆字ヲ用キレバ云フ〕(一)印ニ、文字ヲ刻リツクルコト。鐵筆。明史、文苑傳「文彭文嘉、並工二篆刻一」「篆刻家」「篆刻師」(二)轉ジテ、形容ノミ多クシテ、實質ノ伴ハヌ文儀ノ稱。揚子法言「童子雕蟲篆刻、俄而曰、壯夫不レ爲」庾信序「自二魏建安之末一、晉太康以來、雕蟲篆刻、其體三變」蘇軾詩「[illegible]、篆刻鮑[illegible]曾沈」

てんごく (名) |天國| 神、又ハ、天使ノ住ムト云フ天上ノ國。耶蘇敎ニテ、其信者ノ死後、靈魂ノ赴クト云フ所。新約全書、馬太傳、三「ナンヂラ悔イ改メヨ、天國ハ近ケリ」

てんごく (名) |典獄| (一)監獄ノ事務ヲ掌ル官。書經、呂刑篇「典獄非レ訖二于威一、惟訖二于富一」(二)今、官吏ノ名。刑務所(モト監獄)ノ長官。

てんこち-な・い (形) トンデモナイ。長唄、舌出三番「花ガ咲キソロ、黃金ノ花ガ、てんこちない、今ヲ盛リト、咲キニホフ」

てんこち-も-な・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) |無天骨| ウマレツキデナシ。ブキヨウナリ。無骨ナリ。物類稱呼、五、言語「アルマジキ

コトヲスルト云フ詞ノ代リニ、東國ニテ、てんこちもないト云フ、又、つがもないト云フ詞モ、是ニヒトシ」宇治拾遺、一、第三條、サキノ詞ヨリハてんこちもなく、オロオロカナデタリケレバ」

てん-こつ (名) 天骨 (一)人トナリ。ウマレツキ。性得。性分。天性。天禀。 晉書、袁宏傳「天骨疎朗」 宇津保、[illegible]中、第十一段「天骨朗見、不信三寶」 (二)轉ジテ、生レツキ巧ミナルコト。生得ノ才能。(技藝ナドニ)器用。天才。 菅御記、寛永廿三年三月八日「鷹時猿ニ出立、エ袋ヲ腰ニ付、猿ヲ作以歌皮作之著ス、其風情、天骨也」 藤河記、同第十一段「天骨ヲヒルガヘス、生レナガラニシテ、天骨ヲ得タリ」

てん-あつ (名) 頂上。(出雲ニテ、てんあトモ云フ)

でん-ごん (名) 傳言 ことつたへ(言傳)ニ同ジ。コトヅケ。コトヅテ。傳語 寄語 史記、絳侯世家「亞夫乃傳言、開壁門」」

てん-さい (名) 天際 ソラノハテ。空際。天末。 謝朓詩「天際識歸舟」

てん-さい (名) 天裁 天子ノ御裁決。勅裁 保元物語、一、新院御謀反思食立事「關白ノ御表補マルカ、又内覽氏長者關白ニツケラルルカ、兩樣共ニ天裁ニアリト、頻ニ申サセ給ヒケリ」 盛衰記、五、山門奏狀事「夫不蒙聖教勿散怨望、是常例也、今雖仰天裁、未得叡芙」

てん-さい (名) 天災 天然ノワザハヒ。(地震、颶風、雷、洪水、火山ノ噴火ナド) 書經、伊訓[illegible]「[illegible]有天災」

てん-さい (名) 天才 生レツキタル才智。又、生得ノ才能アル人。 北史、李德林傳「論其天才、必至公輔」 管輅別傳「輅稟受天才、[illegible]陰陽之道、吉凶之情、一得其源、遂涉其流」

てん-さい (名) 天齋 無盡。賴母子講。

てん-さい (名) 轉載 一方ノ文書ニ載セタル文ヲ、更ニ他ノ文書ニ記載スルコト。他ノ記事ヲ、ソノママ載スルコト。

てん-さい (名) 甜菜 砂糖大根ニ同ジ。

てん-ざい (名) 點在 アチコチニ、ポツポツ散ラバリテアルコト。散在。

てん-さう (名) 天窓天窗 (一)ツムリ。アタマ。(二)テンマド。ヒキマド。 李商隱詩「[illegible]天窗」

てん-ざう (名) 天造 造物者ノ造レルモノ。天工(人造ニ對ス) 楊炯、少姨廟碑「國家承天造之草昧、[illegible]」 良寛記「[illegible]天造」

てん-さう-ち-ふ-さい (名) 天曹地府祭 陰陽道ニテ、祈禱ヲナスニ、冥官ヲ祭ル儀式。 字類抄「天曹地府祭、一名、六道冥官祭、以之御讓位御衣祭之」 吾妻鏡、一、治承四年八月十六日「[illegible]」 [illegible]永享八年十二月十九日「[illegible]天曹地府(府)御祭、自二十五日、[illegible]」

てん-さかさま (名) 天倒 あまさかさま(顚倒)ノ條ヲ見ヨ。

てん-さく (名) 添削 〔添ハ書キ加フ、削ハ消シ削ル意〕詩歌、文章ヲ直スコト。改竄。 法華文句記(唐、湛然)「余二十七、於金陵聽受、六十九、於丹丘添削」

てん-さく (名) 天作 算術ノ語。十呂盤ノ術ノ上ニテ、數ヲ作ルコト。九九ノ呼聲ニ「二一、天作ノ五」ナド云フ。

でん-さつ (名) 田札 古へ、點檢スベキ田ニ、札ヲ立テテ、稻ヲ刈リ取ルコトヲ禁ズルコト。又、其札。 [illegible]「田札、禁田不合刈義也」

てん-さん (名) 天[illegible] 天然ニ、[illegible] [illegible]

てん-さん (名) [illegible] ニ同ジ。ヤマコ。

てん-ざん (名) 點竄 [illegible] (一)詩文ヲナホスコト。 李商隱詩「點竄堯典舜典字」 (二)[illegible]代數ニ同ジ。(和算ニ) 算法點竄指南錄、初編、上、凡例「點竄ノ法ハ、元祖關先生(孝和)發明スル所ニシテ、初メ歸源整法ト云フ、後、松永良弼ニ至リ、其ノ主君[illegible]侯ノ命ヲ受ケテ、名ヲ點竄ト改ム」 [illegible]

てん-し (名) 天子 〔天帝ノ子ノ義〕蔡邕、獨斷「天子、夷狄之所稱、父天母地、故稱天子」 白虎通(漢、班固)「[illegible]」 [illegible]

てん-し (名) 天使 (一)天子ノ使者。勅使。 資治通鑑、唐紀「[illegible]天使不敢」 (二)[illegible] 國ニ於テ、上帝ニ奉仕スルモノ。上帝ヨリ遣ハサルル使者。エンジェル。

てん-し (名) 天資 うまれつき(生付)ニ同ジ。 史記、商君傳、太史公曰、商君者、其天資刻[illegible]

[illegible]

てん-し (名) 點字 點ヲ組ミ合ハセテ作リタル文字。[illegible] 十四年、佛人ブレイユ(L. Braille)ノ創[illegible] 川倉次ノ考案セシモノヲ用ヰル。

てん-しき (名) [illegible] (一)屁、[illegible] [illegible]

でん-じ-さう (名) 田字草 [illegible] ノ形ニ似ル故ニ云フ。[illegible] 沼ナドニ生ジ、[illegible] 成リテ、かたばみノ葉ニ似ル[illegible] モ・カッモ・タノジモ・ウヘクサ

てん-しつ (名) 天質 うまれつき(生付)

てん-しつ (名) [illegible]

でんしふ (名) 傳習 傳ヘラレテ、習フコト。教ヘラレテ、學ブコト。論語、學而篇「曾子曰、吾日三省吾身、爲人謀而不忠乎、與朋友交而不信乎、傳不習乎」唐書、高伉傳「指明之忠孝仁義之勸、操尙之嚴、侍鄉紳一卷之傳、其中習之一處之詩、志操恥傳習、謝師友之」

てんしん (名) 天心 (一)大空ノ眞中。邵雍詩「月到天心處、風來水面時」(二)天帝ノ心。又、天子ノ御心。天意。書經、咸有一德「惟尹躬暨湯、咸有一德、克享天心、受天明命」張說詩「謝問國政、謁易見天心」

てんしん (名) 天眞 〔天ヨリ附與セラレタルママニテ、少シモ人爲ヲ加ヘザルヲ、天眞ト云ヒ、明カニアラハルルヲ、呈露(爛漫)ト云フ〕天賦自然ノ性情ヲアラハシテ、隱ス所ナキコト。生レタルママナル純粹ノ性。晉書、阮籍傳「籍、和騰純、以保天眞」梁、昌操(湯、謝隱)「代家作妻、倍身理性、反其天眞也」杜甫、寄李白詩「劇談憐野逸、嗜酒見天眞」蘇軾詩「狂客思歸便去、更求勅賜枉天眞」同「天眞爛漫是吾師」

てんしん (名) 點心 〔少食ヲ空心ノ間ニ點ズル意ト云フ、間食ナリ〕禪家ノ語。定メタル食事ト食事トノ間ニ、物ヲ食フコト。腹ヤスメニ食フ食物。轉ジテ、茶請ノ菓子、チャノコ。茶菓子。剪燈新話、注「點心之點、與點茶之點同義、蓋少食鎭心也」輟耕錄(明、陶宗儀)十七、點心「今以早飯前及飯後、午前午後晡前小食爲點心」能改齋漫錄(宋、吳曾)一「野客叢書、樺林、鄭修、作嗽問、唐人以點心爲小食、點心之稱、起自唐也、早日陰陽末、分時、少喫食、此攝食法」唐太宗、貞觀九年九月十六日、今日可點心、天尚早、云云、於南唐俱以早晨小食爲點心」庭訓往來(貞享)「點心者、先點茶、次供點心、次茶也」尺素往來(一條兼良)「點心者、先點茶集香湯、而後、云云、鬭、點子麵、砂糖、饅頭、云云」俗語考「當時モ、饗膳ノ前ニ、假初ニ小讀ヲ出スヲ、點心ト云ヘリ」

てんじん (名) 天神 〔地祇ニ對ス〕(一)アマツカミ。天ノ神。史記、孝武紀「以致天神地祇」(二)泛ク神社ノ祭神、又ハ、神社ノ稱。熱田太神宮緣起(寬平)「宮酢姬下世之後、建祠崇祭之、號火上姊子天神」神名帳「火上姊子神社」(三)天滿天神ノ略。(四)天神髻ノ略。

てんじん (名) 轉軫 〔轉手ヲ訛リテ、又、當字ス〕三味線ノ頭ノ、絲倉ヨリ海老尾マデノ間ノ稱。さみせん(三味線)ノ條ヲモ見ヨ。

でんしん (名) 田紳 〔田舍紳士ノ略〕ヰナカノ紳士。(卑シメテ云フ)

でんしん (名) 傳心 いしんでんしん(以心傳心)ノ條ヲ見ヨ。

でんしん (名) 電信 電信機ニテ、通ジタル音信。電報。

てんじんかう (名) 天神講 昔、菅原道眞ノ命日、毎月二十五日(或ハ毎年二月二十五日)ニ行ヒシ天滿天神ノ祭。尺素往來(一條兼良)「聖廟御參籠、云云、天神講七座」

でんしんき (名) 電信機 電氣ヲ用キテ、遠隔ノ地ニ、音信ヲ瞬息ニ通ズル機。銅線ヲ兩地ニ亙シ置キテ、機械ニテ電氣ヲ發シテ相通ズ。

てんじんしちだい (名) 天神七代 〔地神五代ニ對ス〕天ノ神七代ノ稱。卽チ、國常立尊、國狹槌尊、豐斟渟尊、(已上三代、陽神)、泥土煮尊(陽神)、沙土煮尊(陰神)。大戶之道尊(陽神)、大戶間邊尊(陰神)。面垂尊(陽神)、惶根尊(陰神)。伊弉諾尊(陽神)、伊弉冊尊(陰神)ヲ申シ奉ルナリ。(皇代記)又、天神七代ニ繼ギテ、國土ヲ知ロシ召シシ五代ノ神神ヲ、地神五代ト申シ奉ル。卽チ、天照大神(陰神)、天忍穗耳尊、彥火瓊瓊杵尊、彥火火出見尊、鸕鶿草葺不合尊(以上四代、陽神)。盛衰記、三十、大神宮行幸事「伊勢大神宮ト申ハ、天神第七代伊弉諾伊弉冊尊ノ御子、地神最初ノ御神也」著聞集、一、神祇「天地ノ中ニ一ツノモノアリ、カタチ葦牙ノ如シ、スナハチ化シテ神トナル、國常立尊コレナリ、夫レヨリコノカタ天神七代、地神五代ナリ」承久軍物語、一「夫我朝ハ神國トシテ、天神七代、地神五代ト、アヒツヅカセ給ヒ、かんやまといはれひこノミコトニ、御位ヲ讓リ給フ」

てんじんひげ (名) 天神髭 菅原道眞ノ肖像ニアル髭ノ如ク、兩端ノ下ヘ垂レタルクチヒゲ。ひげ(髭)ノ條ヲ見ヨ。

てんじんまげ (名) 天神髻 婦女ノ結髮ノ一。いちゃうがへし(銀杏返)ノ如クニテ、其髻ノ中央ヲ毛髮ニテ卷キ、かんざしニテ止メタル貌ノモノ。又、天神結。

てんしんらんまん (句) 天眞爛漫 自然ノ眞情ヲ、ソノママ言動ニ現ハスコト。てんしん(天眞)ノ條ヲモ見ヨ。

てんしんりう (名) 天眞流 しんたうりう(神道流)ニ同ジ。干城小傳「飯篠家直、山城守ト稱シ、長威齋ト號ス、下總國香取郡飯篠ノ人、嘗テ香取ノ神ニ祈リテ、刀技大ニ進ミ、因リテ天眞正傳神道ト名ヅケ、足利義政ニ仕フ」

てんしや (名) 轉寫 他ヨリ寫シ取ルコト。マタウツシ。春秋、莊公廿九年、經「新延廐」疏「傳言新作延廐、而經無作字、僖廿年、新作南門、定二年、新作雉門及兩觀、皆言新作、而此獨無作、是作傳之後、轉寫闕文也」

てんじや (名) 點者 連歌ノ句ニ點ジテ、優劣ヲ定ムル人。判者。(後ノ俳諧、發句ニモ云フ) 建武元年、二條河原落書「在々所々ノ歌連歌、點者ニナラヌ人ゾナキ」 織留(元祿、西鶴)三「其ノ頃ノ點者ハ、百韻一句一句、肩キカタナ、惜クニシテ明白ナリ、云云、今時ノ點者ト云フヲ見レバ」

でんしや (名) 田舍 ヰナカ。又、ヰナカノ家。史記、衞將軍傳「田舍廬廡之數、曾無所芻牧、人民之衆、車馬之多、日夜行不絕」

でんしや (名) 傳寫 (一)次ヨリ次ヘト、傳ヘ寫スコト。多クノモノガ、傳ヘ寫スコト。晉書、左思傳「於是豪貴之家、競(三都賦ヲ)相傳寫、洛陽爲之紙貴」(二)文字、圖繪ナドノマタウツシ。圖繪見聞志「龍章京兆櫟陽人、工畫佛道人物、兼工傳寫」「傳寫ノ誤」

でんしや (名) 殿舍 ゴテン。ヤカタ。三國志、魏志、衞臻傳「帝方隆意於殿舍、臻數切諫」

でんしや (名) 電車 電氣力ニテ、軌道ノ上ヲ運轉シ、人、荷物ナドヲ運搬スル車輛。

てんしやう (名) 天象 (一)日月、星辰ノ象。天體ノ現象。書經、胤征「羲和尸厥官、罔聞知、昏迷于天象、以干先王之誅」(二)ソラノグアヒ。天候ノヤウス。空模樣。

てんしやう (名) 典章 ノリ。キソク。オキテ。典制。隋書、牛弘傳「採百王之損益、成一代之典章」唐書、韋貫之傳「頭、云云、據朝廷典章、多所資遣」同、張說傳「粉澤典章、成一王法」

てんじやう (名) 天上 (一)ソラノウヘ。アメ。大空。蒼穹。後漢書、仲長統傳「寄愁天上、埋憂地下」李白、秋夜汎月詩「天上何所有、迢迢白玉繩」(二)天ヘ昇ルコト。上天。升天。昇天。登天。狂言記、針立雷「立ツテ見テモヨイ、嬉シウコソアレ、最早身共ハ天上スルゾ」「龍ノ天上」(三)〔轉ジテ〕死スルコト。逝去。宇津保物語、俊蔭三「親、天上シタマヒテ後、天津風ニツキテモ、オトヅレタマハズ」(四)てんぢやう

かい(天上界)ノ略。「天上ノ樂、天上ノ五衰」(五)物事ノ至リ極レルコト。コノ上モナキコト。 浮世風呂(文化、三編)四、上「當世ナ御國へ生出タ事ヲ思ヒナサイ、日ニ三度、米飯ヲ三膳ヅツ頂イテキルハ、天上ノ榮花ダト思ッテキレバ、ナニモ不足ハナイ、皆奢ガ勝カラ起ル」

(一)てん-じやう(名)[天壤] 天ト、地ト。アメツチ。天地。霄壤。 戰國策、齊策「秦與二天下一爭レ流、而名與二天壤一相徹也」 神代紀、下、上「葦原千五百秋之瑞穂國、是吾子孫可レ王之地也、宜爾皇孫就而治焉、行矣、寶祚之隆、當下與二天壤一無上レ窮者矣」

てん-じやう(名)[天井] (一)中世ニ、組入。古クハ、殿上ノ四傍ニ設ケテ、鐶ニテ懸ケタルガ如シ、支那ニテハ、承塵ヲモ云フ。 陸機詩「側聞陰溝涌、臥觀天井懸」 倭名抄、十、居宅具「天井、[illegible]抄云、天井、俗云、殿事」 [illegible]「天井、[illegible]、井之星之宿、而主去二火災一陰星也、故名レ之」 大嘗祭式「悠紀院所造、正殿一宇、云云、構以二黑木一葺以二青草一以二檜竿一爲二天井一、席爲二承塵一」 宇津保物語、樓上、下「ろふノてん上ニハ、云云、コマニシキヲハリタリ」 (二)後ニ、屋ノ裏ニ、太キ方ナル數多ノ棧ヲ、平ニ井桁ノ目ノ如ク組ミテ、上ニ板ヲ張リタルモノ、今、格天井ト云フ。今、常ニハ、横棧ノミノ板張ナルガ多シ。藻井。[illegible]。天花板。 [illegible]、十、廿一、[illegible]「天井事、家ノ天上ハ井ノ如ナレバ、ヨソヘテ天井トハ付タル歟、くみれノ井ニ似タレバトテ、申付タルニ非ズ、云云、井ハ水ヲ湛フル物也、家ニハ火事ヲ恐レ、火ハ水ニ消レバ、火事ヲ遁レント云フ心ニテ、井ノ形ヲ摸セル也」 古事談、六、亭宅諸道「京極殿、云云、[illegible]之間、自二天井上一[illegible]」 著聞集、九、武勇「鬼同丸、云云、頼光ノ寢タル上ノ天井ニアリ、コノ天井、引キ放チテ落チカカリナバ」 徒然草、五十五段「天井ノ高キハ、冬寒ク、燈暗シ」 義經記(異本)六、[illegible]「天井ニヒタヒタト登リテ、サシノゾキニ見レバ」 (三)傘ノ上部ノ稱。 [illegible](享保)[illegible]「天井バカリ青キヲ、紅傘ト云フ」 [illegible](文化)[illegible]「[illegible]、天井青[illegible]」

(一)てん-じやう(名)[殿上] (一)禁中、清涼殿中ノ一間ノ稱。 名目抄「殿上、テンジャウ」 宇津保物語、[illegible]「[illegible]カクテタテル程ニ、中將、殿上ニ參リテ、仁壽殿ノ御前ニサブラヒ給フ」 源、七、紅葉賀「日タケテ、各、殿上ニ參リ給ヘリ」 (二)禁中ニテ、清涼殿ノ上、又、紫宸殿ノ上ヲモ云フ。四位以上、(六位ノ藏人モ)此ニ昇ルコトヲ許サル。(昇殿ノ條、見合ハスベシ) 宇津保物語、俊蔭「[illegible]名ヲ仲忠ト云フ、上達部ノ御子ナレバ、ヤガテカウブリ賜ヒテ、殿上セサセ、上モ東宮モ召シマツハシ、ウックシミ給フ」 千載集、十七、雜、中「侍從定家、アヤマチアルサマニ聞シメスコトアリテ、殿上除カレテ侍リケル」

でん-じやう(名)[殿上] 御殿、又ハ、宮殿ノ上。又、ソノ中。 宋史、高祖紀「始運二古典一、令二館[illegible]侍二立殿上一」 黄庭堅、次韻[illegible]「[illegible]侍二[illegible]殿上[illegible]」

てんじやう-かい(名)[天上界] (一)[下界ニ對ス] (一)天上ニアリト云フ世界。天界。(二)佛教ノ語。欲界ノ六天、及、色界ノ四禪十八天、無色界ノ四天ノ稱。略シテ、天上。又、天道。天趣トモ云フ。

てんじやう-しらず(名)[天井不知] 物價ノ騰貴シテ、停ル所ヲ知ラザルコト。

てんじやう-だう(名)[天上道] 前前條、及、あまぢ(天道)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

てんじやう-てんげ-ゆゐ-が-どく-そん(句)[天上天下唯我獨尊] 佛教ノ語。又、コレヲ誕生偈トモ云フ。三千年ノ昔、天竺ニテ、四月八日ノ早曉、釋迦生ル、[illegible]ノ光ヲ見ハスト共ニ、右手ヲ天ニ指シ、左手ヲ地ニ指シ、[illegible]、周行七步シ、四顧[illegible]、天上天下唯我獨尊ト聞エマリト云フ。[illegible]己レヨリ尊キモノ、ナシト[illegible] [illegible]「[illegible]天上天下、唯我獨尊」 瑞應經、上「到二四月八日夜、明星出時、化從二右脅一生墮レ地、即行七步、擧二右手一住而言、天上天下、唯我爲尊」

てんじやう-の-えんすい(名)[殿上淵醉] 古へ、朝廷ニテ、正月、又ハ、五節ナドノ大禮ノ後、殿上人ヲ清涼殿ニ召シテ、饗宴ヲ賜ハリシコト。猶、えんずゐ(淵醉)及、ごせち(五節)ノ條ヲ見ヨ。

てんじやう-の-せうえう(名)[殿上逍遙] 殿上人ノ、京郊、嵯峨野、鳥部野ナドニ行キ向ヒ、[illegible]セシコト。

てんじやう-の-せんせき(名)[殿上仙籍] 殿上人トシテ、禁中ノ籍ニ入ルコト。 平家物語、一、祇園精舍「[illegible]正盛ニ至ルマデ六代ハ、諸國ノ受領タリシカドモ、殿上の仙籍ヲバ未ダ許サレズ」

(二)てんじやう-びと(名)[殿上人] 四位、五位、及、六位ノ人ノ、昇殿ヲ許サレタルモノノ稱。ウヘビト。クモノウヘビト。雲客。後ニ、堂上。又、名門ノ子息ノ元服以前、禁中ニ召仕ハルルヲ、殿上童[illegible] 源、三十四、下、若菜、上「[illegible]ツギツギノ殿上人ハ、スノコニワラウダメシテ」 枕草子、一、第三段「左衞門ノ陣ナドニ、殿上人アマタ立チナドシテ」 年年[illegible] [illegible]上人ナルヲ、公卿ハ、公卿ヲ現任トスレバ、殿上人ト[illegible]ハズ、六位ハ[illegible]ノ[illegible]ニ昇殿シテ、[illegible]ナレバ、殿上人ト[illegible]ハズ、四位五位ハ、[illegible]トナレルヲ[illegible]」

(三)てんじやう-わらは[illegible](名)[殿上童] [illegible]上童(小舍人)ノ條ヲ見ヨ。 枕草子、八、七十四段、うつくしきもの「オホキニハアラヌ殿上わらはノ、サウゾキタテラレテ、アリクモウツクシ」 宇津保物語、[illegible]「[illegible]殿上わらはニツカヒ給ヒケル、年十サイバカリナル、カタチキヨラニ、心カシコク」

でんしや-かん(名)[田舍漢] ヰナカビト。ヰナカモノ。田舍兒。 [illegible]

てん-しやく(名)[天爵] 人ノ天ヨリ享ケタル自然ニ貴キ所以ノ德。人ノ人タル德。官位ナケレドモ、尊貴アリテ、人ニ尊バルルコト。(人爵ニ對ス) 孟子、告子、上「有二天爵一者、有二人爵一者、仁義忠信、樂レ善不レ倦、此天爵也」 [illegible]

てん-しやく(名)[天酌] てんぱい(天盃)[illegible] [illegible]

てん-しやく(名)[轉借] マタガリ。人ノ借リタルモノヲ、更ニ其人ヨリ、マタ借リスルコト。

てん-しやく(名)[典籍] てんせき(典籍)ニ同ジ。 [illegible]

てん-しやく-にち(名)[illegible] [illegible]

日ノ義」又、天社日。陰暦ニ、暦面第一ノ大吉日ニテ、何事ニ用ヰテモ吉ナリト云フ。春ハ戊寅、夏ハ甲午、秋ハ戊申、冬ハ甲子ノ日ナリ　暦林問答集、下、釋二天赦一「或問、天赦日者何也、答曰、通鑑云、天赦者天之生育萬物、宥二其罪一日也、故曰二天赦一者、神上天之日也、春、所二築壇一春戊寅、夏甲午、秋戊申、冬甲子、此皆天赦日也」安政雑書萬暦大成、暦下段「天赦日、此ノ日ハ大吉日ニテ、何事ヲナシテモ萬ヨコシ」

テンシュ　(名)　[天主]　耶蘇教ノ神。でうそ（提宇子）ノ音譯字。上帝。天帝。でうそ（提宇子）ノ條ヲ見ヨ。

てんしゅ　(名)　[天守]　〔公方ノ城ニ天守ト書シ、國守ノ城ニ殿主ト書スナド云ヘリ。天守ハ松永久秀ガ志貴ノ多聞城ニ始マリ、織田信長ガ安土城ニ盛ナリト云フ。共ニ天主教ヲ信ジタレバ、或ハ天主ヲ祀レルモノナラムカ。日、近古ノ築城術モ、洋人ノ傳ヘタルモノノ如シ。或ハ、佛教ノ帝釋ハ三十三天ノ主ナリ。故ニ、天主閣ノ中央ニ帝釋ヲ祭リ、四隅ニ四天王ヲ祭ル。初ハ天主ト書キテ、上層ニ天帝ヲ祭リシトゾ。然ルヲ上杉謙信、天主ノ稱ヲ惡ミ、天守ト改ム。須彌ノ天守ハ毘沙門天ナリトテ、此神ヲ祭リシヨリ、今ハ皆、天守ト書ス〕城ノ本丸ノ中ニ、特ニ高ク設クル物見櫓ノ稱。井樓ノ發達シタルモノナラム。三層、五層、七層ナドニテ、八棟造ナドニ建ツ。天守閣。望樓　大和事始、二、居處「天守、國中ノ高樓ヲ天守ト云フ、三重、貳、五重アリ、是ハ天正四年、織田信長公、江州安土ニ城ヲ築キ、天守ヲ立給ヒシヨリ始ル」　細川兩家記「伊丹城、云云、我等二人ハ、此城ノ中ニテ腹切ラントト、四方ノ城戸ヲサシ、家家ヘ火ヲカケ、天守ニテ腹切ヌ」　川角太閤記、一、秀吉姫路城「殿主ニ金銀何程アルヤラム」異本慶長日記、十二年四月朔日「御天守ノ石垣築レ之」

（二）てんしゅ　(名)　[轉手]　琵琶ノ頭ニ貫キテ、絲ヲ巻キツクルモノ。三味線ニテハ、絲巻。（長サ五寸二分）。訛シテ、てんじん（轉軫）。其條、及、さみせん（三味線）ノ條ヲモ見ヨ。倭名抄、四、音樂具「琵琶、云云、轉手名如二轉軫一者也」平家物語、七、青山沙汰事「御前ニ立テラレタリケル青山ヲ取リ、轉手ヲネヂテ、此ノ曲ヲ君ニ授ケ奉ル」傾城反魂香（寶永、近松作）中「亭主ウタヘト、三味線ノ天柱ニ頭ヲ筋カヒ身、絲ノ音色モ目ノ色モ、人ヲキッタル體ハナク」

てんじゅ　(名)　[天授]　（一）天ヨリ授カリテアルコト。史記、淮陰侯傳「陛下所レ謂天授、非二人力一也」同、留侯世家「良數以二太公兵法一說二沛公一、沛公善レ之、常用二其策一云云、良曰、沛公殆二天授一」張說詩「才華乃天授」　（二）生レナガラ授ケラレテ居ル性。ウマレツキ。生得。天性。天賦。天稟。

てんじゅ　(名)　[天壽]　天ヨリ受ケタルヨハヒ。天然ノ壽命。自然ノ命數。天年。金史、章宗紀「詔以二生辰一爲二天壽節一」史學諸「四時祥開表二明聖一、三呼二天壽一與二天齊一」曾我扇八景（寶永、近松作）上「天壽オノヅカラ計リ無ク」

でんじゅ　(名)　[傳受]　傳へ受クルコト。受ケ傳フルコト。

でんじゅ　(名)　[傳授]　藝術ナドヲ傳へ授クルコト。（皆傳ノ條、見合ハスベシ）中庸、朱熹章句、小序「此篇乃孔門傳授心法」　陸龜蒙詩「帝禍早晩教二傳授一、免以二神仙一問二葛洪一」　槍權三重帷子（享保、近松作）上「一子相傳ノ大事ナレバ、權三殿ガ、茶ノ湯デ傳授許シ請ケウ筈モ御座ラネドモ」

てんじゅう　(名)　[天衆]　天上界ニ於ケルモロモロノ神佛。テンシュ。

てんじゅう　(名)　[塡充]　フサギミタスコト。ツメフサグコト。補足。塡補。充塡

てんしゅかく　(名)　[天守閣]　てんしゅ（天守）ニ同ジ。

テンシュキョウ　(名)　[天主教]　〔でうそ（提宇子）ノ條ヲ見ヨ〕耶蘇教ノ一派。即チ、其舊キモノ。羅馬ノ法王ヲ首領トス、故ニ羅馬教トモ云フ。往時、切支丹宗門ト云ヒシモノ、是レナリ。又、加特力教トモ云フ。（我ガ國ニハ、天文十九年、初メテ來ルト）　對治邪執論「其宗旨、名曰二喜利志督一、於レ是路漣督代二賊徒傳一說二天主教一、令二人歸二宗門一者凡百餘人」

てんじゅこくマンダラ　(名)　[天壽國曼陀羅]　聖德太子ノ御母、穴穗部間人皇女、及、聖德太子ノ薨去ヲ悼ミテ、王妃橘大女郎ガ、多クノ采女等ト共ニ造リ給ヒシ刺繡。今、國寶トシテ、大和國法隆寺村中宮寺ニ藏セラル。又、天壽國繡帳ト云フ。　天壽國曼陀羅銘「十二月二十一癸酉日（推古帝二十八年）、入孔部間人女王崩、明年二月二十二日甲戌夜半太子崩、于レ時、多至波奈大女郎、悲哀歎息、白二畏天皇前一曰、云云、我大王所レ告、世間虛假、唯佛是眞、玩二味其法一、謂我大王應レ生二於天壽國之中一、云云、天皇、云云、勅二諸采女等一、造二繡帷二張一、畫者東漢末賢、高麗加西溢、云云」

てんしょ　(名)　[篆書]　漢字ノ書體ノ古キモノ。支那ニテ科斗ノ字ノ後、周ノ宣王ノ太史史籀、古文ヲ斟酌シテ、作リ改メタルヲ大篆、又、籀文ト云ヒ、秦ノ丞相李斯、古文ト籀文トヲ斟酌シテ、作リ改メタルヲ小篆ト云フ。抑、文字ノ沿革ヲ述べムニ、古文ニ始マリ、周ニ籀文、即チ大篆トナリ、秦ニ小篆トナリ、更ニ隸書トナリ、漢以後、隸書ヨリ轉ジテ、楷、行、草ノ三體起リ、六朝唐ノ世ニ到リテ固定ス。　漢書、藝文志「六體、古文、奇字、篆書、隸書、繆篆、蟲書」

てんしょ　(名)　[添書]　そへぶみ（添狀）ニ同ジ。ソヘブミ。

てんじょ　(名)　[天助]　てんいう（天佑）ニ同ジ。

でんしょう　(名)　[傳誦]　相傳ヘテ讀ムコト。モテハヤシ、トナフルコト。

てんしょく　(名)　[天職]　（一）天帝ノ職務。列子、天瑞篇「天職生覆、地職形載」　（二）天子ノ職務。又、天ノ使命。孟子、萬章、下篇「弗二與共一天位一也、弗二與治一天職一也、弗二與食一天祿一也」　（三）天ヨリ授ケラレ、其身ニ自然ニ具ハリタル務。

でんしょばと　(名)　[傳書鳩]　戰地ナドニテ通信スル鳩。鳩ハ白耳義ノ種ヲ第一トシ、伊太利ノモノ、コレニ次グ。我ガ常ノ鳩ニ比スレバ、稍、大キク、一時間四五十里ヲ飛行ス。其片足ニ金ノ輪ヲ嵌メ、所用ヲ記シ、軍ニハ寫眞ニ撮リシ極細ナル暗號通信ヲ、其足ニ結ビ附ケタル小筒ニ入レ、十羽、廿羽、一齊ニ放ツ。雁列沖天シ、旋廻スルコト兩三回、然ル後ニ目的地ヲサシテ直往スト。元來、一定ノ飼養地アリテ、ソレヨリ他ノ地ニ携へ行キ、コレヲ放チテ故地ニ還ルヲ利用スルナリ。今ハ、平時ノ通信ニモ用ヰルコト、盛ナリ。　開元天寶遺事（唐、王仁裕）傳書鴿「張九齡少年時、家養二群鴿一、毎與二親知書信一往來、只以レ書繫二鴿足下一、依二所レ教之處一、飛往投レ之、九齡目レ之爲二飛奴一、時人無レ不二驚訝一」

てん・す　・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）[展]　ツマビラカニ見ル。禮記、檀弓上篇「展レ墓而入」

てん・す　・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）[典]　物

品ヲ抵當ニシテ金ヲ借ル。質ニ入ルル。

てん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(自動、左變) 轉 (一)ウツル。カハル。平家物語、一、鵜川合戰事「妙音院殿、太政大臣ニ轉じ給ヘリ、代リニ小松殿、云云、内大臣ニナリ給フ」(二)コロブ。マロブ。(三)マハル。メグル。

てん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變) 轉 (一)ウツス。カフ。史記、蘇秦傳「轉レ禍爲レ福」謠曲、鐵輪「此上ハ何トモシテ、御命ヲ轉じカヘテ參ラセウズルニテ候」(二)コロバス。マロバス。漢書、劉向傳「用レ賢則如レ轉レ石、用レ佞則如レ拔レ山」(三)マハス。メグラス。王炎詩「轉レ柁涉二奔湍一、支レ篙入二亂塲一」

てん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變) 點 (一)點ヲウツ。訓點ヲツケル。(二)批點ヲ加フ。(三)火ヲ點ス(トモ)。(四)末茶ヲ湯ニ攪キマズ。(葉茶ヲ煎ズルニ對ス)(五)シラブ。アラタム。點檢ス。(六)ソレト定ム。選定ス。平家物語、三、燈籠事「毎月十四日十五日ヲ點じテ、大念佛アリシカバ」

でん・ず・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 殿 シンガリヲナス。アトオサヘヲナス。論語、雍也篇「孟之反不レ伐、奔而殿」

てん-すう (名) 天樞 北斗七星ノ第一。地極ノ樞軸ヲナスモノ。

てん-すゐ (名) 天水 (一)そらト、みづト。水天。黃庭堅詩「后土花無レ奇、海門天水寬」平家物語、七、竹生島詣事「天水茫茫トシテ不レ得レ求ケン蓬萊洞ノ有樣モ、是レニハ過ギジトゾ見エシ」謠曲、江口「江野、南海、湖水、湊ノ口ニ、雲霞尊ク見ヒテ、天水氣盈タリ」(二)アマミヅ。雨水。アマツミヅ。[illegible]「[illegible]一人八座ノ前ニ銚ヲ置キテ、天水ヲマチテウケニ飲ム」

てん-ずゐ (名) 天瑞 自然ニ、アラハルル吉キ祥。天ヨリ下リシ瑞祥。自然ノ吉兆。漢書、董仲舒傳「天下之人、同レ心歸レ之、若レ歸二父母一、故天瑞應レ誠而至」同、谷永傳「陛下[illegible]積二德累レ功、[illegible]瑞並至、[illegible]」

てんすゐ-をけ (名) 天水桶 雨樋ヨリ導キテ、天水ヲ貯ヘ置ク大桶。火災ヲ防グ備ヘトス。

てん-せい (名) 天性 ウマレツキ。生得(シャウトク)。天賦。天稟。孝經、聖治章「父子之道、天性也」御注「父子之道、自然慈孝、本於天性」

てん-せい (名) 天成 自然ニ出來上ルコト。人力ニヨラズシテ成レルコト。南史、文學傳、論「文章者、蓋情性之風標、神明之律呂也、蘊思含毫、遊心内運、放言落紙、氣韻天成」

てん-せい (名) 黏臍 黏(モチ)ニテ、形、臍(ホゾ)ノ如ク作リタル餅。古ヘ、朝廷ノ節會ナドニ用ヰシモノ。倭名抄、十六、飯餅類「黏臍、油餅名也、黏作似二人臍一也」[illegible]「黏臍ハてんせいハ上ハマロク、下ハヒラタクテ、中クボナルベキカ」

てんせう-だいじん (名) 天照大神 又、天照皇大神。アマテラスオホミカミ。其條ヲ見ヨ。謠曲、正尊「下界ノ地ニハ、伊勢天照大神ヲ始メ奉リ、伊豆、箱根、富士淺間」

てん-せき (名) 典籍 又、てんじゃく。カキモノ。フミ。ホン。書物。書籍。孟子、告子、下篇「諸侯之地方百里、不レ百里、不レ足二以守二宗廟之典籍一」晉書、皇甫謐傳「居二貧窮一、自躬稼穡、帶レ經而農、遂博綜典籍百家之言」

てん-せき (名) 轉籍 戸籍ノ管轄地ヲ變フルコト。本籍ヲウツスコト。

でん-せき (名) 田籍 王朝時代、國郡、鄕土ノ戸主、姓名、口分(クブン)、町段ナドヲ記シタル文書。又、コレヲ田文、作田帳文、作田目錄ナドトモ云フ。左右京職式「田籍造二三通一」[illegible]

でん-せつ (名) 傳說 (一)イヒツタヘ。古ク言ヒ傳ヘ來レル話。口碑。[illegible](二)ウハサ。風聞。風說。風評。取沙汰。[illegible]

てん-せん (名) 轉戰 此處彼處ニ赴キテ、戰フコト。場所ヲ變ヘテ、各所ニ戰フコト。史記、[illegible]

てん-せん (名) 點線 點ノツヅキテ、線ノ狀ヲナスモノ。[illegible]

てん-ぜん (名) 典膳 内膳司(ナイゼンシ)ノ判官(ジョウ)。[illegible]

てん-ぜん (副) 恬然 [illegible]安靜ノ[illegible]

てん-ぜん (副) 腆然 [illegible]

てん-ぜん (副) 靦然 [illegible]

でん-ぜん (副) 囅然 大イニ笑フ狀ニ云フ語。[illegible]

でん-せん (名) 傳染 (一)病ノウツリツタハルコト。[illegible]

でん-せん (名) 電線 電氣ヲ送ルニ用ヰル[illegible]

てん-せんくゎ (名) 天仙果 いぬびは

(犬枇杷)ニ同ジ。

でんせん-びゃう (名) 傳染病 他人ニ感[illegible]

てん-そ (名) [illegible]

てん-そ (名) 天祚 天子ノ御位。[illegible]

てん-そ (名) 天鼠 カハホリ。カウモリ。

テンソ (名) [illegible]

でん-そ (名) 田租 田ニ課スル租稅。[illegible]

でん-そ [illegible]

てん-そう [illegible]

奏請ヲ、主上、仙洞ニ執奏スルコトヲ掌ル職。議奏。 名目抄「傳奏、テンソウ」 ……二十八日……太平記、廿六、正行參二吉野一事「正行、云云、四條中納言隆資ヲ以テ申ケルハ、云云、義心ソノ氣色ニ顯レケレバ、傳奏イマダ奏セザル先ニ、マヅ直衣ノ袖ヲゾヌラサレケル」 (二)武家傳奏 德川時代ニハ、特ニ幕府ノ奏聞ヲ取次ギ奉リ、公武ノ關係ニカカル要職 南傳奏。 勸修寺大納言(明相)明應五年六月三日「勸修寺大納言教秀、武家傳奏辭退、親長卿記ニアリ」

てんそく (名) 典則 ノリ。キソク。典法。典章。典制。 北史、李諧傳「外州遠僻、仍踵二舊風一、選二吏學一人、未レ遵二典則一」

てんそく (名) 天則 天地自然ノ法則。 易經、文言、乾卦「乾元用レ九、乃見二天則一」

てんそく (名) 塡束 ウヅメフサグコト。又、ウヅマリフサガルコト。 梁書、昭明太子傳「太子自加二元服一、高祖便使 省二萬機一、內外百司奏事者、塡二塞于前一」

てんそく (名) 纏足 支那ノ女ノ風習ニテ、幼頃ヨリ、足ヲ絹ニテ卷キ固メ、小サク下方ニ、弓ノ反リタル如クナラシムルコト。コレヲ以テ美人ノ特徴トセリ。 輟耕錄、十、纏足「婦人之纏足起二於近世一、云云、令二窅娘以レ帛纏レ脚、令二纖小屈一レ上、作二新月狀一」

てんそん (名) 天孫 〔孫ハ御子ノ意ニテ、御孫ニアラズ〕 (一)〔天ツ神ノ御子〕 神代紀、上「天孫」 神皇正統記、二「人皇第一代、神日本磐余彥天皇ト申ス、後ニ神武ト名ヅケ奉ル、云云、伊弉諾尊ニハ六世、大日孁尊ニハ五世ノ天孫ニマシマス」 (二)たなばた(棚機)ノ條ノ(二)ニ同ジ。(天女ノ孫ノ意) 吳競譜「河漢天孫兮、瀟湘帝子遊」

てんたい (名) 天體 天文學ノ語。天ニアル日、月、星、辰等ノ總稱。 宋書、天文志「蔡邕、於二朔方一上書曰、論二天體一者三家」 爾雅、釋天、疏「天之形體、中包二乎地一、日月星辰屬レ焉」

てんたい (名) 轉貸 マタガシ。人ヨリ借リタルモノヲ、更ニ他ヘ貸スコト。

てんたい-がく (名) 天體學 てんもんがく(天文學)ニ同ジ。星學。

てんだい-ざす (名) 天台座主 ざす(座主)ノ條ヲ見ヨ。

てんだい-しゅう (名) 天台宗 〔支那ノ智者大師、浙江ノ天台山ニテ、此宗ヲ弘通セシヲ以テ名トス〕 佛教ノ八宗ノ一。此宗ノ章疏ノ我ガ國ニ傳ハリシハ、孝謙天皇ノ御代ナリシモ、僧最澄(傳教大師)延曆廿三年入唐シ、天台山國淸寺ノ道邃和尙、及、佛隴寺ノ行滿ニ就キテ、一宗ノ教義ヲ受ケ、翌廿四年歸朝シ、山城國ノ比叡山延曆寺ヲ創建シ、此宗ヲ宣揚ス。卽チ、法華經ヲ所依ノ本經トシテ、一代ノ諸經ヲ判ス。 台宗綱要「天台大師ノ盛ンニ弘メ玉フ、故ニ天台宗ト名ツク」

てんだい-の-ふで (名) 椽大筆 〔集韻「椽、音傳」說文「椽、榱也」〕 椽ノ如キ大キナル筆ノ意。轉ジテ、立派ナル文、堂堂タル文章。大手筆。 晉書、王珣傳「珣夢、人以二大筆如一レ椽與レ之、旣覺、語レ人曰、此當レ有二大手筆事一、俄武帝崩、哀册、諡議、皆珣所レ草」

てんたう (名) 天道 (一)〔天ノ道〕天地主宰ノ神。天帝。上帝。 宇津保物語、俊蔭ニ「我ガ子ノ行クサキノオキテセズナリヌ、天道ニマカセタテマツル」 宇治拾遺、三、第一條「嬉シキワザカナ、天道ノ我ニ物ヲ賜ブナリケリト思ヒテ」 生玉心中(正德、近松作)上「生身ニ餌食、天道、人ヲ殺サズ、覺エテカ」 (二)俗ニ、天ノ日。日輪。太陽 (佛氏ノ天道、大日ノ稱ニ起ルト云フ) 天日「天道サマ」 (三)日向。「てんたうぼこり」「てんたう乾」

てんたう (名) 顚倒 ヒックリカヘルコト。サカサマナルコト。 詩經、齊風、東方未明「東方未レ明、顚二倒衣裳一、顚レ之倒レ之、自レ公召レ之」 杜甫、北征詩「天吳及紫鳳、顚倒在二短褐一」 蘇軾詩「嗟予聞レ道不二早悟一、醉夢顚倒隨二音聲一」

てんたう (名) 奠湯 佛教ノ語、禪宗ニテ、湯ヲ佛前、又ハ、靈前ニ供フルコト。 太平記、三十三、將軍御逝去事「衣笠山ノ麓等持院ニ葬シ奉ル、云云、奠湯ハ東福寺ノ鐵翁和尙、下火ハ等持院ノ東陵和尙ニテゾオハシケル」

てんだう (名) 天堂 (一)佛教ニテ、天上界ニアル殿堂ノ稱。(二)極樂淨土ノ稱。 宋書、天竺國傳「敍二地獄一則民懼二其罪一、敷二天堂一則物歡二其福一」 (三)耶蘇教ノ極樂淨土。

てんだう (名) 天道 (一)天然自然ノ道。造化靈妙ノ威德。 易經、謙卦、彖傳「天道虧レ盈而益レ謙、人道惡レ盈而好レ謙」 老子、第七十九章「天道無レ親、常與二善人一」 謠曲、張良「國ヲ治メ民ヲ憐ム志、天道ニ通ジテ、忽ニ諸佛モ感應マシマシアタリ」 (二)天體ノ運行。 (三)佛教ノ語。てんじゃうかい(天上界)ノ(二)ニ同ジ。

でんだう (名) 傳道 (一)道理ヲ傳ヘ授クルコト。 韓愈、師說「師者、所二以傳レ道、授レ業解一レ惑也」 (二)宗旨ヲ傳ヘヒロムルコト。

でんだう-たい (名) 傳導體 だうたい(導體)ニ同ジ。

てんたう-ぶね (名) 天道船 過所船、及、三十石船ニ同ジ。 和訓栞、くわ二「過所船、云云、小ナルヲ傳道ト云フ、實ハ一也ト云ヘリ」 小町踊(寬文、立圃)夏「足ハヤキ、天道船歟、夏ノ月」

てんたう-ぼこり (名) ヒナタボコリ。ヒナタボコ。 ……

てんたう-ぼし (名) 天道乾 (一)日光ニ晒シテ乾スコト。陽乾。 (二)商品ヲ、大道ナドニ並ベテ商フ店。ホシミセ。大道ミセ。露店。昇傳鋪。 寬天見聞記「傷キモ手ノ商人ハ、表ニ見世ヲ構ヘズ、大路ヘ通ヲシキテ、商物ヲナラベ置ク、是ヲ俗ニ天道ぼしトイヒケル」

てんたう-むし (名) 天道蟲 こがねむし(黃金蟲)ノ一種。大キサ三分許、形、圓ク、色赤クシテ、黑キ小點アリ。瓢蟲。

てんたく (名) 轉宅 住居ヲ他ヘ移スコト。ヤウツリ。轉居。移徙。

でんたく (名) 田宅 田地ト、宅地ト。又、田畠ト、第宅ト。 禮記、曲禮、上「獻二田宅一者、操二書致一」 史記、王翦傳「請二美田宅園池一甚衆」

でんたつ (名) 傳達 人ヨリ人ヘ、傳ヘトドクルコト。 春渚紀聞(宋、何薳)「傳二達其言一」

てんたん (名) 恬淡 シヅカニシテ、淡泊ナルコト。又、物ニ貪着セズ、サッパリトシタル氣象。 史記、秦始皇紀「今上治二天下一、未レ能二恬淡一、願上所レ居宮、毋レ令二人知一」

てんたん (名) 恬澹 恬然トシテ、澹泊ナルコト。心シヅカニ、安ラカナルコト。 老子、第三十一章「恬澹爲レ上、勝而不レ美」 唐書、韓思復傳「遷二御史大夫一、性恬澹不レ喜レ爲二糾察一」

デンダン (名) 田彈 〔Pulo Dendang〕 馬來半島ノ西岸ニ接スル小島。奇楠香ヲ產ズル地ニテ、巴旦ト腹背相望ム。

てんち (名) 天地 (一)天ト、地ト。アメツチ。乾坤。霄壤。天壤。又、轉ジテ、天ノ神、地ノ神ヲ云フ。 楚辭「與二天地一兮同レ壽、與二日月一兮同レ光」 禮記、曲禮、下篇「天子祭二天地一、祭二四方一、祭二山川一、祭二五祀一」 掃部寮式「元日平

且、殺、事、年ニ天地四方ニ謝ス[illegible]、頭、十二、門右五「何ノ縁イニカ、ココラ悩サマナル[illegible]ニハオボホレ給ハン、天地コトワリ給ヘ」（二）物ノ上ト下トノ部。ウヘシタ。「紙ノ天地」

てんち（名）［轉地］居場所ヲカフルコト。トコロガヘ。「轉地療養」

でんち（名）［電池］稀硫酸ヲ盛リタル器ノ中ニ、純粋ナル質ノ亞鉛板ト、銅板（又ハ、炭素板）トヲ對立セシメ、コノ兩板ヲ導線ニテ連ネテ、電流ヲ起ス裝置ノ稱。此外ニモ種種アリ。

でんぢ（名）［田地］田トナリタル地。耕作スル土地。（畠地、宅地ナドニ對ス）史記、淮南王安傳「常今諸侯無ニ異心、百姓無ニ怨氣」、[illegible]方之郡、田地廣、水草美、民徒者不ㇾ足、以實ニ其地」

でんちう（名）［田疇］〔正韻「土已耕曰ㇾ田、疇、耕治之田也」〕（一）タハタ。デンバタ。（二）田ノアゼ。（三）稻田ト、麻田ト。禮記、月令篇「季夏之月、云云、[illegible]、薙行、水、利ニ以殺ㇾ草、如ㇾ以ㇾ熱湯、可ㇾ以糞ニ田疇、可ㇾ以美ニ土疆」〔註〕「穀田曰ㇾ田、麻田曰ㇾ疇」

テンヂク（名）［天竺］〔梵語、Sindhū.（身毒）ハ、いらん語ノ Hendu（賢豆）ニ轉ジ、Hendu ハ土音ニテ Thendu（天篤）トナリ、天篤、又、天竺ニ轉ジタルモノナラム〕（一）印度ノ舊名。佛教ノ起レル地。古代ハ、地勢ヲ東、西、南、北、中ノ五部ニ分チタリ、コレヲ五天竺、略シテ、五天ト云ヒキ。後漢書、西域傳「天竺國、一名身毒、在ニ月氏之東南數千里、俗與ニ月氏同、[illegible]」西域記、二「天竺之稱、異議糾紛、舊云ニ身毒、或云ニ賢豆、今從ニ正音、宜ㇾ云ニ印度」竹取物語「火鼠ノ裘、云云、モシ天竺ニ、タマサカニモテワタリナバ」（二）[illegible]

ニ、アメ、天、[illegible]、[illegible]、太宰、天[illegible]ト云フ、月見シテ」（二）天竺、木綿ノ略。

テンヂクけい（名）［天竺桂］ヤブニッケイ。其條ヲ見ヨ。

テンヂクなすび（名）［天竺茄子］まんだらげ（曼陀羅華）ニ同ジ。

テンヂクねずみ（名）［天竺鼠］元ハ、南亞米利加洲、伯西爾國ノ産ナリ。輸來シテ人家ニ畜フ。形狀ハ、兔ト鼠トノ間ニシテ、兔ヨリ小サク、性、兔ニ似タリ、毛ハ白、黒、橙黄ナドヲ交ヘテ、甚ダ美シ。肉ノ味、兔ニ似テ淡シ。俗ニ、誤リテ、もるもっとノコトトス。豚鼠

テンヂクびしほ（名）［天竺醤］〔唐（辛）過ギテ、天竺ニ至ル意ト云フ〕醤ニ、種種ノ辛味ヲ入レタルモノ。

テンヂクぼたん（名）［天竺牡丹］だりやノ一名。其條ヲ見ヨ。

テンヂクミソ（名）［天竺味噌］〔前前條ノ語原ヲ見ヨ〕味噌ニ、蕃椒ナドノ辛キモノヲ、播リマゼタルモノ。タウガラシミソ。

テンヂクもめん（名）［天竺木綿］モト洋人ノ輸來スル一種ノ綿布ノ、地、厚クシテ強キモノ。略シテ、天竺。

テンヂクらうにん（名）［天竺浪人］（一）天竺ヨリ漂流シタル人。後紀、八、延暦十八年七月「是月有ニ一人、乘ニ小船ニ漂ニ着參河國ニ、云云、自言ニ天竺人ニ、[illegible]」（二）[illegible]浪人ノ[illegible]

[illegible]倒語 [illegible]

人ト云フハ、[illegible]人ヲ[illegible]シテ[illegible]人ト云フ[illegible]、[illegible]衞門ヨリ出タル名ナルベシ」生玉心中（正徳、近松作）[illegible]

てんちげんこう（名）［天地玄黄］〔玄ハ黒ノ義〕天ノ色ノ黒ト、地ノ色ノ黄ト。[illegible]千字文、[illegible]

てんちこう（名）［天地紅］[illegible]ドノ、上下ノ端ヲ、紅ニ染メタルモノ。ツマクレナヰ

てんちさんさい（名）［天地人］（一）さんさい（三才）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]三才ニモ、君ヲ以テ[illegible]、山[illegible]、[illegible]地ノ[illegible]ナリ」（二）宇宙間ノ萬物[illegible]ツノモノノ、順位ヲ表ハスニ用ヰル稱呼。天ヲ最上トシ、地、人、コレニ次グ。

てんちゃ（名）［點茶］[illegible]ト。[illegible]

てんちゃ（名）［奠茶］佛教ノ語。禪宗ニテ、茶ヲ佛前、又ハ、[illegible]前ニ供フルコト。太平記、二十[illegible]、[illegible]二部シ奉ル、云云、奠茶ハ[illegible]仁等ノ[illegible]和尚」

てんちゃう（名）［天[illegible]］天子ノ[illegible]コト。[illegible]部ドモ、天聽ニヤ達センズラント恐怖シテ」

てんちゃう（名）［[illegible]］（一）[illegible]ムルコト。又、檢定スルコト。[illegible]

てんちゃうせつ（名）［天長節］〔光仁天皇、寶龜六年十月十三日ノ[illegible]〕天皇、降誕ノ日ヲ名ヅケ給ヒシニ起ル〕天皇、降誕ノ日ヲ、賀シ奉リテ云フ稱。コレニ對シテ、[illegible]

[illegible]暦八月五日[illegible]、天寶七年、改稱ニ天長節ニ」

てんちゃうちきう（句）［天長地久］天地ノ如ク、長久ニツヾクコト。[illegible]故借長生、[illegible]御製[illegible]、[illegible]天長地久ニ[illegible]

てんちゅう（名）［天誅］てんばつ（天罰）ニ同ジ。[illegible]

てんちゅう（名）［殿中］殿ノ中。（多ク公方家ノ居所ニ云フ）、足利義満ヨリ稱スト）[illegible]殿中ニ[illegible]

てんちゅう（名）［天[illegible]］天ノ高ヲ[illegible]ニ、支ヘテ居ルトイフ柱。

てんちゅう（名）［[illegible]注］六義ノ一。[illegible]

てんぢゅう（名）［轉住］住所ヲ轉ズルコト。[illegible]

でんちう（名）［[illegible]］（一）[illegible]

繊身の上」明暦二年、そでなし羽織ノ一種、肩ノ張リタルモノ、甚助主ナド着ル」 風流旅日記(貞享)「參宮云云、宿ハでん中ジヤ、張肘ジヤト踊ルアリ」 羇旅漫錄、下「町ノ山ノ小兒、木綿ノ袖ナシ羽織ヲ著、篠ヲスリテハヤスモノ、殿中ヂヤ、ハリヒヂジヤト云フテハヤス、殿中ハ袖ナシ羽織ノコトナリ」 (三)菅笠ノ一種。聽南笠(上總ニテ)ト云フ。德川時代ニ男子ノ用ヰシモノ。 我衣(文化、曳尾庵)「上總ヨリ出ルでん中ト云フ菅笠ナリ、伊勢ヨリモ來ル、貞享ヨリハヤル、女モ是ヲ用ユ」

でんちゅう (名) [電柱] 電信、電話、電氣ナドノ線ヲ、ハリワタス柱。デンシンバシラ。「電柱ニ觸ル」

てんづ (名) [點圖] 漢文ヲ訓讀スル時、天爾遠波、及、助動詞ヲ符號ニ作リ、ソレヲ、文字ノ四隅、上、下ナドニ施シタル圖。てにをは(天爾遠波)ノ條ヲ見ヨ。 江家次第、十七、御書始「立二御書案一、置二御注孝經卷一也、又、置二點圖、角筆等一」

てんつき (名) [點附] 漢籍、漢文ニ、訓點ノ施サレテアルコト。「點附ノ書物」

てんつき (名) [天衝] 兜ノ前立物ノ名。鍬形ノ如クニテ、飾ナク、直立シテ、先、尖ル。 會津陣物語「溝口左馬助、大天衝ノ指物ニ」

でんつくでん (名) [芝居ノ打出シノ太鼓ノ音ノ、てれつくノ轉] 芝居ノ異名。(元祿頃、芝居ノ、江戸、堺町ニアリシ頃) 後は昔物語(享保、父(小野寺十内)ガ、今日ハでんつくでんノ前ヲ通リテナド云ヒシ、でんつく、でんトハ芝居ノ事也、堺町ヲ通リシト云フ事也」

てんつる (名) [天吊] ツリアガルコト。つんつるてんノ條ヲ見ヨ。 史記抄(文明)十一、四十「長袖、てんつるハギナ者ノ躾ハミラレスゾ」

てんつるてん (名) つんつるてんニ同ジ。 浮世風呂(文化、三馬)四編、上「てんつるてんノ古ユカタモ、餘程育ノタト見エテ、肩アゲヲオロシタ跡ガ眞新シクワカリ」 おらが春(文政、一茶)小兒ノ行末ヲ祝シテ「タノモシヤ、てんつるてんノ、初袷」 東海道名所記(萬治)一、江戸より大磯「素紙子一重、帷子一枚、てつるてんノ獨身トナル」

てんつるはぎ (名) [天吊脛] 吊リ上リタル脛。

てんつゐ (名) [顚墜] コロゲオツルコト。顚落。 後漢書、朱穆傳「穆畏學鋭意講誦、或時思至不レ知二自亡失一衣冠顚二墜阬岸一」

てんてい (名) [天帝] (一)天命ヲ主宰スル神。天地ノ主宰。造化ノ神。又、泰一。上帝。 戰國策、楚策「謁者難レ見如レ鬼、王難レ見如二天帝一」 晉書、禮志「明堂祀二五帝之神一新禮、五帝卽上帝、卽天帝也」 雲笈七籤「九皇上眞者玉虛之元君也、四司者天帝之禁宮也」 (二)たいしやく(帝釋)ノ條ヲ見ヨ。

てんてい (名) [點綴] [綴ニ二義アリ、一ハ、連ぬ、又、聯るノ義ニテ、陟衛切、音綴、ナリ、博雅「連也」玉篇「緝也」書經、立政篇「綴衣」疏「衣服必連二綴著之一」 禮記、內則篇「紉レ箴請二補綴一(經典釋文(唐、陸德明)ニハ、綴、丁劣反、又、丁衛反、トアリテ、テツ、テイ、ト二樣ニ讀マセタリ)」 同、檀弓篇「殷主二綴重一焉」註「殷人作レ主、而聯二其重一縣二諸廟一也」トアリ。二ハ、止む、又、拘むノ義ニテ、竹劣切、音掇、ナリ、禮記、樂記篇「禮者、所三以綴二淫也」註「綴、猶レ止也」 儀禮、士喪禮篇「綴レ足用二燕几一」註「綴、猶レ拘也」トアリ、故ニ、ていトてつトハ、自ラ異ナリ。然ルヲ今ハ兩用セリ。甚シキハ、俗音ニせつト讀ム、謬レリト云フベシ」 點ヲ打チタル如ク、アチコチト、綴リ合ハスルコト。又、アレコレト、取リ合ハスルコト。 晉書、謝朗傳「于レ時夜月明淨、道子歎以爲レ佳、重答曰、意謂、乃不レ如二微雲點綴一」 圖畫見聞誌「僧楚安蜀人、善畫二山水一點綴甚細」 張九齡詩「葉作二參差一發、枝從二點綴新一」 蘇軾詩「雲散月明誰點綴」

てんてう (名) [天朝] ミカド。天子ノ朝廷。 晉書、鄭默傳「宮臣皆受二命天朝一不レ得レ同二之藩國一」 景行紀、四十年十月「復二命天朝一」

てんてう (名) [天吊] 眼ヲ上ニ見ツムルコト。メヲツルコト。

てんてき (名) [點滴] シタタリ。アマダリ。アマダレ。 杜牧、夜雨詩「點滴侵二寒夢一蕭騷著二淡愁一」 李建勳、惜花詩「點滴無二時雨一荒涼滿地苔」 又同詩「簷花雜二紅紫一點滴亂盈レ目」 陸游、聽雨戲作詩「透レ簷點滴如二琴筑一欲レ枕幽齋二聽始奇」 琴唄、雲の上「軒ヲメグル點滴、琴ノ音ニタグヘテ、七年ノ夜ノ雨、曾テ知ラヌ夢ノ世」

てんてこまひ (名) [天手古舞] (一)太鼓ノ音ニテ舞フコト。(里神樂ナドノ) (二)狼狽ヘテ、タチサワグコト。アワツルコト。(三)キリキリマヒ。イソガハシキコト。テンテンマヒ。(四)コヲドリシテ、喜ブコト。雀躍。

てんてつ (名) [顚跌] (一)コロビ、タフルルコト。顚倒。顚仆。 曾鞏、顏魯公祠堂記「歷二忤大姦一顚跌撼頓、至二于七八一」 (二)シクジルコト。失敗スルコト。蹉跌。

てんてつ (名) [點綴] [てんてい(點綴)ノ語原ノ一義ヲ見ヨ] てんてい(點綴)ニ同ジ。

でんてつ (名) [電鐵] でんきてつだう(電氣鐵道)ノ略。其條ヲ見ヨ。

てんでッこ (副) [てんでんおッこノ略] メイメイ勝手ニ。オノオノ。各自。

てんてつこん (名) 踊ニ云フ語、手ニテ拍子ヲ打チ、肩、膝ナドタタクコト。

てんでに (副) [各] [手に手に、ノ音便] 各自 オノオノ。メイメイ。テンデンニ。 平家物語、一、內裏炎上事「てんでに、松火ヲトモイテ、京中ヲ燒クトゾ、人人ノ夢ニハ見エタリケル」 同、二、座主流事「老僧トモ四五百人、てんでに手ニモタル數珠ドモ」 謠曲、道成寺「ヒケヤ、てんでに千手ノ陀羅尼」 菅原傳授手習鑑(延享、竹田出雲等合作)四「てんでに、ケサン振リマハス」

てんてん (名) (一)手拭ノ小兒語。(二)頭ノ小兒語。(天邊ヲ云フ) 又、小兒ハ、頭ヲ輕ク叩キテ、あたまてんてん、おつむてんてんナドト云フ。 長唄、由かぶり「カブリカブリ、シホノメ、アタマてんてんヨ」 寬政の川柳「天窓てんてん、足デスル、角兵衛獅子」

てんてん (名) [輾轉] [詩經、古點「輾轉」注「臥不レ安レ席之意」] (一)ネガヘリスルコト。コロガルコト。 詩經、陳風、澤陂篇「有二美一人一碩大且儼、寤寐無レ爲、輾轉伏レ枕」 劉禹錫詩「輾轉相憶心、明月千萬里」 (二)てんてんはんそく(輾轉反側)ノ略。其條ヲ見ヨ。 太平記、四、吳越軍事「范蠡流涙申シケルハ、臣ニ君輾轉ノ思ヒヲ計ルニ、臣非レ不レ悲ト云ヘドモ」

てんてん (副) [轉轉] (一)此處彼處ニ轉ジ移リ、又ハ、轉ガリユク狀ニ云フ語。(二)ダンダンニ。次第次第ニ。 漢書、貢禹傳「孝文皇帝衣レ綈履革、器亡二琱文金銀之飾一後世爭爲二奢侈一轉轉益甚、臣下亦相放效」

てんてん (副) [點點] (一)點ノ如ク、散亂シタル狀ニ云フ語。此處彼處ニ、散見スル狀ニ云フ語。 庾信詩「可レ憐數行雁、點點遠空排」 (二)雫ノシタタル狀ニ云フ語。 劉長卿詩「點點留二殘淚一枝枝寄二此心一」 杜牧詩「點點過二壇雨一」

でんでむし (名) ででむし(蝸牛)ノ音便。其條、及、かたつぶりノ條ヲ見ヨ。

でんでんだいこ (名) 小兒ノ玩具、其狀、[illegible]鼓ノ如ク、兩旁ニ絲ニテ鈴ヲツケ、柄ヲ振レバ、鈴、鼓面ヲウチテ、自然ニ鳴ル。天神記(正德、近松作)二「ノノサマノ土産ニハ、でんでん太鼓ニ笛、才山人形ニ花オリキセテ」

てんでんに (副) 各 「手ニ手ニノ音便轉」オノオノ。メイメイニ。各自 狂言記、内沙汰「サマヲカヘテ、開キマセウワイノ、云云、サア急イデコシラヘイ、てんでんニ手チダウテ下サレイ」 浮世床(文化、三馬)初編、上「其トハ譯ガ違フ、オ前達ノハ、てんでんニ遣フノダカラ無イノダ」

てんてんはんそく (句) 輾轉反側 〔輾ハ半轉、轉ハ周轉ナリ、反ハ輾ノ過グルヲ云ヒ、側ハ轉ノ留ルヲ云フ、皆臥シテ席ニ安ンゼザルノ義〕度度ネガヘリヲスルコト。甚ダ心配シテ、眠ラレザルコト。略シテ、輾轉。 詩經、周南、關雎篇「寤寐求之、求之不得、寤寐思服、悠哉悠哉、輾轉反側」

てんてんまひ (名) 手手舞 てんてこまひ(天手古舞)ニ同ジ。浮世床(文化、三馬)二編、下「オマヘサン、家内中ガてんてん舞ひヲ致シマステネ、云云、オ店ノ方ノ御手傳ヒヲ致シテ」

でんでんむし (名) 「出よ出よノ訛、でいでいトナリ、でんでん、でんで、ででト、漸次、略セラレタル語」ででむし(蝸牛)、及、かたつむりノ條ヲ見ヨ。

てんと (名) 奠都 都ヲ某ノ地ニ奠ムルコト。都ヲ建設スルコト。「平安奠都」

テント (名) 天戸 「英語、Tent.」 てんまく(天幕)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

てんと (副) (一)トント。[illegible]ト。スッカリ。ヒタスラ。全ク。 [illegible]女「被衣ヲ取ラッシャレイ、對面イタサウ、イヤイヤ、てんと聞コエヌ」(二)十分。ズント。 菅原傳授手習鑑(延享、竹田出雲等合作)二「[illegible]テ逢ウタハ今、てんと御[illegible]」

てんど (名) 躔度 〔躔ハ、日月星辰ノ運行スル道〕天體運行ノ度。 老學菴筆記(宋、陸游)「崇寧中長星出、推步躔度、長七十二萬里」

でんど (名) 出所 (一)出ヅル所。晴レノ場所。公衆ノ見ル所。ヒノキブタイ。 曾根崎心中(異本)「彼ノ生玉ノでんどニテ、九平次メニ蹈マセテハ、此ノ久右衞門ガ立ツモノカ」 新本代藏(正德、團水)二「十六日遊ビトテ、主人ノ許シヲ請ザレ共、でんどハレテ仕事ヲセヌ日ナリ」(二)法廷。オホヤケ。 曾根崎心中(元祿、近松作)觀音廻「此銀ヲ、ノメノメト只オノレニトラレフカ、斯ウ巧ンダ事ナレバ、でんどヘ出テモオレガ負ケ」(三)「出ル所ヘ出ルト云フ語ノ略」公儀。

てんとう (名) 纏頭 〔通鑑、後梁紀、注「舊俗賞ニ歌舞人ニ、以ニ錦綵ニ置ニ之頭上ニ、謂ニ之纏頭ニ」〕(一)歌舞ノ者ヘノカヅケモノ。衣服ヲ其頭ニ纏ヒテ與フ。祿。[illegible]ヒキデモノ。今、多クハ、金錢ナリ。 [illegible] 唐書、郭子儀傳「出ニ纏錦ニ百匹ニ[illegible]」 杜甫、[illegible]美人詩「[illegible]笑時花近[illegible]」 [illegible]次第、十五、八十島祭「到ニ難波津ニ云云、遊女參入、[illegible]」 [illegible]「若開集、六、管絃[illegible]、今夜ノ[illegible]ハ、他人ニ及ブベカラズ、用枝一人ニアルベシ」(二)ハナ。祝儀。ポチ。チップ。

てんとう (名) 點頭 ウナヅクコト。頷首。 [illegible]

てんとう (名) [illegible] 火ヲトボスコト。アカリヲツクルコト。點火。 [illegible]「[illegible]」李[illegible]詩「[illegible]火、[illegible]

[illegible]談佛[illegible]山人」

てんとう (名) 天統 くゎうとう(皇統)ニ同ジ。[illegible]

てんとう (名) 店頭 ミセサキ。

でんとう (名) 傳統 (一)系統ヲウケツグコト。[illegible](二)[illegible]ナドヲ、古クヨリ承ケ傳ヘテ居ルコト。

でんとう (名) 傳燈 〔法ヨク闇ヲ破スル故、燈ニ喩ヘテ、云フ〕佛教[illegible]ノ統ヲ承ケ傳フルコト。[illegible]ヲ化スルトキハ、功德彌增シテ、法光絶エズ、[illegible]無盡燈トモ云フ。[illegible]「ワヅカニ吹滅紙燭ヲミル、傳燈ニ不足ナリ」[illegible]「山堂夜[illegible]、燈下[illegible]傳燈」

でんとう (名) 電燈 でんきとう(電氣燈)ニ同ジ。

でんどう (名) 田頭 (一)田ノ邊ノ廣場。[illegible]第三十一「西上野ノ毛作ヲフリ燒キ働キ遊バシ候ヘ共、各居館ヘコモリ、田頭ヘ出デテ、岡ノツキ申ス衆ハ致サズ候故」 同、廿、品第五十六「田頭ヘ押出シ、[illegible]ニ驅ツベキトハ思ハルマジキト仰セラルル」

でんとうほふゐ (名) 傳燈法師位 [illegible]

てんとく (名) 天德 天ヨリ授カリタル[illegible]

てんどく (名) 點讀 漢文ヲ點圖ニヨリテ和讀スルコト。

てんどく (名) 轉讀 〔圓光大師行狀畫讚十三「轉讀トハ、云云、轉ハ轉法輪ノ轉ニ同ジクテ、只ヨムヲ轉ズト云フナリ、略讀ヲ云フニアラズト見エタリ」〕大部ノ經文ノ初、中、終ノ數行ヲ讀ミテ、經卷ヲ轉迴スルコト。之レニ對シテ、全[illegible]

てんとくじ (名) 天德寺 〔江戸、西育、天德寺門前ニテ、賣リタレバ名トス〕カミブスマ。[illegible]外被トシテ、[illegible]僕、貧民ノ用トス。[illegible]

賣セ、[illegible]德寺ナリ。守貞漫稿、十六、[illegible]、天德寺ハ江戸田民、及、武家奴僕、夏紙張ヲ用フ者、秋ニ至リテ賣レ之、[illegible]シテ[illegible]、今ハ見世店ニ賣ルノミ」

てん-として (副) [恬] 何ノ感ジモナク。平氣ニテ。氣ニモカケズニ。漢書、賈誼傳「大臣特以簿書不レ報期會之間以爲大故、至於俗流失、世壞敗、因恬而不レ知レ怪」

てん-どん (名) [天丼] てんぷらどんぶり(天麩羅丼)ノ略。天麩羅ノ條ヲ見ヨ。

てん-とり (名) 點取 點數ノ多少ニヨリテ、優劣勝敗ナドヲ爭フコト。又、俳諧ナドノ判ニ、勝ヲ得ルコト。芭蕉消息集「風雅ノ道筋、大方、世上三等ニ相見エ候、點取ニ晝夜ヲツクシ、勝負ヲ爭ヒ、道ヲ見ズシテ、走リマハルモノ有リ」 井筒業平河內通(享保、近松作)二「コノ年月、歌ノ點取ニコト寄セテ、文ノ贈答申セシ如ク」

デンナア (名) (英語、Dinner.) 正餐ノコト。一日ノ中、一番主タル食事。(晝、夜ニカカハラズ)

でん-な・い (形) だいぢなし(無大事)ニ同ジ。東海道中膝栗毛(文化、一九)五編、上「ソナイニ云フテモ、ヨウイコシャショマイガナ、でんないでんない」

でんない-りう(デンナイ・リユウ) (名) [傳內流] 書風ノ一流。鈴圓流ヨリ出デタル德川幕府ノ右筆、建部傳內ノ創メシモノ。

てん-なん-しやう(テンナンシヨウ) (名) [天南星] 草ノ名。春、宿根ヨリ生ズ、一根一莖、高サ一二三尺ヨリ六七尺ニ至ル。莖、圓クシテ直立シ、淺綠ニシテ白斑アリ、二葉互生シ、夏ノ初メ、莖ノ頭ニ花ヲ開ク、本ハ筒ノ如ク、先ハ開キテ、蓮花ノ一瓣ノ如シ、綠ト紫黑トノ線アリ、筒ノ中ニ、圓キ黃白色ノ長キ蕊アリ、後、實ヲ結ブ、赤クシテ、なんてん(南天)ニ似タリ。根ハ、圓扁ナルコト、蒟蒻(コンニヤク)ノ如シ、藥用トス。ヤマゴンニャク。康頼本草、上末「天南星、味苦辛有レ毒、和ヲウヘホソ、二月八月採レ之、似レ蒻、葉根、狀如レ芋、七月開レ花、紫斑」 和漢三才圖會、九十五、毒草類「天南星、虎掌、鬼蒟蒻、虎膏、和名、於保保曾美、云云、二月生レ苗、似レ荷梗(ハスノクキ)、其莖高一尺以上、葉如蒟蒻、兩枝相抱、五月開レ花、似蛇頭、黃色、七月結レ子作レ穗、似石榴子、紅色、云云、根圓白、形如老人卑狀、故名南星」

てん-にん (名) [天人] 佛教ニ、天上界ニ住ムト云フ人。女人ニ云フ。人間ヨリハ、福德壽命スグレ、天の羽衣ヲ着テ、空中ヲ飛行シ、舞曲ヲ奏スト云フ。月宮殿の舞曲、霓裳羽衣の曲ト云フハ、是レヲ摸シタルモノナリ。アマビト。アマツヲトメ。天女 天女ノ羽衣ノ舞曲ノ事ハ、丹後國風土記ニ、同國ノ眞井(マナヰ)ニ天女ノ降リシ事ヲ記シ、五節(ゴセチ)ノ舞姬ノ古傳アリ 安閑天皇ノ御宇ニ、駿河國有渡濱(ウドハマ)(三保ノ松原)ニ、天女ノ降リテ舞ヒ、駿河舞起ルナドノ傳說アリ 共ニあまのはごろも(天羽衣)ノ條ヲ併セ見ヨ。法華經、見寶塔品「佛滅度後、能解其義、是諸天人、世間之眼、於恐畏世、能須臾說、一切天人、皆應供養」 竹取物語「物一言、云ヒ置クベキ事アリト云ヒテ、文書ク、天人遲シト、心モトナガリ給フ」 盛衰記、十八、仙洞管絃事「聖衆[illegible]、天人雲ニ乘リ給フラント面白カリケレバ」 謠曲、山姥「深野ニ花ヲ供スル天人、カヘスガヘスモ、幾生ノ善ヲ喜ブ」

てん-にん (名) [轉任] 他ノ官ニ轉ジ任ズルコト。ヤクガヘ。遷任。晉書、劉頌傳「左遷京兆太守、不レ行、轉任河內」 式部省式、上「凡大領闕處、以少領轉任」 官職祕抄、上、諸寮頭「內藏(有權頭)華族四位殿上人任レ之、云云、自權頭轉任例(晨直、兼輔)、自レ助轉任例(安方、希世)」

てんにん-ざ (名) [天人座] 筑紫琴ノ名所(ナドコロ)。

てん-によ (名) [天女] (梵語、泥縛迦儞也(Devakanyā.)ノ譯語) (一)佛教ニ、女神ノ名ノ下ニ添フル語。「辨財天女」吉祥天女」 (二)天上界ニ住ムト云フ女。女性ノ天人。維摩經「維摩詰室、有一天女、聞所レ說法、便現其身、卽以天花、散諸菩薩大弟子上」 十訓抄、中、第七、可レ專思慮事「或時ニ諸諸ノ天女、紫雲ニ乘リテ伎樂ヲナシ」

でむね (名) [出胸] はとむね(鳩胸)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

てん-ねん (名) [天然] (然ハ、漢音ぜん、吳音ねんナリ、ぢねんぢょノ如シ) (一)自ラ然ルコト。自然(シゼン)。後漢書、賈逵傳「通天然之明、建大聖之本」 同、第五倫傳「陛下(章帝)卽位、躬天然之德、體晏晏之姿、以寬弘臨レ下」 (二)本性。天稟。史記、主父偃傳「臣竊以爲、陛下天然之聖、寬仁之資、而誠以天下爲レ務」

てん-ねん (名) [天年] 天然ノ壽命。天ヨリ受ケタル命數(變死ナドニ對ス) 天壽。史記、蔡澤傳「富貴顯榮、成理萬物、使各得其所、性命壽長、終其天年而不夭傷」

てんねん-とう (名) [天然痘] はうさう(疱瘡)ニ同ジ。其條、及、うゑばうさう(植疱瘡)ノ條ヲ見ヨ。

てん-のう (名) 天皇(テンワウ)、又ハ、天王(テンワウ)ノ連聲(レンジヤウ)。

てん-の-びろく (名) [天之美祿] 酒ノ美稱。漢書、食貨志「酒者、天之美祿、頤養天下、百禮之會、非レ酒不レ行、云云、酒、百藥之長、嘉會之好」

てん-の-め (名) [天眼][天目] 又、テンノマナコ。(一)天ノ、人ノ善惡ヲ監視スルコト。(二)星ノ異名。又、日輪(ニチリン)。宇治拾遺、一、第三條「火ヲ天のめノ如クニトモシテ」

てん-ば (名) [天馬] (一天上界ニ居テ、上帝ノ乘ルト云フ馬ノ義) 非常ナル駿馬ノ稱。一日ニ千里ヲモ走ルモノヲ名ヅクト云フ。テンマ。史記、大宛傳「得烏孫馬好、名曰天馬、及得大宛汗血馬、益壯、更名烏孫馬曰西極、名大宛馬曰天馬」

テンバ (名) [轉婆] 此語、古來、佛蘭西語ナリト云ヒ、又、顚婆ナリト云ヒ、又、天馬ナリト云ヒ、又、傳播ノ意義ノ變轉シタルモノナリト云フガ、皆アラズ、蘭語ニゾアル」 おてんば(於轉婆)ノ上略。其條ヲ參見セヨ。合類節用集(享保)十一、言辭門「轉婆、女兒所レ言」 薩摩歌(元祿、近松作)「諸國鑑ぢゃるし「アノ廊下ヲ來ル人ハ、朋輩ノおきゅんぢゃ、此奴ハ饒舌リノてんばメ、見附ケラレテハ大事ゾト」 刀奈美山「開キシヨリ、宮司ガ娘、てんば也」

でん-ぱ (名) [傳播] 世上ニ傳ハリヒロマルコト。廣ク傳ハルコト。流布。宋史、賀鑄傳「所レ爲詞章、往往傳播在人口」 北史、突厥傳「二國今作君臣、便成一體、已、敕有司、肅告郊廟、宜傳播天下咸使知聞」

てん-ばい (名) [典賣] 質物ヲ賣却スルコト。又、質入スルコトト、賣却スルコト。白居易文「莊宅典賣與レ人」

てん-ばい (名) [轉賣] 他ヨリ買取リタル物ヲ、更ニ他ヘ賣却スルコト。

てん-ぱい (名) [顚沛] (一)(詩經、大雅、蕩之什、蕩篇、疏「顚者、是倒頓之名、沛者、忽遽離レ本之言」トアリ、傾覆僵仆ノ意) ツマヅキ、タフルルコト。詩經、大雅、蕩之什、蕩篇「人亦有レ言、顚沛之揭、枝葉未レ有レ害」 毛傳「顚、仆、沛、拔也」 (二)(傾覆流離ノ際ノ意) 束(ツカ)ノ間。少時間。論語、里仁篇「君子無終レ食之間違レ仁、造次必於レ是、顚沛必於レ是」

てん-ぱい (名) [天盃] 天子ノ御盃。賜ハ

ル時ノ御酌ヲ、天酌ト云ヒ、内侍代リテスルナリ、別ノ土器ニ、御盃ノ酒ヲ移シテ飲ム、其土器ヲさしかへしト云ヒ、懐中シテ退出ス。弓法盃之書別傳「天盃頂戴ノ法ハ、別ノ土器ニ取リカヘテ酒ヲウツシ、御盃ヲ懐中シテ退出スル、ソレヲさしかへしト云フ」 著聞集、十八、飲食「中納言俊賢卿、御銚子ヲ取ル、左府、天盃ヲ給ハリテ、例ノ如クカハラケニウツシテ飲ミ」 基量卿記、貞享三年三月十日「主上(靈元)著御御引直衣、爲年始御禮之間如此也、被下天盃、御陪膳今出川大納言、御手長頼重、役送卜部兼亮」

てんぼう (名) 展望 眺メ見ワタスコト。又、遠ク見渡シタルオモムキ。「展望十里」

でんぼう (名) 〔錢の出ぬ坊ノ義、江戸、淺草寺別當、觀音院ヲ、寛永三年ヨリ智樂院ト稱セシヲ、同七年以後、七世ノ別當公然ヨリ、傳法院ト改稱シタリ。其院ノ仲間ドモ、寺ノ威ヲ藉リテ、觀音境内ノ見世物ヲ、無錢ニテ觀タルヨリ起リシ語。一説ニ、傳法院ノ奴輩ノ亡狀ヨリ起リテ、假名ハ、でんぼふナリトモ云フ〕 芝居、見世物ニ、木戸錢ヲ拂ハズ、入リテ見ルコト。又、ソノモノ。

でんぽう (名) 電報 電信機ニヨル報知。でんしん(電信)ニ同ジ。

てんぽう-せん (名) 天保錢 〔正シクハ、天保通寶錢〕 (一)銅錢ノ名。天保六年九月鑄テ、十月朔日發行ス。形、橢圓形ニシテ、方孔アリ、面ニ、天保通寶、背ニ當百ノ二字、及、花押アリ。一枚ヲ百文ニ當ツ、故ニ、當百錢、百文錢ノ名モアリ。[illegible]時代、八厘ニ通用シタリキ、(明治廿年マデ) (二)知慧ノ足ラヌ痴ナル者ノ稱、愚者ヲ、百ニ幾箇足ラズト云ヘル諺アリ、明治以後、天保錢ノ百文ハ、八十文(八厘)ナラデハ通用セザリシ故、カク云フハ明治以後ノ稱ナレド、此諺ハ、明治以前ヨリアリキ。コレ、幕府ノ末世ノ鑄造ニテ、品質極メテ粗ナリシヨリ、云ヒシモノナラム。(三)俗ニ、陸軍大學校卒業者ノ佩用スル徽章ノ稱。又、ソレヲ佩用スル軍人。徽章ノ形、大イサ、略、天保錢ニ似ルヨリ云フ。

でんぼう-はだ (名) 〔でんぼうノ條ヲモ見ヨ〕 (一)女ノ豪快ナルコト。又、其モノ。オテンバ。キンピラムスメ。(二)地廻ノ若キモノ。

でんはかせ (名) 傳博士 はかせ(博士)ノ條ヲ見ヨ。

でんぱた (名) 田畠 田ト、畠ト。タハタ。田畝。田疇。 盛衰記、十八、文覺[illegible]「[illegible]、庄内ノ童ヲ催從ヘテ、野山ヲ走リ、田畠ヲ荒ジ、馬牛ヲ打張リ、目ニ餘タル不用仁ナリケレバ」

てんばつ (名) 天罰 天ヨリ加ヘラルル罰。惡人ニ天然ニ報イ來ル禍。天ノトガメ。天刑。 書經、胤征篇「今予以爾有衆、奉將天罰」 列子、力命篇「可以生而生、天福也、可以死而死、天福也、可以生而不生、天罰也、可以死而不死、天罰也」 太平記、五、大塔宮熊野落事「親王ニ敵對申シテハ、一天下ノ間、何レノ處ニカ身ヲ置カント思フ、天罰不遠、是レヲ[illegible]メン事、我等ガ一戰ノ中ニアリ」「天罰覿面」

てんぱつ (名) 點發 けんぱつ(圏發)ニ同ジ。[illegible]

てんぱん (名) 典範 ノリ。テホン。典則。典法。[illegible]

てんぴ (名) 天日 〔火ト別チテ天ヲ加フ〕 天ニ照ル日。太陽。「天日ニ乾ス」

てんぴ (名) 天妃 支那ニテ、海、又ハ、航船ノ神。又、天后ノ稱。其功德、天ニ配スル義ニテ、名ヅケタルニ、遂ニ女人ノ像トシテ、船靈トシテ祀ル。[illegible]

てんびき (名) 天引 〔天ハ天窓ノ義〕 貸金ノ中ヨリ、金利ヲ先ヅ減ジ去ルコト。例ヘバ、高利貸ニテ、十圓貸ス時、初、其内ヨリ利子ヲ一圓トシテ、引キ去リテ、殘リ九圓ヲ貸ス類。

てんぴつ (名) 佔畢 [illegible]「佔、視也、畢、簡也」[illegible]讀ムコト。[illegible]「今之教者、呻其佔畢、多其訊、言及于數」陳澔注「今之教人者、但吟諷所佔視之簡牘、不能通[illegible]」

テン-ビン (名) 天平 [illegible] 〔天秤ノ音ハ、ちゃうニテ、稱ニ同ジ〕 (一)秤ノ一種。中央ヲ支ヘタル衡ノ兩端ニ皿ヲ釣リ、一方ニ物ヲ載セ、一方ニ分銅ヲ載セテ、輕重ヲ量ルモノ。(二)鈎鈎ヲ、天秤ノ如ク、一線ニ二箇用キルモノ。(三)兩事、相均シキコト。事、二ツ[illegible]

てんぴん [illegible]

マレツキ。モチマヘ。生得。天賦。天性。[illegible]

テンビン-ぼう (名) 天秤棒 [illegible]荷ヲ掛ケ、中央ヲ肩ニ當テテ[illegible]。てんびん。[illegible]

てんぴゃう-がは (名) [illegible] 武具ニ用キル染革ノ名。白革ニ、地ヲ柿色ニシテ、模様ヲ白ク染メ出セルモノ、不動ノ像、八幡ノ二字、[illegible]等ノ文ヲ、白圏ノ中ニ柿色ニテ現ハス。此版木、肥後ノ八代郡古閑橋ニ傳ハリテ製出セシヲ、中古、[illegible]年中、[illegible]二字ヲ略シテ、正平革ト云ヘリ、[illegible]年六月一日ノ字アリ。又、正平革トモ云フ。

てんぴゃうじゃく (名) 天平尺 天平八年ニ制定シタル尺。其一尺ハ、曲尺ノ九寸七分八厘ニ當ル、[illegible]

テン-ぶ (名) 天部 佛教ノ語。凡夫ノ生死往來スル三界、欲界、色界、無色界ノ諸天ノ總稱。[illegible]天ヂリ、コレノ[illegible]云フ。

でんぷ（名）［天賦］一てんぷ（天賦）ニ同ジ。[illegible]

てんぷ（名）［天府］（一）支那、周代ノ官名、天子ノ祖先ノ祭祀ニ供スル傳來ノ重寶ヲ掌ルモノ。周禮、春官篇、太宗伯「天府掌祖廟之守藏、與其禁令」（二）土地肥沃ニシテ、産物ノ饒（オホ）キ憑ムベキノ土地。戰國策、秦策「沃野千里、蓄積饒多、地勢形便、此所謂天府天下之雄國也」史記、留侯世家「關中所謂金城千里、天府之國也」（三）天然ニ要害ヨキ地。後漢書、耿弇傳「古盛之軍、今定河北、據天府之地、以義征伐」（四）道藝ノ籠レル天ノ藏府。荀子、大略篇「不知而問堯舜、無有而求天府、先王之道、則堯舜已、六藝之博、則天府已」（五）學問ノ積蓄ノ深キコト。荀子、大略篇「子貢、云云、爲天下之列士、學問不厭、好士不倦、是天府也」

てんぷ（名）［添附］ソヘツクルコト。

てんぷ（名）［顚仆］てんてつ（顚跌）ノ條ノ（一）ニ同ジ。

でんぷ（名）［田儛］〔初、田植ウル時ニ舞ハシメシニ起ルカト云フ〕一種ノ舞ノ名。豐稔ヲ祈念スルノ舞ナリ。歌詞アリテ、舞人ハ凡ソ四人、樂ニツレテ舞フ。又、タノマヒ。たまひ（田儛）ノ條ヲモ見ヨ。職員令、雅樂寮集解「別記云、云云、田儛師、舞人四人」大嘗祭式「巳日、云云、主基人等、入自中庭、奏田舞（十人共舞）」外宮儀式帳「御田種下始時、田儛仕奉」

でんぷ（名）［田麩］鰹節ヲ細末ニシ、砂糖醬油ニテ煮染メタルモノ。又、魚肉ヲ湯デテ、乾シテ碎キ、鹽、砂糖ヲ加ヘテ炒リタルモノヲモ云フ。又、鰑（スルメ）ヲ細カニ削（ケヅ）リテ、酒ト醬油トニテ煮、コレニ山椒ノ粉ヲ振リカケタルモノヲ、梅枝（ウメガエ）

田麩、又ハ、梅ガ香ナドト云フ。

でんぷ（名）［田夫］［田父］（一）キナカビト。野人。無智ニシテ禮儀ヲモ知ラヌ人。田舍漢（田夫野人（デンプヤジン）ノ條、參見セヨ）（二）百姓。農夫。舊唐書、倪若水傳「九夏時忙、三農作苦、田夫擁耒、蠶婦持桑」潘岳、秋興賦「談話不過農夫田父之客」（父ハ夫ニ通ズ）

でんぷ（名）［傳符］古ヘ、傳馬ヲ徵發スルタメニ、下付スル太政官符。（徵發スルヲ得ベキ、馬數ヲ刻スルモノ）孝德紀、大化二年正月「詔、凡給驛馬傳馬、皆依鈴傳符剋數」公式令義解「凡給驛傳馬者、皆依鈴傳符剋數、云云、親王及一位、驛鈴十剋、傳符三十剋」中務省式「主鈴、凡行幸從駕、內印幷驛鈴、傳符等、皆納漆簏子」

てんぷく（名）［顚覆］（一）クツガヘスコト。又、クツガヘルコト。書經、胤征篇「顚覆厥德」（二）ウチコハスコト。ホロボスコト。孟子、萬章、上篇「太甲顚覆湯之典刑」

てんぶつ（名）［典物］ちもつ（質物）ニ同ジ。抵當物。典質。

てんぶん（名）［天分］（一）人ノ天ヨリウケタルモチマヘ。天授ノ性質。天資。三國志、魏志、管輅傳、注「至於推運會論災異自當出吾天分、學未一年、義傳反從輅」（二）人ノ天ヨリウケタル分限。世說、賢媛篇「汝何以都不復進、爲是塵務經心、天分有限」（三）人ノ天ヨリ、命ゼラレタル職分。天職。

でんぶん（名）［傳聞］人傳（ヒトツテ）ニ聞キ知ルコト。キキヅタヘ。公羊傳、哀公十四年「所見異辭、所聞異辭、所傳聞異辭」陸贄狀「傳聞與指實不同、懸算與臨事有異」

でんぶん（名）［電文］電報ノ文句。電信ノ文言。

でんぷん（名）［澱粉］穀類、葛根、甘藷（サツマイモ）、

馬鈴薯ナドノ主要成分ヲナス澱粉質ヨリ製出スル白色ノ粉末。食シテ營養ニ富ミ、又、糊ニ製ス。又、粉。コナ。

でんぷやじん（名）［田夫野人］田舍ノ人。唐鑑（唐、范祖禹）「范淳夫曰、天寶之亂、田夫皆知之」涅槃經「田夫種殖」孟子、萬章、上篇「齊東野人之語也」盛衰記、十八、文覺高雄勸進事「淺猿（アサマ）キ田夫野人ダニモ、程程ニ隨ヒテ、後生ヲバ恐レ侍ルゾカシ、況ンヤ萬乘ノ國主トシテ、聖衆ノ來迎ヲ期シ給ハザランヤ」

テンプラ（名）［天麩羅］〔西班牙語、Tempora. 天主教ニテ、金曜日ノ祭ノ名（耶蘇、天上ノ日）此日、潔齋ニシテ獸鳥肉ヲ食ハズ、魚肉、鷄卵ハ食フ、因リテ此日ノ魚料理ノ名ニ移リタルモノカト云フ。文字ハ麩（ウドンコ）ノ羅（ウスモノ）ヲ塡メタルナリ〕（一）料理ノ名。魚肉ヲ、小麥粉ヲ水ニ溶シタルニマブシテ、油揚ゲニシタルモノ。又、丼鉢（ドンブリバチ）ニ暖カナル飯ヲ盛リ、其上ニ味ヲ附ケタルてんぷらヲ載セタルヲ、天麩羅井ト云ヒ、略シテ天井（テンドン）ト云フ。近年、鷄卵ノ黃身ヲ加ヘテ色黃ナルヲ、きんぷらト云フ。（はいからヨリ、ばんからニ移レルガ如シ）唐船噺今國性爺（享保、近松作）上、唐の與噯（キヤリ）「てんぷらぷら」（大職冠（正德、近松作）唐菓子の名「カステラ、カルメラヤウカンカン」トアルハ、てんぷらト同調ナリ）嬉遊笑覽、十、飲食「蕃語ナルベシ、小麥ノ粉ヲ練リテ、魚物ナドニツケテ油揚ケニスルヲモ云、（てんぷらト）ハ、其形、同ジケレバ也、云云、元文三年、千前軒ガ小栗判官ノ淨瑠璃、波羅門僧ト云フ惡黨ノ名ニ、てんぷら長九郎ト云フアリ、然レバ其ヨリ先、長崎ナドニハ、魚物ノ油揚ヲ然云ヘリト見ユ」安永七年四月、幕府ノ祝儀ニ「魚てんぷら」トアリ。同、十年（天明元年）正月、淨瑠璃昔唄今物語（[illegible]）ニ「天麩羅」トアリ。[illegible]日記ニ「家康ノ鯛ノてんぷらヲ食ス」トアリ。嬉遊笑覽（寫本）十

「天明ノ[illegible]、何者カ、天麩羅（アブラアゲ）トイフ名ニテ書ケリ」衣服往記（天明）「安永ノ頃ヨリ、辻賣ノ油あげトアルハ、是レ（てんぷら）ナルベシ」蜘蛛の糸巻（文化、岩瀨京山）「天ぷらノ始リ、天明ノ初年、云云、大坂ニテつけあげト云物、江戸ニテハ胡麻揚ト云テ辻賣アレド、イマダ魚肉ヲアゲ物ハ見エズ、云云、利介曰、是ヲ夜店ニ賣ランニ、ソノ行燈ニ、魚の胡麻揚ト記スハ、何トヤラン物遠シ、云云、先生、名ヲツケテ賜ハレト云ケルニ、亡兄（京傳）少シ考ヘ、天麩羅ト書キテ見セケレバ、利介、不審ノ顔ニテ、てんぷらトハ如何ナル謂レニヤト云フ、亡兄ウチ笑ミツツ、足下ハ今、天竺浪人也、フラリト江戸ヘ來テ賣始メル物故、てんぷら也、てんハ天竺ノ天、即チ揚クル也、ぷらニ麩羅ノ二字ヲ用ヰタルハ、小麥ノ粉ノウス物ヲカクルト云フ義ナリト、云云、見世ヲ出ス時、行燈ヲ持チ來リテ、字ヲ乞ヒケル故、亡兄、余ニ字ヲ書カシメ給ヘリ、コハ己レ十二三頃ニテ、今（文化三年）ヨリ六十年ノ昔ナリ、今ハ天麩羅ノ名モ文字モ、海内ニ流傳スレドモ、亡兄京傳翁ガ名付親ニテ、予ガ天麩羅の行燈ノ書始メ、利介ガ賣リ弘メシトハ、知ル人アルベカラズ（此說實ニ侍リ、我幼キ頃ハ、行燈ニ、モト胡麻揚トアリシ也）」（二）カブセモノ。嬉遊笑覽、十「凡、菓子、何ニテモ、砂糖ノスリ蜜ヲ衣ニカクルヲ、てんぷらト云フ」（三）卑金屬ヲ餡ニシ、純金屬ニテ包メルモノ。（金物細工ニ）（四）鍍金（メッキ）シタルモノ。（五）人ノ外面ヲ裝フコト。

てんぺい（名）［天兵］天子ヨリ派遣セラレタル兵。王師。又、天意ヲ受ケタル正義ノ兵。韓愈詩「四面星辰著地明、散燒烟火宿天兵」盧叔倫詩「王者應無敵、天兵動遠征」

でんぺう（デンピヨウ）（名）［傳票］〔英語、Slips. ノ譯語〕銀行、會社ナドニテ、振替、收納、支拂ナドノ通知ニ發スル切符。

てんぺん（名）［天邊］空ノ高キ處。オホゾラノハテ。

てんぺん（名）［天變］天上ニ於ケル變

動。天空ニ起レル異狀（風、雷、日蝕、月蝕、彗星ノ異ナド）　漢書、劉向傳「天變見二于上一、地變動二于下一」衣泉弓鏡、山谷呂[illegible]「同、前漢之未、[illegible]使[illegible]宮、天變、宜　亡二[illegible]二頭、十九、轉實世「てんぺん頻リニサトシ、世ノ中シヅカナラヌハ此ノケナリ」「天變地異」

てんぺん（名）轉變　物事ノウツリカハルコト。變遷。太平記、十二、公家一統政道事「世ノ盛衰、時ノ轉變、歎クニ叶ハヌ習ヒト知リナガラ、今ノ如クニテ、公家一統ノ天下ナラバ」「有爲轉變」

てん-ぼ（名）展墓〔展ハ省ミ視ルノ義〕墓ニマウヅルコト。ハカマヰリ。ハカマウデ。墓參。禮記、檀弓、下篇「去[illegible]國則哭二于墓一而后行、反二其國一不レ哭、展レ墓而入」

てん-ぽ（名）塡補　不足ヲタシミタスコト。缺損ヲ補フコト。塡充。補充。補足。

てん-ぽ（名）店鋪　タナ。ミセ。　舊唐書、食貨志「若一家內、別有二宅舍、店鋪等所レ貯錢一」

てん-ぽ（名）典鋪　シチミセ。質屋。　顧休集「十金之物、典鋪止當二五金二分、息三年爲[illegible]」

てん-ぽ（名）天步　天ノマハリアハセ。天ノ運命。天運。　詩經、小雅、都人士之什、白華「天步艱難、之子不レ猶」

でん-ぼ（名）さぶ（痛）ノ異名。　[illegible]タレテ出來タルモノ。

でん-ぽ（名）田圃　でんぱた（田畠）ニ同ジ。　韓光義詩「既忘二生子孫一方思[illegible]二田圃一」

てん-ぼう（名）展眸　ミワタスコト。ナガムルコト。見放クルコト。放眸。

てん-ぼう（名）手棒　（一）てぼう（手棒）ノ音便。其條ヲ見ヨ。（二）〔てぼう（手棒）ノ音便。手ノ棒ノ如キ意〕指、手首、又ハ、手ヲ損ウ[illegible]テ無キコト。又、腕、又ハ、手ノ利カヌコト。又、[illegible]ノ者。[illegible]

〔[illegible]、[illegible]、云云、てんぼう[illegible]ト中[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、親ノ[illegible]ヲ[illegible]ニウケ、[illegible]ノ千[illegible]ヲ[illegible]フレ、片[illegible]二[illegible]」

でん-ぼう（名）（一）小サキ焙烙。（二）土人形。　浮田秀家ノ長臣、林玄蕃ノ家來、伏見ノ稻荷村ニ住ミ、稻荷山ノでんぼう池ノ土ニテ、鈴、でんぼ、小判、乘狐、布袋、一文オヤマ、ナドノ人形ヲ作ル、世ニ人形幸右衞門ト云フ。七年間ニテ去リテ、大阪ノ秀頼ニ仕ヘ、元和元年ノ役ニ死スト。　案内者（寛文）二、稻荷初午詣「大小土器ノ[illegible]ノ[illegible]シタル物ヲ田炮ト名ヅケ、云云、[illegible]ニ賣リケル」

てんぼう-えび（名）手棒蝦　海蝦ノ一種。片手ノ特ニ大ナルモノ。大腳蝦

てんぼう-がに（名）手棒蟹　かたつめがに（偏爪蟹）ノ異名。其條ヲ見ヨ。

てん-ぼく（名）塡墨　籠寫ノ文字ノ中ナドニ、墨ヲ塗ルコト。

てん-ぼこり（名）[illegible]　己レヨリ優レタルモノナキ時、傲慢ノ擧動ヲナスニ云フ語。[illegible]ト合ハセテ云フ。　[illegible]記、三十三、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]キ[illegible]ニ[illegible]坂ニ[illegible]倉上[illegible]「十[illegible]人[illegible]コソ、[illegible]ノ[illegible]キ[illegible]ノてんぼこりトカヤノヤウニ」

てんぽ-なし（名）根椇　〔手棒梨ノ義〕けんぽなし（根椇）ノ條ヲ見ヨ。

てんぽ-の-かは（名）アテモナキコト。虛言ヲ云フコト。ウソノカハ。　淨瑠璃、[illegible]「アテモナシニスルコトヲ、てんぽの皮ヤッテ見ヨウ」　[illegible]、二[illegible]フ、てんぼうノフトムヒ、てんぼのかはハ、ウソノカハノカハト云フカ如シ」　武藏國秩父方言「アテモナキコトヲ云フヲ、てんぼヲ言フト云フ」

でん-ぽふ（名）傳法　（一）傳授ノ法。

（二）佛教ノ語。法脈ヲ承ケ傳フルコト。[illegible]ニ[illegible]法門ヲ[illegible]。[illegible]ヲ[illegible]ニ[illegible]セシムルコト。傳燈。　狂言記、[illegible]無[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]スト云フ」

てんぽふ-やき（名）傳法燒　（一）今ハ大阪市西淀川區傳法町ノ地ニテ、[illegible]出スル陶器。日本山海名產圖會「[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]法燒、[illegible]」（二）其陶器ニテ燒キタル料理。[illegible]燒、名目ノやきもの「傳法燒、後トウガハヲケニ、ネギノ白根センニ打チヒキ、火ニカケ、少シ燒ケタル時、鰹魚、鮪ノ類ヲサシミノ如クツクリ、上ヘナラベ燒キテ、色ノカハル時ニカヘシ、シタヂ掛ラヘ酒キテ、カケル也」

てんぽふ-りん（名）轉法輪　佛教ノ語。釋迦八相示現中ノ第七ノ相ニシテ、佛一代ノ說法ヲ宣說シ給フコトノ、自在無礙ナルヲ、[illegible]ノ[illegible]ニ喩ヘ、又、佛法ノ、ヨク一切ノ煩惱ヲ破碎スルコトノ、[illegible]ノ[illegible]寶ノ、ヨク一切ノ障礙ヲ破碎シテ、進ムガ如クニ比シタル語。　法華經、方便品、[illegible]合掌、[illegible]二我[illegible]轉法輪一」　法華文句、五、[illegible]之法、[illegible]、[illegible]「又、降魔成道轉法輪、忉利天ニ上リ給ヒテ」同、廿九、王の[illegible]りんノ座ニ[illegible]キタリ」　[illegible]、一、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノアルヲ、[illegible]ノ人、[illegible]ノ[illegible]ニナルト、[illegible]ハス、コレ[illegible]ナリト、[illegible]ノ[illegible]リキ」

てん-ま（名）天魔　〔天子魔ノ略〕[illegible]

魔ト云フ。[illegible]同ジ。其條ヲ見ヨ。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]

てん-ま（名）傳馬　〔傳ハ驛ノ意〕（一）ウマヤツぎむまはのま（驛馬）ノ條ヲ見ヨ。（二）[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]

てん-ま（名）天馬　てんば（天馬）ニ同ジ。　サドモアリ。（三）傳馬船ノ略。

てん-まう（名）天網　[illegible]ルタメニ張レル網ノ義〕天ノ制裁。[illegible]

てん-まく（名）天幕　（一）天井ニ懸ケタル幕。[illegible]

てん-まつ（名）顚末　[illegible]ニ小舍ノヤウニ張リナホス[illegible]ノ始メカラ終リマデ。イキサツ。[illegible]

てん-まど（名）天窓　屋根ニ開キタル窓。日光ヲ導キ、又ハ、煙ノ出ヅル用[illegible]

トス。其戸ヲ、綱ニテ引キテ開閉スレバ、引窓トモ云フ。

てんまぶし（名）［天滿節］萬治ノ頃、天滿八太夫ト云ヘル者ノ語リ始メシ說經淨瑠璃節ノ稱。同擒錄「天保、傳彥云、寛文二年ノ江戸名所記ニ、堺町ノ大薩摩ノ芝居ニ並ビテ、天滿八太夫アリ、寶曆十年ノ風俗陀羅尼ニ、イタハシヤ、浮世ノスミニ、天滿ぶし」江戸總鹿子、五「說經座、堺町、天滿八太夫」

てんまぶね（名）［傳馬船］〔荷ヲ、陸ニ、ハシケルコト、傳馬ノ如キ船ノ意〕運送ニ用ヰル艀船ノ名。海ニハ親船ノ通ヒニ用ヰル。テンマセン。略シテ、傳馬。艀舟。杉板船　加古敎信七墓廻（元祿、近松作）一「草履取ノ須摩藏、磯ニツケテ御命ヲ助ケント、傳馬舟ニ乘セ申セバ、山ノ樣ナル大波カ、トブト打ッテ、御舟ハ行方知ラズナリテ候」

てんまんぐう（名）［天滿宮］天滿天神ノ社。（次條ヲ參見セヨ）

てんまんてんじん（名）［天滿天神］委シクハ、天滿大自在天神ト申シ、略シテ、天神、又ハ、菅神ト申ス。菅原道眞公ヲ祀ル。本朝文粹十三、祭文「寛弘九年、北野宮供幣、右天滿自在天神、云云」太平記、十二、聖廟御事「抑、カノ天滿天神ト申スハ、風月ノ本主、文道ノ祖タリ、天ニ御座シテハ、日月ニ顯レ光、照二國土一、地ニ天降ッテハ、鹽梅ノ臣トナッテ、群生ヲ利シ給フ」謠曲、卷絹「南無天滿天神、心中ノ願ヒヲ叶ヘテ賜リ候へ」

てんみやうがま（名）［天明釜］又、天猫（テンメウ）。伏見天皇ノ頃ニ、下野國、安蘇郡、天明ノ地ニ產ジタル鐵釜ノ稱。茶家ニ珍トス。文アルアリ、無キアリ。略シテ、天明。嬉遊笑覧、二、下「鴉本閣外」「三晩葢歿ヘ云（當麻ノ書人木都ガ釜ヲ贈セルモノ）」賞當十二壬午、ソノ人七十餘歲ト云フ、攝州蘆屋ノ里ニ、唐人居テ鑄物ヲシタリ、秀吉公、雅神ノ形ヲ好ミテ、茶釜ヲ鑄サセラレシニ、諸侯ヨリモ多ク賴マレ、難義ニ思ヒテ出奔シ、信州天明村ニ隱レシカト、生活ナリ難ク、又、茶釜ヲ作ル、氣盡ニ鑄タルニ、佳作多クアリ、コレヲ天明釜ト云フテ賞玩ス、其後、秀吉公ヨリ尋モナク差許カル、寬大ノ御氣象、實ハレ候」

てんめい（名）［天命］造化ノ然スル所。天ノ命令。天然ノメグリアハセ。自然ノ運命。天運。書經、仲虺之誥篇「茲率二厥典一、奉二若天命一」論語、爲政篇「四十而不レ惑、五十而知二天命一、六十而耳順」孟子、離婁、上篇「天命靡レ常、殷士膚敏、裸二將于京一」景行紀、四十年十月「褒曷日曷時、復二命天朝一、然天命忽至、隙駟難停、是以獨臥二曠野一、無二誰語一之」後紀、十三、延曆廿四年八月「紀朝臣直人卒、直人、云云、爲人溫雅、頗有二文藻一、歷二官內外一、無レ有二毀譽一、修以二天命一卒」

てんめい（名）［天明］ヨアケ。アケガタ。拂曉。黎明。元稹詩「夜半初得處、天明臨レ去時」

てんめいぶり（名）［天明風］きやうか（狂歌）ノ條ノ（五）ヲ見ヨ。

てんめう（名）［天猫］てんみやうがま（天明釜）ノ條ヲ見ヨ。和漢茶誌（享保、三谷良朴）二、古釜「有二天猫者一（下野佐野地名也）相州所レ作、亦號二天猫一、故俗呼二小田原天猫一、一說曰、越州亦有二此名一、且天猫之製、凡五百年、或人曰、適二用命與一明二字一、羅山先生改二命明字一以代レ猫」

てんめつ（名）［殄滅］ホロボシタヤスコト。又、ホロビタユルコト。絕滅。殄殲　書經、盤庚、中篇「我乃劓二殄滅之一、無レ遺二育一」隋書「孟獻殄滅、擴提無レ紀」

てんめん（名）［纏綿］カラマリツクコト。マトヒツクコト。潘岳、西征賦「竊託二蔡於關庭一、曾二擧名一而掩レ涕、思纏二綿於墳塋一」「情緒纏綿」

てんめん（名）［轉免］轉任ト、免官ト。

てんもく（名）［天目］〔支那、浙江省、臨安縣ノ天目山ハ名茶ヲ產ズ。昔、五山ノ僧ナド、天目ノ茶ヲ賞シタレバ、其名ノ器物ニ移リシモノカト云フ〕（一）天目茶碗ノ略。茶家ニ、茶碗ノ一種、すりばちなりニシテ淺ク、上ノ開キタルモノノ稱。尻スボマリタレバ、黑漆ノ茶臺ニ載スルヲ常トス。緣ハ銀ノ覆輪（フクリン）ヲ置ク。倭訓栞、前編「てんもく、甌ヲ云フ、建安ノ天目山ノ名ニヨレリ、磁碗ノ深キヲ云ヘリ」和漢三才圖會、三十一、庖厨具「茶盌、云云、京師黑谷、清水、御室之茶盌天目最多、皆可レ吃二濃茶煎茶一」（二）泛ク、茶碗ノ稱。（四國、九州、中國、北國）

てんもくさや（名）［天目鞘］（天目ノ如キ形シタルヨリ云フ）槍ナドノ鞘ノ一。堀川波鼓（寶永、近松作）中「云フモ管鎗、人ハ武士、奴ガ今朝ノ朝酒ノ、てんもくざやニ兒サヤ」薩摩歌（寶永、近松作）諸國鎗まるし「蠟燭鞘ト鎌鎗ハ筑後ノ久留米、天目、鳥毛ハ同國柳川白熊ノスミ袋」

てんもくだい（名）［天目臺］天目茶碗ヲ載スル臺。和漢茶誌（享保、三谷良朴）二「漆雕、閣、十二先王之一」注「俗云、天目臺也」

てんもくちやわん（名）［天目茶碗］てんもく（天目）ノ條ヲ見ヨ。

てんもん（名）［天文］天體ノ諸現象ノ稱。古キ意ニハ、日、月、星、辰、風、雲、雨、雪等ノ、常時、變時ノ事ヲ說クコト。新シキ意ニハ、日、月、星、地等、天體ノ大小、形狀、位置、距離、運行、回轉ノ時期、及ビ、日月蝕等ノ現象ヲ察シ、曆數ヲ考ヘ、星圖ノ製法ナドヲ研究スルコト。易經、繫辭、上傳「仰以觀二於天文一、俯以察二於地理一」三國志、魏志、管輅傳、注「義博反從レ輅、問二易及天文事要一」史記、秦始皇紀「上具二天文一、下具二地理一」

てんもんがく（名）［天文學］天文ニ關スル學問。理學ニ屬ス。前條ヲ見ヨ。星學。天體學。

てんもんがた（名）［天文方］江戸時代、天文、曆術、測量、地誌、及、洋書ノ翻譯ナドヲ掌ル幕府ノ役。明良帶錄（文化、山形曾寬）「天文方」注「百俵五人扶持」「天文方（淺草鳥コヘ）山路金之丞」

てんもんだい（名）［天文臺］（一）天文ノ研究ニ從事スル所。又、天體ヲ觀測スル爲ニ、建テタル高キ臺。觀象臺。（二）天文ヲ察スル官司。司天臺。御府內備考、十三、淺草「頒曆調所、云云、新堀ト三味線堀トノ間ニ在リ、里俗、天文臺ト呼ベリ、元ハ牛込藁店ト云所ニ置レシガ、天明二年六月朔日、當所ヘ移サル」

てんもんどう（名）［天門冬］古名、スマログサ。草ノ名。海邊ノ沙地ニ多シ。春ノ末、宿根ヨリ叢生シ、蔓、甚ダ蔓延ス。葉ハ、杉ノ如クニシテ長ク、ヤハラカニシテ光ル。夏、葉ノ間ニ、小白花ヲ開キ、後、圓キ實ヲ結ブ、ふんてん（南天燭）ヨリ小サク、熟スレバ白クシテ、中ノ黑子、透キテ見ユ。根ニ細長キ塊、多ク附ク、藥用トシ、又、砂糖ニ漬ケテ、菓子トモス。一名、クサスギカヅラ。

てんもんはかせ（名）［天文博士］古へ、陰陽寮ノ官、天文ノ事ヲ掌ル。司天。陰陽寮式「凡天文博士、常守觀候、每レ有二變異一、日記進レ寮、寮頭即共勘知、密封奏聞、其日記者、加二署封一送二中務省一、令レ附二內記一」三代實錄、一、天安二年八月廿九日「凡天文風雲氣色有レ異、陰陽頭、及天文博士、密封奏聞」易林節用集（慶長）「天文博士、陰陽司天」

てんや（名）［店屋］（一）アキナヒミセ。商人店。商店。肆。諺艸記「可レ尋二商店屋見一」（二）專ラ、食物ヲ賣ル店。食肆　元親記、長曾我部下「聚樂ニテ、云云、御茶屋ヲ立テ、女二人店屋ノ者ニ出立タセ置タリ」

でんや（名）［田野］（一）田ト、野ト。ハタケ。孟子、告子、下篇「入二其疆一、土地辟、田野治、養レ老尊レ賢、俊傑在レ位、則有レ慶」三國志、吳志、

傳「臣竊以、治國之體、其猶治家、主田野者、皆宜良信ニ」(二)田、野ノアル所ノ意ニテ、ヰナカ。李白書「何由返ニ初服ニ田野醉ニ芳樽ニ」

てんやく (名) 轉役 他ノ役目ニ移ルコト。ヤクガヘ。轉任

てんやく (名) 典鑰 又、鎰取(カギトリ)。古ヘ、諸省寮ノ藏庫ノ鎰(カギ)ヲ掌ル職。中務省ニ屬シ、大典鑰、少典鑰アリ。カギノツカサ。拾芥抄、中本「典鑰(大、少)」典鑰、官圖局內」中務省式「典鑰、凡諸司藏庫鑰匙、毎日與ニ監物一共日請夕進、云云、但兵庫鑰、臨時請進一」同「凡納ニ御鑰一辛櫃匙、納ニ典鑰局一」

てんやく (名) 典藥 (一)古ヘ、禁中、又ハ、幕府ニテ、醫藥ノ事ヲ掌ル職。庭訓往來、十一月「和氣、丹波之典藥、曾以難ニ逢」(二)クスリノスケ。醫藥ヲ供奉スル女官ノ稱。後宮職員令「藥司、尚藥一人(掌ニ供ニ奉醫藥之事ニ)典藥二人(掌同ニ尚藥ニ)」

てんやくれう(テンヤク・リヨウ) (名) 典藥寮 クスリノツカサ。古ヘ、宮內省ニ屬セル寮、醫藥ノ事ヲ掌ル。倭名抄、五ニ官名「典藥寮、久須里乃豆加佐」字類抄「典藥寮、テンヤクレウ、クスリノツカサ」

てんやわんや (副) 互ニ先キヲ爭ヒテ、順次ナキ狀ニ云フ語。テンデンコニ。メイメイカッテニ。ワレガチニ。

てんゆ (名) 諂諛 〔荀子、修身篇「以ニ不善ニ先レ人者、謂ニ之諂ニ、以ニ不善ニ和レ人者、謂ニ之諛ニ」〕ヘツラフコト。史記、平準書「公卿大夫、多諂諛取容矣」宋史、范純仁傳「司馬光爲人、云云、公忠心以逆ニ衆議、不ニ求ニ茍合ニ」[illegible]

てんよ (名) 天與 天ヨリ與ヘニルコト。又、ソノモノ。天授。漢書、蒯通傳「蓋聞、天與弗取、反受其咎、時至弗行、反受其殃」

てんよう (名) 轉用 使用ノ目的ヲ轉ジテ、他ノ用ニ供スルコト。流用

でむら (名) 出村 本村ヨリ分レテ、飛地ナドニアル村家。新在家。分村。

てんらい (名) 天來 天ヨリ此世ニ來レルコト。又、天ヨリ得タルコト。[illegible]「隨分獨眠秋殿裏、遥聞笑語自天來」[illegible]「太華賦、淺之九河之浚波、番自天來」

てんらい (名) 天籟 〔籟ハ簫ノ一名。其穴ヨリ發スル聲ヲモ云フ。又、空吹ク風ニツレテ、生ズル物ノヒビキ〕(一)天風ト云フニ同ジ。〔地籟ニ對ス〕莊子、齊物論篇「子游曰、地籟則衆竅是已、人籟則比竹是已、敢問天籟、子綦曰、夫吹萬不同、而使其自已也、咸其自取、怒者其誰邪」儲光羲詩、[illegible]「天籟小桁遠山聲」(二)轉ジテ、自然ノ節奏ニカナヘル絶妙ノ詩歌。

でんらい (名) 傳來 (一)ツタハリキタレルコト。渡來。「三國傳來」(二)受ケ繼ギ來リシコト。相傳。「先祖傳來」

てんらうせい(テン・ロウ・セイ) (名) 天狼星 恆星中ニテ最モ大ナルモノニシテ、地球ニ最モ近ク、北半球ニ於テ、冬春ノ際、南方ニ見ユ。[illegible]後漢書、馬融傳「[illegible]」柳宗元、[illegible]「[illegible]、負ニ太白ニ[illegible]天狼ニ」

てんらく (名) 顚落 てんつゐ(顚墜)ニ同ジ。

てんらん (名) 天覽 えいらん(叡覽)ニ同ジ。「天覽[illegible]」

てんらん (名) 展覽 物ヲ擴ゲテ見ルコト。又、種種ノ物ヲ陳列シテ、人ニ見スルコト。「[illegible]」

でんらん (名) 電覽 (電ハ、目光ナリ、目ノ美稱) 他人ノ見ルコトノ敬稱。御覽。貴覽。高覽。電矚「電覽ニ供ス」

てんり (名) 天理 天地自然ノ道理。人爲ニ非ザル天ノ正シキ條理。天道。禮記、樂記「[illegible]」莊子、天運篇「夫至樂者、先應之以ニ人事ニ、順之以ニ天理ニ、行之以ニ五德ニ、應之以ニ自然ニ」[illegible]

てんり (名) 天利 〔天引ノ利ノ義〕貸金ノ際、てんびきニスル利金。

でんりう(デン・リユウ) (名) 電流 電氣ノ傳ハリ行クコト。導體中ヲ電氣ノ流動スルコト。

てんりけう(テンリ・キヨウ) (名) 天理教 神道ノ一派。明治四十一年、神道本局ヨリ分離シテ、獨立ス。大和國、山邊郡庄屋敷ニテ、中山みき女、[illegible]年ニ唱ヒ出シタルモノ、其祀ル所ノ神ヲ、天理大神ト申シ、國常立尊、伊弉諾尊、伊弉册尊ナド十柱ノ神ヲ[illegible]、神ナリ、神ハ八方八面ナリ、神ノ心ニ從ヒ、天理ノ大道ニ依リテ、世界一列ヲ救ヒ、常暗ノ世ニ、泣キ明カス[illegible]多クノ人間ニ、安心ノ基ヲ與ヘントス)ハ、極メテ平易ニシテ、[illegible]ノ、御手振(ミテフリ)ナドト云フ歌ハ、口語ナリ。

てんりん (名) [illegible] 理。荀子、[illegible]「[illegible]兄弟同氣、[illegible]天倫ニ」(二)天然ニ備ハリタル倫理ノ義。兄弟、同胞[illegible]

てんりんざう(テン・リン・ゾウ) (名) 轉輪藏 經藏ノ中[illegible]

てんりんじやうわう (名) [illegible] 聖王ノ感得セル輪寶ナリ、王、[illegible]除キ、旋轉應導シテ、一切ヲ成伏シ、[illegible]所ナシト云フ」人壽八萬歲以上ノ時、出現[illegible]王。[illegible]

てんりんわう (名) [illegible]

てんりやう (名) 天領 (一)天子直轄ノ領地。(二)轉ジテ、公ケノ領地[illegible]

てんりうがは (名) [illegible]

ニ、遡江ノ天部河ヲ、あめたかのわたりト、西行發心記ニ見ユ、龍ノ梵語、那可ト云フユヱナリ、サルヲ海道記ニ、アマミツ空ノ中河トアルハ、誤レリトナン」

てんりゅうじ-で (名) 天龍寺手 一山城國、嵯峨ノ天龍寺藏ノ香爐ヨリ、名、起ルト云フ、一支那渡來ノ陶器、青磁ノ一種、砧手ヨリ緑深シ。龍泉窯

てんりゅうじ-は (名) 天龍寺派 臨濟宗ノ一派。疎石(夢窓國師)ノ開基タル京都ノ天龍寺ヲ本山トスルモノ。

てんりゅうじ-ぶね (名) 天龍寺船 足利尊氏、天龍寺ヲ建ツルタメ、其造營ノ資ヲ得ントシテ支那ヘ遣ハシシ貿易船。

てんれい (名) 典例 故實。典故。

てんれい (名) 典禮 定マレル儀式。 易經、繫辭、上傳「聖人有二以見一天下之動一、而觀二其會通一、以行二其典禮一、繫レ辭焉、以斷二其吉凶一」

てんれい (名) 典麗 タダシクウルハシキコト。 南史、顏延之傳「擢二延之官一、途作二北游賦一、又作二七箴詞一、前典麗」 白居易、授二裴度中書舍人一制「以二茂學懿文一、潤二色訓辭一、要二典麗甚得一其宜二」

でんれい (名) 電鈴 〔英語、Electric bellノ譯語〕電流ノ作用ニヨリテ鳴ル裝置ノ鈴

でんれい (名) 傳令 命令ヲ傳フルコト。又、ソノ人。「傳令使」

でんれふ (名) 田獵 畋獵 山野ニテ行フ狩獵。 孟子、梁惠王、下篇「今王田二獵於此一、百姓聞二王車馬之音一、見二羽旄之美一、舉疾首蹙頞而相告曰、吾王之好二田獵一、夫何使二我至二於此極一也」

てんろく (名) 天祿 (一)〔說文「祿、福也」〕天ノ降スサイハヒ。天佑。 論語、堯曰篇「四海困窮、天祿永終」 (二)天ヨリ授カリシ福祿。 漢書、刑法志「功成事立、則受二天祿一、永年一得其休」 後漢書、百官志「百官子弟不レ修二學業一、高尚二交遊一、未レ知レ在レ事而坐享二天祿一、農工之業多廢」 (三)獸ノ名。牛ニ似テ、頂ニ一角アリ、身ニ鱗アルモノト云フ。コレニ對シテ、辟邪ト稱スルハ二角アリ。支那ニテハ、此天祿ト辟邪トヲ一對トナシテ、墓所ナドニ石ニテ作リ置ク。ソハ、辟邪ハ不祥ヲ祓除シ、天祿ハ永ク百祿ニ綏ンゼシムト云フ。又云フ、王者ノ道、滿ハルトキハ、出デテ天下ニ福ストモ云フ。 漢書、西域傳、注「似レ鹿長尾、一角者、或爲二天祿一、兩角者、或爲二辟邪一」 (四)酒ノ異稱。漢書、食貨志ニ「酒者天之美祿」トアルニ因ル。 清異錄(宋、陶穀)「王世充僭號、謂二群臣一曰、所三以暢二朕之和氣一者、惟酒功耳、宜レ封二天祿大夫一」

でんわ (名) 電話 (一)〔英語、Telephon.ノ譯語〕電話機ニヨリテ通ズル談話。「無線電話」「電話交換」 (二)電話機ノ略。

てんわう (名) 天皇 〔すめらみこと、おほぎみニ對シテ、漢字ニ記サルル御稱號〕外國ニ對シテ、用ヰ始メラレタルモノトオボユ、後ニハ廣ク內外ニ稱ヘ奉ル。〔やまとヲ、日本トセラレタルガ如シ〕スメラミコト。スメロギ。スメラギ。大日本國ニ君臨セサセ給フ大君主ノ大尊號。支那ニテハ、天帝、又ハ、天子ノ稱トシ、又、古代ノ帝王ノ稱トス。 儀制令「天皇詔書所レ稱、皇帝華夷所レ稱」 唐書、高宗紀「皇帝稱二天皇一、皇后稱二天后一」 三皇本紀「天地初立有二天皇氏一」 推古紀、十六年九月「天皇聘二唐帝一、其辭曰、東天皇敬白二西皇帝一云云」 法隆寺佛像光背銘「大王天皇」(オホキミテンワウ)大安寺伽藍緣起「是時、小治田宮御宇大帝天皇、召二田村皇子一」

てんわう (名) 天王 (一)佛家ニテ、欲界六天ノ最下ノ神ノ名ニ添ヘテ云フ稱、「牛頭天王」「四天王」 (二)專ラ、牛頭天王ノ稱。「天王祭」 (三)支那ニテ、天子ノ稱。君主。 史記、孝文紀「卜人曰、所レ謂天王者、乃天子」 (四)神輿ノ一名。

てんわう-ざん (名) 天王山 勝敗ノ分ケ目ノ稱。天王山ハ山城國乙訓郡山崎ノ西ニアル山ニシテ、天正十年、羽柴秀吉ト明智光秀ト、此山ヲ爭ヒ、秀吉、此戰ニ勝チテ、天下ニ霸ヲ唱ヘシヨリ然云フ。

てんわうじ-かぶら (名) 天王寺蕪 モト攝津國東成郡天王寺村ニ產ズル一種ノ蕪ノ名。形、稍細長ク、味、最モ美ナリトス。又、テンワウジカブ。

てんわう-せい (名) 天王星 行星ノ一。太陽ヨリ第七ニ位ス、土星ヨリ稍小サシ。八十四年ニシテ、太陽ヲ一周ス。陪星、四ツアリ。西曆千七百八十一年、英國ノ天文學者はァしぇる (W. Herschel.)ノ發見セシモノト云フ。

でんわ-き (名) 電話機 電流ヲ利用シテ遠所ノ人ト談話ヲ通ズル機械。送話器ト、受話器ト、電池ト、及、コレ等ヲ連絡スル導線トヨリ成ル。略シテ、電話。

てんゐ (名) 天位 天子ノ御位。アマツミクラヰ。天津日嗣。帝位。天祚。皇位。寶祚。宸極。 書經、太甲、下篇「天位艱哉、德惟治、否德亂」 晉虞、漢高祖贊「遂登二天位一、纘二堯之緒一」

てんゐ (名) 天威 (一)せいゐ(聖威)ニ同ジ。「天威咫尺」 (二)天帝ノ威力。 書經、泰誓、上篇「皇天震怒、命二我文考一、肅將二天威一」

てんゐ (名) 天維 天ノ落チザルヤウニ維持スト云フモノ。天綱。 [illegible] 天維ハ衍二地維一 [illegible] 云云、四方云云 [illegible] 二天維モ斷エテ落チ、坤軸モ傾ク計リナリ」

てんゐ-しせき (句) 天威咫尺 天皇ニ咫尺近シ奉ルニ云フ。 左傳、僖公九年「天威不レ違レ顏咫尺一」注「言、天鑒察不レ遠、威嚴常在二顏面之前一也、八寸曰レ咫」

てんゐん (名) 店員 商店ニ勤ムル者。

てんゑん (名) 天淵 天ノ淵。又、天ト淵ト。上ト、下ト。又、懸隔ノ甚ダシキニ云フ語。 宋史、天文志「天淵十星、主二灌溉一」 陸游詩「雅古雖二天淵一、視レ俗亦冰炭」

でんゑん (名) 田園 (一)田ト、園ト。陶潛、歸去來辭「歸去來兮、田園將レ蕪、胡不レ歸」 沈千運詩「不レ如三守二田園一、歲宴望二丘壑一」 (二)郊外ノヰナカ。 漢書、疏廣傳「歸二生小法一、自放二官一、於レ是、歸二隱於田園一者數年」「田園生活」

でめ (名) 出目 〔凹目ニ對ス〕眼ノ、尋常ヨリハ凸ク出デタルモノ。凸眼

てめえ (代) 手前 てまへ(手前)ノ條ノ(二)ノ訛。 東海道中膝栗毛(文化、一九)七編、上「鼻ノタラシタア、てめえノコ、タワ、云云、手めえ、紺ノカンバンヲ着テヰルカラ」

でめ-きん (名) 出目金 きんぎょ(金魚)ノ一種。其條ヲ見ヨ。

で-めん (名) 出面 (一)次條ノ語ノ略。(二)北海道ニテ、人夫、屋外勞働者ヲ總稱シテ、出面、又ハ、出面取ト云フ。コレハ、明治ノ初、開拓使アリシ頃、人夫ノ、顏ダケ出セバ、賃金ノ取ルルヨリ起リタル語ト云フ。

でめん-ちゃう (名) 出面帳 田圃人夫ノ

出勤簿。田畠ニテ、[illegible]、監督者ガ、人夫ノ出役ヲ調ベテ、出、又ハ、缺ノ判ヲツキ、十五日目毎ニ、其賃銀仕拂締ヲナスニ用ヰル帳。（東京、目黒ノ農林省林業試驗場ニ、古クヨリ出面簿ト云フアリ、苗圃人夫ノ出勤簿ナリト）

て-も (辭) サウシテモ。サテモ。イカニモ。狂言記、[illegible]「コナタノ仰ハコナタノ、私ノ福ハ私ノ福ト、別別ニ致シマセウ、でも、多聞天ノ仰セラレタ事ヲ[illegible]スコトハナルマイ」

で-も (辭) 「だ」ニ、第二類ノ天爾遠波ノものノ附キ添ヘタル語」ニテモ。ナリトモ。狂言記、鬼養子「早、日モ晩ジテゴザル、人でも違レテ參ラウモノヲ」

デモクラシイ (名) 「英語、Democracy.」民本主義、又ハ、民主主義ナドト譯ス―下流ノ人民ヲ本トシテ、制度ヲ立テ、政治ヲ行フベシト云フコト。古ヘノ所謂、下剋上ト云フモノカ。

デモクラティック (名) 「英語、Democratic.」民本的。民主的。又、平民的。

〜てもすまに (副) 「手も繋ノ轉カト云フ」手モ屢ニ。手モヤスメズニ。手ノタエマヲオカズニ。萬葉集、八[illegible]「[illegible]タメ、吾ガ手[illegible]、春ノ野ニ、拔ケル茅花ソ、食シテ肥エマセ」同、[illegible]「手[illegible]、植エシ萩ニヤ、却リテハ、見レドモ飽カズ、心盡サム」

て-もち (名) 手持 物ヲ用ヰ扱フコト。物ノ處置。「手持ガワルイ」手持無レトハ、手持無沙汰ナリ。春花五大力(寛政、[illegible])「ノシホハ手ヲモチモチ、てもちナク」

て-もち-ぶさた (名) 手持不沙汰 為スベキ事無クテ、徒然ナルコト。空手ニテ、間ノワロキコト。手持無キコト。無[illegible]

[illegible] [illegible]判官ハ、ムヅムヅト起直リ、シヲシヲトシテ、オハセシハ、[illegible] (延享、竹田出雲等合作) 二「是ハ是ハ、恐イ所ヘヨウ御出ト、手持無沙汰セヘラズ[illegible]」

て-もつれ (名) 手縺 モノゴトノ、カラミアフコト。モノゴトノ、モツルルコト。紛糾。紛糾。錯亂。錯綜。心中天網島、享保、近松作)上「親子ニ門妻子迄ソデニナシ、身代ノ[illegible]れモ、小春ト云フ[illegible]ニタラサレ、[illegible]」

て-もと (名) 手許 手ノ、屆ッアタリ。手近。手廻リ。[illegible]集「還近ノ、里ノ少女子、早苗取ル、手もとニ暮レテ、日[illegible]」[illegible]首[illegible]「身ニ落ツル、己ガ仕業ヲ、賤ノ男ガ、てもとコタヘテ、伐ル木カナ」[illegible](貞享、西鶴)四「手元ナル竹箒ヲ提ゲ出デ」

で-もどり (名) 出戻 (一)一旦、出デテ、途中ヨリ引キ返スコト。(二)一旦、嫁シテ後、離緣トナリテ、實家ニ歸レルコト。又、其女。(三)[illegible]

て-も-なく (副) 無手 (一)何ノ備モ用ヰズシテ。何ノ面倒モナク。容易ク。容易ニ。「手も無く出來ル」(二)論ヲ用ヰズ。ソノママ。「手も無く此ノ通リナリ」

で-もの (名) 出物 (一)デキモノ。ハレモノ。腫物。(二)賣リニ出サレタル物。拂物。(三)屁。オナラ。

て-もり (名) 手盛 (一)自ラ己レガ食物ヲ盛ルコト。[illegible]一代男(天和、西鶴)二門、[illegible]ノ葉ニ、菜ノメシヲ、てもりニ、茄子香ノ物ヲ貫ヒテ」[illegible]山比翼塚(安永、瀨川藤馬等作)「初カラ、アヂ過ギタト喰ヒコンダ手盛八杯」(二)己レ一存ニテ、物事ヲキムルコト。又、己レ獨リノ思慮ニ出デタルハカリゴト。タクラミ。

て-や (名) 手矢 (一)手ニ持ツ矢。(二)[illegible]

兵[illegible]ノ名[illegible]、[illegible]ノ如キモノ。敵ニ擲ツニ用ヰル。手裏劍ノ如シ。打根。

て-やり (名) 手槍 槍ノ[illegible]、細ク短キモノ、[illegible]六七尺、[illegible]ノ槍ヲ云フ。小槍。短槍。[illegible] [illegible]

で-やう (名) 出樣 (一)出ヅル樣子。デグアヒ。デザマ。(二)シカタ。振舞ノサマ。シウチ。

て-ゆる・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 手緩 てぬるし(手緩)ニ同ジ。

て-よつ (名) 手四 「手ノ四番ノ義」[illegible]撲ノ手ノ一。兩力士、互ニ兩手ノ手先ヲ握リ合ヒテ、四肢ニ力ヲ張リツメ、[illegible]ヒノ形トナルコト。

テラ (名) 寺 [illegible]、又ハ、(Chyol.[illegible]ノ義)、又、巴利語ノ、Thera. (長老ノ義)ノ轉トモ云ヒ、又、巴利語ノ、[illegible] [illegible] [illegible]

[illegible]

てら (名) 照 (照ノ義) [illegible]

テラ-いり (名) 寺入 (一)寺子屋ニ入門スルコト。入學。(二)室町時代、[illegible]

[illegible]

テラ-うけ (名) [寺請] てらしょうもん(寺證文)ニ同ジ。　大學或問「吉利支丹ノ法ヲ斷絶セン事イカガ、云云、今ノ如ク、吉利支丹ナラデハ、吉利支丹ハ知ラズト云ヘリ、今ノ寺請ハ、何ノ用ニモ立タズ、殊ノ外ナル國ノ費ナリ」

テラ-うけじやう (名) [寺請狀] てらしょうもん(寺證文)ニ同ジ。　大江俊光記、元祿二年二月九日、寺請狀之事、云云、拙僧檀那ニテ出デ申シ明ケ、御尋有所ニ主ヘ、少モ御難題ケ申ス間敷ク候、爲ニ後日、寺請狀如レ件」

テラ-きん (名) [寺金] てら(寺)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。　科條類典、下、四、寛保三年八月「藤兵衛儀、云云、與兵衛ヘてら金可レ遣旨申合、云云、御法度之博奕ヲ催、てら金三兩壹分請取候」

テラ-こ (名) 寺子　室町時代ヨリ平民子弟ノ教育ハ、寺院ノ僧侶ニ付セラル、其生徒ヲ寺子ト云ヒ、入學スルヲ寺入、又ハ、登山ト云フ。　東山往來、秋山色樹、四「昔ハ俗童ノ寺院ハツカハシ、僧ノ類ミテ手習、物讀ナドヲサセシナリ、云云、今世、商家ニテ、手習ノ師ヲスル所ヲ寺ト云ヒ、子供ヲ寺子ト云フモ、此風ナリ」

テラこ-や (名) 寺子屋　江戸時代、民間ノ浪士(又、神官)ナドノ、市街ノ間ニ家ヲ構ヘテ、兒童ニ教授セシ所。其學科ハ、讀書、習字、算術ナリキ。就中、習字ヲ専ラトスルヨリ、其師ヲ手習師匠ト云ヒキ。明治五年ノ學制ニテ、公立小學校ノ稱トナリタリ。略シテ、てら。　東牖子、三「京童ノ書家ヲ寺ト云ヒ、寺屋トモ云フ」　修身書ニハ、寺子制誨之式目(元祿、笹山梅庵)、寺子教訓書(正德、堀流水軒)ナドアリ。　菅原傳授手習鑑(延享、竹田出雲等合作)ニ、タダ働ケルモ幾怠ナ、寺小屋カ有樣ノ稱ハ、コイツガ責メ道具」

てらさ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [衒] 〔てらふノ延〕てらふ(衒)ニ同ジ。　萬葉集、十八、三十「針袋、オヒツヅケナガラ、里毎ニ、天良佐比アルケド、人モトガメズ」

テラ-ざむらひ (名) [寺侍] 古ヘ、格式高キ寺ニ仕ヘタル侍。

てらし (名) [照] 手燭、又ハ、松明ノ類ノ總稱。各條ヲ見ヨ。

てらし-あは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) [照合] カレトコレト、比べ合ハセテ見ル。比べ合ハセテ、糺シ見ル。テリアハス。參照　參看

テラ-しようもん (名) [寺證文] 德川氏ノ初ニ、切支丹ノ改宗ノ者、其志ス所ノ佛教佛寺ニ歸依シ、其寺ノ住持ニ、檀家ト認メシメ、奉行所ヘ出サシメシ證書。後ニ至リテモ、年ヲ期シテ、寺院ヨリ其檀家ナルヲ證シテ出セリ。寺手形。寺請。寺請狀。　地方落穂集、十三、宗門改の節「御法度ノ趣、僉議ヲ遂候處、自分家來知行所百姓等ニ至ル迄、切支丹ニ紛ハシキ者御座ナク候、之ニ依ッテ、銘銘、寺證文取リ置キ候事」

てら・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [照] (一)〔光ヲ物ニ與ヘ映ス。(日、月、又、火ナドニ)　萬葉集、十八、三十「長歌「アマてらす、神ノ御代ヨリ」　古今集、五、秋、下「佐保山ノ、柞ノ紅葉、散リヌベミ、夜サヘ見ヨト、てらす月カゲ」　萬葉集、二十、三十九「去年見テシ、秋ノツクヨハ、てらせレド、相見シ妹ハ、イヤ年サカル」　千載集、十九、釋教「日ノ光リ、月ノカゲトゾ、てらしケル、暗キ心ノ、闇ハレヨトテ」　(二)相比ブ。見合ハス。參照「照し合ハス」

テラ-せん (名) [寺錢] てらきん(寺金)ニ同ジ。てら(寺)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。　公義隨筆、雪「碁打將基之賭奕、三度以上イタシ候モノ、又ハ回リ筒之博奕ハ二度イタシ候共、てら錢請候モノハ、凡、中追放碁之宿リニ見込之事」

〔**てら-つつき** (名) 〔てらハ取ニテ、蟲ヲ取ラムノ意〕 [啄木] 鳥ノ名。又、テラツキ。轉ジテ、ケラツツキ。略シテ、ケラ。きつつき(啄木鳥)ニ同ジ。　箋注倭名抄、七「鳥名「斵木、天良豆豆岐」　本草和名、下、五十四「斵木鳥、天良都都岐」　字鏡、六十四「啄木鳥、寺豆支」

てら-つばき (名) ねずみもち(鼠梓木)ニ同ジ。

テラ-てがた (名) [寺手形] てらしょうもん(寺證文)ニ同ジ。　地方落穂集、十三、宗門改の節「一、與力同心支配ノ者、家來迄穿鑿ヲ遂候處、切支丹ニ紛敷者御座ナク候、勿論寺手形取置申候」　南蠻寺興廢記「改宗ノ願ヒアル者ハ、云云、願所ノ宗門ヲ聞キ、其ノ寺ノ寺僧ヲ呼ビ、其ノ寺ノ檀那ニ仕ル旨、證文ヲ奉行ヘ差シ出ダス、是レ寺手形ノ始マル所ナリ」

てら-てら (副) 照リ光ル狀ニ云フ語。　蕪村句集拾遺「てらてらト、石ニ日ノ照ル、枯野カナ」

テラ-なっとう (名) [寺納豆] 昔、歳暮ニ、寺僧ヨリ檀家ヘ贈ル濱名納豆ノ稱。曲物ニ、薄キ板ヲ三角ニ折曲ゲ、紙ヲ貼リ、底トシテ盛ル。　嬉遊笑覽、十、上「今ノ寺納豆モ、法論ミソ、坐禪納豆ノ遺製、京師大德寺眞珠庵ニテ造ルヲ、一休納豆ト云フ」

〔**てら-は・す**・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [衒] 次條ノ語ニ同ジ。　字鏡、七十五「衒、天良波須」

〔**てら・ふ**・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [衒] 〔照ルノ他動ニ活用ス。韻會「衒、自矜也」〕己レガ業、又ハ、名ヲ世ニ耀クヤウニナス。世ニ顯ハシテ、誇リ示ス。テラス。テラハス。ミセビラカス。ヒケラカス。テラサフ。　名義抄「衒、テラフ、ウル、カガヤカス」　字鏡、七十五「衒、亂也、天良波須、又、賣也」　靈異記、中、第十九縁、「自衒　衒、豆良波吉(志ノ誤カ)」　天治字鏡、九、十二「衒、天良波志治(須ノ誤カ)」　雄略紀、十三年三月「山ノ邊ノ、コジマ子故ニ、人涅羅賦、馬ノ八匹ハ、惜シケクモナシ」「名ヲ衒ふ」

テラ-ほふし (名) [寺法師] 近江國、三井寺ノ僧ノ稱。同寺ヲ略シテ、寺トノミ云フヨリ云フ。(山法師ニ對ス)

テラ-まゐり (名) 寺參　寺ヘ行キテ、佛、又ハ、祖先ノ墓、位牌ナドヲ拜スルコト。テラマウデ。佛參。

てら-むし (名) きくひむし(木食蟲)ニ同ジ。　名義抄「蝎、テラムシ」

てり (名) [照] (一)〔照ルコト。ヒカルコト。　萬葉集、十八、三「トコヨモノ、此ノ橘ノ、イヤ照リニ、ワゴ大君ハ、今モ見ルゴト」　(二)光澤。　(三)日ノ照ルコト。晴天。「てりフリ」

テリアカ (名) [底野迦] 〔羅甸語、Theriaca.〕獸咬解毒ノ膏藥。猪脂等、數品ノ藥ヲ研リ合ハセテ、蜂蜜ニテ煉ル。　本草和名、下、三「底野迦、蘇敬注云、用二諸膽一作レ之」

てり-あは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) [照合] てらしあはす(照合)ニ同ジ。

てり-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [照合] 比べテ互ニ合フ。相對ヒテ差ハズ。照應

てり-うそ (名) [照鷽] うそどり(嘯鳥)ノ條ヲ見ヨ。　加茂保憲女集「ヨシノ山、花ウチハブク、てりうそノ、聲ニモユラグ、朝途ノ影」

てり-かか (名) [照鏡] 次條ノ語ニ同ジ。

てり-がつを (名) [照鰹] 極上ノ鰹節ノ心ヲ鉋ニテ削リ、焙烙ニカケテ炙リ、醤油ヲ付ケタルモノ。甲ノ如キ光澤出デ、美シ。てりかかトモ云フ。

てり-かへし (名) [照返] (一)テリカヘス

コト。反射スルコト。反照。(二)洋燈ノ背面ニ裝置シ、其燈ノ光ヲ反射シテ、一層、明カナラシムル凹面ノ鏡。

てりかへ・す・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四)〔照返〕照ラサレタル光ニテ、他ヲ照ラス。太祇全集「照り返す、伏見ノ寺ヤ、桃ノ花」

デリケエト(名)〔英語、Delicate.〕微妙。又、精細。細微。

てりおまめ(名)〔照田作〕正月ノ重詰ナドニ用キル品。卽チ、田作ヲ焙烙ニテ炒リ、砂糖ト醬油トヲ煮ツメタル鍋ニ入レ、カラリトスルホドニ、手早ク、炒煮シタルモノ。イリゴマメ。又、おまめヲ入レテ調理シタル膾ヲ、おまめなます(韲膾、又ハ、田作膾)ト云フ。轉ジテ、寒素ナル生活ヲ云フ。

てりおみ(名)〔照込〕(一)日光ノ強ク照リ續クコト。(二)アツサアタリ。

てりつ・く・クル・クレ・ケ・ケヨ(自動、下二)〔照付〕烈シク照ル。(夏ノ日ナド)

⁂**てりつ・ける**(動)〔照付〕前條ノ語ノ口語。

てりてりばうず(名)〔照照坊主〕てるてるばうず(照照坊主)ニ同ジ。

てりは(名)〔照葉〕(一)光澤アリテ、麗ハシキ葉。百合若大臣野守鏡(寬永、近松作)「鬘島八景「地ニ根芸縫リマゼ、横ノ照葉ヲ擎横ニ、赤イベベ織リテ着セウノ」(二)次條ノ語ノ略。

てりはきやうげん(名)〔照葉狂言〕ニモト、照葉ト云フ婦人ノ演ジ始メシ故ニ云フト」今樣メキタル能狂言。芝居ノ振ヲモ交ヘテセリ。多ク、女子ノミニテ、一座ヲナス。略シテ、てりは。守貞漫稿、三十、「照葉狂言、其[illegible]ハ、[illegible]ヲ[illegible]トス[illegible]ヲ大[illegible]トシ、衣服ニモ[illegible]ヲ用キ、又、[illegible]ノ大[illegible]ノ服、乃チ古ノ[illegible]世、[illegible]之[illegible]ノ[illegible]マモ[illegible]之、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]芝居狂言、又ハ、俄狂言ニ似タルコトモ交ヘ行フ、安政ニ至リ、江戸ニ下リ、[illegible]ノ[illegible]ヘ[illegible]之テ群集アリ」

てりふ(名)〔照布〕白麻布ノ一種、上品ナルモノニテ、茶家ニ用キテ茶巾トス。濕ノ乾クコト速シ。殊ニ朝鮮照布ト云フヲ賞ス。大猷院殿御實記、五十四、寬永廿年七月十八日「朝鮮國信使[illegible]行ハル、云云、三使ミヅカラノ[illegible]物、虎皮五枚、人參五斤、照布十疋」

てりふ(名)〔照斑〕鼈甲ノ斑ノ、特ニ光澤アルモノ。

てりふり(名)〔照降〕(一)晴天ト、雨天ト。「てりふりナシニ」(二)次條ノ語ノ略。

てりふりがさ(名)〔照降傘〕傘ノ、晴雨共ニ用キラルルモノ。晴雨兩用ノ傘。リャウテン。略シテ、てりふり。

てりふりなし(句)照ルコトト、降ルコトトノナキ、コキ程。曾我五人兄弟(元祿、近松作)三「ケハヒ坂、三筋ノ町ノ[illegible]所、照り降りたしノ月花ト、三千ノ[illegible]ハ、[illegible]モ紅[illegible]モ及ビナク」

てりやき(名)〔照燒〕鰆ナドノ肉ヲ適宜ニ切リ、味醂、醬油、半半ノ中ニ漬ケ、二三時間ノ後、串ニ刺シテ、兩面ヲ燒キ、其漬汁ヲ煮沸シテ濃シ、水溶キノ葛粉ヲ入レテ煮立テ、ドロドロニシタルヲ、皿ニ盛リタル燒肉ノ上ニ、刷毛ニテ塗リタルモノ。

て・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)〔照〕〔てらてらスル意〕(一)〔光リ映ル。光ヲ放ツ。カガヤク。[illegible]、十五、「アマザカル、ヒナニモ月ハ、[illegible]レトモ、イモゾ遠クハ、[illegible]ニケル」

千載集、十、賀「君ガ代ハ、天ノカゴ山、出ヅル日ノ、てらム限リハ、盡キジトゾ思フ」萬葉集、十一、「[illegible]、[illegible]ヲ、[illegible]」(二)ウツクシク光ル。ヲ、内ヘト白セ」

⁂**で・る**・デル・デレ・デ・デ・デヨ(自動、下二)〔出〕〔いでるノ略〕いづ(出)ノ口語。

〔**てるかがみ**〕(名)〔照鏡〕ますみのかがみ(眞澄鏡)ニ同ジ。[illegible]、十七、「[illegible]ハ、ヤブル、神ノヤシロニ、底流鏡、シヅニ取リソヘ」

デルタ(名)〔英語、Delta.〕此語ハ、希臘字母ノ第四字Δ(Delta)ノ形ヨリ出ヅ。河口ノ三角洲。三角洲ノ條ヲ見ヨ。

〔**てるたへ**〕(名)〔照𣑥〕光澤ノ美シキ白𣑥。あかるたへ(明𣑥)ノ條ヲ見ヨ。

てるてるばうず(名)〔照照坊主〕く、照照法師。東京ノ俗ニ、女兒ノ晴ヲ祈ル時ニ、紙ニテ人形ヲ作リテ、檐ニ懸クルモノ。晴[illegible]、[illegible]、[illegible]、日晴ヲカクト。テリテリバウズ。掃晴娘。[illegible]不角の發句「てるてる法師、月ニ日ガ明ク」[illegible]記、下、下十「今日カカル雨ニモサハラデ、同ジ所ナル人ト、モノヘマウデツ、降ルコトモナキニト、思ヒテイデタレバ、アルモノ、女神ニハ、衣縫ヒテ奉ルコソヨカナレ、サシ絵ヘト、寄り來テササメケバ、イデ試ミムカシトテ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]日[illegible]、今出川[illegible]ヘ、[illegible]リシニ、燈籠ノクヒヲ七人シテ結ハセラレ侍リシ事ニ、結フ人ハてれてれ日ノコトト爭フコトニテアリシヲ、云云、花ヲトル、ソノ婦人ニ、アラメ身ノ、明日ノヒヨリヲ、イカガ祈ラン」帝京景物略、明、[illegible]下「雨久、以白紙作婦人首、剪紅綠紙、衣之、以苕帚苗縛小帚、令攜之、竿懸簷際、曰掃晴娘」

⁂**てれかくし**(名)人前ナドニテ、自己ノ氣マヅサ、ハヅカシサナドヲ、ゴマカシ隱サムトスルコト。

テレグラフ(名)〔英語、Telegraph.〕でんしんき(電信機)ニ同ジ。

でれすけ[illegible]ノ轉、だれ込ム、ハマル、陷ル、ナドノ意。女色ニ溺レ易キ男。デレデレスル男。

てれつく(名)[illegible]九、[illegible]、日ハてれつくト、日出ヅル、波ノ音マデ、[illegible]洞[illegible]ヒノカサ」

でれでれ[illegible]

テレビン油(名)〔英語、Oil of turpentine.〕〔丁列並油〕てれめんてな[illegible]、[illegible]、[illegible]ソノ他、[illegible]

⁂**てれん**(名)〔手練〕手練ノ誤讀カ、手段ヲてだん、手數ヲてかずト云フ類〔[illegible]〕ツザマヘ。人ヲアヤナスコト。[illegible]ニ云フ)[illegible]

テレンプ(名)〔蘭語、てれいぷノ轉ト云フ〕[illegible]

テレメンテイナ(名)〔丁列緬底那〕[illegible]

thine. 英語、Terebinthine.ノ 松杉類ノ脂ニテ製セル油ノ如キモノ、染料、塗料等、種種ノ用ヲナス。テレビンティナ。テレメンテ油(テレビン油)ハ、コレヲ主成分トス。松節油 大織冠(正徳、近松作)二、「青礬、玄界ノ擂キ、てれめんていな、バジリコン、サントラニイヨウ鳥能骨ト、書薬ノ名ヲ云ヘバ」

テレメン-ゆ (名) |丁列綿油| 前條、及、てれびんゆ(丁列並油)ノ條ヲ見ヨ。

でれり (副) でれでれニ同ジ。

⁂**て-れる**・レル・レレ・レ・レヨ(自動、下一) (照らさるノ轉カ) (一)興、白クル。不興トナル。失興 (二)ハヂラヒ憚ル。ハニカム。キマリワルクアル。(三)比ベテ見劣リトナル。負氣味。

で-れる・レル・レレ・レ・レヨ(自動、下一) (でれすけノ語原ヲ見ヨ) デレデレスル。女色ニ溺ル。ダレル。ダレコム。ハマル。

でろ (名) |泥| どろ(泥)ノ訛。

て-ろくぢふ (名) |手六十| 手習ヲ六十歳ニテ始ムルコト。又、六十の手習トモ云フ。小町踊(寛文)二「命毛ヤ、長キ試筆ノ、手六十」

でろれん-ざいもん (名) さいもん(祭文)ニ同ジ。でろれんハ、祭文ヲ語ル人ノ、法螺貝ヲ吹キナガラ小サキ錫杖ヲ打振ル音、でろれんでろれんト聞ユル故ニ云フ。法螺貝ノ吹方ニモ、七、五、三ノ法アリ、其節廻シハ、今ノ浪花節ニ似、浪花節ハ、寧ロでろれんざいもんヨリ脱化シタルモノト云フベシ。猶、せっきゃうがたり(説經語)ノ條ノ(二)、及、せっきゃう(説經)ノ條ノ(二)ヲ參見セヨ。

て-わけ (名) |手分| 仕事ヲ分ケテ、各自ニ爲スコト。部署 保元物語、二、義朝白河殿夜討の事「八郎是ハ何ト云フ事ゾ、敵既ニ寄セ來ルニ、方方ノ手分ヲコソセラレンズレ」

て-わざ (名) |手業| 手ニテスル業。手仕事。手工 新可笑記(元祿、西鶴)一「織リ馴レシ、ケフノ細布ヲ手業ニシテ、短キ烟ヲ立テケル」

て-わたし (名) |手渡| (一)人傳ナラズ、親シク授クルコト。(憑ナルヲ證ス) 手授 (二)手ヨリ手ニ、直接、受ケ渡シスルコト。手ヅカラ授受スルコト。

でゐ (名) |出居| いでゐノ約。いでゐの條「御でゐノ狀、故殿ノオハシマシシシツラヒニ、ツユカハラズ」 江家次第、三、五「辨少納言以下、著二出居座一」 家居雜考(天保、澤田名垂)「出居、出居ハ今時ノ對面所ト云程ノ所ナリ、中昔以來、武家ノ出居ニハ、必此名アリ、然レドモ堂上ノ家家ニモナキニハ非ズ、云云、武家ニハ常アル事ナリ、東鑑、建仁三年ノ條ニ、云云、遠州出二於出居一見レ之給ナド見エタルモ、對面所ノ樣ナリ、猶刪ノ出居トハ、別刪ノウチノ小座敷ナド云フ程ノ名ト聞エタリ」「出居ノ侍」

でゐ-の-ざ (名) |出居座| いでゐのざ(出居座)ノ條ヲ見ヨ。

て-を-うつ (句) |打手| 物ヲ得タル時、歡喜ノ餘リニナス態。兩掌ヲ打チ鳴ラス。てうち(手打)ノ條ヲモ見ヨ。 續紀、廿八(高野天皇)神護景雲元年八月「緇侶進退無レ循二法門之趣一、拍レ手歡喜、一同二俗人一」 三代實錄、二十六、元慶三年十月八日「大極殿成、右大臣設二宴於朝堂院含章堂一、賀レ落也、云云、飛驒工等二十許人、不レ任二感悅一、起レ座拍レ手歡舞、合座大爲二哄樂一」 春日祭儀「館三行、拍レ手一段訖」

て-をけ (名) |手桶| 取手アル桶。專ラ水ヲ汲ミテ、提ゲ行クニ用ヰル。提桶 運歩色葉集「手桶、テヲケ」

て-をどり (名) |手踊| (一)坐リテ、手振ノミニテ踊ルモノ。(二)多數ノ人ノ揃ヒテ、同ジ手振ニテ行フ踊。卽チ、盆踊、都踊、萬作踊、伊勢音頭ナドノ類。

〔**て-をの** (名) |手斧| 木ヲ斧ニテ削リタル跡ノ、平ナラヌヲ、更ニ削ル具。柄曲ル。古ヘノハ、其刃、末窄ク、刃ノ方廣クシテ、其端ハ内ニ彎入シタルモノト云フ。今、音便ニ、てうなト云フ。其條ヲ見ヨ。又、テウノ。チョンノ。釿 倭名抄、十五、六工匠具「釿、天乎乃」 字鏡、四十「釿、氐乎乃」 和漢三才圖會、廿四、百工具「釿、テヲノ、釋名云、釿所二以平一レ滅二斧迹一也、按、釿、手斧也、有二兩刃、片刃一、匠ハ、船工用二兩刃一、尋常大工用二片刃一也、又有二小釿一、以二片手一斫レ木、凡欄テヲノノ字、以二錛爲一上、鳩橡次レ之」 萬葉集、七、旋頭歌「ミメサ取ル、三輪ノハフリガ、イハフ杉ハラ、タキギキリ、ホトホトシクニ、手斧トラエヌ」

て-をの-くは (名) |釿鍬| 草ヲ掻キ去ルニ用ヰル鐵形ノモノ。釿ニ似タレバ名トス。サヒヅエ。

て-をの-はじめ (名) |手斧始| てうなはじめ(手斧始)ニ同ジ。

で-をんな (名) |出女| (一)宿場ノ賣女ノコト。おぢゃれノ條ヲ見ヨ。 古今夷曲集、六「出女ガ、赤前ダレノ、赤坂ノ、アカヌ姿ニ、トマル旅人」 風俗文選(寶永、許六)旅賦「出女モ、出替リガホヤ、年ノ暮」 (二)江戸時代、江戸ヨリ關所ヲ通リテ、地方ニ出ヅル女ノ稱。幕府ノ最モ警戒セシハ、鐵砲ト女子トニシテ、其取調ベハ、殊ニ嚴重ナリキ。俗ニ、入鐵砲ニ出女ト云ヘリ。 諸國御關所覺書「上野、碓氷關、一、江戸ヨリ出ル女、禪尼、尼、云云」

と　ど

と 五十音圖、多行、第五ノ假名。(たノ條ヲ見ヨ)

ど とノ濁音ノ假名。(だノ條ヲ見ヨ)

〔**ど** (名) |戸| (處ノ義ト云フ) (一)家ノ出入口。 倭名抄(一本)門戸類「戸、度」 (二)前。 古事記、上廿五「於二天之石屋戸一、伏二汙氣一」 同、中(垂仁)四十二「田道間守ガ非時香菓ヲ先帝ノ靈ニ捧グル「獻二置天皇之御陵戸一」

〔**と** (名) |戸| (止ムル、又、閉ヅル義。 釋名「戸、所三以詳二護閉塞一也」 左傳、宣公十二年、注「戸、止也」) 門、出入口、窓、等ニ閉テ塞グモノ。木ノ框ニ板ヲ張ル。舞戸、開戸、妻戸、遣戸、引戸、雨戸、格子戸等アリ。久、土戸アリ。各條ニ註ス。 倭名抄、十六門戸類「在二城郭一曰レ門、在二屋堂一曰レ戸」

〔**と** (名) |門| (一)出入ノ口。戸口。(家ノミニアラズ) カド。モン。 古事記、中(垂仁)四十「自二那良戸一(山城奈良ノ入口)遇二跛盲一、自二大坂戸一、亦遇二跛盲一」 神代紀、上十九「神乃往二見粟門及速吸名門一、然此二門、云云」 仲哀紀、八年正月「自二穴門一至二向津野大濟一爲二東門一、以二名籠屋大濟一爲二西門一」 六書精蘊「堂之口曰レ門、内曰レ戸、外曰レ門、一扉曰レ戸、兩扉曰レ門」 (二)海ニ出入ル戸口。又、水流ノ出入スル處。セト。水門。 新古今集、十一、戀「由良ノ門ヲ、ワタル舟人、楫ヲタエ、行クヘモ知ラヌ、戀ノミチカナ」「水門」「川門」 (三)船ノ通路。船ノ渡ル道スヂ。

〔**と** (名) |利| 利心ノ意。 萬葉集、二十九「玉桙ノ道ヲ、引手ノ山ニ、妹ヲ置キテ、山路ヲ行ケバ、生ケル跡モナシ」 同、同四十二「天離ル、夷ノ荒野ニ、君ヲ置キテ、思

ヒツアレバ、生ケル刀モ無シ」同、十二、廿四「萱草、吾ガ紐ニ著ク、時トナク、思ヒワタレバ、生ケル跡モナシ」同、同巻廿九「空蝉ノ、人目ヲ繁ミ、逢ハズシテ、年ノ經ヌレバ、生ケル跡モナシ」

と（名）跡 アト。「と絶ユ」と切ル」

と（名）時 「ときノ略」アヒダ。ウチ、ホド。マ。萬葉集、十六「吾瀬子ヲ、莫越ノ山ノ、喚子鳥、キミヨビカヘセ、夜ノフケヌ刀ニ」同、同巻廿九「天ノ川、渡ハ立ツトモ、吾ガ舟ハ、イザ漕ギ出デム、夜ノ深ケヌ間ニ」同、十九、廿四「妹ガ袖、ワレ枕カム、河ノ瀬ニ、霧タチワタレ、小夜深ケヌ刀ニ」[illegible]紀、七年九月「熟[illegible]寝シ度ニ、庭津鳥、雞ハ鳴クナリ」

と（名）音 おと（音）ノ略。萬葉集、十一、八廿「馬ノ音ノ、トドトモスレバ、松陰ニ、出デテゾミツル、モシハ君カト」同、十四、廿九「風ノ等ノ、遠キ吾妹ガ、著セシ衣、袂ノ行、マヨヒ來ニケリ」同、同巻一廿七「佐野山ニ、打ツヤ斧音ノ、遠カドモ、ネモトカ兒等ガ、面ニ見エツル」

と（名）處 〔熟語トナリテ、濁ルモアリ〕トコロ。カ。コ。弘仁私記、序「古語、謂ニ居住ニ爲ニ止」萬葉集、十四、五十陸奥歌「アタタラノ、嶺ニ伏ス鹿猪ノ、アリツツモ、アレハ到ラム、寢處ナ去リソネ」「立チど」臥シど」クマど」クミど」

と（名）外 ホカ。ソト。名義抄「外、ト、ホカ」字[illegible]抄「外、ト」天智紀、九年五月、童謠「ウチ橋ノ、端ノアソビニ、イデマセ子、玉デノ家ノ、ヤヘコノ外ニ」萬葉集、十五、廿二「今日モカモ、ミヤコナリセバ、見マクホリ、西ノ御馬屋ノ、刀ニ立テラマシ」同、十七、四三「大宮ノ、内ニモ刀ニモ、ヒカルマテ、フラス白雪、見レドアカヌカモ」枕草子、四、四十三段「とヨリ見ム人ハ、ヲカシウ、内ニ、イカナル人ノアラムト、思ヒヌベシ」蜻蛉日記、中、中「夜ガチフケテ、とノ方ヲ見出シタレバ」「外山」外ツ宮」外ツ國」

と（名）砥 〔磨ぐ、石ノ意〕又、砥石。刃物、金物ナドヲ磨グニ用キル石ノ名。初ニ用キルヲ粗砥（麤トモ云フ）トシ、次ニ、青砥、合砥、白砥、ナド用キ、最後ニ、眞砥ヲ用キル。（各條ニ注ス）砥石ノ條ヲモ見ヨ）其質、[illegible]ニシテ、刀、薙刀、庖刀、小刀、鑿、鐫等ニテ、異ナリ、[illegible]抄、十五、[illegible]「砥、末[illegible]、[illegible]石也、[illegible]、[illegible]良[illegible]、[illegible]石也、[illegible]名也、[illegible]石也」字[illegible]「[illegible]、止比久」同三十七「礪、波也止」本草和名、下五十四「礪石、止」

と（名）人 〔はやひと、はいと。ぬすびと、ぬすと。あべまびと、あづまど。くらひと、くらうど。ノ類〕ヒト。手。

と（名）都 〔廣韻「天子所ㇾ宮、曰ㇾ都」正字通「天子所ㇾ居、曰ㇾ都」〕ミヤコ。其條ノ（一）、及、（二）ヲ見ヨ。「都會」京都」都人」

と（名）途 〔廣韻「途、道也」玉篇「途、路也」〕ミチ。道路。論語、陽貨「[illegible]孔子[illegible]、孔子時ニ其亡ニ也、而往拜ㇾ之、遇ニ諸途ニ」張衡、思玄賦「[illegible]以交集兮、[illegible]其[illegible]途ニ」「途上」途中」途に上るトハ、出發スルヲ云フ。

と（名）土 ど（土）ニ同ジ。

と（名）徒 〔廣韻「徒、黨也」玉篇「徒、衆也」〕トモガラ。ナカマ。同類。[illegible]、先進「非ニ吾徒ニ也、小子鳴ㇾ鼓攻ㇾ之可也」張衡、思玄賦「[illegible]明ニ精[illegible]而僞ニ徒」

と（名）堵 〔說文「堵、垣也、一丈爲ㇾ板、五板爲ㇾ堵」〕カキ。カコヒ。堵に安んずトハ、カコヒノ內ニ、安心シテ暮ラスヲ云フ。三國志、蜀志、諸葛亮傳「百姓安ㇾ堵、[illegible]私」[illegible]史記、高帝紀「[illegible]入[illegible]、[illegible]法三章、[illegible]民皆安[illegible]」堵の如しトハ、カキヲ築キタル如キヲ云フ。[illegible]、[illegible]、京都人士、[illegible]其[illegible]、[illegible]如[illegible]」莊子、[illegible]、[illegible]、故[illegible]」

と（名）藤 とうノ略。「[illegible]」

と（名）荼 ニガナ。ケシアザミ。詩經、[illegible]「[illegible]」

と（名）斗 （一）【枡目ノ名。十升。石ノ十分ノ一。又、一斗入ノ枡ノ稱。[illegible]十[illegible]「[illegible]」（二）二十八宿ノ、北方[illegible]、[illegible]中、[illegible]アルモノ、ヒツ[illegible]、史記、[illegible]中央二」（三）南北[illegible]南斗ト、北斗ト。各條ヲ見ヨ。[illegible]小[illegible]之仕、[illegible]、[illegible]、不[illegible]可[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]斗[illegible]」

と（數）十 〔トノ意カ、又、[illegible]ノ轉カ〕五ヲ二倍セル數。トヲ。[illegible]、[illegible]、[illegible]ノミヤ、千蔵ノ春ノ、花ノ色ニ、十返リ逢ニ、ナレントスラン」古事記、上[illegible]「[illegible]（十足）天之御巣」同、上五十二「十拳劍」「十度」

と（副） 第一類ノ天爾波。指ス所アルモノ。其意、種種ナリ。（一）深シ定ムル意ヲナスモノ。竹取物語「[illegible]、ヲナスモノ。竹取物語「齋キハツルと縫エ入リタマヒヌ」古今集、[illegible]ナベニ、日ハ暮レヌと、思フハ山ノ、陰ニゾアリケル」源氏、五十一、蜻蛉四五十「花と云へバ、名コソアタナレ、女郎花ナベテノ露ニ、亂レヤハスル」「其とイフ人」夫と定ム」是と知ル」（二）の如く、ノ意ヲナスモノ。古今集、八、離別「白雲ノ、コナタカナタニ、立チワカレ、心ヲ幣と、碎ク旅哉」夫木抄、十八「月日ノミ、流ルル水と、早ケレバ、老イノソコヨリ、[illegible]年ハカヘラズ[illegible]ユルニ[illegible]と消ユ」（三）として。と思ひて。ソレナラヌモノヲ、ソレトシテノ意ヲナスモノ。萬葉集、二、四三「御立シシ、島ヲモ家ト、住ム鳥モ、アラビナ行キソ、年替ルマデニ」同、十四、十六「信濃ナル、[illegible]ノ川ノ、[illegible]石モ、君シ踏ミテバ、玉と拾ハム」宇津保物語、俊蔭十六「モミヂノ露ソ、乳房となメツツアリフルニ」「花と見ル」露と置ク」（四）となりて。ソレナラヌモノノ、ソレトナリテ、此物ノ彼物ト化リテ、ノ意ヲナスモノ。萬葉集、二、六十六「長歌、久ガノ、天ツ宮ニ、神ナガラ、神[illegible]セバ[illegible]」

マシヌレ」古今集、一、春、上「今日來ズバ、明日ハ雪とゾ、降リナマシ、消エズバアリトモ、花ト見マシヤ」（五）こて、ノ意ヲナスモノ。萬葉集、十一[illegible]「[illegible]川邊ニ、[illegible]ヘ[illegible]、月待ツバ、[illegible]カナヒヌ、今ハコギイデナ」同[illegible]長歌、其ヲ取ル[illegible]、御[illegible]同[illegible]大刀、火相ヘ[illegible]ル[illegible]、小夜深ケ[illegible]ノ、[illegible]渚カ立テ[illegible]レシ」（六）とて、ノ意ヲナスモノ。萬葉集、二[illegible]ノ上ニ、君ガ臥セル[illegible]、吉野[illegible]、中[illegible]、高山ノ、雲ハ[illegible]、ソサレバ、風吹カムトゾ、木ノ葉サヤゲル[illegible]ナスモノ。萬葉集、[illegible]、[illegible]リタマフ大命」（七）と共に、ノ意ヲナスモノ。萬葉集、[illegible]風、住吉ノ、[illegible]、見レド飽カメカモ」同[illegible]長歌、君[illegible]時時、幸シテ、遊ビ給ヒシ」[illegible]ガズ、アラクセシルシ、カソキスル、[illegible]、[illegible]ノ上ニ住ム」（八）とある、ノ意ヲナスモノ[illegible]ニ」（九）とありて、ノ意ヲナスモノ[illegible]、十八[illegible]代」二十、又、ノ意ヲ示スモノ。[illegible]パシトモ、[illegible]ハトドメジ、[illegible]ノ内ハ、[illegible]人ゾ、花ニマカセテ」古今集、十六、哀傷、[illegible]ノ、[illegible]吹キメル、武藏野ハ、ナベテ草葉ノ、色カハリケリ」「[illegible]リと降ル」有リとアル」

と（助）與 前條ノ（二）ノ[illegible]ノどト、意同ジクシテ、用法ヲ異ニシ、[illegible]、[illegible]、[illegible]同[illegible]吉事記[illegible]、[illegible]人之[illegible]、[illegible]、[illegible]之、吉事記、下、[illegible]ケル青[illegible]、[illegible]人と、[illegible]ノ[illegible]モアルカ」[illegible]古今集、十八、[illegible]白雲ノ[illegible]、イヅレカカツキ、ワタツ[illegible]「[illegible]アリ」花ト月ト[illegible]」[illegible]

と[illegible] [illegible]ヲ見ヨ。[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]アクル[illegible]

イ、カヒヤナカノム」續古今集、十三、戀、三、小車ノ、錦ノ紐ヲ、解キカケテ、アマタハ寐ズと、只一夜ノミ」

と (接頭) 【鳥】 他ノ名詞ニ被ラセテ、熟語トナスモノ。「とサカ」「と屋」「とグラ」「とガリ」

ど (名) 【土】 (一) ツチ。 杜甫歌「君不見管鮑貧時交、此道今人棄如土」程俱詩「斯言可深味、往往等如土」易經、下經、離象傳「百穀草木麗乎土」 (二) クニ。國土。 國語、晉語「貴之啓土、亦不宜乎」 (三) 住處。居處。 大學「有德此有人、有人此有土」「其土ニ安ンズ」 (四) フルサト。故鄕。 後漢書、班超傳「久在絕域、年老思土」 (五) 領地。領分。 左傳、隱公十年「不貪其土、以勞王爵、正之體也」 (六) 境界、場所。 狂言記、朝比奈「地獄、云云、此ノ土ヘ來ル程ノ者ニ、和田軍ノ起リヲ尋ヌレ共」 (七) 五行ノ一。其條ヲ見ヨ。 書經、洪範篇「一五行、一日水、二日火、三日木、四日金、五日土」蔡注「水火木金土者、五行之生序也、天一生水、地二生火、天三生木、地四生金、天五生土」 土に歸すトハ、人ノ死ヲ云フ。人死スレバ、魂ハ天上シ、魄ハ土ニ歸ル。 禮記、祭義篇「衆生必死、死必歸土、此之謂鬼、骨肉斃于下、陰爲野土」 土に安んずトハ、其地ニ安心シテ暮ラスヲ云フ。 漢書、龔遂傳「盜賊於是悉平、民安土樂業」後漢書、楊終傳「安土重居、謂之衆庶」

ど (名) 【奴】 ヤッコ。シモベ。 宋書、沈慶之傳「耕當問奴、織當問婢」「奴ト爲ル」

ど (名) 【度】 (一) 長短ヲ計ルコト。 漢書、律曆志「度者分寸尺丈引也、所以度長短也」 說苑、辨物篇「寸而度之、至丈必差」 (二) モノサシ。 書經、舜典篇「同律度量衡」傳「度、丈尺也」 (三) 程。限リ。 書經太甲、中篇「欲敗度、縱敗禮」「飲食ノ度」「度ヲ過ス」「度ヲ失フ」 (四) 天球、地球ノ周ヲ、三百六十ニ分テル一ツノ名目。(地ニテハ、二十八里八町十八間四尺三寸二分) 經度、緯度、共ニ云フ。コレヲ六十ニ分テルヲ分ト云ヒ、分ヲ六十ニ分テルヲ秒ト云フ。又、ソレヲ數フルニモ云フ 「中經十五度」 (五) 幾何學等ニテモ、角ノ單位。即チ、圓キ物ノ周ヲ、三百六十ニ割リタル一ツ。 (六) 溫度ノ單位。又、寒暖計ノ段 かんだんけい(寒暖計) ノ條ヲ見ヨ。 (七) タビ。回。回次 北史、李彪傳「彪前後六度銜命」「度ヲ重ヌ」「一度」「三度」「每度」「幾度」 (八) コロ。トキ。時代。「享保ノ度」 (九) 佛敎ニテ、生死ヲ海ニ喩ヘ、煩惱ヲ此岸トシ、證果ヲ彼岸ニ喩ヘ、煩惱ノ境界ヲ脫シテ、悟リノ彼岸ニ達スルコトヲ度ト云フ。 大乘義章、十二「波羅蜜者、是外國語、此翻爲度、亦名到彼岸」「度脫」 (十) 佛門ニ入リテ、出家受戒スルコト。「得度」 (十一) ノリ。法制。「制度」「法度」

ど (名) 【駑】 〔玉篇「駑、最下馬也」〕 (一) ニブキ馬。ノロキ馬。駑馬。 晏子春秋、內篇、雜、上「勿乘駑馬」 (二) 才學ノ劣レルモノ。愚鈍ナルモノ。魯鈍。 史記、藺相如傳「相如雖駑、獨畏廉將軍哉」

ど (名) 【弩】 イシユミ。オホユミ。 事物紀原(宋、高承)「古史曰、黃帝作弩」軍防令「令於當府教習弓馬及發弩拋石」

ど (名) 【筌】 鰻ナド捕フル具。竹ニテ、圓ク長ク筒狀ニ編ミテ、一方ヲ閉ヂ、口ニ逆刺アリ、魚ノ入ルベクシテ出ヅル能ハザルヤウニ作ル。ウヘ。ウケ。延ベテ、どう。筌。「筌ヲフセル」

ど (代) 【何】 〔いづれノづノ轉カ、又、ともかくもノとノ濁レルモノカ〕 ドコ。ドレ。ドノ。ドチ。 童蒙抄、山家冬夜、經信卿「山里ハ、夜床サエツツ、明ケニケリ、どカタゾ鐘ノ、音ノスナルハ」「どノ人」「ど奴」「どノ位」「どノホド」

ど (辭) ども(雖) ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。 古今集、十九、誹諧歌「山吹ノ、花色衣、ヌシヤタレ、問ヘド答ヘズ、クチナシニシテ」

◇ど (接頭) 或語ニ冠ラシテ、嘲リ卑シム意ヲ表ハス語。「ど百姓」「ど膽」

と‐あさ (名) 【遠淺】 とほあさ(遠淺) ニ同ジ。 成通集「モミヂバヲ、折ルヘキモノヲ、とあさニテ、船ノヨラヌゾ、ワリナカリケル」

と‐あたり (名) 【戸當】 こぶかた(巾子形) ニ同ジ。

ど‐あひ (名) 【度合】 ホド。ホドアヒ。適度ノカギリ。適宜ノホド。程度。

と‐あふ (名) 【土鴨】 蛙ノ一種。アヲガヘル。 爾雅、釋魚篇「在水者黽」注「耿黽也、似青蛙、大腹、一名土鴨」疏「土鴨狀、似青蛙、而腹大爲異、云云、郭云、青蛙者也」 陳旅詩「淺深土鴨肥」 塵袋(弘安)四、廿「土鴨ヲバあをがへるトヨム、云云、鴨ノクビノ青キニ似タレバ、かもト書ケリ、空ヲ飛ブコトナケレバ、つちノかもトハカクナリ」

と‐あみ (名) 【投網】 〔唐網ノ約〕 又、唐網。漁リニ用ヰル網。手許ハ狹ク、末ハ次第ニ圓ク廣ク、大キク作リ、水ノ上ヲ蔽ヒテ投ゲ下ス。(裾ノ處ニ、多ク鉛ノ小片、いはト云フモノヲツケテ、オモリトス) ウチアミ。撒網。 雅筵醉狂集、西湖八景「唐あみノ、目ニカカレトハ、晒ラサヌモ、夕日ニシルキ、蜑ノ家數」

と‐あみ (名) 【鳥網】 とりあみ(鳥網) ニ同ジ。トナミ。

と‐ある (連體) 【或】 ある(或) ニ同ジ。 太平記、五、大塔宮熊野落事「宮ヲバ、とある辻堂ノ内ニ置キ奉リテ」 同、同「光林房玄尊、とある在家ノ、是ゾサモアル人ノ家ナルラント、覺シキ所ニ行キテ」

と‐いき (名) 【太息】 タメイキ。 吉野拾遺、下「ヤウヤク逃ゲ延ビテ、といきモツキアヘズ」

といし (名) 【砥石】 砥ト云フニ同ジ。 雍州府志、六、土產門「凡砥石[illegible]、[illegible]眞砥也、云云」日本山海名產圖會、三、砥礪、トイシ注「精ナルモノヲ砥ト云ヒ、粗キモノヲ礪ト云フ」伊豫古蹟志、二、浮穴郡、砥部邑「一石間山、皆砥也、因呼曰砥山、云云、其石宜磨刀、自他稱之曰伊豫砥」愛媛面影、四、伊豫砥「砥山、昔ヨリ砥石ヲ出ス、伊豫砥ト名ヅク」

と‐いた (名) 【戸板】 (一) 戸ヲ板ニ代ヘ用ヰテ、物ヲ載スルトキノ稱。 曾我扇八景(寶永、近松作)十番斬屋形鑿「先ヅ一番ニ來ル手負、誰レ人ナルゾト戸板ニ乘セ、云云、愛甲ノ三郎、是モ戸板ニ乘リ(血)マブレ」 (二) 次條ノ語ノ略。

といた‐びらめ (名) 【戸板平目】 魚ノ名。平目ニ似テ大ナルモノ。トイタ。板魚

と‐いち (名) 上ノ字ノ隱語ト云フ(ロハノ類) イイ人。意中ノ人。情人

◇ど‐いつ (代) 【何奴】 〔あやつ(彼奴)、及、ど(何) ノ語原ヲ見ヨ〕 何レノ者。ナニヤツ。タレヤツ。ドヤツ。

ど‐いっき (名) 【土一揆】 土民一揆ノ中略 いっき(一揆) ノ條ヲ見ヨ。

と‐いで (名) 【外出】 外ニ出ヅルコト。外遊スルコト。グヮイシュツ。

と‐いふ (名) 【都邑】 〔詩經、周頌、淸廟之什、疏「邑、是居處之名、都、是聚聚之稱」〕 ミヤコト、ムラト。町ト、田舍ト。 禮記、月令篇「仲秋之月、云云、可以築城郭、建都邑、穿竇窖、脩囷倉」 周禮、夏官篇、量人「分國爲九州、營國城郭、云云、量市朝道巷門渠、造都邑」

とう (名) 【藤】 (一) 藤原氏ノ略ナル藤ノ字ノ音讀。 源氏、二、帚木「問ヒ給フ程ニ、左ノ馬頭、藤式部丞、御物忌ニ籠ラントテ參レリ」「藤中納言」 (二) 武門十七藤ノ稱。即チ、工藤(木工助)、進藤(修理進)、齋藤(齋宮介)、衞藤(兵衞)、武藤(武者所)、內藤(內

藏助)、首藤(須藤)(主馬首)、近藤(近江介)、伊藤(伊豆介)、加藤(加賀介)、後藤(備後介)、周藤(周防介)、遠藤(遠江介)、尾藤(尾張介)、春藤(春宮亮)、安藤(安房介)、山藤(山城介)等ナリ。(俗語考)

とう (名) 籐 植物ノ名。熱地ニ產ズ、藤ニ似テ蔓生ナリ、葉ハ、竹ニ似テ、強ク、光澤アリ。枝無ク、地ニ延フコト、長キハ一二町ニ至ル、莖ノ中、實シ、皮、黃白ニシテ光ル、細ソキハ絲ノ如ク、太キハ寸許、剝ギテ、皮、肉、共ニ、籐席(ムシロ)、籐細工ニ用ヰル。約メテ、と。省籐

〜とう (名) 頭 (一)藏人頭(クラウドノトウ)ノ略稱。此職ハ、殿上ヲ管領スル貫首(クワンジュ)ナルガ故ニ、特ニ音ニテ呼ブトゾ。くらうどのとう(藏人頭)ノ條ヲモ見ヨ。源、四十九、東屋「來年ハ四位ニナリ給ハン、コタビノ頭ハ疑ヒナク、帝ノ御口ヅカラゴテ給ヘルナリ」孟津抄「藏人頭也、貫主也」枕草子、六、五十一段「除目ノ中ノ夜、云云、とう就キ給ハヌ程ハ、殿上ノ臺盤ニハ人モ就カズ」 同、九、九十三段「公達ハ頭ノ辨、頭ノ中將」 (二)カシラ。カシラノ人。 榮花物語、一、月宴「右ノとうニハ籐所ノ別當、云云、右ノとうニハ作物所ノ別當、云云」 後拾遺集、五、秋、下「菊合セサセタマヒケルニ、左ノとうツカウマツル」

とう (名) 讀 く(句)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 增韻「凡經書成文、語絕處、謂之句、語未絕、而點分之、以便誦詠、謂之讀」

とう (名) たう(薹)ノ條ヲ見ヨ。「一番ノ薹」

とう (名) 杜宇 (一)杜宇ハ、支那、蜀國ノ帝名、死シテ鳥トナルト云フ (二)鳥ノ名、ホトトギス。とけん(杜鵑)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]

[illegible]

〜とう (副) とく(疾)ノ音便。 源、四十五、椎本「旅寢ノ宿リハ、醉ノ紛レニ、最とう明ケヌル心地シテ」「とうカラ着ヘテ」

とう (接尾) 等 (一)集合ヲ表ハスモノ。等、ドモ、ナド。タグヒ。 [illegible] (二)順序ヲ表ハスモノ。シナ。位。等級。 [illegible]「一等」「等外」

とう (接尾) [illegible] 數ヲ數フル語。文ニ同ジ。「二百とう」「百とう」「廿四とう十二とう」

とう (接尾) 頭 牛馬ナド數フルニ云フ語。匹ニ同ジ。 [illegible] 平戸記、延應二年二月「引[illegible]牛一頭」 太平記、廿二、[illegible]衆等之事、御馬廿頭」

どう (名) 胴 (一)動物ノ身ノ、首、手、足ヲ除キテ、幹ノ部。カラダ。ムクロ。身幹 [illegible]遠見甲スヤウ、胴ハ七ヒロ、尾ハ九ヒロノ鯨ニテアリ」 (二)鎧、又、具足ノ胴ヲ被フ部。身甲 [illegible]殘リタル」 軍用記(伊勢貞丈)二「鎧ノ胴ノ板ハ七枚ナリ、下ノ四枚ヲ草摺ト云フ、云云」 (三)胴鼓、太鼓ノ體。木製ニテ中空シ、其兩端ニ革ヲ當ツ。 [illegible] 七、土農門「鼓筒、大小鼓筒、多以櫻木造之、凡諸[illegible]之大鼓筒、近江山中後工造之[illegible]」 (四)[illegible]

竹、又、革ニテ作リ、腹部ヲ被フモノ。胴ノ間ト云フ、[illegible]

どう (名) 銅 〔說文「銅、赤金也」〕アカガネ。其條ヲ見ヨ。 [illegible]

どう (名) 筒 (一)雙六、博奕ナドニ、賽ヲ入レテ振ル筒。 [illegible] 枕草子、七、六十八段[illegible] (二)賽ヲ筒ニ入レテ振ル役。筒元。 [illegible] (三)〔車ノ名〕ドコロ。こしき(轂)ニ同ジ。 [illegible]「スズロナル車ノどうニ打チカケタレバ」

どう (名) [illegible] 其條ヲ見ヨ。

どう (名) 童 〔正字通「男十五以下、謂之童子」〕 ワラハ。ワラベ。ワラハベ。ワランベ。コドモ。 [illegible]「童者、未成人之稱、年十九以下皆之也」

どう (名) 僮 シモベ。下男。 史記、貨殖傳「僮手指千」[illegible]

どう (副) 〔何ノ略ノどノ延〕 如何ニ。何ト。イカヤウニ。如何 [illegible]「是ヲどうヂャカウヂャト云フハ、スヂナイコトゾ」 狂言記、[illegible]「どうアッテモ、今日ハ是非[illegible]」 後撰夷曲集、[illegible]「ウラメシイ、どうトモナラヌ、[illegible]」

[illegible]

どう (感) 〔止ノ訛〕 馬ヲ止ムル聲。重ネテ、どうどうトモ。

どう (接頭) 同 オナジキ。オナジ。「同人」[illegible]

とうあ (名) 東亞 〔英語、East Asia ノ譯語〕 亞細亞洲ノ東部、即チ、日本、支那ナドノ汎稱。[illegible]

とうあう (名) 東奧 昔ノ陸奧國ヲ、東ニアルニ就キテ云フ稱。

どうあげ (名) 胴揚 多人數ニテ、一人ノ身體ヲ宙ニ揚ゲ下シスルコト、多クハ、其人ニ、祝意ヲ表スルモノトシテ行フ。

どうあん (名) 偸安 一時ノ安樂ヲ偸ミ貪ルコト。 [illegible]

とうい (名) 東夷 (一)支那ニテ、我國、及、朝鮮ナドヲ、夷トシ、自國ヨリ東方ニ位スルニツキテ云フ語。 [illegible] (二)[illegible]

どうい (名) 同意 (一)[illegible]

理ノ同ジキコト。[同義]　史記、賈生傳「夫南嬰之諸者、皆長之日也、審奪ヲ之地、大地ニ同、意一」(二)他ノ意見ニ同ズルコト。贊成スルコト。平治物語、一、信頼卿被信西ニ議事「一族皆當腹ノ業リ、恨アルマシケレバ、ヨモ同意セジト思ヒヌル」信頼申サレ、七、宮太郎、我等ガ死ニニ行クトモラハンニ、同意スル者ヤ候ベキ」

ドウ・ユウ
どう-いう (名) [同友] 心ヲ同ジクセル友。同ジ仲間。運歩色葉集「同友、ドウイウ」鶡冠子(楚)「少則同儕、長則同友」

とう-いつ (名) [統壹・統一] (一)一ツニ統ブルコト。統ベ合ハスコト。漢書、董仲舒傳、贊「下帷發憤、潜心大業、令後學者有所統壹、爲羣儒首」後漢書、隗囂傳「蜀帝知囂欲持兩端、不願天下統一」(二)箇箇ノモノヲ、一定ノ組織的系統ノ下ニ整フルコト。

どう-いつ (名) [同一] オナジキコト。ヒトシキコト。韓詩外傳(漢、韓嬰)「成王之時、有三苗貫桑而生、同爲一秀、意者天下殆同一也」張衡、觀舞賦「二儀殊妙、本同一」

どう-いっ-し (名) [同一視] 多クノ事物ヲ、同一ニ見做スコト。親疎ノ差別ナク、平等ニ取扱フコト。同視。

とう-うん (名) [東雲] シノノメ。

どう-うら (名) [胴裏] 衣物、羽織ナドノ、胴ヨリ上ノ内側ニ着クル布帛。我おもゐろ、上「ヤゴトナキ御カタノオ羽織ノ胴裏」

とう-えい (名) [燈影] トボシビノカゲ。ホカゲ。郭利正、上元詩「九衢連燈影、千門偏月華」杜牧、驟夜詩「露花濃處、燈影照無眠」宮、心清聞妙音」

とう-えい (名) [投影] (一)物體ノ、モノニ寫リタル形象。(二)物體ヲ、或一點ヨリ見タル平面圖。又、其平面圖ヲ製作スルコト。「投影畫、投影圖」

とう-えい (名) [登營] (說文「營、市居也、从宮」) 登城ニ同ジ。(江戸時代ニ)

トウエイ・シュウ
とうえい-しう (名) [登瀛洲] (瀛洲ハ東海中、三神山ノ一ニシテ、仙人ノ居所ナリト云フ。即チ、身ヲ仙界ニ置ク意) 支那、唐ノ杜如晦等、十八學士ノ、太宗ニ徵サレ、時メキシヲ稱セシ語。唐書、褚亮傳「太宗作文學館、以房杜等爲學士、命閻立本圖像、使亮爲之贊、題名字爵里、號十八學士、藏之書府、以章禮賢之重、天下慕向、謂之登瀛洲」

ドウ・ヨウ
どう-えう (名) [動搖] (一)ウゴキユルグコト。搖動。搖蕩。易林、漢、焦延壽「桃雀竊脂、巣于小枝、動搖不安、爲風所吹」謠曲、田村「サル程ニ、山河ヲ動カス鬼神ノ聲、天ニ響キ地ニ滿チテ、萬木青山動搖セリ」(二)亂レサワグコト。騷動。騷擾。漢書、文帝紀「漢興除秦煩苛、約法令、施德惠、人人自安、難動搖」戰國策、齊策「愁居懾處、不敢動搖」「世ノ動搖」

ドウ・ヨウ
どう-えう (名) [童謠] (一)兒童ノウタフ謠。ワザウタ。列子、仲尼篇「堯乃微服、遊於康衢、聞兒童謠、曰、立我蒸民、莫匪爾極、不識不知、順帝之則」左傳、僖公五年「童謠云、丙之晨、龍尾伏辰、均服振振、取虢之旂」劉禹錫詩「人詠甘棠茂、童謠篤寓字」(二)轉ジテ、ハヤリウタ。

ドウ・ヨウ
どう-えう (名) [童幼] 童子ト、幼兒ト。ワラベト、コドモト。又、ヲサナキモノ。コドモ。童孩。

どう-おん (名) [同音] (一)音ノ同ジキコト。又、字音ノ同ジキコト。「同音ノ字」(二)聲ノ調子ノ同ジキコト。[同聲]　法苑珠林(唐、釋道世)「三千人異口同音、一心歎仰」太平記、十六、正成兄弟討死事「念佛十返許リ同音ニ唱ヘテ、一度ニ腹ヲゾ切タリケル」

とう-か (名) [登遐] 「遐キ天ニ登リ給フ意」ほうぎょ(崩御)ニ同ジ。升遐。禮記、曲禮、下篇「告喪曰天王登假」鄭注「登、上也、假、已也、上已者、若仙去云耳」列子、黃帝篇「天下大治、幾若華胥之國、而帝登假、百姓號之、二百餘年不輟」(假、遐ニ通ズ) 保元物語、一、新院御謀叛思召立事「故院オハシマシツル程ハ、力ナク二年ノ春秋ヲオクレリ、今故院登遐ノ後ハ、我天下ヲ奪ハンコト、何ノ憚リカアルベキ」

とう-か (名) [登霞] (登天ノ意) 仙洞ノ崩御。海人藻芥、上「登霞、仙院崩御ノ事也、云云、登霞ヲ、とうかト讀リテモ讀也」王外往生記「大納言源雅俊卿者、六條右京(顯房)之二男、堀川天皇之外舅也、天皇登霞之後、更感生死無常、建立一堂」

とう-が (名) [凍餓] コゴユルト、ウウルト。衣食ノ缺乏スルコト。孟子、梁惠王、上「父母凍餓、兄弟妻子離散、彼陷溺其民」蔡邕、述行賦序「人徒凍餓、不得其命者甚多」

とう-が (名) [燈蛾] 燈火ニ集リ來ル蟲。ヒトリムシ。

✥どう-か (副) 何トカ。イカヤウニカ。ナニトゾ。ドウゾ。是非。

とう-がい (名) [燈盞] (燈械ヨリ誤ル) 燈火ノ油皿ヲ載スルモノ。又、アブラザラ。[燈蓋]　倭名抄、十二、燈火器「燈械、所以居燈盞也」宇津保物語、吹上、上「夜ニ入リヌ、コガネノトウロ、とうがい、ヂンノ御タイマツ」

どう-かい (名) [洞開] アケヒログルコト。ウガチヒラクコト。左思、蜀都賦「宮化文闕、崇禮之闈、華闕雙邈、重門洞開、金鋪交映」

どう-がい (名) [童孩] どうえう(童幼)ニ同ジ。韓愈詩「仲季時童孩」

トウカイ・ドウ
とうかい-だう (名) [東海道] 日本七道ノ一。京都ヨリ江戸(又ハ東京)ニ通ズル街道。又、伊賀、伊勢、志摩、尾張、三河、遠江、駿河、甲斐、伊豆、相摸、武藏、安房、上總、下總、常陸ノ十五箇國ノ稱。ヒガシノウミノミチ。ウミベツミチ。ウベツミチ。ウメツミチ。三寶繪、今年ヨリ、云ニ千年ヲ、ユヅルハゾ、とうかいだうニ、求メ出デタル」西宮記、四月、郡司讀奏「ヒウガシノウミノミチ」

とうかい-ふじん (名) [東海夫人] 貝ノ名。又、ニタリガヒ。ヒメガヒ。いがひ(貽貝)ノ條ヲ見ヨ。重修本草綱目啓蒙、三十一、蚌蛤類「淡菜、貽貝、云云、肉ハ色紅ニシテ、婦人ノ如シ、味佳ナリ、口ニ少シ黑毛アリ、故ニ東海婦人ノ名アリ、猶、海參ノ海男子ト稱スルガ如シ」

トウ・コウ
とう-かう (名) [投降] 來リ降ルコト。敵方ヘ赴キテ降ルコト。降參。

トウ・コウ
とう-かう (名) [投稿] 原稿、又ハ、草稿ヲ、新聞社、雜誌社、等ニ送ルコト。又、其送リタル原稿、又ハ、草稿。

トウ・ゴウ
とう-がう (名) [冬瓜] とうがん(冬瓜)ニ同ジ。とうぐゎ(冬瓜)ノ條ヲ見ヨ。定家假名遣、文明本「冬瓜、トウガウ」

ドウ・コウ
どう-かう (名) [同好] コノミノ、同ジキコト。趣味、又ハ、嗜好ナドノ同ジキコト。史記、吳王濞傳「同惡相助、同好相留」

ドウ・コウ
どう-かう (名) [同行] 連レ立チ行クコト。又、其人。ミチヅレ。同伴。世說、容止篇「潘安仁、夏侯湛、並有美容、喜同行、時人謂之連璧」劉禹錫詩「古來成道者、兄弟一同行」

ドウ・コウ
どう-かう (名) [同庚] どうかふ(同甲)ニ同ジ。癸辛雜識「吾鄕張神醫、醫術甚精、每談一命、則旁引同庚者數十、皆歷歷可聽」

とう-かく (名) [頭角] アタマノサキ。頭ノ角。韓愈、柳子厚墓誌銘「雖少年、已自成人、能取進士第、嶄然見頭角」

とう-かく (名) [統覺] [英語、Appercep-

tion.ノ譯語」哲學上ニテ、人ノ外界ヨリ來ル印象ヲ受入ルル作用。コレヲ把持作用ト云ヒ、(客觀知覺)其把持セラレタル印象ニ對シテ、精神ノ內部ヨリシテ、過去ノ感覺ニ因リテ生ズル種種ノ觀念起リテ、結合スルモノ、コレヲ統覺作用ト云フ。(主觀知覺)

とうがく (名) 等覺 〔佛經ノ語、等ハ平等、覺ハ覺悟ノ意〕卽チ、諸佛ノ覺悟ハ、平等一如ナル故ニ云フ」(一)佛ノ異稱。大智度論、十「諸佛等故名爲等覺」往生論註、下「以諸法等故、諸如來等、是故佛如來、名爲等覺」(二)菩薩ノ極位ノ稱。止觀、一「究竟卽菩提者、等覺一轉、入于妙覺」太平記、十七、山門牒送南都事「夫觀行五品之居、雖位也、學三觀於河淸之流、等覺無垢之上果也」

どうかく (名) 同格 格ノ同ジキコト。同ジ格式。又、同ジ資格。

どうがく (名) 同額 同ジタカ。

どうがく (名) 同學 同ジ學校、又ハ、同ジ師ニ就キテ、物學ビタルコト。又、ソノ人。同窓。漢書、蕭望之傳「以令詣太常受業、復事同學博士白奇」「同學ノ友」

とうがく-たう (名) 東學黨 〔東學ヲ興シテ、西敎ヲ斥クルヲ綱要トセシ故ニ云フ」朝鮮人、崔濟愚ノ唱ヘ出シタル敎團。儒佛二敎ヲ折衷シタルモノ。(德川幕府ノ末年ノ頃)明治廿五六年頃ニ至リテ、時ノ政治ノ腐敗ヲ憤リテ亂ヲ作シ、遂ニ日清戰爭ノ導火線トナレリ。

どうかつ (名) 統轄 スベヲサムルコト。スベツカサドルコト。

どうかつ (名) 恫喝 嚇シ恐レシムルコト。オドカシ。

どうかね (名) 胴金 刀・槍・長刀ナドノ柄ノ下ノ所ヲ卷キタル、金屬ノモノ。盛衰記、三十七、忠度通盛等最後事「[illegible]」淨瑠璃[illegible]「[illegible]」二八、鍍胴金ヲ入レサセテ」

とうがふ (名) 統合 一ツニ統ベ合ハスコト。一ツニマトムルコト。統一。

とうがふ (名) 投合 相合フコト。互ニ寄リ合フコト。「意氣投合」

どうかふ (名) 同甲 甲子ヲ同ジクスル義。かふし(甲子)ノ條ヲモ見ヨ。曆ノ語。同ジ年齡。オナイドシ。同年。同齡。又、同庚。同齡ナリ」[illegible]

とうかん (名) 等閑 等閒 物事ヲ、ヨイカゲンニスルコト。ナホザリニスルコト。オロソカ。疎略。忽諸。[illegible]

とうかん (名) 投函 書狀、又、投票ナドヲ、函ニ投入スルコト。

とうかん (名) 統監 全體ヲ統ベテ、監督スルコト。[illegible]

とうがん (名) 冬瓜 とうぐゎ(冬瓜)ノ訛。關東ニ其條ヲ見ヨ。

どうかん (名) 同感 所感ノ同ジキコト。人ト同ジヤウニ感ズルコト。[illegible]

どうがん (名) 童顏 ヲサナガホ。幼童ノ如キ容貌。特ニ老人ノ、ツヤツヤシクシテ、若若シキ顏ニ云フ語。[illegible]

どうがめ (名) [illegible] すっぽん(鼈)ニ同ジ。[illegible]ヤ、ハラフラム」

どうから (副) 疾クヨリ。マヘカタヨリ。ツトニ。

とうき (名) 冬季 [illegible]冬ノ季節。

とうき (名) 冬期 (一)[illegible](二)冬ノ時。冬ノ季節。

とうき (名) 騰貴 下落ノ對ニ、物ノ價ノ貴クナルコト。相場ノ、ノボルコト。

とうき (名) 投棄 [illegible]

とうき (名) 投機 (一)[illegible]機會ヲ[illegible]コト。(二)商人ノ、相場ノ[illegible]ルコト。[illegible]引スルコト。相場師。

とうき (名) 投[illegible] [illegible]

とうき (名) 登記 (一)帳簿ニ書キ載スルコト。(二)裁判所內ノ登記所ニ備ヘツケタル[illegible]

どうき (名) 同氣 オナジタグヒ。オナ[illegible]

どうき (名) 動氣 血ノ運ルコト烈シクシテ、心臟ノ動クコト。ムナサワギ。(劇シク働キ、俄ニ愕キタルナドニ)心悸動[illegible]

どうき (名) 動機 〔英語、Motive.ノ譯〕[illegible]行爲ヲ起ス原因トナル心ノ狀態。

どうき (名) [illegible]

どうぎ (名) 胴着 衣ノ短キモノ、冬、上衣ト肌着トノ間ニ用ヰル。胴服。

どうぎ (名) 同義 同ジ意義。同意。

どうぎ (名) 動議 (一)會議ニ意見ヲ[illegible](二)[illegible]意見ヲ提出スルコト。

とうぎう (名) 鬪牛 牛ヲ鬪ハスコト。沖繩ナルハ、角牛、[illegible]

とうきふ (名) 等級 [illegible]

どう[illegible] (名) [illegible]

どうきん (名) 同衾 [illegible]

とうきゃう (名) 東京 東ノ京。西京ニ對ス)今ノ帝都ノ稱。[illegible]

どうきゃう (名) 同鄕 [illegible]

どうぎやう（名）同行（一）連レ立チテ行クコト。又、ソノ人。ミチヅレ。ドウカウ。同伴。（多ク旅ニ云フ）（二）神佛ニ參詣スルニ、相伴ヒテ行ク人人。著聞集（異本）二、「釋敎」同行ノ上人西住、秋ノ頃、ワヅラフコトアリ」（三）同ジク修行スル者。又、ソノ信者。止觀、四「切磋琢磨、同レ心齊レ志、如レ乘ニ一船、互相敬重、如レ視ニ世尊、是名ニ同行一」御文章（蓮如上人）「サレバ、モト同行ナルベキモノナリ、コレニヨリテ聖人ハ、御同朋御同行トコソカシヅキテ、オホセラレケル」金葉集、九、雜上「僧正行尊、大峯ノ神仙ト云ヘル所ニ久シウ侍リケレバ、同行ドモ皆限リアリテ歸リニケレバ、心細サニヨメル、云云」

どうぎやう（名）童形（一）古ヘ、貴人ノ元服以前ノ稱。平家物語、七、經正都落事「幼少ノ時ヨリ、仁和寺御室ノ御所ニ童形ニテ候ハレシカバ」（二）兒姿ニテ、結髮セザルコト。子供ノカタチ。謠曲、大江山「童子モ、サスガ山育チ、サモ童形ノ御身ナレバ、アハレミ給ヘ」

‖とうぎやう-き（名）東京錦唐經錦 地白ナルからにしき。源、廿三、初音「カラノとうきやうきノ、コトゴトシキ」

とうきう（名）彤弓〔玉篇「彤、赤色」〕朱塗ノ弓。書經、文侯之命「彤弓一、彤矢百」吾妻鏡、廿三、建保六年六月廿一日「九錫、彤、彤ノ誤、弓」

とうぎよ（名）統御統馭 スベヲサムルコト。スベトリシマルコト。三國志、魏志、王淩傳、注「統ニ御戎馬一、董ニ齊東夏一」李德裕、與ニ鄭亞一書「將以ニ英華之氣一、風雅統馭之才一」

どうきよ（名）同居 同ジ家ニ相住ムコト。アヒズミ。同宿。同棲。同爨。禮記、喪服小記篇「繼父不ニ同居一也者、必嘗同居」庾信、小園賦「[illegible]兄弟同居」

とうきよく（名）登極〔極ハ北極ノ意。北極星、其位ニ居テ、衆星之ニ拱ス、コレ天子ノ象ナリ〕そくゐ（即位）ニ同ジ。登祚。貞觀政要（唐、吳兢）「自ニ登極一以來、大事三、書作」太平記、三、主上御ニ沒笠置一事「新帝登祚ノ由ニテ、長講堂ヨリ內裏へ入ラセ給フ、供奉ノ諸卿、云云、隨兵ノ武士、甲冑ヲ帶シテ非常ヲ戒ム」

どうぎり（名）胴切 胴ヲ横ニ切ルコト。ツツギリ。太平記、十、長崎次郎高重最期合戰事「弓手馬手ニ相付ケ、車切リ、胴切リ、立破リニ仕リ、棄テ度ク存ジ候」

‖とうぐう（名）東宮〔左傳、隱公三年「衞莊公、娶ニ于齊東宮得臣之妹一」杜預注「得臣、齊太子也、太子不ニ敢居ニ上位一、故常處ニ東宮一」詩經、衞風、碩人篇「齊侯之子、衞侯之妻、東宮之妹」令集解「御子宮在ニ御所東一、故云ニ東宮一也」〕元、皇太子ノ坐シマス宮ノ稱。轉ジテ、直ニ皇太子ヲ申シ奉リ、御身ノ上ニハ、即チ東宮ト書シ、御居所ニハ、春宮（四時ニ配シテ、東ヲ春トス、因リテ云フ）ト書シテ、倘、とうぐうト讀ムヲ例トス。ハルノミヤ。ミコノミヤ。マウケノキミ。マウケノミヤ。ヒツギノミコ。靑闈。 繼體紀、七年十二月「春宮助ニ朕施ニ仁、翼ニ吾補ニ闕一」舒明紀、十三年十月「東宮開別皇子、年十六而誄之」天智紀、十年十月「東宮見ニ天皇、請ニ之吉野一、脩ニ行佛道一、天皇許焉」持統紀、十一年二月「以ニ直廣壹當麻眞人國見一爲ニ東宮大傅一」伊勢物語、廿九段「東宮ノ女御ノ御カタノ花ノ賀ニ」

とうぐう-ばう（名）春宮坊 ミコノミヤノツカサ。春宮ノ事務、一切ヲ掌ル官。又、坊官。四等ノ官ハ、大夫、亮、進、屬ナリ。（前條、見合ハスベシ）春坊。

どうくつ（名）洞窟 崖、又ハ、巖ナドニアル空虛ナル穴。ホラ。ホラアナ。洞穴。空洞。柳宗元、松說「風出ニ洞窟一、流ニ離百物一」

とうくん（名）東君（一）日 太陽。日輪。史記、封禪書「五帝東君、雲中司命之屬」注「東君、日也」（二）春ノ神。唐庚、見ニ梅詩一「桃花能紅李能白、春深何處無ニ顏色一、不レ應ニ尙有ニ一枝梅一、可ニ是東君苦留一ニ客」

とうくらう（名）藤九郎〔コノ鳥、性、遲鈍ナレバ、愚者ノ固有名詞ニヨリシナラム〕鳥ノ名。あはうどり（阿房鳥）ノ異名。其條ヲ見ヨ。

とうくわ（名）東華〔東方ノ中華ナルカ〕朝鮮人ノ自國ヲ稱スル語。（佛書ニハ、支那ヲ東華ト云フ）梁穎達「廣弘明集、東華儒道、大略存ニ於身國一」

とうくわ（名）燈火 トモシビ。アカリ。アカシ。漢書、王莽傳「莽鬱鬱御ニ燈火一至ニ明、猶不レ能レ勝」白居易詩「理曲管絃聞ニ後院一、熨衣燈火映ニ深房一」燈火親むべしトハ、涼氣催シテ、トモシビニ近寄ルニ適ス。韓愈詩「時秋積雨霽、新涼入ニ郊墟一、燈火稍可レ親、簡編可ニ卷舒一」

とうくわ（名）燈花 ちやうじがしら（丁子頭）ニ同ジ。孟浩然、寒夜詩「夜久燈花落、薰籠香氣微」

とうぐわ（名）冬瓜〔霜ヲ歷テ、冬ニ亙リテ熟スルヲ良シトスレバ、名アリ。冬ト云フハ、粉ヲ雪霜ト、見テ云ヒシカ〕春ノ末、苗ヲ生ジ、蔓ヲ延ク。葉、圓ク大キクシテ尖ル、莖、葉、皆、毛刺アリ。夏秋ノ交、黃花ヲ開キ、實ヲ結ブ、嫩キハ皮ニ毛アリ、故ニ、毛瓜ノ名モアリ。形、圓クシテすゐくわ（西瓜）ノ如キアリ、又、稍、長キモアリ、大イナルハ、徑、尺餘、皮、固ク厚ク、初ハ綠ニシテ、後ニ蒼ク、皮ノ上ニ白粉ヲ塗レルガ如シ、肉白シ、煮テ食ヒ、鹽ニ漬ケテ果トス。又、トウガウ。訛リテ、とうぐ、又、とうがん。物類稱呼、三、生植「冬瓜、かもうり、とうぐは、畿內及中國北陸道、或ハ上總ニテ、かもうりト云フ、東國ニテ、とうぐはト云フ、東國ニテ、とうぐはヲとうがんトハネテ呼ビ、云云」

どうくわ（名）同火〔別火ニ對ス〕あひび（合火）ノ條ヲ見ヨ。賤者考、本居内遠「同火ハ、コナタカナタ互ニ火ヲ共ニスルナリ」

どうくわ（名）銅貨 銅ニテ造レル貨幣。銅錢。銅貨幣。金史、食貨志「以ニ銅少一、命ニ尙書省一、遣ニ使諸路一、規ニ措銅貨一」

とうぐわい（名）等外（一）等級ニ入ラザルコト。（二）モト判任官ノ下ノ吏。

とうくわう（名）燈光 燈火ノヒカリ。北史、張元傳「元誦ニ七佛一、然ニ七燈一七日七夜、云云、今以ニ燈光一普照ニ法界一」

とうくわつ（名）統括 一ツニ、スベククルコト。一ツニ、マトムルコト。

とうくわつ-ぢごく（名）等活地獄 佛經ニ、八熱地獄ノ第一ノ稱。

とうくわ-でん（名）登華殿登花殿 平安時代、禁中殿舍ノ名。弘徽殿ノ北ニアリ。有職抄、二、禁中殿門「登華殿、北面、弘徽殿ノ北ニアリ」新儀式、五、臨時、宣陽陣事「延喜九年二月十三日、未刻大鼓、同三刻陣立、中宮御ニ登花殿一」枕草子、六、五十段「とうくわでんノ東ノ二間ニ」

とうくわん（名）彤管 軸ノ赤色ノ筆。婦人ノ用キルモノ。左傳、定公九年「靜女之三章、取ニ彤管一」詩經、邶風、靜女篇「靜女其孌、貽ニ我彤管一、彤管有レ煒、說ニ懌女美一」

とうぐわん（名）冬瓜 古名、カモウリ。

とうぐゎ(冬瓜)ニ同ジ。[illegible]サシモ心ヲ、ツクシ[illegible]、冬瓜ノ名ノ、アラン限リハ」

どうくゎん (名) 洞觀 事物ノ根柢、又ハ、未來ヲ見スクコト。洞察。洞見。

どうくゎん (名) 童丱 (一)あげまき(總角)ノ條ノ(一)ニ同ジ。(二)總角ノ條ノ(二)ニ同ジ。[illegible]

どうけ (名) 同家 同ジ家筋。同族

とうけい (名) 統計 [英語、Statistics. ノ譯語] 同一種類ニ屬スル箇箇ノ現象ヲ集メテ、數字計算ニ因リテ、其情態趨勢ヲ表示スルコト。

とうけい (名) 鬪鷄 鷄ヲ、タタカハスルコト。トリアハセ。蹴合。史記、袁盎傳「[illegible]鬪鷄走狗」 同、孔子世家[illegible]以鬪鷄故[illegible] 荊楚歲時記[illegible]

とうけい (名) 燈檠 燈火ヲ載セオク臺。燈臺。[illegible]

どうけい (名) 憧憬 きょうけい(憧憬)ノ誤。其條ヲ見ヨ。

どうけい (名) 同慶 相共ニ慶スベキコト。トモドモニ、ヨロコバシキコト。

どうけつ (名) 同穴 死シテ、同ジ墓穴ニ葬ラルルコト。新葬ノコト。詩經、王風、大車篇「穀則異室、死則同穴」 太平記、十一、越前牛原地頭自害事「思フ人ト共ニハカナクナリテ、埋モレン苔ノ下マデ、同穴ノ契リヲ忘レジ」[illegible]

とうけん (名) 鬪犬 (一)いぬあはせ

(犬合)ニ同ジ。(二)イヌアハセニ用キル犬。

どうけん (名) 洞見 事物ノ根柢、又ハ、未來ヲ見スクコト。洞察。洞觀。

どうけん (名) 同權 互ニ同ジ程ノ權利ヲ有ツコト。「男女同權」

どうけんれい (名) 登舷禮 海軍ノ禮式ノ一。貴顯ノ送迎、及、出征、若シクハ、遠洋航海ノ途ニ就ク軍艦ヲ送リ、又ハ、其歸港ヲ迎フルタメナドノ禮ニテ、艦内ノ乘組員ヲ、悉ク上甲板ノ舷端ニ整列セシメテ行フモノ。

とうこ (名) 投壺 ツボウチ。ツボナゲ。たうなげ(投壺)、及、つぼうち(投壺)ノ條ヲ見ヨ。禮記、投壺篇[illegible]

どうこ (名) 銅壺 壺ヲ銅ニテ作レルモノ。其中ヲ空クシテ、水ヲ貯ヘ、物ヲ煮ル火氣ノ傍ニ置キテ、自然ニ其水ヲ熱セシム。銅籠。又、小サキモノハ、火ノ傍ノ灰中ニ埋メ置キ、湯ヲ沸シ、酒ナド溫ム。近來ハ、鐵製ナルモアリ。

どうご (名) 同居 [凡聖同居土ノ略] 佛教ノ語。人天ノ凡夫モ聖者モ、共ニ同居スルコト。又、其國土。コレニ二アリ、娑婆世界ノ如キハ同居ノ穢土ニシテ、西方淨土ノ如キハ同居ノ淨土ナリ。盛衰記、八、[illegible]

どうこう (名) 瞳孔 眼球ノ虹彩ノ中央ニアル小サキ圓キ孔。光線ノ入ル口ナリ。ヒトミ。瞳子。

どうこう (名) 同工 工ノ同ジキコト。[illegible]

どうこういきょく (句) 同工異曲 [昔樂ノ工ナル點ハ同ジクシテ、其演ズル所ハ曲調ヲ異ニスル意] 工ナル點ハ同ジクシテ、其演ズル所ハ[illegible]ジクトモ、其技巧ノ趣ハ相異ナルコト。轉ジテ、詩文、述作ナドノ手際ノ同ジクシテ、其旨趣ノ異ナルコトニモイフ。[illegible]

とうごく (名) 東國 アヅマノクニ。古クハ、遠江、信濃以東ノ諸國ヲイヒタリシガ、後ニハ、足柄山以東、後ノ關東、陸奥、出羽ヲイフ。[illegible]十七、第廿八話「京ノ大刀帶町ノ邊ニ住ミケル女有リケリ、本ハ東國ノ人也」

どうこく (名) 慟哭 [illegible]

とうこつ (名) 頭骨 アタマノホネ。[illegible]

とうこん (名) 痘痕 天然痘ノアト。いもがほ(痘顔)ニ同ジ。アバタ。

どうごゑ (名) 胴聲 濁リテ太キ聲。[illegible]

とうさ (名) 等差 シナ。ワカチ。チガヒ。[illegible]

どうさ (名) 動作 ウゴキハタラクコト。タチオフルマヒ。動止。擧止。

[illegible]

ドウサ (名) 礬水 [蘭語ナラム[illegible]] 又、ドウス。陶砂。明礬ノ水。今、膠ト明礬トヲ和シテ、紙ナドニ延キテ用ヰルモノ。コレヲ[illegible]、又、どうさ紙、礬水紙トイフ。[illegible]

とうざ (名) 當座 [illegible]

どうざ (名) 銅座 江戸時代ノ銅ノ專賣局。元祿十四年、銀座ノ者共ニ命ゼテ、[illegible]

とうさい (名) 登載 文書ニ記シ載スルコト。[illegible]

とうざい (名) 東西 (一)ひがしト、にしト。[illegible]

とうざい [illegible]

ニ發スル語。一間拔ニ、東ヨリ西ニテ、鐵ニリ始ヘコト、六ノ、ヨリ始ニルトゾ。續日本紀「寶亀ニ年、始ニ西ヨリ東ニト、春ノシテムル、両カナ」齋明紀、五年七月、註「門戶禁防、不許東西」(三)街頭ニ廣告ヲ呼ブ東西屋ノ稱。(四)物品。品物。(支那ニテ)拍案驚奇「把出一東西」范成大、丙午新正詩「賤收周華甲子、錯人語問小西」

どう-さう (名) 鬪諍鬪爭 アラソヒ、タタカフコト。爭鬪。韓愈文「四方無鬪爭金革之聲」菅聞集、十五、鬪爭「鬪爭之起、自少及大、因言語、至以決死、凡有血氣者皆有爭心」

どう-さう (名) 疱瘡 ハウサウ。モガサ。

どう-さう (名) 凍瘡 しもやけ(凍傷)ニ同ジ。

どう-さう (名) 東曹 ざうし(曹司)ノ條ノ二ヲ見ヨ。

どう-さう (名) 同窓同窗 (同ジ窓ノ下ニ學ブ意) 同ジ學校、又ハ、師ニ就キテ學問スルコト。又、ソノ人。同居シテ學問スル友。同學。丹鉛錄、文選注「今士子同業曰同窗、官先、事士先、志官之同窗、亦士之同窗也」

どう-ざう (名) 銅像 銅ニテ鑄造シタル肖像。 宋書、食貨志「武宗廢天下寺院法、李都淮濟、以銅像鐘磬、鑄錢、銷鐵濟民」 王安石、贈閭丘公碑「西域國、以佛像、像金、公」

どう-ざうす (名) 東藏主 佛教ノ語 禪宗ノ僧職。經藏ノ大藏經ヲ東西ノ二副ニ分チテ、其東部ヲ司ルモノ。其西ナルヲ、西藏主ト云フ。 禪林象器箋、職位門、藏主「東藏主、西藏主、云云、已上頭首方也」(敕修百丈)清規、(一)僧兵以「西班頭首者、云云、東藏主、西藏主」禪林象器箋、職位門、藏主、大藏經藏副、分度東西、云云、遂ニ東藏主、西藏主ニ

ドウサ-がみ (名) 礬水紙礬石紙 どうさ(礬水)ノ條ヲ見ヨ。 犬子集(寛永)「空ニ一重、礬石紙ヲヤ、春ノ月」

どう-さく (名) 東作 〔東ハ春ノ意、春ハ農事ノ始マル時ナレバ云フ〕農作。タヅクリ。耕作。 書經、堯典「寅賓出日、平秩東作」注「歲起於東、而始就耕、謂之東作」平家物語、異本)十、改文「事作ハ東作ノ思ヒヲ忘レ、秋ハ西收ノ營ミニモ及バズ」太平記、三十七、身子聲聞事「諸神ハ天ニ飛去テ、風雨時ニ隨ヒシカバ、農民、東作ヲ事トセリ」

どう-さつ (名) 洞察 どうけん(洞見)ニ同ジ。洞觀

どう-ざふ (名) 豆雜 味噌ヲ造ル時、其豆ヲネヤシテ製シタルモノ。 嬉遊笑覽、十、飲食「外「豆雜ト云フモノハ、味噌造ル時、其豆ヲネヤシテ製ス、鶉衣集、身ニオボエカ食アホカラシ、醍醐ハ納豆ノ若キ名ナルベシ、藤澤ノ字ハ作リゴトナラム」

どう-さん (名) 女兒ヲ呼ブ稱。孃サン。ヂャウサン。(京都)

どう-さん (名) 燈盞 あぶらざら(油皿)ニ同ジ。燈缸。 舊唐書、楊貴妃傳「賓客夜宴、擧三座中、物、以四醉呼之、編指、燈燈燭、日三燈盞」清異錄、宋、陶穀「李大壯長、其、每、此令三正坐、爲書三匣壁中、號三燈盞」字彙(清、康熙)「釭、即今之燈盞」宇殿賞式、燈盞、八口」

どう-さん (名) 動產 ふどうさん(不動產)ノ條ヲ見ヨ。

どう-ざん (名) 銅山 銅ヲ掘出ス山。 史記、吳王濞傳「吳有三豫章郡銅山、濞則招致天下亡命者、盜鑄錢」

どうさん-だう (名) 東山道 日本七道ノ一。古ヘハ、伊勢(伊賀、志摩ヲモ含ム)、尾張、參河、遠江、駿河、甲斐、伊豆、相摸、武藏、總(上總、下總、安房ヲモ含ム)、常陸、陸奧ノ諸國ヲ云ヘルモノノ如シ。明治維新後ハ、近江、美濃、飛驒、信濃、上野、下野、磐城、岩代、陸前、陸中、陸奧、羽前、羽後ノ十三箇國ノ稱。トウセンダウ。ヤマノミチ。 北山抄(藤原公任)三、下、拾遺雜抄「東山道、山乃道、又、東乃道」

ドウサラ-バサラ (名) 鮓荅 へいさらばさら(鮓荅)ノ訛。其條ヲ見ヨ。

どう-し (名) 凍死 こごえじに(凍死)ニ同ジ。 杜甫詩「朱門酒肉臭、路有凍死骨」

どう-し (名) 透視 〔英語、Clairvoyance.ノ譯語〕 精神ヲ統一シテ、總テノ感覺カノ達セザル所ニアルモノヲ、覺知スルコト。千里眼。

どう-し (名) 頭指 ヒトサシユビ。食指。

どう-し (名) 投資 しゅっし(出資)ニ同ジ。

どう-し (名) 投子頭子骰子 又、コクシ。雙六ノ簺。さい(簺)ノ條ノ語原ヲ見ヨ。

どう-し (名) 杜氏 〔史記抄 文明、十四年ニ、とかどうじトアリテ古キ語ナリ、和爾雅(元祿)ニ、杜氏トアリ。(人倫訓蒙圖彙、並ニ合類節用集、同ジ)又、支那ニ、代ノ周ノ世ニ杜康ト云フ者、酒ヲ造リタリトテ、支那ニテハ、酒ノ事ヲ直ニ杜康ト云ヘリ、杜氏ノ字ハ、杜康ヨリ考ヘツケタルモノト見ユ。杜氏ヲ延ベテとうじノ意カ、又ハ、うぢノ假名遣ハ氏ノ訓カ。然レドモ無學ノ造酒奴ノ杜康ノ事ヲ知リテ、互ニ杜氏ナド呼ビアグル理ナシ。又、諸葛孔明ヲ諸葛うぢ、李鴻章ヲ李うぢナド呼ベル例ヲ見ズ、附會ノ甚シキモノナリ。此語ハ、物類稱呼(安永)ニ、醸家ト云フ者、其ヲ酒ヲ造ルタルヨリ始マル名ナリト云フ。(年代ハ知ラレザレドモ、最ヨ無造作ニテ妥當ナリト思ハル)酒家ニ、酒ヲ醸ス男ノ長。サカトウジ。造酒丁。酒匠

どう-じ (名) 冬至 二十四氣ノ一。太陽ノ、黃道ニ於テ、赤道ヨリ南、最モ遠キ處ニ在レル時。此時、晝、最モ短クシテ、夜最モ長シ。今、大抵、每年、十二月二十二日頃ナリ。陰曆ニテハ、十一月中ニアリ、コレヲ節日トシテ賀ス。殊ニ其朔日ニ當レルハ、朔旦冬至ト云ヒテ、二十年ニ一度アリ、瑞祥トシテ、禁中ニ公事アリ。 冬至ニ反シテ、太陽ノ、最モ北ニ達シ、晝、最モ長ク、夜、最モ短キ時ヲ夏至トス、今、大抵、每年、六月二十二日頃ナリ。(回歸線、及、二十四氣ノ條、見合ハスベシ) 此日、漢方醫家ニテハ、支那ノ農首トシテ、神農(醫ノ祖)ヲ祀リ、又、小豆飯ナド炊キテ、柚子湯ヲ沸カシテ浴シ、邪氣ヲ拂フト云ヒ、又、一陽來復トテ祝フトゾ。 史記、律書「氣始於冬至、周而復生」又「冬至、則一陰下藏、一陽上舒」

~どう-じ (名) 刀自 とじ(刀自)ノ音便。其條ヲ見ヨ。 源、二、帚木「耳ハサミガチニ、ビサウナキ家どうじノ、ヒトヘニウチトケタル」

どう-じ (名) 偸兒 人ノモノヲ、無斷ニ取ルモノ。スヌビト。盜兒 世說、雅量、下篇「王子敬夜齋中臥、有三偸人入二其室、盜ㇾ物都盡、王徐曰、偸兒、青氈我家舊物、可三特置ㇾ之」

どう-し (名) 動詞 又、用言。作用言。活語。語學ニテ、物事ノ動作ヲ言ヒテ、且、其語尾ノ變化スル語ノ稱。例ヘバ、

「鳥、啼く」花、落つ」ノ「啼く」落つ」ハ、鳥ト花トノ動作ヲ言フガ如シ。而シテ、更ニ「啼き」啼け」落ち」落つる」ナド、其語尾ハ變化ス。

どう-し（名）［動止］（一）動クト、止マルト。（二）タチヰ。フルマヒ。擧止。動作　南史、王弘傳「凡動止施爲、及［illegible］儀」

どう-し（名）［瞳子］どうこう（瞳孔）ニ同ジ　史記、項羽紀「［illegible］目蓋重瞳子」

どう-し（接尾）［同士同志］〔どちノ轉ノどしノ延〕ツレ。ナカマ。　犬筑波集（永正）春「花ヨメフゼモ、ヨソノ人ガハ」［illegible］ノ、イトコどうしガ、契リシテ」「女同士」仲間同士」

どう-し（名）［同志］ココロザシヲ、同ジクスルコト。又、其者。　書經、序疏「若好古博雅君子、與我同志、亦所不隱也」

どう-じ（名）［同時］オナジ時。ヒトットキ。又、オナジ時代。同時代

どう-じ（名）［童子］ワラベ。コドモ。　左傳、成公十六年「國之存亡、天也、童子何知焉」註［illegible］、［illegible］「童子佩［illegible］」童者未成人之稱、年十九以下皆之也」論語、先進篇「莫春者、春服旣成、冠者五六人、童子六七人、浴乎沂、風乎舞雩、詠而歸」

どう-じ（名）［童子］梵語、Kumāra.（究摩羅、又、鳩摩羅迦）、佛ニ從フ子ノ如キ意ト云ヒ、久、内ニ眞常ヲ蓄ミテ、執着ナク、心ニ愛染ナキコト、世ノ童子ノ如キ故ナリトモ云フ」佛、菩薩ノ眷屬ニ附クル稱號。　［illegible］

どうじ-いべつ（句）［同字意別］同ジ字ニテモ、其用ヰ方ニ因リテ、意ノ異ナルコト、即チ、一人ト云ヘバ、天子ノ御事ニテ、一人ト云ヘバ、［illegible］人ト云ヘバ、［illegible］ト云ヘバ、［illegible］ナルガ如シ。

どう-しう（名）［銅臭］銅錢ノ惡臭。貨財ヲ以テ官位ヲ得タル人ヲ嘲リテ云フ。　［illegible］

どうし-うち（名）［同士討］どしうち（同士討）ニ同ジ。

どう-しうみ（名）［同臭味］同ジ仲間。同ジタグヒ。同類。　［illegible］

とうじ-うめ（名）［冬至梅］梅ノ一種。トウジバイ。冬至ノ頃ニ花ノ開クモノ。

どうじ-がうし（名）［童子格子］〔酒顚童子ノ服［illegible］ヨリ云フ、俗語ナリ〕格子縞ノ、太クシテ、子持筋アルモノ。

とうし-し（名）［東市司］ヒムガシノイチノツカサ。いちのつかさ（市司）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

とうし-しやう（名）［東市正］ヒムガシノイチノカミ。いちのつかさ（市司）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

とうじ-せん（名）［冬至線］くゎいきせん（回歸線）ノ條ヲ見ヨ。

どう-しつ（名）［同室］同ジ室ニ居ルコト。又、其人。　［illegible］

どう-しつ（名）［同質］同一ノ成分。又、同一ノ物質。

どう-じつ（名）［同日］同ジ日。又、其日。［illegible］論トハ、同様ニ見做シテ論ズルコト。

どうして　［illegible］

どうしても　［illegible］

どうじ-ばい（名）［冬至梅］とうじうめ（冬至梅）ニ同ジ。

どう-しみ（名）［燈心］〔とうしんノ轉、訛〕［illegible］　類抄、燈心、トウシミ」遊仙窟「燈心」榮花物語、廿三、駒競「七日ガ内ニ、ヤガテ蔵婚［illegible］セサセ給フベケレバ、油、とうしみマデ、モテノボラセ給フ」

どう-しん（名）［illegible］　［illegible］しんぞく（親族）ノ條ヲモ見ヨ。

とう-しん（名）［燈心］油火ヲ點スニ、油ニ浸シテ心トスルモノ。綿布、綿絲ヲ用ヰ［illegible］、又、［illegible］ノ白ク輕虛ナルヲ取リテモ用ヰル。トウシミ。トウスミ。燈炷。　［illegible］手ヅカラ百二十筋ノ燈心ヲ束ネ」

とう-しん（名）［illegible］　［illegible］

とう-しん（名）［illegible］　［illegible］

とう-しん（名）［東人］（一）アヅマビト。東國ノ人。（二）遊蕩人。其條ヲ見ヨ。

どう-しん（名）［同心］（一）［illegible］ニ心ヲ同ジクスルコト。同意。　［illegible］（二）武家時代ニ、［illegible］

どう-しん（名）［同心］　［illegible］　時代、諸奉行ナドノ配下ニ屬シテ、雜務［illegible］

どう-じん（名）［同人］又、どうにん。（一）同一ノ人。（二）同志ノ人。ナカマ。［illegible］（三）同門ノ人。同業。

どう-じん（名）［illegible］　［illegible］

とうじん-あるへ（名）［illegible］　［illegible］

とうしん-ぐさ（名）［燈心草］　［illegible］

とうしん-とんぼ（名）［illegible］　［illegible］

山水訣「意在=筆先、丈山尺樹、寸馬豆人、遠人無レ目、遠樹無レ枝、遠山無レ皴、隱隱如レ眉、遠水無レ波、高與レ雲齊、此是訣也」…其畫如二…樺子ニ…書本ニ…王維山水之賦、遠人無レ目、亦曰、丈山尺樹、寸馬豆人トアルヲ、雨中ノ花、樺子、…ニ、…人ヤ、家ノ…」

ざうたんむすび（名）〔同心結〕けまんむすび（華鬘結）ニ同ジ。

ざうぢめ（名）〔胴締〕（一）物ノ中央ヲ平打ノ紐ナドニテ締ムルコト。又、其紐。（二）紐、又ハ、革ノ幅二寸位ノモノヲ、體ニ一重廻リニシテ、端ト端ト、金具ナドアリテ締ムルコト。又、其物。

どうぢや（名）〔謄寫〕（敷寫ニ對スニ）書キ寫スコト。ウツシトルコト、見寫。

どうぢや（名）〔同車〕共ニ、一ツ車ニ、乘ルコト。車ニ合乘リスルコト。史記、孔子世家「靈公與二夫人一同車、宦者雍渠參乘」詩經、鄭風、有女同車「有レ女同レ車、顏如二舜華一」

どうぢや（名）〔硇砂〕〔硇砂〕〔集韻硇、音鐃〕硇砂、藥石」盧化あんもにうむノ俗稱。窒素、水素、鹽素、ノ化合物。動物ノ糞ナドヨリ採ル。白クシテ鹽ノ如シ。硇砂精ヲ製ス。ロシャ。ロサ。

とうぢやう（名）〔凍傷〕シモヤケ。

とうぢやう（名）〔痘漿〕疱瘡ノウミシル。

どうぢやう（名）〔同姓〕どうせい（同姓）ニ同ジ。別所長治記「同姓ノ侍大將山城守」

どうぢやう（名）〔同上〕上ニアル事ト同ジキコト。同前。

どうぢやう（名）〔同上〕一ナルコト。又、前ニ述ベタルト同ジキコト。同前。

どうぢやう（名）〔同情〕一人、心情ヲ同ジクスルコト。又、己レガ身ニ比ベテ、他ノ境遇、狀態ヲ己レニ移シ、情緒ヲ共ニスルコト。アヒミタガヒミニ、オモヒヤルコト。史記、呉王濞傳「高日、同惡相助、同好相留、同情相成、同欲相趨、同利相死」

ざうぢやせい（名）〔硇砂精〕あんもにあノ俗稱。硇砂ノ鹽素ヲ去リタルモノ。燒キタル石灰ヲ硇砂ニ混ジ燒キテ作ル。

どうぢやばん（名）〔謄寫版〕同一ノ文書ヲ、數多謄寫スル勞ヲ省カムガ爲ニ、使用スル輕便ナル印刷版。蠟引ノ紙ニ、鐵筆ニテ原文ヲ書キ、其字痕ノ蠟ノ脫シタル部分ヨリ、いんきヲ滲出セシメ、其上ヲ摩リテ、紙ニ文字ヲ印スルモノ。

とうぢゆく（名）〔投宿〕宿ルコト。宿ニツクコト。トマルコト。宿泊。漢書、東方朔傳「時上微行、從二宜曲一以南、十二所、中休更、衣、投二宿諸宮一」張籍詩「行客欲二投宿一、主人猶未レ歸」馬戴詩「緣二危路一忽窮、投宿値二樵翁一」

どうぢゆく（名）〔同宿〕（一）同ジ家ニ宿ルコト。アヒヤド。又、其人。岑參詩「北風吹二微雪一、抱レ被肯二同宿一」張籍詩「月明石土堪二同宿、那作二山南山北人一」（二）同ジ寺ニ寓スル僧。太平記、十四、箱根竹下合戰事「中ニモ道場坊助、注記祐覺ハ、兒十人、同宿三十餘人、紅下濃ノ鎧ヲ一樣ニ着テ」謠曲、小袖曾我「敵ヲ遁レントノ出家、正シク弘法ノ爲ナラズト、同宿モ思ヒ賤シマバ」

とうぢよ（名）〔投書〕（一）文書ヲ新聞、雜誌社ナドニ送リ遣ルコト。又、其文書。（二）文書ヲ投ゲ込ムコト。三國志、魏志「太祖時有二投書誹謗者一」（佩文韻府）史記、屈原傳「漢有二賈生一、爲二長沙王大傅一、過二湘水一、投レ書以弔二屈原一」

とうぢよ（名）〔東序〕佛教ノ語。禪林ニテ、諸知事（都寺、監寺、副寺、維那、典座、直歲）ノ居ル所。

とうぢらう（名）〔藤四郎〕（一）次條ノ語ノ略。寶藏（寬文）二、「素人、陶冶ノワザ、ヨツテ來ル事備シ、云云、我カ朝ニマツ其名聞ユルハ、藤四郎ト云ヘルナン、土モ藥モ見事ナコトノ、ネメケナリケラシ」（二）しろうと（素人）ノ倒語。

とうぢらうやき（名）〔藤四郎燒〕（一）せとやき（瀨戶燒）ニ同ジ。略シテ、藤四郎。鹽尻、二十二「我尾州東瀨戶村ノ窯器ハ、藤四郎某ガ制セシヲ上器トス、或人ノ曰、藤四郎トハ略稱也、加藤四郎ト云ヒシ、永平寺開山道元禪師ノ時、トモシテ異邦ニ至リ、磁器ノ制ヲ習得テ歸リ、剃髮シテ春慶ト號セシトカヤ」（二）春慶燒ニ類セル陶器。江戶、今戶ニテ燒キタルモノ。當世武野俗談（馬場文耕）「藤四郎燒ハ、淺草聖天町高原藤四郎ト云フ者、茶碗、水差ヲ燒ナリ」（寶曆ノ頃）

とうち（名）〔東司〕〔登司〕（一）（事物異名（明、金庭璧）「登司同二郭登一、厠神也」）厠ヲ守ル神。雜談集（僧無住）七「烏芻沙摩ノ眞言ハ東司ニテ、殊ニ誦スベキナリ、云云、不動明王ノ垂迹トシテ不淨金剛ト號シテ、東司ノ不淨ノ時、鬼若シ人ヲ惱ス事アラバ、守護セン爲ノ御誓ナリ」（二）（釋氏要覽、下「厠厠、或曰レ溷、溷濁也、或曰レ圊、圊淸也、至穢之處、宜二潔淸一、故今南方釋氏呼二東司一」）禪家ニテハ、東序ノ人ノ上ル便所ヲ云フ。東淨。轉ジテ、一般ニ厠ノ名トス。禪林小器箋、殿堂門「東淨又曰二東司一也、或以二東司一爲二厠通名一、而在二西者一、亦呼爲二東司一、實訛言也」下學集、上、家屋門「厠、卽東司也」書言字考節用集、一、乾坤門「東司、トウス、僧家厠曰二東司一、又云二西淨一」易林節用集、（慶長）上、乾坤門「東司、トウス、厠也」

とうず・ずル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（自動、左變）〔投〕（一）入ル。乘ル。ツケイル。「鷄鳥懷ニ投ず」「機ニ投ズ」（二）アフ。一致ス。「意氣相投ず」（三）ヤドル。トマル。「旅舍ニ投ズ」（四）ヨル。タヨル。「賊軍ニ投ズ」

とうず・ずル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）〔投〕（一）投グ。投ゲ入ル。呉越春秋、……「投二金江中一而去」杜甫詩「還投二錦江波一」（二）入ル。オク。禮記、樂記「……投二殷之後於宋一」（三）贈ル。與フ。詩經、衞風、木瓜「投レ我以二木瓜一」（四）拂フ。振フ。左傳、宣公十四年「楚子聞レ之、投レ袂而起」（杜注「投、振也」）（五）オロス。ツギコム。出ス。「資本ヲ投ズ」

ざうず・ずル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（自動、左變）〔動〕（一）心動ク。ムナサワギス。戰國策、趙策「襄子如レ厠心動、執レ問二塗者一、則豫讓也」大鏡、中、道隆「オボロゲノイクサニ、どうずベクモナクナリユクヲ」源、四十六、總角「引キ動カシツバカリ關コエアヘルモ、イト心ウク、ウトマシウテ、どうぜラレ給ハズ」宇津保物語、藤原君「大方ノ心ヨセヨリモ、又思ヒ侍ルメル筋侍ルメレバ、ヨニモ動じ侍ラジ」（二）動氣ヲ發シテ、眩暈ス。

どうず・ずル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（自動、左變）〔同〕與ス。同意ス。贊成ス。論語、子路篇「君子和而不レ同、小人同而不レ和」平家物語、一、御輿振事「數千ノ大衆、先陣ヨリ後陣マデ、尤モ尤モトゾ同じケル」「其企ニ同ず」

とうすけ（名）〔藤助〕相撲仲間ニテ、吝ナルコトノ稱。相撲協會ノ世話人ニ、藤田川藤助ト云フ老人アリ、相撲ハ序二段マデヨリ取ラズ、極メテ吝ナリシヨリ起ルト。

✣とうすみ（名）〔燈心〕とうしみ（燈心）ノ訛。其條ヲ見ヨ。

とうすみとんぼ（名）〔燈心蜻蛉〕とのさまとんぼ（殿樣蜻蛉）ニ同ジ。

どうずり（名）〔どうハ接頭語、意義ヲ強メテ云フ語〕（一）スリ。チボ。（二）轉ジテ、罵リ云フ語。イケドウズリ。會根崎心中（近松作）中「鼻樣ニ離レテ、片時モ生キテ居ヨウカ、ソコナ九平次ノ、どうずりメ」

ざう-ずり (名) [胴擦] 塗リ上ゲタル蒔繪ヲ、細末ナル炭粉ニテ磨クコト。

どう-する-れん (名) 〔寄席ナドニテ、女義太夫節ヲ聞キ、感動スル節廻(フシマハシ)ノアリタル時、「どうする、どうする」ト連呼スルヨリ出ヅ〕 女義太夫ニ力瘤ヲ入レテ、其出演スル寄席ニ、足シゲク通フ連中。(東京)

とう-すゐ (名) [統帥] 〔正音、トウシュツ〕 統ベヒキヰルコト。又、其技能。統率。 唐書、[illegible]

とう-すゐ (名) [東陲][東垂] 〔廣韻「陲、邊也」増韻「陲、疆也」韻會「陲、本作垂」〕 西陲ニ對ス〕 ヒガシノハテ。東陬。 宋孝武帝詩「[illegible]」 [illegible]

どう-せ (副) 何レニシテモ。ナニセ。ナニシロ。ツマリ。ドウデ。到底。 「どうせ勝タレヌ」どうせ、サウデス」

とう-せい (名) [等儕] とうはい(等輩)ニ同ジ。

とう-せい (名) [冬青] モチノキ。

どう-せい (名) [動靜] (一)うごくト、しづかナルト。亂ルルト、治マルト。 易經、[illegible] (二)ヤウス。アリサマ。起チ居。フルマヒ。 (三)動物ト、植物ト。 [illegible]

どう-せい (名) [同棲] (一)一ツ所ニ共ニ棲ムコト。 [illegible]「夕鳥倚同棲」(二)夫婦ノ關係ヲ保ツコト。

どう-せい (名) [同姓] (一)オナジヤカラ。同族。 史記、[illegible] (二)同ジ姓。ドウシャウ。又、同ジ苗字。同苗。 禮記、曲禮、上「[illegible]」 [illegible]

どう-ぜい (名) [同勢] 同行ノ人數。ミチヅレノ人人。同行者。

どう-せう (名) [洞簫] 笛ノ一種。竪ニ吹クモノ。尺八ニ似テ短ク細ソシト云フ。ヒトヨギリ。(法隆寺傳寶ノ洞簫ト云フハ、一節切ノ尺八ナリト) 漢書、元帝紀、贊「元帝多材藝、善史書、鼓琴瑟、吹洞簫」 [illegible] 今ノ世ニ一節切ト云ヘルモノハ其變化ナルベシ」

とう-せん (名) [登仙] (一)仙人トナリテ天ニ登ルコト。 [illegible] (二)貴人ノ死去スルコト。上僊。崩御。

とう-ぜん (名) [東漸] 〔漸ハ進むノ義〕 東ノ方ヘ次第ニ進ムコト。 [illegible] 四海」 太平記、十八、比叡山開闢事「此ノ地、大日遍照ノ本國トシテ、佛法東漸ノ靈地タルベケレバ」

どう-せん (名) [同船] 船ニ合乗リスルコト。 [illegible]

どう-せん (名) [illegible]

どう-ぜん (名) [同前] (一)前ノ事ニ同ジキコト。同上。(二)同ジキコト。又、同ジサマ。同樣。同斷。 [illegible]

どう-ぜん (副) [同然] 殆ド同ジキ状。變リナキサマ。 孟子、告子、上篇「心之所同然者何也、[illegible]」 [illegible]

とうせん-かろ (句) [冬扇夏爐] 〔論衡、作ニ無益之能、納ニ無補之説、猶如以夏進爐、以冬奏扇、亦徒耳」ヨリ出ヅ〕 [illegible] 時機ニ適セズシテ、無用無益ナルモノヲ云フ。

とうせん-きやう (名) [投扇興] [illegible] 扇ト箱ト [illegible] 作リ、的(マト) [illegible] 金銀 [illegible] 下ニ、一厘錢十二枚程ノ厚サト大キサトアル圓キ臺村ヲツケ、蝶形ノ左右ノツマニ絲ヲ付ケ、豆鈴ヲ垂ル。扇ハ、初十二骨ノ俗扇ナリ、今ハ八軒骨、長サ八寸、片面ノミヲ紙張ル。箱ハ桐製ニテ、木枕ノ寸法ナリ、的臺ト云フ。サテ其作法ハ、開キタル扇ヲ右手ニ持チ、左手ヲ膝上ニオキ、腰ヲ落シ體ヲ眞直ニシ、右肱ヲ脇ニツケ、扇ノ要ノ方ノ先ツ、拇指ヲ上ニ、食指ヲ下ニシテ持チ、狙ヒ定メテ [illegible] テ、種種ノ名付シテ、優劣ヲ定ムトゾ。

アツパギナゲ。アツパギオトシ。

とうせん-だう (名) [東山道] 〔せんハ山ノ呉音〕 とうさんだう(東山道)ニ同ジ。 [illegible]

とう-そ (名) [登祚] 〔正韻「祚、福也、祿也、位也」〕 天子ノ位ニ上リ給フコト。 [illegible]

とう-そ (名) [屠蘇] とそ(屠蘇)ノ延。 [illegible] ビヤクサン、添加ヘテ、とうそ、[illegible]

どう-ぞ (副) (一)ナニトカ。ドウニカ。工夫スルサマニ云フ語。 [illegible] (二)ナニトゾ。 [illegible]

どう-ぞく (名) [同俗] [illegible]

どう-ぞく (名) [同族] (一)オナジヤカラ。 [illegible] (二)同ジ一門。 [illegible]

とう-そつ (名) [統率] 統ベ率キルコト。 [illegible]

どうぞ-や (名) [illegible] ソノ物ヲ乞フニ云フ語ニ [illegible]

どう-たい (名) [illegible]

とう-だい (名) [燈臺] (一)[illegible]、燭臺ノ如クニシテ、上ニ燈盞ヲ置キ、油火ヲ點ス具。竹、[illegible]、繩[illegible]、燈[illegible]ナドアリ。燈架 [illegible]「[illegible]ウダイ」 源、五十、浮舟六十四「ムヅカシキ反古ナド破リテ、オトロオトロシク一度ニモ認メズ、燈臺ノ火ニ燒キ、水ニ投ゲ入レサセナド、ヤウヤウ失フ」 枕草子、一、第四段「几帳ノウシロニタテタル燈だいノ光リモ、アラハナリ」 著聞集、十九、草木「右方ノ人人寄リテ、燈臺フタツ、云云、然シテ燈臺ナド[illegible]ニテ、銀ノ皿ヲ据エタリ」 (二)[illegible]通ジテ、燭臺ノ稱。(三)燈明臺ノ略。(四)燈臺草(トウダイグサ)ノ略。燈臺下(モト)暗しトハ、火光ノ遠キヲ照ラシテ、明ラカナレバ、其下ハ却テ暗キコトニテ、卽チ、遠キコトハ明ラカナレドモ、目前ノ事ハ知ラレザルノ意。[illegible]用([illegible])、西[illegible]ジテノ事、燈臺本暗し大晦日ノ夜ノ景色」 浮世床(文化、三馬)初篇、中「ソレハ燈臺元暗しトヤラ、アンマリ傍ニヰテハ見ツカラネエデ、遠クノ人ニ拾ハレル理窟サ」

とう-だい (名) [登第] きふだい(及第)ニ同ジ。唐書、選擧志「[illegible]第者加二一階一、放選、不レ第則[illegible]」 鄭谷[illegible]「[illegible]知レ榮」

どう-たい (名) [童體] ワラベナルコト。コドモナルコト。又、童ノスガタ。

とうだい-ぐさ (名) [燈臺草] 濕地ニ生ズ。一根一莖ニシテ、高サ七八寸、葉ハ互生シ、形、すべりひゆ(滑莧)ニ似テ薄ク、末、稍、廣シ。春夏ノ間、莖ノ頭ニ五葉對生シ、五枝ヲ分チ、四瓣ノ小綠花ヲ開ク、後、花ノ中ヨリ小實ヲ生ジテ、實ヲ結ブ。略シテ、燈臺。鈴振花(スズフリバナ) [澤漆] 和漢三才圖會、九十五、毒草「澤漆、俗云、燈臺草」 易林節用集、下、草木門「燈臺草(トウダイグサ)」 用明天皇職人鑑、[illegible]、道行「[illegible]ノ草ヲモ身ノ上ト、知ラヌ手モトノ暗サニハ、燈臺草ヲ思ヒ出ス」

とうだい-じ (名) [東大寺] 香ノ名。らんじやたい(蘭奢待)ニ同ジ。

どうだい-つつじ (名) どうだんつつじニ同ジ。

とう-だう (名) [東堂] 〔西堂(サイダウ)ニ對ス〕 禪寺ノ長老ノ稱號。卽チ、當寺ノ住職、其職ヲ退キテ東堂ニ居ル故ニ、當寺ノ前住ヲ東堂ト云フ。(東ハ主位、前住ノ人ハ是レ舊主ナル故ニ、東堂ニ居リ、コレニ對シテ、他山ノ前住ヲ西堂ト稱ス) [illegible]山清規「知二當寺退院長老、稱レ之東堂二」 僧寶傳、白雲端禪師傳「圓通訥禪師、讓二圓通一以居レ之、而身處二東堂一」 庭訓往來、十月「禪家者、堂頭和尙、東堂、西堂」 貞丈雜記、四、役名之部「西堂ト云フハ禪家ノ官也、出世ノ次第、藏主、首主、單寮、西堂、東堂トノボル也、西堂マテハ私ノ官也、東堂ハ、禁裏ヨリ被二仰付一ナリ、東堂ヲ長老トモ和尙共云フ、紫衣ヲ着スル也」

とう-だう (名) [磴道] 石段ノアルミチ。陸倕[illegible]「清晨[illegible]磴道[illegible]是[illegible]始」

どう-だう (名) [東道] 次次條ノ語ノ略。

どう-だう (名) [同道] ツレダツコト。一緒ニ行クコト。同伴。同行。 平治物語、三、牛若奥州下事「其[illegible]ハ仔細候ハジト約束シケルガ、但、定日ハ同道ノ人ノ計ラヒニテ候ベシ」

とうだう-の-しゆ (名) [東道主] 〔左傳、僖公三十年「燭之武、云云、見二秦伯一曰、云云、若舍レ鄭以爲二東道主一、行李之往來、共二其乏困一、君亦無レ所レ害」 林註「鄭在二秦東一、故言二東道主一」〕 東方ノ道筋ノ主人。又、主人トナリテ、來客ヲ案内スルコト。又、東道主人。略シテ、東道。

どう-たく (名) [銅鐸] 古ヘノ鐸(スリテ)ナリト云フ。古銅製ノ遺物ニシテ、往往、土中ヨリ掘出シタリ。支那、朝鮮傳來ノ樂器ナリト云フ。 續紀、六、和銅六年七月「大倭國宇太郡波坂鄕人、云云、得二銅鐸於長岡野地一而獻之、高三尺、口徑一尺、其制異レ常、音協二律呂一」 三代實錄、四、貞觀二年八月十四日「參河國獻二銅鐸一、高三尺四寸、徑一尺四寸、於二渥美郡村松山中一獲レ之、或曰、是阿育王之寶鐸也」(紀略、前篇、十四、弘仁十二年五月ニモ見ユ)

とう-だん (名) [登壇] 壇上ニ登ルコト。史記、淮陰侯傳、贊「相國深薦レ策、拜登壇」 藤逵、送二田尙書一詩「今日路傍誰不レ指、穰苴門戶慣二登壇一」 張謂詩「銅柱朱崖道路難、伏波橫海舊登壇」 盛衰記、廿四、南都燒失事「戒壇院、云云、戒壇ノ土ニシテ、壇ヲ築キテ、天皇皇后登レ壇、受戒アリ、其後、[illegible]等、五百餘人、登壇受戒シキ」

どう-だん (名) [同斷] 〔同ジ理(コトワリ)ニ、借字シテ音讀セル語〕 相同ジキコト。前ノ通リナルコト。同樣。同前。

どう-だん (名) 次條ノ語ノ略。

どうだん-つつじ (名) 〔又、どうだいつつじトモ云フ。燈臺躑躅ノ轉ニテ、枝梢ノ形ヨリ云フカ〕 灌木ノ名。枝葉、繁茂シ、葉ハ長橢(ナガイビツ)ニシテ、端、尖リ、背、光澤アリテ、互生シ、枝上ニ簇(ムラガ)ル。春ノ末、葉ノ間ヨリ、細梗ヲ垂レテ、壷狀ノ白花ヲ出ス。秋ノ末、葉、紅葉シテ、甚ダ鮮紅ナリ。多ク庭際ニ植ウ。略シテ、ドウダン。或ハ、ヤシホツツジ。(伊勢)又、淀川ツツジ。 [滿天星]

とう-ち (名) [統治] スベヲサムルコト。 書經、益稷「[illegible]外薄二四海一、咸建二五長一」 傳「諸侯五國立二賢一人一、爲二方伯一、謂二之五長一、以相統治、以奬二帝室一」

どう-ち (名) [動地] 大地ヲ動カスコト。轉ジテ、偉大ナル勢、又ハ、力ナドニ云フ。[illegible]

トウ-チン-かう (名) [透頂香] 〔とうちんハ、宋ノ音〕 藥ノ名。其昔、南北朝ノ應安年中、支那、元ノ禮部員外郎陳宗敬、博多ニ來リテ、妙藥ヲ製シ、其子孫、京都ニ來リ、西洞院ニ住シ、透頂香ヲ製ス(外郎(ウイラウ)ヲ稱トス) 公卿、殿上人、冠ノ甲ニ入レテ、髮ノ臭氣ヲ去ル、因リテ名アリ。相摸國、小田原ナルハ此餘流ナリ。今、小田原ノ宇野氏(虎屋)製シテ賣ル、黑褐色、方形ナリ。痰ヲ治ストゾ。一名、外郎藥(ウイラウグスリ)。 雍州府志、六、土產門「外郎透頂香、禮部員外郎陳宗敬、別號台山、中華台州人也、舊[illegible]元之老臣也、至正年中、元朝傾、大明所レ興、宗敬、云云、[illegible]投二化本朝一、家二于筑前博多一、云云、宗敬文[illegible]、[illegible]古[illegible]、且傳二藥方一、調二奇藥一、云云、其末裔、來二住洛下西洞院一、製二透頂香一而賣レ之、相州小田原透頂香、此[illegible]流[illegible]斯家之正流也」 近代世事談(享保、菊岡沾涼)一、外郎、相州小田原ノ透頂香ハ流[illegible]也、[illegible]寺ノ大[illegible]禪師、宋ヨリアリテ、鎌倉ニ住スノ時、此藥ヲ小田原ノ土人ニ傳フト云フ、小田原ノ外郎コレナリ」

とう-ちや (名) [鬭茶] 南北朝、及、室町時代ニ於イテ、本茶、非茶ナドヲ判別シテ、勝負ヲ爭ヒタルコト。 貫制庭訓往來、四月「賞二曲水宴一、可レ有二鬭茶會一之由承候」 支那ニモ、類シタルコトアリ。 江隣幾、雜志「蔡[illegible]翁[illegible]茶、[illegible]、茶水用二惠山泉一、[illegible]茶少劣、改用二竹瀝水一煎、遂能取レ勝」

とう-ぢやう (名) [登場] 舞臺ナドニ、現ハレルコト。又、芝居ニテ演ズルコト。

どう-ちやく (名) [撞着] (一)ツキアタルコト。(二)〔着ハ助辭〕 前後ノ一致セザルコト。矛盾。 禪林類聚、看經門「南堂靜云、須彌山高不レ見レ巓、大海水深不レ見レ底、[illegible]土揚

[illegible]」

どう-ちゅう (名) [illegible] [illegible](道中)ニ同ジ。

どう-ちゅう (名) 洞中 ホラノ中。洞穴ノ中。うつろ(洞)ノ條ヲモ見ヨ。

どう-つう (名) 頭痛 づつう(頭痛)ノ條ヲ見ヨ。

どう-つう (名) 疼痛 ウヅキ、イタムコト。ヒビラキ、イタムコト。ヅキヅキ痛ムコト。[illegible]」

どう-つう (名) 洞通 スケトホルコト。

どう-づき (名) 土突 「どづき(土突)ノ延。又、俗ニ、胴突ニ作ル」太キ丸材ニ、綱ツケテ、上ゲテハ下シ、下シテハ上ゲシテ、地ヲ突キ固ムルコト。又、足場ノ如キモノヲ作リ、其中ニ長大ノ材ヲ立テテ、上下ニテ釣リテ突ク。矢倉土突トモ云フ。[illegible]シ、突堅ムルヲ土突ト云フ、今、どうづきト云フハ、[illegible]ナリ、又、地突トモ云フ」[illegible]「[illegible]づき」[illegible]石竹「[illegible]ヤ、日傘[illegible]ノ、石ノ竹」聖徳太子絵傳記(享保、近松作)一、鼠の立花「[illegible]ガ[illegible]」

どう-づ・く・く・け・う・き・け (他動、四)「どうハ、意味ヲ強ムル接頭語」又、どづく。突ク。コヅク。又、ナグル。ブツ。

どう-で (副) 取出デノ音便。[illegible]「イヅクヨリどうで給フ言ノ葉ニカアラム」四季物語(鴨長明)四月「ワラハベノ、御簾ニアリシヲ、どうで[illegible]」

どうて (副) 何レニスルモ。[illegible]モ。ツマリ。ドウセ。「どうで出來ヌ」

どう-てつ (名) [illegible] スキトホルコト。[illegible]

どう-てつ (名) [illegible] スキトホルコト。[illegible]可[illegible]」

どう-てん (名) 東天 (一)東ノソラ。東方ノ天。(二)アケガタノソラ。曉天。

どう-てん (名) 登天 しょうてん(昇天)ニ同ジ。

どう-てん (名) 讀點 文章ノ讀ノ所ニ附クルシルシ。句ノ中ノ、キリニウツ點。く(句)ノ條ヲモ見ヨ。

どう-てん (名) 洞天 仙人ノ居住スル洞アルトコロノ天。[illegible]太平記、三十七、楊國忠事「方士、門ノ傍ニ立チテ、今ヤ出ヅルト、是ヲ待ツニ、[illegible]トシテ、洞天ニ日曉レヌ」

どう-てん (名) 動轉 動顚 仰天ニ同ジ。(安房、仙臺地方ニテモ云フ)[illegible](慶長)上、言語門「動顚、ドウテン」[illegible]リ、カサヲカケテイサムトモ、洞天(動轉)スルナ、小[illegible]ウソブイテゾキタリケル」

どうてん-とう [illegible]

どう-と [illegible]

どう-でも (名) ドウシテモ。イカニシテモ。[illegible]

どう-と (副) 物ノ倒レ、又、崩レカカル響ニ云フ語。[illegible]「どうと倒ル」

どう-どう [illegible] ハヤウハヤウ。早速。[illegible]

どう-どう (副) [止止ノ延カ] 終ニ。ツマリ。果ハ。到頭

どう-どう (副) 鼕鼕 鼓、又、太鼓ノ音ニ云フ語。[illegible]

どう-どう [illegible]

どう-どう (名) 百百 [十十ノ音便] 諸國ノ地名ニ見ユル稱。[illegible]

[illegible]

どう-どう [illegible]

どう-どう-たらり (名) [illegible]

どう-どう-めぐり (名) [illegible]

どう-とく [illegible]

どう-とく (名) [董督] トリヲサムルコト。トリシマリ。 三國志、吳志、孫皎傳「居ゝ敬而行ゝ簡、可ゝ以懷ゝ民、愛ゝ人多ゝ容、可ゝ以得ゝ衆、二者備不ゝ能ゝ知、安可ゝ董督在ゝ遠、禦ゝ寇、濟ゝ難乎」

どう-どり (名) [頭取] (音頭取ニ起ルカ) (一)カシラダツ人。ヲサ。長。首領。頭目。 三河物語、大久保忠佐(左衛門)上「信忠モ聞召テ、其中ニ頭取之者ヲ御手打ニ被ゝ成ケレバ」 (二)銀行、會社ナドニテ、主任タル取締役ノ稱。(三)芝居ニテ、樂屋一切ノ監督ヲ兼スル俳優。

どう-ない (名) [十無] (八ノ隱語。どうハ、とをノ音便) ゑとりノ一稱。はち(土師)ニ同ジ。

(ど)どう-な・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [動無] 動ズル氣色ナシ。心ヲ動カス容子ナシ。泰然タルサマナリ。 源、十三、明石廿五「中中ヨニアルモノト、尋ネ知リ給フニツケテ、漫クマレテ、更ニ例ノどうなきヲ、セメテイハレテ」

ぞう-なん (名) [童男] 男ノ子供。ヲノワラハ。ヲノワラベ。ヲトコノコ。どうにょ(童女)ノ條ヲ參見セヨ。 謠曲、須磨源氏「御影ノ中ニアラタナル、童男キタリ給フゾヤ」

どう-ゑ (副) [疾] 疾(トク)ノ音便。ハヤクヨリ。夙ニ。

どう-にん (名) [頭人] (一)カシラダツ人。ヲサ。カシラ。頭目。首班者。首領。 吾妻鏡、四十、建長二年四月二日「引付頭人可ゝ被ゝ定云云、頭人云、奉行人云、及ゝ審定」 (二)鎌倉時代、引附衆ナドノ頭首。(三)室町時代、政所、評定所、侍所ナドノ長官。 相京職鈔、二「執事、一人、政所之長官也、故ニ頭人ト稱ス」 康富記、寶德二年八月廿八日「侍所頭人出仕、云云」

花營三代記、貞治七年四月十一日「侍所沙汰始、頭人(今川中書)宿所」 (四)轉ジテ、足利氏ノ一族ニテ、評定衆タルモノノ稱。

どう-にん (名) [同人] どうぢん(同人)ニ同ジ。

どう-にょ (名) [童女] 女ノ子供。メノワラハ。メノワラベ。ヲンナノコ。 史記、周紀「宣王時、童女謡曰、檿弧箕服、實亡ニ周國ゝ」 同、封禪書「三神山在ニ渤海中ゝ、諸仙人及不死之藥皆在焉、始皇遣ニ使人乃齎ニ童男童女八人ゝ海求ゝ之」(節文)

どう-ぬき (名) [胴拔] 下着ナドノ、胴ノ邊ヨリ上ダケヲ別ノ布帛ニテ仕立ツルコト。又、其仕立テタル衣服。

どう-ねん (名) [同年] (一)オナジトシ。(年月ノ) 賈誼、過秦論「試使ゝ山東之國、與ニ陳涉ゝ度ゝ長絜ゝ大、比ゝ權量ゝ力、則不ゝ可ニ同年而語ゝ矣」 (二)同ジ齡。同ジ年齡。 後漢書、鍾皓傳「瑾好ゝ學慕ゝ古、有ニ退讓風ゝ、與ゝ膺同年、俱有ニ聲名ゝ」

(ど)どう-の-ちゅうじゃう (名) [頭中將] 藏人頭ニシテ、近衞ノ中將ヲ兼ネタルモノノ稱。 枕草子、五、四十六段「宜陽殿ノ一ノ棚ニト云フコトグサハ、頭中將コソシ給ヒシカ」 勘仲記、弘安七年十二月廿五日「今夕被ゝ行ニ內侍所御神樂ゝ、云云、次還御、頭中將候ニ御劍ゝ」

どう-の-べん (名) [頭辨] 藏人頭ニテ、辨官ヲ兼ネタルモノノ稱。 山槐記、久壽三年三月十七日「及ニ昏黑ゝ參內、今日被ゝ仰ゝ下頭辨藏人等ゝ」 中右記、長治二年正月十六日「節會了後、被ゝ補ニ藏人二人ゝ、頭辨重資朝臣、於ニ殿上ゝ仰下」

どう-の-ま (名) [胴間][舸間] (一)船ノ横ノ廣サ。 我衣(文化)安宅丸「長三十五間、胴の間七間、御上段、屋グラ四間ニ八間」 (二)船ノ中央ニアル室ノ稱。中倉。

どう-ば (名) [東坡] (蘇東坡ト、父ノ老泉ト、弟ノ子由トノ三人ヲ、三蘇ト稱スル

故、三蘇ヲみそ(味噌)ト、モヂリタル語カ) みそニ味噌ノ異名。 一話一言、十五「味噌ノカラナヲ、東坡ト付ケタルヤウノ事ハ、ヤサシク侍ル、覃按、三蘇トイフコトカ」

どう-はい (名) [等輩] 同ジ身分ノトモガラ。同輩。同儕。儕輩。等倫。 後漢書、賈復傳「召見光武奇ゝ之、云云、官屬以ニ復後來ゝ、而好陵ニ折等輩ゝ、調補ニ鄗尉ゝ」 金史、烏春傳「世祖使ニ人讓ゝ之、烏春曰、吾與ニ汝父ゝ等輩、舊人汝爲ゝ長」

どう-はい (名) [同輩] 前條ノ語ニ同ジ。 隋書、沈光傳「帝每推ゝ食解ゝ衣、以賜ニ之同輩ゝ、莫ニ與爲ゝ比」 宋史、黃友傳「友少不ゝ羈、十五入ニ大學ゝ、語ニ同輩ゝ曰、大丈夫不ゝ能ニ爲ゝ國立ゝ功、亦造化中贅物耳」

とう-ばう (名) とんばう(蜻蜓)ノ異名。 延慶本、平家物語、二「中春ノ野ニ、東方ノ飛ビ散リタルニ異ナラズ」

どう-はう (名) [同胞] ハラカラ。兄弟姉妹。 東方朔、答客難「同胞之徒、無ゝ所ゝ容ゝ居」 張橫渠、西銘「乾稱ゝ父、坤稱ゝ母、云云、民吾同胞、物吾與也」 王安石詩「同胞苦ニ零落ゝ、會合尚淩ニ其ゝ」

どう-ばう (名) [童坊] 足利將軍義滿ノ時、輔佐ノ臣、細川賴之、俳優ノ徒ヲ剃髮セシメ、何阿彌ト名ヅケ、將士ノ間ニ、誹謔周旋セシメシ者ノ稱。廉恥ノ心ヲ起サシメ、諂諛ノ風ヲ矯メムノ意ニ出ヅトゾ。(義政ノ時ニ、同朋ノ字ニ改ムト云フ。其條ヲ見ヨ) 細川賴之記「將軍(義滿)ノ御前ニ、猶奸佞ノ人絕ズ、云云、賴之案ジ出シ、佞坊ト名付テ、法師六人同ジ樣ニ作リ出テ、上下ヲ着セ、大小ノ刀ヲ横ヘ、唐ノ頭巾ヲ頂セテ、其外、異樣異形ニ出立セ、云云、追從ヲ專トシテ事ニナラサル虛語ヲ巧ミ、顏ヲシカメ、口ヲユガメ、踊リ舞狂ヒテ、座ノ興ヲ催シケル、後ニハ幼童ノゴトク出立ヌレバ、自然ニ童坊トゾ申ケル」

どう-ばう (名) [洞房] (一)奧深キ部屋。

又、ネヤ。ネドコ。閨房。 王維詩「洞房ゝ春烟透ゝ簾出」 (二)遊女屋。妓樓。

どう-ハチ (名) [銅鉢] 佛家ニ用ヰル樂器ノ名。即チ、銅製ノ磬。ウチナラシ。磬カネ。誦經、梵唄ノ前後ノ段落ナドニ、桴ヲ以テ打チ鳴ラス。御八講ナドノ濟歳ノ時、證義、呼鐘ト云ヘバ、威儀、呼磬ヲ打チ、ハタト濟歳ヲ止ム。 文獻通考「銅鈸、梁朝樂器也、後世因ゝ之方響之制出焉、今釋氏所ゝ用銅鈸、亦謂ニ之鉢ゝ、蓋妄名ゝ之耳、齊梁間文士、競ゝ鑄銅鈸ゝ賦ゝ詩、亦其類之類、胡人之音也」 和漢三才圖會、十九、佛供器「銅鈸、僧家用ゝ之、以ニ白銅ゝ鑄ゝ之、小者曰ニ利鈸ゝ、大者曰ニ鐃鈸ゝ、蓋ゝ物後世之作」

どうはち-けん (名) [藤八拳] (嘉永、安政ノ頃、藤八ト云フ賣藥行商アリ、其賣聲ニ藤八、五文デ、奇妙(錢五文ノ價ニテ奇效アリ)ト云ヘリ。コレガ芝居ニテ、演ズルコトトナリテ、名高クナリ、其呼聲ヲ借リテ、狐拳ノ掛聲トシタルヨリ云フ) 狐拳ヲ、專ラ、酒宴ニテ行フニ云フモノ。(狐拳ノ條ヲ見ヨ) 三度續ケテ打チテ、勝負ヲ決ス。ソノ度每ニ掛聲ニ、藤八、五文、奇妙ト云フ。(烈シク續ケテ打ツ時ハ、略シテ、はち、もん、めう) 先ヅ二拳取リテ、相手ノ二拳勝タヌ內ニ、早ク一拳ヲ取ルヲ勝トスルヲ、二三ト云フ。又、柳拳ト云フアリ、柳トノミモ云フ(江戸柳橋ノ花柳界ニ起リシ名ナルベシ) 掛聲ニ、おあげなさい、おさげなさい、おだしなさいト云フ、狐ハ手ヲあげ、庄屋ハさげ、獵人ノ火繩筒ハだすニ因ルナリ。先ヅ打チ始メニ、相手ハ狐ニテあげ、我レ筒ヲ出シテ勝テバ、お上げなさった御手手ヲ、お出しなさいト云ヒテ、相手ニ指圖ス。負ケ方ハ、お

だしト云フハ、己レさげる心ナリト、推察シテあげれバ、勝ツナリ。勝チ方、指圖シ、負ケ方、反對ノ手ヲ出シ、當ト同時ニ、烈シク機ヲ見、手勢ヲ變ジテ、勝負ヲ爭フナリ。略シテ、籐八。

〔どう‐ばち‐子〕(名)［銅鈸子］〔子ハ添字。正字通「銅鈸、今鐃鈸也」〕樂器　金ノ圓盤ノ中央部、一面ニ、直徑約三寸バカリ、圓ク脹レテ柄ナク、韋ノ紐ヲ以テ貫キ、二枚相擊チテ、樂ニ和スルモノ、西域、或ハ、南蠻ヨリ傳來セシモノト云フ。ドウバッシ。ネウハチ。　杜氏通典「銅鈸、亦謂之銅盤、出西戎及南蠻、其圓數寸、隱起如浮漚、貫之以韋、相擊以和樂也、南蠻國大者、圓數尺」禪林象器箋、唄器門「清規鐃鈸、并爲二物、[illegible]按、杜氏通典、文獻通考、三才圖會等、以鐃與鈸、爲全二物、諸韻書亦爾、到正字通、初得鐃鈸爲一物之解」倭名抄、四[illegible]「銅鈸子」名義抄「銅鈸子、ドウバチシ」東大寺資財帳「銅鈸子」盛衰記、十一「[illegible]女房達六人ヅツ[illegible]ヲ結ビテ、鼓、銅鈸子ヲハヤシツツ、今樣謡ヒテ、又後ノ四十八間ヲゾ廻リケル」同三十二、福原管絃講事「琵琶、鏡、銅鈸、[illegible]ナガラ法性ノ深理ニ叶ヘリ」

どう‐ばっ‐子(名)［銅鈸子］前條ノ語ニ同ジ。

とう‐はっ‐せん(名)［落花生］らくくゎしゃう(落花生)ノ長崎詞。

どう‐はん(名)［同伴］トモナフコト。ツレダツコト。ミチヅレ。同道。同行。孔子家語、注「本與叔孫同伴者也」

どう‐はん(名)［同班］同ジクミ。同ジ列。宋史、職官志「尙書侍郎、分治曹事、奏事則同班」

どう‐ばん(名)［銅版］印刷版ノ一種、平ナル銅板ニ白蠟ナドヲ塗リ、其上ニ所要ノ文字、圖畫ナドヲ、針ノ先ニテ彫リツケ、コレニ硝酸ヲ注ギテ、其文字、圖畫ノ跡ヲ腐蝕セシメテ作ル。コレヲ原版トシテ紙ニ摺ル。[illegible]

とう‐ひ(名)［橙皮］橙ノ皮ヲ乾シタルモノ。藥用トス。(陳皮ノ類)

どう‐ひつ(名)［同筆］同ジ人ノ書キタルコト。又、ソノモノ。同一人ノ筆跡。

☆どう‐ビン(名)［銅瓶］(銅瓶ノ音)其器ノ形狀、章魚ノ頭ニ相似タレバ云フトカ云フ」章魚ノ異名。ドンビ。(伊勢)

どう‐ビン(名)［土瓶］どびん(土瓶)ノ延。其條ヲ見ヨ。

とう‐ひゃう(名)［土瓶］邪術ノ名。蛇蠱ノ類ナルベシ。[illegible]ヲツカフ事アリ、[illegible]テ是ヲ土瓶ト云フ、器フル器ヲモテ、名ヅクルナルベシ、ヨテ、犬神、どうひゃうト、ナラベ云ヘリ」

どう‐びゃう(名)［同病］同ジ病。又、同ジ病ヲ煩フ人。南史、任昉傳「[illegible]」[illegible]

とう‐ひゆ(名)［橙皮油］橙皮ナドヨリ採レル液。揮發性ニシテ、無色、又ハ、帶黃色ヲ呈シ、香料ナドニ用ヰラル。

とう‐ふ(名)［豆腐］大豆ニテ製スル食物。大豆ヲ水ニ漬シ、水ヲ加ヘテ碾キ、其漿ヲ煮テ、布袋ニテ搾リテ滓ヲ去リ、(此滓ヲどうふからト云ヒ、略シテからトモ云フ、又、きらずトモ、うのはなトモ云フ)其漿ニ滷汁ヲ加ヘ、稠、凝レルヲ、布ヲ敷ケル匣ニ汲ミ入レ、布ヲタタミ、壓ヲ置キ、水ノ滴リ去レルヲ、冷水中ニ漬シテ成ル。[illegible]ヤハラカシ。生、炙、煮、共ニ食フベシ。オカベ。[illegible]

とう‐ふう(名)［東風］(一)ヒガシカゼ。コチ。(二)[illegible]

どう‐ふう(名)［同風］同ジ風俗。[illegible]「聖主作制、百代同風」「千里同風」

とう‐ふ‐うば(名)［豆腐上物］(豆腐上物ヲ略シテ濁リ、婆ノ字ヲ當テタル語)食物ノ名。豆腐ノ液ニ、灰汁ヲ少シ入レテ煮レバ、上ニ皮ヲ生ズ、[illegible]取リテ乾シタルモノ、皺アリテ、[illegible]シテ、[illegible]シテ、うば、今、又、[illegible]とうふ(豆腐)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]

とうふ‐から(名)［豆腐殼］きらず(雪花菜)ニ同ジ。[illegible]「雪花菜、豆滓、キラズ、トウフノカラ」

どう‐ふく(名)［同腹］(一)同ジ腹ニ生レタルコト。同ジ母ノ同ジキコト。又、ソノ人。(二)同心。一味。同志。

どう‐ふく(名)［胴服］[illegible]ノ古稱。ドウヤ[illegible]

どう‐ぶくら(名)[illegible]

どう‐ふぐり(名)［胴陰囊］[illegible]

どう‐ぶつ(名)［動物］イキモノ。體中ニ器官ヲ具ヘ、命ヲ保チ、感覺アリテ、常ニ自由ニ動クベキ勢力ヲ具スル物ノ總名。人、獸、禽、蟲、魚、介等、皆是レナリ。[illegible]

どうぶつ‐かい(名)［動物界］地球上ニ在ル生物ノ中、[illegible]モノノ範圍ヲ云フ語。

どうぶつ‐がく(名)［動物學］博物學ノ一部、動物界ニ關スル諸種ノ事項、形、其生活現象ナドヲ研究シ、併セテ、[illegible]

どうぶつ‐ゑん(名)［動物園］種種ノ動物ヲ[illegible]ヒテ、人ノ觀ルニ供スル所。

とう-ぶん（名）［等分］ヒトシク、ワカルルコト。又、等シク分ツコト。不同ナク分ツコト。長短、多少ナク分ツコト。平分。「三味ノ藥ヲ等分ニ盛ル」「晝夜等分」

どう-ぶん（名）［同文］（一）文字、又ハ、文章ノ同ジキコト。中庸、第廿七章「今、天下車同レ軌、書同レ文」（二）次條ノ語ノ略

どうぶん-でんぱう（名）［同文電報］特別電報ノ一。電報ノ發信人ガ、同一ノ着信局ノ管轄内ニ住スル數人、又ハ、數箇所ニ宛テ、同文ノ電報ヲ同時ニ發スルモノ。和文ニテ「ムヨ」、歐文ニテ「TM」ノ符號ヲ用ヰル。

どう-ぶるひ（名）［胴震胴顫］全身ノワナナキフルフコト。（甚シク畏レ、又ハ、烈シク寒サニ感ジテ）平家女護島、享保、近松作）三「歯ノ根モ合ハス、胴ぶるひ」

どう-へい（名）［銅瓶］銅ニテ造リタル瓶。形ハ殆ンド藥罐ノ如キモノ。又、どうびん（銅瓶）。

とう-へう（名）［投票］選擧、採決ナドニテ、多クノ人ガ、各自ノ意志ヲ表示シテ、コレヲ一定ノ場所ニ呈出スルコト。又、ソノ符票。

とう-べう（名）［投錨］錨ヲオロスコト。船、又ハ、艦ヲトドムルコト。フナカカリ。碇泊。

とう-べう（名）［痘苗］種痘ノ原料トナル病毒。多クハ、牛痘ノ膿汁ヨリ製ス。

どう-へん（名）［同邊］同ジ狀。變リナキコト。同篇。（病體ナドニ）

どう-へん（名）［同篇］前條ニ同ジ。季瓊日錄、延德二年二月十六日「禮部之返答、亦同篇也」

とうへん-ぼく（名）又、たうへんぼく。風變リノコト。（博多）ヘンチキリン。浮世風呂、文化、三馬、初編、下「ナアマヱ稚食、粕食、ナナナンダ、此ノトトツどうへんぼくメ」

どう-ぼ（名）［同母］母ノ相同ジキコト。又、ソノ人。ハラカラ。同腹。（異母ニ對ス）晉書、祖納傳「弟約與レ逖同母、偏相親愛」

どう-ぼう（名）［同朋］（モト童坊ニ作ル）（一）足利義滿ノ時、時宗ノ僧ヲ使ハル。大紋ノ直垂ニ白袴ノ姿ニテ、御成ノ御供ニハ必ズ從フモノナレバ、力者ノ頭ナリシカ。同朋故實考「同朋ノ始ノ事、サダカナラサレドモ、鎌倉將軍家ノ比ハ、力者ナド云ヒシ者ナルベシ、京都將軍家ニ至リテ、同朋ト唱ヘラレシナルベシ」貞丈雜記、四、役名「同朋ト云ハ、剃髮ノ者ニテ、殿中ニテ諸侍ニツカハレ、雜役ノ者也、云云、或說ニ云、鹿苑院義滿公、十歲ニテ父ニオクレ給ヒシ時、細川賴之、執事トナリテ義滿公ヲ養育ス、其比、賴之ノハカラヒニテ、法師六人ヲエラビ、異體ノ衣服ヲ着サセテ、侫坊ト名ツケ、又童坊トモ名ツケ、何レモ何阿彌ト名ノリ、色色ノタワケ事ヲサセ、タワコトヲ云ハセテ殿中ヲアリカセ、諸侍ノナブリモノトシ、ワラヒグサトシケリ、是レハ義滿公ニ、侫人ヲニクミ給フ樣ニ教ヘ奉ル賴之ノ下心也」（二）禪家ニテ、供法師ノ稱。承仕法師ノ流ナリ。（三）江戶時代、武家ニテ雜役ニ使用セシ剃髮ノ小吏。幕府ニテハ、將軍出行ノ時、扈從スルモノ。一名、ちまつりばうず（血祭坊主）ト云ヘリ。ソノ條ヲ見ヨ。東照宮御實紀、五、慶長八年三月廿五日「將軍、云云、御參內アリ、云云、同朋全阿彌正次騎馬」

とう-ほん（名）［謄本］原本ヲ謄寫シタル文書。山谷題跋、宋、黃庭堅「此書、既以遺二荊州、李翹叟一、既而亡二其本一、復從二翹叟一借來、未二謄本一、[illegible]役夫田清一說法」「戶籍謄本」

どうぼん-ぎょ（名）［銅盆魚］たひ（鯛）ノ一名。（上海）

とうほん-せいそう（句）［東奔西走］東西ニ奔走スルコト。アチコチト、諸方ヘカケメグルコト。東行西走

どう-まき（名）［胴卷］甚ダ細長キ袋。金子ナドヲ入レテ、腹ニ卷キツクルモノ。旅行ナドノ時ノ用トス。

どう-まごゑ（名）［胴間聲］（頓間聲ノ音便ナラム）調子ハヅレノ、下卑タル太キ聲。ドウマンゴエ。

どう-まる（名）［胴丸］（胴ヲ丸ク圍ム故ニ云フ）鎧ノ一種。其製、胴ノ左ニ、つがひ無クシテ屈伸シ、右ノ脇マデ、十分ニ合フモノト云フ。ドウマロ。盛衰記、廿二、衣笠合戰事「弓ヨク射ル者ドモハ、鎧ヲ着サレ、腹卷、腹當、胴丸ナドヲ着テ」高館草紙（室町時代）「卯花威ノ鎧、絲緋威ノ胴丸、三領重ネ」

とう-みやう（名）［燈明］ミアカシ。ミアカリ。神佛ノ前ニ供フル燈火。（京都ニテ、おひかりト云フ）戴叔倫詩「黃昏投二古寺一、深院一燈明」陸游詩「青熒猶有二佛燈明一、點滴時聞竹露聲」黃[illegible]詩「開壁孤燈響、山暗數燈明」盛衰記、廿六、御所侍酒盛事「香花、燈明ヲ備ヘ、例時懺法行ヒテ、亡魂ノ菩提ヲ弔フ」

どう-みやう（名）［同名］（一）どうめい（同名）ニ同ジ。（二）どうめう（同苗）ニ同ジ。

とうみやう-だい（名）［燈明臺］海岸、又ハ、島ナドノ高キ處ニ、塔ノ如ク高ク築キテ、夜間、ソノ上ニ燈火ヲ點ズル建物。元來ハ神佛ニ供スル燈明ナリ。後ニハ、專ラ、夜中、往來ノ船ノ、認メテ方角ヲ知リ、又、危險ノ箇所ナドヲ知ル便トス。又、燈臺。

どう-みやく（名）［動脈］けっくゎん（血管）ノ條ヲ見ヨ。

どうみやく-かうくゎ（名）［動脈硬化］動脈ノ管ハ護謨ノ如ク、伸ビ縮ミ、ヒロガリセバマリテ、血液ヲ運ブ、ソレガ或ル原因ニテ、脈管ノ層ガ厚クナリ、又ハ、彈力ヲ失ヒテ、血行不十分ニナルコト。

どうみやく-くゎん（名）［動脈管］けっくゎん（血管）ノ條ヲ見ヨ。

どうみやく-りう（名）［動脈瘤］動脈管ノ一部ガ、擴張シテ瘤ヲナス病。患者ハ動悸、嗄聲、呼吸短迫、嚥下困難、神經痛ナドヲ起シ、瘤ガ大ナレバ衰弱シ、或ハ破裂シテ斃ルルコトアリ。一名、血瘤。

とう-むしろ（名）［籐席］籐ニテ編ミタル席。どう（籐）ノ條ヲ見ヨ。トムシロ。

とう-めい（名）［透明］スキトホルコト。透キテ見ユルコト。（水晶、硝子、水ナド）

どう-めい（名）［同盟］或目的ヲ達セムガタメニ、同一ノ行動ヲ取ルベキ盟ヲナスコト。春秋、莊公十六年十二月「會二齊侯、宋公、陳侯、衞侯、鄭伯、許男、滑伯、滕子一、同二盟于幽一」

どう-めい（名）［同名］同ジ名。ドウミヤウ。「同名異人」

どうめい-ひげふ（名）［同盟罷業］（英語、Strike ノ譯語）又、同盟罷工。すとらいきノ條ヲ見ヨ。

どう-めう（名）［同苗］（同苗字ノ略）（一）同ジ苗字。同ジ氏。同名。（二）同ジ族

淺井三代記、十五、姉川合戰の事「右近(坂井氏)ガ一族同苗ノモノドモ、口惜クヤ思ヒケン、[illegible]引返シ戰ヒシガ、枕ヲナラベテ討死シ、殘リ少ナニナリ」

※どう-も (副) (一)ドウシテモ。「どうも見エヌ」(二)如何ニスレドモ。「どうも仕方ガナイ」(三)甚ダ。全ク。「どうも[illegible]イタ」

どう-もう (名) 童蒙 童(ワラベ)ヲ、物事ノ理ニ蒙(クラ)キニ就キテ稱スル語。幼クシテ、知識ノ、未ダ十分發達セザルモノ。コドモ。易經、上經、蒙卦「匪我求童蒙、童蒙求我」

どうも-かうも (名) 怪物ノ名。詳カナラズ。嬉遊笑覽、三、化物「其ノ名ノ古キハ、云云、サカガミ、身ノ毛ダチ、アフアフ、どうもかうも、是ラ、其サマニヨリテ、作リタル名多カリ」

どう-もく (名) 頭目 (一)かしらト、めト。漢書、刑法志「夫仁人在上、爲下所仰、猶子弟之衞父兄、若手足之扞頭目」(卯ハ仰ニ同ジ) (二)カシラ。ヲサ。首領。通典、兵制「五人爲烈、烈有頭目、二烈爲火、立火子、五火爲隊」

どう-もん (名) 〔外面(ソトモ)ノ訛ト云フ〕田圃。(東國ノ語) 鹽尻(天野信景)九十一「田中ヲ東國ノ俗、どうもんト云フ、稻門ト書ベシヤト云フ人アリ、然ラズ、元、そもト云フヲ、そヲ引キ、もヲハネテ、イヒアヤマレリ、そもハ、そともノ略也」

どう-もん (名) 同門 同ジ師ニ就キテ學ビタルコト。又、ソノモノ。相弟子。後漢書、[illegible]同門友」[illegible]古詩「昔我同門友、高擧振六翮」

どう-もん (名) 洞門 ホラアナノ入口。又、其處ニ設ケタル門戶。[illegible]岩屋ノ入口ヲ隔テタレバ、訪ラヒ來ル人モナシ、[illegible]

どう-やう (名) 東洋 (一)亞細亞洲ノ東ノ方ノ泛稱。西洋ニ對ス。其條ヲモ見ヨ」[illegible] (二)支那ヨリ我ガ日本國ヲ云フ稱。

どう-やう (名) 同樣 同ジ樣(サマ)。オナジキコト。

どう-やく (名) まいら(鰻)ニ同ジ。

どう-やく (名) 同役 同ジ役目ニアルコト。又、其人。同勤。相役。同僚。

どう-やら (副) (一)何トカ。ドウニカ。(二)何トナク。ドコトナク。

どう-ゆ (名) 桐油 (一)あぶらぎり(油桐)ノ實ヨリ搾(シボ)リ取レル油。わたたねあぶら(綿種油)ヲ雜ヘテ、燈油トス。(二)桐油紙ノ略。(三)桐油合羽ノ略。

どう-ゆ (名) 燈油 ともしあぶら(燈油)ニ同ジ。又、トモシアブラ。雲笈七籤(宋、[illegible]所敬」

どうゆ-がっぱ (名) 桐油合羽 又、とゆガッパ。桐油紙ニテ作レル合羽。下輩ノ用トス。略シテ、トウユ。

どうゆ-がみ (名) 桐油紙 桐油ヲ塗(ヌ)キタル紙。サレド、今ハ專ラ、荏(エ)ノ油ヲ用ヰル。物ヲ包ミテ濕ヲ防ギ、雨ヲ凌ギ、又ハ、合羽ニ作ル。アブラガミ。

どう-よう (名) 登庸 官途ニアゲモチヰラルルコト。官吏ニ擧用スルコト。[illegible]

どう-よく (名) 貪欲 〔貪欲(トンヨク)ノ訛カト云フ〕(一)ムサボルコト。欲ノ深キコト。可笑記(寛永)二「不行義、どうよく深ク、ヨロヅトガゴトノミ取行ヒテ」(二)苛キコト。非道。心中二枚繪草紙(寶永、近松作)上「コレハナンタル胴慾ゾヤ、私等ガ今ノ此苦」日本振袖始(享保、近松作)[illegible]

どう-よし (名) 藤葉 どう(藤)ニ同ジ。

どう-らい (名) 土 けん(拳)ニテ、十ノ稱。[illegible]

どう-らん (名) 動亂 世ノ動キ亂ルルコト。ミダレサワギ。騷動。擾亂。[illegible]

どう-らん (名) 銃卵胴亂 〔元ハ銃丸ノ袋ナリト云フ〕(一)革ニテ作レル方形ノ袋。印、藥ナド貯ヘテ、腰ニ下ゲ持ツ。[illegible]カケ、採集セル植物ヲ入ルルニ用ヰル。

どう-り (名) 絲瓜 〔いどうりノ略〕へちま(絲瓜)ニ同ジ。

どう-りう (名) [illegible]ノ訛。其條ノ(四)ヲ見ヨ。

どう-りう (名) 逗留 (一)トドマリ、逗マスコト。[illegible]

とう-りう (名) 淹留 久シク留マルコト。[illegible]

とう-りん (名) 登臨 高キニ登リテ、下ヲ臨ムコト。[illegible]

とう-りん (名) 等倫 同ジナカマ。トモガラ。同輩。等輩。儕輩。[illegible]

とう-りやう (名) 棟梁 (一)棟ト、梁ト。(家作ニ肝要ナル材ノ意)[illegible] (二)轉ジテ、國ノ重鎭ニ居リテ、大政ニ任ズル人物。[illegible] (四)工匠ノ長。大工ノカシラ。[illegible]

とう-りやう (名) 統領頭領 (一)[illegible]

とうりゅうもん (名) [登龍門] 龍門ハ、支那、山西省、河津縣ト、陝西省、韓城縣トノ間ニアル黄河ノ急流ニシテ、古ヘ、禹ノ開鑿スル所ト云フ」 龍門ノ水流、險ナリ、鯉ナド其下ニ集マリテ登ルコトヲ得ズ、登リ得レバ龍トナルトテ、古來、立身出世ノ象トス。因リテ、人ノ榮達スルニ喩フ。又、名士ニ面謁スルニモ云フ。之ヲ鯉ノ瀧登ト云ヒテ、繪ニ畫キテ祝トス。又、鯉ヲ出世魚ト云ソ。 後漢書、李膺傳「膺獨持風裁、以聲名自高、士有被其容接者、名爲登龍門」注「辛氏三秦記曰、河津一名龍門、水險不通、魚鼈之屬、莫能上、江海大魚薄集龍門下數千、不得上、上則爲龍也」 李白、上韓荊州書「一登龍門、聲價百倍」 蓮社高賢傳、法師道持、遠公母弟也、至成都僞縣、居龍淵寺、大弘佛寺、升其堂者、號爲登龍門」

どうりょく (名) [動力] 機械的ノ仕事ヲナシ得ル能力。多ク馬力ヲ單位トシテ表ハス。

どうるゐ (名) [同類] オナジタグヒ。ナカマ。一類。一味。黨。 史記、伯夷傳「同明相照、同類相求、雲從龍、風從虎、聖人作而萬物覩」

どうれ (感) [誰ノ延轉] 門戸ニ、ものまう、たのむトオトナフニ答フル聲。

どうれい (名) [同隸] 同ジ仲間ノ者。 平家物語、四、信連合戰事「大床ノ上へ飛ビノボル、之ヲ見テ、どうれいドモ、十四五人ゾ續イタル」

どうれう (名) [同僚] [正韻「僚、朋也、官僚也」] (一)どうやく(同役)ニ同ジ。 詩經、大雅、生民之什、板篇「我雖異事、及爾同僚」 盛衰記、三十九、時頼横笛事「夢幻ノ世中ニ、染ケレバテ、惡カラン女ニ相具セン事心憂シ、同僚傍官ガ慾ニフケルト笑ハン事モイト恥カシ」 (二)朋輩。トモダチ。 保元物語、二、白河殿義朝夜討寄事「烏滸ノ高名ハ爲ヌニ如カズ、無益ナリト、同僚ドモ制スレドモ」

とうろ (名) [頭顱] アタマ。カウベ。カシラ。 陳造詩「心意凋殘底白頻、每臨清鏡笑頭顱」 陸游詩「白首功名元未晩、笑人四十嘆頭顱」

〔とうろ (名) [燈籠] とうろう(燈籠)ニ同ジ。 名義抄「燈籠、トウロ」 下學集、下、器財門「燈籠、トウロ」 類聚抄、三、八條「灯呂、トウロ」 源、廿六、常夏「月モナキ頃ナレバ、とうろニオホトナブラマヰレリ」 同、三十四、下、若菜、下「二十日月心モトナキ頃ナレバ、とうろコナタカナタニ懸ケテ、火ヨキホドニトモサセ給ヘリ」 宇津保物語、祭使三十七「夜ニ入リテ、灯籠、閒ゴトニカケ、灯臺隙ナク立テ」 紫式部日記「小サキとうろヲ、御帳ノ內ニ隱モナキニ」

とうろう (名) [登樓] (一)樓ニ登ルコト。 法書要錄(唐、張彦遠)「張伯英臨池學書、池水盡墨、永師登樓、不下四十餘年」 盧僎、南樓望詩「去國三巴遠、登樓萬里春」 (二)酒樓、又ハ、妓樓ナドニ登リテ、遊興スルコト。

とうろう (名) [燈籠] 燈火ヲ點ス具。竹木ニテ木匡ヲ作リテ、被ヒトシ、紙、紗、ナドニテ張リ、檐ナドニ懸ク。燈爐。燈樓。 毘奈耶雜事、十三「苾芻夏月然燈、損蟲、佛言、應作燈籠、云云、佛言、應下以竹片爲籠、薄覊遮障上」 倭名抄、十二十五燈火器「燈籠、內典云、燈爐(見三皇覽經二)、唐式云、燈籠(見開元式二)、本朝式云、燈樓(見主殿寮式、今按、三字皆通稱也)」

とうろうばな (名) [燈籠花] (一)草ノ名。葉ハ、水仙ノ如ク、高サ三四寸、兩葉ニシテ、中ヨリ莖ヲ出シ、春、梢ニ、六瓣ノ白花ヲ開ク一花ニシテ、瓣ノ外ニ淡紫ナル條アルモノ、常ナリ。又、淡紅黃花等ノ異種アリ。又、苗大キク、一二尺アリテ、數花ヲ生ズルモアリ、根ハ水仙ノ如シ。根ヨリ、澱粉ヲ採リテ、湯ニテ煉リテ、不食ノ病人ニ食セシム。又、此根ヲ灸リテ食フモ、味、佳ナリ。山家ノ兒童、好ミテ掘リ食フ。アマナ。山慈姑。(二)まんぢゅしゃげ(曼珠沙華)ニ同ジ。

とうろうびん (名) [燈籠鬢] 女ノ髮ニ、兩鬢ノ中ニ鬢サシヲ入レテ張出シ、毛筋ヲ通シタルモノ。切子燈籠ナドニ紙ヲ切リ、透シアルニ比シタル名ナルベシ。一名、鳥籠鬢。毛筋ヲ透カサヌヲ繻子鬢ト云フ。 四天王佾人櫻(明和、中村阿契)第三、うるまの六、齋市「ワシャ髱裏タボサシト鯨ノ張出シニビンサシ、見カナイト、燈籠鬢カ出來メ故、云云」 居行子(安永、西村遠里)「女中ノ髮モ、ぢゅす鬢、鳥籠びん、云云、色色ノハヤリコト、云云」

とうろく (名) [登錄] (一)帳簿ニ載セシルスコト。(二)或事件ヲ公證スルタメニ、官公署ノ帳簿ニ登載スルコト。

どうわ (名) [童話] おとぎばなし(御伽噺)ニ同ジ。

とうわう (名) [藤黄] ぢわう(雌黄)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

どうわすれ (名) [胴忘] [度忘れノ延] 不圖、忘レテ、思ヒ出ダサレヌコト。健忘。 浮世風呂(文化、三馬)二編、上「アア、どう忘れヲ致シマシタ、何處デカア、タテ」

どうゐん (名) [動員] 在鄕軍人ヲ召集シテ、戰時ノ編制ヲナスコト。

どえう (名) [土曜] 土曜日ノ略。 ぢちえう(七曜)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

どえん (名) [度緣] 佛敎ノ語。古ヘ、官ヨリ賜ハリシ僧タル許可ノ證。養老四年、初メテ之ヲ行ヒ、治部省ノ印ヲ用ヰ、後、中務省ノ印ヲ用ヰ、コレヲ以テ當人ノ得度、出家シタル證據トセリ。度牒。 [illegible]年正月、始尼公驗始焉」(公驗ハ、度緣ノ公文書ナリ) 續紀、三十一、寶龜二年正月、僧尼度緣、一切用道鏡印印之」 平家物語、[illegible]、座主流事「僧ノ罪スル時ハ度緣ヲ召返シ、還俗セサセ奉リ」

どえら・い (形) [えらいヲ強メテ云フ語] (一)非常ニ、エライ。(二)ヒドシ。烈シ。 東海道中膝栗毛(文化)一九、七編、上「ソンナ事ヨリ、コチャどえらい目ニ逢ウタワイノ」

ドオア (名) [英語、Door.] (一)戸。扉。(二)入口。出入口。

どおと (名) [遠音ノ約] 遠キ方ノ音。

どおん (名) [土音] 其土地ノ人ノ音聲。其地方ノ人ノ、モノ云フ發音。鄕音。

どか (名) [都下] 都ノ內。ミヤコ。

〔どが (名) [咎科] [法令ニ違ノ意] (一)罪トナルベキ行爲。ツミ。罪科。アヤマチ。 源、十二、須磨「オホヤケノカシコマリナル人ノ、ウツシザマニテ、世ノ中ニアリフルハ、どが重キワザナルニ、人ノ國ニシ侍ルナルヲ」 (二)瑕。難。缺點。 山家集、上「花見ニト、群レツツ人ノ來ルノミゾ、アタラ櫻ノ、どがニハアリケル」 枕草子、二、十七段「タガフモノヲバ論シ、云云、コレガどがヲ心ニマカセテ、イフ人モナケレバ」

〔とが (名) [栂] [母木ノ造字] 樅ノ屬ニシテ、樹、葉、相似タリ。山地ニ自生シ、高サ六七丈ニ達シ、樹皮ハ帶綠濃褐色ニシテ、龜裂ヲ生ジ、果實ハ卵形ノ毬果ナリ。材ハ緻密堅硬ニシテ良ク、木理密ナリ。多ク柱トシ、匣ナドトス。又、ツガ。 萬葉集、六十長歌「繁ニ生ヒタル、刀我ノ木ノ、イヤツギツギニ」 同、一十六長歌「樛ノ木ノ、イヤツギツギニ、天ノ下、シラシメシシヲ」

とかい (名) [渡海] 海ヲ、船ニテ渡ルコト。航海。 東坡集(宋、蘇軾)「渡海前一兩日」 太平

記、四、屯倉建立事「出雲ノ見尾ノ浦ニ着カセ給フ、［illegible］ニテ御船ヲ繋シテ、渡海ノ順風ヲゾ待チ給ヒケル」

と-がい（名）［蠹害］（一）蟲ノ物ヲ食ヒテ、ソコナフコト。蟲害。［illegible］（二）物事ヲキズツケ、ヤブルコト。太平記、十四、新田足利確執奏状事「義貞、［illegible］」

ど-かい（名）［土芥］（一）つちくれト、あくた。（二）轉ジテ、取ルニタラヌモノ。又、卑シキモノ。孟子、離婁、下篇「君之視臣如土芥、則臣視君如寇讎」

とかい-せん（名）［渡海船］〔河船ニ對ス〕海ヲ渡ル船。大洋ヲ航海スル船。

ト-コウ
と-かう（名）［都講］（一）天皇ノ讀書初ノ式ニ、侍讀ノ授ケ奉リシトコロヲ、復習スル職（支那ニテモ云フ）。文德實錄、三、仁壽元年四月「講二文選一、以二［illegible］從五位上［illegible］公安人一爲二都講一」三代實錄、三十五、元慶三年四月「天皇始讀二御注孝經一云云、民部少輔從五位下藤原朝臣佐世爲二都講一」紀略、後篇、一、延喜六年五月十六日「天皇始讀二史記一於式部大輔藤原朝臣菅根一、以二少內記［illegible］博文一爲二都講一」後漢書、侯霸傳「侯霸、云云、篤志好學、師二事九江太守房元一、治二穀梁春秋一、爲二元都講一」（二）一番弟子。塾頭。後漢書、［illegible］傳「［illegible］飛集二講堂前一、都講取レ魚、進曰」

ト-コウ
と-かう（名）［渡航］船ニ乘リテ、海ヲ渡リ行クコト。航海。渡海。［illegible］「衆號三十萬、渡航請レ戰」

ト-コウ
と-かう（名）［杜康］酒ノ異名。魏武帝、短歌行「何以解レ憂、惟有二杜康一」註「杜康、古二周代一之造酒者」李善注「博物志曰、杜康作レ酒」

ト-コウ
と-かう（名）［杜蘅］［杜衡］草ノ名。かんあふひ（寒葵）ニ同ジ。

ト-コウ
と-かう（副）［左右］とかく［illegible］、［illegible］記、生捕鈴木三郎［illegible］、［illegible］ノ返事モノタマハズ」「とかうスル程ニ」

ト-ゴウ
と-がう（名）［兎毫］〔うさぎノ毛ニテ作ル故ニ云フ〕ふで（筆）ノ異名。［illegible］「幽怨染二兎毫一」

ド-ゴウ
ど-がう（名）［怒號］（一）イカリ叫ブコト。（二）風、又ハ、波ノ、烈シク鳴ル音ニモ云フ。杜甫詩「八月秋高風怒號、卷二我屋上三重茅一」

ド-ゴウ
ど-がう（名）［土豪］其地方ニ於ケル豪族。其地ノ豪家。南史、［illegible］「以二仁恕一教導、［illegible］、刺中有二土豪一、外修［illegible］而內行二不軌一」

とが-おとし（名）［咎落］酒宴ノ際ノ罰杯。［illegible］テカラ、銚子ヲ人ニ渡シ候マデ、物ヲモイハズ、肴ヲモ食ハズ、口ヲモ拭ハズ、ウラズベ、若シサヤウノ事アレハ、［illegible］」

と-かき（名）［斗搔］［illegible］斗搔ノ義〕［illegible］枡ニ穀ヲ盛リタル後ヲ、平ニ均ス短キ棒。マスガキ。カイナラシ。［illegible］抄、十四［illegible］「［illegible］」［illegible］抄「概、ハカリスル、斗概、トカキ」

と-がき（名）［戸書］扉ニ繪ノ書キタルモノ。繪ヲ描キタル戸。山東京傳、狂歌「狂言ハ、秋ノ半デ、ムリ升、柴ノとがきニ、月ノ面イレ」

とかき-ぼし（名）［奎星］けい（奎）ニ同ジ。

と-かく（副）［左右］［取捨兎角］（一）第一類ノ天爾遠波ノとト、副詞ノ斷トヲ連ネタル語。［illegible］ノ說ハ、附會モ甚シ。（二）「カニカクニ」「カニモカクニモ」ドウモカウモ。ドウカカウカ。カレコレ。アチコチ。ナニヤカヤ。トカウ。竹取物語「上［illegible］」

かくシテ出立チ給フ」此ニ、語ノ間ニ、他語ヲ插ミテ用ヰルコト多シ、「とにかくニモ」「とてモかくテモ」「とにもかくにも」「とやかく」「とさまかうさま」ナド、其意、推シテ知ルベシ）源［illegible］「［illegible］」（二）ヤヤモスレバ。トモスレバ。狂言記、［illegible］「［illegible］人トイフモノハ、コノヤウナ事ヲバ、捨テ置ニシタガルモノヂヤ」「とかく爭ヒノ端トナル」（三）ト［illegible］何ニセヨ［illegible］ニヤル程ニ、カマヘテ山ノ神ニ見セルナ」

と-かげ（名）［常陰］〔山ノたな陰ノ約ト云フ〕［illegible］ノ陰。［illegible］鳥、今モナカヌカ、山ノ常陰ニ」同、十四「足引ノ、山ノ跡陰ニ、鳴ク鹿ノ、聲聞カスヤモ、山田守ラス兒ニ」

と-かけ（名）［蜥蜴］（一）蟲ノ名。古ク云ヘルハ、今ノ守宮ナルガ如シ。然レド、今ノ蜥蜴、守宮、蠑螈［illegible］今云フモノハ、人ヲ見テ驚カズ、蛇ニ似テ小サク、四足アリ、長サ六七寸、［illegible］細カキ鱗アリ、［illegible］棲ミテ、小蟲ヲ食トス。蜥蜴、背、尾、碧綠ニシテ條ブルヲ、青蜥蜴、又、綠蜥蜴ト云ヒ、赤キヲ、赤蜥蜴ト云フ。又、一種、志志むしト云フアリ、其條ヲ見ヨ。石龍［illegible］ニ徐行シ、人ヲ見テ驚カズ、云云」［illegible］

［illegible］

と-かさ（名）［鷄冠］とさか（鳥冠）ノ倒語。［illegible］

と-か・す［illegible］

と-か・す［illegible］（一）［illegible］解ク。［illegible］

と-か・す［illegible］トキ放ス。［illegible］

と-がた（名）［illegible］

と-がた［illegible］

と-かた（名）［illegible］

と-かち（名）［illegible］

とかちいし（名）［十勝石］［illegible］

とかと［illegible］

とかどか［illegible］

サ。ツカツカ。吉野忠信(寶永、近松作)四「然ル所ヘ大衆ドモ、甲冑帶シ數十人、どかどかト入リ來タリ、人人ヲ怪シミ」(二)物事ノ、一時ニタチコミタル狀ニ云フ語。

とがにん (名) 咎人 咎アル人。ツミビト。罪人。犯人。謠曲、檀風「陸ニテ人ヲ討ッテ、舟ヨリ追手ノカカル者、云云、ノ樣ノ科人ナラバ、猶更ノ舟ニハ叶ヒ候フマジ」

とかへりのはな (名) 十返花 松ハ、百年ニ一返、千年ニ十返、時ナラヌ花咲クト言傳ヘテ、其花ノ稱。和歌ナドニ、千年ヲ祝フ語トス。其花、紺色ニテ、松黃ノ端ニ咲クトゾ。新後拾遺集、二、春、下「松が枝ニ、カカルヨリハヤ、十返りの、花トゾ咲ケル、春ノ藤波」新後拾遺集、廿、慶賀「十かへりの、花ヲ今日ヨリ、松ガ枝ニ、契ルモ久シ、ヨロツ代ノ春」

とかへる・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 鳥返 (飛返るノ略轉カト云フ) 鷹ノ毛、ヌケカハル。トヤカヘル。袖中抄、九、古歌「ハシ鷹ノ、とかへる山ノ、椎柴ノ、羽ガヘハストモ、君ハ忘レジ」奧儀抄「忘ルトハ、思ハザラナム、ハシ鷹ノ、とかへる山ノ、椎モモミヂス」袖中抄、九、古歌「我レガ身ハ、とかへる鷹ト、ナリニケリ、年ヲフレドモ、コヒヲ忘レズ」

とがま (名) 利鎌 刃ノ利キ鎌。切味ノ鋭キ鎌。鋭利ナル鎌。六月晦大祓祝詞「燒鎌乃敏鎌以氏」古事記、中(景行)五十「斗迦麻ニ、サワタル樣」伊豆、玖須美、田草歌「胡草刈ガ、デコロトメテ、とがまヲ腰ニ取ラレタ」

どがまずみ (名) 土竈炭 炭ノ一種。土ニテ造リタル竈ニテ燒キタル木炭。質脆ク、灰ニタチヤスシ。ラクダズミ。略シテ、どがま。すみ(炭)ノ條ヲモ見ヨ。

とかみ (名) 閫 (戸上ノ義ト云フ) 門、又ハ、出入口ナドノ、扉ノ樞ヲ容ルル横梁。まぐさ(楣)ト同ジモノナラム。ネ

ズミバシリ。ネズバシリ。倭名抄、十六門戸具「梱、度加美、門梱横梁也、鼠走」

とがむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(自動、下二) 刺 (刺ノ活用) 刺ニ刺サレテ、痛ヲ生ズ。

とがむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 咎 (科ヲ活用ス) (一)非ヲ詰ル。非難ス。怪シミ糺ス。セム。詰責 枕草子、三、廿八段「嫌疑ノモノヤアルト、戯レニモとがむ」源、四、夕顏三十「カノフル里ハ、云云、隣リシゲク、とがむる里人多ク侍ルランニ」古事記、上廿二「天照大御神者、登賀米受而告」萬葉集、十八 五十二「針袋、帶ツヅケナガラ、里毎ニ、衒サヒアルケド、人モ咎メズ」(二)傷ヒテ、熱ヲ起サス。腫物ナドニ。

とがめ (名) 咎 (一)トガムルコト。ナジルコト。非難。叱責 源、六、末摘花二十「ハナノとがめヲ、猶アルヤウアラント、思ヒアハスルヲリヲリノ」(二)ツミ。罪過。過失。謠曲、小袖曾我「君ノ御とがめ、ヨシソレト・テモ、數ナラヌ身ニハ、ナカナカ恐レナシ」

どがめ (名) 土龜 鼈ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

とがらす・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 尖 トガルヤウニナス。トンガラカス。

とかり (名) 鋒 (先ノ尖リタレバ云フカ) ほこ(鋒)ノ異名。其條ヲ見ヨ。合類節用集、七、器財門「鋒矢、トカリヤ」

とがり (名) 鳥狩 鷹ヲツカヒテ、鳥ヲ狩ルコト。タカガリ。夫木抄、三十二、弓、「鳥狩スル、獵夫ノ弓弦、打チ絶エテ、アタラヌコヒニ、ヤモフ比哉」華嚴經私記音義「獵、等加利須」萬葉集、十四 廿七「都武賀野ニ、鈴ガ音聞ユ、上志太ノ、殿ノ仲子シ、登我里スラシモ」又、秋、群鳥渡リクル初期ニスルヲ、初とがりト云フ。萬葉集、十九 三十「伊波世野ニ、秋萩凌ギ、馬竝メテ、始鷹獵ダニ、セズヤ別レム」

とがり (名) 尖 トガルコト。鋭キ端。

どかりと (副) 重キモノノ落ツル音、

とがりや (名) 利雁矢 先ノ鋭ク尖リタル鏃ニテ、四立ノ羽ヲツケタル矢。字類抄「利鴈矢、トカリヤ」軍器色葉集「鏑矢、トガリヤ」高忠聞書「一、とがり矢ノ事、フシカゲヲ□ルベシ、ハズハ、ヨハズ、フシハ、オツトリヲ本トスベシ」著聞集、九、武勇「頼光、云云、各各、牛追物アラバヤト云ハレケレバ、云云、其中ニ綱(渡邊)イカガ思ヒケン、とがり箭ヲヌキテ、死シタル牛ニ向ノテ、弓ヲ引キケリ」義經記、五、忠信芳野山の合戰の事「忠信ハ一人ニナリテ、云云、エビラヲサグリ見ケレバ、とがり矢一ツ、カリマタ一ツゾ射ノコシテ有ケル」

とがる・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 尖 (鋭くなる意) (一)端、鋭クアリ。スルドクホソル。鋭ク起リタツ。名義抄「尖、トガル」(二)過敏ニナル。(神經ナドガ)

とき (名) 時 (常ノ轉カ、或ハ、疾ノ意カト云フ) (一)光陰ノ移リ行ク間。萬葉集、六 三十二「瀧ノ上ノ、三船ノ山ハ、畏ケレド、思ヒ忘ルル、時モ日モナシ」拾遺集、十、神樂歌「トドコホル、時モアラジナ、近江ナル、オモノノ濱ノ、アマノヒツギハ」玉葉集、六、冬「時ウツリ、月日ツモレル、ホドナサヨ、花ヒシ庭ニ、降レル白雪」「時ヲ移ス」時ヲ費ス」(二)一晝夜ノ間ヲ若干ニ割リタル稱。一晝夜ヲ、二十四ニ平分シ、而シテ、眞夜中過ギヨリ、眞晝中ニ至ル間ヲ十二ニ分チ、第一時ヨリ數ヘテ、第十二時(正午)ニ終ル、コレヲ午前ト云フ。又、眞晝過ギヨリ眞夜中ニ至ルモ、前ニ同ジク、コレヲ午後ト云フ。(後ノ表ヲ見ヨ) 此一時ヲ、更ニ六十ニ割リテ、分ト云ヒ、分ヲ、更ニ六十ニ割リテ、秒ト云フ。(三)又、舊制ニテハ、一晝夜ヲ十二ニ割リ、眞夜中ヲ九つ時ト稱シ、八つ時、七つ時、六つ時、五つ時、四つ時(時ヲ、九つ、八つ、七つ、ナド稱スルコト、漏刻ノ條ヲ見ヨ) ト、眞晝マデヲ六分シ

テ稱シ、眞晝ヲ、又、九つ時ト稱シ、前ト同ジ稱ニテ、眞夜中前ニ終ル。此法ハ、六つ時ヲ、日出、日沒、ト定ムルガ故ニ、春夏秋冬、晝夜ノ伸縮ヲ生ズルニ隨ヒテ、一時ニ長短ヲ生ズ。一晝夜十二時ヲ百刻ト定メ、其極差ハ、夏至ニテ、晝、六十刻、夜、四十刻トシ、冬至ハコレニ反シ、其間、次第ニ伸縮シテ、春分秋分ハ、晝夜平分、各、五十刻ニテ、一時ハ、八刻ト三分ノ一ナリ。此時ヲ、又、十二支ニ別ツ、八つ七分、ナド云フ、コレナリ。今、春分秋分ノ時ヲ、今制、舊制、相合ハセテ、次ノ表ニ示ス。

	今制	舊制	
午前	第一時	(九ツ半時)	
	第二時	夜 八ツ時	丑ノ時
	第三時	(八ツ半時)	
	第四時	曉 七ツ時	寅ノ時
	第五時	(七ツ半時)	
	第六時	明 六ツ時	卯ノ時
	第七時	(六ツ半時)	
	第八時	朝 五ツ時	辰ノ時
	第九時	(五ツ半時)	
	第十時	晝 四ツ時	巳ノ時
	第十一時	(四ツ半時)	
	第十二時	正午 眞晝九ツ時	午ノ時
午後	第一時	(九ツ半時)	
	第二時	晝 八ツ時	未ノ時
	第三時	(八ツ半時)	
	第四時	夕 七ツ時	申ノ時
	第五時	(七ツ半時)	
	第六時	暮 六ツ時	酉ノ時
	第七時	(六ツ半時)	
	第八時	宵 五ツ時	戌ノ時
	第九時	(五ツ半時)	
	第十時	夜 四ツ時	亥ノ時
	第十一時	(四ツ半時)	
	第十二時	子夜 眞夜九ツ時	子ノ時

又、其十二時ヲ十二支ニ配當シテ呼ブコトアリテ、此制ノ一時ニハ、更ニ三分シテ、上刻、中刻、下刻ノ稱アリテ、午の上刻、申の下刻ナド云ヘリ。(スベテ、刻ノ條、見合ハスベシ)(四)〔泛ク、古今ノ年代。世。〕 古今集、十八、雜、下「貞觀ノ御時、萬葉集ハイツバカリ作レルゾト問ハセ給ヒケレバ」大鏡、一、文德天皇「主ハ其御時ノ母后ノ宮ノ御方」「平城ノ朝ノ時」「鎌倉ノ時」(五)〔頃。ヲリ。時分。又、場合。〕 萬葉集、一、壬申日「舒明ノ、皇子ノ命ノ、馬竝メテ、御獵タタシシ、時ハ來ムカフ」伊勢物語、第六段「白玉カ、何ゾト人ノ、問ヒシ時、露ト答ヘテ、消ナマシモノヲ」古今集、十九、雜、長歌「年ゴトニ、時ニツケツツ、アハレテフ、事ヲ云ヒツツ」更級日記「春秋ノ事ナド云ヒテ、時ニ從ヒ見ル事ニハ、春霞オモシロク」謠曲、安宅「白雪ノ、越路ノ春ニ急グナリ、時シモ頃ハ、二月ノ十日ノ夜」「時ハ彌生ノ朔日」時ハ秋ニナムアリケル」日ノ出ル時」人ノ行ク時」(六)ソノコロ。當時「時ノ帝」時ノ人」(七)〔程好キ機。時機。〕 萬葉集、七、壬「紫ノ、名高ノ浦ノ、ナノリソノ、磯ニ靡カム、時マツ吾ヲ」源、十二、須磨「イツカマタ、春ノ都ノ、花ヲ見ン、時失ヘル、山ガツニシテ」「時ヲ得テ」時ニ逢フ」時到ル」(八)〔時メキ榮ユル程。〕 宇津保物語、藏開、下「イト時ナル人人、多クサブラフナレバ」古今集、十八、雜、下「時ナリケル人ノ、俄ニ時無クナリテ歎クヲ見テ」(九)其世ノナリユキ。時勢。 謠曲、三山「何事モ時ニ從フ世ノ習ヒ、既更、春ノ頃ナレバニ時ニ運ノイキホヒ。トキヨ。時節ノレテ」(十)語學ニ、動詞、助動詞ノ變化ノ、過去、現在、未來ヲ分別スル稱。(十一)刻限。期限。「時ヲ過タズ」時をつくるトハ、鷄、曉ニ鳴クノ意。 堀河百首「鷄ノ、時つくるナリ、鷄ノ、聲打チカハシ、羽ヲナラベテ」

とき（名）|齋|〔食スベキ時ノ義。齋ハ梵語、鄔波婆娑(Upavâsa.)ノ譯語ニテ、齋ノ[illegible]チ食事ヲ愼ム意。比丘ハ戒律上、非時ニ食フベカラズ、時(午前中)ニ食フヲ定法トス。故ニ、僧ヲ時ニカ[illegible]ハシ、轉ジテ、僧食ヲ一般ニ齋ト云ヘリ」(一)カタゾナヘ。サ[illegible]僧ノ食事。卽チ午前ノ食ニシテ、僧ハ、元來、一日一食ノ制ナリ。午後ノ食事ハ、時ナラズノ意ニテ、非時ト云フ。卽チ、俗人、一日二食ノ朝飯、夕飯ニ當ル。(二)食、及、さい(齋)ノ條ヲモ見ヨ。 宇治拾遺、四、第十五條、永超僧都ハ、魚ナキ限リハ、時、非時モスベテ食ハザル人ナリ」徒然草、六十段、盛親僧都[illegible]、云云、齋、非時モ人ニ等シク定メテ食ハズ、我食ヒタキ時、夜中ニモ曉ニモ食ヒテ」 [illegible]僧、日本ヘ渡リタマヒタリシ昔ハ、寺寺只一食ニテ、朝食一度シケリ、次第ニ[illegible]クシテ、非時ト名ヅケテ、日中ニ食シ、後ニハ山(比叡山)モ、奈良(東大寺モ)[illegible]、云云、末中ノ時バカリニ非時シテ、法師バラ坂本ヘ下リヌレバ、夕方、[illegible]ト名ヅケテ、我[illegible]シテ食ストイヘリ」(三)[illegible]ク、僧ノ食事。一時ニ數處ノ檀家ノ饗ニアヅカルヲ、貧僧のかさね齋ナド云フ。古事談、三、僧行、無動寺仙命上人「一日ニ一度、時ヲノミ指入レケレバ、食シテ、不斷念佛ヲノミシタマヘリ」

とき（名）|鬨鯨波|「古ヘ、禁中ニテ、夜、時ヲ奏スル聲ニ起ルト云フ。轉ジテ、衆人ノ呼聲トモナル。又、鬨ハ、孟子、梁惠王、下篇、趙注「鬨聲也」ト。鯨波ハ、祖庭事苑、四「鯨常以二五月一就レ岸、生二數萬子一、至二八月一引レ子還レ海、鼓レ波成レ雷、噴レ水成レ雨、云云」ノ句ニ因ルト云フ」戰ノ初ニ、兩軍相發スル合圖ノ聲。大將、えい、えいト二聲言ヘバ、諸軍一同ニ、おうト聲ヲ揚グ。斯クスルコト三度ナリ。コレヲ鬨の聲を作るト云フ。[illegible]鬨ハ、歎モ[illegible]ニ應ズ[illegible]ト同ジ。[illegible]戰勝チテ後、大將、床几ニ倚リ、[illegible]ノ

酒ヲ飲ミ[illegible]、右手ニ[illegible]ヲ取リ、左手ニ[illegible]ヲ[illegible]、[illegible]ヤナ[illegible]、出陣ノ鬨ノ如シ[illegible]トキ[illegible]應ズルコト、ノニ[illegible]凱歌[illegible]院ニト見テケレバ、ときヲツクルコト三ガ度出、[illegible]ノ御方ニモ、同ジウ鬨の聲ヲゾ合ハセタル」 太平記、九、六波羅攻事「大手搦手、同時ニ軍始マッテ、馬煙南北ニ靡キ、鬨の聲天地ヲ響カス」永久四年百首「唐人ハ、シカノヲジマニ、船出シテ、博多ノ沖ニ、ときつくるナリ」[illegible]ノ聲アグルハ、雜兵ノワザナリ、士分ハ聲立テズ」

とき（名）|桃花鳥|鴇|鴾|〔つきノ轉〕(一)古名、ツキ。鳥ノ名[illegible]身白ク、嘴黑ク、[illegible]長ク、[illegible]ハ[illegible]狀トナリ、背ハ灰色ナリ[illegible]淺紅ニ[illegible]、又、[illegible] (二)ときいろ(鴇色)ノ略。

と-き（名）|菟葵| イヘニレ。セツブンサウ。いちりんさう(一輪草)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

とぎ（名）|伽|〔說聞ノ略〕(一)夜ノ徒然ナルナドニ侍リテ、話ノ相手ナドスルコト。[illegible]「入道、弓矢取身ハ男子コソ寶ヨ、端子ニ一人アレバ心苦シ、必ズ弟ヲ儲ケテ給へ、ときニセサセント云フ」[illegible]二[illegible]所ニ侍ルコト。[illegible]身ノ片付モヨイ樣ニ」(三)看病スルコト。

とぎ（名）|研| [illegible]又、研ギタル狀。(刀、鏡ナドニ)

と-き（名）|土宜|〔其土ニ宜シキ[illegible]〕[illegible]又、其土地[illegible]

ど-き（名）|土器| ツチイミ。つちいみ(土忌)、及、どくじん(土公神)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ど-き（名）|土器| [illegible]セノ。史記、[illegible]

ど-き（名）|怒氣| [illegible]

ときあかし（名）|說明| トキアカスコト。セツメイスルコト。解說。

ときあか・す [illegible]說キテ理ヲ分明ニス。事ノ分カルヤウニ語ス。セツメイス。解說。

ときあらひぎぬ [illegible]

ときいろ [illegible]ノ如キ色。卽チ、淡紅ノ灰色ヲ帶ブ[illegible]

ときつ（名）|[illegible]|〔支那、[illegible]國ノ地名[illegible]ノ山東省、[illegible]ノ北[illegible]ニ隱遁セシヨリ出ゾ[illegible]キ住地、[illegible]

ときつ [illegible]ノ二星ノ名[illegible]

已分ナ都護、[illegible]牛ニ[illegible]、赤[illegible]月[illegible]東山之上、[illegible]牛之[illegible]」

とぎう　(名)　屠牛　牛ヲ屠リ殺スコト。[illegible]

どぎう　(名)　土牛　(一)古ヘ、大寒ノ日ノ前夜、疫氣ヲ驅ルタメニ、宮城ノ門ニ陰陽師ノ立ツル土製ノ牛ノ像。禮記、月令「季冬之月、云云、命有司大儺、旁磔、出土牛、以送寒氣」註「[illegible]隨時[illegible]出、[illegible]也、旁磔於四方之門[illegible]也、云云、作土牛者、丑爲牛、牛可牽止者也」續紀、三、慶雲三年十二月「是年、天下諸國疫疾、百姓多死、始作土牛大儺」(二)土製ノ牛。轉ジテ、名アリテ、實ナキモノニ喩フ。關尹子「譬如見土牛木馬、雖情存牛馬之名、心忘牛馬之實」

ときうのち　(名)　菟裘地　「ときう(菟裘)ノ條ヲ見ヨ」隱棲ノ地。易林節用集、慶長「上、菟裘門、菟裘之地、指可老死之地也」

ときうま　(名)　駿馬　〔疾馬ノ義〕走ルコトノ、スグレテ疾キ馬。シュンメ。シュンメ。駿足。千里ノ駒。倭名抄、十一、五牛馬部「駿馬、土岐宇萬、[illegible]久[illegible]太[illegible]宇萬」字鏡、十「駿馬、止支馬」雄略紀、九年七月「伯孫得駿、甚歡」

ときがしら　(名)　鬨頭　鬨ノ聲ヲ揚グル初メ、曳曳(エイエイ)ト云フコト。とき(鬨)ノ條、參見セヨ。甲陽軍鑑、十六、品第四十六「陣中ニテ日入ヌル時分、大將ノ陳ヨリ時がしらヲアグルニ、ウケウケ事アラバ、一日八軍仕ル事ナカレ」

とぎかは　(名)　磨革　刃物、又ハ、金屬ヲ磨グニ用ヰル革。

ときぎぬの　(枕)　解衣　亂るニ掛クル枕詞。萬葉集、十二、廿四「解衣(トキギヌ)の、思ヒミダレテ、戀フレドモ、何ノ故ゾト、問フ人モナシ」

ときぐし　(名)　解櫛　毛髪ヲ解キホグスニ用ヰル櫛。くし(櫛)ノ條ヲ見ヨ。

ときさく　クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二)　解放　解キヤル。解キハナス。允恭紀、八年二月「ササラガタ、錦ノ紐ヲ、等枳舍氣(トキサケ)テ、アマタハネズニ、タダ一夜ノミ」萬葉集、十七、廿七「カクノミヤ、アガコヒヲラム、ヌバ玉ノ、夜ノヒモタニ、登吉佐氣(トキサケ)ズシテ」同、同、廿八「家ニシテ、結ヒテシ紐ヲ、登吉佐氣ズ、思フ心ヲ、誰レカ知ラムモ」

ときじ　ジキ・ジケレ・ジク・ジク(形、二)　非時　(一)時ナラズ。イツデモアル。萬葉集、十三、廿三長歌「小沼田ノ、愛智(アユチ)ノ水ヲ、間ナクゾ、人ハ掬ムチフ、時自久(トキジク)ゾ、人ハ飲ムチフ」(ときじくニテ名詞トナル)同、一、廿六長歌「三芳野ノ、耳我ノ山ニ、時自久(トキジク)ゾ、雪ハ降ルトフ」(二)季ハヅレノ。其時候デナイトコロノ。萬葉集、八、五十一「吾ガ宿ノ、非時藤(トキジク)ノ、メヅラシク、今モ見テシガ、妹ガ咲容(エマヒ)ヲ」

とぎし　(名)　研師　刀、鏡ナドヲ研グヲ業トスル者。トギヤ。研工。磨工。

ときじくのかくのこのみ　(名)　非時香菓　〔此果ハ夏ヨリ成リテ、秋ヲ經、霜雪ニモ堪ヘ、採リテ久シク腐ラザレバ、ときじくト云フ。(前前條ヲ見ヨ)かくハ、香、或ハ香菓、ノ韓字音カ、馨(カグ)ハシキ意ト見ルハ、非ナリト云フ。盛ナル時ノ絶エズ續ク菓ノ意〕橘(タチバナ)ノ古名。古事記、中、垂仁「以多遲摩毛理遣常世國、令求登岐士玖能迦玖能木實(コノミ)云云、是今橘者也」垂仁紀、九十年二月「命田道間守、遣常世國、令求非時香菓、今謂橘是也、香菓、此云箇倶能未」萬葉集、十八、廿七長歌「田道間守、常世ニワタリ、云云、時自久能、香久乃菓子(コノミ)ヲ、カシコクモ、殘シ給ヘル、國モセニ」

ときしもあれ　(句)　時モコソアレ　時モ時トテ。折モ折トテ。蜻蛉日記、中、下「例ノ時しもあれ雨イタクフリ、神イトイタク鳴ルヲ」源、九、葵、廿九「トノヰノ人人ハ、チカウメグリテサブラヘド、カタハラサビシクテ、ときしもあれトネサメ

ガチナルニ」新後拾集、十五、戀、五「イロ變ハル、心ノ秋ノ、時しもあれ、身ニシム暮レノ、荻ノ上風」

ときしらぬやま　(名)　時不知山　〔季節ヲ知ラヌ山ノ意。四時、雪ヲ頂キテ、消ユルコトナキ故ニ云フ〕富士山ノ異名。伊勢物語、九段「時しらぬ、山ハ富士ノ根、イツトテカ、鹿ノ子マダラニ、雪ノフルラム」夫木集、廿三「時しらぬ、山ハ雪ケノ、雲ナガラ、有明ノ月ノ、浮島ノ原」文化の川柳「ときしらぬ、やま入り夏モ、布子ナリ」同「ときしらぬ、やまヲ尋ネテ、徐福來ル」

ときしりがほ　(名)　時知顔　時節ニ會シタルヲ誇ルガ如キ氣色。得意ナル顔色。續千載集、六、冬「今朝トテモ、同ジ雲居ヲ、カンナ月、ときしりがほニ、降ルシグレカナ」風雅集、十五、雜、上「思フコト、ハルトモ身ニハ、思ハヌニ、時しりがほニ、サケル花カナ」永久四年百首「タツノ木ニ、ハヒオホハレル、ツタニシモ、ときしりがほニ、紅葉シニケリ」

ときそうす　スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變)　時奏　古ヘ、禁中ニ宿直セル左右近衛ノ官人ガ、亥ノ刻ノ初ヨリ、寅ノ刻ノ終マデ、一時(ヒトトキ)ノ間ニ、四度ヅツ時刻ヲ呼ブヲ云フ。又、ときまうすトモ云フ。枕草子、十一、百四十五段「アヅマ屋、ときそうする、イミジウヲカシ」侍中群要、二、日中行事「亥一剋、左近衛夜行官人、初奏時事、(終子四剋)、巳一剋、右近衛夜行官人、初奏時事、(終寅四剋)」讃岐典侍日記「ウケセウ時奏しテ尋ヌベシ、試ミネバト云ヒテ、時ノフダニ杭(クヒ)サス音ス」

ときぞともなく　(句)　時ヲ定メズ、何時(イツ)モ。定マリタル時モナク。源、十、榊、廿「ナゲキツツ、我ガ身ハカクテ、スグセトヤ、ムネノアクベキ、時ぞともなく」古今集、十二、戀、二「吾ガ如ク、物ヤ悲シキ、時鳥、時ぞともなく、夜タダ鳴クラム」新續古今集、五、秋、下「山田モル、人トハナシニ、ヒタハヘテ、時ぞともなく、物ヲコソ思ヘ」

とぎだし　(名)　研出　(一)研出蒔繪(トギダシマキヱ)ノ略。

蒔繪ノ一法。漆ヲ引キタル地ニ、金銀ノ粉ヲ蒔キツケ、又、描キタル上ニ、更ニ漆ヲカケ、其上ヲ磨ギテ、下ノ色ヲ隱然ト現ハシタルモノ。古クハ、平文(ヒヤウモン)。縹霞彩　(二)せめんとニ砂ヲ混ジタル中ニ、美シキ石材ノ細片ナドヲ入レテ塗リ、十分固マラザル以前ニ、砥ニテ磨ギテ、光澤ヲ出サシムルコト。又、其物。

とぎだしまきゑ　(名)　研出蒔繪　前條ノ語ノ(一)ヲ見ヨ。

ときたまに　(副)　タマサカニ。タマニ。

ときつかさ　(名)　時司　古ヘ、陰陽寮ノ官、ろうこくはかせ(漏刻博士)ニ同ジ。

ときつかぜ　(名)　時津風　(一)時ニ相應シテ吹ク風。時宜ニカナヒタル風。五風十雨、時ヲ違ヘヌ風。(二)〔潮ノサシ來ル時ニ、發ル風〕潮時ノ風。萬葉集、六、廿二「時風(トキツカゼ)、吹クベクナリヌ、香椎潟、潮干ノ浦ニ、玉藻刈リテナ」同、二、四十長歌「船浮ケテ、吾ガ漕ギ來レバ、時風、雲居ニ吹クニ、沖見レバ、白浪サワギ」同、七、廿四「時風、吹カマク知ラニ、阿胡ノ海ノ、朝ケノ潮ニ、玉藻刈リテナ」

ときつかぜ　(枕)　時津風　ときつかぜ吹クト云フヨリ、ふけ、又ハ、吹飯(フケヒ)ノ濱(紀伊)ノ枕詞。萬葉集、十二、卅四「時風、吹飯ノ濱ニ、出デ居ツツ、贖(アガ)フ命ハ、妹ガタメコソ」

ときつげどり　(名)　時告鳥　〔時ヲつぐるヨリ云フ〕にはとり(鷄)ノ異名。元眞集「アケガノ、時つげ鳥ト、モロトモニ、起キヨトタタク、水雞(クヒナ)ナリケリ」

ときつとり　(名)　時津鳥　〔文字讀ノ語〕又、ときのとり。ほととぎす(時鳥)ノ異名。散木集、二、夏「ときつとり、鳴クネ雲居ニ、トドロキテ、星ノ林ハ、ウヅモレヌラム」

〔ときどき (名) 時時 其時其時。季節季節。萬葉集、二十「時時ノ、花ハ咲ケドモ、何スレゾ、母トフ花ノ、咲キテ來ズケム」

〔ときどき (副) 時時 ヲリフシ。ヲリヲリ。ヨリヨリ。ジジ。源、二、帚木「唯タダ時時、打カタラフ宮ヅカヘ人ナドノ」同、十三、明石「例ノ雨ヲヤミナクフリテ、風ハ時時吹出ツツ」萬代集、三、夏「ナカナカニ、語リハテナバ、ネヌベキヲ、ときどき鳴ラス、夏ノ夜ノ月」

ときどき (副) 鼓動 「どきどき」ときめき(心悸)ノ條ノ語原ヲ見ヨ」心臓ノ鼓動ノ甚シキニ云フ語。[illegible]作)二「お奏者ノ御返歌、踏カマホシシト、ホノメカス横笛ハ、胸モメケテ、心モどきどきト」

ときとして (副) 時 (一)イツニテモ。常ニ。風雅集、十七、雑、上「照リクモリ、寒キ暑キモ、時トシテ、民ニ心ノ、休ム間モナシ」(二)偶ニ。トキドキニ。或時ニハ。臨時ニ。新六帖「時として、咲キツク花ノ、色色ヲ、フルキマガキノ、イカニ見ユラム」

※ときとするーと (副) 若シカスルト。往往。或ハ。

ときなか (名) 時半 〔寸半、段半ナドト同意〕半時。半時ノ間。今ノ一時間。大鏡、中、師輔「サテ、時半バカリアリテ、御簾上ゲサセ給ヒテ」[illegible]土御門[illegible]時半バカリ過エスリニシ」

〔ときな・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 無時 止ム時ナシ。間斷ナシ。萬葉集、[illegible]竹田ノ原ニ、鳴ク鶴ノ、間ナク時無シ、我ガ戀フラクハ」

ときなしだいこん (名) 無時大根 大根ノ一種。霜來[illegible]ニテ、暖地ニテハ、季節ヲ撰バズ、何時、[illegible]シ得ルモノ。

ときなは (名) [illegible] [illegible]ノ時ニ、[illegible]ヲ[illegible]手ニテ[illegible]

[illegible]ナキノ、ヌキナハ。江家次第、十二、[illegible]「八省[illegible]、[illegible]、下[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]、[illegible]右一、ロニクハヘ解之」玉海、承安三年正月七日「今日修、被不洗手、伪陪從人令、撫三大嘗解縄一」萬代集、七、神祇「ときなはノ、[illegible]、ミツギニハ、ユフカケタルゾ、神ハメグラン」

ときよ (感) 時 [illegible]時ニ、言出ス語。「ときよ、御老人ハ御達者デゴザリマスカ」

ときのあめ (名) 時雨 〔字ノ訓讀〕しぐれ(時雨)ニ同ジ。[illegible]、十六、[illegible]「[illegible]月、イカナル時ノ、雨ナレバ、カキクモルヨリ、[illegible]シカル」

ときのかね (名) 時鐘 大寺ニテ、時ヲ知ラセル爲ニ、鐘ヲ撞クコト。又、其鐘トキガネ。(上野、淺草、芝ナドノ)候鐘

ときのかひ (名) 時貝 古ヘ、晝夜ノ、午正ナドノ時ヲ知ラスルタメニ、法螺貝ヲ吹キ鳴ラスコト。[illegible]中、[illegible]「夜行フトテ、法師バラサウドケバ、戸オシアケテ、念誦スルホドニ、時ハイヅラ、時の貝、四ツ吹クホドニナリニタリ」千載集、十八、雜、下「[illegible]ノ貝コソ、吹キツナレ、[illegible]」

〔ときのきざみ (名) 時刻 漏刻ノ刻ノキザミ。天智紀、十七、十年四月「[illegible]」

〔ときのくひ (名) 時杙 古ヘ、禁中ニテ、時間ヲ示スタメニ、十二時ノ時時ニ、清涼殿ノ殿上の間ノ小庭ニサシテ、シルシトシタル杙。[illegible]枕草子、十一[illegible]

ときのけ (名) 時氣 〔あしのけ(脚氣)

ノ語原ヲ見ヨ」(一)えやみ(疫病)ニ同ジ。疫病。(二)はやりやまひ(流行病)ニ同ジ。時行病

ときのさえ (名) [illegible] [illegible]ヲ見ヨ。

〔ときのさかり (名) 時盛 (一)時メキテ用ヰラルルコト。[illegible]「[illegible]處所、只今ノときのさかりニテ」(二)當時ニ用ヰラルル盛リ。[illegible]、[illegible]手タヅサハリテ、遊ビケム、常住能佐理ヲ、トドミカネ、スグシヤリツレ」同、十七[illegible]「[illegible]ヒヅチテ、通フラム、時盛ヲ、徒ニ、スグシヤリツレ」

ときのとり (名) 時鳥 [illegible]ニ同ジ。[illegible]抄、八、郭公「鶯ノ、入リヌルアトノ、[illegible]ル[illegible]聞ノ月ノ、折シモアレ、身ニシム時の、鳥ノ聲カナ」

ときのふだ (名) 時簡 [illegible]ニ同ジ。[illegible]

ときのほど (名) 時程 シバシノアヒダ。少シノ間。トキノマ。暫時。[illegible]ほどニゾ、泣キ歸リケル」

〔ときのま (名) 時間 [illegible]一、雜歌「ヨロヅニ思シツツケラレテ、時の間モ[illegible]ノ物ヨ、我ガコフル、[illegible]同、五十、浮舟「タダ此人ヲ、時の間モ見レズオボシ出ヅ」後撰集、十一、戀「[illegible]時の間ノ、ウツツヲ忍ブ心コソ、ハカナキ夢ニ、マサラザリケレ」

ときは (名) [illegible] [illegible]

ノトコシナヘナルコト。トコハ。カキハトコトハ。萬葉集、六、[illegible]「[illegible]、[illegible]、常磐ニイマセ、貴キ吾ガ君」同、同[illegible]

ときは (名) 常葉 [illegible]松、柏ナドノ葉ノ、四時、緑色ニシテ、變ガヘセヌモノ。常緑。萬葉集、十七、長歌「[illegible]」

ときえ (感) 則 然ル後ハ。シカストキハ。[illegible]

ときはあけび (名) 常葉通草 むべノ一種。[illegible]むべ。郁子ニ同ジ。

ときはかきは (副) 常磐堅磐 [illegible]いはノ略約[illegible]トコシナヘナルサマ。萬代不易ナルサマ。[illegible]

ときはぎ (名) 常葉木 四時、常緑ナル、[illegible]

ときはぐさ (名) [illegible]

緑ナルヲ云ノ、木ヲ草ト云ツハ、櫻ノ異名ヲ曙草ト云フナドノ例ナリ」(一)松ノ異名。 貫一集「□□□□、松ノ□スガキ、立チツル宿ノ、ことぐさ、風モ見ナキ、時ニコソアハレ」 呉竹集「見付ル時代「松ノ異名、□□草、□□草」 (二)かんあふひ(寒葵)ノ異名。

ときはづ (名) 常磐津 次條ノ語ノ略。

ときはづぶし (名) 常磐津節 淨瑠璃節ノ一。宮古路豐後椽ノ門人ニテ、豐後節ノ再興者、常磐津文字太夫(本名、駿河屋文右衞門)、享保ノ頃、語リ出シタルモノ。下ノ出典ヲ見ヨ。略シテ、常磐津。 江戸節根元記「京都寺町位牌屋文右衞門ト云フ者、義太夫節ヲ能語リ、江戸ヘ下リ名ヲトント、云云、工風シテ、佐佐木市藏ヲ相方ニシ、義太夫、一中、豐後、押交ヘテ語ル、是中興豐後節ノ祖ナリ、近比ノ名人ナリ、夫ヨリ又ハヤリテ、ワキ語リ、志津摩太夫、豐潮太夫ナド、其頃ハ常盤橋ニ住居イタスユヘ、常盤津文字太夫ト名乘シナリ、武藏、芝居ニテ道行、其外、所作事ニ能合シ故、今ニ繁昌ナリ」

ときはな・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 解放 (一)別別ニ解キ別ク。(二)束縛ヲ解キテ、放チ遣ル。トキハナツ。

ときはなす (副) 常磐ノ如ク。常住不變ニ。 萬葉集、十八、長歌、橘ノ「常オケドモ、其葉モ枯レズ、常磐奈須、彌榮ハエニ」同、七「吉野川、石ト柏ト、時齒成、吾ハ通ハム、萬代マデニ」

ときはな・つ ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) 解放 束縛ヲ解キテ、放チ遣ル。解キテ、自由ナラシム。トキハナス。

どきふかん (名) 努級艦 (英語、Dread-naught. (何モノニモ恐レザル意)ノ譯語) 軍艦ノ一。英國ノ軍艦、どれっどのおと型ノ戰艦ニ、摸擬シタルモノ。排

水、速力、主砲(十二吋)、其他ノ設備ニ於テ、從來ノ戰艦ヨリハ、遙ニ勝レルモノナリ。又、同型ノ軍艦ニテ、十二吋砲ヨリ更ニ大ナル砲ヲ載セタルモノヲ、超弩級艦ト云フ。スベテ、此種ノ艦型ノ代表詞トシテ用ヰル。

ときふ・す スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) 說伏 說キテ、其言ニ、相手ヲ從ハシム。言ヒ負カス。說得ス。

⁘**ときふせる** (動) 說伏 前條ノ語ノ口語。

ときべ (名) 解部 〔訴人ノ意ヲ解ク意カ〕古ヘ、刑部省ニ屬セル官。大、中、少ナド六十人アリ。爭訟ヲ問窮スルコトヲ掌ル。(大同年中、夙ク廢セラル)

ときまい (名) 齋米 齋トシテ僧ニ施ス米。 織留、享保、西鶴、五「本心ノ後世ノ爲ナラバ、貧僧ニ齋米ヲ施シ、奉加帳ニ町所ヲアラハサズトモ、志スベシ」

ときまうし (名) 時申 次條ノ語ノ名詞形。 艶容女舞衣、近松作、二「イカ成變化モ恐レント、聲モホノメクソラダキ物、立明影細ソク、既ニ夜半ノ時申し、宮中更ケテ物凄シ」

ときまう・す ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) 時申 ときそうす(時奏)ニ同ジ。 大和物語、下「ときまうす音ノシケレバ聞クニ、丑、三ツト申シケル」

どぎまぎ (副) 俄ニ事ニ出會ヒテ、驚キ惑ヒ、オチツカザル狀。又、ウロタヘ、アワツル狀ニ云フ語。

ときみづ (名) 淅水 〔說文「淅、汰レ米也」〕精米ヲ淅ギタル水。泔。

ときん (名) 頭巾兜巾 修驗者ノ被ルモ

ノ、古キハ頭巾ニテ、燕尾帽ノ如シ。後ニハ黑ノ布ニテ作リ、十二ノ襞積アリ。後ニ、固ク圓ク小サク作リ、額上ニ置キ、紐ニテ頤ニ約ス。五智ノ寶冠ニ擬シテ作レルモノニテ、十二ノ襞積ハ、十二因緣ヲ表ハスト云フ。 字類抄「頭巾、トキン」 下學集、下、絹布門「頭巾、トキン、或山臥頭服謂之頭巾」 太平記、五、大塔宮熊野落事「片岡八郞、矢田彥七、アラ暑ヤトテ、頭巾ヲ脫ギテ側ニ指置ク、實ノ山伏ナラネバ、サカヤキノ跡隱レナシ」 義經記、七、判官北國落事「判官殿ハ、云云、柿ノ衣ニ、古リタルときん、日ノ際マデ引コウデ」 謠曲、安宅「夫レ山伏ト云ッパ、云云、身ハ不動明王ノ尊容ヲカタドリ、兜巾ト云ッパ、五智ノ寶冠ナリ、十二因緣ノヒダヲスヱテ戴キ」 狂言記、苞山伏「一尺許ノ布ヲ黑ク染メ、襞積ヲ取リテ、額ニ當ツルヲ以テときんト云フ」

と-きん (名) 鍍金 〔鍍ハ、塗ニ通ジテ、ぬる意〕めっき(滅金)ニ同ジ 品字箋「鍍、以金飾物也」「以金飾器、謂之鍍金」 李紳詩「假金只用眞金鍍、若是眞金不鍍金」 楊萬里詩「日景雲光學鍍金」

ときん-いばら (名) 頭巾薔薇 どび(茶蘼)ノ一名。其條ヲ見ヨ。

ときん-む (接) 則 ときえノ音便。 鴉鷺合戰物語「道ヲ以テ欲ヲ制スル則む、樂シミテ亂レズ、欲ヲ以テ道ヲ忘ルル則え、惑ウテ文ヲ得ズト」

ときめか・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 時 時メク程ヲ示ス。時メクヤウニナス。愛ス。寵愛ス。 源、九、葵三「古宮ノ、イトヤンゴトナクオボシ、時めかし給ヒシ物ヲ」 著聞集、四、公事「後一條院、時めかし給ヒテ」

ときめ・く ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 時 榮ユル時ニ遇フ。好キ運ニ遇ヒテ盛ル。全盛ナリ。 枕草子、八、八十段「一ノ所ニときめく人モ、エ安クハアラネド」 重之集「春ゴトニ、ワスラレニケル、埋木ハ、ときめく花ヲ、外ニコソ見レ」 源、一、桐壺「スグレテ時めき給フアリケリ」

どきも (名) 度肝 肝ヲ、甚シク云フ語。「度肝ヲヌク」

ときもの (名) 解物 衣服ノ縫絲ヲ解キテ、切レ切レニスルコト。又、ソノ解キ放スベキ衣服。ホドキモノ。 浮世風呂、二、下「□□ヲシタラ、□□□□、□□□ト云フコトサ、解き物ヲスル時、探方ヲ引ッ裂イタ事ト、火ノシ摺ヲ出來シタコトガ、コゴトノ度ニ出ダ」

ときもの (名) 研物 刃物ヲ研ギ磨クコト。又、研ギ磨クベキ刃物。

ときもり (名) 時守 陰陽寮ノ屬官。漏刻ヲ守リテ、其時時ニ鐘鼓ヲ擊ツヲ掌ル。漏刻博士ノ條ヲ見ヨ。守辰丁。 萬葉集、十一、廿六「時守ノ、打鳴ス鼓、數ミ見レバ、時ニハナリヌ、逢ハナクモ恠シ」 謠曲、綾鼓「雞ケトテヤ東雲ノ、眠リヲ覺マス時守ノ、打ツヤ鼓ノ數シゲシゲ」

ときもりのはかせ (名) 漏刻博士 ろうこくはかせ(漏刻博士)ニ同ジ。

どきやう (名) 讀經 〔看經ノ反〕 其條、及、讀誦ノ條ヲモ見ヨ」 經文ヲ讀誦スルコト。聲立テテ經文ヲ讀ムコト。ドクキャウ。 源、三十九、御法「御加持ニ侍フ大德タチ、どきゃうノ僧ナドモ」 更級日記「香ノ香聞エテ讀經ナドスル人モアリ、讀經ノ人ハ、コノ遣戸口ニ立止リテ」 方丈記「モシ念佛モノウク、讀經マメナラザル時ハ、自ラ休ミ自ラ忘ルニ妨グル人モナク」

どきう (名) 土弓 楊弓ニ對シテ、垜ニテ射ル弓術。やば(矢場)ノ條ヲ見ヨ。

ときよ (名) 時代時世 (一)時ト云フニ同ジ。時世。時勢。 伊勢物語、八十二段「時世ヘテ久シクナリニケレバ、ソノ人ノ名忘レニケリ」(二)時代ノ移リカハルコト。 謠曲、住吉詣「直ニ治マル時世カナ」 源、二、帚木六「時世ウツロヒテ、覺エオトロヘヌレバ」同、四十八、寄生十一「時

世ニシタカヒツツ、ナトロヘ一[illegible]八、初花「コレハ、宿イトコヨナウ御覧ゼラルルニ、時世ニ従フメウツリニヤ、[illegible]」

とぎょ (名) 渡御 (一)ワタラセラルルコト。イデマシ。(高貴ニ、神輿ニ) 保元物語、新院御[illegible]、[illegible]ヲ輿ニ乗セ奉リ、[illegible]官子共相具シテ、云云、法住寺殿ヘ渡御アルニ」台記別記、久安六年正月廿三日「上渡[illegible]」有」北比奈遊事」 (二)轉シテ、將軍ニモ用キラル。 海人藻芥、下「近年將軍家渡御之在所、[illegible]度屋一里」 満濟准后日記、正長二年五月四日「今日、公方様渡二御坂本一明日、小五月御見物具」

とぎょ (名) 蠹魚 「蠹在倭名抄、八、蠹名「新撰字鏡、蛀、乃牟之、今能登俗呼ニ衣魚一爲ニ乃乎之、伊豫俗呼ニ乃之、皆乃牟之轉、而訓ニ衣魚、與レ訓レ蠹、古今不レ同耳、今俗呼レ蠹爲ニ木食蟲ニ」塵嚢抄、一、蠹事「蠹字、丁護反、古文ニハ蠹ト書ク、のむしト讀也、木蟲トモ云、又ハ白魚共云フ、皆のむし也、云云、私ニ思ハク、木ヲ食のむしニハ木蟲ヲ用ヒ、紙ヲ食のむしニハ白魚ヲ用ベキ歟、蠹字何レニモ互ベキ也」 又、ノムシ。シミ。シミムシ。 [illegible]

どきょう (名) 度胸 物ニ畏レヌ心。キモダマシヒ。 膽力 膽略 「度胸ヲ定ム」度胸ガヨイ」度胸カスワル」[illegible]」

とぎ・る・ルル・ルレ・レ・レヨ (自動、下二) 跡切 (一)往來ノ足跡、絶ユ。ユキキ絶ユ。トダユ。 斷跡 (二)絶ユ。中絶ス。

とぎれ (名) 跡切 トギルルコト。トダユルコト。中絶。

※**とぎ・れる** (動) 跡切 前前條ノ語ノ口語。

ときわけ・おろも (名) 解分衣 給ヲ解キ放シテ、[illegible]

ときをり (副) 時折 トキドキ。ヲリヲリ。トキトシテ。時ニハ。

とく (名) 德 〔集韻「德、行之得也」正韻「凡ニ言レ德者、善美、正大、光明、純懿之稱也」禮記、樂記篇「禮樂皆得、謂ニ之有德一德者得也」〕(一)心ノ善ク正シクシテ、スベテ人ノ道ニカナヒタルコト。道德。(德ハ得ナリ、心ト共ニ得テ居ル眞味ヲ止味ノモノ。酸イハ梅ノ德、甘イハ砂糖ノ德、親ヲ見レバ愛ラシク、忍ビラレヌ[illegible]味ノ心ノ中ヨリ生ジ來ル類ナリ。又、得ト同音ニテ通ハシ用キル。卽チ、德ハ我ガ平素養ヒ得テ居ル善ナリ。例ヘバ、廉直ト云フハ、義理ニテ、ソレヲ養ヒ得テ、廉直ナル身ニナリタルガ、德ナリ) 論語、里仁篇「子曰、德不孤、必有鄰」 [illegible] (二)〔志行、操守等ノ特レタル[illegible]〕 [illegible] (三)ハタラキ。イサヲ。功德。「德ニ報ヲ此ク德アリ」 (四)〔メグミ。恩德。[illegible]

とく (名) 得 (一)得ルコト。マウケ。利益。利得。 [illegible] 德ノ字ヲ用キル。「德分」[illegible]

と・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 解 (一)〔結目、分カレハナル。ホドクル。 [illegible] (二)職ニハナル。罷官 [illegible] 散ル。 [illegible] (七)ヤム。撤セラル。[illegible] (八)離散ス。[illegible]

と・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 解 (一)〔結目ヲ分ケハナス。ホドク。 [illegible]

[illegible]

と・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 融 [illegible] (一)水ニ雜リテ、ユルク [illegible]

と・く [illegible]

と・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [illegible]

とく [illegible]

侍ラント申ス」源、廿四、胡蝶[三十]「マタノアシタ御文どくアリ」枕草子、八、八十三段「人ノ歌ノカヘシどくスベキヲ、エヨミエヌホド、イト心モトナシ」拾遺集、十二、戀、二「日ノウチニ、物ヲフタタビ、思フカナ、どくアケヌルト、オソククルルト」

と・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）［研］（利ヲ活用ス）（一）摩リテ光澤ヲ出ス。ミガク。磨　大鏡、上、後一條院「權符ノ鏡、云云、どぐワサモ知ラス、ウチハサメテオキタルニ」（二）〔砥ニ摩リテ、鋭クス。磨　萬葉集、廿[五十]「ツルギ太刀、イヨヨ刀具ベシ、イニシヘユ、サヤケク負ヒテ、キニシ其ノ名ゾ」宇治拾遺、十、第六條「イラナキ太刀ヲミガキ、刀ヲとぎ、鉾ヲマウケツツ、云云、日ゴロとぎミガキツル太刀、刀、ミナトリ入レツ」字鏡[六十]「砥、止止久」「刀ヲ研ぐ」（三）摩リテ、水ニテ洗ノフ。カス。ヨナグ。「米ヲとぐ」淅（四）〔心ヲミガキ、明ラカニス。研磨　萬葉集、四[四十三]「マソカガミ、磨ぎシ心ヲ、ユルシテバ、後ニ云フトモ、驗アラメヤモ」

と・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）遂　成シ果ス。行ヒ終フ。成就セサス。萬葉集、四「[illegible]」源、十七、繪合三[illegible]其ノ見ソメケム、遂ぐトハナシニ」源、十七、繪合[illegible]其ノ御心サシヲモ、[illegible]ヘキホドニ」後拾遺集、廿、雜、「常ナラヌ、ワカ身ハ水ノ、月ナレバ、世ヲ住ミとげン、コトモオボエズ」

どく（名）［毒］（一）生活アル者ノ身ヲ害フモノ。（藥ニ對ス）（二）アシモノ。毒ノアルモノ。毒藥　左傳、[illegible]「[illegible]」[illegible]得志欲[illegible]之[illegible]」「毒ヲ飲マス」（三）正シキヲ害スルモノ。ヨコシマ。ワザハヒ。惡。[illegible]流ニ毒下國ニ」（四）※どくぐち（毒口）ノ略。

※**どく**（動）退く（四段）、又、退く（下二段）ノ口語。關東。

どく（接頭）毒「惡源太、鬼武者ナドノ悪、鬼ノ類」アラアラシキ、猛キ、又、害ヲナスモノナドニ冠ラス。「毒婦」毒蛇」

どく-あたり（名）［毒中］毒物ヲ食ヒテ、胃ニ焮衝ヲ發スルコト。中毒

とく-い（名）［得意］（一）意ヲ得タルコト。望ミノ滿足シテ、喜ビ居ルコト。史記、蘇秦傳「淮王厚葬以明孝、高宮室大苑囿以明得意」」盛衰記、廿六、邦綱卿薨去事「大小事宮仕ツツ、每日ニ何物カ必ズ一種ヲ進ラセケレバ、現世ノ得意、此ノ人ニ過ギタル者アルマジ」「得意ノ顏」（二）〔心ヲ知レル友。源、十三、明石[三十]「入道ハ、彼ノ國ノとくいニテ、年頃、相語ラヒ侍リツレド」宇治拾遺、五、第八條「此ノとくいノ人人、四五人詣、來集リニケリ」堀河集「モトヨリノ、とくいニ侍りケレバ、兼網ノ卿ニ奉ツル名簿ヲ、賣之シテ傳ヘサストテ、ツカハス」枕草子、四、四十四段「故兵衞ト云フ人シテ、マネバセテマカセタマヘバ、アレ、イカデ見ハベラム、必ズ見セサセタマヘ、御とくいナナリ、サラニ、ヨモカタラヒトラジナド笑フ」今昔物語、廿九、第七[illegible]「藤判官ト云フ撿非違使、常ニ藤大夫トとくいナリケレバ」（三）常ニ馴染ミ熟練シタルコト。得手。オハコ。十八番。（四）馴染ヨリ轉ジテ、慣手「得意ノ技」（四）馴染ヨリ轉ジテ、商家ニテ、常ニ賣付ケノ客。ウリコミサキ。顧主　花主　顧客　華客　好色一代男（天和、西鶴）二「紋所ノ着物モ、ウトミハテテ、世ヲワタル種トテ、元來商ヒノとくい、殊更ニアシラヒ」

とく-い（名）［特異］（一）他ト同ジカラザルコト。普通ナラザルコト。特殊。漢書、劉向傳「孝昭時、云云、大星如月西行、衆星隨之、此爲特異」唐書、禮樂志「鶏致、其聲焦殺、特異衆樂」（二）スグレテ異ナルコト。

トク・ユウ
とく-いう（名）特有　特ニ、其物ノミ有スルコト。「特有財產」

トクイ・ガオ
とくい-がほ（名）［得意顏］滿足ラシク誇ル顏色。シタリガホ。自慢顏。得色

とく-いく（名）［德育］品性ヲ、高尙、健全、圓滿ナラシメ、倫理、義務ノ觀念ヲ全カラシムルヲ目的トスル敎育。

どくいち-しんぼん（名）［獨一眞神］基督敎ノ、唯一絶對ニシテ、全智全能ナル神。天主。上帝。

どく-いん（名）［獨淫］カハツルミ。

ど-くう（名）［土公］ツチギミ。地主ノ神。どくしん（土公神）ノ條ヲ見ヨ。名義抄「土公、ドクウ」范成大詩「屆酒豚蹄酬土公」

ど-ぐう（名）［土偶］（一）ツチニンギャウ。土偶人。皮日休詩「至今頑愚者、生如土偶身」（二）神、又ハ、佛ノ像。稽神錄（宋、徐鉉）「鳳翔有文殊寺、寺中有土偶數十軀」

どぐう-じん（名）［土偶人］ツチニンギャウ。史記、孟嘗君傳「蘇代謂曰、今旦代從外來、見木偶人與土偶人相與語」」

どく-うつぎ（名）［毒空木］灌木ノ名。山野、殊ニ、河原ニ多シ　叢生シテ、高サ二三尺ヨリ五六尺ニ至ル　幹ハ、うつぎニ似テ、葉ハ、兩對排生シ、形、長ク尖リテ、三ツノ縱道アリ。夏ノ初、赤キ穗ヲ出シテ、細小ノ花、簇リ生ズ。果實ハ圓ク扁クシテ、熟スレバ甚ダ鮮紅ナリ、大毒アル植物ナリ。カハラウツギ。オニウツギ。又、一名、市郞兵衞殺。

どく-え（名）［毒荏］〔實ニ毒アレバ云フ〕あぶらぎり（油桐）ニ同ジ。

どく-えき（名）［毒液］毒ヲ含メル液。

トノ・カ
どく-か（名）［特價］特別ニ安キ價　特別廉價「特價販賣」

どく-が（名）［毒牙］（一）噛ムトキニ毒液ヲ出ダス牙。（毒蛇ナドノ）（二）轉ジテ、惡辣ナル手段。

どく-がい（名）［毒害］毒藥ヲ飲マセテ殺スコト。毒殺　後漢書、馮豹傳「母爲父所出、後母惡之、嘗因豹夜寐、欲行毒害、豹逃走得免」

トッ・コウ
とく-かう（名）［德行］道德ノ行跡。又、道德ニカナヘル正シキ行爲。易經、上[illegible]傳「君子以常德行、習敎事」」揚子法言「或問[illegible]人表裏、曰、威儀文辭表也、德行忠信裏也」新[illegible]（梁、劉勰）「人性雖敏、必藉善言以成德行」」

トッ・コウ
とく-かう（名）［篤行］忠實ナル行ヒ。人情厚キ行ヒ。中庸「固[illegible]篤行之」史記、甘茂傳「出[illegible]齊[illegible]後世、雖[illegible]非篤行之君子、然亦[illegible]之策士也」南史、劉[illegible]傳「[illegible]門、以篤行董氏之間、爲三一門孤布」」

トッ・コウ
とく-かう（名）［篤孝］テアツキ孝行　忠實ナル孝。後漢書、蔡邕傳「邕性篤孝、母常滯病三年、邕自非寒暑節變、未嘗解襟帶、不寢寐者、七十旬、母卒、廬于冢側」」

トッ・コウ
とく-かう（名）特效　特別ノ效能。トリワケテノシルシ。特功。「特效藥」

ドッ・コウ
どく-かう（名）［獨行］（一）ヒトリタビ。詩經、唐風、杕杜篇「獨行睘睘、豈無他人」」（二）己レ一個ノ力ニテ、事ヲ成スコト。他ニヨラズ、己レノ信ズル所ヲ實行スルコト。禮記、儒行篇「世治不輕、世亂不沮、同弗與、異弗非也、其特立獨行、有如此者」」韓愈、伯夷頌「士之特立獨行、適於義而已」」「獨立獨行」

とく-がく（名）篤學　學術ニ深ク志スコト。學問ニ忠實ナルコト。史記、伯夷傳「伯夷叔齊雖賢、得夫子而名益彰、顏淵雖篤學、附驥尾而行益顯」」後漢書、安帝紀「長安侯祜、質性忠孝、小心翼翼、能通詩論、篤學樂古、仁惠愛下」

どく-がく (名) 獨學 師友ニ就カズシテ、學問スルコト。師友ナキ學問。禮記、學記篇「時過然後學、則勤苦而難成、雜施而不孫、則壞亂而不修、獨學而無友、則孤陋寡聞」

どく-ガス (名) 毒瓦斯 鹽素ト炭素トヲ主トシ、其他、種種ノ藥ヲ加ヘテ作リ、壓搾液化セシメテ、貯蓄器ニ入レタルモノ。其口ヲ開ケバ、液ハ氣化シテ、煙ノ如クナリ、コレヲ吸入スルモノハ、呼吸器、及、眼ヲ刺激シテ、窒息眩暈スルニ至ル。又、コレニ觸ルル時ハ、皮膚ヲ糜爛セシムルモアリ。故ニ、人道上、戰爭ニ用ヰルコトヲ、國際法ニテ禁止セリ、コレヲ防グニハ、覆面、又ハ、口罩ニ、毒瓦斯ヲ緩和スベキ藥品ヲ裝置ス。今ハ、害蟲驅除ニ用ヰルコトモアリ。

とくがは-じだい (名) 德川時代 えどばくふ(江戸幕府)ノ條ヲ見ヨ。

どく-がん (名) 獨眼 一眼ノ明ヲ失ヒテ、他ノ一眼ノミアルコト。ガンチ。メッカチ。偏盲。五代史、唐、莊宗紀「莊宗父李克用、其一目眇、及其貴也、又號獨眼龍」

とく-き (名) 德器 身ニ具フル德ト、器量ト。[illegible]

とく-ぎ (名) 德義 道德上ノ義務。道德ノ上ノ義理。[illegible]

どく-き (名) 毒氣 (一)毒ヲ含メル氣。毒トナル氣。[illegible]氣」(短狐ハ蜮ナリ) (二)轉ジテ、ワル智慧。人ヲ毒スル心。

とくぎ-しん (名) 德義心 德義ヲ重ンズル心。

とくきの-や (名) 鳥莖矢 鳥ノ羽ノ莖ノ矢。蝦夷人ガ、附子ノ毒ヲ塗リテ、鎧ノスキマヲハカリテ射ルト云フ附子矢。袖中抄、二十「アサマシヤ、千島ノ蝦夷ノ、作ルナル、とくきのやコソ、ヒマハモルナレ、顯昭云、とくきのやトハ、オクノえびすハ、鳥ノ羽ノ莖ニ附子ト云フ毒ヲヌリテ、ヨロヒノアキマヲハカリテ、射ルト云ヘル附子矢ト云フハ是也」

どく-きん (名) 毒菌 どくたけ(毒茸)ニ同ジ。

どく-ぎん (名) 獨吟 (一)獨リ詩歌ヲ吟ズルコト。[illegible] (二)連歌、俳諧ニ、附合ニセズ、一人ニテ詠ムコト。「獨吟百韻」「獨吟千句」 (三)俗謠ニ、脇、連、ナクテ、一人ニテ謠フコト。[illegible]云、一人ウタフヲ獨吟ト云ヒ」

どく-きやう (名) 讀經 どきやう(讀經)ニ同ジ。

どく-きやく (名) 獨脚 一本足。隻脚。

とく-きよ (名) 特許 (一)特別ニ許可スルコト。古辭「曲曲[illegible]」時變、特許[illegible] (二)[illegible]ナドヲ專賣スルノ官許ヲ、專賣特許ト云フ。せんばい(專賣)ノ條ヲモ見ヨ。

どく-きよ (名) [illegible] コト。ヒトリズマヒ。ヒトリズミ。ヒトリヰ。獨處。孟子、滕文公、上篇「昔者孔子[illegible]」

とつきよ-けん (名) 特許權 新規ナル工業上ノ發明ヲナシタルモノガ、官許ヲ得テ、其發明品ノ製造、販賣ナドヲ獨占スル權利。

とく-ぐう (名) 特遇 特別ノ待遇。

どく-ぐち (名) 毒口 毒毒シク云ヒナスくちまへ。ワルクチ。ニクマレグチ。惡口。[illegible]んたん(辻君ノコト)買ヘヤト毒口、惡口」

とく-くわ (名) 德化 德ニヨリテ化スルコト。善キ風ニ、[illegible]コト。[illegible]後漢書、和帝紀「有司上奏、孝章皇帝崇弘鴻業、德化普洽、垂意黎民」

どく-くわい (名) 讀會 [英語、Reading. ノ譯語] [illegible]英國ノ議會ニ於テ、[illegible]三回[illegible]メタルニ起ルト云フ」法律案ノ審議ヲ鄭重ニスルタメ、其經ベキ三段ノ進行方法ヲ云フ。[illegible]ノ大體ノ可否ヲ決シ、重大ナルハ委員[illegible]

どく-ぐつ (名) [illegible]

どく-け (名) 毒氣 毒トナルベキモノ。[illegible]

とつ-けい (名) 篤敬 篤實ニシテ、謹慎[illegible]

とつ-けう (名) 篤教 善道ニ[illegible]

どく-けし (名) 毒消 中毒ヲ消スコト。又、ソノモノ。消毒。解毒。

とく-げふ (名) 德業 德ヲナシテ[illegible]

とくげふ-せい (名) 得業生 [illegible]學校ノ卒業生ノ稱號。[illegible]ノ條、見合ハスベシ。

とつ-けん (名) 特權 (一)特別ノ權柄 (二)[英語、Privilege ノ譯語] 特別ノ權利。其者ノミ或ル行爲ヲナシ得ル權利。

どく-けん (名) 獨見 己レ一人ノ見解。獨自ノ見解。[illegible]

どく-こ (名) 獨鈷 [illegible]器ナリ。[illegible]

[illegible] (二)得地ナドノ錦紋ノ名。獨鈷ノ形ヲ多ク列ネテ織出ス。(三)僧家ニテ、鰹節ノ隱語。

とく-ご (名) 得悟 悟ルコト。悟ヲ開クコト。 盛衰記、四十八、女院六道廻事「[illegible]モ偏ニ他力本願ヲ信ズ、卑提ノ得悟疑ヒナシ」

どく-ご (名) 獨語 (一)相手ナク、獨リニテ物言フコト。ヒトリゴト。 張籍詩「失意還獨語、多慾只自知」 白居易詩「獨行獨語曲江頭」 (二)どいつ國ノ言語。獨逸語。

トツコウ
どく-こう (名) 特功 (一)特ニ、スグレタル功。(二)特別ノ功能。特效。

トツコウ
とく-こう (名) 篤厚 人情ニアツク、親切ナルコト。 史記、李斯傳「慈仁篤厚、輕レ財重レ士、辯二於心一而詘二於口一」 三國志、蜀志、許靖傳「[illegible]」

トクゴフ
とく-ごふ (名) 得業 (一)文章得業生(モンジヤウ)ノ稱。唐名、秀才ト云フ。(二)僧ノ學階ノ名。南都ニテハ、興福寺ノ維摩會、及、法華會、藥師寺ノ最勝會ノ三會ノ堅義(リフギ)ヲ遂ゲシモノ。山門ニテハ、横川ノ四季講、定心房ノ三講ノ聽衆ヲ勤メシモノヲ云フ。

トクゴフシヤウ
とく-ごふ-しやう (名) 得業生 古へ、大學寮ノ學生ノ、其業ヲ成就セル者。(四道各コレアリ。 大學寮式「凡得業生者、明經四人、文章二人、明法二人、算二人、並聽二夏冬時服一」)

とくさ (名) 木賊 (砥草(トクサ)ノ義、其莖ニテ、木角ヲ擦ル、故ニ木ノ賊ノ名アリ) (一)草ノ名。山谷、水邊ニ生ジ、人家ニモ植ウ。冬、凋マズ、葉無クシテ、莖ノミ一根ヨリ叢生ス。莖ノ中、空シクシテ、徑二分餘、直立シ、二三尺、寸餘毎ニ節アリ、深緑ニシテ、あやすぢ(縦捏線)高ク、糙(ザラ)ツキナレバ、木角ヲ礪リテ、砥ノ用ヲナサシム。夏、莖ノ梢ニ花ヲ生ズ、土筆(ツクヅクシ)ノ花ニ同ジ。 箋注倭名抄、五九十「細工具、木賊、度久佐、苗長尺許、叢生、每根一莖、無花葉、寸寸有節、色青、凌冬不凋」 天治字鏡、十二「借木、磨、木之具也、木賊也、已須利」 農業全書、十、藥種之類「木賊ハ藥ニモ用ユ、細工ニツカフ時ハ、とくさト云、庭ニウヘテメヅラシ」 (二)鑢(ヤスリ)ノ代用トスルモノ。 倭名抄、十五、四「漆具、木賊、辨色立成云、度久散」 榮花物語、十五、疑「イタジキヲミレバ、とくさ、ムクノハナドシテ、四五百人、テゴトニナミヰテ、ミガキノゴフ」 平家物語、一、殿上闇討事「播磨米ハ木賊(トクサ)カ、椋(ムク)ノ葉カ、人ノ綺羅ヲ研クハ」

どく-ざ (名) 獨坐 ヒトリ坐リ居ルコト。 王維詩「獨坐幽篁裏、彈レ琴復長嘯」 隋書、蘇威傳「獨坐滿二一榻一、番人畏懾、莫二敢仰視一」

どく-ざい (名) 贖罪 ぞくざい(贖罪)ノ誤。其條ヲ見ヨ。

どく-さい (名) 獨裁 帝王、又ハ、主權者ガ、一己ノ意ノママニ、萬機ノ政務ヲ裁斷スルコト。「獨裁政治」

とくさ-いろ (名) 木賊色 染色ノ名。綠(モエギ)ニ黑ミアル色。

トクサウ
とく-さう (名) 德操 堅固ニシテ變ラヌ道德心。 荀子、勸學篇「學也者固學二一レ之也、云云、生乎由レ是、死乎由レ是、夫是之謂二德操一」

トクサウ
とく-さう (名) 得喪 とくしつ(得失)ニ同ジ。 韓詩外傳(漢、韓嬰)「天子不レ言二多少一、諸侯不レ言二利害一、大夫不レ言二得喪一、士不レ言二通二財貨一」

トクサウ
とく-さう (名) 禿瘡 しらくも(白禿瘡)ニ同ジ。 牛山活套(元祿、香月啓益)下「禿瘡ハ、初起、シラクモト云フ、小兒ニ多キ症也、有名禿瘡、一二禿瘡、俗ニ云ふしらくぼノコトナリ、[illegible]八字書ニ[illegible]ニリトアリ、カアコトヨメリ、[illegible]ヘケ、カブロノヤウニナレ[illegible]ナリ」

ドクサウ
どく-さう (名) 獨創 其人ダケニテ、始メテツクリ出ダセルコト。又、其モノ。

ドクサウ
どく-さう (名) 毒草 毒分ヲ含メル草。 漢書、賈捐之傳「[illegible]獨居二一海之中一、霧露氣濕、多二毒草蟲蛇水土之害一、人未レ見レ虜、戰士自死」

とく-さく (名) 得策 執行シテ利アル方ノ計策(ハカラヒ)。都合ノヨキハカリゴト。

どく-さつ (名) 毒殺 どくがい(毒害)ニ同ジ。 元史、世祖紀「王傳瀾瀾帶等、協謀毒二殺雲南王一」

とくさ-ぶき (名) 木賊葺 御所、社寺、等ノ板屋根ノ葺樣ノ名。板ノ厚サ一分半、或ハ二分、兩面、兩傍、木口、共ニ鉋削リニテ、葺足、平均、一寸五分ナルモノト云フ。又、板ノ厚サ三分以上ナルヲ、栩(トチ)葺(フキ)ト云フトゾ。 一話一言、十二、池上五郎右衛門本書「木賊葺ハ、御所御屋根之內ニモ所所御座候、其外、寺社等ニモ數多御座候、云云、木賊葺ハ、板厚サ一分半ヨリ木賊ト申候、一分半木賊、二分木賊ト申候、板兩面、木口ハ鉋削、兩傍、正直、鉋削ニ仕、葺足平均一寸五分ニ仕、足每ニ釘打イタシ、フキ立候ヲ、とくさ葺ト申候」 小普請諸職人日帳「木賊葺、一分半、葺足一分一厘、板長一尺一分」

とく-さん (名) 特產 特ニ其地ニ產ズルコト。又、ソノモノ。

とく-し (名) 特旨 特別ナル思召。「特旨敍位」

とく-し (名) 篤志 アツキココロザシ。甚ダ親切ナル意思。 論語、子張篇「博學而篤志、切問而近思、仁在二其中一矣」 後漢書、樂恢傳「恢長好二經學一、事二博士焦永一、遂篤志爲二名儒一」 同、劉殷傳「[illegible]」

とく-し (名) 特使 特別ニ[illegible]。

どく-し (名) 讀師 (一)モノヲ[illegible]。(二)古へ、諸國ノ國分寺ニオカレ[illegible]僧官。こうし(講師)ノ條ヲ見ヨ。(三)經論講說ノ法會ナドニ、講師ト相對シテ、佛前ノ高座ニ登リ、經題ヲ讀ミアグルコトヲ掌ル役僧。 榮花物語、[illegible]「佛ノ御前ノ庭ニ、講師、讀師ノ高座、左右ニタテテ、上ニ、エモイハズメデタキ寶蓋オホヒタリ」 (四)詩、又ハ、歌ノ會ナドニテ、人人ノ作品ヲ讀ミアグル役ノ人。 袋草紙、一、和歌會次第「儀式之時、多用二四位一、次歌人[illegible]、次讀師進寄[illegible]文臺下一、[illegible]之」 中右記、大治五年九月十七日「別當宰相、師時、伊通、予依レ仰[illegible]讀師一」

ドクシウ
どく-しう (名) 獨修 師ニ就カズニ、獨リニテ學ブコト。

とく-しつ (名) 得失 得(ウ)ルト、失(ウシナ)フト。損得。得喪。利害。 史記、[illegible]傳「國君之得、此其勢不レ可レ以二多人一、多人不レ能レ無レ生二得失一」 後漢書、和帝紀「帝引二見公卿一、問二得失一」

とく-しつ (名) 特質 特別ノ性質。特性。

とく-じつ (名) 篤實 親切ニテ、正直ナルコト。人情ニ篤ク、實直ナルコト。 易經、上彖傳「大畜剛健、篤實輝光、日新二其德一」 晉書、儒林傳「儒家尙レ譽者、本以レ興レ賢也、道家去レ名者、欲レ以二篤實一也」 范鎭、[illegible]「方今祖宗後裔、蕃衍盛大、信厚篤實」

どく-しば (名) 毒柴 あしび(馬醉木)ノ一名。(關西) 其條ヲ見ヨ。

ドクシユウ
どく-しふ (名) 獨習 師ニ就カズシテ、學ビ習フコト。獨學。

トク
とく-しん (名) 得心 心ニ諾(ウベナ)フコト。納得(ナットク)スルコト。承知。 狂言記、呂蓮「御內儀樣

モ[illegible]一門[illegible]モ、[illegible]心ノ上ニテ[illegible]ルカ一

どく-ちん（名）［特進］正二位、[illegible]、[illegible]
[illegible]

どく-ちん（名）［獨身］（一）ヒトリミ。ヒトリモノ。（配偶ナキニ云フ）（二）己レ一人ナルコト。單身。單獨。史記、伍子胥傳「伍胥懼、乃與、勝俱奔呉、到[illegible]關[illegible]之、伍胥遂與、勝獨身歩走、幾不[illegible]得[illegible]脱、追者在[illegible]後」

どく-ぢん（名）［毒刃］兇惡ヲ行フ者ノ用ヰルヤイバ。兇刃。

〜どく-ぢん（名）［土公神］ドクウ。ドコウ。ツチギミ。陰暦ノ上ニ、地ノ神ノ稱。春ハ竈ニアリ、夏ハ門ニアリ、秋ハ井ニアリ、冬ハ庭ニアリ、故ニ、其時ニ隨ヒテ、此四ツノモノヲ動カスベカラズ、動カセバ祟ルト云フ。倭名抄、二「神靈類、[illegible]、[illegible]、[illegible]反[illegible]、[illegible]長上、[illegible]上、[illegible]土公、トコウ」

ドクジントウ
どくぢん-たう（名）［獨參湯］煎藥ノ名。殊ニ氣付ノ妙藥ナリト云フ。

どく-ちゃ（名）［特赦］天皇ガ大權ニヨリテ、刑期中ナル特定ノ犯罪人ニ對シテ、其刑ノ執行ノ一部、又ハ、全部ヲ免ゼラルルコト。

どく-ちゃ（名）［讀者］讀ム人。ヨミテ。

〜どく-ぢゃ（名）［毒蛇］非常ニ猛烈ナル毒素ヲ有スル蛇、印度、埃及、邊ノこぶら（眼鏡蛇）ト稱スルモノ、最モ甚シ。其毒素ヲ採リテ乾カセバ、黄色ナル粉トナル。十分ノ一ぐらむヲ注入スレバ、馬モ斃ルト云フ。又、其一ぐらむハ、能クもるもと一萬二千頭ヲ斃スト云フ。十六[illegible]
[illegible]
ハ、ホノホアツク、ツルギ、ハギヲ貫キ、惡ヲフクメル毒蛇ニムカヒテ、モトノ國ヨリ此國ニイタリ」勝[illegible]
袋、四「毒蛇ヲくちばみト云フ」

ドクシヤウ
どく-しゃう（名）［獨唱］ヒトリニテ、歌曲ヲ歌フコト、[illegible]

どく-しゃう（名）［毒性］（一）毒ノ成分。（二）意地ワルキコト。

どく-しゃく（名）［獨酌］相手ナクテ、獨、酒ヲ飲ムコト。手酌ニテ、酒ヲ飲ムコト。南史、孔[illegible]傳「不[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]」南史、[illegible]傳「周舍[illegible]、[illegible]主人不[illegible]之、[illegible]周命[illegible]酒一斗八升、[illegible]然獨酌、[illegible]之」

どく-しゅ（名）［特殊］他ノモノト同ジカラザルコト。特別。格段。

どく-しゅ（名）［毒手］（一）人ヲ殺害セムトスル所業。（二）惡辣ナル手段。[illegible]
[illegible]

どく-しゅ（名）［毒酒］毒ヲ混ゼ入レタル酒。[illegible]

どく-じゅ（名）［讀誦］（文字ニ就キテヨムヲ、讀ト云ヒ、文字ヲ離レテヨムヲ、誦ト云フ）經文ヲ、讀ミ誦ノルコト。法華經、法師品[illegible]
[illegible]

どく-しょ（名）［讀書］又、どくしょ。書物ヲ讀ムコト。フミヲ、ヨムコト。[illegible]
[illegible]

どく-しょう（名）［特[illegible]］特ニ、其物ニノミ云フ稱。特有ナル稱呼。

どく-しょう（名）［讀誦］讀ミ誦フルコト。どくじゅ（讀誦）ノ條ヲ參見セヨ。

どく-しょく（名）［特色］他[illegible]ノ顏色、[illegible]

[illegible]
[illegible]

どく-しょく（名）［特色］（一）他ト異ナリテ、[illegible]。又、[illegible]。（二）[illegible]日ニ立ツトコロアルコト。

どく-しょく（名）［瀆職］職分ヲ辱シムル行ヲナスコト。[illegible]

どく-しょ-さんよ（名）［讀書三餘］讀書ニハ、冬、夜、陰雨ノ時ヲ、十分ナルヲ云フコト。下ノ出典ヲ見ヨ。[illegible]
[illegible]

どくしょ-はじめ（名）［讀書始］みふみはじめ（書始）ノ條ヲ見ヨ。

どく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［督］（一）[illegible]（二）[illegible]（三）ツナガス。催促、督促（四）ナジル。詰責

どく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［毒］トクナトス[illegible]

ドクスイ
どく-すゐ（名）［毒水］毒分ヲ含メル水。[illegible]

どく-せい（名）［德政］（一）仁德ノ政。左傳、隱公十一年「[illegible]德政、又無威刑、是以及邪」（二）[illegible]人民ニ貸付ケタル金穀ナドヲ、元、利、ス[illegible]シタルモアリ）ニ似タレドモ、コレニ因リテ、民間ノ負債、質物ナドノ權利、義務ヲ破棄シテ、一般ニ償ハザルコトトセリ、サレバ、其實ハ暴政ナリ。德川氏ノ世ニ、棄捐ト云ヘルモ是レナリ。[illegible]
[illegible]
御代トナリテ、云云、[illegible]、前代ニ[illegible]
德政ト云フ事ノ[illegible]、[illegible]
ハレケレバ、[illegible]
[illegible]

どく-せい（名）［[illegible]］[illegible]

どく-せい（名）［特[illegible]］[illegible]。特ニ注意シテ造ルコト。又、其物。

どく-せい（名）［毒性］毒アル性分。

どく-せき（名）［[illegible]］取締リ促ルコト。セメハタルコト。[illegible]

どく-せつ（名）［[illegible]］[illegible]クルコト。

どく-ぜつ（名）［毒舌］巧ニ[illegible]ヒナスクサマ[illegible]

〜どく-せに（名）［[illegible]］[illegible]ルレバ云ノトゾ[illegible]、どくせんト[illegible]セニ[illegible]、御厨子所ノ女官ノ稱[illegible]
[illegible]

とく-せん (名) 特選 コトサラナルエラビ。特別ナル選擇。明律、日僞避「官ニ特選ニ許。審許其選」

とく-せん (名) 德錢 戰國時代ニ、賦課セシ稅役ノ、永享年中文書「役所等相定之所、駿河國段錢、德錢、對他國以下、被レ付二其足一」

〜とく-せん (名) 得選 とくせに(得選)ニ同ジ。

どく-せん (名) 獨占 己レ一人ニテ、利益ヲ占ムルコト。タダ一人ニテ、占有スルコト。ヒトリジメ。蘇軾詩「兩厄春酒眞堪レ笑、獨占人間分外榮」同、紅梅詩「雪裏開花却是遲、何如獨占上春時」

どく-せん (名) 獨擅 己レ一人、擅(ホシイママ)ニスルコト。戰國策、秦策「昔者中山之地方五百里、趙獨擅レ之、功成名立」後漢書、班超傳「超知二其意一、擧レ手曰、掾吏不レ行、班超何心獨二擅之一乎、恂乃悅」

どくせん-ぢやう (名) 獨擅場 己レ一人、心ノママニ、フルマフ場所。最モ、ハバノ利ク所。ヒトリブタイ。俗ニ、誤リテ、どくだんぢやう(獨壇場)ナドト云フ。

とく-そう (名) 德宗 鎌倉幕府ノ頃、北條氏一宗ノ總領タル者ノ稱。ソノ知行所ヲ德宗領ト云フ。東寺百合文書「北條義時ノ別號ヲ德宗ト云フ」

どく-そう (名) 獨奏 ヒトリニテ、音樂ヲ奏スルコト。單獨ニテ、演奏スルコト。陳陶損、谷隱居詩「今古畫壁、鳴琴獨奏」

とくそう-りやう (名) 德宗領 鎌倉時代ニ、執權北條氏ノ家督相續人ノ、世襲セル領地。とくそう(德宗)ノ條、參見セヨ。太平記、三十五、青砥ノ衛門「德宗領ニ沙汰出來テ、地下ノ公文ト相模守ト訴陳ニ番フ事アリ」

とく-そく (名) 督促 取締リウナガスコト。セックコト。催促スルコト。漢書、成帝紀「督二趣逐捕一」注「師古曰、趣、讀曰レ促」

とく-たい (名) 得替 (一)カハルコト。失フコト。得ノ字ヲ帶說トス。沙石集、八、下、第十四條「小所領、知行セシ時ハ事闕ケズ、云云、所領得替ノ後ハ、ヒタスラ蓉露ノ如クニテ、唯ニ紙衾着テ寐ルニ」江家次第、四、定二受領功課一「凡受領見物得替之時、致二其缺失一」考課令「若得替人被レ使、後得レ替者、替後使日、亦聽二通計一」(二)當領主ヲ替ヘテ、新領主ヲ置クコト。吾妻鏡、一、治承四年八月九日「不レ忘二舊好一分、不レ爽二平家權勢一之故、得二替相傳地佐佐木庄一」

とく-たい (名) 特待 特ニ待遇スルコト。特別ノ取扱。「特待生」

とく-だう (名) 得道 (大道ヲ會得(エトク)スル義) (一)佛道ノ悟(サトリ)ヲ得タルコト。法華經、方便品「我今所レ得道、亦應レ說二三乘一」學道用心記(道元)「古來得道得法之聖人、雖レ有二同鑒之方便一、未レ有二名利之邪念一」盛衰記、四十三、二位禪尼入海事「法華經ニアラズバ、得道シガタシ、追善ニハ、提婆品讀誦書寫シテ、廻向セヨ」(二)得心スルコト。好色二代男(貞享、西鶴)八「女郎ヨリハ美形ナキ事ヲ得道シテ、又、揚屋ニ入ルトカヤ」

とく-たく (名) 德澤 德化ノ餘澤。恩ノ及ブ所。メグミ。恩惠。詩經、小雅、車舝篇、序「車舝、大夫刺二幽王一也、云云、讒巧敗レ國、德澤不レ加二於民一」史記、主父偃傳「先帝之德澤未レ衰、而安レ土樂レ俗之民衆」

どく-たけ (名) 毒茸 有毒ノキノコ。天狗茸、月夜茸ノ類。毒菌。

どく-だち (名) 毒斷 どくだて(毒斷)ニ同ジ。

とく-だつ (名) 得脫 (生死ノ苦ヲ脫(マヌカ)ルル意) 佛經ノ語。苦患(クゲン)ヲ脫ルルコトヲ得ルコト。地獄經、二「口稱二南無三世佛一、得脫無暇苦厭身一」遺教經「雖二復出家一、猶未二得脫一」著聞集、一、神祇「來世ノ得脫モタノシクテ」「成佛得脫」

どく-だて (名) 毒斷 又、どくだち。病氣ノトキ、身體ノ害トナリ、又ハ、服藥ノ妨ゲトナル飲食物ヲ避ケテ食ハザルコト。禁食。禁忌。浮世風呂 文化、(三馬)二編、上「コクおどくだてヲ、オ氣フツケナサイマシヨ」

どく-だみ (名) 蕺草 (毒痛(ドクイタミ)ノ意カト云フ) 古名、シブキ。草ノ名。何地ニモ多シ。春、舊根ヨリ生ズ、高サ七八寸、葉ハ互生シ、團ク尖リテ厚ク、甚ダ臭氣アリ。夏、四瓣ノ白花ヲ開ク、根食フベシ。又、葉、及、根ヲ藥用ニ供ス。ジフヤク。シブトグサ。大同類聚方、八十七「度久太美」大和本草、九、雜草類、蕺草「どくだみト云、又、十藥トモ云、甚臭アシシ、云云、駿州、甲州ノ山中ノ村民、どくだみノ根ヲホリ、飯ノ上ニオキ、ムシテ食ス、甘シト云、云云、サレドモ本邦ノ人、アマネク食ハズ、菜トスベカラズ、且有二小毒一ト云、和流ノ馬醫、用レ之馬ニ飼フ、十種ノ藥ノ能アリトテ、十藥ト號スト云」

どく-だん (名) 獨斷 (一)己レ一個ノ見込ニテ決斷スルコト。ヒトリギメ。史記、李斯傳「生則有二尊重之勢一、死則有二賢明之謚一也、是以、明君獨斷、故權不レ在レ臣也」(二)十分ノ研究ヲセズシテ、判斷スルコト。

とく-ち (名) 特地 (一)特別ナル土地。(二)(地ハ助字。多ク副詞ニ用キル) ワザト。殊更ニ。特別ニ。從容錄「奪也、我何特地」杜甫詩「幾時來二翠節一、特地引二紅妝一」戴叔倫詩「殘雪去年梅、凌寒特地來」洛浦禪師、偈「斬新日月、特地乾坤」

〜ど-ぐち (名) 戶口 門戶ノ出入スベキ所。出入口。ハヒリグチ。伊勢物語、六段「男、弓ヤナグヒヲ負ヒテ、戶口ニ居リ」

とく-ちやう (名) 特長 特ニ拔ンデ、長ジタルコト。特殊ノ長所。

どく-ちゆう (名) 毒蟲 ドクムシ。高適詩「梯巘近二高鳥一、穿レ林經二毒蟲一」

とく-ちよう (名) 特徵 (一)特別ニ目立チタル徵(シルシ)。特殊ノ徵候。(二)特別ノ御召シ。後漢書、樹護傳「天之生レ固、必將レ為レ漢、宜ト蒙二特徵一以示中四方上」

ど-くつ (名) 土窟 ツチアナ。土中ノホラアナ。神仙傳、一、葛洪「李意期於二城都角中一作二土窟一居レ之」

どく-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 毒突 毒口ヲ云フ。惡口スル。罵詈ス。浮世風呂 文化、(三馬)四編、上「嬶嫗(オヤマゲイコ)娘ナードヲ引連テ、手ヲヒキ合ツテアルクガ、一向、目ダタズ、江戶デ見タガイイ、ソレコソ口口ニ毒づいテ、大騷タガー」

とく-てい (名) 特定 特ニ、コレト定ムルコト。特別ニ、コレト指定スルコト。

とく-てん (名) 特典 出格ナル撿。又、特別ナル恩典。「經試驗檢定ノ特典」

とく-てん (名) 得點 得タル點數。

とく-てん (名) 特點 特別ニ他ト異ナル箇所。

とく-と (副) 篤 ツラツラ。ヨクヨク。念ヲ入レテ。トックリト。得與(トクト) 熟 狂言記(異本)拔殼「何ゾ忘レサセフレタ事ガ御サラウ程ニ、とくと思ヒ出シテ見サセラレイ」「とくと考フ」「とくと見ル」

とく-ど (名) 得度 (佛教ニテハ、生死ヲ海ニ喩ヘ、涅槃ヲ彼岸ニ比シ、其生死ヲ越エテ涅槃ニ至ルヲ、度ト云フ。卽チ、得度トハ、度(ド)ヲ得ル意。猶、度ノ條ヲモ見ヨ) (一)出家シテ、佛道ニ入ルコ

ト。[illegible]、下「[illegible]所願、皆可ニ得度ニ」遺教[illegible]、[illegible]法正宗記「[illegible]」

僧トナルコト。古ヘ、僧タラムト欲スル者、其理由ヲ治部省玄蕃寮ニ申セバ、コレヲ太政官ヨリ御亀ノ證文ヲ下サル、コレヲ度緣ト云フ。(天平六年ニハ、師ニ就キテ淨行三年ノ後、法華經、最勝王經ノ諳誦ニ通ズルモノヲ許可セシガ、延曆十七年ニ至リテ、經論ノ大義十條ヲ試ミ、五以上通ズルモノハ、之ヲ許スコトナレリ）半陶藁、二「得度于北山等持院、院主元伯和尚爲之戒師ニ」(三)後ニハ、唯、兒ナドノ僧トナルコト。

とく-とう　(名)　[特等]　特別ナル等級。トビキリ。「特等席」

とく-とう　(名)　[禿頭]　毛髮ノヌケタル頭、ハゲアタマ。[illegible]

とくとう-びやう（トクトウ-ビヨウ）(名)　[禿頭病]　たいわんばうず(臺灣坊主)ノ條ヲ見ヨ。

とく-とく　(副)　[疾疾]　ハヤクハヤク。イソギテ。イマスグニ。トウトウ。[illegible]三、上「とくとくトイソガシ聞コエサスレバ」

とく-とく　(副)　得得　深ク心ニ滿足シテ、其意ノ外ニ現レタル狀ニ云フ語。[illegible]

どく-とく　(名)　[獨得]　師ニ就カズシテ、自分自ラ會得シタルコト。[illegible]

どく-どく　(副)　(一)大ナル德利ナドヨリ、酒、水ヲ出ス音ニ云フ語。(二)水ノ烈シク滯キ流レ、又ハ、血ノ迸リ出ヅル狀ニ云フ語。混混

とく-とく・し　シキ・シケレ・シク・シク　形、(二)　[得得]　肥エテ福福シ。貧相ナラザルナリ。[illegible]

⁂どく-どく・し　シキ・シケレ・シク・シク　形、(二)　[毒毒]　(一)イカニモ毒アルガ如シ。(二)ドクヅクサマナリ。[illegible]　(三)淡泊ナラズ。クドクドシ。シツコシ。

ドクトル　(名)　「蘭語、Doctor. 英語、Doctor.」(一)醫師。(二)博士。

とく-み　(副)　[疾、既]　トウニ。ハヤク。前ニ。[illegible]

とく-み　(副)　[特]　コトニ。コトサラニ。トリワケテ。別段ニ。[illegible]

とく-にち　(名)　[德日]　陰陽家ニ云フ語。をあにち(寶日)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

とく-にん　(名)　[德人]　(一)德アル人。有德ノ人。トクジン。(二)富メル人。[illegible]

とく-は　(名)　[特派]　特別ニ派遣スルコト。[illegible]

どく-は　(名)　[讀破]　[illegible]ヲ讀ミハルコト。終リマデヨミトホスコト。[illegible]

とく-ばい　(名)　[特賣]　(一)特別ノ廉價ニテ賣ルコト。特價ニテ販賣スルコト。(二)特定ノ人ニ賣渡スコト。

とく-はう　(名)　[特報]　特別ニ報知スルコト。

とく-ばう　(名)　[德望]　多クノ人ヨリ、其德ノ尊ビ仰ガルルコト。[illegible]

どく-はく　(名)　[獨白]　[illegible]相手ナク、獨ニテ言フコト。

とく-はつ　(名)　[禿髮]　[illegible]

とく-はつ　(名)　[突發]　[illegible]

とく-はふ　(名)　[讀法]　軍人、及、軍屬ガ、[illegible]

[illegible]

とく-び　(名)　[利代]　先ノ失レル切株。[illegible]

とく-ひつ　(名)　[illegible]

[illegible]

とく-ひつ　(名)　[illegible]

どく-ひつ　(名)　[illegible]

どく-ふ　(名)　[毒婦]　心惡シク、人ヲ害ス[illegible]

ル女。奸惡ナル女。惡婦　奸婦

とく-ふう (名) 德風 「論語、顏淵篇「君子之德風也、小人之德草也、草尙之風、必偃」ニ因ル」道德ノ感化。仁德ノ風化。

とく-ぶん (名) 得分 得タル分。トリダカ。マウケ。利分。盛衰記、三十五、高綱渡二宇治川一事「行親ガ今日ノ得分ト思ヒテ、十四束ヲ取ツテ番、引堅テ兵ト放ツ」

とく-へう (名) 得票 投票セラレタル其數。獲得シタル投票ノ數。

とく-べつ (名) 特別 コトサラナルコト。普通ナラザルコト。格別。格段。

とく-べつ-たうざよきん (名) 特別當座預金 こぐちたうざよきん(小口當座預金)ニ同ジ。

とく-べゑい (名) 德兵衛 膏藥ノ名。陸奧國、青沼ヨリ出ヅルアカギレノ妙藥。伊達政宗ノ臣、梁川庄兵衛ノ若黨、德兵衛ト云フモノ、主家祕傳ノ法ヲ傳授セラレ、退隱シテ在所ニテ賣リ出シ、大イニ世ニモテハヤサル。文化の川柳「アヒタイト、德兵衛サンヲ、下女ハ待チ」

どく-ぽ (名) 獨步 (一)ヒトリアルキ。同伴ナキコト。獨行。漢書、李陵傳「陵便衣、獨步出、營」吾妻鏡、一、治承四年八月六日「是於、人靈、被、禁、獨步之思、至二一家門草創之期、令、求二諸人之一族一給御計也」下學集、下、態藝門「獨步、唯我一人之義也」(二)他ニ、クラブベキモノナキコト。他ニ匹儔ナキコト。曾植、與二楊德祖一書「昔仲宣獨二步於漢南、孔璋鷹二揚江（河）一」古今集、眞名序「有二先師柿本大夫者、高振二神妙之思、獨二步古今之間一」白河文書、親房卿事書「不、可、蓄二弓箭名一事ヲノミ被二獨步一候キ」

どくぼく-けう (名) 獨木橋 丸太ナドヲ一本渡シテ、橋トシタルモノ。マルキバシ。一本橋。彴　獨梁　略彴　廣志(晉、郭義恭)「獨木之橋曰、榷、亦曰、彴」

どくぼく-しう (名) 獨木舟 太キ丸太ナドヲ、刳リ拔キテ舟トシタルモノ。マルキセン。マルキブネ。ウツホブネ。獨木刳舟。獨木船。星槎勝覽(明、費信)「[illegible]獨木舟、賣二椰實一」

どく-ほん (名) 讀本 讀ミ習フタメニ作ラレタル本。ヨミホン。敎本。

ドグマ (名) 〔英語、Dogma〕(一)敎義。敎理。(二)獨斷。

どく-まくり (名) 毒掠 海藻ノ名。まくり(海仁草)ノ條ヲ見ヨ。

どく-み (名) 毒試 (一)食物ニ、毒アリヤ無シヤヲ、嘗メテ試ルコト。[illegible]胡故事談(寬政)「御膳番、御毒味ヲスル也」(二)おにくひ(鬼食)ノ條ヲ見ヨ。

と-くみ-どんや (名) 十組問屋 江戸時代、內地貿易ヲナシタル十組ノ問屋。卽チ塗物店組、內店組(絹布、太物、繰綿、小間物、雛人形)、通町組(小間物、太物、荒物、塗物、打物)、藥種店組(藥種、砂糖)、釘店組(釘、鐵、銅類)、綿店組、表店組(疊表、青筵)、河岸組(水油)、紙店組(紙、蠟燭)、酒店組等ナリ。初、元祿七年、江戸ノ商人、川上伊兵衛ト云フモノ、大坂ニ海送シタル貨物ノ、屢、難船ノ災害ヲ被リシカバ、本船町、室町、吳服町、本町、大傳馬町等ノ大商家ト相談シ、廻送業者ニ對スル荷主ノ同盟者ノ如キモノヲ作リタルガ起因トナリ、非常ニ荷主ノ心ヲ強ウセリ。依リテ加盟ヲ希望スルモノ多ク現ハレ、享保年間ニハ廿二組ノ多キニ達シタリ。然レバ大坂ニモ、又、十組問屋ノ生レ出デテ、江戸ト連絡ヲナシツツ發達シ、江戸ノ廿二組ノ問屋ヲ包容スル際ニハ、大坂ハ廿四組ノ問屋ヲ包容スルニ至レリ。然レバ天明四年ヨリ、年年、百兩ノ冥加金ヲ幕府ニ上納シテ、加入權ヲ株式賣買トナシタリ。コレ、今日ノ財團法人タルコトヲ、政府ニ容認セシメタル狀態ナリ。其後、菱垣廻船ト樽廻船トノ競爭ニヨリ、菱垣廻船ノ敗退セシカバ、文化五年、江戸ノ杉木茂十郎ト云フモノ、菱垣廻船側ノ問屋ヲ聯合シテ、十組問屋ヲ復興シ、自ラ頭取トナリテ、年年、壹萬二百兩ノ冥加金ヲ上納シテ、特權ヲ得ルニ至リ、江戸ニ於ケル內地貿易ハ、十組問屋ノ指定商ノ如キ、獨占權ヲ帶ブル姿トナリタリ。德川禁令考、四十五、商估、文化六年六月「十組問屋冥加金、申渡、此度十組問屋共相願出候上金高、都合八千百五拾兩之儀ハ、每年、其方共ヨリ直ニ當御役所ヘ可二相納一候」

とく-む (名) 特務 特別ノ任務。

とくむ-さうちやう (史) 特務曹長 陸軍ノ准士官、各中隊ニ附屬シテ、中隊長ヲ補佐スルモノ。

どく-むし (名) 毒蟲 (一)毒ヲ有シテ、人ノ身ヲ害フ蟲。ドクチュウ。老子、第五十五章「含德之厚、比二於赤子一、毒蟲不、螫、猛獸不、據、攫鳥不、搏」宇治拾遺、三、十六條「ソコラノ毒蟲ドモ出テ、子ドモヲモサシクヒ、女ラバサシ殺シテケリ」(二)難題ナドヲ吹キカケテ、人ニ忌ミキラハルルモノ。

とく-めい (名) 特命 コトサラナル、オホセツケ。特別ナル命令。[illegible]史劾之、帝雖二其言一、下二付書省一議、退日、[illegible]特命也、直以二常命一拒、特命ハ執事所、宜、[illegible]」

とく-めい (名) 匿名 姓名ヲカクスコト。實名ヲ知ラセヌコト。舊唐書、王琚傳「爲二淮南節度一、云云、嘗甞二理自ら遠、匿名書一於前一者、云云、[illegible]中二[illegible]、世隆傳、[illegible]匿名之書、自勝二其門一」

とく-めい-ぜんけん-こうし (名) 特命全權公使 ぜんけんこうし(全權公使)ノ條ヲ見ヨ。

とく-めい-ぜんけん-たいし (名) 特命全權大使 ぜんけんたいし(全權大使)ノ條ヲ見ヨ。

どく-や (名) 毒矢毒箭 毒藥ヲ、鏃ニ塗リタル矢。藥矢 韓愈、祭二鱷魚一文「刺史則[illegible]材技吏民一、操二強弓毒矢一、以與二鱷魚一從事、必盡殺乃止」氏[illegible]記、九戸城沒落[illegible]「[illegible]前[illegible]矢ノ射サセントテ、夷人少少被二召連一」蝦夷行記「男ノ道具ハ、半弓毒箭ナリ、矢ハ三尺許ノ矢竹ニ、[illegible]ヲ二[illegible]ツケタリ、[illegible]ハ木ヲケヅリテ[illegible]ヲ[illegible]リ付ル、[illegible]ノ射ルニ、タメネロフ事ナク、中タメニシテ射ハナツ」

とく-やく (名) 特約 (一)特別ニ約束スルコト。又、其約束。(二)特別ノ條件ニテ約束スルコト。又、其約束。

どく-やく (名) 毒藥 毒トナリテ、人ヲ害フベキ藥。毒ニナル成分ノ藥劑。史記、留侯世家「沛公、[illegible]秦宮一、意欲、留二居之一、[illegible]不、聽、良曰、忠言逆、耳利二於行一、毒藥苦、口利二於病一、願沛公聽二樊噲言一」宋史、徽宗紀「禁下苑東門所、儲二毒藥、可二以殺一、人者、[illegible]得二復貢一」律疏、賊盜「凡以二毒藥一藥、人、及賣者殺、[illegible]用者近流一」

とく-よう (名) 德用 (一)用キテ益ノ多キコト。利方。(二)マウケ。利得。得

分。（三）有德ニシテ、才略ノアルコト。盛衰記、一、得長壽院導師事「次ハ堂道場ノ供用ヲ備ヘタリ、殿ハ御分ノ善根ヲ植エタリ」

どくよけ（名）［毒除］中毒ヲ豫防スルコト。又、其物。

とぐら（名）［塒］［鳥栖］（鳥座ノ義）鳥ノ、夜、寐ル處。鳥ノねぐら。箋注倭名抄、七「塒、止久良」天治字鏡、七「樑、雞栖杙、止久良」萬葉集、十九、長歌「枕附、妻屋ノ内ニ、鳥座結ヒ、スエテゾ我ガ飼フ、眞白斑ノ鷹」

とぐら（名）［塒］とぐろ（塒）ニ同ジ。

どくらく（名）［獨樂］（一）ヒトリ樂シムコト。孟子、梁惠王、上篇「民欲ニ與レ之偕亡一、雖レ有ニ臺池鳥獸一、豈能獨樂哉」晏子春秋、内篇、雜上「大夫以下、各與ニ其僚一、無レ有ニ獨樂一、今上樂ニ其樂一、下傷ニ其費一、是獨樂者也、不可」司馬光、獨樂園記「不レ知ニ天壤之間、復有ニ何樂可ニ以代一レ此也、因合而命レ之、曰ニ獨樂一」蘇軾詩「雖レ云レ與レ衆樂一、中有ニ獨樂者一」（二）ヒトリ酒飲ムコト。獨酌。（三）ツムクリ。コマツブリ。コマ。こまつぶり（獨樂）ノ條ヲ見ヨ。

とくり（名）［德利］「酒ノ出ヅル音ヨリ名トス」又、一說ニ、曇具理ノ義トモ云フ。曇ハ壜ニ同ジ、具理ハ鉼ナリト」陶製ノ、細ツク、高ク、頸窄マリタル瓶ノ稱。酒、酢、醬油ナド貯フルニ用キル。トックリ。壜子。易林節用集（慶長）上、食服門「德利、トクリ、得利、トクリ」宗長日記、享祿）九月十三夜「鐵南老人、豆ニ德襄ヲ添ヘ、持タセ送ラル」散木集、四、冬二、酒盛ノ、調德樂トモ、見ユレカナ、タフとくりキテ、舞ヒヨロボヘバ」風俗歌（寛永ノ頃）「トクトクト、酒ヲ垂ラシテ、吳ク井テ突、とくりナケレバ、夜ガアケヌ」

とくりご（名）［德利兒］雙子、又ハ、[illegible]、目、口、耳ナド不具ナル兒。（德利手ノ[illegible]見セ[illegible]）[illegible]手人、俗云、止久利古」雙生隅田川（享保、近松作）三「如何モ客ノ間ニ合ハヌガ、合點カ、ハテ見付サヘ能ケレバ、三ツ足デモ、德利子デモ構ハヌ」

どくりつ（名）［特立］（一）衆ニヌキンデテ居ルコト。（二）他ニタヨラザルコト。禮記、儒行「其特立獨行、有ニ如レ此者一」

どくりつ（名）［獨立］ヒトリダチ。易林節用集（慶長）上、言語門「獨立、ドクリツ」後漢書、[illegible]傳「特ニ詔公車一大會ニ宰臣一、[illegible]獨立、光武問ニ其意一」杜甫詩「[illegible]人[illegible]、在[illegible]獨立」李白詩「獨立山海間、空老ニ聖明代一」

どくりつかおく（名）［獨立家屋］軍隊用語。いっけんや（一軒家）ノ條ヲ見ヨ。

とくりで（名）［德利手］手ノ臂ヨリ先、切レテ無キ不具者。（切リ口ノ窄マリテ、恰モ德利ノ如キ形ヲナシタレバ云フ）齊諧俗談「どくり手ト云フ有リテ、延寶年中、津ノ國大坂ニテ、生レナガラニシテ、兩ノ手ナキモノアリ、足ニテ用ヲ辨ズ、凡文字ヲ書キ、[illegible]居ヘ出テ[illegible]ヲなフ」[illegible]

どくりと（副）水ヲ呑ム音ニ云フ語。

どくりどくり（副）水ナドノ、狹キ口ヨリ走リ出ヅル音ニ云フ語。

どくりょく（名）［獨力］己レ一個ノ力。唯一人ノ仕業。一手。「獨力經營」

どくるよし（名）［解由］（字ノ訓讀）げゆ（解由狀）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

とくれい（名）［督勵］トリシマリ、ハゲマスコト。[illegible]北史、[illegible]「[illegible]以督ニ勵之一」

とくれい（名）［讀例］ヨミクセ。

とくれい（名）［特例］（一）特別ナル法例。（二）特別ナルタメシ。

とぐろ（名）［塒］[illegible]蛇ノ、其身ヲ渦ノ如ク卷キテ、ワダカマルコト。とぐろ卷くトモ云フ。[illegible]

どくろ（名）［髑髏］されかうべ（髑髏）ニ同ジ。名義抄「髑髏、ドクロ」莊子、至樂篇「莊子之レ楚、見ニ空髑髏一、髐然有レ形、撽以ニ馬捶一」[illegible]只有ニ一之髑髏一、[illegible]其髑髏ノ目穴ヨリ、薄生ヒ出デタリケリ、毎ニ風吹一、薄ノナビク音、如レ此聞エケリ」

とぐろまく[illegible]地ニ支ヘ、鎌首ヲ前後ニ動カシ、勢ツケテ、ソレヨリ敵ニ咬ミツク。又、市虎ノ飛躍セムトスル時、姿勢ヲナスヲモ、とぐろまく、又ハ略シテ、卷くトモ云フ。又、トグラマク。狂言記、[illegible]「とぐろヲクルクルト卷きマシテ、鎌首ヲキットモテアゲ」

とくゎい（名）［都會］大ナル市街。ミヤコ。[illegible]

どくゎい（名）［度外］心ニ掛ケヌコト。トカマヒセヌコト。[illegible]

どくわか（名）[illegible] せんだまんざい（千秋萬歳）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]わかト云フ。御萬歳。[illegible]

どくゎん（名）［土管］土製ノ圓キ管。陶[illegible]

とげ（名）［刺］（一）草木ノ葉、莖ナドニ生ズル針ノ如キモノ。[illegible]トゲ。（二）竹、木ノソゲタル端ナドノ、人ノ肌ニ立チテ傷ツケタルモノ。ソゲ。（三）魚骨ナドノ、咽内、食道ノ邊ニ立チテ、傷ツクルモノ。[illegible]

とげぬき[illegible]

とけあ・ふ（ウ）・ハ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［解合］（一）隔心ナク、互ニ解ク。和熟ス。（二）示談ニテ、取引ノ契リヲナス。

とけい（名）［時計］（一）古ヘ、支那ニテ、方角、日影ヲ測ル磁針ヲ、土圭ト云ヒシ、其轉カト云フ。近代ノ製ナルハ、慶長十五年、始メテ西班牙國ヨリ渡レリ。朝鮮語、時計トイフ。時刻ヲ測リ知ル機械、銅、鐵製ノ刻齒アル輪ヲ、數箇相接シ、鋼製ノぜんまいナド、種種ノ機アリ、其ぜんまいノ反撥力ニヨリテ齒車ニ運動ヲ與ヘ、時針、分針、秒針ヲ動カシ、長短ノ針ハ、迴リテ、前面ノ時ノ字ヲ指シ示ス。時辰儀　時到レバ自ラ鳴ル機アルヲ、鈴打ナド云フ。自鳴鐘　柱時計、掛時計、袂時計、根付時計、懷中時計、腕時計、等ノ稱アリ。又、水時計、沙時計モアリ。各條ヲ見ヨ。　張衡、東京賦「土圭測レ景」大子集（寛永）「枕上ノ、時計ニ夢ヲ、サマサレテ」附句「南蠻人ノ、月ヲ見ルサマ」俳諧袋（享保）「親ノ代ノ、時計ツクラフ、卯月哉」東雅（享保、新井白石）七、器用「慶長年中ニ、西洋人、とけいト云フ者ヲ、マイラセシ事アリ、云云、其時ノ事、記セシ日記ニハ、斗雞ト記シタリケリ、コレハ明人シテ、其蕃語ヲ譯セシメテ、マイラセシ所ナリ、其器ノ制、北斗ノ形ノ如クナル者アリテ、其指ス所ニ隨ヒテ、其時ヲ知リ、自ラ鳴リテ時ヲ報ズル事、雞ノ如クナレバ、カクハ名ヅケシニヤ」

と-けい（名）［徒刑］（一）づざい（徒罪）ノ條ヲ見ヨ。（二）舊刑法ニテ、重罪ノ主刑ノ一、無期ト有期トニ分チ、島地ニ送リテ監獄ニ下シ、定役ニ服セシメシモノ。

とけい-さう（名）［時計草］蔓性ノ常綠草本、莖ハヨク絡ミ、ヨク茂ル。花ハ徑、凡ソ二寸、白色ニシテ日中ニ開ク。其開カムトスル時、中心ノ黃蘂、倒ルルサマ、時計ニ似ル故ニ名アリ。モト舶來種。

西番蓮　近代世事談（享保、菊岡沾涼）一、時計草「享保ノ始ニワタル、花五月ノ初ヨリ秋カケテ咲ク、紅紺白紫ノ色アリテ、葩二重ニカサナリ、芯多ク絲ヲ束ネタルガ如シ、一日ノ中、色品品ニカハリ、花形オモシロキ花也、長崎ニテ、ぼろんかつらト云フ」

とけい-の-ま-ばん（名）［土圭間番］江戸時代、若年寄ノ支配ニ屬シ、江戸城內、土圭ノ間ニ、宿直勤番スルモノ。大猷院殿御實紀、十七「曲淵甫藏吉次、土圭間番ニ加ヘラル」

とげ-うを（名）棘鰭魚　春部、及、腹部ニ銳利ナル棘アル小魚。體ハ小形ニシテ紡錘狀ヲナシ、淡水ニ棲息シ、水底ニ巢ヲ作リテ產卵ス。雄魚ハ其孵化後、一箇月許リハ、常ニ其巢ヲ守ル。イトウヲ。

と-げざ（名）［土下座］貴人通行ノ時ナド、地上ニ跪ヅキテ禮スル事。

とけ-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）ぉどけなしニ同ジ。薩摩歌（元祿、近松作）源五兵衞おまん夢分船「九里ノ渡シモ千里ノ如ク、とけないヤラ、怖イヤラ、氣ガ草臥テトロトロト」

と-けつ（名）［兎缺］いくち（兎缺）ニ同ジ。晉書、魏詠之傳「生而兎缺、醫曰、可二割而補一レ之、但須三百日進二粥、不レ得二笑語一」

と-けつ（名）［吐血］（一）病ノ爲ニ血ヲ吐クコト。喀血　醫心方、五、治二吐血一方「夫吐血者、皆由三大虛損及飲酒勞傷一所レ致也、云云」內科祕錄、七、吐血、又、嘔血トモ云フ、歷史ニハ皆嘔血ト書テアリ、其因、肺ヨリ出ルト、胃ヨリ出ルトノ二證アリ、云云」好色三代男（貞享、西鶴）四「次ノ男ハ、吐血シ」（二）今、專ラ、血ヲ胃ヨリ吐クヲ云ヒ、咳ト共ニ肺ヨリ吐ク喀血ト區別ス。

と-げつ（名）［涂月］陰曆十二月ノ異名。爾雅、釋天篇「十二月爲レ涂」

とげ-ぼう（名）［吐月峯］煙草盆ノ灰吹、竹ニ云フ語。駿河國、安倍郡、丸子村、柴屋ノ天柱山柴屋禪寺ヨリ製出スルモノ。吐月峯ハ寺ノ近クニアル山ノ名ナリ。同國島田ノ生レナル連歌師宗長ノ、永正元年ニ創立セシ寺ナリ。近傍、竹林多シ、寺ノ生業トシテ、竹細工ヲナス。其中ノ灰吹ニ吐月峯ノ烙印ヲ押ス。

とげ-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）利キ樣子ナシ。氣ノ利カヌナリ。竹取物語「カグヤ姬、逢ヒ給ハズト云ヒケレバ、コレヲ聞キテゾ、とげなきモノヲバ、アヘナシトゾイヒケル」

と-けん（名）［杜鵑］ホトトギス。とう（杜宇）、及、ほととぎす（時鳥）ノ條ヲ見ヨ。蜀王本紀「望帝死、其屍逆レ江而流至レ蜀、王杜宇、以爲レ相、宇自以二德不一レ及レ靈、傳レ位而去、其魄化爲レ鳥、因名レ此、亦曰二杜鵑一、卽望帝也」白居易詩、九江三月杜鵑來、一聲啼得一花開」邵氏聞見錄（宋、邵伯溫）「散二步天津橋上一、聞二杜鵑聲一」博物志「杜鵑生レ子、寄二之他巢一、百鳥爲飼レ之」

と・ける（動）解ク（下二段）、又、溶ク（下二段）ノ口語。

と・げる（動）遂グノ口語。

ど・ける（動）退ク（下二段）ノ口語。（東京）

とこ（名）［所］［止處ノ義カ］ところ（所）ニ同ジ。宇津保物語、俊蔭二十六「世ヲ思シハナレニケルとこノ御住家ニナム」

とこ（名）［床］［牀］［所ノ義］（一）特ニ寐ヌルニ設クル所。ネドコ。ネドコロ。フシド。臥床　萬葉集、十三卅五長歌「奧床ニ、母ハ寐ネタリ、外床ニハ、父ハ寐ネタリ」同、十四三十二「妹ガ寐ル、等許ノアタリニ、石クグル、水ニモガモヨ、入リテネマクモ」同、十七卅長歌「打チナビキ、等許ニ反側シ」古今集、十九、雜、誹諧「枕ヨリ、アトヨリ戀ノ、追メ來レバ、セムカタナミゾ、とこ中ニ居ル」曾丹集「秋ハテテ、ワガセナキミノ、絹エニヨリ、閨ノ夜床ヲ、トリゾタテテシ」（二）車ノ屋形ハ、ニ。車箱　倭名抄、十一、車具「車箱、車乃度古」天治字鏡、七四「軸、止己」榮花物語、廿三、月「御車ノとこカキオロシ給フ」（三）疊ノ心。（たたみノ條ヲ見ヨ）（四）床閒ノ略。（五）髮結床ノ略。（六）鐵床ノ略。（七）室床ノ略。（八）川ノ底。川床（九）漆塗レル器ヲ納レテ乾カス箱。「塗師ノ床」

とこ（名）犂底　犂ノ名所。ゐさり（犂底）ニ同ジ。

と-こ（名）［獨鈷］どくこ（獨鈷）ニ同ジ。枕草子、十二、百五十六段「几帳ノ前ニ居タレバ、外ザマニヒネリムキテ、イトホソウ、ニホヤカナルとこヲトラセテ」

とこ（接頭）［常］［時ノ轉カ、時ハ萬世、常ナル意］物事ノ、常ニシテ、變ハラザルヲ云フ語。萬葉集、十七二「タチバナハ、常花ニモガ、時鳥、スムト來鳴カバ、聞カス日ナケム」同、同卷四十「タチヤマニ、フリオケル雪ノ、登許奈都ニ、消ズテワタルハ、カムナガラトゾ」古事記、上一注「訓レ常云二登許一」

と-ご（名）［都護］（一）支那、漢代ノ官名。一地方ノ軍政ヲ掌リシモノ。「西域都護」（二）あぜち（按察使）ノ唐名。易林節用集（慶長）上、官位門「都護、トゴ、按察使」下學集、上、官位門「按察使、アンサツシ、アゼチ、都護、トゴ」

と-こ（名）［奴袴］ぬばかま（奴袴）ニ同ジ。サシヌキ。字類抄「奴袴、サシヌキ」

どこ（代）［何處］いづこ（何處）ノ約轉。梁塵祕抄　治承）二、佛歌「ホトケハ、どこヨリカ、イデタマフ」義經記、七、判官北國落事「どこ山伏ト、トハンズル時ハ、どこ山伏トカイハンズル」

ど-ご（名）［土語］其土地ノコトバ。クニコトバ。キナカコトバ。鄕談。方言

｛ど-こう (名) [土公] どくぶん(土公神)、又、どくう(土公)ノ條ヲ見ヨ。

ど-こう (名) [土工] (一)土地ノ開發、道普請ナド、土地ニ關スル工事。又、其工事ニ從事スル人夫。土功。(二)燒物ヲ作ルヲ業トスルモノ。スヱモノシ。禮記、曲禮、下篇「天子之六工、云云、土工、金工、石工、云云」

ど-こう (名) [土功] 前條ノ語ノ(一)ニ同ジ。

とこ-かざり (名) [床飾] 貴人、來臨ノ時ナド、床間ニ飾付スルコト。三幅對ノ掛物、盆石ナド飾ル。俗家ニテ、祝日ナドニ、書院ニ、佛前ノ三具足、喚鐘、拂子ヲ飾ルヲ眞ノ飾ナド云フ。貞徳文集「御成座敷飾物之事、先、床ハ三幅一對掛物、云云、盆石、石菖鉢、云云、皆以[illegible]樣[illegible]御座候得共、[illegible]已來、墓[illegible]無之候」

とこ-かへり (名) [展轉] コイマロブコト。こゐゆ(臥)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。名義抄「展轉、トコカヘリ」字類抄「展轉、トコカヘリ」

とこ-かまち (名) [床框] とこぶち(床緣)ニ同ジ。

｛と-ごころ (名) [利心] 利キ心。ココロト。鋭キ心。元氣。萬葉集、十一「イデ如何ニ、ココダ甚ダ、利心ノ、失スルマデ思フ、戀フラクノユヱ」同、十二「聞キシヨリ、物ヲ思ヘバ、我胸ハ、割レテ碎ケテ、鋒心モナシ」

とこ-さ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [床避] 君ノ床ヨリ、片去ル。かたさる(片去)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]田大宮[illegible]、日本武尊[illegible]歌「愛知潟、日上姉子ハ、我ト來ムト、止言佐留ラムヤ、アハレ姉子ヲ」

｛とこ-しき (名) [褥] 一床敷ノ義一 シトネ。天武紀、下、十年三月「[illegible]、褥」

｛とこ-し・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [常如久] [常頻くノ意] イツデモアル。萬葉集、十[illegible]「白雪ノ、とこしく降ル[illegible]ニケラシモ、[illegible]ナビク野[illegible]ノ、ウグヒス鳴クモ」

とこ-しなへ-に (副) [常長鎭] 「常し竝」ノ轉、しハ休メ詞ト云フ。或ハ云フ、常押竝ノ約カト。イツマデモ變ハラズニ。永久ニ。トコシヘニ。トコトハニ。タエズニ。ツネニ。名義抄「[illegible]古、トコシナヘ」字類抄「長、トコシナヘ」最勝王經[illegible]「[illegible]、止己之奈へ(副)」夫木抄、三十六、述懷「老イテヌル、日ハハヤサメヌ、とこしなへに、ヨハニアクレバ、ネテノミゾフル」

とこ-しは (名) [常磐] [常し岩ノ約] 又、約メテ、とこは。ときは。磐ノ無窮ニ變ハラザルヲ云フ語。

｛とこ-しばり (名) [床縛] 「床ハ車ノ屋形ノ稱」牛車ノ具。車ノ軸ト共ニ、車箱ヲ連ネテ縛ル索。[illegible] 倭名抄、十一 車具「[illegible]、車下[illegible]也」[illegible]物語、二「イサカヒシケル程ニ、一ノ車ノとこしばりヲ、フツフット切リテケレバ」

｛とこ-しへ-に (副) [常長鎭] とこしなへにニ同ジ。允恭紀、十一年三月、衣通郎姫歌「等虚辭陪適、君モ逢ヘヤモ」萬葉集、九「常之倍爾、夏冬行ケヤ、裘、扇放タヌ、山ニ住ム人」同、十八長歌「等己之部爾、斯クシモアラメヤ」

とこ-ずれ (名) [床擦] 久シク病床ニアルタメ、肩、腰、又、臀ナド、擦レ傷ミテ、其部ノ生氣ヲ失ヒテ發スル瘡。トコヅメ。褥瘡

とこ-つち (名) 床土 床ノ間ナドニ塗ル上等ノ土。マサツチ。

とこ-づつみ (名) 次條ニ同ジ。字[illegible]

[illegible]疾、トコツツミ、久病身付枕也」

とこ-つ-み (名) [illegible]

とこ-づめ (名) [床詰] [病床ニ寢詰メタル意カ] とこずれ(床擦)ニ同ジ。

とこ-とこ (副) 足輕ゲニ歩ム音ニ云フ語。

とこ-とこ-までも (副) [illegible]ニ同ジ。

｛とこ-とは-に (副) [常[illegible]] 「常之[illegible]」永久變ハルコトナク。行末長ク。[illegible] トキハニ。名義抄「[illegible]常、トコトハ、コノツネ」[illegible] 立ツ日コソ、涼シカリケレ」

とこ-なつ (名) [常夏] (一)[何時モ夏ナ]ルコト。トコシナヘニ夏ナルコト。[illegible] (二)[illegible] 名。花ノ盛リ、春ヨリ秋ニ亙レバ云フ。(なでしこノ條ヲ見ヨ) 倭名抄、廿[illegible] [illegible]リ行ク、野邊ナガラ、ナホとこなつニ、見ユル撫子」[illegible]レバ、ウベとこなつニ、戀シカリケリ」[illegible]

｛とこ-なつか・し シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [illegible] 常ニナツカシ [illegible] モトノ[illegible]ヲ、人ヤ[illegible]ネム」[illegible] なつかしき、野邊ナガラ、ウタガヒオケル、露ゾ[illegible]ナキ」新六帖、五「ナレナレシ、人ノ匂ヒノ、カヲリ[illegible]」

｛とこなつ-に (副) [illegible] 常住ノ意 とこしなへに、常ニ同ジ。[illegible] ズテリタルハ、神ナガラトゾ」

とこなべ-やき (名) [常滑燒] 尾張國、知多郡、常滑町ニテ、製スル陶器。瓶、鉢ノ類[illegible] ナリ、薄ク釉ヲ施ス。紫褐、又ハ黄ナリ。[illegible]

｛とこ-なめ (名) [常滑] 水中、或ハ、日光ノササヌ谷道ノ古キ巖ニ、水苔ノ如ク、滑ツルツルスベリヤスキトコロ。[illegible]「見レド飽カヌ、吉野ノ川ノ、常滑ノ、絶ユルコトナク、マタ還リ見ム」[illegible]

とこなめ-やき (名) [常滑燒] とこなべやきニ同ジ。

とこ-の-うみ (名) [床海] [illegible] 涙ヲ流レ溢ヘテ、海ノ如クナルニ譬ヘテ云フ。[illegible]

とこ-の-ま (名) [床間] 書院、客間ナドノ[illegible] ノ佛壇ノ遺ナリト云フ。[illegible] 三幅對ヲ掛ク、前ニ押板ヲ置キ、其上[illegible]

ニ三具足ナド供ヘキ。其押板ヲ床ト云ヒ、ソレガ次第ニ移リテ、遂ニ作リツケニナリタルモノト云フ。貞丈雜記、十四、家作「一座鋪ノ上座ニ、床ト云フ物ヲ作ル事、上古ニハナキ事也、中古以來ノ事歟、尊氏公、夢窓國師ニ歸依アリシヨリ、將軍家代代、禪家ノ國師ヲ師トシテ、御參禪アリシ也、然ル間、佛法、世ニハヤリ、出家ノ風俗、武家ニ移リタル事多シ、床モ佛家ニテノ佛壇也、本尊ヲ置ク所也、床ニ佛繪ヲカケ、三具足ヲカザル事ナド、皆出家ノ風也、書院ト云モ、佛書ヲ講ズル所也」

とこは（トコ・ウ）（名）[常磐]〔とこいはノ約〕トキハ。カキハ。萬葉集、六、十三「人皆ノ、命モ吾（アレ）モ、三吉野ノ、瀧ノ床磐（トコハ）ノ、常ナラヌカモ」

とこは（トコ・ウ）（名）[常葉] 葉ノ冬枯レヌ樹。又、ソノ葉。萬葉集、六、三十「橘ハ、實サヘ花サヘ、其葉サヘ、枝ニ霜降レド、彌常葉ノ樹」 續紀、八、養老五年十月、[illegible]常葉之樹」

とこばしら（名）床柱 床間（トコノマ）ノ前ノ左右ニ用ヰル柱ノ稱。又、床脇ノ假粧柱。茶室ナドナルハ、他ノ柱ト變ヘテ、異樣ナル材ナド用ヰル。好色一代男（天和、西鶴）六「女郎衆ノカタメノ誓文、大方ハ血文ナリ、床柱ヨリ琴ノ絲ヲ引キハヘ、女ニキラセタル黑髮八十三マデハ、名札ヲヨミヌ」 南畝莠言、上「人ノ家居ノ床柱ニ、皮ツキヲ用ル事オモシロシ、穀梁傳曰、禮天子之桷、斲之、礱之、加密石焉、諸侯之桷、斲之、礱之、大夫斲之、士斲本、今ノ床はしら、皮ツキニシテ本ヲケヅレリ、古人ノモノズキハ、格別ナルモノナリ」

とこばなれ（名）[床離]（一）寐床ヨリ起キ出ヅルコト。起床（二）夫婦ノ中ノ離ルルコト。

とこ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）[詛]〔說キ惡シカレト詛フ意カト云フ〕のろふ（ウ）詛ニ同ジ。但シ、言ニ擧ゲテ、術（ワザ）スルナリト云フ。又、とこふ。名義抄「詛、トコフ」 神功紀、四十七年四月「向レ天而呪詛（ノロヒトコフ）之」 雄略卽位前紀「指レ井而詛（トコヒ）曰、此水者、百姓唯得レ飲焉、王者獨不レ能レ飲矣」 神代紀、下廿「以レ鉤與二汝兄一時、則可レ詛言二貧窮之本、飢饉之始、困苦之根一而後與レ之」 私記「可詛言、止古比以波末久」

とこぶし（名）[常節] 形、鮑（アハビ）ニ似テ、小サクシテ、二三寸ニ過ギズ。味、淡シ、殼、薄ク、形、瘦セテ、孔ノ數多シ。物類稱呼、二、動物「鮑ノ小ナル物ヲとこぶしト云、土佐ニテながれこト云、今按ニ、とこぶしハ鮑ノ子ニアラズ、種類也」 重修本草綱目啓蒙、三十一、鰒魚「石決明（アハビ）ノ一種、小ナル者ヲとこぶしト云、一名、イズ（豐後）、センネン（豐前）、ナガレコ（土州）、此物、二三寸ノ大イサニ過ギズ、殼薄ク形狹セ、ソノ孔數多シ、八九孔ヨリ十一二孔ニ至ル、決明ノ形大ニシテ孔數少ニ異ナリ」

とこぶち（名）床緣 床間（トコノマ）ノ前ノ下ニ、横ニ亙ス材ノ稱。床板ト床疊ノ端トヲ、隱スタメノ假粧木ナリ。トコカマチ。好色一代女（貞享、西鶴）三「男ノ顏ヲ見ルモ恥シメシサウニ、御居間ノ床緣ヲ枕ニシ給ヒ」

どこまでも（副）アクマデモ。果（ハテ）ノハテマデモ。イヅクマデモ。ドコドコマデモ。

とこまんざい（名）[德萬歲] 小兒ノクサメスル時、マジナヒニ云フ語。くさめ（休息萬命）ノ條ヲ見ヨ。寬永發句帳「クサメヤ、德萬歲ノ、花ノ春」 袖中抄、廿「今案、今俗、正月元日、若早旦嚏、卽稱曰二千秋萬歲急急如律令一」

とこみせ（名）[床店] 持チ運ブベク作レル小サキ店。街上ニテ物ヲ賣ルニ用ヰル屋臺店。浮鋪

とこみや（名）[常宮] トコシヘニ變ハラヌ宮。萬葉集、二、二十五長歌「百濟ノ原ニ、神葬（カムハフリ）、葬（ハフリ）イマシテ、アサモヨシ、キノヘノ宮ヲ、常宮ト、高クシタテテ、神ノマニ、シヅマリマシヌ」

とこめづら・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）（トコ・メズラ・シ） 常ニメヅラシ。萬葉集、十一、廿七「難波人、葦火焚ク屋ノ、スシタレド、己ガ妻コソ、常目頰次吉（トコメヅラシキ）」

とこや（名）[床屋] かみゆひどこ（髮結床）ニ同ジ。

とこやま（名）[床山]（一）歌舞伎役者ノ結髮時代ニ、役者ノ髮ヲ結ヒ、月代（サカヤキ）ヲ剃（ソ）リナドセシ所。又、ソレヲ業トセシモノ。昔ハ劇場內ニ小部屋アリテ、ソコニテ役者ノ髮、月代ノ手入レヲナシ、鬘下ナドヲ直シ、又、ソノ歸宅スル時ニハ、常ノ髮ニ結ヘリ。今ハ、タダ、鬘ノ手入レヲスルモノヲ云フ。（二）相撲ノ髮ヲ結フヲ業トスルモノ。

とこやみ（名）[常闇] 永久、闇（ヤミ）ナルコト。トコヨ。神代紀、上廿七「六合之內、常闇而不レ知二晝夜之相代一」 萬葉集、二、二十五長歌「天雲ヲ、日ノ目モ見セズ、常闇ニ、オホヒタマヒテ」 同、十五、三十三「アハム日ヲ、其日トシラズ、常闇ニ、イヅレノ日マデ、アレコヒヲラム」 續千載集、九、神祇「久方ノ、天ノイハトノ、山ノハニ、とこやみハレテ、出ヅル月カナ」

とこよ（名）[常夜] 永久、夜ナルコト。常闇（トコヤミ）。古事記、上四「天照大御神、閉二天石屋戸一而刺許母理（サシコモリ）坐、云云、葦原中國悉闇、因レ此而常夜往（トコヨユク）」 神功攝政前紀「晝暗如レ夜、已經二多日一、時人曰二常夜行之一也」

とこよ（名）[常世]（一）トコシナヘニ、變ハラヌコト。トコトハナルコト。相變ハラザルコト。常住不變。古事記、下（雄略）四、三十「舞（マヒ）スル女（ヲミナ）、常世（トコヨ）ニモガモ」（舞ノ面白キニノタマヒシ語） 垂仁紀、廿五年三月「是神風伊勢國、則常世之浪、重浪歸國也」 萬葉集、三、五十二「吾妹子ガ、見シ鞆ノ浦ノ、室ノ木ハ、常世ニアレド、見シ人ゾナキ」 同、一、廿二長歌「我國ハ、常世ニ成ラム、圖負（フミオ）ヘル、アヤシキ龜モ、アラタ代ト」（二）長ナヘニ、老イズ死ナヌ、メデタキ國。常住不變國。蓬萊山。萬葉集、四、[illegible]「吾妹見ハ、常世ノ國ニ、住ミケラシ、昔シ見シヨリ、變若（ヲチ）マシニケリ」 同、五、廿「君ヲマツ、マツラノ浦ノ、處女ラハ、常世ノ國ノ、海人處女カモ」 同、九、水江浦島子歌「常代ニ至リ、海若（ワタツミ）ノ、神ノ宮ノ、云云、老イモセズ、死ニモセズシテ、永世（ナガキヨ）ニ、アリケルモノヲ」 雄略紀、廿二年七月「水江浦島子、云云、到二蓬萊山（トコヨノクニ）一」（三）方位モ、地名モ知レヌ底寄（ソコヨリ）國、異鄕。海外國。絕遠ノ國。遙ニ放キ隔タレル國。古事記、上四十九「其少名毘古那神者、度二于常世國一也」 同、同卷、七十二「御毛沼命者、跳二波穗（フミテ）一、渡二坐于常世國一」 垂仁紀、九十年二月「命二田道間守一、遣二常世國一、令レ求二非時香菓一」 萬葉集、十八、三十「等許余物（トコヨモノ）、コノ橘ノ、彌（イヤ）テリニ、ワガ大皇（オホギミ）ハ、今モ見ルゴト」 同、同卷、廿七長歌「田道間守、常世ニ渡リ」 源、十二、須磨「心カラ、とこよヲ捨テテ、鳴ク雁ヲ、雲ノヨソニモ、オモヒケル哉」 堤中納言物語、無由言「モロコシ、シラギニ住ム人、サテハ常世ニアル人、云云」（四）ヨミ。黃泉國。萬葉集、四、四十九長歌「常呼（トコヨ）ニト、吾ガ行カナクニ、小金門ニ」（五）常世ノ國ヨリ、神（カミ）祭リノ時、此國土ニ來臨スルト云フ神人（ビト）。トコヨノカミ。顯宗卽位前紀、室壽歌「タナソコモ、ヤララニ拍（ウ）チ上ゲタマフ、ワガ常世等（トコヨタチ）」

とこよのかみ（名）[常世神]（一）古ヘ、常世の國ヨリ來リ、人間ニ長壽ヲ授ケ、富ヲ與フト考ヘラレシ神。マラウド神。（二）[常世蟲（トコヨノムシ）]ノ一名。次次條ヲ見ヨ。皇極紀、三年七月「ウヅマサハ、神トモ神ト、聞エクル、常世の神ヲ、ウチキタマスモ」

とこよのくに（名）常世國〔底依國（ソコヨリ）ノ轉ニテ、絕遠ナル意ト云フ。底依ハ、上下四方、至リ極マル處ノ義〕（一）遙ニ離レテ、容易ク往來シ難キ國土ノ泛稱。絕域 古事記、上廿七「御毛沼命者、跳二波穗（フミテ）一、渡二坐于常世國一」 垂仁紀、九十年二月「命二田道間守一、遣二常世國一、令レ求二非時香菓一」（二）轉ジテ、遠キ不變不死ト云フ國土。仙境 雄略紀、

廿二年七月「水江浦島子云云、入レ海到二蓬莱(トコヨノクニ)山一」萬葉集、四三十九「我妹兒ハ、常世國(トコヨノクニ)ニ、住ミケラシ、昔シ見シヨリ、若エマシニケリ」 (三)黄泉(ヨミノクニ)。ヨミヂ。萬葉集、四四九、長歌「常呼ニト、吾ガ行カナクニ、小金門ニ、物悲シラニ、念ヘリシ、」」

とこよのむし (名) 常世蟲 〔皇極紀三年七月「都鄙之人、取二常世蟲一置二於清座一、歌儛求レ福」トアリ〕蟲ノ名。橘樹、或ハ蔓椒ニツキテ生ジ、大イサ頭指許リニテ、其長サ四寸餘、色、綠ニシテ黒斑アリ。其貌、蠶ニ似タリト云フ。古ヘ、常世神ノ御正體トセシトゾ。下ノ出典ヲ見ヨ。皇極紀、三年七月「東國不盡河邊人、大生部(オホフベ)多、勸二祭虫於村里之人一曰、此者常世神也、祭二此神一者、致二富與一壽、巫覡等遂詐託二於神語一曰、祭二常世神一者、貧人致レ富、老人還レ少、由レ是、加勸捨二民家財寶一、陳二酒菜六畜於路側一云云」

とこよむし (名) 常世蟲 あげはのてふ(チヨウ)(揚羽蝶)ノ幼蟲ナルベシ。字鏡六九「蠋、止己與虫」

どこら (代) 何處 〔ら(等)ノ條ヲモ見ヨ〕イヅラ。イヅコ。ドコ。ドノヘン。ドコヘン。 [illegible]嵯峨野、嵯峨野、どこら二[illegible]」

ところ (名) 處所 〔所(トコ)ニ、ろノ助辭ノ添ヘルナラム〕(一)場。場所。居所。地。トコ。(二)其(ソノ)土地(ト)。本地「處ノ人」(三)官署ノ稱。特ニ、藏人所ノ略稱。 平家物語、四、信連合戰事「先年、所ニ藏人所ニアリシ時モ、大番衆ノ者ドモノ留メカネタリシ強盗六人ニ、唯一人追懸リ、云云、四人切代セ、二人生捕リ、云云」「大藏所、藏人所、內侍所、贄所、采女所」

ところ (名) 所 事ヲ指シテ云フ語。箇所。[illegible]部。源、二十四、下、若菜、下「[illegible]心得キ[illegible]」 萬葉集、一、[illegible]「其謂レナキニアラネド」「見ル所ニ違ハズ」「知ル所ニアラズ」「言フ所ノモノ」

ところ (名) 野老 〔根ニ鬚多シ、故ニ野老ノ字ヲ用ヰル〕蔓草ノ名。春、舊根ヨリ苗ヲ生ジ、蔓、甚ダ長ク延ブ。葉ハ互生シテ、楕圓形ニシテ尖リ、たてすぢノミニシテ、やまのいも(薯蕷)ノ葉ニ似テ大ナリ。根モ相似タリ、蒸セバ黄(エグ)トナリ、鬚(ヒゲ)アリテ白ク、味甘ク、少シ蘞シ。ところづら。萆薢 又、鬼野老(オニドコロ)アリ。其條ヲ見ヨ。倭名抄、十七、芋類「薢、土古呂、俗用二野老・字一」字鏡[illegible]「薢、止己呂」天治字鏡、七廿七「薢、止己呂」本草和名、下三十二「薢、止古呂」同、上廿九「萆解」 大膳職式「薢(トコロ)」 更級日記「山ノカタヨリ、ワヅカニ、ところナド掘リ持テ來ルモヲカシ」

ところ (接) 處 然ルニ。サルニ。手紙ノ文ナドニ。 庭訓往來、六月「[illegible]候處(タダイマ)、[illegible]預二音信一」「相乳[illegible]候處、其[illegible]之」

ところ (接尾) 所 人ヲ貴ブル敬語ニハシラ。方。(貴人ニ) 源、一、桐壺「女御子タチふた所、此御腹ニオハシマス」「宮、二所オハシマス」

ところあらはし (名) 伉儷露顯 平安朝時代、結婚ノ披露。 天治字鏡、十二「伉儷、[illegible]止己呂ノ[illegible]乎乃加[illegible]」 名義抄「伉儷、トコロアラハシ」 榮花物語、十三、木綿四手「サテ日暮ルルモ、心モトナクテオハシマシヌ、四五日アリテゾ、御ところあらはしアリケル」 江家次第、廿、執婿事「近代、露顯(トコロアラハシ)一夜也」 貞丈雜記、一、祝儀之部「古書ニ、婚禮ノ二日メヲ露顯ト云フ事有リ、露顯ト書キテ、あらはるるトヨム也、婚禮ノ當日ヨリ二日メマデハ、其家人、親類バカリ知リテ、他人ヘハ知ラセズ、三日メヨリ、廣ク婚禮ノ由ヲ他人ヘモ知ラシムルヲ露顯ト云フ也、婚禮ヲあらはす心也」

ところえがほ (名) 所得顔 得意ノ狀ヲ云フ語。シタリガホニ。トクイガホニ。 源、四十四、橋姫「草アヲヤカニ茂リ、軒ノシノブゾ所えがほニアヲミワタレル」 徒然草、一百三十五段「主人ナキ所ニハ、道行人ミダリニ立チ入リ、狐、フクロフヤウノモノ、人ゲニセカレネバ、ところえがほニ入リスミ」

ところがき (名) 所書 文書ニ、人ノ住所ヲ書キ入ルルコト。[illegible]「懐ヨリ石筆取リ出シ、所書タシカニ」

ところかづら (名) さなかづら(佐那葛)ニ同ジ。

ところがへ (名) 所替 (一)場所ヲ他ヘ移スコト。轉地。[illegible] (二)昔、大小名ノ領地ヲ、他ヘ移シ與フルコト。國ガヘ。轉封。移封。

ところから (名) 所柄 〔所故(トコロカラ)ト云フノ〕又、ところから。所ガ所トテ、[illegible]ナルコト。場所ガラ。 源、五、若紫「スズロナル人モ、所から物アハレナリ」 同、十六、須磨「御サマノユユシウ、キヨラナルコト、所からハ、マシテ此世ノ物トモ見エ給ハズ」

ところきらはず (副) 處不嫌 場處ヲサキラハズ、物ヲ行フコトニ云フ。ドコデモ[illegible]ト云フ。

ところことば (名) 所詞 [illegible]

ところせ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 所狹 (一)其場所[illegible] (二)窮[illegible]

[illegible]

ところづら (名) 野老蔓 ところ(野老)ニ同ジ。[illegible]

ところてん (名) 心太 〔心太ヲ心太(こころぶと)ト讀ミタルヨリ轉ズ〕ところてんぐさ(次條ノ語ヲ見ヨ)ヲ、水ニテヨク洗ヒテ晒シ、ソノ白クナレルヲ煮テ、[illegible]

ところてんぐさ (名) [illegible]

紅、白、黃、紫、碧等ノ數種アリ、採リテ乾シテ、ところてんトス。略シテ、てんぐさ。石花菜　倭名抄、十七、海菜類「大凝菜、ココロアト、古語ニ心太ト云フ字ニ云ニ古呂布止」和名（?）、下同書、九十七、海菜類「石花菜、トコロテン」按、石花菜、今云、止古呂低布、或云、小凝草、豫州宇和島之產、爲ニ最勝、相州鎌倉、豐州佐賀關之產次之、豆州海濱、紀州熊野浦亦多出之」

とおろ-どう（名）所籐　トコロドコロニ、籐ヲ卷キタル弓。盛衰記、四十二、屋島合戰事「重忠ハ木蘭地ノ直垂ニ、樫繩目ノ鎧着テ、大中黑ノ矢負ヒ、所籐ノ弓、眞ン中取リ」

とおろ-どおろ（名）［所所處處］ココカシコ。ショショ。名義抄「在在、トコロドコロ」字類抄「往往、トコロドコロ、處處、同」神代紀、上九「處處小島、皆是潮沫凝成者矣、亦曰二水沫凝而成一也」枕草子、三、廿三段「所所ニ御文キコエ給フ人モ」

とおろ-の-ざふしき（名）［所雜色］藏人所ノ雜色。ざふしきにん（雜色人）ノ條ヲ見ヨ。

とおろ-の-しゅう（名）［所衆］藏人所ノ衆ノ略。古へ、藏人所ニ屬シテ、雜務ヲ辨ゼシ者。六位ノ侍ノ中ヨリ、然ルベキ者コレニ補セリ。トコロノス。略シテ、衆。枕草子、五、四十四段「所の衆、三四人參リタル」

とおろ-の-も（名）所衆　前條ノ語ニ同ジ。落窪物語、三「八月、嵯峨野ニ所のもドモ前栽ホリニ」

とおろ-ばらひ（名）所拂　刑ノ名。江戸幕府ノ制ニ、其住所ヨリ追ヒ拂フモノ。ついはう（追放）ノ條ヲ見ヨ。

とおろ-マダラ（名）［所斑］トコロドコロノ斑ナルコト。所所、ムラナルコト。音便ニ、とおろまんだら。易林節用集（慶長）上、言辭門「所斑、トコロマダラ」

とおろ-マダラ-ゐ（副）［所斑］モノノムラナル狀ニ云フ語。國性爺後日合戰（享保、近松作）二「鬘ヲコソゲル、頤ヲチョツル、中切、中刈、所斑らゐ刈リ散ラシ」

とおろ-マンダラ（名）［所斑］とおろまだら（所斑）ノ音便。其條ヲ見ヨ。

とお-わかゐ（副）［常若］イツモワカワカシキ狀、又ハ、イツマデモワカキ狀ニ云フ語。林葉集、六「イットナク、昔ニ歸ヲ、ユヅリハノ、ナホとおわかゐ、榮ユベラナリ」

と-ぼゑ（名）「とほぼゑノ略ト云フ」遠キ聲。萬代集、五、秋、下「ヨソニノミ、鹿ノとぼゑヲ、聞キシヨリ、秋ハ悲シキ、モノト知リニキ」散木集、三、秋「妻コフル、鹿ノとぼゑニ、オドロケバ、カスカニモ身ノ、ナリニケルカナ」松屋筆記、七十一、廿一條「コノとぼゑハ、トホゴヱノ略語也、トワタルト云フ語ニ、門渡ルモ、飛渡ルモ、只發語ニ置キタリトオホシキモアリト、已ニロウジタリキ、還渡るノ心ナルモ有ベシ」

どさア（名）又、どさ。奧州ニテ、他人ノ事柄ヲ相手ニ話ス時、「ト云フ」ノ意ニ使フ語。轉ジテ、奧州辯ノ俗稱。ドサコトバ。文化の川柳「どさあニシテハ、錦木ノ風流サ」寶暦の川柳「京談（京都詞）ト、どさあデ九年、イガミアヒ」（前九年ノ戰）

と-ざい（名）［吐劑］胃中ノ物ヲ吐カスルニ用キル藥。

と-さう（名）［抖擻］とそう（抖擻）ニ同ジ。都の苞（宗久）「六十餘州ノとさう、殘ル所ナク、三十一字ノ風情、尋ネヌ方モナシ」

と-さう（名）［斗筲］［支那ノ斗ハ、十升、卽チ一斗（凡ソ、我邦ノ一升）ヲ容ルルモノ、筲ハ竹器、一斗二升（凡ソ、我邦ノ一升二合）ヲ容ルルモノナリ］又、とせう。ワヅカバカリノ升目。轉ジテ、僅少ナルコト。漢書、谷永傳「永斗筲之材、質薄學朽」同、鮑宣傳「斗筲之子、不レ乘二帝王之重一」後漢書、郭太傳「家世貧賤、云云、大丈夫焉能處二斗筲之役一乎」皮日詩「權位姤二過才一、心如二斗筲窄一」興禪護國論、禁西）上「或賤二我斗筲一、未レ稱レ徵レ文」斗筲の人トハ、器量ノ小サキ人ヲ云フ。論語、子路篇「噫、斗筲之人、何足レ算也」

ど-さう（名）［土葬］死者ノ形骸ヲ全ウシ、土中ニ葬ムルコト。（火葬、水葬ナドニ對ス）南史、扶南國傳「水葬則投二之江流一、火葬則焚爲二灰燼一、土葬則瘞二埋之一、鳥葬則棄二之中野一」

ど-ざう（名）［土藏］（一）ツチグラ。四面ヲ泥土、漆喰等ニテ塗リ被ヘル倉。火災ヲ防ガム設ケトス。土室　節用集、乾坤門「土藏」太平記、十六、兵部卿親王流刑事「宮軍、六波羅ヲ攻メ落シタリシ刻、殿ノ法印ノ手ノ者ドモ、京中ノ土藏ドモヲ打破ッテ、財寶ヲ運取リケル間」日本居家祕用、一、室屋「土藏ヲ建ルニハ、制ヲキハメ、地形ヲ肝要トスベシ、堅固ニツクリナストモ、火ヨケ惡ケレバ、火災ノ時、詮ナキモノナリ」（二）酒造家ノ稱。土藏ニテ酒ヲ造ル故ニ云フ。花營三代記、上、應安四年十一月「諸國段錢、洛中邊土、土藏別三十貫」

ど-ざう-づくり（名）［土藏造］土藏ノ如ク、泥土、漆喰ニテ塗リタルカマヘ。又、ソノ家。後見草（龜齋主人）中、明和九年江戸大火「近キ頃ハ、土藏造リト云フ物ニナリ、容易ニハ燒ケザリシニ」

ど-ざう-やぶり（名）土藏破　ムスメシ。土藏ヲ破リテ、中ノ財寶ヲ盜ミ取ルコト。又、其盜賊。

と-さか（名）［鳥冠鷄冠］［鳥毛冠ノ略］（一）古名、冠。鷄類ノ頂ニアル肉狀ノモノ。赤クシテ、刻多シ。雉、七面鳥、等皆然リ。又、トリサカ。さか（朱冠）ノ條ヲ見ヨ。名義抄「（?）、トサカ一（?）」人名「ヤイヤイ見レバ、汝等ガ烏帽子ハ、鷄ノとさかニ似タ」（二）次條ノ語ノ略。

とさか-のり（名）［鷄冠菜］古名、トリサカノリ。石花菜ノ一種。稍、粗ナルモノハ、味更ニ佳ナリ。海中ノ石ニ着キテ生ズ。形、略、鷄冠ニ似テ、高サ一二寸、刻ミノ深キアリ、淺キアリ、赤、白、黃、綠、紫、黑等、數色アリ、食用トス。トノサカ。鷄脚菜　名義抄「鳥坂苔、トサカノリ」

どさ-くさ（副）（一）入リ亂ルル狀ニ云フ語。生玉心中（正德、近松作）上「奧ニハ猶モ飲シコリ、踊ルヤラ歌フヤラ、騷グどさくさ若草ノ、妻モコモレル籠籠ノ中」（二）ゴタゴタスル狀ニ云フ語。トリコミ。混雜。

とさ-ごま（名）［土佐駒］土佐國ヨリ產出スル駒。夕霧阿波鳴渡（正德、近松作）上「アダニモセズ守育テ、手習、讀物、弓鞠迄モキヨウニテ、圍碁リノ土佐駒引カセ乘ッタ姿ハ、天晴平岡左近ガ世繼」

とざし（名）［扃］（一）門戶ヲ、トザスコト。（二）［鎖スモノ］門戶ヲ刺シ固ムルモノ。戶ニ穴アリテ、他ノ柱ナドニモ、穴アリテ、之ヲ刺シ貫キテ固ムル金物ナルベシ。後ノ猿ノ如キモノ。倭名抄、十六門戶具「扃、度佐之」天治字鏡、六廿五「鑰、止佐志」催馬樂、東屋「カスガヒモ、止左之モアラバコソ、ソノトンノ戶我レササメ、押シヒライテ來マセ」

と-ざ-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［鎖］［戶刺すノ義］扃ヲ刺ス。戶ヲ閉ヂテ鎖ヲオロス。閉ヅ。締ム。戶ざさぬ御代ト云フハ、太平ノ御代ノ意。（國ニ暴民ナケレバ、門戶ヲ犯サレズ）史記、鄒子誕傳「子產爲レ相三年、門不二夜闔一、道不レ拾レ遺」謠曲、小鍛冶「四海治マリテ、人家とざしヲ忘レシモ、ソノ草薙ノ

故トカヤ」[illegible]丸(元禄、近松作)[illegible]ホノボノト、戸ささぬ御代ノ民百姓」

と-さつ (名) 屠殺 獣類ヲ、ホフリコロスコト。「[illegible]場、[illegible]」

どさ-と (副) 重キ物ヲ、地ニ落ス響ニ云フ語。ドサリト。ドッサリト。

どさ-どさ (副) 多人數、亂レ入リ込ム足音ニ云フ語。ドカドカ。ドヤドヤ。

とさ-ぶし (名) 土佐節 (一)土佐國ヨリ産出スル鰹節ノ稱 品質良好ニシテ、鰹節ノ最上トス。甲子夜話(松浦靜山)十「松平土佐守ヨリ[illegible]スル土佐節ト稱スル[illegible]」(二)江戸淨瑠璃節ノ一派 二代目薩摩太夫ノ弟子、土佐少掾橘正勝、江戸ニテ語リ始メシモノ。(正勝ハ、俗稱虎之助、延寶頃ノ人」近代世事談(享保、菊岡沾涼)三、[illegible]「江戸土佐節、虎之助ト云フ、二代目さつまが弟子ナリ」[illegible]三「土佐少掾橘正勝、一代目薩摩次郎右衛門カ門人ニシテ、内匠虎之介ト云、自分ニ一流ヲ語リ出シ、受領シテ土佐少掾ト云、堺町(江戸)ニ住シテ、同町ニ操座ヲ設ケテ、[illegible]、寛文、延寶ノ頃ヨリ、土佐節トテ、世ニ行ハレタリ」

と-ざま (名) 外方 ホカノカタ。ソトノハウ。源、五十三、夢浮橋五十「今サヘ、カクアナガチニ、ヘダテサセ給フト、セメラレテ、少シとざまニ向キテ、[illegible]ヘバ」

と-ざま (名) 外樣 〔外侍ノ略轉カ〕(一)武家ニテ、臣禮ヲ取ル者ノ中、譜代ナラヌモノ。(譜代ノ條ヲ見ヨ) 太平記、三五、[illegible]入道[illegible]二十[illegible]、[illegible]ノ日ト テ、定メラレシカバ、一族大名、御内外樣ノ人人、或ハ堂上ニ[illegible]ヲ列ネ、或ハ[illegible]ニ[illegible]ヲ[illegible]シテ[illegible]ス」今川帖「近習、又、外樣」 (二)外樣大名ノ略。德川氏ノ頃、將軍ノ宗門、譜代ナラヌ大名ノ稱。外藩。[illegible]

と-さま-かう-さま (副) 東西左右 アレヤコレヤト。トヤカクト。左右ノ條ヲ見ヨ。字類抄「左、トサマ、右、カウサマ」雄略紀、三年四月「[illegible]西[illegible]」[illegible]「東行西行、トサマニユキ、カウサマニユク」宇津保物語、忠社五十「女トムツマジキ人シナケレバ、君ヒトリヲコソ、とさまかうさまニ[illegible]」

とざま-だいみやう (名) 外樣大名 外樣ノ大名。略シテ、とざま。長大名。又、上方衆。國衆。德川幕府ノ末ノ頃ニハ、十萬石以上ニテ、藤堂、伊達、津輕、前田、前田(富山)、毛利、蜂須賀、山內、有馬、鍋島、島津、南部、上杉、前田(大聖寺)、溝口、池田、淺野、伊達(宇和島)、黑田、立花、細川、宗ナドノ諸家アリ、其以下ノモノハ、八十家許リアリキ。文安年中御番帳、外樣大名衆、山名因幡守[illegible]、細川右[illegible]、[illegible]道、山名[illegible]守、細川安房守、大友修理大夫、細川備中守[illegible]、細川和泉守[illegible]、上杉民部大輔、仁木右京大夫、佐々木六角大膳大夫、武田甲斐守[illegible]、[illegible]大夫、島津、細川淡路守[illegible]、今川[illegible]大夫、土岐左京大夫、[illegible]山上野介、富樫新介、小笠原信濃守、以上」

と-さん (名) 土產 (一)其土地ノ產物。宋史、[illegible]傳「[illegible]云云、[illegible]土產[illegible]」[illegible]之[illegible]二 邊史、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]物、[illegible]、文[illegible]「イカニ[illegible]ノ[illegible]ハ、シリウ人ハ持テ給ハヌカ、遣[illegible]ヘ[illegible]サレ給フニ、土產、[illegible]キノ物ヲモ乞ヒ給ヘカシ」(二)イヘヅト。ミヤゲ。(土產ノ物ヲ贈スヨリ轉ズ)[illegible](元和、安樂庵策傳)三「[illegible]書記、年頭ノ祝儀ヲ送ラレ、土產ヲ[illegible]ヨリトリ出シ上ラル」

と-さん (名) [illegible] [illegible]ヲ[illegible]ウル[illegible]。シリザラ。[illegible]

と-ざん (名) 登山 (一)山ニノボルコト、[illegible]。(二)[illegible]山上ノ[illegible]ニ[illegible]スルコト。(三)寺子屋ニ入學スルコト。(初登山手習教訓書ト云フ本アリ)[illegible](寺)、及、てらこや(寺子屋)ノ條ヲ見ヨ。

と-ざむらひ (名) 外侍 大小名ノ家ニテ、其宅外ニ別ニ構ヘタル一棟。其頁也ノ武士ノ在番シテ詰ムル所[illegible]

どさり-と (副) 重キ物ノ地ニ落ツル響ニ云フ語。ドサト。ドサリト [illegible]通(享保、近松作)五「どさりどさりとユリカケテ、ネリコム[illegible]骨、腕骨ハ、岩ヲ[illegible]ッテ附ケタル如ク」

とさ-ゑ (名) 土佐繪 又、大和繪。土佐氏一派ノ畫風ノ[illegible]。[illegible]ノ頃、土佐權守藤原經隆(家ヲ春日ト云フ)畫ヲ善クス。子孫、土佐守ニ任ジ、[illegible]ヲ土佐ト稱シテ、其畫法ヲ傳ヘ、[illegible]預トナリ、一家ノ風ヲ成ス。行光、光重、廣周、光信等、名アリ。ソノ中、刑部大輔光信、特ニ名アリ、其[illegible]起、亦名アリ、[illegible]、德川時代ニ下リ、光[illegible]人物、山水、[illegible]ノ[illegible]。[illegible]ノ浮世繪ハ、此條流ナリト云フベシ。近代世事談(享保、菊岡沾涼)四、畫圖「土佐流、土佐ハ信ハ藤原氏也、此家累代、土佐ヲ以テ官ニ任ズ、故ニ俗ニ土佐ヲ呼テ氏トス」

どざゑもん (名) 〔力士、成瀨川)土左衞門ト云ヘル者、極メテ肥大ナリシ[illegible]〕[illegible]江戸ノ俗ニ、水[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]ト云フ[illegible]

左衞門(東州[illegible])、前頭ノハジメニアリ、[illegible]スルニ、江戸ノ方言ニ、溺死ノ者ヲ土左衞門ト云フハ、成瀨川、肥大ノ[illegible]。[illegible]衞門ノ如シト戲レ云ヒシガ、ツヒニ方言トナリシト云フ」[illegible]門」[illegible]

とし (名) [illegible] 〔[illegible]〕[illegible]曰レ歲、商曰レ祀、周曰レ年、唐虞曰レ載」注「歲取レ歲星行一次、祀取二四時一終、年取二禾一熟、載取二[illegible]」[illegible]。(一)大陽ノ黃道ヲ一周シテ、元位ニ復ル間。又ハ、地球ノ軌道ヲ行[illegible]、大陽ヲ一周スル間。即チ、三百六十五日五時四十八分四十九秒[illegible]。サレド、常ニハ、コレヲ三百六十五日トシ、四年每ニ、其五時餘ヲ合ハセテ一日トシテ、三百六十六日トシ、コレヲ閏年トス。是レ、大陽曆ノ年ナリ。又、大陰曆ニテハ、三百六十日トシテ、五年每ニ、二度ノ閏月ヲ置ク。[illegible]。又、さよみノ條、見合ハスベシ。(二)他ノ行星ニテモ、各、其軌道ヲ一周スルニ[illegible]ノ稱。(三)[illegible]年齡。行年。[illegible]十[illegible]年、[illegible]十[illegible]、[illegible] 時代。年所。[illegible]年ノ[illegible]ニ[illegible]ル[illegible]十一月ノ[illegible]。[illegible]一[illegible]ニ[illegible]リテナリ[illegible]

ノ分明ナル區別ナケレバ、凡ソ稻ノ生立チ成リアガルニ就キテ云ヒシナリ、ノ稻」萬葉集、十八、卅三「早少女ガ、田ハ祈リキネ、斯クシアラバ、言アゲセズトモ、登思ハ榮エム」 榮花物語、十、日蔭鬘、「ツクリ、榮シカルベキ、御代ナレバ、稻ブサ山ノ、ユタカナリケリ」 拾遺集、十、神樂歌「としモヨシ、コカヒモ借タリ、大國ノ、里タノモシク、オモホユルカナ」 祈年祭祝詞「奥津御年ノ八束穂ノ、嚴シ穂ニ、皇神等ノ依シマツラバ」 續紀、七年十二月「朕者、天下安靜、海内清平、屢致豐穰年」 天武紀、下、五年五月「下野國司奏、所部百姓、遇凶年、飢之欲賣子、朝不聽矣」（年凶）

と-し (名) [都市] とくゎい(都會)ニ同ジ。

と-し (名) [徒死] 徒ラニ死スルコト。ムダジニ。イヌジニ。 通鑑、隋紀「王薄作無向遼東浪死歌」注「浪死猶徒死」

〔**と・し・キ・ケレ・ク・ク**(形、二) [疾] 進ムコト早シ。後レズ。速カラズ。 宇津保物語、俊蔭「三人ノ人ニイトマヲコヒテ、斧ノ聲ノ聞ユルカニ、とき足ヲ出ダシテ、コハキカラヲハゲミテ」

〔**と・し・キ・ケレ・ク・ク**(形、二) [利鋭] (一)スルドシ。鈍カラズ。好ク切ルル。(刀劍ニ) 萬葉集、十一「ツルギ太刀、モロハノ利きニ、足フミテ、死ニニモシナム、君ニヨリテバ」 欽明紀、廿三年七月「鑑レ銳。ノ進攻破之」(二)覺早シ。カシコシ。サトシ。敏 (三)ハヤシ。スバヤシ。捷 疾 字鏡「傈、利也、疾也、止志」 履中紀、六年二月「爲人強力輕捷」(四)聞取ルコト、ハヤシ。 字鏡「聡、聽也、耳止之」 枕草子、九、百十三段「イミジウミソカナルモ、カシコウ聞キワキ給ヒシコソ、大藏卿バカリ耳とき人ナシ」

と-じ (名) [刀自] 〔戸主ノ義カ、ドハ宮主、殿主、主ナド同趣 又、古書ニ負ト書ケルハ、白水郎ヲ泉郎ト書ケルト同趣ニテ、倭名抄ノ誤ヲ承ケタリ」(一)〔女ノ一家ヲ知ル者。家事ニ幹タル女。人ノ妻トナレル女ノ稱。トウジ。イヘトジ。イヘトウジ。家母 倭名抄、二十一「老幼類「負、嫂之、劉向、列女傳云、古語、老母爲負」 靈異記、中、第三十二「火頭鬼之母負也、早部嫗負也」 萬葉集、廿「眞木柱、頌メテ作レル、殿ノゴト、イマセ母刀自、面變セズ」 同、六、二十長歌「父公ニ、吾ハ眞名子ゾ、妣刀自ニ、吾ハ愛兒ゾ」 遊仙窟「主人母」 靈異記、中、十六縁、訓釋「家室、家刀自」 同、上、第二縁、訓釋「家室、伊戸乃止之」(二)〔老女ノ稱。倭名抄、二十三老幼類「謂老女爲負」負、負也、今訛以負爲自歟」 曾丹集、長歌「乳母刀自ノ、チブサノムクイ、スルホドニ」(三)〔轉ジテ、少女ニモ云フ。萬葉集、四、二十長歌「吾ガ兒ノ刀自」(大伴坂上郎女ノ其女ヲ指ス)(四)〔貴人ノ夫人ヲ尊ビテ云フ稱。夫人。 欽明紀、元年九月「吉海夫人、依賣頭娶」 天武紀、下、二年二月「大原大刀自」(藤原夫人五百重ノ娘)(五)御膳ニ仕ヘマツル女官。禁秘御抄、下「刀自ハ御膳宿、臺所、台洲也、云云、是一向御膳役者也」 齋宮記「内侍所ノ刀自、年來在南朝」(六)婢ノ長。家どうじ。 榮花物語、廿四、若枝「宮ノとじ豐女ニテモ、コノ御子ヲダニ生ミタラバ」(七)瓶ノ名。 文德實錄、八、齊衡三年九月「造酒司酒甕神、從五位下大邑刀自、小邑刀自等」

と-じ (名) [徒爾] 〔爾ハ助辭〕イタヅラナルコト。ムナシキコト。無意義ナルコト。 元稹詩「呼吸寧徒爾、靈德豈虛然」

と-じ (名) [屠兒] 獸類ヲ屠殺スルヲ業トスルモノ。屠者。又、エトリ。 法華經、安樂行品「莫親近屠兒魁膾」

と-じ (副) [途次] ミチスガラ。途ノツイデ。ミチツイデ。路次。

ど-し (接尾) [同士同志] 〔どち(共)ノ轉〕ナカマ。連。 吉野都女楠 正德、近松作 五「知ラヌ者どし交ジルコトハ、此方ハイヤジャイヤジャト云ヒ放ス」「仲間同士」「女同士」「思フ同士」「同士軍」

ど-し (名) [弩師] オホユミノシ。弩ヲ引ク人。弩手 後漢書、靈帝紀「詔、元帝以前弩師習弩射」 續紀、廿四、天平寶字六年四月「始置大宰府弩師」

ど-じ (名) 人ヲ罵リ呼ブ語。ドジグチ。どじを踏むトハ、ヤリソコナフノ意。

どし-いくさ (名) [同士戰同士軍] 仲間同士ノアラソヒ。又、味方ト味方ト戰フコト。ドシウチ。 易林節用集、慶長、上、言語門「同士軍、ドシイクサ」 太平記、六、楠出張天王寺事「楠ガ勢、是レヲ追ヒ散ラサントスル眞似ヲシテ、追ツ返シツ、同士軍ヲゾシタリケル」

どし-うち (名) [同士打] (一)味方ト味方ト鬪フコト。同黨ノ打合。 太平記、八、持明院殿行幸六波羅事「敵是程ニ小勢ナルベシトハ思ヒ寄ルベキ事ナラネバ、東西南北ニ入リ亂レテ、同士打ヲスル事數刻也」(二)仲間同士ノ爭。ナカマゲンクヮ。內訌 鬩墻

とし-うへ (名) [年上] 齡ノ、他ヨリ長ケタルコト。又、ソノモノ。年長

とし-かさ (名) [年嵩] 齡ノ、他ヨリ多キコト。又、其者。高齡 櫻陰比事、元祿、西鶴、三「年嵩ヨリ女中ノ女ヲ呼ビ出シニシテ姿ヲ見ルニ」

とし-がしら (名) [年頭] (一)其中ニテ、最モ年タケタルモノ。(二)一年ノハジメ。年初。

とし-かっかう (名) [年恰好] 年齡ノホドアヒ。トシゴロ。トシバヘ。年配。

とし-がひ (名) [年甲斐] 年齡ヲトリタルダケアリテノ效驗。年齡ヲトリタルニヨリテノ思量分別。「年甲斐モナク」

とし-がみ (名) [年神] 五穀ヲ守ルト云フ神。年穀ノ神。 祈年祭祝詞「御年乃皇神」 古語拾遺「御歳神之祟也」 夫木抄、七、早苗「ミアレ川、賀茂ノ神田、引キウヱテ、今八久年の、神ト祈ラム」

とし-ぎ (名) [年木] 春ノ用意ニ樵リオク薪。年ノ暮ニ積ミ込ム薪。トシノタキギ。夫木抄、十八、歳暮「タカシマノ、ソマ山川ノ、イカダ師ハ、イソグとし木ヲ、ツミヤソフラン」 可因の句「ヤトヒ人ニ、年木割ラスル日向カナ」 太祇全集、谷越シニ、聲カケアフヤ、年木コリ」

と-じき (名) [戸閾] 次次條ノ語ノ略。 字鏡「閫、止自支」 天治字鏡、七「梱、門具、止自支」

〔**と-じき** (名) [屯食] とんじき(頓食)ノ條ヲ見ヨ。 宇津保物語、吹上、「ワリゴ、どじきナド、イト多ウアリ」

〔**と-じきみ** (名) [戸閾] (一)又、とじきみ、きみ(閾)ト云フニ同ジ。 倭名抄、十三門戸具「閾、度之岐美」 推古紀、十二年九月「凡出入宮門、以兩手押地、兩脚跪之、越梱則立行」 靈異記、中、第廿八縁、訓釋「閫、止自支彌」(二)車ノ軾。綺、きつく(軾)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十一ニ車具「軾、車乃度之岐美」 箋注倭名抄、三、車具「兵車之式、高三尺三寸、式即軾字、可見軾與止之岐美一不相同、然其所在之處同、故借軾爲止之岐美耳」 枕草子、十一、百四十六段「サシヌキノ片ツカタハ、とじきみノ外ニ踏ミ出ダサレタルナド、道ニ人ノ逢ヒタラバ、ヲカシト見ツベシ」

〔**とし-ぎり** (名) [年切] 〔又、としぎれ。年雄ひノ約ト云フ」(一)樹木ノ、年ニ因リテ、實ヲ結バヌコト。(多ク、人ノ時ニ遇ハヌナドニ云フ) 後撰集、十五、雜、一「イカデカノ、としぎりもセヌ、種モガナ、荒レタル宿ニ、植ヱテ見ルベク」 同、卷、同「今マデニ、ナドカハ花ノ、咲カズシテ、四十年アマリ、としぎりハスル」 同、十七、雜、三「里ニノミ侍リテ春ヲセケル「逢フコトノ、としぎりシケル、ナゲキニハ、みノカズならヌ、モノニゾアリケル」 永久四年百首、隱年戀「逢フコトヲ、としぎりシタル、吾ガ身哉、花咲キ難キ、モノナラナ

クニ」(二)年季ネンキ、又、年季ノ切ルルコト。

とし-ご (名) 年子 年每ニ、打續キテ、生マルル子。持統天皇歌[illegible]、近松作、五「十八ノ年、嫁入シテ、ヒョット初子ヲ生ミソメテ、ソレヨリ年子二十二人」

としおえぐさ (名) 年越草 「秋ニ種ヲ蒔キテ、年ヲ越シテ、收穫スル故ニ云フ」むぎ(麥)ノ異名。トシコシグサ。去年草コゾクサ。藻目抄「春スギヌ、夏ニモイタク、ナリヌレバ、としおえぐさモ、色ヅキニケリ」

とし-おし (名) 年越 舊年ヨリ新年ニ移ルコト。節分ノ夜、又ハ、大晦日ノ夜ニ云フ。オホトシコシ。送歳 山家集、上「難波ニとしおしニ侍リケルニ」同、下「清水ニ、としおしニコモリケルニ」新六帖、六、かりがね「年おしノ、都ノ空ノ、長旅ニ、ツバサ垂レテヤ、[illegible]カヘルラン」

とし-ごばい (名) 年勾配 年齡ニフサハシキコト。年恰好。甲陽軍鑑、十四、品第四十「サスガニ武士ノ心バセナキ者ナラバ、年ごばいニ相似アハヌトモ、申サンズルガ」

とし-おひ-の-まつり トシゴイノマツリ (名) 新年祭 「年ハ稻ノ義」古ヘ、陰曆、二月四日ノ祭事神祇官ニテ行ハル。時令ノ度ニ順ヒ、年穀ノ豐熟ナラムコトヲ祈ラル。今ハきねんさいト稱シテ、二月十七日ニ、宮城内ノ賢所、皇靈殿、神殿ニテ行ハセラル。又、伊勢大神宮ヲ始メ、全國、官幣、國幣ノ諸神ヲ祀ル。類聚名物考、神祇、十二「祈年祭、トシゴヒノマツリ」年中行事大成「新年祭、二月四日ニ、神祇官ニシテ、三千[illegible]座ノ[illegible]ヲマツリテ、年穀ヲイノルニヨリテ、としおひのまつりトハ云フナリ」建武年中行事「二月四日、としおひのまつり、一日ヨリ御神事ノヨシ見エタレド、白河院ノ仰セニテ、前後齋バカリ也」

とし-おもり (名) 年籠 大晦日ノ夜、土地ノ鎭守社ニ參籠[illegible]コト、[illegible]、[illegible]、[illegible]、としおもりニ、宵ニコモリ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、イマダ[illegible]ノ、[illegible]シ[illegible]ト[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]。アハレトモ見ズ」謠曲、難波「ワレ三熊野ヲ信ジ、每年とし、もり仕リ候」

とし-ごろ (名) 年頃 (一)齡ノ其程トナリシコト。相應ノ年齡、成年「[illegible]」(二)トシバヘ。齡ノ程。年紀

〔とし-ごろ〕 (副) 年頃 數年コノカタ。ナガネン。年來ネンライ。多年。竹取物語「使ハルル人人モ、年ごろナラヒテ、立チ別カレナンコトヲ、[illegible]、同ジ心ニナゲカシガリケリ」源、一、桐壺「としごろ常ノアツシサニナリ給ヘレバ」更級日記「年ごろ遊ビナレツル[illegible]ヲ、アラハニコ[illegible]テ」「年頃思フ所」

とし-ごろばい (名) 年頃配 年頃ノ程ヘ。トシゴロ。ネンパイ。年恰好。最[illegible]人[illegible]、近松作、[illegible]「[illegible]ノ人[illegible]ヤ、[illegible]此[illegible]十八九、初夜ノ月サヘ、ハヤ[illegible]」

とし-ご-ご (名) 竜絲子 ネナシカヅラ。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]「[illegible]」[illegible]、[illegible]、[illegible]合[illegible]、竜絲子是也」[illegible]「[illegible]、トシシ」

とし-した (名) 年下 齡ノ、他ヨリ後レタルコト。又、其者。年少 幼[illegible]

とし-たきぎ (名) 年薪 としぎ(年木)ニ同ジ。

とし-だて (名) 年立 年表ネンペウニ同ジ。年紀ノ[illegible]年。「源氏物語年立(一條兼良)」

とし-だま (名) 年玉 「年ノ賜物ノ意ト云フ」新年ノ祝ヒニ用ヰル贈物。歲贄[illegible]、[illegible]、十六、[illegible]、[illegible]「[illegible]人ニ、たま[illegible]エテ[illegible]ン、[illegible]」[illegible]ノ、初メノ今日ノ、豐ノアカリハ」[illegible]内者(寛文)「[illegible]音ノ進物ヲ、年玉トテモテハヤサルル」雅筵醉狂集「[illegible]ニアフ、ツマクレナヰノ、末賓ヤ、心ノ花ノ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]ヲ[illegible]ルホ、[illegible]ヲウラントシテ、[illegible]

とし-づよ (名) 年強 一年中ノ春間ニ生[illegible]、[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]トシ、又、其者[illegible]ヘチハ、皆としづより、[illegible]」

とし-て (副) (一)…ニ同ジ、[illegible]、(二)…ニ、おりての[illegible]、[illegible]としで[illegible]ハ、[illegible]」「忽然として現ハル」「赫赫として」「寂寞として」

とし-とく-じん (名) 歲德神 (一)年ノ間、萬物ヲ生ズ[illegible]、[illegible]方ノ神ノ意ト云フ。又、歲神、陰陽師ノ稱スル神、[illegible]、[illegible]ノ上ニテ、此神ノ司ル方向ヲ、甲己[illegible]ノ年ハ、甲ノ方ノ寅卯、東ノ間トシ、[illegible]乙[illegible]ノ年ハ、庚ノ方ノ申酉(西)ノ間トシ、丙[illegible]ノ年ハ、丙ノ方ノ巳午、南ノ間トシ、[illegible]丁ノ年ハ、壬ノ方ノ亥子、北ノ間トシ、[illegible]、兄弟ノ兄ノ方ナレバ、見方ナリ[illegible]ナド云ヒ、ノヽ、[illegible]ア[illegible]意ニ寄セテ[illegible]方ナド[illegible]、[illegible]ノ[illegible]方角ヲ、[illegible]トスルカラ、[illegible]トスル[illegible]方角ニ相[illegible]、[illegible]軍神ト云ヒ、[illegible]ト[illegible]、[illegible]、[illegible]「[illegible]」[illegible]トノ[illegible]ル[illegible]アリ」[illegible]「[illegible]云、[illegible]」[illegible]、[illegible]字、歲德、歲德神トハ、陰陽ノ氣、交濟シテ[illegible]スルノ[illegible]ナリ、[illegible]、其外一切ノ善事ニ用テ、大ニ吉也、年[illegible]ニ[illegible]吉ト注スルハ、此方ノミ也」

とし-どし (副) (一)重キ物ヲ地ニ落ス響ニ云フ語。ドッシリ。(二)重キヨリ轉ジテ、多ク、タクサンニノ意ニ云フ。とっさり(重)ノ、どっさり(多)ニ移ルガ如シ。

とし-どり (名) 年取 [illegible]

とし-なか-ひ [illegible]ル地ノ[illegible]共、年取ノ用意ニ、皆[illegible]ヘドリ[illegible]

とし-なみ (名) [illegible] 、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]、歌[illegible]原[illegible]「ハルバルト、年モハルカニ、[illegible]ルカ[illegible]

とし-なみ (名) 年浪 [illegible]

とし-の-いち (名) 歲市 [illegible]市、[illegible]、十七、十八日、[illegible]

とし-の-うち (名) 年内 (一)年ノ間。年中。[illegible]。(二)年ノ内。其年ノ内。年內。[illegible]

としのはよ（副）［毎年］ 年毎ニ。毎年。毎年モ、今年モ。〔[illegible]用集、二、時候門〕「毎年、トシノハ、トシゴトニ」［萬葉集、五］「得志能波爾、春ノ來タラバ、カクシコソ、梅ヲカザシテ、タヌシク飲マメ」同、十六「[illegible]之能波爾、カクモ見テシカ、一吉野ノ、清キ川内ノ、タギツ白波」同、十九「毎年爾、鳴クモノユヱ、霍公鳥、聞ケバシヌバク、アハヌ日ヲオホミ」註「毎年、謂之等之乃波」同、同卷[illegible]後ノ、御代萬代ニ、カクシコソ、見シ明ラメメ、立ツ年之葉爾」同、廿「我ガセコガ、宿ノ山吹、咲キテアラバ、ヤマズ通ハム、イヤ登之能波爾」[illegible]後記、十九、[illegible]年三月、[illegible]立ツ毎年ヨ、春ハアレド」

としのみ（名）［年實］ ウツリ。オウツリ。他ヨリノ贈物ノ器ニ、物ヲ入レテ、返シ贈ルコト。[illegible]太神宮年中行事、[illegible]小石ヲ入レ、年の實ト號シ、分送ルコトアリ、是レ田植祭ノ時ナレバ、今年ノ年[illegible]豫メ祝シテ、年の實ト云フテ、送ルコトナリ」

としのや（名）［年矢］ 年月ノ經過ノ速カナルヲ、矢ニ喩ヘテ云フ語。〔書言字考節用集、一、時候門「年矢、トシノヤ」註「文選、長歌行、年往迅勁矢、[illegible]日月[illegible]、流年[illegible]、人易老也」謡曲、加茂「年の矢ノ、早クモ過グル光陰、惜ミテモ歸ラヌハ本ノ水」

としのを（名）［年緒］ 年ト云フニ同ジ。年ノ長ク續クコトヲ、緒ニ擬シテ、云フ語。萬葉集、四「ワガ形見、見ツツシノバセ、アラタマノ、年之緒長ク、我モ思ハム」同、十二「荒玉ノ、年緒永ク、照ル月ノ、厭レス君ヤ、明日別レナム」同、十五「アラタマノ、年之緒長ク、逢ハサレド、ケシキ心ヲ、アガモハナクニ」古今集、四、秋、上「烟バタニ、ワシツル雛ノ、ウチハヘテ、年の緒長ク、[illegible]ヒヤワタラム」

としは（名）［年端］ 齡ノ程。トシノホド。（專ラ、未ダタケヌ場合ニ云フ）松風村雨[illegible]ヤ、年端モ往カヌ、子持チブリ、振分髪ノ時ヨリモ」

としば（名）鳥柴 鷹ノ捕リタル鳥ヲ、人ニ贈ル時ニ、ソノ鳥ヲ結ビツクル木ナリト云フ。モト柴ヲ用ヰ、後ニハ、種種ノ木ニ變ハレリ。今川大雙紙、上「鷹ヲ鳥柴ニ付テ出ス事有、鳥柴ノ木ハ、松ノ枝、又ハ、梅ノ枝タルベシ、餘ノ木ニ付ベカラズ」定家集「暮レテ行ク、鳥柴ノ燃ヲ、アラタマノ、春ヤ櫻ノ、枝ニツケマシ」後京極殿鷹三百首、冬「初雪ニ、見エヌとしばヲ、折ルコトモ、君ガ御幸ニ、ナルル鷹飼」

としはづき（名）［年端月］ 正月ノ異名。莫傳抄 後頼「梅モハヤ、サカリニナリヌ、としは月、名モメヅラシク、成リニケラシナ」

としばへ（名）年延 齡ノ程。年配。トシゴロ。年紀。[illegible]本曾我物語、[illegible]「年ばへニハ恐ロシキ事カナト、人人思ヒケリ」最明寺殿百人上臈〔元祿、近松作〕女勢揃「母おきえト云フハ、年ばへモ磯部ノウトウ安方ノ子ヲ後見テ、身ヲ捨テズ一

としび（名）［年日］ 生レタル年ノ干支ト、同ジ干支ノ日。灸治ヲ忌ムナドニ云フ。

としま（名）［年増］ さだ過ギタル女。婦人ノ、凡ソ廿五六歳ヨリ、四十歳頃マデノ稱。津國女夫池〔享保、近松作〕四、「[illegible]其世語「根引身請ハ金ガ巾スル、口舌諸譯ハ太鼓請込ム、年増ノ娼婦ハ、紋日ニ追ハルル」東海道中膝栗毛〔文化、一九〕五編、上「マダ一人、イイ年増ガ見エルカラ、オ前、湯ニ入ッテ待テヰナセエ」〔年増女〕

とじまり（名）［戸締］ 戸ノシマリヲスルコト。戸ヲ閉ヂ、鎖ナドサスコト。

としみ（名）［落忌ノ約カト云フ］ 精進ヲ止ムルコト。シャウジンオチ。源氏物語、少女の卷（五十一）「賀ノ事ヲ云ヘル所ニ、「御としみノ事」トアルヲ、年滿ニテ賀ノコトト解ケルハ、非ナリ。賀ニ佛事ヲ修スル事アリテ、其精進落ノ儀ナリ。蜻蛉日記（中、下七十）初瀬詣ノ所ニ「ツバ市ニ歸リテ、としみナド云フメレド、我ハナホとさうじナリ」又、同ジ寺ニ詣デタル歸ルサノ事ヲ云ヘル所ニ、（上、下五十）「宇治ニテ、云云、としみノ設ケアリケレバ、云云」其下ノ詞ニ、氷魚ヲ贈リタル事アリ。落窪物語、一、石山詣ノ所ニ「歸リ給ハムニハ、御としみヲゾシタマハム」トアリ。源、三十四、上、若菜、上「廿三日ヲ、御としみノ日ニテ」宇津保物語、藏開、下「御としみノ事ヲセサセ給ヒテ」

としん（名）兎脣〔兎ノ脣ハ、缺ケテ居ル故、人ニモ云フ〕いくち（兎缺）ニ同ジ。事文類聚〔宋、祝穆〕「生而兎脣」

どしん（副）重キ物ノ地ニ落ツル響ニ云フ語。ドッサリニ餘韻アルモノ。ドデン。

どじん（名）［土人］（一）其國土ニ生レツキタル民。其土地ノ人。地ノ者。後漢書、南蠻傳、註「土人以[illegible]」瓊州府志、一、山川門、八[illegible]里、予思、[illegible]以後、[illegible]乘車入[illegible]（二）原始的生活ヲ營メル土着ノ人種。（三）土ニテ作リシ人形。土偶人。ツチニンギャウ。

とじんし（名）［都人士］ ミヤコノ、地位アル人。又、都會ニ住メル人人。ミヤコビト。詩經、小雅、都人士之什、都人士篇「彼都人士、狐裘黄黄」陸機詩「京室多妖冶、粲粲都人士」

としめ（名）［年目］〔年ノ嵩ミテ生ズル目ノ病〕トホメ。老眼。

とじめ（名）［戸締］（一）戸ヲ締ムルコト。（二）江戸幕府ノ制ニ、庶人ノ閏刑ノ名。門戸ヲ閉ヂテ、休業謹愼セシム。重キハ、一百日ナリ。輕キハ、三十日以内ニシテ、コレヲ押籠ト云フ。[illegible]仕形「戸メトハ、門戸ヲ貫ヲ以、釘メニイタシ候[illegible]ニ候得共、町方ニオイテ、右[illegible]之節ハ無之候」

としゃ（名）［吐瀉］ 口ヨリ吐キ、尻ヨリ瀉スコト。嘔吐ト、下痢ト。ハキクダシ。

どしゃ（名）［土沙］（一）ツチト、スナト。[illegible]「[illegible]土沙ニ」（二）どしゃかぢ（土沙加持）ノ條ヲ見ヨ。

どしゃ（名）［度者］ 得度シタル者。又、得度者トモ云フ。度者ニ年分度者（寺ニ隨屬セシム）ト、臨時度者（事ニ當リテ寺ニ配屬セシム）トアリ。とくど（得度）ノ條ヲモ見ヨ。（古ヘハ、公ノ病不癒ノ祈禱、又ハ、追福ノタメナドニ、度者百人、二百人ヲ賜フコトアリシト）類聚三代格、四、寛平七年三月六日、太政官符、[illegible]、同、[illegible]年十二月十四日、太政官符[illegible]加年分度者二人事」玄蕃寮式「凡除年分度者之外、臨時度者、有過僧廿人、尼十人、省執申」

とじゃう（名）［都省］ だいじやうくわん（太政官）ノ異稱。其條ヲ見ヨ。職原抄、上「太政官、當官統八省及諸司、天下事憑此官也、故云都省」宋史、呂好問傳「金人立張邦昌、以好問爲事務官、邦昌入居都省、好問曰、省中非人臣所處、宜寓直殿廬」

とじゃう（名）［都城］（一）都市ノ、郭アル處。左傳、隱公元年「都城過百雉、國之害也」李白詩「六代更霸王、遺跡見都城」（二）薩摩ニテ、在郷ノ士族ノ聚落。

とじゃう（名）［登城］ 城ニ參上ルコト。[illegible]記、[illegible]、上「[illegible]」[illegible]父子ヲ難ナク討チタリケル」

ドジヤウ
ど-ぢやう (名) 土壌 ツチ。ツチクレ。
史記、李斯傳「太山不讓土壌、故能成其大」

ドジヤウザン
ど-ぢやう-ざん (名) 土常山 木ノ名。高サ二三尺、葉ハ卵圓形ニシテ、あぢさゐニ似、對生シ、鋸齒アリテ、末ハ紫色ヲ帶ブ。夏ノ半ニ、枝ノ梢毎ニ花アリ、内ニ瑣小、五瓣ノ花、簇リ、外ニ四瓣ノ大花、取リ巻キテ開ク。内、外、色ヲ異ニシテ、白、碧、紫、紅ナド種種ナリ。葉ヲ煮テ甘茶トシ、四月ノ灌佛會ニ供ス。アマチャ。アマチャノキ。又、つるあまちゃニ對シテ、きあまちゃトモ云フ。 重修本草綱目啓蒙、十三、蔓草類「土常山ハアマチャ、別ニ蔓生ナルアルユヘ、木あまちゃトモ云フ」

ドジヤウボネ
ど-ぢやう-ぼね (名) 土性骨 〔どせうぼね(脊骨)ノ轉。其條ノ語原ヲ見ヨ〕人ノ性質ヲ罵リ云フ語。 心中天網島 享保、近松作、上「格子ノ障子バタバタト、立闔ク治兵衛ガ、氣モ狂亂、エエ、[illegible]、[illegible]メ、ど性骨ヲ遣ヘ、踏ヨ拳ハレシ、中名切メ」

ドシヤカジ
ど-ぢや-かぢ (名) 土沙加持 眞言宗ニテ行フ儀。土沙ヲ清水ニテ洗ヒ、護摩ヲ修シテ、加持ス。此土沙ヲ屍ニ撒ゲバ、日ヲ歴タルモノモ、筋骨、硬バラズト云フ。 [illegible]「以光言加持土沙一百八遍、尸陀林中散亡者屍骸上[illegible]」 太平記、三十八、[illegible]、云云、土沙加持ノ功德、十方淨土ノ菩ヲ尋ルトイヘリ」

ど-ぢやく (名) 杜若 (一)ヤブメウガ。(二)誤リテ、カキツバタ。 李中[illegible]竹樹(?)杜若遶汀洲」

ど-ぢや-ぶり (名) 土砂降 雨ノハゲシク降ルコト。又、ソノ雨。

[illegible] (名) 徒手 [illegible]

ラ。赤手。空拳。

ど-ぢゅ-けい (名) 吐綬鷄 カラクンてう(唐國鳥)ニ同ジ。

ど-ぢゅ-せき (名) 吐酒石 白色ニシテ細小ノ結晶、又ハ、粉末ノ劇藥。酸化あんちもにうむ、酒石、蒸溜水ヲ混ジ、熱シテ製ス。催吐、發汗、祛痰ノ效アリ。

トシユタイサウ
ど-ぢゅ-たいさう (名) 徒手體操 普通體操ノ一。器械ヲ用ヰズニ、徒手ニテ行フモノ。

ど-ぢょ (名) 屠所 獣類ヲ屠殺スル所。屠殺所。屠場。「屠所ノ羊」

ど-ぢょ (名) 圖書 又、ヅショ。書籍、地圖ノ類。 漢書、蕭何傳「沛公至咸陽、何獨先入、收秦丞相御史律令圖書藏之」[illegible]「圖書共九萬[illegible]」[illegible]

ど-ぢょう (名) 杜松 ムロノキ。むろ(檉)ノ條ヲ見ヨ。

ど-ぢょく (名) 徒食 ホグヒ。ネグヒ。遊食。 禮記、王制篇「君子耆老不徒行、庶人耆老不徒食」 管子、[illegible]

トシヨクワン
ど-ぢょ-くゎん (名) 圖書館 又、書籍館。多クノ圖書ヲ集メ置キテ、一般ノ人ノ覽ルニ供フル所。

とし-よ-つむ-つき (名) 〔年よ積む月ノ義〕陰暦十二月ノ異名。シハス。極月。 紀歳抄、上、十二月「年よつむ月「身ノ上ニ年よつむ[illegible]」

ど-ぢょ-の-かみ (名) 圖書頭 古ヘ、中務省、圖書寮ノ長官。中務卿ノ下ニアリ[illegible]

官位令「從五位、圖書頭」 職原抄、上「圖書寮、頭一人[illegible]」[illegible]「[illegible]」今、宮内省圖書寮ノ長官。又、ヅショノカミ。

ど-ぢょ-の-ひつじ (名) 屠所羊 屠ラルル所ヘ、引カルル羊。即チ、人ノ命ノ、時時、刻刻、死ニ近ヅク譬ニ云フ。[illegible] 涅槃經、三十八「是壽命[illegible]、如囚趣市、歩歩近死[illegible]」[illegible]「[illegible]如牽牛羊詣於屠所、歩歩近死、人命疾於[illegible]」

とし-より (名) 年寄 (一)老イタル人。老人。老者。(二)武家ノ職名。政務ニ參與スル重臣。家老。諸侯ノ家中ニテ年寄ト云ヒ、[illegible]若年寄トモ云ヒ[illegible] (三)江戸幕府時代、大奥女中ノ[illegible] 「[illegible]」 (四)江戸市中ニテハ、名主ノ上ニ居キ[illegible]者ノ役名。[illegible] (五)相撲ノ相談役。年老イテ土俵ヲ退キタル者。役人トナリテ、興行、其他、一切ノ事ヲ掌ル。[illegible]

とし-より-ご (名) 年寄子 [illegible]リテ設ケタル子。

とし-より-さい [illegible]

ノ如シ。或ハ云フ、ゆかけばと(數珠掛鳩)ノ異名ナリト。又、ふふどり、布穀鳥ナリトモ云フ。[illegible]

とし-より-まう (名) [illegible] (一)[illegible] (二)[illegible] (三)[illegible]

とし-よ-る [illegible]

老ユ。[illegible]

ど-ぢょ-れう (名) 圖書寮 [illegible]

とし-よわ (名) 年弱 一年中ノ冬期ニ生マレタルコト。又、其モノ。[illegible]

とし-わか (名) 年若 [illegible]ノ頃。若年。青年。

とし-わすれ (名) [illegible]

[illegible]法[illegible]、宗長手記、上「折ニアヒハベレバ、どしトシワスレ」宗長手記、上「折ニアヒハベレバ、どしわすれノ一[illegible]、云云、[illegible]」[illegible]六年十二月九日「大御チノ人ヨリ、御どしわすれニテ、クゴ參ル」

どしをとこ（名）｜年男｜ 昔、武家ニテ、追儺ノ豆打ヨリ、スベテ新年ノ諸儀式ヲ行ハセシ役。又、節分ノ夜ニ、豆ヲ撒ク役ノモノ。伊豆ノ俗ニ、元日ヨリ三日間、朝毎ニ火ヲ燃シ、雜煮餅ヲ神佛ニ供ノル者ヲ節男ト稱ス。 書言字考節用集、四、人倫門「歳男、トシヲトコ、年始所ㇾ用」 今川大雙紙、上、[illegible]式法事「年男、正月元旦ヨリ十五日マデ、祝ヒ事、其外神佛ノ事ニ奉仕スル役、節分ノ夜ノ鬼ノ豆ヲモ蒔ク」 [illegible]文[illegible]年中行事、上、正月朔日「御年男、御手水ヲ[illegible]盥ニ入レテ、[illegible]ヤウニ御[illegible]カケニ置テ、御中居マデ持チ[illegible]ル、[illegible]文 年男ニオホセテ、大豆ヤカニハヤサセ、鬼ハソト福ハ内ヘト打チハラヒ、惡魔外道モ西ノ海ヘトナヤラフ」 南都春日社記、[illegible]永三十五年正月「一日、御[illegible]殿年男、下[illegible]守宗時」[illegible]記」

と・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）｜賭｜ 物事ヲ犧牲トス。賭事ニ出ス。カケモノニス。ナゲダス。カク。 [illegible]書、[illegible]安[illegible]、[illegible]見子[illegible]、[illegible]賭[illegible]勝之」 同、[illegible]保[illegible]帝[illegible]保勝、[illegible]守」

どす（名）｜癩病ノ異名。（若狹、越前、越後、仙臺地方）天刑病。

ど・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、[illegible]變）｜度｜ （一）濟度ス。さいど（濟度）ノ條ヲ見ヨ。 浮世床、文化、[illegible]初編、中「ドウモ足下タチハ度シ難イ」「縁ナキ衆生ハ度シガタシ」 （二）俗人ヲ僧トス。とくど（得度）ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]、十三年九月「令ㇾ度[illegible]同[illegible]等女[illegible]曰[illegible]尼」 後紀、十四、大同元年六月「奉ㇾ爲先帝（桓武）[illegible]度二僧一百五十人、尼五十人」

どそう（名）｜度數｜ タビカズ。回數。

＊**どすぐろ・し・キ・ケレ・ク・ク**（形、一）［[illegible]むニ通ズルカ］ 穢氣ニ黑シ。濁リテ黑シ。

どすぢうゑもん（名）十筋右衛門 ［右衛門ニ意ナシ、擬人語］ 髮ノ毛ノ少ナキ人ヲ嘲リ云フ語。 新續犬筑波集（萬治）「散ル頃ヤ、十筋右衛門ノ、柳髮」 西鶴後大矢數（延寶）「月八峯、きんかノ山ヤ、光ルラム、十筋右衛門ガ、稀ノ絲ツユ」 好色一代女（貞享、西鶴）三「引キホドキタマヘバ、かもじイクツカ落チテ、地髮ハ十筋右衛門ト、恨メシサウニ、御涙ニ袖クレテ、云云」 江戸蛇之鮓（延寶）「ワラハナリ、殘ル十筋モ、夏頭巾」

とすべり（名）｜戸辷｜ いぼたらふ（蟲白蠟）ノ條ヲ見ヨ。

とせ（名）｜年歳｜ ［年經ノ約］ 年ヲ數フルニ云フ語。熟語ニノミ用ヰル。 名義抄「兩歳、フタトセ」 萬葉集、五 廿六「アマザカル、鄙ニ五年住マヒツツ、都ノテブリ、忘ラエニケリ」 同、十一 四十七「山河ニ、筌ヲ伏オキテ、盛カヘニ、年ノ八止勢ヲ、吾竊マヒシ」 同、十三 四十四 長歌「シカレコソ、歳ノ八歳ヲ、切髮ノ、吾同子ヲ過ギ、橘ノ、末枝ヲ過ギテ」「一年」「二年」「千年」「百年」「幾年」

とせい（名）｜渡世｜ （一）世ヲ渡ルコト。ヨワタリ。 （二）クラシヲ、タツルコト。スギハヒ。ナリハヒ。クラシ。生業。家業。 [illegible]曲、善知鳥「トテモ渡世ヲイトナマバ、士農工商ノ家ニモ生レズ、云云、明ケテモ暮レテモ、殺生ヲイトナミ」 鸚鵡籠（元祿、西鶴）五「天王寺ニ、鉢坊主ニ衣ノ日借ヲ渡世ニスル出家アリ」

どせい（名）｜土星｜ 太陽ヨリ第六ニ位スル惑星ノ名。地球ノ直徑ヨリ、九倍半、大ナリ、重輪アリテ、コレヲ繞リ、又、陪星、十箇アリ、廿九年半ニテ、太陽ヲ一周ス。ちんせい（鎭星）ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]道化育論、上「日輪第六郭曰ニ填星一圖ハ、土星運動之行環也、此星一萬零七百五十九日三時半餘一周悉、土星有ニ大環一而[illegible]本星一凡有二五[illegible]附[illegible]小星一[illegible]日本星之外[illegible]也」

どぜう（名）｜泥鰌｜ どぢょう（泥鰌）ノ條ヲ見ヨ。

どせうぼね（名）｜脊骨｜ ［どハ罵ル詞、せうぼねハせぼねノ延］ 脊骨ヲ罵詈スル語。頑骨。轉ジテ、どしゃうぼね。土性骨。

とぜつ（名）｜杜絕｜ フサガリ、タユルコト。 後漢書、[illegible]帝紀「杜[illegible]邪偽請託之原二」 隋書、[illegible]道衡傳「司隸刺史房彥謙勸之杜絕、賓客卑ㇾ辭下ㇾ氣、而道衡不ㇾ能ㇾ用」 王昌齡、春怨詩「音書杜絕白狼西、桃李無ㇾ顏黃鳥啼」

とせふ（名）｜徒涉｜ カチニテ、水ヲワタルコト。カチワタリ。 宋史、河渠志「海口、云云、屈曲九百里、深不ㇾ可ㇾ以舟行、淺不ㇾ可ㇾ以徒涉」 白居易詩「大軍徒涉水如ㇾ湯」

とせん（名）｜渡船｜ ワタシブネ。又、フナワタシ。渡舟。 居家必用「造ㇾ橋梁ㇾ路、及[illegible]渡船」 御定書百箇條（寛政）「一、渡船乘沈、溺死有之バ、其船之水主、遠島」

とせん（名）｜徒跣｜ ハキモノヲ穿カズシテ、行クコト。カチハダシ。 戰國策、魏策「布衣之怒、亦免冠徒跣、以ㇾ頭搶ㇾ地耳」 文同、西岡獻居詩「書室徒跣行、一起復一顚」

とぜん（名）｜徒然｜ ツレヅレナルコト。物サビシクテ居ルコト。爲ルコト無クテ、退屈ナルコト。（靜岡縣ニテハ、空腹ヲとぜんト云フ） 書言字考節用集、八、言辭門「徒然、トゼン」 太平記、七、千劍破城軍事「唯攻リ卷キテ食攻ニセヨトテ下知シテ、軍ヲ被ㇾ止ケレバ、徒然ニ皆堪ヘ兼ネテ、花下ノ連歌師共ヲ呼ビ下シ、一萬句ノ連歌ヲゾ始メタリケル」

とせんば（名）｜渡船場｜ 船渡シノアル所。ワタシバ。ワタシ。津渡。 徳川禁令考、三十五、渡船場「寛永八未年四月廿一日、渡船場法度、云云」[illegible]

とそ（名）｜屠蘇｜ [illegible] 頭ニ、一點ヲ加ヘテ、戸ニ作ル。[illegible]ノ名實ニテ、尸ノ字ヲ忌ムナリト云フ」 又、屠蘇ハ草ノ名、庵中ニ此草ヲ畫キテ、[illegible]名クト云フ」 屠蘇トハ、支那ノ唐ノ世ノ孫思邈ノ居タル草庵ノ名ナリト云フ。此庵ヨリ、毎年大晦日ニ、藥ヲ其里人ニ送リ、袋ニ入レテ井ノ中ニ浸サシメ、元日ニ取出シテ、酒樽ニ入レ、屠蘇酒ト名ヅケ、之ヲ飲マバ、其年ニ疫氣ニ侵サルマジト云ヒ、一人飲メバ一家ニ病ナク、一家飲メバ一里ニ病ナシト云フ。飲ムニ、年少ノモノヨリ始メテ、年長ノモノニ至ル。是レ少者ハ年多キヲ以テ先ヅ賀シ、老者ハ年ヲ失フヲ以テ、後ニ進ムナリトモ云ヘド、サニアラザルベシ。少者ノ先ヅ飲ムハ、藥ナレバ、先ヅ長者ノ爲ニ試ムルナリ。（毒味）禁中ニテ、元日ニ屠蘇ヲ天子ニ奉ルニ、藥子（少女ノ未ダ嫁セザルモノ）ヲ任ゼラル、鬼の間ヨリ出デテ、先ヅ試ムルナリ。鬼の間ハ、禁中ノ一室ニテ、白澤王ノ、鬼ヲ斬ル繪ヲ襖トセラルレバ云フ。徳川氏ノ世ノ初ニ、主君ノ食物ノ毒味ヲスルヲ、鬼をするト云ヒシモ、此ニ始マル。右ノ如クニテ、元旦ニ屠蘇ヲ飲ムコトハ、唐ノ世ニ始マリシモノト見エ、其風ヲ我ガ邦ニテモ傳ヘテ、千年以前ヨリ行ハレシコトニテ、禁中ヲ初トシテ、下下、全國一般ニ行ハレタルナリ。其藥種ハ、山椒、防風、肉桂、桔梗、白朮等ヲ調合シテ、紅帛ノ鱗形ノ袋ニ入レ、酒ニ浸シタリ。（今ハ味醂）又、

白散ハ刻ミナガラ、銚子ニ入ルルモノナリトゾ。字類抄「屠蘇、屠穌、トソ、一云、入酒、元日飲也、[illegible]、一人飲、一家無レ病、一家飲、一里無レ病」[illegible]長上、[illegible]、トソ、酒名、又、藥名、[illegible]明、方以智)四十二「[illegible]、屠名、爲ニ通名、爲ニ飲名一」[illegible](以上ハ、草ノ名ナリ) 荊楚歲時記(梁、宗懍)「正月一日、是三元之日也、長幼以レ次拜賀、進ニ屠蘇酒、膠牙餳云、正月飲レ酒、先ニ小者一、以ニ小者得レ歲、先酒賀レ之、老者失レ歲、故後與レ酒、陳延之小品方、屠蘇酒、華佗(東漢ノ人)方也、元旦飲レ之、辟ニ不正之氣一、從レ少至レ長、次第飲レ之」 歲華紀麗譜(元、費著)「屠蘇、草庵名、昔有ニ人居ニ草庵之中一、每ニ歲除夜、遺ニ閭里藥一劑一、令レ囊浸ニ井中一、至ニ元日一取ニ水置ニ於酒樽一、合家飲レ之、不レ病ニ瘟疫一、今人有レ得ニ方者一、亦不レ知ニ其人姓名一、但名ニ屠蘇一而已」 四時纂要(唐、韓鄂)「屠ニ絕鬼氣一、蘇ニ醒人魂一」 土佐日記、十二月廿九日「藥師、フリハヘテ、とそ、白散、酒加ヘテ持テ來タリ」 江家次第、一、供ニ御藥一「十二月十九日、以ニ屠蘇一漬ニ御井一(以ニ排絹袋一盛)」

とそう (名) 抖擻 〔梵語、Dhūta.(頭陀、又ハ、杜多)ノ譯語。 法苑珠林(唐、釋道世)一百「西云ニ頭陀一、此云ニ抖擻一、能行ニ此法一、即能抖ニ擻煩惱一、去ニ離貪著一、如ニ衣抖擻能去ニ塵垢一、是故從レ喩爲レ名」即チ、諸ノ煩惱ヲ拂ヒ捨ツル意〕 (一)佛敎ノ語。頭陀ノ條ヲ見ヨ。衣食住ヲモ心ニ懸ケズ、拂ヒ捨ツルコト。又、貪、嗔、癡ノ三慾ヲ拂ヒ去ルコト。 字類抄「斗藪、トソウ、ウチハラフ」[illegible]、安法[illegible]「共レ捨身抖擻ノ[illegible]ハ、山伏修行ノ便リナリ」同、朝長「出家ノ身ヲモ許サネバ、抖擻行脚ニ身ヲヤツシ、忍ビテ下向仕リ候」 (二)轉ジテ、僧侶、又ハ、行脚 [illegible]八、文覺勸ニ[illegible]ノ外ハ物ナシ、[illegible]ノ[illegible]シテ」

とそく (名) [illegible] 鞴子ノ[illegible]キ、[illegible]

[illegible]來、十月、[illegible]、[illegible]」

どそく (名) 土足 (一)泥ノツキタル儘ノ足。ドロアシ。 (二)履物ヲ穿キタルママノ足。 今宮心中(寶永、近松作)上「是ノ奴、[illegible]ノ出ル程、其奴[illegible]メ、住ワセナサケロト、土足ニカケ」「土足ニテトル」 (三)轉ジテ、足ト云フニ同ジ。「土足ニテ蹴ル」

どぞく (名) 土俗 土地ノ風俗。トコロノナラハシ。民俗。 書紀、[illegible]法、皆出ニ土俗一」神代紀、上「[illegible]、土俗祭ニ此神之魂一者、花時亦以レ花祭、又用ニ鼓吹幡旗一、歌舞而祭矣」 [illegible]州府志、延寶二、山川門「八瀬里、[illegible]云、土俗、男子亦[illegible]、[illegible]云、是謂ニ黑木一、[illegible]京師一、[illegible]土俗亦[illegible]」

トソツ (名) 兜率 佛敎ノ語。次條ノ語ノ略。 榮花物語、十五、疑(寫本ニ據ル)「[illegible]共ニ[illegible]、西ニ下[illegible]陀、弟子[illegible]」 [illegible]曲、浮舟「思ヒノママニ[illegible]心晴レテ、都率ニ生マルル嬉シサト」

トソツテン (名) 兜率天 〔兜率ハ、梵語、Tuṣita. 上足、妙足、知足ナドト譯ス〕 佛敎ノ語。欲界六天ノ一。內外、二院アリ、內院ハ彌勒ノ淨土ニテ、[illegible]佛前、之ニ住ス、外院ハ天衆ノ遊樂スル所。 [illegible]「[illegible]トソツテン」 法[illegible]、[illegible]品「何況受持讀誦、解其義趣、是人命終、[illegible]、即往ニ兜率天上彌勒菩薩所一」 榮花物語、十六、本の雫「女房ノイツレカ、法華ヲ讀ミ奉ラザラム、都率天ニ生マレ給ヒテ、娛樂ニ快樂シ給フベシ」 今昔物語、十二、三十二語「忽ニ二人ノ天童[illegible]、來テ告テ云ク、[illegible]ハコレ都率天ノ彌勒ノ御使也、云云、此ノ功德ヲ以テ[illegible]天ニ生マル可シ、然レバ我等、聖人ヲ迎ヘムガ爲ニ來レル也ト」

どた 名 「どたい(土臺)ノ略」 米相場ノ語。[illegible]ノナキコト。カ[illegible]。丁度。「[illegible]どた」

どたい (名) 土代 (一)[illegible]スル時ノ下書[illegible]フ」 (二)文書ノ草案。下書。草稿。[illegible]

どたい (名) 斗代 [illegible]中古、田畑ニ[illegible]ニツキ、[illegible]何斗ト、[illegible]定ムルコト。[illegible]時代、田畑[illegible]ニツキ、高何斗ト、高盛ニスルコト。又、[illegible]ツキ何斗ト、收穫高ノ制ヘヲ定ムルコト。 [illegible]

どたい 名 土臺 [illegible]

どだい (副) ドウモ。トテモ。マルデ。全ク。「どだい話ニナラン」「どだいアカン」[illegible]

ととう どたう 名 徒黨 [illegible]シテ、共ニ事ヲ行ハムトスル徒。(多ク惡計ニ云フ) [illegible]

ととう どたう (名) 渡唐 唐土ヘ渡リ行クコト。入唐。 [illegible]

どとう どたう 名 怒濤 [illegible]ブレタツナミ。激浪。 [illegible]

ととうてんじん どたうてんじん (名) 渡唐天神 [illegible]

ととうゐ どたうゐ (名) 土當歸 草ノ名。ウド。 [illegible]

とだえ 名 跡絶 トダユルコト。往來ノ絶ユルコト。 [illegible]

とだち 名 鳥立 [illegible]集ルヤウニシナシ置ケル處。 [illegible]

とだな 名 戶棚 [illegible]

臺所ナドニ、作リ附ケニシテ、内三方壁、又ハ、板張アルモアリ。板厨

どたばた (副) モノノ騒ガシキ狀ニ云フ語。(足音、又ハ、取組合ヒナドニ)バタバタ。ドタンバタン。

どたびのみな (名) 十度御名 佛教ノ語。佛ノ御名ヲ、十度唱ヘルコト。十念。 山家集、下「夢サムル、鐘ノ響キニ、打チソヘテ、十度の御名ヲ、唱ヘツルカナ」

どたま (名) 頭 あたま(頭)ノ鄙語。 八笑人、文化、四之十二「どたまカ痛メテ、ヒキラレマシネエ」

どたん (名) 機途端 チャウド、ソノ時。ヲリ。ハズミ。ヒャウシ。

どたん (名) 塗炭 (泥塗ニ倒レ、炭火ニ墜ツル義)(一)〔苦痛ノ甚シキニ云フ語。至極ノ艱難辛苦ナルコト。水火ノ苦ミ。 書經、仲虺之誥「有夏昏徳、民墜塗炭」 孟子、公孫丑、上篇「立於悪人之朝、與悪人言、如以朝衣朝冠坐於塗炭」 續後紀、廿、年八月「助帝伯斷、拯民塗炭」 太平記、十七、山門牒送南都事「九重之掖閣成民塵、塗之黎民壓塗炭」「塗炭ノ苦」 (二)泥ト墨ト。穢キモノニ喩ヘテ云フ語。

トタン (名) 亞鉛 〔外來語ナラムモ、原字、未ダ詳ナラズ〕 あえん(亞鉛)ノ條ヲ見ヨ。 和漢三才圖會、五十九、金石部「亞鉛、トタン、止多牟、倭言也、按、此未詳何物、見鉛、故…也、云云、出於東京(トンキン)、…上東京、…之」

トタン (名) 〔どたんノ拍子ナドノ意ナラム〕 江戸時代、米相場ノ稱。又、投機商ノ空米取引ヲ云フ。之、堂島上寺ノ實錄、帳、…ヲ生ジテ成ラズ、…ヲ和シテ纏ルコトトナリシヨリ、亞鉛、不足シテ、著シク騰貴セシコトアリト云フ。舶來物ナレバ、市價亂調ナリシナルベク、隨テ、投機商ノ賣買ノ如シトテ、亞鉛賣買ノ意トナリ、とたん會所ノ名、起リシカト云フ。

どだん (名) 土壇 土ニテ築キタル壇。

トタンくわいしょ (名) 亞鉛會所 〔前條ヲ見ヨ〕 文化十年頃、願濟ニテ、江戸、伊勢町河岸ニ出來タル米相場會所。(正米ニアラズ、空米相場ナリ)

どたんま (副) 途端 チャウド、ソノ時ニ。恰モソノヲリニ。ハズミニ。

どたんば (名) 土壇場 (一)斷罪ヲ行フ刑場。仕置場。クビキリ場。(二)轉ジテ、追ヒツマリタル場合。ドタ。

とだ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 跡絶 〔あとたゆノ約〕 往來絶ユ。斷レテツヅカズ。トギルル。中絶ス。絶跡 源、二、帚木「又とだえヲキ侍リシ程ニ、跡モナクコソ、搔キケチテ失セニシカ」 續後拾遺集、十四、戀、四「戀ヒワブル、涙ノ露ハ、ナキモノヲ、ナド逢フコトノ、とだえソメケム」

とだる (名) 斗樽 酒樽ノ一種。形、桶ノ如クニテ、上部、稍、開ク。今、太鼓樽ト云フ。 嬉遊笑覽、二、下「今ハ婚禮ナドニ用ル斗樽ヲ、太鼓樽ト云フ、云云、今ハ斗樽ヲ柳樽トイヘド、柳樽ハ斗樽ノ形シテ、長ク手ノ付キシモノ也」

とち (名) 杼橡栃杤 喬木ノ名。深山ニ多シ。葉、長大ニシテ、朴ニ似テ細歯アリ、其七葉、列ビテ、かへでノ葉ノ如キヲ一葉トス。夏ノ初、枝ノ梢ニ、五六寸ノ穂ヲナシ、五瓣ノ淡紅花ヲ綴リ開ク、大キサ四五分アリ。材良クシテ、閉道(シマ)アリテ美シ。七葉樹 實ハ、秋、熟ス。つばきノ實ニ似テ、外皮、厚サ二分許、茶褐色ナリ。熟スレバ、自ラ三ツニ裂ケテ落ツ。内ニ一子アリ、扁ク圓ク、栗色ナリ。天師栗 此實ヲ、米粉ニ交ヘ、餠トシテ食フベシ、とちもちト云フ。 箋注倭名抄、九、果蓏類、七十二「杼、度知」 字鏡、四十六「橡、止知」 拾遺集、七、物名「とち、トコロ、タチバナ」 山家集、下「山深ミ、岩ニ滴ル、水トメム、カツカツ落ツル、橡ヒロフホド」 書言字考節用集、六、生殖門「橡、トチ、和州土俗、謂之兒手柏(コノテガシハ)」 和漢三才圖會、八十七、山果類「橡、本綱有二種、一種不結實、其木心赤、名之曰櫟、結實者曰栩、其實為橡、實之房、為梂、云云、山人儉歳拾來、以為飯、或擣浸取粉食、其木高二三丈、堅實而重、有斑文點、點大者可作柱棟、小者可為薪炭、他木皆不及、其實之殻者、煮汁可染皂也、若曾經雨水者、其色淡、其嫩葉、可煎飲代茶也、按、木心亦有白縮、樹美而肩濃、用作飯盌及箱案之類、不減於欅也」

とち (名) 鼈 すっぽん(鼈)ニ同ジ。

とち (名) 土地 (一)地。大地。(二)地面。地所。場所。 孟子、告子、下篇「土地辟、田野治」 同、盡心、下篇「諸侯之寶三、土地、人民、政事」 (三)領地。領土。 羅隱、登夏州城樓詩「萬里山河唐土地、千年魂魄晋英雄」 (四)ソノトコロ。鄕里(サト)。本土「土地ノ者」

とぢ (名) 綴 トヅルコト。トヂタル狀。

どち (代) 何方 〔いづち(何地)ノ約訛〕 イヅチ。イヅク。イヅレ。ドッチ。 狂言記、二、人橋「ソレニ待ッテ御座レ、心得マシタ、必ズどちへモ行カセラルルナ」 史記抄、文明、六「どちへイカレタトモ、マダ不見ホドニ」

どち (接尾) 共 互ニ同類ナルヲ云フ語。ドシ。ドウシ。連(ツレ)。ナカマ。 源、三、空蟬「女どち、ノドヤカナル夕闇ノ、道タドタドシゲナルマギレニ」 同、四、夕顔「二ハイツレモイツレモ若キどちニテ、イハムカタモナケレド」 六帖、四「ハヲ惜ミ、草ノ枕ハ、セバク共、思ハムどちノ、旅ハヘヌベシ」 萬葉集、五、十五「梅ノ花、今サカリナリ、思フどち、カザシニシテナ、イマ盛リナリ」 同、八、四十二「黃葉ノ、過ギマク惜ミ、思フ人共(ドチ)、遊ブ今夜ハ、アケズモ有ラヌカ」 同、十、廿「鳴クラモ、オノガ配偶(ドチ)共、求食(アサリ)シテ、オクル間ニ、戀フト云フモノヲ」 同、十七、卅六長歌「春花ノ、咲ケル盛リニ、思フ度知(ドチ)、手折リカザサズ」 神功紀、元年三月「貴人(ウマヒト)ハ、貴人奴知(ドチ)ヤ、伊徒姑奴池」「男どち」「友どち」

とぢいと (名) 綴絲 物ヲトヅルニ用ヰル絲。又、ソノ綴ヂタル絲。

とちかう (名) ヒイキスルコト。 名義抄「自負、トチカウ、オコシス」

とちかがみ (名) 〔鼈鏡(トチカガミ)ノ義〕 水草ノ名。池澤ノ中ニ生ズ。葉ノ大イサ寸許、圓ク厚クシテ、一缺アリ、黃緑ニシテ光ル。葉ノ下ノ中心ニ、泡子(フクレ)アリテ、鼈ノ背ノ如シ。數葉、圓ク布ク。秋ノ半ニ莖ヲ出シ、三瓣ノ白花ヲ開ク、大キサ五六分ナリ。カヘルエンザ。蘋 水鼈

どちがめ (名) 鼈 すっぽん(鼈)ニ同ジ。

とちがら (名) 橡殼 橡ノ果實ノ外皮。 空也上人繪詞傳「山川ノ、末ニ流ルル、橡殼モ、身ヲ捨テテコソ、浮ム瀨モアレ」

どちくしやう (名) 奴畜生 又、ドチキシヤウ。ちくしやう(畜生)ト云フニ同ジ。人ヲ罵リ云フ語。

どちぐち (名) 〔どちトモおちトモ決セヌ意〕 物ノワカラヌコト。 松屋筆記、八十四、十三條、どちぐち「俗言ニ、物ノワカラヌコトヲどちぐちト云フ、コハ彼方此方ノ訛ニテ、彼方トモ決セズ、不分別ノ義也、薩摩國ニテハ、蛙ノ子ノイマダカヘラザルホド、心太、又ハ葛粉ナドヤウニ、ヌラ

ヌラトシテ史ニ一尺ニ、メグリ二寸位ニテ、黒キ斑所所ニアルモノ、イトウトモナク、瀧水ノ中ニ住ズルアリ、コレヲどちぐちト云ヘリ、コレガカヘリテ、イトナサキ雪ヲ、江戸ニテ、ナタマジャクシト云フ、古歌トテ、どちぐちハ、當代時ニ、日モナクテ、五月ノ比ニ、カハヅトゾナル」「どちぐちノ抜捨」

とち-ぐるひ (名) トチクルフコト。戯レ合フコト。フザケルコト。

※**とち-ぐる・ふ** ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）〔共狂フ意カ〕戯レ合フ。フザケアフ。浮世風呂（文化、三馬）三編、上「…マタハフクミ返リテ、…ニ吹キカケ、石榴口ニテ平手デブチアヒ、黄色ナ聲ヲ上ゲテ、キイキイトイツテとちぐるふ」

とぢ-こ・む ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）閉籠 戸ヲ閉ヂテ、其内ニ籠メ置ク。中ニ入レテ、出サヌ樣ニス。閉ヂテ、見エヌ樣ニス。幽閉 風雅集、八、冬「行ク先ハ、雪ノ吹雪ニ、とぢこめテ、雲ニ分ケ入ル、志賀ノ山越」

とぢ-こも・る ・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）閉籠 戸ヲ閉ヂテ、内ニ籠リ居ル。籠居

とぢ-しろ (名) 綴代 書物、帳面ノ紙ノ端ニ、綴ヂムガ爲ニ、餘シ置ク所。

とち-なまり (名) 土地訛 くになまり（國訛）ニ同ジ。

とぢ-ぶき (名) 綴葺 椽葺ニ、板ヲ數枚、重ネテ葺クニ云フ語。即チ、二分とぢ、三分とぢ、五分とぢナドト、重ネノ厚サヲ云フ。（…）今、江戸町ノ家作リヲ見レバ、二階、三階ノとぢ葺、五寸ニテ葺高ケレバ」衣食住の記「享保ノ中頃マデ、諸侯大夫ノ屋門、長屋ノ屋根ハ、厚サ五寸七寸ノコケラ葺」

とぢ-ぶた (名) 綴蓋 損ジタルヲ、繕リニ綴ヂナホシタル蓋。

とち-へん-なし (名) 〔何方偏無しノ意ナラム〕何レニモ片寄ラザルコト。[illegible]門、天皇三郎兵衛ノ[illegible]高力、鬼作左、どちへんなしノ天野三兵ト申シケル」

とぢ-ほん (名) 綴本 トヂマキ。綴ヂタル書物、巻物、折本ナドニ對ス。草子本、冊子

とぢ-まき (名) 綴卷 前條ノ語ニ同ジ。

とち-まんりやう (名) [illegible]莫大ナル金數ノ稱。巨萬ト云ハムガ如シ。文化の川柳「日出間ヲ、とち萬両テ、覗ヒヲサメ」[illegible]

〜**とぢ・む** ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）綴 事ヲ終ヘ結ブ。終結 源、九、葵「今日ニシモとぢむマジキ事ナレド」同、十、椎本「極月二十日ノ事ナレバ、大方ノ世ノ中、とぢむる[illegible]ケモ」同、三、帚木「ヨキホドニ、カクテとぢめテムト思フモノカラ」[illegible]キリテモ、立ナカヘリ、サスガニ思フ、事ゾ多カル」うたたね[illegible]カキクラス涙ノ雨サヘ降リソヒテ、云云、とぢめハテツル命ナレバ、身ノヌレトホリタルコソ、伊勢ノアマニコエタリ」

とち-め (名) 狼狽 とちめんばう（狼狽坊）ノ略。其條ヲ見ヨ。[illegible]「アワテフタメキ、前後ヲ忘ジタルヲ、とちめニナル[illegible]タルハ等、イフコト、何ノ故ゾヤ」

とぢ-め (名) 綴 （一）トヂムルコト。終ヘ結ブコト。終結 （二）[illegible]決着 結果 [illegible]集、三、秋「ササガニノ、絲ノとぢめヤ、アダナラム、綻ビワタル、藤袴カナ」（三）〔死ニギハ。臨終、末期。[illegible]ナリ給ヒテ、イササカノ給ヒオクコトノ侍リシヲ[illegible]

とちめ・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）[illegible]「とちめく」、取違、略シテ[illegible]、平家物語 異本、[illegible]宇治川合戦ノ條ニ、「とつけ」ト見ユ、同趣ナルベシ）アワツル。ウロタヘル。アワテフタメク。おさおろときめき（心悸）ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]

とちめん-ばう (名) 狼狽坊 〔橡麺（橡ノ實ヲ碎キ、饂飩粉ニ混ゼテ製ス）ヲ作ルニ、極メテ手早ク、棒ヲ用ヰテ延ベザレバ、橡麺ノ收縮スルヨリ、棒ヲ操ルニ、急速ナル手際ヲ要ス、コレヨリ橡麺棒ヲ振ルト云フ。其アワテフタメク狀ヲ、とちめくト云ヒ、轉ジテ、とちめくノ名詞形ノとちめきヲ、擬人シテ、とちめんばうトナシ、ソレガ、音便ニ、とちめんばうト云フナリ。赤き坊ヲあかんばう、吝き坊ヲけちんばうト云フガ如シ〕事ノ甚ダ急ガハシキニ、ウロタヘ惑フコト。アワツルコト。又、ソノモノ。アワテモノ。（洗濯物大鑑、寛文）ニ「夕立ニ、とちめんばうヲフル野哉」（用捨箱）トアリ。コノめんばうニテ擊タルル事ニ、言ヒ掛セテ、略シテめんくらふト云フ。又、[illegible]活用セサセテ、とちる、とちるトモ云フ。（八笑人、文化、鯉丈）以上、共ニウロタヘアワテ、マゴツク意ナリ。又、此とち[illegible]

トニ云ヒテ濁ルハ、イマイマシク憎サゲ[illegible]

とちやう (名) 斗帳 〔帳ノ形、斗ヲ覆セタル如キ故ニ云フ〕帳ノ短小ナルモノ。帳臺ノ上方ノ四面ニ張ル横ニ幅ノ布帛。神佛ノ龕ノ上ナドニモ垂ル。[illegible]

とぢやう (名) 土定 僧ナドノ、自ラ土中ニ[illegible]スルコトモアリ。

とちやく (名) [illegible]

とちやらく (副) （一）ドンド。[illegible]

とちゆう (名) 杜仲 樹ノ名。[illegible]

ミ。まさき(柾)ノ條ヲ見ヨ。

とちゅう (名) 【途中】 (一)路ヲ行キテアル時。途上。路上。論語、陽貨篇「途中見ム兩虎共食二牛二」 (二)物事ノ未ダ結了セザル中。中途。半途。

どぢやう (名) 【泥鰌】 泥之魚ノ義、泥ノ中ニちゃうちゃうスルヨリ起ル。泥鰌ノ轉ト云フハ、少シ鑿ナルベシ。塩嚢抄ニ土長、増補下學集ニ土鯲 又ハ土生、泥生ナド云ヒ、髭アレバ泥鬪ト云フノ説ナドモ據所ナシ」 (一)魚ノ名。淡水ニ産ズ、形、鰻ニ似テ短ク、黒キ斑アリテ、腹、白ク、鬚アリ。泥中ニ潜ミ、時時、水面ニ浮ビテ沫ヲ吐ク。泥中ノモノハ、肥エテ、斑、薄ク、沙中ノモノハ、痩セテ、斑、分明ナリ。 塩嚢抄、一、第五十九條「鰌、トジャウ」 多識篇、四廿二「鰌魚、和名、登知也宇、異名、泥鰌」 林逸節用集、土、生類「土鯲、ドジャウ」 易林節用集(慶長)上、氣形門「鰌、鰌、ドヂャウ」 長享二年十月十九日夜、賦何魚、連歌、中御門宣胤書)「友どちや、うチムレ遊ム、野ニ出デテ」(甘露寺元長) (二)踊子ノ異名。(ハネルニ因ル) 文化の川柳「功勞ヲ、ヘルトどちゃうモ、猫(藝者)ニ化ケ」

どぢやうじる (名) 【泥鰌汁】 泥鰌ヲ全身ノママ、笊ニアゲ、酒、又ハ鹽ニテ、跳ネダサヌヤウニイタメ、汁ノ煮立チタル時入レ、ササガキノ牛蒡ナド加ヘテ煮タルモノ。 料理物語、汁「鰌汁、中ミソニダシヲ加ヘ、ヨク煮申候、云云、妻ハゴバウ、大コン、其外、色色、云云」

どぢやうなべ (名) 【泥鰌鍋】 泥鰌ヲ脊開ニシテ、骨ヲ去リ、ササガキノ牛蒡ナド共ニ、淺キ土鍋ニ並ベテ煮、其上ヘ、玉子ヲトキテ掛ケタルモノ。ヤナガハナベ。 浪花の風(久須美祐雋)「ホネ拔泥鰌ノ調製、江戸ト替ルコトナク、刻ミ牛蒡ヲ加ヘ、鷄卵ヲカケタル杯、全ク江戸ノ通リニテ、三都一般ニアリ、元コノ調理方ハ、文政ノ始、予(久須美)ガ二十四五歳ノ頃、江戸本所大川端石原町ニテ、石井某トイヘル鰻店ニテ初テ製セシニ、今ハ三都一般ニ專ラ行ハルルコトトハナリヌ」

どぢやうひげ (名) 【泥鰌髭】 〔泥鰌ノ髭ハ、數本、對ヲナシテ、太ク短シ〕 (一)泥鰌ノ髭ノ如ク、太ク短キ口髭、少シ許リノ口髭。細ソク長キヲ、鯰髭ト云フ。 (二)泥鰌髭ヲハヤシタル人。(卑語)

どちら (代) 【何方】 (一)イヅカタ。イヅク。ドノハウ。(二)イヅレ。ドレ。

と・ぢる (動) 閉ヅ、又、綴ヅノ口語。

とつ (名) 【訥】 〔説文「訥、言難也」 玉篇「訥、遲鈍也」〕 (一)言語ノニブキコト。言葉ノ少ナキコト。 論語、里仁篇「子曰、君子欲ト訥ニ於言一而敏中於行上」 (二)口ノドモルコト。ドモリ。 晉書、左思傳「口訥而辭藻壯麗」

とつ (感) 【咄】 〔説文「咄、相謂也」 廣韻「咄、叱也」〕 (一)呼ビカクル聲。 漢書、李陵傳「吾已胡服矣、有レ頃律起更レ衣、立政曰、咄、少卿良苦」 (二)舌打チノ聲。(三)叱ル聲。 漢書、東方朔傳「朔笑レ之曰、咄、」注「咄、叱咄之聲」

と・づ ヅル・ヅレ・ヂ・ヂ・ヂヨ(自動、上二) 【閉】 〔止ノ活用〕 締リ合フ。塞ル。 夫木抄、三十「軒とづる、ミ山ノ檜原、タカケレバ、ホノカニ出タル、月ヲマツカナ」 源、四十四、橋姫廿「ワザトさしこもりテ、ナラヒヨミ、大方ハカバカシクモアラヌ身ニシモ、世ノ中ヲソムキ顏ナラムモ」「氷閉づ」「胸閉づ」

と・づ ヅル・ヅレ・ヂ・ヂ・ヂヨ(他動、上二) 【閉】 〔止ノ活用〕 開キタルヲ塞グ。締ム。鎖ス。 最勝王經音注「閉、又作レ閇、止ツ」 名義抄「杜、トヅ、閉、トヅ、關、トヅ、鍵閉、トヂ、トヂテ」 字鏡七十四「因、閉也、止知加太牟」 萬葉集、十二三十「カドタテテ、戸モ閉ちタルヲ、イヅクユカ、イモガ入リキテ、イメニ見エツル」 新古今集、十七、雜、中「今ハワレ、松ノ柱ノ、杉ノ庵ニ、とづべき物ヲ、苔フカキ袖」「戸ヲ閉づ」「眼ヲ閉づ」「通路ヲ閉づ」 口を閉づトハ、默ル。 【噤】 著聞集、十六、興言利口「此事思ヒトマルベシト云ヒタリケレバ、盛廣、口ヲとぢテ云フコト無カリケリ」 源、六、末摘花廿六「何事モイハレ給ハズ、ワレサヘ口ぢとぢタルココチシ給ヘド」 名義抄「噤、トヅ、ツグム、ハクフ」

と・づ ヅル・ヅレ・ヂ・ヂ・ヂヨ(他動、上二) 【綴】 〔前條ノ語ノ轉〕 重ネテ結ヒ綴ル。一ツニ縫ヒツク。 名義抄「綴、トヅ、ツツム、ツカヌ」綴、トヅ、ツヅル」 字鏡廿八「緕、施縫也、止豆」 天治字鏡、十二九「綃者、止豆」 枕草子、五、四十六段、なまめかしきもの「薄様ノ草子、ムラゴノ絲シテ、ヲカシクとぢタル」「書物ヲ綴づ」

とつあふ (名) 【凸凹】 ナカダカ、ナカビク。あふとつ(凹凸)ニ同ジ。 神異經(漢、東方朔)「大荒石湖千里無二凸凹、平滿無二高下一」

とついつ (副) 〔取りつ置きつ、ノ音便轉〕 手ニ取リ、又、地ニ置キテ。身、落チツカズ、心、一決セズシテ、トヤカクト思ヒ惑フ。タメラヒテ。躊躇シテ。「とつおいつ、案ジ煩フ」

とつかのつるぎ (名) 【十握劍】 其身ノ長サ十握バカリアル劍。つか(握)ノ條ヲ見ヨ。 神代紀、上二十二「遂拔二所レ帶十握劍一斬二軻遇突智一爲二三段一」 古事記、上、神代九「拔二所レ御佩之十拳劍一斬二其子迦具土神之頸一」

とつかはと (副) 狼狽スル狀ニ云フ語。 源氏冷泉節(寶永、近松作)上「春樂元來、一徹モノ、伊東殿ノオ召シト聞キ、とつかはとシテ출 タガい」

とつかへべい (名) 飴賣ノ一種。飴ヲモテ、古ぎせるナドト、替ヘアルク者。

とつかん (名) 【吶喊】 敵陣ニ向ヒテ進ム時、多クノ兵士ガ齊シクヲメキサケブコト。トキヲツクルコト。 唐、殷寵光記、蔡新書「號令嚴明、各兵吶喊」

トッカリ (名) アザラシ(水豹)ノ樺太語。

とつき (名) 【凸起】 ナカダカク、起リ上ルコト。又、其物。

とつき (名) 突起 高クオコリタツコト。高ク突キ出ルコト。又、其物。

とつき (名) 【突騎】 敵陣ニ突キ入ル騎兵 漢書、晁錯傳「若夫平原易地、輕車突騎、則匈奴之衆、易二撓亂一也」 後漢書、光武帝紀「光武棄レ騎奔還、反爲二賊所レ敗、追急短兵接二光武一、自投二高岸一、遇二突騎王豐下一馬授二光武一」 三國志、魏志、公孫瓚傳「光和中、涼州賊起、發二幽州突騎三千人一假二瓚都督行事一」

とつぎ (名) 【嫁】 トツグコト。とつぐ(嫁)ノ條ヲ見ヨ

どづき (名) 【土突】 建築ノ時、礎ノ下ノ地ヲ、平ラシテ突キ堅ムルコト。音便ニ、どうづき。ヂギャウ。ヂカタメ。ヂツキ。 嬉遊笑覽、一、上、居處「地ヲナラシ突堅ムルヲ土突ト云フ、今どうづきト云フハ誤ナリ、又、地突トモ云フ、云云、按、どう突ト云ヒシモ、近時ノ言ニモアラズ、延寶中、洛陽集ニ、石竹ヲ、筒搗ヤ、日傭ガ庭ノ、石ノ竹(如風)ト云フ發句アリ」

とつきやう (名) 【凸鏡】 中高ニテ、縁ニ至ルニ從ヒ、薄クナレル鏡。凸面鏡。

とつぎまなびどり (名) 【嫁學鳥】 次條ノ語ヲ見ヨ。

とつぎをしへどり (名) 【嫁教鳥】 〔交接教鳥ノ義〕 せきれい(鶺鴒)ノ古名。コヒヲシヘドリ。ツツナハセドリ。トツ

ギドリ。トツギマナビドリ。マナバシラ。ツツマナバシラ。ニハクナブリ。日本紀私記(神代紀、上七)「鶺鴒、止豆岐乎之倍止利」神代紀、上、一書「鶺鴒」古事記、下(雄略)三十「鶺鴒」天治字鏡、八「鶺、[illegible]萬奈柱」倭名抄、十八「[illegible]族名「鶺鴒、爾波久奈布里」神代紀、上、「伊弉諾尊伊弉冊尊将ニ交合、而不知其術、時有鶺鴒[illegible]、其首尾ニ、[illegible]、之、即得交道」私記「止豆岐萬奈比止利」

〜と-つ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) [嫁] 「跡繼ぐノ義カ」(一)男女相會フ。夫婦トナル。[illegible]、[illegible]氏」萬葉集、九、[illegible]「上洛ノ時、渡邊ニテ、[illegible]ガ娘ニとつぎニケリ」盛衰記、七、[illegible]好キ夫ニアハセムトシケルヲ、[illegible]人ニとつぎテ、親ニ勘當セラレ」(二)交合ス。名義抄「婚、トツグ、歸、トツグ」字類抄「嫁、娶、婚、歸、トツク」[illegible]、五年三月「嫁、於東宮聖德」」[illegible]、大化二年三月「[illegible]、夫[illegible]之日、[illegible]年之後、適他[illegible]、云云、女自適人」詩經、[illegible]、[illegible]天[illegible]「之子于[illegible]、宜其室家」」神代紀、上七「得交道」私記「止[illegible]遺志倍太利」

〜と-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [届] 〔遠附くノ義〕とどく(届、自動、四)ニ同ジ。名[illegible]抄「届、トヅク、イタル」[illegible]明集(慶長)上、言語門「[illegible]、トヅク、至也」[illegible]、同年十月「[illegible]不能[illegible]達」[illegible]之集、下「ソノ[illegible]、代屋ニ、とづく、[illegible]ノ、[illegible]カ[illegible]ニカハ、[illegible]ッ」[illegible]六帖、六「サシモコソ、[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]ニとづかス」盛衰記、十五、宇治合戰事「馬ノ足ノとづかム程ハ、手綱ヲスクフテ歩マセヨ」

〜と-づ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) [届] とどく(届、他動、下二)ニ同ジ。桑花物語、十七、音樂「アヤブミアラバ、藥師如來、八大菩薩ヲソヘテ、[illegible]ニオクレ、とづけ[illegible]ノナリナド、オボシアハセ[illegible]」

ドッタ(名) [illegible] [illegible]語、Dock. 英語、[Dock.] [illegible]ノ[illegible]、修理、又ハ、其水線下ノ塗替ナドヲナス時ニ、其船艦ヲ容ルル巨大ナル池ノ如キモノ。先ヅ船艦ヲ、ココニ入レ、強力ナル喞筒ヲ以テ、渠內ノ水ヲ排除シテ、作業ニ從事ス。コレヲ普通、乾船渠ト稱ス。又、コノ乾船渠ト同ジ形式ヲ具ヘタル一大函ニシテ、コレヲ水中ニ沈メ、ソコニ船艦ヲ入レ、浮戸ヲ以テ渠口ヲ閉ヂ、渠內ノ水ヲ排出シ、船艦ト共ニ浮揚セシメテ、作業スルモノヲ、浮船渠ト云フ。コレハ移撥シ得ルノ便宜アリ。

ど-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 〔どハ接頭語〕つく(突)ト云フニ同ジ。ハゲシク突ク。又、ナグル。音便ニ、どうづく、東海道中膝栗毛(文化、一九)十編、上「タハゴト云フト、どづき倒スゾ」[illegible]、[illegible]モ、ヨイ恩ミデ御座ル、どづいテイサカヒハスル、コンナ面白イ事ハ御座ラヌ」

とっくと(副) [篤] とくと(篤)ノ音便。

〜と-つ-くに(名) [外國] (一)古へ、畿內ノ外ノ國ノ稱。畿外 [illegible]、[illegible]門「外國、トツクニ」景行紀、五十一年八月「隨其情願、令班[illegible]邦畿之外」[illegible]、四年二月「[illegible]之內、[illegible]有不[illegible]、況乎、畿外[illegible]」(二)ぐゎいこく(外國)ニ同ジ。

とっくみ(副) [疾] とくみ(疾)ノ音便。

とっ-く・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [取組] とりくむ(取組)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

とっくり(名) [德利] とくり(德利)ノ音便。[illegible]子[illegible]、[illegible]、トクリ、[illegible]は今日の物語(天正)「ケサモとっくりヲフッテ見テ、酒ガナイトテ」

と くりいちぶ [illegible] [illegible]、[illegible]ノ名。山野ニ自生ス、[illegible]、[illegible]ノ華ハ、互生シテ、[illegible]、七[illegible]、[illegible]ノ葉ニ似テ短シ、夏、枝ノ端ニ、[illegible]ノ白花ヲ開キ、[illegible]、[illegible]十[illegible]、枝ヲ分ツコト、のいばらノ如クニシテ、花ハ小サシ。實、熟スレバ、紅紫色トナリ、形、壜子ノ如シ。[illegible]。又、ナツイチゴ。[illegible]

どっくりと(副) [篤] とくと(篤)ノ音便ナル[illegible]。其條ヲ見ヨ。

トッ-カン
とつ-くゎん(名) [突貫] (一)ツキ貫クコト。(二)一氣ニ突キ進ムコト。又、一[illegible]、[illegible]ト。

と-つけ(名) [取附] 綴ノ名ドコロ。[illegible]條ヲ見ヨ。[illegible]、[illegible]ケ、此ト[illegible]カサズ、[illegible]切ッテ、本田ノ次郎ガ[illegible]ノとつけニコソ、附サセケレ」

とつ-げき(名) [突擊] [illegible]、[illegible]ツコト。敵陣ニ突キ入リテ擊ツコト。[illegible]「[illegible]之」今、戰爭ニ、喇叭ヲ吹キ、銃劍シテ、敵陣ニ突入スルコト。兵語ニ、[illegible]トモ云フ。

とっ-こ(名) [獨鈷] とくこ(獨鈷)ノ音便。

どっさい(副) (一)モノヲ扱フトキニ、大儀ナル時ニ云フ掛聲。(二)相手ノ行動ナドヲ、遮リ止ムル時ニ發スル聲。「と、おい、サウハ行カヌ」どっさい、待ッタ」

と こつ [illegible] [illegible]

どっ-さ(副) [illegible] (一)呵叱ノ義。又、[illegible]

どっさか(名) [鷄冠菜] とさかのり(鷄冠菜)ニ同ジ。トリサカノリ。

どっさり(副) (一)ドサリト。重キ物ノ落ツル響ニ云フ語。(二)重キモノ[illegible]、多ク。タクサンニ。[illegible]

とっ-ぶん(名) [突進] 一氣ニ進ムコト。

とっ-ぶつ(名) [突出] (一)突キ破リテ出ヅルコト。(二)高ク突キ出ヅルコト。[illegible]

とつ-ぶ [illegible] [突如] 突然ナル狀ニ云フ語。[illegible]

どっぷり(副) (一)[illegible]ニ云フ語。(二)[illegible]、重重シキ狀ニ云フ語。(三)どっぷりニ同ジ。

どっ-せん(名) [突戰] 突出シテ戰フコト。

とつ-ぜん(副) [突然] 不意ニ。不圖。[illegible]

どったか-みたか [illegible]

とったり (名) 捕手 (一)捕手(トリテ)ノ役人。義輪軍記(永祿)「在在所所ノ取傳(トツタリ)ノ侍共呼出シ、[illegible]早繩、云云、入ラヌカト勸ム、此方ハ取たノ術ヲ知ラネバ、早繩ノ入目ナク、云云」(二)芝居ニテ、役者ノ扮スル捕手(トリテ)。又、ソノ捕手ニ扮スル者ノ、演ズルとんぼがへりノ稱。(三)相撲ノ手ニ、右手ニテ敵ノ左手首ヲ押ヘ、左手ニテ其二ノ腕ヲ取リ、コレヲ右ノ方ヘ、ヒネリタフスコト。

✣✣**どっち** (代) 何方 〔いづちノ約訛〕 いづち(何方)ノ口語。其條ヲ見ヨ。

とっちがへ (トッチガエ) (名) 取リチガフルコト。カヘサマ。ウラハラ。アッチコッチ。アベコベ。トッテガヘ。

とっちめる (動) 取締 〔とりしまる(取締)ノ音便訛〕 嚴シク引キ締ムル。身動キナラヌ樣ニス(物、又ハ、理詰メニテ) 追善清十郎俳諧、秋ノ[illegible]ノ、エラツノトヘリ」學問ヲ、身ニとっちめテ、スル頃ニ」

とっちりとん (名) (一)三味線ヲ彈キ出ストキノワザ。又、ソノ音。(二)とっちりとん節(ブシ)ノ略。俗謠ノ一。唄ニ合ハス三味線ノ初ニ、とっちりとんト、彈キ出ス故ニ名ヅク。守貞漫稿、二十三、とっちりとん節「是亦文化ヨリ行レ、三都トモニ唄ヒ、今モ往往唄レ之」

とっちる (動) 取リチガヘル。とちめんばう(狼狽坊)ノ條ヲ見ヨ。

とっつぁん (名) 父樣 ととさま(父樣)ノ卑語。

とっつかま・へる (トッツカマエル) ・ヘル・ヘレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 取捉 つかまへる(捉)ニ同ジ。

とっつかま・る ・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 取捉 つかまる(捉)ニ同ジ。浮世風呂(文化、三馬)四編、中「お客ハ取ヨウゴゼハマス、聲自慢デ、御自身ニ唄フ客人ナドハ、取ッつかまッタ歌妓(ゲイシャ)ヤ三絃ヒキノミジメヲ見ル斗リ、帮閒(タイコモチ)高(タカミ)デ見物ハハ」

とっつけ (名) 取附 (一)鞍ノ後輪(シヅワ)ニ附ケタル紐。トリツケ。餉附(カレヒツケ)。平家物語、九、宇治川事「首ヲネヂ切ッテ、本田次郎ガ鞍ノとっ付ニコソ、付ケサセケレ」古ク、とつけト云フ。しほで(鞍)ノ條ヲ見ヨ。(二)刀劍ノ柄口ノ金具。幸若舞曲、烏帽子折「刀ハ皆黄金造リナリ、とっつけ鞘口ニ、俱利迦羅不動明王、云云、アリアリト彫ッテ候」

とっつけもない (連體) 取付モナシ。トンデモナイ。

とって (名) 取手 器具ニ、手ニ取リ、又ハ、持ツベク差出デタル處。柄。ツマミ。トリテ。柄 提梁 鼻鈕 史記抄(文明)四「鈕ハ印鼻也、ナニサマとってニスル處ゾ」

とって (辭) 迚 とて(迚)ノ音便。浮世風呂(文化、三馬)二編、上「アレカラネ、ワタシヲ送ッテ遣ラウ迚(トッテ)、新道ノマガリ角迄、タリ何カアシテ、トウトウ内ノ前マデ送ッテサ」

とってい (名) 突堤 海中ニ突出シテ築造シタル堤防。

とっておき (名) 取置 (一)アヅカリ。トリオキ。取リノケテ、オキタルモノ。祕シテ人ニ示サザルモノ。トットキ。浮世親仁形氣(元文、自笑)一「サラバ拙者モお肴ニ、若イ時ミガイテオイタ、とっておきノ藝ヲオ目ニカケン」(二)大切ニシマヒオキテ、稀ニ着ル衣裳。心中刃氷朔日(寶永、近松作)上「テンテン天氣モ照リ降リ雨ニ、五十餘リノ女房ノ、とって置キヲバヌラサジト、嬉シヤ此方ソフナ迚」

とってかか・る ・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 取掛 (一)モノゴトニ、トリカカル。(二)人ニクッテカカル。ハムカフ。敵對ス。

とってがへ (トッテガエ) (名) トリチガヘ。トッチガヘ。

とってかへし (トッテカエシ) (名) 取返 トッテカヘスコト。モトノ如クナスコト。

とってかへ・す (トッテカエス) ・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 取返 モトヘモドル。ヒキカヘス。

とっと (副) マッタク。マコトニ。ホンタウニ。狂言記、文相撲「彼奴(キャツ)カ、ナカナカ、とっと利根(リコン)サウナヤツヂャ」

どっと (副) 嚾咄 (一)衆人、一同ニ、高ク聲ヲ出スニ云フ語。哄。平家物語、九、宇治合戰事「サシモ御祕藏ノ生食(イケズキ)ヲ、盜ミスマシテ上リ、サラバイカニ、梶原殿ト云ヒケレバ、梶原此詞ニ腹ガイテ、云云、咄(ドツ)ト笑ヒテゾ退キニケル」續東海道中膝栗毛(文化、一九)二編、上「船中皆皆、北八ノ顏ヲ見テ、どッと笑ヒヲ催シケル」、「どつと叫ブ」(二)水ナドノ、一時ニ、勢ヨク流レ出ヅル狀ニ云フ語。(三)病氣ノ重クナリテ、起キ上リ難キ狀ニ云フ語。

とっとき (名) 取置 〔とりておきノ約ナルとっておきノ音便訛〕 とっておき(取置)ニ同ジ。トリオキ。

とっと・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 取置 とりおく(取置)ノ音便訛。

とっとっ (名) 調子ヲ取リテ、小足早ニ行クコト。(人ニ、馬ニ)

とつとつ (感) 咄咄 (一)舌打チスル聲。又、ウナル聲。(二)驚キテ發スル聲。怪ミテ發スル聲。後漢書、嚴光傳「車駕幸二其館一、光臥不レ起、帝卽二其臥所一、撫二光腹一曰、咄咄子陵、不レ可二相助爲一レ理邪」晉書、殷浩傳「浩被レ黜、放レ口無二怨言一、但終日書レ空、作二咄咄怪事四字一而巳」陸[illegible]、詠老詩、[illegible](三)叱スル聲。太平記、廿四、依二山門嗷訴一公卿僉議事「鐵牛一頭出デ來テ、地ヲ跑(ハク)テ吼エ怒ル、舍利弗、一聲ノダンヲ咄咄ト叱シ給フニ、鐵牛ノ[illegible]師子ニ成リ出テ」

とっとのめ (名) 又、トトノメ。小兒ノ語。右ノ人差指ニテ、左ノ手ノ平ノ、中央ヲ突クコト。

とつなぎ (名) 外繫 〔留繫ノ義カト云フ〕 馬ヲ繫ギ止メ置ク柱。ウマツナギ。ヨセバシラ。馬㕓。椥

とっぱ (名) 突破 ツキヤブルコト。ヤブリテ、突キススムコト、「難關突破」

とっぱい (名) 頭盛突貝 〔兜鍪(トッホウ)ノ音ノ轉カト云フ〕 兜(カブト)ノ鉢ノ製、椎子(シヒノミ)ノ形シテ、頭、圓ク尖リテ、後ヘ靡キタルモノ。八幡座、筋、星ナドナシ。武具訓蒙圖彙、一「とっぱい、突貝ニ品アリ、後ヘナビキ、上ヘ高キ則(ヤ)ハ、ツリ合惡シ、故ニ口傳アリ」大友興廢記(甲斐武則)長尾口合戰「鐵炮ヲ揃ヘウツ處ニ、財津がとっぱいノ甲ニ、六ツ七ツマデアタル」

とっぱさっぱ (副) 忙シク立チサワグ狀ニ云フ語。トッパトッパ。丹波與作(寶永、近松作)中「今日デ三日ノ逗留、宵(ヨヒ)ノ朝(アシタ)百六十人、とっぱさっぱト忙シイ」

とっぱし (名) 〔とっハ接頭語〕 はし(端)ト云フニ同ジ。意味ヲ強メテ云フ。東海道中膝栗毛(享和、一九)二編、下「木賃宿ハネエカノ、アイ、ムカウノとっぱしノ家ヨ」

とっぱし・る (トッパシル) ・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 飛走 とびはしる(飛走)ノ音便。

とっぱづれ (トッパズレ) (名) そっぱづれ(外端)ニ同ジ。

とっぱとっぱ (副) 忙シサニ迷フ狀ニ云フ語。トッパサッパ。

とつ-び (名) |突鼻| (一)君前ニテ首尾ノワルキコト。譴責ヲウクルコト。 吾妻鏡、十九、建暦元年六月七日「[illegible]」 (二)[illegible]

とっ-ぴ (名) |突飛| (一)突然。ダシヌケ。意外。意表外。(二)人ノ意表ニ出ヅルニ云フ語。奇異。奇抜。

トッピ (名) 貂皮 〔朝鮮語、ちょっぴノ轉〕 貂ニ似タル獸、朝鮮ニ產ズト云フ。テンピ。トンピ。貂鼠

とっ-ぴゃう-し (名) |突拍子| 調子ハヅレナルコト。度ハヅレナルコト。突飛。

とっ-ぴゃく-ゐん (名) |十百韻| とびゃくゐん(十百韻)ニ同ジ。

とつ-ぶん (名) |凸文| 陽文ニ同ジ。

とっ-ぷり (副) 日ノ全ク暮レ果テタル狀ニ云フ語。

どっ-ぷり (副) 墨汁ナドニ、筆ヲ十分、浸シタル狀ニ云フ語。

とつ-べん (名) |訥辯| 物言フコトノ滑カナラヌコト。又、ソノ舌。訥[illegible]

どっ-ぽ (名) |獨步| どくほ(獨步)ノ音便。

と-つ-みや (名) |外宮| (一)常ノ大宮ノ外ニアリテ、行幸ナドノタメニ設ケラレタル宮。離宮。 萬葉集、六二十長歌「ヤスミシシ、ワゴ大王ノ、常宮ト、仕ヘマツレル、[illegible]ユ」(古義ノ訓ニヨル、紀伊ニ幸スル時ノ歌) 同、十三言[illegible]

[illegible]天武紀、下、八年五月、甲申、幸吉野宮[illegible] (二)伊勢ノ天照大神ノ外宮。即チ、豐受大神ノ坐ス宮。外宮。 [illegible]

とつ-めん (名) |凸面| 凸起セル面。面ノ中高ナルコト。「凸面鏡」

とつめん-きゃう (名) |凸面鏡| とっきゃう(凸鏡)ニ同ジ。

とつ-レンズ (名) 〔英語、Convex lens.〕 中央ノ凸起シテ、緣ニ至ルニ從ヒ、薄クナレルれんず。コレヲ通過セシ光ハ、れんずノ中心ニ向ヒテ集ル故、顯微鏡、望遠鏡ナドヲ造ルニ用ヰル。

と-て (接) 迚 (一)天爾波、第一類ノとト、第三類ノてトノ間ニ、他語ヲ略セルモノ。と思ひて、と言ひて、として、ナドノ略。音便ニ、とって。 伊勢物語、八十五段「ム月ナレバコトタツとて、オホミキ賜ヒケリ」 古今集、二、春、下「春ノ歌とて詠メル」 同、十三、戀、三「起キモセズ、寢モセデ夜ヲ、明カシテハ、春ノモノとて、ナガメ暮シツ」 更級日記「匹布ヲ千ムラ萬ムラ織ラセ、晒サセケルガ、家ノ跡とて、深キ河ヲ舟ニテ渡ル」「[illegible]マムとて likewise 花見ニとて出デ行ク」 (二)雖。トイヘドモ。トテモ。 伊勢物語、[illegible]ソムクとて、雲ニハ乘ノメ、モノナレド、世ノウキコトゾ、ヨソニナルテフ」「然リとて」「然レバとて」才子ナリとて學バズバ」

と-で (名) |外出| 外ニ出ヅルコト。他行スルコト。又、ソト。屋外。 [illegible] 伊勢[illegible]國ニテ、アダ[illegible]ニテ、トハト云、上總房州ニテ、とでト云フ」

ど-て (名) 土手 〔土堤ノ略〕 つつみ(堤)ノ條ノ(一)ニ同ジ。堤。 大鏡師[illegible]

[illegible]

と-てい (名) |徒弟| 〔門徒弟子ノ意〕 (一)弟子。門人。 [illegible] (二)でっち。小僧。

どて-うま (名) [illegible] 寬文、元祿ノ頃、江戶、新吉原通ヒノ三谷路ハ、駄賃馬ニテ、日本堤ヲ[illegible]カリテ、[illegible] 馬道ト云フ町アルハ、其遺ナリ。(二)轉ジテ、日本堤ニ立チテ、嫖客ノ歸路ヲ待受ケテ、[illegible]稱。又嫖客ノ歸リニ附從ヒテ、揚錢取リニ行ク日雇ノ者ヲ、附馬ト略シテ、(馬)トモ云フモ、共ニソノ遺ナリトモ云フ。 [illegible]

と-てつ (名) |途轍| [illegible]方。 [illegible]

どてっ-ぱら (名) [illegible] 腹)ノほヲ、どト云ヒテ、卑俚ニ云ヒタル語。[illegible]

とてつ-も-ない (連語) 〔途轍も無い〕 (一)とんでもないニ同ジ。(豫想外ナル事ニ云フ) (二)トハウモナイ

どて-なべ (名) |土手鍋| どてやきなべ(土手燒鍋)ノ略。其條ヲ見ヨ。

ど-てふ (名) [illegible] へ、俗人ヲ僧尼ニ度スルトキニ、官ヨリ其名[illegible]書。 [illegible]

[illegible] 下[illegible]六月[illegible]

どて-ぶし (名) 土手節 [illegible] 江戶、新吉原日本堤[illegible]トデフ。寬文ノ始ヨリ、吉原ヘ通ヒシ[illegible]、吉原組ナド云ヒシ六方男達ナドガ、好ミテ唄ヒシ小唄。其唄ニ[illegible]三谷ノ草深ケレド、君ガ[illegible]バコソ、[illegible]所ノ[illegible]ヤルナ、名ノ立ツニ」[illegible]タ、サハリザヤサイカ」ソレ[illegible]ニオケ」(用捨箱)ト云フ所ノ節ナリト云フ。

ど-テン (名) [illegible] 云フ)ヘ渡リ行キシコト。カラリタリ、天竺德兵衞物語ソ、一名、渡天物語ト云フガ如シ。 [illegible] ハン事、イカゲ[illegible]

どでん (副) (一)[illegible] ニ云フ語。ドシン。(二)[illegible]クリカヘル意) 取引所ノ語、[illegible]ガ賣手ニ、又、賣手ガ買手ニ、[illegible] ル狀ニ云フ語。

ど-でも [illegible]

到底。 [illegible]記、三十八、平[illegible]公[illegible]最後事「ヨニモ、タスケ參ラセバヤト存侍レドモ、源氏、クガニミチミチタリ、とてもノガレ給フベキ御身ナラズ」 好色二代男、[illegible]、二九千[illegible]、云云、とても死ンテハ持ッテ行ケズ、帳子一ツデ濟ム事ナリ」

とてもかくても (副) (一)〔イカニシテモ。如何ニストモ。何トシテモ。所詮。到底。略シテ、とても。(とかくノ條ヲ見ヨ) 源、五、若紫四十八「イカニナリハテ給フベキ御アリサマニカ、とてもかくても、タノモシキ人人ニオクレ給ヘルガ、イミジキト思フニ、涙ノトドマラヌヲ」 (二)ドノヤウニシテモ。 江談抄、三「世ノ中ハ、とてもかくても、スグシテン、宮モワラヤモ、ハテシナケレバ」 拾玉集、四「ヨシアシヲ、思ヒシル人ゾ、ナニハガタ、とてもかくても、世ニアリガタキ」

とてものこと (副) イッソノコトニ。 [illegible]ハシロ[illegible]、[illegible]、コレマデ[illegible]御下向ニテ候、とてもの事ゞ、然ルベキヤウニ仰セラレテ」 浮世風呂、文化、二ノ[illegible]、下「番頭、先刻カラ喧嘩ノ對手ガ[illegible]カ、タカ、[illegible]ノ事デ二人一時ニ出來タ とてもの事ヲ貸セ」

〔**とてやかくてやと**〕 (副) とやかくやと ニ同ジ。 源、四十九、東屋五十「タダ心ニカカリテ、ナガメノミセラレテ、とてやかくてやと、ヨロヅニヨカラン、アラマシゴトヲ、オモヒツヅクルニ、イトカタシ」

どてやきなべ (名) 〔土手燒鍋〕 鍋燒ノ一種。鍋ノ緣ニ、少シ高ク白味噌ニテ堤ヲ築キ、其中ニわりしたヲ注ギ、肉、菜ヲ入レ、追追ニ堤ヲ崩シ、カキマゼテ煮ナガラ食フモノ。略シテ、どてなべ。

どてら (名) 〔ててらノ轉、角てて、太てての類〕 冬ノ服。普通ノ衣服ヨリ、稍、ユルヤカニ仕立テ、厚ク綿ヲ入レ、闊袖ニシタルモノ。表衣ノ上ニ着、又、夜、寢ル時ニ被ル。(東國)タンゼン。縕袍 浮世風呂、文化、三ノ馬、初篇、下「ソノ日ノ出立ニハ、上ニハ赤地ノ錦ノ直衣ヲ引張リ、下ニハ紺ノ布子ノどてらヲ引 張リケリ」 春色梅曆(天保、爲永春水)四「氣性モ土地柄ハデヤカナ、三升格子ノどてらヲ着、紫合絆ノ細帶ヲ前デ結ビ」

どど (名) 〔父〕 (一)ちち(父)ノ轉。(小兒ノ語) 爺爺。 好色一代男(天和、西鶴)一「近所ニ辛ヒ子安ノ御地藏ハ御座リ、大儀ナレド百ノ齊舟ハ、どどガスルゾ」 (二)老翁。 丹前能(元祿)二「枚方ノ岸根ニ舟ヲツナケバ、奈良茶賣ノどどかか一一ヲアラソヒ、ココカシコヨリ來リテ」

とゝ (名) 〔鷄〕 〔鳥ノ頭ノ一音ヲ重ヌ。酒ノささノ如シ〕 鳥。鷄。(小兒ノ語)

トト (名) 〔魚〕 〔韃靼語ナリトモ云フ。或ハ、魚ヲヒトヒトト數フルヨリ起ルト。 墨莊漫錄(宋、張邦基)「吳中魚市以レ斗計」ト見エタリ〕 ●ウヲ。(小兒ノ語) 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)二、祝スグルモイナ物「十計ナル[illegible]頭、フトオヲ立、親ノ汁ニ殘レル鯛ノカシラヲトリテ、手ガヒノ犬ヲヨビ、コレハとゝノカシラゾ、クラヘ」 運歩色葉集「斗斗、倭國小兒、呼レ魚曰二斗斗一」 林逸節用集、生類「斗斗、トト」「魚屋」

〔**とゝ**〕 (感) 〔喚鷄ノ轉〕 鷄ヲ呼ブ聲音。 萬葉集、八四十一「朝戶開ケテ、物念フトキニ、白露ノ、置ケル秋萩、ミエ喚鷄モトナ」

とど (名) 〔止〕 (一)キハマリ。ハテ。結局。到頭「とどノツマリ」 (二)鯔ノ十分ニ成長シタルモノノ稱。

トド (名) 〔鰕魹〕 〔或ハ、蝦夷語、Tondo.或ハ、'Todo,'Toto.カ〕 (一)海獸ノ名。北海ニ多シ。膃肭獸ニ似テ大ナリ。但シ、齒ハ常ノ如シ。背ニ斑文アリ。海獖 (二)海驢。(能登)

トド (名) 〔椴〕 〔或ハ蝦夷語、Totorop.ノ略カ〕 とどまつ(椴松)ニ同ジ。

どど (名) 〔父〕 安房國ニテ、父ヲ云フ語。又、だだ。

どど (副) 〔呶呶〕 (一)クドクドシク、モノヲ云フ狀ニ云フ語。 韓愈、[illegible]、汝不[illegible]邪、而呶呶以害二其生一邪」 張耒詩「人皆喜二呶呶一」 (二)口喧シキ狀ニ云フ語。

ど-ど (副) 〔度度〕 タビタビ。シバシバ。頻數 字類抄「度度、ドド」 劉克莊、治城詩「神州只在二闌干北一、度度來時怕レ上レ樓」

どどいつ (名) 〔都都逸〕 俗謠ノ名。潮來節、よしこの節ヨリ移リ、節廻シヲ變ヘタルモノ。常陸ノ久慈郡、磯部村ノ產、都都逸坊扇歌(岡福次郎)ト云フ者ニ始マル。(嘉永五年十月歿、四十八) 彼レ、人ノカクル謎ヲ、卽席ニ解キテ、唄ニシタリト云フ。 春色梅曆 天保、爲永春水、三六「マタ座敷ニテ、どど一ノ、間ホドモサスガ藝者ノ調子、ホレテコガレタ、カヒナイ今宵、逢ヘバクダラス、コトバカリ」 三養雜記(天保、山崎美成)二ノ十六、女[illegible]、吉原ニテモ、コノゴロハ、ヨシコノブシ、どどいつナド云フ小唄ニ、太鼓アハスルコトハ」 守貞漫稿、二十三、音曲「ヨシコノ節一變シテ、どどいつ節トナル也、故ニ其節曲、此ニ似テ僅ニ轉ズ、章句長短アリ、專ラ[illegible]情ヲ作レリ、今ニ至リテ廢セズ」

と-とう (名) 〔都統〕 スベヲサムルコト。スベツカサドルコト。又、其職。(支那)

と-とう (名) 〔渡頭〕 ワタシバ。渡場ノホトリ。又、渡船場。渡津。 常建詩「雨歇楊林東渡頭、永和三日盪二輕舟一」 陸游詩「山口正銜初出月、渡頭未レ散欲レ歸雲」

〔**ととき**〕 (名) 〔蔘〕 〔朝鮮語、とどく〕 あまづら(甘葛)ニ同ジ。 本草和名、上廿「千歲藟汁、阿末都良、一名、止止岐」

とときにんじん (名) 〔沙蔘〕 つりがねにんじん(沙蔘花)ニ同ジ。

と-とく (名) 〔都督〕 (一)スベトリシマルコト。 晉書、職官志「魏文帝、黃初二年、始置二都督諸州軍事、或領二刺史一」 同、陶侃傳「以二君長首一、故相推、君後當[illegible]公位、至二八州都督一」 (二)全軍ヲ統ブル職。總大將。(三)太宰帥ノ唐名。 拾芥抄、中、本「太宰帥[illegible]「都督、都督尹」」

と-どく (名) 〔荼毒〕 〔爾雅、釋草篇「荼、苦菜」 詩經、大雅、桑柔篇、疏「荼毒、苦惡物」〕 毒ヲ流スコト。ソコナフコト。 書經、湯誥「爾萬方百姓、罹二其凶害一、弗レ忍二荼毒一」 陸機、辨亡賦、序「二寶之價積成二山嶽一、名[illegible]凶頑之儻、身罹二荼毒之痛一、豈不二哀哉一」

とど・く ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 〔屆〕 〔とづくノ轉〕 古ク、トヅク。到リ着ク。及ブ。達ス。 發心集、四、第十條「京ノタヨリゴトニ、文ヲヤレド、とどかズ、サハリガチニテ返事モ見ズ」「手屆く」「目屆く」「思ヒ屆く」「心、萬事ニ屆く」

とど・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 〔屆〕 (一)古ク、トヅクル。至ラス。オヨボス。送リ着クル。致 (二)官ニ告グ。官府ニ申シ上グ。

とどけ (名) 〔屆〕 (一)トドクルコト。至ラスルコト。(二)事ヲ官ニ告グルコト。

とどこほり (名) 〔滯〕 トドコホルコト。

とどこほ・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔滯〕 〔止凝る意ト云フ〕 (一)半途ニテ支フ。止リテ進マズ。ツマル。 名[illegible]、拾[illegible]、泥、トトコホル」 滯、トトコホル」 最勝王經音注「滯、淳、止止己保留」 源、五十一、蜻蛉四十七「ウセニシ人ノ、イト心ヲサナク、とどこほるトコロナカリケル輕輕シサヲバ思ヒナガラ」 古事記、中(垂仁)六十三「如レ此還留之間」 萬葉集、四「衣手ニ、取リ[illegible]己保里、泣ク兒ニモ、マサレル吾ヲ、置キテ如何セム」 (二)期日、過グレドモ、濟マズ。

ととさま (名) [父様] 父ノ敬稱。(小兒ノ語) 父上。オトウサマ。オトウチャマ。卑語ニ、ととつぁん。とっさま。

ととと (副) 鷄ヲツクル狀ニ云フ語。「鷄ヲとととツク」

どどと (副) [どどハどどろくノ語根] 動響キ轟ク音ニ云フ語。萬葉集、十一「馬ノ音ノ、どどとモスレバ、松カゲニ、出デテゾ見ツル、ケダシ君カト」 同、十四「奥山ノ、眞木ノ板戸ヲ、どど[illegible]シテ、吾ガ開カムニ、イリキテナサネ」

とどの-つまり (名) [止の詰りノ義] 事ノ終ニ至レルコト。物事ノ果。ツヒノトヾメ。センジツメタルトコロ。結句。結局。畢竟。到頭。浮世床(文化、三馬)四、上「尻ノ掃除ヲシテ吳レル親ガアルト云フモンヂャアナシ、とどの詰まりハ、テンテン(己)ノ身ガ、痛シ痒シダノウ、サウヂャアネヘカ」

ととのひ (名) [調齊] トトノフコト。[整頓] [illegible] 也」(トトノヒノ訓ハ、書紀通證ノ解ニ據ル、[illegible]ベテ、えつりヲ結ビツクル故ニ、とどのひト云フ)

ととの・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [調齊] (一)整マリ揃ヒテ、全クナル。整頓 [illegible]紀、廿五、天平寶字八年十月、[illegible]ニ六千ノ兵ヲ[illegible]シ等等乃比、又、七人ノミシテ、[illegible]ニ入ラムトモ謀リケリ」(二)皆、備ハル。[illegible] [illegible]ノ[illegible]ニモ、[illegible]ニクイ[illegible]レドモ」「諸ガ調フ」(三)律ニ協フ。協律 [illegible]「イカデとどのひタルゾ」「調子調ふ」(四)成ル。成功ス。成就ス。成功 [illegible]「[illegible]ふタトコロカ、[illegible]ト申スモノヂャ」[illegible]

ととの・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) [調] (一)[illegible]

治ム。揃ノ成ス。善ク管ム。齊 [illegible]字[illegible]、亂、理也、[illegible]、治也、[illegible]也、[illegible]也、[illegible]、天治字鏡[illegible]下[illegible]、止止乃不、[illegible]、[illegible]集、十[illegible]「[illegible]ノ、[illegible]、[illegible]ギリ、[illegible]ケ[illegible]、[illegible]、[illegible]ドモヒタマヒ、[illegible]」同、三[illegible]「大宮ノ、内マデ聞ユ、[illegible]ト、[illegible]ト、[illegible]ノ呼ビ聲」同、十九[illegible]、八十伴雄ヲ、[illegible]ヒ、[illegible]タマヒ」同、廿[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]ヒキ折リテ」[illegible]、四十九年[illegible]月「[illegible]」(二)事ヲ亂ヲ治ム。[illegible]紀、四、[illegible]四年七月、宣命「天ノ下ヲ治メタマヒ、調ヘタマヒキ、上下齊ヘ和ハゲテ」同、一(文武)元年八月、宣命「食國天下ヲ調ヘタマヒ、平ゲタマヒ」同、三十、[illegible]十月、宣命[illegible]ノ心ヲ[illegible]シ」(三)悉ク備フ。[illegible]「[illegible]」(四)律ニ合ハス。協律 [illegible]「コレ(琴)ガ聲、マダナレズナンアル、とどのへテ奉レト仰セラルル(琴ノ調子ヲ)時ニ」榮花物語、十八、[illegible]、所所[illegible]とどのへ[illegible]子ヲ調ふ」(五)[illegible]。買ヒ求ム。[illegible]「[illegible]ヲ求メテ[illegible]、云云、[illegible]ハ[illegible]レバ、調ふト見エマシタ」

ととのへ (名) [調] トトノフルコト。[illegible]紀、八年七月[illegible]、已[illegible]、自今以後、[illegible]之、已[illegible]「[illegible]」

ととのほり (名) [調] トトノホルコト。[illegible]「[illegible]」

ととのほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [調] とどのふ(四段)ニ同ジ。名義抄「均、トトノホル」[illegible]、宗[illegible]、トトノフ、トトノホル」[illegible]、オヒトトノホル」[illegible]、オヒトトノホル」[illegible]、トトノホル」[illegible]三、法印[illegible]近年、[illegible]カナラズシテ、人ノ心モととの[illegible]」[illegible]

[illegible]盛ナル櫻ノ花ノ、咲キとどのほりタランヲ見ルココチス」

とと-の-め (名) とどのめ[illegible]

とと・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [illegible] [illegible]フトル。[illegible]

トド-まつ (名) [椴松] [illegible]ヲ見ヨ] 松ノ一種。寒地ニ自生スル常綠喬木ニシテ、高サ十丈餘ニ達ス。[illegible]皮ハ[illegible]色ニシテ、[illegible]、[illegible]狀ヲナシテ、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]リ。材ハ[illegible]、[illegible]ス、[illegible]ノ[illegible]トナル。北海道、樺太ナドニ産ズ。略シテ、とど。アヲトドマツ。

とどま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [留止] [取り止まる意カ] (一)行カズシテ、[illegible]。[illegible]マル。[illegible]「[illegible]ハヌサ取リ、イハヒツツ、ガヲバ待タム、ハヤ歸リマセ」(二)後ニ殘ル。殘留ス。[illegible]集、八、[illegible]、[illegible]「行ク人ヨリモ、とどまりテ、カラキ思ヒハ、我レゾ優レル」(三)中止ニナル。ヤメニナル。[illegible]セサセ給ハムトシケルニ、[illegible]ケレド、[illegible]ヲバ奉リケルニ」(四)止メヲ刺サル。殺サル。[illegible]

とど・む・ム・ム・メ・ミ・ミ・ミヨ(他動、上二) [止停] [illegible]ニ同ジ。[illegible]妹ヲ、留ミカネ、山隱リツレ、[illegible]ナシ」同、五「[illegible]ナス、カクシモガモト、思ヘドモ、世ノコトナレバ、とどみカネツモ」

とど・む・ム・ム・メ・ム・ムル・ムレ・メヨ(他動、[illegible]) [留止] [停] [取り止むる意カ] (一)[illegible]ヘテ遣[illegible]、[illegible]ニ止ム。[illegible]

「イカニセルナセノ浦ゾモ、ココヲシモ、[illegible]ト[illegible]」(二)[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]ムスメナレバ、[illegible]、[illegible]物語、四十四段「コノ歌ハ、アルガナカニ、[illegible]リケレバ、心とどめテヨマズ、ハラニアヂハヒテ[illegible]」(三)後ニ遺ス。留遺 竹取物語「[illegible]とどめテ、[illegible]ハムコトヲ、アカズ口惜シク思シケレバ」[illegible]、[illegible]、[illegible]クレメカシ」(四)止メヲ刺ス。シトム。[illegible]

ととめ (名) [illegible] [illegible]

ととめ (名) [illegible] [illegible]

とどめ (名) [止] 人ヲ殺シテ、後ノ[illegible]刺シ、全ク息ノ根ヲ止ムルコト。[illegible]

とど-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [illegible] [illegible]

とどめどり（名）［留鳥］〔鶯宿梅ノ故事ニ出ヅ。其條ヲ見ヨ〕ノ故事ニ出ヅ。主上、其梅ヲ斷念シタマヒシヨリ云フ」鶯の異名。呉竹集「ニハ鶯ヲトハ云フナリ、(以下不鮮明) 八百梅ノ、ホソミ鳴ラシ」

ととや（名）［魚屋］〔ととト（魚）ノ訛原ヲ見ヨ〕（一）魚ヲ賣ル家。ウヲヤ。サカナヤ。（近畿）（二）ととやノ茶碗ト云フハ、高麗燒ノ一種ノ陶器ニテ、茶家ニ珍重スルモノ。和泉國、堺ノ豪商、斗斗屋ト云フ者、所藏シタリシヲ元トシ、其類ノモノノ稱トナル。　榮花咄（西鶴）「泉州堺ハ、云云、(以下不鮮明) 斗斗屋ノ何某トイヘル人、云云、其家ニモタリシ茶碗ヲ、モトニシテ、類ヘルモノヲ、皆然ヨベルモノトカヤ」

とどろか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［轟］（一）〔トドロクヤウニナス。ドロドロト響カス。トドロコス。　源、四、夕顔、九「ナル神ヨリモ、オドロオドロシク踏ミとどろかすカラ臼ノ音モ、枕上トオボユ」古今集、十四、戀、四「天ノ原、フミとどろかし、鳴ル神モ、思フ中ヲバ、サクル物カハ」（二）名高クナス。遍ク世ニ知ラシム。廣ク聞エサス。「名ヲ一世ニ轟かす」

とどろ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［轟］〔とどろノ活用〕（一）〔ドロドロト鳴リ響ク。鳴動ス。（雷、車、瀧ノ響ナドニ）トドロメク。字鏡「嘯、止止呂久」同「咆、止止呂久」(以下不鮮明)、止止呂久」、曲風、岩モ動ク雷リ降リフブキテ、神ヘ鳴リテとどろくニ、浪ノ立チ來ル音ナヒ」源、十三、明石五「イヨイヨ鳴りとどろきテ、オハシマスニツヅキタル廊ニ、落チカカリヌ」（二）音ニ聞エテ名高シ。名高クナル。遍ク世ニ知ラル。「功名、天下ニ轟く」

とどろふ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［轟］とどろかす（轟）ニ同ジ。古事記、上廿五「於二天之石屋戸一伏二汙氣一而、蹈登杼呂許志」

とどろ-と（副）［轟］トドロク狀ニ云フ語　太平記、二、俊基朝臣再關東下向事「曉ニラミ露ニ焦レ行ク、身ヲ浮舟ノ浮キ沈ミ、駒モとどろと踏鳴ラス、(不鮮明)ノ長橋ウチ渡リ」(不鮮明)曲、賀茂「鳴雷ノ、雨ヲ(不鮮明)リ來ル足音ハ、ホロホロ、トドロとどろと、踏ミトドロカス鳴神ノ」

とどろ-とどろ-と（副）［轟轟］トドロク狀ヲ強メテ云フ語。　紫式部日記「足音、渡殿ノハシノとどろとどろと踏ミ鳴ラサルルサヘゾ」催馬樂、淺水「淺水ノ橋ノ、止止呂止止呂止、降リシ雨ノ、フリニシ我ヲ、云云」謠曲、橋辨慶「五條ノ橋ノ橋板ヲ、とどろとどろと踏鳴ラシ」

とどろ-ない（形）取亂シタル狀ナリ。亂雜ナル狀ナリ。（仙臺）

とどろ-に（副）［轟轟］物ノ轟キ響ク音ニ云フ語。ドロドロト。　神代紀、上廿「溟渤以之鼓盪」萬葉集、四廿「伊勢ノ海ノ、磯モ動爾、寄スル浪、カシコキ人ニ、戀ワタルカモ」同、十一四十「幾多モ、フラヌ雨ユヱ、吾背子ガ、ミナノ幾許、瀧モ響動爾」同、十四九「カツシカノ、ママノテコナガ、アリシカバ、ママノオスヒニ、波モ登杼呂爾」同、同上「氣波、(不鮮明)ノ、岩モ等杼呂爾、落ツル水、ヨニモタユラニ、ワガオモハナクニ」　永久四年百首、夕立「カキクモリ、空ハとどろに、ナル神ノ、物オソロシキ、コノタベカナ」古今集、三、夏「五月雨ノ、空モとどろに、時鳥、何ヲ憂シトカ、夜タダ鳴クラム」

とどろ-ばし・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）相撲ノ手ニテ、相手ニ手ナド強ク引カレテ、思ハズ前へ歩ミ出ヅ。今、およぐ。　曾我物語、一、相撲事「彌七八地下へオシカケラレ、とどろ走リテ膝首ヲツカレ」似勢物語（寛永）「オカシ若キ男、(不鮮明)ニモナラヌ、相撲ヲ取リケリ、云云、(不鮮明)ノ(不鮮明)メ、とどろ足踏ミシ、出デテ取リヌ」

とどろ-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［轟］とどろく（轟）ニ同ジ。　宇治拾遺、八、第六條「雷鳴(不鮮明)、云云、弓ヲ強ク引キテ、ヒャウト射タリケレバ、云云、火ヲウチケツ如クニテ、光リモウセヌ、谷ヘとどろめきテ、ニゲユク音ス」

どない-な（副）ドノヤウナ。ドンナ。（上方ニテ）

ど-あう（名）［土甕］土ヲ入レタルフクロ。土俵。土囊　容齋四筆（宋、洪邁）「乾道九年秋、(不鮮明)吉連市暴張、守二青吉一方、多備二土囊一、(不鮮明)諸城門一、以杜二水入一」太平記、三十九、自二太元一攻二日本一事「光ノ中ヨリ、夜叉羅刹ノ如クナル青色ノ鬼神顯レ出デテ、土囊ノ結目ヲトク、火風其ノ口ヨリ出デテ、沙礫ヲ揚ゲ、大木ヲ吹キ拔ク」

トナカイ（名）［馴鹿］〔蝦夷語、Tonakkai.〕寒帶地ノ獸。樺太ニモ產ズ。鹿類ノ大ナルモノニテ、體、馬ヨリ稍小サク、牝、牡、共ニ、角アリテ、角ニ叉多シ。性、柔順ナレバ、土人畜ヒテ、雪中ニ橇ナドヲ牽カシム、殊ニ疾シ。肉、食フベク、皮、衣トスベシ。ジュンロク。　春波樓筆記（司馬江漢）「開宮林藏、云云、唐太ノ地ニ、どなかひト云フ獸アリ、大サ大八車ヲ引ク牛程アリテ、頭ニ大ナル角アリ、金讐、鹿ノ如シ、蹄モワレテアリ、如レ牛如レ馬、畜ヒテ甚用ヲナスト云フ。おらんだニテハ、れんきいるト云ヒ、支那ニテハ、馴鹿ト云フナリ」

と-なご（名）［鳥名子］〔鷄鳴子ノ義ト云フ〕（一）鷄ノ鳴キ聲。　神寶日出祕府「古語云、今號二鳥名子一、則金鷄長鳴緣也」神代紀、上八「常世之長鳴鳥」（二）鳥名子舞ノ略。伊勢ノ神宮ニテ奏スル古風ノ歌舞ノ稱。　倭訓栞「となご、伊勢內宮ニ此事アリ、鳥名子ト書ケリ、云云、俗ニひよひよの祭トモ云フ、云云、闘雞ノマネシテ笛ヲ吹テ、石坪ニマフ」　延喜式、四、伊勢太神宮、六月次祭「右月十六日祭二度會宮一、十七日祭二太神宮一、其儀、云云、齋宮女孺四人供二五節儀一、次鳥名子儀、十七日參二太神宮一」（三）伊勢神宮ニ仕ヘテ、驅使ニ任ズル女ノ稱。トリナゴ。

どなた（代）［何方］〔おなた（此方）ノ語原ヲ見ヨ〕（一）何レノ方。イヅカタ。ドチラ。　狂言記、吟聟「モノモ、才案內、コリャどなたカラデ御座リマシタ」（二）誰ノ敬語。　狂言記、宗論「(不鮮明)二(不鮮明)アル、サテ(不鮮明)ハどなたデ御座ルゾ、イヤ、旅ノ坊主デ御座ル」同、公事新發意「(不鮮明)ニ(不鮮明)アル、どなたデ御座ルゾ」

と-なは（名）米一斗バカリ入ルベキ釜。　下かつま、八、五石なわ、釜、今ノ世ニ、一斗ハカリイルベキ鍋釜ヲ、斗なわトイフコト有リ」

と-あふ（名）［兜納］香ノ名。　字類抄「兜納、トナウ、香名」

と-な・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（自動、下二）［殉］死者ニ從ヒテ死ス。シタガフ。　名義抄「殉、トナフ、トコフ、シタガフ」

と-な・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［唱］〔音ヲ活用ス〕（一）〔述べ言フ。　神代紀、上四「陰神先唱曰、云云、吾是男子、理當二先唱一」（二）聲立テテ讀ム。誦ミ言フ。誦　金葉集、十、雜、下「阿彌陀佛ト、唱ふる聲ヲ、楫ニテヤ、苦シキ海ヲ、漕ギ離ルラン」謠曲、誓願寺「皆ウナ捨テテ、南無阿彌陀佛ノ聲バカリ唱ふれバ、佛モ我モナカリケリ」夫木抄、十八「どなたヘツル、佛ノ御名ハ、朝日ニテ、ヤガテ消エユク、一年ノ露」「念佛ヲとなふ」呪文ヲとなふ」（四）呼ビツツ行ク。廣ク告ゲ知ラス。觸レマハル。徇（五）高ク呼ブ、先ンジテ吟ズ。ウタヒハジム。一甲唱ヘ、乙和ス」（七）言ヒハジム。爲シハジム。（三）呼ブ。稱ス。稱「名ヲ何トとなふ」（六）夫木抄、三十六「モチナガラ、歌ヲとなふる、盃ノ、キヨク濁ラヌ、御代ノ久シサ」「萬歲ヲ唱ふ」

となへ（名）［唱］（一）トナフルコト。（二）呼名。稱號。稱

ど-なべ（名）［土鍋］土燒ノ鍋。瓷鍋　堝　倭名抄、十六十二瓦器類「堝、奈閉、金謂二之鍋一、瓦謂二之堝一」　續古事談、一、「王道后宮「銀ニテ土鍋ヲツクリテ、ヒサゴヲタテテ、イモガユヲイレタリケリ」

{となへ・と・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 歴問
となめとふ(歴問)ニ同ジ。 持統紀、二年十一月「歴ニ問群臣ニ、各ニ[illegible]」

※となへる (動) 唱 となふ(唱)ノ口語。

{となみ (名) 門浪、戸浪 瀬戸ニタツ浪。 萬葉集、七「粟嶋ニ、コギワタラムト、思ヘドモ、明石ノ門浪、イマダサワゲリ」

{となみ (名) 鳥網 〔鳥の網ノ約轉〕 鳥ヲ捕フルタメニ張ル網。トリアミ。 萬葉集、十七 四十長歌「足引ノ、彼面此面ニ、等奈美張リ、モリベヲスヱテ」 同、十三 長歌「鳥網張リ、坂手ヲ過ギテ、石走ル、甘南備山ニ」

{となむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 歴 〔戸並ノ義カ〕 マハル。メグル。ワタル。 欽明紀、四年十一月「聖明主聞ニ宣勅ヲ已、歴ニ問三佐平内頭及諸臣ニ」 同、十三年十月「乃歴ニ問群臣ニ」

となむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(自動、下二) 戸並 家、並ビツヅク。家、ツラナル。人家、櫛比ス。

と-あん (名) 圖南 〔莊子、逍遙遊篇「有レ鳥、其名爲レ鵬、背若ニ泰山ニ、翼若ニ垂天之雲ニ、摶ニ扶搖羊角ニ、而上者九萬里、絶ニ雲氣ニ、負ニ青天ニ、然後圖レ南、且適ニ南冥ニ也」ト云フヨリ出デ、即チ、南冥ニ行カムコトヲ企ツル義〕 或ル地方ニ向ヒテ、大ナル事業ヲナシ試ミムトスルコト。偉業ヲ成サムトスルクハダテ。

{となめ (名) 臀呫 「後宮ノ義、交尾シタル蜻蛉ノ、雄、雌、互ニ尾ヲ銜ミテ、輪ノ狀トナリテ飛ブコトト云フ。又、一ノ尾ヲ銜ミテ、並ビ止マルコトアリ。」 神武紀、三十一年四月「猶如ニ蜻蛉之臀呫ニ」

{となめ・と・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 歴問 〔戸並問ノ義カ〕 アマネク問フ。アマネクタヅヌ。トナヘトフ。 武烈紀、十一年十二月「歴ニ問群臣ニ曰、[illegible]」

となり (名) 隣 (一)トナルコト。又、並ビツヅキタル家。 伊勢物語、三十九段「ミコウセタマヒテ、御葬ノ夜、ソノ宮ノ隣リナリケル男、御葬見ムトテ」 (二)國、郡、町、村ナドノ、相境ヒスルモノ。

となり-あひ (名) 隣合 互ニ、トナルコト。トナリアハスルコト。トナリアハセ。比隣。

となり-ぐさ (名) 隣草 ぼたん(牡丹)ノ異名。其條ヲ見ヨ。

と-な・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 隣 〔戸並むノ轉カ〕 (一)タガヒニ並ブ。相接ス。(二)家、並ビツヅク。(三)國、郡、町、村ナド相境ス。境フ。

ど-な・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 吼鳴 (一)大聲ニ、モノヲ云フ。ヲメク。ワメク。(二)大聲ニ叱リ言フ。怒鳴。怒號

{と-み (接尾) 〔とハ時ノ略〕 程ニ。ウチニ。間ニ。と(時)ノ條ヲ參見セヨ。 萬葉集、十[illegible]ノ深ケヌ刀彌」 同、十九 卅四「妹ガ袖、ワレ枕セム、河ノセニ、霧タチワタレ、小夜深ケヌ刀彌」 同、廿三「[illegible]」 [illegible]七年九月「[illegible]ツ鳥、家鶏ハ鳴クナリ」

{と-み-かく-み (副) 左右兎角 とかく(左右)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible] 拾遺集、十五、戀、五「とみかくみ、モノハ思ハズ、飛騨タクミ、打ツ墨縄ノ、タダヒトスヂニ」

{とにみ (副) [illegible]

{とみもかくみも (副) 左右兎角 とかく(左右)ノ條ヲ見ヨ。 萬葉集、四「何シニカ、使ノキツル、君ヲコソ、左モ右モ、待チガネニスレ」 古今集、七、賀「カクシツツ、とみもかくみも、ナガラヘテ、君ガ八千代ニ、アフヨシモガナ」 後撰集、十六、雜、二「世ノ中ハ、[illegible]とみもかくみも、聞エグルシキ」 新千載集、十六、雜、上「時雨フル、コノテガシハノ、二オモテ、とみもかくみも、ヌルル袖カナ」

とにうびやう (名) 吐乳病 [illegible]ミタル乳ヲ吐キ出ス病。

とね (名) 刀禰 〔或ハ云フ、伴之部ノ約轉ト、或ハ云フ、とねり(舍人)ノ略ト〕 (一)高キ卑シキ、凡ソ、朝廷ニ仕フル官人ノ總稱。又、六位ノ女官ヲ、ひめとね(姫刀禰)ト云フ。 公事根源、上、踏歌節會「大節ニハ、刀禰召セト、内辨ノ仰スルカハリメアリ、[illegible]」 [illegible] 「花(香)ガマヒカカル」「敍位[illegible]刀禰」

[illegible]

とね-わらそひ (名) [illegible]

とねのつかさ (名) 敍位寮 [illegible] 敍位寮ノ條ヲ見ヨ。

とねり (名) 舍人 [illegible]

{とねりこ (名) [illegible]

條ノ（一）ニ同ジ。萬代集、十一、雜、三「とねりこガ、袖モツユケシ、荊棘ノ、シゲキ笹フノ、ユクサキルサニ」

〔とねりこ（名）【秦皮】 落葉樹ノ名、山地ニ多シ、高サ二丈餘ニ達シ、葉ハ對生シテ鋸齒アリ、夏、花ヲ開キ、實ヲ結ブ、長サ一寸許ノ薄片ニシテ、松子ニ似テ大ナリ、熟スレバ、褐色ニシテ、穗ヲナシテ垂ル。樹ノ皮ヲ秦皮ト云ヒテ、藥トシ、又、煮テ膠ヲ取ル。ダンキ。又、ダンノキ。梣 倭名抄、廿、木類「秦皮、一名、石檀、止禰利古乃木、云、木無乃木」本草和名、上、五「秦皮、一名、石檀、以其似檀、故以名之、止禰利古乃岐、一名、多奈岐」字鏡「梣、秦皮、止禰利古木」和漢三才圖會、八十三、喬木類「秦皮、シンピ、トネリコノキ、ツインヒイ、梣皮、梣木、石檀、樊槻、盆桂、苦樹、苦櫪、一名、木無乃木、云云」名言通、上「共葉ト、古ヘ佛經ヲ寫スニ、此樹皮ヲ取リ濃ク煮テ、共ニ練リ膠ノ如クス、故ニ木膠ノ名アリ」

との（名）【殿】〔戸名ノ轉ニテ、諸殿、其名ニ因リテ分テバ云フカト云フ〕（一）〔帝王、高貴ノ住マルル高大ナル家ノ稱。アラカ。ミアラカ。オトド。倭名抄、十、居宅類「殿、止乃」皇極紀、元年九月「欲ト營ニ宮室、可ト於ニ國國取ニ殿屋木ト」催馬樂、此殿西「コノ殿ノ西ノ、西ノ倉垣、云云」（二）〔居所ヨリ轉ジテ、直ニ、貴人、君主ヲ尊ビ呼ブ語。代名詞ノ如クモ用ヰル〕源、四十九、東屋「若ヤカナル御前ドモ、殿コソアサヤカナレト、笑ヒアヘルヲ聞クニモ、ゲニココナノ身ノ程ヤト悲シク」（三）攝關ノ稱。殿下ナド云ハムガ如シ。關白ノ子、又ハ猶子ヲ、殿の中將、殿の法印、ナド呼ブモ、是レナリ。海人藻芥（恵命院宣守）下「於ニ内裏ニ殿ト人ヲ申ハ、執柄家之外不ニ可ニ有ニ之」紫式部日記「殿（關白道長）、若宮イダキ奉リ給ヒテ、御前ニ出デ奉リ給フ」讃岐典侍日記「殿（關白忠實）參ラセ給ヒテ、人人居直リナドスレバ」更級日記「カラウジテ渡リテ、殿（關白道賴）ノ御領所ノ宇治殿ヲ入リテ見ルニモ」□「殿の中將ノオホシ數クナルサマ（殿ハ關白道長、中將ハ道長ノ子ノ長家）」（四）中世、婦ノ良人ヲ呼ブ語。狂言記、花子「オノレメハ、殿ハコハウテ、妾ハコハウナイカ、云云、ヤイ惡者、殿ノ妾ニ好ウ似タカ」（五）〔轉ジテ、婦人ヨリ一般男子ヲ敬ヒ呼ブ語。萬葉集、十四、廿「稻舂ケバ、カガル我手ヲ、今夜モカ、殿ノ若子ガ、取リテ歎カム」同、十六、長歌「ワタツミノ、殿ノ御カサニ、飛カケル」淋敷座の慰、忍びくどき「風モ吹カヌニ妻戸ノナルハ、カブロ出テ見ヨ、殿ヤハナイカ」古俗謠「出雲崎見リヤ、殿ナツカシヤ、殿ノ住マシャル宿ヂャモノ」「殿方」殿御」

どの（名）【殿】 殿ヨリ轉ジテ、他人ノ名、又ハ、官職名ナドノ下ニ添ヘテ、敬ヒ稱スル語。後世、書體ニテ、尊卑ヲ分チ、楷、行、草、假名ナドニ書キ分ケテ用ヰル。〔樣ノ條、見合ハスベシ〕宗五大雙紙、書札事「殿文字、其品アリ、殿（賞翫）、殿（同）、殿（等輩）、殿下樣ヘ見ヲ書ナリ、此殿ヲ書タルハ、假名ニどのト書タルヨリハ、少賞翫也、又、假名ニテ、とのト書タルハ、書カザルホドノ事也ト」梁塵祕抄、二、雜「イサタマヘ、隣殿、大津ノ西ノ浦ヘ雜魚スキニ」狂言記、盗人連歌「ソレナラバ申シマショ、何ノ誰殿ハ、聽レモナイ分限者デゴザルトノ」「關白殿」大納言殿」

どの（連體）【何】〔どれ（何）、及、これ（是）ノ條ヲ見ヨ〕不定ノ物事ヲ指シテ云フ語。イヅレノ。義經記、七、判官北國落「羽黑ニハ、どの坊ニ、タレガシト云フ者ゾト問ハンズルハ」狂言記、佛師「ハア、コリャ仕合デゴザル、シテコナタハ、どの流レデ御ザルゾ」

との・あみ（名）【鳥網】 約シテ、となみ。とりあみ（鳥網）ニ同ジ。

との・あぶら（名）【殿油】〔おほとのあぶらノ上略〕大殿油ニ同ジ。さざめごと、下「深更ニ、とのあぶらホソク、アルカナキカニ消ヒ一

との・いちゃう（名）【十幅一丈】 の（幅）ノ條ヲ見ヨ。

〔との・うつり（名）【殿移】 高貴ノ方ノ移轉。ワタマシ。源、廿二、玉鬘「ヤムゴトナキツラニコソ、アラザラメ、コノ御とのうつりノ數ノ内ニハ、マジラヒタマヒナマシ」

との・がた（名）【殿方】 婦人ヨリ男子ヲ斥シテ云フ敬稱。

との・ぐもり（名） たなぐもり（棚曇）ニ同ジ。次條ヲモ參見セヨ。

〔との・ぐも・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四） たなぐもる（棚曇）ニ同ジ。萬葉集、三、五十「小雨降リ、殿雲ル夜ノ、潤濕跡、戀ヒツツ居リキ、君待チガテリ」同、十七、四十五、長歌「等乃具母利、雨ノ降ル日ヲ」

との・こ（名）【砥粉】〔砥ノ用ヲナス粉ノ義〕黄土ヲ燒キテ粉トセルモノ。刀劍ナドニ塗ケテ、研ギ磨キ、又ハ、白木ノ板、柱ナドヲ着色スルニ用ヰル。磨刀垽

との・ご（名）【殿御】 婦人ヨリ一般男子ヲ敬シテ呼ブ語。郎君。謠曲、鐵輪「臥シタル男ノ枕ニ寄リソヒ、如何ニ殿御ハ珍ラシヤ、恨メシヤ、御身ト契リシ其ノ時ハ」狂言記、花子「妾ガ殿御ハ、一七日ガ内、座禪ヘ入ラセラルルトテ、妾ニ暇ヲ貰ヒ」

〔との・こ・ぞめ（名）【砥粉染】〔砥粉ヨリ轉ジテ云フ〕オシロイヤケ。

〔との・ごもり（名）【殿隱】 トノゴモルコト。

〔との・ごも・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【殿隱】〔寢殿ニ入リコモル意〕（一）寢ノ敬語。御寢ナル。又、おほとのごもるトモ云フ。宇津保物語、國讓、中、十七「夜ハ、コナタニとのごもれ」榮花物語、二、花山「御脇息ニ押シカカリテオハシマスママニ、ヤガテ御とのごもりニケリ」（二）殯宮ニコモル。崩ジ給フ。萬葉集、十三、廿九、長歌「キノヘノ宮ニ、大殿ヲ、ツカヘマツリテ、殿隱、コモリイマセバ」

との・さま（名）【殿樣】（一）主君、貴人ヲ尊ビ呼ブ語。狂言記、鼓瀧「申シ殿樣、御座リマスルカ」本願寺證如日記、天文元年八月廿四日「山科殿樣御發、大坂殿樣ヘ堺ヨリ細川六郎、云云、日日夜夜攻メツメ申處、云云」年中行事、四「等持院殿樣、鹿苑院殿樣」狂言記、花子「殿樣殿樣、此外ナカラ、花子樣ヘゴザリマシタラ、御内ノ紅梅ニ、鶯ガ申シタト仰シャレテ下サレマセイ」（二）江戸時代、大名、又ハ、旗本ノ敬稱。

との・さま・がへる（名）【殿樣蛙】 蛙ノ一種。水田ナドニ群リ居リ、大イサ二寸許リ、背ニ黄色ノ條アルモノ。一名、シマガヘル。金線蛙

との・さま・かみさま（名）【殿樣上樣】 墨ト丹トニテ、粗筆ノ人物、官人ノ夫婦ラシキヲ繪ガキタルモノ。古キ羽子板、扇子ナドニアリ。羽子板ナルヲ、内裏羽子板トモ云ヒ、小兒二三人ヲ書キ添ヘタルヲ、とのさま、かみさま、さんちょさまト云フ。洞房語園（庄司勝富）便面記「年玉ニ殿さまかみさま書キタル塗骨ノ女扇」諸國咄（貞享、西鶴）一「此女、袖ヨリ内裏羽子板ヲ取出シテ、獨ハネヲツキシニ」好色一代男（天和、西鶴）三「羽子板ノ畫モ、夫婦子アルヲウラヤミ」

との・さま・とんぼ（名）【殿樣蜻蜓】 蜻蜓ノ一種。身、甚ダ瘦セテ、細ソク小サク、長サ一寸許リニシテ、綠色ヲ帶ブ。夏秋ノ間、草葉ノ上ヲ飛ブ。又、トウスミトンボ。コトンボ。タナバタトンボ。（越前）イトトンボ。（近江）

との・さま・ばった（名） 蟲ノ名。おほいな

お(大稲子)ニ同ジ。いなお(稲子)ノ條ヲ見ヨ。

どのたち (名) 殿達 (一)とのばら(殿儕)ニ同ジ。狂言記、比丘貞「ハテ扨、ムザトシタ事ヲオシャル、人ノ名ヲ付ケルト云フハ、メデタイ殿達ノメサル事デャ」 (二)遊郭ノ語。遊女、揚屋ナドヨリ、客ヲ指シテ云フ語。色道大鏡、遊寶「傾城買ヒヲバ押シナベテ殿達ト云フ」

どのづくり (名) 殿造 宮殿ヲ造ルコト。又、其造リタルサマ。催馬樂、此殿者「己乃止乃波、宜モ富ミケリ、サキクサノ、ミツバヨツバノ中ニ、殿造リセリヤ」 古今集、序「此殿ハ、ムベモ富ミケリ、三枝ノ、ミツバヨツバニ、とのづくりせり」 源、四十七、早蕨「見モシラヌサマニ、目モカガヤクココチスル、殿づくりノ三ツバ四ツバナル中ニ」

どのど (名) 殿戸 殿ノ戸。萬葉集、十八、廿「堅檪ニモ、彼ニモ横樣モ、奴トゾ、アレハアリケル、主ノ殿戸ニ」 崇神紀、八年十二月「三輪ノ殿能渡ノ、朝戸ニモ、出デテ行カナ」

どのばら (名) 殿儕 男子ヲ敬ヒ呼ブ語。トノタチ。榮花物語、[illegible]「[illegible]始メ參リテ、サベキ殿ばら、殿上人、殘リナク侍ヒ給フ」 枕草子、五、四十五段「所衆、雜色、只ノ人ノ子ドモナドニテ、殿原ノ四位五位六位モ、ツカサアル、下ニウチキテ」 著聞集、十七、變化「殿ばらメンメンニ弓ヲアツメ給ヘ」

どのびと (名) 殿人 貴族ノ家人、又ハ、其家ニ出入伺候スル者ノ稱。源、四十六、總角「[illegible]とのびとニテマタ參リツドヒ、カミシモノ人タチサワギタレバ」 狹衣、四、下「サブラフ女房ナドモ、ハカバカシクシラネバ、マイテとの人ナドハ、トマラセ給ヒヌルモ、エ知ラザリケリ」 榮花物語、三、[illegible]「[illegible]ハ、イトド物ギヨク、キラランニセサセ給ヘリト、との人モ何事ニツケテモ、心コトニ思ヒ聞エタリ」

どのへ (名) 外重 〔重ハ九重ノ重ナリ、御垣ノ、九重ノ外ナル義、多クハ、訛リテ、外衞ト書ス〕 禁裏ノ第一ノ外ナル御門ノ稱。宮城門ト云フ、左右衞門府ノ官、コレヲ衞ル。其内ノ御門ノ中ノ重ト云フ、左右兵衞府ノ官、コレヲ衞ル。其内ノ御門ノ内ノ重、又、閤門ト云フ、近衞府ノ官、コレヲ守ル。[illegible]祖ノ、神ノ御門ニ、外重ニ、立チ候ラヒ、内重ニ、仕ヘマツリ」 同、九、長歌「ワタツミノ、神ノ宮ノ、内隔ノ、妙ナル殿ニ」 古今集、十九、雜體、長歌「とのへ守ル身ノ、御垣守、ヲサヲサシクモ、思ホエズ」 御門祭祝詞「内外ノ御門」 名目抄「中重、ナカノヘ」

どのまくら (名) 殿枕 妹婦ノ際、新婦ノ携持シテ行ク枕。[illegible]

どのみち (副) 何レニシテモ。イカヤウニシテモ。生玉心中(正德、近松作)中「私獨リ死ヌレバ濟ム、どの道カウトウ云フテモ、只コナサンガイトシイ、ワルク聞テ下ンスナ」

どのもづかさ (名) 主殿司 次次條ノ語ニ同ジ。[illegible]主殿司ヲ招キ寄セ、腰刀ヲ鞘ナガラ拔キ」 [illegible]

どのもんれう (名) 主殿寮 次次條ノ語ニ同ジ。[illegible]

どのもりのつかさ (名) 主殿司 次條ノ語ニ同ジ。倭名抄、五、官名「主殿寮、止乃毛里乃豆加佐」 枕草子、七、六十八段「カムモリツカサノ者トモ、[illegible]」

どのもりれう (名) 主殿寮 〔殿守ノ官ノ義〕 (一)トノモンレウ。トノモリノツカサ。トノモヅカサ。古ノ、宮内省被管ノ寮。[illegible] (二)[illegible] 今ハ同省ノ内匠寮ニ合併ス。

どのゐ (名) 宿直 [illegible]居ノ如シ。責任アル者ヲ直ト云ヒ、夜仕フルヲ宿ト云フ。定家假名遣「とのゐ、宿直、殿居」[illegible] 平家物語、五「侍從ト云ヘル遊君アリ、中將ノ御殿居ニ參リタリケルガ」ナドト見ユ。[illegible] (二)禁中、官署ニ宿リテ、勤ヲ守ルコト。又、禁中ニ宿シテ、[illegible]トノヰ」 雄略紀、十一年十月「信濃國直丁、與武藏國直丁侍宿[illegible]」 [illegible]ニ見シ、殿ノ門モ、君崩セバ、常ツ御門ト、侍宿スルカモ」 (三)天子、[illegible]ドノ添臥スルコト。源、一、桐壺「御門、セムカタナク思シウオボサルルニ、御方方ノ、御とのゐナドモ、絶エテシタマハズ」

どのゐいぬ (名) 宿直犬 又、とのゐのいぬ。いぬばさ(犬箱)ノ條ヲ見ヨ。

どのゐぎぬ (名) 宿直衣 [illegible]ジ。枕草子、四、四十三段「[illegible]ハノ如クナルとのゐぎぬノ袖ノ上ニ」

どのゐさうぞく (名) 宿直裝束 直衣、衣冠ノ稱。晝ノ裝束ニ對ス。トノヰスガタ。[illegible]

どのゐざる (名) 宿直猿 [illegible]

どのゐすがた (名) 宿直姿 [illegible]

どのゐどころ (名) 宿直所 古ヘ、大臣、納言、藏人頭、近衞大將ナドノ、禁中ニテ宿直スル所。[illegible]

どのゐひきめ (名) 宿直蟇目 古ヘ、宿直ノ人ガ、夜中警戒ノタメ蟇目ヲ射テ、鳴ル音ヲ立テシメタルコト。[illegible]

どのゐまうし (名) 宿直奏 古ヘ、[illegible]

リ卯マデ右近ノ方ナリ。源、一、桐壺廿八「右近ノツカサノとのゐ申しノコヱ聞コユルハ、丑ニナリヌルナルベシ」同、同、夕顔「滝口ノとのゐまうし[illegible]コソト、[illegible]ハ、マタイムウフケヌニコソハ」同、十、榊廿「タダココニシモ、とのゐまうしサブラフト、コワヅクルナリ」

とのゐもの（名）【宿直物】 古ヘ、宿直ニ用ヰシ衣服、夜具ナドノ必要品。宇津保物語、藏開、中「夜ツカウマツレト仰ラルレバナム、夜サムヲイカニトナム、云云、とのゐもの給ハセヨ」源、五、若紫廿七「東ノタイニ、御とのゐ物メシニツカハシテ、オホトノゴモリヌ」藤原經衡集「越中守としたりハ、宇治殿ニテ同ジ所ニ夜臥シテ、とのゐ物ヲ取リカヘテ、宮ニ入レテ侍リケル」太平記、三十七、前將軍京落事「殿ニハ、沈ノ枕ニ、鈍子ノ宿直物ノ取副ヘテ置ク」

とのゑ（名）【外衛】 とのへ（外重）ノ誤。

とのゑ（名）【殿衞】 とのゐ（宿直）ノ條ヲ見ヨ。

とば（名）【苫】〔とまノ轉〕（一）鄙語、衣服。キモノ。（船頭ナドガ、苫デ身ヲ被フヨリ云フ）（二）舟夫ノ病ノ名。

とば（名）【賭場】 博奕ヲ行フ所。バクチバ。トヂャウ。

どば（名）【怒罵】 怒リ罵ルコト。怒詈。史記、灌夫傳「丞相嘗使籍福請魏其城南田」云云、灌夫聞、怒罵福」[illegible]

どば（名）【駑馬】〔玉篇「駑、最下馬也」正字通「駑、馬頓劣也」〕力劣レル馬。[illegible]ムニ適キ馬。荀子、修身篇「驥一日而千里、駑馬十駕、則亦及之矣」[illegible]「駑馬、[illegible]一日行二千里一」倭名抄、十一五牛馬類「駑馬、於會岐宇萬」

どはい（代）【奴輩】 人人ヲ卑ミテ呼ブ稱。ヤッコラ。アイツラ。晉書、石季龍傳「及二車載[illegible]東市一、崇乃歎曰、奴輩利二吾家財一」陸游、對飲詩「懷章正可レ能二奴輩一、未レ勝行歌獨負レ薪」

とはう（名）【途方】【度方】（一）事ヲ爲ベキ方。事ヲ行フベキ手段。テダテ。細川幽齋、侍心得書「道筋不案内ニテ、俄ノ時、十方ナキモノニテ候」狂言記、[illegible]「トカク某ハ、途方ニ暮レテ、分別ニ能ハヌニ依ッテ、ワゴリョ能キ様ニ了簡ヲシテクレサシメ」丹波與作、近松作、下「[illegible]ヲ、テ子ヲ先ダテ、途方ガアルマイ、イトホシヤ」「途方ヲ失フ」（二）條理。スヂミチ。「途方モ無イ」「途轍モ無ク」

とばう（名）【蜻蛉】「とんばうノ約」とんばう（蜻蜓）ニ同ジ。林逸節用集、異本、土、生類「蜻蛉、トバウ」袖中抄、十七、きみにまたせば「アキツ羽トハ、とばふト云フ蟲、云云」

とばかり（副）〔とハ天爾波ナリ〕暫シノ程。暫時。須臾。蜻蛉日記、下、上十二「とばかりアリテ、此事ヲ言出シタリケレバ」源、三、空蝉十二「ワラハモ、ソナタニ入リテ、臥シヌレバ、とばかりソラネシテ、火アカキ方ニ屏風ヲヒロゲテ、カゲホノカナルニ、ヤヲラ入レ奉ル」宇津保物語、藏開、上八十二「イカニ見給フランナド、オモホシ入リテ、とばかり思ヒシミテ」「とばかり見ツル」

とばかり（接）〔天爾波ノ指定ノ意ノとト、量ヲ限レル意ノばかりトノ熟語〕ソレバカリ。ソレノミ。ソレダケ。後拾遺集、十三、戀、三「今ハタダ、思ヒタエナン、とばかりヲ、人ヅテナラデ、イフヨシモガナ」

とばく（名）【賭博】 財物ヲ賭ケテ、勝負ヲ爭フコト。博打。博奕。[illegible]

とばし（名）【土橋】〔唐韻「圯、土橋也」〕古ク、ツチバシ。木ニテ柱梁ヲ作リ、上ニ土ヲ覆ヒタル橋。圯橋　[illegible]記「追手ノ口ハ、土橋可レ然也、自然、板バシナドハ、火ヲ付ケル事アル也」東行別記「四日市ヲスギテ、町屋河ヲワタルニ、此河、土橋ナレバ、カノ留侯ノ古ヘヲオモヒ出ルニツケテ、心ニ感ズルコトナカランヤ」

とばしり（名）【迸】（一）トバシルコト。飛ビ散ルコト。（水ナドニ）又、飛ビ散リタル沫。飛沫。餘沫。（二）裕ニ、傍ニ居テ、禍ニカカルコト。ソバヅエ。マキゾヘ。トバチリ。トバッチリ。

とばしり（名）【戸走】 いぼたらふ（蟲白蠟）ノ條ヲ見ヨ。

とばしる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【迸】〔飛走ルノ略〕飛ビ散ル。タバシル。ホトバシル。名義抄「迸、トバシル、ホトバシル」字類抄「躁、トバシル」枕草子、九、百十段「水ノ、深ウハアラネド、人ノ歩ムニツケテ、とばしりアゲタル」

とばす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【問】 とふ（問）ノ敬語。問ヒタマフ。仁徳紀、五十年三月「我ヲ斗波須ナ、アキツシマ」萬葉集、十八「云、君ガ等波須モ」古事記、下、允恭「天トブ、鳥モツカヒゾ、タヅガネノ、聞エムトキハ、我ガ名斗波佐ネ」萬葉集、二、長歌「宮柱、太シキマシテ、ミアラカヲ、高知リマシテ、朝毎ニ、御言不御問」

とばす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【飛】（一）飛ブヤウニナス。「鳩ヲ飛ばす」（二）アグ。ヒルガヘス。飛揚ス。「紙鳶ヲ飛ばす」（三）散ラス。「水ヲ飛ばす」（四）射ル。發ス。「矢ヲ飛ばす」（五）ツタフ。クバル。「檄ヲ飛ばす」（六）驅ル。馳ス。驅「馬ヲ飛ばす」（七）間ヲ措ク。越エテ先ヘ移ル。「二三枚飛ばシテ」

とはずがたり（名）【不問語】 人ノ問ヒモセヌニ、己レ自ラ語リ出ヅルコト。蜻蛉日記、中、中廿「今日ナム、コレモアヤシキとはずがたりニコソナリニケレ」千載集、十一、戀、一「ツツメドモ、タヘヌ思ヒニ、ナリヌレバ、とはずがたりノ、セマホシキカナ」[illegible]河日記、[illegible]「[illegible]ノ、[illegible]ノ、とはずがたりノ、ソヨメキニ、ソゾロニ目ヲモ、サマシツルカナ」壬二集「心ヲバ、我ガ心コソ、ナグサムレ、アラマシゴトノ、とはずがたりニ」

とばちり（名） とばしり（迸）ノ（二）ニ同ジ。音便ニ、とばっちり。

とばつく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四） オチツカズ。サワギタツ。ソハソハス。甲陽軍鑑、五、品第十三「敵ノ國ナドヘ深ク入ヲシ、敵カサメバ、大キニ騒ギ、クチアキテ逃ゲ給フ、其下ノ奉公人、善惡モシラズ、ブセンサクニテ、少ノ喧嘩口論ニモ、とばつく物ナリ」

とばっつけ（名）【土礫】 又、ツチバリツケ。はりつけ（磔）ノ條ヲ見ヨ。

どはづれ（名）【度外】 著シク、程度ヲ過スコト。度ヲ外スコト。

どばと（名）【土鳩】 鳩ノ一種。ツチクレバト。塔鳩。はと（鳩）ノ條ヲ見ヨ。

とはに（副）【常】〔常磐ニノ略〕トコトハニ。トコシヘニ。トコシナヘニ。常ニ。不斷。永久。古今集、十四、戀、四「津ノ國ノ、ナニハ思ハズ、山城ノ、とはにアヒ見ン、事ヲノミコソ」同、十九、雜、長歌「富士ノ根ノ、燃エツツとはに、思ヘドモ」兼盛集「山城ノ、とはにカヨヒテ、見テシガナ、瓜ツクリケル、人ノ垣根ヲ」

どばん（名）【土蕃】 古クヨリ、其地ニ住スル未開ノ人民。土着ノ蕃人。元史、世祖紀「詔二於土蕃一、西川界立二寧河驛一」

とばふ（名）【蜻蛉】 とんばう（蜻蛉）ニ同ジ。易林節用集（慶長）上、氣形門「蜻蛉、トバウ」

とばり（名）【帷】〔戸張ノ義ニテ、戸ヲ閉ヅベキ處ニ張リテ、明ヲ取ル意ト云フ〕布帛 釋名「帳、張也、張二施於牀上一也」

ノ類ヲ、室内ニ張リ垂ルルモノ。長暖簾ノ類。タレギヌ。タレムシ。タレヌノ。帷幔 倭名抄、十四、屏障具「帷、帷幔也、止波[illegible]」 [illegible]

とばり・あげ (名) 褰帳 古ヘ、御即位、又ハ、朝賀ナドノ時、高御座ノ御帳ヲカカグルコト。又、ソレニ奉仕スル女官。けんちやう(褰帳)ノ條ヲ參見セヨ。榮花物語、三十四、暁待星「キギノミコ、とばりあげナド、例ノコトナリ」

トバ・エ
とばゑ (名) 鳥羽繪 (一)一種ノ粗筆畫。諧謔ナル人物、鳥獸ナドヲ畫ク。保延ノ頃、鳥羽僧正(覺猷、西宮左大臣高明公ノ孫、天台座主、三井寺ノ長吏、山城ノ鳥羽ニ住ス)ニ始マルト云フ。(供米ノ不法ニテ、糠ヲ入レテ輕キヲ諷ストテ、米俵ノ辻風ニ吹上ゲラレテ、童子、法師ナドノ走リテ取止メムトスル所ヲ、面白ク筆ヲ揮ヒテ畫キタルガ、鳥羽院ノ叡覽ニ入リタル話、著聞集ニ見ユ)(二)江戸時代ニ至リテ、春トト云フ畫工、戲畫ヲ畫キ出シ、鳥羽繪ト稱シテ、遂ニ其名トナル。オドケヱ。ザレヱ。

トイ
とひ (名) 問 (一)問フコト。問キタダスコト。「問ヲ發ス」(二)問題。

トイ
とひ (名) [illegible] 遼遠ナル地。ホナカ。とほ。[illegible]

トイ
とひ (名) 樋 [illegible] (一)ひ(樋)ニ同ジ。[illegible]十、下、品第三十二「竹筒呂屋ノ下ヨリとひヲカケ、竹筒呂屋ノ下水ニテ、不淨ヲ流ス樣ニ遊バシ」(二)屋ノ簷ノ雨滴ヲ承ケシムル具。竹管ヲ用キルヲ竹樋ト云ヒ、木ニテ方形ノ筒ニ作レルヲ匣樋ト云ヒ、又、とた(ん)、あかがねナドニテモ造リ、共ニ、雨樋トモ云フ。其横ニ長ク簷ニ亙スヲ、横樋ト云ヒ、横樋ノ端ニ、竪ニ立ツルモノヲ、竪樋ト云フ。承霤

とひ (名) 徒費 空シク費ヤスコト。又、無益ニ費ヤスコト。又、ソノ費用。ムダヅカヒ。

とひ (名) 都鄙 みやこト、ゐなかト。みやこト、ひなト。周禮、天官篇「以三八則治都鄙」[illegible]

とび (名) 鳶 「能ク空高ク飛ベバ名トス」(一)鳥ノ名。形、鷹ニ似テ、稍、大キク、頭、稍、青ク、背ハ茶褐色ニシテ、尾ノ形、扇子ヲ開キタルガ如シ。[illegible]空ヲ翔リ、多クハ市中ニ居テ、鶏ノ雛、雀ノ子、魚鳥ナドヲ提ヒテ食トス。トミ。倭名抄、十八、羽族名「鳶、[illegible]」[illegible]三、廿五段「とび、鳥ナドノ上ハ、見入レ聞キ入レナドスル人、世ニナシカシ」[illegible]フハ、愚ナル者ノ、賢キ子ヲ生ムト云フ意。[illegible]

とひ (名) [illegible] (一)下問ト、[illegible] (二)古ヘ、支那ニテ、輕罪人ヲ官[illegible]

とひ (名) 土匪 [illegible]

[illegible]

とび (名) 酴醾 酴醿 ニゴリザケ。ドブロク。又、モロミザケ。一說ニ、酘酒ノ[illegible]

とび (名) [illegible] 夏ノ初ニ盛ニ開ク、白クシテ青ミアリ、千瓣ニシテ、徑二寸許、山伏ノ袈裟ノ菊綴ノ如シ。ソレヲ誤リテ、頭巾薔薇ノ名モアリ。[illegible] 花白ク、千葉ナリ、菊ノ如シ、[illegible]ゴヤラキト云、江戸ニテ、ボタンバナト云、[illegible]ハ、菊イバラト云、[illegible]ナルアリ、其實ナリ、[illegible]ナリ、中華ニハ黄色アリ」

とび・あがりもの (名) [illegible] ナル言動ヲナスモノ。ヘウキンモノ。トンテキ。越前、大野郡ニテハ、ラッパウモノト云フ)(二)一足飛ビニ、立身出世シタルモノ。

トイ・アワ・ス
とひ・あは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) 問合 事ヲタシカメムト問フ。カケアフ。キキアハス。照會 [illegible]カトノミ、タドラレシヲ、[illegible]シモ、サムベキ方ナク、タヘガタキハ、イカニスベキワザニカトモ、とひあはすべキ人ダニナキヲ」

トイアワセ
とひ・あはせ (名) 問合 トヒアハスルコト。キキアハセ。照會

とび・いし (名) 飛石 [illegible] トビニ、擲ツル石ノ意カ)書院、茶室ナドノ踏次ニ、竝ベ据ヱタル平面ナル石。人ノ踏ミ拾ヒテ行クニ供フ。跳石。[illegible]

とび・いり (名) 飛入 (一)草木ノ花ノ色ニ、他色ノ入リテ斑ヲナセルモノノ稱。(二)仲間ノ外ノ者ノ、不意ニ入込ムコト。又、組合ノ人人ナドノ中ヘ、外ヨリ入リ加ハルコト。又、ソノモノ。相撲ノ飛入ヲ、昔ハ[illegible]ト云ヒキ。[illegible]

とび・いろ (名) 鳶色 鳶ノ羽ノ色ノ如キ色、即チ、茶褐色。赤色ノ淡キモノ。茶褐

とび・うめ (名) 飛梅 菅原道眞ノ大宰府ニ左遷セラルル時、京[illegible]、其後、梅、配所ニ飛ビ行キタリト云フ。せんりのひばい[illegible]

とび・うを (名) 飛魚 [illegible]

とび・おこ・す [illegible]

巧妙ニ間ヲ設ケテ、先方ノ心ヲ聞キ出ス。[illegible]

〔とび-かけ・る・ル・レ・ラ・リ・レ〕（自動、四）飛翔　空高ク飛ビ行ク。飛翔ス。天治字鏡、八十三「[illegible]飛疾也、止比加介利、又、豆良奴」仁德紀、四十年二月「ハヤブサハ、アメニノボリ、トビカケリ、イツキガ上ノ、ササキトラサネ」

〔とび-か・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ〕（自動、四）飛交　互ニ飛ビ行キ飛ビ來ル。トビチガフ。土佐日記、正月九日「枝ゴトニ鶴ゾとびかふ」

とび-きり（名）飛切　（一）高ク身ヲ躍ラセナガラ、相手ヲ切ルコト。「天狗飛切ノ術」（二）殊ニ他ニ超エテ、最モ勝レルコト。最上。極上。特等。「飛切上等」

〔とび-く・ぐ・ク・ケ・カ・キ・ケ〕（自動、四）飛潜　トビクグル。くく（潜）ノ條、參見セヨ。

とび-ぐち（名）鳶口　二三尺、乃至、四五尺許リノ棒ノ端ニ、鳶ノ觜ノ如キ鐵鈎ヲ着ケタルモノ。消防夫ナドガ、物ヲ鈎シ、又ハ、壞スナドニ用ヰル。人倫訓蒙圖彙、三、鳶「大木大石ヲ引動カス、云云、鳶口ヲ以テ打立テ引クコトモアリ、是ニ依テ鳶の者ト云フ」

とび-こ（名）飛子　旅稼ノカゲマ。人倫訓蒙圖彙、七「狂言役者、男子ヲ遊女屋ノ女ヲ抱フル如クニ抱ヘ置キテ、藝ヲシ入レルナリ、云云、イマダ舞臺ニ出デヌハかげまト云フ、他國ヲ巡ルヲ飛び子ト云フナリ」本朝若風俗、大和、西鶴、五「都ニモ舞臺子ノ遊ビハ稀ニテ、云云、今ノ世ノ飛子同前ニ客ヲ勤メヌ」

〔とひ-さ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ〕（自動、下二）問放　問ヒヤル。言ヒヤル。互ニ問ヒ合ヒ、慰メ合フ。萬葉集、三、五十四長歌「長歌、人事ヲ、吉シト聞カシテ、問放くる」同、五九長歌「イハムスベ、セムスベ知ラニ、イハ木ヲモ、刀比佐氣知ラズ」[illegible]記、二十一、[illegible]年二月、[illegible]我レ[illegible]ヒ佐氣ム、誰ニカモ、我ガ問ヒ佐氣ムト」

とび-しやうぎ（名）飛將棊　將棊ノサシ方ノ一種。雙方共ニ、三ツヅツ、三段ニ駒ヲナラベ、交互ニ駒ヲ一格ヅツ進マセテ、相手ノ駒ト會フトキハ、コレヲ飛ビ越シ、早ク敵地ニ入リ込ミテ、己レノ駒ヲ並ベタル方ヲ勝トスルモノ。ニョイニョイ。五雜組（明、謝肇淛）「象戯、有行棊、或五、或七、直行二道、先至者勝」嬉遊笑覽、四、下「とび象棋ハ、ニョイニョイト云フ物也」

とび-じらみ（名）つびじらみニ同ジ。

とび-スゴロク（名）飛雙六　雙六ノ一種。繪雙六ノ上ニ賽ヲ振リ、繪ノ順ヲ追ハズニ、フリダス賽ノ目ニヨリ、行先ヲ定メテ、飛ビ行クモノ。耽奇漫錄（文政、馬琴）十集、雙六「扨コノ後、一舖ノ紙ニシルシタル雙六ハイデ來ニケリ、名目雙六、官職雙六、コレラミナ飛雙六ニテ、童子ヲシテ、其事ヲ知ラシメンガ爲也」

とび-だうぐ（名）飛道具　鐵砲、弓矢ナドノ稱。遠クヨリ飛バシテ、敵ヲ攻ムル武器ナレバ云フ。嫗山姥（正德、近松作）一「貞光モ渡邊モ、心ハ矢竹ニハヤレドモ、飛び道具ヲ防ギカネ、ナント貞光」

とひ-だけ（名）樋竹　樋ニ用ヰル竹、又、竹ニテ造リタル樋。

とび-だこ（名）紙鳶　〔とんびだこノ中略〕トンビダコ。イカ。イカノボリ。

とび-だんご（名）飛團子　團子ノ極メテ堅ク製シタルモノ。正德元年夏、江戸本所、回向院ニ開帳アリシ時、兩國橋東詰ニテ、始メテ製シ賣ル。又、景勝團子、越後團子トモ云フ。近代世事談、一、飲食門「飛團子、正德元年ノ夏、甲州八日市場ノ不動尊、回向院ニ開帳アリシ時、兩國橋ノ東詰、松屋[illegible]左衛門ト云フ壘匠、ハジメテコレヲ製ス、ハジメハ[illegible]ト云、[illegible]人ノ名ハ、ハバカルベ[illegible]、所ノ[illegible]モ[illegible]シケルニヨリ、ソノノチ越後團子ト[illegible]ス、壯士、ウスヅクト云ヘドモ、ツブレザルヲ、[illegible]長尾家ノ將先ニ比シテ名付シトカヤ、越後ノ名將ニテハ、ナキヨシナリ」

とび-ち（名）飛地　居村ヨリ他村ヲ隔テテアル屬地。又、諸處ニ散在セル領地。

とび-ちが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）飛違　（一）飛交フ。彼、左ヘ、我、右ヘ飛ブ。又、飛ビ離レテ居ル土地。蜻蛉日記、下、下卅六「とびちがふ、鳥ノツバサヲ、イカナレバ、スダツナゲキニ、カヘサザルラン」枕草子、一、十七段「カラスノアツマリテ、とびちがひ、サワギナキタル」（二）懸ケ隔タル。甚ダ違フ。懸隔「話ガ飛違ふ」

と-ひつ（名）土筆　（一）ツクヅクシ。ツクシ。（二）やきふで（燒筆）ノ漢名。其條ヲ見ヨ。楊升菴集（明、楊愼）「畫家於人物、必九朽一罷、先以土筆撲取其形、數次修改曰九朽、繼以淡墨一描而成、故曰一罷」

と-ひと（名）外人　（一）都市以外ノ人。鄙ノ人。田舍人。靈異記、上、序「熟瞰世人、也、才好鄙行」訓釋「鄙、止比止奈流」續紀、廿四、天平寶字六年五月、宣命「斗卑等ノ仇ノ在ルゴトク」（二）轉ジテ、鄙賤キコト。字鏡、七十四「鄙、止比止」

とび-とび（副）飛飛　所所ニハナレテ。此處彼處ニ。散在シテ。點點ト。

とび-の-うを（名）飛魚　古名、トビヲ。トビウヲ。トビイヲ。東南海ニ多シ。春夏ノ交、鰹ニ先ダチテ出デ、夏後、無シ。長サ尺許、形、すばしりニ似テ、兩脇ノ鰭、翼ノ如ク長クシテ尾ニ至ル。能ク水ヨリ出デテ、群リテ海上ヲ直進飛行ス。背、碧色ニシテ、腹、白シ、鹽ニ漬ケテ食用トス。ウミテフテフ。ツバクロウヲ。文鰩魚。下學集、上、氣形門「鰩、トビウヲ」運歩色葉集「[illegible]、トビイヲ」物類稱呼、二、動物「文鰩魚、トビウヲ、中國及九州ニテ、アゴト云」重修本草綱目啓蒙、三十、鱗部「文鰩魚、トビヲ、トビウヲ、アゴ、云云、此魚、長サ尺許、兩翼長クシテ尾ニ至ル、能ク海上ヲ飛行ス、背青白腹、江戸ニハ鮮ナルモノ多シ、京師ニハ鹽乾ノミヲ貨ス、云云」

とび-の-もの（名）鳶者　昔、江戸ニテ、町火消ノ役ニ出ヅル者ノ稱。鳶口ヲ持テバ名トス。（とびぐちノ條ヲ見ヨ）火消人足。消防夫。鳶職。略シテ、とび。曾我虎磨（寶永、近松作）上「才泉水ノ水鏡ニサマヲ見ヨ、姿ハ公家、業ハ日雇、鳶の者」

とび-の-を（名）鴟尾　鴟尾ノ文字讀、しび（鴟尾）ノ條ヲ見ヨ」（一）牛車ノ名所。轅ノ如クニテ、車ノ後ニ出デタルモノト云フ。音便ニ、とみのを。とみのを。倭名抄、十一ニ車具「轅、奈加江、俗、在前謂之轅、在後謂之鴟尾、或云、小轅」名義抄「小轅、トビノヲ」蜻蛉日記、上、下「車カキスヱ、云云、イヤシカラヌ家ノ子ドモ、云云、ナガエとみのをノ中ニ入リコミテ」著聞集、九、武勇「車ヲヨセケレバ、云云、其時とびのをヨリ越入リニケリ」（二）屋根ノ鴟尾ノ名。くつがた（沓形）ニ同ジ。義經記、五、忠信吉野山合戰「天井ヘノボリテ見ケレバ、東ノとびの尾ハ、イマダ燒ケザリケレバ、關板ヲガバト踏放シ、飛ンデ出デ見ケレバ」

〔とび-の-を-ごと〕（名）鴟尾琴　和琴ノ一種。其頭ノ製、曲リテ上ヘ出デ、鳶ノ尾ノ形シタルモノ。音便ニ、とみのをごと。倭名抄、四、琴瑟類「大歌所有鴟尾琴、止比乃乎古止、倭琴首造鴟尾之形也」大嘗祭式「鴟尾琴」

とび-はし・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）飛走　飛ブヤウニ早ク走ル。又、飛ビマハル。

音便ニ、とっぱしる。

とびはちぢゃう（トビ-ハチジョウ）（名）［鳶八丈］武藏國、八王子附近ヨリ産ズル太織紬（フトナリツムギ）ノ一種、鳶ヒトト黄色トノ縞ニテ、[illegible]ニ、黄八丈縞ニ擬ヘテ織レルモノ。心中天網島（享保、近松作）中「大引出シノ錠明ケテ、[illegible]ヲヒラリト飛び八丈、京縮緬ノ明日ハナイ、夫ノ命シラ茶ウラ」

とびはなる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［飛離］（一）飛ビテ退ク。（二）懸ケ隔々ル。甚ダ異ナル。懸隔

とびひ（名）［飛火］（一）火炎（クワシ）ノ火片（ヒノコ）ノ、風ニ飛ビテ、隔リタル家ニ燃エツクモノ。（二）隔リタルモノニマデ、禍ナドノ及ブコト。トバシリ。餘禍（三）皮膚病ノ一種、小兒ノ面ナドニ生ズル瘡ノ名。忽ニシテ點點蔓延ス。大水疱疹。

とひまる（トイ-マル）（名）［問丸］〔古へ、商家ナドノ家號ヲ丸ト云ヘリ、今ノ屋ノ如シトゾ。〕まろ（丸）ノ條ヲ見ヨ」とひや（問屋）ニ同ジ。[illegible]往來、四月「[illegible]」[illegible]文明十一年「[illegible]」日本永代[illegible]越前ノ國敦賀ノ港ハ、毎日ノ入舟、判金一枚ナラシノ上米アリト云ヘリ、淀ノ川舟ノ運上ニカハラズ、萬事ノ問丸、繁昌ノ所ナリ」

どびん（名）［土瓶］（一）陶製ノ器。湯ヲ沸シ、茶ヲ煮ルナドニ用ヰル、注口アリ、提梁（ツル）アリ。書言字考節用集、七、器財門「土瓶（ドビン）、本名、瓦釜」守貞漫稿、十八、[illegible]「道八ノ土瓶、陶工名」（二）キンタマ。睾丸。物類稱呼、四、器用「出雲、常陸ナドニテハ、どびんト名クルハ、[illegible]ニテハ、人ノ睾丸ノ大ナルヲ云フトゾ」

とびむし（名）［跳蟲］（一）[illegible]ニ生ズ[illegible]形、蝦ニ似テ、大イサ二三分、灰白色ニシテ、足、[illegible]。[illegible]無ク、跳ルコト蚤ノ如シ。ノミムシ。ハネムシ。水蚤（二）つちばったノ一名。

とひや（トイ-ヤ）（名）［問屋］〔とひハ集（ツドヒ）ノ約カ。古ク、集屋（ツヤ）〕（一）古ク邸家（ツヤ）。中世ニ、問丸（トヒマル）。製造人ヨリ品物ヲ買ヒ集メ置キテ、コレヲ諸賣ノ者ニ賣ル商家。卸賣ノ商店。音便ニ、問屋（トンヤ）。[illegible]卜云フ」[illegible]都ニ[illegible]ナラバ、[illegible]ムベシ、商人持テ行カザル先ニト心懸、駄賃役ヲ日ニ次テノボル、十月廿日ト中ニハ、京二條ノ問屋忠兵衛與左衛門ト云フ人ノ宿ニツキタリ」（二）とひやば、問屋場ノ略。

どびゃう（ド-ビョウ）（名）［土瓶］蛇ノ靈ヲ使フト云フ蠱物（マジモノ）。（四國ニアリ）蛇蠱

どびゃうし（ド-ビョウシ）（名）［銅拍子］［銅鈸子（ドウバツシ）］ノ[illegible]カ」（一）又、どびゃうし。[illegible]ノ名形、鐃鈸（ネウハチ）ノ如クニシテ小サク、[illegible]ニテ作ル。[illegible]下學集、下、樂器門「土拍子、ドビャウシ」歌舞品目、三、八音犯匝「銅拍子、此器ハ、迦陵頻ノ舞ニ用ユル[illegible]ニシテ、[illegible]八日、[illegible]「銅拍子」[illegible]どんびゃうし[illegible]トテ、[illegible]テゾ出デニケル、目モアヤナリ」（二）[illegible]異名[illegible]ノ形ニ似タレバ云フ。（和州）

どびゃくしゃう（ド-ビャクショウ）（名）［土百姓］[illegible]、[illegible]民ヲ[illegible]ミテ呼ブ語。[illegible]近松作）二「人ノ中デ見レバ、ヤッパリ山ノコケ猿、此ノ野中、土百姓ノ中テハ」

とぴゃくゐん（トビャク-イン）（名）［土百韻］（[illegible]）又、とっぴゃくゐん。連歌、俳諧ニテ、百韻ヲ十座ニテ行ヒタルヲ、[illegible]テ稱スル語。[illegible]見ヨ。俳諧[illegible]文月末ノ八日、六七日ニアタ[illegible]ヒ集リシ俳士達、其外、貴トナク賤トナク、[illegible]アツマリ、[illegible]十餘人ニ及リ」「[illegible]（書名ナリ）」

とひやば（トイ-ヤ-バ）（名）［問屋場］昔、宿驛ニテ、傳馬、荷馬、人夫ヲ集メテ、[illegible]物ヲ[illegible]スル所。又、トヒヤトモ[illegible]テ、問屋[illegible]「小田原宿、問屋場ニ」[illegible]小少ヅツ引取、問屋場[illegible]

とひよ（名）芝居ニテ、鳥ノ[illegible]

とびら（名）［扉］〔戸片（トヒラ）ノ義〕（一）開戸（ヒラキド）ノ戸、[illegible]比良」同[illegible]「闔、門乃止比良」（二）書籍ノ見返ノ次ニアリテ、書名、著者名ナドヲ[illegible]シタル頁（ペエヂ）。

とびらのき（名）［[illegible]木］[illegible]樹花[illegible]ヲ門戸ニ挿セバ、[illegible]比良乃木」本草一家言[illegible]海桐花、凡椿、海桐花、[illegible]鎌倉二八、石南草ト記シテ、とべらのきト注セリ[illegible]

とびゐ（トビ-イ）（名）[illegible]民家ノ[illegible]此木ノ枝ヲ[illegible]サレバとびゐのきトイフ也」

とふ（名）［十[illegible]］[illegible]十筋ニ編ミタ[illegible]ルコト。又、ソノモノ。[illegible]ニ、住ム民ハ、イクヘカシケル、とふノ[illegible]

とふ（名）［都府］人民、貨物ノ輻湊スル所。ミヤコ。都會。[illegible]

とふ（名）［塗布］ヌリシクコト。塗[illegible]

とふ・ウ・フ・へ・ハ・ヒ・へ（他動、四）［問］〔[illegible]約カト云フ〕（一）聞カマク欲スル[illegible]古今集[illegible]シテ[illegible]今ハ聞エメル」（二）[illegible]人ノ[illegible]

とふ（名）[illegible]

ガ背子ガ、□云事ハ、□ノ□ソ□□□、□ニキキ、目ニハイマダ見ズ、サヨヒメガ、領巾振リキ等敬、君マツラヤマ」同、十五[上]「コレヤコノ、名ニオフ鳴門ノ、ウヅ潮ニ、玉藻刈ルテフ、アマ少女ドモ」

と・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（自動、四）**飛** 〔疾ヲ活用セル語カ〕（一）翼ヲ動カシテ、空ヲ行ク。翔ル。宇治拾遺、三、十六條「飼フホドニ、どぶホドニナリニケリ、云云、アハレとびてイヌルヨ」古今集、四、秋、上「白雲ニ、ハネウチカハシ、とぶ雁ノ、数サヘミユル、秋ノ夜ノ月」仁德紀、四十年三月「ハヤブサハ、天ニノボリ、等弭カケリ」「鳥飛ぶ」（二）〔吹キ上ゲラレテ散リ行ク〕翻 萬葉集、四廿長歌「モミチ葉ノ、散リとぶ見ツツ」同、十七、九「ミ園生ノ、モモキノ梅ノ、散ル花ノ、天ニ飛蝶アガリ、雪トフリケム」「紙飛ぶ」「塵飛ぶ」（三）ヲドル。跳ヌ。跳「蟲飛ぶ」（四）間ヲ隔タル。間ヲ置ク。隔〔□□□枚□ハテ書ア〕リ一二走ル。カク。馳ス 枕草子、五、四十七段「追ヒテユケド、スノモトニトマリテ見ルコソ、とびモ出デヌベキココチスレ」

どぶ （名）**溝** 〔水溜リテ流レズ、どぶどぶスルヨリ云フカ〕或ハ云フ、泥淵ノ略カ」セセラギ。セセナギ。又、下水。

ど・ふう （名）**土風** （一）郷土ノ歌謠。（二）土地ノ風俗。陸機賦「土風清且嘉」

どぶ・がひ （名）**溝貝** 又、タガヒ。淡水ノ産、溝渠ナドニモアリ。形、狭ク長ク、シテ、一頭ハ廣シ、大ナルハ、長サ尺ニ至ル。殻ノ薄皮ニ横文アリテ、色黒シ故ニ、からすがひノ名モアリ。黒皮ノ内ニ白粉リ、其内、甚ダ滑ク、色白ク青紫ヲ帶ビテ光ル。肉白ク、味佳ナラズ。蚌 和名抄、十九、四十七、介貝部「蚌、ドブガヒ、云云、蛤之小者、□河□中有之、大二三寸、□□、其□味□□、不可食」

どぶ・がめ （名）**溝龜** 又、どろがめ。ドンガメ。すっぽん（鼈）ニ同ジ。

と・ふ・ぎょ （名）**杜父魚** イシブシ。かぢか（鰍）ノ條ヲ見ヨ。

と・ふく （名）**肚腹** 〔肚モ腹ナリ〕ハラ。

と・ふく （名）**屠腹** 腹ヲ切ルコト。ハラキリ。割腹。切腹。

ど・ぶくりゃう （名）**土茯苓** 蔓草ノ名。さんきらい（山歸來）ノ條ヲ見ヨ。

〔**とぶ・くるま** （名）**飛車** 天、空ヲ走ルト云フ車。倭名抄、十一[三]車類「飛車、奇肱國人能作之、飛車、從風遠行、故日飛車」竹取物語「とぶくるま一ツ具シタリ」宇津保物語、菊宴「雲ニタニ、心ヲヤラバ、大空ニ、とぶくるまヲバ、ヨソナガラ見ム」栄花物語、十九、御裳着「輪縒ハ飛ぶ車ノ形ヲツクリテ、三ツノ車ノ形ヲツクリタリ」

と・ぶくろ （名）**戸袋** 晝間、雨戸ヲ、引キ入レテ收メ置ク處。戸室 戸套 心中重井筒（寶永、近松作）中「ヨソノ戀カト羨シク、見レバ雨戸ノ戸袋ヲ、密ト踏マヘル足元モ、顫ヒ顫ヒノ目モクレテ」

と・ぶさ （名）**鳥總** 〔朶立ニテ、材ヲ割リ裂ク器ノ名カト云フ〕（一）〔古ヘ、樵人ガ山神ヲ祭ルタメ、伐リタル木ノ端ヲ、其伐株ニタテオキシモノ。又、鐇トモ云フ〕萬葉集、三、四「鳥總タテ、アシガラ山ニ、船木キリ、樹ニ伐リ行キツ、アタラ船材ヲ」同、十七、四十「登夫佐多底、船木伐ルト云フ、能登ノ島山、今日見レバ、コダチシゲシモ、イク代神ビゾ」（二）コズヱ。木梢 堀河百首、□ノ花モ、神ノヒモロギ、トキニケリ、とぶさモタワ（ハイ）ニ、木綿カケテ見ユ」

とぶし （名）〔十節ト云フ鯛ノ目、ソレニテ取ル鯛ノ名ナリト云フ〕魚ノ名。めなだ（赤目魚）ノ小ナルモノ。

ど・ブツ （名）**土佛** （一）ツチボトケ。土ニテ作リテ燒キナセル佛像。（二）ナ土偶ノ布袋和尚ノ像ヨリ轉ジテ、俗ニ、肥エタル人ヲ嘲リ呼ブ語。

どぶ・づけ （名）**溝漬** 米糠ヲ炒リテ鹽ヲ加ヘ、液汁ヲ多クシテ、野菜類ヲ漬ケタルモノ。ヌカヅケ。ヌカミソヅケ。四季漬物鹽嘉言（天保）「糠味噌漬ノ法」又、□□漬トモ云フ、云云、糠一斗、鹽五升、右糠ノ小米ヲヨクフルヒ取テ、鹽五升ニ水五升ヲ鍋ニテ煮カヘシ、一夜サマシ置、糠ニマゼテ桶ヘツケルナリ、新ニ拵タル當座ニハ、毎日タビタビ手ヲ入レテ、掻廻スヘシ、云云

とふ・とふ （副）**問問** 念入レテ問フニ云フ語。ヨクキキタダス意。トヒニトフ。伊勢大輔集「蹲クレテ、昔戀シキ、東路ノ、道ヲとふとふ、尋ネツルカナ」

どぶ・どぶ （副）多量ノ水ニテ、深ク沒シヤスキ狀ニ云フ語。狂言記、どぶかっちり「イカウ水ガ出タサウナゾヤ、云云、どぶどぶ、アアイカウ深サウナ」

〔**とぶ・とり** （名）**飛鳥** 天ヲ飛ブ鳥。ヒテウ。□□□記、八年正月「飛天之鳥、□□□、□□□子、土中作□、□□、作巣、其□深矣、伏地之虫、□□□□、其□□□」萬葉集、十四、二[三]「夏ソヒク、ウナヒヲサシテ、等夫登利ノ、イタラムトゾヨ、アガ下ハヘシ」

〔**とぶ・とり・の** （枕）**飛鳥** 〔鳥ノいすかノ古名ハ、あすかナルベク、ソレニ掛ケテ云ヘルナラムト云フ〕大和國、高市郡、明日香ノ地ノ枕詞 天武紀、下、十五年七月、改元曰朱鳥元年、仍名宮曰飛鳥淨御原宮トアリ、此朱鳥ニ因ミテ、飛鳥ト云ヒシガ、其意ハ嘆、鳥ノ事ナリ）後ニハ、用キ馴レテ、飛鳥ノ字ヲ、直ニあすかト讀ムニ至ル。萬葉集、一[二]「飛鳥ノ、明日香ノ里ヲ、置キテイナバ、君ガアタリハ、見エズカモアラム」同、二[三十]長歌「飛鳥ノ、明日香ノ河ノ」

とぶね （名）□□ 同、十六、長歌「飛鳥ノ、飛鳥壯ガ、□、□□、□□、日今日ト、飛鳥ニ到リ」

どぶ・ねずみ （名）**溝鼠** （一）溝ノ邊ニ棲ム鼠。（二）商店ニテ、主人ノ目ヲ掠メテ、不正行爲ヲナス、番頭ナドノ稱。

とふ・の・すがおも （名）**十編菅薦** 編目ノ十筋アル菅ノ薦。とふ（十編）、及、すがおも（菅薦）ノ條ヲモ見ヨ。〔陸奥ノ菅ハ他國ノモノヨリハ長クテ、薦ヲ十筋マデ編ムバカリ、陸ノ廣キ名物ニテ、名高キナリ〕夫木抄、□□□物語、よしなし□、□ノ物借ル文ニ「カタ野ノ原ニアルスガゴモニマレ、タダアラムヲ貸シタマへ、とふのすがおもナラヒゾ」袖中抄、（□□）十四、とふのすがおも心シラヒシテ」袖中抄、（□□）十四、とふのすがおも「ミチノクノ、とふのすがおも、七編ニハ、君ヲ寐サセテ、三編ニ吾レ寐ム」夫木集、三十七、身子孝開一角仙人志□寺上人事「十府のすがおもシキ忍ビ、小鹿ノ角ノ、ツカノ間ニ、千年ヲ兼ネテ契リ給フ」顯案名物考、調度部、四「十府菅薦、とふのすがおも、世ニ傳へ云ヘル所ハ、陸奥國ヨリ作リ出セル薦ノ、アミ目、十アル故ニ、カク名ヅクト云ヘリ、今ハ津輕ヨリ造リ出セルモ、とふのすがおもトテ、世ニモ名産ノヤウニ云ヘルモノアリ」

〔**とぶ・ひ** （名）**飛火** 〔飛ブハ速ニ達スル義、飛脚ノ飛ノ如シト云フ〕古ク、狼烟ノ類。山岡ニ土壇ヲ築キ、薪ヲ積ミ、寇ナドアル時、火ヲ點ジテ相圖トシタリト云フ。ススミ。烽火 倭名抄、十二、四十燈火類「□□□、□□□、□□□、之一畫ハ烽、□ニテ、夜ハ燧（火）ナリ」軍防令「凡置烽相去四十里、毎□□□、□□、□□□□、□□□」萬葉集、六、□□長歌八年二月「□□□□、□□□□□」古今集、一、春、上「春日山、□□□、□火カ丘ニ」神中抄、八「イカニセム、とぶ火モ今ハ、立テワビン」袖中抄、八「イカニセム、とぶ火モ今ハ、立テワビン」ヌ、野モカヨハヌ、淡路島山」（攝津ノ須磨ト、淡路ノ石度トノ、渡リ船ヲ促スニ、火ヲ燒キアハスルナリ）

どぶらひ (名) 訪 (一)トブラフコト。オトヅレ。見舞。(二)亡キ人ノ追福ヲ行フコト。トムラヒ。追善。弔 [illegible] 物語「どぶらひニツカハシケル歌」

どぶら・ふ・ニ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) (一)〔安否ヲ訪ヒ、問ヒ尋ヌ。オトヅル。見舞フ。 [illegible]「トブラフ」[illegible]「訪覓」私記「止不良比末久」古今集、十七、雜、上 [illegible] 二二〔喪ブル人ヲ訪ヒテ悼ム。クヤミヲ陳ブ。弔 名義抄「弔、トブラフ」神代紀、下「弔」 仁徳紀、六十七年十月 [illegible] (三)亡キ魂ニ追福ス。追善ヲ營ム。トムラフ。追福 [illegible] 六、[illegible] ナリテ、後世ヲとぶらひケルコソアハレナレ」

どぶん-と (副) 次次條ノ語ニ同ジ。

どぶり-がへし (名) 丼返 水泳術ニ、身ヲ翻ヘシテ、水中ニ飛込ム技。

どぶり-と (副) 重キ物ノ、水ニ落チ入ル音ニ云フ語。餘韻アルニハ、どぶんと、どんぶりと、ト云フ。

ど-ぶろ (名) 土風爐 土製ノ風爐。茶家ニ用ヰルハ、奈良ノ宗喜ト云フ者作リ、奈良風爐、又、奈良火鉢トモ云フ。コレニ黒色、赤色ノ二種アリ、又、琉球ヨリ渡リタルニ、ちんからト云フアリ、茶家ニ珍トス。(近代世事談、二) 三十二番職人 [illegible] コボシ、ヨキ [illegible] ヒト、ナラノ土ブロナ」

どぶ-ろく (名) 濁醪 〔濁醪ノ訛ナリト云フ、又、[illegible]〕濁酒ノ滓ヲ漉サヌモノ。モロミ [illegible] 昨日は今日の物語(天正)「奈良ノ伊勢屋ト云フ酒屋、[illegible] リテ、カハルナリ、伊勢屋ノ酒ハ、ヨソノどぶろく」[illegible] くハ、濁醪ノ轉語歟トアル說アタレリ」

どぶろく (名) 〔[illegible] 撲人語〕酒ニ醉ヒツブレタルモノ。ヅブロク。

ど-へ (名) 十重 物ノ十、重ナルコト。十カサネ。字類抄「十重、トヘ」

ど-べ (名) 姥 又、トメ。老女。オウナ。

ど-へい (名) 斗柄 北斗七星中ノ、第五ヨリ第七ニ至ル三ツノ星。杓子形ノ柄ニ當ル故ニ云フ。斗杓 ほくと(北斗)ノ條ヲ見ヨ。及、はぐんせい(破軍星)ノ條ヲ見ヨ。[illegible] 移斗柄春」

ど-べい (名) 土塀 土ニテ、築キタル塀。

ど-へう (名) 土俵 (一)俵ニ土ヲ籠メタルモノ。積ミテ土手ノ用トス。土豚 [illegible] (二)どへうば(土俵場)ノ略。相撲ノ土俵場ノ周圍ニ立テタル柱ヲ、四本柱ト稱ス。四天王ニ象ルト云ヒ、又、四季ニ擬スト云フ。紅白ノ布ニテ卷キ、[illegible]

[illegible] 又、四本柱 [illegible] 相撲 [illegible] 撲大全(寬政、木村政勝)四本柱ノ相當「四本柱ハ四季ニ擬ス、東ハ春ニテ其色青色、西ハ秋ニテ白色、南ハ [illegible] 土俵七俵ヅツ四ツ合セテ、數廿八俵ハ、天之廿八宿 [illegible] 土俵數十五八、天之九、地之六、東西ノ入口ハ、陰陽相順之理也、外ノ角ヲ儒道、内ノ丸ヲ佛道、中ノ繁束ヲ神道、コレ神儒佛ノ三ツナリ」角力舊記(安永、木村孫六)土俵之事「土俵ヲ築キタル事、天正年中ヨリ [illegible] ノ儀式ハ [illegible] 次條 [illegible] 集、七、器用「宴俵、ドヘウ、註「本朝俗、矢之器」[illegible]

ど-へう-いり (名) 土俵入 相撲人ノ土俵ノ上ニテ行フ儀式。即チ、相撲ノ中入リ前後ニ、力士カ假粧紐ヲ着ケ、土俵上ニ環狀ニ整列シ、相撲道ノ所作事ヲナスコトニテ、東西ノ[illegible] 幕下以下、[illegible] の内力士ノ揃ヒテスルヲ揃踏ト云ヒ、大關ヲ始メ、關脇、小結ト、ド位ノ力士ヲ先ニシテ順次ニ列ビ、土俵ノ中央ノ行司 [illegible] 足ヲ踏ム。横綱ノハ、一人土俵入リナレバ獨手數ト云ヒ、左右ニ太刀持、露拂ヲ具シ、行司ト共ニ土俵ニ入リ、式ノ如ク手ヲ拍チ、四股ヲ踏ム。北山抄、[illegible]

[illegible] 角力舊記(安永、木村孫六)土俵之事 [illegible] 土俵へ入リテ、行司ノ [illegible] 合ハセ、[illegible] 各立チ、力足ヲ踏ミ、又、下ニ居テ、[illegible] サテ入ル也」即今ノ土俵入リトハ異ナリ

ど-へう-うつぼ (名) [illegible] 空穗ノ一種ニテ、矢ヲ入ルルモノ。土俵ニ似テ、ソノカナルヨリ云フ。[illegible] ハ竹、又ハ、葛籠ヲ組ミテ作リ、形、大キクシテ一抱へ程アリ。腰ニツケズ、人ニ持タシムルモノ。略シテ、どへうト云フ。[illegible] 雜記、十一、武具「どひょうトハうつぼアリ、大ナル物也、地ノ所ハ、竹ニテ組、又ハ、つづらニテ組 [illegible] シ、又、[illegible] ト云フ物也、古ナキ物也、近代ノ物也」

ど-へう-ぎは (名) 土俵際 [illegible] 土俵ノ境界。コレヨリ出ヅタル相撲ツ [illegible] 又ハ、成功ノ域ニ達セムトスル間際ニ。

ど-へう-ば (名) 土俵場 角力ヲ行フ場 [illegible] 六俵ヲ用ヰテ環ニ作リ、外土俵ハ廿俵ヲ用ヰテ方ニ作ル [illegible] 沙ヲ撒ム。略シテ、どへう。[illegible]

どへば-えま (名) [illegible] 問ノ、問ノ [illegible] ズニ [illegible]

アタハズニ。讃信集、下「とへぼえ了、トハネバウシト、ウラムナリ、カクテヤ人ハ、思ヒキユラン」

と-へん（名）土偏　つちへん（土偏）ト云フニ同ジ。徒然草、百三十六段「シホト云フ文字ハ、イヅレノ偏ニカ侍ラントトハレタリケルニ、土偏ニテ候ト申シタレバ」

とべら-の-き（名）石檽木〔古ヘニ云ヘルとびらのきノ轉ナラム。其條ヲモ見ヨ〕灌木ノ名。幹、高サ丈餘、葉ハ、石楠ニ類シテ、短ク厚ク、鈍頭ニシテ光澤アリ、冬枯レズ、枝葉、繁密ナリ。夏、花、梢間ニ簇ル、五出、又ハ、六出ニシテ、厚張ナリ、大キサ半寸許、初、白ク、落ツル頃ハ黃ニシテ香アリ、三圓實、自ラ開ケ、紅子アラハル。柾ノ實ノ如シ。トベラ。海桐花　元言梯、一「石檽木、光葉木」重修本草、上「[illegible]木、石南、味辛苦、平、有毒、トヘラ、二月四月採レ葉、八月採レ實、陰乾、止比良乃岐」

と-ほ（名）徒步　カチ。カチアルキ。徒行。步行。戰國策、齊策「今夫士之高者、乃稱二匹夫一徒步而處二農畝一」漢書、公孫弘傳「起二徒步一數年、至二宰相封侯一」白居易詩「業成無二知己一、徒步來入レ關」杜甫詩「出レ門無レ所レ待、徒步覺二自由一」

とほ-あさ（名）遠淺　海濱ノ、海上遠クマデ底淺キ處。又、海川ノ邊ニ、汐干ノ時ナド、洲ノ遠ク淺クツヅキテアラハル所。トアサ。盛衰記、三十六、鵯谷向二大手一「サテモ城ノ構ゾ夥シキ、山ノ岸ヨリ海ノ遠淺マデ、大ナル岩ヲ取リ積ミテ、岩ノ上ニ大木ヲ切リ伏セ」夫木抄、廿四、河「タカハハ、波路モ白ク、明ケニケリ、とあさノ舟ノ、寄ル程モナク」

とほ-あみ（名）遠網　遠方ヨリ網ヲ入レ、次第ニ近寄リテ魚ヲ捕フルコト。又、ソノ網。

とほう（副）遠　遠くノ音便。源、三十五、柏木「イトチカキ世ノコトナレド、サマザマチカウとほう、心ミダルヤウナリシ」

ど-ほう（名）土崩　土ノ崩ルル如ク、物事ノ崩ルルコト。甚ダ脆ク崩ルルコト。史記、主父偃傳「天下之患、在二于土崩一、不レ在二于瓦解一」後漢書、馬援傳「會召レ援、夜至、帝大喜引入、其以二年議一質レ之、援因說二隗囂將帥有二土崩之勢一、兵進有二必破之狀一」同、伏隆傳「尋邑以二百萬之軍一潰二散於昆陽一王郞以二全趙之師一土二崩於鄗鄙一」

ど-ほう（名）土蜂　（一）サソリ。スガル。ジガバチ。箋注倭名抄、八、蟲名「蠮螉、一名、土蜂、一名、細腰」（二）ユスルバチ。アナバチ。ツチバチ。倭名抄、十九、蟲豸類「土蜂、ユスルバチ、大蜂之在二地中一作レ房者也」重修本草綱目、廿七、卵生蟲類「土蜂、ユスルバチ、ツチバチ、アナバチ、土中ニ巣ヲ作ルはちヲ云フ」

ど-ほう-ぐゎかい（句）土崩瓦解　根柢ヨリ崩壞シテ、方策ヲ施ス術モナキ狀態ニ喩ヘテ云フ語。史記、秦始皇紀「秦之積衰、天下土崩瓦解、雖レ有二周旦之材一、無レ所レ復陳二其巧一」

とほ-かさがけ（名）遠笠懸　かさがけ（笠懸）ノ條ヲ見ヨ。笠掛記（貞和）ニ「一、遠笠懸始之事、右大將家（賴朝）ノ御時ニ、モロモロノ作物、品品遊サレキ、中ニモ遠笠懸、此御代ヨリ始レリ」吾妻鏡、四十一、建長三年八月廿一日「將軍家（賴嗣）、於二由比浦一御出、云云、預被レ候二御棧敷一、入御之後、先有二獻盃儀一、次覽二遠笠懸一、則父令レ射レ之給」

とほかみ-ゑみ-ため（名）登保加美惠美多米〔遠津神咲給ノ意カ。とハ、遠、ほハ穗、かみハ嚙ニテ、地ニ生ズル稻ノ穗ヲ嚙ミテ、人體ヲ通ジテ肥トシ、稻ノ穗ハ穗ミワレテ、再ビ穗トナリタマヘノ義、卽チ、人ト食トノ循環ノ理ヲ云フナリト云フハ、イカガアルベキ〕龜トノ一町形ノ五兆（と、ほ、かみ、ゑみ、ため（）ニテ、ソレヲ龜ノ甲ノ裏ニ刻ム線ノ名ト云フ、此線ヲ燒キテ、表ニ顯ハルル裂痕ノ卜兆ニテ、占フコト。然ルヲ理深ゲニ、神祕ヲ稱シ、三種の大祓ト稱スルモノノ詞トシ、大聲ニ唱フル神道ノ一流アリ。コレヲ祕致ト云ヘリ。壒嚢抄、八、第六條「龜ノ占ニ付テ、五兆ト云フ事アリ、其中ニためト云フ字ニ人ヲ書ケリ、サレバ仲實朝臣ノ歌ニ、波拔遣火ニ、喜ヘル龜ノ、ト串ヤ、人ト走ルハ、君ガアヘルカ、云云、師時卿ノ歌ニ、思ヒカネ、龜ノ正トニ、言問ヘバ、人ト皆タリト、聞クゾウレシキ」雅言集覽、かめのますら「師時卿ノ歌、云云」

とほく（副）遠　ハルカナル狀ヲ云フ語。音便ニ、とほう。神代紀、上「遠自東來」私記「等保久與利萬宇支旦」

ど-ほく（名）土木　（一）つちト、きト。曾我扇八景（寶永、近松作）上「內ニ土木ノ氣ヲ養ヒテ、外、青黃ノ色ナク」（二）堤防、溝渠、道、橋ナドノ普請。作事。唐書、百官志「工部郞中員外郞各一人、掌二城池土木之工役一」盛衰記、廿四、南都合戰同燒失事「サレバ天平十七年ニ、土木ノ造營ヲ始メラレシニ、或ハ久米ノ仙人、通力ヲ起シテ大木ノ材料ヲ運ビ、或ハ力士變化ノ牛、來テ材シ、云云」（三）身ナリヲ飾ラザルコト。粗野。晉書、嵇康傳「土二木形骸一不二自藻飾一」

ど-ぼく（名）奴僕　シモベ。ヤツコ。下男。ヌボク。漢書、公孫弘傳、贊「衞青奮二於奴僕一、日磾出二於降虜一」[illegible]書、長令二奴僕一知二饑渴一、須三著二賢良一待二性情一」

とぼ-くち（名）門口　出入口。カドグチ。（伊豆ニテ、とんぼぐちト云フ）浮世風呂（文化）三編、二、下「シダラモナク、醉テキテノ、とぼロヲマタグガ早エカ、大ノ字ニ踏ゾベッテ」

とぼ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下一）恍惚〔言惚るノ略訛カ〕（一）恍ク。シレジレシクナル。ボンヤリスル。好色五人女、[illegible]「[illegible]シゲニ成リ[illegible]ヤツレケル、カザルフシ、[illegible]ほけ[illegible]バ」（二）惚ケタル風ヲシテ戲ル。オドケル。ダウケル。（三）知ラヌサマヲ裝フ。シラバクレル。ソラトボケル。

とほ-ざか・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）遠　〔遠離るノ義〕（一）遠クニ離レ退ク。トホノク。萬葉集、十八「秋風ニ、山飛ビ越ユル、カリガネノ、聲遠ざかル、雲ガクルラシ」千載集、三、夏「一聲ハ、サヤカニ鳴キテ、郭公、雲路ハルカニ、とほざかるナリ」新勅撰集、十九、雜、四「住吉ノ、有明ノ月ヲ、ナガムレバ、遠ざかりニシ、影ゾ戀シキ」（二）疎クナル。疎遠ニナル。疎闊　風雅集、十三、戀、四「トハズ問ヲ、忘レズナガラ、積フルヤ、とほざかるべキ、始メナルラン」續後拾遺集、十七、雜、下「思ヒ出ノ、アルニハアラヌ、イニシヘノ、とほざかれバヤ、戀シカルラン」

とほ-ざ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）遠　〔遠放くノ義〕遠クヘ退ケ遣ル。ウトンズ。「人ヲ遠ざく」小人ヲ遠ざく」

とほ-さぶらひ（名）遠侍　次條ノ語ニ同ジ。易林節用集（慶長）上、乾坤門「遠侍、トホサブラヒ」書言字考節用集、一、乾坤門「遠侍、トホサブラヒ」平治物語、二、義朝野間下向事「金王丸ト玄光法師ヲバ、とほさぶらひニテ、若者ドモノ中ニ取リ籠メ、引張リテ刺シ殺シ候ハン」

とほ-ざむらひ（名）遠侍　古ヘ、武家ノ邸ニテ、主殿ヨリ遠ク離レタル中門ノ傍ニアル廊ノ如キ處。番ノ侍ノ詰所ノ稱。後ニ、玄關ノ內ニ廣間ト云フモノ出來テ、此ニ移リ、武器ヲ飾リテ衞ル。寢殿ノ側近ク候フ處ヲ、單ニ、さむらひト云フ。貞丈雜記、十四、家作「遠侍ト云ハ、主殿ナドヨリハ、ハルカ遠クハナレタル番所也、表向ニテ、番ノ侍ノ居ル所也、鎌倉年中行事ニ、御遠侍ハ六

聞七間ニテ、立物御臺ナドハ無之、云云、遠侍ニハ武具ヲカザリ置ク也」太平記、廿三、大森彦七事「警固ノ者共、大勢、遠侍ニ並居テ、夜モスガラ睡ラジト、碁、雙六ヲ打テゾ遊ビケル」同、廿七、上杉[illegible]「遠侍ニハ、師直ガ[illegible]、師直ハ、夢ニモ可ㇾ思寄ㇾ事ナラネバ、若黨、中間ハ、皆遠侍、大庭ニ並居テ、中門ノ唐垣ヲカケヘダテ、師直一人、六間ノ客殿ニ座シタリ」浦島年代記(元祿、近松作)二「引廻シタル御所遣、國ノ大臣ノ車寄、歌壇、寢殿、遠ざむらひ、當番ノ近習、外樣ノ侍原ニ至ル迄」

とほし (名) 通 (一)トホスコト。(二)人夫、駄馬ナド、途中ノ宿場ニテ繼ギ替ヘズシテ行クコト。早打(ハヤウチ)ハ通シニテ馳ス。

とほし (名) 簏篵 〔通しノ義〕 篩(フルヒ)ノ一種。底ヲ竹ニテ目ヲ粗ク編メルモノ。其網線ナルヲ、かなとほしト云ヒ、其大キクシテ、繩ニテ釣リテ用キルヲ、つりとほしト云フ。 書言字考節用集、七、器財門「篵、簏、トヲシ」和漢三才圖會、三十七、農具類「篩簏、ツリトホシ、其制、比ㇾ篩、疎而頗深、如ㇾ籃大一而篩淺、上有ㇾ長條一、有ㇾ柱、按、簏篩之大者、不ㇾ堪ㇾ以ㇾ手振ㇾ、故挂ㇾ條振ㇾ之、其底、今多用ㇾ銅線ㇾ纏ㇾ之、云云」日本八景吾妻鑑(享保、近松作)三「アラ篩ヲ、タ・タ一夜ノ篩ニカケテ、モラヒタイ」

とほ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 遠 〔近しノ反〕(一)隔離(ヘダタリ)、多シ。遙ナリ。孟子、梁惠王、上「叟不ㇾ遠ㇾ千里ㇾ而來」名義抄「遠、トホシ」萬葉集、廿五「ホリエコエ、等保佐里マデ、送リケル、君ガ心ハ、忘ラユマジモ」新古今集、一、春、上「時ハ今、春ニナリヌト、ミ雪フル、遠キ山邊ニ、霞タナビク」(二)時ニ、久シキ間アリ。(過去ニモ、未來ニモ) 久遠 後拾遺集、一、春、上「カヘル雁、雲井ハルカニ、ナリヌナリ、マタ來ン秋モ、とほしトナキモフニ」萬葉集、十七[illegible]「遠クアラバ、イマ二日ダミ、[illegible]、七日ノ內ハ、過ギメヤモ」玉葉集、十八、雜、五「秋ツシマ、人ノ心ヲ、ミ[illegible]、遠クツタヘシ、大和コトノハ」

(三)疎(ウト)シ。親カラズ。疎 枕草子、八、八十六段「近クテとほきモノ、思ハヌハラカラ、親族ノ中」「遠き親類」(四)アサハカナラズ。深シ。深遠 源、四十九、東屋「スベテイト全ク、隈ナキ心モアリ、ヲカシトサマニ筆篇ノ道ハ、遠う、弓ヲナンイトヨクヒキケル」「遠き慮」(五)ニブシ。スルドカラズ。源、廿一、少女「此世ノ中サカリニオゴリナラヒヌレバ、學問ナドニ身ヲ苦シメン事ハ、イト遠くナン覺ユベカメル」

とぼし (名) 點火 火ヲトボシテ、闇キヲ照ラスモノ。松明、紙燭ノ類。

とぼ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 乏 古ク、ともし。物缺ケテアリ。不足ナリ。

とぼし・あぶら (名) 燈油 燈火ニ用キル油。多クハ、桐油ニわかだねノ油ヲ雜ヘテ用キル。其他、菜種油、綿ノ實ノ油ナドヲモ用キル。トウユ。 嬉遊笑覽、十、下「古ヘハ燈燭ナク、ミナ燈油ヲ用フ」

とほし・うま (名) 通馬 荷馬ナドヲ、途中繼替フルコトナク、出發點ヨリ、目的地マデ、雇ヒヅメニスルコト。 丹波與作(寶永、近松作)「オツヅラ荷物ハ通し馬」

とぼし・び (名) 燈火 ともしび(燈火)ニ同ジ。 名義抄「燭、トボシビ、トモシビ」

とほし・や (名) 通矢 此方ヨリ彼方へ射テ、トドカスル矢。又、專ラ、江戸時代、京都、三十三間堂(蓮華王院)ニテ行ハレタル通し矢ヲ云フ。四、五月ノ頃、早朝ヨリ夕暮ニ至ル迄、射通ス。堂ノ實長ハ約六十六間ト稱シ、堂ノ西側緣ノ南端ヨリ、北ニ向キテ射ル。射トドキタル矢ヲ、通り矢ト云ヘ、[illegible]ノ試ミニ起リシガ、元和ノ頃ヨリ、次第ニ矢數ヲ多クヲ[illegible]ヒ、其[illegible]通り矢、[illegible]モ多キ者ヲ、天下一ト稱セリ。寬文ノ頃ハ、總矢一萬餘、通り矢八千餘ニ及ベリ。又、江戸淺草ニ[illegible]三十三間堂[illegible] [illegible] 寬明日記、正保三年四月十四日「[illegible]」[illegible]サ武寸五分、矢ノ重サ八匁ヨリ拾貳匁マデ、云云」

とほ・しろ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 遠ク著(シル)シ。氣、高ク、顯(アラハ)ナリ。[illegible]ナリ。サヤケシ。 萬葉集、[illegible]「[illegible]ミ、河登保志呂之、春日ハ、山シミガホシ」無名抄、下、俊惠定ニ歌躰ニ事「[illegible]ウルハシク、清ゲニイヒクダシテ、丈高クとほしろきナリ」同、下、同「初ノ歌ノヤウニ限リナク、とほしろくナドハアラネド、優ニタヲヤカナリ」續世繼、武藏野草、御車ノ紋コソ、キラカ[illegible]とほしろく侍りけし」

とほ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 通 [illegible] 〔端ヨリ端マデトドカス〕[illegible] [illegible]リテ、左右ニ口アキタルガ、小サキヲ塞リテ、コレニ端とほして輪ヘランニ」(二)通ハス。通行セサス。[illegible]「立チフサガリテ、通さザリケレバ、云云、揚リテハ[illegible] [illegible]集、十二、[illegible]端ニハ、[illegible]キシ、隔ナレ[illegible] [illegible]月「[illegible]、不得[illegible] [illegible]しテゾ云フ、リガ[illegible]フリクハ」(五)〔透〕ツリ[illegible] トシヘテ、中ムカフ[illegible]ハ、マツ[illegible] [illegible]通す」(六)〔經〕ク經ル。全ク過ス。 枕草子、九、九十八段、夏ごはしタルリタキメノ、石ノ苗ナドヒシガカリテ、[illegible] (七)人馬ヲ繼ギ替ヘズシテ行ク。

とぼ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 點 ニトモス。燃ヤス。火ヲツク。 平家物語、四、[illegible]事、ソノ時、上下、テンデニ火ヲとぼしテ、[illegible] [illegible]二、淫ス[illegible]、寬政ノ頃ノ、青樓ノ流行語[illegible]

とほすめろぎ (名) [illegible]

とほせんぼう (名) [illegible] 兩手ヲヒロゲテ、路ヲ遮リ、人ヲ通サザルコト。轉ジテ、行先ノ遮ラレタルコト。通行止。

とぼそ (名) 樞 [illegible] 度保曾、備云、度底且、門戸之[illegible]也」[illegible]

語、福頂卷、小原御幸事「巫鸞深ク鎖セリ、雨、原鷹ガ[illegible]」

とほぢ (名) 遠方 トホキ方。ハルカノ方。[illegible]山ノ端近ク、月冴エテ、とほぢノ里ニ、衣ウツコヱ」[illegible]ソ、花橘ノ、シルベナリケレ」

とほつおほぢ (名) 遠祖父 曾祖父ノ父。高祖父

とほつおほば (名) 遠祖母 曾祖父ノ母。高祖母

とほつおや (名) 遠祖 (一)先祖。祖先。[illegible]「大伴[illegible]遠祖、天忍日命」(二)高祖父。カミオホヂ。倭名抄、二十五父母類「高祖父、止保豆於夜」

とほつかみ (名) 遠神 人倫ニ遠ク、神ニマシマスモノ。又、皇祖天津神ハ姑ラク措キテ、[illegible]ヨリ、皇統ノ斷絶ナク、遠ク久シクマシマス神、即チ、代代ノ天皇ヲ申シ奉ル[illegible]

とほつかみ (枕) 遠神 おほぎみ(大君)ノ枕詞。[illegible]、タマダスキ、畝傍ノコロシク、遠神、吾大王ノ、行幸ノ」同、三十三「住ノ江ノ、岸ノ松原、遠神、我大王ノ、[illegible]行幸所」

とほつかむおや (名) 遠神祖 神タル遠キ先祖。萬葉集、十八[illegible]「大伴ノ、遠ツ神祖ノ、ソノ名ヲバ、大來目主ト、オヒモチテ」同、同[illegible]「大伴ノ、[illegible]遠可牟[illegible]ノ、オクツキハ、シルクシメタテ、人ノ知ルベク」

とほつくに (名) 遠國 遠ク隔リタル國。又、幽明ヲ異ニスル國。ヨミノクニ。黄泉。萬葉集、九三十長歌「遠津國、ヨミノサカヒニ、ハフ蔦ノ、オノガムキムキ、アマ雲ノ、別レシユケバ」

とほつひと (名) 遠人 (一)遠キ昔ノ人。(二)〔遠ク離レタル處ニ居ル人。

とほつひと (枕) 遠人 〔旅行キナドシテ、遠キニ居ル人。ソレヲ家人ナドノ待ツモノナレバ云フ〕(一)待つ(又、松)ノ枕詞。萬葉集、十三十八長歌「春サレバ、[illegible]上ノ、遠人、マツノ下道ユ登ラシテ、國見アソバシ」同、五廿「[illegible]比[illegible]、松浦ノ河ニ、若年魚ツル、イモガタモトヲ、ワレコソマカメ」(二)雁ノ枕詞。(雁ハ遠キ國ヨリ來レバ、人ト見テ云フ) 萬葉集、十二[illegible]「遠津人、カリヂノ池ニ、スム鳥ノ、タチテモ居テモ、君ヲシゾ思フ」同、十七十八「今朝ノアサケ、秋風サムシ、登保都比等、加里ガ來鳴カム、時チカミカモ」

とほづま (名) 遠妻 遠ク離レテ居ル妻。萬葉集、十一十三「遠妻、妹ノ、フリサケミツツ、シヌブラム、是月ノ面ニ、[illegible]ナ[illegible]引キ」同、十四十七「遠妻ト、手枕カヘテ、寐タル夜ハ、[illegible]ガネナ鳴キ、アケハアクトモ」永久四年百首「シラ雲ノ八重ナル山ハ、カサヌトモ、心ハソラニ、カヨヘとほづま」

とほで (名) 遠出 家ヲ出デテ、遠クヘ行クコト。遠行。

とほと (名) 遠音 〔とほきおとノ中略〕遠キ所ノ音聲。遠クノ音。とほね。萬葉集、四[illegible]「梓弓、ツマ引クヨトノ、遠音ニモ、君ガミユキヲ、聞クハシヨシモ」

とほとほ (副) 老人ナドノ、ヨロボヒ歩ム狀、又、歩ミノハカドラス狀ニ云フ語。ヨボヨボ。ヨロヨロ。ヨヂヨヂ。ヨタヨタ。博多小女郎波枕(享保、近松作)中「[illegible]ガ出レバ惣左衞門、コリャ姥、何ヲとほとほスル、今ノ銀ハ[illegible]ノ道具賣 夕銀」

とほどほし (形、二) シキ・シケレ・シク・シク 遠遠 (一)甚ダ遠シ。イト遙ナリ。古事記、上三十八「登富登富斯、古志ノ國ニ」(二)疎疎シ。疎遠ナリ。久闊 疎闊 源、四十六、總角二世ノ有[illegible]ナド、[illegible]シ分クマジクハ見[illegible]ラメヲ、ウタテ、とほどほしくノミ、モ[illegible]ナサセタマヘバ」

とほな (名) 遠名 ヒロク聞コエタル名。萬葉集、十一十四「マヌノ池ノ、コスゲヲ笠ニ、ヌハズシテ、人ノ遠名ヲ、タツベキモノカ」

とほながに (副) 遠長 遠ク長ク。ハテシナク。いやとほながし(彌遠長)ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、十八二十三長歌「コノ山ノ、イヤツギツギニ、斯クシコソ、仕ヘマツラメ、彌等保奈我爾」

とほなげ (名) 遠射 〔遠投ノ義、投ぐハ射ルナリ〕遠クヘ矢ヲ射遣ルコト。遠矢。倭名抄、四十六射藝類「遠射、止保奈介、即射遠也」

とほね (名) 遠音 とほと(遠音)ニ同ジ。

とほのく (自動、四) ク・ケ・カ・キ・ケ 遠退 トホザカル。間、隔タル。タエダエニナル。狂言記、八句連歌「コレハ見事デヲリャルワイノ、とほのきマシテゴサル程ニ、何ト御サリマスルゾ」

とほのくに (名) 遠國 遠キ所ニアル國。エンゴク。ヲンゴク。萬葉集、十五四十長歌「イヘ人ハ、マチコフラムニ、等保能久爾、イマダモツカズ、大和ヲモ、遠クサカリテ」

とほのみかど (名) 遠朝廷 (一)京都ヨリ遠ク隔リテ、朝政ヲ行フ所。筑紫ノ太宰府、陸奥ノ鎭守府、諸國ノ國衙ナドナリ。コレヲ、ひなのみやこ(鄙都)トモ云フ。萬葉集、十七四十長歌「大王ノ、等保能美可度ゾ、ミ雪降ル、越ト名ニ負ヘル」同、六廿五長歌「食國ノ、遠乃御朝廷ニ、汝等ガ、斯ク罷リナバ」(二)専ラ、太宰府ノ稱。萬葉集、三廿三「大王ノ、遠乃朝廷ト、アリガヨフ、島門ヲ見レバ、神代シ[illegible]」(筑紫ニ下ル歌) 同、廿十八長歌「天皇ノ、等保能朝廷ト、不知火、筑紫ノ國ハ」(太宰府) (三)又、三韓ヲモ[illegible]ス。萬葉集、十五[illegible]「[illegible]ノ、[illegible]能朝廷ト、可良國ニ、渡ル我ガセハ」(壹岐ニテノ歌)

とほのり (名) 遠乘 馬ヲ遠路ニ乘リ廻ラスコト。遠馬。[illegible]馬ヲクテモ、最初ヨリ[illegible]、故ニ、任心ムコト次[illegible]、春、一月、遠乘[illegible]古ノタメ、早馬ニ[illegible]打テ、府外ノ[illegible]、[illegible]ハ[illegible]集ノ所ニイタル」神代餘波、下「ムカシハ武士遠乘、遠足ナドニハ、野袴踏ミ込ミナリシヲ」

とほひと (名) 遠人 齡高キ人。長命ノ人。仁德紀、五十年三月「タマキハル、ウチノ朝臣、汝コソハ、世ノ等保臂等、汝コソハ、國ノ長人」

とほぼえ (名) 遠吠 (一)犬ナドノ、遠方ニテ吠ユル聲。(二)犬ガ聲ヲ長ク引キテ、吠ユルコト。

とほまはし (名) 遠迴 (一)迴路ニテ逢ルコト。又、中心ヲ離レテ圍ラスコト。(二)打付ケナラズモノスルコト。迂迴

とほまはり (名) 遠迴 (一)遠キ方ヲ迂回スルコト。遠路ヲマハリ行クコト。(二)マハリドホキコト。迂遠

とほみ (名) 遠見 (一)遠ク見渡スコト。又、遠方ヨリ見タルコト。遠望 浮世風呂(文化、三馬)三編、下「サウイヘバ、間ニ見カケルネ、アレハ役者ト云フモノハ、拵物ダカラ、遠見ノ能イコトバカリ考ヘタモノサ」(二)高キ處ヨリ敵軍ノ動靜ナドヲ、遙ニ見守ルコト。遠候 瞭哨 [illegible](寶永、近松作)中「[illegible]奉行、小屋奉行、使番、[illegible]ノ役、物見、遠見、執筆ノ役人」「遠見番所」「遠見櫓」「遠見ノ兵」

とほみち (名) 遠路 (一)遠距離ノ道。

拾遺集、十二、戀、二「下ニコノ、[illegible]ニモコソ、人ハ行ケ、ナド時ノマモ、ミネバ戀シキ」萬葉集、[illegible]人モ皆、とほみちユケド、[illegible]、コノタビハ[illegible]ナシ」(二)トホマハリノ道。マハリミチ。(三)遠キ路ヲ步ムコト。遠足 遠行 源、五十三、手習「クルシト思ヒ給ヘシ遠路ノナゴリトテ、シバシワヅラヒ給ヒケレ」

とほ-みみ (名) 遠耳 遠キ所ニテ、アリシ事ヲ、ヨク聞キ得ル耳。又、遠キ方ノ音ヲモ聞キ得ルコト。 夫木抄、二十二、雜、[illegible]「フカミ、[illegible]、[illegible]ヨマレタルニ侍メリ、アサマシクとほみみキキケル人哉」

とほ-め (名) 遠目 (一)遠キ處ヲ見遣ルコト。遠望 遠見 (二)遠クヨリ見ルコト。 [illegible]「二日ゆきに、降リニシ雪ト、見エツルハ、梅咲ク山ノ、とほめナリケリ」 夫木抄、廿七、鶴「小グラ山、オリヰル雲ハ、谷川ノ、川邊ノ鶴ノ、遠目ナリケリ」 [illegible]「[illegible]ミミヤツ、葉ナイツクト、タヅネミン、花ノとほめヲ、マギラハスカナ」 小町踊(寛文)「錦木ハ、遠目ニタテル、若選」 (三)遠方ヲ能ク見得ル目。明キ、遠視眼。

とほ-めがね (名) 遠眼鏡 (一)遠キ物ヲ、近ク大キク見スル眼鏡。筒ノ中ニ二三枚ノ硝子鏡ヲ裝置ケテ成ル。(享祿二年、明ノ使者、周防國ニ渡セリト云フ) 望遠鏡 千里鏡 好色一代男(天和、西鶴)一「世之介、[illegible]ノ端ニサシ[illegible]、[illegible]ヲ取リ持チテ、戀ノ女ヲ、アラヌ事ニ[illegible]」 [illegible]、廿六、[illegible] [illegible]御實記附錄、上「御幼稚ノハジメ、天守ニ上リ下ヒシニ、[illegible]ノモノラ、[illegible]、アルベシト、三度マデ申上シニ、聞セタマハズ」 俚諺(天和、貞享)「富士ノ山、[illegible]ニハ見セジ、遠目鏡」 (二)[illegible]ノ異名。[illegible]ジモノナリ)

とほ-や (名) 遠矢 トホナゲ。矢ヲ[illegible]ノ遠キニ射遣ルコト。又、矢ニテ距離ノ遠キ所ヲ射ルコト。又、ソノ矢。遠射 盛衰記、十三、高倉宮信連戰事「サウナク寄リテ過テ[illegible]」 [illegible] 學ブト云フ事引テ、遠射トカキテ、止保奈介トヨム」

とほ-やま (名) 遠山 遠方ノ山。遠方ニ見ユル山。エンザン。 萬葉集、十一、[illegible]「[illegible]ニ、霞タナビク、イヤ遠ニ、[illegible]」 玉葉集、二、春、下「サキミテル、花ノカヲリノ、タツク日、カスミテシヅム、春ノとほやま」 續拾遺集、二、春、上「花ノ香ヲ、ソコトモシラズ、ニホヒキテ、とほやまカスム、春ノアケボノ」

とほやま-ずり (名) 遠山摺 遠山ノ形ヲ、摺リ出ダシタル衣。 後撰集、十、戀、二「アフコトハ、とほ山ずりノ、カリ衣、キテハカヒナキ、音ヲノミゾナク」

とほやま-だい (名) 遠山臺 四方ノ如キモノ。次條ノ語ニ同ジ。

とほやま-ぼん (名) 遠山盆 茶道ニテ、衝重ヲ胡粉ニテ白ク塗リ、紺青ニテ遠山ヲ畫キ、早春ノ熨斗臺ナドニ用ヰルモノ。遠山臺。

とほやま-まゆ (名) 遠山眉 眉、又、マユズミヲ、遠キ山ノ、ホノカナル曲線ニ、喩ヘテ云フ語。遠山ノ如キ眉。遠山黛 [illegible]八年九月「[illegible]如美人之眉[illegible]」 [illegible]

とほ-よせ (名) 遠寄 (一)攻太鼓打チツ、軍勢ノ遠クヨリ攻寄スルコト。(二)芝居、囃子ニ、大太鼓、[illegible]トヲ打チ吹キナドスルコト。(劇場新話)

とほら-す ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 通 [illegible]ルノ敬語。皇極紀、三年十月[illegible]

とほり (名) 通 (一)トホルコト。トドクコト。(二)抜ケ通ヅコト。貫キ通ズルコト。[illegible] (三)行ハルルコト。通用。流通 [illegible]行キ通フコト。往來。「人ノ通」 (五)往キ來スル路。ツウライ。[illegible] (六)[illegible]「[illegible]ノ通」 (七)ノミコミ。會得。ガテン。了解。(八)揃ヒ。組。「衣裳一通」 (九)ソノ如クナルコト。浮世床(文化、三編)三、下「若イ者モ、ソノ通リ、[illegible]」

とほり (名) 燃ルコト。燃ユルコト。火ノツクコト。「爐邊ノとほり」

とほり-あめ (名) 通雨 一シキリ降リテ、スグ晴レ行ク雨。過雨

とほり-いっぺん (名) 通一遍 (一)通リガカリノ客ニテ、平素ヨリノ得意ニアラヌコト。(二)[illegible]ラズシテ、タダ義理ノミニテスルコト。

とほり-がかり (名) 通掛 トホリガカルコト。トホリガケ。トホリスガリ。

とほり-がか・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 通掛 [illegible]

とほり-がけ (名) 通掛 トホルツイデ。道ノツイデ。トホリスガリ。

とほり-ことば (名) 通語 世間ニシナベテ用ヰル言葉。一般ニ通用スル言語。

とほり-さうば (名) 通相場 [illegible]ニテ、變動ナキ相場。世間一般ノ直段。又、世間一般ニ通ズル評價。

とほり-な (名) 通字 人ノ實名ニ、祖先ヨリ世世傳ヘテ付クル文字。[illegible] 平氏ノ清盛、重盛、知盛ノ盛ノ如シ。[illegible]

とほり-なうじ (名) 通障子 [illegible]

とほり-すがり (名) [illegible]

とほり-な (名) 通名 世ニ押シナベテ、[illegible]

とほり-ぬけ (名) 通拔 路地ナドヲ、通リ拔クルコト。

とほり-みち (名) [illegible]

とほりもの (名) 【通者】 (一)つうじん(通人)ノ條ヲ見ヨ。浮世風呂、文化、三四、四編、下「潮來ブシハ當平ダノ、氣障ダノト云フ通り者モ、若イ當分ハ矢張イタ粗サ」 長唄、助六、桜ノ夜標「學ノ通フ、間夫ノ名取ノ、とほり者、喧嘩仕カケヤ、色仕掛」 (二)博徒ノ長ノ異名。賓本潮房語園、屆外注「田舍ニテ、博徒ノ長ヲ通りものト云フ」 (三)廣ク世間ニ、其名ノ知ラレテアルモノ。

とほりや (名) 【通矢】 とほしや(通矢)、及、やかず(矢數)ノ條ヲ見ヨ。懷子俳諧集(明曆)十「勝手ノ方へ、人ツカフナリ」とほり矢ヲ、見ハヤス堂ノ、緣ノ上」

とほる・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【通徹】 (一)〔端ヨリ端マデトドク。末マデ至ル。徹〕 名義抄「徹、トホル、イタル、通、トホル」 最勝王經、音義、保元「千載集、十四、戀、四「思ヒカネ、ナホ戀路ニソ、カヘリヌル、恨ミハ末モ、とほらザリケレ」 (二)透キテ見ユ。透 (三)〔拔ケ通フ。貫キ通ズ。〕洞 源、十三、明石「イトカク、地ノ底とほるバカリノヒフリ、雷ノ鎭マラヌ事ハ、侍ラザリキ」 萬葉集、七「可レ通(トホルベク)雨ハナ降リソ、吾妹子ガ、カタミノ衣、ワレ下ニ著タリ」「風通る」「穴通る」 (四)〔行キ過グ。行キ去ル。カヨフ。往來ス。〕經過 神代紀、下「行去、此云二騰褒屢一」 萬葉集、廿、長歌「山河ヲ、岩根サクミテ、踏ミ等保利、國覓ギシツツ」「踏ミ通る」「門ヲ通る」 (五)行ハル。通用ス。公行「金錢通る」「名通る」 (六)善ク分ル。解セラル。通ズ。通解「意味通る」「趣意通る」 (七)聞コユ。知ラル。「名、世間ニ通る」

とほる・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【點】 火ツク。トモル。燃ユ。「火とほる」

〔**とま** (名) 【苫】 〔鳥羽ノ轉、鳥ノ羽ヲ覆ヒタル如キ故ノ名カト云フ〕 菅、茅ナドニテ、菰ノヤウニ編ミ作レルモノ。船ナドニ、屋ヲ覆ヒ、雨露ヲ防グニ用ヰル。又、とば。篷 倭名抄、十一、舟具「苫、度蘊、編二菅茅一以覆レ屋也」 更級日記「イト手ハナチニ、アラアラシゲニテ、とまト云フモノヲ、一重ウチフキタレバ、月殘リナクサシ入リタルニ」 後撰集、六、秋、中「秋ノ田ノ、カリホノ庵ノ、とまヲ荒ミ、ワガ衣手ハ、露ニ濡レツツ」 千載集、三、夏「五月雨ハ、とまノシヅクニ、袖ヌレテ、アナシホトケノ、波ノウキネヤ」 夫木抄、廿六「舟トムル、トシマガ磯ノ、山オロシ、チルモミヂバヤ、とまノウハブキ」

どま (名) 【土間】 (一)家ノ內ニテ、地板ナキ處。(二)東京ノ芝居小屋ノ內ノ、中央ノ低キ枡形ノ見物場。昔ノ芝居小屋ハ、中央ニハ屋根モ床モナク、落間、切落ナリシカバ、土間ノ稱アリ。追込ナリキ。天明ノ頃ヨリ床ヲ張リ、縱橫ニ五六尺ヅツニ切リテ、枡ト云ヒ、一、二、三、四、五ナドノ番號ニテ呼ビ、中央ナルヲ、一面ニ舞臺ヨリ平土間ト云ヒ、花道ノ後、棧敷ノ前ナルハ、床、稍高クシテ、之ヲ高土間ト云ヒ、共ニ枡毎ニ、一團體ノ入ルコトトナレリ。舞臺ニ接シテ狹キ枡ヲ、小一ト云フ。 劇場新話、上、棧敷名目大概の事「本土間、前土間、直段廿五匁也、所ニ寄テ高下アリ、市村座ニテハ、近來、本土間ニ手摺ヲ付、毛氈ヲカケ、三十匁ニ賣也、東ノ方、本土間ヨリ花道ノ際迄、八側アリ、新舞臺際ヨリ中ノ間ノ方へ十三アリ、十三目ノ土間ヲ切土間ト云フ」

どまう (名) 【土毛】 (一)國產ノ物。其土地ヨリ產出スルモノ。土產。 後漢書、馬融傳「其土毛、則推牧、薦草、芳茹、甘菜」 應神紀、十九年十月「吉野國樔人、獻二土毛一、其土毛者、栗菌、及、年魚之類焉」 (二)土地ヨリ產出スル穀物、蔬菜ノ類。 左傳、昭公七年「食二土之毛一、誰非二君臣一」 魏書、高句麗傳「土毛無レ失、常貢」

とまき (名) 【籐卷】 物ノ柄ナド、細ソク削リタルヲ、籐ニテ卷キタルコト。又、ソノモノ。 我衣(文化、曳尾庵)卷「貞享ヨリ、地ノモミヂガサ、華奢ナリ、天上青紙青ドサニテ、細クヘリヲ取リ、絹絲セウゾク、柄とまきニ籐卷」

とまぐれ (名) 〔所紛ノ義〕 トマドヒ。

とます (名) 【斗枡】 いっとます(一斗枡)ニ同ジ。 書言字考節用集、七、器財門「斗升、トマス、升之大者」

〔**とま・す**・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 【富】 富ムヤウニナス。豐ニス。有福ナラシム。 繼體紀、七年十二月「慶致二豐年一、頻使レ饒レ國」

とまつ (名) 【塗抹】 物ヲヌリツクルコト。又、ヌリケスコト。ナスルコト。ナゾルコト。抹殺。 盧全詩「塗二抹詩書一如二老鴉一」 隱窟雜志「宋、温革二楊文公集上塗抹之處一」 瀛環記(元、伊世珍)「王維爲二岐王一畫二一大石一、信レ筆塗抹、自有二天然之致一」

〔**とまで** (名) 【苫手】 〔苫ハ苫ノ誤ナリト。又、宣長曰ク「苫ハ衣手ノ誤ナルベシ」〕 秋田ヲ刈ル衣手ノ義。 萬葉集、十「秋田苅ル、苫手搖ナリ、白露ハ、オク穗田ナシト、告ゲニ來メラシ」(古義ノ訓ニヨル)

トマト (名) 〔英語、Tomato.〕 あかなす(赤茄子)ニ同ジ。

とまどひ (名) 【所惑戶惑】 (一)寢惑。夜中、俄ニ目ヲ醒マシ、燈モ無ク、方向ヲ失ヒテ、迷フコト。トマグレ。 東海道中膝栗毛(享和、一九)二編、下「ワッチハ小便ニ起キタ所ガ、ツイ戶まどひヲシテ、アニ、戶まどひヲシタ」 (二)己レノ入ルベキ家、又ハ、室ニ迷フコト。

とまびさし (名) 【苫庇】 苫ニテ葺キタル庇。 新古今集、十二、戀、二「イツトナク、鹽燒ク海士ノ、苫庇、久シクナリヌ、逢ハヌ思ハ」

とまぶき (名) 【苫葺】 苫ニテ屋根ヲ葺クコト。又、其葺キタル屋根。トマブキヤネ。 盛衰記、十七、丹波少將上洛事「ラン事モ有難トテ、舟ノ前ニ苫葺ノ假屋シツラヒテ」(參考本、苫葺ヲ蓬葺ニ作ル)

とまぶね (名) 【苫船】 屋根ヲ苫ニテオホヒタル舟。 太祇全集「苫船ノ、霜ヤ寢覺メノ、鼻ノ先」

とまへ (名) 【戶前】 藏ノ入口ノ、戶ヲ立ツル所。 櫻陰比事(元祿、西鶴)五「此ノ內藏、南方立チ合ハズシテハ、戶前ノアカサル事ヲ、深ク慇ジケルトナリ」「土藏ノ戶前」

どまんぢゅう (名) 【土饅頭】 土ヲ圓ク盛リ上ゲテ築キタル墓。饅頭狀ニ築キタル土墳。 蘇軾詩「城外土饅頭、餡草在二城裏一」 范大成詩「縱有二千年鐵門限一、終須二一箇土饅頭一」

〔**とまや** (名) 【苫屋】 苫ニテ屋根ヲ葺キタル小屋。トマヤカタ。 源、十三、明石「海ノツラニモ、山カクレニモ、時時ニツケテ、興ヲサカスベキ渚ノとまや、オコナヒヲシテ後ノ世ノコトヲ思ヒスマシツベキ、山水ノツラニ」 後撰集、十六、雜、二「物思フト、行キテモ見ネバ、高島ノ、鬘ノ苫屋ハ、朽チヤシヌラン」 新古今集、四、秋、上「見渡セバ、花モ紅葉モ、ナカリケリ、浦ノ苫屋ノ、秋ノ夕暮」

とまやかた (名) 【苫館】 前條ノ語ニ同ジ。 新後拾遺集、八、羇旅「苫屋形、枕ナカシヌ、浮寢ニハ、夢ヤハ見ユル、アラキ浦風」

とまら (名) 【戶牡】 とぼそ(戶臍)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

とまり (名) 【止留】 (一)トマルコト。止ムコト。(二)ヲハリ。ハテ。シマヒ。 古今集、五、秋、下「年ゴトニ、モミヂ葉流ス、立田川、ミナトヤ秋ノ、とまりナルラン」 新後撰集、九、羇旅「吉野川、花ノ岩波、名ニ立テテ、ヨル瀨ヲ春ノ、とまりトゾ聞ク」

とまり（名）〔泊〕（一）〔船ノ泊ル處〕　津。湊。船着。港灣　倭名抄、十〔港灣〕泊、字未[illegible]　[illegible]十三、長歌「近江ノ海、泊八十アリ、八十島ノ、島ノ崎崎」同、三「[illegible]吉ノ、エナツニ立チテ、見渡セバ、武庫ノ泊ユ、出ヅル船人」同、十九、長歌「サシヨラム、磯ノ崎崎、漕ギハテム、泊泊ニ、荒キ風、浪ニアハセズ」（二）旅ニテ宿ル處。ヤドリ。ヤドヤ。旅宿。宿　金葉集、九、雜、上「行ク人モ、立チゾ煩フ、シカスガノ、渡リヤ旅ノ、とまりナルラム」狂言記、磁石「鹽八物陣ナ程ニ、泊リヘ着イタナラバ、某ニ預ケサシメ」（三）泊ルコト。宿ルコト。宿　今物語「日吉社ニ御幸アリテ、一夜御とまりアリテ」[illegible]、九、[illegible]日モマタ、同ジ道ニト、契ルカナ、泊リ[illegible]ラス、[illegible]ノ旅人」（四）トノヰ。トマリバン。宿直

とまり-がけ（名）〔泊掛〕　他へ、一二夜ノ宿リヲ掛ケテ、出デ行クコト。他ニ宿ルベキ用意シテ、出デ行クコト。　蕪村句集「泊りがけノ、伯母モムレツツ、田植カナ」

とまり-がり（名）〔泊狩〕　狩獵ノ爲ニ、山野ニ泊ルコト。すずたか（鈴鷹）ノ條ヲモ見ヨ。

とまり-ぎ（名）〔止木〕　鳥ノ止マルヤウニ、設ケタル横木。

とまり-ばん（名）〔泊番〕　トノヰ。官署ニ宿リテ、夜ヲ守リ勤ムルコト。又、交替ニ、役所ナドニ宿リテ、夜ヲ守ルコト。トマリ。宿直　[illegible]「北條守夜守、[illegible]ンデ泊リ番ニ宛タリ、夜[illegible]ニ八[illegible]へ[illegible]ル」

とま・る・ル・レ・ラ・レ・リ（自動、四）〔止留〕〔つまるニ通ズ、止むるノ自動〕（一）處ニ居テ動カズ。動キ止ム。トドマル。萬葉集、[illegible]　[illegible]（二）[illegible]

（三）塞ガル。閉ヅ。[illegible]　[illegible]保、近[illegible]ニハ[illegible]、川[illegible]まッタ、川ドメ、川ドメ」「[illegible]止まる」「通行止まる」（四）アトニ殘ル。又、生キノコル。

とま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔泊〕〔前條ノ語意ニ同ジ〕（一）船繫リシテ、碇テ夜ヲ明カス。碇泊ス。古今集、九、[illegible]（二）ヤドル。宿泊ス。宿　[illegible]百首「イカナレバ、夢ノ枕ニ、行キカヘル、カリノ宿リニ、とまる心ゾ」　在原行平家歌合「ホトトギス、今宵とまりテ、片岡ノ、アシタノ原ニ、歸リヤハセヌ」（三）トノヰス。宿直ス。

とまれ-かくまれ（句）「ともあれ、かくもあれノ約」ともあれ、かくもあれノ條ヲ見ヨ。竹取物語「竹取[illegible]ヘテイハク、とまれかくまれ、マヅ請ジ入レ[illegible]ラン」

とみ（名）〔富〕　富ムコト。ユタカナルコト。又、多クノ財寶。集積セラレタル財貨。書[illegible]、洪範[illegible]、五福[illegible]「[illegible]人[illegible]」大[illegible]　記、貨[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]、陶朱公」　源、四十九、東屋[illegible]「御ケハヒノアリケル樣、ナホ人ノカギリナキとみト云フメル勢ヒニハ、マサリ給ヘリ」　兼盛集「招カネド、アマタノ人ノ集ク哉、とみト云フモノゾ、樂シカリケル」

とみ（名）〔富〕〔富者ノ富トナル意、富[illegible]ノ略〕又、とみつき。衆人ヨリ、少シヅツ、金錢ヲ集メテ、[illegible]ヲ引ツシメ、當リタル若干ノ人ニ、其金ノ全高ヲ割リ與ヘ、損、其中ヨリ若干ヲ他へ[illegible]セシムルコト。此事、寛永ヨリ行ハレシガ、元祿五年ニ[illegible]、享保十五年、山城ノ仁和寺ノ[illegible]ニ許サレ、江戸、[illegible]羽ノ[illegible]寺ニテ行ヘリ、[illegible]各所ニ行ハル。湯島天神、谷中感應寺、目黑不動[illegible]ノ富ヲ、江戸ノ三富ト云[illegible]

キ、其[illegible]ニ行ヘル[illegible]、[illegible]ヲ賣ル、コレ未富ノ中リ鬮ヲ以テ定ム[illegible]、[illegible]　[illegible]不動ノ富ヲ、江戸三富ト云フ、萬人ノ小銀ヲ集テ、一人百金ニ當ル也、文政年中ニナリテハ、京、江戸、大坂ノ富、何十ケ處ト云フコトヲ知ラズ、射得タル一人ノ得ニハ、富ノ名サモアルベシ」東海道中膝栗毛[illegible]　[illegible]アリシ[illegible]

とみ（名）〔鵄〕　とび（鵄）ニ同ジ。神武紀「[illegible]キマシテ、再[illegible]ノタメ、[illegible]行致シタ當デ御座リマス」[illegible]　前紀[illegible]「鵄邑、今云鳥見、是訛也」

とみ（名）〔疾頓〕〔速みノ義、無み、可み[illegible]ト同ジ〕急ナルコト。俄ナルコト。ヤフ。サッソク。伊勢物語、八十四段「とみノ事トテ、御消アリ、驚キテ見レバ」古今集、十七、雜、上「とみノ事トテ、文ヲモテマウデキタリ、アケテ見レバ」枕草子、五、四十七段、ねたきもの「とみノ物縫フニ、カシコウ[illegible]ヒ[illegible]、[illegible]タレバ、ハヤウ尻ヲ結バザリケリ」

とみ（名）〔鳥見〕〔とりみノ約、とりみ[illegible]（鳥狩）ノとかりノ類〕　狩ノ時、鳥ノ集ルヲ見守ルモノ。後世、とりみト云フ。萬葉集、六、長歌「野上ニハ、跡見居エ置キテ、御山ニハ、射目立テワタシ、朝獵ニ、シシフミ起シ」

とみ-かうみ（副）（一）左ヲ見、右ヲ見ル狀ニ云フ語。又、アチコチニ氣ヲ配ルサマ。[illegible]　[illegible]タメツスガメツ[illegible]

とみ-ぐさ（名）〔富草〕（一）いね（稻）ノ異名。　[illegible]、關野、アメナルヒバリ、ヨリコヤヒバリ、とみぐさモチテ」[illegible]アラ田ニ[illegible]ル、此見久佐ノ花、手ニ摘入レテ、富へ[illegible]　[illegible]三十九段[illegible]キンタサノ[illegible]ニテ、アラタニ[illegible]

[illegible]草ノルト、ウタヒタル」[illegible]　[illegible]　[illegible]ドノ成リ、ソリ出デゾコシ」[illegible]集、十、雜、下、[illegible]ムレテ、[illegible]山ニ、ツム[illegible]ハ、アラタナキ世ノ、とみ草ノ花」（二）ひのき（檜）ノ異名。

とみ-くさ（名）〔富艸〕　とみ（富）ノ條ヲ見ヨ。

とみた-りう（名）〔富田流〕（一）[illegible]　[illegible]。越前朝倉氏ノ臣、富田牛生ヲ祖トス[illegible]　[illegible]田流、富田牛生」（二）劍術ノ一派、越前朝倉氏ノ臣、富田九郎右衛門ヲ祖トスルモノ。　武[illegible]、刀[illegible]富田流、富田[illegible]

とみ-つき（名）〔富突〕　前前條ノ語ニ同ジ。[illegible]　[illegible]テ、とみ付ト名付ク、[illegible]ガマシキ[illegible]　[illegible]　[illegible]富突、又八[illegible]、富つき、或ハ[illegible]

とみ-み（副）〔頓急〕〔とみ（疾）ノ條ヲ見ヨ〕急ニ。俄ニ。早速ニ。曾便ニ。[illegible]　[illegible]バ、とみ[illegible]「サル[illegible]モアリナン、とみ[illegible]ルマ[illegible]」[illegible]　[illegible]ル[illegible]ニ[illegible]ルニ、[illegible]ノタル」[illegible]　[illegible]八年八月[illegible]　[illegible]リクル[illegible]

とみ-の-を（名）〔[illegible]〕　[illegible]ノ曾[illegible]、其條ノ（二）ヲ見ヨ。[illegible]　[illegible]、イヤシカラヌ[illegible]　[illegible]

とみの-をがは（名）[illegible]

と(鴟尾琴)ニ同ジ。永久四年百首「少女子ガ、とみのをおとニ、ヒレフリテ、カヘスマ袖ヲ、忍バサラメヤ」拾芥抄、上、末、和琴「鵄尾琴」

とみふだ (名) 富札 [illegible]ニ用ヰル札。[illegible]。コレヲ所持シテ、[illegible]ノ[illegible]トス。 和漢三才圖會、七十四、攝津、箕面山龍安寺、「[illegible]正月七日、[illegible]小[illegible]名[illegible]札、修法[illegible]、以錐突ニ取於櫃孔ノ中ニ之者必得福、第二第三亦然、謂之富札ニ」 東海道中膝栗毛(文化、一九)八編、上「御神ノ、利生格別、アリガタヤ、富ニハアラデ、アタル富札」

とみみ (名) 敏耳 〔疾キ耳ノ義〕 ミミトキコト。物ヲ聞キ取ルコトノスルドキ耳。 天治字鏡、二十九「聡、聰也、聰謀也、止彌[illegible]、又、[illegible]止志」字[illegible]「聡、[illegible]也、[illegible]、耳[illegible]止[illegible]」

どみん (名) 土民 其本土ノ民。土着ノ民。農民。土人。 [illegible]「封州土民[illegible]人、[illegible]亂ニ[illegible]」 [illegible]女[illegible](享保、近松作)中、[illegible]年[illegible]ノ土民ヲ言サレ、[illegible]シ植ユル[illegible]ノ手業」

とみもとぶし (名) 富本節 常磐津節ヨリ轉化シタル淨瑠璃ノ一派。寛延ノ頃、富本豐前掾、明和元年十月廿[illegible]日歿、年四十九[illegible]、コレヲ創ム。 [illegible]「富本[illegible]、富本[illegible]太夫ヲ[illegible]トス、[illegible]八文字太夫ノ門人也、[illegible]ナシ、世世[illegible]八[illegible]太夫ト稱ス、[illegible]、富本[illegible]、富吉家文字太夫[illegible]ニシテ、富吉[illegible]太夫ト云[illegible]、[illegible]ト云、[illegible]年[illegible]十月[illegible]八[illegible](二年トモ)富本[illegible]ト[illegible]ス」

とみを (名) 鵄尾 牛車ノ名所。とびのを(鵄尾)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。「名義抄「[illegible]、トミヲ」

と・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 富 〔積むト通ズト云フ〕 (一)田宅、貨財ノ所持多クナル。豐ニナル。有福トナル。榮ユ。 [illegible]「[illegible]自[illegible]、富[illegible]國之君ニ」 催馬樂、[illegible]「[illegible]ノ[illegible]ハ、ムベモとみケリ、サキクサノ、アハレ、サキクサノ、ハレ、サキクサノ、三ツバ四ツバノ中ニ、殿ヅクリセリヤ、トノヅクリセリヤ」 (二)豐ナリ。(財産以外ノ事物ニ云フ) [illegible]、宋之[illegible]「富ニ文辭、工書、有ニ力絶ノ人」「文才ニ富む」

と・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 止 停 (一)進マシメズ。動カサズ。トドム。 [illegible]車[illegible]林[illegible] 萬葉集、十五[illegible]長歌「アカシノ浦ニ、フネ等米テ、浮寢ヲシツツ」 竹取物語「カクヤ姫ヲ、エ戰ヒとめズナリヌルコトヲ、コマゴマト奏ス」 (二)抑 抑ヘ支フ。禁ジ制ス。禁 史記、孔子世家「匡人於是、遂止孔子ニ」 萬葉集、四[illegible]「ウチヒサス、宮ニ行ク兒ヲ、マ悲シミ、留ムレバ苦シ、ヤレバスベナシ」「他出ヲ止む」 (三)遺ス。トドム。留 遺 論語、微子篇「止子路宿」 新古今集、七、賀「住ノ江ノ、濱ノ眞砂ヲ、フム鶴ハ、久シキ跡ヲ、とむるナリケリ」「功業ヲ留む」 (四)宿ス。宿 (五)薫キコム。染ムル。(香ヲ) 續古今集(延應)[illegible]遊女「涼ミノ床ル、夕待ツラシ[illegible]、先ニ匂ヒ、とめサセテ」

と・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 尋 覓 認 タヅヌ。タヅネモトム。ツキトム。 萬葉集、十六[illegible]「所射鹿ヲ、認むル河邊ノ、和草ノ、身若キカヘニ、サネシ兒等ハモ」 古今集、一、春、上「[illegible]シカモ、とめテ折リツル、春霞、立チ隱スラム、山ノ櫻ヲ」 新古今集、一、春、上「とめ來カシ、梅盛リナル、我ガ宿ヲ、疎キモ人ハ、ヲリニコソヨレ」 萬葉集、九[illegible]、長歌「トコロヅラ、尋め行キケレバ、ヤカラドモ、イヨリツドヒテ」 同、十九[illegible]「夜クダチニ、寢ザメテ居レバ、河瀬尋め、心モシヌニ、鳴ク千鳥カモ」 同、十三[illegible]「直ニ往ヌ、コノ[illegible]カラ、イハセフミ、求めゾ吾ガ來シ、戀ヒテスベナミ」 拾遺集、一、春「香ヲとめテ、誰レ折ラザラム、梅ノ花、アヤナシ霞、立チナカクシソ」 同、十、神樂「[illegible]葉ノ、香ヲカグハシミ、とめ來レバ、八十氏人ゾ、マトヰセリケル」

とん (名) 殿 との(殿)ノ音便。 催馬樂、東屋「[illegible]カスガヒモ、戸サシモアラバコソ、ソノとんノ戸、ワレササメ、オシヒライテキマセ」

とん (名) 豚 〔說文「豚、小豕也」小爾雅「豬子曰豚」〕 ヰノコ。ブタ。又、ソノ肉。 [illegible]、曲[illegible]、下[illegible]、凡[illegible] [illegible]肥ニ[illegible]、[illegible]子[illegible] [illegible]可得乎」(孤ハ小ナリ)

トン (名) 榻 〔字ノ唐音〕 支那舶來ノ椅子ノ、形、榻ノ如キモノノ稱 多クハ磁製ナリ。コシカケ。墩。

トン (名) 噸 〔英語、Ton.〕 (一)英吉利國ノ重量ノ名。(二千二百四十封度) 我ガ二百七十貫九百四十六匁。千六百九十三斤四一。船ニテ云ハバ、米ニシテ七石、十四封度ヲすとおん(英語、Stone.)ト云ヒ、十六すとおんガ一噸ナリ。又、佛蘭西國ニテハ、一千瓩ヲ一噸トシ、英國ノ噸ト別チテ、佛噸(佛トモ書ス)ト云ヒ、米國ニテハ、二千封度ヲ一噸トシ、我ガ二百四十二貫餘ニ當リ、二千二百四十封度ヲ、ろんぐとん(Long ton.)ト云フ。(二)西洋形船舶ノ積量(船ノ内容ヲ示スモノ)ニテハ、百立方呎(約、百〇一立方尺七五)ヲ一噸トシ、船舶ノ噸數ヲ數フニハ、コレニ因ル。又、英國ノ船載貨物ノ積量ニテハ、四十立方呎ヲ一噸トシ、我ガ國ニテハ、四十才、即チ四十立方尺ヲ一噸トス。

どん (名) 殿 殿ノ音便。稍、下輩ナルニ呼ブ。或ハ、奴婢ナド、互ニ呼ブニ用ヰル。

どん (名) (一)大砲ヲ發シタル響ノ稱。ズドン。又、太鼓ノ鳴ル音。(二)正午十二時ノ號砲。午砲。(モト東京ノ丸ノ内ニテ、大砲ヲ發シテ、正午ノ時間ヲ市民ニ知ラセタリ)

どん (名) 鈍 (一)刃物ノヨク切レザルコト。又、ソノモノ。 賈誼、弔屈原賦「莫邪[illegible]鈍兮、鉛刀[illegible]銛」(莫邪ハ、[illegible]ナリ) (二)ニブキコト。ノロキコト。オロカナルコト。 [illegible]「[illegible]ノ[illegible]、[illegible]シサリ[illegible]ラウ、オノレガヤヤナ[illegible]ハ、云云」 同、鈍根草「茗荷ヲ食ベマスレバ、鈍ニナリマスルカ」 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)六「是ハ鈍ニナリ、物ヲ忘ルル草ヨナウ」

とんいん (名) 遯隱 遁隱 ノガレカクルルコト。隱遯。隱遁。 柳宗元、始得西山宴游記「尺寸千里、[illegible]積、莫得遯隱ニ」

とんえい (名) 屯營 兵士ノ屯スルコト。又、ソノ所。タムロ。陣屋。 左思、吳都賦「列寺七里、夾ニ棟陽路ニ、屯營櫛比、廨署棊布、橫[illegible]、[illegible]」

どんえふ (名) 嫩葉 ワカバ。芽出シノ葉。 江淹、[illegible]遊山賦「香枝兮嫩葉、翡[illegible]兮[illegible]」 方干、新竹詩「小鳳凰聲吹ニ嫩葉ニ、[illegible]」 劉禹錫[illegible]「[illegible]嫩葉[illegible]、[illegible]不前」

とんか (名) 屯家 みやけ(屯倉)ニ同ジ。

どんが (名) 嫩芽 草木ノワカメ。シンメ。 周必大[illegible]「[illegible]」

どんかく (名) 鈍角 直角ヨリ大ニシテ、平角(二直角)ヨリ小ナル角。かくど(角度)ノ條ヲ見ヨ。

とん・カツ (名) かつれつノ條ヲ見ヨ。

とんかふ (名) 遁甲 にんぢゅつ(忍術)ニ同ジ。志のび(忍)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。 武經[illegible]、風后[illegible]遁甲六[illegible]鬼神之奧ニ」 後漢書、方術傳、上「風角、遁甲、七政」注「遁甲推六甲之陰而隱遁也」 南史、陳武帝紀「好讀兵書、明緯候孤虛遁甲之術ニ」 推古紀、十年十月「百濟僧觀勒來之、仍貢ニ曆本及天文地理書、幷遁甲方術之書也、云云、大友村主、高聰學ニ天文、遁甲ニ」 天武卽位前紀「及、壯雄拔神

武、能二天文、通中二」

どん-かん (名) 鈍感 感ジノニブキコト。鋭ク感ゼザルコト。(敏感ニ對ス)

どん-かん (名) 鈍漢 オロカナルモノ。愚鈍ナル男。バカモノ。ノロマ。マヌケ。五代史、司空挺傳「張彥之手、上止言曰、鈍漢辱我」

どん-がめ (名) 團龜 〔泥龜ノ轉〕すっぽん(鼈)ニ同ジ。淺井三代記(山雲子)十四「信長殿ハ搖ノ下ノ土龜ヲ、ヒョツ出テ引込ミ引込ミ」

どんがめ-いかき (名) 團龜笊籬 かめのおざる(龜子笊)ニ同ジ。ざる(笊)ノ條ヲ見ヨ。

どんがめ-むし (名) 團龜蟲 かうやひおり(水爬蟲)ニ同ジ。

どんがら-か・す (動) 尖 とがらかす(尖)ノ音便。とがらす(尖)ノ條ヲ見ヨ。

どんがらし (名) 唐辛 たうがらし(唐辛)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

どん-が・る (動) 尖 〔とがるノ音便〕(一)カドダツ。(二)イカル。

トン-キン (名) 東京 印度支那、安南ノ地名。モト其地ヨリ渡來シタル織物、陶器ナドノ名トス。

どん-きやう (名) 頓狂 間ノ抜ケタル、調子ハヅレノ、言動ヲナスコト。オドケ。茶氣。剽輕

どん-ぎよ (名) 敦圄 〔說文「敦、怒也」揚子法言敦、大也」註、法言、成徒剛武曰レ圄」〕イキマクコト。ハラダツコト。揚雄、甘泉賦「[illegible]」

どん-く (名) 鈍ノ方言。長崎、越前、若狹ナドニテ「[illegible]どんく、[illegible]ヲ云」

どん-ぐう (名) 頓宮 〔頓ハ止ナリ〕假ニ構ヘタル宮。カリミヤ。アミゾウ。行宮。行在所。[illegible]「[illegible]トンクウ」[illegible]依二官符一造二頓宮一」

どん-ぐり (名) 團栗 〔橡栗ノ音便訛ト云フ〕(一)古名、ツルバミ。櫟ノ實、形、圓ク尖リテ、ひさつ、ノ栗ノ如シ。熟スレバ、黃褐色ニシテ、大キサ六七分アリ。實ノ本ニ梂アリテ、實ノ半ヲ包ム。其刺、粗ク柔ニシテ刺サズ、コレヲ煮テ、くし、又、よめのおきナド云フ。古ヘハ、此殼ヲ煮テ染料トシ、つるばみいろト云ヘリ、薄鼠色ナリ。橡、皂斗(皂斗ノ字ハ、實ト梂トノ形ニ起ル。支那ニテモ染料トス、故ニ、皂字ヲ黑ノ義トス。書言字考節用集、六、生植門「團栗、ドングリ」康熙本草、上五「[illegible]ドングリ」[illegible]「[illegible]ロト中スモノハ、[illegible]胡桃ガナル」(二)又、櫟、橿等ノ實ノ總名。〔團栗の丈競ベトハ、何レモ凡庸ノミニシテ、優劣ノモノナキニ譬ヘ云フ。

どんぐり-ぶね (名) 團栗舟 北國舟ノ異稱。形、團栗ニ似タレバ云フ。

どんぐり-まなこ (名) 團栗眼 圓クシテ卑シゲナル眼。ドングリメダマ。

どん-けん (名) 豚犬 (一)ぶたト、いぬト。[illegible]「[illegible]豚犬之輩[illegible]」(二)[illegible]

[illegible]

どん-ご (名) 頓悟 佛教ノ語。一超シテ直ニ佛道ノ眞諦ヲ悟リ、心地ヲ開明スルコト。俄ニ悟リ開クコト。[illegible]也」沙石集、三、下、第八條、頓悟漸修ノ[illegible]ノミ多シ」

どん-こう (名) 敦厚 [illegible]ナルコト。篤實ニシテ、人情ニ厚キコト。[illegible]

どん-こつ (名) 鈍骨 〔骨ハ生得ノ[illegible]〕天骨ノ骨ト同ジ[illegible]。鈍根ナル人。

どん-こん (名) 鈍根 〔利根ニ對ス〕[illegible]智ノニブキコト。[illegible]ト。又、ニブキ性根。[illegible]

どん-ざ (名) 頓挫 (一)[illegible]俄カニ挫ケルコト。(二)[illegible]論文ナドニ、中途ニ[illegible]

どん-さい (名) [illegible]

どん-ざい (名) 屯在 タムロシテアルコト。多ク集リ居ルコト。

どん-さい (名) [illegible]ハタラキノナキコト。又、ソノモノ。

どん-さう (名) [illegible]

どん-ざん (名) 貪[illegible] [illegible]ノガレカクルルコト。[illegible]

どん-し (名) 頓死 [illegible]中風ナドニテ、俄ニ死スルコト。暴死。卒死。[illegible]

どん-ぶ (名) [illegible] ノガレコト[illegible]

どん-ぶ (名) 豚兒 〔豚ノ如キ愚ナル子ノ義〕他ニ對シテ、我ガ子ヲ謙稱スル語ナリ。愚息。豚犬ノ條ノ二ヲ見ヨ。

どん-ぶつ (名) [illegible] [illegible]ルコト。呑ミ用ノ魚トハ、[illegible]スル如キ巨魚。又、大人物ヲ喩ヘテ云フ。[illegible]

どん-ぶき (名) 頓首 〔[illegible]〕[illegible]

メタルナリ、下賤ノ者ニ賜ハル食ナリ」 松屋筆記、[illegible]ル義ニテ、今ノにぎり飯ノ事ヲ云フ、公家ニテハ、今モにぎりめしヲどんじきト云ヘリ」

どん-じき (名) 鈍色 (一)にびいろ(鈍色)ニ同ジ。(二)僧ノ灰色ニ染メタル服ニテ、衣ニ、直衣ニアタルモノ、袍ニ似テ、僧綱領ヲ立ツ。晴ニハ上ノ袴、略儀ニハ指貫ヲ着ス。法體裝束抄「鈍色ヲ可レ令レ著次第」[illegible]「諸人著斉、中、鈍色ハ僧ノ狩衣ナリ」

どん-しつ (名) 鈍質 鈍キ性質。鈍骨。

とん-しふ (名) 屯集 タムロスルコト。多ク寄リ集マルコト。

とん-しや (名) 頓寫 速カニ書キ寫スコト。吾妻鏡、廿六、承久四年(貞應元年)六月廿二日「臨時御佛事、[illegible]」同、四十九、正[illegible]年(文應元年)十一月廿七日「今日相州(政村)、被レ頓ニ寫一日經ニ」 中右記、[illegible]嘉保三年三月十八日「京中上下萬人、一日之中書ニ寫一切經ニ」

とん-しやう (名) 敦牂 十二支ノ午ノ異名。爾雅、釋天「太歳[illegible]在午曰ニ敦牂ニ」

とん-しゆ (名) 頓首 支那ノ拜禮。頭ニテ地ヲ叩クコト。首ヲ垂レテ地ニ至ルコト。今、多ク、書簡、上書文等ノ末ニ、敬語トシテ用ヰル。[illegible]

とん-しよ (名) 屯所 タムロスル所。駐屯所。[illegible]

とん-しよう-ぼだい (句) 頓證菩提 佛敎ノ語、直ニ菩提ノ道ニ入ルコト。又、速成トモ云フ。盛衰記、三十一、貞能參ニ小松殿[illegible]一事、貞能、小松殿ノ御事ニ參リテ、夜深クルマデハ忍ビ音ニ念佛申シ、頓證菩提ト回向シテ、後申シケルハ[illegible]謠曲、[illegible]出[illegible]法、云云、[illegible]

どん-じり (名) 〔止後ノ音便〕 最モ後ナルコト。シンガリ。最末。

とむしろ (名) 篠席 とうむしろ(篠席)ニ同ジ。

とん-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 屯 集マリマモル。タムロス。宋史、張浚傳「金人屯ニ河南、[illegible]日決戰之語ニ」

ドン-ス (名) 緞子 〔字ノ唐音、或ハ、純子ナド記ス〕 繻子地ノ絹布ノ名。地厚クシテ光澤多シ。紋アルアリ、無キアリ。天正年間、京都、西陣ニテ織リ始メシト。閃緞 下學集、下、絹布門「段子、ドンス、段或作レ緞」 和漢三才圖會、廿七、絹布類「閃緞、緞子、按、閃緞自ニ南京、廣東、阿蘭陀、來、而廣東爲レ上、有ニ大緞子、小緞子之品、[illegible]衣ニ」 御供古實、[illegible]ヌシュス、どんす杯モ御禁制ニテ候」 狂言記、牛馬「カヤウノ賤シイ商賣致ストモ、一ノ杭ニ繋イデゴザルナラ、後ニハ金襴、緞子、綾、錦ナド商ハウト」

トンスイ (名) 湯匙 〔字ノ音、タンシイノ訛、長崎方言〕 チリレンゲノ一種。

トン-すう (名) 噸數 船艦ノ積量。軍艦ノハ排水量ニテ計リ、一噸ハ二百四十英斤トシ、商船ノハ載積量ニテ計ル。とん(噸)ノ條ヲモ見ヨ。

とん-せい (名) 遯世 遁世 世ヲ遁ルルコト。又、世俗ヲ去リテ、佛門ニ入ルコト。宋史、种放傳「[illegible]」 孔叢子「孔子讀レ詩曰、吾於ニ考槃ニ見ニ遯世之士而不ニ悶世ニ」 [illegible]兵範記、[illegible]元年六月「太上皇令ニ遁世ニ給」 沙石集、三、下、第八條「必ズ道心ニアラネドモ、タダ度生ノ爲ニ遁世スル人、年年ニ多ク見ニ侍ニヤ、サレバ遁世ノ遁ノ字ヲ改メテ、貪世ト書クベキニヤ」 謠曲、松山鏡「母ニオクレシ時、元結切リ、遁世セバヤト存シ候」

トン-ぜい (名) 噸稅 外國ニ往來スル貿易船ノ、開港場ニ入港スル毎ニ、其噸數ニ應ジテ、稅關ニ納ムル稅。

どん-ぜい (名) 呑噬 (一)カミクラフコト。又、カムコト、ノムコト。(二)他國ヲ征伐シテ、併呑スルコト。三國志、[illegible] 唐書、[illegible] 宋史、[illegible]

とん-そう (名) 遁走 ノガレハシルコト。ニグルコト。逃走。逃亡。

どん-ぞこ (名) 止底 〔とどむるそこノ略音便〕 最モ下ノ底。ソコノソコ。ドンヅマリ。

とん-だ (連體) 飛 意外ナル。案外ナル。浮世風呂(文化、三馬)初編、下「とんだ者ガ來タノ、生酔デモ[illegible]タモンダ」 續膝栗毛(文化、一九)二編、上「カハヘサウニ、とんだ事ヲスル男ダ」「とんだ事」「とんだ所」

とん-たう (名) 遁逃 ノガルルコト。ニグルコト。逃遁。 賈誼、過秦論「秦人開レ關而延レ敵、九國之師、遁逃而不ニ敢進ニ」 杜甫詩「吾客在ニ[illegible]同遁逃」

どん-たう (名) 鈍刀 切レ味ノヨクナキ刀。ニブキカタナ。ナマクラ。 李商隱雜纂、不快意「鈍刀切レ物」

ドン-タク (名) 〔蘭語、Zondag.(日曜日ノ意)ノ訛〕 日曜日。轉ジテ、休日。

どん-たらう (名) 鈍太郎 〔擬人語〕 鈍根ナルモノヲ云フ。[illegible] 鈍物。[illegible]

どんだりはねたり (名) 玩物ノ名。江戸、淺草觀音ノ雷門ノアリシ頃、其邊ニテ賣レリ。張子ノ人形二ツニテ、一ツヲ上ニ着セテ竹片ノ上ニ粘シ、竹ニ絲ヲカラゲ、裏ニテ串ヲサシ、串ヲ膏藥ニテ捻リツケオキテ、ヤガテ離ルレバ、人形ハネカヘリテ、上ニ着セタルガ脱クレバ、下ノ人形アラハル、コレヲ飛んだり跳ねたり縫はったりト云ノ、元ハ龜山ノ化物ト云ヘリ。見世物ニ、エモ知レヌモノヲ、丹波ノ龜山ニテ生捕レリト云ヒシニ起ル。(嬉遊笑覽) 西鶴ノ諸艶大鑑(元祿)ニ飛人形トアル、是レカト云フ。

とん-ち (名) 頓智 臨機ニ出ヅル智。早速ノ智惠。機智。 曾我五人兄弟(元祿、近松作)一「頼朝公、和田北條一門ニ、是ハ尤申サレタリ、サテモ頓智ノ重忠ヤト、各ドットホメ給フ」

とんちき (名) 頓痴氣 俊ニタタヌコト、氣轉ノキカヌ人。トンマ。マヌケ。浮世風呂(文化、三馬)四編、下「岩見銀山鼠トリ藥デモ食ッタラウ、猫ガ尿ヂャア、スマサレネヘゾ、何所ダト思ッテ騷ギャァガルカ、とんちきメラア」

とんちんかん (名) (一)鍛冶屋ノ燒鐵ヲ、相鎚ニテ打ツ音ヲアラハス語。(二)物事ノ行違、又ハ、前後スルコト。又、調子ハヅレ。クヒチガヒ。

どん-ちやう (名) 緞帳 (一)だんだら筋ノアル幕。 平家女護島(享保、近松作)三「早舟ケ宗清ト、床ノ緞帳、御簾モサット下リケレバ」 (二)芝居ニテ、引幕ノ一種。上ヨリツリ垂

ルルモノ。(三)緞帳芝居、又、緞帳役者ノ略。

どんちゃう-しばゐ (名) 緞帳芝居 明治以後、小劇場ノ稱、引幕ヲ許サレズシテ、緞帳ヲ用ヒシヨリ云フ。小芝居。

どんちゃう-やくしゃ (名) 緞帳役者 緞帳芝居ニ出ヅル下級ノ役者。

どん-ぢゃく (名) 貪着[頓着] (貪愛染着ノ略)(一)佛經ノ語。ムサボリツクコト。足ルコトヲ知ラズ、アルガ上ニモ欲スルコト。其事ニ深ク思ヒヲカクルコト。執着。(二)轉ジテ、モノニカマフコト。掛念。案ジ。心配。好色一代女(貞享、西鶴)四「此女ニ緋サレ、云云、代銀ノ頓着ナシニ遣ハシケル」浮世床(文化、三馬)初編、上「大雪ハオロカ、槍ガ降ラウガ、頓着ハネエ」

どん-ちゃん (名) [陣太鼓、陣鐘ノ音] (一)爭鬪ナドノサワギ。(二)鳴リモノ入リニテスル遊興。

どん-づまり (名) [止の詰ノ音便轉] 物事ノ果。ドンゾコ。ドンヅメ。終局。

どん-てき (名) 頓敵[頓的] トビテ、ガッキモノ。ヘウキンモノ。吉原失墜(延寶)「本庄下谷ノ住人トモナリ、スグレタル勇氣ノどんてきドモナリ」天和笑委集、六「元來此男、心アクマデ輕ク、シヤモヤシんてきニシテ」

どん-でん (名) 屯田 (一)邊境ヲ守ル兵ノ、其邊ニ留リ住ミ、閑、田ヲ作ラシムルコト。又、其モノ。屯營。「營屯田、得十二便、出兵失十二利」(二)王朝時代、鎮守府ノ戍兵ノタメニ設ケタル田。

どん-でん (名) 舞臺ノ……室。

どんでん-がへし (名) (一)芝居ノ道具ニテ、ヒックリカヘルモノ。(二)米相場ノどでんノ。どでんノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

どんでん-へい (名) 屯田兵 (一)屯田セル兵士。(二)北海道ノ警備、又、拓殖ノタメ、同地ノ要地ニ土着セシメ、平時ハ軍事上ノ教練、又、農業ニ從事シ、有事ノ時ハ戰爭ニ從事セシ兵。明治八年ニ始メテ募集シ、同三十七年ニ廢セリ。

どんでも-ない (連語) 思ノ外ナリ。途轍モナイ。以テノ外ナリ。意外。職人鑑(寶永、近松作)四「下人共打ワラヒ、ハテ風ヲツカマヘル樣ナ、どんでもない事ヲ申スカナ」

どん-と (副) 一向ニ。サラサラニ。絶エテ。全ク。今宮心中(寶永、近松作)上「マダ女房ヲ持タヌハ、カミ樣ヘどんと任セテ、アナタノ歡ヲ待ッテキル」浮世風呂(文化、三馬)三編、下「イヘ、モウ、オユルリト御覽ナサリマセ、ワタクシハ、ウケラガ花ヲ一冊貸シ失ヒマシタガ、どんと行方ガ知レマセヌ」「どんと思ラヌ」「どんと與く」

どん-ど (名) 呑吐 ノムコトト、ハクコトト。朱賓韻「雲氣一吞吐、猶江心滸然」

どんど (名) 爆竹 [火ノ盛ニ燃ユルヲ、どんど、又、どんどんナド云フ] 正月十五日ニ、門ニ立テタル松、竹、注連ナドヲ取リテ焼クコト。又、其レヲハヤス聲。さぎちゃう(三毬杖)ノ條ヲ見ヨ。「どんどト云也」俳諧「只居二、上リテ見レバ、烟ダツ、御宮ノどんど、勝ヒニケリ」

どん-ど (副) (一)水ノ音ヲ立テテ流ルル狀ニ云フ語。「彼ノどんどト云フハ川デハナイカ」(二)ヨビタツル聲ニ云フ語。「中ニ住居スル、心モ直ニナイ者デゴザル、何者ヤラどんどト申ス程ニ、サワタッテ見マセウズ」

どん-どん (副) (一)輕ク物ヲ叩ク音ニ云フ語。(二)門ノ扉、又、戸ナドヲ、輕ク叩ク音ニ云フ語。ホトホト。剝啄。

どん-どん (副) (一)物ヲ強ク敲ク音ニ云フ語。(二)水ノ瀧トナリテ落ツル響ニ云フ語。ドウドウ。滔滔 (三)太鼓、又ハ、大砲ヲ打出ス音ニ云フ語。闐闐 我爺羅山(享保、近松作)四「ソリャ樣人ヨ御立ヨト……ノどんどん」(四)物ノ相蹤グ狀、又ハ、物ノ猶豫ナク出デ行ク狀ニ云フ語。

どん-どんびゃうし (名) ……ミ行ク狀ニ云フ語。

どん-どり (名) 晴ノ明ラカナラザルコト。

ドンドル (名) 雷柴 [蘭語、Donder. (雷鳴ノ意)] 小銃ノ……ハ、火ヲ發スル藥。爆發藥。

どん-な (連體) 何樣 ドノヤウナ。イカナル。ドナイナ。

どん-み (副) 鈍 (どみみ(鈍)ノ音便) ……

どんにく (名) ……

トンネル (名) 隧道 [英語、Tunnel] 山ノ腹、地ノ下、又ハ、川ノ底ナドヲ掘リ貫キテ、道路、鐵道、水道ナドノ通路トセルモノ。隧道。

どんばう (名) 蜻蛉 ……近キナリ。昔、蜻蜓ヲ……トナリ、やんまトナル。……アキツ。エムバ。今、又、約メテ、トンボ。蟲ノ名。春夏ノ間、水邊、水ヨリ出デ……テ、羽化シタルモノ。六足ニシテ、頭、大キク、目、大キク露ハレ、頸ハ細ソクシテ細ノ如シ。腹、尾、共ニ細ソク、尾ノ末ニ岐アリ。四ツノ翅、細長ク出デ……又、やまあトナル。あかどんぼ……かねつけどんぼ……うどんげ……各條ヲ見ヨ。

フ語。先棒ニ、横ニ又、短キ棒ヲ添ヘ、二人竝ビテ其左右ヲ肩グ。恰モ蜻蛉ノ兩眼ノ如シ、コノ二人ハ荷ニ接近シ、一人アト棒ノ者ハ、荷ヨリサガリテ肩グ、恰モ蜻蛉ノ尾ノ如シ。此三人、前後、足竝ヲ揃フルナリ。(三)上下、左右、結ヒ合ハスル紐。形ヲ以テ名トス。鎖紐　東雅、七、器用「鎖紐ヲどんぼうナド云ヒ、近俗ニハ、ほたんナド云フナリ、どんぼうトハ、其形ヲカタドリ云ヒシナリ」

どんび　(名)　[鳶]　(一)とび(鳶)ノ音便。其條ヲ見ヨ。(二)外被。地ハ黑キ絲ヲ縱横ニ編ミ、其間ニ、黑キ熊ノ毛ノ如キモノヲ織リ込ミ、袖ヲ出スベク作リ、襲ノ如キモノニテ、今ノいんばねすノ狀ナリ。其袖ヲ出サザルヲ、まんとト云フ。(三)どんびがっぱ(鳶合羽)ノ略。其條ヲ見ヨ。(四)茫通リ掛ケテ、他ノ店先ノ物ナドヲ掠メ去ル盜人。カッパラヒ。

どん-び　(名)　豚尾　(一)ブタノ尻尾。(二)清朝時代ノ支那人ノ辮髮ヲ嘲リ云フ稱。(豚ノ尾ニ似テ居ル故ニ)

どん-ぴ　(名)　[貂皮]　〔てんびノ轉。てん(貂)ノ條ヲモ見ヨ〕　又、どゞび。(貂ノ皮)ニ同ジ。

どん-ビ　(名)　〔どうびんノ略訛〕　どうびん(銅瓶)ニ同ジ。

どんび-ガッパ　(名)　[鳶合羽]　略シテ、どんび。羅紗製ノ合羽。近年、西洋ノ製ヲ傳フ。袖、廣ク長クシテ、鳶ノ翅ノ如シ。二重廻。マント。

どんび-だこ　(名)　[紙鳶]　古ク、紙老鴟。鳶ノ形ニ作レルいかのぼり。

とん-びゃう　(名)　頓病　俄ニ差起レル病。急病。卒患　運歩色葉集「頓死、頓病」

どん-びゃうし　(名)　どびゃうし(銅拍子)ノ音便。其條ヲ見ヨ。十訓抄、中、第七、廿四條「今ハカナハジ、ツヅミ、どんびゃうし取リ出デヨトテ、御前モ侍モ、皆カナデテゾ出デニケル」

とん-ぷく　(名)　[頓服]　(一)一劑ヲ、一回ニ服用スルコト。(二)次條ノ語ノ略。

とんぷく-やく　(名)　[頓服藥]　頓服セサスル藥。多クハ解熱劑、又ハ、下劑ニ用ヰル。略シテ、頓服。

どん-ぶつ　(名)　[鈍物]　才智ノ鈍キ者。

どんぶら-こ　(名)　〔波ノ音ヲ名トス〕　童兒ノ遊ビニ、小舟ヲ左右ニ、互ニ傾ケテ波ヲ起スコトニ云フ。

どんぶり　(名)　[丼]　〔だんぶくろノ轉カト云フ〕　(一)鼻紙袋ノ一種。更紗、緞子ナドニテ袋ヲ大キク作リ、何モカモ入ルルモノ。賤守漫稿(享保、森山孝盛)「サラサ、或ヒハ純子ナドニテ、大ナル袋ヲ拵ヘ、何ト云フ事ナク、此ノ袋ノ中ヘ入レテ、懷中スル人モアリ、何事モ此ノ袋一ツニテ、事足リタリ、是ヲどんぶりト號シテ、若キ遊人、俗客ナントハ、專ラ用ヒタリ」　(二)次條ノ語ノ略。(蓋アルヲ蓋物ト云ヒ、蓋ナキハどんぶりナリ)　(三)職人ノ腹掛ノ前ニ附ケタルかくし。卽チ、布帛モテ、小長方形ニテ一方口ナル袋ヲ作リ、金子、紙、何トナク入レオクモノ。耳袋(藤原守信)「どんぶり蒲草入ニ落シ來リ、手拭ニモフキタラズ」　(四)丼ニ盛リタル食物。「鰻丼」　(五)安房ニテ、居風呂ノ稱。(出雲ニテ、風呂屋ヲどんぶり屋ト云フ)

(六)越中ニテ、財布ヲ云フ。

どんぶり　(副)　[丼]　〔集韻「丼、音旦、投ㇾ物井中ㇾ聲」〕　物ノ水中ニ落チ入ル音ナドニ云フ語。ドブリ。ドブン。ドボン。ドッポン。チャポン。著聞記、下、廿三段「生取ノ忍鰐ヲ井投　彼釜ニ(此、器ニ汁ヲ盛リテ、身ヲ投、ルル意ニヤ)狂言記、どぶかちり　鑵ヲ打チテ渡リ瀬ヲ見ル、云云、どんぶり、ヅブヅブ」

どんぶり-バチ　(名)　丼鉢　陶製ノ、一種ノ形ノ鉢。厚ク大キク、深シ。今、多ク蓋ヲ用ヰル。略シテ、どんぶり。チャワンバチ。萬寶全書、八、高麗燒物之圖「金有、云云、どんぶり鉢、內ニ金ノ字有リ、或ハナキモ有リ」

どんぼ　(名)　どんばう(蜻蛉)ノ約。一茶句集「ウソ寒ヲ、早合點ノ、蜻蛉哉」

とんぼ-がへり　(名)　翻筋斗　〔蘇氏演義「筋斗同ニ斤斗、斤衡ㇾ木之具也、頭重而柄輕、用ㇾ之則斗轉、爲ニ此技ㇾ者似ㇾ之」(祖庭事苑、七、ニモ見ユ)〕　(一)蜻蛉ノ烈シク飛ビ進ミテ、俄ニ返ルガ如ク、身ヲヒルガヘスコト。蜻蛉返。(蹴鞠、劍術ナドニ云フ)　教訓抄、一「羅陵王、云云、今ノ陵王ハ蜻蛉返、ヒケ手、コトノ外ニヌルク見ユル物カナ」　中樂談義(永享、世阿彌)「田樂ノ風情、云云、鼓ヲモ、ヤテイテイト打ッテ、蜻蛉がへりナドニテ、チャクチャクトシテ、サト入ル也」　(二)童子ノ戲ニ、兩手ヲ地ニシ、兩脚ヲ天ニシ、左右ヘ、身ヲ輪ノ如ク遶ラスコト。言歸(淸、呂種玉)「伎人以ㇾ頭委ㇾ地、而翻斗跳過、且四面旋轉如ㇾ毬、謂ニ之金斗、[illegible]云、[illegible]以來、[illegible]自ニ擲倒伎、[illegible]謂ニ之金斗[illegible]中山王[illegible]之工人、以ㇾ頭委ㇾ地、而翻身[illegible]之金斗、一作ニ筋斗ニ」　[illegible]ハ、身ヲ横ニナシテ返ル每ニ、手ハ地ニツキテ、ツヅケサマニ返ル事、車輪ノメグルヤウナルヲ、漢土ニ[illegible]ト云フ」

とん-ぼく　(名)　[敦樸・敦朴]　正直ニシテ飾氣ナキコト。史記、孝文帝紀「令ニ衣不ㇾ得ㇾ曳ㇾ地、帷帳不ㇾ得ㇾ文繍、以示ニ敦朴、爲ニ天下先ニ」　[illegible]

とんぼ-だま　(名)　蜻蜓玉　舶來ノ寶、石ノ蜻蛉ノ眼ノ如キモノニ云フ。[illegible]「どんぼ玉ハ、琉璃屬、或ハ白キニ赤キ散ラシ[illegible]アリ、蜻蛉ノ如ク見エテ美ウツクシ、長崎、[illegible]ヨリ始メテ渡リシ時、世ニ珍ラシク奇走セシガ、中頃、大坂ニ名人アリテ作リ出セシニ、唐物ニチガハズト[illegible]」

とん-ぼふ　(名)　頓法　佛教ノ語。速ニ願望ヲ成就スル法。速疾ニ所求ヲ成就スル法。太平記、廿六、妙吉侍者事「外法成就ノ人ノアリケルニ、吒祇尼天ノ法ヲ習ヒテ、三七日行ヒケルニ、頓法立ドコロニ成就シテ、心ニ願フ事ノ、聊カモ不ㇾ叶ト云フ事ナシ」

⁂どん-ま　(名)　[頓馬]　〔のろまノ轉訛、のろし、とろし。のける、どけるノ類〕　間拍子ニ合ハヌ、愚鈍ナルコト。愚ナル人。マヌケ。ノロマ。トンチキ。

とんま-ごゑ　(名)　[頓間聲]　調子ハヅレノシタル下卑タル聲。ドウマゴエ。

どん-や　(名)　とひや(問屋)ノ音便、其條ヲ見ヨ。浮世風呂(文化、三馬)四編、上「オメヘハ虛ノどんやダカラ、的ニナラネエ」

どんや-ば　(名)　とひやば(問屋場)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

トンヤンキイ　(名)　[東洋鬼]　やんきい(洋鬼)ノ條ヲ見ヨ。

どん-よく　(名)　[貪欲・貪慾]　ムサボリ、欲スルコト。飽クマデ、欲、深キコト。法華經、譬喩品「諸苦所因、貪欲爲ㇾ本、若滅ニ貪欲、無ㇾ所ニ依止ニ」　史記、李斯傳「高、故賤人也、無ㇾ識ㇾ於理、貪欲無ㇾ厭、求ㇾ利不ㇾ止」　張衡、東京賦「進ニ明德而崇ㇾ業、滌ニ貪欲之貪慾ニ」

どんより (副) (一)空合ノ薄クモリタル状ニ云フ語。(二)色合ノウルミタル状ニ云フ語。

とむらひ (名) 訪 (一)トムラフコト。安否ヲ問フコト。トブラヒ。ミマヒ。謡曲、大原御幸「女院、云云、一位殿ノ御跡弔ヒノ爲ニ、大原ノ寂光院ニ、浮世ヲ厭ヒ御座候、又法皇御幸ヲナサレ、御とむらひアルベキトノ御事ニテ候」(二)喪アル者ヲ訪ヒ慰ムルコト。クヤミヲ陳ブルコト。弔 [illegible]コレハ[illegible]宿リトテ、曲モタマラヌ所ナリ、カマヘテ、ヨクヨクおとむらひアレ」(三)亡キ魂ノ追福。(四)俗ニ、ノベオクリ。葬送。(東京)

とむらひ-がっせん (名) 弔合戰 戰死者ノ仇討ノタメニスル合戰。トムラヒイクサ。甲陽軍鑑、十、下、品三十二「當年廿六歳ニ、氏眞年ヲヒロヒテモ、父ノ弔合戰スル心バセ夢ニモナシ」太閤記(眞治、小瀬道喜)九、秀吉卿依池田父子討死御出馬事「眼ヲ泣ナタチ小牧ヘカカツテ、池田ガ弔ひ合戰シテンヨト、イキマキテ」

とむら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 訪 〔とぶらふ(訪)ノ轉〕 (一)トブラフ。人ノ安否ヲ問フ。オトヅル。ミマフ。(二)喪アル者ヲ訪ヒテ慰ム。クヤミヲ陳ブ。弔 (三)亡キ魂ニ追福ヲナス。

とん-らん (名) 豚卵 ブタノ陰嚢。

どん-らん (名) 貪婪 たんらん(貪婪)ニ同ジ。屈原、離騒經、一「衆皆競進、以貪婪兮」太平記、三十九、高麗人來朝事「海舶不レ通、邊界居民不[illegible]地出、海切奪」

とめ (名) 姥 〔專女ノ約カトモ云フ〕老女ノ稱。又、トベ。[illegible]

とめ (名) 止留 (一)トムルコト。ヤムルコト。禁止。(二)ヲハリ。シマヒ。終末。俚言集覽「とめ、止也」

とめ-おき (名) 留置 (一)留メ置クコト。トドメオクコト。留置。(二)郵便物、又ハ、電信ヲ差出人、又ハ、受信者ガ、指定ノ局所ニトドメ置ク手續。

とめ-かは (名) 留川 漁業ヲ禁ジテ置ク川。禁獵ノ川

とめ-き (名) 留木 香木ヲ燒キテ、衣服ニ薫ユラスルコト。又、其匂ヒヲ、袖、又ハ、小袖ナドニ留ムルコト。好色五人女(享保)「留木ノ枕、寢マデヲ薫ラセ」色三味線(元禄、八文字屋自笑)「遊女ノ身ノ[illegible]留木モ、人ノ聞キ知レル名ノ木ヲ燒カネバナラズ」八水隨筆(寶保、延享時代[illegible])[illegible]

とめ-きゃら (名) 留伽羅 伽羅ノ匂ヒヲ、衣服ナドニ、クユラシ留ムルコト。又、ソノ匂ヒ。水調子(寶永)「コチラ向ク朋ニ、[illegible]」

とめ・く・クル・クレ・コ・キ・コヨ (自動、加變) 認來 タヅネキタル。古今集、二、春、下「花散レル、水ノマニマニ、とめくれバ、山ニハ春モ、ナクナリニケリ」後撰集、十七、雜、三「流ツ瀬ノ、湯マキゴトニ、[illegible]」

とめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) どよめくノ[illegible]

とめふ-かし (句) 認來 [illegible] 花、小ナリ。

とめ-そで (名) 留袖 [illegible]ノ袖ノ稱。即チ、振袖ヲ截チ切リタル[illegible]

とめ-ど (名) 止處 止ムベキ處。トマリ。[illegible]ノナイ大騒ギニ、[illegible]「とめど無ク」

とめ-ば (名) 留場 (一)山川、原野ニ、漁獵、伐木ナド禁ジ置ク處。禁地 (二)芝居ノ内外ヲ取締リ、[illegible]時ハ、之ヲ制スル役ノモノノ詰所。[illegible]ノ劇場ニテハ、向ッテ左方ノ棧敷ノ入口ノ[illegible]ノ下ニ居テ、見物サワガシキ時、制スル役也[illegible]ノ方騒ガシキハ、[illegible]制スル也」

とめ-ばり (名) 留針 (一)[illegible]折目ナドニ、押ヘトシテ、假ニ刺シ止メ置クニ用ヰル針。(二)めどナキ一種ノ針、[illegible]年、舶來ノ品アリテ、ぴんト云フ。

とめ-ふで (名) [illegible]ノ、隨意ニ作ヲ使ルコトヲ、主君ヨリ禁ゼラレタルコト。

とめ-ぶろ (名) 留風呂 他人ノ入浴ヲ禁[illegible]

とめ-や (名) [illegible]

とめ-やま (名) 留山 [illegible]

とめ-ゆ (名) 留湯 [illegible]

と・める (動) 止 止むノ口語。

とめ-をけ (名) 留桶 [illegible]

とめ-をとこ (名) [illegible]

とめ-をんな (名) [illegible]

仲裁スル女。

とも (名) [illegible] 朝鮮語、とんも、(一)[illegible]相連ル者。トモガラ。ナカマ。[illegible]萬葉集、廿、長歌「伴ノ、名ニオヘル、マスラヲノ伴」 同、四三十「狹夜中ニ、ともヨブ千鳥、セノ思フト、ワビ居ル時ニ、鳴キツツモトナ[illegible]」 (二)〔連レ立チテ路ヲ行ク者。ミチヅレ。同行 伊勢物語、第九段「モトヨリ、ともトスル人、ヒトリフタリシテ行キケリ」 (三)物事ノ類、同ジキモノ。同類。屬倫

とも (名) 朋友 〔前條ノ語意ニ同ジ。久、同志ヲ友ト云ヒ、同窓ヲ朋ト云フ〕 相知リテ、常ニ相交ル人。トモガキ。トモダチ。朋友。友人。 名義抄「友、トモ、トモダチ」 論語、學而篇「有レ朋、自二遠方一來、不二亦樂一乎」 易經、坤卦「西南得レ朋」 同、兌卦、疏「同門日レ朋」 說文「同志爲レ友」 源、明石、十三十七「言問ヒオコスル人モナシ、タダ行ヘナキ空ノ月日ノ光リバカリヲ、故郷ノ友トナガメ侍ルニ」 玉葉集、十四、雜、一「山陰ニ、友ヲ尋ネシ、跡フリテ、タダ古ヘノ、雪ノ夜ノ月」 新拾遺集、九、羇旅「友誘フ、室ノ泊リノ、朝嵐ニ、聲ヲ帆ニアゲテ、出ヅル舟人」

とも (名) 供 〔後ニ伴トナル義〕 後ニ從フ人。シトリベ。從者。 從者 源、廿二、玉鬘二十「カタミニ供ノ人ノ、アヤシト思フベケレバ」 同、五十、浮舟六十「ワガ脊ヲハカセテ、自ラハ供ナル人ノ、[illegible]ヲハキタリ」 後拾遺集、九、羇旅「父ノ供ニ遠江國ニトリテ」

とも (名) 鞆 〔手面ノ約ト云フ、或ハ云フ、音物ノ約略、或ハ云フ、止弦ノ約、鞆ハ和字ナリ〕 ホムダ。古ヘ、弓射ル時ニ、左ノ臂ニ着クル具。形圓ク、革ニテ作リ、巴ノ字ノ象ヲ畫キ、革緒ニテ約ス。弦ノ臂ニ觸ルルヲ避クルモノナリト云フ。或ハ云フ、觸レシメテ音ヲ發セシメ、音ヲ以テ威スコト、鳴鏑ノ如キモノナリト。後說、得タルガ如シ。次ノ用例ヲ見ヨ。 [illegible]「鞆、[illegible]」 [illegible]日本紀[illegible]在[illegible]具也」 名義抄「[illegible]トモ[illegible]」 [illegible]拾[illegible]也、[illegible]可以[illegible]也」 古事記、上[illegible]長ニハ千入ノ靫ヲ負ヒ、[illegible]人ノ靫ヲ附ケ、[illegible]伊都ノ竹鞆ヲ取佩シテ」 大神宮儀式帳「弓矢鞆[illegible]」 萬葉集、一[illegible]「丈夫ノ、鞆ノ音スナリ、物部ノ、大[illegible]臣、楯立ツラシモ」 同、七、六「ヨシ去テ、亦還リ見ム、丈夫ノ、手ニ卷キモタル、鞆ノ浦回ヲ」 堀河百首「ヒキナラス、手束ノ弓ノ、矢ノ早ミ、鞆ニ的ノ、鳴リ交ハス哉」 四季物語(鴨長明)二「射禮[illegible]鞆ハ彩丸クシテ、中ハ空虛也、鞆ノ如ク革ニテ[illegible]括リタル物也、云云、古代、弓射ル人ハ、左ノ腕ニ鞆ヲ結付テ射シ也、是レ弦ニテ腕ヲハジクヲ防ガン爲ノ設也、鞆ニ弦アタレバ鳴音アル、云云」

とも (名) 艫 〔從者ノ義〕 支那ノ諸字書ニ、舳艫首尾ノ解、相反スルモノ多シ。倭名抄、十一ニ、艫ヲ度毛ト訓ジ、舳ヲ閉ト訓ズ、字鏡三十四ニ、艫ヲ戸ト訓ジ、舳ヲ止毛ト訓ズ、靈異記(中)第廿七緣、訓釋モ、舳ヲともトセリ、今、倭名抄ニ據ル」 船ノ後頭ヲともト云フ。 倭名抄、十一、舟具「[illegible]謂之舳、舟頭制レ水處也、和名云、閉、[illegible]後頭、謂之艫、舟後刺レ櫂處也、和名云、度毛」 小爾雅、[illegible]「[illegible]謂之舳、尾謂之艫」 萬葉集、十一、三十「大船ノ、舳ニモ艫ニモ、寄スル浪、ヨストモ吾ハ、君ガマニマニ」 倭訓栞「とも、艫ヲ云フ、船ノ後頭ナレバ、從ノ義也、艫ヲヨムハ倭名抄ノ說ニテ、舳ヲヘトヨメリ、小爾雅、集韻、是也、新撰字鏡ニハ、舳ヲとも、艫ヲヘトヨメリ、日本紀ノ點モ同ジ、文選ノ注、說文ナド、是也」

とも (副) 雖 第三類ノ天爾波。とトノミモ云フ。上ノ語ノ意ヲ飜スル意ノモノ。但シ未定ナルニ云ヒテ、既定ノ意ノどもニ對ス。(靏尾ノ語法指南ノ天爾遠波ノ條ヲ見ヨ) 風雅集、十九、神祇「世世ヲヘテ、[illegible]キジ、久方ノ、天ヨリ移ス、[illegible]井ノ水」 玉葉集、六、冬「タマグレ、フルとも見エデ、白雪ノ、ツモレバ靡ク、庭ノ吳竹」「[illegible]ツとも碎ケジ」[illegible]とも[illegible]」

ども (名) 吃 どもり(吃)ノ略。

ども 雖 どトノミモ云フ。前條ノ語意ニ同ジクシテ、既定ノ意ヲ云フ。漢文ノ、いへどもニ同ジ。 萬葉集、二十、河上ノ、ツラツラ椿、ツラツラニ、雖見アカズ、巨勢ノ春野ハ」 新古今集、三、夏「五月山、卯ノ花月夜、郭公、聞ケどもアカズ、又鳴カンカモ」「[illegible]テども倚ケズ」[illegible]キズ」善ケレども惡シケレども」

ども (接尾) 共 (一)名詞ニ添ヒテ、共同類アルヲ統ベテ云フ接尾語。等 源、十五、蓬生十「[illegible]ども、マウデカヨヒシヲト思ヒテ、トキドキカヨウ」 伊勢物語、六十六段「渚ヲ見レバ舟どもノアルヲ見テ」 枕草子、二、廿段「車どもノカタ見オホセテ、ワレドチイフ事モ何事ナラントオボユ」「物ども」事ども」女ども」 (二)轉ジテ、一人ニテモ云フ。古事記、下(允恭)廿二、輕太子ノ輕大郞女ヲ指シテ、輕少女杼母ト云ハレタリ。 狂言記、鹿狩「イヤ、身どもハ急ギノ者デ御ザルホドニ、マヅ先ヘマヰラウ」「私ども」女房ども」

とも-あらそひ トモ・アラソイ (名) 友爭 友諍 味方同士ノアラソヒ。仲間同士ガ、互ニ相爭フコト。 盛衰記、四十一、梶原逆櫓事「各各巾シケルハ、此條五ニ穩便ナラズ、ともあらそひソノ詮ナシ、平家ノ漏聞カンモ嗚呼ガマシシ」

とも-あれ (句) 次條ノ語ノ略。 トマレ。 狂言記、昆布布施「八貫ノ布施ヲ取レバ、探、イカイ事ヂャホドニ、後ハともあれ、マヅ剃ラバ剃ラシマセ」

とも-あれ-かく-も-あれ (句) 如何ヤウニモアレ。ドウニモアレ。約シテ、とまれかくまれ。略シテ、ともあれト云フ。 源、十三、明石十「カノ浦ニ、シヅヤカニ、カクロフベキクマ侍リナンヤトノ給フ、云云、ともあれかくもあれ、夜ノ明ケ果テヌサキニ、[illegible]レ」

とも-うち (名) 友討 味方同士ニテ、討チ合フコト。同士討。 [illegible]十六、[illegible]「[illegible]ヲ[illegible]ラス、[illegible]ハ子ヲカヘリミズ、[illegible]刀ヲ拔キテ、[illegible]ヘトモ、目指ストモ知ラズ[illegible]ナレバ、多クハ友[illegible]ニコソ亡ビケレ」

とも-うら (名) 共裏 衣服ナドノ、裏ノ布帛ヲ、表ノモノト同一ニスルモノ。

とも-えり (名) 共襟 衣服ノ襟ニ云フ語。表ノ服地ト同ジ布帛ヲ以テ、襟ノ上ニカケタルモノ。

とも-かがみ (名) 友鏡 (一)あはせかがみ(合鏡)ニ同ジ。 類聚名物考、二百五十三、調度部、十「友鏡、ともかがみ、合鏡ノ事ナリ、異說ハ僻事ナリ」 (二)彼レト是レトヲ、照シ合ハセテ見ルコト。テラシアハセ。對照 後撰集、八、冬「黑髮ト、雪トノ中ノ、憂キ見レバ、友鏡ヲモ、ツラシトゾ思フ」(袖中抄ニ、「ワガ髮、人ノ髮ノ白キヲ、雪ニ見合セタル也」トアリ)

とも-がき (名) 友垣 〔友絡ニテ、一黨相結バル意カ、或ハ云フ、友ガ君ノ略カ〕 ともだち(友達)ニ同ジ。 神代紀、下五「朋友之道、理宜二相弔一」 孝德紀、二年三月「何故使三人死二於余路一、因留二死者友伴、使二祓除一」 顯宗紀、二年三月「吾聞、父之讎不二與共戴一レ天、兄弟之讎不レ反レ兵、交遊之讎不レ同レ國」

とも-かく-も (副) 左右 取捨 其事ハ如何ニアリトモ。イヅレトモ。カモカクモ。カニモカクニモ。トニモカクニモ。とかく(左右)ノ條ヲモ見ヨ。 神代紀、下五「是有[illegible]也、取[illegible]捨[illegible]」 源、二十、空蟬八「アサマシク覺エテ、ともかくも思ヒワカレズ、ヤヲラオキ出デ」 宇治拾遺、十一、第八條「イマダ、ともかくもシナサデオキタリケルニ」 狂言記、呂蓮「ソレナラバ、兎も角も致シマセウ程ニ」

とも-がまら (名) 供頭 供廻ノ行列ヲ取締マル役。

とも-かせぎ (名) 共稼 父子、夫婦、ナド、相共ニ働キ稼ギテ、一家ヲ生計テ立ツルコト。

とも-がほ (名) 友顔 トモダチブルコト。友人ラシキ容子振。夫木抄、二、鶯「ともがほニ、鶯バカリ、音ヅレテ、霞ニムセブ、春ノ山里」

とも-がら (名) 輩 伴侶 [illegible] (伴族ノ義) 其一類ノ者ヲ總ベテ云フ語。ムレ。ヤカラ。ナカマ。ダチ。同類。天治字鏡「[illegible]也、[illegible]也、比也、止毛加良、又、太久比」續紀、廿一、年十二月「由是、[illegible]」[illegible]日本ニ、[illegible]、十三、明石ニフカキ浦ウツクシミ、大ヤシマニアマネク、シヅメルともがらヲコソ、多ク浮ベ給ヒシカ」宇治拾遺[illegible]「ともがらヲホロボシテ、一人シラヌセカイニタダヨヒテ」

とも-ぎんみ (名) 友吟味 友達同士、互ニ吟味シアフコト。仲間同士、互ニシラベ合フコト。[illegible]「メンメン[illegible]キニ、上下[illegible]テ、ともぎんみ、出入リヲ穿鑿スルトコロヘ」

とも-ぎれ (名) 共切 布帛ノ同ジ切レ。

とも-ぐひ (名) 共食 (一)同種類ノモノ、互ニ食ヒ合フコト。又、同類、相害スルコト。(論議ナド。) [illegible]「[illegible]昌ノ時至レリ」 (二)都會ノ地ナドニテ、其住民同士ニテ、互ニ賣買ノ利ヲ得テ、互ニ其生ヲ營ムコト。

とも-ぐるま (名) 供車 供ノ者ノ乘ル車。[illegible]「[illegible]車、クルトアクトニ、カヨフラン」

ともこも-づきん (名) ふくめんづきん(覆面頭巾)ノ條ヲ見ヨ。嬉遊笑覽、二、上「[illegible]」[illegible]ス綿ヲ入レ、顏ノ出ル處、左右ニ細キ紐ヲ付タリ、コレヲ[illegible]ノ頭巾ヤヤ古シ、云云、元文ゴロ、頭巾シコロヲ付、シコロノ[illegible]ト號シ、異名ヲともかうもト云フ、制セラレテ止ト云ヘリ、サレド明和八年、江戸名物鑑ニ、ふくめん頭巾出タリ、[illegible]使シテ用フル故、ともかうもあれと云フ[illegible]ナリ」大井川集(延寶)「武藏野ハ、ともこも頭巾、山モナシ」[illegible]テナシ子、ともこも頭巾、ササメ言」

とも-さき (名) 供先 供廻ノ先キ。女殺油地獄(享保、近松作)上「[illegible]供先、[illegible]ニ[illegible]カルフシヤウノ出合頭」

ともし (名) (一)燈火。トボシビ。伊勢物語、三十九段「ともしケチナンズルトテ」 (二)獵人ノ、夏ノ半ニ、山ノ幾筋モアル通路ニ、火繩火ヲ串ニ挾ミテ立テ置キ、只一路トモサズ、此路ニ鹿ノ寄ルヲ待チテ射ルコトヲ云フ。又、ソノ火繩火ノ稱。倭名抄[illegible]毛志[illegible]トランドテ、山又ハ野ニイリテ、木陰ニ松ノ火串ヲトモシ、鹿ノネシタル笛ナドフクニ、夏秋ハ鹿ノツマコフ[illegible]レバ、[illegible]カラレテ寄リトタリ、又ハカノ火串ニモヨリクルヲ、狩人コレヲイル也[illegible]ハ、ともしニノミゾ、人ニ知ラルル」拾玉集、七「[illegible]ハイカニ、シヅゴコロナク、[illegible]ニ、ともしシテ、[illegible]カヒナキ、夜ヲアカスラン」

とも・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 乏 (一) 足ラズ。少シ。トボシ。[illegible]

トモシ、貧、トモシ、マヅシ」古事記、下(雄略)[illegible]聞ク小野ノ、秋風ニ、萩咲キヌレヤ、聲ノ乏シキ」同、十[illegible]梅ノ花咲ケル岡邊ニ、家居レバ、乏シクモアラズ、[illegible]ニシテ、[illegible]ともしかりシ故ニ」 (二)羨マシク、[illegible]バ、愛デタシ。好シト思フ。メヅラシ。オモシロシ。萬葉集、[illegible]「[illegible]高光ル、日ノ御子」同、[illegible]「武庫ノ浦ヲ、[illegible]小舟、粟島ヲ、背ニ見ツツ、乏シキ小舟」同、九「[illegible]マクホリ、來シクモシルク、吉野川、音ノサヤケサ、[illegible]久、川見レバ、見ノサヤケク、物毎ニ、[illegible]」 (三)愛デタキ物ヲ見聞キシテ、[illegible]シ。[illegible]江ノハチス、花ハチス、身ノ盛リ人、[illegible]飛ビクク、[illegible]ヲ聞クラム、[illegible]」同、五「[illegible]川、玉島ノ浦ニ、若鮎釣ル、妹等ヲ見ラム、人ノ[illegible]」

とも-じ (名) 父文字 [とハととノ略。] 父、[illegible]文字ノ[illegible]ヲ[illegible]

とも-じ (名) 十文字 [illegible]字ニ同ジ。土佐日記[illegible]ヒシレテ、一文字ダニ知ラヌモノシガ、足ハ十文字ニ踏ミテゾ遊ブ」

ともし-づま (名) [illegible] 又、[illegible]「八千矛ノ、神ノ御代ヨリ、乏[illegible]、人知リニケリ、ツギテシ思ヘバ」

ともし-び (名) 燈火 又、とぼしび。(一) 點シタル火。油火、燭燭火、篝火、等ヲ云フ。アカシ。アカリ。トウクワ。[illegible]

[illegible]

ともし・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ(他動、上二) [illegible] (一)トモシク思フ。メヅラシク思フ。(二)[ウラヤマシク思フ。[illegible]十七[illegible]

ともし・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) [illegible]ニ同ジ。[illegible]

とも-しらが (名) 友白髮 夫婦共ニ[illegible]

とも・す [illegible]

とも-すき (名) [illegible]

とも-ずり (名) 共摩 [illegible]

ス」類聚集、與山ノ、杉ノ友ずり、我ナレヤ、我戀ユエニ、身ヲ焦スナリ」

（とも-すれ-ど）（副）〔どハ天爾波ナリ〕ヤヤトモスレバ。ヤヤモスレバ。ドウカスルト。マタシテモ。竹取物語「アル人ノ、月ノカホ見ルハ、忌ムコトト制シケレドモ、ともすれど、人マニハ月ヲ見テ、イミジク泣キ給フ」源、七、紅葉賀「サテソノ後ハ、ともすれど、コトノツイデゴトニ、イヒムカフルクサハヒナルヲ」同、十、榊「此ニクキ御心ノヤマヌニ、ともすれど、御ムネヲツブシ給ヒツツ」拾遺集、一、春「ともすれど、風ノヨルニゾ、青柳ノ、絲ハ中中、ミダレソメケル」

とも-ぜい（名）【供勢】供ニ連ルル人數。

とも-ぞろひ（名）【供揃】供廻ノ者ノ揃フコト。供ノ人數ノ揃フコト。

とも-ぞろへ（名）【供揃】供廻ノ者ヲ揃ハシムルコト。供ノ同勢ヲ整フルコト。

（とも-だち）（名）【友達】親シク交ハル人人。多クノ友。トモガキ。【朋友】又、一人ニテモ云フ。倭名抄、一、六十九男女類「朋友、止毛太知」仁賢紀、六年九月「諸、郎知、所、言笑、有二同作者不悟、其意一」宇津保物語、俊蔭五「熊狼ヲ友だちニテ」落窪物語、二「タチハキノ友だちナンドヨベ物イハントテ來リシヲ」後撰集、二、春、下「宮仕ヘシケル女ノ、イソノカミト云フ所ニ住ミテ、京ノ友だちノ許ニツカハシケル」

とも-だふれ（名）【共倒】雙方トモニ、タフルルコト。又、雙方トモ損害ヲ被ルコト。トモツブレ。

（とも-ちどり）（名）【友千鳥】數多群レ居ル千鳥。ムラチドリ。ムレチドリ。源、十二、須磨「友千鳥、モロゴヱニ鳴ク、曉ハ、ヒトリ旅寝ノ、床モタノモシ」新敕撰集、六、冬「友千鳥、ムレテ渚ニワタルナリ、沖ノシラスニ、汐ヤミツラム」

とも-つか（名）【友柄】刀ノ中心ノ末ヲ太クシテ、柄トナシタルモノ。東國紀行（天文、谷宗牧）「後藤ハ秀郷ノ末孫ニテ、彼ノ龍宮ヨリ喪美ノ太刀、云云、ともつか白カネノツバ、イツクヨリ入リケントモ見エズ」武家名目抄、三十三「三鈷柄トハ、佛家持ツ所ノ友柄鈷刀ノ劍ニテ、云云」

（とも-づな）（名）【纜纜】〔艫綱ノ義〕船ヲ繋ギ止ムル綱。倭名抄、十一、舟具「纜、度毛都奈、維舟索也」後拾遺集、八、別「ナゴリアル、命トヲ思ハバ、ともづなノ、マタモヤクルト、マタマシモノヲ」夫木抄、八、「ともづなヲ、トカデイクカニ、ナリスラン、ナガヰノ浦ノ、五月雨ノ頃」

とも-つ-びと（名）【友人】友ニテアル人。トモダチ。友人。堀河百首「ともつびと、飽カデ歸リヌ、呼子鳥、倚呼ビ返セ、ナカ名タノマム」

とも-つぶれ（名）【共潰】ともだふれ（共倒）ニ同ジ。

とも-づり（名）【友釣】鮎ヲ釣ルニ、鈎ヲツケタル絲ニ、其牝ヲ繋ギテ、水中ニ放チ置キ、牡ヲ誘キ寄セ、鈎ニテ引キカケテ捕フル方法。

とも-どち（名）【友共】互ニ友ナルコト。友達同士。朋友同士。

とも-ども・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）ノコス。遺ル。字鏡、廿「餡、遺也、止毛止毛志」

とも-ども-と（副）【共與】次條ノ語ニ同ジ。貫之集「ともどもと、思ヒ來ツレド、カリガネハ、オナジ里ヘモ、歸ラザリケリ」後撰集、十九、離別「ともどもと、シタフ涙ノ、ソフ水ハ、イカナル色ニ、見エテ行クラン」

とも-ども-に（副）【共與】相伴ヒテ。ヒトツニナリテ。諸共ニ。トモドモト。

とも-なひ（名）【伴】（一）トモナフコト。源、二十六、螢「此オナジ所ノ御ともなひ」（二）トモ、伴侶。釋迦如來誕生會（元祿、近松作）三「出入月ノ光コソ、我等ガ無二ノ友ともなひヨ」

とも-な・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）【伴】伴ニナル。連レ立ツ。相從フ。新敕撰集、十七、雜、二「コレノミト、伴ナフ影モ、サ夜フケテ、ヒトリゾウスキ、窓ノトモシビ」玉葉集、四、秋、上「秋ノ夜ヲ、ヒトリヤナキテ、アカサマシ、ともなふ蟲ノ、聲ナカリセバ」

とも-な・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）【伴】引キ連ルル。誘フ。同伴ス。續拾遺集、十七、雜、下「ともなへリケル女ノ身マカリニケル時」續紀、廿六、天平神護元年三月、詔「人ヲモ止毛奈方ズシテ」同、六、冬「内ヨリ女房アマタともなひテ、法勝寺ニマカリ侍リケル」好忠集「ミソギスル、加茂ノ川風、吹クラシモ、涼ミニ行カム、妹ヲともなひ」

（とも-な・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ）（他動、下二）【伴】前條ノ語ニ同ジ。萬葉集、十九廿七長歌「マスラヲヲ、等毛奈倍立テテ」

とも-ならん 句 何トモ成ラヌ。ドウモナラヌ。不可能。アカン。（近畿ノ語）

とも-なり（名）【共鳴】同ジ高サノ音ヲ發スル二箇ノ發音體ノ一ヲ取リテ、他ノモノノ附近ニテ之ヲ鳴ラセバ、其モノモ、コレニ連レテ自ヅト鳴リ出ス現象ノ稱。キョウメイ。

（とも-に）（副）【倶共與偕】相伴ヒテ。ヒトツニナリテ。一緒ニ。類同ジクテ。萬葉集、五卌四「天地ノ、等母爾久シク、云ヒツゲト、コノクシミ玉、シカシケラシモ」古今集、二、春、下「散ル花ヲ、何カウラミン、世ノ中ニ、ワガ身モともに、アラン物カハ」伊勢物語、十二段「女ヲバトリテ、ともにヰテイニケリ」

とも-ね（名）【鞆音】弓ヲ射ル時、弦ガ鞆ニ觸レテ發スル音。トモノオト。永久四年百首、春「引キナラス、タツカノ弓ノ、矢ヲハヤミ、ともねニマトノ、鳴リカハスカナ」散木集「アヅサ弓、ともねモタエテ、夜モスガラ、カハハナレタル、コトヲシゾオモフ」

とも-ね（名）【共寢】一ツ衾ニ入リテ寢ルコト。ヒトツネ。同衾。千載集、四、冬「カタミニヤ、上毛ノ霜ヲ、ハラフラン、ともねノ鴛鴦ノ、モロコヱニナク」夫木抄、十七「コヤノ池ノ、アシノカレハノ、草ブキヤ、ともねノヲシノ、スミカナルラン」

（とも-の-おと）（名）【鞆音】ともね（鞆音）ニ同ジ。萬葉集、一卌八「マスラヲノ、鞆の音スナリ、物部ノ、オホマヘツ君、楯タツラシモ」

（とも-の-べ）（名）【伴部】又、ともべ。史生、使部、舍人、兵衞等、官寮ノ下人ノ總稱。配下ノ者。部下ノ人。萬葉集、六廿六長歌「山ノソキ、野ノソキ見ヨト、伴の部ヲ、アガチツカハシ」

（とも-の-みやつこ）（名）【伴造】〔伴ハ一部ノ意。倘、みやつこ（部）ノ條ヲ見ヨ〕上古、諸部ノ長トシテ、各、其部ヲ掌リシ職名。孝德紀、大化元年八月「若憂訴之人、有二伴造一者、其伴造、先勘當而奏」雄略紀、二年十月「伴造、國造、又[illegible]」

（とも-の-みやつこ）（名）【伴御奴】古ヘ、主殿寮ノ下部ニテ、禁庭ノ掃除ナドヲ掌リシ者。拾遺集、十六、雜、春「殿守ノ、とものみやつこ、心アラバ、此春バカリ、朝淨メスナ」長秋詠藻、中「春クレバ、玉ノミギリヲ、ハラヒケリ、柳ノイトヤ、とものみやつこ」

（とも-の-を）（名）【伴緒】〔伴ハ部ノ意、をハ長ノ本語ニテ、渠師ハ勇長ナルガ如シト云フ。或ハ云フ、緒ニテ玉ヲ貫キテ統ブルニ譬フ、貫首ナド云フ貫ノ如シト〕上古、職職ノ部屬ノ長ノ稱。古事記、上五十九「五伴緒」大祓祝詞「靫負伴男、劍佩伴男、伴男能八十伴男乎始弖、官官爾仕奉留人等」萬葉集、七四「敍懸クル、伴雄廣キ、大伴ニ、國榮エムト、月ハ照ルラシ」同、十九四十八長歌「武士ノ、八十伴雄モ、オノガ負ヘル」神代紀、下四十「諸部備行」

ども-ばん（名）［供番］供ヲスル番ニ當ルコト。又、其番ニ當リタル人。

ども-ばら（名）［供腹］オヒバラ（追腹）ニ同ジ。籾井家日記、青野合戦「シカジカノ事ドモ申シ、諸ク自害ス、供腹スルモノモ在リ」

ども-びき（名）［友引］次條ノ語ノ略。[illegible]享保十七年八月廿七日、廿九日未也、[illegible]是友引也」[illegible]ノ世話ヲ爲シ、翌日、葬埋スルヲ例トス、丑寅ノ日、[illegible]友引ノ日ヲ嫌テ、延引スルコトアリ

ともびきにち（名）［友引日］陰陽家ニテ、相殺シテ物事ニ勝負ナシトスル日。陰暦正月、及、七月ノ二、八、十四、二十、二十六日、二月、及、八月ノ朔、七、十三、十九、二十五日、三月、及、九月ノ六、十二、十八、二十四、晦日、四月、及、十月ノ五、十一、十七、二十三、二十九日、五月、及、十一月ノ四、十、十六、二十二、二十八日、六月、及、十二月ノ三、九、十五、二十一、二十七日等。此ノ日、葬式ヲナストキハ、他ノ死ヲ誘フトテ、忌日トス。略シテ、ともびき。又、明引トモ云フ。[illegible]（六月、十二月）」

ともびと（名）［供人］供タル人。從者。皇極紀、元年三月「太使翹岐、將ニ其從者（トモビト）拜ノ朝」

ども-ぶと（名）［[illegible]］[illegible]ノ本タクシテ大ナル小船。[illegible]使用ス。トモウチ、カナチ。

ども-ぶね（名）［友船］（一）相伴ヒ行ク船。[illegible]「友舟ハ、日カゲノササン、折ヲコソマテ」月清集「忘ルナコ、キリノ、マヨヒニ[illegible]

ども-べ（名）［伴部］とものべ（伴部）ニ同ジ。

ども-べ（名）［部曲］上古、氏氏ノ下ニアリテ、其業ヲナス一群ノ者ドモ。ウヂヤッコ。カキベ。ヤカベ。[illegible]

ども-まち（名）［供待］（一）供人ガ、主人ノ訪問シタル家ノ門口ナドニテ、其歸リヲ待チ居ルコト。（二）供人ノ休息所トシテ、特ニ設ケタル室。多ク、門ノ入口ナドニ造ル。

ども-まはり（名）［供廻］貴族ノ供人ノ群。供勢。扈從。[illegible]

ども-むし（名）（一）くらげ（水母）ノ異名。[illegible]

どもり（名）［吃］〔おどどもり（言吃）ノ略〕言語ヲ平滑ニ發シ得ズシテ、時時、ツカヘ促ルコト。又、ソノ者。[illegible]

ども-る（自動）[illegible]

ども-る（自動）［點］火、燈、ナドノ[illegible]

ども-る（自動）［吃］[illegible]

ども-ろ（名）[illegible]

ども-ゑ（名）［鞆繪・巴］「鞆ハ、和字。說文「巴、蛇也」[illegible]曲折、巴如巴字、故名[illegible]ルガ巴ノ字ノ如キ意。[illegible]畫キタル文。水、中ヨリ沸キテ外ヘ旋ル象、卽チ、巴ノ字ノ象ヲナス。今、多ク紋所トモシテ、左巴、右巴、二ツ巴、三ツ巴ナドアリ。[illegible]

ども-ゑカハラ（名）［巴瓦］[illegible]

ども-ゑなけ（名）[illegible]

どや（名）[illegible]

どやかやと[illegible]

どやかくやと[illegible]

ハレニ、カタジケナシ」

どや-がへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) |鳥屋| [illegible]「とやかへる」ニ同ジ。 後拾遺集、六、冬「とやかへる、白[illegible]ノ[illegible]ノ、コヰヲナミ、[illegible]ノ、アハセツルカナ」 夫木抄、十八、[illegible]「とやかへる、タナレノ鷹ヲ、手ニスヱテ、キギスナクナル、片野ヘゾ行ク」 後拾遺集、四、秋、上「とやかへり、我ガ手ナラシシ、ハシ鷹ノ、來ルト聞ユル、鈴蟲ノ聲」 金葉集、四、冬「ハシ鷹ヲ、トリカフ澤ニ、カゲミレバ、ワガ身モトモニ、とやがへりケリ」

ど-やき (名) |土燒| つちやき(土燒)ニ同ジ。やきもの(燒物)ノ條ヲ見ヨ。

⁂どや・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 〔どよめくノ略轉〕 騷シクスル。ドヤドヤ騷グ。 [illegible]人女[illegible]「我ガ子ナガラ、サゾウタテカルベシ、人ノ風俗モ見マメウチガ花ゾト、其ノ女、無常ノ起コル程、どやきテ笑ヒケリ」

とや-おもり (名) |鳥屋籠| 鷹ノ、羽ノ脫ケカハル間、鳥屋ニ籠リ居ルコト。とや(鳥屋)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

⁂どや・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) |擊| ドヅク。ドウヅク。ナグル。ウチタフス。

とやせむ-かくや-せむ-と (副) とやかくやと ニ同ジ。 小町踊(寛文)「シホルルヲ、とやせんかくや仙翁花」

どや-どや-と (副) どよむ聲、又ハ、多クノ人ノ集マリ騷グ狀ニ云フ語。ドカドカ。ドサドサ。 嫗冠加留多(正德、近松作)五「雪中ニどやどやと、押シ入リモ成ルマイ」

〔とやま (名) |外山| 〔門山ト云フ說アリ〕 奧山ニ對シテ、端ナル山ノ稱ト云フ。ハヤマ。フモトヤマ。 古今集、廿、神樂歌「深山ニハ、霰降ルラシ、とやまナル、マサキノカヅラ、色ヅキニケリ」 拾玉集、七「三吉野ノ、奧ユカシクモ、思フ哉、とやまハ遠キ、初雪ノ庭」 同、六「誰カ來テ、アハレト云ハン、カヅラギヤ、とやまニダニモ、トフ人ハナシ」 新古今集、十七、雜、上「とやまニテ、ヨシノノオクヲ、オモフカナ、ミユキフルラシ、時雨フルナリ」 後拾遺集、一、春、上「高砂ノ、尾上ノ櫻、咲キニケリ、外山ノカスミ、立タズモアラナム」

とや-まさり (名) |鳥屋勝| 鷹ガ鳥屋ゴモリシテ、羽ノ脫ケカハリタル後、前ヨリモ勢強クナルコト。 定家、鷹三百首、秋「コゾヨリハ、とやまさりスル、片ガヘリ、狩リ行ク末ノ、秋ゾ悲シキ」

とゆき-かうゆき (句) |左行右行| 彼方ニ行キ、此方ニ行キテ。 宇治拾遺、六、第七條「とゆきかうゆきスル程ニ、人人シリニ立チテ」

とゆけ-の-かみ (名) |豐受神| とようけのかみ(豐受神)ノ約。其條ヲ見ヨ。

とよ (名) |豐| 〔富世ノ意カト云フ〕 (一)〔物ノ足ヒテ饒ナルヲ稱フル語。又、勝レタルヲ美メ稱ヘ云フ語。 萬葉集、六廿五長歌「還リ來ム日、相飲マム酒ゾ、此ノ豐御酒ハ」「豐ノ宮人」「豐ノ明」「豐秋津島」 (二)五穀ノ多ク登ルコト。豐年。「豐ノ年」「豐ノ雪」

⁂とよ (名) |樋| とひ(樋)ノ轉。おひばねノ、およばねノ類。〔東京〕

〔とよ-あきつ-しま (名) |豐秋津島| 〔豐ハ美稱〕 日本國ノ美稱。あきつしま(秋津島)ノ條ヲ見ヨ。

〔とよ-あしはら (名) |豐葦原| 〔豐ハ美稱。次條ノ語ノ略〕 日本國ノ美稱。 神代紀、上卅「豐葦原中國」 萬葉集、廿、[illegible]「神代ヨリ、ミクサノ寶、傳ハリテ、とよあしはらノ、シルシトソナル」

〔とよ-あしはら-の-みづほ-の-くに (名) |豐葦原瑞穗國| 〔とよハ、ユタカニサカンナル義ニテ、美稱ナリ〕 あしはらのなかつくに(葦原中國)ト、みづほのくに(瑞穗國)トノ條ヲ見ヨ。 神代紀、上卅「天神謂伊弉諾尊、伊弉冉尊曰、有豐葦原千五百秋瑞穗之地、宜汝往脩之」(第一本作[illegible]) 神武紀、一「昔我天神、高皇産靈尊、大日孁尊、擧此豐葦原瑞穗國、而授我天祖彥火瓊瓊杵尊」

ど-よう (名) |土用| 〔土旺ノ訛〕 (一)曆ニ、十八日一期ノ稱。一年ニ四度アリ。春の土用ハ、清明ノ後十三日(四月十七日)ヨリ十八日間ニシテ、終レバ立夏ナリ。夏の土用ハ、小暑ノ後十三日(七月廿日)ヨリ立秋ニ至ル。秋の土用ハ、寒露ノ後十三日(十月廿日)ヨリ立冬ニ至ル。冬の土用ハ、小寒ノ後十三日(一月十七日)ヨリ立春ニ至ル。土旺。 簠簋內傳、三「四季土用事」 假名曆略注「土用トハ、土ノ氣、始テ事ヲ主ドルノ日也、凡一歲ノ內、五行ノ氣、互ニ循環シテ四時ヲワカナ、以テ歲序ヲナス也、云云」 (二)俗間ニ、專ラ、夏の土用十八日間ノ稱。 易林節用集(慶長)上、時候門「土用、ドヨウ」 平治物語、三、牛若奧州下事「コノ童、失セタリトモ、誰カ尋ネ候ベキ、土用ノ死人ヲ、盜人ノ取リタルニコソ候ハンズレ」 吾妻鏡、廿六、貞應二年六月十二日「被レ問二陰陽道一之處、上棟事、土用中可レ有二其憚一之由、親職申レ之」

どよう-げいこ (名) |土用稽古| かんげいこ(寒稽古)ノ條ヲ見ヨ。

〔とようけ-の-かみ (名) |豐受神| 〔豐食の神ノ義、豐ハ美稱〕 約メテ、とゆけのかみ。保食ノ神。伊勢ノ內宮ノ大神宮へ、御饌ヲ奉ラセタマフ意味ニテ祀レルガ、殆ンド同格ニ成リテ、一ニ外宮トモ云フ。 古事記、上卅「[illegible]神、[illegible]外宮之度[illegible]」 皇太神宮儀式帳 [illegible]

どよう-さぶらう (名) |土用三郎| 夏ノ土用ニ入リシヨリ三日目ノ稱。其日ノ氣候ニテ、耕作ノ豐凶ヲトスルニ云フ。俗間ニ、梅雨太郎、八專二郎、土用三郎、寒四郎ナドノ稱アリ、一年中ニ於ケル四ツノ厄日トス。 てんいちたらう(天一太郞)ノ條ヲ參見セヨ。

どよう-だけ (名) |土用竹| 又、どようちく。ほうわうちく(鳳凰竹)ニ同ジ。

〔とよ-うぢびと (名) |豐氏人| 氏人ノ美稱。 夫木抄、廿九、[illegible]ヤ、ミツノ柏ノ、秋ノ色ニ、とようぢびとノ、袖サヘゾ照ル」

どよう-なみ (名) |土用浪| 夏ノ土用中ニ、海上ニ、風無クシテ發ツ浪。

どよう-ばき (名) |土用掃| すすはらひ(煤拂)ノ條ヲ見ヨ。

どよう-ぼし (名) |土用乾| むしぼし(蟲干)ニ同ジ。曝涼。 好色一代男(天和、西鶴)六「合點ガユカヌト、夫婦鼻ツキ合ハセアリケルニ、今日ハ傳授物ノ土用干スルト仰セラレケル」 井華集(高井几董)夏「着スグレヌ、伯母ノ小袖ヤ、土用干」

とよ-ぎ (名) |豐生| 〔豐生ノ意〕 草ノ名。ととき(薺)ニ同ジ。初生、莖トモニ、軟カニシテ、食用ニヨロシ。

〔とよ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) |騷動|喧嘩| とよむ(響動)ニ同ジ。カマビスシクス。 崇神紀、十年十月「海外荒俗、騷動未止」 景行紀、五十一年八月「晝夜喧譁、出入無禮」 推古紀、三十六年三月「汝肝稚之、若雖心望、而勿諠言、必待群言以宜從」

〔とよさか-のぼり (名) |豐榮登| 次條ノ語意ニ同ジ。 [illegible]「[illegible]豐榮登ニ稱辭竟へ奉ラクヲ」

〔とよ-さか-のぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) |豐榮登| 盛ニ映エテ昇ル。(朝日ナドニ

云フ」 金葉集、五、賀「曇リナク、とよさかのぼる、朝日ニハ、君ゾ仕ヘン、萬代マデニ」

とよ-とし (名) [豐年] (左傳、桓公三年「大有レ年」公羊傳「大有レ年、何大豐年也」注「謂二五穀皆大成熟一」) 穀類ノ生立チ、勢盛リニテ、登ノ大ナルコト。トヨノトシ。ホウネン。豐歳。富歳。 夫木抄、一、立春「アラ玉ノ、今日とよとしノ、始メトテ、民ノカマドモ、賑リ立チソフ」

〔**とよ-の-あかり** (名) [豐明] (豐ハ稱辭ナリ、あかりハ、御酒ニテ顔ノ照リ赤ラブ義ト云フ) (一)泛ク、朝廷ノ御宴會ノ稱。豐饒ナル酒宴。大宴會。節會。 古事記、中(景行)七十一「天皇聞看豐明之日」同、下(仁徳)五「爲[illegible]豐[illegible]」同卷(履中)三「坐大嘗而爲豐明之時」 宇津保物語、藤原君「七日七夜、とよのあかりシテ、打上ゲ遊ブ」 (二)豐明節會ノ略。古ヘ、新嘗祭ノ翌日(陰暦、十一月、中ノ辰ノ日)、天皇、新穀ヲ召シアガリ、群臣ニモ賜フ儀式。吉野ノ國栖、御贄ヲ供シ、歌笛ヲ奏シ、治部省雅樂寮ノ工人ハ立歌ヲ奏シ、大歌所ノ別當ハ、歌人ヲ率ヰテ五節ノ歌ヲ奏シ、舞姫、參入シテ五節ノ舞ヲ演ズ。 萬葉集、十九、四十長歌「吾大君ノ、神ナガラ、オモホシメシテ、豐宴、見シマス今日ハ」 催馬樂、美濃山「止與乃安可利ニ會フガ樂シサヤ」 續紀、三十、神護景雲三年十一月「新嘗ノ直會ノ、豐乃明聞コシメス」 類聚國史、九、天長五年十一月[illegible] 源、四十六、總角、十「とよのあかりハ今日ゾカシト、京思ヒヤリ給フ」 同、四十、幻「宮人ハ、とよのあかりニ、急グ今日、日カゲモ知ラデ、暮シツルカナ」 [illegible]合「新嘗會ノ日、雨ノフリクラスニ、源少將、日カゲ[illegible]今日カナ、江侍從、[illegible]テラス、とよのあかりト、思ヘドモ、トイヘリケリ」

〔**とよ-の-あそび** (名) [豐遊] 豐明ノ時ノ宴樂。 神樂歌、篠「笹ノ葉ニ、雪フリツモル、冬ノ夜ニ、とよのあそびヲ、スルガ樂シサ」

〔**とよ-の-とし** (名) [豐乃年] とよとし(豐年)ニ同ジ。 萬葉集、十七、廿二「新シキ、年ノハジメニ、豐乃登之、シルストナラシ、雪ノ降レルハ」 夫木抄、十八「世ヲイノル、神ノシルシハ、とよのとし、フカクツモレル、ミユキニゾシル」

とよ-の-みそぎ (名) [豐禊] 古ヘ、大嘗會ノ後、河原ニテ行ハセラレシ御禊。 拾遺集、十一、戀、一「アマタミシ、とよのみそぎノ、モロビトノ、君シモモノヲ、思ハスルカナ」 玉葉集、十六、雜、三「雲晴レシ、豐のみそぎニ、思ヒ知レ、ナホ日ノ本ノ、曇リナシトハ」

とよ-の-みや (名) [豐宮] げくう(外宮)ノ異稱。 續後拾遺集、廿、神祇、太神宮ニヨミテ奉リケル百首ノ歌ノ中ニ「カケマクモ、カシコキとよの、みやバシラ、ナホキ心ハ、ソラニシルラム」

〔**とよ-の-みやびと** (名) [豐宮人] (豐ハ美稱) 宮人ヲホメテ云フ語。 後拾遺集、十九、雜、五「多カリシ、豐の宮人、サシワケテ、シルキ日影ヲ、アハレトゾ見シ」 續後拾遺集、十六、雜、上「ワキテ見ル、心ノ色モ、タノマレズ、ソレトモ知ラヌ、豐の宮人」

〔**とよ-はた-ぐも** (名) [豐旗雲] (豐ハ美稱) 旗ノ靡ケル如ク、横引キタル雲。 萬葉集、一、十三、長歌「渡津海ノ、豐旗雲ニ、入日サシ、今宵ノ月夜、清ク照リコソ」 新拾遺集、十三、戀、三「待人ハ、コヨヒモイサヤ、入日サス、とよはた雲ノ、ユフグレノ空」 新續古今集、十七、雜、中「ワタノ原、[illegible]日モ見エズ、クレハテテ、とよはた雲ニ、カカル白浪」

〔**とよ-ほぎ** (名) [豐壽] (豐ハ美辭) 壽ギ祝フコト。(神壽ニ對ス) 古事記、中(仲哀)[illegible]

とよみ (名) [響] トヨムコト。ヒビクコト。 辨内侍日記、下「杖ノ、クタクタト折ルル程打チタレバ、御所ヲ始メ參ラセテ、公卿殿上人、とよみヲナシテ笑フ」

どよみ (名) [響] ドヨムコト。響キ。ヒビクコト。 用明天皇職人鑑(寶永、近松作)五「菅掾ガサゲテ、シヅシヅト、味方ノ陣ニ入リケレバ、宮方一度ニ聲ヲアゲ、イヤオ手柄オ手柄ト、ドットどよみモ、ヤマザリケリ」

〔**とよ-みき** (名) [豐御酒] (豐ハ美稱) 酒ノ美稱。 [illegible]「モモナガニ、イヲシナセ、豐御酒、タテマツラセ」 [illegible]ノ、[illegible]御酒ニ、[illegible]ヒニケリ」 同、同、長歌、カヘリコム日、相飮マム[illegible]

〔**とよ-みてぐら** (名) [豐御幣] [illegible] 後拾遺集、廿、神祇、六[illegible] 集、十九、神祇[illegible]ヤ、とよみてぐら[illegible] デ、カクノ如ケト、イノリモ[illegible]

〔**とよ・む**・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [響動] (古事記、上、三十九「雉子ハ登與牟」) 字類抄「動、トヨム」 [illegible]。サワグ。ドヨメク。 崇峻即位前紀「軍衆三度驚駭」 景行紀、四十年六月[illegible] 萬葉集[illegible]山とよむマデ、鳴ク鹿ニ、ワレ劣ラメヤ、獨リヌル夜ハ」 源、十三、明石「[illegible]ナキとよむ聲、雷ニオトラズ」 萬葉集、二十、長歌「奧見レバ、白浪散動」 同、六、廿「足引ノ、山ニモ野ニモ、御狩人、得物矢手挾ミ、散動ミタル見ユ」 同、七、[illegible]「大海ノ、水底響ミ、立ツ浪ノ、依ラムト思ヘル、磯ノ清サ」 古今集、四、秋、上「秋萩ニ、ウラビレ居レバ、足引ノ、山下とよみ、鹿ノ鳴クラム」 萬葉集、六、四十、長歌「山モ動響ニ、さ雄鹿ハ、妻呼ビ令響」

〔**とよ・む**・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [響動] 響動ムヤウニナス。トヨモス。トヨム。 萬葉集、十五、八[illegible]戀ナバ、戀ヒモ死ネトヤ、[illegible]

[illegible]タルベキ、[illegible]レヤ、[illegible]サクナル聲ノ、[illegible]

とよ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [響動] とよむ(響動)ニ同ジ。 [illegible]

どよ・め・く・ク・ケ・カ・キ・ク (自動、四) [響動] [illegible] ノ、ヤゾノシマ[illegible] [illegible]ノ如ク、[illegible]カシコトゾ、どよめくル[illegible]

〔**とよ・む・す** [illegible] [響動] [illegible] 「山ゴモリ、[illegible]ノ時ニ、ホトトギス、我ガ住ム里ニ、[illegible]」 [illegible] 八[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]クバ、[illegible] リ、時[illegible]、心アツバク夜、[illegible]

〔**とよ・る**・ル・レ・ウ・リ・レ (自動、四) [外寄] [illegible] ノ方へ寄ル。[illegible] カキ出ツル人ハ、アリクレド[illegible] アハ[illegible] ナリテノ[illegible]

とよ・る・ル・レ・ウ・リ・レ (自動、四) [illegible] 語[illegible] [illegible] 宇[illegible] ルガ[illegible] [illegible]

〔**トラ** (名) [虎] [illegible] ノ[illegible]

ノ痰、遼ノ義、轉曲ノ線ニテ、國語ノつ水ト轉ジタル、或ハ、虎豹ノ肌ヲ稱スル言、(白鳥庫吉ノ說)或ハ、人ヲ捕ル意ノ名ト云フハイカガ。或ハ云フ、支那ニテ、楚人、虎ヲ於菟ト云ヒ、於ハ發聲ニテ、上ノ於越ノ如シ、其菟ヲ傳ヘテ、らノ助語ヲ添ヘテ云ヘルナリト云フ。此說モ附會ナラムカ〕猛獸ノ名。亞細亞大陸ニ多シ。高サ三尺許、長サ六尺許、大ナルハ丈許。頭、猫ニ似テ、體ニ比ブレバ小サク、尾長シ。獅子ニ次ギテ猛クシテ、他獸ヲ捕リ食フ。背ノ毛、黃赤色ニシテ、遍ク太キ黑縞アリテ美シ、コレヲ虎斑ト云フ。敷物ナドトシテ珍トス。面、喉、腹下、色白シ。倭名抄、十八毛群名「虎、止良」萬葉集、十六「虎ト云フ神ヲ、イケドリニ」同、同十六「虎ニ乘リ、古屋ヲ越エ、青淵ニ、鮫龍取リ來ム、劍刀モガ」平家物語、四、鵼事「頭ハ猿、胴ハ狸、尾ハ蛇、手足ハ虎ノ如クニテ、鳴ク聲、鵼ニゾ似タリケル」吾妻鏡、三十七、寬元四年三月十三日「肥前國、小值賀島ノ延(名、トラ)始中原…」…本草和名、上「…虎…」「虎…」…(現今朝鮮、虎ノ狼、斑)和漢三才圖會(異本)三十八、獸「虎、保宇」虎ノ威ヲ借ル狐トハ、尊長ノ權威ヲ負ヒテ、人ヲオドスコト。(下ノ出典ヲ見ヨ)…狐也、今王之地方五千里、帶甲百萬、而專屬之昭奚…

東ハ故北ヲ之非也、…也、其實畏王之甲兵也…(享保、文耕堂)惡賣段「心ノ底ノ二股竹、虎の威ヲ借ル狐トハ、キ「ロツク上ニ現ハレタリ」虎ノ尾ヲ踏むト云フハ、非ノ危險ナルニ喩フル語。易經、履卦「履虎尾、不咥人」書經、君牙「心之憂危、若蹈虎尾、渉于春氷」盛衰記、十一、靜憲與入道問答事「…ノ鬚ヲ捋デ、虎の尾を踏む心地セラレケレドモ」太平記、五、大塔宮熊野落事「主上ハ囚ハレサセ給ヒヌト聞エシカバ、虎の尾を履むオソレ御身ノ上ニ迫リテ」謠曲、安宅「笈ヲオ取リ肩ニ打懸ケ、虎の尾を踏み、毒蛇ノ口ヲ遁レタル心地シテ」

とら（名）【寅】〔虎ノ義〕（一）えと(干支)ノ名。其條ヲ見ヨ。（二）とき(時)ノ名。其條ヲ見ヨ。謠曲、老松「コノ松陰ニ旅居シテ、風モ嘯ク寅ノ時、神ノ告ケヲモ待チテ見ン」（三）方角ノ名。えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。寅の月ト云フハ、正月。

どら（名）【銅鑼】〔正字通「鑼、音羅、樂器、以銅爲之、形如盆」又、どうらト〕樂器。紫銅ニテ作リ、形、銅盤ノ如ク、枹モテ撃ツ。今、多ク、佛家ニテ用ヰル。和漢三才圖會、十八、樂器類「銅鑼、按、銅鑼本軍鼓、作之、今民家亦往用、爲夜戒守之具、(興、讀ヤハンダイコ)五用笑、其形如鐃、黑以唐金作」國性爺合戰(正德、近松作)三「堀ノ水、藍ニ似テ流ヲ引カ如ク、末ハ黃河ニ流レ入リ、櫓門堅ク鎖セリ、城内ニハ夜廻リノ銅鑼ノ聲喧シク、矢間ニ簇、隙間ナク」

どら（名）【墮落】〔だらく(墮落)ノ略轉〕どらもの(墮落者)ノ略。浮世風呂、文化、三四、初編、上「私ドモガ孝行ハ、金ノ釜モ掘レネヘカラ、息子ノ釜ヲ掘ッテ來ル、アヤ、ツデモ合セルクラヰナ事サネ、ソレデモイイノサ、今ノどらガ、ソレ程ナ身上ヲ受ケ取ッテ、アノザマハ、不孝ノ罰ダ」

どらい（名）【渡來】外國ヨリ海ヲ渡リテ來ルコト。傳來。

とらう（名）【徒勞】空シク骨折ルコト。無益ノ苦勞。ムダボネヲリ。高適詩「遺行今若此、微祿果徒勞」梁武帝詩「不見佳人來、徒勞心斷絕」

どらうつ（名）【銅鑼打】〔墮落ヲ盡ス意カ〕身上ヲ果タスコト。金ヲ、ツカヒ果スコト。吉原徒然草、寶永「買手皆次第ニダマサレスベキニ定リタレバ、程ナクどらうつベシ、有德ナル大盡ナリトモ、オコタルマナク此里ニ通ハバ、ヤガテ金盡キヌベシ」

トラがあめ（名）【虎雨】古へ、陰曆五月二十八日ニ降ル雨ノ稱。大磯ノ虎ガ、曾我祐成ニ別カレシ時ノ淚ガ雨トナリシモノト云フ。又、曾我の雨。虎が淚雨。心中刃氷朔日(寶永、近松作)上「油斷サセジト且那カラ、灰マブレナル旅猫ノ、顏フリアゲテ、ヤア、虎が淚ノシルシガ見エテ、空ガ曇ッタ、五月廿八日、雨ニ粒テモ降ラネバオカメ」おらお春(文政、一茶)五月廿八日「虎が雨ナド轉ンジテ、ヌレニケリ」

トラがく（名）【度羅樂】度羅國(一名、耽羅國、今ノ朝鮮ノ濟州島)ヨリ傳來シタル雅樂。續紀、十一、天平三年七月「定雅樂寮、雅樂生員、大唐樂三十九人、百濟樂廿六人、高麗樂八人、新羅樂四人、度羅樂六十二人」

とらか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)【盪蕩】〔とろかすノ轉、とらくるノ他動〕（一）盪ケシム。心ヲ喪ハシム。惑ハス。タブラカス。字類抄「蕩、トラカス、盪、タラス、ダマス」盛衰記、六、幽王褒姒烽火事「凡、人ヲとらかすトテハ、化シテ婦人トナリテ、顏色ヨク」今昔物語、廿九、三十三語「コノ蕩ハ、此ノ蛇ニ被盪タルニコソ有タレ」同、同、三十九語「蛇、女、云云、ヲ見テ、愛欲ヲ發シテ蕩シタレバ」（二）金屬ナドヲ、鎔ケシム。トカス。鑠

トラかむり（名）【虎冠】漢字ノ上ニアルトノ稱。虎、虛、處、虞ノ如シ。

トラぎす（名）【虎鱚】魚ノ名。きす(鱚)ノ條ヲ見ヨ。

とら・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二)【盪】とろく(盪)ニ同ジ。沙石集、八下、第十三條「執心ノ、とらくる事ヤ有ルト思ヒテ」同、同條「觀念坐禪モセンハ、心モとらけ、妄想モ消ンキ事、疑フベカラズ」盛衰記、六、康賴祝言事「路中無雙ノ美人ナリケリ、魍魎、鬼神モとらけ、五衞ノ法モメデ給フ許リナリケレバ」

とら・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二)【別】ワカル。チル。字鏡、八「仳、別也、分也、和加留、止良久」名義抄「散、トラク」

ドラクマ（名）〔英語、Drachma.〕西洋量目ノ名。だらくまニ同ジ。

とらぐみ（名）まるばぐみノ異名。天治字鏡、七廿「蘭茹、五月採根曝干、止良久彌」

トラげ（名）【虎毛】虎斑ニ同ジ。とら(虎)ノ條ヲ見ヨ。神樂歌、其駒「アシブチノヤ、森ノ下ナル若駒、率テ來、足驛ノとらげの駒」

トラげうま（名）【虎毛馬】虎ノ毛色シタル馬。駼馬(說文「駼、黃牛虎文」)倭名抄、十一牛馬毛「駼、虎毛馬也、云云、騎馬」字鏡、二「駼、止良介」

トラけん（名）【虎拳】立チナガラ藤八拳ヲ打チ、勝負ニ因リテ、虎ト、和藤內ト、其老母トノ身振リヲスルモノ。虎ハ母ニ勝チ、母ハ和藤內ニ勝チ、和藤內ハ虎ニ勝ツ。和藤內ハ拳ヲアゲテ、虎ヲ擊ツ勢ヲナシ、虎ハ兩手ヲ握リテ、這フ狀ヲナシ、母ハ腰ヲカガメテ、杖ヲ突ク姿ヲナス。座敷ニ衝立ナドヲ立テ、其前後ヲメグリテ、出合ノタビニ拳ヲ打チテ、勝負ニ因リテ、三者ノ態ヲナス酒席ノ座興ナリ。(三竦ノ條ヲ見ヨ)

※**どら-おゑ** ドラゴエ (名) ダミテ、下卑タル聲。

トラ-おろ (名) 虎代 コダイ。虎ノ皮ノ敷物カ。 [illegible]八、[illegible]ノ下ニ[illegible]代、[illegible]虎代二

〜**とら・す**・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 取 〔取ルノ敬語〕 取リタマフ。 古事記、下(仁徳二)「吾ガ手登良須モ」 同、同(雄略)三十九「春日袁杼嬢ヲ、ホダリ登良須母」 皇極紀、三年六月「我ガ手[illegible]モヤ」 仁徳紀、四十年二月「[illegible]等雖佐ネ」 萬葉集、十九廿「[illegible]河立テ、取左ム鮎ノ、シガ[illegible]ハ、吾ニ[illegible]ケ、念ヒシ念ハバ」 催馬樂、鷹子「鷹ノ子ハ、云云、手ニスヱテ、云云、鶉とらさムヤ、サ君ダチヤ」 萬葉集、十三 八廿 長歌「ミユキフル、云云、ネハリ梓(弓)ヲ、大御手ニ、とらしタマヒテ」 仁徳紀、三十年九月「[illegible]難波人、鈴船苦羅齊(命令形)」

〜**とら・す**・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) 取 受ケ收メシム。受ケ取ラシム。 竹取物語「彼ノ浦ニ居ル王卿ニ、コガネヲとらす」 枕草子、二、十七段「ワラハベヲ、ラウタガリテ、ヲカシキモノナド、とらするニ、習ヒ、常ニ來ツツ」 宇治拾遺、九、第三條「志バカリニ、コレヲトテ取らすれバ」 源、三十六、横笛三「聰物ニトテ取らせ給ヘル」

〜**とら・す**・スル・スレ・セ・セ・セ(助動) 令取 取ラシム。得サス。與フ。物ヲヤル。 夫木抄、十五、秋「乞フ人ニ、チチノ黄金ハ、取らすトモ、秋クルルコソ、惜シクアリケレ」 萬葉集、七十八「愛モガト、乞ハバ取らせム、貝拾フ、吾ヲ沾スナ、奥ツ白浪」 枕草子、四、四十四段「ククモノ、廣キ餅ナドヲ、物ニ取入レテとらせタルニ、ムゲニ仲ヨクナリテ」 小大君集「瓜ヲ黄ナル色紙ニツツミテ、大舍人ナリケル翁ニとらせタリケレバ」

トラスト (名) 〔英語、Trust.〕 獨立セル二箇以上ノ同業者ガ、互ニ競爭ノ結果、生産過剰、價格低落ナドノ弊害ニ陷ルヲ避ケ、更ニ進ミテ市場ノ獨占ヲ目的トセムタメ、結託シテ其企業ノ全部、又ハ、一部ニ就キ、管理人ヲ置キ、其管理人ニ全權ヲ委ネテ、營業スルコト。即チ、企業家ノ同盟。

トラック (名) 〔英語、Truck.〕 (一)貨物ヲ運搬スル手押シノ無蓋車。トロッコ。略シテ、トロ。(二)貨物自動車。

トラ-つぐみ (名) 虎鶫 ぬえ(鵺)ノ條ヲ見ヨ。

とら-でん (名) 團亂旋 〔體源抄、三、上「團亂旋、抑此曲ハ、唐ノ太宗皇帝ノ后宮ノ御製作ト云ヘリ」〕 又、とらんでん。舞樂ノ曲ノ名。近世絶エテ、見ル能ハズ。其傳來、奈良朝時代ニ、皇帝破陣樂ト同時ナリト云フ。 教訓抄、二「此曲モ、カラ國ノ舞ニテ侍リ、作者未勘之、或説云、大戸ノ眞[illegible]作之、而古人語云、貞觀、此朝人ナリ、此曲ハ唐ノ舞也、或書云、后帝團亂旋、以之推之、皇帝ハ玄宗造ナリ、當曲ハ后宮造リニヤ、此朝ヘ渡ル事モ、皇帝ト一度ニ渡タルナリ、又不審ナキニアラズ」 新撰要記鈔「團亂旋、新樂、有舞、玄宗后作、[illegible]曲、白[illegible]」「獅子とらでんノ舞樂ノ[illegible]」 長唄、相生獅子「獅子團亂旋ノ舞樂ノミギン、牡丹ノ花房ニホヒミチミチ」

※**どら-ねコ** (名) 〔野ねこノ轉ナラム〕 飼主無クテ、諸所ヲ、サマヨヒ歩ク猫。

トラ-の-かは トラノカワ (名) 虎皮 虎ノ毛皮。 宇津保物語、俊蔭「清ク涼シキ林ノセンダンノ陰ニ、とらのかはヲ敷キテ三人ノナラビ」

トラ-の-くち (名) 虎口 〔字ヲ音訓シタル語〕 危難ニ迫リタルコトニ譬ヘ云フ。虎口(ココウ)。 [illegible]鏡、十九、久米皿山「大塔ノ尊雲法親王バカリハ、虎ノ口ヲノガレタル御サマニテ、ココカシコ、サスラヘオハシマス」

トラ-の-こ (名) 虎子 珍ラシク、又ハ、大切ニシテ手放サザル物ニ譬ヘ云フ語。(虎ハ子ヲ非常ニ愛スル故ニ云フ)

トラ-の-こ-わたし (名) 虎子渡 〔[illegible]〕 [illegible]識、宋、周密ニ[illegible]云、[illegible]生三子、必有一彪、彪最獰惡、能食虎子也、余聞獵人云、凡虎將三子渡水、慮先往則彪食子、則必先負彪以往彼岸、[illegible]而[illegible]子、次至、則負子[illegible]、[illegible]以又[illegible]、最後始[illegible]以往、蓋[illegible]防、[illegible]食其子故也。トアル[illegible]リ出ヅ」 碁子ニテ行フ遊戯ノ一、[illegible] 重寶記(高井伴寛)「手ナグサミニハ、十六目石、十六[illegible]足、云云、下手打、[illegible]、虎の子渡し」

トラ-の-まき (名) 虎巻 〔太公望ノ著ト云フ兵書、六韜ノ一篇ニ虎韜ト云フ巻アリ〕 (一)兵法ノ奥秘ヲ記シタル書。(二)轉ジテ、祕事、祕傳ヲ記シタル文書。 [illegible]「天狗ニ授カル飛行ノ術、鬼一ガ傳ヘシ一巻ノ、太刀風騒グ虎の巻、獅子奮迅虎亂入」(ココハ源義經ガ、鬼一ヨリ授カリシト云フ祕書ヲ云フ) (三)名策。

トラ-の-ゐ (名) 虎威 とら(虎)ノ條ヲ見ヨ。

トラ-の-を (名) 虎尾 (一)草ノ名。てんなんしゃう(天南星)ニ同ジ。(二)[illegible]草科ノ草ノ名。原野、[illegible]ニ生ズ、[illegible]、宿根ヨリ芽ヲ出シ、高サ二三尺ニ達シ、葉ノ長サ三四寸、[illegible]、鋸齒アリテ互生ス。夏ノ末、莖ノ端ニ穂ヲ成シテ、[illegible]小白花ヲ綴[illegible]、[illegible]、獸ノ尾ノ如シ。葉ハ食用トナル。ヲカトラノヲ。珍珠菜 [illegible] [illegible]ニシテ淡紅ナリ。枝ニ密付シテ開ク[illegible]コト、獸ノ如シ。[illegible]、[illegible]ナル所アルコト虎尾ノ斑ノ如シ。[illegible]

トラ-の-を-もみ (名) 虎尾樅 〔[illegible]尾ニ似タレバ云フカ〕 たうひ(唐檜)ニ同ジ。

〜**とら-は・る** トラワ・ル・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 囚 捕ヘラル。[illegible]

とら-はれ トラワレ (名) 囚 (一)捕ヘラルルコト。「とらはれト爲ル」 (二)捕ヘラレタル人。トラヘビト。囚人。囚人。 (三)イケドラルルコト。又、其人。捕虜。擒。

ドラ-びと (名) 度羅人 古ヘ、度羅國ノ人[illegible]。[illegible]、他人ヲ卑シメテ云フ語。 [illegible]

トラ-ふ [illegible]

〜**とら・ふ**・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 捉 [illegible]、又、捕ル、捕ヘ取ル[illegible]、[illegible]

テ、宇治ニ等頭倍ツ」（忍熊王ノ屍ヲ）枕草子、八、七十四段「二ツバカリナル兒ノ、云云、イトチヒサキ塵ナドノアリケルヲ、目ザトニ見ツケテ、イトヲカシゲナルオヨビニとらへて」源、四、夕顔二十「イカガスベキトテ、手ヅカラとらへ給ヘレバ」大和物語、中「カサミノ袖ニ、螢ヲとらへテ」「袂ヲとらふ」（二）捕ル。生捕ナドニスル。抑ヘテ搦メ取ル。ツカマヘル。ツラマヘル。トラマヘル。捕　字類抄「囚、トラフ、捕フ、トラフ」續日本紀、十二年十二月、敕「於下官阿田大夫、捕其事、伏罪言」竹取物語「月ノ都ノ人マウデコバ、とらへサセン」「人ヲとらふ」

トラ-ふぐ (名) 虎河豚 河豚ノ一種ニテ、其背ニ虎斑アルモノ。

トラ-ふだけ (名) 虎斑竹 まだらだけ(斑竹)ニ同ジ。

トラ-ふまめ (名) 虎斑豆 大豆ノ一種。子、白クシテ、黑キ文アルモノ。

とらへ-びと (名) 囚人 〔捕ヘ人ノ義〕メシウド。トラヘモノ。シウジン。又、トリコ。倭名抄、二十五乞盜類「囚人、止良倍比止」字類抄「囚人、トラヘヒト、囚人也、又囚在獄也」持統紀、九年九月「原放行獄徒」（原放、集解在三行獄之下）

とらへ-もの (名) 囚 前條ノ語ニ同ジ。孝徳紀、大化二年三月「自今以後、國司郡司、云云、宜遣使者、諸國流人、及獄中囚、一皆放捨」

トラホオム (名) 〔獨逸語、Trachom.〕眼病ノ名。一種ノ病毒ヨリ傳染ス。眼瞼ノ裏ニ、小サキハ粟粒、大キナルハ米粒程ノ腫物、數多ク出來テ、色、初ハ透明ニシテ、次第ニ白クナリ、遂ニ赤ミアル黄色トナル。後ニ痒クナリ、擦スレバ熱ヲ生ジテ病ム。終ニ眼球ヲ侵ス。擦目。裏目。粗糙性結膜炎、顆粒性結膜炎。

ドラマ (名) 〔英語、Drama.〕（一）演劇。芝居。狂言。劇。（二）戲曲。脚本。院本。

トラ-まだら (名) 虎斑 トラふ(虎斑)ニ同ジ。トラ(虎)ノ條ヲ見ヨ。

とらま・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 捕 「捕む」ノふまふ、住むノすまふト同趣。轉ジテ、つらまへる、つかまへるノ語調ニ成ル語カ」トラフ。狂言記、太刀奪「ヂットとらまへテ、ゴザリマセイノ、繩ナヒマスルハイノ」三河物語(大久保彦左衛門)上「とらまへテハリツケ、クシ指シニモシテ無念ヲハレン」

とらま・へる (動) 捕 つかまへるニ同ジ。

ドラム (名) 〔英語、Dram.〕英國ノ量目ノ名。だらむニ同ジ。

トランク (名) 〔英語、Trunk.〕鞄ノ大イナルモノ。旅行鞄。手提鞄。

どらん-でん (名) 團亂旋 舞樂ノ曲ノ名。どらでん(團亂旋)ニ同ジ。字類抄「團亂旋、トランテン、壹越調」

トランプ (名) 〔英語、Trump.（其サニハ、骨牌ノコトヲかあどト云ヒ、勝負ノ切札ノコトヲとらんぷト云フヲ誤リシ語）〕西洋ヨリ傳來シタル骨牌ノ一。現今、使用セラルルモノハ、五十二枚ニテ一組トシ、すぺいど、はあと、くらぶ、だいやもんど、ノ四ツニ分カレ、各、王、女王、兵卒ノ像アルモノ三枚ト、一點ヨリ十點ニ至ルモノ十枚ト、都合十三枚ヅツニテ（各札ニ點數ノ高下、勢力ノ強弱アリ）コレヲ各人ニ配リ、種種ノ方法ニテ勝負ヲ爭フ。

どら-もの (名) 墮落者 〔蕩ケテ取締ラヌモノノ意〕取リシマリナキモノ。放蕩ナルモノ。ノラモノ。ノラクラモノ。道樂者。略シテ、どら。

どら-やき (名) 銅鑼燒 〔形、銅鑼ニ似タレバ云フ〕餅菓子ノ一。饂飩粉ヲ水ニコネテ、圓片トシ、燒キテ表裏二枚ノ中ニ餡ヲ包ミタルモノ。銀つば（菓子ノ名、金鍔燒ノ類）ノ變ナリ。形ヲ小サクシタルヲ金鍔ト云ヒ、四方ヲ燒キ、好キ餡ヲ用キタルヲ、みめよりト云フ、見目より心ノ意ナラム。嬉遊笑覽、十、上、飲食「雍州府志ニ、糗餠ハ米ノ粉ニ煉餡ヲ包ミ、ヤキ鍋ニテ燒タル、其形ヲモテ銀鍔ト云ト有リ、今ノどら燒ハ、又、金鍔ヤキトモ云フ、コレ麩ノ燒ト銀鍔ト取マゼテ作リタルモノナリ、どら燒ト八形、金鼓ニ似タル故、鉦ト名ヅケシハ、形ノ大キナルヲ云ヒシガ、今ハ形、小クナリテ金鍔ト呼ナリ」浮世風呂（文化、三馬）三編、下「亭主ト云フモノハ、ヤキモチ深イモンダニセヨ、アノ面テヤキモチヂャア、銅鑼燒きダァナ」

どら-やくし (名) 寅藥師 寅ノ日ニ藥師佛ニ詣ヅルコト。紀略、後篇、十二、長和三年庚寅五月五日庚寅「東西京貴賤、擧首參詣廣隆寺、人云、寅年五月五日庚寅日、藥師如來奉安置此堂之故也」嬉遊笑覽、七、祭會「世說、寅藥師トテ、寅日、藥師ニ詣ス、按ルニ、山城葛野ノ太秦藥師ノ像ハ、長和三年甲寅五月五日甲寅日、安置シケル由、云云、コレニヨリテ、コノ藥師ヲ寅藥師ト云ヒナラハセリ」

とられん-ばう (名) 又、とられんぼ。訛シテ、とうれんばう。妓女ニダマサレテ、金、物ナドヲ取ラルル客。女郎ノ方ヨリ物ヲ取ル客ヲ、とりんばうト云フ。又、とりんぼ。用捨箱（柳亭種彦）二「元吉原ノ流言ニ、とられん坊ト云フコトアリ、是ハ遊女ニ誑サレ、金銀ヲとらるる坊ト云フ意ナリ、又、とりん坊ト

云フハ、是ニ反シテ、客ノ方ヘ金銀ヲとり坊也」續山井（寛文）「兒櫻、我ゾ心ヲ、とられんぼ」色音草子（寛永）吉原「マドニ見エケル侍ノ、異名ヲ云ヘバ、とられんぼ」吾嬬物語（寛永）「ヤカレッツ、金ノアルホド、とられんぼ、後ハカナラズ、桶伏ト知レ」鳥本洞房五、園「京ニテそめき衆ト云フヲ、吉原ニテとりん房ト云フ」町歌「取坊相連被上衣」

とり (名) 酉 〔鷄ノ義〕（一）えと(干支)ノ名。其條ヲ見ヨ。（二）とき(時)ノ名。其條ヲ見ヨ。（三）方角ノ名。えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。

とり (名) 鳥禽 〔あいぬ語、Chiri〕（一）二翼、二脚ニシテ、全身ニ羽生ヒ、空中ヲ飛ビ翔ル動物ノ總名。皆、卵生ナリ。或ハ、高ク飛ブコト能ハザルモノモアリ。ケノニゴモノ。鳥類。倭名抄、十八羽族類「鳥、禽、土里」萬葉集、三三十「此世ニシ、樂シクアラバ、來ム世ニハ、蟲ニ鳥ニモ、吾ハナリナム」後撰集、十一、戀、三「ゐニカケル、鳥トモ人ヲ、見テシガナ、同ジ所ヲ、常ニトフベク」六帖、六「冬山ニ、獨リヌル鳥、夜ヲ寒ミ、人ハ絶エケル、木ヲゾ求ムル」玉葉集、十二、戀、四「鳥ナラバ、アタリノ木木ニ、木傳ヒテ、佗ビタル聲ニ、ナカマシモノヲ」（二）專ラ鷄ノ稱。源、四十六、總角十六「とりノ音モ、聞エヌ山ト、思ヒシヲ、世ニウキコトハ、タヅネキニケリ」新勅撰集、十七、雜、二「マドロマデ、物思フヤドノ、ナガキ夜ハ、鳥ノ音バカリ、ウレシキハナシ」拾玉集、一「シノノメヤ、關ノ岩門、キリトヂテ、鳥ノ聲ニモ、猶アケヌカナ」

とり (名) 取 取ルコト。竹取物語「龍ノ首ノ玉とりニトテ、出ダシ立テ給フ」源、十三、明石二十九「琴ノ御コト、とりニツカハシテ」

とり (接頭) 取 〔接頭語ノうち(打)ノ條ヲ見ヨ〕動詞ノ意味ヲ強クスル接頭語。「取裝フ」取調ブ」取散ラス」取亂ス」

とり (名) 鳥ノ背骨ノ邊ニ付ケル、一種ノ凝血ノ如キモノ。即チ、其肺臓。古

來、隆アリト云ヘド、誤リナリ。

とりあ・ぐ グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二） 取上 （一）手ニ取リテ擧グ。枕草子、三、二十三段「[illegible]ノ背キ[illegible]、云云、とりあげテ、物オシツケナドシテ見ルモ、ヨニイミジウヲカシ」（二）受ケテ、サバク。（訴訟ナドニ）受理「御取上げニナラズ」（三）官ニ取リ入ル。取リ立ツル。徴收ス。收公「運上ヲ取上ぐル」（四）奪ヒテ官ニ收ム。召シ上グ。沒收ス。褫「役儀ヲ取上ぐ」（五）兒ヲ産ムコトヲ扱フ。收生（六）數ヘ立ツル。揭ゲ上グ。「取り上ぐル程ノ事モナシ」

とりあげ-うば（名） 取上嫗 次次條ノ語ニ同ジ。

とりあげ-えぼし（名） 取上烏帽子 元服ノ時ニ着用スル烏帽子。義經記、二、遮那王殿元服事「吉次イカヤウニモ、御計ヒ候ヘトゾ申シ給ヒケル、大宮司エボシ奉リ、とりあげ烏帽子ヲゾ召サレケル」

とりあげ-ばば（名） 取上婆 又、とりあげうば。產婦ヲ介抱シテ、兒ヲ產マシメ取上グルヲ業トスル女。往時ハ老婦人ノスルコトトシタリ。產婆。助產婦。蓐母 穩婆 さんば（產婆）ノ條ヲモ見ヨ。書言字考節用集、四、人倫門「[illegible]、蓐母、トリアゲバ」安[illegible]、十、「[illegible]、とりあげばば也、云云、今ノ世ノとりあげばばト云フ者ハ、[illegible]ノ事也、是ハ老女ナド召使フ事モナキ賤シキ者、アタリ隣ノ產ニ馴レタル人ヲ賴ミ、其賴マレシ人ヲ好者ト云ヒフレテ、所所ヨリ賴ミシカ、後ニハ[illegible]ノ樣ニナリテ、とりあげばばト云[illegible]シナルヘシ」胸算用（元祿、西鶴）二「乳母ヲ伴レテ來ルヤラ、三人四人ノ[illegible]、日[illegible]山伏ガ來テ、[illegible]子ノ祝ヒ」

とりあけ-ゑぼし（名） 取上烏帽子 前前條ノ語ノ誤。

とりあし（名） 鳥足 鳥ノ足ノ如キモノ。（一）下目ニ、行人ナド、穿キシト云フ。ドノ出典ヲ見ヨ。[illegible]、十二、高貴、千日詣ノ行人ハ、カナラズ鳥足ガ一枚齒ノ高アシダヲハキ、手ノ長キ[illegible]ヲサシテ[illegible]キ、[illegible]ノカケテ、打チナラシアリキシガ、云云、今ハ絶果テヌ、ムカシ鳥足トイヒシモノハ、後ノ雁股ノ如キニマタニハアラズ、諸國咄ニ、鳥足ノ高アシダトテアル書ヲミルニ、ケニ鳥ノ足ノ如ク、指ハ前三ツ、後一ツ、鐵ニテ作レリ」諸國咄（貞享、西鶴）二「見ニ行クニ、行人、鳥足ノ高足駄ヲ穿キテ、道ヲ靜カニ歩ミ行ク」

とりあつかひ（名） 取扱 トリアツカフコト。ハカラヒ。處理

とりあつか・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四） 取扱 あつかふ（扱）ニ同ジ。處理

とりあは・す スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二） 取合 擇ビ取リテ、程好ク寄セ合ハス。湊合 宇津保物語、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]イデ來テ、[illegible]ヲバ卷キ取リツ、天女ノ名ツケ給ヒシとりあはせツ十二、白木モトリ加ヘテ、卷キ上ゲツ」

とりあはせ（名） 取合 トリアハスルコト。配合スルコト。湊合

とりあはせ（名） 鷄合 牡鷄ヲ鬭ハシメテ、觀ル戲。ケアヒ。鬭鷄 倭名抄、[illegible]「[illegible]」[illegible]記、七年八月、[illegible]津屋二」三代實錄、四十一、元慶六年二月廿八日「天皇[illegible]」[illegible] 花山院ニハ、五六宮ヲモテハヤシ聞コエサセ給フトテ、[illegible]ヒテ、[illegible]」

とりあひ（名） 取合 （一）互ニ取ル。コト。醒睡笑（元和、安樂庵策傳）一「何事モ油斷ノ樣ニ取り合ひノ競キヲ、メカルト云フナル」（二）トリアフコト。爭ヒ。イサカヒ。[illegible]

とりあ・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四） 取合 （一）互ニ取ル。奪ヒアフ。（二）相手ニスル。[illegible] 徒モ給メントスレバ、事亂レヌベシ、論ズル所、取りあひテセンナシトテ、皆、小門ノ方ヘゾ隱レケル」

とりあ・ふ フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（自動、下二） 取敢 （一）折ニ適フ。間ニ合フ。[illegible]、十八、[illegible]一、少女四「カケテ云ヘバ、今日ノコトトゾ、思ホユル、日カゲノ鬘ノ、[illegible]ノ紙、ヨクとりあへテ、マギラハシ書イタル」（二）アリアフ。間ニ合フ。[illegible]ノ御遊ビヨリモ、猶トコロガラノ、スゴササヘゾヘタル、モノノ音ヲメデテ、マタエヒクハハリメ、ココニマウケノ物モ、候ハザリケレバ、云云、とりあへタルニ[illegible]」（三）取リ[illegible] 伊勢物語、百七段「ヨミテ（歌ヲ）ヤレリケレバ、蓑モ笠モとりあへデ、シトトニヌレテ、マドヒ來ニケリ」

とりあへ・ず（副） 不取敢 （一）物ヲ取リ果セズ。[illegible] 源、十二、須磨「今シバシカクタニアラバ、[illegible]ニヒカレテ、入ヌベカリケリ、高潮トイフモノニナム、とりあへず、人害ナハルルトハ聞ケド」[illegible] 先ヅ。他ノコトハ扱テオキテ。古今集、九、羈旅「コノタビハ、幣モとりあへず、手向山、モミヂノ錦、神ノマニマニ」「不取敢差シ出シ申候」

とりあみ（名） 鳥網 [illegible]懸ラセテ捕フルモノ。トアミ。鳥羅

とりい・づ ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（他動、下二） 取出 取リテ出ダス。[illegible] 子、三、廿四段「メデタキコト、ヲカシキコトニ、とり出でシエタルピニ、似セルマジキハ、イトカタシヤ」竹取物語、文ヲカキ[illegible]

とりいで（名） 取出 トリイヅルコト。トウデ。

とりい・る ル・レ・リ・リ・レ（自動、四） 取入 [illegible] 媚ビツク。人ノ氣ニ入ル [illegible]「中宮ノ宮司マデハ、法性寺殿ノ御所[illegible]大小事、宮仕ヘツツ」

とりいれ（名） 取入 作物ナドヲ取リ入ルルコト。收穫

とりうち（名） 鳥打 [illegible]（弓束）ニ同ジ。弣 平家物語、九、[illegible]

とりうちぼうし（名） 鳥打帽子 帽子ノ一種。（英語、Hunting-cap ノ譯語）[illegible]形ニ布帛ヲ縫ヒテ、庇ツケタルモノ。狩獵ノ時ナドニ用ヰシヨリ此名アリ。略シテ、とりうち。ハンチングキャップ。略シテ、ハンチング。

とりうり（名） [illegible] 道具屋。古道具屋。[illegible]

テカヒ、[illegible]是非トモニ、又モ來ラバ、打ナヤセム、コハノ[illegible]具ヲ、[illegible]浮世物語(萬治、二)折フシ[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、瀬戸ノ肩衝ナド、サマザマ古キ[illegible]具ヲ持參ス」伊呂波居(享保、二十八)の事 カリニモ此道ニ入リテハ、ケイアンソムヒナラヒ、[illegible]賣カタギニナルゾカシ」

とりえ (名) 取得 人ノ才能、學藝ナドノ、取リ用ヰルベキ所。トリドコロ。エテ。長所 甲陽軍鑑、五、品第十三「縦バ十人ノ中ニ、一二人ヨハキ者アリ共、ソレハ又何ゾ取リ得ノアルコト、一二箇條モ在レ之」諸國咄(貞享、西鶴)一「向齒抜ケテヤブニラミニテ、額ミ頭ニ横肥ッテ、男振リハ一ツモとりえナシ」

とりえだ (名) 取枝 とりき(取木)ニ同ジ。

とりおき (名) 取置 (一)取リ置クコト。取納メオキテ、不時ノ用ニ備フルコト。又、ソノモノ。後ノソナヘ。トットキ。收藏 寛文五年十一月町觸「町中ニテ山伏行人、云云、祈念仕候ハバ、繪圖ナドモ取置可レ申候」(二)取リカタヅケ。處分。本朝若風俗(貞享、西鶴)四「萬事築テテ出家ノ願ヒ、身ノ取り置きヲ見出シ」(三)葬ルコト。葬送。

とりお・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 取置 (一)取リ收メテ置ク。アヅカル。收藏 萬葉集、十一二「コマ錦、ヒモノ片ヘゾ、床ニ落チニケル、明日ノ夜シ、來ナムトイハバ、取置きテ待タム」(二)(一)ノコシオク。トリテオク。源、五十二、浮舟五十「オチトドマリテ、人ノ御タメモイトホシカラム、サカシラニ、コレヲとりおきケムヨナドモリキキ給ハムコソ、ハヅカシケレ」(三)葬ル。

トリ・オコナ・ウ
とりおこな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 執行 扱ヒ行フ。爲ス。執行ス 榎子戲戲、九、神祇「山階寺ノ別當ニテ、代代ノアトニ變ラズとり行ひテ」徒然草、百七十五段「ツレヅレナル日、思ヒノ外ニ、友ノ入リ來テ、とりおこなひタルモ、心ナグサム」杯事ヲスルナリ)」

トリ・オサ・ウ
とりおさ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 取抑 (一)抑ヘ止ム。抑留 (二)捕フ。搦メ取ル。ツカマヘル。拿捕

とりおどし (名) 鳥威 古言、ヤマダノソホヅ。オドロカシ。今、案山子(アンザンシ)、カガシ。藁ヲ以テ人形ヲ作リ、蓑、笠ヲ着セ、弓ヲ持タシメ、田畠ノ中ニ、立テオクモノ。鳥、雀ノ集リ來リテ、作物ヲ啄バマムヲ、威シテ防ガムタメナリ。草人 和漢三才圖會、三十五、農具類「案山子、鳥妨(俗)止利乎止之」當流小栗判官(元祿、近松作)一「都ニ知ラヌ山畑ヤ、一簑粟ノ鳥威し、鳴子ニ馴ルル友雀」

とりおと・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 取落 (一)誤リテ落ス。手ヨリ放シオトス。遺失 謠曲、盛久「稱念ノ聲ノ下ヨリモ、太刀振リアグレバ、コハ如何ニ、御經ノ光リ眼ニ塞ガリ、取り落としタル太刀ヲ見レバ、二ツニ折レテ段段トナル」(二)漏ラス。ヌカス。脱失

トリ・オイ
とりおひ (名) 鳥追 (一)萬歳(マンザイ)ガ新年ニ農家ニ行キテ、謠フ祝詞ナリト云フ。(田ノ鳥ヲ追拂ヒテ、農事ヲ勵ムベキ意カ)今モ各地ノ田遊び、田樂ニハ、鳥追ノ行事アリ。又、元祿ノ頃、流行セシ鳥追の歌ト云フモアリ。(二)京都ニテハ、新年ニ、乞食ガ、人家ノ門ニテ、扇ニテ手ヲ敲キナガラ、祝詞ヲ唱ヘテ、米錢ヲ乞フモノ。タタキ。タタキ與次郎。 雍州府志(貞享、黒川玄逸)八、古蹟門、悲田院乞人「自二元日一至二十五日一、着レ笠以二白布一覆レ面、而敲レ手唱二祝詞一、徘二徊門戸一請二米錢一、是謂二敲與次郎一、又稱二鳥追一、元民間出レ自レ追二拂田疇鳥一之辭レ者也」 人倫訓蒙圖彙、七、鳥追「たたき、鳥追」(三)江戸ニテハ、非人ノ女房、娘ドモ、新年ニ新シキ綿服ヲ着、紅染ノ手甲ニ日和下駄ヲハキ、編笠ヲカブリ、三四人、三絃、胡弓ヲ彈キツレテ、人家ニ就キテ、カシマシク唄ウタヒ、錢ヲ乞フモノ、常ニハ女太夫ナリ。 甲子夜話(文政、松浦靜山)二二「春初ニ乞兒ノ女、衣服ヲ飾リ編笠キ、三絃、胡弓ナド携ヘ、彈ジツツ歌ウタフヲ、鳥追ト云フ、悠悠トシタル容體ナリ」

トリ・オ・ウ
とりお・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 取リテ背ニ負フ 萬葉集、廿九「マスラヲノ、ユギ等里於比弖、出デテイケバ、ワカレヲヲシミ、歎キケムツマ」同、二、五十九長歌「梓弓、靭取負ヒテ」

とりおや (名) 取親 (取リ育ツル意カ)(一)やうふ(養父)ニ同ジ。ヤシナヒオヤ。 松風村雨束帶鑑(元祿、近松作)一「右衞門ノ尉罷出、惣ジテ、上ツ方ノオ乳ノ乳人(メノト)ハ、とり親ト云フコトアリ、氏種性(スジャウ)ニモ構ヒナシ」(二)假リニ定メタル親。カリノオヤ。カリオヤ。親分(オヤブン)。 青標紙、三、御本丸女中「御末、御末ハ町人ノ娘ニ而モ、取親ニ而御奉公濟」

とりか (名) 取箇 江戸時代、課(オホ)シ取ル年貢ノ高。 地方要集錄、取箇之儀ハ、右檢地極リ候得バ、何分ニモ了簡成能事ニ而、只今迄之通之仕法之筋ニ而ハ、中中百姓前、内證之儀不埒之儀ニ而可レ有レ之候得共、久年仕クセニ而候故、百姓モ難義ヨリ納來候年貢之事故、如レ是モノニ而候ト心得候而、納來候儀ニ而可レ有レ之候得共、此上右撿地之埒明候ハバ、百姓之内證モ、平直ニ可二罷成一候事」

とりかかり (名) 取掛 トリカカルコト。爲始(シハジ)ムルコト。トリツキ。着手

とりかか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 取掛 (一)爲シ始ム。着手 枕草子、五、五十段「只今ナホ其ノ返リゴト奉ラントテ、とりかかる程ニ」(二)トリック。スガリック。 源、五十一、蜻蛉四十五「宮ノ上(中ノ君)ニとりかかりテ、戀シウモ、ツラクモ、ワリナキ事ゾヲコガマシキ」(三)打テカカル。 今昔物語、廿五、第七語「少モ騒タル氣色モナクテ、笛ヲ吹乍ラ見返タル氣色、可二取懸一クモ不レ思リケレバ、走リ去リヌ」

とりかご (名) 鳥籠 古ク、鳥籠(トリコ)。鳥ヲ飼ヒ置ク籠、竹ヲ細ツク削リ、透間アルヤウニ、方、圓、種種ニ作ル。今ハ、針金ニテ作リタルモアリ。 書言字考節用集、七、器財門、籠、トリカゴ、鳥籠、トリカゴ」 嘆野(荷兮)一「鳥籠ノ、憂キ目見ツラン、ホトトギス」

とりかごびん (名) 鳥籠鬢 とうろうびん(燈籠鬢)ニ同ジ。

とりかさ (名) 簦 おほがさ(大笠)ニ同ジ。名義抄「簦、トリカサ、オホガサ」

とりかぶら (名) 鳥頭 古ヘ、鷹飼ノ佩キタル太刀 柄ニ鳥ノ頭ノ狀ヲ現ハシタルモノ。

とりかた (名) 捕方 とりて(捕手)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

トリ・カジ
とりかぢ (名) 取舵取柁 船首ヲ左ヘ向ケムトスル時ノ、舵ノ取リ方。おもかぢ(面舵)ノ條ヲモ見ヨ。 太平記、七、先帝船上臨幸事「船頭、實ニ嬉シゲナル氣色ニテ、取梶、面梶取リ合セテ、片帆ニカケテゾ馳セタリケル」

とりがなく (枕) 鷄鳴 (曉(アケ)ニ鷄ガ鳴ク、ゾヨ、ヤヨ起キヨ、吾夫(アマ)ト云ヒツヅケタルナラムト云フ)吾妻(アヅマ)、又、東國(アヅマ)ト云フ語ノ枕詞。 萬葉集、二十三十四長歌「鳥之鳴(トリガナク)、吾妻ノ國ノ、御軍士(ミイクサ)ヲ」同、九、三十四長歌「鷄(トリガナク)鳴、吾妻ノ國ニ、古(イニ)昔(シヘ)ニ、有ケル事ト」同、廿、八十長歌「登利我奈久、東(アヅマヲトコ)男ハ」同、廿、十九「等里我奈久、東(アヅマヲノコ)男ノ、ツマワカレ、悲シクアリケム、年ノヲナガミ」神樂歌、酒殿歌「庭鳥ハ、カケロト鳴キヌナリ、起キヨ起キヨ、ワガカ(一本作レ比)トヨヅマ、人モコソ見レ」

トリ・カワ・ス
とりかは・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 取交 互ニ取ル。雙方、遣取(ヤリトリ)ス。易(カ)ヘ合フ。交換 獻酬 千載集、十七、雜、中「古ヘハ、思ヒカ

ケキヤ、とりかはし、カク着ムモノト、ノリノ衣ヲ」「盟文ヲ取交はす」杯ヲとりかはす」

とりかひ（名）［鳥飼］鳥ヲ飼ヒ養フコト。又、其人。

とりがひ（名）［鳥貝］貝ノ一種。海底ノ砂泥中ニ棲息シ、形、あかがひ（赤貝）ニ似テ、大キサ三寸許リ、白クシテ、端ハ淡紫ヲ帶ブ。殼ニ縱文ナシ。裏ハ淡紅ニシテ、肉ノ形、鳥ノ喙ノ如シ。

とりかひべ（名）［鳥養部］古ヘ、鳥ヲ飼フコトヲ職トセシ部曲ノ稱。雄略紀、十一年十月「鳥官之禽、爲[illegible]田人狗所[illegible]死、天皇[illegible]面[illegible]而爲鳥養部」古事記、中（垂仁）「定鳥甘部」

とりかひりう（名）［鳥養流］書風ノ一流。攝津國、三島郡、鳥養村ノ人ニテ、江戶時代ノ書家、鳥養宗慶ノ創メタルモノ。元、飯尾流ヨリ分レ出デタリト。

とりかふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［取飼］飼ヒ養フ。神樂歌、其駒「ソノ駒ゾヤ、ワレニ、ワレニ草コフ、草ハ取リ加波ヌ、水ハトリ、草ハ取里加波ヌヤ」大和物語、下「[illegible]云云、ヨルヒルコレヲアヅカリテ、取りかひ給フホドニ、イカガシ給ヒケン、ソラシ給ウテケリ」

とりかふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［取替］（一）物ヲ他ノ物ニ易フ。萬葉集、十一[illegible]「[illegible]シモ、多クアラナム、取易ヘ、着セバヤ君ガ、面忘レタラム」（二）易ヘテ取交ハス。互ニ替ヘアフ。交換　源、八、花宴「[illegible]ワリナクテ、扇バカリヲシルシニ取りかへテ、出デ給ヒヌ」

とりかぶと（名）［鳥冠鳥兜］（一）舞樂ノ時ニ、伶人ノ用キル冠。形、鳥ノ頭ヲ裝メタルガ如シ。[illegible]、三十八、[illegible]

菁、[illegible]金銅、[illegible]、如是[illegible]、大中小、[illegible]三枚用之」（二）草ノ名。春、宿根ヨリ生ジ、苗、高サ二三尺、莖、互生シ、刻ミアリテ、深綠ニシテ光ル。秋、莖ノ梢ニ、穗ヲナシテ花アリ、脣形ニシテ、形、伶人ノ鳥冠ノ如シ。深碧、淡紫、白色等アリ。莖、葉、根、皆、劇シキ毒アリテ、コレヨリ麻醉藥ヲ採取スルコトアリ。根ニ、烏頭、附子、ノ名アリ。各條ニ註ス。一名、カブトギク。ヤブトバナ。[illegible]菊。草烏頭。[illegible]

とりかへ（名）［取替］取替フルコト。イレカヘ。交換　萬葉集、十六廿長歌「イロゲセル、菅ノ小笠、ワガウナケル、玉ノ七ツヲ、取替モ、マヲサムモノヲ」

とりかへし（名）［取返］トリカヘスコト。故ニ、モドスコト。收復　回收

とりかへす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［取返］再ビ取リテ故ノ如クス。トリモドス。收復　回收　源、[illegible]「[illegible]ナラバト、とりかへすモノナラネド、忍ビ難ケレバ」同、一、桐壺廿「昔ノ事とりかへし、悲シク思サル」同、十四、澪標十「とりかへしツベキココチコソスレ、イカニトノ給フニツケテモ」伊勢物語、六段「[illegible]ケテトドメテ、とりかへし給ウテケリ」

とりかへる（[illegible]）［取替］とりかふ（取替）ノ口語。

とりき（名）［取木］樹木ノ枝ヲ撓メテ土中ニ[illegible]、其枝ヨリ根ノ生ズルヲ待チテ、切リ離チ、苗木トスル方法。取枝。[illegible]

とりき（名）［土力］[illegible]

火災除トテ、出スル[illegible]。[illegible]

とりきむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［取極］（一）ソレト定ム。決定　（二）約束ス。契約ス。

とりきる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［取切］（一）取リ終ハル。スベテ取ル。（二）一切ノ事ヲ總ベ行フ。總管「取切リテ行フ」

とりく（名）［厩戮］ホフリコロスコト。

とりくす（名）［鳥樟］[illegible]くす（山樟）ニ同ジ。倭名抄、廿[illegible]「[illegible]」一名、鳥樟」本草和名、下[illegible]「[illegible]、一名、鳥樟」[illegible]

とりぐす・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［取具］取リソロフ。源、[illegible]ノヨキ限リヲ取リ具シ」

とりくひ（名）（一）頸ノ邊ニ出ヅル[illegible]

[illegible]

とりくび（名）[illegible]曲リテ、鳥ノ頸ノ如シ。今、ネリ。[illegible]

とりくみ（名）［取組］（一）トリクムコト。[illegible]クミアハセ。[illegible]

とりくむ・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［取組］（一）互ニ組ミツク。組ミアフ。相手トナル。[illegible]（二）賣方ト買方ト組合フ。

とりげ（名）［鳥毛］（一）鳥ノ羽毛。（二）指物ノ竿ノ頭ツ、鳥毛ニテ飾リタルモノ。（鳥毛棒、鳥毛丸ナドアリ）又、長槍ノ鞘ヲ鳥毛ニテ飾リタルモノ。[illegible]ト云フ）大名ノ供揃、武ハ、祭禮ノ行列ナドニ、先頭ニアリテ、槍持、是レヲ振ル。其大ナルヲ大鳥毛トス。

とりけし（名）［取消］[illegible]

とりけす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［取消］[illegible]

とりこ（名）［擒］[illegible]（[illegible]ト云フ）敵人ヲ生捕ニセルモノ。[illegible]

我所破、故貢二獻俘虜(トリコ)、云云」

とりお（名）取粉　搗キ上ゲタル餅ニ附ケマブシテ、取扱ヒ易カラシムルタメノ粉、コネドリノ粉、シロコ。夕霧阿波鳴渡、正徳、近松作、上「粟ガ畑、岬ノ畑、餡餅取ル取ル撒リチ染ノ、顔ニ取り粉ノ、面白イトテ」

とりお（名）鳥籠　とりかご（鳥籠）ニ同ジ。倭名抄、十五二畋獵具「鳥籠、度利古」易林節用集（慶長）上、食服門「鳥籠、トリコ」

とりお（名）取子　養子。モラヒ子。名義抄「猶子、トリコ、孥、トリコ」發心集、三、第十條「取子ヲシテ、幼(ヲサナ)クヨリ、ハグクミ養ヒケリ、此兒、三ツトイヒケル年」枕草子、四、四十段、あちきなきもの「とりおノ顏、ニクサゲナル」十訓抄、第八、第三條、高陽院御有樣「此宮ノ御取りおニテ、其ノ御光ヲ類ミ給ヒケルニ、ハカナク隱レサセ給ヒニケル」

とりおし（名）取越　取リ越スコト。二水記、永正十六年十二月十四日「金蓮十七回忌也、明年正月、雖、然年始作二不弁二取越了」「法會ノ取越」とりおし苦勞トハ、行先ノ事ヲ、カレコレト心配スルコト。杞憂

とりお・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）取越　爲スベキ時ヨリハ早ク行フ。行先ノ事ヲ前ニスル。年月ヲ早ク引上グル。定メノ時期ヨリモ早ク行フ。（年回ノ法要ナドヲ）

とりおみ（名）取込　（一）取リ込ムコト。收ムルコト。收取　（二）事ノ多ク集マルコト。多忙　（三）ゴタゴタスルコト。混雜スルコト。浮世風呂、文化、二馬）四編、下「時ニ最早お品ガ傘(サン)ジマシタナ、オマヘサンデハ、オ人ズクナデ、サゾオとりおみ樣デゴザリマセウ」（四）金品ナドヲ、詐リ取ルコト。傾城佛の原（元祿、近松作）一「敵義ハ某一人デゴザルハ、ダンナ御定立マセヌ故、某ガ取り込み仕り候樣ニ申シ、何トモ迷惑、此ノ時デゴザル」「取込詐欺」

とりお・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）取込　事多ク集マリ來ル。物事ガ一時ニ集マル。多忙　着急焦燥（病家須知）

とりお・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）取込　（一）取リテ内ヘ入ル。收ム。收取（二）取リテ我ガ手ニ入ル。己レガ有トナス。

とりお・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）取籠　内ニ包ム。カコム。トリカコム。押籠メニナス。保元物語、一、官軍方方手分事「宣旨ナリトモ、エコソ内裏ヘハ參ルマジケレトテ、打過ギケレバ、基盛百餘騎ノ中ニ取り籠めテ討タントシケルヲ」義經記、四、住吉大物二所合戰事「思フヤウニ漕ギカケテ、大船ヲ中ニ取籠め、渡ラスナトゾ罵リケル」

とりおも・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）取籠　〔とりハ接頭語〕おもる（籠）ニ同ジ。狂言記、姫糊「殿樣ノ、イツモ四疊半敷ヘとりおもらシャレテ」（一本、とりおもらシャレ）

とりおろ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）取殺　祟(タタ)リテ殺ス。鬼殺　宇治拾遺、十二、第十條「人ノ爲ニ怨ミヲ殘シテ、今ハカカル鬼ノ身トナリテ候、サテ其ノカタキヲバ、思ヒノ如クニとりおろしテキ」浮世床（文化、一九）二編、上「ステキト恨ミヲ云ッタゼ、とり殺スト云ッタゼ」

とりざうし（名）鳥曹司　古ヘ、宮中ニテ飼養セル鷹ヲ繫ギ置キシ處。（承明門外ノ東ノ角ニアリ）著聞集、廿、魚蟲「桓武帝、云云、鷹司ノ御鷹ヲ庭ニ召シテ、餌ヲカハセサセ給ヒケリ、云云、昔ハ鳥ざうしニモ、人ノ引出物ナドニハ、鷹、馬ヲゾシケル」

とりさか（名）鳥冠　とさか（鳥冠）ニ同ジ。

とりさか・ぐさ（名）鷄冠草　けいとうげ（鷄頭花）ニ同ジ。多識篇、二、隰草「鷄冠、土利左加久佐」

とりざかな（名）取肴　〔取り分クル肴ノ義〕配膳ニテ、酒ノ肴トスルモノノ稱。初獻ナレバ、口とりざかなトモ云フ。クチトリ。好色一代男（天和、西鶴）五「吉野ハ淺葱ノ布子ニ赤前ダレ、露手拭ヲシテ、ヘギニ切燒汁ノ取肴ヲ持チテ」

とりさか・のり（名）鷄冠菜　とさかのり（鷄冠菜）ニ同ジ。倭名抄、十七九海菜類「鷄冠菜、止里佐加乃里」大膳職式「鳥坂苔」

とりさ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）取下　（一）官廳ヘ差出シ、又ハ、預ケタルモノナドヲ、トリモドス。（二）一旦、提出シタルモノヲ撤回ス。「訴訟ヲ取下ぐ」

とりさげ（名）取下　（一）トリサグルコト。（二）ネガヒサゲ。

とりさし（名）鳥刺　（一）竿ノ端ニ黐(モチ)ヲ塗リタルヲモテ、小鳥ヲ刺シ捕フルコト。又、ソノ人。又、飼鳥、又ハ、鷹ノ餌ニスル小鳥ナド捕フルモノ。サイトリ。サイトリサシ。エサシ。芭蕉句集、夏「鳥さしモ、竿ヤ捨テケン、郭公」（二）古ヘ、小鳥ヲ賣買スルモノノ稱。小鳥屋。三十二番職人盡歌合、三番、鳥さし「春ハマダ、所モ花ノ、千本ニ、見セオク柳ノ、鳥ノ色色」

とりさた（名）取沙汰　（一）トリマカナフコト。トリサバクコト。處理　太平記、十七、山門牒送二南都一事「衆徒八百餘人、早尾ニ群集シテ、軍勢ノ兵粮以下ノ事、取沙汰シケル衆ノ中ヘ」（二）世間ノ噂。風評。風說　物議　甲陽軍鑑、五、品第十三「アシク仰セラレ候間、平井衆、盡ク本間、井又ヲソネミテ、アシウ取沙汰スルニヨリ」

とりさばき（名）取捌　トリサバクコト。取リ扱フコト。處理　好色一代男、天和、西鶴）一「約束スルヨリ早、アガリ湯ノクレヤウ、チラシヲノマセ、浴衣ノ取り捌き、火入レニ氣ヲツケ、鏡カスヤラ其ノモテナシ、何國モ替ル事ナシ」

とりさば・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）取捌　マカナフ。計ラヒオコナフ。取リ扱フ。處分ス。處理ス。

とりさ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）取支　爭ヒノ間ヲ遮リテ、鎭メナダム。遮護　盛衰記、一、五節夜闇打事「北方ヲ三人持タレバ、云云、取さふる者モナクテ、一二日組合ヒテ息ツキ居タリ、云云、取さふる人ナキ宿ニハ、三妻鑵(サヘ)ヲ鑵コソ抹合フナレ」古事記、上六十一「五百引石、取二塞其室戸二」宇治拾遺、十、第一條「幼キ子ト、舍人ガ小童トイサカヒヲシテ、泣キ罵レバ、出デテとりさへントスルニ」

とりざを（名）鳥竿　さいとりざを（刺鳥竿）ノ條ヲ見ヨ。

とりし・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（他動、下二）取垂　〔とりハ接頭語〕しづ（垂）ニ同ジ。懸ク。垂ラス。古事記、上五十一「於二下枝一取(トリ)二垂(シデ)白丹寸手、青丹寸手一（訓レ垂、云二志殿一）」神代紀、上八十「下枝懸二青和幣、白和幣一」神樂歌、賢木「榊葉ニ、木綿取リ志天テ、タガ世ニカ、神ノミムロヲイハヒ初ケン」夫木抄、廿六「今日ハ又、誰ガ禊トカ、シデノ崎、木綿とりしでテ、波モ越スラン」

とりし・づ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）取靜　〔とりハ、接頭語〕シヅム。オサフ。鎭

とりしば・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）取縛　堅ク手ニ握リ固ム。握リ結ムル。扼　字類抄「振、トリシハル、振劍、扼劍」神武紀四注「撫劍、此云二都盧喀能多伽彌屠利辭魔屢二」神代紀、上二十「振二起弓彇、急二握劍柄、蹈二堅庭一而陷股」推古紀、廿六年八月「河邊臣案レ劍日、雷神無レ犯二人夫一當レ傷二吾身一而仰待レ之、雖二十餘霹靂一不レ得レ犯二河邊臣一」天武紀、上、元年六月「按レ劍欲レ進、還恐見レ亡、故不レ能レ成レ事、而空還レ之」

とりしまり (名) 取締 (一)取締ルコト。警戒。又、守リ警ムル役。管理 監守
文政四年正月、浦賀奉行ヨリノ伺書、御備、云云、事出候仕候様届申付候ハバ、早速ヒ遣モ可.仕、於二候共之節、納内御取メ之爲ニモ相成、自然御用立候モノモ追追出來可.仕、云云「大學史局」「身ノ取締」家内ノ取締」「店ノ取締」(二)取締役ノ略。株式會社ナドノ重役。外部ニ對シテ、其社ヲ代表シ、內部ニ於テハ、其社ノ業務ノ執行ニ當ルモノ。

とり-しま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 取締 嚴シク統ベ治ム。守リ警ム。管理 監守

{**とり-ざ-もの** (副) 鳥自物 〔ざもの(自物)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ〕 水鳥ノ如ク。又、鳥ラシク。萬葉集、四六長歌「イナビヅマ、浦ミヲ過ギテ、鳥自物、ナヅサヒ行ケバ」

{**とり-ざ-もの** (枕) 鳥自物 〔ざもの(自物)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ〕 水鳥ノ水ニ浮ビ、又ハ、飛ビ立ツ如キ意ニテ、浮く、立つナドノ枕詞。萬葉集、七廿鳥自物、海ニ浮キ居テ、沖ツ波、サワクヲ聞ケバ、アマタ悲シモ」同、二六十長歌「鳥自物、朝立チイマシテ、入日ナス」

とり-しら・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ(他動、下二) 取調 〔とりハ、接頭語〕 調ぶト云フニ同ジ。其條ノ(二)、及、(三)ヲ見ヨ。

とりしらべ (名) 取調 取調ブルコト。

∴**とり-しら・べる** (動) 取調 前前條ノ語ノ口語。

{**とり・す**・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 執 特ニ心ヲ傾ク。熱心ニナル。心ヲトドム。執ス。源、三十四、下、若葉、下七「アヤシク人ノザエ、ハカナクとりする事ドモモ、物ノヽユアリテ、マサル所ナル」

とり-すが・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 取縋 〔とりハ、接頭語〕 すがる(縋)ト云フニ同ジ。

{**とり-す・つ**・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 取捨 取リテ捨ツ。取リノゾク。トリステル。源、廿九、行幸六「イト御ココチノ惱マシサモ、とりすてラルルココチシテ、才キ來給ヘリ」

とり-せき (名) 取席 直打、寄席。

とり-そ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 取初 トリハジム。手ニ、シハジム。新葉集、十八、雜、下「時與ノ、安達ノマ弓、とりそめシ、其ノ世ニツカヘ、名ヲ殘キツツ」

とりぞめ (名) 取初 (一)トリソムルコト。(二)昔、公家、武家ニテ、正月二日、三方ニ載セタル昆布、鮑、勝栗ナドヲ出シテ、勸盃アリシコト。內院年中行事「正月二日、入夜御取初ノ御盃事アリ」

とり-ぞめ (名) 取染 トコロドコロニ、筋ヲ染メタルモノ。細ソク横筋ニ、間ヲ置キテ染メタルシボリゾメ。手綱染モ是レナリ。新撰集、十二、雜、「遊君、高取染ノ衣干ニ、ナツモノムカバキヲハキテ、えびらノ弓ニ矢オヒテ」中興記、十六、昌泰四十五「取染ノ手綱ト云フ事有リ、是レハ一寸マダラナリ、色赤シ」

とり-だすき (名) 鳥欅 綾、緞子、ナドノ織模様ノ名。縦横ノ波線ノ中ニ、尾ノ長キ鳥、二羽ヅツ相向ヒタル象ヲ織出ス。指貫、奴袴ナドニ用ヰル。鳥欅

とり-た・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 取立 (一)〔別段ノモノトス。特ニ數ヘアグル。源、三十、藤袴廿「コレモアカシカメルハ、イカデカカル御ナカラヒナリケント、若キ人人ハ、例ノサルマジキ事ヲモ、とりたてテ愛デアヘリ」同、三十四、上、若菜、上「海ト山ニモ[illegible]カリシ人ノ、取りたてタル御後見モオハセズ」(二)促シ集ム。萬葉「年貢ヲ取立つ」(三)擧ゲ用ヰル。召出シテ使フ。登庸

とりたて (名) 取立 (一)取リ立ツルコト。(二)促シ集ムルコト。徵集「年貢ノ取立」(三)擧ゲ用ヰルコト。登庸 甲陽軍鑑、十、下、品第三十二「信玄公ノ御政事ニハ、相應ノ御取立テノ[illegible]」[illegible]

とり-ちが・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 取違 (一)アヤマリテ取ル。マチガフ。[illegible]其ノスシノ足ヲバとりちがへ、我レガツ人ニ、人ノヲ我レガニ、ツギカヘタリ」(二)聞キアヤマル。思ヒアヤマル。誤解スル。

とりちがへ (名) 取違 取リ違フルコト。アヤマルコト。マチガヒ。

{**とり-ちら・す**・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 取散 亂シ置ク。[illegible]テサワギとりちらしナドスルニ」源、三十五、柏木「色色ニツクシタル調度、[illegible]とりちらし[illegible]トアワタダシウとりちらして、食ヒカナグリナドシ給ヘバ」

とりつき (名) 取付 (一)トリツクコト。スガルコト。(二)爲始ムルコト。大子集、行ク秋ニ、とりつき[illegible]

とりつぎ (名) 取次 (一)取リ次グコト。此ニ受ケテ彼ニ傳フルコト。ナカツギ。[illegible] (二)訪ヘル人ノ旨ヲ、主人ニ傳ヘ告グルコト。執奏 [illegible]「とりつぎナドハ、[illegible]」(三)[illegible]人ノ[illegible]グ人。トリツギノモノ。

とり-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 取付 (一)〔縋リテ固ク取ル。スガリ寄ル。スガル。[illegible] (二)〔端緒ヲ得。爲始ム。「商賣ニ取付く」(三)神憑リテ祟ル。ツキモノスル。[illegible] (四)クミツク。引キ組ム。

{**とり-つ・く**・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 取付 (一)物ヲ他ノ物ニ裝置ス。ツクリツクル。トリツクル。萬葉集、十七[illegible]「[illegible]」(二)漁ルヤウニス。漁リ附クス。[illegible]

とり-つ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(他動、四) 取次 (一)〔此ニ受ケテ彼ニ渡ス。間ニ居テ[illegible] [illegible] (二)門 訪ヘル人ノ用事ヲ、主人ニ傳ヘ告グ。執奏 (三)[illegible]

とりつくろひ (名) 取繕 [illegible]

とり-つくろ・ふ・[illegible]

人モ無カリケレバ、とりつくろふ人モナキママニ、草青ヤカニシゲリ」(二)過失ヲ掩ヒテ取リ成ス。彌縫「前ヲ取繕ふ」(三)整ヘ裝フ。着飾ル。體裁ヲツクル。修飾ス。著聞集、十八、飲食「タダ出デヨ、ワザトナカナカとりつくろふベカラズ、其レハ惡シカリヌベシ」

とりつけ（名）取付　(一)トリツクルコト。(二)銀行ナドノ預金ノ、一時ニ相ツギテ引キ出サルルコト。(三)カヒツケ。買客。(四)とつつけ(取附)ニ同ジ。盛衰記、廿七、信濃橫田川原軍事「軍場ヲ見給ヘト云フ、笠井小源太、アナ心ウヤトテ、馳廻テ見ケレバ、馬ハ放レテ主モナシ、首ハ取レテ、敵ノ鞍ノ取り付ケニアリ」

とりつた・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二)　取傳　受ケ傳フ。源、四十九、東屋「カカル御文ナドモ、とりつたへハジメケレド」平家物語、九、二度のかけの事「武士ノ、とりつたヘタル、梓弓、引キテハ人ノ、カヘスモノカハ」

とりつづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四)　取續　(一)ツヅク。引キツヅク。萬葉集、九、十長歌「其夜夢見テ、取次ギ、追ヒユキケレバ」宇津保物語、國讓、下三十「内ヨリカヅケ物、キンダチとりつづきテ、出給ヘリ」(二)生業ヲ營ミ行ク。生計ヲ立テ行ク。萬葉集、五ハ長歌「年月ハ、流ルル如シ、等利都都伎、追ヒ來ルモノハ、モモクサニ、セメヨリ來タル」

とりつ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二)　取詰　急ニナス。短ク烈シクス。キビシクセメツク。嚴シク迫ル。甲陽軍鑑、九、下、品第廿五「天文十五年月日、小縣ノウチ、戸石ノ城ヘとりつめ攻メナサルル時ハ、晴信公、御一代ニナキ、ヲクレ給フ程ノ儀也」

※**とりつ・める**（動）取詰　前條ノ語ノ口語。

とりて（名）捕手　(一)罪人ヲ召捕ル役人。捕方。捕吏。太平記、十一、宗繁賺二相摸太郎一事「此所彼所ニ隱レ居タル平氏ノ一族共、皆聞出ダサレテ、捕手ハ所領ヲ預リ」(二)武術ノ一。柔取ノ術ノ中ニテ、特ニ人ヲ捕フル技ニ就キテ云フ語ナルベシ。徒手ニテ人ヲ捕フル法。取手。俳草(正保)「我ナドハ、やはら取手ヤ、棒ナドヲ、アラマホシ」好色一代男(天和、西鶴)二「嘗居ト云フ男達、其頃(慶長)ハ取手キアヒハヤリテ、世ノ風俗モ殺伐ニシテ」世間子息氣質(正德、其磧)「力自慢シテ、柔、取手、サテハ相撲取ルコトヲ好ミテ」

とりて（名）取手　(一)とつて(取手)ノ條ヲ見ヨ。トリドコロ。(二)相撲ナド、其技ヲ翫ハス者。(寄相撲ノ條ヲ見ヨ)

とりで（名）砦　寨　壘　(取出ノ義)本城ヨリ近ク取出デテ築ケル小城。假ニ柵ナド構ヘテ兵士ヲ置ク所。トリデジロ。要塞。後太平記、三十七、尼子義久降參事「美保關ニ取出ノ付城ヲ構ヘ」太閤記、一「於二勢州表一取出之要害ヲ搆ントゾ思フゾ」家忠日記追加、六「大坂阪中村兩城ノ間ニ、取出ノ要害ヲ築カシメ給フ」

とりてき（名）取的　力士ノ最モ下級ナルモノ。親方力士ノ褌ナドヲ擔ギテ從ヒ行ク故、俗ニ、ふんどしかつぎナド云フ。

とりどころ（名）取所　(一)才藝ノ取リ用ヰルベキ所。取得。長所。枕草子、六、六十七段「とりどころナキモノ、容ニクゲニ心アシキ人」(二)取立テテ云フ點。賞スベキトコロ。利益ナル點。後拾遺集、三、夏「ホトトギス、夜深キ聲ヲ、聞ク時ゾ、物思フ人ノ、とりどころナル」詞花集、三、秋「ヤヘムグラ、繁レル宿ハ、ヨモスガラ、蟲ノ音聞クゾ、とりどころナル」堀河百首「人ヨリモ、時雨ノ音ヲ、聞クコトヤ、荒レタル宿ノ、とりどころナル」(三)手ニテ、ツマミ持ツベク、器ニ取リ作レル部分。把手。ツマミ。宇津保物語、藏開、中、廿一「大イナル銀ノ提子ニ、若菜ノ羹一鍋、蓋ニハ黑方ヲ大イナル土器ノヤウニ作リクボメテ、覆ヒタリ、とりどころニハ、女ノ一人、若菜摘ミタルカタヲ作リ」

とりとまらず（名）鳥不止　(一)樹ノ名。おとりとまらず(小鳥不止)ニ同ジ。鳥不宿ありどほし(虎刺)ノ條ヲ見ヨ。(二)たらのき(楤木)ニ同ジ。

とりと・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二)　取留　(一)引キ留ム。確ト取ル。古今集、十七、雜、上「とりとむる、物ニシアラネバ、年月ヲ、アハレアナウト、過ゴシツルカナ」伊勢物語、六十四段「とりとめヌ、風ニハアリトモ、玉スダレ、誰ガユルサバカ、ヒマモトムベキ」盛衰記、十八、文覺勸二賴朝謀反一事「逃去ランドシケルヲ、とりとめテ」「生命ヲ取留む」(二)慥ナリト證ス。確認ス。確證(三)シマル。マトム。

とりとめ（名）取留　(一)トリトムルコト。(二)シマリ。マトマリ。「取留モナイコトヲ言フ」

とりとめな・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二)　無取留　シマリナシ。マトマリナシ。不得要領。

※**とりとめ・る**（動）取留　とりとむ(取留)ノ口語。

とりどりに（副）取取　(一人一人ニノ略)思ヒ思ヒニ。カレモコレモ。銘銘ニ。ソレゾレニ。各自。源、二、帚木六「とりどりニコトワリテ、中ノ品ニゾ置クベキ」同、四十五、椎本廿一「物ノ上手トオボシキ限リ、とりどりニ打合ハセタル拍子ナド」遊仙窟「一一」

とりなこ（名）鳥名子　古ヘ、伊勢神宮ニ仕ヘテ、驅使ノ役ヲ勤メシ女。とんなこ(鳥名子)ニ同ジ。伊勢內宮年中行事、六月十七日「從二酉刻許一鳥名子等、參候、瑞垣御門外方、擊二志太良一(叩レ手也)」

とりなし（名）取成　執成　トリナスコト。トリツクロヒ。先容　甲陽軍鑑、四、品第十二「長坂長閑老、跡部大炊助殿、能能分別アルベシ、兩人御取成ヲ以ッテ、信濃ノ筭賣商人ナンド、奉公致サン」聖德太子繪傳記(享保、近松作)三「歎キヲ申シ、歸リタウハ思ハヌカ、御前ノとりなし、コノ川勝ヲ始メ、誰アッテアレカレトハ申スマジ」

とりな・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)　取成　執成　(一)此物ヲ變ヘテ、彼物トス。古事記、上五十「令レ取二其御手一者、即取二成立氷一、亦取二成劍刃一」(二)ヨキヤウニ計ラフ。取繕フ。先容　辯護　夫木抄、三十六、言語「サシモアラヌ、時雨ナレドモ、玉ガシハ、コトニとりなす、夜牛ノ音カナ」(三)ツクロヒトトノフ。注意シテ扱フ。宇津保物語、藏開、中五十「例ノ所ヨリノゾカセ給ヘバ、臺盤ニ物スヱテ、取りなしツツ參ル」(四)トリナホシテ、身構ヲナス。今昔物語、廿三、十五語「神佛助ケ給ヘト、太刀ヲ矛ノヤウニ取りなしテ、走リ早マリタル者ニ、俄ニ立向ヒケレバ」(五)取繕ヒ思フ。考ヘミル。理解ス。源、三十八、夕霧廿五「歌、云云、トヤどりなすベカラン」(六)アヤマリ考フ。源、四十九、東屋廿二「ヒガヒガシク、ネヂケタルヤウニ、どりなす人モアラン」(七)トリモツ。媒介ス。源、二、帚木十「ナヨビカニ女シト見レバ、餘リナサケニ引キコメラレテ、とりなせバアダメク」

とりなは（名）捕繩　(一)捕吏、警官ナドガ、人ヲ捕ヘテ、縛ル繩。ハヤナハ。(二)太刀ノおびとり(帶取)ノ所ニアクル繩。腰ニ纏フ緒。狂言記、長光「コレハ如何ナコト、人ノとりなはヲ、オノレガ腰ニ結ヒツケテ、人ノ太刀ニ手ヲ掛クルトハ」

とりなほ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)　取直　(一)持チカヘル。持チ改ム。(二)ナホス。改ム。

{とりな・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 取並 取リテナラブ。 萬葉集、十六、長歌「マソカガミ、取並カケテ」

とりなり (名) 取成 ツクリカタ。ナリフリ。スガタ。容子。 好色一代男「天和、西鶴」二「江戸ニテ、丹後殿前ニ風呂アリシ時、勝山トイヘル女、スグレテ情モ深ク、髪カタチとりなり、袖口廣ク後高ク、萬ニ付ケテ、世ノ人ニ替リテ」「小袖ノ仕立、風流ナルとりなり」

とりにが・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 取逃 捕ヘムトシテ、逃レラル。又、捕ヘテ、逃ゲラル。 盛衰記、十三、高倉宮信連戰ノ事「一番ノ手アヒニ、宮とりにがし進ラセタリ、不覺シ給タリ、云甲斐ナシト沙汰スト」

{とりのあしぐさ (名) 鳥足草 〔或ハ云フ、芽ノ鳥ノ足ニ似タルニヨルカト。根ノ、鷄、鵜、鷹、ナドニ藥效アルニ云フニヤ〕 升麻ノ古名。一名、ウタカグサ。 あはぼ(升麻)ノ條ヲ見ヨ。 本草和名、上十六「升麻、止利乃阿之久佐、宇多加久佐」倭名抄、廿七〔同字同訓〕字鏡五十七「升麻、鳥足草」

{とりのあそび (名) 鳥遊 鳥狩スル遊。 あそび(遊)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。 古事記、上五十四「爲ニ鳥遊取魚ニ而往ニ御大之前ニ未ダ還來ニ」

とりのあと (名) 鳥跡 〔鳥跡ノ文字讀。許愼、說文序「黃帝之史倉頡、見ニ鳥獸蹏迒之迹ニ、知ニ分理之可ニ相別異ニ也、初造ニ書契ニ」ノ故事ニ因ル〕 (一)文字、又ハ、手跡ノ異稱。筆ノアト。ミヅクキノアト。略シテ、あと。てうせき(鳥跡)ノ條ヲモ見ヨ。 古今集、序「コノ歌ノ文字、云云、マサキノ葛、長ク傳ハリ、鳥の跡久シク留マンラバ、[illegible]ノ義ヲモ知リ」後撰集、十一、[illegible]ミレバ、心ナクサノ、濱千鳥、今ハ聲コソ、聞カマホシケレ」[illegible]今ハカタミモ アラバコソ、昔ヲ聞ク文字ノ[illegible]マデ、鳥の跡トテナツカシヤ」 (二)文。又、手紙。 保元物語、三、新院御遷幸ノ事「[illegible]ニマシマシテ、濱千鳥、あとハ都ニ、カヨヘトモ、身ハ松山ニ、ネヲノミゾ泣ク」 (三)〔スラスラトハ書カズ、一字ヅツ書キタル文字。〕 [illegible]、四十四、[illegible]柏木ノ衛門、[illegible]ノ文、ミチノク紙五六枚ニ、ツブツブトアヤシキ鳥ノ跡ノヤウニ書キテ」赤染衛門家集「女ノ書ニ、マダ手モ書カズ、ト[illegible]ハセタレバ、タダ鳥のあとヲ見ムト云ヒタルニ、浦ナレヌ、千鳥の跡ハ、アリモセジ、空ニ書ケルヲ、人ハ見ヨカシ」

とりのいち (名) 酉市 とりのまち(酉待)ニ同ジ。

とりの・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 取除 (一)〔除ケ遣ル〕除ク。トリノケル。除キ去ル。排除。撤。 榮花物語、三十六、歌合「儀式、有樣、サキザキ、フリニシコトナレド、御輿ヨセテタテマツルホドナド、ウヘノ御局ノ、シトミとりのけテ御覽ズ」 (二)除外ス。

とりのけ (名) 取除 (一)取除クルコト。排除。 (二)例外。除外。

∴とりの・ける (動) 取除 前前條ノ語ノ口語。

とりのこ (名) 鳥子 (一)〔カヒ。カヒコ〕卵。又、鷄卵。 神代紀、上二「古、天地未剖、陰陽不分、渾沌如鷄子、溟涬而含牙」 六帖、四、友則十首内「鳥の子ヲ、十ヅツ十ハ、カサヌトモ、人ノ心ヲ、イカガ頼マム」金葉集、九、雜、上「鳥のこノ、マダかひナガラ、アラマセバ、ヲバト云フモノハ、生出サラマシ」 (二)とりのこがみ(鳥子紙)ノ略。 易林節用集(慶長)上、食服門「鳥子、トリノコ、[illegible]」[illegible]鳥子ハ鳥子、引合、杉原等也」 (三)とりのこもちひ(鳥子餅)ノ略。

とりのこいろ (名) 鳥子色 [illegible]ノ色。卽チ、淡黃ニシテ潤ヒアル色。

とりのこかさね (名) 鳥子襲 [illegible]目ノ名。表ハ、[illegible]白、[illegible]ハ、[illegible] 〔桃華蘂葉〕[illegible] 一位以上、[illegible]重、[illegible]

とりのこがみ (名) 鳥子紙 〔鳥ノ子、卽チ、鷄卵ノ如キ色ナルヨリ名ヅク〕 楮トがんぴトノ皮ヲ原料トシテ、漉キタル紙。今ハ、三椏ヲ用ヰル。[illegible]色ナリ。越前國、丹生郡中、[illegible]産ス。肌、ナメラカニシテ、[illegible] 其他、攝津、駿河ナドヨリモ[illegible] 好ク、強クシテ裂ケ難シ。雲、墨流し、五色ナドノモノアリ、丈一尺二寸、横三尺ノモノアリ、詔書、牧書、宣命等ニ用ヰラル。[illegible]樣ニ對シテ、古名、厚樣。略シテ、とりの。とりのき。

とりのこもちひ (名) 鳥子餅 今、とりのこもち。餅ヲ握リテ鷄卵ノ大キサニ作レルモノ。祝儀ノ用ナドトス。略シテ、とりのこ。 年中[illegible]ニ、[illegible]鳥の子ヲ握リテ折ニ置ク」

とりのそらね (名) 鳥空音 〔昔、支那ニテ、齊ノ相、孟嘗君(田文)ガ、秦ニ入リテ昭王ヲ殺サムトセシ時、其從者ニ、鷄ノ鳴聲ヲ能クスルモノアリテ、夜、關吏ヲ欺キ、孟嘗君ヲシテ、[illegible]關ヲ[illegible]レシメタル故事[illegible]〕 ニセテ鳴ク聲。鷄ノマネゴエ。猶、けいめいくたう(鷄鳴狗盜)ノ條ヲモ見ヨ。 後拾遺集、十六、雜、二「夜ヲコメテ、鳥ノ空音ハ、ハカルトモ、世ニ逢坂ノ、關ハユルサジ」[illegible]

とりのつかさ (名) 鳥司 (一)鷄ヲ[illegible]。 新撰六帖、[illegible]「[illegible]、とりのつかさ[illegible]」 (二)古ヘ、禁中ニテ、時刻ヲ奏上スル役人。鷄人

{とりのとき (名) 酉時 今ノ午後六時、七時ノ交。とき(時)ノ條ヲ見ヨ。略シテ、酉。 [illegible]

とりのぼ・せる・セル・セレ・セ・セ・セヨ(自動、下二) 取上 甚シク怒リ、或ハ、思ヒ迫リナドシテ、物事ノ辨別ヲ失フ。上衝

とりのまち (名) 酉待 又、酉精。武藏國、南足立郡、花又村(後ノ花畑村)ナル鷲ノ社ノ祭、[illegible]十一月酉ノ日ニ執行ス。今、東京市内ニモ、處處ニテ祀ル。[illegible]月ノ初ノ酉ノ日ヲ初酉[illegible]、次ノ日ツ二の酉トモ云ヒ、三度アレバ三の酉トモ云フ。熊手、唐芋ヲ賣ルヲ例トス。[illegible]日向ノ御子武東鳥命ヲ祭ル。[illegible]ノ遠祖ナリ[illegible]の祭ト云フトゾ。[illegible]ノ日ニハ、[illegible]トナレリ。江戸名所圖會、[illegible]年中[illegible]月酉ノ日祭アリ、[illegible]

とりのまひ (名) 鳥舞 [illegible]ノ[illegible]手ニ銅拍子ヲ拍チ、拍子ヲ取リテ舞フ[illegible]

びんが(迦陵頻伽)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。 宇津保物語、吹上、下「鷹ドモスエテ、とりのまひシテ出デキタリ」 榮花物語、廿二、鳥の舞「御階ノ左右ノソハヨリ、童ノ鳥の舞シタル程、マコトノ孔雀、鸚鵡、鳧雁、鶺鴒ノ遊ビナレタルト見エタリ」

とり-の-みち (名) [鳥道] 〔鳥ノ飛ビ通フ道ノ義〕 空ノ異稱。

〜とり-の-わた (名) [鳥腸] 鳥ノ腸。 倭名抄、十八₍九₎ 羽族體「膍胵、鳥乃和太、鳥胃也」 名義抄「胵、トリノワタ」

とり-ばかま (名) [執袴] 袴ノ股立ヲ、カラゲ上グルコト。 盛衰記、五、行綱中言事「入道ノ氣色ヲ見ツルヨリ心騷ガシ、瞳カノ證人ニヤ立テラレンズラント、恐シク覺ケレバ、とりばかまシテ、足早ニコソ歸リニケレ」 著聞集、五、和歌「國基アキレマドヒテ、申スベキ事モ申サデ、とりばかまシテ、ニゲニケリ」 平家物語、二、西光被₍レ₎斬事「證人ニヤヒカレンズラント、恐シサニ、人モ追ハヌニ執袴シテ、大野ニ火ヲ放チタル心地シテ、急ギ門外ヘゾ逃出デケル」

とりはからひ (名) [取計] 取計フコト。計ヒ扱フコト。アツカヒ。處分

とり-はから・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [取計] 計ヒ行フ。アツカフ。處分

〜とり-は・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) [取佩] 取リテ腰ニ帶ブ。 萬葉集、五₍九₎長歌「マスラヲノ、男サビスト、劍太刀、腰ニ刀利波枳、サツ弓ヲ、タニギリ持チテ」 同、十八₍廿₎長歌「梓弓、手ニ取リ持チテ、劍太刀、腰ニ等里波伎」 同、十九₍廿四₎長歌「ナグ矢持チ、千尋イワタシ、劍太刀、腰ニ等理波伎」

とり-はだ (名) [鳥肌] (一)寒クシテ、膚ニ毛孔ノイヨダツコト。サウケダツ。肌。粟膚。寒粟 (二)人ノ生得ニテ、膚ノザラザラセルモノ。サメハダ。 好色一代女(貞享、西鶴)五「色ハ造レド、筋骨立ッテ、鳥肌ニ縮レテ、人ノ聞クヲモ構ハズ」

とり-はづし (名) [取外] (一)取リハヅスコト。(二)取着ケ、又、取外スコトノ自在ナル裝置。

とり-はづ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [取外] (一)外すニ同ジ。 宇治拾遺、十五、第十二條「馬ニ乘リ給フニ、ヨク瞳シケルニヤ、鐙ヲ一度とりはづし、鐙ヲシキリニ踏ミハヅス」「戸ヲ取外す」 (二)取ルベキヲ、誤リテ落ス。失手 宇治拾遺、七、第六條「編長ヲ、云云、とりはづしテ、ヤリ水ニ落トシ入レタリケルヲ」

〜とり-はは (名) [取母] 養母。義母。養子先ノ母。 發心集、六、第二條「此ノ子十五六バカリニナリテ、此ノとり母ノ弟ノムカヘ腹ノ姫君ニ」

とり-ははき (名) [鳥帚] ハネバウキ。はばうき(羽帚)ニ同ジ。 續後拾遺集、七、物名、とりははき「ツマゴヒモ、ムナシキヨハヤ、サヲシカノ、ヒとりは萩ノ、下ニフスラム」

〜とり-ばみ (名) [鳥食] 古へ、大饗ノ終リタル後ノ料理ノ殘物。鳥ナドニ與フルモノトシテノ稱。 宇治拾遺、一、第十八條「正月ニ大饗セラレケルニ、ソノカミハ、大饗果テテ、とりばみト云フモノヲ拂ヒテ入レズシテ、大饗ノオロシ米トテ、給仕シタル恪勤ノ者ドモノ喰ヒケルナリ」

とりはらひ (名) [取拂] トリハラフコト。除クコト。ノケ去ルコト。撤去

とり-はら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [取拂] 除ク。除ケテ去ツ。除キ去ル。撤去 榮花物語、八、初花「二人御几帳ノ後ニ居カクレタルヲ、とりはらはセ給ヒテ、二人ナガラ執ヘサセ給ヘリ」

とり-ひき (名) [取引] (一)賣買ノ受授。(商人同士ナルニ云フ) (二)商人ノ物ノ賣買ヲ決スルコト。

とりひき-さき (名) [取引先] 商品ナドノ、取引スル先方。

とりひき-じょ (名) [取引所] 〔英語、Exchange; Board of trade.(米國語)ノ譯語〕 米穀、株式、綿絲ナドノ代替スルヲ得ベキ性質ノ商品ヲ、大量ニ賣買取引シ、且、其公定相場ヲ作製スル市場。

とり-ひさ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(他動、四) [取控] 次條ノ語ニ同ジ。 字類抄「控、搤、トリヒサグ」

とり-ひし・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(他動、四) [取拉] ひしぐ(拉)ニ同ジ。トリヒサグ。 ささめごと、上「彼卿(定家)ハ、鬼とりひしぐ體ヲ歌ノ中道ト申給ヘルトナン」 著聞集、十、相撲強力「長居ハソレヨリ肩ノ骨碎ケテ、片輪物ニ成ッテ、スマヒトルコトモナカリケリ、骨ヲとりひしぎニケルニコソ」

とり-ぶ (名) [取夫] 古へ、諸司ノ直丁ノ稱。 禁祕抄、下「瀧口相₌具衞士及取夫₌」

とりぶき-やね (名) [取葺屋根] 栁板ヲ竝べ、次ギテ押ヘニ、小石、又ハ、丸太ナド載セタル屋根。勾配低シ。略シテ、とりぶき。 和漢三才圖會、八十一、家宅之具「栁、長尺許、横三寸、比₌檜甚粗以薄葺者、名₌板屋₌、或名₌取葺₌、上₌壓₌小石₌、最賤家也」 西鶴織留(元祿)五「伏見里ノ質店ノ取葺屋根ノ、軒ノ低キヲ作事シテ、瓦葺ニ白壁、京格子ヲ附ケケレバ」

とり-ぶすま (名) [鳥衾] 丸瓦ノ長ク反リテ、沓形(鴟尾)ニナリタルモノ。屋ノ大棟、又ハ、隅棟ノ鬼瓦(又ハ鬼板)ノ上ニ突出セシム。くつがた(沓形)ノ條ヲモ見ヨ。

〜とり-ぶね (名) [鳥船] 〔行クコトノ速キヨリ名トス〕 神代ニアリシト云フ船。あまのとりぶね。 神代紀、下₍三十₎「高橋、浮橋、及天鳥船亦將₌供造₌」

とりべ (名) [𥿔] もたひ(甕)ニ同ジ。 字鏡、四₍十₎「𥿔、瓦器也、古、毛太比、又、取戸」 同、五₍十₎「甈、……字、取戸」

とりべ-の (名) [鳥邊野] (一)〔山城國、京都ノ茶毘所。 榮花物語、七、鳥邊野「鳥邊野ノ南ノカニ、二丁許リ去リテ、靈屋ト云フモノヲ造リテ」 宇治拾遺物語、三、十五條「イミジク煩ヒテウセニケリ、云云、シタテテ鳥邊野ヘ率テイヌ」 後拾遺集、十、哀傷「新ツキ、雪フリシケル、鳥部野ハ、鶴ノ林ノ、心地コソスレ」 新後撰集、十九、雜、下「アハレナリ、我身ニ近キ、鳥部野ノ、烟ヲヨソニ、イツマデカ見ム」 徒然草、第七段「アダシ野ノ露、消ユル時ナク、鳥部山ノ煙、立チサラデノミ、住ミハツルナラヒナラバ」 (二)墓地ノ稱。 河海抄ニ、延暦遷都記ヲ引キテ、愛宕鄕ヲ定メテ、臣民ノ葬地トス。今ノ京都市、八阪ノ西、六道ノ辻ノ地ナリ。 玉葉集、十七、雜、四「權中納言俊忠ノ遠忌ニ、鳥邊野ノ墓所ノ堂ニマカリテ、夜更ケテ歸リ侍リケル」

〜とり-まう・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [執申] 執リナシテ申シ上グ。取計ヒテ申ス。 源、二、帚木₍八₎「何事ヲとりまうさムト思ヒメグラスニ、マダ文章ノ生ニ侍リシ時、カシコキ女ノタメシヲナンミ給ヘシ」

とりまき (名) [取卷] (一)トリマクコト。(二)客人ニ隨從シテ、ソノ機嫌ヲトル人。幇間、藝妓ナドノ總稱。 浮世風呂、文化、三馬)四、中「オメヘサン一枚ヲ大勢ノ取卷デ、通夜大飲ト云フ洒落ガ、度度ゴゼエマシタッケネ」

とり-ま・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) [取卷] 圍ム。內ニ籠ム。トリマハス。圍繞 太平記、十六、船坂合戰事「江田兵部大輔ハ、三千餘騎ニテ美作ヘ打入ッテ、奈義、能仙、菩提寺三箇所ノ城ヲ取り卷き給フ」

とりまち-づき (名) [鳥待月] 陰暦、四月ノ異名。

トリマワシ
とりまはし (名) 取廻 トリマハスコト。トリナシ。處置。處分 日本永代藏(元祿、西鶴)二「コノ男、生レ付イテノシハキニ非ズ、萬事ノ取り廻し、人ノ鑑ニモナリヌベキ願ヒ」好色一代女(貞享、西鶴)一「取り廻しノ賤シカラズトテ、國ナル國子ノ嫁ニシテモ苦シカラジ」

トリ・マワ・ス
とりまは・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 取廻 (一)程善ク扱フ。トリナス。處分 (二)とりまく(取卷)ニ同ジ。太平記、九、主上上皇御沈落事「東一方ヲバ、敵未ダ取りまはし候ハネバ、主上上皇ヲ取り奉リテ、關東ヘ御下リ候ウテ後、重ネテ大勢ヲ以テ、京都ヲ攻メラレ候ヘカシ」

とりみだ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 取亂 (一)調度ナド、散ラシ亂ス。トリチラス。好色五人女(貞享、西鶴)二「少シ惱ム風情ニ、袖元とりみだしテ、帶ハシヤラホドケヲ其ノ儘ニ、アマタノ脱ギ替ヘ、小袖ヲ積ミ重ネ」(二)シドケナキ状ヲナス。シダラナクス。櫻陰比事(元祿、西鶴)一「イザ、子ドモヲ、刺シ殺シ果テントイヘバ、女房モとりみださズ、イカニモ生キタル甲斐ハナシ」好色五人女(貞享、西鶴)二「昔ノ文名殘アリテ、取亂し讀ミ續ケケルニ」

とりむす・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(他動、四) 取結 (一)結ビ交ハス。結ビ固ム。結約 「約定ヲ取結ぶ」(二)構フ。ツクル。狂言記、不塞立「小庵ヲ取り結んデ御座ルガ」

トリン・ボウ
とりんばう (名) 取坊 遊里ノ客ニシテ、妓ヲタラシテ、金品ヲ取ルモノ。とられんばうノ條ヲモ見ヨ。トリンボ。

とりんぼ (名) 取坊 前條ノ語ニ同ジ。卜養狂歌集「當世ノ、吉原タタキ、チヨロタタキ、此ノとりんぼモ、岩タタキカナ」

{**とりめ** (名) 鳥目 〔鳥ノ視力ニ同ジキヨリ云フ〕眼ノ病ノ一、晝ハ能ク見エテ、暮ヨリ夜ニ入レバ、見エズナルモノ。多ク夏月ニ發シ、小兒多ク患フ。雀盲 倭名抄、三[illegible]義抄「雀目、トリメ」醫心方、五「雀盲、トリメ」

とりもち (名) 執持 トリモツコト。他ヲ助ケテ、モノスルコト。世話スルコト。斡旋 媒灼 周旋

とりもち (名) 鳥黐 鳥ヲ捕ルモチ。黐 約メテ、とりもち。もち(黐)ノ條ヲ見ヨ。和玉篇「黐、トリモチ」神樂歌、採田「某田ニ、鴨八ツ居リ、とりもち無ヤ、八ツナガラ、とりもち無ヤ」

とりもちのき (名) (一)もちのき(黐木)ノ條ヲ見ヨ。(二)やまぐるまニ同ジ。

{**とりも・つ**・ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) 取持 (一)持ツ。手ニ携フ。字類抄「攝、トリモツ」萬葉集、十九「梓弓、手ニ取持ちテ、朝獵ニ、君ハ立去メ、タナクラノ野ニ」(二)其事ヲ、身ニ負ヒ持チテ、執行フ。他ノ事ヲ、傍ヨリ助ケテ、共共ニスル。古事記、上[illegible]萬葉集、十八「天皇ノ、任ノマニマニ、鄙里モ知テ、仕フル國ノ」三代實錄、廿九、貞觀十八年十一月、詔「內外ノ政ヲ取持テ、勤仕奉ムト、夙夜不懈」源、三十四、下、若菜、下「御[illegible]宮達ノ御アツカヒナド、取持ちテシタマフ故モ」(三)雙方ノ間ヲ取リ成ス。人ヲ助ケテナス。媒灼ス。媒介ス。斡旋ス。幇助 源、三十八、夕霧「上御法事ニ、ヨロヅ取リ持ちテセサセタマフ」(四)取リハヤス。待遇ス。源、十七、繪合「オホカタノ事ドモハ、とりもちテ、襃メキ聞エタマフ」同、三十九、御法「ハカバカシク宣ヒオキツルコトナカリケレバ、大將ノ君ナムとりもちテ、仕フマツリタマヒケル」

とりもど・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 取戻 取返すニ同ジ。囘收 [illegible]「アノ借狀ガ、取戻しタサノ親儀デオリヤル」

トリ・モ・ナオサ・ズ
とりもなほさ・ず (副) 取不直 改メズニ。ソノママニ。スナハチ。

とりもの (名) 捕物 罪人ヲ召捕ルコト。又、召捕ルベキ罪人。

とりもののうた (名) 採物歌 神樂歌ノ中ニテ、人長ガ採リテ舞ヒナドスル榊、幣、杖、篠、弓、劒、鉾ナドヲ歌フ古歌。天照大神ノ天岩屋戸ニ籠リタマヒシ時、諸神ノ其御前ニ集ヒテ、和メ奉ラムトシタマヒシ時ニ、各採リタル品品ナリ。神樂歌入文、上[illegible]

とりや (名) 鳥屋 (一)小鳥ヲ籠ニ飼ヒテ商フ家。(二)食用ノ鷄、鴨、鶩ナドノ肉ヲ賣ル家。又、ソノ人。

どりや (感) イザ。イデ。ドレ。サア。狂言記、鏡男「どりやどりや、寢イ見ニ、一ツ飲マウゾ、上リマセイ、肴ハ何ヂヤ、茗荷ト蕗トガゴザリマスル、どりや、ソノ蕗ヲコセイ」十返舍一九、膝栗毛「コノ世ヲバ、どりやオイトマニ、センコ香ト、トモニ灰ニハ、ハイサヤウナラ」

ド・リョウ
どりやう (名) 度量 〔禮記釋文「丈尺曰レ度、斗斛曰レ量」〕(一)尺ト、桝ト。[illegible] (二)人ノ心ノ、寬クシテ能ク物事ヲ容ルルニ[illegible]

ド・リョウ・コウ
どりやうかう (名) 度量衡 (一)長サト、容積ト、重サ。(二)長サヲハカル器ト、容積ヲハカル器ト、重サヲハカル器ト。又、度量衡器。

とりやり (名) 取遣 [illegible] 取リ交ハスコト。ヤリトリ。授受 贈答 往復 [illegible]

{**とりゆ** (名) 〔とりゆすりノ約〕 琴ヲ彈クニ、左ノ手ニテ、絃ヲ押サフルコト。[illegible]

どりゆう (名) [illegible]

どりゆうのぎ (名) [illegible]

どりよく (名) 努力 イタヅクコト。ツトムルコト。セイヲダスコト。ホネヲルコト。[illegible]

{**とりよ・す**・ス・セ・サ・シ・セ(他動、下二) 取寄 (一)物ヲ我ガ方ヘ寄ラス。[illegible]

モノシ給ヒケル」 (二)引キ寄ス。近ク寄ス。枕草子、四、四十三段「長押ノモトニ、火近クとりよせテ、サシツドヒテ、偏ヲゾ付ク」

トリ・ヨソ・ウ
〔とりよそ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [取裝] よそふ(裝)ニ同ジ。古事記、上、四長歌「ヌバタマノ、黑キミケシヲ、マツブサニ、登理與曾比、沖ツ鳥、ムナ見ルトキ」萬葉集、廿、十二長歌「マスラヲノ、ココロフリオコシ、等里與曾比、門出ヲスレバ」

トリ・ヨロ・ウ
〔とりよろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [取具] 身ニヨソホヒ、トトノフ。ソナハリ、トトノフ。萬葉集、一、十長歌「大和ニハ、群山(ムラ)アレド、取與呂布(山ガ樹木ニ因リテ裝束セラルノ意) 天ノ香山(カグヤマ)、ノボリタチ、國見ヲスレバ」

〔とりわき (副) [取分] とりわけ(取分)ニ同ジ。源、七、紅葉賀「サレド、斯クとりわき思ヒ給ヘル御覺ノ程ハ、イトタノモシゲナリカシ」

〔とりわきご (名) [取分子] ヤシナヒゴ。養子。増鏡、十七、春の別「故爲道ノ中將ノ二郎爲定ト云フヲ、故中納言(爲藤)、とりわきごニシテ」

〔とりわ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [取分] 特別ナリ。他ト異ナリ。枕草子、五、五十段「ツユとりわきタル方モナクテ、サスガニ、歌ガマシク、我ハトオモヘルサマニ、サイソニヨミイデ侍ランナン、ナキ人ノ爲ニ、イトホシク侍ル」

とりわ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) [取分] (一)特別ニス。他ト異ニス。(二)取リテ分別ス。又、區別シテ取ル。

とりわけ (副) [取分] 殊ニ。別シテ。トリワキ。特別ニ。特 狂言記、樽酒「扠モ扠モ、カウシテ飲メバ、とりわけイツモヨリハウマイハ、サラバ此ノ杯ヲ、ソコヘ差スゾ」

トリ・イ
とりゐ (名) [鳥居] 〔鶏ヲ栖マスベキ義、古ヘ、鶏ヲ幣ノ一種トシテ、神ニ供ヘシナリ。故ニ鶏ノトマリ木ヲ云フ。元、笠木ノ次ノ横木ノ名、即チ鶏栖ナリ。

華表ト記スハアタラズ」 (一)〔神社ノ門。丸木、二本ヲ柱トシテ、左右ニ立テ、上ニ横ニ丸木(コレヲ笠木ト云フ)ヲ亙シ、中ニ横木ヲ添ヘタルモノ。神社ノ横ニモ後ニモ立テシナリ。後ニ、正面ニノミ、門ノ如ク立ツルコトトナレリ。コレニハ鹿島鳥居、八幡鳥居、春日鳥居、神明鳥居、明神鳥居ナドノ種類アリ、何レモ多少、ソノ形式ヲ異ニス。又、木造ノ外、石造、銅製ナドモアリ。倭名抄、十、門戸類「鶏栖、鳥居」書言字考節用集、三、神祇門「華表、トリヰ、雞栖、同、鳥居、同、和俗所用」源、十、榊四「黑木ノ鳥居ドモハ、サスガニカウガウシク、見ワタサレテ」馬内侍集「鞍馬ニマヰリタルニ、鳥居ノモトニ櫻イトサカリナルヲ」夫木抄、廿、山「鳥居立ツ、逢坂山ノ、境ナル、手向ノ神ヲ、我ガナ(名ニカク)イサメソ」 (二)轉ジテ、人家ノ門ノ屋根ナキモノ。(三)腰輿(タゴシ)ノ勾欄ノ上ノ横木。内匠寮式「御腰輿、云云、鳥居高欄析」 (四)衣桁ノ上ノ笠木。類聚雜要抄、四「衣架一脚、懸二裝束一料、云云、鳥居木長七尺」

トリ・イ・シ・ヨウ・ジ
とりゐしやうじ (名) [鳥居障子] 〔形、鳥居ニ似ル故ニ云フ〕 ついたてさうじ(衝立障子)ノ一名。其條ヲ見ヨ。易林節用集、上、乾坤門「通入障子(トリイシヤウジ)、又作二鳥居障子一」安齋隨筆、後編、十一「鳥居障子、鵲間、鳥居障子ハ衝立障子ノ事歟、如何(通障子、別ナル事、勿論)鳥居障子ハ通障子ニテハ無二御座一候哉、通リ入ルトカナ書ニテ、鳥居障子ト申由、承リ傳ル計御座候、舊記ノ考ハ無二御座一候」槐記、享保十二年八月十二日「華表ノ字ヲ、とりゐト訓ズルハ不審ト、後見安正カ申タリ、モト鳥居ト云フハ、木トシタ形ナモノヲ、とりゐト云フ、とりい障子ナド云フモ、ついたてニ障子ヲハメタルモノ也、トテモ漢字ノナキモノハ、假名ニテ鳥居トカヨシト傳ラル(鳥居トカキテモ カナ也)」 日中行事(後醍醐天皇)「鬼ノ間ノ鳥居障子ヲ入ルホド」 兵範記、久安五年十月廿五日「西第二間

鳥居障子上、同垂二御簾一」 ももえき(寛政)二「清涼殿、母屋南西鳥居障子五間、各絹張、紺青引、極彩色、本文之通」

トリ・イ・ダチ
とりゐだち (名) [鳥居立] 兩脚ヲ開キテ、立チハダカリタルコト。二王立。 傾城反魂香(寶永、近松作)上「開ケヨ明ケヨト貫ノ木モ、折ルルバカリニ蹈ミタタキ、鳥居立ちニゾ踏ッタル」

トリ・イ・ツ・ム・ジ
とりゐつむじ (名) [鳥居旋毛] になひつむじ(擔旋毛)ニ同ジ。

トリ・イ・リ・ユウ
とりゐりう (名) [鳥居流] 江戸時代ニ起リシ浮世繪ノ一派。元祿中、鳥居庄兵衛清信ヲ祖トス。四代ノ鳥居新助清長、名手タリ。專ラ、歌舞伎役者ノ姿ヲ畫ク。因リテ芝居繪看板、繪番附ニ一流ヲ起シタリ。又、鳥居のへうたん足ト云ヒテ、敵役(カタキヤク)ノ手足ヲ瓢簞ノ如ク畫キシトゾ。鳥居派。

トリ・オ
とりを (名) [取緒] 衡(ハカリノサヲ)ノ紐(ヒモ)。 勘者御伽雙紙(寛保、中根保之)中「ハカリノサヲバカリヲミテ、其ノヲリノ重サヲ知ルハ、末ノとり緒ヨリ皿緒マデノ寸ヲ取リテ、其ノ寸ヲムダ目ヨリ末ノ方ヘクラベテ、其ノアタル所ヨリ、ムダ目迄ノ目、即チ、錘ノオモサ也 云云」

と・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [取執採] 〔手(テ)ノ活用〕 (一)手ニ持ツ。 徒然草、百五十七段「筆ヲとれバ物カカレ」「杯ヲ執る」「箸ヲ執る」 (二)持チテ使フ。モチヰル。使用 「弓矢取る身」打物取りテハ」 (三)集メ收ム。採 「柴ヲ採る」菌(キノコ)ヲ採る」 (四)〔捕フ。抑フ。擒ニス。捕 仁德紀、四十三年九月「依網屯倉阿弭古捕(トリテ)二異鳥一獻二於天皇一」 盛衰記、十六、滿仲「西宮殿ニ昔二式部卿ノ宮ヲとり奉リテ、東國ヘ下奉キ、官兵ヲ差シ、仕ニ郎ケ進ラセント、右近ノ馬場ニテ夜々談議シケル程ニ」「魚ヲ捕る」鼠ヲ捕る」召シ捕る」搦メ捕る」 (五)〔殺ス。討チ取ル。殺 古

事記、下(安康)二廿六「人取二天皇一(眉輪王ノ天皇ヲ云フ)」 萬葉集、六、廿六「千萬ノ、軍ナリトモ、言擧ケセズ、取(トリテ)而來ツベキ、男トゾ思フ」 古事記、下(履中)二十「墨江中王欲レ取二天皇一、以レ火著二大殿一」 同、中(景行)四十六「故取二其人等一而還」「組ミテ取る」射テ取る」 (六)受ケ收ム。收 「勘定ノ金ヲ取る」拂ヒヲ取る」 (七)請ヒ受ク。請 「指圖ヲ取る」暇ヲ取る」 (八)身ニ受ケ得。身ニ負フ。受 「無キ名ヲ取る」譽レヲ取る」 (九)我ガ物トス。我ガ手ニ收ム。占得 「名ヲ取る」得ヲ取る」勝ヲ取る」世ヲ取る」天下ヲ取る」權ヲ執る」政事ヲ執る」 (十)〔官ニ取リ收ム。召シ上グ。褫奪 拾遺集、八、雜、上「官(ツカサ)とらレテ侍リケル時、イモウトノ女御ノ許ニ遣ハシケル」 天武紀、下、四年四月「小錦下久努臣麻呂坐二對二捍詔使一、官位盡追(トラル)」 垂仁紀、七年七月「奪二當麻蹶速之地一、悉賜二野見宿禰一」 繼紀、三十、神護景雲三年九月、詔「賜ヘリシ姓(カバネ)ハ、取(トリテ)別部ト成シ給ヒテ」 榮花物語、二、花山「貞元二年十月十一日、大納言ノ大將ヲとり奉り給ヒテ、治部卿ニナシ奉り給ヒツ、無官ノ定メニナシ聞エマホシケレド」 (十一)〔奪フ。盜ム。奪 義經記「ハキタル履モ雪ニ取らレ、着タル笠モ風ニ取らル」 伊勢物語、十二段「女ヲバ取りテ、共ニヰテ往ニケリ」 「人ノ物ヲ取る」金ヲ取る」 (十二)生ゼシム。發(オコ)ス。令生 「酒ヨリ酢ヲ取る」石ヨリ火ヲ取る」 (十三)〔除ケ置キテ貯フ。留 古今集、十五、戀、五「忘レ草、種とらマシヲ、逢フ事ノ、イト斯ク難キ、モノト知リセバ」「取りテ置ク」 (十四)導キ入ル。引 「筧ニテ水ヲ取る」窓ヨリ日ノ光ヲ取る」 (十五)選ビ用ヰル。採用 「人ヲ官ニ採る」其說ヲ採る」オヲ取る」取るニ足ラズ」 (十六)〔慰メ懷クル。攬 源、二、帚木八廿「何事ヲとり中サムト、思ヒメグラスニ」「御ケシキとる」人ノ心ヲとる」機嫌ヲとる」 (十七)引キ寄ス。「迎ヘ取る」呼ビ取る」聞キ取る」 (十八)〔迎ヘ受ク。引キ受ク。 神樂歌、殖槻「我ヲ捨キテ、二妻(フタツマ)とるヤ、トルナテフ、カサノ淺茅ガ原ニ」 源、七、紅葉賀四「舞ノ師ドモナド、世ニ並ベテナラヌヲ

とりツツ、云云、習ヒケル」「埒ヲ取ル」「瘤ヲ取ル」「弟子ヲ取ル」 (十九)〔除〕除ク。去ツ。去ル。神樂歌、其駒「其駒ゾヤ、云云、磐とり、草ハ取飼ハムヤ、水ハ取飼ハムヤ」「籍ヲ取ル」「シミヲ取ル」「血ヲ取ル」 (二十)脫グ。「[illegible]ヲ取ル」 (廿一)定メ設ク。占ム。「陣ヲ取ル」「物ヲ取ル」「宿ヲ取ル」 (廿二)行フ。爲ス。行 曾我物語、一、相撲事「力競ベノ腕相撲一番取らン」「相撲ヲ取ル」「的ヲ取ル」 (廿三)費ヤス。費「手間ヲ取ル」「暇ヲ取ル」 (廿四)打チ合ハス。打拍「拍子ヲ取ル」「間ヲ取ル」 (廿五)數フ。差ス。計ル。計「尺ヲ取ル」「數ヲ取ル」 (廿六)解ス、解釋ス。「意味ヲ取ル」「ヲカシク取ル」 (廿七)ナズラフ。タグフ。喩フ。川柳「人體ニ、取れバ琵琶湖ハ、臍ノ孔」 (廿八)他ノ動詞ノ上ニ附キテ熟語トナリ、接頭語ノ如ク、意ナク用ヰルモノ。「取り繕フ」「取りハヤス」「取り摑ク」「取り失フ」「取りマカナフ」「取り別キテ」「取りノボセル」 命を取るトハ、殺ス。師匠を取るトハ、入門ス。主を取るトハ、仕フ。年を取るトハ、老ユ。筆を取るトハ、書ク、記ス。脈を取るトハ、診察ス。場を取るトハ、塞ガル。爪を取るトハ、爪ヲ切ル。(切るヲ忌ミテ取ルト云フ) 氣色を取るトハ、機嫌ヲ伺フコトニ云フ。

ドル (名) 〔弗〕 どるらる(弗)ノ略。

ドルばこ (名) 〔弗匣〕 (一)鋼、鐵ニテ極メテ厚ク堅固ニ造レル廚子ノ如キモノ。扉、鎖ナド嚴重ニ設ケ、金銀ヲ藏ムルニ用ヰル。火災ニ燒ケズ、又、盜難ニ備フ。金庫。(二)藝者、娼妓ナドガ、金品ノ供給ヲ受クル檀那ノ稱。金穴。

ドル-ラル (名) 〔弗〕 〔英語、Dollar. 弗ノ字ハ、米國ノどるらるノ記號、$ ニ似テ居ル故、ソノ當字ニ用ヰル〕 亞米利加合衆國、かなだ、及、墨西哥國ナドノ貨幣ノ單位ノ名。一弗ハ、凡ソ、我ガ二圓許リニ當ル。ダラ。ドル。洋銀。

ど-れ (代) 〔何〕 〔いづれノいガ省カレテ、づガどニ轉ジタルナリ。(いまだ、まだ。いでる、でる。おづけなし、おどけなし。おづおづ、おどおど)れハ添ハリタルモノ。これ(是)ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)不定ノ物事ヲ指シテ云フ語。いづれ(何)ニ同ジ。狂言記、釣狐「どれへゾ、野遊山ニ出ウト存ズル」 (二)どこ(何處)ニ同ジ。イヅコ。狂言記、文相撲「ソナタハ、どれカラドコヘ行ク人ゾ、私ハ奉公ガ望ミデ、都ヘ上リマス」

どれ (感) 思ヒ立チテ、事ヲ行フ時ニ發スル聲。ヤオレ。イザ。イデ。ドリャ。ドレイ。狂言記、末廣がり「どれ、見セサッシャレ、コレ、ゴロンジャレ」

どれ-あひ (名) 男女、馴レ合ヒテ、夫婦トナルコト。 漢書、外戚傳、下、孝成許皇后傳「房與宮對食」注「宮人自相與爲夫婦、名對食」房ト宮トハ二人ノ名ナリ」「どれあひ夫婦」

ど-れい (名) 〔奴隷〕 (一)ぬれい(奴隷)ニ同ジ。下部。下男。 唐書、顏杲卿傳「[illegible]故舊妻子奴婢僕三百餘人、轉徙不自存、杲卿悉力[illegible]」 [illegible] (二)〔英語、Slave.ノ譯語〕 外國ニテハ、自由ヲ束縛セラレ、牛馬ノ如ク賣買、又ハ、使役セラルル人。(三)或ルモノノ爲ニ束縛、使役セラレテ居ルコト。「金錢ノ奴隷」

どれい (感) どれノ延。其條ヲ見ヨ。心中二枚繪雙紙(寶永、近松作)中「[illegible]ノ者、顧ミマセウト云ヒケレバ、どれい、ト云ウテ、[illegible]」 [illegible]中「どれい、小栗軍兵衞申ス、旦那辛ヒ宿ニアリ、イザオ通リトイヒケレバ」

と-れう (名) 〔塗料〕 モノヲ塗ルニ用ヰル[illegible] 顏料。

とれう-しやう (名) 〔都料匠〕 大工ノ棟梁。[illegible]

ど-れきせい (名) 〔土瀝青〕 鑛物ノ名。石炭油ノ酸化シ、凝結シテ生ズルモノ。黑色、緻密ニシテ、[illegible]、曲折ノ[illegible]シ、又、道路ノ鋪裝、防腐、塗料、防水ナドニ用ヰル。あすふぁると(土瀝青)ノ條ヲモ見ヨ。

ドレス-コオト (名) 〔英語、Dress-coat.〕 燕尾服。其條ヲ見ヨ。[illegible]

ど-れつ (名) 〔堵列〕 堵ノ如ク並ビ、兵士ナドヲ排列スルコト。(禮儀ノ時ナドニ)

ドレッドノオト (名) 〔[illegible]〕 英國ニテ造レル軍艦ノ名、Dreadnaught. [illegible]ニ起ル」 どきふかん(弩級艦)ノ條ヲ見ヨ。

どれ-どれ (代) 〔何何〕 どれ(何)ノ疊語。狂言記、犬山伏「扨、どなたニモ御息災ニゴザルカ、ナカナカ、どれどれモ息災ニゴザル」

どれ-どれ (感) どれノ疊語。狂言記、煤野「アレアレ、向カウナ藪ノ中ニ鶯ガ啼キマス、どれどれ、どこニ啼ルゾ、[illegible]」

どれ-ほど (副) 〔何程〕 なにほど(何程)ニ同ジ。

どろ (名) 〔油〕 〔どろどろ流ルルヨリ云フ〕 (一)アブラ。(東京離語) (二)肉ノアブラミ。(三)あぶらむし(油蟲)ノ略稱。其條ノ(二)ヲ見ヨ。

どろ (名) どろどろ(泥濘汁)ノ略。其事ヲ見ヨ。「[illegible]どろ」

どろ (名) 〔[illegible]〕 飲食店ノ入口ニ、客ナキニ、客人ノ履物ナド並ベオクモノ。客アルヤウニ景氣ニ見セ、客ヲ誘フコトナリ。

どろ (名) 〔瀞〕 〔のろしノどろしト轉ジ、[illegible]〕 川波ノ靜ナルコト。又、其トコロ。關東、出羽ノ地名ニ、長瀞、[illegible]瀞ナドアリ。[illegible]

とろ (名) 〔吐露〕 己レガ意見ヲ陳ベテ[illegible]ハスコト。[illegible]

トロ (名) とろっくノ略。

どろ (名) 〔泥〕 [illegible] (一)土ノ水ニ雜リテ、融ケタルモノ。[illegible]

どろあし (名) 〔泥足〕 (一)穢ニテ土ヲ踏ミ、泥ニマミレタル足。(二)[illegible] 長持ニツケタル四脚、地上ニ置クトキ、泥水[illegible]ノ用ナリ。[illegible]

トロオル (名) 〔英語、Trawl.〕 (一)網ノ一種。[illegible]

レヲ船尾ニ附ケテ、海底ヲ曳キテ、魚捕ス。幅百尺ニ及ブ。海深、百五十尋ヲ限度トス。曳網。コレヲ用ヰル漁船ヲ、どろおろ船ト云フ。

どろか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [盪] 〔とろくるノ他動〕 とらかす(盪)ニ同ジ。

どろ-がに (名) [泥蟹] 古名、イネツキガニ。イナツキガニ。コメツキガニ。蟹ニ似テ小サク、蟛蜞(葦原蟹)ヨリ大キクシテ、右ノ螯、小サク、色赤キモノ。溝ノ中ニ産ズ。蟛蜞 メツブレガニ。メヤミガニ。クソガニ。

どろ-がめ (名) [泥龜] すっぽん(鼈)ニ同ジ。ドンガメ。

とろ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) [盪] 〔とろとろヲ活用ス〕 (一)解クル。檢束ヲ失フ。トロロク。盛衰記、十一、靜憲與入道問答事「一一ノ返答、文文句句、面白ク申サレツル言カナ、入道殿ノ日頃ノ御憤リ、コトノ外ニとろけテコソ見エ給ヒツレ」 (二)金屬類、沸キ鎔ケテ湯トナル。鑠 (三)淫奔トナル。

どろ-さく (名) [泥作] 〔泥水ニ溺ルルモノノ義ノ擬人語〕 どろぼう(遊蕩)ノ條ヲ見ヨ。雜俳(元祿)云、浮世狂「モクゼン十ケ條ノ大指アリ、云云、どろ作ナトト、擬レタル異名ヲ授カル」

とろ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [盪] 鈍シ。ノロシ。タユシ。鈍 [illegible](安永)「イカニモマケヤスキどろき馬ヲ一疋トラヘテ、急ギ下ニシテ、持ツモノアリ」

どろ-た (名) [泥田] フケタ。泥深キ田。泥田を棒で打つ」ハ、何ノ差別ナク、ムヤミナル事ヲナスニ喩フル諺。

どろた-ぼう (名) [泥田棒] 〔泥田を棒で打つト云フ諺(前條ヲ見ヨ)ヲ約メタル語〕 狂氣ジミタルフルマヒ。何ノ差別モナク、理不盡ニ事ヲナスコト。

どろ-だらけ (名) 〔だらけノ條ヲ見ヨ〕 泥ニマミルルコト。ドロマミレ。

どろ-ち (名) [鳥黐] とりもち(鳥黐)ノ約。其條ヲ見ヨ。

トロック (名) 〔英語、Truck. ノ訛轉〕 手押用ノ小サキ貨車。又、土工用ノ運搬車。略シテ、とろ。トロッコ。

ドロップ (名) 〔英語、Drops.〕 西洋菓子ノ一種。小サク圓ク塊狀ニ製シタル糖菓(其ニハ、どろっぷすト云フガ正シ)

とろ-とろ (副) [盪盪] 〔うつらうつらノ略轉〕 (一)盪ク弛キ狀ニ云フ語。トロリト。「火ヲとろとろ焚ク」 (二)粘液ノ垂レ落ツル狀ニ云フ語 其重キ粘液ニハ、どろどろト云フ。盛衰記、十七、祇王祇女事「入道ハ餘リ情目モセズ、打領許キ領許キ、ヨダレとろとろ垂シテ見入給ヘリ」 (三)眠氣ヲ催ス心地ニ云フ語。トロリト。狂言記、花子「とろとろトマドロウタレバ」 可笑記(正保)三「傾城トイヘル物ハ、ウハベコソ、色ヨキ小袖ヲ着カザリ、油とろとろ、鬢黒ク、ウスゲシャウニ花車メカシテ、シャラナル風情ヲオモテニシ」

どろ-どろ (副) (一)雷鳴、又ハ、橋上ノ車馬、行人ノ響ナドニ云フ語。トドロニ。ゴロゴロ。轟轟 殷殷 (二)大太鼓ヲ、初、小刻ミニ、次第ニ高ク早ク打ツ音ニ云フ語。(芝居ニテ、幽靈ナドノ現レムトスル時ニ)ウスドロ。

どろ-どろ (副) 泥ノ如ク盪ケタル狀ニ云フ語。トロトロ。ドロリト。

とろとろ-び (名) [熳火] 氣ノ盪ク弱キ火。トロビ。盪火。文火。

どろ-なは (名) [泥繩] 盜賊ヲ捕ヘテ繩ヲ綯フト云フ諺ヲ、約メタル語。事ニ臨ミテ、俄ニ準備スルコトニ云フ。軍ヲ見テ矢ヲ矧グノ類ナリ。

どろ-のき (名) [白楊] 白楊ニ同ジ。

どろ-ばう (名) [盜賊] 〔押取坊ノ上略轉ナラム〕 (一)取りん坊ナド云フ語ト、同例ナリ。沖繩ニテ、どるぼう。ヌスビト。タウゾク。後撰夷曲集、寛文 九「白良ノ、濁リテ黑キ、どろばうヤ、スッパノカハノ、流レナルナム」 もえぐひたきつけ(延寶)「寐タルヒマニ、鼻紙袋ヲアケル女、女郎ニカヤウノどろばうハアルマジケレド」 (二)西國ニテハ、放蕩無賴ノ者ノ稱。(盪ケタル者ノ意カ)

とろ-び (名) [熳火] とろとろび(熳火)ニ同ジ。文火。

とろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [詛] とほふ(詛)ニ同ジ。字類抄「呪、詛、トロフ」

どろ-ぼう (名) [遊蕩] 〔泥田棒ヲ更ニ約メタル語ト云フ。泥繩ト同例ナリ。泥棒ハ盜賊ニアラズ、遊蕩ノ專用語ナリ〕 (一)遊女狂ニ、身ヲヤツスコト。どろ作。句兄弟(元祿)「泥坊ノ、中ヲ出ヅルヤ、蓮葉者」 (二)非常ニ酒ニ醉ヒタルモノ。泥醉セルモノ。ヨヒドレ。ヨッパラヒ。物類稱呼、一、人倫「酒狂人ヲ、東國ニテ、ナマヱヒ、又、ヨッパラヒト云フ、云云、遠江ニテ、泥ぼうト云フ、(醉テ泥ノ如シト云ヘルココロニヤ)」

どろ-まぶれ (名) [泥塗] 次條ノ語ニ同ジ。東海道名所記(萬治)二「馬モ人モスベリテ、シリモチヲツク、ヨコナゲニスル、手足モどろまぶれニナリテ、ハフハフクダル」

どろ-まみれ (名) [泥塗] 泥ニ多クマミレテアルコト。ドロダラケ。ドロマブレ。

どろ-み (名) 〔豐實ノ義カ〕 稻ノ異名。〔東國〕 醒睡抄、中「イサヤケフ、小田ノどろみヲ、刈リニ行カム、野分ノ風ニ、シカレモゾスル」

どろ-みづ (名) [泥水] (一)泥ノ交リタル水。好色二代男(貞享、西鶴)七「泥水ニボウフリ蟲アリ、揚屋ニ紙屑籠アリ」 (二)花柳社會ノ稱。濁リタルモノトシテ云フ語。浮世風呂(文化、三馬)二編、下「ヨソノオカミサン達トハ、勝手ガ違フダラウ、泥水デ、腹アフクラシタ女ダヨ」「どろみづ稼業」「どろみづ渡世」

とろ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [盪] トロトロトナル。

どろん (名) カケオチ。亡命。出奔。逐電。

どろん (副) 俄ニ、形ノ消エ失スル狀ニ云フ語。

ドロンケン (名) 〔英語、Drunken. ノ轉訛〕 酒ニ醉ヒ呆ケタル人ヲ云フ稱。ノンダクレ。醉漢。

どろん-と (副) (一)太鼓ヲ打ツ音ニ云フ語。 (二)芝居ノ幽靈ノ幕ニ、大太鼓ヲどろどろどろト打ツ音。其終リニ一音高クどろんと打ツ時、幽靈、姿ヲ隱ス。

とろめか・す・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) [盪] トロトロメク。閑吟集(大永)「扇ノカゲデ目ヲとろめかす、ヌシアルオレヲ何トカショウカ」

とろめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [盪] トロトロス。ネムケガ催ス。今昔物語、四、第三十一語「此國王ハ、只ノ事ニモ在サズ、カクとろめきテ、寢ルヲノミ眠リ給フハ、コレ必ズ御病ニ在スメリト云ヒテ」

どろめん（名）又、ちりめんざこ。いさざ（鰷魚）ニ同ジ。

トロめん（名）|兜羅綿|〔とろハ梵語、Tula. 細綿ノ義ト云フ〕又、へるさ。赤キ綾地ノ毛織、[illegible]ナルハ、[illegible]ノ[illegible]綿絲（今ノ所謂、ぽんや）ニ和シテ織レルモノ。後ナルハ、毛ヲ[illegible]ヘズ、幅、一尺五寸許、色ハ鼠色、[illegible]、[illegible]色ナド多シ。和製ナルモアリ。褐子 |攙褐| [illegible]琳[illegible]、三「[illegible]、[illegible]也云云、草木[illegible]也、[illegible]花、柳花、白褐、白疊花等綿是也」倶舍光記、十一「[illegible]羅是[illegible]名、[illegible]樹果中出、名[illegible]、如[illegible]柳絮」也」[illegible]、兜羅綿、トロメン」和漢三才圖會、廿七、絹布類「褐子、木綿和レ毛織レ之、南京爲レ上、北京次レ之、云云、阿蘭陀之阿留女幸左伊、[illegible]、阿伊、左留世、皆褐之類也」人倫訓蒙圖彙、[illegible]六「とろめん足袋、綾小路通御幸町ヨリ西ノ方ニアリ」難波[illegible]、延寶二「とろめん[illegible]、日本[illegible]」

とろ-も・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）|鎔| 金屬ヲ鎔解シテキタフ。名義抄「鎔、トロモス」字鏡[illegible]、冶、トロモス、[illegible]、トロモス、イル、イカタ」名義抄「冶、トロモス、ミガク、キタフ」[illegible]、トロモス、キタフ、ウツ、ネヤス、ナヤス」[illegible]「鎔、トロモス、イル、ワカス、カネネヤス」鍍、金飾、トロモス、ヌル、チリバム」

どろ-やなぎ（名）白楊 又、どろのき。[illegible]ノ類、寒地ニ自生ス。[illegible]喬木ナリ、高サ丈餘ニ達シ、葉ハ長橢圓形ニシテ、長サ三四寸、末尖リテ、周圍ニ鋸齒アリ。春[illegible]ノ交、葉ニ先ダチテ、[illegible]色ノ[illegible]ヲ開ク、實ハ熟スレバ裂ケ、白絨毛ノ種ヲ出ス。其白毛ヲ木綿ノ代用トシ、材ハ多クまっちノ軸木ナドニ用ヰラル。デロ、デロヤナギ。

どろ-よけ（名）[illegible] 側ナドニ施シテ、輪ノ廻リテ泥土ヲハネシムルヲ防グ具。

とろり-と（副）|盪| とろとろ（盪）ニ同ジ。[illegible]、ウシロノ障子ニ寄リ添ヒテ、さろり、どろりと眠リケリ」

とろろ（名）（一）黄蜀葵ノ略。（二）薯蕷汁ノ略。[illegible]日記、[illegible]八年[illegible]月十六日、とろろ、[illegible]、アライデ」

とろろ-あふひ（名）|黄蜀葵|〔盪ノ義、根ノ粘液ニ云フ〕（一）葵ノ一種。草本ナリ。春、種ヲ下ス。莖、高サ三四尺、毛茸アリ、葉、五生シ、五尖、或ハ、七尖ニシテ、刻ミアリ。[illegible]月、葉頭、又ハ、葉間毎ニ、花ヲ開ク、五瓣、淡黄色ニシテ、[illegible]ノ根ハ深紫ナリ、大キサ二三寸アリ、其根ハ、圓錐形ニシテ、粘液多シ、碎キテ水ニ[illegible]シ、其液ヲ紙ヲ漉クニ糊トシ用ヰル。一名、ネリ、カウゾ。[illegible]モ。略シテ、とろろ。黄蜀葵。[illegible]保[illegible]ハ、云云、サネカヅラハ干テガリテカシ、云云、見苦シキト紙漉ノとろろヲツカハセ」（二）一種、苗ノ大ナル者アリ 高サ六七尺、葉モ大キク、花ノ大イサ三四寸アリ、植エテ花ヲ賞スルノミ。一名、オホカウゾ。秋葵

とろろ-かづら（名）ざねかづら（佐那葛）ニ同ジ。

〔**とろろ・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）|盪|〔とろとろノ活用〕とろくニ同ジ。古事記、上十六「燭二一火一入見之時、宇士多加禮斗呂呂岐弖」

とろろ-コブ（名）昆布ヲ[illegible]、[illegible]ク、[illegible]シタルモノ、[illegible]ヲ[illegible]ギ、とろろ汁ノヤウニシテ食フ。オボロコンブ、トロロコンブ。

とろろ-ぢる（名）|薯蕷汁|〔[illegible]ノ義〕薯蕷、又ハ、佛掌薯ヲ擂リテ、熱キ味噌汁、又ハ、清汁ニ溶カシタルモノ。イモジル。略シテ、とろろ。とろろ。醍醐[illegible]（元和、安樂庵策傳）六、兒の噂「アル座敷ニテ、チゴハ、とろろ汁ノ再進ヲ、ヒタモノ望ケラルル時ニ、[illegible]、日ヲシテニラミケレバ、チゴノ、アコニサノミ目ハ、ナイゾヤ、まだトロロノニラメ」

どろゑ（名）|泥繪|〔でいゑ（泥繪）トハ異ナリ〕ごふんゑ（胡粉繪）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

ど-わき（名）|利分| ききわく（聞分）ノ（二）ノ名詞形。

ど-わすれ（名）|度忘| どうわすれ（胴忘）ニ同ジ。

どわたり（名）|門渡| ゑいん（會陰）ニ同ジ。其[illegible]、[illegible]、ありのとわたり（蟻門渡）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

〔**と-わた・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）|門渡| [illegible]川門、[illegible]門、ナド[illegible]。[illegible]島、刀利多流鍋ノ、微間ニモ、吾ハワスレズ、イヘヲシゾ[illegible]、十七、[illegible]クナル、天ノ川、とわたる舟ノ、[illegible]「夜ヲ寒ミ、明石ノ浦ノ、浦風ニ、とわたる千鳥、聲サワゲナリ」

〔**と-わた・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）|狹渡| [illegible]ハ、彦星ノ、とわたる舟ノ、櫂ノ雫カ」玉葉集、十九、雜、二「沖ツ風、更ケ行クママニ、明石潟、とわたる月ノ、影ノサヤケサ」續古今集、四、秋、上「見ルママニ、秋[illegible]シ、天ノ原、とわたる月ノ、夜ゾフケニケル」

と-わた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）|飛渡| [illegible]る、[illegible]ヨリモ、ハカナク見シハ、[illegible] 明ノ空[illegible]、中、[illegible]ヒサシ、ナゲノカタミカ、友千鳥、[illegible]わたりスツル、[illegible]

どゐ（名）|土居|（一）古ク、[illegible]。城ノ周ノ土ノ垣。城ノ土手。城ノ土手ノ上部ヲ、石垣ニシタルヲ、鉢巻土居トイフ。[illegible]（三）ツツミ（堤）ノ稱。（筑後）[illegible]九、筑後國ニ而ハ、堤ノ土居ト唱ヘ」

〔**どゐ-きん**（名）|斗篙巾| [illegible]

どゐ-[illegible]（名）|土居桁| [illegible]

どゐん-さつ（名）[illegible]

傳「兔園册者、鄉校俚儒、教二田夫牧子一之所レ誦也」書、故事、十一、晉史類「漢梁孝王、竇太后之愛子、景帝之母弟、孝王有レ園、名曰二兔苑一、孝王卒、太后哀二慕之一、景帝以二其苑一、令三民得二耕種一、乃置二官守一、籍二其租税一、以供二祭祀一、其簿籍、皆偶語之字、故鄉俗所レ誦、云二兔園册一」ナドノ故事ニ因ル」(一)俗人ノ解シ得ル程ノ卑俗ナル册子。通俗書。俗書。(二)轉ジテ、己レガ著書ナドノ謙稱。

〜**とを**(數)[十]〔とをハ尾ノ義、即チ、一ヨリ九マデヅツト云ヒ、十ハ數ノ極ニテ、つ(筒)ノ尾ナレバ云フト〕五ヲ二ツ合ハセタル數。十。音便ニ、とう。又、と。字類抄「十、トヲ」景行紀、四十年十月「夜ニハ九夜(ココノヨ)、日ニハ十日(トヲカ)ヲ」續後紀、十五、承和十二年正月乙卯八日、尾張濱主歌「モモチマリ、止遠ノオキナノ」催馬樂、植槻「植槻ハ、止宇餘七ツ、アリシカド、タケクノジョウノ、朝ニトリ、ヨウサリトリ、トリシカバ、サシゲシモナシヤ、サキンダチヤ」

とをいち(名)[十一]〔十ニ價スル札、一枚ノ意〕花骨牌ニ、七枚配布ノ中ニ、素物六枚ニ、鳥、獸ナドノ付キシモノ一枚ナルコト。(コレラハ十ニ數フルナリ)

とをか(名)[十日](一)日數ヲ十、合ハセタル稱。字類抄「旬、トヲカ」(二)〔月ノ第十ニ當ル日。榮花物語、廿三、駒競「萬代ヲヨバフベキ山ヲタタミ、四方ノ海ヲ心ニ任セ給ヘル池ノ水ヲタタヘシメ給ヘルヲ、御覽ゼサセ給ハントシテ、長月ノとをかヨカニ、アカラサマニ渡ラセ給ヘルガ」

とをかえびす(名)[十日惠比須](一)攝津國、西成郡(今ハ大阪市)、今宮ニアル蛭子社ノ正月十日ノ祭。商家ノ輩、群集參詣シテ福德ヲ祈ル。此日賣ルモノハ、財斗、枡、帳、秤等ナリ。日次記事、延寶、(攝州遊覽)正月「初十日、十日惠美須、大坂堀下人、詣二今宮惠美須一、是稱二十日惠美須一」(二)十月十日、呉服店ニテ行フ夷子ノ祭(京阪)

とをかさい(名)[十日祭]神道ニテ、人ノ死シタル後、十日目ニ當ル日ニ、其靈ヲ祭ルコト。

とをかのきく(句)[十日菊]むいかのあやめ(六日菖蒲)ノ條ヲ見ヨ。

とをけ(名)[斗桶]穀ヲ量ルニ用キル桶ノ形シタル枡。一斗ヲ容ルルモノ。木ニテ造ル。斛 成形圖說、十四、農事「斛須、斗桶、桶モテ作ル、一斗ヲ容ル」

とをだんご(名)[十團子]駿河國ノ宇津谷峠ニテ賣ル團子ノ稱。黃、白、赤等ニ染メテ、十ヅツ數珠ノ如ク貫キテ賣ル。又、杓子ニ十ヅツ、スクヒテ賣ルトモ云フ。羈旅漫錄、上「豆粒ホドノ團子ヲ、麻糸ニテ十ヅツ貫キ、五連ヲ一カケトス、此峠ノ地藏菩薩ノ夢想ニテ製ス、小兒ノ萬病ヲ治スト云フ」東海道名所記(萬治)三「宇都ノ山、云云、坂ノアガリ口ニ茅屋四五十家アリ、家每ニ十團子ヲ賣ル、其大サ赤小豆バカリニテ、麻ノ緒ニツナギ、古ヘハ、十粒ヲ一連ニシケル」江戸くだり(天和)「ウツノヤ、とをだんごハ、貫ク玉ノ如クナリ」宗長手記(天正)上「宇津ノ山ニ雨ヤドリス、此茶屋、昔ヨリノ名物十だんごト云フ、一杓子ニ十ヅツ、必ズ女郎ニスクハセ興ジテ」宗甫禮入道記(元和)「ウツノヤノ里、云云、十ヅツスクヒ侍ルニヨリ、十だんごト申ス、云云、女房、手ヅカラ飯匙取リテ、心ノママニスクフ」許六の句「十團子モ、コツブニナリヌ、秋ノ風」

とをつら(名)[十列]左右馬寮ノ十番ノ競馬。後ニ騎射モアリ。三代實錄、四十五、元慶八年三月五日「喚二左右馬寮十列細馬一、於二仁壽殿東庭一覽レ之」西宮記、六、五月六日、幸二武德殿一(御)射「五月六日幸二武德殿一云云、左右騎十列立二于的一、左右十列立、云云、事了賜負寮一云云、裝ノ腰ノ、云云、時方五番手一」大鏡、中、頭中將實賴ノ、祭ノ日ニ、車ノ窓ヲ、弓矢ノ形ニシタルヲ、和泉式部「とをつらニ、馬ナラネドモ、君カ乘ル、車モ的ニ、見ユルナリケリ」大貳三位集「とをつらニ、立テルナリケリ、今更ニ、心クラベニ、我ハナリナム」吾妻鏡、三十六、嘉禎三年八月十六日「御府爲二十列競馬一十番」

とをにたらず(名)[十不足]碁石ナドニテ行フ遊戲ノ一種。下ノ出典ヲ見ヨ。勸善御伽雙紙(寛保、中根保之)「十ニたらずノ事、錢ニテモ、碁石ニテモ、物數九ツ先ノ人ニ渡シテ、イカホドナリトモ、心ノママニ手ノ内ニ握リテ御出デアレ、此方ヨリモ又握リテ出デ、其方ノ物數ホド返シテ、搜御出デ有リタル物數ヲ十ニ足シテ、跡ニ三ツ餘サントテ云ウテ、物數十三持チテ出ヅル也、十ニ持チテ出ヅレバ、二ツ餘サント云フナリ、イクツニテモ同斷」

〜**とをむ**・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四)[撓]〔とをハ、たわノ轉〕たわむ(撓)ニ同ジ。萬葉集、十九、長歌「沖ツナミ、等乎牟マヨビキ、大船ノ、ユクラユクラニ、面影ニ、モトナミエツツ」

〜**とをよる**・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)[撓寄]〔とをハ、たわノ轉〕撓ミ寄ル。タヲヤカニ寄ル。萬葉集、二、長歌「秋山ノ、シタブル妹、ナヨ竹ノ、騰遠依る子等ハ」同、三、長歌「ナユ竹ノ、十縁る皇子、サニヅラフ、吾ガ大王ハ、コモリクノ、始瀨ノ山ニ」同、七「安治村(鳥)ノ、十依る海ニ、船浮ケテ、白玉採ラム、人ニ知ラユナ」

とをを(副)[撓]たわわ(撓)ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、十「春サレバ、シダリ柳ノ、十緒モ、妹ガ心ニ、乘リニケルカナ」同、同卷「秋萩ノ、枝モ十尾ニ、露霜置キ、寒クモ時ハ、成リニケルカモ」同、同卷「足引ノ、山道モ知ラズ、白杜枝ノ、枝モ等乎乎ニ、雪ノ降レレバ」後撰集、六、秋、中「秋萩ノ、枝モとををニ、ナリユクハ、白露重ク、オケバナリケリ」

な

な 五十音圖、奈行、第一ノ假名。此一行ノ假名、な、に、ぬ、ね、の、ノ發聲ハ、舌ノ尖、上齶ヲ撫デ、稍、鼻ニ觸ルルガ如クシテ出デ、あ、い、う、え、お、ノ韻ト熟シテ成ル。なノ音ハ、下ニ、う、又ハ、ふ(うト呼ブモノ)アル時ハ、のノ如クヒビクコトアリ、なうぜゐ(腦髓)、なふじゆ(納受)ナドノ如シ。

な(名)[名]〔爲ノ意ニテ、人物ノ爲リタル狀ヲ云フトゾ。形モ是レナリ〕(一)物事ニ定リテ付キタル稱ニテ、人ノ、其物事ヲ、他類ニ別チテ、指シテ呼ブモノ。人ニハ、一族ノ稱ナル姓、氏、苗字、ニ對シテ、族中ノ一人ニノミ用キルモノヲ云フ。元來、實ノ名ハ一ツニテ、鎌足、眞備、道眞、ナド是レナリ。後世、此外ニ、九郎(義經)、多聞兵衞(正成)、藤吉郎(秀吉)ナド、別ニ用キルモノ起リテ、コレヲ俗名、通稱、ナド云ヒテ、常ニ專ラ呼ベリ。因リテ實ノ名ヲ、名乘、又ハ、實名ナドト云フ。今世ハ、又、一ツニ定ル。又、幼名、忌名(諱)、贈名(謚)、あざな(字)、號、ナドアリ。各條ニ註ス。(二)評判。名聞。名聲。聲聞 玉葉集、十六、雜三「道ヲ識ル、君ニヒカレテ、四ノ緒ノ、ソノ音モ高キ、名ヲゾアゲヌル」「名ヲ取ル」名ヲ流ス」名ヲ落ス」

〜**な**(名)[字]〔名ノ義ト云フ〕文字。(熟語ニ用キル)周禮、春官篇「外史、掌下達二書名於四方一」注「古曰レ名、今曰レ字」儀禮、聘禮篇「不レ及二

百名ニ書レ于レ方」注「名、書文也、今謂二之字一」倭片假字反切義解（南北朝時代）「假字對二眞字一、權也、字、名義、即物名也」同「上野多胡郡山字、也木奈」（高山寺本）古事記、中（開化）二「丹波比古多多須美知能宇斯王」注「美下字以レ音」 欽達紀、元年五月、高麗上表疏、書二于烏羽一、字隨二羽黑一」 允恭紀、七年十二月「天皇命二皇后一曰、所二奉獻一娘子者誰也、欲レ知二姓字一、皇后不レ獲レ已而奏言、妾弟名弟姫焉」 顯宗紀、仁賢紀「天皇、云云、勸二兒僕許王一、向二播磨國赤石郡一、僕改レ字、曰二丹波小子一」 天武紀、下、十一年三月「命二境部連石積等一、更肇俾レ造二新字一部四十四卷一」 「眞字」「假字」

な（名）【業】「業ハ名ノ義」 高橋氏文、景行天皇詔「大倭國者、以二行事一負レ名國也」トアリ、萬ノ業ハ、其名ノ如ク爲ルヲ以テ、其ノ業ノ眞ニ適フモノナレバナリ」 家代代ノ業。家業。 古事記、下（允恭）十「氏氏名名」ニ家家ノ業ニテ、名ノ如ク勤ムガ業ナリ」 續紀、十五、天平十五年五月、宣命「祖名乎裁持而「父乃名自立」ニ祖先ノ業、又、父ノ業ヲ、其名ノ如ク恪勤スルナリ」 萬葉集、十八廿長歌「祖名不レ絶」（先祖傳來ノ家ノ業ヲ、身ニ負ヒ擔ヒスルナリ）

な（名）【魚】（次條ノ語意ニ同ジ）魚ヲ食フニ就キテ呼ブ語。 萬葉集、五卅「多良志比賣神ノミコトノ、魚釣ラスト、御立シセリシ、石ヲ誰レ見キ」 持統紀、三年七月「禁二斷漁獵一」 [illegible]「魚屋」 眞魚ト云フハ、殊ニ美味ナレバ、稱シテ云フナリト。

な（名）【肴】「嘗むノ語根」 菜、魚、皆、同意ナリ」 魚、菜等、スベテ、酒、飯ニ添ヘテ食フベキ物ノ稱。菜。魚菜。 萬葉集、十六卅「伊勢ノ海人ノ、朝夕菜ニ、潜クトフ、鰒ノ貝ノ、片思ヒニシテ」 靈異記、中、第三十八 [illegible]「酒な」

な（名）【菜】「前條ノ語意ニ同ジ」 說文「菜、草可レ食者」曰「菜」 （一）草ノ葉、莖、根ノ食フベキモノノ總稱。 倭名抄、九、菜類「菜、奈」 萬葉集、一七長歌「籠モヨ、美籠モチ、フグシモヨ、ミフグシ持チ、此ノ岡ニ、菜摘マス兒」 （二）專ラ [illegible]、又ハ [illegible] ノ稱。

な（名）【儺】（一）オニヤラヒ。追儺。又、オニヤラヒノ儀式。 [illegible] 中務省式「凡年終行儺者」 （二）オニヤラヒニ、追ヒヤル鬼。 夫木抄、十八、冬「九重ノ、雲ノ上ヨリ、儺ラフなノ、ホドニトモナフ、フリツヅミ哉」 同、十八、冬「フル年ト、イフなヲ遣ラフ、聲高ミ、春ヲイトフト、人ヤキクラン」 字鏡抄「儺、ナ、鬼名也」

な（代）【汝】 なんぢ（汝）ニ同ジ。ナレ。イマシ。 萬葉集、四卌十「汝ヲト吾ヲ、人ゾ離クナル、イデ吾君、人ノ中言、聞キコスナユメ」 同、同 [illegible] 鳴ク、佐保ノ河門ノ、瀨ヲ廣ミ、打橋渡ス、汝ガ來ト思ヘバ」 同、十四卅五「アシノ葉ニ、夕霧タチテ、カモガ鳴ノ、寒キタシ、汝ヲバ偲バム」 仁德紀、五十年三月「タマキハル、ウチノアソ、汝コソハ、世ノ遠人、汝コソハ、國ノ長人、秋津島、日本ノ國ニ、雁コムト、汝ハ聞カズヤ」 古今集、三、夏、時鳥、汝ガ鳴ク里ノ、アマタアレバ、猶ウトマレヌ、思フ物カラ」「汝兄」「汝妹」「汝妹」「汝人」「汝命」「汝ガ御子」

なな（數）シチ。ナナツ。ナナ。

な（副）【莫勿】 動作ヲ禁ジ止ムル語。用法、二樣アリ。動詞ノ下ニ用キルモノ。 古今集、十三、戀、三「戀シクバ、シタニヲ思ヘ、紫ノ、根ズリノ衣、色ニ出ヅなユメ」 同、十四、戀、四「忘レナン、我ヲ恨ムな、時鳥、人ノアキニハ、アハムトモセズ」 拾遺集、十六、雜、春「殿守ノ、トモノ宮ツコ、心アラバ、コノ春バカリ、朝ギヨメスな」「[illegible] ト思フな」「思ヲ忘ルな」 又、そト云フ語ト共ニ、他ノ動詞ヲ挾ミテ用ヰルモノ。 [illegible]「[illegible] イタク、[illegible]」 [illegible] ワガユク、志賀ニアラナクニ [illegible]

[illegible] レバ、ケ [illegible]「夜七夜、晝七日、吾ヲ奈見タマヒそ」「な忘レそ」[illegible]

な（助動）[illegible] 條ヲ見ヨ） 古今集、一、春、上、今日コズバ、明日ハ [illegible] シヤ」 後撰集、十二、戀、四「獨寢ノ、[illegible] 山ニ、イル人ハ、タドルタドルモ、歸リ來たナム」 萬葉集、十七 [illegible] ムカモ、立チ別レ奈バ」

な（感）希フ意ヲ云フ感動詞。 萬葉集、五卅 [illegible] ツツ、[illegible] 八年 [illegible] カ部、三輪ノ殿門ヲ」 神功紀、[illegible]「タマキハル、内ノ阿曾ガ、ハラヌチハ、砂アレヤ、イザ遇ハバ [illegible]」 同「吾君、五十狹芽宿禰、タマキハル、内ノ阿曾ガ、クブツチノ、痛手オハズバ、鳰鳥ノ、潜キ爲奈」 萬葉集、二十六「夕去レバ、シホ滿來ナム、住吉ノ、淺香ノ浦ニ、玉藻刈手名」 佛足石歌「モロモロ、救ヒ渡シタマハズ、有ルベキ表トシテ、二十人ヲ治メタマハ奈セ」

な（感）[illegible] 少シ歎ク意アリ。ナア。 後拾遺集、十四、戀、四「契リキな、カタミニ袖ヲ、シボリツツ、末ノ松山、浪コサジトハ」 古今集、二、春、下「花ノ色ハ、移リニケリな、徒ニ、我身世ニフル、ナガメセシマニ」 新古今集、十五、戀、五「トヘカシな、カタシク袖ノ [illegible]」 [illegible]

な [illegible]

なあ [illegible]

なあそん [illegible]

[illegible] 上ニ [illegible] 菜ト混ズ [illegible]。又、菜、朝臣 [illegible] ツ見ヨ。ナアツシ。[illegible]

なあそん [illegible]

なあて [illegible]

なあみ（副）（何ノ經）打消ニ用ヰル語。

なあるかならぬか（句）正月十五日、朝、粥ヲ入レテ、赤小豆粥ヲ煮ル、其時、柳ノ丸木ツ、一尺三四寸程ニ切リ、中央マデ四ツ割ニシテ、コレ、粥ヲ付ケ、[illegible]、なるまいか、オウナリマウサウ、千八百俵モナリマウサウ、[illegible] ルホド、ナリマウサウ、ト云フ、此柳ノ丸木 [illegible]、燒米 [illegible] 物ヲ水濕シテ、杖リテ搗ヘ [illegible] 苗代田ニ指シオク、コレヲ鳥ノ口ト云フ、伊豆地方ノ行事。

なあい（名）【條】（字ノ音）カラナシ。[illegible] にりんご（林檎）ノ條ヲ見ヨ。

ない（副）[illegible]

操作「コリャ聞キ、用ガアル、ココヘコイト、ニコヤカニ云ヒケレバ、ないト膝ヘテキザリヨル、イヤ、ズントココヘヨレ、遠慮ナシニ膝元ヘ」

ない-い（名）|内意|（一）心中ニ思フ所。シタゴコロ。梁武帝、淨業賦「懷二貪心一而不レ厭、懷二內慮一而自歸」（二）內內ノ意見。又、祕密ノ意向。

ない-いう（名）|內憂| 內部ノ憂患。內部ノ心配。又、國內ノ憂患。（外患ニ對ス）內患。左傳、成公十六年「今三彊服矣、敵楚而已、唯聖人能內外無レ患、自レ非二聖人一外寧必有二內憂二」

ない-いん（名）|內印|〔外印ニ對ス〕御璽。ミシルシ。大寶令ノ制定ニテ、天皇御璽ノ四字ヲ刻シ、五位已上ノ位記、及、諸國ニ下ス公文ナドニ鈐スルモノ。公式令「天子御璽、云云、內印（方三寸）、五位以上位記、及下二諸國一公文用レ印」續紀、五、和銅五年閏十二月丁巳「有司奏、自今以後、公文錯誤、內印著了、事須二改正一者、少納言宜下申二官長一然後更奏印上之」

ない-え（名）|內衣|〔梵語、Antaryāsaka. ノ譯語、身ニ襯シテ內ニ着レバ云フ〕（一）三衣ノ一。安陀會。けさ（袈裟）ノ條ヲ見ヨ。南海寄歸傳、二「安怛婆娑、譯爲二內衣一」（二）くんず（裙子）ニ同ジ。海人藻芥、中、內衣事「主上御服平絹也、仙院御服練貫、云云、御室門主半絹之外、更不レ被レ用、近比他門門主、白綾小袖被レ用レ之」

ない-えつ（名）|內謁|（一）內內ニテ謁見スルコト。又、表向ナラヌ謁見。漢書、霍光傳「丞相史在二傳舍一內謁從人」宋史、王淵傳「張邦昌、僭立二康王一云云、淵至二京都一以二朝服一見、邦昌納調日、皆宰相公、邦昌始爲二紫宸延三之政事堂一」（納、內、通用ス）（二）內內ノタノミ。奧向ニ取リ入ルコト。

ない-えん（名）|內宴|（一）內密ニテ催ス宴。密宴。五代史、唐、莊宗紀傳「老夫匪二事一朝天子一、見二內宴一數百、子本田舍兒、安知二宮禁事二」青箱雜記（宋、吳處厚）「選人帶二職一、亦預二內宴一」（二）王朝時代、禁中、正月廿一日ノ公事。內內ノ節會ナリ。仁壽殿ニテ、文人ニ題ヲ賜ハリ、詩ヲ作リテ奉ルヲ、御前ニテ講ジ、宴ヲ賜ハル。文德實錄、四、仁壽二年正月「帝御二于近臣一命二樂賦レ詩、云云、此後二弘仁達美一所謂內宴者也」兵範記、保元三年正月廿二日「被レ行二內宴一、長元以後中絕」續教訓抄、十一、下「內宴ハ前一條院御時行ハレテ後、久ク絕タリケルヲ、後一條院ノ御時、長元七年正月廿二日行ハレケルニ、サキノ度ノ內宴ニアヒタル人ハ、年老タル上達部二三人バカリ也、其外ノ人ハ、アハヌ事ナレバ、關白殿（通賴）日記ヲ尋テ行ハシメ給テ、前前ヨリモ微妙サヲ增シ、萬ノ事、露オロカナル事ナク行ハシメ給ケリ」

ない-えん（名）|內緣|（一）實際ニハ結婚シタレド、法律上ノ手續ヲ濟サザル夫婦間ノ緣。「內緣ノ妻」（二）內內ニテ緣組シタルモノ。（三）內內ノ緣故。ナイナイノ手ヅル。江濃記（群書類從本）「私主ノ內緣ヲ以テ、御爲ヒ有ルベシト云ケレバ、日根モヨロコビ、淺井陣所ヘ使ヲ立、此由ヲ申ス」津國女夫池（享保、近松作）二「御舅君大宮ノ大納言、云云、大宮殿トハ御內緣ト申シナガラ」

ない-おう（名）|內應| ないつう（內通）ニ同ジ。史記、酈食其傳「陳留、云云、臣善二其令一、請得レ使レ之、令レ下二足下一、即不レ聽、足下擧レ兵攻レ之、臣爲二內應一」漢書、高后紀「章欲レ與二太尉勃一丞相平一爲二內應一以誅二諸呂一」

ない-かい（名）|內海|〔外洋ニ對ス〕四方、陸地ヲ以テ包マレタル海。ウチウミ。おほうみ（大海）ノ條ヲ見ヨ。武備要略「守二內海一次レ之」

ない-かい（名）|內界|（一）心界。心內ノ現象界。（外界ニ對ス）（二）佛教ノ語。衆生ノ身心ヲ內外ノ二界ニ分チ、身體ヲ外界トシ、心意ヲ內界トス。又、六界ノ中ニテ、地、水、火、風、空ノ五界ヲ外界トシ、第六ノ識界ヲ內界ト稱ス。

ない-かい（名）|內階| ないゐ（內位）ニ同ジ。三代實錄、五十、仁和三年三月「勅毀二良臣及故兄企雄外位告身一、特賜二內階一」

ない-かう（名）|內考| 王朝時代ニ、六ケ年ヲ經テ黜陟アル官ノ稱。（十年ヲ經テ黜陟スル官ヲ、外考ト云フニ對ス）類聚三代格、十七、弘仁十三年三月「寔二活病者一番卅人以上、白丁入二於內考二」

ない-かく（名）|內閣|（一）古ヘ、支那ニテハ、妻女ノ居ル家。北史、魏邢邵傳「邵與レ妻甚疎、自云、雷入二內閣一爲二狗所一吠」（二）政府ノ諸大臣ノ大政ヲ會議スル所。又、國務大臣ヲ以テ組織スル合議制ノ國家機關。

ない-かく-そうり-だいじん（名）|內閣總理大臣| そうりだいじん（總理大臣）ノ條ヲ見ヨ。首相。

ない-が-しら（名）|蔑| 次條ノ語ノ訛。醒睡笑（元和、安樂庵策傳）一「マヒマヒノ、師弟ノ中モ、コクスレバ、大夫モ今ハ、ないがしらナリ」

ない-が-しろ（名）|蔑|〔無きが代ノ音便〕眼中ニ人無キコト。アナドリ、輕ンズルコト。（訛シテ、ナイガシラ）蔑如。名義抄「蔑、ナイガシロ、無、ナイガシロ、蔑、ナイガシロ、ナミス」六帖、四、ないがしろ「いなト云ハン、人ヲモ強ヒジ、敷島ノ、ヤマトノ國ニ、人ヤ絕エタル」新六帖、四、ないがしろ「イツマデモ、タエネバタエヌ、心トテ、ナホザリゴトノ、契リタノマン」

ない-が-しろ-に（副）|蔑|〔無きが代にノ音便〕（一）無キガ如クニ。アレドモナキガ如ク。侮リ輕ンジテ。宇津保物語、藏開、中「世ヲ蔑ニ思ヒテ」榮花物語、十三、布引宮僧正源氏法華「蔑ニ威勢ナイガシロニ…蔑ニ」（二）シドケナク。ミダリガハシク。源、三、空蟬「小袿ダツモノ、ないがしろに着ナシテ」同、衣、十、上三「裝束、シドケナケニテ、拳リ給ヘリ、雲ノワタリモ、打チトケテ、ないがしろなる御打チトケスガタノ」

ない-が-たな（名）|薙刀| なぎなた（薙刀）ニ同ジ。ナギガタナ。字類抄「薙刀、ナイカタナ、長刀、ナキカタナ」

ない-が-ま（名）|薙鎌|〔なぎがまノ音便〕かま（鎌）ニ同ジ。なぎがま（薙鎌）ノ條ヲ見ヨ。字類抄「薙鎌、ナイカマ」平家物語、十、藤戸「舟手、ないがまヲ以テ、敵ノ舟ヲ引キ寄セ引キ寄セ、ヲメキ叫ンデ戰フ」用明天皇職人鑑（寶永、近松作）「我ハ王子ノ御味方、黑島雲住、荒遠、沖弘鬼マサト名乘、テ、太刀、鑓、大長刀、大ないがまニ九尺ノ棒、得物得物ヲ引ッサゲテ」

ない-き（名）|內規|（一）內部ノ規定。ウチワノサダメ。（二）的ノ名所。的ノ最モ中心ニ近キトコロ。內裏式、上「中、的則獲者捧、的、稱所、中之規、開、矢謙鏡、即、鉦有、鼓」注「外規一聲、次規二聲、內規三聲」

ない-き（名）|內記|（一）ウチノシルスツカサ。古ヘ、中務省ノ官。大內記、少內記アリ、詔敕、宣命ヲ作リ、五位以上ノ位記ヲ奉行シ、又、宮中一切ノ事ヲ錄ス。西宮記、十二「詔書、上卿奉レ勅、仰二內記一令レ作」（二）禪家ニテ、方丈ノ內部ニ關スル翰墨ヲ司ル役僧。一名、書狀侍者ト云フ。勅修百丈淸規、四「於二禪林一、特設二書記一以職レ之、猶存二書狀一、列二於侍者一、使レ司二方丈私下書間一日二內記二」虛堂語錄「示二內記一書侍者・頌」

ない-ぎ（名）|內儀|〔爾雅、釋詁篇「儀、匹也」即チ、つれあひノ義〕（一）身分アル人ノ妻。ウチカタ。內方。令閨。黃錢後

曼(文祿、曼軒)「原美濃守ハ武衛ノ將トシテ、近國他國迄モ聞コエサセ給フガ、內儀ニ付イテハ、萬ニ恐レサセ給ヒ」 曾根崎心中(元祿、近松作)「此正直ヲ見テ取リテ、內儀ノ姪ニ二貫目付テ女夫ニシ、商ヒサセフトイフ談合」 (二)ナイナイノコト。內證。 三河物語、大久保彥左衛門、下「年中之上下一ヱ、又ハ、若輩小者ノ扶持給ニモ足ラズ候ヘバ、內儀ハ昔親、祖父ノスギハヒノ如クナリ、ヒエガイ(稗粥)ノテイナリ」

ないぎ (名) 內議 內內ノ評議。 盛衰記、廿二、佐殿大將門中違事「平家ハ斯樣ニ、日比、源氏ノ內議ノ支度アルヲモ不知」

ないぎき (名) 內聞 ナイナイニテ、聞クコト。內證ニテ聞クコト。

ナイキフ
ないきふ (名) 內給 〔內ハ天皇ヲ申シ奉ル〕天皇ノ年給。縣召除目ニ、掾(三分)二人、目(二分)三人、史生(一分)二十人ヲ任ゼラルルモノ。後、其中ヨリ、乳母、女房ナドニ給セラレタルコトアリ。 江家次第、四、除目「次自二御所一下二給申文等一(各有二短冊一)內給、當年給、□未給、名替、國替等也」 西宮記、四、一分召「頭奉二勅仰一、諸司所所ハ令レ進二申文一、撰定奏聞、云云、內給廿人」

ないきん (名) 內勤 內部ニ勤務スルコト。又、ソノツトメ。(外勤ニ對ス)

ないきゃく (名) 內客 內內ニ、モテナス客。ウチワノ客。 源氏十二段長生島臺(元祿、近松作)「ニチト今日ハ內客アリ、手前取リ込ミ候ヘバ、ヨノ所ニテ茶ヲマヰレ」

ないきょ (名) 內擧 (一)女房ノ推擧ニテ、掾、目、史生ノ任命セラルルコト。(二)內內ノ推擧。 左傳、襄公二十一年「祁大夫外擧不棄讐、內擧不失親、其寶遺哀乎」

ないぐ (名) 內供 次次條ノ語ノ略。其條ヲ見ヨ。 榮花物語、廿一、後悔大將「コノ二三日ノホドノ御有樣ニ、云云、イミジウセサセ給ヘドカヒモナシ、サベキ僧タチ皆マカデテ、良海內供バカリゾ、トマリテサブラフ」

ないくう (名) 內宮 伊勢ノ皇大神宮ノ稱。豐受宮ヲ外宮トイフニ對ス。 神名祕書「度會宮[illegible]、村上天皇御宇、[illegible]之時、皇太神宮、[illegible]之故實、內宮、度會宮者、外宮之故也」宮ハ始出、自此時也」 著聞集、一、神祇「俊乘坊、東大寺造立ノ願ヲ發シテ、其祈誓ノタメニ、太神宮ニ詣デテ、內宮ニ七箇日參籠」

ないぐぶ (名) 內供奉 〔內供奉僧ノ略〕宮中ノ內道場ニ奉仕スル僧職。寶龜三年始メテ置カレ、廣ク高德ノ僧十人ヲ選ビテ補セラル。故ニ、內供奉十禪師ト云フ。(禪師ノ條ヲ見ヨ) 略シテ、供奉。又、內供。 後拾遺往生傳「僧[illegible]、云云、俗呼二鳥檣供奉一」 平家物語、三、赦文事「三條ノ院ノ御目モ御覽ゼラレザリシハ、[illegible]供奉ガ靈トカヤ」 同、十、高野卷「僧正ノ御弟子石山ノたいぐ[illegible]ゆう、內供[illegible]、其時ハイマダトウギャウニテ供奉セラレタリ」 [illegible]光仁天皇寶龜三年三月ニ、始テ被[illegible]、十五、內供奉十禪師ハ、[illegible]リ、十人ノ中ニ、闕アレバ、海內ノ名僧ヲ撰デ補之、十禪ニ定ル故ニ有此名也、內供奉ハ同天皇、寶龜三年ニ善ク[illegible]、智行ヲ撰デ此官ニ任ズ、云云、唐ノ德宗皇帝、[illegible]法師ヲ撰デ、號二內供奉一、內道場ノ供奉ナレバ、內供奉ト云フ」

ナイグブ・ジユウゼンジ
ないぐぶ-じふぜんじ (名) 內供奉十禪師 前條ノ語ニ同ジ。前條ヲ見ヨ。 [illegible]五、任僧綱ニ、內供奉十禪師、召大臣[illegible]擇[illegible]補之[illegible]之」

ないぐぶ-ソウ (名) 內供奉僧 前前條ノ語ニ同ジ。前條ヲ見ヨ。

ないくん (名) 內訓 (一)內內ニテ訓示スルコト。內內ニ訓令スルコト。又、ソノ訓示。內達。 (二)婦女ニ對シテノ教訓、內教、女子教育。 後漢書、曹大家傳「作女誡七篇、有助內訓」

ナイクワ
ないくゎ (名) 內科 醫術ノ、一分科。內臟ニ係ル病ヲ治スルモノ。本道。常道。(外科、産科、眼科ナドニ對ス) 大方脈。 [illegible]八[illegible]醫師ニ內科、外科アリ」

ナイグワイ
ないぐゎい (名) 內外 (一)うちと。ほか。內部ト、外部ト。ウチソト。ナイゲ。 左傳、成公十六年[illegible] (二)國內ト、國外ト。內國ト、外國ト。「內外人」「內外公債」

ナイクワン
ないくゎん (名) 內患 ないいう(內憂)ニ同ジ。 後漢書[illegible]、內患積、外難方深」

ナイクワン
ないくゎん (名) 內官 (一)宮中ニ奉仕スル官人。 [illegible] (二)京官。[illegible]外官ト云フ。[illegible]召。[illegible]官。コレニ對シテ外官ト云フ。[illegible]ニヨリテ任ゼラルル地方官ニテ、國司、郡司、大宰府ノ官ナドヲ云フ。[illegible]除目ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]京中ノモロモロノ官ノハ內官トモ[illegible]モ申スナリ」

ナイクワンケ
ないくゎんけ (名) 內官家 [illegible]

ナイクワンリヤウ
ないくゎんりゃう (名) 內官領 [illegible]

ないげ (名) 內外 [illegible]

ナイケウ
ないけう (名) 內教 佛教、書、外道[illegible]。又、[illegible]

ナイケウバウ
ないけうばう (名) 內教坊 [illegible]

ないげでん (名) 內外典 [illegible]

ないけん (名) 內見 [illegible]

ないこ (名) 内顧 我ガ家ノ内ノ事ヲ、カヘリミルコト。我ガ内部ノ事ヲ、氣ニカクルコト。又、ヨソミヲスルコト。漢書、楊僕傳「失ㇾ期内顧、以ニ道悪一爲ㇾ解」註「内顧、言思ニ妻子一也」 詩經、大雅、車中不ニ内顧一 左思詩「外寧千里、内顧無ニ憂戚一」 續宋元詩「内顧乃無有、德輔、如ニ鴻毛一」「内顧ノ憂ナカラシム」

ないこう (名) 内攻 病ノ、外ヘ發セズシテ、内部ヘ侵シ入ルコト。病ヲ内ヘ、オヒコムコト。「熱ノ内攻」「黴毒ノ内攻」

ないこう (名) 内訌 〔增韻「訌、亂也」〕 内部ノ紛亂。ウチワモメ。ドシウチ。又、内亂。詩經、大雅、蕩之什、召旻篇「天降ニ罪罟一、蟊賊内訌」 以寬、詩「有ニ罪從、中制一、惟諂讟、内訌」 唐書、郭子儀傳「寶、外阻内訌」

ないこく (名) 内國 其クニノウチ。國中。國内。(外國ニ對ス)

ないこく (名) 迺刻乃刻 其ノ時スグ。タダチニ。即刻。即時。下學集、上、時節門「迺時、只今義也、云云、迺時、迺刻二俱同ニ上義一、迺與ㇾ乃同字也」 書言字考節用集、二、時候門「迺刻」注「今按、迺、乃全、从ㇾ辵、俗从ㇾ之非」

ないこく-こうさい (名) 内國公債 〔英語、Internal loan; National debt. ノ譯語〕 内國ノ資本家ヨリ募集シタル公債。内債。内國債。(外國公債ニ對ス)

ないさい (名) 内濟 公ニセズシテ、私ニテ事ヲ濟マスコト。「訴訟ニ及ブベキ事ナドニ」 私和 聞訟緒鑑「裁許伺ヒ差シ出シ候上、内濟ニ成リ候出入リ之節」

ないさい (名) 内債 ないこくこうさい(内國公債)ノ略。(外債ニ對ス)

ナイ-ザウ
ないざう (名) 内臓 動物ノ胸腔、及、腹腔ノ内ニアル諸種ノ器官。臓腑。五臓六腑。續宋元詩「審ニ理内臓一、攻ㇾ疾、貴ニ自源一」

ないし (名) 内子 支那ニテ、卿大夫ノ人ノ嫡妻ノ稱。轉ジテ、他人ノ妻、又ハ、己レノ妻ノ稱。左傳、僖公廿四年「以ニ叔隗一爲ニ内子一、而己下ㇾ之」 類書纂要「嫡妻曰ニ内子一、言ㇾ在ニ閨門之内一以治ㇾ家也」

ないし (名) 内侍 (一)内侍司ノ女官ノ稱。源、七、紅葉賀「廿年イタウ老イタルないしのすけ、云云、コノ内侍、常ヨリモ清ゲニ、容體、カシラツキ、ナマメキテ」(二)專ラ、掌侍ノ稱。源、一、桐壺廿八「オマヘヨリ内侍、宣旨承リ傳ヘテ、オトド參リ給フベキ召シアレバ、參リ給フ」(三)伊勢ノ齋宮ニ仕フル女官。著聞集、一、神祇「佐國(大中臣、祭主)遂ニ伊豆國ニ流サレニケリ、カカル程ニ、七月十日、荒祭宮、齋宮ノ内侍ニ御託宣アリ、祭主配流シカルベカラズトアリケリ」(四)古ヘ、中宮ニ仕ヘタル女官。九條殿年中行事、十一月「鎮魂祭事、中宮鎮魂、同日行ㇾ之、掌侍有ㇾ障之時、以ニ中宮内侍一爲ニ代官一」(五)古ヘ、安藝國、嚴島神社ニ仕ヘシ巫ノ稱。年、老ユルマデ奉仕スト。平家物語、二、德大寺嚴島詣事「嚴島、云云、彼ノ社ニハ、内侍トテ優ナル舞姬、數多候ナレバ、云云、サテ御下向ノ時、ムネトノ内侍一兩人、都マデ召具セサセ給ヒテ候ハバ」

ないし (接) 乃至 (一)數ノ上下ヲ擧ゲテ、中ヲ略スルニ云フ語。戰國策、趙策「天下之卿相人臣、乃至布衣之士、莫ㇾ不ㇾ高ニ賢大王之行義一」 般若心經「無ニ無明一亦無ニ無明盡一、乃至無ニ老死一、亦無ニ老死盡一」 謠曲、攝待「札ヲ建テテヨリ此方、一日ニ五人三人乃至一人、二人、絕ユル事ハマシマサネド」「四十乃至五十」(二)或ハ。又ハ。盛衰記、廿四、南都合戰事「タダ清盛法師ニ不ㇾ會候、乃至名字ヲモ不ㇾ聞候ト申ス」

ないじ (名) 迺時 ないこく(迺刻)ニ同ジ。

ないしけい (名) 内子鮭 おほもりざけ(子籠鮭)ニ同ジ。

ないしせん (名) 内侍宣 〔ないしせんノ…勾當ノ内侍…ト讀ムベシ。其條ヲ見ヨ〕 勾當ノ内侍ガ、聖旨ヲ傳宣シテ發スル文書。又、内宣トモ云フ。(上古ハ、勾當ノ内侍、敕ヲ奉ジテ傳宣シ、辨官、之ヲ奉ズル例ナリシガ、中古以來ハ、藏人頭、之ヲ宣シ、屬官ニ下シテ旨ヲ傳ヘシメ、或ハ、撿非違使ヲシテ、之ヲ奉ゼシムルコトトナレリ) 式部省式、上「凡依ニ内侍宣一敍ニ位者、更經ニ大臣一乃聽ㇾ授」 西宮記、臨時、二、敍白紫色事「云云、諸有ニ宣旨一被ニ仰下一事、稱ニ内侍宣一、云云、直ニ官宛事、云云」 職難儀「内侍宣ト申ハ、職事上卿ヘ申サズシテ、直ニ藏人方ニテ、出納小舍人ナド申者迄、次第ニ下知シ侍ルト申候、藏人頭、五位藏人、六位藏人以下、藏人ノギ、又昇殿ヲ聽ルル時ハ、皆内侍宣ナリ」

ないしつ (名) 内室 貴族ノ妻ノ敬稱。奧方。内方。夫人。

ないじつ (名) 内實 内内ノ事情。ウチマク。實情 三國志、吳志、呂範傳「曹丕、大合ニ士衆一、外託ニ助ㇾ國討ㇾ備、内實有ニ姦心一」

ないしどころ (名) 内侍所 (一)禁中、溫明殿ノ別名。八咫の神鏡ヲ此ニ奉安シ、内侍コレヲ守護ス。又、賢所。かしこどころ(賢所)ノ條ヲモ見ヨ。新儀式、四、天皇遷御「若御ニ綾綺殿一、以ニ清涼殿一爲ニ内侍所一、移ニ納神鏡等一」 更級日記「天照御神、云云、サテハ内侍所ニ、スベラ神トナムオハシマス」(二)轉ジテ、直ニ、八咫の神鏡ノ稱。江家次第、十一、内侍所御神樂「内侍所者、神鏡也」 中務内侍日記「御會ハテヌレバ、劍璽入ラセ給フ、云云、勾當、左ヨリ御劍ヲ受取ル、次ニ璽ヲ渡ス、云云、明クル程ニゾ、内侍所ハ入ラセ給フ」 古事談、一、王道後宮「平治亂逆之時、師仲卿奉ㇾ取ニ内侍所一、奉ㇾ安ニ置家之車寄妻戶中一」 公事根源、上「内侍所ト申ハ、三種ノ神器ノ其一也、千早振神代ノ事ニヤ、天照太神ノ天ノ磐戶ヲサシ籠リ給ヒケル時、石凝姥ト申神ノ鑄ウツシ給フ日ノ神ノ御カタチノ鏡ナリ、是ヲ八咫の鏡トナス」

ないしのかみ (名) 尙侍 内侍ノ長官。シャウジ。中務省式「尙侍二人」 源、十、賢木「ミクシゲドノハ、二月ニないしのかみニナリ給ヒヌ」

ないしのじょう (名) 掌侍 内侍ノ判官。單ニ内侍トノミモ云フ。正、四人、權、二人アリ。其第一ナルヲ一の内侍、又ハ、勾當の内侍ト云ヒ、常ニ長橋の局ト稱ス。後宮職員令「内侍司、云云、掌侍四人」

ないしのすけ (名) 典侍 内侍ノ次官。テンジ。中務省式「典侍四人」 源、一、桐壺廿四「ウヘニサブラフ内侍の介ハ、先帝ノ御時ノ人ニテ、カノ宮ニモ親シウ參リナレタリケレバ」

ないしのつかさ (名) 内侍司 後宮十二司ノ一ニテ、禁内ノ女官ノ勸ムル役所。後宮ノ雜事、奏請、傳宣ノ事ヲ掌ル。尙侍、典侍、掌侍ノ三等アリ。女孺、命婦、采女、コレニ屬ス。

ないしん (名) 内申 内内ニテ申シ上グルコト。内内ノ上申。又、ソノ言。

ないしん (名) 内心 シタゴコロ。ソコシン。心中。皇侃論語義疏「内心虛詐者」 謠曲、善界「外ニハ忿怒ノ相ヲ現ズトイヘドモ、内心慈悲ノ御惠ミ、觀念不動ノ理ヲ現ハシ」

ないしん (名) 内臣 ないだいじん(内大臣)ニ同ジ。續紀、三十一、寶龜二年三月「詔以ニ正三位藤原朝臣良繼一爲ニ内臣一」

ないしんによやしゃ (名) 内心如夜叉 げめんじぼさつ(外面似菩薩)ノ條ヲ見ヨ。十訓抄、下、第八、可ㇾ堪ニ忍于諸事一事「女人ヲバ、佛モ、内心如夜叉ト仰セラレタレバ」

ナイ-シン-ノウ
ないしんわう (名) 内親王 ウチノミコ。しんわう(親王)ノ條ヲ見ヨ。

ないしやう（名）〔内相〕 ないむだいじん（内務大臣）ノ異稱。

ないじやう（名）〔内情〕 内内ノ情實。内部ノ事情。内證ノワケガラ。ウチワノコトガラ。ウチマク。

ないじやう（名）〔内狀〕 内密ノ書狀。内内ノ書面。太平記、三十一、新田起二義兵一事「新田左兵衛佐、同少將ノ許ヨリ内狀ヲ通ジテ、事ノ由ヲ知ラセタリケレバ、流レニ棹ト悦ビテ、融テ同心シテケリ」

ないしやうがん（名）〔内障眼〕 眼病ノ一種。そこひ（内障眼）ノ條ヲ見ヨ。類按、「有二人患二内障眼一」

ないしやうふ（名）〔内相府〕 ないだいじん（内大臣）ノ唐名。其條ヲ見ヨ。中右記、寛治四年三月廿五日「又、内相府於二二條亭一、被レ供二養大般若經一、以二權大僧都清尋一爲二導師一」

ないしやく（名）〔内借〕 （一）ウチガリ。うちがし（内貸）ノ條ヲ見ヨ。（二）内内ニ借リルコト。

〜ないしやく（名）〔内戚〕〔外戚ニ對ス〕 ないせき（内戚）ニ同ジ。宇津保物語、初秋「頻ハシウ思ヒナガラ、伸思、ないしやくニモ、ケジヤクニモ、女ト云フモノナン、トモシク侍ル、ソガ中ニモ女方ナドハ」

ないしやくり（名）〔泣噦〕〔ないハ、泣きノ音便〕 シヤクリ泣クコト。泣キナガラ、シヤクリヲスルコト。シヤクリナキ。正章千句（貞失、安原正章）ニ「ムズル憎サヤ、添ヒツケテタブ　還ヲシ、恥ラシテ後ノ、ないしやくり」

ないしゆ（名）〔内豎〕 チヒサワラハ。チサワラハ。古ヘ、禁中、殿上ノ驅使ニ走テラレシ童。其司ヲ内豎所ト云ヒ、長官ヲ別當ト云フ。中務内侍日記「明ケ果テヌレバ、御前モ聞[illegible]ハナシ、内豎、[illegible]時ノ奏ス」

ないじゆどころ（名）〔内豎所〕 古ヘ、内豎ニ關スルコトヲ掌リシ所。前條ヲ見ヨ。拾芥抄、中、本、内豎局「注、在二一本御書所東一、内侯在二春興殿東一、廟在二大舍人寮南一云云、以二大臣一爲二別當一」

ないしよ（名）〔内書〕 （一）古ヘ、將軍家ヨリ下ス内密ノ書狀。ごないしよ（御内書）ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。（二）執事、奉行ナドノ、奉書ニ因ラズ、直ニ主君ヨリ獻上物ノ挨拶ナドニ出ス書狀。直書。

ないしよ（名）〔内所〕 （一）妓樓ニテ、主人ノ居ル所。（二）臺所。又、勝手。

ないしよ（名）〔内證〕「ないしよう（内證）ノ訛」 （一）ないしよう（内證）ノ條ノ（二）ニ同ジ。内密。（二）ウチワ。又、クラシムキ。「ないしよハ火ノ車[illegible]ヨシ」

ないじよ（名）〔内助〕 内部ニ居テ助クルコト。妻ガ家ニ在リテ、外ニ働ク夫ニ力ヲ添フルコト。三國志、魏志、郭皇后傳「[illegible]昔、帝王之治二天下一、不二惟外輔一、亦有二内助一、治亂之所レ由、盛衰從レ之」宋史、哲宗昭慈孟皇后傳「[illegible]太后曰、帝得二賢内助一非二細事一也」「内助ノ功」

ないしよう（名）〔内證〕〔證ハ證悟ニテ、さとるコトナリ〕 （一）佛教ノ語。自己ノ心中ニ、佛教ノ眞理ヲ悟リ證スルコト。又、ソノ眞理。[illegible] （二）内内、祕密ナルコト。ヒソカニスルコト。内密。ナイショ。伊達日記（伊達成實）「宗薫ヲ以テ御内證ニ候」大塔宮（正德、近松作）三「アノ夜[illegible]シ其レガ定ナラバ」 （三）ウチワ。ウチマク。[illegible]日本永代藏（元祿、西鶴）二「[illegible]ゴザル」[illegible]リノ御用ニ調ヘ」

ないしよく（名）〔内職〕 （一）内向ノ職。又、後宮ノ職務。[illegible]後漢書、[illegible]八十一女御、以備二内職一焉」 （二）本分ノ職ノ外ニ、私ニ[illegible]生業。

ないせい（名）〔内政〕 （一）國内ヲ治ムル政事。後漢書、荀悅傳「在上者必有二武備一以戒二不虞一[illegible]」說苑（漢、劉向）十一、善說「[illegible]内政[illegible]外事[illegible]」 （二）内務ノ行政。（三）一家ノ取締。家政。「内政、亂ル」

ないせき（名）〔内戚〕〔外戚ニ對ス〕 父方ノ親族。ナイジャク。（内戚）[illegible]

ないせん（名）〔内宣〕 ないじせん（内侍宣）ノ略。其條ヲ見ヨ。

ないせんさくせん（名）〔内線作戰〕〔作戰[illegible]〕 [illegible]打チ破リ、振リ返リテ、餘リノ一方ヲ伐ツ策略。コレニ對シ、外線作戰トハ、敵ノ主力ノ存在セザル方面ニ於イテ、敵ニ大打擊ヲ加ヘテ、友軍ト策應シ、敵ノ主力ヲ擊破スルヲ期スルコト。

ないぜんし（名）〔内染司〕 ウチノソメノツカサ。古ヘ、宮内省ニ屬シテ、供御ノ染物ノ事ヲ掌リシ所。大同三年、縫殿寮ニ合併セラル。

ないぜんし（名）〔内膳司〕 ウチノカシハデノツカサ。古ヘ、宮内省被官ノ司。天子ノ御膳ノ事ヲ掌ル。奉膳、典膳[illegible]

ないぜんのかみ（名）〔内膳正〕 次條ノ語ニ同ジ。[illegible]

ないぜんのしやう（名）〔内膳正〕 内膳司ノ長官。ウチノカシハデノカミ。ナイゼンノカミ。

ないぜんや（名）〔内膳屋〕 古ヘ、内膳司ノ中ニ在リシ建屋。ココニテ供御ヲ調[illegible]代ヨリ傳ハレル御物モ、皆ケ損ハレケルトゾ」

ないそう（名）〔内奏〕 （一）内内ニ奏聞スルコト。[illegible] （二）[illegible]後宮ヨリ主上ニ奏聞シテ、事ヲ取計ラフコト。又、貞向ニ取入リテ、奏聞ムスルコト。

ないぞく（名）〔内屬〕 [illegible]

ニ移住スルナリ」

ないそん　(名)　内損　(一)腹内ヲ損(ソコナ)フコト。腸胃ヲ病ムコト。日本振袖始(享保、近松作、二)「…、…、…、内損、外損、云云」(二)酒色ニテ、身體ヲ衰弱セシムルコト、「…中…、服…得失ニ、富貴ノ人、藥力ヲ恃ミ、…ヲ恣ニシ、精神ヲシテ内損セシム」

ナイダ　(名)　〔ふまいだノ略〕　ふむあみだぶつ(南無阿彌陀佛)ノ條ヲ見ヨ。

ないだいじん　(名)　内大臣　(一)ウチノオホオミ。ウチノオトド。太政官ノ官。古ヘハ左右大臣ノ上ニ居リ、後ニハ其下ニ居ル。令外(リャウゲ)ノ官タリ。内相府。内臣。易林節用集(慶長)上、官位門「内大臣、ナイダイジン、内府」職原抄、上「孝徳御宇、以中臣鎌子連、始爲二内臣、天智朝、鎌足爲内大臣、賜藤原朝臣姓、此時其位在左右大臣上、其後、此官久絶、至光仁御宇、藤原良繼始任之、初在左右大臣下、凡内大臣者、令外之官也」源、十四、澪標「源氏ノ大納言、内大臣ニナリ給ヒヌ」(二)今、天皇ニ常侍、輔弼シ、内大臣府ヲ統轄スル親任官。内府(ダイフ)。

ないだいじんふ　(名)　内大臣府　内大臣ノ統轄ノ下ニ、御璽、國璽ヲ尙藏シ、及、詔書、勅書、其他、内廷ノ文書ニ關スル事務ヲ掌ル役所。

ないだう(ナイ・ドウ)　(名)　内道　〔外道(ゲダウ)ニ對ス〕　佛敎ノ語。佛家、自ラ佛道ヲ云フ。内敎。沙石集、一、下、第十條「天台ノ祖師モ、利根ノ外道ハ、邪相ヲ正相ニ入レテ、邪法ヲ以テ正法トシ、鈍根ノ内道ハ、正相ヲ以テ邪相ニ入レ、正法ヲ以テ邪法トスト、釋シ給ヘリ」

ないだうぢゃう(ナイ・ドウジョウ)　(名)　内道場　禁裏ノ道場。古ヘ、禁中ニアリシ眞言宗ノ道場。又、禁中ニ於テ佛事ヲ修スル所。僧史略、中、内道場「内道場起於後魏、而得名在乎隋朝」云云」翻記、三十二、貞觀三年四月「道場、云云、由是入内道場、列爲禪師」神皇正統記、嵯峨天皇「大唐ノ内道場ニ准ジテ、宮中ニ眞言院ヲ立ツ、大師ノ奏シテ毎年正月　コノ所ニテ御修法アリ、國土安穩ノ祈禱、後七日ノ御修法ナリ」

ないだく　(名)　内諾　内内ニ承諾スルコト。内密ニウベナフコト。

ないたつ　(名)　内達　内内ニ達スルコト。内密ノたっし。内訓。

ないだん　(名)　内談　(一)ウチハノハナシ。内話(ナイワ)。書言字考節用集、八、言辭門「内談、ナイダン」太平記、九、山崎攻事「八幡山崎ヲ可被責内談、評定一一ニ心底ヲ不殘被盡ケル」好色一代女(貞享、西鶴)三「禮場ヨリ直グニ惡所落チノ内談、ソレヨリ末末ハ」(二)武家時代ニ、引付(ヒキツケシユウ)ニテナス評定。(引付衆ノ條ヲ見ヨ)

ないだんしゅう　(名)　内談衆　ひきつけしゅう(引付衆)ニ同ジ。宿老衆。大館常興日記、天文九年九月十一日「御内書ナドニ、内談衆事ヲ宿老衆ト被遊候ベキ事」

ないち　(名)　内地　(一)屬地、又ハ、島地ニ對シテ、其國ノ本土ノ稱。史記、漢興以來諸侯年表「皆外接於胡越、而内地北距山以東、盡諸侯地」(二)内國ノ地。國內。北史、魏孝文帝紀「巡幸淮南、如在内地」杜牧文「黨光爲西戎所擾、舉種來降、國家納之、置于内地」「内地雜居」(三)今ハ、朝鮮、臺灣、北海道、樺太ヲ除キタル帝國ノ版圖ノ稱。(四)海岸ノ地ニ對シテ、其遠ク内部ニ入リタル地方。

ないち　(名)　内治　(一)國內ヲ治ムルコト。一國內ノ政治。(外交ニ對ス)　管子、八觀篇「後積勞之人、不務盡力、則兵士不戰矣、豪傑材臣、不務竭能、則内治不別矣」(二)奧向ノ統治。又、後宮ノ事柄。禮記、昏義篇「天子后立六宮」云云、以聽天下之内治」鄭注「内治、婦學之法也」

ないぢん(ナイ・ジン)　(名)　内陣　(一)神社ノ本殿ノ奧ノ、神體ヲ安置スル處。(二)佛殿ノ内部ヲ二區ニ分チ、卽チ、其奧ノ本尊ヲ安置スル處。普通ハ、須彌壇、及、卓子ナドノアル板ノ間ノ處ヲ云フ。其外ナル群衆ノ拜坐スル所ヲ、外陣(ゲヂン)ト云フ。夫木抄、廿一「楊河ノ觀音ニ詣デテ、云云、祈リ申シケルニ、ないぢんヨリ、カク示シ給ヒケルトナン」謠曲、柏崎「イカニ狂女、御堂ノ内陣ヘハ叶フマジキゾ、急イデ出デ候ヘ」

ないちょう　(名)　内寵　君主ナドノ、内内、寵愛スルコト。又、ソノモノ。寵妾ノソバメ。内嬖。左傳、閔公二年「内寵並后、外寵二政、嬖子配嫡、大都耦國、亂之本也」左傳、僖公十七年「易牙入與寺人貂因内寵以殺羣吏、而立公子無虧」答詔問災異八事「抑內寵、任忠賢」

ないちょく　(名)　内敕　内内ニテ敕旨アルコト。内内ノミコトノリ。貫之集「月次ノ御屏風八帖、料歌四十五首、依内敕奉之」

ないつう　(名)　内通　(一)味方ノ内ヨリ裏切シテ、敵ニ事ヲ通ズルコト。内應。書言字考節用集、八、言辭門「内通、ナイツウ」太平記、十三、北山殿謀叛事「西園寺大政大臣公宗公、關東ヘ内通ノ旨有リシニ依ッテ、義時、ソノ日ノ合戰ニ利ヲ得タリ」(二)男女、内内ニテ相通ズルコト。

ないてい　(名)　内定　内内ニ決定シテアルコト。又、其サダメ。春秋繁露、漢、董仲舒「考試之法、云云、計功量罪、以多除少、先内定之、以爲上中下」

ないてい　(名)　内廷　宮廷ノ内部。宮中。又、後宮。(外廷ニ對ス)

ないてん　(名)　内典　〔顯密二敎論「敎形之敎、偁爲外、濟神之典、號爲内」トアリ〕　佛家ニテ、己レガ奉ズル佛敎ノ經典ノ稱。コレニ對シテ、他ノ宗敎ノ經典、又ハ、儒道ノ書ナドヲ外典(ゲテン)ト云フ。易林節用集、上、言辭門「内典、ナイテン」南史、何胤傳「入鍾山定林寺、聽内典」司道宣「大唐内典錄」推古紀、三十二年四月「我王聞日本天皇賢哲、而貢上佛像及内典(ホトケノミノリ)」同、元年四月「習内敎於高麗僧慧慈、學外典於博士覺哿、並悉達矣」續紀、九、養老六年七月「内典外敎、道趣雖異、量才授職、理趣同歸」

ないでん　(名)　内殿　内部ノ殿堂。奧ノ殿堂。後漢書、靈帝紀「南宮内殿、罘罳自壞」唐書、高宗紀「皇后宴親族隣里于朝堂、會命婦于内殿」常袞、集賢院御書詩「金閣深内殿、石發淨寒渠」

ないど　(名)　内帑　〔說文「帑、金幣所藏也」〕　君王、又ハ、帝室所藏ノ財貨ノ庫(クラ)。又、宮中ノ財貨。帝室ノ用途。宋史、高宗紀「出內帑絹絹、賜宗室」宋史、食貨志「是内帑年纔得二十一萬六千餘緡」

ないない　(名)　無無　小兒ノ語。仕舞フコト。又、カクスコト。

ないない　(副)　内内　物事ヲ、ヒソカニナスニ云フ語。ウチウチニテ、コッソリ。中務内侍日記「ヲノコドモ、殿上ニツキテ、大盤オコナフ、年中行事ノ障子ノ許ニ出御ナリテ、内内御覽ゼラル、ヤガテ今夜、解陣ナリ」

ないない　(感)　〔ないハあいノ轉〕　應ズル聲。ハイハイ。ネエネエ。

ないはう(ナイ・ホウ)　(名)　内方　(一)ウチノ方。内部ノ方。ウチガハ。内面。(二)ニ〔ウチカタ〕。内儀。内室。奧方。令閨。宇津保物語、樓上、下四十「昔ノ滋野ノ丁布留ノ朝臣ノないはうハ、我ガ祖母ニイマソカリシ宮ナリ」

ないはう(ナイ・ホウ)　(名)　内報　内内ニテ知ラスル

コト。內內ノ報知。運歩色葉集、「內報、ナイハウ」

ないふ (名) 內附 我ガ內地ニ附キ從フコト。來リテ、服從スルコト。[illegible]「後漢書、西域傳、[illegible]貢內附」宋史、[illegible]「[illegible]亦內附」李舟、陳情表「[illegible]之書」皇極紀、元年九月「[illegible]千內附」

ないふ (名) 內府 〔だいふト讀ムヲ正シトスルカ。史林聚芳、第四冊、宋康ノ狀ニ大ふト見ユ〕內大臣ノ異稱。[illegible]記、正應四年正月「參二內府、大臣也」十訓抄、上、第一、廿七條、小松內府、賀茂祭リ見ントテ、云云、ソノ頃ノ內府ノ綺羅ニテハ」

ナイフ (名) 〔英語、Knife.〕西洋形ノ小刀。洋風ノ小刀。

ないぶ (名) 內部 ウチノカタ。內ノ部分。ウチガハ。內面。（外部ニ對ス）唐書、高麗傳「分三五部、曰二內部、卽漢桂婁部也、亦號二黃部二」

ないふく (名) 內服 藥ヲ服ミ用キルコト。又、ノミ藥。內用。（外用ニ對ス）

ないふく (名) 內福 陽ニハ知ラレズ、陰ニハ富メルコト。內證ノ有福ナルコト。列子、力命篇「不レ識二外禍、不レ識二內福二」

ないぶん (名) 內分 (一)うちわけ(內分)ニ同ジ。(二)公ニセヌコト。ウチワ。ナイナイ。ナイショウ。「內分ニテ濟マス」

ないぶん (名) 內聞 內內ノ御聞。內內ニ聞キ給フコト。「一內聞ニ達ス」

ないへい (名) 內嬖 君主ノ寵愛ヲ受クル婦人。氣ニ入リノソバメ。內寵。コレニ對シテ、君主ノ寵愛スル男子ヲ外嬖ト云フ。左傳、僖公十七年「內嬖如二夫人一者六人」宋史、[illegible]

ないべん (名) 內辨 御卽位、及、元日以下ノ諸節會ニ、宗ト事ヲ執ル職ノ稱。一上、承明門內ニテ諸事ヲ辨備ス、故ニ云フ。又、第二ノ大臣、門外ニテ諸事ヲ辨備ス、コレヲ外辨ト云フ。又、外辨[illegible]ノ公事ニハ、上卿ナリ。[illegible]「天皇於二太政官廳一有二御卽位事一云云、右大臣[illegible]內辨[illegible]」

ないまく (名) 內幕 うちまく(內幕)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

ないまくえん (名) 內膜炎 子宮內膜炎ノ略。[illegible]ノ一種、患者ハ惡寒シテ、內股、又ハ、腰部痛ミ、陰部赤ク腫レ、子宮ヨリ黃ナル液、流レ出ヅルモノ。

ないみつ (名) 內密 ウチソニ穩ムルコト。ナイショ。[illegible]

ないみゃう (名) 內明 〔內ハ、內教ニ佛教ノ義〕古代印度ノ學問ニテ、五明ノ一。佛教ノ教義ヲ明カニスルモノ。ごみゃう(五明)ノ條ヲ參見セヨ。[illegible]

ないみゃうぶ (名) 內命婦 五位以上ノ女官。みゃうぶ(命婦)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ないむ (名) 內務 國內ノ政事ニ關スルツトメ。國內ノ政務。[illegible]

ないむきゃう (名) 內務卿 內務大臣ノ舊稱。明治十八年ニ改稱セラル。

ないむしゃう (名) 內務省 內務大臣ノ統轄ノ下ニ、內務行政ノ事務ヲ掌ル中央官廳。[illegible]

ないむだいじん (名) 內務大臣 國務大臣ノ一。內務省ノ長官。內相。

ないめ (名) [illegible]「[illegible]ガヤウニないめヲ(ヲモイ)見スベシ(セツペクイ)イキドホリ深ク侍レドモ、其事、身ニ低メワリナリ」

ないめい (名) 內命 內內ノ命令。又、奧向ノ用事。[illegible]翰林院之南[illegible]內命二」

ないめん (名) 內面 內部ニ向キタル面。[illegible]

ないやく (名) 內約 內內ノ約束。[illegible]

ないゆ (名) 內諭 內內ノ[illegible]。

ないよう (名) 內用 (一)ウチワノ用事。內內ノ用事。[illegible]「女郎、客ノ方へ[illegible]貴文ノ無心、云云、ソレヨリ次第二二十兩、三十兩ノ御內用申シ付サレ、ネンゴロノ男、[illegible]形ヨリ、恐シキ世トハナリヌ」(二)ないふく(內服)ニ同ジ。

ないよう (名) 內容 (一)內部ニ包容セル[illegible]

ないら (名) 〔[illegible]〕人ノ不具ニテ、[illegible]

ないらん (名) 內亂 [illegible]

ないらん (名) 內覽 (一)內密ニ見ルコト。[illegible]

ナイリ (名) [illegible]

ないれいし (名) 內禮司 [illegible]

法ヲ掌リ、非違ヲ糺察スル官。大同三年、彈正臺ニ併セラル。又、ナイライシ。職員令「中務省、正一人、掌宮内禮儀禁察非違」

ないろんぎ（名）【内論議】又、うちろんぎ。古ヘ、高僧ヲ殿上ニ召シテ、天皇、親シク佛教ノ論議ヲ聞シ召サレシ式。御齋會終結ノ日ニ行フヲ例トセリ。さいしようかう（最勝講）ノ條ヲモ見ヨ。掃部寮式、八月釋奠、明日内論議、紫宸殿南廂東第四間、敷答者座、當其後敷問者座、其東差退鋪、士已下座」公事根源、上、正月「十四日ハ御齋會ノ結願ナリ、内論議ハ御殿ニテ行ハル、御物忌ノ時ハ南殿ニテアリ、問者、講師ナド有テ、御前ニテ論議スレバ、内論議トハ申也」

ないわう（名）【乃往】〔今ヨリ過去世ニ向ヒテ往ク意。むかしト訓ズ〕今ヨリムカシ。往昔。往古。法華經「乃往過去、無量無邊、不可思議、阿僧祇劫」太平記、三十五、北野通夜物語事「乃往過去ニ、波羅奈國ニ一人ノ長者アリテ、名ヲバ瞿師ト云フ」

ないゐ（名）【内位】普通ノ位階。之ニ對シテ、京官ノ正五位上ヨリ少初位下マデノモノニ與ヘ、又ハ、地方官ノモノ、或ハ、姓氏ノ凡卑ナルモノニ與フルヲ外位トニフ。ウチカウブリ。内階。續紀、二、大寶元年三月「始依新令、改制官名位號、云云、諸臣正冠六階、直冠八階、勤冠四階、務冠四階、追冠四階、進冠四階、合三十階、外位始直冠正五位上階、終進冠少初位下階、合二十階」選叙令「凡内外五位以上勅授、内八位外七位以上奏授、外八位及内外初位、皆官判授」式部省式、上「凡正三列次第、云云、外位不得列内位上」

ないゐん（名）【内院】（一）齋宮ノ三院（内院、外院、中院）ノ中、ソノ内院。常ノ御座所トス。（二）奧ノ方ニ在ル道場。（三）兜率天ニハ、内外ノ二院アリ。ソノ内院ヲ善法堂ト名ヅケ、彌勒菩薩コレニアリテ、常ニ法ヲ説ク。沙石集、二、下、第八條「内院ノ上生ヲ願ヒ、如法修行ノ上人ナリケリ、道場ノ中ニ兜率ノ内院現ジケリ、云云、兜率ハ内院、外院ノ不同アリテ、外院ハ退位ナリト云ヘリ」（四）弓ノ的ノ名所。ないき（内規）ノ條ノ（二）ニ同ジ。

ないゑ（名）【内衛】〔外衛ニ對ス〕左右ノ近衛府ノ稱。

ないゑん（名）【内苑】宮中ノ御庭。禁苑。晉書、呂光傳「讌羣臣於内苑新堂」王惲詩「内苑近來遊宴少、太平天子要傳經」顧瑛詩「芍藥金闌開内苑、葡萄玉蘂酌西涼」

ナイヲン（名）【泥洹】〔梵語、Nirvana. 寂滅ノ義〕ねはん（涅槃）ニ同ジ。涅槃無名論「泥曰、泥洹、涅槃、此三名前後異出、蓋是楚夏不同耳、云涅槃、音正也、云云、秦言無爲、亦名滅度、云云」謠曲、舍利「常在靈山ノ秋ノ空、鶴ニ二月ニ臨ンデ魂ヲ消シ、泥洹雙樹ノ苔ノ庭、遺跡ヲ聞キテ腸ヲ斷ツ」

なう（名）【腦】（一）又、腦髓。頭蓋ノ中ニ滿ツル白質ノ纖維ト、灰白質ノ細胞トヨリ成ル。稍、卵圓形ノ髓質。廿四本ノ神經ヲ出シ、更ニ幾筋ニモ分レ、全身ノ運動ト感覺トヲ支配シ、考慮、意志ノ本源ニテ、精神ノ宿ル所トス。ナヅキ。ナウミソ。左傳、僖公廿八年「晉侯夢、與楚子搏、楚子伏己、而盬其腦、是以懼」徒然草、百四十九段「鹿茸ヲ鼻ニアテテ嗅ク可カラズ、小サキ蟲アリテ、鼻ヨリ入リテ、腦ヲハムトイヘリ」狂言記、横座「鼻筋ヲ以テなづきヲ摧キ、なうヲ取ツテ護摩ニ焚キタマヘバ、ソノ行法ヤ積リケン」（二）書物ノのど。卽チ、其綴目ニテ、紙ト紙トノ間。近聞寓筆（吉田篁墩）「宋王洙談錄云、黏葉每葉、以糊黏其腦」（三）腦髓ノハタラキ。又、辨別力。記憶力。腦力。

なう（名）【惱】ナヤムコト。ヤマヒ。ナヤミ。常ニ接頭語ノごヲ添ヘテ、ごなうト云フ。榮花物語、一、月宴「ごなうマコトニイミジケレバ」保元物語、一、法皇崩去事「法皇モ御惱重ラセ給フ御歎キノ餘リニ、思召シ立ツトゾ聞エシ」

なう（感）【喃】〔南無ノ音便カト云ツ、喃ノ字ヲ作ル〕人ヲ呼ビカクルニ發スル聲。ナ。ナア。ネ。ネエ。蜻蛉日記、上、下「オドロオドロシウ泣ク子ハ、なうなうト云ヘド、イラヘモセデ」太平記、廿一、鹽冶判官讒死事「五ニナル少人、太刀ノ影ニ驚キテ、ワット泣キテ、母御、なうト、空シキ人ニ取付キタルヲ」舞の本、烏帽子折（足利時代）「なう、大夫殿、此刀ヲ烏帽子ノカハリトバシ思召サレ候ナ」

なういつけつ（名）【腦溢血】病ノ名。腦ノ血管、破裂シテ、血液ノ腦ニ浸ミ出ヅルモノ。輕キモノハ、半身、痲痺ス。右ノ腦半球ニ出血スレバ、左ノ半身利カズ、左ナル時ハ右ニ及ブ。コレヲ半身不隨ト云フ。卽チ、卒中、中風、又、中氣ナリ。急ナルハ卒然トシテ死ス。卽チ、卒中風、腦卒中ナリ。腦出血。

なうがい（名）【腦蓋】頭ノ頂ノ圓キ骨。八枚ノ骨、鋸齒ノ如ク組合ヒ、中ニ腦ヲ包ム。カシラノカハラ。アタマノサラ。アタマノハチ。頭蓋。腦頭蓋。

なうぐ（名）【乃貢】ねんぐ（年貢）ニ同ジ。吾妻鏡、廿二、建保二年六月十三日「關東諸御領乃貢事、自來秋可被免三分二、仮令、每年一所、次第可廻巡儀之由、被仰出」集古文書、十三、下、文「一、乃貢事、右諸國之濟物、任土之貢賦、早守每年之所當、可致合期之進納焉」

なうさい（名）【惱殺】又、なうさつ。イタク心ヲナヤマスコト。多ク漢詩ノ句ニ用ヰル。李白、贈段七娘詩「千杯綠酒何辭醉、一面紅粧惱殺人」

なうし（名）【直衣】〔なほしノ音便〕なほし（直衣）ノ條ヲ見ヨ。

なうじ（名）【曩時】サキノトキ。往時。ムカシ。昔時。曩者。曩日。曩昔。賈誼、過秦論「深謀遠慮、行軍用兵之道、非及曩時之士也」

なうじつ（名）【曩日】前條ノ語ニ同ジ。

なうしもの（名）【直物】正直ナルモノ。名目抄「直物、ナフシモノ」

なうしや（名）【曩者】なうじ（曩時）ニ同ジ。

なうしやう（名）【腦漿】腦中ノ粘液。腦ノシル。腦漿をしぼるトハ、智慮ノ限リヲ盡ス。ナウミソヲ絞ル。

なうじゆうけつ（名）【腦充血】病ノ名。腦ニ充血シテ、頭、顏ニ熱ヲ發シ、頭痛、耳鳴シ、眼マバユクナルコト。腦ノ動脈ノ血ノ充滿スルニ起ル。のぼせ。逆上。

なうずゐ（名）【腦髓】なう（腦）ノ條ヲ見ヨ。頭腦。

なうせき（名）【曩昔】なうじ（曩時）ニ同ジ。

なうせきずゐまくえん（名）【腦脊髓膜炎】病ノ名。一種ノ微菌ノ腦、及、脊髓ヲ侵ス傳染病。コノ病ニ罹ル時ハ、高熱ヲ發シ、首筋、後ニ釣ラレテ、橋ノ如ク彎

曲ス。十四歳以上ノ若者ニ多シト。

なうそっちゅう (名) [腦卒中] なういっけつ(腦溢血)ノ條ヲ見ヨ。

なうちゅう (名) [嚢中] (一)フクロノウチ。 史記、平原君傳「夫賢士之處世也、譬若錐之處嚢中、其末立見、云云、使遂蚤得處嚢中、乃穎脱而出」 (二)財布ノ中。 賀知章詩「莫謾愁沽酒、嚢中自有錢」

なうて (名) [有名] 名高キコト。評判ノ著シキコト。名代。 浮世風呂、文化、三馬、四編、上「オシャベリ、オテンバ、オチャッピイト、なうてノ子モリ、大勢ノ子供ニ指圖シテ」

⁂なうてん (名) [腦頂] 天窓ノ上。頭上。イタダキ。 浮世風呂、文化、三馬、二編、上「すッニゴロツク雷ノ腦天カラ、ワルクイタブル地震ノ尻ノ毛マデ、百モ承知トハマア、俺ガ云ヒ出シタ事タ」

なうなう (感) [喃喃] (喃ノ重語) 人ヲ呼ビカクルニ發スル聲。又、ノウノウ。

なうひんけつ (名) [腦貧血] 腦ノ貧血シタル病。眩暈、耳鳴、等ヲ起シ、甚シキハ卒倒シテ、人事不省トナル。

なうびゃう (名) [腦病] (一)腦ニ關スル病ノ總稱。(二)腦ノ神經ノ衰弱スル病。眠ラレズ、惡夢ヲ見、頭痛、眩暈ヲ感ジ、記憶力ナク、物ニ厭キヲ生ズ。

なうまく (名) [腦膜] 頭蓋骨内ニアリテ、腦髓ヲ被フ三層ノ膜。

ナウマク (名) [那謨] なむ(南無)ノ條ヲ見ヨ。

なうまくえん (名) [腦膜炎] 病ノ名。腦膜ニ發生スル炎症ニテ、熱ノ爲ニ腦膜ノ赤色、腫脹、發熱、疼痛等ヲ起ス。

なうミソ (名) [腦味噌] なうずゐ 腦髓ニ同ジ。なう(腦)ノ條ヲ見ヨ。

なうらひ (名) [直會] なほらひ(直會)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

なうらん (名) [惱亂] 惱ミ苦ミテ、心ノ亂ルルコト。 太平記、十二、「神泉苑事、此ノ時、守敏、僅カニ日クレ暴血ホッテ、心身疲レ惱亂クルガ、佛壇ノ前ニ倒レ伏シテ、遂ニハカナクナリニケリ」

なうり (名) [腦裡] [腦裏] 心ノウチ。腦中。

なうり (名) [菜瓜] まるづけうり(丸漬瓜)ノ一名。(大阪)

ナウれん (名) [暖簾] (字ノ宋音、なんれんノ音便。或ハ、元明代ノ音トモ云フ) 布帛ノ帳、張リテ日光ヲ除ク、モト、禪家ニテ、風氣ヲ防グニ用ヰシモノト云フ。後ニハ、商家ニテ、家號ナド記シテ目標トス。のうれん、又ハ、のんれんトモ書シ、又、略シテ、のれんトモ云フ。 教修百丈清規、月分須知、四月「候天氣稍暖、堂内、下暖簾、上涼簾」 禪林象器箋、器物門、綿布簾「備南方風氣、故言暖簾」 日本永代藏、一、元祿、西鶴)一「室町ノ片脇ニ仕立物屋ノ軒ヲ借リテ、播ノ暖簾カカリテ、當世者ル物ノ賣出シ繁レテ」 俳村句集、春「ふうれんニ、コチ吹ク伊勢ノ、出店カナ」

なうろう (名) [腦漏] 慢性鼻加答兒ノ稱。其條ヲ見ヨ。

な・え (名) [萎] なゆ 萎ユノ條ヲ見ヨ。

なえさうぞく (名) [萎裝束] [強裝束ニ對ス] 袍、直衣ナド、[illegible]ノ[illegible]シタルモノ。[illegible]ヲ見ヨ。

なえば・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [萎] 萎エカカル。 源、四十四、總角「御衣ドモナド、なえばみテ」 [illegible]ハ[illegible]ト[illegible]ノ、アコメイトアサヤカニハアラズ、なえばみタル」

なえやかみ (副) なよらかみニ同ジ。 [illegible]、[illegible]、なよやかナル[illegible]ノ[illegible]ツキ」

⁂な・える (自動) [萎] 萎ゆノ口語。

なおと (名) [汝弟] 弟ヲ親シミ呼ブ語。 古事記、下、[illegible] 萬葉集、十七[illegible]

なおや (名) [名親] なづけおや(名付親)ニ同ジ。

なか (名) [中] [中處ノ義、なニ中ノ意アリ。神武紀、上「級長津彦」(シナツヒコ)] 古事記、上「[illegible]比古」 前紀「淳中倉」 古事記、下「[illegible]」 天武即位前紀「淳中原」 [illegible] 云「[illegible]」 [illegible]中、此云[illegible]見エタリ」 (一)[illegible]プモノノ間。物事ノ兩端、四方ナドヨリ内ナル所。何レヘモ片寄ラヌ所。マンナカ。 古今集、五、秋、下「タツタ川、モミヂ亂レテ、流ルメリ、渡ラバ錦、なかヤタエナン」 (二)[内] 外、又、表ニ對ス。 「ミスル帳ノなかニ置レテ、長押ニオシカカリテ」 (三)[交リ] [illegible] 「[illegible]女ノ中ノセヤハラケ、[illegible]」 [illegible] カコマ[illegible]「マレマレノハラカラハ、コノ世ニオナジココロナラズトテ、中タガヒニタリ」 [illegible] 「山邊シクナリタルコロ、文オコセタリ」 [illegible]マタマ中ヨクナリテ」 「父子ノ間ニ云ヘリ」 [illegible] 源、九十四[illegible]子アル中ナリケレバ、コマカニコソアラネド、[illegible]モノイヒオコセケリ」 「[illegible]メ中」 (四)[半] ナカバ。半分。 [illegible] [illegible]、[illegible]、[illegible]月[illegible]町、吉原、東京、[illegible] 及、新町(大阪)ノ郭ノ稱。町。 [illegible]ノ帶、[illegible]ニ中ノ[illegible]、又、[illegible] [illegible]アレ[illegible]ヤ、中カ[illegible]みなつくし、大坂[illegible]、[illegible]人、[illegible]ビテ[illegible]トス、[illegible]ハ中トハ[illegible] 中ノ十日トハ、月ノ十一日ヨリ廿日マデノ間。 中旬 源、三十八、[illegible]八月中ノ十日バカリナレ [illegible] 中 [illegible] [illegible]ノ、知ラルルハ、イカニゾメケル、なかノ[illegible]

なが (名) [長] ながし(長)ノ語根。 [illegible]記、六人[illegible]、仰セラルル通リ、長ノ旅ヂャホドニ、サレコトワヒエデモ、カナハヌ事ヂャ」「なかノ別レ」

ながあき (名) [長秋] ながいはかき 長[illegible] [illegible] 千秋ノ長秋ニ」

ながあめ (名) [長雨] 數日降リツヅク雨。一日以上ノ雨。ナガメ。淫雨。霖。 [illegible]、二[illegible]、[illegible]日以上雨[illegible] [illegible]、十四年、[illegible]、月[illegible] [illegible] [illegible]シツマリ行クニ、長雨ノ比ニナリテ、京ノ事ドモ[illegible]思シヤラルルニ」 [illegible] あめガチナリ、靜ヤカニソリクラス日、時[illegible]カ[illegible]ニ[illegible]トリタリ、月ホノカニ見エタリ」

ながい (名) [長居] 久シク居ルコト。 [illegible] 長[illegible]

ながいき (名) [長生] 長ク生クルコト。チャウセイ。長命。長壽。[illegible] コウゾ[illegible]ン[illegible]、[illegible]カト[illegible]レテ[illegible]ンテサ[illegible]

人、紀貫之ヲ見奉ル事ノ有リ難サヨ」

ながいほあき（ナガ・イオ・アキ）（名）〔長五百秋〕〔五百ハ、數ノ多キヲ云フ〕久、なが〳〵しき、長キ年月。永遠。長久。古事記、上「天照大御神之命以、豐葦原之千秋長五百秋之水穗國者、我御子正勝吾勝勝速日天忍穗耳命之所知國、云云、於是天忍穗耳命、云云、詔之、豐葦原之千秋長五百秋之水穗國者、云云」

なかいま（名）〔中今〕今ト云フニ同ジ。今ノ世ヲ盛リニ、眞中ノ世ト褒ムル語。（後ノ世、澆季（ゲウキ）ナドト云ハズ）續紀、四、和銅元年正月、詔「高天原ヨリ天降（アモ）リマシシ天皇（スミラ）ガ御世ヲ始メテ、中今ニ至ルマデ、天皇ガ御世御世、天ツ日嗣ト高御座ニ坐シテ、云云」

ながいも（名）〔長薯〕やまのいも（山芋）ノ條ヲ見ヨ。家山藥。書言字考節用集、六、生植門「薯蕷、ナガイモ」

なかいり（名）〔中入〕能樂、又、劇場（シバキ）、觀（ミセ）場、相撲、ナドニテ、中頃、暫シ休ムコト。又、ソノ時間。小收場　傾城酒呑童子（享保、近松作）四「晴レノ能、三番過ギテ、中入リノ」

ながうた（名）〔長歌〕和歌ノ一體　句數ノ多キモノ。五音、七音ト綴リ行キテ、句數、定マラズ、末ハ七音二句ニテ結ブ。（コレヲ短歌トモ解スルハ非ナリ）チャウカ。コレニ對シテ、常ノ五、七、五、七、七ノ五句三十一音ナル和歌ヲ、短歌（ミジカウタ）ト云フ。源、廿九、行幸十「たが歌ナドノ心バヘアランヲ御覽ゼンニハ、ステサセ給ハジ」

ながうた（名）〔長唄〕〔小唄ニ對シテ、文章ノ長キ故ノ名カ〕（一）法師唄（ホフシウタ）ノ一稱、其條ヲ見ヨ）江戶長唄ニ對シテ、上方長唄ト云フ。略シテ、上方唄、又、地唄。（二）江戶長唄ト云フハ、亦、ウタヒ

モノニテ、寛永ノ頃、杵屋勘五郎ノ創メシモノ。三絃、太鼓、腰鼓（ツヾミ）、笛、等ニ合ハセテ謠フ。

なかうど（ナコウド）（名）〔媒〕〔中言（ナカゴト）、仲人ノ音便〕婚姻ノ媒（ナカダチ）スル人。仲人（ナカド）。仲酌（ナカダチ）。仲人。媒妁人。月下氷人。易林節用集（慶長）上、言辭門「仲人、ナカフド」徒然草、二百四十段「なかうど、イヅカタモ心ニクキサマニ云ヒナシテ、知ラレズ知ラヌ人ヲ迎ヘモテ來タランヘ、アイナサヨ」

なかうり（名）〔中賣〕各種ノ興行場ノ中ニテ、飲食物ナドヲ賣ルコト。又、ソノモノ。東海道中膝栗毛（文化、一九）七編、上、京芝居「幕ノ内ニテ、中賣ノ商人、聲聲ニ、ミヅカラ宇治山、ミヅカラ宇治山、饅頭ヨイカイナ」

ながえ（名）〔轅〕〔長柄ノ義〕（一）〔車ノ具。〕軸ニ互リテ、長ク前ヘ出タル二條ノ材。牛、馬ニ駕シテ挽カシムルモノ。倭名抄、十一、車具「轅、奈加江」字鏡、三十四「轅、梶、轅、端樓木、以牽振、梔、音也、奈加江乃波志乃久佐比」太平記、二、俊基朝臣再關東下向事「鉤進ラスル程トテ、輿ヲ庭前ニ舁留ム、轅ヲ叩テ警固ノ武士ヲ近ツケ」（二）腰輿（タゴシ）。其條ヲ見ヨ。後松日記（松岡行義）三「イマながへトテ乘ルハ腰輿ナリ、輿ニ乘ルハ、主上ハ鳳輦ナラヌ時、又、中宮ナドゾ乘ラセ給ヘルモノナレバ、臣下ノ乘ルハ、スヂナキ事也、古キ書ニ、轅ト見ユルハ、牛ヲカケン料ニ、長ウ出タル處ヲ云フ」

ながえ（名）〔長柄〕（一）柄ノ長キ武器ノ稱。特ニ、專ラ、槍ヲ稱ス。中陽軍鑑、十一、下、品三十七「長柄、持槍共、可爲柄打柄之事」（二）長柄の傘（カサ）ノ略。傘ノ、柄ノ長キモノ、貴人、馬上ナドノ時ニ、後ヨリカザス。蜻蛉日記、下、上十五「中門オシカケテ、車ゴメ引キイルルヲ見レバ、御前ノ男ドモ、アマタ長柄ニツキテ、簾卷キ上ゲ、下簾、左右ニ押挾ミタル」（三）長柄の銚子（テウシ）ノ略。銚子ノ柄ノ長キモノ。

狂言記、二千石「扇ヌキ出シ、銚子ノながえヲ、タウタウ打チ」

ながえぼし（名）〔長烏帽子〕引立烏帽子（ヒキタテエボシ）ニ似テ、頂ノ高キ烏帽子。弁草子、二、十七段「ソガニ、シノビテクル所ニ、長えぼしシテ、サスガニ人ニ見エジト、マドヒ出ルホドニ」

ながおひ（ナガ・オイ）（名）〔長追〕敵ヲ遠クマデ追フコト。長驅　保元物語、二、白河殿攻落事「御曹子ハ弓ヲバ脇ニ搔挾ミ、大手ヲ廣ゲテ、ドコマデモドコマデモト、追ハレケルガ、サノミ長追ナセソ」

なかがき（名）〔中垣〕相隣レル中ノ隔テノ垣。土佐日記、二月十六日「家ヲ預ケタリツル人ノ、云云、中垣コソアレ、一ツ家ノヤウナレバ、望ミテ預レルナリ」源、四、夕顏八「時時、中垣ノ垣間見シハベルニ」六帖、二「冬ナガラ、春ノ隣ノ、近ケレバ、中垣ヨリゾ、花ハ咲キケル」

ながかし（名）なら（楢）ノ一名。

ながかたな（名）〔長刀〕〔短刀ニ對ス〕刀身ノナガキカタナ。菅開集、十二、偷盜「腹卷ニ左右コテサシテ、長刀ヲ持チタリケリ」去來の句「何事ゾ、花見ル人ノ、長刀」

なかがひ（ナカ・ガイ）（名）〔中買〕商品ヲ一方ヨリ買ヒテ、一方ヘ賣リ、其間ノ口錢ヲ得ルヲ、生業（ナリハヒ）トスル商。サイトリ。牙儈　牙保　好色一代女（貞享、西鶴）二「大商人、心太ノ仲買ヂャ」

ながかみ（名）〔天一神〕〔一方ニ長ク留（トヾマ）ルト云フ意ニテ、長神ノ義。〕太白神ノ、日毎ニ遊行スルト同ジカラズ、故ニ云フ。中神ノ義トスルハ非ナリトゾ〕陰陽家ニ祭ル神ノ名。十二神將ノ主トシ、星ナルガ如シ。此神、己酉ノ日、天ヨリ下リテ、東北ノ隅ニ居ルコト六日、又、正東ニ移リテ居ルコト五日、此ノ如ク、順次ニ南、西、北ト廻リ、四方ニハ五日ヅツ、四隅ニハ六日ヅツ、移リテ居ルコ

ト四十四日、癸巳ノ日、正北ヨリ天ニ上リ、己酉ノ日ニ再ビ下リテ、復々、八方ヲ遊行ス。此神、遊行ノ方角ヲ、ふたがりト云ヒ、向ヒ犯スコトヲ忌ム。コレヲ物忌（モノイミ）ト云フ。其日ニ他出ナドスル時ハ、方違（カタヽガヘ）ヲナス。又、此神、天ニ上リテアル十六日間ヲ、天一天上（テンイチテンジヤウ）ト云ヒテ、四方ヘ行クニ障リヲ言ハズ。倭名抄、二十神靈類「天一神、奈加加美」源、二、帚木二十「コヨヒなかがみ、内ヨリハフタガリテ侍リケリト聞ユ」

ながかみしも（名）〔長裃長上下〕武家ノ禮服　肩衣（カタギヌ）ノ下ニ長袴（ナガバカマ）ヲ用ヰルモノ。上下トモ同ジ染色ナルニ云フ。享保集成絲綸錄、九、寛永六年正月「御出棺之御供之面面、與斗目、長上下可着事」

ながきよのゆめ（名）〔長夜夢〕佛經ノ語。凡夫ノ生死ノ間ニ流轉シテ、無明ノ昏寢、サメザルコト、長き夜の夢ノ如シト云フ意ニ用ヰル。ちゃうやのゆめ（長夜夢）ニ同ジ。

なかくぎ（名）〔中釘〕茶室ノ床ノ間ノ、壁ノ中央ナドニ、突出セシメテオク折釘。垂撥（スヰハツ）、扇懸ナドヲ懸ク。

なかくさ（名）〔白頭翁白頭公〕おきなぐさ（翁草）ノ條ノ（一）ニ同ジ。倭名抄、廿八十草類「白頭公、於木奈久佐、一云、奈加久佐」

なかぐち（名）〔中口〕古ク、中言（ナカゴト）。雙方ノ間ニ立入リテ、各ヘ事ヲ惡シザマニナド言ヒ做スコト。中傷

ながぐつ（名）〔長靴〕深ク脛マデ掩フベク作レル靴。雨路、又ハ、乘馬ノ時ナドニ用ヰル。

なかくぼ（名）〔中窪〕〔中高ニ對ス〕中、

窪ミテ、旁ノ高キコト。又、ソノモノ。ナカビツ。凹 [illegible]記、三十三、[illegible]不食シテ意シキ事モゾ在ルト云、思ケレバ、メミ[illegible]ニモテナシテ、中窪ニ賞キ殊ラシ給ヘリ」

なかくみ（名）中汲 濁酒ノうはずみ（上澄）ト、よどみ（澱）トノ間ヲ、汲ミ取リタルモノ。酒汁 本朝食鑑、二、酒「中汲 注「中酌者、半清半濁之稱也」

ながくみわ（名）長組輪 ながおゆひ（長小結）ノ一名。道照愚草（伊勢貞久）「烏帽子ノ事、年齢ニヨルベキ、[illegible]ニ候、なかくみわノ事ハ、大方、十八九マデモ召シ候」

ながぐら（名）長倉 ながどの（長殿）ニ同ジ。續紀、三十七、延暦元年七月、秋七月甲申、大藏省長倉災」

なかぐろ（名）中黒（一）紋所ノ名。輪ノ中ニ、横ニ、太キ一畫アルモノ。即チ、大中黒、又、一ツ引兩トモ云ヒテ、新田氏ノ章ナリ。日ノ象ニテ、足利氏ノ引兩ハ月ノ象ナリト云フ。太平記、十八、瓜生[illegible]旗[illegible]「[illegible]ナル者、二ツ引兩ト大中黒ト、何レカ勝レタル文ニテ候ラント聞ヒケレバ、[illegible]、文ノ善惡ヲバ爭ク[illegible]キ、吉凶ヲイハバ、大中黒ホドメデタキ文ハアラジト覺ユ、其故ハ、前代ノ文ニ、三[illegible]ヲセラレシガ[illegible]、今ノ世、二ツ引兩ニナリヌ、是ヲ又亡サンズル文ハ、一引兩ニテコソアランズラメト申シケレバ」（二）矢ノ羽（鷹ノ羽）ノ、上下ハ白クシテ、中ノ黒キモノ。黒ミノ濃キヲ大中黒、狹キヲ小中黒ト云フ。保元物語、一、[illegible]直衣ニ、澤瀉威ノ鎧ニ、白星ノ冑ヲ着、二十四差シタル中黒ノ矢、[illegible]ニ負ヒナシ」

ながけ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）長 長シ。[illegible]

なかご（名）中子（一）物ノ中心ノ部。心。中心 [illegible]（二）（中込）ノ略」刀劍ノ刃ノ、柄ノ方ヘ入ル部分。[illegible]片桐ヲ呼デ切ラセラレシニ、土壇迄切落シケル故、[illegible]銘ノ、五ノ試硼キ入レテ」（三）鏃ノ根。即チ、箟ノ中ニ入リタル部分。[illegible]本マデ中子ヲ打チ徹ニシテ、ネヂスゲ、香卷ノ上ヲ、籐ノ緒ヲ以テネタ卷ニ卷イテ」（四）瓜、又ハ、橘ナドノ實ノ内ノ柔キ肉。瓤（五）蓮ノ篇ノ中ニ、薄樣ノ紙ノ如クニテアル皮。莩 字鏡集「莩、アシノナカゴ」（六）齋宮ノ、佛ノ忌詞。堂ノ中央ニ安置スル故ニ云フ。或ハ云フ、人心、即チ佛性ノ意ト。いみことば（忌詞）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]宮式忌詞、佛稱中子、[illegible]心也」

なかごと（名）中言（一）我ト、或ル人トノ間ニアル其外ノ人ノ言。（二）なかぐち（中口）ニ同ジ。[illegible]

ながごと（名）長言 [illegible]モノ云フコト。枕草子、三、廿七段、にくきもの「イソグ事アル折リニ、ながごとスルマラウド」

ながおゆひ（名）長小結 長小結烏帽子ノ略。侍烏帽子ノ一種、小結ノ端ヲ、左右ニ長ク突キ出シタルモノニシテ、古ヘ、少年ノ冠リシモノ。ナガクミワ。

なかおろ（名）中[illegible]（一）[illegible]時[illegible]又、中間。[illegible]政道思出「ムカシ、中おろダニ、カヤウニ侍リケリ、末代ヨクヨク用心アルベキコトナリ」（二）ちうかん（中間）ニ同ジ。[illegible]

なかざ（名）中座（一）座ノマンナカ。又、中央ノ座席。[illegible]テ、折レ之テ人人ニ奉ル獻」（二）座ノナカバ。ちゅうざ（中座）ニ同ジ。

ながさ（名）長 ナガキサマ。ナガキ度合。[illegible]

ながざ（名）長座 ながゐり（長居）ニ同ジ。チャウザ。ナガッチリ。

ながさきけん（名）長崎拳 けん（拳）ノ條ヲ見ヨ。

ながさきたび（名）長崎足袋 [illegible]名物「長崎木綿ウネザシ足袋」色音論[illegible]下、ながさきたびニネリノヒモ、ダテニアカメト結ビトメ」

ながささげ（名）長豇 [illegible]ふろくささげ（十六豇）ニ同ジ。[illegible]「沼帶豆、ナガササゲ、江、伊勢所、謂十六紅豆也」

なかざし（名）中差 中指（一）[illegible]ニ盛レル矢ノ稱。うはざし（上差）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]ノ類。

なかさだ（名）中定 下跡ナドノ、上下[illegible]カミシモ、ヒトシクカイ結ヘリ」河海抄ニハ、中世[illegible]

ながさ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）流〔流すノ延〕ながす 流 ニ同ジ。萬葉集、十八「[illegible]」

なかし（名）仲仕〔當字ナド、小揚トノ中ニ在リテ、働クヨリ云フ〕部落卒、又ハ、土木業ナドノ下傳フ人。

ながし（名）流（一）流スコト。又、流サルルコト。「鳥ながし」（二）臺所、井戸端ナドニ、物ヲ洗ノ水ケ、川ナド淺ク樽[illegible]一隅ニ孔アリテ、水ヲ流シ遣ルハ[illegible]リ。決水槽（三）風呂ニ[illegible]テ、背ヲ洗[illegible]門附ナドガ、三味線ヲ彈キナガラ行クコト。又、按摩ナドガ、笛ヲ吹キナガラ、客ヲ求メ行クコト。

ながし・キ・ケレ・ク・ク（形、二）長〔短し ニ對ス〕（一）丈ノ度、多シ。一筋ニ延ブ。短カラズ。ナガケシ。（二）時ノ經ル[illegible]ツク。時間ノ度、多シ。久シ。永久。萬葉集、六「[illegible]ヤナツカシト、[illegible]ノ花カモ」

ながしあみ（名）流網 大洋ニテ行フ漁[illegible]間ノ大網ヲ、潮流ニ隨ヒテ流シナガラ[illegible]絡セシメテ捕ノ[illegible]、圓形、同大ノ[illegible]アリ。一名、刺網トモ云フ。

ナガシ・ズクリ
ながし-づくり (名) 流造 ながれづくり(流造)ニ同ジ。

なか-じま (名) 中島 (一)水中ノ島。(二)池ノ中ナドニアル島。源、廿一、少女「十一月……ニサシ出デテ、ヲカシキ程ニ、中島ノワタリニ、ココカシコ篝火ドモトモシテ」弁内侍日記「御渠アリ、殿上人ドモ、小サキ舟ニ乗リテ、中島ヲ廻リテ吹キ合セタル物ノ音、タトヘムカタナク面白シ」平家物語、灌頂巻、小原御幸事「池ノ浮草波ニ漂ヒ、錦ヲ晒スカトアヤマタル、中島ノ松ニカカレル藤波ノ、ウラ紫ニ咲ケル色」

ながしめ (名) 流目 睛ヲ斜ニ轉ジテ見ルコト。又、ソノ目ツキ。ヨコメ。斜視 流眄 名義抄「睇、流睇、流眄、盻、ナガシメ」字類抄「睇、ナカシメ、流眄、ナカシメ、斜視也」書言字考節用集、八、言辭門「睥睨、視流、流盻、流睇、邪睨、邪視、眄、ナガシメ」

ナガ・シヨウジ
なが-しやうじ (名) 長精進 長キ間、精進スルコト。又、ナガシヤウジン。蜻蛉日記、中、中廿五「日ゴロノながしやうじシツル人ノ、タノモシゲナケレド、見讓ル人モナケレバ」

⁂**なか-じやく** (名) 仲酌 なかうど(媒)ニ同ジ。(徳川時代ノ語) 御伽名代紙衣(元文)「なかじやくスル人ガ、カタリニテ」

なが-じゆばん (名) 長襦袢 襦袢ノ長クシテ、衣服ノ丈ト殆ド同ジキモノ。じゆばん(襦袢)ノ條ヲ見ヨ。

なが-しら (名) 名頭 昔、苗字、即チ、源、平、藤、橘ナドノ如キ、氏ヲ列ネテ、兒童ニ教ヘシモノ。

⁂**なが-しり** (名) 長尻 一處ニながゐ(長居)スルコト。長座。ナガッチリ。毛吹草(正保、維舟)「長尻モ、ヨシヤ秋マテ、残フ華」

一**なか・す** (動) 泣 泣くノ敬語。古事記、上一四十「項傾シ、汝ガ那賀佐麻久」

なが・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 流 (一)流ルルヤウニナス。泛べ遣ル。浮カス。ナガサフ。拾遺集、五、賀「松ヲノミ、常盤ト思フニ、夜ト共ニ、流す泉モ、緑ナリケリ」(二)出シ滴ラス。後撰集、廿、哀傷「ナキ人ノ、カゲダニ見エヌ、ヤリ水ノ、ソコニ涙ヲ、流シテゾ來シ」「血ヲ流す」(三)洗ヒ去ル。浮世風呂、文化、(三馬)三編、下「オムサン、オ背中ヲオ出シ遊バセ、オ流シ申シマセウ」「垢ヲ流す」(四)流罪ニ行フ。放ツ。ハフル。ウツス。天武紀、上、元年八月「左大臣蘇我赤兄、大納言巨勢比等、及子孫、云云、悉配流、以前悉赦之」古今集、九、羈旅「隱岐ノ國ニ、流サレケル時ニ」(五)世上ニ弘ム。悪シキ意ニ) 源、十、榊八「心憂キ名ヲノミ流シテ、アサマシキ身ノ有樣ヲ、イマハジメタラムヤウニ」同、十四、澪標、上「アヂキナキ好心ニ任セテ、サルマジキ名ヲモながし、憂キモノニ思ヒ置カレ侍リシヲナム」(六)質物ニ云フ語。請ケ戻サズシテ、他ノ有トスルニ任ス。鷹筑集(天文、伊達植宗ニ藏ム)(質屋)ノ掟「絹布之類者、見當半分ニ可取、何モ十二ツキヲカギリ、質物ながすマジキニオキテハ、子錢可送候事」「質ヲ流す」(七)⁂藝人ナドガ、夜、三味線ヲ彈キナガラ、顧客ヲ求メツツ、往來ヲアルク。ナガシアルク。吟行。又、按摩ガ笛ヲ吹キナガラ、客ヲ求メアルク。(八)青樓ニゐつづけス。流連。浮世床(文化、三馬)初編、上「長ク居ナサンナ、息子株チャアアルメエシ、流せバト、テモ、理ガアラアナ」(九)流産セシム。

ナガス・クジラ
ながす-くぢら (名) 長須鯨 鯨ノ一種。鯨ノ極メテ長大ナルモノ。長サ九丈餘ニ達スト云フ。ソノ最大ナル一頭ヨリハ、四百石ノ油ヲ得ト云フ。

なか-ずみ (名) 中墨 (墨繩ニ起ル)物ノ眞中ノ處。中心 雅亮裝束抄、一「シトネ、云云、其オモテノ離ヒ目ヲ、リウビンノなかずみニアテテ敷クベシ」「柱ノ中墨」

なか-ずり (名) 中剃 なかぞり(中剃)ノ訛。

なか-せんだい (名) 中先代 中前代 建武二年ニ、北條時行ノ、暫時、鎌倉ノ舊業ヲ復セシヲ稱スル語。

ナカ・センドウ
なか-せんだう (名) 中仙道 中山道 (東山道ノ中ノ意カ、或ハ、東海道ト北陸道トノ中ノ道ノ意カ) 江戸(今ハ東京)ヨリ上野、信濃、美濃、近江ヲ歴テ、京都ニ至ル街道ノ稱。道程約、百三十四里、六十九驛アリ。木曾古道記「東山道 云云、中山道トモ稱セリ、東海道、北陸道兩道ノ中道ナレバニヤ」五街道宿御取扱筋秘書、五海道文字「中山道、只今迄仙之字書候得共、向後、山之字可書之」

なが-そで (名) 長袖 (一)丈長キ袖。太平記、廿一、天下時勢粧事「延尉、北面路次ニ行キ合ヒタルヲ見テモ、アハヤ、例ノ長袖垂レタル魚板烏帽子ヨトイヒ」(二)昔、武士ノ武具ヲ着ルニ對シテ、僧侶、醫師ナドノ、袖長キ衣着タル者ノ稱。又、文弱者ヲ刺笑スル語トモス。方外。長袖者。嫗山姥(正德、近松作)一「同ジ武家ニモアラバコソ、長袖ニ勝ッテ譽レナラズ」

なか-ぞら (名) 中空 半空 (一)中天。半天。 夫木抄、五「青ミユク、野邊ノ霞ノ、たかぞらニ、アガリモヤラズ、ヒバリナクナリ」新後撰集、十七、雜、上「行ク先モ、跡モ霞ノ、中空ニ、シバシハ見エテ、歸ル雁ガネ」(二)ウハノソラ。心ノオチツカヌコト。 古今集、十一、戀、一「初雁ノ、ハツカニ聲ヲ、聞キシヨリ、なかぞらニノミ、物思フカナ」(三)半途。中途。 後撰集、十一、戀、三「葛城ヤ、久米路ノ橋ニ、アラバコソ、思フ心ヲ、たかぞらニセメ」後拾遺集、廿、釋教「道トホミ、中空ニテヤ、カヘラマシ、思ヘバ假ノ、宿ゾウレシキ」(四)ドチラツカザルコト。ナカラハント。後拾遺集、十五、雜、一「岸近ミ、タダヨフ波ハ、中ぞらニ、寄ルカモナキ、ナゲキヲゾセシ」源、五十、浮舟四「降リ亂レ、汀ニ氷ル、雪ヨリモ、たかぞらニテゾ、我ハ消ヌベキ」同、五十二、手習九「行クベキモ惑ハレテ、歸リ入ラムモなかぞらニテ」(五)オロソカ。ナホザリ。徒然草、百九十段、イカナル女ナリトモ、明ケ暮レ添ヒ見ンニハ、イ…心ヅキナク憎カリナン、女ノタメニモ半空ニコソナラメ」

一**なかぞら-に** (副) 中空 半ニシテ。中途ハンパニ。中途ニ。神武紀十五「凶器已構、其勢不得中休、而猶守迷圖無復改意」

なか-ぞり (名) 中剃 頂髪ノ中央ノ所ヲノミ剃リ去ルコト。又、廣ク剃ルコトトナリシ後ハ、童子、少年ノ髪ナド、前髪ト顋トノ間ノ上ヲ剃ルヤウニナリシナリ。訛シテ、なかずり。賤の小手巻(延享)ニ「ゾベ本多トテ、中ぞりヲイカニモ廣ク剃り、髪ノ間ヨリ中剃ノ見ユルヤウニ」

なが-だい (名) 夫婦 メヲト。(静岡)

ナガ・ドウグ
なが-だうぐ (名) 長道具 又、ながぐそく。槍、薙刀等ノ如キ長キ武器。狂言記、老武者「ナカナカ、コレデ一間キマシタ、長道具デ押シ寄セテ參ルカ、ソレナラ油斷ハナルマイ」

なか-だか (名) 中高 (中窪ニ對ス)(一)中央ノ高クシテ、四邊ノ低キコト。凸 狂言記、鱸庖丁「菜、云云、昔様ニ中高ニ、猫ノ脊ヲタテタ如クニ立チナイテ振舞ハウ」(二)顔ダチノ好キコト。昔、白粉屋ノ看板ニ、箱ノ中高ニ作リタルヲ出シタルハ、顔ノ好キヲ意味ス。 紫式部日記「イトモノ清ゲニ、ウヒウヒシク、中高き顔シテ、色ノアハヒ白キナド、人ニ優レタリ」雅筵醉狂集 おしろいノ、看板トスル、凸ニ、凹知ラヌ、下駄屋文盲」

ナカ・タガイ
一**なか-たがひ** (名) 中違 中ノタガフコト。

中ノヨカラヌコト。交リノ悪シクナルコト。ナカチガヒ。有隙 [illegible]、字鏡、[illegible]、八、[illegible]「中違、ナカタガヒ」 宇津保物語、[illegible]、下、二「イカナルニカ侍ラン、大将ノ[illegible]たかたがひニテ、日ゴロハヨゴトニオハシテ、スノコニナムヰアカシ給フメル」

なが-だたみ (名) 長疊 丈ノ常ノモノヨリ長キ疊。たたみ(疊)ノ條ヲモ見ヨ。 榮花物語、十六、本雫「錦ノ端サシタル長だたみドモヲ、西、東、北、南トマハリテ敷カセタマヘリ」

なか-だち (名) 中立仲立 (一)雙方ノ中ニ立入リテ、事ヲ取次ギ、意ヲ通ズルコト。又、其人。ナカダテ。媒人。媒妁人。媒介 字類抄「媒妁、媒介、ナカダチ、[illegible]、ナカウド」 武烈即位前紀「於レ是太子、思[illegible]物部麁鹿火大連女影媛、遣ニ媒人、向ニ影媛宅、期會」 源、四十九、東屋「中だちノカクコトヨクイミジキニ、女ハマシテスカサレタルニヤアラン」 著聞集、五、和歌「和歌、云云、春ノ花ノ下、秋ノ月ノマヘ、コレヲモテ[illegible]ノなかだちトシ、コレヲモテ賞翫ノ友トス」 (二)茶會ニテ、[illegible]ニ入リ、[illegible]、濟ミテ出デ、待合ニ入ルコト。又、再ビ主人ノ相圖ニ因リテ、圍ニ入ルヲ、後入ト云フ。 細川茶湯之書、下「中立ちシテ用有ルモノハ、外ニ出デテ用ヲカナヘ、[illegible]ヘモ行クナリ」

なが-だち (名) 長太刀 武器ノ名。太刀ノ一種。刃、二三尺アリテ、長キ柄アリ、石突アルモノ。肩ニ掛ケテ行ク。戰場ニテ、人馬ノ足ヲ薙ギ倒スニ用ヰル。一名、野太刀。 [illegible]「[illegible]、云云、[illegible]長太刀持チテ、[illegible]ナド[illegible]門ノ内ニアリ」

なか-だ-つ・ツ・ヌ・タ・チ・テ(自動、四) [illegible] ナカダチス。仲介ス。 天治字鏡、[illegible]、[illegible]奈加太豆」

なか-だて (名) 中立仲立 なかだち(仲立)ニ同ジ。今鏡、上、たまづさ「コノヨノ人、歌ヨムなかだてニハ、ソレナンセラルナル」 續古今集、[illegible]「[illegible]シヅカナル時ハ、[illegible]なかだてトナリ」

なか-たび (副) 中度 半ナル時ニ。

なが-たら-し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) (一)倦ムホドニ長シ。永クシテ厭ハシ。冗長 東海道名所記、[illegible]「[illegible]トカヤイフ歯節ナリトテ、唯アアアト、ながたらしくヒキズリタルバカリナリ」 (二)ムゴタラシ。

なか-だるみ (名) 中弛 中央ノタルムコト。ナカノタユムコト。

なか-ぢ (名) 仲子 なかつこ(仲之子)ノ略轉。其條ヲ見ヨ。 欽明紀、元年正月「長日[illegible]田皇子[illegible]仲[illegible]田[illegible]」 萬葉集、十四、[illegible]「[illegible]野ニ、[illegible]可奈思太ノ、[illegible]奈可知シ、[illegible]スラシモ」

なが-ち (名) 長血 婦人ノ病ノ名。さしけ(腰氣)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、[illegible]「[illegible]人長血、奈賀知」 字類抄「長血、ナカチ」

なが-ぢ (名) 長道 道ノリノ長キミチ。遠キミチ。ナガテ。長途 萬葉集、三、[illegible]「アマザカル、ヒナノ長道ユ、コヒクレバ、明石ノ門ヨリ、ヤマトシマ見ユ」 同、十五、[illegible]「アマザカル、ヒナノ奈我道ヲ、コヒクレバ、明石ノ門ヨリ、家ノアタリ見ユ」 同、廿、[illegible]「タチバナノ、ミエリノサトニ、父ヲオキテ、道ノ長道ハ、行キガテヌカモ」

なか-ちがひ (名) 中違 なかたがひ(中違)ニ同ジ。

なか-ぢく (名) 中軸 芝居[illegible]ニ云フ語。かきだし(書出)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

なか-ぢこ (名) 仲之子 (仲之子ノ轉) 兄弟ノ仲ナル子。同胞ノ中ノ仲ニ當ル子。[illegible]、第二子ヲ云フ。略シテ、なかぢ。 [illegible]

[illegible]、[illegible]年、[illegible]長日、[illegible]、[illegible]、[illegible]

なか-つかさ (名) 中務省 [illegible]ノ略。ナカノマツリゴトノツカサ、[illegible]、[illegible]、八省ノ第一、[illegible]、侍從[illegible]ノ職ニシテ、[illegible]、宮中一切ノ事ヲ[illegible]、[illegible]、侍從ノ任アリ、外ニ、中宮職、東宮、大舍人、圖書、内藏、縫殿、陰陽、内匠ノ六寮ヲ管ス。唐名、中書、[illegible]。

なか-つかさ-きやう (名) 中務卿 中務省ノ長官。唐名、中書王。ナカツカサノカミ。前條ヲ参見セヨ。

なかつかさ-しやう (名) 中務省 前前條ノ語ニ同ジ。

なが-づかへ (名) 長仕 [illegible]、當直スルコト。ヒラヅメ。長上

なか-つ-かみ (名) 中津神 [illegible]八[illegible]ノ[illegible]尾神、其位、中宮ニアレバ云フトゾ」ヘう(狗)ノ古名。 [illegible]、[illegible]加都加三」 名義抄「狗、ナカツカミ、ヘウ」 字類抄「[illegible]、ナカツカミ」 [illegible]「[illegible]」 拾遺集、七、物名、なかつかみ」

なか-つぎ (名) 中次 (一)雙方ノ中ニ居テ、事ヲ取次グコト。又、ソノモノ。媒介 (二)抹茶ノ茶入ノ一種、其製、蓋ト體ト、[illegible]、中央[illegible]モノ、[illegible] [illegible]

なが-つき (名) 長月 (稻熟月ノ約カト云フ。或ハ長月ノ意ト云フハ、イカガ) 陰暦、九月ノ異名。[illegible] 「九月ノ、ソノハツ[illegible]ノ、使ニモ、今ノ心ハ、[illegible]カネ、[illegible]長月ト、[illegible]ニヤアルラン」

なか-つ-こ (名) 仲之子 なかちこ(仲之子)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

なかつ-せ (名) [illegible] [illegible]

なが-ちり (名) 長尻 ながゐり 長尻ノ背使轉。 [illegible]

なが-つぼね (名) 長局 長ク一棟ノ内ヲ局ノ數多連リタル處。局町。後宮ニ云フ) [illegible]

なか-つまど (名) 中妻戸 中ノ隔テトナル[illegible] [illegible]「[illegible]ノ、[illegible]ノツラサノ、なかつまど、オセ[illegible]明ケメ、オトシタテカサ」

なか-づみ (名) 中積 [illegible]積ムコト。又、積荷ノ中間ニアルモノ。

なか-つをぢ (名) 仲父 (仲之小父ノ義) なかつをぢ(伯兄)、おとをぢ(叔父)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

なかて (名) 中手 [illegible] (一)なかていね、中手 [illegible]

ラムラ穗サキ、出デニケラシモ」 (二)〔圍棊ノ語〕相手ノ目ヲ缺クタメニ、其目ノ中ニ石ヲ打ツコト。又、其石。 國性爺合戰、二、正德、近松作 九仙山「先手ガ味方へ廻リクル、四ツ目殺シニ中手ヲ入レテ、シチャウニ懸テ打切ッテ、攻手攻手斷切ッテ、手詰ノセキヲ勝負」

ながて (名) 長手 〔長道(ナガヂ)ノ轉〕 (一)ながぢ(長道)ノ條ヲ見ヨ。 萬葉集、四 五十八「ヌバタマノ、昨夜(コゾ)ハカヘシツ、今宵サヘ、吾ヲカヘスナ、路ノ長手ヲ」 同、十五 二十二「君ガ行ク、道ノ奈我氐ヲ、クリタタネ、ヤキホロボサン、アメノヒモガモ」 (二)長ミノアルコト。長サ。長キ方。

なかでうりう(ナカジヨウ・リユウ) (名) 中條流 江戸時代ニ、婦人科醫ノ一流。中條帶刀ヲ祖トス。又、女醫ヲモ云フ。下ノ出典ヲ見ヨ。 三養雜記 文化「中條流ト云フ婦人醫者ノ流アリ、今ハ子卸ノ名目トナリタリ、嘆敷事也、大膳亮、大膳大夫ト稱スルハ、京都ノ婦人醫者ノ由、子孫、江戸ニモ今ニ有レ之也」 松屋筆記、百六、第十三條「子おろしの術、今ノ世、中條流子オロシノ術、都下ニ遍滿セリ、墮胎ノ藥技ヲ施ス事也」 柳樽、三編「仲條へ、五ツ月置イテ、同ジ顔」

ながどの (名) 長殿 古ヘノ大藏省ノ倉庫ノ一。數戸ヲ一棟ニ長ク續ケテ造リ、諸國ノ貢物ヲ國別ニシテ藏メシ所。ナガグラ。 續後紀、六、承和四年十二月「庚子夜、盜穿二大藏省東長殿壁一、竊二取商布等一、不レ知二幾匹端一」 大內裏圖考證、二十五、大藏省「長殿、諸國、大藏省長殿在二本分所西方四十丈一」 永久四年百首、ながどの「ノ、常陸ノ御倉、開キアケヨ、今日ミツギモノ、納メミツベク」

なかとみ (名) 中臣 〔中執持(ナカトリモチ)ノ約、或ハ中之臣(ナカツオミ)ノ約〕 其祖ハ、天兒屋根命(アメノコヤネノミコト)ニテ、神ト君トノ御中ヲ、執持テル職ニテ、天智天皇ノ御時、其裔、鎌足ニ藤原ノ氏ヲ賜ヒ、神護景雲三年ニ、藤原清麿ニ大中臣ノ木氏ヲ賜ヒ、コレヨリ神事ニ與カル人ヲ分ケテ、代代、中臣氏ト稱セリ。 大祓祝詞「天津宣事(ノリゴト)モチテ(皇祖ノ詔)大中臣天津金木ヲ、云云、千座置座ニ置キ足ラハシテ」 舒明即位前紀「大臣(蘇我蝦夷)所、遣群卿者(此中ニ中臣氏アリ)、從來如(モトヨリ)嚴矛(イカシホコ)、取レ中事而(シテ)奏請(モノマヲスヒトタチ)人等也、故能宜レ白二叔父一(矛ハ柄ノ中ヲ手ニ持ツモノ)」 續紀、廿九、神護景雲三年六月乙卯、詔「神語有レ言二大中臣一、云云、賜二姓大中臣朝臣一」 齋內親王參入時祝詞「御杖代トタテマツリタマフ御命ヲ、大中臣茂桙中取持チテ」(大中臣ハ職ナリ、姓ニハアラズ) 台記、別記、康治大嘗會、中臣壽詞「本末不レ傾、茂(イカシホコ)桙乃中執持(タニギリモ)テ奉仕留中臣、祭主、云云」 延喜奏覽、大中臣本系「高天原初而皇神之御中、皇御孫之御中執持(天兒屋根命)伊賀志桙、不レ傾二本末一中良布流人稱二之中臣一者(テヘリ)」 萬葉集、十七 五十「奈加等美ノ、フトノリトゴト、イヒ祓ヘ、贖(アカ)フ命モ、誰ガ爲ニ汝(ナレ)」

なかとみのはらひ(ナカトミノハライ) (名) 中臣祓 おほばらひ(大祓)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 玉葉(藤原道家)「國通、讀二中中臣祓一」 今昔物語、十一、第廿二語「其間ノ申ス如クニ、嚴亭ノ注連ヲ木ノ本ニ引キ廻ラシテ、木ノ本ニ米散シ幣奉リテ、中臣祓ヲ令レ讀テ、杣立ノ者共ヲ召テ、繩墨ヲ懸ケテ令レ伐」 四季物語(鴨長明)六月「城南ノ御祓トテ、八幡ニ敕使ヲ立テラレ、神祇伯參リテ、中臣の祓ヨミ奉リケリ」

なかとり (名) 中取 〔なかとりづくゑ(中取案)ノ略〕 次條ノ語ニ同ジ。 倭名抄、十六、木器類「欅、舁二食器一也、俗所謂中取、是也」 大膳職式「中取」 東大寺正倉院文書、八「五月七日請、云云、中取二前」 皇太神宮儀式帳、造備雜器事、云云、中取十足」 續後紀、十九、嘉祥二年十月「獻御八十合、中取五十二前」 宇津保物語、俊蔭 七十三「スハウノ脚付ケタルなかとり五ツニ、東絹(アヅマギヌ)ツミテ、御前ニ舁キタテテ」

なかとりづくゑ(ナカトリ・ヅクエ) (名) 中取案 又、なかとりのつくゑ。形、案ニ似テ、一層アルモノト云フ。又、柄アリテ食器ヲ載セ、二人シテ、運ブモノカトモ云フ。略シテ、なかとり。 木工寮式「中取案一脚、長九尺、廣一尺八寸、高一尺九寸、厚一寸二分」 內膳司式「中取案、廿四脚」

なかなか (副) 中中 (一)〔半ラニテ。半途ニテ。ナカバニテ。 書言字考節用集、八、言辭門「中中、ナカナカ」 後撰集、十三、戀、五「葛城ヤ、久米路ニ渡ス、岩橋ノ、中中ニテモ、歸リヌル哉」 (二)〔ナマナカニ。ナマジヒニ。 萬葉集、三 十九「中中ニ、人トアラズハ、酒壺ニ、成リニテシガモ、酒ニ染ミナム」 古今集、十四、戀、四「石ノ上(イソノカミ)、布留ノ中道、中中ニ、見ズバ戀シト、思ハマシヤハ」 (三)〔轉ジテ、却ツテ。結句(ケック)。 源、四、夕顏 四十「イトイタウ、面痩セ給ヘレド、なかなかイミジウ、ナマメカシウテ」 萬葉集、十一 五「中中ニ、見ザリシヨリモ、相見テハ、戀シキ心、益シテ思ホユ」 拾遺集、十五、戀、五「ヒタフルニ、死ナバなかなか、サモアラバアレ、生キテカヒナキ、物思フ身ハ」 續千載集、十三、戀、三「逢フ事ヲ、今宵今宵ト、賴メズバ、なかなか春ノ、夢モ見テマシ」 狹衣、四、下 十二「少少ニ思ビタラムハ、なかなか損ナハルル事モアリナムカシ」 (四)今、結句ノ意ヨリ轉ジテ、頗ル。相應ニ。「中中面白シ」中中善イ」 (五)又、轉ジテ、容易ニハ。タヤスクハ。 松風村雨束帶鑑(元祿、近松作)五「貸セト申シテモ、なかなか貸シハイタスマイ」「中中出來ヌ」中中ムヅカシ」 (六)〔スコブル。ヨホド。ダイブ。ズヰブン。 源、一、桐壺 四「カシコキ御蔭ヲバ賴ミキコエナガラ、オトシメ疵ヲ求メタマフ人ハ多ク、云云、なかなかナル物思ヒヲゾシタマフ」 同、五、若紫「人ノホドモ、アテニヲカシウ、中中ノサカシラ心ナク、打チカタラヒテ」 枕草子、七、六十八段「火焚屋ヨリサシ出デテ、多ク取ラムト騷ク者ハ、なかなか打チコボシテアツカフホドニ」 萬葉集、四 五十一「思ヒ絶エ、ワビニシモノヲ、中中ニ、イカデ苦シク、相見ソメケム」 同、十二 二十「中中ニ、死ナバ安ケム、出ヅル日ノ、入ル別(ワキ)知ラヌ、吾シ苦シモ」 古今集、十二、戀、二「東路ノ、佐夜ノ中山、なかなかニ、何シカ人ヲ、思ヒソメケム」 拾遺集、一、春「トモスレバ、風ノヨルニゾ、青柳ノ、絲ハなかなか、亂レソメケル」 同、十五、戀、五「忘レヌル、君ハなかなか、ツラカラデ、今マデ生ケル、身ヲゾ恨ムル」「なかなか大事デス」なかなか皆イ事ヲシタ」なかなかノ人出ダ」なかなか以テタヘラレナイ」 (七)何カハ何カハ。トテモ。到底。 幸若舞曲、笈さがし「コレヨリ越中ヘノ御下向ハ、なかなか叶ヒ候マジイ」 夫木抄、廿七「思ヒ來ル、人ハなかなか、ナキモノヲ、アハレニ犬ノ、主ヲ知リヌル」 昨日は今日の物語(天正)「中中中ストモ、聞カセラレマイ」

なかなか (感) 〔中ニモノ意カト云フ〕 然リト應(コタ)フルニ發スル語。(能ノ狂言詞ナドニ) 然リ。サヤウナリ。言フマデモナシ。勿論。 狂言記、相合袴「盃、云云、ヤイ冠者、イヅレモヘツラリト進ゼタカ、なかなか、進ゼマシタ」 同、宗論「春園ニ芋ト云フモノヲ、ウユルカ、ヲヲ、なかなか植ルトモ」 謠曲、安宅「勸進帳ヲ讀メト候フヤ、中中ノ事、心得申シテ候フ」

ながながし・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 長長 甚ダ長シ。甚ダ久シ。 後撰集、七、秋、下「タレ聞ケト、聲タカサゴニ、サヲ鹿ノ、ながながし夜ヲ、一人ナクラン」 拾遺集、十三、戀、三「アシビキノ、山鳥ノ尾ノ、シダリ尾ノ、ながながし夜ヲ、獨リカモ寢ン」

なかなかみ (副) 中中 なかなか(中中)ノ條ヲ見ヨ。

ながなきどり (名) 長鳴鳥 〔他鳥ヨリハ、鳴ク聲、勝レテ長ケレバ云フトゾ〕 にはとり(鷄)ノ異名。 とこよのながなきどり。鷄 古事記、上 十八「集二常世長鳴鳥一、令レ鳴一」 神代紀、上 十四「集二常世之長鳴鳥一、使二互長鳴一」

ながなす (名) 長茄 茄ノ實ノ形、細ソクシテ長キモノ。ナガナスビ。

なかなほり(ナカ・ナオリ) (名) 中直 (一)中違(ナカタガヒ)ノ改マルコト。破レタル交リノ、再ビ結ボホルルコト。タヒラギ。和解。和睦。 盛衰記、十八、文覺淸水狀天神金事「文覺申シケルハ、

法師ハヨニ[illegible]シキ者ニテ、[illegible]口中シテ候ヒケリ、中直リシ奉ル」(二)中途ニテ直ルコト。(病氣ノ)又、病死ノ前ニ、一時、快クナルコト。列子「燈將レ滅者、必大明」

ながなり (名) 長鳴 長イ時間鳴リヒビクコト。保元物語、二、白河殿攻落事「鏑ヨリ上十五束アリケルヲ取ッテ番ヒ、グサト引イテ責サレタレバ、御所中ニ響イテ長鳴シ」平家物語、十一、那須與一事「弓ハ強シ、鏑ハ浦ヒビク程ニ長鳴シテ」

ながにし (名) 長螺 螺ノ一種。殼ハにがにし(苦螺)ニ似テ甚ダ長ク、大イナルハ五六寸、小サキハ二三寸、頭ニ禿疣多シ。赤黑、或ハ淡白ニシテ、各地ノ淺海ニ產ジ、其卵囊ヲうみほほづきト稱シテ、女兒ノ玩ニ供セラル。香螺 書言字考節用集、五、氣形門「香螺、ナガニシ」和漢三才圖會、四十七、介貝類「香螺、ナガニシ、一云、倍奈太禮、今云、夜啼螺(ヨナキ)、今云、豆布、云云」

なかには (名) 中庭 邸中ニテ、家ト家トノ間、又ハ、室ト室トノ間ニ、設ケタル庭園。坪(ツボ)。歌林四季物語(鴨長明)秋「ココヒヨリ中庭シキマウケ、トノモリ、カモン、ナベテノ宮ノウチノツカサノカギリモ參リテ」

なかぬき (名) 中拔 (一)中ノモノヲ拔キ取ルコト。ウロヌクコト。又、ソノ拔キ取リタルモノ。好色二代男(貞享、西鶴)二「早稻ト云フモノヲ[illegible]ニ懸ケテ、なかぬきノ大根添ヘル片手ニ」(二)次條ノ語ノ略。好色一代男(天和、西鶴)七「小菊ノ鼻紙、雲齋織ノ畚足袋、なかぬきノ[illegible]緒ヲハキ、[illegible]二云[illegible]セ」八丈八二文化、[illegible]二[illegible]、上[illegible]ハ[illegible]カ[illegible]サシメテ、[illegible]ト、中ぬきト、片方チンバニハイテ、云云、ト云フ[illegible]ヘダ」

なかぬきざうり (名) 中拔草履 藁ノ心(シン)(藁稭(ワラシベ))ニテ作リ、緒ニハ[illegible]ニ白紙ヲ卷キ絎ヘテ附ケタル草履。(江戸時代ノ語)略シテ、なかぬき。

なかぬり (名) 中塗 壁、漆器ナドノ下塗シタル面ヲ更ニ塗ルコト。(上塗(ウハヌリ)、下塗(シタヌリ)ニ對ス)[illegible]川[illegible]令[illegible]、十六、一、[illegible]之事「云、下[illegible]シカト干、サリ不、中内、中ぬり致シ、又上塗ヲモ仕候故、下地之[illegible]クサリ、ハヤク[illegible]損申候」

ながねん (名) 長年 久シキ年月ノ間。長ノトシツキ。トシゴロ。多年。又、其處ニ久シク居ルコト。浮世風呂(文化、三馬)二、上「此ノナガシノ[illegible]ハ、來年ゴロ[illegible]ニ[illegible]ケヨウトイフ人物、コノ家ニ四五年モ長年スルユエ、女中一同ニ心安ク、[illegible]ヅカヒモイケゾンザイガ通ッタ奴ナリ」

ながの (接頭) 長 なが(長)ニ同ジ。「ながの年月」「ながの別」

なかのおほともひ (名) 中辨 さちゅうべん(左中辨)、又、うちゅうべん(右中辨)ニ同ジ。べん(辨)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、五ニ職名「左右中辨、奈加乃於保止毛比」

なかのきみ (名) 中君 同胞(ハラカラ)ノ中ニテ、仲ニ當ル女君。第二ニアタル女子。(物語ニ) 源、三十八、夕霧「コノ[illegible]ニハ、云云、オホイ君、なかの君、四ノ君、五ノ君トオハス、内侍ハ三ノ君、六ノ君、云云」堤中納言物語、大君、下草(ギボウシ)ノ[illegible](リンダウ)ハ、云云、中の君、[illegible]花ハ大王ノ宮ニモナドカ、三ノ君、云云」

なかのくち (名) 中口 玄關ト臺所口トノ間ナル入口。[illegible]作上「奥方ノ[illegible]手ハ知ラズ、中の口ノ明ケズノ門ハ、碎ケテノケト[illegible]」

ながのび (名) 長延 (一)久シク[illegible]引クコト。ナガナガト延ビルコト。(二)[illegible]、ナドノ[illegible] 土木、建築ニ云フ語)

なかのへ (名) 中重 [illegible] この[illegible]ヘ、外重ノ條ヲ見ヨ。

なかのま (名) 中間 ナカヰ。家ノ中央ニアル間。榮花物語、十八、玉臺「少シヒキイリテ、母屋ニ佛オハシマス、中の間ノ左右ニ[illegible]アリ、中ニ[illegible]タリ」

なかのまつりごとのつかさ (名) 中務 なかつかさ[illegible]中務省[illegible]ニ同ジ。[illegible]

なかのみ (名) 中飮 [illegible]

なかのみかど (名) 中御門 (一)禁中ノ中の重ノ門。中門。宇津保物語、[illegible]「御サキハ中のみかどニ至リヌレバ、シリハ宮マデナ[illegible]」(二)[illegible]中門

なかのみやのつかさ (名) 中宮職 ちゅうぐうしき(中宮職)ニ同ジ。倭名抄[illegible]

なかのものまうすつかさ (名) 中納言 ちゅうなごん(中納言)ニ同ジ。倭名抄、五[illegible]

なかのり (名) 中乘 さんぼうくゎうじん(三寶荒神)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

なかのゐ (名) 中[illegible]

なかのを (名) 中[illegible]

なかば (名) 半 (中端ノ意カ)(一)[illegible]

[illegible]

なかば (副) 半 半分ホド。[illegible]

ながばかま (名) 長袴 [illegible]ク、足ヲ包ミテ、一尺餘リ後ニ引クモノ。素袍、大紋、長上下、等ニ用ヰル。[illegible]徳川幕府ノ制度ニ、直垂ニ長袴、左位ハ麻大紋[illegible]

ながはし (名) 長橋 (一)長サノ長キ[illegible]

内侍(ナイシ)ナリ。 新野問答「勾當内侍トハ、内侍ノ內頭ニテ候、今世、長橋の局ト申、[illegible]ニテ候」

ながはし-どの (名) 長橋殿 こうたうのないし(勾當内侍)ニ同ジ。前條、及、こうたう(勾當)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 官位訓、四「勾當内侍ト申スハ、内侍掌ノウチノ第一﨟ヲ云フ也、又ハ、長橋ノ局ニ居給ヘル故ニ、長橋殿トモ申ス也、云云、沙門、醫者等ノ官位ハ、長橋殿ノ取次給ヒテ、上聞ヘ申傳ヘ給フトカヤ」

なか-はず (名) 中筈 古ヘノ弓ハ、弦ノ中程ニ、竹ノ筈アルヨリ云フト。(倭訓栞) 萬葉集、一 長歌「ミトラシノ、アヅサノ弓ノ、奈加弭(ハズ)ノ、音スナリ、朝狩ニ、今タタスラシ」(一說ニ、奈加ノ加ハ利ノ誤ナリト)

なか-ばたらき (名) 仲働 〔下働(シタバタラキ)ニ對ス〕 奥ト勝手トノ間ニ召使ハルル女。 不角集「今ハ中ばたらきト云フモノニテ、水ハ汲マネドモ」

なかば-なる-つき (名) 琵琶ノ異稱。其面ニ半月形ノ孔アルヨリ云フ。半月(ハンゲツ)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。又、なかばの月。 八雲御抄「なかばなる月、琵琶ヲ云フナリ」

ながはま-ちりめん (名) 長濱縮緬 はまちりめん(濱縮緬)ノ條ヲ見ヨ。

なか-ばん (名) 中番 きどばん(木戸番)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 寛文元年町觸「中番、兩木戸番ノ番、夜中フセラズ、火之用心申シ付クベシ」

なが-ばん (名) 長盤 膳ノ名。長キ飯臺盤ノ長キモノ。 三内口決(永正)「長盤(四方三方事)、大臣以上ハ四方、大納言ハ三方也」

なか-びく (名) 中低 なかくぼ(中窪)ニ同ジ。 織留(元祿、西鶴)五「綾ガシラノ目立ツ程ニ、中びくナル顏ヲ、無理ニ鼻ツマミアゲテ」

なが-び・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 永引 事ノ決着、永クナル。オソナハル。延引ス。遲滯 曾丹集「花見ムト、古郷サシテ、行道ヲ、なが引くホドニ、雪モコソ散レ」 源、廿九、行幸「、サマサマニカケトドメラレテ、今マデながびき侍ルト、タタ泣キニ泣キテ」

なが-ひね (名) 長彦 又、ながひねのいね(稻)ノ異稱。 清輔集「鶴ノスム、澤邊ニカヘス、苗代ハ、世ヲ長彦ノ、種ヤマクラム」

ながひね-の-いね (名) 長彦稻 前條ノ語ニ同ジ。 夫木抄、三十六「カゾフレバ、數モシラレズ、君ガ代ハ、長田ニツクル、ながひねのいね」 新續古今集、七、賀「萬代ノ、タメシニゾツク、田上(タノカミ)ヤ、秋ノ初穗ノ、ながひねの稻」

ながひね-の-かゆ (名) 長彦粥 子ノ誕生後、七夜(シチヤ)ノウブヤシナヒノ祝言ニ用キル粥。(歌林拾葉集ノ說ニ、散木集ニななひねトアリ、甲斐ノ國ニ七彦(今ノ東山梨郡日下部村七日市場ナリト)ト云フ地ノ米ヲ粥ニシテ、産後ノ七日七日ノウブ養ヒニ用キシモノ。七彦ト云ヘルガ七世ノ孫、甲斐ハ粥ニ通ズルヨリ祝言ニ云フトゾ) 又、ななひねのかゆ 夫木抄、三十六、賀、産七夜「君ガ代ハ、ながひねのかゆ、七かへり、祝フコトバニ、アヘザラメヤハ」

なが-ひたたれ (名) 長直垂 〔鎧直垂(ヨロヒヒタタレ)ニ對シテ云フ〕普通ノ直垂ノ稱。又、出仕(シュッシ)直垂トモ云フ。 義經記、三、書寫山炎上事「人ノ往來モナカリケルニ、辨慶裝束ヲゾシタリケル、ながひたたれニ赤キ袴ヲゾ着タリケル」

なが-びつ (名) 長櫃 櫃ノ形長キモノ。長持ノ類。 倭名抄、十六 木器類「櫃、俗有二長櫃、[illegible]云云等之名一」 土佐日記、正月七日「コノ長櫃ノ物ハ、皆人童マデニクレタレバ」 宇津保物語、嵯峨院卅四「ながびつドモニ飯入レサセ、酒樽ニ入レテ持タセマウデテ」(運送スルナリ)

なか-びと (名) 媒 〔中人ノ義〕媒介(ナカダチ)トナル人。雙方ヲトリモツ人。音便ニ、ナカウド。媒妁人。 源、四十九、東屋廿九「なかびとニ謀ラレテ言フモ、イトヲコナリ」

なが-びと (名) 長人 長命ナル人。年齡(ヨハヒ)タケタル人。長壽者。 古事記、下、仁德二十「タマキハル、内ノ朝臣(アソ)、汝コソハ、世ノ那賀比登」(武内宿禰ノコト)

なが-ふ (名) 〔長吹ノ義ト云フ〕蜃(オホハマグリ)ノ吹クト云フ氣。蜃氣樓(シンキロウ)ノ條ヲ見ヨ。

なが-ぶえ (名) 長笛 支那ノ樂器、管ノ長キモノナルベシ。詳カナラズ。 倭名抄、四 管篇類「長笛、奈加布江」 名義抄「長笛、ナガフエ」

なが-ふくりん (名) 長覆輪 太刀ノ鞘ニ通シテ、覆輪カケタルモノ。又、太刀ノ鞘ノ芝引(シバヒキ)、股寄(モモヨセ)ヲ長ク通シタルモノ。(損ハレザラム用ナリ) 盛衰記、廿、石橋合戰事「與一其ノ日ノ裝束ニハ、云云、妻黑ノ箭負ヒ、長覆輪ノ劍ヲ帶キケリ」 吾妻鏡、廿九、文暦二年六月廿九日「野劔一腰」注「銀長覆輪、在錦袋一」

なが-ぼう-かご (名) 長棒駕籠 乘物(ノリモノ)ノ、棒ノ長クシテ、數人ニ舁カスルモノ。貴人ノ用ナリ。其兩端、切リタルガ如ク、稍、短キヲ切棒(キリボウ)ト云フ。切棒駕籠。

なか-ほど (名) 中程 何レニモ、片寄ラヌコト。中位ノ程度。チュウクラヰ。ナカゴロ。 今川大雙紙(今川了俊)「我ヨリモ下ノ者ニ弓ヲ渡ス次第、右ノ手ニテ中程ヲ執リ、左ノ手ニテハ握(ニギリ)ヨリ少下ニソヘ取ナリ」

なか-ま (名) 仲間 (一)共ニ事ヲ計ル人人。伴(トモ)。組。伴侶。夥伴 冥途飛脚(正德、近松作)上「親父ノ代カラ此家ニ銀一匁ノ催促エズ、終ニ中間(ナカマ)ヘ難義ヲカケズ、十八軒ノ飛脚屋ノ鑑ト云ハレタ此龜屋」 諸國咄(貞享、西鶴)一「日ゴロ別シテ語ル浪人中間(ナカマ)ヘ、酒一ツ盛ラントテ呼ビニ遣ハシ」 (二)アヒダアヒダ。 名所方角抄(寛文、宗祇)「國中ニ山ナシ、云云、中間ハ人家ナリ」

なが-まき (名) 長卷 鞘ナキ太刀ノ、刃、三尺許、柄、四尺許ナルヲ、布ニテ卷ケルモノ。先陣ニ用キル。又、其レヲ持ツ兵士。 安齋隨筆、伊勢貞丈、十一「長刀ヲ鞘ナシニシテ、柄四尺許、中兵ニ持タス」 關八州古戰錄(享保)[illegible]五尺計リ有リシ手鉾、長卷ノ太刀ヲ擔ゲサセ」

なか-まく (名) 中幕 芝居ニテ、狂言ト狂言トノ間、若シクハ、二番目狂言ト大切(オホギリ)トノ間ナドニ插ミテ、演ズル一幕物ノ狂言ヲ云フ。

なが-ま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 長 身體ヲ延シテ横タハル。長クナル。

なか-み (名) 中身 (一)中ニ入レテアルモノ。(二)中ニ存在シ、又ハ、含マレタル實質。內容。

なか-みち (名) 中道 道ノ中程。中途。又、ナカヤドリ。 源、三十四、上、若菜、上十六「中みちヲ、ヘダツル程ハ、ナケレドモ、心ミダルル、ケサノアハ雪」 同、三十五、柏木三十六「御中道ノ程、ミダリアシコソイタカラメ」

なが-みち (名) 長道 (一)ながぢ(長道)ニ同ジ。(二)長キミチノリ。長程。長途。

なが・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 眺 〔長見(ナガミ)るノ轉〕(一)ツクヅクト、久シク打守リテ見ル。見詰メテ居ル。(物思フトキナド) 更級日記「カウテ、ツレヅレトながむるニ、ナドカ物詣モセザリケム」 續古今集、三、夏「暮レ難キ、夏ノ日暮ラシ、ながむれバ、ソノ事トナク、物ゾ悲シキ」 好忠集「匂ハネド、ホホヱム梅ノ、花ヲコソ、我モヲカシト、折リテながむれ」 源、八、花宴「如何ニセマシト、思シ煩ヒテ、ツクヅクトながめ伏シ給ヘリ」 (二)遙ク見渡ス。遙ニ望

ム。瞻望 臨眺 千載集、三、夏「時鳥、鳴キツル方ヲ、ながむれバ、タゞ有明ノ、月ゾノコレル」古今六帖、四「月ヲサメテ、ヒマヨリ月ヲ、ながむれバ、面影ニノミ、君ハ見エツル」源、五十二、手習三十三「山ノ端ニ、入ルマデ月ヲ、ながめ見ム、閨ノ板間モ、シルシアリヤト」同、五十一、蜻蛉廿八「ツクヅクトウチながめツヽ」新古今集、四、秋「物思ハデ、カヽル露ヤハ、袖ニオク、ながめテケリナ、秋ノ夕暮」

なが・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）長 (一)長クナス。引キ延バス。ヒロムル。蜻蛉日記(異本)中、中「サシハナレタル谷ノ方ヨリ、イトウラワカキ聲ニ、遙ニながめ鳴キタナリ」(鹿ノ聲ニ云フ) 枕草子、三、三十八段「イトムツカシガレバ、長ヤカニ打チながめテ(アクビテ)、ミソカニト思ヒテ云フラメド」(二)〔次條ノ語意ニ同ジ。〕(三)息ヲ長クツク。物思ヒシテナゲク。嗟歎

なが・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）詠〔詩歌ノ詠物ヨリ云フ〕聲ヲ長ク引キテ詩歌ヲ歌フ。聲長クシテ詩歌ヲヨム。クチズサム。吟詠。詠ズ。吟ズ。又、和歌ヲツクル。吟詠 袋雙子(清輔)四「コハタ山、スソノアラシ、寒ケレバ、フシミノ里モ、イコソネラレネ、是レハ、俊綱ノ朝臣ノ伏見ニ侍リケルニ、夜タタズミ歩キケルニ、アヤシノ宿直童ノツチニ伏セリテ、ながめケル歌也」古事記、中(崇神)五十七「此歌者、國主等[illegible]大贄[illegible]時時恆、至于今詠之歌者也」萬葉集、十六、二「安積山、影サヘ見ユル、山ノ井ノ、淺キ心ヲ、吾ガ念ハナクニ、右歌傳云、云云、詠ニ此歌、爾乃王意脱、樂飲終日」著聞集、十七、怪異「法勝寺ノ塔ノ上ニ、夜、ながめケル歌」

なかむかし（名）中昔〔おほむかし(大昔)ニ對ス〕上古ト近古トノ間。中古 中世 狂言記、ぎんじ婿「サリナガラ、大ムカシ、中むかし、當世ト云ウテ、三段オジャルガ、ドレヲ習ヤルゾ」

ながむし（名）長蟲 へび(蛇)ノ異名。(沖繩ニテモ云フ) 蛇類ノ稱。

なかん・づく（接）就中〔中ニ就きノ音便〕其中ニテ取リワケテ。殊ニ。[illegible] 字類抄、就中、ナカニツイテ、ナカムツク [illegible] 用集、八、言辭門「就中、ナカンヅク」[illegible] 當家最勝事、今改メテ[illegible]ニ行ハルベキニアラズ、中ん就く故障、御中陰ナリ、カタガタ宥メラレバ宜シカルベキ由」

ながめ（名）霖〔ながあめ(長雨)ノ約〕(一)雨ノ長ク降ルコト。字類抄、中、那「霖、[illegible]」[illegible](七日已上)、連雨、苦雨(三日已上)、ナカメ」萬葉集、十九廿九「卯ノ花ヲ、腐ス霖雨ノ、水ハナニ、ヨル木積ナス、ヨラム兒モガモ」(二)專ラ、五月雨ノ稱。神代紀、上十一「此皆良田、[illegible]」同、同二十「共遇降雨、[illegible]」萬葉集、十六、八長歌「飛鳥男ガ、霖禁、縫ヒシ黑沓、刺シ佩キテ」

ながめ（名）眺〔一〕ナガムルコト。ツクヅクト、見詰メテ居ルコト。物思フトキナドニ。悵望 古事記、中(景行)四十五「倭含[illegible]長眼[illegible]也」古今集、二、春、下「花ノ色ハ、ウツリニケリナ、イタヅラニ、我身世ニフル、ながめセシマニ」拾遺集、十六、春、雜「年コトニ、春ノ眺めハ、セシカドモ、身サヘフルトモ、思ハザリシヲ」後拾遺集、十四、戀、四「ツレヅレト、思ヘバ長キ、春ノ日ニ、頼ムコトトハ、ながめヲゾスル」(二)見渡スコト。遠ク望ムコト。ミハラスコト。クニミ。又、眺望ノヨキコト。瞻望 臨眺 古今集、十、物名、はヲハジメ、るヲハテニテ、ながめヲカケテ、云云「花ノ中、目ニ飽クヤトテ、分ケユケバ、心ゾトモニ、散リヌベラナル」新古今集、一、春、上「ツクヅクト、春ノながめノ、寂シキハ、シノブニ傳フ、軒ノ玉水」[illegible]「遙遙ト霞ミ渡リテ、天ツ雁、歸ル越路ノ山マデモ、ながめニ續ク[illegible]カナ」(三)見渡シタル景色。[illegible] 眺望。[illegible]ノ萬貫松ニ劣ラズ、是レ千歲ノ眺めナリ」

ながめ（名）詠 ナガムルコト、口ズサミ。詠歌。[illegible]「[illegible]眺メニ、寢アケテ、心ヲヤレル、詠ながめカナ」

ながめがち（名）眺勝 眺ムルコトノ多キコト。トカクツクヅクト見詰メ居ルコト。源、三、空蟬「タゞナラズながめがちナリ」[illegible]集、十、[illegible]ノ、アヤシク常ハ、ながめがちナル」

ながめごゑ（名）詠聲 聲ヲ長ク引キテ、詩歌ヲ歌フ聲。吟詠ノ聲。狹衣、一、下十「ワ(ワウィ)君ゾながめごゑハヨキ、マロハ更ニ更ニト笑ヒ入レバ」

❖**なが・める**（動）眺、詠 ながむ(眺、詠)ノ口語。

なかもち（名）中持 長持ノ、長カラズ短カラザル櫃ノ稱。一說ニ、荷物ノ長キヲ長持トス、短キヲ單ニ、荷ト云フ。其中間ノ荷物ト。[illegible] 云云、クマノカワ、クツ、テブクロ、なかもち[illegible]

ながもち（名）長持 古ヘノ長櫃。櫃ノ、長方形ニシテ、蓋アリ[illegible]テ持チ運ブ用トスルモノ。[illegible]林節用集(慶長)上、器財門「長持、ナガモチ」榮花物語、廿四、若枝「ながもち唐櫃ノ蓋ニ、イトオドロオドロシウ、盛ミ入レテ、打チカサネテ、二人ナド舁キテ、ヒキテクレセアリ」宇津保物語、祭使「[illegible]ながもちノ御[illegible]一具ニ、女ノヨソヒヒトクダリ、白張袴[illegible]ヘテ、大袿トカサネ入レテ」平家物語、八、征夷將軍の院宣「[illegible]ノ衣二領、小袖十カサネ、長持ニ入レテ設ケタリ」[illegible]歌合「ながもち、後ラニ、アフコナケレバ、ミシながもち、ちチノ僕ノ、持トコソナレ」

ながもち（名）長持 久シク保ツコト。耐久。持久

なかもどり（名）中戻 途中ヨリ戻ルコト。[illegible]

ながや（名）[illegible] ウナヰハナリハ、[illegible]ケツツムカ」(二)數多ノ[illegible] 連房 宇津保物語、藤原君「[illegible]九間ノ屋ニトツ、ドケンノながやニトツヅツ作リタマヒテ」[illegible]第十八條、向ヒノ長屋ノ[illegible]

ながやか（副）長 長キ狀ニ云フ語。源、十四、澪標「ウチカヘシ見給ヒツツ、アハレト、ながやかニ、ヒトリゴチ給フ」

なかやしき（名）中屋敷 かみやしき〔上屋敷〕ノ條ヲ見ヨ。[illegible]女リ召サレケル」

なかやすみ（名）中休 (一)ナカラニテ休ムコト。仕事ノ間、暫シ休ムコト。小憩 [illegible]

なかやど（名）中宿 (一)次條ノ語ニ同ジ。[illegible] (二)江戸時代、[illegible]出合ノ時ナドニ、奉公人ノ、假ニ宿ルト[illegible]中宿、九月五日ニナリテ、[illegible]

なかやどり（名）[illegible]

中程ニテヤドルコト。源、四十五、椎本九「ワカワカシキ人ノ心ノスサビニ、物メデノなかやどり、往來ノ程ノナホザリゴトニ」同、四、夕顔十五「モシ思ヒヨルケシキモヤトテ、隣リニ中やどりヲダニシ給ハズ」同、三、内裏ヨリ罷ヅ中宿リニ、大貳ノ乳母ノイタク煩ヒテ、尼ニナリケル」

なかやまごんにゃく（名）［中山蒟蒻］下總國、東葛飾郡、中山ニ産ズル蒟蒻。下總ノ市川、行德ノ邊ニテモ製シテ賣ル。小サク楕圓形ニ作リテ、紅、白、黑等ニ染ム。

なかやもん（名）［長屋門］左右ノ長屋ニ屋根ノツヅキタル門。江戶時代、大名ノ家ナドニ設ケタリキ。守貞漫稿、四、人事「江戶三年當、市中名主ノ總會也、云云、家宅ニ長屋門ヲ構ヘ、平日出仕ニハ一刀帶衣也、寛康歌元祿、近仁作上、長屋門ヲバ押廻シ、出水通リノ長屋門、其ノ大屋敷ヲ押カリ、京、江戶、才國ノ御用ナド一人ニ派ル」

ナカユイ
なかゆひ（名）［中結］（一）古ヘ、衣着テ、腰ヲ結ヒタルモノ。卽チ、今ノ常ノ帶ナリ。宇治拾遺、十四、第二條「僧正、中結打チシテ、高足駄ハキテ、タダ一人アユミ來テ」松の落葉、二「中ゆひ、ユマキ」（二）包物ノ中程ヲ、紐ニテ結ヒ圍ムルコト。

なかゆび（名）［中指］五指ノ中ノ、眞中ニアル指。タケタカユビ。タカタカユビ。ナカノオヨビ。倭名抄、三、手足具「中指、奈加乃於與比」書言字考節用集、五、肢體門「將指、中指、ナカユビ」松屋筆記、五、六十二條「タカタカ指ハ、中指ナリ」

ナカ・ユ・ウ
なかゆ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［中結］ナカユヒス。宇治拾遺、四、第五條「衣ノホトリヲ、二十餘リ三十バカリノ女、なかゆひテ歩ミ行クガ」

ながよ（名）［長夜］長キ夜。チャウヤ。萬葉集、十一、四十三「アシビキノ、山鳥ノ尾ノ、シダリ尾ノ、ナガキ永夜ヲ、ヒトリカモネム」

なかよし（名）［中善］中ラヒノヨキコト。親善。枕草子、二、廿交リノ睦マシキコト。段「中よしナド人人ニモ言ハルル」（行成ト、清少納言ト）艶狩乃本地、寶永、近松作、四、信濃下リ「後ノ秀鄕ト中よしノ龍宮海ノ、乙姬ノ」

なから（名）半［らハ助語］中程ヲ大方ニ云フ語。ナカバ。ナカホド。半分。七十一番職人盡歌合、十四番、ゑろいもの賣「百箱モなからケ（五十箱）イクラモ召セ、イカホドヨキ、御シロイガ候ゾ」宇治保物語、靈瑞院ニテ、誕生ノ交通トラセ給ハムトスレバ、アルハ消（一本、ク、アリ）書キタルモアリ、アルハなから書キタルモアリ」

ながら（接）［乍］［中途ノ意カ、韻會「蒼頡篇、乍、兩辭也、云云、隨個曰、蜡讀曰乍、一有一無、爲乍」］打返ヘシ說ク語。トハ云ヘド。トハ云フモノノ。ナレドモ。ケレドモ。デハアルガ。名義抄、乍、ナガラ」源、三、空蟬「ツツム事ナキニシモアラネバ、身ながら、心ニモエ任セズ、マジクナンアリケル」同、四、夕顔「我ガ心ながら、斯ル方ニオホケナク」更級日記「冬ニナリテ、月ナク雪モ降ラズながら、星ノ光ニ、空サスガニ限ナク」「サリながら」「乍併」

ながら（接尾）［隨］［爲從ノ意カ、或ハ、長らニテ、延ブル意カ］（一）［名詞、動詞ニ屬キテ副詞トスル接尾語］そのまま、ノ意ヲナス。隨意。マニマニ。略シテ、から。遣唐使、時奉勅命ニ「敎ヘ悟シ給ヒ我良、船居作リ給ヘレバ」遊仙窟「情ヲ清キトコロニ瀆リ出テマシテ、神奈良良モ欽マリ座セト」千載集、一、春、上「ササナミヤ、シガノ都ハ、アレニシヲ、昔ながらノ、山櫻哉」源、四、夕顔「内ながら宮フ」（萬葉集「一年ハ、春ながらニモ、暮レナナム、花ノ盛リヲ、飽クマデモ見ム」古今集、三、夏「夏ノ夜ハ、マダヨヒながら、明ヌルヲ、雲ノイヅコニ、月宿ルラム」續紀、十五（聖武天皇）天平十五年五月、詔ニ「タマヒ奈何良、受ケタマハリ持チテ」靈異記、中、第廿七、「三禮、居讃、スニナガラ」、「居ながら歸ル、神ながらノ道」（二）［又、ソレゴメニ。共ニ。グルミニ。源、四十三、竹川七「右ノオトドモ、御子ドモ、六人ながら引キ連レテオハシタリ」同、二、帚木三十四「牛ながら引キ入レツベカラム所ヲ」古今集、四、秋、上「萩ノ露、玉ニヌカムト、トレバ消ヌ、ヨシ見ム人ハ、枝ながら見ヨ」（三）又、專ラ、動詞ニツキテ、つつ、又ハ、且、ノ意ヲナス。「讀ミながら書ク」

ながらく（副）長［長くノ訛]永ク。久シク。ナカナガト。

なからはんじゃく（名）［半半尺］（一）一尺ニ足ラヌコト。（二）轉ジテ、物事ノ全カラザルコト。中途半端。

ナカ・ライ
なからひ（名）［中合ノ轉カ］人ト人トノ中。雙方ノ交リ。ツヅキアヒ。アヒダガラ。交際。字類抄、間、ナカラヒ」榮花物語、十五、木綿四手「マダナカリツル御なからひノ有樣ノ程、世ニアラマホシキ事ノタメシニナリヌベシ」源、四十九、東屋「上達部ノ筋ニテ、なからひモ物ギタナキ人ナラズ」枕草子、十、百三十二段「或人ノ、イミジウ時ニアヒタル人ノ壻ニナリテ、云云、アサマシウ、カカルなからひニテ、イカデトコソ人ハ思ヒタメレナド」大鏡、中、兼通「斯キカセ給ヒテ、年頃なからひヨカラズシテ過ギツルニ、今ハ限リニナリニタリト」「男女ノなからひ」

ナガラ・ウ
ながら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（自動、下二）［流るノ延］古言ニ、降るヲ、流るト云フ、ながる（流）ノ條ヲ見ヨ］（一）引キツヅキテ、降ル。降リ亂ル。萬葉集、一二十五「久堅ノ、天ノ時雨ノ、流相見レバ」又、同、一五十二「流經る、妻吹ク風ノ、寒キ夜ニ」ノ妻ハ雪ノ誤カト云フ、或ハ、衣端トスレバ、長ク延フル意ニテ、次條ノ語意ニ同ジ。又、同、八九十二「末青ノ、消ヌベキモノヲ、今マデニ、流經者、妹ニ逢ハムトゾ」（古義訓）トアルハ、次條ノ語ヲ兼ネテ言ヘルナラム。萬葉集、八四十「沫雪カ、ハダレニ降ルト、見ルマデニ、流倍散ルハ、何ノ花ゾモ」（二）經行ク。フリタル。萬葉集、十、春流ナク、蘭圃ノ邊ニ、櫻花、散りながらふる、見ム人モガモ」

ナガラ・ウ
ながら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（自動、下二）［存命］［長歷ノ義ト云フ］（一）生キテ長ク世ニアリ。死ナズシテ世ニ殘ル。生キッヅク。存命ス。イキナガラフ。長生。生存。更級日記「サスガニ、命ハ、憂キニモタエズながらふメレド、後ノ世モ思フニ叶ハズゾアラムカシトゾ」源、四、夕顔「若シながらへバ、ヨロヅニ、ハグクマムトコソ思ヒシカ」萬葉集、八五十九「アワユキノ、消スベキモノヲ、今マデニ、長らへヌレバ、妹ニアヘルゾ」（流布本）（二）傳ハル。長ク傳ハリ來ル。萬葉集、十九三十長歌「天地ノ、遠キ始ヨ、世ノ中ハ、常ナキモノト、語リ繼ギ、奈我良倍來レ、天ノ原、フリサケ見レバ」

ナガラエ・ク
ながらへ・く・クル・クレ・コ・キ・コヨ（自動、加變）［存命來］ナガラヘテ來ル。生存シ來ル。新拾遺集、十九、雜、中「數ナラデ、ながらへきツル、ウキ身ヲモ、君ガタメニト、ナホ惜シムカナ」

ナガラエ・ハ・ツ
ながらへ・は・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（自動、下二）［存命果］天命ヲ全ウスル。

ナガラエ・ユ・ク
ながらへ・ゆ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［存命行］生キテユク。生存シツヅケル。詞花集、七、戀、上「忘ルヤト、ながらへゆけド、身ニソヒテ、戀シキコトハ、オクレザリケリ」千載集、十四、戀、四「蘆ノ屋ノ、カリソメブシハ、津ノ國ノ、ながらへゆけド、忘レザリケリ」後拾遺集、十六、雜、二「シバシコソ、思ヒモ出デメ、津ノ國ノ、ながらへゆかバ、今忘レナム」

〔ながらへ-わた・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 生存シテ日ヲフル。 萬葉集、十、冬「[illegible]ノアマギラヒ、フリ來ル雪ノ、消ナメドモ、君ニアハムト、流[illegible]度」

なからむすめ (名) 半息子 〔中、子息ニ當ル意、支那ニテ、女壻ヲ半子ト云フニ因ル〕壻ヲ云フトゾ。 半子 (和訓栞)

〔なかり-せ-ば (句) 微 音便ニ、なかッせば。無クアリタラバ。ナカッタラ。 なかッせば(微)ノ條ヲモ見ヨ。 論語、憲問篇「微管仲、吾其被髮左衽矣」 枕草子、九、九十一段「イカニシテ、イカニ知ラマシ、僞ヲ、空ニタダスノ、神なかりせば」 伊勢物語、八十二段「世ノ中ニ、絶エテ櫻ノ、なかりせば、春ノ心ハ、ノドケカラマシ」

なが・る・ルル・ルレ・レ・レヨ(自動、下二) 流 〔長ヲ活用ス〕 (一)〔水ナドガ、低キニツキテ行ク。 萬葉集、九ノ[illegible]「落ナタギチ、流るる水ノ、磐ニ觸リ、澱メル澱ニ、月ノカゲ見ユ」 古今集、十六、哀傷「先ダタヌ、悔イノ八千タビ、悲シキハ、流るる水ノ歸リ來ヌナリ」 (二)〔降ル。オツ。 [illegible]行記、十二年十月「殿騰之矢、横目。山銷之、流ニ於宮中前ニ如ク雨」 萬葉集、十「巻向ノ、檜原モ未ダ、雲ヰネバ、小松ガ末ユ、沫雪流る」 同、五「ワガ園ニ、梅ノ花チル、久方ノ、天ヨリ雪ノ、流れ來ルカモ」 (三)〔鎔ケテ、滴ル。又、シタタル、垂ル。 鎔「[illegible]流る」 (四)〔浮ビ漂ヒ行ク。 浮下 後撰集、八、冬「冬ノ池ノ、水ニ流るる、蘆鴨ノ、浮寢ナガラニ、イク夜ヘヌラン」 古今集、十七、雜、上「行ク水ニ、流るる花ノ、色色ヲ、ワガカザシトハ、誰カ見ルラン」「舟流る」「筏流る」 (五)〔移リ行ク。 經過 源、廿、朝顔三「氷トヂ、石間ノ水ハ、行キナヤミ、空澄ム月ノ、影ゾ流るる」 古今集、六、冬「昨日トイヒ、今日ト暮シテ、アスカ川、流れテ早キ、月日ナリケリ」 (六)〔存命フ。生キ[illegible]。 生存 源、三十九、御法「ながれテハ、[illegible]ラムニ、[illegible]シツツムニナム」 後撰集、十五、雜「ながれニノ、[illegible]ヲモ[illegible]マズ、水ノ上ノ、泡ニ消エヌル、憂キ身ト思ヘバ」 (七)〔世ニヒロマル。傳ハル。 流布 源、三十八、夕霧「[illegible]ニ、淺ケゾ見エム、山川ノ、流れテノ名ヲ、ツツミハテズバ」 續後紀、十九、嘉祥二年三月、長歌「[illegible]ニ、傳ヘ來レル、[illegible]ニ、傳ヘ來レル」 更級日記「ながれテノ物語トモナリヌベキコトナリ」 (八)〔次第ニ巡ル。 巡 源、三十三、藤裏葉「次次ニ、盃ノ流るるメレド、醉ノ紛レニ、ハカバカシカラデ」 増鏡、第一、おどろの下「次次、ズン流るるメリシカド、サノミハ、ウルサクテナン」 (九)逸ル。 逸「流れ矢」「流れ丸」 (十)サスラフ。サマヨフ。 流離「流れワタル」 (十一)流産ス。 (十二)質物ヲ請受サザリシタメ、所有ノ權ヲ失フ。 溺沒 七十一番職人盡歌合、四十一番「[illegible](古道具買)ノ歌「戀衣、袖ヲカヘバヤ、[illegible]廻リ、絶エズ我ノ、ながれ物トテ」 (十三)行ハレズ止トナル。「相談ガ流る」 (十四)カタヨリ傾ク。「意傍ニ流る」

なかれ (助) 勿莫毋 〔無カリノ約ノ命令形。〕 行爲ヲ禁止スル語。 論語、學而篇「過則勿憚改」 [illegible] 三國志、[illegible] 平家物語、二、中、[illegible]國ノ大事也、努努モラス事なかれ」

ながれ (名) 流 (一)流ルルコト。流ルル状。 方丈記「行く川ノながれハタエズシテ、シカモ、モトノ水ニアラズ、ヨドミニ浮ブウタカタハ、且消エ且結ビテ、久シク止マル事ナシ」「水ノ流ニ隨フ」 (二)小サキ川。 流水「流ヲ涉ル」 (三)[illegible]ノ鎔ケテ流ルルモノ。[illegible] (四)〔盃酒ノシタタリ。 [illegible]部卿宮、イマハ御簾ノ内ヨリながれノ御土器、賜ハラズヤ、カノ蒜クサキ御肴コソ、イトタベマホシケレ」 徒然草、百五十八段「盃ノ底ヲ捨ツル事、云云、流れヲ殘シテ、口ノツキタル所ヲスヽグナリ」 (五)其風ヲ承ケ傳ヘタルコト。流義ノ末。 流風 古今集、序「小野ノ小町ハ、古ノ[illegible]ノ流れナリ」 [illegible] (六)質物ヲ贖フベキ期リヲ失ヒテ、[illegible] (七)行ハレヌコト。ヤメニナルコト。 廢止「相談、流トナル」 (八)ツヅキ。 系統「源氏ノ流」 (九)[illegible] (十)傾斜スルコト。又、ソノ度合。勾配。 [illegible] 其流派ヲ學ブコトヲ云フ。 千載集、十八、雜、下、長歌「近キタメシニ、堀河ノ、ながれをくみテ、サザナミノ、寄リ來ル人ニ、アツラヘテ」 色三味線、四「扇、云云、イフゼンガ繪ニ、行ク水ニ菜[illegible]ノ音キノ、ながれをたてゝ[illegible]」

ながれ (名) 流 [illegible]ナドヲ數フルニ云フ語。リウ。 旒 平治物語、二、待賢門軍事「[illegible]白旗二十流れ打チ立テタリ」「赤旗二流」

ながれぎ (名) 木流 (一)水ニ浮ビ流ルル木。又、流レテ岸ヘ着キタル木。 (二)[illegible]レビト。 新古今集、十八、雜、下「ながれぎト、タツ白波ト、燒ク鹽ト、イヅレカカラキ、ワタツミノ底」 [illegible]ム、世ノ憂キ事ゾ、カハラザリケル」 [illegible]王、ながれぎノ、上モ歸レズ、成リヌルゾ、アナアサマシノ、水ノ心ヤ」

ながれ-くわん-ぢやう (名) 流灌頂 [illegible] 古ヘ[illegible] 國王、即位ノ時、四海ノ水ヲ以テ頂ニ灌ギ[illegible] 灌頂トハ、功德ノ因ヲ以テ、灌頂ノ果ヲ受クル意[illegible] 灌頂ノ幡ニ功德ヲ具ヘ[illegible] 其旗ナリ。推古紀ニ、灌頂幡ト見エタリ」 又、流灌頂。佛法ノ法會ノ一ツ。 [illegible] 因リテ、旛ヲ灌頂トモ稱ス。又、二枚ノ[illegible] 卒塔婆ニ佛名ヲ記シテ川ニ流スヲ、川[illegible] 灌頂ト云フ。 [illegible]

ながれだま (名) 流丸 ソレダマ。ソレ[illegible]

ながれ-づくり (名) [illegible] 如キ、[illegible]ヨリ[illegible]

風造ニテ、側面ヨリ見レバ、後ハ短ク、前ノ軒先ノ流レ長ク、向拜ヲ併セ覆フモノ。(賀茂社)次ニ起レルハ、春日造ニテ、奈良ノ春日神社ノ如キモノ。正面ト背面トヲ持風造ニシテ、棟ハ妻入ニシ、向拜ノ庇ニ連リ、軒ノ兩端、上ニ反リ、棟ノ上ニハ千木、堅魚木アリテ、屋根ノ流レハ曲線ナリ、以上ハ一棟ナリ。次ニハ八幡造ハ、本殿ト拜殿トヲ別棟ニシテ、雙方ノ軒先ノ接スル所ニ間ガアリテ幣殿トス。卽チ、流造ヲ二ツ合ハセタル形ノモノ。ソノ後ニ權現造起ル。本殿ト拜殿トヲ連ネ、其間ニ合ノ間ヲ作リテ、三ツ合ヒタル稱ナリ。日光ノ東照宮ナドコレナリ。此ノ外ニ神明造、王子造ナド云フモノアレド、春日造ニ同ジ。ナガシヅクリ。流搏風造。

ながれ-の-いづみ (名) 流泉 酒ノ異名。

ながれ-びたひ (名) 流額 馬ノ額ノ白キモノ。タイシャク。弓張記「ヒタヒノ白キ馬ヲ、大シャクト當世云フナリ」

ながれ-ぼし (名) 流星 (一)ヨバヒボシ。流星ノ條ヲ見ヨ。書言字考節用集、一、乾坤門「流星、ナガレボシ」 舒明紀、九年二月「大星從東流西、便有音似雷、時人曰、流星之音」 (二)馬ノ額ノ上部ヨリ、鼻先ニカケテ、長ク白キ斑文アルモノ。

ながれ-め (名) 流女 流レノ身ノ女。ウカレメ。遊女。

ながれ-や (名) 流矢 ソレテ飛ブ矢。それや(逸矢)ニ同ジ。名物六帖、三、器財箋「飛箭、ナガレヤ、流矢、ナガレヤ」 保元物語、二、新院左大臣落給事「北白河ヲ指シテ落チサセ給フ處ニ、イヅコヨリカ射タリケン、流れ矢一筋來タッテ、左大臣殿ノ御頸ノ骨ニ立ツ、成隆之ヲ拔イテ捨テタリ」

ながれ-わたり (名) 流渡 (一)水ノ流ニ任セテ川ヲ渡ルコト。盛衰記、三十五、高綱渡宇治川事「佐佐木四郎高綱、宇治河ノ先陣渡シタリヤト、名乘リモ果テヌニ梶原源太モ、流れ渡りニ上リニケリ」 (二)世ノ風潮ニ任セテ、世ヲ渡ルコト。壽門松(享保、近松作)與次兵衞吾妻道行「狂ハヌ袖モ亂レ心、命ツレナキ流レノ身、流れ渡りノ世ノ中ニ、シバシトドマル賤ガ家ノ、軒ヲ尋ネテ惱ミケリ」 長町女腹切(正德、近松作)お花半七道行「思ヒナキ身ノ高笑ヒ、餘所ノツマゴト羨シ、流れわたりノ情デアロト、網ノ目ニサヘ戀風ガ溜マル」

ながれ-ゐ (名) 流井 ハシリ井。流ルル水ヲ汲ミ用ヰルニ就キテ云フ語。

なが-わきざし (名) 長脇差 (一)脇差ノ長キモノ。好色一代男(天和、西鶴)二、「袖下九寸、染分ノ組帶、セカイラゲノ長脇差、ココゾト思フ人、大方ハ是レ」 (二)江戸時代、關東ニテ、常ニ、長脇差ヲ帶シテ往來シタル博徒ノ異名。「上州ノ長脇差」

なか-ゐ (名) 中居 (一)昔、常人ノ家ノ下女ナドノ居リシ所。鎌倉年中行事、上、正月朔日「御年男、御手水ヲ𤭖(ハンザフ)盥ニ入レテ、云云、御中居マデ持テ參ル」 (二)家族ノ常ニ坐スル所。(伊豆)中ノ間。

なか-ゐ (名) 仲居 (一)昔、殿中、又ハ、大名邸ノ奧向ニアリシ室ノ名。勤仕ノ女、此ニ居ル。御中居。御末。轉ジテ、ソコニ勤ムル下女。海人藻芥、下「內裏ニ御末ト云フ所アリ、常人ノ所ナラバ、中ゐナドノ邊ニヤ」 家屋雜考、五「御中居御末、今時諸大名ノ奧ニ、御中居御末等ノ稱アリ、婦女ノ役名ノ如ク唱フレドモ、皆カノ奧ノ屋ノ小名ナリ」 北條五代記(三浦茂信)早雲寺殿廿一箇條「タニハ、臺所中居ノ火ノ廻リ、我見廻リ堅ク申付」 (二)遊女屋、又ハ、料理屋ノ婢。(畿內)女中。心中二枚繪草紙(寶永、近松作)中、其上、才前ハ當モナイ、花車ヤ娵、仲居マデ、仕着セヲシテ取ッセウ」 好色五人女(貞享、西鶴)二「談合スルウチニ、仲居ノくめガ聲シテ」

なが-ゐ (名) 長居 (一)永ク一所ニ居ルコト。長尻。宇津保物語、菊宴、六「其處ニマウデムトコソシツレ、ナドテ久シウながゐヤシツル」 散木奇歌集、二「卯ノ花ノ、サカリナラズバ、山里ニ、クル人ゴトニ、ながゐセマシヤ」「長居ハ畏レアリ」 (二)厭クホド久シク座ニアルコト。長座。「長居ノ客」

なが-ゑぼし (名) 長烏帽子 ながえぼしノ誤。其條ヲ見ヨ。

なが-を-どり (名) 長尾鷄 鷄ノ變種ナルモノ。又、ちゃうびけい、さざなみ、しのはらたうトモ云フ。土佐國、長岡郡、大篠村篠原ノ特產ナリ。雄鷄ノ尾羽、甚ダ長クシテ、一丈四五尺、乃至、二丈ニ達スルモノアリ。嘴ト脚趾トハ、黃ニシテ、眼ハ紅色ニ、肉冠ハ鮮紅色ナリ。羽ニハ、銀灰色ナルアリ、褐色ナルアリ。又、白色ナルハ、尾羽、稍、短シ、しらふおト云フ。ヲナガドリ。

なか-をり (名) 中折 (一)中程ヲ折リカヘスコト。雅亮裝束抄、一「其ノ縫ヒ目ヲ、長サマニなかをりニシテ」 (二)次條ノ語ノ略。

なかをり-がみ (名) 中折紙 半紙ナドノ、眞中ヲ、二ツニ折リタルモノ。略シテ、なかをり。運步色葉集「中折(ナカヲリ)」

なか-をれ (名) 中折 (一)中央ノ折レテ曲リ、又ハ、クボムコト。(二)次條ノ語ノ略。(二)次次條ノ語ノ略。

なかをれ-げた (名) 中折下駄 表附キノ駒下駄ノ一、臺ノ中央ノ、折レテ自在ニ曲ル下駄。略シテ、なかをれ。守貞漫稿、廿七、今製「中折、表付、男女用、江俗專ラ當島トモ云フ、此下駄ノミ、今モ杉製、江戶製トモニ前行ル」 浮世風呂(文化、三馬)二編、上「中折れの下駄ヲ、ガタガタト、イケ騷騷シクハキ捨テテ、湯番ノカミサマニ挨拶シ」

なかをれ-ばうし (名) 中折帽子 頂ノ中央ノ、縱ニ折レクボメル鍔廣ノ帽子。略シテ、なかをれ、又、中折帽。

なき (名) 泣 泣クコト。又、ナキゴト。泣を入れるトハ、詫ビゴトナドヲ申シ込ム意。

〜なき (名) 無 ナキコト。ナキモノ。亡 源、三十八、夕霧四十一「アハレヲモ、イカニ知リテカ、慰メン、アルヤ戀シキ、なきヤ悲シキ」

〜なぎ (名) 凪 (凪ハ國字ニテ、風ト止トノ合字) 凪グコト。海上、波風ノ穩ナルコト。萬葉集、十七四十九「之乎路カラ、タタコエ來レバ、羽咋ノ海、朝奈藝シタリ、船梶モガモ」

なぎ (名) 和 ナグコト。(海ニイハズ、主トシテ、空ニ、風ニ云フ)

〜なぎ (名) 水葱 (菜葱ノ義ト云フ) 水草ノ名。みづあふひノ小サキモノ。田ノ中ナドニ生ヒ、一根數葉、初ハつゆくさニ似テ厚ク、深綠ニテ光ル、後、ヤヤ圓葉ヲ出ス。秋、莖ノ高サ三四寸、五瓣ノ花ヲ連綴ス、大イサ三四分、深碧、或ハ、白色ナリ。蔛菜 倭名抄、十七十「水葱類「水葱、奈木」 本草和名、上三十七「蔛菜、一名水葱、奈岐」 萬葉集、十六八十「醬酢ニ、蒜(ヒル)ツキ合テ、鯛ネガフ、吾ニナ見セソ、

水葱ノ羹物」　天智記、十年十二月、童謡「ミエシ野ノ、エシ野ノ鮎、鮎コソハ、シマヘモエキ、エクルシヱ、奈疑ノモト、芹ノモト、吾レハ苦ルシヱ」　又、其葉ノ細ソキヲ、小水葱ト云フ。花、春咲ク、紫ニシテ美ナリ。植小水葱　萬葉集、三「春霞、春日ノ里ノ、殖子水葱、苗ナリト云ヒシ、エハ指シニケム」　同、十四「カミツケヌ、伊加保ノ沼ニ、宇惠古奈宜、カク戀ヒムトヤ、種求メケム」　同、十四「苗代ノ、古奈伎ガ花ヲ、衣ニ摺リ、馴ルルマニマニ、何欲悲シケ」　田ニ植ウレバ、田水葱トモ云フ。　催馬樂、田中井戸「田中ノ井戸ニ、光レルたなぎ、摘メ摘メ吾子女」

なぎ（名）**梛**〔葉、水葱ニ似タレバ名トスルカト云フ。字ハ那木ノ合字。又、𣗄葉ヲ鏡ノ匣ニ入レ置キタルコトアリ、凪ナレバ、水鏡ノ如シノ意ト云フ。白粉匣ニハ、玉蟲ヲ入ルト〕　松柏科ノ樹、高サ六七丈、老ユレバ、皮自ラ落チテ紅膚トナル。葉ハ、竹ニ似テ厚ク、縱理アリテ對生ス、面、深緑ニシテ、背、淺黄ナリ、兩面、滑美ニシテ、甚ダ強シ。夏、穗狀ノ花ヲ開キ、球形ノ種子ヲ結ブ。材、淡黄赤ニシテ緻密、往往、波狀ノ木理アルモノアリ、器具用トス。竹柏　林逸節用集、奈、草部「梛、ナキ」　保元物語、一、法皇熊野御參詣事「切目王子ノ梛ノ葉ヲ、百度、千度ニサントコソ思シ召シシニ」　五十年忌歌念佛（寶永、近松作）下「笠ニ插イタハ梛ノ葉、腰ニ插イタモ梛ノ葉、一枝二枝、三日三三枚」　江戸枝折「梛ノ葉ニ、今玉蟲ノ、ウシロ向」　俗謠「今度來ル時、モテ來テタモレ、伊豆ノ山ノ梛ノ葉ヲ」

なきあか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）**泣明**　ナイテ夜ヲアカス。夜ドホシナク。　落窪物語、一「君ガカク、なきあかすよニ、[illegible]キニ、イ、眼々シキ、鶏ノ聲ナキ」[illegible]「夜ノ[illegible]、[illegible]ノウチニ、コメラレテ、[illegible]ヒツツ、モ、なきあかすカナ」　新後撰集、五、秋、下「なきあかす、[illegible]

なき-あはせ（名）**啼合鳴合**　なきあはせくゎいノ略。ウグヒスアハセ。ウグヒス會。案人、飼鶯ヲ持寄リテ、其啼聲ヲ聞キ分ケテ、優劣ヲ定ムルコト。[illegible]キニ、東京ニテハ、毎年四月、下谷ノ根岸ノ地ナドニテ行ハレキ」元、啼聲ノ最優ナルヲ江戸一ト稱セシガ、嘗テ、[illegible]州侯、江戸一ノ名鳥ヲ買ハレタルニ、翌年ノ啼合會ニテ、又、別ノ名鳥ニ其稱ヲ附セシヲ、侯家ヨリ咎メラレテ後、最優ナルニ、准の一ト命ズルヲ、習慣トセシガ、明治以後、正の一ト云フヲ立テテ、最上トスト云フ。名鳥ノ傍ニ、雛ヲ置キテ、其聲ヲ學バシムルヲ、音附ト云ヒ、其鳥ヲ附子ト稱ス。今世ハ、文字口ト云フヲ最優トス。上音、ヒイホケケコ、中音、ホウホフフコ、下音、ホホホホホホケコ、節廻シ艶サヘアルモノ。昔ハ、月日星ト聞キテ三光ノ名アリ、コレ引ク聲、三光ノ囀レザ如シト。[illegible]「[illegible]テモ、音ブカスメル鶯ノ、子飼ヲ立ヲ、鶯あはせ」

なきあはせ-くゎい（名）**啼合會鳴合會**　前條ニ同ジ。

なき-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）**泣合鳴合**　トモニナク。オナジクナク。　枕草子、五、五十段「ケニ、カシカマシト思フバカリニ、なきあひタルホトトギスノ聲ヲ、御前ニ聞シメサズ」

なき-い・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）**泣入**　なきしづむニ同ジ。[illegible]

なぎうち（名）**[illegible]打**　[illegible]

[illegible]ウツコト、[illegible]ヤト立チトリ、[illegible]鵜ヨリ下ヘナギオトシケル」

なぎ-おと・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）**薙落**　横サマニ、打ッテオトス。薙打ニシテ、オトス。[illegible]

なぎ-がまろ（名）**薙**　ないがまろ（薙）ニ同ジ。　天治字鏡、七、[illegible]代也」

なぎ-がたな（名）**長刀薙刀**　ないがたなニ同ジ。[illegible]　字類抄「薙刀、ナイガタナ、長刀、ナギカタナ、ナカカタナ」

なき-かは・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）**啼交鳴交**　互ニナク。交互ニナク。　千載集、四、秋、上「夕サレバ、萱ガ淺ミニ、鳴きかはす、鶉ノネヲサヘ、分ケツツゾユク」

なき-かへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）**[illegible]**　甚シク泣ク。泣キ入ル。　古本、狭衣、四、中「女君ハイトドオチマサリ給ヒテ、なきかへり給ヘルサマノ、ナノメナラズ心グルシゲナル御サマニ、[illegible]」

なき-がほ（名）**泣顏**　泣カムトスル顏。[illegible]キ。又、泣ク顏色。ナキツラ。ナキッツラ。[illegible]「ツクリ、ケシキコトニナセド、イトカヒナシ」

なぎ-がま（名）**薙鎌**　長キ柄ニ鎌ヲ取付ケ、物ヲ薙ギ刈ルニ用ヰルモノ。昔[illegible]

なき-がら（名）**亡骸**　亡キ人ノ[illegible]

[illegible]

なき-ごゑ（名）**泣聲**　泣カムトシテ語ル[illegible]。又、泣ク聲。[illegible]

なぎさ（名）**渚**〔波際（なみぎは）ノ約轉カ、又、和[illegible]〕　波ノ打寄スル所。ナミウチギハ。[illegible]

なき-さくり（名）**泣噦**　なきじゃくりニ同ジ。[illegible]

なき-しづ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）**泣沈**　甚シク泣キテ、伏シ沈ム。[illegible]

[illegible]

ト申ス[illegible]有リテ、[illegible]二四八六、ホヱノカル、何モ[illegible]ニナサルナト」

なき-ぢゃくり　(名)　泣[illegible]　泣キナガラ、シャクリヲスルコト。ナキザクリ。ナイジャクリ。

(一)なき-たま　(名)　[亡魂]　世ニ亡キ人ノ靈。死者ノ靈魂。バウコン。亡靈。源、四十九、東屋「六十オハシツキテ、アハレ、なきたまヤヤドリテ見給フラン、誰ニヨリテ、カク漫ニ惑ヒアリクモノニモアラナクニト」

なき-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四)　[泣付]　泣キテ、タヨリツク。泣カヌバカリニ、スガリツク。

⁂なき-つら　(名)　[泣面]　なきがほ(泣顔)ニ同ジ。ナキッツラ。泣面に蜂トハ、不幸、苦痛ノカサナル喩ニ云フ。

(一)なき-な　(名)　[無名]　跡方無キ評判。根モナキ噂。ムジツノ評判。虛聞　冤聞　萬葉集、十一、四十「風吹カヌ、浦ニ浪立チ、無名ヲモ、吾ハ負ヘルカ、逢フトハナシニ」　古今集、十三、戀、三「ミチノクニ、アリト云フナル、名トリ川、なきなトリテハ、苦シカリケリ」　後撰集、十一、戀、三「無名ゾト、人ニハイヒテ、アリヌベシ、心ノ問ハバ、イカガ答ヘム」　同、十七、雜、三「カザストモ、立チト立チナム、なきなヲバ、事ナシ草ノ、カヒヤナカラム」　和泉式部集、下「クサグサニ、生フトハキケド、なき名ヲバ、イヅラケフダニ、人ハツムヤハ」

なぎ-なた　(名)　[長刀　薙刀]　(薙の刀、ノ約カト云フ)　武器ノ名。刃、幅廣ク、長ク反リテ、長キ柄アリ。敵ヲ薙ギ拂フニ用ヰル。將士ノ用タリ。後世ハ、多ク、婦女、僧侶ノ用トシテ、將士ハ槍ヲ主トスルコトトナル。ナイガタナ。ナギガタナ。　眉尖刀　偃月刀　運歩色葉集「長刀、薙刀、ナギナタ」　名物六帖、三、器財箋「眉尖刀、ナギナタ」　和漢三才圖會、廿一、征戰具「長刀、三才圖會所謂偃尖刀ニ一名偃月刀、與之相似、或曰、始于光仁天皇時、和名抄有長刀、而無薙刀、至平相國公時、專慈薙刀、眉尖刀之利、常列左右、以率備之、云云、凡長刀爲用也、可薙、可切、可擲、可突、以兼刀槍棒之(以梢宮崎云重器也)」　後三年記「鶴次ガ長刀ノサキ頻リニアガルヤウニ見ユルホドニ」　外記日記、十三、南光院執兵仗ニ自注「俗號奈木奈多ニ」　太平記、十一、獺貝回忠事「時綱タダ一騎、中間二人ニ長刀持タセテ、忍ビヤカニ土岐ガ宿所ヘ馳セテ行キ」

なぎなた-かうぢゅ　(名)　[長刀香薷]　いぬえ(犬荏)ニ同ジ。

なぎなた-ぼし　(名)　[長刀星]　一名、タンキボシ(一說ニ、運氣星ト)。彗星ノ一種ニテ、形、長刀ニ似タルモノト云フ。

なぎなた-ほほづき　(名)　[長刀酸漿]　うみほほづき(海酸漿)ノ條ヲ見ヨ。

なき-ぬ　(名)　波ノ如キ文理ノアルコト。天治字鏡、四「紋、條屬、波文也、奈支奴」

(一)なき-ね　(名)　[泣寐]　ナキネイルコト。ナキナガラネルコト。　源、五、若紫「トノニオハシテ、なき寐ニ臥シクラシタマヒツ」　榮花物語、十、日蔭鬘「逢フ事ヲ、今ハなきねノ、夢ナラデ、イツカハ君ヲ、マタハ見ルベキ」

なき-ねいり　(名)　[泣寐入]　(一)小兒ノ泣キナガラ眠ニ就クコト。　源氏烏帽子折(元祿、近松作)常盤御前道行「今朝ハツレナクムク起キニ、抱ダキ臨シテ牛若ノ、夢ヲバ母ガ懷ニ、泣き寢入りセシイトシサヨ」　(二)轉ジテ、俗ニ、事ニ不滿足ナガラモ、ソノママ自ラ止ムコト。　關八州繫馬(享保、近松作)三「兄頼信ニ雪ヲ摑ンデ投ゲ付ケ、若ヒシ言葉ヲ無ニナシテハ、兄弟ハナホ弓矢ノ意地、泣寢入りニハシマヘレズ」

なき-の-なみだ　(名)　[泣淚]　淚ヲ流シテ泣クコト。甚シキ悲シミニ云フ語。

(一)なぎ-の-はな-の-みこし　(名)　[葱花御輦]　こうくゎれん(葱花輦)ニ同ジ。　枕草子、十一、百四十三段「行幸ナドニ、なぎの花のみこしニタテマツルナド、イトメデタシ」

(一)なき-ひと　(名)　[無人　亡人]　死シテ、今ハコノ世ニナキ人。ナキ身。死者。故人。萬葉集、三、四十九「カサハヤノ、美保ノ浦ワノ、白ツツジ、見レドモサブシ、無人オモヘバ」　同、七、四十「秋津野ニ、朝キル雲ノ、失セユケバ、ムカシモ今モ、無人オモホユ」　拾遺集、一、春「亡き人ノ、共ニシ歸ル、年ナラバ、暮行ク今日ハ、嬉シカラマシ」

(一)なき-まさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)　[泣勝]　鳴勝　マスマス烈シクナク。一層ナク。　源、三十五、柏木、六「イトド泣きまさり給ヒテ、御返リ、臥シナガラウチ休ミツツ書イ給フ」　金葉集、十、雜、下「蟲ノ音ハ、コノ秋シモゾ、鳴きまさる、ワカレノ遠ク、ナル心地シテ」

(一)なき-まど・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四)　[泣惑]　前後ヲワキマヘヌ程ニ泣ク。　源、三十五、柏木、六「イミジウ泣きまどふ御有樣ヲ、乳母モ語リテ」　榮花物語、三十九、布引瀧「痛イミジウ哀レナル事ナリ、侍フ人人、泣き惑ふ樣、限リナシ」　宇津保物語、忠社三「オトド萬ヅニ聞コシナグサメ給ヒツツ、なきまどひ給フコト、限リナシ」

なき-まね　(名)　[泣眞似]　泣キタル眞似ヲスルコト。イツハリ泣クコト。ウソナキ。ソラナキ。

(一)なき-み　(名)　[無身]　なきひと(無人)ニ同ジ。　金葉集、十、雜、下「下クシゲ、カケゴニ塵モ、スヱザリシ、雙親ナガラ、なき身トヲ知レ」

(一)なぎ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四)　[和]　ナゴヤカニナル。ナゴム。和グ。　萬葉集、四、五十「アヒ見テハ、シバ(マイ)シモ戀ハ、奈木六カト、思ヘドイトド、(ヨヨイ)戀ヒマサリケリ」

⁂なき-むし　(名)　[泣蟲]　(一)ヨク泣ク癖アルモノ。淚モロキモノ。ナミダボフシ。(二)ヨク泣ク小兒ヲ、アザケリテ云フ語。　浮世風呂(文化、三馬)初編、下「泣クモンジャアネエト云　タモンダカラ、泣カネエ奴サ、何ンノアノ泣蟲メエ」

(一)なき-め　(名)　[泣女]　古へ、葬事ニ哀ヲ發シ、聲立テテ泣クモノ。(後世、泣女ト云ヒテ、葬儀ニ備フ習俗アリ)　古事記、上、五十二「雉ヲ哭女トシ」　神代紀、下、三「以鷦鷯爲哭者」

なぎゃう　(名)　[奈行]　五十音圖ノ第五ノ行ノ名。卽チ、な、に、ぬ、ね、のノ稱。

なぎゃう-へんかく　(名)　[奈行變格]　文法ノ語。動詞ノ活用ノ行變格活用。又、奈行變體ナルモノ。死ぬ、往ぬ、ノ二語ニ限ル。卽チ、奈行ノ音ニテ、な、に、ぬ、ぬる、ぬれ、ねト活用スルモノニシテ、他ノ奈行ニ活用スル動詞ト異ナリ。助動詞ノ、ぬ(畢)ノ活用モ、此變格ナリ。

なき-よわ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)　[鳴弱]　鳴ク聲、次第ニ細ソル。又、鳴キナガラ、弱リユク。　千載集、七、離別「なきよわる、離ノ蟲モ、トメガタキ、秋ノ別レヤ、悲シカルラム」　新古今集、五、秋、下「鳴き弱る、籬ノ下ノ、キリギリス、今イクカトカ、秋ヲ知ルラム」

なきり-ばうちゃう　(名)　[菜切庖丁]　庖丁ノ刃ノ薄クシテ、先ノ尖ラザルモノ。專ラ、蔬菜ヲ刻ムニ用ヰル。薄刃。菜刀

⁂な・ぎる　(動)　[凪和]　なぐ(凪、和)ノ口語。

(一)なき-わらひ　(名)　[泣笑]　泣キナガラ笑フコト。　榮花物語、三十九、布引瀧「腹トリノ女ニトラセヨカシ、我モサコソハスレト、仰セラレケレバ、泣きわらひセサセ給ヒテゾ、オハシマシケル」

なきをとこ（名）|泣男| 泣ク藝ノアル男。ヨク泣ク男。

〜な・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）|啼| 〔音ノ活用〕（一）赤子、聲ヲ出ス。萬葉集、十五ノ三十一長歌「奈久子ナス、ネノミシ泣カユ」（二）禽、獸、蟲ナド、聲ヲ出ス。呼ブ。啼。鳴。〔[illegible]〕名抄、七[illegible]鳥[illegible]、奈久」古事記、上[illegible]「青山ニ、ヌエハ鳴キ、[illegible]、ツ鳥、カケハ鳴ク、ウレタクモ、鳴クナル鳥カ」萬[illegible]、二十[illegible]「[illegible]鳥モシバシバ鳴ク」ニ　曾丹集「鳴けや鳴け、蓬ガソマノ、キリギリス、過ギユク秋ハ、ゲニゾ悲シキ」一茶の句「鳴く猫ニ、赤ン目ヲシテ、手毬哉」

〜な・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）|泣| 哀ミ、痛ミ、怨ミ、又ハ、感、極マリナドシテ、聲ニ發シ、又ハ、涙ヲ出ス。イサツ。ネナク。オラブ。哭　古事記、下[illegible]（允恭）「ワガトフ妹ヲ、シタ奈[illegible]ニ、吾ガ鳴久ツマヲ、コフコソハ」萬葉集、二十ノ九[illegible]「[illegible]日照ル、佐太ノ[illegible]ニ、[illegible]レ居ツツ、ワガ哭く涙、ヤム時モナシ」榮花物語、七、鳥邊野「師[illegible]出デアハセ給ヒテ、萬ニ云ヒ續ケテ泣キ給フ」更級日記「コレヲ見レバ、アハレニ悲シキゾトテ、サメザメト泣き給フ」芭蕉の句「塚モ動ケ、我ガ泣く聲ハ、秋ノ風」

〜なく（助動）不ノ延。萬葉集、十五[illegible]「他國ニ、君ヲ住マセテ、イツマデカ、吾ガ[illegible]ヒ[illegible]ラム、時ノ知ラ奈久」古今集、一、春、上「深山ニハ、松ノ雪ダニ、消エなくニ、都ハ野邊ノ、若菜[illegible]ミケリ」

なく（副）無［此語、他ノ語ト[illegible]シテ副詞トナルモノ］限リモ無ク。[illegible]本抄、四「トキハナル、花モヤアルト、吉野山、奥なく入リテ、ナホタヅネ見ム」よろづの[illegible]、[illegible]「[illegible]イフ事ヨリハジメテ、サマザマノ妙ナル事ドモ、其[illegible]なく[illegible]レドモ、チカキ世ハ更ニモイハズ、中頃ヨリタエテ久シケレバ」

な・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）|薙| 〔投ぐニ通ズルカ〕横サマニ拂フヤウニ切ル。

刈リ倒ス。[illegible]

〜な・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（自動、四）[illegible] 慰ノ語意ニ同ジ。萬葉集、八[illegible]長歌「[illegible]ココ意ヘバ、胸コソ痛メ、其故ニ、心[illegible]ヤト、高[illegible]ノ、山ニモ首ニモ、打行キテ、遊ビテ行ケド」同、十五ノ三十長歌「吾思ヘル、心奈[illegible]ヤト、伊[illegible]、七十五[illegible]、大[illegible]ノ、[illegible]フ、ミルカラニ、心ハなぎヌ、語ラハネドモ」萬葉集、十[illegible]「早[illegible]キテ、イツシカ君ヲ、相見ムト、思ヒシ心、今ゾ水[illegible]ヌル」 海ニイハズ、主トシテ、空ニ、風ニ云フ　ハ、[illegible]、十、[illegible]モナク、なぎタル空ノ、淺緑、ムナシキ色モ、今ゾシリヌル」

〜な・ぐ・グル・グレ・ギ・ギ・ギヨ（自動、上二）|和| ヤハラグ。靜マリ收マル。オダヤカニナル。オチツク。ナゴム。海上ニ波立ツニモ、心ノ上ニモ）萬葉集、十七ノ四十八長歌「アマザカル、[illegible]、心ココダクモ、[illegible]カモ、[illegible]日モ無ク[illegible]、十八[illegible]長歌「アヤメグサ、[illegible]ヅラキ、酒水漬（酒宴）、遊ビ奈具禮ド、射水河、雪消エミチテ、ユク水ノ」同、十九[illegible]長歌[illegible]ムト、繁山ノ、谷邊ニ生フル、山振ヲ、宿ニ引植エテ」

〜な・ぐ・グル・グレ・ギ・ギ・ギヨ（自動、上二）|凪| 〔和ノ語ニ同ジ。風ハ、風、止ノ合字〕 風吹キ止ム。風止ミ、波、平カニナル。ナギル。萬葉集、九[illegible]「[illegible]ツチノ、[illegible]ナム[illegible]モ、[illegible]ナム、カクタツ波ニ、舟出スベシヤ」古今集、十五、戀、五「雲モナク、なぎタル朝ノ、我レナレヤ、イトハレテノミ、世ヲバヘヌラン」

〜な・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）|投擲| 取リテ飛バセ遣ル。射ル。ナゲウツ。ハフリダス。萬葉集、十九ノ十長歌「梓弓、末振リオコシ、[illegible]、[illegible]ワタシ」[illegible]

[illegible]神代紀、下[illegible]「取[illegible]投下」身ヲ投ぐトハ、自[illegible]、廿四、胡蝶[illegible]淵ニ身を、投げツベシヤト、此ノ春ハ、[illegible]ワビヌ「ワガ身投げテム、津ノ國ノ、生田ノ川ハ、名ノミナリケリ」同、同、身を投げテ、逢ハムト人ニ、契ラネド、ウキ身ハ水ニ、カゲヲナラベツ」

なくり（名）[illegible]ナヒ鳥、落ナクル涙ノ、たくりニ、カカル黒ヒモ、行クカタモナシ」

〜なく・おなす（枕）|如泣子| 〔なすハ、如クノ意〕 なたふ、音だにさはず、ゆきとりさぐり、ナドノ枕詞。萬葉集、五ノ[illegible]長歌「泣子那須、慕ひキマシテ、イキダニモ、イマダヤスメズ」同、十[illegible]ヘドモ、悲シキ物ハ、世ノナカニアリ」同、同[illegible]長歌「哭兒成、ゆきとりさぐり、梓弓、弓ズエフリ起シ、シノ[illegible]」

〜なぐさ（名）|慰| ウハベニ人ヲ慰サマシムルコト。心ヲ慰ムル種。萬葉集、四ノ四[illegible]リレノミゾ、君ニハ慰フル、吾ガ兄子ガ、戀フト云フコトハ、言ノ名具左ゾ」同、七[illegible]、[illegible]アラジト、事ノ名ニ、云フ言ヲ、聞キ知レラクハ、少ナカリケリ」同、十[illegible][illegible]

なぐさ（名）投箭 なぐや（投箭）ニ同ジ。猶、なぐ（投）、及、さ（箭）ノ條ヲモ見ヨ。

なぐさみ（名）|慰| [illegible]ズ[illegible]人人ノ[illegible]ユルヤウ」[illegible]古今集、十[illegible]、[illegible]マデハ、サスガ[illegible]タレシ、マキノ戸ニ、ヤスラフホトノ、たぐさみモナシ」拾玉集、[illegible]小山田ノ、[illegible]代ヲ、マカスルヤ、ナガキ春日ノ、[illegible]みニ（二）[illegible]

セシカバ[illegible]ノシミ。又、アソビ[illegible]|翫| [illegible]ハ[illegible]、アルマイ、ヤア、コレニ[illegible]、何デモ[illegible]ヤウナ

なぐさみぐさ（名）|慰種| 慰ムタネ。

なぐさみおと（名）|慰事| ナグサミトナルコト。又、アソビゴト。アソビワザ。[illegible]日記、[illegible]はじかみ、[illegible]ゾなぐさみ事シテ[illegible]リタル[illegible]ルノ、サレバ、何カ[illegible]

〜なぐさ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）|慰| [illegible]ぐト通ズ）物思ヒヲ晴ラシテ、[illegible]ハ、樂シミ遊ブ。心ナグム。[illegible]出[illegible]、月日ノ[illegible]ルママニ、オボシ歎クコト、なぐさむ[illegible]テ、廿五段、山[illegible]ハ[illegible]、「[illegible]、[illegible]ト思ヒ給ノレバ、[illegible]ズバ、[illegible]、[illegible]レバ、苦シキ事セヤミス、[illegible]レキコトモなぐさみクリ」

〜なぐさ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）|慰| 〔[illegible]〕[illegible]リテ樂ム。[illegible]「人ヲなぐさめ」[illegible]ト、[illegible]ノ[illegible]なぐさめテ、今[illegible]ル事ハ[illegible]ワス、[illegible]、サンザンなぐさめテ、[illegible]ル一ハ、ア[illegible]

なぐさ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）|慰| （一）慰ムヤウニナス。物思ヒヲハルケヤリテ、心ヲ和ゲムトス。ナグサメル。萬葉集、[illegible]長歌[illegible]、心ヲアラズ、ソコユエニ、[illegible]知ラズ[illegible]、九[illegible]シニ、[illegible]クリ、[illegible]ノ[illegible]アリケリ[illegible]ム　古今集、十七、雜、上「我ガ心、なぐさめカネツ、[illegible]」[illegible]

タシ」 (三)〔スカス。ダマス。 枕草子、二、十四段「チゴノメノトノ、タダアカラサマニトテイヌルヲ求ムレバ、トカク遊バシなぐさめテ、早ク來ト云ヒヤリタルニ、今宵ハエ參ルマジトテ」 (四)ネギラフ。イタハル。 好色五人女(貞享、西鶴)二、情次第ニテ、何處マデモ參リテ、下向ニハ京ヘ歸リテ、四五日モなぐさめ、折フシ高尾ノ紅葉、云云、オ喝嗽ハ六條參リヲサセマシ」

なぐさめ (名) 慰 ナグサムルコト。ナグサミ。ナグサムルモノ。 萬葉集、十一 九「[illegible]ダニモ、著クシ立タバ、慰逢ニ、見ツツシ居ラム、直ニ逢フマデニ」 源、一、桐壺 三十「御アソビノヲリヲリ、琴笛ノネニキキカヨヒ、ホノカナル御聲ヲなぐさめニテ、內ズミノミ、コノマシウオボエ給フ」 千載集、十四、戀、四「和ヒワビテ、哀トバカリ、打歎ク、コトヨリホカノ、なぐさめゾナキ」

なぐさめ・ぐさ (名) 慰種 心ヲ慰ムル種トナルモノ。ナグサミグサ。 源、四十九、東屋 六廿「少將ノ思ヒアナヅリケルサマナド、ホノメカシテ、命侍ラン限リハ、何カ朝夕ノなぐさめぐさニテ、見スグシツベシ」 慰草(慶安、松永貞德) カクバカリ、なぐさめ草ノ、種ヨリモ、イカデ咲クラン、物思ヒノ花」

なぐさ・もる (動) 慰 〔なぐさむノ延〕 なぐさむ(慰、下二)ニ同ジ。 萬葉集、四 六十 長歌「吾ガ戀フル、千重ノ一重モ、名草漏、心モアレヤト、家ノアタリ、ワガ立チ見レバ」 同、九 廿「草枕、タビノ憂ヒヲ、名草漏、コトモアラムト、筑波嶺ニ、登リテ見レバ」 同、十一 廿二「名草漏、心ハナシニ、カクシノミ、戀ヒヤワタラム、月ニ日ニケニ」 同、十二 八「コヒコヒテ、後モアハムト、名草漏、ココロシナクバ、イキテアラメヤモ」

なぐ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 和 なごし(和)ニ同ジ。 丹後風土記、竹野郡、奈具里「奈具村、天女、云云、謂村人等云、此處我心成奈具志久、乃留居此村」(古事、半善智、云、奈具志久乃留居此村」

なく・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 無亡 〔無く爲、ノ義ニテ、語尾ノ變化ヲ轉ズ〕 無キヤウニス。ウシナフ。ナクナス。失 遺失 宇津保物語、國讓、上 四十九「昔モテツカヒ給ヒシ調度、イササカニ手ナラシ給ヒシホウゴナド、取リ散ラシ給フモノ、なくし給ヒナドシテ」

なぐ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 和 なごす(和)ニ同ジ。

なく・なく (副) 泣泣 泣キツ泣キツ。泣キナガラ。泣キツツ。 名義抄「泣、ナクナク」 源、一、桐壺 六「母君、なくなく奏シテ、マカデサセタテマツリ給フ」 伊勢物語、第四段「夜ノホノボノト明クルニ、なくなく歸リニケリ」 平家物語、一、妓王事「母刀自、コレヲ聞クニ悲シクテ、泣く泣く、又重ネテ、教訓シケルハ」

なく・な・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 無亡 〔無く爲すノ義〕 (一)無キヤウニナス。ナクナラシム。失フ。ナクス。盡ス。失 好色五人女(貞享、西鶴)二五「八年コノ方、オヨソ千貫目ヲなくなしテ、アタラ浮世ニ親ハアサマシク」 (二)〔死ナス。亡 死別 源、四十七、早蕨 八十「年頃、人知レヌモノニ思ヒケム人ヲモなくなしテ、物心細ク、ナガメ居給フナルヲ」 後撰集、廿、哀傷「人なくなしテ、限リナク戀ヒテ、思ヒイリテ、ネタル夜ノ夢」

なく・な・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 無亡 〔無くなる義〕 (一)無キヤウニナル。失ス。盡ク。消ユ。ホロブ。失 亡 竹取物語「手ニカモなくなりテ、腰ナヘカガマリ」 土佐日記、二月十六日「六五年ノウチニ、千年ヤ過ギニケン、片枝ハなくなりニケリ、今生ヒタルゾマジレル」 古今集、二、春、下「花チレル、水ノマニマニ、トメクレバ、山ニハ春モ、なくなりニケリ」 (二)死ヌ。死ス。歿ス。 榮花物語、廿七、衣珠「男君ニテ、ヤガテ、なくなりテ生レ給ヘルヲ」 宇津保物語、俊蔭 二「マタ、オナジコロホヒニ、メノトモなくなりヌ、心ト身ヲ沈メシ程ニ」

なく・ま (副) 〔なくハ、否定ノ助動詞ノぬノ延〕 ナイノニ。 武烈卽位前紀、歌「大君ノ、御帶ノシヅハタ、結ビタレ、誰レヤシ人モ、アヒ思ハなくに」 萬葉集、十一 四十八「眞葛ハフ、小野ノ淺茅ヲ、心ユモ、人引カメヤモ、ワレナラ名國」 古今集、十八、雜、下「シカリトテ、ソムカレなくに、事シアレバ、先ヅ歎カレヌ、アナウ世ノ中」「聞エなくに」

なぐは・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 名細 〔微妙しノ條ヲ見ヨ〕 名、美ハシ。スグレタル名、細シク人ノ耳ニ觸レタリ。名高シ。 萬葉集、三 廿四「名細寸、稻見ノ海ノ、オキツ浪、千重ニ隱ヌ、山跡島根ハ」

なぐはし (枕) 名細 〔前條ノ語意ニ同ジ〕 (一)吉野ノ枕詞。 萬葉集、一 廿三 長歌「神サビタテリ、名細、吉野ノ山ハ、カゲトモノ、大キ御門ユ」 (二)さみの島の枕詞。 萬葉集、二 四十一 長歌「ヲチコチノ、島ハオホケレド、名細之、サミノ島ノ、アリソワニ、廬リテ見レバ」

なぐ・や (名) 投箭 箭ト云フニ同ジ。ナグサ。 萬葉集、十三 三十四「葦邊ユク、鴈ノ翅ヲ、見ルゴトニ、君ガ佩バシシ、投箭シオモホユ」 同、十九 十四 長歌「梓弓、末フリオコシ、投矢モチ、千尋射ワタシ」

なぐら (名) 〔なおり(餘波)ノ轉訛カ〕 漁夫ノ語。浪ト云フニ同ジ。(靜岡)

なぐら・ど (名) 名倉砥 砥ノ一種。三河國、北設樂郡、名倉村ノ山中ヨリ出ヅルモノ。合砥トス。 本草綱目譯義、十、石「三河ニ名倉どト云アリ、コレモ上品ナリ」 毛吹草、三「三河、名倉砥」

なぐり (名) 押緣ナドノ削リ方。

なぐり・がき (名) 擲書 筆ニマカセテ、ナホザリニ書クコト。粗末ニ書キヤルコト。又、ソノ書キタルモノ。

なぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 〔薙ぐ、ノ轉訛カ〕 (一)横サマニ打ツ。タタク。打擲ス。ドヤス。ドヅク。毆打 (二)麁略ニナス。ナゲヤリニス。 (三)ナグリ書キスル。カキナグル。

なぐれ・もの (名) (一)墮落シタル者。オチブレタル者。 (二)賣レ殘リノ物。ロウズモノ。タナザラシノモノ。

なぐ・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ(自動、下一) 〔薙ぐ、ノ轉訛〕 (一)横サマニ逸レ行ク。外ザマニ行ク。 (二)身持クヅル。墮落ス。オチブル。 (三)賣レ殘リトナル。

なげ (名) 投 (一)投グルコト。 (二)相撲ノ手ノ名。腰ト腕トヲ以テ敵ヲ投ゲ倒スコト。投手。此種類ニ、上手投、下手投、小手投、背負投、首投ナドアリ。 (三)圍碁、又ハ、將棊ニテ、結局ニ到ラザル前ニ、勝算ナキヲ認メテ、棊石、又ハ、駒ヲ投ゲ出シテ、負クルコト。 (四)ナゲヤリニ、モノスルコト。 (五)取引所ニテ、賣買何レニテモ損失アルコト明カナル場合、其甚ダシキニ至ラザル前ニ、賣買ヲ結了スルコト。 (六)なげぶし(投節)ノ略。

なげ (名) 歎 ナゲクコト。 萬葉集、十七 二十 長歌「ヌエ鳥ノ、ウラ奈氣シツツ、シタコヒニ、思ヒウラブレ、門ニ立チ、ユフケ問ヒツツ、吾ヲマツト」

なげ (名) 無氣 無キガ如キコト。 狹衣、三、中 二十「カク心ヨリ外ニ、なげノ哀レモ、カクル人ノアラム折ニヤ」 兼盛集「言ノ葉ヲ、なげナルモノト、思ヒセバ、何カハ人ノ、ツラクシモアラム」 源、四、夕顏 十「サルベキ折折ノ御イラヘナド、ナツカシク聞エツツ、なげノ筆遣ヒニツケタルコトノ葉、アヤシウラウタゲニ」 同、四十五、椎本 九十一「なげノ應ヘヲダニモ、セササセ給ハズ」 六帖、四「アハレヲバ、なげ

ノ詞ト、イヒナガラ、オモハヌ人ニ、カクルモノカハ」風雅集、十三、戀、四「カハリタツ、心ト見ユル、ソノウヘノ、なげノ情(ナサケ)ヨ、ヨシヤイツマデ」

なげ-いれ (名) 投入 次條ノ語ノ略。ナゲコミ。雙生隅田川(享保、近松作)二「汝ガ綺麗好キ、云ヒ付ケネドモ、掃除氣味ヨシ、此ノ投げ入れモ、已レヨナ、モギダウナ所、一興一興」記過江戸枝折、五「投入モ、ハエタ如クニ、池ノ坊、シラヌ目カラモ、花ノウエ人」養性插花秘傳圖式、一「投入ハ簡リ閑暇ナレバトテ、拋入立花ノアヒヲトリ、插花コソハ行ハル」

なげいれ-ばな (名) 投入花 〔生花、盛花ニ對ス〕花ヲ插ス一法。茶室ナドノ生花ニ、ツクロハズ、野山ニアル如キ姿ニ生クルコト。略シテ、なげいれ。

なげ-う・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) 〔投げ打つノ義〕(一)〔投ゲテ遣ル。ナゲック。神代紀、上、十八「伊弉諾尊、乃投(ナゲウチテ)二其杖一曰」皇極紀、元年二月「百濟使人、擲(ナゲウツ)二崑崙使於海裏一」(二) 拋擲 放擲ス。ナゲスツ。狂言記、布施無「後世ノ事ナラバ、身モ命モ惜シマズ、財寶ヲなげ打ノテ、後世ヲ頭ヘト云フ事デゴザル」吉野都女楠(正德、近松作)一「ヲサナキ汝ヲ返スコト、彼ノ岩壁ニなげうつ獅子ノ子ヨリ、猶アヤフシ」

なげ-うり (名) 投賣 すてうり(捨賣)ニ同ジ。

なげ-えぼし (名) 投烏帽子 折烏帽子ノ一種。投ゲタル如ク、横ニ折リタルモノ。裝束要領抄名集、「なげえぼうし」古今要覽稿、二百四十一、冠服部「なげえばうし、投烏帽子、云云、甚ダケツケタルヤウニ見ユレバ、モシナエタルエボシノ事ニヤ、名義未レ詳」

なげ-かぎ (名) 投鈎 敵ノ船ナドヘ、ナゲカクル鈎ノモノ。百合若大臣[illegible](近松作)二「敵小船、見レ一ラバ、投鈎、[illegible]、[illegible]、打チ掛ケ打チ掛ケ、乘リ沈メテ打ツベシ」

なげか・く (動) 歎 〔なげくノ延〕なげく(歎)ニ同ジ。萬葉集、十七、四十三、長歌「思フソラ、安クアラネバ、奈氣可久ヲ、トドメカネテ、見ワタセバ」

なげか・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 可歎 次條ノ語ニ同ジ。宇津保物語、俊蔭「[illegible]カクナンイトカタケレバ、ヨルヒルなげかしく」源、一、桐壺「[illegible]ル處ニ、思フヤウナラム人ヲスエテ住マバヤトノミ、なげかしう覺シワタル」

なげか・す (動) 歎 なげく(歎)ノ敬語。ナゲキタマフ。萬葉集、十二、三十四「草枕、客(タビ)ノ紐トク、家ノ妹シ、吾ヲ待チカネテ、嘆(ナゲ)カスラシモ」同、十八、三十四、長歌「生ノ緒ニ、奈氣加須兒等、渡(ワタ)モ、マウケズ、橋ダニモ、ワタシテアラバ」同、同、二十六、長歌「ナミ居リテ、奈介可須妹ガ、イツシカモ、使ノコムト、マタスラム」

なげかは・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 可歎 歎クベクアリ。憂(ウレハ)シク悲シ。ウレフベクアリ。ナゲカシ。

なげか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 歎 〔なげく(歎)ノ延。つぐ、つがふ。なびく、なびかふノ例〕引キツヅキナゲク。ナゲキナゲキス。萬葉集、十七「ワガセコニ、コヒスベナカリ、アシカキノ、ホカニ奈氣加布、アレシカナシモ」同、同、[illegible]長歌「息ヅキアカシ、シタモヒニ、奈氣可布[illegible]」同、[illegible]長歌「晝ハモ、歎(ナゲ)カヒクラシ、夜ハモ、イキヅキアカシ」同、[illegible]長歌「タニハ、入リ居嘆(ナゲカヒ)合ヒ、腋挾ム、兒ノ泣ク毎ニ」

なげき (名) 歎 (一)ナゲクコト。溜息。[illegible] (二)憂ヘ。カナシミ。[illegible] (三)情ヲウチ[illegible]ハ、アヒ思ヘヌ、君ニアレヤモ」[illegible]近松作)中「オ心ヲモドクデナイ、歎キヲカクルガ面[illegible]白フハナケレドモ、ヤッパリ此儘死ナセテクレ」なげきの[illegible]ヘテ云フ語。萬葉集、十五、[illegible]「オキツ風、イタクフトヒバ、ワギモコガ、なげきノ霧ニ、[illegible]」

なげき-ことば (名) 歎詞 かんどうし(感動詞)ニ同ジ。

なげき-こ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 歎樵 〔木ニ寄ス〕歎キノ隙ナキナリ。貫之集「なげきこる、山路ハ人モ、知ラナクニ、我ガ心ノミ、常ニユクラン」赤染衛門集「なげきこる、身ハ山ナガラ、[illegible]、世ノ中ニ、何時[illegible]」古今集、十九、雜、「なげきこる、山トシ高ク、ナリヌレバ、ツラ杖ノミゾ、マヅツカレケル」榮花物語、歌合ニ、海人ノ鹽燒クカタヲ書キテ、なりツミタルなげきノモトニ、書キテカヘシヤル、四方ノ海ニ、鹽ヤクアマノ、心カラ、ヤクトハカカル、なげきヲヤツム」

なげ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 歎 嘆 〔長息(ナガイキ)ノ意〕(一)心ニ思ヒ結ボホルル事アリテ、大息(オホイキ)ス。溜息ツック。歎息ス。萬葉集、十三、[illegible]長歌「此床ノ、ヒシト鳴ルマデ、嘆きツルカモ」古今集、十一、戀、一「ツレモナキ、人ヲ戀フトテ、山彦ノ、答ヘスルマデ、嘆きツルカモ」(二)〔又、專ラ、憂ヘテ息ヅク。愁ヘ哀ム。悲歎ス。[illegible]「[illegible]吾ガ身ハ痩セヌ、嘆ニシ、袖サヘ濡レヌ」同、十四「稻舂(ツ)ケバ、カガル吾ガ手ヲ、コヨヒモカ、殿ノワクゴガ、取リテ奈氣可牟」(三)情ジテ、切ニ願ヒ請フ。[illegible]夜物語事「ナド闇東方ヘハ、御なげき候ハズヤラム」

なげ-くび (名) 投首 [illegible]ケラレタハ、[illegible]スルゾ、フビンナル」

なげ-こみ (名) 投込 (一)ナゲコムコト。(二)插花ニ、[illegible]ノナドツ、穴ニ入ルルコト。

なげ-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) (一)投ゲ入レ込ム。ナゲイル。(二)遣リヤル。[illegible]

なげ-ざん (名) [illegible]

なげ-ざや (名) 投鞘 [illegible]ノ、末ツ長クシテ、後ヘ折リ垂ラシテ置クモノ。[illegible]

なげし (名) 長押 〔なかおし(長押)ノ約〕柱ト柱トノ、中ノ隔ノ上下ヲ限ルモノ。下ナルハ、幅廣ク、面ヨリ高シ。[illegible]後世、鴨居ノ上、又ハ、敷居ノ下ニ、別ニ横ニ長ク互セル假桃ノ材ヲ云ヘリ。上ナルヲ、單ニ長押ト云ヒ、下ナルヲ下長押ト云フ。[illegible]

大鏡、中、道隆「御息ノ第二キサキ目サセタマヒシニモ、長押ヲオリワヅラハセタマヒテ」

なげしまだ（名）投島田〔投首ノ意〕島田髷ヲ、後ヘ、倒レムトスルヤウニ、髻ノ前ヲアヲノケニ結フモノ。洗髪ナド新嫁ニテ結ヒタルハ、意気ナルモノトス。サゲシマダ。 隴鶴問答、六「女子ノ髪ヲ取アグルニ、上﨟ノサゲ髪ヲ始メトシ、アゲ島田、なげ島田、云云、ナド様様」 嬉遊笑覧、一、下、容儀「なげ島田トハ、ナゲ首ナドノナゲノ意ニテ、コレハ後ヘ倒ルル形ヲ云フ」 心中天網島、享保、近松作、下、名残の橋づくし「瞼差取リ上ゲ、洗イツ漉イツ撫デツケシ、ムゴヤ惜シゲモなげ島田、ハラリト切ッテ投捨ツル」 好色一代女（貞享、西鶴）二「人マカセノ専吉ヒ亲モ氣ニ入ラズ、髷ナシノなげしまだ、隠シ結ビノ浮世元結ト云フ事モ、我レ改メテ物好ミ」

なげだ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔投出〕(一)ナゲテ、外ヘ出ス。(二)ナゲックルヤウニシテ、差シ出ス。(三)物事ニ堪ヘズシテ、棄ツ、断念ス。放棄ス。(四)ナゲイダス。伸バス。 一茶句集「投げ出した足ノ先ナリ、雲ノ峰」

なげづきん（名）〔投頭巾〕頭巾ノ頭ヲ、長ク四角ニ縫ヒタルヲ、後ヘ投ゲタル如ク、折レ垂レテ被ルモノ。（傀儡師ナド被ル、黒キ頭巾ト云フモ、是レナリ） 寶蔵（寛文）二、頭巾「思ヒノ淵ニアコガレテ、ハカナク身ヲモなげ頭巾」 大師物語、寛永「年頃六十バカリノ人、ケシノ羽織ニなげづきん」 嬉遊笑覧、二、上、服飾「佐夜中山集ニ、心ヒトツニ、なげ頭巾着テ、イヘバエニ、イハレヌフリヨ、バカ踊、トアレバ、踊ニモ用ヒシト見ユ」

なげつるべ（名）〔投釣瓶〕釣瓶ノ一種、二筋ノ繩ヲツケ、二人ニテ之ヲ持チ、水中ニ投ゲ込ミテ、水ヲ汲ミ揚グルつるべ。溝ヲサラヒ、又ハ、田ニ水ヲカクル等ニ用キル。 和漢三才圖會、五十七、水類「長斗、俗云、东介之流倍」 書言字考節用集、七、器財門「岸桶、ナゲツルベ、農家所用」

なげなくに（副）〔無不〕無クハナキニ、アルモノヲ。ナキニアラズニ。ナイデハナイガ。 萬葉集、四ノ五「吾ガセコハ、物ナ思ヒソ、事シアラバ、火ニモ水ニモ、吾レ莫ナクニ」 同、十五ノ三十三「旅トイヘバ、言ニゾヤスキ、少ナクモ、イモニ戀ヒツツ、スベ奈家奈久爾」

なけなしの（句）〔無氣甚しの義〕アルカナキカナルコト。殆ド無キニ近キコト。アルト云フハ名ノミナルコト。 浮世風呂、文化、三馬、二編、上「椎茸サン、干瓢サント云フ綾ヲシテ、なけ無しの一チャウラヲ、着殺シニ着切ッテ仕マウダ」

なげぶし（名）投節 明暦ノ頃ヨリ、流行セル小唄。 一目千軒、なげぶしノ事「明暦ノ比、カシハヤ又十郎方ノ抱ノタイコ女郎、河内ト云ヘリシモノ謡ヒ始シ也、風流ナル一曲、此河内、生得ノ妙音ナリシカバ、還近ノ人、此ウタノミ唄ニ架リシ人、山ヲナシケリ」 松の葉（元禄）五、古今百首なげ節、をどま「雨ノ降ル夜ハ、ヒトシホユカシ、イツニオロカハ、ナケレドモ」けいせい「宵ノ口説ノ、シラケタアトヲ、啼イテ通ルヤ、ホトトギス、（一例）なげ節ノ事、元来、江戸早齋ノ節ヲナホシテ唄ヒ来ルトカヤ、音調、シメヤカニ、調子ハ低キ方ヨシ、云云、或人、なげ節ハ女ノモテアソビモノナリト云ヒタルモ、優美ナル様ノ辨ヘタレバ、サル事ゾカシ」 洛陽集（延寶）「投節ヤ、親父初音ノ、ホトトギス」 好色一代男、天和、西鶴、六「投節唄フ女ニ、紫様ノツギ棹ヲハズミ」 同、七「世之介ニ彈カセテ、膝枕シテ、サテモ命ハ、ト投節、聞イテ」

なげぼこ（名）〔投戈〕敵ニナゲックル爲ノホコ。 百合若大臣野守鏡（寶永、近松作）一「敵小船ト見ルナラバ、投槍、投戈、投鈎ヲ、打チ掛ケ打チ掛ケ、乘リ沈メテ打ツベシ」

なけむ（句）〔無しノ語根ニ、過去推量ノ助動詞ノけむノ添ヒタルモノ〕ナイデアラウ。ナカッタデアラウ。 名義抄「无、無、ナケム」

なげやり（名）投槍 槍ノ短キモノ、敵ヘ投ゲ遣リテ中ツ。 百合若大臣野守鏡（寶永、近松作）一「敵小船ト見ルナラバ、投槍、投戈、投鈎ヲ、打チ掛ケ打チ掛ケ、乘リ沈メテ打ツベシ」

なげやり（名）〔投遣〕(一)差置クコト。ウッチャッテオクコト。放置 (二)モノゴトヲ、ナホザリニスルコト。オロソカナルコト。放任 好色一代女（貞享、西鶴）五「家ノ買エヲ構ハズ、投げ遣リニスルコトナレバ、總ジテノ問屋、長者ニ似タリ」

なげや・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔投遣〕(一)投ゲテ送ル、投ゲテ與ヘル。 宇治拾遺、四、第十七條「ナジカハ挟マレズヤウヤアルベキ、なげやるトモ挟ミ食ヒテン、トアリケレバ」 枕草子、十二、百四十八段「云云、トテ書キテ、コレヲトラセ給ヘトテなげやれバ、笑ヒノノシリテ」 (二)差置キテ、ソノママニナシオク。ホホカス。ホッタラカス。ウッチャル。放置 好色五人女（貞享、西鶴）一「樽ノ口ヲ明ケテ、醉ハ人間ノタノシミ、萬事なげやりテ、此ノ女中ヲ今日ノ看トテ、タントウレシガリヌ」 (三)モノゴトヲ、ナホザリニスル。オロソカニスル。放任

⁂**な・げる**（動） なぐ（投）ノ口語。

なご（名） もや（靄）ノ方言。（伊豆）

なご（名）〔猜拳〕〔いしなご（擲石）ノ略ナラム〕(一)古ヘノ藏鈎ノ戯。石投子ナド用キテ、握リタルナルベシ。又、ナンゴ。 守武千句「今ハ呼ブトモ、戻ラジト思フ」負ケヌレバ、なごノ勝負モ、ヤメニケリ」握拳ハ、ウキ大ハンニャ」なご呼ブニ、六百貫ヤ、負ケヌラム」 好色一代男、天和、西鶴「扇引、なんご呼デオノツト子供心ニナッテ」 (二)今ハ、なんごト清音ニ呼ビテ、何箇ノ算トス。二人、互ニ碁石ナド數ヲ定メテ持チ、各、其中ノ若干ヲ握リテ出シ、一人、其數ヲ云ヒテ開キ、雙方、合シタル數ヲ言ヒ中ツルヲ勝トス、なごのわたり、及、なんごろ

なごう（名）〔蜃氣樓〕ノ條ヲ見ヨ。

なごし（名）〔夏越〕〔和儀〕〔神ヲ和シノ意ト云フ〕なごしのはらへ（夏越祓）ノ略。陰暦、六月晦ニ行フ大祓。古ヘハ、親王以下、百官、大内裏ノ朱雀門ニ會シ、中臣、祝詞ヲ讀ム。今モ宮中、及、各神社ニテ行フ。淺茅ニテ輪形ヲ作リ、參詣人ヲシテ之ヲクグラセ、祓ヲ行ヒ、菅抜ヲカク。又、撫物トテ、人形ヲ作リ、身體ヲ撫デタルヲ、川原ニ持出シ、歌ヲ唱ヘテ祓フナドノ事アリ。又、十二月晦日ニモ行フ。水無月ノ祓。夏祓。アラニゴノハラヘ、ちのわ（茅輪）、及、おほはらへ（大祓）ノ條ヲモ參見セヨ。 後拾遺集、三、夏「ミナカミモ、荒ブル心、アラジカシ、波モなごしノ、祓シツレバ」 謡曲、水無月祓「今日ハなごしノ輪ヲ越エテ、学リ給ヘヤ」

なご・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔和〕和ギタリ。ナダラカナリ。ナグシ。 枕草子、十二、百四十八段「船ニ波ノカケタル狀ナドハ、サバカリなごかりツル海トモ見エズカシ」 源、三十二、梅枝、六十一「高麗ノ紙ノ、肌細カニなごうナツカシキガ、色ナドハ、ハナヤカナラデ、ナマメキタルニ」

なごしのはらひ（名）〔夏越祓〕次條ノ語ニ同ジ。 下學集、上、人事「名越之祓、ナゴシノハラヒ」 和泉式部集「清キ瀬ニ、なごしのはらひ、シツルヨリ、ヤホヨロヅ代ハ、神ノマニマニ」

なごしのはらへ（名）〔夏越祓〕なごし〔夏越〕ノ條ヲ見ヨ。 八雲御抄、三、下、人事部「なつばらへ、なごしのはらへ、六月」 拾遺集、十八、

習「水無月ノ、夏越の祓へ、スル人ハ、千歳ノ命、延ブトコソ聞ケ」同、二、夏「サバヘナス、アラブル神モ、オシナベテ、今日ハなごしの、はらへナリケリ」

〜なご・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［和］ 和クナス。ナゴムル。ナダム。ナグス。謠曲、[illegible]「設ケテ詠ミ出ヅル歌ノ道、歌ノ道スグナレバコソ、鬼神ヲモ和シ向クナレ、イカデサル浮ベル古歌ノアルベキ」

なごそ（句） 勿來 來ルコトナカレ。

なごとば（名）［名詞］ めいし（名詞）ニ同ジ。體言（タイゲン）。

なごのわたり（名） 〔和（ナゴ）の渡ノ意カ〕 しんきろう（蜃氣樓）ニ同ジ。ナゴウ。（伊勢國四日市ニテ）

なごみ（名）［和］ ナゴムコト。又、ソノ時。爲忠百首、上「荒磯ノ、シホノなごみニ、引キツレテ、汀漕ギ出ヅル、海士ノ釣舟」

〜なご・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［和］ 和クナル。ナゴヤカニナル。和グ。ヤハラグ。ニコム。源、三十八、夕霧「イト若ヤカニ、心ウツクシウ、ラウタキ心、ハタ、オハスル人ナレバ、ナホザリ事ト見タマヒナガラ、オノヅカラなごみツツ物シタマフヲ、イト哀レト覺スモノカラ」堀河百首「古ヘニ、サバヘナシケル、神ダニモ、今日ノミソギニ、なごむトゾ聞ク」新拾遺集、七、[illegible]、春「なごむテフ、神ノシルシモ、ミタラシノ、川ノセ清キ、夏ハラヘカモ」

〜なご・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二） 和 和ムヤウニナス。ナダム。ヤハラグル。ナゴス。謠曲、[illegible]「セブル神ハトビミチテ、螢火ノ如クナリシヲ、事代主ノ神なごめハラヒ給ヒシコソ、今日ノ名越ノ始メナレ」[illegible]「[illegible]、神ノ心ヲ、なごめズバ、八十ノ禍事（マガゴト）、何ト逃レム」

なごん（名）［納言］ 又、なふごん。モノマウスツカサ。大納言（ダイナゴン）、中納言（チュウナゴン）、少納言（セウナゴン）

アリ。各條ヲ見ヨ。

なごや・あふぎ（ナゴヤ・アフギ）（名）［名古屋扇］ なごやせん（名古屋扇）ニ同ジ。

なごや・おび（名）［名護屋帶］ 〔肥前ノ名護屋ニテ、唐絲ヲ以テ組ミ始メタリト傳フ〕（一）文祿前後ヨリ寛永ノ頃マデ、男女共ニ絲ヲ丸打ニシ、緒ニ似タル兩端ニ總ヲツケタルヲ、[illegible]モマハシテ帶ニシタルモノ、色ハ五彩、種種ナリ。嬉遊笑覽、二、上、服飾「名護屋帶、云云、是ヲ肥前名護屋ニテ打タルノミニモアラズ、凡ツ名護屋帶ト云フハ、マヅハサナダノ[illegible]打ナリ、[illegible]、女帶ハ[illegible]付[illegible]四寸位、男帶ハ[illegible]一寸五分位、尤モ糸サナダト云フハ、只一枚ニ織タル物ナリ、なごや帶ハ、[illegible]、名古屋帶、男女ノ帶、糸サナダノ事ナリ、女帶ハ[illegible]ニテ、何レモ[illegible]帶ナリ」（二）後、其製ヲ[illegible]、今ハ、女帶ニテ、前ニ當ル所ヲ半幅ニ縫ヒ、後ニ出ヅル所ダケヲ一幅ニ縫ヒタルモノヲ云フ。

〜なごや・が・したに（句） ナゴヤカナル物ノ下ニ。フハフハシタル夜着ノ下ニ。萬葉集、四「ムシブスマ、なごやが下ニ、臥セレドモ、妹トシネネバ、肌シ寒シモ」

〜なごや・か・に（副）［和］ 和キ狀ニテ。オダヤカニ。オチツキテ。名義抄「[illegible]、ナゴヤカ」字類抄「軟、ナゴヤカ、ヤワラカ、逶迤、ナゴヤカナリ」遊仙窟「[illegible]」源、十、[illegible]「[illegible]ヒテ、ナツカシウ、なごやかニゾオハシマス」同、三十一、眞木柱「氷モ融ケナムカシナド、なごやかニ[illegible]ヒタマヘリ」

なごや・けぬき（名）［名古屋鑷］ なんばうけぬき（南方鑷）ノ條ヲ見ヨ。

なごや・せん（名）［名古屋扇］ 尾張國名古屋ニ産ズル一種ノ製ノ扇子、骨ノ數、密ニ多クシテ、[illegible]ニ[illegible]數ク。ナゴヤアフギ。

ナゴ・らん（名）［名護蘭］ [illegible]、國頭郡、[illegible]ニ産ズ、草[illegible]ニ似テ、[illegible]、白色、花ヲ開ク。

〜なごり（名）[illegible] 〔なみのこり（波殘）ノ略ト云フ〕（一）[illegible]、風吹キ止ミテ、[illegible]、[illegible]マラヌコト、又、[illegible]リタル波ノ、風、凪ギテ後モ、尚、暫シ立チサワギテアルモノ。轉ジテ、なごろ。[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]チサワギテアルモノ。[illegible]ニ、[illegible]イタレバ、なごりシモ[illegible]、[illegible]、なごりノ波イト高シ、ツトメテ、其家ノ女子ドモ出デ、[illegible]ノ濱ニ、なごりヲ高ミ、ワブル海人モ、[illegible]ハ、[illegible]」（二）轉ジテ、[illegible]引去リテ後ニ、尚、ココカシコニ波水ノ殘レルモノ。[illegible]善ク見テナ、家ナル妹ガ、待チ問ハムタメ」同、四「ナニハガタ、潮干ノ名殘、飽クマデニ、人ノ見ル兒ヲ、[illegible]」[illegible]モカナシキ、浦波ノ、なごりイカニト、思ヒヤル哉」（三）又、轉ジテ、汐干タル後、[illegible]ノ岩間、洲崎ノクボミナドニ、波ニオクレテ殘リ居ルさち、きす、かれひ、ひらめ、ナドヤウノ、[illegible]ニ伏ス魚。

なごり（名）［名殘］ 〔前條ノ語ノ轉〕（一）〔物事ノ過ギ去レル後ニ、其氣ノ殘レルコト〕[illegible]、[illegible]レルコト。[illegible] 十一「夕去レバ、君來マサムト、待チシ夜ノ、名殘ゾ今モ、寢ネガテニスル」源、五、若紫「[illegible]ワカシカリツル人ノなごり戀シク、ヒトリエミツツ臥シ給ヘリ」同、九、[illegible]「イトモハカナキ御夢バカリノ、なごりニテ、[illegible]フカク[illegible]リ給フ」（二）[illegible]殘ルコト。[illegible]ニ[illegible]、[illegible]フ[illegible]、[illegible]ノ、なごりハ、惜シクヤハアリヌ」[illegible] 同、廿三、[illegible]ツモノ、なごりサク[illegible]（三）[illegible]、[illegible]、[illegible] 又、[illegible]。[illegible] ノ、花ノなごりハ、惜シクヤハアリヌ」[illegible]セ、四「イカニセム、トマリ有ノ、別レニモ、マサリテ悲シキ、人ノなごりハ」[illegible]レ惜レテ、見シハなごりノ、[illegible]サ[illegible]ノ、花ノ下蔭」[illegible]ニ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]。（四）[illegible]。スルコト。最後ニ物スルコト。又、最後。[illegible]。（五）[illegible]、云云、[illegible]ヲ[illegible]ノ事ナレバ、[illegible]なごりノ[illegible]曲ニ、[illegible]ト[illegible]ニ申サン」[illegible]松竹」[illegible]ノ名殘、[illegible]、[illegible]「名殘ノ[illegible]」「名殘ノ裏」「名殘[illegible]」（五）俳諧ノ附合ノ終ノ部。歌仙ニテハ、終ノ十八句。此中、前ノ十二句ヲ名殘の表ト云ヒ、最後ノ六句ヲ名殘の裏ト云フ。百韻ニテハ、終ノ二十二句。此中、前ノ十四句ヲ名殘の表ト云ヒ、最後ノ八句ヲ名殘の裏ト云フ。

なごりな・し（ナゴリナ・シ）・シキ・シケレ・シク・シク（形、二） [illegible] [illegible]。[illegible]。別ルルコトノナシ。[illegible]セ、[illegible]、[illegible]クタビニ、なごりなしくゾ、ナリマサル、[illegible]クレガタノ、[illegible]」

なごろ（名）[illegible] [illegible] サテ、潮ノウネルコト。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、大波ナリ、[illegible]「其夜、[illegible]ノ[illegible]ナリ、なごろト云フ[illegible]「オナハトイフ所ニテ、[illegible]ト[illegible]、なごろ[illegible]セノ[illegible]ト[illegible]ク[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]タナマツルーナ、[illegible]、[illegible]、なごろ[illegible]、[illegible]クヒシ、[illegible]ハ、[illegible]、[illegible]」

なさう (名) 菜候 〔菜さうらふノ略。賣聲ナリ。さう(候)ノ條ヲ見ヨ〕 古ヘ、村里ノ女ナド、菜ヲ賣リアリク者ノ呼ビ聲。又、其モノ。ナウリ。 三十二番職人盡歌合、十六番、なさう賣「春雨ニ、ニクク立チヌル、花ノ陰ニ、賣ルヤなさうモ、心アラナム」(女ノ、桶ニ菁キ菜ヲ入レテ、頭ニ戴キタルヲ圖ス) 同、三十二番、迷惘「サダメオク、宿モなさうノ、朝夕ニ、通フ內野ノ、道ノ苦シサ」 七十一番職人盡歌合、物賣ノ詞「菜さふらふ」 佐夜中山集、寛文「摘ミウルヤ、都ハ野邊ノ、若菜さう」 宗長手記(大永)「市女、アキ人サリアヘズ、な候、イモ候、ナスビ候、白ウリ候ト、賣聲ニ門ヲ通レド」

なさけ (名) 情 〔中心裂ノ意カト云フ〕 (一)心根。物ノ哀レヲ知ル心。物ヲアハレム心。人情ヲ辨フル心。情愛。アハレミ。慈悲。 名義抄「情、ナサケ、ココロアハレブ」 玉葉集、十八、雜、五「心引ク、方バカリニテ、ナベテ世ノ、人ニなさけノ、アル人ゾナキ」 謠曲、葵上「思ヒ知ラズヤ、世ノ中ノ、なさけハ人ノ爲ナラズ」「なさけヲ圖ム」「なさけ見ユ」 (二)〔風流ノ心。趣味ヲ解スル心。ミヤビナル心。 源、四、夕顏「オホカタニウチミ奉ル人ダニ、ココロシメ奉ラヌナシ、物ノなさけ知ラヌ山賤モ、花ノ陰ニハ、ナホ休ラハマホシキニヤ」 伊勢物語、百一段「其日ハ、アルジマウケシタリケル、なさけアル人ニテ、瓶ニ花ヲサセリ」 續古今集、二、春、下「咲カヌマハ、誰カハ問ヒシ、我宿ノ、花コソ人ノ、なさけナリケレ」 (三)男女ノ戀情。コヒゴコロ。 源、二、帚木「人ノ心ノ時ニアタリテ、ケシキバメラム見ルメノなさけヲバ、エ憑ムマジク思ヒ給ヘ侍ル」 萬代集、十一、戀、三「思寐ノ、吾ガ心ヨリ、見ル夢ヲ、誰ガなさけトテ、袖濡ラスラム」 新續古今集、十四、戀、四「限リソト、別レシ時ニ、云ハヌコソ、思ヘバ人ノ、なさけナリケレ」 謠曲、夕顏「殊ニスグレテ哀レナル、なさけノ道モ淺カラズ、契リ給ヒシ六條ノ御息所ニ通ヒ給フ」 (四)イロゴト。情事。情欲。色情。なさけの種トハ、腹ニヤドシタル情夫ノ子種。情ヲカハシタル男ノ胤。

〔**なさけ-が・る**・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 情 なさけニカケテ思フ。アハレム。 源、十六、關屋「身ヒトツノウキ事ニテ、歎キアカシ暮ラス、タダコノ河內守ノミ、昔ヨリスキ心アリテ、スコシなさけがりケル」

〔**なさけ-だ・つ**・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 情立 なさけアルラシク見ユ。情アリゲニフルマフ。 源、二、帚木「時時思ヒワカヌバカリノ心ニテハ、ヨシバミなさけだたサラナン目ヤスカルベキ」 同、四十五、椎本「モロ聲ハ、オトルマジクコソトアレド、アマリなさけだたンモウルサシ」

〔**なさけ-づく・る**・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 情作 なさけアルラシクヨソホフ。 源、十六、關屋「シバシコソ、サ、ノ給ヒシモノヲ、ナドなさけづくれド、ウハベコソアレ、ツラキコト多カリ」

〔**なさけ-なさけ・し**・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 情情 なさけラシクアリ。情深キヤウナリ。 源、四十八、寄生「心バヘなさけなさけしく、懷カシキ所オハシツル御方ナレバ」 同、三、空蟬「コノ人ノ、ナニ心ナク、ワカヤカナルケハヒモアハレナレバ、サスガニなさけなさけしく、チギリオカセ給フ」

〔**なさけ-な・し**・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 無情 (一)情愛心ナシ。同情ノ心ナシ。無情ナリ。又、アヂキナシ。ツラシ。 伊勢物語、六十三段「世ゴコロツケル嫗、云云、夢語リヲ、ムス子三人ヲ呼ビテ語リケリ、二人ノ子ハなさけなくイラヘテヤミヌ」 源、二、帚木「カバカリ我ニ靡フ心ナラバ、思ヒコリナムト思ヒ給ヘテ、殊更ニなさけなくツレナキサマヲ見セテ、例ノ腹立チ怨ズルニ」 (二)不風流ナリ。風情心ニ乏シ。 源、廿二、玉葛「例ノ船子ドモ、カラドマリヨリ、川尻押ス程ハト歌フ聲ノ、なさけなきモ哀レニ聞ユ」 同、五十一、手習「白キ單衣ノ情なくアサヤギタル、ハカマモヒハダ色ニナラヒタルニヤ」 (三)アサマシ。ウタテシ。アキルルバカリナリ。 榮花物語、藤壺「コノ頃ノ人ハ、ウタテなさけなきマデ着重ネテモ、猶コソ風ナドモ起ルメレ」

〔**な-ざし** (名) 名指 其名ヲ指シテ示スコト。ナアテ。指名。 源、五十一、蜻蛉「猶アヤシノワザヤ、タレニカト、カリソメニモ打聞フ人ニ、ヤガテカクユカシゲナク聞ユル名指ヨト、イトホシク」 狹衣、四、下「今マデ輕輕シキ御名ざしモアルマジキコトナルヲ、一ノ宮ノ御元服アルベキニ」(若君、實ハ入道ノ子ナリ)

なさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 被成 〔爲すノなさニ、敬語助動詞ノるるノツヅキテ(爲したまふノ意)、四段活用ニ變ジタルモノ。たまはる、くださるノ例〕 爲すノ敬語。シタマフ。 大和物語、中「カシハ木ニ、葉守ノ神ノ、マシケルヲ、知ラデタヲリシ、祟りなさるナ」

〔**なし** (名) 梨 〔奈子ノ音カトモ云フ。外國渡來ノ物カ〕 樹ノ名。元來ハ喬木ニシテ、高サ四五丈ニ達スレドモ、通常、栽培セラルルモノハ、灌木狀ニ留ム。花ハ桃ニ次ギテ開キ、花梗、長クシテ、簇リ生ズ、白クシテ五瓣ナリ。花衰ヘテ、葉出ヅ。葉ハ、形、圓ク尖リ、厚クシテ光リ、細カキ鋸齒アリ、互生ス。實ヲ賞スルガ故ニ、梨ヲ作リ、枝ヲ採メテ支フ。實ノ形圓ク、淡褐色ニシテ、密ニ斑點アリ、中ニ黑キ小核、十餘アリ、水氣、多クシテ、美味ナリ、アリノミ。花、實、共ニ、品類多シ、支那ニテハ、材ヲ版木トス。 倭名抄、十七、菓類「梨子、奈之」 本草和名、下「梨、奈之」 字鏡「梨、奈志」 和漢三才圖會、八十七、山果類「梨、按、梨雖ㇾ爲ニ山果、而人家近ㇾ植處、能結ㇾ子、性不ㇾ怕ㇾ寒、故北國最多、奧州津輕、羽州秋田之產、倍ニ於他國者ニ而大、其大者周一尺四五寸、俗呼名ニ大殺ニ」 萬葉集、十四「黃葉ノ、ニホヒハ繁シ、然レドモ、ツマ梨ノ木ヲ、手折リカザサム」(ツマ梨ハ、妻ナシニ掛ク) 新六帖、六「カタチハ、ナリモナラズモ、ツキなしノ、オモヒアヘバヤ、ネテハカタラフ」

〔**な・し**・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 無 〔莫ノ活用〕 (一)有ラズ。存ラズ。 論語、爲政篇「詩三百、一言以蔽ㇾ之、曰、思無ㇾ邪」 孟子、梁惠王、上篇「仁者無ㇾ敵」 同、同「仲尼之徒、無下道ニ桓文之事ニ者上」 同、告子、上篇「無ニ以ㇾ小害ㇾ大」 雄略紀、十三年三月「山ノ邊ノ、小島子ユヱニ、人テラフ、馬ノ八ツケハ、惜シケクモ那斯」 推古紀、十二年四月「善惡成敗、要在ニ于信、君臣共信、何事不ㇾ成、君臣無ㇾ信、萬事悉敗」 萬葉集、一、長歌「此ノ川ノ、絕ユルコト奈久、此ノ山ノ、イヤ高カラシ」 (二)世ニアラズ。死ニタリ。 亡 死 論語、雍也篇「有ニ顏回者ニ、好ㇾ學不ㇾ遷ㇾ怒、不ㇾ貳ㇾ過、不幸短命死矣、今也則亡」 源、四、夕顏「ミヅカラノビスグシ給ヒシ事ヲ、なき御ウシロニロサガナクヤハ、ト宜フ」 謠曲、攝待「御前ニ參リテ侍ヘバ、且ハなき人ノ名ヲモ朽タシ」 同、檜垣「少シノ罪ヲモ遁ルベケレ、亡カラン跡ヲ弔ヒ給ヒ候ヘ」「無き魂」「無き後」「無き影」 (三)家ニ居ラズ。ルスナリ。不在 古今集、十七、雜、上「老イラクノ、來ムト知リセバ、門サシテ、なしト答ヘテ、逢ハザラマシヲ」 貫之集、下「チカドナリナル男、二月三日モトツナガ許ニ至リテ、なかりケレバ、斯クナム參デ來タルト、言ヒ置キテ歸リタル」

〔**な・し**・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 甚 〔痛しノ略〕 他語ニ接シテ、接尾語ノ如ク用キル語。 竹取物語「サル業スル船モナシト答フルニ、怖ヂなきコトスル船人ニモアルカナ、エ知ラデカク云フト覺シテ」 宇治拾遺、九、第一條「心サシアリツル郡司ノ妻ヲ、ウシロメタなき心使ハンコト、イトホシケレド、此人ノ有樣ヲ見ルニ」「苛なし」「荒ケなし」「思ツカなし」「ハシタなし」

〔**なし-あ・ぐ**・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) 爲上 官位ヲススメアグ。ナシタツ。ノボス。 源、四十九、東屋「サルベキ人エリテ、ウシロミヲ設ケヨ、カンダチメニハ、ワレシアレバ、

ケフアスト云フバカリニなしあげテン、トコソ仰セラルナレ」

なしうち（名）[梨子打] 次條ノ語ノ略。書言字考節用集、六、服食門「梨打、ナシウチ、烏帽子制所ノ言」

なしうちえぼし（名）[梨子打烏帽子]〔梨子打ハ當字、なやしうちノ略ニテ、柔ニ作リタル烏帽子ノ意〕揉烏帽子ノ一種。柔ニ作リ、頂、後ヘナビキタルモノ。表ハ鈇子鐵漿染ノ綾ニテ、裏ハ薄樣ヲ黒漆ニテ塗リ、縫ヒテ作ル。古ヘ、兜ノ下ナドニ用キシト。略シテ、なしうち、又、なしうちえぼうしトモ云フ。貞丈雜記、三「梨子打烏帽子ト云フハ、梨子ノ字ハ、字ヲ假リ用ヒタルマデニテ、木ノ實ノ梨子ノ義ニハカカハラヌ事ナリ、なしうちトハなやしうちノ略語ナリ、なやしハ、ヤハラカナルヲイフ、うちハ、作ル事ナリ、ヤハラカニ作リタル烏帽子ナレバナリ」軍用記（寶暦、伊勢貞丈）一「、蓑烏帽子の事、梨子打ゑぼし[illegible]、地ハ綾也（或ハ精好ヲ用ユ）、フシガネ（五倍子鐵漿也）ニテ染、ウラハ、ウスヤウヲ一二枚重テ、カキ（カキシブナリ）ヲ上ニ引テ、ウルシニテヌリ、裏ニ付ル也、少シヤワラカニコシラヘテ、縞アルベカラズ、鉢巻ニ付ヤウアリ、是ハ甲ノ下ニ着スベキタメ也」常徳院殿御動座記「雜色ノ男共十人計リ、なしうちゑぼうし、黒キ直垂ニ返シ股立ヲ高ク取リテ」

なじか（副）〔何しかノ略ト云フ〕イカデカ。イカニシテカ。風雅集、十三、戀、四「猶シバシ、コノ一フシハ、恨ミハテジ、なじかト思フ、ナサケモゾ見ル」三部抄（定家）「ツタナカラン人ノモドキヲバ、なじか、少シモイタシトセム」

なじかえ（副）[何]〔此語、上ニアルトキハ、下ニ反語ノ來ルモノトス。例ヘバ、何じかえ、云云、得ざらむ（得ザラムカハ、得ラルベシノ意）ト云フガ如シ〕イカニシテカ。ドウシテカ。イカデカ。狹衣、一、上「サバカリノ物ハ、なじかえ苦シト思ヒサブラハント申スヲ」宇治拾遺、四、第十七條「大ヒヲ煎リテ酢ヲ懸ケ、云云、イカナリトモ、なじかえ、ハサマレヌヤウヤアルベキ、投ゲヤルトモ挾ミ食ヒテン」三部抄（定家）「なじかえ、サノミ人ワロサモアラン」

なしくづし（名）[濟崩]（一）借リタル金高ノ内ヲ、若干ヅツ、次第ニ返濟スルコト。（二）高利貸ナドニ云フ語。一圓借リテ、毎日十錢ヅツ十五日ニ返シ、計一圓五十錢トナル類。

なしたつ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）[爲立] なしあぐ（爲上）ニ同ジ。源、廿二、玉鬘「物語リノツイデニ、オトドノ御有樣、女御ノ何トモアルマジキ御子ドモ、ミナ物メカシなしたて給フヲ聞ケバ、カカルミタクサ、御モシクゾ覺シナリヌル」

なしぢ（名）[梨子地] 古ク、塵地、蒔繪ニ、金粉、銀粉ヲ撒キテ、其斑點ヲ、梨子ノ膚ノ斑ノ如ク作レルモノ。梨文處ニアルヲ、村梨子地ト云フ。書言字考節用集、七、器財門「撒金、梨地、ナシヂ、本朝俗謂[illegible]金銀屑粉以之撒著漆器謂之梨地也」名物六帖、二、器財箋「撒金、沙金、灑金、ナシヂ」宇津保物語、國讓、下「御前ニハ、古ビタルカハマキエノなしぢノ箱、サヤウナル硯ノ箱スヱテ」

なしつぼ（名）[梨壺]〔庭前ニ梨ヲ植ヱタマヘレバ云フ〕古ヘ、禁中殿舍ノ名。五舍ノ一ニシテ、亦名、昭陽舍。倭名抄、十、居宅類「昭陽舍、奈之豆保、在[illegible]北[illegible]」梨壺の五人トハ、後撰和歌集ノ撰者、大中臣能宣、清原元輔、源順、紀時文、坂上望城ノ稱、天暦五年、勅ヲ奉ジ、梨壺ニ會シテ、和歌ヲ撰ビシ故ニ云フ。

なして（副）ナゼニ。何故。（仙臺、安房）

なしのつぶて（名）[梨礫] [illegible] 音沙汰無シノツブテ。少シモ音沙汰ノナキコト。

なしのまま（副）[成隨] 作リアゲ [illegible] 萬葉集、九 [illegible] ハシムカフ、弟ノ命ハ」

なしばら（名）[生腹] 其人ヲ生ミタル實母。ウミノ母。生母。[illegible] サノ物ナゲカシサナドハ、自ラ洩リツツ、なしばらトノミ思ヒキコエサセ給ヘルカヒナク、媛君モ打ザトケニクク、[illegible] ズ見シラレ給ヒケリ」

なじみ（名）[馴染]〔なれしみ [illegible]〕（一）ナジムコト。馴レタルコト。熟。（二）ナジミシ人。親シキ友。熟知。熟客。[illegible] 三郎[illegible]曾我ノ事、マコトニ、志深クなじみノ久シケレバ、五ニ語リ給ヘバ、ウキドニツケテモ、夜ヤ明ケ日ヤクレン」好色一代男（天和、西鶴）一「馴染ミニ別レテノ當座ハ、自害、出家ニモナルベキ事[illegible]カリ、月フリテ後、夫ヲ求ムルモ」（三）男女、色情ヲ以テ、相親シムコト。情人。情夫。[illegible] イツノたなみ、イツノ[illegible]トモナキニ、是レホド思フラムコソアリガタケレ」[illegible]門松（享保、近松作）中「中シ交シタ事モナク、[illegible]バカリモたなみゾケ、[illegible]」（四）遊郭ニテ、同ジ遊女ヲ[illegible]通ヒテ遊ビシ客。又、遊女ニ、馴染金ソ[illegible]祝儀トシテ出ス[illegible]。[illegible] 是ハ客ノ馳走ニテ、初會ニ[illegible]、其遊女、客ノ心ニ叶ヒ、長ク通フ心ナル者也、多クハ三會目ナレドモ、二會目ニ[illegible]フモアリ、[illegible]ヲ、うらたじみト云也、云云、三會目ニハ[illegible]

なじむ・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）[馴染]（なれしむノ約）（一）馴レテ親シクナル。ナツク。熟。親昵。[illegible]「御所ニテ、[illegible]」好色一代女（貞享、西鶴）[illegible]「ハヤ四年ヤ[illegible]十六[illegible]」[illegible] ノ客トナル。又、馴染金ヲ出シテ客トナル。前條ノ（四）ヲ見ヨ。

なしもの（名）[illegible] 一、[illegible]、鹽辛[illegible]魚腸也、ト[illegible]云云、[illegible]ハ、なしもの、或ハうるかナリ、云云、[illegible]魚腸ヲ鹽藏スル者ハ、なしものト云フ。[illegible]ほかに、鹽辛ニ同ジ。[illegible]

なじる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）[詰]〔[illegible]ノ活用〕問ヒ究ム。咎メ問フ。セメタダス。名義抄「詰、ナジル、セム」[illegible]「[illegible]ナジル」[illegible]

なしろ（名）[名代] 古ヘ、皇族ノ御名ヲ後世ニ傳ヘムガ爲ニ、一部落ノ人民ヲ[illegible]ナシタルモノ。多ク皇嗣ニ入ラザル皇族ニ設ケラレ、ソノ御名、及、御事蹟ノ、後世ニ泯滅セム事ヲ憂ヘタルニ起ル。御子代、御名代[illegible]

なしゑ　(名)　梨子繪　梨子地ノ蒔繪ニ描キタル繪。枕草子、九、九十二段「御前近クハ、例ノ炭櫃ノ火、コチタク起シテ、其レニハワザト人モ居ズ、宮ハ、沈ノ御火桶ノ、梨繪シタルニ向ヒテオハシマス」

なす　(名)　茄　(一)なすび(茄子)ノ略。(二)茶入ノ一種。茶道筌蹄、四、茶入「唐物、往古ハ唐物ノミヲ用ユ、其内、茄子ヲ上品トス」

なす・ス・セ・サ・シ・セ　(自動、四)　寢　(ぬるノなすハ、すノせす。けるノけらす。つむノつます。とるノとらすノ類)　寢、寢ぬノ敬語。ネタマフ。ネサセラル。萬葉集、十七、三十二長歌「吾ヲ待ツト、奈須ラム妹ヲ、アヒテハヤ見ム」同、十九、十八「霍公鳥、夜ナキヲシツツ、我世兒ノ、安寐勿令寢、ユメ情アレ」古事記、上、四十「[illegible]股長ニ、寢ハ那佐ムヲ[illegible]」同、四十四「[illegible]股長ニ、寢ハ那佐ムヲ、アヤニ、ナ戀ヒキコシ」萬葉集、十九、九十「霍公鳥、云云、鳴キトヨメ、安寐不令宿、君ヲナヤマセ」同、十一、八十「玉垂ノ、小簀ノ垂簾ヲ、ユキガチニ、寐ハ不眠トモ、君ハカヨハス」同、十四、卅「奥山ノ、眞木ノ板戸ヲ、トドトシテ、吾ガ開カムニ、入リ來テ寢サネ」同、二、四十「沖津浪、來寄ル荒磯ヲ、色妙ノ、枕ト卷キテ、奈世流妹カモ」

なす・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　爲作　(爲るノ他動)　(一)仕事ヲアツカフ。爲。行フ。源、十、榊四十「ソコラツドモ給フ人ノ、キヌノオトナヒシメヤカニ、フルマヒなしテ、ウチ身ジロギツツ」續古今集、十九、雜、下「埋モレヌ、後ノ名サヘヤ、トメサラン、なすコトナクテ、此世クレナバ」新千載集、十六、雜、上、後二、秋ノ夜ナ夜ナ、月モシモ、なすコトナクテ、身ゾ老イニケル」(二)此物ヲ變ヘテ、彼物ニ爲ス。做　萬葉集、十九「大君ハ、神ニシマセバ、アカ駒ノ、匍匐フ田井ヲ、都ト爲之ツ」「尼ニなしテ」「難キモノニなす」「水ヲ湯ニなす」「取リなす」「言ヒなす」「見なす」

なす・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　成就　(成るノ他動)　コシラフ。作リ出來ス。作リアグ。仕上グ。神代紀、上、四十「吾等所造之國、豈得成乎、少彦名命對曰、或有所成、或有不成」枕草子、一、第四段「ヒンガシノカドハ、四ツ足ニなしテ、其レヨリ御輿ハ入ラセ給フ」

なす・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　生　(生るノ他動)　產ム。產ズ。運歩色葉集「生、ナス、生子」神代紀、上、四十「吾汝心明淨、不有陵奪之意者、汝所生兒、必當男矣」竹取物語、上「女ヲ我ニタベト、伏シ拜ミ、手ヲスリ宣ヘバ、己ガなさヌ子ナレバ、心ニモ從ヘズ、トナン云ヒテ」宇津保物語、藤原君、四、八「此春、子一人なしテ、カクレマシニキ」

なす・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　鳴　(鳴るノ他動)　鳴らす、ニ同ジ。(足ノたす、減ノへすノ如シ)　ウチナス。サナス。萬葉集、十一、六十一「時守ノ、打鳴鼓、數ミ見レバ、辰ニハナリヌ、アハヌモ怪シ」古今集、十二、戀、二「秋風ニ、掻キなす琴ノ、聲ニサヘ、ハカナク人ノ、戀シカルラム」古事記、上、八「孃女ノ、那須ヤ板戸ヲ、オソブラヒ、アガ立タセレバ」(開戸ヲ鳴ラス)　繼體紀、七年九月「イクミ竹節竹、云云、末方ヲバ、笛ニ造リ、吹キ鳴須、云云、三諸ガ上ニ、登リタチ」萬葉集、二、四十長歌「鼓ノ音ハ、雷ノ、聲ト聞クマデ、吹キ鳴流、小角ノ音モ、アタミタル、虎カホユルト」古事記、上、三十「雲鳴」注「訓鳴云那志」萬葉集、五、九長歌「少女等ガ、佐那周板戸ヲ、押開キ」

なす・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　濟　(成すノ義)　借リタルヲ返ヘス。濟マス。償フ。償還　狂言記、八句連歌「誠ニ世話ニモ申ス如ク、借ル時ノ地藏顏、なす時ノ閻魔顏トハ、能ウ申シタモノデ御座ル」

なす・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　寢　寢サス。寢シムル。萬葉集、二、二十四「奧ツ波、來寄ル荒磯ヲ、シキタヘノ、枕トマキテ、奈世流君カモ」同、五、八「何處ヨリ、來リシモノゾ、目間ニ、モトナカカリテ、安眠シ奈佐ヌ」

なす　(接尾)　似　(似すノ轉カト云フ)　似タル意ヲ言フ語　の如く。古事記、上、二「海月ナス漂ヘル」同、上、四十「狹蠅那須皆滿」萬葉集、五、八、三十長歌「五月蠅ナス、騷グ兒等ヲ」同、三、五十四長歌「哭兒ナス、慕ヒ來マシテ」同、十三、二十四長歌、「[illegible]成、ホノカニ聞キテ」續古今集、十二、戀、二「思川、逢瀬待チテト、水沫なす、モロキ命モ、消エ殘ルラム」名詞ノ如ク用ヰタルハ、萬葉集、六、四十八「春草ハ、後ハカレヤスシ、巖成、常磐ニイマセ、カシコキワガ君」同、六、四十四長歌「巖ニハ、山下ヒカリ、錦成、花ハ咲キヲヲリ」動詞ノ如ク用ヰタルハ、萬葉集、一、三十「綜麻形ノ、ハヤシノサキノ、サヌハリノ、衣ニツク成、目ニツク我ガ兒」

なすび　(名)　茄子　(中酸實ノ約略カト云フ)　(一)木本ノ植物、春、種ヲ下ス、高サ二三尺、葉ノ大イサ、掌ノ如シ。夏ヨリ秋ニ亙リ、紫花ヲ開ク、五瓣、相連リテ、葉ハ黄ニ、蒂ハ綠ナリ。實、瓜ノ如ク、形圓ク、長ク、紫黑色ニシテ、瓤ニ細子多シ。鹽漬ニシテ、香ノ物トシ、或ハ炙リ、又ハ、煮テ食フ。略シテ、なす。又、實ニ白キモアリ、綠ナルモアリ、形長キモノヲ、ながなすびト云フ。水茄　實、小サク、初、白クシテ、熟スレバ黄トナルヲ、銀茄子ト云フ。黄茄　又、横ニ廣クシテ竪ニひだアルモノヲ、巾着茄子ト云フ。倭名抄、十七、六菜類「茄子、奈須比」本草和名、下、三十九「茄子、奈須比」小大君集「クヒ所、ミレバウネナル、老なすび、飢エタル人ノ、クヘルナルベシ」兼好法師物見車(寶永、近松作)四季「和田酒盛ヲクサスナ、なすびノ高ノ師直ト」(二)末茶ノ茶入ノ一種　形、山茄子ニ似タルモノ。(三)婦人病ニテ、子宮ノ陰部外ニ露レ出デタルモノ。

なすびがね　(名)　茄子鐵漿　茄子ノ皮ヲ口ニ含ミテ、齒ニ鐵漿ツケタルマナビヲスルコト。少女ノ戲ナリ。又、ソノ齒ヲ、茄子齒ト云フ。水團扇(延寶、俳言)「[illegible]カト、[illegible]前ノ、茄子鐵漿」

なすびは　(名)　茄子齒　前條ヲ見ヨ。

なずらひ　(名)　準　ナズラフコト。ナゾラフコト。ナズラヘ。タグヒ。比較。源、一、桐壺三十三「ナグサムヤト、サルベキ人人ヲ、參ラセ給ヘド、なずらひニオボサルルダニ、イトカタキ世カナ」同、九、若紫六「スコシモなずらひナルサマニモ、モノシタマハズ」

なずらふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ　(自動、四)　準　なぞらふ(準、四段)ニ同ジ。類フ。後撰集、十三、雜、七「歸リ來ル、路ニゾ今朝ハ、迷フラム、コレニなずらふ、花ナキモノヲ」源、四十六、總角六十「マタ此御アリサマニなずらふ人、世ニアリナンヤ」

なずらふ・フ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ　(他動、下二)　準　なぞらふ(準、下二段)ニ同ジ。比ブ。名義抄「準、ナスラフ、儗、ナズラフ、擬、ナズラフ」字鏡九「借、儗也、奈須良不」皇極紀、二年十月「蘇我大臣蝦夷、緣病不朝、私授紫冠於子入鹿、擬大臣位」伊勢物語、廿二段「秋ノ夜ノ、千夜ヲ一夜ニ、なずらヘテ、八千夜シ寐バヤ、飽ク時ノアラム」天武紀、下、二年五月「又婦女者、無問有夫無夫及長幼、欲進仕者聽矣、其考選准宮人之例」

なずらへ　(名)　準　準フルコト。又、似タルモノ。ナゾラヘ。狹衣、一、上九「中將ノ御心ノウチハ、理ゾカシ、暫シハ、サリトモなずらヘナル人アリナムト、タノモシクオボサレシヲ」

なずらへうた　(名)　準歌　漢詩ノ六義ニ擬シテ云フ語。和歌ノ一體ニテ、他ノ物事ニ、タトヘ比ベテ詠ミタルモノ。古今集、序「歌ノサマ六ナリ、唐ノウタニモカクゾアルベキ、云云、三ツニハなずらへうた」

なする・ル・レ・ラ・リ・レ　(他動、四)　(撫摩るノ略カ)　(一)摩リテ付クル。塗リツクル。塗リツクル。ナゾル。塗抹　浮世風呂

(文化、三馬)四編、上「何ダラウネ、男ハ、云云、頭へ青黛ヲ泥ッテ、チト香身タップリノ拵へ」 (二)責任ナドヲ、他へ嫁スル。轉嫁

なせ (名) 名兄 「名ハ美稱ト云フ。せ(兄)ノ條ヲモ見ヨ」男子ヲ親ミテ呼ブ語。セナ。イロセ。イロネ。古事記、下(清寧)「[illegible]少子曰、汝兄先儛」 神代紀、上「[illegible]」 古事記、上「吾夫君尊、何來之晩也、[illegible]」「我那勢命」 萬葉集、十六長歌「イトコ、名兄ノ君」 同、十四「奈勢ノ子ヤ、等里ノ岡道シ、中手折レ、アヲネシ泣クヨ、息ヅクマデニ」(共ニ云フ) 鎭火祭祝詞「吾ガ奈兄ノ命ト申給ヒキ」

なぜ (副) 何故 次條ノ語ノ略。物類稱呼、五、言語「なぜト云フ事ヲ、[illegible]ニテ、たじかいト云フ、云云、常ニ、なぜトハ、胡也、トガメタル言葉也」「なぜソンナコトヲシタカ」なぜ來タカ」なぜ[illegible]フコトヲキカヌカ」

なぜ-に (副) 何故 「何ぞノ轉ト云フ」 如何ナル故ニテカ。ドウシテ。ナンデ。宇津保物語、樓上、上、卌「なぜに、内侍カンノトノノ手ノカギリヒキツクシ給ヘラン、大君ノ習ヒハヘ給ヘランゾ、イト聞キアハセマホシキ」 史記抄、十四十「此四科(徳行、言語、政治、文學)デハアルマイゾ、なぜニト云バ、[illegible]ニナイホトニ」 おあん物語「[illegible]ソレハなぜなれバ、[illegible]ヲ打テバ、櫓モユルユル動キ、地モ裂ケルヤウニ、凄ジイサカヒニ」

なぜ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 詰 なぶる(詰)ニ同ジ。 玉篇字鏡、三六「詰、[illegible]也、[illegible]」 本朝文粹、十二、[illegible] 又、浪浪女[illegible]」

な・ぜる (動) 「なでるノ訛、なづ(撫)ノ條ヲ見ヨ」 塵ヲ掃ク。

なぞ (名) 謎 「なぞ(何)ノ義ニテ、なぞなぞ(謎謎)ノ略」 (一)なぞなぞ(謎謎)ニ同ジ。[illegible]

佐ノ片名ナリ、見ル石ノ面ニ物ハカカザリキ」「御所車、卵、中ニきみガアル」夏ノ夜ノスズミ、新田武貞、あしかガセメル」ナマヨビ、[illegible]ヲカマハラヌ」 (二)トホマハシニ云ヒテ、ソレトサトラシムルコト。又、ソノ言葉。

なぞ (副) 何 何ゾ。如何ナルモノゾ。何故ゾ。ナド。ナゼ。萬葉集、十六、[illegible] 前近キ[illegible]ドモヲ、なぞ、[illegible]シ、ト[illegible]ズルニ」 同、四十八、寄生四十「コハなぞ、アナワカカシ」 同、四十九、[illegible]なぞノ[illegible]ゾ、[illegible]ニイソギ出ヅルハト、日トドメサセ給フ」 拾遺集、十四、戀、四「玉川ニ晒ス調布、サラサラニ、昔ノ人ノ、戀シキヤなぞ」

なぞ (接尾) 抔 など(抔)ノ訛。 おあん物語「[illegible]氣ノ弱キ婦人なぞハ、[illegible]ニ目ヲマハシテ、[illegible]シタ」

なぞ-あはせ (名) 謎合 なぞなぞあはせニ同ジ。古キ雅家ナドシタリ。 小野宮[illegible]「[illegible]カミノキンダチノ物ガタリヨリイデキタリケルなぞあはせ、云云」

なぞ-ことば (名) 謎詞 ナゾノコトバ。[illegible]ノ、ヒヤメシ」一六銀行、質屋」於七、放火」

なぞ-づけ (名) 謎附 [illegible]附ノ類。寛保年中、流行ス、後ニ物附ト云フ、點者ヨリ題ヲ出シ、コレニ附クルモノハ、料錢十文ヲ出ス。一番勝ニハ、金壹歩與フ。[illegible]「古ヘノ[illegible]」[illegible]付トイヒシハ、今ノ物ハ付ナリ」 享保集成絲綸錄、[illegible]ハ、田舍者ノ綿帽子」綿車デスルモノハ、文七元結ノ尺八ノ音色」

なぞ-とき (名) [illegible]

又、道[illegible]、雅家ナドノ[illegible] 浮世風呂(文化、三馬)初編、下「日本一ノ謎解ノ名人ダ」

なぞ-なぞ (名) 謎謎 言葉ニ、物事ノ實ヲ[illegible]テ、[illegible]、何ゾ何ゾト問ヒカケテ、[illegible] 又、ナゾナゾモノガタリ。 枕草子、七、六十八段「人ノなぞなぞあはせシケル所ニ、云云、アナタノ人モ、コナタノ人モ、心モトナク打守リテ、なぞなぞトイフ程、イト心モトナシ」 實方集、小一條殿ニ、なぞなぞ[illegible]ケルニ「スマヒ草、合ハスル人ノ、無ケレバヤ」 拾遺集、八、雜、上「なぞなぞノ物語シタル所ニ、我コトハ、エモイハシロノ、ムスビ松、千年ヲフトモ、誰カトクベキ」 徒然草、百三段「近習ノ人ドモ、なぞなぞヲ作リ解カレケル所へ」 以呂波打聞(寛永)中、なぞ[illegible]、ソレハ[illegible]」 醒睡笑、二「謎ハ玉篇ニ、隱言ナリトイヘリ、和訓ハ何ゾ何ゾトヒニカケテ、[illegible]ゾトユフ」

なぞなぞ-あはせ (名) 謎謎合 [illegible] なぞヲ掛ケアヒ、又、解キアヒテ、ソノ優劣ヲ爭フ遊。ナゾアハセ。前條ノ出典ヲ見ヨ。

なぞなぞ-ものがたり (名) 謎謎物語 謎ヲ言フコト。謎合ヲスルコト。なぞなぞ(謎謎)ノ條ノ出典ヲ見ヨ。「なぞなぞ物語、ヨクトクト譬エケル人ノモトヘ、ツクリテツカハシタリケル歌」

なぞ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 準擬 [illegible] ヒトシク思ノ[illegible] テ、見レド飽カメカモ」 同、八「[illegible]」 獅子、イツシカモ、花ニ咲カナム、[illegible]ツツ見ム」 同、十一「久方ノ、天照ル月モ、カクロヒヌ、何ニ名[illegible]

開ヘテ、妹ヲ偲バム」 同、廿「秋トイヘバ、心ゾイタキ、ウタテケニ、花ニ奈蘇倍テ、見マク欲リカモ」

なぞへ (名) 準 「準ヘノ義」 斜ナルコト。ハスカケ。ハス。傾斜。「なぞへ、切ル」

なぞへ-な・く (副) 無準 [illegible]

なぞら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 準擬 「なぞふノ延、あごふ、あごらふノ類」 次ニ傾ノ。ナズラフ。準ズ。カタクラベ[illegible]

なぞら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) 準 前條ニ同ジ。[illegible]ラザリキ、[illegible]ハ、なぞらヘル、花ニシアラネバ」[illegible]ニ知ラズナマメイ給ヘリシ御クシキ、見知リニシレカバ、なぞらヘヨルベウモアラズ」

なぞら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 準 [illegible] 比ブ。タグフ。ナゾラフ。ナゾフ。[illegible] シリマニハ、なぞらふバキクハヒモナラネド」

ナ-ソ-リ (名) 納蘇利 「[illegible]雅樂ナリ」 [illegible]ナリ。二人ニテ舞フモノ、舞者一人ナル時ハ、[illegible]

納曾利〔二人舞ニ言語〕」

なぞ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔撫で摺る ノ約〕ナスル。スリツクル。コスリツクル。塗抹ス。「筆デなぞる」

なた（名）|鉈|〔薙斷ノ略カト云フ〕（一）刃、厚クシテ、幅、廣ク、稍、弓形ヲナシタル刃物。短キ柄アリ、薪、柴ナド斷ツニ用ヰル。彎刀 字鏡、四十二「鈖、奈太」同、四十三「鈾、奈太」字類抄「鉇、ナタ」増補下學集、下、二、器財門「鉈、挫刀、ナタ」書言字考節用集、七、器財門「鉈、鍋、ナタ、又作ニ山刀ニ」天智紀、六年閏十一月「以ニ錦十四疋、云云釤六十四、刀子六十一枚ニ賜ニ椽磨等ニ」（二）相撲ノ押手ニ、腕ヲ曲ゲテ、敵ノ胸ヨリ喉ヘカケテ押スコト。

なだ（名）|灘|〔波高ノ略ト云フ〕。灘ハ、奔流ナリ、汐瀬ノ意ニ用ヰタルカ、字ハ難水ノ合字、沙川ノ流レ烈シキ所。萬葉集、七、廿三「我馬難ム、家戀フラシモ」ノなづノなだニ轉ジタルカ。正韻「灘、水灘也」、石多キ淺瀬）集韻「灘、水奔流貌」白居易詩「足踏白石灘」ト見ユ）（一）川ノ流レノ早キ所。ハヤセ。瀨。新古今集、二、春、下、曲水宴、月入花灘暗「時ナラズ、瀨ヲモ見ルベキ、月影ノ、ワレテ入リタル、山ノヲチカタ」（二）海路ノ、寄ルベキ湊ノ遠クシテ、渡ルニ難キ所ノ稱、船路ノ難所。又、海ノ廣クシテ、船ノ泊ル所。洋 伊勢物語、八十七段「蘆ノ屋ノ、なだノ鹽燒キ、イトマナミ、ツゲノ小櫛モ、ササズ來ニケリ」伊勢集、廿四「なだノ海ハ、荒レヤマサラム、沖津浪、和マム方ノ、淺キ求メヨ」萬葉集、十七、廿「昨日コソ、フナデハセシカ、イサナドリ、ヒヂキノ奈太ヲ、今日見ツルカモ」太平記、廿、奥州下向勢逢難風事「兵船五百餘艘、宮ノ御座船ヲ中ニ立テテ、遠江ノ天龍なだヲ過ケル時ニ、海風俄ニ吹アレテ、逆浪忽ニ天ヲ卷蕩ス」「遠江灘」「播磨灘」「木島灘」

なだい（名）|名題|（一）物名ヲ表題ニ掲グルコト。又、ソノ表題。（二）轉ジテ、名ノ著キコト。名高キコト。ナウテ。著名（多ク、借字ニ、名代ト記ス）好色二代男（貞享、西鶴）八「男モ名代ノ者ハ、假令、戀ハ楽枯ルトモ爲ヌ事ゾカシ」「名代ノ産物」（三）なだいやくしゃ（名題役者）ノ略。（四）次條ノ略。

なだい-かんばん（名）|名題看板| 略シテ、なだい。なだいやくしゃ（名題役者）ノ條ヲ見ヨ。

なだい-した（名）|名題下| 名題役者ヨリ下ナルコト。又、其役者。

なだい-めん（名）|名對面|（一）又、名謁。ナダメシ。又、問籍。ナノリ。古へ、禁中ニテ、宿直ノ侍臣ナドノ、其名ヲ告ゲテ、出勤ノ由ヲ奏セシコト。字類抄「名謁、ナダイメン」侍中群要、二「日中行事、亥一刻、侍臣名對面事、宿奏之後、奏、侍臣名對、起ニ自ニ延喜元年之比ニ」江家次第、十四、一、御讓位「次藏人日給、次瀧口名謁、殿上名對面」公事根源、下、藏人、御導師ノ居ニカタクル也、事ハテテ名謁アリ、所衆、瀧口マデ皆ナノル」續古事談、二、殿上の一種物「人人、亂舞ノ後、三聲出シテ座ヲ立チテ、御殿ノ廣廂ニテなだいめんハテテ、宮ノ御方ニ參リテ」夏山雜談（寛保、秋山色樹）一「出仕シタリヤ、否ヲ知ラン爲ニ、改ムルニ、各其名ヲ名ルコト、其出仕ノ名ヲ記シタル文ヲ、見參ト云フ」（二）昔、戰場ニテ、互ニ名告ヲアゲシコト。承久記「或ハ物ノ具ノ毛ニツキ、又ハ、名對面ニ付テ」

なだい-やくしゃ（名）|名題役者| 略シテ、なだい。芝居ニテ、上等ノ役者ノ稱。表ノ看板ニ、其名ヲ記スモノ。コレヲ名題看板ト云フ。看板ニ、三尺、又ハ、二尺五寸ノ高下アリ、名ノ上ニ紋ヲ記ス。濃紺ヲ上トシ、朱、綠、靑等アリ、上端ヲ庵形ニシタルヲ、庵看板ト云フ。名題役者ノ次ナルヲ、中通ト云ヒ、名題下中通、ノ間ニ居ルヲ、間中ト云ヒ、其中通ノ頭ヲ、中頭ト云フ。

なだか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）|名高| 名、弘ク世ニ聞ユ。名聲、世ニカマビスシ。評判高シ。高名ナリ。著名。有名。源、七、紅葉賀十「御裝束シ給フニ、名高き御帶、手ヅカラモタセテワタリ給ヒテ」枕草子、五、五十段「エスタキトイヒテ、名だかきシモヅカヘナンアリケル」

なだ-ざけ（名）|灘酒| なだめざけ（灘目酒）ノ條ヲ見ヨ。

なだ-ざより（名）|灘鱵魚| 魚ノ名。だつニ同ジ。

なだ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）|和| ナダラカナリ。溫和ナリ。義經記、二「猛クトモなだしき心モ附ケ、書ノ一卷モ讀マセ」

なだた・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）|名立| 名ニ立ツベクアリ。名ノ立ツヤウナリ。源、九、葵、十八「コレハ、イト善ク言ヒナシツベキ便リナリト覺スニ、イトなだたしう」

なだ・たる（連體）|名立|〔名に立ちてあり、ヲ約メテ、連體形ニ用ヰル語〕名ニ聞エタル。名ノ立チタル。名高キ。評判高キ。高名。源、廿八、野分、二「なだたる春ノオ前ノ花園ニ、心ヨセシ人人、ヒキカヘシ、ウツロフ氣色、世ノ有サマニニタリ」同、三十三、藤裏葉「二葉ヨリ、なだたる園ノ、菊ナレバ、アサキ色ワク、露モナカリキ」後撰集、七、秋、下「數知ラズ、君ガ齡ヲ、ノバヘツツ、名だたる宿ノ、露トナラナム」同、七、秋、下「露ダニモ、なだたる宿ノ、菊ナラバ、花ノ主ヤ、イクヨナルラム」

なだて（名）|名立| 名ニ立ツヤウニスルコト。浮名ヲ立ツルコト。貫之集、二「ウツロハヌ、松ノ名だてニ、アヤナクモ、宿レル藤ノ、咲キテナルカナ」拾遺集、三、秋「秋ノ野ノ、花ノ名だてニ、女郎花、狩ニノミ來ル、人ニ折ラルナ」金葉集、三、秋「女郎花、咲ケル野邊ニゾ、宿リヌル、花ノなだてニ、ナリヤシヌラム」續古今集、春、下、二「トキハナル、松ノ名だてニ、アヤナクモ、カカレル藤ノ、咲キテケルカナ」小町集、十二「名ニシオヘバ、ナホナツカシミ、女郎花、ヲラレニケリナ、我レガなだてニ」重之集、六「マダ咲カヌ、枝ニゾサユル、白雪ハ、花トモイハジ、春ノなだてニ」宇治拾遺、七、二條「サテ、キムダチノ名だてニモアリト云ヒテ」

なたね（名）|菜種| あぶらな（油菜）ノ實。名義抄「蕪菁子、ナタネ」易林節用集（慶長）上、食服門「蕪菁子、ナタネ」竹取物語「菜種ノ大キサオハセシヲ、我ガタケ立チナラブマデ養ヒタル我ガ子ヲ」

なたね-あぶら（名）|菜種油| 略シテ、たねあぶら。アブラナノ實ヨリ搾リ採リタル油。菜油 香油

なだ-ぶね（名）|灘船|（一）灘ヲ越ス大船。（二）攝津國、灘ノ沖ヲ通フ船。

なた-まめ（名）|鉈豆|（一）豆ノ一種。春ノ末、種ヲ下ス。蔓生ニシテ一二丈ヲ延ク。葉ハ、ささげ（豇豆）ヨリ大キク、花モ大キクシテ紫ナリ。莢ノ形、長大ニシテ、曲レルコト、鉈ノ如シ、未熟ナルハ、莢ト共ニ、煮テ食フベシ。豆ノ長サ、八九分、淡紅ニシテ光ル。一名、タチハキ。（九州）刀豆 又、一種、花ノ白キモノアリ、豆モ白シ、しろなたまめト云フ。書言字考節用集、六、生植門「刀豆、ナタマメ（本草）」、挾劍豆、ナタマメ（酉陽雜俎）」好色一代男（天和、西鶴）二「摩耶ヨリ、なた豆ト云フモノ、イトヲカシク生ヒ下リタル垣根」（二）鉈豆煙管ノ略。煙管ノ短ク平タク、延打ノ製ニテ、鉈豆ノ實ニ似タルモノ。

なだま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）|宥| ナダ

ラカニナル。平穩ニナル。ノドマル。[illegible]日吉行幸記「[illegible]御[illegible]ノ神幸、[illegible]會[illegible]之儀、[illegible]八なだまり給フヘキニヤ」

なだ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二)〔和むニ通ズ〕(一)ナダラカニナス。[宥] 和ラゲ[illegible]ム。ナゴム。[illegible][illegible]ナダラカニスル」拾玉集、一「身ノ憂サヲ、思ヒただむる、カヒモナク、騒ギ出デヌル、[illegible]古事談、六、[illegible]「二人ノ妻ヲナラベテ、シカモ其ノ心ヲただむる、極メテ難キ事ナルベシ」[illegible](二)〔寛メ免ス。宥〕[illegible]廿一、乙女「[illegible]ル所ナク、[illegible]ニ[illegible]、ただむるコトナク、キビシウ行ヘトオホセ給ヘバ」[illegible]代記、上、[illegible]信[illegible]、[illegible]年[illegible]以[illegible]「罪有レド赦シ賜ヒツ、咎アレド宥め賜ヒツ」

なだめ ざけ (名) [灘目酒] 〔ただめハ、灘邊ノ轉カ〕攝津國、西宮邊ヨリ、兵庫邊(武庫川口ヨリ湊川口ニ至ル)マデノ海上ヲ、灘目ト云フ、其海岸一帶ノ各地ヨリ製出スル酒ノ稱。品質、優良、池田、伊丹ト竝ベ稱セラル。略シテ、灘酒。

なだめし (名) [名謁] ただいめん(名對面)ニ同ジ。[illegible](宣保、[illegible])二「名謁、ただめし、公事政事ニ、出仕スベキノ人、出デ來タルヤヲ知ラムタメニ、人ヲ改ムルコトニテ、各名ヲ名ノルナリ」

なだらか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 次次條ノ語ニ同ジ。

なだらか・ま (副) [平穩] (一)ユルクナダヤカニ。タヒラカニ。ナマラカニ。ヘイヲンニ。[illegible]名義抄「坪、ナタラカナリ」圩、ナタラカニス」字類抄[illegible]、ナダラカニス」(二)[illegible]カラズシテ。[illegible]。[illegible](三)[長閑] [illegible]平等ニ。[illegible]

ノオコタリヲ、カヘスガヘス聞エテモ、ヤルカタナシ、今ハタダなだらかニ御ランジユルシテ」同、三十四[illegible]ジャハヒモテナシニ、[illegible]ハ、イハケタル御アソビタハブレニ」

〔なだら・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二)平穩ニナス。ナダラカナラシム。ナダラム。[illegible]、ナダラム」[illegible]廿六、[illegible]ノ事ニ、カヨハシただらめテ、カドカドシキ[illegible]」同、二十四、[illegible]今ハ、世ノ中ヲ、ミナサマサマニ思ヒただらめテ」

なだ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [傾] 〔長垂るノ意カト云フ〕(一)斜ニ傾キテアリ。傾斜ス。太平記、廿、八幡炎上事「西へなだれタル尾崎ハ、平地ニツヅキタレバ」(二)斜ニ崩エ落ツ。斜ニクヅレル。頽 [illegible]千首、夏「今日イクカ、猶五月雨ノ、フルハタヲ、ただれニ埋ム、山ノ[illegible]」

なだれ (名) [傾] (一)ナダルルコト。斜ニ傾キタルコト。傾斜「山ノなだれ」(二)斜ニ崩エテ落ツルコト。斜ニ、次第ニ押シテ崩ルルコト。ナデ。頽 [illegible]節用集、一、乾坤門「雪頽、ナダレ」「雪なだれ」人なだれ」(三)(のたれやきばノ略轉カ)刀ノ刃ノ燒ニ云フ語。刃ノ上ニ表ハルル波紋ノ如キ模樣ノ一ト云フ。ノタレ。

なちいし (名) [那智石] 次條ノ語ニ同ジ。好色一代女(貞享、西鶴)五「盆山ニ那智石ヲマキテ、石菖[illegible]ノ[illegible]ミ、[illegible]トシタル[illegible]メ」

なちぐろ (名) [那智黑] 紀伊國、那智ノ海濱ヨリ產ズル石。色、純黑ナリ。試金石、碁石、硯、庭石、ナドトス。那智石。[illegible]紀伊[illegible]、[illegible]ノ名[illegible]、近年[illegible]少シ」

〔なつ (名) [夏] 〔[illegible]ノ[illegible]、冬ノ[illegible]〕

對ス。漢語、熱ト暗合ス」一年、四時ノ第二ニ當ルモノ。春ノ後、秋ノ前(卯月ヨリ水無月マデ)[illegible]五、六月、[illegible]〔三〕[illegible]ノ時、[illegible]シテ、最モ熱キ候ナリ。且、晝ハ長ク、夜ハ[illegible]二十[illegible]集、十七[illegible]長歌「アユ走ル、奈都ノサカリト、島ツ鳥、アユ奈都ト、ワクコトモナク、白妙ニ[illegible]人モ、見エネバ、夏モ白雪ヤ、猶フリシケル、越ノ白山」大嘗三位集「夏ノ日モ、掬ブ泉ノ、涼シキハ、人ニ知ラレデ、秋ヤキヌラン」

な・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ(他動、下二) [撫] 〔長閑ノのどノ活用〕(一)掌ニテ、ナデラカニ擦ル。ナデル。[illegible]抄、八、[illegible]中國[illegible]、ナヅ、[illegible]「[illegible]、奈豆」[illegible]「拷、撫[illegible]也、[illegible]也、奈豆」拾遺集、五、賀「君ガ代ハ、天ノ羽衣、マレニキテ[illegible]ナン」[illegible]「我ガ母ノ、袖持チ奈[illegible]テ、ワガカラニ、泣キシ心ヲ、忘ラエヌカモ」(二)[イックシム。アハレム。イタハル。[illegible]中國ノ而[illegible]也」[illegible]紀、一、丁酉年八月、詔「天下ノ、公民ヲ、惠賜ヒ、撫賜ムトナモ」萬葉集、廿[illegible]吹ハ、奈[illegible]ツツオホサム、アリツツモ、君ガマシツツ、[illegible]シタリケリ」同、六[illegible]長歌[illegible]手モチ、[illegible]ゾ、ネギタマヒ、打[illegible]ゾ、ネギタマフ」(三)齋宮ノ忌詞ニ、うつ(打)ヲ[illegible]。即チ、刑罰ニ、笞杖ニテ打ツノ反語。

なついちご (名) [夏苺] [illegible]

なついん (名) [捺印] 印形ヲオスコト。(覆盆子)ニ同ジ。

父、其押シタル印形。[illegible]式、九、[illegible]六[illegible]大納言[illegible]入賞、[illegible]、[illegible]

なつうめ (名) [夏梅] (一)ナツツバキノ一名。[illegible](二)[illegible]

なつがき (名) [夏牡蠣] [illegible]同ジ。

なつかぐら (名) [夏神樂] 六月ノ祓ニ行フ神樂。夫木抄、七、卯花「なつかぐら、クツヤラン[illegible]、卯ノ花ノ、シラユフカクル、[illegible]ノ[illegible]」

〔なつかげ (名) [夏蔭] [illegible]、[illegible]外、上、[illegible]、[illegible]ツケム、木ノ夏かげ」

なつか・し・シキ・シク・シク・シク・シ・[illegible] [懷] (一)懷クベクアリ。親シムベク睦マシ。父、シタハシ。ユカシ。萬葉集、七、[illegible][illegible]今集、[illegible]、夏[illegible]サヘなつかし、山吹ノ花」萬葉集、十九[illegible]時鳥、イヤなつかシク、[illegible]ナドリツ、なつかしゲニ、[illegible]セ」(二)ナツヤカシ。シタシマホシ。(三)カハユシ。イトホシ。

なつかしぐさ (名) [懷草] なでしこ(撫子)ノ一名。[illegible]なつかしぐさノ、[illegible]ノクレナキ

なつかし・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [懷] ナツカシクス。ナツカシク思フ。ウツクシム。親シム。[illegible]、八、[illegible]ナツカシム、[illegible]

なつがも (名) 〔夏鴨〕 〔四時、我ガ邦ニ居ル故ニ云フ〕 鴨ノ一種。形、まがもニ似、背部ハ暗黒色ニシテ、頬ノ後方ニ青キ光澤アリ、腹部ハ淡紅色ニシテ、黒キ縦紋アリ。味、佳ナリ。又、カルガモ。

なつかり (名) 〔夏刈〕 草ナドヲ、夏ニ刈ルコト。又、ソノ刈リタルモノ。 後拾遺集、三、夏「夏刈ノ、玉江ノ蘆ヲ、フミシダキ、群レ居ル鳥ノ、立ツ空ゾナキ」 千五百番歌合、七「夏刈ノ、蘆フクコヤニ、カヨヒキテ、軒端涼シキ、難波潟風」 拾玉集、四「夏刈ノ、萩ノマロヤノ、旅衣、カヘス夢路ニ、タツ空ゾナキ」

なつがり (名) 〔夏獵〕 夏ノ狩獵。又、くすりがり(藥獵)ニ同ジ。 永久四年百首、夏「夏がりノ、セコガ入ル野ニ、立ツ鹿ハ、秋ヨリサキニ、ネナヤ鳴クラン」

なつき (名) 〔夏季〕 夏ノ季節。夏時

なつぎ (名) 〔夏着〕 夏ノ時候ニ着ル衣。ナツギヌ。ナツゴロモ。夏衣

〔**なづき** (名) 〔名簿〕 〔名付ノ義カ〕 我ガ姓名ヲ記シ付ケタル札。入門、又ハ、降參ノ證ナドニスルモノナリトゾ。又、名簿(ミャウブ)。其條ヲ見ヨ。 宇津保物語、藤原君廿七「人ノソコラタテマツルなづきヲトドメサセ給ヘバ、ソジキ聞ハズトモ仕ウマツリナン」 後拾遺集、十七、雜三、小一條右大將ニ、なづき給フトテ」

〔**なづき** (名) 〔腦〕 〔腦附(懷)(ナツキ)ニテ、頭中ニ寄リアツマル意カト云フ〕 なう(腦)ノ古言。今モ備前ニテ、頭痛ヲ、なづきやみト云フ。 倭名抄、三、頭面類「腦、奈豆岐、頭中髓也」名義抄「腦、ナヅキ」字鏡「髓、奈豆支」天治字鏡、三「腦、骨中脂也、保乃奈豆支」靈異記、中、[illegible]、奈良坂、貴物集、千載集、上、ミヅカラ、なづきヲクダキテ、ウヘヲタスク、實ハ、子ヲクラヒテ命ヲツケリ」 竹取物語、一、されたか、されひどの位爭ひの事、腦砕ノモノテ、自ラなづきヲ打チクダキ」

なつぎく (名) 〔夏菊〕 菊ノ一種。早ク夏ノ頃ニ、花、開クモノ。 本朝若風俗(貞享、西鶴)四「庭ニ夏菊作リナシテ」

〔**なづきだ** (名) 〔竝田〕 ナビキツキタル田。即チ、御陵ナドニ、靡キ附キタル周圍ノ田ノ意。 古事記、中(景行)五十「其地之那豆岐田、云云、爲歌曰、那豆岐能、タノイナガラニ」

〔**なつく**・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔懷〕 〔馴付(ナレツク)ノ意〕 馴レテ付ク。親シミ從フ。馴染ム。 名義抄「懷、ナツク」「馴、ナツク」 字鏡、二「馴、從也、奈豆久」 同、六十「狎、近也、習也、奈豆久」 運歩色葉集「狎、ナヅク(鳥)、懷、ナヅク(人)」 靈異記、上、第二縁、訓釋「馴、奈ツ岐」 萬葉集、六四十「名付西(ナツキニシ)、奈良ノ都ノ、荒レユケバ、出立ツ毎ニ、ナゲキシマスモ」

〔**なつく**・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 〔懷〕 懷クヤウニナス。馴レ親シマシム。ナヅケル。 萬葉集、五廿七「春ノ野ニ、鳴クヤ鶯、奈都氣ムト、我家ノ園ニ、梅ガ花咲ク」

なづく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔名付〕 名ガツク。名ニヨブ。命名セラル。 命名 延慶本、平家物語、四、宇佐神宮娘袴「出家シテ、眞如ト名づきケリ」

なづく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 〔名付〕 (一)名ヲ付ク。ナヅケル。命名ス。 命名 字類抄「名、命、號、稱、ナ、ナツク」 古今集、序「なづけテ、古今和歌集ト云フ」 (二)云フ。ヨブ。トナフ。稱ス。 名義抄「稱、ナヅク」 箕言記、雁かりがね、ソレヨリ文ヲ雁書ト云ヒ、使ハ雁使ト名付くるナリ」「都ヲ東京ト名づく」

なつくさ (名) 〔夏草〕 夏時ニ生ヒ茂レル草。 萬葉集、十四「コノ頃ノ、戀ノ繁ケク、夏草ノ、刈リ掃ヘドモ、生ヒシクガゴト」 拾玉集、四、夏草「深クゾ春ニ、踏リヌル、五月雨越ユル、眞野ノ入江ハ」 新拾遺集、三、夏「押シナベテ、茂ル野澤ノ、夏草ニ、シメ引キ分ケテ、早苗取ルナリ」

〔**なつくさの** (枕) 〔夏草〕 〔夏草ノ、日ニアタリテ萎ユルヨリ云フ〕 萎ゆノ枕詞。同音ノぬ、ねニモ通ズ。 萬葉集、二、二十長歌「夏草乃、思ヒ之萎エテ、夕星ノ、彼往此去(カユキカクユキ)、大船ノ」 同、三、五十「珠藻カル、敏馬(ミヌメ)ヲ過ギテ、夏草乃、野島ガ崎ニ、舟近ヅキヌ」

〔**なつくず** (名) 〔夏葛〕 葛ヲ云フ。夏季、葛ノ纖維ニテ、布ヲ作ルヨリ云フ。 萬葉集、七六四「タチノシリ、鞘ニイリヌニ、葛ヒク吾妹、眞袖モチ、着セテムトカモ、夏クズヒクモ」

〔**なつくずの** (枕) 〔夏葛〕 長く延ふ、又、絶えぬナドノ枕詞。 萬葉集、四九「夏葛の、絶エヌ使ノ、ヨドメレバ、言シモアルゴト、思ヒツルカモ」

なつぐみ (名) 〔夏茱萸〕 樹木ノ名。山野ニ自生シ、莖ノ高サ丈餘、枝葉繁茂ス。枝ハ、ぐみヨリ柔ニシテ、葉ノ形、長楕圓形ナリ、互生ス。春ノ末、葉ノ間ニ花ヲ垂ル、ぐみニ似テ小サシ。實ハ、ふんてんヨリ大キク、ぐみニ次ギテ熟ス。赤クシテ白キ斑アリ、食フベシ。 木半夏

なつぐも (名) 〔夏雲〕 炎暑ノ夕暮ノ空ナドニ、奇峯峻嶺ノ如キ、形ヲナセル雲。地上、及、空氣中ノ水蒸氣ノ上騰シタルモノ。太陽ノ光線、反射シテ、種種ノ色彩ヲナス。 物類稱呼、一、天地「夏雲、ナツクモ、江戸ニテ、坂東太郎ト云、大坂ニテ丹波太郎ト云、播磨ニテ岩くもト云、九州ニテ比古太郎ト云、近江及越前ニテ信濃太郎ト云、加賀ニテいたちぐもト云、安房ニテ峯雲ト云、今案ニ、コレラノ異名、夏雲ノタツ方角ヲサシテイヒ、又其形ニヨリテナヅク」

なつけ (名) 〔懷〕 ナツクルコト。ナツケタルコト。 躬恒集「春ノ野ニ、荒レタル駒ノ、なつけニハ、草葉ニミヲモ、ナサントゾ思フ」

なつげ (名) 〔夏毛〕 鹿ノ毛ノ、夏ニ至リテ、太クコハクナリ、中頃以後、黄ニナリテ、白星、鮮ニ出ヅル頃ノ稱。行縢(ムカバキ)、又ハ、筆等ニ用ヰルニ就キテ云フ。 宇治拾遺、六、第七條「夏毛ノ行縢ハキテ、葦毛ノ馬ニ乘リテ」 七十一番職人盡歌合、上、八番、筆結が歌「ナビクホド、イカガ結ハマシ、我ガタメハ、夏毛ノ筆ノ、心ゴハサヲ」 夫木抄、九、夏鹿「早見ユル、夏けノ鹿ノ、カクロヘテ、富士ノスソ野ニ、茂ルなつ草」 [illegible]、雪來、近松作、中「霧筆、鬼引筆、ソノ筆先ニ金銀モ、ワキテイツミノ壺ノ印、尋ビ夏毛ノ筆、末世ノ寶トナリニケリ」

なづけ (名) 〔菜漬〕 漬菜(ツケナ)ヲ鹽ニ漬ケタルモノ。香の物トス。オハヅケ。 醃菜

なづけおや (名) 〔名付親〕 兒生レテ七日目ニ、其名ヲ命クル人ノ稱。常ニ、多ク、母方ノ祖父ノ命ズルモノトス。名親(ナオヤ)。 俳句新選、夏「紫陽草ヤ、香山居士ヲ、名づけ親」

なつける (動) 〔懷〕 なつく(懷、下二段)ノ口語。

なづける (動) 〔名付〕 なづく(名付、下二段)ノ口語。

〔**なつこ** (名) 〔夏蠶〕 蠶ノ一種。夏ニ至リテ、カヘシテ、飼育スルモノ。起眠スルコト、亦、四度ニシテ、繭ヲ成シ、蛾ニ化スルコト、春蠶ニ同ジケレドモ、其間ノ日數、短シ。二番蠶(ニバンゴ)。カサン。 原蠶 倭名抄、十九、蟲豸類「蠶、奈都古、晩蠶也」

なつこい (形) 馴レ濃シ。

なつこだち (名) 〔夏木立〕 夏ノ候ニ、生ヒ繁レル木立。夏ノコダチ。 綠樹重陰 玉葉集、三、夏「月影ノ、モルカト見エテ、夏木立、シゲレル庭ニ、咲ケル卯ノ花」

〔**なつごろも** (名) 〔夏衣〕 夏着ル衣物。ナツギヌ。ナツギ。 宇津保物語、初秋四十六「今サ

へヤ、スキテ見ユラン、夏衣、ヌギモカフベキ、秋ノ暮レニハ」 千五百番歌合、五「夏衣、急ギカヘツル、カヒモナク、夕[illegible]ネタル、花ノ面影」 六百番歌合、夏「夏衣、薄キカヒコソ、ナカリケレ、袂涼シキ、風モツカネバ」

なつごろも (枕) [夏衣] 〔夏衣ハ、古へ、多ク片絲ニテ織リタルヲ以テ、其片絲ノ約、かとりニ掛ク〕 かとり、ひとへ、うすしナドニカケ、又、衣ニ縁アルひも、すそ、たつナドニカケテ云フ枕詞。 萬葉集、三、夏「夏衣、かとりノ浦ノ、ウタタネニ、浪ノヨルヨル、通フ秋風」 金葉集、三、夏「我レノミゾ、イソギタタレヌ、夏衣、ひとへニ春ヲ、惜シム身ナレバ」 續輔集「夏衣、ひとへニツラキ、人戀フル、我心コソ、ウラナカリケレ」 古今集、十四、戀、四「蟬ノ聲、聞ケバ悲シナ、夏衣、うすくヤ人ノ、ナラムト思ヘバ」 六帖、五「夏衣、うすき心ト、聞クカラニ、言ノ葉サヘヤ、淺レントゾ思フ」 新古今集、三、夏「オノヅカラ、涼シクモアルカ、夏衣、日モ夕暮ノ、雨ノナゴリニ」 金葉集、二、夏「夏衣、すそ野ノ草ヲ、吹ク風ニ、思ヒモアヘズ、鹿ヤ鳴クラム」 拾遺集、二、夏「花散ルト、イトヒシモノヲ、夏衣、たつヤ遲キト、風ヲマツカナ」

なっさなっさ (副) [隨分] なふさなふさ(隨分)ノ條ヲ見ヨ。

なづさはる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔なづさふノ延〕 狎ル。馴染ム。[親昵] 神樂歌、幣「幣帛ニ、ナラマシモノヲ、皇神ノ、御手ニ取ラレテ、なづさはるベク」 六帖、五、上「夜モスガラ、なづさはりヌル、妹ガ袖、名殘惜シク(懷シクイ)モ、オモホユル哉」

なつさぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) [夏寂] 夏季ノ、フケ過グ。夏、更ケル。 拾遺集、四「手ニムスブ、[illegible]ノ流ニ、夏さびテ、涼シクナリヌ、森ノ下風」

なづさふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔[illegible]〕 (一)水ニ漬リ滯ル。水中、一處ニトドコホル。水ニ着ク。浮ブ、沈ム、漂ル、[illegible]。 字鏡[illegible]奈豆佐不」 萬葉集、十五「山ノハニ、月カタブケバ、イサリスル、海人ノ燈火、沖ニなづさふ」 同、三四十八「八雲刺ス、出雲ノ子等ガ、黑髮ハ、吉野ノ川ノ、奥ニなづさふ」 夫木抄、廿五、浦「ナダノ浦ノ、沖ニたづさふ、海松ヲ、汀ノ浪ゾ、年ハコエケル」 萬葉集、六「[illegible]ノ、遠キ渡リヲ、遠[illegible]士ノ、渡ブヲ見ムト、[illegible]ゾ來シ」 同、十[illegible]柿本朝臣人麿集云、鳴鳥ノ、奈津佐比來シヲ、人ミケムカモ」 同、三十五長歌「引ク綱ノ、[illegible]來ムト」 同、十五長歌「波ノ上ユ、奈豆佐比來ニテ」 古事記、下、[illegible] 四十八「水下[illegible]ニ、浮キシアブラ、[illegible]佐比」 [illegible]葉ノ) (二)轉ジテ、馴レ添フ。馴レ携ハル。ナヅク。ナジム。[親昵] 拾玉集、七「尋ネ來テ、なづさふ田子ノ、ウラ風ニ、袂ヲアラフ、春ノ藤浪」 拾遺集、十、神樂歌「御幣ニ、ナラマシ物ヲ、皇神ノ、御手ニ取ラレテ、なづさはマシヲ」 拾遺集草、上「ヨロヅヨノ、春秋君ニ、なづさはム、花ト月トノ、末ゾ久シキ」 源、一、桐壺「常ニ参ラマホシウ、なづさひ見奉ラバヤト覺エ給フ」 同、四、夕顔「イト面立タシウ、なづさひ仕ウマツリケム」 (三)拘泥シテ、進マズ。早ク行カズ。泥ム。 萬葉集、四、長歌「[illegible]ジモノ、[illegible]比ユケバ」 同、九[illegible]アラバ、[illegible]比ワタリ、向ツ尾ノ、櫻ノ花モ、折ラマシモノヲ」

なづさふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [懷] 〔懷キ副ふノ意〕 馴レムツル。馴レシタシム。ナツキ親シム。[昵近] 拾遺集、十六、雜、春「雪ヲウスミ、垣根ニツメル、カラナヅナ、なづさはマクノ、欲シキ君カナ」

なっしょ (名) [納所] (一)年貢ナド納ムル所。 [illegible]所ト云フ[illegible]アリ、今[illegible]シテ稱ス」 (二)禪宗ノ寺院ニテ、施物ヲ納ムル所。又、其役ノ僧。納所坊主。 [illegible]

日錄、文明十六年十一月十日「[illegible]納所[illegible]」 [illegible]寶山大德寺、十月初旬ヨリ一七日ノ法事執リ行ヒ奉ラント、アシ一萬貫、並ビニ米ハ播州ヨリ積[illegible]」

なつぜみ (名) [夏蟬] 蟬ノ一種。夏ノ半ニ、朝早クヨリ暮マデ鳴キ、[illegible]ナルモノ。長サ六分許、[illegible]ハ透明ナリ。ムギワラゼミ。[illegible] 本草綱目啓蒙、廿八、化生類、蟪蛄「ナツゼミ」 宇津保物語、吹上、下「夏ぜみノ、羽ニオク露ノ、消エヌマニ、アフベキ君ト、別カレケルカナ」

なつそ (名) [夏麻] 夏ニ採取スル麻。又、秋ニ至ラズ、夏、引キタル麻ノ緒。 續詞花集、夏「我レニ劣ル、人コソナケレ、山里ニ、夏そ引キ折ル、シハフルヒ人」

なつそひく (枕) [夏麻引] 〔魚釣絲挽く意ニテ、釣絲ヲ引ク[illegible]〕 うなひ(海合)ナドト續ク語ナリト云フ」 うな(海)ニカケテ云フ枕詞。 萬葉集、七[illegible] [illegible]モセズ」 同、十四「[illegible]ニ、舟ハトドメム、小夜フケニケリ」 同、十四「奈都素妣久、宇奈比ヲサシテ、飛ブ鳥ノ、イタラムトゾヨ、アカシタハヘシ」

ナッソリ (名) [納蘇利] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

なつだいこん (名) [夏大根] 大根ノ一種。早春[illegible]、夏、根ヲ採取スルモノ。[illegible]

なつたび (名) [夏足袋] 夏ニ用ヰル足袋。又、徳川時代ニ、[illegible]

なつつばき (名) [夏椿] (一)[illegible]羅樹)ノ一名。其條ノ(二)ヲ見ヨ。ナツツメ。(二)なにはばら(金櫻子)ノ一名。(三)またたび(木天蓼)ノ一名。

なっとう (名) [納豆] [illegible] (一)[illegible]寺納豆[illegible] (二)今、常ニ稱スルモノハ、白大豆ヲ煮テ麴トシ、粘泥ヲ生ズルヲ[illegible]。 なっとうノ道ニツツミ、更ニ[illegible]ニ入レ、溫[illegible]ニ入レテ、[illegible]。 [illegible] いとひきなっとう [illegible]

ニナルヤウニシタルモノナリ。又、京ノ大德寺[illegible]ノ一休納豆ナドアリ。 何レモ[illegible]ナドトシテ食フ。[illegible]

なっとうばうず [illegible]

ニテ、其形、藁ヲ枝ヲ三角ニ折リ曲ゲ、底ニ藁ヲ貼リテ作リタル寺納豆ノ曲物ニ似タレバ云フ」僧ノ帽子ノ俗稱。

なっとうじる (名) 納豆汁 味噌汁ニ大根、牛蒡、人參、芋の子、豆腐、芹ナドヲ細カク刻ミ入レテ煮、擂リツブシタル納豆ヲ加ヘ、カキマハシテ成ル。

なつどうだい (名) 夏燈臺 草ノ名。山野ニ自生スル有毒植物。古名、ニハソ。ニヒソ。多年生ニシテ、早春宿根ヨリ芽ヲ叢生ス、高サ一尺許リ、春ノ末、莖頭ニ五葉ヲ輪生シ、形、倒卵形ニシテ、全緣ナリ。上ニ五枝ヲ分チテ、花ヲ開ク、黄紫色ナリ。甘遂

なっとく (名) 納得 (一)心ニ解シテ、承引クコト。聞キ入ルルコト。得心。ホゾオチ。 易林本節用集「納得」 上、[illegible]「アンマリナ親仁樣ト腹立スル、云云、納得セズ、女夫カ言ヒ合セ、親ヲ騙シテ身代遺セ」 (二)祈願ナドガ、神佛ニ、納受セラルルコト。 吾妻鏡、三、元曆元年五月三日「御心中祈願納得、[illegible]之旨、[illegible]御信心二」

なつどんび (名) 夏鳶 夏ニ着用スル鳶合羽。夏ノいんばねす。薄キせるナドニテ仕立テ、裏ヲ附ケザルモノ。

なづな (名) 薺 〔撫菜ノ義ニテ、愛ヅル意カト云フ〕草ノ名。所在ノ地ニ叢生シ、初生ハ蔬トシ、又、春ノ七草ノ一トナス。莖ノ高サ七八寸、葉ハ、たんぽぽニ似テ、岐アリ。春ノ初、莖ヲ出シ、四瓣ノ小白花ヲ開ク、穗長シ。後ニ、細小ナル莢ヲ結ブ。形、三味線ノ撥ニ似タレバ、さみせんぐさ、又、ぺんぺんぐさノ名モアリ。 倭名抄、十七、野菜類「薺、奈都那」 本草和名、下「薺、奈都奈」 字鏡、九「薺、奈豆奈」 六帖、四「今ハトテ、人ノカレハテ、淺茅生ニ、サレバなづなノ、花ゾ咲キケル」 曾丹集「ミソノフノ、なづなノクキモ、立チニケリ、今朝ノ朝ナニ、何ヲツママシ」 夫木集、一「君カタメ、夜ゴシニツメル、ナナ草ノ、なづなノ花ヲ、見テシノビマセ」

なつなつ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 嫭嫺 美シク、ミメヨシ。嬋娟タリ。 楚辭、九歌、湘君「女嬋媛兮爲余太息」

なづのき (名) 潮ニ浸リテ立テル木。 古事記、下(仁德)「ユラノトノ、トナカノ、イクリニ、フレタツ、那豆能紀ノ、サヤサヤ」

なつば (名) 夏場 (一)夏ノ頃サカル場所。(二)夏ノ頃。夏季。

なつはぎ (名) 夏萩 (一)萩ノ一種。多年生ノ草本ニシテ、夏ヨリ花咲クモノ。 曾丹集「なつはぎノ、ヲフノ茂リヲ、見ルトキゾ、秋來ニケリト、ホドハ知ラルル」 堀河百首「夏はぎノ、ヲチノ垣根ノ、卯ノ花ハ、ヨルサヘ布ヲ、サラスナリケリ」 風雅集、十四、戀、五「露ニダニ、心オカルナ、夏萩ノ、下葉ノ色ヨ、ソレナラズトモ」 (二)襲ノ色目ノ名。表ハ青、裏ハ紫ノモノ。

なつばしよ (名) 夏場所 相撲ニ云フ語。すまふ(相撲)ノ條ヲ見ヨ。

なつはらへ (名) 夏祓 なごし(夏越)ノ條ヲ見ヨ。 後撰集、四、夏「加茂川ノ、水底澄ミテ、照ル月ヲ、行キテ見ムトヤ、夏はらへスル」 公任卿集「姫松ノ、シゲキ所ニ、尋ネキテ、夏はらへスル、心アルラシ」 拾玉集、一「夏祓、更ケ行ク空ヲ、眺ムレバ、頓テ身ニシム、サホノ浦風」 五元集拾遺、夏「夏祓、御師ノ宿札、尋ネケリ」

なつびきのいと (名) 夏引絲 夏蠶ノ繭ヨリ引ケル絲トモ云ヒ、春、養蠶シテ、夏ニ絲ヲ繰リ引ケバ云フトモ云フ。 催馬樂、夏引「なつ引の、白絲七量アリ、衣ニ、織リテモ着セム、マシメハナレヨ」 金葉集、七、戀、上「逢フマデハ、思ヒモヨラズ、夏引の、いとヲシトダニ、云フヲ聞カバヤ」 古今集、十四、戀、四「夏引の、手引ノ絲ヲ、クリカヘシ、コトシゲクトモ、タエントオモフナ」

なつふぢ (名) 夏藤 いはふぢ(岩藤)ノ一名。土用藤トモ云フ。

なつぼし (名) 夏沸瘡 又、なつぶし。アセモヲ、トガメテ出來ルモノ。腫レアガリテ、膿ヲモツ。多ク夏ニ、小兒ノ頭ニ生ズ。

なつまけ (名) 夏負 夏、暑氣ニ弱リテ、痩スルコト。ナツヤセ。アツサアタリ。暑氣中。

なつまけて (副) 夏設 〔まく(設)ノ條ヲ見ヨ〕夏ヲ待チ設ケテ。 萬葉集、八 六「夏儲而、咲キタルハネズ、久方ノ、雨ウチ降ラバ、ウツロヒナムカ」

なづま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 泥滯 ナヅムサマナリ。ナヅムヤウナリ。 榮花物語、十、日蔭鬘「何事モ心苦シゲニ、ウチウチ、なづましゲナリツル人モ」

なつみ (名) 菜摘 菜ヲ摘ミトルコト。 謠曲、二人靜「イマ三吉野ノ河ノ名ノ、菜摘ノ女ト思フナヨ、川淀近キ山陰ノ、香モ懷シキ袂カナ」

なつみかん (名) 夏蜜柑 柑類ノ常綠灌木。高サ一丈許リ、葉ハ楕圓形ニシテ、先端ハ鈍頭、葉腋ニ狹キ翼ヲ具ヘ、初夏ノ頃、葉腋ニ芳香アル白色ノ小サキ花ヲ着ケテ、實ヲ結ブ。實ハ初ハ青ク、後、次第ニ橙黃色トナリ、翌年四月頃ニ至リテ熟ス、大キク、外部ニ疣多クシテ、皮厚シ。酸味強シ。實、花ト共ニアリ、故ニ、はなたちばなノ名モアリ。又、夏柑、盧橘

なづ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 泥滯 (一)滯リ澁ル。トドコホル。スズミガタク[illegible]。難澁ス。惱ミ苦シム。 古事記、中、[illegible]「淺小竹原、腰なづむ、空ハユカズ、足ヨ行クナ」 [illegible]時、[illegible]行ケバ、[illegible] (腰なづむトハ、物ニ腰ヲトラレテ、自由ナラズ、行キナヤムナリ) 萬葉集、七、[illegible]「信土ノ、山川ニ、吾ガ馬なづむ、家戀フラシモ」 同、同、「烏玉ノ、吾ガ黒髮ニ、降リなづむ、天ノ露霜、取レバ消エツツ」 土佐日記、二月七日「來ト來テハ、川ノ堀江ノ、水ヲ淺ミ、舟モ我身モ、なづむ今日哉」 續紀、四十年十月「馬頓而不進」 萬葉集、十九、二十「降ル雪ヲ、腰ニなづみテ、參リ來シ、シルシモ有ルカ、年ノ始ニ」 同、四六「如此シテヤ、猶ヤカヘラム、近カラス、道ノ間ヲ、なづみ參來テ」 源、三十六、柏木「昔、なづみテ、泣キムツカリ、アカシ給ヒツ」 (二)轉ジテ、一方ニノミカカハル。拘泥ス。執着ス。 泥 拘泥 名義抄「泥、ナヅム、滯、ナヅム」 字類抄「滯、ナヅム、馬部屈也、滯、同」 徒然草、二、百五十段「天性ソノ骨ナケレドモ、道ニなづまズ、濫リニセズシテ、年ヲ送レバ、堪能ノ嗜マサルヨリハ、終ニ上手ノ位ニ至リ」「俗説ニなづむ」

なつむし (名) 夏蟲 (一)夏ノ時節ノ蟲。 倭名抄、十九、蟲豸類「夏蟲、奈豆無之」 莊子、秋水篇「夏蟲不可以語於氷者、篤於時也」 (二)夏ノ季、小兒ノ入浴ヲ怠リ、又ハ、厚着ナドニ因リテ起ル瘡。汗性瘡。 (三)〔蠱、蠶蛾〕蟲ナドノ稱。 仁德紀、廿二年正月「那兎務始ノ、譬務始ノ衣、二重着テ」 (四)〔燈蛾、飛蛾〕ナドノ總稱。 萬葉集、九十三長歌「夏蟲ノ、火ニ入ルガゴト、湊入ニ、船漕グゴトク」 古今集、十一、戀、一「夏蟲ノ、身ヲイタヅラニ、ナスコトモ、ヒトツ思ヒニ、ヨリテナリケリ」 後撰集、十三、戀、五「夏蟲ノ、シルシルマドフ、思ヒヲバ、コリヌ悲シト、タレカ見ザラム」 後拾遺集、十四、戀、四「人ノ身モ、戀ニハカヘツ、夏蟲ノ、アラハニ燃ユト、ミエヌバカリゾ」 (五)〔螢火〕ノ稱。 古今集、十二、戀、二「なつむしヲ、何カ云ヒケム、心カラ、吾モおもひニ、燃エヌ

ベラナリ」[illegible]集、三、夏、ほたるヲトラヘテ、云云、汗袗ノ袖ニ包ミテ「ツツメドモ、隠レヌモノハ、なつむしノ、身ヨリアマレル、おもひナリケリ」枕草子、三、廿七段、夏ハ[illegible]むし、イトヲカシク、ラウタゲナリ、火近ウ取寄セテ、物語ナド見ルニ、草子ノ上ナド飛ビアリク、イトヲカシ」 (六)蟬ノ稱。後撰集、二、夏、八重葎、繁キ宿ニハなつむしノ、聲ヨリ外ニ、訪フ人モナシ」 (七)蚊ノ稱。藻鹽草(寛文、僧宗碩)十二、蟲「夏蟲ノ聲、蚊也」

なつめ (名) 棗 〔夏芽ノ義、初夏ニ芽ヲ生ズル故ニ云フ。静岡ニテ、なつうめ、沖縄ニテ、なつみ〕 (一)〔落葉喬木ノ名。高サ二丈餘ニ達シ、夏初ニ至リテ、始メテ芽ヲ出ス。葉、卵形ニテ、先端、尖リテ光リ、互生ス。夏ノ半ニ、葉ノ間ニ花ヲ開ク、白クシテ青ミアリ。實、熟スレバ赤ク、小サクシテ橢圓形ナリ、生食スベク、又、曝シ乾シテ藥トス。枝ニ刺アリ、幹ハ外白ク、內赤クシテ堅シ、支那ニテ版木トス。朝鮮棗ハ、葉、大キク、實モ大キク肥エテ、本、太ク、末、尖ル、亦、乾シテ藥用トス。大棗 倭名抄、十七、果蓏類「棗、奈豆女」 字鏡[illegible]「棗、奈豆女」 同[illegible]「棗、夏女」 本草和名、上、廿六「[illegible]、奈都女」 萬葉集、十六、[illegible]「玉掃、苅リ來鎌マロ、室ノ樹ト、棗ガモトヲ、カキハカムタメ」 (二)末茶ノ茶入ノ一種。形、橢圓形ナルコト、棗ノ實ヲ立テタルガ如キモノ。多クハ黒漆器ナリ。書言字考節用集、七、器財門「棗、ナツメ、[illegible]」 [illegible]長五年正月十六日「[illegible]入れ[illegible]」 [illegible]、同「棗、紹鷗、大中小」

なつもも (名) 夏桃 桃ノ一種。[illegible](早桃)ニ同ジ。五月早桃

なつやせ (名) 夏痩 [illegible]、[illegible]ニ痩スル病。夏マケ。注夏病 書言字考節用集、五、[illegible]門、注夏病、ナツヤセ」 萬葉集、十六、「[illegible]ニ、吾レ物申ス、夏痩ニ、吉シトフモノゾ、鰻取リ食セ」

なつやま (名) 夏山 (一)〔青葉ノヤマ。〕夏季、青葉ノ茂リタル山。[illegible]、八、夏「[illegible]山ノ、コヌレノシジニ、ホトトギス、鳴キドヨムナル、聲ノハルケサ」 拾玉集、四「夏山ノ、岩井ノ水ヲ、ムスブ手ニ、亂レヌ物ハ、心ナリケリ」 貫之集、一「夏山ノ、影ヲシゲミヤ、玉鉾ノ、道行ク人モ、立チドマルラム」 (二)夏季、高山ナドノ神社佛閣ニ參詣スルコト。「夏山ヲカケル」

なつゆき (名) 夏雪 樹ノ名。高サ丈餘、葉ハ、うめもどき(梅擬)ニ似テ長ク、互生ス。夏、枝ノ頭ニ、五瓣ノ花、簇リ開ク。形、さんざし(山樝子)ノ花ニ似テ、稍小サク、色白クシテ、遠ク望メバ、雪ノ如シ。實、秋、熟ス、色、あづき(赤小豆)ノ如ク、食フベシ。

なつら・す ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) 魚釣 なハ食用ニスル魚ヲ云フ。つらす(釣)ノ條ヲ見ヨ。

ナツリ (名) 奈利 ないり(泥梨)ノ條ヲ見ヨ。

なで (名) 〔頽れノ約〕 北國ニテ、春暖ニナリテ、積雪ノ、山、又ハ、屋根ナドヨリ崩レ落ツルコト。北越雪譜(天保、鈴木牧之)一、上「山ヨリ[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ニなだれト云フ、又、なでトモ云フ」

な・で (動) 撫 なづ(撫)ノ條ヲ見ヨ。

なで (辭) 〔過去ノ助動詞ノぬノ變化ナルなノ、ずしてノ意ナルでニ接シタルモノ〕 果テズシテ。伊勢集、三「見モハテズ、空ニ消エなで、カギリナク、歌フウキ身ノ、世ニカヘル[illegible]」 古今集、十[illegible]野ニ、摘マバ若菜ノ、タネハタエなで」 古今集、十三、戀、三「ミルメナキ、我身ヲウジト、知ラネバヤ、カレなでアマノ、足タユククル」 伊勢物語、十四段「夜モ明ケバ、狐ニハメなで(一本、む)、クタカケノ、マダキニ鳴キテ、セナヲヤリツル」

なであ・ぐ グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) 撫上 ナデテ上ヘアゲ、[illegible]。上ヘ向ヒテ撫デ行ク。

なであげ (名) 撫上 頭髪ノ風ノ一。毛髪ヲ上ニ向ヒテ[illegible]、ソノ撫デ上ゲタルモノ。新竹取(貞享)「スマフノ關ナラシニ、云云、小スマヒ始レバ、次第次第ニ大キニナル、仁王ヲソネム大兵ドモ、ドンスビサヤノ三重マハリ、大なで上げニ、牛カウ剃リ」

なでうし (名) 撫牛 陶製、[illegible]ノ牛。商家ナドニテ之ヲ祀リ、吉事アレトテ常ニ撫デ、吉事アレバ、蒲團ヲ重ネ置ク。浮世床(文化、三馬)二編、上「氣ノキカネエ撫牛デ、蒲團ノ上ニ煙草ヲ吞ンデルト」

なでおほ・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 撫生 撫デヤシナヒテ、[illegible] [illegible]ナ、櫻花、包ム春ニモ、アハズト思ヘバ」

なでがく (名) 撫角 〔撫デ取リタル角ノ義〕 匣、角盆、ナドノ、角ヲ、圓ク面取リタルモノ。すみきりがく(隅切角)ノ條ヲ見ヨ。丟角 本朝若風俗(貞享、西鶴)八「萌黄ノ袋打ノ緒[illegible]、なでがく角ノ[illegible]」

なでがくせん (名) 撫角錢 かくせん[illegible](角錢)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

なでかしづ・く ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 撫傅 撫デタリ、サスリタリシテ、世話ス。愛撫シテ傅キ育ツ。榮花物語、三十四、[illegible]、中[illegible]ノ[illegible]、九日ト云フ日ニ失セ給ヒヌレバ、云云、中宮ノ御ノ上、御カタミト、なでかしづき奉ラセ給フ」

なでがた (名) 撫肩 撫デオロシタル如キ、ナダラカナル肩。肩ノ撫デ下ゲタル如キ、張ラヌモノ。女ナドノ。

なでぎり (名) 撫切 撫斬 (一)押シ引キテ切ルコト。押シツケテ撫デルヤウニ切ルコト。(二)多數ノ人ヲ、一人モ殘ラズ、容易ク斬リ殺スコト。[illegible]リハジメトシ、[illegible]、[illegible]攻メホロボシ」

なでしこ (名) 撫子 [illegible]なでしこト云フ」 (二)又、常夏。ナツカシグサ。草ノ名。山野ニ多シ。春、宿根ヨリ芽ヲ出シ、莖ノ高サ尺餘、莖ニ節アリ、[illegible]。小サク、深緑ニシテ對生ス。夏、秋ノ交、[illegible]ノ如シ、淡紅色ナリ。後ニ小サキ角ヲ結ブ、圓ク長シ。内ニ、扁ク黒キ小子アリ。瞿麥 一種、家ニ植エテ花ヲ賞スルモノハ、花大キクシテ、二重、八重、形、色、種種ニシテ、甚ダ美ナリ。唐撫子(石竹)ニ對シテ、和撫子トモ云フ。今、又、河原撫子[illegible]。[illegible]アリ、其條ヲ見ヨ。[illegible]

[illegible]、石竹、ナデシコ、撫子、同、倍字[illegible]何時シカモ、花ニ咲キナム、ナゾヘツツ見ム」同、十七四十[illegible]ハ、[illegible]ノサカリ[illegible]ソ[illegible]十四段、草ノ花ハ、なでしこ、唐ノハサラナリ、やまとモメデタシ」古今集、四、秋、上「我レノミヤ、アハレト思ハム、キリギリス、鳴クタ陰ノ、やまとなでしこ」 (二)襲ノ色目ノ名。表ハ、紅梅ニシテ、裏ノ青ナルモノ。源、廿八、野分十「シヲン、なでしこノ濃キ淡キアコメドモニ、ヲミナヘシノカザミナド」

なでしこ-の-わかば-いろ (名) 撫子若葉色 襲ノ色目ノ名。表ハ、蘇芳、裏ハ、青ノモノ。(源氏裝束抄) 源、廿五、螢十「下仕ヘハ、棟ノ裾濃、なでしこの若葉の色シタル唐衣、ケフノヨソヒ共ナリ」

なで-つ-く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 撫付 (一)撫デテ押シ付ク。撫デテ押ヘツク。 源、三十五、柏木卅八「宮モ起キ居給ヒテ、御鬢ノ末ノ、所狹ウ、ヒロゴリタルヲ、イト苦シト思シテ、額ナド、なでつけテオハスルニ、几帳ヲ引キヤリテ居給ヘバ、イトハヅカシウテ」 (二)髮ノ亂レタルヲ、櫛ニテ搔キ上グ。 心中天網島、享保、近松作、下「髮取上ゲ、洗ヒツ梳イツ撫で付けシ、ムゴヤ惜シゲモ投ゲ島田、ハラリト切ッテ投捨ツル」

なで-つくろ-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 撫繕 カキナデツクロフ。髮ヲ梳リ粧ヒナホス。ナデハダク。 源、四十六、總角四十三「罪モゾ得給フト、御髮ヲなでつくろひツツ聞エ給ヘバ、聰ヘモシ給ハネド」

なで-つけ (名) 撫付 撫付髮ノ略。頭髮ノ風ニ、全髮ヲ結ハズ、頂後ヘ梳キ垂レテオクモノ。ナデツケタル髮。 正章千句「流石浮世ヲ、捨テヌ牢人」がつそうモ、油ヲ付ケツ、なでつけツ」 [illegible]ヲモ云フ) 古き諸[illegible]大[illegible]ノ、內テアラウゾ」撫付ヲ、カキ手拭デ、引キ包ミ」

なでつけ-がみ (名) 撫付髮 前條ニ同ジ。

なで-はだ-く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 撫刷 なでつくろふ(撫繕)ニ同ジ。 保元物語、三、[illegible]幼少の弟達、誅せらるる事「差シ寄ッテ髮結ヒアゲ、汗拭ヒナドシケルガ、年ゴロ日ゴロ宮仕ヘ、旦暮ニ撫でははだけ奉リテ、只今ヲ限リト思ヒケル心ドモコソ、悲シケレ」

なで-ふ (連體) 何云 〔多ク、當字ニ、何條ト記ス、假名遣、違ヘリ〕 何と言ふノ約メナル、何云ふノ約轉。連體形ニ用ヰル。音便ニ、ナンデフ。アデフ。 源、八、花宴七「召寄セタリトモ、なでふ事カアラム」 宇津保物語、俊蔭、上四「コレ(兒)養ハント思フ心ツキテ思ヘド、サル幼キ程ナレバ、なでふ業ヲモエセズ、ツトメテ、近キ河原ニ出デテ遊ビ步ケバ」 同、忠仕廿「ソノ由ハ思(忠仕)ガ母、なでふ契リカ侍リケム、イトラウタク覺エシ程ニ」 同、樓上四十「なんでふ事モ侍ラズ」 竹取物語「カクヤ姬ニ云フヤウ、なんでふ心地スレバ、斯ク物ヲ思ヒタル狀ニテ、月ヲ見給フゾ」

なで-ふ (副) 〔前條ノ語ノ轉。常ニ、下ニ反語ヲ伴フ〕 何トシテ。イカデ。ナンデフ。ドウシテ。 源、四十五、椎本十九「今更ニ、なでふ、然ル事カハ侍ルベキ」 大和物語、上「なでふ、斯ル好步キヲシテ、斯ク佗シキ目ヲ見ルラムト思ヘド」 竹取物語「此世ノ人ハ、男ハ女ニアフ事トス、女ハ男ニアフ事トス、云云、カクヤ姬ノイハク、なんでふ然ル事カ侍ラム、ト云ヘバ」

なで-ボトケ (名) 撫佛 〔病人ナドガ、其像ノ相當部ヲ撫デタル手ニテ、患部ヲ撫デサスレバ、病、平癒スト、故ニ云フ〕 賓頭盧尊者ノ像ヲ云フ。びんづる(賓頭盧)ノ條ヲ見ヨ。

なで-でん (名) 南殿 なんでん(紫宸殿)ノ別稱。其條ヲ見ヨ。 續紀、十二、天平八年正月「天皇宴二羣臣於二南殿一」 源、一、桐壺六廿「一年ノ春宮ノ御元服、南殿ニテアリシ儀式ノ、ヨソホシカリシ御ヒビキニオトサセ給ハズ」「南殿ノ櫻」

なでん-の-さくら (名) 南殿櫻 さこんのさくら(左近櫻)ノ別稱。其條ヲ見ヨ。 源、十二、須磨四十四「南殿のさくらハ盛リニナリヌラン、一年ノ花ノ宴ニ」

なで-もの (名) 撫物 陰陽師ノ身禊ニ用ヰル具。かたしろ(形代)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 運步色葉集、撫物、ナデモノ」 書言字考節用集、三、神祇門「撫物、ナデモノ」 源、四十九、東屋「見シ人ノ、形代ナラバ、身ニソヘテ、戀ヒシキ世世ノ、なでものニセム」同、同十三「ミソギガハ、セゼニイダサム、なでものヲ、身ニソフ影ト、誰レカタノマム」 看聞御記、應永廿六年十二月十九日「在方朝臣、新暦八卦進之、十一日屬星祭勤仕之由申、御撫物進之」

なでもの-づかひ (名) 撫物使 武家時代ニ、撫物ヲ祓ノ場處(川原ナド)ニ持チ行キシ使。撫物役。

なでもの-やく (名) 撫物役 前條ノ語ニ同ジ。

な-でる (動) なづ(撫)ノ口語。

な-ど (副) 何 〔なぞノ轉カ〕 何ト。ナニゾ。何トシテ。何故ニ。アゾ。イカニ。ナゼ。 源、十二、須磨十五「ソノ樣トモ見エヌ人來テ、など、宮ヨリ召シアルニハ參リ給ハヌトテ」 同、二二、常木十「數ナラヌ身ヲ見モ放タデ、など、斯クシモ思フラム」 古今集、三、夏「宿リセシ、花橘モ、カレナクニ、など時鳥、聲絕エスラム」

な-ど (接尾) 抔 〔何とノ音便ナルなんどノ略〕 名詞ニ接キテ、正シク其物ニ限ラズ、外ニモ尙アル意ヲ云フ語。等。ナンド。等或ハ、他ノ種種ノ語句ニモ接キテ、餘事アルコトヲ示ス。 枕草子、十一、百三十三段「院ノ御サジキヨリ、千賀ノ鹽釜などヤウノ御消息、ヲカシキ物など、持テマヰリカヨヒタルなどモ、メデタシ」 源、三、帚木「[illegible]メリなどオホカルヲ」 「何事ソなど問フ」[illegible]言ヒテ」 同、同十二「心ヒトツニ思ヒアマル事などオホカルヲ」[illegible]物ヲ食ヒなどシテ」[illegible]

など-か (副) 何 何トテカ。何故カ。ナゼカ。 [illegible]紀、廿二年[illegible]月「何[illegible]之甚也」

など-ころ (名) 名所 (一)姓名ト、住所ト。住所、姓名。名貫 運步色葉集「名所、ナトコロ」 (二)一器物ノ內ノ箇箇ノ名目。「刀ノ名所」鎧ノ名所」 (三)名所。名高キ所。勝地 謠曲、田村「地主權現ノ花盛リ、ソレ花ノ名どころ多シトイヘドモ、大悲ノ光、色添フ故カ、コノ寺ノ、地主ノ櫻ニ若クハ無シ」

など-て (副) 何トシテ。何故ニ。ナゼ。 源、四、夕顏四三十「胸ヲオサヘテ思フニ、イトイミジケレバ、などて、乘リ添ヒテ行カザリツラム」 清愼公集「オクレヰテ、聞キケルトリハ、アシタヅノ、などてヨハヒヲ、ユヅラザリケム」

など-やか-な (副) ナダラカニ。ノドヤカニ。ノドカニ。ナゴヤカニ。

な-どり (名) 名取 (一)遊藝人ナド、師ヨリ許サレテ、長立チタル藝名ヲ得タルコト。又、其人。(二)名ヲ得タルコト。評判高キコト。又、其人。 長門本、平家物語、十六「大將軍トコソミマヰラセテ候ヘ、キタナシヤ、源氏ノ名取ニ返シ合ハセ給ヘ」 本朝若風俗、貞享、西鶴、六「アレハ東ノ洞院ノ浮世紺屋ノ娘、姿ノおさんト云ヘル名どり」

ナトリウム (名) 〔亞剌比亞語、Natrium. 英語ニハ、そぢうむ(Sodium.)ト云フ〕 金屬元素ノ一。白色蠟狀ニシテ、他ノ物質ト化合シ易ク、水ニ觸ルレバ、直ニ反應シテ水素ヲ發生シ、水酸化なとりうむトナル。故ニ普通、石油中ニ貯フ。鹽素ト化合シテ、食鹽トナリテ、

海水中ニ多量ニ存在ス。

ナトリウム-えん (名) そうだ(曹達)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

なとり-ぐさ (名) [名取草] ぼたん(牡丹)ノ異名。 下學集、下、草木門「牡丹、日本俗云二十日草一又云二名取草一」 書言字考節用集、六、生植門「牡丹、ナトリグサ、名取草、同、俗字」 藏玉集「折ル人ノ、心無シトヤ、名取草、花見ル時ハ、咎モスクナシ」

〔**など-り-み** (副) [和] ナゴヤカニ。 古事記、上三十九「ワガ心、浦洲ノ鳥ゾ、今コソハ、チドリニアラメ、後ハ、那杼理爾アラムヲ、命ハ、ナ死ナセ給ヒソ」

など・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [撫づノ轉カ] 塗リタル上ヲ、復タ塗ル。 書キタル上ヲ、更ニ書ク。ナゾル。抹

〔**なな** (數) [七] 六ニ一ヲ加ヘタル數。ナナツ。シチ。 宇津保物語、俊蔭四「渡レル人ノ悲シサニ、なな瀨ノツドヒテ、ウケタマハルナリ」同、祭使七七「御方々ハ、ユタカニイキホヒテ、七ノタカラヲ、ヤラムカタナクコソオハシマスメレ」 菅門松(享保、近松作)上「ヒイ、フウ、ミイ、ヨ、イツ、ムウ、なな、ヤ、九軒ノ町ニ羽交ハス」「七度(なゝたび)」「七月」

なな-あゆみ (名) [七步] 「七步の才ヲ訓讀シテ略シタルモノ」 しちほのさい(七步詩)ノ條ヲ見ヨ。 拾玉集、二「カラ國ニ、七あゆみセシ、タグヒトヤ、三時ニ足ラデ、歌ラスラ[illegible]」

なな-いろ (名) [七色] (一) しちしき(七色)ニ同ジ。いろ(色、第一語)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。(二) 次條ノ語ノ略。 世[illegible]答(寬保、山崎尤景)「昔ハ庚申ノ七色、甲子ノ七色トテ、鳥目一錢ニテ、七色ノ供物ヲ賣リタリ」

なないろ-ぐわし (名) [七色菓子] 略シテ、七色。 干菓子、砂糖豆、煎餅ナド、七種ノ菓子。 昔ハ庚申待ニ供ヘタリ。(青面金剛ニ、七種ノ供物ヲ奉ス) 俳諧蒙[illegible]集

(萬治)「七種ヤ、七味ノ菓子ニ、カノエ申」 風流夢[illegible]「[illegible]七日[illegible]申ノ日、[illegible]七[illegible]」 後ニ甲子ノ日ニモ、[illegible]供フ。 大江俊在記、享保四年二月廿一日「甲子也、大[illegible]エビ[illegible]、アラヒゴメ、ナラナ[illegible]供[illegible]」

なないろ-たうがらし (名) [七色唐辛] 唐辛ニ、胡麻、山椒、芥子、菜[illegible]、麻實、陳皮ナドヲ細カク碎キテ、粉トシテ雜ゼタルモノ。藥味トス。

なな-か (名) [か(日)ノ條ヲ見ヨ] 日數七ツ。七箇日。なのか。

〔**なな-くさ** (名) [七草] 秋ニ咲ク七種ノ草花ノ稱 秋時ノ觀トス。(春の七種ニ對シテ、秋の七草トモ云フ) 萬葉集、八「秋ノ野ニ、咲キタル花ヲ、指折リ、搔キ數フレバ、七種ノ花」同、同三十九「芽之花、乎花葛花、瞿麥之花、姬部志、又藤袴、朝貌之花」 旋頭歌ナリ。[illegible]トアリ 朝貌ハ槿花ヲ云ヘルカ、牽牛子ヲ云ヘルカ、今、或ハ、朝顏ヲ桔梗ニ代フ。 夫木抄、十一「夏野ヲバ、同ジミドリニ、分ケシカド、秋ゾ織リツル、ななくさノ花」

〔**なな-くさ** (名) [七種] (一) 春ノ新芽ノ若菜ヲ、正月七日ノ會供トスルモノ。初ハ何草ト定マリタルコトナカリシナリ。後ニ芹、薺、御形、繁縷、佛座(田平子)、菘、蘿蔔ノ七種ノ菜ノ稱 然レドモ諸書ニ異同アリ、コレ定マレルコトナカリシ證ナリ。(秋の七草ニ對シテ、春の七種ト云フ) 正月七日ニ、コレヲ羹トシテ食フ、萬病ヲ除クト云フ。後世、七日ノ朝ニ、六日夜ノなゝくさこりト云ノ[illegible]ヲ唱ヘ言シテ、此七菜ヲ打チハヤシ、粥ニ炊キテ食ヒ、七種粥ト云フ。後ニハ、

薺ヲノミ用ヰ、又、後ニハ、あぶらなノ[illegible]ヲ用ヰル。又、古ヘ、正月十五日ニ、米、大豆、赤小豆、粟ナド七種ノ穀菜ヲ雜ヘ煮テ、七種の粥ト云ヘリ。是モ、今ハ變ジテ、赤小豆粥トナル。又、七種ヲ浸シタル水ニ爪ヲ漬シテ取ル、七種爪ト云フ。 拾芥抄、下、末[illegible]、薺、蘩蔞、芹、菁[illegible]、[illegible] [illegible]人ニヤルトテ「春日野ノ、今日なゝくさノ、コレナラデ、君ヲ訪フ日ハ、イツゾトモナシ」 年中行事(中原師光[illegible]十八[illegible]七日[illegible]) [illegible]菜(沙汰人行心法師持參、ナヅナ、ククタチ、牛蒡、ヒジキ、芹、大根、アラメ」 康富記、文安五年正月六日「自二山城綴喜郡大住一獻二七種菜一」 (二)轉ジテ、七月七日、卽チ人日ノ稱。(五節句ノ一)

〔**ななくさ-がゆ** (名) [七種粥] 前條ノ(一)ヲ見ヨ。 [illegible]式[illegible] 粥料、云云、正月十五日供二御七種粥料一(中宮亦同)」 [illegible] 大豆、小豆、粟、栗、柿、ササゲ等也」 簾中抄(藤原資隆)「十五日七種ノ御かゆ、云云」

〔**ななくさ-づめ** (名) [七種爪] 前前條ノ(一)ヲ見ヨ。 八笑人(文化、瀧亭鯉丈)「大根ナ爪ノハエヤウダゾ、七種ノ爪カ」

ななくさ-のたから (名) [七種寶] 佛經ノ七寶ノ訓讀。其條ヲ見ヨ。

ななこ (名) [illegible] 抄「鮞、マス、メアカシ、ナナコ」

ななこ (名) [illegible] [illegible] 織目、密ニ斜ニ打違ヒテ見ユ。魚子ノ

[illegible] チハ地音ノ名ナリ、[illegible]

ななこまち [七小町] 小町ノ七ツノ傳。卽チ、清水小町、雨乞小町、關寺小町、[illegible]小町、卒塔婆小町、[illegible]小町、[illegible]

ななころび-やおき (名) [七轉八起] 七タビコロビテ、八タビオキ上ルコト。數度ノ失敗ニモ屈セズシテ、奮勵スルコト。

〔**ななし** (名) [名無] 名ノ付キテ無キコト。名ノナキコト。無名。 神代紀、下、[illegible]

〔**ななし-の-および** (名) [無名指] (古[illegible]) [illegible]および、さおよびナドノ名アリ。此指ハ名ナカリシカバ云ヘルカ、無名指ノ訓讀。くすしゆび(紅差指)ニ同ジ。 ななしゆびトモ、今、クスリユビ。 [illegible] 下學集、上、支體門「無名指、ナナシノオヨビ[illegible]」

ななし-の-ごんべゑ (名) [illegible]

ななし-ゆび (名) [無名指] [illegible] 書言字考節用集、[illegible]「無名指、ナナシ[illegible]」 [illegible]

〔**ななせ** (名) [七瀨] (一) 七ツノ瀨、又、[illegible] サス七箇所ノ瀨、[illegible]

十四、書紀、難波ノ御ハラヘナド、コトニ大ナルニ　ヨソホシウツカウマツル堀江ノワタリノ御贖シテ」

〜ななせのはらへ（名）七瀬祓　王朝時代、朝廷ニテ行ハセラレタル公事。月毎カ、或ハ、臨時ニ、吉日ヲト定シテ、主上ノ御災禍ヲ負セツル人形ノ御撫物ヲ、七人ノ勅使ニ命ジ、七箇所ノ河海ノ邊ニ持チ行カシメテ、祓ヲナス。其難波、農太、河俣、大島、橘小島、佐久那谷、辛崎ニテ行フヲ、大七瀬、又ハ、七瀬ト云ヒ、耳敏川、川合、東瀧、松崎、石影、西瀧、大井川ニテ行ノヲ、靈所七瀬ト云ヒ、紀川、一條邊、土御門邊、近衞邊、中御門邊、大炊御門邊、二條末邊ニテ行フヲ、加茂七瀬ト云フ。公卿モ之ニ倣ヒテナストゾ。後、鎌倉幕府モ、之ニ準ジテ、由比濱、金洗澤、固瀬川、六連、柚河、杜戸、江島ニテ行ヒタリ。七瀬ノ祓。　榮華物語、塵袋抄、上「七瀬御祓、陰陽師進ル人形、注、入ニ折櫃」有識、書ニ其所共名ニ」　年中行事秘抄、正月「御冷泉院御時、隔月被行ニ靈所七瀬御祓ニ、耳敏川、川合、東瀧、松崎、石影、西瀧、大井川」　簾中抄、下「七瀬祓、カハキ、ミミトセガハ、マツガサキ、イハカゲ、東ノタキ、ニシノ瀧、大井川、コレハ靈所トスルナリ、ツネニハ賀茂川ノななせニテアリ」　吾妻鏡、廿六、貞應三年六月六日「今日爲ㇾ祈ㇾ雨、被ㇾ行ニ靈所七瀬御祓ニ、由比濱、國道朝臣、金洗澤池、知輔朝臣、固瀬河、親職、六連、忠業、柚河、泰貞、杜戸、有道、江島龍穴、信賢、此和泉、國道今度始也」

ななせのみそぎ（名）七瀬禊　前條ノ語ニ同ジ。　年中行事秘抄、正月「七瀬御禊、川合、一條、土御門、近衞、中御門、大炊御門、二條末」　六月ゴトノ、七瀬のみそぎ、タエセネバ、マコトニ清キ、河原トヤ見ン」

〜ななそ（數）七十　十ヲ七ツ合ハセタル數。七十。ナナソヂ。　景行紀、四年二月「夫天皇之男女、前後并八十子、然除ニ日本武尊、稚足彦天皇、五百城入彦皇子ニ之外、七十餘子、皆封ニ國郡ニ、各如ニ其國ニ」

〜ななそぢ（數）七十　（一）前條ノ語ニ同ジ。　欽明紀、七年正月「百濟使人中部奈率己連等罷歸、仍賜以ニ良馬七十匹、船一十隻ニ」（二）年齡ノ數、七十ナルコト。七十歳。　竹取物語「翁ノ年七十ぢニ餘リヌ、今日トモ明日トモ知ラズ」

ななつ（名）七　時ノ名。とき（時）ノ條ノ（三）ヲ見ヨ。　曾根崎心中（元祿、近松作）道行「アレ數フレバ、曉ノ七つノ時ガ六ツ鳴リテ、殘ル一ツガ今生ノ、鐘ノ響キノ聞キ納メ、寂滅爲樂ト響クナリ」

〜ななつ（數）七　（一）六ニ一ヲ加ヘタル數。ナナ。七。　雄略紀、二年十月「幸ニ御馬瀬ニ、命ニ虞人ニ縱獵、凌ニ重𪊲ニ赴ニ長莽ニ、未ㇾ及ニ移影ニ、獮ニ什七八ニ」　枕草子、九、百十三段「齋院ノ垣下ニ參リタル、殿上人、所ノ衆、辨、少納言ナド、七つヤツ引キツヅケテ、院ノカタヨリ、ハシラセテクルコソ、云云」（二）年齡ノ數、七ツナルコト。七歳。　宇津保物語、樓上、下「來年ハななつニナリ給フ」

ななついろは（名）七以呂波　昔、手習ノ手本ニ、以呂波ヲ七體ニ書キ分ケタルモノ。　艶狩劍本地（寶永、近松作）四「三ツデ髮置、五ツデ袴着、六ツデ寺入リ、上ゲル手本ノ數數ハ、七ついろはノ年ヨワ七ツ」

ななつうめ（名）七梅　（一）紋所ノ名。梅鉢紋ノ七瓣ナルモノ。（二）銘酒ノ名。　文政の川柳「六ツノ花、見ニ七つ梅、サゲテユキ」

ななつかはぎ（名）七束脛　やつかはぎ（八束脛）ノ條ヲ見ヨ。

ななつげ（名）三毛　〔鉾毛ノ意カト云フ〕指ニ聚リ生フル毛。足ノ大指ノ爪ノ甲ノ後ヲ三毛トス。聚毛。䏶。　書言字考節用集、六、肢體門「聚毛、ナナツゲ、又、同上、三毛、足大指毛也」　其角の句「ななつげノ、數ニ苦シムヤ、足袋鬼」

ななつこぢよろ（名）七小女郎　〔猿樂狂言ニ、七ツニナル子ガ、殿ホシト唄ヒシコトアリ、又、大幣ニ、七つ子ト云フ曲名アリト、コレラニ拘泥スルハ、非ナリ〕　唄ノ一種。お夏小女郎ノ作リ替ヘナリ。　嬉遊笑覽、四、下「いろはは前達伊勢イセ參ル、伊勢ノ長者ノマガリ木ノモトデ、七つ小女郎ガ、八ツ子ヲウムデ、ウムニャウマレズ、オロスニャオリズ」注、江戸ニテウタフ處、少シ異ナリ」

〜ななつこのかがみ（名）七子鏡　七稜ノ鏡カト云フ。周圍ニ七ツノ小サキ鏡アリテ、七曜ノ紋ノ如キ形セル鏡。　神功紀、五十二年九月「久氐等從ニ千熊長彥ニ詣之、則獻ニ七枝刀一口、七子鏡一面、及種種重寶ニ」

ななつさがり（名）七下　（一）晩ノ七時ヲ過ギタル頃。（午後四時過）暮ニ近キ時。ナナツスギ。中下　甲陽軍鑑、九、上、品第廿四「先、下下ヨリ、噪ギタッテ、其ノ日、七つさがりニ、伊奈衆コトゴトク陣ヲハラノテ、濁リノク氣色ヲ見テ」（二）俗ニ、衣ノ染色ノ褪メタルナドニ云フ語。又、物ノ古ビタルコト。（物ノ新シキヲ云フ巳時ニ對ス）（三）缺タルシ來ルコト。傾キカカルコト。　浦島年代記（元祿、近松作）二「中シ中シ旦那、日ハ疊ッテ刻限ハ知ラネドモ、我ガ腹ハ七つさがり、先ニ仙人ガアルヤラナイヤラ、當テモナキ足賃シ」

〜ななつさやのたち（名）七鞘太刀　古代ニアリシト云フ太刀ノ、七ツニ分レテ、七ツノ鞘ニ、ヲサムルモノカト云フ。又、刃ニ七ツノ子アリ、七曜ノ紋ノ如キモノカト云フ。大和ノ石上神宮ニ六叉鉾トテアルハ、莖ハ一ニシテ、左右ニ各三枝アリ、切尖ト共ニ七尖ナリ、此ノ如キモノカト云フ。七尖ニ、各、鞘アルカ。　神功紀、五十二年九月「獻ニ七枝刀一口、七子鏡一面、及種種重寶ニ」私記「七枝刀」

ななつだうぐ（名）七道具　（一）又、七つ物。具足、刀、太刀、矢、弓、保侶、兜ナドノ七ツノ道具ノ稱。（諸家當用抄）　太平記、三十一、笛吹峠合戰事「羅津小次、フスベ革甲、同毛胄、七つ物、山ノゴトクニ取附ケテ」　同、廿二、畑六郎左衞門事「此三人ノ者共、闘ニナレバ、云云、或ハ大鎧ニ七つ物持ツ時モアリ、樣樣テダテヲ變ヘテ」　荒山合戰記「般若院ハ大剛ノ惡僧、云云、指物ニハ鐵、鎌、熊手、鋸、鉈、鷹、嘴等ノ七つ物取付、云云」（二）又、一種、打刀、太刀、籠刀、首掻刀、薙刀、コソリバ、熊手ノ七ツ道具。（幸若舞曲、高館草子ニ辨慶ガ、又、朝比奈ナドノ負ヒタリト云フモノ）　狂言記、朝比奈「和田軍、云云、コレハ其時、手柄ヲシタ七つ道具ヂヤ、云云、朝比奈、腰ヲ撮エカネテ、熊手、薙鎌、鐵撮棒ヲ持タスル中間ノナキママニ、閻魔王ニズノシト持タセテ」

ななつのかね（名）七金　太刀ノ金具。帶取ノ一ノ足ニ三ツ、二ノ足ニ四ツ附ケタルモノ。　淨瑠璃物語、笛のだん「御佩刀ノ結構ニハ、云云、鐔、芝引、股寄、七つがね」

ななつブトン（名）七蒲團　古へ、道中ニテ馬ニ乘ル時、蒲團ヲ七枚重ネ敷キタルコト。贅ヲ盡シタルヲ云フ。　丹波與作（寶永、近松作）中「拔毛美事ナ、ソンレハ、オツヅラ馬ヤ、七つ蒲團ニ、ソンレハ、曲錄据ヱテ、我モ昔ハ乘リシ身ヲ」

ななつもの（名）七物　ななつだうぐ（七道具）ニ同ジ。

⁂ななつや（名）七屋　〔質ヲ七ニ、カヨハシテ云フ〕しちや（質屋）ノ隱語。　一六

屋。一六銀行。 立身大福帳(元祿)「小袖ヲ七つやニ預ル一　門松(享保、近松作、上)「古[illegible]ノ、古湯帽子ノ頰カブリ、昏切リ[illegible]ニ、七つ屋ノ、[illegible]ノ戶出ヅル[illegible]茶ノ、布子ノ袖ヲスレモツレ」

ななつを　(名)　|七緒|　〔絃七ツアル故ニ云フ〕きん(琴)ニ同ジ。七絃琴 東遊歌、二歌「奈奈川乎ノ、也川乎ノ琴ヲ、シラベタル」

ななところ・ごしらへ　(名)　|七所拵|　刀ノ緣、頭、目貫、折金、栗形、ウラカハラ、笄ノ七所ヲ對ニシテ、地金、彫物ヲ揃フルコト。好色一代男(天和、西鶴)七「町人拵ヘ、七所ノ大[illegible]差、少シ反ラシテ、アイ[illegible]ヲ懸ケ、[illegible]ノ古[illegible]小サク、柄長ク」

〜**ななぬか**　(名)　|七七日|　又、なぬなぬか。なぬなぬかにち、なぬぬふくにち(四十九日)ニ同ジ。ナナナノカ。 源、四、夕顏「十「カノ人ノ四十九日、忍ビテ比叡ノ法花堂ニテ、事ソガズ、云云、[illegible]ナドセサセ給フ」　落窪物語、四「御四十九日果テテワタラン、云云、七七日ニナリヌ」　吾妻鏡、十二、建久三年三月十九日「迎三法皇初七日忌景、於三幕府一被レ修三御佛事、云云、每三七七日、御[illegible]齋[illegible]御念誦二」

ななの・かしこきひと　(名)　|七賢人|　〔ちちけんぢん(七賢人)ノ訓讀〕ちちけん(七賢)ノ條ヲ見ヨ。 萬葉集、三[illegible]「古ヘノ、七賢、人ドモモ、欲リスルモノハ、酒ニシアルラシ」

ななのやしろ　(名)　|七社|　比叡山、山王ノ七社、(三如來、四菩薩)さんわうごんげん(山王權現)ノ條ヲモ見ヨ。 新古今集、十九、神祇「我ガ賴ム、七の社ノ、タダスキ、カケテモ六ノ、道ニカヘスナ」

ななひかり　(名)　|七光|　餘光ノ限リナキ意ヲ云フ語。例ヘバ、父親ノ蔭ニテ、子ノ[illegible]ニ立チユクヲ、親ノ光ニ七光ト云[illegible]、[illegible]、[illegible]作)八「七光リアル御主人ノイマス時サヘ」

ななひめのかゆ　(名)　|七[illegible]粥|　なぬひめのかゆ(長彦粥)ニ同ジ。 永久四年百首「[illegible]ガ代ハ、[illegible]のかゆ、ナナカヘリ、イハフコトバニ、アヘザラメヤハ」　[illegible]草、十九「ななひめのかい、云云、甲斐國長ひめの米の粥ト云テ、ススル粥ノコトナリト」

ななふ　[illegible]　|七編七節|　敷物ナドノ編目ヲ、七筋編ミタルコト。又、其物。又、ソレ程ノ[illegible]サ。 [illegible]抄、[illegible]「[illegible]ノ、トフノ菅ゴモ、七ふニハ、君ヲ[illegible]サセ[illegible]ニ[illegible]レネン」

ななふしぎ　(名)　|七不思議|　各地ニテ、不思議トセラルル七種ノモノ。ソノ中ニテ、越後ノモノト、信州諏訪ノモノトハ、最モ著名ナリ。 北[illegible]奇[illegible](文化、[illegible]世)二、七奇辨「越後ニ、古ヘヨリ七不思議トイヘルコトアリ、今尙、諸方ノ遊客好事ノ人、此國ニ尋來テ、其奇ヲ探ラントス」　倭訓栞、中、名「諏方ニ七不思議アリ、[illegible]、[illegible]、作田、[illegible]、[illegible]、根入、杉、塔影、[illegible]也」

〜**ななふすげ**　(名)　|七節菅|　薦ナド、七節ヲ編ムニ用フル菅。(一說ニ、七ハ石ノ誤リニテ、イハヒスゲト訓ムベシト云ヘリ)　萬葉集、三[illegible]長歌「アメナル、ササラノ小野ノ、七相菅」(本居訓)

ななふのいはひ　(名)　|七福祝|　〔ななふハ、七福ノ略カ〕うけむけ(有暇無暇)ノ條ヲ見ヨ。

ななへ　(名)　|七重|　七ツカサナリタルコト。又、多ク[illegible]サナリタルコト。 [illegible]位前紀「オミノ子ハ、タヘノ[illegible]ヲ、[illegible]ヲシ、[illegible]ニ立タシテ、アヨヒナダスモ」　萬葉集、十六、長歌「七重花咲ク、八重花咲ク」　同、廿、[illegible]「ササカハノ、サヤ[illegible]、[illegible]、[illegible]カモ」　金葉集、十、雜、下「四方ノ海ノ、波ニタダヨフ、水屑ヲモ、七重ノ網ニ、ヒキナモラシソ」

ななまがり　(名)　|七曲|　路、又、坂ナドノ、幾重モ曲レルニ云フ語。ツヅラヲリ。 羊腸 九折路

ななみぐさ　(名)　ヨモギモドキノ異稱。 [illegible]

ななめならず　(句)　|不斜|　[illegible]ずノ轉」オホカタナラズ。[illegible]ななめナ[illegible]ノ條ヲ見ヨ。[illegible]集、八、[illegible]「不斜、ナナメナラス」「[illegible]コトななめ[illegible]」

ななめみ　[illegible]　[illegible]　[illegible]ヘニ。高キヨリ低キ[illegible]。 [illegible]　幸若舞曲、和田酒盛「夫ノ十郎ガ內ニアル[illegible]フク」　[illegible]抄、[illegible]「[illegible]ナ、たなめユヨロコフデ、十郎ノカタヘツカヒシタ[illegible]」　[illegible]エテ、たなめユ立テル、佐野ノ舟橋」「斜ユドル」

(二)隅ヨリ隅ヘ。ハスカヒニ。ハスカケニ。 著聞集、十四、遊覽「二人ノ[illegible]、[illegible]ノ前ヲ經テ、階ノ子ヲたなめユオリ下リテ、御車ヘ登リケルサマ」「斜ユ走ス」

〜**ななりそ**　(名)　|神馬藻|　〔なのりそノ轉、食フ時、ハリハリト鳴ルガ、ムツカシケレバ、[illegible]ナト、[illegible]ナド云フハ、字ニ據ルノ附會ナリ〕なのりそ(莫告藻)ニ同ジ。ほだはら(穗俵)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十七ん[illegible]、[illegible]

〜**ななわたのたま**　(名)　|七曲玉|　[illegible]ノ一稱。ありどほしみやうじん(蟻通明神)ノ條ヲ見ヨ。 枕草子、十、百十六段「七わたニ、曲レル玉ノ[illegible]ヲ[illegible]ナ、[illegible]ト八、知ラズヤア[illegible]」

〜**なに**　(代)　|何|　名ヲ知ラヌ物事ニ用ヰル代名詞。[illegible]ム、アシビキノ、山ホトトギス、[illegible]ク」「何ニ何マム、何トセム、何ノカ取ルベキ」

〜**なに**　(副)　|何|　何トテ。ナド。イカデ。 古[illegible]ガル野ベニ、ネナマシモノヲ」　同、[illegible]ノヲ」　[illegible]代、[illegible]ノ世モ、なにタノムラン、竹ノ葉ニ、カカレル雪ノ、[illegible]ナニ」

なにおふ　[illegible]　(一)[illegible]持ツ。[illegible]。名ニカナフ。 萬葉集、[illegible]シキ名ヲ持ツ。名ニカナフ。　萬葉集、[illegible]「此ヤ是ノ、[illegible]シテハ、我ガ[illegible]ツル、[illegible]ニアリ[illegible]」　[illegible]名[illegible]大ノ山」同、十[illegible]「[illegible]人ノ、名[illegible]」[illegible]サジロク、[illegible]名ハ[illegible]リツ、[illegible]マセ」[illegible]八月、カクノミト、[illegible]」　[illegible]「大伴ノ氏ト、名ニ[illegible]、マスラヲノトモ」　古事記、下(雄略)[illegible]ソノ[illegible]、此ノ[illegible]」　[illegible]又、休め詞ノしッ加ヘテ、なにしおふト云フ。(二)名題ニテアリ。名ニ聞エタルニ違ハズ。名前ドホリノ。名ニアラハシテ[illegible]ル。評判ドホリノ。(三)名高シ。有名ナリ。評判高シ。 [illegible]、[illegible]、名にお[illegible]ノ、[illegible]ナレバ、ソコ[illegible]ノ、花ノ[illegible]ノ今[illegible]心八[illegible]ノ

〜**なにがし**　(代)　|某|　〔何が主ノ約ト云フ〕(一)人、[illegible]、[illegible]ヌ時、又ハ、名ノ知レヌ時ナドニ、用ヰル代名詞。[illegible]ノ[illegible]ノ山、[illegible]ノ[illegible]　(二)[illegible]代名詞。[illegible]ノレ[illegible]

レガシ、[illegible]掲者 源、[illegible]某リ及ブ人ヒ[illegible]ナラネバ[illegible]八、夕顔[illegible]心ヲ盡シテ、住ウマツレ[illegible]ニ[illegible]ヤイ、シテ、[illegible]乳母子カ、[illegible]ケテア タカ、何トシタモノデアラウゾ」

なにくれ (代) 何是ノ[illegible]カトモ云ヘド、何彼ノ[illegible]ナラム、されやさのナド云フモ「此れや彼の」ナリ」ナニガシクレガシ。ダレソレ。 源、九、葵廿五「山ノ座主、なにくれノ僧タチモ」同、廿一、少女十七「何ノ御子、くれノ源氏」

なにくれと (副) 何ヤカヤト。アレヤコレヤト。イロイロ。サマザマ。 源、二、帚木「[illegible]恨メシク覺シタレド、ヨロヅノ御裝ヒ、なにくれと、メヅラシキ狀ニ[illegible]出デ給ヒツツ」

なにさま (副) [何樣] (一)心ニ合點シタル意ヲ云フ語。其故アリゲニテ。イカサマ。イカニモ。ナルホド。(二)イカナル樣子。イカヤウ。ドノヤウ。 太平記、十、安東入道自害事「サテ御屋形ノ燒跡ニハ、傍輩何樣、腹切リ討ナ死ニシテ見ユルカト尋ネケレバ、一人モ不レ見候トゾ答ヘケル」

なにしおふ(ナニシオウ) [名負] なにおふ(名負)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。續古今集、四、秋、上、名にし負ふ、サカヒヤイヅク、明石潟、ナホ浦遠ク、スメル月カナ」 古今集、九、羇旅「名にし負はバ、イザ事問ハム、都鳥、我思フ人ハ、アリヤナシヤト」 六帖、六「我宿ニ、楝ノ花ハ、咲キタレド、名にしモ負はヌ、モノニゾアリケル」

なにしかも (副) [しハ意ヲ強メテ指ス辭] 何故ニ。何カモ。然ルニナンデ。又、ナントシテカ、マア。神樂歌、明星「アカボシハ、明星ハ、クハヤココナリヤ、奈爾志加毛、今宵ノ月ハ、只爰ニマスヤ」(夜ハ明ケタルニ) 萬葉集、十五「秋サラバ、アヒ見ムモノヲ、奈爾之可母、霧ニタツベク、ナゲキシマサム」 同、十七「長歌「使ノ來レバ、ウレシミト、アガ待チ問フニ、云云、奈爾

之加母、時シハアラムヲ、云云、佐保、ウチノ、里ヲ行キ過ギ 佐保[illegible]ニ[illegible]ルナ[illegible]」

なにしに (副) [何] 何ノ爲ニ。何トシテ。イカデ。何故ニ。 字類抄、何爲、ナニシニ」 源、三十四、下若菜、下六十「北宮ニ參ラムトテ、吾カ將テ來タルト覺エシヲ、なにしにタテマツラムト思フ程ニ」 今昔物語、廿四、第廿七話「月ハ何しニハ可レ上キゾ」月上長安百尺樓

なにすれぞ (副) [何爲] 何トスレバゾ。何ニテアレバゾ。何トシテカ。イカニシテカ。音便ニ、なんすれぞ。 萬葉集、廿十六「時時ノ、花ハ咲ケドモ、奈爾須禮會、母トフ花ノ、咲出來ズケム」(來ザリケム)

なにせ (副) [何] 何ニセヨ。何ハシカレ。ナントシテモ。「なにせ努ガ強イカラ」

なにせんに (副) [何] 何ヲセンタメニ。ドウシテ。ナンゾ。ナンデ。ナゼ。 萬葉集、五八「白金モ、黃金モ玉モ、奈爾世武爾、マサレル寶、子ニシカメヤモ」

なにぞ (副) [何] ナド。アド。アゾ。イカニ。 萬葉集、十四「多摩川ニ、サラステヅクリ、サラサラニ、奈仁曾コノ兒ノ、ココダ愛シキ」

なにと (接尾) [抔] [何とノ意] など(抔)ノ條ヲ見ヨ。

なにとぞ (副) [何卒] (一)何トカシテ。ドウゾシテ。ドウニカ。(二)ヒタスラ。ドウゾ。情願 狂言記、惡坊「何卒、途中デ雨ニアハヌヤウニ、致シタイ事デゴザル」

なにの (副) [何] (一)ドレ程ノ。何程ノ。ドレダケノ。ナンノソノ。又、何ノ爲ノ。 伊勢物語、六十五段「サレバ、なにのヨキコトト思ヒテ、行キカヨヒケレバ、皆人聞キテ、ワラヒケリ」 土佐日記、正月十三日「なにの葦陰(隱シキコトノアラム)ニコトヅケテ、云云、鮨 鰒(陰ヲ譬ヘテ云フ)ヲゾ、心ニモアラヌ脛ニアゲテ、見セケル」 天

[illegible]、十年十[illegible]月、[illegible]赤駒ノ、イ行キハバカル、[illegible]葛[illegible]、奈爾[illegible]、直ニ[illegible]ケム」[illegible]ヒ清ス狀ニ云フ語。 榮花物語、[illegible]只モトノ内大臣ニテオハセマシカバ、イカニメデタカラマシ、何の、シバシノ攝政、アナテヅツ」

なにはうばら(ナニワウバラ) (名) [難波薔薇] なにはいばら(難波薔薇)ニ同ジ。

なにはぐさ(ナニワグサ) (名) [難波草] 蘆ノ異稱。 篠目抄「秋來レバ、穗ニ咲キイヅル、なにはぐさ、カリソメナガラ、見ユル夕霧」

なにはすがかさ(ナニワスガガサ) (名) [難波菅笠] 昔、攝津國、難波ヨリ産ズル菅ニテ作リタル笠。 萬葉集、十一四十五「オシテルヤ、難波菅笠、オキフルシ、後ハ誰ガキム、笠ナラナクニ」

なにはづ(ナニワズ) (名) [難波津] [古今集ノ序ニ「難波津ノ歌ハ(難波津ニ、咲クヤコノ花、冬ゴモリ、今ヲ春ベト、咲クヤコノ花、王仁ノ作ト云フ)帝ノ御始ナリ、云云、安積山ノ言ノ葉ハ(淺香山、影サヘ見ユル、山ノ井ノ、淺キ心ヲ、吾ガ思ハナクニ)云云、手習フ人ノ始ニモシケル」トアルヨリ云フ」 昔、幼童ノ學問ノ初ニ、難波津、及、安積山ノ歌ヲ、習字ノ手本ニ用ヰタルヨリ、手習ノ初歩ノ意ニ云フ。後ニハ、幼童ニ、己レガ詠メル歌ナド、物ニ書キツクル事ヲ習ハシメタルコトヲモ云ヘリ。又、あさかやま(安積山)ト云フモ同ジ。 源、五、若紫六十「マダ、なにはづヲダニ、ハカバカシウツヅケ侍ラザメレバ(紫の上ナリ)、カヒナクナン」

なにはづのみち(ナニワズノミチ) (名) [難波津道] [古今集ノ序ニ「難波津ノ歌、云云、淺香山ノ言ノ葉ハ、云云、コノ二歌ハ、歌ノ父母ノ樣ニテゾ、手習フ人ノ始ニモシケル」

トアルヨリ轉ヘタル語] 散[illegible]、又、和歌[illegible]、[illegible]ニヤ、[illegible]、安積山ノ道ハ、長等ノ伊ダチナレバ、サノミハ何ヲカ包ミキノ」

なにはばら(ナニワバラ) (名) [難波薔薇] 又、なにはうばら。 蔓生ノ灌木 刺多シ。葉ハ萩ニ似テ、三小葉ヨリ成リ、厚ク滑カニシテ、互生ス。夏、葉ノ間ニ、五瓣ノ白花ヲ開ク、大イサ三寸許リ、つばきニ似タリ、香氣多シ。又、淡紅ナルアリ、重瓣ナルモアリ。ナツツバキ。金櫻子

なにはびと(ナニワビト) (名) [難波人] 難波ニ住メル人。 萬葉集、十一廿七「難波人、蘆火燒ク屋ノ、スシタレド、己ガ妻コソ、常目ヅラシキ」 仁德紀、三十年九月「那珥波譬苫、鈴舟取ラセ」

なにはぶし(ナニワブシ) (名) [難波節] [浪波節] [難波(今ノ大阪)ヨリ起リシ故ニ名トスト] 說經祭文ノ類ヨリ轉ジタル一種ノ語リ物。講談ニ歌謠ヲ混ヘ、詞ノ間ニ節ヲ付ケテ長ク語リ(節ト云フ)、三味線ヲ合ノ手ニ用ヰル。ウカレブシ。チョンガレ。チョボクレ。

なにぶん (副) [何分] (一)如何ニナセドモ。ドウシテモ。「何分見エヌ」(二)ヒタスラ。ナニトゾ。ドウカ。「何分賴ム」

なにほど (副) [何程] イクバク。イクソバク。ドノクラヰ。ドレホド。ナンボ。ナンボウ。幾許 狂言記、鐘の音「何ト何ト、カネノネヲ聞イテ來タカ、何程スルゾ、サレバ先ヅ私モ五大堂ヘ參リ」

なにも (代) [汝妹] [汝の妹ノ約] 古ヘ、男ヨリ女ヲ親シミテ呼ビシ語。妹ト云フニ同ジ。 古事記、上九「伊邪那岐命詔之、愛

我那邇妹命ヤ」神代紀、上十「唯以ニ一兒、替ニ我愛之妹一者乎、則匍匐頭邊、匍匐脚邊、而哭泣流涕焉」 [illegible]仲紀、五年九月、注「汝妹、此云ニ儺邇毛ニ」

なにやつ (名) 何奴 [illegible]メル語。イカナルヤツ。ドイツ。 關八州繋馬(享保、近松作)二「ヤア、大事ノ敵ヲノガシタル、カタウドハ何奴、ト振リ返レバ」

なぬか (名) 七日 〔七日ノ轉カ、七日ノ略轉カ〕(一)なのか(七日)ニ同ジ。 萬葉集、十七四十六長歌「近クアラバ、今二日ダミ、遠クアラバ、奈奴可ノ内ハ、過ギメヤモ、來ナム、ワガセコ、ネモゴロニ」(二)月ノ第七日目ノ稱。又、特ニ正月、及、七月ノ七日ヲモ云フ。ナナカ。 榮花物語、廿四、若枝「ツイタチなぬかモ過ギヌレバ」 蜻蛉日記、上、上卅「時ハ七月五日、云云、天ノ川、なぬかヲ契ル、心アラバ、星合バカリノ、影ヲ見ヨトヤ」

なぬかのよ (名) 七夕 七日夜 特ニ、七月ノ七日ノ夜ノ稱。天ノ川ニテ、牽牛星ト織女星ト、一年ニ一度會フト、傳說スル夕。 萬葉集、十廿七「一トセニ、七夕ノミ、アフ人ノ、戀モツキネバ、夜ノフケユクモ」 古今集、四、秋、上「寛平ノ御時七日のよ、ウヘニサフラフ男子ドモ歌奉レト仰セラレケル時、人ニカハリテヨメル」

なぬし (名) 名主 〔名主ヲ訓讀シタル語。其條ヲ見ヨ〕(一)村、或ハ、鄉ノ長。又、庄屋。坊正。里正。 書言字考節用集、四、人倫「名主、ナヌシ」(二)江戸ノ町町ノ長。京都、大坂ニテ宿老。

なね (代) 名根 〔なハ汝、ねハ尊稱。各條ヲ見ヨ〕 上代、人ヲ尊ミ親シミテ呼ブ語。男女共ニ云フ。イロネ。 古事記、中 [illegible]

ゾ、夢ニミエケル」又、タダ、他語ノ下ニツケテモ云フ。 萬葉集、九[illegible]長歌「妹名告リ、作リ着セケム、白妙ノ、紐ヲモ解カズ」(妹ハ、スベテ女ヲ指シテ云フ語)

なのか (名) 七日 〔ななかノなぬかトナリ、更ニ轉ジタル語。猶、か(日)ノ條ヲモ見ヨ〕(一)日數七ツ。ナヌカ。(二)月ノ第七ノ日。ナヌカ。

なのはな (名) 菜花 蕓薹ノ黃花ノ畠ニ咲クモノ。一望、黃ニシテ、人コレヲ賞ス。 一茶句集、春「菜の花や、霞ノ裾ニ、少シヅツ」

なのめならず (句) 不斜 ななめならず(不斜)ニ同ジ。次條ヲ見ヨ。 [illegible]記、十九、文覺發心、附、東歸節女事「實ニ優ナキ事ナリ、心憂キ事ナリト、なのめならず歎キケルガ」 [illegible]中納言物語、四「御哀レ、イトドマサリテ、心苦シキ事、なのめならず」 [illegible]物語、一、妓王事「家内フノキニシテ、タノシイ事なのめならず」

なのめ (副) 斜 〔直視ナラズ、概見ノ意ヨリ、大方ノ義トナル〕 大概ニ、オホカタニ。ヨノツネニ。轉ジテ、なのめ。 源、二、帚木廿「行先永ク見エムト思ハバ、ツラキ事アリトモ、念ジテ、なのめニ思ヒナリテ」同、五十三、夢浮橋九「カバカリ聞キテ、なのめニ思ヒ過スベクハ侍ラザリシ人ヲ」同、三十四、上、若菜、上九十「ヨロヅノ事、なのめニ目ヤスクナレバ、イトナム思ヒナクウレシキ」 [illegible]物語、一、月宴「なのめニサケアリテ」 源、四十六、總角四十九「カクアタラシキ御アリサマヲ、なのめなるキハノ人ノ見奉リタマハマシカバ、イカニ口惜シカラマシ」

なのらす [illegible] 名告 なのるノ敬語。ナノリタマフ。 萬葉集、一 [illegible]

なのり (名) 名告 (一)〔名告ルコト。名對面。問籍。(昔、女ハ許ス人ノ外ハ、

己レガ名ヲ言ハズ) 神樂歌、朝倉「朝倉ヤ、木丸殿ニ、我ガ居レバ、なのりヲシツツ、行クハ誰ガ子ゾ」 源、廿五、螢四「若シサヤウナル名のりスル人アラバ、耳トドメヨ」 [illegible]集、上「マサケリト、ワレセヤ部カン、ホトトギス、ナガなのりヲバ、なのりカヘシテ」(二)昔、武士ナドノ、戰場ニテ、敵ニ出合ヒテ、己レノ名ヲ高高ト呼ブコト。是レヲ、名告を上ぐト云フ。

なのり (名) 名乘 〔名告ノ義〕 男子ノ實名。昔、男子、元服スル時、幼名ニ代ヘテ付クル實名。一人前ノ男子トシテ、世ニ名告リテ出ヅルコト [illegible]

なのりあっそん (名) 名乘朝臣 [illegible]ニ同ジ。

なのりことば (名) 名乘詞 やっこことば(奴詞)、ろくぽふことば(六法詞)ナドニ同ジ。

なのりそ (名) 莫告藻 [illegible] 紀、十一年三月 [illegible] 濱藻ヲ、奈能利曾毛ト也」 [illegible] リ、海藻中ノほだはらヲ指シタル [illegible] シテ、神馬藻ノ字ヲ當ツルコトトナリシト見エタリ。此海藻ト神馬トハ、更ニ緣ナキナリ」 海藻ノ名。なのりそも

[illegible]

なのりその [illegible]

なのる [illegible] 名告 (一)〔名ヲ告ルノ義〕自ラ己レガ名ヲ告グ。古ヘ、女ハ、自分ノ名ヲ、親族以外ニハアカサズ、他人ニ名ヲアカスハ、夫トシテ許ス人ノミナリ。 自名 [illegible]

なは (名) 繩索 [illegible]

なは (名) 〔苗生ノ義カト云フ〕 苗。 [illegible]

〔西國〕物類稱呼、三、「竹類、タケ、キノコ、中國及九州ニテ、なばト云フ」

なはいれ（ナワ-イレ）（名）【繩入】田畑、山林ナドノ面積ノ測量。檢地。丈量。田園類說（寬延、舍本衞寫）「檢地入レ候ヲ、繩入れ候トモ、竿入レ候トモ、申シ候」（繩引候、何レモ流儀有ν之候」）

〜**なばえ**（名）〔苗生ノ約カト云フ〕伐リタル樹ノ、株ヨリ生ヒタルヒコバエ。マタバエ。芽出。天治字鏡、七八「櫱、木中矢幹、奈波江」夫木抄、三、柳「鷹ノヰル、杭ノ柳、なばえシテ、メグミニケリナ、春ヲ忘レズ」建長八年百首歌合「春雨ハ、イヤ降リニケリ、河邊ナル、ヰグヒノ柳、なばえスルマデ」

なはえい（ナワ-エイ）（名）【繩纓】纓ト布、又ハ、麁絹ヲ、ヨリアハセタル二筋ノ冠ノ纓ニテ、一筋ハ黑、一筋ハ黃ナルモノ、天子、諒闇ノ時ナドニ用ヰル。名目抄、喪服「繩纓冠（頭喪之時、着ν之、諒闇時、天子之外、不ν用ν之）」西宮記、諒闇、四「切ニ上緒・繩纓冠」古以ニ絶繒ニ作ν之」釋抄、「繩纓冠、重服ノ時着ν之スル冠之纓也、諒闇之時之冠ハ、必ズ佐波ミ巾子也」續世繼、六、藤波、下「紋モナキ御カブリ、なはえいナドキコエテ」

〜**なばさば**（ナワ-サバ）（名）【鯆】（鯆ハ海豚ナリ、當ラズ）魚ノ名、詳ナラズ。鮀魚ヲ、今、播磨、備前ニテ、のうそうト云ヒ、乾シタルモノヲ、うさはト云フ。是レナラム力ト云フ。ナマサバ。倭名抄、十九龍魚類「鯆魚、奈波佐波、大魚名也」字鏡集、鯆魚、大魚名、ナハサハ、ナマサハ」

〜**なはしろ**（ナワ-シロ）（名）【苗代】（なへしろノ轉）苗代田ノ略」稻ノ種ヲ播キテ、苗ヲ育テ作ル代ノ田。穀ヲ十數日間、水ニ浸シ、コレヲ適宜ニ發芽セシメ、苗代田ニ蒔キ付ケテ苗トス。長ジテ七八寸トナレバ、常ノ田ニ移シ植ウ。秋田。萬葉集、十四、十「奈波之呂ノ、小水葱ガ花ヲ、衣ニ摺リ、馴ルルマニマニ、アゼカカナシケ」同、四五七「毎日シハ、頸ガコトナルカ、小山田ノ、苗代水ノ、中ヨドニシテ」宇津保物語、吹上、下「春ハ一二萬丁ノ田ニ、なはしろヲ蒔キ、ナヘヲ植ヱテ」

なはしろいちご（ナワシロ-イチゴ）（名）【苗代苺】亞灌木ノ名。山野ニ生ズ。莖ノ高サ五六尺、葉ハ、三葉ヅツ一處ニ集マリテ生ズ、形圓ク長ク、鋸齒アリテ、背白シ、夏ノ初、枝ノ頭ニ叉ヲ分チテ、多ク紅花ヲ開ク、大イサ四分許リナリ。夏ノ半、苗代時（田植ノ頃）ニ、實、熟ス、赤クシテ、他ノ苺ヨリハ、粒、大ナリ、食フベシ。藕田蔗

なはしろぐみ（ナワシロ-グミ）（名）【胡頽子】常綠灌木ノ名。高サ七八尺ニ達ス。枝ハ多ク岐レ、葉ハ長橢圓形ニシテ厚ク、綠色ニシテ光澤アリ。花ハ秋冬ニ開キ、白色ヲ帶ビ、果實ハ翌年ノ初夏ニ至リテ熟ス、長橢圓ニシテ紅シ、食フベシ。山野ニ多ク自生ス。

〜**なはぜみ**（ナワ-ゼミ）（名）【蚱蟬】蟬ノ雌ノ鳴カヌモノ。今、おしぜみ。おしごらう。啞蟬倭名抄、十九、蟲豸類「蚱蟬、奈波世美」本草和名、下「蚱蟬、一名瘂蟬、（蟬蟬不ν能ν鳴者、奈波世美）」

なはたらし（ナワ-タラシ）（名）（たらしハ欺ク意）古ヘ、繩ヲ用ヰテナス手品ノ一種。一人ハ盜賊ニ扮チ、一人ハコレヲ縛メテ、歌舞伎ヲナシ、演伎、終ハレバ、彼ノ縛メタル繩ノオノヅカラ解クルヤウニ見スルモノ。俳諧蒼花集（寬文）「方引ニ、賭ヤ識人、繩たらし」トケテ行ク、垣ノ氷柱ヤ、繩たらし」俳諧洗濯物（寬文）「繩ツカヒノ、春マセヌ魚ヤ、繩たらし」

なはつき（ナワ-ツキ）（名）【繩付】繩ニテ縛ラレタルコト。又、其人。（罪人ニ、生擒ニ）就縛。國性爺合戰（正德、近松作）三「城内ニアルウチハ、□□ヲカケテ縛リオキ、繩付ニシテ道セバ、□□□□二八開エテモ主君ノ言譯、云云、□イデ□カカレヨ」

なはて（ナワ-テ）（名）【繩手】（繩路ニテ、繩ヲ引キ渡シタル如ク、直キ意、直路ノ轉カ」（一）田ノ間ノ路。アゼミチ。タンボミチ。畷。倭名抄、一、田園類「畷、田間道、奈八天」名義抄「畷、ナハテ」書言字考節用集、一、乾坤門「畛、ナハテ、畷、畝、井田間陌也」畷、ナハテ」繩手、ナハテ、俗字」太平記、廿六、四條繩手合戰事、附上山討死事「武田伊豆守ハ、千餘騎ニテ、四條繩手ノ田中ニ、馬ノ懸場ヲ前ニ殘シテ扣ヘタリ」（二）直ナル長キ路。夫木抄、三、柳「長矛ノ、道ノなはてノ、サシ柳、ハヤ森ニナレ、立チモヤドラム」

なはて（ナワ-テ）（名）【繩手】繩ノスヂ。續後拾遺集、十三、戀、三「罷オロス、船ノ繩手ハ、細クトモ、命ノ限リ、絶エジトゾ思フ」

なはとこ（ナワ-トコ）（名）【繩牀】ぢょうしゃう（繩牀）ニ同ジ。續紀、一（文武）、四年三月「道照和尚物化、就而坐繩牀、无有氣息、時七十有二」

なはとび（ナワ-トビ）（名）【繩飛】一種ノ遊戲。（一）繩ノ兩端ヲ二人ニテ持チ、輪狀ニ廻シ、一人若シクハ數人其中ニ潛リ入リテ、體ニ觸レザルヤウ飛ブコト。（二）數尺ノ繩ノ兩端ヲ左右ノ手ニ持チ、身ノ上下ヲ輪狀ニ廻シ、身ハ其中ニ居テ繩ニ觸レザルヤウ飛ブコト。（三）張リワタシタル繩ヲ、觸レヌヤウ飛ビ越スコト。

なはとり（ナワ-トリ）（名）【繩取】囚人ヲ縛リタル繩ノ端ヲ持チテ、警護スル役。ナハモチ。太平記、十三、北山殿謀叛事「大納言殿、繩取ニ引カヘラレテ、中門ヘ出デ給フ」

なはぬけ（ナワ-ヌケ）（名）【繩脫】縛ラレタル者ガ、其繩ヲスケテ逃亡スルコト。又、其者。

なはのび（ナワ-ノビ）（名）【繩延】（一）引延ベタル繩ノ長サ。（二）實際ノ段別ノ高ガ、丈量ヨリモ餘分ニアルコト。

〜**なはのり**（ナワ-ノリ）（名）【繩海苔】今ノうみさうめん（海索麪）ナラムト云フ。萬葉集、十一、卅「海原ノ、奧津繩乘、打靡キ、心モシヌニ、オモホユルカモ」同、十五、九「海ノ、沖ツ奈波苔里、クル時ト、妹ガ待ツラム、月ハ經ニツツ」

なはのれん（ナワ-ノレン）（名）【繩暖簾】（一）繩ヲ幾條モ垂レテ、暖簾トシタルモノ。ナハスダレ。（二）居酒屋、又ハ、一膳飯屋ノ稱。店ノ入口ニ、繩暖簾ヲサグルヨリ云フ。

なはばしご（ナワ-バシゴ）（名）【繩梯子】繩ニテ造レル梯子。二條ノ太キ繩ニ、橫ニ木、又ハ、鐵ニテ、幾本カノ段段ヲ作リ、其一端ニ鉤アリテ、高キニ繫ケテ用ヰル。繩梯

なはばり（ナワ-バリ）（名）【繩張】（一）繩ヲ張リテ、一區ノ地界ヲ定ムルコト。內外ヲ限ルニ云フ。浦島年代記（元祿、近松作）三「ヤア姫君樣カ、エエ御卑怯ナ、假ヘ繩張一重デモ、隔テヲ遁エ、預リ人ノ難儀ハ思召ヤラレヌカ」（二）城、砦、第宅ナドノ敷地ノ構ヘヲ定ムルニ、先ヅ、繩ヲ張リテ、其位置ヲ極ムルコト。特ニ、城ノ攻勢、守勢、防禦ノ作リ方ニモ云フ。太閤記（寬治、小瀨道甫）三、山崎合戰「惟任、云云、手モチ懸フシテ、淀之城ヘヒキテイリ、普請ノなははりナドシ侍リケリ」（三）罪人逮捕ノ手配スルコト。（四）博徒ノ親分ナドノ勢力範圍。

〜**なはひ**（ナワイ）（名）モノノスヂヲ記スコト。字

[illegible]、[illegible]、市也、次也、[illegible]也、奈良比」

なはぶし (名) 縄節 縄ノ結ビメ。ナハメ。狂言記、鵜人連歌「コノヤウナ物モイラウカト存ジテ、ノコギリヲ用意イタシタ、マヅなはぶし[illegible]ラウ、先ヅ縄ヲ切リホドイタ」

なはめ (名) 縄目 (一)横様ニ綯ヒタル縄ノ像。即チ、二線ノ中ニ斜線アルモノ。(二)前條ノ語ニ同ジ。好色二代男(貞享、西鶴)二「白小袖一ツ着テ、足ニ金行燈括リツケラレ、シカモ結ビシ縄目ニ封マデ附ケラレ、涙グミシ有様」(三)縄ニテ縛ラルルコト。縲紲(罪人ニ、生擒ニ)古今都女楠(正徳、近松作)二「名ヲ後代ニアグベシト思ヒシコト徒ニ、カカル縄目ニアフコトモ、夫ノ武運ノ拙キ故」「縄目ニカカル」「縄目ノ恥」

なはめ (名) 縄昆布 ナヒタル昆布。字類抄「縄昆布、ナハメ」

なはやかに (副) タケノ高キ状ニ云フ語。ソビヤカニ。字鏡十「娉、細長之貌、餘比也加爾、又、奈[illegible]也加爾」

なはやけし・キ・ケレ・ク・ク(形、二) タケ高シ。ソビヤカナリ。字鏡七「[illegible]、長好貌、閑貌、長也、奈[illegible]也介志」

なばり (名) 隠 [多ク地名ニカケテ用キル] カクルルコト。ナバルコト。ナマルコト。万葉集、一「[illegible]、イヅクニクラム、沖津藻ノ、隠ノ山ヲ、今日カ越ユラム」(伊賀ノ名張郡ノ山ニカカク)同、同廿五「宵ニ逢ヒテ、朝面ナミ、隠ニカ、ケナガキ妹ガ、廬セリケム」隠ハ名張郡ニカク」古事記、中[illegible]「[illegible]」天武紀、元年六月「及二夜半一到二隠郡一」

なはる (助動) [なふノ延] なふノ敬語。他ノ語ニ接シテ、其意ヲ云フ語。「ウゴなはる」「アザなはる」「オソなはる」「タタなはる」

なばる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 隠 かくる(隠)ニ同ジ。又、なまる。沖縄ニテ、なばる。

なはゐ (名) 亂 タネ。名義抄「亂、タネ、ムマコ、ナハヰ」

なび (名) 儺火 おにやらひ(鬼遣)ノ一称カト云フ。蜻蛉日記、下、中「十九日なびアリ、大夫ノザフシキノ男ドモ、なびストテ、サワグヲ聞ケバ、ヤウヤウエヒ過ギテ、云云」

なびかし (名) 靡 ナビカスコト。又、ナビカスモノ。[illegible](元禄、西鶴)五、大正寺ノ門前ナル民家ニ身ヲ隠シ、門ハ印ノ杉ヲなびかし、僅カナル酒肴ヲ商ヒセシニ」

なびかす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 靡 靡クヤウニナス。ナビカシム。宇津保物語、[illegible]花笠八「鶯ノ、冬ノトグラヤ、春タテバ、風ニなびかす、柳ナルラン」源、三十四、上、若菜、上五十「サリヌベク聞エなびかしテ、イミジクシノビテマヰラン」同、五十一、蜻蛉九三十「コチタキ御髪ノ、苦シウ覚サルルニヤアラン、少シコナタニ、なびかしテ引カレタル程、譬ヘン二物ナシ」

なびかふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 靡 [なびくノ延] 絶エズ、引キツヅキテ、ナビク。ナビキツヅク。万葉集、二、二十一長歌「[illegible]カヨリカクヨリ、靡相シ、夫ノ命ノ」同、同、二十一長歌「川藻ノ如ク、靡相シ、宜シキ君ガ、朝宮ヲ、忘レ賜フヤ、夕宮ヲ、背キ賜フヤ」

なびく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 靡 [偃ナビく意カト云フ] (一)物ノ力ニ動カサレテ、横ニ流レ行ク。風ニ従ヒテ、横サマニ撓ミ延ブ。[illegible]風、又ハ、流ルル水ナドノ勢ニ連レテ、横ニ傾キ伏ス。ナミク。万葉集、[illegible]「[illegible]」(二)心ヲ寄ス。他ノ意ニ随キ従フ。万葉集、二[illegible]長歌「照ル月ノ、雲隠ルゴト、沖ツモノ、靡シイモハ、黄葉ノ、過ギテイニシト」

なびく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 靡 (一)ナビカシム。ナビカス。仙覚抄、一「ナゲシノ花ノ事、ナゲシノ如ク、ソバヘ花ヲなびけテ、ムカヒヘサノミサシ出デ可カラズ」(二)我意ニ従ハシム。[illegible]

なびこ (代) 汝 [汝人ノ義] なんぢ(汝)ト云フニ同ジ。[illegible]

なひまぜ (名) 綯交 紐ナドニ、種種ノ色ノ絲ヲ、マゼテ綯ヒタルコト、又、ソノモノ。浦島年代記(元禄、近松作)四「グルリグルリ、グルグルグルト繰レシハ、赤ト黒絲なひまぜノ、太綱ヨッタル如クナリ」

なびやかし・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) ナヨヨカナリ。シナヤカナリ。[illegible]草根集「イソグラン、心モサゾナ、プレリタル、春ノ田ヅラノ、晒ノトコヨヲ、なびやかしくキコエ候フ」

なびやかみ (副) ナヨヨカニ。シナヤカニ。[illegible]「其ノ關ハ、フレケン鳥モ、ハネヤスミ、草ノハガにモ、末なびやかみ」

なびらか (副) 前條ノ語ニ同ジ。沙石集、二、上、第六條「若キ女房ノ、ミメ、カタチなびらかナルガ、常ニ通夜シケリ」

なびらけし・キ・ケレ・ク・ク(形、一) ナビラカナリ。[illegible]

なびろう (名) 名披露 次條ノ語ニ同ジ。

なびろめ (名) 名披露 [illegible]又ハ、藝人ノ名取ナドニ、其名ヲ世ニ披露スルコト。ナビロウ。小町踊(寛文)[illegible]

なふ [illegible] 納 [illegible] 作(納字ノ失義) 即チ、納ニ作ルヲ正シトス。[illegible]

なふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 綯 数条ノ線ヲ交ヘ合ハセテ、左右相交ヘテ、一ツニ作ル。[illegible]「揉、ヨル、ナフ」天治字鏡十[illegible]

なふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) 萎 [illegible]

なふ (助動) なはるノ條ヲ見ヨ。

なぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ (他動、下二) 並 列ヌ。ナラブ。並ム。[illegible]

なぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ（他動、下二）靡 ナビカス。ナビカシム。萬葉集、十七「□メヒノメノ、黃金本ノ、萬オシ奈倍、フル雪ニ、宿カル今日シ、カナシクオモホユヘ、流ユ」

なふえ（名）納衣 衲衣〔大乘義章、十五「言ニ納衣ニ者、朽故破弊縫納供レ身」ト、なふ（納）ノ語原ヲモ見ヨ〕佛敎ノ語。人ノ棄テテ顧ミザル布帛ヲ縫ヒ集メテ、作レル法衣。衲袈裟。糞掃衣。又、比丘ハ、コレヲ着スルヲ、十二頭陀行ノ一トスル故、ソレヲ着ル僧ノ稱トス。ナフ。智度論「元比丘、初得道、白佛言、我等著ニ何等衣ニ佛言應著納衣ニ」傳燈錄、多福和尙傳「問、如何是納衣下事、師曰、大有ニ疑在ニ」釋氏要覽、上「若納衣不貼、田相不貼、披人ニ擧衆ニ」南唐近事、宋、歸文書「着納衣、負ニ僧ニ」蘇軾詩、欲敎乞食歌姫院、故與雲山舊衲衣」梅花山ニ「野衲過ニ寒衣ハ山童補衲衣」閑吟集、下「衲衣僧代ニ綺羅人ニ」謠曲、隱岐院「衣綴ノ御袈裟ヲ引キカヘテ、衲衣ヲ御身ニ被リ」

なふぎん（名）納銀 金銀ヲ拂ヒ納ルルコト。又、其納メタル金銀。納金。納錢。

ナプキン（名）〔英語、Napkin.〕西洋料理ニテ、食卓ニ用ヰル布帛。

なふゲサ（名）衲袈裟 のふけさ（衲袈裟）ノ條ヲ見ヨ。

なふごん（名）納言 又、なごん。太政官ノ次官。大納言、中納言、少納言ノ總稱。モノマウスツカサ。源、二十二、梅枝「なふごんニノボリテ見エンノ御心、深カルベシ」

なふさい（名）納采 一采ハ、其女ヲ探擇スル意〕（一）結婚ノ時、初ニ物ヲ納レテ、采擇ノ禮ヲナスコト。禮記、昏義「是以昏禮、納采、問名、納吉、納徵、請期、皆主人筵ニ几於廟ニ」（二）轉ジテ、結納ヲ取リカハスコト。漢書、平帝紀「有司奏ニ皇帝納ニ采安漢公莽女ニ」

なふさつ（名）納札 巡禮者、又ハ、千社參ナドガ、社寺ニ札ヲ貼リ付クルコト。又、ソノ紙片。ヲサメフダ。

なふさなふさ（副）隨分 あぶなあぶな（隨分）ノ音轉ナルベシ。古訓ニ、なっさ、なっさ、なんさなんさトモ見エタリ。名義抄「隨分、ナフサナフサ」字類抄「隨分、ナフサナフサ」朗詠集、下、管絃「隨分管絃還自足、等閑篇詠被ニ人知ニ」千五百番歌合、廿、判「アハレナル、なふさなふさノ、思ヒカナ、ナホザリナガラ、人ニ知レツツ」書言字考節用集、十三、姓氏門「隨分付」

なふさのうま（名）騧 毛ノ淺黃色ノ馬。倭名抄、十一、牛馬毛「騧、淺黃色馬也」字鏡二十「騧、黃馬黑喙也、淺黃也、奈夫佐乃馬」

なふし（名）直衣 なほし（直衣）ノ音便。名目抄「直衣、ナフシ」易林節用集（慶長）上、食服門「直衣、ナフシ」

なふしゆ（名）衲衆 佛敎ノ語。法會ノ職衆ノ一。衲の袈裟ヲ着スル僧衆。榮花物語、十七、音樂「衲衆ハ、衲ノ袈裟ハ、モロコシヨリ、此ノ度ノ御堂ノ會ニト心サシテ、モテ參レルモノドモナレバ」法中裝束抄「凡僧ノ衲衆ニ加ル之時、紫甲ヲハ不レ用也」

なふじゆ（名）納受 ウケヲサムルコト。ウケツクルコト。漢書、王莽傳「貴妾ニ打事、召ニ見不レ可ニ任用、宜ニ更選ニ忠賢ニ」上初納ニ受章言ニ」易林節用集、上、言辭門「納受、ナフジュ」盛衰記、十一、小松殿夢事「此ノ社ニ參リテ、千夜通夜シテ祈リ申ス旨アリキ、其ノ御納受ニヤ」義經記、二、常盤都落事「親ノ孝養スル者ヲバ、堅牢地神モ納受アルトナレバ、子供ノ爲ニモナリナント」謠曲、蟻通「我等叶ハヌ耳ニダニ、面白シト思フ此歌ヲ、ナドカ納受ナカルベキ」

なふぜい（名）納稅 租稅ヲ上納スルコト。又、上納スル租稅。納租。春明退朝錄「嘉祐八年徙ニ寺於福善坊ニ其地本開封府納稅所」蘇軾詩「責ニ牛納ニ稅坼ニ屋炊ニ屋淺不レ及ニ明年饑ニ」

なふそ（名）納租 前條ノ語ニ同ジ。北史、盧勇傳「勇、云云、眞公人也、方富、委ニ之大事ニ豈止ニ納租ニ而已也」白居易詩「納租看ニ縣帖ニ」

なふだ（名）名札 古ク、ナヅキ。人ノ名前ヲ記シタル紙札。面會ノ時ナドニ示スニ用ヰル。テフダ。名刺。名簿。

ナフタリン（名）〔英語、Naphthalene.〕又、なふたれん。こおるたあるヲ蒸溜シテ得ル灰白色ノ物體。防腐劑、染料等ニ用ヰル。せきたんがさ（石炭瓦斯）ノ條ヲモ見ヨ。

なふのケサ（名）衲袈裟 たひ（衲）、及、のふのけさ（衲袈裟）ノ條ヲ見ヨ。

なふはい（名）納盃 酒宴ノ終結ニ飲ム盃。ヲサメノサカヅキ。オツモリ。終獻。轉ジテ、酒宴ノ終リ。

なふふ（名）納付 官ニ、金品ナドヲ、ヲサメイルルコト。

なぶりごろし（名）嬲殺 困シメツ困シメツシテ殺スコト。生ケナガラ、肉ヲ切リコソゲナドシテ殺スコト。弄殺。平治物語、三、平家退治事「左右ノ手足ヲ以テ竿ヲヒロガセ、土ニ板ヲ敷キテ、土バリツケト云フ物ニシテ、なぶり殺しニゾセラレケル」

なふりやう（名）納涼〔涼ヲ、我ガ身ニ納ルル義〕涼ヲトルコト。スズムコト。スズミ。又、納涼。杜甫詩「竹深留レ客處、荷淨納レ涼時」朗詠集、下「行吟ニ古集納涼詩ニ」盛衰記、四十八、女院六道廻物語事「九夏三伏ノ熱キタベニハ、泉ニ向カッテ納涼ス」

なぶる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）弄 嬲〔狎レ觸ノ轉カト云フ〕（一）イロフ。イヂル。モテアソブ。玩弄ス。遊仙窟「弄、ナブル」物類稱呼、九、言語「なぶる、手ニテナレフル、關西ニ、いろふ、東國ニ、いぢる」狂言記、居杭「コナタガ爲チャト云ウテ、算置ヲなぶらヌモノデゴザル」鑓錄の賦（寶永）「相口ヲ、綾（綾竹）ニなぶッテ、納メケリ」（二）戲レニワヅラハス。人ヲ玩弄物ニシテ困ラス。嘲弄ス。ヒヤカス。カラカフ。調戲。嬲。嵇康、與ニ山巨源ニ絕レ交書「足下若嬲レ之不レ置、不レ過レ欲レ爲レ官得レ人、以益ニ時用ニ耳」注「嬲、惱也」名義抄「嬲、ナブル、ナヤマス、タハブル、ヒキシラフ」書言字考節用集、八、言辭門「嬲、ナブル」梁塵秘抄、二、雜「タゴノウラニ、シホフムト、イカニアマ人ツドフラン、マサシトテ、トイミトハズミ、なぶるラン、イトヲシヤ」（三）責メサイナム。イヂメル。（犬ナドヲ）

なへ（名）苗〔生延ノ約カ〕（一）草木ノ種子ノ萌エ出デタルモノ。字鏡五十三「苗、奈倍」名義抄「苗、ナヘ」華嚴經私記音義「苗、那閇」萬葉集、三、四十「春日、カスガノ里ノ、植エコナギ、苗ナリト云ヒシ、枝ハサシニケム」「稻ノ苗」瓜ノ苗」杉ノ苗」（二）專ラ、稻ノ苗ノ稱。萬葉集、十四、四十「上毛野、佐野田ノ奈倍ノ、ムラ奈倍ニ、コトハサダメツ、今ハイカニセモ」

なべ（名）鍋〔魚菜瓮ノ義。韓語、なむび〕魚菜ヲ煮ルニ用ヰル器。土製ナルヲ元トシ、金屬製ナルヲ、古クハ、かななべ、今、てつなべト云フ。然レドモ、今ハ土製ナルヲ、どなべト云ヒ、金屬製ナルヲ、單ニなべト云フ。倭名抄、十六、九金器類「鍋、加奈奈倍、瓦謂ニ之堝ニ」同、同、二十瓦器類「堝、

奈闘、金島之鍋ニ」字鏡「[illegible]奈戸」 仲哀紀、八年正月「[illegible]、此云[illegible]」[illegible]紀、[illegible]年[illegible]月「小[illegible]、此云[illegible]」[illegible]、トシモヘヌ、ツクマノ神ニ、コトヨセテ、なべノカズニモ、人ノイレナン」

〜**な・べ** (助) なぶ(竝)ノ條ヲ見ヨ。 萬葉集、十八[illegible]「卯ノ花ノ、咲クニシ鳴ケバ、ホトトギス、イヤメヅラシモ、名ノリ鳴ク奈倍」

なべ (接尾) たべ子(竝)ノ條ヲ見ヨ。

なへ-うり(ナエ-ウリ) (名) 苗賣 初夏ニ、街頭ニテ、優美ナル聲ヲ立テテ、種種ノ苗ヲ賣リ歩クモノ。

なべ-かづき(ナベ-カズキ) (名) 鍋被 (一)鳥ノ名。ぼりん(壽林)ノ一名。其條ヲ見ヨ。(二)つくままつり(筑摩祭)ノ一風習。其條ヲ見ヨ。

なべ-がね (名) 鍋鐵 鍋、釜ナドヲ鑄ル鐵。てつ(鐵)ノ條ヲモ見ヨ。生鐵

〜**なへ・ぐ**(ナエ・グ) ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) [illegible] (蹇)ふヨリ轉ジ、萎ふるニ通ズ。沖繩ニテモ、なへぐト云フ」足ニ病アリテ、歩行、自由ナラズ。足、不自由ニテ、歩行ニナヤム。 倭名抄「三[illegible]、[illegible]、訓[illegible]之奈[illegible]、[illegible]云、[illegible]跛久、行不正也」 名義抄「[illegible]、蹇、ナヘグ」 字鏡[illegible]「騫、足奈戸久馬」 蜻蛉日記、中、上[illegible]「書ツカタ、なへぐなへぐト見エタリシハ」

なべ-煮まやき (名) 鍋島燒 いまりやき(伊萬里燒)ノ條ヲ見ヨ。

なべ-煮り (名) 鍋尻 鍋ノ底ノ外部ニテ、火ニアタルトコロ。 一茶[illegible]集、[illegible]ノ[illegible]、干シ[illegible]ヘタル、[illegible]ケカナ」

なべ-煮りやく (句) 鍋尻燒 昔、夫婦仕[illegible]ヲ云ヒタル語。 [illegible](下[illegible])[illegible]ノ下ナルキザミノ、室遶ヘテ、家ノ内ウシロミナドタノメルヲ、[illegible]やくナドイヘル、思ヘバ、イカサマニモ、屋ノ内ノ事ツカサドレル心モ侍ルニヤ」

なべ-ずみ (名) 鍋墨 鍋、釜ナドノ底ニ、煙ノ煤ノ如ク凝リ着キタルモノ。 釜墨 [illegible] 井[illegible]下河内[illegible]、享保、近松作[illegible]「思ヒ[illegible]ノ鍋墨ヲ、油ニ溶キテ、[illegible]ミ付ケ[illegible]ミツケ」

なべ-せん (名) 鍋錢 「なべがねノ錢ノ義」鍋鐵(銑鐵)ニテ吹キタル錢。寛永錢ノ條、見合ハスベシ)

なべ-づる(ナベ-ズル) (名) 鍋弦 ナベニツケタル弦。 [illegible]重帽子[illegible]、享保、近松作[illegible]下「[illegible]、[illegible]ク引裂ゲ、鍋ノ弦ホド、反リニ反ッタル朱鞘ボッコミ、一文字ニ飯出ル」 今様職人盡歌合、上、なべのつる賣 カケハッシ、上手ナ妹ヲ、[illegible]づるノ、マカリナリニモ、コシラヘニケリ」

なべ-づる(ナ-ズル) (名) 鍋鶴 眞名鶴ノ一種。濃、丹頂鶴ヨリ小サク、全身、灰色ニシテ、タダ額ト頭ト白ク、額ハ黒ク、頭上ニ赤キ羽アルモノ。灰鶴

〜**なべ-て** (副) 竝 オシナベテ。ヒキクルメテ。一切。概 古今集、六、冬「梅ノ花、ソレトモ見エズ、久方ノ、アマギル雪ノ、なべてフレレバ」 枕草子、十一、百三十三段「色色ノ錦ノアゲバリニ、[illegible]イト青クテ[illegible]シ、[illegible]ナト引キタル[illegible]、なべてなニ[illegible]トナホエズ」

〜**なべて-ならず** (句) オシナベテナラズ。コノッネナラズ。 [illegible]、[illegible]ニフレテ、心バセアリサマ、なべてならずモアリケルカナト、ユカシウオボサレヌニシモアラズ」

なへ-どこ(ナエ-ドコ) (名) 苗床 苗ヲ作ル地。野菜、[illegible]ハ、[illegible]木ノ苗ヲ仕立ッル所。[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]ナドニテ[illegible]、下ニ[illegible]ヲ[illegible]ツノ上ニ[illegible]ヲ置[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]ニ[illegible]、上ニ[illegible]子[illegible]子、又ハ[illegible]ナド

ヲ被ヒテ、温度ヲ保タシム。

なべ-とり (名) 鍋取 (一)鍋ノ床ノ上ニ取置ク時、其下ニ敷ク具。[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]作リ、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、足[illegible]、如[illegible]、又[illegible]ニ[illegible]、[illegible]ヲ兩手ニ持チ取ルナリ) [illegible]記、[illegible]「[illegible]、薬[illegible]、薬筅、鍋取ハ前ヘカクル」(二)冠ノ[illegible]ノ俗[illegible]、[illegible]ニ[illegible]ヘ[illegible]、昔、武官ハ[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]、鍋取[illegible]アリ、下官ノ公[illegible]、[illegible] 太平記抄(慶長)廿四、注「[illegible]トハ、下下ノ者ノ鍋取ト云フヤウナ物ゾ」

〜**なべ-に** (接尾) 竝 [illegible]ニ、[illegible]ト共ニ。 萬葉集、二[illegible]「モミヂバノ、散リヌル奈倍爾、玉梓ノ、使ヲ見レバ、會ヒシ日オモホユ」 同、十[illegible]「[illegible]ル、荻ノ葉サヤギ、[illegible]ノ、[illegible]、[illegible]ル」 同、十[illegible]「雁ガ音ノ、今朝鳴ク奈倍爾、雁ハ、イ[illegible]キツル奈倍爾、高松ノ、野上ノ草ゾ、色ヅキニケル」 古今集、[illegible]み、今朝吹ク風ニ、雁ハ來ニケリ」 或ハ、なべトノミモ云フ。 萬葉集、八[illegible]「今朝ノ朝ケ、雁ガ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]」 同、同[illegible]「[illegible]ノ上ニ、鳴キツル雁ノ、寒キ[illegible]、荻ノ下[illegible]ハ、[illegible]」 [illegible]田ニ、[illegible]キシ汗、君待ツなへ([illegible]ニカク)ニ、月ヒタチニケリ」

なへ-はむし(ナエ-ハムシ) (名) あをむし(青蟲)ノ異名。 名義抄「[illegible]、アヲムシ、ナヘハムシ」

なべ-ぶた (名) 鍋蓋 ナベヲオホフ蓋。 [illegible](安政、山崎美成)二、[illegible]の[illegible]、何時[illegible]ヤシキ」

なべ-まつり (名) 鍋祭 つくままつり(筑摩祭)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

な-へん (名) 那邊 (那ハ、何ナリ) イヅク。イヅレ。又、ドノアタリ。イヅコ。[illegible]

なべ-やき (名) 鍋燒 [illegible] 料理物語、[illegible]、なべやき、[illegible]、何[illegible] 同、[illegible]の[illegible]、なべやき、[illegible] 同、川[illegible]、なべやき「なべやき[illegible]ドン」

なべやき-うどん (名) 鍋燒饂飩 [illegible]饂飩ヲ煮テ、鍋ノママニテ食ハスルモノ。寒夜ナドニ、夜行シテ賣ルナリ。

なべ-わり (名) 鍋破 草ノ名。[illegible]山ノ[illegible]地ナドニ自生シ、春、宿根ヨリ芽ヲ出シ、高サ一尺許、[illegible]、[illegible]、[illegible]月ノ頃、[illegible]間ヨリ紫黒色ノ小形ノ花ヲ垂ル。果實ハ、[illegible]褐色ニシテ、毒アリ。[illegible]

なほ (副) 直 [illegible]。[illegible]ニ。アリノママ。[illegible]。 伊勢物語、三十九段、イトアハレナクゾナヨコル、[illegible]ノ[illegible]ハ、なほゾアリケル」 [illegible]ナ[illegible]

なほ [illegible]

婦不ㇾ從、猶着ㇾ之」 萬葉集、二十五「丈夫ヤ、片戀セムト、歎ケドモ、醜ノ丈夫、尚戀ヒニケリ」 (二)マダ。マダマダ。 新古今集、十一、戀、一「ツラケレド、恨ミムトハタ、思ホエズ、なほ行先ヲ、頼ム心ニ」 風雅集、十五、雜、上「尋ネツル、花ハ限リモ、ナカリケリ、なほ[illegible]ク、[illegible]ル白雲」 (三)[illegible]ジテ、ソノウヘニ。イヨイヨ。 續千載集、十九、哀「イトドなほ、涙ノ色ノ、深キ哉、再ビ着ツル、墨染ノ袖」「尙好シ」「尙永引ク」 (四)[是非トモ。ドウアッテモ。 古事記、上[illegible]「[illegible]不ㇾ愛云、猶欲ㇾ得二其正本鉤一」 (五)我猶人ナドハ、如ナドノ字ト、別タムタメニ、讀ミツクル漢籍讀ニテ、意ナシ。

なほ (副) [默止] 事ヲ止(ヤ)メ、イタヅラニシテ。タダニ、ムナシク。 萬葉集、七廿四「默然(ナホ)不有跡、事ノ名種ニ、云フ言ヲ、聞知レラクハ、少カリケリ」 同、同、十、四「猶クシテヤ、(尙默ノ借字)ヤ老イナム、深雪降ル、大荒木野ノ、小竹ニアラナクニ」 續紀、廿八、神護景雲元年八月、忍(シノビ)テ默在(ナホアル)去止(コトエ)不ㇾ得之天(シテ)ナモ」 拾遺集、十六、雜、春、咲キシ時、なほコソ見シカ、桃ノ花、散レバ惜シクモ、思ヒナリヌル」

なほ・あひ (名) [直相] なほらひ(直會)ニ同ジ。 建武年中行事、六月、神今食、「なほあひノ御飯、ミキ參リヌレバ」

なほ・さら (副) [尙更] ソノウヘニ。イヨイヨ。マスマス。ナホナホ。

なほ・ざり・に (副) [等閑] [直(ナホ)-ダダニごとあり]ノ約ト云フ] 等ハ、待也、閑ハ、離也、隙也] 世ノ常トシテ、深ク心ヲ付ケズニ。意ヲ留メヌニ。ユルガセニ。イルガセニ。 [illegible] 名義抄「等閑、ナホザリ」 往頽、等閑(ネイシ)處處作二遊人一」 散木集、一、春「正月ノ初子ノ日、子忘ト云ヒテ、家ヲ出デテ野ニ行キテ、ヒネモスニ居暮ラシテ、云云、ソノツイデニ、事ノモトナレバ、松ヲなほざりに引キテ歸ルトテ、云云」 [illegible]物語、四「なほざりにシテヤメマシカバト、悔ヤシカリシ」 源、五、若紫「ユクテノ事ハ、なほざりニモ思ヒナサレジ」 後撰集、一、春、上「なほざりに、折リツルモノヲ、梅ノ花、コキ香ニ我ヤ、衣ソメテム」 蜻蛉日記、下、下廿七「サレバ、カクオロカニハ思ハザリケメド、イトなほざりなりヤ」 後拾遺集、十五、雜、一「なほざりノ、空タノメセテ、アハレニモ、待ツニカナラズ、出ヅル月カナ」

なほ・ざ・る ・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [等閑] [前條ノ語ヲ活用ス] 等閑(ナホザリ)ニナス。オロソカニナス。 付等閑

なほし (名) [直] (一)ナホスコト。正シク改ムルコト。 匡正 (二)補ヒ修ムルコト。ツクロヒ。 修補 「雪駄ノなほし」 (三)味醂ニ似テ、燒酒(セウチウ)ノ氣アル酒。

なほし (名) [直衣] [宿直衣ノ意カ] (一)[又、スソヅケノコロモ。音便ニ、なうし、又ハ、なふし。 昔ノ官服ノ名。制、大抵、袍(ハウ)ニ同ジクシテ、地ト紋トニ差ヒアリ。烏帽子、指貫ヲ用キル。古ヘハ、天子ヲ始メ奉リ、攝家、大臣ナド、高貴ノ人人ノ通常服トス。又、ナホシノコロモ。ナホシノオンゾ。 倭名抄、十二八十衣服具「襴衫、奈保之能古路毛」 謠曲、國栖「サレバコソ、玉ノ冠、直衣ノ袖、露霜ニシヲレ給ヘドモ、サスガ紛レヌ御粧ヒ」 (二)古ヘ、貴婦人ノ禮裝。 江家次第、一、御齋會陪膳女房「陪膳者、尋常、唐衣、裳、稱二之直衣一、女房、花紋、織物裳、泥繪唐衣」 同、九、殿上賭弓「宸儀渡二御於弓場殿一、女房四人扈從、命婦二人、藏人二人直衣」(女藏人ナリ)

なほ・し ・シ・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [直] [曲るノ反] (一)歪(ユガ)ミ無シ。眞直ナリ。 十訓抄、中、第五、序「麻ノ中ノ蓬ハ、タメザルニ、オノヅカラ直し」 後撰集、十六、雜、二「なほき木ニ、曲レル枝モ、アルモノヲ、毛ヲ吹キ疵ヲ、言フガワリナサ」 景行紀、十七年六月、是國也、直向(ナホク)於日出一、故名二其國一曰二日向一也」 (二)正シ。スナホナリ。 又、平ラカナリ。 源、十九、薄雲廿五「世ノ靜カナラヌコトハ、必ズマツリゴトノなほく、ユガメルニモヨリ侍ラズ」「心直し」「事直し」「理直し」 (三)ヨノツネナリ。アリノママナリ。 源、四十六、總角廿五「目モ鼻モなほしトオボユルハ、心ノナシニヤアラン」

なほ・し (副) [猶] [しハ、語意ヲ強ムル辭(コトバ)] なほ(猶)ニ同ジ。 欽明紀、十三年五月「猶(ナホシ)倘(クナ)若(ラバ)ㇾ茲、必蒙二上天擁護之福一」 義經記、八、繼信兄弟御どぶらひ「サブラヒノコトバハ、綸言ニモオナジ、なをし汗ノ如シ」 曾我物語、一、おなじく伊東死する事「昆弟ノ子ハ、なをしヲノレガ子ノ如シ」 沙石集、四、上、一、第一條「持スル、猶し道ヲ障フ」 寶物集(平康頼)上「毒龍、海ニハダカマルトイヘドモ、なをし金翅鳥ノナンヲハナレガタシ」 同、同卷「舍利弗ノ智惠、富樓那ノ辯舌、なをしヲヨブ所ニアラズ」 今昔物語、廿九、第廿六語「詐リ文ヲ書スルソラ、倘し罪深シ、況ヤ書タル者ヲ咎ナクテ殺(コロ)サム」

なほし・た・つ ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) [直立] 全クナホス。災ヲハラヒ、モトニナホス。 源、十四、澪標三「物ノムクイアリヌベクオボシケルヲ、なほしたて給ヒテ、御心地スズシクナンオボシケル」

なほし・はじめ (名) [直衣始] 直衣ノ着ハジメ。古ヘ、關白、大臣ナドガ、直衣ヲ着テ參內スル敕許ヲ蒙リテ、始メテ着用スルコト。 盛衰記、廿八、宗盛補二大臣一幷拜賀事「內大臣なほしはじめニテ出仕セラレケリ」 台記、久壽元年十一月「中納言中將(藤原頼長子師長)直衣初出仕」 山槐記、治承三年十月「權中將(師家)有二直衣始事一」 吾妻鏡、十、建久元年十二月一日「右大將家(源頼朝)御直衣始也」 槐記、享保十一年六月「朔日、左府公(藤原家久)關白宣下、(中略)二日、今日ハ御直衣始トテ、長柄ニテ御參內」

なほし・ばひ (名) [直灰] 酒ノ腐敗(カハリ)ヲ直スニ用キルモノ。木石灰一斗ニ、豐後灰四升ヲ熬リテ、[illegible]リヲ加ヘテ用キル。

なほし・もの (名) [直物] (一)物ヲ直スコト。又、直スベキモノ。 縣召(アガタメシ)ノ除目ニ、未落居ノ事ヲ書直ス事。 (二)古ヘ、除目ノ後、又、吟味シテ官位ヲ任命スルコト。 百練抄、十七、正嘉元年三月廿九日「直物也、左大臣參入行二事一」 榮花物語、十二、玉村菊「三月ニハ例ノ直しものナド云フコトアレバニヤ、三月四日ツカサ召シアリ」 狹衣、一、下八「長月ツイタチゴロ、なほしものノアルニ、中將ノ君、中納言ニナリ給ヒニケリ」

なほ・す ・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [直] (一)[直(ナホ)クス。正シクス。惡シキヲ善クス。サシナホス。 匡正 神代紀、上十五「將ㇾ直(ナホサムト)二其枉一」 (二)改ム。變フ。「機嫌ヲ直す」 (三)補ヒ改ム。ツクロフ。修復スル。 修補 (四)癒(イヤ)ス。治ス。 治 「病ヲ直す」 (五)伐(キ)ル。 (切るヲ忌ミテ) 謠曲、外百番、大木「本堂ノ棟木ニ成ルベキ木、北谷ノ大杉ナラデハナク候、此木ヲ申付ケ、なほさバヤト存ジ候」

なほ・なほ (副) [猶猶 尙尙] (一)マスマス。イヨイヨ。 源、三十八、夕霧「山ノカタヲナガメテ、なほなほト、セチニノタマヘバ」 狂言記、比丘貞「一ツ飮ウデ庵太郎ニササウカ、ソレハ尙尙有リガタウ御座ル」「尙尙烈シクナル」 (二)後ヨリ追ヒテ。添ヘテ。(手書ノ添書(ソヘガキ)ニ)「なほなほガキ」

なほなほ・がき (名) [尙尙書] 端書(ハシガキ)。手紙ノ奥ニ、尙尙ト書キ添フル詞。おってがき(追而書)ニ同ジ。そでがき(袖書)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 追啓 好色一代男(天和西鶴)一「書キ續ケテモ、ハヤ鳥ノ子モ無イト申サレケレバ、然ラバなほなほ書きヲト望ミケル」

～なほ-なほ-し　シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔直直〕［直ノ意］　[illegible]ナリ、[illegible]ナシ、ノコトモナシ、[illegible]　[illegible]下、若菜、下八「只人ノ、スクヨカニ、なほなほしきヲノミ、[illegible]」同、三十四[illegible]ラヒニテダニ」[illegible]崇メラレ、カシヅカレシ人ノ[illegible]、今ハなほなほしく下レル際ノ、スキモノドモニ猶立欺カレテ」蜻蛉日記、下、中十「カヘリゴトなほなほし」

～なほ-なほ-み　（副）〔直直〕（直ノ意）　ヨノツネニ。スナホニ。オダヤカニ。ソノママニ。世間ドホリニ。萬葉集、十四、六「足柄ノ、箱根ノ山ニ、延フ葛ノ、[illegible]　奈[illegible]」同、五「久[illegible]ノ、天路ハ遠シ、奈[illegible]、家ニ歸リテ、[illegible]ヲ[illegible]ニ」

なほ-び　（名）〔直日〕　モノイミシタルヲ常ノ如ク直スコト。なほらひ。公ノ神事ナルヲ、大なほびト云フ。ナホミ。古今集、廿、大歌所、すぼなほびノウタ「アタラシキ、年ノ始メニ、カクシコソ、千歳ヲカネテ、タノシキヲツメ」

～なほ-びと　（名）〔直人〕　タダビト。家柄ナラヌ人。ヨノツネノ人。アリノママノ人。凡人　孝徳紀、大化二年三月「[illegible]」伊勢物語、第十段「父ハなほ人ニテ、母ナム藤原ナリケル」源、二、[illegible]なほ人ノ、上[illegible]ル」今昔物語、廿九、第十四語「天皇ヲゾ、倚人ニモ御マサリケリト、人貴ビ申シケル」

なほ-み　（名）〔直日〕　前前條ノ語ニ同ジ。[illegible]宮、ノ、シデハ[illegible]ニ、ナホなほみ、イザワガトモニ、[illegible]サカモトレ、[illegible]カモドン」

なほ-もの　（名）〔直者〕　スナホナル人。從順ナル者。蜻蛉日記、下、中十八「故アルモノニヤアラムト思フホドニ、我ガ請共ナル人、物ヲイヒ掛ケタレバ、ヒククミタル聲ニテ、マロヲ宣フカ、ト云フヲ聞クニゾ、直者ナリケリト思ヒヌル」

なほらひ　（名）〔直會〕［直[illegible]］[illegible]、神事[illegible]御饌ナドノ下物ヲ賜ハルコト。音便ニ、なうらひ。ナホアヒ。字類抄「直會、ナフラヒ」名目抄「直會、ナフライ」延喜式、四「凡三節祭、[illegible]」[illegible]、廿六、[illegible]一月、[illegible]日ニアリ」内宮儀式帳「川原ニ侍リテ、奈保良比、酒[illegible]」

なほらひ-どころ　（名）〔直會所〕　次條ノ語ニ同ジ。

なほらひ-どの　（名）〔直會殿〕　伊勢[illegible]、春日[illegible]社ナドニテ、直會[illegible]。ナホラヒドコロ。[illegible]

なほり　（名）〔直〕　ナホルコト。ナホリタルコト。狂言記、唐突「ソノヤウニ、ヤカマシウイウテモ、直リハスマイ」

なほ-る　ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔直〕「直ヲ活用ス」（一）〔直クナル。改マル。復[illegible]〕[illegible]なほる、[illegible]」源、二、帚木、九「ツラキ心ヲ忍ビテ、思ヒたほらンヲリヲ見ツケン」（二）〔癒ユ。治ス。癒〕字津保物語、[illegible]ココチヨク[illegible]ナバ、[illegible]ルヲ云フ。死[illegible]宮祭式「死稱奈保留」（四）[illegible]カトモ云フ）[illegible]物語（文明）[illegible]「カノ巫、[illegible]司ムズト直らセタマヒケル」

なま　（名）〔生〕［[illegible]ノ略］[illegible]（二）[illegible]品物ニ對シ[illegible]く（生肉）ノ異稱。（四）なまざき（生聞）ノ略。（五）ハンカ。中。半途。（六）ヤサシイコトデハナキコト。

なま　（接頭）〔生〕（一）成リ調ハズ。熟セズ。未熟「生煮エ」「生焼ケ」「生乾」「生聞キ」「生物[illegible]」[illegible]　（三）〔假初ニ。深カラズ。少シ。〕[illegible]女房ナドモエミマケテ」大鏡、序「なま侍」[illegible]源、廿三、初音「なまケヤケシトオボスベカメルぶノ中、ハカラレテ」同、廿一、少女「[illegible]」[illegible]ナド云フベキスヂニヤアリケム」更級日記「[illegible]ク見ビウセナバ、イカガ思フベキト聞フニ、なまオソロシト思ヘルケシキヲ見テ」今昔物語、廿八、第十八語「生夕暮方ニ房ニカヘリテ」「生賢シ」[illegible]

なま-あくび　（名）〔生欠〕　アクビノ價キモノ。小サキアクビ。

なま-あげ　（名）〔生[illegible]〕　[illegible]ヲ輕ク揚ゲタルモノ。外部ハ褐色ノ皮[illegible]ノママナルナリ。[illegible]、天保十四年二月廿三日「生揚、云云、拾六ニ切リ、[illegible]ニ付キ五文」

なま-あたたか-し　キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔生暖〕　幾分暖ナリ。何トナク暖シ。

なまい-き　（名）〔生[illegible]〕　[illegible]　氣ガルコト。聞イタ風ヲスルコト。[illegible]出テ、物知リ顔スルコト。

ナマイダ　[illegible]阿彌陀佛ノ略訛。又、ナイダ。[illegible]

なまいを　（名）〔生魚〕　ナマナル魚。煮[illegible]又ハ、鹽漬ナドニセザル魚。又、生[illegible]タル魚。ナマウヲ。鮮魚　[illegible]

～なまうかび　（名）〔生浮〕　ナマジヒニ佛道ニ入ルコト。[illegible]

ナマウダ　[illegible]

なまうた　（名）〔[illegible]〕　[illegible]

なまえ　[illegible]

～なまえのき　（名）　にんぢんぼく人毫木ノ異名。[illegible]

なま-おそろ-し　シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔生恐〕　何トナク恐シ。

～なま-おぼえ　（名）〔生[illegible]〕　[illegible]

なまおぼおぼ-し　[illegible]

ドコトナクオボツカナシ。ドウヤラウトウトシ。何トナク氣ニカカル。 [illegible]、[illegible]カハニワタリタル人ノ、なまおぼおぼしき事アリテ、歸リニケルツトメテ」

なま-がく-しやう (名) 生學生 學問ノ未ダ十分ナラザル學生。 大鏡、序「サレド父ガなま學生ニツカハレ奉リテ」

なま-かじり (名) 生齧 (一)十分ニ齧マザルコト。不十分ナル齧ミヤウ。(二)僅カ聞キタルノミニテ、十分究メザルコト。物事ニ一部分通ジタルコト。半可通。一知半解。

なま-かたはらいた・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 生傍痛 何トナクカタハライタシ。傍觀ニ見テ、何トナク笑止ナリ。 源、廿四、上、若菜、上「イトサカリスギタマヘリヤナド、なまかたはらいたく思ヒ給へり」

なま-がね (名) 生鐵 〔熔し鐵ノ義カ〕 鍛錬セザル鐵。てつ(鐵)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible] 書言字考節用集、七、器財門、銑、ナマカネ、[illegible] [illegible]道名所[illegible]二「タトヒ其ノ心ネ、生鐵ノ鈍キ人ナレドモ」

なま-かは (名) 生皮 (一)ナマノママナル皮。ヨク乾カヌカハ。(二)料理ノ一種。雁、鴨ナドノ皮ヲ、酢ニツケタルモノ。 料理物語(寛永)煮物、生かわは「雁ニテモ、鴨ニテモ、カワヲハギツクリ、スヲハシラカシ、[illegible]ヘンカケテヲキ、又、身ヲ作、スヲ一返カケテシタミ、ダシタマリカケンシテ、ニエ立候時、スイアハセ鳥ヲ入、ソノママ出シ候也」 (三)ナマケルコト。懶惰。物グサガルコト。 鶉衣(横井也有)[illegible]「物グサノ職人ト召サレケルヨリ、世ニハなまかはノ職人トモ呼ブコトニナン」「生皮者」

なま-かひ (名) 生貝 (一)生ノママノ貝。又、貝ノ生肉。 本朝若風俗(貞享、西鶴)八「生貝ノ角切ニシテ」 (二)料理ニ、鮑ノ生肉ヲ薄ク刻ミテ、水ニ浸シ、三杯酢ナドヲカケテ食フモノ。

なま-かべ (名) 生壁 (一)壁ニ泥ヲ塗リテ、未ダ乾カヌ間ノ稱。壁ノ塗リタテナルモノ。 七十一番職人盡歌合、上、二番、壁塗「我ガ袖ノ、ヒルヨモ知ラヌ、なまかべノ、ヨリソフ人ノ、ナキモウラメシ」 (二)生壁色ノ略。染色ノ名。藍氣鼠ノ濃キモノ。

なま-がみ (名) 生噛 十分ニ、カマヌコト。噛ミ方ノ粗相ナルコト。

なま-かんだちめ (名) 生上達部 年功ノツマザル上達部。未熟ノ上達部。 太平記、廿一、鹽冶判官讒死事「元ハ公家ノ生上達部ニ仕ヘテ、盛ンナリシ御代ヲ見タリシ女房」

なま-き (名) 生木 (一)地ニ生ヒテ、マダ生キテ居ル木。(二)伐リテマダ間モナキ木。十分乾カザル木。生木ヲ裂クトハ、男女間ノ關係ヲ、強ヒテ絶タシムル意。

なま-ぎき (名) 生聞 未熟ニ聞取ルコト。不十分ニ聞入ルルコト。ナマナカニ聞取リテ、知リ得タリトスルコト。未熟ナルニ、物識ブルコト。略シテ、なま。 今川大雙紙(今川了俊)上、躾式法事「主君ノ御使ヲ申ス時ハ、ヨクヨク心ヲシヅメテ、仰ヲ聞クベシ、撮なまぎきナル事ヲバ、押返シテ不審ヲ申スモノ也」

なま-きず (名) 生傷 生新シキきず。又、ナマ癒エノきず。 [illegible]記、四、土佐坊上[illegible]「[illegible]ノ合戦ニ疵ヲカウブリ、イマダ其ノ疵[illegible]エヌニ、なまきず持チナガラ[illegible]二」

なま-きんだち (名) 上公達 年功ノツマザル公達。未熟ノ公達。 源、四十九、東屋、上「ムスメオホカリトキキテ、なま君達メク人人モ、オトナヒイフ、イトアマタアリケリ」

なま-ぐさ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 生臭 腥 (一)魚肉ナド、生ナル臭アリ。 腥臊 名 倭名抄、十九五魚體「腥、奈萬久佐之、魚肉臭也」 同[illegible]抄、[illegible]、ナマクサシ」 字鏡「胜、奈萬久佐志」 同[illegible]「[illegible]、奈萬久佐之」 一切經私記音義、一「魚臭曰腥」 (二)僧、戒行ヲ守ラズ。僧、俗臭ヲ去ラズ。 櫻陰比事(元祿、西鶴)二「今時ノ世間寺、皆なまぐさき坊主」 [illegible]かたはなし([illegible]治)「昔、なまくさき出家ト山伏ト、ウラヤサント陋禮ト、乘コミノ舟二」

なま-ぐさ-ばうず (名) 生臭坊主 ナマグサキモノヲ食フ破戒ノ坊主。又、墮落破戒ノ僧。品行ノ修ラヌ坊主。ウキザウス。 [illegible]集(寛永)「なまぐさ坊主、人ゾ笑ヘル、カクシテヤ、アノクタラ汁、食ヒヌラン」

なま-くび (名) 生首 斬レルママノ、人ノ頭。ナマナマシキ首。(髑髏ニ對ス) [illegible]記、九、堂衆軍事「上人コレヲ見給ヘバ、昨日鮮カニ、サカサカシゲナリシ有樣ニ、今日ハ魂モナキ生首、[illegible]世ノ習ヒト云ヒナカラ、夢ノ心地シ給ヘバ、墨染ノ袖ヲゾ絞ラレケル」

なま-くら (名) (一)〔鍛ヒノ熟セヌ意〕 刃ノニブキコト。又、切味ノニブキ刀。鈍 倭訓栞、中編、十七「なまくら、刀劍ノ鈍キヲ云フ俗語ナリ、生暗ノ義ナルベシ、なまハ、ナマル意、くらハ、クラ事ナド云フ意ナリ」 賤のをだまき(享和、森山孝盛)「腰物、云云、身ハ吟味セズ、疵アリテモ、なまくらニテモ、カマヒナク、云云」 (二)意氣地ナクシテ、ナマケルコト。又、ソノモノ。ナマケモノ。ノラクラモノ。

なま-くら-がたな (名) 鈍刀 切味ノ鈍キ刀。ドンタウ。鈍刀。

なま-ぐら・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 生暗 微ニ暗シ。ホノグラシ。ウスグラシ。ヲグラシ。微明 大和物語、下「在中將モ仕ウマツレリ、御車ノアタリ、生暗キ折ニ立テリケリ」

なま-くら-ぶし (名) 鈍武士 意氣地ナキ武士。武士ラシカラヌ武士。ナマブシ。ナマリブシ。

なま-ぐり (名) やりがんな(鐁)ノ類ト云フ。 [illegible](享保、[illegible]白石)八、器用「[illegible]、今俗ニやりかなト云フモノノ類ニ、なまぐりト云フ物、即是也」

なま-け (名) 懶 ナマケルコト。怠ルコト。懈怠 懶惰 浮世風呂(文化、三馬)二編、上「オ玉サン、今日ハオ手習ハ、オ休ミカエ、イイエ、ハハア、オなまけダネ、御覽ジマシナ、ワタクシノ目ヲ忍ンデ、甘ヤカシ過ギテ困リマス」

なま-け-もの (名) 懶者 (一)懶惰ナルモノ。(二)貧齒類ノ獸。喙短ク、顔圓クシテ、形、猿ニ類ス。四肢ニ長大ナル鉤狀ノ爪アリ、前肢ハ後肢ヨリ長クシテ二指アリ。南あめりか洲ニ產ジ、常ニ密林ノ樹上ニ棲息ス。性、遲鈍、怯懦ニシテ、行步、極メテノロシ。樹懶

なま-けやけ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 生尤 何トナクワヅラハシ。 源、廿三、初音「待チトリ給ヘル、ハタ、なまけやけしトオボスベカメル心ノ内、ハカラレ給ヒテ」 同、三十八、夕霧、上「なまけやけしトハ見給ヘド、物ノアハレナル程ノ徒然ニ、彼モイト、タダニハ覺エジト思ス」

なま・ける・ケル・ケレ・ケ・ケヨ(自動、下一) 懶惰 〔なまる意〕 オコタル。ズルケル。ブシャウス。ホネヲシミス。緩怠。

なま-こ (名) 海鼠 本名、こ。今、熬こナドニ對シテ、生ナルモノノ稱ヲ、通名トス。海產ノ動物、形、略、水蛭ニ似テ、長サ、五六寸、大ナルハ尺餘ニ至ル。鱗

骨、鰭尾、無ク、全體、[illegible]シテ、[illegible]滑ナリ。口ハ刀痕ノ如シ、腹ハ平ニシテ白ク、背ノ黒キモノ、味、最モ佳ナリ。冬ヲ時トス、又、黄ヲ帶ブルモアリ、略、虎[illegible]ニ似タレバ、とらこト云フ、味劣ル。皆、腸ニテ、このわたヲ作ル。沙噀 又、いりこ、ほしこ、くしこ、からこアリ。いりこ(煎海鼠)ノ條ニ註ス。字類抄「生海鼠、ナマコ、コ」大上﨟御名之事「女房コトバ、一、なまこ、ハナダ」書言字考節用集、五、氣形門「海鼠、[illegible]、土肉、海鼠、ナマコ」

なまこ-いた (名) 海鼠板 〔英語、Corrugated steel. ノ譯語〕亞鉛引鐵板、又ハ、亞鉛板ナドヲ波凹凸セシメテ、波狀トシタルモノ。屋根、壁ナドニ用ヰル。

なまこ-がた (名) 海鼠形 ナマコノ如キ形。凸ニシテ、左右次第ニ圓ク低クナレル形。カマボコナリ。カマボコガタ。

なまこ-ガハラ (名) 海鼠瓦 なまこがはら(牡瓦)ニ同ジ。

なまこ-かべ (名) 海鼠壁 土藏塗屋ナドノ外壁ニ、方形ナル平瓦ヲ、密ニ並ベテ打付ケ、其縱横ノ際間ヲ、漆喰ニテ、盛リ上ゲニ塗リタルモノ。昔ハ、大名屋敷ナドニ多ク用ヰキ。

なまこ-ぐすり (名) 海鼠藥 ナマコヲ藥トナシタルモノ。又、ナマコ形ニ作リタル藥。

一なまごころ (名) ナマジヒニ好事ナル心。未熟ノ心。[illegible]

「ナマナカ、カウカウトイヒタラバ、世間ニハカヘヌ[illegible]

なまこ-もち (名) 海鼠餅 海鼠形ニシタル餅。[illegible]平ニ長ク、海鼠ノ形ニ作リタルモノ。カマボコナリナリ。薄ク小口切ニシテ、缺餠ナドトス。

なまごろし (名) 生殺 殆ド死ナムバカリニ、アヤムルコト。半殺スコト。ハンゴロシ。[illegible]

セヨ、ソレコソ眞ノ目醒シナレ」

一なま-ざか・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 生賢 ナマサカシラナリ。コザカシ。[illegible]ハ、ミソギシ給フベキト、なまざかしき人ノキコユレバ」井蛙抄、六「心ナシトハノ給ヘド、耳シアレバ、[illegible]フラフゾ、[illegible]耳ニアレバカなまざかし[illegible]アリテ」

なま-さかしら (名) 生賢 ナマナカノサカシラ。ナマカシコダテ。小利口ブルコト。[illegible]日記、上、[illegible]、心ノ[illegible]クルヨナヨナゲカルルニ、なまさかしらナドスル人ハ」

なま-さぶらひ (名) 生侍 又、なまざむらひ。未熟ノ侍。官位ナドノ低キサブラヒ。[illegible]、上、序[illegible]ハカリナル[illegible]なまさぶらひメキタル者ノ、セチニ近ヤヨリテ、イデイ[illegible]アル事イフモ[illegible]カナ、更ニコソ信ゼラレネ、トイヘバ」

なま・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 生 (一)ナマナマシ。ナマナマナル狀ナリ。[illegible]抄[illegible]「ナマシ」[illegible]ワレアサヤカナル魚肉ニアラデハ、シックスル事ヲエズト、是ニヨリテ長淵ノハマニ至リテ、たましき[illegible]

一なまし (助動) 助動詞ノ過去ノ意ヲ云フ[illegible]

[illegible]ノ變化ノモノト、[illegible]ト接續シタル語。[illegible]集、九[illegible]リセバ、知ラズトモ、[illegible]「[illegible]ワシ」古今集、一、春、上「今日來ズバ、明日ハ[illegible]ドゾ、降リなまし、消エズバアリ共、花ト見マシヤハ」

一なまじがたな (名) 生刀 [illegible]鈍刀 [illegible]ノ、カネアマミ、思ヒ切レドモ、切ラレザリクリ」

一なま-ぞく (名) 生氏族 ナマナマノ氏族。稍ヨキ家筋。餘リ、ヨクモアラヌ門流。[illegible]

「ウセ[illegible]」

なま-ひたけ (名) [illegible] 生ナル[illegible]茸。採リテ間ノナキ椎茸。

なま-ひ・ゆ (動) [illegible] フ」(一)[熟セヌヲ強ヒテ。心ニ欲セヌヲ、[illegible]「孔丘卒、公誄之曰、旻天不弔、不[illegible]第三條「重ネタル卿、イナビガタクテ、なまひユヤまこひユ、身ヲ棄テガタミ、ワビツツゾ住ム[illegible]ナキ身トテ、思ハザル外ノ旅行ノ道」(二)[illegible]パヨイノニ。セズトモヨキニ。[illegible]

なま-ふめ [illegible]

なま-ふろ・し [illegible]

なます (名) 膾 [生切ノ略ト云フ] 肉白シ。ナントナク白キ狀ナリ。

(一)〔古クハ、魚肉ヲ生ニテ細ク切リタルモノ。今ハ、或ヲ、ソレヲ酢ニ和シタ[illegible]〕[illegible]ノ[illegible]宍ハ、[illegible]ハヤシ」(二)大根、人參ナドヲ細カニ切リテ、酢、醬油ニ浸シタルモノ。

なま・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 焠 [生] [illegible]ノ[illegible]燒キタル鐵ヲ、水ニ入レテ鍛ツ。

一なま-ずりう (名) 生受領 ナマナマノズリヤウ。國司ラシク見エヌ程ノ國司。[illegible]十五、[illegible]「なまずりやうナド[illegible]ハ、ナリハズハシタナキ心地スルモアリ」

一なま-ぞんわう [illegible]

[illegible]まぞんわうメク[illegible]シカリメハアマタ、イホキミ、[illegible]位ノフルメキタルナド」[illegible]まぞんわうニテ、イー[illegible]ナカリンヨリハ、かなりガ物ニ思ヒテ、[illegible]

なま-なり [illegible] 生成 [illegible]ノ[illegible]ニ似テ小サク、薙刀ノ如ク反リタルモノ。

なまだら (名) いたちうを(鼬魚)ニ同ジ。

なまち (名) 生血 ナマナマシキ血。[illegible]

なまつ [illegible] 〔魚ノ名、淡水ノ產ニシテ、頭大キク。

額闊ク、口大キクシテ、頷ニ鬚アリ、腹大キク、下顎長クシテ、口ニ齒ナシ。全身滑クシテ、鱗無ク、唯ダ粘涎ナリ。腹、白クシテ、河中ノ産ハ、背、蒼黒ニシテ、味美ナリ。止水ノ産ハ、背、黄ヲ帶ビテ、味劣ル。又、あかなまづ、赤鯰アリ。 鮎魚 倭名抄、十九、鱗介類「鮎、奈末豆」本草和名、下「鮧、奈末都」字鏡七十「鯷、奈萬豆」 (二)次條ノ語ノ略。 書言字考節用集、五、乾坤門「地震、ナマヅ、又云、鯰風」 (三)地震。(地底ニ鯰アリテ、地震ハ、其ノワザナリトノ傳説ニヨル) (四)なまづひげノ略ニテ、官吏ノアダナ。維新後、髭ヲハヤス小吏ヲ、嘲リテ、どぢょう、若シクハ、なまづナド云ヒキ。(ひげノ條ヲ見ヨ)

なまつば (名) 生唾 酸味ノ物ヲ見タル時ナドニ、自ラ口中ニ出ヅル唾液。

〜**なまづはだ** (名) 癜風 [鯰膚ノ意カ] 皮膚病ノ一。人ノ頸邊、胸前、腋下ナドノ膚ニ、痛痒ナクシテ、褐色、又ハ、黄褐色ノ斑剝(ハタケ)ヲ生ズルモノ。一種ノ黴菌ニヨルト云フ。略シテ、なまづ。其斑ノ白キヲ、古ク、白膚(シラハタ)ト云フ、今、シロナマヅ。 白癜 倭名抄、三、病類「白癜、之良波太」名義抄「癜、ナマツハダ」 醫心方、四八「癜風、奈末都波太」

なまづひげ (名) 鯰髭 泥鰌髭ヨリハ、細ソク長クシテ、鯰ノヒゲニ似タル口ヒゲ。略シテ、なまづ。猶、なまづ(鯰)ノ條ノ(四)ヲ參見セヨ。

〜**なまづめ** (名) 生爪 指ニ生ヒテアル爪。 浄瑠璃、三年十月「嫁ノ人、指甲(ナマヅメ)ヲ剝シ」 堀川波の鼓(寶永、近松作)中「文モ指フタ見見ヨト、生爪引切、サノト明ケ、アル男カ姉ヲ去テ暇ヲヤリ、私

ガ夫婦ニナロト、爪放シテ入レタル文ニ」「生爪ヲ拔ク」「生爪ヲハガス」

なまなか (副) なかなか(中中)ノ轉。カヘッテ。ムシロ。イッソウ。 倭訓栞、中編、十七「なまなか、生中ノ義ナルベシ、中中ニカヨフ意モアリ」 傾城島原蛙合戰(享保、近松作)四「アア有リガタイ忝イ、なまなかオ禮ハ冥加ナイ」

なまなかみ (副) 生半 (一)事全ク調ハズニ。ナカラハントニ。中途半端ニ。 (二)なまぢひみ(慭)ニ同ジ。

なまなま・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 生生 (一)未熟ナリ。生ニテアリ。生(ナマ) (二)生新(ナマアタラ)シ。生キテアリ。 大和物語、上「君ヲオモヒ、なまなましき身ヲ、燒クトキハ、ケブリオホカル、モノニザリケル」

〜**なまなまみ** (副) [生生ノ義] (一)未熟ニ。半途ニ。不十分ニ。 源、三十四、下、若菜、下四「なまなまみ學ビテ、思ヒカナハヌ類ヒアリケリ」 (二)スズメラレテ、心ヲ入レズ、シブシブニ。 古事記、中(仲哀)六十二「取ニ依其御琴一而、那麻那麻爾控坐故」

〜**なまなまの** (連體) 生生 物ノ未ダ熟セザルコト。未熟ノ。 源、二、帚木二「なまなまの上達部ヨリ、非參議ノ四位ドモノ、世ノオボエクチヲシカラズ」 同、同廿八「サエノキハ、なまなまの博士恥カシウ」

なまなり (名) 生成 (一)小サキ鮒ノ一稱。 殿中申次記、十六、二月朔日「生成三十、例年進二上之一、佐佐木四郎三郎」傍注「なまなり、小鮒ノ事也」 年中恒例記(廣橋兼秀)三月「生成一折、佐佐木越中、進上之日不レ定」 (二)能面ノ一種。女ノ容貌ニシテ、小サキ角生ジ、半、鬼ニナリタル形ノモノ。(能ノ鐵輪(カナワ)ノ曲ニ用キル)

なまにえ (名) 生煮 (一)ヨク煮エトホ

ラザルコト。又、ソノモノ。半熟 (二)十分ナラザルコト。未熟ナルコト。又、ソノモノ。 浮世親仁形氣(元文、自笑)二三「仙臺ガ生醉ニテ、マダヨク醒メモセヌニ、飛ンデ、膝骨ヲ打チ折ッタハ」

なまぬる・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 生溫 (一)微溫(アタタカ)ナリ。少シ溫カナリ。 伊曾保物語、文祿二「なまぬるい湯ヲ一杯、大茶碗ニ持テ來テ」 (二)寛(ユルヤカ)ナリ。テヌルシ。嚴シクナシ。 國性爺後日合戰(正德、近松作)四「母ガ生ぬるい」 雙生隅田川(享保、近松作)二「此ノ間ニ梅若君、尋ネウトハ思ハズカ、エエ生ぬるい館ノ正殿」

〜**なまばむ・ム・メ・マ・ミ・メ**(自動、四) 生 怪シク見ユ。ウサンクサシ。 太平記、三十三、飢人投身事「用心ノ最中、なまばうタル人ノ拔レ乞スルハ、夜討、強盜ノ案内見ル者カ、然ラズバ、宮方ノ廻文持ッテ廻ル人ニテゾアルラン」

なまはんじゃく (副) 生半熟 次條ノ語ノ訛。

なまはんじゅく (副) 生半熟 (一)半熟 (二)未熟ノ狀ヲ云フ語。ナマハンカ。ナマハンジャク。

なまび (名) 生乾 生干 未熟ナルヒカタ。十分ニ乾(カワ)カザルコト。又、ソノモノ。ナマ乾物。ナマボシ。

なまびやうはふ (名) 生兵法 (一)少シバカリ兵法ヲ心得タレド、未熟ナルコト。又、未熟ナル劍術。 貞德久集(松永貞德)「富田柳生、實手無、疑御遺覺、云云、御愼肝要候、生兵法ハ大疵ノ基ト申傳御座候、一笑一笑」 清水物語「何事モ佛ノ方便ニ委セ、正直ナルコソヨケレ、生兵法ハ大疵ノモトヰ、地獄ノアタリ、アラ、アブナト云フ」 (二)ナマ學問。未熟ナル知識

なまぶし (名) 生節 なまりぶし(生節)ニ同ジ。

なまへ (名) 名前 名ト云フニ同ジ。(人ニ)人ノ姓名。人名

なまへまけ (名) 名前負 分ニ應ゼヌ立派ナル名ヲ名乘リテ、カヘッテ見劣スルコト。名前ハ立派過ギテ、實質ノ伴ハヌコト。又、不熟ノ書ニテ、名人ノ名ヲ騙グナドニ云フ語。

なまへんじ (名) 生返事 生返辭 ハッキリセヌ答。アイマイナル返事。

なまぼし (名) 生乾 生干 なまび(生干)ニ同ジ。

なまみ (名) 生身 ナマナマシキ身。又、生キテアル身。イキミ。「生身ヲ抱ヘテ」

ナマミダ (句) 南無阿彌陀佛 なむあみだぶつ(南無阿彌陀佛)ノ約略。其條ヲ見ヨ。

ナマミダブツ (句) 南無阿彌陀佛 なむあみだぶつ(南無阿彌陀佛)ノ約。其條ヲ見ヨ。

なまみや (名) 生宮 ハカバカシカラヌ宮。時ヲ得給ハヌ皇族。(宮ハ皇族ノコト) 榮花、三、下「サラテなまみやバラニテ、ウシロムル人ナカランヨリハ、大將ニマカセタランニ、惡シウモアラジナドゾ、ノタマハセケル」

〜**なまみやづかへ** (名) 生宮仕 ナマナマノ宮仕ヘ。ハカバカシカラヌ宮仕ヘ。名バカリノ宮仕ヘ。 伊勢物語、八十七段「此ノ男、なまみやづかへシケレバ、ソレヲタヨリニテ、衛府ノスケドモ集リ來ニケリ、コノ男ノコノカミモ、衛府督ナリケリ」

〜**なまめ** (名) 生海布 生海藻 ナマノ海藻。 忠見集「コユルギノ、アマハアサリニ、ヤツレツツ、イカナル時カ(ニイ)、なまめカルラン」

なまめか・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）（一）〔ナマメキテ見ユ。艶ニ美シ。アダメカシ。アダ・ポシ。婀娜 源、三十四、上、若菜、上「イト若ク清ラニテ、カク御賀ナド云フコトハ、ヒガ數ヘニヤト見ユルサマノ、なまめかしく、人ノ親ゲナクオハシマスヲ」同、同上、「夢ノ心チコソシ侍レト、ウチホホヱミテミ奉リ給ヘバ、イトなまめかしくキヨラニテ」（二）色モテ媚ブル狀ナリ。イロメカシ。嬌冶 紫式部日記「ケサウナドノタユミナク、なまめかしき人ニテ、曉ニ顏ツクリシタリケルヲ」（三）優ニ、オクユカシ。ミヤビヤカナリ。徒然草、十六段「神樂コソ、なまめかしく面白ケレ」

なまめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〔生めくノ義〕（一）ナマナマシクアリ。物未ダ成リ定マラズシテ、若キ程ナリ。（二）〔轉ジテ、若クシテ、艶ニ美シク見ユ。アテヤカニ見ユ。婀娜 窈窕 名義抄「艶、ナマメイタリ、ヤサシ」字類抄「婀娜、ナマメク」伊勢物語、第一段「其里ニ、イトなまめいタル女ハラカラ住ミケリ」古今集、十九、雜體「秋ノ野ニ、なまめき立テル、女郎花、アナカシガマシ、花モ一時」源、十、榊「紅葉ノヤウヤウ色ヅキワタリテ、秋ノ野ノイトなまめきタルナド見タマヒツツ」同、七、紅葉賀「此内侍、常ヨリモキヨゲニ、ヤウダイ、カシラツキなまめきテ」（三）〔又、轉ジテ、[illegible]媚ヲ含ム。イロメク。嬌冶 持統紀、三年五月「詐[illegible]求之幸」[illegible] 枕草子、二、廿段「壺サウゾクナドバカリシテ、なまめきケサウジテコソアリシカ」[illegible]「[illegible]車ヲ、女車トシテ、寄リ來テ、トカクなまめく、[illegible]ニ、カノ室、ヰヲトリテ、車ニ入レタリケルヲ」

なまものしり（名）生物識 學ビテ、ナマナカナルニ、自ラ物識ブルコト。一知半解。生學問。半面學 書言字考節用集、八、言辭「半面學、ナマモノシリ」

なまやか（副）生 ナマメキタル狀ニ云フ語。[illegible]集、十二、[illegible]「イトなまやかニ[illegible]ケハヒ[illegible]常ナル[illegible]ノ、[illegible]ニモヤアルラント見ユルアリ」

なまよひ（名）生醉 なまゑひ（生醉）ノ訛。「なまよひ本性タガハズ」

〔**なまよみの**（枕）〔生黄肉ノ介ノ義ト云フ。又、生弓ノ反ルト掛ケタル語カト云フ〕甲斐國ノ枕詞。鮑ナドノ生肉、美ナリ、介肉ヲ膾ニスルコト多シ。萬葉集、三、[illegible]長歌「奈麻余美乃、甲斐ノ國、ウチヨスル駿河ノ國ハ」

なまり（名）鉛錫 〔生りノ義ニテ、固カラヌ意。朝鮮古言、ないむる〕（一）〔黒なまり、白なまりノ總名。後ニ、くろなまりハ、なまり（鉛）ノ名ヲ專ラニシテ、しろなまりヲ、すず（錫）ト云フ。倭名抄、十一、[illegible]「鉛、青金也、奈萬利、錫、之路奈末利、[illegible]ハ、くろめナリ」本草和名、[illegible]上「[illegible]、一名、白鑞、一名、[illegible]、奈末利」名義抄「[illegible]、ナマリ、クロナマリ、錫、ナマリ、シロナマリ、鑞、白鑞、シロナマリ」字鏡「錫、奈萬利」鉛、青金、黒奈萬利」[illegible]白鑞、白奈萬利」[illegible]記、中、序[illegible]、ナマリ」（二）鉛ハ、金類ノ一、色、灰白ナリ、水ヨリ重キコト、十一倍半アリ、諸金屬ノ中ニテ、最モ柔ク、最モ撓メ易ク、又、最モ鎔ケ易ク、且、[illegible]ナル故、硫酸製造ノ鉛室、及、其蒸溜鍋ヲ作リ、其他、[illegible]管、鉛[illegible]、彈丸ノ製造、合金ナドニ用ヰラル。

なまり（名）[illegible]ニ同ジ。[illegible]

なまい [illegible]

なまりぶし（名）生節 [illegible]

鰹節ヲ製スル初ニ、蒸シタル鰹ノ肉ヲ、先ヅ火ニ炙リテ水氣ヲ去レルマデノモノ。食用トス。ナマブシ。ナマリ。新[illegible]ヘシテユデズ、故ニ松筆ノ火ニテクスブルナリ」

〔**なま・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）隱 たばかる ノ[illegible] 長歌[illegible]ル、[illegible]ヲ、オホキミ召スト」

〔**なま・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）訛 〔生ヲ活用ス〕コトナマル。片言云フ。[illegible]正シカラズ[illegible]則ニ違フ。ダム。[illegible]「訛、ナマル、ダミタル、ヨコナマル」神武紀、[illegible]「此云奥許奈磨盧」金葉集、十、連歌、居タリケル所ノ北ノカタニ、聲なまりタル人ノ物イヒケルヲ聞キテ」日本永代藏（元祿、西鶴）二、「一人ノ娘、云云、言葉スコシ訛リ習ヒ」

なま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔生ヲ活用ス、未熟ノ[illegible]、又、固カラズ[illegible]〕[illegible]ノ法、描クシテ、鈍クナル。鍛ヒ不十分ニテ、ナマクラトナル。（刃ニ）

なまわか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）生若 頗ル若シ。極メテ若シ。ウラワカシ。俳諧[illegible]卯月紅葉（寶永、近松作）上、[illegible]様ノ存生ヨリ居タル者ノ事ナレバ、生若いワシガ身ナ、出過ギタ事ト控ヘシガ、コノ秋ハ[illegible]ノ十三年忌モ仕舞ヒマシ[illegible]

〔**なまわかんどほり**（名）イササカノ[illegible]故アリ[illegible] わかんどほりノ條ヲモ見ヨ。源、五十三、[illegible]「たまわかんどほりナドイフベキスヂニヤアリケン」

なまわかり [illegible]

[illegible]ルコト。[illegible]ルコト。

〔**なまゐ**（名）[illegible] さいおもだか（[illegible]）ノ古名。倭名抄、[illegible]

なまゑ（名）生餌 すりゑ（擂餌）ノ條ヲ見ヨ。

なまゑひ（名）生醉（熟醉ニ對スル意）少シ酒ニ醉フコト。又、ソノ醉ヒタル人。ナマヨヒ。酒風漢 [illegible]

〔**なまをんな**（名）生女 ナマ心アル女。又、未熟ナル女。身分低キ女。[illegible]

〔**なみ**（名）波浪濤 〔並水ノ義カ〕（一）水ノ面ノ、風ニ吹カレテ、動キアガルモノ。倭名抄、[illegible]

岂ニテ、帆ヲ[illegible]ヲ生ズルコト。「花ノ波[illegible]ノ[illegible]」[illegible]、波ノ高ク揚ル所。萬葉集、十四[三十二]「オシテイナト、稻ハツカネド、奈美乃保ノ、イタブラシモヨ、キゾヒトリネテ」

なみ（名）【竝】（一）〔竝ムコト。又、ナムモノ、ナラビ。列　字鏡[illegible]「倫位、等階也、奈弥乃志奈」萬葉集、五[十長歌]「人奈美ニ、アレモ作ルヲ、綿モナキ、布カタ衣ノ、ミルノゴト」（二）〔ヨノツネ。アタリマヘ。ツウレイ。【尋常】萬葉集、五[廿]「若鮎釣ル、松浦ノ川ノ、川波ノ、なみニ思ハバ、[illegible]ヒメヤモ」古今集、十四、戀、四「三吉野ノ、大川ノベノ、藤波ノ、なみニ思ハバ、我レ戀ヒメヤハ」（三）時毎ニ、又、物毎ニスルコトゴト。　書言字考節用集、八、言辭門「次、ナミ、日次、座次」「日竝」「月竝」「門竝」「町竝」

〔**なみ**（副）【無】ナサニ。ナキママニ。ナキユエニ。　萬葉集、[illegible]「[illegible]ニ逢ヒテ、葦ナミ[illegible]美、[illegible]ニカ、ケナガキ妹ガ、イホリセリケム」同、二[二三十八]長歌「一人ダニ、似テシ行カネバ、スベヲ無ミ、妹ガ名喚ビテ、袖ゾ振リツル」同、六[二十]、和歌ノ浦ニ、潮滿チクレバ、潟ヲ無ミ、葦邊ヲサシテ、鶴ナキワタル」拾遺集、十二、戀、二「カノ岡ニ、草刈ル男、[illegible]ナみ、ネルヤネリソノ、碎ケテゾオモフ」

なみ-あし（名）【竝足】〔疾足、馳足ニ對ス〕普通ノ速度ニテ歩ムコト。普通ノ足ナミ。疾クモ遲クモナキ、足ドリ。

なみ-うち-ぎは（名）【波打際】波ノ打チ寄スル岸。ナミギハ。ナギサ。ミギハ。　書言字考節用集、一、乾坤門「波打際、ナミウチギハ、水涯也」太平記、[illegible]、唐崎濱合戰事「敵ノ馬マイテ控ヘタル眞中ヘカケ入リ、敵三人ヲ切リ伏セ、浪打際ニ扣ヘテ、殘ク御方ヲゾ待チタリケル」

なみ-がしら（名）【波頭】（一）模様ニ、波ノ起チタル像。頭ノ蕨手ノ如キモノ。（二）波ノ頂。浪ノ穗。ハトウ。　松風村雨束帶鑑（元祿、近松作）龍神風流「アトヨリ寄セ來ル波ニ、[illegible]フ妻ハ村雨ヨ」

なみ-かぜ（名）【波風】（一）〔風荒ク吹キテ、波高ク立ツコト。又、波ト、風ト。風波　風浪　風濤　源、十二、須磨「サル心ボソカラン海ヅラノ、なみかぜヨリ外ニ、立チマジル人モナカランニ、カクラウタキ御サマニテ」（二）サワギ。ゴタゴタ。モメ。フウハ。　平家物語、十二、判官都落事「都ニ聊カノ煩ヒモナサズ、波風ヲモ立テズシテ、其ヨリ西國ヘ[illegible]ニテゾドラレケル」

なみ-き（名）【竝木】街道ノ兩側ナドニ、一列ニ松、杉、柳ナドノ樹木ヲ植エ付ケタルモノ。又、ソノ樹。路幅ヲ示シ、又、風ヲ防ギ、日光ヲ遮ル設ケトス。【列樹】【行樹】　書言字考節用集、六、生植門「行樹、ナミキ、阿彌陀經、七重行樹」本朝若風俗（貞享、西鶴）六「竝木ノ眞沙道、百間バカリ行キテ」

なみ-ぎぬ（名）【波衣】大嘗會ノ時、主上ノ沐浴シ給フ浴槽ニ覆フ絹。　代始和抄（寛正、一條兼良）「浪ぎぬトイフハ、御湯舟ニオホフキヌ也」寶石類書、五、下、波絹之事「三箇重事云、なみきぬト云フハ、御舟ニオホフきぬ也」

なみ-くら（名）【竝藏】ナラビツヅキテ、立テル倉庫。　拾遺集、十、神樂、タカシマヤ、ミヲノ中山、ソマタテテ、ツクリカサネヨ、チヨノなみくら」

なみ-ぐるま（名）【浪車】河舟ノ異名。　見聞車抄（慶長）四「浪車トハ、川舟ノ異名」蹴上抄、波車、注、河舟、大和物語ニ有リ」

なみ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）【無】〔無みすノ義〕無キ者ト見做ス。ナイガシロニス。侮ル。カロンズ。ミクビル。　類聚名義抄「无、無、ナミス」「蔑、ナミス、ナイガシロ」　盛衰記、廿六、忠盛婦人事「一天四海ヲ掌ニ握リ、君ヲモなみし奉リ、臣ヲ誡メツツ、始終コソナケレドモ、都遷マデシ給ヒケメ」

なみ-せん（名）【波錢】くゎんえいせん（寛永[illegible]）ノ條ヲ見ヨ。

〔**なみだ**（名）【泪】【涙】【淚】〔泣水垂ノ略カトモ云フ。朝鮮語、ぬん（眼）、むる（水）、遲羅語、たむ（水）、た（眼）〕眼ノ內部ノ腺ヨリ分泌シ出ヅル水。青便ニ、ナンダ。又、ソデノツユ、ソデノアメ、ソデノシグレ、淚の玉、淚の雨、淚の淵、淚の瀧ナド云フハ、皆淚ノ甚シク垂ルヲ、物ニ擬ヘテ云フナリ。　倭名抄、三、耳目類「涕、淚、奈美太」名義抄「淚、ナミダ」神代紀、上[illegible]「涕[illegible]、啼泣」[illegible]神」仁德紀、三十年十月「那潮多グマシモ」雄略紀、十四年四月「[illegible]所、獻之物也、故致[illegible]根使主不覺涕垂哀泣矣」萬葉集、廿[四三十]長歌「眞袖モテ、奈美太ヲノゴヒ、ムセビツツ、カタラヒスレバ」血の淚トハ、血ノマジリテ出ヅル淚ノ意ニテ、思ヒ迫リニ迫リテ、最モ悲シキ時ニ出ヅル淚。【紅淚】【血淚】　古今集、十六、哀傷「血の淚、オチテゾタギツ、白川ハ、君ガ世マデノ、名ニコソアリケレ」淚ニ暮るトハ、淚ニ沈ム、甚シク泣クノ意。　金葉集、八、戀、下「シノノメノ、明ケユク空モ、歸ルサハ、淚ニクルルモノニゾアリケル」

〔**なみだ-がは**（名）【淚川】淚ノ流ルルヲ、川ニ擬ヘテ云フ語。　古今集、十三、戀、三「ツレヅレノ、ナガメニマサル、淚川、袖ノミヌレテ、アフ由モナシ」貫之集、五「淚川、オツル水上、早ケレバ、堰キゾ兼ネツル、袖ノシガラミ」土佐日記、正月七日「行ク人モ、トマルモ袖ノ、淚川、ミギハノミコソ、濡レマサリケレ」

なみだ-きん（名）【淚金】〔同情ノ淚を灑ギテ與フル金ノ意〕其人ト從來ノ關係ヲ絕ツ時、人情上ヨリ惠ミ與フル金。オナサケノカネ。

〔**なみだ-ぐま・し・シキ・シケレ・シク・シク**（形、二）【淚含】淚グムヤウナリ。淚ヲ催シガチナリ。【潸然】　萬葉集、三[三五十]「妹ト來シ、敏馬ノ埼ヲ、歸ルサニ、獨リシテ見レバ、[illegible]モ」仁德紀、三十年十月、[illegible]見レバ、[illegible]源、十四、[illegible]「哀レニ、なみだぐましく、思シ出デラルル事ドモ多カリ」

〔**なみだ-ぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ**（自動、四）【淚含】〔淚含むノ略〕目ニ淚ヲモツ。淚ナキザス。泣カムトス。【潸然】　名義抄「泫、ナムタクム」「潸、ナムタクム」「潸然、ナムタクム」　源、十、[illegible]「イカバカリノ道ニテカ、カカル御有樣ヲ見ステテハ、別レ聞エント、アイナク淚ぐみアヘリ」

なみだ-ごゑ（名）【淚聲】淚ノ出ヅル時ノクモリタル聲。泣カムトスル時ノ聲。淚グミタル時ノ聲。ナキゴエ。

〔**なみだ-たり**（名）【承泣】〔淚垂ノ義〕灸穴ノ名。目ノ下、凡ソ七分許リノ處。　倭名抄、三、耳目類「目下謂之承泣、奈美太太利」名義抄「承泣、ナミタタリ」

なみ-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）【竝立】竝列シテ立ツ。ナラビテ立ツ。ナラビ立ツ。　榮花物語、三十六、根合「相撲ニ、裸ナル姿ドモノなみだちタルゾ、ウトマシカリケル」

なみだ-ぼふし（名）【淚法師】〔法師ハ男兒ノ義〕淚モロキモノノ異稱。ナキムシ。　散木集、十、雜、下、連歌「大空ハ、なみだ法師ト、ナリニケリ」

なみだ-もろ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）【淚脆】（一）ヤヤモスレバ、淚出ヅ。落淚シ易シ。　狹衣、四、下[廿七]「大宮ハ、イマイマシキマデ、淚もろくオハシマス」風雅集、五、秋、上[二]「露ナラヌ、泪モもろく、ナリニケリ、荻ノ葉ムケノ、秋ノ初風」（二）ナサケブカシ。思ヤリフカシ。慈悲ブカシ。　浮世床（文化、三馬）初編、下「オラガ親父ハ、オメエタチノ知ッテル通リ、泪もろい性ダカラ」

〔**なみ-ぢ**（名）【波路】波ノ上ノ、船ノ通フ路。フナヂ。シホヂ。ウミツヂ。航路。

土佐日記、十二月廿六日「白沙ノ、なみぢヲ遠ク、ユキカヒテ、我レニ似ベキハ、誰レナラナクニ」[illegible]集、九、[illegible]、下、[illegible]ハイツトモ、白波ノ、[illegible]ニイタク、行キカヨヒ」新古今集、十、羇旅「旅衣、タチ行クなみぢ、遠ケレバ、イサシラ雲ノ、程モ知ラレズ」[illegible]集、[illegible]ジクハ、富士ガ嶺ニ、モロコシ[illegible]リテ[illegible]カム、[illegible]ノ果ニ、心[illegible]シテ」伊[illegible]集「本ニモ生ヒズ、[illegible]モ[illegible]ヘデ、何シカモ、[illegible]路隔テテ、君ヲ聞クラン」

なみ‐と（名）【波音】波ノ音。ナミオト。ナミナト。濤聲　萬葉集、八 四十「天ノ川、浮津ノ浪音、サワグナリ、ワガマツ君シ、舟出スラシモ」

なみ‐ながし（名）【波流】鎧ノ札ノ名。波ノナラビタル如キ形ノモノ。

なみ‐なと（名）【波音】〔波の音ノ約ナルなみのとノ轉〕前前條ノ語ニ同ジ、なみのと。　萬葉集、廿「行先ニ、奈美奈等エラヒ、シルベニハ、子ヲラ妻ヲラ、オキテラモ來ツ（ヌイ）」

なみ‐なみ（名）【竝竝】ヨノツネ。ヒトトホリ。ツウレイ。世間ナミ。尋常。　源、六、末摘花「なみなみノタハヤスキ御フルマヒナラネバ」同、四十九、東屋「なみなみノ人ニモ物シタマハネバ」　彼ガ面魂なみなみならずトハ、彼ガ顔面ハ尋常ニアラズトノ意。　常山紀談（[illegible]）[illegible]日千介「イヤトヨ、千介ガツラダマシヒなみなみならず、末頼母シキワカ者ナリト、イヒナダメタリ」

なみ‐なみ‐と（副）〔波波ノ義〕溢レテ波ヲ起スホドニ。滿滿ト。十二分ニ。　[illegible]記、[illegible]、[illegible]リノ田ニハ、[illegible]なみなみとアル」「酒ヲ盃ニなみなみと注ク」

なみ‐の‐と（名）【波音】なみなと（波音）ニ同ジ。

なみ‐の‐はな（名）【浪花】（一）波ノ、岩礒ナドニ碎ケテ白ク散ルヲ、花ニ譬ヘテ云フ語。　土佐日記、正月廿二日「ケフ、海アラケ、礒ニ雪フリ、波ノ花咲ケリ」古今集、五、秋、下「草モ木モ、色カハレドモ、ワタツ海ノ、波の花ニゾ、秋ナカリケル」[illegible]集、[illegible]、下「[illegible]リモ、[illegible]ヘニナレバ、櫻川、なみのはなコソ、マナクヨスラメ」（二）鹽ノ異名。死ニ通ズルヲ忌ム、東京ノ[illegible]。　[illegible]夫木抄、三十五、[illegible]ノ、[illegible]ノアマタク、雨手弱ニ、下リヤ取ラム、浪の花ナミ」

なみ‐の‐ひら（名）【波平】刀鍛冶ノ一派。薩摩國、谷山一派ノ刀工、波平安次（慶長時代ノ人）ヲ祖トスルモノ。

なみ‐の‐まる（名）【波丸】模様、又、紋所ノ名。波ノ形ヲ圓ク描キタルモノ。

なみ‐の‐を（名）【波緒】（一）廿五絃ノ琴ノ初ノ緒。（二）波ノ音ヲ、琴ナドノ緒ヲ彈ズル音ニ擬シテ云フ語。　古今集、十七、雜、上「[illegible]マデ、[illegible]通ヘル、[illegible]ハ、波の緒スゲテ、風ゾヒキケル」

なみ‐ま（名）【波間】（一）波ト波トノ間。　萬葉集、七 廿「ヲトメラガ、織ルハタノ上ヲ、[illegible]モテ、カカゲタク島、波間ヨリ見ユ」同、十一 八二十「浪間ヨリ、見ユル小島ノハマヒサギ、久シクナリヌ、君ニアハズシテ」新古今集、六、春、上「[illegible]トイヘバ、[illegible]ミニケリナ、昨日マデ、波[illegible]ニ見エシ、[illegible]」（二）波ノ立タヌ間。　玉江コグ、[illegible]苅舟ノ、サシハヘテ、浪間モアラバ、[illegible]ラムトゾ思フ」[illegible]集、一、春、上「通フヘキ、波マモ見エズ、[illegible]ラケ、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]ノオホワダ」

なみ‐まくら（名）【波枕】船路ノ旅。又、[illegible]ナドノ旅枕。　壬二集、中「[illegible]ヲ、オモヒアカシノ、なみまくら、袖ノ氷ニ、千鳥ナクナリ」新古今集、六、冬「石バシル、初瀬ノ川ノ、浪枕、ハヤクモ年ノ、クレニケルカナ」[illegible]

なみ‐やか‐み（副）【竝】ナラビツヅク狀ニ云フ語。　[illegible]「[illegible]テ、ウラウラト、なみやかみ、然モ一[illegible]アル[illegible]ヲ、キラハシ[illegible]フナリ」

なみ‐よけ（名）【波除】海岸ノ海中ニ築ケル堤、波ノ打チ寄スルヲ防グ[illegible]。

なみ‐よ・る（自動、四）[illegible]　ナラビテ寄ル。[illegible]「[illegible]ノ田ニ、たみよる稲ハ、山川ノ、木ヒドカゲシ、サ苗ナリケリ」[illegible]グシノなみよりテ、ハラハラトコボレカカリタルホド」金葉集、一、春「吉野ノ山、ミネニなみよる、白雲ト、見ユルハ花ノ、木ズエナリケリ」

なみ‐ゐ‐る・ヰル・ヰレ・ヰ・ヰ・ヰヨ（自動、上一）【竝居】竝ビテ居ル。列坐ス。　[illegible]「小[illegible]以上[illegible]大夫、[illegible]」[illegible]八十五「ヨロヅノ人、皆スノコニなみゐ給へり」

ナム（名）【南無】〔梵語、Namah. 又ハ、Namo.〕那謨ノ轉、歸命頂禮[illegible]。衆生ノ、佛、菩薩ニ向ヒテ、其名號ヲ呼ビ、至心ニ歸依[illegible]スル時[illegible]云フ語。[illegible]花物語、十八、玉臺「南無[illegible]十八[illegible]光佛、云云」傾城佛の原（元祿、近松作）二「何トイフゾ、内内ノ米ノ事ヲ、文藏殿ヘ申タカ、南無三寶ト[illegible]」[illegible]「南無阿彌陀佛」

な・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）【竝】ナラブ。ツラナル。　萬葉集、廿「松ノケノ、竝ミタル見レバ、イハ人ノ、我レヲ見送ルト、立タリシモコロ」[illegible]

な・む・ムル・ムレ・メ・メヨ（他動、下二）【竝】ナラブル。ツラヌ。竝ブ。　宇津保物語、[illegible]「[illegible]」[illegible]「[illegible]ナムモノヲ、馬名目テ、行カマシモノヲ」同、[illegible]「[illegible]エためツツゾ、我ハミル、招ク尾花ニ、人ヤ來ルト」

な・む・ムル・ムレ・メ・メヨ（他動、下二）【[illegible]】（一）[illegible]「[illegible]、云云、イササカなめ給ヒテ」宇津保物語、[illegible]「花ノ露、紅葉ノ如ソなめ[illegible]アリツル」（二）[illegible]ジテ、甘ク見ル。サゲシメテ見ル。[illegible]後撰（文藏）[illegible]なめ[illegible]、[illegible]けたる[illegible]日惜シク思ヒ、なめ[illegible]負クルト思ヘバ」（三）[illegible]驗ス。「[illegible]リニ[illegible]ヲ事的タリ[illegible]」

なむ（接尾）物ヲナシ、又ハ、事ヲ行フ狀ヲ[illegible]、ノ語ノ下ニ[illegible]、[illegible]詞ニ用ヰル。物ヲナス。事ヲ行ノ。「イトなむ」「サカなむ」「タシなむ」「ハカなむ」

な・む（助動）現在完了ノ助動詞ノぬノ[illegible]化ナルなニ、未來ノ助動詞ノむノ添ハリタルモノ。未來ヲ想像スルニ用ヰル。[illegible]刈リテナン」「行キなむ」「去リなむ」「アリなむ」

なむ（助動）〔此語、活用ナシ〕動詞、助動詞ノ未然形ニ附キテ、注文シテアツラフ[illegible]。又、なノナチホシイ。　古今集、六、冬「今朝リハ、[illegible]ヲ降リツなむ、[illegible]」同、十六、哀傷「[illegible]」[illegible]「行カなむ」「去リなむ」「有リなむ」

なむ　[illegible]　定ムル意ヲ[illegible]。[illegible]

カナ、ト云ヒツなむ」同、正月十三日「トなむ歌ヨメル」　古今集、序「柿本ノ人麿なむ、歌ノ聖ナリケル」枕草子、十二、百五十六段「タダ今オコタルヤウニ侍レバ、カヘスガヘスなむ、悦ビ聞エサスル」「是レなむ夫レナル」斯クなむアリケル」

なん（名）【難】（一）ワザハヒ。災難。易經、上象傳「君子以儉德辟難、不可榮以祿」三國志、吳志、諸葛恪傳「孚獻、詩曰、惟臣之先、昔仕于漢、世世載德、顯于變、覽臣之父、値時之難」「難ニ殉ズ」（二）非難スベキ所。キズ。瑕。謙、廿八、野分「其外ハ、ツユなんツクヘクモアラズ」とりかへばや、二「アタライミジウオハスルニ、ヒトヲ人トモセズ、物遠ク上ズメキ給ヘルナド、ソレバカリヲゾ、なんニ思ヒ聞エタリ」萬聞集、十一、讀聞、鍋取婦、云云、メデタクハ書キテ候カ、難少少候」「難無シ」（三）困難。難儀。クルシミ。史記、魯仲連傳「爲人排患釋難解紛亂、而無取也、即有取者、是商賈之事也」管書、庾亮傳「興之敗、文賦、或本隱以之顯、或求易而得難」「行路難」生活難」就職難」　難を構ふトハ、互ニ軍ヲ起ス意。兵を構ふ　史記、張儀傳「秦嘗與楚構難戰於漢中」

なん（名）【軟】〔軟、輭ノ俗字、硬ニ對ス〕（一）ヤハラカナルコト。「軟筆」軟弓」（二）オダヤカナルコト。シヅカナルコト。

なん（名）【男】（一）だん（男）ノ條ノ（一）ニ同ジ。易經、繫辭、下傳「男女構精、萬物化生」（二）だん（男）ノ條ノ（二）ニ同ジ。史記、呂不韋傳「安國君中男、名子楚」「何某ノ男ナリ」

なん（代）【何】なに（何）ノ音便。論語、述而「伯夷叔齊何人也、曰、古之賢人也」（其ノ他、德、坊「コレャなんヂャ、知ラヌマデイ」「何ノ料ニカ」何ノ爲ニ」何時」

なん（接頭）【何】〔なに（何）ノ音便〕幾ノ意。宋史、岳飛傳「或問、天下何時太平、飛曰、文臣不レ愛レ錢、武臣不レ惜レ死、天下平矣」「何年」何代」何日」何度」何倍」

ナム-アミダブツ（名）【南無阿彌陀佛】〔梵語、Namo mitābhāya buddhāya; 又、Namo mitāyur buddhāya. 歸命無量光覺、又ハ、無量光覺ト譯ス。無量光覺ニ歸命スル意ナリ。猶、なむ（南無）ノ條ト、あみだ（阿彌陀）ト、ぶつ（佛）トノ條ヲモ見ヨ。コレヲ唱ヘテ、阿彌陀佛ノ救濟ヲ賴ミ奉ルナリ〕又、なまいだ。なまいだあ。なんおみどふト云フ。黃檗宗ニテハ、なんおみどふト云フ。專ラ、淨土宗、眞宗ニテコレヲ唱ヘテ、極樂往生ヲ希フ。故ニ、コレラノ宗ヲ、念佛宗トモ云フ。六字の命號。念佛。稱名。ナモウダ。觀無量壽經「具足十念、稱南無阿彌陀佛」　善導觀經疏、一「言南無者、即是歸命、言阿彌陀佛者、即是其行、以斯義故必得往生」　拾玉集、二、述懷「願クハ、紛亂レヌ、身トナリテ、十度唱ヘム、南無阿彌陀佛」新古今集、廿、釋敎「南無阿彌陀、佛ノ御手ニ、カクル絲ノ、終ミダレヌ、心トモガナ」　賀古敎信七墓廻（元祿、近松作）「アア南無阿彌陀佛トマゼコゼゴト、餘所ノキコヘノウタテサヨ」

なん-い（名）【難易】ムヅカシキト、ヤスキト。困難ナルコトト、平易ナルコト。禮記、學記篇「君子既知學之至學之難易、而知其美惡」　老子、第二章「有無相生、難易相成、長短相形、高下相傾、音聲相和、前後相隨」韓詩外傳「士欲立身行道、無顧難易、然後能行之」

なん-えい（名）【南榮】（一）家屋ノ南側ノ簷。司馬相如、子虛賦「偓佺之倫、暴於南榮」（二）紫宸殿ノ南ノ簀子。又、ソノ軒下。

ナン-エン-ブダイ（名）【南閻浮提】〔閻浮提ハ、梵語、Jambudvīpa. 南ニアル故ニ、南閻浮提ト云フ〕佛敎ノ語。なんせんぶしう（南贍部洲）ニ同ジ。平家物語、五、奈良炎上「況ンヤ是ハ南閻浮提ノ中ニハ、唯一無雙ノ御佛、長ク朽損ノ期アルベシトモ思ハザリシニ」盛衰記、廿八、經正竹生島詣事「南閻浮提ノ中ニ湖海アリ、海ノ中ニ水晶輪山アリ、即チ天女ノ所住ナリ」

なん-かい（名）【難解】解クコトノ難キコト。ワカリニクキコト。ナンゲ。江滙、錮冂贊「古著語質而難解、今著語文而易了」

なん-かい（名）【南階】ミナミノカタノキダハシ。多クハ、紫宸殿ナルニ云フ。其條ヲ見ヨ。著聞集、十三、政道忠臣「諸司ノ下部ノ年タケタルガ、南階ノ邊ニ候ヒケルヲ召シテ」

なん-がく（名）【南學】〔海南ノ學ノ義〕土佐國ノ南村梅軒ノ學派ノ稱。梅軒ハ天文年中ニ朱子學ヲ唱ヘ、其門下ノ谷時中、野中兼山ナド、コレヲ繼承セリ。先哲叢談後編（文政、東條信耕）一、谷時中「時中唱程朱學於土州、當時稱之南學」

なん-か-の-ゆめ（名）【南柯夢】〔南柯ハ、支那、唐ノ淳于棼ノ故事ニアル槐安國ノ郡名ナリ〕夢ハ、ハカナキモノナレバ、無常ヲ喩ヘテ云フ語。下ノ出典ヲ見ヨ。異聞集（唐）「淳于棼家ニ居廣陵、宅南有古槐樹、棼醉臥其下、夢二使者曰、槐安國王奉邀、棼隨使入穴中、見榜、曰大槐安國、其王曰、吾南柯郡政事不理、屈卿守理之、棼至郡凡二十載、使送歸、遂覺、因尋古槐下穴、洞然明朗、可容一榻、有二大蟻、乃王也、又、尋一穴、直上南柯、即棼所守之郡也」（此記事ノ詳細ナルモノハ、大槐宮記（陳翰）ニアリ、參照スベシ）

ナムカラタンノウトラヤヤ（句）【南無喝囉怛那哆羅夜耶】〔梵語、Namo ratnatrayāya. 南無ハ歸命、喝囉怛那ハ本音あらたなニテ、寶ノ義、哆羅夜耶ハ三ナリ〕歸命三寶ト云フ意ナリ。海錄、十九、四十六條「なむからたんのうたらややあやあトト云フハ、歸命三寶ト云フ事ノ、梵語ナリ、俗ニ云フハ訛レリ」

～なん-ぎ（名）【難義】解シ難キ義理。說明困難ナル意義。禮記正義、序「欲使信者之文、聚難義猶治絲、而棼之手難紫、而絲益亂也」枕草子、十一、百二十九段、わろき物は「宣長ノコトヲイヒテ、ソノコトサセントスト、イハン」「難義ヲ解ク」

なん-ぎ（名）【難儀】（一）難澁ナル事柄。ナヤミ。艱難。運歩色葉集「難儀、ナンギ」太平記、廿、勾當內侍事「路次ノ難儀ヲ顧ミテ、此ノ內侍ヲバ、今堅田ト云フ所ニゾ留メ置カレタリケル」（二）手オモキコト。カロカラザルコト。謠曲、朝長「膝ノ口ヲ射サセ、既難儀ニ候ヒシヲ、馬ニカカリ、コレマデ參リ候ヘドモ、今ハ一足モヒカレ候ハズ」（三）ワヅラハシキコト。面倒ナルコト。迷惑。狂言記、長光「アア、尤テゴザル、アノ盜人ユヱニ、難義ヲカケマスル」

ナン-キン（名）【南京】〔南京ノ字ノ支那音〕（一）支那ノ地名（今ノ浙江省、江寧縣）ヨリ來リテ、種種ノ舶來品ノ名ニ被ラスル語、殊ニ磁器ノ染付燒ノ稱。（二）常ニ變リテ、小サク愛ラシキモノ。「南京兔」南京鼠」南京竹」南京玉」（三）ぼうぶら（南瓜）ノ一名。（大阪）

ナンキン-あやつり（名）【南京操】小サキ人形ニ、絲ヲ多クツケテ、上ヨリ釣リテ、操リヲドラスモノ。寬文年間ニ始マル。（江戶ニハ、天明頃ナリト）歌舞伎事始「四條中島東門ノ北側ニ、南がいるトイヒシ南京あやつりアリ」伊呂芝居（正德）「人ヲツカフコト、南京人形ノ絲サバクヨリモヤスク、云云」

ナンキン-うさぎ（名）【南京兔】うさぎ（兔）ノ條ヲ見ヨ。

ナンキン-うめ（名）【南京梅】らふばい（臘梅）ニ同ジ。近代世事談（享保、菊岡沾

京)ニ、牛種「[illegible]、又、南京梅ト云フ、正保年中、中華ヨリ渡ル、十二月、チイサキ黄ノ花サク」

ナンキン-ざくろ (名) [南京石榴] てうせんざくろ(朝鮮石榴)ノ一名。

ナンキン-だけ (名) [南京竹] 竹ノ一種。幹、細ソクシテ、高サ六七尺ニ過ギズ。其筍、叢外ニ出デズ。義竹

ナンキン-だま (名) [南京玉] 硝子製ノ小珠。中ニ孔アリ、色、種種ナリ、女兒、絲ヲ通シテツラネ、種種ノ裝飾トス。今、びいず(Beads)ト云フモコレナリ。

ナンキン-ねずみ (名) [南京鼠] はつかねずみ(鼷鼠)ノ條ヲ見ヨ。

ナンキン-はぜ (名) [南京黄櫨] 黄櫨ノ一種。支那種ヲ移シテ、各地ニ植ウ。幹ノ高サ廿尺餘ニ達シ、枝葉甚ダ繁密ナリ。葉ノ形、圓扁ニシテ、互生シ、芽出シハ紅ニシテ、長ズレバ綠ナリ。秋、紅葉シテ、美シ。夏、三四寸ノ穗ヲ生ジテ、黄白色ノ花ヲ開ク、栗ノ花ノ如シ。實ハ、穗ノ木ニ生ズ、形圓シ、熟スレバ黑褐色ナリ、內ニ三子アリテ豆ノ如シ、外ニ白粉アリテ核ヲ包ム。支那ニテハ、此白粉ヲ採リテ、石鹼ヲ造リ、又ハ、蠟トス。核ノ仁ヨリ油ヲ採リテ、燈油トス。一名、タウハゼ。烏臼木

ナンキン-ばと (名) [南京鳩] 鳩ノ一種。[illegible]束シテ籠ニ飼フ。頂、背、紫青ニシテ、斑ヲナシ、頸ニ黑キ紋アリ。[illegible]ノ邊、少シ赤ク、頰、胸、青ク、腹、紫紅ナリ。[illegible]、黑ク、尾、青、[illegible]、共ニ青シ。

ナンキン-まい (名) [南京米] 交趾支那、暹羅、印度等ニ產ズル米ノ稱。[illegible]、我ガ米ヨリ劣レリ。

ナンキン-まめ (名) [南京豆] らくくわせい(落花生)ニ同ジ。

ナンキン-むし (名) [南京蟲] 有吻類ノ昆蟲。扁平ナル圓形ニシテ、大キサ一分許リ、赤褐色ヲ呈ス。床、壁等ニ棲ミ、人ノ皮膚ヲサシテ、赤色ノ疹ヲ生ゼシム。寢臺蟲。トコジラミ。麻蟲。臭蟲。

なんぎやう (名) [難行] 行ノ堪ヘ難キモノ。困難ナル修行。[illegible]

なんぎやう-くぎやう (名) [難行苦行] (難行ト、苦行トノ疊語) 佛教ノ語。種種ナル難苦ノ修行。[illegible]

なんぎやう-だう (名) [難行道] 佛教ノ語。自力ニヨリ、諸ノ難行ヲ經テ、證果ヲ得ル法門。自力教ノ道。(易行道ニ對ス) 毘婆娑論「菩薩求ニ阿毘跋致ハ、有ニ二種道ハ、一者難行道、一者易行道」 淨土宗名目問答(元祿、偶辨阿)中「問、何名ニ難行道ニ耶、答、修ニ行佛道ハ甚以難レ行、[illegible]」

なんきよく (名) [南極] (一) 地軸、又ハ、天球軸ノ南ノ端。[illegible] 北極ノ對。[illegible]

なんきよく (名) [illegible] [illegible]

なんきよく-せい (名) [南極星] 天ノ南極ノ近キニアル星。[illegible]

なんきよく-らうじん (名) [南極老人] (一) [illegible] (二) 星ノ名。略シテ、南極。前條ヲモ見ヨ。[illegible]

なんくせ (名) [難癖] 非難スベキ點。キズ。缺點。[illegible]

なんくわ (名) [南華] [illegible] (一) 莊周ノ著ハシタル莊子ト云フ書ノ異名。[illegible]

なんくわ (名) [軟貨] [illegible] かうくわ(硬貨)ニ對ス) 紙幣ノ稱。サツ。

なんくわ (名) [軟化] (一) 固キモノガ、ヤハラカクナルコト。(二) 強キ意見ヲ主張セザルヤウニナルコト。

なんぐわ (名) [南畫] [illegible] なんしうぐわ(南宗畫)ニ同ジ。

なんくわん (名) [難關] (一) 關所、又ハ、門ナドノ通リガタキコト。[illegible] (二) [illegible] リヌクルニ、ムツカシキコト。

なんげ (名) [難解] なんかい(難解)ニ同ジ。[illegible]

なんけん (名) [難件] 處置ノムツカシキ事件。取リサバキニ困難ナル事件。

なんこ (名) [何箇] (幾箇ト中ヲ合ノ意) [illegible]

[illegible]蝶マハシ、園引、なんお呼ビテ、白ト子供心トナリテ[illegible]

なんお (名) いしなお(擲石)ノ略。

なんとつ (名) 軟骨 (一)ヤハラカナル骨。(二)動物ノ體中ニアリテ、骨ニ似テ軟カニシテ、彈力アルモノ。骨節ノ端ヲ包ミテ、其相當ルヲ防グ。(三)硬強ナル意見、又ハ、態度ナドヲ持ツ能ハザルコト。「軟骨漢」

なんとん (名) 男根 又、だんこん。いんきやう(陰莖)ニ同ジ。 書言字考節用集、五、肢體門「男根、ナンコン」

なんざ (名) 南座 傀儡丁ノ稱。 孝亮宿禰記、元和元年五月「南座役人、今度女御入内ニ罷出[illegible]」

なんさう (名) 南曹 ざうし(曹司)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 本朝無題詩、一、賀ニ勸學院修造ニ[illegible]

なんさなんさ (副) 隨分 なふさなふさ(隨分)ノ條ヲ見ヨ。

ナムさん (名) 南無三 なむさんぼう(南無三寶)ノ略。 生玉心中(正德、近松作)中「南無三、帶ガ切レタカ」 曾門松(享保、近松作)中「ハアア南無三、此馬落タ」

なんざん (名) 南山 (一)南ニアル山。(支那ニテハ、昔、周ノ都、豐鎬ノ南方ニアリシ終南山ヲ、單ニ南山ト云ヘリ) 詩經、小雅、白華之什、南山有臺「南山有臺、北山有萊」[illegible]「節彼南山、維石巖巖」 (二)ことぶき中スコト。(南山ノ壽ヨリ出ヅ)イハフコト。 (三)あづち(垜)ニ同ジ。 弓術[illegible]之書、一、南山之事「古ヘハ上ヲ丸ク築キタル也、當世ハ横廣サ一間二尺、上ノ廣サ下ニ一尺セバク、高サ七尺計リヨシ」

なんざん (名) 難產 (一)產ニ臨ミテ、胎兒ノ安ラカニ出デヌコト。出產ノ重キコト。又、ソノ產。 運歩色葉集「難產、ナンサン」[illegible]十八、文[illegible]「[illegible]父ハ、六十一、母ハ、四十三ニテ生タル一男ナリ、母ハ難產シテ死ヌ」 (二)物事ガ容易ニ成立セザルコト。

なんざんのじゆ (名) 南山之壽 人ノ長壽ヲ祝スル語。下ノ出典ヨリ出ヅ。 詩經、小雅、鹿鳴之什、天保篇「如月之恒、如日之升、如南山之壽、不騫不崩、如松柏之茂、無不爾或承」 張正見、侍宴詩「願奉南山壽、明明奉萬年」[illegible]「願奉南山壽、千秋長若斯」

ナムさんぼう (名) 南無三寶 〔南無ト、三寶トノ條ヲ見ヨ〕 (一)佛、法、僧ノ三寶ヲ祈念スルニ發スル語。(佛ニ救助ヲ求ムル意カ) 謡曲、邯鄲「歡樂モ王位ニナレバコレマデナリ、ゲニ何事モ一炊ノ夢、南無三寶」 (二)俗ニ、失敗シタルコトヲ口惜シク思フ時ニ發スル語。感動詞ノ如シ。略シテ、南無三。シマッタ。 曾根崎心中(元祿、近松作)「南無三寶、二人ノモノガ、書キ置キヂャ」 長町女腹切(元祿、近松作)「南無三寶、脩テハ内内苦勞ニシテ、慾面ノ親父メガ、年切增シノモガリゴト」

なむし (名) 菜蟲 菜ヲ食害スル蟲。あをむし(青蟲)ニ同ジ。 芭蕉句集、秋「胡蝶ニモ、ナラデ秋フル、菜蟲カナ」

なんし (名) 男子 (一)ヲトコノコ。ダンシ。 易林節用集(慶長)上、人倫門「男子、ナンシ」 吾妻鏡、四十、建長二年六月十日「懷姙之後雖[illegible]男子可付父」 (二)ヲトコ。

なんじ (名) 難事 ムヅカシキ事。困難ナル事柄。 老子、第六十三章「天下難事、必作於易、天下大事、必作於細、是以聖人、終不爲大、故能成其大、[illegible]」

なんじふ (名) 難澀 (一)滯ルニ難クシテ、澁ブルコト。澁滯スルコト。 易林節用集(慶長)上、人倫門「難澁、ナンジフ」 (二)困ルコト。惱ムコト。難儀。艱苦。 吾妻鏡、三十一、嘉禎二年九月十日「此事不底滯之由、內內難澁」

なんしやう (名) 難症 ナホリ惡クキ病氣。癒エ難キ病症。難病。

なんじやく (名) 軟弱 ヤハラカク、ヨワキコト。身體ヨワク、意思ノ強カラザルコト。 白居易、張柳詩「[illegible]枝拂枝、軟弱不自持」 李嶠詩「[illegible]仙禽形狀已依稀」

なんしゆ (名) 南斗 南方ノ星宿ノ名。 下學集、上、天地門「南斗、北斗、斗字從南北而音異也」 運歩色葉集「南斗八、北斗七」

なんしゆう (名) 南宗 〔南方ノ宗派ノ義〕 (一)支那ノ禪宗ノ第五祖、弘忍ノ弟子慧能ヲ祖トスル一派。主トシテ江南ニ行ハレタリ。故ニ南宗ト云フ。コノ派ハ、北宗ノ漸漸修證ヲ主トスルニ反シ、頓悟成佛ヲ專ラニセシカバ、南頓北漸ナド云フ。我ガ國ニ傳リタル禪宗ハ、之ニ屬ス。南禪。(北宗ニ對ス) 傳燈錄「弘忍禪師曰、禪宗本無南北、如來以正法付迦葉、傳至達磨來、此爲初祖、至五祖、二弟子慧能住嶺南、神秀在北、得法雖一、而開導發悟有頓漸不同、故曰南頓北漸」[illegible]「南宗先性、北宗先命」 (二)次條ノ語ノ略。

なんしゆうぐわ (名) 南宗畫 〔北宗畫ニ對ス〕 又、南畫。唐ノ王摩詰ヲ祖トスル繪畫ノ一派。文人ノ畫家ガ多カリシ故、文人畫トモ云フ。コレ北宗畫ニ對シ[illegible]シタルモノ[illegible]ヲ畫上ニアラハスナリ。我ガ國ニテモ、[illegible]南海ナドコレヲ傳ヘ、池野大雅堂、與謝蕪村、渡邊華山、田能村竹田、ナド繼承セリ。院畫ト云フハ、畫院ノ繪師風ニテ、唐ノ李思訓ヲ祖トスルモノ、コレヲ北宗畫、又、北畫トモ云フ。其南北ノ差違ハ、南ハ渲淡ニシテ超脫ノ風アリ、北ハ剛堅ニシテ刻劃ノ風アリ、而シテ、南ハ灑落、幽淡、神韻ヲ專ラニシ、圖樣缺除ノ所ニ、圖外ノ意ヲ含メ、氣韻生動ス。之ニ反シ、北宗ハ金碧山水、綠黃ヲ彩リ、金泥ニテ描クノ風ナリ。 佩文齋書畫譜[illegible]「[illegible]禪家有南北二宗、亦唐時分也、云云、南宗則王摩詰始用渲淡、一變鉤斫之法、其傳而爲張璪、荊關、董巨、郭忠恕、米家父子、以至元之四大家」

なんしよ (名) 難處 難所 又、なんしよ。行キ過ギ難キ所。往來ニ困難ナルトコロ。難場。切處。險處(山路、又ハ、荒海ナドノ) 史記、河渠書「漕水道九百餘里、時有難處」 保元物語、二、新院御出家事「新院[illegible]云云、如意山ヘ入ラセ給フ、山路嶮シクシテ難所多ケレバ、御馬ヲ止メテ、御歩行ニテゾ登ラセ給ヒケル」

なんしよく (名) 男色 〔女色ニ對ス〕 又、だんしよく。男ト男ト相姦スルコト。衆道。若道。鷄姦。 漢書、佞幸傳、贊「柔曼之傾意、非獨女德、蓋亦有男色焉」 本朝若風俗(貞享、西鶴)一「男色ホド美ナル翫ビハナキニ」 男色ヲ賣ルモノヲ、ワカシュ、カゲマ、ヤラウ、ト云フ。男寵。寺院ニテハ、兒ト云ヒ、歌舞伎モノニ、カゲマ、カゲコ。又、武家ニ、旗本小草履取トテ抱ヘオクモノナドハ、皆、男色ヲ賣ルモノナ

リキ。（昔昔物語、寛文）寶永ノ頃、渡小性ヲ是レナリ、［illegible］、安永）

なん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）［難］非ヲ詰ル。非難ス。孟子、離婁、下篇「君子曰、［illegible］」人ハ、イヅコニカハアラン」

なん・すれ・ぞ（副）［何爲］なにすれぞ（何爲）ノ音便。又、なすれぞ。ドウシテカ。如何シテカ。字類抄「何爲、ナンスレソ」［illegible］ナンスレゾ」名義抄「曷爲、ナスレゾ」神代紀、下ニ「何［illegible］義於亡者」

なん・すゐ（名）［軟水］石灰質、又ハ、石膏ノ如キ鑛物ヲ含有セザル水。（硬水ニ對ス）

なん・せきかう（名）［軟石膏］（硬石膏ニ對ス）せきかう（石膏）ノ條ヲ見ヨ。

なん・せん（名）［難船］船ノ難風ニ遇ヒテ、難破スルコト。又、船舶ノ、坐礁、破損、覆沒ナドノ災難ニ遭フコト。［illegible］

ナンセン・ブ・シウ（名）［南瞻部洲］（梵語、Duksina-jambu-dvipa. ノ新譯語）佛經ニ、須彌山ノ南方、鹹海中ニアレバ南ト云フト。卽チ、吾人ノ住居スル現世界ナル此土地ノ稱。南閻浮提。閻浮提ノ條ヲ見ヨ。［illegible］ト云フ一人ノ聖出デ來テ」

なん・せん・ほくば（句）［南船北馬］忙シク絕エズ諸方ヘ旅行スルコト。支那、南部ニハ、揚子江、其他、運河、溝渠多ク、行旅ニハ多ク船ヲ用ヰ、北部ハ大平原［illegible］

ナレバ、多ク馬背ヲ借ル故ニ云フト［illegible］

なん・ぞ（副）［何爲奚］（なに、ぞ、ノ音便）何トシテゾ。ドウシテ。［illegible］然ラム」

なん・だ（名）［涙］なみだノ音便。名義抄［illegible］「涕、淚、ナムダ」字類抄［illegible］［illegible］月「眼淚」［illegible］

なん・だ（副）［何］モノヲ問ヒカクルトキニ云フ語。ナンデアルカ。

ナンダ（名）［難陀］（梵語、Nanda）佛經ノ語。摩竭陀國ニ住ムト云フ龍王ノ名。又、佛弟子ノ名トモ云ヒ、常ニ跋難陀［Upananda］ト列記シテ、兄弟ノ南龍王ト云フトゾ。［illegible］無二飢年二」

なん・たい（名）［男體］（女體ニ對ス）又、だんたい。ヲトコノ姿。男子ノ形體。［illegible］不思議ヤナ、花ノ光ニカガヤキテ、男體ノ人ノ見エ給フハ、イカナル人ニテマシマスゾ」

なん・だい（名）［難題］（一）詩、歌ノ題ノ意ノ、詠ミ難キモノ。［illegible］（二）解キ難キ問題。ムヅカシキ問題。難問。（三）爲シ難キ事ヲ爲ヨト責ムルコト。無理ナル言ヒ掛ケ。［illegible］君ノ首討ッテ渡セト、鎌倉ヨリノ御難題」

なん・だう（名）［南堂］藤原四家ノ一ナル南家ノ稱。［illegible］

なむ・たち（代）［illegible］

なんだ・もんだ（名）（仙臺ノ方言ナリト云フ）一種ノ石。質堅クシテ、火打石ニ似タル文アリ、［illegible］甲子夜話、廿七）今、云フ華靑石ナラム。

なん・たら（副）（一）何トヤラ。（伊豆、玖須美地方）（二）何ト云フ［illegible］後獅子「何たら愚痴ゾヘ、牡丹ハ持タネド、越後ノ獅子ハ、己ガ姿ヲ花ト見テ」

なん・たら・ぐち（名）ムダグチ。アダグチ。［illegible］

なむ・ぢ（代）［汝爾］（元ハ、なノ一音ナリ、むちハ、貴ノ義ナリト云フ、きむちナド云フモ、きハ君ナリ）（一）對稱ノ代名詞。ナンヂ。我ト對シテ、我ガ話シ掛クル人ノ名ニ代ヘテ云フモノ。［illegible］ミ。キミ。アナタ。名義抄「爾、ナムヂ、汝、ナムヂ」［illegible］竹取物語「汝ガ持チテ侍ルカクヤ姫奉レ」宇津保物語［illegible］ハ、卑族ニ云フ。リヌシ。リドノ。オマヘ。ソナタ。ソチ。［illegible］

なん・ぢ（名）［難治］（一）ヲサメガタキコト。［illegible］（二）病ノ癒エ難キコト。難症。［illegible］

［illegible］シキコト、難儀。困難。［illegible］

なんぢ（代）［汝］なむぢ（汝）ノ轉。前前條ノ語ヲ見ヨ。字類抄「汝、ナンヂ、爾、ナンヂ」［illegible］ウオボシケンカシ」竹取物語「イカニオモヒテカ、なんぢら、カタキモノト申スベキ」

なむぢ・たち（代）［汝達］なむぢたち（同ジ）

なん・ぢん（名）［illegible］公卿ノ、年號ノ字ヲ評議スルコト。［illegible］ル時ニ、難陳トイフ事アリ、年號ノ字ノ［illegible］

なん・ちやう（名）［南朝］［illegible］南朝ノ略、假ハつゐ、假ノ如ク、［illegible］モノナレバ云フ」なんれう（南鐐）ニ同ジ。ナンテイ。［illegible］

なんちや・もんちや（名）（何でふ物ちゃノ意）國ノ名。又、［illegible］靑キ外來樹ニテ、關東ニ唯一株ノミト云ノ。［illegible］式ノ際、關白ツサラニ［illegible］

シケレド、支那ノ北部ニハ多シト。俚言集覽「神崎、下總國、木オロシノ先、神ざきトモ云フ、なんぢやもんぢやト云フ古木アリ、移山按、舟行シテ夜サレハト國シノ見ス、十尾方傳記行ニハ、かつら木ナリト書ケリ」下總ノ神崎神社ニアリテ、今モアリ、「ソレハなんぢや、コンナもんぢや」ト云フ意ニテ、コノ神社ナルハ、水戸黄門ノ命名ナリト傳フ。

なんぢら（代）〔汝等〕なむたちニ同ジ。

なんで（副）〔何〕ナゼ。ナニユエニ。鬼貫句選「なんで秋ノ、來タトモ見エズ、心カラ」

なんてい（名）〔南挺・南廷・南庭〕後ノ丁銀ノ類。なんれう（南鐐）ニ同ジ。台記、久安四年九月一日「獻銀四十兩南廷於南面堂二」百錬抄、五、文治元年十月廿日「唐錦唐綾唐綃、南廷五十」同、四十九、正元、年三月廿七日「白一物、御劍、武州、砂金、唐綾、太刀、龍馬、南廷、御馬四匹」云云、別當局、南廷」沙石集、六、下、十一條「有時、道ノホトリニシテ餅ヲ賣リケルニ、人ノ袋ヲオトシタリケルヲ見ケレバ、銀ノ軟挺六アリケリ」

なんてい（名）〔南庭〕禁中、殿上ノ南ノ庭場。特ニ、紫宸殿ノ南前ノ廣場。保元物語、一、官軍方方手分事「軍兵雲霞ノ如ク召具シテ、高松殿ニ參シケリ、後レ等ヲ南庭ニ召サレテ」

なんてう（名）〔南朝〕（一）ミナミカタ。南方。（二）延元元年、後醍醐天皇、大和ノ吉野ニ遷リ給ヒ、同時ニ、足利尊氏、京都ニテ、光明天皇ヲ即位セシメ奉ル。コレヨリ、吉野ヲ南朝ト稱シ、京ヲ北朝ト稱ス。其後、南朝ハ、後村上、長慶、後龜山、ノ三天皇ヲ歷、又、北朝ハ、崇光、後光嚴、後圓融、ノ三天皇ヲ歷、凡ソ五十七年ニテ南朝、北朝ノ後小松天皇ニ合セリ。（二）支那ニテ云フハ、我仁德天皇ノ頃ヨリ、其國、南北ノ二部ニ分レ、其東晉、宋、齊、梁、陳ヲ南朝トシ、魏（北、東、西ノ）、北齊、北周等ヲ北朝トシ、二百七十餘年ヲ歷テ隋ニ合セリ。

なんでふ（句）〔何云〕なでふ（何云）ノ條ヲ見ヨ。讃岐典侍日記、上「三位殿モ時ニコソ從ヘ、カバカリニ成リニタル事ニ、なんでふ物ハバカリハスルトアレバ、イカガハセムトテスグス」宇津保物語、樓上、下「二十二「なんでふコトモ侍ラズ」

なんでまり（句）でまりノ條ヲ見ヨ。

なんてん（名）〔南天〕（南天燭ノ略）灌木ノ名。高サ五六尺ヨリ一丈餘ニ至ル。人家ニ多ク植エテ、其綠葉、紅實ヲ賞ス。一根ニ、數莖、叢生ス。葉ハ羽狀複葉ニシテ、其小葉ハ、楝ニ似テ鋸齒ナク、冬枯レズ。梅雨中、枝ノ頭ニ、長キ穗ヲ出シ、多ク小枝ヲ分チテ、五瓣ノ小白花ヲ開ク。蘂、黃ナリ。實圓ク小サク、熟スレバ赤ク、穗ニ綴リテ垂ル、甚ダ美シ。春ニ至リテ、尙アリ、南天燭又、實ノ色ノ白キアリ、白南天ト云フ。調味故實「かいしきノ葉ハ、なんてんぢくナリ」書言字考節用集、六、生植門「南天、ナンテン」

なんでん（名）〔南殿〕（一）南方ニアル宮殿。北史、齊彭城景思王傳「以二白刃一欲レ引二向南殿一」（二）〔なでんト讀ム。〕紫宸殿ノ一名。宇津保物語、貴宮、二十「ミカドノ南殿ニ出デ給ヘルニタチテ」

なんてん‐ぢょく（名）〔南天燭〕（一）略シテ、なんてん。前條ヲ見ヨ。本草綱目「本名、南燭、俗謂二之南天燭一木而似レ草」（二）鏡ノ裏ニ、南天燭ヲ鑄付クルハ、難ヲ轉ズル意ニテ、一種ノ禁厭ナリ。

なんと（名）〔南斗〕なんきゅ（南斗）ノ條ヲ見ヨ。

なんと（名）〔南都〕（一）南方ニアル都。特ニ、支那、洛陽ノ南ニアル都。〔張衡、南都賦」（二）大和國ノ奈良ノ稱。山城國ノ京都ヨリ南ナレバ云フ。著聞集、七、術道「南都ヨリ初瓜ヲ奉リタリケルニ、御物忌ノ中ニ取入ラレンコト、イカガアルベキトテ」（三）奈良ノ興福寺ノ稱。延曆寺ヲ北嶺ト云フニ對ス。「南都北嶺」

なんど（名）〔納戸〕〔納殿ノ音便略。なふど、なんど〕衣服、調度ナドヲ納メ置ク室。昔、貴族ノ家ニテ、物多ク納メ置クヲ、大納戸ナド云ヒ、朝夕ニ用ヰル程ヲ置クヲ、小納戸ナド云フ。女房　雅言集覽　東抄、一「御簾ハなんどニカクルモ、南表ニカクルナリ」參考平治物語、三、賴朝擧二義兵一事「近習ノ輩、納戸ヲ開イテ」（京師本）

なんど（接尾）〔抔〕何とノ音便。略シテ、など。其條ヲ見ヨ。幸若、烏帽子折「孟なんどヲバ、何トシテ賜フゾ」史記抄、文明、十二「孤分扶持ヲ、クハヨウなんどト云フ」

なんど‐がまへ（名）〔納戸構〕殿中ノ帳臺ノ稱。三好筑前守義長朝臣亭江御成之記「御座敷、なんどがまへノ右ノ方ニ、文臺二引合杉原ノ上ニ文鎭置レ之」毛利家記「天正十八年九月十八日、殿下樣御成、云云、御納戸構ニ御イカウ有」

なん‐ど‐なれ‐ば（接）〔何則〕何故ニトナレバ。ナゼト云ヘバ。如何トナレバ。何者

なん‐なん‐と（副）〔喃喃〕クドクドシク語ル狀ニ云フ語。ペチャクチャト私語ク聲。高適、中秋翫月詩「[illegible]」北史、房陵王勇傳「[illegible]頭喃喃細語」白居易詩「喃喃[illegible]語」

なんなん‐と‐す（動）〔垂〕（垂、幾也、康熙字典「垂、將レ及也」）なりなむとす（垂）ノ音便。名義抄「行、ナムナムトス」且、ナムナムトス」字鏡「[illegible]、ナンナントユクヌエス」[illegible]

なんなり‐とも（副）〔何成〕何モノナリトモ。ナンデアラウトモ。狂言記、法師物狂「ヲヲ、なんなりとも、オノレガ欲シイ物ヲ取ツテウセイ、ヲヲ、ソノ一腰ヲオクシャ」

なん‐の‐かの‐と（副）〔何彼〕ナニヤカヤト。カレコレ。トヤカク。ナンノカンノ。イロイロ。狂言記、俄道心「出家ト申ス者モ、且那アシラヒノなんのかのと申シテ、トット六カシイ物チャニヨッテ、俄ニ、コノ樣ニ還俗致シテゴザル」

なん‐の‐かん‐の（副）〔何彼〕前條ノ語ニ同ジ。

なん‐の‐あざ‐だ（感）案ニ相違シタル時、發スル語。ナント云フコトダ。

なん‐の‐その（感）物ノ高ノ知レタル時ニ、發スル語。何ノソレシキガ。俳人一茶、加賀侯ノ聘ヲ辭シテ「草ノ露百萬石モ、なんのその」大高源五「なんのその、岩ヲモトホス、桑ノ弓」

なん‐ば（名）〔難場〕行キ過グルニ困難ナル所。又、難儀スル處。難所。

なん‐ば（名）〔南蠻〕なんばんきび（南蠻黍）ノ略。其條ヲ見ヨ。

なん‐ぱ（名）〔難破〕船ノ、難風ニ遇ヒテ、破ルルコト。難船。易林節用集（慶長）上、人倫門「難破、ナンハ」

なん‐ぱ（名）〔軟派〕〔硬派ニ對ス〕（一）意見ノ軟弱ニテ、他ノ說ニ盲從スル如キ流派。（二）不良少年ナドニテ、婦女子ヲ目的ニスルモノ。（此ニ對シテ、喧嘩等ヲ目的ニスルモノヲ硬派ト云フ）

(三)新聞、雜誌社ニテ、文學、又ハ、艶種ナドノ記事ヲ擔任スルモノ。(政治、經濟ナドヲ擔當スル硬派ニ對ス)

ナンバア (名) 「英語、Number.」 カズ。數。又、番號。

なん-ばう (名) 男房 〔女房ニ對ス〕 局ヲ給ヒテ仕フル官官。又、藏人ヲ女房ニ擬ヘテ云フ稱。 [illegible]記、十六、六位人道藝「貴賤上下、女房、男房、上ヲ下ニ返シ」 範子內親王家歌合「命 [illegible] 有歌、以 [illegible] 女房 [illegible] 左右 [illegible] 以 [illegible] 男房 [illegible] 右方、衣色 [illegible]」 [illegible]記、三十四、如 [illegible] 無盡ノ手ヲ [illegible] シ、[illegible]、云云、女房、男房、心ヲ盡シ、落涙スル者モ多カリケリ」 [illegible]集、廿、[illegible]「法性寺入道關白ノ家ニ、男女房 [illegible] シテ侍リケル時ニ」

なん-ばう (名) 南方 (一)南朝ニ同ジ。みなみかた(南方)、及、なんぼくてう(南北朝)ノ條ヲモ見ヨ。(二)次條ノ語ノ略。

なんぽう-けぬき (名) 南方鑷 「銘ニ、南方ト刻ルヨリ云フ。元、諸葛亮、出師表「故五月渡瀘、深入不毛、今南方已定、甲兵已足」トアル文中ノ南方ヲ採リテ、近衞殿ノ命名スト云フ。或ハ、尾張ノ敬公ニ始マルト」 毛拔ノ異名。又、ナゴヤケヌキ、尾張國、名古屋ニ、南方ト云フ鍛冶アリ、其作リシ毛拔ニテ、源敬公、鬚ヲ拔クニ、能クヌケテ少シモ痛ラズ。南方不毛ノ地ト云フコトアレバ、常ニ其鍛冶ヲ南方ト呼べり。家ナ南方ト云ヒ、銘ニ南方ト刻ルトゾ」又、[illegible]義教、富士見ニ東下セシ時、熱田ノ[illegible]福寺ニ宿セシニ、名古屋ノ[illegible]モノアリ、なんばうニヨキケヌキナリト云

ヘリト。 ト鷹狂歌集(中非非寄集)下「或人なん方ノけぬき給ハリ、云云、歌ヨミテオコセトアリケレバ、ヨキトイヒテ、額ヒモイザヤ、シラ髭ヲ、コレデ南方、ヌクセカイノ國」

なん-ばく (名) [illegible] [illegible]

なん-ばけ (名) [illegible] 難波家ノ家元。下ノ[illegible]ヲ見ヨ。 [illegible](寛文、二條康道) [illegible]、飛鳥井、難波ハ兄弟同宗之家ニテ、元來、飛鳥井ハ難波之別流ニ候、[illegible]ト中人ヨリ、其孫[illegible]宗長[illegible]、[illegible]ト申南人江相續有之、宗長[illegible]難波家ヲ相續シ、[illegible]ハ飛鳥井家之元祖ニテ、是ヨリ飛鳥井家[illegible]リ候、右宗長[illegible]南[illegible]ヨリ、南家共、代代相承家業ト相成、[illegible]、南家ヨリ御願[illegible]モ[illegible]候」

なん-ばん (名) 南蠻 (一)南ノ方ノえびす。支那ニテ、其南方ノ外國人ノ稱。孟子、[illegible]文公、上篇「今也南蠻鴃舌之人、非先王之道」[illegible]記、[illegible]、[illegible]、九州之長、云云、其在東夷、北狄、西戎、南蠻、雖大曰子」 (二)我ガ邦ニテハ、昔、西南海外ノ、今琉球、臺灣、呂宋以南ノ諸國人ヲ、稱シタルガ如シ。一條天皇ノ長德三年十月、南蠻ノ、我ガ九州ニ亂入シテ、人物ヲ掠メタリ(日本紀略)トアルハ、高麗國人ナルガ如ク、後一條天皇ノ寬仁四年閏十二月ニ、南蠻ノ賊徒、薩摩ニ來リテ人民ヲ虜掠ス(左經記)トアルハ、西南方ノ國人ナルガ如シト云ヘドモ、何ノ國ナリシカ知ラレズ。應永廿六年六月、南蠻[illegible]トアリ、以後、南蠻ノ來セシ事、モノニ見エタリ。(三)後ニ、專ラ葡萄牙人ノ稱。コレヨリ[illegible]、[illegible]來リ、同國人ハ、天文十二年、始メテ

我ガ邦ニ來ル。同十八年、西班牙人モ亦來リ、コレヲモ南蠻人ト稱ス。 [illegible]ト云フ[illegible]ノ南方ニ當タレリ、故ニ南蠻ト號スル者歟」 和[illegible] [illegible] 通、兩手一足ヲ[illegible]、又[illegible]ヲ云フ。(五)なんばんに(南蠻煮)ノ略。(六)なんばんきび(南蠻黍)ノ[illegible]モノ。又、鴨ノ肉ヲ加ヘタルヲ鴨なんばんト云フ。 [illegible]南蠻ト云ヒ、鴨ヲ加ヘ[illegible] [illegible]ノ[illegible]ナリ」 (八)次次條ノ語ノ略。(九)轉ジテ、南蠻地方ヨリ渡來セル[illegible] 語、[illegible]

なんばん-がらし (名) 南蠻辛 (一)たうがらし(唐辛)ニ同ジ。又、なんばんこせう。略シテ、なんばん。

なんばん-きび (名) 南蠻黍 [illegible] さとうきび(唐黍)ニ似[illegible]、高サ[illegible]尺。夏、葉ノ間每ニ、長大ナル苞ヲ生ジ、上ニ長キ紅絲ヲ垂ル。熟シテ苞ヲ開ケバ、其子、[illegible]ノ如ク[illegible]ナリ。粒ノ赤キモノハ糯ナリ、はぜ(爆)トシテ佳ナリ。色ノ黄ナルハ粳ナリ、炙リテ食フ。略シテ、なんばん。一名、タウモロコシ。(關東)タウキビ。(琉璃、[illegible] [illegible]、[illegible]) [illegible] 諸國)ニ、生擒門、[illegible]、天正ノハジメ、[illegible]來ル、關東ニテハ、[illegible]ト云フ」 [illegible] 露ヤ、[illegible]モ、打チソヨギ」

なんばん-ぐわし (名) 南蠻菓子 [illegible]リ渡來セル菓子。即チ、かすていら、ぼうろ[illegible] [illegible]ノ[illegible]ナルベシ、[illegible]年頃、[illegible]ノ[illegible]ニアリ、[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]なんばん菓子ト[illegible]

なんばん-ごせう (名) 南蠻胡椒 [illegible]がらし(唐辛)ニ同ジ。又、なんばんがらし。略シテ、なんばん。

なんばん-じ (名) 南蠻寺 [illegible] 寺院。天主教(耶蘇宗教)ノ寺院。[illegible] [illegible]、四方ノ[illegible]、[illegible] [illegible]ト云フ[illegible]

なんばん-じん (名) 南蠻人 〔紅毛人ニ對ス〕 天文十二年中ヨリ、ぽるとがる人、[illegible] 中ヨリ、いすぱにあ人來リタリ、共ニ南洋ヨリ渡來シタルヲ以テ云フナリ。[illegible] ジテ、西洋人ヲ卑シメ[illegible]

なんばん-すな (名) 南蠻砂 [illegible] [illegible]

なんばん-てつ (名) 南蠻鐵 [illegible] 鍛錬セルモノト云フ。刀鐵ノ一トナリト云フ。[illegible]、作リテ[illegible]

なんばん-に (名) 南蠻煮 [illegible] 魚、大根、魚、鳥ノ肉ナド[illegible]

なんばん-まつやに (名) [南蠻松脂] 俗ニ、くんろく(薫陸)ノ稱。其條ノ(一)ヲ見ヨ。

なんばん-りう (名) [南蠻流] (一)次條ノ語ノ略。外科醫術ノ稱。南海寺…記「南蠻流ノ外科ヲ受ケ」 松風村雨束帶鑑(元祿、近松作)二「何ナリトハモ附ク南蠻流ニ人ノ油」 (二)古砲術ノ一派ノ稱。倭漢三才圖會、十、廿二條、砲術流儀、紅毛流、元祖吉川…、云云、南蠻流」

なんばんりうげくわ (名) [南蠻流外科] 外科醫術ノ一派。澤野忠庵ヲ祖トシ、其門人ナル長崎ノ南蠻通詞ナリシ西吉兵衞、醫トナリ、名ヲ玄甫ト改メ、南蠻流ヲ行ノ。又、杉本忠惠モ忠庵ノ門人ニテ、同流ナリ。略シテ、南蠻流。 雍州府志、六、土産門「凡本朝外科有二流、一ハ本朝所傳…、一ハ…南蠻所傳之法…今以…爲良」

なん-びと (代) [何人] (なにびと(何人)ノ音便) 如何ナル人。誰。

ナンビン (名) [餡餅] あんびん(餡餅)ノ條ヲ見ヨ。

ナンピン (名) [難平] (字ノ宋音) (一)愚鈍ナルコト。又、其人。 好色一代女、…「…ラスハ、主ダフシ、我ガ身知ラズノなんぴん也」 (二)取引所ノ語。難ヲ平均ニスル義ニテ、賣買約束ヲナセシモノガ、豫想ト反對ニ、相場ノ騰貴シ、或ハ下落セシ場合、更ニ突張リテ賣增シ、又ハ、買增シヲナシ、値ノ平均ヲハカリ、損勘定ヲ回復セムトスルコトヲ云フ。

ナンピン-うり (名) [難平賣] 取引所ノ語。賣リテ損失ヲ受ケタルニ拘ラズ、又賣リ込ムコト。前條ヲモ見ヨ。

ナンピン-がひ (名) [難平買] 取引所ノ語。買ヒテ損失ヲ受ケタルニ拘ラズ、又買ヒ進ムコト。前前條ヲモ見ヨ。

なんぴんは (名) [南蘋派] (享保ノ頃、明人、沈南蘋ガ、長崎ニ來リテ、傳ヘタルヨリ云フ) 近世、支那ヨリ傳來シタル寫生畫ノ一派。濃艶ナル彩色ヲ用キテ、動植物ヲ畫クヲ特長トス。

なん-びやう (名) [難病] 癒エ難キ病。難症。 書言字考節用集、五、疾病門「難病、ナンビヤウ」 孕常盤(寶永、近松作)五「マタ清盛入道ハ、火ノ病ヒト申ス難病ニ冒サレ、今ヲ限リノ有様」

なん-ぶ (名) [南部] (一)南ノ方ノ處。 後漢書、南匈奴傳「南單于所得北虜眞…左賢王、將ニ其衆及南部五骨都侯合三萬餘人ニ畔歸」 (二)南部織ノ略。古ク、甲斐國、南巨摩郡、睦澤村南部ノ地ヨリ織出ス種種ノ織物。後ニ、甲斐ノ南部氏、陸中南部ノ地ニ轉ジ、專ラ其地(今ノ盛岡)ヨリ產出スル織物ヲ云フコトトナレリ。南部紬、南部縮緬ナド云フ。(三)なんせんぶしう(南贍部洲)ノ略。

なん-ぷう (名) [南風] (一)ミナミカゼ。 禮記、樂記「昔者舜作五弦之琴、以歌南風」 (二)南方ノ、北方ニ對シテ勢ノ振ハザルコト。 左傳、襄公十八年「師曠云、不害、吾驟歌北風、又歌南風、南風不競、多死聲、楚必無功」

なん-ぷう (名) [難風] 吹キ荒レテ、船路ニ難儀ナル風。 著聞集、十七、變化「島人トモ、難風ニ吹キ寄セラレタル舟ゾト思ヒテ」 定西法師傳「淺康、云云、我レ今マデ三度渡リテ難風ニアヒ、死人ニ同ジ事ニナリシ事モアレド」

なん-ぷう (名) [軟風 暖風] ワヅカニ感ゼラルル程ニ、靜ニ吹ク風。ソヨカゼ。地文學上ニテハ、夏季、海邊ニ於テ、晝夜溫度ノ差、高キ時ニ吹ク風ノ稱。即チ、晝ハ陸ノ溫度高キヲ以テ、海ヨリ陸ニ向ヒテ吹ク、之ヲ海軟風ト云ヒ、夜ハ陸ノ熱ヲ放散スルコト早キヲ以テ、陸ヨリ海ニ向ヒテ吹ク、之ヲ陸軟風ト云フ。

なんぶ-おり (名) [南部織] なんぶ(南部)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 溫庭筠詩「…風吹、春水斗綺」

なんぶ-がま (名) [南部釜] 京都ノ釜師、小泉仁左衞門清行、延寶中、南部大膳大夫重信ニ抱ヘラレ、盛岡ニ移住シ、黑木山ノ鐵、北上川ノ沙鐵ヲ用キテ、製造シ始メタル釜ノ稱。

なんぶ-ごよみ (名) [南部曆] 昔、陸中國、南部ニテ、私ニ作リシ曆。文盲ナル者ノ用ニトテ、文字モ假名モ記サズ、スベテ繪ニテ、月日、農事ノ氣候等ヲ畫キシ一枚摺ノモノナリ。正月ニハ、注連繩、五月ニハ、早苗取ノ狀ヲ畫ケルガ如シ。又、南部田山曆。繪曆。盲曆。

なん-ぶつ (名) [難物] 扱ヒ惡キ物。又、其人。モノムヅカシキ人物。

なんぶ-つむぎ (名) [南部紬] なんぶ(南部)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

なん-ぶん (名) [軟文] 軟文學ノ略。小說、戲曲、美文、詩歌ナド、ヤハラカ味ニ富メル文學。ヤハラカモノ。輕文學。(國家、政治、經濟、道德、哲學ナドヲ對象トスル硬文學ニ對ス)

なん-ぶんがく (名) [軟文學] 前條ヲ見ヨ。

なんぶ-わん (名) [南部椀] 又、南部塗、淨法寺椀。陸中國、二戸郡、淨法寺村ニテ製出スルモノ。黑漆ニ五色ノ繪、所所ニ金箔ヲ押ス。高倉帝ノ時、藤原秀衡ノ製セシメシ秀衡椀ノ遺ナリト。 …「南部椀、マタ秀衡椀トモ云フ、其ノ始メ…ラズト雖モ、上人ノ口碑ニヨレバ、藤原秀衡ノ創意ヨリ出デシモノナリトゾ、其製、內朱外黑ニシテ、黑漆ノ上ニ、朱ヲ以テ、鶴、花卉ノ類ヲ描キ、所所ニ金箔ヲ押セリ、ソノ雅致アルヲ以テ、尤モ茶家ニ愛翫セラル」

なん-ぼ (副) [何程] (なにほど(何程)ノ略轉) (一)イカホド。ドレ程。イクラ。ナンボウ。 狂言記、…「…唯今ハオ茶ヲ…メトオッシャル、一ツタベマセウ、なんぼナリトモ參リマセウ」 (二)ドノヤウニ。ドンナニ。如何ヤウニ。ナンボウ。

なん-ぼう (副) [何程] (なにほど(何程)ノ轉訛) (一)前條ノ語ノ(一)ニ同ジ。 盛衰記、三十四、佐佐木賜生食事「如何ニ金子殿、コノ馬なんぼうノ馬ニテ候ゾ、御覽ゼヨト云フ」 (二)何ト云フ。何トシタル。 謠曲、松山天狗「是レコソ新院ノ御廟所、松山ニテ候ヘ、なんぼうアサマシキ御有様ニテ候ゾ」 同、隅田川「なんぼう世ニハ情ナキ者ノ候ゾ」 (三)前條ノ語ノ(二)ニ同ジ。 絲竹初心集、小歌、近江宵笠「なんぼう當ヨゴザル」

なんぼく-てう (名) [南北朝] (一)延元元年八月、足利尊氏、光明天皇ヲ京都ニ擁立シ奉ル。同十二月、後醍醐天皇、密ニ大和ノ吉野ニ幸シ、行宮ヲ營ミタマヒテ、恢復ヲ圖ラセ給ヘリ。コレヲ南朝ト稱シ(みなみかた、南方、宮方ナド云フ)、京都ナルヲ北朝ト稱ス。(將軍方)

南朝ハ後村上、長慶、後龜山ノ三代ニ傳ヘ、元中九年、京都ニ還幸アリテ、南北和議成リ、位ヲ後小松天皇ニ傳ヘ、ココニ一ツトナル。此間、五十七年間ヲ、南北朝時代ト稱ス。なんてう(南朝)ノ條ヲモ見ヨ。(二)支那ニテハ、東晉ノ末、南方ニテハ、劉裕、晉ヲ滅シ、宋ヲ建テ、北方ニテハ、拓跋氏、五胡十六國ヲ併有シテ、北魏ヲ興シ、南主、帝ヲ稱ス。後ニ隋ノ一統スルマデノ間(二百七十餘年間)ヲ南北朝時代ト云フ。なんてう(南朝)ノ條ヲモ見ヨ。

ナンマイダ (名) なむあみだぶつ(南無阿彌陀佛)ニ同ジ。

ナンマミダブツ (名) なむあみだぶつ(南無阿彌陀佛)ニ同ジ。

なんめ (代) 〔なんぢめ(汝奴)ノ略〕汝ノ奴。狂言記、生捕鈴木「ソノ時、猴嗣、ナニ、鈴木三郎重家トハ、なんめガ事カ」

なんめん (名) [南面] (一)南ノ方ニ向クコト。ミナミオモテ。ミナミムキ。孟子、滕文公、下篇「湯始征自葛載、云云、東面而征、西夷怨、南面而征、北狄怨」杜甫、詩「黑山南面更無州、馬放平沙夜不收」(二)君主ノ位ニツクコト。君主トナリテ、國ヲ治ムルコト。(支那ニ於テ、天子ハ南ニ面シテ臣下ニ對スル定メナルヨリ云フ)易經、說卦傳「聖人南面而聽天下、嚮明而治」史記、魏豹彭越傳、贊「[illegible]」[illegible]「血桑、時、日有闘笑」

なんめり (助動) なる、めり、ノ音便。[illegible] メテ、なめり。めりノ條ヲ見ヨ。[illegible] [illegible] ニ [illegible] [illegible] シケレ [illegible] 二

なんもん (名) [難問] 答ヘ難キコトヲ、尋ネ問フコト。難解ノ質問ヲナスコト。又、ソノ問題。難題。[illegible]

なんやう (名) [南洋] (一)南方ニアル大洋。特ニ、支那ニテハ、江蘇省以南ノ沿海ヲ云フ。(二)我ガ國ヨリ馬來群島、及、大洋洲一帶ヲサシテ云フ語。

なんら (代) [何等] 〔なにら(何等)ノ音便〕イカナル。ドノヤウナル。何。書言字考節用集、八、言辭門「何等、ナンラ」

なんれう (名) [南鐐] 〔說文「鐐、白金也」爾雅、釋器篇「白金謂之銀、其美者謂之鐐」又、馬ノ毛色ノ、極メテ白キヲ、南鐐トツケシコト、盛衰記ニ見ユ、其義、詳ナラズ。南鐐ハ、詩經、[illegible]篇ノ「大賂南金」ヲ借ルカ〕(一)銀ノ美ナルモノ。ナンチャウ。ナンテイ。書言字考節用集、七、器財門「南鐐、ナンレウ」盛衰記、三十四、木下馬事「右大將此ノ馬ヲバ惜シミテ、其ノ代リト覺シクテ、南鐐ト云フ馬ヲ賜ハリタリケリ、極メテ白馬ナリケレバ、南鐐トハ呼ビケリ」同、十、中宮御產事「[illegible]金千兩、南鐐百、御劍[illegible]振、[illegible]ニ入レテ」(二)轉ジテ、銀ノ異名。(三)古キ貨幣ノ名。小判一兩ノ八分ノ一ニ當ルモノ。卽チ、二朱銀。(安永元年九月、通用ヲ始ム)商賣人ノ南鐐百枚ト云フハ、十二兩二步(明治初年頃ノ十二圓五十錢)ナリ、コレヲ南鐐、百枚ト、ミモ云フ。[illegible]「[illegible]一分二朱チャト云ヒクサッテ」

なんろ (名) [南呂] (一)十二律ノ一。其

條ヲ見ヨ。又、[illegible] ノ異稱。[illegible]

なんろん (名) [難論] (一)困難ナル議論。ムツカシキ議論。(二)ろんなん(論難)ニ同ジ。[illegible]

なめ (名) [illegible] 味噌[illegible]ヨリ出ヅル[illegible]ルモノ。

なめ (名) [騰脊] 〔滑ノ義ト云フ〕馬具ノ名。[illegible] 天治字鏡、十二、[illegible]

なめ (名) [白痢] 〔滑ノ義ト云フ〕痢病ノ類。白痢。又、[illegible]

なめ (名) [illegible] [illegible]ノ滑カナル[illegible]

なめ (名) [嘗] (一)嘗ムルコト。[illegible] (二)高貴ノ御方ニ[illegible]時、[illegible]メ試ミテ、毒味スルコト。又、ソノ役。[illegible] 云云、兩宮(春宮、中宮)ノなめニハ、オモトクスシ、一人參ルナリ」「なめ[illegible]」

なめ (名) [無禮] ナメキコト。ナメゲナルコト。ブレイ。ムライ。[illegible] の末末「御返シ、簾ノ内侍奉リテ申スベシ」[illegible] リシヲ、なめナリトイフコトニテ」[illegible]

なめう (形) [無禮] なめくノ音便。なめし(無禮)ノ條ヲ見ヨ。

なめくぢ (名) [蛞蝓] [illegible] 蟲ノ名。蝸牛ニ似テ殼ナク、背、灰黃白色ニシテ、黑斑アリ、長サ二三寸、頭ニ二對ノ肉角アリテ、其長キ方ノ先端ニ眼アリ。[illegible] ミ、晝伏シ夜出ヅ、多ク雨後ニ行ク。[illegible] キタル跡ニ[illegible]ノ如キ痕ヲ殘ス。ナメクヂリ。倭名抄、十九、蟲豸類「蛞蝓、奈女久知」本草和名、下[illegible]

なめくぢり (名) [illegible]

なめげ [illegible] ヒトキハ、黒キ[illegible]シタルゲモナキ狀、又、ナホザリ[illegible]ノ狀、又、輕ンズル狀ナドヲ云フ語。[illegible]

なめさか (名) [滑坂] ナメラカナル坂。[illegible]

なめされ (名) [illegible]

なめし (名) [菜飯] [illegible]

ヲ蒸シテ潰セル、汚ミタルヲ、假ニ塗シテ味ナツケタルモノ、或ハ、茸、牛蒡、ナドノ類ニモ用キル。　江戸[?]子大全(寛[?]七、江戸名物[?])「近在土産、吉川[?]」

〔なめ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一)　無禮　〔滑ノ義ニシテ、怠ル意カ、或ハ、並ノ義ニテ、貴賤ヲ押並ニスル意カト云フ、イカガ〕　禮無シ。無禮ナリ。ブシツケナリ。　名義抄「慢、ナメシ」　萬葉集、六 卅「倭道ハ、雲隱リタリ、然レドモ、吾カ振ル袖ヲ、無禮ト思フナ」　伊勢物語、百五段「イトなめしト思ヒケレドモ、志ハイヤマサリケリ」　枕草子、二、十七段「文コトバなめき人コソ、イトド憎ケレ」　繼體紀、廿三年四月「受天皇勅輕遣使乎」　欽明紀、廿三年七月「昔君輕賤吾身、今何面目以相遇、遂不肯言」　續紀、廿九、天平寶字八年十月、宣命「無禮クシテ從ハズ、奈賣久アラム人ヲバ」　なめく、ノ音便ハ、なめう　蜻蛉日記、中、中「[?]動ノなめう見ユルコト、物ニ似ズ」

なめし-がは(名)　〔革 鞣革〕　又、ツクリカハ。鞣シタル皮。(次條ヲ見ヨ)　其上面ヲ削リテ、揉ミテ更ニ柔クシタルヲ、古クハ、をしかは(韋)ト云ヒ、今ハ、もみかは(揉革)ト云フ。韋 柔皮 熟皮　本朝[?]俗 貞享、西鶴 五「なめし革の巾着ニ、門ヒキノ根ツケヲ下ゲ」

なめ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)　〔鞣〕　〔滑ニスル義〕　毛皮ノ毛ト脂トヲ去リテ柔カニス。其法、藁灰汁ニ、糠ヲ雜ヘテ、暖メタルモノヲ用キテ、皮ノ表裏ヲ善ク揉ミテ、コレヲ洗ヒ、張リテ晒シ、稍、乾キタル時、篦ニテ肌肉ヲ刮ゲ去ル。

なめ-すすき(名)　〔滑薄〕　ねずみたけ(鼠茸)ノ一名。　運歩色葉集「滑薄、ナメススキ」　殿中申次記、九月九日「一、滑薄一折、例年進上之、無[?]院」

なめ-づり(名)　〔舐〕　〔嘗め釣るノ意ニモアルカ〕　ナメヅルコト。　舊今昔物語、廿六、第九[?]「蛇、云云、舌嘗づりヲシテ、向ヒ合ヒタリ」　玉塵(永祿)「狼ガ美物ノ多イ庖丁ヲ守テ、口なめづりヲシテ、守リツメテヲルゾ」

なめ-づ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四)　〔嘗舐〕　舌ニテ、脣、唇ナドヲ嘗ム。(物食ヒタル後ナドニ)　字[?]抄「嘗、ナメツル」　靈異記、中、第五縁「嘗レ舌飲レ唾」訓釋「嘗、ナメヅリ」

なめ-て(副)　〔竝〕　なべて(竝)ニ同ジ。

なめ-みら(名)　〔薤〕　にら(韮)ノ異名。　字鏡五「薤、奈女彌良」

なめん-だう(名)　物事ノ正シカラヌコト。又、なめんだらト云フモ同ジ。　建武元年ノ落書「四夷ヲ鎭メシ、鎌倉ノ、右大將ノ、掟ヨリ、只品アリシ、武士モ皆、なめんだうニゾ、今ハナル」　鴨[?]合戰物語、文明、五「畿內近國ノ勢馳集リ、在在所所なめんだらニ、爰ニ一手カシコニ一手、一騎一騎、蘆竈家家ノ幕ノ紋、思ヒ思ヒノシルシ、野ニモ山ニモミチミチタリ」

なめんだら(名)　前條ノ語ニ同ジ。

なめ-もの(名)　〔嘗物 甜物〕　ひしほ(醬)ニ同ジ。　大膳職式、下「正月最勝王經齋會供養料」法「甜物料五合、索料二合」

〔なめ-らか-に(副)　〔滑〕　滑リ滯ルコト無ク。潤ヒスベリテ。スベスベシテ。ヌメラカニ。ツルツルト。　朗詠集、上「蒼苔路滑僧歸寺、紅葉聲乾鹿在林」　宇津保物語、俊蔭三十八「イト美シゲニツヤヤカニ、なめらかなるクケ針ニ、ハナダノ絲ヲゾ、左絲右絲ニ縒リテ」

なめらけ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二)　ナメラカニテアリ。スベスベシテアリ。　字鏡四「脆、皮理細也、澤也、波太奈女良介志」

〔なめり(助動)　なる、めり、ノ略。ナンメリ。めりノ條ヲ見ヨ。　竹取物語、上「カクヤ姫、云云、ヲ見テ云フ、ウルハシキ[?]なめり」　舊今昔物語、一「盜人ニハアラヌなめり」「是レなめり」

〔なめり-ごと(名)　〔無禮言〕　ナメキコトバ。無禮ナル言。又、亂語。ミダリガハシキ詞。　繼體紀、廿一年六月「亂語揚言曰、今爲使者、昔爲吾伴、摩肩觸肘、共器同食、安得率爾爲使」

なめりめ(名)　ナメラカナル海草。　天治字鏡、十一「滑[?]、奈女利女」

なめ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)　〔滑〕　すべる(辷)ニ同ジ。　名義抄「滑、ナメル、アブラコシ」「泰、ナメル、ユタカ、ヨシ」　謠曲、石橋「嶮巇タル岩石ニ、僅カニカカル石ノ橋、苔ハ滑リテ足モタマラズ、渡レバ目モクレ」

な・める(動)　〔嘗〕　(一)なむ(嘗)ノ口語。(二)ノム。アナドル。蔑如ス。「人ヲ嘗める」　(三)火、燒ク。

ナモ(名)　〔南無〕　なむ(南無)ニ同ジ。　源、四、夕顔卅「何ヲムサボル身ノ祈リニカト聞キ給フニ、なも當來ノ導師トゾヲガムナル」　拾遺愚草員外「なも妙法蓮華經」　夫木抄、三十六、述懷「人ヲ見ルモ、我ガ身ヲ見ルモ、コハイカニ、なもアミダブツ、なもアミダブツ」

〔なも(辭)　第二類ノ天爾波。なむニ同ジ。ごとニ似テ緩ナリ。　續紀、一(文武)元年八月「公民乎惠賜比撫賜布止奈母、隨神所思行佐久止詔」「神ニなもアリケル」

ナモウダ(名)　なまうだノ轉。

〔なもみ(名)　〔神麴ニ、此生汁ヲ用キル。生揉ノ意カト云フ。蝮、蛇ニ噛マレタルニモ、揉ミテ付クト云フ〕　(一)草ノ名。野生アリ、春生ジ、秋枯ル。葉ハ、茄ノ葉ニ似テ、緣ニシテ刺ナク、互生ス、莖、高サ三四尺、夏、莖ノ頂ニ白花ヲ開ク。實ハ、あをき(青木)ノ實ニ似テ小サク、兩頭尖リテ刺アリ。[?]、コレヲ[?]なもみト云フ。卷耳 葈耳 蒼耳　(二)[?]、[?]なもみアリ。原野ニ多シ、春生ズ。葉ハひまはり(日迴)ニ似テ、小サク薄ク、柔ニシテ毛アリ、對生ス。莖、方ニシテ、高サ三四尺、秋、枝ノ端毎ニ花ヲ開ク。蕚、五ツニ分レ、細長クシテ厚ク、毛アリテ粘バル。蕚ノ上ニ小サキ棘アリ、棘ノ上ニ細小ナル黃花ヲ開ク。豨薟　倭名抄、廿 草類「葈耳、奈毛美」　本草和名、上十「葈耳、奈毛美」　字鏡五十「葈耳實、奈毛美」

なや(名)　〔魚屋〕　〔な(魚)ノ條ヲ見ヨ〕　魚ヲ賣ル店。魚問屋。サカナヤ。魚肆

なや(名)　〔納屋〕　〔なふハ、なふ(納)ノ略〕　家ノ外ニ建テテアル物置。物ヲ藏メ置ク小屋。モノオキゴヤ。　伊達競五人男(寶永、西澤與志)三「近イ頃、立テ崩ビシ南堀江ノ一異、云云、納屋ノトモシ火、行ク水ニカガヤキ」

なや-うや(句)　〔否諾〕　イナカ、オウカ。イヤカ、オウカ。　拾玉集、一、百首述懷「サゾトイハバ、誠ニサゾト、アトウチテ、なやうやトイフ人ダニモナシ」

なや・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)　(一)萎ユルヤウニナス。ヤハラカニナス。　天治字鏡、十五「[?]、加伊奈也須」　蜻蛉日記、上、下廿七「下簾オシ挾ミテ見レバ、着なやしタルモノノ、色ニモアラヌヤウニ見ユ、薄色ナルウスモノノ裳ヲ引キカクレバ」　(二)鐵ナド打チ平ス。ネヤス。　名義抄「[?]、ナヤス、キタフ、ネヤス」　字鏡四「[?]、鍊也、奈也須」

〔なやまし(名)　〔惱〕　ナヤマスコト。又、ソノモノ。　宇津保物語、梅花笠四廿「ウヘナヲ、此ノ人なやましニヤラントテ、書カセ給フ」

〔なやま・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)　〔惱 艱〕

懊ム感ジアリ。雜儀ナリ。苦シ。名義抄「難、ナヤマシ」顯宗紀、二年八月「吾父先王、雖[illegible]是天皇之子、[illegible]」[illegible]ハ、なやましくシタマヘバニコソアリケレ」

なやま・す [illegible] ノ敬語。ナヤミタマフ。神代紀、上十「悶熱懊憹、因以吐」萬葉集、十八ノ長歌「菫ガネカモ、樂シケクアラムト、オモホシテ、シタ奈夜麻須ニ、云云、陸奥ノ、小田ナル山ニ、金アリト、申シ給ヘレ」

なやま・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 惱 惱ムヤウニナス。痛メ苦ムル。ナヤム。ナヤムル。平家物語、四、鵺事「鵺ト云フ化鳥、禁中ニ鳴イテ、屢宸襟ヲなやまし奉ル事アリケリ」徒然草、百廿九段「幼キ心、云云、コレヲなやまし、[illegible]ルコト、慈悲ノ心ニアラズ」萬葉集、十九ノ長歌「ホトトギス、云云、アヤメグサ、玉ヌクマデニ、鳴キトヨメ、ヤス寢シナサズ、吾ヲ奈夜麻勢」

なやみ (名) 惱 (一)ナヤムコト。クルシミ。源、十、榊三「院ノ上、オドロオドロシキ御なやみニハアラデ、例ナラズ時時ナヤマセ給ヘバ、イトド御心ノ暇ナケレド」(二)ヤマヒ。病氣。所勞。源、十三、明石三十六「御目ノなやみサヘ、コノゴロ重クナラセ給ヒテ、モノココロボソクオボサレケレバ」

なや・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 惱 [萎ゆノ轉。悔ゆ、くやむノ類] (一)思ヒワヅラフ。痛ミニ苦シム。ナヨナヨトナル。又、なゆむ。枕草子、十、百三十三段「ヤンゴトナク思フ人ノなやむヲ聞キテ」景行紀、四十年十月「日本武尊、於是始有痛身[illegible]」推古紀、元年正月「[illegible]」[illegible]ボサレケレバ」(二)コマル。難儀ス。土佐日記、二月七日「川尻ニ舟入リタチテ、漕ギノボルニ、[illegible]ヒテ、なやみワヅラフ」

なや・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ [illegible] 惱

なやます(惱、他動、四)ニ同ジ。ナヤメル。[illegible]

なや・める [illegible]

なややかみ [illegible] 同ジ。[illegible]

なやらひ (名) 追儺 ナヤラフコト。ツヰナ。おにやらひ(鬼遣)ノ條ヲ見合ハスベシ。紫式部日記「宮ノサブラヒモ、籠口モ、なやらひハテケルママニ、皆マカデテケリ」

なやら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 追儺 オニヤラヒス。追儺ヲ行フ。源、七、紅葉賀十「なやらふトテ、犬君ガコレヲ毀チ侍リニケレバ、繕ヒ侍ルゾトテ、イト大事ト思イタリ」拾遺集、外、上「モロ人ノ、なやらふオトニ、夜ハフケテ、ハゲシキ風ニ、クレハツル年」

な・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) 萎 (一)氣力ヲ失フ。衰ヘシボム。グダグダトナル。シナユ。シナブ。シヲルル。運歩色葉集「萎、[illegible]、ナユル」竹取物語「弓矢ヲ取立テントスレドモ、手ニ力モナクナリテ、なえカガマリタル中ニ、サカシキ者、念ジテ射ントスレド」(二)衣服ナドノ、糊ノ落チテ、ヤハラカトナル。クタクタニナル。コハバラズ。源、[illegible]「灯ホノカニ壁ニソムケ、なえタル衣ドモノ、アツゴエタル、大イナル籠ニ打チカケテ」

ナユタ (名) 那由他 [梵語、Nayuta] 又、阿由多トモ云フ。千萬億ノ義」古代印度ノ數ノ名[illegible]ノ最大ナルモノ 我ガ國ノ億ニ當ルトイフ。[illegible]

なゆたけ (名) 萎竹 なよたけ(弱竹)ニ同ジ。[illegible] 萬葉集、三[illegible]長歌「名湯竹ノ、トヲヨル皇子、サニヅラフ、ワガオホキミハ、コモリクノ、初瀬ノ山ニ」[illegible]五「なゆ竹トハ唐竹ヲ云ニヤ、なよ竹トイヘリ、ゆトよト同内相通也」

なゆみ (名) [illegible] [細弓ノ略カト云フ。或ハ云フ、孔弓ノ略ト] 古ヘ、鼠ヲ射ル弓。[illegible]

なゆ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 惱 なやむ(自動)ニ同ジ。萬葉集、十四「人ノ子ノ、カナシケシダハ、濱ス鳥、ア奈由牟駒ノ、惜シケクモナシ」

なよし (名) 名吉 [illegible] 反語ノ美稱ヲ用ヰルト云フ」魚ノ名。鰡ニ同ジ。[illegible] 下廿五「鯔、奈與之」字鏡[illegible]名吉」土佐日記、正月元日「九重ノ門ノ、シリクメ繩ノなよしノ頭、ヒヒラギ、イカニゾト」[illegible]軒ハ、名吉ハいせおひト云フ魚ナリト」

なよせ (名) 名寄 名アル所ノモノヲ寄セ集メタルヲ云フト云フ。名所ヲ寄セ集メタルモノ。(歌ノ題ナドニ) 松の落葉[illegible]「歌枕、名寄」[illegible]「我我ガ後ノ里ニテ、撰リ置キタル名寄アリ、[illegible]

なよせちやう (名) 名寄帳 江戸時代ニ村内ノ地所、田畑ノ段別、反、ソノ地主ノ名ナドヲ寄セテ記セル帳。

なよたけ (名) 弱竹 [illegible] 故ノ名トス] 又、なゆたけ。ナヨヤカナル竹。[illegible]

なよたけの (枕) 弱竹の [illegible] ノ枕詞。[illegible]

なよなよと (副) [illegible] 云フ語。[illegible]

なよびかみ [illegible]

なよびすがた (名) [illegible]

タ。ナマメケル姿。源、三十五、柏木「僂メシケレドテ、長押ニヨリ居給ヘリ、なよびすがた、ハタイトイタウ、タヲヤギケルヲヤト、カレコレツキシロフ」

〔なよ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二） 萎エタル狀ナリ。ナヨナヨブル。ナヨヨカナリ。シナヤカナリ。源、三十八、夕霧「六十たよびタル御衣ドモ脱ギ給ヒテ、ココロコトナルヲ取重ネテ」同、十、榊「九十御心なよびタル方ニ過ギテ」

〔なよめか・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二） ナーナートト見ユ。紫式部日記「イトラウタゲニ、なよめかし」宇津保物語、樓上、下「九十宮ノ君ハ、ラウラウシク、コレハ、なよめかしくオハスメルナドト、呼ビ奉リ給ヘレバ、オハシタリ」

〔なよやか・み（副） 次條ノ語ニ同ジ。ナヨビカニ。シナヤカニ。麗。㛹娟 秋夜長物語「コノチゴ、キンシャノスヰカン、なよやかにウチシヲレタルテイニテ」堤中納言物語「薄色ノなよやかなるガ、イトシミ深クナツカシキホドナルヲ」

〔なよよか・み（副） なよなよとニ同ジ。ナヨヤカニ。ナヨラカニ。名義抄「艶、ナヨヨカナリ、ナマメイタリ、ヤサシ」源、二、帚木「八白キ御衣ドモノ、なよよかなるニ、直衣バカリヲシドケナク着ナシ給ヒテ」同、五、若紫「八十手ヲサシ入レテサグリ給ヘレバ、なよよかなる御衣ニ、カミハツヤツヤトカカリテ」

〔なよらか・み（副） 前條ノ語ニ同ジ。ナヨナヨト。ナエヤカニ。ナヤヤカニ。源、三十八、夕霧「八なよらかなるヲカシバメル事ヲ、好マシカラズオボス人ハ」枕草子、一、十三段「直衣ノ、少シなよらかなるニ」堤中納言物語、四「白キ衣ドモニ、薫芳ナメリ、なよらかなる着テ、衣ノカギリ見エテ臥シタマヘル傍ニ」

〔なよ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四） 馴寄 〔なれよる（馴寄）ノ略〕シタシク近ヨル。馴レテ近寄ル。 夫木抄、三十六、雜「フルサトノ、月吹ク風ニ、ナヨ竹ノ、なよりアヒテモ、イクヨヘヌラン」

〔なら（名） 楢 槲ノ一種。落葉喬木ニシテ、高サ六七丈ニ達シ、樹皮ハ赭黑色ニシテ帶黃綠、白色ノ斑紋アリ、葉ハ倒卵形ニシテ、長サ三寸許リ、實ノ長サ八九分、彈丸狀ニシテ、杯狀ノ殼斗ヲ有ス。材ハ薪炭、及、器具用、又ハ、香蕈ヲ作ル料トナル。一名、ナガガシ。又、コバウソ。ナラガシハ。ナラノキ。かしは（柏）ノ條ヲ見ヨ。槲 一種 又、小楢アリ、其條ニ註ス。倭名抄 廿九木類「楢、奈良」字鏡八十「柞、櫟也、奈良乃木」天治字鏡、七「楢、奈良乃木」

〔なら（名） 奈良平城 〔平ハ平すナリ。崇神紀、十年九月「官軍屯聚而蹢二跙草木一、因以號二其山一、曰二那羅山一」神名帳「添上郡、奈良豆比古神社」（往昔、山ヲ穿チテ平鄕ヲ開キシ神ナルベシ）大和國風土記殘編「此國者、往昔山岳多而平地少矣、云云、故鑿レ山開レ谷、爲二平夷一」ト。或ハ、朝鮮語ニテ、都、又ハ、津ノ意ノ古語ならト云フニ起レルカ。地名ニ那羅、諾樂、寧樂、乃樂ナドノ文字ヲ用ヰタリキ〕大和國ノ地名。元明天皇以後、七朝七十五年間ノ帝都。萬葉集、十四「梅ノ花、吾ハチラサジ、アヲニヨシ、平城之人ノ、來ツツ見ルガネ」

なら（名） ならび（竝）ノ略。其條ヲ見ヨ。

なら（接尾） （一）デアッタラ。ナラバ。狂言記、吟聟「鈍ナ奴ノ、シウト殿ならシウト殿トハイハイデ、辭儀ガ有ル」（二）デモ。ニテモ。好色一代女（貞享、西鶴）四「一門中カラ寄ル餠なら、着物なら、ソレハソレハ堺ガ廣ケレドモ、大小路限ッテ南ニ、此方ノ銀借ラヌ者ハ一人モナシ」

ならう・あと・なら（副） 成ルベキコトナラバ。デキル コトナラ。

ならうちは（名） 奈良團扇 又、禰宜うちは、又、判じ團扇トモ云フ。享保ノ頃、賣リシ團扇。奈良ニテ製ス。地モ綠モ白キ紙ニテ、楕圓形ナリ、板行ノ繪ニ、蘇枋ト雌黃トノ彩色アリ、役者ノセリフナド書キタルモアリ。（後は昔物語） 大職冠（正德、近松作）藤照姬道行「總ジテ奈良ノ名物、先ヅ奈良油煙、奈良團扇」洛陽集 延寶「三笠山、藤ハ散リケリ、禰宜うちは」人倫訓蒙圖彙、五「奈良ノ春日ノ社人作リテ賣ル、大坂ニテモ作リ出ス、判ジ物ノ繪ナト書ク、判じ團扇トモ云フ」志道軒傳（寶曆）二「夏ノ景色ヲ荷ヒ出ス、判じ團扇禰宜團扇」

ナラエン（名） 那羅延 〔那羅延天、又ハ、那羅延金剛ノ略。梵語、Nārāyaṇa〕天上ノ力士。力量、極メテ大ナル故、鉤鎖力士トモ稱ス。又、人種神トモ云フ。ぶるまぁ神ノ異名トシテ用ヰラレタリ。びしゅぬ、くりしゅな等ト同視セラルレド、多クハ力量ヲ司ル神トシテ用ヰラル。梵天、又、毘瑟怒天ノ異稱。こんがうりきし（金剛力士）ノ條ヲ見ヨ。祕藏記、下「那羅延天、三面、靑黃色、右手持二輪、乘二迦樓羅鳥一」太平記、十八、高野與二根來一不和事「アル若大衆一人走リ寄ッテ、コレヲ引立テントスルニ、其身磐石ノ如クニシテ、那羅延ガカニテモ動カシ難ク、金剛ノ杵モ、碎キ難クゾ見エタリケル」倶舍論、廿七、疏「那羅延、此曰二人種神一」大日經疏、十「毘紐天有二衆多別名一、卽是那羅延天別名也」

ナラカ（名） 捺落迦那落迦 ナラク（奈落）ニ同ジ。

ならかう（名） 奈良香 染色ノ名。濃キ靑ニ、黃ヲ加ヘタル色。アヲニ。

ならがしは（名） 楢柏 なら（楢）ニ同ジ。 大職冠（正德、近松作）藤照姬道行「奈良ノ名物、云云、奈良柏、奈良刀」

ナラク（名） 奈落 （一）〔梵語、那落迦、又、泥梨、(Naraka)ノ轉〕地獄ト譯ス」又、泥梨。玄應音義、廿「泥梨、或言二泥梨耶一、亦言二泥黎迦一、此云二無可樂一」同、廿三「那羅訶、云云、此譯自二四義一、一、不可樂、二、不可救濟、三、闇冥、四、地獄、經中言二地獄一者一義也」書言字考節用集、一、乾坤門「捺落（地獄一名、正曰二那落迦一見二名義集一）ナラク」十訓抄、中、第五、十七條「言フナラク、ならくノ底ニ、人リヌレバ、刹利モスダモ、カハラサリケリ」盛衰記、四十五、內大臣京上後、斬事「奈落炎中ニシテハ、必ズ衆生難レ忍ノ受苦ヲ助ケ給フ」謠曲、鵜飼「那落ニ沈ム惡人ヲ、御所ニ送リ給フナル、其ノ瑞相ノアラタサヨ」傾城佛の原（元祿、近松作）二「私ハコナタ樣ト一所ニ、奈落マデモ夫婦デゴザル」（二）芝居ニテ、舞臺ノ緣ノ下ノ稱。卽チ、其地下室ヲ云フ。穴。

〔ならく（助動） 助動詞ノなりノ變化ナルなるノ延。副詞ノ如ク用ヰルモノ。十訓抄、中、第五、十七條「言フならく、奈落ノ底ニ、入リヌレバ、刹利モ須陀モ、カハラサリケリ」古詩、閑道「黃花戍」「見說」「聞說」

ならく・のみ（句） なる、のみニ同ジ。名義抄「而已、ナラクノミ、マクノミ」字類抄「耳、ナラクノミ」

なら・ざらし（名） 奈良曬 大和國、奈良ヨリ製シ出ス麻布。苧ノ皮ヲ剝ギ、內ノ白絲ニテ織リ、灰ニテ煮テ、搗キテ洗ヒ、沙場ニ晒ス。苧麻布 大職冠（正德、近松作）藤照姬道行「奈良苧ウンダル子ノ親ガ、因果晒シニ奈良晒シ」世間胸算用（元祿、西鶴）一「奈良晒ハ、每年盆過ギテ買ヒ置キ」

ならし（名） 平 平スコト。均シクスルコト。平準 平均 書言字考節用集、八、言辭門「平、ナラシ、字彙、平二定物價一曰レ平」同、同「均、ナラシ、廣韻、平也」平均、ナラシ、今俗合用」其角の句「舟頭ノ、均しヲ吹クヤ、夕若葉」

〔ならし（名） 鏟 剗刀 木ヲ削リテ平ニス

ル器。今ノ鐵鐵（カナトコ）ノ類。（倭名抄、十五、鍛冶具「[illegible]、[illegible]刀、奈良之」）

ならし（名）[馴] 馴ラスコト。馴ルルヤウニスルコト。[馴致] 演習（[illegible]記（正徳、[illegible]正[illegible]）五十[illegible]ノ[illegible]ニ、必ズならしアリ、云云、[illegible]ハ[illegible]、[illegible]ヲ召シテ、其日ノ[illegible]ノ理ヲ問ヒタマフ」甲陽軍鑑、十二、品第三十九「天龍ワタリ、[illegible]ヲ以テならしノ時、[illegible]仕候」

〔ならし（助動）なる、らし、ノ約。デアルラシイ。（萬葉集、十九[illegible]、[illegible]マジリ、モミヂ[illegible]リケリ、[illegible]モ、[illegible]ノミ奈良之[illegible]、光[illegible]、ならしトイフテニハ、[illegible]ヒカ、[illegible]、[illegible]ヒニアラズ、アルラシトイフモ、アルトイフココロナリ。

ならしがほ（ナラシガオ）（名）[馴顏] ナラスヤウナル顏ツキ。馴ラサントスルガゴトキ樣子。（赤染衞門集、二十[illegible]、ツラケナル、[illegible]ルニ、ウリ生山、ならし顏ニモ、ウチイタル哉」

〔ならしば（名）[楢柴] 楢ノ枝ノ若キトスベキホドノモノ。（萬葉集、十二、廿[illegible]「ミカリスル、狩場ノ小野ノ、楢柴ノ、ナレハマサラデ、戀社マサレ（コツ）」

ならしばどり（名）[楢芝鳥] 鷹ノ異稱。（[illegible]集、[illegible]名、ならし鳥、[illegible]」

ならしもの（名）[鳴物] 鳴ラスモノ。音ヲ立テシムルモノ。樂器。

ならしぶらう（名）[奈良太郎] 奈良ノ東大寺ノ鐘ノ異名。[illegible]、ニクマレル、奈良太郎ニ[illegible]ハ奈良ノ[illegible]此鐘ヨリ大ナルモノヲ近江太郎ト云ヒ、近江ノ湖ニ沈ミテアリトノ俗傳アリ。（世言考）

〔なら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[平] （一）高低、凹凸ヲ平カニス。平ニス。（[illegible]、十年九月[illegible]、[illegible]、[illegible]」萬葉集、十四[illegible]「青柳ノ、ハラロ川トニ、ナヲ待ツト、セミドハ汲マズ、立チド奈良須モ」枕草子、七、六十八段「官人ドモ手毎ニ[illegible]、[illegible]」（二）多少、大小ヲ均シクス。[平均] [illegible]、[illegible]、[illegible]「人ハ十五人、[illegible]豆ヲ一莢アテニ出ストモ、十マリ五ツナリ、[illegible]ヲならしテイクソバクナリ」

ならす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[鳴] 〔鳴ル〕ノ他動〕（一）〔鳴ルヤウニナス。音ヲ立タス。（萬葉集、十一、[illegible]ニヒムロヲ、[illegible]ミ[illegible]ノ子ガ、手ニ[illegible]すモ、[illegible]ノゴト、[illegible]、[illegible]ニト[illegible]セ」竹取物語「ウソヲ吹キ、アフギヲならし」「琴ヲ鳴らす」「笛ヲ鳴らす」（二）言ヲ立テテ、[illegible]ス。（宇治拾遺、三、第二條「[illegible]ヲ振リカケテ、アナアサマシト云ヒテ、クルメキケル[illegible]ニ、イト高クならしてケリ」）「[illegible]ヲ鳴らす」「不平ヲ鳴らす」（三）言ヒ聞エシムル。公然ト聞エシム。

〔なら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[馴] 〔馴ル〕ノ他動〕馴ルルヤウニナス。ナレサス。[馴致] （小大君集「道シバヤ、オドロノ[illegible]ニ、ならされテ、ツモレル香コソ、草枕ナレ」宇津保物語、俊蔭「[illegible]ノ由ヲ[illegible]シク[illegible]ヒ[illegible]ヒテ宜ク、コノ[illegible]ノ聲、[illegible]アリ、[illegible]ならし[illegible]、六、末摘花、廿九「ツカヒならし給ヘレバ、メシナキトキモ、聞ユベキコトアルヲリハ、マウノボリケリ」

なら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[習] 〔習（ナラ）ハすノ略〕ナラハス。試ム。（[illegible]、射[illegible]ヲ[illegible]トテ、射手ノ[illegible]人、[illegible]ツケテ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、爪ならすナリ」（ツマヤリスルナリ）後撰集、四、夏「色カヘヌ、花橘ニ、時鳥、千世ヲならせル、コヱキコユナリ」

〔なら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[生] [illegible]ヲ結バシム。ミノラシム。（[illegible]、[illegible]、[illegible]ヲ一ツアテニ[illegible]ストモ、十マリ五ツナリ、ならしテトラハ、[illegible]ノ[illegible]ヘシ」

ならずもの（名）[illegible]「ならぬもの」ノ意〕漂泊ノ遊民ノ、人非人ノ振舞スルモノ。ワルモノ。ドラモノ。[illegible]

ならちゃ（名）[奈良茶] [illegible]

作）「[illegible]（ナラズミ）ノ[illegible]」大[illegible]（正德、近松作）[illegible]、[illegible]ト、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]

ならちゃめし（名）[奈良茶飯] 一茶飯ニ、大豆、小豆、栗、ナド加ヘタルモノ。奈良ノ東大寺、興福寺等ニテ[illegible]ヨリ云フトゾ。（本朝食鑑（元祿、平野必大）一、飯「奈良茶飯者、本南都東大興福兩寺之僧[illegible]所製、[illegible]」[illegible]

ならづけ（ナラヅケ）（名）[奈良漬] [illegible]ドヲ漬ケタルモノニテ、上品ナルモノトス。[illegible]リト云フ。（[illegible]（元和、[illegible]）一、[illegible]物之[illegible]ノ[illegible]ヅケ、奈良づけト云フ事ハ、カスガノアレバヨイト云フ[illegible]ナリ」大[illegible]（正德、近松作）[illegible]、[illegible]、奈良漬」

瓜ノ、春日山」

ならてうにんぎゃう（ナラチョウニンギョウ）（名）[奈良朝時代] [illegible]、[illegible]、三年マデ、七朝、奈良ニ都シタマヒシ七十[illegible]年間ノ稱。

〔ならにんぎゃう（名）[奈良人形] 大和國、奈良ノ、春日若宮、[illegible]人形ヲ彫リシニ始マルト云フ。[illegible]砂ノ樹、姫、猩猩ナド粗末ナルモノナリ[illegible]、春日ノ[illegible]、[illegible]年製）、精好ナル能人形、鹿ノ置合、其他、[illegible]ノ人形[illegible]、[illegible]、或ハ、置物トシ、小ナルハ、根付トス。[illegible]、[illegible]ノ置物ヲ[illegible]太閤ニ獻ズ」

ならめし（名）[奈良晒] 大和國、奈良ニ住スル[illegible]ヲ、奈良[illegible]ヲ晒ルモノ。[illegible]

ならめり（名）[奈良塗] 大和國、[illegible]方ヨリ産ズル塗物。

ならのは（名）[奈良葉] 萬葉集ノ一稱。（[illegible]ノ故事ニ因ル）[illegible]ならのはノ名ニオヘルノ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]

〔ならのふるさと（名）[奈良古京] 萬葉[illegible]ノ一稱。[illegible]ノ作ゾト問ハセタマヘルニ、[illegible]ノ[illegible]ヘ奉レル歌ヨリ出ヅ。[illegible]

ならはか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[illegible]

はナ(習)ニ同ジ。[illegible]、人コソアラメ、オモテヲ並ベタル者ニ心ウツシテ、ネタキメ見スルニ、物ならはかさン」

ならはし（ナラハシ）(名)［習］(一)習ハスコト。馴レシムルコト。(二)習慣。拾遺集、十四、戀、四「手馴ノ、スキマノ風モ、寒カリキ、身ハならはしノ、モノニゾアリケル」伊勢集「木ガクレテ、サ月待ツトモ、ホトトギス、聲ならはしニ、枝ウツリセヨ」(三)シキタリ。ナラヒ。風儀。習俗習慣。沿習。木蘭偉譚(井關長秀)「流俗、ナラハシ」書言字考節用集、八、言辭門「風俗、風俗(又云風儀、慣、一(習慣、支那俗字、見ニ代醉)ナラハシ」

ならは・す（ナラワ・ス）・ス・セ・サ・シ・セ 他動、四）［習］(一)學バシム。ナラハカス。ナラハセル。宇津保物語、俊蔭「教へ給ヒシ、琴ならはしキコエン、ヒキ日タマへ」(二)馴レシム。慣。字類抄「閑、ナラハス」竹取物語「カクタイタイシクヤハ、ならはすべキ」

ならは・せる（ナラワ・セル）(動) 前條ノ口語。

ならば・ふ（ナラバ・ウ）・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四)［並列］ならぶ(並、自動、四)ノ延。落窪物語、一「イミジウクサキ物ドモノ、ならばひ居タル、イミジウミダリガハシク、クルシウテナン」

ならばん（名）［奈良版］鎌倉時代ノ初ヨリ、大和ノ奈良ノ興福寺ニテ出板セル佛經ノ稱。(又、南都版。高野版ニ對ス)其中ニ春日版ト云フアリ、春日大明神ニ寄セテ、精美ニ製版シタルモノナリト云フ。

ならひ（ナライ）(名)［習］(一)習フコト。マナブコト。繰返シ學ブコト。狂言記、料理聟「ならひニマキリマシタ、增入リノ次第ヲ敎ヘテ下サレ」(二)ナラハシ。シキタリ。習慣。名義抄「俗、ナラヒ」狹衣、一、上「ならひニテサブラヘバ、サバカリノ物ハナジカハ苦シト思ヒサブラハン」同、二、下世九「宮ハ、トシゴロノ御ならひノ、名殘ナウ悲シウ、イミジクオボシメサレテ」

ならひ（ナライ）(名)［乾風］東北ノ風。(關東)舟人ノ語。一說ニ、西北(戌亥)ノ風トモ云フ。物類稱呼、一、天地「江戶ニテハ、東南ノ風ヲ、イナサト云フ、東北ノ風ヲならひト云フ、(ツクバならひト云フアリ)」

ならび(名)［並］ナラブコト。又、ナラビタル狀。列。ナミ。列。商家ニ三百三十ヲ、三ならび、五百五十ヲ、五ならびト云フ。略シテ、三なら、五なら。(因ミニ云ハム、萬葉集、一二四十ニ、細波(サザナミ)ニ、天數ノ字ヲ當テタルハ、佛說ノ兜率ノ三十三天ノ天數ニテ、三三並ノ意ナルニ似タリ)

ならひ-ごと（ナライ-ゴト）(名)［習事］ナラフ事柄。學事。

ならひ-こ・む（ナライ-コ・ム）・ム・メ・マ・ミ・メ・(他動、四)［習込］習ヒテ、善ク覺ユ。熟練スル。

ならび-だいみゃう（ナラビ-ダイミョウ）(名)［並大名］(一)芝居ニテ、殿中ノ場面ナドニ、ソノ狂言ノ主要ナル人物ニアラズシテ、單ニ舞臺ノ光景ヲ添フルタメニ、大名姿ニ扮シテ、居ナラベル役者。(二)座ニ列ナルトイフ名バカリニテ、ソノ場ニ當リ、何ノ仕種モ取柄モナキ人。

ならひ-と・る（ナライ-ト・ル）・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四)［習取］習ヒテ、自分ノモノトナス。

ならび-な・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一)［無並］共ニ競フベキモノ無シ。類ヒナシ。無比。無雙。絶倫。源、十七、繪合廿一「エノサマモ、モロコシト、ヒノモトトヲ、トリナラベテ、オモシロキコトハ、ナホ、ならびなしト云フ」宇津保物語、忠社三「ソノ北ノ方、ならびなき世ノ寶ノ玉ナリ」

ならび-に（副）［並］トモニ。ミナ。又。

ならび-に（接）［並］相並ブ物事ヲ接グ接續詞。及ビ。大鏡、上、太政大臣基經「朱雀院ならびニ村上ノオホヂニテオハシマス」「人並ニ馬」

ならひバチ（名）［奈良火鉢］大和ノ奈良ヨリ產ズル土燒ノ火鉢。ふろ(風爐)ノ條ヲモ見ヨ。

なら・ふ（ナラ・ウ）・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四)［慣］(一)馴ル。ナレル。習慣トナル。字類抄「慣、ナラフ」土佐日記、正月九日「ヲノコモならはぬハ、イト心ボソシ」(二)ナツク。ナレ親シム。竹取物語「ココニハ、カククシシタシクナル。遊ビキコエテ、ならひ奉レリ」

なら・ふ（ナラ・ウ）・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四)［習］履、學ビ爲ス。タビタビ學ブ。受ケタル敎ヘヲ繰返ス。宇津保物語、俊蔭「昔、云云、サレバ、ソヒヰテならふニ、一ツ手殘サズならひトリツ」

なら・ふ（ナラ・ウ）・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四)［傚倣］［並ブ意カト云フ］從ヒテスル。眞似(マネ)テスル。同ジキニ至ラムト勉ム。摸倣ス。靈異記、下、序、訓釋「效、奈良比天」續後撰集、二、春、中、ツラキカナ、ナドテ櫻ノ、ノドカナル、春ノ心ニ、ならはサリケン」

なら・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(自動、四)［並列］［並(ナ)むノ延］(一)一列ニ揃ヒ居ル。ツラナル。ナラバフ。並ム。宇津保物語、俊蔭「アハレ旅人ニコソアナレ、醫時宿サムカシトイヒテ、並べる木ノ陰ニ、同ジ皮ヲ敷キテスヱツ」萬葉集、五九長歌「吾レヲハモ、イカニセヨトカ、ニホドリノ、フタリ那良毘ヰ、カタラヒシ、心ソムキテ、家サカリイマス」(二)タグフ。クラブ。ヒトシクアリ。匹敵ス。竹取物語「皮キヌ、云云、ウルハシキコトならぶモノナシ」源、[illegible]、繪[illegible]「ヒナキ鄙ノ君ト、世ニモテカシヅキ聞ユレド、コノ御匂ニハ、ならび給フベクモアラサリケレバ」

なら・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ(他動、下二)［並列］(一)一列ニ揃ヘ列ヌ。ナラバシム。序ヅ。並ブル。萬葉集、十九、四十長歌「四ツノ船、船ノヘ奈良倍」源、一、桐壺廿「朝夕ノ言種ニ、ハネヲならべ、枝ヲカハサントチギラセ給ヒシニ」(二)［重］サヌ。ツヅク。萬葉集、十一、八廿「夜並(コナラベテ)而、君ヲ來マセト、千石破、神ノ社ヲ、ノマヌ日ハナシ」同、廿四十五「吾ガ兄子ガ、宿ノ撫子、日奈良倍テ、雨ハ降レドモ、色モ變ハラズ」宇津保物語、藤原君「大イ殿ニ、十一郎、中ノ君、三ノ君、四ノ君、宮、五、六、七、八、九、十、サシならびニ生ミ給へリ」(三)［クラブ。タクラブ。比較ス。源、廿二、玉鬘六廿「見奉りならぶるニ、彼ノ后ヲバ知リキコエズ」(四)言フ。陳ブ。「理窟ヲ並ベル」

なら-ぶろ（名）［奈良風爐］大和ノ奈良ヨリ產ズル土製ノ風爐。ふろ(風爐)ノ條ヲモ見ヨ。

なら-ぼふし（ナラ-ボウシ）(名)［奈良法師］［山(ヤマ)法師ニ對ス］昔、大和國、奈良ノ興福寺、東大寺ナドニ居リタル僧兵。後ニ東大寺衰ヘテ、興福寺獨リ盛ンナリ、春日神木ヲ捧ゲテ、京都ニ入リ、強訴ナドシタリ。徒然草、八十七段「太刀ウチ佩キテ、カヒガヒシゲナレバ、タノモシク覺エテ、召シ具シテ行クホドニ、木幡ノ程ニテ、奈良法師ノ、兵士アマタ具シテ逢ヒタルニ」七十一番職人盡歌合、下、六十八番、なら法師「モロコシノ月ヨリモ、見所アレバコソ、春日ナル、ミカサノ山トハ、ヨミツラメ」

なら-ぼり（名）［奈良彫］彫刻ノ一派。江戶ノ彫金工、奈良利輝ヲ祖トスルモノ。其細工ノ風韻、清雅ノ趣キアリ。

なら-ろくしゃう（ナラ-ロクショウ）(名)［奈良綠青］ろくしゃう(綠青)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

なり (名) 業 (一)〔業ルコト。生産事業。多クハ農業ヲ云フ。又、ナリハヒ。萬葉集、五ノ八、天道ハ遠シ、ナホナホニ、家ニ歸リテ、奈利ヲシマサニ」同、八、二吾妹子ガ、業ト作レル、秋ノ田ノ、早穗ノ縵、見レドアカヌカモ」同、十六、廿五「荒雄等ハ、妻子ノ産業ヲバ、思ハズロ、年ノ八歳ヲ、待テド來マサズ」(二)農工商、イヅレニテモ、生活ノタメノ職業。生業。

なり (名) 形 〔爲ノ意、爲リタル狀ナリ〕(一)〔物ノ、外ヨリノミエ。形ノ狀。スガタ。形體 態貌 書言字考節用集、五、「態貌」門「像、貌、體勢、ナリ」伊勢物語、第九段「ソノ山ハ、ココニタトヘバ、比叡山ヲ二十バカリ重ネアゲタランホドニシテ、なりハ、鹽尻ノヤウニナンアリケル」源、四十八、寄生三「サブラフ人ビトノなり姿ヨリハジメ、タユミナク、トキドキニツケツツ、トトノヘコノミテ」同、八、花宴三「トシ老イタルハカセドモノ、なり、アヤシクヤツレテ、例ナレタルモ哀ニ」(二)ヨソホヒ。キカザリ。衣飾 一なりヲツクル」(三)〔キモノ。衣服。枕草子、三、廿八段「牛飼童ノなり、惡シクテモ足ルコソアレ、云云、キタナゲナルハ心憂シ」

なり (名) 鳴 鳴ルコト。聲立ツルコト。又、高キ音。鳴リタル音。ヒビキ。源、三十七、鈴蟲四「カウセチノ折ハ、六方ノなりヲシヅメテ、ノドカニモノノ心モキキワクベキコトナレバ」「鳴ヲ鎭ム」鳴止マズ」

なり (名) 〔癩に成り、ノ隱語カ〕カタヰ。ナリンバウ。癩病。天刑病。[illegible]

な・り・ル・レ・ラ・リ(助動) [illegible] 「にあり」ノ約 物事ヲ指定シ、或ハ、斷說スル意ノ助動詞。デアル。ヂヤ。[illegible]ユルなり、[illegible]り、善キなり、然なり、宜なり、[illegible]、ソレなり、人なり、花なり、ノ如シ。(篇尾ノ語法指南ノ助動詞ノ條ヲ見ヨ)[illegible]

な・り・ル・レ、(助動) [illegible]サザルコトモ、一ツノ善カラヌ行爲在」[illegible]、十、天下元年八月、[illegible]、[illegible]イマ[illegible]ナト六、感動詞ニ、語尾變化アルモノニテ、動作ヲ言ヒ終ヘタル[illegible]餘意ニ發マル助動詞。詠歎ノ意ヲ含ム。ワイ。古今集、四、秋、上「秋ノ野ニ、人マツ蟲ノ、聲スなり、我カト行キテ、イザトブラハン」同、十六、哀傷「ミヤ人ハ、花ノ衣ニ、ナリヌなり、コケノ袂ヨ、カワキダニセヨ」[illegible]集、[illegible]、ハ、鳴キテカ來ラム、呼子鳥、キサノ中山、呼ビゾ超ユ奈流」後撰集、廿、賀「年ノ數、積マムトスなる、重荷ニハ、イトド小附ヲ、コリモソヘナム」後拾遺集、四、秋、上「[illegible]、トコユなれ、ヤリア垣根ハ、秋ノ野ナレバ」(篇尾ノ語法指南ノ助動詞ノ條ヲ見ヨ)

なりあがり (名) 成上 ナリアガルコト。又、ナリアガリタルモノ。親井家日記「他國ノなりあがりノ仕合セモノノ[illegible]カ」

なりあがりもの (名) 成上者 ナリアガリタル者。貧賤ヨリ、富貴ニナリタルモノ。又、卑キ地位ヨリ、立身出世シタルモノ。[illegible]色[illegible]代[illegible]、[illegible]、今ハ[illegible]上リ[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]骨[illegible]レヌ[illegible]不思[illegible]

なり・あが・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 成上 〔成下ルニ對ス〕貧賤ヨリ富貴トナル。又、卑シキ身分ヨリ、貴キニ至ル。ヘアガル。ナリノボル。宇治拾遺、[illegible]、[illegible]「世ニイミジキ御夢ナリ、必ズ大臣ニマデなりあがり給フベキナリ」著聞集、一、神祇「サテ次第ニなり上リテ、二位宰相マデノボリテ侍リ」

なり・あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 成合 (一)〔成リ調フ。デキアガル。ウチアフ。古事記、上[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、なりあはヌ[illegible]四十九、東屋[illegible]「親ナシト侮リテ、マダ幼ク、なりあはヌヲサシコエテ」(二)一ツトナル。シタ

なり・い・づ・ヅ・ル・レ・デ・ヂ・デ・ヨ(自動、下二) 成出 (一)生リテ世ニ出ヅ。ナリヅ。生出 化生 [illegible]、[illegible]、[illegible]ズ、身ノ成り出む、年ノナケレバ」(二)〔官途ニ進ム。立身出世ス。[illegible]原君ニ「タダ今ノ見ルメヨリモ、行クサキなりいづベキ人ナリ、[illegible]、[illegible]上「なりいづベキ際ニ、我ガ身ノエナリイデズ事ヲ思ヒケルコロ」允恭紀、二年二月「[illegible]之年」[illegible]、[illegible]シクナリ、[illegible]山ハ下、[illegible]、[illegible]タリト騒ギ」同、十五、建武二年正月十六日合戰事「イサヤ殿原、[illegible]野ヨリ北白河ヘ打廻テ、赤松ガ勢ト成り合ひ、新田ガ勢ヲ一アテ當テテ見ン」

なりいで (名) 成出 成リ、出ヅルコト。見バエ。オシダシ。又、オヒタチ。ソダチ。[illegible]ツバ、ア[illegible]、[illegible]キ[illegible]、なりいで[illegible]

なり・おご・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 成劣 劣ルカニ爲ル。次第ニ劣リ行ク。[illegible]語、四「我レ年比ミテ、昨日今日ノ若人ドモニ多ク超エラレテ、なりおどりツルナム、恥ニ思ヒケル」

なり・おほ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) [illegible]ナ[illegible]ス[illegible]ス[illegible]、[illegible]シモ有ルカナ」

なりか (名) 成箇 〔箇ハ數ニテ、出來高ノ意〕江戶時代、租税ノ稱。[illegible]「郡取箇之儀ヲ、御成箇、郷箇成トモ申シ候」

なり・かか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [illegible] 呼ビカケテ、イヒサワグ。ドナリ[illegible]ル。著聞集、十六、與宮利口「スコシモトドメツルマジトイヒケレバ、ノコリノトモガラ、なりかかりテ、ワコツキケリ」

なり・かは・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 成代 其人ト成リテ代ルヲ代 [illegible]

なりかぶら (名) 鳴鏑 [illegible] 鏑ノ穴ニ鬪レテ鳴ル故ニ云フ」かぶらや。鏑矢ニ同ジ。ナリヤ。

なりがら (名) 成柄 成事 [illegible] 除目ノ成文。なりぶみ(成文)ノ條ヲ見ヨ。中右記[illegible]、[illegible]天仁[illegible]年正月[illegible]時、[illegible]事、其以[illegible]之細、成束中[illegible]、[illegible]ル、[illegible]中[illegible]、[illegible]任[illegible]

なりきん (名) 成金 〔歩ノ成駒ノ金ノ義〕(一)將棊ノ駒ノ敵陣地ニ入リ、裏返リテ、金將トナレルモノ。なる 化ノ條ヲ見ヨ。[illegible]中[illegible]ノ[illegible]ノツトマヒウ、ヤ[illegible]シイ成金ノ[illegible]カイ、[illegible]ハ[illegible]イ」(二)俄ニ富豪トナリタル者。成上リノ金滿家ヲニハ、カブ[illegible]ポシ。[illegible]

なりきり (名) 成切 [illegible]ホドノ大キサ[illegible]、[illegible]さむらノ條ヲ見ヨ。古ヘ、將軍ヨリ、紙ニツツミテ、臣下ニ賜ハリシモノトゾ[illegible]

なりくだもの (名) [illegible]

なりこま (名) 成駒 金將ニ成リタル將棊ノ駒。

なり・さが・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 成下 〔成上ルニ對ス〕富貴ヨリ貧賤ニ移ル。[illegible]

又、貴キヨリ卑シキ地位ニ在ル。 沙石集、五、下、「[illegible]ナラハ、[illegible]リナゾ人ノ、賜フベキニ、なりさがりタル、身コソツラケレ」

なりすがた (名) [形姿] なりふり(形振)ニ同ジ。

なりすま・す・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) [成濟] 全ク其人ニ成リカハリオホス。其人ニ化ケオホス。

なりたか (名) [鳴高] 次條ヲ見ヨ。 建武年中行事「後醍醐天皇」、なりたかナドイマシメ」 古本東遊歌、神樂次第「先、人長庭火乃前仁出來云、鳴高、云云」

なりたか・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [鳴高] 公事、政事ナドニ、諸人參集シ、カシマシキ時ハ、ソレヲシヅムルニ言フ。靜マレ。略シテ、なりたか。 風俗歌、奈利高之「名利太加之、大宮近クテ、奈利太加之、音ナセソヤ」 宇治拾遺、二、第十一條「大學ノ衆ドモ、云云、コノ相撲共ノ過グルヲ通サジトテ、ナリセイセン、なりたかしト云ヒテ、立チ塞ガリテ通サザリケレバ」

なりたち (名) [成立] (一)成リタツコト。セイリツ。 傾城酒呑童子、享保、近松作、三「チノト道フカ違ハヌカ、女郎ノ成り立ちハ、皆ソレニ似タルコト」 (二)成リ立チタル時マデノ過程 松風村雨束帶鑑、元祿、近松作「身元、成立、僞ラズ具サニ申セ」 (三)成分。要素。

なりた・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) [成立] (一)確ト成ル。形ヲ成ス。成熟ス。モノニナル。 風雅集、十二、戀、三「戀シサニ、なりたつ中ノ、ナガメニハ、オモカゲナラヌ、草モ木モナシ」 (二)[生]ヒタツ。ナリイヅ。 源、三十一、眞木柱「カク心オクベキワタリゾト、サスガニ知ラレテ、人ニモなりたたン事カタシ」

〜**なり・づ**・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ(自動、下二) [成出] なりいづ(成出)ニ同ジ。 日本紀竟宴歌、狼フ、聞ケテ後ゾ、オホツチガ、深草ヨリハ、那利天タリケル」

なりづか (名) [成束] 成文ヲ束ネタルモノ。なりぶみ(成文)ノ條ヲモ見ヨ。

〜**なりどころ** (名) [産業處ノ義] 生産ヲナス田園。又、財貨ノ生ズル地ト、宅地ト。タドコロ。田宅。庄園。別墅。 仁德紀、十一年四月「決二横源一而通レ海、塞二逆流一以全二田宅一」 舒明即位前紀「退二向我田家一而不レ仕」 孝德紀、白雉元年二月「白雀見二于一寺田莊一、國人僉曰、休祥」 持統紀、六年八月「幸二飛鳥皇女、田莊一」 繼體即位前紀「近江國高島郡三尾之別業」 落窪物語、即日還宮、四「ミツノなり所ノ劵ト、帶ヒトツトドメツル」

〜**なりとよ・ぐ**・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) カシマシク騷ギ立ツ。 舒明即位前紀「次詔二山背大兄王一曰、汝獨莫二諠譁一」 景行紀、五十一年八月「晝夜喧譁、出入無レ禮」

なりなむ・と・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) [垂向] [爲りなむとす、ノ義] 全ク其時ト爲ラムトス。モ少シニテ爲ラウトス。音便ニ、ナンナントス。

なりにし (句) 音便ニ、なりんじ。

なりのはて (名) [爲果] なれのはてニ同ジ。零落ノ極。

〜**なりのぼ・る**・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [成上] なりあがる(成上)に同じ。 源、二、帚木「又、直人ノ上達部マデなりのぼりタル、云云、なりのぼれドモ、モトヨリサルベキスヂナラヌハ、世ノ人ノオモヘルコトモ、サハイヘド猶コトナリ」

なりはず (名) [鳴筈] 弦ノ特ニ音高ク鳴ル弓。

なりは・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(自動、下二) [成果] (一)全ク成ル。成リ終ル。 增鏡、第十、藤衣「ナゾモカク、思ヒソメケム、櫻花、山トシ高ク、なりはつるマデ」 新千載集、廿、[illegible]「君ガ代ハ、長居ノ浦ノ、サザレ石ノ、岩根ノ山ト、なり果つるマデ」 千載集、十八、雜、下、[illegible]ノ、[illegible]花カホノ、降ナレハ、嵐ヲダニモ、待タズシテ、本ノシヅクト、なりはてム」 古今集、十九、短歌「己ガチリヂリ、ワカレナバ、頼ムカゲナク、なりはてテ」 (二)成リ下リハツ。オチブレ果ツ。零落ス。

〜**なりはひ** (名) [生業] [はひハ助辭、種はひノ如シ] 又、業。 農事ヲ元トシテ、スベテ、人ノ生活トスル業。セイゲフ。スギハヒ。ヨスギ。産業。職業。營業。家業。渡世。 倭名抄、十五、農耕具「農、奈利波比」 名義抄「稼、ナリハヒ」「穡、ナリハヒ」「業、ナリハヒ、ナル」 書言字考節用集、八、言辭門「活業、活計、稼穡、ナリハヒ」農桑(日本紀)、登稔(同上)、耕作業(同上)、稔作(萬葉)、民業(河海)、ナリハヒ」 靈異記、中、第十六條「不レ能レ營レ衆、令レ備二産業一」訓釋「産業、ナリハヒ」 遊仙窟、八十「家業、ナリハヒ」 崇神紀、六十二年七月「農、天下之大本也、民所二恃以生一也」 繼體紀、元年三月「帝王躬耕而勸二農業一、后妃親蠶而勉二桑序一」 孝德紀、大化二年二月「宜下[illegible]作月一早務レ營レ田」 欽明紀、五年三月「[illegible]、印支彌、阿鹵旱岐二在時、爲二新羅一所レ逼而不レ得二耕種一」 萬葉集、十八、三十二長歌「作リタル、ソノ奈里波比ヲ、雨降ラズ、日ノカサナレバ、植ヱシ田モ、蒔キシ畠モ、朝每ニ、シボミ枯レユク」 源、四、夕顏廿「アハレイト寒シヤ、今年コソなりはひニモ恃ム所少ク、田舍ノユキキモ思ヒカケネバ、イト心ボソケレ」

〜**なりひさご** (名) [生瓢][成瓠] ひさご(瓠)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十六、十木器類「瓢、奈利比佐古」 書言字考節用集、六、生植門「壺蘆子、瓠瓜、五雜組、瓠與レ瓠一種而有二甘苦之異一、甘者名レ瓠、瓠瓜、ナリヒサゴ」 徒然草、十八段「唐ノ許由、云云、なりひさごト云フモノヲ、人ノ得サセタリケレバ」 十訓抄、上、第一、第六條「モトノ城ホドニ假屋ヲツクリテ、ソコニ、なりひさご、壺、瓶子ヤウノモノヲ多ク置キタマヘ」 心中天網島(享保、近松作)名ごりの橋づくし「生瓢、風ニ搖ルル如クニテ、次第ニ絕ユル呼吸ノ道」

なりひらしじみ (名) [業平蜆] 江戸時代、本所ノ業平橋ノ附近ニテ採レシ蜆ノ稱。

なりひらだけ (名) [業平竹] たいみやうちく(大明竹)ニ同ジ。

なりぶみ (名) [成文] 古ヘ、太政官ヨリ奏聞ヲ經テ、既ニ勅許ナリタル文書。除目ニ申シ文ノママニ、既ニ任官セシメタル文書。 羽倉考、二「成文、申文ノママニ官ヲ任ジタルヲバ、其申文ヲ名ヅケテ、成文ト云」 西宮記、正月「成文(懸勾、院宮已下、年給也)」

なりふり (名) [形振] 姿ノ容子。ナリ。サマ。姿態。 書言字考節用集、五、肢體門「容態、態姿、ナリフリ」 好色一代男(天和、西鶴)三「懷ノ内ヨリ手ヲサシ入レ、褄ヲ引キ上ゲ、チョコチョコトアルクなりふり」

なりぼし (名) [成星] [モト子供等ガ、夕暮ノ空ヲ仰ギテ、一ツ星見ツケタ、長者ニナラウト、云ヒシヨリ云フ語] デキボシ。俄分限。出來分限。 色の染衣(貞享)「今日カラ江戸屋仁右衞門ノ處へ、小樓下申シテ、此町ノ陽貴妃、ひとつぼしガ出マス由、長者ニ後ニ仁右衞門ガナリマスルデト、皆人ノコレ沙汰」

〜**なりまさ・る**・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [成優] 成增 優ル方ニ爲ル。次第ニマサリユク。 源、七、紅葉賀三十「ネビタマフママニ、ユユシキマデなりまさり給フ御アリサマカナト」

なりんじ (句) なりにし(成)ノ音便。とげんじ(遂)ノ類ナリ。

❖**なりんばう** (名) [癩坊] [癩ニ成り坊ノ音便。又、業平ノ、像ノ眉ヲ剃リテ、ナキヨリ云フト云フ] 癩病ノ異名ナリ。 下手談義「[illegible]後節語ノ風俗、曲ハ頂ノ上ニアガリ、眉毛、拔ケテ、業平ニ似タリ」

なりもの (名) 生物 食用トナル果實。實ノナルモノ。ナリクダモノ。 宇治拾遺、四、第四條「なり物ノ木ノ、ヲリニナリタル多カリケレバ、ソレヲ取リ食ヒテ、[illegible]ホトニ」

なりもの (名) 鳴物 音樂ニ用ヰル絲、竹、金、鼓等ノ器ノ總名。樂器 浮世風呂 (文化、[illegible]) 四[illegible]、上、[illegible]町、兩國[illegible]ニ育ツ小兒ハ、鳴物ノ音ニ怯エズ」

なりもの-いり (名) 鳴物入 歌舞ナドニテ、鳴物ヲ以テ調子ヲトリ、又ハ、ニギヤカニスルコト。

なりもの-ちゃうぢ (名) 鳴物停止 鳴物ヲ彈奏スルコトヲ停止スルコト。(大葬儀ナドノ時ニ) 御停止。 德川禁令考、二、延寶八年八月廿六日「法皇崩御ニ付、普請、鳴物停止ノ令」享保集成糸綸錄、九、元祿十三年十二月、水戸中納言薨逝ニ付而、明日出仕、并普請、鳴物停止之書付相渡之」

なりや (名) 鳴矢 なりかぶら(鳴鏑)ニ同ジ。かぶらや(鏑矢)ノ條ヲ見ヨ。 萬葉集、九、[illegible]「紀國ノ、昔弓雄ガ、響矢モテ、鹿取リナビケシ、坂上ニゾアル」

なり-ゆき (名) 成行 ナリユクコト。結果。又、ナリユク過程、推移。

なり-ゆ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 成行 ソノ如ク爲リナガラ世ヲ歷。ナリテ進ミユク。次第ニ、ウツリユク。 竹取物語「カクテ翁、ヤウヤウユタカニなりゆく」古今集、十五、戀、五「天雲ノ、ヨソニモ人ノ、なりゆくカ、流石ニ目ニハ、見ユルモノカラ」拾遺集、八、雜、上、「年月ハ、昔ニアラズ、なりゆけド、戀シキコトハ、カハラザリケリ」同、六、別「東路ノ、木ノ下クラク、なりゆかバ、都ノ月ヲ戀ヒザラメヤハ」

な・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 生實 (一) 無カリシ物、新ニ世ニ出デ來、生ヒ出ヅ。產ス。生ル。生ズ。 古事記、上「[illegible]」[illegible]「成[illegible]神名」[illegible]、國中ニ、成リ出デ[illegible]」推古紀、廿一年十二月「親ナシニ、汝奈理ケメヤ」芭蕉の句「成りニケリ、成りニケリマデ、年ノクレ」「[illegible]」(二) 草木、實ヲ結ブ。ミノル。結實 名義抄「實、ナル、ミノル」天智紀、十年正月「[illegible]ハ、己ガ枝枝、[illegible]トモ、玉ニ貫クトキ、オヤジ緒ニ貫ク」神代紀、上[illegible]、[illegible]頁以前ノ諸說ニ「果生る」

な・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 成 [爲すノ自動] 成シテ終ハル。デキアガル。出來ス。成就ス。結實ガツク。 神代紀、上、「[illegible]所[illegible]之國、[illegible]之乎、[illegible]、或有レ所レ成、或有レ不レ成」源、十二、須磨「[illegible]奏シ給フコトノならメハナカリシカバ」

な・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 成 御出座アラセラル。 歌林四季物語 (鴨長明) 十一「主上モならセ給ハシマシテ、內侍所ノ御神ミ、云云」又、親王ニモ申シ、僧シテ、攝家、公方ニモ云フ。御成ナド云フモ、是レナリ。

な・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 化 (一) 此狀ヨリ彼狀ニ移ル。別ノ姿ト變ハル。 神代紀、上二「于時、天地之中生ニ一物、狀如ニ葦牙ニ便化ニ爲神ニ」萬葉集、五、十九「世ノ中ハ、戀シケシエヤ、カクシアラバ、梅ノ花ニモ、奈良マシモノヲ」同、同、廿九 長歌「アメツチハ、廣シトイヘドモ、アガタメハ、セバクヤ奈理ヌル[illegible]たる[illegible]たる[illegible]たる」(二) 變化ル。將棊ニ、我ガ駒ノ進ミテ、敵ノ陣地中ニ入レルモノハ、何レノ駒モ[illegible]シテ、金將ノハタラキト[illegible]ズ。[illegible]ミダレテ、鳳皇ト成りテ、八方ヲ破リ、云云」浮世風呂、文化[illegible]

な・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 鳴 (一) 音ニ立ツ。ヒビク。音ス。 [illegible]ヒソ矢ノ、ソヨト奈流マデ、ナゲキツルカモ」「鐘鳴る」「山鳴る」「手鳴る」名、世ニ鳴る」(二) 鳴ク。

な・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 其[illegible] 萬葉集、十[illegible]、[illegible]、ホトホ[illegible]面此面ニ、サスワナノ、[illegible]コロブレ[illegible]ク」

な・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 業 其[illegible]ス。シゴトヲスル。名詞ニ、なり(業)ト云フ。 名義抄「業、ナル、ナリハヒ」萬葉集、七[illegible]ニ、宿ルチフモノヲ」同、廿、[illegible]防人ニ、立タムサワギニ、家ノ妹ガ、奈流ベキコトヲ、言ハズ來ヌカモ」同、同[illegible]スナ、奈理マシツシモ」

な・る・ル・ル・レ・レ・レ・ヨ (自動、下二) 慣 (一) [馴、狎] 習ヒテ、常トナル。ナラハシトナル。何ントモ思ハヌヤウニナル。 後撰集、十一、戀、三「イセノウミノ、シホヤクアマノ、フヂ衣、なるトハスレド、アハヌ君カナ」古今集、十五、戀、五「見テモマタ、又モ見マクノ、ホシケレバ、なるるヲ人ハ、厭フベラナリ」源、五十二、手習「[illegible]ハサコソハ人ヲオビヤカセドモ、コトニモアラヌヤツトイフサマ、イトたれタリ、カノ夜フリ[illegible]」(二) [親シミ懷ク。ムツブ。ナジム。[illegible]] [illegible]萬葉集、[illegible]十六段「年ゴロ、アヒたれタルメ、ヤウヤウ床ハナレテ、[illegible]ガ許ヘ行ク[illegible]ダテニナル。狎 加茂保憲女集「下紐ウチトケテ、たれタル衣、ツクロハヌカタチヲ」(四) [衣、シヲレテ、身ニマトフ。着古シテ、[illegible]ニナル。ヨレヨレニナル。古クサクナル。ヨゴレル。(萎ゆニ通ズ) 萎 萬葉集、十一「志賀ノ海人ノ、鹽燒衣、雖ト云ヘド、戀トフモノハ、[illegible]テ襤ニシ衣ヲ、取リテ着メヤモ」同、九、長歌[illegible]同、十八[illegible]紅ハ、ウツロフモノゾ、ツルバミノ、[illegible]

[illegible]山ノキナドノたれタル衣ゾ」

な・る・ル・ルル・レ・レ・レヨ (自動、下二) 熟 [illegible]混リ合ヒテ、[illegible]。熟ス。醱酵物ニ) [illegible]たれ[illegible]、[illegible]

なる (助動) [に、ある、ノ約] デアル。 [illegible]神皇[illegible]年四月、[illegible]

な-るいた (名) 鳴板 [illegible]ル仕掛ニテ、踏メバ鳴ルヤウニ造リシ床板、[illegible]ル床板ハ、事ヲ奏スル時、次ナル人ニ知ラセムタメノなるいたナリ。[illegible]ベキカ)ナリイタ。[illegible]

なる-かぶら (名) 鳴鏑 又、なりかぶら。[illegible]

なる-かみ (名) 鳴神 イカヅチ。カミナリ。[illegible]

なるかみの (枕) 鳴神之 雷ハ、鳴ル音、高ケレバ、音ニ聞ク、ノ枕詞。 [illegible]

なる-さ (名) 鳴子 小サキ板ニ、數多ノ小サキ竹管ヲ、繩ニテ掛ケ連ネタルヲ、[illegible]

縄ニテ張リ、引ケバ、管、板ニ觸レテ、音ヲ發スルモノ。田畠ノ上ニテ、鳥ヲ驚カシ逐フナドニ用ヰル。引板(ヒタ)。トリオドシ。オドロカシ。增補下學集、下、二、器財門「鳴子、ナルコ、鳥驚(トリヲドシ)」 續千載集、十七、雜、中「秋果ツル、門田ノ鳴子、イツマデカ、引ク人モナキ、世ニ殘ルラム」 玉葉集、十八、雜「庵サス、ソヽモノ小田ニ、鳥驚ギテ、ヒカヌ鳴子ノ、音ゾ聞ユル」 新千載集、十八、雜「ヨモスガラ、タエズなるこノ、音スナリ、山田ノイホヲ、風ヤモルラン」

なるこゆり (名) [鳴子百合] 宿根草。春、山中ノ陰地ニ生ズ。莖ノ高サ一二尺、或ハ、四五尺、少シ斜ニシテ直立セズ。葉、圓ク、緑ニシテ光ル。葉ハ、略、百合ニ似テ互生ス。夏ノ初、花ヲ開ク、本ハ筒ニシテ、末ハ五瓣ニ分ル。初生ハ、脣ヲ收メタルガ如シ。故ニ、古名ヲ山笑(ヤマヱミ)ト云フ。花色、白クシテ青ミアリ、連リ咲キテ垂ルコト、鳴子ヲ掛ケタルガ如シ。實ハ、ふんてん(南天)ニ似テ、稍、大キク、熟スレバ黑シ。根白ク、横ニ生ジテ節アリ、煮テ食フベシ、又、藥用トス。エミグサ。オホエミ。黃精

〜**なるさを** ナル-サヲ (名) [鳴竿] 鳴子(ナルコ)ヲツケタル竿(サヲ)。下ノ出典ヲ見ヨ。秘藏抄「なるさをトハ、棹ノサキニ鳴子ヲツケテ、ソレヲ鳴シテ、片山里ニ粟ト云フ物ヲ作リテ鳥ヲ追フ也」

なる・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [緩] 凹凸ナシ。ナルイ。

なるたきど (名) [鳴瀧砥] 砥ノ一種。山城國、葛野郡、鳴瀧山ヨリ産ズルモノ。黃白色ニシテ、質、緻密ナリ。合砥(アハセド)、眞砥(マド)ニ用ヰル。一名、ウチグモリ。

なるたけ (副) [成丈] 成ルベキ限リ。力ノトドクホド。ナルベク。及ブタケ。

なるてん (名) [南天] なんてん(南天)ノ訛。其條ヲ見ヨ。

なるど (名) [鳴戸、鳴門、鳴渡] (一)〔狹キ瀨門ニ、潮ノ差シ引キニ、海水ノ鳴リ響ク所〕淡路ト阿波トノ間ハ、名高ケレド、古ヘハ、周防ノ大島郡、今ノ屋代島ト本土トノ間ノ、極メテ狹ク、鳴潮ヲ生ズル所ヲ云フ。萬葉集、十五、廿七「コレヤコノ、名ニ負フ奈流門ノ、ウヅシホニ、玉モ刈ルトフ、アマ少女ドモ」 (二)箏ノ名所。筑紫箏ノ絃ノ端ヲ、二ツニ分ケテ、卷キオクトコロ。

〜**なるはじかみ** (名) [蜀椒] (なるハ、生(ナ)ルニテ、結實ノ義) 朝倉山椒ノ古名。(朝倉山椒、及、はじかみノ條ヲ見ヨ)

なるべく (副) [可成] なるたけ(成丈)ニ同ジ。

なるほど (副) [成程] (一)其理ノ如ク。マコトニ。實ニ。イカニモ。ナニサマ。(二)成ルタケ。出來ルダケ。毛利輝元慶長一供物成程可ニ肝煎一トノ申事候」 武將感狀記、八「秀吉茶ヲ求ムルニ、石田三成、初ハヌルク、次ニ少シ熱ク、次ニ小茶碗ニ少シバカリ、なるほど熱クタテテ出ス」 油地獄(享保、近松作)下「成程詰メテト賣場ニカカリ、消ユル命ノ燈火ハ、油量ルモ夢ノ間トー」 女重寶記(元祿、高井伴寬)三「際(キハ)、墨ハ、なるほど薄薄ト、高根ノ花ニ霞ノカカレル體ニ、小額ヨリ上ニテ引キ捨テ消スベシ」 狂言記、針立雷「療治ヲセヌニオイテハ、タツタ一ツカミニ、ツカミ殺シテヤラウゾ、アア悲シヤ、眞平御免サレマセ、成程療治致シマセウ」

なるみしぼり (名) [鳴海絞] 綿布ノしぼり染ノ一種。慶長中、尾張國、知多郡、英比庄ヨリ、竹田庄九郎ト云フ者、同郡、有松村ニ來リテ、始メテ製ス。愛知郡、鳴海驛ニテ賣ル。染色ノ褪(サ)メヌヲ以テ名アリ。浴衣(ユカタ)、兵兒帶ナドニ用ヰル。本名、有松絞。

〜**なれ** (名) [慣] 慣ルルコト。馴レタルコト。習ヒテ常トナルコト。萬葉集、五、二「コトトハヌ、木ニモアリトモ、ワガセコガ、タなれノミコト、ツチニオカメヤモ」

〜**なれ** (代) 汝 な(汝)ニ同ジ。ナムヂ。推古紀、廿一年十二月「親ナシニ、那禮生リケメヤ」 萬葉集、十六、卅「標越ヤ、然モナ言ヒソ、サトヲサラガ、エツキハタラバ、汝モナカラム」 古今集、十七、雜、上「千早振、宇治ノ橋守、なれヲシゾ、哀レト思フ、年ノ經メレバ」

なれあひ ナレ-アイ (名) [馴合] (一)馴レアフコト。アヒズリ。グル。共謀。(二)竊ニ言合ハセテ、事ヲ謀ルコト。ヤホチャウ。

なれあひまをとこ ナレアイ-マオトコ (名) [馴合間男] 夫婦、馴合ノ上、妻ヲシテ他ノ男ト姦通セシメ、其男ヲオビヤカシテ、金錢ナドヲ取ルコト。騙姦。美人局

なれあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ ナレ-ア・ウ (自動、四) [馴合] (一)互ニ馴ル。相親シム。ナレムツブ。(二)竊ニ相約シテ他ヲ欺ク。グルニナリテ、不正ヲタクラム。

〜**なれぎぬ** (名) [褻衣] なれおろも(馴衣)ニ同ジ。フダンギ。兼澄集「なれ衣モ、スギカヘガタシ、花ノ香ヲ、春ノカタミニ、ウツシシモノヲ」

なれこと (名) [馴事] なれっこ(馴子)ニ同ジ。

なれこまひ ナレコ-マイ (名) [馴子舞] 古ヘ、旅人ノ、神社、佛閣ナドノ前ヲ通リ過グルトキ、其手向(タムケ)ニトテ舞フ舞。長門本平家物語、四、熊野參詣事「七日精進シテマウデケリ、云云、サシテ道ノレイヲオコタラズ、なれこまひナド、カタノ如クカナデテゾ通リケル」

〜**なれごろも** (名) [馴衣] 身ニ着ナレタル衣。ナレギヌ。キナレゴロモ。萬葉集、十五、廿「ワカレニシ、妹ガキセテシ、奈禮其呂毛(ナレゴロモ)、ソデカタシキテ、ヒトリカモネム」

なれっこ (名) [馴子] なれこと(馴事)ノ略訛。ヨク馴レタルコト。又、ヨク馴レタルモノ。浮世風呂(文化、三馬)四編、上「アバズレガアレド、ソレサヘモ馴れっこニナッテル所爲カ、更ニ構ハヌ」

〜**なれなれ・し・シキ・シケレ・シク・シク** (形、二) [馴馴] 甚ダ馴ルル狀ナリ。イト心易キ狀ナリ。源、廿九、行幸五「なれなれしき筋ナドヲバ、モテハナレテ、大カタニツカウマツリ御ランゼラレンハ、ヲカシウモ有リナンカトゾ」 同、二、帚木三「人ヨリハ心ヤスク、なれなれしくフルマヒタリ」 徒然草、百七十五段「なれなれしからぬアタリノ御簾ノ中ヨリ、御菓物、御酒ナド、ヨキヤウナル氣ハヒシテ、サシ出サレタル、イトヨシ」

なれのはて (名) [爲果成果] (爲(ナリ)ノ果ノ訛カ) ナリサガリタルハテ。ナリノハテ。オチブレタル結果。零落ノ極(キハミ)。身ノ後。平家女護島(享保、近松作)三「エエ恨メシキ入道殿、ハカナキハ平家ノ運命、一門ノなれの果て、思ヒヤラレテ口惜シヤ」

なれもの (名) [馴者] 世馴レタル人。世故ニ通ジタル人。物事ニ熟練セルモノ。今昔物語、廿八、第五語「爲盛ノ朝臣ハ、極タル鍛エノ風流有ル物ノ物云ヒニテ、人咲ハスル馴者ナル翁ニテゾアリケレバ」

なれよ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [馴寄] 馴レテ近寄ル。馴レテ親シミ寄ル。略シテ、なよる。

✣✣**な・れる** (動) 慣(ナ)る(下二段)、熟(ナ)る(下二段)ノ口語。

なゐ (名) 〔地震〕〔根搖ノ約轉ト云フ〕地震ノ古言。今モ、中國、西國ニテハ云ヒ、沖繩ニテハ、ないト云、トゾ。字類抄「地震、ナヰ」允恭紀「五年七月「地震」武烈卽位前紀「下從動ミ、鮪爲ガ震リ來バ、破レム柴垣」推古紀「七年四月、地動舍屋悉破、則令四方俾祭地震神」天武紀、三年三月「是春地震」

なをり (名) 〔波折〕〔なみをり(波折)ノ略〕波ノ高ク立ツガ、撓メ折ル如クナルコト卜云フ。波ノ折リ重ナリテ、高ク立ツコト。八重ヲリ。古事記、下(顯宗)「潮瀨ノ、波折ヲ見レバ、遊ビ來ル、鮪ガ鰭手ニ、妻立テリ見ユ」武烈卽位前紀、潮瀨ノ、[illegible]ヲ見レバ」萬葉集、廿、長歌「海原見レバ、白波ノ、八重折ルガ上ニ、[illegible]乎流ガ上ニ、海人小舟、ハララニ浮キテ」同、七十五「今日モカモ、沖津玉藻ハ、白波ノ、八重折ルガ上ニ、亂レテアラム」

なをり (名) 〔名折〕名ヲ腐スコト。名ヲ損ズルコト。名譽ヲ毀損スルコト。今、ナヲレ。長門本平家物語、十六、義仲最後合戰事「大將軍トコソ、見マヰラセ候へ、キタナシヤ、源氏ノ名をりニ返シ合ハセ給へ」拾玉集、二「賤ノ男ガ、麻ノ衣ノ、花摺ハ、萩ノなをりノ、モノニゾアリケル」盛衰記、廿三、頼朝鎌倉入勸賞事「石橋軍ノ時、源氏ノ名折リニ、何ニ敵ニ後ヲバ見セ給フゾ」曾我物語、十、「[illegible]坊自害[illegible]シク鎌倉ヘトラヘラレン事、寺中坊中ノなをりナリ」

なをる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔名折〕名ヲ腐ス。名ヲ損ズ。名譽ヲ毀損ス。盛衰記、三十、貞能自西國上[illegible]ヨリ[illegible]勇ニ[illegible]八代、[illegible]一[illegible]モ[illegible]ラス」[illegible]歌合[illegible]香ヲトメテ、山ホトトギス、[illegible]カズバ、[illegible]ノ、名をヤ折らマシ」

なをれ (名) 〔名折〕〔[illegible]ノ語ノ[illegible]〕[illegible]トナリ、名ヲ損ズルコト。[illegible]、[illegible]人、アア源氏ノ名折タリ、ト云ヒケレバ」

に

に 五十音圖、奈行第二ノ假名。(なノ條ヲ見ヨ)

に (名) 〔土〕ツチ。古事記、中[illegible]ノ土ヲ、初土ハ、膚赤ラケミ」、赤に[illegible]に」

に (名) 〔丹〕〔赤土ニ起ル〕赤キ色。古ヘノ繪具、赤土ヲ用ヰタルナルベシ。今ノ黃土ノ類ナラム。(今ノ丹トハ異ナリ)又、アカツチ。又、ソレニテ染メタル赤キ色。[illegible]古事記、中、神武[illegible]「丹[illegible]」同、下[illegible]物語、二「ロビルハ、にト云フモノ[illegible]ルヤウニ丹め穗トハ、成熟シテ赤バミタル稻穗。萬葉集、五[illegible]

に (名) 〔瓊〕〔丹ノ義〕赤キ色ノ玉ノ名。ヌ。神代紀、上「[illegible]八坂瓊之[illegible]」[illegible]

に (名) 〔荷〕(一)〔持ヲ人、馬、舟、車ナドニテ運ブ時ノ稱。荷物。行李。倭名抄、一[illegible]新六帖、二「トニカクニ、大原山ノ、荷ヲオモミ、冬ハスミヤヲ、コリヤツフラン」(二)[illegible]介ナルモノ。モテアマシモノ。

に (名) 〔貳〕官名。[illegible]少、アリ。倭名抄、五、職名三次官、云云、太宰府曰貳、有大少二」江談抄、一、攝政[illegible]

[illegible]井子息大臣[illegible]一ノ人、有障不參之時[illegible]ノ人、[illegible]

に (名) 〔二〕〔貳〕[illegible]下[illegible]而略不世出者也」(三)同一ナラザルコト。異ナルコト。[illegible]價三十餘年」(四)フタゴコロ。二心。異心。國語、[illegible]

ニ (名) 〔尼〕〔梵語、Bhiksuni.(比丘尼)ノ略〕女子ノ出家シテ具足戒ヲ受ケシモノ。女僧。[illegible]

に (數) 〔二〕〔貳〕(一)フタ。フタツ。[illegible]

に (動) 〔似〕にる(似)ノ條ヲ見ヨ。

に (動) 〔煮〕[illegible]

に (助動) 現在完了ノ助動詞ナルぬノ變化。[illegible]ハ還シ、ナホナホニ、家ニ歸リテ、ナリヲシマサ[illegible]「行キにケリ」失セにシ時」[illegible]にキ[illegible]ハリにタリ」

に (助動) 不ノ變化ノぬノ轉。[illegible]長歌「蘆代、タビニシアレバ、思ヒ遣ル、タヅキヲ[illegible]ラ[illegible]」「[illegible]カに」言へバ[illegible]に」

に (副) [illegible]

(一)〔相對スルモノヲ指スモノ[illegible]

[illegible]

(三)〔方向ヲ示スモノ〕へ。[illegible]

に [illegible]

にあかり (名) 〔三上〕[illegible]

にあかりおんかい (名) 〔二上[illegible]〕[illegible]

にあけ (名) 〔荷揚〕[illegible]

グルコト。船荷ノ陸揚。

にあげざる（名）［煮揚笊］ツユヲシタムタメニ、煮タルモノヲ、取上グル笊。

にあげば（名）［荷揚場］荷揚スル場所。歸ニツナアゲバ。

にあし（名）［荷足］船舶ノ底ニ荷ヲ積ムコト。又、ソノ荷物。底荷（ソコニ）。

にあは・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［似合］似合ヒテ見ユ。似ツカハシ。フサハシ。相應ナリ。適當。狂言記、宗論「似合はしい者モ道ラバ、同行ノカケ、同道ニ致サウト存ズル」

にあひ（名）［似合］似合ノコト。ヨク釣合フコト。相應。狂言記、庖丁聟「何ゾ似合ひノ用ヲ聞イテオキサウモノヲ」

にあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［似合］恰モ善ク合ノ。釣合フ。相應ス。フサフ。ニヤフ。適合。源、四十九、東屋「女ギミ短キルヲ隱テテオハスルヲ、オシヤリテ、物ナド聞エタマフ御カタチトモ、イト清ラニ、にあひタリ」

にあへ（名）［煮韲］料理ノ一種。下ノ出典ヲ見ヨ。料理物語（寛永）煮物「煮和（ニアヘ）、ダシタマリヨシ、カラザケノ皮、薄ミモ少シ入レ、クロマメ、カラカハ、梅干、田作リ、ホクラケ、アンニン、ギンナンナド入レニ候ウテ、玉子ノソボロ上オキニシテヨシ、夏ハサマシテ出ダシ候也」

にいう（名）［二酉］昔、支那ニテ湖南省、沅陵縣ノ西北ナル大酉、小酉ノ二山ノ石窟ニテ、古書千卷ヲ發見セシト云フ故事ヨリ、藏書ノ多キ形容ニ云フ。轉ジテ、書籍ヲ多ク藏スル處。類書纂要「小酉大酉二山名、在辰州府城西。中有書千卷。相傳、秦人于此而學、因留之」湖廣志「大酉山有洞、名二大酉洞。小酉山在酉溪口。山下有石穴。中有書千卷。相云、秦人避地、隱學於此。自酉溪北行十

里、與辰州府連、故曰二酉」

にいし（名）［丹石］（一）代赭石（タイシヤセキ）ノ一名。たいしやノ（代赭）ノ條ヲ見ヨ。（二）黃土（ワウド）。其條ヲ見ヨ。

ニイラ（名）［木乃伊］みいら（木乃伊）ノ訛。其條ヲ見ヨ。

にう（名）［乳］（乳ノ正音、ジュ。慣用音、ニユウ）（一）乳（チ）。チチ。又、チシル。唐書、孝友傳「許法慎、三歲時母病、不飮乳、慘慘有憂色。或以珍餌誘悅之、輒不食、還以進母」事文類聚（宋、祝穆）「襄城有人、年一百四十歲、不復能食、穀飮曾孫婦乳」（二）貫（クワンニユウ）乳ノ略。

にうかう（名）［乳香］一種ノ樹ノ脂（ヤニ）。くんろく（薰陸）ノ條ヲ見ヨ。寂照堂谷響集、三「薰陸、卽乳香也、本名薰陸、以其滴下如乳頭、謂之乳頭香」宋史、太祖紀「泉州陳洪進、遣使、貢白金千兩、乳香茶藥、皆萬計」

にうがん（名）［乳癌］乳房ニ發スル一種ノ惡性ノ腫物。三十歲以上ノ婦人ニ多シ。書言字考節用集、五、肢體門「乳岩、ニウガン」

にうぎう（名）［乳牛］乳ノ出ヅル牛。乳ヲ採ルタメニ飼養スル牛。チチウシ。法苑珠林（唐、釋道世）「有長者、以園地廣三十里、種以銀衣、布其地、并以乳牛及犢子滿其中、奉施如來」百寮訓要抄（康正、二條良基）典藥寮「大醫書、諸藥ノ藥ヲサメラル也、此寮ハ藥園アリ、茶園、枸杞園アリ、乳牛ノ牧トテアリ、乳ヲトランタメナリ」

にうけ（名）［荷受］運送シテ來タリタル荷物ヲ受取ルコト。「荷受人」

にうこ（名）［乳戶］王朝時代、典藥院ニ附隨シテ、乳牛ノ飼養、及、牛乳ノ搾取ナドヲ行ヒシ部民。令集解、五、職員 古記

云、[illegible]別記云、[illegible]七十五戶、[illegible]六戶、乳戶五十戶」

にうこ（名）［乳虎］子ニ哺乳ナス時ノ牝虎ノ稱。[illegible]最モ猛惡ナリトス。[illegible]ニ、非常ニ怖ロシキモノニ喩フ。[illegible]古日、[illegible]乳、[illegible]其子、[illegible]也、[illegible]正德、近松作、[illegible]訴[illegible]リナレバ、[illegible]乳虎ノ牙ニカカッテ」

にうさん（名）［乳酸］乳糖ナドガ、ばくてりやノ醱酵作用ニヨリテ、變化シテ生ズル一種ノ酸。乳汁、飯、糊ナドノ醱敗スル時ニ生ズルモノ。無色、又ハ、微黃色ニシテ酸味アリ、種種ノ藥用ニ供ス。

にうし（名）［乳齒］小兒ノ出生後、六七箇月ノ頃ヨリ生ジ始メ、十歲前後ニ至リテ、全部、脫落スル齒。チノミバ。齊民要術、後魏、賈思勰「相馬法、一歲上下生乳齒各二」

にうじ（名）［乳兒］乳ヲ飲ミ居ル程度ノ小兒。チノミゴ。チゴ。アカゴ。首楞嚴經「如失乳兒、忽遇慈母」

にうしう（名）［乳臭］乳臭（チクサ）キコト。乳ノ香アルコト。轉ジテ、年若クシテ經驗ニ乏シキコト。アヲニサイ。少年ノ思慮、未熟ナルヲ劣シメテ云フ語）漢書、高祖紀、上「漢王問、魏大將誰也、對曰、柏直、王曰、是口尚乳臭、不能當韓信」蘇舜欽、慶州敗詩「國家防塞今有誰、官爲承制乳臭兒」

にうしうじ（名）［乳臭兒］前條ノ語ヲ見ヨ。

にうじふ（名）［乳汁］乳首ヨリ分泌スル白キ汁。チチ。チシル。後漢書、李善傳「親自哺養、乳爲生湩」注「湩、乳汁也」南史、[illegible]之傳[illegible]、告[illegible]人曰、我年老、[illegible]後

有乳汁[illegible]」

にうじやく（名）［柔弱］又、にうぢやく。心、身、共ニ健カナラスコト。[illegible]。芸閣[illegible]、疏「芸閣柔弱」

にうせん（名）［乳腺］乳房內ニアリテ、乳汁ヲ分泌スル腺。「乳腺炎」

にうたう（名）［乳糖］乳汁ノ主成分タル一種ノ砂糖。白色、無臭ノ針狀結晶ニシテ、蔗糖ニ比スレバ、水ニ溶ケ難クシテ、甘味少シ。哺乳動物ノ乳汁中ニハ、約百分ノ四ヲ占ム。醫藥ノ附味料ニ用ヰル。

にうとう（名）［乳頭］解剖學ノ語。皮膚ノ、眞皮ト表皮ト接スル所ニアル細キ突起。

にうなん（名）［柔軟・柔輭］（一）ぢうなん（柔軟）ニ同ジ。（二）佛經ノ語。心、柔和ニシテ、能ク道ニ順從スルコト。法華經「衆生既信伏、質直意柔輭」

にうのかゆ（名）［酪・乳酪］（乳ノ粥ノ義）らく（酪）ニ同ジ。倭名抄、十六飮食類「乳酪、[illegible]」遊宇能可遊」

にうばう（名）［女房］にようばう（女房）ノ訛。其條ヲ見ヨ。狂言記、法師物狂「ヲヲ、去ル女ニ何ガ借シカラウゾ　サア、取テケ、にうばうヲ去ッタレバ、心ガスッキリトシタ、マヅチト戲マセウズ」同「笠ヲ取テ打被セ、にうばうヲ先ニ立テ、我ガ家へ歸ルウレシサヨ」

にうばう（名）［乳房］ちぶさ（乳房）ニ同ジ。

にうはくしよく（名）［乳白色］乳汁ノ如キ白色。略シテ、乳白。

にうはち(ニユウハチ) (名) [乳鉢] 藥ヲ煉リ、又ハ、固キモノヲ細末ニスルニ用ヰル小サキ鉢。乳棒ニテ擂ル。共ニ、陶製、或ハ、硝子製ナリ。王百谷、雜字「乳鉢、擂碗也」

にうび(ニユウビ) (名) [乳糜] 〔乳糜液ノ略〕 生理學ノ語。食物ノ胃中ニテ消化セラレテ成リタル乳狀ノ營養液、帶黃白色ニシテ、少シク鹹味アリ。

にうぼ(ニユウボ) (名) [乳母] ウミノ母ニ代リテ、兒ニ乳ヲ與ヘテ養育スル女。チオモ。メノト。ウバ。ニウモ。史記、張蒼傳「蒼之免レ相後、老口中無レ齒、食レ乳、女子爲ニ乳母、妻妾以百數、嘗孕者不ニ復幸、蒼年百有餘歲而卒」居家必用「乳母謂ニ嘗乳ニ哺我身ニ者ヒ」

にうぼう(ニユウボウ) (名) [乳棒] 乳鉢ニテ、物ヲ擂リツブスニ用ヰルモノ。

にうぼく(ニユウボク) (名) [乳木] 〔乳ハ、白膠木ノ膠ナリ。乳汁多キ木ナレバ云フ〕 又、にうもく。白膠木ヲ、護摩ヲ修スルニ焚ク時ノ稱。又、一般ニ、護摩ニ用ヰル薪ヲモ云フ。乳木。護摩木。大日經疏、八「護摩薪當ニ用ニ乳木ニ、謂桑穀之類、或用ニ牛膝莖ニ截之爲ニ十二指量ニ、皆須ニ濕潤新採者ニ」〔釋日本紀、私記「白膠、[illegible]木也、故修法之壇、取ニ此木ニ乳ニ爲ニ用」〕林[illegible]

にうま (名) [荷馬] ニオヒウマ。荷ヲ負ヒ運ブ馬。駄馬。「[illegible]元和、安樂[illegible]「馬ヲ買ウテヒキ來タレバ、見ル者サフヤクトイフ、イヤ餘リノサフヤクデモアルマイ、始メノ騎馬ノ子チヽ、件ノ馬ヲ[illegible]ジカリ、騎馬ニモアレ、[illegible]ニテモアレ、雜役ニハスウダト」

にうめ (名) [煮梅] (一)梅ノ實ヲ、砂糖ニテ煮タルモノ。[illegible] (二)[illegible]ニ、熱シタル梅ノ實ヲ擂リテ鹽ヲマゼ、コレニ湯煮ニシタル青梅ヲ漬ケタルモノ。[illegible]三、漬物「煮梅方、一、梅キヅナヲ一斗、一、鹽三升、外ニ[illegible]、[illegible]タルヲ能スリテ、右ノ一斗ノ梅ニカキマゼ置候、[illegible]ナニヘフ[illegible]、[illegible]風ヲヒカヌヤウニスル也」

にうめん (名) [入麪] 〔煮麪(ニメン)ノ延。入ハ當字ニテ、假名異ナリ〕 さうめん(索麪)ノ條ヲ見ヨ。料理物語(寬永)後段「にうめん、マツ薬種ヲミジカクキリ、ユデ候テ、サラリトアラヒアゲナキ、なレミソニダシクハヘ、フカセ入候、小ナ、ネブカ、ナスビナド入テヨシ」

にうも(ニユウモ) (名) [乳母] にうぼ(乳母)ニ同ジ。

にうやう(ニユウヤウ) (名) [乳養] 乳汁ヲ飮マセテ、養ノコト。

にうらく(ニユウラク) (名) [乳酪] 牛ノ乳、又ハ、羊ノ乳ニテ製シタル脂性ノ食品。バタ。牛酪。らく(酪)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]五代、七寶[illegible]、[illegible]婦人[illegible]乳[illegible]白飯[illegible]、[illegible]、[illegible]乳酪背腴所製」

にうり (名) [煮賣] 酒、飯ノ菜肴ヲ煮テ賣ルコト。又、ソノモノ。享保集成絲綸錄、三十六、元祿二巳年正月、一、「[illegible]煮賣之者、火ノ[illegible]候出相[illegible]、[illegible]、[illegible]切、[illegible]ニヨラズ、[illegible]切無用可レ仕候」丹波與作(寶永、近松作)中「茅ト[illegible]」

にうりざかや (名) [煮賣酒屋] 居酒屋ニシテ煮賣ヲナス店。煮賣ヲ兼ネタル居酒屋。卑シキ飮食店ノ稱。[illegible]

にうりだいや (名) [煮賣茶屋] [illegible]煮賣ヲ[illegible]ネタル[illegible]

にうりぢゃや(ニウリヂヤヤ) (名) [煮賣茶屋] [illegible]寶年六月十九日御書付、云云、煮賣茶屋ト唱候者、左ノ通、云云」[illegible]云云」[illegible]木地(寶永、近松作)[illegible]

にうりぶね (名) [煮賣船] 船附場ナドニテ、船客ニ酒肴ヲ賣ル小船。[illegible]シサヤ、[illegible]ニシテ、煮賣船」

にうりや (名) [煮賣屋] 煮賣ノ商ヲ屋[illegible]、又、ソノ人。[illegible]女ツカハズ、[illegible]一代女[illegible]込ミ、[illegible]少シトイヒサマ」

にうわ(ニユウワ) (名) [柔和] 人又ハ、馬ノ、氣質ノ、モノヤハラカナルコト。スナホナルコト。[illegible]

にえ (名) [煮] 〔煮ハ炭ヲ正字トス、今、慣用[illegible]〕 煮ルコト。[illegible]

にえ (名) [沸錵] 〔煮ノ義〕 刀ノ刃ノ上ニ、[illegible]ケ[illegible]如ク、又、[illegible]如[illegible]、[illegible]リノリニアラ[illegible]、又、地鐵ト燒刃トノ間ニ、境界線トモ云フベク、煙ノ如ク霞ノ如キ光ノ顯ハル[illegible]ノ際、火加減、水加減ニ因リテ成リ、切[illegible]味ヲ成ス。[illegible]ノ切レタルハ、鍛物ニテ、鍛工、技術上ニ[illegible]トセラレ居ルモノナリ。又、わき(沸)、其條ヲ[illegible]セヨ。[illegible]

にえあがる [illegible] [illegible]ニエテ、ワキアガル。[illegible]太平記、十二、千種殿[illegible]、[illegible]、[illegible]ト、[illegible]ガル湯ノ中ニシテ、[illegible]ナリ」

にえいる ル・レ・ヲ・リ・レ、自動、四 ニエテ、イル。浸入ス。[illegible]本、我中前司[illegible]、[illegible]ケレバ、日ノ前ニ、火[illegible]ニ入リタリ」

にえう(ニユウ) (名) [illegible] [illegible]山、[illegible]テ、即チ日ト月ト。[illegible]

にえおと (名) [煮音] 物ノ煮ユル音。[illegible]

にえかへる(ニエカエル) ル・レ・ラ・リ・レ、自動、四 [煮返] 甚シク煮ユ。沸キ上ル。ニエクリカヘル。タギル。タギッ。[illegible]沸騰、物ジテ、非常ニ、イソガシキコトニ云フ。[illegible]

にえきらぬ (句) [不煮切] 成ルガ如ク、[illegible]テ、成ラズ。ハキトセズ。決斷ナシ。[illegible]

にえきる ル・レ・ラ・リ・レ、自動、四 [煮切] 十分ニ煮ユル。完全ニ煮ユル。

にえくりかへる(ニエクリカエル) ル・レ・ラ・リ・レ、自動、四 にえかへる(煮返)ニ同ジ。

にゑ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) ハマリコム。ツケヒコム。浸入ス。「菅原傳授手習鑑、(享保)出雲ノ合作二 十二にゑこむ中ノ徹」

にえず (名) [煮酢] 煮タル酢。鮨ナド作ル時ナドニ用ヰル。

にえ・た・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) [煮立] 煮エテ、ワキタツ。ニエカヘル。沸騰ス。「太平(?)全(?)鍋ノ子ニ、煮えたつ粥ヤ、今年米」

にえばな (名) [煮端 煮花] 物ノ煮エタル初メ。ニバナ。大職冠(正徳、近松作)四「藤原氏ノ御世繼ノ、孫ニ奈良茶ノ煮え花ヲ、親父モ一杯、旦那モ一杯、我等モ一杯、合セテ神ニハ三拜九拜」「弱ノにえばな」

にえ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(自動、四) [呻吟] によぶ(呻吟)ニ同ジ。平家物語、八、猫間事「岩屋ノロニタタズンデ、キキケレバ、オホキナル聲シテ、にえびケリ」

にえゆ (名) [煮湯] 沸キ立チタル湯。熱湯。滾湯 平家女護島(享保、近松作)四「ス、ボリト水ニ浸リ、オ頭カラサッサト、普羽ノ瀧ニウタル様ニナサルレド、水サヘ煮え湯ノヤウニナリマスル」 煮湯を飲ますトハ、殘酷ナル所作ヲナスニ喩フル語。

⁂**に・える** (動) [煮] にゆ(煮)ノ口語。淀鯉出世瀧徳(寶永、近松作)「科ハ何ジャ知レメカ、時ニ鄰ハ追放ナ、八幡ハ煮える、オリヤ唱テ宰タ」

~**におひ・うま** (名) [駄馬 荷負馬] 荷ヲ負ヒテ運ブ馬。ニウマ。名義抄「駄、ニオヒウマ」 天武紀、上、元年六月「駄(ニオヒウマ)五十匹」 十訓抄、上、第三、第十四條「荷負馬ノ先ニ立テナタル小童ノ」

に・おん (名) [二恩] (一)父ト母ト、ノ恩。曾我物語(古寫本)十五、(?)向(?)松下(?)「(?)之胸燈ニ」 (二)師ト親トノ恩。

~**に・おもひ** (名) [漿] [煮御水(ニオモヒ)ノ義] つくりみづ(漿)ニ同ジ。ニオモヒユ。倭名抄、十六、水漿類「漿、ツクリミヅ、俗云、和於毛比」

におもひ・ゆ (名) [煮御水湯] 前條ノ語ニ同ジ。名義抄「漿、ニオモヒユ、コムツ、ツクリ水」

にが (名) [苦] にがし(苦)ノ語根。「苦手」

に・が (名) [二河] 佛經ノ語。火ノ河ト、水ノ河ト。火ノ河ハ、衆生ノ瞋恚ニ譬ヘ、水ノ河ハ、食欲ニ譬ヘテ言フ。にがびゃくだう(二河白道)ノ條ヲモ參見セヨ。謠曲、船橋「生死ノ海ヲワタルベキ、船橋ヲ造ラバヤ、二河ノ流レハアリナガラ、科ハ十ノ道多シ、誠ノ橋ヲ渡サバヤ」 一心二河白道(元祿、近松作)三「火ノ川、水ノ川、二河白道アラハルル所ヘ、源五郎出、二人共ニ畏(カシコ)マル」

にが・あをさ (名) あをさ(青藻)ノ一名。

に・かい (名) [二階] (一)二階廚子ノ略。二層ニ造リタル廚子。又、ソノ廚子ノ棚。類聚雜要抄、二、調度「大治五年、云云、北庇二階」 源、二十八、夕霧七十「北ノ二階」 同、四十九、東屋七十八「廚子二かいナド、アヤシキマデシクハヘ」 今昔物語、廿七、第四語「二階ニ、蒔繪ノ硯箱ヲモ置キ、火取ニ空薫ノ匂、馨バシクキコユ」 蜻蛉日記、上卅「云云、ト書キツケテ二かいニ置キタリ」 (二)平家ノ上ニ、ナホ一層重ネテ造リタル所。又、ソノ家。タカドノ。[重屋 樓] 思儘日記「水ノ上ニ二かいヲ作リカケ」 二階から目薬をさすトハ、二階ヨリ階下ノ人ニ目薬ヲサス如ク、思フヤウニ屆キカヌル意。又、迂遠ナル喩ニ云フ語。御前義經記「二階カラ目藥サス仕掛ケ、ザリトハ急ナ事ゾカシ」

に・かい (名) [二界] [界ハ、梵語、駄都(Dhātu.)、差別ノ義] 佛教ノ語。十界(佛、菩薩、緣覺、聲聞、天上、人間、阿修羅、餓鬼、畜生、地獄ノ十法界)ト、三界(欲界、色界、無色界)トヲ云フ。

にかい・だう (名) [二階堂] 二階造ノ佛堂。吾妻鏡、九、文治五年十二月九日「彼梵閣等、號レ宇之中、有二二階堂一」

にかい・だな (名) [二階棚] (一)昔、貴人ノ居間ニテ、手廻ノ道具ナドヲ載セ置ク二重ノ棚。多ク黒漆塗ニシ、持チ運ビ得ルモノ。(二)床ノ間ナドノ脇ニ設クル棚ノ一種。

にが・いちご (名) きいちご(木苺)ノ異名。其條ヲ見ヨ。

にかい・づし (名) [二階廚子] 二階ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。類聚雜要抄、四、母屋調度事「二階廚子一雙」

にかい・もん (名) [二階門] 二階造ノ門。樓門。太閤記(萬治、小瀨道喜)三、因幡國鳥取落城之事「附城之御普請ハ、七月朔日ヨリ鍬初アリシガ、十日頃ニハ、ハヤ堀、櫓、二階門等マデ出來ニケリ」 甲陽軍鑑、十一、上、品第三十五「陸奥守、二ノクルワ二階門ヘアガリ、サイハイヲトッテ、爰ヲ最後ト防ガルル」

にかい・やぐら (名) [二階櫓] 二階造ノ櫓。太閤記(萬治、小瀨道喜)十三、名護屋旅館御作事衆「大和中納言、一同、西方二階矢藏(四間十八間)」 長禮聞書「總ガハノ矢倉、二間ニ四間、二階矢倉ニ致シ候」

にが・いろ (名) [苦色] 襲(カサネ)ノ色目ノ名。表ハ濃キ香(カウ)(黄バミタル赤色)ニテ、裏ノ二藍ナルモノ(雁衣抄)。又、表ハ黒バミタル香ニテ、裏ハ二藍ナリトモ云フ(雜事抄)。又、薄紫ナリトモ云フ(胡曹抄)。

にかい・ろう (名) [二階樓] 二階造ノタカドノ。又、二階ノ樓上。平家女護島(享保、近松作)二「東大寺ノ二かいろうニ壁ヲ構ヘ」

に・かう (名) [二更] かう(更)ノ條ヲ見ヨ。王維、秋夜獨坐詩「空堂欲二更一」 名目六帖(伊藤東涯)一、時運箋「乙夜、ヨルノヨツ、二更」

にが・うり (名) [苦瓜] つるれいし(蔓荔枝)ノ一名。其條ヲ見ヨ。

にが・うるか (名) [苦鱁鮧] 鮎ノ腸ノ鹽辛。うるか(鱁鮧)ノ條ヲ見ヨ。

にが・き (名) [苦木] (一)ぢんぴ(秦皮)ニ同ジ。とねりこ(秦皮)ノ條ヲ見ヨ。(二)山野ニ自生スル落葉喬木ノ名。高サ二三丈ニ達シ、樹皮ハ紫黑色ニシテ横ニ割目アリ、葉ハ互生シ、奇數羽狀複葉、小葉ハ楕圓形ニシテ尖リ、鋸齒アリ。花ハ黄綠色ニテ小形、多ク總狀ニ着ク。樹皮ハ苦ク、染料、殺蟲劑ナドニ供シ、材ハ器具用トナル。ヤマニガキ。苦棟木

⁂**にが・ぐち** (名) [苦口] 人ノ氣ニイラヌ言。苦苦シキ語。ニクマレグチ。ワルクチ。[苦言] 薩摩歌(元祿、近松作)中「又シテハ、サシテモナイ事、苦口言ウテ、我レモ嗔恚ヲ燃シタリ、人ニモ惡氣附ケサンス」

にかけ・だ (名) [荷掛駄] 荷ヲ載セタル馬。盛衰記、三十三、康定關東下向事「今日許リハ可レ有ニ逗留一ト、留メラレシ間、宿所ヘ罷リ歸ル、軈テ追様ニハ、荷懸駄三十疋、送リ賜ハッテ候ヒキ」

に・がさ (名) [荷嵩] 荷物ノ嵩(カサ)アルコト。

にが・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [苦] [みがしノ轉] (一)舌ニ快カラヌ味、即チ、熊膽(クマノイ)ノ如キ味アリ。苦味アリ。字鏡集「酸、鹹、ニカキ味ヒ」 書言字考節用集、六、服食門「苦、ニカシ、五味之一種」 宇治拾遺、三、第十六條「諸共ニ食ハセントテ、オホラカニテ食フニ、にがきコト物ニモ似ズ、キハダナドノヤウニテ、心地マドフ」 (二)苦(ニガ)ムベシ。快カラズ。嫌ハシ。大鏡、中「興モ醒メテ、事にがくナリヌ」 著聞集、三、公事「按

親光親卿ヲ御使ニテ、內裏ヘ申サレタリケレバ、事苦くナリケルトナン」「苦い顏」

にがしほ（名）【苦鹽】 常ノ鹽ノ潮解シテ、濕氣ヲ引キテ、滴リテ液トナレルモノ。卽チ、不純ナル鹽化まぐねしうむ。味、極メテ苦シ。豆腐ヲ作ルナド、種種ノ用ヲナス。ニガリ。極暑ノ時ニ、海濱ニテ、潮ノ變ジテ成レルヲモ云フ。滷 鹵汁 書言字考節用集、一、乾坤門「滷、ニガシホ、ニガリ」同、六、服食門「鹵汁、ニガシホ」

にがしほ（名）【苦潮】 あかしほ（赤潮）ニ同ジ。

にが・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【逃】〔逃ぐノ他動〕（一）逃グルヤウニス。逃ゲシム。ノガス。 宇治拾遺、二、第十條「今ハ逃ゲトモ、ヨモ逃さジトオボエケレバ」 源、五、若紫「雀ノ子ヲ、イヌキガにがしツル、伏籠ノ中ニ籠メタリツルモノヲトテ、イト口惜シト思ヘリ」 金葉集、九、雜、上「カタハラノ局ノ壁ノクヅレヨリ、クグリテにがしヤリテ」（二）足ヲ他方ヘノバス。 建武年中行事（後醍醐天皇）正月、叙位「召除目、大臣ヲ硯ノ北ニオキテ、左ノ足ヲにがしテコレヲクル」

にがだけ（名）【苦竹】 まだけ（眞竹）ノ一名。まのめ（長閑笋）ノ條ヲ見ヨ。 宇津保物語、藏開、上「御前ノ河水ニ生ヒタルクサビラドモ、アツイモノニサセ、にがだけナドテウジテ、菓ノ菜ニ[illegible]レ」 多識編（[illegible]、林道春）三、竹「苦竹、和名、仁加太計、今按、末太計」

にがちゃ（名）【苦茶】 茶ノ一種。山地ニ自生スル常綠灌木。全體、茶ノ樹ニ似レドモ、其幹太ク、葉モ肥大ニシテ厚ク、長サ三四寸アリ。秋ノ末、葉ノ腋ニ白花ヲ開ク。葉ハ苦クシテ飮用トナラズ。一名、唐茶。皐蘆

にがつち（名）【苦土】 [illegible]ス時、鍬ノトドカザル下層ノ土。長ク風化セズシテ、植物ノ培養ニ適セザル土。

にがて（名）【苦手】（一）人ノ氣性ノ、相克タズシテ、互ニ忌ミ嫌フモノ。（二）苦苦シキ敵手。又、ソノ方法。 書言字考節用集、九、言辭門「苦手、ニガテ、[illegible]」

にがな（名）【苦菜】（一）りんだう（龍膽）ノ古名。りんだう（龍膽）、及、えやみぐさ（龍膽）ノ條ヲ見ヨ。（二）〔莖ノ白汁、味苦シ〕けしあざみ（芥子薊）ノ古名。有毒植物ニテ一年草。路傍ニ多シ。葉ハ薊ニ似テ、莖ノ高サ二三尺、一根ニ叢生シ、春、莖ヲ出スコト一尺餘、葉ハ互生シ、梢ニ枝叉ヲ分チテ、黃花ヲ開ク。たんぽぽノ花ニ似テ、大キサ四五分ナリ。黃瓜菜 黃花菜 荼 本草和名、下「苦菜、[illegible]」 書言字考節用集、六、生植門「苦菜、ニガナ、苦苣、[illegible]、大苦[illegible]、[illegible]」

にが・にが・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）【苦苦】 甚ダ苦ミ思フ。甚ダイトハシ。快カラズ。嫌ハシ。 書言字考節用集、八、言辭門「[illegible]、ニガニガシ、[illegible]」 苦苦敷、ニガニガシ、俗字」 [illegible]名、ソレハにがにがしい事デゴザル」 しのびね、上「殿ニハにがにがしくサビシクノタマヘバ」 小島口[illegible]「ナホ一日ヤミクラス、にがにがしくテ、其夜ハアケヌ」

にがにし（名）【苦螺】 古名、アキ。海ニ生ズ。形、ばいヨリ大キク長ク、頭、尾、尖ル。色、黃白ニシテ赤味アリ、外ニ黑褐ナル短キ角アリ。蓋ハ甲香ニ似、肉ハあかにし（赤螺）ニ似テ美ナリ。腸ノ辛キコト、蓼ノ如シ。[illegible]螺

にがにれ（名）【[illegible]】〔苦楡ノ義カ〕 古名、ヒキザクラ。楡ノ類。葉ニ白[illegible]多シト云フ。

にかは（名）【膠】〔煮皮ノ義〕 牛、其他ノ動物ノ皮、骨、軟骨ナドヲ[illegible]、コレヲ乾シテ固形物トシテ貯ヘ、必要ノ際ハ、煮テ、物ヲ粘シツクルニ用ヰル。あけう（阿膠）、すきにかは（透膠）ノ條、見合スベシ。 [illegible]

にがはだ（名）【苦膚】 [illegible]ナドノ[illegible] 寄生セザル皮膚。

にがひさご（名）【苦瓠】 實ノ味ノ苦キヒサゴ。ニガヒシャク。

にがひしゃく（名）【苦瓢】 前條ノ語ニ同ジ。

にがびゃくだう（名）【二河白道】 佛教ノ語。火ノ河ト、水ノ河ト、其中間ニ白道アリテ、火ノ河ハ衆生ノ瞋恚ニ、水ノ河ハ貪欲ニ、白道ハ淸淨ノ願往生心ニ譬ヘタル語。 [illegible]

にがふ（名）【二合】 [illegible]

一字ヲ常體ニ書シ、下ノ一字ヲ省シテ花押トシ、合ハセテ一字ニ作ルモノ。コレヲ二合の判ト云ヒ、[illegible]、又、下ヘハ、下ノ花押ヲノミ記シ、吏ニ下サルヘハ、直ニ二合ト云ヒ、字ヲ書スト云フ。くゎあふ（花押）ノ條、見合ハスベシ。

にがふはん（名）【二合半】（一）飯、酒ナドノ量、卽チ二合五勺ノコト。轉ジテ、少量ノ意ニ用ヰル。 [illegible]（二）一歩ノ四分ノ一、卽チ二尺四方ノ稱。

にかへし（名）【[illegible]】 [illegible]

にかへしを（名）[illegible]

にかへ・す [illegible]

にがほ（名）【似顏】 役者ナドノ顏ヲ似セテ描ケルモノ。又、顏、カタチヲ似セ[illegible]

にがほゑ（名）【似顏繪】 [illegible]

ナ、[illegible]八九才ノ頃ニ、女形中村[illegible]代ニ[illegible]狂言ノ似[illegible]ノ[illegible]シテ、[illegible]中、[illegible]ナル[illegible]ヘ[illegible]クタリ、[illegible]ニ及ビシナリ、[illegible]ナルヘシ」[illegible]、寛政ノ初、勝川[illegible]、[illegible]クス、歌舞伎役者似顔ヲ[illegible]キ、大[illegible]、[illegible]川[illegible]出ア役者繪ヲ[illegible]ス、中興ウキヨエノ名人也、此人、文政八年沒ス、門人歌川國[illegible]、[illegible]ク、當時東都ノ一人也」

にがまめ（名）荳科ノ一年生草本。地中海沿岸ノ原産ニテ、莖ノ高サ二三尺、葉ハ複葉ニシテ、三小葉ヨリ成リ、各小葉ハ倒卵形、又ハ、橢圓狀披針形ヲナシ、歯牙ヲ有シ、小托葉アリ。五六月頃、各葉間ニ、橙黃色ノ蝶形無柄ノ花二箇、又ハ、一箇ヲ開ク。藥用ニ供ス。一名、胡蘆巴。

にがみ（名）［苦味］（一）ニガキ氣味。ニガキアヂ。（二）ニガミバシルコト。浮世風呂（文化、三馬）二編、下「男ガ惡イト云フケレド、にがみノアル能イ男サ、マヅ第一忠臣デネ」

にがみ・い・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［苦味入］次條ノ語ニ同ジ。

にがみ・き・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［苦味切］イトニガニガシキサマヲナス。甚ダ苦ム。ニガリキル。ニガミイル。

にがみ・ばし・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［苦味走］（嗜み走る義）甚ダシク、苦味アル狀ナリ。顏面、淺黑クシテ、凜然タル樣子アリ。容貌、引キシマリテ、リリシゲナリ。口ノ邊ニ皺ミテ見ユ。

にが・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［苦］（ゆがむ（歪）、いがむ（啀）ニ通ズルカ）嫌ヒテ顏、顰ム。苦イ顏ヲスル。不興ニナル。ニガル。顰蹙　名義抄「顰、ニカム」「蹙、ニカム」「頻、ニカム」字鏡抄「獪猜、ニカム」字[illegible]「[illegible]、ニカム」「嫉、ニカム」

[illegible]一「嘖、小也、不正也、[illegible]加牟」字津保物語、[illegible]上、下六十八「イトワビシウ、心地惡シウナリテ、イカニ仕ラムトテ、にがみナ」源、[illegible]、帚木「[illegible]アツキニトにがみ給ヘバ、人人ワラフ」狹衣、三、下四十「煙ノ中ヨリ、にがみ出デタル殿守司ノ者ノ顏ドモ」宇治拾遺、四、第十七條「大豆ヲ炒リテ、云云、アタタカナル時、酢ヲカケツレバ、酢むづかりシテ、にがみテヨク挾マルルナリ」住吉物語「[illegible]アキレタルサマシテ、云云、中納言殿ノ傍ニ、[illegible]クヨシニテ、にがみ居タリ」盛衰記、三十五、[illegible]院[illegible]「惡シク殘ンデ腰ヲ損ジテ、にがみ入リタル顏ノ氣色、イトヲカシクゾ見エケル」

にが・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［苦］顰ムル。嫌ヒテ顏ヲ、ヒソメル。苦キ顏ヲスル。シブツラヲスル。澁面ツクル。顰蹙　盛衰記、四、[illegible]議事、山門ノ僉議ト申ス事ハ、異ナルヤウニ侍リ、歌詠ズル聲ニモアラズ、經論ヲトク聲ニモアラズ、又サシ向ヒ言談スル體ヲモハナレタリ、先王ノ舞ヲ舞フナルニハ、面摸ノ下ニテ[illegible]ヲにがむる事ニ侍ル也」

にがむし（名）［苦蟲］嚙メバ苦カラムト思ハルル蟲。轉ジテ、常ニ、ニガニガシキサマヲナシ、又ハ、ニガニガシキ事ヲ云フ人ヲ、嘲リテ云フ語。又、ニガニガシキ顏色ヲ、形容スル句ニ用ヰル語。「苦蟲ヲ食ヒツブシタヤウナ顏」

にがもも（名）けもも（毛桃）ノ異名。其條ヲ見ヨ。

にかよ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［似通］互ニ似ル。類似ス。源、三、空蟬「[illegible]ノイト且カラヤリシケハヒノにかよひタルモ、思ヒナシニヤ、哀レナリ」同、五十、浮舟五十「親族ニカハアラン、イトヨクモにかよひタルケハヒカナト、思ヒクラブルニ、心ハヅカシゲニテ」

にがよもぎ（名）［苦艾］[illegible]原產ノ多年生草。高サ四尺許リ、莖、葉共ニ白キ毛、密生シ、高キ香ヲ有ス。葉ハ二回、又ハ、三回羽狀ニ分裂シ、八九月頃、黃色ノ半球形ノ頭狀花ヲ穗狀ニ排列ス。葉、花ハ、藥用トシ、實ハ香料ニ供ス。

にからびつ（名）［荷唐櫃］長唐櫃ノ半分ノ長サノ唐櫃。其二箇ヲ、一人ニテ棒ノ兩方ニカケテ荷フ。

にがり（名）［鹵汁］にがしほ（苦鹽）ニ同ジ。

にがり・あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［苦合］互ニ、ニガル。互ニ、苦苦シク思フ。盛衰記、六、入道院參企事、重盛詞、云云、實ニ理ナリケレバ、聞ク人人、皆苦りあへり」

にがり・き・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［苦切］極メテ、ニガニガシキサマヲナス。當流小栗判官（元祿、近松作）二「ヒラリト乘ッテシヅシヅト、歩マセ給ヘバ横山一家、膽ヲ消シ、苦り切ッテ見エケルガ」

にがり・わら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［苦笑］にがわらふ（苦笑）ニ同ジ　盛衰記、三十四、木曾可追討事「和主ヲ鼓判官ト、京中ノ童部マデモ申スハ、人ニ被打給ヒタルカ、又ハラレ給ヒケルカ、ト問ヒケレバ、判官苦り笑ひテゾ歸リケル」

にが・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［苦］にがむ（苦、四段）ニ同ジ。ニガイ顏ヲスル。顰蹙　名義抄「顰、ニガル」節用集（古本）「勃、ニガル」今昔物語、廿八、第十話「不然ラム人ハ極メテ苦リテ、此モ彼モ否不云テ居タラムハ」十訓抄、上、第一、五十二條「己レガヤウナル侍ナドハ、云云、アラ便無ト言ヒケレバ、聞[illegible]、にがりニケリ」盛衰記、六、入道院參企事「實ニ理ナリケレバ、聞ク人人、皆、苦りアヘリ」沙石集、三、上、第二條「正直ノ人ニテオハシマシケリトテ、打涙グミテ感ジ申サレケレバ、笑ヒツル人人、皆にがりテゾ見エケル」水鏡、下、光仁「御門、タハブレトコソ思シツルニ、コトニにがりテ思ヒワヅラヒタマフホドニ」出雲ニテ、腹痛ミテ下痢ノ氣アルヲ、にがるト云フ。

にがわらひ（名）［苦笑］苦ミ思ヒナガラ笑フコト。ニガ笑フコト。冷笑　嘲笑　書言字考節用集、八、言辭門「冷笑、ニガワラヒ」北史、[illegible]何容[illegible]冷笑」白樂天詩「[illegible]安民[illegible]月八[illegible]冷笑[illegible]」李白[illegible]「見[illegible]余[illegible]皆冷笑」[illegible]「冷笑[illegible]」能改齋漫錄、一、乾笑條「世以笑之不情者、爲乾笑、按、宋范曄[illegible]、[illegible]、刑于市、[illegible]、死固不足塞罪、奈何枉殺子孫、[illegible]乾笑而已、乾笑此始」

にがわら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［苦笑］ニガワラヒス。ニガリワラフ。苦笑ス。平家物語、二、[illegible]、苦ヲモウシロメタキ事ニ思ヒ奉リ、上ニハ事ナキ樣ナレ共、下ニハ用心シテ、苦笑ひテノミゾ被候ケル」盛衰記、三、殿下會事事「此ハ、平家ノ一類、以テノ外ニ、苦笑ひテゾ見エニケル」

にき（名）［日記］にっき（日記）ニ同ジ。日次ノ記。日日ノ記錄。日錄。日誌。狹衣、四、下四十六「吾ガ世ニアリケル事ドモ、月日タシカニ記シツツ、にきシテ、サルベキ所所ハ繪ニカキ」土佐日記、序「男モスト云フにきト云フ物ヲ、女モシテミントテスルナリ」蜻蛉日記、中、上三「身ノウヘヲノミスルにきニハ、入ルマジキ事ナレドモ」

にき（名）［二氣］陰ト、陽ト。又、二儀。易經、下、咸傳「咸感也、柔上而剛下、二氣感應、以相與」淮南子、說山訓「天二氣則成虹、地二氣則泄藏、人二氣則成病」梁簡文帝、七勵「判三[illegible]之氣[illegible]、辨六爻之終始」近思錄、一、[illegible]二氣交感、化生萬物」

にき（名）［二季］一年ヲ二分シタル春ト、秋ト。或ハ、夏ト、冬ト。又ハ、盆ト、暮ト。き（季）ノ條ヲ見ヨ。唐書、王彥威傳「[illegible]祀解[illegible]、季[illegible]、[illegible]」[illegible]抄上「神事次第、二季月次神今食」

にき（助動）現在完了ノ助動詞ノぬノ變

化ナルにニ、過去ノ助動詞ノきヲ重用シタルモノ。萬葉集、十七「[illegible]」[illegible]「[illegible]ノ花ハ、今ゾ盛リト」同、[illegible]「[illegible]得ズ、イノチシアレバ、シキタヘノ、家ヲバ出デテ、[illegible]レ[illegible]」「行キにき」別レにき」

に-ぎ（名）［二儀］（一）天ト、地ト。梁元帝纂要「天地日二二儀一以レ人參レ之、日二三才一」任昉、大司馬[illegible]、[illegible]二儀一[illegible]、使[illegible]」太平記、十六、日本[illegible]ノ始メヲ尋ヌレバ、二儀已ニ分カレ、三才漸ク顯ハレテ、人壽二萬歳ノ時」（二）陰ト、陽ト。周易[illegible]、[illegible]「何[illegible]之[illegible]」[illegible]二儀之[illegible]二[illegible]」

にぎ（接頭）［和］［熟］「和ニ通ズ、荒ノ反」修メタル。精シキ。柔カナル。ニコヤカニ。ナゴ。大嘗祭祝詞「[illegible]」古語拾遺[illegible]「[illegible]」「和妙、荒妙」「和稻」「和布」

にぎ-いひ（名）［柔飯］ひめいひ（姫飯）ノ條ヲ見ヨ。

にぎ-えみじ（名）［熟蝦夷］荒荒シカラヌエミジ。王化セル蝦夷。えみじ（夷）ノ條ヲモ見ヨ。齊明紀、五年七月、註「[illegible]有二三種一[illegible]云云[illegible]」

にぎ-ぬね（名）［和稻］稻ノ實ノ殼ヲ去リテ、米ニシタルモノ。即チ米。（[illegible]）荒稻ニ對ス）ニコシネ。[illegible]「[illegible]稻ハ、ミカノへ高知リ、ミカノ腹滿テナラベテ、和稻、荒稻ニ」

にぎ-ずみ（名）［和炭］にこずみ（和炭）ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

にぎ-たづ（名）［[illegible]熟田津］「和幣[illegible]ノ義」荒キ大事ノ渡リハ、必ズ[illegible]ニ手向スルコト。又、[illegible]。萬葉集、[illegible]ノ、三[illegible]、[illegible]豆ノ、荒磯ノ上ニ」同、一十「熟田津爾、船ノリセム

ト、月待テバ、潮モカナヒヌ、今ハ漕ギイデテナ」

にぎ-たへ（名）［和栲］〔にきハ和ニ通ズ〕打チテ柔カクシ、晒シタル布。即チ、白キ布。たへ（栲）ノ條、又、あらたへノ條ヲモ見ヨ。萬葉集、[illegible]、[illegible]ナ、ヒトテニハ、[illegible]「[illegible]」[illegible]

にぎ-たま（名）［和靈］にぎみたま（和御靈）ニ同ジ。萬葉集、九[illegible]、[illegible]ノ、コロモ[illegible]ラニ、ヌバタマノ、[illegible]」

にぎ-て（名）［幣帛］「和栲ノ約ト、バフ」古語拾遺神代ニ、「和幣、古語、爾伎[illegible]」「神衣、所謂和衣、古語、爾伎多倍」ト別ケ記シタリ」ヌサ。ミテグラ。幣束。御幣。木綿ノ布、麻ノ布ヲ神ニ供フル時ノ稱。後ニ絹、又、後ニハ紙ヲ用ヰル。白和幣（白幣）ハ木綿ノ絲ニテ作リ、色白ケレバ云ヒ、青和幣（青幣）ハ麻ノ絲ニテ作リ、稍、青ミアレバ云フ。古語拾遺ニ穀ヲ植エテ白和幣ヲ造リ、麻ヲ植エテ青和幣ヲ作ル、トアリ。古事記、上[illegible]

にぎ-とり（名）［二季鳥］雁ノ異稱。[illegible]トテハ、二季鳥ノ、年ニ二度、行キ歸ルラン」

にぎ-にぎ（名）［[illegible]］（一）手ヲ握ルサマ[illegible]スルコト。小兒ノスルコトナ[illegible]記、忠臣藏子「手ヲ握ルヤウナ事ヲスルガ、是レモ甚

[illegible]（二）[illegible]モウ錢ガ出來マシタ、イツモノヤウニ、にぎにぎシテヒ[illegible]」

にぎ-にぎ-し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［賑賑］賑ハシ。イト、ニギハシ。

にぎ-にぎ-と（副）［[illegible]］[illegible]康頼ナド云フサルガウクルヒ（猿樂狂）言ナド、にぎにぎ[illegible]」

にぎ-は-し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［賑］〔にきはしノ略〕にきはし（賑）ニ同ジ。[illegible]保物語、[illegible]上[illegible]「ココラノ御ウブ屋ニアヒマウデクル中ニ、多クにぎはしかりシ事ハ、コノ御屋、ナナツノ[illegible]

にぎ-は-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［賑］〔にきはすノ略〕にきはす（賑）ニ同ジ。

にぎ-はだ（名）［和膚柔膚］ヤハラカナルハダ。ニコハダ。[illegible]

にぎ-は-し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）[illegible]下「カクにぎはしき所ニナラヒテ來レバ、此女イヨキモノ舉レリ、コノカウヤウノ物モアクル人ニ、[illegible]メデタキコト、物ニモ似ズ」

にぎ-は-ふ・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［賑］又、[illegible]（二）メグム。施ス。（三）ニギヤカナラシム。

にぎ-はひ（名）［賑］ニギハフコト。又、ニギハヒタルサマ。[illegible]

にぎ-は-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［賑］[illegible]（一）[illegible]富ミ足ラフ。豐ニナル。ニギブ。[illegible]にぎはひニケリ」（二）[illegible]ギヤカニナル。饒フ。昌富[illegible]ガツノ、シヅガ[illegible]ノ、リサクロメ、にぎはふアノ、スミカトハ見シ[illegible]リニハ、小家ドモ多ク出デ來テ、里モ[illegible]にぎはひクリ」

にぎ-は-ふ[illegible]

にぎ-び（名）[illegible]きびト云フハ、[illegible]ズ[illegible]

小豆大ノ、小サキ隆起ヲ生ジテ、其尖ニ黒キ點ヲ生ズルモノ。此生ズルハ、十七八歳ヨリ、三十歳マデノ年齢ニアリト云フ。醫宗金鑑、面部、面上有、粟如、栗尖、赤腫、破ニ次白色ニ。肺經血熱二。年少気充、面生。名醫別錄二。書言字考節用集、五、肢體門「面瘡、粉刺、ニキビ」

にきび-の-むし　(名)　まうふうちゅう(毛嚢蟲)ノ異名。其條ヲ見ヨ。

にきび-ばな　(名)　[皺鼻]　にきみばな(皺鼻)ニ同ジ。ざくろばな(石榴鼻)ノ條ヲ見ヨ。

に-きふ　(名)　[日給]　にっきふ(日給)ニ同ジ。

にぎ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ(自動、上二)　[和]　〔荒ぶノ反〕　親シミ馴ルル。和熟ス。柔和ニナル。安ンジテ居ル。又、ニギハフ。ニギム。萬葉集、一廿九長歌「天皇ノ、命畏ミ、柔備ニシ、家ヲサカリテ」同、二九長歌、「纏エジヤ妹ト、纏ビテシ、コトハ果サズ、思ヘリシ、心ハトゲズ、白栲ノ、袂ヲ別カレ、和備火ニシ、家ユモ出デテ、緑兒ノ、泣クヲモ置キテ」

にぎ-ほ・ふ・フル・フレ・へ・へ・へヨ(他動、下二)　[賑]　賑ハス。ニギハフヤウニナス。持統紀、五年正月「賜正廣肆、百濟王禪廣」云云、各有差」同、七年三月「賜大學博士勤廣貳上村主百濟、食封三十戸、以優儒道」

にきみ　(名)　[痤]　〔丹黍ノ義ニテ、色ノ赤キニ云フニモアルカ。二禁トハ、字音ニテ記スナリ。禁ハ、唇内音ニテ、きむナレバ、きみト轉ズルナリ。(檢、けみス)〕、にきび(面皰)ノ條ヲ併セ見ヨ〕(一)〔腫物ノ名〕癰ノ類。梅、李ノ實ノ如ク、赤ク腫ルルモノ。倭名抄、三、瘡類「疕、爾岐美」

醫心方、十四「癰、木、二一」素問、生氣通天論、注「痤、謂色赤瞋憤、内蘊血膿、形小、而大如酸棗、或如按豆」。增補節用集、醫書「疣ト、痤、鼻如擲石也」今鏡、四、波上盃「此殿、云云、四十二ダニ足ラセタマハヌヲ、然ルベキ御為ナリ、限リアル御命ト申シナガラ、御にきみノホド、人ノ申シ侍リシハ、常ノ御事ト申シナガラ、云云」醫自藤原師通、康和元年薨、年三十八」長秋記、元永二年九月廿日「參三梁園、御二禁有二增氣、云云、宮御云、於、瘡者不知、増減、此兩三日辛苦甚、敢不可存命」(輔仁親王、同月廿九日薨ジタマヒキ)大府記、寛治四年五月廿六日「余、顔ニ二禁有」仁君二」水左記、承保四年八月十三日「左府公、令、蛭飲」」榮花物語、三十五、蛛のふるまひ「内ニ、御にきみオハシマシテ、醫師ドモ參リナドシテ、少シワヅラハシウ申シケリ」同、三十六、根合「内ノ御にきみノ事、猶オコタラセ給ハネバ」　(二)又、今ノ面皰。醫心方、十五八「皰」

にぎ-みたま　(名)　[和魂和御靈]　〔にぎび(和)給フみたまノ義〕　溫和ナル神靈。ニギタマ。あらみたま(荒御魂)ノ條ヲ見ヨ。神功攝政前紀「和魂服王身、而守壽命、荒魂爲先鋒而導師船」注「和魂、此云、珥岐彌多摩」

にきみ-ばな　(名)　[皺鼻]　〔痤ノ如ク、赤クナレル鼻ノ意ナルベシ〕　又、アカバナ。今、ざくろばな(石榴鼻)ト云フ。其條ヲ見ヨ。倭名抄、三十四瘡類「皺鼻、鼻上皰也、邇岐美波奈」醫心方、三十六「皺鼻」左訓、アカバナ」玉篇、皮部「皺、皰也、今作皻」同、鼻部「皻、鼻上皰也」龍龕手鑑「皺、皷、同」

にぎ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四)　[和]　にぎぶ(和)ニ同ジ。書紀、二十四、寶雞七年四月「悟其意ニテ、其人等乃和美安ミ摩住ク、相云ヘ」

に-きん　(名)　[二禁]　にきみ(痤)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

にぎ-め　(名)　[和布]　〔め(海布)、幷ニ、昆布ノ條ヲ見ヨ〕　今ハ、わかめ(若布)ノ類。其條ヲ見ヨ。(荒布ニ對ス)倭名抄、十七八藻海菜「海藻、通木米、俗用和布字」本草和名、上三二「海藻、和名、米」延喜式二、神祇式、祈年祭「和布」「延喜式二、稚海藻卜書ケタレバ、にぎめノ中ニテ、わかめハ實ニ細柔ナルヲ云ヘルカ」萬葉集、十六廿ツヌ島ノ、セトノワカメハ、人ノムタ、アラカリシカド、我ガムタハ和海藻」

にぎ-もの　(名)　[和物]　ニゴモノ。ヤハラカナルモノ。大忌祭祝詞「毛能和物」後釋訓

にぎ-やか-さ　(副)　[賑]　豐ニ榮エテ、盛ニ。繁昌ニ。日盛　字類抄、饒、穰、賑、ニキヤカナリ」狂言記、寶笠「此處彼處ヘ參ラウト存ズル、都ト見エテ、にぎやかさゴサル、サレバコソ都チャ」

に-きょく　(名)　[二極]　南極ト、北極ト。兩極。書經、洪範篇「日月之行、則有冬有夏」疏「南北二極、中等之處、謂之赤道」何承天、論渾天體「南北二極、相去一百一十六度」

にぎり　(名)　[握]　(一)ニギルコト。又、其トコロ。今川大雙紙(今川了俊)「弓ノ握リヲ巻キ様、數ハ七九十一也、外竹ノ本ヨリ巻ハジメ、前竹ノ内角ニテ止メベシ」(二)ニギル長サ、又、ソノ太サ。或ハ、ソノ量。「一握半」(三)弓ノ名所。射ル時、握ル部分。ニギリカハ。ユヅカ。家中竹馬記(永正、利綱)「弓ヲ可持様、にぎりヨリ下ヲ右ノ手ニ持チテ、云云」(四)にぎりずし(握鮨)ノ略。其條ヲ見ヨ。

にぎり-いひ　(名)　[握飯]　握リタル飯。にぎりめし(握飯)ニ同ジ。伽羅先代萩、天明、松、高橋、吉田合作)御殿「タダ一握リノ握りいひ、數ノ珍味ト思シ召ス」

にぎり-かは　(名)　[握革]　ゆづか(弓束)ニ同ジ。略シテ、にぎり。家中竹馬記(永正、利綱)「にぎり革ニハ、黒革之外ヲバ不可用、フスベ革ハ一向、内内ノ略儀ナリ」

にぎり-かみ　(名)　[握上]　弓ノ、握ヨリ、上ノ部分。(握下ニ對ス)

⁂にぎり-こぶし　(名)　[握拳]　こぶし(拳)ト云フニ同ジ。ゲンコ。ゲンコツ。拳。狂言記、○○、○○○「○○○ノ○ニ、握拳ヲ以テ、ハリ○ラセラルルハ、何ト申ス御手デ御座ル」四方赤良の狂歌「サワラビガ、にぎりこぶしヲ、フリ上ケテ、山ノ横ツラ、春風ゾ吹ク」

にぎり-した　(名)　[握下]　弓ノ、握ヨリ、下ノ部分。(握上ニ對ス)

にぎり-ずし　(名)　[握鮨]　すし(鮨)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。略シテ、にぎり。守貞漫稿、廿八、食類「鮓、江戸、今製ハ握リ鮓也、鷄卵燒、車海老、海老ソボロ、白魚、マグロサシミ、コハダ、アナゴ甘煮、長ノママ也」

にぎり-ずみ　(名)　[握墨]　握リ固メタル墨。(型ニ入レザルモノ)　用明天皇職人鑑(寶永、近松作)職人盡「人ノ心ニ花咲ケバ、實モ奈良油烟、手合セニ、朽チヌ賣ヤ、握り墨、澄ムモ濁ルモ、世ノ習ヒ」

にぎり-つぶし　(名)　[握潰]　(一)ニギリツブスコト。(二)手許ニ留メ置キテ、處置セザルコト。

にぎり-つぶ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)　[握潰]　(一)握リシメテ、潰ス。(二)手許ニ留メ置キテ、處理セズニ葬リ去ル。(建議案、文書ナドヲ)

にぎり-ぶと　(名)　[握太]　(一)手ニ握リテ、太キヲオボユルコト。又、ソノモノ。「握太ノをてっき」(二)弓ノ弣ヲ、革ナドニテ厚ク巻キテ、太クシタルモノ。弣ノ所ヲ撓マザラシメムタメナリ。ゆづか(弓束)ノ條ヲ見ヨ。太平記、十六、本間孫四郎遠矢事「上差ノ流鏑矢ヲ拔イテ、云云、三所籐ノ弓ノ握太ナルニ取リ副ヘ、小松陰ニ馬ヲ打寄セテ」參考保元物語、二、義朝白河殿夜討事「爲朝ハ、云云、籐巻ノ弓、握りぶとニテ八尺五寸ヲモチ、云云」(半井

本)「にぎりぶとナル弓」

にぎりみりん (名) 煮切味醂 煮ツメタル味醂。

にぎりめし (名) 握飯 又、つくねめし。飯ヲ握リテ、圓ク固メタルモノ。携フルニ便ニス。ムスビ。トンジキ。ニギリイヒ。[illegible]飯 伴ヽ信濃、昔、野ノ宿ヲ、サラバ今日コソ、握り飯」

にきる ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 煮切 ニツムル。汁氣ナクナルマデ煮ル。

にぎる ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 握 (一)五指ヲ内ヘ向ケテ屈ム。大鏡、中、篤光「除目ノ朝ヨリ、手ヲ強クにぎりテ、云云、七日ト云フニ亡セ給ヒシ、にぎりタウビタリケルオヨビハ、[illegible]リツヨクテ、上ニコソトホリテ出デ給ヘリケレ」「拳ヲ握る」(二)〔五指ト掌ト〕ニテ持ツ。ツカム。竹取物語「手ニヒラメル物、觸ハル時ニ、ワレ、物にぎりタリ、今ハオロシテヨ、」「弓ヲ握る」(三)掌中ニ收ム。我ガ物トス。掌握 延慶本、平家物語、六、本、押ニ當八島ニ合戰事「日本國ヲ手ニにぎらセ給ヒ」「天下ノ權ヲ握る」

にく (名) 肉 (一)シシ。シシムラ。ミ。動物ノ體ノ大半ヲ成スモノ。紅ニシテ柔キ固形ノ物ナリ。筋ト共ニ骨ヲ包ミテ、皮ニ被ハル。管子、水地篇「五藏已具、而後生レ肉」論語、述而篇「子在レ齊、聞レ韶、三月不レ知二肉味一」[illegible]太平記、九、越後守仲時已下自害事「血ハ其ノ身ヲ浸シテ、恰モ黄河ノ流レノ如クナリ、死骸ハ庭ニ充滿シテ、屠所ノ肉ニ異ラズ」(二)厚サ。厚ミ。「板ノ肉」(三)果實ナドノ柔軟質ノ部分。種子ヲ包ムモノ。(四)印肉ノ略。(五)牛肉ノ略。

にく (名) [illegible] 「字ノ異音」(一)ニ〔軟物〕。毛皮ノシトネ。倭名抄、十四、坐臥具「褥、此間[illegible]」名義抄[illegible]ニク、シトネ、ウハシキ」[illegible]第十九[illegible]「褥、[illegible]」(二)羚羊ノ一名。其皮、褥ニ好ケレバ云フ。氈鹿ト云フモ、同意ナリ。貞丈座右書、岡本記曰、ウツボニ懸ケヌ皮ノ事、にく、シマウシ(水牛)、猫ノ皮」

にぐ グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(自動、下二) 迯 〔字ハ逃ノ草書ノ誤用、のがるト通ズ〕逃レテ、去ル。避ケテ、走ル。ノク。逃遁 字類抄「迯、ニク、逃、ニク、亡、ニク、北、ニク」宇治拾遺、一、第十話「今ハ逃ぐトモ、コモ、迯カサジトオボエケレバ」源、廿二、玉鬘廿「四月ノ二十日ノ程ニ、日取リテ來ントスル程ニ、カクテにぐるナリケリ」落窪物語、二「物ヲ散ラシナガラ、にぐる音カラムルヤウニ、袖ヲトラヘ、サキニオシタテテオハス」竹取物語「コレナラムト覺シテ、近ク寄ラセ給フニ、にげテ入ル袖ヲトラヘ給ヘバ、面ヲフタギテ候ヘド」古今集、十七、雜、上「アカナクニ、マダキモ月ノ、カクルルカ、山ノ端にげテ、イレズモアラナン」後撰集、十五、雜、一「小山田ノ、僅カシニモ、來ザリシヲ、イトヒタブルニ、にげシ君カナ」

にくあひ (名) 肉合 肉ノ肥エタル狀。肉ツキノ程合。シシアヒ。ニクツキ。唐崎[illegible]今國性爺(享保、近松作)上「何ホド身ヲ細メテモ、肉合ニ見ドコロアリ」

にくいれ (名) 肉入 にくち(肉池)ニ同ジ。

にくいろ (名) 肉色 (一)人間ノ膚ノ色。肉體ノ色。淡紅ニシテ、黄ミアル色。(二)人色。人形ナドノ肌ノ薄赤黒ニ塗リ、生ケル人ノ肌ノ色ノ如キモノ。

にぐう (名) 二宮 (一)中宮ト、東宮ト。三代實錄、廿七、貞觀十七年正月二日「親王公卿以下、[illegible]二宮[illegible]」(二)二柱ノ神ノ宮

にくえん (名) 肉緣 肉親ノユカリ。血ツヅキノ間柄。血族。血緣。

にくかい (名) 肉界 〔靈界ニ對ス〕肉身ノ處スル世界。現身ノ世。

にくがん (名) 肉眼 [illegible]眼ニテ、物ヲ見ルコト。[illegible]

にくがる ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 憎 ニククク思フ。憎シト思フ。ニクム。枕草子、四[illegible]「人ノにくがりテ、トリステ侍ルニヤトナン、推シハカリ侍ル」十訓抄、中、第七、第十[illegible]大納言[illegible]ノセトニ[illegible]寺ノ[illegible]法印、オソク來リケルヲ、にくがりテ」

にくく (名) 肉果 にくづく(肉豆蔻)ニ同ジ。本草[illegible]、一名、[illegible]

にくくゎい (名) 肉塊 (一)肉ノカタマリ。又、肉ノ一塊。シシムラ。神仙傳(南唐、沈汾)「富人[illegible]信惟一子、眉上生二肉塊一、布衣[illegible]藥一丸付レ之、須臾塊破、一小蛇突出」(二)カラダ。身體。

にくくゎん (名) 肉冠 [illegible]鳥ノ頭ニアル赤キ肉ノ如キモノ。[illegible]

にくげ (名) 憎氣 ケニクキコト。ニクテイ。ニクサウ。ニクサゲ。ニククキヤウ。土佐日記、二月十五日「家ノ人ノ出デ入リ、にくげナラズ、キヤヤカナリ」源、二、帚木「セウトノ顔にくげニ、思ヒ上リコトナルコトナキネヤノウチニ」

にくけい (名) 肉刑 身體ヲ傷ツクル刑。耳キリ、足キリ等。[illegible]刑。史記、孝文[illegible]

[illegible]

にくけい (名) 肉髻 〔梵語[illegible]ノ[illegible]〕[illegible]十訓抄、上、第一、第八條[illegible]

にくけい (名) 肉桂 熱帶地方ニ生ズル常綠喬木ニシテ、高サ數十尺ニ達シ、[illegible]淡黄綠色ニシテ光澤アリ、[illegible]葉ノ末マデ通リタル[illegible]小花ヲ開キ、[illegible]其根幹ノ皮ノ[illegible]色、黄褐ニテ、味、辛クサシ。[illegible]ノ皮ヲ取ル。[illegible]

にくけいいばら (名) めぎ(小蘗)ノ異名。

にくげん (名) 肉眼 〔心眼ニ對ス〕佛[illegible]近、前、内、晝、上ナドヲ見レドモ、遠、後、外、夜、下ナドヲ見ルヲ得ザル眼。

にくさ [illegible]ニクサゲ。ニクキヤウ。[illegible]憎キ相好。[illegible]

シタリケン、其札ノ側ニ、歌ハニタヘ(新田)首ナリ、マサシゲ(正成)ニモ書キケル虚事カナト、秀句ヲシテゾ書キ副ヘテ見セタリケル」

にくさげ (副) 憎氣 ニクラシキサマ。ニハアイ、ニクサウ。大和物語、下「男、知レル人ノ許ニ常ニ通フニ、イトにくさげナル女ノアルヲ、女ハオトナニ成レバ、コヨナクナダラカニナル」著聞集、八、好色「刑部卿敦兼ハ、ミメノ世ニにくさげナル人ナリケリ」

にくさし (名) 肉叉 西洋料理ノ食事ニ、肉ナドヲ刺シテ食フニ用キル熊手形ノ具。フォオク。

にくさび (名) 〔荷楔(ハゲ)ノ義ニテモアルカト云フ〕舟ノ兩ノ舷ヲ、藁ニテ包ミカコヒテ、波ヲ避クルモノニテ、今モ、肥後ニテハ云フト云フ。ニクサミ。夫木抄、廿五、鵜「にくさびゾ、カクベカリケル、難波潟、舟打ツ波ニ、イコソネラレネ」

にくさみ (名) 前條ノ語ニ同ジ。小町集長歌「島ワタリ、浦漕グ舟ノ、濡レワタリ、イツカウキ世ノ、にくさみノ、我ガ身カケツツ」

にくざん (名) 肉山 宴席ナドニテ、肉ノ多キヲ、山ニ譬ヘテ云フ語。又、肥滿シタル肉體、黃庭堅詩「六月火雲蒸二肉山一」(張文潛ノ體ノ肥滿シタルヲ云フ)

にくざんほりん (名) 肉山脯林 生(ナマ)ノ肉ト、乾シタル肉(脯)トノ、數多アルコト。轉ジテ、宴席ナド、奢侈ナルニ譬ヘテ云フ。酒池肉林。帝王世紀「紂、[illegible]肉山脯林、酒池肉林二」

にくざり (名) 二句去 俳諧ノ語。連句ニテ、意義ノ類似シタル語ハ、二句ヲ隔テズバ、附クベカラズト云フコト。

にくし・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 憎惡 〔にくハ苦飽(ニガアク)ノ略、かはゆしノ反〕(一)憎ム

ベクアリ。カハユクナシ。源、四、夕顏「(篝)ノコトハ、エ聞キ侍ラズナド、ハシタナゲニ聞ユレバ、にくしトコソ思ヒタレナ」同、二、帚木「心モケシウハアラズ侍リシカド、タダ此にくき方一ツナン、心ヲサメズ侍リシ」萬葉集、一、廿「紫ノ、ニホヘルイモヲ、憎久アラバ、人妻ユヱニ、吾レ戀ヒメヤモ」(二)ツレナシ。不愛相ナリ。ナサケナシ。枕草子、一、十三段「心ハカシキ人、イト心にくし」(三)爲スニ難シ。爲シ易カラズ。カヌル。難(熟語ニ用キル)源、四十四、橋姫「多クノタマヘバ、ツツマシクイラヘにくくテ、甚シツル老人ノ出デ來タルニゾ讓リ給フ」「見にくし」讀ミにくし」言ヒにくし」

にくじき (名) 肉食 鳥獸魚介ノ肉ヲ食物トスルコト。ナマグサヲ食フコト。ニクショク。涅槃經、四「迦葉菩薩復白佛言、世尊云、何如來不聽食肉、善男子、夫食肉者、斷大悲種」太平記、三十六、天王寺造營「肉食ヲ止メ、酒ヲ飲マヌ番匠アマタアリ」翁草(安永、神澤杜口)五十六「親鸞上人ハ、云云、隱元禪師來朝ノ後、此宗旨ノ女犯肉食ヲ許セル事ヲ聞テ、甚、開山ノ德ヲ被レ稱シニ」「肉食妻帶」

にくじゅう (名) 肉汁 (一)そっぷ(肉汁)ニ同ジ。鳥獸ノ肉ヲ煮テ作リタル汁。肉漿。周禮、天官篇、醢人「其實非道醢醢」註「醢、肉汁也」後漢書、孔融傳「主人有遺肉汁、男湯而飲之」班固、難莊論「衆人之逐世利、如青蠅之赴肉汁也」(二)牛肉ナドヨリ榨リタル液。

にくしみ (名) 憎 にくみ(憎)ニ同ジ。新版歌祭文(安永、近松半二)野崎村段「ヨシナイワシ故、オミツサンノ、緣ヲキラシタオにくしみ、カンニンシテ下サンセ」

にくし・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 憎 にくむ(憎)ニ同ジ。

にくしん (名) 肉親 親子、兄弟ナド、血系(スヂ)ノ近キ人。血族。肉緣。

にくしん (名) 肉身 父母、所生ノ人身。にくたい(肉體)ニ同ジ。運步色葉集「肉身、ニクシン」楞嚴經、八「此清淨人、修三摩地、父母肉身不レ須天眼自然觀見十方世界」六祖壇經「後當有肉身菩薩於是授戒」今昔物語、七、三井寺智興大師事「驗德有驗ノ高僧ト聞コエケレドモ、未ダにくしんヲ離レ給ハサリケル故ニ」

にくしょう (名) 肉漿 にくじゅう(肉汁)ニ同ジ。

にくしょう (名) 肉醬 ししびしほ(肉醬)ニ同ジ。周禮、天官篇、醢人「深蒲、菹醢、箔」注「醢、肉醬也」

にくじゅよう (名) 肉蓯蓉 おにかさだけニ同ジ。易林節用集(慶長)上、草木門「肉蓯蓉、ニクジウヨウ」物類品隲(寶曆、平賀源內)三、草「肉蓯蓉、二三四月ニ生ズ、狀稍天麻ニ類ス、葉太ク鱗甲アリ、長ジテ後、花ヲ開、其形亦天麻ノ花ニ似タリ、日光產上品、方言をかさだけ、又、きむらだけト云フ、徑寸餘、長尺餘ノモノアリ、駿州吉川郡安原村產上品」

にくジュバン (名) 肉襦袢 (一)肉色ナル襦袢。(二)人ノ肌ニ密着スルヤウニ製レル襦袢。

にくしょく (名) 肉食 (一)鳥獸魚介ノ肉ヲ食物トスルコト。ナマグサヲ食フコト。ニクジキ。(穀蔬ノ食ニ對ス)沈約、均聖論「炎昊之世、未火未粒、肉食皮衣、仁惻之事、弗萌于懷抱」本朝廿不孝(貞享、西鶴)五「肉食ヲ好ミ、筋骨逞シクナリテ」(二)常ニ美食シテ、貧苦ヲ知ラヌコト。左傳、莊公十年「肉食者鄙、未能遠謀」李商隱、會昌一品集序「骨鯁者不用、偃武、肉食者效言萬議」「肉食ノ徒」

にくせい (名) 肉聲 肉體ヨリ出ヅル聲。人ノ口ヨリ發スル音聲。樂器ナドヨリ發スル音ニ對シテ云フ。

にくたい (名) 肉體 ナマミノカラダ。

ムクロ。肉身。靈魂(タマシヒ)ニ對ス)

にくだつ (名) 肉脫 肉ノ脫(ヌ)チテ、身ノ痩スルコト。

にくたん (名) 肉袒 〔儀禮、鄉射禮篇、疏「袒、左免衣也」〕上衣ノ肩ヲスベテ、肌ヲアラハスコト。(支那ニテ、謝罪ノ禮トス) 左傳、宣公十二年「鄭伯肉袒、牽羊以逆(ムカフ)」史記、廉頗藺相如傳「廉頗聞之、肉袒負荊、因賓客至藺相如門謝罪」漢書、李尋傳「殿上帳大肉欲、多田、肉袒深樹、汗出背之、而痛不生者、非二人心不到至、天時不得也」

にくだん (名) 肉彈 〔肉體ヲ以テ、彈丸トナス義〕肉身ヲヲドラシテ、彈丸ノ如ク敵壘ニ闖入スルコト。又、其肉體。

にくた・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 煮腐 煮ラレテ、クタクタトナル。

にくち (名) 肉池 印肉ヲ貯ヘテ置ク器。インニクイレ。ニクイレ。印池 印色池

にくつき (名) 肉附 (一)肉ノ其物ニ附着シテアルコト。又、ソノモノ。好色一代男(天和、西鶴)六「肉つきノ爪、數ヲ知ラズ」(二)肉ガ身體ニ附キタル狀態。

にくづき (名) 肉月 〔腓、腳、ナドノ月ノ月偏(ツキヘン)ト別ツ〕漢字ノ偏(ヘン)ニアル月ノ字ノ稱。卽チ、肉ノ字ナリ。肌、肘、肝、肥、股、等ノ如シ。肉旁。名物六帖(伊藤東涯)四、人事箋「肉旁、ニクヅキ、呂字、俗以字書六府八加二肉旁一作、賭、胃、腸、濕、以肉爲正」

にくづく (名) 肉豆蔻 シシヅク。熱地ニ生ズル常綠喬木ノ果ノ仁。藥用、及、香料トス。樹ハ梨ノ如ク、高サ四五十尺ニ達シ、葉ハ桃ノ如ク、花ハ薔薇ニ似テ、稍、小ク、帶黃白色ヲ呈シ、

香アリ、實ヲ鹽ニ漬ニス、大イサあんずノ如シ、枝ハ橢圓形ニシテ、濃アリ、色黄ナリ、其肉ノ仁ヲ肉トス、辛ク苦ク渋クシテ、香氣烈シ。肉果

にく-つぼ (名) [肉壺] 印肉ヲ入ルル壺。

にく-てい (名) [憎體] ニクゲ。ニクサゲ。ニクラシキサマ。ニクニクシゲ。憎相。井筒業平河内通(享保、近松作)三「家國有ル侍ノ奥様ニハ似合ハヌにくてい、雜言ト云フモノ」

にく-なべ (名) [肉鍋] 鳥獸ノ肉ヲ煮ルニ用キル鍋。

にく-にく・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [憎憎] 甚ダ憎シ。イト憎ラシ。

にく-はく (名) [肉薄] (薄ハ迫ナリ)、攻具ヲ用キズシテ、城ニセマル意ト云フ」身ヲ以テ迫ルコト。宋書、[illegible]「攻具ハ使ニ肉薄攻之」元史、[illegible]「肉薄骨并[illegible]之、[illegible]去」

にく-ひつ (名) [肉筆] 其人ノ、ミヅカラ書キタル筆跡。當人ノ眞實ニ書キタルモノ。又、印刷ナドセズシテ、書キタルママノ筆跡。

にく-ふえ (名) [肉笛] クチブエ。

にく-ぶと (名) [肉太] 肉ツキノ太キコト。(肉細ニ對ス)「肉太ノ字」

にく-べい (名) [肉餅] カマボコ。

にく-ぼそ (名) [肉細] 肉ツキノ細キコト。(肉太ニ對ス)「肉細ノ字」

にく-まえ (名) [被憎] にくまれ(被憎)ノ古言。[illegible]カクユケバ、人ニ[illegible]ハ、エ、カクユケバ、人ニ遁久感延」

にくま・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [憎] にくむ(憎)ノ敬語。ニクミタマフ。源、十九、薄雲「マコトニ心深キ人ハ、斯クコソアラザナレ、ヨシ今ヨリにくませ給フナヨ、ツ[illegible]ント、[illegible]リ給ヒヌ」

にく-まんぢゅう (名) [肉饅頭] 肉ヲ餡ゼテ製リタル饅頭。太平記、三十八、[illegible]「[illegible]ヒ見ル處ニ、年六十有餘ナル翁ノ、一ノ餌ヲ賣リテ、肉饅頭ヲ賣フアリ」

にくま・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [被憎] 憎シト思ハル。大和物語、上、[illegible]シテ、[illegible]ニモ、ハラカラニモ、にくまれケレバ」

にくまれ (名) [被憎] ニクマルルコト。ニクシミ。[illegible]

にくまれ-ぐち (名) [被憎口] ニクニクシキ口ヒ。ニクテイグチ。惡口。

にくまれ-もの (名) [被憎者] ニクマルル人。誰ニモ、カハユガラレヌモノ。

にくみ (名) [憎] ニクムコト。ニクシミ。[illegible]神ノ、にくみシテ、祈ル心ノ、ヌサモカヒナキ」

にく・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) [憎惡疾] 憎シト思フ。仇トシ、忌ミ嫌ヒ思フ。ニクシム。イトフ。源、二、帚木「コト人ノ云ハムヤウニ、仰セラルルトテ、中將にくむ」拾行記、十二年十二月[illegible]其不[illegible]之[illegible]にくめバ」

にく-よく (名) [肉慾] 肉體上ヨリ來ル慾。色慾。情慾。[illegible]

にぐら (名) [荷鞍] 荷馬ニ置ク鞍。駄馬ノ、荷ヲ負フタメノ鞍。乘馬ノ物ト、製、異ナリ。[illegible]にぐらヲ、イソギオキテ、隔キオホセツル、時鳥カナ」

にくらか・み (副) [憎] ニクニクシク。ニ[illegible]

[illegible]オホドカナルモノノ、サルベキ方ニハヒガシテ、にくらかユモウケバラヌナドシ、ホメヌ人ナシ」

にくら・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [憎] 憎ムベシ。ニクニクシ。憎シ。生憎

にくりん (名) [肉林] [illegible]

にぐるま (名) [荷車] 荷ヲ運送スル車。人ノ挽クアリ、牛馬ニ牽カスルアリ。任車 輜車 名義抄、輜、ニクルマ、ツムクルマ」和漢三才圖會、三十三、車輌類、ニグルマ、[illegible]

にぐるみ (名) [illegible]

にぐろ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [土黑] ツチ色シテ黑シ。ツチノ如ク黑シ。古事記、中 [illegible]ユエ、ミツグリノ、ソノナカツニヲ」

にぐろめ (名) [illegible] 白鑞 [illegible]シタルモノ。ニグルミ。烏銅 [illegible]

にくゎ (名) [入花] [illegible](二、火ト書クハ、當字ナルベシ) 榮花物語、廿九、玉の飾「ヤガテソノソリ[illegible]」

にぐゎい (名) [耳外] 耳ノ内へ入レヌコト。キキイレヌコト。太平記、廿四、依山門[illegible]山門見レヲ耳外ニ不[illegible]

にぐゎつ (名) [二月] 一年ノ第二ノ月。[illegible]月(以下[illegible]仲春、仲陽)

にくゎん (名) [入棺] にふくゎん(入棺)ニ同ジ。[illegible]くゎんトイフ事、セサセ給フ[illegible]

にげ (名) [逃] ニグルコト。ノガルルコト。遁逃。「逃ゲモ隱レモセズ」[illegible]

にげ (名) [二毛] 馬ノ毛色ニテ、黑ノ二色ノ毛。[illegible]

にげあし (名) [逃足] 逃ゲテ行クコト。[illegible]

にげがみ (名) [illegible] ニゲガミスルコト。反覆 [illegible]

にげか・む・ム・メ・マ・ミ・メ [illegible]

にげ-きず (名) 逃疵 ニグル時、ウシロナドヨリ受ケタルきず。ウシロキズ。撚撥三重帷子(享保、近松作)下「稀ニ淺瀬ノ敵ト敵、…ハ、…フレテノ、ケニ…セトモ、…土ノ…ノ…サヤ、にげきず負ニナカリケリ」

ニゲ・コウジヨウ
にげ-こうぢやう (名) 逃口上 次次條ノ語ニ同ジ。

にげ-ごし (名) 逃腰 (一)ニゲ出サムトスル腰ツキ。逃ゲムトスル態度。(二)責任ナドヲ逃レムトスルコト。

にげ-ことば 名 逃辭 返答、責任、又ハ、關係ナドヲ、ノガレムタメニ言フコトバ。ニゲ口上。ノガレコトバ。遁辭

にげ-ごな (名) 逃ケムトスル時…ごなノ條、參見セヨ) 一茶句集「にげしなヤ、水祝ハル、五十增」

ニゲ・チ
にげ-ぢ (名) 遁乳 乳ヲ我ガ右ノ方ニ見テ、旗ニ文字ヲ書クコト。コレヲ左ノ方ニ見テ書クヲ、追乳ト云フ。

にげ-つ (名) 二月 にぐゎつ(二月)ニ同ジ。… 、…日…、…月江南花滿枝、他…貪遠壞悲」杜甫、漫興…二月已破三月來、漸老逢春能幾回」

にげ-な・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 無似氣 似合ハシカラズ。フサハシカラズ。釣合ハズ。事ノ其人ニ似合ハズ。蜻蛉日記下、上七「アナカマ、イトにげなしトテヤミヌ」宇津保物語、藏開、下八「にげなき事ヲシタマヘバ、ニクシトハ思ヘド」源、一、桐壺十三「イト若ウオハスレバ、にげなく恥カシト思イタリ」

にげ-のうま (名) 二毛馬 馬ノ毛色ノ名。白ト黑トノ二色ノ毛ナルモノ。名義抄「鼠毛馬、ニケノムマ、驄馬、葦白馬、ニケノムマ」書言字考節用集、五、氣形門「驄、ニゲノウマ」

平家物語、五、富士川「…思ハ、にげの馬ニゾ、乗リテケル、上…、カケテカヒナシ」

にげ-のが・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 逃遁 逃ゲ去リテ、ノガル。逃遁 著聞集、十六、興言利口「稱名寺ノ前ノ櫻ノモトニテ鞠ヲケラル程ニ、醍醐法師ニ追ヒ散ラカサレテ、カラキ目見タリケリ、方方ににげのがれニケレド、ヨクキラハレタルニヨリテ、ウトミ増圓トゾ人ハイヒケル」

にげ-ののし・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 逃喧 逃罵 ニゲナガラ、サワグ。ヤカマシクサワギナガラ、ニグ。榮花物語、十七、音樂「赤キ衣着タル者ドモ出デ來テ、弓杖シテ只ウチニウテバ、ドヨミにげののしるホドニ、殿ノ御前、イト心苦シゲニ御覽ジヤリタリ」

にげ-の・びる (動) 逃延 次條ノ語ノ口語。

にげ-の・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ(自動、上二) 逃延 ニゲテ、落チ延ブ。遠ク、ニゲオホス。ニゲノビル。狂言記、宗論「其方ノヤウナル人ニ、カマハウヨリモ、某ハ先ヘ行タガヨウオジャル、ハア嬉シヤ、にげのびテゴザル」

にげ-ぶち (名) 二毛駮 馬ノ毛色ノ名。鼠毛、即チ、白ト黑トノ毛マジリテ、斑アルモノ。爲忠百首「及ビツル、手ハウチカケニ、見エナガラ、ニヰニトラレテ、にげぶちノ駒」

にげ-ほどばし・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 逃迸 アワテテ、逃ゲ走ル。繼體卽位前紀「倭彦王遙望迎兵、懼然失色、仍遁山壑、不知所詣」

ニゲ・マド・ウ
にげ-まど・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 逃惑 逃グル道ニ惑フ。用明天皇職人鑑(寶永、近松作)四「泣キ叫ビにげまどひ、助ケテタベト泣キ給フヲ、聞入レモセズ、オッカケケル」

にげ-みち (名) 逃路 逃グル路。又、避クベキ方。賀古教信七墓廻(元祿、近松作)夏野

迄モ「森モ林モコカクレテ、逃ケ道…キ子ふヨ、追ハユル鳥ハ此所、コノモカノモ道シラズ」

ニゲ・ミズ
にげ-みづ (名) 逃水 武藏ニ云フ語。(關八州古戰錄) 又、多摩郡府中ノ邊ト。即チ、春ノウララカナル空ニ、遠ク草原ヲナガムレバ、地氣立チノボリテ、草原ノ上ニ、ユラメク陽炎ノ如シ。コナタヨリ見レバ、草ノ葉末ヲ、ヒョロヒョロ水ノ流ルルガ如ク見ユルナリ。到レバナクテ、又、遙ナルカタニ見ユ。我進メバ水進ミ、我行ケバ水行ク、遂ニ及バズ、逃グルガ如シ。春日、融和ナル時、地氣蒸シノボリテ、日ニ映ジテナスモノナリ。曠野中ヲ遙ニ望メバ、水ノ流ルルガ如ク見ユ、即チ陽焰ナリ。俊頼家集、東路ニ、アリトイフナル、逃水ノ、逃ケカクレテモ、世ヲ過ス哉」志怪錄(唐、陸勳)「深州東鹿縣中、有水影、長七八尺、遙望見人馬往來如在水中、乃至前不見水」清暑筆談(明、陸樹聲)「廣野陽炎、望之如波濤、奔馬及禽中野氣、鶴之狀、人物之狀、此皆天地之氣、絪縕…、回薄變幻、何若不有周慶風土記亦同此說」

に-げんきん (名) 二絃琴 琴ノ一種。絃二筋ナル琴。八雲琴ヨリ變化シタルモノニシテ、專ラ淨瑠璃、長唄ノ類ニ合ハスニ用ヰル。

ニケン・ロウ
にけん-らう (名) 貳閒牢 江戸時代、無宿モノノ罪人ヲ入レタル牢。無宿牢トモ云ヘリ。牢獄祕錄「大牢ハ宿有之者、貳閒牢ハ宿無之者、依之俗ニ無宿牢ト云フ也」

にげ-め (名) 逃目 ニゲムトスル時ノ目ツキ。源、二、帚木十三「ゲニソノニホヒサヘ、ハナヤカニタチソヘルモスヘナクテ、にげめヲツカヒテ」

に・げる (動) 逃 にぐ(逃)ノ口語。

にゐ (接頭) 和柔 (和ニ通ズ) ヤハラカキ 倭名抄、十八、…毛也」萬葉集、十一、三十「葦垣ノ、中ノ似兒草、ニコヤカニ、我ト笑マシテ、人ニ知ラユナ」…ヲ去リテ、ウルハシキモノヲ、和稲ト云フ、即チ米ナリ。

にご (名) (身子ノ轉) 藥ノみご。

に-とう (名) 尼公 尼トナリタル貴婦人ノ敬稱。アマギミ。盛衰記、三十二、康定關東下向事「當時ハ富ナドリヌル其ノ勢ニハ、何ナル尼公ナリトモ、ナドカ打入ラザルベキ」

にゐ-がし (名) 煮 魚ノ燻製シタルモノ。玉造小町壯衰書(寬文版)「鮭鰹之…」

にゐ-ぐさ (名) 和草 小草ノ生ヒソメテ、ヤハラカキヲ云フ語カト云フ。或ハ、女蔵草(笑草)ニ同ジキカトモ云フ。大同類聚方(安部眞直)六十八「爾古久差」萬葉集、十四、廿七「アシガリノ、箱根ノネロノ、爾古具佐ノ、花妻ナレヤ、紐解カズ寢ム」同、十六、廿「所射鹿ヲ、認グ河邊ノ、和草ノ、身ノ若カヘニ、サネシ兒ラハモ」同、廿、秋風ニ、ナビク河邊ノ、爾故具左ノ、ニコヨカニシモ、オモホユルカモ」新六帖、六「アシガキノ、中ノにゐぐさ、マチカクテ、シゲル思ヒノ、程ハシラナン」藻汐草(文化、上原…次郎)八「爾古草」

にゐ-げ (名) 和毛 (柔毛ノ義) 鳥獸ノ羽毛ノ、薄ク細カク柔ク生ヒタルモノ。フクダゲ。ムクゲ。毳 倭名抄、十八、羽族體、毳「爾古計」名義抄、八、毛「毳、ニコゲ」

にゐ-にゐ (副) 覗然 ニコヤカニ笑フ狀ニ云フ語。ニコニコ。名義抄、覗然、ニコニ…、ニココニ、ニフフニ」

に-おほり (名) 煮凝 魚ナド煮タル汁ノ凝リ固マレルモノ。又、料理品ノ一種。寒天ヲ煮出汁ニテ煮テ、砂糖醬油ニテ味ヲ付ケ、別ニ味淋醬ニテ煮タル魚肉、蔬菜ヲコレニ加ヘテ、箱ニ流シ込ミ、二

時間モ置ケバ成ル。 內[illegible]司式、[illegible]賞事「大和國吉野、云云、但[illegible]、甘伊具比、[illegible]、[illegible]得加進」

にこ・ご・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [煮凝] 魚ナドヲ煮タル汁ガ、凝リ固マル。

〔にこ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [和柔] ナコヤカナリ。ヤハラカナリ。名義抄「和、ニコシ」 大嘗祭式、詞「山陽住物者、毛能和支物、毛能荒支物」

〔にこしね (名) [和稻] 米ノ稱。籾ナガラニアルヲ、荒稻(アラシネ)トイフ。 大忌祭式、詞「和稻(ニコシネ)、荒稻、山陽住物者、毛能和支物、毛能荒支物」

にごしらへ (名) [荷拵] にづくり(荷作)ニ同ジ。

にご・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [濁] ニゴルヤウニス。にぶらす(濁)ニ同ジ。 夫木抄、三十一、里「苗代ノ、水汲ミにごし、今日ヨリハ、早苗取ルラム、カツマタノ里」 散柳、享保「捨子取持ノ上手、歌、連、俳、碁、将棊ニ御座ヲにごし」「お茶ヲにごす」御座ヲにごす」

〔にこずみ (名) [和炭] 「にこハ柔カナル意カ、荒炭ニ對ス」 かぢずみ(鍛冶炭)ニ同ジ。又、ニギズミ。 倭名抄、十五八[illegible]治具[illegible]和炭、[illegible]古賀美、一云、[illegible]東大寺正倉院文書、四十五ノ三「雜材并檜皮及和炭納帳、九日、[illegible]九石[illegible]、[illegible]八[illegible]、倭[illegible]、中「にこずみ、延喜式ニ和炭ト見エタリ、今イフケシズミナルベシ」

にこそう (名) [和奏] 古ヘ、毎年七月七日、國司ヨリ不堪佃田(フカンデン)(荒地)ニ關シテ太政官ニ上レル申文ヲ、舊年ニ比べ、公卿ノ評定シテ奏スルコト。 申文ヲソノママ奏スル荒奏(アラソウ)ニ對ス。 江家次第、九、官奏「和奏之後結詞」 北山抄、三、拾遺雜抄「官奏事、云云、[illegible]」

久定申セリ、是四條大納言說也」

にこた (名) 〔似人體(ニカタ)ノ轉カト云フ〕 人參(ニンジン)ノ古名。 かのにけくさ(人參)ノ條ヲ見ヨ。字鏡「[illegible]、[illegible]、山、[illegible]、人[illegible]、[illegible]古[illegible]」

ニコチン (名) 〔英語、Nicotine.〕 煙草ノ葉ノ中ニ、林檎酸鹽、或ハ、枸櫞酸鹽トシテ存在スル無色油狀ノ液。 特異ノ臭ヲ有シ、極メテ有毒ニシテ、水、あるこおるニ溶解シ、空氣中ニ置ク時ハ、直ニ褐色ニ變ズ。

〔にこて (名) [柔手] ニコヤカナル手。ヤハラカナル手。 皇極紀、三年六月「[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]アルセラガ、[illegible]古(ニコテ)[illegible]コソ、[illegible]カ[illegible]トラメ」

にこにこと (副) 〔和和ノ義〕 少シ笑ヒ笑ヒスル顏ノ狀ニ云フ語。 ニコリト。 莞爾 [illegible]、[illegible]貨[illegible]、夫子[illegible]笑一字[illegible]抄 莞爾、ニコニコト」 狂言記、鬼継子「此ノ怖ロシイ某ガ面ヲ見テ、オドロキモセズ、に[illegible]にこにこと[illegible]ル」

にこはだ (名) [柔膚] に[illegible]はだ(和膚)ニ同ジ。

にごひ (名) [白魚] 〔みごひ(白魚)ノ訛。〕 或ハ似鯉ノ義トスルハ、イカガ[illegible] (白魚)ノ條ヲ見ヨ。 倭[illegible]、[illegible]ひ[illegible]江ノ[illegible]ニにごひアリ、ヨク鯉ニ似タルナリ、白魚ナリ」

にこぶ (名) [荷瘤] 荷ヲ擔フ人ノ肩ニ生ズル瘤。痛ミナキモノ。 和漢三才圖會、十、[illegible]人[illegible]、[illegible]也、[illegible]、[illegible]中[illegible]不[illegible]

にこみ (名) [煮込] 種種ノ物ヲ入レ雜ゼテ煮ルコト。又、ソノ煮タルモノ。

〔にこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [和] たごむ(和、自動、四)ニ同ジ。 崇神紀、十二年九月「[illegible]、[illegible]ニコヤ[illegible]」

にこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) [和] [illegible]

にごん (名) [二言] [二言] (一)言ヒテ、又、言フコト。 (二)二度云フコト。 既ニ言ヒタルヲ、更ニ言ヒ改ムルコト。 前言ヲ[illegible]ヘ[illegible]、[illegible]「[illegible]日、[illegible]、[illegible]言無シ」

〔にこもの (名) [和物] 〔荒物ニ對ス〕 ヤハラカナルモノ。 [illegible]

にこやかゝ (副) [和] (一)モノヤハラカニ。ナゴヤカニ。 (二)[illegible] ヨカニ。 綽約 雄略紀、七年八月「天下[illegible]人、[illegible]

にこやけ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [和] モノヤハラカナリ。ナゴヤカナリ。 ニコヤカナリ。 字[illegible] [illegible]

にこやし (名) [煮[illegible]] ニコヤスコト。又、ニコヤ[illegible]

にこや・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [煮凍] 煮[illegible]

〔にこよ (名) [和世] 古ヘ、六月ノ大祓ノ時、神祇官ヨリ御贖物ノ料ニ奉リシ一種ノ御衣ノ一。卽チ、和栲ノ衣。之ニ對シテ、麁栲ノ衣ヲ荒世(アラヨ)ト云フ。 四時祭式「[illegible]人毎二荒世[illegible]人毎二和世二」

〔にこよかゝ (副) [和] 物ヤハラカニ ナ[illegible]

[illegible]ニコヤ[illegible] 「秋風ニ、[illegible]川[illegible]ノ、[illegible]ノ、[illegible]「[illegible]ルカモ」 同、十二[illegible]ノ、中ノ[illegible]「[illegible]、[illegible]シテ、人ニ知リ[illegible]」

にこよし (名) [煮凍] ニコヨスコト。又、[illegible] ニコヨシ」

にこよ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [煮凍] [illegible] 〔煮寄ノ義〕 ニコヤス。 [illegible]カス。さよす(煮凍)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

にこらか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [煮凍] [illegible]

にごら・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [濁] [illegible]

にごり (名) [濁] (一)ニゴルコト。又、ソノモノ。[illegible] 二分ラズヤウニナス。[illegible] [illegible]マリス。[illegible] [illegible]

フ。濁點。「にごりヲ打ツ」(六)にごりざけ(濁酒)ノ略。七十一番職人盡歌合、六番、酒作「たサケヤマカシ、ハヤリテ候、ウスにごりモ候」

にごりえ (名) 濁江 ニゴリタル入江。新古今集、十一、戀、一「にごりえノ、スマムコトコソ、難カラメ、イカテホノカニ、影ヲ見セマシ」續後撰集、十五、戀、五「にごりえニ、ハイコラルル、蘆刈ハ、ハテノ行キキノ、影ダニモ見ズ」

にごりぐち (名) 〔荷掃口〕 船ノ、荷ヲ積ミ入ルル口。艙口。

にごりざけ (名) 濁酒 古名、カスコメ。一種ノ釀造ノ酒ノ、精ヲ漉サズシテ用キルモノ。酒滓ト併セテ飲ムモノ。ドブロク。(清酒ニ對ス)ダクシュ。白馬(シロウマ)。濁醪 賢人 字類抄「醪、ニゴリサケ一名賢人」下學集「醪、ニゴリサケ、モロミ、カスゴメ、コク、モソロ」字鏡「醪、ニゴリサケ、モソロ、サカホカヒ、カスゴメ、カスサケ、コク、モロミ」 毛吹草(正保、維舟)攝津「須磨濁酒、ササボロヤ、波ココモトヲ、打過テ、スマデノムコソ、濁酒ナレ」

にごりてん (名) 濁點 だくてん(濁點)ニ同ジ。

にごりと (副) 〔和ノ義〕 笑顔作ル狀ニ云フ語。ニッコリト。ニコト。莞爾

にごりゆ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 濁行 次第ニ、ニゴル。マスマス、アシクナリユク。風雅集、十九、神祇「祈ル心、ワタクシニテハ、石清水、にごりゆく世ヲ、スマセトゾ思フ」

にご・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 濁 〔鈍(ニブ)り凝(コ)る意カ。清(ス)むノ反〕 (一)〔泥、又、埃ニ雜リテ汚ル。又、水ナドニ物ノマザリテ、透明ノ色ヲ失フ。渾濁。神代紀上「淸陽者薄靡而爲天、重濁者淹滯而爲地」 (二)世上ノ人事ニ、私ノ事多クナル。正シカラズ。新千載集、十七、雜、中「事ヘ來テ、ニツ流レノ、絶エセネバ、にごらジト思フ、我ガ心哉」 (三)語學ニ、清音變ジテ、濁音トナル。(濁音(ダクオン)ノ條ヲ見ヨ) (四)澀ル。トドコホル。聲、淸朗ナラズ。「言葉濁る」

にごろ (名) 〔煮頃ノ義ニテ、煮ルニ程好キ意ト云フ〕 にごろぶなノ略。近江ノ湖ニテ捕レル一種ノ鮒ノ稱 形圓ク、源五郎鮒ニ次ギテ大ナリ。

にころばし (名) 煮轉 芋ノ子、慈姑(クワヰ)ナドヲ、轉(コロバ)シツツ、汁ノ無クナルマデ、煮タルモノ。「芋ノにころばし」

にごろぶな (名) 前前條ノ語ヲ見ヨ。

にさい (名) 二歲 (一)動物ノ生レテ二年ナルモノ。(二)特ニ、鱸(スズキ)、鯔(ボラ)ナドノ二年子。俗語考、あさむらひ「鯔ノ二歲子、云云、此魚二歲、三歲ト、年ヲ經テ、行末ハ、とどト云フニ成ル」 (三)若者ヲ卑シメテ罵ル語。青二歲、毛二歲、小二歲ナドトモ云フ。豎子。乳臭兒。博多小女郎浪枕(享保、近松作)上「石御器ニ一二杯、肝ノ束ネヘ諸白ヲ引ッカケタ薩摩二歲、太リ男デアッタバン」

✣にざい (名) 二重ニナルコト。カサナルコト。(東京) 重複

にざかな (名) 煮肴 料理ニ、魚肉ヲ、醬油、味醂、鰹節、等ニテ淡ク煮タルモノ。

にざまし (名) 煮冷 水ナド、煮テ冷(サマ)スコト。又、ソノ冷シタル水。(麥湯ナドモ)サマシミヅ。ツクリミヅ。ニオモヒ。

にさん (名) 二三 とうはちけん(藤八拳)ノ條ヲ見ヨ。

にざんせう (名) 煮山椒 朝倉山椒ノ子ヲ淪(ユ)デテ、味醂ニテ能ク煮テ、燒鹽ニテ、又、味ヲツケタルモノ。

にし (名) 西 〔日ノ往(イニ)し方ノ義ト云ヒ、或ハ、和風(ニキシ)ノ約ニテ、風ヲ元トスル語カ(荒風(アラシ)、旋風(ツムジ)ノ類)トモ云フ、共ニイカガ〕 (一)方角ノ名。南ト北トノ間ニテ、東ト反對ナル方。卽チ、日ノ入ル方。西ノ方。續紀、三十一(光仁)寶龜元年十月「葛城寺ノ前ナルヤ、豐浦ノ寺ノ西ナルヤ」萬葉集、七、廿五「西ノ市ニ、タダヒトリ出デテ、メナラバズ、買ヘリシ絹ノ、アキジコリカモ」 古今集、五、秋下「オナジ枝ヲ、ワキテ木ノ葉ノ、ウツラウハ、にしコソ秋ノ、ハジメナリケレ」 後撰集、十二、戀、四「限リナク、思ヒ入日ノ、友ニノミ、にしノ山ベヲ、ナガメヤルカナ」 (二)〔西ノ風。西ノ方ヨリ吹キ來ル風。ニシカゼ。古事記、下(仁德)「倭(ヤマト)方ニ、西吹キアゲテ、雲離レ、退キ居リトモ、我レ忘レメヤ」 (三)西方ノ淨土。安法法師集「老イヌレバ、南オモテモ、スサマジヤ、ヒタオモムキニ、西ヲ頼マム」 狹衣、二、下「イカナラム線ニモト、心バカリハ、西ノ山モトニ、アクガレハテニタレバ」 山家集、下「西ヘユク、シルベトタノム、月影ノ、ソラダノメコソ、カヒナカリケレ」

〔にし (名) 螺 〔丹肉(ニシシ)ノ約ト云フ〕 殼ニ、左ヘ旋(メグ)レル縱道(スヂ)アル介(カヒ)ノ總名。多クハ、蓋(フタ)アリ。長螺、赤螺、苦螺、田螺等、各條ニ註ス。倭名抄、十九、鱗介類「小辛螺、和名、仁之」字鏡、九「蚌、彌志」 散木集、九、雜「ヨシト思フ、心ノネガフ、にしナレバ、カラミ成トモ、マキラサラメヤ」

にし (代) 汝 ぬし(主)ノ訛。(仙臺、伊豆、ナドニテモ) 碁太平記白石噺(安永、烏亭焉馬)七「コレサにし達、物サ問ヒ申スベイ」

にし (助動) 現在完了ノ助動詞ノぬノ變化ナルにト、きノ變化ナルしト合ヒタルモノ。「入りにし日」「行キにし人」

〔にじ (名) 虹霓蜺 〔にハ丹(ニ)、赤色ヲ主トス、にじきノ如シ、じハあらし(暴風)、つむじノ類ナリ、丹染(ニゾミ)ノ意カト云フ〕 古言、スジ。太陽ノ光ノ、大氣中ノ水氣、(雨)ニ映(ウツ)リテ、七色(紫、紺、青、綠、黃、柑、赤)ノ彩ヲアラハシテ、太陽ト反對ノ天空ニ弧狀ニ見ハルル現象。朝ニハ西天ニ見ハレ、暮ニハ東天ニ見ハル。(出雲ニびゅうじ、若狹越前ニみょうじ、駿河ニぬじ、のじト云フ) 倭名抄、一、雲雨類「虹、爾之」 天武紀、下、十一年八月「戊寅、亦地震、是日平旦有虹、當于天中央以向日」 夫木抄、十九、虹「時雨レツツ、にじタツソラヤ、岩橋ヲ、ワタシハテタル、カツラギノ山」 兔園小說、四「虹霓ノ立チテ西ニ有ルハ、明日必雨降リ、東ニ見ユルハ、必風吹ク、切レ切レニ光リ散ルハ、風起ル、日暮ニ見ユルハ、天風ナリ」

にじ (名) 二字 實名(ジツミャウ)、又ハ、名乘(ナノリ)ニ同ジ。多クハ二字ナレバ云フ。古事談、二、臣節「書二一字一獻レ之退出了、其後無二殊人來事一」 十訓抄、上、第四、第五條「コレニヨリテ、子ドモ引キ具シテ、二字ヲ僧正ニ奉リテ、命イキニケリ」「二字ヲ帶ス」「二字ヲ奉ル」

にじ (名) 二時 とき(時)ノ條ヲ見ヨ。

にしあかり (名) 西明 日沒ノ後、西ノ空ノアカキコト。夕日ノ殘照。

にしおもて (名) 西面 (一)〔西ニ向ヒタル方。枕草子、五、五十段「西おもてニ出デテ、モノナドキコユルホドニ」 (二)さいめん(西面)ニ同ジ。ほくめん(北面)ノ條ヲ見ヨ。宇治拾遺、十二、廿三條「後鳥羽院ノ御時、云云、にしおもて、北オモテノ者ドモ」

にしかぜ (名) 西風 西ヨリ吹キ來ル風。略シテ、西。又、ニシケ。

〔にしき (名) 錦 〔丹繁(ニシキ)ノ義ニテ、赤キヲ本トシテ、目ノ繁キ意ト云フ。或ハ云フ、丹敷ノ義ト〕 (一)五彩ノ絲ニテ、種

種ノ模様ヲ織出セル、厚クシテ、極メテ美ナル絹布ノ名。錦(カニハタ)ハ、古代ヨリアリテ、直ニ、にしきト稱セリ。(神功皇后、新羅ヲ征シテ歸ラレシ時、金銀、綵色、及、綾羅、縑絹ヲ從ヘシメラレシ事、日本紀ニ見エ、萬葉集ニ綵色(ニシキ)トアリ、新羅ノ王ヲ尼師今ト云フ)後ニ、韓國ノ織工來リテ製セルヲ韓錦(カラニシキ)ト云ヒ、後、又、支那ヨリ舶來スルモノ多ク、コレヲ唐錦ト稱シ、從來ノ者ヲ大和錦(ヤマトニシキ)ト云フ。後、織法、變ヘテ、後世、再ビ支那法ヲ傳フ。倭名抄、十二[illegible]「錦、[illegible]」天治字鏡、六[illegible]「[illegible]」允恭紀、八年二月、サヽラガタ、錦ノ紐ヲ、解キサケテ、アマタハネズニ、タダ一夜ノミ」天武紀、下、朱鳥元年四月「霞錦(カスミイロノニシキ)」 (二)(一)スベテ、美クシク麗ハシキ物ノ稱。宇津保物語、梅花笠二「大空ニ、[illegible]ノ織リシク、にしきヲバ、谷ヨリ雲ゾ、タチワタルレラシ」古今集、一、春、上「見渡セバ、柳櫻ヲ、コキマゼテ、都ゾ春ノ、にしきナリケリ」後撰集、七、秋、下「モミヂ葉ヲ、ワケツツ行ケバ、錦着テ、家ニ歸ルト、人ヤ見ルラム」(二)紅葉ノ錦。春ノ錦。錦を着るトハ、富貴ノ身トナル。漢書、項籍傳「富貴不歸故郷、如衣繡夜行」[illegible]「富貴不歸故郷、如衣錦夜行」夜の錦ナド云フモ、コレナリ。古今集、五、秋、下「見ル人モ、ナクテチリヌル、奥山ノ、紅葉ハよるの、にしきナリケリ」後撰集、十、戀、二「オモヘドモ、アヤナシトノミ、イハルレバ、よるのにしきノ、心チコソスレ」

にしぎ (名) 二食 (一)一日ニ、食事ヲ二度ニ限ルコト。(二)一日ノ食事ノ二度ナル朝餐、夕餐ノ事。昔ハスベテ然リ。好ミテ夜ニ食フヲ夜食ト云ヘリ。コレガ夕飯(コヒルメシ)ト混ジテ、晝餐起ル。(勞働者ハ小晝飯ヲ加ヘテ、四度食フト云フ)アサケ、ユフケ。アサミケ、ユフミケ。

アサナ、ユフナ。アサハン、ユフハン。永久四年百首、深山[illegible]、[illegible]ヘテ、あさけゆふけ、[illegible]「[illegible]」 (二)佛家ニテハ、正命食ト邪命食トノ稱。正命食トハ、出家ノ正法ニ依リテ生活スルコト、即チ、乞食シテ活命スルコト。邪命食トハ、邪法ニ依リテ生活スルコト。

にしきおりべ (名) 錦織部 にしごりべ(錦部)ニ同ジ。

にしきがは (名) 錦革 染革ノ名。武具ノ飾物ノ用ナリ。地ヲ紫色ニシテ、模様ヲ白ク染出セルモノ。室町將軍ノ常用ノモノトシテ、常人ノ用ヰルヲ禁ジタリキ。同ジ製ニテ、唯、地ヲ他ノ色ニシタルハ、御免ニテ誰モ用ヰタレバ、コレヲ御免革(ゴメンガハ)ト云フ。[illegible]伊勢貞丈、軍器考、頭書[illegible]、春マリ着モ、都ゾ春ノ、錦皮、柳ノ流シ、花ノ雲入リ」

にしきがひ (名) 錦貝 古名、ヤクガヒ。ヤクノマダラガヒ。ウマノクボガヒ。貝ノ一種。たからがひ(寶貝)ノ大ナルモノ、長サ三四寸ニシテ、形、相似テ、只、背ノ中央稍高ク、殼、紫黑ニシテ、斑文明ラカナリ。薩摩、及、八丈島ナドニ産ズ。又、コヤスガヒ。ハチヂヤウガヒ。紫貝 倭名抄、十九[illegible]

にしきぎ (名) 錦木 一尺許リナル木ヲ五彩ニ色取レルモノ。古ヘ、陸奥ノ俗ニ、男、女ニ逢ハムトスル時、コレヲ其門ニ立ツ。女逢ハムト思ヘバ、取リ入ル、取リ入レザレバ、男、更ニ加ヘ立テテ千束ヲ限リトスト云フ。一名、ソメ

キ。[illegible]「[illegible]、千束朽チニシ、錦木ヲ、猶懲リズマニ、思ヒ立ツ哉」袖中抄、十八「にしきぎハ、千づかニナリヌ、今コソハ、人ニ知ラレヌ、ネヤノ内見メ」陸奥國ノ奥ノ夷ハ、男、女ヲヨバハントスル時、文ヲヤルコトハナクテ、一尺許ナル木ヲ、マダラニ色取リテ、其女ノ家ノ門ニ立ツルニ、逢ハムト思フ男ナレバ、其にしき木ヲ程ナク取入レツ、遲ク取入ルレバ、猶イテナホ立テ、千束ヲカギリニ立ツレバ、誠ニ心ザシアリケリトテ、其時ニ取入レテ、逢フト云ヘリ、或ハ千束ニナリテモ、取入レヌハ、思ヒ絶エヌト云ヘリ、云云、和語抄云、錦木ノ、數ハ千束ニ、ナリメラム、イツカミ[illegible]ノ、内[illegible]、[illegible]今日[illegible]ソ[illegible]、錦木ノ、[illegible]カナ、又、[illegible]貫歌云、イタヅラニ、ちづか朽チヌル、錦木ノ、ナホ懲リズマニ、思ヒ立ツカナ[illegible]ナリ、其灰ニテ錦ノ絲ヲモ染ムレバ、云云、[illegible]布、胸アハジトヤ」

にしきぎ (名) [illegible] 古名、[illegible]ばのき。まゆみ(檀)ノ條ヲ見ヨ。

にしきぐさ (名) 錦草 [illegible]草、夏秋ノ間ニ[illegible]生ズル小草[illegible]タズ、細ソクシテ赤ク、毛アリ。葉ハ緑ニシテ[illegible]毛アリ[illegible]ノ小細花ヲ開ク[illegible]ノ花ノ如シ。ニシキサウ。地錦

にしきだひ (名) 錦鯛 形、鯛ニ似テ、大ナリ。一二尺ナルヲ常トシ、大ナルハ六七尺[illegible]

にしきづた (名) 錦蔦 きづた(木蔦)ノ、葉ノ邊ニ、紅白色、相雜レルモノ。

にしきで (名) 錦手 [illegible] 磁器ノ彩ノ釉ニテ、文ヲ畫キタルモノ。初ハ、支那舶來ナリ、今ハ和製多シ。一名、赤繪。[illegible]ニテ文ヲ畫ケルアリ、コレヲ金襴手ト云フ。[illegible]

にしきどり (名) 錦鳥 (一)きんけい(錦鷄)ノ一名。(二)鷹ノ異稱。

にしきながれ (名) [illegible] 馬ノ毛色ノ名、額ヨリ鼻ノ上マデ、[illegible]

にしきのみはた (名) 錦御旗 [illegible]ニテ作リ、上部ニ日月ヲ金銀ニテ刺繡シ、又ハ、描ケ[illegible] 太平記、五、大塔宮[illegible]、日月ノ[illegible]錦ノ御旗ヲ[illegible]

にしきへび (名) 錦蛇 次條ノ語ニ同ジ。

にしきへみ (名) 錦蛇 [illegible]

にしき[illegible] (名) [illegible]

ノ出典ヲ見ヨ。　浮世草子、天保、茶臼庵「錦嬢ノ事、錦繪物ハ昔ヲ本體ニシテ、夫レヨリ、人物、山々、花鳥、草木、心ニ寄ズルモノヲ書キテ後ク也」

にじ-ぎれ（名）［二字切］　切字ノ條ヲ見ヨ。

にしき-ゑ（名）［錦繪］　人物、花鳥等ヲ版木ニ彫リ、五彩ニテ繪ニ摺リ出スモノ。享保ノ初、淺草田圃町ニ住スル和泉屋權四郎ト云フモノ、浮世繪、役者繪ヲ極彩色シテ板行ス。江戸製ナルヨリ、コレヲ江戸繪ト云フ。後ニ彩色ニ念ヲ入レ、錦繪トナル。東錦繪。　塵塚談(文化、小川顯道)「近頃ハ一枚摺ハサラニナシ、浮世草紙迄モ似面ニナレリ、錦摺ト名付、色ドリモ七八返摺ニスルナリ、歌舞妓役者ニカギラズ、吉原遊女、水茶ヤ女、角力取マデモ、似面繪ニシテウル事ニナレリ」　燕石雜志(文化、瀧澤馬琴)三「明和二年ノ頃、唐山ノ彩色摺ニナラヒ、板木師金六、板摺某ヲカタラヒ、板木ニ見當ヲツケ、四五遍摺ヲ始ム」

にじ-ぐち（名）［二字口］〔にじりあがる口ノ義、阿吽ノ二字ヲ合ハス〕　相撲ノ土俵ヘ上ル所。下ノ出典ヲ見ヨ。　古今相撲大全、下、本、土俵員數故實「土俵ヲ高ク居ヱルハ、太極ヲ象ル、四方ニ四方ヲ合セ、内外ニテ三十二俵ナリ、内土俵十六俵ノ内、左方ニ二俵、右方ニ二俵、合セテ四俵ノケル、云云、二俵宛ノケテ一道ヲ作ル、今是レヲ二字口ト云フ、阿吽ノ二ツヨリ出ヅルト云ヘリ」

にじ-くる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［躙］　にじる（躙）ニ同ジ。　字鏡集「躙、ニシクル、ニシフム、フミニジル」

にじ-くわい（名）［二次會］　(一)會議ノ第二次ナルモノ。(二)宴會ノ歸リナドニ、更ニ第二回目ニ開ク宴會。

にし-け（名）　にしかぜ（西風）ニ同ジ。

にしごり-べ（名）［錦部］〔錦織部ノ約〕　古ヘ、錦綾ヲ織リ作ル職。後ニハ氏トナル。　雄略紀、七年八月「錦部定安那錦」

にし-ざかな（名）［西肴］〔東ヨリ來ル春ヲ迎フル義ニテ、西肴ト云フ。或ハ云フ、魚ハ西海ヲ滋味トスルヨリ云フト〕　初春ノ祝儀ニ用ヰル肴。　雅筵醉狂集、春「初春ノ祝儀ヲ、嘉例西肴註不祝、祝、中堂上元宗存、五家ハ西園寺、三條西、西洞院、日野西、西大路ニテ、稱號ミナ西ノ字有ル故、別シテ祝ヒ給フラントノ義ナリ、東ヨリ來ル春ナムカフ故、西肴ト云フ」　鷹野集「歌カ香、連歌ニアラズにしざかな」

にじ-さつ（名）［二字札］　下乘、又ハ、下馬ノ制札ノ稱。げば(下馬)、及、げばふだ(下馬札)ノ條ヲ見ヨ。

にし-さぶらひ（名）［西侍］　さぶらひどころ(侍所、第一語)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。　吾妻鏡、三、元暦元年六月十六日「及二晩景一、武衞出二于西侍一給」

にじ-せん（名）［二至線］　夏至線ト、冬至線ト。くわいきせん(回歸線)ノ條ヲ見ヨ。

ニシダン（名）［尼師壇］〔梵語、Nisidana. 坐具ト譯ス〕　比丘必攜ノ六物ノ一。長サ四尺、幅三尺許リノ布片。行クトキハ腕ニ掛ケ、坐スルトキハ敷キテ、蓐氈ニ代用スルモノ。坐衣。　翻譯名義集、七「尼師壇、或尼師但那、此名二坐具一、或云二隨坐衣一、業疏、佛言爲レ身、爲レ衣、爲二臥具一故制、畜レ之」　太平記、廿四、依二山門嗷訴一公卿僉議事「舍利弗、定ヨリ起ッテ衣服ヲ整ヘ、尼師壇ヲ左ノ肩ニ著ケ、歩ムコト如二獅子王ノ來リ給フ一」

にし-ぢん（名）［西陣］　次條ノ語ノ略。　好色三代男(貞享、西鶴)二「鼠小紋ノ布子、西陣、奧島」

にしぢん-おり（名）［西陣織］　略シテ、西陣。京都ノ西陣ノ地ヨリ織出ス錦綾、絹帛類ノ稱。全國第一、精巧ナルモノトス。天正年間、支那ノ織工、和泉ノ堺ニ來リ、錦ノ織方ヲ傳フ、其方ヲ西陣ヘ移シテ織出シ、尋デ金襴、緞子、繻子ヲ、慶長ニ綸子、天鵞絨、天和ニ琥珀ヲ製造シタリト。　日本山海名物圖會(寶曆、平瀨徹齋)三、京西陣織屋「京都ニテ織出ス織物、甚ダ功者ニテ、唐織ニマケズ、中ニモ羽二重ハ、モロコシニマサリテコマヤカナリ、云云」　傾城酒呑童子(享保、近松作)二「恐レナガラ、私ハ上京西陣織、蛭屋ノ孫三郎ト申スモノ、十七ニナル年季ノ織手」

にして（辭）　にて、ト、意同ジ。(にてニ、しヲ加ヘテ云フハ、其スヂヲ強ク取リタテム爲ナリト)　萬葉集、一一「旅爾之而、物戀シギノ、ナク事モ、聞エザリセバ、コヒテ死ナマシ」　古今集、十九、誹諧「山吹ノ、花色衣、主ヤ誰レ、問ヘド答ヘズ、クチナシにして」「人にして鳥ニ如カサルヘケムヤ」

にし-どち（名）［腹蛸］　蟲ノ名。地蠶ノ、土中ニテ蛹トナレルモノ。褐色ニシテ、大イサ一二寸、形、蠶ノ蛹ニ異ナラズ。小兒、捕ヘテ指ニテ摘ミ、西何處、東何處ト云ヘバ、腰以上ヲ左右ニ動カシテ、東西ヲ答フルガ如シ。訛シテ、ニシャドッチ。一名、ニフダウムシ。ニシムケ。　重修本草綱目啓蒙、廿八、化生蟲「蠐螬ノ土中ニテ蛹トナルヲ腹蛸ト云フ、俗名、にしどち、云云、其形、蠶蛹ニ異ナラズ、指ニテ摘ムトキハ、腰以上ヲ左右ニ搖カス、故ニにしどちト云フ、轉ジテ、にしゃどちト云フ」　和漢三才圖會、五十三、化生蟲「腹蛸、蠐螬等、各變見出、背裂而爲レ蟬、云云」

にしの-あるじ（名）［西主］　西方極樂淨土ノ阿彌陀佛ノ稱。　新六帖、一「我カ靈ム、西のあるじニ、契リケル、今日ノ今宵ノ、月ノサヤケサ」

にしの-いち（名）［西市］　次條ノ語ヲ見ヨ。

にしのいちの-つかさ（名）［西市司］　平安京ヲ東西ニ二分シ、東の市、西の市ト云ヒ、其西の市ヲ統ブル司ノ稱。其東の市ヲ統ブル司ヲ、東市司ト云フ。いちのつかさ(市司)ノ條ヲモ見ヨ。商業ハ西ノ方、盛リシヤウナリ。西市司。　倭名抄、五、官名「西市司、爾之乃以知乃豆加佐」

にしの-うち（名）［西内］　西内紙ノ略。日本紙ノ一種。茨城縣、久慈郡、諸富野村、大字西内ニ産ズルモノ。楮ニ少量ノ米粉ヲ混ゼテ製シ、竪一尺一寸、横一尺五寸一分、地、厚クシテ、質、強シ。今ハ同縣、那珂郡、塵鄕村、八里村地方ニモ産ズ。　萬金産業袋(享保、三宅也來)一、紙類一色「東國仙臺筋台混邊、マタハ信濃、武州等ヨリ、程村、西の内」

にしの-きゃう（名）［西京］　右京ニ同ジ。さきゃう(左京)ノ條ヲ見ヨ。　源、四、夕顏「五十「コノ家アルジゾ、西の京ノ乳母ノ女ナリケル」　同、廿二、玉鬘「カノ西の京ニトマリシ若君ヲダニ、行方モ知ラズ」

にしの-たい（名）［西對］　ひがしのたい(東對)ノ條ヲ見ヨ。　枕草子、五、四十七段「南ノ院ニオハシマス頃、にしのたいニ殿ノオハシマス方ニ、宮モオハシマセバ、寢殿ニ集リヰテ」　同、十一、百三十三段「明過ギ、日モサシ出デヌ、西の對ノ唐庇ニナン、サシ寄リテ乘ルベキトテ」

にしの-と（名）［西戸］　大極殿ノ西廂ノ戸。(又、北側ノ西ニモアリ) コレニ對シテ、東廂ノ戸ヲ東戸ト云フ。

ニシパ（代）〔蝦夷語、Nishpa.〕　對稱ノ代名詞。殿ト言ハムガ如シ。ダンナ。

にじ-はつ（名）［三四八］　マサシク聞クコト。始メテ聞クコト。

にし-び（名）〔西日〕西天ニ傾キタル日ノ光。夕日。夕陽。〔源、廿六、常夏〕「風ハイトヨク吹ケドモ、日ノドウニ、曇リナキ空ノ、にし日ニナルホド、蟬ノ聲ナドモ、イト苦シゲニ聞ユレバ」

にじふ（數）〔二十・廿〕十ヲ倍ニセル數。ハタ。ハタチ。〔孟子、告子、下篇〕「苦歡ニ二十而取二一」杜甫、醉歌行、陸機二十作文賦、汝更小年能綴文」枕草子、十、西二十三段「メデタキ紙ヲ、二十ツツミニツツミテ、賜ハセタリ」

にじふいちだい-しふ（名）〔二十一代集〕勅撰和歌集ノ、はちだいしふ（八代集）ト、じふさんだいしふ（十三代集）トヲ合ハセタル稱。各條ヲ見ヨ。

にじふいち-なみ（名）〔二十一浪〕「昔ノ錢ノ背ノ波紋ノ數、二十一アル故ニ云フ」くゎんえいせん（寛永錢）ノ一名。其條ヲ見ヨ。

にじふいっし（名）〔二十一史〕支那ノ主ナル歴史ノ書、二十一種ノ稱。ぶふぶちし（十七史）ノ條ヲ見ヨ。

にじふごう（名）〔二十五有〕「有ニ就キテハ、さんう（三有）ノ條ノ語原ヲ見ヨ」佛教ノ語。欲界ニ十四有、色界ニ七有、無色界ニ四有、即チ三界ヲ通ジテ二十五有ノ稱。二界ヲ通ジテ在ル二十五ノ因果。〔涅槃經〕[illegible]十五有ノ[illegible]、生ジテハ死シ、死シテハ生ジ、輪廻ニメグル事、生生ノ親子」

にじふごぼさつ（名）〔二十五菩薩〕佛教ノ語。念佛行者ヲ擁護スト云フ二十五ノ菩薩、即チ、觀音、勢至、藥王、藥上、普賢、法自在、獅子吼、陀羅尼、虚空藏、徳藏、寶藏、山海慧、金藏、金剛藏、光明王、華嚴王、衆寶王、日照王、月光王、三昧王、定自在王、大自在王、白象王、大威徳王、無邊身ノ稱。〔十往生經、廿五菩薩[illegible]〕[illegible]

にじふさん-や（名）〔二十三夜〕陰暦、十月二十三日ノ夜ノ稱。此ノ夜、衆人、月待ヲナスト。今宮心中（寶永、近松作）中「卜庵ガ見エタラ從ヲセウ、云云、今日ハ二十三夜ナレド、一向宗ハナ待ヒナイ」〔同、廿三夜ノ代待ヤ、門ノ通リハマタ四ツ、内ハ靜マル燈火モ心モ細ク」

にじふさん-や（名）〔二十三屋〕「十九四（トクシ）ノ謎」 一櫛屋ノ異名。

にじふし-かう（名）〔二十四孝〕支那ニテ、舜、漢文帝、曾參、閔損、仲由、董永、郯子、江革、陸績、唐夫人、吳猛、王祥、郭巨、楊香、朱壽昌、庾黔婁、老萊子、蔡順、黄香、姜詩、王裒、丁蘭、孟宗、黄庭堅等、二十四人ノ孝行ヲ以テ著キ人人ノ稱。〔國性爺合戰（正徳、近松作）千里が竹〕二十四孝ノ楊香ハ、孝行ノ徳ニヨリテ、白[illegible]ノ難[illegible]」

にじふし-き（名）〔二十四氣〕暦ノ語。五日ヲ一候トシ、三候ヲ一氣トシ、二氣ヲ一月トシ、四時、十二月、一年ニテ、二十四氣、七十二候トナリ、陰暦、陽暦、對照スレバ、左表ノ如シ。

四時　二十四氣　七十二候

春	立春	[illegible]	[illegible]
	雨水	陰暦、正月中 陽暦、二月十八日	獺祭魚、鴻雁來、草木萌動
	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	春分	陰暦、二月中 陽暦、三月廿一日	玄鳥至、雷乃發聲、[illegible]
	清明	陰暦、三月節 陽暦、四月五日	[illegible]、虹始見
	穀雨	陰暦、三月中 陽暦、四月廿日	[illegible]
夏	立夏	陰暦、四月節 陽暦、五月六日	[illegible]
	小滿	陰暦、四月中 陽暦、五月廿一日	[illegible]
	芒種	陰暦、五月節 陽暦、六月五日	[illegible]
	夏至	陰暦、五月中 陽暦、六月廿二日	鹿角解、蜩始鳴、半夏生
	小暑	陰暦、六月節 陽暦、七月七日	温風始至、蟋蟀居壁、鷹乃學習
	大暑	陰暦、六月中 陽暦、七月廿三日	腐草爲螢、土潤溽暑、大雨時行
秋	立秋	陰暦、七月節 陽暦、八月[illegible]日	[illegible]
	處暑	陰暦、七月中 陽暦、八月廿三日	鷹乃祭鳥、[illegible]、禾乃登
	白露	陰暦、八月節 陽暦、九月七日	鴻雁來、玄鳥歸、[illegible]
	秋分	陰暦、八月中 陽暦、九月廿[illegible]日	雷始收聲、蟄蟲坏戸、[illegible]
	寒露	陰暦、九月節 陽暦、十月八日	鴻雁來賓、雀入大水爲蛤、菊有黄華
	霜降	陰暦、九月中 陽暦、十月廿三日	[illegible]
冬	立冬	陰暦、十月節 陽暦、十一月[illegible]日	[illegible]
	小雪	陰暦、十月中 陽暦、十一月廿二日	[illegible]
	大雪	陰暦、十一月節 陽暦、十二月七日	鶡鴠不鳴、虎始交、[illegible]
	冬至	陰暦、十一月中 陽暦、十二月廿二日	[illegible]、麋角解、水泉動
	小寒	陰暦、十二月節 陽暦、一月五日	[illegible]
	大寒	陰暦、十二月中 陽暦、一月廿[illegible]日	[illegible]

にじふしし（名）〔二十四史〕支那ニテ、清ノ乾隆年中、其國、歴代ノ正史ヲ總括シタル稱。即チ、二十一史ノ中、唐書、五代史ヲ新舊ノ二ツニ分チ、更ニ明史ヲ加ヘタルモノ。十七史ノ條ヲ見ヨ。

にじふしはい（名）〔二十四輩〕[illegible] ふよにい。親鸞上人、貞永元年八月、東國ノ弟子二十四人ヲ集メ、[illegible]ノ弟子[illegible]ヲ二十四輩ト稱ス。是等ノ弟子ハ、武藏、常陸、上野、下野、下總、陸奥ナドノ各地ニ於テ、[illegible]、其由緒[illegible]二十四門[illegible]寺院[illegible]當スルソ、二十四輩[illegible]

にじふ-ふどう（名）〔二十不同〕[illegible]

にじふにし（名）〔二十二史〕[illegible]一同史ヲ加ヘタルモノ[illegible]舊唐書、舊五代史[illegible]

にじふにしや（名）〔二十二社〕古、[illegible]タルモノノ稱。都下城ノ鎮護ト定メテ祭ラセラレシ二十二所ノ神社、朝廷、[illegible]以後、時ヲ定メテ奉幣アリ。即チ、伊勢、石清水、賀茂、松尾、平野、稲荷、春日、大原野、[illegible]、北野、貴船（以上、山城）、春日、大神、石上、大和、廣瀬、龍田、丹生川上（以上、大和）、住吉、廣田（以上、攝津）、日吉（近江）ナリ。[illegible]

にじふはっしゅく（名）〔二十八宿〕支那ノ古法ノ天文學ニテ、周天ノ星宿ヲ二十八ニ[illegible]、各、七ツアリ。和俗稱[illegible]東方、角、亢、氐、房、心、尾、箕。

北方 斗 牛 女 虚 危 室 壁
西方 奎 婁 胃 昴 畢 觜 参
南方 井 鬼 柳 星 張 翼 軫

にじふよはい (名) 〔二十四輩〕 にじふよはい(二十四輩)ニ同ジ。

にじふれう (名) 〔二十寮〕 王朝時代、八省ニ附屬シタル二十ノ寮。卽チ、大舍人、圖書、內藏、縫殿、內匠、大學、雅樂、玄蕃、諸陵、主計、主税、木工、左右馬、兵庫、陰陽、主殿、大炊、掃部、齋宮、是レナリ。

にじふろくやまち (名) 〔二十六夜待〕 (廿六日ノ夜ノ月待ナリ 待ハ祭ノ義) 陰曆、正月、及、七月ノ二十六日ノ夜半ニ、月ノ出ヅルヲ拜スルコト。出デムトシテ、光ヲ放ツ時ニ、三尊ノ彌陀ノ象ヲ現ズナド云フ。(今ハ專ラ七月トス) 略シテ、六夜。江戶ニテハ、此夜、高處、海岸ノ眺望宜シキ所ニ會宴シテ、月ノ昇ルヲ觀ル風俗アリタリ。 御所櫻堀川夜討(元文、文耕堂等合作)三「二十六夜ノ月待ノ夜」

にしほのあゆ (名) 〔煮鹽鮎〕 鮎ヲ鹽煮ニシタルモノ。 名義抄「鹽煮年魚、ニシホノアユ」

にしむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 〔煮染〕 汁ノ全ク染ミ入ルマデ煮ル。 僧院宴元和、安樂庵策傳 三、客ニフルマヒノ揚句ニ、麩ヲにしめテ、重ニ入レ、其席ヘ持出デ」

にしん (名) 〔二親〕 フタオヤ。チチハハ。父母。兩親。 類書纂要、一親、父母「二」國志、魏志、文帝郭皇后傳「早失二二親一喪亂流離」 無量壽經「不レ孝二二親一輕二慢師長一」 延慶本、平家物語、五、大事ノ寶ヲユヅルハ、父母二親ニシクハナシ」

にしん (名) 〔二心 貳心〕 心ヲ二ツニモツコト。フタゴコロ。 戰國策、趙策「委質而事人、而求貳之、是懷二二心一以事君也」 漢書、王陵傳「陵待使者以立曰、願爲老妾語陵、善事漢王、漢王長者、毋以老妾故持二二心一、妾以死送使者、遂伏劍而死」

にしん (名) 〔二伸〕 手紙ノ追而書ノ初ニ用キル語。そでがき(袖書)ノ條ヲ見ヨ。ナホナホガキ。二白。追白。追申。

にしん (名) 〔二神〕 二柱ノ神。特ニハ、伊弉諾、伊弉冊ノ二柱ヲ云フ。 謠曲、羽衣「久方ノ天ト云ッパ、二神出世ノイニシヘ」

にしん (名) 〔鯡〕 (身ヲ二ツニ割ク義。土人ニ取リテハ、魚ニアラズ米ナリ、故ニ魚偏ニ非ト書ストゾ) 鰊ノ內臟ヲ去リ、二本ニ割キテ乾シタルモノ。腹部ノ方ノ一本ハ肥料ニ供シ、脊肉ノ方ノ一本ヲ身缺ト稱シテ食用ニ供ス。滋味アリ、多クハ貧人ノ食トス。松前ニテハ、鰊ノ脊ヲ、にしんト云ヒ、腹ヲ、さざきト云フ。小サク割キテ用キレバナリ。 林逸節用集、生類「鯡、ニシン」 長享二年賦、魚鳥連歌「僞リナリ、がらす鴨グル年月(後土御門天皇 捨テヤラテ、我身にしむル、山モナシ」、進士宮榊子「御伽草紙、猫の草紙「又、折折ハタツクリニ、にしん、乾鮭ナドヲ、朝夕ノエジキニハイカガト、問ヒ給ヘバ」

にしん (名) 〔鰊 青魚〕 かど(鰊)ノ異稱。其條ヲ見ヨ。(なほ前條ヲ參見セヨ)

にじむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 〔鈍染ノ義〕 (一)染メテ、色合、サヤカナラズ。(二)染ミツツ、ヒロガル。(墨、又、油ナド) 訛シテ、にじむ。

にしんがいんじふ (名) 〔二進一十〕 珠算ノ語。卽チ、八算ノ割聲ナリ。コレヲ二歸法ト云ヒテ、二一添作五、二進一十、四進二十、六進三十、八進四十ナドト呼ブ。 新編塵劫記、一、第七、八さんのわりざんの事「二一天作五、逢二進一十」

にしむけ (名) 〔西向〕 にしどち(腹蛸)ニ同ジ。

にしめ (名) 〔煮染〕 種種ノ魚菜ヲ、醬油、鰹節ナドニテ、煮染ムルコト。又、ソノ煮染メタルモノ。 易林節用集、慶長上、食服門「煮染、ニシメ」 庭訓往來、十月「菜者、繊蘿蔔、煮染牛房、昆布、荒布、黑煮烏頭布」

にしめまめ (名) 〔煮染豆〕 煮染メル故ニ云フ) ざぜんまめ(坐禪豆)ニ同ジ。其條ノ(二)ヲ見ヨ。 好色一代女(貞享、西鶴)六「堀江燒キノ鉢ニ、飛魚ノ干物、蓋茶碗ニ にしめ豆、絕エズ取肴ノアル事」

にしゃどっち (名) 〔腹蛸〕 にしどち(腹蛸)ニ同ジ。

にじゅ (名) 〔二豎〕 病魔。又、轉ジテ、ヤマヒ。病氣。下ノ出典ヲ見ヨ。 左傳、成公十年「公(晉侯)疾病、求二醫于秦一、秦伯使二醫緩爲一レ之、未レ至、公夢、疾爲二二豎子一曰、彼良醫也、懼レ傷レ我、焉逃レ之、其一曰、居二肓之上、膏之下一、若レ我何、醫至、曰、疾不レ可レ爲也、在二肓之上、膏之下一、攻レ之不レ可、達レ之不レ及、藥不レ至焉、不レ可レ爲也、公曰、良醫也、厚爲二之禮一而歸レ之」

にしゅきん (名) 〔二朱金〕 古キ金貨ノ名。一銖ニ當ルモノ。卽チ、金壹兩ノ八分ノ一。(元祿十年鑄造、後、天保三年改鑄、冬、通用始マル)二朱判。コップ。タンザク。タンジャク。

にしゅぎん (名) 〔二朱銀〕 古キ銀貨ノ名。二銖ニ當ルモノ。卽チ、銀壹分ノ二分ノ一。南鐐。八枚ヲ金壹兩ニ代フ。(明和九年鑄造、後、文政七年改鑄、形、小サクナレリ)

にしゅばん (名) 〔二朱判〕 (一)專ラ、慶金ノ二朱金ノ稱。形、小サケレドモ、金位、宜シトテ名アリ。二朱判金。(二)小男ナレド、藝ニ堪能ナルモノナドヲ云フ。 正德ノ頃ノ幇間、二朱判吉兵衞ナド是レナリ。

にじよ・ふ (動) によぶ(呻吟)ニ同ジ。 堤中納言物語(疑)中、第廿二卷「呻吟、關士與夫、ニヨブ」

にじり (名) 〔躙〕 (一)にじりあがりノ略。ニジリグチ。茶室ノ入口。(二)ニジルコト。退キ下ルコト。 狂言記、粟田口「早ウ戾レ、心得マシタ、エイハア、モウ戾ッタカ、マダ御前ヲにじりモ致シマセヌ」

にじりがき (名) 〔躙書〕 筆ニテ紙ヲ躙ルヤウニ、文字ヲ書クコト。又、ソノ書キタルモノ。(未熟ニシテ、スラスラト書カレヌ意) 蕪村句集、上「デデ蟲ヤ、其ノ角文字ノ、にじり書き」

にじりぐち (名) 〔躙口〕 (ニジリテ入ルヨリ云フ) 數寄屋ノ入口。

にじ・る・ル・レ・ラ・リ・レ 自動、四 〔躙〕 ニジルヤウニ步ク。 本朝若風俗(貞享、西鶴)六「水邊ニ、にじる蟹アリ」

にじ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔躙〕 壓シナガラ、ジリジリト摩リ動カス。ジリジリト、オシヒシグ。ニシクル。 字鏡九十「跌、躙志留」 增補下學集、下、一、態藝門「躙、ニジル」 宇治拾遺、十三、第六條「矢ノ筥、云云、手ズサミニ、フシノモトヲ指ニテ、板敷ニ押シアテテにじれバ、朽木ノ柔カナル押シ碎クヤウニ碎クルヲ」

ニス (名) 〔假漆〕 わにス(假漆)ノ略。其條ヲ見ヨ。

に・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 〔似〕 (似るノ他動) (一)似ルヤウニナス。

眞似ル。【模倣】 宇津保物語、國讓、下「[illegible]少將ノ[illegible]ニ、イトヨクカキにせ[illegible]」 枕草子、八、八十三段「ツネノモトニテ、イミジクヨク似セテヨムニ」

(二)擬ヘ僞ル。【贋作】 入木抄、古賢筆仕事「マサシキ[illegible]バ、ウツシエヌママニ、キトモニ立ツ所ヲにせ候事、極メテワルク候也」

にずり (名) 【丹摺】 赤土ニテ模様ヲ摺ルコト、又、其、赤土ナドノ末ノ摺衣。古事記、下「[illegible]其所[illegible]服之[illegible]」

にすゐ (名) 【冫】 【三水ノ「シ」ニ對シテ、二水ノ義】 漢字ノ偏ノ「冫」ノ字ノ稱。氷ノ字ナリ。冶、冷、冱、凍、凊、凄、凜、凝ノ如シ。冰水點

にせ (名) 【僞似/贋】 寶物ニ似セテ、僞リ作ルコト。又、ソノモノ。贋 「僞似金」「贋首」

にせ (名) 【二世】 佛經ノ語。現世ト、來世ト。(三世ノ條ヲ見ヨ) 現世ニテハ、幸福アラムコト、來世ニテハ、成佛セムコトヲ佛ニ願ヒ、又ハ、我ガ愛スル人ト、現世ヨリ來世ニカケテ、離レザラムコトヲ祈ルヲ、二世の願ト云フ。隨ッテ夫婦ノ契ヲ、二世の緣、又、二世ノ契ト云フ。謠曲、[illegible]「[illegible]レシ夫ヲ尋ネツツ、元ノ如クニ歸リ居テ、結ブ契ノ末久ニ、松浦ノ川ヤ、二世の契、賓ニアリガタキ心カナ」[illegible]、廿六、[illegible]婦人「是レモ[illegible]二世の契リニヤ、愛念[illegible]ヒナクシテ、月日ヲ重ネシ程ニ、其[illegible]モ[illegible]ニケレバ、[illegible]ホラカニシテ、男子ヲ生ム」[illegible]十訓抄、中、第六[illegible]十八條 カカレバ、二世ノ[illegible]ヲ[illegible]ケシ事、[illegible]シキ心ニハ、シクヘカラズ」 謠曲、櫻川「佛果ノ緣トナリニケリ、二世安樂ノ[illegible]深キ、親子ノ道ゾ有リ難キ」「夫婦ハ二世」

にせい (名) 【二聖】 和歌ニテ、スグレタル二人。即チ、柿本人麻呂ト、山邊赤人ト。[illegible]ニセイ、人丸、赤人」

にせいん (名) 【僞印】 にせはん(僞判)ニ同ジ。

にせがね (名) 【僞似金】 貨幣ニ似セテ造[illegible]。贋造ノ貨幣。贋金

にせくび (名) 【贋首】 ニセノ首級。[illegible]業平河内通[illegible]近松作[illegible]「[illegible]レバ、似せ首[illegible]シテ[illegible]ノ[illegible]トヨワイノ」首實[illegible]、[illegible]田出[illegible]小屋、[illegible]顏ト[illegible]ハ、[illegible]カハルナドト、[illegible]リノ[illegible]首、大レモ[illegible]ベヌ、古[illegible]ナコトシ[illegible]」

にせごゑ (名) 【贋聲】 當人ニ似セタル聲。ニセノコワイロ。[illegible]止德、近松作)二「[illegible]カタク打ツケ打ツケ、[illegible]ガ僞聲シテ、コレコレ大[illegible]」

にせさつ (名) 【贋札】 僞リ似セテ、作レル金銀錢ノ札。贋造ノ紙幣。ガンサツ。

にせてがた (名) 【僞手形】 ニセノ手形。

にせてがみ (名) 【僞手紙】 ニセノ手紙

にせのえん (名) 【二世緣】 にせ(二世)ノ條ヲ見ヨ。

にせのかため (名) 【二世固】 夫婦ノ契ヲ固ムルコト。心中刃氷朔日(寶永、近松作)中「守リ袋ヲ解クウチニモ、サアニ世の固めノ[illegible]、[illegible]ルハ[illegible]ノ、守リメモ[illegible]リ[illegible]タ、片時モ[illegible]キテ何カセン、合[illegible]ノ最期ハココナリト」

にせのちぎり (名) 【二世契】 にせ(二世)ノ條ヲ見ヨ。

にせのとも (名) 【二世供】 [illegible]、二世モ仕フル義」 おひばら(追腹)ノ條ヲ見ヨ。

にせはん (名) 【僞版】 僞セテ模シ刻レル版木。又、其書。僞版。

にせはん (名) 【僞判】 僞造シタル印判。

ニセイン。

にせふで (名) 【僞筆】 [illegible]ノ手蹟ニ似セテ書キタル文字、又ハ文書。又ハ、ソノ繪畫。ニセヒツ。僞筆 [illegible]

にせんせき (名) 【二千石】 一地方ノ長官。[illegible]二[illegible]ノ[illegible]、[illegible]。[illegible]漢書、[illegible]化。[illegible]石直分[illegible]」 狂言記、二千石「[illegible]ヲ抜キ出シ、銚子ノ[illegible]ウトウ[illegible]、二千石ノ[illegible]ニコソ、[illegible]イハフ後マデモ、ソノ名ハ朽チセザリケレト、オシ返シ三反ウタフ」

にせもの (名) 【僞似物】 似セ[illegible]造リタルモノ。僞物。僞造品。贋物 狂言記、粟田口「粟田口ニハ銘アルベシ、メイナクバ贋物タルベシ、エイ、一大事ノ事ヂャ、早ウ聞イテ來イ」

にせやらう (名) 【似野郎】 野郎、即チ俳優ヲ眞似テ、人家ニ行キ狂言スルモノ。素人狂言。寛文六年年六月町觸、町中ニ似せやらうヲ抱へ、付[illegible]束ナド致シ持[illegible]方方へ參リ、六[illegible]捕へ可[illegible]出[illegible]候」

に・せる (動) 【似】 にす(似)ノ口語。

にせゑ (名) 【僞似畫】 寶物[illegible]容貌ニ似セテ、描キタル繪。人物ノ生寫ノ繪。肖像畫 [illegible]久兵[illegible]二、花ノ[illegible]ノ[illegible]ハ[illegible]アヘズ、[illegible]第十[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ヲヤラムナドゾ、父ノ[illegible]モオホセラレケル[illegible]ケルニ、北面下[illegible]實[illegible]ヲ召シテ、カカセラレケル」[illegible]

[illegible]二年十一月廿七日[illegible]其[illegible]」

ニソウ (名) 【尼僧】 [illegible] 比丘尼。[illegible]尼ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

にそく (名) 【日蝕】 にっしょく(日蝕)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

にそくさんもん (名) 【二束三文】 物ノ價ノ安キコト。草履ノ價ヨリ起レル語。[illegible]

にたん (名) 【二段】 [illegible]

にた (名) 【[illegible]】 [illegible]ニチャニチャナルコト。[illegible]

にだいふ (名) 【[illegible]】 [illegible]人ノ頭ニテ、江戸下谷ニ住シ、市中ノ[illegible]門付[illegible]ノモノニ、[illegible]ヲ出ス[illegible]

にたう (名) 【二刀】 [illegible]

にたうりう (名) 【二刀流】 [illegible]劍術ノ一流[illegible]

大小ノ二刀ヲ、左右ノ手ニテ用ヰルモノ。新免二刀流ト稱ス。寛永年中、宮本無三四(武藏)ニ始マルト云フ。圓明流。武藏流。改名流。二天流。武術流祖錄「大傳、新免無二刀術、二刀一天流、宮本武藏改名」

にたき (名) 煮焚 食物ヲ煮、或ハ、焚クコト。炊事。烹爨

にた・し・シキ・シク・シケレ・シク・シク(形、二) 濕リスカルナリ。出雲風土記、仁多郡「爾多シ、小國也」

にだし (名) 煎出 次條ノ語ニ同ジ。

にだしじる (名) 煮出汁 (味噌汁ニ對ス) 鰹節ヲ削リテ、其味ヲ湯ニ煮出シテ、其滓ヲ去レルモノ。味ツケテ吸物ナドノ汁ニ用ヰル。すまし汁トモ、又、すましトモ云フ。略シテ、にだし。又、ダシ。ダシジル。

にだ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 煮出 湯ニ煮テ、其味ヲ出ス。

にたた・す・ス・セ・シ・サ・セ(他動、四) 煮立 煮立ツヤウニス。沸カス。沸騰セシム。

にた・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 煮立 ニエテ、ワキタツ。ニエ立ツ。

にた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 煮立 煮エタツヤウニス。一タテル。

にたにた (副) 稍、嬉シゲニ笑フ狀ニ云フ語。ニヤニヤ。ニコニコ。太平記、十五、主上自山門還幸事「五條ノ辻ニ高札ヲ立テテ、一首ノ歌ヲゾ書キタリケル、二筋ノ、中ノ白ミヲ、ヌリカクシ、新田シケナ、笑ジルシ哉」

にたにた (副) 甜メル狀ニ云フ語。ニチャニチャ。出雲風土記、仁多郡「所造天下大神、大穴持命、詔、云云、川上者、木枕、川下者、阿志婆布之、是者、爾多志枳小國」

にだんがへし (名) 二段返 芝居ノ大道具、其道具ノ二度返ルコト。

にだんやまみち (名) 二段山路 やまみちがまら(山路頭)ノ條ヲ見ヨ。

にたやま (名) 仁田山 (一)次條ノ語ノ略。(二)似テ非ナルコト。又、ソノモノ。仁田山紬ハ常ノ紬ニ似テ、質ノ劣レル由ニ、譬ヘテ云ヘルカト云フ。ニタヤマツムギ。曾呂利狂歌咄(寛文)四「丹田山紬ノ茄安染ニシタルモヲカシ」 貞丈雜記、三、小袖「にたやまト云フハ、地名ヲトリテ名付シヤ、又ハ地合ノヨロシカラザルヲ、サシテにた山ト云フ歟」

にたやまおり (名) 仁田山織 上野國ノ仁田山地方ニ産ズル織物。仁田山絹、仁田山紬アリ。

にたやまさぶらひ (名) 仁田山侍 侍ニ非ズシテ、タマタマ雇ハレテ兩刀ヲサシタルモノ。前前條ノ(二)、及、次條ヲモ參見セヨ。

にたやまつむぎ (名) 丹田山紬 上野國、仁田山地方ヨリ織リ出ス紬。にたやま(仁田山)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。をだたり草(文化、田宮仲宣)「上州新田山ヨリ武州秩父絹ニ似シ絹ヲ織出セ、云云、廉物ニテ、云云、無地ノ色物ニハ染メガタク、京師ノ染殿、此絹ニ糊ヲ引テ、其上ヲ小紋染ニスルニ、打見ニ地厚キ絹ト見エテ、甚ダ弱ナルヨリ、人懲リテ、コレヲイトヒ、終ニ都テノ事ノ、似テ非ナルモノヲ、新田山トハ言ヒナラハシタリ」

にたり (名) 荷足 「にたりぶねノ略」川ニ用ヰル一種ノ運漕船ノ名。

にたり (名) (似たりノ義) 牛ノ角ヲ用ヰテ、玳瑁ニ贋セテ作リタルモノ。煮テヤハラカニシテ作ル。

にたり (助動) 現在完了ノ助動詞ノ一ノ變化ノにト、たりト、合ヒタル語。源、三十四、下、若菜、下五十「御顔モ、スコシオモヤセ給ヒにたり」 同、十一、花散里六「アリサマカハリにたる御アタリナリケリ」 同、三十四、下、若菜、下七十「春宮モオトナビサセ給ヒにたれバ」「面變セにたり事、變ハリにたれバ」

にたりがひ (名) (女陰ニ似タレバ云フ) いがひ(淡菜)ノ異名。ヒメガヒ。東海夫人。貽貝ノ條ヲ見ヨ。

にたりぶね (名) 荷足船 五大力、高瀨船ナドノ稱。河上ニ用ヰルモノ。略シテ、にたり。諸造船式圖「茶船、俗ニ荷足舟ト云、上口凡長二丈五六尺、横六尺位」 和漢船用集(明和、金澤兼光)四「似關舟、關船ニ似テ荷舟ナリ、似舸トモ、又、如關トモ書クベシ、下廻リ荷舟ニテ、關舟ニ以タリ、關舟ト荷舟ト兩樣ニ用ル者也、故ニ又、半關ト云フ」

にたりよったり (句) 似タリ寄ッタリ。似テ居テ、甲乙ナキコト。彼長此短。

にち (接尾) 日 日ヲ數フルニ云フ語。(年月日ノ)「一日」「百日」「幾日」

にちいり (名) いもち・稻熱ニ同ジ。又、いもちびゃう。下ノ出典ヲ見ヨ。耕稼春秋(寶永、土屋又三郎)四、田疾悪作種「にち入りハ、秋第一天氣和ニヨル事ナリ、夏ノ土用前ヨリ打チ續キ天氣悪シク寒クシテ、苗デキ兼ネ、土用過ギヨリ俄カニ暑キ年ハ、急ニ出來スル故、稻和ニシテ露ニ充カネ、其ノママ天氣ニホシツケラレテ、燒ケツキタル露、にちトナル」

にちえう (名) 日曜 日曜日ノ略。轉ジテ、休日。志ちえう(七曜)ノ條ヲ見ヨ。

にちえうび (名) 日曜日 前條ノ語ニ同ジ。

にちえうまつり (名) 日曜祭 昔、日ヲ祭ル儀式。タイヤウマツリ。字類抄「太陽祭」注「一名、日曜祭、以御鏡祭之、御禱進」 吾妻鏡、廿六、貞應三年六月六日「日曜祭」

にちがい (名) 日害 陰陽家ニテ、一日ノ中ノ凶ナリト云フ時刻。卽チ、子ノ日ノ未ノ刻、丑ノ日ノ午ノ刻、寅ノ日ノ巳ノ刻、卯ノ日ノ辰ノ刻、辰ノ日ノ卯ノ刻、巳ノ日ノ寅ノ刻、午ノ日ノ丑ノ刻、未ノ日ノ子ノ刻、申ノ日ノ亥ノ刻、酉ノ日ノ戌ノ刻、戌ノ日ノ酉ノ刻、亥ノ日ノ申ノ刻コレナリ。

にちがふ (名) 日合 陰陽家ニテ、一日ノ中ノ吉ナリト云フ時刻。卽チ、子ノ日ノ丑ノ刻、丑ノ日ノ子ノ刻、寅ノ日ノ亥ノ刻、卯ノ日ノ戌ノ刻、辰ノ日ノ酉ノ刻、巳ノ日ノ申ノ刻、午ノ日ノ未ノ刻、未ノ日ノ午ノ刻、申ノ日ノ巳ノ刻、酉ノ日ノ辰ノ刻、戌ノ日ノ卯ノ刻、亥ノ日ノ寅ノ刻コレナリ

にちくゎうてんし (名) 日光天子 にってんし(日天子)ニ同ジ。

にちぐゎつ (名) 日月 志つげつ(日月)ニ同ジ。謠曲、安宅「世ハ末世ニ及ブトイヘドモ、日月ハイマダ地ニ落チ給ハズ」

にちげん (名) 日限 ヒギリ。定メタル日數ノ限リ。又、ソノ日限リ。期日。梁書、張率傳「率年十二、能屬文、常日限作二詩一篇、稍進作二賦頌一」 成簀記、十、三井寺衆徒不許事、詫ニ自身、詫ニ他人、不過ニ七祈禱之日限、必彰ニ遠近揭焉之證驗、敬白、取要書之」

にちご (名) 日午 しやうご(正午)ニ同ジ。〔禅宗元、鬼中偶作「日午[illegible]、[illegible]山[illegible]竹叢[illegible]」 林逋、[illegible]「[illegible]日午[illegible]、[illegible]庭内[illegible]」〕

にちぞう (名) 日小僧 日蓮ヲ、他宗ヨリ誹リテ云フ稱。

にちさうくわん (名) 日想觀 佛家ノ語。往生修行法ノ十六觀法ノ一。淨土ヲ觀想セム爲ニ、西ニ向ヒ正坐シテ、日ノ西ニ沒スルヲ觀ズルコト。〔觀無量壽經「佛告[illegible]韋提希、汝及衆生、[illegible]心[illegible]念[illegible]想[illegible]西方[illegible]云云、當[illegible]起[illegible]正念[illegible]、正坐西向、諦[illegible]觀於日[illegible]令[illegible]心堅住、專[illegible]想不[illegible]移、見[illegible]日欲[illegible]沒狀如[illegible]懸鼓[illegible]」 謡曲、弱法師「日想觀ヲ拜ミ候ヘ」〕

にちざうとう (名) 日像幢 御即位ノ大禮ノ時、烏形幢ノ東ニ建ツル旗、黑塗ノ幢ニ、金漆塗ノ丸キ輪九ツヲ貫キ附ケ、上ニ金漆塗ノ丸キ板ニ、三足ノ烏ヲ畫ケルヲツケタルモノ。コレニ對シテ、月像幢ハ、大略、同製ナレドモ、銀漆塗ノ丸キ板ニ、月桂樹ト、兔ノ形ト、蟾蜍ト、臼トヲ畫ケルヲツケ、烏形幢ノ西ニ建ツルナリ。〔[illegible]紀、[illegible]、大寶元年正月[illegible]「天皇[illegible]大極殿[illegible]受[illegible]朝[illegible]云云、左日像、青龍、朱雀幡[illegible]」〕

にちじ (名) 日時 ヒヅケ。時日。ヲリ。〔孔氏[illegible]宋、孔平仲[illegible]談所[illegible]日子[illegible]亦[illegible]日子[illegible] [illegible]所出、文選、[illegible]公[illegible]、[illegible]年月[illegible]日子注「[illegible]時也、[illegible]日子、日時也」 代[illegible]「[illegible]出、[illegible]良ニ御記[illegible]ノ日時八、[illegible]シテ、[illegible]ニ仰セテ、是レヲ[illegible]ヘ申サシム」〕

にちじ (名) 日次 日ドリ。日ナミ。

にちじやう (名) 日常 ツネヒゴロ。フダン。平素。平常。〔狂言記、武惡「汝ハ日常ノ[illegible]ニモナイ、[illegible]ナコトヲ云フヨチヤ」〕

にちぢう (名) 日乘 〔乘ハ記載ノ義〕にっき(日記)ニ同ジ。

にちにち (副) 日日 ヒビ。日日ニ。毎日。〔[illegible]書、[illegible]、[illegible]「日日[illegible]」 [illegible]、[illegible]「[illegible]日日[illegible]」 林逋、[illegible]〕

にちにちくわ (名) 日日花 はげいさう(葉鶏頭)ノ異名。其條ヲ見ヨ。〔[illegible]上人[illegible]詩「松下中峰路、[illegible]師日日行」〕

にちべち (名) 日別 まいにち(毎日)ニ同ジ。〔東宮年中行事、五月「五八月ニハ、にちべちニシクワ」〕

にちぼ (名) 日暮 夕方。ヒグレ。クレガタ。〔[illegible]詩「日暮[illegible]何[illegible]」〕

にちぼつ (名) 日沒 太陽ノ西ニ沒スルコト。又、ソノ時。日ノ入リ。イリアヒ。〔[illegible]、野田行「日[illegible]古城[illegible]野田何[illegible]」 [illegible]用集[illegible]長[illegible]坤門「日[illegible]、[illegible]時分」〕

にちまい (名) 日米 にちりやう(日糧)ニ同ジ。〔大坂[illegible]式[illegible]、日米[illegible]斗六升」〕

にちや (名) 日夜 晝ト、夜ト。日夕。又、日常。始終。〔禮記、月令[illegible]「仲春之月、云云、是月也、日夜分」 管子、度地[illegible]「[illegible]、日夜分、分之後、夜日[illegible]、[illegible]日益長、利以作[illegible]土功之事[illegible]」 日葡、[illegible]、[illegible]、[illegible]、北[illegible]、日夜[illegible]官軍[illegible]」〕

にちやうだて (名) 二挺立 [illegible]牙[illegible]ノ一名。其條ヲ見ヨ。〔常[illegible]友[illegible]集[illegible]「[illegible]ソノ手デ、フカミヘハマ千鳥、カヨヒナレタル土手八町、口八町ニノセラレテ、オキノ、[illegible]ノ二挺立「三挺立」 好色一代男(天和、西鶴)七「金龍山ヲ日當ニ、淺草川ノ二挺立て」〕

にちやつく ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) (一) ニチャニチャス。(二) 寄合ヒ戲ル。

にちやにちや [illegible] 粘ル狀ニ云フ語。にた[illegible]

(爾多)ノ條ヲ見ヨ。

にぢう (名) 二重 [illegible]。[illegible]、[illegible]ト中スコト不當ナリ、其ノ前ヲアゲベキナリト仰セラレケレバ、即チ件ノ前ヲ上クルニ、兩三度アガリテ、云云、召シヨセテ御覽ズルニ、實ニ二重ナリケリ」 (二) カサナルコト。重複スルコト。

にぢういしき (名) 二重意識 〔[illegible]語、Double consciousness ノ譯語〕意識ガ、同時ニ二様ニ働クコト。例ヘバ、人ト談話ヲ交ヘナガラ、書ノ[illegible]ナド、[illegible]

にぢうけつこん (名) 二重結婚 前ノ配遇者ト離婚セズシテ、更ニ他ノ者ト結婚スルコト。配偶者アル者ガ、重ネテ婚姻ヲナスコト。重婚。

にぢうだるき (名) 二重垂木 [illegible]重ネル垂木。重棰。

にぢうぶたい (名) 二重舞臺 [illegible]

にぢうまはし (名) 二重[illegible] [illegible]ば(蔦合羽)ニ同ジ。

(雄蕊)ノ條ヲ見ヨ。

にちよう (名) 日用 日日ニ用キルコト。毎日、使用スルコト。[illegible]

にちようぶん (名) 日用文 テガミノブン。往復文。[illegible]文。書牘文。

にちらい (名) 日來 〔來ハ助字〕 ヒゴロ。[illegible]

にちりん (名) 日輪 日。天ノ日。天日。太陽。[illegible] 〔[illegible]火千界ノ日輪ヲ集メタルガ如クシテ、[illegible]寬永、小[illegible]道[illegible]一、秀吉公[illegible]生[illegible]、[illegible]時、[illegible]中ニ

日輪[illegible]、[illegible]ヨリ、[illegible]日吉丸ト[illegible]シナリ」〕

にちりんさう (名) 日輪草 ひまはり(向日葵)ノ一名。其條ヲ見ヨ。

にちりやう (名) 日糧 [illegible]時代、日日、[illegible]

にちる ルル・ルレ・レ・レヨ (自動、下二) ネヂル。[illegible]

にちれんしう (名) 日蓮宗 日蓮ノ[illegible]派。[illegible]、日蓮法華宗。安房ノ僧日蓮[illegible]、建長五年四月廿八日、初メテ南無妙法蓮華經ノ七字ノ題目ヲ唱ヘ、[illegible]南無妙法蓮華經[illegible]、[illegible]諸宗ヲ非難シ、佛法ノ眞理ハ、一部八卷ノ法華經ニアリトシ、其經ノ題目、南無妙法蓮華經ヲ唱フレバ、成佛得道[illegible]ナリ、[illegible]後、此宗ハ、[illegible]

不受不施派門派トハ一致派ニ屬ス。

にちろく（名）［日錄］にっき、日記ノニ同ジ。〔王氏〕「…日錄…」

にちゐき（名）［日域］（一）日本國ノ異稱。一說ニ、朝鮮トモ云フ。揚雄、長楊賦「西厭月窟、東震日域」（二）日ノ出ヅル處。曹野…（永久、大嘗會康）…日域ハ以…、市ニ日域、以…、…入…高…。謝朓、賦…日域、南…落、集ニ桂宮、而送ν清」

につかはし・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［似付］似付キテ見ユ。似合ハシ。ニッコラシ。ニヨリテアリ。相應シテアリ。ニッコラシ。ニヨ……宇津保物語、…「…ジ君達ト聞エレド、アラマホシク、メデタクオハシマス宮ナレ、コノ君達ノサブラヒ給ハムコソハ、につかはしカラメ」大鏡、上、師尹「少シヨロシキ程ノモノハ、御匣殿ノ御事申サセ給フナメリト思フハ、サモ似つかはしヤ」

につかふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）〔似付く〕ノ延。似合ノ。ニック。萬葉集、十六、長歌ノ、丹津蓋色ニ、ナツカシキ（古來、…ハ紅字ヲ寫シ誤レルナルベシ、クレナヰト訓ベシト）

にっかん（名）［日刊］新聞ナド、毎日、刊行スルコト。（月刊、週刊ナドニ對ス）

にっき（名）［日晷］太陽ノカゲ。ヒカゲ。隋書、天文志「…日晷…」

にっき（名）［日記］ニキ。日次ノ記。日毎ニ起レル事ヲ、記シツケテ置クモノ。日錄。日誌。日乘。高澄雜志（宋、周煇、…）「…日記…」宇津保物語、藏開、上「…日記ニ…」

にっきふ（名）［日給］（一）給料ノ、日毎ニ充テ與フルモノ。（月給、年給ナドニ對ス）日當。（二）其日ノ當直。著聞集、十九、草木「承元四年正月ノ頃、内裏大炊殿ニテ、日給ハテテ、源仲朝以下、藏人町ヘ罷リケルニ」

にっきふのふだ（名）［日給簡］古へ、殿上ニ出仕スルモノノ、姓名ヲ記シタル簡、トキノフダ。名目抄「日給簡、ニッキフノフダ」…日中行事「…ハテテ、ヲノコトモ、各宿直裝束ヲ改ム、云云、日給ノ事アリ、袋ニ入リタル簡ヲトリテ、モトノママニ唐櫃ノソハニタツ」

にっきん（名）［日勤］日毎ニ出デ勤ムルコト。毎日ノ出勤。

にっきゃく（名）［日脚］太陽ノ天空ヲ通過スル速度。ヒアシ。杜甫、羌村詩「崢嶸赤雲西、日脚下ニ平地ニ」國詠集、下「日脚…」

にっく（名）［日供］日日ノ供物。親長卿記、文明三年七月廿日「…日供闕怠」

につく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［似付］似合フ。ニッカフ。フサフ。善ク似ル。萬葉集、四、五十六「イツハリモ、似付テゾスル、ウツクシク、マコトワギモコ、吾レニ戀ヒメヤ」

につく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［煮着］汁ノ善ク染ムヤウニ煮ル。ニシム。ニッケル。「…ニテ煮着く」

にくし・キ・ケレ・ク・ク（形、一）［憎］（一）にくし（憎）ノ音便。八笑人（文化、鯉丈）「にっくい奴」（二）おおろにくし（心憎）ニ同ジ。（憎しハ、不變相ノ意）謠曲、安宅「我等ヲ始メテ、皆皆、にっくい山伏ニテ候ガ」

ニクネエム（名）〔英語、Nick-name.〕アダナ。綽號。又、異稱。

にづくり（名）［荷作］物ヲ束ネテ荷ニ作ルコト。ニゴシラヘ。裝貨。

につくゎ（名）［日貨］日本ヨリ製産輸入シタル貨物。「日貨排斥」

につくゎ（名）［日課］日毎ニ課スル仕事。毎日ナスベキ仕事ノホド。日日ノ課程。陸游詩「老人無ニ日課、有ν與郎題ν詩」

につくゎう（名）［日光］（一）日ノ光リ。天光。陽光。北史、文明皇后傳「日光自ν窗中ニ照ν之」（二）にっくゎうてんし（日光天子）ノ略。（三）日光菩薩ノ略。藥師如來ノ脇士。

につくゎうぜめ（名）［日光責］（一）他人ニ飯ヲ強フルコト。又、がうはん（強飯）トモ云ヒ、昔、下野國日光ニ、此風俗アリキ。日光山志、一「強飯、當山御吉例ノ強飯ナリ、世ニ日光責ト稱シ、所所ニ、日光責ノ道具ヲ數品、掛ナラベ置ケリ、擂り棒、或ハ大ナル烟管等ヲ設ク、昔、瀧尾へ地藏變ジ來リ、索麵ヲ乞ケルユヱ、地藏ヲ責メシヨリ始レリト云フ」（二）拷問ノ一。日ニ曝シテ責メ問フコト。

につくゎうたうがらし（名）［日光唐辛］下野國、日光町ヨリ製出スル紫蘇卷ノ蕃椒。一名、日光漬。

につくゎうてんし（名）［日光天子］佛說ニ、須彌山ノ中腹ヲ繞リ、四大洲ヲ照ストイフ日ノ神。略シテ、にくゎう、日天子。コレニ對シテ、其所ヲ、夜、照ス月ノ神ヲ、月光天子、又ハ、月天子ト云フ。「日光、月光十二神將」

につくゎうボサツ（名）［日光菩薩］菩薩ノ名。月光菩薩ト共ニ、藥師如來ノ左右ニ立ツ脇士。略シテ、日光トモ云フ

につくゎうよく（名）［日光浴］日光ヲ身體ニ直射セシメ、ソノ紫外線ノ作用ヲ利用シテ、健康ヲ增進セシムルコト。

につくゎうらふせき（名）［日光蠟石］下野國、日光山、及、足尾山邊ヨリ生ズル一種ノ蠟石。

につくゎうらん（名）［日光蘭］〔日光山ニ生ズル故ニ云フ〕きょろさう（棕櫚草）ニ同ジ。

につくゎもん（名）［日華門］内裏ノ門ノ一。紫宸殿ノ前、東側ノ軒廊ノ中央ニアル東向ノ御門。コレニ對シテ、西側ノ軒廊ニアルヲ、月華門ト云フ。

につけ（名）［煮着］魚菜類ヲ、醬油、鰹節ナドニテ、煮着ケルコト。又、ソノ煮着ケタルモノ。

にっけい（名）［日計］日日、計算スルコト。毎日ノ計畫。淮南子、泰族訓「遣ν之則通、延ν之則疎、稽ν之弗ν得、察ν之不ν虛、日計無ν算、歲計有ν餘」白居易詩、…「日計…是身…」

につける（動）［煮着］につく（煮着）ノ口語。

ニッケル（名）〔英語、Nickel.〕金屬元素ノ一。灰白色ニシテ、通常ノ溫度ニテハ空氣中ニテモ光輝ヲ失ハズ。故ニ他ノ金屬ノ鍍金ニ用ヰル外、種種ノ器物ヲ製シ、又、種種ノ合金ヲ製スルニ用ヰラル。

につこと（副）［莞爾］〔和ノ義〕にっこりとニ同ジ。太平記、三十九、芳賀兵衞入道軍事「岡本信濃守富高、聞キモ敢ヘズ、莞爾とウチ笑ヒテ一心中萬年草（寶永、近松作）中「壻ハオ梅ニ搖ラレ、莞爾と笑ヒ、コレ親父オ袋ダマラノシャレ」

につゐらし・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）

につかはし(似付)ニ同ジ。　天鼓(元祿、近松作)「我ノ聲ヲトリカヘサン爲、聞イタリト、につかはしう口ヲシャベレ」

にっおりと(副)[莞爾]〔和ノ義〕におりと二同ジ。嫣然。　狂言記、金岡「にっおりと笑ハセラレタ御顏ノオモカゲガ、身ニシミテ」百俳諺「莞乎、スコシヱメル貌也、甚笑フ心ナルベカラズ」

にっさん(名)[日參]神社、又ハ、佛閣ヘ、日毎ニ參詣スルコト。ヒマヰリ。　鑓丸(元祿、近松作)四「御前彼ノ御前様ニ、坂本ノ山王ヘ日參遊バシ、今日モ二位ヲ御供ニテ御參詣候」

にっし(名)[日至]夏至、及、冬至ノコト、とうじ(冬至)ノ條ヲ見ヨ。　禮記、雜記、下篇「孟獻子曰、正月日至、可以有事於上帝、七月日至、可以有事於祖」(コノ正月ハ周代ノ正月ニシテ、今ノ十二月ナリ)

にっし(名)[日誌][日志]にっき(日記)ニ同ジ。　荀子、彊國篇「王者之功名、不可勝日志也」

にっし(名)[日子]にちじ(日時)ニ同ジ。　南史、劉之遴傳「今本無上書年月日子」

にっしん(名)[日新]舊來ノ物事ノ、日ニ日ニ新々ニ成リ行クコト。又、日毎ニ、昨非ノ改マルコト。　大學「湯之盤銘曰、苟日新、日日新、又日新」

にっしん(名)[日進]日日ニ、進ミユクコト。日毎ニ、進歩スルコト。　[illegible]「[illegible]之功二一日[illegible]」

にっしんげっぽ(名)[日進月歩]日ニ月ニ、間斷ナク進歩スルコト。

にっしゃ(名)[日者](一)サキゴロ。昔日。往日。曩日。　[illegible]　(二)日ヲ見テ吉凶ヲ[illegible]モノ。[illegible]チ、占候卜筮者ノ通名。ウラナヒシャ。[illegible]

ニッシヨウ にっしょう(名)[入聲]漢字四聲ノ四聲ノ一。ゐん(韻)ノ條ヲ見ヨ。　史記、日者列傳、集解「古人占候卜筮、通謂之日者」

ニッシヤウ にっしゃう(名)[日章](一)日ヲ畫ケル章。(二)日ノ丸ノ徽章。　管子、兵法篇、九章「一曰、擧日章則晝行、二曰、擧月章則夜行」

ニッシヤウキ にっしゃうき(名)[日章旗]日ノ丸ノ旗即チ、我ガ帝國ノ國旗。

ニッシヤビヤウ にっしゃびゃう(名)[日射病]〔言、にっせきびゃうナルベシ〕直接ニ、烈シキ日光ヲ受ケテ、腦充血ヲ起シ卒倒スル病。日光ノ直射ヲ受ケテ熱四十度ニモ上リ、瞳孔心臟ノ働キ弱リ、精神朦朧トシテ其原因ハ、擴大シテ、急ニ倒ルルモノ。身體ノ虛弱、睡眠不足、食ヒ過ギ、飮酒ノ人ナドノ、烈シキ勞働ニ從事スレバ、體ニ、水分、缺乏スルヨリ起ル。

にっしゅつ(名)[日出](一)太陽ノ出ヅルコト。ヒノデ。　揚子法言、五百篇「赫赫乎日出之光、羣目之用也」杜甫、寄岑[illegible]「日出[illegible]」(二)日ノ出ヅル時ノ意ニテ、卯ノ時、曉六ッ時、卽チ、午前六時。　名物六帖(正德、伊藤東涯)一、時運箋「日出、アケムツ、卯、見[illegible]」

にっしゅつとく(名)[日出國]ヒノモトノクニ。我ガ大日本帝國ノ稱。日東。

にっしょく(名)[日蝕]にっしょく、日蝕ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

にっすう(名)[日數]日ノ經過シタル數。重ナル日カズ。ヒカズ。　管子、[illegible]

にっせき(名)[日夕]にちや(日夜)ニ同ジ。　陶潛詩「忽與一觴酒、日夕歡相持」沈佺期、[illegible]

にっそう(名)[日[illegible]]古ヘ、[illegible]、宮中ニテ、[illegible]、直スル人ノ姓名ヲ、[illegible]。　[illegible]

にっそく(名)[日蝕][日食]〔釋名「日月虧曰蝕、稍稍侵虧、如蟲食草木之葉也」〕日ノ蝕ユルコト。又、にっしょく。にそく。　春秋、隱公三年ニ「日有食之」トアリ。日ト月トノ間ニ、地球ノ交會スル[illegible]、月ノ光リヲ蝕スルヲ、月蝕ト云フ。又、日ト月トノ間ニ、地球ノ交會シテ、月ノ光リヲ蝕スルヲ、月蝕ト云フ。望ニアリ。十八年毎ニ、日蝕ハ四十一度、月蝕ハ二十九度アリ。[illegible]年、多キハ七度、少キハ二度ナリ、月蝕ハ一年無キコトモアリ。又、日月ノ面ノ、若干分ヲ蝕スルヲ分蝕ト云ヒ、全面ヲ蝕スルヲ皆既ト云フ。日蝕皆既ハ、月最モ低キ時ニ、視徑、日ヨリ大キクシテ、日ノ全面ヲ遮リ得ルモノナリ。又、月ノ最モ高キ時ハ、[illegible]、日ノ面ニ當レドモ、日ノ視徑ヨリ小サクシテ、全ク[illegible]、[illegible]コト能ハズ。日ノ周ニ、[illegible][illegible]光ヲ存ス、[illegible]上、[illegible]地、[illegible]リ[illegible]ラ出入スル故ノ名ナリ。[illegible]　天[illegible]日[illegible]、[illegible]ノ時、大[illegible]ヨリ一品ノモトニツカハシケル[illegible]

にったいそく(名)[日[illegible]][illegible]

ニッタウ にったう(名)[日當]一日、イクラト定メテ與フル給料。一日分ノ手當金。日給。

ニツトウ にったう(名)[入唐]又、にふたう。昔、日本ヨリ唐國ヘ渡リ往クコト。渡唐。　[illegible]

ニッタウシ にったうし(名)[入唐使]りんたうし(遣唐使)ノ條ヲ見ヨ。

につお(名)[埴]〔丹土ノ義〕ハニ。赤色ノ[illegible]

にっちもさっちも(副)[二進三進]た[illegible]イヤウニ工夫シテモ。　[illegible]

にっちゅう(名)[日中](一)日ノアル間。晝。晝間。　[illegible](二)午時。正午。ヒルノココノツドキ。晝中。眞晝。日午。亭午。　名物六帖(正德、伊藤東涯)一、時運箋「日中、[illegible]、日出、卯、食時、辰、禺中、巳、日中、午、日[illegible]」[illegible]「一年九月庚子日中[illegible]」

につつじ(名)[[illegible]]〔につつじ[illegible]〕似タル意カト云フ[illegible]　[illegible]

にってい(名)[日[illegible]]一日日ニ[illegible]　[illegible]

史、[illegible]（二）日ヲ定ムルコト。ヒドリ。「日程變更」

にっ-てつ（名）日昳、〔晉語、無逸篇、疏「昳、日昳、昳、謂下昃也」〕未ノ時、即チ、晝八ツ時ノ異名。午後二時。日斜。〔國志、魏志、典韋傳、太祖討呂布於濮陽、布身自搏戰、自旦至日昳、數十合、相持甚急〕

にっ-てん（名）日天（一）日。太陽。〔謠歌、元祿、近松作、中「今日ノ日天、御照覽アレ、少シモ陽ツル所存ナシ」〕（二）次條ノ語ノ略。

にっ-てんし（名）日天子〔梵語、Sūrya.（蘇利耶）ノ譯語〕佛敎ノ語。帝釋ノ内臣ニシテ、日輪ヲ宮殿トシ、四天下ヲ照ス天子。行ク時ハ七寶ノ車ニ乘リ、八頭ノ馬ニ駕シ、二妃左右ニ侍シ、七曜九曜ノ星宿、之ヲ護衞シ、摩利支天、前ニ在リト云フ。日天。日光天子。寶光天子。〔法華文句、二「寶光天子者、謂日天子也」立世阿毘曇論、月行品「日宮者、云云、是宮殿說名修野、是日天子於其中住」〕

にっ-と（副）にっこりと（莞爾）ニ同ジ。ニタリ。〔曾我五人兄弟（元祿、近松作）虎少將道行「五ヒニにっと打チ笑ヒ」〕

にっ-とう（名）日東　日本國ノ異稱。日域。〔和爾雅（元祿、貝原好古）一、日本國異名「日東、ニットウ」註、華人稱日本爲日東、自古而然〕

にっ-とり-と（副）ねっとりとニ同ジ。〔大職冠（正德、近松作）三「蠻ジム肌にっとりと、油ノ髮ノ赤バリモ、今ハ碧翠ノクルクル島田」俚言集覽「腻突（ニットリ）、ウルホヒ、粘ル心ニ用ヰル也」〕

にっ-ぱい（名）日牌　日日、位牌ニ供養スルコト。コレニ對シテ、月月、位牌ニ供養スルヲ、月牌（グワッパイ）ト云フ。〔心中萬年草（寶永、近松作）上「御當山ニ石碑ヲ建テ、日牌ヲ供ヘ申スニツキ、祠堂銀五百枚、奉納イタサレ候」〕

にっ-ぷく（名）日服〔服（ブク）する意〕神佛ニ日每ニ物ヲ供フルコト。又、日日ノ御服ノ物。

にっ-ぽん（名）日本　ニホン。ひのもと（日本）ノ條ヲ見ヨ。日東

にっぽん-いち（名）日本一（一）又、にほんいち。大日本（オホヤマト）ニ並ビナキコト。又、ソノモノ。天下一。世一。〔大鏡、上、實賴「オホカタコレニゾ、日本一ノ御手ノオボエハ、コノノチゾトリ給ヘリシカ」平家物語、七、實盛最後事「アッパレ、己レハ日本一ノ剛ノ者ト組ンデウスヨ」曾我物語、四、小次郎不得語事「日本一ノ不覺人ニテ有ケルモノ、シャチシャウエンノ親ナラバコソ、ソセウヲモイタサメ」〕（二）コノ上モナキコト。最モヨロシキコト。〔謠曲、鉢木「折節コレニ粟ノ飯ノアルヨシ申シ候、苦シカラズバ聞シ召サレ候へ、ソレコソ日本一ノ事ニテ候賜ハリ候へ」小袖曾我（元祿、近松作）二「日本一ノ御機嫌ニテ候」〕

にっぽん-たう（名）日本刀（ニッポン-トウ）　にほんたう（日本刀）ニ同ジ。

にっぽん-ばれ（名）日本晴　快晴ニシテ、空ニ、一片ノ雲モナキコト。又、極メテ長閑ナルモノノ稱。〔兩吟一日千句（延寶、西鶴）「山科モ、日本晴ト、ナリニケリ」〕

につ-む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）煮詰　水氣ノ全ク盡クルマデ煮ル。ニツメル。

⁂**につ-める**（動）煮詰　前條ノ語ノ口語。

につ-らふ（枕）丹頰相（ニツロウ）さにつらふ（狹丹頰相）ノ條ヲ見ヨ。

に-て（辭）天爾乎波ノ第一類ノにト、第三類ノてトノ間ニ、他語ヲ略シタルモノ。其意、種種ナリ。（一）にて於てノ意ナルモノ。「京にて逢フ」田舍にて見ル」（二）にて因りてノ意ナルモノ。「筆にて書ク」水にて洗フ」（三）にてありてナドノ意ナルモノ。「頭ハ人にて、身ハ魚ナリ」家ハ昔シにて、人ハアラズ」（四）にて爲してノ意ナルモノ。〔後拾遺集、三、夏「月影ヲ、色にて咲ケル、卯ノ花ハ、アケバ有明ノ、心地コソセメ」〕

に-てい（名）二體　二ツトモ、優劣ナクシテ等キコト。〔謠曲、錦戶「君親二ツハ二體ノ義、君ヲ重ンジ、親子ノ孝行、賢人無雙ノ弓取ニ」〕

にでう-りう（名）二條流（ニジョウケ-リユウ）　一條家ハ、御子左（ミコヒダリ）トモ云フ。藤原爲氏ノ孫、爲通ヲ嫡流トス。其子孫絕エテ、二條家ハ亡ビヌ。然ルニ歌道ニ云フハ、此家ノ歌ノ掟ヲ受ケ傳ヘラレタル家ヲ云ヒ、其派ヲ二條家流ト云フ。〔詠歌大概秘決直談抄「二條家ハ爲氏一子、爲世、爲道、爲定、爲遠、爲從ニテ家斷絕ス、道ハ爲世卿ヨリ頓阿ガ傳ヘテ、今ニ正統傳相承セリ」古今集大傳於二條家當嫡流（儀）者、以三木、三草、右古今集大傳授、三ケ秘授、三鳥、三三神醫二可許、之外ハ、不可有口授者也」〕

にて-ひ-なり（句）似而非也　外觀ハ能ク似テ居ルガ、内實ハ違フ。ミカケハ似テ、其實ハ然ラズ。エセモノナリ。〔孟子、盡心、下篇「惡似而非者、惡莠、恐其亂苗也」〕

に-てん（名）二天（一）四天王ノ二、即チ增長天王ト、多聞天王トノ稱。してんわう（四天王）ノ條ノ（一）ヲモ見ヨ。（二）日天子ト、月天子トノ稱。（三）梵天ト、帝釋天トノ稱。（四）毘沙門天王ト、持國天王トノ稱。

にてん-さんぼ（名）二典三謨　書經ノ篇名ノ中ノ堯典ト、舜典ト、（以上、二典）又、大禹謨ト、皐陶（カウエウ）謨ト、益稷（以上、三謨）トノ稱。

にてん-もん（名）二天門　左右ニ多聞天ト持國天トノ像ヲ安置シアル門。

にても-あれ（句）サヤウニテモアラウ（ママ）ノ意。

に-と（名）二兎　二匹ノ兎（ウサギ）。〔舊唐書、代宗紀「大曆七年十月、上獵于苑中、矢一發貫三兎」〕「二兎ヲ逐フモノハ、一兎ヲモ得ズ」

に-ど（副）二度　フタタビ。再度。兩度。二回。〔狂言記、箕潛「カリソメナガラ二度ノ緣ヂャ、メデタウ歌ハウ」「二度ノツトメ」〕

にど-いり（名）二度入　土器（カハラケ）ノ一。三度入リヨリ小ナルモノ。さんどいり（三度入）ノ條ヲ見ヨ。〔海人藻芥（應永、惠命院宣守）中「鍾ハヘイカラ、二度入、三度入ニ置ク也」〕

に-とうしん（名）二等親　しんぞく（親族）ノ條ヲ見ヨ。

にど-おぼこ（名）二度幼稚〔おぼこ（幼稚）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ〕人ノ老イ耄（ボ）ケテ、小兒ノ如クナリタルコト。再ビ幼稚（オボコ）ニカヘレルコト。〔日寄帖（元文）前句附、ウラミコソスレ、ウラミコソスレ」二度おぼこ、スバシリ毆ヘ、ナンノカノ」〕

に-どくくわい（名）二讀會（ニ-ドッカイ）　第二讀會ニ同ジ。どくくわい（讀會）ノ條ヲ見ヨ。

にど-ざき（名）二度咲　かへりざき（返咲）ニ同ジ。

にど-ぞひ（名）二度添（ニドゾイ）　二度目ニ連レ添フコト。又、ソノ人。ノチゾヒ。後妻。（伊豆）

にど-でま（名）二度手間　手間ノカカリタル上ニ、更ニ手間ノカカルコト。二度

ノ手數。八笑人(文化、鯉丈)「ドウモ仕方ガネエ、二度手間ダケレド、船宿デ、マタ塗リナホサウカラ」

にごなり (名) [二度生] 〔一年ニ二回生ル故ニ云フ〕いんげんささげ(隱元豇)ノ異名。其條ヲ見ヨ。[illegible]十七、豇豆「二度生、伊勢ニテ、インゲンマメヲ云フ、阿波ニテハ、三度ササゲト云フ」

にどびっくり (名) [二度吃驚] 二度オドロクコト。前ニハ驚嘆シ、後ニハ兼想ニ反シテ驚嘆スルコト。和漢故事[illegible]「[illegible]」醫筑波集(寛永)「初メナレド、二度びっくりヤ、[illegible]」[illegible](延享、竹田出雲等合作)寺小屋之段「聞クニ夫婦ハ、二度びっくり」

にどり (名) [煮取] いろり(色利)ノ條ヲ見ヨ。阿波ノ産ナルハ、鰹節ヲ製スル煮汁ヲ煮ツメテ作ル。松屋筆記、百四、七十七條「倭名抄ニ、肉醤、之比之保トアルハ、今ノシホカラナリ、コレ肉ニ鹽ヲ和ゼテ、汁氣少ク製スルユヱ、肉干鹽ノ義也、此ユルクシテ汁ノ如キ物ヲ、以呂利ト云フ、今ノ讃岐ノいかなご醤油、阿波ノ煮取ノ類也、煮取ハ、延喜式ニモ、堅魚煮取見ユ、倭名抄、十六、鹽梅類、本朝式云、堅魚煎汁、加豆乎以呂利、云云、伊呂利ハ伊利ニ利ニテ、云云、煮取ト云フモオナジ」

にな (名) [蜷] 〔みなノ轉〕古ク、ミナ。介ノ名。湖川、溝渠ニ生ズ。長サ一寸許リ、一頭ハ尖リ、一頭ハ漸ク廣ク、四分許リアリテ、筆ノ頭ノ如シ。殼ハたにし(田螺)ヨリ厚クシテ、薄キ蓋アリ、全身黒シ。賤民、其肉ヲ食フ、コレヲ川蜷ト云フ。[illegible] 河貝子 又、海ニ生ズルアリ、海蜷ト云フ。其條ヲ見ヨ。字鏡「[illegible]、蜷、蓏奈」

にないろ (名) [蜷色] (一)染色ノ名。青黒キ色。(二)襲ノ色目ノ名。表ハ黄、裏ハ青キモノ。

にな・し [illegible](形、一) [無似] 似ル[illegible]。似氣ナシ。[illegible]九十三段「昔、男、身ハイヤシクテ、イトになき人ヲ思ヒカケタリケリ、少シ頼ミヌベキサマニヤアリケム」

にな・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [無二] 二ツト無シ。類ナシ。並ナシ。最上ナリ。[illegible] 宇津保物語、俊蔭「[illegible]ノ御前ニ、[illegible]になく思ヒ給フ、云云、前クイトになく[illegible]ケヌレバ」 源、九、葵「[illegible]リノ[illegible]、ユヽカニ[illegible]ヘキ心ガマヘモ、になくシタリケリ」大和物語、中「イトになく思デ給ヒケリ」 同、同、イトになう思ヒカハス中ナリケリ」 源、一、桐壺「上「里ノ殿ハ修理職内匠寮ニ、宣旨クダリテ、になう改メ造ラセ給フ」

になひ (名) [擔] (一)ニナフコト。(二)になひをけ(擔桶)ノ略。浮世風呂(文化、三馬)三編、上「擔ひデ水ヲカツガレマスガ」

になひあきなひ (名) [擔商] 荷ヲニナヒテ、物ヲ賣リアルクコト。又、ソノ人。ニナヒウリ [illegible] 三河物語(大久保彦左衛門)「になひ商ヲシテ、[illegible]、田作ヲ賣リテ、世ヲ送ルモアリ」

になひこぶ (名) [擔瘤] 物ヲ、ニナフニヨリテ、肩ニ生ジタル瘤。ニコブ。[illegible] 信州川中島合戰(享保、近松作)「[illegible]ヲ刈リデハ[illegible]クレドモ、擔クになひ瘤デカセシハ」

になひぢゃや (名) [擔茶屋] 茶釜ト器物トヲ、前後ニ擔ヒ歩キ、客ノ求メニ應ジテ茶ヲタツルモノ。又、其商店。[illegible]記集、冬、荷ひ茶屋ヲシツラハセ、賣フキノ軒ノ下ニ[illegible]シカセナドシテ、[illegible]シケレバ」

になひつじ (名) [擔旋毛] 又、になひつむじ。頭髮ノ二ツ並ビタルつむじ、トリヰツムジ。二ツツムジ。[illegible]十二、[illegible]

になひつむじ (名) [擔旋毛] 前條ノ語ニ同ジ。

になひぶろ (名) [擔風呂] 昔、時時ヘ擔ヒアルキ、錢ヲトリテ人ニ浴セシメシ風呂。[illegible]

になひぼう (名) [擔棒] 物ヲ擔フニ用キル棒。天秤棒。[illegible]

になひをけ (名) [擔桶] 水ヲ汲ミテ運ブ手桶ノ大ナルモノ。天平棒ニテ擔フ。略シテ、になひ。書言字考節用集、七、器財門「擔桶、ニナヒヲケ」

にな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [擔] 〔荷ヲ活用ス〕(一)肩ニ掛ケテ運ブ。カタグ。カツグ。運歩色葉集、丹「擔、ニナフ」竹取物語「ニヨブニヨブにたはレテ、家ニ入リ給ヒヌルヲ」 小町踊(寛文)冬、[illegible]ト、[illegible]田子ノ[illegible]」 孝德紀、大化二年三月「[illegible]白布ハ[illegible]而行之」註「[illegible]」古今集、十九、誹諧「人コフル、事ヲオモニニ、になひモテ、アフゴナキコソ、ワビシカリケレ」(二)轉ジテ、身ニ引受ク。負擔ス。セオフ。

になむすび (名) [蜷結] 紐ノ結ビ方ノ名。[illegible]

ににん (名) [二人] (一)人ノフタリ。[illegible] 上[illegible]二人[illegible] (二)[illegible]母。兩親。二親。品字箋(清、[illegible])「二人、父母也」 [illegible]

ににんのり [illegible] [二人乘] 人ヲ乘スル車ニ、フタリ[illegible]。[illegible]

にぬ (名) [布] ぬの(布)ニ同ジ。古ヘノ大キサノ布。ブヒノリ。

東國ノ方言ナリト云フ。萬葉集、十四[illegible]

にぬき [illegible] [煮貫] (一)[illegible] 十分ニ煮ルコト。(二)水ヲ多クシテ飯ヲ炊ギ、其精液ヲ取リテ、糊ナドノ用トセシモノ。[illegible]

にぬ・く [illegible] [illegible] 能ク煮ル。十分ニ煮ル。

にぬども (名) [布鞆] (にぬ(布)ノ條ヲ見ヨ) 布ヲ延ベタルガ如ク、ナビキタル雲。萬葉集、十四[illegible]

にぬし (名) [荷主] 荷物ノ持主。貨物ノ主。又、荷物ノ送主。貨主

にぬり (名) [丹塗] 丹、又ハ、朱ニテ、塗ルコト。又、ソノ塗リタルモノ。又、にぬり。古事記、中[illegible]り(左丹塗)ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、九[illegible]八川ノ、左丹塗ノ、大橋ノウヘユ[illegible] 山城風土記[illegible]

にねん (名) [二念] 二念。二様ニカクルコト。他ノ事。外ノ思。餘念。[illegible]

にの (名) [illegible] みの(蓑)ノ通音。[illegible]

義、十二月、裏、蒲乃、字書、頭「一、蒲乃」萬葉集、十二「久方ノ、雨ノフル日ヲ、我ガ門ニ、蓑笠キズテ、キタル人ヤ誰レ」

にのあし (名) 〔二足〕 足歩ミノ二足目。踏ミ出スコト、タメラフコト。義、ハ、躊躇スルコト、タメラフコト。謠曲、同性寺合戰、近松作、五、武道ニ鈍キクレナク、鐵鋼夷閣怖シテ、二の足ニナルトコロヲ疊ミヨセ、追散ラシト」 二の足踏む、トハ、タメラフ、躊躇スル意。小町踊、寛文、立圃)冬「二の足モ踏まデ來ニケリ一時雨」

にのいた (名) 〔二板〕 鎧ノ名所。よろひ(鎧)ノ條ヲ見ヨ。保元物語、二、白河殿攻落事「眞向内冑ハ恐レモ候、障子ノ板カ、栴檀、弦走カ、胸板ノ眞中カ、草摺ナラバ、一ノ板共、二の板共、矢ツボヲタシカニ承ッテ仕ラン」

にのいと (名) 〔二絲〕 三味線ノ第二ノ絲。一ノ絲ヨリハ細ソク、三ノ絲ヨリハ太キモノ。略シテ、二。

にのうで (名) 〔二腕〕 肩ト肘トノ間。カヒナ。今、又、カタカヒナ。オクノテ。臑或ハ、臂ナリト云フ。倭注倭名抄、二、四手足「臑、宜、訓三加比奈、俗所謂、二乃宇天是也」陰德太平記、十一、南條吉田合戰之事「南條門後守ハ、左ノ手ノ鍔リケレバ、二の腕二三ヶ所ノ鍔ヲ纏ニテ結付、右ノ手ニテ右衛ヲ抜テ働ケルニ、元來、聞ユル大カナレバ、兩手ニテ突クヨリモ猶輕ゲ也」

にのかたな (名) 〔二刀〕 二度目ニ、キリツクル刀。保元本、下、重盛、五、本、曾爾守殿ヲ討給事「一ノ刀ニハ、手カヒヲ突キ、二の刀ニハ、クケキヲ突キ、三ノ刀ニハ、甲ノ内ヘ突キ入レタリ」

にのかっせん (名) 〔二合戰〕 二度目ノ合戰。甲陽軍鑑、九、下、品第卅七、校迦羅合戰三勝チ、二度、村上と、の合戰ニ勝チ、二度」

ニノカハリ
にのかはり (名) 〔二替〕 芝居ノ正月興行ノ狂言(春狂言)ノ稱。前年ノ顔見世ノ狂言ヲ初トスレバ云フ。三月與行ノ狂言ヲ、三ノ替ト云フ。古今役者大全、一、顔見世ノ故實、二の替リノ風流「二の替リトテ、初狂言ノ次ノ春狂言ヲ、一年中ノ月アテノヤウニシテ、必ズ契情事ヲスルハ、都島大夫座ニ初マル由、あやめ草ニ見エタリ」

にのく (名) 〔二句〕 次ニ言ヒ出スコトバ。次ノ言。「二の句ガ繼ゲヌ」

にのくび (名) 〔二首〕 戰ヲ開キテ、第二番目ニ打チ獲タル敵ノ首。又、二番首(一番首ニ對ス) 松原自休手錄(元和)「御宿越前ハ野本右近討三取二の首一備三上覽二」

にのぜん (名) 〔二膳〕 本膳ノ外ニ、ソレニ添ヘテ出ス膳。ほんぜん(本膳)ノ條ヲ見ヨ。大内家壁書「御臺ハ、本膳ニ御サイ六ツ、二の膳ニ御サイ三ツ」傾城酒呑童子(享保、近松作)四「能ノ囃ノト、榮耀榮華ニ誇ッテ、朝晩、王樣ノ上ル樣ナ、二の膳、三ノ膳」

にのたい (名) 〔二對〕 ひがしのたい(東對)ノ條ヲ見ヨ。宇津保物語、國譲、上「ヒンガシノ一ノ對ヲ彈正宮、廊ヲマウチギミノ座ニ、二のたい、廊カケテ、トコロドコロニセラレタリ」貞丈雜記、十四、家作「一ノ對、二の對、又一ノ對、二の對トモ書クナリ、たノ字スミテ云フベシ、ニゴルハ惡シ、是ハ女中部屋ノ事也」

にのたち (名) 〔二太刀〕 二度目ニ打チコム太刀。太平記、二、唐崎濱合戰事「二の太刀ヲ餘リニ強ク切ラントテ」

ニノツヅミ
にのつづみ (名) 〔二鼓〕 昔、雅樂ニ用キシ鼓。今、亡ビタリ。樂家錄(安部季尙)廿「舊記曰、二之鼓、革面徑九寸八分許、筒長一尺四寸許、口徑七寸二分許、云云、舊記未レ詳レ之」

にので (名) 〔二手〕 戰陣ニテ、先陣ノ次、即チ、第二番目ニ出ヅル軍隊。二番手。甲陽軍鑑、六、品第十四「一ノ手、二の手、旗本、後備」

にのはし (名) 〔二階〕 にゐ(二位)ヲ云フ。增鏡、第二、新島守

ニノヰ
くらゐ(位)ノ條ヲ見ヨ。

「文治元年、二のはしヲ上リ」

にのひと (名) 〔二人〕 古へ、宮中ノ席次ニテ、一の人(攝政、關白)ニ次グ人。榮花物語、一、月宴「九條殿、二の人ニテオハスレド」江談抄「一人有レ障不參之時、二人必被レ參詣」

にのほ (名) 〔丹穗〕 赤キ頰、頰紅ヲツケタルナリ。べに(紅)ノ條ヲ見ヨ。

紅顏 萬葉集、十五「吾ガ戀フル、丹穗ノ面ハ、今タカモ、天ノ河原ニ、石枕マク」同、十三「長歌、春サレバ、花咲キヲヲリ、秋ヅケバ、丹之穗ニモミヅ一少女ノ紅顏ニ」同、五「長歌、紅ノ面一云、爾能保奈須」

にのまち (名) 〔二町〕 (一)〔第二位ニタツモノ〕第二流。源氏、二、帚木「二のまちノ心ヤスキナル、ベシ」 (二) 第二流ノ町ノ稱。其繁華ナル第一流ノ町ヲ、一の町ト云ヘバナリ。

ニノマイ
にのまひ (名) 〔二舞〕 (一) 舞樂ニ、案摩ト云フ舞アリ、其次ニ舞フ舞ノ名。可笑シキ舞ナリ。ツガヒマヒ。答舞。あま(案摩)ノ條ノ(一)ヲモ見ヨ。大鏡、下、道長「二の舞ノ翁ニテコソハ侍ラメ」 (二) 〔轉ジテ、何ニモアレ、人ノ後ニ出デテ、其眞似ヲナスヲ云フ語。(多ク惡シキ意ニ云フ)〕 シリウマ。榮花物語、廿七、衣珠「留シ心ヲノドメムナド思ヒテ、月日ヲ過シ侍ル程ニ、先ゼラレ奉リ侍リヌレバ、今ハ二の舞ニテ、人ノ御マネヲスルニナリヌベキガ、イトロ惜シキナリ」盛衰記、四十六、土佐房上洛事「和殿トテモ打解ク可キニ非ズ、九郎カ樣ニ、二の舞モヤト存ズレバ、上洛ノ事、能ク相計ラフ可シ」

にのまる (名) 〔二丸〕 まる(丸、名詞)ノ條ヲ見ヨ。寛永日記、十二年四月二十二日「二の丸石垣、御普請被二仰付二」豐臣鎭記、五、福島與二高森伊豫守二合戰之事「追手ノ門ヲ破ラレ、二の丸マデ入リタリシヲ、淺殘トシテ防ギ退ケ、甲ノ丸ニ引籠リメ」

にのみち (名) 〔二道〕 福ト貧トノ、二ツノ道。

にのみや (名) 〔二宮〕 諸國ニテ、一ノ宮ニ次グ神社。いちのみや(一宮)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。延喜式、神名帳、篇三「思智、御食津神也、富國二宮」國花萬葉記、十三、美作、一之宮ニアリ、倭字多院寬安四年九月、此所ノ遷民ニ告アルニヨリ、伊勢ノ内宮ヲ此所ニ勸請スト、云云」

にのや (名) 〔二矢〕 二度目ニ射ル矢。オトヤ。又、嚆、嚆的ニ、第二次ニ發スル言語、資力等ヲ云フ。保元物語、二、白河殿夜討事「一ノ矢ヲバ射サセンズ、二の矢ヲ番ハン所ヲ射落トサンズ」「二の矢ヲ繼ガセヌ」「二の矢ヲ繼グ」

ニワ
には (名) 〔庭〕 〔土間ノ略轉〕 (一)〔堂屋階前ノ平地ノ稱〕 倭名抄、十五居宅具「庭、邇波、屋前也」雄略紀、元年三月「女子過レ庭、日大連ハヤ」續日本紀「庭訓、日、云云、娜阿麻哩、ウミ」神樂歌、酒殿「酒殿ハ、今朝ハナ掃キ清メ、庭ニ、著」萬葉集、十九「吾ガ園ノ、李ノ花カ、庭ニ散ル、ハダレノ未ダ、殘リタルカモ」 (二) 後世、專ラ、前栽、園生ナド、家ノ前後ノ空地ニ、樹木、草石、築山、泉水ナド景色ヲ作レル處。園池。 (三)〔廣キ場所。(陸海共ニ)事ニ用キル空地。場。場所。〕 名義抄「場、ニハ」 宇治拾遺、十二、十九條「大ナル矢ニテ射レバ、其庭ニ射殺シツ」 夫木抄、四、花「ニシノ山 御法ノには二、散ル花ヲ、吉野ノミネノ、嵐ニゾミル」保元物語、一、主上三條殿行幸事「合戰ノには二罷出テテ、何ソ命ヲ存ゼン、只今昇殿仕ッテ、冥途ノ思出ニセン」盛衰記、二、額打論事「其庭ニシテ手向スベキニ、臆病ノ至リカ」古事記、上、十九「鴈庭者、於向股蹈那豆美」(四)〔海上、平ニシテ、船ヲ乘出スニ好キ所。船漕ギテ行ク海面。〕 萬葉集、三「氣比ノ海ノ、庭好クアラシ、苅薦ノ、亂レ出ツル見ユ、海人ノ釣船」 同、三「長歌「アヘテ漕ギ出ム、爾波モ靜ケシ」 同、十一「庭淨ミ、沖ヘ漕出ヅル、海舟ノ、梶執ルマナキ、戀モスルカモ」同、十五「武庫ノ海ノ 爾波好クアラシ、漁ス

ル、海人ノ釣舟、浪ノ上ニ見ユ」(五)家ノ内ノ土間。(六)タタキノ土間。

にはいし(ニワ・イシ) (名) [庭石] 庭ニ風致ヲ添フルタメ、適宜ノ處ニ据ヱ置ク石。又、庭ニ敷ク石。タテイシ。敷石。飛石。

にはいぜ(ニ…) (名) [二杯酢] 醤油ヲマゼタル酢。又、酢ニ醤ヲ混ゼタルモノ。三杯酢ノ砂糖ノマジラヌモノ。

にはう(ニ・ホウ) (名) [二方] (一)二ツノ方向。摂子法言「二方分當、一牽一合」下賓、當[illegible]良[illegible]買之[illegible]道三[illegible] (二)物ヲ載スル臺。下ノ出典ヲ見ヨ。[illegible]「二方ノ事、三方ノ如クニシテ、スカシヲ前後ノ二方ヘ明ケタル也、云云、其品[illegible]ハラズ」

にはうめ(ニワ・ウメ) (名) [庭梅] 灌木ノ名、庭際ニ植ウ。高サ二三尺、枝條、叢生ス、葉ハ、すもも(李)ニ似テ小サク、互生ス。春、葉ノ間ニ、五瓣ノ花ヲ開ク、大イサ四分許リ、白花、紅邊、甚ダ美シ。實圓ク、四五分、仲夏ニ熟シテ赤シ、食フベシ。ハネズ。東京ニ、コウメ。郁李

にはか(ニワカ) (名) [俄] (速戯ノ義、俄戯ト云フガ成語ナルベシ。出典ヲ見ヨ」 俄遊ビ。俄狂言。酒席ノ間ナドニテ、俄ニ[illegible]ヲ思ヒツケテ、當意即妙、滑稽ノ事ヲ演ジ戯ズルモノ。江戸、新吉原ニテハ、男女藝者、郭内ノ街頭ヲ演ジ行ク、コレ毎年、秋期、陰暦八月ニすコナハルルナリ、元、大阪ヨリ流行シ來リシモノトゾ。[illegible]三年、大[illegible]俄[illegible]ヘ、[illegible]レモ[illegible]、[illegible]モ[illegible]、[illegible]一[illegible]、[illegible]葦美トナレリ、云云、夜ニ入リテ、他所ヨリ席へ、燈[illegible]タリケレバ」

[illegible]籠、作リ物、俄ナド、アマタ持來リ、夜明ルマデ、京町中ノ老若男女、群聚スルコト夥シ」孔雀樓筆記(明和[illegible]「[illegible]、[illegible]ノにはかト[illegible]ハ、[illegible]始マリテ三十年バカリニナルベシ、[illegible]、[illegible]エテ、寛永四年[illegible]ス」

にはかあめ(ニワカ・アメ) (名) [俄雨] 夏ノ空ナドニ、俄ニ烈シク降リ來ル雨。急雨。驟雨。[illegible]林[illegible]「[illegible]」ト、[illegible]門、驟雨、ニハカアメ」

にはかきゃうげん(ニ…) (名) [俄狂言] 前前條ニ同ジ。

にはがくる(ニワ・ガク・ル) ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [庭隠] 庭ノ樹蔭ニ隠レテアリ。六帖、六「咲キハテテ、今ハアラジト、思ヒシヲ、庭がくれテモ、[illegible]ヒスルカナ」

にはかだいじん(ニワカ・ダイジン) (名) [俄大盡] にはかぶげん(俄分限)ニ同ジ。

にはかだうしん(ニワカ・ドウシン) (名) [俄道心] 俄ニ發心シテ、出家シタルモノ。俄坊主。

にはかちゃうじゃ(ニワカ・チョウジャ) (名) [俄長者] にはかぶげん(俄分限)ニ同ジ。[illegible]西[illegible]「[illegible]人求メテ、中ヲ[illegible]ヘバ、[illegible]クレテ、二重家ニ百兩包ニシテ、アキドモナク[illegible]ヘ置ク、[illegible]ノ[illegible]俄長者トナリヌ」

にはかに(ニワカ・ニ) (副) [俄] 「新(ニヒ)かこノ意カ」 急ニ。思ヒ設ケズニ疾ク。ヤニハニ。ニハカニ。[暴遽] 字鏡七十六「揌、卒爾也、爾波加爾」名義抄「俄、ニハカニ」 雄略紀、五年二月「俄(ニハカニシテ)而見レ逐[illegible]、從[illegible]」[illegible]

にはかばうず(ニワカ・ボウズ) (名) [俄坊主] [illegible]ノ事ナレバ、[illegible]、其時ノ塊レデハナシ」

にはかぶげん(ニワカ・…) (名) [俄分限] 俄ニ大利ヲ得テ、富ヲナセルモノ。デキブゲン。ニハカダイジン。[illegible]ニハカチャウジャ。[illegible]保、近松作)上、昨日マデ燃ゼセリシタ[illegible]レ、俄富限ニ見ヲルル通リ」

にはかブシン(ニワカ・ブシン) (名) [俄普請] 俄ニ普請ヲナスコト。又、[illegible]請、[illegible]。[illegible]アハ[illegible]、[illegible]調、婦ノ方ニハ衣類ノ揃へ」

にはかまど(ニワ・カマド) (名) [庭竈] 古へ、一月一日ヨリ三日マデ、新ニ庭ニ竈ヲ築キ、一家ノモノ、[illegible]、武[illegible]ト、[illegible]、十、[illegible]ミナラズ、イヅコニモアリ、日次記事云、[illegible]火[illegible]上、[illegible]五節句(貢家)ト云フモノニ、[illegible]、在[illegible]常ノ[illegible]ノ外ニ、庭ニ新敷[illegible]ノ火ヲサナル[illegible]ニ措ル、寸法大小[illegible]ノ[illegible]ト、[illegible]ノ[illegible]トノ文字入テハ[illegible]ナリ、[illegible]ニテ、[illegible]民ヤ(伯[illegible]、の二作ル)、[illegible](芭蕉、元禄[illegible]作句、今モ[illegible]ハ、正月庭火トテ、コノ事アレド、庭ニテ焼火スルノ[illegible]

にはかをどり(ニワカ・オドリ) (名) [俄踊] [illegible]

にはき(…) [illegible]

にはきぐさ(ニワキ・グサ) (名) [庭起草] 芭蕉ノ異名。[illegible]

カソト云フト同ジク、[illegible]ハ、[illegible]、[illegible]ニヨリテ名付タルニヤ、[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]如、[illegible]ト云フ、[illegible]ニ[illegible]ツル[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]

にはく(…) (名) [二白] 一に、五に、伸ニ同ジ。二ニ、[illegible]中、[illegible]、全部ニ五リテ、白キ斑アルモノ。二本白ト云フ。

にはくさ(ニワ・クサ) (名) [庭…] (庭掃く草ノ義、[illegible]セアルカ」又、ヤトクサ。ははきぐさ[illegible]同ジ。[illegible]佐、[illegible]」[illegible]、[illegible]円、[illegible]ニハクサ、[illegible]

にはくなぎ(…) (名) 火繞ノ語ニ同ジ。日本[illegible]神[illegible]、[illegible]作、四、アノ[illegible]ヲにはくなぎ[illegible]タキ、[illegible]」

にはくなぶり(…) (名) [illegible]ノ義、[illegible]尾ヲ搖リシテ庭中ニ翔ル[illegible]、石搖ト云フモ是レナリ」 せきれい(鶺鴒)ノ古名。[illegible]ニハクナブリ、[illegible]抄[illegible]八[illegible]

にはげた(ニワ・ゲタ) (名) [庭下駄] 庭園ヲ歩ムニ用ヰル下駄、村ノ中ニ緒ヲ横ニカケタリ、多クハ粗ニシテ雅致アリ。

にはこ(ニワ・コ) [illegible] 夫婦トナリテ生ミタル子ノ、代代、其家ニ仕フルモノノ稱。[illegible] 家人ニ同ジ。[illegible]

にはこ（ニワ・コ）（名）〔庭籠〕庭ニ置ク鳥籠。書言字考節用集、二、「庭籠 ニハコ」好色五人女（西鶴）[illegible]鳥ヲ入ルヽ[illegible]ヨリ庭ノ籠カニ、繁花ムラムラトシテ、其ノ奥ニ庭籠アリテ」

にはこぐさ（ニワコグサ）（名）橘ノ異名。其條ヲ見ヨ。[illegible]莫傳抄 佞面「ウエオキシ、頃ハ昔ノ、庭古草、咲ケル花ノミ、今ノ思ヒヲ」

にはこぶ（ニワ・コブ）（名）〔庭瘤〕廚ノ土間ナド、人ノ多ク出入スル地面ニ、凹凸ノ多ク生ジタルモノ。千步筆

にはさき（ニワ・サキ）（名）〔庭前〕室ノ前ニ近キ庭ノ部分。エンサキ。テイゼン。[illegible]庭前ニ、白ク咲イタル、椿カナ」

にはざくら（ニワ・ザクラ）（名）〔庭櫻〕（一）庭ニ植ヱテアル櫻。家櫻。後拾遺集、[illegible]、春、下、庭ニ櫻ノ多ク散リテ侍リケレバ詠メル「風ダニモ、吹拂ハズバ、庭櫻、チルトモハルノ、ウチハミテマシ」近江御息所歌合[illegible]本ニ「朝ゴトニ、我ガハク宿ノ、にはざくら、花散ルマデハ、手モフレデ見ム」新六帖、六、庭櫻、カヘリマサル、宿ノ、庭ざくら、ウツロヒヌトモ、誰レニツゲマシ」（二）にはうめ（庭梅）ノ一種。苗大キクシテ、高サ四五尺、叢生ス。葉モ長大ナリ。葉ニ先立チテ、千瓣ノ白花ヲ開ク、やまぶき（山吹）ノ花ニ似テ、稍、小サシ、實無シ。多費郁李 書言字考節用集、六、「庭櫻 ニハザクラ、時珍云、木不二甚高一、春初開二白花一、繁英如レ雪」

にはし（ニワ・シ）（名）〔庭師〕にはつくり（庭造）ニ同ジ。

にはしく（ニワシク）（副）〔俄〕急ナル狀ヲ云フ語。ニハカ。急。萬葉集、廿、三十二「シホ舟ノ、ヘコソ白波、俄シクモ、オフセ給フカ、オモハヘナクニ」

にはすずめ（ニワ・スズメ）（名）〔庭雀〕〔常ニ庭ニ降リ來ル雀〕庭の鳥、庭くなぶり、庭たたきノ類〕雀ト云フニ同ジ。古事記、下（雄略）[illegible]一爾波須受米、ウズスマリヰテ、ケフモカモ一

にはせん（ニワ・セン）（名）〔庭錢〕（一）遊里ノ語。（昔時、京都ニテ）正月、三月、五月、七月、九月ノ五節句ヲ、約束スル情人ヨリ、祝儀トシテ出ス錢。壽門松（享保、近松作）「コノ銀ヲ此儀ニ濟ケバ揚屋ノ庭錢、ホコリニナ、テスタリマス」好色一代男（天和、西鶴）八「太夫樣ヨリ宿ヘノ時服、庭錢撒キ散ラス、禿、ヤリ手、御供ノ男ドモ、上ヲ下ヘト返ス」（二）江戶時代、宿場ニテ荷物ノ附ケ替ヘニ、人馬ノ出拂ヒテナキトキ、問屋場ニ留メ置ク料トシテ、駄賃以外ニ取ル錢。倉敷料ノ如キモノナリ。享保集成絲綸錄、廿二、正德二年四月「中山道筋ニ而荷物附ケ替ヘ候節、人馬無レ之由ヲ申シ、問屋場ニ而留メ置キ、駄賃錢之外ニ庭錢ト申シ、臨時之賃錢取リ候所モ有レ之由」同卷「右荷物送リ候節、人馬差支無レ之時モ、庭錢等取レ可レ取、荷物留置候樣成義、堅仕間敷候事」

にはそ（ニワ・ソ）（名）〔甘遂〕又、にひそ。草ノ名。苗、一莖ニシテ、高サ一尺許リ、莖ノ端ニ五葉ヲツク。莖、短小ニシテ、葉ニ汁アリ、根ノ皮、赤ク、肉白ク、連珠ヲナス。花ハ黄紫色ナリ。東京ニテ、夏燈臺ト云フ。本草和名、上、二十八「甘遂、爾波曾、一名、爾比曾」（倭名抄、廿九モ同ジ）

にはたき（ニワ・タタキ）（名）〔庭敲ノ義カ〕せきれい（鶺鴒）ノ一名。其條ヲ見ヨ。イシタタキ。夫木抄、廿七、庭叩「女郎花、多カル野邊ノ、庭たたき、サガナキコトナ、人ニ敎ヘソ」拾遺愚草、上「サラヌダニ、霜ガレハツル、草ノ葉ヲ、マヅ打ハラフ、庭たたきカナ」

にはだち（ニワ・ダチ）（名）〔庭立〕（一）庭ニオリ立ツコト。新六帖、二「主殿ノ、トノヰヤツレノ、庭立ニ、麥カシコキ、朝ギヨメカナ」（二）庭立ノ奏ノ略。禁中ノ庭上ニ立チテ、音樂ヲ奏スルコト。カヘリダチ。袖中抄、十七「モロコシノ、昨風ノエニモ、ミテキアレバ、ワガスベカミノ、にはだちノヨサ、顯昭云、庭だちトハ、[illegible]ノオリ給フ事カ、云云、又、カヘリダチトモ云ヘリ」江家次第、六、二、[illegible]句儀「御幼主之時、無二官奏并庭立一」

にはたづみ（ニワ・タズミ）（名）〔行潦、庭潦〕〔俄泉ノ意ト云フ、或ハ云フ、場立水ノ義ト〕雨ノ降リテ、俄ニ地上ニ溜リテ流ルル水。倭名抄、一、雲雨類「潦、爾八太豆美、雨水也」名義抄「潦、ニハタツミ、アマ水」書言字考節用集、一、乾坤門「潢潦（毛詩註、雨水流二於地一者）、行潦（朱子云、道上無レ源之水也）、ニハタツミ」萬葉集、七、三十六「甚ダモ、降ラヌ雨故、庭立水、イタクナ行キソ、人ノ知ルベク」大職冠（正德、近松作）「例ヘバ日月ヲ潦ニ、映リテ光ヲ增ストハ妾ガ事、今生ニ思ヒ置ク事ナシ」此語、流るト云フ語ノ枕詞ノ如クニ用ヰタリ。萬葉集、二、廿九「御立セシ、島ヲ見ルトキ、庭多泉、流ルル淚、止メゾカネツル」同、十九、三十二長歌「爾波多豆美、流ルル淚、止メカネツモ」

にはちそば（名）〔二八蕎麥〕蕎麥切ノ一盃ノ價、二、八、十六文ノモノト云フ。或ハ云フ、蕎麥粉二分ニ、饂飩粉八分ヲツナギニマゼテ、製シタル名ナリトモ云フ。衣食住記（天明）「享保半比、神田邊ニテ、二八即座ケンドント云フ、看板ヲ出ス」先哲叢談（原稿）「今市中ニ、二八ト看板ヲ出スコトハ、細井廣澤ガ、神田參河街ノ粋屋ト呼ブ蕎麥麵ヲ賣ル者ヘ、一蕎麵ヲ錢十六文ニ定メシ時ニ、松板ヘ二八ト價ヲ書與ヘシヨリ始マル」

にはちやう（ニワ・チョウ）（名）〔庭帳〕昔、年貢ノ事ヲ記シタル帳。畫敎類典、五ノ三、上、地方「御年貢納候庭帳ニ、其時之總百姓ニ判形致サセ、名主方ヨリ小百姓前ヘ手形ヲ出シ、以來迄、出入無レ之樣可レ仕」

にはつくり（ニワ・ツクリ）（名）〔庭作〕園庭ノ樹石、築山、泉水ナドヲ構ヘ造ルコト。又、ソレヲ業トスル者。ウエキヤ。ニハシ。場師 林駝師 新六帖、二、[illegible]シメテ、カヒコソナケレ、苔ノ上ノ、庭ヅクリセヌ、山ノ岩カドニ

にはつつ（ニワ・ツツ）（名）〔地膽〕〔場之蠱カト云フ〕蟲ノ名。つちはんめう（土斑猫）ノ古名。倭名抄、十九ケ蟲豸類「地膽、仁波豆豆」名義抄「地膽、ニハツツ」

にはつとり（ニワ・ツ・トリ）（枕）〔庭津鳥〕〔人家ノ庭ニ居ル意。野つ鳥（雉）ノ如シ〕鷄ノ枕詞。家鳥、鷄トモ云フ。後ニハ、にはとりト云ヒテ、直ニ鷄ノコトトスルモ、コレニ起ル。古事記、上、三十九「爾波都登理、迦祁ハ鳴ク」繼體紀、七年八月「[illegible]播都等利、[illegible]ハ鳴クナリ」萬葉集、七、四十「庭津鳥、可鷄ノ垂尾ノ、シダリ尾ノ、長キ心モ、オモホヘヌカモ」同、十三、二十五長歌「家鳥、可鷄モ鳴ク、左夜ハアケ、此夜ハアケヌ、入リテアサネム、此戶アケサセ」同、十二、二十八「物思フト、寐エズ起キタル、朝明ニハ、ワビテ鳴クナリ、鷄サヘ」

にはとこ（ニワ・トコ）（名）〔接骨木〕〔みやつこ木ノ音轉。其條、及、接骨木ノ條ヲ見ヨ〕ミヤツコギ。タヅノキ。ヤマタヅ。キタヅ。灌木ノ名。深山ニ多ク、又、人家ニモ植ウ、高サ丈餘、枝條四方ニ茂リ、幹ネヂレテねぢき（綟木）ノ如シ。葉ハ、藤ニ似テ大キク、鋸齒アリ、對生ス。春、枝頭ニ、小白花簇リ開クコト、傘ノ如シ。實、小豆ノ如ク、秋冬、紅ニ熟シテ春ニ至ル。康頼本草、上、五十一「接骨木、美也川己支、ニハトコ」運步色葉集「接骨木、ニハトコ」

にはとり（ニワ・トリ）（名）〔鷄〕〔庭つ鳥、鷄ト云フ枕詞ヲ、直ニ鳥ノ名トス〕木名、カケ。又、クタカケ。異名、ナガナキドリ。トキツゲドリ。アケツゲドリ。ユフツケ

ドリ。ウスベドリ。ネザメドリ。ハタタトリ。鳥ノ名。常ニ人家ニ畜フ、人ノ知ル所ナリ。高ク飛ブコト能ハズ、雄ニ赤キ冠アリ、又、距アリテ、鬪ヲ好ム。毛色種種ナリ。聲立テテ鳴クヲ、時ヲ告グルト云フ。肉、幷ニ、卵ヲ食用トシテ、滋養ノ功アリ。舶來ノ同類ノモノニ對シテ、地鳥ト云フ。又、シャモ、チャボ、ウコッケイ、タウマル等アリ、各條ニ詳ス。本草和名、下[illegible]「[illegible]」神樂歌、[illegible]「にはつ[illegible]ハ、カケロト鳴キヌナリ」神代紀、下[illegible]「以[illegible]」[illegible]皇極紀、七年八月、[illegible]、天皇[illegible]、拔、毛羽、[illegible]、金頭、令[illegible]之、[illegible]云、[illegible]「[illegible]」[illegible]河百首「[illegible]ノ、[illegible]クルナリ、[illegible]ノ、[illegible]カハシ、[illegible]ヲナラベテ」[illegible]集、大ノ戸ノ、アクルヤヲシキ、にはどりノ、ナカヌアシタモ、ナクゾナリヌル」夫木抄、廿七、雞「ネノミナク、宿ノ[illegible]、閑キナレテ、昔ニツカヘヌ、トシゾヘニケル」

にはとり-びと（ニワトリ-ビト）(名)［鷄人］けいぢん（鷄人）ノ訓讀。其條ヲ見ヨ。宗長日記「今夜ヨリ、鷄人ヲ、我ガタメハ、曉人ト、イハントゾ思フ」

にばな (名)［煮端］茶ヲ煮タル初ニ、香味ノ最モ好キ程ノ稱。煎茶ノ煮バナ。デバナ。イレバナ。

にはなひ（ニワナイ）(名)［新嘗］次條ノ語ニ同ジ。神代紀、上[illegible]「新嘗[illegible]」天武紀、下、五年九月「爲二新嘗一ト[illegible]郡一也」

にはなへ（ニワナエ）(名)［新嘗］〔齋場の饗ノ約ナラム〕にひなへ（新嘗）ニ同ジ。ニハナヒ。ニハノアヒ。神代紀、上[illegible]「當二新嘗之時一」

にはのあひ（ニワノアイ）(名)［新嘗］前條ノ語ニ同ジ。[illegible]

にはのこと（ニワノコト）(名)［[illegible]］七ヶニ、[illegible]ノ[illegible]向ニ[illegible]立ツ[illegible]。

にはのり（ニワノリ）(名)［[illegible]］[illegible]場ニテ馬ヲ[illegible]リ馴ラスコト。[illegible]

にはのをしへ（ニワノオシエ）(名)［庭教］親ノ教ヘ。家ノ教へ。家庭ノ教ヘ。家學。庭訓。[illegible]リケル程ニ」[illegible]キ、若バノ草ノ、ミドリヨリ、庭のをしへノ、跡ゾタガハヌ」同、十六、雜上「聞キオキシ、コトノハゴトニ、忘レヌハ、庭のをしへノ、秋ノ白露」續古今集、十六、哀傷「昔ヲゾナク、彌生ノ花ノ、カレシヨリ、をしへの庭ノ、跡ヲナガメテ」

にはび（ニワビ）(名)［庭火］門内屋前ノ庭ニテ、燒ク薪火。多クハ、御神樂ナドノ時ニ、禁中ノ庭上ニ燒ク篝火ヲ云フ。［庭燎］[illegible]「[illegible]庭燎、巧俳優相與歌舞」狹衣、三、下[illegible]「御神樂ノ夜ニモナリヌ、例ノ上達部、[illegible]上人ナド參リ集ヒテ、御前ノ庭火オドロオドロシウテ、畫ヨリモサヤカナリ」[illegible]人、[illegible]ノ[illegible]ノ笛ヲ、[illegible]ノ笛ト云フ。右京大夫集「聞クカラニ、イトド昔ノ、コヒシクテ、庭火ノ笛ノ、音ニゾナキヌル」

にはふぢ（ニワフジ）(名)［庭藤］いはふぢ（岩藤）ノ異名。其條ヲ見ヨ。

にはみぐさ（ニワミグサ）(名)［庭見草］はぎ（萩）ノ異名。[illegible]ホヌカル、庭見草、ヲリニ立チヨル、人ノウトサヨ」

にば・む（ニバ・ム・メ・マ・ミ・メ）[illegible]ニブ色ニナル。鈍色[illegible]

にはん (名)［二判］(一)俗ニ、事ヲ二ツニ判ジテ、一決セザルコト。事ノ不定ナルコト。[illegible]
(二)昔、武家ニテ、譜代ト抱人トノ間ノ人ノ格式。

にばん (名)［二番］〔習ヲ一トシ、愚ヲ次トス、二の舞ナドノ意モアルベシ〕紀伊國ノ紀三井寺ハ、西國[illegible]ノ順禮[illegible]札所[illegible]醜キヲ二の町ト云フモ、是レナルベシ」オロカモノノ異名。ニノキレ。バカ。アハウ。紀三井寺。[illegible]傳）一「二番ニカマヘラレタル增殿」浮世物語[illegible]還日錄（延寶）「御心きみおてるナリ、サレド[illegible]寶永、西鶴「ツネヅネおはうノ紀三井寺ザヤ、[illegible]當チャト云フ」

にばん-ぐさ (名)［二番草］いちばんぐさ（一番草）ノ條ヲ見ヨ。

にばん-くび (名)［二番首］にのくび（二[illegible]）[illegible]首ニ同[illegible]

にばん-め (名)［二番目］(二)芝居ニ云フ語。狂言ノ第二ノ幕。

にはも-せ-み（ニワモ-セ-ミ）(副)［庭狹］庭モ狹クナル[illegible]エナガラ、散ルゾ花ノ、シルシナリケル」玉葉集、一、春、上「庭もせみ、引キツラナレル、[illegible]人ノ、[illegible]

にはや-なぎ [illegible] 草ノ名。[illegible]多シ。高サ六七寸、長キハ尺餘ニ至ル。葉ハ互生シ、はうきぐさ（帚草）ニ似テ、短ク厚ク、尖ラズ、深綠ナリ。莖ニ節アリ[illegible]シテ赤ミアリ、形、蓼ノ花ニ似タリ。ウシグサ。タデ[illegible]ザサ。[illegible]萹蓄[illegible]「にはやなぎ、[illegible]

にはやま（ニワヤマ）(名)［庭山］庭ニ築キタル山。庭前ニ造リタル假山。ツキヤマ。

にひ（ニイ）(接頭)［新］〔新ふ田カト云ノ〕新ラシキ。アラタナル。[illegible]

にび-いろ (名)［鈍色］喪服ノ染色ノ名。薄黑キモノ。[illegible]

り」轟、四十、幻ノ女ニナモ、カノ面影見ノ、いろカヘメセアリ、[illegible]十九、[illegible]いろノハ[illegible]シナガラ、出家ヲバトドメケレドモ」 吉部秘訓抄、文治[illegible]色、[illegible]色、又、[illegible]色、[illegible]同以通用歟」

にひくさ（名）新草 春先ニ、生ヒ出デテ、マダイクバクモタタヌ草。ワカクサ。 萬葉集、十四、東歌「オモシロキ、野ヲバナ燒キソ、フル草ニ、仁比久佐マジリ、オヒバオフルガニ」 夫木抄、三十二、若草「吉野ノ、ヤケフヲ見レバ、イト早ミ、にひ草モエテ、淺綠ナル」

にひくはまゆ（名）新桑繭 其年、第一ノ桑繭。今年、收穫シタル初繭。 萬葉集、十四「筑波根ノ、爾比具波麻欲ノ、衣ハアレド、キミガミケシシ、アヤニキホシモ」 續古今集「今年生ノ、にひくはまゆノ、カラ衣、千代ヲカケテゾ、祝ヒ初メケル」 永久四年百首、御調物「にひくはまゆノ、絲ヲモテ、クル手モタユク、供ヘツル哉」

にひさきもり（名）新防人 新ニ、遣サレタル防人。 萬葉集、廿、廿九「今カハル、爾比佐伎母利ガ、フナデスル、ウナバラノ上ニ、波ナサキソネ」 同、七、廿「コトシユク、新島守ガ、麻衣、肩ノマヨヒハ、タレカトリミム」

にひし・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）新 あたらし（新）ニ同ジ。 神代紀、下、卅「故別作新宮」 欽明紀、五年三月「新[illegible]」 私記「[illegible]」 推古紀、十六年四月「[illegible]」 天智紀、三年十二月「栗太郡人磐城村主殷之新婦、床席頭端、一宿之間、稻生而穗、其旦垂穎而熟、明日之夜、更生一穗」 物類稱呼、五、言語「アタラシイト云フ事ヲ相摸ニテ、にひしいト云フ、タトヘバ、新宅ナドにひしいト云フ」

にひしぼり（名）新搾 新ニ釀造シタル酒。新酒。

にひしまもり（名）新島守 新シクナリタル島守。新ニ來リタル島守。 增鏡、第二、新島守「我コソハ、にひしまもりヨ、隱岐ノ海ノ、荒キ波風、心シテ吹ケ」 新千載集、十八、雜、下「スクモタク、新島守ガ、夕煙、消エヌニアヘズ、身ヲコガシツツ」 夫木抄、三十二、衣「アフ事ハ、にひしまもりガ、肩ニキル、麻ノ衣ノ、マドホナレトヤ」

にひそ（名）廿遂 草ノ名。にはそ（廿遂）ニ同ジ。

にびたし（名）煮浸 干鮎ナドヲ水ニテ洗ヒ、鍋ノ中ニダシ昆布ヲ敷キテ、其上ニ並ベ、水ヲ多ク入レ、二三時間、トロ火ニテ、度度、湯ヲサシテ煮テ、柔ラカクナリタルトコロニテ、酒ト醬油ト砂糖トヲ、薄加減ニ加ヘ、又、ヨク煮テ、頭ヨリ骨マデ柔カクナリタル時ニ、下シテ器ニ盛リ、汁ヲ十分カケタルモノ。

にひな（名）新字 新ニ作リタル文字。 天武紀、下、十一年三月「命境部連石積等、更肇俾造新字一部四十四卷」

にひなひ（名）新嘗 次條ノ語ニ同ジ。

にひなへ（名）新嘗 〔爾雅、釋天篇「春祭曰祠、夏祭曰礿、秋祭曰嘗、冬祭曰蒸」注「嘗、嘗新穀也」又、白虎通「嘗者、新穀熟而嘗之」トアルヲ採リ用ヰラレタルナリ。然レドモ、にひなへノなへハのあへノ約ニテ、嘗ムルノ義ニアラズ、神嘗モ然リ。あへ（饗）ノ條ヲモ見ヨ〕（一）古ヘハ、朝家ノミナラズ、民間ニモセシ饗ナリ。イタク齋ミ謹シミテ、神ニ祭ルヲ主トシテ、其餘ヲ人ニモ饗ヘ、自ラモ食シタルナリ。後世、九月日待ト云ヒ、村村ニテ鎭守ノ神ノ緣日ニ祝ヒ饗スルコトアルハ、其遺風ナリ。日ノ神ヲ祭ル意ニテ、日待ト云フナルベシト云フ。後代、踐祚ニテ行ハルルヲ、特ニ大嘗會ト云ヒ、毎年行ハルルヲ新嘗會ト云ヒテ、別テドモ、上古ハ通ハシ云ヒテ、同ジ事ニ二ツノ稱アリシナリ。又、にひなひ、にはなへ、にひなへトモ云フ。 古事記、下、雄略、三十「日ノ御子ニ、[illegible]爾比那閉屋ニ、オヒダテル、百タル、ツキカエハ」 神代紀、上、廿「新嘗」私記「爾比乃安比」 大嘗祭祝詞「皇御孫命ノ大嘗、聞食サム爲ノ故ニ」（二）新穀ヲ天皇ノ聞シ召スヲ主トス。聞シ召サムトスルニツキテ、先ヅ神ニ奉リタマフニ因リテ祭ト云フ。 萬葉集、十四、廿「誰レゾ此ノ、屋ノ戸オソブル、爾布奈未ニ、吾ガ背ヲ遣リテ、齋フ此戸ヲ」 常陸風土記、筑波郡「新粟（新米）ノ初嘗、家內諱忌セリ」「新粟嘗」

にひなめ（名）新嘗 〔新饗ノ約轉。ロニ嘗ムル意ト思ヒ紛フベカラズ、嘗ハ、支那ノ秋祭ノ名ナルヲ借レルナリ〕 又、にひなへ。宮中ニテ行ハセラルル神事。古ヘハ、陰暦十一月、中ノ卯ノ日（今ハ陽暦、十一月廿三日）ニ、其年ノ新稻ヲ始メテ神ニ奉ラセタマヒ、主上、御躬ラモ聞シ召ス。猶、次條、及、次次條ヲ參見セヨ。 名義抄「新嘗、ニヒナメ」 皇極紀、元年十一月「天皇御新嘗、是日皇太子、大臣、各自新嘗」 年中行事歌合（貞治）「にひなめヤ、昨日ノ初穗、ヲサメオキ、今日ミキ給フ、雲ノ上人」

にひなめさい（名）新嘗祭 大祭ノ一。大嘗祭ヲ行フ年ヲ除キ、毎年十一月二十三日、宮中神嘉殿ニテ行ハセラル。猶、前條、及、次條ヲ參見セヨ。

にひなめまつり（名）新嘗祭 又、しんじやうさい。當年ノ新穀ヲ以テ酒饌ヲ作リ、天照大神ヲ始メ奉リ、普ク天神地祇ニ供ヘ給ヒ、天皇御躬ラモ聞シ食シ、諸臣ニモ賜ハル式典。しんじやうゑ。又、即位ノ年、一代一度行ハセラルルヲ、大嘗祭ト云フ。猶、前條、及、前前條ヲ參見セヨ。 塵添壒囊抄、七、第三十七條「新嘗會事、十一月中旬卯日也、云云、此節會ヲにひなめまつりト申也、今年ノ初稻ヲ、神神ニ供シ奉ラセ給ナルベシ、御代ノ始ニアルヲバ、大嘗會ト云フ、年毎ニ侍ルヲバ、新嘗會ト申也」

にひのみ（名）新居 新シキ住居。 倭名抄、九、讚岐國「阿野郡新居、爾比乃美」 地理志料「伊勢、壹志郡民大地新家」同「阿波、勝海郡新居、爾比乃井（今、新居見村）」

にひばり（名）新治 （一）新ニ造リ拓キタルコト。新墾スルコト。 倭名抄、五、八、東海郡「常陸國、新治、爾比波里」（二）新ニ治リタル田。近ク開墾シタル田、畠、又、道路ノ稱。新田。新墾。 顯宗即位前紀「出雲者新墾、新墾之十握稻之穗」 萬葉集、十二、二「新治ノ、今作ル路、清ケクモ、聞エケルカモ、妹ガウヘノ事」

にひまぐさ（名）蘭茹 ねあざみ（蘭茹）ニ同ジ。 倭名抄、廿、十、草類「蘭茹、爾阿佐美、一云、仁比萬久佐」 本草和名、上、四十「蘭茹、爾阿佐美、一名、爾比萬久佐」

にひまくら（名）新枕 男女、始メテ同衾スルコト。 伊勢物語、廿四段「アラタマノ、年ノ三トセヲ、待チワビテ、タダコヨヒコソ、にひ枕スレ」 續千載集、十三、戀、三「忘ルナヨ、結ブ一夜ノ、にひまくら、夢バカリナル、契リナリトモ」 出觀集（覺性法親王）「サヲ鹿ノ、妻モヨバヌニ、シルキカナ、床ノ山べニ、新枕セリ」

にひまゐり（名）新參 新ニ仕フルモノ。イママヰリ。新參。 後撰集、一、春、上「アル人ノモトニ、にひ參リノ女ノ侍リケルガ」

にひみや (名) 【新宮】 新ニ造リタル宮。[illegible]

にひむろ (名) 【新室】 新ニ作リテ成レル家。又、新シク造レル室。多ク、其移居ナドニ云フ。新室ノ成レル時ニハ、神ヲ祭リテ祝フ。コレヲ新室遊ト云ヒ、ソノ神事ノ直會ノ祝宴ヲ、新室宴ト云フ。[illegible] 廿七年十二月 [illegible] 萬葉集、十一「新室ノ、壁草刈リニ、オハシタマハネ、草ノゴト、ヨリアフヲトメハ、公ガマニマニ」同、同「新室ヲ、フミシヅノ子ガ、手玉鳴ラスモ、玉ノゴト、照リタル君ヲ、内ニト申セ」同、十四「爾比牟呂ノ、蠶時ニ至レバ、ハタススキ、穂ニデシキミガ、見エヌコノゴロ」「新室宴一新室遊ビ」

にひむろあそび (名) 【新室遊】 前條ヲ見ヨ。

にひむろうたげ (名) 【新室宴】 前前條ヲ見ヨ。古事記、中(景行)「到於熊曾建家、[illegible]」

にひも (名) 【新裳】 新シキ裳。[illegible] 長歌 [illegible] ニ、造リオケル、ユヱヨシ聞キテ、知ラネドモ、にひもノゴトモ、ネナキツルカモ」

にひや (名) 【新家】 新シク別レタル家。シンヤ。シンケ。別家。(静岡)

にひゃくとをか (名) 【二百十日】 〔支那ニテ、冬至ヨリ一百五日ニ、疾風甚雨アリ、寒食ストアル、同義ナリ〕 暦ニ、立春ヨリ二百十日目ニ當ル日ノ稱。[illegible] 此頃、早稲ノ花盛リナリ。[illegible] 暦ヨリ載ス、八朔ノ祝日ヲ荒日トスル [illegible] ナリ。更ニ、十日ヲ經テ、中稲ノ花盛リノ候ヲ、二百二十日ト云フ。此間、動モスレバ風雨起リ、一年中ノ最大厄日トシテ、農民ノ恐ルル候トス。[illegible] 七月、二百十日、立春ヨリ二百十日メヲ云フナリ、今日ノ風ヲ恐ルルハ、二百十日ハ、早稲ノ花ザカリ、二百廿日ハ中稲、二百卅日ハ、晩稲ノ花盛リナリ、是ヨリ [illegible] 實ニナルユヘ、風吹キテモ稲ニサハラズ、云云」もさの衣 [illegible] 二百十日モ [illegible] ナシ」

にひゃくはつか (名) 【二百二十日】 前條ヲ見ヨ。[illegible]「[illegible] 晩稲ノ花、盛リトス」

にふ (名) 【入】 に、ぢゃう(入聲)ノ略。[illegible] ん(韻)ノ條ヲ見ヨ。「平、上、去、入」

にふ (名) 【二府】 左近衛府ト、右近衛府トノ稱。このゑふ(近衛府)ノ條ヲ見ヨ。

にぶ (名) 【壬生】 みぶべ(壬生部)ノ條ヲ見ヨ。

にぶ (名) 【二分】 國司ノ目ノ異稱。租米 [illegible] 守ハ五分、介ハ四分、掾ハ三分、目ハ二分 [illegible]

にぶ (名) 【乳部】 みぶ(乳部)ノ條ヲ見ヨ。

にぶいろ (名) 【鈍色】 にびいろ(鈍色)ニ同ジ。[illegible] 琵琶ヲ聞シ召ス事アリ、マダ色(喪服ヲ云フ)ナリケレバ、[illegible] キ合セヨリ、三曲マデ、數ヲ盡シテ彈キタリケル」

にふえい (名) 【入營】 兵士トナリテ、軍隊ノ營所ニ入ルコト。入隊。

にふかう (名) 【入寇】 [illegible]

にふかう (名) 【入貢】 [illegible]

にふかく (名) 【入閣】 國務大臣トナリテ、内閣ニ列スルコト。

にふがく (名) 【入學】 [illegible]

にふかん (名) 【入関】 [illegible]

にふかん (名) 【入監】 にふごく(入獄)ニ同ジ。「入監者」

にふがん (名) 【入眼】 (一)[illegible](入眼)、及、[illegible](入眼)ノ條ヲ見ヨ。(二)いれめ(入眼)ニ同ジ。義眼。

にふがん (名) 【入龕】 死體ヲ浴シテ、龕中ニ納ムルコト。[illegible]

にふきん (名) 【入金】 [illegible]

にふぎん (名) 【入銀】 (一)前條ノ語ノ [illegible]

[illegible]

にぶきん (名) 【弐分金】 古キ金貨ノ名。[illegible] 長サ六分 [illegible]

にふきゃう (名) 【入京】 京師ニ入ルコト。[illegible]

にふぎょ (名) 【入御】 [illegible]

にふくつゐ (名) 【二幅對】 掛物ノ二箇、揃ヒテ對ヲナスモノノ稱。[illegible]

にふくゎ (名) 【入火】 [illegible]

にふくゎい (名) 【入會】 會ニ加ハリテ、ソノ會員トナルコト。

にふくゎん (名) 【入棺】 [illegible]

ニックヮン。ニクヮ。ニクヮン。納棺。名目抄「入棺、ニフクヮン」……十二、五……ソノ程ハ、入棺ト云フコトシテゾオハシマサセ給ヒケル」大江俊光記「寶永六年十二月十七日、酉下刻崩之由申渡有、廿二日、表向入棺ノ沙汰ナリ」

にふ-くゎん（ニュウ-カン）（名）〔入觀〕 佛教ノ語。吾人ノ散亂セル心ヲ靜止シテ、諸法ノ理ヲ觀照スルコト。

にぶ-けう-ぢゅ（ニブ-キョウ-ジュ）（名）〔二部教授〕 小學校ニテ、教室、又ハ、教員ノ不足ナドノタメニ、其授業ヲ午前ト午後トニ分チ、一部ノ兒童ヲ午前ニ、一部ノ兒童ヲ午後ニ教授スルコト。

にふ-げん（ニュウ-ゲン）（名）〔入眼〕 ぢゅげん（入眼）ノ條ヲ見ヨ。

にふ-こ（ニュウ-コ）（名）〔入庫〕 倉庫ニ預ケ入ルルコト。クライレ。コレニ對シテ、倉庫ヨリ物ヲ出スコトヲ出庫ト云フ。 文同、……、何等……」

にふ-こ（ニュウ-コ）（名）〔入戸〕 〔戸ハ、戸籍ノ意〕 にふせき（入籍）ニ同ジ。

にふ-こう（ニュウ-コウ）（名）〔入貢〕 外國人ノ入朝シテ、貢ヲ奉ツルコト。 周禮、秋官……小行人「令諸侯春入貢、秋獻功、王親受之」杜甫、洗兵馬……寸地尺天皆入貢、奇祥異瑞爭來送」……續日本紀……

にふ-こう（ニュウ-コウ）（名）〔入寇〕 侵入シテ、アダスルコト。來リテ、攻メ入ルルコト。

にふ-こく（ニュウ-コク）（名）〔入國〕 領主ノ、始メテ其領地ニ入ルコト。クニイリ。入部。就封

にふ-ごく（ニュウ-ゴク）（名）〔入獄〕 獄屋ニ繫セラルルコト。監獄ニ拘禁セラルルコト。入監。入牢。 漢書、匡衡傳「匡衡坐……大赦之後、姦邪不……今日……殺、……法、……入獄、……之、未得其……也」

にふ-さつ（ニュウ-サツ）（名）〔入札〕 いれふだ（入札）ニ同ジ。 …比事（元祿、……）二「銀子用意ナクバ、家屋敷賣拂ヘト仰セ出ダサレ、其日入札ニシテ、一貫二百目ニ賣リ立テ」

にふ-じ（ニュウ-ジ）（名）〔入寺〕 （一）てらいり（寺入）ニ同ジ。（二）寺ニ入リテ住僧トナルコト。 盛衰記、十四、三井寺……事「親王ノ御入寺ハ、寺門ノ……、衆徒ノ面目也、云云、就レ中、高鳥入レ懐人倫憐ムト云フ事アリ、況、宮ノ御入寺ヲヤ」

にぶ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔鈍〕 （一）〔利ニ〕 刃物ノ、善ク切レズ。切レ惡シ。 枕草子、十、百廿六段「紙アマタオシ重ネテ、イトにぶきカタナシテ切ルサマ、ヒトヘダニタツベクモ見エヌニ」徒然草、二百廿九段「ヨキ細工ハ、少シ鈍き刀ヲ使フト云フ」 （二）覺ルコト遲シ。ヌルシ。ノロシ。 徒然草、百八十五段「馬ヲ引キ出ダサセ、云云、足ヲノベテ閾ニ蹴アテヌレバ、是レハにぶくシテ過チアルベシトテ、乘ラザリケリ」

にふ-しき（ニュウ-シキ）（名）〔入色〕 出仕ノ人員ニ入ルモノ。 類聚三代格、十七、弘仁十三年三月廿七日、太政官符「白丁入於内考、自入色至初位、每三十人加二一階一」

にふ-しつ（ニュウ-シツ）（名）〔入室〕 又、にっしつ。（一）古ヘ、貴顯ノ門跡トナリテ、寺院ニ入ラセラルルコト。（二）其道ノ奧儀ニ達スルコト。 論語、先進篇「子曰、由也升レ堂矣、未レ入二於室一也」トアルニ本ヅク。（三）禪家ノ語。師ノ室ニ入リテ、道ヲ問フコト（コレ學人ノ疑ヲ決セムガタメナレバ、久參ノ者ニ非ザレバ許サズ） 敕修百丈清規、入室「入室者、師家……學子、……其……、……（四）佛教ノ語。……弟子トナリテ、其教法ヲ受クルコト。 ……八「……師……、云云、……入室、遂傳……至レ夜、……命……侍者……坊……」太平記、一、……「……ノ御時ヨリ、妙法院ノ門跡ニ御入室アッテ、釋氏ノ教ヘヲ受ケサセ給フ」

にふ-しん（ニュウ-シン）（名）〔入津〕 にふつ（入津）ニ同ジ。

にふ-しゃ（ニュウ-シャ）（名）〔入社〕 社ニ加ハリ入ルコト。新ニ社員トナルコト。

にふ-しゃう（ニッ-ショウ）（名）〔入聲〕 漢字音韻ノ四聲ノ一。ゐん（韻）ノ條ヲ見ヨ。

にふ-じゃく（ニュウ-ジャク）（名）〔入寂〕 〔寂滅ニ入ル義〕 佛家ニテ、高僧ナドノ死ヌルコト。圓寂。遷化。

にふ-しゅ（ニュウ-シュ）（名）〔入手〕 手ニ入ルコト。我ガ物トナルコト。又、受取ルコト。落手 楊萬里詩「君詩如二精金一、入手……重」

にふ-じゅく（ニュウ-ジュク）（名）〔入塾〕 塾ニ入リテ寄宿スルコト。塾生トナルコト。

にふ-せき（ニュウ-セキ）（名）〔入籍〕 緣組ナドニヨリテ、他家ノ戸籍ニ加ハリ入ルコト。入戸。

に-ふだ（名）〔荷札〕 荷ニ付クル札。荷主ノ名、送リ先、又ハ、在中ノ品ナドヲ記ス。俗ニ、誤用シテ、エフ。

にぶ-だい（名）〔二分代〕 〔二分ノ代リナルヨリ云フ。二分ノ條ヲモ見ヨ〕 さくゎん（目）ノ代リニ、內官ノ內舍人、助、允、屬ノ中ヲ申任スルコト。 除目抄、內給以下、外國年給「目一人」注「二分代、若レ申二任内舍人一」

にふ-たう（ニュウ-トウ）（名）〔入湯〕 湯ニ入ルコト。浴。入浴 又、溫泉ニ浴スルコト。

にふ-たう（ニュウ-トウ）（名）〔入唐〕 にったう（入唐）ニ同ジ。 ……、入唐、ニフタウ」

にふ-だう（ニュウ-ドウ）（名）〔入道〕 （一）世ヲ捨テテ佛ノ道ニ入リ、修行スルコト。 ……「（後……、構……之二人、道……尼」寶積……、三十六「以二淨信心一、於二佛法中一、出家入道」 平家物語、一、禿童事「淸盛、云云、病ニ侵サレ、存命ノ爲ニ、忽ニ出家入道ス、法名ハ淨海トコソ付キ給ヘ」 （二）佛ノ道ニ入レル人ノ稱。但シ、三位以上ノ人ニ限リテ稱ス。其以下ハ、新發意トストゾ。然レドモ後ニハ、區別ナク云フ。「……寺入道前關白（……道長）」……」 （三）坊主頭ノ人ヲ罵リテ云フ語。（四）俗ニ、僧形ノ妖怪ノ名。（五）マハリミチ。ヨリミチ。 中務內侍日記「事ハテヌレバ、ナシ原ヘカヘリヌ、ツイデニ、チト、にふだうシテ、京ヘマヰリツキヌ」

にふ-だう（ニュウ-ドウ）（名）〔入堂〕 佛堂ニ入ルコト。又、佛參ヲスルコト。 庭訓往來、十二月「宮寺……、寺寺入堂等、佛前……、……佛事」

にふだう-ぐも（ニュウドウ-グモ）（名）〔入道雲〕 クモノミネ。僧形ノ怪物入道ノ如ク見ユル雲。

にふだう-しんわう（ニュウドウ-シンノウ）（名）〔入道親王〕 親王ニシテ入道シタル御方。親王ノ宣下アリタル後ニ入道シタル皇族。又、皇子ノ落飾ノ後、親王ノ宣下アリタルモノヲ、法親王ト申ス。 新例抄、上「入道親王始、大……信……」

にふだう-ぜんか（ニュウドウ-ゼンカ）（名）〔入道禪下〕 〔禪下ハ禪師、又ハ、參禪セル人ニ對スル敬稱〕 入道シタル禪下。 紀略、後篇、十三、萬壽四年

十一月十八日「中宮[illegible]入道[illegible]、[illegible]行[illegible]佛法ニ」

にふだうむし (ニユウドウ・ムシ) (名) 入道蟲 (一)にしどち(…)ノ異名。(二)…(駱駝)ノ異名。

にふぢやう (ニユウヂヤウ) (名) 入定 (一)禪定ニ入ルコト。[illegible]出定入定、恆闕ニ妙法ニ」(二)佛家ノ語。死スルコト。[illegible]「…不レ能レ害、亦不ニ命終ニ」 榮花物語、十五、疑「高野ニ登ラセ給ヒテ、大師ノ御入定ノサマヲ覗キ見奉ラセ給ヘバ、御髪青ヤカニテ、云云」 元亨釋書、一、[illegible]作[illegible]消息[illegible]、消然入定」

にふぢやう (ニユウジヨウ) (名) 入場 其場ニ入ルコト。 東京夢華錄(宋、程大昌)「[illegible]入場、[illegible]作進退、蹬迟舉止」

にふつ (ニユウツ) (名) 入津 船ノ津ニ入ルコト。ニフシン。入港。進港。

に-ブツ (名) 二佛 佛家ノ語。釋迦如來ト、彌勒菩薩ト。 謠曲、[illegible] 共ニ[illegible]五百歳ノ佛法ヲ守ルベシト、堅ク契約シ給ヒテ、二佛東西ニ去リ給フ」 孕常盤(貴永、近松作)三「斯ヲ見上ゲテ高念佛、立留リテメ念佛、コレゾ二佛ノ中間ナリ」

にふてう (ニユウチヨウ) (名) 入朝 朝廷ヘ參ルコト。來朝シテ參内スルコト。 史記、南越尉佗傳、「[illegible]兵臨境、[illegible]入朝、其後亡[illegible]、願[illegible]女ニ」

にふてう (ニユウテウ) (名) 入超 「輸入超過ノ略」 外國貿易ニテ、輸入ノ超過スルコト。

にふない (ニユウナイ) (名) 入内 (一)ぢゅだい(入内)ニ同ジ。(二)古ヘ、外位ヨリ進ミテ、内位ニ入リシコト。 [illegible]甲テ、姓ノイヤシキ者ハ、直ニ從五位下ニハ敍シ侍ラテ、先ヅ外階ニ敍シテ、サテ從五位下ニ敍スル也」

にふないすずめ (ニユウナイ・スズメ) (名) 入内雀 〔にふない(新嘗)ハ、新稻ヲ人ヨリ先ニ食ムノ意カト云フ〕 甲斐、美濃ニ、秋、頃、田ノ面ヘ群リ來リテ稻ヲ食ム鳥ヲ、にふないすずめト云フ、雀ノ類ナリ。此鳥、雀ヨリ小サク、背ノ下ニ少シ白キ毛アリ。(實方中將ノ入内雀ハ、[illegible]ノコトナリ)

にぶね (名) 荷船 荷ノ運送ニ用キル船。貨物船。貨船。

にふねん (ニユウネン) (名) 入念 念ヲ入ルルコト。ネンイリ。又、丁寧ナルコト。

にふばい (ニユウバイ) (名) 入梅 つゆ(梅雨)、及、ばいう(梅雨)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]節ニ入テ、壬ノ日ヲ入梅トシ、六月ニ入テ、壬ノ日ヲ出梅トス、是レ今、曆家ノ用ヰル所ナリ」

にふひ (ニユウヒ) (名) 入費 イリメ。金錢ノ費エ。入用。費用。

にふぶ (ニユウブ) (名) 入部 入府 [illegible]其領地ニ入ルコト。 [illegible]

にふぶ (ニユウブ) (名) 入夫 女戸主ノ家ニ、入婿トナレル人。イリビト。イリウド。

にふぶ (ニユウブ) (名) 入峯 修行ノタメ、山伏ナドノ高山ニ入ルコト。又、專ラ、みねいり(峯入)ヲ云フ。おほみねいり(大峯入)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]

にふブツ (ニユウブツ) (名) 入佛 始メテ佛像ヲ寺ニ迎ヘ入ルルコト。[illegible]ニ迎ヘ入ルルコトヲモ云フ) 其儀式ヲ入佛式ト云ヒ、其時ノ供養ヲ、入佛供養ト云フ。

にふぶみ [illegible]

にふぼく (ニユウボク) (名) 入木 じゆぼく(入木)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

にぶむ (ム・メ・マ・ミ・メ)(自動、四) 鈍 鈍色ニナル。ニバム。 榮花物語、三十、鶴林[illegible]ヨト云フ實[illegible]下リタレバナリ」

にふめつ (ニユウメツ) (名) 入滅 [illegible] 佛家ノ語。[illegible]ノ死ヲ云フ。死スルコト。(多ク釋迦ノ死ニ云フ) 大藏法數[illegible]「…今不ニ入滅ニ」 保元物語、一、法皇崩御事「カノ二月中ノ五日ノ入滅ニハ、八[illegible]ハ、九重ノ上ホ悲シミアヘリ」 …、右膳ノ二ツノ…アリ、ワレ…、御入滅ノ儀ニマカセテ、右膳ニシテ滅ソトルベシ」

にふめん (ニユウメン) (名) 入麪 〔醬油ヲ入レテ煮[illegible]〕 [illegible]

「入麪、ニウメン」 中御門宣胤卿記、文龜[illegible]年[illegible]月

にふもん (ニユウモン) (名) 入門 (一)門ノ中ヘ進ミ入ルコト。(二)師ノ門ニ入リテ、弟子トナルコト。デシイリ。入學。 [illegible] (三)初メテ物學ビノ便リトスル書物。テビキ。初歩。

にふよ (ニユウヨ) (名) 入輿 コシイレ。ヨメイリ。[illegible]

にふよう (ニユウヨウ) (名) 入用 (一)用キル所アルコト。(二)[illegible]入費。費用。

にふよく (ニユウヨク) (名) 入浴 にふたう(入湯)ニ同ジ。

にふらい (ニユウライ) (名) 入來 [illegible]ニ同ジ。

にふらう (ニユウラウ) (名) 入牢 牢ニ入レラルルコト。[illegible]

にふらく (ニユウラク) (名) 入洛 [illegible]ニ同ジ。 [illegible]

[illegible]

…オゾクナル。

にふゐん(ニュウ・イン) (名) [入院] (一)僧ナドガ寺院ニ入リテ、其住持トナルコト。ぢゅゐん(入院)ノ條ヲモ見ヨ。(二)治療ヲ受クルタメニ、病院ニ入ルコト。

にへ(ニ・エ) (名) [新饗] 〔にひあへノ約〕新物(ニヒモノ)ヲ神ニモ人ニモ饗(アヘ)スルコト。 大嘗祭祝詞「皇御孫命乃大嘗聞シ食サム爲ノ故ニ」 萬葉集、十四ノ「ニホドリノ、葛飾早稲ヲ、饗(ヘ)ストモ、ソノカナシキヲ、トニタテメヤモ」 隣里相集リテ、饗スルコトト云フ)

にへ(ニエ) (名) [贄苞苴] 〔前條ノ語ノ轉。初(ハツ)物(モノ)ヲ贈ルヨリ起ル〕(一)朝廷、又ハ、神ナドニ貢獻スル種種ノ土産ノ物ノ稱。貢物。供物。 易林節用集(慶長)上、器財門「贄、ニヱ、賽、供物」 大和抄、三十三、魚鳥、タムクベキ、神ノにへゾト、打ヨセテ、オマヘノカハラ、ヤナウチテケリ」 (二)會見ノ時ノ禮物。人ニ贈ル物。ツト。苞苴(アグマキ)。おほにへ(大贄)ノ條ヲモ見ヨ。 儀禮、士相見禮「士相見之禮、贄、冬用雉、夏用腒」 字鏡、廿一「贄、備戶、又、足止一」 天治字鏡、十一「贄、備戶」 神武紀「苞苴擔之子、苞苴擔、此云二阿?毛知一」 大鏡、上、師尹「人ノ奉リタル贄ナド云フモノハ、御前ノ庭ニオカセ給ヒテ、夜ハ贄殿ニ收メ」

にべ (名) [鮸] 魚ノ名。いしもち、くち、ノ成長シタルモノ。長サ三尺許リ、形、あまだひ(甘鯛)ニ似テ長シ。背ニ、紅ト淡黑トノ斑アリテ、腹ハ黄ナリ。又、首ニ白石ノ如キ耳骨(ジコツ)、二ツアリ。腹中ノ白鰾(フエ)ニテ鰾膠(ニカハ)ヲ製ス。ハラアカ。 倭名抄、十九「石首魚、仁倍、一云、久智」 字鏡七「鮸、石首魚也、爾戶」

にべ (名) [鰾膠] 〔鰾(フエ)の膠(ニカハ)ノ略カ、或ハ、粘(ネバ)ノ轉カ〕(一)鮸(ニベ)ノ鰾ニテ製スル膠。或ハ、はもノ鰾、又ハ、鯉ノ皮ニテモ製ス。物ヲ粘スニ、力、甚ダ強シ。(二)ツヤ。世辭。 淨瑠璃、鳴田川(享保、近松作)二「主人少将存ゼズ、此ノ儀止、國カド剛、多間ナリトモ言上ナリトモ遊バセ、苦シカラズト、詞ニにべモ輕薄モ、荒木ヲ假ニ投ケ出シタリ」 艷容女舞衣、文化、竹本三勝兵衛、酒屋の段「何時マテ云テモ返ラヌ事、口詞叩カズニ、早ウツレテ逝ッシャレ、逝ッシャレト、膠モシャクリモ納戶口、顏ヲ素向ケテ居タリケリ」

にへがり(ニ・エガリ) (名) [贄狩] 贄(ニヘ)ニ供スル鳥ヲトル鷹狩。 慈鎭鷹百首「にへがりノ、ヒナミノケフハ、來ニケリト、初トヤ出シノ、タカノカリギヌ」

にへざし(ニエ・ザシ) (名) [贄刺] はやにへ(速贄)ノ條ヲ見ヨ。

にへさに(ニエサニ) (副) [甚] 〔贄多(ニヘサハ)ノ略〕多(オホ)ク。多(サハ)ニ。ハナハダ。 神功紀、四十六年三月「吾國多(ニヘサニ)有二是寶一」 崇神紀、十七年七月「海邊之民由レ無レ船、以甚(ニヘサニ)苦二步運一」 肥後風土記「御船左右游魚多之、云云、以レ鉤釣レ之、多有レ所レ獲、即勅、云云、俗見レ多物一、即云二爾倍佐爾一、今所レ獻、魚甚多有」 神功紀、四十七年四月「新羅貢物者、珍異甚(ニヘサナリ)多」 景行紀、四十年十月「蝦虜甚多」

にへす(ニエス) (名) [新食] 春、田ヲ作ルコト。 易林節用集(慶長)上、言辭門「新食(ニエス)、春田作云(ヲフ)」

にべち (名) [二別] 名乘ノ上ノ字ヲ、常體ニ書キ、下ノ字ヲ、草體ニ記スコト。即チ、高方ト云フ名乘ノ、上ハ高トシ、下ハあトスル類ナリ。

にへどの(ニエ・ドノ) (名) [贄殿] (一)大嘗祭ヲ行ハセラルルトキ、悠紀(ユキ)、主基(スキ)ノ中ニアリテ、神供ヲ納ムル殿。 儀式、三、踐祚大嘗祭儀「織三間御贄殿一宇」 (二)古ヘ、禁中ノ内膳司ノ中ニアリテ、御贄ヲ納メ置ク所。 內膳司式「諸國所レ貢、云云、收二贄殿一」 西宮記、臨時八「贄殿在二內膳司一、太宰及諸國所レ貢贄、御厨、供物一」 (三)貴人ノ家ニテ、魚鳥ナドヲ納メ置ク所。又、物ヲ調理スル所。 播磨風土記、賀古郡「造二贄殿一之處、即號二贄田村一」 今昔物語、廿八、第三十語「宇治殿ノ盛ニ御マシケル時ニ參リテ、贄殿ニ居タル間ニ、云云、鯛ノ荒卷ヲ多ク奉リタリケルヲ、贄殿ニ多ク取リ置キケルニ、贄殿ノ預、云云」 大鏡、上、伊尹「人ノ奉リタル贄ナド云フ物ハ、云云、夜ハ贄殿ニ收メ、晝ハモトノ樣ニ取出テツツ」

にべ・な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [無膠] 世辭ナシ。愛相ナシ。又、ニベモナシ。

にへびと(ニエビト) (名) [贄人] 御贄ニ奉ルベキ魚鳥ナドヲ捕ル人。 神樂歌、薦枕「コモマクラ、タカセノ淀ニヤ、誰ガ仁戶比止(ニヘビト)ゾ、鴫ツキノボル、網オロシ、手綱(サデ)サシノボル」 播磨風土記、賀古郡「庭子記伊國人小玉申曰、我爲二天皇贄人一否」

にべん (名) [二便] 大便ト、小便ト。兩便。

にへんぜめ (名) [二遍責] 二度、繰リ返スコト。 曾我物語、七、母の勘當被レ許事「其膳調子ヲ踏ミカヘテ、別レノコトサラ悲シキハ、云云、ト二遍ぜめニゾ踏ミタリケル」

にほ(ニオ) (名) [鳰] 〔鳰ハ、入(ニフ)ヲにほニ用ヰ、入鳥ノ合字、(田鳥、鳴ノ類)水ニ入ル意〕にほどり。水鳥ノ名。今、かいつぶり(鸊)ト云フ。其條ヲ見ヨ。 倭名抄、十八羽族名「鸊鷉、爾保」 字鏡六「鸊鷉、爾保」 同五六「鳰、爾保」 下學集、上、氣形門「鳰、ニホ」 新撰六帖、六、冬「フミ見ケル、鳰ノアトサヘ、ヲシキカナ、氷ノ上ニ、フレル白雪」 袖中抄、十三「アフコトノ、ナギサニヨスル、にほノスノ、ウキミシヅミ、物ヲコソ思ヘ」

にほえ(ニオエ) (名) [匂] ニホフコト。 萬葉集、十九、長歌「春花ノ、爾太要(ニホエ)盛エテ、秋ノ葉ノ、ニホヒニ照レル、アタラ身ノ、サカリヲスラニ」

にぼし (名) [煮干] 煮テ干カスコト。又其モノ。今、專ラ、ひしおいわし(鯷)、又ハ、大鰹ヲ煮テ干シタルモノヲ云フ。

にほ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [匂] 匂ハス。色ヲツクル。ハデナル、色ヲツクル。 萬葉集、八廿「奈良山ノ、令丹(ニホ)モミヂ葉、手折リ來テ、今夜カザシツ、落(チラ)バ落ルトモ」 同、十六八長歌「住吉ノ、遠里小野ノ、眞榛モテ、丹穗之シ衣ニ」

にほてる(ニオ・テル) (枕) [鳰照] 〔次條ノ語ヲ訛リ、且、次條ノ出典ニ引ケル古事記ノ歌ヲ誤解シテ、用キル語ナリト云フ〕近江の湖(ウミ)ノ枕詞。

にほどりの(ニオ・ドリノ) (枕) [鳰鳥] 〔鳰ハ水ヲ潛リテ、水面ニ浮ビ出デザマニ、長ク息ツクト〕潛(カヅ)く、又、葛飾(カツシカ)ト云フ語ノ枕詞。 萬葉集、四五一「鳰鳥乃、潛ク池水、心アラバ、君ニ吾ガ戀フ、心示サネ」 同、十四九「爾保杼里能、可豆思加和世乎、ニヘストモ、ソノカナシキヲ、トニタテメヤモ」 古事記、中六十一「爾保杼理能、淡海ノ海ニ、潛キセナ吾(ワ)」トアルハ、句ヲ隔テテ、潛キニカカルナリ。

にほは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [匂] ニホヒヤカナリ。ホノカニ良シ。 源、三、空蟬五「目スコシハレタル心地シテ、鼻ナドモ、アザヤカナル所ナウ、ネビレテ、匂はしき所モ見エズ、云ヒ立ツレバ、惡キニヨレル形ヲ」

にほは・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [匂] (一)匂フヤウニナス。ニホハセル。ツヤヤカニナス。染(ソ)ム。 [映發] 萬葉集、十五廿「秋ノ野ヲ、爾保波須萩ハ、咲ケレドモ、見ルシルシナシ、旅ニシアレバ」 源、六、末摘花六十「テヅカラ、此ノ赤バナヲ、カキツケにほはして見給フニ」 (二)[香] 香(カ)ニ立タス。カヲラス。摺リテ染マシム。 [薫] 萬葉集、一廿七「草枕、旅行ク君ト、知ラマセバ、岸ノ黄土(ハニフ)ニ、仁寶播散(ニホハサ)マシヲ」 同、同廿五「引馬野ニ、匂フ榛原、入リ亂リ、衣爾保波勢、旅ノシルシニ」 (三)ホノメカス。ソレトナク云フ。 [諷] 源、三

十四、下、若菜、下「[illegible]ヘナナントダニ匂は、[illegible]ハサリケルツラサヲ、淺カラズ聞コエ給フ」同、四十六、總角「[illegible]ナマワッサ[illegible]ヘド、[illegible]ロフ[illegible]ゴト二匂はしオキテシカバト、姫君ハオボス」

✤**にほは・せる** (動) 匂 前條ノ語ノ口語。

にほはぬ・はな (名) 不匂花 雪ノ異名。新[illegible]、六、冬「[illegible]ヨモスガラ、降リツム雪ノ、[illegible]ケ、にほはぬ花ヲ、コズエニゾ見ル」新葉集、六、冬「春モ見シ、オナジ梢ト、ナリニケリ、匂はぬ花ノ、雪ノアケボノ」

にほひ (名) 匂 「韵ノ省文ノ添畫」(一)〔ニホフコト。氣色ノ映ユルコト。少女ナドノ美シク、氣色ノホノメキ立チテ見ユルコト。氣韵 源、一、桐壺「[illegible]ニカケル楊貴妃ノ貌ハ、云云、[illegible]リアリケレバ、イト匂ひナシ」拾遺集、十六、雜、春「[illegible]カサリシ、君ガ匂ノ、[illegible]シサニ、梅ノ花ヲゾ、今朝ハ折リツル」(二)〔色ノウツクシク、映ユルコト。色ノ光ルコト。艶。ウツクシキ艶ナリ。[illegible] 源、三十八、夕霧「アザヤカニ、物清ゲニ、若ウ盛リニ匂ひヲ散ラシ給ヘリ」萬葉集、八、長歌「咲キニケル、櫻ノ花ノ、匂ひ日ハモアナニ」同、十四「黄葉ノ、[illegible]日ハ[illegible]シ、[illegible]レドモ、妻梨ノ木ヲ、手折リカザサム」(三)〔香。カヲリ。香氣。薰 (四)〔ヒカリ。威光。源、四十五、椎本「人トナリ行ヒ齡ニ添ヘテ、官位、世ノ中ノ匂ひモ何トモ覺エズナン」(五)鍛ヒニ因リテ、刀ノ刃ノ膚ニ、研ギアゲテ生ズル艶アル文理。[illegible]ノ映エテ立ツモ、[illegible]刃ノ[illegible]ニモ匂ト云フ事アリ、燒刃ノ邊ニ虹ノゴトク見エテ、ホノボノト色ウスクナリタル所ヲ匂トイフ」(六)襲ノ色目ニ、紫にほひ、紅にほひ、萌黄にほひト云フハ、濃キ色ノ上重ニ、薄キ色ヲ取合ハスルニテ、餘韵ノヒビキ[illegible]心ナリ。(七)鎧ノ縅毛ニ云フハ、上ノ方ハ色濃ク、下ノ方次第ニ薄ク、果ハ白クナルモノナリ。萌黄匂、櫨匂ナド、[illegible]究ニ染羽ノ矢負、三所籐ノ弓ヲ持(平非木)」(八)薫物ニ云フハ、初、香高ク、末ニ至リテホノボノト、香、薄ルル如キモノナリ。

にほひ・あぶら (名) 匂油 [illegible]ニツクル油。胡麻ノ油ニ、白檀、丁子ナドヲ浸シテ作ル。慶安以前ノコトナリ。後ニ伽羅の油、起リタリ。香油。

にほひ・が (名) 匂香 〔匂ト香トヲ重ネタル語〕香ト云フニ同ジ。源、四十三、竹川「打チフルマヒ給ヘル匂ひ香ナド、ヨノツネナラズ」後撰集、一、春、上「梅ノ花、折レバコボレヌ、我ガ袖ニ、匂香移セ、家苞ニセム」

にほひ・かたしろ (名) 匂肩白 かたをどし(肩白縅)ニ同ジ。かたしろ(肩白)ノ條ヲ見ヨ。異本曾我物語、八「にほひかた[illegible]ろノ胴丸ニ」

にほひ・かひ (名) 匂貝 後世ノ貝張ノ如キモノニテ、匂袋トセシモノナルベシ。年中定例記(室町家舊記)正月十一日「御所御所ヘノ御ミヤゲハ、コギ板、コギノコ、匂貝已下、御臺様ヘモ同前」

にほひ・たばこ (名) 匂煙草 香ノ高キ煙草。[illegible]

にほひ・どり (名) 匂鳥 うぐひす(鶯)ノ異稱。藻日抄「雪モハヤ、消エガテニナル、山里ニ、メヅラメヅラニ、鳴クにほひどり」

にほひ・の・たま (名) 匂玉 あんぺら(阿[illegible])ノ條ヲ見ヨ。懸香トシ、又、數[illegible]

にほひ・ぶくろ (名) 匂袋 懸香ノ一名。丁子、麝香、龍腦、白檀ナドノ種種ノ香料ヲ、袋ニ包ミタルモノ。身ニ持ザ、物[illegible]

にほひ・やか・に (副) 匂 ツヤヤカニ。[illegible]かエ、美シゲナル人ノ、イタウ面痩セテ、イトアハレ[illegible]

にほ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 匂 〔萬葉[illegible]〕[illegible]ニ就キテ云フカト云フ。匂ハ韵ノ字ノ省[illegible]。(一)氣ニ映ユ、[illegible]シクホノメク。(色ニ、香ニ、聲ニ、景ニ)映發[illegible]モ」(二)映ラ、色ニ就キテ、ツヤヤカナ[illegible]

[illegible]

にほん (名) 二品 [illegible]

にほん [illegible] 日本 [illegible]

秋津島、敷島、浦安國、細戈千足國、[illegible]、日本國、日本、古傳[illegible]曰、云云、應享元年、云云、中國、日本、大八洲、國[illegible]日所出、以爲名」 公式令[illegible]御宇日本天皇詔旨[illegible]、以大事[illegible]御宇日本天皇[illegible]、云云」 孝德紀、大化元年七月、[illegible]御宇日本天皇[illegible]、云云」 山城神[illegible]寺、承久三年、安倍氏[illegible]願文「にほんコクノカミホトケ、云云」 同、[illegible]年某月、[illegible]願文「にほんコクチウノ大小ノジンギ」 菅浦小[illegible]六郎左衛門文書、元龜元年五月十八日、山中[illegible]後（秀吉公右筆）ノ消息「にっぽんノテイハウ（帝王）サマ」

にほん-いち（名）［日本一］ にっぽんいち（日本一）ニ同ジ。 義經記、一、常盤都落事「淸盛、常盤ヲ見給ヒテ、云云、常盤ト申スハ、日本一ノ美人ナリ」 [illegible]物語、一「[illegible]ニ、日本一ノカタメナリ、トクワタシ給ヘト云フト見テ」

ニホン・カイリユウ
にほん-かいりう（名）［日本海流］ くろしほ（黑潮）ニ同ジ。

にほん-ご（名）［日本語］〔外國語ナドニ對ス〕日本ノ國語。こくご（國語）ノ條ヲ見ヨ。

にほん-さいもん（名）［日本祭文］〔日本一流ノ祭文ノ義〕 ひたちさいもん（常陸祭文）ノ異稱。其條ヲ見ヨ。 嬉遊笑覽、六、上「常陸祭文ト呼ベドモ、水戸ナドニハナク、只筑波山下、邊鄙ノ在所ニアリテ、今ニ存ス、又ヲカシキハ、コレヲ日本祭文トモ稱スルハ、濱嶋庄兵衞ナドガ事ヲカタリテ、其言ニヨリテ日本左衞門カト思ヒシニ、サハアラデ、日本一流ノ祭文ト自稱セシナリ」

にほん-ざし（名）［二本差］（一）昔、武士ヲ稱スル俗語 刀ト脇差トヲ帶スレバ云ヒ、商人ノ旅行スルモノヲ、一本差（脇差バカリナレバ）ト云フ。（二）燒豆腐、又ハ、豆腐田樂ノ稱。

にほん-し（名）［日本紙］ 我ガ國、從來ノ抄造法ニヨリテ製シタル紙。和紙。

にほん-じん（名）［日本人］ 又、にっぽんじん。我ガ大日本國ノ人。大和民族。 宇治拾遺、十二、第十九話「人キキテ、國ノ守ニカウカウノ事ヲコソ、此日本人申セ、トイヒケレバ、カシコキ事カナ、ヨベトイヘバ」 同、同條「日本人ハ、我命死ナンヲモ露ヲシマズ、大ナル矢ニテイレハ、ソノ庭ニイコロシツ」

にほん-しゅ（名）［日本酒］ 我ガ國、從來ノ釀造法ニヨリテ造リタル酒ノ總稱。和酒

ニホン・トウ
にほん-たう（名）［日本刀］ 又、にっぽんたう。我ガ國、固有ノ鍛鍊法ニ依リテ作リタル刀。特色ハ、一刀兩斷、折レズ曲ラズ、鍛鍊ト云ヒ、切味ト云ヒ、世界無比ナリト云ハル。 歐陽修、日本刀歌「昆夷道遠不復通、世傳切玉誰能窮、寶刀近出日本國、越賈得之滄海東」 一宵話（文化、牧墨僊）二「日本刀ハ極メテ銳利、中國ハ及バザルナリ」

ニホン・ドウグ
にほん-だうぐ（名）［二本道具］ 江戸時代ニ、國持大名ナドノ行列ニ、持タスル槍ノ、二本一對ナルモノ。供連ノ最先、或ハ、先箱ノ次、又ハ、主人乘物ノ前後ナドニ立ツルアリ。コレニ對シテ、槍三本ヲ持タスルヲ、三本道具ト云ヒ、其家ハ、薩州ノ島津氏、仙臺ノ伊達氏ナリト。 好色二代男（貞享、西鶴）四「二本道具ノ大名モ、此ノ身ハ變ル事ナシ」

にほん-ふ（名）［日本府］ ヤマトノミコトモチ。古ヘ、我ガ朝ヨリ、韓國ノ任那國中ニ、建テ置カレタル官府。 欽明紀、八年十二月「[illegible]、云云、[illegible]任那日本府行軍元帥等ニ」

にほん-ぼう（名）［二本棒］（一）昔、武士ノ佩ビタル刀ト脇差トヲ、嘲リテ云フ。武士ヲ嘲リテ云フ語。又、（二）小兒ノ兩鼻孔ヨリ、青洟ヲ垂レ居ルモノヲ云フ語、コレ低能兒ノ象トス、[illegible]隨ヒテ大人ノ愚ナルモノヲモ稱ス。 [illegible]「二本棒、癡人ヲ云、洟タラシト云ニ同ジ」（三）女房ニアマキ亭主ヲ嘲リテ云フ語。

にほん-りき（名）［日本力］ 日本人獨得ノ力。 國性爺合戰（正德、近松作）千里竹「[illegible]我勇力、唐へ渡ッテ力始メ、神力マスマス日本力、刃デムカフハ大人氣ナシ」

ニオ・ヤカ・ニ
にほ-やか-に（副）、［句］ にほひやかに（句）ニ同ジ。 謡曲、加茂物狂「錦ヲサラス[illegible]ノ、[illegible]ノ衣ノ匂やかに、立チ舞フ袖モ梅が香ノ」

にまい-がた（名）［二枚肩］ 駕籠舁ノ二人ニテ差荷フモノ。其三人ニテ、カハルガハル舁クモノヲ、三枚肩ト云ヒ、其四人ニテ、二人ヅッ前後舁クモノヲ、四枚肩ト云フ。 松の葉（元祿）三、三谷がへり「二枚肩ニモエ乘ライテ、[illegible]編笠ウチカザシ」

にまい-ぐし（名）［二枚櫛］ 插櫛ヲ二枚、髮ノ前頂ト頂トニ插スコト。昔、多ク遊女ナドナシタリ。

にまい-ごし（名）［二枚腰］ 二重ノ腰（力士ナドノ）

にまい-じた（名）［二枚舌］ 彼此矛盾スル言ヲ吐クコト。一事ヲ二樣ニ言フコト。又、虛言ヲ吐クコト。 兩舌 居家必用「兩面二舌、飾[illegible]造[illegible]」「二枚舌ヲツカフ」

ニマイ・ビヤウブ
にまい-びやうぶ（名）［二枚屛風］ びやうぶ（屛風）ノ條ヲ見ヨ。

にまい-びらき（名）［二枚開］ くゎんおんびらき（觀音開）ニ同ジ。

にまい-め（名）［二枚目］（一）物ノ二ツ目ヲ云フ語。（二）役者、又ハ、遊藝スル者ノ、立者ノ次ニ位スル者、其次ナルヲ、三枚目、四枚目ナド云フ。

ニ・モウ
にまう（名）［二毛］ 頭髮ニ白毛ノ雜リタルコト。又、ソノ年輩ノモノ。斑白ノ人。 左傳、僖公廿二年、宋公及[illegible]人[illegible]子魚[illegible]云、公曰、君子不重傷、不禽二毛」注「二毛、頭白有二色」 [illegible]「太平時節身難遇、郎署何人[illegible]二毛」

ニモウ・サク
にまう-さく（名）［二毛作］ 一年ニ、同一ノ田畑ニテ、二度、耕作スルコト。コレニ對シテ、一度、耕作スルヲ、一毛作ト云フ。フタケサク。

ニモウ・ノ・シユン
にまうの-しゅん（名）［二孟旬］ まうしゅん（句）ノ條ヲ見ヨ。

に-まぜ（名）［煮雜］ 種種ナルモノヲ雜ゼテ煮ルコト。又、ソノ煮タルモノ。ゴッタニ。 雜煮 骨董羹 五侯鯖 陶[illegible]穀苑（[illegible]）原[illegible]先ニ「五侯鯖」ハ西京雜記ニ出タリ、雜物ヲ併セ煮ルヲ鯖トハイヘリ、スナハチ煎和ノ事ナリ」

に-まめ（名）［煮豆］ 大豆、黑豆ナドヲ、砂糖、醬油等ニテ味濃ク煮染メタルモノ。

にん（名）［任］ 身ニ任セラレタル職分。身ニ負ヘル務メ。役目。 論語、泰伯篇「士不可以不弘毅、任重而道遠、仁以爲己任、不亦重乎、死而後已、不亦遠乎」 韓詩外傳（漢、韓嬰）「任重道遠者、不擇地而息、家貧親老者、不擇官而仕」 後拾遺集、十七、雜三「陸奧ノ國ノ守ニ罷下レリケルニ、云云、任果テテ後ニ、其任ニ當ル」「我ガ任ニアラズ」

にん（名）［仁人］ 果ノ核ノ中ノ肉。其植物ノ、コレニ因リテ芽ヲ生ズルモノ。 [illegible]中記[illegible]、陸[illegible]「[illegible]」 倭名抄、十七、菓具「仁、子中之骨也、佐[illegible]、一名、人、[illegible]書云、桃人、杏人等是也」

にん (名) 【人仁】 ヒト。ヒトガラ。論語、[illegible]

にん (接尾) 【人】 人ヲ數フル語。史記、孔子世家「孔子以詩書禮樂教、弟子蓋三千焉、身通六藝者、七十有二人」[illegible]各又八生宿ルベシ」「十人」「百人」「幾人」

にん-い (名) 【任意】 ココロマカセ。オモヒノママニスルコト。隨意。[illegible]「說者疑惑、至有三倍、經任意反、傍違戾者二」

にん-か (名) 【認可】 (一)可シト認メテ、許スコト。(二)或事ノ實行ヲ許可スル行政處分。「認可證」

にん-が (名) 【人我】 他人ト、自己ト。自他。[illegible]而已之」「人我ノ見」

にん-かい (名) 【人界】 〔佛家ニテハ、にんがいト讀ミ、人類十界ノ第五ナレバ云フ〕にんげん(人間)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。[illegible]三十九、[illegible]ハ人界ノ生ナリ」謠曲、安達原「アサマシヤ、人界ニ生ヲ受ケナガラ」

にん-かい (名) 【忍界】 〔衆生ノ三毒、及、諸煩惱ヲ忍受スル世界ノ義〕 佛敎ノ語。娑婆世界ノ稱。忍土。

にん-き (名) 【任期】 職務ニアルベキ一定ノ年限。在職ノ期限。任限。

にん-き (名) 【人氣】 ぢんき(人氣)ニ同ジ。「人氣ガアル」「人氣ニサハル」

にんぎゃう (名) 【人形】 [illegible]ナドヲ以テ、人ノ形ヲ作リテ、小兒ノ玩弄トスルモノ。デク。偶人。木偶。土偶。[illegible]二一「昔、人形ニ着スル衣服ノ製ニ似セタルヨリ云フト」昔ハ、女ノ衣ニ云ヒシガ、今ハ、男ノ衣ノ袖ニテ、袖下ヨリ二寸左右(鯨尺)許ヲ縫ヒツケズ、別ニ縫ヒタル部分ノ稱。[illegible]化前、女袖丈一尺一寸、袖ヒハ一寸五分、[illegible]「人形ト云フ、縫ヲ開ケズ」

にんぎゃう-しばゐ (名) 【人形芝居】 あやつりにんぎゃう(操人形)ノ條ヲ見ヨ。

にんぎゃう-だる (名) 【人形樽】 小サキ酒樽ノ角ニ、[illegible]テ、人形ニ見立テテ[illegible]文、延寶ノ頃ニ、[illegible]リ。[illegible]花見「行キカフワビ人ノ、人形樽ニツメ、[illegible]サメテ、花ハイヅレノ情ニ[illegible]ドリ誇リカナル顏ツキモ、實ニ春ハ春ナレヤ」

にんぎゃう-つかひ (名) 【人形遣】 アヤツリ人形ヲ、遣ヒテ舞ハスモノ。多クハ黑頭巾ヲ被リテ、己レガ姿ヲアラハサズ、寬永ノ頃、辰松八郎兵衞ト云フ、[illegible]ノ、妙手ニシテ、[illegible]ヲアラハシ、上下着テ遣フニ、[illegible]コトナシト。コレヲでづかひ(出遣)ト云フ。ニンギャウマハシ。クグツマハシ。デクルボマハシ。傀儡子(後ニ、傀儡師ニ作ル)ニテ、つりにんぎゃう(操人形)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]

にんぎゃう-で (名) 【人形手】 [illegible]人形ヲ染メナシタルモノ。此類、古渡ニアリテ、良品ナリトス。又、陶器ノ[illegible]

にんぎゃう-ふで (名) 【人形筆】 [illegible]馬ノ毛ニテ、[illegible]人形ノ出ヅル筆、[illegible]ヲカシキフシヲ、イヒタテテ、筆ノ軸ニモ、ツクル人[illegible]筆、ニンギャウフデ、同所(有馬溫元)ニアリ」

にんぎゃう-まはし (名) 【人形廻】 あやつりにんぎゃう(操人形)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]二代男(貞享、西鶴)五「一節切ノ笛吹キ、人形まはし、提灯飲ミヲスルモアリ」

にん-きょ (名) 【認許】 或ル事柄ヲ可ト認メテ、許可スルコト。

にん-ぎょ (名) 【人魚】 想像ノ動物ノ名。常ニ圖スル所ハ、半身以上ハ人ニテ、半身以下ハ魚ナリ。面、女兒ノ如シ。[illegible]ニ、コレヲ食ヘバ、人ヲシテ老イザラシムト云ヒ、[illegible]

にん-ぎょ (名) 【人魚】 (一)鯢鯤ノ一漢名。其面、略、人ニ似タレバ云フ。〔陸鯉ト混ジタリ、陸鯉ハ海中ノモノナラズ〕南洋ノ海中ニ[illegible]ハ鰭ノ如ク、海產ノ哺乳獸ナリト云フ。[illegible]「人魚、一名、[illegible]」[illegible]海內北經「陵魚、人面手足魚身、在海中」[illegible]

にん-く (名) 【人供】 法會ナドニテ、其事ヲ勤ムル僧侶ニ與フル米。

にん-く (名) 【人工】 人足。力者。人夫。[illegible]

にん-くゎい (名) 【任槐】 〔槐ハ、公卿ナリ〕大臣ノ酒。古ヘ、大納言、又ハ、左右大將ヨリ大臣(三槐)ニ任ゼラルルコト。さんくゎい(三槐)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]

にん-ぐゎい (名) 【人外】 (一)人ノ道ニ外レタルコト。[illegible]二昔、常人ト異ナル待遇ヲ受ケシ賤民。

にん-くゎん (名) 【任官】 官ニ任ゼラルルコト。又、官ニ任ゼラルルコト、官吏トナルコト。[illegible]

にん-けふ (名) 【任俠】 [illegible]ダテ。俠骨。[illegible]

にんげん (名) [任限] にんき(任期)ニ同ジ。[illegible]四十五「内大臣[illegible]東下向[illegible]カ[illegible]ニ[illegible]ノ任[illegible]ナタリ」

にんげん (名) [人間] (一)人ノ住ム所。ヨノナカ。世間。史記、留侯世家「今以三寸舌一為帝者師、封萬戸、位列侯、此布衣之極、於良足矣、願棄人間事、欲從赤松子游耳」 韓非子、[illegible]、不[illegible]、人間法令之[illegible]二 元信[illegible] [illegible]名[illegible]抄 人間、ヨノナカ」 [illegible]天上之[illegible]乃人[illegible]之[illegible]一 (二)佛經ニ、六界ノ一。即チ、コノ娑婆世界。人間界。人界。法華經、法師品、生於此人間二 (三)俗ニ、誤リテ、人。(四)民間。支那、唐ノ世ニ太宗皇帝ノ名、世民ヲ避ケテ民間ヲ人間トス。

にんげんかい (名) [人間界] 前條ノ語ヲ見ヨ。

にんげんだう (名) [人間道] 人トシテ踐ミ行フベキ道。人道。曾我五人兄弟(元祿、近松作)四「佛ノ眞似スル身ナレドモ、人間道ニ外レシハ、[illegible]モナシ、[illegible]テモナシ」

にんげんみ (名) [人間味] 人トシテノ根本性ニ備レタル味ヒ。人情味。

にんこく (名) [任國] 國司ノ任。又、國司ノ任ゼラレタル國。受領。盛衰記、廿七、資永中風死去事「軍兵ヲ催ストイヘドモ、資永任國ノ[illegible]ハ、[illegible]不及[illegible]」

にんさう (名) [人相] (一)人ノ容貌。相。浮世[illegible]、文化、[illegible]「[illegible]、上ナホオホ、イソ[illegible]ザカリダ、トンダ人相ヨシデ、能イオ子ダ」 (二)又、人ノ容貌ヲ視テ、豫メ其人ノ心術、天壽、貧富、[illegible]、等ヲ說ク一種ノ技。

にんさうがき (名) [人相書] 隱レタル罪人ナド搜サム便リニ、其人相、似顏ヲ畫キテ、諸處ニ配ルモノ。[illegible]科條類典、下「人相書ヲ以テ、[illegible]ノモノヲ不存者[illegible]モノ」 [illegible]、四ノ廿九、御尋者、先頃、人相書ヲ以相達候[illegible]宮[illegible]、召捕候[illegible]、不及相尋候」

にんさうみ (名) [人相見] 人相ヲ視定メテ、其人ノ吉凶禍福ナドヲ占フヲ業トスル者。觀相。人相家。相人。相師。新可笑記(元祿、西鶴)一「天眼通ヲ得タル人相見、末世ニモアルベカラズ」 源、一、桐壺廿「高麗人ノマヰレルガ中ニ、賢キさうにんアリケルヲ召シテ」

にんさうめがね (名) [人相眼鏡] てんがんきやう(天眼鏡)ニ同ジ。

にんじ (名) [人事] (一)人ニ見エテ禮ヲ行フコト。殊ニ、禪家ニテハ、にんずト讀ミ、佳節ニ臨ミテ、陳賀ノ禮ヲ敍べ、寒暄ニ際シテ、問候ヲ致スヲ云フ。(二)オクリモノ。(餽贈) (三)生緣、鄕貫ノコト。(南屏燕語、下)

にんしき (名) [認識] ミトメ知ルコト。哲學ニテハ、心ガ知覺、推論等ノ知性作用ニヨリテ、內外ノ對象ヲ認メ知ルコト。

にんしん (名) [姙娠][妊娠] ハラムコト。孕ミタルコト。ミオモニナルコト。ミモチ。懷胎。懷姙。倭訓栞、前編、廿四「はらむ、妊娠ヲ云フ、日本紀ニ、娠身、所[illegible]、所娠、有身、有娠ナドヲヨメリ、腹孕ノ義ナリ」

にんしん (名) [忍心] ムゴキココロ。殘酷ナル心。詩經、大雅、蕩之什、桑柔篇「維彼忍心」

にんじん (名) [人參] (根ニ頭、足手、面目アリテ人ノ如キヲ最上トシテ名アリ」 古名、カノニケグサ。熊膽。藥草ノ名。一莖直上シ、梢ニ三枝ヲ分チ、枝每ニ五葉ヲ生ズ、うこぎ(五加)ノ葉ノ如シ、背ニ[illegible]アリ、年久シキハ、數枝、數葉ニ至ル、枝ノ中ニ一莖ヲ生ジ、其梢ニ細小花、簇リ生ズ、五瓣ニシテ淡綠色ナリ。中ニ白蕊アリ、あふさぎノ花ニ似タリ。花後ニ、實ヲ結ブ、形圓クシテ綠ニ、秋冬ニ至リ、紅ニ熟ス。根ヲ藥用トス。是ハ、和產普通ノモノニシテ、形、質、品類、尙多シ。御種人參ト云フハ、享保中、將軍吉宗、朝鮮ノ種ヲ、諸國ニ植エシメシモノ。直根ニシテ、實早ク熟シ、破レバ二三子アリテ平タシ。今產ズルハ、尾州、雲州、會津ニテ、信州ナルハ、人民ノ自植ナリ、宇都宮ノ產ヲ最モ良シトス。又、廣東人參ト云フハ、寬延ノ初、支那ヨリ渡ル。多クハ、根形、肥大ニシテ、橫紋多シ。朝鮮產、殊ニ名アリ、白蔘、紅蔘アリ、古來、萬病ノ靈藥トセシガ、分析ノ上ニ、利尿、或ハ、神經系統ノ病、又ハ、消化榮養強壯劑トナリ、又、強キ刺戟性アリ。痳病、痔、子宮內膜炎等ノ洗滌ニ、其液、效アリト云フ。煎藥、又ハ、嚼碎キテ服用セシガ、今ハ、えきス、又ハ、錠劑トス。紅蔘ハ生蔘ヲ蒸シ、日光、及、火熱ニ依リテ乾燥セシム。白蔘ハ日光ニ乾カスノミ。訛シテ、ネンジン。下學集、下、草木門「人參、ニンジン」 續紀、十三、天平十一年十二月「人參三十斤」 松屋漫筆、三「烏有イハク、人參ヲ用ルコト、唐土ニシテハ、和邦ノ生姜ヲ用ルガゴトク、或ハ有、或ハ無、云云」 七十一番職人盡歌合、六十番、藥賣「御藥ナニカ、にんじん、カンサウ、ケイシン候、チンモ候」

にんじん (名) [胡蘿蔔] 本名、芹人參。今、常ニ略稱ス。菜ノ名。芹ノ屬。夏、種ヲ下シ、冬春、根ヲ採ル。春ノ末、五瓣ノ小白花ヲ綴リ開キテ、笠ノ如シ、實ハ楕圓形ニシテ刺多シ。莖ニ白毛アリ、葉ニ[illegible]ヲ[illegible]根、細長シ、色赤アリ、黃アリ、又、紫ナル者アリ。味、淡ク甘シ。秋、其葉ヲ採リ食フ時、[illegible]ノ稱アリ。又、菜ニンジン。品ニンジン。八百屋ニンジン。

にんじんざ (名) [人參座] 昔、朝鮮人參ヲ專賣スル商店。江戶、駿河町ニアリキ。享保以後、設立セラレタリ。近代世事談(享保、菊[illegible]沾涼)ル、人參[illegible]ノ頃、[illegible]運立ト云フ良醫、朝鮮人參ノ功能ヲ考ヘ、云云、[illegible]人ノ命ヲ助クル事限リシラレズ、云云、是レヨリ大功アル事ヲ稱知ル、ソノ頃ハ室町伊勢屋孫八方ニテ、コレヲ求ム、ソノ後、堺屋七郎兵衞、するが町ニオイテ、人參[illegible]立ツ、ソレヨリ今ノ座、山形屋ナリ」

にんじんぼく (名) [人參木] 灌木ノ名。享保ノ頃、漢種ヲ移ス。叢生シテ、高サ丈餘ニ至リ、枝葉對生ス。春、新葉ヲ生ズ、三葉一帶、後ニ五葉トナリテ、人參ノ葉ノ如シ。新枝ハ、方ニシテ綠ニ、舊枝ハ、圓クシテ褐色トナル、折レバ、中ニ方心アルコト、衆木ニ異ナリ。夏、枝ノ梢每ニ、七八寸ノ穗ヲ生ジ、淡黃ナル小花ヲ綴リツク。實ハ胡麻ノ大キサニシテ、黑シ。葉ヲ藥用ニ供ス。一名、ナマエ。ナマエノキ。牡荊

にんじやう (名) [人情] 人心ニ自然ニ具ヘタル情性。人ノ心。ナサケ。イツクシミ。情愛。禮記、[illegible]、思[illegible]之心、孝子之志也、人情之實也 [illegible]、[illegible]上所、[illegible]所、切者人情」 [illegible]孔子作春秋、上揆之天道、下質諸人情」 [illegible]師道[illegible]高木下泉[illegible]故園、[illegible]人情二

にんじやう (名) [刃傷] 刃ニテ人ニ傷ツクルコト。刀劍ノ切合ニテ、他ニ傷ヲ

負ハスルコト。字類抄「刃傷、ニンシャウ」盛衰記、十八、文覺高雄勸進事「賢王聖主ノ明徳、道ハ庶民ヲ育ムヲ以テ先トス、況ンヤ當今ノ御ヲヤ、ソレニ打擲刃傷ニ及ブ條、希代ノ不思議ナリ」假名手本忠臣藏(竹田出雲等合作)四「塩ノ愛、塩冶判官高定、私ノ宿意ヲモッテ、執事高師直ヲ刃傷ニ及ビ、館ヲ騒ガセシ科ニヨッテ、[illegible]シ、切腹申シ付クル旨ナリ」

にんじやう-ばなし (名) 人情咄 遊藝咄ノ一、情愛ノコモレル話。情話。

にんじやう-ぼん (名) 人情本 世話ヲ書キタル小說。男女ノ痴情ヲ記シタル戲作ノ書。中本。(戲作者[illegible]集、[illegible]「[illegible]、青本トテ當ヘシ中本ノ著述、大ニ世ニ行ハレ、云云、世俗、人情本元祖爲永ト誌セシ故、御咎ニ相成」)

にんじやう-み (名) 人情味 にんげんみ(人間味)ニ同ジ。

にんじやく (名) 人尺 當人ノ丈ノ寸尺。等身。(謡曲、鐵輪「イデイデ傳シカヘントテ、茅ノ人形ヲ人尺ニ作リ、夫婦ノ名字ヲ内ニ籠メ」)

にんじゆ (名) 人壽 又、じんじゆ。人ノイノチ。人間ノ壽命。(謡曲、白鬚「天地既ニ分テ後、第九ノ減劫人壽二萬歳ノ時、迦葉世尊、西天ニ出世シ給フ時」)

にんじゆつ (名) 忍術 シノビノジュツ。しのび(忍)ノ條ヲ見ヨ。遁甲 遁形

にんしよ (名) 任所 在勤ノ地。任地。(雜筆、凡例任官人、不[illegible]任所ニ[illegible])

にんしよう (名) 人[illegible] [illegible]

にんしよう (名) 人證 人ノ陳述ヲ以テス[illegible]、又、證人ヲ以テス[illegible]

にんしよう (名) [illegible] 其事ヲ[illegible]

コレヲ證明スルコト。

にんず (名) 人數 (一)ヒトノカズ。アタマカズ。人頭。人員。(二)多勢ノ人。大勢。(「人數ヲ[illegible]」)

にんず ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(自動、左變) 任 引受ケテ受持ツ。己レノ務メトス。([illegible]、己[illegible]任[illegible]、[illegible])

にんず ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變) 任 役目ニ就カス。官職ニ就カシム。([illegible])「官ニ任ズ」又、舊官ヲ除キ、新官ニ任ズルヲ、除スト云ヒ、職ニ任ズルヲ、補スト云ヒ(亦、闕ヲ補フ意)、將軍ニ任ズルヲ、拜スト云フ。

にんず ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(自動、左變) 姙 ハラム。ミモチニナル。ニンシン(姙娠)ス。(後漢書、皇后紀、伏皇后「操誅承而、求貴人殺之、帝以貴人有姙、[illegible]」[illegible]十月バカリヨリ、にんじ給ヒヌ、父宮少シ嬉シト思ス」)

にんせい (名) 仁清 次條ノ語ノ略。

にんせい-やき (名) 仁清燒 (「野野村仁清ノ創製ナレバ云フ」) おむろやき(御室燒)ニ同ジ。

にんせん (名) 人選 又、じんせん。人物ヲ擇リスクコト。

にんそく (名) 人足 〔丁ノ意〕 (一)人夫。勞働者。[illegible]

にんそく-よせば (名) 人足寄場 (一)又、にんそくよりば。普請ナドノ人足ニ、ツカハルルモノヲ、寄セ集ムル場所。(二)昔、罪人ナドヲ拘置シテ使役セシ處。([illegible])[illegible]場ト云フコトヲ、習ニクミ立ラレタリ」

にんそん (名) 人尊 [illegible]佛。

にんたい (名) 人體 人體ニ同ジ。

にんたい (名) 忍耐 タヘシノブコト。コラヘテヰルコト。辛抱。我慢。([illegible])

にんたい (名) 姙帶 いはたおび(岩田帶)ニ同ジ。

にんだう (名) 人道 (一)じんだう(人道)ニ同ジ。(二)にんかい(人界)ニ同ジ。([illegible])ミトナリハツル」

にんたく (名) 潤澤 [illegible]ウルホフコト。(字類抄「潤澤、ニンタク」)

にんたく (名) [illegible]

にんち (名) 任地 にんしよ(任所)ニ同ジ。

にんち (名) 認知 (一)ミトメ、シルコト。(二)法律上ノ手續ニヨリテ、私生子ノ父、又ハ、母ノ、其父、又ハ、母タルコトヲ自白スルコト。

にんちく (名) 人畜 次條ノ語ニ同ジ。

にんちくしやう (名) 人畜生 畜類ノ如キ行ヲスル人。ヒトデナシ。人非人。人畜類。又、略シテ、人畜。(信長記[illegible]太田牛一[illegible]ハメラレタルカ[illegible])

にんぢやう (名) 人長 カムアソビノヒトノヲサ。[illegible]措衣ニテ、榊ヲ取ル。近衞ノ舍人、コレヲ務ムト。([illegible])

にんぢやう (名) 人定 [illegible]時ノ名。人ノ眠リ定マル時。[illegible]

にんちう (名) 人中 [illegible]

にんちうのえん [illegible]

にんぢよう [illegible]

にんちゅうわう (名) 人中黃 漢方ニテ、大便ノ[illegible]、藥用トス、ノ稱。

にんてい (名) 人體 又、ぢんてい。ヒトガラ。人品。ニンタイ。

にんてい (名) 認定 ソレト認メテ、決定スルコト。

にんでん (名) 人天 〔人ハ人間、又ハ人間界、天ハ天上、又ハ天上界ノ略〕佛教ノ語。人界ト、天道ト。人趣ト、天趣ト。 法華經、授記品「諸天宮殿近處虛空、人天交接得相見」

にんど (名) 忍土 にんかい(忍界)ニ同ジ。 悲華經「何名娑婆、是衆生忍受三毒及諸煩惱、故名忍土、亦名雜會、九道共居故」

にんどう (名) 人頭 ヒトカズ。アタマカズ。人數。人員。

にんどう (名) 忍冬 〔倭名鈔、「忍冬、其葉凌冬不凋、故名之」〕 古名、スヒカヅラ。蔓草ノ名。山野ニ生ズ。葉ハ對生シ、橢圓形ニシテ、尖リテ、毛アリ。夏ノ初、花ヲ開ク、香氣アリ、一蔕ニ二花、一節ニ四花、同日ニ開ク、本ハ筒ニテ、末ハ二瓣トナリ、上瓣ハ四ツニ分レ、下瓣ハ分レズ、蕾ナルトキハ淡紫ニシテ、開ケバ白クシテ黃ヲ帶ビ、後ニ白ニ變ズ。故ニ、一枝ノ中ニ、黃、白、相映ズ、因リテ、漢名、金銀花ノ稱モアリ。葉ヲ藥用トス。次條ノ語ヲ參見セヨ。 本草別錄「忍冬、金銀花」 蕪村句集、[illegible]敗ノ聲ス、忍冬ノ花ノ、散ルタビニ」

にんどうしゅ (名) 忍冬酒 忍冬ヲ和シテ、ツクリタル酒。便通ヲヨクシ、腫物ヲ治スルニ效アリ。 好色三代男(貞享 西鶴)一「芬芬タル薰リ、忍冬酒ニ等シ」

にんどく (名) 人德 又、ぢんとく。其人ニ自然ニ備ハレル德。 [illegible] 皇天無私阿兮、覽人德焉錯輔」(人、一本作民) 王粲、[illegible]射賦「[illegible]利[illegible]、人德同縣」

にんわうゑ (名) 仁王會 にわうゑ(仁王會)ニ同ジ。

にんにく (名) 忍辱 〔法界次第「內心能安、忍外所辱境、故名忍辱」〕佛經ノ語。內心、能ク安ンジテ、外所ノ辱境ヲ忍ビ、惡ヲ加ヘラルレドモ、怨ミズ報イザルコト。袈裟ヲ、忍辱鎧、又ハ、忍辱衣トモ云フ、服シテ、能ク、忍辱ヲ持スルモノナレバナリ。 維摩經「忍辱柔和、勤行精進」 往生要集、靑山有草、名爲忍辱、牛若食者、卽得醍醐」 宇津保物語、俊蔭「日本ノ國ニ、忍辱ノ父母アリト申スニヨリテ」 太平記、十二、公家一統政道事「偏受着作、柔和、忍辱之貌ハ、慈悲ヲ爲先」 同、十七、山門攻事「此ノ外、十四ノ禪侶、法華堂ノ衆ニ至ルマデ、忍辱ノ衣ノ袖ヲ結ビテ肩ニカケ、降魔ノ利劍ヲ提ゲテ」

にんにく (名) 大蒜 〔忍辱ノ音。佛敎ニ葷ヲ禁ズ、大蒜、臭氣甚シ、ソレヲ隱シ忍ビテ食フヨリ、隱語トス。臭氣ナク行者モ食フベシトテ、行者にんにくアリ〕 古名、オホビル。草ノ名。葉ハ平タクシテ、すゐせん(水仙)ヨリ廣クシテ尖リ、臭氣多シ。數葉、互生シ、夏、粗圓莖ヲ出シ、梢ニ白花ヲ簇生ス、ねぎ(葱)ノ花ニ似タリ。實ニ稜アリ、根ノ形ニ同ジクシテ、甚ダ小サシ。根ハ、皮、赤クシテ、六七瓣、簇リテ瓣ノ中ニアリ、皮ヲ去リテ、一瓣ヅツ分チ植ウレバ、其年中ハ瓣ヲ增サズ、故ニ、古ク、獨子蒜ノ名モアリ。明年、舊ノ如ク子ヲ

生ズ、根ノ臭甚シ、藥用トス。一種、葉、長大ニシテ、端ノ卷曲スルアリ、東京ニテ、つるくびト云フ。臭少ク、味美ニシテ、早ク生ジ、早ク枯ル、根ノ皮白シ、子ハ莖中ニ胎生ス。 倭名抄、十七、葷菜類「大蒜、於保比流」 同、同卷「獨子蒜、比止豆比流」 康賴本草、下、廿「蒜、味辛溫有小毒、已比留、日本、仁仁久」 字類抄「忍辱、ニンニク」 易林節用集(慶長)草木門「蒜、葫蒜」

にんにくがい (名) 忍辱鎧 前前條ヲ見ヨ。 法華經、勸持品「惡鬼入其身、罵詈毀辱我、我等敬信佛、當著忍辱鎧」

にんのう (名) 人皇 にんわう(人皇)ノ連聲。其條ヲ見ヨ。

にんぴにん (名) 人非人 (一)佛敎ノ語。緊那羅ノ別稱。人ニ似テ人ニアラザレバ云フ。八部衆ノ一ニシテ、古代印度ノ音樂ノ神トス。 法華經義疏、二「人非人者、八部鬼神、本悉非人、而變作人形、來聽說法、故云人非人也」 (二)人ニシテ人ニアラザル人。ヒトデナシ。(人ヲ賤メ、又ハ、無道ノ人ヲ罪シテ云フ語) 平家物語、一、禿童事「此ノ一門ニアラザラン者ハ、皆人非人タルベシ」 長明無名抄、上「ココカシコノ人非人ニツナガリテ」 散木集、九、雜、下「サモコソハ、無智文盲ニ、ウマレケメ、人非人ニゾ、ナリヌベキカナ」

にんぷ (名) 人夫 (一)古ヘ、田畑ノ段別ニ割リ充テテ公役ニ使ヒシ民。古ノ庸役ノ夫ナリ。役夫(租ノ條ヲモ見ヨ) 吾妻鏡、四十九、文應元年十二月廿五日「五町別、官駄一疋、人夫二人、可充催之」 荒政要覽「務養農隙之時、量起人夫用工」 (二)人足。 名物六帖、二、人品箋「人夫、ニンブ、唐律、推差人夫、通典、禮役隨近人夫」 建武年中行事「町別役夫人夫傳馬之事、爲先例、當百姓之條不可然、向後以撫民之儀、可爲領主之所役」

にんぷ (名) 姙婦 ハラミヲンナ。ミモチヲンナ。孕婦。 [illegible]

にんぷ (名) 任符 古ヘ、國司ノ赴任スル時、朝廷ヨリ之ヲ證明シタル文書。 類聚符宣抄、八、頃者、給新司任符、多後[illegible]理不守法制之所致也 [illegible]、廿、[illegible]事「依下名依本位中賜任符」

にんぶしゃう (名) 仁部省 みんぶしゃう(民部省)ニ同ジ。天平寶字二年八月、民部省ヲ改メテ仁部省トセラル。後、故ニ復セラレタリ。 續紀、廿一、天平寶字二年八月「民部省、惣政於民、惟仁存貴、故改爲仁部省」

にんべつ (名) 人別 (一)人毎ニ、モノスルコト。 吾妻鏡、六、文治二年六月「相摸國中爲宗百姓等、給鹿草牙白米人別一斗」 法苑珠林、四、方土「尋夫、方土人別不同」 (二)住民ヲ、人毎ニ戶籍ニ記スモノ。其姓名、住所、家族ナド、公ノ帳ニ載セテ、其地ノ住民ト認メラルルナリ。戶籍 「人別ニ載ル」人別ヲ移ス」人別ヲ入替フ」 (三)住民ノ數。人頭。人口。 「人別帳」 「人別十萬人」

にんべつちゃう (名) 人別帳 前條ノ(二)ヲ見ヨ。 德川禁令考、六十、寬政八年四月「名主方江取置候人別帳」 牧民金鑑(荒木嘗道)十三、弘化元年十二月七日申渡「人別帳之儀、支配替之節、前十ケ年分而已、是迄引渡候、云云」

にんべん (名) 人偏 漢字ノ偏ニアル「イ」ノ字ノ稱。人ノ字ナリ。卽チ、仁、代、他、仲、仇、仙等ノ如シ。立人旁。 名物六帖、四、人事箋「立人旁、ニンベン、見三字話二」 海錄、九「人字傍、今ノ人偏ノコトナリ」 雙生隅田川(享保、近松作)四「人ノ憎マヌ米偏ナルガ、其ノ美シサ、天人偏ノ塵キ立テタル玉偏故ニ」

にんみん (名) [人民] ぢんみん(人民)ニ同ジ。「字類抄、人民、ニンミン、オホンタカラ」「[illegible]實記、十一、[illegible]人道[illegible]、[illegible]八、[illegible]デモ[illegible]ニ[illegible]セシ[illegible]ニテ、常二[illegible]ト[illegible]ト祈ラセ給ヒシ事ナレバ」

にんむ (名) [任務] 己レノ責任ヲ以テ取扱フベキ務メ。ツトメ。ヤクメ。

にんめい (名) [任命] 官職ヲ命ズルコト。職務ヲ命ズルコト、[illegible]「[illegible]之[illegible]、[illegible]天任命[illegible]、[illegible]乃自[illegible]」

にんめん (名) [任免] 官職ニ任ズルコト、官職ヲ免ズルコトト。任用ト、罷免ト。「任免黜陟」

ニンメン・ソウ
にんめんさう (名) [人面瘡] 膝頭ニ生ズル一種ノ瘡。腫レ腐レテ、人ノ顔ノ如キ狀ヲナスト云フ。

ニン・メン・ジユウ・シン
にんめんぢうしん (名) [人面獸心] 面ハ人ナレドモ、心ハ獸ノ如キコト。(義理、人情ヲ辨ヘヌ惡人ナドヲ罵ル語)人非人。「漢書、匈奴傳、贊「夷狄之人、貪而好利、被髮左衽、人面獸心」」「太平記、十四、新田足利確執奏狀事「今[illegible]於[illegible]中、人面獸心之[illegible]、是可忍也、孰不可忍乎」」「沙石集、九、第八條、昔ノ[illegible]ノ名ヲ呼ブニ、牛イラヘホエテ過ギケリ、前生ニ永ヲタモタザレバ、人面ニシテ畜ノ心ナリ」

にんめんちく (名) [人面竹] ほていちく(布袋竹)ノ異稱。其條ヲ見ヨ。

にんよう (名) [任用] 人ヲ勸メニ採リ用キルコト。擧ゲ用キルコト。「史記、[illegible]皇紀「[illegible]高爲二郎中令、任用事二」」「漢書、[illegible]「[illegible]皇不[illegible]、根二[illegible]上[illegible]之、[illegible]任用二」」

にんよう (名) [認容] 可ト認メテ、ユルスコト。可トシテ、ユルスコト。

ニン・ノウ
にんわう (名) [人皇] 神代ト別チテ、神武天皇以後ノ御代御代ノ天皇ヲ申シ奉ル稱。ヒトノヨ。「太平記、一、後醍醐天皇御治世[illegible]、[illegible]、[illegible]人皇[illegible]九十五代ノ帝、後醍醐天皇ノ御宇」

ニン・ノウ・コウ
にんわうかう (名) [仁王講] 仁王護國般若波羅蜜多經ヲ講讚スル法會。[illegible]「[illegible]」「[illegible]十[illegible]、[illegible]仁王[illegible]」「永久[illegible]、十七、[illegible]仁王講」

ニン・ノウ・エ
にんわうゑ (名) [仁王會] 古ヘ、大極殿、紫宸殿、清涼殿等ニテ、朝家御祈ノ爲ニ、仁王護國般若波羅蜜多經ヲ講ゼシメラルルコト。公事ノ一トス。三月ト七月トニアリ。又、ニワウヱ。「續紀、三十、寶龜元年[illegible]」「[illegible]」(長承元年五月十八日)於二法[illegible]」

ニン・ナ・ラク
にんわらく (名) [仁和樂] 高麗樂ノ一。仁和年中、百濟貞雄ガ勅ヲ奉ジテ作リタルモノナリト。「體源抄、上「仁和樂、拍子十」」「[illegible]、[illegible]、廿八、[illegible]、[illegible]曲、[illegible]、仁和樂」(仁和茶[illegible]具)

にもじ (名) [に文字] にんにく(大蒜)ノ女房詞。「大上[illegible]名之事、女房詞、にんにく、にもじ」

にもつ (名) [荷物] (一)に(荷)ト云フニ同ジ。「[illegible]、天[illegible]、宗[illegible]」ニヤスミテ、跡ナル荷物ヲ待ツホド」(二)己レノ負擔トナルモノ。

にやあにやあ (名) (鳴聲ニヨル)幼兒ノ語。ねこ(猫)ノ稱。

にやく (名) こんにやく(蒟蒻)ノ[illegible]。「大上[illegible]名之事、女房詞、こんにやく、にや[illegible]」

にやく (名) [荷役] [illegible]、荷[illegible]、[illegible]。[illegible]。

ニヤク・イチ・ワウ・ジ
にやくいちわうじ (名) [若一王子] [illegible]、[illegible]若王子。くまのさんじよごんげん、熊野[illegible]、[illegible]「[illegible]作」五「[illegible]ハ[illegible]熊野ノ、九十九所ノ王子王子、若市王子トタタセ給フ」

ニ・ヤッ・カイ
にやくかい (名) [荷厄介] (一)荷物トシテ扱フニ、厄介ナルコト。(二)自分ノ負擔トシテ、モテアマスコト。

ニヤク・ドウ
にやくだう (名) [若道] [illegible]ノ道。男色。衆道。[illegible]「[illegible]六二一人[illegible]ヘルハ、[illegible]レガタクミ出ダシタルゾヤト、サモ[illegible]メシサウニ[illegible]ハレケルヲ」

ニヤク・オウ・ジ
にやくわうじ (名) [若王子] にやくいちわうじ(若一王子)ニ同ジ。くまのさんじよごんげん(熊野三所權現)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

にやけ (名) [若氣] (一)男色ノモノ。若道[illegible]。「[illegible]若氣ナリ、依テ大臣ニテ不レ加二首服一云云、又不[illegible]ノ[illegible]ハ、イミジク合レ寵給ヒケリ」(二)男ノ色メキタル[illegible]云ノ[illegible]。(三)[illegible]

(天正)「若衆、御[illegible]ハ天下一、オにやけハ[illegible]入ヂヤ」

ニヤク
にやける (弱ノ音ノ活用カ) [illegible]・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) 女女シク色メカシクナリ[illegible]。[illegible]「[illegible]、[illegible]「[illegible]」婚治[illegible]「[illegible]、八[illegible]、ニヤケル」[illegible]「[illegible]ノ[illegible]ハ見立テナシ、[illegible]」

「[illegible]、上ブノオシヤシンス事ワイナト、[illegible]カゾワ」

ニヤケ・[illegible]
にやけをとこ (名) ニヤケタル男子。イヤラシク色メカシクスル男。

にやす [illegible]・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [煮] (煮ルノ他動)ニルヤウニス。

にやつ (名) [煮][illegible] [illegible]

にやにや (副) [illegible]

ニ・ヤ・ウ
にやふ [illegible]・フ・ヘ・ハ・ヒ・ハ(自動、四) [似合] にあふ(似合)ノ轉訛。「[illegible]、[illegible]、ニセ、にやうたる[illegible]アヲザヤル[illegible]」

にやりと (副) [illegible]

にやりにやりと (副) [illegible]

にゆ [illegible]・ニ・ヌ [illegible] (熱ノ意ト云フ)(一)煮ラレテ、熱、[illegible]、[illegible]「[illegible]、[illegible]第十、[illegible]」[illegible]ノ[illegible]ニテ、にゆるモノハ[illegible]、[illegible]、カヘルカヘルト、にゆるカナシリ[illegible]、[illegible]ゆるサノ[illegible]ハイセシリヤ」

にゆう (名) [乳] (一)にふ(乳)ノ條ニ入レタリ。其條ヲ見ヨ。

ニユウス (名) (英語、News) [illegible]新聞、[illegible]

ニユウス・ペエパア (名) (英語、Newspaper) [illegible]

にゆうと (副) [illegible]、[illegible]ノ前ニ[illegible]ハレ出ヅル狀ニ云フ語。[illegible]

にゅっ-と（副）前條ノ語ニ同ジ。

にょ（名）〔如〕〔法ノ實相ノ如キヲ云フ〕佛教ノ語。如トハ、諸法ノ各ノ相ノ如キナリ、各ノ相ハ實相ニアラズシテ、皆空ナリ、空ハ佛ノ實相ナレバ、如ヲ一ニ理ト云フ。卽チ、如ハ諸法ニ通フ理性。眞如。　大乘義章、二「如法性實際、義出ニ大品經ニ、此三乃是理之別目、云云、如者是其同義、法相雖殊、理實同等、故名爲ㇾ如」止觀、三「如、空之異名耳」榮花物語、十八、玉臺「佛ノ所住ノトコロヲバ常寂光トナヅク、云云、有作無作ノ諸法ノ性ヲ見ザル所、如ナリ、寂ナリ、解脫ナリ」

〜**にょ-い**（名）〔如意〕〔釋氏要覽、中「如意之制、蓋心之表也、故菩薩皆執ㇾ之、狀如ニ雲葉、又如ニ此方篆書心字ニ」〕佛家ノ具。心ノ表トシテ、菩薩コレヲ取ルト云フ。玉、鐵、骨、角、竹、木等ニテ作ル。長サ尺餘、端、卷曲スルコト、篆書ノ心ノ字ノ如シ。如意ハ、元來、梵語、阿那律（Aniruddha.）ノ譯字ニテ、爪杖（マゴノテ）ナリ、脊ニ痒アリ、手ノ到ラザル所ヲ搔クコト、人ノ意ノ如キ意ト云フ。　佛祖統紀、智者傳「南岳持ニ如意ㇾ臨ㇾ席讚ㇾ之曰、可ㇾ謂法付ニ法臣、法王無事」倭名抄、十三、僧坊具「如意」名物六帖、三、器財箋「如意、ニヨイ、マゴノテ、翟灝組傳、高帝以ㇾ鐵爲ㇾ書鎭如意、ㇾ甚壯大以備ニ不虞、釋氏要覽、梵名、阿那律、秦言ニ如意、指歸云、古之爪杖也、用以搔抓如ニ人之意、故曰ニ如意、按、石崇鐵如意、後魏宮人骨如意、後周犀角如意、梁武帝竹如意、唐權公淨玉如意、金剛一識七寶如意、名隨ㇾ質取ㇾ名、皆見ニ增續類府ニ」

にょ-い（名）〔女醫〕婦女ノ醫師トナリタルモノ。下ノ出典ヲ見ヨ。　醫疾令「女醫、取ニ官戸婢年十五以上卄五以下、性識慧了者卅人、別所安置、教以ニ安胎產難、及創腫傷折針灸之法、皆案ㇾ文口授、每月醫博士試、年終內藥司試、限ニ七年ニ成」

〜**にょ-いち-の-みや**（名）〔女一宮〕皇女ノ長女ニマシマスモノ。皇長女。　宇津保物語、藤原君「時ノ御門ノ御妹、女一宮ノ御子ト聞ユル后腹ニオハシマス」

にょ-い-にょ-い（名）又、にょんにょ。とびまきょうぎ（飛將棊）ノ異名。其條ヲ見ヨ。

にょい-はかせ（名）〔女醫博士〕古ヘ、典藥寮ニ屬セシ產科、婦人科ノ醫博士。　續紀、九、養老六年十一月「始置ニ女醫博士ニ」

にょい-ほうじゅ（ニヨイ・ホウジユ）（名）〔如意寶珠〕〔梵語、Cintāmani. ノ譯語〕又、如意珠。楞嚴經ニヨレバ、靈異ナル珠ノ名ニシテ、此珠ヲ持スレバ、所願、意ノ如ク、珠中ヨリ現ハレ出ヅト云フ。世ニ、神功皇后ノ、海中ヨリ獲給ヘリト云フ寶珠ニモ云フ。　往生論註、下「諸佛入ニ涅槃ニ時、以ニ方便力ニ留ニ碎身舍利ヽ以福ニ衆生ヽ衆生福盡此舍利變爲ニ摩尼如意寶珠ニ」百錬抄、五、延久四年十月廿六日「主上臨ニ幸宇治ヽ前相國饗ヽ獻ニ如意寶珠ヽ其形如ニ鎮印ニ」狹衣、三、下卌八「尾花ノ袖モ白ミワタリツツ、心細ゲニウチ招キタルニ、露ハ重ゲニ、キラキラト置キワタリタルハ、如意寶珠カト見エワタサレタルニ」

〜**にょ-い-り**（名）〔如意輪〕次條ノ語ノ略。　枕草子、九、百三段、佛ハ「にょいりハ、ヒトノ心ヲオボシワヅラヒテ、ツラヅヱヲツキテオハスル、世ニシラズ、アハレニハヅカシ」

にょ-い-りん（名）〔如意輪〕〔梵語、Cintāmanicakra. ノ譯語、如意輪觀音ノ略〕六觀音ノ一。觀世音ノ像ノ六臂アリテ、如意寶珠ト寶輪トヲ持チタルモノノ稱。　觀自在如意輪菩薩瑜伽「手持ニ如意寶ニ六臂身金色、頂髻寶莊嚴、冠坐ニ自在王ニ住ニ於說法相ニ」扶桑略記、廿九、天喜三年十月廿五日「供ニ養圓乘寺ヽ云云、奉ㇾ安ニ丈六金色丈六釋迦如來、普賢、文殊、延命、如意輪等菩薩像各一體ニ」

にょ-い-りん-くゎん-おん（ニヨイ・リン・カンノン）（名）前條ノ語ニ同ジ。　字類抄「如意輪觀音」〔如意輪觀音〕

〜**にょう-くゎん**（ニヨウ・カン）（名）〔女官〕〔にょヲ引クハ一種ノ讀癖ナリ。下、皆、同ジ〕又、ぢょくゎん。にょくゎん。禁中、後宮ニ仕フル女ノ官人ノ總稱。ヒメトネ。ミヤビト。宮人。宮女。官女。　名目抄「女官（ニヨウクワン）、女公人之總名也」琅江入楚（蓬）「中院通勝ノ女官ニ二義アリ、にょう官ト云ハ、內侍、命婦、藏人是也、にょう官ト云ハ、下﨟ノ如也、今世ニ末ノ者トテ、御膳ヲトリ扱フ者ナリ、此事ヲエランテ得患ト云也、御湯殿ノ官ナドにょうト引也」枕草子、一、第三段「トノモリヅカサ、女官ナドノ行キチガヒタルコソヲカシケレ」

〜**にょう-ご**（名）〔女御〕〔周禮、天官篇「女御掌ニ御敍于王之燕寢、以ニ歲時ニ獻ニ功事ニ」〕又、にょご。古ヘ、後宮ノ宮女ノ稱。二位、三位ニ至ル。天皇ノ寢ニ御ス。妃、夫人等ノ稱失セテ、女御ノ稱起リ、（桓武天皇ノ御代）皇后ノ次ニ居テ寵貴ナルモノトナル。次ニ更衣アリ。　後漢書、皇后紀、序「夏殷以上、后妃之制、云云、三夫人、九嬪、二十世婦、八十一女御、以備ニ內職ニ焉」後紀、五、承和三年八月「正五位上紀朝臣乙魚授ニ從四位下ニ柏原天皇（桓武）女御也」源、一、桐壺ニ「イヅレノ御時ニカ、女御、更衣アマタサブラヒ給ヒケル」榮花物語、一、月宴「小一條ノ師尹ノ大臣ノ御女、イミジウ美シクテ、宣耀院ノ女御ト聞エサス」

にょうご-が-しま（名）〔女護島〕にょごのしま（女護島）ニ同ジ。貝原氏云フ、八丈島ナルベシト。

にょうご-だい（名）〔女御代〕大嘗會御禊ノ儀ヲ行ハセラルル時、奉仕スル女官。　蜻蛉日記、上、下五十「タタン月ニハ大嘗會ノ御ケイ、コレヨリ女御代出テタタルベシ」榮花物語、一、御禊、大嘗會トテ、世ノノシリ急ギタリ、ミカドむツニオハシマセバ、云云、女御代ノ御事ナド、スベテ世ノイミジキ大事ナリ」同九、岩かげ「女御代ニハ、カンノ殿出デ給フヘキヤウニゾ、世人申シケル」

にょうご-や（名）〔女御屋〕女御ノ住ムツボネ。　榮花物語、三三、樣々悦「ヤガテ御手車、女御屋ナドアンベキカギリ、イト物々シウオボシカシヅキ奉リ給フ」

にょう-じゅ（名）〔女孺女嬬〕又、にょじゅ。にょうじ。女官ノ名。古ヘ、內侍司ノ屬ニテ、掃除、點油等ヲ掌ルモノ。　中務省式、宮人時服「女孺」上、名目抄、人倫、女孺、ニジ、掃部寮女官也」日中行事、朝ギヨメハ、云云、堂上ハカモン、トノモリノ女孺、コレヲハク」

にょう-ばう（ニヨウ・ボウ）（名）〔女房〕〔其房（ヘヤ）ニ就キテ云フナリ　男房ニ對ス　訛シテ、にょうばう〕（一）女官ノ曹司。（部屋）　源、廿一、少女「十一女房ノ曹司町ドモ、宛宛（アテアテ）ノ細氣（コマゲ）ソオホカタノ事ヨリモ、メデタカリケル」小右記、（小野宮實資）永觀二年四月晦日御産「賜ニ以ニ十貫ニ給ニ女房ニ」　侍賢記、十六、三位入道藏人頭上下、女ル男房、云云、紙燭ヲ出シテ見ル」（二）禁裏、院中ノ上﨟、中﨟、下﨟ノ女官。（女房持チタル宮女）宮仕ヘノ女官ノ中ニテ品ヨキモノ。相住マズ、一人住ノ房ヲ給ハリテ居ル程ノ女官。局（ツボネ）。オツボネ。（三）（院中、諸家ニ仕フル女。）枕草子、一、第三段「鶯ノ木ヒキカクシテ、家ノゴタチ、女房ナドノウカガフヲ、打タレジトヨウイシテ」傾城佛の原（元祿、近松作）障子ニウツル影法師、嬌シハヅカシ、部屋ノ中ト、歌ヲウタフテ女房衆、月ヤオソシト待給フ」（四）（人ノ妻ノ稱）源四夕顏五一「伊豫介、神無月ノ朔日頃ニ、下ル、女房ノ下ラムニトテ、餞（ハナムケ）、心コトニセサセ給フ」（妻ヲ率テ下ルナリ）住吉物語、女房ノカタニオハシタレバ、三ノ君サビシクナンド恨ミテ」（少將ノ妻、三ノ君ナリ）盛衰記、廿二、土肥女房消息事「土肥、女房ノモトヨリ消息アリ」（妻ノ許ヨリナリ）

にようばうことば（名）〔女房詞〕古へ、禁中ノ女房ノ稱スル食物ナドノ異名。大抵、後土御門天皇ノ頃ニ起リ、後世ニ、賤シキ物ヲモ、供御ニ供ヘタル隱語ニ始マレリト云フ。鮓ヲすもじ、葱ヲひともじ、團子ヲいしいし、豆腐ヲおかべナド云フ類ナリ。又、女中詞。大上﨟御名之事「女房詞、水、おひやし」

にようばうほうしよ（名）〔女房奉書〕古へ、勅旨ヲ承ケテ、勾當ノ內侍ヨリ出サルル文書。假名書ナリ。親長卿記、文明十一年四月十八日參內、明日宣下、昇進人人爲レ可レ被レ定候也、十九日早旦、被レ下ニ女房奉書一、今夜、小折紙可レ爲レ如レ此歟、云云」

にようゐん（名）〔女院〕皇太后、又ハ、太皇太后ヲ太上天皇ト等シク尊ビテ、何院ト云フ號ヲ奉ラルルモノ。（又、國母、准國母、內親王ニモ）コレヲ院號トモ云フ。一條天皇ノ御母（藤原詮子）ノ皇太后ニ、正曆二年九月、東三條院ノ號ヲ奉ラレシヲ初トス。又、後一條天皇ノ御母（藤原彰子）ノ太皇太后ニ、萬壽三年正月、上東門院ノ號ヲ奉ラレキ。而シテ皇后宮職ヲ停メ、進、屬ヲ改メテ、判官代、主典代トス。ニョヰン。名目抄「女院、常ノ書ニョナリ、名目等引之」大鏡、中「[illegible]后（詮子）入道セサセタマヒテ、太上天皇トヒトシキ位ニテ、女院ト聞エサセ[illegible]」榮花物語、[illegible]「內ヨリ御使アリ、太上天皇トヒトシキ御位ニテ、女院（彰子）ト聞エサスベキ宣旨モテマヰリタリ」[illegible]

にょきと（副）下ヨリ、モノノ幾許モ發生シタル狀、又、俄ニ、モノノ顯ハレ來ル狀ニ云フ語。

にょきにょきと（副）前條ノ語ヲ強メタル語。曾我虎爵（寶永、近松作）虎少將道行「大キナ男ガにょきにょきと來タ時ハ、猪ヨリモ恐ロシ」

にょくどころ（名）〔女工所〕大嘗會ノ時、悠紀方ト主基方トノ兩方ニ臨時ニ設クル司。辨內侍日記「女く所ヘサダマルベキ內侍」

にょくらうど（名）〔女藏人〕古へ、地下ノ者ノ女ナドノ宮仕シテ、命婦ヨリ卑シキ女房。雜役ニ從事セシモノ。略シテ、藏人。名目抄「女藏人、ニョクラウト」源、七、紅葉賀「ウネベ、にょくらうどナドヲモ、カタチココロアルヲバ、コトニモテハヤシオボシメシタレバ、[illegible]」[illegible]

にょくゎん（名）〔女官〕にようくゎん（女官）ノ條ヲ見ヨ。

にょけい（名）〔女系〕又、ぢょけい。家筋ノ相續ニ、女子ノ血統ヲ男子無クシテ、家ノ娘ニ入壻シタル系統ナドニ云フ。

にょご（名）〔女御〕にょうご（女御）ニ同ジ。隨中抄、下「女御、コレ別ノツカサニハアラネドモ、內侍ノカミナドニナサルル折リアリ」[illegible]更衣ニナルトテモ、[illegible]思ハヌト、心ノ底ヲ[illegible]」

にょごのしま（名）〔女護島〕又、にょごがしま。にょうごがしま。女子ノミ棲メリト云フ想像ノ海島ノ名。八丈島ノ[illegible]トモ云フ。[illegible]コロニ聚ル山モナケレバ、是ヨリ女護の島ニワタリ[illegible]」

にょこん（名）〔女根〕[illegible]

にょざい（名）〔如在〕ぢょさい（如在）ノ條ノ（一）ニ同ジ。[illegible]

にょさう（名）〔女相〕女ノカタチ。又、にょたい（女體）ニ同ジ。

にょさんのみや（名）〔女三宮〕[illegible]女三宮ヲ給ヒヌ、帝后、イトコトニ思ヒ聞エ給ヘル宮ナレバ」（二）特ニ、源氏物語ニ因リテ名高キ源氏ノ[illegible]

にょし（名）〔女子〕〔又、ぢょし〕（一）ヲンナノ子。ムスメ。[illegible]枕草子、二、十四段、すさまじきもの「博士ノ打チ續キにょし生マセタル」

にょじゅう（名）〔女孺〕にょうじゅ（女孺）ニ同ジ。字類抄「女孺、ニョシウ、女官」

にょしのみや（名）〔女四宮〕皇女ノ第四ノ宮。貫之集「延喜十八年二月、女四の宮ノ御髮上ノ屛風ノ歌」

にょしやう（名）〔女性〕又、ぢょせい。生レテ女ナルコト。ヲンナ。婦人。[illegible]記、二、天下怪異事「七大寺[illegible]ノ、女性ヲ具足シタル例ニ見セテ」

にょじゅ（名）〔女孺〕にょうじゅ（女孺）ニ同ジ。[illegible]女孺」名目抄、女孺[illegible]モリ、カモリノにょじゅドモ、サリガシクイソギトト[illegible]

ノヘタルニ」[illegible]サント申シ上レバ」

にょじょ（名）〔女叙〕[illegible]

にょじゅゐ（名）〔女叙位〕女官ノ叙位[illegible]

にょぜ（句）〔如是〕[illegible]初ニ、是くの如くノ意ニ用ヰル。カクノゴトシ。カクノゴトキ。[illegible]

にょぜがもん（句）〔如是我聞〕[illegible]我聞ケリト、阿難ガ親聞ナリトコト[illegible]

にょソウ（名）〔女僧〕アマ。比丘尼。[illegible]

にょたい（名）〔女體〕[illegible]

にょだう（名）〔女道〕[illegible]

にょっきり（副）[illegible]

にょっぽり (副) 次條ノ語ニ同ジ。

にょっと (副) メノマヘニ、突然モノナド、サシ出ス狀、又、突然ニアラハレ來ル狀ニ云フ語。ニョッコリ。ヌット。ニュット。好色一代男(天和、西鶴)七「彌七、棕梠バウキニ四手切ッテ、ムシコヨリにょっと出ダセバ、丸屋ノ二階ヨリ大黑惣、美酒ヲサシ出ス」

にょてい (名) [女帝] 又、ぢょてい。ヲミナノミカド。女性ノ皇帝。我ガ國ニテハ、推古天皇ヲ初トス。榮花物語、廿八、若水「昔、カシコキミカトニ、女帝立テ給ヘル例、多クゾアルヤ」水鏡、上、飯豐「ツギノミカド飯豐天皇ト申キ、コレハ女帝ニオハシマス」盛衰記、二、二代后「附、高天皇后事 高宗崩御ノ後、皇后、女帝トシテ二十一年アリテ、位ヲ中宗帝ニ授ケ給ヒケリ」

にょでいにん (名) [如泥人] (泥ノ如キ人ノ意) ナマケモノ。シマリナキ人。大鏡、上、後一條「御心バヘゾ懈怠シ、スコシハ如泥人トモ聞コエツベク」

にょとうぐう (名) [女春宮] 皇女ノ春宮(トウグウ)ニ立タセ給ヘルモノ。

にょにのみや (名) [女二宮] 皇女ノ第二ノ宮。

にょにゃく (名) [女若] 女道ト、若道ト。女色ト、男色ト。遊樵三重帷子(享保、近松作)上「諺ヒ晴ラス爲男色、女若ニツノ戀草ヲ」

〜にょにん (名) [女人] ヲンナ。婦人。婦女。(僧ナドノ語) 盛衰記、九「一切女人、皆是衆惡之所住處」源、三十八、夕霧「女人ノアシキ身ヲウケ、長夜ノ闇ニマドフ」謠曲、竹生島「弱クモ此島ハ、九生如來ノ御再誕ナレバ、コトニ女人コソマヰルベケレ」「女人結界」

にょにんきんぜい (名) [女人禁制] 婦人ノ立入ルヲ禁ズルコト。眞俗佛事編、六、雜記餘「靈場禁二女人一」

にょにんけっかい (名) [女人結界] 女人禁制ノ結界。けっかい(結界)ノ條ヲモ見ヨ。醒睡笑(元和、安樂庵策傳)七「弘法ノツイデニ、位高キ上﨟ノ、高野山ハ女人けっかいト聞クナレバ、生ヲカヘテナラデハト、思ヒ續ケタマヒテ」

にょぼふ (動) [呻吟] 〔によぶノ延〕 次條ノ語ニ同ジ。

にょふ・ふ・ふ・へ・ハ・ヒ・へ (自動、四) [呻吟] 次條ニ同ジ。

〜にょぶ・ぶ・べ・バ・ビ・べ (自動、四) [呻吟] 〔寐呼ぶノ義〕 又、によふ。にえぶ。ウメク。ウナル。ニヨバフ。ニジヨフ。落窪物語ニ「文遣ラムトテ、歌によび居ル」宇治拾遺、六、第九條ニ「一ツノ隔テアリ、云云、内ヲ見レバ、人多クアリ、或ハ死ニ、或ハによぶ聲ス」萬葉集、十四、ニ「不盡ノ根ノ、彌遠長キ、山路ヲモ、妹許ト言バ、氣爾餘婆(ケニヨバ)ズ來ヌ」(氣ハ息ナリ) トアルモ、コレナルベシ。竹取物語「によぶによぶ擔ハレテ」垂仁紀、廿八年十一月「數日不死、晝夜泣吟(イサチニヨフ)」名義抄「吟、ニヨフ、ナゲク」靈異記、中、第廿二緣「呻、爾與フ」

にょべっとう (名) [女別當] 齋宮ノ女官ノ稱ト云フ。本朝世紀、仁平三年九月十四日「被レ下二齋宮女別當(藤原經子)、内侍(顯子女王)宣旨等一」狹衣、三、下九「ヤンゴトナキ人人十人バカリハ、女別當ナドノオナジ綠毛ニテ」

〜にょぼうしょ (名) [女奉書] 古ヘ、勾當内侍ガ敕ヲ受ケテ書キシ文書。

にょボサツ (名) [女菩薩] いきぼとけ(生佛)ノ條ヲ見ヨ。

にょほふ (副) [如法] 〔字ノ音讀〕 (一) 佛經ノ語。法ノ如ク。丁度。沙石集、二、下、第八條「彌勒ノ行者ニテ、内院ノ上生ヲ願ヒ、如法修行ノ上人ナリケリ」同、同「鈴ノ印ヲ結ビテ振ルニ、如ム、有リ難キ鈴ノ音シケリ」無言抄、下「應二當信順如法修行二」大鏡、上、時平「御祈リモ如法ニ行ハセ給ヒシ」(二) モトヨリ。イフマデモナク。コヨナク。イミジク。盛衰記、廿二、宗遠小次郎値二「如法、夜半ノ事ナレバ、關守風リァ驚カズ」同、廿、工藤介自害事「茂光ハ如法、肥エ太リタル男ナリ」平家物語、十一、鏡之沙汰「如法、夜半ノ事ナレバ、内侍モ女官モ皆リアハズシテ、内侍所ヲ出シ參ルニモ及バズ」盛衰記、十八、文覺清水狀「如法、交覺、ヲ取向クテ見レバ、如法猛樣ナリ」前太平記「寔和、藤本北一七如法、卑賤ノ海人ナレバ、サセル設ケモ無ク候」長唄、外記節、猿「如法ヤ、ナンナゲ頭巾」今宮心中(寶永、近松作)上「菱屋ノ五郎八如法ナル氣モ丸額ニコヤカニ」

にょぼん (名) [女犯] 僧ノ、邪淫(ジャイン)ノ戒(カイ)ヲ犯スコト。僧ノ、女ト肉ノ交リヲナスコト。阿含經「一見二於女人一永結三三塗業一況於二一犯一之一」御定書百箇條、女犯之僧、御仕置之事「高野萬年草(寶永、近松作)上「假リニモ女犯ノ穢ガアレバ、山ヲ罷リ出ル…其身ハ狗賓ニ五體ヲ裂レ、木ノ枝ニカケラルルハ、目ニモ見セ咄モ聞カウ」

にょむげんはうやう (名) [如夢幻泡影] 佛經ノ語。世法ノ實體ナキコト、ユメ、マボロシ、アワ、カゲノ如シト云フ意。金剛般若經「一切有爲法、如夢幻泡影、如露亦如電、應レ作二如是觀一」今川了俊(元祿、近松作)一「惣ジテ、夢ハ如夢幻泡影トテ、定メガタキ物ニテ有リ」

にょんにょ (名) にょいにょいニ同ジ。驢鞍橋「ワコノ抱守リ、袴キタ馬、跳アフ時、首デにょんにょヲ、碁石雛」(白黑ノ碁石ニテモスレバナリ)

にょヤシャ (名) [女夜叉] 女體ノ夜叉。やしゃ(夜叉)ノ條ヲモ參見セヨ。

にょらい (名) [如來] 〔梵語、多陀阿伽陀 (Tathāgata.) ノ譯語。如ハ眞如、卽チ、眞如ノ道ニ乘ジテ三界ニ來リ、化ヲ垂ルルモノ、卽チ、眞理ノ具象化シタルモノノ意ト云フ〕 成實論、一「如來者、乘二如實道一來成二正覺一、故曰二如來一」 佛ノ尊稱。大法門。傳法總門「十號名、如、自覺名來」正覺ニ就名「如、來」榮花物語、十五、疑「大寺ノ如來ノ壇上也」寶上ノ菩薩(正德、近松作)三「拜ミ願フハ、今望ル如來樣御開山、佛ニ讓ハツカヌゾ」「阿彌陀如來、大日如來、藥師如來、釋迦如來」

にょらいしん (名) [如來身] 佛教ノ語。佛果ノ德ノ圓滿シタル體。卽チ、無上正覺ヲ證得シタル佛陀ノ身體。

にょらいばい (名) [如來唄] 佛教ノ語。佛德ヲ讚嘆シタル八句ノ偈(「如來妙色身、世間無與等、無比不思議、是故今敬禮、如來色無盡、智慧亦復然、一切法常住、是故今敬禮」勝鬘經)ヲ、梵唄ノ調子ニテウタフモノ。太平記、十一、書寫山行幸事「マタ延暦寺ノ中堂供養ノ日ハ、上人、當山ニ坐シナガラ、仄ニ如來唄ヲ引キ給ヒシカバ」

により (名) [似寄] 似寄ルコト。類似。近似。八笑人(文化、鯉丈)初編、上「似寄りドコロカ、南瓜ヲ、ツニ割ラズニ其ノ儘ダ」

によ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [似寄] 近ク似ル。善ク似ル。ニツカハシクナル。能ク類似ス。近似。

にょろにょでん (句) [如露如電] 佛經ノ語。世法ノ實體ノ、露ノ如ク電ノ如キコト。にょむげんはうやう(如夢幻泡影)ノ條ヲ見ヨ。法門百首「イナヅマ、光ノホドカ、秋ノ田ノ、ナビク穗末ノ、ツユノ命ハ」

にょろにょろと (副) (一) 長キモノノ、ウネリテ、ヌメリ行ク狀ニ云フ語。(多ク蛇、鰻ナドニ) ヌラリ、ノラリ。ノコノコ。ノソノソ。好色一代女(貞享、西鶴)三「コレヲ悋氣ノ始メトシテ、我レヲ恐レテにょろにょろ

と違ミテ」（二）モコヨフ狀ニ云フ語。（三）ウネリ高ク上ル狀ニ云フ語。

にょろり（名）［霸王樹］さぼてん（霸王樹）ニ同ジ。（伊豫）

✢にょろりと（副）確トハセズシテ、延ビタル狀ニ云フ語。（蛇ナドニ）重ネテ、にょろりにょろりとトモ云フ。狂言記、鼻取相撲「目ノ前へ、にょろりにょろりと出ル」

にょうわう（名）［女王］「又、ぢょわう」（一）女ノ王。舒明即位前紀「女王」（二）天子ノ孫女ヨリ、曾孫女、玄孫女、マデノ稱。（五世以下ハ命婦、宮人、ノ別ニ入ル）

にょうわうろく（名）［女王祿］わうろく（王祿）ノ條ヲ見ヨ。

にょうゐん（名）［女院］にょうゐん（女院）ノ條ヲ見ヨ。

にら（名）［韮韭］〔みらノ轉〕古言、カミラ。コミラ。ミラ。ナメミラ。異名、フタモジ。菜ノ名。葉ハ、小葉ノ麥門冬ニ似テ、稍ク厚ク、色淺シ。一根ニ長ク叢生シ、臭氣多シ。幾度モ刈取リテ、復々生ズ。夏、數莖ヲ生ズ、高サ一尺許リ、梢ニ小枝、數十ヲ出シ、上ニ三分許リノ六瓣白花ヲ開ク、のびる（野蒜）ノ花ノ如シ、實圓ク、内ニ小黑子アリ。野生ナルヲ、やまにらト云フ、又、水中ニ生ズルヲ、みづにらト云フ、臭氣ナシ。おほみらハ、らっきょうナリ。名義抄「韮、ニラ、コミラ、薤、ミラ、ニラ」

にらき（名）［薤菹］〔楡皮ノ粉ト、鹽トニテ、漬ケタル菜ノ意カ〕今、かうのもの（香物）ノ類。［illegible］

にら・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）［淬］燒キタル鐵ナドヲ、水ニ入レテ鍛ル。名義抄「淬、ニラク、染、ニラク、ソム」字類抄「染、淬、煮、ニラク」［illegible］ニラク、［illegible］也」［淬、ニラク、文選」

にらくりう（名）［二樂流］和様書風ノ一流。飛鳥井二樂軒雅康ノ創メタルモノ。［illegible］宋世、［illegible］飛鳥井家ノ庶流ナリ、［illegible］世ニ二樂流ト稱ス、文明中ノ人」

にらふ（名）［二﨟］六位ノ藏人ノ稱。日中行事（後醍醐天皇）「一﨟、簪ヲトラヌホド、二﨟以下、コレヲ待ツ」

にらま・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下）［睨］にらむ（睨）ノ延。瞰ミツクル。ニラマヘル。［illegible］［illegible］マナコヲ見イカラカシ、［illegible］シバシにらまへ［illegible］［illegible］「目ヲ怒ラカシにらまへテ」

✢にらま・へる（［illegible］）［瞰］前條ノ語ノ口語。

にらみ（名）［瞰睨］（一）ニラムコト。又、ニラムサマ。（二）他ヲオサヘツクル威勢。威壓。「にらみガキク」（三）建築ニ云フ語。ツリアヒ。對照。「コノ柱トアノ柱ト、にらみガワルイ」

にらみあひ（名）［瞰合］ニラミアフコト。

にらみあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［瞰合］（一）互ニ瞰ム。好色五人女（貞享、西鶴）二「道中兩方にらみあひテ」（二）照リ合フ。照應

にらみくら（名）［睨比瞰鏡］小兒ノ戯。瞰ミ合ヒテ、［illegible］負トスルモノ。目競。ニラメックラ。一茶の句「オレトシテ、にらみくらスル、蛙カナ」

にらみる・ミル・ミレ・ミ・ミ・ミヨ（他動、上二）［illegible］［illegible］ミル、ニラム」

にら・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［illegible］〔にらみるノ轉〕（一）［眼ヲ怒ラカシテ見ル。［illegible］字鏡「睨、邪見也、與己目爾［illegible］、又、［illegible］」［illegible］記、中、第三［illegible］、ニラム」［illegible］［illegible］屋大連邪睨大怒」著聞集、六「［illegible］ナホアシゲニ思ヒテ、にらみケレバ」（二）見込ヲツケル。［illegible］見當ヲツケル。目ボシヲツケ［illegible］

にらめっくら（名）［睨比瞰鏡］にらみくら（瞰鏡）ニ同ジ。

にらやまがさ（名）［韮山笠］被笠ノ一種。側面ヨリ見レバ、開キタル扇子ヲ［illegible］伊豆、韮山ノ代官、江川太郎左衞門、［illegible］廿六、笠「韮山笠、一名、［illegible］、京都ニ所［illegible］安政［illegible］リ、尾ニ記號等、箭羽ニ描クモアリ」

ニリム（［illegible］）［illegible］［illegible］村）、及、すくり（村主）ノ條ヲモ見ヨ。［illegible］

にる・ニル・ニレ・ニ・ニ・ニヨ（自動、上一）［似］［illegible］〔［illegible］ニ通ズ〕互ニ同ジ狀ニ見ユ。［illegible］

［illegible］又。［illegible］似タリ寄ッタリトハ、［illegible］似テ、［illegible］

にる・ニル・ニレ・ニ・ニ・ニヨ（他動、上一）［illegible］〔煮ゆノ他動〕沸カシテ熱ヲ徹ス。火［illegible］［illegible］ガ、［illegible］ル睾、［illegible］

にれ（名）［楡］〔滑ノ轉〕。［illegible］

にれが・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［illegible］（ねりがむノ轉）［illegible］

百六段「牛ハナレテ、云云、大理ノ座ノハマユカノ上ニノボリテ、にれ打チかみテ、臥シタリケリ」

にれもみ (名) [楡樅] 樹ノ名。樅ニ似テ、大和、下野、等ノ山ニ多シト云フ。本草一家言、三「欅、一名西河柳、樹葉似樅及樅而極細、葉白、云云、今宇北山、含山文珠楼前、有二一株、土人呼ニ爲楡樅、又野州日光山中多生」

にろく-ぢちゅう (名) [二六時中] (往時ノ晝六時、夜六時、合ハセテ十二時ノ間ノ義) 晝夜絶エヌコト。終日終夜。始終。年百年中。

にわう (名) [二王仁王] 佛法守護ノ二神ノ稱。左輔ヲ密迹金剛ト云ヒ、右弼ヲ那羅延金剛ト云フ。共ニ勇猛獰悪ノ相ヲナス。金剛力士ナド云フ。此二神ノ像ヲ、社寺ノ門ノ左右ニ安スルヲ、仁王門ト云フ。こんがうりきし(金剛力士)ノ條ヲモ見ヨ。 和漢三才圖會、十九、佛器「二王、左輔金剛、右弼金剛」 續紀、三十六、寶龜十一年正月、詔「仁王御、聽法日悦護」 東寶記、一、佛寶「南大門(東寺)二王作者、運慶大佛師、金剛(東)運慶、力士(西)湛慶、云云、東(開口像)名金剛、西(閉口像)名力士」 榮花物語、廿九、玉台「中ノ間ノ高キニ中尊オハシマス、ソノ御ソバニ十弟子ナミタリ、二王ナド立ナ給ヘリ」 狂言記、二王「上ノ山へ、天カラ貴イ二王ガオ降リナサレタ」

にわう-だち (名) [仁王立] 仁王ノ立チタル如ク、勢ヲ張リテ立ツコト。太平記、八、四月三日合戰事「六波羅殿ニ直ニ對面申サント存ズルナリト高言吐イテ、二王立チニゾ立チタリケル」

にわう-もん (名) [仁王門] にわう(仁王)ノ條ヲ見ヨ。 日光禮志「仁王門、桁行京間四間六寸五分、梁間同二間七寸六分、云云」 好色二代男(貞享、西鶴)五、壽波ノ大寺ニ入リテ、云云、二王門ヲ出ル時」

にわう-ゑ (名) [仁王會] にんわうゑ(仁王會)ニ同ジ。 名目抄「仁王會、にむおうト可云也、是ハ訛也」

にゐ (名) [二位] くらゐ(位)ノ條ヲ見ヨ。ニノハシ。

にゑ (名) [二會] 佛教ノ語。古ヘ、京都ノ圓宗寺ニテ行ヒシ法華會ト、法勝寺ニテ行ヒシ大乘會トノ稱。 拾芥抄、中、二會トハ何ゾ、圓宗寺法華會、法勝寺大乘會也、法華會ハ五箇日、十二月ニ在之、但无定日也、大乘會ハ後三條院、延久四年十月二十五日ニ所始也、大乘會ハ、白河院、承暦二年十月十六日ニ所始也」

ぬ

ぬ 五十音圖、奈行第三ノ假名。(なノ條ヲ見ヨ)

ぬ (名) [野] (綏きノ意) 野ノ古言。 古事記、上、上「次生野神、名、鹿屋野比賣神」 雄神紀、十三年三月「イサアギ怒ニ、蒜摘ミニ、蒜摘ミニ、我ガ行ク道ニ、香花橘」 雄略紀、十二年十月「伊勢ノ奴ノ、榮ヲ、五百世經ル懸テ、其之盡ルマデニ」

ぬ (名) [沼] (粘滑ノ義) ぬま(沼)ニ同ジ。 倭名抄、一、河海類「沼、奴」 古今集、十九、誹諧「隱レぬノ、下ヨリ生フル、蓴菜ノ、寐ヌ名ハ立テジ、クルナ厭ヒソ」 夫木抄、廿四、沼「緑ぬニ 浮キタル蓴、クレナヰニ、水ニゴルナリ、波タツナユメ」

ぬ (名) [瓊] (にノ轉) タマ。に(瓊)ノ條ヲモ見ヨ。 古事記、上、上「瓊之茅モ瑲瑲ニ」 神代紀、上、上「以天之瓊矛」注「瓊、玉也、此曰、努」

ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ (自動、下二) [寐寝] (一) ヨコニナル。足サシノベテ、横ニナル。

眠ス。寐ル。寝ル。 字鏡抄、「寐、ヌ」 好忠集「…マネド、…モ汗コキ、…ナレハ…違ヤぬトヤ、心ヘタテム」 萬葉集…ぬるゴトニ、…カヘス、冬ノ夜ニ、夢ニダニヤハ、君ガ見エ來ヌ」 (二) [眠ニ試ク。寝ス。] 古今集、十一、戀、一「ツレモナキ、人ヲヤネタク、白露ノ、起クトハ歎キ、寐トハ忍バム」 和泉式部集「寢メタル、人モ無ケレド、秋ノ夜ハ、月見テ寐ベキ、心地コソセネ」 源、五十、浮舟「寐ぬる夜ノ夢ニ」 催馬樂、貫河「ヤハラカニ、ぬる夜ハナクテ」 萬葉集、十五、三十九「サヌルヨハ、オホクアレドモ、モノモハズ、安クぬる夜ハ、サナキモノヲ」 同、十二「…タタヒトリ、ぬトカネテ、シロタヘノ、袖ヲ笠ニキ、スレツツゾ來シ」

ぬ・ヌル・ヌレ・ナ・ニ・ネ (助動) [畢了] (往ぬノ約ト云フ) 現在完了ノ意ヲ云フ助動詞。粗、つ、又、たり、ニ同ジ。 秋齋閑語(…)…田義俊)四十三段「假字モノニぬト書ルヲ、漢字ニ譯スレバ、矣ノ字ナリ」「行キぬ」矢セぬる」有りなム」

ぬ (助動) [不] 打消ノ助動詞ノずノ變化。「見ぬ人」

ヌウボウ-ホうき (名) (ぬうぼうハ、佛蘭西語、Nouveau. ニテ、新しき、新規、ナドノ意) 圖案ノ一新方式。同ジ太サノ線ニテ描キ、輪郭ナドヲ限取リタルモノ。單調ニシテ情味ニ乏シキモ、何トナク素朴ニシテ、溫藉ノ感アリ。故ニ、轉ジテ、輪郭ガ大まかニ漠トシテ、不得要領ナレドモ、何トナク面白ク感ゼラルル人物ノ動作ナドニ云フ。

ぬえ (名) [鵺鵼] (和ニテ、ナビク聲ニ云フ、卽チ、恨ムル如ク、ウラブル如ク、シナフガ如クナレバ云フト) (一) 又、ぬえどり。ヌエコドリ。梟ノ類。世ニ怪鳥トシテ、其鳴クヲ凶兆トス。吉野山等ノ深山ニ棲ム。大キサ鳩ノ如ク、黄赤ニシテ、黒斑アリ。背ノ上ハ黒ク、

下ハ黄ニシテ、嘴、脚、黄赤ナリ。黄昏ハシ、夜出デテ、樹ノ梢ニ鳴ク、聲、小兒ノ呼ブガ如シ。鬼ツグミ。關東、虎ツグミ。 倭名抄、十八、羽族名「鵼、訓奴江、古事記、上「青山ニ、奴延八鳴キ」 字鏡「鵺、鵼也」 (二) 近衛天皇ノ時、源賴政ガ射テ獲タリト云フ、想像上ノ怪獸ノ名。猿首、虎身、蛇尾ニテ、聲ハ鵺ノ如シ(平家物語、四)ト云ヘルヨリ移リテ、世ニ誤リテ、其名トス。(三) 物事ノ、種種、混亂シテ、統一セザルモノヲ云フ語。「鵺式ノ文」

ぬえ-くさ (名) [和草] (萎草ノ義ト云フ) (一) ナヨカナル草。シナヤカナル草。シヲレタル草。(二) さきくさな(薺苊)ノ異名。 蒸鹽草(寬文、僧宗碩)二「薺苊、薺花、ヌエクサ」

ぬえくさ-の (枕) [和草] 婦人ノシナヤカナル狀ヲ、和草ニタトヘテ、女ト云フ語ニ冠ラスル枕詞。 古事記、上、九「ヤチホコノ、神ノ命、奴延久佐能、メニシアレバ、ワガ心、ウラスノ鳥ゾ」

ぬえ-こ-どり (名) [鵺子鳥] ぬえ(鵺)ノ條ノ(一)ニ同ジ。ヌエドリ。

ぬえこ-どり (枕) [鵺子鳥] 次次條ノ語ニ同ジ。 萬葉集、一、八長歌「ムラギモノ、心ヲ痛ミ、奴要子鳥、うらぶれ居レバ」

ぬえ-どり (名) [鵺鳥] (一) ぬえ(鵺)ノ條ノ(一)ニ同ジ。(二) 一體ニ數樣ノ體ヲ成スモノ。

ぬえどり-の (枕) [鵺鳥] 又、ぬえこどりトモ云フ。鵺鳥ノ鳴聲ハ、啁聲ニテ、物悲シク、又、人ヲ戀フル如ク聞ユレバ、片戀、うらなく、のどよび、ナドニ冠ラス

ル杜詞。萬葉集、二〇三十長歌「アヤニカナシミ、宿兄[illegible]ツマ、[illegible]ノ、通ヒシ君ガ、[illegible]ノ、思ヒシナエテ」同、十五、久方ノ、天漢原ニ、奴延鳥之、うらなけマシツ、トモシキマデニ」同、十七三十長歌「奴[illegible]、うらなけシツツ、[illegible]ニ、思ヒウラブレ」

ぬえふ・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）[偃]〔萎〕え臥すノ轉ト云フ〕倒レ臥ス。ウツブス。ノエフス。

ぬか（名）[糠]〔脱皮ノ略ト云フ〕米ヲ包ム薄キ皮。搗ケバ粉トナリテ脱ス、牛馬ノ食トシ、田畠ノ肥トシ、又、鹽ニ和シテ蔬菜ヲ漬ケ、物ヲ洗ヒテ、垢脂ヲ去リ、凶年ニハ食用トスルナド、用多シ。今、粉糠トモ云フ。米粃 其上ヲ包メルヲ、あらぬか（麁糠）トス。モミガラ。糠 稃 倭名抄、十七「米類、糠、[illegible]、米皮也」一本、[illegible]、阿良奴加、[illegible]也」字鏡六十「粃、奴可」稃、須久毛」名義抄、稃、アラヌカ」（粃、稃共ニ當ラズ）

ぬか（名）[額]〔人ノ相逢フ、先ヅ其額ヲ見ル。向ニ通ズルカ〕（一）ひたひ（額）ニ同ジ。名義抄「額、ヌカ、ヒタヒ」字類抄「額、ヌカ」姓氏錄、第二帙、左京神別「額田部湯坐連、[illegible]御馬一匹、額有町形廻毛、天皇嘉之、賜姓額田部」也」枕草子、七、六十四段「文ドモヲ、ハジメノハ、[illegible]部ノ君ノ額ヲサヘ突キテ、トリ給ヒテキ」同、六、五十八段「カタハラニ、ヨロシキ男ノ、イトシノビヤカニぬかナドツク」紫式部日記「勾欄ノ程マデ立チコミタル者モ、俗モ、今ヒトヨリトヨミテ、額ヲツク」神代紀、上三二「額田部連」（二）額ヲ突クコト。叩頭 拜スルコト。ヌカヅクコト。枕草子、六、五十八段「あはれなるもの、ヨキ男ノ、若キガ、御嶽精進シタル、云云、暁ノぬかナド、イミジウアハレナリ」堀河百首「初メナキ、罪ノツモリノ、悲シサヲ、ぬかノ聲聲、クドキタツナリ」額を突く、トハ、額ニテ地ヲツキテ、禮スル意。ヌカヅク。榮花物語、十六、本雫「年頃額ミ奉リツル不動仁王[illegible]、[illegible]へ[illegible]、額を突きマドヒ給フ」

ぬかあぶら（名）[糠油] 米ノ糠ヨリ採リタル油。[illegible]、又ハ、[illegible]ニシテ、[illegible]ノ[illegible]ナドニ用キル。

ぬかあめ（名）[糠雨] 極メテ細カナル雨。コヌカアメ。キリアメ。コサメ。細雨 微雨

ぬかえ（名）えごま（紫蘇）ノ異名。ノラエ。倭名抄、十七[illegible]、[illegible]、其實黑白[illegible]、乃良衣、一云、[illegible]加衣」字鏡集[illegible]、ヌカエ、イヌエ」重[illegible]（享保、新井君美）十三、[illegible]「蘇ヲぬかえト云フハ、荏ノ類ニシテ、葉ノ細ナルヲ云ヒシナリ」

ぬかえび（名）[糠蝦] あみ（醬蝦）ノ一名。

ぬかが（名）[糠蚊] 古名、カツヲムシ。マクナギ。蚊ノ類。蚊ヨリ小サク、大キサ一分許リ、色白ク、首ニ翼アリ。翅ハ暗色ニシテ、黑キ斑アリ、常ニ草叢ノ間ニ棲ミ、數百、群ガリ飛ブコト、[illegible]ク如クナレバ風起リ、春ク如クナレバ、雨降ル（或ハ、風雨、反對ナリトモ云フ）ト云フ。又、俗ニ、蚊ガ[illegible]ヲ搗クト云フ。ヌカゴ。蠓蠛 天治字鏡、八廿「蜹、虻、奴可我」名義抄「蚋、ヌカカ」

ぬかがき（名）[樓額]〔額縣ノ義〕馬ノ頭ヲ覆ヒ、具ノ名、今、銀面ト云フ。倭名抄、十五[illegible]具[illegible]、[illegible]「[illegible]」名義抄「樓額、ヌカカキ」

ぬかがみ（名）[額髮] ヒタヒガミ。今ノ前髮。倭名抄[illegible]、[illegible]、俗云、[illegible]、[illegible]萬葉也」字類抄「[illegible]、ヌカカミ、ヒタヒカミ」

ぬかくぎ（名）[糠釘] 釘ノ極メテ小サキモノノ名。

ぬかぐり（名）[糠栗] しばぐり（柴栗）ニ同ジ。

ぬかご（名）[零餘子] [illegible]子ノ[illegible]、[illegible]ハ小[illegible]

ぬかご [illegible]

ぬかやき [illegible] 蚊）ニ同ジ。

ぬかご [illegible] むかご（零餘子）ニ同ジ。倭名抄[illegible]

ナル意カ」[illegible]かおナドノナリタリケルヲ見テ」

ぬかやき（名）[illegible] 下ノ出具ヲ見ル。[illegible]ヲ皮ニ二分許リツケテスキテ、ソレヲ[illegible]サ九分許リニ切リテ、串ニサス、スリビシホツケテアブルベシ」

ぬか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[抜]（一）抜キテ除クル。洩ラス。脱（二）ナ洩ラス意ヨリ轉ジテ、物言フ。口ニ出ス。〔[illegible]ル[illegible]〕[illegible]トぬかす、オノレ[illegible]ガナラヌ」「タハコトぬかす」

ぬか・す・ス・セ・サ・シ・セ（[illegible]）[illegible] ノ[illegible]」[illegible] ナシト、ナワビ君ガ夫子、ホトトギス、鳴カム早月ハ、タマヲぬかさネ」

ぬが・す・ス・セ・サ・シ・セ（[illegible]）[illegible]（逃）ノ轉。冥途飛脚（正德、近松作）下、[illegible]ハイトシヤ、早ウぬがしテクレヨトテ、狂亂ニナッテザヤ、[illegible]ノロトハ只今、サアサア[illegible]道カラ[illegible]所街道、山ヘカカッテ逃カシャレト」

ぬかづき（名）[酸漿]〔苦之木ノ轉ト云〕[illegible]草ノ名 [illegible] 同[illegible] 字[illegible] [illegible]七[illegible] [illegible] [illegible]都鼓」枕草子、三、三十四段「夕顏ハ、朝顏ニ似テ、云云、[illegible]ノ[illegible]、イト[illegible]、[illegible]ぬかづきナドイフモノノヤウニダニアレカシ」

ぬかづきむし（名）[叩頭蟲]〔[illegible]〕こめつきむし（米搗蟲）ノ古名。倭名抄[illegible]

ぬかづ・く・ク・カ・キ・ケ（自動、四）[叩頭]〔額突くノ義〕額ニテ地ヲ突ヘテ禮ス。ヌカツク。頓首。頓首シテ禮ヲナス。額ヲ突ク。[illegible]字[illegible]抄「叩頭、ヌカツク」[illegible]、[illegible]人ヲ思フハ、大寺ノ、餓鬼ノシリヘニ、額ヅク如シ」同[illegible]トニ同、[illegible]、[illegible]ニツカミ、代シ[illegible]、カカクズモ、カカリモ神ノ、マニマニト、[illegible]、同、[illegible]タクリウジニヤアワシ、タダオキナガタル額ニぬかづくゾ聞ユル、[illegible]ノケハヒ[illegible]ヘ[illegible]カルベシ」

ぬかつけ（名）[糠漬] [illegible]ヲ加ヘナドシテ、桶ニ貯ヘ置キテ、蔬菜、[illegible]ヲ漬ケテ[illegible]、[illegible]東國ニ、ヌカミソヅケ。ドブヅケ。

ぬかどり（名）[illegible] 小鳥ノ名。[illegible]ニ似テ小サク、灰白色ニシテ、青ミアリ。[illegible]ク[illegible]リテ、聲、淸圓ナリ。和[illegible]三十[illegible]、四十[illegible]、[illegible]記、月令[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]（ヌカドリトナル）」

ぬかな・ふ・ソ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）[illegible] [illegible]行ク。[illegible]十四「[illegible]、ウハコナハ、リメ[illegible]ノ[illegible]トツクノ、[illegible]クバ、[illegible]カルナモ」

ぬかぬかと [illegible] モノノ不意ニ、現ハレ出ヅル狀ニ云フ語。ヌカヌカト。[illegible]本、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]ンデ[illegible]ン、[illegible]所ヘ、[illegible]ぬかぬかと出デ、[illegible]ク、ヤア[illegible]シイ[illegible]」

ぬかは（名）[額齒]〔向齒ノ轉ト云フ〕上ノ前齒。ムカフバ。倭名抄、[illegible]、[illegible]（[illegible]、字類抄「[illegible]、ヌカハ」

ぬかばへ（名）[糠蠅] 又、コヌカムシ。[illegible]ノ[illegible]轉[illegible]ニ[illegible]

ぬか-ぶくろ (名) [糠袋] 浴(ユアミ)スルトキ、糠ヲ盛リテ、膚ヲ洗フニ用ヰル小サキ袋。浮世風呂(文化、三馬)三編、下「母親ハ片手デ留桶ノフチヲ押ヘ、右ノ手ニぬかぶくろヲ遣ヒナガラ」

ぬか-ぼし (名) [糠星] (一)大空ニ滿チ布クル無數ノ小サキ星ノ稱。冑 (二)星兜ノ鉢ノ、小サキ星ノ稱。

ぬか-ミソ (名) [糠味噌] (一)古クハ味噌ノ一種トシ、米糠ト麴ト白大豆ト鹽トニテ造リシモノ。一名、糂粏味噌。ぢんだ。ささ煮ん 各條ヲモ見ヨ。(二)今、狐色ホドニ炒リタル糠ヲ、濃キ白水一升ニ鹽五合ノ割合ニ入レテ、煮立テテ冷シタルニ入レ、手ニテヨク掻キマハシ、野菜ナドヲ漬クルニ用ヰルモノ。卽チ、糠漬ニスル材料ナリ。易林節用集(慶長)上、「糠味噌」 心中宵庚申(享保、近松作)上「皆ヲ糠味噌ノ味ハ、屋ヲ揉マリシ」 浮世風呂(文化、三馬)三編、下「ヤレヤレ、湯ト糠味噌ハ、トカクカキ廻スコトダ」

ぬかミソ-づけ (名) [糠味噌漬] 又、ぬかづけ。どぶづけ(溝漬)ニ同ジ。四季漬物鹽嘉言(天保)「糠味噌漬、又ハ糠漬トモ云フ」

ぬか-むし (名) [粕蟲] 米ノ糠ニ生ズル蟲。[illegible]、蟲「粕蟲、ヌカムシ」

ぬか-よろこび (名) [糠喜] 〔糠ニ釘、利目(キキメ)ナキ意カ〕 悦バシキ事ノ來タラムト、喜ビタル甲斐モナク、事ノ豫想ニ反シタルコト。コヌカイハヒ。

ぬからぬ-かほ (名) ヌカリノナキ顏付。落度ナド、タトヒアリトモ、サルヤウスナク、何クハヌ體。續鳩翁道話、二、下「コレ大根屋ト呼ビカケラレル、ぬからぬ顏デ、マカリマセヌト云フ」 一茶句集「[illegible]ノ、ぬからぬ顏デ、モドリケリ」

ぬかり (名) [泥濘] 地上ノヌカルコト。ヌカリミ。白氏文集、六、閑適、二「[illegible]泥濘中ニ」 爲尹卿千首「アゼヲ越ス、苗代水ノ、ホト見エテ、路ノぬかりノ、カワクマモナシ」

ぬかり (名) [空] 心ノ空(スカ)ルコト。油斷。

ぬかり-み (名) [泥濘] 地上ノヌカル處。泥多キ所。ドロミチ。ヌカリ。スカルミ。

ぬか・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [泥濘] 地ニ泥多クシテ、歩ミ難クアリ。雨後ノ路、ウルホヒテ、泥ブカクアリ。白氏文集、三、諷諭、三「[illegible]」

ぬか・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [空] 〔溫(ヌル)くあるノ意。或ハ云フ、他ニ出しぬかるノ轉ト〕 心ニ油斷シテ、爲落(シオチ)ニナル。爲損ズ。油斷シテ、手落トナル。シソコナフ。迂闊。不注意。毛吹草(正保、維舟)「名ハスルデ、ぬからデ早キ、紅葉カナ」

ぬかる-み (名) [泥濘] ぬかりみ(泥濘)ノ訛。其條ヲ見ヨ。

ぬき (名) [拔] (一)拔クコト。除キ去ルコト。省クコト。除外。(二)拔キテ其處ヲアケ置クヨリ、出勤セヌコトニ云フ。(三)人ノ小刀、又ハ、目貫、笄ナド拔キ取ル盗人。老人雜話(享保、江村宗具)上「天正ノ頃、小賊、人ノ刀ニ着キタル目貫、笄ヲヌキトル、コレヲぬきト云フ」

ぬき (名) [緯] 〔貫(ヌキ)ノ義〕 (一)織物ノ横絲。卽チ、筟(クダ)ニ卷キテ、梭(ヒ)ニ容レ、横ニ經絲(タテイト)ヲ貫キ織ル絲。倭名抄、十四、機織具「緯、和岐、機横絲也」 古今集、一、春、上「春ノキル、霞ノ衣、ぬきヲ薄ミ、山風ニコソ、亂ルベラナレ」 同、五、秋、下「霜ノタテ、ツユノぬきコソ、ヨワカラシ、山ノ錦ハ、ヨレバカツ散ル」 (二)スベテ、竪ト打違ヒテ、横ニ亙ル物ノ稱。

ぬき (名) [貫] ぬきぎ(貫木)ノ略。横ニ柱ヲ貫キ持ツ材。用ヰル所ニヨリテ、種種名アリ。又、長サ二間、幅四寸(今ハ三寸五、六分)、厚サ一寸(七、八分)アルヲおほぬき(大貫)ト云フ。生玉心中(正德、近松作)中「卽座ノ智惠、窓ノ貫木(ヌキ)ニ帶ヲキ、ト結ビ下ゲ、サア取付イテブラ下レト」

ぬき-あし (名) [拔足] 歩ムニ、足音ヲサセジト、拔クガ如クニ、足ヲアグルコト。其踏ミ出スヲ差足(サシアシ)ト云フ。[踏地] 鷺歩 躡足 名義抄、躡踈、ヌキアシ、躡、スキアシ、スキアシ 今昔物語、廿七、第十話「公忠ノ辨、中橋ヨリ密カニ拔足ニ登リテ」 狹衣、三、中「拔足ニ寄リ來テ、障子ヲハナチテ、イササカ開クルヲ」 伊賀越道中雙六(天明、近松半二等)六「ぬきあしさしあし探り寄り」

ぬき-い・づ ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ (自動、下二) [擢] 〔拔き出づノ義〕 音便ニ、ぬきんづ。多クノモノノ中ヨリ拔キ出ル。名義抄「擢、ヌキイヅ」 字類抄「抽、擢、ヌキヅ」

ぬき-いで (名) [擢] 拔キ出ヅルコト。公任卿集「誰人コレスケガぬきいでニカウブリウベキ頃」

ぬき-いと (名) [緯絲] 織物ノ横絲。ヌキノイト。ヨコイト。

ぬき-いと (名) [拔絲] 古着ヨリ拔キ取レル縫絲。

ぬき-いれ (名) [貫入] 釧ニツケテ、腕首ヲ入ルル便リトスル紐ノ輪。

ぬき-いれ-そで (名) [拔入袖] 次條ノ語ニ同ジ。

ぬき-いれ-で (名) [拔入手] 手ヲフトコロニ入ルルコト。フトコロデ。ヌキイレソデ。宗五大雙紙(大永、伊勢貞頼)「[illegible]、マタ[illegible]ニ[illegible]時、腰ヲクミ、ぬきいれでスベカラズ」

ぬき-うち (名) [拔打] 刀ヲ拔ク手ノママニ切付クルコト。刀ヲ拔キナガラ切付クルコト。平治物語、二、義朝青墓落着事「鎌切ヲ以テ拔き打ちニ、シトト打タレケレバ、眞弘ガ眞向二ツニ打割ラレテ、ノケニ倒レテ死ニニケリ」 好色一代男(天和、西鶴)一「枕脇差、拔き打ちニ手應ヘシテ失セヌ」

ぬき-うつし (名) [拔寫] ぬきがき(拔書)ニ同ジ。

ぬき-えもん (名) [拔衣紋] ノケクビ。ヌキエリ。衣紋ヲ後ヘ押シ下ゲ、頸ヲ拔キ出シテ衣ヲ着ルコト。松屋筆記、九十三「退衣文(ノケエモン)、今ハ誤テ、ぬきえもんト云ヘリ」

ぬき-えり (名) [拔襟] 前條ノ語ニ同ジ。

ぬき-がき (名) [拔書] 他ノ書中ヨリ、用アル所ダケヲ拔キ出シテ書クコト、又、ソノ書キタルモノ。ヌキウツシ。抄書。鈔錄 抄錄

ぬぎ-か・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [脫掛] 脫ギテ、物ニ掛クル。今昔物語、廿四、五十六話「ワレガ身ハ、竹ノ林ニ、アラネドモ、サタガ衣ヲ、ぬぎかくるカナ」 古今集、四、秋、上「主シラヌ、香コソ匂ヘレ、秋ノ野ニ、誰カぬぎかけシ、藤袴ゾモ」

ぬき-かは (名) [貫河] 催馬樂ノ歌曲ノ名。

ぬき-かぶり (名) [繦車] 〔緯(ヌキ)、繦(クダ)ノ義カト云フ〕 絲ヲ筟(クダ)ニ卷キツクル車。今ノいとぐるま。倭名抄、十四、機織具「繦車、沼岐加不利、著絲於筟也」 天治字鏡、四「繦、車也、奴支加不利」 和漢三才圖會、三十六、女工具「繦車、和名、沼岐加不利、說文云、絡絲棒、著絲於筟也」

ぬき-ぎ (名) 貫木 はしらぬき(欄額)ニ同ジ。常ニ略シテ、ぬき。ぬき(貫)ノ條ヲ見ヨ。

ぬき-ぐし (名) 抽櫛 さしぐし(插櫛)ニ同ジ。吾妻鏡、八、文治四年九月十四日「[illegible]、[illegible]刀并抽櫛等[illegible]、[illegible]」

ぬき-こぢ (名) 抜巾子 古ヘ、元服ノ時ニ被リタル冠。巾子ト纓トヲ取リハナチテ造リタルモノ。冠儀淺尋抄、二「凡於冠儀[illegible]用抜巾子冠、是古來通例也」云云「古者自由抜[illegible]之巾子、近代之冠者、不可抜之、仍尋[illegible]用抜巾子冠、則別造之」

ぬき-さげ (名) 脱下 衣服ヲ脱ギ垂ラスコト。吾吟我集(慶安)八、雲「富士山ノ、雲ヨリドハ、白妙ノ、夏ノ衣ヲ、ぬぎさげトミル」 花見軍團(元禄)二「殿 女、脱ぎさげ袖ノ、タホヤカニ」

ぬき-さし (名) 抜差 (一)抜キ出スト、差シ込ムト。抽送 (二)轉ジテ、身動ギスルコト。又、シマツ。トリハカラヒ。「抜差シナラヌ破目」 (三)除クト、加フルト。差引。加除

ぬき-ざや (名) 貫鞘 馬具ノ名。泥障ヲ包ムモノ。馬寶式、造[illegible]具[illegible]、紫章[illegible]云云、新華十條[illegible]注[illegible]結[illegible]」

ぬき-し (名) 抜師 すり(掏摸)ノ異名。老人雑話(享保、江村宗具)上「ヌスビトノ、刀、カウガイ、小刀抔ヲ抜取ルコトヲシタリ、是ノ故ニ盗人ヲぬきしト云ヒシ、今ノすりト云フガ如シ」

ぬき-しろ (名) 緯白 織地ノ名。柳色ノ織地。又、緯絲ハ白ニシテ、經絲ノ紫ナル織地。[illegible]緯白、ヌキシロ」

ぬき-す (名) 貫簀 細ニ[illegible]編ミタル、竹ノ簀。角盥ノ上ニ掛ケ、手洗ノ時ハ、コレヲ二ツカ三ツニ疊ミ、先ノ方ヲ盥ノ內ノ底ニツケオキ、本ノ方ハ手洗ノ人ノ前ノ縁ニオキ、前サガリニシ、膝ニ水ノカカラヌヤウニシ、又ハ、水ノ散ルヲ避クルヤウニス。ぬきすト云ヒテ、[illegible]コメテ云フ。[illegible]字類抄「貫簀、ヌキス」 萬葉集、四「古ヘノ、人ノ食サセル、吉備ノ酒、病メバスベナシ、貫簀賜ラム」伊勢物語、廿七段「女ノ、盥ノ水ニ[illegible]手洗フ[illegible]ぬきすヲ取リテ[illegible]ケレバ、[illegible]ノ水ニ[illegible]影ノ見エケルヲ」 宇津保物語、菊宴「御手ウツノテウド、云云、ギンヲマロニケヅリタルぬきす、白銀ノ半挿、云云」源氏十二[illegible]「[illegible]ル[illegible]」 頭[illegible]アクレバ[illegible]心バカリノ[illegible]ぬきすヲバ[illegible]、有リシ[illegible]組合ノ水鏡」

ぬき-すか・す スス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 抜透 多クアルモノヲ、間ノ透クヤウニ抜キ取ル。オロヌク。ウロヌク。マビク。

ぬぎ-す・つ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 脱棄 脱ギテ捨ツ。[illegible]ぎすつる、ツヒニコソナケレ、藤衣、今モ色[illegible]、雨ノ涙ニ」 拾遺集、九、雑、下「住江ノ、松ハイクタビ、老イヌレド、緑ノ衣、ぬぎすてン、春ハイツトモ、白波ノ」 [illegible]、[illegible]山ノハニ、[illegible]ノ衣ノ、ぬぎすてテ、ヒトリモ月ノ、立チノボルカナ」

ぬぎ-すべ・す スス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 脱滑 衣ナドヲ、滑ラカシ脱グ。[illegible]、ケシキモナク、モテナシ給ヘナド、衣ヒ[illegible]、カノぬぎすべしタル薄衣ヲ取リテ、[illegible]」 [illegible]、五十一、[illegible]「唐衣ハ、ぬぎすべし押遣リ」

ぬき-ぞめ (名) 抜染 [illegible]ノ[illegible]染メタル[illegible]ヲ、[illegible]ト[illegible]ストナシテ、其ニ他ノ[illegible]ヲ染メナホスコト。[illegible]

ぬぎ-た・る ルル・レ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 脱垂 [illegible]、[illegible]又、舞ノ時、袍ノ右ノ肩ヲスギテ、片袖ヲ垂ラス。[illegible]

ぬき-つ・る ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 抜連 打連レテ、刀ヲ抜ク。[illegible]一同[illegible]

ぬき-で (名) 抜出 (一)〔古〕、相撲ノ節會ノ後、特ニ、スグリ出シテ、相撲セシムルコト。すまひ(相撲)ノ條ヲ見ヨ。今昔物語、廿三、第廿五語「相撲ノ節アリケル、然ルニ抜手(出ニ通フ)ノ日、左ノ最手眞髪ノ成村、右ノ[illegible]タワケテ、コトリ使ノ、イソギシハ、ケフノぬきでノ、結トナリケリ」 (二)次次條ノ語ノ略。

ぬき-で (名) 抜手 水練ノ技ノ、両手ヲ、互ニ水ノ上ニ抜キ出シツツ游グコト。[illegible]切ッテ追ッカケ給ヘバ、不思議ヤ川波又タチヨリ」

ぬきでわた (名) 抜出綿 ぬきわた(抜綿)ニ同ジ。略シテ、ぬきで。小町踊(寛文、江戸)冬「降ル雪ヤ、綿ノ衣ノ、ぬきで綿」

ぬき-と・む ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 緒ヲ通シテ[illegible]千草ニオケル、玉ゾカヒナシ」同、十七、雑上「ぬきとめヌ、秋ノ錦モ[illegible]

ぬき-に (名) 抜荷 ぬけに(抜荷)ノ條ヲ見ヨ。密貿易ノ貨物。ばはん(八幡)ノ條ヲ見ヨ。

ぬき-のり (名) 抜糊 [illegible]

用キル欄。

ぬき-ふ (名) 抜步 昔、検地ノ時、一枚ノ田畠ノ中ニ、大ナル岩石ナドノ在ルトキ、其歩ヲ除キテ、斗代、内ヨリ、除キタルモノ。

ぬき-ほ (名) 抜穗 [illegible]

ぬき-み (名) 抜身 刀、槍等ノ刃ヲ鞘ヨリ抜キタルモノ。白刃。露刃。[illegible]

ぬき-みだ・る ルル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 貫亂 貫キタル緒ヲ抜キ取リテ、珠ナドヲ、亂レ散ラス。[illegible]

ぬきん・づ ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ(他動、下二) 擢 (ぬきいづ、ノ音便) (一)衆ヨリ抜キ出デテ秀ヅ。抜萃ナリ。[illegible]

ぬきん・づ ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ [illegible] (ぬきいづ、ノ音便) [illegible]

用ヰル。エラビ出ス。エリヌク。抜擢ス。

⁂**ぬきん・でる** (動) 〔抽〕 前前條ノ語ノ口語。

ぬきれ (名) 〔貫入ノ約カト云フ〕 モゼ(数珠)ノ異稱。其條ヲ見ヨ。七十一番職人盡歌合、三十三番、念珠挽「ヒトリネノ、身ヲモ放タデ、ぬきれコソ、我ガ手枕ノ、フシトナリケレ」

ぬきわた (名) 〔抜綿〕 古着、又ハ、古蒲團ナドヨリ、抜キ取レル綿。ヌキデワタ。略シテ、ヌキデ。

ぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 〔抜 抽〕 (一)引キテ取ル。引キ出ス。「刀ヲ抜く」「草ヲ抜く」(二)擇リテ取リ出ス。抄出「抜書」(三)擇リ出シテ用ヰル。ヌキンヅ。抜擢ス。擢「人才ヲぬく」(四)取リテ除ク。省ク。略ス。省略「句ヲ抜く」「手間ヲ抜く」「十ヨリ三ヲ抜く」(五)除キ消ス。除去「染ヲ抜く」「色ヲ抜く」(六)落ス。攻メ落ス。オトシイル。陷城「城ヲ抜く」(七)追ヒ越ス。ノリコス。「前ノ人ヲ抜く」

ぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 〔貫〕 (一)〔孔ニ通ス〕 ツラヌク。ツキヌク。刺ス。萬葉集、三十一長歌「大舟ニ、眞楫繁貫き、オロシ」 同、同十「大船ニ、眞梶繁貫き、大王ノ、御命カシコミ、磯廻スルカモ」 (二)果タス。遂グ。(熟語ニ)「添ぬく」「言ヒぬく」「責メぬく」「煮ぬく」

ぬ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 〔抜〕 (一)放レ出ヅ。揺ギ出ヅ。脱ツ。脱落「刀ぬく」「毛ぬく」「歯ぬく」 (二)〔勝レテ出ヅ〕 秀ヅ。ヌキンヅ。抜萃ナリ。抽挺 源、十、榊八「何事モ人ニモドキ扱ハレヌキハハ、安ゲナリ、ナカナカ世ニぬけ出デヌル人ノ、御アタリハ」 同、十七、繪合廿「家ノ子ノ中ニハ、猶、人ニぬけヌル人ノ、何事ヲモ好ミ得ケルトゾ見エタル」(三)洩ル。落ツ。脱漏「文句ぬく」(四)数少クナル。減ル。減「十ヨリ三ツぬく」(五)智、足ラズ。マヌケナリ。盛衰記、十四、三位入道入寺事「大将ハぬけぬけトシナサレ、尾籠ノ男ニコソ」(六)消エ失ス。脱失「味ぬく」「匂ぬく」「色ぬく」「氣ぬく」(七)退キテ出ヅ。逃ル。脱出「仲間ヲぬく」「籠ヲぬく」「牢ヲぬく」

ぬ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 〔貫〕 トホル。行キ過グ。貫通 洞過「洞ヲぬく」「小路ヲぬく」「通りぬく」

〜**ぬ・ぐ**・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) 〔脱〕 取リ放ス。除ケ捨ツ。解ク。新後拾遺集、雜、下「タラチネノ、カタミバカリノ、フヂ衣、ぬぐニツケテモ、ヌルル袖カナ」 榮花物語、十四、淺緑「四月ツゴモリニ、御服ぬがセ給ヒテシカバ」 源、四十六、總角八十「御ブクナドハテテ、ぬぎステ給ヘルニツケテモ」

ぬ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (自動、下二) 脱 解ケ放ル。取ルル。「着物ガ脱ぐ」「沓ガ脱ぐ」

ぬく・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 〔温〕 〔今、温ニ作ル〕 アタタカナリ。ヌクトシ。相摸集「下氷、ケぬくくナラバ、打チトケテ、何ノツララカ、今ハアルベキ」

ぬくち (名) 〔温血〕 マダ、アタタマリノアル血。温キ血。ヲンケツ。生血。定家隠三百首、冬「秋ヨリモ、見シ面影モ(ノイ)、カハリケリ、ぬくち飼ヒテハ、鷹ツノルナリ」

ぬくど・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 〔温〕 アタタカナリ。ヌクシ。東海道中膝栗毛(文化、一九)五編、上「オ休ミナサリマアセ、名物饅頭ノぬくといノヲアガリマセ、オ雜煮モ御座リマアス」

ぬくど・ま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔温〕 アタタマル。ヌクマル。ヌクトモル。

ぬくど・も・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔温〕 前條ノ語ノ訛。

ぬくばひ (ヌクバイ) (名) 〔温灰〕 火ノ邊ナドニアリテ、温キ灰。ホドバヒ。熅煨 熱灰 「温灰ニ埋メテ栗ヲ燒ク」

ぬぐひいた (ヌグイイタ) (名) 〔拭板〕 ぬりいた(塗板)ニ同ジ。

ぬぐひえん (ヌグイエン) (名) 〔拭縁〕 拭キコミテ、滑ナル縁。俳諧古選、秋「秋ヤ今朝、一足ニ知ル、拭ひ縁」

ぬぐ・ふ (ヌグウ)・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 〔拭〕 〔のごふ(拭)ノ轉、脱グニ通ズ〕 (一)擦リ除キテ、淨クナス。フク。ノゴフ。芭蕉句集、若葉シテ、御目ノ雫、拭はバヤ」「汗ヲ拭ふ」「雫ヲ拭ふ」「ホコリヲ拭ふ」(二)清ム。雪グ。「恥ヲ拭ふ」

ぬくま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔温〕 アタタマル。ヌクトマル。ヌクモル。

ぬくみ (名) 〔温味〕 ヌクキ氣味。アタタカキ度合。續忠臣百首「雪降レド、浪ノぬくみニ、浦ニ出デテ、男鹿ノ角モ、花ゾ咲キケル」

ぬく・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 〔温〕 アタタム。ヌクメル。ヌクトマラス。

ぬくめどり (名) 〔温鳥〕 鷹ノ、冬ノ寒キ夜ニ、小鳥ヲ捕ヘテ、生ケナガラ脚ニ取リ隠シテ、脚ヲ温ムルコト。翌朝、放チ遣リテ、其鳥ノ飛去リタル方ヘハ、其日ハ行カズトゾ。運歩色葉集「温鳥、スクメトリ、鷹取二生鳥一寒夜ニ之暖レ足、翌日放レ之、其方不レ取レ鳥、報レ恩也」 後京極殿鷹三百首「鷹ノ捕ル、拳ノ内ノ、ぬくめ鳥、凍ル爪根ノ、情ヲゾ知ル」 西園寺殿鷹百首(別本)「空サユル、一夜ノ鷹ノ、ぬくめ鳥、放ツ心モ、ナサケアルカナ」 呉竹集、上「ハシ鷹ノ、拳ノ下ノ、暖鳥、恩ヲ知ラヌハ、人ニゾアリケル」 類字鷹詞「空サユル、鷹ノ一夜ノ、ぬくめ鳥、放ツ心モ、情ナルベシ」 古今夷曲集(寛文)四「鷹ニトラレ、殿ノ御汁ニ、ナル時ハ、タウベル人ノ、身モぬくめ鳥」

⁂**ぬく・める** (動) 〔温〕 前前條ノ語ノ口語。

ぬくも・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔温〕 ぬくまる(温)ニ同ジ。好色一代男(天和、西鶴)四「マダ身モぬくもらズ、日モ合ハヌ内ニ」

ぬくわか (名) 〔抜若〕 〔抜ハ智ノ抜ケタル意カ〕 總領、甚六、抜作ナドノ類、愚鈍ナル若冠者、親ノ家督、資財等ヲ、愚ナル子ノ、勞セズシテ承クルヲ罵リテ云フ語。淺井三代記(山家子)十、大橋安藝守生害事「我此屋敷ニ取籠リ、久政(淺井)ノぬくわかニ、日ヲサマサスベキハ易ケレドモ、亮政恩深クシテ」 傾城島原蛙合戰(享保、近松作)一「生ヌルイぬくわか、鑓ノ柄切ッテ切折レト、喚イテカカルヲ」

ぬけ (名) 〔抜〕 (一)抜クルコト。又、ソノモノ。モレ。オチ。遺漏 脱漏 (二)愚鈍ノ人ヲ指シテ云フ語。百文ノ數ニ足ラヌヲ云フ。マヌケ。ヌケサク。

ぬけあきなひ (ヌケアキナイ) (名) 〔抜商〕 規則ヲ犯シ、又ハ、仲間ヨリハヅレテ、密ニ商賣スルコト、密賣買スルコト。

ぬけあな (名) 〔抜穴〕 通リヌケタル穴。又、抜ケ出ヅベキヤウニ造リタル穴。クケアナ。竇路 太平記、三十八、大元軍事「攻メ鼓ヲ打ッテ、楯ヲ進メケレバ、城中ニ少少殘シ置カレタル兵共、云云、家家ニ火ヲカケ、ぬけ穴ヨリ逃ゲ去リケリ」

ぬけい・づ (ヌケイズ)・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ (自動、下二) 〔抜出〕 (一)ハナレ出ヅ。ユルギテ出ヅ。狂言記、歳上「太刀ハ、云云、オノレト抜け出デテ、其ノ盗人ヲ追ヒ散ラス」 (二)〔他ヨリスグレ出ヅ〕 ヌキイヅ。ヒイヅ。源、十、榊八「ナカナカ世ニぬけ出でヌル人ノ御アタリハ、トコロセキコト多クナン」 (三)マヌカレ出ヅ。ヒソカニ出ヅ。脱出ス。

ぬけがけ (名) 拔駈 (一)戰陣ニ、竊ニ陣營ヲ拔ケ出デテ先駈スルコト。他ヲ出拔キテ進ムサキガケ。サキマハリ。私進 [illegible] (二)他ヲ出シ拔キテ、事ヲスルコト。

ぬけがら (名) 拔殼 (一)モヌケノカラ。モヌケ。蟬、蛇、ナドノ、時ヲ定メテ脫ゲ皮。蛻 [illegible] (二)轉ジテ、失心シタル人、又ハ、精神ノ他ニ移リテ、本心ノウツロナル人ナドヲ云フ。

ぬけ・ぐち (名) 拔口 ぬけことば(拔言葉)ニ同ジ。

ぬけくび (名) 拔首 不具ノ名。頸長ク伸縮自在ナルモノト云フ。ロクロクビ。又、ソノヤウナル怪物。飛頭

ぬけげ (名) 脫毛 オチガミ。ヌケオチタル毛。ヌケゲミ。バツマウ。

ぬけことば (名) 拔言葉 イヒヌケノコトバ。辯解ノコトバ。ニゲコトバ。ニゲ口上。ヌケグチ。[illegible]

ぬけさく (名) 拔作 (擬人語) 拔目ノ多キモノ。愚ナルモノ。マヌケ。トンマ。バカ。拔若。

ぬけじ (名) 拔字 寫シ落シ、又ハ、組ミ落シタル字。落字。脫字 [illegible]

ぬけぢ (名) 脫痔 ヂヌケ。直腸脫。

ぬけに (名) 拔荷 昔、禁制ヲ犯シテ、竊ニ外國ナドへ送ル商荷。密賣ノ荷。密[illegible]ノ貨物。ヌキニ。[illegible] 田邊茂啓)五「拔荷沙汰之事」 [illegible]

ぬけぬけと (副) (一)[illegible]

ぬけば (名) 拔齒 脫ケ落チタル齒。脫齒

ぬけぶね (名) 拔船 (一)各、番ヲ定メ、役儀ニカカリヲル船ノ、竊ニ拔ケ出デテ、所用ヲ達スルコト。(二)遊里ノ語。他ヲ出シヌクコト。ヌケガケ。

ぬけまる (名) 拔丸 平氏傳來ノ寶刀ノ名。[illegible] 丸ナレバ、ヨク切レケルハ理ナリ、此ノ太刀ヲ拔丸トイフ故ハ、[illegible] ノ太刀、枕ノ上ニ立テタリケルガ、自ラスルリト拔ケテ、[illegible] 池ヨリ大蛇アガリテ、[illegible] ケテ大蛇ヲ追ヒテ、池ノ汀ニ立テテケリ、[illegible] 見給ヒテコソ、拔丸トハ附ケラレケレ」

ぬけまゐり (名) 拔參 [古ヘ、皇大神宮ニ、[illegible] リ起レル語カト云フ] 家長、父兄、ナドノ許シ無キニ、竊ニ家ヲ出デ、又、奉公スルモノ、主、ニ暇ヲ乞ハズシテ、竊ニ[illegible]伊勢ノ大神宮へ參詣スルコト。[illegible] 御蔭參ノ如ク盛ナルコトアリ。[illegible] レヤ、ぬけ參り」

ぬけみち (名) 拔路 (一)街道ノ外ナル近路。クケヂ。クケミチ。カクレミチ。ウラミチ。間道 [illegible] 助カリ出デ」 (三)避クベキ方。言ヒ拔ケノ方法。

ぬけめ (名) 拔目 (一)洩レ脫クルコト。又、洩レ脫ケタル[illegible] 心中(寶永、近松作)上「齒ハ一枚モ拔目ナド、[illegible] ノカミ樣」 (二)シオチ。テヌケ。ブヤマチ。[illegible] け目ナク奉公ヲ勤メテ」

ぬけもの (名) 拔物 ヌスミトリタル物。掠メ取リタル品。[illegible]

ぬ・ける (動) 拔貫 ぬく(拔、貫、下二)ノ口語。

ぬ・げる (動) 脫 ぬぐ(脫、下二)ノ口語。

ぬさ (名) 幣 [illegible] 麻ナリ、[illegible] 神ニ祈ルニ奉ル物。又、[illegible] モ云フ。[illegible] 麻、木綿、帛、ナド、[illegible] 七[illegible] 十九、[illegible] コノタビハ、ぬさモ取リアヘズ、手向山、モミヂノニシキ、神ノマニマニ」

ぬさぶくろ (名) 幣袋 古へ、旅行スルニ、幣ヲ入レテ攜フル袋。幣ハ、錦布ツ[illegible] ヲ祈ルタメ、國境、山川ナドノ道ノ神ニ手向ケテ、[illegible] 世ハ、五色ノ紙ヲ切リテ、幣袋ニ入レテ攜ヘタリ。袋ハ透キタルモノナリトゾ。[illegible]

ぬし (名) 主 [illegible]大人ノ約ト云フ。後、[illegible] 朝鮮古語ニ、君長ノ義ニ、[illegible] ト云ヘリ。又、アイヌ語ニ、[illegible] 大人 [illegible]

ぬ-し (名) 塗師 〔ぬりし(塗師)ノ略〕 漆細工スル工人。ヌリシ。 塗匠 庭訓往來(僧玄惠)四月「塗師、蒔繪師、唐紙師」 七十一番職人盡歌合、上、三番「塗士、ゲニ候、キガキノウルシゲニ候、イマスコシ火トルベキカ」

ぬし (代) 主 對稱ノ代名詞。敬シテ云フ。ノシ。オノシ。オマヘ。 忠見集、九「ぬしヨリハ、我ヤ行カマシ、陸奥ノ、シノブバカリノ、カタミバカリニ」 宇治拾遺、八、第五條「イカニ、ぬし達ハ、拜ミ奉ルヤト、問ヒケレバ」

〜**ぬし** (名) 虹 〔沖繩ニテ、ぬうじ〕 にじ(虹)ノ古言。其條ヲ見ヨ。 天武紀、下、十一年八月「戊寅亦地震、是日平旦有虹、當于天中央、以向日」 萬葉集、十四、廿「伊香保呂ノ、夜左可ノ堰ニ、立ツ虹ノ、アラハロマデモ、サネヲサネテバ」

ぬし-がら (名) 主柄 ソノ人ノ品位。

ぬし-ぶろ (名) 塗師風呂 塗物ヲ入レ置キテ、乾カス室。

ぬし-や (名) 塗師屋 漆細工ヲ職トスル人、又ハ、家。又、漆器ヲ賣ル人、又ハ、家。 用明天皇職人鑑、一、賣家、近松作「職人盡、吉野漆ノ塗師屋、蒔繪屋」

〜**ぬす-だ・つ**・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 〔盜起(ヌスタ)つノ義ナラム〕 又、ぬしだつ。 鷹狩ニ、鷹ニ追ハレタル鳥、草叢ナドニ隱レ、稍ニ逃ゲ去ル。 後京極殿鷹三百首、冬「ハシ鷹ノ雲ニ翔ルノ、見ルカラニ、ぬすだつ鳥ノ、心カシコキ」 定家卿三百首「嵐吹ク、交野ノミ野ノ、小鷹犬、ぬすだつ鳥ヲ、知ラヌ若鷹」 西園寺鷹百首「鳥モハヤ、ぬしだちヌラム、稻草ニ、タモロク見ユル、鷹ノフルマヒ」

ぬすっ-と (名) 盜人 ぬすびと(盜人)ノ急呼音。其條ヲ見ヨ。

ぬす-と (名) 盜人 次次條ノ語ノ略。

〜**ぬす-ば・む**・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 盜食 鷹狩ノ時、鷹ガ己レノ捕ヘタル鳥ヲ其儘食フ。ススミバミス。

〜**ぬす-びと** (名) 盜人 (一)人ノ物ヲ竊ニ奪フモノ。盜ミスル者。白波(シラナミ)。綠林(ミドリノハヤシ)。クセモノ。ドロバウ。ヌスト。ヌスット。 盜 盜賊 偷兒 倭名抄、二「乞盜類、偸兒、奴須比止」 名義抄「盜、ヌスヒト」 天智紀、九年二月「造戸籍、斷盜賊與浮浪」 萬葉集、十二、廿「門タテテ、戸ハサシタレド、盜人ノ、ヱレル穴ヨリ、入リテ見エケム」 (二)人ヲ罵リ呼ブ語。老賊 竹取物語、上「カクヤ姫テフ大盜人ガ、人ヲ殺サムトスルナリケリ、家ノアタリダニ今ハ通ラジ」 枕草子、四、四十三段「イミジキぬすびとカナ」 宇治拾遺、九、第六條「己レハイミジキ盜人カナ」(國司ノ郡司ヲ罵ル詞) 金葉集、八、戀、下「ぬす人ト、云フモコトワリ、小夜中ニ、人ノ心ヲ、取リニ來タレバ」

ぬすびと-あさり (名) 盜人搜 盜人ナドヲ探シ索ムルコト。

ぬすびと-かくし (名) 盜人隱 碁石ニテスル遊戲ノ名。盤ノ四邊ニ、十六ノ石ヲ並べ、コレニ八ヲ加フ。其並べ方ニ因リテ、加ヘヌ數ノヤウニ見ラルルナリ。 (柳亭記、上、百九ニ委シ) 異制庭訓往來、碁石遊「盜人隱、云云、是於局上之遊、尤容易者也」

ぬすびと-たけだけし (句) 盜ミ、又ハ、惡事ヲ行ヒナガラ、スコシモ恐レズ、平氣ナルコトニ云フ。

ぬすびと-の-あし (名) 盜人足 深山ニ生ズル菌ノ一種。朽木ニ寄生シ、高サ數尺、莖ハ圓ク、淡黃赤色ニシテ、葉ハ互生シ、藤ニ似、花ハ淡紫色。根ハ人ノ足ノ形ヲナシ、藥用ニ供セラル。 天麻

ぬすびと-はぎ (名) 盜人萩 山野ニ自生スル荳(マメ)科ノ多年生草本。高サ二三尺、

葉ハ互生シ、三小葉ヨリ成ル複葉ニシテ、小葉ハ長卵形ヲ呈シ、秋ノ頃、淡紅紫色ノ蝶形花ヲ總狀花序ニ着ク。實ハ莢(サヤ)アリテ毛ヲ有シ、能ク他ノ物ニ附ク。中ニ二子アリ。ヤブハギ。 山萊豆

ぬすびと-やど (名) 盜人宿 盜人ヲカクマヒオク家。カヒズ。 窩主

〜**ぬすま-は・る**・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) 〔ヌスマワル〕 被盜 ヒマヲ得テナス。スキヲヌスム。 宇津保物語、俊蔭上「夜更ケヌレバ、帝ウジヤぬすまはれテ、御前ノ所ニオハシテ」 源、六、末摘花「御イトマナキヤウニテ、セチニオボス所バカリニコソ、ぬすまはれ給ヘ、カノワタリニハ、イト覺束ナクテ」 爲忠後百首「サヨ中ニ、ぬすまはれ鳴ク、郭公、寢覺アラハシツ、老ノ寢覺ニ」

〜**ぬすま・ふ**・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 〔ヌスマウ〕 竊 〔ぬすむノ延〕 隱シテモノス。シノビテスル。シノビテキル。ヒソカニスル。私事ヲヌスル。ウシログラキコトヲスル。 萬葉集、十一、四十「山川ニ、ウヘヲ伏セオキテ、モリアヘニ、年ノ八トセヲ、ワカぬすまひシ」

ぬすみ (名) 盜 人ノ物ヲ無斷ニテ取ルコト。ヌスムコト。又、盜ムワザ。 謠曲、烏帽子折「コノママニテハ、鬼神ニテモタマルマジク候、タタヒイテ御歸リ候ヘ、ケニケニ盜みモ命アリテコソ、イザ引イテ歸ラウ」

ぬすみ-あし (名) 盜足 足音セヌヤウニ、シヅカニ歩ムコト。 室町千疊敷(寬保 近松作 改題)四「逸レン逸レント、ソロリソロリノ盜み足」

ぬすみ-ぎき (名) 盜聞 竊ニ立聞キスルコト。 側聽

ぬすみ-ぐひ (名) 〔ヌスミグイ〕 盜食 人ノ見ヌ間ヲ窺ヒ、隱レテ物ヲ食フコト。 偸嘴 續境醫集(元祿)「饑キ腹ニ、耐ヘデヤ猫ノ、盜ミ喰」

ぬすみ-しやうぎ (名) 〔ヌスミショウギ〕 盜將棊 將棊ノ駒ヲ用ヰテスル戲。駒ヲ殘ラズ盤ノ上ニ積ミアゲ、數人、次第ヲ定メ、指一本ノ先ニテ、駒一ツヅツ、音サセズニ卸シテ取ルモノ。好キ駒ヲ取レルヲ勝トス。 嬉遊笑覽、四、雜伎「ぬすみ將棊、コマヲ殘ラズ箱ニ入、盤上ニ打フセ、箱ヲ除ケ、ヨキ駒取タルハ勝ナリ、幾人ニテモ次第ヲ定メ、ソノ駒ノ音セヌヤウニトルナリ」

ぬすみ-だけ (名) 盜竹 〔隱レテ縛ラルレバ云フトゾ〕 簀子(スノコ)ノ床ノ下ニ、横タフル竹。

ぬすみ-に (副) 竊 ススムヤウニ。ヒソカニ。 散木集、三、秋「初雁ノ、オキノコシタル、白菊ヲ、露ヤぬすみに、ウツロハスラン」

ぬすみ-ばみ (名) 盜食 鷹狩ノ時、鷹ガ己レノ捕リタル鳥ヲ、持チ返ラズニ、ソノママ食フコト。ススバムコト。 定家卿鷹三百首、春「春ノ日ノ、長オヒシツル、ハシ鷹ヤ、心ナラズモ、ぬすみばみスル」

ぬすみ-み (名) 盜見 他人ノモノヲ、人ニ知レズ見ルコト。竊ニ見ルコト。 盜視

ぬすみ-もの (名) 盜物 盜ミ取リタル物。 贓品 贓物 大內家壁書「盜物御定法之事」

ぬす・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 竊 盜 偸 何事ニモアレ、他ノ許サヌ事ヲ、知ラルマジク、隱レテヒソカニモノスル。他ノ物ヲ竊ニ奪フ。人目ヲ忍ビテ掠ム。 新續古今集、十九、雜、下「アヤナクモ、風ノぬすめル、梅ノ香ニ、ヲラヌ袖サヘ、ウタガハレヌル」 崇神紀、十年九月「己ガ命ヲ、弑セムト、竊(スマ)殊クシラニ、姬ナソビスモ」 古事記、中(崇神)九廿「己ガ命ヲ、奴須美斯勢牟斗」 詞花集、一、夏「雪ノ色ヲ、ぬすみテ咲ケル、卯ノ花ハ、サキテヤ、人ニ疑ハルラム」 六百番歌合「アラハレム、秋ヲモ知ラヌ、楓(カヘデ)カナ、常葉ノ色

ヲ、シバシぬすみテ」古今集、二、春、下「花ノ色ハ、霞ニ籠メテ、見セズトモ、香ヲダニぬすめ、春ノ山風」

ぬた (名) [沼田] ぬまた(沼田)ニ同ジ。 散木集、注、春、鮭、ヲクロ嘴、ぬたノ蓴(ネヌナハ)菜、踏ミシダキ、日モタマシニ、蛙ナクナリ」

ぬた (名) 〔沼田和(ヌタアヘ)ノ略カト云フ〕 魚、菜ヲ酢味噌ニテ和ヘタルモノ。

ぬた (名) 〔前前條ノ語意カト云フ〕 猪ノ臥所。其上ニ臥スヲ、ぬた打つト云フ。 夫木抄、廿七、猪「君待フト、猪ノ刈藻ヨリ、寐ザメシテ、浴(ア)ミケルぬたニ、ヤツレテゾフル」

ぬた (名) [䱇] ぬたはだ(䱇)ニ同ジ。

ぬたあへ (名) [沼田和] 料理ノ一種。甘味噌ヲ擂リテ、酢ト味醂トヲ等分ニシタルモノニテ伸バシ、砂糖ヲ少シ加ヘテ、温火(トロビ)ニテ煮タルモノニテ、魚ノ生肉ヲアヘタルモノ。コレニ刻ミタル葱ノ、空鍋ニテ炒リタルヲ加フルナリ。ぬたあへなます。ぬたなます。 宗吾大雙紙(大永、伊勢貞頼)上、料理事「卯花なますト云フハ、何魚ニテモぬたニテあへテ、所所ニ白クツクリタルヲヲキタルヲ、花ノココロニヲク也」松屋筆記、百三、三十二條、倭名抄、十六、肉鳥類ニ、唐韻云、[illegible]、肉合[illegible]也 今按、[illegible]、俗云、阿都毛乃、云云、此あへつくりハ、料理ノ書ニ、のたあへト云フ物ニアタレリ」 三議一統、下、十五「ぬたあへ」

ぬたあへなます (名) [沼田和膾] 前條ニ同ジ。

ぬたう・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [沼田打] 〔うつハ寐ガヘリナドスル意、又、ぬたらうつトモ云フ〕 (一)猪、草ヲ集メタル上ニ、轉(コロガ)リ臥ス。 轉輾 (かへりもかへり、[illegible]ノ條、見合ハスベシ) 夫木抄、廿七、猪「寐ヲシテ、臥猪ノ床ハ、マドロマテ、ぬたうちサマス、夜半ノ寐覺ヨ」 (二)人ニモ云ヒテ、[illegible]ル。ノタクル。ノタウツ。モガク。煩燥[illegible] [illegible]ぬたうつ、[illegible]ナリ」

ぬたく・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔前條ノ語ノ轉〕 (一)[illegible] モガキマハル。ノタクル。轉輾 浮世風呂(文化、三馬)初編、上「ガラ[illegible]、アナイぬたくり、コッチイのたくり」 (二)塗リツケル。筆ニ任セテ書ク。

ぬたなます (名) [沼田膾] 〔ぬたあへなます(沼田和膾)ノ略〕 ぬたあへ(沼田和)ニ同ジ。 [illegible]、下、[illegible]ナマス」[illegible](元和、安樂庵策傳)三、ぬたなますヲ喰ヒタル[illegible]ヘ、[illegible]ツケタレバ」

ぬたはだ (名) [䱇] 〔怒濤肌(ヌタハダ)ノ義〕 鹿ノ角ノ肌ニアル波ノ如キ紋。 倭名抄、十八、毛群體「䱇 [illegible]、角上浪也」

ぬためのかぶら (名) [䱇目鏑] 〔ぬたハ鹿角ノ紋、めハ角ノ肌ノ波ノ如キ紋ヲ云フ〕 鹿ノ角ノぬたはだノアルモノニテ作レル鏑矢。ヌタハダノ目ノアル鏑矢。 平家物語、十一、那須與一[illegible]、[illegible]切斑(ウスキリフ)ニ[illegible]ノ羽割リ合セテ、矧イダリケル䱇目ノ鏑ヲゾ差シ添ヘタル」 加賀倉我(寶永、近松作)「ぬた目の鏑差添ヘテ、[illegible]ノ弓持ッテ」

ぬたらう・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) ぬたうつ(沼田打)ニ同ジ。

ぬづかさ (名) [野高處] 〔つかさ(高處)ノ條ヲ見ヨ〕 野中ノ小高キ處。野司(ノツカサ)。 野山[illegible]、岡、塚ノ如ク、[illegible]ノ、野ノ[illegible]ヤラルル所。 [illegible]十七「アシヒキノ、山谷[illegible]、[illegible]ニ、今ハ[illegible]クラム、[illegible]ノ[illegible]」 廿「高圓(タカマト)ノ、宮ノ裾ミノ、努都可佐ニ、今咲ケルラム、女[illegible]花ハモ」

ぬっけりと (副) ヨドミナク平氣ナル状ニ云フ語。 心中宵庚申(享保、近松作)二「アノぬっけりとシタ顔ワイノ」

ぬづち (名) [野槌] 〔野之靈(ノツチ)ノ意〕 (一)のづち(野槌)ニ同ジ。 神代紀、上、八[illegible] (二)[illegible]ノ異稱。

ぬっと (副) 俄ニ現ハレ出ヅル状、又ハ、急ニ起チ上ル状ニ云フ語。 國性爺合戰(正徳、近松作)二「扉リ喰ク紙中へ、ぬっと出デテ立チハダカリ」

ぬつどり (名) [野津鳥] 〔野ニ棲ム鳥ノ意。家つ鳥、鶏つ鳥ト同趣〕 (一)雉ノ枕詞。 [illegible]、[illegible]七年九月、[illegible]、雉(キヾシ)ハ動(トヨ)ム」 萬葉集、十三、長歌「野鳥、雉ハ動ム、家鳥、[illegible]モ鳴ク」 又、さノ[illegible]語ヲ[illegible]ヘ、[illegible]どり[illegible]トモ云フ [illegible]「佐怒都登理、雉ハトヨム」 (二)直ニ、雉ノ稱。 [illegible]、下、六、[illegible]「狭野津鳥、來鳴キ翔(カケ)ラフ」

ぬっぺい (名) 食物ノ名。のっぺいニ同ジ。

ぬっぺらぽう (名) [野箆坊] 化物ノ名。又、ノッペラボウ。 嬉遊笑覽、三、上、化物[illegible]、[illegible]云、[illegible]、ぬっぺらぽう、ヌリ佛」

ぬっぺらぽん (名) のっぺらぽんニ同ジ。 浮世床(文化、三馬)初編、下「ドチラツカズノぬっぺらぽん」

ぬっぺりと (副) のっぺりとニ同ジ。 [illegible]「ぬっぺりと、和尚姝テ、饑フト云ヒ」

ぬっぽりと (副) [illegible] 又、[illegible] 斷ナル[illegible]、[illegible]ゴト多フベシ、ドハドハシカラヌ[illegible] 日本[illegible](享保、近松作)三「[illegible]ぬっぽりと、[illegible]ノ[illegible]」

ぬて (名) [鐸] 〔ぬりで(鐸)ノ略〕 又、ぬで。大ナル鈴。ぬりて(鐸)、及、たく(鐸)ノ條ヲモ見ヨ。 古事記、下、顯宗[illegible]シセ」 垂仁紀、十五年八月「鐸石別命」

ぬで (名) [白膠木] 〔ぬるで(白膠木)ノ略〕 ぬるで(白膠木)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]抄、廿[illegible]、白膠木[illegible] 崇峻紀、二年七月[illegible]白膠木[illegible]

ぬながは (名) [渟名川] [illegible] 水ノ清キヲ、玉ニ比シテ云フカト云フ。玉川ニ同ジ」 天ニアリト云フ川ノ名。天ノ渟名井、渟浪田ト同趣ナルベシ。

ぬなた (名) [渟田] [illegible]ニ同ジ。 神代紀、下「用渟浪田稻[illegible]」

ぬなと (名) [瓊音] [illegible] 玉ノ音。玉ノスレアフ音。 古事記、上[illegible]

ぬなは (名) [蓴] 〔滑之縄ノ義ト云フ。或ハ云フ、滑縄カト〕 [illegible]

ぬなはくり (名) [illegible]

ぬの (名) [illegible]

カラムシ、葛、ナドノ絲ニテ織レル織物ノ總稱。今、木綿ナルニモ云フ。布子。ニヌ。ノノ。倭名抄、十二27「緒布類「布、沼能、織麻及紵葛也」」伊勢集「斷チ離ハヌ、衣着シ人モ、ナキモノヲ、何山姫ノ、布晒スラム」七十一番職人歌合、下、五十八番「左、我手ヅクリノ帶、ヨク布ニオモヒアハセタリ」

ぬのおび (名) 布帶 布ニテ作リタル帶。倭名抄、十二「腰帶類「白布帶、沼能於比」」運阿不足口傳抄(貞治、高倉永綱)「此日ハ、無人馬脇帶ヲ指、午ニ十人也、六位ハ聲角ノ丸鞆、布帶ヲモ指也」

ぬのかたぎぬ (名) 布肩衣 布ニテ作リタル肩衣。又、破レテ肩バカリニナレル布衣。萬葉集、五「長歌」綿モナキ、布可多衣ノ、ミルノゴト、ワワケサガレル」

ぬのかは (名) 布皮 的ノ後ニ立ツル幕。高忠聞書「ぬのかはノ事ハ、等持院殿御代ヨリ始メナリ、昔ノハヅシテカケラレタリ、一幅短クテ、今一幅添ヘラレテ、今ニ布かはト云フ也」

ぬのかりぎぬ (名) 布狩衣 布ニテ作リタル狩衣。曬衣抄(應永)「布狩衣」通方抄、極熱之頃、云云、予少年(十二三歟)故殿相具令ㇾ參ニ六條殿一給、朽葉布狩衣(結ツクリオキ霜之如ニ松藤一也)着ㇾ之」

ぬのぎぬ (名) 布衣 布ニテ仕立テタル衣。萬葉集、五「長十八」「荒妙ノ、布衣ヲダニ、キセガテニ、カクヤ歎カム、セムスベヲナミ」

ぬのこ (名) 布子 〔古ヘ、麻布ナリシニ起ルト云フ〕(一)おひえ(御冷)ニ同ジ。近代世事談(享保、菊岡沾涼)一、衣服「文祿以前、木綿ナシ、庶人ノ冬服ハ、麻布ニ綿ノ抽綿ヲ入ル」慶長見聞集、關東衣服着る事、三「麻布ヲ色ニ染メ、綿ヲ入レ、ぬの子ト云ヒテ、上ニ着セシ也、云云、異名ヲ布子トモ、綿入トモ云フナリ」宇津保物語、俊蔭三十七「生レ落ツル、スナハチ嫗、己ガ布子ノ懷ニ抱キテ」(二)綿布ノ衣ノ、綿入レタルモノ。ノノコ。綿襖(絹布ノ小袖ニ對ス)三十六記、法師物狂「ぬのこノオモテ、小カタヒラ、今ヨリシテハ誰ガ織リテクレウ」

ぬのこし (名) 布漉 豆腐、餡ナドヲ、布ニテ漉スコト。又、其物。(絹漉ニ對ス)

ぬのさらし (名) 布晒 布ヲ水ニ洗ヒテ日ニ晒スコト。瀑布。

ぬのだけ (名) 布竹 菱竹矢來ナドヲ結ブ横竹ノ稱。

ぬのびき (名) 布曳 古ヘ、朝廷ニテ、臨時ノ相撲ヲ行ハセラレタル後、左右ノ力士ヲシテ、布ヲ互ニ曳カシメタルコト。布ハ勝チタル方ニ賜フ。綱引ノ類ナルベシ。西宮記、七月相撲節、長保二年八月「令ㇾ相撲人等率‐仕布曳事一、左最手大鹿文時、就‐案東頭一、跪取‐布一端一進‐庭中一、右最手越智常世、又如ㇾ此到‐庭中一、五各以‐所ㇾ持布一投‐遣縄一、合引ㇾ之、文時得ㇾ之」結肌錄「布引ハ今ノ相撲首引、唐土ノ拔河ノ戲也」

ぬのびき (名) 布引 (一)麻布ヲ晒サムガ爲ニ、引張ルコト。多クハ、其白ク長ク亙レル狀ヲ借リテ、瀧ナドヲ形容シテ云フ。瀑布。(二)菌キノコノ名。布ヲ引キタルガ如ク生ズ。玉蕈シメヂノ類カ。(三)引モキラズ群集スルコト。小島口號「道モサリアヘズ、ぬのひきニツヾキテ」太平記、廿四、雲客下車事「尊卑ノ貴賤、布引ナリケルガ」

ぬのびきだいこん (名) 布引大根 大根ヲ堅ニ細ソク刻キザミ作リテ、乾シタルモノ。

ぬのひたたれ (名) 布直垂 布製ノ直垂ヒタタレ。地下ノ諸大夫ノ用途トス。武家ニテ大紋モント云フ。西三條裝束抄、直衣「布直垂ハ諸大夫著ス、是レヲ俗ニ大紋ト云フ」小林有之武家裝束抄、上、諸家裝束「布直垂、大ナル紋ヲ付ル故、俗ニ大紋ト云フ、云云、右ハ五位ノ諸大夫著セラル」

ぬのびやうぶ (名) 布屛風 布ニテ張リ、ソノ上ニ畫ナドヲ書キタル屛風。枕草子、八、七十二段、いやしげなる物「黑キ髮ノ筋フトキ、布屛風ノアタラシキ」

ぬのぶせ (名) 布伏 漆喰、又ハ、壁ヲ塗ル時ナドニ、下地ニ布ヲ貼ルコト。

ぬのへ (名) 野上 〔野のうへノ約。野邊ノ意〕野ト云フニ同ジ。野邊。萬葉集、六十四長歌「ミヨシヌノ、アキツノヲヌノ、野上ニハ、トミ据ヱ置キテ」「ぬのへノ宮」ぬのへノウハギ」ぬのへノ草」

ぬのべり (名) 布緣 モノノ緣ヲ、布ニテツクルコト。

ぬのまるた (名) 布丸太 足代アシシロ、又ハ、假板圍ナドノ重オモダチタル柱ヲ、連結スル横ノ丸太ノ稱。

ぬのめ (名) 布目 布ノ織目ノ文アヤ。羅紋

ぬのめがみ (名) 布目紙 紙ニ加工シテ、縱横ニ細直線ヲアラハシタルモノ。布目ノ如シ。多クハ間似合紙マニアヒニアリテ、金箔ヲオシ、卷物ノ表紙裏、手鑑テカガミノ見返シナドニ用ヰラル。羅紋紙

ぬばかま (名) 奴袴 奴袴ドコノ訓トシテ、指貫袴サシヌキハカマノ異名ナリトス。普通本倭名抄、十二廿九「奴袴サシヌキノハカマ」トアルヲ、箋注倭名抄、四五十二「諸異本、皆、奴袴ニ作ル。舊唐書、音樂志ニ、白袴褶トアレバ、袴奴ハ、袴褶ニテ、奴袴ハ、後世ノ誤倒ナリ」トアリ。コレニ據レバ、詩經、小雅、常棣篇ニ「樂ニ爾妻帑一」傳「帑、子也」集韻ニ「帑與ㇾ奴通」トアリ。袴帑ハ、袴子ノ意ニテ、帷子、襖子ノ類ナルベキカ。然ラバ、奴袴ト云フ熟字ハ、普通本倭名抄ノ誤寫ニテ、世ニナキ語トナル。(後ノ諸書ニ、奴袴トアルハ、皆、此ノ普通本ノ誤リヲ受ケタルナリ)。隨ツテ、ぬばかまト云フハ、此誤寫ニ、訓ヲツケタルモノニテ、是レ亦、世ニナキ語トナル。古キ書ニ、ぬばかまト、假名ニ記シタルハ、見エズガ如シ。且、貞丈雜記、五、裝束ノ條ニ「奴袴サシヌキニ、ぬばかまト云フ名目ミヤウモクトハ、讀例ヨミクセノコト)ナシトアリ。(鹽尻、四十五、東雅、八ニ、布袴スバカマノ略ト考ヘ、予モ、初ハ、野袴ノバカマナラムナド考ヘタレド、皆徒爲ナリ)嘗覽記、六、入道院常會事「奴袴ノ稜取リ、サヤメキ入ラレケレバ」

ぬばたま (名) 射干玉 からすあふぎオウノ實。圓クシテ黑シ。ウバタマ。ひあふぎ(射干)ノ條ヲ見ヨ。

ぬばたまどり (名) 射干玉鳥 ほとゝぎす(時鳥)ノ異名。其條ヲ見ヨ。

ぬばたまの (枕) 射干玉 〔野羽玉ヌバタマノ義。射干カラスアフギノ實ニテ、野ニアリテ、其葉、羽ノ如ク、實、圓ク黑ケレバ云フト云フ〕黑き、ト云フ語ノ枕詞。轉ジテハ、夜、月、夢、暗き、寢、ナド云フ語ニモ用ヰル。訛シテ、ウバタマノ、ムバタマノ。古事記、上九「奴婆多麻能、黑キ御衣ミケシヲ」同、同四十「奴婆多麻能、夜ハイデナム」萬葉集、二八十「居明ホアカシテ、君ヲバマタム、奴婆珠乃、吾ガ黑髮ニ、霜ハフルトモ」同、十七五十「奴婆多麻能、月ニ向ヒテ、時鳥、鳴クストハルケシ、サトトホミカモ」雄略紀、十三年九月「(ぬばたまの)甲斐ノ黑駒」萬葉集、七「鳥玉之スバタマノ、夜渡ル月ヲ、トドメムニ、西ノ山邊ニ、セキモアラヌカモ」同、九二十「古ヘニ、妹ト吾見シ、鳥玉之、黑牛潟ヲ、見レバサブシモ」同、十二「長歌」烏玉之、黑髮ニ乘リテ」同、十六「烏玉之、斐太ノ大黑、見ル每ニ、巨勢ノ小黑ガ、オモホユルカモ」同、三四「見等ガ家道、ヤヤ間遠キヲ、野干玉乃、夜渡ル月ニ、競キホヒアヘ

ムカモ」同、四七「吾セコガ、カク[illegible]フレコソ、夜干玉能、夢ニ見エツツ、寐ラレズケレ」同、七「黒玉之、[illegible]山ヲ、[illegible]エテ、山下[illegible]ニ、ヌレニケルカモ」[illegible]古今集、十、羇旅「うばたまの、[illegible]山ヲ、今朝コエテ、コノシタ[illegible]ニ、ヌレニケル哉」古今集、十、物名「うばたまノ、夢ニ何カハ、慰マム、現ニダニモ、逢ハヌ心ヲ」[illegible]抄、天徳歌合「むばたまの、夜ノ夢ニダニ、マサシクハ、我ガ思フコトヲ、人ニ見セバヤ」

ぬはのみ（名）多年生草本。莖ハ葉狀ニシテ、先端ニ葉ヲ着ク。花ハ淡黃色ニシテ、後、黃色ノ漿果ヲ結ブ。コレヲ細末ニシテ、消毒用トス。舶來ノ藥草ナリ。鬼臼 鬼藥 本草和名、上四十八「鬼臼、天臼、奴波乃美」字類抄「鬼臼、天臼、ヌハノミ」

ぬはり（名）野榛 次條ノ語ニ同ジ。

ぬはりぐさ（名）王孫 又、さぬはり。ぬはり。草ノ名。今、衝羽根草ト云フ。つちはり（王孫）ノ條ヲ見ヨ。本草和名、九、草「王孫、云云、奴波利久佐、一名、奴波利」

ぬひ（名）縫（一）縫フコト。（二）繡刺繡。長唄、[illegible]帶「三ツノ模樣ヲ縫ニシテ、イトシ我ガ子ニ着セバヤナ」（三）ぬひれう（縫殿寮）ノ略。其條ヲ見ヨ。

ぬひ（名）奴婢 下男ト、下女ト。メシツカヒノ男女。ドヒ。名義抄、二「奴、[illegible]、ヤ、コ、ヤツカリ、ツカヒヒト、婢、ヤ、コ、ヒ」運歩色葉集「奴婢、ヌヒ、男曰奴、女曰婢」[illegible]書、張志和傳「[illegible]奴婢各一人、志和[illegible]夫婦」

ぬび（名）野火 のび（野火）ニ同ジ。

ぬひあはす・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）縫合 縫ヒテ、兩方ノ合フヤウニナス。合ハセテ縫フ。

ぬひあふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）[illegible] 縫ヒナホス 縫ヒ[illegible] [illegible]

十七「足玉モ、手珠モユラニ、織ルハタヲ、キミガミケシニ、[illegible]カモ」

ぬひいれ（名）縫入 縫取ヲ施シテアルコト。刺繡シテアルコト。

ぬひかさぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ（他動、下二）縫重 重ネテ縫フ。重ネテ、縫ヒ合ハス。拾遺集、六、別「アマタニハ、縫ひ重ねネド、唐衣、思フ心ハ、千重ニゾアリケル」

ぬひくみのはた（名）[illegible] 幟ニ乳ヲツケズ、直接ニ旗竿ニ縫ヒ含マセタルモノ。武家事記（山鹿高興）、武裝、[illegible]ノ品、[illegible]ノ旗、云云、縫合の旗」

ぬひぐるみ（名）（一）綿ナドヲ、布帛ニテ、縫ヒ包ミタルモノ。（二）芝居ニテ、犬、猿ナドノ動物ニ扮スルモノガ、ソノモノニ擬シタル布製ノ袋ノ中ニ入リテ、身體ニ被ルモノ。八笑人（文化、[illegible]）四編「一重ノ[illegible]ひぐるみ」

ぬひざま（名）縫樣 縫ヒテアル樣。縫ヒテアル様子。又、縫ヒタル如キ樣。[illegible]式（元[illegible]）上「[illegible]八[illegible]、[illegible]ノ二ツ也」[illegible]記、廿、工藤介自害事「弓手ノ草摺、[illegible]二射コマレタリ」

ぬひし（名）縫師 繡ヲ業トスル工人。刺繡ヲ業トスル者。繡工 [illegible]成共[illegible]（安永、伊勢貞丈）上「[illegible]師ハ紋ヲ縫フ者ナリ」

ぬひしごと（名）縫仕事 はりしごと（針仕事）ニ同ジ。[illegible]サン、縫仕事、御精カ出マスノ」

ぬひずり（名）[illegible] [illegible]ノ布ニ、繡シタルモノ。[illegible]ノ直垂ニ、[illegible]ノ[illegible]

ぬひづかさ（名）縫殿寮 ぬひれう（縫[illegible]

殿寮）ニ同ジ。

ぬひどの（名）縫殿 古ヘ、縫殿寮ニテ、裁縫ノコトヲ掌リシ所。[illegible]記、十六、[illegible]

ぬひどののぢん（名）縫殿陣 大内裏ノ北ノ御門。（朔平門）又、北の陣ト云フ。此門ノ、北ニ[illegible]、南ニ縫殿寮アリ。[illegible]

ぬひどののつかさ（名）縫殿寮 ぬひれう（縫殿寮）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ぬひどのれう（名）縫殿寮 ぬひれう（縫殿寮）ニ同ジ。

ぬひとり（名）[illegible] 繡ノ一ノ技。布帛ノ上ニ、[illegible]山水、花鳥、其他、[illegible]ノ[illegible]ノ絲ヲ以テ、[illegible]帛ノ表ト裏トヲ[illegible]ハ模樣ナドヲ表ハス[illegible]ハシタルモノ[illegible]

ぬひとる・ル・レ・ラ・リ・レ（[illegible]）刺繡 [illegible]ツバクラノ[illegible]

ぬひなす [illegible]

ぬひのべ（名）[illegible] ヲ、蝶ツガヒニナサズシテ、延ベツケニ[illegible]

ぬひはく（名）[illegible]

[illegible]ルモノ。（昔ノ身分アル婦女ノ小袖トシ、禮服トシタルモノ）二百餘年前、行ハレシガ、後ニハ止ミテ、金絲ノ刺繡出來タレド、其工人ニ[illegible]ノ名ヲ存セリ。[illegible]

ぬひはづし（名）縫外 幕ノ下部ノ、縫ヒ合ハセズニアル所。

ぬひはり（名）[illegible]

ぬひホトケ（名）繡佛 [illegible]

ぬひめ（名）[illegible]

ぬひめ（名）[illegible]

殿寮ヨリ大藏省ニ配屬シテ、[illegible]ヲ裁縫セシメタル女。後紀、廿一、弘仁二年二月[illegible]分[illegible]官ノ[illegible]、[illegible]大藏省[illegible]以[illegible]作[illegible]也

ぬひめ-づけ（ヌイメ-ズケ）(名) 縫目付 (一)菊綴（キクトヂ）ノ異名。後[illegible]記(天保、松岡行義)十三「縫目付トハ、切付[illegible]ノ事ナリ、又、菊閉ノ事ヲ云ヒタル處モアリ、又、家紋ヲ縫目縫目ニ付ル事ナリ、當時ノ布直垂、何レモ縫目付ナリ」(二)きりつけもん(切付紋)ニ同ジ。(三)大紋（ダイモン）ノ縫目付ハ、だいもん(大紋)ノ條ヲ見ヨ。

ぬひ-もの（ヌイ-モノ）(名) 縫物 (一)針仕事。裁縫。又、ソノ材料。又、縫ヒタル物。(二)(又、ぬんもの)絹布ニ、五彩ノ絲モテ、種種ノ繪畫、又ハ、模様ヲ縫ヒ刺シ作ル技。ヌヒ。ヌヒトリ。刺繡　繡 倭名抄、十二[illegible]繡[illegible]、沼[illegible]毛乃、以五色[illegible]刺[illegible]畫物形狀也」推古紀、十六年八月「[illegible]衣服皆用錦紫繡[illegible]及五色綾羅」宇津保物語、樓上、上「[illegible]エカキ、ぬひ物シタル几帳ドモ」枕草子、八、七十八段、むづかしげなる物「縫物ノウラ」蔵[illegible]集「縫物ヤ、着モセデ汚ス、五月雨」

ぬひもの-し（ヌイモノ-シ）(名) 縫物師 ヌヒモノヲ業トスル人。オモノシ。七十一番職人盡歌合、下、五十一番、縫物師「ヌヒモノノ、裏ウスヤウノ、紙マデモ、スキカケ白ク、スメル月カナ」

ぬひ-もん（ヌイ-モン）(名) 縫紋 衣服ニツクル紋所ヲ、絲ニテ縫取（ヌヒトリ）ニ作レルモノ。縫取ニテ表ハシタル紋。色絲ナド用ヰル。地ニ染メ出スニ對ス）好色[illegible]代男(貞享、西鶴)[illegible]着物ニツナガラ黒キヒッカヘシニ、黒絲ノ縫紋」

ぬひ-もやう（ヌイ-モヨウ）(名) 縫模様 縫取ニシテ、アラハシタル模様。

ぬ-びる (名) 野蒜 のびる(野蒜)ニ同

ジ 古事記、中[illegible]「イザコドモ、[illegible]ツミニ、ヒルツミニ、ワガユクミチノ」

ぬひ-れう（ヌイ-リヨウ）(名) 縫殿寮 又、ぬひどのれう。ヌヒドノノツカサ。ヌヒヅカサ。古へ、中務省ニ屬セル寮。女官ノ考課ヲ掌リ、又、主上ノ衣服ノ裁縫ノコトヲ掌ル 略シテ、ぬひ。

ぬ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（ヌ・ウ）(他動、四) 縫 (一)針（ハリ）ノ目ニ絲ヲトホシテ、布帛ヲ刺シ綴ル。萬葉集、七[illegible]旋頭歌「住吉ノ、波ヅマギミガ、馬乘衣、サニヅロフ、漢女（アヤメ）ヲスヱテ、縫ヘル衣ゾ」同、十八[illegible]「草枕、タビノオキナト、オモホシテ、針ゾタマヘル、奴波ムモノモガ」(二)繡（ヌヒモノ）ヲナス。刺繡ヲナス。繡 天德歌合[illegible]「青クチバ、ウスモノノオホヒニ、柳、鳥ノカタヲぬひタリ」(三)[楯ヲ作ル] 萬葉集、十二[illegible]「人皆ノ、笠ニ縫ふチフ、有間菅（アリ）、在テ後ニモ、アハムトゾ念フ」古今集、廿、大歌所御歌「青柳ヲ、カタイトニヨリテ、鶯ノ、縫ふテフ笠ハ、梅ノ花笠」萬葉集、十一[illegible]「大君ノ、御笠ニ縫ヘル、在間菅、有ツ（アリ）看レド、事ナキ吾妹」同、十一[illegible]「眞野ノ池ノ、小菅ヲ笠ニ、縫はズシテ、人ノ遠名ヲ、立ツベキモノカ」「笠縫」(五)物ノ間ヲ迂曲シテ通ル。「外濠ヲマハラズ、四谷門ヨリ市ケ谷門へ縫ふ」

ぬ-べ (名) 野邊 のべ(野邊)ニ同ジ。

ぬ-ぼく (名) 奴僕 ヤッコ。シモベ。下男。ドボク。奴隸。字類抄「奴僕、ヌホク」杜甫、[illegible]伎本詩「長夏無所[illegible]、客居課奴僕」

ぬ-ぼこ (名) 瓊矛 瓊（タマ）ヲ以テ飾レル矛。神代紀、上[illegible]「天之瓊矛」注「瓊、玉也、此曰努」

ぬ-ま (名) 沼 〔沼間ノ義カ。ぬ(沼)ノ條ヲ見ヨ〕又、ぬ。水ノ溜レル處。倭名抄、一[illegible]河海類「沼、奴[illegible]」字鏡[illegible]「洪、水名、奴萬」天治字鏡、六[illegible]「淵、奴萬」古事記、中(垂神)[illegible]「新羅國有一沼、名謂阿具奴摩」萬葉集、十四[illegible]「上野ノ、伊可保ノ奴麻ニ、[illegible]子ナギ、カクヒムヤヤ、[illegible]求メケム」同、同[illegible]「奴麻ニツ、通ハ鳥ガ巣、吾ガ心（アガココロ）、二行（フタユク）ナモト、ナヨモハリソネ」

ぬま (名) 要害 〔沼ヨリ起ル〕沼ヲ要害トスルコト。又、モノノ必要ナルコト。ヌミ。字鏡[illegible]「[illegible]、[illegible]也、險也、奴萬」景行紀、十二年九月「其所[illegible]、皆要害之地、故各領[illegible]衆、爲[illegible]一處之長[illegible]也」欽明紀、五年十一月「兩國之境有[illegible]大江水、要害之地也」敏達紀、十二年十月「於[illegible]要害（ヌマ）之所[illegible]壘[illegible]矣」天智紀、二年[illegible]月「取[illegible]安[illegible]等要（ヌマトスル）地[illegible]」同、二年九月「相[illegible]謀事[illegible]所[illegible]要（コトハカリノヌマ）」天武紀、下、十三年閏四月「政要（ヌマ）者軍事也」

ぬま-だ (名) 沼田 又、ぬなた。泥深キ田。ヌタ。

ぬま-たらう（ヌマ-タ-ロウ）(名) 沼太郎 〔擬人語。沼ノ大物ノ義〕(一)すっぽん(鼈)ノ異稱。(二)ひしくひ(菱食)ト云ヘル鴈ノ異名。俚言集覽「ぬま太郎、近江美濃ノアタリ、鴈ノ大イナルヲ沼太郎ト云ヘリ、廣還ヤ、ヒトリシグルル、沼太郎、ト云フ句アリ」

ぬま-づ-がき（ヌマ-ズ-ガキ）(名) 沼津垣 細ソキ割竹ニテ作リタル網代垣〔オモニ、駿河國、沼津邊ニアルヨリ此名アリ〕

ぬま-とらのを（ヌマ-トラノオ）(名) 沼虎尾 水邊ニ生ズル草ノ名。高サ一尺餘ニシテ、莖圓ク、葉ハ柳ニ似テ、互生シ、夏ノ頃、白キ小花ヲ開ク。沼萩。宿星菜

ぬま-はぎ (名) 沼萩 前條ノ語ノ一名。

ぬま-よもぎ (名) 沼艾 いぶきよもぎ(伊吹艾)ニ同ジ。

ぬ-み (名) 要害 〔ぬまノ轉〕ぬま(要害)ニ同ジ。神武紀、[illegible]「賊虜所據、皆是要害之地（ヌミノトコロナリ）、故道路絶塞、無處可通（ハカリコトノスルヲ）」天武紀、上、元年六月「宜示（シメシ）要（ヌミ）而先發當郡兵」

ぬみ-ぐすね (名) くこ(枸杞)ノ古名。本草和名、[illegible]「枸杞、奴美久須[illegible]」

ぬみ-ぐすり (名) (一)くこ(枸杞)ノ古名。ヌミグスネ。倭名抄、廿[illegible]木類「枸杞、沼美久須利、俗音、久古」名義抄、[illegible]木「枸杞、ぬみくすり、俗云、クコ」(二)しゃくやく(芍藥)ノ古名。其條、及、えびすぐさ(夷草)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ぬ-むもの (名) 繡 ぬひもの(縫物)ノ音便。其條ヲ見ヨ。〔おひもの、おんものト同趣〕倭名抄、十二[illegible]錦綺類「繡、沼無毛乃」

ぬめ (名) 滑 (一)錢ノ背ノ文字ナキ方。ナメ。漫面 物類稱呼、四、器用「ぜに、畿内ニテ裏ノ方ヲモジト云、東國ニテ、カタト云、同ク裏ノカタヲ、畿内ニテ、ぬめト云、東國ニテ、なめ[illegible]云」(二)工匠ノ語。敷居、又ハ、鴨柄ノ溝ナキモノ。

ぬめ (名) 絖 〔光絹ノ合字〕絹布ノ一種。極メテ光澤多ク織リ成セルモノ。ヌメラカナルモノ。書畫ヲ書クニ用ヰル。光絹 繻子、綾、紗綾（サヤ）ナド皆、絖地（ヌメヂ）ト云フ。絹布重寶記「絖、云云、コナシ大體、繻子同樣ナリ、生絲ニテ織タリ、練絲ニテ織ナリ、夫故、絹ノツヤ、拔群ノ相違ナリ」

ぬめ-ごま (名) 滑胡麻 あま(亞麻)ノ異名。其條ヲ見ヨ。

ぬめ-ぬめ (副) 滑滑 ぬめる狀ヲ云フ語。ヌルヌル。ヌラヌラ。スベスベ。

ぬめ-らか-に (副) 滑 障リナク、ヌメリテ。ナメラカニ。スベスベト。

ぬめり (名) 滑 (一)ヌメルコト。ヌメラカナルコト。(二)芝居ノ囃子。出唄ノコト。姫、奥女中、女房、娘、ナドノ舞

臺ニ出ヅル時ニスルモノ。「ぬめりやす節ニ、(留トドニテ爲ス)」[illegible] 寬文ノ頃ヨリ、[illegible] 寶永ノ頃ニイタルハヤリ言葉ニシテ、且、唄ニモ作リシ也、云云、今モカブキ芝居、傾城ノ出端ニ、ウタフモノヲぬめりトイヘリ」(三)遊里アルキスルコト。又、遊ビアルクコト。

ぬめり-うた (名) |滑歌| 江戸時代、流行言葉ニテ唄ニ作リ、任俠ナドノ唄ヒタル小歌。(萬治ヨリ寶永頃マデ) 吾吟我集(慶安)序「今ぬめり歌、天下ニハヤルコト、四ツノ時、九ツ時雨ニナンアリケル」吉原はやり小唄そうまくり(萬治)「カハリぬめり歌、云云」

ぬめり-づま (名) |滑妻| ウハキナル妻。ナマメキタル妻。一葉集「盛リシヤ、花ニソゾロウキ法師、ぬめり妻」

ぬめり-ぶし (名) |滑節| ぬめりうたノ節。前前條ノ語ヲ見ヨ。

ぬめ-リンズ (名) |絖綸子| 織物ノ一種。綸子ノ類ニテ、無紋ナルモノ。滑綸子。光綸子。書言字考節用集、六、服食門「光綸子、ヌメリンズ」心中刃氷朔日(寶永、近松作)中「兵衛小かん夜の朝顔「店ノ帳面、皆ぬめりんぞ」

ぬめり-もの (名) 遊所アルキスルモノ。又、遊ビアルクモノ。翁物語(武田氏ノ事ヲ記ス)「ぬめり者、是レ萬ノ道具裝束マデ、油臭キ匂、衣裳ノ袖ニタツ人ニテアラズ」

ぬめ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) |滑| (一)ヌメラカナリ。スベル。文章、[illegible]ナツラス。(浮流滑、作文ニ云フ) 名義抄「滑、ヌメリ」(二)遊里ニ立入リ、浮カレアルキ、ノラクラス。[illegible] クルリトぬめらシャンスハ、二人ガホカニ名取川」

[illegible]トシテ、遊女ぬめり唄ノスグレテ [illegible] 一寸サキハ闇、ぬめろヤレサン、ぬめろヤカハイノモノヤ」

ぬ-もり (名) |野守| ノモリ。野ノ番人。門番ニモ、野ニモ、他人ノ使スヲ防グモノ。萬葉集、一「[illegible] アカネサス、紫野ユキ、シメ野ユキ、野守ハ見ズヤ、君ガ袖振ル」

ぬやま-づかさ (名) |野山司| 野中ノ高キ處。ぬづかさ。野高處ニ同ジ。萬葉集、十「里モケニ、霜ハ置クラシ、タカマドノ、野上司ノ、色ヅク見レバ」

ぬら-くら (副) (一)滑ニシテ、抑ヘラレズ。(鮎、鰻、ナドニ) ヌラヌラ。(二)檢束ナク。(惰夫ナドニ) ノラクラ。

ぬら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) |濡| 〔濡るノ他動〕濡ルルヤウニナス。水ニ濕ス。萬葉集、九「家人ノ、使ナルラシ、春雨ノ、ヨクレド吾ヲ、沾ス念ヘバ」同、十一 [illegible]

ぬら・つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) ヌラヌラス。ヌメルヤウニナル。

ぬら-ぬら (副) |滑滑| スベラカニ。ナメラカニ。スルスル。[illegible] 見レバぬらぬらト、ぬらつくモノニ持チアグンダ」

ぬらり-ひょん (名) |滑瓢| [illegible]ノ如キ、ヌカヘドコノナキ化物。古法眼元信化物畫 [illegible]「ぬらりひょん」[illegible] (十二)「一條殿座敷屋ノ條ニ、百鬼夜行、云云、其名ノ大略ハ、赤口ぬらりひょん、牛鬼、山彥オトロン、云云」

ぬり (名) |塗| 塗ルコト。塗リタル狀。

ぬり-あした (名) |塗足駄| 漆ニテ塗リタル [illegible]

ル足駄。[illegible]

ぬり-いた (名) |塗板| 小サキ板ヲ、黒漆ナドニテ塗レルモノ。字ヲ記シテハ拭ヒ、拭ヒテハ記スモノ。ヌグヒイタ。テイタ。漆面。

ぬり-がさ (名) |塗笠| 菅笠ノ如クニシテ、中クボミ、紙紐ヲ上ニ貫キ通シテ結ブ笠。女ノ用ヰル。大津繪ノ藤娘ノ被リタル如キモノ。[illegible]「老女ノムカシ、ぬり笠ニ觀世コヨリノ緒ヲツケ」[illegible] 笠ニ、松ノアラシヤ、メグルラム」

ぬり-ぐすり (名) |塗藥| 皮膚ニ塗リツクル藥。塗抹劑。

ぬり-ごし (名) |塗輿| 輿ノ一種。屋形ヲ塗リタルモノ。常ノ略儀ニ用ヰル。公家用ニ既ナリ、武家ニ [illegible] 御元服也 [illegible] 正長二年九月廿二日 [illegible] 大名主人、塗輿」

ぬり-こ-ぼし (名) |柳星| 二十八宿ノ一。南方ニアル星宿。

ぬり-こ・む・ム・ム・メ・メ・メヨ (他動、下二) |塗籠| 物ヲ内ニ籠メテ、上ヨリ塗ル。ヌリコメル。

ぬり-ごめ (名) |塗籠| (一)古ノ寢殿ノ内ニテ、一構ノ周ヲ壁ニシテ、明取ヲ設ケ、妻戸アリテ出入スル室ノ稱。衣服、調度ナド、手近キ品ドモヲ納メオクトコロ。寢所ニシタルコトモアリ。後ニハ眠藏トモ云ヘリ。今ノ納戸ノ類ト。

[illegible]

ぬり-ごめ [illegible] 藤ニテ卷キ、其上ヲ漆ニテ塗リタルコト。略シテ、ぬりごめ。塗籐 [illegible]

ぬりこ・める (他動) |塗籠| ぬりこむノ口語。

ぬり- [illegible] 同ジ。

ぬり-だいく (名) [illegible]

ぬり-たれ (名) |塗垂| 土藏ヨリ庇ヲ作リ出シテ、塗籠ニシタルモノ。[illegible]

ぬりつ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）〔塗付〕（一）塗リテ着ク。（二）カコツク。負ハス。カヅク。ヌリツケル。轉嫁。著聞集、十六、興言利口「誰レニぬりつけントテ、カク程ニ人ヲダシヌカントスルゾ」

✣**ぬりつ・ける**（動）〔塗付〕前條ノ語ノ口語

ぬりづる（名）〔塗弦〕漆塗ニシタル弓弦。盛衰記、十五、宇治合戰事「筒井ノ淨妙明春ト云者アリ、云云、七モヂリナルマユミノ、シメ塗リニ塗リタルニ、塗り弦懸ケテ」今川大雙紙（今川了俊）「白木ニ塗弦カケベカラズ、子細有事ナリ」

ぬりて（名）〔鐸〕〔鳴手ノ轉カ。手ハ柄ナリ〕鈴ノ大ナルモノ、鈴ノ頭ニ長キ柄アルモノ。口徑一尺餘、高サ柄ヲコメテ三尺餘アルモノアリト云フ。銅鐸ト云フモノ、是レナリト云フ。略シテ、ぬて。さなき。倭名抄、十四、服玩具「鐸、今之鈴、其口以銅爲也」名義抄「鐸、ヌリテ、オホスズ」字鏡「鐸、大鈴也」華嚴私記音義「鐸、奴利天」字鏡、廿四「鐸、奴利氐」玉篇「鐸、鐵葉也」政事要略、廿七「鐸、倭訓、奴利天」古事記、下（顯宗）「其老媼、欲召其老媼之時、必引鳴其鐸」顯宗紀、元年二月「置鐸於殿戸、無勞謁者、若入則鳴之」云云、鐸振底（ヌリテ）私記「如今驛傳之鈴」

ぬりで（名）〔白膠木〕〔滑出ノ義。膠ヲ生ジテ黏滑ナリ〕ぬるで（白膠木）ノ條ヲ見ヨ。略シテ、ぬで。字類抄「橰、ヌルテ、白膠木、橰、ヌデ、ヌルテ」字鏡集「橰、奴利氐乃木」崇峻即位前紀「白膠木、此云農利泥」

ぬりどう（名）〔塗籐〕ぬりぶめどう（塗重籐）ニ同ジ。（白籐ニ對ス）異本曾我物語、八、「重籐ヲ射ルトせし事、ぬりどうノマン中、取リ持チ」「塗籐ノ弓」

ぬりの（名）〔塗篦〕漆塗ニシタル矢幹。字類抄「塗篦、ヌリノ」平家物語、十一、弓流事「ぬりのニ、黑ホロハイダル大ノ矢ヲ持ッテ、マッ先ニ進ンダル」愚管抄（國史大系本）五「大將軍清盛ハ、ヒタ黑ニサウゾキテ、カチノ直垂ニ、黑革ヲドシノ鎧ニ、ぬりのノ矢オヒテ」

ぬりばし（名）〔塗箸〕漆塗ノ箸。

ぬりばなを（名）〔塗鼻緒〕漆塗ノ鼻緒。

ぬりボトケ（名）化物ノ一。嬉遊笑覽、三、化物繪「目一ツ坊、ヌケ首、ヌッペラパウ、ぬり佛」

ぬりまはし（名）〔塗廻〕壁ノ瓦燈口ナド、緣ナシニ塗リマハスコト

ぬりもの（名）〔塗物〕漆ヲ以テ塗リ作レル器ノ總名。漆器。書言字考節用集、七、器財門「塗物、ヌリモノ」

ぬりや（名）〔塗屋〕四方外面ノ壁ヲ、一面ニ土厚ク塗リ掩ヒ作リタル家。（壁板ナラヌニ云フ）醒睡笑（元和、安樂庵策傳）一「九間四方ノぬり屋一ツ造リ、戸口ヲ都合一ツアケタリ」德川禁令考、四十七、諸法度、享保五子年四月廿日「町中普請之儀、土藏作り塗屋、瓦屋根、勝手次第之事」守貞漫稿、三、家宅「今世、江戸民屋ノ制、云云、從來、塗家ト號ケ、或ハ大壁ト稱ヘテ、屋外面、全ク塗籠メテ、土藏制ニ似タルモアリ、巨戸ニ有レ之、土藏造リヨリハ壁薄シ」

ぬりゆみ（名）〔塗弓〕漆塗ノ弓。漆弓。兵部省式、廿八「凡武官人、亦皆用漆弓」今川大雙紙（今川了俊）「ぬり弓ニ白弦ヲカケベカラズ」

ぬりをけ（名）〔塗桶〕（一）漆塗ノ桶。書言字考節用集、七、器財門「塗桶、ヌリヲケ」（二）形、稍、桶、又ハ、鐘ニ似テ、漆塗ニシタル土器。昔、眞綿ヲ栽セテ引キノバスニ用ヰシモノ。室町千歳（享保、近松作、津國女夫池）二「妻ハ眞世ノ塗桶ニ、丸綿、雪濃、綿綿、色色アリト青枚」

ぬ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔塗〕（一）〔物ノ面ニ被ヒテ擦リツクル。ナスル。源、三十四、上、若菜、上三十「御修法ノ壇、ヒマナクぬりテ」狹衣、四、中三十「護摩ノ煙ニシドケナゲニシテ出デ給フヲ、大貳、ぬりハベリヌ」「漆ヲ塗る」「泥ヲぬる」（二）カヅクル。負ハス。ナスリック。轉嫁ス。源氏冷泉節（寶永、近松作）下「イヨイヨナサケナイ師匠ヤナ、師弟ハ親子ト申サヌカ、弟子ノ難義ニカハル程ノ心コソハナクトモ、我トガヲ弟子ニ塗る無得心ヤ候ベキ」「罪ヲ塗る」

ぬ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）〔濡〕〔乾るノ反〕水ニ染ム。シメル。ヌレル。拾遺集、一、春「櫻狩、雨ハ降リ來ヌ、同ジクハ、ぬるトモ花ノ、蔭ニ隱レム」古今集、十五、戀、五「アヒニアヒテ、物思フ頃ノ、我袖ニ、宿ル月サヘ、ぬる顏カナ」萬葉集、七廿七「アサリスル、アマヲトメラガ、ソデトホリ、ぬれニシコロモ、ホセドカワカズ」

ぬ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）〔解〕髮ナド、ヌルヌルト、自ラ解クル。ヒタヒタト、垂レ亂ル。ヌルスルト、解ケサガル。ズボヌケル。萬葉集、二十五「嘆キツツ、マスラヲノコノ、戀フレコソ、吾ガ結フ髮ノ、漬チテぬれケレ」同、二廿六「タケバぬれ、タカネバ長キ、妹ガ髮、比來見ヌニ、カカゲツラムカ」

ぬる（動）〔寐〕ぬ（寐）ノ變化。其條ヲ見ヨ。

ぬる（助動）〔畢〕現在完了ノ助動詞ノぬノ變化。其條ヲ見ヨ。

ぬるがね（名）〔溫金〕醫師ノ用ヰル具。やきがね（燒金）ノ條ヲ見ヨ

ぬる・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）〔微溫〕（一）〔少シ熱シ。スコシ、アタタカシ。ヌクトシ。ヌルコマシ。古今集、十七、雜、上「古ヘノ、野中ノ淸水、ぬるけれド、元ノ心ヲ、知ル人ゾ汲ム」拾遺集、十一、戀、一「ワガタメハ、罔井ノ淸水、ぬるけれド、ナホカキヤラム、サテハ澄ムヤト」萬葉集、十三廿七「長谷ノ、出ツル水ノ、ぬるくハ出テズ 寒水ノ、心モケヤニ」拾遺集、十二、戀、二「カクレ、濡レニシ水ハ、ぬるくトモ、掬ビシ袖ハ、今モカワカズ」（二）冷カナラズ。曾丹集、五月「手モタユク、暑ノ日ノ、ぬるけれバ、關ノ清水ニ、ミナレテゾ行ク」（三）熱氣、薄シ。拾遺集、十、冬「埋ミ火ノ、アタリヲぬるみ、思ヒ寢ニ」（四）心鈍シ。氣轉遲シ。ノロシ。〔遲鈍〕字類抄「猶豫、ヌルシ」截思記（貞德）下「歌連歌、ぬるきモノゾト、云フ人ノ、アツキ弓矢ヲ、取リタルモナシ」夫木抄、十八、「我戀ハ、ウケオフ弓ニ、アラズトモ、アフコトぬるき、ナゲキヲゾスル」

ぬるたま（名）〔寐る魂ノ義ナラム〕夢ヲ云フ。相模集「ぬるたまノ、中ニアハセシ、好キ事ヲ、ユメユメ神ヨ チカヘサラナム」夫木抄、三十六、夢「ぬるたまノ、夢ハウツツニ、マサリケリ、コノ世ニサムル、枕カハラデ」新勅撰集、十五、戀、五「ナゲキワビ、ぬる玉ノ緒ノ、ヨヒヨヒハ、思ヒモ絶エヌ、夢モハカナシ」

ぬるで（名）〔白膠木〕〔此樹、白膠アリテ物ヲ塗ルベケレバ云フトゾ〕古クハ、ヌリデ、又、ヌデ。一名、勝軍木。かちのき（勝木）。樹ノ名。山野ニ多シ、高サ二丈餘、喬木ナラズ、枝四方ニ茂ル。春、新葉ヲ出ス、漆ノ葉ニ似テ、廣クシテ粗齒アリ、對生ス、夏、一尺許リノ穗ヲ生ズ、枝多クシテ細白花ヲ開ク、數百千、簇ルコト、漆ノ花ニ似タリ。實ハ垂リテ、圓ク平タクシテ、漆ノ實ヨリ小サシ、外ニ白粉アリ、味鹹シ。仁ハ茶褐色ニシテ、鹽麩子ト云フ、（漢名、或ハ鹽膚子、藥用トス）夏以後、葉毎ニ、多ク泡ヲ生ジ、中ニ蟲アリ、秋ニ至リ、早ク紅葉シテ落ッ。此樹、又、五倍子ヲ生ジ、ふしのきノ名モアリ。ふし（五倍子）ノ條ヲ見ヨ。林逸節用集、奴、草木門「白膠木、勝軍木也、護摩乳木用レ之」夫木抄、十

…し、紅葉アマノ住ム、鐘ノ山道ヲ、見ワタセバ、波ニぬるでノ、モミヂシニケリ」

ぬる-ぬる (副) 滑滑 (一)ヤハラカニ靡キ寄ル状ニ云フ語。(二)〔ヌメラカニ。ナメラカニ。ヌラヌラ。 萬葉集、十四、「安波乎呂ノ、乎呂田ニ生ル、タハミヅラ、引カバ奴流奴流、吾ヲ言ナ絶エ」 [illegible]説笑」

ぬる-び (名) 微温火 熱度ノ弱キ火。トロトロビ。トロビ。煖火。文火 漫火

ぬるま-お・し (形) 微温 ぬるし(微温)ニ同ジ。

ぬるま-ゆ (名) 微温湯 微温キ湯。温度ノ低キ湯。ビヲンタウ。

ぬるみ (名) (一)ヌルマ湯。 生写朝顔日記(天保、近松徳叟)「アリ合フぬるみ、刀ニソソゲバ」 (二)ヌルキ度合。ヌルキ氣味。(三)ヌルキ所。ヨドミ。 盛衰記、三十五、高綱渡宇治河ニ事「弱キ馬ヲバ下手ニ立テ、ぬるみニ付ケテ渡スベシ」 扶桑拾葉集、十五「淺キハノ、ぬるみニカケテ、出シ舟ノ、早シホミチニ、ムカフホドナキ」

ぬる・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 微温 温クナル。ユルム。 拾遺集、九、雜、下「名ニハイヘド、クロクモ見エズ、ウルシ川、サスガニワタル、水ハぬるめり」 榮花物語、見はてぬ夢、四「關白殿ノ御心地、マメヤカニ苦シウ思サルレド、ぬるませ給ヒタレバ」 源、三十四、下、若菜、下「[illegible]御身モぬるみテ、御心地モイトアシケレバ」

ぬる・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 微温 ヌルクスル。ヌルクナス。

ぬれ (名) 濡 (一)〔ヌルルコト。 源、三十八、夕霧「道ノ露、云云、女君ノウカミぬれタマ、アヤシト咎メ給ヘケレバ」 夫木[illegible]、廿八、[illegible]「霧ニ濡ル、オホアラキノノ、小ササ原、ぬれハヒヅトモ、色ニイデメヤ」 (二)男女ノ閨ノ色メキタルコト。イロゴト。艶事。 [illegible]ヨル身ハ、ホサナニチゴニヤセ」

ぬれ (動) 隙 ぬる(隙)、條ヲ見ヨ。

ぬれ-おい (名) 奴隷 ヤッコ。シモベ。下男。ドレイ。奴僕。 書言字考節用集、四、人倫門「奴僕、ヌレイ、又云、仕丁」 [illegible]三、[illegible]奴僕ヨリ起テ、武功、[illegible]」

ぬれ-いろ (名) 濡色 ヌレタルイロ。 林葉集、三「ぬれいろハ、露バカリニテ、アリヌベシ、何ソハ雨ハ、ヤマトナデシコ」 拾玉集(異本)四「消エヤラヌ、ササガ葉ノ、トリワケテ、ぬれいろニ、鳴クホトトギス」(同巻)「サミダレニ、山ホトトギス、聲ぬれテ、軒ノアヤメノ、色ニ鳴クナリ」 又、安政四年百首「クチナシニ、川瀬ノ浪ノ、カクレヤ、ぬれいろニ咲ク、山吹ノ花」

ぬれ-えん (名) 濡縁 雨戸ノ敷居ノ外ニ作リタル縁側ノ、雨ニ濡ルルニ任スルモノ。雨ザラシノ縁。 續猿蓑集(元祿)「ぬれ縁ヤ、薺コボルル、土ナガラ」

ぬれ-かか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 濡掛 色事ヲシカカル。イドミカカル。 好色三代男(貞享、西鶴)一「母ハ御堂へ、娘一人、折柄コソトぬれかかる」

ぬれ-がみ (名) 濡紙 水ニ濡レタル紙。濕紙

ぬれ-ぎぬ (名) 濡衣 (一)〔水ニ濡レタル衣。又、ヌレゴロモ。 萬葉集、九十「アブリ乾ス、人モアレヤモ、沾衣ヲ、家ニハヤラセ、旅ノシルシニ」 (二)無キ汚名ヲ負フコト。無實ノ罪名ヲ被ルコト。冤 古今集、八、離別「カキクラシ、コトハフラナム、春ノ雨ニ、ぬれぎぬキセテ、君ヲトドメム」 後撰集、三、春、下「春クレバ、咲クテフコトヲ、ぬれぎぬニ、キスルバカリノ、花ニゾアリケル」 同、十八、雜、四「ウキコトヲ、忍ブルアメノ下ニシテ、我ぬれ衣ハ、ホセドカワカズ」 菅家萬葉集、下、女郎花「ヲミナヘシ、アダナル名ヲヤ、立チヌラム、[illegible]ぬれぎぬ[illegible]」 [illegible]一「人ノ科ヲ負フハ、其ナクシテ雨ニ衣ノ濡ルルヲ、[illegible]」 「濡衣ヲ着ル」

ぬれ-ごと (名) 濡事 芝居ニ云フ語ニテ、女ノ痴情ニ關スルコトヲ演ズルモノ。イロゴト。ヤツシゴト。 [illegible]三「綠竹、詩文、和歌ノ道、トリワケハヤル[illegible]ニッコト貸婦シ中シケル」 浮世風呂(文化、三馬)四編、上「濡事モ、ホントウニ惚レタラバ、女形ハ只ノ女ガスルヤウニナルダラウ」

ぬれごと-し (名) 濡事師 [illegible]濡事ヲ演ズル役者。 浮世風呂(文化、三馬)二編、下「今ハ役者鬘屋モヒネッテ、ぬれ事師ヨリハ、[illegible]」 (二)俗ニ、色事ニ巧ナル者。

ぬれ-ごろも (名) 濡衣 ぬれぎぬニ同ジ。 [illegible]「[illegible]ケル、シロタヘノ、アレぬれごろも、ホスト見ツルハ」 藤原朝忠集「モロトモニ、君モホサナン、ぬれごろも、カカルナキ名ハ、ワレノミゾタツ」

ぬれ-さぎ (名) 濡鷺 菊ノ異種。

ぬれ-て (名) 濡手 水ニ濡レタル手。濡手で粟をつかむトハ、骨折ラズシテ利益ヲ得ル意。又、勞少クシテ、得ルコトノ多キ意。一攫千金。 鷹筑波集(寛永)「ぬれ[illegible]」

ぬれ-ぬれ-と (副) 濡濡 濡レバミテ。イタク濡レテ。 盛衰記、廿、石橋合戰事「伊豆ヲ引起シテ、イカニ手ヤ負ヒタルト問ヘバ、鎧コソ重ク覺ユルト云フ、頸ノサグレバぬれぬれとアリ」

ぬれ-ねずみ (名) 濡鼠 鼠ノ、水ニ濡レタルモノ。人ノ、雨ナドニ逢ヒテ、全身濡レタルニ譬ヘテモ云フ 東海道名所記(萬治)三、大堰川「ぬれねずみノ如クニナリテ、ヤウヤウ向カヒノ岸ニアガルモアリ」 小町踊(寛文、立圃)春、上「雨ニ引ク、ケフノ小松ヤ、ぬれ鼠」

ぬればー・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 濡 [illegible]ノ、先ハホミテ、穴ノ邊、ぬればみタルハ、[illegible]」

ぬれ-ぼとけ (名) 濡佛 [illegible]安置セル佛像。露佛

ぬれ-まく (名) 濡幕 濡事ノ芝居。[illegible]

ぬ・れる (動) 濡 ぬる(濡)ノ口語。

ぬれ-をんな (名) [illegible] 化物ノ一[illegible] 物類稱呼 ぬれをんな、ビユウスベ、シヤウケラ」

ね

ね 五十音圖、奈行第四ノ假名。[illegible] 此音ハ、下ニ[illegible]ノ如シ

ね (名) 音聲 (一)聲ノ色アルモノ。[illegible]ソクヤリシゲサネ音[illegible]

ね (名) 哭 〔泣ク聲〕 [illegible]

ヱニ、ソヘテセ ね[illegible]サカナニアゾ、[illegible]給フ一句、三十八、夕霧ニ「ねヲ泣キ給フサマノ、心フカクイトホシケレバ」 古今集、十五、戀、五「アマノカル、藻ニ住ム蟲ノ、我カラト、ねヲコソ泣カメ、世ヲバ恨ミジ」 六帖、六「ヒナドリノ、風キリヨワミ、トバレネバ、スゴモリナガラ、ねヲノミゾ泣ク」 萬葉集、三廿九長歌「哭ノミシ泣カユ、イニシヘ思ヘバ」 同、十五三十「アカネサス、晝ハモノモヒ、奴婆多麻ノ、夜ハスガラニ、哭ノミシ泣カユ」 神代紀、上九「有二啼哭之聲一」 （二）[illegible]ジテ、哭、

ね（名）〔名兄ノ約カト云フ〕男ヲモ、女ヲモ尊ビテ云ノ稱。 萬葉集、四廿一「[illegible]ノ、念ミダレテ、カクバカリ、名姉ガ戀フレゾ、夢ニ見エケル」 神代紀、下十九「[illegible]」 古事記、上三十「妹阿[illegible]」 倭名抄、二十八兄弟類「兄、伊呂[illegible]」

ね（名）姉〔あねノ略〕あね（姉）ニ同ジ。又、女子ヲ親シミテモ云フ。

ね（名）寢 寢ルコト。ネムリ。 伊勢物語、[illegible]「[illegible]オキモセズ、ねモセデ夜ノ、アカシテハ、春ノモノトテ、ナガメクラシツ」 千載集、六、冬「サユル夜ノ、眞木ノイタヤノ、獨ねニ、心クダケト、アラレフルナリ」「ねガ足ラヌ」

ね（名）直〔代ノ轉、まさで、ト同趣〕アタヒ。ネウチ。ネダン。價値。 書言字考節用集、八、言辭門「直、ネ、賣[illegible]所[illegible]」 狂言記、長光「亭主、此處ニアルハ何ゾ、何、起上小法師ヂャ、子供達ノミヤゲニ、コレカヨカラウ、ねハイクラデ、ヤア、何モ高イノ」 俚言集覽「直、物價ヲ云フ」

ね（名）嶺峯〔の上ノ約ナラム。常ニ根ト書ス〕山ノ高キトコロ。イタダキ。ミネ。 萬葉集、十四「ツクバ嶺ニ、雪カモフラル、イナヲカモ、カナシキ子ロガ、ニヌ干サルカモ」 續千載集、十二、戀、二「富士ノ根ノ、烟ノ末ハ、跡ナクテ、モユル思ヒゾ、身ヲモ離レヌ」「高根」「甲斐ガ根」

ね（名）根（一）〔植物ノ莖幹ノ下ノ土中ニアル部。土中ノ水氣ヲ吸ヒテ滋養ヲ取リ、且、其體ヲ固定セシム。 倭名抄、廿[illegible]「根、[illegible]」 後撰集、十二、戀、四「根モナク、人ニ折ラルル、女郎花、ねヲダニ殘セ、植ヱシ我カタメ」 （二）モト。モトヰ。オコリ。根元。原。（三）腫物ノ内ノ固マリタル部。（四）モトドリ。髻「根ニ掛ク」「根ガ上ル」（五）スベテ、生エ、又ハ、立チテアル物ノ着處。「齒ノ根」 根掘り葉掘りトハ、根本ヨリ枝葉ニ渉ルマデ、アナグリ求ムルヲ云フ。「根ホリ葉ホリ尋ネル」

ね（名）鼠 ねずみ（鼠）ニ同ジ。 倭名抄、十八毛群名「鼠、[illegible]、乃良[illegible]」

ね（名）子〔鼠ノ義〕（一）干支ノ名。其條ヲ見ヨ。 萬葉集、廿八十「初春ノ、初子ノ今日ノ、玉箒、手ニトルカラニ、ユラグタマノヲ」 （二）時ノ名。其條ヲ見ヨ。 枕草子、十一、百四十五段「イミジウサムキニ、夜半バカリナドニ、コホコホトコホメキ、クツスリキテ、ツル打チナラシテ、ナンケノナニガシ、時ウシミツ、ねヨツナド、ハルカナルコヱニイヒテ」 （三）方角ノ名。北ノ方。えと（干支）ノ條ヲ見ヨ。

ね（助動）不 打消ノ助動詞ノずノ變化。其條ヲ見ヨ。 萬葉集、二廿三「ツバサナス、アリカヨヒツツ、見ラメドモ、人コソシラね、松ハシルラシ」「行カねバ」「食ハねド」「人コソ見エね」

ね（助動）現在完了ノ助動詞ノぬノ命令法。「行キね」「去りね」

ね（辭）希望ノ意ヲ表ハス語。 崇神紀、八年十二月「朝戸ニモ押シ開カね、三輪ノ殿戸ヲ」 仁徳紀、四十年二月「伊菟岐ガ上ノ、鷦鷯取ラサね」 萬葉集、三廿「奥山ノ、菅ノ葉凌ギ、降ル雪ノ、消ナバ惜シケム、雨ナ降リソね」 同、五廿六「アガ主ノ、御靈賜ヒテ、春サラバ、奈良ノ都ニ、メサゲタマハね」

ね（感）〔喃ノ轉〕ネエ。ナア。

ね‐あがりまつ（名）根上松 波ニテ土ヲ洗ヒ去ラレナドシテ、根ノ高ク地上ニ現ハレ出デタル松ノ稱。[illegible]根松 [illegible]記、七、三の口の關通り給ふ事「篠原安宅ノワタリヲセサセ給ヒテ、根上りの松ヲ讚メテ」

ね‐あげ（名）直上 直段ヲ高クスルコト。價ヲ増スコト。

ね‐あざみ（名）薊茹〔根薊ナドノ義ニヤ〕又、にひまぐさ。草ノ名。水邊ニ多シ。早春ニ、宿根ヨリ叢生ス、莖、高サ二三尺。葉ハびやうやなぎ（未央柳）ノ葉ニ似テ狹ク、微毛アリ、互生ス。莖、梢ニ、五葉、對生シテ、五枝ヲ分チ、枝毎ニ四葉對生ス。春ノ末ニ、其上ニ、四瓣ノ淡紫黄ノ小花ヲ開ク。實ハ、ほるとさう（續隨子）ニ似テ、一分許リ、中ニ三粒子アリ。夏ノ初、苗枯ル。莖、葉、根、共ニ、切レバ白汁出ヅ。チグサ。草薊茹 倭名抄、廿七草類「薊茹、[illegible]阿佐美、一云、仁比萬久佐」 本草和名、上四十「薊茹、[illegible]阿佐美、[illegible]比萬久佐」

ね‐あし（名）寢脚 久シク歩マザルアシ。

ね‐あせ（名）寢汗 眠レル中ニ、自ラ汗ヲ發スルコト。盜汗。（病ニ疲レシ時ナドニ） 運歩色葉集「寢汗、盜汗、ネアセ」

ね‐あはせ（名）根合 昔、五月五日ニ、菖蒲ノ根ノ上ニ和歌ヲ記シテ、左右ニ分チ、根ノ長短ヲ合ハセテ、勝負ヲ決スルコトト云フ。菖蒲根合。 百練抄、五、堀河院、寛治七年五月五日「郁芳門院根合、兼日定二兩方念人一」 實國集、十九、草木「永承六年五月五日、内裏ニ菖蒲ノ根合有ケリ」 榮花物語、三十六、根合「梅壺ノ女御殿、云云、内ニハ根合セサセ給フ、云云、左右廿人ヅツ分キテ、エモイハヌ洲濱ノカキネヲタヅネツツ、マタ知ラヌコヒヂニオリツツ引キ出デタル、一丈三尺ノ根ナドモアリケリ」

ね‐あはせ（名）音合 地震スル時ニ、雉子ノ、ソレニ應ジテ鳴クコト

ねい‐かう（名）佞幸 佞倖 ヘツラヒテ、主君ニ寵セラルルコト。又、ソノモノ。 漢書、佞幸傳「[illegible]」 [illegible]「[illegible]佞幸[illegible]」

ねい‐かう（名）佞巧 ヘツラヒノ巧者ナルコト。 史記、周紀「石父爲人佞巧、善諛好利」 漢書、賈誼傳「[illegible]上佞巧、下佞巧[illegible]」

ねい‐かん（名）佞奸 陽ハ、柔順正直ニ見エ、心ハ、ネヂケテ、ヨコシマナルコト。「佞奸邪智」

ねい‐き（名）寢息 寢タル間ノ呼吸。睡眠中ノ息。「寢息ヲ窺フ」

ねい‐きょ（名）寧居 安心シテ居ルコト。 左傳、桓公十八年「寡君畏二君之威一、不二敢寧居一」

ねい‐けい‐じ（名）寧馨兒〔寧馨ハ、晉、宋ノ世ノ人ノ俗語ニテ、如レ此ノ意ナリト云フ〕カヤウナル男子。轉ジテ、幼ニシテ俊秀ナルモノ。神童。麒麟兒 容齋隨筆 宋、洪邁「寧馨字、晉宋間人語助耳、今吳人語多用二寧馨[illegible]猶レ言二若何一也」 晉書、王衍傳「王衍總角、嘗造二山濤一、山濤見二王衍一曰、何物老嫗、生二此寧馨兒一、然誤二天下蒼生一者、未二必非一此人一也」

ねい‐さい（名）寧歲 安ラカナル年。太平無事ノ年。安穩ナル年月。 國語、晉語「自二子之行一晉、無二寧歲一、民無二成君一」

ねい‐じつ（名）寧日 安ラカナル日。無事ノ日。 梁武帝、與二蕭寶寅一書「終無二寧日一」

ねい‐しん（名）佞臣 佞奸ナル臣下。 書言字考節用集、四、人倫門「佞臣、ネイシン」 太平記、

十三、[illegible]ニ近ヅキ、我レニツラカリシ佞臣、讒害ヲ、一一ニ殺サント存ズル也」

ねい-じん (名) [佞人] 辯舌、巧ニシテ、諂フモノ。ゴマスリ。ネヂケビト。邪智アル人。[illegible]

ねい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）[佞] 邪智ヲ以テ諂フ。オモネル。コビル。史記、佞幸傳「[illegible]」[illegible]

ねい-せい (名) [寧靜、寧靖] シヅカナルコト。オチツキタルコト。又、ヤスラカニ治マルコト。[illegible]

ねい-べん (名) [佞辯] 心ネヂケテ、辯舌ノ巧ナルコト。佞奸ナル辯舌。[illegible]「不式古訓、而苟是佞辯」

ねい-み (名) [子忌] 昔、正月初子ノ日ニ、野ニ出デテ遊ブコト。[illegible]キノ初子ノ日、子いみト云ヒテ、家ヲ出デテ野ニイキテ、ヒネモス二暮クラシ」

ねい-も (名) [根芋] ゐもき（芋苗）ノ根元ニ出來ル芋。芽バエヲ食用トスル芋。[illegible]集、[illegible]根芋」

ねい-り (名) [根入] 根ノ、地ニ入リタル程。地中ニ入リ込ミタル深サ。[illegible]入幾尺」

ねいり-ばな (名) [寐入端] 寐入リタル初。寐入リテ間モナキ時分。[illegible]集（寛永）「夜フルヲ、シラヌハ雪ヤ、ねいりばな」[illegible]

ねい-る (名) [佞] [illegible] 正シカラザルコト。[illegible]ニ諂リテ、他ニ追從スルコト。

ねい・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[寐入] (一) [illegible]「背スグルホドニ、スコシねいり給ヘルニ」[illegible]四、三十九段「イトクシク叩クニ音モセネバ、ねいり[illegible]」[illegible]流行ラヌヤウニナル。「商賣寐入る、評判寐入る」

ねいろ (名) [音色] (一) 音ノ立ツホドラヒ。[illegible]樂阿彌「尺八ノ、アラ面白ノね色ヤナ」(二) 物理學ニテハ、物ノ音ノ一性質。[illegible]音體ヨリ發スル音ヲ聞キテ、其何タルカヲ識別シ得ル音ノ性質。

ねう (名) [尿] [說文「尿、尿ノ本字」] 人小便也」ユバリ。ユマリ。小便。

ねう (名) [鐃] [illegible]小サキ鉦ノ一種。鈴ノ如クニシテ舌ナク、柄アルモノ。鼓動シテ音ヲ發セシム。說文「鐃、小鉦也」[illegible]

ねう-ぎゃう (名) [繞行] ねうだう（繞道）[illegible]

ねう・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）[念] ねんず（念）ノ轉。著聞集、十六、興言利口「シトヲモねうじテ、タメラヒ居タリ」（[illegible]本）

ねう-せつ [illegible]

[illegible]七、[illegible]山[illegible]丘手、[illegible]

「維摩經[illegible]、文殊[illegible]舌」

ねう-た (名) [illegible]

ねう-だう (名) [繞道] 又、繞行。[illegible]行。ねうぶつ（繞佛）、及、ぎゃうだう（行道）ノ條ヲ見ヨ。

ねう-だう (名) [尿道] 尿ノ[illegible]

ねうち (名) [直打] (一) 物ノ價ノ高下ヲ定メ試ミルコト。直段ヲ、キムルコト。[illegible]評價[illegible]引キツメテ、弓ヤ八幡、マケジトゾセシ」(二) [illegible]價ノ高キ低キ[illegible]估價 (三) 俗ニ、タフトサ。品。品位。

ねう-どく-しゃう (名) [尿毒症] じんざうえん（腎臟炎）ノ條ヲ見ヨ。

ねう-ねう-と (副) 猫ノ鳴ク聲ニ云フ語。[illegible]寄リ臥シ給ヘルニ來テ、ねうねうと、イトラウタゲニ鳴ケバ、カキ撫デツツ」

ねう-はち (名) [鐃鈸、鐃鉢] [illegible]佛家ノ[illegible]語、[illegible]陀羅[illegible]同メ[illegible]合ハセテ聲ヲ發セシム。[illegible]（銅鈸子）ノ條ヲモ見ヨ。字類抄[illegible]

[illegible]シラベアハセタリ[illegible]「大鼓、鉦モ鐃鈸モ[illegible]ラウトウゲニ」

ねう-ぶつ (名) [繞佛、遶佛] 佛教ノ語。[illegible]佛ノ周圍ヲ行道スルコト。御儀法、法華八講ナド、重キ法會ニナス作法。又、繞道。ぎゃうだう（行道）ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]

ねえ (感) ねゆ（糺）ノ條ヲ見ヨ。

ねえ (感) 應フル聲。なう（喃）ニ同ジ。ハイ。ナイ。

ねえ-さん (名) [姉樣] [おねえさまノ略轉] [illegible]

ねえ-ねえ [illegible]

ネエブル [illegible] 橙ノ一種。果實ハ、圓形ニシテ、頂ニ臍狀ノ突起アリ。外皮ハ黄赤色ニシテ、風味、甚ダ佳シ。へそみかん。

ね-おき (名) [寐起] 寐テ、目ノ覺メテ起クル時。[illegible]ツクリスル、[illegible]ねおきノ顏ノ[illegible]バニ[illegible]寐ヌルト、起クルト[illegible]シ、起臥[illegible]

ね-お・く・クル・クレ・キ・キ・キヨ（自動、上二）[寐起] 目ザメテ起ク。イザム。[illegible]子ル[illegible]九十八[illegible]夜ハ[illegible]久[illegible]ねおきまさル[illegible]

ね-おび・る・ル・ル・レ・レ・レ・レヨ（自動、上一）[illegible]寐惚ケ[illegible]キ夢、[illegible]小兒ハ寐レ[illegible]怖[illegible]狀ヲ[illegible]ニシテ[illegible]

[illegible]ハ、ヒナド、ココカシコニウチシテ」同、同、十四「若君ノねひれ[illegible]、サイ[illegible]ヒス、北ノ方[illegible]ツハリナレ見ノ、ねおびれテ、ウチシハノトタレケハヒモ、ウツクシ」

ねおろし（名）［嶺颪］嶺ヨリ吹キオロス風。ヤマオロシ。

ねがけ（名）［根掛］婦人ノ髻ニ掛クル節物。珠ナドヲ用ヰル。

ねか・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）［寝］（一）（寝ノ他動。ひゆ、ひやかすノ類）寝ルヤウニナス。寝付カシム。ネセル。（二）横ニ倒ス。倒「杖ヲねかす」（三）差シ置キテ働カセズ。「金ヲねかす」（四）麹ナドヲ暖室ニ入レテ、黴ヲ生ゼシム。かうぢ（麹）ノ條ヲ見ヨ。「小兒ヲ寝かす」

ねかせ（名）［根[illegible]］塀ノ柱ナドノ根元ニ、倒レヌヤウニ附クル械。

ねがはくえ（副）［願］〔ねがはくハ、ねがふノ延〕願フ所ハ。請ヒ望ムニハ。誂ヘ求ムルコトハ。コヒネガハクハ。ネガヒシク。神代紀、下「[illegible]時相[illegible]勿[illegible]也」[illegible]古今集、廿、[illegible]「ねがはくえ、[illegible]シ[illegible]ニ、ヤスラヒテ、カカケヤセマシ、法ノ篝火」[illegible]古今集、十七、雜、上「願はくえ、花ノ下ニテ、春死ナム、ソノキサラギノ、望月ノ頃」拾玉集、二「ねがはくえ、ヲハリ亂レズ、身トナリテ、十[illegible]唱ヘム、南無阿彌陀佛」

ねがは・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［欲願］願ノ意ニテアリ、望マシ。垂仁紀、二年十月、「[illegible]也」源、廿六、常夏七「モテハヤサレンサマハ、ねがはしからズ」

ねかはね（名）［根[illegible]］かばね（[illegible]）ト云フニ同ジ、[illegible]紀、廿九、[illegible]三年五月、[illegible]「冠位

[illegible]モ[illegible]ノ[illegible]、[illegible]後」

ねがひ（名）［願］（一）〔ネガフコト。望ミ請フコト。[illegible]新古今集、十九、[illegible]ノ人ノ、ねがひヲミツノ、濱風ニ、心スズシキ、シデノ音カナ」（二）神佛ニ望ムコトヲ祈ルコト。グヮン。「願ヲ掛ク」

ねがひさげ（名）［願下］（一）願ヒ出デタル事ヲ、廢メムト請フコト。（二）一旦、望ミタルコトヲ、廢止スルコト。

ねがひしく（副）［冀］ネガハクハ。コヒネガハクハ。景行紀、四十年十月「冀、ネガヒシクハ、暫時、得[illegible]天朝」

ねがひのいと（名）［願絲］七夕ニ、竿ノ先ニ掲ゲテ、牽牛、織女ノ二星ニ、手向クル五色ノ絲。女工ノ巧ナラムヲ祈ルナリ。三年ニシテ所願、必ズ成就ストイフ。白居易詩「[illegible]得少年長乞巧、竹竿頭上願絲多」夫木抄、十、七夕「我カイノル、ねがひの絲ノ、トシヲヘテ、アハデシモヤハ、アキノ七夕」太平記、一、資朝俊基關東下向事「七月七日、今夜ハ牽牛織女ノ二星、烏鵲橋ヲ渡シテ、一年ノ懷抱ヲ解ク夜ナレバ、宮人ノナラハシ、竹竿ニ願ひの絲ヲ[illegible]ケ、云云、乞巧奠ヲ脩スル夜ナレドモ」

ねかぶ（名）［根株］クヒ。クヒゼ。

ねが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［願］〔祈ぐノ延〕（一）思ヒノ如クナラムコトヲ請フ。欲スル所ヲ望ム。希望ス。竹取物語「[illegible]ノ首ニ五色ノ光リアル玉、云云、取リテ奉リタラン人ニハ、ねがはンコトヲカナヘントノタマフ」萬葉集、四、廿「今夜ラノ、早開ケヌレバ、スベヲナミ、秋ノ百夜ヲ、願ひツルカモ」同、五、八「水沫ナス、モロキ命モ、[illegible]ノ、千尋ニモガト、願ひ暮シツ」源、四、夕顔廿「我ガカナシト思フ娘ヲ、ツカウマツラセバヤトねがひ、モシハロ惜シカラズト思フ」（二）祈

リ[illegible]、願ヲ掛ケ[illegible]、祈[illegible]源、十[illegible]、[illegible]ノ世ニねがひ[illegible]所ノ[illegible]サマモ、思ウ[illegible]ハ、ヤラル世ノサマカナ」

ねがへり（名）［寝返］（一）フシカヘリ。寝タル體ヲ返ヘシテ、向キヲ轉ズルコト。［寝反側］百合若大臣野守鏡、寶永、近松作）二「背中搔クニモ搔カレマイ、寝返り遊バス時、灸ガ擦レウ、ナウナウト起セド」（二）味方ニ背キテ、敵ニツクコト。反覆

ねがほ（名）［寝顔］寝タル顔。眠レル顔ツキ。

ねがみ（名）［寝紙］藏メ置キテ、古クナリタル紙。

ねから（副）〔根自ノ義〕（一）モトヨリ。最初ヨリ。（二）サラサラニ。一向ニ。全ク。ネッカラ。浮世風呂（文化、三）四、二編、下「最チット聞キ譯ケガアリサウナモンデゴザイマスガ、根から分カリマセン」

ねき（名）［根際］キハ。ソバ。カタハラ。（近義）傍側　東海道中膝栗毛（文化、十九）十編、上「ワシャ天王寺ノツイねきチャサカイ、連レマウテイコハイノ」

ねぎ（名）［禰宜］〔祈ノ義、我ガ身、人ノ上ヲ神ニ祈ル、或ハ、神ヲ勞ノ義カ〕かんぬし（神主）ノ條ヲ見ヨ。神人　廟祝　易林節用集（慶長）、上、人倫門「禰宜、ネギ」續紀、十七、天平勝寶元年十一月「八幡大神禰宜外從五位下大神杜女、云云、[illegible]大神朝臣之姓二」皇太神宮儀式帳、[illegible]次第「禰時太神宮禰宜氏、荒木田神主等遠祖、國摩大鹿嶋命孫、天見通命乎禰宜[illegible]、伊勢[illegible]王、朝庭[illegible]上坐支、從[illegible]始[illegible]、禰宜氏無[illegible]」禰宜供奉、禰宜之任日、忌火飯食忌愼」菅家集、二、[illegible]「弘仁五年春、[illegible]大師、云云、禰宜、[illegible]等、コノ事ヲ見テ、昔ヨリイマダカカル事ヲ見聞カズトイヒケリ」林葉集、七「神垣ノ、タヨリニ立ツカ、梅ノ花、[illegible]ノ來テ、ねぎト定ムル」（根木ニ禰宜ヲカク）

ねぎ［葱］（[illegible]）[illegible]一音ナレバ一文字ノ異名モアリ、[illegible]「木[illegible]」根ヲ賞スルニ因リテ、根[illegible]ト云フ」[illegible]ノ名。地下ニ球形ノ[illegible]ヲ有ス、葉、圓クシテ、長ク、内、空クシテ、末、尖リ、緑ニシテ臭ミアリ。夏、莖ヲ出シテ、小白花、[illegible]リ集リテ球狀ヲナシテ開ク、後ニ黑キ實ヲ結ブ。[illegible]葉、四時枯レズ、根（即チ地下莖）ヲ深ク培ヒテ、葉ノ木、根ノ上、土中ニアリテ白キ部ヲ常食トス。故ニ、根深ノ名モアリ。青葱　倭尼令、義解「五辛者、一日二大蒜、二日[illegible]（ネギ）、三日[illegible]、四日[illegible]、云云」七十一番職人歌合、中、四十番、ねぎ賣、云云、[illegible]ナドモ申侍レバ、不可有[illegible]」

ねぎごと（名）［祈事］（一）〔祈グ事〕祈リ願フ事。グヮンガケ。祈願。源、廿六、常夏廿八「ココロミゴトニ、ネンゴロカラン人ノねぎごとニ、ナシバシ[illegible]キ給ヒソ、思フサマ侍ルナド」四季物語、六月「コ度ノ集ニハ、イカデ漏サジナド、ハカナキねぎごとニ、月日ヲ暮セシ事ヨ」清正集「チハヤブル、神ノ心ヲ、シラネバヤ、ナホねぎごとハ、タノマルルカナ」（二）轉ジテ、[illegible]謠曲、鳥追船「夫レ弓取ノ子ハ、胎内ニテねぎごとヲ聞キ、七歳ニテ親ノ敵ヲ討ツトコソ見エタレ」

ねぎし（名）［根岸］（一）山ノ麓ニ沿ヒタル地。字鏡「[illegible]、大岡之基也、支志毛止」（二）根岸土ノ略。壁土ノ沙質ニシテ上等ナルモノ。壁ノ上塗リニ用ヰル。

ネキタイ（名）ねっくたいニ同ジ。

ねぎたな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［寝穢］（一）いぎたなし（貪眠）ニ同ジ。（二）寝姿、見苦し。ネザマ惡シ。ネザウワルシ。

ねぎどの（名）ばった（飛蝗）ノ一名。ネギソ。ネギムシ。弘徽殿鷄羽産家（正德、近松作）五「祇園林モ近ケレバ、ねぎどのト云フ蟲モアリ」

ねぎは (名) 〔寝際〕 寝ムトスル時、眠ラムトスルキハ。ネシマ。ネシナ。臨寝

ねぎま (名) 〔葱鮪〕 〔葱、鮪ノ略カ〕 料理ノ一種、葱ヲ筒切ニシ、鮪ヲ一寸角ニ切リ、煮出汁ニ入レテ煮タルモノ。

ねぎみ (名) 〔寝君〕 〔客ト寝る君ノ意カ〕 遊女。ウカレメ。沙石集(一本)七、下、十四條「某ト云フ遊女アリヤ、云云、某ガ伯父ニテ候シガ、ねぎみニテ候ヒキ」

ねぎミソ (名) 〔葱味噌〕 葱ヲ擂鉢ニテヨク擂リ、味噌ヲ入レ、味醂ヲ加ヘテ、又、擂リタルモノ。風呂吹大根ナドニツケテ食フ。

ねぎら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 〔慰労〕 〔祈ぐ、ト通ズ〕 イタハル。苦労スルヲ大儀ナリト慰ム。骨折ヲ慰ム。労ヲ謝ス。名義抄[illegible]、ネギラフ」 [illegible]労、ネギラフ」 [illegible]六年七月、[illegible] 日本世記、曰七月、云云、其注云、云云、十九日賜[illegible] 紀、廿四年十月、毛[illegible] 無[illegible]」

ねぎら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 〔慰労〕 前條ノ語意ニ同ジ。神功紀、四十六年三月「慰ニ労其王ニ」私記「爾支良倍之乎」 欽明紀、九年四月 [illegible]

ねきり (名) 〔根切〕 (一)根ヲ断ツコト、ネダヤシ。根絶。[illegible] 三オカケデ向ク、[illegible]ノ根切リ、[illegible]中ニ[illegible]モマルマイト」 (二)ねきりむし(根切蟲)ノ略。

ねきりはきり (副) 〔根切、葉切ノ義カ〕 有ル限リヲ盡クシテ。悉ク。ネコソゲ。悉皆。

ねきりむし (名) 〔根切蟲〕 略シテ、ねきり。ぢむし(地蟲)ニ同ジ。

ねぎ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 〔直切〕 價ヲ減ゼムト、直段ヲマケサセ、直ヲ引カス。コギル。[illegible]

ね・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(他動、四) 〔祈〕 (一)[illegible]ノル。ノム。請ヒ申ス。願フ。清輔集「夜モスガラ、アケノ玉垣、打チタタキ、何事ヲねぐ、木綿ナルラム」 金槐集(一本)中「ソレヲダニ、思フコトトテ、千早振、神ノ社ニ、ねがヌ日ハナシ」 神代紀、上[illegible] (二)[illegible]

ねくさ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 〔寝臭〕 〔結ぶノ義〕 食物ノアシクナリタル臭ノクサシ。腐リタル食物ノ臭気アリ。[illegible] 八越エケリ、人トねくさし」 [illegible]

ねぐさ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [illegible] 寝タルニ因リテ生ズル臭ミアリ。[illegible]ナドニ

ねくさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔寝腐〕 寝ヲ過シテ久シク寝ヌ[illegible] 度ヲ過ゴス。失寝 [illegible]「失寝、ネクサル」

ネクタイ (名) 〔英語、Necktie〕 又、ネキタイ。ねくたいニ同ジ。

ねくた・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 〔寝腐〕 寝タルニ因リテ姿乱ル。寝タルニ因リテ姿シドケナクナル。蜻蛉日記、下、中「十日アマリ廿日許リニ、人ねくたれタル[illegible]」 [illegible] ねくたれニケリ」

ねくたれがみ (名) 〔寝腐髪〕 寝タルニ因リテ、シドケナク乱レタル髪。ネクタレタル髪。ネミダレガミ。小町集「シドケナキ、ねくたれがみヲ、見セジトテ、ハタカクレタル、今朝ノ朝顔」 拾遺集、廿、哀傷「ワギモコガ、ねくたれ髪ヲ、猿澤ノ池ノ玉藻ト、見ルゾカナシキ」 [illegible]三「見シ人ノ、ねくたれ髪ノ、オモカゲニ、涙カキヤル、小夜ノ手枕」 源氏集「[illegible]レズモ、思ホユルカナ、朝ナサナ、寝シ黒髪ノ、ねくたれノタワ」

ねくび (名) 〔寝首〕 人ノ眠レルヲ窺ヒテ、其首ヲ切ルコト。「寝首ヲカク」

ねぐら (名) 〔塒〕 [illegible] 鳥ノ寝ル所。[illegible] ネグラ」 源、三十四、上、若菜、上「[illegible]ハ[illegible]フホド、ゲニねぐらノ竸、オドロキヌベク」 和泉式部集「ウグヒスノ、蜂ノハナト、ミルモノヲ、トリタガヘタル、ココチコソスレ」 玉葉集、六、冬「[illegible]ノ竹、折レ伏シテ、ねぐら求ムル、ムラ雀カナ」 ねぐらの雪トハ、夏、鷺ノ羽ヲ落シテ、雪ノ如クスルコト

ねぐらどり (名) 〔宿鳥〕 ねぐらニ宿リ居ル鳥。[illegible]

ねぐる・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 〔寝苦〕 [illegible] 寝テ、ネツカレズ。「病ニ、夜熱ニ[illegible]」

集(元[illegible])[illegible]ノ[illegible]

ねぐるみ (名) 〔根包〕 ねぐるめ(根込)ニ同ジ。

ねぐわん (名) 〔寝館寝館〕 [illegible] 寝タル[illegible] 長ク遺レル館[illegible]

ねこ (名) 〔[illegible]〕 [illegible]

ねこ (名) 〔[illegible]〕 [illegible] 條ヲ見ヨ。

ねこ (名) 〔[illegible]〕 [illegible] ト難キ粉。ヒネコ。

ねこ (名) 〔猫〕 〔ねこまノ下略。寝高麗[illegible]〕 [illegible] (二)古ク、ネコマ。人家ニ畜フ小サキ獣、人ノ知ル所ナリ。温柔ニシテ馴レ易ク、又能ク鼠ヲ捕フレバ畜フ。形、虎ニ似テ、二尺ニ足ラズ。性、睡リヲ好ミ、[illegible] 其睛、朝ハ圓ク、次第ニ縮ミテ、正午ハ針ノ如ク、午後、漸ク次第ニ[illegible] ハ常ニ圓シ。ねこのめ[illegible] [illegible]

二三味線ノ異名。三絃ノ猫ノ皮ニテ張ル故ニ。(二)三女藝者ノ異名。(三味線ヲ持ツ故ニ)(四)衾中ニ置キ、臥シテ足ヲ暖ムル小サキ蓋アル火入。土製、又ハ、陶製ニシテ、多クハ猫ノ形ニ作リ、前後ニ數箇ノ孔ヲ穿ツ。足爐。猫に小判トハ、何ノ感ジモナキ譬喩。猫かぶるトハ、本性ヲ包ミカクシテ現ハサザルノ意。仁勢物語(寛永)下「古ヘハ、アリモヤシケム、今ハナシ、鼠ノねこを、かぶるモノトハ」猫の額トハ、狹キコトノ形容ニ云ヒ、又、及ビ難キモノヲ望ムニ喩ヘテ云フノ語ニ。盛衰記、廿、佐殿大場勢汰事「猫の額ニアル物ヲ、鼠ノウカガフタトヘニヤ」

ねコ-あし (名) [猫脚] 膳ナドノ脚ノ製ニ、上、脹ラカニシテ、中、稍、窄ク、下、圓クシテ、猫ノ脛脚ニ似テ、丈ノ低キモノ。犬子集(寛永)「猫足ノ、膳ニテ食フヤ、鼠茸」

ねこ-い (形) [寐濃] 寐ザマ惡シ。イギタナシ。ネバウナリ。狂言記、六人僧「難ラウカ、何トシテヨカラウゾ、アノ人ハねこい程ニ、コカイテモ知ラレマイ、イザ坊主ニナサウ」

ねコ-いし (名) [猫石] 板塀ナドノ土臺ノ下ニテ、柱ノ眞下ニ据エツケタル石。

〜**ねコ-おもて** (名) [猫面] 猫ノ如キ短キ顏。字鏡「[illegible]、猫面、禰古於毛比」

ねコ-おろし (名) [猫卸] 猫ノ食ヒ殘シ。一説ニ、猫ノ物ヲネブルコト。[illegible]八[illegible]中[illegible]、云云、少シ召スヨシ[illegible]カレケレバ、木曾、大キニ[illegible]テ、[illegible]ハ小食ニテオハスヨ、聞ユル猫おろしシ給ヒタリ、餉ヒ給ヘ、餉ヒ給ヘヤ」

ねコ-かい (名) [猫搔] 次條ノ語ノ音便。

ねコ-がき (名) [猫搔]・[稈ヲ用ヰテ、猫

ノ爪ヲトグ如ク引キカケテ作ル故ニ云フ。コレヲねこヲ搔くト云ヒ、又、ねこトノミモ云フ」藁ニテ編ミ製シタルムシロ。大社ノ内院ニ敷クモノ、其上ニ疊ヲ敷クナリ。ツカナミ。ねこだモ同ジ。音便ニ、ねこかい。和長卿記、明應九年十二月十一日「御拜[illegible]面前、敷[illegible]疊二帖、常御座、其[illegible]敷猫搔、女房以下候其上二」著聞集、十一、蹴鞠「順德院御位ノ時、云云、御鞠アリケリ、云云、ねこがきヲ敷カレタリ」

ねこか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [寐轉] (一)ネニ[illegible]ネタルママニ、寐テオク。[illegible]タルママニテ、時ヲスゴス。

ねコ-かひ (名) [猫飼] 農具ノ一。太キ繩ヲ縱トシ、之ニ藁ヲ厚ク組ミテ作リ、穀物ノ種ナドヲ入ルルモノ。和漢三才圖會、三十五、農具類「[illegible]、[illegible]古加比、云云、去[illegible]草器也、云云、以[illegible]作、名[illegible]猫飼[illegible]乎」

ねこ-ぎ (名) [根扱] 根ナガラ引拔クコト。ネコジ。ネビキ。イコジ。狂言記、富士松「コレニツケテ、[illegible]和ヲ出サウホドニ、云云、句ヲ付キヤラヌニ於テハ、松ヲバねこぎニスルゾ」

ねコ-ぐるま (名) [猫車] 荷物ヲ運搬スルニ用ヰル柄棒アル一輪車。

ねこ-ごころ (名) [寐心] ネタル心モチ。睡眠中ノ心モチ。ネゴコチ。今昔物語、廿七、第五語「面ニ物ノ冷カニ當リケレバ、寐心ニモ急ト思エテ、驚クママニ起上リテ捕ヘツ」

ねこ-ござ (名) [寐蓙寐蓙] 寐ルニ敷キテ用ヰル[illegible]。臥席。

ねコ-ざめ (名) [猫鮫] さざいわり(虎頭鯊)ニ同ジ。

〜**ね-こじ** (名) [根掘] ネコズルコト。根ナガラ掘取ルコト。ネコギ。ネビキ。イ

コジ。古事記、上「[illegible]賢木ヲ、根[illegible]ニ[illegible]テ」古語拾遺「佐[illegible]居自」神代紀、上「[illegible]天香山之五百箇眞坂樹、而上枝懸[illegible]云云」神代紀、上「掘[illegible](ネコジニシテ)取丹生川上之五百箇眞坂樹、以祭[illegible]神二」

ねこ-ごし (名) [嶺越] 峯ヲ越スコト。ミネゴシ。古今集、廿、東歌「甲斐ガ根ヲ、ねこし山ゴシ、吹ク風ヲ、人ニモガモヤ、言傳テヤラム」

ねこ-ごし (名) [寐越] 後日ノ分マデモ、豫メ寐テオクコト。

ねコ-じた (名) [猫舌] (猫ハ、熱キ食物ヲ厭フヨリ云フ) 熱キ食物ヲトリ得ザル人ノ稱。

ねコ-じゃらし (名) (猫ヲ、ジャラス如キ狀ナルヨリ云フ) 少女ノ帶ノ結ビヤウノ名。さげおびノ條ノ(二)ヲ見ヨ。イトサンムスビ。(畿内)

〜**ねこ・ず**・ズル・ズレ・ジ・ジ・ジヨ (他動、上二) [根掘] 根ナガラニ掘取ル。根グルミ拔取ル。サネコジ。根引ス。[illegible]季集「花見ムト、根こじテ植エシ、若櫻、咲キニケラシナ、風吹カヌ間ニ」四季物語(鴨長明)正月「我御山ノ[illegible]ノ根ヲねこじテ、ソノねこぜるヲ、ソクヒ(續飯)ノ中ニ入レテ」師光集「春マデノ、命ハサダメ、ナケレドモ、若木ノ梅ヲ、ねこじツル哉」堀河百首「ナガカレト、引クアヤメ故、カリハヤス、マコモヲサヘニ、ねこじツルカナ」

ねコ-ぜ (名) [猫背] 人ノ體ニ、頸ガ前ヘ出デ、背、後ヘ聳エタル姿ノモノ。[illegible]背。

ねこ-そぎ (名) [根刮] 根マデ刮ケテ取ル 大[illegible]全集「埋火ニ、[illegible]春アラハレ、[illegible]ヒケリ」 コト。何モ殘ラヌヤウニ、取盡スコト。スッカリトルコト。ネコソゲ。

ねこ-そげ (副) [根刮] 前條ノ語ニ同ジ。「ねこそげ取ル」

ねコ-だ (名) 藁ニテ編ミ製シタルムシ

ロ。ツカナミ。ネコガキ。ツバ[illegible]

ねコ-ぢゃ-ねコ-ぢゃ (句) [猫者猫者] (ぢゃハ、であるノ意) ネコダネコダト云ヒテ、端唄ノ初ナドニ言ヒ出ス文句。

ねコ-づら (名) [猫面] (一)射術ノ語。的ヲ、少シアフノケニネセルコト。(二)しいら(鱰)ニ同ジ。

ねこ-ごと (名) [寐言] (一)[夢ノ間ニ、物言フコト。] 睡眠中ニ言フ言語。囈語。倭名抄、二、病類「[illegible]、禰古止」字鏡、廿「[illegible]、寐言、禰古止」榮花物語、五、浦々のわかれ「殿ニタイ面シテ、死ナン死ナントゾ、ねごとニモシ給フ」小大君集「イカデイハンナド云ヒケルニ、ネタリケルねごとニ」(二)ツマラヌコト。譯ノ分ラヌ言葉。

ねコ-なでごゑ (名) [猫撫聲] 人ノ物言フニ、温柔ク媚ブルガ如キ狀ノモノ。大經師昔暦(正德、近松作)上「此ノサンガ從者[illegible]、ヨイ男猫[illegible]ハソゾエ、ヲヲカワイヤト猫なでごゑ、ニャンニャンアマヘル女猫ノ聲」

ねコ-の-のみとり (名) [猫蚤取] 貰ヲ受ケテ、猫ノ蚤取ルヲ業トシタルモノ。[illegible]「五十計リノ男、[illegible]ヲ肩ニカケテ、猫の蚤を取りましょト聲高テテ廻リケル、云云、猫ニ湯ヲカケテ洗ヒ、濡レ身ヲ其儘、狼ノ皮ニ包ミテ抱キケル内ニ、蚤ドモ濡レタル所ヲウタテガリ、皆狼ノ皮ニ移リケルヲ、大道ニ振ヒ棄テケル」

ねコ-のめ (名) [猫目] 變リヤスキコト。猫ノ睛ハ、朝夕ト夜中トハ圓ケレド、午前八時、午後四時ニハ卵形トナリ、午前十時ト午後二時トニハ瓜核形トナリ、正午ニハ針ヲ横タヘタルガ如シ。姑婦人傳「盛衰ハ猫の目トヒトシク、丸クナリ、長クナリ」猫ノ目ニテ時ヲ知ル歌「六ツ丸ク、四八瓜實、五ト七ト、卵ナリニテ、九ツハ針」

ねコ-はち (名) 猫八 物貰ノ一。江戸時代、市中ヲ猫、犬、鷄ナドノ、啼聲ヲ擬ネテ、錢ヲ乞ヒアリキシモノ。

✦✦ねコ-ばば (名) 猫糞 〔猫、糞スレバ、後脚ニテ沙ヲ蹴テ覆ヒ隱セバ云フ〕物事ヲ蔽ヒ隱スコト。善カラヌ事ヲシテ、痕ヲ隱シ、知ラヌ顏シテ居ルコト。他人ノ遺失物ヲ拾ヒ取リ、其ママ我ガモノトスルコト。浮世床(文化、三馬)初編、上「直ニ五日バカリ過ギタラ歸サウト云フ筈ガ、今日デ一月ニナルガ、猫糞サ、ナントアンマリ違入ガネエヂャネエカ」

ねコマ (名) 猫 ネコマタ。ねこ(猫)ノ古名。其條ヲ見ヨ。倭名抄、十八「毛群名「猫、禰古萬」本草和名、下「家狸、一名猫、禰古末」字類抄「猫、ネコマ、ネコ」四季物語(鴨長明)二月「此ノねこまハ、佛ノ御弟子ノ御別レヲモ悲シウ思ハデ、涅槃會ノ御マジラヘサヘ仕フマツラヌオドロオドロシサ、此國マデモ、トモスレバ老イタルねこノ、野ラニ住ムナドハ、人ノ子ヲ奪ヒ、或ハ人ノ妻ヲカドハカシテ、ムクツケキモノナリ」

ねコま-あふぎ (名) 猫間扇 〔猫目扇ノ轉カ〕親骨ヲ猫間透シニシタル扇。次條ヲ見ヨ。

ねコま-すかし (名) 猫間透 〔猫ノ目ノ如ク、サマザマニ形ヲカフル故ノ名ト云フ〕扇ノ親骨ニ施シタル透彫ノ一種。或ハ開ク、或ハ細ソク、遠見シテ彫リ透スコト。又、其モノ。出陣之閑書(小笠原持長)「扇ノ事、第二可秘骨、十二ねこますかしモノ、二間ニスカスベシ」

ねコ-また (名) 猫股 猫ノ、年老イテ、尾、兩股ニ分レ、能ク化シテ妖ヲモナスモノト云フ。〔倭名抄、十八、[illegible]「[illegible]萬太」トアルモノ、是レカトモ云フ〕徒然草、八十九段「奥山ニ猫またト云フ物アリテ、人ヲ食フナルト人ノ云ヒケルニ」明月記(藤原定家)、天福元年八月二日「南都云、當時猫胯出來、一夜噉七八人、死者多、或又打殺件獸、目如猫、其體如犬長、云云」[illegible]中河内通(享保、近松作)二「伊勢ニアラヌ猫またノ、化猫ヒノ古寒、自慢自我ノ[illegible]ロシテ」

ねコま-ほね (名) 猫間骨 扇ノ、スカシボリヲ施シタル親骨、〔昔、京都、壬生ノ南六條ニ、猫間村アリ、藤原光隆ノ住セシ所、其家ヲ猫間、又ハ、壬生トモ稱ス。今ハ、扇ノ骨町ト云フトゾ〕海人藻芥(應永、惠命院宣守)、中「猫間骨ハ大臣家用也」

ね-おみ (名) 寐込 寐入リテ最中ナルコト。睡眠中。文武五人男(元祿、近松作)一「猫ヲ曲庭ニ宿サセ、寐おみヲ斬テ討ナ取ルベシ」

ね-おみ-み (副) 寐込 寐入リテ最中ナル處ニ。睡眠中ニ。「寐込ユ踏込ム」

ね-おむ·ム·メ·マ·ミ·メ (自動、四) 寐込 ねいる(寐入)ニ同ジ。就眠 熟睡

ね-おめ (名) 根込 根ト共ニスルコト。ネグルミ。源、四十七、早蕨「袖フレシ、梅ハカハラヌ、匂ニテ、根おめウツロフ、宿ヤコトナル」[illegible]、短キ枝ヲね·おめニ引キテ」[illegible]二、春、下「[illegible]シニ、散リ來ル花ヲ、見ルヨリハ、ねおめニ風ノ、吹キモコサナム」

ね-おや (名) 根小屋 山上ニ城アル城下ノ町。高館陣日記(元祿)附錄、三十五「平城ノ町ヲ[illegible]ト云ヒ、山城ノ町ヲ根小屋ト云フ」

ねコ-やなぎ (名) [illegible] 柳ノ一種、[illegible]ニ生ジ、高サ丈餘ニ達シ、[illegible]形ニシテ、稍、厚ク、[illegible]。[illegible]テ化ス[illegible]。[illegible]ノ[illegible]。カハヤナギ。

ね-おろ (名) 直頃 直段ノ、代物ト相當シタル所。高クモ安クモナキ直段。

ね-おろ-ぬり (名) 根來塗 [illegible]頃、紀伊國、那賀郡根來寺ヨリ塗リ出シタル漆器ナリト云フ。朱漆ニテ[illegible]ビテ、刷毛目アリ。器ノ底ハ皆、黒漆ナリ、今ハ其製ナキナリト云フ。[illegible]書(享保、菊本賀保)、八「根來物(塗物)、黃合、折敷アリ、縁ヲシメシテ、スリアミレバ、縁ニ漆ツクナリ」

ね-おろ-ぶ·ブ·ベ·バ·ビ·ベ (自動、四) 寐轉 横ニ臥シテ居ル。横臥ス。假臥 (寐入ラヌニ云フ) [illegible]ラヌ[illegible]ヤラム、クルトヒトシク、ねおろびニケリ」

ね-おろも (名) 寐衣 寐ル時ニ用ヰル衣。ネマキ。[illegible]ヒコト、サリノねおろも、[illegible]ハダヘヲ寒ミ、ムツレアゾヌル」

ね-さう (名) 子星 [illegible]ニテ、人ノ本命ノ屬星ヲ祭ルコト。子ノ年ノ人ハ、貪狼星ヲ祭リ、丑亥ノ年ノ人ハ、巨門星ヲ祭ルナド定メアリ。又、ネンサウ。[illegible]「モノ思シ知ルママニ、世ヲイトフモノニ思シテ、ねさうナドシタマフ」後撰集、廿、雜、年暮行フトテ、女[illegible]ノ許ヨリ、數珠ヲ借リテ侍リケレバ」

ね-さう (名) 正三 正、五、九月ノ六齋日カト云フ。

ね-ざう (名) 寐相 寐テ居ル容子。ネザマ。[illegible]

ね-さうぞく (名) 寐装束 寐ル時ノ裝束。宇津保物語、國譲、中「[illegible]女御ノ君オハシマシテ、ドノサモノ、ねさうぞくナドハ奉レ給ヘ」

ね-さげ (名) 直下 直段ヲ引下ゲルコト。ネビキ。下價。

ね-ざけ (名) 寐酒 [illegible]

ね-ざさ (名) 根笹 笹ノ一種。一根ニテ叢ク延ブモノ。下東竹。[illegible]

ね-ざし (名) 音差 ねいろ(音色)ニ同ジ。[illegible]

ね-ざし (名) 根差 (一)ネザスコト。根ツクコト。根ノ土中ニ延ブコト。[illegible]

ね-さす·ス·セ·サ·シ·セ (自動、四) 根差 [illegible]

ねざま (名) 寝狀 ねざう(寝相)ニ同ジ。[illegible]、ソレ[illegible]ヒ[illegible]、[illegible]ねざうコソ[illegible]、ソレ名セト言ヒケレバ」

ねざ・む・ム・ム・メ・メ・メヨ (自動、下二) 寝覺 寝タル眠リ[illegible]。睡眠ヨリ目ヲサマス。[illegible]、萬葉集、十七「秋ノ夜ノ[illegible]ツ音ニ、聞キツツ[illegible]、ねざむル寝ニ、[illegible]ノ影」萬葉集、十九「夜降ニ[illegible]ヲレバ、河セトメ、心モシメニ、ナク千鳥カモ」枕草子、二、廿段「夜ハ鼠ノサワギニねざめツレバ、久シウ寝ズキタルママニ」拾遺集、二、夏「小夜深ケテ、ねざめザリセバ、時鳥、人傳ニコソ、聞クベカリケレ」

ねざめ (名) 寝覺 (一)〔ネザムルコト。眠リノ覺ムルコト。イザメ。眠起 名義抄[illegible]、ネサムルナリ」萬葉集、六「[illegible]ノ、ねざめニ聞ケバ、アマイシノ、シホヒノムタ」拾遺集、上「ムカシ思フ、ねざめノ空ニ、過ギニケン、行ヘモシラヌ、月ノヒカリノ」(二)次次條ノ語ノ略。[illegible]役者[illegible]、正德、其[illegible])下「モタセノねざめヒラキテ、サシ樽ノ燗ヲサセ」生玉心中(正德、近松作)下「花ノ紋日ヲコノ床デ、二人寝覺ノ小盃」

ねざめ・ぐさ (名) 寝覺草 荻ノ異名。[illegible]玉集、ね覺草、荻「秋トイヘバ、如何ナル夜半モ、ねざめぐさ、風ヤ身[illegible]ノ、關トナルラン」

ねざめ・さげぢゅう (名) 寝覺提重 さげぢゅうばこ(提重箱)ノ手輕ナルモノ。略シテ、ねざめ。女殺油地獄(享保、近松作)上「[illegible]ヲ[illegible]上ケシ、寝覺提重、五升樽、坊主打シテ北ウツム」浮世花[illegible]、万(正德)花「[illegible]モ貫キニ、[illegible]シハ[illegible]二[illegible]ケト、寝覺提重ヲ預ケケル」

ねざめ・づき (名) 寝覺月 〔寝覺ガチナル月ノ意〕陰暦、九月ノ異稱。[illegible]玉集、雜「イク床カ、同ジ世ノ、ねざめ月、秋ニハタヘヌ、ナガキ夜スガラ」

ねざめ・どり (名) 寝覺鳥 〔曉ニ、時ヲ告

グル故ニ云フ〕鶏ノ異名。

ねさや (名) [illegible] 取引所ノ語。相場ト相場トノ間ノ差。[illegible]チ、或ル限月ト、他ノ限月トノ相場ノ開キ。さや(鞘)ノ條ノ(三)、及、さやびらき(鞘開)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。

ねぶな (名) 寝時 〔ねぶな(接尾)ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕ねぎは(寝際)ニ同ジ。

ねぶに (名) 寝死 寝ネタルママニ死ヌルコト。十訓抄、中、第七、廿三條「十日バカリ過ギテ、コノ法師ねぶにニサシスクミテアリケレバ、云云、心ノケシカラヌヨリ起リテ、不思議ノ死ニヲシテ侍」[illegible]管抄、六、土御門「三月七日、ヤウモナク、寝死セラレニケリ」(百錬抄、十一、元久二年三月七日「今曉攝政(良經)俄薨去」) 今昔物語、廿七、第四語「諍フ者共イミジク恐レケリ、其ノ兵ハ、其夜、寝死ニナム死ニケル」 吾妻鏡、四十六、建長八年正月十二日「於相州實殿下部[illegible]男一人寝死」

ねぶま (名) ねぎは(寝際)ニ同ジ。

ねぶめ (名) 音締 琴、三味線ナドニ、絃ヲ絲卷ニ卷キ締メテ、音色ヲ出スコト。好色一代男(天和、西鶴)二「昔ノ[illegible]アリテ、云云、火ヲ[illegible]ク片手ニモ、音ぶめノ絲ヲ[illegible]サズ」長唄、岸の柳「彈イテ音締ノ三味線モ、誰ニナビクゾ柳橋」

ねぶめ (名) 根締 (一)庭ノ立木、又ハ、鉢植ノ木ナドノ根マハリニ、植エテアヘシラフ小草ノ類。(二)物ノ根モトヲ、締メ固ムルコト。(三)ネモト。コンポン。[illegible]井家日記、信忠公[illegible]柴抑[illegible]寄西口[illegible]「次第ニクリヨセ候ウテ、根ぶめ丈夫ニシテ城城ヲ押ヘ」

ねぶろ (名) 根城 〔根據トナス城ノ義〕木ノ據リ處トスル城。牙城。據城 出城、出丸ナドニ對ス」播州佐用軍記、下、秀吉[illegible]へ[illegible]「此ノ城(上月城)ヲ以テ中國押ヘノ根城トシテ」武家名目抄、居所、二十二「本城トハ、二

三ノ曲輪ニ對ヘテ、本丸ヲサシテモ云ヒ、又出城、端[illegible]ニ[illegible]カヘテ、根城ヲサシテモ云フナリ」

ねぶろ・ぐさ (名) 根白草 〔根、白キ故ニ云フ〕せり(芹)ノ異名。其條ヲ見ヨ。[illegible]、崖[illegible]ニタツ、[illegible]コソ[illegible]花ヨ、ねぶろぐさ、摘ムワガ袖ニ、雨ハフリツツ」

ね・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 寝 (一)寝ルヤウニナス。ネカス。ネセル。ネサンツク。好色五人女(貞享、西鶴)四「ヤウヤウ其程スギテ、色色ラシテねせマシテ、語リタキ事ナガラ、[illegible]障子一重ナレバ」(二)ネヤス。ネセル。「[illegible]ねす」「肥ヲねす」

ねず (名) 不寝 寝ズシテ、夜ヲ守ルコト。守夜「ねずヲスル」ねずノ番」

ねず (名) 鼠 ねずみ(鼠)ノ略。其條ヲ見ヨ。「鼠啼」鼠さし」

ねず (名) 杜松 むろ(榁)ノ一名。

ねず・さし (名) 杜松 〔鼠ノ出ヅル穴ニ、コノ木ノ葉ヲ刺シテ置ケバ、鼠、嫌ヒテ出デズト云フ故ニ名ヅク〕 古名、むろのき。むろ(榁)ノ條ヲ見ヨ。

ねず・だけ (名) 鼠茸 ねずみだけ(鼠茸)ニ同ジ。易林節用集(慶長)上、草木門「鼠茸、ネズタケ」

ネストル・は (名) 景教派 東羅馬ノ修道僧、ねすとりうす(Nestorius.)ノ創メシ基督教ノ一派。支那ノ唐朝ノ代ニ、支那ニ入リテ、景教ト稱セラル。其條ヲ見ヨ。又、ネストリアン。三階教。

ねず・なき (名) 鼠啼 口ヲ窄メ、氣ヲ吸ヒテ、鼠ノ啼クガ如キ聲ヲナスコト。ネズミナキ。字類抄「[illegible]、ネズナキ、[illegible]聲也」易林節用集(慶長)上、言辭門「唧、ネズナキ」枕草子、八、七十四段、うつくしきもの「雀ノ子ノ、ねずなきス

スルニ[illegible]リ來ル」今昔物語、[illegible]、廿九、[illegible]シテ、手ヲ指出デ招キケレバ」今物語「此男何トナク一節ナカラムモ本意ナクテ、ねずなきヲシイデタリケル」丹前能(元祿)「鳥居前ニハ軒ヲナラベ簾ヲカケ、ウツクシキ女、男ヲ見テ鼠なき、怪シヤ狐カト問ヘバ」吾吟我集(慶安)六「[illegible]ハ、ねずなきヲシテ、穴ガチニ、人ノ心ヲ、ヒイテコソミレ」

ねずな・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 鼠啼 鼠ガ啼ク。又、鼠ノ啼聲ニ似タル聲ヲ發ス。ネズミナキス。ネズナキス。林葉集、五、[illegible]「ねずなけド、見モカヘラネバ、イトトシク、心ニクサノ、マサル君カナ」

ねずの・ばん (名) 不寝番 終夜、寝ネズシテ、番ヲスルコト。又、ソノ人。ネズバン。狂言記、[illegible]「汝ハ夫レヘ寄ツテ、不寝の番ヲセイ」

ねず・ばしり (名) 鼠走 又、ネズミバシリ。とかみ(桁)ニ同ジ。字類抄「桁、ネズバシリ」庭訓往來、諺解、二、十二月「鼠走、桁ヨリ屋中ヘ結付ルモノナリ」倭訓栞「ねずばしり、門楣之横梁也、桁ヨリ屋中ヘ結附ルモノ也」

ね・ずばん (名) 不寝番 前前條ノ語ヲ見ヨ。

ね・ずまひ (名) 寝住 寝タル時ノ狀體。ネザマ。ネザウ。ネスガタ。

ねずまひ (名) 鼠舞 タメラフコト。ネズミマヒ。本朝俚諺(長澤長秀)ニ「ねずまひ、是レハ、鼠ノ穴ヨリ出デントシテハ、引キコミ引キコミ、出カヌルガ如シ」

ね・ずみ (名) 鼠 〔根棲ニテ、穴居ノ義。或ハ云フ、穴住ノ轉ト〕(一)小サキ獸。頭、割合ニ小サク、耳大キク、兎ニ似テ、長サ、四五寸、毛、淡黑クシテ靑ミアリ、銳キ四齒アリテ、牙無シ。髭長ク、眼露ハレ、各肢ニ五趾アリテ、各、鉤爪ヲ有

ス。尾ニ毛ナクシテ、鱗ヲ被リ、長サ身ニ等シ。都、鄙、共ニ、多ク人家ニ棲ミテ、[illegible]ミ、夜出デ、[illegible]盗ミ、[illegible]ヲ嚙ミ損ヒ、[illegible]、山野、溝渠ノ[illegible]ニモアリ。[illegible]シテ、ねずみ、ヨメ、ヨメノコ、ヨメザキミ、すつくみ。倭名抄、十八[illegible]毛[illegible]名[illegible]義抄「鼠、ネズミ」本草和名、下[illegible]「鼠婦[illegible]」[illegible]ツ、法師ニマウサム、師ニマウセ、法師ニマウサム、師ニマウセ」拾遺集、七、物名「ハシ[illegible]ノ、ヲキエニセムト、カマヘタル、オシアユガスナ、鼠トルベク」徒然草、六十二段、盤齋抄「ねずみノイヘハ穴ナリ」[illegible]ねずみトなる事「山門ノ佛法ヲ亡ボサント思ヒテ、大鼠ト成リ」

(二)ねずみいろ(鼠色)ノ略。好色三代男「[illegible]鼠ウスギヌ、紅裏ノ色ヲ表ヘウツシテ」

ねずみ-いらず (名) [鼠不入] 食物ナド儲ヘ置ク厨子ノ如キモノ。[illegible]リテ、鼠ノ入ルヲ防グ。食厨 卯月[illegible]色(寶永、近松作)下「鼠入らずノ竹戸棚、釘モ離レヌ中ト云ヒ」

ねずみ-いろ (名) [鼠色] (一)薄黑クシテ少シ靑ミアル色。鈍色。灰色 倭訓栞「ねずみいろ、[illegible]色也トイヘリ、中古ニ、[illegible]色ト云ヒ、歌ニ、墨染衣トイフ、是ナリ」[illegible]野集(荷兮)「白芥子ニ、果敢ナヤ、蝶ノ、鼠色」(二)黑白何レニモツカズ、意向ノキハメガタキコトニ云フ語。(三)喪服ノ色。

ねずみ-おとし (名) [鼠落] 鼠ヲ捕シテ捕フル器。匣ナドノ中ニ餌ヲ置キ、鼠入レバ、[illegible]ニテ落チ[illegible]フ。ネズミトリ オシ。[illegible]鼠落。[illegible]落。鼠[illegible]

ねずみ-おひ (名) 鼠生 鼠ノ子ノ如ク、[illegible][illegible]

ねずみ-がへし (名) [鼠返] [illegible]ノ入口ニ仕掛クル板ニテ作レル[illegible]、鼠ノ入ルヲ防グ。[illegible]ニ横タフル也、鼠ケテ鼠返シト云フ、倉中、鼠ヲ入レザルノ備ヘ也」

ねずみ-がみ (名) [鼠紙] すきがへし(還魂紙)ニ同ジ。鼠色ナレバ云フ。

ねずみ-きど (名) [鼠木戸] 扉ニ鼠戸ヲ設ケタル木戸。又、芝居ナド、興行場ノ客ノ入ル木戸口。古ヘ、鼠戸ナリシガ、後ニ作リザマ常ノ木戸トナリタレド、僞ノ名ヲ存シテ稱ス。[illegible]、木戸門、木戸、云云、[illegible]へ小サキ[illegible]戸ヲ設ケ、是レヲ鼠木戸ト云フ」竹豐故事(寶曆、一樂)「見物人ノ木札ヲ改メ取、一人宛シメ入ル體、鼠ノ小サキ穴ヲ潜ルニ似タル故、俗ニ、鼠木戸ト云ヒ習ハセリ」

ねずみ-くひ (名) [鼠喰] 鼠ノ喰ヒ破リタル所。日本永代藏(貞享、西鶴)[illegible]、袖ノ[illegible]、見エヌヤウニツギヲ當テ、[illegible]ノ仁[illegible]ハ通ズベシ」

ねずみ-げ (名) [鼠毛] 馬ノ毛色ノ鼠色ナルモノ。鼠毛馬。騅 倭名抄、十一六牛馬毛「[illegible]、鼠毛也、[illegible]毛馬也」

ねずみ-ぼっこ (名) [鼠[illegible]] 「[illegible]ハ、かけくら(賭競)ノ[illegible]ヲ見ヨ」いたちぼっこ(鼬[illegible])ノ[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]シテ」俚言集覽「鼠ぼっこ、童ノタハムレニアリ、二人シテ手ノ甲ヲツミ、下ノ手ヲハヅシテハ上ヲツム

ねずみ-こんじゃう (名) [鼠根性] 鼠ノ[illegible][illegible]

ねずみ-ごめ (名) [鼠米] 米ノ一種。鼠ノ[illegible]

鼠ナキモノ、[illegible][illegible]

ねずみ-ころし (名) [鼠[illegible]] [illegible](礦物)ノ異名。又、ソレニテ製セル毒藥。鼠ニ[illegible][illegible]

ねずみ-ざん (名) [鼠算] [illegible]數ノ[illegible]。例ヘバ、鼠[illegible]二月ニ[illegible]、二疋ノ子ヲ生ム、合ミテ十四疋トナル、[illegible]二月ニ其親子ヨリ、亦、子ヲ十二疋ヅツ生ム、[illegible]九十八疋ナリ、毎月、此ノ如クニシテ、父子、孫、曾孫、玄孫等、十二疋ヅツ生メバ、十二月ニ至リ、二百七十六億八千二百五十七萬四千四百二疋トナル如ク[illegible]法ニ云フノ[illegible]。[illegible]ミソロバン。ネズミザン

ねずみ-ざんよう (名) [鼠算用] [illegible]ニ同ジ。[illegible]

ねずみ-ソロバン (名) [鼠十露盤] ねずみざん(鼠算)ニ同ジ。傾城反魂香(寶永、[illegible])[illegible]露盤ト云フモノヲ巧ミ」

ねずみ-だけ (名) [鼠茸] 菌ノ一種。秋冬ノ交、朽木、[illegible][illegible]生ズ。[illegible]一二寸、莖、細小ニシテ、ヤハラカナリ。食用トナレドモ、純白ナルモノニハ毒アリ。ナメスキ。ネズタケ。掃帚[illegible]犬子集(寬永)五「チサトクヘ、アナメヅラシノ、鼠[illegible]」[illegible]ノ、[illegible]ニテクフヤ、[illegible]」

ねずみ-もち (名) [鼠[illegible]] [illegible]ノ一[illegible]

ツ帶ベル茶色。灰褐色。

ねずみ-ど (名) [鼠戸] (一)鼠ノ穴ニカリノ、小サキ戸ノ意。入口ノ木戸。[illegible]。ネズミキド。太平記、廿七、田樂事「[illegible]中門ノ口ニハ鼠戸[illegible]、[illegible]ナリ[illegible]、[illegible]テ、入ルベキ方モナシ」[illegible]鼠戸[illegible]、[illegible][illegible]

ねずみ-どぜに (名) [鼠戸錢] 芝居ノ鼠戸ヲ入ル時、支拂フ錢。劇場ノ木戸錢。[illegible]、入リタクモアリ、入リタクモナシ、[illegible]ノ外、鼠戸錢ノ高クシテ」

ねずみ-とり (名) [鼠捕] (一)ねずみおとし(鼠落)ニ同ジ。犬子集(寬永)[illegible][illegible]ハカリゴト[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]ノ、日本永代藏[illegible]、(貞享、西鶴)[illegible]ノ鼠[illegible]。(二)鼠殺ニ同ジ。(三)蛇ノ一種。[illegible]

ねずみ-なき (名) [鼠鳴] ねずなき(鼠鳴)ニ同ジ。[illegible]

ねずみ-の-さうし (名) [鼠草子] [illegible]

ねずみ-の-よめいり (名) [鼠嫁入] 鼠ノ嫁入リヲ書キタル草子[illegible]ノ[illegible]

ねずみ-ばしり (名) [鼠走] [illegible]

リ、とかみ(帽)ニ同ジ。倭名抄、十六、門戸具「鼠走」

ねずみ-ばな (名) 鼠花 灌木ノ名。ありどほし(虎刺)ノ一名。

ねずみ-はなび (名) 鼠花火 花火ノ小サキモノ。蘆ノ管ノ三寸許リナルニ、火藥ヲ紙ニ撚込メテ作ル。火ヲ點ズレバ、地ヲ走リ廻ルコト鼠ノ如シ。小兒ノ玩トス。地花鼠 地火鼠

ねずみ-はんきり (名) 鼠半切 鼠紙ノ半切紙。

ねずみ-ばんし (名) 鼠半紙 鼠紙ノ半紙。

ねずみ-まひ (名) 鼠舞 ねずまひ(鼠舞)ニ同ジ。犬子集(寛永)「ムラ雲ニ、カタムヤ月ノ、ねずみまひ」

ねずみ-もち (名) 鼠梓木 〔實ハ鼠糞ニ似テ、葉ハ冬青ニ似タリ〕 ネズモチ。古名、ヒメツバキ。常綠灌木ノ名。多ク庭際ニ植エ、又籬トス。高サハ十尺許リニ達シ、葉ハさかき(榊)ニ似テ、兩對シ、厚クシテ光ル。夏、枝ノ梢毎ニ、四五寸ノ穗ヲ生ジ、枝ヲ分チテ、白花ヲ開ク、大イサ三分許リ、實、圓ク長ク、熟スレバ黑シ。材ハ、稍、堅緻ニシテ、細繊、又ハ、鍵等ト為ス。又、テラツバキ、ネズミモチノキ。女貞 倭名抄、廿、木類「女貞、[illegible]」 [illegible]

ねずみ-わな (名) 鼠罠 竹ノ中ヨリ、緒ヲ通シ、罠ニシテ、鼠ヲ捕ル裝置。洞房語園、鼠亭記、鼠わなト云フモノアリ、竹ノ中ヨリ緒ヲ通シ、わたニシタルモノナリ」

ね-す・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 寐住 婚ス。住ミテ共ニ寐ル。拾遺集、七、物名、鼠の琴の腹に子をうみたるを「年ヲ經テ、君ヲノミコソ、寐住みツレ、コトノ腹ニヤ、子ヲバ生ムベキ」

ねず-もち (名) 鼠梓木 ねずみもち(鼠梓木)ニ同ジ。字鏡抄「梗、ネズモチ、鼠梓木」 林逸節用集、草木門「鼠梓、ネズモチ」 伊勢集、ねずもちノモミヂニサシテナム遣リケル」 夫木抄、廿九、ねずもち「カタ山ノ、オドロニマジル、ねずもちノ、ヒク人アリト、頼ムベキ世カ」

ね-ずり (名) 根摺 紫草ノ根ニテ、衣服ヲ摺リ染ムルコト。ムラサキズリ。夫木抄、六、藤花「ソメテホス、ワカムラサキノ、藤衣、マツモねずりノ、イロヤワクラン」

ねずり-ごと (名) イヤミ。アテコスリ。倭訓栞、ねずりのころもの條「高陽院歌合ニ、旅人ノ、ネズリノコロモ(次條ヲ參見セヨ)、トヨメルヲ、判者、難ヲイハズ、カタセタルハ、オボツカナシトゾ、ねずりごとトイフモ、是ヨリ出タルニヤ」 今宮心中(享保、近松作)中「仕事ハ常ヨリ精出セドモ、キサニスネゴトねずりごと、乾坂仕直シ上下ヲ、鑑ニカケテウチケルカ」

ねずり-の-ころも (名) 根摺衣 紫草ノ根ヲ碎キテ、衣ニ摺リ染メタルモノ。古今集、十三、戀、三「戀シクバ、下ニヲ思ヘ、紫ノ、根ずりの衣、色ニ出ヅナユメ」 後拾遺集、十六、雜、一「人知レズ、ラティ、ネタサモネタシ、紫ノ、ねずりのころも、ウハギニヤ(モイ)セム」 同、返し「ヌレギヌト、人ニハ云ハム、紫ノ、ねずりの衣、ウハギナリトモ」 [illegible]、ハラヒモアヘズ、ケサノ初雪」

ねず-を (名) 根助緒 (一)[illegible]ニ鈴ヲ結ビツクルタメノ緒。類聚實抄「根助緒、又、鈴ノ緒トモ云フ」 武用辨略(貞享、木下義俊)八「緊緒、或ハ根助緒云云 是レ鈴ヲ繫グ緒也」 (二)指貫ノ括リノ紐。

ね・せ (動) 寐 ねさせ(寐)ノ略。ねす(寐)ノ條ヲ見ヨ。「ねせテ置ク、すコシねせ」

ね-せうべん (名) 寐小便 夜間、睡眠中、不隨意ニ小便ヲ漏ラスコト。イビタリ。イビタレ。ヨツバリ。タレバリ。遺尿 夜尿症

ね-せ-おこし (名) 寐起 (一)倒シ、又、起スコト。ネセ、又ハ、起スコト。(二)人ヲ擧ゲ用ヰ、又、卻クル權。黜陟

ね-ぜり (名) 根芹 芹ノ根ヲ賞味スルニ因リテ云フ語 せり(芹)ノ條ヲ見ヨ。金葉集、八、戀、下「人心、アサ澤水ノ、根芹コソ、カルバカリニモ、ツママホシケレ」 曾丹集、正月「ね芹摘ム、春ノ澤田ニ、オリタチテ、衣ノ裾ノ、濡レヌ日ゾナキ」

ね・せる (動) 寐 ねかす(寐)ニ同ジ。

ね-そ (名) (一)かまつか(莢蒾)ノ異名。(二)重クルシクシテ、氣ノ利カヌコト。又、ソノ性質ノ人。

ね-そこな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 寐損 寐ル機會ヲ失ヒテ、容易ニ、ネツカレズ。ネソビル。ネソビレル。

ねそ-ねそ (副) 〔ねそノ重語〕 イカニモ重クルシク、氣ノ利カヌ狀ニ云フ語。

ね-そびれ・る・レル・レレ・レ・レ・レヨ(自動、下一) 寐損 寐ムトシテ、シコジレテ寐得ズ。ネソビル。ネハグレル。浮世風呂(文化、三馬)初編、上「ユウベハ寐ソビレテコマリ切ッタテ、ソレニ犬メガ、ナイタナイタ」

ね-そび・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 寐損 前條ノ語ニ同ジ。

ね-そべ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 腹バヒニナリテ臥ス。一茶句集、[illegible]ノ句、寐そべる[illegible]八、[illegible]ミクリ」

ね-そ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 寐過 寐スグス。ネムリスゴス。

ねた (名) 妬 ねたし(妬)ノ語根。源、四十八、寄生「我レコソカカルメモ見ント思ヒシガ、ねたノワザヤト思ヒ居ヘリ」 曾我物語、九、[illegible]「[illegible]ニ惡口セラレシ其[illegible]ニ、ワザト口ヲ裂カルルトゾ、申シケル」 大經師昔曆(正德、近松作)中「私ヲケブタサウニシテ、ソナタノ文ヲ燒イテ棄テ居ル、タモ見テヰル、ソレヲねたニ思ウテ」

ね-だ (名) 根太 床板ヲ支ヘ承クル下ノ横木。博多小女郎波枕(享保、近松作)中「寝レ家ヲ手前ノ普請、ねだモ追付[illegible]、板モ買置ク」

ね-だい (名) 寐臺 机ノ如クニシテ大キク、寐床ニ用ヰルモノ。寢臺。臥榻

ね-だうぐ (名) 寢道具 夜、寢ヌル時ニ用ヰル物。即チ、夜具、蒲團ノ類。臥具。寢具。

ねた-が・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 妬 ネタマシト思フ。ネタシト思フ。落窪物語、一、下「北ノ方ヲハジメテ、ねたがりマドヒ」 枕草子、七、六十四段「アサマシクねたがりケルワザカナ」

ねた-け・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 妬 ネタマシ。ネタシ。萬葉集、十八、九十「時鳥、イト妬多家口ハ、橘ノ、花散ル時ニ、來鳴キトヨムル」

ねたげ-み (名) ネタマシキ狀ニ云フ語。字鏡[illegible] 源[illegible]「[illegible]ムキスベキ キザミニナンアレ」、ねたげみと云フ」 夫木抄、三十五、賤人「わたけなみ、賤カウミヲノ、ヲサイレニ、ココロトウスキ、アマノ衣手」

ねた-さ (名) 妬 ネタキサマ。ネタムベキ度合。源、六、末摘花「空シク歸ランガねた

さニ」 夫木抄、三十四、神祇「ミ園生ノ、木ノ根掘リハム、キリギリス、端ノフリハノ、ねたさウレタサ」

ねた・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 妬 (一)ネタムベクアリ。ネタマシ。ネタケシ。ウラヤム。(二)[恨ムベシ。ニクラシ。クヤシ。[illegible] 月「何[illegible]」 子、四十七段、ねたきもの「狭ノ物縫フニ、縫ヒハテツト思ヒテ針ヲ引キヌキタレバ、ハヤウ尻ヲ結ハザリケリ、又、カヘサマニ縫ヒタルモ、イトねたし」 源、六、末摘花八「斯ウノミ見ツケラルルヲ、ねたしト思セド」 同、七、紅葉賀廿八「腕ヲトラヘテ、イトイタウ、ツミタマヘレバ、ねたきモノカラ、エタヘデ笑ヒヌ」 [illegible] 秋、下 [illegible] セバ、モミヂシニケリ、山里ニ ねたくモ今ハ、[illegible]ニケル」 拾遺集、十七、雑、秋「家苞ニ、アマタノ花モ、折ルベキニ、ねたくモ露ヲ、スヱテケルカナ」 六帖、一「ねたく我レ、子ノ日ノ松ニ、ナラマシヲ、アナ羨マシ、人ニヒカルル」

ねだな (名) 根棚 [illegible] 船ノ名所。和船ノ[illegible]ノ内、最モ下層ニ位シ、敷ノ左右両側ニ在ルモノ。小形ノ船ニテハ、コレヲ[illegible]、敷ヨリ直ニ中棚トナル。

ねたば (名) 寝刃 刀ノ刃ノ、切味ノ鈍リタルモノ。書言字考節用集(元禄)七、器財門「寝刃、ネタバ」 武将感状記(正徳、熊澤正興)七「板倉[illegible]、アル時、[illegible]ノ宅ニ[illegible] 貴殿、刀ノねたばノ付ヤウ鍛錬カト問ルルニ、不鍛錬[illegible]ケレバ」 [illegible]「ねた刃ヤ附テシトスカシ見レバ、アア嬉シ、切リ刃モ附イタリ」 寝刃を合はす、トハ、刀ノ刃ヲ研グ意。

ねだふし (名) 根倒 根ノ附キタルママ引抜キテ倒スコト。

ねたまき (名) 根手巻 矢ノ[illegible]ノ方ヲ絲ニテ巻クコト。太平記、十五、正月廿七日合戦[illegible]、[illegible]ヲ切テ、ねたまきニ[illegible]テ二十六[illegible]

ねたま・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 妬 ネタムベクアリ。ネタシ。ネタケシ。[illegible]ハ[illegible] [illegible]ねたまし [illegible]

ねたま・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 妬 妬ムヤウニナス。憎ラシト思ハシム。人ノ心ヲ苛立タス。源、二、帚木三「庭ノ紅葉コソ、踏ミ分ケタル痕モナケレナド、ねたます」 同、四十六、総角四十三「ナベテヤハナド、ねたまし聞ユレバ」

ねたみ (名) 妬 ネタムコト。ニクムコト。ソネミ。嫉妬。[illegible]記、上、第九[illegible]「嫉、ネタミ」 七十一番職人歌合、四十七番、弓取「雁股ノ、二道カカル、モノねたみ、矢先ハ胸ヲ、トホスカヒナシ」

ねた・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 妬嫉 [う]れたし(慨哉)ト意、通ズ」(一)他ノ吉事ヲ見テ、心ニ羨ミテ、自ラ苦シム。羨ミ憎ム。ソネム。古事記、下[illegible] 日賣命、甚多[illegible]妬」 神代紀、上[illegible] 害[illegible]二(二)恨ミニ思フ。憎ラシト思フ。口惜シク思フ。竹取物語「ウルハシキ姿シタル使ニモサハラジト、ねたみ居リ」 大和物語[illegible]下「イト憂シト思ヘド、更ニ言ヒモねたまズ、秋ノ夜ノ長キニ目ヲ覚シテ聞ケバ、鹿ナン鳴キケル」 神武紀[illegible] 射之」 [illegible] 命之故[illegible]之耳」

ねだん (名) 直段 [直ノ高低ノ段ノ義] アタヒ。ネ。ネウチ。[illegible] 松作)上[illegible]「イカナ[illegible]デモ大夫デモ、[illegible] 高イ絶嫁ヂヤナイカ」 我衣(文化、曳尾庵)「買人ヲ[illegible]ヘヤラジト、ワレ[illegible]ニ買ハレ[illegible] ノヅカラ素人モ ヨクヲボヘ、高直ニテハ不レ買、云云」 日本永代蔵(貞享、西鶴)二「一ツハ二文、二ツハ三文ニ[illegible]メ、何レカ[illegible]ナシ」

ねだやし (名) 根絶 根ヲ[illegible]ヤスコト。[illegible] ネダ[illegible]コト。押[illegible]

ねだり (名) [illegible] [illegible] 請ヒ求ムコト。

ねだ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 強請 [illegible] 取ル[illegible]」 (一)[illegible] フ。押シテ請ヒ求ム。セガム。セビル。狂言記、河原太郎「サラバ、アレヘ行ッテ、ねだらウトぞズル」 (二)強請スル。ユスル。[illegible] 徒然草[illegible]、八八[illegible] 合ヒねだりテ、金銀ヲ取リケル」 曽根崎心中(元禄、近松作)上「借ハソチガ拾フテ手形ヲ書キ判ヲスヘ、オレニねだ[illegible]

ねち (名) 熱 ねつ(熱)ニ同ジ。字類抄「熱、ネチ」 宇津保物語、國讓、上「[illegible]クスシドモニ問ヒ侍レバ、ねちナド[illegible]ヤオハ[illegible]ムーナム」

ねぢ (名) 螺旋 [捩ノ義。沖縄ニテ、にぢり] (一)銅、鐵ナドニテ製スル釘ノ一種ニテ、[illegible]ノ如[illegible]ノ高クアルモノ、コレヲ牡螺旋トス。又、同ジ状ノ條ノ窪クアルモノヲ、牝螺旋ト云フ。相合ハセテ、右ヘ廻セバ入リ、左ヘ廻セバ出ヅ。物ヲ連接スルナドニ用ヰル。捩子。(二)下駄ノ鼻緒ノ一種。ばら緒ノ類ナルベシ。[illegible] 賈[illegible]ノ[illegible]ハ、アリ[illegible] シハラ、二ツねぢ、三ツねぢ」

ねぢあ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 捩開 ネヂテ開ク。コジアク。

ねぢあ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) 捩 [illegible] 上[illegible] [illegible] 記、菊花、襟ヲねぢ上げマシタ」

ねぢあやめ (名) [illegible] [illegible]

[illegible] 同ジ。 、

ねぢがね (名) 捩金 乾草[illegible]ノ一種[illegible] 長方形ナルモノノ中央ニテネヂタル[illegible] [illegible] ねぢ捲リテ捩ヘザヤブホカ」

ねぢがねさう (名) 捩金草 [illegible] [illegible] ねぢがね[illegible]

ねぢき (名) 捩木 (一)石南科ノ落葉[illegible]木ノ名。山ニ生ズ。樹、大ニシテ、[illegible] [illegible] [illegible] [illegible] トシテ、白花[illegible] [illegible] 漆漬ノ[illegible]用ヰ、コレヲかしをトム[illegible] サキ、ネヂノ木[illegible] (二)ネヂレタル木。捻ヂテ、漆、油ナドヲ搾リ取ル[illegible]用ヰル木。狂言記、[illegible] [illegible]

ねぢきり (名) 螺旋錐 よひぎり [illegible]

ねぢき・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 捩切 [illegible] ザリテ切断ス。[illegible] [illegible] ねぢきる大本」

ねぢ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) [illegible] (一)アルベキママ[illegible] [illegible] 揚[illegible] (二)心、ひねりて、[illegible]直ナラズ[illegible] 心正シカラズ、ヒガム[illegible] [illegible]ハイテイトねぢけたる[illegible] 人トねぢけタリ」[illegible]

オモヒマハサンモねぢけタレバ」四季物語(鴨長明)二月、心ハねぢけマカリナ

ねぢくぎ (名) [押子釘螺旋釘] 脚部ノ雄螺旋ニナリタル釘。ネヂテハメコムヤウニ作リタル釘。

ねぢくび (名) [捩首捻首] 首ヲ捩ヂテ斷ツコト。(刀ヲ用ヰズ) 増補下學集、上、二、支「捻首、ネヂクビ」太平記、廿九、越後守自二石見一引返事「小舟ノ舳ニセント、振リ返ツテ見ケル處ヲ」陰德太平記「上總、香川正氏)七、雲州佐陀原沒落事去ねぢ頸ナド云事ハ、昔物語ナドニコソ聞ツレ、正敷目前ニ見ル事ノ不思議サヨト、諸人消レ膽、總倒シメ」

ねぢくる ・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [捩捻] 捩ヂ廻ハス。ネヂマハス。

ねぢくれる ・レル・レン・レ・レ・レヨ(自動、下一) 拗。拗レテ旋ル。ネヂク。

ねぢけがまし ・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [拗] 心ヒガミタルヤウナリ。ネヂケタル狀ナリ。狹衣、三、上廿「世ニ有トキクトモ、今ハソノ人ヲトカク思ヒタヅネンモ、イトねぢけがましきヲ、ヒタスラ亡クナリニケムハ」

ねぢけびと (名) [佞人] 心、ネヂケタル人。性質ノ素直ナラヌ人。ワザト人ニ反對スル人。ヒネクレタル人。萬葉集、十六、「奈良山ノ、兒手柏ノ、フタ面ニ、カニモカクニモ、佞人ノ友」 讚岐「長行集、一條兼良」佞人トハ、クチキキガマシキ人ヲ云フ」

ねぢける (動) [拗] ねぢく(拗)ノ口語。

ねぢこむ ・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) (一) ネヂテ嵌メ込ム。ネヂ入ル。(二) 先方ノ失言ニ乘ジテ、詰ノ責ム。所信ヲ貫カムトシテ、談ジ込ム。

ねぢぬき (名) [螺旋拔] ネヂヲ投クニ用ヰル具。絲轉(何氏兵錄)

ねぢねぢと (副) ね、ちりとニ同ジ。

ねぢのき (名) いぬつげ(犬黃楊)ノ異名。つげ(黃楊)ノ條ヲ見ヨ。

ねぢはちまき (名) [捻鉢卷] 又、ねぢりはちまき。はちまき(鉢卷)ノ條ヲ見ヨ。

ねぢばな (名) [捩花] 蘭科ノ多年生草本。路傍、堤防ナドニ自生シ、莖ノ高サ五六寸、葉ハ細長ク、初夏ノ頃、捩レタル穗狀花序ニ花ヲ綴ル、紅色ニシテ愛ラシ。ネヂガネサウ。ネヂガネ。モヂズリグサ。綬草。

ねぢふくさ (名) [捻和巾][捩袱紗] 又、ねぢりふくさ。ひねりふくさ(拈袱紗)ノ條ヲ見ヨ。雜俳「誹諧狂集、春、松ノ葉ヤ、白キ紫、ねぢふくさ」

ねぢふす ・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) [捩伏] 腕ヲ押ヘネヂテ、伏セシム。腕ヲネヂテ、タフス。

ねぢふで (名) [捩筆] 蒔繪師ノ用ヰル極メテ細キ筆。毛ニハ鼠ノ鬚ヲ用ヰルト云フ。

ねぢもつ (名) [熱物] 熱スルモノ。アツモノ。(字類抄「熱物、ネチモツ」)

ねぢりはちまき (名) [捻鉢卷] 又、ネヂハチマキ。はちまき(鉢卷)ノ條ヲ見ヨ。

ねぢりふくさ (名) [捻和巾][捩袱紗] 又、ねぢふくさ。ひねりふくさ(拈袱紗)ノ條ヲ見ヨ。

ねぢる ・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [捻捩] 「ねぢノ活用、もぢる(捩)ニ通ズ」(一) ねづ(捩)ニ同ジ。玉葉、四十「古傳ト云ハ、リルイコブノアリテ、ねぢりスヂ、タ、サンサンノ木ヲ云フタゾ」「腕ヲ捻ぢる」「蒲卷ヲ捩ぢる」(二) コヂル。スヂル。モヂル。

ねぢる ・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [捻捩] 戾リメグル。クネリマガル。拗戾。

ねぢれる (動) 拗捻。前條ノ語ノ口語。

ねぢわく ・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) [捩分] ネヂテ分レシム。ヒネリテ分ツ。

ねぢわけがみ (名) [捩分髮] ネヂワケテ結ヒタル簡單ナル髮。

ねつ (名) [熱] 「又、ねち」(一) 太陽、火、又、湯ノ氣ノ身ニ感ズルコト。孟子、梁惠王、下篇「如二水益深一、如二火益熱一、亦運而已矣」李商隱雜纂、意想「夏月見二紅似一熱」(二) 暑キノ氣候ノ暑キコト。[暑] 東晳、讀書賦「二春之初、陰陽交際、寒氣既除、溫不至熱」(三) 病ニ因リテ、體中ニ、常ナラズアツサヲ發スルモノ。史記、倉公傳「流二湯火齊一逐熱、一飲汗盡、再飲熱去、三飲病已」日本振袖始、享保、近松作、四「二ノ產引キ、樣樣ノ看病驗シモナシ」「熱ヲワヅラフ」熱がさめるトハ、熱氣ノナクナルヲ云ヒ、又、熱心ノ度ノ薄クナルニモ用ヰル。熱を吹く、又、熱を吐くトハ、氣焰ヲ吐ク意。今、めえとるヲアゲルト云フモ同ジ。(四) 熱病ノ略。

ねづ ・ヅル・ヅレ・ヂ・デ・ヂヨ(他動、上二) [捩捻] ネヂ戾ラセメグラス。ユガメマハス。ネヂル。ヒネル。今昔物語、廿三、……ネヂテ、囲碁ヲねぢテ引キケレバ、引拔ケタリ」宇治拾遺、十、第三條「鬼、ヨリテ、サハトルゾトテ、捻ぢテ引クニ、

大方痛キコトナシ」

ねつあい (名) [熱愛] 非常ニ愛スルコト。酷愛。至愛。

ねつい (名) [熱意] ねっしん(熱心)ニ同ジ。「熱意ガ足ラヌ」

ねつい (形) 「熱ノ活用」(一) シツコイ。クドイ。シツネニ深イ。(二) シハイ。ツヅマシイ。ツヅマヤカデアル。儉約デアル。

ねづかふ ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) [泣仕] 喪ニ悲シミテ、泣キマホラス。天武紀、下、九年七月「天皇大驚、乃遣二高市皇子、川島皇子一、因以臨、殯哭之、百寮者從而發哀」

ねづかへ (名) [泣仕] ネヅカフコト。聲ヲ合ハセテ泣キ悲ムコト。皇極紀、四年六月「蘇我臣蝦夷及鞍作屍許葬、於墓、復許哭泣」「是東人說、第一論歌曰、云云」

ねっから (副) 「ねから、ノ音便」ねから(根柄)ノ條ノ(二)ニ同ジ。浮世風呂(文化、三馬)初編、上「何ヲイフカ、ねっからワカラネエ」近頃河原達引(天明、中村重助)堀川之段「道理、道理トイフテ居テハ、ねっから、ハッカラ、イツマデモワカラヌ道理ジャ」

ねつき (名) [寐付] 寐ツクコト。ネイルコト。就眠。「ねつきワルシ」

ねつき (名) [根附] (一) 根ノツキテアルコト。又、ソノモノ。(二) 船ノ早緒ノ下ノ方ノ、繼グ所。

ねっき (名) [熱氣] 熱ノ發ツモノ。アツキ氣。アツサ。增補下學集、上、二、支門「熱氣、ネッキ」史記、倉公傳「熱氣已上行、至頭而動」……南子、天文訓「積陽之熱氣生火、火氣之精者爲日」

ねっき (名) [根木] 「ねきノ急呼。」(草葉、

くさノば。餓鬼、がノき）根木打ト云フガ成語ナルベク、棒ノ根ニ中ツル意ナルベシ。めっきハ音轉、（終日、ひめもす。爪る、つねる）但シ、遊學往來（玄惠作）ニ、遊戲無木打トアルハ、詳ナラザレド、若シコレナラバ、めきハむきノ轉ニモアラムカ」兒童遊戲ノ一。數人、各、長サ一尺乃至一尺五寸、上太ク末尖レル棒ヲ持チテ、一人、先ヅヤハラカキ地ニ棒ヲ打込ミ、甲、乙、丙、丁、代ル代ル、前者ノ棒ニ打チ當テテ、打倒シタルヲ勝トシ、其棒ヲ奪取ル。メッキ。ネッキンボウ。ネックイ。（靜岡、根カ）、ニキ、（佐渡）ネンガラ。（九州）ニカラ。（下總、香取）ゲタウチ。（京都）

ねつぎ （名）根續 根繼 （一）柱ナドノ根ノ朽チタルヲ、他ノ材ニテ續ギ補フコト。小町踊（寛文、立圓）「根繼也、軒ノツララニ、霜柱」（二）跡ヲツグコト。アトツギ。國性爺合戰（正德、近松作）二「父ガ討死スルナラバ、成人シテ若宮ニ忠臣ノ根繼ぎトナレ」

ねづき （名）子月 陰曆、十一月ノ異名。

ねっきゃう （名）熱狂 狂氣セム程ノ、熱心ナルコト。

ねつく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）寐付 眠ル。ネムリニ就ク。寐入ル。就眠 太祇全集「香ヲ逐ウテ、寢つかヌ蝶ヤ、花ノ上」

ねづく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）根付 根ヲ生ジテ地ニ著ル。（移シ植エタル樹ニ）俳諧新選、夏「根附きシト、見ユル早苗ヤ、臣ノウケ」

ネックタイ （名）「英語、Necktie」洋服ノ襟カザリ。ネクタイ。ネキタイ。

ねつけ （名）根附 巾着、印籠、ナドノ緒ノ端ニツクル物。帶ニ懸ケテ垂ル。オビバサミ。墜子 攝陽群談（元祿、岡田徯志）十六、名物土産、[illegible]、印籠、中着ヲ帶ニ[illegible]ルノ留（根附也）[illegible]、今[illegible]、根附也」[illegible]（寶永、近松作）中、水晶ノ根付ケ[illegible]出シ」

ねつけ （名）熱氣 體溫ノ平常ヨリ高キコト。熱ノホテリ。ネツ。油糟（松永貞德）「アブナクモアリ、メデタクモアリ」思フホド、クダシテ熱氣、サメニケリ」

ねづけ （名）音附 篝ナドニ云フ語。なきあはせ（噬合）ノ條ヲ見ヨ。

ねっけつ （名）熱血 生血ノ熱キモノ、又、血ノワキカヘルバカリノ、熱烈ナル意義。（慷慨、極マレル思ヒナドニ云フ）宋無、鐵券[illegible]「車中七日不火食、手[illegible]廟人一腔熱血」[illegible]「滿腔ノ熱血」

ねつけどけい （名）根付時計 根附時計 たもとどけい（袂時計）ニ同ジ。

ねっこ （名）根子 （一）クヒゼ。木ノ根ノ切株。餘株 （二）ネモト。根本。

ねっこく （名）熱國 熱帶ノ地方ノ國。

ねつこし・キ・ケレ・ク・ク（形、二）シツッコシ。

ねっさう （名）熱瘡 腫物ノ一種。ネ[illegible]シュ。[illegible]心方、十七[illegible]、[illegible]在、表、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]

ねつざう （名）捏造 又、でつざう。土ナドヲ捏ネテ、物ノ形ヲ作ルコト。轉ジテ、無實ノ事ヲ事實ノ樣ニ、イヒコシラフルコト。

ねつさまし （名）熱冷 身體ノ熱氣ヲサマス[illegible]用ヰル藥。解熱劑

ねっし （名）涅齒 又、でっし。齒ヲ黑ク染ムルコト。[illegible]

ねつし・キ・ケレ・ク・ク（形、二）根強しノ略、[illegible]リ、熱[illegible]、[illegible]ダクダシ。シツッコシ。

ねっしん （名）熱心 精神ヲ一ツノ事ニ注ギ込ムコト。又、思ヒ焦ルルコト。[illegible]アツクナルコト。ネツイコト。

ねつじゃう （名）熱情 （一）甚ダ烈シキ情慾。熱キ情。（二）熱心。

ねっしゅ （名）[illegible] ねっ[illegible]ニ同ジ。小右記、萬壽二年八月廿八日、「[illegible]腦有[illegible]」

ねっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）熱 （一）アツクナル。熱、生ズ。發熱ス。[illegible]、三、木、太政入道[illegible]、「病ミ付キ給ヒケル日ヨリ、[illegible]」（二）熱心ニナル。熱中ス。ノボス。コル。熱ノ[illegible]、アタタム。

ねっせい （名）熱誠 熱情ヨリ發シタルマゴコロ。極メテ深キマゴコロ。

ねっそり （名）グヅグヅシタルサマニ云フ語。又、ソノ人。[illegible]（享保、近松作）二「ヤアねっそりノ牛盗人、チョロイエノアメ夕牛」

ねったい （名）熱帶 くゎいきせん（回歸線）ノ[illegible]

ねった・い （形）妬 ねたし（妬）ノ訛。[illegible]、九、宇治川[illegible]、ねったい、サツパ[illegible]ムベカリケルモノヲ」[illegible]（享保、近松作）五

「ズンボロ坊主、ねったい坊主、鉢坊主、コレガオザノ[illegible]

ねったう （名）熱湯 ニエタツ湯。沸キタギ[illegible]

ねったう （名）熱閙 （にえかへるホド雜沓スル義）人ノコミアヒテ混雜スルコト。ニギアヒテアリガシキコト。繁華 鬧閙 [illegible]、太平記、廿六、正行[illegible]吉野[illegible]

ねっち （名）熱地 （一）暑キ國、[illegible]劇シキ土地。（二）熱帶ノ土地。

ねっちもさっちも （副）にっちもさっちも[illegible]

ねっちゅう （名）熱中 （一）心中ノ熱スルコト。他念ナク、或ル事柄ニ熱心ニナルコト。（二）思ヒコガスコト。[illegible]

ねっちりと （副）ねっとりトニ同ジ。ネナネナト。

ねってつ （名）熱鐵 熱シテ赤ケタル鐵。[illegible]

ねつど （名）熱度 熱ノ度合。熱ノ程度。

ねっとりと （副）粘リ付ク状ニ云フ語。[illegible]

ねつば （名）熱鬧 烈シキ[illegible]

ねっ[illegible]

ねつびやう（名）[熱病] 身ニ盛ニ熱ヲ起ス病ノ總稱。體溫ノハゲシク昇ル病。[illegible]ノ熱。史記[illegible]「[illegible]日、熱病氣也」 清正記、三「從二陣中一熱病ヲウレヒ、[illegible]ハシク作リケレトモ[illegible]年[illegible]春三月（天保八年）ヨリ、貧民熱病行ハレ、四方ニ傳播ス」

ねつぷう（名）[熱風] 熱ノアル風。アツキカゼ。[illegible]此ノ佛舍利ヲ保ツナラバ、[illegible]、金翅鳥ノ三ツノ苦シミヲ免カルベシ」

ねつべん（名）[熱辯] 熱烈ナル辯舌。

ねつもり（名）[値積] 其品物ニ、フサハシキ値段ヲツクルコト。ネブミ。評價。

ねづよ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）[根強] 基（モトキ）固シ。容易ニ動カズ。日本永代藏（貞享、西鶴）四「親ヨリ二代三代ツヾキテ、古代ノ買置物、今ニ賣ラズシテ、内證ノ行ツハ、根強キ所ナリ」 夫木抄、廿一、橋「オイノヨニ、年ヲワタリテ、コボレヌハ、ねづよかりケル、山菅ノ橋」

ねづり（名）[根釣] 〔根ハ、海中ノ石根ヲ云フ〕 海中ニ大石ナドアル邊ニテ、魚ヲ釣ルコト。獲物多シトゾ。五元集拾遺「ホノボノト、朝凪ニホフ、根釣カナ」

ねつれつ（名）[熱烈] 感情高ブリテ、ケハヒノハゲシクナルコト。抱朴子「生二乎世貴之間一、居二乎熱烈之勢二」

ねていたう（名）[根抵當] 〔見返擔保ニ對ス〕 商業ノ語。銀行ナドノ貸出ヲナスニ、貸附ノ都度、擔保ヲ取ルト異ナリテ、豫テ若干ノ擔保品ヲ受取リオキテ、コレニ對シテ一定ノ金額ヲ限リ、貸附、又ハ、割引ヲナスコト。卽チ、將來ノ債權ノタメニ、豫メ提供セラレタル擔保ヲ云フ。

〜**ねてもさめても**（句）[寐醒] おきふし（起臥）ニ同ジ。古今集、十二、戀、二「ワリナクモ、ねても覺めても、戀シキカ、心ヲイヅチ、ヤラバ忘レム」 後撰集、廿、哀傷「宿ミレバ、寢てもさめても、戀シクテ、夢ウツツトモ、ワカレザリケリ」 拾遺集、十四、戀、四「夢ニサヘ、人ノツレナク、見エツレバ、寢ても覺めても、物ヲコソ思ヘ」

〜**ねど**（名）[寐所] ネドコ。ネヤ。ネマ。萬葉集、十四、廿五「アダタラノ、ネニフスシシノ、アリツツモ、アレハイタラム、寢度（ネド）ナサリソネ」 同、十四、廿四「アヅサ弓、ヨラノ山ベノ、繁カクニ、妹ロヲ立テテ、左寢度拂フモ」

ねとうしん（名）[子燈心] 昔、甲子ノ日ニ、ヒサグ燈心。此日ニ燈心ヲ買ヘバ、必ズ其家、富ミ榮ユト云フ。是レ、大黑天ヘ、福ヲ祈ルヨリ出デシコトナルベシ。蒲花集（寛文二）「用ヰルヤ、虎ノヰヲカル、子灯心」 古綠唐（延寶）「マツリニモ、揃フ油ヤ、子燈心」 俳諧雜巾（延寶二）「子燈心、タダ面影ヲ、ツクモ髮」 空林風葉（天和）「子燈心、小判クハヘテ、歸リケリ」 俳諧職人盡（延享二）「子燈心、片荷ハ太鼓、皮買ウ」

〜**ねどこ**（名）[寐所] 夜寐ル所。ネヤ。ネマ。ネド。[寢室] 賴政集「カヲリクル、花橘ノ、ミチヲアケテ、忍ブねどこヲ、人ニ知レヌル」

〜**ねどこ**（名）[寐床] 夜寐ルニ用ヰル床。略シテ、とこ。ネド。ヲドコ。[臥床（ネトコ）] 神代紀、下、廿五「沖津藻ハ、邊ニハ寄レドモ、佐禰耐據モ、能ハヌカモヨ、濱ツ千鳥ヨ」 曾丹集「夜ハ寒シ、ねどこハウスシ、古里ノ、妹ガハダヘハ、今ゾ戀ヒシキ」 萬葉集、十四、四「キベビトノ、マダラ衾ニ、綿サハダ、入リナマシモノ、妹ガ小床ニ」

ねどころ（名）[根野老] ところ（野老）ノ異名。根ヲ主トスルモノナルニヨル。

ねどころ（名）[寢所] 夜寐ヌル所。フシド。ネヤ。名義抄「寢、ネトコロ、シキネ」 宇治拾遺、一、第十八條「ねどころトオボシキ所ニ、五位入リテネムトスルニ」 武家名目抄稱、居處、八「按、寢所ハ音訓兩讀、音讀ハ、一室ヲスベテサスノ稱、訓讀ハ、フシドヲカギリテ、サスノ稱ナリ」

ねどひ（名）[根問] 根ホリ葉ホリ問フコト。飽クマデ問ヒタダスコト。詳細ニ問ヒタダスコト。書言字考節用集、八、言辭門「重問、ネドヒ」 昨日は今日の物語（天正）「御公家衆ハ物事ニ御念入リ、根どひヲナサルゾ」 小町踊（寛文、立圃）夏「根どひセヨ、花チル里ノ、時鳥」

ねどひはどひ（句）[根問葉問] 事ノ本末ヲ、煩ハシキ迄ニ問ヒ掛クルニ云フ語。ネホリハホリ問フコト。唐船噺今國性爺（享保、近松作）中「最ウ根問ひ葉問ひセズトモ」

ねとぼ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）[寐惚] ねぼく（寐惚）ニ同ジ。好色二代男（貞享、西鶴）六「與右衞門ガ儘ニモ成ラズ、寢ヌニ寢惚けテ、一時ハ曙早キ事モアリケリ」

ねとらま（名）子ト寅トノ間ノ意ニテ、牛肉ノ隱語。

ねどり（名）[寐鳥] 栖（ネグラ）ニ寐テ居ル鳥。ネグラドリ。[宿鳥] 字類抄「宿鳥、ネトリ」 論語、述而篇「釣而不レ綱、弋不レ射レ宿（ネトリヲ）」 俳諧新選「稻妻ニ、枝踏ミカフル、寢鳥カナ」 同「代ル代ル、寢鳥ヲ水ノ、ユブリケリ」

ねどり（名）[音取] （一）樂ヲ奏スル初ニ、先ヅ樂器ヲ取リ、奏シ試ミテ調子ヲ合ハスルコト。又、其音樂。歌儛品目、五、上、曲度體裁「音取（ネトリ）、古クハ取音トモ書セリ、又稱取ニ作ル、コレハ、スベテ樂ヲ爲シソムルノトキ、先、器物各各音聲ヲ試ムルガ爲ニナス所ノ音ナリ」 太平記、廿七、田樂事「律雅調遊ジク、淸聲耳ヲ淸ス處ニ、兩方ノ樂屋ヨリ中門口ノ鼓ヲ鳴ラシ、音取ノ笛ヲ吹キ立テタレバ」 （二）芝居ニテ、妖怪ナドノ出端ニ用ヰル笛、太鼓ノ囃子。

∴**ねど・る・ル・レ・ラ・リ・レ**（他動、四）[寐取] 他ノ良人、又ハ、情人ト通ジテ、我ガ情人トナス。（姦婦ニ） 蟬丸（元祿、近松作）二「兄ガ最迄ヒシグルガ、夫ヲ寢どらレ、口惜シウハ思ハヌカ」

ねと・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）[音取] 奏樂ノ時、マヅ樂器ヲ奏シ、調子ヲ合ハス。[illegible]管絃音義「笙ノフエ、調子吹出シテノチ、イタク無造トクねとるハ、心チナキナリ」 著聞集、十八、飮食「藤兵衞、琵琶ヲ調ブ、一曲、笛ヲねとり、其ノ後、朗詠アリ、孝時、[illegible]ノ酒色ノ句ヲ[illegible]ズ」

ねながれ（名）[寐流] 海獸ナドノ、水上ニ寐ツツ流ルルコト。（あしかノ寐流、海驢ノ寐流ナドアリ） 建長八年百首「我ガ戀ハ、みちノねながれ、覺メヤラス、夢ナリナガラ、絶エヤハテナム」

〜**ねな・く・ク・ケ・カ・キ・ケ**（自動、四）[音泣哭泣] （一）聲ヲ立テテ泣ク。ね（哭）ノ條ヲ見ヨ。神武紀[illegible]「奈何、鳥鳴若此、鳴聲、乃彎弓射之、烏卽避去」 仁德即位前紀「[illegible]日、有二海人一耶、因己物以泣（オノガモノカラナク）」 （二）（哭を泣くノ義）なく（泣）ニ同ジ。神代紀、上、三十五「有二啼哭之聲一」 中務集「戀シトモ、イハバスズロニ、オモホエテ、人ニシラレヌ、ねなくコロカナ」 萬葉集、九、三十九、長歌「男壯、カナタコナタニ、作リオケル、故ヨシ聞キテ、知ラネドモ、ニヒモノゴトモ、哭泣（ネナキ）ツルカモ」 源、十四、澪標、三十四「人相ノ聲聲ニソヘテモ、ねなきガチニテ、スグシ給フ」

ねなし（名）[根無] 鏃（ヤジリ）ノ無キ矢ノ稱。倭訓栞、中編、古歌「鶯鳥ノ、空ニカケルモ、何ナラズ、ねなしモチヤ（根無矢）デ、安ク射トリス」

ねなしかづら（名）[根無葛] 蔓草ノ名。春、舊キ實ノ地ニアルモノ、絲ヲ生ズ。絲延ビテ他ノ草木ニ絡ヘバ、隨ヒテ長ジ、隨ヒテ枯レ、其絡ヘル所ヨリ、草木ノ液ヲ吸ヒテ害ス。絡フベキ草木無ケレバ枯ル。蔓、初ハ白ク、後ニハ、黃白、又、黃赤ナリ、太サ一分許

リ、多ク枝ヲ分チ、草木ノ梢ニ被ヒテ葉無ヲ掛ケタルガ如シ。夏、末、[illegible]スコト一二寸ニシテ、小白花ヲ開ク、滿[illegible]ナリ。實、藥用トス。ネナシノミ。東國ニ、サウメングサ。筑前ニ、ウシノサウメン。[illegible]字[illegible]、[illegible]子、ネナシカヅラ[illegible]十四、[illegible]子、ネナシカヅラ、ウシノサウメン(江州)、ムマグサ(同上)、サルノハマイ(城州)、サウメングサ(東國)、ナツユキ(佐州)」

ねなしぐさ (名) [根無草] (一)根ノ無キ草ノ意ニテ、浮キタル事ニ寄セテ云フ語。千載集、十七、雜、中「明日知ラヌ、ミ空ノ浮ノ、根無草、何アダシ世ニ、生ヒ始メケム」(二)(一)ニ、ねんねんぐさ(佛甲草)ノ一名。(三)浮草ノ如ク、一所ニ固定セザルモノ。蕪村句集「アラ涼シ、裾吹ク蚊屋モ、根なし草」

ねなしごと (名) [無根事] ムナゴト。ソラゴト。アトナシゴト。無根ノ事實。

ねなしごと (名) [根無言] 據處ナキ言。實ナラヌ話 浮言 [illegible] 書言字考節用集、八、言辭門「流言、ネナシゴト」

ねなしのみ (名) ねなしかづら(根無葛)ノ異名。 字鏡[illegible]子 [illegible] 天治字鏡、七[五三十]「菟糸子、九月採レ實曝干、根无乃彌」

ねなしばな (名) [根無花] 俳諧、連句ナドニテ、草木ノ花ナラヌニ、他物ニ花ノ字ヲ用キル語、[illegible]、花[illegible]、花[illegible]、花籠ナド云フ類

ねなしみづ (名) [根無水] タマリ水ニテ、湧出ダス源ノ無キモノ。 太祇全集 [illegible]子ヤ、照日ニ乾ク、根なし水」

ねなはす・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) [illegible] 一[illegible]キテ、又[illegible] [illegible]ノサ[illegible]

ねぬけ (名) [根拔] [illegible]セル品ノ稱。陶器ナドノ、古渡最上ナルモノ。井戸手ノ茶碗ナド云フモ、井戸ハ掘拔クヨリノ名カ。高價ナル品ヲ、廉價ニ買ヒ得タルヲ、掘出シト云フモ、コレヨリカト云フ [illegible]根拔トハ、[illegible]云フ」寶藏(寛文)茶道(役)[illegible]作「見事ナコトノ根ぬけ」

ねぬなは (名) 蓴菜ヲ、根ノ長ク延フニ[illegible]キテ云フ語。[illegible] 古今集、十九、[illegible]レ沼ノ、下ヨリ生フル、ねぬなはノ、ネヘナハ立タジ、來ルナ厭ヒソ」

ねね (名) [寐寐] (一)ね(寐)ヲ重ネタル語。特ニ、寐ルコトノ小兒語。[illegible]中[illegible]、松[illegible]一ツ松、ニエ、[illegible]シテ[illegible]シテ一ツ[illegible](二)[illegible]兒ノ異稱

ねのかたすくに (名) [根之堅洲國] 〔かたすハ、片隅ノ略、日ニ離レヌ意ト云フ〕次條ノ語ニ同ジ。 古事記、上[illegible]「[illegible]根之堅洲國」

ねのくに (名) [根國] 「根ハ下底ノ義」上代ニ、人ノ死シテ、魂魄ノ往クト云フ國ノ稱。ヨモツクニ、ヨミノクニ。底の國モ同ジ。ネノカタスクニ。カタスノクニ。ヨミ。黄泉 大祓祝詞「根之國、底之國」 神代紀、上[illegible]「[illegible]云云、[illegible]之[illegible]也」

ねのひ (名) [子日] ねのひのあそび(子日遊)ノ略 [illegible]十七、[illegible]子の日トテ、今日引キソムル、小松[illegible]、コトカナマデ[illegible]ヨシモガナ」 散木集、春「正月ノ初子の日、云云、野ニ行キテ、云云、[illegible]ナホサ[illegible]一、春「千歳マデ、契リシ松モ、今日ヨリハ、君ニ引カレテ、[illegible]代ヤ[illegible]ム」

ねのひ (二) [illegible] [illegible] [illegible]テ、手[illegible]

ねのひのあそび (名) [子日遊] 根延ノ意ニ寄セ祝[illegible]、[illegible]のひ。古ヘ、正月初子ノ日ニ、人人、野邊ニ出デテ、小松ヲ引キ、若菜ヲ摘ミ、宴ヲ[illegible]ナドス[illegible]小松ヲ引ク」トテ云フ。幄ヲ設ケ、檜破子ヲ供シ、和歌ヲ詠ジナドス[illegible] 一、春、上「朱雀院ノ子の日ニ、松モ引キ、若菜モ摘マズ、ナリヌルヲ、イツシカ櫻、ハヤモ咲カナム」 同、同「君ノミヤ、野邊ニ小松ヲ、引キニ行ク、我モカタミニ、摘マム若菜ヲ」 朝廷ニテ、此日、子日宴アリ、若菜ヲ供シ、[illegible]ト云フ供御トス。士庶モ倣ヒテ、七種の祝ト云フ。[illegible] 八、[illegible]「[illegible]之中、[illegible]也、[illegible]」[illegible]ノ歎ハ、山ノ端ニヤ、増モレスラム」

ねのほし (名) [子星] 〔子(北)ノ方向ニアル故ニ云フ〕ほくきょくせい(北極星)ニ同ジ。

ねばう (名) [寐坊] イギタナキ人。眠リヲ好ム人。眠リテ容易ニ眠ノサメヌ人。

ねはぐれる [illegible] [illegible] 同[illegible]

ねばし・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 粘 粘ル状ニテアリ。粘氣多シ。 狂言記、[illegible]の[illegible]、クスネ[illegible]ねばくアヤカレトテ、神リツレテコソ[illegible]リケレ」 才[illegible]葉抄(安元、藤原教長)「[illegible]ナレバトテ、[illegible]ニ書事有ベカラズ、眞行草トモニ、何レモねばく[illegible]シ」

ねばす・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 粘 粘ルヤ[illegible]

ねばつく・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 粘 [illegible]
ネバネバスル。ネバリツク。

ねばつち (名) 粘土 一種ノ粘リアル土ノ稱。壁ニ塗リ、又、瓦器ナドヲ作ル。[illegible]
[illegible]

ねばねば (副) 糊ナドノ、粘リテ、物ニツキヤスキ状ニ云フ語。[illegible]
上、カヂヤノ才[illegible]サンハ、[illegible]カク、ナニ引カレ[illegible]
[illegible]ねばねば[illegible]

ねはば (名) [illegible] [illegible] 安直トノ意ノ稱。

ネハン (名) 涅槃 〔梵語、[illegible]〕不生不滅、[illegible]
[illegible]ノ語。[illegible]
死ノ因果ヲ滅シ、[illegible]
不滅ノ法身ノ眞證ヲ成就スルコト。[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
名[illegible] [illegible]花[illegible]、十七、[illegible]
マデノカタヲ、カナアラハサヤ[illegible]ヘリ」 [illegible]
槃會ノ略。[illegible]二月十五日。日本[illegible]代[illegible]
(貞享、[illegible]二、北[illegible]ノ[illegible]、[illegible]一[illegible]
云フ事[illegible]テ、[illegible]月ノ[illegible]ノ[illegible]山[illegible]ノ[illegible]
カヨ[illegible]テ、[illegible]ノ年ノ[illegible]ノ[illegible]ハ、[illegible]
ソノ[illegible]シテ、[illegible]ノ[illegible]カド」

ネハンぞう [illegible] [illegible]
[illegible]ノ[illegible]ト云フ。人[illegible]

ノ旁ニ二圓點ヲ加フルモノ。卽チ、梵音ノ𤘽ナド、涌口聲ニテ、大涅槃ノ義ヲ表ハスモノト云フ。其形ハ∴ノ二點ニシテ、例ヘバ、梵(∴)ノ如キモノナリ。

ネハン-ヱ (名) [涅槃會] 釋迦入滅ノ當日ヲ追悼シテ行フ法會。我國ニテハ、古來、二月十五日ヲ其日ト定ム。釋氏要覽「二月十五日、佛涅槃日、天下僧俗有ニ營會供養一、卽忌日之事也」千載集、十九、釋教「山階寺ノ涅槃會ノ曉ガタニ」 著聞集、二、釋敎「滿空上人、嵯峨ノ二尊院ニテ、涅槃會ヲオコナハレケル時」

ねばり (名) [粘] ネバルコト。ネバル程。俳諧言選、雜「擣キ立テノ、餅ツツジカナ、粘りカナ」

ねばり (名) [根張] 木ノ根、山ノ麓、又ハ、堤ノ下ナドノ、傍ヘ頽レ張リタルコト。又、下ノ方ヘ廣クナルコト。萬葉集、十三、長歌「サシヤナギ、根張アヅサヲ、大御手ニ、トラシ給ヒテ、遊バシシ、我オホギミヲ」

ねばりけ (名) [粘氣] ネバル力。ネバリツク力。粘着力。

ねば・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [黏粘] 〔練ルノ自動〕 滑ラカニシテ強ク相着ク。ヌメル。ネユ。(膠、糊、黐、土、髮、ナド) 書言字考節用集、八、言辭門「膩、ネヤス、ネバル」徒然草、百十八段「鯉ノアツモノ食ヒタル日ハ、鬢ソソケズトナム、膠ニモ作ルモノナレバ、ねばりタルモノニコソ、云云、ヤンゴトナキ魚ナリ」

ね・び (名) [老成] ねぶ(老成)ノ條ヲ見ヨ。「ねびマサル」

ねびえ (名) [寢冷] 夏、秋ノ夜ナドニ、眠レル間ニ、冷氣ニ侵サルルコト。又、初秋ノ夜ナドニ薄着シテ寢ネ、夜深ノ冷氣ヲ受ケテ、知ラズシテ生ズル感冒。東海道名所記(萬治)二「ねびえシテ、時シモオコル、カンバラニ、浦ノ鹽湯デ、飲ム蟲グスリ」芭蕉句集、秋「旅僧ヤ、寢冷え嫌フ、秋ノ山」

ねびき (名) [直引] 價ヲ減ズルコト。ネサゲ。減價。

ねびき (名) [根引] (一)根ナガラ引拔クコト。ネコジ。ネコギ。狂言記、松讓葉「正月ノ御飾リノ當該ニナル根引きノ松ヲ捧ゲマスル」 (二)身ノ代金ヲ出シテ、遊女、藝者ナドヲ、落籍セシムルコト。ミウケ。阿波之鳴門(文化、種彥)三「彼ガミメヨキスガタニテ、賤シキ業ヲナスヲアハレミ、コノサトノ花魁ヨリ、弓子ヲねびきセント願フモ多カリ」 長唄、松の緑「一ツカコヒノマガキニモルル、廓ハ根引ノ別世界」

ね・ひとつ (名) [子一] 夜十二時ノ稱。ろうこく(漏刻)ノ條ヲ見ヨ。伊勢物語、六十九段「女ノ閨モ近クアリケレバ、女、人ヲシヅメテ、ねひとつバカリニ男ノ許ニ來リケリ」 賴政集「ねひとつト、今ヤサスラム、雲ノ上ノ、月ヲ見ルニモ、忘ラレヌカナ」 雅康七夕枕「イハマクラ、ココヒカハシテ、ねひとつノ、牛ヒキカヘル、天ノ川ナミ」

ねび・との・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [老成調] ネビテ、形トトノフ。オトナビテ、成熟ス。ねぶ(老成)ノ條、參見セヨ。

ねび・まさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [老成勝] 年齡ヨリモ、マセテ見ユ。又、長ズルニ隨ヒテ、美シクナル。ねぶ(老成)ノ條、參見セヨ。

ねびらき (名) [直開] 賣買ニ云フ語。賣直ト買直トノ差ノ稱。

ね・びる (名) [澤蒜] 〔根蒜ノ義カ〕 又、のびる。ひる(蒜)ノ條ヲ見ヨ。名義抄、八、草「澤蒜、ネヒル」

ね・び・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [老成] (一)〔ねぶ(老成)ニ同ジ。年深ケタリ。源、三、空蟬「ねびれテ、匂ハシキ所モ見エズ、鼻ナドモアザヤカナル所ナウ」 (二)草木、萎エシボム。ニホハシキトコロ見エズ。

ねぶ (名) [合歡木] ねぶのき(合歡木)ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、八、廿二「晝ハ咲キ、夜ハ戀ヒ宿ル、合歡木ノ花、君ノミ見ムヤ、ワケサヘニミヨ」同、八、廿二「吾妹子ガ、形見ノ合歡木ハ、花ノミニ、咲キテケダシモ、實ニナラジカモ」

ね・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ(自動、上二) [老成] 〔陳ぶノ上略カト云フ〕 (一)齡、長ク。年深ケタリ。ネビル。源、四、夕顏「貌ナドねびタレド、淸ゲニ」 同、同卷、二十「年打チねび、世ノ中ノ、トアル事モシホジミヌル人コソ」 榮花物語、三十八、松下枝「御年言ヒタツルニハ、ねびタルヤウナレド」 同、十二、玉村菊「左大將ノ御ワカサ、キビハニヲカシキニ、小野ノ宮ノねびタマヘレバ、ソレハイミジウナベテナラヌカホツキニ」 (二)年齡ヨリハ、大人ビテ見ユ。盛リニ成リトノフ。幼稚キケハヒノ失セテ、ヒネタリ。オヨヅク。マセル。[夙慧] 源、廿二、玉鬘、七「此君、ねびトトノヒ給フママニ」 同、十、榊、二十「御貌モイト淸ラニ、ねびマサラセ給ヘルヲ」 平家物語、十一、先帝御入水事「主上、今年ハ八歲ニゾナラセオハシマス、御年ノ程ヨリ、遙ニねびサセ給ヒテ、御容イツクシウ、アタリモ照輝ク許リナリ」

ね・ぶか (名) [根深] 〔根深ク沒シテ、白根多キ故ニ云フ〕 ねぎ(葱)ニ同ジ。倭訓栞、前編「ねぎ、云云、ねぶかトモ云フ、根深ノ義ナリ」 一葉集「今朝ノ雪、ねぶかヲ園ノ、栞カナ」 蕪村句集、冬「易水ニ、ねぶか流ルル、寒サカナ」 近世怪談霜夜星(文化、種彥)二「譬ヘヲウツテ謂ハバ、雪ニ香ヲマス水仙花ト、見弘アラソフねぶかト、一瓶ニサシハサムガ如シ」

ねぶかは・いし (名) [根府川石] (一)相摸國、足柄下郡、根府川村ノ山ヨリ生ズル石。敷石、又ハ、碑トス。形、多クハ扁滑ニシテ、色、青黑シ、或ハ、赤ミ多キモアリ。又、ネブカイシ。(二)又、伊豫國ニ產ズル石ヲモ云フ

ねぶ・し (名) [鑷子] ケヌキ。スウス。字鏡、卅七「鑷、鑷不志」 同、四十二「鑷、尼攝反、鑷不志」 天治字鏡、十二、卅八「鑷子、鑷布志」 塵埃集「鑷子、ケヌキ」

ねぶた (名) [佞武多] 舊曆ノ八月一日ヨリ七日マデ、竹ヲ編ミテ紙ヲ貼リ、彩色シタル種種ノ人形ノ中ニ、燈燭ヲトボシ、笛、太鼓ノ囃子ツキ、變裝ノ踊子ヲ前後ニ、町町ヲネリアルクモノ。(津輕地方ノ年中行事ノ一)

ねぶた・ごゑ (名) [睡聲] ネブタゲナル聲。ネムサウナル聲。ネブリゴヱ。俳諧新選「麥歌ヤ、誰トアカシテ、ねぶた聲」 太祇全集「旅人ヤ、夜寒問ヒアフ、ねぶた聲」

ね・ぶた・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) ねむたしニ同ジ。眠ラマホシ。ネムリタシ。[思睡] 枕草子、十、百三十三段「夜深クねぶたくナリニシカバ」 鶯忠集「長キ日ノ、夢木ノ枝ニ、カマビスク、鳴クヒヨドリノ、ねぶたケモナシ」

ね・ぶち (名) [根鞭] 細竹ノ根本ノ、節多キモノヲ、鞭トスルモノ。倭訓栞、中編「ねぶち、竹根ノ細ク節ガチナルヲ云フ、鞭策トスベキナリ」

ね・ブチ (名) [念佛] 次條ノ語ノ轉。蜻蛉日記、上、上「ナカニ、我ノミゾマギルル事ナクテ、夜ハねぶちノ聲キキハジムルヨリ、ヤガテナキノミアカサル」

ね・ブツ (名) [念佛] ねんぶつ(念佛)ノ約。ネブチ。枕草子、十一、百三十四段、たふとき物「念佛ノヱカウ」 玉葉集、廿、釋「千早振、玉ノ簾ヲ、卷キアゲテ、ねぶつノ聲ヲ、聞クゾウレシキ」 謠曲、百萬「アラ惡ノ念佛ノ拍子ヤ」

ねぶと (名) [根太] 古言、カタネ。[illegible]ノ名。瘍ニ似テ輕シ。隨ッテ治スレバ、隨テ發ス。[illegible] 書言字考節用集、五、[illegible]「瘍、ネブト」岩淵夜話別集、上、天正十三年三月「濱松ノ御城ニテ、家康公御背ニ根太ノ様ナル御腫物出來ケル」時慶卿記、文祿二年七月廿七日「根ぶと」

ねぶのき (名) [合歡木] 古名、ネブリノキ。今、ネムノキ。又、ネムリギ。略シテ、ねぶ。ネム。荳科ノ落葉樹ノ名。高サ二三丈、枝、繁茂シ、細小ノ葉、對生ス、さいかち(皂角子)ノ葉ニ似テ小サシ、晩ニ至レバ、葉、兩兩相合ヒテ眠ルガ如ク、朝ニ至リテ、復タ開ク。仲夏ニ、枝ノ梢毎ニ、穗ヲナシ花ヲ開ク、形、細絲ヲ聚メタルガ如シ、色、半ハ白ク、半ハ淡紅ニシテ、長サ一寸餘、後ニ、莢ヲ結ブ、長サ三四寸、子ハ米粒ノ如シ。ガフカノキ。大和本草、十一、園木「合歡、和名、ネブノ木」書言字考節用集、六、生植門「合歡木、ネブノキ、本草、其葉至暮則合故、又云夜合樹、合昏、云云、夜合樹、ネブノキ」夫木抄、廿九、ねぶの木「秋トイヘバ、長キ夜アカス、ねぶの木モ、ネラレヌ程ニ、スメル月カナ」

ねぶみ (名) [直踏] 直段ヲ押シ當テテ定ムルコト。評價

ねぶり (名) [眠睡] ねむり(眠)ニ同ジ。字類抄「眠、ネフリ」枕草子、一、第四段「困ジテ打チネブレバ、ねぶりナドノミシテト咎ムルモ、イト所セク」類聚名物考、人事、十二「ねぶりニオカサル」撰石集、七、上、第一話「思[illegible]、云云、アマリニネブリケレバ、ねぶりノ正信トゾ申ケル」

ねぶりぐさ (名) [眠草] 荳科ノ草ノ名。高サ一尺許、葉ハ、合歡ノ木ノ葉ニ似、[illegible]、[illegible]、觸ルレバ[illegible]、[illegible]ク、夏季、[illegible]淡紅色ノ小花ヲ、[illegible]、[illegible]ス。ネムリグサ。オジギサウ。含羞草

〜**ねぶりごゑ** (名) [眠聲] ネムタゲナル聲、又、ネボケタル聲、ネブタゴヱ、[illegible]草子、[illegible]、十七段、[illegible]ルママニ、スナハチねぶりごゑニナリヌル、イトニクシ」

〜**ねぶりのき** (名) [合歡木] 又、ねぶり。ネブ、ガフカノキ、ねぶのき(合歡木)ニ同ジ。倭名抄、廿、木[illegible]「合歡、一名、合昏、[illegible]乃[illegible]樹」本草和名、上「[illegible]」字鏡十五「枝、爾夫利」同十五「合歡樹、爾夫利」撮壤集、草木[illegible]、合昏、ネムノキ」和玉[illegible]、ネブノキ」

ねぶりめ (名) [眠目睡眼] ネムタゲナル目。ネムサウナル目付。宇治拾遺、十一、第九條「[illegible]ヤカナル目ヲモ人ニ見アハセズ、ねぶり目ニテ、[illegible]陀佛ヲ申ス」

ねぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [眠睡] [illegible]ぶる、[illegible]ト云フ、イカガ」又、いぬ、ねむる(眠)ニ同ジ。字類抄「眠、睡、瞑、ネブル」字鏡、[illegible]、瞑也、目合也、[illegible]」神代紀、上[illegible]「及レ至レ得レ酒、頭各一槽、飲醉而睡」竹取物語「竹取ノ翁、云云、ねぶりヲリ」

ねぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [舐] [嘗む] ノ[illegible]」舌ノ尖ニテ味ヲ取ル。嘗ム。シャブル。字類抄「舐、咶、咕、ネフル、ナム」字鏡[illegible] [illegible]

〜**ねぼ・く**・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) [寐] [illegible]

ねぼけいろ (名) [illegible] [illegible] ボケタル色。[illegible]ケリ」堤中納言物語、思はぬ方に泊りする少將、[illegible]時殿ヨリトテ、御車參リ給ヘルヨシヲ言ヒケレバ、ねぼけニケル心地ニ、イヅレゾト尋ヌル事モナシ」

〜**ねぼ・ける** (自) [illegible] [illegible]

ねほり (名) [根掘] (一)根ヲ掘ルコト、[illegible]吉野忠信(寶永、近松作)五「只今是ヘヨセタルハ、[illegible]山吉野ノ山ヲ穿ツ、葛ノ根掘リノ小法師ナ」 (二)根ヲ掘ルニ用ナル具。

ねほりはほり (副) [根掘葉掘] [illegible]

〜**ねほ・る**・ル・ル・レ・ル・レ・レ [illegible]

ねま (名) [寐間] 閨、寢所、寢室 [illegible]

ねまき (名) [寐卷] [或ハ云フ、寐間着ノ義ト] 夜寐ル時ノ用トシテ、別ニ設[illegible]「大名ノ、寢間ニモネタル、夜寢カナ」[illegible]「袪、寐卷(俗字)、ネマキ」[illegible]かたはなし(魚[illegible])不斷ノ寐まきハ裏表ナシニ南南コシト也、[illegible]キ出ヅル時、[illegible]

ねまち (名) [illegible] 來ヲ待ツコト。(二)ねまちのつき[illegible]

ねまち (名) [子待] [子祭ノ約ト云フ] ねまつり(子祭)ノ條ヲ見ヨ。

ねまち (名) [直待] 取引所ノ語。賣方、又ハ、買方ニ適シタル直段ノ出ヅルヲ待ツコト。

ねまちのつき (名) [寐待月] [月ノ出ヅルコト遲ケレバ、寐テ待ツ月ノ意] 陰暦、十九日ノ夜ノ月ノ稱。又、[illegible]

ねまつり (名) [子祭] 陰暦、十月ハ亥ノ月、十一月ハ子ノ月[illegible]

ねまど [illegible]

ねまはし（ネマワシ）(名) 〔根廻〕 大木ヲ移植スルタメニ、一二年前、其根ノ周圍ヲ掘リテ、太キ根ヲ切斷シテ置クコト。

ねまはり（ネマワリ）(名) 〔根廻〕 木ノ根本ノ周圍（メグリ）。根盤 「根廻八尺」

⁂**ねま・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四） 〔寐〕 〔ねぶる（寐）ノ轉〕 (一)居ル。スワル。地ニツク。 書言字考節用集、十、言辭門「踞、ネマル」 曾我物語(天和)上、「昔語ニ コロンダガ仕合ト、膳ヲ持ノテねまノター」 奥細道(元祿、芭蕉)「涼シサヲ、ワガ宿ニシテ、ねまるナリ」 其磧太平記、貞永、近松作三大屋由良之介「ハトイフハ、此屋ニねまりメサルカ」 長唄、越後獅子「ねまりねまらズ、待チアカス、ゴザレ話シマセウゾ、コン小松ノ蔭デ、松ノ葉ノヤウニ、コン濃（コマ）ヤカニ」 (二)寐ヌ。臥ス。（奥州）倭訓栞「ねまる、云云、東奥ニテ、寐ルヲモねまるト云フ」 東海道名所記(萬治)三「山カガチノねまり申シタルヨナ」

ねみだ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二） 〔寐亂〕 寐テミダル。亂レテ寢ル。 長唄、浪枕月の淺妻「カヘテ日影ニ朝顏ノ、花ノカヅラノねみだれシ、枕ハヅカシ、シンキテナラヌ」

ねみだれがみ（名） 〔寐亂髮〕 ネクタレガミ。寐タルニ因リテ亂レタル髮。 義經記、七、大津次郎事「寢亂れ髮ノ隙ヨリ、恐ロシゲナル眼シバダタキ、流石ニ今ハ心地取リ直シタル氣色ニテ」 萬代集、一、春、上「サホ姫ノ、ねみだれがみノ、青柳ヲ、ケヅリヤスラン、春ノ山風」 松の葉(元祿)二、長唄「キミガねみだれがみヲ、イツカワスリョゾ」

ねみづ（ネミズ）(名) 〔寐水〕 汲ミ置キ來テ、一夜經タル水。宿水。

ねみづぐさ（ネミズグサ）(名) 〔根水草〕 柳ノ異稱。

（一）**ねみみ**（名） 〔寐耳〕 夜眠レル間ニ、聲ノ耳ニ聞ユルコト。夢ウツツニ聞クコト。 宇治保物語、藏開、上「中納言ハ打チヤスミタマヘルねみみニ、聞キナオトロキナガラ」 東海道名所記(萬治)二「カモメ數千羽、一ドウニ立チケル羽音ノ聲シカリケルヲ、夜フケタルねみみニキキツケ、臆病神ノツキテ」 寐耳に水トハ、事ノ不意、火急ナルニ驚クコト。眠レル中ニ、洪水、俄ニ至レルガ如キ、不意ナルコト。 太閤記、十三、備前宰相渡海「寐耳に水ノ入タル如ク、オドロキアヘリ」 博多小女郎波枕(享保、近松作)中「又ノ御縁ト口上ヲ、捻、テ見レバ手ニサハル、一歩小判モ八九兩、ハット寢耳に水クサキ、半季一季ノ名殘ナク、連立チ表ニ出デニケリ」

ねむ（名） 〔合歡木〕 ねぶのき(合歡木)ニ同ジ

ね・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二） 〔睨〕 にらむ(睨)ニ同ジ。ネメル。 著聞集、十六、興言利口「ねめツツ、見カヘリカヘリニラミケリ」 博多小女郎波枕(享保、近松作)上「ワイラガ居レバヤカマシイ、トットト行ケトねめツクレバ」「ねめカケテ」ねめマハス」

ねん（名） 〔年〕 (一)トシ。(數フルニ云フ) 左傳、隱公四年、四年、春王二月」 今、人ノ齡ヲ數フルニハ、滿一年ナルヲ云フ。「一年」十年」幾年」九年、三箇月」 (二)年季（ネンキ）ノ略 「年明ケ」年切レ」

ねん（名） 〔念〕 〔念ハ廾（シフ）ノ意ニテ、二十ナリ、字音モ、ぢふヲ正シトス。一說ニ、廿ノ俗音ト混同セシモノトモ云フ〕 年月ノ日數ニ用キル語。念九日ハ二十九日ナリ 金石文字記(清、顧炎武)「開業碑陰、多ニ宋人題名、有レ曰ニ元祐辛未陽月念五日題一、以レ念ト爲レ廿一」 兼明書(宋、丘光庭)五「江南人呼ニ二十一爲レ念」 「韓愈、後念九日復上ニ宰相一書」

ねん（名） 〔念〕 (一)オモヒ。カンガヘ。望ミ。 雲笈七籤(宋、張君房)「制レ念以定レ志」 傾城酒呑童子(享保、近松作)四「マ一度逢ヒタイ逢ヒタイト思フ念ガ届イテ」 (二)善ク氣ヲツクルコト。注意スルコト。 犬筑波集(寛永)「念ヲ入レ、結フタル筆ハ、天下一」 狂言記、拔殼「ハテ扱、イラヤルねんツカヒヲル事カナ」 同、色三味線、元祿、其磧、自笑等合作、京之卷、材、手前へ來ル時ハ、手習寺デナラウタ通リ、念入レテイタダキ」「念ヲ押ス」念ニ及バズ」念ニハ念ヲ入ル」

ねんあき（名） 〔年明〕 奉公人ナドノ、年季ノ盡クルコト。又、年季ノ明キタル奉公人。ネンアケ。ネンキアケ。 浮世風呂(文化、三馬)二編、下「オカルモ身請ケサレマシタ、所ガ年明きト云フモノハ、借金ガ多クテ」

ねんあけ（名） 〔年明〕 前條ノ語ニ同ジ。

ねんいう（ネンユウ）(名) 〔念友〕 男色關係ノ友人。念者（ネンジャ）。念人。 好色五人女(貞享、西鶴)五「初ヨリ命ヲ捨テ、淺カラズ念友セシニ」

ねんいり（名） 〔念入〕 念ノ入ルコト。注意深キコト。用意ノ周到ナルコト 井筒業平河內通(享保、近松作)四「若子御様ヨリ御念入リ、コナタヨリオ與ニテ送ラセマセトノ御事」

ねんえき（名） 〔粘液〕 粘ル液（ネバシル）。粘着力ブル液體。 楊萬里詩「紛雑壁三寶氣、冰雪徹二粘液一」

ねんが（名） 〔年賀〕 (一)新年ノ祝賀。年始ノ祝ヒ。賀正 (二)賀ノイハヒ。算賀。 日次紀事、臨時「高貴年賀」

ねんかう（ネンコウ）(名) 〔念校〕 校正上ノ語。校了ニナリタルモノヲ、念ノタメ猶一度校正スルコト。

ねんかう（ネンコウ）(名) 〔拈香〕 香ヲツマミテタクコト。燒香。 敕修百丈清規、開堂祝壽「拈香祝レ聖、次拈ニ帝師、省院、臺憲、郡縣文武官僚香一」 備用清規、遂講忌「住持爲ニ拈香佛事一」 祖庭事苑「釋氏之作ニ佛事一、未ニ嘗不ニ以ニ拈香一爲ニ先」 太平記、廿六、妙吉侍者事「左兵衛督直義朝臣、云云、專ラ禪ノ宗旨ニ傾イテ、夢窓國師ノ御弟子トナリ、天龍寺ヲ建立シテ、陞堂拈香ノ招請隙ナク」

ねんかう（ネンコウ）(名) 〔燃香〕 せうかう(燒香)ニ同ジ。

ねんがう（ネンゴウ）(名) 〔年號〕 年ノ名。日本、支那ニテ、帝王ノ即位、祥瑞、災異、等ニ會ヘル時、又ハ、辛酉、甲子ノ年ノ至レル時ニ、改メテ其年ニ名ヲツク。萬延、元治、明治ノ如シ。而シテ其年ヲ元年トシ、二年、三年ト數ヘ行ク。我ガ國ニテハ、孝德天皇ノ大化ヲ以テ、其初トナシ、今ハ、天皇ノ一代ニ、一號トセリ (改元（カイゲン）、元年（ゲンネン）ノ條、見合ハスベシ) 元號。 事物紀原(宋、高承)「年號始ニ自ニ漢武帝建元元年一」 後紀、廿、弘仁元年九月「飛鳥以前未レ有ニ年號之目一」 難波御宇、始顯ニ大化之稱一」 榮花物語、二、花山「ハカナクテ月日モ過テ、冬ニナリヌ、ねんがうカハリテ、天元元年ト云フ」 尙齒會、序(清輔)「アハレ皇（スメラギ）ノ君ノ御マツリゴトヲ、ヨロヅノ民モうけやす(承安)ト、フタトセノ春」 千載集、序「たもちはじめ(保元)タマフト名ヅケシ年」 風葉集、序「ふみながき(文永)」 叢求和歌、序「年ハはじめひさしき(元久)、時ハキノエネノ秋」

ねんがく（名） 〔年額〕 一箇年ノタカ。 宋史、食貨志「今以ニ舊額鏝帛、定ニ爲ニ定ニ年額一」

ねんがねんぢゅう（ネンガネンジュウ）(名) 〔年年中〕 常ニ。絕エズ。イツモ。ネンガネンビャク。ネンビャクネンヂュウ。

ねんき（名） 〔年季〕 〔年切（トシキリ）ノ略〕 (一)奴婢、丁稚ナドノ、人ニ召仕ハルル約束ノ年限ノ稱。一年ヲ一季トス。略シテ、年。 倭訓栞「奴婢ヲ使フニ云フ、年季ト書ケリ、幾年季ト云ヒ、一年ヲ一季、半年ヲ半季ト云ヘリ」 千紅萬紫(文化、蜀山)「若五町隔、苦海十年流、二十七明夢、嗚呼病氣樣」 (二)ねんきぼうこう(年季奉公)ノ略。 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「アレハ久シク年季ニオキマシタガ」

ねんき (名) 年忌 くゎいき(回忌)ノ條ヲ見ヨ。古ヘハ、はてトテ、一周忌ノミ殊ニ物シ、支那ニテ、一周忌ヲ小祥ト云ヒ、服ノ果テシ三年ヲ大祥ト云フ。

ねんき (名) 年紀 (一)トシダテ。ヨ。年代。後漢書、光武紀、下「[illegible]以改元、神爵、五鳳、甘露、黄龍、列爲年紀」保元物語、三、爲義最期事「年紀三百四十七年」(二)トシバヘ。ヨハヒ。年齡。晉書、[illegible]「計ニ優劣ヲ、不レ論ニ年紀ヲ、實客輻湊、門常如ニ市」

ねんきふ (名) 年給 (一)一箇年ノ給料。年俸。倭訓栞「ねんきふ、年給ナリ、院、宮已下、公卿已上、毎年ノ給也」職原抄、上、式部省「大臣已下、參議已上、皆有ニ年給ニ」(二)ねんくゎん(年官年爵)ニ同ジ 太平記、廿四、朝儀年中行事事「十六日踏歌節會、秋冬ノ馬料、諸司ノ大粮、射禮、賭弓、年給ノ帳」

ねんきん (名) 年金 毎年、定期ニ國家ナドヨリ賜ハル金、官吏ノ受クル恩給、勳章ニ件フ年金ナド是レナリ。

ねんぎゃう (名) 年行 山伏ナドノ、毎年ノ苦行。年年ノ修行。謠曲、[illegible]「[illegible]ヲ凌ギ、年行ノ功ヲ積ムコト一千餘箇日」

ねんぎゃうじ (名) 年行事 年番ノ行事。一年毎ニ交互ニ勤ムル行事。[illegible]向大概覺書、二、中室中室之儀、洛中町町之年行事、[illegible]

ねんぎょ (名) 年魚 (一)其年ニ生ジテ其年ニ死スル魚。(二)鮎ニ同ジ。倭名抄、十六、[illegible]

ねんぎょく (名) 年玉 としだま(年玉)ニ同ジ。

ねんぐ (名) 年貢 (一)毎年ノ貢物。[illegible]ク米ニ云フ)乃貢。歳貢 太平記、一、關所停止事「[illegible]」(二)小作人ガ地主ニ拂フ借地料。

ねんくゎい (名) 年回 くゎいき(回忌)ノ條ヲ見ヨ。

ねんくゎう (名) 年光 歳月。光陰。年華。徐鉉、[illegible]

ねんぐわっぷ (名) 年貢割付 〔田畑ノ年貢ヲ割付クル意〕江戸時代ニ、百姓ノ公納スベキ年貢ヲ上、中、下ノ反別ニ[illegible]記載シテ、村方ニ渡シ置ケル目錄。[illegible]

ねんくゎん (名) 年官 古ヘ、春ノ除目ニ、掾一人、目一人、史生三人ノ俸祿、當及、秋ノ除目ニ、内官一人ノ俸祿ヲ、當ノ俸祿以外ニ賜ハルコト。又、之ニ相當シタル侍ニテ、自チ、從五位下ノ者ニ賜フ[illegible]「年官年爵ヲ賜ッテ」

ねんぐゎん (名) 念願 オモヒネガフコト。ノゾミ。宇津保物語、[illegible]「心ノ中ニオノレニアヒ見ント念ジ給ヘ、ココニモ限リナク、ねんぐゎんシ侍ルシト[illegible]セ給ヘ」

ねんくゎんねんしゃく (名) 年官年爵 [illegible]

ねむけ (名) 睡氣 ネムタクナルコト。睡魔。

ねんげ (名) 拈華 華ヲ拈ルコト。ねんげみせう(拈華微笑)ノ條ヲ見ヨ。

ねんけい (名) 年契 年代ノ順次ニ從ヒ、二國以上ノ出來事ヲ、對照シテ列記シタルモノ。年表。

ねんげつ (名) 年月 トシツキ。歳月。

ねんげみせう (名) 拈華微笑 [illegible]此花ヲ拈リテ見セ[illegible]ヲ解セズ、迦葉一人、莞爾ト微笑ス。此ニ於テ、拈華微笑ト[illegible]ヲ傳授シタリト云フ。因リテ禪宗ニテハ、[illegible]ノ以心傳心ノ根據、一宗ノ大事トナス。[illegible]

ねんげん (名) 年限 定メタル若干ノ年。[illegible]

ねんこう (名) 年功 (一)長年ノ骨折。多年ノ功勞。[illegible]

ねんごろ (副) 懇 (ねもころノ[illegible])(一)眞心ヲモテ。手厚ク。心切ニ。[illegible]

ねんさい [illegible]

ねんざい (名) [illegible]

ねんさう（名）［年星］〔字ノ音〕陰陽師ナドノスルワザ。ねさう（年星）ノ條ヲ見ヨ。源（一本）、廿二、玉鬘八「モノオボシ知ルママニ、世ノイトナキモノニオボシテ、ねんさうナドシ給フ」

ねんさう（名）［年三］又、ねさう。正月、五月、九月ニ、佛事、齋戒ナドスルコトノ稱カト云フ

ねむ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔ねぶる（眠）ノ轉〕ねむたしニ同ジ。思睡

ねんし（名）［年始］年ノハジメ。又、年ノ初ヲ祝フニ就キテ云フ語。年甫。年頭。年首　平治物語、一、院御所仁和寺御幸事「源平兩家ノ軍兵、云云、年ハ既ニ暮レナントスレドモ、歳末、年始ノ營ミニモ及ハズ、タダ合戰ノ評定バカリナリ」　嘉元記、貞和四年正月一日「云年始ノ祝ノ儀、雖不能心中祈事如此」　書札作法抄「年始ノ状ニハ、正月十五日マデ、慶賀ヲバ書也、是陽氣ノ義也」

ねんし（名）［年歯］〔説文「歯、壽也」〕ヨハヒ。トシバヘ。ネンレイ。　後漢書、順帝紀「令郡國擧孝廉、限年四十以上、云云、有茂才異行、若顔淵子奇、不拘年齒」

ねんし（名）［撚絲］撚リヲ掛ケタル絹絲。

ねんじん（名）［人參］にんじん（人參）ノ轉訛。

ねんじゃ（名）［念者］（一）物事ニ念ヲ入ルル人。（二）念フ人。（若衆ヲ思フナドニ云フ）又、男色ニテ、寵愛セラルル美少年。又、ネンジャ。念人。念友。　摩訶僧祇律、七「若男子有衆多婦、有念者、有不念者」　昨日は今日の物語、上「アル若衆、ねんじゃト寐テ」　丹波與作（寶永、近松作）一「馬追ウテ一代若衆ニナラズニ、生エヌキノ念者ヂャ」　心中萬年草（寶永、近松作）中「念者坊ノユウベン樣ハ、消殺ストテ跡ヘサッシャル」

ねんじゃ（名）［念寫］精神ヲ統一セル念力ノ働キニヨリテ、思フママニ物象ヲ寫眞ノ乾板ニ寫スコト。千里眼ナドニテナス。

ねんじゃく（名）［年爵］ねんくゎん（年官）ノ條ヲ見ヨ。

ねんしゅ（名）［年首］ねんし（年始）ニ同ジ。　易林節用集（慶長）上、乾坤門「年首、ネンシュ」　史記、封禪書「秦文公出獵、獲黑龍、此其水德之瑞、於是秦更命河曰德水、以冬十月爲年首」

ねんじゅ（名）［念珠］〔一顆ヲ爪繰ル毎ニ佛ヲ念ズルヨリ云フ〕ずず（數珠）ニ同ジ。ネンズ。オモヒノタマ。　倭名抄、十三「僧坊具、念珠、一云、數珠」　字類抄「念珠、ネンジュ」　舊唐書、李輔國傳「晴國不茹葷血、常爲僧行、視事之隙、手持念珠」　宇治拾遺、一、第六條「不動袈裟トイフ袈裟カケテ、木欒子ノ念珠ノ大キナル、繰リサゲタル聖法師入リ來テ立テリ」

ねんじゅ（名）［念誦］〔念佛誦經ノ略。普賢觀行經記「在心曰念、發言曰誦、言由於心、故曰念誦」〕佛教ノ語。心ニ佛ヲ念ジ、口ニ經ヲ讀ムコト。又、禪林ニテハ、十佛名ヲ念誦スルコトヲ云フ。ネンズ。　盂蘭盆經疏記、上「念誦、即道佛名誦咒」　大日經演密鈔「梵語、惹簸、此云念誦」　易林節用集（慶長）上、言辭門「念誦、ネンジュ」　續紀、廿一、天平寶字二年八月「宜告天下諸國云云、念誦摩訶般若波羅蜜」　榮花物語、十八、玉臺「御念佛ノ志、絶エサセ給フ可キニモアラズ、御念誦ノ時ニ捻ヘサセ給ヒテ」　義經記、五、吉野山に捨事「數珠爪繰リ、云云、誦モ果テシカバ、靜モ起キ居テ、念誦シテゾ居タリケル」

ねんじゅだう（名）［念誦堂］ねんぞだう（念誦堂）ニ同ジ。

ねんしゅつ（名）［拈出］ヒネリイダスコト。案出スルコト。　楊萬里詩「拈出老謀一開宇宙、本來清尚只雲泉」

ねんしょ（名）［年所］トシツキ。年月。歳月。　書、君奭傳「殷禮陟配天、多歷年所」　張衡、西京賦「多歷年所」

ねんず（名）［念珠］（一）ねんじゅ（念珠）ニ同ジ。（二）浴スルコト。　台記（頼長）「依眞乘不念珠、但今日無溫氣、眞乘後始念珠」注「夜前浴」（玉勝間、八）

ねんず（名）［念誦］ねんじゅ（念誦）ニ同ジ。念佛誦經。　源、三十五、柏木「カクテモ平ラカニテ、同ジウハねんずヲモ勤メ給ヘト聞コエ置キ給ヒテ、明ハテヌニ、イソギ出サセ給ヒヌ」　同、四、夕顔「何レノ道ニ定マリテ赴クラムト、思ホシヤリツツ、ねんずヲイトアハレニシタマフ」

ねん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）［拈］ツマム。ヒネル。　杜甫詩「舍西柔桑葉可拈」　太平記、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「於切利天法ヲ説キ給ヒシ時、一枝ノ花ヲ拈ジ給ヒシニ」

ねん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）［念］（一）心ニ祈ル。　源、四、夕顔、十四「川ノ水ニテ手ヲ洗ヒテ、清水ノ觀音ヲねんじ奉リテモ、スベナク思ヒ惑フ、君モ強ヒテ御心ヲ起シテ、心ノ中ニ佛ヲ念じ給ヒテ」　榮花物語、八、初花「ウチ添ヘテ法華經念じ奉ラセ給フ」（二）堪ヘ忍ブ。コラヘル。　源、十九、薄雲五「君ノ御タメニ善カルベキ事ヲコソハトねんず」　大鏡、上、忠平「臆シタルサマ見エジト、ねんぜサセタマヒテ」　榮花物語、十一、蕾花「御前ニサブラフ人人ハ、エねんぜズ、オノヅカラ打チサザメキツ」　源、十九、薄雲七「ねんじ敢ヘズ打歎ク」　大和物語「ワカキ男キキテ、ウタテアルサマニモコソアレト、ねんじツツアリタルニ」

ねんぞう（名）［年數］トシノカズ。歷タル年年。　禮記、表記「不知年數之不足也」

ねんぞだう（名）［念誦堂］又、ねんじゅだう。念誦ノ行ヲ修スル爲メニ設ケタル堂。　源、十九、薄雲廿「人ノ見トガメツベケレバ、御ねんぞだうニコモリ給ヒテ、日ヒト日、泣キクラシ給フ」

ねんぞひき（名）［念珠挽］念珠ヲ作ルヲ業トスル人。　七十一番職人盡歌合、三十二番「ねんぞひき、カズトリト、シチヘンノタマ、ムヅカシキゾ」

ねんせう（名）［年少］トシワカ。ワカモノ。（年長ニ對ス）　戰國策、趙策「寡人年少、莅國之日淺」　郭銓詩「讀書程度輸年少」

ねんせう（名）［燃燒］物ガ空氣中ノ酸素ト和合シテ、熱ト光トヲ發スルコト。モユルコト。

ねんだい（名）［年代］歷來リシ年世。　運歩色葉集「年代」　高適、古大梁行「年代凄涼不可問、往來唯見水東流」　唐書、藝文志「古今年代曆一卷」

ねんだいき（名）［年代記］古ヘヨリ、年毎ニ起リシ事共ヲ、年ヲ逐ヒテ表ニ作リテ記セル書。年表　宋史、藝文志「歸伯昌帝王年代圖一卷、又帝王年代記三卷」

ねむた・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔ねぶたしノ轉〕眠ヲ催ス。眠ラマホシ。ネブタシ。ネタシ。ネムシ。思睡　雜兵物語（天和）下、夫丸「ヒダルイ時モ、ねむたい時モ」

ねんち（名）［稔知］〔ぢんちノ誤讀〕ぢんち（稔知）ノ條ヲ見ヨ。

ねんちゃう（名）［年長］年ノタケタルコト。トシウヘ。（年少ニ對ス）　禮記、曲禮、上篇「年長以倍、則父事之」

ねんちゃく（名）［黏着粘着］ネバリツクコト。　釋名（後漢、劉熙）釋言語篇「念、黏也、意相親愛心黏著、不能忘也」「粘着力」

ねんちゅう（副）［年中］一年ノ間、打續キテ。又、アケクレ。始終。終歳。論語、學而「[illegible]」

ねんぢゅうぎゃうじ（名）［年中行事］一年ノ間ニ、宮中ニテ行ハルル一定ノ公事。後ニ、民間ニテモ云フ。太平記、廿四、朝儀年中行事事「天子ハ必ズ萬歲ノ政ヲ行ヒ、四海ヲ治メ給フ言也、ソノ年中行事ト申スハ、マヅ正月ニハ牛日ニ天地四方拜、屠蘇白散、群臣ノ朝賀、小朝拜、云云」著聞集、十一、[illegible]、後白河院ノ御時、年中行事ヲ繪ニカカレテ」同、七、能書「今度、閑院殿遷幸ニ、年中行事ノ障子ヲ書クベキ由、宣下セラレタリシヲ」

ねんど（名）［粘土］ネバツチ。ハニ。

ねんど（名）［年度］（一）一箇年ノ事ヲ、一仕切リニスルコト。（二）事務、會計決算ナド、其他、便宜ニヨリテ分チタル期間ノ稱。

ねんとう（名）［年頭］ねんし（年始）ニ同ジ。林光朝詩「年頭月尾無二一事一、咄咄應頑不レ識レ字」[illegible]（[illegible]本[illegible]寺[illegible]年頭[illegible]）記、右近左近「コナタハロ不調法ニハアリ、其上、地頭殿ヘト云ウテハ、年頭ノ禮ナラデハ御ザラヌニ依ッテ」

ねんとう（名）［念頭］心ノ上。ココロ。心頭「念頭ニ掛ケテ」

ねんとうブツ（名）［然燈佛（然燈佛）］一梵語、Dipaṁkara.（提和竭羅）、錠光、又ハ、然燈ト譯ス」佛教ノ語。過去久遠ノ昔ニ出現シタリシト云フ佛。釋迦如來ガ修行中、コノ佛ノ出世ニ逢ヒテ、未來成佛ノ記莂（豫言）ヲ受ケタリト云フ。大智度論、九「如二然燈佛、生時一切身邊如レ燈、故名二然燈太子一、作レ佛亦名二然燈一、舊名二錠光佛一」

ねんない（名）［年內］今年ノ內。年ノウチ。宋書「[illegible]、年內何[illegible]」

ねんなく（副）［無念］（一）苦モ無ク。滯リナク。音便ニ、ねんなう。太平記、十五、「[illegible]、[illegible]、[illegible]、念ナク[illegible]ニケリ」[illegible]、[illegible]、[illegible]、念なう[illegible]ヲバ討ッテ候」（二）思ヒノ外。殊ノ外。案外。[illegible]、念なう早カ[illegible]（[illegible]）[illegible]、[illegible]ヲ始メ、コノ語例、多數アリ）

ねんなし・キ・ケレ・ク・ク（形、一）無念　（一）無念ナリ、殘念ナリ、ケチヲシ。[illegible]集、五、和歌「都ニアリナガラ此ノ歌出ダサン事、念なしト思ヒテ」本願抄「行方（ユクヘ）見失ヒヌ、念なしトアキレ居タル程ニ」（二）容易ナリ。タヤスシ。太平記、七、新田義貞賜二綸旨一事「[illegible]ニヒ大手ノ[illegible]バ、夜晝三日ガ間ニ、念なく攻リ崩シテケリ」

ねんにん（名）［念人］（一）古ヘ、賭弓、射禮、競馬ナドノ勝負ヲ見證（ケンソ）スル役人。明衡往來、上、[illegible]、[illegible]賭弓事「小弓事、云云、念人各五六輩、[illegible]、云云」江家次第、十九、殿上賭弓事、當日早旦、[illegible]射手等、自二念議所一移二於弓場所一、云云、射手念人[illegible]」中右記（藤原宗忠）嘉承元年十二月廿二日「今日有二弓場始一、云云、侍臣[illegible]、念人右兵衞督以下一列」[illegible]記、四、役名「御弓場始ノトキ、念人ト云フハ、射手ノ肝煎ナリ」（二）古ヘ、歌合、根合ナドニ、左右ニ置キ、判者ノ當否ニ、容喙スル人。古今著聞集、五、寬治七年五月五日「[illegible]、[illegible]」[illegible]、念人[illegible]、[illegible]）、十日アマリ二番（合サセ[illegible]）、[illegible]セラル、左右ノねん人、上達部廿人、バカリサダラフ、今日ノ判者[illegible]、[illegible]仁ノ昔ノアトヲタヅネテ、云云[illegible]ウケタマハル」

ねんね（名）［寢寢］〔寢（ネ）ヲ重ネテ云フ。〕（一）小兒語。睡眠スルコト。又、ねね」又、橫臥スルコト。假名文章娘節用（天保、[illegible]）[illegible]「[illegible]、サンニ々、コハナリマセン、モウマ　クニナリマスカラ、オねんねサヨウゴザリマス」（二）轉ジテ、赤子ノ稱。（寢ク眠ル者ナレバ云フ）（三）人形ノ稱。

ねんねこ（名）（一）ねこ（猫）ヲ云フ小兒語。[illegible]子俳諧集、明曆二[illegible]「[illegible]ヤ、ねんねこ眠ル、花ノ影」（二）次次條ノ語ノ略。

ねんねこうた（名）小兒ヲ寢ッカシムルニ、ウタフ唄。コモリウタ。

ねんねこばんてん（名）小兒ヲ背負フ時、上ヨリ被フ半纏。[illegible]、ねんねこ[illegible]守貞漫稿、[illegible]、[illegible]ト云フヲ著ス、其ノ製、小[illegible]ノ[illegible]、袖ニテ、袖口及ビ襟フキ多ク出ダシ、長ケハ大凡、羽折ト同ジク、或ハ羽折ヨリ微ニ長クス、云云、小兒ヲ負フ時、守風ノ背ヲ掩ナルノ、云云」

ねんねん（名）［念念］〔念ハ、梵語、[illegible]（刹那）ノ譯語。時ノ極メテ少キコト〕（一）刹那刹那ノ云ノ、[illegible]代[illegible]不住、念念生滅」（二）前後ノ心念ソノモノ。[illegible][illegible]

ねんねん（副）［年年］トシドシ。年毎ニ。白居易詩「年年春草生、[illegible]」

ねんねんさいさい（句）［年年歲歲］每年。[illegible]年[illegible]年、[illegible]

ねむのき（名）［合歡木］ねむのき（合歡木）ニ同ジ。[illegible]

ねんのため（副）［爲念］[illegible]タメ。心得ノタメ。[illegible]生玉心中（正德、[illegible]）中「此ノ樣ナ縁ニ、ヨモヤトハ存ジナガラ、云云、念の爲デ候座ル」

ねんばい（名）［年輩］トシゴロ。齡ノ程。年紀[illegible]

ねんばい（名）［年配］トシゴロ。其事ニ相應シタル齡ノ程。

ねんぱう（名）［年俸］一箇年ノ事ノ報酬（ホウシウ）。

ねんばん（名）［年番］一年ヅツ相代リテ、勤メニ當ルコト。[illegible]六月、[illegible]、[illegible]人ヅツ小[illegible]年番中[illegible]、[illegible]九月

ねんばらし（名）［[illegible]］[illegible]

ねんびゃく‐ねんぢゅう（副）［年百年中］年中ト云フニ同ジ。[illegible]

ねんぷ（名）［年譜］其人一代ノ年代記。[illegible]

ねんぶ（名）［年賦］[illegible]、又ハ、借錢ナド、總高ヲ若干ニ割リ、年年ニ割リ當テ、納ムルコト。又、一箇年ノ日賦ト云フ。[illegible]十年切リノ年賦ニシテ、利ナレ[illegible]

ねんブツ（名）［念佛］〔念ハ口ニ唱フル意〕佛教ノ語。佛名ヲ唱フルコト。南無阿彌陀佛ノ六字ヲ唱フルヲ[illegible]

トテ、大師ニ成ミ芳契ニ給ヒ、忽異朝ノ雲ヲ出デテ、正ニ叡山ノ月ニ住給フ」

ねんブツざし (名) 【念佛尺】 〔近江國、伊吹山ニテ掘リ出セル念佛塔婆ニ刻メル尺度ニ摸シテ作レルヨリ、此名起ルト云フ〕又、ねんぶつぢゃく。昔ノ竹ニテ作リシ尺。曲尺ノ一尺二厘二毛ニ當ル。ものさし(物差)ノ條ヲ見ヨ。 法規分類大全、一官、政體「念佛尺、嘗テ近江國伊吹山ヨリ念佛塔婆ヲ掘出セシコトアリ、其塔婆、尺度ヲ刻ス、乃チ之ニ摸シ、以テ念佛尺ト名付ク、此度法、享保尺ニ密合スト云フ」 地方新書、或書ニ、量地尺、念佛尺、享保尺ハ、トモニ曲尺ヨリ四厘ヲ強クス、說長ナルベケレド、是亦一種ノ度ナリ」

ねんブツしゅう (名) 【念佛宗】 (一)佛教ノ語。彌陀ノ名號ヲ唱ヘテ、極樂往生ヲ願フ宗門ノ汎稱。我ガ國ノ淨土宗、眞宗、時宗、空也念佛宗(公稱ニアラズ)、融通念佛宗ナド、之ニ屬ス。(二)佛教ノ一派。具サニハ、融通念佛宗。僧良忍(聖應大師)、天台宗ヨリ出デテ、別ニ一宗ヲ創メ、天治二年、京畿ニ宗旨ヲ弘ム。是レヲ大念佛宗トモ云フ。攝津國、平野、大念佛寺ハ、崇德天皇大治二年、良忍ノ開基セシ所ニシテ、此派ノ本山トナス。其宗旨、畿內ニ行ハル。 七十一番職人盡歌合、六十五番、念佛宗「卽便往生モタフトク、往生モ只一タビ南無ト唱フレバ、極樂ニ生マル、何ノ疑ヒカアラン、南無阿彌陀佛」

ねんブツしゅじゃう (ネンブツシユジヤウ) (句) 【念佛衆生】 佛教ノ語。阿彌陀如來ノ大悲願力ノ回向ニヨリ、信心獲得シテ念佛三昧ニ入レバ、極惡非道ノ凡夫ノ身モ、直ニ極樂ニ往生スルヲ得ト云フ意。

ねんブツだう (ネンブツドウ) (名) 【念佛堂】 佛教ノ語。

信者ノ念佛スルタメニ、寺院內ニ設ケタル堂。 圓光大師行狀畫圖、五十一「引聲堂、短聲堂、右二堂建立ニ念佛堂ト號スル、是也」

ねんブツむげん (句) 【念佛無間】 佛教ノ語。念佛ヲ唱フルモノハ、無間地獄ニ墮ツト云フ意。コレ、念佛無間、禪天魔、眞言亡國、律國賊ト、日蓮宗ノ祖師日蓮ノ唱ヘシ語ト云フ。にちれんしゅう(日蓮宗)ノ條ヲモ見ヨ。 日蓮聖人註畫讚(寛永、僧日澄)「建立宗旨、念佛無間、禪天魔等之法門、具[illegible]論文」

ねんブツをどり (ネンブツヲドリ) (名) 【念佛踊】 慶長ノ頃、僧衣ヲ着、鉦ヲタタキ、佛號ニ節ヲツケテ謠ヒシ踊、モト、京都ヨリ起リ、寶永ノ頃、江戶ニモ流行セリ。 野槌(元和)「近年、出雲ノ巫(お國)京ニ來テ、僧衣ヲ着テ鉦ヲウチ佛號ヲ唱ヘテ、初ハ念佛おどりト云ヒシニ、其後、男ノ裝束シテ歌舞ス、俗ニかぶきト名ヅク」

ねんぶん (名) 【年分】 一箇年ニ當ル分。

ねんぺう (ネンピヨウ) (名) 【年表】 ねんだいき(年代記)ニ同ジ。トシダテ。 史記、太史公自序「作十二諸侯年表」

ねんぽ (名) 【年甫】 ねんし(年始)ニ同ジ。

ねんぼう (名) 背ノ荷ヲ支ヘテ、休ムトキニ用ヰル二尺五寸許リノ棒。

ねんぽう (名) 【年俸】 一箇年ノ給料。

ねんまく (名) 【粘膜】 動物ノ內腔ノ表面ヲ被フ薄キ皮膜。常ニ粘液ヲ分泌シテ、諸種ノ作用ニ便ス。例ヘバ、肋膜、胸膜、腹膜ナド。

ねんまつ (名) 【年末】 トシノスヱ。トシノクレ。歲暮。歲末。

ねんまへ (ネンマエ) (名) 【年前】 年季明ケノ前。 淀

鯉出世瀧德(寶永、近松作)下「其金持ッテ丹波ヘ退キ、來年私ガ年前ニ、迎ヒニ來テ下ダサンセ」

ねんやく (名) 【念約】 念者ノ約束。云ヒ交シテ、念者トナルコト。 本朝若風俗(貞享、西鶴)一「肩ヲヌゲバ、草紙雛、封小刀ニテ、若道ノ念約ノ印、紫立ッテ少シ思ハレタルヲ」

ねんよ (ネンヨ) (名) 【年預】 〔連聲(レンジヤウ)ニテ、ねんにょト讀ム〕 (一)院ノ廳ノ次官。(二)武家ノ執事ニ次グ職名。 名目抄「年預、ネンヨ」 拾芥抄、中、末、院司「別當、執事、年預、判官代」

ねんらい (名) 【年來】 次條ノ語意ニ同ジ。 謠曲、小袖曾我「富士野ノ御狩ノ折ヲ得テ、年來ノカタキ、本望ヲトゲント、互ニ思フ旨志ノ趣」

ねんらい (副) 【年來】 トシゴロ。數年コノカタ。 蘇軾詩「年來漸識幽居味」 語林「我年來忍讀誦經」 盛衰記、十四、南都山門牒狀等事「早忘年來之遺恨、必復住山之往昔」

ねんらふ (ネンロウ) (名) 【年臈】 〔臈ハ臘ノ俗字、支那古代ニテ、歲終ノ神ヲ祭リシ名〕 らふ(臈)ノ條ヲ見ヨ。

ねむり (名) 【眠睡】 ネムルコト。寐入ルコト。ネブリ。 傾城佛の原(元祿、近松作)一「チト昔ノ話ヲシテ、ねむりヲ醒サフト云ヘバ」

ねんり (名) 【年利】 一箇年ニツキテノ利息ノ率。(月利、日步ニ對ス)

ねんりう (ネンリユウ) (名) 【念流】 (一)劍術ノ一派。上坂半左衞門安久ノ創メタルモノ。初、安久ハ臨濟派ノ禪僧ナリシガ、劍法ヲ好ミ、其奧義ヲ究メ、遂ニ自ラ一法ヲ建ツルニ至レリ。コノ流ヲ吸ミタルモノハ、中山角兵衞家吉ナリキ。(二)又、劍術ノ一派。應永ノ頃、相馬四郎義定ヲ祖トシ、永祿ノ頃、樋口又四郎定次、

之ヲ傳ヘテ、代代、上野國、多胡郡、馬庭村ニ住セリト。

ねんりき (名) 【念力】 思ヒ込ミタル力。 遺教經「念力堅強、雖入五欲賊中、不爲所害」 謠曲、女郎花「邪淫ノ惡鬼ハ身ヲ責メテ、ソノ念力ノ道モ、嶮シキ劍ノ山ノ上ニ、戀シキ人ハ見エタリ」 生寫朝顏日記(文化、柴田子)大井川段「夫ヲ慕フ念力ニ、道ノ難所モ見エヌ目ヲ、イトハヌ深雪ガ」

ねむりぎ (名) 【眠木】 ねむのき(合歡木)ニ同ジ。

ねむりぐさ (名) 【眠草】 ねぶりぐさ(眠草)ニ同ジ。

ねむりぐすり (名) 【眠藥】 (一)シビレグスリ。麻醉劑。(二)睡眠ヲ催ス藥。催眠劑。

ねんりん (名) 【年輪】 樹木ヲ橫斷セシ際、見ル所ノ同心圓的ノ輪層。ソノ數、及、幅ニ依リテ、樹木ノ成長ノ年度ヲ知ル。

ねんりょ (名) 【念慮】 オモンパカリ。オモヒヨリ。思慮。 說苑(漢、劉向)談叢篇「…者知之本、念慮者知之道也」

ねむ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【眠睡】 〔ねぶるノ轉。其條ヲ見ヨ〕 又、ねぶる。身體、精神ノ活動(ハタラキ)、共ニ自然ニ止ミ、目ヲ閉ヂテ靜ニ休ム。ネル。 神代紀、上三十五「酣睡(ネムル)」 續忠百首、上「年フリテ、ナカ洲ニねむる、アシタヅノ、夢ヲサマスハ、沖ツ白浪」

ねんれい (名) 【年齡】 ヨハヒ。トシバヘ。年齒(ネンシ)。年紀。 禮記、文王世子篇「古者謂年齡、齒亦齡也」 皮日休詩「年齡等…」

ねんれい (名) 【年禮】 年賀ノ儀禮。年始ヲ祝ハムト、人家ヲ訪フコト。拜年。

ねんれう (ネンリヨウ) (名) 【燃料】 空氣中ニ火ヲ燃(モヤ)シ

テ、熱ヲ生ズル物質、例ヘバ、木、石炭、石油ナド。タキモノ。タキレウ。

ねん・れき (名) [年歴] 長年ノ来歴。

ねめ・つ・く・クル・クレ・ケ・ケヨ (他動、下二) [睨付] 強ク睨ム。ニラム。ニラミツケル。[疾視] 丹波與作(寶永、近松作)上「[illegible]渡シタニ歩ノ取替返シテ失セゥ、早ウ早ウトねめつくる」甲陽軍鑑、五、品第十三「科モナキ家老ヲねめつけ、其ノ外ノ侍衆ヲバ、少シノ儀ニ誅シ給フ」博多小女郎波枕(享保、近松作)上「ワイラガ居レバヤカマシイ、トットト行ケト睨めつけレバ」

ね・める (動) [睨] ねむ(睨)ノ口語 丹波與作(寶永、近松作)上「オレガ[illegible]ガ高ケリャ、此方ガねめる[illegible]」

ねもころ・ころ・ま (副) [懇] 次條ノ語ニ同ジ。萬葉集、廿四上「高山ノ、イハホニオフル、スガノネノ、ねもころごろニ、フリオク白雪」同、十二[illegible]「相念ハズ、有ル物ヲカモ、菅ノ根ノ、懇ごろに、吾ガ思ヘルラム」

ねもころ・ま (副) [懇] (ねハ根ナリ、もころハ如ノ義、物ノ極ト等シャノ意ナラム) 行キ至ラヌ極ナク、コマカニクハシク。深切ニ。慇懃ニ。丁寧ニ。ネモコロコロニ。音便ニ、ねんごろ。萬葉集、二三十長歌「懇、見マクホシケド、止マズ行カバ、人目ヲ多ミ、マネク往カバ、人シリヌベミ」同、四[illegible]長歌「[illegible]、[illegible]、[illegible]コシ[illegible]、[illegible]フカク、[illegible]クシイヘバ、マソ鏡、磨ギシ情ヲ、許シテシ」蜻蛉日記、上、上「ソノホドノ心バラシモ、ねもころなるヤウニナリケリ」

ね・もじ (名) [ね文字] [illegible]、[illegible]ニ女房詞。[illegible]、[illegible]、[illegible]、なミおナ[illegible]ハ、スズシ裏ニ苦シカラズ候」

ね・もと (名) [根本] 根ノトコロ。又、其本[illegible]。モト。[illegible](コンポン)

ね・ものがたり (名) [寝物語] 夜、寝ナガラ話シ合フコト。臥話 狂言記、伊文字「ハッテ、其ノ[illegible]ハ、[illegible]ノねものがたりニナサレイ」

ね・や (名) [閨] [寝屋ノ義] ネドコ。夜、寝スル[illegible]。ネドコ、ネドコ、ネマ、[illegible] [illegible] [illegible]、十十[illegible]「寝、閨夜、與止乃」字類抄「寝、ネヤ、寝殿、ネヤ」下[illegible]、上、[illegible]門、閨、ネヤ、[illegible]仁[illegible]、二年十[illegible]、[illegible]「[illegible]」竹取物語「[illegible]ハ閨ノ内シツラヒナドス」[illegible]、八「イセト[illegible]レ、ねやノ[illegible]サトニ、ヒルネシテ、日タカキ夏ノ、カゲヲスグサン」

ね・や (名) [根矢] 通矢ノ木鏃ニ對シテ、鐵鏃ノ矢ヲ云フカ、[illegible]日記、正保三年四月十四日「[illegible]、[illegible]、[illegible]守[illegible]門、[illegible]三十三[illegible]ニテ、根[illegible]、[illegible]射ノ他ル、[illegible]、[illegible]九分、[illegible]長サ二寸五分、矢ノ重サ八匁ヨリ十二匁マデ」倉谷四[illegible]、[illegible]、[illegible]シテ、[illegible]出[illegible]、[illegible]シケル[illegible]ニ、根矢一手、打違テ水上ヨリ流來レバ」

ね・やす (名) [直安] 直段ノ安キコト。安價。[illegible]價

ね・や・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [[illegible]] (練るニ通ズ) 二、[illegible]リテ粘ラスコネル。名義抄「挺、ネヤス、搦、ネヤス、マロガス、[illegible]、ネヤス」字[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、ネヤニ、[illegible]、ネエタリ」潘岳、西征賦「上之遷[illegible]下、猶ニ鈞之埏[illegible]埴」[illegible]ド、[illegible]平スコト [illegible]須、錬、[illegible]也須」天治字鏡、六「冶、銷也、[illegible]也須也」名義抄「[illegible]、ネヤス、ナヤス、キタフ、[illegible]、ネヤス、イル、鎔、カネネヤス、イル、トロモス、ワカス、[illegible]、ネヤ[illegible]」

ね・やど (名) [閨所] ネヤ。フシド。萬葉集、[illegible]長歌「シモトトル、里ヲサガコエハ、寝屋處マデ、來タチヨバヒヌ」

ね・やま (名) [根山] 近キ山ナリトゾイフ。[illegible]、[illegible]、[illegible]歸ルね山ノ、鳥ノ一聲」

ね・ゆ・ユル・ユレ・エ・エヨ (自動、下二) [[illegible]] ねはる(粘)ニ同ジ。[illegible]

ね・ゆき (名) [根雪] 降リカタマリテ、常ニ融ケズシテアル雪。又、降リツモルモトトナル雪。

ねよ・ごのかね (名) [人定鐘] 亥ノ時ノ鐘。[illegible]、[illegible]、[illegible]ツツノ、ナドテマダキニ、人リヌラム、ねよごのかねノ、オトモセナクニ[illegible]

ねら・は・る (動) [狙] (ねらふノ延、東國ノ方言ナラム) 睨ミツメテ、アテムトス。[illegible] 遊ニ手入定ニ火担[illegible]、[illegible]川女、叫[illegible]、不知東西ニ、サノサセ、ネナヘ[illegible]

ねら・ひ (名) [狙] ネラフコト。メアテ。[illegible]

ねら・ひ・うち (名) [狙撃] [illegible]撃ツコト。ソゲキ。

ねら・ひ・がり (名) [狙狩] トモシ、火串ナドヲモテスル夏山ノ狩。照射狩 [illegible]山(享保、近松作)ニ「トモシスル、火串ノ影ノねらひ[illegible]、[illegible]ハ[illegible]ヲ追ウテ殺シ」

ねら・ひ・すま・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [狙澄] 善ク善ク狙フ。十分ニ狙フ。[illegible]所カラ差サウ、ねらひすましテ、サイナクレウゾ」

ねら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [狙] (ねるノ延) モノヲネキヤウニナス、[illegible]二弾ヒサセラレヤセルナラバ、何卒ねらうテ見マセ

ねら・ふ・フ・フ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [狙] [illegible]目ヲツケテ窺ヒ見ル。目的物ニ注意ス。手ニ入レムト機會ヲ待ツ。

ねり (名) [練] (一)練ルコト。(二)絹、錢ノ練リタルモノ。生絹ニ對ス。[illegible] [illegible]

ねり (名) [[illegible]] [illegible]草ノ名。ごろろふひ

ねり (名) [[illegible]] ネルコト、静ニ歩ムコト。

ねり (名) [[illegible]] コマカネリ。

ねり (名) [[illegible]] ねりがね(鍊鐵)ノ略。[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

ねり・いと (名) [練絲] 練リテ柔ニシタル絹絲。[illegible]

ねり・いろ (名) [練色] ウスキ黄色。淡黄色。[illegible]

ねり・かう (名) [[illegible]] [illegible]、[illegible]、[illegible]

ねり・かね (名) [[illegible]] [illegible]

酒トニ入レテ、貯ヘタル甕。

ねりがき (名) [煉柹] ねり柿ノ類カ。拾芥抄、七、菓名、ねりがき、古ヘハ、オコリシカド、リドメレバ、トねりがきメモ、今ハキツヘシ

ねりがね (名) [錬鐵] 〔練金ノ義〕 クロガネ。略シテ、ねり。てつ(鐵)ノ條ヲ見ヨ。 和名抄「鐵、ネル、ネリカネ」 康頼本草、下、廿七「生鐵、…加…、…、是不…之類也」 字鏡「鍊、消金也、…」 神功紀、四十六年三月「鐵鋌四十枚」 齊明紀、六年三月「阿倍臣、乃積二綵帛兵鐵等於海畔一而令二貪嗜一」

ねりかは (名) [練革] いためがは(撓革)ニ同ジ。

ねりがむ (動) [齝] 〔練リ噛むノ義カ、にれがむトモ云フ、音轉ナリ。料、かに。あれつく、ありつく〕 にけがむ(齝)に同ジ。牛、鹿ナドノ、草ヲ、一旦、嚥ミテ呑ミ、叉吐キ出シテ再ビ食フ。轉ジテ、にれがむ。反芻ス。

ねりぎぬ (名) [練絹 熟絹] 練リタル絹布。カイネリ。ネリヌキ。シジラ。(生絹ニ對ス) 倭名抄、十二、布帛類「練、…利岐沼」 續紀、元年五月「以二帛印一…悉…二其字一」

ねりくやう (名) [練供養] 佛家ノ儀式。來迎ノ諸菩薩ニ扮シテネル假裝行列。中古、菩薩衆ト云ヒキ。諸國ニアレド、大和ノ當麻寺ノ遶供養(今、五月十四、十五日)、殊ニ名高シト。行道供養。 江家次第、十三、…寺供養儀「菩薩衆、菩薩十人擧一供花」 練供養ノ儀式、此ノ來迎引接ノ法事ハ、惠心僧都始シ置キ玉フ、云云、寛弘元年ノ頃、當都井ニ寵印供奉ト共ニ此所ニ來タリ、來迎ノ本尊、又、廿五菩薩ノ假面ヲ彫リテ、同二年四月十四日、法如ノ往生ノ日ヲ以テ、迎接會ヲ行ヒ給フ」 華實年浪草(天明、鵜川文)四、上、四月「練供養、云云」

ねりぐら (名) [煉鞍] 革ニテ包ミタル上ニ、煉物ヲ附ケテ塗リタル鞍。

ねりぐり (名) [煉線] ヒトヨノ絲、撚ラヌ絹絲。 三條家裝束抄「上著、壯年ノ人、…也、其ト爲シテ、白キ浮織物、地ハ小…、…中ニ有二寶ノ文一、中年ノ人ハ、堅織物、文ハ丸、遠ク居レ之、變紅ノ板引、腰ニ有二上指絲一、白キ練線ノ絲フトクヨリテ指レ之、段立ニ有二…ノ絲一(白練絲フトキ也)」 宗吾大雙紙「大口、云云、モトダチノキハニテ、ねりぐりノ絲ニテトヅベシ」

ねりざけ (名) [煉酒] 製、白酒ニ似テ、甚ダ濃クシテ粘リ、味、甘美ナルモノ。常ノ酒ニ和シテ、淡クシテ飲ム。筑前國、博多ニ産ズ。 筑前續風土記、廿七「博多練酒、其ノ色、練絹ノ如ク成ル故ニ、練酒ト稱ス、其ノシボリテ漉シタルヲ練酒ト云フ、糟トモニ用フルヲ…練酒ト云フ」

ねりそ (名) 「捩麻ノ義カ」 木ノ枝ヲ揉ヂテ繩ニ綯ヒタルモノ。薪ナド束ヌ。 拾遺集、十三、戀、三「カノ岡ニ、萩刈ル男、繩ヲナミ、ネルヤねりそノ、碎ケテゾ思フ」 後拾遺集、十八、雜、四「深山木ヲ、ねりそモテ結フ、賤ノ男ハ、ナホコリズマノ、心トゾ見ル」 夫木抄、三十三、綱「ミヤ木ヒク、ねりそノツナノ、モモカラミ、ヨワルケシキモ、見エヌ君カナ」

ねりつば (名) [練鐔] 練革ヲ重ネテ覆輪シタル刀ノ鐔。 盛衰記、三十五、高綱渡二宇治河一事「廿四插シタル小中黑ノ矢負ヒ、練鐔ノ太刀佩イテ、鎌倉殿ヨリ給ハリタル磨墨ト云フ名馬ニ」 同、十五、宇治合戰事「黑塗ノ太刀ノ三尺五寸アルニ、煉つば入レテ、熊ノ皮ノ尻鞘ヲサス」

ねりにんぎやう (名) [煉人形] 土ヲネリ固メテ、作リタル人形。

ねりぬき (名) [練貫] 〔練緯ノ義〕 生絲ヲ經トシ、練絲ヲ緯トシテ織レル絹布ノ名。略シテ、ねり。織リテ後ニ縮マセ

タルヲ、絹(練緯)ノ練貫ト云ヒ、…ナラヌヲ、熨斗目の練貫ト云フ。皆、儀式ノ服ニシテ、尊卑、用ヲ分ツ。 字類抄「練、ネリヌキ、…也」 太平記、廿七、田樂事「イツクシキ女房ノ、練貫ノ褄高ク取リケルガ」 羽倉考(羽倉在滿)裝服考「練貫ハ可…、…之類、之事、云云」

ねりのむらど (名) 所所ニ妻戸アルコト。板屋ニテ戸ノ多キニモ云フ。 萬葉集、四、五十一「事問ハヌ、木サヘアヂサヰ、諸茅ラガ、練乃村戸ニ、アザムカエケリ」

ねりばかま (名) [練袴] 練リタル綾絹ニテ作リタル袴。 盛衰記、四十八、法皇大原入御事「二位殿ハ先帝ヲ奉レ懷テ、練袴ノソバ高クハサミ、云云、鈍色ノ二ツ衣ウチ被キ」

ねりべい (名) [練屏 練塀] 瓦ト練リタル土トニテ、層層築キ上ゲテ造リタル垣。上ニ瓦ヲ葺ク。カハラガキ。土墻。 續猿蓑集「水仙ヤ、練屏割レシ、日ノ透間」

ねりまだいこん (名) [練馬大根] モト武藏國、北豐島郡、練馬村ノ邊ニ産ズル大根。甚ダ太ク、味、又、美ナリ。今、昔ヨリモ、其名、衰ヘタリ。 のぼり鶴「行ク年ヲ、イカニねりまノ、大根馬」

ねりもの (名) [煉物] 煉リタル物ノ汎稱。又、硫黃、蠟ナド、諸藥物ヲ煉リテ、珊瑚、寶石ナド、擬ヘ作レルモノ。

ねりもの (名) [遶物] 祭禮ニ遶リ行ク車樂、其他、種種ノ飾物ノ稱。祭ノ附物。 好色一代男(天和、西鶴)五「京ヨリ結構ナ伊勢參リガアルハト、門立チ騷ギ、練物ヲ見ルガ如クゾカシ」

ねりやうカン (名) [煉羊羹] やうかん(羊羹)ノ條ヲ見ヨ。

ねりやく (名) [煉藥] 諸藥ヲ調和シテ、蜜ニテ煉リ合ハセタルモノ。ネリグス

リ。 夕霧阿波鳴渡(正德、近松)中「…按摩デ、…ウヤウト命繋イデ」

ネル (名) ねる(小絨)ノ略。其條ヲ見ヨ。

ねる (名) 小絨 〔せるニ對ス〕 ふらん

ね・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [徐歩] 〔行キトドコホリテ、歩ム狀、物ヲ練ルガ如シ〕 靜ニ歩ム。ソロソロト行ク。又、足ドリノ細カナルコトヲ、おまかねり(細練)ト云フ。 神樂歌、銀「銀ノ、目貫ノ太刀ヲ、下ゲ佩キテ、奈良ノ都ヲ、ねるハ誰ガ子ゾ」 催馬樂、我門「我ガ門ヲ、トサンカウサン、ねる男」 新六帖、一「我ガ門ヲ、サシワヅラヒテ、ねる男、サゾタチマチノ、月モ見ルラム」 夫木抄、三十、雜中「九重ニ、タタメル玉ノ、御階ヨリ、傾ク月ノ、ねりノボルカナ」 (月卿徐歩ノ意)「ねり供養」ねり物」

ね・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [煉] 怒リテ人ニ、モノ言ヒカク。 宇治拾遺、十、第一條「出納云フヤウ、オレハ何事云フゾトねりタツル」

ね・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [練] (一)灰汁ニテ、煮テ漚シテ、ヤハラカニス。(絹ニ) 宇津保物語、藏開、上、五十三「カメニねりタルウチ綾」 法中裝束抄、鈍色白裳付香染事「白裳ハ必練テ粉ヲ付張ニセル也」 (二)燒キテ、鍛フ。(金類ニ) 鍊 煉 (三)捏ネマゼテ、粘ラス。ネヤス。(膏藥、糊、膠、土ナド) 埏 太平記、十八、瓜生擧旗事「泥ニ粘らレタル魚ノ如クニテ」 (四)撓メ作ル。(革ニ云フ) (五)慣、習フ。繰返シテ精シク學ブ。(學問ニ) 練 (六)推敲ス。「句ヲ練る」 浮世床(文化、三馬)初編、中「イヤイヤ、爰ヂャトナ、氣ヲ丹田ニ錬ッテ、金一分ヲ胃ノ腑ニトッテ」「兵ヲねる」

ねる・ネル・ネレ・ネ・ネ・ネヨ(自動、下二) [寢] (一)ぬ(寢)ノ口語。寢ヌ。眠ル。 七十一番職人盡歌合、六十三番「カゲ法師、見苦シケレバ、辻スマフ、月ヲウシロニ、ナシテねるカナ」 (二)臥

ス。横ニナル。倒ル。(三)流行、衰フ。(四)麹、暖室ノ中ニテ成ル。(ねかすノ自動) [illegible] 又、商品賣レズニアル。

ねれもの (名) [illegible] 事ニ馴レタル人。クロウト。老[illegible]家。

ね・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 熟練 [illegible] 慣ラレテ成ル。[illegible]、習ヒテ巧ニナル [illegible] 海道名所記(萬治)二「旅人ノ、過グルヲトメテ、打チ[illegible]ク、手ノシナ川ゾ、ねれテ見エケル」

ねろ (名) 嶺 〔ろハ助辭、伊香保ノいかほろ、岡ノをろト同意〕 嶺ト云フニ同ジ。萬葉集、十四「上野ヌ、伊香保ノ[illegible]ニ、[illegible]雪ノ、行キ過ギガテヌ、妹ガ家ノアタリ」 同、同七「足柄ノ、箱根ノ[illegible]呂ノ、ニコグサノ、花妻ナレヤ、紐解カズネム」

ねわけ (名) 根分 植物ノ根ヲ分ケテ、移シ植ウルコト。「菊ノ根分」

ねわす・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 寝忘 寝過シテ、時ヲ失フ、ネスグス。[illegible] 寝忘れテ、[illegible]ビ行ク[illegible]ヤ、草ノ[illegible]」

ねわたし (名) 嶺渡 嶺ヨリ吹キワタス風。特ニ、比良ノ嶺ヨリ琵琶湖ヘ吹キワタス風。千載集、六、冬「嵐吹ク、比良ノ高嶺ノ、ねわたしニ、アハレシグルル、神無月カナ」 山家集、下、[illegible]「ね渡しニ、[illegible]ノ[illegible]ヤ、立テツラム、コビキマチツル、越ノ中山」

ねわたり (名) 根渡 草ノ根ノ、[illegible]渡ルコト。[illegible]千首、中[illegible]ヲ、[illegible]エタル[illegible]ノ、根わたりニ、一モトワクル、秋ノ白露」

ねを (名) 根緒 三味線ノ絃ノ一端ニ着クル絹紐。コレヲ根緒[illegible]ニ懸ケ、絃ノ他ノ一端ヲ絲巻ニ纏ギテ、[illegible]

ねをかけ (名) 根緒懸 三味線ノ棹ノ一端ノ、[illegible]緒ヲ懸[illegible]

ねをなく・ク・ケ・キ・ク(自動、四) [illegible]

[illegible] 泣ク。ねヲ[illegible] 音泣 [illegible] (二)[illegible] 見ヨ。後撰集、十一、戀、三「コレヲ見ヨ、人モスサメヌ、戀ストテ、音をなく蟲ノ、ナレル姿ヲ」 新勅撰集、十五、戀、四「イカニセム、音をなく蟲ノ、カラ衣、人モトガメヌ、袖ノ涙ヲ」 千載集、十五、戀、五「音をなけバ、袖ハ朽チテモ、失ヒヌメリ、ナホ[illegible]ヤ、ツキセザリケル」

の

の 五十音圖、奈行第五ノ假名。(なノ條ヲ見ヨ)

の (名) 野 〔[illegible]ノ轉〕 [illegible]キ平地。原ノ。ノハラ。倭名抄、[illegible]田[illegible]、野、乃」 名義抄「野、ノ、ノラ、ハラ」

の (名) 箆 〔矢ノ度ノ意カト云フ〕 (一)竹ノ一種、矢竹、其條ヲ見ヨ。倭名抄、廿[illegible]「箆、乃、[illegible]竹名也」 [illegible]、ヤノ」 和玉篇「箆、ノ」 (二)矢幹。矢ノミキ。神代紀、上「千[illegible]千[illegible]ノ[illegible]之[illegible]」 [illegible]、十「足日木笶(竹矢ノ合字)、山ヨリ來セバ、サ小鹿ノ、妻ヨブ[illegible]ヲ、[illegible]カマシモノヲ」 [illegible]式、[illegible] 二千二百[illegible]株」

の (天爾) 之 第一類ノ天爾遠波 名詞ト名詞トノ關係ヲ示スモノ。而シテ、其意、種種アリ。(一)所有ノ意ヲ示スモノ。「大君の御世」「人の國」 (二)由ル所、係ル所ヲ示スモノ。「[illegible]花[illegible]」「[illegible]ノ中」 (三)に、ノ意ヲ示スモノ。古今集、二、春、下「二[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]の多ク[illegible]ヘリケレニ」 [illegible]

集「同ジ道ニ、恥カシゲナル男の行キアヒタリシカバ」 (四)にて、ある、ノ意ヲ示スモノ、「コレの[illegible]」 [illegible] ノ。「越の白山」「阿波の鳴門」 (六)こと、ノ意ヲ示スモノ。萬葉集、五[illegible]アメツチ[illegible]、共ニ久シク、言[illegible]ゲト、此クシミタマ、シカシケラシモ」 伊勢物語、第六段「女の心合ハセテ[illegible]ミ出デ」 (七)さ、いふ、ノ意ヲ示スモノ。[illegible]上の山奥の國」 (八)の如き、ノ意ヲ示スモノ。「花の[illegible]」「[illegible]の命」 (九)の如く、ノ意ヲ示スモノ。神功[illegible]、五十[illegible]、タマキハル、内ノ阿曾ガ、[illegible]ノ、痛手負ハズ、鳰鳥ノ、潜セナ」 古今集、十一、戀、一「吉野川、岩[illegible]高ク、行ク水の、早クゾ人ヲ、思ヒソメテシ」 同、十一、戀、一「[illegible]ナレバ、[illegible]、[illegible]、イツマデ[illegible]、シ[illegible]」 (十)[illegible]、ノ意。[illegible]モノ、[illegible] 次ニ、を、トアルベキヲ、ソノ約リタルノシルシト存候ハン」 (十一)種種ノ語ノ末ニ添ヒテ、上下ノ語ノ係屬ヲ示スモノ。「結ブの神」口惜シの事」面白の夜」幾何の數」 [illegible]

の (天爾) 第二類ノ[illegible] 上ニ名詞ヲ[illegible]ケテ、下ハ動詞、形容詞ニ係リ、其動作ヲ起ス所ノ名詞ヲ、特ニ舉ゲ示ス意ノモノ。がニ同ジ。古今集、一、春、上「[illegible]タテバ、花トヤ見ラン白雪ノ、カカレル枝ニ、[illegible]の鳴ク」 後拾遺集、一、春、上「梅ノ花、カバカリニホフ、山ザトハ、行交フ人の、心ヲゾ見ル」「待ツ人のナキ[illegible]のノドケキ」

の (名) [illegible] [illegible]ノ[illegible]、[illegible]フ」 ワタリ。ハタバリ。布帛ノ、幅ヲ[illegible] [illegible] レルハ、八九寸、乃至、一尺ナリ。倭名抄、十二[illegible]布類「幅、[illegible]、ノ」 字[illegible]抄「幅、ノ」 [illegible] 四月、一[illegible]ハ幅ノ[illegible]、[illegible]」 [illegible] 「スキカケシ、主ハ[illegible]レトモ、[illegible]ネドモ、ヒトの[illegible]

[illegible] 信濃[illegible] 八幅、八尺、アルハ[illegible]、[illegible]、八の[illegible] [illegible] 藤原[illegible] [illegible] [illegible] ホコロビニクリ」 [illegible] 十九、[illegible]

のあかざ (名) 野藜 藜ノ一種、[illegible]白[illegible]、[illegible]、白ク、赤キアリテ、[illegible]、[illegible]、[illegible]

のあざみ (名) 野薊 薊ノ一種、[illegible] 原野ニ生ズ。[illegible]、[illegible] 花、花、大[illegible] 葉、[illegible]

のあそび (名) 野遊 [illegible]〔野ニ出デテ遊ブコト〕 [illegible] 人[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]ニ出ル、[illegible]カナ」

のあひ (名) 野合 野田 野ニテ出合フコト。[illegible]ノ[illegible]ナリトモ、コレホドハ [illegible] 四年[illegible]月九日、[illegible]

のあへ (名) 野饗 野ニテ饗スル [illegible] 死ヌマジキニ、[illegible]カナ」

のあらし (名) 野荒 田畑ヲアラスコト。又、ソノ人、獸ナド。

のいずみ [illegible] [illegible] ノ意ト云フ [illegible] 、[illegible]、はたたか [illegible]

のいた (名) 野板 挽キ割リタルママノ板。未ダ鉋削リセザル板。アライタ。

のいたち (名) 【野鼬】 てん(貂)ニ同ジ。 [illegible]「[illegible]、ノイタチ、テン」

のいぬ (名) 【野犬】 方方ヲ、サマヨヒ歩ク飼主ナキ犬。ノライヌ。ヤケン。

のいばら (名) 【野薔薇】 ばらノ一種。原野ニ自生ス。枝ニ刺多ク、花ハ白色ニシテ五瓣、香氣多ク、豆大ノ實ヲ結ブ。ノバラ。 [illegible]、一、草類、上「野薔薇(ノイバラ)ハ山野ニ多シ、高サ五六尺ニ過ギ、枝條繁リ延フ」

のい-ふ-す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 【偃】 【痿】 〔え伏すノ義カ〕 萎エ伏ス。ノエフス。 名義抄「偃、ノイフス、ノキフス、タフル、ノケサマ」「偃臥、ノイフセリ」 左傳集解(宮内省圖書寮御藏、文治ヨリ弘安マデノ間ノ寫本)「偃、ノイフス」 [illegible]、下、[illegible]「カバカリ宏[illegible]ナル時ニハ、[illegible]ヒキンヤト思フハ、オキナラカ嬉シキヤトリセ、[illegible]トイテ、門ヲダニササデ、ヤスラカニのいふしタレバ」

のう (名) 【能】 (一)物事ヲ巧ニ能ク爲シ得ルコト。(二)伎倆アルモノ。ハタラキアル人。才智アル人。 詩經、大雅、蕩之什、烝民篇、小序「任レ賢使レ能、周室中興焉」 孟子、公孫丑、上篇「尊レ賢使レ能」 (三)技(ワザ)。藝(ゲイ)。 【技倆】 書經、大禹謨篇「天下莫三與レ汝爭レ能」 三代實錄、七、貞觀五年五月「新伎散樂、競盡二其能一」 西宮記、七、相撲「相撲事、能優一番」 徒然草、百五十段「能ヲツカントスル人、ヨクセザラムホドハ、慭(ナマジヒ)ニ人ニシラレジ、内内ヨクナラヒ得テ、サシ出デタランコソ、イト心ニクカラメト、常ニイフメレド、カクイフ人、一藝モ習ヒ得ル事ナシ」 (四)功能。驗(シルシ)。キキメ。 功驗「藥ノ能」

のう (名) 【能】 〔猿樂ノ能藝ト云ヒシヲ、後ニ略シテ單ニ能ト云ヘリ〕 舞樂ノ一種。最初ハ神前ノ舞踊ナリシガ、當時ノ舞容、音樂ナドヲ集メテ大成シ、後ニハ將軍家ノ式樂トナレリ。而モ猿樂ノ一種ノ能藝トシテ立チタルハ、鎌倉時代ノ末ナラムト云フ。室町時代ノ初ニ、諸國ノ大社ニハ、各、數座ノ猿樂ノ家アリ、神事能ヲ勤ム。春日神社ニ結崎(後世ノ觀世)、外山(トヒ)(後世ノ寶生)、坂戸(後世ノ金剛)、圓滿井(エマヰ)(後世ノ金春)、ノ四座アリ。日吉神社ニ山階、下坂、比叡ノ三座、伊勢大神宮ニ和田、勝田、主門ノ三座、賀茂、住吉ニモアリタリ。應永中、結崎次郎清次、足利義滿ノ童坊トナリ、此伎ヲ演ジテ寵セラル、觀阿彌ト稱ス。其子元清、世阿彌ト稱シ、父子、新曲ヲ製シ、孫元重、音阿彌ト稱シ、觀世音ノ頭字ヲ取リテ觀世ト改稱ス。盛ニ武家ニ用キラレ、觀世、寶生、金剛、金春ヲ四座ノ猿樂ト稱シ、徳川時代ニ及ベリ。徳川綱吉、更ニ喜多ノ一座ヲ立ツ。能樂。さるがく(猿樂)ノ條ヲモ參見セヨ。 尺素往來(一條兼良)「新座本座田樂、各可レ播二所能一候」(田樂、猿樂、共ニ能ナリ、其猿樂能ハ歴史上ノ事ヲ演ジ、單ニ能トモ云フ) 太平記、廿七、田樂事「新座本座ノ田樂ヲ合セ、老若ヲ分チ、能ヲ較(クラ)ベサセケル」 油糟(寛永版、貞徳)「高砂ノ、能ノ面ノ、煤ハキテ」

のう (名) 【農】 (一)田畠ヲ耕シ、穀菜ヲ作ルコト。耕作ノワザ。農業。(二)又、其事ヲ業トスル人。農民。農人。ヒャクシャウ。 漢書、食貨志「闢レ土植レ穀曰レ農」 論語、子路篇「樊遲請レ學レ稼、子曰、吾不レ如二老農一」 帝範(唐、太宗)「夫食爲二人天一、農爲二國本一」

のう (名) 【膿】 ウミ。ウミシル。(腫物ノ) 史記、倉公傳「此病疽也、内發二於腸胃之間一、後五日當二擁腫一、後八日嘔レ膿死」「膿ヲナガセス」

のう-いしやう (名) 【能衣裳】 能ヲ舞フ時ニ、着用スル衣裳。

のう-え (名) 【能依】 他ノ事物ヲタヨリトスル事物、例ヘバ、土地ト草木トノ關係ニ於ケル草木ナドノ類。

のう-えん (名) 【濃艶】 コマヤカニシテ、ウルハシキコト。 李白、清平調「一枝濃艷露凝レ香」 朗詠集、上「雖レ謂二大無一レ心、[illegible]分二濃艷之色一」

のう-か (名) 【農家】 (一)農民ノ家。百姓(ヒャクシャウ)家。 陸游詩「歸來每羨農家樂、月下風傳打レ稻聲」 (二)古ノ學派ノ名。 漢書、藝文志「農家者流」

のう-かう (名) 【濃香】 コマヤカナルニホヒ。 朗詠集、上「[illegible]仙方之雪[illegible]色、濃香芬郁、妓[illegible]之烟讓レ薫」

のう-がき (名) 【能書】 藥ノ功能ヲ書キツケタルモノ。功能書。

のう-がく (名) 【農學】 農業ニ係ル學問。

のう-がく (名) 【能樂】 のう(能)ニ同ジ。さるがく(猿樂)ノ條ヲモ參見セヨ。

のうがく-だう (名) 【能樂堂】 能樂ヲ演ズルタメノ建物。

のう-かん (名) 【農間】【農閑】 農事ノヒマナル時。

のう-きやうげん (名) 【能狂言】 (一)能樂ト、能樂ニ附屬シタル狂言ト。(二)能樂ノ間ニ行フ狂言。(三)能樂ノコト。(歌舞伎芝居ノ狂言ニ對スル稱)

のう-ぐ (名) 【農具】 農業ニ用キル道具。 管子、禁藏篇「[illegible]農具、當二器械一、耕農當二攻戰一」 庭訓往來、三月「鋤、鍬、[illegible]等農具、令レ耕作便、[illegible]早稻、晩稻等一」

のう-くわん (名) 【能管】 のうぶえ(能笛)ニ同ジ。

のう-げ (名) 【能化】 (一)能ク人ヲ教化スルコト。 法苑珠林(唐、釋道世)「佛是能化之人」 (二)他ヲ能ク教化スル者ノ意ニテ、僧ノ師ノ稱。其化セラルル弟子ヲ所化(ショケ)ト云フ。 華嚴玄談、九「[illegible]」 [illegible]、廿四「[illegible]ニヨリテ、報身、應化ノ形、異ナレトモ」 菅原傳授手習鑑(延享、竹田出雲等合作)四「師匠ハ彌陀佛、釋迦牟尼佛、六道能化ノ弟子ニナリ」

のう-げい (名) 【能藝】 (一)田樂、猿樂、狂言ノ類ヲ云フ。(二)げいのう(藝能)ニ同ジ。 保元物語、二、左府御最後事「能藝優長ニシテ、才智人ニ勝レタリ」

のう-げい (名) 【農藝】 穀物、果樹ノ類ヲウヱ作ルコト。農業。又、農事ニ關スル技藝。

のう-けつ (名) 【膿血】 ウミト、チト。又、ウミチ。 謡曲、安達原「膿血忽ナ[illegible]シ」

のう-げふ (名) 【農業】 耕作ノ事。農民ノ生業(ナリハヒ)。ヒャクシャウワザ。 漢書、宣帝紀「[illegible]樂人、使レ歸レ就二農業一」 紀略、前編、十四、天長九年四月「皇后幸二雲林亭一、觀二農業之風一」

のう-こう (名) 【農功】 のうじ(農事)ニ同ジ。 左傳、襄公二十五年「子産曰、政如二農功一、日夜思レ之、思二其始一而成二其終一、朝夕而行レ之、行無レ越レ思、如二農之有一レ畔、其過鮮矣」

のう-こう (名) 【農工】 (一)農民ト、工人ト。 蘇軾詩「東坡作レ塘今幾尺、携レ酒一勞農工苦」 (二)農業ト、工業ト。農工業。 史記、始皇紀「今天下已定、法令出レ一、百姓當レ家、則力二農工一」

のう-こう (名) 【濃厚】 コクアツキコト。淡白ナラザルコト。 禮記、儒行篇「其飲食不レ溽」 [illegible]「溽之言、欲也、[illegible]、濃厚也」

のう-こう-しやう (名) 【農工商】 又、農商工。(一)農民ト、工人ト、商人ト。コレニ士ヲ加ヘテ、四民ト云フ。(二)農業

ト、工業ト、商業ト。農工商業。

のうさ (名) |能作| 傳[illegible]ノ語、[illegible]意ノ三業ノ稱(所作ニ對ス)

のうさい (名) |能才| 事ヲ處理スルハタラキ。又、物事ニ堪能ナル才。又、其人。

ノウ-ソウ
のうさう (名) |濃粧| 又、のうしゃう。ヨキヨソホヒ。アツゲシャウ。 白居易[illegible]

ノウ-ソウ
のうさう (名) |農桑| 耕作ト、養蠶ト。 [illegible]

田桑ニ [illegible]

のうざ (名) |野毛| 野生ノ毛 毛ハ、常ハ茶褐色ニ灰色ヲ交ヘ、寒地ノモノハ、冬季、白色ニ變ズ。

のうさく (名) |農作| 田畠ヲ耕シテ、穀菜ヲツクルコト。耕作。 白虎通(漢、班固)「神農制耒耜、敎民農作」

のうさんぶつ (名) |農產物| 農業ノ生產物。例ヘバ、穀類、豆類、野菜、果物、卵、乳、又、蠶ノ繭ナドノ類。農產。

のうし (名) |野牛| 野飼ノ牛。牧ニ飼フ牛。牧牛 [illegible]「[illegible]ウナヰコガ、ウチタレ髮ノ、生ヒ亂レツツ」

のうし (名) |能士| 才能アル人。ハタラキアル人。 [illegible]

のうじ (名) |農時| 農業ノ忙ガハシキ時ナドヲ云フ語 [illegible]「不違農時、穀不可勝食也」

のうじ (名) |農事| 農業ノ事。耕作ニ關スル事。又、農民ノワザ。農功 [illegible] 令[illegible]「孟春之月、云云、王命布農事、命田舍東郊」

のうじ (名) |能事| (一)能クスル事。シトゲベキワザ [illegible] 之[illegible]

[illegible]而長之、天下之能事畢矣」(二)永ク堪フルコト。ナガモチノスルコト。

のうじん (名) |[illegible]| [illegible]

のうしん (名) |農人| のうふ(農夫)ニ同ジ。 [illegible]

のうしゃ (名) |能者| 才能アル人。物事ニ堪能ナルモノ。 左傳、僖公十五年「姑樹[illegible]德、以待能者」 [illegible]中將ハ、[illegible]ノ能者ニテオハシマスナリ」

のうしゃ (名) |農舍| (一)ヒャクシャウヤ。又、ヰナカヤ。田舍。(二)收穫ノ處理ヲ行フタメノ屋舍

ノウ-ショウ
のうしゃう (名) |能聲| 聲ノヨキコト。又、其人 [illegible]常ニ四十八人ノ能聲ノ[illegible]ヘテ、一日七日ノ念佛ヲ勤行ス」

ノウ-ショウ
のうしゃう (名) [illegible] モト農商務大臣ノ異稱。今、農林大臣ノ異稱。

ノウ-ショウ
のうしゃう (名) |農商| (一)農民ト、商人ト。(二)農業ト、商業ト。農商業。

ノウ-ショウ-コウ
のうしゃうこう (名) |農商工| のうこうしゃう(農工商)ニ同ジ。

ノウ-ショウ-ム-ショウ
のうしゃうむしゃう (名) |農商務省| 農林、商工ノ兩省ノ分離セザリシ以前ノ[illegible] 農商務大臣ノ統轄ノ下ニ、農、工、商、ノ業、及、水產、山林、地質、鑛山、事業[illegible]、[illegible]ノ事ヲ[illegible]セシ中央官廳。

ノウショウム-ダイジン
のうしゃうむだいじん (名) |農商務大臣| [illegible]國務大臣ノ一。[illegible]ノ長官トシテ、農商務省ノ事務ヲ統轄セシモノ。

のうしょ (名) |能所| 〔能化所化ノ略〕能[illegible]ノト、化セラルルモノト。 [illegible]「[illegible]能所、能所[illegible]」

のうしょ (名) |[illegible]| [illegible]ノウショ」 [illegible]筆ヲ擇ばずトハ、[illegible]ノ人ハ、[illegible] 語曰、能書不擇筆」 [illegible]「能書不擇筆、[illegible]也」

のうしょく (名) |農職| 農業ニ從事スルコト。又、ソノ人。 謠曲、[illegible]「コレハ[illegible]田ノ里ニ住ミテ、久シキ當ナルガ、[illegible]リ」

のうせい (名) |農政| 農業ニ關スル制度、法律、農業行政 [illegible]

ノウ-シコウ
のうせう (名) |[illegible]| 次[illegible]ノ[illegible] [illegible]

ノウゼン-カズラ
のうぜんかづら (名) |凌霄花| [illegible]

[illegible]

のうそう (名) |[illegible]| (古言、なばさばノ[illegible]

前)

のうそん (名) |農村| [illegible] 村。農夫ヨリ成立スル村。

のうたん (名) |濃淡| コキト、ウスキト。[illegible]

のうち (名) |農地| 農業ノタメニ使用スル土地。[illegible]

のうてき (名) |能笛| のうぶえ(能笛)ニ同ジ。

のうでん (名) [illegible]

のうどう (名) [illegible] ハタラキヲ仕掛クルコト。[illegible]

のうにん (名) |[illegible]| [illegible]

のうにん (名) |農人| のうみん(農民)ニ同ジ。

のうのう (名) [illegible]

のうのう [illegible]

ノウ-ノウ（副）のおのおニ同ジ。

のう-のう-と（副）［暢暢］艱苦ノナクナリテ、氣ノ、ノビノビシタル狀ニ云フ語。浮世風呂、文化、式亭三馬）初編、下「四五日モ内ニ居ルカラ、ヤレヤレ、のうのうとシタト思フト」

のう-ひつ（名）［能筆］のうしよ（能書）ニ同ジ。入木抄（群書類從本）筆仕肝要事「紙上ニ字ヲナシ候事ハ、能筆モ非能筆モ、同事ニテ候ヘドモ、筆ヅカヒニヨリテ、善惡アヒ別レ候ナリ」榎陰比事（元祿、西鶴）五「中ニモ、能筆ニテ指南人ノタメ」

のう-ふ（名）［農夫］農業ニ從事スル者。耕作ヲ業トスル人。ヒヤクシヤウ　田夫。農人。孟子、滕文公、下篇「士之仕也、猶農夫之耕也」三代實錄、十二、貞觀八年閏三月朔日「覽耕田農夫田婦」

のう-ふ（名）［農婦］農業ニ從事スル婦人。耕作ヲ業トスル女。田婦。

のう-ぶえ（名）［能笛］能樂ニ用ヰル橫笛。のうてき。のうくわん。

のう-ぶたい（名）［能舞臺］能樂ヲ演ズルタメノ舞臺。

のう-ぶん（名）［能文］文ヲ能クスルコト。文章ニ巧ナルコト　文章ヲ巧ニ書クコト。宋史、蘇頌傳「俊邁能文、倜儻有氣概」

のう-へい（名）［農兵］（一）平日ハ農業ニ從事シ、事アル時ハ武裝シテ戰フ兵士。屯田兵（二）農民ヲ以テ組織シタル兵。

のう-べん（名）［能辯］辯舌ノ敏クシテ、巧ナルコト　雄辯　雲萍雜志（安政、柳亭種彥）「自ラ軍談セラルルニ、實ニ能辯ニテ懸河瀉水、今聽者生ニ當感激ノ事也ニ「能辯家」

のう-ほ（名）［農畝］農作ヲ行フベキ土地。又、農民ノ住メル地。

のう-ま（名）［野馬］牧ニ飼フ馬。野飼ノ

馬ノマ、牧馬　倭訓栞「のうま、野飼ノ馬ヲイヘリ、似馬而小ナル一種ノ野馬アリ、野牛ノ如シ」

のう-まい（名）［能米］クロ米　玄米　又、乃米。庭訓往來、五月「能米、馬大豆」盛衰記、十九、闘性検ニ八員ニ事「飲食ニ能米八石、衣服ニ美絹八匹」

のう-みつ（名）［濃密］密度ノコマヤカナルコト。又、シゲキコト。

のう-みん（名）［農民］農業ヲナス民。農夫　農ハ、田夫。ヒヤクシヤウ　史記、日者傳「事私利、枉主法、獵農民、以官爲威、以法爲機、求利逆暴」三代實錄、八、貞觀六年十二月廿五日「行耕田之禮、欲令帝覽之、知農民之有事也」

のう-む（名）［農務］（一）農業ニ關スル事務。耕作ノ仕事。宋史、食貨志「民有飲博怠于農務者、農師譏察之」杜甫詩「農務村村急、春流岸岸深」（二）農業ニ關スル政務。

のう-む（名）［濃霧］コマヤカニ、トヂコメタルキリ、フカク立ツ霧、コキキリ。密霧。趙孟頫詩「初日收濃霧、微波亂小星」

の-うめ（名）［野梅］野生ノ梅ノ木。又、ソノ花。野梅。

のう-めん（名）［能面］能樂ニ用ヰル假面。

のう-やくしや（名）［能役者］猿樂ノ能ヲ演ズルヲ業トスル人、能樂師。

のう-らく（名）［能樂］ノラクラト遊ビテ暮スコト。又、ソノ人。ノラクラモノ。

のう-り（名）［能吏］事務ニ堪能ナル官吏。漢書、王吉傳「上郡觀政事、任用能吏」

のう-りき（名）［能力］寺ニ仕ヘテ、力役ヲナス男。寺男。謠曲、道成寺「イカニ能力、ハヤ鐘ヲバ鐘樓ヘ上ゲテアルカ」

のうりき-づきん（名）［能力頭巾］能樂ニテ、能力ノカムル頭巾。

のう-りつ（名）［能率］（一）デキアガリノホド。（二）力ガ、物體ヲ、或點ノ周リニ引キ廻ハサムトスルキキメ。

のう-りよく（名）［能力］（一）能ク働キ得ル力。（身體ニ、精神ニ）柳宗元、牛賦「命有好醜、匪汝能力」（二）〔英語、Faculty. ノ譯語〕精神ガ一定ノ作用ヲナシ得ル性能ノ稱。

の-うるし（名）［野漆］草ノ名。水濕ノ原野ニ生ジ、莖ノ高サ一二尺、葉ハ披針形ニシテ互生ス。四月頃、梢上ニ互葉ヲ輪生シ、コレヨリ五枝ヲ出シ、更ニ細梗ヲ出シテ、淺黃色ノ花ヲ開ク　其莖葉ヲ切レバ白汁ヲ出ス。有毒植物ナリ。一名、サハウルシ。草藺茹

ノウ-れん（名）［暖簾］〔ふうれん、ノ轉〕のれん（暖簾）、及、ふうれん（暖簾）ノ條ヲ見ヨ　饅頭屋本節用集、乃、財寶「暖簾、ノウレン」醒睡笑（元和、安樂庵策傳）五「のうれんノ内ヨリ」博多小女郎波枕（享保、近松作）中「夫婦打連レ歸リシガ、暖簾ハヅシ大戸ヲシメテ、黑焦ニ借屋札、コリャドウヂャ」

ノウれん-きり（名）［暖簾裁］江戶、新吉原ナドニテ、繁榮セル娼家ノ暖簾ノ、繁昌セザル妓樓ノモノ、シノビテ、ハジヲキリテ、オノガ家ノ暖簾ニヌヒックレバ、其家、盛ニナルトテ、ヌスミテキルコトヲ云フ（倭訓栞）

のう-ゑん（名）［農園］主トシテ、花卉、果樹ナドヲ栽培スル園。

のう-をとこ（名）［農男］耕作ヲスル男

のえ-ふ-す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）［偃］〔痿え伏すノ義カ〕のいふす（偃）ニ同ジ。

蝉丸（正德、近松作）二「我ガ御國ノ大王、百王國ノ御守、のえふす民コソメデタケレ」

の-おくり（名）［野送］のべおくり（野邊送）ニ同ジ　女殺油地獄（享保、近松作）下「誰レヲ野送り、アア氣味ワル」

ノオト（名）〔英語、Note.〕（一）註。註釋。（二）手形。（三）手控。書附。（四）音符。（五）次條ノ語ノ略稱。

ノオト-ブック（名）〔英語、Note book.〕手控ノ帳面、手帳　雜記帳　筆記帳

ノオ-ノオ（副）〔英語、No, no.〕イナイナ。イヤイヤ。

ノオベル-しやうきん（名）［のおべる賞金］〔英語、Nobel prizes.〕瑞典ノ發明家、且、慈善家ノのおべる（Alfred Bernhard Nobel. 1833-96）ガ、西紀千八百九十六年遺言シテ、其遺產金一千五百萬磅ヲ提供シ、其利子ヨリ、毎年、學術ノ獎勵トシテ、五種ノ發明家ニ與フル賞金。委員ノ決定シタル當選者ニハ、何レノ國ノ人タルヲ問ハズ、コレヲ與フ。其五種トハ、理學、化學、醫學ニ於ケル最モ緊要ナル發見者、文學上、最モ理想ニ適ヘル著述者、及、世界平和ニ貢獻セル大功勞者。

~の-かがみ（名）［白前］〔野鏡ノ義ト云フ〕草ノ名、すずめのおけ（雀苧桶）ニ同ジ　倭名抄、廿、草木「白前、能加加美」本草和名、上「白前、乃加加美」典藥式、諸國進年料雜「近江國、云云、白前一斤二兩」

の-がく（名）［野角］七寸角以上ノ角材ノ、丸身ツキタルモノ。

の-がけ（名）［野掛］春、秋ノ長閑ナル日

ナドニ、人ノ連レ立チテ、飲食ヲ備シ、野山ヲカケテ遊ブコト。野掛遊。　室町日記、廿、狂歌所望事「或時、玄旨法印ヲハジメトシテ、サルベキオノオノ、野がけニ出デタマヒテ、芝居ヲサダメ、座ニツカレケレバ、云云」　聞書秘鈔「野がけト云フハ、見物ナドノ時、原カ山カニテ、花見ナドノ時、フルマヒノ事ナリ」

のがけ（名）［野懸］ 野山ヲ遊ビ歩ク時、ソノ場ニテ行フ茶湯。シバヰノクヮイ。

のが・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［逃］〔のがる（逃）ノ他動〕 逃ルルニ任ス。逃ゲシム。ニガス。　謡曲、敦盛「後ヨリ熊谷の次郎直實、逃さじト追ッカケタリ」

のかぜ（名）［野風］ 野ニ吹ク風。野ノ風。　古今集、十五、戀、五「吹キマヨフ、野風ヲ寒ミ、秋萩ノ、ウツリモユクカ、人ノ心ノ」　拾遺愚草、上「尋ヌレバ、花ノ露ノミ、コボレツツ、野風ニ比フ、松蟲ノ聲」

のかづき（名）［箆被］ 鏃ノ矢竹ニ接スル所ノ稱。　平治物語、二、待賢門軍事「二ノ矢ヲ射タリケレバ、オシツケニ、チャウトアタッテ、のかづき碎ケテ、ヲドリカヘレリ」　太平記、三、笠置軍事「三人張リノ弓ニ、十三束三伏、箆かづきノ上マテ引キカケ、暫シ堅メテ丁ト放ツ」

のかはり（名）［幅替］ 衣服ノ布帛ニ、色ノ變ハリタル幅ヲ、雜ヘ縫附クルコト。

のがひ（名）［野飼］ 牛、馬ナドヲ牧ニ飼フコト。ハナシガヒ。放牧。放飼。　江家次第、七、月次祭「以二野飼馬一令レ充」　後拾遺集、十九、雜別「若ガ手ヲ、カレ行ク秋ノ、未ニシモ、野飼ニ放ツ、馬ゾカナシキ」　萬代集、十四、雜、一「野飼セシ、駒ノハルヨリ、採リシニ、盡ズモ有哉、ヨドノ若菰」

のか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）モノヲ他ニヤル。　字類抄「郚、却、送、遣、遺、ノカフ」

のが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［野飼］ 牛、馬ナドヲ、野飼ニス。ハナシガヒニス。放牧ス。　後撰集、十八、雜、四「陸奥ノ、ヲブチノ駒モ、のがふニハ、荒レコソマサレ、懐クモノカハ」　後拾遺集、十五、雜、一「のがはネド、荒レ行ク駒ヲ、イカガセム、杜ノ下草、サカリナラネバ」　同、三、夏「夏草ハ、結ブバカリニ、ナリニケリ、のがひシ駒ヤ、アクガレヌラム」

のがみ（名）［野髪］ 馬ノ髪、即チ鬣ノ、自然ニ垂レタルモノ。　醫心方、四、治髪禿令「[illegible]鬢、[illegible]根也、乃加美」　弓馬故實「馬ノ髪ハ、野髪、ヤリホフシ、二品ナリ」　今川了俊（寛永、近松作）五「品育チノのがみノ馬、引ッ立テ」　古今夷曲集（寛文六）「[illegible]ノ、のがみヲユヒテ、行ク行クモ、俵モテナソヨキ、蒲原ノ道」

のがん（名）［野雁］ 渉禽類ノ一。頸、長ク、尾、短ク、雁ニ似タレバ名トスレドモ、野ニ群飛スル陸鳥ナリ。背、脚、鴇ニ似テ黒ク、指ハ前ニ三指ノミニシテ、距ナシ。頭ト肩トノ端、灰色ニシテ、背ヨリ尾マデハ、赤褐ニシテ黒キ横斑アリ。豹ノ斑ノ如クニテ美シ。胸、腹、白ク、頰ニ淡白ノ長鬚アリ。［鴇］

のがらし（名）［野芥］ いぬがらし（犬芥）ノ一名。其條ヲ見ヨ。

のがらす（名）［野烏］ 野ニ居ル烏。　俳言新選「のがらすノ、[illegible]ニ[illegible]テ行ク、春ノ水」

のがら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［逃逝］〔逝るノ延〕 マヌカル。ノガル。ニゲル。

のが・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［逃遁］〔逃離るノ義、遠く二逝るノ義ナドイフ〕 禍ヨリ離ル。逃グ。避ク。マヌカル。ノガレル。　字類抄「逃、遁、逋、避、ノガル」　盛衰記、十四、淨見原天皇事「夜深ウシテ通リ難シ、[illegible]」　[illegible]遺集、十九、雜、[illegible]「天ノ下、のがるる人ノ、無ケレバヤ、[illegible]由セナキ」　古今集、[illegible]「[illegible]ヨソメトノミゾ、のがれ行ク、雲ノアハ立ツ、山ノ麓ニ」　蜻蛉日記、下、下「[illegible]イマサラニ、イカナル駒カ、懐クベキ、スサメヌ草ト、のがれニシ身ヲ」

のが・れる（口）［逃遁］ 前條[illegible]口語。

のき（名）［軒檐簷宇］〔延木ノ意カ、或ハ、云フ、屋内ヲ除ノ義カト〕 屋根ノ端ノ、四方ヘ垂リテ突キ出デタル所。[illegible] 軒の端木ト[illegible]、軒ニ[illegible]。又、軒の下、軒の[illegible]ナド[illegible]。　玉葉集、一、春、上「春雨ハ、クル人モナク、アトタエヌ、柴ガ門ノ、のきのいとみづ」　謡、三十[illegible]、眞木柱[illegible]「ナガメスル、軒の雫ニ、袖ヌレテ、ウタカタ人ヲ、シノバサラメヤ」　新古今集、一、春、上「ツクヅクト、春ノナガメノ、[illegible]」

のぎ（名）［芒］〔延木ノ意カ〕（一）稻、麥ナドノ、穗ニ出ヅル剛キ毛ノ如キモノ。ノゲ。　倭名抄、十七「[illegible]乃木」　[illegible]「[illegible]ハ落チテ、ムラムラ穗サキ、出デニケラシモ」（二）魚ノ骨ノ、[illegible]。骨鯁　倭名抄、十九「[illegible]、乃木」　名義抄「鯁、ノキ、魚ノノギ」　天治字鏡、九「[illegible]」　[illegible]物不得[illegible]」

のきあひ（名）［軒合］ 軒ノスキマ。軒ノアハヒ。　辨内侍日記「雲ノ上ヤ、イヅクハアレド、のきあひノ、ヒマモル月ノ、影ゾサヤケキ」

のきあを［[illegible]］ [illegible]もみぢがさ（紅葉傘）ノ條ヲ見ヨ。

のきいた（名）［軒板］ 次條ヲ見ヨ。

のきうら（名）［軒裏］ 軒ノ、壁ヨリ出張リ[illegible]

のき[illegible]（名）［[illegible]］ 牛車ノ[illegible]「壯年人袖搭子、三重[illegible]、如[illegible]、軒搭子、帶[illegible]」

のきガハラ（名）［軒瓦］ こもちがはら（子持瓦）ニ同ジ。　津國女夫池、[illegible]（近松作）四「積リヌエタル[illegible]、傍ク[illegible]ノ土トノミ」

のぎく（名）［野菊］（一）古名、カハラヨモギ。カハラオハギ。今、又、干本菊、よめなニ似テ、葉、稍、薄ク小サク、尖リ多シ。花ニ、一重、又、八重アリテ、色、黄ナリ。（二）又、よめな（嫁菜）ノ一名。（三）又、あぶらぎく（油菊）ノ一名。

のきくち（名）［退口除口］ 陣地ヲ退却セムトスル時、退陣ノ折。　甲陽軍鑑、十三、品第三十九「[illegible]、山口アツト退陣ノ度アリ」[illegible]

のきげた（名）［軒桁］ 軒下ニアリテ、垂木ヲ受ケ、又、小屋組ヲ支フル桁。

のき[illegible]（名）［軒[illegible]］ 軒、下[illegible]

のきしのぶ（名）［軒[illegible]］ [illegible]

のき[illegible] [illegible]

のき[illegible]ら（名）［[illegible]］ [illegible]

のきすけ（名）［[illegible]］ [illegible]

のきチ・ウチン [illegible]

ドノ時、軒ニツルス提燈。

のきなみ (名) ｜軒並｜ (一)ハナミ。次條ノ語ニ同ジ。 [illegible]キハラフ、タエマヨリ、ウミ[illegible]シロキ、サミダレノ雲」

のきならび (名) ｜軒並｜ 家ノ並ビ合フコト。又、並ビテ倚レル家。ノキナミ。比屋

のきのすけ (名) ｜榱｜ 〔軒の助ノ義、支柱ト別チテ軒の助ト云フ〕今、軒付(ノキツケ)ノ麗木ヲ云フ。やねまたぢ(屋根下地)ノ條ヲ見ヨ。 字鏡「榱、連、椽木、在橡之端」 倭名抄、十「居宅具、文様、[illegible]乃須介」

のきのすずめ (名) ｜軒雀｜ (一)軒下ニ居ルスズメ。 賑草(元祿、灰屋紀益)「今頃ハ彌生ノ半ナリ、軒の雀トテ、外ノ鳥ヨリハ、人近キモノ、云云、早クハ逃ゲ去ラズ、家ノ内マデモ入リテ餌ヲ求ム、子ヲ育ヒ侍ル故ナリ」 (二)めなしどち(目無共)ノ條ヲ見ヨ。

のきば (名) ｜軒端｜ 〔增韻「檐宇之末曰レ軒」〕 檐ノ末。軒ノ端(ハ)。又、軒端近ク見ユル處。又、軒ニ近ク見ユルコト。 玉葉集、十五、雜、二「月ノイル、枕ノ山ハ、アケソメテ、軒端ヲワタル、曉ノ雲」 千載集、一、春、上「風ワタル、軒端ノ梅ニ、鶯ノ、ナキテネツタフ、春ノ曙」 新千載集、四、秋、上「雲ハラフ、軒端ノ山ノ、秋風ニ、更ケテ木ズエノ、月ゾ晴レ行ク」 風雅集、十五、雜、上「山人ノ、軒ばノ道ニ、急ガズバ、知ラデヤ年ノ、クレヲ過ギマシ」

のぎは (名) ｜野際｜ 野ノアタリ。ノベ。

のきばう・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) ｜退羽撃｜ (一)鷹狩ノ鷹ニ云フ語。飼主ニ離レテ、ソレ行ク。 金葉集、九、雜、上「のきばうつ、マシロノ鷹ノ、エブクロニ、ヲキエモササデ、カヘシツルカナ」 (二)轉ジテ、輿ニテ鷹ヲツカフ所ノ、柱ノヌキサシ。 [illegible]傳註「[illegible]ノ左ノ陽ノ柱ヲバ、ヌキサシニスル事ハ、延喜帝ヨリ始リテ、御[illegible]のきばうつト云フ」

のぎへん (名) ｜禾偏｜ 〔禾ノ字ヲ析キテ、「ノ木」ト讀ミタルモノカ、或ハ、禾芒(ノギ)ノ意カ〕 漢字ノ偏ニアル禾ノ字ノ稱。私、秋、科、租、稅ナドノ如シ。

のきみち (名) ｜退道・退路｜ 退キ去ル路。ノガレ行ク方面。

のぎめ (名) ｜芒目｜ 陶器、鑛物ナドノ肌ニアル芒ノ如キ文理。

のぎやうかう (名) ｜野行幸｜ 主上ノ鷹狩ニ出デ給フコト。 十訓抄、下、第十、五十八條「白河院御位ノ時、野行幸ト云フ事アリテ、嵯峨野ニオハシツキテ」

のきランプ (名) ｜街洋燈｜ 街衢、又ハ、軒ナドニ燈ス燈火。ガイトウ。軒燈。

のきわり (名) ｜軒割｜ 負擔ヲ、戶數ニ應ジテ割リアツルコト。

の・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) ｜仰｜ アフノク。ノケゾル。 字類抄「仰、ノク、ノケサマ」

の・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) ｜退｜ (一)避ケテ、離レ去ル。シリゾク。避ク。タチノク。 大鏡、上、陽成天皇「世ヲシラセ給フコト八年、のかセ給ウテ六十五年ナレバ」 拾玉集、三、花五十首「身ノウサニ、オモヒヨソヘテ、ナガムレド、のかヌハ花ノ、ナサケナリケリ」 同、同「ワケイレバ、ソレニモ見エズ、中中ニ、のきテゾ花ハ、見ルベカリケル」 (二)軍(イクサ)シテ退ク。退陣ス。 備前老人物語「カカルモ引クモ、時ノシホアヒ、合戰ノ習ナリ、其方ガ退きヤウ、シヲラシ」 (三)組合、又ハ、仲間ヨリ脫ス。シリゾク。脫退ス。

の・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) ｜退除｜ 〔退くノ他動〕 退クヤウニナス。シリゾクル。除ク。取放シテ、外ヘ遣ル。ドケル。 枕草子、九、百十三段「タテル車ドモヲ、タダのけニのけサセテ」 徒然草、二百十九段「笛ハ吹キナガラ、息ノウチニテ、且ツ調ベモテユクモノナレバ、穴ゴトニ口傳ノ上ニ、性骨ヲ加ヘテ、心ヲ入ルルコト、五ノ穴ミノニ限ラズ、偏ニのくトバカリモ定ムベカラズ」 狂言記、鐘腹「腰ノ骨ヲ打折テのけウ」

のぐち (名) ｜篦口｜ 矢ノ篦ノ口。鏃ヲ差込ム所。

のぐつ (名) ｜野沓｜ (一)草鞋(ワラヂ)ノ異稱。 運歩色葉集「野鞋、ノグツ」 (二)馬具ノ切附(キツツケ)(卽チ下鞍)ノ緣ニ打チタル細ソキ金具。 後松日記、十八、野沓「コレハ切付ノ野沓ニ御座候、堂上ノ古實ニハ、晴ノトキ、野沓ヲ打不レ申候ヨシ、オモシロキコトニ御座候」 土岐家聞書「野ぐつ、シホ手ハ赤銅ニ」

のぐは (名) ｜野桑｜ やまぐは(山桑)ニ同ジ。くは(桑)ノ條ヲ見ヨ。

のぐら (名) ｜野倉｜ 古ヘ、大藏省ニ屬セシ倉ノ一。藥種ヲ納メタルモノ。 江家次第、一、供ニ御藥ニ「藏人奉ニ書司ニ向ニ大藏省野倉ニ出ニ藥」 江次第抄、一、正月「野倉、在ニ大藏省中ニ藏ニ藥種ニ之所也」

のけ (名) ｜退除｜ ノクルコト。シリゾクルコト。又、其モノ。

のげ (名) ｜芒｜ のぎ(芒)ノ訛。 書言字考節用集、六、生植門「穎、ノゲ、句瑞、禾穗也」「花、芒、ノゲ、句角、草端也」 倭訓栞、廿三「のけ、のぎノ俗語也」

のげいとう (名) ｜野鷄頭｜ 古名、ウマサク。アマサク、草ノ名。春ノ末ニ、一根ニ一莖ヲ生ズ。高キハ五六尺、葉ハ互生シ、けいとう(鷄頭)ニ似テ、淡綠ナリ。夏ノ末ニ、枝ノ梢每ニ、三五寸ノ穗ヲ生ジ、小花、密ニ綴ル。大キサ指ノ如ク、本、白ク、末、淡紅ナリ。 ‖青葙‖ ‖雞冠菜‖ 書言字考節用集、六、生植門「野雞冠、ノケイトウ、本名、靑葙、又云、鼠尾草、草決明」 [illegible](元祿、貝原好古)七、草木門「靑葙子、ノケイトウゲ」

のげうちうた (名) ｜芒打歌｜ 稻、麥ナドノ、芒ヲ打チ取ルトキニ唄フ歌。 伊豆の歌「ウラガ隣ハ十七ゾロヒ、イツモトントン歌ノ聲」 「麥ヲ作ラバ靑島麥ヲ、イヤヨ、白麥ヤ身ヲヤツス」

のけえもん (名) ｜仰衣紋｜ 〔あをのけえもんナルベシ〕 今、訛シテ、ぬきえもん。又、スキバシエモン。衣ノ領(エリ)ヲ、後ヘ引キサグルヤウニ着ルコト。コレト反對ナルヲ、錢持領(ゼニモチクビ)ト云フ。 北條五代記、五、關東昔侍形儀異樣事「若殿原達ハ、云云、衣裳ヲ着ルニハ、のけえもんト名付テ、ケダカク引ツクロヒ」 竹齋物語(寬永、光廣)「羽織ハ、イカニモススビタル紫紬ノ襟ヲサシ、のけえもんニゾ着ナシケル」

のけかぶと (名) ｜仰兜｜ 兜ヲ、アヲノケニカブルコト。甲(カブト)ヲ、アミダニ被ルコト。猪頸(キクビ)ニ着ルコト。 平家物語、九、河原合戰事「武士五六騎、のけ甲ニ戰ヒナッテ、云云、馳セ參ル」 梅松論「敵ニテハ無シテ、大山ノ衆徒、云云、十餘人相具シテ、のけかぶとニ成テゾ參ケル」

のけくび (名) ｜仰領｜ 衣ノ領(クビ)ヲ後ニ下ゲテ、仰樣(ノケサマ)ニ着ルコト。ヌキエモン。ノケエモン。 枕草子、十二、百五十七段「見グルシキモノ、衣ノ脊縫、片寄セテ着タル人、又のけ首シタル人」 北條五代記、五、關東昔侍形儀異樣事「衣裳ヲ着ルニハ、のけえもんト名付テ、云云、エリヲ脊中ノ中ボネ四ノユマデノケテ、云云、後(ウシロ)ノえもんつきト袴腰ノ間、五寸六寸程アリシ也」

のけさまに (副) ｜仰樣｜ 背ノ方ヘ。アヲノケニ。ウヘムキニ。 字類抄「偃、ノケサマナリ、偃臥、仰」 竹取物語「ヤシマノ鼎ノ上ニ、のけさまニ落チタマヘリ」 伊勢集「のけさまニ、君ニ負ハレシ、我ナレヤ、セナカアハセニ、人ノナルラム」 近世怪談霜夜星(文化、種彥)一「鬮ツカンデヒキ起セバ、のけさまニ撞ト倒レ」

のげぉ (名) [illegible] けぉあざみ(芥子薊)ニ同ジ。[illegible]

のけぞ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 仰反 仰ギテ背ヘ反ル。ノケニソル。 [illegible] 絶倒 [illegible]

のけざま (副) 仰 仰ギテ背ヘ。アフノケニ、ノケザマニ。[illegible]「八町次郎、のけさま倒レテ轉ビケリ」平家物語、五、[illegible]「のけさま突キ倒ス」「のけさま反ル」

のけもの (名) 退物 モノヨリ、ノクルコト。又、ソノモノ。ソッチノケ。除外。

の・ける (動) 退 のく(退、下二段)ノ口語。

のぉ (名) 鋸 次條ノ語ノ略。[illegible]物語、十九、本、三位中將於二南都一被レ切、[illegible]モシ、のぉニテモ切リテ、ナブリ殺サン事一[illegible]云云、畿内及山陽道ニテ、のぉト云フ」

のぉぎり (名) 鋸 「のぼぎりノ[illegible]」略シテ、のぉ。古ク、ノボギリ。木、竹ヲ挽キ切ル具。鐵ニテ、甚ダ薄ク、平タク、長方形ニ作リ、其一邊ニ、細カキ歯ヲ列ネテ刻ミ作リ、歯毎ニ、タガヒチガヒニ刃ヲ立テ、木柄ヲ付ス。其大ナルヲ、おがり(大鋸)ト云フ。[illegible]名義[illegible]、ノホキリ、ノコキリ」字類抄「鋸、ノコキリ、似レ刀有レ歯」七十一番職人盡歌合、四十二番、[illegible]先コレバカリヒキテ、のぉぎりノメヲキラム」

のぉぎり-さう ノコギリ・ソウ (名) 鋸草 草ノ名。山野ニ生ズ。高サ二三尺、莖ハ紫色、葉ハ細長ク、羽状ニシテ、鋸歯アリ、夏秋ノ頃、白花ヲ開ク。めど(蓍)ニ同ジ。[illegible]、アシクサ(古名)、メトクサ(同上)、メドキ、ノコギリサウ」

のぉぎり-びき (名) 鋸引 試逆ナドノ大罪人ニ科スル刑。徳川氏ノ制ニハ、先ヅ[illegible]、[illegible]、晒シ[illegible]、其首ヲ[illegible]、竹鋸ヲ[illegible]、挽キ[illegible]、[illegible]、路行ク人ニ挽カシメタリト云フ)市ニ肆スコト[illegible]日、後ニ、引廻シタル上、磔ニ行フ。[illegible] 四日「太閤ニ被レ召置レ候女房、御暇不レ申出レ候テ男持候乃罪、云云、親二人、土ヘ堀入、首ヲ出シテ、首ヲ七日ニ竹鋸ニテ[illegible]」

のぉくづ ノコ・クズ (名) 鋸屑 おがくづ(大鋸屑)ニ同ジ。[illegible]太平記[illegible]「[illegible]ヘバ、イハルルトテ、頭ニ口ノ開イタママ、大海ヲ子テデ防グ[illegible]ヒ分、心中重井[illegible]物ヲ[illegible]、アイツハ[illegible]ヒト、鋸屑ノ[illegible]ヒ甲斐ナキ、ソネミセ下ノヤクゾカシ」

のぉぉろ (名) 野心 [illegible]語 山野ヲ慕フ心アリテ、人ニナヅカヌコト。[illegible]のぉぉろ、野心ノ[illegible]、[illegible]リ一[illegible]、百首、[illegible]ウツカニアル、[illegible]ヤ、のぉぉろモナク、ヤガ[illegible]」

のぉ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 殘遺 (のさるノ他動) 殘ルヤウニナス。退ケテ止ム。後ニ留ム。餘マシテ置ク。萬葉集、十五 卅七「ワガセコガ、歸リキマサム、時ノタメ、イノチ[illegible]、忘レ給フナ」

のぉのぉと (副) 何[illegible]、又ハ、平氣ニ進ミ出ヅル狀、又、伸[illegible]出ヅル狀ニ云フ語。[illegible]ノサノサト[illegible]所へ、のぉのぉとコロビテゾ來タリケル」

のぉひいた ノゴイ・イタ (名) 拭板 〔能ク拭フ所ナレバ云フ〕[illegible]數ノ中ノ板數ノ所。[illegible]殿御元服記「管領代座ノ通、のぉひ板へ下リテ着座」

のぉひの ノゴイ・ノ (名) 拭[illegible] 白[illegible]、[illegible]ウスク塗リタルモノ。[illegible]ウヲサウニ拾フル時ハ、のぉひのニスル也」佐竹[illegible]

のぉ・ふ ノゴ・ウ [illegible] 拭[illegible]ニ同ジ。[illegible]「拭、ノゴヒテ」[illegible]八、[illegible]、拭、中、[illegible]カヘリコト、[illegible]モチ、[illegible]比、ムセビッツ[illegible]同、六[illegible]「マスラヲト、オモヘルワレヤ、水ククキノ、ミツキノウヘニ、ナミダ拭[illegible]」中務集[illegible]キクニテ、オモテのぉひタル人アリ」[illegible]四、若枝「てのぉひ」

のぉん (名) 殘 のさり(殘)ノ音便。但シ、天爾乎波ノのニ連續スル時ニ限リテ用ヰル。最明寺殿百人上臈(元祿、近松作)下「殘んノ月ハ浮カメドモ」

のぉんのゆき (名) 殘雪 雪ノ消ヱ殘リタルモノ。冬ニ降レル雪ノ、春カケテ、消エ殘レルモノ。[illegible]用集、一、乾坤門「宿雪、ノコンノユキ、又云、殘雪」難波江、二、下、のさんの雪、コゾフレル雪ノ、春カケノ歌[illegible]七首アリテ、ミナ春ノ雪ヲノセタリ、堀河院百首ニハ、コゾノ雪ヲモ、春ノ雪ヲモヨメリ、サレド、コゾノ雪ヲヨメルガ多キ也」[illegible]曲、[illegible]、殘んの雪ノ、[illegible]

のぉらず (副) 不殘 [illegible]コトゴトク。スベテ。[illegible]グレモイタク、モル山ハ、下葉のぉらず、色ヅキニケリ」狂言記、松楯「ヤレヤレ嬉シヤ嬉シヤ、不レ殘[illegible]

のぉり (名) 殘 ノコルコト。ノコリタルモノ。[illegible]「のさりの雪ハセン[illegible]」

のぉりおほ・し・シ・キ・ケ・[illegible]

のぉりぎく (名) 殘菊 [illegible] [illegible]ノ名。[illegible]ニ[illegible]、[illegible]テ、[illegible]ヽ裏ハ白ナリトモ云ヘリ。

のぉりぐさ (名) 殘草 ふゆぎく(冬菊)ノ異稱

のぉりぉ (名) 殘[illegible] 〔殘留ノ義〕 今、今、おらトスルハ、殘[illegible]ノ義[illegible]。殺ヲ存シテ來トスルニ、猶、皮ヲ脱セズシテ殘ルモノ。今、ア[illegible]。[illegible]稱、[illegible]、和名抄、十七[illegible]、[illegible]

のぉりずくな (名) 殘少 殘ルモノ少キコト。太平記、七[illegible]、[illegible]五十餘人ノ[illegible]リ[illegible]リケレテ、其日ノ軍ハ[illegible]ケリ

のぉりな・し・シ・キ・シク・シク・[illegible] 殘惜 思ヒ殘リテ、惜シ。ノコリオホシ。遺憾。惜別

のぉ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 殘 [illegible]二三[illegible]ノアリ。[illegible]餘リテ、後ニ止マル。[illegible]ヒ[illegible]、下、見シ友ハ、アルガルナキ、[illegible]雪ニマ[illegible]ル、[illegible]ハヤクト[illegible]

荷ノ最先ニ到レルヲ取分ケタルモノ」古ヘ、諸國ノ御調ノ絹布ノ類ヲ始メ、種種ノ中ノ最物ヲ選ビテ、大神宮、又、相嘗ニ預ル神タチ、及、諸山陵ニ奉リタマヒ、其殘ヲ天皇、受納セサセタマフ。故ニ九月ノ神嘗ニ大神宮ヘ奉リ、又、十一月ノ相嘗ニ預リタマフ神神ヘモ、十二月ノ山陵ヘモ奉ラルルモノナリ。其御使ヲ荷前の使ト云フ。（清和天皇ノ御代、十陵四墓ナリシガ、延喜以來、十陵八墓ニ供ヘラル」大神宮式、新嘗祭「絹、絲、綿、布、木綿、鰒、腊、鰹、堅魚、鰒、鹽、油、海藻」註「已上諸國荷前也」祈年祭祝詞「陸ヨリ往ク道ハ、荷緒縛ヒ堅メテ、云云、荷前ハ皇大御神ノ大前ニ、横山ノゴト打積ミ置キテ」萬葉集、二「東人ノ、荷向ノ篋ノ、荷ノ緒ニモ、妹ガ情ニ、乘リニケルカモ」榮花物語、十三、木綿四手「一條宮ニハ御のさきノコトナルニツケテモ、夢トノミ、オボシメサル」

のさのさと （副）〔伸す意〕恣ニ振舞フ狀、又、平氣ナル狀ニ云フ語。ノソノソ。ノコノコ。太平記、三十六、秀詮討死事「イト靜カニ馬ヲ歩マセテ、のさのさとシテゾ居タリケル」判官物語「忠信カ打物ヒサゲテ待トコロニ、のさのさとコロビテゾ、キタリケル」雪女五枚羽子板（寶永、近松作）中「國出レ居ル潮干潟、薫分ケ鶴ノのさのさと、物ニ恐レヌ成勢ナリ」

のざは （名）〔野澤〕野ニアル澤。野邊ノ谷地。金葉集、一、春「鴫ノヰル、野澤ノ小田ヲ、打カヘシ、種マキテケリ、シメハヘテ見ユ」新古今集、一、螢トブ、野澤ニシケル、アシノ根ノ、夜ナ夜ナ下ス、通フ秋風」

のさば・る・ル・レ・ラ・リ・レ （自動、四）〔伸張る意カ〕恣ニ延ビヒロガル。延ビソベル。驕リテ、恣ナリ。ワガママス。偃蹇。放横。菅原傳授手習鑑（延享、竹田出雲等合作）一「頼ク足リノ既ナシメト、のさばる無念樹ヘル梅王」假名物語（寛永、東太郎の事）「格子ノ外ニハ、人ノ見ルヲモ知ラテ、のさばれバ」東海道名所記（萬治）六、島原「シドロナル鼻歌ヲウタヒ、のさばり行ク」曾根崎心中（元祿、近松作）中「ナント亭主、久シイノト、のさばり上レバ」

のざんせう （名）野山椒　いぬざんせう（犬山椒）ニ同ジ。

のさもの （名）ノサバル者。亂暴モノ。狂言記、禰酒「身ドモノ留守ニナレバ、兩人ノのさものトモガ、酒ヲタベ、亂暴ナト致スト申ス」同、緡纒「思フ仔細カゴサルホトニ、のさ者ヲ呼ビ出シ、申シツケウト存ズル」松風村雨束帶鑑（元祿、近松作）五「寛ミニ出ヤウト存ズル、先ヅ太郎冠者ヲ呼出シテ申ツケフト存ズル、のさ者アルカヤイ」

のざらし （名）〔野晒〕（一）野ニ晒スコト。又、ソノモノ。（二）ノザレ。されかうべ（髑髏）ニ同ジ。書言字考節用集、一、乾坤門「髑髏、ノザラシ、ノザレ、又作二野晒一」倭訓栞、中編、十八「のざらし、野ニサラサレタル髑髏ヲイヘリ、俳林ニテ夫石ト云フ」

のさりのさり （副）無遠慮ニ、差出ヅル狀ニ云フ語。ノソリノソリ。

のざれ （名）〔野晒〕（一）生レテ三ケ月以內ニ、捕ヘタル若鷹。（貞丈雜記）運歩色葉集「野晒、ノサレ、鷹」言塵集「野され、山カヘリナド云ハ、フル鷹ノ事ナリ」（二）ノザラシ。されかうべ（髑髏）ニ同ジ。

のざれのたか （名）〔野晒鷹〕冬ノ蝉鷹ヲ云フ。吳竹集、五「我ガ鷹ハ、野ざれの鷹ノ、初狩ニ、面瘦セケルモ、心ナリケリ」倭訓栞、中編、十八「藻鹽草ニ、秋尚テ、冬トリタル鷹ナリト云ヘリ、野晒ノ義ナルベシ、又、春野ニ久シクアリタルヲ山ザレトモ申ナリ、スベテ大鷹ノ事ナリト云ヘリ」

のし （名）〔熨〕〔熨すモノ〕（一）火ニテ熨スコト。（二）〔熨斗ノ略〕大鏡、中、兼通「大キナルのし持チタル女房、云云、席ヲバ暖ニ熨シ押デテ」倭名抄、十四、調度具「熨斗、乃之、所三以熨二衣裳一也」縫殿寮式「熨斗」景行紀、四年二月「淳熨斗皇女」私記「奴乃志比女」（三）ノシアハビ（熨斗鮑）ノ略。書言字考節用集、六、服食門「熨斗鮑、長鮑、ノシ」（四）方形ノ色紙ヲ、細長ク、上ハ廣ク、下ハ狹キ六角形ニ作リ、襞ヲ設ケテ折リ疊ミ、其中ニのしあはび（熨斗鮑）ヲ細ソク小サク切リテ、貼リ着ケタルモノ。

のし （名）〔のハ野、しハ羊蹄菜ナリ、野ニアル羊蹄菜ノ義〕葉、羊蹄菜ニ似テ、野ニアリ」又、しをに。今、しをん（紫菀）ト云フ。其條ノ（一）ヲ見ヨ。倭名抄、廿、草類「紫菀、能之、俗云、之乎爾」本草和名、上、十一「紫菀、乃之」

のし （代）〔主ノ訛〕オノシ。オマヘ。

のしあはび （名）〔熨斗鮑〕鮑ノ肉ヲ、かんぺう（乾瓢）ヲ剝グ如ク、薄ク長ク剝ギテ、條トシ、引キ延シテ乾シタルモノ。略シテ、のし。儀式ノ肴ニ代用シ、祝事ノ贈物ナドニ添ヘテ飾トス。（延長ノ義ニ因ル）長キママニテ用ヰルヲ、ながのしト云フ。古クハ剝ガズシテ、打チ展ベテ用ヰ、うちあはびナドトモ云ヘリ。アハビノシ。カヒザカナ。平治物語、三、頼朝遠流事「のしあはびヲ兩方ノ手ニ押シ握リテ、太キ處ヲ三口參リ、小サキ所ヲ盛安ニ投ケサセ給ヒ」庭訓往來、五月「初獻料、海月、熨斗鮑」

のしうめ （名）〔熨斗梅〕菓子ノ一種。善ク熟シタル梅ノ實ヲ、一夜、桶ニ封ジテ後、核ヲ去リテ擂リ潰シ、布ニ包ミテ絞リ、其梅肉ヲ弱火ニ掛ケテ、砂糖、葛粉ヲ加ヘテ和セシメ、油ヲヒキタル箱ナドニ入レテ、日ニ乾シテ成ル。茶菓子トシテ賞味シ、山形市ノ名物トス。

のしかか・る・ル・レ・ラ・リ・レ （自動、四）〔伸掛〕體ヲ伸シテ、敵ニカカル。アビセカカル。カサニカカル。ノリカカル。

のしがたのくぎ （名）〔熨斗形〕〔鉗鍉〕熨斗形ノ釘ノ義ト云フ。字、或ハ、浮漚釘ニ作ル、形、浮漚ノ如クナレバ云フ。今、鋲トモ云フ。「浮漚ハ音ノ轉カトモ云フ」釘ノ頭ノ、笠ノ形シタルモノ。即チ、今ノ鋲。カニノメクギ。カニメクギ。倭名抄、十五、造作具「鉗鍉、乃之加太乃久木、頭高大釘也」名義抄「鉗、ノシカシラノクキ、鉗鍉、ノシカタノクキ」書言字考節用集、七、器財門「鉗鍉釘、浮漚釘、ノシガタノクギ」

のじこ （名）〔野鵐〕小鳥ノ名。あをじ（青鵐）ニ似テ、頭、青黃ニシテ淡ク、鮮ナリ。翅ニ、黃赤黑ノ縱紋アリ、背ハ黃白ニ、脚ハ細ソクシテ淡黃赤ナリ。籠養シテ鳴聲ヲ賞ス。和漢三才圖會、四十二、原禽類「野鵐、俗云、乃之古、草雀」飼鳥必用、下「野路子、のじこ、此鳥、秋渡ル鳥ナリ、北國ヨリ出ル鳥也、云云、此鳥能鳴アルヲ賞翫ス」

のしコンブ （名）〔熨斗昆布〕ノシタル昆布。のしあはび（熨斗鮑）ノ代ニ、祝儀ナドニ用ヰルモノ。太功記（寛政、近松柳等合作）十「門出ヲ祝フのしこんぶ」

のしし （名）〔野猪〕ゐのしし（猪）ノ異名。其條ヲ見ヨ。

のしぢ （名）〔熨斗地〕絹布ノチヂミナキモノ。園太暦、延文二、年四月十五日「熨地直衣着、白、何坪年齢ニ可ニ着用ニ候哉」貞丈雜記「伏見院ニ貫文鳥ハ熨地ナリ、眞、裏ノ事ナリ」

のしちぢみ （名）〔熨斗縮〕地ノ薄キ、チヂミオリ。昔昔物語「帷子ハ奈良半晒、熨斗縮、イヅレモ高直」

のしつけ (名) [熨斗付] 「伸付(ノシツケ)ノ義ナラム」 刀劍ノ鞘ノ製ニ、金銀ノ類ヲノベテ、鞘ニ着セ作レルモノ。 武家名目抄、二百八十一、刀劍部「熨斗付ト云フハ、金銀ノ類ヲノベテ、鞘ニ着セタルヲ云フ也、近世、熨斗鞘、延付ナド云フモ、熨斗付ヨリ轉レルナルベシ」豐臣太閤御事書「のしつけノ長刀三十枝、熨斗付ノ鑓二十本、此外ハ無用ニ候事」 宗吾大雙紙「[illegible]本[illegible]柄、打鮫鞘、のし付、又、金具、目貫、カウガイマデ、金ナルハ中中不及[illegible]本[illegible]中、馬手指、云云、鞘ハ鋼ノ伸付(ノシツケ)」

のしね (名) [野稻] 稻ノ一種。旱稻(ヲカボ)ニシテ、粳(ウル)アリ、糯(モチ)アリ、粒、長大ニシテ、潔白ナリ。南蠻渡來ノ種ナレバ、梵天米(ボンテンマイ)ノ名モアリ。倭[illegible]、のしね、野稻ノ義、[illegible]田ニ殖ルヲモテ名ク」

のしば (名) [伸羽] ノバシタル翼(ツバサ)。 夫木抄、五、雉「カリソメニ、見テシトダチヲ、タチシノビ、片野ノ雉子、のしばウツナリ」

のしひとへ (名) [伸單] 張リタル練絹ノヒトヘ。 枕草子、十二、百五十七段「色黑キ人ノスズシヒトヘキタル、イと見グルシカシ、の[illegible]ひとへモ、同ジクスキタレド、ソレハ、カタハニモ見エズ、ホソノトホリタレバニヤアラン」

のしぶき (名) [伸葺] 檜ノ生皮ヲ打チ平メテ、屋根ヲ葺クコト。屋上ノ垂木ニ板ヲ張リ、木舞貫ヲ用ヰズ、直ニ[illegible]ヲ葺クヲ云フカ。 [illegible]、ノシブキ」 [illegible]、のしトハ、熨斗葺ナレドモ、作リヤウヨキニヤアラン、のしトハ、熨タルヤウニミユルヲイフ歟、コマヒヌキヲ用ヒズ、廣キ板ニテハリツメタル上ヲ葺ヲ云フトゾ」 太平記、廿六、[illegible]兄弟[illegible]「[illegible]ぶきノ[illegible]ニタニ屋ヲコトニテコソアレニ」 [illegible]、云云、[illegible]ノ分ハ[illegible]、云云、[illegible]「眞中ニ火屋有、四角方一間半、高サ二間、屋根ハの[illegible]

のしめ (名) [熨斗目] 又、のしめさそで。一種ノ絹布ノ、質服ニ裁スルモノ。經(タテ)、練絲ニシテ、緯(ヌキ)ハ、生絲ナリ。其生絲ニテ[illegible]色、紺色、茶色ナドニ織リ、腰ニ當ル所ノミヲ、白、茶、飛白ノ縞ニ織リ出ス、コレヲ腰明(コシアキ)ト云フ。腰明ナキヲ無地熨斗目ト云フ。下着ハ、上級ナルハ白無垢ヲ用ヰ、下級ナルハ茶無垢、又ハ[illegible]無垢ナリ 「[illegible]ノ地ニ、[illegible]ナラヌガ、のしめナリ、ねりぬきノ條、見合ハスベシ」 モトコレハ、官家ニ用ヰズ、武家ノ製ノモノナレバ、大紋(ダイモン)ノ下ニ着マルモノ故ニ、古ヘハ、小袖ヲツヾツヾニシテ着ス 腰がはり(ワ)ハ其遺ナリト 御成次第古實「のしめノ事、男栄ノ年ヨリタル人ノ自然メシ候ハンズル歟、御女房衆サヘ、年二十八ニ[illegible]五月五日ノ午ノ時マデ召シ[illegible]、[illegible]ノ、シ[illegible]斗目ニ腰上下、親ニツヅイテ源之介」

のしめこそで (名) [熨目小袖] 熨斗目ニテ仕立テタル小袖。ソノ腰ノ邊ニノミ、縞ヲ織リ出シタルモノヲ、こしあき(腰明)トモ云フ。前條、參見セヨ。

のしもち (名) [熨斗餅] 〔伸し餅ノ意〕 餅ヲ、平タク、厚サ五分許リニ伸シタルモノ。切餅トス。

のしやうぞく (名) [野裝束] 野袴、ブッサキ羽織ノ裝 昔、旅行ナドノ時ニ用ヰシ[illegible]

のしゆく (名) [野宿] 露天(ロテン)ニ宿スルコト。屋外ニ宿[illegible]スルコト[illegible] [illegible]

テ、野宿シテ心ニオボエハベリシ」

のしんぎ [illegible] 草ノ名。山[illegible]大[illegible]、黑[illegible]アリ、一根[illegible]、高サ一尺許リ、[illegible]、[illegible]、よめなノ花ニ似タリ。略訛シテ、シこ[illegible]六月[illegible]

のしろ (名) [箆代] 鏃ノ中心(ナカゴ)ノ箆ノ中ニサシコミタル部分。 保元物語、二、義朝白河殿夜討事「爲朝之ヲ事トモセズ、云云、山鳥ノ尾ヲ以テ作イタルニ、七寸五分ノ丸根ノ、箆中過ドテ、箆代ノアルヲ打チクハセ、暫シ保ッテヒョウト射ル」

のしろ (名) [野白] 亂レテ、マバラニシラクルコト。 太平記、三十三、京軍事「[illegible]衛門佐ノ兵ドモ、野白ニナリテゾ見エタリケル」

のしろしゆんけい (名) [能代春慶] 次條ノ見ヨ。

のしろぬり [illegible] [能代塗] [illegible]、山[illegible]郡、能代ノ地ヨリ製出[illegible]、[illegible]最モ上品ナリトス。檜ニテ器ヲ作リ、コレ[illegible]ノ色[illegible]名[illegible]フ。秋田春慶、能代春慶 [illegible]、出羽野代ノ地ニテ製スル[illegible]ノ[illegible]ナドヲイフ[illegible]

のす [illegible] [illegible] テ、長ク延ブル。ヒログ。ノバス。 [illegible]抄「[illegible]、ノス」 古事記、中[illegible]下樹ノサヤサヤ」[illegible]記、[illegible]ノハ[illegible]羽ヲのしテ鳴ク物ヂャガ」 (二) 火熨斗ニテ、布帛ノ皺、又ハ、縮ミサドリ伸シ平シカ[illegible]

のす [illegible] [乘る] ノ他動。見る、見す。借る、借す[illegible]ト同趣) (二) [上ゲ置ク、ノボス] [illegible]先生[illegible]四十[illegible]クルニ[illegible]ツツム人ノ[illegible]登板ス[illegible]消[illegible]エイヒナシテ[illegible]興ニ[illegible]

のす [illegible] 四[illegible]調子ニ合ハス[illegible] (なす) [illegible]シゾズ、ななリタリ[illegible]同[illegible]ル[illegible]

のすまひ [illegible]

のすち [illegible] 地ニ野路ナドアイ[illegible]

のずり (名) [野摺] (一) 野ノ[illegible] 出シタル裝束ノ[illegible] (二) [illegible]

のずゑ (名) [野末] 野ノハテ。[illegible]

のせ (名) [illegible] [illegible]

八、右序名、[illegible]、乃世一 [illegible]、[illegible]、[illegible] 門、[illegible]、[illegible]子、ノセー

のせう (名) 〔陵苕〕 のうぜんかづら(陵苕、凌霄花)ノ條ヲ見ヨ。

のせもの (名) 〔載物〕 寄席ニ云フ語。通例ノ演藝ニ加ヘテスル外人ノ舞踊、地方特有ノ俗謠ナドヲ云フ。

のぜり (名) 〔野芹〕 (一)柴胡ノ古名。本草和名、上十「茈胡、大金、作柴胡、乃世利、一名、波末佐久」倭名抄、廿「同字、同訓」 (二)前胡ノ古名。ノダケ。せり(芹)ノ條ヲ見ヨ。本草和名、上廿「前胡、乃世利」

の・せる (動) 〔載〕 のす(載)ノ口語。

のぞ (名) 〔喉〕 のど(喉)ノ訛。

のぞき (名) 〔覗〕 (一)覗クコト。又、覗キタルモノ。(二)次條ノ語ノ略。

のぞきからくり (名) 〔覗機關〕 大ナル匣ノ内ニ、種種ノ畫ヲ備ヘ、孔アリテ、覗ケバ、機關ニテ畫ヲ代ヘテ見スルモノ。昔、兒童ヘノ觀物トス。略シテ、からくり。又、のぞき。ノゾキメガネ。本朝文鑑(享保)「覗からくりノ地獄極樂セ、都ハ一覧ニテ善惡ヲ見スレバ」艶道通鑑(享保)花見群集「覗からくりヲ、ビイドロナシニ、大津繪ヲ生デ見ルケシキ」

のぞきめがね (名) 〔覗眼鏡〕 (一)前條ノ語ノ一名。(二)漁具ノ名。はさめがね(箱眼鏡)ノ一名。

のぞ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔臨〕 〔伸す二通ズ〕 臨ム。差シ掛ル。中右集、池ニのぞきタル松ニ、藤カカレリ」源、四十五、椎本ニ「水ニのぞきタル廊ニ、ツクリオロシタル橋ノ心バヘナド、サルカタニイトヲカシウ」「川ニのぞく」

のぞ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 〔覗窺〕 〔臨ノ〕 クヤウニシテ見ル。物ノ間ヨリウカガフ。カイマム。天治字鏡、四「[illegible]、宇加加不、乃曾久」源、五、若紫四「イカナル人ナラントロロ云フ、オリテのぞく人モアリ」今昔物語、十九、第十九語「壷屋、云云、還入テ戸ヲ閉ヂテ、壁ノ穴ヨリ臨ケバ」源、二、帚木三十八「畫ナラマシカバ、のぞきテ見奉リテマシト」同、四十九、東屋四「御簾ノ端ヨリ、のぞき給ヘルヲ、ウチミ給ヒテ、タチカヘリ」

のぞ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 〔除〕 〔除退くる意カト云フ〕 (一)省キ去ツ。取リ除ク。物ノ中ヨリ、其部分ヲ退ケ捨ツ。字類抄「除、ノソク、去也」隆信集「殿上のぞかレタリシ次ノ年ノ春」 (二)加ヘズ。入レズ。除外ス。

のぞ・こ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔除〕 〔除くノ延〕 除カレテ消ユ。ノゾカル。齊明紀、三年九月「奉妻呂湯、云云、病即[illegible]彼地、病自蠲除」沙石集、二、下、第八條「釘抜ノ寄合テ大ナル釘ヲタヤスク抜クガ如シ、重障ノのぞこるコト、オノヅカラ知ラレ侍リガタシ」同、同、上、第四條「のぞこり、罪消エテ、人天淨土ニ生レ」

のそ・のそ (副) 靜ニ、ユルヤカニ歩ク狀ニ云フ語。のさのさニ同ジ。(一說ニ、盜盜ナリト云フ) ノソリト。

のぞま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔可望〕 望ムベクアリ。コノマシ。欲シ。

のぞみ (名) 〔望〕 (一)〔望ムコト。ナガメ。眺望。萬葉集、八ニ十長歌「青波ニ、望ハタエヌ、白雲ニ、涙ハツキヌ」今鏡、下、八、腹腹御子「コト所ノタノのぞみヨリモ、難波ノアシデト見エン、ゲニト聞コエ侍リ」 (二)〔得ムト願フ目的。ネガヒ。希望。所望。源、廿九、行幸廿九「コノのぞみヲ聞キ給ヒテ、イトハナヤカニ打チ笑ヒ給ヒテ」徒然草、百四十二段「ナベテホダシ多カル人ノ、萬ニ諂ヒ、望フカキヲ見テ、無下ニ思ヒクタスハ、ヒガゴトナリ」謠曲、愛宕空也「サリナガラ、一ツノ望みヲ叶ヘ給ヘ」 (三)人望。名望。「天下ノ望みヲ[illegible]ス」

のぞみどほり (名) 〔望通〕 オモヒドホリ。

のぞ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 〔臨〕 〔伸し見る義〕 差シ掛ル。物ニ直ニ向ノウカガフ。ノゾク。ミオロス。字鏡、上「[illegible]、宇加加不、乃曾无」同、上「頫、見也、視也、乃曾牟一」古事記、上廿六「天照大神、云云、稍自戸出而臨坐之時」和泉式部集、「海ニのぞみタル松ニ、蔦ノ紅葉ノカカリタルヲ」、「池ニ臨む」谷ニ臨む」其席ニ臨む」其場ニ臨む」死ニ臨む」

のぞ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 〔望〕 (一)遠ク打見遣ル。ナガム。土佐日記、正月廿七日「カラ歌ニ、日ヲのぞめバ都遠シナド云フナル事ノサマヲ聞キテ」 (二)コヒネガフ。欲ス。ホシガル。所望ス。拾遺集、八、雜、上「のぞむ事侍リケルガ、カナヒ侍フサリケル頃ニテ」萬葉集、十二三「我ガ心ト、望み念ヘバ、アタラ夜ノ、一夜モオチズ、夢ニシ見ユル」

のぞむらくは (副) 〔望〕 望ム所ハ。願ハクハ。ナニトゾ。ドウカ。

のそらゑ (名) 〔藁本〕 (一)多年生ノ草本。莖ノ高サ三四尺、葉ハ羽狀複葉、葉柄ヲ有シ、各葉ハ卵形、鋭頭ニシテ、不正ナル鋸齒アリ。莖、葉共ニ、細毛ヲ生ズ。夏、白色ノ花ヲ開キ、複繖花序ニ排列ス。カサモチ。ソラシ。かうほん(藁本)、及、そらゑ(藁本)ノ條ヲモ見ヨ。天治字鏡、七六十「[illegible]本、乃曾良志」 (二)さるとりいばら(菝葜)ノ異名。其條ヲ見ヨ。字鏡九十六「菝葜、乃曾良自、一云、佐留加支」

のそりと (副) 又、ノッソリト。のそのそニ同ジ。

のそりのそり (副) のさりのさりニ同ジ。

のだいこ (名) 〔野太鼓〕 たいこもち(太鼓持)ノ條ヲ見ヨ。

のだいこん (名) 〔野大根〕 (一)小サキ大根。西國ニテ。(二)大根ノ一種。花ハ黄色ナレドモ、後、白色、又ハ淡紫色ニ變ズルモノ。ハマダイコン。(三)まつむしさう(山蘿蔔)ノ異名。(四)みつもとさう(狼牙)ノ異名。

のだいわう (名) 〔野大黄〕 〔根、且ツ葉、赤黄ニシテ、大根ノ根ニ似タリ〕 ぎしぎし(羊蹄菜)ニ同ジ。(京都)

のたう・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) ぬたうつ(沼田打)ニ同ジ。ヌタクル。ノタクル。ノタウチマハル。心中刃氷朔日(寶永、近松作)下「柄マデクット一刀、突カレテ、ウント反リ返ヘリ、のたうつアイノ息ノ息」

のたうはく (副) 〔謂曰〕 〔漢籍讀ニ〕 のたまはく(曰)ニ同ジ。名義抄「謂、ノタウハク、イフ、イハク」

のたう・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) 〔宣〕 のたまふ(宣)ニ同ジ。蜻蛉日記、下、中「ツカサノカミノ、コゾヨリイトセチニ、のたうぶコトノアルヲ」持統紀、二年八月「命ニ淨大肆伊勢王、奉ニ宣葬儀ニ」仁德即位前紀「先皇謂、皇位者、一日之不レ可レ空、故預選ニ明德ニ立レ王爲レ貳」

のたく・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) ぬたうつ(沼田打)ニ同ジ。ヌタクル。ノタクリマハル。假名手本忠臣藏(寛延、竹田出雲等合作)五「ウント手足ノ七顚八倒、のたくりマハルヲ脚ニテ蹴返シ、云云、刀モ抜カヌ芋ザシ執リ」

のだけ (名) 〔前胡〕 のぜり(野芹)、及、ぜんこ(前胡)ノ條ヲ見ヨ。

のだけ (名) [illegible] ノ[illegible]トネフニ同ジ。ヤダケ。[illegible]

のだち (名) 野立 のだて(野立)ニ同ジ。[illegible]

のだち (名) 野太刀 野劍 [illegible]「古へ、野行ニ佩ブル刀、常ニ太刀トノミ[illegible]モ[illegible]ノ[illegible]、平鞘、革鞘、毛拔形トモ[illegible]衞府ノ官人、常ニ帶スルヲ以テ、衞府の太刀トモ云フ。(直衣ニ帶劍スル時ハ用ヰル。束帶ノ細太刀ニ對ス) 倭名抄、十三八[illegible]ノタチ」字類抄「短刀、野劍(俗用也)、ノタチ」吾妻鏡、廿九、文應二年六月廿九日[illegible]在[illegible]中右記[illegible]年[illegible]月八日[illegible]幸、中納言[illegible]裝束、直衣、云云、[illegible]書(新井白石)「野太刀ハ甲金、フチ金エ柄ノアハセメニ金ヲフセテ」(二)後世ハ、長太刀ノ一稱 [illegible]モナクテ、大ナリヲ云フコ)

のだ・つ ツ・ネ・タ・チ・テ(自動、四) 野立 高ク伸ビ立ツ。成長ス。[illegible]百首、下[illegible]ハラ、のだつヒバリノ、シリトヒテ、マチハカラルナ、ツミノ[illegible]ナバヨ」

のだて (名) 野立 野中ニ、[illegible]ナド立テテ、小休ミスルコト。(貴人ノ[illegible]行ニ)ノダチ。

のたばく [illegible] 宣 [illegible]ニ同ジ。[illegible]廿六「[illegible]長[illegible]ノミノ、父ノミコトハ、タクヅヌノ、シラヒゲノウヘユ、ナミダタリ、ナゲキ乃多婆久」

のたまはく [illegible] 宣曰 [illegible] 宣フニハ。オホセラルルニハ。言ハルルニハ。ノタウハク。ノタバク。[illegible] 名義[illegible]宣、ノタマハク一字[illegible]ノタマハ[illegible]數之[illegible]日」[illegible]唱曰」著聞集、一、神祇「御託宣ニのたまはく」

のたま・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 宣 [illegible]「[illegible]ノ[illegible]、日本[illegible]太萬不」字類抄「宣、ノタマフ」[illegible]林[illegible]用集(慶長)[illegible]ハ「ワガイモウトドモノ、ヨロシキ聞エアルヲオモヒテのたまふトヤ、心ウランモノモイハズ」天武卽位[illegible]

のため (名) [illegible] (一)弓ノ[illegible]ヲ[illegible]メテ、曲リナドヲ直スコト。(二)[illegible]ヲ[illegible]メテ[illegible]弓ヲ[illegible]ル[illegible] 矯曲 [illegible]七十一番職人盡歌合、五十四番「ナガムトテ、我サヘ[illegible]、のためカ[illegible]ノ月」

のたら (名) 獨活 うど(獨活)ノ異名。[illegible]

のたり [illegible] [illegible]レドガ[illegible]狀[illegible][illegible]ヤ、[illegible]たりト下ガル、花マジリ」

のたりのたり (副) 「[illegible]ノ[illegible]ヲ重ネタル語」シヅカニ、ノタル狀ニ云フ語。[illegible]、ヒネモスのたりのたりカナ」

のた・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [illegible]ヒ行ク、ウネリ行ク。[illegible]ガ、[illegible]

のだるき (名) 野垂木 [illegible]セザル垂木[illegible]ニ用ヰル。

のたれ [illegible] (二)[illegible]ヲ見ヨ。(刀ノ刃ノ燒キニ云フ語)

のたれじに [illegible] 野垂死 [illegible]三界ノ浪子トナリ、野倒死スルハ後人カ」

のた・れる レ・レ・レ・レ・レ(自動、下一) [illegible]、ノタウチテ倒ルル。[illegible]

のち (名) 後 (一)次ナルコト。後レタルカタ。アト。ウシロ。(前、先ノ反) 字類[illegible]未來ノ方 [illegible] 後來 [illegible]定」萬葉集、十九「少女ラガ、後ノシルシト、ツゲヲ擣、オヒカハリオヒテ、靡キケラシモ」「後ノ[illegible]二[illegible]比賣子[illegible]四十[illegible]君シモヤ、今宵ノ歌ハ、ハヅレテハ居ル」[illegible]ナシ」(四)「ナキアト。死後。歿後。[illegible]ラム物ヲ樂ラム」「後ノ事」「後ノ事」後の親ト[illegible]おや、サナン侍ルト申スニ、ニゲナキオヤヲモ、[illegible]

のぢ (名) 野路 野ノ中ノ路。ノミチ。[illegible]分ケテ來テ、アハレ都ノ、花ヲ見ルカナ」

のちいり (名) 後入 [illegible]立ノ後ノ後座入。(茶會ノ條ヲ見ヨ)

のちおひ (名) 後生 後ニ生ルル人。[illegible]クカナシキモノニコソアリケレ、云云、のちおひノ[illegible]ト云フコトアレバ」

のちかた (名) [illegible]

のちさ (名) [illegible] [illegible]劍)ニ同ジ。

のちざま (名) [illegible]十一、[illegible]

のちさん (名) [illegible]

のちあて (名) [illegible]

のちせ (名) 後瀨 [illegible]

のちせ (名) 後世 [illegible]後日ニ逢ハム時。後ノ逢ノ[illegible]

のちぞひ (名) [illegible]

のちつれ (名) [illegible]

のちざけ (名) 後酒 [illegible]

のちどころ (名) [illegible] 後ノ[illegible] 後風 [illegible]

[illegible]ノ御のちのソカシ、[illegible]ナリテ[illegible]ジ。

のちのあさ（名）〔後朝〕 次ノ朝ニ同ジ。

のちのあした（名）〔後朝〕 男女、相逢ヒタル翌朝。ノチノアサ。キヌギヌ。枕草子、七、六十四段「のちのあしたハ、殘リ多カルコチナンスル」授童集「後の朝、別ノ後ノ朝也」

のちのおと（名）〔後事〕 (一)將來ノ事。(二)死後ノ事。死後ニ處理スベキ事。(三)死後ニ營ム佛事。後ノワザ。(四)後生ニ同ジ。榮花物語、一、月宴「ミコ、イカイカト泣キ給フ、アナウレシヤト思ヒテ、後の御事ドモヲ、思ヒ騷ケ君ソ」同、八、初花「御子ウマレ給ヒヌ、盛ヨリモ、又、後の御事トノノシラセ給フ」

のちのち（名）〔後後〕 後ノ後。アトアト。コレカラ先。以後。向後。榮花物語、[illegible]、花山[illegible]ノのちのちノ事トモ、何ノ如シ。住吉物語、中[illegible]ナルベキヤウニシテ」

のちのつき（名）〔後月〕 (一)次ナル月、翌月。(二)陰暦、九月十三夜ノ月。(次條ヲ見ヨ)　堂[illegible]、元[illegible]、[illegible]コホツ、木立モ[illegible]シ、後の月」(三)閏月ニ同ジ。閏ノ條ヲ見ヨ）　漢書、高帝紀「後九月」注「如淳曰、時因秦以十月爲歳首、至九月則[illegible]、後九月即閏月」

のちのつきみ（名）〔後月見〕 陰暦、九月十三夜ノ月見ノ稱。中秋ノ月見ニ對ス）[illegible]ふきんや(十三夜)、及、つきみ(月見)ノ條ヲ見ヨ。

のちのひな（名）〔後雛〕 陰暦、九月九日、菊ノ節句ノ雛祭。滑稽雜談(正德)十七「雛遊、云云、今又九月九日ニ賞スル女兒多シ、云云、俳[illegible]、コレヲ名ヅケテ後の雛トス」

のちのもの（名）〔後物〕 後産。出産ノ時ノ胞。宇津保物語、藏開、上、十「寅ノ時バカリニ生レ給ウテ、云云、のちのものモ、イトタヒラカナリ」

のちのよ（名）〔後世〕 (一)〔後來ノ年月、存在中ノ〕將來。後代。源、二十四、[illegible]若[illegible]、上「今ハト、ソムキ捨テ、山籠リシナム後の世ニ立チトマリテ、誰ヲ頼ムカゲニテ、物シタマハムトスラム」(二)〔死シテノ後ノ世。萬葉集、十九「丈夫ハ、名ヲシ立ツベシ、後代ニ、聞キ繼グ人モ、語リ次グガネ」(三)佛教ニ、後世、後生、未來（三世）ノ條ヲ見ヨ）　拾玉集、一「斯クシツツ、戀ノ涙ニ、沈ム身ハ、後の世トテモ、浮ビシモセジ」金葉集、七、[illegible]、上「後ノ世ト、契リシ人モ、ナキモノヲ、死ナバヤトノミ、イフゾハカナキ」謠曲、鉢木「アサマシヤ、我等カヤウニ衰フルモ、前世ノ[illegible]ナリ、セメテハ、カ様ノ人ニ値遇申シテコソ、後の世ノ便リトモナルベケレ」

のちのわざ（名）〔後事〕 死後ノ葬儀、又ハ法事。ノチノコト。源、一、桐壺「今ハカナク日比スギテ、のちのわざナドニモ、コマカニトブラハセ給フ」湖月抄「七日七日ノ法事ナルベシ」

のちほど（副）〔後程〕 ノチカタ。後刻。狂言記、流尼「草臥レテアラウ、チトソレテ休息メサレ、長ノテゴサル、のちほどオ目ニカカラウ」

のちまき（名）〔後蒔〕 苗ノ生エソコネタルニ因リテ、再ビ蒔キタルモノ。オソマキ。古今集、十、物名「のちまきノ、オクレテ生フル、苗ナレド、アダニハナラヌ、タノミトゾキク」

のぢん（名）〔野陣〕 野宿ノ陣ヲ張ルコト。又、原野ニ張レル陣營。露營。新撰長嘯寛正記「河内陣、云云、是ヨリ野陣ドモ皆引揃テ、弘川ノ本陣ノ邊ニ一所ニ陣取ケル」

のちむかし（名）〔後昔〕 茶ノ名ニ云フ語。はつむかし(初昔)ノ條ヲ見ヨ。事林[illegible]記「三月節ニ入リテ、廿一日メニ摘ムヲ初昔ト云ヒ、其ノ後ニツムヲ後昔ト云フ」

のっかかる（動）〔乘掛〕 のりかかる(乘掛)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

のづかさ（名）〔野司〕 ぬづかさ(野高處)ニ同ジ。萬葉集、十七「見引ノ、山[illegible]コエテ、野豆可佐ニ、今ハナクラム、鶯ノ聲」

のっかる（動）〔乘掛〕〔のりかかる(乘掛)ノ急呼轉略〕(一)ノリカカル。乘ル。(二)突キカカル(奴詞)

のっきり（名）〔乘切〕 ノッキルコト。

のっきる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔乘切〕 のりきる(乘切)ノ音便。

のっけに（副）〔仰〕 (一)仰ケ狀ニ。アフノケニ。傾城反魂香(寶永、近松作)三、熊野かけろふ[illegible]抱キ留メント縋リツケバ、影モナク、ウントのっけに仰向ヘ目クルメキ、忽チ息切レ絶エ入リシ」(二)初カラ。テンカラ。アタマデ。テンデ。フリダシカラ。劈頭ニ。最初ニ。冒頭ニ。[illegible]、上「シカリチラシテ、跡ハ晦日。品川デ、のっけにカヘル、帆カケ舟」

のっける（動）〔載〕〔のせるノ急呼〕 のす(載)ニ同ジ。

のっさのっさ（副）〔のさのさノ急呼〕 緩ク大股ニ、歩ミ出ヅル狀ニ云フ語。會我會稽山(享保、近松作)四「誰レヲカ恐レ忍ブベキ、のっさのっさと假屋ノ歩ミ、グヮッタグヮッタト踏鳴ラシテ」

のっしりと（副） 威風凛乎トシテ、重ミアル狀ニ云フ語。近頃河原の達引(天明、中村重助)堀川之段「婿入姿モのっしりと」

のっそりと（副） のそりとノ急呼。

のづち（名）〔野槌〕〔野之靈ノ義〕 又、ぬづち。(一)まむし(蝮)ノ一稱。ハミ。●字類抄「野[illegible]、ノツチ」字鏡六十「蝮、乃豆知」康頼本草、下四十「蝮蛇、乃豆知、波美」名義抄「蝮、ハミ、ノツチ」(二)さそり(蝎)ノ一稱。字鏡六十

「蠍、蜂、乃豆知」

のっと（名）〔祝詞〕 のりと(祝詞)ノ音便。[illegible]ノト。[illegible]富人ニテマシマサバ、[illegible]ウテ、神慮ヲススシメ」

ノット（名）〔節〕〔英語、Knot. 節ハ當字〕 かいり(海里)ニ同ジ。船ノ速度ニ云フ語。一節ハ一時間ニ一海里(我ガ十六町五十八間餘)ヲ行ク速度

のっとる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔則〕〔則取るノ音便〕 ソレヲ則トシテ從フ。模範トシテ倣フ。ノリトル。ノトル。

のっとる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔乘取〕 のりとる(乘取)ノ音便。其條ヲ見ヨ。甲陽軍鑑、五、品第十三「小田原ヲのっ取る事、明[illegible]四年乙卯ノ歳ト承リ及ビ候」

のっぴき（名）〔退引ノ義。其音便〕 避ケ退クコト。（下ニ反語ヲ用ヰル）菅原傳授手習鑑(延享、竹田出雲等合作)寺小屋之段「[illegible]如何ニト、退引ナラヌ手詰」一茶句集「コノ雨ニ、のっぴきナラジ、ホトトギス」

のっぺい（名）〔滑ノ意〕 又、ぬっぺい。豆腐、胡蘿蔔、大根ナドヲ刻ミ雜ヘテ、汁ニ煮テ葛粉ヲ加ヘタルモノ。

のっぺらぼう（名）〔野箆坊〕〔のっぼうノ語原ヲ見ヨ〕 又、ぬっぺらぼう。のっぼうニ同ジ。ノッペラポン。ヌッペラポン。又、丈高ク、顔ニ目鼻ナキ化物。

のっぺらぽん（名）〔野箆坊〕 前條ノ語ニ同ジ。ヌッペラポン。假名文章娘節用(天保、曲山人)前編、下「ドウデ己ノヤウナのっぺらぽんハ、女ニャノ縁遠イカラ、兄弟分ニナルツモリダ」

のっぺりと（副）〔のべ(延)ノ音便〕 ナメラカニ、平タキ狀ヲ云フ語。ヌッペリト。「のっぺりとシタ顔」

のっぽう (名) 〔延坊ノ急呼轉〕 身長ノ高キ者ヲ嘲リ呼ブ語。ノッポ。ボウ。半鐘ドロボウ。「丈高の-ぼう」

のづめ (名) 野爪 牧野ニテ飼ヒヤル馬ナドノ蹄。野山ナドニテ、固メタル馬ノ蹄。 大佛殿萬代石礎(元禄、近松作)[illegible]河原毛ノ、野馬野爪ノ逞シク、丈拔群ニ立チ勝リ、鐙ヲモ蹴カズ、もモヲサズ」

のづら (名) 野面 (一)野ノ面。(二)石工ノ語。石ノ自然ノ肌。 曾我虎磨(寶永、近松作)上「庭ノ据石幅三尺、面五尺餘リナリ、露滴ラカニ、苔蒸シテ、手摩リモナキ野面ノ石、ムズト抱イテ引上グルニ」 (三)轉ジテ、恥ヲ知ラヌ顏。アツカハ。 厚顏 鐵面

のづらいし (名) 野面石 山野ヨリ切リ出シタル肌ノ儘ノ石。

のでっぱう (名) 野鐵砲 (一)目當モナク鐵砲ヲ打ツコト。 好色二代男(貞享、西鶴)五、丸屋カ座敷ニ[illegible]セカケテ、野鐵砲撃チシモ、中々ラネバコソアレ、威勢ニ任セテ、我儘スル事勿レ」 (二)轉ジテ、トリトメナキ言。デマカセ。ウソ。ホラ。 [illegible]「野鐵砲ノ目當モナク」

のてん (名) 野天 〔野天井ノ略ナルベシ〕 家ノ外。即チ、屋根ナキ所。 露天

のてんじゃう (名) 野天井 二重天井ノ中ニテ、其上層ノ天井。

のデラ (名) 野寺 野中ニアル寺。(山寺ニ對ス) 新古今集、十六、雜上「白雲ノ月ノユクヘヲ、眺メテゾ、野寺ノ鐘ハ、聞クベカリケル」

のど (名) 祝詞 のりと(祝詞)ノ略。 [illegible]ト、宇治拾遺[illegible]ニのど[illegible]シテ、[illegible]度ニ御ハラヘスル程ニ」宇治拾遺、七、第五條「神主ノ、のどイミジク申シテ、神ノ御前ノ戸ヲ開ケテ」 [illegible]ハリテ、謡ラセ給フ、のどノ師々マハル」

のど (名) 咽喉 〔のみとノ音便、のむどノ約〕 (一)又、のむど。のみど。口ノ奥ノ、飲食、呼吸ヲ通ズル所。即チ、胃管、氣管ノアル所。訛シテ、のぞ。咽喉。 易林本節用集(慶長)上、人倫門「喉、咽、ノド」 [illegible] 盛衰記、廿一、小道地藏堂事「瘤毛面ニ赤ヲソソギ、喉ニ鎖ヲ入レケレバ、又瀬リタリケリ」 [illegible] (二)〔唄ノ聲〕 [illegible]居ルニ」「のどガイイ」「のどヲキカセル」 (三)書籍ヲ開キテ、紙ノ奥ノ綴ニ接シタル所。 臓 喉から手が出るト云フハ、渇望スル意。

のど (名) 長閑 (一){ノドカナルコト。ノドヤカナルコト。 萬葉集、二[illegible]朝日香川、シガラミ渡シ、セカマセバ、流ルル水モ、能杼ニカアラマシ」 (二)安穏ナルコト。無事ナルコト。

のどか-み (副) 長閑 〔和氣ヨノ轉〕 (一)平和ニ、靜ニ、ユタリト、ノンビリト、ノンドリト。ノドニ、ノドヤカニ、ノドラカニ。 悠然 [illegible] 宇治拾遺[illegible] (二)空、靜ニ晴レテ、ウラウラニ、ノドヤカニ。 晴和 [illegible]

のどくび (名) 喉頸 喉ト頸トノ[illegible] 合戰(正德、近松作)二「羊ノ喉頸取ッテ押サヘ」

のどけ (名) 喉氣 喉ノ內部ノ腫レ痛ム病。 喉痺

のどけ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) (一)靜ナリ。ノドカナリ。ユッタリトシタリ。 悠然 [illegible]ナビク野邊ノ、松ニゾアリケル」 新勅撰集[illegible]「大井川、下ス筏ノ、ヒマゾナキ、落チ來ル瀧ノ、のどけからねバ」 (二)空晴レテ、ウララカナリ。 晴和 [illegible]のどけくテ、アルカナキカニ、デソゾイトユフ」

のどこびと (名) 野床人 〔野山ヲ寢床トスル人ノ意〕 カリウド。獵師。 [illegible]抄、中「ウナ附レテ、スガル狩ルナル、野床人、弓張シミミニ、ウサナラシツツ」

のどごゑ (名) 喉聲 人ノ聲ニテ、鳩ノ鳴聲ノ如キヲ云フ。

のとし (名) 祝師 ノリトシ。又、ノトノシ。 字鏡抄「祝師、ノトシ」 易林本節用集(慶長)上、人倫門「祝師、ノトノシ」

のどとめ (名) 喉留 喉ニ、トドメヲ刺スコト。 [illegible]ザリケルヨト云ヒケレバ、十郎聞キテ、何ゾノ、のどとめト云フコトハ[illegible]

のどみ [illegible]

のどのど [illegible] ユッタリト 悠悠 [illegible]

[illegible]

のどひこ (名) 喉小舌 ひこ、小舌ニ同ジ。 [illegible]

のどぶえ (名) 喉笛 [illegible]

のどぼとけ (名) 喉佛 [illegible]

のどほね (名) 喉骨 [illegible]

のどまつ [illegible]

のどま-る [illegible]

廿二、玉葛十九「少シ心のどまりテゾ、アサマシキ事ヲ思ヒツヅクルニ、心ヨワクウチナカレヌ」拾玉集、二「コトノ外ニ、のどまりテ聞エケレバ」

〰のど・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) [和] (一)ユッタリトセサス。シヅム。オチツカス。ナダム。源、三、空蟬「サノミモ、エ思シのどむマジカリケレバ」同、三十四、下、若菜、下四「ケニ、ミツカラモ、エのどめズ、心アワタタシキ事ニテナム」同、三、空蟬「イト静ニ、のどめ、待チ給ヘヤ」(二)サシオク。源、一、帚木廿「中将ソノタナバタノ、タチ縫フカタヲのどめテ、長キ契リニゾアエマシ」

のど-もど (名) [咽元、喉本] 喉ノ根本。源氏冷泉節(寶永、近松作)下「ハア世俗ノ譬ニ言フ如ク、のどもど過ギテ熱サ忘ルルトハ此事」

〰のど-やか-ゐ (副) (一)靜ニ。ノドカニ。ノドラカニ。ノドロカニ。ノノヤカニ。ナダラカニ。[悠然] 源、八、花宴、四、春宮、カヘラセ給ヒヌレバ、のどやかゐナリヌルニ」同、四十六、總角六十七「時雨甚クシテ、のどやかナル日」(二)のどかゐ[長閑]ノ條ノ(二)ニ同ジ。徒然草、四十一段「春ノ暮ツカタ、のどやかゐ艷ナル空ニ、賤シカラズ家ノ、奥深ク木立モノフリテ」

〰のど-よ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ヘ(自動、四) [喉呼、長閑呼] 喉聲ニテ物言フ。一說ニ、ノドカニ呼ブ。萬葉集、五、長歌「イヒカシグ、コトモワスレテ、ヌエドリノ、能杼與比ヲルニ」倭訓栞「のどよぶ、喉呼也、云云、喉ハ高ク聲ヲタテズ、喉聲ニテ呻ヒナレハツクヨメリ 鳥ノ聲ニ似タルカ」

〰のど-らか-ゐ (副) のどやかゐノ條ノ(一)ニ同ジ。紫式部日記、上上「イカナルモ、のどらかゐ打チオキタルモノトハ見エヌ、ナンアリケル」

の-とり (名) [荷持] [荷ハ荷前ノ荷ト同意ナルベシ] 初穗ヲ持ツコト。神功攝政前紀、注、荷持、此云能苔利」

の-どり (名) [野鳥] [飼鳥ニ對ス] 野生ノ鳥。ヒトナレセヌ鳥。

のど・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [則] ノリトル。ノットル。名義抄「像、ノトル」規、ノトル」則、ノトル」字類抄「法、則、ノトル」

〰のどろ-か-ゐ (副) のどやかゐノ條ノ(一)ニ同ジ。ナダラカニ。盛衰記、十、中宮御産事「内大臣ハ、例ノ吉事ニモ惡事ニモ、強ニ騷ギ給フ事マシマサザリケレバ、云云、公達ヒキグシ參リ給ヘリ、イトのどろかゐゾ見エ給ヒケル」

∴のどろ-ゐ (副) 延ビテ止マル所ナキ狀ニ云フ語。鹽尻、五十二、十七條「我府下(名古屋)杉浦某、卑不肖ニ叛兵ヲ御テ、度度高名アリシカバ、のどろゐ深入スル者カナト仰アリシ」(家康ノ言)「のどろゐ廣シ」のどろゐ太シ」

のど-わ (名) [喉輪] (一)鎧ノ附屬具。別ニ喉ノ部ニ添フルモノ。半輪ノ狀ヲナス。ヨダレカケ。頸鎧。運步色葉集「喉輪、ノドワ、甚懸之事」見聞雜錄(難波宗建)「松下加兵衞ハ、喉輪ヲ掛シ故不ニ突通、首藤ハ喉輪ヲ不掛シ故、擣上ル太刀ニ、首半分切上ラレテ倒ルル處ヲ押テ、首ヲ取リタリケリ」雲州軍話、首、尼子勢郡山城圍ノ喉輪ナズント突貫キ、押ヘテ首ヲカキ落トシ」南謂記事、のどわバカリニテ、黑作ノ太刀ヲハク」(二)次條ノ語ノ略。

のどわ-ぜめ (名) [喉輪攻] 相撲ノ手。手ニテ敵ノ喉ヲ押付ケテ押出ス技ワザ。略シテ、のどわ。(柔術ニモ云フ)

の-なか (名) [野中] 野ノナカ。ヌナカ。今昔物語、廿七、第四十一語「見廻セバ、何クトモ思エヌ野中ニテアリ」宇治拾遺、七、第五條「コノ柑子備サラマシカバ、コノ野中ニテ消エ入リナマシ」拾遺集、十四、戀、四「岩代ノ、野中ニ立テル、結ビ松、心モトケズ、ムカシ思ヘバ」

の-なか (名) [箆中] (一)箆(矢竹)ノ中ホド。矢柄ノ眞中。保元物語、二、白河殿夜討事「七寸五分ノ丸根ノ箆中過ギテ、箆代ノアルヲ打チ貫ハセ」(二)[箆中節ノナカフシノ略] 箆ノ全長ノ中程ニアル節。

のなか-の-ゐみづ (名) [野中清水] ノナカノシミズ (一)野中ニアル清水。昔ハ、メデタキ水ニテアリシガ、末ノ世ニ、ヌルクナレリ。然レドモ、昔ヲ傳ヘ聞ケル人ハ、コレヲ尋ネテ飲ムトゾ。古今集、十七、雜、上「古ヘノ、野中の清水、ヌルケレド、本ノ心ヲ、知ル人ゾ汲ム」袖中抄、十「野なかのゐ水トハ、播磨ノ稻見野ニアリ」歌林良材集(一條兼良)下「ハリマノ國稻見野ニアリ、昔ハメデタキ水ニテアリケル、末ノ世ニ、ヌルク成リヌレド、ムカシヲ聞キツタヘタルモノハ、コレヲ尋ネテ、飲ミケル心ナリ、能因歌枕ニハ、野中ノ清水ハ、本ノ妻ヲイフトイヘリ」(二)元、連レソヒタル女。又ハ、後妻ノ異稱。後拾集、十二、戀、四、相住ミケル人、心ニモアラデ別レニケルガ、年月ヲヘテモアヒ見ムトカキテ、云云「古ヘノ、野中の清水、見ルカラニ、サシグムモノハ、淚ナリケリ」續千載集、十八、雜、下「古ヘノ、野中の清水、汲マネドモ、思ヒ出デテゾ、袖ヌラシケル」

の-ねこ (名) [野猫] のらねこ(野猫)ニ同ジ。續猿蓑集「思ヒカネ、ソノ里タケル、野猫哉」

の-ねずみ (名) [野鼠] (一)野ニスム鼠。ヤソ。藥師通夜物語(寬永二)「白鼠、野鼠、小鼠、廿日ネズミ」(二)はつかねずみ(鼷鼠)ニ同ジ。(越前)

のの (名) [布] (靜岡全縣、琉球ニテモ云フ) ぬの(布)ノ訛。

の-の-いほ ノノイオ (名) [野廬] 野原ノイホリ。天治字鏡、五九「野、野廬也、乃乃伊保」

の-の-おきな (名) [野翁] 野老トコロ。字ニ就キテ讀ミシ語。散木集、十、連歌、山女(アケビ)「今日見レバ、山ノ女ゾ、アソビケル」ののおきなヲゾ、ヤラムトオモフニ」

のの-ゐ (名) [布子] ぬのゐ(布子)ノ訛。

のの-さま (名) [ののハ祈ノ轉] (一)小兒ノ語。ノンノウサマ。ホトケサマ。「佇兒ノ、伊和野ニテ、にいにい、いさまト云フ」本朝若風俗(貞享、西鶴)六「アレハのの樣カト、日モフラズ、ミケルコソアカシケレ」曾我會稽山本地(寶永、近松作)二「オ主持ハ、八幡春日、天照ナハ佛樣ニ賞メラルルゾト身ヲ添ヘテ」七十一番職人盡歌合、六十二番、禰宜、我ガ祈ヲ、祈ル人ノ、聞キヤセム、ササヤキ聲ニ、ののト申サム」(祈ルヨリ、佛神ニ通ハシ云フ) (二)轉ジテ、月ノ稱。佛像ノ輪後光ノ形ヨリ云フカ。堀川百首、題狂歌、ミトリ子ノ、ののト指サシ、見ル月ヤ、教ヘノママノ、佛ナルラム」花千句「カカ樣ト、タヅヌル聲ノ、身ニ入リテ、見ヨトヤ月ヲ、アレののトイフ」

のの-ゐり (名) [喧呼] ノノシルコト。サワグコト。サワギ、騷動。大鏡、中、道隆「此ノ兒最ノ御ののゐりニカカリテ、出雲權守ニナリテ、但馬ニコソオハセシカ」

〰のの-ゐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [喧呼] (一)聲高ニ言ヒ騷グ。喧シク言ヒタツル。ノノメク。字鏡、「嘩、謹謹也、比和久、又、乃乃志留」字類抄「詈、ノノシル、鮮詈、ノノシル、大聲也」竹取物語「ワレコソ死ナメト、泣キののゐるコト、イトタヘカタゲナリ」源、五十、蜻蛉八「川ノ方ヲ見ヤリツツ、響キののゐる水ノ音ヲ聞クニモ」榮花物語、十六、花山「殿ノ内トヨミテ、ののゐりタリ、サベキ僧共、召シのゐり、萬ノ御誦經、云云」源、十三、須磨四「オキヨリ舟ドモノ歌ヒののゐりテ、コギ行クナドキコユ」同、十四、澪標廿四「マコトニ神ノヨロコビ給フヘキコトヲシツクシテ、シカタノ御願ニモウチソヘ、アリガタキマデ、遊ヒののゐり明シ給フ」 (二)ホメハヤス。盛ニ噂ス。源、五、若紫十六「コノ世ニののゐり給フ光源氏、カカルツイデニ、見奉リ給ハンヤ」

のの-ゐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [罵] (前條ノ語ノ轉) 怒リテ、叱リ言フ。罵ル。

コキオロス。ドクヅク。ノノメク。榮花物語、五、浦浦別、「赤衣ヲ着イタル、若キ、上下ワカズ、コレヲ見ミののしりテ」[illegible]アツカヒグサニコソ、言ヒののしりケレ」盛衰記、十五、[illegible]宮ノ[illegible]共モ[illegible]ヲ揚ゲテ、渡セヤ渡セヤト、招キテ罵りケルハ」

ののつかさ（名）のりのつかさ（式部省）ニ同ジ。建武年中行事、正月七日「内侍スス厶、仰云、ののつかさ、ツハ物ノツカサ召セ、式部丞（六位[illegible]）[illegible]ニサブラフ[illegible]

ののみや（名）|野宮| 古ヘ、京[illegible]ノ[illegible]嵯峨ノ有栖川ニアリテ、内親王ノ齋王ニ立チタマヒテ、一年ノ間、齋ヒ清マハリタマフ所。而シテ後ニ、伊勢ノ齋宮ニ移リタマフ。齋王ノ野宮ハ、洛北紫野ノ東ニアリキ。[illegible]云云、更ト[illegible]外[illegible]日[illegible]野宮[illegible]八月上旬ト[illegible]九月[illegible]給フベカリシヲ、樣樣サハル事アリテ、此秋、入リ給フ。[illegible]謡曲、野宮「コレハ古ヘ、齋宮ニ立タセ給ヒシ人ノ、[illegible]

ののみやのはらひ（名）|野宮祓| 齋内親王ノ、川ニテ[illegible]ヲ行ヒ、野宮ニ入ラセタマフコト。[illegible]見[illegible]ウツロヒ給フベケレバ、フタタビノ御祓ノ、急ギ取重ネテアルベキニ」

ののめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）|喧呼| [illegible]（正德、近松作）[illegible]「平蓬アッテノ上ナレバ、[illegible]太平記、十五、大樹[illegible]河原[illegible]ハ泣キケリ」

ののやかみ（副）のどやかみニ同ジ。[illegible]

のはうづ（名）|[illegible]| [illegible]

のバオリ（名）|野羽織| せざきばおり（背割羽織）ニ同ジ

のばかま（名）|野袴| 袴ノ一種。[illegible]ドニ作リ、裾廣キモノ、其[illegible]縁ヲ添ヘタルモノヲ芝摺ト云ヒ、遊行、馬上ニ用ヰル。[illegible]ト云ヒ、共ニ[illegible]

のば・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）|延伸| （延ぶノ他動）（一）[illegible]ヒログ。（二）大キクナス。盛ニス。「身代ヲのばす」（三）長引クヤウニナス。延引セサス。「日限ヲ延ばす」（四）溶ス。ユルムル。融解「糊ヲのばす」「膠ヲのばす」

のばと（名）|野鳩| 鳩ノ一種。はと（鳩）ノ條ヲ見ヨ。又、河原鳩トモ云フ。

のばは・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）|延| 延ビ引ク。[illegible]ソ、我ののばはる心地スレ」源、十七、繪合「世（異本ニ「シヅミタリシ憂ニカハリテ、今マデモののばはりテ」

のは・ふ [illegible]

のはら（名）|野原| 野、平野、原野、[illegible]マニ、馬、車ノ行キカヨフオト、シゲクヒビキタリ」[illegible]

のばら（名）|野薔薇| のいばら（野薔薇）ニ同ジ。

のはり（名）|土[illegible]| 草ノ名。今、つくばねさう（衝羽根草）ト云フ。其條、及、[illegible]

のび（名）|延| （一）延ブルコト。長サ。タケ。（二）勞レ、又、倦ミタルトキ、自ラ手足ヲ伸ブルコト。伸。[illegible]サ、又ハ、長サナドニ）

のび（名）|野火| [illegible]

のびあが・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）|伸上| [illegible]シク延びあがりツツ、申シケレバ」[illegible]見ヤリテのびあがり」

のびえ（名）野稗 一名、ノ[illegible]え（稗）ノ條ヲ見ヨ。

のびきやし [illegible]

[illegible]まんねんぐさ（萬年草）ノ異名

のびすけ（名）|延助| [illegible]男ト云ヘル意ヲ擬人シタル語]鼻毛ノ延ビタル人。又、女色ニ溺レ易キ人。

のびちぢみ（名）|伸縮| ノブルコトト、チヂムコトト。ノビタリ、チヂミタリ[illegible]シンシユク。屈伸。

のひつじ（名）|野羊| かもしか（羚羊）ノ[illegible]

のびのび（副）|延延| （一）[illegible]

のびやかみ（副）|延| [illegible]ノドヤカニ。ノビラカニ。ノムビリ。

のびらかみ（副）|伸| 前條ノ語ニ同ジ。[illegible]

のびる（名）|[illegible]| [illegible]

のびる（動）（一）のぶ（延）[illegible]

のふ（名）|[illegible]| [illegible]

のふ (接尾) なふ(接尾語)ノ轉。つぐなふ、つくのふ。ととなふ、とものふ。いざなふ、[illegible]ノ類ノ如シ。

の・ぶ [illegible] 延 伸 (一) 自ラ長クナル。ヒロガル。ノビル。(二) 久シクナル。遲クナル。長引ク。延引ス。彌久。榮花物語、八、初花「法華經ノすハスヤウニ、老イサカリ、命のぶラント覺ユル殿ノ有樣ニナム」鶉衣(横井也有)續編、上「久シクモ、のぶる[illegible]ハ、[illegible]、ハラフ千トセノ、シルキ[illegible]ノ[illegible]ニ、月ノ[illegible]アラントシタルヲ、のびテ九月ニナリニケレバ」「日限延ぶ」(三) 高クナル。成長ス。成長「草のぶ」[illegible]のぶ」(四) 溶ケテ多量ニナル。[illegible]のぶ」(五) 大キク盛ニナル。「身代のぶ」「勢のぶ」(六) 速ク行ク。[illegible] 第十八、[illegible]時[illegible]少シのびさせ[illegible]ヒテソ、[illegible]ネ[illegible]ノ、[illegible]ニ、[illegible]九[illegible]其シテ、[illegible]ハ走りのびテ、[illegible]ノ[illegible]ニ長閑ニ歩ミテ、イカニシツル事ゾト云ケレバ」

の・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ(他動、下二) 延 陳 (一) 長クナス。ヒログル。ノバス。ヒキハル。[illegible]かへばや、四、若君ノ、物ヲ引キのぶ[illegible]ヤウニ」(二) 久シクナス。遲クナス。延引セサス。[illegible]、名ニタカキ、月ハ二度ノ、ミヨトテヤ、コトシハ秋ヲ、のぶるナルラン」(三) 平ニヒロゲテ敷ク。展 [illegible]、下、宋[illegible]「[illegible]具ヲのぶ」

の・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ(他動、下二) 申 宣 述 陳 〔言ヲ永延ぶる義〕長ク說ク。精シク語ル。ノベル。陳述ス。榮花物語、八、初花「御前ニ召シテ宣ハセ・スルニ、云云、トモカクモ、エのべ申サデ、マカリ出デニケリ」

のふぞう (名) 〔野風俗ノ意カ〕謙遜ノ言ナキモノ。(博多ニテ、不作法ノ意ト)

のふえ (名) 尺八 〔節笛ノ義カ〕 ちゃくはち(尺八)ノ異稱。名義抄「尺八、ノフエ」

のふえ (名) 衲衣 不用ノ切地ヲ綴リ合セテ作リタル僧衣。衲。僧衣。ふふえ 〔衲衣ノ條ヲ見ヨ。[illegible]〕

のぶかみ (副) 箆深 〔箆ノ條ヲ見ヨ〕 矢ヲ深ク射込ミテ。平家物語、九、宇治川事「山田ノ次郎ガ放ツ矢ニ、畠山、馬ノ額ヲ箆深ニ射サセ」太平記、三、笠置軍事「荒尾九郎ガ鎧ノ千[illegible]ノ板ヲ、右ノ小脇マデ、箆深ニグサト射込ム、一箭ナリト雖、云云、[illegible]モ[illegible]ヘテ死シケリ」

のふく (名) 野服 昔、遠行、旅行ナドノ時ニ、用ヰル衣服。即チ、野袴、脊割羽織ナドノ類。

のぶし (名) 野伏 山伏。山野ニ露宿シ、修行スル僧。拾遺集、九、雜、下「山伏モ、野伏モ斯クテ、試ミツ、今ゾトネリノ、ネヤゾユカシキ」[illegible]隨筆「野ぶし、山伏トモ、出家ヲ云フナリ、出家ハ、野ニフシ山ニフスガ、本意ナルガ故ナリ、源氏ニ、山伏ノ身ニハ松風ヲノミ聞ナレテト、玆馬ノ僧都ノイハレシナリ、近世、根來組ナドイヘルモ、モト山伏ナレバ、野武士ヲ云ヒシ、野伏トイヘルカモシラズ」

のぶし (名) 野武士 野伏 主將ナキ兵ノ、山野ナドニサスラフ者。ノブセリ。白河文書[illegible]四月十六日[illegible]大夫宛[illegible]野伏[illegible]兵[illegible]之通路ニ」太平記、七、新田義貞賜ニ綸旨一事「宇多内郡ノ野伏ドモ是ヲ聞テ、味方ノ野伏ゾト心得、力ヲ合セン爲ニ」

のぶすま (名) 野伏閒 〔野衾ノ義、其肉翅ヨリシテ云フ〕 むささび(鼯鼠)ノ一名。鼯鼠

のぶせり (名) 野伏 (一) 野武士ニ同ジ。(二) 山野ニ潜ミテ、劫奪スルモノ。ヤマダチ。山賊。(三) ヤドナシ。乞食。[illegible]、永祿元年六月八日「東河原、東山[illegible]野伏有之」本朝二十不孝(貞享、西鶴)四「二人ノ才覺出シテ、足腰ノ立タヌ野臥りノ非人ヲ語ラヒ」

のぶだう (名) 野葡萄 えびづる(蘡薁)[illegible]ノ一種。葉ノ形、葡萄ニ似テ薄ク、毛ナシ、實大キク、秋ニ熟ス、碧、紫、紅、白、綠ノ數色、雜リテ美シ。枯ルルトキハ皆黑シ。蛇葡萄

のぶと・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 箆太 ヅブトシ。甚ダ横着ナリ。博多小女郎波枕(正德、近松作)中「イツモノ時分ニ、又下りや、國デ逢フト[illegible]ヒ、出テ行ククコソ箆太けれ」

のふのけさ (名) 衲袈裟 法衣ノ稱。又、たひ。ぁふ(衲)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、十三、僧坊具「衲袈裟」扶桑略記「延喜十年九月廿五日[illegible]數、[illegible]香爐、唐衲[illegible]、[illegible]夏冬法服、各一[illegible]布施供養物等有[illegible]」

のぶみ (名) 野文 江戶時代、貧賤ノ者ノ葬儀ニ際シ、僧侶ノ、引導ヲ渡ス代リニ、交付シタル文書。德川[illegible]、四十二、寬政四年閏二月、脇坂淡路守江問合挨拶「野文ト唱ヘ、[illegible]貧之モノ、葬式不[illegible]行屆、野文ト唱ヘ候書付ケ遣シ、[illegible]死人等不[illegible]屆[illegible]儀モ有[illegible]之哉之趣、御書面之通[illegible]役寺江相尋ネ候處、云云、引導之代リニ野文ト申スヲ遣シ、同宿之僧モ不[illegible]相[illegible]候儀ハ、宗旨之定式ニハ無[illegible]御座[illegible]候」

のぶろ (名) 野風爐 野遊ナドニ携ヘ行ク茶湯ノ風爐。携爐(茶經)

のべ (名) 延 (一) 延ブルコト。長クスルコト。(二) のべがみ(延紙)ノ略。好色一代女(貞享、西鶴)五「細緒ノ雪駄、延ベノハナ紙ヲ見セカケ」曾根崎心中(元祿、近松作)付たり觀[illegible]廻り「ナゼ打明テハ下ンセヌト、膝ニ凭レテサメザメト、涙ハのべヲ浸シケリ」

のべ (名) 野邊 〔野上ノ略轉〕 又、ぬべ。(一) 野ノアタリ。書言字考節用集、一、乾坤門「野邊、ノベ」萬葉集、八廿「ヤマブキノ、咲キタル[illegible]ノ、ツ[illegible]ミレ、コノ春ノ[illegible]ニ、サ[illegible]」[illegible]アルモノヲ、野邊ノ若菜ノ、生ヒニケルカナ」古今集、一、春、上「[illegible]ハルサメ、フルコトニ、野邊ノ[illegible]ゾ、[illegible]マサリケル」(二) 葬リニ出ヅルコト。葬送「野邊[illegible]送り」(三) 火葬[illegible] 茶毘 [illegible]集、十九、[illegible]「[illegible]ト、ナリニセバ、何レノ雲ヲ、分キテ訪ハマシ」傾城反魂香(寶永、近松作)中「野べヨリアナタノ友トテハ、血脈一ツニ數珠一レン、是ガ冥途ノ友トナル」元眞集「[illegible]ミトリ、のべノアラ田ヲ、打カヘシ、セナカニ秋ヲ、マチヤクラサン」

のべうり (名) 延賣 (一) 延賣買ノ契約ニテ賣ルコト。(二) 江戶時代、當年、上納スベキ年貢ヲ、定法ニ從ヒ、來年ノ秋ニ至リテ金納トセシコト。享保集成[illegible]錄、廿三、正德三巳年四月、云云、國法ニヨ[illegible]テ延賣ト申、當年上納スヘキ所ヲ、來年之秋ニ至テ金納ニ仕候類モ、其定ノ期月相違ナク上納セシメラルベシ」

のべおくり (名) 野邊送 葬リニ出ヅルコト。ノオクリ。葬送。菅原傳授手習鑑(延享、出雲等合作)寺小屋之段「野邊の送りニ親ノ身ハ、子ヲ送ル法ハナシ、我我夫婦ガカハラント」

のべがく (名) 延樂 早樂ニ對シテ、拍子ヲ延バシテ、長クシタル雅樂。延物 歌舞品目、五、上「延樂」注「體源抄「今ハ延物ト云フ」

のべがね (名) 延金 (一) 鍛ヒテ延ベ平メタル金類。(二) 切金ノ一。金銀ヲ薄ク打チ延バシタルモノ。金銀圖錄、七、古金ノ名目ハ、沙金、錬金、延金、板金、云云」同、同、附言「板金トハ、薄ク板ノ如ク打延テ、切テ遣フモノニテ、延金ナド云モノ皆同ジ」

のべかひ (名) 延買 延賣買ノ契約ニテ買フコト。

のべがみ (名) 延紙 〔半紙ニ對シテ、全

紙ヲ云フ」杉原紙ノ小サキモノ。竪七寸許リ、横九寸許リ、[illegible]ニ用ヰル、大和、出雲、阿波ナドニ産ズ。略シテ、[illegible]

のべ-ギセル（名）［延煙管］〔延ハ續棹（ツギザヲ）ナラヌヲ云フ」うちのべ（打延）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]牛山「女郎息紙ニ、ミスヲ用ヒズ、皆のベナリ」

のべ-ざを（名）［延棹］つぎざを（續竿）ナラザル三味線ノ棹、

のべ-だん（名）［延壇］庭ノ敷石ナドニ、小石ヲ聚メテ、短册形ニ作レルモノ

のべ-たらみ（副）次條ノ語ニ同ジ、

のべ-つ-み（副）不斷ニ、ヒキリナシニ、間斷ナク。ツヅケザマニ。ノベタラニ。「のべつみ話ス」のべつみ歌フ」

のべ-とりひき（名）［延取引］取引所ノ語賣買契約ノ成立ト共ニ、貨物ヲ授受スルニアラズシテ、三十日以上、百五十日以内ニ於テ、特ニ約定ノ期日ヲ設ケテ授受スル取引。略シテ、のべト云フ。

のべ-ばいばい（名）［延賣買］何程カノ手附金ヲ渡シテ契約シ、其取引ヲ一定ノ期間後ニ延バシテスル賣買

のべ-もの（名）［延物］のべがく（延樂）ニ同ジ、

∴の-べる（動）［延］延ぶ（下二段）ノ口語

のべ-わけ（名）［延分］金、銀ナドヲ分ケテ[illegible]

のべ-わたし（名）［延渡］賣買契約セル貨物・[illegible]、或一定ノ期日後マデ延バスコト。

のぼ-ぎり（名）［鋸］[illegible]

のぼ-す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）［登上］〔下すニ對ス〕（一）上（ウヘ）ヘ進ム。高キヘ遣ル。アグ。徒然草、百九段「高名ノ木ノボリトイヒシ男、人ヲ掟テテ高キ木ニのぼせテ、梢ヲ切ラセシニ」（二）載セ記ス。書キ載ス。「史ニのぼす」[illegible]京ヘ[illegible]ル。沙石集、二、上、第四條「田舍ヨリモ國ノ物ヲのぼせ、京ヨリモ田舍ノ物ヲ下シナトシテ」

のぼせ（名）［逆上］血ノ運行ノ上リテ腦ニ迫ルコト。チノボセ。ギヤクジヤウ。上衝

のぼせ-あが-る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［激昂］氣、逆上スル。上氣スル。

のぼせ-め（名）［逆上眼］結膜充血ノ眼病塵埃、煙、沙ナド眼ニ入リテ起リ、又、眼ノ過勞ヨリ來ルモノトス。其症狀ハ、[illegible]瞼結膜赤ク充血シ、多少腫レテ、[illegible]ク出デ、チクチク痛ミ、[illegible]異物ノ入リ居ルガ如ク感ズ。

のぼ-せる・セル・セレ・セ・セ・セヨ（自動、下一）［逆上］（一）[illegible]（二）[illegible]リ、又、苦シミ[illegible]、[illegible]フ。トリノボセル。血迷フ。夢中ニナ[illegible]

∴のぼ-せる（動）[illegible]

のぼ-ほん（名）[illegible]ノモノ。ノンキモノ。

のぼら-す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）［登］[illegible]

のぼり（名）［登上］（一）[illegible]ノボルコト。[illegible]メソ、呼子鳥、サホノ山邊ヲ、上リ下リニ」（二）登ル路。登ル坂。曾根崎心中（元祿、近松作）「坂ナ、下リヤナ、コチョコ、上リツ下リツ谷町筋ヲ」[illegible]ト、上京。[illegible]ヤコ上リノ、露ハラヒ」

のぼり（名）［衽］〔上リノ義カ〕[illegible]オクミ。オホクビ。おくみ（衽）ノ條ヲ[illegible]

のぼり（名）［幟］〔昇旗（ノボリハタ）ノ略。乳ニ竹ヲ通シテ、順ニ昇ルヨリ云フト云フ〕旗ノ一變セルモノ。布ノ上下横ト縱ニ、許多ノ乳ヲ付ケ、[illegible]ノ[illegible]又、上端ノ横竿ノ端ニ、布帛ノ片ヲツケ垂ルルヲ、旄（マネキ）ト云ヒ、總ジテ乳附ノ旗ト云フ。（源平ノ赤白ニテ別ツ頃ハ、吹流シタル旗ニテヨケレド、家ノ紋ヲツケテ別ツニハ、ヒラメキテ定カニ見エネバ、乳附トナリシナルベシ」又、五月五日[illegible]ノモノヲ、五月の幟ト云フ。[illegible]

のぼり-うま（名）[illegible]陣マデハのぼり[illegible]

のぼり-き（名）[illegible]

のぼり-ぎしや（名）［上汽車］〔下汽車ニ對ス〕田舍ヨリ、都ヘ向ヒテ行ク汽車、

のぼり-ざか（名）［登坂］〔下リ坂ニ對ス〕坂ノ登路。ノボリ坂路。ノボリ路。[illegible]カツラ、クルシカリケリ」

のぼり-ざし（名）［幟差］昔、戰陣ニテ、馬ニ乘リテ幟ヲ持ツモノ、[illegible]

のぼり-さご（名）［幟竿］[illegible]如クナレバ名トス」漢字ノ旁ノ[illegible]ノ字ノ稱。大[illegible]ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

のぼり-ざる（名）［幟猿］端午ノ節幟ノ下端ノ鬮ニツクルくくり猿、

のぼり-しほ（名）［上潮］あげしほ（上潮）ニ同ジ。[illegible]

のぼり-ばし（名）［登階］はしご（梯子）ニ同ジ。[illegible]

のぼり-ぶね（名）［上船］川上ヘ行ク船。又、京地方ヘ行ク船。[illegible]

のぼり-やな（名）［上簗］[illegible]

のぼり-りう（名）［昇龍］[illegible]

う」畫ニ、龍ノ空ヘ昇ル狀ヲ畫ケルモノ、其降ル狀ナルヲ[illegible]ニ書ク、[illegible]レヲ[illegible]龍ト云フ。九[illegible] [illegible]ニツ引[illegible]ノのぼり[illegible]の紋、ツケタルサシモノ」

のぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)【登・昇・升・上】(上ニ延ぶる(自動)ノ義、下るニ對ス)(一)上ヘ進ム。高キヘ行ク。アガル。[illegible]、四十一段「ムカヒナル棟ノキニ、法師ノのぼりテ、木ノマタニツイヰテ、物見ルアリ」(二)〔源ノ方ヘ行ク〕サカノボル。遡 [illegible]「カツラ人、月ノ光ノ、ササメ夜モ、のぼる瀬[illegible]ニ、棹ハトルラシ」古事記、下(仁德)五「山城川ヲ、カハのぼり、ワガ能煩理、ワガ能煩禮バ」「川ヲ上る」(三)〔田舎ヨリ京ヘ〕行ク。古事記、下(雄略)[illegible]「其子孫ヲ於[illegible]僕ニ日、云云」萬葉集、廿[illegible]「大君ノ、命カシコミ、意[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ヲ、青[illegible]ニ見ツツ、都ヘ[illegible]保流」土佐日記、二月十六日「今日夕サリツカタ、京ヘのぼるツイデニ見レバ、[illegible]云云、如是[illegible]伏[illegible]合、或[illegible]、下[illegible]、云云」古事記、下(仁德)[illegible]天皇[illegible]同ヨリ京ヘ[illegible]謠曲、鉢の木「[illegible]自然、鎌倉ヘ御のぼりアラバ、御尋ネアレ」(四)〔逆上ル〕ノボセアガル。逆上 源、三十四、下、[illegible]「イトオドロオドロシキヤモヒニモアラヌヲ、イカナレバカカルナラム、ツツマシト物ヲ思ヒツルニ、氣ノのぼりヌルニヤ」冥途の飛脚(寶永、近松作)中「逆上り詰ル此ノ手間デ、屆ケル所ヘ屆ケテシマヘ、エエ、性根ノ据ラヌ氣違者ト」(五)物ノ價、高クナル。アガル。騰貴ス。

のま (名)【野馬】[illegible]ノ馬。野馬。牧馬。

のまおひ (名)【野馬追】磐城國、相馬ノ原ノ町ノ雲雀野ニ於イテ行フ一種ノ祭事。毎年、七月十一日(元ハ七月二十一日)前後三日ニ亘リテ執行ス。其狀ハ、妙見社ニ野飼ノ馬ヲ捕ヘテ供スルモノニテ、往時ハ、相馬侯自ラ出馬シ、士族ノ

ミノ盛祭ナリシガ、今ハ中村町、及、近隣町村ノ商人、農民、駄馬ニテ其狀ヲ扮ス。其間、昔時ノ年ニモアラズト云フ、然レドモ、尚、眞ノ甲冑、旗、差物ノ騎馬武者トナリテ、妙見ノ神輿ヲ擁シテ、雲雀野ニ円集シ、今、牧ニ馬ナケレバ、烽火ニ旗ヲ打チアゲ、野中ニ落ツルヲ、數百騎馳セテ、爭ヒ取リテ、往時ノ風ヲ擬スト。駒捕(コマドリ) [illegible]廿三「相馬家ノ野馬追ノ備立、武者押ノ式ナコソ、當時、治世ニテ珍シク、軍陣ノ試ミニ勝ル事、又有ベカラズ」

のまき (名)【篦卷】くちまき(口卷)ニ同ジ。義經記、五、忠信吉野山合戰事「のまきヨリカミ十四束ニ、タブタブトキリタルヲ、ツミザシニサシテ、カシラダカニオヒナシ」

のまき (名)【野牧】野原ニテ、牛、馬ヲ飼養スルトコロ。牧。牧場。庭訓往來、四月「[illegible]、河狩、野牧」

のま・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二)【飮呑】ノムヤウニナス。ノマシムル。

のまめ (名)【野豆】蔓草ノ名。山野ニ多シ。春、舊根ヨリ生ズ、蔓ヲ籠メテ長ク、莖、葉、共ニ茶褐色ナリ。葉ハ、ふぢまめ(藤豆)ニ似テ小サク、夏、葉ノ間ニ、穂花ヲ開ク、形、豆ノ花ニ似テ、淺紫色ナリ。莢ノ長サ五分、子、圓ク黑シ、生ニテ食ヒテ腥氣ナシ。一名、ヤブマメ。ツルマメ。鹿藿 字類抄「[illegible]、ノマメ、ノラマメ、エンドウ」

のま・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二)【呑】(一)他ニ呑マル。ノマレル。(二)ケオサル。他ニ威壓セラル。

のまを (名)【野眞麻】野生ノ苧。からむし(苧)ノ條ヲ見ヨ。

〜のみ (名)【鑿】〔一所のみ掘ル意、一所ヲオシキハメテ、切ニ穿ツナリ〕工匠ノ具。木ニ方圓ノ孔ヲ穿ツニ用ヰル。直キ刃ニ直キ柄アリ、槌ニテ柄頭ヲ叩キテ穿ツ。又、刺鑿(サスノミ)ト云フハ、柄長クシテ一尺許リアリ、材ニ打込ミテ孔ヲ作リ、太キ釘ナドヲ打ツニ用ヰルモノ。其他、形ニ因リテ、まるのみ、つぼのみ等アリ。各條ニ註ス。倭名抄、十五六工匠具「鑿、能美、[illegible]柄名也」字鏡「[illegible]、乃[illegible]」同[illegible]「[illegible]、乃美」[illegible]「[illegible]、乃江」古今夷曲集(寛文)二「身ノ皮モ、ホリヌクヤウニ、痛ムルハ、是レヤ大苦ノ、のみノ蟲ナル」(鑿ト蚤トヲカク)

〜のみ (名)【祈】〔叩頭(ノム)ノ轉〕ノムコト。イノリ。古事記、下(雄略)三十七「志幾之大縣主、云云、其縣主惶畏、稽首白(ノミマヲサク)、云云、故奉能美之御幣物」

のみ (名)【飮呑】(一)ノムコト。(二)取引所ノ語。該所ノ仲買人ガ、客ヨリ賣買ノ註文ヲ受ケテ、證據金、及、取引所ノ手數料ヲ預カリタルニ拘ラズ、實際、其賣買ヲ市場ニ掛ケズシテ、客ニ對シテノミ取引シタル如ク裝ヒ、自ラ其相手方トナリ、市場ノ出來直ニヨリテ、損益ヲ計算スルカ、又ハ、他ニ反對ノ註文アリタル時、コレト咋ヒ合ハセテ、口錢ノ外ニ、取引所ノ手數料ヲ横取スルコト。カカル事ヲナス仲買人ヲ、呑屋ト云フ。

のみ (名)【𦉜・𦉜】まいはだ(槇皮)ニ同ジ。字類抄「絅、ノミ、ノメ」名義抄「絅、亦、𦉜、フネノノメ」[illegible]太平記、三十二、[illegible]「カネテ支度シタル事ナレバ、矢口ノ渡シノ船ノ底ヲ、二所鑽リ貫キテのみヲサシテ」

〜のみ (名)【蚤】〔仲蟲(ノムシ)ノ約、飛ビハヌル意〕細小ナル蟲。夏、濕熱ノ地ニ生ジ、能ク人畜ニ着キテ血ヲ吸フ。身、一分許リ、赤クシテ、細毛ヲ生ジ、首、小サク、六足ニシテ、[illegible]ク跳ル。[illegible]ハ[illegible]セテ、雌ハ肥ユ。倭名抄、十九[四十]蟲豸類「蚤、乃美」字鏡「[illegible]、蚤、乃美」[illegible]字[illegible]用集、五、氣形門「蚤、ノミ、[illegible]人跳蟲」

〜のみ (辭) 第二類ノ天爾波。一アリテ二ナキ意ヲ示スモノ。バカリ。[illegible]「善キヲのみ取ル」「斯クのみアラバ」漢籍讀ニハ、文句ノ末ニ居テ言切ルコトアリ。而已 耳 名義抄「耳、ナラクノミ、マクノミ」神代紀、上四十「今[illegible]此國、唯吾一身而已(ヒトリノミ)」允恭紀、八年二月「ササラ形、錦ノ紐ヲ、解キ開ケテ、アマタハ寝ズニ、唯一夜能未」萬葉集、十一[三十八]「アチノ住(スム)、[illegible]カノ、[illegible]ノ、[illegible]、我ヲマツコラハ、但一人耳(ヒトリノミ)」躬恆集「秋立チテ、イツシカトノミ、マチシカド、アヒテヌルヨハ、タダ一夜のみ」拾玉集、五「コトシサヘ、花ヨリ雪ニ、ナリニケリ、ナニトモナクテ、山里ニのみ」「心ヲ盡スのみ」「此ノ如キのみ」

のみ・ぐすり (名)【飮藥】口ニ飮ミ用ヰル藥。內服藥。(つけぐすりニ對ス)

のみ・くち (名)【飮口】(一)飮ミタルトキノ心地。(二)好ミテ酒ヲ飮ムコト。

のみ・ぐち (名)【呑口】〔延口(ノビクチ)ノ義〕(一)樽ニ、孔ヲ穿チ、塡メ込ミ置キテ、酒、醬油ナドヲ注ギ出スロトスル管。栓ニテ拔キ差シス。注口 管注 (二)烟管ノ吸口。[illegible]「キセルノ眞中すッ取リ、云云、のみ口際マデマハシモドシ」

のみ・くひ (名)【飮食】飮ムコトト、食フコトト。飮ンダリ食ッタリ。飮食(インショク)。

のみ・くひ (名)【蚤食】蚤ノ膚ヲ食ヒタル痕。蚤ノ食ヒツキテ、赤クナレル所。

のみ・こみ (名)【呑込】(一)呑込ムコト。

呑下ダスコト。[illegible]嚥下 (二)納得スルコト、會得。合點。了解。[illegible]馬)初編、下「ハテ、呑込みノワルイ呑頭ダ、手ヲヒカヌトイフ事ガアルモノカヨ」

のみお・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) [呑込] (一)呑ミテ喉へ入ル。嚥下 (二)理ヲ心ニ永ク會得ス。合點ス。了解。[illegible]

のみさし (名) [飲止飲殘] 半、飲ミテ殘シタルモノ。「酒ノのみさし」「水ノのみさし」

のみしろ (名) [飲代] 酒ヲ飲ムニ要スル金錢。サカテ。サカシロ。ノミレウ。

のみすぎ (名) [飲過] 酒ナドヲ飲ミ過グルコト。餘分ニ飲ムコト。

のみすけ (名) [呑助] [始終、酒ヲ飲ム者ノ擬人語] サケノミ。ノンダクレ。ノンベエ

のみすて (名) [飲捨] (一)飲ミタル餘リヲ捨ツルコト。(二)飲ミタルママニテ、サシオクコト。好色一代男(天和、西鶴)八「跡ニハメイメイ飲ミノ色衫紗、飲み捨てノ烟草盆、イヅレカ殘ル所モナシ」

のみち (名) [野路] 野中ノ道路。ノヂ。堀河百首、雜「身ニシミテ、オモホユルカナ、霜枯ノ、野みちハサラニ、行キモヤラレズ」

のみて (名) [飲手] ヨク酒ヲ飲ム人。ヒダリキキ。大酒家。酒客。上戸。

のみと (名) [咽] [呑門ノ義] ノンド。ノド。[illegible]

のみともだち (名) [飲友達] サケトモダチ。ノミナカマ。酒侶

のみとりぐさ (名) [蚤取草] 小草ノ名。

[illegible]原野ニ生ズ。細ソキ莖ヲ出シテ地上ニ[illegible]、高サ五六寸、葉ハ長サ二分許リニ[illegible]、夏秋ノ頃、[illegible]小花、[illegible]開ク。又、ありのたふぐさ(蟻塔草)。

のみとりまなこ (名) [蚤取眼] [illegible]蚤ヲサガシ捕ヘムトスル時ノ如キ、鋭キ目ツキ。[illegible]二、心ヲツケルのみとりまなこ」 丹前能(元祿)「好物ヲ云ヘバ、猿ガのみ取眼」

のみならず (副) ソレバカリデナク、ソレニ限ラズ、他ニモナホアル意。[illegible]集、三、夏「足ビキノ、山郭公、のみならず、オホカタ鳥ノ、聲モキコエズ」

のみぬけ (名) [飲拔] 酒ナドヲ、多量ニ飲ムコト。又、ソノモノヲ罵リ云フ語。[illegible]クラヒスケ。ソコヌケ。[illegible]大飲家。[illegible]モ酒デアラフノ、アアアア、ナラビモナイ飲み拔け」

のみね (名) [鑿根] 鑿ノ、鑿ノ刃先ノ如キ形シタルモノ。[illegible]のみ根ト云フハ、鑿ノ如シ」

のみのふうふ (名) [蚤夫婦] 蚤ハ雌ノ方大ナリ、サレバ女子ノ男子ヨリ肥大ニシテ、夫婦トナリタルモノヲ嘲フル語。

のみほ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [飲乾] 杯ノ酒ナドヲ、殘サズ飲ム。飲ミ盡ス。

のみみづ (名) [飲水] 飲料ニ供スル水。飲用水。

のみむし (名) [蚤蟲] とびむし(飛蟲)ニ同ジ

のみもの (名) [飲物] 飲ムベキ物ノモノ、

[illegible]水、酒、[illegible]、飲料

のみや (名) [illegible] (二)取引所ノ語。のみ(呑)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

のみれう (名) [飲料] (一)ノミモノトスルモノ。インレウ。(二)酒、煙草ナドノ自家用トスルモノ。[illegible]類ウダ人ノ飲料ト見エテ」(三)酒ヲ買ウ代。ノミシロ。サカテ。サカダイ。

の・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) [飲・呑] (一)口ニ入レ、喉へ下シ、胃[illegible]「年ノハニ、春ノ來タラバ、カクシコソ、梅ヲカザシテ、[illegible]ノ冊ノモノ、富士ヲツキズノ、法ニコソ飲め」「酒ヲ飲む」「水ヲ飲む」(二)吸ヒ入ル。吸ヒコム。喫烟「烟草ヲ呑む」(三)恐レズ侮ル。ミクビル。輕ンズ。輕視ス。好色一代女[illegible]事、[illegible]デ掛カル」(四)収ム。隱ス。「懐中ニ[illegible]呑んデ居ル」(五)アハセ取ル。トリコム。ヲサム。「四海ヲ併セ呑む」(六)包ム。[illegible]レヌヤウニナス。杜甫詩、少陵野老[illegible]「恨ミヲ呑む」

の・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) [祈乞] (歎き)ノなヲの二轉ジテ活用ス」請ヒ願フ。祈ル。[illegible]萬葉集、十三ハ長歌「天地ノ、神ヲゾ我ガ祈ム、甚モスベナミ」崇神紀、十年九月「[illegible]」[illegible]吾ガ待ツ時ニ」崇神紀、七年二月[illegible]

[illegible]

ノンき (名) [暢氣] (のんきハ暢ノ宋音) ふんノ轉訛、暢氣、暢達、暢閑、[illegible]ト。暢氣[illegible]八、吾嬬門、暢氣、ノンキ」

のんこ (名) [illegible] 樂焼ヲ燒カセシ陶工、樂吉左衞門道入、のんこうノ稱アリ、此者ノ燒キタ[illegible]三代目ノのんこうト云フ、のんこうノ名アリ[illegible]ニ、のんこうト云フ者アリ、ソレガ作レル茶碗ノ名[illegible]ウタヒモノアリ、[illegible]トニタルナラム、[illegible]シカトハソ

のんこ (名) (一)ノラノラシキコト。又、其人。ノラモノ。(二)[illegible]。又、其人。[illegible]

のむし (名) [illegible] (二)白魚ノ異名[illegible]

ノン・ふ (名) [嚥下] [illegible]

のむしだけ [illegible]

冬季、菌絲ヲ發生シ、夏ニ至リテ成長シ、蟲體、腐爛スレバ、其養分ヲ取リテ、菌ノ長ズルコト四五寸、傘ナク、下、粗ニシテ上ハ細カニ、黑褐色ヲ呈シ、藥用トナルト云フ。

ノン-せき（名）|暖席| のんれう(暖寮)ニ同ジ。運步色葉集「暖席、ノンセキ」

のん-だくれ（名）〔吞みたがりノ轉。吞ミタキママノ意トナリ、のんだくれトナル、飄たくれガ、飄然タルママトナリ、へったくれトナル類ナリ〕泥醉シテ、タワイノナキコト。又、ソノモノ。又、大酒飲ノモノヲ罵リ言フ語。ノミヌケ。エヒドレ。泥醉漢。

のん-だふれ（名）|飲倒|〔のみたふれノ音便。吞門、のんどト同趣〕きだふれ〔着倒〕ノ條ヲ見ヨ。

のむど（名）|咽喉|〔吞門ノ義〕又、のみど。今、約メテ、のど。ノンド。倭名抄、三「咽口喉、乃無止」名義抄「吭、ノムト」

のん-ど（名）|咽喉| 前條ノ語ノ音便 下學集、上、支體門「咽喉（二字、義同）」書言字考節用集、五、肢體門「咽、嗌、嚨、喉、ノンド、ノド」謠開集、十七、變化「ソノ指シ給ヒタル刀ニテ、咽貫ヘカシ、我レモ飲ミ、ソコニモのんどウルヘ給ヘ」

のむど-ぶえ（名）|喉吭| 今、約メテ、のどぶえ。ノンドブエ。其條ヲ見ヨ。倭名抄、三、身體「吭、乃無止布江」名義抄「吭、ノムトフエ」

のんどり-と（副）ノドニ。ノドカニ。ノンビリト 紅梅千句「梅津ノ邊ニ、多キ春草」のんどりと、神垣ヒロキ、宮トコロ」

のん-の（名）小兒ノ語。乘ルコト。

のんのう-さま（名）小兒ノ語 ののさまニ同ジ

のん-の-つかさ（名）|式部省| のりのつかさ(式部省)ノ音便。志きぶしやう(式部省)ノ條ヲ見ヨ。建武年中行事、正月、白馬節會「內辨、のんのつかさヲメス」

のん-のん（名）|燈火| 小兒ノ語。トモシビノ燃ユルコト。

のんびり（副）|延| のびのびスル狀ニ云フ語。|暢然 悠長|

のんべん-ぐらり（名）ナスコト無ク、時間ヲ空費スルコト。又、副詞ニ用キラレテ、グツグヅシテ、因循ナル狀ニ云フ語。ノンベンダラリ。

のん-べゑ（名）|飮兵衛|〔酒飲ミヲ擬人シタル語〕酒ヲ嗜ム者ヲ、嘲リ呼ブ語。ノミスケ。ノンダクレ。

のんやほ-ぶし（名）昔、流行シタル端歌節ノ一。のんやほト囃スヨリ云フ。松の葉、端歌「のんやほぶし」晚ニゴサラバ、ヒゴナタ叢イテゴザレ、晚ニャ梅ノ木ノ枝オロソ、のんやほほ」

のんやほほ-をどり（名）のんやほぶしニ合ハセテ、ヲドル踊 西鶴大鑑「のんやほほ踊」好色二代男(貞享、西鶴)七「禿揃ヘテのんやほほ踊り」

ノン-れう（名）|暖寮|〔のんハ暖ノ宋音、ふんノ轉訛。寮ハ寺内ノ寮舍〕禪家ニテ、寮ニ入リタル人ガ、茶菓ナドヲ、先キヨリ居ル者ニ饗スルコト。又、他人ヨリ入院ヲ賀スルヲ云フ。ダンセキ、ノンセキ。禪林象器箋、九、叢軌門「入寮人、辨茶果、請先居人、曰暖寮、又、予聞、大德寺亦曰暖寮、妙心寺此謂暖席矣」清拙小清規「凡人ニ祠堂、當一歷代位牌、半等侍者云云、比之主人入寮暖寮、云云、叢林ノ等ノ兩班寮ヲ賀スルヲ、のんりやうト云フ、何事ゾ、字ニハ暖寮ト書ク、云云、其席ヲカタムル心也」

ノン-れん（名）|暖簾|〔のんハ暖ノ宋音、ふんノ轉訛〕なうれん(暖簾)ニ同ジ。其條、及、のれん(暖簾)ノ條ヲ見ヨ 多識編、四、器用「簾、多禮牟乃、能牟展牟」運步色葉集「暖簾、ノンレン」

のめ（名）|船栰|〔隙間ニ吞マシムル意〕まいはだ(槇皮)ノ條ヲ見ヨ。ノミ。ノマ。倭名抄、十一、舟具「絍亦作栰、夫爾乃能米、所以塞舟也」名義抄「栰、フネノノメ、ノミ也、栰、ノマ、ノミ也、ノメウツ、衣栰、ノマウツ」

のめ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）前ノ方ヘコロバス。前ヘ倒ス。心中天網島(享保、近松作)上「起キレバ蹈付蹈のめし」「突キのめす」

のめ-のめ（副）恥ヂズシテ、差出ヅル狀ニ云フ語。オメオメ。靦然 菅原傳授手習鑑(延享、竹田出雲等合作)二「恩有ルカヲ流罪サセ、のめのめ見テハ居ラレズ」

のめ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔滑り倒るノ義、のけぞるノ反〕前ヘ伏ス。前方ヘ倒ル。〔出雲ニテハ、ぬめるト云フ〕太平樂府(明和)婢女行「遠多假借金兵衛ニ殿ノ名」女殺油地獄(享保、近松作)下「前ヘカイテ、ギャットのめらセ」六布部拍(正德、近松作)下「お侍ノ五人ヤ七人ハ、慮外ナガラキットイハセテ、のめらセ樣モシツレ共」「ツマツキのめる」

の-も-せ-み（副）|野狹| 野モ狹クナルマデニ 萬代集、四、秋、上「白露モ、ウツロヒニケリ、高マドノ、野もせみ咲ケル、秋萩ノ花」風雅集、十三、戀、四「秋ナレバ、萩ノ野もせみ、鳴ク鹿ノ、ヒルマニサヘモ、戀シキヤナゾ」

の-もり（名）|野守| 禁獵ナドノ野ヲ守ル者。野番人。ヌモリ。書言字考節用集、四、人倫門「野守、ノモリ」萬葉集、一、廿一「アカネサス、紫野行キ、標野行キ、野守ハ見ズヤ、君ガ袖振ル」古今集、一、春、上「春日野ノ、飛火ノ野守、出デテ見ヨ、今幾日アリテ、若菜摘ミテム」

のもり-ぐさ（名）|野守草| 萩ノ異稱 其條ヲ見ヨ。夫木抄、草、八「モナキ、コノ野ノ花ヲ、のもりぐさ、思フ寢ヲ、アカシツルカナ」

のもり-の-かがみ（名）|野守鏡|〔野守ノ用キテ、己レガ姿ヲ見ル鏡トナス意〕(一)野中ノ水ニ、影ノ映ルコト。書言字考節用集、一、乾坤門「野守鏡、ノモリノカガミ、本朝俗、所謂野淸水、云云」新古今集、十九、雜、五「ハシタカノ、野守の鏡、得テシカナ、思ヒ思ハズ、ヨソナガラ見ム」月詣集、雜、上「夏草ハ、茂リニケリナ、御狩野ノ、野守の鏡、影モ見ヌマデ」(二)烽ヲ水ニウツシテ、遠近ノ里數ヲ知ルコト。コレ算家ノ術ナリト(南留別志)

の-や（名）|野矢|(一)鹿狩ニ用キル矢。一名、シシヤ。(二)戰場ニ用キル矢。征矢。平家物語、八、兵衞佐院宣「萌黃絲威ノ腹卷一領、白ウ作ッタル太刀一振、滋籐ノ弓ニ野矢副ヘテ賜フ」

のや（感）ノドメテ云フ詞 神樂歌、小前張、篠波「のや、己レサヘ、嫁ヲ得ズ」

の-やき（名）|野燒| 初春、草ノヨク萌エ出ヅルタメ、野ニ火ヲ放チテ雜草ヲ燒クコト。ノビ。蜻蛉日記、下、中「のやきナドスルコロノ、花ハアヤシクオソキ比ナレバ」

の-やぶ（名）|野藪| 野ト、藪ト。又、野ニアル藪。ノラヤブ。

の-ら（名）|野|〔らハ助辭、嶺ろ、峰ろノ類〕(一)〔野ト云フニ同ジ。ノロ。源、四、夕顏「ケチカキ草木ナドニハ、コトニ見所ナク、皆、秋ノ野らニテ」古今集、四、秋、上「里ハ荒レテ、人ハ舊リニシ、宿ナレヤ、庭モ籬モ、秋ノのらナル」好忠集「ヒトリヌル、ワガ身ハアレテ、草ムラノ、野

ら[illegible]ヨリモ、實クセアルカナ」（二）田、又ハ、畑。「のら仕事」

のら (名) （一）ナマケルコト。又、其人。怠惰モノ。[illegible]古代[illegible]、其[illegible]「此ノ男ヲ家ノ内ニナケバ、大[illegible]ノ娘[illegible]ノ首ガ、見習ウテのらニナル」（二）タハケヲスルコト。放蕩スルコト。又、其人。心中天網島(享保、近松作)上「其見物ノ中ニ、ノンコニ髪結テのらラシイ、伊達衆自慢ト云ヒソナ男」

⁂のらいぬ (名) 野犬 飼主ナキ犬。ヤドナシ犬。ヤケン。曾我虎磨(寶永、近松作)傾城十番斬「町ノイノコロ、野ら犬ノ、雪[illegible]噴ハヘテ振ル如ク、ウントモスン共イハセバコソ、コロリコロリト振リ[illegible]ラシ」

〰のらえ (名) 蘇 〔野荏(ノラエ)ノ義〕 しそ(紫蘇)ノ古名。其條ヲ見ヨ。ヌカエ。イヌエ。ノノエ。倭名抄、十七、三麻類「蘇、乃良衣、一云、奴加衣」本草和名、下、十七「蘇、以奴衣、一名、乃良衣」

のらく (副) 宣 〔宣るノ延〕 宣ル状ヲ云フ語。言フヤウニハ。告グルニハ。

⁂のらくら (副) ナマケ遊ビテ、日ヲ送ル状ニ云フ語。ヌラクラ。ノラリクラリ。ヂャラクラ。傾城反魂香(寶永、近松作)上「日ガナ一日立チズクミ、何ヲスルヤラのらくらト、急ゲバマハル瀬田鰻」

のらしごと (名) 野仕事 野ニ出デテ、ナス仕事。耕作ヲナス仕事。農事。

〰のらす・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 宣告 告るノ敬語。告リタマフ。仰セ給フ。萬葉集、三「ミナゴキル、イソワニ[illegible]ル、名[illegible]ノ、ヨシ名ハ[illegible]、[illegible]ハ知ルトモ一[illegible]、[illegible]ナス、[illegible]千ニ[illegible]テ、[illegible]ル、[illegible]少女トモ[illegible]」

〰のらね (名) 野鼠 ひみず(地鼠)ニ同ジ。倭名抄、十八、[illegible]名[illegible]乃良[illegible]「田鼠、ノラネ」

⁂のらねこ (名) 野猫 飼主ナク、[illegible]、サマヨヒ居ル猫。ドラネコ。ノネコ。夫木抄、廿七、猫「ヨソニダニ、ヨドコモシラヌ、のらねこノ、鳴クネハ[illegible]ニ、[illegible]」同[illegible]、十一、のら猫[illegible]「眞葛原、下ハヒアリク、のらねこノ、ナヅキガタキハ、イモガココロゾ」[illegible]ウラヤマシ、急ビモヤフテ、のらねこノ、妻コヒサケブ、春ノタグレ」

のらねずみ (名) 鼴鼠 ひみず(地鼠)ニ同ジ。土ノ中ヲ行クコト、鼹鼠(モグラ)ノ如ク、土ヲ出デテ日光ヲ見レバ、忽チ死スト云フ故ニ、ひみずト云フトゾ。[illegible]川集、五、[illegible]、ノラネズミ、コネラ」

のらのらと (副) のらくらナル状ヲ云フ語。ヌラクラト。ノラリクラリト。ヂャラクラト。心中天網島(享保、近松作)中「[illegible]一人のらのらとシテ立チ歸ル」

のらふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 乘 〔乘ルノ延〕[illegible]記、三十七、[illegible]、[illegible]上ニ乘らへ[illegible]」 のる

〰のらふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 宣 〔告るノ延〕 ノタマフ。ツゲ給フ。萬葉集、九十八「長[illegible]、[illegible]東ハ、家ニ歸リテ、父母ニ、事ノモ[illegible]良比、同日ノゴト、吾ハ來ナムト、言ヒケレバ」同、一七長歌「此岳ニ、菜ツマスコ、家告閑」(命令形)

のらまめ (名) 野豆 （一）又、のまめ。田野ニ自生スル植物。子、小豆ノ如クニシテ黒ク、霜ノ後ニ熟ス。食フベシ。稗豆 （二）豌豆(エンドウ)ノ異名。倭[illegible]十七[illegible]「豌豆、一名、野豆、乃良末女」和漢三才圖會、百四、[illegible]又、[illegible]ノ異名、[illegible]「蠶豆、ソラマメ、ノラマメ(尾州)」

のらもの (名) 何ノ所業モナク、遊ビブ[illegible]クモノ[illegible]野[illegible]フ者ニ、ナラズノ野良者ヲスカシ、命退取ラセ」

〰のらやぶ (名) 野藪 のやぶ(野藪)ニ同ジ。源、十五、蓬生「[illegible]カクイミジキのらやぶナレドモ、サスガニシン殿ノ内バカリハ、アリシ御シツラヒカハラズ」宇津保物語、俊蔭「のらやぶノゴト[illegible]」

〰のら・ゆ・ユ・ル・レ・エ・エ・エ[illegible] ノノシラル。萬葉集、十六「[illegible]ウマセゴシニ、麦ハム駒ノ、[illegible]、ナホシ戀ヒシク、シヌビカネツモ」同、同「[illegible]ノレユエ、所[illegible]ヲレバ、アシゲ馬ノ、面タカブダニ、乗リテクベシヤ」

〰のり (名) 法則度規範 〔上ヨリ告り給フコトハ、掟トナル意〕 （一）上ノ立テテ、天下ノ人ノ、據リテ行フベキモノト[illegible]、日常トシテ、[illegible]守ルベキ道。定メテアル理。オキテ。法則、法度、[illegible]。字類抄「典、度、準、憲、ノリ」神武紀「[illegible]大人立制(ノリ)、義必隨時、苟有利民、何妨聖造」[illegible]紀、十年九月「若有不受教者乃[illegible]」[illegible]明紀、廿三年七月「君子之武備、不可以已」[illegible]年四月「[illegible]始多久、有[illegible]壬申年之[illegible]之[illegible]」[illegible]津保物語、俊蔭「佛ニアヒタテマツリテ、のりヲ聞クベシ」源、三十九、御法「[illegible]ヲ、初メニテ、此ノ世ニ[illegible]フ、のりゾハルケキ」[illegible]ノ師」「法ノ場」「法ノ花」「法ノ山」「法ノ道」法の[illegible]ル語。[illegible]古今集、八、[illegible]、ムツヂマデ、[illegible]の流トハ、佛法ノ流派ノ意。法[illegible]（連歌ニ）コレ佛道修行ノ大小ニ[illegible]ヘタリ[illegible]ウトシ、[illegible]オケル、[illegible]ノ、[illegible]

[illegible]佛法ヲ、衣ニ[illegible]法ノ衣トハ[illegible]

のり [illegible]

のり [illegible]

のり (名) [illegible]

のり [illegible]

淺草ノ産アリテ、[illegible]シ、あさくさのり(淺草海苔)、あをのり(青海苔)、うっぷるいのり(十六島海苔)、ふのり(布海苔)等アリ。各條ヲ見ヨ。[illegible]萬葉集[illegible]長歌[illegible]ナギニ、[illegible]、深メシテラヲ、[illegible]ノ、引ケバ絶ユトヤ」 爲忠百首「松島ノ、イソマニオフル、カタのりヲ、浪ハヒケドモ、ハナレザリケリ」 (二)あまのり(甘海苔)ノ稱。紫菜

のりあげ (名) 乘揚 船體ガ、航海中ニ、暗礁、又ハ、洲ニ乘リアゲテ、動カズナルコト。多クハ、暴風雨、又ハ、濃霧ノタメニ、航路ヲ誤ルヨリ起ル。坐礁

のりあひ (名) 乘合 舟、車ナドニ、衆ト共ニ乘ルコト。同舟。同車。同乘。 [illegible]子(享保、近松作)下「[illegible]ハ乘り合ひ人目セク、徒歩ニ遠ケレド[illegible]」 女殺油地獄(享保、近松作)上「次手ヲ頼ミノ乘合船ハ、借切ヨリモ得難堤」 續東海道中膝栗毛(文化、一九)初編、上「ドナタチモアゲテ下サイ、乘合ダア」「乘合馬車」「乘合自動車」

のりあひ (名) 罵合 ノノシリアフコト。 盛衰記、十一、[illegible]、其後ハ、去ル[illegible]ニ、小松ノ資盛ガ乘會(罵合ノ義)ノ事ニ、入道憤リテ、無クナサルベキニ侍リケルヲ」

のりあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 乘合 同乘ス。多數ノモノ、一ツノ船、車ニ乘ル。 諸艶太平記(元祿)一「京都ノ書林ト、大阪ノ本屋ノ、同ジ舟ニ乘り合ひケリ」

のりあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 罵合 ノノシリアフ。互ニ大聲ニテ、ワメキ騒グ。 徒然草、百七十五段「或ハ[illegible]ヒナキシ、下[illegible]マノ人ハ、のりあひイサカヒテ、アサマシク恐シク、恥ガマシク、心憂キコトノミアリ」

のりい・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 乘入 乘物ナガラ内ニ入ル。乘リタルママ中ヘ入ル。ノリコム。 [illegible]合戰(正德、近松作)上「寄手ノ大將貝勒王、庭上ニ乘り大音上ゲ」

のりい・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二) 乘入 (一)乘物ヲ内ニ進メ遣ル。乘リ込マス。 狂言記、那須與一「ソノ時與一、馬ノ太腹ノヒタル程、海ニザップトのりいるる」 (二)乘リテ、馴レシム。乘リテ、馬ナドヲ習熟セシム。ノリナラス。

のりいれ (名) 乘入 乘リ入ルルコト。 曾我會稽山(享保、近松作)三「肉十分ニフシ高ク、沛艾ニロコワク、乘り入れモセヌ野髪ノ馬」

のりいれ (名) 糊入 (一)糊ヲ盛リ置ク器。糊斗 (二)紙ノ名。すぎはらがみ(杉原紙)ノ條ヲ見ヨ。 枝直日記、延享元年九月朔日「蒲田ヨリのり入十帖參ル」 出世太平記紙鳶(文政)「アラハレ絹ノのり入れヤ」

のりうち (名) 乘打 馬、駕籠ニ乘リタルママニテ、打過グルコト(憚リテ下ルベキ所ナドニ就キテ云フ) 倭訓栞「のりうち、馬、車ニ乘ナガラ打過ル意ナリ」 [illegible]人[illegible]芥、中「法親王、門跡前不可乘打也」 太平記、十一、筑紫合戰事「菊地ハ、道櫛田ノ宮ノ前ヲ打チ過ギケルトキ、軍ノ凶ヲヤ示サレケン、乘り打ちニ仕リケルヲヤ御咎メ有リケン」

のりうつ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 乘移 (一)替ヘテ乘ル。乘リカヘル。(馬、船、駕ナドニ) 好色一代男(天和、西鶴)三「浪ハ次第ニアラク、備後鞆ヨリ小早ニ乘りうつりテ、風ウレシク、備後鞆ト云フ所ニアガリ」 (二)憑ル。カカル。(神ニ、死靈ニ) 憑 心中萬年草(寶永、近松作)中「[illegible]、大熊ガ乘り移り、夕作右衛門ヲ、ゴマカサウヤ」

のりうま (名) 乘馬 乘ルニ用ヰル馬。ジョウバ。ジョウメ。ノリマ。 天治字鏡、[illegible]「[illegible]、乃利馬」 同、[illegible]「[illegible]、乃利馬也」 榮花物語、十二、玉村菊「大事ドモアルベキ年ナレバ、今ヨリ君達、ハカナキツボヤナグヒ[illegible]カザリ、のり馬ノ鞍ノ事ヲ思シ急ギケルモ」

のりおく・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 乘後 乘ルベキ期ニオクル。オクレテ、乘リ損フ。又、他ヨリオクレテ乘ル。 源、五十二、手習五十「岸ト遠ク、漕ギハナルラム、アマ舟ニ、のりおくれジト、イソガルルカナ」 新千載、九、羇旅「シハシナホ、舟サシトメヨ、渡守、乘りおくれタル、人モコソアレ」

のりかか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 乘掛 (一)乘リ始ム。(二)爲シ始ム。(三)乘リテ及ビカカル。ノッカカル。 大職冠[illegible]物語(元祿、近松作)一「ネヂコロシ、判官殿ニタムケント、膝ノ上ニ乘り掛かる」

のりか・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 乘掛 乘リナガラ上ル。乘リナガラ突掛ク。「船ヲ岩ニ乘掛く」「馬ヲ坂ニ乘掛く」

のりかけ (名) 乘掛 德川時代、驛驛ノ駄馬ニ、荷ヲ二十貫目ツケ、コレニ一人乘ルコト。又、乘掛ケノ馬。(本馬、輕尻ノ條、見合ハスベシ) 享保集成絲綸錄、廿二、正德三年九月「乘掛下貫目之儀、下荷貳拾貫目相極メ、外ニ蒲團、跡付、中敷、小付一式、不殘三四貫目迄ハ、令用捨」 東海道名所記(萬治)一「大水ニ川ゴシ、フカキ川ニ渡シ船、のりかけニ賦貨馬」 壽門松(享保、近松作)上「[illegible]馬ノ高嘶キ、非筒カ[illegible]ヘ乘懸ノ客ハ、八幡ノ難與平」

のりか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 乘替 のりかへ(乘替)ヲナス。乘物ヲトリカフ。 爲忠百首「クヤシクモ、モト見シ駒ニ、のりかへテ、コシヂノ雪ニ、マドヒヌルカナ」

のりかへ (名) 乘替 (一)馬、車、[illegible]ヲ替ヘテ乘ルコト。(二)替ヘテ乘ルニ[illegible]フル馬、又、車。副馬。副車。 今昔物語[illegible]五、[illegible]、馬ノ[illegible]ヒ、[illegible]トカイツクロヒテ、云云、乘替ヘノ馬ナドニ乘リテ、アルキタユミテ有ケレバ」 [illegible]九、宇治川[illegible]、ソノ[illegible]、[illegible]山、のりかヘニ乘テ、ツメイテ[illegible]ク 太平記、十六、[illegible]河合[illegible]、[illegible]ノ上ニ下立ナテ、[illegible]ノ馬ヲ待チ給ヘドモ」 (三)取引所ノ語。前限月ノ建玉ヲ、轉賣、又ハ、買戻スルト共ニ、後限月ニ、前ト同ジ賣建テ、又ハ、買建テヲスルコト。(四)公債ノ乘替ノコト。即チ、新募集ノ債券ヲ以テ、他ノ債券ニ換フルナリ。

のりき (名) 乘氣 氣ノハズムコト。調子ニ乘ルコト。ノリヂ。又、機ニ進ム心。

のりきり (名) 乘切 (一)乘リキルコト。ノリヅメ。ノッキリ。(二)古ヘノ戰術ノ一。下ノ出典ヲ見ヨ。 兵法雄鑑、三十六、馬ヲ入るる五箇條「敵ニ崩レ色付キテ敗軍スルニ、大將カタマリテ引キ取ル敵有ルヲ、味方ノ勇士五騎、十騎ツツバカリモ能キ馬ニ乘リ、乘リ付ケ、其ノ敵ノ間ヲ切リ押シ隔テテ、我ガ下之者共ニ首ヲトラスルヲ、乘り切りト云フ」

のりき・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 乘切 (一)馬ヲ止メズ乘リ過グ。乘リタルママ通リ過グ。(二)乘リテ越ユ。ノッキル。(三)自ラ進ンデ、其事ニアタル。爲シオホス。突破ス。

のりぐち (名) 乘口 馬ヲ引クニ、鐙ノ處ニ下リテ差縄ヲ取ルコト。一説ニ、手綱ニテ引クコト。 平家物語、九、宇治川事「多クノ馬トモヲ見ケルニ、云云、或ハ乘口ニ引カセ、或ハ諸口ニ引カセ、幾千萬ト云フ數ヲ知ラズ」

のりぐつわ (名) 乘轡 乘馬用ノ具。轡

ニ羈、手綱ヲツケタルモノ。大内問答(永正[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]ニテモ引キテ可レ被レ渡候」

のりくひうま (名) [乗喰馬] 人ノ乗ルヲ[illegible]ヒテ、食ヒツク馬。[illegible]の馬、ムカバキノスソ食フ馬ニハ、浪マクラノ鞭ウツベシ」

のりくみ (名) [乗組] ノリクムコト。又、乗合ヒノ人。ノリコミ。ノリアヒ。

のりくむ・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [乗組] 共ニ乗リ入ル。乗合フ。ノリコム。

のりくら (名) [乗鞍] 人ノ乗用ニ供スル鞍。乗馬用ノ鞍。[illegible]記、十六、小山田太[illegible]近隣ニ行キテ、青麦ヲ打チ刈ラセテ、乗鞍ニ負ホセテゾ帰リケル」

〜**のりごち** (名) [詔令] ノリゴツコト。ノリゴト、命令。[illegible]仁紀、三十五年十月「[illegible]」[illegible]聞、多聞池溝、[illegible]八百之」

〜**のりごつ**・ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) [詔令] 言ヒ聞カセ給フ。命ス。[告言ヲ活用ス] [illegible]紀、廿六年四月「[illegible]」不[illegible]宣」古事記、上「天神諸命以、[illegible]伊邪那岐命、伊邪那美命二柱神ニ」[illegible]傳、勿[illegible]天下之[illegible]用也、[illegible]其[illegible]」[illegible]仁紀、廿七年八月「[illegible]」

〜**のりごと** (名) [詔令] [告言ノ義] 言ヒ聞カセ給フコト。オホセ。ミコトノリ。仁徳紀、三十八年七月、[illegible]時、[illegible]之[illegible]也」[illegible]紀、十二年十月、宣[illegible]時、[illegible]色、[illegible]上[illegible]」

〜**のりこぼる**・ル・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [乗溢] 舟、車ナドノ、乗物ノ外ニ、コボレ出デマ[illegible]ニ乗リコム、[illegible]七、[illegible]トトノヘタル車ドモノ、ワレモワレモトのりこぼれタル、下スダレノスキマドモモ」宇治拾遺、十一、第八[illegible]

のりこみ (名) [乗込] (一)乗込ムコト。ノリクミ。(二)他所ノ俳優ノ、某地ノ劇場ニ乗リ込ムコト。又、一組ノモノガ繰リ込ムコト。

のりこむ・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [乗込] (一)舟、車ナドニ乗リ入ル。乗物ノ中ニ入リ込ム。(二)乗物ニ乗リタルママ入込ム。甲陽軍鑑、七、品第十六「侍百人バカリノ中ヘタダ一騎のりこみ、[illegible]」(三)他所ノ人ニシテ、某地[illegible]仕事セムトスル者、始メテ其地ニ到着ス。一組ノ者、繰込ミ来ル。

〜**のりし** (名) [法師] 又、のりのし。ほふし(法師)ニ同ジ。[illegible]師、[illegible]テ久須、北野ノ宿所ニテ、出立ノ[illegible]、[illegible]一人、乗リテ、兵衛、其ノ日ハ[illegible]ニ物[illegible]シテ、法師ナドニハ、アハヌコトニテ、下人ドモ聞キ入レザリケリ」

〜**のりじり** (名) [乗尻] (一)馬ノ乗手。競馬ノ騎手。又、乗馬ニ巧ナルモノ。名目[illegible]「乗尻、ノリシリ」宇津保物語[illegible]のりしりハ、右近[illegible]ヨリハジメテ[illegible]物忌[illegible]シテ」[illegible]馬モ實ニスクヤカ也」(二)馬ニ乗リテ、尻ニ立チテ供奉スルモノ。宇津保物語、梅花笠「下ヅカヘノ装束調ゼサセ、のりじりノ雑色ヨリ始メ[illegible]」

のりすつ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) [乗捨] 下リテ放チ置ク。又、乗物ヨリ下リテ、其ママ[illegible]。[illegible]、一、細川幽斎、歌ノ心ヲ以テ身ヘ申候ニ、君ハマ[illegible]レバ、イマダ渕ニ候ヘバ、遠クハおクマジト存候ト申ス」

のりすて (名) [乗捨] 乗リ捨ツルコト。

のりずまひ (名) [乗争] 「乗リ争フ意」 馬ニ乗ラムトスルニ、馬ノ狂ヒテ互ニ争フコト。(牛ノかけずまひニ同ジ)

のりすれ (名) [illegible] 梟ハ、天気ノ晴雨ヲ[illegible]、雨降レムトスル時ニハ、のりすりおけ(糊摺置)ト云フヤウニ囀クト云フ」のりすりおけノ略。梟ノ鳴聲。和漢三才圖會、四十四、山禽類、梟、フクロフ、云云、其聲似[illegible]而長、如レ日[illegible]、[illegible]ヲ知リテ、糊ヲすりオケト鳴キ」片言(慶安)「梟ノカラ聲ヲバ、のりすれト鳴クト云ヒ」ト[illegible]フクロフノ、のりすれト鳴ク、月ノ夜ニ」

のりぞめ (名) [乗初] 始メテ、馬、船ナドニ乗ルコト。[illegible]、[illegible]ニモ云フ。ハツ乗リ。[illegible]、[illegible]元年正月九日「今日依吉日、新車乗始」[illegible]記、[illegible]十二月廿九日「今春新造輿[illegible]」今不[illegible]、今日吉日之由[illegible]」

のりだし (名) [乗出] 江戸時代、大名ノ長子ガ、始メテ登城シ、将軍ニ謁スルヲ云フ。大[illegible]十五[illegible]五、安[illegible]戊辰(明治元年)十一月廿八日、堂上諸侯中[illegible]之御[illegible]可[illegible]之事、但[illegible]ト唱候其、今般、官武一[illegible]仰出候ニ付テハ、[illegible]ト可二相唱一事」

のりためし (名) [乗試] [illegible]

のりぢ (名) [乗地] (一)謡曲ナドノ、[illegible]。[illegible]平のり(又、平地)ノ三種アリ。[illegible](二)物事ノ調子ニ乗リテ、気ノ進ムコト。[illegible]リ地ニナリテ、[illegible]レバ、[illegible]出ルアリ」

のりつく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) [乗着] 馬ヲ[illegible]、[illegible]ツ急ガセテ[illegible]

のりつけ (名) [糊付] (一)糊ヲ付クルコト。(二)糊ニテ、粘ニ着ケルコト。又、ソノ着ケタル物。[illegible]

のりて (名) [乗手] (一)[illegible]ニ乗ル人。[illegible]

のりと (名) [祝詞] 次條ノ語ノ略。

〜**のりとごと** (名) [祝詞] [illegible]

神代紀、上「使天兒屋命、主其解除之太諄辭、而宣之焉」同、上、云云、布斗詔刀言... 大祓祝詞「大中臣、天津祝詞乃太祝詞事乎宣禮」道饗祭祝詞「皇神、大中臣、太祝詞事ヲ以テ」鎮火祭祝詞「天津祝詞ノ太祝詞事ヲモテ、稱辭竟ヘマツラクト申ス」豐受宮御祭祝詞「太祝詞辭」古事記、上「天兒屋命、布刀詔戸言禱白而」神祇令「其祈年月次祭日、百官集神祇官、中臣宣祝詞」義解「謂、宣者、布也、祝者、賛辭也、言以告神祝詞、宣聞百官也」萬葉集、十七、四十二「中臣ノ、太能里等其等、言ヒハラヘ、アガフイノチモ、タガタメニナレ」

のりと・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【則】〔法ニ取ルノ義〕ノリトス。模範トス。手本トス。ノットル。ノトル。 名義抄「儀、ノリトル」日本紀竟宴歌「イツトモノ、フミヨムヒトハ、ダニヤウニ（五經博士、段楊爾ヲ云フ）、コレヲムネトゾ、トモニ乃利止流」

のりと・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）【乘取】乘入リテ奪ヒ取ル。攻入リテ陷ル。ノットル。（敵ノ城、船ナドヲ） 太閤記、十四、於二[illegible]「石火矢ヲ以テ打チスクメ、其ノ後のりとりナバ、ヨロシクアルベキカ」

のりならす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【乘馴】ヨク乘リナラハシム。馬ナド乘リテ、乘物ニ適スルヤウ馴レシム。

のりのくるま（名）【法車】〔法車ノ訓讀〕佛教ニテ、聲聞乘ヲ羊車ニ、緣覺乘ヲ鹿車ニ、大乘ヲ牛車ニ譬ヘ、之ヲ三車ト稱シテ、其涅槃證覺ニ至ルノ道程ノ差異ヲ說ク。猶、さんしゃ（三車）ノ條ヲモ參見セヨ。

〰**のりのし**（名）【法師】〔法師ノ訓讀〕僧ホフシ。 源、二、帚木廿「のりの師ノ世ノコトワリ說キ聞カセム心地」同、五十二、夢浮橋八「法の師ト、尋ヌル道ヲ、シルベニテ、思ハヌ山ニ、フミマドフカナ」永久四年百首、小夜更ケテ、イマゾ法の師、イデヌラン、雲ノ上人、名ノリスラシモ」和泉式部集「のりの師ノ、トリオキテケル、帶ナレド、ツミフカゲニモ、見ユルモノカナ」

のりのすべらぎ（名）〔法皇ノ文字讀〕天皇ノ、佛道ニ入ラセタマヒシヲ云フ語。法皇。法王。 倭訓栞「のりのすべらぎ、法皇ヲ申奉レリ」千載集、序「七十ヂノシホニモ過ギ、我ガのりのすべらぎニ仕ヘタテマツリテハ、三（六イ）十ヂニナム餘リニケレバ」

〰**のりのつかさ**（名）【式部省】〔禮法ノ司ノ義〕しきぶしやう（式部省）ニ同ジ。又、ノノツカサ。 倭名抄、五、官名「式部省、乃利乃加佐」天武紀、下、七年十月「凡、內外文武官、云云、而皆當、議二其優劣一則定二應進階一、正月上旬以前、具記送二法官一」

のりのふね（名）【法船】〔法船ノ訓讀〕法ノ海ヲ渡リテ、極樂ノ彼岸ニ達スル舟。又、のりのいかだ（法筏）トモ云フ。 倭訓栞「のりのふね、內德論ニ、慧二法舟一而利濟ト見ヘタリ」新古今集、廿、釋教「法の舟、サシテ行ク身ゾ、モロモロノ、神モ佛モ、ワレヲ見ソナヘ」拾玉集、二「ツミ人ハ、のりの御舟ノ、ナカリセバ、クルシキ海ヲ、ワタラマシヤハ」

のりばけ（名）【糊刷毛】糊ヲ物ニ塗ルニ用ヰル刷毛。糊刷

のりまきずし（名）【海苔卷鮓】炙リタル海苔ニ、鮓ノ飯ニ酢ト鹽トヲマゼテ、カキマハシタルヲ、厚サ二三分位ニ載セ、堅メテ、中ニ味ヲツケテ煮タル乾瓢二三本、其他ノ物ヲ入レテ卷キ、輪切リニ切リタルモノ。略シテ、のりまき。

のりもの（名）【乘物】（一）〔馬、牛、車、輿ナド、凡テ、人ノ乘リテ行クモノ。乘轝 名義抄「乘、ノリモノ、轝、ノリモノ」字類抄「乘物、ノリモノ、轝、ノリモノ」 源、六、末摘花廿五「普賢菩薩ノのりものト覺ユ」（白象ノコト） 朗詠集、下、故宮「老鶴從來仙洞駕」（二）後ニ專ラ、駕籠、（貴人ノ用ナルニ）輸。肩輿。 和漢三才圖會、三十三、車駕類「乘物、云云、近俗、肩輿之總名稱二乘物一、其制用二備州莞莚一、今武家官醫及尼女所乘者也、民俗不レ許レ乘レ之」 守貞漫稿、廿九、駕車「板輿、云云、縉紳家ニハ總テ、專ラ輿ト云フ、武家ニハ肩輿ニ非レバ輿ト云ハズ、乘物ト云習ヘり」

〰**のりもの**（名）【賭物】〔のりハ乘ニテ、算術ノ乘算ニテ、賭ナリ〕弓馬、圍碁、雙六ナドニ賭クル品物。カケモノ。 字類抄「賭、ノリモノ、賭物也」 宇津保物語、初秋九十「上、碁盤ヲ召シテ、仲忠ト御碁アソバス、何ヲのり物ニハセム、イトセチナル物ハ賭ケジ、イヒゴトヲ賭ケム」增鏡、一、おどろのした「思ヒ思ヒニ勝負ヲサウトキアヘルモ、イトヲカシウ御覽ジテ、サマサマノ興アルのり物（賭物）ドモ、トウデサセ給フトテ」

のりものざうり（名）【乘物草履】藺ニテ作リタル草履。金剛。 物類稱呼、四、器用「ざうり、江戶ニテこんがう、又、のりものざうり、ウラオモテ共ニ藺ノ殼ヲモッテ織リタル物也」

〰**のりものづく**（名）〔づくハ、給ナラム〕賭事ニ懸クル品物。マケワザ。カケヅク。カケロク。懸賞品。 宇津保物語、初秋五十五「手ヲ一ツ打チアヤマチテ（碁）、タダ目一ツヲ負ケ奉リヌ、上、興アリトオボシメシテ、ハヤウ賭物づく事ハト仰セラル」

〰**のりゆみ**（名）【賭弓】〔錢ヲ賭物ニシテ、射中テタルモノニ賜フ〕古ヘ、射禮ノ後朝、即チ正月十八日ノ公事。主上、弓場殿ニ臨マセラレ、左右ノ近衞府、兵衞府ノ舍人、弓ヲ射テ勝負ヲ試ミルヲ御覽アリ、勝方ノ大將、射手ニ還饗アリ、負方ニハ罰酒セラル。又、臨時ニ殿上ノ侍臣ドモノ射ルヲ御覽アルヲ、殿上の賭弓ト云フ 增鏡、一、おどろのした「錢、云云、古ヘヨリ殿上の賭弓ト云フコトニハ、コレヲコソ、賭物ニハセシカ」十訓抄、中、六、第廿條「武則、公助ト云フ隨身父子アリケリ、右近ノ馬場ノのりゆみ、ワロク射タリトテ、子ヲ勘當シテ、晴ニテ打チケルニ」 鹽尻、八十五、步射祕解「天智天皇九年正月ニ、士大夫等ニ詔シテ、宮門ノ內ニ大射ス、ト見エタリ、賭弓ハ正月十八日、又、殿上の賭弓ハ臨時ノ儀ナレバ、年中行事ノウチニハアラズ」

の・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【乘】（一）〔移リテ其上ニ居ル。アガル。ノボル。（車、馬、船、駕ナドニ） 名義抄「御、ノル」字類抄「乘、騎、駕、載、登、ノル」神代紀、下、二二「豐玉姬自駕二大龜一、將二女弟玉依姬一、光二海來到」竹取物語「大伴大納言ノ人ヤ、船ニ乘リテ龍殺シテ」萬葉集、七、四二「サナミノ、四極津ノ浦ノ、船乘ニ、乘リニシ心、ツネ忘ラエズ」（二）其上ニ書キ記サル。載ル。「年代記ニのる」（三）欺キニ遇フ。タバカラル。「計策ニ乘る」（四）機ニツケテ進ム。ツケ入ル。乘ズ。ハズム。 後撰集、十九、別「船ニテ物ヘマカリケル人ニ「後レズゾ、心ニのりテ、コガルベキ、波ニモトメヨ、船見エズトモ」朝忠集「アマノ戶ノ、アクルマヲダニ、ユルサレデ、マタ夜ニのりテ、歸リヌルカナ」蓄閑集、十七、變化「イトド勝ツニのりテ、壓シフセテ居タルニ」（五）盛ニナル。增ス。「面白ミ興ニ乘る」（六）附ク。「白粉ガのる」「あぶらガ乘る」（七）〔カカリテハナレズ〕 萬葉集、二十一「東人ノ、荷前ノ箱ノ、荷ノ緒ニモ、妹ガ心ニ、乘リニケルカモ」同、十三十三「春サレバ、シダリ柳ノトヲヲニモ、妹ガ心ニ、乘リニケルカモ」六帖、一「秋霧ノ、立ツ野ノ駒ヲ、引ク時ハ、心ニのりテ、人ゾ戀シキ」（八）ノリウツル。憑ク。 平家物語、二、座主流事「用懺ヲ眠イテ祈リ念ジケリ、云云、儀ニ狂ヒ出デタリ、ワガ十禪師權現のりヰサセ給ヘり」

〰**の・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【似】にる（似）ノ古言。 名義抄「似、ニタリ、ノル」字類抄「似、ノレリ、ニタリ」 倭名抄、八十五、備中國「近似、知加乃里」神代紀、下、八「此神形貌、自與天稚彥恰然相似」

[illegible]、[illegible]八[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]代、大[illegible]而[illegible]之、[illegible]紀、九十四月[illegible]、大[illegible]、[illegible]代、大[illegible]之升[illegible]代[illegible]」

の・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）【宣告】・（述ぶる意ト云フ）言ニ述ブ。言ヒ聞カス。告グ。名義抄「詢、ノル、トフ」字類抄「詢、ノル」[illegible]中[illegible]位[illegible]、大[illegible]ニ、還ヤ少女ヲ、道聞ヘバ、タダニハ能選ズ、當麻路ヲ能流」景行紀、五十一年八月「命[illegible]内[illegible]、[illegible]二」大[illegible]祝[illegible]「天津[illegible]ノ[illegible]、[illegible]良バ、云云」「名告る」

の・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）【罵】〔怒リ宣る意〕卑メテ無禮ゲニ物言フ。辱カシメ言フ。惡口ス。ノノシル。名義抄「詈、ノル、ハヂシム、詈、ノル、罵、ノル」萬葉集、十二卅八「己レ故、[illegible]テ居レバ、[illegible]馬ノ、面高フダニ、乘リテ來ベシヤ」同、十六卅九「白髮シテ、子等モ生ヒナバ、カクノゴト、若ケム子等ニ、所罵カネメヤ」古事記、中（神武）二「召二兒宇迦[illegible]」[illegible]紀、[illegible]年十一月「[illegible]罵曰、[illegible]入[illegible]、[illegible]身命、不二亦殆一乎」

の・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【伸】〔伸ぶニ通ズ、のすノ自動〕背、高クシテ、前ヘ臨ク。身、前ヘサシカカル。ノゾム。「のりツミリツ」のるかそるかトハ、成功スルカ失敗スルカノ意。運ニ任セテナス場合ニ云フ。イチカバチカ。

の・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【仰】そる（反）ニ同ジ　[illegible]記、八、[illegible]「[illegible]五尺ニ寸ノ太刀ヲ以テ、敵三人不レ[illegible]切ッテ、太刀ノ少シ仰ッタルヲ、[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]シ[illegible]シ」

の・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）【賭】物ヲ賭ケテ、勝負ヲ定ム。賭ク。[illegible]、廿、[illegible]鼓咲、人タハブレヲシテ、互ニのりナドシテ後、久シク音モセヌニ、女ノモトヨリ、春駒ノ、のるヲクルシト、[illegible]ニヤ、ナド[illegible]ニ云ヘ[illegible]ケル、[illegible]ニ[illegible]シトモ、思ハネバコソ、春駒ノ、のれド心ハ、ナホ速ルラム」

ノ・れん（名）【暖簾】〔のうれんノ約。ふうれん（暖簾）ノ條ヲ見ヨ〕元ハ席ナリシガ、後ニ布トナレリ。商店ノ店先ナドニ掲グルモノ。其長ク垂ルルヲ、長のれんト云ヒ、短キモノヲ、半のれんト云ヒ、軒先キニ[illegible]クルヲ、水引のれんト云フ。[illegible]下[illegible]集、下、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]　[illegible]「[illegible]ノレン」[illegible]小[illegible]（[illegible]）[illegible]シガ、[illegible]中[illegible]京[illegible]ハ[illegible]ニテ、[illegible]、[illegible]暖簾ハヅシ大戸ヲシメテ、[illegible]ニ、貸屋札、コリャドウジャ」[illegible]、[illegible]（[illegible]）[illegible]韻、のれんノカゲカラ[illegible]ト出エイ」暖簾に腕押しトハ、力ヲ入レテモ、少シモ手ゴタヘノナキ譬ニ云フ。

ノ・れん・し（名）【暖簾師】人ヲ欺キテ、ゴマカシ物ヲ賣リツケル狡猾ナル商人。初ニ好キ品ヲ見セテ賣リスマシ、次ニ惡シキ品ニカヘテ賣リオトドス。又ハ、[illegible]アルモノハ、少クミテ賣ルコトアリ、總ジテ、他ヲ晦マシテ賣ルヲ云フ。

の・ろ（名）【野】「ろハ助辭、ぬろ、のろノ類」又、ぬろ。のら（野）ニ同ジ。萬葉集、十四廿「オモガタノ、忘レムシダハ、オホヌロニ、タナビク雲ヲ、見ツツシヌバム」

の・ろ（名）【祝】女ノ神官。（沖縄ニテ）

の・ろ（名）アカラメモセズ、注視スルコト。[illegible]本草ニ「[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]」トアリ。コレ獵人、[illegible]ヲ捕ヘムトスルニ、跳躍シ舞フ狀ヲスレバ、目ヲ放タズ視トメ居ルヲ、傍ヨリ狙ヒテ捕ルナリ。[illegible]レバ俗ニ、一方ニノミ[illegible]ニテ、[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]、[illegible]シト云フ[illegible]ジテ、[illegible]紀、廿、天平寶字元年七月、橘奈良麻呂ノ

反逆ノ黨與ナル黄文王ノ名ヲ多夫禮、道祖王ノ名ヲ麻度比ト改メ、大伴古麻呂等四人ノ[illegible]、乃[illegible]ト[illegible]タマヘルコトアリ。

ノ・ロ（[illegible]）【[illegible]】「[illegible]、[illegible]」[illegible]類。鹿ニ似テ少シ小サク、角ナク、毛ハ[illegible]

の・ろ・くさ・し・[illegible]【[illegible]】のろし（鈍）ニ同ジ。

の・ろ・くた（名）【鈍臭】〔のろくさしノ約略〕ノロキコト。ノロクサキコト。遲鈍

の・ろ・け（名）【惚氣】ノロケルコト。又、ソノ話。ノロケバナシ。

の・ろ・け・ばなし（名）【[illegible]】[illegible]情人トノ間ニ於ケル情事ヲ、誇リカニ人ニ話スコト。ノロケタル話。

の・ろ・け・る・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下一）【惚氣】（一）トロケル。色情ニ溺ル。（二）情人ノ事ヲ、誇リカニ人ニ語ル。

の・ろ・さく（名）【鈍作】〔ノロキ人ヲ云フ語〕愚鈍ノ人。ノロクサキ人。

の・ろ・し（名）【[illegible]】[illegible]ハ氣ナリ、風雨、虹ノしト同義。[illegible]ノ陸佃ノ埤雅ニ「古之烽火、用二狼糞一、取二其煙直而聚、雖二風吹一之不一レ斜ト」（二）飛火。ススミ。軍中ニテ、合圖ノ爲ニ、烟ヲ打上グルモノ。筒ニ火藥ヲ込メテ[illegible]、[illegible]、[illegible]流ノ軍學ニテハ、地ヲ掘ルコト一丈バカリ、底ニ薪ヲタキテ、一間程ノ生木數本ヲ、燒火ノ上ニ立ツレバ、煙、空ニアガルト云フ。（甲子夜話、廿三）或ハ、コレニ狼ノ糞ヲ投ズレバ、煙高ク天ニ昇リ、風ニ靡カズト云フ。ホウカヤリ。[illegible]

の・ろ・し・キ・ケレ・ク・ク・形、（二）【鈍】〔[illegible]〕（一）心オソシ。智ク鈍シ。[illegible]事、時ニ後ル。[illegible]トロシ。[illegible]プシ。ノロクサシ。遲鈍[illegible]　（二）江戸時代ニ、色色ノ作リモノヲ打[illegible]、[illegible]　（三）[illegible]色情ニ溺レ[illegible]

[illegible]「[illegible]外ニツラキ人サクア、[illegible]ノのろさゾ、コトワリ知ヲゼノナリケリ」[illegible]九[illegible]、[illegible]ハ中シャンヤメ、[illegible]ノンロリト見ル、タテマチのろくナリア」

の・ろ・し・もり（名）【烽守】古ヘ、兵部省ノ所管ニテ、烽火ヲ守リシ者。烽火ノ番人。

の・ろ・の・ろ（[illegible]）[illegible]アヤ[illegible]セズ、ノノ[illegible]

の・ろ・の・ろ・し・シキ・シク・シケレ・シク・シク（形、二）【[illegible]】詛ノ如シ。[illegible]メシゲ[illegible]ノスキ、[illegible]中、人[illegible]ミ[illegible]ニ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]アリ[illegible]、[illegible]

口語ニ罵ヘバ」

のろひ (名) 詛 ノロフコト。呪詛。伊勢物語、九十六段「人ノのろひ事ハ、負フモノニヤアラム、負ハヌモノニヤアラム」 榮花物語、二、月宴「のろひナドシタマヒツラムヤウニ」十訓抄、中、第七、第十六話「大宮ノ御局雇、云云、年比卓部ノ、のろひゴトナシケルノ聞キテ」

のろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 詛呪 〔祈る〕ノ延 トコフ。トリソ。カジル。怨ミ、憎ミ思フ口中ニ唱へ、神ニ請ヒテ、怨ミ、憎ミナドアルモノヲ敗レシム。詛ふニ同ジケレド、言ニ發セヌ術ト云フ。神佛ニ禱リテ、怨敵ニ禍ヲ蒙ラス。呪詛ス。天治字鏡、十二「呪、乃呂不」字類抄「詛、呪、ノロフ」續紀記、十、廿頁、詛、呪、乃呂不」式部郎位前后、瀧口大上、云云、厭魅、咒詛、及、其子弟、謀為、呪詛、何不、以為咒詛、由、是角見之罪、當、天皇所、食」 伊勢物語、九十六段「カノ男ハ、アマノ逆手ヲ打チテナン、のろひ居ルナル」 枕草子、一、第三段「打チツル人ヲのろひ、マガマガシク云フモヲカシ」台記「呪詛の所為を記して「打ち釘於愛宕山天公像目」」

のろま (名) 鷙鈍 〔鈍間拔ノ下略ナルベシ〕 (一)氣轉ノ利カズシテ、遲鈍キ人ヲ罵ル語。 頑鈍 雲錦随筆(文久)四 世俗ノ詞ニ、云云、愚痴ナル者ヲのろま、或ハ、のろ松ナド云フ」 (二)次條ノ語ノ略。

のろまにんぎゃう (名) 野呂松人形 「野呂松ハ、前條ノ語ニ寄セタル戯號ナラム」操人形ノ一種。寛文、延寶ノ頃、野呂松勘兵衛ト云ヘル者、創ム。高サ一尺五寸許リニテ、頭扁ク、色、青黑キ、木偶ヲ舞ハシテ、痴騃ナル狂言ヲ演ズルモノ。略シテ、のろま。又、そろまにんぎゃう、又、おぎまにんぎゃうト云ヘル

モノ起ル。略、同種ナリト云フ。浮世床(文化、二編、上)「ナクナリヤア、のろま人形デ語ラトラア、オイトのろまハロナラ高野」

のろんさ (名) 呪師 幻術メキタルコトヲシテ、人ノ目ヲ眩マス技人。後ニ猿樂ナモ演ズルニ至ル。中右記、長治二年正月十二日「入レ夜參二法成寺一云云、丹波呪師觀手、誠神妙、已無比日二」 釋氏往來、正月「夜前法勝寺修正、云云、呪師散樂等、五常、侏儒、云云、體如二飛鳥一輕、態似二猿犬之妙一云云、放二狂言一而鸞呼」

のろりと (副) のろきヲ狀ヲ云フ語。ヌラリト。ノラリト。浮世風呂(文化、二馬、三編、下)「ユフベのろりと寢タ所ガ、内ヘハ這ラレネエカラ、車屋ノ大八サン所ヘウセタノサ」

のろりのろりと (副) 前條ノ語ノ重語 浮世風呂(文化、三馬、二編、下)「預ケ惜ンミニア、湯殿ミノ所ヘ行ク、湯クミノ男、湯ヲのろりのろりと汲ンデキル」

のわき (名) 野分 〔野草ヲ吹キ分クル意〕 野分の風ノ略。秋ノ際ニ吹ク疾風ノ名。ノワケ。暴風 源、廿八、野分「野分、例ノ年ヨリモ、オドロオドロシク、空ノ色、變リテ吹キ出ヅ」 新古今集、十四、雜、三「今朝モ猶、のわきノナゴリ、風アレテ、雨降リソソグ、村雲ノ空」 風雅集、四、夏「草ノ末ニ、花コソ見エネ、雲風モ、野分ニ似タル、夕暮ノ雨」

のわきのかぜ (名) 野分風 前條ノ語ニ同ジ。倭名抄、一「風小嵐、暴風、乃和木乃加世」 拾玉集、六「思ヘタダ、アダナル物ハ、人ノ命、野分の風ニ、萩ノ上露」

のわきだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 野分立 のわきノ様ニ風吹ク。野分ラシキ風吹ク。風雅集、七、秋、下「野分だつ、夕ノ雲ノ、アシハヤミ、時雨ニ似タル、アキノムラ雨」 源、一、桐壺「野分だちテ、ニハカニハダ寒キ夕暮ノホド」

のわけ (名) 野分 のわき(野分)ニ同ジ。相摸集「淺茅ハラ、野わけニアヘル、露ヨリモ、猶ア

リガタキ、身ノイカニセン」

のゑんどう (名) 野豌豆 (一)荳科ノ一年生草本。原野ニ多シ。秋深ケテ、子ヲ生ズ、冬ヲ歷、春ニ至リ、盛ニ成長ス。莖、地ニ布クコト、一二尺、葉、互生ス。翹搖 二種アリ。其一ヲ烏の豌豆ト云フ。葉ハ、れんげさう(蓮花草)ニ似テ、數多シ、葉頭ニ鬚ナク、春ノ末、葉ノ間ニ、紅紫花ヲ開ク、豆ノ花ニ似テ大キサ三分許リ、莢、長サ七八分、子圓クシテ、少シ平タク、淺綠色ナリ。又、イヌソラマメ。大巣菜 其一ヲ雀の豌豆ト云フ。葉、最モ細小ニシテ、頭ニ鬚アリ、葉ノ間ニ小莖ヲ出シ、數花ヲ開ク、大キサ一分ニ滿タズ、淺紫色ナリ。莢、長サ三四分、内ニ二子アリ。又、イヌエンドウ。小巣菜 (二)又、はまゑんどう(濱豌豆)ノ一名。

は ば ぱ

は 五十音圖、波行第一ノ假名。此一行ノ假名、は、ひ、ふ、へ、ほ、ノ五音ハ、其發聲、喉ヲ摩リテ出デ、其中ニ、ふハ特ニ脣ニ觸レ、而シテ、共ニあ、い、う、え、おノ韻ト熟シテ成ル(奥羽、北陸、山陰、ニテハ、五音、皆、多クハ、脣ニ觸ル)はハ、下ニ、う、又ハ、ふ(うト呼ブモノ)アルトキハ、ほノ如ク響クコトアリ、はうき(箒)、はふこ(這子)ノ如シ。又、他ノ音ノ下ニアルトキハ、わノ如ク呼ブコ

トアリ、いは(岩)、さは(澤)、おはぢ(閉)ノ如シ。

ば ば、び、ぶ、べ、ぼ、ト共ニ、五十音圖、波行ノ濁音ノ假名。此五音ハ、同行ノ清音ナルは、ひ、ふ、へ、ほ、ノ音ヲ、重ク脣ニ觸レシメテ出ヅ。(尙、本濁ト連濁トノ別アリ、篇尾ノ語法指南ノ濁音ノ條ニ委シ) ばハ、下ニ、う、又ハ、ふ(うト呼ブモノ)ヲ受クルトキハ、ぼノ如ク呼ブコトアリ、ばう(坊)、びんばふ(貧乏)ノ如シ。

ぱ ぱ、ぴ、ぷ、ぺ、ぽ、ト共ニ、五十音圖、波行ノ半濁音ノ假名。此五音ハ、同行ノ清音ナルは、ひ、ふ、へ、ほ、ヲ脣ヲ彈キナガラ呼ビテ出ヅ。(赤、本濁ト連濁トノ別アルコト、前項ノ如シ)ぱハ、う、又ハ、ふ(うト呼ブモノ)ニ連ナルトキハ、ぽノ如クヒビクコトアリ、てっぱう(鐵砲)、りっぱふ(立法)ノ如シ。

は (名) 齒 〔平ノ約、端ノ義〕 (一)〔動物ノ上下ノ顎、即チ、口腔内ニ生ズル骨ノ如キモノ。象牙質ト琺瑯質ト白堊質トノ三層ヨリ成リ、物ヲ噛ミ碎ク用ヲナシ、人ニアッテハ、兼ネテ、言語ヲ明白ナラシムル用ヲモナス。人ナルハ、上、下、各、十六枚アリ、即チ、上下、左右、各、前齒(門齒)二枚、牙(犬齒)一枚、奥齒(小臼齒二、大臼齒三)五枚ナリ。其中、乳齒ノ脱ケタル後ニ生ズルヲ、永久齒ト云フ。齒、各條ニ註ス。倭名抄、三、鼻口類「齒、波」 枕草子、三、第廿八段、にげなき物「はモナキ女ノ、梅クヒテ、スガリタル」 齒をかむトハ、齒ヲカミシメテ、殘念ナル意ヲ示ス。常山紀談、十三、關原合戰「秀註(小早川秀秋)

裏切シテ討テカカラレシカバ、[illegible]、齒ヲかみ、秀詮ノ不義、骨髓ニ徹セリ」 (二)スベテ、器具等ニ、細カキ刻ミノ並ビ出デタルモノ。「櫛ノ齒」鋸ノ齒」 (三)車ノ輪ノ緣。又、ソノ緣ニアル多クノ凸起。「齒車」 (四)下駄、足駄ノ下ナル板ノ脚。履齒 天治字鏡、十六[illegible]有齒也」宇治拾遺、十四、第三條「[illegible]ミ[illegible]リテ立テリケレバ、イミジウ責ク引クト思フ程ニ、履キタルアシダノはヲフミ折リツ」

ば (名) 刃 〔齒ノ義〕 刀、小刀、ナド、切物ノ緣ノ、薄ク鋭クシテ物ヲ切ルベキ處。(背ニ對ス) 神代紀、上[illegible]「ツルギノハコリシタタルチ」 保元物語、二、白河殿攻落事「鏑矢、云云、前一寸ニハ、峯ニモ刃ヲゾ附ケタリケル」堀河百首「アフコトハ、刀ノはヲモ、アユムカナ、人ノ心ノ、アヤブマレツツ」 七十一番職人歌合、五十七番「コヒ故ニ、庖丁刀、はヲミレバ、ホロホロトコソ、ネモナカレケレ」

は (名) 羽 〔平ノ約、扇ぐ意〕 (一)鳥ノ全身ヲ被フ毛。羽根 [illegible]倭名抄、七[illegible]「羽、波、鳥長毛也」續紀、元年[illegible]月「[illegible]於二飯氣、以帛印[illegible]、[illegible]其字一」萬葉集、廿、[illegible]「鳥ノ、鴨ノ羽ノ色ノ、アヲ馬ヲ、ケフ見ル人ハ、限リナシト云フ」六帖、六「朝ハラニ、小夜ウチフケテ、タツ鳴ノ、羽コソシルラメ、ヒトリヌルヨハ」 (二)〔ツバサ〕翼 翅 倭名抄、十八[illegible]羽族[illegible]「翅[illegible]波、鳥翅也」 萬葉集、十二[illegible]「葦ベユク、鴨ノ羽音ノ、音ノミニ、聞キツツモトナ、戀ヒワタルカモ」「鳥ノ羽音[illegible]」 (三)[illegible]「飛ブ[illegible]ニアル翅ノ如キモノ。[illegible]ク露ノ、コカクレテ、シノビシノビニ、ヌレ[illegible]カナ」萬葉集、三四十七「アキツ羽ノ、袖フル妹ヲ、玉クシゲ、オクニ思フヲ、見給ヘワギミ」新勅撰集、十五、[illegible]、オノレナラ、心カラニヤ、ウツ[illegible]ノ、[illegible]ニナク露ニ、身ヲクダクラム」 (四)鳥ノ羽ヲ、矢ノ本ニ着ケタルモノ。矢ヲシテ、正シク飛バシムル用トス。 (五)羽振ノ略。或[illegible]

はノキクキカヌトイフハ、機柄ノ意ナルベシ」「羽ガ利ク」羽ノ伸ク」

ば (名) 〔[illegible]〕 〔羽ノ義〕 [illegible]、羽ニテ作レル團扇ノ如キモノニ、長キ柄ヲ添ヘタルモノ。昔、貴人ノ儀衛ニ用ヰ、頭上ニカザス。 倭名抄、十四、[illegible]具「翳、[illegible]」 御卽位式[illegible]六人」「[illegible]」

は (名) 端 〔[illegible]ニ通ズ〕 (一)端 ハタ。ハナ。ヘリ。ツマ。萬葉集、三四十「見エズトモ、誰戀ヒザラメ、山ノ端ニ、イザヨフ月ヲ、ヨソニ見テシガ」 古今集、十七、[illegible]「アカナクニ、マダキモ月ノ、隱ルルカ、山ノ端ニゲテ、イレズモアラナム」 (二)末。「髮ノサガリは」

は (名) 〔[illegible]〕 〔或ハ云フ、半ノ音カト〕 俳。ハンパ。零餘 「數ノ端」錢ノ上端」

は (名) 葉 〔平ノ約〕 草木ノ莖幹、枝條等ヨリ生ジテ、片片シタルモノ。其呼吸作用ヲ營ムノ機ナリ。形、色、種種ナレドモ、普通ハ、[illegible]ナルモノ多シ。 倭[illegible]、廿、木具[illegible]草木之葉[illegible]也」 古事記、中[illegible]宣傳[illegible]、當ハ[illegible]ト居、ワサレバ、[illegible]カムトゾ、木ノ葉サヤギヌル」 同、下(仁德)「シガ花ノ、テリイマシ、シガ葉ノ、ヒロリイマスハ、オホギミロカモ」 萬葉集、一二十[illegible]、秋山ノ、木ノ葉ヲ見テハ、黃葉ヲバ、取リテゾシヌブ」

は (名) 派 ワカレ。エダ。流義、又ハ、宗旨ナドノワカレ。[illegible]「[illegible]出[illegible]」

は (名) 破 雅樂ノ曲ノ一體。下ノ出典ヲ見ヨ。 十訓抄、十、第廿六條「大蛇、云云、大口ヲアキテ、既ニノマントス、助元、タマシヒ失セナガラ、ワナナクワナナク、腰ナル笛ヌキ出シテ、還城樂ノ破ヲ[illegible]」 次第ニ[illegible]ノ經緯ナルノ義ナリ、又、入破ト云フ」

は (名) 覇 〔總王ノ王ニ對ス。覇ハ俗字〕 (一)甲兵ヲ用ヰ[illegible]、假リニ仁ヲ行ヒテ功トスルモノ。[illegible]、一方ノ諸侯[illegible]「[illegible]」[illegible]子世家「孔子[illegible]、政必霸、[illegible]」 (二)武力、又ハ、術策ヲ以テ事ヲ行ソコト。

ば (名) 〔[illegible]〕 第二類ノ[illegible]、國音[illegible]自ニ差別スル意ノ語。[illegible]メ、海バラ波、カマメタチタツ、ウマシ國ゾ、蜻[illegible]島、ヤマトノ國者」「人は去リ、我は止ル、見ルは善シ」取リテは見ム、[illegible]何はセム」

は (感) (一)笑フニ發スル聲。宇治拾遺、五、第十條「人人、皆、はトゾヒケリ」 (二)又、呼ブニ應ズル聲。ハア。

はワ (嘆) [illegible]ナクメデタシト思ヘド、サルサガナキエビス心ヲ見テハ、[illegible]ナクニシトマル、物ナラバ、我レ貴ニ、オトラマシヤは」 [illegible]百首「ハルバルト、イソラガ崎ノ、渡リヲ[illegible]リ、[illegible]ツルアマノ、[illegible]」

は (接尾) 把 束ネタル物ヲ數フルニ云フ語。[illegible]

は (接尾) 羽 鳥ヲ數フルニ云フ語。[illegible]歩色葉集「一羽、イツハ」「鶴三羽」

ば (名) [illegible] 大[illegible]ノ市ハ、我ノ手形ニ立ツト申スガ、アレカラ見レヘ、コレカラアレヘ、我モ我モ、コイはア[illegible]サル」[illegible]

は (助) 差別スル天爾波ノ名ノ、音便ニ[illegible]リテゾシメノ、青ヤリ者、オトナゾサガク[illegible]ば取ラム[illegible]ズンばアラズ」此接續ノ意ヲ含ムばヲ略スルモノ。萬葉集、[illegible]長歌[illegible]レ(要)[illegible]ドリ、[illegible]、同[illegible]長歌[illegible]セ、神ツマリ、ウシハキイマス」同、十七[illegible]リテ、[illegible]セアハムト、思ヘ(要)コソ、[illegible]ツリタレ」

ば (接尾) 〔差別スル天爾波ノはヨリ轉ズ〕 [illegible]ト將然トノ別アリ。[illegible]ベシ。萬葉集[illegible]ガ[illegible]、コノイロ見スニ[illegible]は、[illegible]カシメは、行カシムレは

はあ (感) 〔はノ延〕 (一)笑フ[illegible]聲。 (二)[illegible]應ズル聲。ハア。

ばあ (名) オリカモノ。愚者。[illegible]

バア (名) 〔英語、Bar〕 酒場。[illegible]居酒屋。酒賣ル店。

はあ [illegible] 〔はは卜笑フ聲カ〕 小兒ヲ[illegible]スルニ、顏ヲ隱シ居テ、突然ニ顯ハシ[illegible]發スル聲。[illegible]

バア (名) 八 [illegible]

ハアカ [illegible]

パアゲン・テイ (名) 〔英語、[illegible]〕

(三ノ二) 商店ニテ、品物ノ割引ヲナシテ賣出ス日。大賣出シノ日。

はあく (名) 把握 手ニテ、握リ把ルコト。 [illegible]「[illegible]在レ手把握」[illegible]乃[illegible]大人之[illegible]方伯之失[illegible]至寶異[illegible]夜光[illegible]把握[illegible]

ばあさん (名) 婆樣 ババサマ。

パアセント (名) 〔英語、Per cent. 又ハ、Per-centage.〕 全體ノ百分ノ幾ト云フヲ、示スニ用ヰル語。符號トシテ、%ヲ用ヰル。プロセント。百ニ付キ。又、歩合。

ばあたり (名) 場當 (一)芝居ナドニテ、脚色ナドニ關係ナク、當座ノ事柄ニツキ、巧ニ機轉ヲキカシテ、人氣ヲ取ルコト。(二)凡テ、其場ノ事柄ニツキ、機轉ヲキカシテ、當座ノ人氣ヲ博スルコト。

ハアト (名) 〔英語、Heart.〕 (一)ココロ。愛情。(二)心ノ臓。心臓。

ばあひ (名) 場合 (一)其場ニ行キ合ヒタル時。ヲリ。シホ。時機。乘時 (二)境遇。

ハアプ (名) 〔英語、Harp. 竪琴ト譯ス〕 西洋ノ樂器。彎曲セル框ニ、多數ノ絃ヲ、縦ニ平行セシメテ張リ、兩手ノ指ニテ彈ズルモノ。

ハアモニイ (名) 〔英語、Harmony.〕 調和。諧和。特ニ、音樂ノ諧調。

ハアモニカ (名) 〔英語、Harmonica.〕 西洋ノ樂器 口風琴ノ稱。長サ二寸乃至五寸、幅五分乃至一寸、厚サ三分乃至四分許リノ木製ノ、厚肉ノ函中ニ十箇、又ハ二十箇ノ區劃ヲ作リ、各劃毎ニ音階ノ順ニ調律セラレタル金屬製ノ簧ヲ納メ、其上側面ニ穿タレタル方孔ニ口ヲ當テ、呼息、及、吸息ヲ以テ、其簧ヲ發音セシメ、以テ奏スルモノ。

はあり (名) 羽蟻 蟻ニ似テ色白ク、四羽アリテ身ヨリ長ク、後、身ハ淡赤黑色ニシテ光ル。朽チタル木ノ中ニ生ジ、春暖ニ至リ、羽ヲ生ジテ飛ビ、又、羽ヲ脱シ、地上ヲ行キテ死ス。約メテ、はり。 飛蟻 [illegible]蟻 飛蛾 倭名抄、十九蟲豸類「飛蟻、波阿里、[illegible]能飛者也」 三代實錄、五十、仁和三年八月四日「達智門上有レ氣、如レ煙非レ煙、如レ虹非レ虹、飛上屬レ天、或人見レ之、皆曰、云云、是羽蟻也」

はい (名) 鱗 はえ(鮠)ノ轉。(京都)

はい (名) 蠅 はへ(蠅)ノ轉。

はい (名) 拜 ヲガムコト。頭ヲ下ゲテ禮スルコト。(致敬ノ人、年ノ始、又、慶中シニ、我ガ邦ノ拜ト云フハ、スベテ庭上ニテスルナリ) 禮記、曲禮、上篇「若主人拜、則客還辟、辟レ拜」 唐六典、四「凡百官拜禮各有レ差、文官三品已下拜二正一品一、東宮官拜二三師一、四品已下拜二三少一、自餘屬官、於二本司一隔レ品者皆拜、其准レ品應レ致敬、而非二相統攝一則不レ拜」 源、四十八、寄生「御直衣引キツクロヒテ、下リテ(庭ニ)、答ノはいシタマフ」(答拜ノ條ヲ見ヨ) 著聞集、三、公事「仁平元年正月一日、院、拜禮有ケリ、八條太政大臣、七十二ニテタチ給ヒタリケリ、一タビ拜シテ、フタタビ致シ給ヒケリ、此事、禮記ニ見エタルトカヤ」 作庭記(藤原良經)「寢殿ノ庭ヲ作ルニ、南階ヨリ五丈ノ間ニ石ヲ立ツベカラズ、拜禮ノ爲ナリ」 謠曲、鶴龜「拜ヲススムル萬戸ノ聲」「拜ヲ行フ」

はい (名) 肺 古名、フクフクシ。動物體内ノ呼吸ノ器官、左右ニ各一箇アリテ、胸腔ノ兩側ニアリ、狀、柔クシテ、海綿ノ如クニシテ彈力ニ富ム、心ノ臓ヨリ、暗赤、不潔ナル靜脈ノ血、送ラレテ此ニ來レバ、呼吸ニ因リテ一新セラレ、鮮赤、清潔ナル血トナリテ、再ビ心の臓ヘ還リ、動脈血トナル。肺臓。 史記、倉公傳「病者安レ穀即過レ期、不レ安レ穀則不レ及レ期、其人嗜レ黍、黍主レ肺、故過レ期」

はい (名) 胚 (一)卵ノ黄身ノ上ニアリ、孵化シテ雛トナルモノ。(動物ニツキテ)(二)種子ノ内ニアリテ、發育スレバ幼植物トナルモノ。(植物ニツキテ)

はい (名) 盃杯 〔盃ハ俗字〕 サカヅキ。 劉伶、酒德頌「捧レ甖承レ槽、銜レ杯漱レ醪」 柳氏家訓(唐、柳玭)「崇二好優游一、耽二嗜麴蘗一、以レ銜レ杯爲二高致一、以レ勤レ事爲二俗流一」 李白、月下獨酌詩「花下一壺酒、獨酌無二相親一、擧レ杯邀二明月一、對レ影成二三人一」「玉杯」「天杯」「盃ヲ把ル」「杯ヲ擧グ」「杯ヲ傾ク」

はい (名) 牌 (一)カケフダ。カンバン。 鷄肋編(宋、莊綽)「趙叔問、肖二賓客一在二省還一家、常掛二歇息牌公門首一」 (二)徽章。

はい (名) 輩 (一)ナカマ。トモガラ。 史記、劉敬傳「使二十輩來一、皆言、匈奴可レ擊」 (二)アヒテ。タグヒ。 三國志、呉志、張溫傳「當今無レ輩」 (三)ソラ。ナミ。 説文「軍發車百兩爲二一輩一」

はい (名) 背 ウシロ。セナカ。セ。ソビラ。 孟子、盡心、上篇「睟然見二於面一、盎二於背一」

はい (名) 褙 ウラウチスルコト。 品字箋(清、虞德升)「褙、褻、襠、背也、凡糊レ物皆必兩層、以レ有二表裏一、背ハ向レ外謂二之褙一、以二無染素紙一托二其背一爲レ褙也」 源、十七、繪合「紙屋紙ニ唐ノ綺ヲはいシテ、赤紫ノ表紙、云云」

はい (名) 配 (一)ツレアヒ。室。配偶。 詩經、大雅、文王之什、皇矣「天立二厥配一」 (二)シマナガシ。流罪。 律、名例「凡流應レ配者、三流俱役一年」

はい (名) 敗 ヤブルルコト。マクルコト。 史記、管仲傳「其爲レ政也、善因レ禍而爲レ福、轉レ敗而爲レ功」 三國志、蜀志、費禕傳、注「[illegible]敗[illegible]」

はい (感) 應フル聲。答フル聲。唯

はい (感) 馬ヲ進メ追フ聲 曾我會稽山、(近松作)「虎少将道行、數キナ駒ニセイツケテ、はい、シイ、足柄遠ハ風荒ク、露ヲ時雨ノ箱根山」

はい (接尾) 杯桮 水物ナドヲ、器ニ盛レルヲ數フルニ云フ語。 史記、項羽紀「幸分二我一桮羹一」「水二杯」「酒三杯」

ばい (名) 媒 ナカダチ。媒介。仲介。 詩經、齊風、南山篇「取レ妻如レ之何、匪レ媒不レ得」

ばい (名) 倍 物ノ、其數ニ同ジキ程、其數ヲ增スコト。フタツマシ。バイマシ。一倍ト云ヒ、二倍ト云フモ、同義ナリ。又、層トモ云フ。 書經、呂刑篇「剕辟疑赦、其罰惟倍、閲實其罪」「三倍」「四倍」「十倍」「百倍」

ばい (名) 枚 昔、夜討ノ軍勢ナド、聲ヲ立テシメジトテ、口ニ含ム具。狀、箸ノ如ク、横ニ啣ミテ、紐ニテ頂ニ結ブト云フ。クチキ。 周禮、秋官篇、司寇、下、銜枚氏「掌二司囂一、國之大祭祀、令レ禁二無囂一」 楚辭、九歌、國殤[illegible]枚而無レ言兮」 漢書、高帝紀「[illegible]夜銜レ枚、擊二項梁定陶一」 天武紀、上、元年七月「銜レ枚、穿二城[illegible]一、入二營中一」(梅ハ枚ト通ズ)

ばい (名) 海螺 ツビ。螺ノ類。海ニ産ズ。春夏ノ交ニ多シ。形、たにし(田螺)ニ似テ長ク厚ク、黑褐ニシテ旋文アリ。肉、食フベシ。黄螺 小甲香 兒童、此殼ノ頭尖ヲ碎キ去リテ、獨樂トシ、ばいごま(海螺獨樂)ト云フ。 陀螺 字類抄「蟬、カ

ヒ[illegible]、円[illegible]、今云、渡[illegible]、[illegible]ヒトアリ、之ニ貝ノ字ヲアテタル[illegible]モノカト云フ [illegible]

ばい (名) 〔馬醫〕 馬ノ病ヲ療スル醫師。ウマイシャ。伯樂 列子、[illegible]門徒、過ニ之[illegible]也、

ばい (名) 小兒ノ語、モノヲ投ゲ捨ツルコトニ云フ。

はいあん (名) 〔廢案〕 廢止トナリタル議案、又ハ、考案

はいいう (名) 〔俳優〕 〔禮記、樂記篇、註「優、[illegible]猴也、言、舞者、如[illegible]猴戲也、亂男女之尊卑」、優或爲倡優」トアリ、[illegible]ナル事スル意。コレヲわざをぎトモ云フハ、神代紀、上ニ、わざをぎニ、俳優ノ字ヲ當テテ書カレタルヲ、誤用スルナリ〕 劇場ニテ、舞臺ノ上ニ、戲伎ヲ演ズル業人。戲曲ナド演ズル者。芝居ノ役者 [illegible]

はいいう (名) 〔俳友〕 俳諧ノトモ。

はいいつ (名) 〔拜揖〕 次條ノ語ニ同ジ。

はいいふ (名) 〔拜揖〕 笏ヲ手ニ把リテ、揖シ拜スルコト。ハイイツ。 名目抄(藤原實熙)[illegible]

ばいいん (名) 〔賣淫〕 遊女、又ハ、他ノ女子ガ、報酬ヲ得テ、淫ヲ鬻グコト。又、密ニ淫ヲ賣グコト 賣春 賣色 密賣淫

ばいいんふ (名) 〔賣淫婦〕 ヒソカニ賣淫ヲナス女子、賣笑婦、賣春婦、[illegible]

ばいう (名) 〔梅雨〕 〔梅實、黃熟ノ候ニテ、黃梅雨ノ名アリト云、或ハ、云フ、此候、衣物、書籍ヲ生ズ、黴雨ト[illegible]〕 ツユ。ツイリ。サミダレ。夏時ノ霖雨ノ名。芒種ノ後、壬ノ日ニ逢フヲ入梅(つゆいり)トシ、夏至ノ後、庚ニ逢フヲ出梅(つゆあけ)トスト云フ。然レドモ、諸國、區區ナリ、大抵、芒種ノ後、雨降リ初メテ、凡ソ三十日間ニシテ、雷鳴アリテ絕ユ。つゆ(梅雨)ノ條ヲモ參見セヨ。 [illegible]

ばいうき (名) 〔梅雨期〕 梅雨ノ降ル期間。ツユ。

はいえつ (名) 〔拜謁〕 會フコトノ敬語。マミユルコト。 [illegible]

はいえん (名) 〔肺炎〕 感冒、氣管支加答兒、其他、[illegible]入事ヨリ起ル呼吸器ノ病。[illegible]

ばいえん (名) 〔煤煙〕 (一)ススノケムリ。スス。(二)石炭ノ煙。

バイオリン (名) 〔英語、Violin.〕 正シクハ、ヴァいおりん。西洋傳來ノ絃樂器ノ一。稍、瓢形ヲナセル二枚ノ板[illegible]ナシ、コレニ頸棹ヲ取付ケ、其上ニ四絃ヲ張リ、其尾端ヲ肩ト顎トノ間ニ挾ミ、左手ノ指先ニテ絃ヲ押ヘ[illegible]、馬尾ニテ作リタル弓ヲ以テ、絃ヲ摩シテ演奏ス。樂器中ノ王ト稱セラル。提琴。

バイオレット (名) 〔英語、Violet.〕 [illegible]花ノ如キ色。[illegible]

はいか (名) 〔配下〕 支配ノ下。部下、手下。組下。

はいか (名) 〔廢家〕 (一)[illegible]相續人ナ[illegible]家ノ斷絕スルコト。又、其家。ハイケ。(二)戶主ノ[illegible]スルコト。又、其家。

はいか (名) 〔俳歌〕 はいかい(俳諧)ノ條ノ(二)ニ同ジ。 俳家奇人談(竹内玄玄一)下、[illegible]

はいか (名) 〔俳家〕 はいじん(俳人)ニ同ジ。

はいが (名) 〔拜賀〕 喜ビ申シノ拜禮。(元日拜賀、朝拜、朝賀ナリ。[illegible])

ばいか (名) 〔倍加〕 マスマスハハルコト。 [illegible]

ばいか (名) 〔賣價〕 ウ[illegible]

ばいか (名) 〔買價〕 カヒトルアタヒ。カヒネ。

はいかい (名) 〔俳諧〕 (一)[illegible]白、字[illegible]、好[illegible]、不特[illegible]。[illegible]俳諧ニトナリ、或ハ[illegible]ノ稱トナレルナリ[illegible] [illegible]

はい[illegible] [illegible]

馬疾行貌」說文「沛艾、作驟駿、馬搖頭也」廣韻「驟駿、馬惡行也」」(二)カン強ク、行作ノ惡シキ馬。アガリ馬。ハネウマ。 字類抄「沛艾、馬イサム也」 徒然草、百四十五段「御隨身秦重躬、云云、沛艾ノ馬ヲ好ミシカバ、云云」 盛衰記、三十五、巴關東下向事「聞ユル沛艾ノ名馬ナレドモ、大力ガ組ミ合ヒタレバ、一二匹ノ馬ハ中ニトドマッテ働カズ」 山槐記、治承三年二月五日「騎毛高沛艾、康基有望申惡馬之氣、仍被乘之」 古今著聞、作駒定通、又、騎、又、謡」 漢書、司馬相如傳、注「張揖云、沛艾、驟駿也」 李尤牛、樂槐賦「天馬沛艾、驟駿布分」 (三)〔康熙字典「沛艾、容俊偉貌」〕容姿ノスグレタルコト。 史記、司馬相如傳、大人賦「沛艾糾螑、仡以佁儗兮」

ばいかい (名) 媒介 ナカダチ。ナカウド。キモイリ。媒妁。 舊唐書、張行成傳「觀古今用人、必因媒介」 韓愈詩「念初相遭逢、幸免因媒介」 史記、魯仲連傳「謂爲紹介」索隱「紹介猶媒介也」

はいかい-うた (名) 誹諧歌 (一)はいかい(誹諧)ノ條ノ(一)ニ同ジ。 無名抄「ざれごと歌」 (二)狂歌師ノ四方眞顏ガ、狂歌ニ名ヅケシ語。

ばいかい-しゃ (名) 媒介者 媒介スル人。ばいしゃくにん(媒妁人)ニ同ジ。

はいかう (名) 背向 ソムクコトト、ムカフコトト。向背。 漢書、藝文志「右兵形勢十一家、云云、雷動風擧、後發而先至、離合背郷、變化無常、以輕疾制敵者也」(郷ハ向ニ通ズ)

はいかう (名) 排行 輩行 〔日知錄(清、顧炎武)廿三、排行「兄弟二名、而用其一字者、世謂之排行、如德宗、德文、義符、義眞之類、起自晉末」〕兄弟ノ年齡順ノ數ノ稱呼。(伯、仲、叔、季ノ順) 陸游詩「我亦貧故舊、老任況奇遇、先子揣輩行」

道、桑者、便思無輩行」 文天祥詩「一二輩行惟頒齒、多少公卿未得歸」 年中隨書、十二「輩行ト云フハ、兄ヲ太郎ト云ヒ、次ヲ二郎ト云ヒ、三郎四郎、ツイデノママニ呼ブ事ナリ、十郎ヨリ上ハ、餘一、餘二ナドゾ、イヒケラシ」

はいかう (名) 廢校 學校ヲ廢止スルコト。又、廢止シタル學校。

ばいかう (名) 陪幸 行幸ニ陪從スルコト。 宮衞令「去乘輿三百步之內、非陪幸之人、不得輙近」

はいがく (名) 廢學 學問ヲヤムルコト。 列女傳、漢、劉向「孟母以刀斷織」 吳景奎、得家書詩「兒癡甘廢學、母老最關心」

ばいかひ (名) 賣買 〔かひハ、買ノ訓讀〕ばいばい(賣買)ノ訛。ウリカヒ。

はいがふ (名) 配合 (一)取リ合ハスルコト。添ヘ合ハスルコト。 爾雅、釋詁編、疏「匹者、配合也」 張衡、東京賦「日與月此配合也」 (二)妻アハスルコト。夫婦ニスルコト。

ばいがふ (名) 媒合 男女ノ中ヲ、トリモチテ、情ヲ結バシムルコト。

はいかん (名) 肺肝 肺ト、肝ト。又、心ノ底。 大學「人之視己、如見其肺肝然」 關尹子、七釜篇「人卽我、我卽人、知此道者、可以他人之肺肝」 方岳、春雪詩「小詩未就氷生硯、洗盡人間渴肺肝」 曾我物語、五、呉越戰事「アハレ、如何ニモシテ、我君ヲ本國ニ歸シ奉リテ、諸共ニ謀ヲ運ラシ、會稽ノ恥ヲ雪メバヤト、肺肝ヲ碎キテゾ悲シミケル」「肺肝ニ銘ス」肺肝ヲ見メク」

はいかん (名) 背汗 背ニ冷汗ヲカクコト。 梁、陵昔、北魏書「用水潮如渇、背汗濕如漿」黃庭堅

はいかん (名) 廢刊 定期刊行物ノ刊行ヲ廢止スルコト。

はいかん (名) 排陷 人ヲオシノケ、陷ルルコト。排斥シテ陷ルルコト。 漢書、嚴助傳、贊「亦何排陷之恨哉」

はいかん (名) 廢艦 軍艦ヲ廢棄スルコト。又、軍艦ノ艦齡ノ盡キタルモノ。又、ソノ軍艦。

はいがん (名) 拜顏 會フコト、ノ敬語。拜眉。拜面。拜芝。 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)八「人拜顏ヲ遂ゲ、言上スルヤウ」

ハイカラ (名) 高襟 〔英語、High collar. 高キ襟(カラア)ノ義〕(一)洋服ニテ、普通ヨリモ、高サノ高キからあ。又、ソレヲ着ルコト。(二)新奇ノ流行ヲ追ヒテ服裝ヲ飾ルコト。キザニ流行ヲ氣取ルコト。又、其者。イヤミナ、シャレモノ。此語ハ石川安次郎ト云フモノ、唱ヘ出シタルヲ、小松綠ガ、めとろぼうるはてるニ於ケル竹越與三郎ノ送別宴ノ席上ニテ演說シタルヲ、二六新聞ニテ書キ立テタルヨリ弘マリタリト。コレニ對シテ、世評ヲ顧ミズ、粗野ナル服裝ヲナスヲ、蠻(バン)からト云フ。

はいから (名) 灰殼 輕薄者ノ稱。前條ノ語ニ出ヅ。灰ノ殼ハ吹ケバ飛ブ、ソノ輕キニ擬ス。はいハはひノ音便)

ハイカ-る (動) ハイカラメク。

はいき (名) 拜跪 跪(ヒザマヅ)キテ禮拜スルコト。カシコマルコト。跪拜。 十六國春秋(魏、崔鴻)「爾拜爾跪而不祗命、斯小臣之罪矣」

はいき (名) 廢棄 止メ棄ツルコト。 論衡、道、王充「或能而有廢棄」

はいき (名) 排氣 空氣ヲ排泄、又ハ、排除スルコト。

ばいき (名) 煤氣 (一)ススノ氣。(二)石炭瓦斯ノ稱。

はいきん (名) 拜金 金錢ヲ絕對無上ノモノトシテ、崇拜スルコト。

はいきん (名) 拜覲 皇太子ガ朝參シテ、天皇、又ハ、皇后ニ拜禮スルコト。 渡邊日記、享保十三年六月廿三日「今晚御拜覲、拜覲之義、數百年御中絕之御沙汰、今度御再興、誠以恐悅御事也」 年中行事秘抄、正月「拜覲上皇母后事」

ばいきん (名) 黴菌 肉眼ニテハ見難キ程、細微ナル下等生物。其細胞ハ、纖維質ノ細胞膜ニ被ハレタル原形質ナリ。コレヲ延長シテ發育スルニヨリ絲狀ヲナス。少量ノ滋養分ヲ得レバ、液中、又ハ、空氣中ニテ、ヨク繁殖ス。ばくてりあ。ばちるす。さいきん(細菌)、及、ばくてりあノ條ヲモ見ヨ。

パイキン (名) 牌金 ぺいきん(親雲上)ノ條ヲ見ヨ。

はいきんしょう (名) 肺焮衝 はいえん(肺炎)ニ同ジ。

はいきゃう (名) 配享 同ジ廟ニ、合ハセテ祭ルコト。配祀。

はいぎゃく (名) 悖逆 道ニタガヒモトルコト。法度ニタガヒモトルコト。悖戾。 荀子、君道、上篇「國家有悖逆之行、有土、主長者失其紀也」 陳書、蕭濟傳「曲、文、天嘉、不可當、而悖逆之罪重也」 楓窓小牘(宋、袁褧)「見悖逆之事、不見、訓、闕去之」

ばいきゃく (名) 賣却 ウリハラフコト。ウリワタスコト。 山堂肆考(明、彭大翼)「二畝荒田俱賣却、要錢準備納青苗」

はいきョ (名) [illegible] 城郭ナド、荒廢シタル地。[illegible]

はいきョ (名) 廢去 ヤメテ用ヰザルコト。ステサルコト。

はいぎョく (名) 佩玉 禮服ノ時ニ着用スル玉。おんもの(珮)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]

はいく (名) 俳句 〔俳諧發句ノ略〕 ほっく(發句)ニ同ジ。

はいぐ (句) 拜具 〔謹ミテ狀ヲ具スルノ義〕 書牘文ノ末尾ニ記ス語。敬具。

はいぐ (名) 褙具 表裝ノ具。見聞集「高野聖、金[illegible]ノキレハシヲ、[illegible]具ノ[illegible]ト殘シナレバ、守リニスベシトテ賣リタリ」

はいぐう (名) 配偶 (一)添ヘアハスルコト。添ハスルコト。(二)ツレアヒ。メヲト。夫婦。[illegible]

はいぐん (名) 敗軍 軍ノ敗ルルコト。又、敗北シタル軍隊。マケイクサ。[illegible]

はいくヮ (名) 排貨 或人、又ハ、或外國ノ貨物ヲ排斥シテ、取引賣買セヌコト。ソノ同盟シテスルコトヲ、ぼいこっとトモイフ。排貨同盟。

はいぐヮ (名) 俳畫 俳諧味ヲ帶ビタル[illegible]

はいくヮい (名) 徘徊 俳佪 〔漢書、高后紀、注「徘徊、猶彷徨、不進之意也」〕 (一)ヤスラフコト。タメラフコト。(二)ソゾロアリキスルコト。何處ヘトモナク、歩キマハルコト。ウロツクコト。[illegible]

はいくヮい (名) 敗潰 敗レ、ツヒユルコト。負ケテ、クヅルルコト。敗頽。潰敗。

ばいくヮい (名) 攻[illegible] 植物ノ名。まいくヮい(玫瑰)ニ同ジ。

はいくヮけう (名) 拜火敎 火ヲ善神ノ象徵トシテ拜スル宗教。古代、[illegible]ノ唱ヘタルモノナリ。敎(Zoroastrianim.)ナドハ是レナリ。祆敎。

はいくヮつりやう (名) 肺活量 〔獨逸語、Vital-kapazität.ノ[illegible]〕 最高度ノ吸息ノ後、强キ呼息ヲ吹キ出ス際ニ出ヅル氣量。

はいくヮん (名) 稗官 〔稗官ハ支那古代ノ小官ナリ。王者、政ヲナスニ、閭巷ノ風俗ヲ知ラムト欲シテ、稗官ヲシテ、[illegible]〕[illegible]

はいくヮん (名) [illegible] 官職ヲ[illegible]セラルルコト。又、廢止セラレタル官職。

はいくヮん (名) [illegible] 官ニ任ゼラレ[illegible]コト。[illegible]

はいくヮん (名) 拜觀 觀ルコト、ノ敬語。

はいくヮん (名) 肺患 肺ニ關スル病ノ總稱。肺病。肺疾。肺結核。

ばいくヮん (名) 陪觀 長者ノトモツシテ觀ルコト。

はいけ (名) 廢家 はいか(廢家)ニ同ジ。

はいけい (名) 背景 (一)背部ノ景色。(二)芝居ノ舞臺ニ、[illegible]色。又、其舞臺ノ一場面ノ飾付、又ハ、道具立ナド。トホミ。ばっく。(三)背[illegible]

はいけい (句) 拜啓 敬ミテ申ス。〔手紙ノ冒頭ニ書ク語〕[illegible]

はいげい (名) 拜迎 出迎フルコト、ノ敬語。[illegible]

はいけう (名) 背敎 信仰シ來リタル敎法ニ背クコト。

はいげき (名) 排擊 オシノケムトシテ、攻擊スルコト。非難スルコト。排斥[illegible]

はいけつ (名) 肺血 肺ヨリ出血スルコト。又、ソノ血。

はいけつ (名) [illegible]

はいけっかく (名) 肺結核 けっかく(結核)ノ條ヲ見ヨ。

はいけつしやう (名) 敗血症 血液中ニ、[illegible]起ル病。惡寒、又ハ、戰慄ヲ以テ高熱ヲ發シ、頭痛ヲ伴ヒ、食慾不振、頻度ノ[illegible]アリ、脈搏増加ス。豫後概ネ不良ナリ。又、敗血病。

はいげふ (名) 廢業 職業ヲヤムルコト。[illegible]

はいけん (名) 佩劍 腰ニ佩ブル劍。[illegible]

はいけん (名) 拜見 一見ルコト、ノ敬語。[illegible]

人ト外國商館トノ取引ニテ、讀賣物ヲ商館ニ持込ミ、雙方立會ノ上、其一部ヲ見本トシテ、總賣物ノ中ヨリ引出シ、其品質ヲ檢査スルコト。

はいけん (名) [illegible] [illegible]

はいご (名) [illegible] [illegible]

はいごう (名) [illegible] 外語 現在ニハ[illegible]用ヰラレザル語。

はいこう (名) [illegible] [illegible]

はいこく (名) [illegible] [illegible]ノ爲、本國ノ事情、[illegible]ヲ外國ニ通ジ、又ハ、國ヲ[illegible]外國人ニ[illegible]

コト。史記、[illegible]　宋史、文天祥傳「奉ㇾ幣與ㇾ[illegible]」

ばいゴマ (名) 海螺獨樂　又、ぢんたんばう(陀螺)。ばい、海螺、ト、こま、獨樂トノ條ヲ見ヨ。

はいざい (名) 配劑　(一)藥ヲ調合スルコト。(二)程ヨク取リツクロフコト。[illegible]資本、運命作ニ上、[illegible]ク至リ係ッテ、法眼モ配劑仕カネテ見エニケル」「天ノ配劑」

はいざう (名) 肺臟　動物ノ呼吸器官。はい(肺)ノ條ヲ見ヨ。

ばいさう (名) 陪葬　主君ノ墓側ニ、臣下ヲ葬リテ、墓ヲ建ツルコト　[illegible](明和、原瑜)五「君ノ墓ノ側ニ、臣下タル者ヲ葬リテ、別ニ墓ヲ建ツルコトヲ陪葬ト云フ」

はいさん (名) 敗散　ヤブレチルコト。支離滅裂スルコト　宋書、[illegible]又閩、處處大水、[illegible]民國、[illegible]自然之理」

はいざん (名) 廢殘　スタレ、ソコナフコト、ヤブレ、ソコナハルルコト。

はいさやうなら (句) 人ト會談シテ後、相別ルルトキニ云フ語　十返舍一九の辭世「コノ世ヲバ、ドリャオイトマニ、セン香ト、トモニ遂ニハ、はい(灰)さやうなら」

はいし (名) 廢止　止ムルコト。トドムルコト。行ハザルコト。廢罷。

はいし (名) 廢址　城郭、又ハ家屋、或ハ市街ナドノ、スタレタル址。　陳孚、葛嶺行「[illegible]廢址[illegible]」

はいし (名) 廢紙 敗紙　ほご(反古)ニ同ジ。　唐書、[illegible]先人功業[illegible]廢紙[illegible]傳于世ニ」

はいし (名) 廢弛　スタレユルブコト。　[illegible]廢弛」

はいし (名) 拜仕　年禮ノ拜賀。　庭訓往來、正月「[illegible]拜仕之[illegible]、不ㇾ慮之幸也」

はいし (名) 拜芝　面會スルコト、ノ敬語。拜顏。しび(芝眉)ノ條ヲ見ヨ。

はいし (名) 稗史　(瑣細ナルコトヲ記載セルモノノ意。即チ、稗官ノ記シタルモノ」せうせつ(小說)ニ同ジ。はいくゎん(稗官)ノ條ヲモ見ヨ。　俚言集覽「稗史、草双子ヤウノモノノ事」

はいし (名) 背子　からぎぬ(唐衣)ニ同ジ。　中華古今注、宋、馬[illegible]「西川貢ニ五色織成背子ニ」

はいじ (名) 廢寺　廢レタル寺　許渾詩「[illegible]寺人[illegible]門[illegible]高」　陸游詩「[illegible]廢寺ハ夕陽下ㇾ馬弔ニ荒陵ニ」

はいじ (名) 拜辭　(一)謹ミテ辭退スルコト。(二)謹ミテ暇乞スルコト。　南史、王[illegible]傳「[illegible]拜[illegible]流涕[illegible]」

ばいし (名) 倍蓰　(趙岐、孟子注「蓰、五倍也」)　數ノ幾倍ニモ增スコト　孟子、滕文公、上篇「夫物之不ㇾ齊、物之情也、或相倍蓰、或相什伯」　金史、宗敍傳「所ㇾ費倍蓰」

ばいし (名) 貝子　おやすがひ(子安貝)ノ異稱　桂海虞衡志(宋、范成大)「貝子海傍皆有ㇾ之、大者如ㇾ拳、上有ニ紫斑ニ、小者指面大、白如ㇾ玉」

ばいじ (名) 媒辭　(英語、Middle term.ノ譯語)　論理學ノ語、三段論法ノ大小兩前提ニ通ジテ、大辭(賓辭)ト小辭(主辭)トノ連絡ヲ媒介スル名辭。

ばいしう (名) 買收　(一)カヒトルコト。(二)密ニ利益ヲ與ヘ、我ガ味方ニ引込ムコト。

はいしつ (名) 癈疾　疾ニ因リテ不具(カタハ)ナドニナレルコト　又、ソノモノ　禮記、禮運「[illegible]寡孤獨廢疾者、皆有ㇾ所ㇾ養」　周禮、地官、小司徒「辨ニ其貴賤老幼廢疾ニ」(癈、廢、通用ス)　北史、[illegible]、高祖紀「詔[illegible]六鎭、及ㇾ[illegible]人年老、孤貧、廢疾者、賜ㇾ粟有ㇾ差」

はいしつ (名) 廢失　スタレ、ウスルコト　失墜。　後漢書、明帝紀、詔曰「[illegible]承ニ大運ニ[illegible]守文、不ㇾ知ニ稼穡之艱難ニ、懼ㇾ有ニ廢失ニ」　盛衰記、四十五、重衡南都に向ひ寺々を燒ける事「[illegible]ニ佛陀ノ教法ヲ亡ボスノミニアラズ、專ラ淨侶ノ弘通ヲ廢失ス」

はいしん (名) 背進　後方ニ進行スルコト。シリゾクコト。アトジサリ。後退。

はいしん (名) 拜進　ツツシミテ、進ムコト　又、拜シテ進上スルコト。　運步色葉集「拜進、ハイシン」

はいじん (名) 癈人 廢人　不具(カタハ)ナドニテ、世ニ用ヲナサヌ人。不具者。　北齊書、韓軌傳「告ㇾ人云、廢人飮ニ美酒ニ、對ニ名勝ニ、安能作」(廢、癈、通用ス)

はいじん (名) 俳人　俳諧ヲ巧ニスル人。俳諧師。俳家。又、俳諧ヲ好ム人。

ばいしん (名) 陪臣　(國語、魯語、注「陪、猶ㇾ重也」玉篇「陪、家臣也」)　諸侯ノ臣ヲ、天子ノ朝ニ稱スル語。臣ノ臣　マタモノ。マタゲライ。家臣。　禮記、曲禮、下篇「列國之大夫入ニ天子之國ニ、曰ニ某士ニ、自稱曰ニ陪臣某ニ」　論語、季氏篇「陪臣執ニ國命ニ、三世希ㇾ不ㇾ失矣」　左傳、僖公十二年「臣賤有司也、有ニ天子之二守國高在ニ、若節ニ春秋ニ、來承ニ王命ニ、何以禮焉、陪臣敢辭」　杜注「諸侯之臣曰ニ陪臣ニ」

ばいしん (名) 陪審　(一)裁判ニ云フ語。訴訟ノ審理ニ陪席スルコト。(二)陪審制度ニヨリテ、裁判官ノ法律ヲ適用スベキ事實、又ハ、行爲ニ就キ、其公平ナル認定ヲナサシムルタメ、[illegible]中ヨリ選定シタル陪審員ヲ、其裁判ニ參與セシムルコト

ばいしんくゎん (名) 陪審官　(一)裁判ニ立チ合フ官吏　(二)ばいせきはんじ(陪席判事)ニ同ジ。

ばいしんせいど (名) 陪審制度　專門家タル裁判官ノ裁判ニ、素人タル國民ガ參與スル制度。

ばいしんゐん (名) 陪審員　陪審制度ニヨリテ、裁判官ニアラザル常人ヲシテ、裁判事務ニ參與セサスルモノ。其權限ハ、犯罪ノ事實、又ハ、責任問題ヲ決スルニアリト。

はいしゃ (名) 拜謝　辱(カタジケ)ナシト、禮ヲ述ブルコト。　史記、項羽紀「項王曰、壯士、賜ニ之卮酒ニ、則與ニ斗卮酒ニ、噲拜謝、起立而飮ㇾ之」

はいしゃ (名) 齒醫者　齒牙ニ關スル病ヲ治療スル醫師　齒科醫。牙醫。

はいしゃう (名) 廢娼　娼妓ヲ廢スルコト。公娼制度ヲ廢止スルコト　「廢娼論」

はいしゃう (名) 敗醬　(本草和名、注「陶景注云、氣似ニ敗豆醬ニ、故以名ㇾ之」)　草ノ名。をみなへし(女郎花)ニ同ジ。

ばいしゃう (名) 賠償　他人ニ蒙ラシメタル損害ヲ償(ツグナ)フコト　ツクノヒ

ばいしゃう (名) 梅漿　うめず(梅醋)ニ同ジ。　禮記、內則篇「漿、水、醷、濫」注「醷、梅漿」

はいしゃく (名) 拜借　借ルコト、ノ敬語。

はい-しゃく (名) 盃酌・杯酌 サカモリ。酒ヲクミカハスコト。酒宴。杯酒。[illegible]「…吹倚三盃酌、筆硯用三文墨二」范成大、詩ニ白傅…[illegible]「…公不…[illegible]」

ばい-しゃく (名) 媒妁 ナカダチ。ナカウド。男女間ノ縁ヲトリモツコト。又、其者。媒介。孟子、滕文公、下篇「丈夫生而願…之有…室、女子生而願…之有…家、父母之心、人皆有…之、不…待…父母之命、媒妁之言、鑽…穴隙…相窺、踰…牆相從、則父母國人、皆賤…之」

ばいしゃく-にん (名) 媒妁人 ナカダチスル人。男女間ノ縁ヲトリモツ人。ナカウド。仲人。媒介者。月下冰人。

はい-しゅ (名) 敗種 佛教ノ語 聲聞、縁覺ノ二乘ノ位ニアルモノハ、人空ノ理ヲ證リ、灰身滅智ノ涅槃ニ入ラムコトヲ期シ、更ニ進ミテ、利他ノ大悲行ヲ成サムコトヲ欲セザレバ、進ミテ菩薩位ニ至リ、佛果ニ上ラムトスル向上的精神ノ存スルナシ、コレ恰モ草木ノ種子ノ敗滅シテ、芽ヲ生ゼザルニ譬ヘタル語 敗根 維摩經、不思議品「…二乘、已知…敗種ニ…法…[illegible]…、已知…敗種、…不…生…二…[illegible]…敗種ノ二乘、…皆…[illegible]」

はい-しゅ (名) 拜手 頭ヲ屈シテ手ニ到ラシムルコト 敬禮ノ恭シキヲ示ス。公羊傳、宣公六年、注「…[illegible]…」書經、…「…[illegible]…」

はい-しゅ (名) 杯酒 杯ニ酌ミタル酒。又、サカモリ。[illegible]

はい-じゅ (名) 拜受 受ケイタダクコト。頂戴。儀禮、…[illegible]…

ばい-じゅう (名) 陪從 ツキシタガフコト、供スルコト。又、ソノ人。…[illegible]…箋「河濟之間…必…陪從、京師…長樂…」

はい-しゅつ (名) 排出 外ヘオシ出スコト。

はい-しゅつ (名) 輩出 打續キテ出デ來ルコト。引キツヾキテ出ヅルコト。後漢書、…[illegible]…

ばいしゅん-ふ (名) 賣春婦 又、賣笑婦。ばいいんふ(賣淫婦)ニ同ジ。

はい-しょ (名) 配所 配流セラレタル場所。謫所 …[illegible]…(又云、謫所、流人所、居所、配所、ハイシヨ)…[illegible]…元明…、…配所」」

はい-しょ (名) 敗絮 ヤブレタル綿。ボロワタ。敝絮 …[illegible]…「金…[illegible]…」

はい-しょう (名) 拜承 聞クコト、ノ敬語。ウケタマハルコト。敬承。

はい-しょう (名) 拜誦 ヨムコト、ノ敬語 ウヤウヤシクヨムコト 拜讀

はい-しょう (名) 背誦 書物ナドヲ、ソラヨミスルコト。暗誦。背讀。楊基詩「九…[illegible]…」

ばい-じょう (名) 陪乘 貴人ノ車ニ合乘スルコト。…[illegible]…

はい-しょく (名) 配色 色アヒノ配合。

ばい-しょく (名) 陪食 貴人ノ食事ニ相伴スルコト。「陪食ヲ仰付ケラル」

ばい-しょく (名) 賣色 色ヲ賣ルコト。

ばい-しり (名) 鯔尻 …[illegible]…ばいしり(…)同…[illegible]… 貝尖リ、…[illegible]…知ル…竹ノ…ニテ作ル。釣人ノ用ヰルモノニテ、釣竿ノ、竿ノ縁ニ支ヘムコトヲ避ケムトテナリ。…[illegible]…ヨリハヤル、釣人ノ笠ナリ」…[illegible]…「後世、ばい尻トイフ笠アリ、今ハ用ヰザレドモ、モト釣ノ爲ニ作リタル笠ナリ」

はい・す スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 配 齊シクテアリ。當ル。相當ス。戰國策、…[illegible]…

はい・す スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 配 (一)クバル。配布ス。(二)[添ヘ合ハス。…[illegible]…](三)連レ添ハス。妻アラス…[illegible]…ラノ綺ヲはいしテ」…[illegible]…

はい・す スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 廢 (一)止ムル。棄ツ。不用トス。書經、…[illegible]…中庸、第十一章「君子遵…道而行、半塗而廢、吾弗…能…已矣」(二)其位ヨリ退カシム。史記、…[illegible]…

はい・す スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 拜 [illegible]…

…[illegible]…官ニ任ズ。任ノ條、見合ハスベシ。史記、…[illegible]…

はい・す スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 排 (一)オシヒラク。…[illegible]…(二)ナラベル。排列ス。…[illegible]…

ばい・す スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 倍 二ツ増シニナル。倍ニナル。…[illegible]…

はい・す スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 陪 (一)貴人ニ陪ス、附ヘ從フ、…[illegible]…

ばい・す スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 倍 (一)(二)二ツ増シニスル。…[illegible]…

はい-せう (名) 拜趨 …[illegible]…ノ敬語 …[illegible]…走リ寄リ…[illegible]…

はい-すみ (名) 掃墨 (はきずみノ音便)…[illegible]…

油ナドノ油煙ヲ掃キ落シテ取リタルモノ。膠ニ和シテ墨ヲ製シ、又ハ、漆、澁、ナドニ和シテ塗料トス。又、藥用トモス。一名、油煙墨。極メテ輕ケレバ、唐ニテハ、[illegible]ノ名モアリ。又、松ノ村ヲ燒キテ取ルモアリ、下品トス。サレド、藥用ニハ、松烟ナルヲ良シトスト云フ。 倭名抄、十五、[illegible]功程式「掃墨一斗、合膠一升、[illegible]」 堤中納言物語、はいずみ「白キ物ノツクルト思ヒテ、取リウカヘテ、はいずみ入レタルタタウ紙ヲ取リ出デテ」

ぱい・する (動) 小兒ノ語。物ヲ投ゲ棄ツル意ニ云フ。

はい-すゐ (名) 【背水】 次次條ノ語ノ略。 後漢書、[illegible]數十萬、衆人[illegible]背[illegible]而戰、所殺傷甚多、[illegible]」 太平記、十九、[illegible]背河水ニ[illegible]レテ討タレニケリ、是レヲ名付ケテ、韓信ガ、濰沙、背水ノ謀トハ申スナリ」

はい-すゐ (名) 【排水】 (一)水ヲ排除シテ、他ヘ流シヤルコト。 (二)水ヲオシヒラクコト。(艦船ニ云フ)

はいすゐ-の-ぢん (名) 【背水陣】 〔漢書、韓信傳「使萬人先行出、背水陣」〕 昔ノ陣立ノ名。河ナドヲ背後ニヒカヘテ、陣ヲ立ツルコト。退カバ水ニ溺ルルヨリ、味方ヲシテ決死ノ覺悟ヲナサシムル計略。 史記、淮陰侯傳[illegible]

はい-せい (名) 【排擠】 オシオトスコト。 史記、[illegible]

ばい-せい (名) 【陪星】 ゑいせい(衛星)ニ同ジ。

ばいせう-ふ (名) 【賣笑婦】 又、賣春婦 ばいいんふ(賣淫婦)ニ同ジ。

はい-せき (名) 【拜席】 ヒザツキ。神前ニ拜スル時ノ小席。膝ヲツクモノ。

はい-せき (名) 【敗績】 〔左傳、莊公十一年「凡師、云云、大崩曰敗績」〕 はいぼく(敗北)ニ同ジ。オホマケ。 禮記、檀弓、上篇「他日不敗績、而今敗績、是無勇也」 [illegible]記、廿七、[illegible]

はい-せき (名) 【排斥】 押シ退クルコト。 後漢書、[illegible] 新語(宋、陳善)「韓退之送[illegible]師文[illegible]、詩語皆排斥」

ばい-せき (名) 【陪席】 (一)尊上ノ席ニ列ルコト。 明會典(明、[illegible])「[illegible]鎭守總兵、或三司、或府衞、正官一二員陪席」 (二)次條ノ語ノ略。

ばいせき-はんじ (名) 【陪席判事】 合議裁判所ニテ、裁判長ト共ニ、訴訟ノ審理ニ列席スル判事。

はい-せつ (名) 【排泄】 (一)體ヨリ漏ラシ出スコト。(吐瀉ナド) (二)飲食物ノ身體ノ榮養ヲ終ヘタル殘餘ヲ、尿、糞ナドトシテ、體外ニオシモラスコト。

はい-ぜつ (名) 【廢絕】 スタレヤムコト。廢レナクナルコト。 劉歆、移書讓太常博士「往者綴學之士、不思廢絕之闕」

はい-せん (名) 【盃洗】 酒宴ノ席ナドニテ、杯ヲ洗フ具。サカヅキアラヒ

はい-ぜん (名) 【配膳】 膳部ヲ客ニ配リ供フルコト。 禁祕御抄「清涼殿、云云、ソノ内ニ配膳ノ圓座アリ」

ばい-ぜん (名) 【陪膳】 (一)供御ヲ奉ル時ニ、伺候スル人。 枕草子、一、十三段「陪膳ツカウマツル人ノ、ヲノコドモナド召スホドモナク、ワタラセ給ヒヌ」 [illegible]集、[illegible]、アシタニ陪膳ツトメテ候ヒケレバ、[illegible]ニモエツカセオハシマサザリケリ」 (二)供御ナラザルモノニモ云フ。 [illegible]日記「承元二年三月一日、云云、引[illegible]中、[illegible]立也、先供手水、陪膳[illegible]、手洗[illegible]也、[illegible]立[illegible]外供之」

はい-ぜん (副) 【沛然】 (一)盛大ナル狀、又、廣大ナル狀ニ云フ語。 孟子、[illegible]篇「沛然[illegible]乎四海」 [illegible] (二)雨ノ盛ニ降ル狀ニ云フ語。 孟子、梁惠王、上篇「天油然作雲、沛然下雨、則苗浡然興之矣」

はいせん-カタル (名) 【肺尖加答兒】 肺ノ上葉尖端ニ加答兒ノ起ル病。普通、微熱ヲ生ジ、盜汗アリ、輕キ咳アリ、人ニヨリテ食慾減退ス。多クハ肺結核ノ初期ナリ。

はい-そ (名) 【敗訴】 〔勝訴ニ對ス〕 訴訟ニ、負クルコト。マケクジ。

はい-そう (名) 【拜送】 見送ルコト、ノ敬語。ウヤウヤシク送ルコト。 禮記、曲禮、上篇「君言至、則主人出拜君言之辱、使者歸、則必拜送于門外」 同、玉藻篇「士於大夫、不敢拜迎、而拜送、士於尊者、先拜進面、答拜則走」

はい-そう (名) 【敗走】 戰ニ敗レテ逃グルコト。敗北。 史記、項羽紀「[illegible]敗走、追之至胡陵」 宋史、岳飛傳「居數日、復遇敵、飛單騎持丈八鐵槍、刺殺黑風大王、敵衆敗走」

ばい-た (名) 【賣太】 〔太ハおろた、まるたト同類〕 (一)やほちニ同ジ。ヨタカ。バイイン。 寛文元年十二月町觸「ばいた女、御吟味ヘ[illegible]、[illegible]ハバ、其[illegible]ママ[illegible]、[illegible]、早早可申出者也」 (二)遊女ヲ卑シメテ云フ語。 [illegible]用集、四、人倫門「賣女、バイタ」 女殺油地獄(享保、近松作)上「茶屋ノ床几ニ引ズリスヱ、コレ賣女様、オ山様」

ばいた (名) まつまき(松薪)ノ稱(静岡)

はい-たい (名) 【胚胎】 (一)ミゴモルコト。ハラムコト。ネザスコト。 本草綱目「天地之先、陰陽之祖、乾坤[illegible]、[illegible]之[illegible]、[illegible]兆」 (二)始マルコト。 爾雅、釋詁「胎、始也」注「胚胎未成、亦物之始也」

はい-たい (名) 【拜戴】 物ヲ戴クコト、ノ敬語。頂戴。拜領。

はい-たい (名) 【敗頽】 ヤブレ、クヅルルコト。アレ、クヅルルコト。

はい-だい (名) 【廢帝】 位ヨリ廢セラレ給ヘル帝。廢帝。

はい-たう (名) 【配當】 (一)クバリアツルコト。ワリ當ツルコト。ワリワタシ。配分。 周禮、地官篇、鄕師之職、云云、[illegible]「百人爲卒、五人爲伍[illegible]配當之」 (二)銀行、會社ナドニテ、純益金ヲ、出資者、又ハ、株主ニ配分スルコト。又、ソノ金額。配當金。

はい-たう (名) 【佩刀】 腰ニ佩ブル刀。又、刀ヲ腰ニ佩ブルコト。 後漢書、郭[illegible]傳「[illegible]乃當車拔佩刀以斷車靷」 同、[illegible]延傳「延從[illegible]車駕西巡、[illegible]郡界、賜錢及劍帶佩刀」

はい-たう (名) 【廢刀】 帶刀ヲヤムルコト。佩刀ヲ禁止スルコト。

はい-だう (名) 【拜堂】 僧侶ガ大寺ノ住職トナリテ、其寺ニ入ルトキニ行フ拜佛ノ式 江家次第、十三、大東寺拜堂「先從仁和寺」

著ニ大慈寺之日、寺外未降夜宿、或日ヘ、從ニ中門[illegible]著、父母常作法[illegible]九、[illegible]式」明良洪範(眞田增譽)六、雲居和尚「雲居一人瑞岩寺二[illegible]、[illegible]ラレテモ、常[illegible]ト打[illegible]仕給フ」

はいだう (名) [俳道] 俳諧ノミチ。[illegible](元祿、西鶴)三「作者モ俳道ノワキマヘアリテ、スコシノサシ合ヒ、同字[illegible]、オトシノ吟味ヲトゲテ、タガヒノ修行ニナシヌ」

はいだか (名) [鷂] はしたか(鷂)ノ音便。其條ヲ見ヨ。[illegible]百首「はい鷹ノ、小鳥[illegible]ルテフ、エカラヲバ、山端ツケツツ、モタセモゾスル」

はいたつ (名) [配達] 物ヲ、クバリトドクルコト。又、其者。

はいだて (名) [膝甲] [脛楯(ハギタテ)ノ音便ト云フ] 鎧ノ一部。腰ノ前ヨリ二枚、左右ニ垂レタルモノ。コレニ下部ヲ小札(コザネ)ニテ威シタルアリ、革ニテ綴ヂタルアリ。太平記、廿一、[illegible]六郎左衛門事「大立[illegible]ノ下マデ引籠メテ」軍用記、二「膝甲ノ事、脛楯トモ(ハギタテ)ヲはいだてト云フ、或ハ鋼ヲ板金、或ハ、ハイダメ革ニネリ物ヲ付、或ハ、小札毛引ニモスルナリ、五札モ用ユ」

ばいたんおう (名) [賣炭翁] 炭ヲ燒ク男、スミヤキノオキナ。[illegible]十指[illegible]の翁モ道ハネバ、炭燒トモ[illegible]」

バイタラ (名) [貝多羅] 次條ノ語ノ略。

バイタラえふ (名) [貝多羅葉] [貝多羅ハ、梵語、Pattra.] 又、べいたら。略シテ、貝多羅。天竺ニ産ズル多羅樹(タラジユ)ノ葉。[illegible]其國ニテ、此葉ヲ切リテ、紙ニ代ヘ、針ニテ經文ヲ刻リツク。葉ノ形ハ棕櫚ニ似テ、長サ四五尺、[illegible]六寸、固クシテ厚ク、二ツニ折レテ、萬年青ノ葉ノ如ク、淡褐色ニシテ光ル。[illegible]、背ノ中心ニ、一條ノ[illegible]アリテ、高ク出デテ、方形ナリ。タラエフ。[illegible]

はいち (名) [配置] クバリツケテオクコト。クバリツケ。テクバリ。

はいち (名) [背馳] ユキチガフコト。又、反對ニナルコト。ソムクコト。蘇軾詩「[illegible]」「仙山佛國本同歸、世路玄關兩背馳」

はいぢく (名) [敗衄] 戰ニ負(タタカヒ)クルコト。敵軍ニ破ラルルコト。五代史、[illegible]石、[illegible]公[illegible]「公[illegible]四十年、用[illegible]有レ功ニ子西方ニ」丸經(元)「人心有レ所レ主、則無レ懼無レ怯、[illegible]之、故無ニ[illegible]ニ」

ばいちゃ (名) [賣茶] 煎茶ヲ賣ルコト。[illegible]

はいちゃう (名) [拜聽] 聽(キ)クコト、ノ敬語。

はいちゃう (名) [蠅帳] はへちやう(蠅帳)ノ轉。其條ヲ見ヨ。

はいちゃく (名) [廢嫡] 嫡子タル身分ヲ廢シテ、相續[illegible]コト。法定ノ推定家督相續人ヲ廢除スルコト。

はいちゅつ (名) [廢黜] 官職ヲヤメテ、シリゾクルコト。漢書、外戚恩澤侯表「[illegible]侯犯[illegible]」

はいぢょ (名) [排除] オシノクルコト。

はいぢょ (名) [廢除] ヤメノゾクコト。

「家督相續人ノ廢除」

ばいぢょ (名) [賣女] アソビメ。娼婦。[illegible]

はいてい (名) [拜呈] (一)贈ルコト、ノ敬語。[illegible] (二)書簡文ノ冒頭ニ書キ用ヰル語。卽チ、手紙ノ贈リ主ノ敬語ナリ。[illegible]

はいてい (名) [廢帝] はいだい(廢帝)ニ同ジ。[illegible]

はいてう (名) [廢朝] 主上ノ、御悩、又ハ、御障リナドニテ、朝政ニ臨マセラレヌコト。又、廢朝。又、[illegible]モ政ヲトドムル事アルヲ、廢務ト云フ。名目抄(藤原實煕)「廢朝、ハイテウ」新唐書、[illegible]下「廢朝、諸司政如レ常、但天子不レ臨レ朝」公事根源、[illegible]「廢朝ト申スハ、諸司ノ政ハ、ヨノ常ニカハラズトリ行ヒ侍レドモ、天子ミヅカラ朝ニ臨ミテ、政ヲキコシメサヌナリ、コレヲ輟朝トモイフ、[illegible]ハ數日ニモ及ブベシ、諸司ハ政事ヲトドメザル故ナリ」

ばいてう (名) [媒鳥] ヲトリ。コピトリ。[illegible]

はいてん (名) [廢典] 廢レタル儀式。[illegible]

はいでん (名) [配電] 電力ヲ諸所ヘ配リ[illegible]コト。[illegible]

はいでん (名) [拜殿] [illegible]アル拜禮ヲ行フ殿、本殿ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「山ノスソニハ八幡ノ宮ヲ作リテ、拜殿ト名ヅケテ、八少女以下、神樂男ナドヲスヱタリケリ」

はいてんとう (名) [敗天公] [敗ハ壞、天ハ顚、公ハ貴ニ通ズ。貴、貴公、笠ナリ] ヤブレガサ。[illegible]

はいでんしょ (名) [配電所] 中央發電所ヨリ電氣ノ供給ヲ受ケ、更ニ之ヲ一定ノ區分區域ニ配電スベキ裝置アル所。配電盤、又ハ、變電機ナドヲ設置ス。

はいでんばん (名) [配電盤] [illegible]ノ開始、停止、回轉、[illegible]又ハ、送電ニ關スル一切ヲ支配スル裝置[illegible]

はいど (名) [俳人] はやびと(俳人)ノ[illegible]

はいどく (名) [悖德] 道德ニ悖(モト)ルコト。[illegible]

はいどく (名) [illegible]

はいどく (名) [illegible]

ばいとく (名) [賣得] 物ヲ賣リテ、得タル代金。ウリアゲ。ウリアゲ代金。

ばいどく (名) [賣藥] [illegible]サ、サウドク。一種ノ傳染性ノ痼ノ名。多クハ、交接ヨリ傳染シテ、初ハ、[illegible]ニ[illegible]。[illegible]今、コレヲ[illegible]

アリ、揚家實知、天保、牛溲煮、五、衛青、我邦ノ昔ハ、唐遼トイフ、異域ヨリ傳來スルガ故ナリ」

はいと-志（名）隼人司　又、ハヤヒトノツカサ。はやびと（隼人）ノ條ヲ見ヨ。

はい-とり（名）蠅取　はへとり　蠅捕）ノ　（二）かまきり（蟷螂）ニ同ジ

はい-なう（ハイノウ）（名）背嚢　獸皮、又ハ、ぜにくナドニテ四角ニ製リタル小サキ箱、背ニ負フモノ。らんどせる。

はい-にん（名）俳人　はいぢん（俳人）ニ同ジ。

ばい-にん（名）賣人　（一）〔商賣人ノ上略。今ハ、苦勞人ナドト同意〕花柳界ニ入リ居リシ者ノ稱　（二）ばいぢよ（賣女）ニ同ジ　書言字考節用集、四、人倫門「賣人、バイニン」

はい-の-ざう（ハイノザウ）（名）肺臟　はいざう（肺臟）ニ同ジ。はい（肺）ノ條ヲ見ヨ。

はい-はい（感）馬ノ行ク時、行人ヲ傍ヘ立チノカシムルニ云フ聲。又、馬ヲ進ムルニ云フ聲。（東海道名所記ニハ、公用ノ驛馬ヨリ起レル語ト云ヘリ）

ばい-ばい（名）賣買　ウリカヒ。アキナヒ。商賣。　史記、平準書「鐵官賣買、成令民賣買之」方言、商者容易、關西ハ只曰七州通賣買」太平記、十六、小山田太郎高家刈青麥事「コレニ依テ農民、耕作ヲ捨テズ、商人、賣買ヲ快クシケル處ニ」

はい-はい-どう-どう（句）馬ヲ進ムル時ト、止ムル時トニ云フ語

はい-ぼう（ハイボウ）（名）敗亡　戰敗シテ滅亡スルコト。　史記、韓王信傳「陛下寬仁、諸侯雖有畔亡、而復歸、輒故位號、不誅也、大王所知、今王以

敗亡ニ走レ胡、非レ有ニ大罪ハ急自歸」　太平記、四、吳越軍事「遂退四ニ谷ノテ、敗亡已ニ極マレリ」

はい-はく（句）拜白　敬ミテ白ス。（手紙ノ語）拜啓。啓白。謹啓。

はい-ばん（名）杯盤　（一）酒席ノ上ノ杯ト、皿鉢ト。　史記、淳于髠傳「日暮酒闌、合レ尊促レ坐、男女同レ席、履舃交錯、杯盤狼藉、堂上燭滅、主人留レ髠而送レ客」（二）サカヅキダイ。

はい-はら（名）榛原　〔はりはらノ音便〕はりはら（榛原）ノ條ヲ見ヨ。　高山寺本、倭名抄「阿波、美馬郡榛原、波以波良」

はい-ひ（名）拜披　披クコト、ノ敬語。　書言字考節用集、八、言辭門「拜披、ハイヒ」

はい-ひ（名）廢罷　廢止ニ同ジ。　宋書、周朗傳「州郡宜レ通ニ廢罷舊地ハ民戶應ニ更置立ニ」

はい-び（名）拜眉　會フコト、ノ敬語。

はい-びやう（ハイビヤウ）（名）肺病　肺ニ起ル病。（多クハ肺結核ヲ云フ）ラウシャウ　肺勞。

はい-ふ（名）配符　符ヲ分配スルコト。

はい-ふ（名）配賦　ワリツケ。ワリアテ。ワリワタシ。配分。

はい-ふ（名）肺腑　（一）肺臟。（二）心ノ奧底。　蘇軾、讀孟郊詩「詩從ニ肺腑ニ出、出輒愁ニ肺腑ニ」（三）ミウチ。親類。親戚。　史記、武安侯傳「身以ニ肺腑ニ爲ニ京師相ニ」　白居易詩「肺腑都無レ隔、形骸兩不レ疑」（四）肝要ノトコロ。

はい-ぶ（名）拜舞　再拜ト、舞踏ト。又、古ヘ、敍位、任官、又ハ、祿ナド賜ハリタル時ニ謝スル禮。　拾芥抄（藤原實熙）中、末、儀式暦部「凡天皇三后太子有レ慶、慶賀人雖レ申ニ事由一不レ拜、舊例（一）宮可レ有ニ拜舞ハ而近代一レ拜舞レ式」

パイプ（名）〔英語、Pipe.〕（一）導管。（二）煙管。又、スヒクチ。

はい-ふき（名）灰吹　〔灰吹ノ音便〕　煙草ノ灰ヲ吹キ入ルルモノ　又、唾ヲ吐キ入ルルモノ。　書言字考節用集、七、器財門「唾壺、ハイフキ、吐レ唾器、見ニ高僧傳智猛譜ニ」

はい-ふく（句）拜復　謹ミテ返事ス。（手紙ノ語）復啓。

はい-ぶつ（名）廢物　スタレモノ。用ニ足ラザルモノ。役ニ立タザルモノ。　吳越春秋、漢、趙曄「不レ能レ報レ讐、畢爲ニ廢物ニ」

はい-ぶん（名）配分　クバリックルコト。ワリツケ。配賦　運歩色葉集「配分、ハイブン」

はい-ぶん（名）俳文　德川時代ノ中頃ヨリ起リタル一種ノ文體ニシテ、洒落ヲ主トシタル輕妙、洒脫ナルモノ。　和漢文操、三、序「俳ニハ蕉門ノ俳文ヲヤハラケ」

バイブル（名）聖書　〔英語、Bible.〕　耶蘇敎ノ經典。舊約全書ト新約全書トニ分ル。聖典。

はい-へい（名）癈兵　戰爭ナドニテ、癈疾不具トナリタル兵士。

ハイポ（名）〔英語、Hyposulphite.ノ略〕次亞硫酸曹達ノ俗稱。寫眞ノ定着藥トス

ばい-ぼ（名）貝母　アミガサユリノ根ニ生ズルモノ。肺病、惡瘡ノ藥ニ效アリト。あみがさゆり（編笠百合）ノ條ヲ見ヨ　和漢三才圖會、九十二、山草類「貝母、根有ニ瓣子ハ黃白色如レ聚ニ貝子ハ故名ニ貝母ニ」

はい-ぼく（名）敗北　〔資治通鑑、三、注「人好レ陽而惡レ陰、北方幽陰也、故軍敗曰レ北」北ハ奔ナリ〕戰ニ敗レテ逃グルコト。敗走。敗績　北史、王永傳「公常以レ下、士人數爲ニ之用ハ在ニ北地ニ四年、與レ賊數十戰、

未ニ嘗敗北ニ」　王粲詩「窮武者喪、何但敗北」

ばい-ぼく（名）賣卜　錢ヲ受ケテ、占ヒスルコト　後漢書、高獲傳「賣卜給レ食」　劉禹錫詩「天上出車偶、人間賣卜錢」

はい-ま（名）驛馬　〔はやうまノ音便〕はゆま（驛馬）ノ條ヲ見ヨ　續紀、二年十一月「以レ私供給、便起ニ柴宮ハ擔奉ニ安置ハ乘ニ驛馬ニ奏」　欽明紀、三十二年四月「天皇寢疾不豫、皇太子向レ外不レ在、驛馬召到、引ニ入臥內ニ」　天武紀、上、元年六月「使ニ驛鈴ニ、不レ得ニ驛鈴ニ、山中有レ兵、以後之經行」

はい-まぢ（名）驛路　はゆまぢ（驛路）ノ音便　萬葉集、十一「はいまぢニ、引舟渡シ、タダ乘リニ、妹ガ情ニ、乘リニケルカモ」

ばい-まはし（名）陀螺廻　こままはし（獨樂廻）ノ條ヲ見ヨ。

はい-みやう（名）俳名　俳諧ヲ詠ミタル時ニ稱スル號。俳人トシテノ號。俳號。ハイメイ。　長谷川、市川海老藏ハ、俳道ニ心ヲフタネ、大坂ナル權カ本傳德翁ノ門ニ遊ビテ、俳名ヲ牛ト號シ」　俳優奇人談、中「蕉門ニ遊ビテ、俳名ヲ治助ト云フ」

はい-む（名）廢務　（一）事務ヲ廢スルコト。（二）主上、廢朝ノ時、官吏ノ執務ヲ休ムコト。　文德實錄「命ニ有司ハ廢務」　年中行事祕抄、下「口傳云、廢務一日可レ被レ行也、不レ及ニ數日ハ是高政之政、數日不レ可レ被レ奏之故」　倭訓栞「はいむ、廢務ト書リ、」　公事根源、國忌「廢朝廢務トイフ事アリ、廢務ハ諸司政ヲセズトイヘリ、是レハ一日ヲ限リテ、天下諸司ノ政ヲトドメラル、是レ數日ニ及ヒテ、萬機ノ政ヲ行テオカレテハ、カナフ可カラザル故ニ、一日ヲ限リテ廢務日トハ申也、今コノ廿五日ノ御國忌モ、廢務日ニテ侍ルベシ」

パイン-アップル (名) 〔英語、Pine-apple.〕 鳳梨(アナナス)ノ實。あななす(鳳梨)ノ條ヲ見ヨ。

はい-めい (名) 拜命 命(オホセ)ヲ承ハルコト。(多ク官職ニ補任セラルルニ云フ) 呂頌、[illegible]

はい-めい (名) 背盟 盟(チカヒ)ニ背(ソム)クコト。違約。左傳、成公元年「背盟不祥、欺大國不義」

はい-めい (名) 俳名 はいみやう(俳名)ニ同ジ。

ばい-めい (名) 賣名 名譽ヲ賣ルコト。又、姓名ヲウルコト、名聲ヲ世ニ弘メムトスルコト。莊子、天地篇「子非夫博學以擬聖、於于以蓋衆、獨弦哀歌、以賣名聲於天下者乎」[illegible]

はい-めつ (名) 敗滅 ヤブレ、ホロブルコト。破滅スルコト。

はい-めん (名) 拜面 會(ア)フコト、ノ敬語。拜顔 拜眉 拜芝

はい-めん (名) 背面 (一)ウシロムキ。ウシロスガタ。[illegible]「十五泣春風、背面鞦韆下」「背面ノ美人」 (二)背後ノ方面。ウシロ。[illegible]

ばい-も (名) 貝母 ばいぼ(貝母)ニ同ジ。[illegible]バイモ、ハウコ[illegible]節用集、六、生植門「バイモ、ハハクリ」、時珍云、二月生苗似蕎麥、七月開花、形如鼓子花(ヒルガホ)」

ばい-やう (名) 培養 ツチカヒテ、ヤシナフコト。(草木ニ) 又、根本ヲヤシナ[illegible]

[illegible]培養[illegible]一本[illegible]

はい-やく (名) 背約 約束ニ背(ソム)クコト。史記、[illegible]

ばい-やく (名) 賣約 賣ル約束ヲスルコト。又、賣リタルコトノ約束。

ばい-やく (名) 賣藥 (一)藥ヲ賣ルコト。又、商人ノ調合シテ賣ル藥。後漢書、[illegible]足レ給レ食者、輒還鄕里」 (二)クスリヤ。ヤクシュヤ。藥舖。

はい-よう (名) 佩用 身體ニ佩ビ用ホルコト。禮記、內則篇「左右佩用」[illegible]

はい-よう (感) 控ヘコウ、下座(ゲザ)備ノ聲。[illegible]

はい-らう (名) 肺勞 肺癆 はいびやう(肺病)ニ同ジ。

はい-らん (名) 拜覽 覽ルコト、ノ敬語。太平記、十六、[illegible] 增補下學集、下、一、態藝門「拜覽、ハイラン」

はい-らん (名) 悖亂 道理ニ悖(モト)リ、正道ヲ亂(ミダ)ルコト。[illegible]

はい-り (名) 悖理 道理ニ、悖(モト)リ遂(タガ)フコト。莊子、在宥篇「說仁邪、是亂於德也、說義邪、是悖於理也」[illegible]

はい-りつ (名) 排律 漢詩ノ一體。りつ(律)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

はい-りやう (名) 拜領 賞フコト、ノ敬語。[illegible]

[illegible]

はい-りよ (名) 配慮 心ヲクバルコト。ココロヅカヒ。シンパイ。

はい-る (名) 配流 流罪(ルザイ)ニ行フコト。ナガシ。ハイリウ。書言字考節用集、八、言辭門「配流、ハイル」 五代會要(宋、王溥)[illegible]

はい-る (動) 這入 はひる(這入)ノ條ヲ見ヨ。狂言記、さんくゎい「内へハイラシャレマセ、オウハヤ、内へモはいりマセウ」

はい-れ (名) 商入 古足駄ノ脚ヲ入レ替フルコト。又、ソレヲ業トスルモノ。

はい-れい (名) 拜禮 ヲガムコト。ヲロガムコト。頭ヲ低レテ禮スルコト。禮拜。敬禮。[illegible]

はい-れい (名) 悖戾 はいぎやく(悖逆)ニ同ジ。[illegible]

はい-れい (名) 背戾 ソムキ、モトルコト。[illegible]

はい-れつ (名) [illegible]

はい-ろ (名) 倍臚 雅樂ノ曲ノ名。

正シクハ倍臚破陣樂ト稱ス。[illegible]管舞ナリ。舞者四人、先ヅ鉾ト楯トヲ執リ、林邑亂聲(コシヤウ)ニテ一周ス。コレヲわ[illegible]

はい-ろ (名) くゎいろ(懐爐)ノ訛。

はいろはだんらく (名) 倍臚破陣樂 前條ヲ見ヨ。八幡太郎、此樂ヲ眞ビ、出陣[illegible]前九年、後三年ノ兩役ニ、果シテ全勝ヲ獲タリトテ、爾來、凱旋ヲ賀スル舞曲トナリ、征清ノ役、平和克復[illegible]給ヘリキ。

ハイロン (名) [illegible]

はう (名) 方 [illegible]

バ、讎敵ノ樣ニ思ヒ、其ノ人ノ方ヘ走リ入リテ」「東ノ方」「山ノ方」「ソノ方」「コノ方」 (二)四方。正方形。又、ソノ周圍。[illegible] 里」義經記、二、鬼一法眼事「ソノ勢ニナリヌレバ、三方ヘサット散ル」「方十間」「方一尺」 (三)〔テダテ〕[illegible] ノ御イマシメノ二ツノはうヲ、イカデカ御耳ニハ傳ヘ給ヒケン、云云、八條ノ式部卿ノ御はうヲ傳ヘテ、カタミニ挑ミアハセ給フ」「製藥ノ方」 (四)樣。[illegible] 二同人也、コレハ伊勢神宮ヨリ下レル使ニヤトオボユ」 (五)細局「カタツカメ」 (六)歩 [illegible] 方」「一歩」「二方」(二歩)

はう(名) 報 (一)ムクイ。果報。應報。今昔物語、廿、第二十[illegible]、殺生ノ罪ニ依リテ、現ニ地獄ノ報ヲ示スナリ」 (二)ヘンレイ。報酬。詩經、衛風、木瓜篇「投レ我以二木瓜一、報レ之以二瓊琚一、匪レ報也、永以爲レ好也」[illegible] (三)シラセ。通知。報知。報道。[illegible] 天文志 [illegible]

はう(名) 袍 (一)上ニ着ル衣。コロモ。公羊傳、哀公十四年「[illegible]反レ袂拭レ面、涕沾レ袍」 (二)正禮束帶ノ時ニ用ヰル表衣ノ稱。綾ニテ種種ノ織文アリ。盤領ニテ、長サ股膝ニ至ル。天子、親王、諸臣等、色ト織文トニテ、其別アリ。製ニ、縫腋、闕腋、ノ二樣アリ。縫腋ハ、まつはしのうへのきぬト云フ。兩腋ノ下ヲ縫ヒツケ、襴アリ、襴ト云フ。天子、并ニ、文官ノ用トス。闕腋、又、わきあけのおろもトモ云フ。腋ノ下ヲ闕キテ縫ハズ、襴無シ、武官ノ服トス。ソノ染色ハ、一位ハ、深紫(フカムラサキ)又、濃紫(コキ)トモ云ヒ、黑シ)、二位、三位ハ、淺紫(又、薄紫トモ云フ)、四位ハ、深緋、五位ハ、淺緋、六位ハ、深緑、七位ハ、淺緑、八位ハ、深縹、初位ハ、淺縹、無位ハ、黄ナリ。今ハ、敕任官ハ、黑、奏任官ハ、緋、其他ハ、縹ナリ。(寛弘以後ハ、四位以上、皆一色ノ五倍子、鐵漿ノ黑袍ナリト)

はう(名) 砲 オホヅツ。大砲。天工開物「西洋砲、熟銅鑄就、圓形若二銅鼓一、引放時、半里之內、人馬受レ斃死」

はう(名) 寶 〔漢音、はう、吳音、ほう〕 (一)タカラ。タカラモノ。大學「惟善以爲レ寶」 (二)貴キモノニ冠ラセテ云フ語。[illegible]「寶算」「寶位」「寶祚」

はう(名) 保 (一)五戶ノ家ノ、相保チテ組合ヲナスコト。後世ノ五人組ノ如シ。戶令「凡戶皆五家相保、一人爲レ長、以相檢察」 (二)轉ジテ、地方ノ區域ノ稱。都市ノ保ハ、坊(バウ)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。人民自墾ノ私田ノ地ニテ、國衙ニ屬シテ納貢スルコト、郷(ガウ)ノ如シ。一條天皇ノ頃ヨリ見ユ。初、郷司ニ屬セシガ、後、獨立シテ、保長、保司アリテ、郷長、郷司ト并ビタリ。[illegible] 乾坤門「保、ホウ、[illegible]」[illegible] 野保ノウチニ黑島ト云フ島アリ」古事談、六、亭宅諸道 [illegible]

はう(名) 堡 トリデ。堡壘。唐書、高仙芝傳 [illegible] 肥前國風土記、小城郡「土[illegible]堡(ヲキ)、云云、因號二小城郡一」

ばう(名) 望 〔爾雅、釋名篇「望月、滿之名也、月大、十六日、小、十五日、日在レ東、月在レ西、相望也」〕 (一)モチ。モチヅキ。十六日。イサヨヒ。既望。 (二)陰曆ニテ、月ノ十五日ノ稱。[illegible]

ばう(名) 坊 (一)〔京都ノ町(マチ)、市中ノ古ヘ、洛中ノ區劃ノ名。長サ十丈ニ廣サ五丈ヲ一戶トシ、三十二戶ヲ一町(四十丈四方)、四町ヲ保(ホウ)トシ(二町四方)、四保ヲ坊トス。(四町四方)竪ニ四坊ヲ條トス。每坊ニハ長一人ヲ置キ、四坊ニハ令一人ヲ置ク。又、保ニハ刀禰(トネ)一人アリテ、保內ヲ統括ス。倭名抄、十、居宅類「坊、萬知、別屋也」拾芥抄、中、末「十六町爲レ坊」同「京都坊名、一條、桃華坊、二條、銅駝坊」 (二)〔春宮坊(トウグウバウ)ノ略。源、一、桐壺「コノ御子生マレ給ヒテ後ハ、イト心コトニ思ホシ置キタレバ、坊ニモヨウセズバ、此君ノヰ給フベキナメリト」「立坊」「坊官」 (三)〔又、直ニ、東宮ヲ申シ奉ル語。源、一、桐壺「明クル年ノ春、坊定マリ給フニモ」 (四)〔又、僧ノ居所ノ稱(或ハ、房)源、五、若紫「ナニガシノ僧都ノ、此二トセコモリ侍ル坊ニ侍ルナル」枕草子、六、五十八段「御トモノ人ハ、彼ノ坊ニナドイヒテ、呼ビモテ行ケバ」類政集、下「彼惡ガ坊ニ方タガヘニマカリタリシ夜」 (五)轉ジテ、直ニ、僧ヲ呼ブ稱 (六)又、僧ノ頭、聞キヨリ轉ジテ、俗ニ、小兒ヲ親ミ呼ブ語。多クハ髮ヲ剃レバナリ(坊主(バウズ)ノ條、見合ハスベシ)

ばう(名) 房 (一)一構ヘノ室。部屋。說文「房、室在レ旁也」段注「凡堂之內、中爲二正室一、左右爲レ房、所謂東房西房也」倭名抄、十、居宅類「房、[illegible]室之兩方一也」榮花物語、三、様様悦「コノ三月ニ、御房ノ前ノ櫻ノ、イトモオモシロウ盛リナルニ、ヒトリゴチ給ヒケル」

ばう(名) 暴 暴(アラ)キコト。非道。詩經、[illegible]

ばう(名) [illegible] [illegible]

ばう(名) 帽 (一)ばうし(帽子)ニ同ジ。 (二)刀劍ノ鋒ノ、燒刃ノ邊ヒヽル帽ノ如キモノ

ばう(接頭) 亡 公文書ナドニ、死者ノ名ノ上ニ書シテ、生者ト分別スル語。故(コ)死セル人ノ姓名ノ上ニ、冠ラセテ記ス語。(死者ナルヲ標スルナリ)「亡何誰長男」

ばう(接尾) 坊 〔擬人視スル語〕種種ノ語ニ添ヘテ、嘲ル意ニ用ヰル言葉。さうぢばう(掃除坊)トイフハ、掃除好キノ人。ごぜのばう(瞽女坊)トハ、盲御前(メクラゴゼ)ヲ云フ。「醉坊(ゴタンバウ)」「吝坊(シハンバウ)」「吝嗇坊(ケチンバウ)」「賤坊(イヤシンバウ)」世智辨坊、[illegible]坊、[illegible]坊、「デクル坊」

ばうあく(名) 暴惡 手暴(アラ)ク、惡シキコト。[illegible]

ばうあつ(名) 防遏 フセギトドムルコト。[illegible] 北史、李延孫傳「盡二其智力一、防二遏[illegible]」

はうあん(名) 方案 方法ニ就キテノ工夫。考案。シタグミ。モクロミ。

はうあん(名) 保安 又、ほあん。社會ノ安寧秩序ヲ保ツコト。

はうい(名) 胞衣 又、はうえ。えな(胞衣)ニ同ジ。和漢三才圖會、十二、支體部、胞衣、時珍

日、哈衣包、人知…衣、其色有…、有…、凡胞衣宜…于天德月…、令…長壽」[illegible]
南史「…、嘗…人云、當…生時、胞衣紫色、…得…鳴…鼓角…」

はうい（ホウイ）（名）【芳意】他人ノ深切ナル志ニ對スル敬稱。芳志。芳情。［illegible］

はういう（ホウユウ）（名）【保有】又、ほいう。タモツコト。詩經、…頌、閟宮…、保…有…、…徐宅ニ「天佑ヲ保有ス」長）上、［illegible］「芳意、ハウイ」

はういう（ホウユウ）（名）【包有】ツツミモツコト。

ばういう（ボウユウ）（名）【亡友】死亡シタル友人。ナキトモ。

ばういう（ボウユウ）（名）【忘憂】「憂ヲ忘ルルモノノ意」酒ノ異名。忘憂物。陶潛詩「汎此忘憂物、遠我遺世情」

はういつ（ホウイツ）（名）【放逸・放佚】ホシイママナルコト。キママナルコト。放恣。放肆。放縱。横恣。蕩逸。列子、楊朱「…所…、…放逸而不得行、謂之…」劉向、上列子表「楊朱之篇、唯貴放逸」白居易…、君擧…詩「可…放逸君」

ばういん（ボウイン）（名）【暴飮】程ヲ過シテ、酒ヲ飮ムコト。アラノミ。

ばうう（ボウウ）（名）【暴雨】烈シク降ル雨。禮記、月令「孟春之月、云云、行秋令、則其民大疫、猋風暴雨總至」孔子家語、致思「…由也、以…暴雨將至、恐有水災、故與民修溝洫以備之」

はうえ（ホウエ）（名）【胞衣】又、はうい。えな（胞）、及、はうい（胞衣）ノ條ヲ見ヨ。

はうえん（ホウエン）（名）【砲煙】發砲スル際、出ヅル火藥ノ煙。ツツノケムリ。

ばうおく（ボウオク）（名）【茅屋】（一）カヤヤ。クサヤ。茅葺ノ家。左傳、桓公二年「清廟茅屋、大路…」［illegible］（二）［illegible］

はうおん（ホウオン）（名）【報恩】恩ニ報ユルコト。［illegible］

はうおんかう（ホウオンコウ）（名）【報恩講】又、はうおんこう。一向宗（眞宗）ニテ、宗祖親鸞（弘長二年十一月廿八日寂ス）ノ報恩ノタメ、毎年其示寂ノ日ヲ最後トシテ、七日間、營ム法會。即チ、大谷派ニテ、陰曆十一月二十一日逮夜ヨリ二十八日マデ行ヒ、本願寺派ニテハ、陽曆ニ換算シテ、一月九日逮夜ヨリ十六日マデ行フ。又、末寺、門徒ナドノ、特ニ期ヲ繰リ上ゲテ行フヲ、御取越（オトリコシ）ト云フ。オコウ。又、此忌日ノ間、天氣快晴ナルヲ、俗ニ、御講凪（オコウナギ）、又ハ、御講日和（ヒヨリ）ト云フ。

はうか（ホウカ）（名）【邦家】（家ハ、帶說（タイセツ）ノ語ナリ。）こくか（國家）ニ同ジ。クニ。邦國。詩經、小雅、白華之什、南山有臺「樂只君子、邦家之基」［illegible］

はうか（ホウカ）（名）【放歌】街上ナドニテ、聲高ニ歌フコト。［illegible］

はうか（ホウカ）（名）【砲火】砲身ヨリ發ス…［illegible］

はうか（ホウカ）（名）【放下】（一）ナゲ棄ツルコト。放棄。（二）放下僧、又、放下師ノ略。はうかぞう（放下僧）ノ條ヲ見ヨ。［illegible］（延寶、林忠）三十六、延寶八年四月十八日ニ、…濃守、二ノ丸ニ於テ、將軍家ヘ御…獻ゼラル、云云、右…宇部右近放下上覽」…曲、放下僧「コキリコハ放下ニモマルル」（三）資本ヲ投ズルコト。

はうが（ホウガ）（名）【萌芽】（一）芽ザスコト。メザシ。メダシ。又、メバエ。（草木ノ）［illegible］

ばうがい（ボウガイ）（名）【妨害】サマタゲ。ジャマ。［illegible］

はうかいせき（ホウカイセキ）（名）【方解石】はうげきやく（方解石）ニ同ジ。本草、…［illegible］

はうかう（ホウコウ）（名）【方向】ムキ。メアテ。志ノ向フ所。［illegible］山陰…方遠…（…、向、相通ズ）

はうかう（ホウコウ）（名）【芳香】［illegible］…荷花、…［illegible］

はうかう（ホウコウ）（名）【咆哮】［illegible］

ばうかう（ボウコウ）（名）【暴行】手荒ナル行ヲナスコト。アラキシワザ。亂暴ナル所行。孟子、滕文公、下篇「世衰道微、邪說暴行有作」［illegible］

はうかく（ホウカク）（名）【方角】（四方四角ノ意）［illegible］中、四…、南北［illegible］六、［illegible］方角ノ［illegible］吉日…［illegible］

ばうかく（ボウカク）（名）【暴客】アバレモノ。亂暴人。又、ドロバウ。盜人。［illegible］

はうかくひけし（ホウカクヒケシ）（名）【方角火消】ひけし（火消）ノ條ヲ見ヨ。［illegible］

はうかし（ホウカシ）（名）【放下師】（放下僧ノ技ヲスルモノ）（一）筑子、傀儡ナド、物ヲ手玉ニ取リ［illegible］放下［illegible］ツツ、我ノはうかノ［illegible］リタルカナ［illegible］

ばうがは（ボウガハ）（名）【［illegible］】［illegible］

はうかソウ（ホウカソウ）（名）【放下僧】（放下ハ、［illegible］［illegible］

チ棄テテ、一物モ執スル所ナク、無我ノ心トナルコトト云フ。轉ジテ、田樂ナドニ身ヲハフラカシタル僧ノ稱トセシモノカト云フ」僧體ニテ、下取、筑子(コキリコ)ナドノ藝ヲスルモノ。放下師(ハウカシ)ト云フハ是レナリ。前前條ノ語ヲ見ヨ。 謠曲、放下僧「身ハ放下僧ニ御ナリ候へ」 本朝用文章(元祿、近松作)「イカニ面面、はうかそうハ、何レノ祖師禪法ヲ御傳へ候ゾ」

ばうがね (名) 豫テ春宮坊ニト思ヒ設ケタルコト。又、東宮ノ候補者。 源、四十一、匂宮「ツギノ坊がねニテ、イト覺エコトニ重重シウ、人柄モスクヨカニナンモノシ給ヒケル」花鳥餘情「坊がねハ、后がねナド云フガゴトシ」

はうかふ (名) 【保甲】 其土地ノ保安ノ爲ニ、住民ニ一定ノ組合ヲ設ケシメ、寇敵ノ防禦ニアタラシムル制度。はう(保)ノ條ヲ見セヨ。 宋史、王安石傳「保甲之法、籍鄕村之民二丁取一、十家爲保、保丁皆授以弓弩、敎之戰陣」 [illegible]「保甲連相關木、團、方田論牒紛如、由[illegible]陛下卽位、罷青苗之使、廢市易之司、削保甲之條、刊免役之令」

はうかん (名) 【芳翰】 他ノ書翰(チガミ)ヲ敬稱スル語。御手紙。芳墨。芳書。華翰。朶雲。 易林節用集、慶長(上、言辭門)「芳翰、ハウカン」

はうかん (名) 【寶鑑】 タフトキカガミ。コキカガミ。 唐書、張九齡傳「初千秋節、王公皆獻寶鑑」 [illegible]「[illegible]鏡影不肯[illegible]寶鑑」 曹伯啓詩「[illegible]寶鑑」(書名)

はうかん (名) 【砲艦】 軍艦ノ一種。船體小サク、吃水淺クシテ、割合ニ大ナル主砲ヲ備フ。水底淺キ海岸、河上ナドノ攻擊、防禦等ニ用ヰル。

はうがん (名) 【芳顏】 ウツクシキカホ、ハナノカンバセ。花顏。花面。又、他人ノ顏ノ美稱。尊顏。尊容。 陶潛詩「淸歌散新聲、綠酒開芳顏」

はうがん (名) 【砲眼】 砲丸ヲ發射スル爲、砲塔、城壁ナドニ設ケタル孔。

はうがん (名) 【包含】 フクミモツコト。ツツミフクムコト。含有。 鹽鐵論、漢、桓寬「王者包含幷覆、普愛無私」 夏侯湛、東方朔像贊「明濟開豁、包含弘大」 李德裕文「術囊包含、之謂仁、極深研幾、之謂聖」

ばうかん (名) 【坊間】 マチナカ。市中。

ばうかん (名) 【防寒】 寒氣ヲ防グコト。 庾信、謝趙王賚乾魚啓「洞庭鮮鮒、溫河美鯛、波瀾成甬、鱗甲防寒」「防寒具」

はうき (名) 【帚・箒】 (ははきノ音便) 古クハ、ははき。塵ヲ掃フ具。柄アリテ、頭ハ刷毛(ハケ)ノ如シ。什器ヲ掃ヒ、室中ヲ拂ヒ、地上ヲ拂フ等ニ用ヰル。羽帚、棕櫚帚、草帚、竹帚ナド種種ナリ。オナデ。 運歩色葉集「箒、帚、ハウキ」

はうき (名) 【邦畿】 帝京ニ近接シタル一區域。 詩經、商頌、玄鳥篇「邦畿千里、維民所止」 丁鶴年詩「金虎分符開幕府、玉龍横劍衞邦畿」

はうき (名) 【方忌】 陰陽家ノ語。かたふたがり(方塞)ニ同ジ。

はうき (名) 【拋棄】 拋(ナゲウ)チ棄(ス)ツルコト。其儘ニステオクコト。拋擲。放置。

はうき (名) 【芳紀】 〔書經、洪範篇「五紀、一曰歲、云云」トアルヨリ、紀ヲ歲トス〕 年ワカキ美人ノ齡(ヨハヒ)。「芳紀十八」

はうき (名) 【防己】 あをつづら(青葛)ニ同ジ。 本草綱目「生漢中川谷、是療風水要藥、治風用木防己、治水用漢防己」

ばうぎ (名) 【謗議】 ソシリ論ズルコト。 漢書、司馬遷傳「負下未易居、下流多謗議」 崔瑗、座右銘「隱心而後動、謗議庸何傷」 戴叔倫詩「謗議不自辨、親朋惣得知」

はうきぎ (名) 【帚木】 次條ノ語ニ同ジ。

はうきぐさ (名) 【帚草・掃帚草】 古名、ニハクサ。又、マキクサ。アカクサ。ハハキギ。ハウキギ。ハハキグサ。春、苗ヲ生ズ。高サ四五尺ニ過ギズ、叢、繁ク生ジ、細長クシテ互生シ、深綠ニシテ毛アリ、食用トスベシ。夏、葉ノ間ニ、小サキ綠黃色ノ花ヲ開ク。莖ト枝トヲ乾シテ、連ネテ、くさばうき(草帚)トス。 【地膚】 和玉篇「帚、ハウキグサ」 農業全書(元祿、宮崎安貞)四、菜「地膚、ハウキクサ」

はうきざや (名) 【帚鞘】 毛皮ニテ作レル尻鞘(シリザヤ)ノ俗稱。草帚ニ似タレバ云フ。

はうきぼし (名) 【帚星】 古言、ハハキボシ。又、スヰセイ。【彗星・長星・孛星】 星ノ一種。常ニハ見エズシテ、時アリテ出ヅルモノ。形狀、種種ナレドモ、皆濛氣アリテ長キ光芒ヲ曳キ、尾ノ狀ヲナシテ、帚ノ如シ。數尾アルモアリ。 易林節用集、慶長(上、乾坤門)「彗星、ハフキボシ」 屈原、九歌、少司命「撫彗星」

はうきやう (名) 【方磬・方響】 樂器ノ名。長方形ニシテ銅製ノモノ十六枚ヲ、架ニ二段ニシテ糾ニ懸ケ、小サキ銅製ノ鎚ニテ擊チテ鳴スモノ。 倭名抄、四「[illegible]」「方響、俗云[illegible]、懸二十四」 敎訓抄、九「方磬、ホ

ウキヤウ、或作響、一名、編石、[illegible]時、七[illegible]之、律書樂圖ハ、方磬(俗云、方磬之音ハ)云云」 [illegible]鼓ヲ用ユル時ハ、方響ヲ用ヒズトイヘリ」

はうきやう (名) 【包莖】 龜頭ノ皮ニ包マレテ開カヌモノ。ヲボケ。カハカムリ。

はうぎやう (名) 【方行・寶形】 木工ノ語。屋根組ニ云フ。棟ノ兩端ヨリ、下棟(ツダラムキ)ヲ、簷ノ四隅マデ下ゲテ作ルモノ。アヅマヤ。又、四方ニ軒アリテ、中央ヨリ下棟ノ四隅ニ派出シ、雨水ヲ四方へ流レシムルモノ。カカル造リザマヲ方行造ト云フ。(切棟ノ搏風(ハフ)作リナドニ對シテ云フ) 四阿。 盛衰記、十一、育王山送金事「檜ノ材木ヲ以テ、はうぎやう作リノ御堂ヲ建テテ」(四阿ノ頂ニ、寶珠ノ形ヲ置ク)

ばうきやう (名) 【望鄕】 故鄕ヲ慕ヒ望ムコト。 岑文本詩「既欣投轄賞、暫緩望鄕情」 柳宗元詩「如何望鄕處、西北是隴州」 于武陵詩「[illegible]幾經年、望鄕空見山」 盛衰記、三十二、福原管絃講事「望鄕ノ眼ヲ穿チテ、外土望鄕ノ涙抑へ難シ」

ばうきやく (名) 【忘卻】 ワスルルコト。忘失。 白居易詩「忘卻花光盡日眠」 [illegible]「[illegible]功名盡已拋」

ばうぎやく (名) 【暴虐】 暴(アラ)ク虐(シヘタ)グルコト。非理非道ニ、人ヲ扱フコト。 書經、泰誓、上篇「沈湎冒色、敢行暴虐」 鹽鐵論(漢、桓寬)「商紂暴虐、而有孟津之謀」

はうぎよ (名) 【鮑魚】 〔玉篇「鮑、漬魚也」釋名「鮑魚、鮑也、埋藏奄、使腐臭也」〕 鹽魚ノ惡臭ヲ云フ 孔子家語、六本篇「與不善人居、如入鮑魚之肆、久而不聞其臭、亦與之化矣」 賈誼新書「周太子發嗜鮑魚、太公望曰、鮑不登於俎、安有非禮之物、而可以養太子哉」 徐陵、[illegible]「鮑魚事人、組釣當非充庖」

ばうきょ (名) 暴擧 亂暴ナル振舞。

ばうぎょ (名) 防禦 フセグコト。拒ミ守ルコト。 唐書、百官志「[illegible]以禦[illegible]上ニ[illegible]時供時、防禦出、[illegible]、文老拜且過」

はうぎょく (名) 寶玉 寶トシテ珍重スル玉。タットキ玉。 書經、[illegible]分ニ寶玉于伯叔之國、時庸展親」文心雕龍「[illegible]」「排人美[illegible]、以[illegible]亡功、寶玉大弓、[illegible]其有ニ」

ばうくん (名) 亡君 亡クナラレタル主君。今ハ世ニ亡キ君。 先君 書言字考[illegible]用集、同、人倫門、亡君、バウクン」 太平記、二十二、「防光寺[illegible]ニ亡君ノ[illegible]ヲソ弔ヒ奉リケル」

ばうくん (名) 暴君 暴虐ナル君。無道ナル君。 孟子、滕文公、下篇「[illegible]既沒、聖人之道衰、暴君代作、壞宮室以爲汙池ニ」

ばうくん (名) 傍訓 フリガナ。漢字ノ傍ニツクル訓。 授業編(天明、江村綬)三、「訓點「訓トハ、文字ノ傍ニ假名ヲツクルニテ、近世ノ人、傍訓、旁註、緣譯ナドト云フ」

はうくゎ (名) 放火 火ヲ放ツコト。人家ニ火ヲツケテ燒クコト。ヒッケ。ツケビ。 張[illegible]、[illegible]放火燒[illegible]、分[illegible]ニ」三代實錄、三十六、元慶二年十二月十五日、放火燒[illegible]不動倉[illegible]、千二十八[illegible]依檢[illegible]云、[illegible]云、[illegible]、[illegible]之遺[illegible]」

はうくゎ (名) 放課 定時間ノ課業ヲ終ルコト。課業ヨリ解キ放タルルコト。

はうくゎ (名) 砲火 發砲スル際、出ヅル火。又、ウチダス彈丸。「[illegible]」

はうくゎ (名) 宇靴 深靴ノ頭ノ短キモノ。「[illegible]」ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]、十二[illegible]、其頭短者、謂ニ之半靴ニ」 字類抄「半

靴、ハウクヮ」 枕草子、十、百廿七段「深靴、はうくゎナドノ際マデ、雪ノイト白クカカリタルコソ、ヲカシケレ」 同、六、五十八段「フカグツ、はうくゎナドハキテ、ラウノホドナドクツスリ入ルハ、ウチワタリメキテ、又ヲカシ」

はうぐゎい (名) 方外 〔方制ノ外ニ置ク意〕(一)人ノ守ルベキ方制ノ外ナルコト。世外。 [illegible]、七[illegible]「[illegible]」 (二)トツクニ。外國。 [illegible]」(三)武家ニテ、僧、醫師、畫師ナド、長袖ノ者ノ稱。

ばうぐゎい (名) 望外 豫メ望ミテ、ソレ以上ニ好マシキコト。思ヒノ外ナルコト。期待以上ナルコト。「望外ノ幸[illegible]」

はうこう (名) 彷徨 ユキサマヨフコト。ウロウロスルコト。タチモトホルコト。 [illegible]、[illegible]山、[illegible]江而右[illegible]、[illegible]彷徨」 [illegible]、彷徨彷徨、神光離合、乍陰乍陽[illegible]立」

ばうこう (名) 膀胱 ユバリブクロ。イバリブクロ。腹部ノ中ニアリテ、尿水ヲ湛フル囊ノ如キモノ、薄キ膜ニテ成ル。 和漢三才圖會、十一、經絡部「膀胱、和名、由波利不久呂、云云、居腎之下、大腸之前、有下口、無上口[illegible]」 史記、[illegible]「[illegible]」

はうくつ (名) 包括 ヒキクルムルコト。一處ニ統ブルコト。總括。 西京雜記「[illegible]」「[illegible]」

はうくゎん (名) 寶冠 ほうくゎん(寶冠)ノ條ヲ見ヨ。

はうぐゎん (名) 判官 〔はんぐゎんノ音便〕(一)マツリゴトビト。判官、かみノ[illegible]長官ノ[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]使ノ判官、又、[illegible]尉ノ[illegible]稱。 [illegible]、廿八[illegible]んト打チ云ヒテ、世ニナク、キラキラシキモノニ[illegible]エ」 [illegible]、十八[illegible]う官ニ召サレテ」(謂唐ノ判官) 義經記、五、判官吉野山入給事「判官アカヌ名殘ヲ捨テカネテ、[illegible]遠マデ具セラレタリケル」

はうぐゎん (名) 砲丸 (一)大砲ノ彈丸。砲彈。(二)競技ニ用キル圓キ鐵ノ玉。「砲丸投ゲ」

はうくゎん (名) 傍觀 傍ヨリ觀テアルコト。ヲカミ。ヨソメ。 [illegible]

ばうぐゎん (名) 坊官 (一)春宮坊ノ大夫以下ノ官人ノ稱。 [illegible]一月十日[illegible] 職官制、太子年二、即日任坊官ニ」(二)僧シテ、門跡家ノ事務ヲ執ル者。法體ニテ帶刀ス。 海人藻芥(應永)中「門跡人數上下ノ事、坊官、[illegible]」自二大臣息一至ニ殿上人子一補之、是在家ノ法親也、[illegible]任ノ時ハ、直綴、スズシノ大口、小刀、或ハ布ノ白袴[illegible](三)[illegible]坊官ノ[illegible]ノアリ、第一ノ宮、[illegible]アラセタマフコトナレバ、第二ノ宮ヨリハ、法親王トナリタマフナリ、ソノ[illegible]宮ニ傅タリシ官人ガ、ソレヨリ供奉シテ、[illegible]門ノ坊トナリ、法親王ノ住マセタマフ方ヘツキマヰラスルヲ、[illegible]

はうくゎんけたく [illegible]

[illegible]柝ハ、拍子木ヲ打ツコト」 門ヲ守ル人

ト、拍子木ヲ擊チテ夜警ヲナス人ト。 [illegible]

はうくゎんしやう (名) 寶冠章 くんしやう(勳章)ノ條ヲ見ヨ。

はうぐゎんだい (名) 判官代 (一)院廳ニ奉仕スル判官ノ稱。 [illegible]、判官代、五位[illegible]、[illegible]官代[illegible] (二)[illegible]ナガシマト[illegible]ヒタル、六ハンカタナサ[illegible]中古、國衙、莊園ニテ、事ヲ出收ノ事ヲ掌ラシメタル職。 [illegible] 江國[illegible]、[illegible]、判官代ニ補シテ、[illegible]

はうぐゎんびいき (名) 判官贔屓 〔判官ハ、[illegible]、義經ヲ[illegible]〕[illegible]不和アリテ、遂ニ追討セラレ、其ダ不遇ナリシヲ憐ムヨリ起ル〕又、はうぐゎんびいき。弱者ニ與スルコト。又、其人。

はうげ (名) 放下 〔下ヨリ物ヲ放ツ意〕(一)[illegible]ツル意。[illegible]

[illegible]

[illegible]放下者ナドトモ云フ。[illegible]

はうけい [illegible]

はうけい [illegible]

[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]

ばうけい（名）［妄計］ミダリナルハカリゴト。又、無謀ナル計畫。王建詩「妄計苟不レ生、是身孰休レ咎」

ばうけい（名）［傍系］（直系ニ對ス）直系ヨリ分レ出デタル系統ノ稱。

はうげき（名）［砲擊］大砲ニテ、打拂フコト。大砲ヲ以テスル攻擊。

はうげしやく（名）［方解石］又、はうかいせき。鑛物ノ名。石灰ヲ含ム。白クシテ堅ク、明徹ナルヲ上品トス。茶褐色、又ハ、黒色ナルモアリ。碎ケバ大、小、共ニ、皆、斜方六面體トナル。別名、カンスヰセキ。アラレイシ。（美濃）本草一家言、四、石「方解石、佐渡銀山多產レ之、土人呼ニ伊伊幾利石一、崖上重疊而生、清瑩如ニ水晶一、而不レ光潤、打ニ碎之一、則片片方解、蓋自然銅之拌類也」

はうけふいんタフ（名）［寶篋印塔］又、ほうけふいんたふ。塔ノ一種。多ク中央ヲ立方石トシ、臺石、笠石アリ。上ニ數層ノ飾アリ、皆、方形ナリ。頂ニ九輪ナドアリ、其中ニ、寶篋印陀羅尼ヲ納ムルモノナレバ名トス。佛祖統紀、四十三「吳越王錢俶、天性敬レ佛、慕ニ阿育王造塔之事一、用ニ金銅精鋼一、造ニ八萬四千塔一、中藏ニ寶篋印心咒經一、布ニ散部內一、凡十年而訖レ工」

はうけん（名）［寶劍］寶物トシテ、所藏スル劍。史記、吳太伯世家「季札、云云、解ニ其寶劍一、繫ニ之徐君冢樹一而去」王維詩「試拂ニ鐵衣一如ニ雪色一、聊持ニ寶劍一動ニ星文一」陳子昂詩「寶劍千金買、平生未ニ許レ人」古事談、二、王道臣節「俊賢、云云、曰、有ニ相傳之寶物一乎、行成云、有ニ寶劍一」

はうげん（名）［方言］其土地限リニ行ハルル言語。トコロコトバ。クニコトバ。

バ。王維詩「因レ人見ニ風俗一、入レ境聞ニ方言一」南留別志、荻生茂卿「古ノ詞ハ、多ク田舍ニ殘レリ、都會ノ地ニハ、時代ノハヤリ詞ト云フモノ、ヒタ物ニ出來テ、古キハ、ミナ變リユクニ、田舍人ハ、カタクナニテ、昔ヲアラタメヌナリ、此比ハ、田舍人モ都ニ來リテ、時ノ詞ヲ習ヒツツ行キテ、田舍ノ詞モヨキニ變リタリト云フハ、アシキニ變リタルナルヘシ」

はうげん（名）［放言］思ノ儘ナルコトヲ言ヒ散ラスコト。大言。放論。論語、微子篇「謂ニ虞仲夷逸一、隱居放言、身中レ清、廢中レ權」晉書、夏侯湛傳「莊周駘蕩以放言、君平賣卜以自賢」

はうげん（名）［榜元］くゎきょ（科擧）ノ條ヲ見ヨ。

ばうけん（名）［冒險］（一）危險ヲ冒シテ、事ヲ行フコト。北史、陳元康傳「元康冒レ險求得レ之」（二）轉ジテ、成否ノ確實ナラヌ事ヲ企ツルコト。一六勝負。

ばうげん（名）［妄言］〔漁樵對問（宋、邵雍）「口不レ可ニ得言一而言レ之、是謂ニ妄言一也」〕妄ナル言。又、據所ナキコトヲ言フコト。妄語。史記、項羽紀「秦始皇帝游ニ會稽一、渡ニ浙江一、梁與レ籍俱觀、籍曰、彼可ニ取而代一也、梁掩ニ其口一曰、毋ニ妄言一、族矣、梁以レ此奇レ籍」杜荀鶴、題江寺禪和詩「爛求ニ施主一作ニ眞像一、謬說ニ經文一是妄言」

ばうげん（名）［暴言］亂暴ナル言。惡口。

はうげんのらん（名）［保元之亂］保元元年、崇德上皇ト後白河天皇トノ御確執ヨリ起レル戰。上皇ノ方ニハ、藤原賴長、源爲義、平清盛ナドツキタリ。上皇ノ軍、利アラズ、賴長ハ死シ、爲義以下ハ刑セラレ、上皇ハ讚岐ニ遷サレ給ヘリ。

はうこ（名）［這子］はふこ（這子）ニ同ジ。

はうこ（名）ははこぐさ（母子草）ノ音便略。其條ヲ見ヨ。

はうこ（名）［寶庫］（一）財貨ヲ入レ置ク庫。寶藏。曹植、應レ詔詩「微火不レ戒、延ニ我寶庫一」（二）財貨ノ多クシテ、他ノ供給ニ應ズル所。陳子昂、諫レ討ニ生羌一書「蜀西南一都會、國家之寶庫、天下珍貨、聚出ニ其中一」

はうご（名）［保護］又、ほご。マモルコト。災害ヲ防ギカバフコト。書經、畢命篇、注「成ニ定東周郊境一、使レ有ニ保護一」

ばうご（名）［旁午］縱橫ニ入リマジルコト。漢書、霍光傳「使者旁午」注「一縱一橫爲ニ旁午一、猶レ言ニ交橫一也」唐書、劉晏傳「晏始八歲、獻レ頌、云云、授ニ太子正字一、公卿邀請旁午、號ニ神童一、名震ニ一時一」「羽檄旁午」

ばうご（名）［妄語］又、まうご、ばうげん（妄言）ニ同ジ。後漢書、王霸傳「霸曰、冰堅可レ度、官屬皆喜、光武笑曰、候吏果妄語也」蘇轍詩「妄語自知レ當レ見レ棄」

はうこく（名）［報國］國家ノ恩ニ報ユルコト。國事ニ力ヲ盡スコト。曹植詩「思レ一效ニ筋力一、願レ驅以報レ國」陳子昂詩「感レ時思レ報レ國、拔レ劍起ニ蒿萊一」李白詩「報國有ニ長策一、成功羞ニ執珪一」「報國ノ志」「盡忠報國」

はうこく（名）［報告］告ゲ知ラスルコト。シラセ。報知。報道。

はうこく（名）［邦國］（一）クニ。國家。邦家。周禮、春官篇、大宗伯「以ニ凶禮一、哀ニ邦國之憂一」詩經、周南、關雎序「關雎、后妃之德也、風之始也、所ニ以風ニ天下一、正ニ夫婦一也、故用ニ之鄉人一焉、用ニ之邦國一焉」春秋左氏傳、杜預序「周禮有ニ史官一、掌ニ邦國四方之事一」（二）クニグニ。諸國。書經、周官篇「統ニ六師一、平ニ邦國一」

ばうこく（名）［亡國］（一）國ヲ亡ボスコト。（二）亡ビタル國。史記、淮陰侯傳「亡國之大夫、不レ可ニ以圖一レ存」吳越春秋、范蠡曰「臣聞、亡國之臣不ニ敢語一レ政」「亡國ノ音」

はうこぐさ（名）ははこぐさ（母子草）ノ音便。其條ヲ見ヨ。康頼本草、上「馬先蒿、ハウコグサ」和名抄、七、草木「鼠麴草」注「佛耳草、無心草、鼠耳草、黃、蓍頭同、和名、母子草」重修本草綱目啓蒙、十一、隰草類「鼠麴草、ハハコ草」注「母子草ト書ク、云云、古キ和名ナリ、今ハほうこぐさト云フ」

はうごこく（名）［保護國］又、ほごこく。國力ノ微弱ナルタメ、一定ノ條約ニヨリテ、他國ノ主權ノ下ニ、保護セラルル國。

はうこざくら（名）〔波波加櫻ノ音便〕波波加ノ條ヲ見ヨ」樺櫻。ウハミヅザクラ。ウラミズザクラ。ハハカ。

はうごしよく（名）［保護色］又、ほごしよく。動物ガ、自己ノ身ヲ、外物トマギラハシムルニ適合スル體色。敵ノ目ヲ免レテ、自己ヲ保護スル效アリ。綠葉上ニ棲ム雨蛙ノ綠色ナルノ類。

はうごぜい（名）［保護稅］又、ほごぜい。自國ノ產業ヲ保護スル爲ニ、同種ノ外國ノ輸入品ニ對シテ、賦課スル關稅。

はうごてう（名）［保護鳥］又、ほごてう。法令ニヨリテ、捕獲、又ハ、賣買ヲ禁ゼラレタル鳥。即チ、鶴、燕、小雀、日雀、四十雀、五十雀、柄長、菊戴、雪加、蟲喰、瑠璃、鶲、三光鳥、鶺鴒、鷦鷯、杜鵑、郭公、蚊母鳥、鵂鶹、鵰、鳶、鵄、ナドヲ云フ。又、其中、雉、鸐雉ハ、三月一日ヨリ

十月二十一日マデ、又、鵯、椋鳥、雲雀、鵙、雷鳥、鶉、松鶏、鳩、鷸ハ、四月十六日ヨリ十月十四日マデ（北海道ニ於テハ、九月十四日マデ）、捕獲スルコトヲ禁ゼラレタリシガ、近年、狩獵法ヲ改正スルニ當リ、保護鳥ノ名ヲ改メテ、狩獵鳥トナシ、其種類モ、以前トハ大イニ異ナリ、大正八年八月、農商務省令ニ、コレバ、次ノ如シ、即チ、鋸嘴鴨、花鶏、信天翁、蒼鷺、萬雀、鴉、交喙、鵜、鷽、鶏、樫鳥（瑠璃樫鳥ヲ除ク）、頭鳥、河原鶸、鴨、鶸（星鴉ヲ除ク）、雁、雉、秧鶏、熊鷹、黒鶏、計里、五位鷺、鷸、蝋嘴、白腹、雀、大鷭、千鳥、鶫（虎鶫、黒鶫ヲ除ク）、入内雀、野鶏、鵲鴿、隼、鷂、鴨、金翅雀、頬白、猿子、眉茶鳥、鵯、深山頬白、胸黒、鷽雉、鷲、松鶏、鴛鴦、等ナリ。コレ等ノ鳥ハ、三月一日ヨリ十月三十一日（北海道ハ九月十四日）マデ、捕獲スルコトヲ禁ゼラル。

ばうこひょうが（句）［暴虎馮河］虎ヲ手搏ニシ、河ヲ徒渉スル意。即チ、命知ラズノ事ヲナスヲ云フ。無謀ノ冒險。論語、述而篇「暴虎馮河、死而無悔者、吾不與也」

はうこん（名）［方今］今ノ時。タダイマ。現在。當時。史記、吳太伯世家「方今吳外困於楚、[illegible]」三國志、魏志、[illegible]「今百姓不足、而御府多作金銀雜物、[illegible]」

はうこん（名）［芳魂］（一）美人ノ魂。吳師道、蘭竹圖詩「[illegible]芳魂不可招」（二）花ノ精。花神。花魂。

ばうこん（名）［亡魂］（一）亡キ人ノ魂。（二）死人ノ魂魄。ナキタマ。亡靈。後漢書、段潁傳「[illegible]亡魂[illegible]也」[illegible] 轉ジテ、其魂ノ、形ニアラハレ、現ニ見ユト想像スルモノ。幽靈。妖鬼。

〔ばうさ（名）［病者］びゃうじゃ（病者）ニ同ジ。病人。源、五十二、手習「[illegible]病者ノタメ、アシキ事ドモヤト」

はうさい（名）［堡寨・堡塞］トリデ。コジロ。城柴。資治通鑑、晉[illegible]「[illegible]堡塞[illegible]也」

はうさい（名）［報賽］〔周禮、春官篇、小祝、疏「求福曰禱、報賽曰祠」〕祈願ノ成就シタル御禮ニ、神佛ニ詣ヅルコト。レイマヰリ。カヘリマウシ。正字通「今俗、報賽曰賽」[illegible] 吾妻鏡、文治元年九月六日「[illegible]」

はうさい（名）［泡齋］狂人ノ異稱。はうさいねんぶつ（泡齋念佛）ノ條ヲ見ヨ。

はうざい（名）［方劑］藥ノ調合。又、ソノ調合ノ方法。調劑。唐書、方技傳、甄權「脈之妙處、不可傳、虛著方劑、無益於世、此吾所以不著書也」

ばうさい（名）［亡妻］死シタル妻。名物六帖、人品箋「亡妻」[illegible] 陸文[illegible]「[illegible]亡妻ノ[illegible]」

ばうさい（名）［茅柴］次次條ノ語ノ略。

ばうざい（名）［防材］敵艦ノ侵入ヲ防グタメ、巨大ナル材木ヲ、港口、又ハ、灣頭ノ水路ニ、浮べ置クモノ。

ばうさいしゅ（名）［茅柴酒］[illegible]「茅柴、乃村落所釀薄酒也」即チ、茅ヤ柴ノ[illegible]如ク酒ニ力ナキ意」村店ノ薄酒。略シテ、茅柴。[illegible]

はうさいねんブツ（名）［泡齋念佛］慶長ノ頃、泡齋念佛トテ、造花ノ笠ニ[illegible]、太鼓、鉦ヲ拍子ニ打チ、市中ヲ狂ヒ踊リ、飛ビマハリタルモノ。コレ常陸ノ[illegible]東寺ノ僧はうさいト云フ坊、其寺ノ修理ニ勸進ノ爲ニスト、唱ヘ、[illegible] 慶長）女歌舞伎の事「[illegible]ノ物眞似スルコソヲカシケレ、はうさい念佛[illegible]シ」可笑記（萬治）「慶應ノ泡齋ト云フ狂人ドモガ、町町小路ヲ駈ケメグリ走リアリケバ、云云、男女マジハリ[illegible]」嬉遊笑覧（[illegible]）五「葛西ノ土人、鉦、太鼓ニ笛ヲマジヘテ、躍念佛ニテ、江戸ノ大路ヲ廻ル、是ヲ葛西念佛ト云フ、泡齋ト呼ブ事ハ、寛永ノ頃、泡齋ト云フ狂人ノ法師アリ[illegible]ヨトハヤセリ、今以テ云フ事アリテ、氣違ノ名目トナレリ[illegible]人ノ笑ヲカサネシム」ト寶井[illegible]アル人、はうさい念佛ヲ畫ニカキテ、歌ヨメト云フ、人ハ皆、西ハウトコソ、願ヒシニ、サカサマゴトゾ、はうさい念佛」

はうさう（名）［疱瘡］古言、[illegible] もがさ。[illegible] んづさう（豌豆瘡）。格段ナル傳染性ノ病。形、豌豆ノ如シ、毛ノ面ニ小紅斑ヲ發シ、[illegible]デ膿疱ニ移リ、三四日ニシテ乾燥シ、痂皮ヲ成シ、五六日後、脱落シテ治スレドモ、重キ者ハ其痕ヲ遺シ、多クハ死ニ至ル。凡ソ、人、此病ニ罹ラザルコトヲ得ズ。然レドモ、一度病メバ、再ビ傳染スルコトナシ。天然痘。痘瘡。今ハ、うゑばうさう（種痘）ノ方アリテ、其厄ヲ避ク。[illegible]

はうさう（名）［包装］荷造スル荷物ナドノウハヅツミ。ニヅクリ。

はうさう（名）［芳草］芳ハシキ草。カヲリアル草。又、春ノ牧草。[illegible]

はうさう［方相］[illegible] 古ニ、追儺式ノトキ、惡鬼ヲハラフモノ。大舎人ノ、身體長大ナルモノヲ取リ、之ニ黄金四目ノ假面ヲ被セ、玄衣朱裳ヲ着セシメ、右ニ戈ヲ執リ、左ニ楯ヲ執リ、内裏ノ四門ヲ廻リテ、[illegible]

はうざう（名）【寶藏】（一）寶物ヲ納メ置ク倉。 宋史、[illegible] 代代ノ御門ノ御寶藏ニ、籠メ置カレタリケルヲ」（二）佛教ニテ、妙法ニ譬ヘテ云フ語。 無量[illegible]寶藏、自然[illegible]、敎化安立、無數衆生」

ばうさう（名）【莽蒼】草ノ青青ト茂レル郊野。 莊子、逍遙遊篇「適莽蒼者、三飡而返」

はうさうし（名）【方相氏】（一）はうさう（方相）ニ同ジ。字類抄「方相氏、ハウサウシ、鬼名也」 [illegible] 持楯、帥百隷及童子而時儺、以索室中而驅疫[illegible]（二）昔、御葬車ノ前ニ立ツ人。略シテ、はうさう（下文ヲ見ヨ） 後松日記、十九、[illegible] 喪葬令「凡親王一品、方相轜車各一具」云云、太政大臣、方相轜車各一具」

はうざうゐんりう（名）【寶藏院流】槍術ノ一流。大和國、南都、興福寺中ノ寶藏院ノ住僧、覺禪坊法印胤榮コレヲ創ム。鎌槍ヲ用ヰル。故ニ又、鎌寶藏院流トモ云フ。

はうさく（名）【方策】〔方ハ木版、策ハ竹簡〕（一）記錄。文書。 中庸、第廿章「文武之政、布在方策、其人存、則其政擧、其人亡、則其政息」 名物六帖、[illegible]「方策、シヨモツ」、中庸注「方、版也、策、簡也」大全、木曰方、竹曰策、策大而方小」（二）ハカリゴト。テダテ。

ばうさだめ（名）【坊定】東宮ヲ定ムルコト。立太子。 宇津保物語、國讓、下「オトド怪シク、カカル事ニヨキ日トイフナル日シモ、斷ウ斷ウ宜ヘレバ、坊定めノ事ニハアラム、煩ハシト思シテ」

はうさつ（名）【芳札】他ノ手紙ヲ敬稱スル語。御手紙ノ意。貴札。芳翰。芳書。 [illegible]芳札[illegible]」

ばうさつ（名）【忙殺】〔殺ハ助辭ニテ、意ナシ〕頗ルイソガハシキコト。甚ダセハシキコト。 馬拯臣詩「忙殺隣家小兒女」（殺ハ殺ノ古字）

ばうざふ（名）【烹雜】餅ニ種種ノモノヲ、マゼ煮タルモノ。（串鮑、熬海鼠ナド加フ）ザフニモチ。 梅窗筆記（文化、橋本經亮）「烹雜トハ、今ノ雜煮餅ナリ」 御厨子所預、紀宗國記、明應六年十二月七日「三獻、公家衆、ばうざう」

はうさん（名）【寶算】〔儀禮、鄕飮酒禮篇、注「算、數也」〕齢ノ敬語。帝王ノ上ニ申ス。寶壽。聖壽。 徐彥伯詩「五節歸寶算、九圍叶睿[illegible]」

はうさん（名）【硼酸】無臭、無味ニシテ防腐性アル酸。或ハ、單獨ニ遊離シ、或ハ、硼沙トナリテ、火山地方、又ハ、沙漠ノ湖邊ナドニ存在スル白色鱗狀ノ結晶體。醫藥トス。

はうさん（名）【放參】〔晩間ノ小參ヲ放免スル意〕禪宗ニテ、住持ノ事故アルニヨリ、晩ノ參禪、又ハ、念誦ヲ休止スルコト。鳴鐘三下シテコレヲ報ズ。 勅修百丈淸規、晩參「住持至晩不參、則堂司行者、稟命住持、首座、鳴僧堂鐘三下、謂放參鐘也」 禪林象器箋、靈軌門「舊說、住持有事、或修臨時祈禱、則放免晩參、此謂放參、即鳴鐘三下」

ばうさん（名）【坊樣】ばう（坊）ノ敬稱。

はうし（名）【芳志】他ノ深切ナル志ノ敬稱。オココロザシ。芳心。芳情。 易林節用集（慶長）上、言語門「芳志、ハウシ」 平治物語、三、賴朝擧義兵平家退治事「本領少モ無相違被安堵ケレバ、昔ノ芳志ヲ報ジ給トゾ覺エシ」

はうし（名）【拍子】〔拍子ノ音便〕（一）拍子。 西大寺資財帳「百子一連」 源、七、紅葉賀、九「マダ若ケレド、はうし違ハズ、上手メキタリ」 同、四十四、橋姬三十六「ロナウ、モノノ用ニスバカリノはうしナドモ、トマラジトナン覺エ侍ルトテ」 異本、拾玉集「庭ノ面ノ、鼠ヲトナフル、風ノ音ニ、聞キアハセテモ、取ル拍子カナ」 夫木抄、三十一、雜、庭ノ松、コトシコフナル、風ノ音ニ、打チアハセテモ、取ルひやうしカナ」（二）神樂ニ用ヰテ節ヲナスモノ、形、笏ノ如ク、二枚相撃チテ、音ヲ發ス。又、笏拍子。俗ニ、シャクビャウシ。 倭名抄、四、鐘鼓類「拍子、俗云、百師、拍板、樂器名也」 源、廿一、乙女廿「オトドハ、さくはうし、オトロオドロシカラズ、打鳴ラシタマヒテ」（河海抄本）

はうし（名）【方士】方術ノ士。神仙ノ術ヲ修ムル者。仙術。 史記、封禪書「海上燕齊怪迂之方士」 杜甫詩「評嬰方士符、何假將軍蓋」「方士東方朔」

はうし（名）【胞子】（一）隱花植物ノ子嚢ノ中ニアル種子ノ如キモノ。即チ、繁殖作用ヲ營ム細胞。（二）原生動物ノ個體ノ分レテナリタル小體。

はうし（名）【放恣・放肆】ホシイママナルコト。キママナルコト。放逸。放佚。放縱。橫恣。蕩逸。 孟子、滕文公、下「[illegible]」 [illegible]

はうし（名）【放資】資本ヲ投下スルコト。投資。資金ヲ投下スルコト。

はうじ（名）【牓示】境ニ立テテ標トスル杙ナド。物ヲ記シテ示ス札。ハウジグヒ。サカヒグヒ。標。栞。榜示。 倭名抄、十三、文書具「牓示、牓、題示也」 [illegible] 吾妻鏡、十六、正治二年八月十日「秀衡爲知行之時、[illegible]」 東大寺文書[illegible]

ばうし（名）【帽子】昔ハ布帛ニテ製セルかぶりものノ總名。僧、男、女、老、幼、其用、其形、種種ナリ。頭巾。今、又、西洋風ノモノハ、羅紗製アリ、紙ヲ心トシテ堅ク製スルアリ、形、方ナルアリ、圓ナルアリ。 王建詩「未戴柘枝花帽子、兩行宮監在簾前」 枕草子、四、四十四段「ミナキエツトテ、フタノカギリヒキサゲテモテ來リツル、ばうしノヤウニテ、則チマウテ來リシカ」（春曙抄頭註）、ばうしノヤウニテ」帽子ニヤ、物ノフタヲイタダキテ、カヘリタルサマナルベシ」

ばうし（名）【望祠・望祀】柴ヲ燒キテ、遙ニ山川ノ神ヲ祭ルコト。又、ソノ祭。 何晏、景福殿賦「望祠山川、考時度方」

ばうし（名）【茅茨】ちがやト、いばらト。又、ソレニテ葺キタル屋根。 韓非子、五蠹篇「堯之王天下也、茅茨不翦、采椽不斲」 李嶠詩「淸蹕人靈木、白首臥茅茨」 陸游詩[illegible]

月移、山[illegible]、[illegible]高[illegible]、半壯日耕十畝地、人間長掃一茅茨」

ばうじ（名）[房事] 房ノ事、男女ノ媾合。交合。交接。

ばうじ（名）[庖仕] 庖厨ニテ、水汲ミ薪炊キナドニ使ハルル男ノ稱。水火夫。

はうしう（名）[報酬] 己レノ仕事ニ對シテ、他ノ與フル返禮、又ハ、ソノ料金。ムクイ。返禮。謝禮。

はうしう（名）[報讐] 仇ヲカヘスコト、カタキヲ打ツコト。アダウチ。カタキウチ。復讐。 宋史、張[illegible]傳「[illegible]孫居道所害、寶慶年十七、以身免、後聞居道避地興國、乃求爲興國都巡檢使、至官[illegible]、居道至廳[illegible]、[illegible]其心以祭、[illegible]官[illegible]、[illegible]之、[illegible]張孝子[illegible]（[illegible]）」

ばうしう（名）[防臭] 臭氣ヲ防グコト。

ばうしうずな（名）[房州沙] 一種ノ沙。安房ノ平群郡（今ノ安房郡）ノ產。多ク東京ニ送リ、玄米ノ精白用、眞鍮、又ハ、磨沙ナドトス。

ばうしかけ（名）[帽子掛] （一）帽子ヲ掛クル用ニ供スル具。（二）昔、女方ノ俳優ノ、始メテ野郎帽子ヲカブル時ニ行ヒシ儀式。

ばうしかぶと（名）[帽子冑] 帽子ノ形ニ作リタルかぶと。 [illegible]「蒟蒻ヲドシノヨロヒニ、クロイトヲドシノハラマキニ[illegible]テネテゾキタリケル、ぼうしかぶとニ[illegible]イカブトノ緒ヲシメ」 盛衰記、五、成親已下被二召捕一事「入道ハ帽子兜ニ蒟蒻ノ腹巻ノ袖附タルヲ着テ、小長刀計ニア立給ヒタリケルガ」太平記、廿二、[illegible]六[illegible]八帽子[illegible]」

ばうしがみ（名）[帽子紙] [illegible]ガミ。バウシ花（ツユクサ）ノ汁ニテ染ム。

はうしき（名）[方式] （一）一定ノ形式。カタ。（二）一定ノ手續。テツヅキ。

はうしぎ（名）[拍子木] ひやうしぎ（拍子木）ニ同ジ。 [illegible]「[illegible]、はうし木ゾト也、夜廻リスル者ノ打鳴ス木也」

はうじきん（名）[保字金] 天保年中ニ鑄タル金銀貨幣ノ名。小判ニ保ノ字ノ極印アリ、保字小判ト云フ。 [illegible]「[illegible]、五兩判、九匁位、上小判ハ三匁位、文政ヨリ稍ヨキカ、一分判位亦準レ之、背保字ノ記アリ、故ニ保字金ト呼ブ」

はうじぎん（名）[寶字銀] 寶永三年ニ鑄造シタル銀貨ノ名。寶ノ字ノ極印アリ。 貨[illegible]、寶永三年丙戌六月、[illegible]、寶字ノ極印二ツアリ、世ニ寶字銀、マタ、二寶銀ト云フ、享保六年辛丑十二月、通用止ム、凡十六年」

ばうしぐさ（名）[帽子草] ばうしばな（帽子花）ノ條ヲ見ヨ。

はうじぐひ（名）[牓示杙] はうじ（牓示）ノ條ヲ見ヨ。

はうじこばん（名）[寶字小判] 寶永三年[illegible]鑄造シタル小判。寶永ノ二字ヲ印ス。[illegible]

ばうしつ（名）[亡失] 物ノナクナルコト。ウシナフコト。 [illegible]

ばうしつ（名）[冒疾] ソネミネタムコト。ヤクコト。 書經、秦誓篇「人之有レ技、冒疾以惡レ之」

ばうしばな（名）[帽子花] つゆくさ（露草）ノ一名。其條ヲ見ヨ。バウシグサ。

はうしふ（名）[[illegible]] 他家ノアトヲ繼グコト。 [illegible]

はうしん（名）[砲身] 大砲ノ主要部ニシテ、彈丸ヲ込メ、[illegible]。

はうしん（名）[方針] （一）磁石ノ針ノ向ク方。又、ソノ針。（二）己レガ目差ス方。針路。進ムベキ路。目的。

はうしん（名）[放心] （一）心ノ身ニ滿ハスコト。外物ノタメニ[illegible]。（二）心遣ヒヲ打捨ツルコト。安心。放念。休心。 [illegible]「放心希二來吉一」

はうじん（名）[邦人] クニビト。己レガ國ノ人。國人。

はうじん（名）[庖人] 料理ヲ業トスル者。料理人。 [illegible]

ばうしん（名）[亡心] ばうれい（亡靈）ニ同ジ。 [illegible]「[illegible]偶ト中シシモノノ亡心ニテ」

ばうしん（名）[妄信] 又、まうしん。妄ニ信ズルコト。アヤマリ信ズルコト。

ばうしん（名）[亡臣] 亡命シタル臣。 [illegible]

ばうじん（名）[防人] さきもり（防人）ニ同ジ。

ばうじん（名）[亡人] （一）出奔シテ他國ニ在ル人。亡命者。 [illegible]（二）[illegible]ナキ人。[illegible]。

ばうじん（名）[暴人] 亂暴人。暴行ヲナス人。ランバウモノ。アバレモノ。

ばうじん（名）[傍人] （一）[illegible]用人。（二）ソバビト。[illegible]

はうしや（名）[報謝] 物ヲ贈リテ報ユルコト。返禮。謝禮。又、僧ノ佛事ヲ修シタルニ對シテ、布施物ナド贈ルコト。 [illegible]

はうしや（名）[放射] （一）[illegible]（二）光ナドノ、或ル一點ヨリ四方ニ放出スルコト。

はうしや（名）[放赦] 囚人ヲ放チテ、赦シヤルコト。放免。放釋。釋放。

はうしや（名）[硼砂] [illegible] ほうしやなんはんすな。鑛物トシテハ、沙漠地ナドノ湖邊ニ、蒸發ノ殘留物トシテ產ジ、又、人工ニテハ、硼酸ノ水溶液ヲ炭酸なとりうむニテ中和シ、コレヲ熱シテ放冷スルトキハ生ズル結晶物。[illegible]ドニ用ヰル。

はうしや（名）[紡車] 絲ヲ紡グ具。イトヨリグルマ。イトグルマ。 [illegible]

はう[illegible]

ル爲ニ、砲架ニ車輪ヲ裝置シタルモノ。

ばうしや（名）【暴瀉】烈シキハラクダリ。ハゲシキ下痢。水瀉。

ばうしや（名）【茅舍】カヤブキノ家。茅屋。茅廬。轉ジテ、自宅ノ謙稱。小家。弊屋。矮屋。白居易詩「三間茅舍向山開」

ばうや（名）【坊舍】（一）町ナカノ家。（二）僧ノ住ム家。僧坊。マチヤ。

はうしやう（名）【褒賞】ホムルコト。褒美。漢書、張安世傳「宣帝初即位、褒賞大臣」南史、鮑泉傳「上王璽銘、武帝發詔褒賞」

はうしやう（名）【褒章】人ノ奇特ノ行爲アル者ニ、褒賞トシテ授クル徽章。コレニ紅綬褒章、綠綬褒章、藍綬褒章、黃綬褒章ノ四種アリ。

はうしやう（名）【方相】はうさう（方相）ニ同ジ。江家次第、十一、廿七、追儺「方相爲レ假子ニ黍人、立ニ版前ニ丈ニ」

はうじやう（名）【芳情】はうし（芳志）ニ同ジ。書言字考節用集、八、言辭門「芳情、ハウジヤウ」吾妻鏡、三、元暦三年六月十八日「施ニ芳情ニ」

はうじやう（名）【褒狀】事ヲ褒ムルニ與フル書付。褒賞トシテ賜ハル狀。

はうじやう（名）【放生】捕へ置ケル生物ヲ、放チヤルコト。（殺生ニ對ス）はうじやうゑ（放生會）ノ條ヲ參見セヨ。列子、說符篇「正旦放生、示有恩也」東京記事（宋、譚）「會稽公喜于放生、凡見ニ魏蟲鼓翼、當放之、夜常」蘇軾詩「放生魚鼈逐ニ人來、無主荷花」

ばうしやう（名）【帽章】帽子ノ徽章。

ばうしやう（名）【傍生】佛敎ノ語。生物ノ、體ヲ横ニ行クモノ、卽チ畜類。玄應音義、廿一「傍生、云云、舊翻爲ニ畜生、或言ニ禽獸ニ」

ばうじやう（名）【亡狀】ぶじやう（無狀）ノ誤讀。無法ナル所爲。又、無禮ナル言動。漢書、項籍傳「異時諸侯吏卒、徭役屯戍過ニ秦中、秦中遇之、多ニ亡狀ニ」

ばうしやう（名）【暴狀】亂暴ナルサマ。

はうじやうく（名）【放生供】放生ヲ行フ供養。次次條ヲ參見セヨ。

はうしやうりう（名）【寶生流】猿樂ノ能ノ一派。四座ノ一。能ノ條ヲ見ヨ。

はうじやうゑ（名）【放生會】陰暦、八月十五日ノ石淸水八幡宮ノ神事。捕へ置ケル魚鳥等ノ生物ヲ放ツ。紀略、後篇、六、天延二年八月十一日「石淸水八幡宮、來十五日放生會」政事要略、廿三、八月十五日石淸水宮放生會事「今件放生會、興ニ自ニ宇佐宮、傳ニ於石淸水宮ニ」扶桑略記、六、養老四年九月「合戰之間、多致ニ殺生、宜修ニ放生ニ者、諸國放生會、始ニ自ニ此時ニ矣」續紀、（文武）元年八月庚辰「令ニ諸國每年放生ニ」常槃友前集（松島日五郎編）敎草吉原雀「凡ソ生ケルヲハナツコト、云云、養老四年ノ未ノ秋、宇佐八幡ノ託宣ニテ、諸國ニハジマル放生會」

はうしやく（名）【保釋】ほしやく（保釋）ニ同ジ。

ばうじやくぶじん（句）【傍若無人】旁若無人（晉書、王猛傳「談ニ當世之事、捫レ蝨而言、傍若レ無レ人ト」傍ニ人無キガ若シ。（人前ヲ憚ラズ）レガママニ振舞フ意）人モ無ゲナル振舞ヲナスコト。或ハ、本意、人ヲ人トモ思ハズ、傲然トシテ肩ヲ竝ブル者ナキ意ニモ云フト。史記、荊軻傳「旣而相泣、旁若ニ無レ人者ニ」太平記、十七、山門攻事「敵ノ中へワリ入ル程ナラバ、如何ナル新田殿ナリトモ、ヤハカ怺へ候ベキト、傍若無人ニ申セバ」

ばうしやびやう（名）【暴瀉病】これら（虎列剌）ノ條ヲ見ヨ。

はうしややど（名）【報謝宿】報謝ノタメナドニ、貧困ノ旅人ヲ無料ニテ泊セシムル宿。

はうしゆ（名）【寶珠】寶トスル珠ノ名。芋頭ノ如クニテ、上ニ段段トニ綠メグリツタフルモノ。珠ニ火焔アルモノナド畫ケリ。重言ニ、寶珠の玉ト云フ。列子、黃帝篇「因復指ニ河曲之淫隅ニ曰、彼中有ニ寶珠、泳可ニ得也、商丘開復從而泳之、旣出、果得レ珠焉」

はうしゆ（名）【保守】又、ほしゆ。舊慣ヲ守リ行クコト。三國志、魏志、董昭傳「旣富且貴、無ニ復他望、但欲下終ニ其天年、保中守祿祚上而已」

はうしゆ（名）【砲手】砲ヲ發射スル人。宋史、兵志、奇嵐軍砲「置ニ床子弩砲手ニ」

はうじゆ（名）【寶壽】はうさん（寶算）ニ同ジ。

ばうしゆ（名）【芒種】二十四氣ノ一。陰暦五月ノ節。芒アル穀、卽チ、稻ヲ種ウル時。孝經緯「小滿後十五日、斗指レ丙爲ニ芒種ニ」

ばうしゆ（名）【卯酒】又、ばうしゆ。卯ノ時（午前六時）ニ飮ム酒。アサザケ。朗詠集私注「卯時飮レ酒、謂ニ之卯酒ニ」白居易詩「心頭卯酒未レ消時」同「未レ如ニ卯時酒ニ」大鏡、中、兼通「コノ殿（兼通）ニハ、後夜ニメスばうしゆノ御肴ニハ、只今殺シタル雉ヲゾ、マヰラセケルニ」

ばうしゆ（名）【亡酒】サケノザシキヲ逃レ避クルコト。史記、齊悼惠王世家「諸呂有ニ一人醉亡酒ニ」

はうじゆう（名）【砲銃】大砲ト、小銃ト。

はうじゆがしら（名）【寶珠頭】又、はうじゆがしら。ぎぼうし（擬寶珠）ニ同ジ。其ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

はうじゆつ（名）【砲術】大砲ヲ運用スル術。明良帶錄、二、大筒役組頭「砲術ヲ鐵炮ト云フ、火術ヲ大筒石火矢ト云フ」維新史料、十一編、象山松陰事跡「天保十三年壬寅、修理（佐久間象山）三十二歲、正月豆州韮山ニ抵リ、西洋砲術ヲ江川太郎左衞門ニ學ブ、止ル四十餘日、江戶ニ歸リ、更ニ下曾根金三郎ニ學ビ、傳書十四冊ヲ寫ス」

はうじゆつ（名）【方術】（一）テダテ。シカタ。（二）ワザ。技術。（陰陽、天文、醫療、卜筮ノ類）北史、周儒傳「多ニ方術、尤善醫藥ニ」漢書、衡山王傳「謁者衞慶有ニ方術、欲ニ上書事ニ天子、王怒、故劾慶死罪、彊榜服之」（三）神仙ノ術。仙人ノ方術。（不可思議ナル術トシテ、不老不死ナド）史記、秦始皇紀「悉召ニ文學方術士甚衆ニ」推古紀、十年十月「貢ニ曆本、及、天文、地理書、并遁甲、方術之書ニ」

はうしゆのたま（名）【寶珠玉】はうしゆ（寶珠）ニ同ジ。

はうしゆもやう（名）【寶珠模樣】又、ほうじゆもやう。でんくらうぞめ（傳九郎染）ニ同ジ。

はうしよ（名）【苞苴】（禮記釋文「裹曰レ苞、藉曰レ苴」）（一）アラマキ。ツト。莊子、列禦寇篇「小夫之知、不レ離ニ苞苴竿牘ニ」（二）賄賂ニ用ヰル品物。音物。說苑（漢、劉向）君道篇「政不レ節耶、使ニ人疾ニ耶、苞苴行耶、讒夫昌耶、宮室營耶、女謁盛耶、何不レ雨之極也」

はうしよ (名) 芳書 はうさつ(芳札)ニ同ジ。

ばうじよ (名) 茅茹 カヤノ根ノ互ニカラミ合ヒテ、其一ヲ引ケバ、他モ共ニ來ルサマヲ、人ノ互ニ共同シテ進ムニ喩ヘ云フ語。易經、泰卦「抜茅連茹」

はうじやう (名) 放縱 ホシイママナルコト。キママナルコト。檢束ナキコト。「天資放縱、[illegible]」

ばうじやう (名) 傍證 證據トシテ參考スベキ傍系ノ資料。間接ノ證據

ばうじやう (名) 尨茸 毛ガムシャムシャ入リミダレテキル狀ニ云フ語。左傳、僖公五年「狐裘尨茸、一國三公、吾誰適從」

はうしよく (名) 飽食 飽クマデ食フコト。十分ニ飲食スルコト。孟子、滕文公、上篇「人之有道也、飽食煖衣、逸居而無教、則近於禽獸」[illegible]

ばうしよく (名) 暴食 程ヲ過シテ食フコト。アラグヒ。「暴飲暴食」

ばうしよく (名) 望蜀 「下文ノ故事ニ基ヅク」望ミ遂ゲテ、又、其上ヲ望ムコト。貪心飽クナキコト。後漢書、岑彭傳「人苦不知足、既平隴、復望蜀、每一發兵、頭鬚爲白」[illegible]

✣**はうじる** (動) 報 はうず(報)ノ口語。

✣**はうじる** (動) 焙 はうず(焙)ノ口語。

はうず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變) 報 (一)ムクユ。カヘス。ハウジル。史記、[illegible]「國士遇我、我故國士報之」平治物語、[illegible]義兵、平家退治事「本領少モ無相違、被安堵ニケレバ、昔ノ芳志ヲ報じ給トゾ覺エシ」「恩ニ報ず」(二)告ゲ知ラス。通知ス。[illegible]

はうず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變) 焙 「焙、音、佩、音便」火氣ヲ與ヘテ、濕ヲ乾ス。ハウジル。「茶ヲ焙ず」

ばうす (名) 卯酒 ばうしゆ(卯酒)ノ條ヲ見ヨ。

ばうず (名) 坊主 (一)一坊、一寺ノ主タル僧。住僧 [illegible] (二)轉ジテ、通ジ、僧ノ稱。僧 (三)僧ノ圓頂ナルヨリ轉ジテ、俗ニ、スベテ剃髮シタル人ノ稱(醫、畫工、茶伯、小兒ナド) (四)武家ノ城中、邸中ニテ、茶湯ノ事、及、雜事ニ使ハルル賤シキ役ノ者。剃髮ナリ。「茶坊主」[illegible] (五)轉ジテ、髮ヲ剃リタル頭。圓顱 「坊主ニナル」(六)又、轉ジテ、毛ノ無キモノ。或ハ禿ナル物ヲ呼ブ語。「坊主頭、坊主筆、坊主山」(七)物事ニ熟語トシテ、名詞ヲ形作ラスル語。「三日坊主」「照照坊主」「チャンチャン坊主」

ばうず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變) 忘 ワスル。ワスレテ言フ。[illegible]

ばうず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變) 忘 [illegible]「故郷忘じ難シ」

ばうずいね (名) 坊主稻 [illegible]

ばうずおとし (名) 坊主落 歌骨牌ニテ行フ遊戲。百人一首ノ骨牌ノ讀札ハ歌ノ讀人ノ肖人、姫、僧ノ像アリ、先ヅ百枚ヲ重ネテ座ニ置キ、數人圍ミテ、一枚ヅツメクリテ、傍ニ積ム。姫ヲ已シタルモノハ、其積ミタルモノヲ、悉ク取リ、坊主ヲ出ダセバ、[illegible]自己ノ取リタルモノヲ、悉ク出スナリ。斯クテ終ニ取レル札ノ、多キモノヲ勝トス。

ばうずおち (名) 坊主落 坊主ノ還俗スルコト。又、其還俗シタル人。

ばうずガッパ (名) 坊主合羽 袖ナク、桐油紙ニテ作リタル袖ナシノ合羽(かつぱ)(合羽)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]「桐油紙ヲ以テ製スルヲ、坊主合羽ト云ヒ、木綿ノ以テ製スルヲ、引廻シト云フ」[illegible]羽トモ云フ」

ばうずがへり (名) 坊主還 又、ばうずがへり。坊主ノ還俗シタル人。[illegible]

はうすけ (名) 宋助 [illegible]ヲ添ヘ、呆ルル意ヲモ兼ネテ、人名ニ擬シタル語」バカ。愚者。愚人。

はうすん (名) 方寸 (一)一寸四方。[illegible] (二)心。胸中。昔、心の臟ハ、胸中ノ一寸四方ノ間ニアリトスルヨリ云フ。[illegible]

ばうずむき (名) [illegible]

ばうずもち (名) [illegible]

ばうずわん (名) [illegible]

はうせい (名) [illegible]

はうせい (名) [illegible]

はうせい (名) [illegible]

ばうせうふ (名) [illegible]

はうせい (名) [illegible]

ばうせい (ボウセイ) (名) [昴星] 星ノ廿八宿ノ一。スバル。すばる(昴)ノ條ヲモ見ヨ。晉書、天文志「七星大ノ宿也、主ル觜ヲ之類」ニ據ル。史記、廿八、天官書「太白、以昴星ヲ犯ス」

ばうせい (ボウセイ) (名) [房星] 星ノ廿八宿ノ一。ソヒ。晉書、天文志「房星明、則王者明」

ばうせい (ボウセイ) (名) [暴政] 暴虐ナル政事。禮記、檀弓篇「雖有暴政、不レ更ニ其所ニ」

ばうせい (ボウセイ) (名) [冒姓] 姓ヲカスコト。他姓ヲ稱スルコト。他ノ苗字ヲ名ノルコト。漢書、衞青傳「冒ニ姓衞氏ニ」

はうせう (ホウシヤウ) (名) [芒硝芒消] 硇砂(アラシホ)なとりうむノ俗稱。鑛物ノ名。斥鹵ノ地ニ生ズ。末掻キ寄セテ、汁ヲ一煎シテ、結成ス。朴消ト云フ。再ビ製シテ、細ソキ芒ヲ生ズルヲ芒消トス。色白ク、氷ノ如ク蠟ノ如シ。皆、水ニ入ルレバ消ユ。人工ニテハ、鹽化なとりうむ(食鹽)ト硫酸トヲ熱シテ造ル。下劑トシ、其他、硝子、及、曹達ノ製造ナドニ用ヰル。苦鹽。左思、蜀都賦「其中則有青珠、黃環、碧砮、芒消ニ」

ばうせき (ボウセキ) (名) [紡績] (一)絲ヲツムグコト。績紡。史記、平準書「海内之士力耕、不レ足ニ糧饟、女子紡績、不レ足ニ衣服ニ」江淹詩「但願ニ長ク歳、寶月得ニ紡績ニ」左思、嬌女詩「止為ニ茶菽據、吹噓對ニ鼎鑠ニ紡績ニ」(二)次條ノ語ノ略。

ばうせきいと (ボウセキイト) (名) [紡績絲] 紡績機械ニテ製シタル絲。略シテ、ばうせき。

ばうせきけんし (ボウセキケンシ) (名) [紡績絹絲] 製絲ノ際ニ生ズル屑繭、及、屑絲ナドヲ原料トシテ、機械ニテ紡績シタル絹絲ノ稱。

銘仙、富士絹、ナドノ製造ニ用ヰラル、

ばうせきつむぎ (ボウセキツムギ) (名) [紡績紬] 經(タテ)ニ綿絲、緯ニ紡績絹絲(節多キ太絲ノ紡績絹絲)ヲ用ヰタル絹綿交織物ノ稱。著尺地、羽尺地、蒲團地ナドトス。

ばうせつ (ボウセツ) (名) [妄說] 又、まうせつ。妄(ミダリ)ナル說。據所ナキ說。漢書、霍光傳「諸儒生多寠人子、遠客飢寒、喜ニ妄說狂言ニ不レ避ニ忌諱ニ」

はうせん (ホウセン) (名) [方錢] (一)古へ、朝服ナドニ用ヰタル革帶ノ飾ノ具。字類抄「方錢、ホウセン」雅亮裝束抄、二「帶ノ右ノ脇ニ、はうせんト云フ四方ナル石二ツガ中ニツク」(二)方形ノ錢。草茅危言(寬政、中井積善)三「仙臺ニテ濫臆ノ方錢ヲ鑄出スコトヲ願ハレ、官許アリシ」

はうせん (ホウセン) (名) [烹鮮] 〔老子、第六十章「治ニ大國一、若レ烹ニ小鮮ニ」ヨリ起ル。小鮮ハ小魚ナリ〕國政ヲ執行フコトノ譬。マツリゴト。楊維楨詩「勿レ袖ニ烹鮮手ニ」

はうぜん (ホウゼン) (名) [保全] 又、ほぜん。安全ナラシムルヤウ、保護スルコト。後漢書、烏民闞公傳「保ニ全一身ヲ孰ニ若保ニ全天下ニ乎」

はうぜん (ホウゼン) (名) [寶前] 神佛ノ前。廣前(ヒロマヘ)。

ばうせん (ボウセン) (名) [防戰] フセギタタカフコト。侍所沙汰篇追加「於ニ防戰之族ニ者、任ニ先例ニ可レ分ニ召所帶半分ニ」

ばうぜん (ボウゼン) (副) [茫然茫然] 據ル所ナキ狀、又ハ、呆(アキ)レテ思案ナキ狀ナドニ云フ語。アッケニトラル。キヌケスル。呆然。惘然。史記、魏世家「唐雎到、入見ニ秦王ニ秦王曰、丈人芒然、乃遠至レ此、甚苦矣、夫魏之來、求レ救數矣、寡人知ニ魏之急ニ已」莊子、大宗師篇「芒然彷ニ徨乎塵埃之外ニ」杜甫詩「斯遊恐不レ遂、把レ酒意茫然」

ばうぜん (ボウゼン) (副) [呆然] 〔呆ハ、某ノ古文ト、又、痴ノ俗用〕前條ノ語ニ同ジ。

ばうぜん (ボウゼン) (副) [惘然] 前前條ノ語意ニ同ジ。字彙「惘然、失レ志貌」江淹詩「酒ヲ惜レ賞雲、忘レ尊還惘然」杜甫詩「豈復慮ニ老去ニ惘然、暫ク久留ニ」白居易詩「張家伯仲偏相似、每見青楊一惘然」

はうそ (ホウソ) (名) [柞] 樹ノ名。ははそ(柞)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

はうそ (ホウソ) (名) [寶祚] 〔正韻「祚、福也、祿也、位也」〕帝王ノ位ノ尊稱。オホミクラヰ。アマツヒツギ。皇位。天子ノ御位。天位。寶位。周書、宣帝紀「朕以ニ眇身ニ祇承ニ寶祚ニ庶ニ幾聿修之志ニ敢忘ニ燕翼之心ニ」

ばうぞくみ (ボウゾクミ) (副) 〔假名遣、詳ラカナラズ、傍若(バウジャク)無人ノ下略ノ音轉カト云フ。或ハ云フ、凡俗(ボンゾク)ノ音轉カ。遊仙窟ニ「凡俗」ト見ユ〕モノアラハニ。無遠慮ニ、傍若無人ニ。源、五十一、蜻蛉四十「人多ク見ル時ナム、スキタル物著タルハ、ばうぞくみ覺ユル」源注餘滴ニ身ノかたみヲ引キテ「第一御ヒキアハセノ事、御胸ニ常常御心ヲソヘラレ候、胸ハイカニウツクシキエリナリトモ、シドケナクばうぞくみ引キナサレ取リハヅシテハ、胸ヒロガリテ、乳ノシタマデ明キトホリテ、見ニクキコトモ出ヅルモノニテ候」源、三、空蟬四「一藍ノ小袿(コウチギ)ダツ物、ナイガシロニ著ナシテ、クレナヰノ腰、引キ結ヘル際マデ、胸アラハニ、ばうぞくなるモテナシナリ」堤中納言物語、蟲めづる姫君「カノオヅル人ヲバ、ケシカラズばうぞくなりトテ、イト眉グロニテナムニラミ給ヒケルニ」

ばうそつ (ボウソツ) (副) [暴卒] 物事ノ急ナル狀ニ云フ語。ニハカニ。イキナリ。卒然。

はうぞん (ホウソン) (名) [保存] ほぞん(保存)ニ同ジ。

はうた (名) [端唄葉唄] (一)俗謠ノ一種。

文句ノ短キモノ。小唄ヨリハ長キモノ。遊女(アソビメ)ナドノ唄フ。大磯虎稚物語(元祿、近松作)三「松ニはうたノシラベテハ、風モ調子ヤ替ヘヌラン」(二)長唄ヨリ出デ來タレルモノ。(三)歌澤節(ウタザハブシ)ノ唄。上方唄(カミガタウタ)ノ短キモノ。

ばうだ (ボウダ) (副) [滂沱] (一)雨ノ強ク降ル狀ニ云フ語。詩經、小雅、漸漸之石篇「有レ豕白蹢、烝涉ニ波矣、月離ニ于畢ニ俾ニ滂沱ニ矣」高允、鹿苑賦「流ニ膏液以滂沱、扇ニ仁風ニ以遠被ニ」陸游詩「萬流騰湧湍、白雨助滂沱」(二)淚ノ止メドナク流ルル狀ニ云フ語。詩經、陳風、澤陂篇「寤寐無レ爲、涕泗滂沱、有ニ美一人ニ傷如レ之何」

はうたい (ホウタイ) (名) [繃帶] 創傷、又ハ、腫物ナドノ局部ヲ卷キテ、外部ヨリノ害ヲ防グニ用ヰルがあぜ、又ハ、晒木綿ノ布。

はうだい (ホウダイ) (名) [砲臺] 臺場(ダイバ)。主要ナル守城重砲ヲ備ヘ附ケテ射擊ヲ便ニシ、人員、材料、彈藥ナドヲ保護シ、且、各堡壘ノ守備ヲ援ケテ、其中堅ヲ成ス一種ノ築造物。清律明例「官員修ニ造砲臺、邊界、烽堠等項ニ」續通史料、十一、象山松陰事蹟「四月、江戶近海巡見、鎌倉ヨリ乘船、荒崎城ケ島ヲ經テ本牧ニ至リ、ソノ間、諸處砲臺ヲミル」同、同「此冬(嘉永元年)、深川藩邸內ニ野砲臺ヲ築キ、其築造ノ方法ヲ試ム」

はうだい (ホウダイ) (接尾) [放題] 〔次條ノ語ノ轉カト云フ〕動詞ト共ニ熟語ニナリテ、意ノママニモノスル意ノ語。下學集、下、態藝門「放題、ハウダイ」注「詩歌所レ言也、日本俗、或云ニ放埒之人ニ也」「見放題」「取放題」「食放題」「出放題」

ばうだい (ボウダイ) (名) [傍題] 題ノ主ヲ傍ラニシテ歌詠ムコト。譬ヘバ、月ト云フ題ニ、蟲ノ音ヲ云ヒテ、主トアルベキ月ヨリハ、蟲ヲ旨深ク詠ムコト。又、題ノ主ヲ、歌ノ中ニ詠ミ落スヲ落題ト云フ。山

ノ題ニ、尾上、谷ナドニ六、ガ如シ。又、物二ツ詠入ルベキ歌ニ、一ヲ詠ミテ、一ヲ[illegible]、片題[illegible] 八雲御抄[illegible]

[illegible]新式[illegible]ニモ、[illegible]ズバ、其[illegible]有ルベカラズ、オヨソ[illegible]歌ニモ、花ヤハ[illegible]ナルベキト[illegible]ミケルニゾ、[illegible]ノ[illegible]ノカルベカラザルヨシ[illegible]ゼラレタルト也[illegible]へベ、又、月前[illegible]ナド云フ[illegible]ニ同ヒテ、月ヲ[illegible]ラニト句ヲ練リ、風情ヲメグラス程ニ、薄ハ假令ノ物ニナリタル體ノ句ブリヲ云フベシ」 [illegible]二條良基)、[illegible]ヲバイカヤウニキラフベキゾヤ、云云、[illegible]ト申事、フルクハ、題ノ外ニ、コト物ヲ詠加タルト申事候カ」 俳諧發句小鑑、放題事「放題トハ、[illegible]バ、[illegible]ノ句ノ櫻ニウゴキ、サクラノ句ノ海棠ニモナルヲ云フ也」 [illegible]

ばうだい（名） |厖大| ヒロガリテ、大キクナルコト。又、形、或ハ、内容ナドノ、甚ダ大ナルコト。

はうだい-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二） 大イナルコトナシ。タイシタコトナシ。 史記抄（文明）十五[illegible]「小ヌス人ハ、ほふたいモないゾ」

はうたう（名） |放蕩| はうらつ（放埒）ノ條ノ（二）ニ同ジ [illegible] 三國志、[illegible]、[illegible]、任俠放蕩、不[illegible]行業[illegible]」 [illegible]中[illegible]、[illegible]心放蕩、[illegible]已苍[illegible]」

はうたう（名） |[illegible]| 一種ノ食品。はくたく（[illegible]）ノ音便。其條ヲ見ヨ 倭名抄、十六[illegible]「[illegible]、[illegible]、二字、[illegible]方切名也」 [illegible]子（古本）十二、百五十六段「シバシサブラフベキヲ、時ノホドニモナリ侍リヌベケレバト、罷リ申シ[illegible]、シバシ[illegible]はうたうマイラセンナドトドムルヲ、イミジウイソゲバ」

はうだう（名） |[illegible]| [illegible]コト。告ゲ知ラスルコト。報告。報知。 李渉詩「若逢二故邑人相問一報道花時也不レ閑」

はうたく（名） |芳躅| 又、はうちょく。古人ノ事跡ノ敬稱。又、他人ノ行迹、又ハ、遺蹟ノ敬稱 [illegible]

はうたく（名） |寶鐸| はうちゃく（寶鐸）ニ同ジ。 [illegible]

はうだて（名） |方立| 〔古言〕根ノ音便〕 （一）門柱ノ兩旁ノ木。扉ヲ着クル所ノ稱 [illegible]院ノ門ノ方立ニ、箟中[illegible]メテゾ立チタリケル」 （二）牛車ノ袖格子ノ内ノ左右ノ柱 [illegible]記[illegible] （三）[illegible]ノ端ニ突キ出デテ、反リタル木。 盛長記、十六[illegible]「[illegible]」（四）[illegible]ノ下方ノ箱[illegible]部分 [illegible]七[illegible]方立ヨリ、小[illegible]取出シ」

はうたふ（名） |報答| （一）コタヘ。返事。 [illegible]（二）[illegible]へシ 返報 [illegible]「必ズ[illegible]、急ギ入道ノ許ヘ参ジ、申サレケルハ、御報答ノ仰セ、努努有ルマジキ事ニ候」

はうタフ（名） |砲塔| 軍艦、要塞ナドニテ、鋼鐵ノ環壁ヲ設ケ、一二門ノ巨砲ヲ備ヘ置ク小高キ所

はうたん（名） |放[illegible]| 思ノ[illegible]事ヲ行フ

コト。思[illegible]。 [illegible]記放膽[illegible]下[illegible]」「放膽文」

はうたん（名） |[illegible]| [illegible]油ノ端仲間、守[illegible]出シタルモノ。專ラ、氣附ノ藥トス。

はうだん（名） |砲彈| 大砲ノ彈丸。砲丸。

ばうたん（名） |妄誕| 又、まうたん。詞ノ[illegible]ナルコト。イツハリ。ウソ。ソラゴト。 [illegible]

はうたんぶん（名） |放膽文| [illegible]對ス」漢文體ノ一種。字句、修辭ナドニ甚ダシク拘泥セズ、心ノ思フ[illegible]、大膽ニ書キタル文章。 文章軌範、小序、放膽文[illegible]

ばうだら（名） （一）ぼうだら（棒鱈）ニ同ジ [illegible] （二）[illegible]

はうち（名） |[illegible]| ソノママ、[illegible]テオクコト。カマハズニ、ハフリオクコト。

はうち（名） |報知| 告ゲ知ラスルコト。[illegible]

はうぢ（名） |保持| 又、[illegible]ツコト。モチツヅクルコト。維持 [illegible]

はうちう（名） |[illegible]| [illegible]「[illegible]此、[illegible]保持[illegible]」

はうちく（名） |[illegible]| [illegible]

[illegible]ヒハラフコト。オヒウツコト。 [illegible]

はうちゃく（名） |[illegible]| [illegible]

はうちは [illegible] |[illegible]| 鳥ノ羽ニテ作レル[illegible]

はうちゃう（名） |[illegible]| [illegible]

はうちゃう（名） |庖丁| [illegible]「庖丁[illegible]」[illegible]ノ故事ヨリ名トス」 （二）[illegible]料理[illegible]正月十七日、料理ノ官人高橋[illegible]理ス」つるのはうちゃう[illegible]庖丁[illegible]ツ併セ見ヨ [illegible]庖丁ノ[illegible]、菜切庖丁、刺身庖丁ナドアリ [illegible]

精ナル庖刀取リ出ダシテ、打鎺ギテ」　狂言記、鱸庖丁「鱸ヲマンマト洗ヒスマイテ、切目尋常ナル俎ニ、備前庖丁、青木ノ箸、紙一重オッ取リ添ヘ」

はうぢやう（名）【方丈】〔縱橫共ニ一丈ナル意。釋氏要覽、上「唐、王玄策、往ニ西域ニ、云云、維摩居士宅、云云、躬以ニ手板ニ縱橫量レ之、得ニ十笏ニ、故號ニ方丈ニ」（笏、尺也）〕（一）一丈四方ナルコト。孟子、盡心、下篇「食前方丈、侍妾數百人」　方丈記「其家ノ有樣、世ノ常ニモ似ズ、廣サハ僅ニ方丈、高サハ七尺ガ内ナリ」（二）轉ジテ、寺ノ長老ノ居ル所ノ稱、寺院ノ正寢。　傳燈錄、禪門規式「長老既爲ニ化主ニ、即處ニ于方丈ニ、同ニ淨名之室ニ、非ニ私寢之室ニ也」　謠曲、東北「アノ方丈ハ和泉式部ノ御休所ニテ候フカ」　好色五人女（貞享、西鶴）四「方丈ニ行キテ見レドモ、彼ノ兒人ノ寢姿見エネバ」（三）又、轉ジテ、其所ニ住ム人ノ稱。住持。住職。　白居易詩「方丈若能來問レ疾」

ばうちやう（名）【傍聽】　演說、討論、又ハ公判ナドヲ、其席ノ傍ニテ聽クコト。

ばうちやう（名）【膨脹・肪脹】　脹レ廣ガルコト。增大。　九相詩「朝見ニ肪脹爛壞貌ニ」　謠曲、安達原「膿血忽チ融條シ、臭穢ハ滿チテ肪脹シ、膚膩悉ク爛壞セリ」

ばうちやう（名）【暴漲】　水、俄ニミナギルコト。　唐書、李建傳「時久雨、洛暴漲」　宋史、陳堯佐傳「會汾水暴漲、州民驚擾」

ばうちやう（名）【坊長】　町ノ一坊ノヲサ。（坊ノ條ヲ見ヨ）町長

はうちやうがたな（名）【庖丁刀】　はうちやう（庖丁）ノ條ノ（二）ニ同ジ。　四條流庖丁書「庖丁刀ノ事」　宇治拾遺、十、第六條「大ナルマナ板ニ、長ヤカナルはうちやうがたなヲ具シテ置キタリ」　大草家料理書「包丁刀ノ寸分、長自ニ目拔穴ニ上九寸、ナカゴノ分ハ四寸、鍬、朴木ナリ」

〔**はうちやく**〕（名）【寶鐸】　又、はうたく。ほうちやく。風鈴ニ似テ、甚ダ大ナルモノ。堂塔ノ簷ノ四隅ナドニ懸ケテ飾トス。　倭名抄、十三ニ佛塔具「寶鐸　鐸、大鈴也、西山塔銘云、寶鐸交ニ音、梵響凝ニ韻ニ」　下學集、下、器財門「寶鐸、ハウチヤク、塔婆具也」　洛陽伽藍記（後魏、楊衒之）「永寧寺繡柱金鋪、駭ニ人心目ニ、高風永夜、寶鐸和鳴、鏗鏘之音、聞及ニ十餘里ニ」　元亨釋書、廿一、資治表「天智皇帝、七年正月、云云、帝創ニ神福寺于志賀郡ニ、當ニ平ニ基趾ニ、得ニ寶鐸ニ、長五尺五寸」　三世相（貞享、近松作）五「四方ニ四句ノ大幡、紫磨黃金ノマキ柱、華鬘、寶鐸、瓔珞ハ、西吹ク風ニレイレイト、イトド殊勝サ限リナシ」

はうちゆう（名）【庖廚】〔周禮、内饔、注「庖、宰殺之所、廚、烹飪之所」〕　又、はうちう。ダイドコロ。クリヤ。　禮記、玉藻篇「君無ニ故不レ殺ニ犬豕ニ、君子遠ニ庖廚ニ、凡有ニ血氣ニ之類、弗ニ身踐ニ也」　孟子、梁惠王、上篇「君子之於ニ禽獸ニ也、見ニ其生ニ、不レ忍レ見ニ其死ニ、聞ニ其聲ニ、不レ忍レ食ニ其肉ニ、是以君子遠ニ庖廚ニ也」

はうちよく（名）【芳躅】　はうたく（芳躅）ニ同ジ。

はう・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）【羽擊・翸羽】　鳥、兩翼ヲ打ツ。ハバタキス。ハタタキス。鼓翼。

はうづ（名）【方圖・方度・方頭】　サダメ。カギリ。際限。（下ニ反語ヲ用ヰル）制限　輟耕錄（明、陶宗儀）十七、方頭「俗謂ニ不レ通ニ時宜ニ者ニ爲ニ方頭ニ」　博多小女郎波枕（享保、近松作）中「我等モ七十八マデ商ヒデ食ベタモノ、駒返シノ利ナレバトテ、儲ケルニハ方圖ガアル」　同、長者經「其ノ外ハ愛嬌ヅキアヒ、始末、貯蓄、讀書、算盤、秤目ノ上ヲ見レバ、方圖カナイ、我ヨリ下ヲ手本トシテ」

はうづな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）【無方圖】　限リナシ。ハテシナシ。際限ナシ。（前條ヲ見ヨ）　一茶句集、夏「下目テモ、方圖ガないゾ、涼ミ舟」

ばうて（名）　其場ノ現狀ニ被眠ルコト。　聖德太子繪傳記（享保、近松作）三「手ヲ通サネバ便リナキ、袖ノウツセノウチカケ姿、鎧武者ノ並ミ居ル中、オメズばうてズ、怯ヂ氣ナキ」

はうてう（名）【放鳥】　捕ヘ置ケル鳥ヲ放ツコト。ハナチドリ。　續後紀、廿、嘉祥三年二月「庚戌朔、聖躬不豫、甲寅、御病殊劇、云云、放ニ諸鷹犬及籠鳥ニ、唯留ニ鵜鵰ニ」

はうでう（名）【報條】　ヒキフダ。チラシ。　狂言綺語「江戸前大蒲燒報條」

はうてき（名）【放擲・拋擲】　ナゲウツコト。打捨テ置クコト。放棄。　白居易詩「洛下田園久拋擲」　同「拋ニ擲功名ニ還ニ史冊ニ」

ばうてん（名）【暴殄】　アラシ、タヤスコト。　書經、武成篇「暴ニ殄天物ニ、害ニ虐烝民ニ」　韓愈、再思詩「暴殄由來是片時、無レ人向レ此略遲疑ニ」　陸游、戒殺詩「既無ニ鷄肉羶ニ、復利魚鱉賤、暴殄非レ所レ安、擊レ鮮況親見」

はうど（名）【邦土】　一國ノ領土。クニ。國土。　書經、周官篇「司空掌ニ邦土ニ、居ニ四民ニ、時ニ地利ニ」

はうど（名）【匏土】〔風俗通「土曰レ塤、匏曰レ笙」〕　シャウノフエト、土ニテ作リタル樂器ト。　韓愈、送ニ孟東野ニ序「金石絲竹匏土革木、八者、物之善鳴者也」

ばうと（名）【暴徒】　暴擧ヲナスモノドモ。徒黨ヲ組ミテ亂暴ヲナスモノドモ。

ばうど（名）【暴怒】　ハゲシクイカルコト。　司馬相如、上林賦「沸乎暴怒、洶涌彭湃」

はうとう（名）【方等】〔梵語、Vaipulya.（毘佛略）ノ譯語〕　佛教ノ語。方ハ方正、等ハ平等、即チ、中道ノ理ノ方正ニシテ普遍平等ナルコト。　元照彌陀經疏「一切大乘、皆以ニ方等ニ爲レ體、方謂ニ方廣ニ、等即平等、實相妙理、橫徧ニ諸法ニ、故名ニ方廣ニ、堅該ニ凡聖ニ、故言ニ平等ニ」

ばうとう（名）【冒頭】　文章ノ起首、發端ノコトバ。マヘオキ。

ばうどう（名）【暴動】　亂暴ナル振舞。又、多人數ヲ糾合シテ、騷亂ヲ起シ、社會ノ安寧ヲ害スルコト。

ばうどう（名）【妄動】　妄ニ動クコト。又、無法ナル動作。　杜甫詩「志士惜ニ妄動ニ」

ばうとく（名）【冒瀆・冒讀】　ヲカシケガスコト。アナドリ、ハヅカシムルコト。無禮ス。「尊嚴ヲ冒瀆ス」　又、副詞ニ用ヰラル。オソレナガラ、リョグヮイナガラ。

はうない（名）【方内】　或ル地方ノ内。領國ノ内。域内。　史記、封禪書「方內艾安、民人樂レ狹」　漢書、谷永傳「方內之治亂、在ニ陛下所レ執」　王勃詩「僕本江上客、跡迹在ニ方内ニ」

はうにん（名）【放任】　打任セテ、係ハラヌコト。放置シテ、干涉セヌコト。

ばうにん（名）【坊人】　昔、山城國ノ鞍馬山、愛宕山ナドヨリ出デテ、諸國ヲ徘徊シ、加持祈禱ヲナシ、札守、祕符ナドヲ勸ムル俗法師。

はうねう（名）【放尿・放溺】　小便ヲスルコト。尿ヲ排泄スルコト。

はうねん（名）【放念】　心遣ヒヲヤムルコト。心配セヌコト。安心。放心

ばうねん（名）【忘年】　（一）年ノ老イタル

ヲ忘ルル程、面白ク思フコト。元結詩「西[illegible]」(二)年ノ長幼ヲ忘ルルコト。漢書、禰衡傳「禰衡有逸才、少與孔融交、時衡未滿二十、而融已五十、爲忘年交」(三)忘年ノ當字ヲ音讀シタル語。年中ノ苦ヲ忘ルルコト。「忘年會」

はうばい（名）〔傍輩〕(一)同ジ君ニ仕フル者ノ、互ニ相稱スル語。トモ。ナカマ。同役。同僚。[illegible]記、十四、「三位入道、寺ヲ發ニ告ゲ知ラセントス」(二)同ジ師ニ事フル者ノ、相稱スル語。同窓。同門。(三)俗ニ、ナカマ。トモダチ。

はうはいと（副）〔澎湃〕〔彭湃〕〔滂湃〕水ノサカマク勢ノ強キ狀、又、波ノ相撃ツ狀ナドヲ云フ語。宋史、河渠志「[illegible]」[illegible]

はうばう（名）〔方方〕カタガタ。アチラコチラ。諸方。諸處。[illegible]事「サテモ兩三ガ國ノ人人ハ、オノオノ與野ニ入リ、方方ヨリ勢子ヲ入レテ、野干ヲ狩リケルニ」[illegible]心中（元祿、近松作）上「[illegible]二失フタ、方方ニ張紙シテ尋ヌレドモ知レヌ」

ばうばうと（副）〔茫茫〕〔芒芒〕(一)廣クシテ、見極メナキ狀ニ云フ語。茫洋。[illegible]「茫茫」[illegible]大海原ヲ茫茫とシテ」(二)遠人[illegible]語。[illegible](三)草、髮ナドノ亂レ生ヒタル狀ニ云フ語。蓬蓬。[illegible]隅田川「我ガ子ト見エシハ塚ノ上ノ、草茫茫とシテ、[illegible]」

はうはく（名）〔旁魄〕ムラガルコト。字類抄「旁魄、ムラガル」漢書、司馬相如傳、下「大漢之[illegible]」

ばうはくと（副）〔磅礴〕〔旁礴〕(一)渾沌タルモノガ、混ジテ一ツニナル狀ニ云フ語。[illegible](二)轉ジテ、廣ク滿チフサガル狀ニ云フ語。[illegible]詩「磅礴立二四極一[illegible]」

ばうばくと（副）〔茫漠〕廣クシテ、取リトメナキ狀ニ云フ語。バットシテ、ハッキリセヌヲ云フ。

ばうはち（名）〔亡八〕〔忘八〕（[illegible]）(一)クツワ。イロザト。花街。遊女町。又、遊女屋ノ異稱。（長崎ニテ、亡八ノ支那音ヲわんぱニテ傳ヘ、ばうはちトヨムトゾ）(二)花柳界ニ遊ブ者ヲ指ス語。(三)支那ニテ、龜ノ異名。

はうはつ（名）〔砲發〕大砲ヲ打チ[illegible]コト。火砲ヲ發射スルコト。發砲。

ばうはつ（名）〔暴發〕(一)暴ニオコリタツコト。急ニ發スルコト。(二)ニハカブゲンニナルコト。暴富。[illegible](三)亂暴ニ起ルコト。[illegible]

はうはふ（名）〔方法〕[illegible]手段。方便。[illegible]

[illegible]

はうひ（名）〔放屁〕[illegible]

はうひ（名）〔芳[illegible]〕[illegible]キコト。又、芳草。[illegible]

はうび（名）〔褒美〕(一)褒ムルコト。褒賞。[illegible]八褒美ノ詞ニテ、妙ナル法ト說カレタリ」(二)褒メテ物ヲ與フルコト。又、ソノ物。褒賞。[illegible]ノ折カラ、云云、頭小將ニはうびコソハ出ダサントアレバ」[illegible]

ばうび（名）〔防備〕防禦ノ設備。[illegible]

はうびき（名）〔寶引〕又、ほうびき。(一)[illegible](二)[illegible]物ヲツケ、其ヲ各人ニ一本ヅツ引カシメテ、當リタルモノニ賞品ナドヲ與フルコト。[illegible]

はうひやう（名）〔[illegible]〕(一)[illegible]批評。(二)自己ノ批評ノ[illegible]

はうふ（名）〔抱負〕(一)[illegible](二)[illegible]

はうふ（名）〔豆[illegible]〕[illegible]

はうふ（名）〔[illegible]〕[illegible]

はうふ（名）〔[illegible]〕[illegible]

ばうふう（名）〔防風〕(一)風ヲ防グコト。[illegible](二)[illegible]其功、療風最要、故名」又、頭風ヲ療スル故ノ名ト」古名、ハマスガナ。[illegible]草ノ名。一根一叢生ス。葉ハ、[illegible]高サ三尺許リ、繁ク枝又ヲ分チ、夏秋ノ交ニ、繖ヲ為シテ小白花ヲ開ク。[illegible]伊勢防風ナドハ、[illegible]

備急、七、草本「防風、バウフ、同草、同芸、銅芸、其苗曰珊瑚菜」

ばうふう（名）［暴風］（一）吹キ荒ルル風。ハヤテ。又、アラシ。禮記、月令篇「孟冬之月、云云、行夏令則國多暴風」（二）氣象學上ニテハ、一時間ニ、七十五哩以上ノ速力ヲ有スル風

ばうふうう（名）［暴風雨］烈シキ風雨。

ばうふうりん（名）［防風林］海邊ニ植樹セル黑松ナドノ林。暴風、飛沙ナドヲ防ギ、又、海嘯ナドノ襲ヒ來レル時、樹林ハヤハラカクソレニ當リテ、其猛威ヲ殺ギ、押寄セタル海水ハ、徐徐ニ林隙ヲ潜リテ進ムニ因リテ、內方ノ被害少シ。又、風害ヲ防グタメニ、田圃、及、家屋ノ近傍ナドニ仕立ツル林

はうふく（名）［抱腹］捧腹ノ誤

はうふく（名）［報復］（一）シカヘシスルコト。ハクユルコト。返報。漢書、朱買臣傳「諸嘗有恩者、皆報復焉」蘇軾詩「先備防報復、軍師忌誇驕」劉基、詠史詩「晶昭志報復、金璧求後賢」（二）返答。返事。

ばうふざい（名）［防腐劑］物ノ腐敗ヲ防グニ用ヰル藥劑。

はうふつ（副）［髣髴・彷彿・仿佛］（一）サモ似タル狀ニ云フ語。諸葛亮、後出師表「曹操智計、殊絶於人、其用兵也、髣髴孫呉」後漢書、蔡邕傳「以至人之等、汗書髣髴似之」一切經音義、二二「髣髴、相似、見不諦也」（二）又、ソレカアラヌカト、見テ分明ナラヌ狀ニ云フ語。カスカニ見ユ。ホノカニアラハル。ボンヤリ。依稀。揚雄、甘泉賦「雖方征僑與偓佺兮、彷彿其若夢」

はうぶつ（名）［方物］（一）〔書經、旅獒篇、注「方物、方土所生之物」〕其地方ノ產物。クニツモノ。書經、旅獒篇「無有遠邇、畢獻方物」（二）辨別シ難キコト。分明ナラザルコト。國語、楚語「及少皞之衰也、九黎亂德、民神雜揉、不可方物也」

はうぶん（名）［邦文］我ガ邦ノ文字、又ハ文章。國文。和文。「邦文たいぷらいたあ」

はうぶる（動）［葬］はふる（葬）ノ延轉。ハウムル。名義抄「　、ハウブル」葬、ハウブル、カクス」倭訓栞「はうふる、葬ヲ云フ」

はうへい（名）［砲兵］大砲ヲ運用スル兵。（歩兵、騎兵、工兵ナドニ對ス）

はうへきじゃし（句）［放辟邪侈］ホシイママニシテ、心ネヂクルコト。孟子、梁惠王、上篇「苟無恆心、放辟邪侈、無不爲已」

はうへん（名）［褒貶］褒ムルト、貶スト。アゲオロシ。漢書、藝文志「書有褒貶」杜預、春秋左氏傳序「皆據舊例而發義、指行事以正褒貶」梁昭明太子、文選序「至於記事之史、繫年之書、所以褒貶是非、紀別異同」

はうべん（名）［放免］はうめん（放免）ノ條ノ（二）ニ同ジ。字類抄「放免、ハウベン、在使廳下部」

はうべん（名）［方便］〔梵語、Upāya.（傴和）ノ譯語、方法便用ノ略。四教儀集注「方、法也、便、用也」諸聲品字箋（清、虞德外）「釋氏有方便法門者、隨方便入之傍門也、正法之門莊嚴高廣、行不易到、如一大城之四門焉、特於四角旁方、隨便開門、就近而入、故曰方便」〕（一）佛經ノ語。權ニ言ヲ設ケ、手段トシテ、其道ニ導ク用トスルコト。又、佛、善智ヲ以テ、種種、巧ニ工夫シテ、下根ノ衆生ヲ化益シ、其惑ヲ斷ジ、竟ニ妙理ニ歸セシムルコト。往生論、下「方便者、通權之智稱」法華文句、三「方者法也、便者用也、法有方圓、用有差會」華嚴五教章、上「同教法隨機利物、故云方便」淨名經疏「用諸善於內有、二、初分善乘云云、約攝方便謂彼三乘等法、總爲一乘方便故、皆名一乘」著聞集、十二、博奕「コレモ阿彌陀如來ノ御方便ニヤ」謠曲、養老「神ト云ヒ佛ト云ヒ、唯コレ水波ノ隔テニテ、衆生濟度ノ方便ノ聲」（二）轉ジテ、方法。手段。又、タバカリ。（策略。）謠曲、一角仙人「帝、コノ事ヲ歎キ給ヒ、色色ノ御方便ヲ廻ラシ給ヒ候」皇極紀、四年六月「蘇我入鹿、將爲人多疑、晝夜持劍、而教俳優、方便令解」

ばうへん（名）［茅變］窯業ノ語。えうへん（窯變）ノ條ヲ見ヨ。

はうへんのうたあはせ（名）［褒貶歌合］昔、席上ニテ褒メ、又ハ、貶ス歌合ナルベシ。太平記、三三、爲明詠歌事「二條ノ中將爲明卿ハ歌道ノ達者ニテ、云云、褒貶の歌合ノ御會ニ召サレテ宴ニ侍ル」同、七、千劍破事「或ハ百服茶、ほうへんの歌合ナンドヲ翫デ夜ヲアカス」

はうぼ（名）［保姆・保母］（一）小兒ヲ守リ育ツル女子。禮記、內則篇「其次爲保母、皆居子室」穀梁、七、注「內有保母、外有傅父」（二）幼稚園ノ女教師。又、ほぼ。

ばうぼ（名）［亡母］他ニ對シテ、亡キ母ヲ稱スル語。亡ナリタル母。妣。先妣。

はうぼう（名）［魴鮄］「形、方頭魚ニ髣髴タリ、故ニ字ヲ魴鮄ニ作ルト云フ、イカガ。假名遣、亦詳カナラズ」魚ノ名。形色、氣味、全クかながしらニ似テ長ク、鱗、細カク、淡黑ヲ帶ブ。左右ノ鰭、長大ナレバ、時ニ海上ヲ飛ブ。鰭ノ下ニ、三條ノ刺アリ。吻ニ堅キ鱗アリ。大ナルハ尺餘ニ至リ、肉厚ク白ク、味、甘美ナリ。又、すをり（魴）トモ云フ。竹麥魚。和漢三才圖會、四十九「魴鮄、保字變字、魚狀、色、氣味、共似鮸鮄、而大、其吻有硬鱗、而尾鰭有五彩色、其鱗細、大者尺許、炙食甚甘美」

はうぼく（名）［芳墨］（一）カヲリアルスミ。（二）他人ノ手紙、又、筆蹟ノ敬稱。華墨。運步色葉集「芳墨、ハウボク」

はうぼく（名）［放牧］牛馬ヲ野ニ放チ養ヒオクコト。ハナチガヒ。ハナシガヒ。野飼。後漢書、光武紀「牛馬放牧、邑門不閉」方夔詩「罷耕亟放牧、吾牛亦饑鳴」

はうほん（名）［邦本］（國ノ本ノ義）人民ノ稱。書經、五子之歌篇「民惟邦本、本固邦寧」杜甫詩「凋瘵惜邦本、哀矜存事常」

はうほんはんし（句）［報本反始］本ニ報イ、始ニカヘル意。物ノ由リテ來レル根本ニ、反リ報ユル意。禮記、郊特牲篇「社丘乘共粢盛、所以報本反始也」

はうまつ（名）［泡沫］アワ。ウタカタ。ミナワ。又、泡ハ消エ易キモノ故、存在ノハカナキモノニ、譬ヘテ云フ語。徐陵、徐則法師碑「譬夜風燈、同諸泡沫」葛長庚詞「嘆人間事、泡沫風燈阿、誰肯做飛仙」

はうまん（名）［放漫］ホシイママナルコト。キママナルコト。

ばうまん（名）［飽滿］飽クマデ食ヒテ、腹ニ滿ツルコト。腹一杯ニ食フコト。飽

食、[illegible]上、[illegible]、バウマン」庭訓往來、十一月、食物[illegible]
書言字考節用集、六、服食門「飽滿、バウマン」

パウンド（名）〔英語、Pound.〕ぽんどノ條ヲ見ヨ。

はうむり（名）【葬】ハウムルコト。葬送。

はうむ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）【葬】〔古言、はふるノ延ナルはうぶるノ轉〕（一）死者ノ屍ヲ送リ出シテ、土中ニ埋メ隱ス。ハウブル。ヲサム。カクス。ハフル。運歩色葉集「葬、ハウムル」（二）俗ニ、世間ニ出ラレザルヤウニナス。葬ッテシマフ。擯斥ス。

はうめい（名）【芳名】（一）カウバシキ名。譽レアル名（二）他ノ姓名ノ敬稱。

ばうめい（名）【亡命】〔漢書、張耳傳、注「命者、名也、凡言亡命、謂下脫二其名籍一而逃亡上」〕名籍ヲ脫シテ、國許ヲ逃ゲウスルコト。チクテン。出奔。カケオチ。史記、張耳傳「張耳嘗亡命[illegible]外黃二」[illegible]「[illegible]亡命二」[illegible]、漢書「[illegible]魏之亡命也、折レ脅拉レ髓、免二於徽索一」「亡命ノ客」

はうめい・しゅ（名）【保命酒】備後國ノ鞆町ニテ製出スル一種ノ銘酒ノ名。味、[illegible]ニ似テ、芳烈ナリ。[illegible]備[illegible]名本草、十二、造[illegible]酒、近年、又人[illegible]ンデ[illegible]酒ヲツクル、[illegible]酒、云云、保命酒、長命酒」

はうめん（名）【放免】（一）罪アル者ヲ放チ免サルルコト。宋史、太祖紀「詔廣南有下買二[illegible]女一[illegible]婢[illegible]、[illegible]利[illegible]者上、[illegible]」（二）古へ、[illegible]使ノ[illegible]ニ使ハルル下部ノ稱。輕罪ノ者ニテ、徒流セラルベキヲ免シテ、[illegible]使フモノ[illegible]ヲ知リテ、追捕ニ便ナレバナリ、此放免、賀茂ノ祭ニ從フ時、身ニ綾羅、錦繡ヲ着、上ニ花ナド、種種ノ節物ヲ着ル習ヒアリ、コレヲ風流ト云フ、後ノ[illegible]物ノ如シ、コレヲ放免ノつけ物ナド云フ。又、はうべんハ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ヘ將テ罷ルニ、放免兩三人ヲゾ附ケラレタル」四季物語、四月「放免ノ下人ノ袖袂ニツケタル、マリツクシ、秋ノ花、カキ、百生（モモナリ）瓢（ヘウタ）ノ藪（スキス）ニナリタル」盛衰記、十二、[illegible]云フ放免アリ、究竟ノ大力、大腹卷ニ左右ノ小手指、打刀ヲ拔イテ向ヒ會ヒケリ」徒然草、二百廿一段「建治弘安ノ頃ハ、祭（賀茂）ノ日ノ放免ノつけ物ニ、コト樣ナル紺ノ布四五端ニテ、馬ヲツクリテ」

はうめん（名）【方面】其方ニ當リタルムキ。カハ。又、方角。後漢書、[illegible]傳「[illegible]任[illegible]面以立[illegible]功二[illegible]」[illegible]

はうもち（名）【寳物】次條ノ語ニ同ジ。

はうもつ（名）【寳物】寶トスル種種ノモノ。タカラモノ。タカラ。ハウモチ。[illegible]漢書、[illegible]人[illegible]寳物[illegible]、[illegible]人見、之曰、此寳物也[illegible]、[illegible]集、十一、[illegible]ノ御相傳ノ屛風ドモハ、皆寶物ニテ侍ル」

はうもん（名）【砲門】（一）火砲ノ彈丸ヲ發射スル筒口。大砲ノ巢口。（二）軍艦ニテ、砲ヲ照準、發射スルタメ、舷側ニ備ヘタル方孔。

はうもん（名）【訪問】人ノ方ヘアラアコトノルコト。オトナヒ。[illegible]

ばうもん（名）【坊門】[illegible]門[illegible]門[illegible]坊[illegible]坊[illegible]

ばうもり（名）【坊守】（一）坊ヲ守ルコト。又、其人。防ノ番人。（二）寺ノ番人。（三）一向宗ノ僧侶ノ妻[illegible]寺ノ室人ヲ坊守ト稱スルコトハ、[illegible]法然上人、玉日御方ヲ御室ジテ、子細ナキ坊守ナリト仰セソメシヨリ以來、一向眞宗ノ一道場ノ家主ヲバ、坊守ト申シ[illegible]ヘタリ」

はうやう（名）【保養】ほやう（保養）ニ同ジ。[illegible]ノ[illegible]二（一本、保作[illegible]）

ばうやう（[illegible]）【[illegible]】[illegible]又、ヒロビロトシテ、目アテノツカザル状ニ云フ語。[illegible]

ばうやう（[illegible]）【[illegible]】[illegible]

ばうやうのたん（[illegible]）[illegible]說符篇「楊子之鄰人亡レ羊、既率二其黨一[illegible]」[illegible]

レ之、曰、岐路之中、又有レ岐焉、吾不レ知レ所レ之、所以反也、[illegible]心都子曰、大道以[illegible]亡レ羊、學者以[illegible]亡レ生、[illegible]アルヨリ出デタル語」學問ノ道、多岐ニシテ、一モ得ル所ナキヲ歎ズル意。又、方法ニ迷ヒ、思案ニ餘ル譬。

はうやく（名）【方藥】（一）藥劑ヲ調合スルコト。[illegible]（二）處方ニヨリテ調合セル藥。[illegible]劑ジテ、間ニ合ハセノ質ヘニ云フ語。[illegible]記、下「ソコハ[illegible]カト思ヘバ方藥ナリ」

はうよう（名）【包容】包ミイルルコト。度量ノ寬大ニシテ、人ノ說ナドヲ容ルルコト。[illegible]

はうよう（名）【放鷹】鷹ヲツカフコト。鷹狩。鷹野。[illegible]

はうらう（名）【放浪】サマヨフコト。サスラフコト。[illegible]ト。又、ヤドナシ。[illegible]

ばうのう（名）【[illegible]】[illegible]

ばうのう（名）【[illegible]】ほふらく法樂ノ[illegible]

ばうらう（名）【[illegible]】[illegible]

事トシ、仁義ノ亂リ、屈辱ヲ先トス、他ノ厭ヒ、我ヲ貴ブ思ヒモタズ、放埒ナル(享保、近松作)ニ「ツイヂヲ越ヘ垣ヲ越ヘ放埒ノ仕方、剰ホテッ腹ハ堅ニ菜蔬トヤラ」(二)行ヲ修メズシテ、恣ニ遊樂ニ耽ルコト。ハウラチ　放蕩　遊蕩　徒然草、百五十段「サレドモ、ソノ人、道ノ掟タダシク、コレヲ重クシテ放埒セザレバ、世ノ博士ニテ、萬人ノ師トナル事、諸道カハルベカラズ」

はうり ホウリ (名) 方里　竪横一里ノ面積。一里四方　一平方里

ばうり ボウリ (名) 暴利　不當ナル利益。方外ノ利潤　又、不正ナル手段ニテ得タル利益。「暴利ヲ貪ル」暴利取締令」

はうりう ホウリユウ (名) 保留　ほりう(保留)ニ同ジ。

はうりせき ホウリセキ (名) 方里積　地面ノ廣狹ヲ、一里四方ノモノ幾箇カニ積リテ測ル稱。一里坪(イチリツボ)。一平方里ノ面積。

はうりやう ホウリヤウ (名) 方領　(一)ばんりやう(盤領)ノ條ヲ見ヨ。(二)堂上家ニ、局(ツボネ)住ノ中ニ勤仕スル時、家領ノ外ニ宛行ハルル知行ヲ云フトゾ。(御方ノ領ト云フヲ以テ云フト)

ばうりやう ボウリヨウ (名) 坊領　僧ノ領地、坊主ノ所有地。盛衰記、十、頼豪祈ニ出皇子ニ事「唯一心ニ僧都、僧正ニモ成リ、寺領、坊領ヲモ申サンズルニヤトコソ思シ召サレツレ」

はうりやく ホウリヤク (名) 方略　(一)ハカリゴト。テダテ。史記、廿?、酈生傳「人長夫、言多ニ方略ニ」孔穎、謝下賜ニ手詔ニ狀「元ニ禦侮之籌謀ハ、罕ニ濟時之方略ニ」王禹偁、謝ニ神放ニ詩「況莖山野性、謬叢昧ニ方略ニ」(二)王朝時代、文章得業生ノ、宣旨ヲ蒙リテ、對策スルコト。又、其對策。除目抄、諸道課試及第勘文「方略者、注、文章生之中、殊絶之者、不ニ給料秀才ニ、以ニ直?之人、令ニ策試、廿二、芳?秀才、謂ニ文章生ハ方略講ニ?大事ニ也」

はうりよ ホウリヨ (名) 芳慮　他人ノ念慮ニ對スル敬稱　オココロザシ　芳志　書言字考節用集、八、言辭門「芳慮、ハウリヨ」

はうるゐ ホウルイ (名) 堡壘　敵ヲ防禦シ、又ハ、攻擊スルタメニ設ケタル堅固ナルトリデ。デジロ。今ハ西洋ノ築城法ヲ以テ、永久ヲ持スルヤウ堅固ニ築ク。

ばうれい ボウレイ (名) 亡靈　亡キ人ノ魂、亡魂、亡心。太平記、廿三、大森彥七事「敵軍ニ威ヲ添ヘントセシ楠正成カ亡靈、靜マリニケレバ」

ばうれい ボウレイ (名) 暴戾　殘酷ニシテ、道理ニソムキモトル行ヒヲナスコト。詩經、小雅、何人斯篇、小序「暴公刺ニ幽王ニ也、暴戾無親、不能宴樂同姓、親暱九族、孤危將亡、故作是詩也」史記、伯夷傳「盜跖日殺ニ不辜ニ、肝ニ人之肉ニ、暴戾恣睢、聚ニ黨數千人ニ、橫ニ行天下ニ」

ばうれい ボウレイ (名) 傍例　定法以外ノ例、運歩色葉集「傍例、バウレイ」庭訓往來、七月「雜務之流例、下知、成敗、傍例、納法、律令」

はうれいわた ホウレイワタ (名) 芳禮綿　はふれいわた(法令綿)ノ條ヲ見ヨ。

ハウレンさう ホウレンソウ (名) 菠薐草　〔字ノ唐音。〕北印度ニテ Palak. 唐太宗ノ時、西域、頗陵國ヨリ支那ニ入リ、初ハ波稜ニ作リ、後、菠薐(パラング)ト稱シタリ。原產ハ波斯國ナリトゾ」草ノ名。一根ニ叢生ス。莖ノ高サ一二尺、葉、互生シ、三稜(カド)ナルコト鏃(ヤジリ)ノ如シ。夏ノ初、穗ヲナシテ花ヲ開ク、綠色白邊ニシテ、大キサ一分許リ、莖、根、色赤シ、食ヒテ美ナリ。蔬菜

トシテ園圃ニ栽培ス。嘉話錄(唐、劉餗撰)「波稜種出ニ自西國ニ、有ニ僧將ニ其子ニ來、云、本是頗陵國之種、語訛爲ニ波稜ニ耳」唐會要、宋、王溥「太宗時、尼波羅國獻ニ波稜菜ニ、類ニ紅藍ニ、實如ニ蒺藜ニ、火熟之、能益ニ食味ニ」漢事始「唐會要云、尼婆羅國ヨリ波稜ヲ獻ル」

ばうろう ボウロウ (名) 望樓　モノミノ樓(タカドノ)。邵謁詩「唯有ニ望樓對ニ明月ニ」三才圖會(明、王圻)「望樓高八丈、以ニ堅木ニ爲ニ竿、上施ニ版屋ニ」

はうろく ホウロク (名) 焙烙 炮碌 焙爐具　素燒ノ平タキ土鍋(ドナベ)ノ名。多ク、米、豆、鹽ナド炒ルニ用キル。イリナベ。東國ニ、イリガラ。京ニ、イリゴラ。炒鍋　土鍋　書言字考節用集、七、器財門「土鍋、炮碌、ハウロク」和漢三才圖會、三十一、庖廚具「砂鍋、俗呼ニ砂鍋ハ名ニ法樂ニ者、彷可ニ舞之謎語乎」

はうろくづきん ホウロクズキン (名) 焙烙頭巾　焙烙ノ形シタル頭巾。專ラ僧侶ノ間ニ行ハル。大黑頭巾。心中天網島(享保、近松作)上「アレアレココヘト、云フ間程ナク、炮碌頭巾ノ靑道心」

はうろくてうれん ホウロクチヨウレン (名) 焙烙調練　江戶時代ニ、紅白ノモノ東西ニ分レテ、調練スルコト。焙烙ヲ頭ニ載セ、竹刀ニテ打チ合ヒ、割ラレタルモノノ數多キ方ヲ負トス　嘉永明治年間錄、五「江戶麴町原ニ於テ、焙烙調練流行ス」

はうろくびや ホウロクビヤ (名) 焙烙火矢　銅製ノ空丸ノ、徑三四寸ナルヲ割リ、中ニ火藥ヲ籠メ、道火(ミチビ)ヲ差シ合ハセテ、布ニテ包ミ、漆ニテ塗レルモノ。昔、火ヲ點ジテ、敵中ニ投ゼリ。團煩　信長記、十一、九鬼右馬允大坂表大船推廻事「近ク寄テ弓、鐵砲ヲ射カケ、船ノ樓ヨリ、ほうろく火矢ヲ投入、攻捕ト云ケレバ」

はうろくむし ホウロクムシ (名) 焙烙蒸　料理法ノ名。多クハ松茸ニ云フ。松茸ナルハ、該品ヲ鹽水ニテ洗ヒ、程ヨク切リテ、焙烙ニ鹽ヲ振リ、洗ヒタル松葉ヲ敷キ、上ニ松茸ヲ並ベ、又、鹽ヲ振リカケ、他ノ焙烙ヲカブセ、上下ヨリ火ニテ蒸燒ニシテ成ル。或ハ鰈デタル銀杏(イチヤウ)、及、鹽茹(シホユデ)ノ海老ノ肉ヲ加フ。

はうわ ホウワ (名) 飽和　(一)或ル一定ノ限度ノ極ニ達シタルコト。(二)物理學ニテハ、或ル溫度ニ於テ、蒸氣ノ壓力ガ、最大限度ニ達シタル時ニ於ケル其蒸氣ノ狀態。化學ニテハ、或ル溫度ニ於テ、溶質ヲ最大限度マデ溶カセル液ノ狀態。

はうゐ ホウイ (名) 方位　東西南北ノムキ。普通、方位ヲ定ムルニハ、北極星ノ位置ヲ北トシ、其反對ノ方向ヲ南トス。又、磁石ノ針ノ方向ニヨリテ、東、西、南、北ナドヲ知ルヲ得。方角。晉書、歷志「從ニ其方位ニ加ニ律ニ」陳暘、中星考「今術家、欲ニ辨ニ方位ニ必先定ニ子午針ニ以爲ニ準ニ」

はうゐ ホウイ (名) 包圍　四方ヲ取圍ムコト　四圍ヲトリマクコト。「包圍攻擊」

はうゐ ホウイ (名) 寶位　はうそ(寶祚)ニ同ジ。魏書、肅宗紀「朕以ニ沖昧ニ纂ニ承寶位ニ」李程、衆星拱北賦「守ニ寶位ニ而居ニ、衆生ニ在ニ璿璣ニ而齊ニ七政ニ」李白、書懷示息秀才詩「一朝識ニ寶位ニ、御鏡傳ニ無窮ニ」

ばうゐ ボウイ (名) 暴威　アラアラシキ威力。無法ナル威勢。「暴威ヲ振フ」

はうゐき ホウイキ (名) 邦域　クニノサカヒ。國家ノ境界。論語、季氏篇「夫顓臾、昔者先王以爲ニ東蒙主ニ、且在ニ邦域之中ニ矣、是社稷之臣也、何以伐爲」

ばうゑい ボウエイ (名) 防衞　防ギ衞(マモ)ルコト。書

經、孔子之歎[illegible]、[illegible]「思[illegible]以自防[illegible]」 拾遺記(續、下[illegible])「自今以後、亦宜[illegible]防[illegible]」「正[illegible]防[illegible]」

はうゑん(ホウ-エン) (名) 方圓 カクノモノト、マルキモノト。 孟子、離婁、上篇「離婁之明、公輸子之巧、不以規矩、不能成方員」(員ハ、圓ニ同ジ) 水は方圓の器に隨ふトハ、水ハ四角ナル器物ニアレバ、其中ニ注ギタル時ハ四角トナリ、又、圓形ナル器物ニアレバ、圓形トナル意ニテ、人ノ心モ、朋友ニ隨ヒテ、善トモナリ、惡トモナルニ喩ヘテ云フ語。 淮南子、原道訓「夫、[illegible]木之[illegible]接也、不[illegible]智故、而有圓曲直、弗能逃也」

ばうゑんきやう(ボウ-エン-キヨウ) (名) 望遠鏡 遠方ノ物ヲ、近ク明カニ見得ルヤウニシタル器。トホメガネ。 西遊記、[illegible]「[illegible]望遠鏡トテ、日月星辰迄、カノ届ク遠目鏡アリテ、日月ノ眞象ヲ見分カチ、星モ太白星ヲミレバ、月ノ如ク盈缺アリ、木星ヲミレバ、三ツ引ノ紋ノ如ク横ニ帶アリ、土星ヲミレバ、斜ニ輪マトヒテ星ノ形長クミユ」

はえ (名) 南風 「梵語、Vāyu」(淺廣、風、又ハ風神ト譯ス)ニ本ヅクカトモ云フ、牽強ナラム。鹽尻、廿一「熱田ノ浦人、暴風ニシテ雨降ルコトヲはへト云フ」 (一)南ヨリ吹ク風ノ名。ナンプウ。(中國、西國、琉球) 物類稱呼、一、天地「西國ニテモ、南風ヲはへト云」[illegible]、[illegible]はえ、[illegible]南風ヲ云フハ、[illegible]名義集ニ、[illegible]ヘルニ本ケリト云ヘリ、[illegible]、琉球ニモ、はえト云ヘリ」 (二)西南ノ風。([illegible])

はえ (名) 映榮 映ユルコト。ミエノヨキコト。 [illegible]、廿四「はえ、[illegible]ニはえアレ、はえナキト云フ、漢字ノ[illegible]ナリ、花ノなばえ、[illegible]ナキトヨク[illegible]、[illegible]フヨムモ見エタリ、日本[illegible]ノ[illegible]ニ、イササカはえナ、萬葉集ニ、イヤサカはえトヨメリ、[illegible]一[illegible]、十八[illegible]冬ニナレバ、[illegible]モ、其[illegible]モ[illegible]ス、彌榮波延ニ、シカレコソ、神ノ御代ヨリ」 夫木抄、廿七、鱗(鱒ノ誤)ノ歌「冬河ノ、岸ノ下行ク、水ヌルミ、はえアル世ニモ、アヒニケルカナ」

はえ (名) 生 はゆ(生)ノ條ヲ見ヨ。

ばえ (名) 鮠 (速ノ轉ニテ、泳グコト極メテ速ケレバ云フカト云フ」淡水産ノ魚。形、あゆ(鮎)ニ似テ短ク、柳葉ノ如シ。因リテ、やなぎばえナドノ名アリ。鱗、粗ク、色、白シ、背ハ薄黑クシテ青ミアリ。大イナルハ長サ四五寸アリ。京都ニテ、ハイ、東京ニテ、ハヤ、鯈 倭名抄、十九、龍魚類「鮠、波江」 字鏡七十「鮠、波江」 物類稱呼、二、動物「鮠、はゑ、京阪ニテはやト云、はゑハ[illegible]ヲ食フ故ニナヅク、但、關西ニテはへ、關東ニテはいト云フ」 [illegible]集、九、雜、上「フシツクシ、オトロノ下ニ、住はえノ、心ヲサナキ、身ヲイカニセン」 山家集、[illegible]「コはえツドフ、沼ノ入江ノ、モノ下ハ、人ツケスカヌ、フシニゾアリケル」

は-え (動) 蝕 はゆ(蝕)ノ條ヲ見ヨ。

はえぎは(ハエ-ギワ) (名) 生際 額ナドノ、髮ノ生エタル際。髮際 本朝若風俗(貞享、西鶴)七「優付ケノ[illegible]ク、首筋[illegible]、はえ際マデ此ノ美シミ」

はえさがり (名) 生下 頸髮ノ下ルコト。エリアシ。 色道大鏡(延寶)「はえさがりハ[illegible]ヤカニマサルベシ」

はえぬき (名) 生拔 生レ出デタルコト。其地ニ生レテ、其地ニテ育ツコト。江戸ノはえぬきト云ヘバ、生粹ノ江戸[illegible]田舍者ナラズト云フ。[illegible]トテ云フモノヲミル、モトヨリ、我ハ江戸ノはへぬきニシテ、[illegible]タフタフト引キウケタル社心チヨケレ」 百合若大臣野守鏡(寶永、近松作)四「人ニオモテガ合サレフカ、生拔キノ町人ニシテクルルカ、ロオシヤ」

はえばえ・し ・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 映映 甚ダ映エテ見エ、[illegible]「[illegible]」[illegible]シタル折シモ、此御フミトリ入レテ寶ガル」

ば・える (動) 生ゆ、又、映ゆノ[illegible]語。

は-おしろい (名) はらや(水銀粉)ニ同ジ。

は-おと (名) 羽音 鳥ノ、[illegible]音。[illegible] 萬葉集、十[illegible]「[illegible]ミニ、聞キツツモトナ、鳴ヒワタルカモ」 千載集、六、冬「タマグレ、山カタツキテ、タツ鳥ノ、はおとニ鷹ヲ、アハセツルカナ」 玉葉集、六、冬「朝アケノ、[illegible]」

ハオリ (名) 羽織 [illegible] 元來、此語ハ、支那南方ノ語ニ、甲ツかぶ(被)ト云ヒ、上ヨリ覆フノ義、即チかぶるコト。又、[illegible]、かぶハ、被ル義、[illegible]衣服ノ意ナリ。又、[illegible]、物ヲ投ゲカクル意ナリ、其かぶるトはふるトハ、同[illegible]、[illegible]形ニはふりト云ヒ、[illegible]はおりトナリタルナリ」 (一)衣ノ上ニ、更ニ重ネテ着ル[illegible]衣。[illegible]リ、放リカケテ着ルモノ。元ハ[illegible]、[illegible]うちかけ、又、[illegible]トテ、稍、禮服ノ如クナレリ、而シテ、往時ハ、君前ニテハ着用スル能ハザリキ。 武德編年集成、十二、元龜[illegible]年十二月廿二日「山上[illegible]左衞門云云、御感状、及、赤根ノ羽織ノ[illegible]」[illegible]エテ、[illegible]トハ、イハデ知レケル[illegible]ヤ、[illegible]テ、羽織、着々レバ名アリ。[illegible]流行[illegible]ガ、アラレモナイはおり着テ[illegible]モ、折フシ見ユル」[illegible] 川柳、ウナカケヘ、羽織ガツイテ、六十句」

ハオリ-ごろ (名) 羽織[illegible] [illegible] 次條ノ語ノ略。

ハオリ-ごろつき (名) 羽織[illegible] [illegible]

はお・る [illegible]

はか [illegible]

云、則曾拵陰處、乃葬於大市、故時人號其墓謂ニ箸墓也」 撰古記、元年九月、是歳高麗國門人丁寺於…陵ニ」 倭名抄、六「…陵、…郷」 後拾遺集、十、哀傷、下「月ソゴモリノ日、秋ノはかニマカリテヨメル、思ヒ出ツル、事ノミ繁キ、野べニキテ、又春ニサヘ、別レヌル哉」 天皇ナルヲ御墓ト云フ。ミササギ。 萬葉集、二 廿四 長歌「ヤスミシシ我ガ大王ノ、恐コキヤ、御陵仕フル、山科ノ、鏡ノ山ニ」 源、十二、須磨 十六「院ノ御はか、ヲガミ奉給フトテ、北山ヘマウデ給フ」 令義解、九、喪葬「凡三位以上及別祖氏宗（別祖ノ祖ト氏長者）、並得營墓、以外不合」又葉書立碑、記ニ某官姓名之墓ニ」 神樂歌、採物、劍「頃 墓ニ、皇神タチヲ、齋ヒ來シ、心ゾ今ハ、樂シカリケル」 菅家萬葉集、下「吾屋門ハ、雪降リコメテ、道モナシ、五十人竟ヲ破、人 將來」

はか（名）|計| 稻ヲ植エ、又ハ刈リ、或ハ茅ヲ刈ルナドニ、其地ヲ分ツニ云フ語。田ナレバ、一面ノ田ヲ、數區ニ分チ、一はか、二はか、三はかナドト立テテ、男女打稙リ、一はかヨリ植エ始メ、又、刈リ始メテ、二はか、三はか、ト終ハル。又、稻ヲ植エタル列ト列トノ間ヲモ云フ。即チ、稻株ト稻株トノ間ヲ、一はか、二はかト稱ス。 萬葉集、四 廿七「秋ノ田ノ、穗田ノ刈婆加、寄リアハバ、ソコモカ人ノ、吾ヲコトナサム」 同、十 三十八「秋ノ田ノ、吾ガ刈婆可ノ、過ギメレバ、雁ガネ聞ユ、冬カタマケテ」 同、十六 三十一「天ナルヤ、サラノ小野ニ、茅草刈リ、草刈婆可ニ、鶉ヲ立ツモ」

はか（名）|量| 〔量ノ略。田ヲ劃シテ一はか二はかト云フ。農業ノ進ムヨリ一般ノ事ニ轉ズ。かりばかノ條ヲモ見ヨ〕 仕事ノススミ。ハカドリ。 倭訓栞「はか、はかノユクユカヌト云フ俗語ハ、計略ノ行ナハルルヲイフナルベシ」 伊勢物語、廿一段「イヅ方ニ求メ行カムト、門ニ出デテ、トミカウミ見ケレド、イヅクヲはかトモオボエザリケレバ」「はかガ行く」はかガユカヌ」はか取ル」

はか（名）|薄荷| はくか（薄荷）ニ同ジ。 倭名抄、十六 廿六 菜蔬類「薄荷、波可」

はが（名）|黐擌| 黐ヲ竿ナドニ着ケテ、鳥ヲ捕フルモノ。今ノ、はおカト云フ。 倭名抄、十五 畋獵具「黐、波加、所ニ以捕ニ鳥也」 名義抄「擌、ハカ」 書言字考節用集、七、器財門「擌、ハカ、ハゴ、唐句、捕ニ鳥具」 和漢三才圖會、廿三、漁獵具「擌、和名、波加、今云、波古、黐擌所ニ以捕ニ鳥者也、接、用ニ黐傳ニ竹及繩ニ謂ニ之擌ニ」 保元物語、三、爲朝鬼島渡事「擌モ立テズ、黐繩モ引カズ、イカニシテ魚鳥ヲ取ルゾ」 加茂保憲女集「はがニカカレル鳥、エニウタレンコトヲ知ラズシテ」 惠慶集「ワラハベはがタテテ鳥トル」

∴バカ（名）|馬鹿| 〔馬鹿ハ當字ナリ。梵語、Moha.（慕何、痴ト譯ス）、又ハ、Mahallaka.（摩訶羅、無智ト譯ス）ノ轉ニテ、僧ノ隱語ニ起レル語ト云フ。或ハ、耄ノ轉カトモ云フ。秦ノ趙高ガ、鹿ヲ指シテ馬ト言ヒシニ附會シテ、馬鹿ノ字ヲ當ツルナド、湯桶讀ナルノ拙キノミニアラズ、趙高ガ事ハ、欺キテ侮蔑シタル意トハナレ、愚ナル意ヲ成サズ〕 （一）オロカナルコト。又、愚。アハウ。ヲコ。シレモノ。ウツケモノ。タハケモノ。マヌケ。アンポンタン。ベラバウ。|痴呆| 太平記、十六、本間孫四郎遠矢事「如何ナル推參ノ馬鹿者ニテカアリケン、讃岐勢ノ中ヨリ、此矢一ツ受ケテ、弓勢ノ程、御覽ゼヨト」 後撰夷曲集（寛文）六「手ヲ出セロ、折リテクレベイ、ばか面メ」 拾遺集、九、雜、下「東ノ鉦ヲ乞ヒニツカハシテ侍リケルニ、侍ラズト云ヒテ侍リケレバ、鹿ヲサシテ、馬ト云フ人アリケレバ、カモヲモヲシト、思フナルベシ」（鉦、惜しヲ、鴨、鴛ニカク） （二）ばかがひ（馬鹿貝）ノ略。其條ヲ見ヨ。

はかい（名）|破戒| 佛教ノ戒ヲ破ルコト。一旦、戒ヲ受ケタルモノガ、戒法ニ

違反スルコト。 行事鈔、三「破戒諸比丘、猶勝ニ諸外道ニ」 末法燈明記「若有ニ戒法、可ニ有ニ破戒、既无ニ戒法、由ニ破ニ何戒ニ而有ニ破戒ニ」 太平記、十二、兵部卿親王流刑事「内ニハ破戒之罪、外ニハ…之…」 沙石集、二、下、第九條「破戒ノ比丘ハ、外道ニスグレタリ」「破戒ノ僧」破戒ノ罪」破戒無慚」

はかいし（名）|墓石| ボセキ。セキタフ。死者ノ戒名、姓名、歿年、事蹟等ヲ刻リツケタル石。|石碑|

はかいしき（名）|葉搔敷| （一）かいしきニ同ジ。（二）鶏ヲ燒鳥ニシ、兩翼ヲ切リ、ヒハゲ、ソノ上ニ、檜葉ヲ敷キテ盛ルモノ。

ばかうぎ（名）|馬鮫魚| さはら（鰆）ニ同ジ。

バカがひ（名）|馬鹿貝| 〔殼ヨリ舌ヲ出シ居ルヨリ云ヘルナラム。或ハ云フ、安房ニ赤貝ノ如クニテ、此貝ニ似タルモノニ、うまかひ（旨貝）ト云フアリ、其約マレルカト。（うむきノ條ヲ見ヨ）常陸ノ鹿島ニテハ、ばかがひヲうばがひト云フ〕 貝ノ一種。殼ニ横皺アリ、蛤ニ似テ、淡褐色ナリ、肉ハあかがひ（赤貝）ニ似テ、薄赤シ。はしらノ色赤ク、指ノ頭ノ大キサナリ、かひのはしらノ名ヲ專ニス。はしらノ味、極メテ美ニシテ、肉ノ味劣ル、故ニ名アリ。淺海ニ産ズ。 本朝食鑑、十、介「馬鹿蛤、波加加比」 和漢三才圖會、四十六、介甲類「馬鹿貝、狀類ニ蚶、而淡白、肉類ニ蚶而淡赤、其味劣不ニ可ニ食、凡人稱ニ頑愚不ニ見ニ用、曰ニ馬鹿ニ、此肉亦然、故名」

はがき（名）|羽書端書| 德川時代ニ、伊勢ノ山田ニテ通用セシ紙幣。（伊勢津藩ノ山田羽書、長サ三寸、幅八分） 紙錢。

鈔。|楮幣| 類聚名物考、寶貨、十五、寶貨、羽書、はがき、紙鈔、伊勢國一國ニテツカフ紙札ナリ、銀遣ノ札ニテ、禰宜神主組合…、コノ羽書ノ出テ、云云、是ヲ羽書ト云フハ、オモフニ、銀ノ…ナクテ…フト云フニモトヅキテ、羽書ト云フナルベシ」 地方凡例錄、十二「伊勢山田領之銀札ハ、享保年中ヨリ通用アリ、是レヲ端書ト唱ヘ」 東武實錄（貞享、松平忠冬）十一、寛永元年三月六日「山田ニオイテハ、ニセはがきヲ出ダシ、其上、町中ヘ、火ヲモ付候ハントタクミヲ仕候惡人出來付而、龍舍之由言候」

はがき（名）|端書| （一）紙片ナドニ、覺書ナドスルコト。（二）いうびんはがき（郵便端書）ノ略。其條ヲ見ヨ。

はがき（名）|羽搔| 又、はねがき。はたたきニ同ジ。鴫ハ、夕暮ト曉トハ、常ニ變リテ、アヤシク物凄キ羽タタキシテ、空ニ上リ下リス。コレヲ百はがきト云フ 俊成集「逢ハデノミ、伏見ノ里ニ、立ツ鴫ノ、羽搔ニオツル、我ガ涙カナ」 仲正集「曙ノ、鴫ノ上リ羽、搔キツガム、雲居ハルケキ、戀モスルカナ」 古今集、十五、戀、五「曉ノ、鴫ノ羽がき、百羽がき、君ガ來ヌ夜ハ、我ゾ數カク」 小大君集「空ニコソ、ツラキ數カケ、河鴫ノ、百羽がきニハ、過ギヤシスラム」

はかく（名）|破格| 格ヲ外スコト。定マリノ外ナルコト。例外。格外。

はか・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）|齔| 齒缺ク。兒童七八歳ノ頃ニ、舊キ日齒缺ケテ、新齒生ズルニ云フ。 倭名抄、三 三 鼻口類「齔、波加久、毀齒也」 書言字考節用集、五、肢體門「齔、ハカクル、ハカハル、字彙、毀ニ齒也、男子八月生ニ齒、八歳而齔、女子七月生ニ齒、七歳而齔」

ばかく（名）|馬革| 馬ノ皮ノ革。 後漢書、馬援傳「男兒要當ニ死ニ於邊野、以ニ馬革ニ裹ニ屍還葬ニ耳、何能臥ニ牀上ニ在ニ兒女子手中ニ邪」 汪元量、杭州和ニ林石田ニ詩「人誰包ニ馬革ニ、子獨取ニ羊裘ニ」「屍ヲ馬革ニ裹ム」

はがくれ (名) [葉隱] 木ノ葉ノ間ニ隱レテアルコト。ハカゲ。[illegible]ノコリユク、有明ノ月ノ、モルカゲニ、ホノボノオツル、はがくれノ花」金葉集、九、雜、上「葉隱ニ、ツハルトミエシ、程モナク、コハウミ梅ニ、成リニケルカナ」

はがさね (名) [羽重] 〔鳥ノ羽ノ重ナル狀ヨリ云ヒシ語〕板ナド並ブルニ、一枚ノ端ノ、他ノ一枚ノ端ニ、重ナルヤウニスルコト。メトリバ。

バカ-さわぎ (名) [馬鹿騷] 子供ノ、遊ニ耽リテ、又ハ、大人ノ、酒興ニ乘ジナドシテ、度ハヅレニ騷グコト。

はかし (名) [佩刀] 貴人ノ佩刀ノ敬稱。佩キ給フ刀ノ義。ハカセ。景行紀、十二年十二月「御刀、此云二彌波迦志一」萬葉集、十六、長歌「御佩ヲ、劒ノ池ノ、蓮葉ニ、タマレル水ノ、往クヘナミ」源、十八、松風九「昔ニアラタメ、心チヨゲニテ、御はかしトリニヨリキタリ」

はか-せ (名) [博士] はかせ(博士)ニ同ジ。[illegible]、八、初花「御書ノはかせニハ、藏人辨廣業、カウランノモトニ立テ、史記ノ第一卷ヲゾ讀ム」

ばかし (副) [計] ばかり(計)ノ轉訛。俗ニテ、ばっかしト云フ。

はか-しよ (名) [墓所] 墓ノアル場所。ムショ。ハカバ。ハカドコロ。ボショ。盛衰記、廿二、衣笠合戰事「佐殿ヲ日本ノ大將軍ニナシ進ラセテ、親、祖父ガ墓所ナリトテ、廢所ヲモ知行シテ、我ガ孝養ニ得サセヨ」

はか-じるし (名) [墓標] 墓ノ上ニ植ツル木、又ハ、石ノ標。卒塔婆、五輪塔、又ハ、方形ノ石ナドヲ建テタルモノ。墓碣。書言字考節用集、一、乾坤門「墓標、ハカシルシ」[illegible]、ハカシルシ、碑碣之類」太平記、廿六、[illegible]「[illegible]代代、云云、[illegible]ヘバ、[illegible]はかじるしヲ[illegible]所ヘ移シ候ハン[illegible]」

紀談(明和、原塢)四「[illegible]ニモ色色アリテ、アノカノ[illegible]ニモ色色アリ」

はかす (名) [齒滓] 〔齒[illegible]ヨリ生ズ〕、齒ニ附ク滓。ハクソ。ハガスミ。齒滓[illegible]

はか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [佩] 佩くノ敬語。景行紀、五十一年八月「[illegible]」

はか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [化] 〔化くノ他動〕化クルヤウニナス。タブラカス。バカス。魅 玉葉集、十一、戀、三「サリトモト、頼ム心ニ、はかされテ、死ナレヌモノハ、命ナリケリ」延慶本、平家物語、二、中、太政[illegible]山門ニ事「一疋ヅツノ絹ニはかされテ、日來、蜂起ノ衆徒、[illegible]シテ、宮ノ御事ヲ[illegible]捨ケルコソ[illegible]シケレ」

は-かず (名) [羽數] 鳥ノハバタキスル數。[illegible]「[illegible]ウキツラネ、雲路ニ[illegible]ブ、雁ガネノ、はかずモ秋ノ、月ハ見エケリ」

はが・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [放] はなつ(放)ノ條ノ(一)(二)ニ同ジ。萬葉集、廿[illegible]「[illegible]駒ヲ、山野ニ[illegible]、捕リ[illegible]、[illegible]カ遣ラム」

はが・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [剝] 〔剝ぐノ延〕剝ギテ離ス。ムキトル。ヘグ。ムク。[illegible]記、上、第三[illegible]「[illegible]」

ばか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [化] 〔化くノ他動〕古クハ、清音ニ、ハカス。人ノ精神ヲ迷ハシ、タブラカス。ツママム。(狐狸ナドニ云フ) 魅 [illegible]「[illegible]コムト、イヒシ夜毎ニ、過ギヌルハ、タノマヌ狐、身ヲヤばかせル」平家物語、四、大衆そろへの事「ソノ時、關守、鳥ノソラネニばかさレテ、セキノトヲアケテソトヲシケル[illegible]」[illegible]「[illegible]ばかさントテヤ、秋ノ野ニ、アレシ狐ノ、尾花ナルラン」

はがすみ (名) [齒[illegible]] はかす(齒滓)ニ同ジ。書言字考節用集、五、肢體門「齒宣、ハガスミ」

はかせ (名) [佩刀] 又、はかし。佩キ給フ[illegible]ノ製ノモノ起リ、儀式ノ用トス。[illegible]

はか-せ (名) [博士] 〔[illegible]ノ音ノ轉。又、は[illegible]かせトモ見ユ、士ハ漢ノ原音[illegible]省呼シテ、サト云ヒ、[illegible]ニ同ジ」(一)[古]ハ、官名、[illegible]。漢時代ニアリテ、古今ノ事ニ[illegible]コトヲ掌ル。漢ノ武帝ノ時、初メテ五經博士ヲ置キ、五經ヲ以テ弟子ニ教フルコトヲ掌レリ。晉ニハ國子博士アリ、唐ニハ大學ノ諸博士、律學博士、算學博士[illegible]。[illegible]ニテハ、古ヘ大學寮ニ、紀傳博士(後、文章博士ト改ム)、[illegible]、明經博士(經書ノ教授)、明法博士(律令格式ノ教授)、[illegible]、又、音博士(漢音、呉音ノ教授)アリ、陰陽寮ニ、[illegible]陰陽博士[illegible]、暦博士[illegible]、天文博士(天文[illegible])[illegible]學ル[illegible]故知ル新、通ニ達國體ニ故謂之博士」同、百官志、上「[illegible]」[illegible]大博士トモ云フ、中世ヨリ清原、中原兩家任ゼラル、清原氏ノ大博士トナレルヲ、傳博士ト云フ、[illegible]宗トスル故ナリ、中原氏ノ大博士トナレルノ、[illegible]士ト云フ、[illegible]宗トスル故ナリ」[illegible]「モンザウはかせメシテ、願文ツクラセ給フ」[illegible]九、[illegible]「ケフハヨキ日ナランカシトテ、[illegible]ノはかせ

メシテ、時トハセナドシ給[illegible]」[illegible]シテ」(二)明治ノ世トナリ、學位トナリ[illegible]漢音ニはくしト讀ム。此學位ハ、明治[illegible]年[illegible]月[illegible]日[illegible]學位令[illegible]大博士アリシガ、授ケラレタル者一人モナク、同三十一年十二月ノ改正勅令[illegible]業シ、又ハ、專門ノ學術ニ熟達シタル者ガ、其大學ニ論文ヲ提出シテ、合格シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スルト認メラレタル者ニ、文部大臣ノ認可ヲ經テ、授[illegible]學博士ノ十二種アリ」[illegible]

はかぜ (名) [羽風] [illegible]

ン」玉葉集、三、夏「水無月ノ、テルロトイヘド、ワガヤドノ、ナラノ葉風ハ、スズシカリケリ」

はかぜ (名) [羽風] 鳥、蟲ナドノ飛ビテ、翅ヨリ生ズル風。 源、四十七、總角十五「ムラ鳥ノ立チヨフ羽風ニモ身ニカウ覺ユ」 枕草子、二、十七段「蚊ノホソ聲ニ名ノリテ、顏ノモトニトビアリク羽風サヘ、身ノホドニアルコソ、イトニクケレ」 永久四年百首「ノリテ行ク、鶴ノ羽風ニ、雲ハレテ、月モサヤケク、スム山邊カナ」

はかせ-みやうぶ (名) [博士命婦] (女史)ノ異稱。女史ハ、古ヘ、宮中ニ仕ヘタル女官ニシテ、文書ノ事ヲ掌リシモノ。 榊野村戲(永久、三、蒼怜康一五、內侍所「博士命婦、御體、云云、女史謂之博士命婦」)

はかせ-よみ (名) [博士讀] モンゼンヨミ、ニ同ジ。

はがた (名) [刃方] 刀ノ鐔ヨリ、刃先ニ至ル間ノ部分。

はがた (名) [齒形] 齒ニテ嚙ミツキタル痕。 小大君集「ナスビノユユシゲナルニ、はがたノツキタルヲ見テ」

はがた (名) [羽形] 矢羽ノ形。

はかた-おり (名) [博多織] 織物ノ一。今ヲ去ルコト六百餘年前、博多ノ住人滿田彌三右衞門、聖一國師ニ隨ヒテ、支那ニ渡リ、織法ヲ傳習シテ歸朝シ織リ始ム、後、室町時代ノ末、其裔彥三郎、渡明シテ織法ヲ傳ヘテ再興シ、帶地ヲ織リ出ス。黑田氏、此地ヲ治ムルニ當リ、十二戶ノ家元ニ特許ヲ與ヘ、其中ニ精選シタルモノヲ、每年ノ恆例トシテ、幕府ヘ獻上セリ。コレヲ、獻上博多ト云フ。男帶地ハ茜根色、紫根色、黃、紺、藍ニ限ラレタリト云フ。唐土ノ人ヨリ傳習セリトテ、博多唐織(ハカタカラオリ)トモ云フ。又、略シテ、唐織(カラオリ)。 博多記「承天寺ノ僧渡唐ノ時、彌三ト申ス者附添ヒ渡リ、廣東織、緞子織傳受シテ歸朝ス、今ノ博多織ナリ」 筑前國續風土記、廿七、土產考「唐織帶、博多ニテ織ル故ニ、博多唐織ト云フ、古シヘ、博多ニ唐土船來リシ時、習ヒテ織出セリ」

はかた-からおり (名) [博多唐織] 前條ノ語ニ同ジ。

はかた-ゴマ (名) [博多獨樂] 絲ヲ卷キ付ケテ廻ハス獨樂。筑前國、博多ヨリ起リシトゾ。 和漢三才圖會、十七、嬉戲「近世、筑前博多獨樂、削木如蓮房形、大可拳、以鐵釘爲心、纏卷絲繩引之擲之、元祿年中盛行、得於習者、於纖枝或絲繩上亦舞之」

はかた-にんぎやう (名) [博多人形] 慶長十三年、黑田長政ノ福岡城ヲ築クニ當リ、城瓦ノ製造者正木宗七幸弘、其瓦ノ精土ニテ、人形ヲ造リ獻ジタルニ始マレリ。今ハ一ノ美術品トナリ、古物摸造、風俗人形、人種摸型、醫術上ノ身體摸型、彩色ノ美人、室內粧飾品、武者人形ナドヲ製造ス。

はがため (名) [齒固] (齒固(ヨハヒカタメ)ヲ、はト讀メル語ナルベシ) (一)元日ニ、餠鏡(モチヒカガミ)ニ向ヒテ見ル儀。(後ニ、コレヲ鏡餠ニ居ルト云フ)身ノ千年ヲ祝フナリト云フ。 運歩色葉集「齒固、元三之祝言也、云云」 西宮記、一、供御藥「內膳供御齒固、大根、瓜(マコモ)、串刺、押鮎、燒鳥等」 土佐日記、正月元日「芋モ荒布モはかためモナシ」 江談、二「元三之間、供御藥御齒固、蘿或盛也、近代以雉盛之也」(以上、今ノ鏡餠ナリ) 江家次第、一、供御藥「內膳司、(右青瑣門)供御齒固具、云云、大根一坏、串刺二坏、押鮎一坏、猪宍一坏、鹿宍一坏」 猪隈關白家實公記、正治三年正月三日「早旦着直衣見鏡」(餠鏡ノ略) 世諺問答「元日齒固トテ、餠鏡ニ向フコトハ、齒ト云フ文字ヲよはひト讀ムナリ、齡ヲ固ムル心ナリ、古今集ノ、アフミノヤ、鏡ノ山ヲ、タテタレバ、カネテゾ見ユル、君ガ千歲ハ、ノ歌ヲ吟ズ」(鏡餠ノ名モ是レヨリ起ル、御齒固ノ餠ハ、近江國ノ火切(ヒギリ)ノ里ヨリ貢スルヲ用ヰル) 枕草子、三、廿四段、讓葉「ヨハヒヲノブルはがための具」 源、廿三、初音三「はかためノ祝ヒシテ、餠鏡(モチヒカガミ)ヲサヘ取寄セテ」 續山の井(寬文、春)「はがためモ、カムベキ老ノ、ハジメ哉」 (二)其餠。

はかち (名) 西北ヨリ吹ク風。(東京) 物類稱呼、一、天地「江戶ニテハ、西北ノ風ヲ、はかちト云フ」 倭訓栞「はがつ、云云、江戶ニテ、西北ノ風ヲはがちト云フ」

はが・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (他動、四) [放] [放(ハナ)つノ他動] ハナツ。ハナス。 神代紀、上三十「春則廢渠槽(ヒハガツ)」(械、放ツナリ)

はか-と (副) [果] ソレト限リ定メテ。シカト定メテ。 榮花物語、七、鳥邊野「白雪ノ、降積ム野邊ハ、跡絕エテ、イヅクヲはかと、君ヲ尋ネム」 小大君集「ワレ死ナバ、イヅコヲはかと、尋ネテカ、コノ世ニツキヌ、事モ語ラム」

はか-どころ (名) [墓所] 墓ノ在ル場所。ムショ。ボショ。ハカショ。 [兆域] [塋域] 皇極紀、元年十二月「役二使(墓)兆所(カドコロ)」 更級日記「北ノメノト墓どころ見テ、泣ク泣クカヘリ去リシ」 書言字考節用集、一、乾坤門「塋域、墓所、ハカドコロ」

はか-どり (名) [果取] ハカドルコト。作事(シゴト)ノススミ。 進步

バカ-どり (名) [馬鹿鳥] あはうどり(阿房鳥)ニ同ジ。 信天翁

はか-ど・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [果取] 「量(ハカ)ノ條ヲ見ヨ」 仕事、早ク仕上ガリ行ク。捗ル。 進步 書言字考節用集、八、言辭門「果敢取、ハカトル」 本朝若風俗(貞享、西鶴)二「眼ヲ煩ヒ、著述ニ棄テ養生スレドモ捗ラズ」

はか-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [無果敢傻] 伊勢物語、廿一段「中空ニ、立居ル雲ノ(如ク)、跡モナク、身ノはかモなく、ナリヌベキ(カ)ナ」ノ如シ」 (一)取リトメタルコトナシ。シカトセザルナリ。タシカナラザルナリ。ムナシ。アダナリ。ハカマナシ。 源、一、桐壺六「御息所ハはかなき心ナニワヅラヒテ」(何ト云フ病トモ、タシカナラズ) 伊勢物語、廿二段「昔はかなくテ絕エケル中、云云」(シカトシタル事モナクテ) (二)イタヅラニ。何ノナスコトモナシ。譯モナシ。 源、一、桐壺十「はかなく聞エ出ヅル言ノ葉モ」 新古今集、二、春、下「はかなくテ、過ギニシ方ヲ、カゾフレバ、花ニ物思フ、年ゾ經ニケル」 (三)ハカナクナル、死ヌ。 源、四十四、橋姬九「三條ノ宮ニサブラヒシ小侍從ハ、はかなくナリハベリニケリト」

はかな-ごと (名) [無果敢事] ハカナキコト。カヒナキコト。ハカナシゴト。 宇津保物語、菊の宴十五「サルツイデニ、シカオホセラレヌ、カカル身ヲモチテ、ナゾ此はかなごとハ」

はかなし-ごと (名) [無果敢事] 前條ノ語ニ同ジ。 源、四十三、竹河十二「ココヒハスコシ打トケテ、はかなしごとナドモイフ」 同、三十一、眞木柱三十八「此大將ノカカルはかなしごとイヒタルモ、マダコソキカザリツレ」

はかな-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [無果敢立] ハカナキサマニテアリ。ハカナブ。 枕草子、五、五十段「屋ノサマモはかなだちテ、ハシチカク、アサハカナレド」 源、廿二、玉蔓三十五「コテハはかなだちテ、ヨロボハシケレド」

はかな・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) [無果敢] 前條ノ語ニ同ジ。 源、四、夕顏十六「はかなびタルコソ、女ハラウタケレ、カシコク人ニ靡カズ、イト心ヅキナキワザナリ」

はかな・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [無果敢] ハカナク思フ。ハカナシト思フ。

はかな-もの (名) [無果敢] ヨワキモノ。役ニ立タヌモノ。ハカナキモノ。 源、三

十八、夕霧「御ズ法ニ、シルシナキヤウハアラム、惡靈ハシフネキヤウナレド、ゴッシャウニマツハレタルはかなものナリト、聲ハカレテ怒リ給フ」

※※**バカみ** [illegible] 馬鹿 [illegible] 非常ニ、甚シク。「ばかみ暑イ」ばかみ甘イ」

はがね (名) 鋼 〔刃鐵ノ義〕 刃物ノ刃ニスル鐵。鋼鐵。てつ(鐵)ノ條ヲモ見ヨ。はがねを顯すトハ、腕前ヲ顯ス、[illegible] 義經記、一、五條ノ夜ニ打事「度度はがねヲ顯シテ、迎シキ者、コレモ布衣ノ下ニ、紫裾ノ腹卷着テ」

バカねん (名) 馬鹿念 念ヲ入レスギテ、何ノ效モ無キコト。 生寫朝顏話(天保、近松德叟)「ヤア、イラザル、ウヌガ馬鹿念」

はかば (名) 墓場 はかどころ(墓所)ニ同ジ。

はかばか・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 果果 〔量ル意。はかどるナドノはかヲ重用ス〕 埒明キテ見ユ。キハキハシ、ハキハキスル。源、二、帚木廿「サシモはかばかしク、シタタカナル御ウシロミハ」落窪物語、一「親ニトク後レテ、心モはかばかしからズゾアランカシ」

ばかばか・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) わかわかし(若若)ノ條ヲ見ヨ。

バカバカ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 馬鹿馬鹿 (一)バカゲテアリ、バカラシ。甚ダツマラヌサマナリ。(二)度外レナリ。甚ダシ。ヒドシ。

バカばなし (名) 馬鹿話 馬鹿ゲテ、トリトメナキ話。

バカばやし (名) 馬鹿囃子 〔わかばやし(若囃子)ノ轉訛〕 東京ニテ、祭禮ニ行フ一種ノ囃子。里神樂ヨリ變ズト云フ。笛、大太鼓、付太鼓(締太鼓)、摩鉦(チャンギリ)ナドヲ用ヰル。わかばやし(若囃子)ノ條ヲ見ヨ。

はかはら (名) 墓原 墓ノアル地。墓場 [illegible] 萬葉集、[illegible]「はか原ヤ、[illegible] ヤドル、樋ノ水」倭訓栞「はかはら、墓原ノ義、墓ハ土ヲ封ゼザルヲ云フ、云云、西土ノ俗稱ニ、亂葬岡ナド見エタリ、一所ニ定メテ葬埋スルノ制ハ、日本紀、三代實錄、令ナドニ見エタリ」

はがひ (名) 羽交 (一)〔鳥ノ左右ノ翅ヲ打交ヘタル所〕萬葉集、一、廿「葦邊行ク、鴨ノ羽我比ニ、霜降リテ、寒キタハ、大和シオモホユ」夫木抄、十六、霜「アミガモノ、はがひノ霜ヤ、オキヌメラン、ヲノヘノ鐘モ、ホノ聞ユナリ」(二)轉ジテ、ツバサ(翼)。ハネ。嫗山姥(正德、近松作)一「ノッサノッサト、はがひ延シタルタ[illegible]」

はがひ (名) 寶貝 たからがひ(寶貝)ニ同ジ。

はがひじめ (名) 羽交締 人ヲ背後ヨリ抱キシメテ、動カヌヤウニスルコト。即チ、相手ノ背ヨリ、己レノ兩手ヲ、其左右ノ腋下ニ通シ、手先ヲ其襟首ノ邊ニテ組合ハセテ、強ク抱キ締ムルコト。[illegible] 近松作、五「四ツ五ツハリコカシ、羽交ひ締めニ引ッ縛リ、[illegible]ガ手ニゾ渡シケルー」

はがへ (名) 葉替 草木ノ葉ノ生ヒカハルコト。夫木抄、廿六、[illegible]「はがへセシ、[illegible]バラニ、ナリハテテ、クヤノワタリハ、サビシカリケリ」後拾遺集、十、哀傷「コレヲダニ、形見ト思フ、都ニハ、葉がへヤシツル、椎柴ノ袖」

はがへ (名) 羽替 鳥ノ羽毛ノ脱ケカハルコト。夫木抄、廿七、鳥「雪フレバ、ミ山鳥ノ、はがへシテ、[illegible]ノ袖ニ、[illegible]ゾムレキル」

はかま (名) 袴 〔穿裳ノ轉、[illegible]ノ裳ノ轉ナルガ如シ〕 (一)〔腰脚ヲ絡フ衣。古キハ、[illegible] 神代紀、上 [illegible] (脚袴)ト云フモノナラム。褌 [illegible] モ」續中郞位前紀「[illegible]」脫二錦衣褌一與レ之」(上衣、下褌ナリ) (二)〔後ニ、專ラ、衣ノ上ニ用ヰテ、腰ヨリ兩脚マデ被フベク寬ク作レル衣。紐ニテ腰ニ約シ、二脚ニ當ル所、分レテ袋ノ如シ。表の袴、指貫の袴アリ。又、長袴、半袴、馬乘袴、行燈袴[illegible]アリ。[illegible] (三)[illegible] モ、此類ナルベシ。[illegible] 苞、ハカマ、鼓衣也」 (四)方、又ハ、圓ノ小サキ匣ヲ酒瓶ノ座トスルモノ。[illegible] 百首「世ノ中ハ、搦モセハシキ、酒ノ燗、チロリノはかま、キタリスイダリ」

はがま (名) 齒釜 [illegible] 周圍ニ、庇ノ如キモノノアルモノ。竈ノ縁ニカク。專ラ飯ヲ炊グニ用ヰル。カマ。物類稱呼、四、器用「江戸ニテ稱スルかまヲ、[illegible]」

はかまぎ (名) 袴着 [illegible] 歲ノ時ニ、始メテ袴ヲ着ル儀 [illegible] 三ノ祝ノ一) [illegible]

はかまごし (名) 袴腰 (一)長袴、半袴ノ背部ノ上部、帶ノ結ビノ上ノ腰ニ當ル [illegible]

はかまだれ (名) [illegible]

はかまつり (名) 墓祭 [illegible]

はかまのう (名) [illegible]

はかまゐり (名) 墓參 [illegible]

〜はがみ (名) 齘 〔齒囓ノ義〕 はぎしり(齒軋)ニ同ジ。はぎり。ハクヒ。倭名抄、三、病類「齘、波賀美、睡眠而齒相切有ㇾ聲也」字鏡抄「齘、ハカミ、齪、ハカミ、ハクヒ」書言字考節用集、五、肢體門「齟齬、(切句、切ㇾ齒怒也)咬牙、齒怒、ハガミ、ハクヒシバル」萬葉集、九、三十六長歌「足摩シ、牙喫タケビテ、モコロ男ニ、負ケテアラジト」義經記、二、鬼一法眼事「法眼齒嚙ヲシテ申シケルハ、洛中ニコレホドノ狼藉者ヲ、誰ガハカラヒトシテ門ヨリ中ヘ入レケルゾ」

はがん (名) 破顏 笑ヲ含ムコト。顏色ヲ柔ラゲテ、ホホヱムコト。白居易詩「一放狂歌一破顏」歳輪詩「逢ㇾ人強破顏」「破顏微笑」

はかんざう (名) 葉甘草 樹ノ名。木甘茶ノ一名。高サ二三尺、葉ハ卵圓形ニシテ對生シ、鋸齒アリテ、末ハ紫色ヲ帶ブ。夏ノ半ニ、枝ノ梢毎ニ花アリ、内ニ碎小五瓣ノ花簇リ、外ニ四瓣ノ大花取リ卷キテ開ク。內、外、色ヲ異ニシテ、白、碧、紫、紅、種種ナリ。葉ヲ煮テ甘茶トシ、四月ノ灌佛會ニ供ス。

はがんみせう (名) 破顏微笑 顏色ヲ柔ラゲテ、ホホヱムコト。五燈會元「世尊在ニ靈山會上ニ拈ㇾ華示ㇾ衆、是時衆皆默然、惟迦葉尊者、破顏微笑」

はかもなし・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 無果敢 はかなし(無果敢)ト云フニ同ジ。寛平歌合「はかもなき、夏ノ草葉ニ、オク露ヲ、命ト頼ム、蟲ノハカナサ」新勅撰集、十七、雜、二「はかもなき、鳥ノ足トハ、思フ共、ワガスヱズヱハ、哀トモ見ヨ」和泉式部集「はかもなき、夢ヲダニ見テ、アカシテバ、ナニヲカ夏ノ、ヨガタリニセン」

はかもり (名) 墓守 墓所ノ番人。[illegible]八景(寶永、近松作)上「墓守ノ嫌シモ人ニ劣レバ、オノヅカラ苔ニウヅモレ、墓ツモリ」

はがゆ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 齒痒 〔齒ノ浮ク思ヒカ〕 斯クナラムコトヲ欲シテ、然ナラヌヲ、事足ラズ思フ。モドカシ。ジレッタシ。ハシカイ。隔靴搔痒 浮世風呂(文化、三馬)二編、上「傍デ齒痒い樣ダヨ」

バカら・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) アハウラシ。バカバカシ。國性爺合戰(正德、近松作)一「物ノ具取ッテ馳セ參ジ候ヘバ、サテ馬鹿らしヤ、御妹栴檀女ト李蹈天ガ緣定メノ花戰トハ」

はからず (副) 不圖 心ニ思ヒ圖ラヌニ。思ハズニ。オモヒカケズニ。不意ニ。フト。ヒョット。馬内侍集「日グラシニ、待チ心ミン、アヅサ弓、はからず人ノ、思ヒ出デヨト」

はからひ (名) 計 ハカラフコト。トリアツカヒ。處置。措置。著聞集、一、神祇「大明神ノ御はからひニテ、衆徒合戰理ニシケル、嚴重ナリケル事ナリ」

はからひのしゆう (名) 計衆 室町幕府ノ職名。諸家ヨリ獻上シタルモノニ對シテ、返シ物ヲ取調ベオキ、其ヲ將軍ノ竊ニ御覽ゼラルルヲ取扱フ役人。オハカラヒカタ。オハカラヒシュウ。年中定例記、八月朔日御憑「御返シノ事ハ、御はからひの衆ト申ニハ、御返シ過分ニ出候」

はから・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 計 〔計ルノ延〕 (一)思ヒハカル。分別ス。思量 靈異記、中、第廿八縁、訓釋「商量、ハカラヒテ」宇治拾遺、三、第十八條「物ノ哀レナル夕暮ノ空、又、月ノアカキ夜ナド、[illegible]二目トドメツベキ程ヲはからひツツ、音ヅレケレバ」(二)〔語ラヒ謀ル〕相談ス。商議。諮詢 神代紀、上「于ㇾ時八十萬神會ニ合於天安河邊一、計ニ其可ㇾ禱之方一」右京大夫集「サルヘキ人人、カタクイヒはからふ事アリテ」(三)好キ程ニ扱ヒ行フ。宇治拾遺、七、第五條「觀音はからはセ給フ事ナレバ」

〜はかり (名) 量 きん(斤)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。催馬樂、夏引「夏引ノ、白絲七はかりアリ、狹衣ニ織リテモ着セム」天智紀、元年正月「絲五百斤」古語拾遺「作ニ大小斤一」

はかり (名) 量計 (一)〔計ルコト〕萬葉集、四「ヨソニ居テ、戀フレバ苦シ、ワギモ子ヲ、ツギテ相見ム、コト計セヨ」(二)〔推シ量ル所〕カギリ。メアテ。アテド。方所 伊勢物語、廿一段「門ニ出デテ、トミカウミ見ケレド、何處ヲはかりトモ覺エサリケレバ」夫木抄、三十六、占「芳野山、雲ヲはかりニ、尋ネ入リテ、心ニカケシ、花ヲシルカナ」寛平歌合「影照レバ、千千ノ黃金モ、數知リヌ、ナド吾ガ戀ノ、逢フはかりナキ」(三)枡ニテ、分ケ量ルコト「はかりカヨイ」

はかり (名) 秤稱 〔計り知る意〕 物ノ輕重ヲ計リ知ル器械。はかりざら(秤皿)ヲ釣リ、其一端ニはかりざを(衡)ヲ垂レテ物ヲ載セ、一端ニ絲ニテ錘ヲ懸ケ、重ケレバ錘ヲ退ケ、輕ケレバ錘ヲ近ヅケ、絲ノ、衡ノ目ニ當レル所ヲ見テ、輕重ヲ知ル。(はかりざをノ條、見合ハスベシ)又一種、天秤アリ。其條ニ註ス。倭名抄、十四、稱量具「權衡、加良波加利」名義抄「衡、ハカリ」書言字考節用集、七、器財門「秤(正ニ斤兩一者)、稱、ハカリ」出雲風土記、楯縫郡「天御量持而、所ㇾ造ニ天下大神之宮一、造奉詔而」平家物語、二、小松教訓事「冥途ニテ娑婆世界ノ罪人ヲ、或ハ業ノ秤ニカケ、或ハ淨玻璃ノ鏡ニ引向ケテ」

はかり (名) 權 〔輕重ヲ量リノ義〕 ハカルコト。姓氏錄、第三卷、商長首「呉國以ㇾ權定ニ萬物之命一、爲ニ交易一、其名云ニ波賀理一」赤染衛門集「地獄繪ニ、はかりニ人ヲカケタルヲ見テ」菅家萬葉集、上「カケツレバ、千千ノ黃金モ、數知ラス、ナゾ我ガ戀ノ、はかりナキカナ」

〜はかり (名) 蹤血 〔跡ヲ測る意カ〕 獵ニ鹿ナド射テ、血ノ滴リタル跡ヲ尋ヌルコト。ノリノアト。倭名抄、四、六十射藝類「蹤血、波加利」人丸集「思メ行カム、ツブサニ條ハ、見エズトモ、鹿ノはかりハ、シルトイフナリ」

〜ばかり (辭) 許 第二類ノ天爾波。のみニ似テ、他無キ意ノ語。バカシ。バッカリ。伊勢物語、廿七段「我ばかり、物思フ人ハ、又モアラジ、ト思ヘバ水ノ、下ニモアリケリ」同、百十四段「翁サビ、人ナ咎メソ、カリ衣、今日ばかりトゾ、田鶴モ鳴クナル」古今集、十五、戀、五「山ノ井ノ、淺キ心モ、思ハヌニ、影ばかりノミ、人ノ見ユラム」同、廿、東歌、陸奧「モガミ川、上レバ下ル、稻舟ノ、イナフニハアラズ、此月ばかり」拾遺集、十六、雜、春「殿守ノ、伴ノミヤツコ、心アラバ、コノ春ばかり、朝淨メスナ」後拾遺集、十六、[illegible]「昨日ケフ、歎クばかりノ、心地セバ、アスニ我身ヤ、アハジトスラム」

〜ばかり (接尾) 許可 〔量ノ義〕 他語ニ添ヒテ副詞トスル語。(一)程、くらゐノ意ナルハ、伊勢物語、九段「二十ばかり重ネタル」枕草子、十、百三十二段「人ニ思ハレムばかり、メデタキ事ハアラジ」古今集、十三、戀、三「有明ノ、ツレナク見エシ、別レヨリ、曉ばかり、憂キモノハナシ」六帖、四「我ばかり、我ヲ思ハム、人モガナ、サテモヤウキト、世ヲ心ミム」「死ヌルばかりニ思ヒ入ル」「如何ばかり嘆バム」(二)頃ノ意ナルハ、竹取物語、下「カカルホドニ、宵打過テ、子ノ時ばかりニ」伊勢物語、四十段「ケフノ入相ばかりニタエイリテ、又ノ日ノ戌ノ時ばかりニナン、カラウジテ、イキ出デタリケル」「何時ばかり」

❖ばかりきり (名) 量切 枡ニテ量リタルバカリニテ、少シモ添ヘ加ヘザルコト。

〜はかりぐさ (名) 秦艽 つがりぐさ(秦艽)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

〜はかりお・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) 謀 「次條ノ語ヲ活用ス」(一)謀ル 計ヲメグラス。タバカル。古事記、中、神武「將ㇾ殺ニ其三弟一而、謀之間」(二)欺ク。タバカル。

源、四十四、橋姫「年頃、善カラヌ人ノ、心ヲツケタリケルカ、人ヲはかりおちテ、田舍ノ果マデ、[illegible]モテマカリニシカバ」字治拾遺、十、第八條、はかりおちテ、西ヨリ出デサセ給ハザラマシカバ」

はかり-ごと (名) 謀 〔計事ノ義〕心ニ量リ設ケタル手段。タクミ。モクロミ。計略。計策。字彙「謀、謀也、謀加利己止」書言字考節用集、八、言辭門「謀略(又云、謀計)、計略、謀策、[illegible](左傳)、謀(謀、策、猷、[illegible])、ハカリコト」神武紀位前紀、戊午年四月「[illegible]」謀、於沖衿」、論讚紀、廿四年二月「故違[illegible]謀」、南朝日本以[illegible]、大彦甲謀、而[illegible]用[illegible]」曾我物語、五、呉越[illegible]事「吳王モ智淺クシテ謀セシ、云云、願クハ昔王、[illegible]臣下ニ謀ヲ許シテ、敗軍數萬ノ死ヲ救ヒ給ヘ」

はかり-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 量込 分量ヨリ多ク盛込ム。餘分ニ盛リテ、枡目ヲ減ズル。

はかり-ざ (名) 秤座 江戸時代ニ、官許ヲ得テ、全國ノ秤ヲ製造、專賣シ、且、ソノ檢査ヲ掌リシ所。江戸ト京都トニアリキ。ますざ(枡座)ノ條ヲモ見ヨ。三河後風土記ニヨレバ、德川家康、關東入國ノ初、甲斐國ニテ秤ノ賣買ヲナセシ守隨兵三郎、關八州ノ秤ヲ掌ラムコトヲ願ヒテ、許可セラル。守隨ノ秤ヲ以テ、黃金、諸金、商賣セシムベシト、允許セラレタリ。(天正十八年) 甲斐國志、二、國法「江戸秤座守隨家、本家代、甲府八日町ニ居住シテ、坂本淸九郎ト云、本ト皆武田ノ秤子ナリ、[illegible]入國ノ後、守隨ハ江戸ニ召サル、云云、後、有レ故改ニ今氏一卜云、國ノ內、秤、杜秤等、淸九郎家ニ之」 華洛[illegible]西[illegible]、二 秤座、東川西[illegible]院東、[illegible]」

はかり-ざら (名) 秤皿 秤棹(衡)ノ一端ニ、緒ニテ懸クル平タキ器。量ルベキ物ヲコレニ載ス。天秤ニテハ、一竿ヲ兩端ニ懸ク。盤

はかり-ざを (名) 秤棹 秤ニ用ヰル棹。上ニ、點、又ハ、刻ミアリテ、貫、匁、分、厘等ノ度ヲ標ス。コレヲ、星、又ハ、目ト云ヒ、上目、前目、向目、ナドノ稱アリ。(上目一ツ一分ヅツ、大星ハ十匁、末マデ十五匁。前目ハ始マル所ヲ[illegible]懸トテ云フ、十匁ナリ、星一ツガ二分ヅツナリ。向目ハ突懸五十匁ニテ、星一ツ一匁ヅツ、末マデ百五十匁ナリ)錘ノ緒ヲ棹ノ上ニテ、遠近ニ移シテ、量ルベキ物ノ重サト平ナル所ニテ、度ヲ知ル。(秤ノ條、見合ハスベシ) 衡

はかり-べり (名) 量減 枡ニテ量ル二、量リ込ミテ、枡目ノ減リタルコト。斗耗

はかり-むし (名) 計蟲 さくとりむし(尺取蟲)ノ一名。其條ヲ見ヨ。

はかり-め (名) 秤目 (一)秤棹ノ上ニ刻メル貫、匁、分、厘等ノ標ノ稱。秤ノ目盛。量目。(二)ハカルカサ。ハカリタル量目。

はか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 計測量 〔大指ト中指トヲ張り限る意〕(一)物事ノ程ヲ知ラムト試ミル。ツモル。ハカラフ。[illegible]六、[illegible]ノ身ハ、世ノ中ニ滿チテ、はかり得ベカラズト云フ事ヲヨメル」(二)秤ニテ、輕重ヲ試ミル。掛ク。[illegible] (三)枡ニテ、多少ヲ試ミル。狂言記、右近左近「年貢ヲはかる」(四)尺ニテ、長短ヲ試ミル。差ス。度 [illegible] (五)「考ヘ分ク」[illegible]「人」(六)語ラヒテ論ジ定ム。相談ス。

[illegible]

詢 諮議 (七)欺ク。ダマス。タバカル。[illegible]六帖、四「心コソ、心ヲはかる、心ナレ、心ノ仇ハ、心ナリケリ」[illegible]六、[illegible]ニ、宿レルト、見ユルハ露ノ、はかるナリケリ」後拾遺集、十六、雜、二「夜ヲコメテ、鷄ノ虛音ハ、はかるトモ、世ニ逢坂ノ、關ハ許サジ」[illegible]集「マネクトモ、ヰツルカヒナク、花ススキ、ホニイデテ風ノ、はかるナリケリ」

〔はか・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 別 〔わかる、はかる〕別ル。わかる(別)ニ同ジ。萬葉集、五「[illegible]常知ラズ、道ノ長手ヲ、クレグレト、はかれ[illegible]」[illegible]ノベノ、荊ノ末ニ、[illegible]ノ、カラマル君ヲ、[illegible]カ行カム」

はが・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 剝 〔剝ぐノ自動〕剝ゲテ離ル。ハゲオツ。ヘガル。ムクル。剝落

はき (名) 吐嘔 吐クコト。口ヨリ物ヲ出スコト。嘔吐「吐ガ止マル」

はき (名) 霸氣 (一)進ミテ勝利ヲ制セムトスル意氣。(二)霸者トナラムトスル意氣込。又、霸者ノ起ル土地ノ風氣。[illegible] (三)ヤマキ。野心。一四[illegible]

はき (名) 破棄 ヤブリスツルコト。[illegible]

はき (名) [illegible] 一 ヤブリ[illegible]スコト。又、ヤブレコハルルコト。[illegible]「[illegible]」(二)上告裁判所ニ於テ、原裁判所ノ下シタル判決ヲ、違法ナリトシテ、之ヲ取消スコト。

〔はぎ (名) 脛 膝ヨリ下、踝ヨリ上ノ部。[illegible]

はぎ (名) [illegible] セタル所。接際「[illegible]ノはぎ[illegible]」

はぎ (名) 萩 [illegible] 芽ヲ生ズレバナリ、故ニ芽子ノ字ヲ用ヰル。はぎ(芽子)ノ條ヲ見ヨ」(二)草科ノ灌木ノ名。山野ニ自生シ、又、多ク庭[illegible]。高サ五尺餘ニ達シ、枝長ク、末、垂リ、葉ハ、三葉ニシテ、[illegible]ノ葉ニ似タリ。又、ふんてん(南天)ノ若葉ニ似テ、尖ラズシテ、ヤハラカナリ。[illegible]秋ノ七草ノ一トス。[illegible]

[illegible]

牛ノ舌ノ類、濃緑ノ葉ノ色色ニ、苗ヲ出ス數種ヲ植ヱ一ニ二葉ノ色目ノ名。表、蘇芳、裏、青ナルモノ。

はぎ（名）【極】〔はりきノ略ト云フ〕はりのき（榛木）ニ同ジ。今、ハンノキ。其條ヲ見ヨ。

はきかへり（名）【齚】くひちがひ（喰違）ニ同ジ。字鏡「齚、齒不相値、波支加户利」

はきき（名）【羽利】人ニ、威權、勢力アルコト。ハブリノヨキコト。ハバキキ。（鷹飼ノ語ニ出ヅ）加增曾我（寶永、近松作）「世渡ル業ノ習トテ、色ヲ墨キシ水ダシノ、はききトイヒシ俤モ、夏冬ナシノ上張ヤ」

はきくだし（名）【吐下】吐クコトト、下ダスコトト。吐瀉。

はきけ（名）【欧吐嘔吐】胸ノムカツクコト。胃中ノモノヲ、ハカムトスル氣味。

はぎしみ（名）【齒軋】次次條ノ語ニ同ジ。ハギシメ。書言字考節用集、五、肢體門「齘齒、ハギシミ」心中天網島（享保、近松作）上「小腹ガ立ツヤラ可笑シイヤラ、胸ガ痛イト齒ぎしみシ」

はぎしめ（名）【齒軋】前條ノ語ノ轉。好色五人女（貞享、西鶴）三「今ノ代リニ、首ヲオサヘテ取ルベシト、はぎしめシテ立チケレドモ、世ニカクス身ノ是非ナク」

はぎしり（名）【齒軋】（一）齒ト齒トヲ、カミアハセテ、キリキリト聲ヲナスコト。人ノ癖トシテ、睡中ニナスモノアリ。ハガミ。ハギリ。齘齒（二）怒リ、又ハ、悔シサノ甚シキヨリ、齒ヲ噛ミ合ハセテ、音ヲ立ツルコト。ハガミ。ハギリ。ハギシミ。ハギシメ。切齒　史記抄（文明）十一八「切齒、ヲクバヲ、キリキリトはぎしりヲスルゾ」

はきぞめ（名）【掃初】正月二日ニ、新年ニ入リテ、始メテ屋内ヲ掃除スルコト（元日ハ、帚ヲ休マセルタメ、終日掃カズ）幕朝年中行事歌合、上、二番、掃初「諸人ノ、ココロノ塵モ、ハラヘトテ、ケフトリソムル、玉バハキカナ」視聽草、七「寛永廿一年正月二日、云云、コボウシハウキシン上ス、御はきぞめアリ」

はきたて（名）【掃立】（一）今、掃除シタルバカリナルコト。（二）蠶兒ノ孵化シタルモノヲ、蠶卵紙ヨリ取リテ、他ノ大ナル紙、又ハ、蠶座ニ掃キ落スコト。昔ハ、鳥ノ羽ナドニテ掃キ落シタルモノナレバ云フ。

はきだめ（名）【掃溜】ちりづか（塵塚）ニ同ジ。アクタフ。芥坑（病家須知）狂言記、塵塚「木ノ葉モ、散リ散リニチリ積ル、掃溜山トゾナリニケル」

はきちが・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）【穿違】（一）他人ノ下駄ナドヲ誤リテ穿ク。（二）考へ違フ。感違ヲナス。浮世風呂、二（文化、三馬）初編、上「ホンニ、與ウダ、ケ、魂ノ歌トはき違へ々、道理テ風ヲヒイタヤウナ心持ダ」

はきちが・へる（動）【穿違】前條ノ語ノ口語。

はきと（副）【分明】明カニ。サダカニ。ハッキリト。「はきと見ユ」はきと聞ユ」

はぎどり（名）【萩鳥】〔好ミテ萩叢ノ中ニ棲ム故ニ云フト〕いはくぐり（岩潜）ニ同ジ。

はぎにあぐ（句）【搴脛】衣、袴ノ裾ヲ脛マデ上グ。水ヲ渉ル時、行ク路ヲ急グ時ナドニナス。人ニ物ヲカクト顯ハシ見スル意カト云フ。裾ヲ搴グ　又、愼メ

ル事ヲ見ハシホス。顯ハ、シニクキヨ、顯ハス。古今集、十九、雜別「イツシカト、マタクニ心ヲ はぎにあげて、天ノ河原ヲ、今日ヤワタラム」土佐日記、正月十二日「奈良志津ニコトヅケテ、云云、御館ニ陸門ヲ言へ云フニヲゾ、心ニモアラヌはぎにあげテ見セケル」落窪物語、二「裾ヲ脛にあげテ來ツルニ、タフレテ土ツキタリ」

はぎのつま（名）【萩妻】鹿ハ萩ヲ妻トシテ、訪ヒ寄ルモノナリト言ヒ傳フル語。

はぎのと（名）【萩戶】〔障子ニ萩ヲカキタレバ云フ〕清涼殿ノ夜ノ御殿ニ接シタル一室ノ名。弘徽殿ノ上御局ト藤壺ノ上御局トノ間ニアリテ、モト庭ニモ小萩ヲ植エラレタリト。新續古集、四、秋、上「此秋モ、ナホ立チ慣レテ、萩の戶ノ、花コソ色ノ、カザシナリケレ」夫木抄、十一、萩「コトワリヤ、野原ニソノ名、高カラン、雲ノ上ニモ、萩の戶ノ萩」傾城酒呑童子（享保、近松作）一「御衞、帝ハ萩の戶ノ御階ニ、スゴスゴ下リサセ給ヒ、人ヤアルト召サルレド」

はぎのはな（名）【萩花】〔萩ノ花ニ似タレバ云フ〕次次條ノ語ニ同ジ。和漢三才圖會、百五、造釀「牡丹餅、萩花、保太毛知、農岐乃波奈、云云、所謂牡丹餅及萩花者以形色名之」物類稱呼、四、衣食「牡丹餅、又はぎのはな、又ハおはぎト云フハ、女ノ詞ナリ、云云、今按ニ、ぼた餅トハ牡丹ニ似タルノ名ニシテ、中略ナリトゾ、萩の花ハ其製、煮タル小豆ヲ粒ノママ散ラシカケタルモノナレバ、萩ノ花ノ咲亂レタルガ如シトナリ、ヨッテ名トス」本朝世事談綺（享保、菊岡沾涼）一、飲食「大佛餅、云云、牡丹ノカタチニ似タルヨリ、牡丹餅ト名付、又、萩の花、カイ餅トモイフ」

はぎのはなずり（名）【萩花摺】萩ノ花ヲ布帛ニ摺込ミテ染ムルコト。又、衣ニ萩ノ花ヲ摺リテ染メタルモノ。又、萩ノ花ヲ押シツケ行キテ、摺ラレテ染ミタルモノ。催馬樂、更衣「我ガ衣ハ、野原篠原、はぎのはなずりヤ」萬葉集、十三十四「吾ガ衣、摺レル

ニハアラズ、高圓ノ、野邊行キシカバ、萩ノ摺レルゾ」

はぎのもち（名）【萩餅】粳米ト、糯米ト、交ヘテ炊ギ、粗ク擂リ搗キテ摶メ、餡、又ハ、きなこ（黃粉）ナド塗シタルモノ。一名、萩の花。婦人ノ語ニ、オ、ギ。カイモチ。キタマド。

はきはきと（副）人ノ氣性ニ、辨別ノ甚ダ分明トシテ、敏キ狀ニ云フ語。テキハキト。ハキト。ハッキリト。活潑

はぎはら（名）【萩原】萩ノ生ヒシゲレル原。萬葉集、十四十七「コノゴロノ、アカトキヅユニ、吾ガ宿ノ、秋ノ萩原、色ツキニケリ」古今集、八、離別「スガルナク、秋ノ萩はら、朝立チテ、旅ユク人ヲ、イツトカマタム」

はきふ（名）【波及】餘波ノ及ブコト。次第ニ影響ノ及ブコト。トバシリ。左傳、僖公廿三年「子女玉帛則君有之、羽毛齒革則君地生焉、其波及晉國者、君之餘也」

はきもの（名）【履物】沓、下駄、足駄、草履、ナド、スベテ、足ニ着クベキ物ノ總名。履　名義抄「跐、蹝、ハキモノ、ハケルクツ」蹝、ハキモノ」履、ハキモノ」今昔物語、廿八、第二語「履物共ハ皆車ニ取リ入レテ、三人袖モ出サズシテ乘リヌレバ、心ニクキ女車ニナリヌ」

はきやう（名）【破鏡】〔神異經（漢、東方朔）「昔有夫婦將相別、破鏡各執其半、後其妻與人通、鏡化鵲飛至夫前、後人鑄鏡、背爲鵲形、自此始也」〕夫婦ノ緣ノ斷絕スルニ云フ語。古詩賞析、六、漢詩「何當大刀頭、破鏡飛上天」王昌齡詩「漫道閨中飛破鏡、猶看陌上別行人」洞山語錄「破鏡不重照、落花難上枝」狂女新世帶「破鏡ノ別カレ盡キナクモ」「破鏡ノ歎」

はぎやう（名）【波行】五十音圖ノ第六ノ

行ノ名。即チ、は、ひ、ふ、へ、ほ、ノ行。

はぎやき (名) [萩燒] 長門國、阿武郡、松本村ヨリ産出スル一種ノ陶器。質、緻密ナラザレドモ、淡白黄色ノ釉ヲ用ヰ、茶器ニ、巧ニシテ温雅ナルモノ多シ。毛利輝元ガ朝鮮ノ陶工高麗左衞門ヲ招キ、萩ニテ燒カシメタルニ創マル、國人ハ松本燒ト云フ。 桂林漫録(竈戸、桂川中良)「萩燒茶碗、長州侯ノ領内松本村ト云フ所ニテ製シテ、彼ノ藩中ニテハ松本燒ト稱ス」

はきゃく (名) [破卻] 「破卻ノ卻ハ助字」ヤブルコト。コボツコト。 唐書、羅藝傳「藝拜、實徵後、卻之、常帥、軍」 庭訓往來、六月「破ニ卻城郭、追ニ伐所ニ橋籠ニ之賊徒」

ばきゃく (名) [馬脚] ウマノアシ、 後漢書、班超傳「五抱、超馬脚、不ノ得ノ行一」 馬脚ヲあらはすトハ、ボロヲダス。尻尾ヲ出ス。 元曲、陳州糶米劇「露ニ出馬脚ニ來」

はぎり (名) [齒切] はぎしり(齒軋)ニ同ジ。ハガミ。切齒。 心中天網島(享保、近松作)上「根生腐リノ狐メ、驚イテ一討カ、面駈カカセテ腹イヨカト、齒切キリキリ口惜涙」

はぎれ (名) [齒切] 齒ニテカミタル時ノ感ジ。又、人ノモノイヒノ狀ニ云フ語。

はく (名) [白] シロ。シロキコト。 史記、孔子世家「不ノ日ノ白乎、涅而不ノ緇一」 公孫龍子、白馬論「馬者所ニ以命ノ形也、白者所ニ以命ノ色也」

はく (名) [魄] [左傳、昭公七年「人生始化曰ノ魄、既生ノ魄、陽曰ノ魂」] たましひ(魄靈)ニ同ジ。

はく (名) [伯] (一)爵ノ名。(其條ヲ見ヨ) 公羊傳、隱公五年「王者之後稱ノ公、其餘大國稱ノ侯、小國稱ニ伯子男ニ」 (二)神祇官ノ長官。 倭名抄、五、職名「長官、本朝職員令二云、品以等所 [illegible]、神 [illegible]、

[illegible] 中ノ年長者。 [illegible]、小雅、小[illegible]之什、何人斯 「伯氏吹ノ壎、仲氏吹ノ篪」「伯、仲、叔、季」 (三)兄弟

はく (名) [帛] 「說文「帛、繒也」」 周禮、春官、大宗伯、注「帛、如ニ今璧色繒ニ也」 キヌ。絹布ノ精美ナルモノ。 孟子、梁惠王、上篇「五十者可ニ以衣ニ帛矣」

はく (名) [箔] [薄ノ義] (一)金類ヲ革ニ包ミ、敲キテ、紙ノ如ク薄キ片トシタルモノ。物ニ印シテ飾ル。金箔、銀箔、錫箔、銅箔等アリ、薄。 書言字考節用集、八、器財「箔」 續日本紀、二、承和元年二月「金銀薄[illegible]、用之公私ニ有[illegible]」 [illegible] 、宜[illegible]之」 埃嚢抄、六「[illegible]」 金、銀 [illegible]ナンド云ハ、何ナル金ゾ、云云、聖武天皇、東大寺御建立ノ時、大佛ノ[illegible]ニ求メ給フニ、毛カリニカバ」 (二)[illegible] 其條ヲ見ヨ。 鈞文記(永祿)「繪物ノ小袖、はくノ小袖」

はく (名) [柏] [栢ハ非ナリ、扁柏ハ、ひのき、側柏ハ、このてがしはナリ] (一)カへ。檜ノ類。 (二)かしは(柏)ニ同ジ。

は・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [掃] [羽ヲ活用ス。羽帚ヲ元トス] (一)[掃ヒ除ク、ハラフ、ハタク、掃除ス。 拾遺集、十、春「朝ゴトニ、ワガはく宿ノ、庭ザクラ、花チルホドハ、手モフレデミン」 萬葉集、五 三十二「大トモノ、ミツノ松原、カキはきテ、ワレタチマタム、ハヤカヘリマセ」 同、廿 十五 長歌「チハヤブル、神ヲコトムケ、マツロヘヌ、人ヲモヤハシ、波吉キヨメ、仕ヘマツリテ」 (二)ヌル。塗抹ス。「眉ヲはく」

は・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [吐] [所作ノ聲ニ起ル] (一)口ノ中ノ物ヲ出ス。 倭名抄、[illegible]「[illegible]」 [illegible] 書言字考節用集、[illegible] [illegible]ハク」 宇治拾遺、[illegible] スワラヒテ、[illegible]ニハ、アヲサク立ヲ[illegible]

ナトイヒテ、袖ウチ下シテ、小唄はきテホタリケリ」 (二)胃ノ中ノ物ヲ嘔シモドシ出ス。ヘドツク。タグル。セクル。アゲル。嘔 (三)[illegible] 云云、[illegible]、[illegible] 十、[illegible]トイフ[illegible]」

は・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [佩帶] (一)[スベ、身ニ着ク、[illegible]ニ着ク、[illegible]] [illegible] パサム、[illegible] [illegible]、八[illegible]ク」 [illegible] 下[illegible] [illegible]「古[illegible]」 垂仁紀、八十八年七月「刀子、云云、自佩之」 萬葉集、十二 [illegible]「太刀ヲ佩く」 (二)チフモノヲ、シヌヒカネテム」「[illegible]」 (三)腰ヨリ下部ニ着ク。着ヒ被ノ着ル。 [illegible] 着 [illegible]「[illegible]ノはき[illegible]」

は・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [佩] [佩かせノ約、佩かせ、佩けト云フ類] 佩クヤウニスル。ツクヤウニスル。 萬葉集、十六 [illegible] 長歌 「[illegible]」 同、十四 [illegible] 道ハ、今ノ治道、カリバネニ、足踏マシムナ、石[illegible] [illegible] 古事記、[illegible] 松、アハレ一松、人ニアリセバ、衣着セマシヲ、太刀佩ケマシヲ」 古事記、中(景行)「[illegible]、人ニアリセバ、太刀佩ケマシヲ、衣着セマシヲ」

は・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [illegible] ツ、ツク [illegible] 「高キケイシヲサヘはき捨ヒツレバ、ユユシク高シ」

は・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) [化] [illegible] 作 [illegible] ノニカハル。今、濁リテ、バク。 徒然草、二、三十段「朱雀ノ[illegible]、はけ出ジケルニコソ」

は・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) [流通] [掃くノ自動カ] (一)滯ラズ、流レ行ク。

ハケル。「水はく」 (二)殘ラズ賣リ捌ク

はく [illegible] [illegible] 日はく、筆ふノ筆はくノ類 [illegible] [illegible] [illegible] [illegible] 云ニ矢羽ノ、マシロノ羽ヲ、ヤドニスヱ、カキサグ[illegible] フニ、ホトトギス、イヅヘノ山ヲ、ナキカコユラム」

は・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) [剝] (一)[illegible] シ取ル。ハガス。ヘガス。へグ。ムク。 脱ガス。裸ニス。 宇鑑、[illegible] 宇治拾遺、七、第五條「[illegible]はがバヤト思ヒ、下、廣ニテハイカガス、ベキト思ヒケレ」 神代紀、上「[illegible]」 ニレリ、イホヘ[illegible]レ」 宇津保物語、[illegible] リタマフ朝ハ、[illegible]人ノミ[illegible]ヘ、人ノ衣ヲはぎ取リ、 [illegible] 剝ぐ」 (二)[illegible] シト[illegible]ル。[illegible] 官位ヲ剝ぐ

は・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (自動、下二) [illegible] [端ノ活用] (一)[illegible] [illegible] [illegible] 光[illegible]、[illegible]タル[illegible]、刀[illegible] サドシテ[illegible] ナ[illegible] [illegible] タル六十[illegible] [illegible] 傳ハル[illegible]

は・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) [illegible]

用ノ間ヲツギ合ハス。接グ。着ケ合ハス。綴リ合ハス。「板ヲはぐ」「布ヲはぐ」

は・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）【矧】鳥ノ羽ヲ矢竹ニツケテ、矢ヲ作ル。萬葉集、七、四十「近江ノヤ、八橋ノ小竹ヲ、不造矢テ、マコトアリエムヤ、戀シキモノヲ」

は・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）【矧】塡ム。ツクル。トリツクル。引キ懸ク。書言字考節用集、八、言辭門「注、ツゲル、彎弓懸於弦二」萬葉集、二十、三「引カズシテ、遍作猶ワサヲ、知ルト言ハナクニ」同、二、二「梓弓、弦緒取波気、引ク人ハ、後ノ心ヲ、知ル人ゾ引ク」宇治拾遺、十二、第十九條「鏃ノ長四尺許リナリ、ソノ中ヲ分ケテ行キテ見レバ、マコトニ虎フシタリ、尖矢ヲはけテ、片膝ヲ立テテ居タリ」

ばく（名）【貘獏】（一）支那ニテ、想像ノ獸ノ名。熊ニ似テ、色、黃白。象鼻、犀目、牛尾、虎脚、能ク銅鐵ヲ舐リ食ヒ、其形ヲ畫ケバ邪氣ヲ避クト云ヒ、又能ク惡夢ヲ食フト云フ。故ニ、節分ノ夜ノ寶船ノ帆ニ、獏ノ字ヲ書クト。說文「貘、似ㇾ熊而黃黑色、出二蜀中一」爾雅、釋獸、注「貘、白豹」注「似ㇾ熊小頭、庳脚、黑白駁、能舐二食銅鐵及竹骨一、骨節強直中實少ㇾ髓、皮辟ㇾ濕」白居易、貘屏贊序「貘者、云云、生二南方山澤中一、圖二其形一辟ㇾ邪」瑯琊代醉編、二、儺「伯奇食ㇾ夢、凡使二十二神追二惡凶一」後漢書、禮儀志「莫奇食ㇾ夢」好色一代男（天和、西鶴）「二日節分、厄拂ノ聲、夢チガヒ、ばくノ札、寶船賣」（二）奇蹄類ノ獸。軀ヨリ稍小サク、體肥滿シ、皮膚厚ク、鼻、及、唇ハ長クシテ、屈伸自在ナリ。全身ニ茸毛生ジ、尾ハ短シ。前趾ニ四蹄、後趾ニ三蹄アリ。西印度諸島、及、南亞米利加等ニ產ズ。（三）八丈島ノ風土病。傳染性ニテ、足甚シク腫ル。

ばく（名）【麥】〔遊女ヲ米ト云フニ對ス〕宿屋ノ下女ノ異名。物類稱呼、一、人倫「京大

坂ノ旅人宿ノ下女ヲ、ハスハト云フ、東海道筋ニテ、ヲジャレト云フ、云云、相州小田原邊ニテ、ばくト云フ、遊女ヲコネトイヘバ、米ニ對シタル麥ナリ」

ば・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）【化】古クハ、清音ニテ、ハク。形ヲ變フ。他ノ物ノ形ニ似セテ變ル。バケル。（狐狸ノ妖ナドニ）太平記、十八、高野與二根來一不和事「惡僧等、云云、アナコトゴトシ、如何ナル古狸、古狐ナドモ、妖くる程ナラバ、是レニヤ劣ルベキ」

ばぐ（名）【馬具】乘馬ニ必要ナル鞍、鐙、轡、手綱、押掛、等ノ總名。晉書、桓伊傳「謹奉二輪馬具裝百具、步鎧五百領一」

はくあ（名）【白堊】〔正シクハ音、はくあく〕次次條ヲ見ヨ。

はくあい（名）【博愛】博ク物ヲ愛スルコト。平等ニ衆ヲ愛スルコト。汎愛。韓愈、原道「博愛之謂ㇾ仁」「博愛主義」

はくあく（名）【白堊】（一）白色ノ土。シロツチ。名物六帖、一、地理箋「白堊、シラツチ、山海經、蔥聾之山、其中有二大谷一、多二白黑青黃堊一」三國志、蜀志、諸葛亮傳、注「曾爲二人報ㇾ仇、白堊突ㇾ面、被ㇾ髮而走」（二）白ク塗リタル壁。シラカベ。（三）石灰岩ノ一種。白色ニシテ軟カク、粉狀ヲ呈スル物質。天然ニハ中生層白堊系中ニ多ク產ズ。化學成分ハ、炭酸かるしうむナリ。又、ソノ粉末ヲ固メタルモノ。黑板ニ書畫ヲカクニ用キル。ハクボク。

はくあんて（名）【伯安手】茶碗ノ一種。名器ナリトゾ。下文ヲ見ヨ。三英隨筆「玄治家ニ、曾谷伯安ト云フ外科有リ、家ニ太閤ノ伯安手ト云フ名茶碗持傳タリ、其舍弟長順ト云フハ、本道被二召出一、寶永ノ全盛ノ時、格致論ヲ御前ニ而講釋シタリトテ、一度ニ千石ノ祿ヲ被ㇾ下候、法印被二仰付一」

はくい（名）【白衣】（一）白キ衣服。ビャクエ。禮記、月令篇「仲秋之月、云云、天子、云云、衣二白衣一、服二白玉一」康熙字典「白衣、給二官府一趨走者」（二）官位ナキモノノ稱。後漢書、兩龔傳「聞二之白衣一、謂二君勿一言也」後漢書、鄭均傳「勑賜二尚書祿一、以終二其身一、故時人號爲二白衣尚書一」盛衰記、十一、旋風事「百日ノ中ノ大葬、白衣ノ怪異」

はくいんばうしょう（句）【博引旁證】事ヲ說クニ、本文ノ旁ニ、證據トシテ多クノ例ヲ引キテ解ク。考證ノ該博ナル意。

はくう（名）【白雨】白ク見ユル雨。ニハカアメ。ユフダチ。ムラサメ。李白詩「白雨映二寒山一、森森似二銀竹一」

ばくえう（名）【博奕】〔ばくえきノ音便〕次條ノ語ニ同ジ。雙六。箋註倭名抄、二、雜藝類、百「按、大和物語所ㇾ云波久衣字、即博奕之轉、即謂二雙六一也、故源君謂二雙六一爲二博奕一是也」大和物語、二、上、八十「ばくえう（雙六）ヲシテ、親兄弟ニモ憎マレ」大鏡、六、内大臣道隆「コノ御はくやうハ、ウチタタセ給ヒヌレバ、フタトコロナガラ、ハダカニコシカラマセ給ヒテ、夜半曉マデアソバス」日本永代藏（元祿、西鶴）大津遊戲「柴屋町ヨリ白女呼ビヨセ、客ノ遊興晝夜限ナシ」

ばくえき（名）【博奕】〔說文「博、局也、奕、圍碁也」〕（一）樗蒲、雙六等ノ總名。バクエウ。（二）ばくち（博打）ノ條ヲ見ヨ。論語、陽貨篇「不ㇾ有二博奕者一乎」字類抄「博奕、バクエキ」注「一心、二物、三手、四勢、五力、六論、七盜、八害、謂二之博奕一」薩戒記、抄出「一、博奕二字事、二字ヲワケテ意得ル子細モアリ、但、世俗ニばくちト云、其外ニ別ニ訓之事不二分明一、ヨノツネ云ナラハス所、只博奕トノミ申來候歟」靜軒痴談（寺門靜軒）上「博奕、云云、孟子ニ、博奕シテ父母ノ養ヲカヘリミズ、一ノ不孝ナリト有ガ、タダ養ノミナラズ、親ノ絕命ニモアハヌハ賭博ナリ」

はくか（名）【薄荷】〔胡語ナリト云フ、或

ハ蕃荷ヲ薄荷ニ作ルカ〕（一）又、はか。藥草ノ名。原野ニモアリ、多ク圃ニ植ス。春、舊根ヨリ苗ヲ生ズ。高サ二三尺、莖、方ニシテ、葉ハ對生シ、形、圓クシテ淺キ鋸齒アリ、面ハ深綠ニシテ、背ハ紫ナリ、長ズレバ綠ニ變ジ、長クナル。秋ニ至リテ、高サ二三尺、葉ノ間ニ、節ヲ圍ミテ、碎小花ヲ叢生ス、白クシテ、少シ紫ヲ帶ブ。莖ニ香氣多ク、藥品トシテノ薄荷油ヲ採ル。結晶シテ、色白ク、甚ダ辛シ。一種、姬薄荷アリ、小葉ニシテ、少シ香氣アリ。‖石薄荷　康賴本草、下、十一「薄荷、太宰安良良支」（二）はくかふ（薄荷腦）ノ略。其條ヲ見ヨ。

はくが（名）【博雅】はくしき（博識）ニ同ジ。書言字考節用集、八、言辭門「博雅、ハクガ」孔安國、尚書序「若好二古博雅君子一、與ㇾ我同ㇾ志、亦所ㇾ不ㇾ隱也」北史、崔贍傳「贍、云云、與二其父倰一俱侍ㇾ宴、詩、邢邵等曰、今此詩如何、其父威曰、博雅弘麗、贍氣調清新、並詩人之冠冕」

ばくか（名）【幕下】（一）幕府ノ下。將軍ノヒザモト。韓愈、送二溫處士一序「羅而致二之幕下一」（二）將軍ノ尊稱。（幕府ノ條、見合ハスベシ）百寮訓要鈔別註（天明、大塚嘉樹）七「幕下、幕府、大樹ナドヲ以テ、大將ニ充ルハ非ナリ、各征夷大將軍ニ塞合シテ宜キ唐名ナリ」（三）大將ノ配下ニ屬ク者。ハタモト。書言故事（宋、胡繼宗）「安元獻延二賓客一、一時名士多出二其門一、爲二西京留守一、幕下王拱辰最爲二上客一」杜甫、洗兵馬詩「陽中自有二幕府一、幕下復用張子房」（四）家ノ臣。家來。太閤素生記「松下加兵衞ト云フ小城ノ主アリ、今川家ノ幕下ノ者ナリ」

はくがい（名）【迫害】迫リテ妨害ヲ加フルコト。又、苦メ、シヘタグルコト。

はくかう（名）【薄倖】フシアハセナルコ

ト、不遇、薄命、全唐詩話、宋、杜牧「杜牧不拘細行、故詩有十年一覺揚州夢、博得青樓薄倖名」

はくかうぼく（名）［白膠木］ぬるで（白膠木）ニ同ジ。

はくがく（名）［博學］博ク諸學ニ渉レルコト。學問ノ博キコト。論語、子罕篇「達巷黨人曰、大哉孔子、博學而無所成名」韓山先生行狀「先生之博學、不可得言」

はくかのう（名）［薄荷腦］薄荷ノ葉ヨリ採レル油ヨリ製ス。無色針狀ノ結晶ニシテ、刺戟性ノ香氣アリ、醫藥、及、化學製品ニ用ヰル。略シテ、はくか。

はくがん（名）［白眼］「青眼ニ對ス」ニラミ見ル眼ツキ。シロメヲツカフコト。（心ニ入ラヌ時ナドニ。阮籍ノ故事ヨリ出ヅ）晉書、阮籍傳「籍能爲青白眼、見禮俗之士、以白眼對之」王維、與盧員外象過崔處士興宗林亭詩「科頭箕踞長松下、白眼看他世上人」

はくき（名）［白旗］（一）白色ノ旗。シラハタ。淮南子、時則訓「孟秋之月、天子衣白衣、乘白駱、服白玉、建白旗」（二）今ノ制ハ、軍使ノ標、又ハ、降伏ノ證トシテ立ツル白キ色ノ旗。「白旗ヲカカグ」

はくぎ（名）［薄儀］手薄キ謝禮。心バカリノ謝禮。（謙語）薄謝。薄志。

はぐき（名）［齒莖］古ク、ハジシ。上下ノ顎ノ、齒ノ根ヲ包ム肉。齦 齗 名義抄「齦、ハグキ」書言字考節用集、五、肢體門「齦、ハグキ、ハジシ、匂合、齒根肉也」

はぐき（名）［羽莖］鳥ノ羽ノ生エテヰル根本。羽ノ莖。ハブシ。翮 華嚴經私記音義「翮、[illegible]羽之本也」倭京[illegible]「[illegible]ハ[illegible]ノ上毛[illegible]はぐきノ弱キ、一ラヒヲヤスル」

ばくぎ（名）［駁議］他ヲ排撃スル議論。ひふん（非難）ニ同ジ。獨斷（漢、蔡邕）「凡羣臣上書於天子者有四名、一曰章、二曰奏、三曰表、四曰駁議」

はくきふ（名）［薄給］手薄キ給料。僅カノ俸給。給料ノ少キコト。

はくきん（名）［白金］ぷらちな（白金）ノ條ヲ見ヨ。鉑

はくぎん（名）［白銀］（一）シロガネ。ギン。爾雅、釋器篇「白金謂之銀、其美者謂之鐐」（二）往時、銀ヲ三寸許リニ平タク長ク楕圓形ニ作リテ、紙ニ包メルモノ。（紙ニ少損アレバ、銀座ニテ包ミ改ム）通用銀ノ三分ニ當ル。多クハ、賜與、獻上、贈答ナドノ用トス。單ニ、銀幾枚ナドトモ呼ブ。銀子。貨幣彙考「慶長以來、銀ハ常是包ノ儘通用ス、常是ニテ通用ヲ施ス事、是ヲ始トス、此後、二朱銀、一朱銀、一分銀等、皆常是ニテ通用セリ、銀ヲ包封ノ儘用ル事ハ、[illegible]ハシマシテノ事ナリ、其事、常是ガ[illegible]ニ最タリ」

ばくぎゃく（名）［莫逆］ばくげき（莫逆）ニ同ジ。

ばくぎゃくのとも（名）［莫逆友］ばくげきのとも（莫逆友）ニ同ジ。

はくぎょ（名）［白魚］（一）みおひ（白魚）ノ條ヲ見ヨ。（二）しらうを（白魚）ニ同ジ。（三）衣魚ノ一名。色白クシテ、尾、魚ニ似タリ。[illegible]

はくぎょく（名）［白玉］色ノ白キ玉。禮記、[illegible]

はくぎょくろう（名）［白玉樓］支那ノ李

賀ノ故事ニヨリテ、文人墨客ノ死後ニ赴クト云フ所。天上ノ出典、[illegible]（五城ノ條ヲ見ヨ）[illegible]

はくく（名）［白駒］（一）白キ毛色ノ馬。詩經、小雅、白駒之什、白駒篇「皎皎白駒、食我場苗」（二）[illegible]ヒカゲ。日ノ名。光陰。過ギ行クコトノ速カナルニ喩フル語。莊子、知北遊篇「人生天地之間、若白駒之過郤、忽然而已」

はぐくむ・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）〔羽含むノ意カ〕（一）親鳥、羽交ヲ以テ、雛ヲ被ヒ育ツ。又、羽ノ下ニ、[illegible]。萬葉集、九、二十「タビ人ノ、宿リセム野ニ、霜フラバ、吾ガ子羽裹メ、天ノ鶴群」相摸集「相歌ノ浦ノ、汀ノ田鶴シ、はぐくまバ、雛ノシタネゾ、夜中ナルベキ」（二）ヤシナヒソダツル。（人ニ）ハゴクム。養育 名義抄「育、ハククム、ハククム」金葉集、九、雑、上「アハレマムト、思フ心ハ、ヒロケレド、はぐくむ袖ノ、狭クモアルカナ」散木集、二、子持山、[illegible]フトコロニ、[illegible]花ヲコソ見レ」平家物語、二、座主流事「[illegible]ノはぐくむ志モ深カリキ」源、一、桐壺「イハケナキ人モイカニト、思ヒヤリツツモロトモニ、はぐくまズオボツカナサノ[illegible]」[illegible]「ニ、アラマセバ、羽久久美モチテ、行カマシモノヲ」榮花物語、九、石藏「女ノ宿ニ、はぐくみテ、[illegible]セスヌジト、ミガキツル」皿之集「はぐくみシ、花ノ露居ニ、ナシテヨリ、大空ヲコソ、タノムベラナレ」

はぐくもる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）トシナヒ、[illegible]ナレテ、身ニ死スベシ」

はくけい（名）［伯兄］第一ノ兄。長兄。[illegible]孟子、告子、上篇「郷人長於伯兄一歲」[illegible]

はくけい（名）［白圭］白キタマ。上ノ尖リテ、下ノ[illegible]

はくげき（名）［駁撃］人ノ說ナドヲ非難スルコト。ひふん（非難）ニ同ジ。

はくげき（名）[illegible]

はくげきのとも[illegible]

はくげきはう（名）［迫擊砲］[illegible]之ヲ援助スルタメ、敵兵ノ間近ニ迫リテ發射スルモノ。形ハ火花ノ筒ニ似、主ニ近距離ノ砲撃ニ用ヰル。日露戰役ノ際、我ガ軍、旅順總攻撃ニ使用セシヲ初トナス。

はくげふ（名）[illegible]ヒヤリ、オビヤカスコト。脅迫。[illegible]

はくげんがく（名）［博言學］[illegible]

はくこ (名) [白虎] (一)白キ色ノトラ。[illegible]「乃作竹宮[illegible]白虎[illegible]」(二)びゃくこ(白虎)ニ同ジ。ㄜㄜん(四神)ノ條ヲ見ヨ。禮記、曲禮、上「行前朱鳥而後玄武、左青龍而右白虎」陳子昻、至張掖古城[illegible]白虎[illegible]出、青龍[illegible]」

はくとつ (名) [白骨] サレテ白クナリタル骨。サレカウベ。朗詠集、上「朝有紅顏誇世路、暮爲白骨朽郊原」戰國策、魏策「白骨疑象、武夫類玉、此皆似之而非者也」杜甫、北征詩「夜深經戰場、寒月照白骨」

はくさ (名) [齒臭] 慢性齒齦炎。書言字考節用集、五、肢體門、牙扭、ハクサ」

はくざ (名) [箔座] 箔ヲ造リ、又ハ、ソレヲ取締ル所。元祿九年七月建設、寶永六年三月廢止トナル。貨幣秘錄「元祿九年丙子七月「箔座建、寶永六年己丑三月八日止ム」

はぐさ (名) [莠稂] 〔端草ノ義カ〕水田中ニ生ジテ、稻ノ成長ニ害アル草ノ名。狗尾草(エノコロクサ)ノ類。クサビエ。タノミノ。タノヒエ。孟子、盡心、下篇「惡莠、恐其亂苗也」天治字鏡、十「莠、田乃比江」同、五十九「莠、波久佐」天治字鏡、七「莠、田乃美乃」書言字考節用集、六、生植門「莠(七詩註、害苗之草也)、稂、ハグサ、イヌヒエ、エノコロクサ、エノコグサ」夫木抄、廿二、田「アラシオク、田ノモノはぐさ、茂リツツ、世ノイトナミノ、外ヤ住ミウキ」

はくさい (名) [百濟] 又、ひゃくさい。くだら(百濟)ノ條ヲ見ヨ。

はくさい (名) [舶載] フネニ載セテ運ブコト。又、舶來。杜荀鶴、贈友人赴交趾辟命詩「舶載海奇珍[illegible]女[illegible]身」

はくさい (名) [白菜] (一)たうな(唐菜)ノ異名。本草集解、菘、卽今人呼爲白菜者」

(二)現今ノ白菜モ、たうなノ一種ニシテ、改良セシ結果、莖柄、又ハ、中肋ノ廣狹、厚薄、色ノ濃淡、葉面ノ皺縮、毛茸ノ多少ナド、種種ノ差アリテ、其種類多シ。何レモ漬菜トシテ珍重セラル。

はくざう (名) [白藏] 〔爾雅、釋天篇、注「氣白而收藏」〕秋(七月)ノ異名。運歩色葉集「白藏、ハクサウ、秋名」爾雅、釋天篇「秋爲白藏」「爲收成」

はくさん (名) [博山] 香爐ノ異名。其條ヲ見ヨ。清異錄「宋、陶穀)「吳越孫總監承佑、富傾覇朝、用千金市得石綠一塊、天質嵯峨如山、命匠治爲博山香爐、峯尖上作一暗竅、出煙則聚而且直、一穗凌空、實美觀視、親朋效之、呼不二山」同「博山、香爐也、象海中博山、下盤貯湯、潤氣蒸香、象海中之四環也」

はくざめ (名) [箔鮫] つのざめニ同ジ。

はくし (名) [白紙] (一)色白キ紙。白居易詩「紅箋白紙兩三束、半是君詩半是書」洞天清錄(宋、趙希鵠)「硬白紙、唐人用以寫經、染以黃蘗、取其辟蠹、以其瑩滑、善書者多取作字」(二)文字、書圖ヲカカヌ紙。本朝俚言「嚴下放言云、土人郭中寄妻、誤封一白紙去」(三)唐紙ノ一種。甚ダ薄ク、色、極メテ白キモノ。(四)主義主張ナドナキコト。

はくし (名) [博士] はかせ(博士)ノ條ヲ見ヨ。

はくし (名) [薄志] (一)輕薄ナル意志。「薄志弱行」(二)手薄キ謝儀(謙語)

はくじ (名) [白字] (一)ちゅじ(朱字)ノ條ヲ見ヨ。白文。(二)白色ノ顏料ニテ書キタル字。

ばくし (名) [藐視] 〔藐ハ輕ンズルコト〕輕ンジ視ルコト、蔑視スルコト。孟子、盡心、下篇「說大人則藐之、勿視其巍巍然」

ばくしう (名) [麥秋] 〔[illegible]、[illegible]名、秋、[illegible]、[illegible]萬物就成也」爾雅、[illegible]、[illegible]〕(一)麥ヲ刈リ入ルル時。ムギノアキ。ムギアキ。禮記、月令、[illegible]孟夏之月、云云、靡草死、麥秋至」(二)陰曆四月ノ異稱。サツキ。白居易詩「洛下麥秋月、江南梅雨時」朗詠集、上「五月蟬聲送麥秋」月令章句「[illegible]」「百穀、各以初生爲春、以其熟爲秋、故麥以孟夏爲秋矣」傍廂、後篇「麥秋ト云フハ、四五月ノ頃ナリ、秋ニハアラネド、稻ハ秋ニミノル故ニ、ソレニナズラヘテ、麥ノミノル頃ヲ秋トハ云ヘルナリ」

はくしき (名) [博識] 諸ノ學藝ヲ博ク學ビテ識レルコト。モノシリ。博物。博雅子華子(晉、程本)「陽武子、明審以博識、晉國之俊老也」本朝一人一首(寛文、林恕)七「兼良者、俗所謂一條太閤是也、云云、其博識則置而不論」

はくじつ (名) [白日] ヒルナカ。日中。白晝。三國志、吳志、滕胤傳「胤白日接賓客、夜省文書、或通曉不寐」劉得仁、秋夜宿僧院詩「[illegible]令嫌白日、勸郎與心違」皇甫冉、送陸濬夫延陵「[illegible]友時、坐歎青松晚、行吟白日長」

はくじん (名) [白人] (一)江戸時代ノ語。字ノ音讀。シロウト。素人。寶永六年七月町觸「野郎、子供ハ不及申、白人ニテモ藝致シ候者、一切外(シマノウチ)ヘ參ル間敷ク候」(二)京ノ祇園、大阪ノ島內、新地ナドノ私娼ノ異稱。(公娼タル黑人(シロウト)ニ對ス) 虛實柳巷方言(寛政)「白人トハ白人ト云フコト也、島ノ內、新地ニテノ名物トス」守貞漫稿、十九、娼家、上「島ノ內ノ白人ハ、大阪非官許ノ遊女ノ最上ナリ」燕石雜志、一「寛永以前、歌妓(ハッシン)ヲ舞子ト稱シ、宿ヲ白人(ヨネ)ト稱セリ、後ニハ白人(シロト)ト云ヘリ」天明の川柳「白人ト、江戸モ一日、言ヒタイ日」(吉原八朔ノ白無垢ノ裝)艷道通鑑(享保)「白人呂州(風呂屋女)、茶屋與ヤ御羅女、白人呂衆(風呂屋者)」心中天網島(享保、近松作)中「曾根崎ノ茶屋、紀ノ國屋ノ小春トイフ白人ニ」

(三)黃色人、又ハ、黑色人ナドニ對シテ、白皙人(ハクセキジン)、白色ノ白人、[illegible]卽チ、歐米諸國ノ人。「白人種」

はくじん (名) [白刃] シラハ。ヌキミ。中庸、第九章「白刃可蹈也、中庸不可能也」[illegible]、[illegible]、[illegible]分刀、[illegible]、白刃[illegible]刀折、[illegible]、[illegible]、白刃之[illegible]、[illegible]、白刃北首[illegible]死[illegible]」太平記[illegible]、白刃[illegible]、白刃織斷一陣風」

ばくじん (名) [麥蕈] 植物ノ名。ㄜょう(松露)ノ條ノ(二)ニ同ジ。本草集解「麥蕈、味殊美絕、類蘑菇」

はくじんしゅ (名) [白人種] はくしょくじんしゅ(白色人種)ニ同ジ。

はくしゃ (名) [白砂][白沙] 白色ノ沙。シロスナ。史記、三王世家「白沙在泥、與之皆黑者、土地教化使之然也」杜甫詩「白沙翠竹江村暮」張若虛、春江花月夜詩「空裏流霜不覺飛、江上白沙看不見」高啓、題[illegible]所[illegible]山水圖詩「白沙[illegible]、[illegible]中幾度曾[illegible]」「白沙青松」

はくしゃ (名) [拍車] 騎乘スル人ノ、靴ノ踵ニツクル金具。尖端ニ小サキ齒車アリ。騎乘者、是レヲ以テ馬ノ腹ヲ刺激シテ、進マシムルモノ。

はくしゃ (名) [薄謝] はくぎ(薄儀)ニ同ジ。薄志。

はくじゃ (名) [白蛇] 白キ色ノ蛇。山海經「泰首之山、洛水出焉、其中多[illegible]、其下多白蛇」杜甫、義鶻行「白蛇登其巢、吞噬恣朝餐」

はくじゃう (名) [薄情] 情ノ薄キコト。愛情ノナキコト。人情、義理ヲ一向ニ思ハヌコト。輕薄。雪窓廣錄「欲[illegible]西去雁、寄二[illegible]薄情一看」思出草紙(栗原東隨)九「傾城ノ薄

情、歎キ侮ル事、云云、薄情ノウヘナキウカレ女ニ、身ヲ投ウチテ[illegible]事、[illegible]云フヘシ」

はくじやう (名) 【白狀】 (一)罪人ノ白シタル箇條ヲ記シツケタル狀、クチガキ、口供。自白。[illegible]記、三、[illegible]山[illegible]、云云、サレドモ白狀ニ載セタリトテ、召置カル」 太平記、二、俊基朝臣再關東下向事「今度ノ白狀ドモニ、專ラ陰謀ノ企テ、カノ朝臣ニアリト載セタリケレバ」 (二)轉ジテ、自ラ罪ノ實ヲ白スコト。首伏。[illegible]

はくしやく (名) 【伯爵】 五等爵ノ一。侯爵ノ下ニシテ、子爵ノ上ニ位ス。

はくじやく (名) 【薄弱】 (一)ヨワヨワシキコト。[illegible] (二)タシカナラザルコト。精確ナラザルコト。「論旨薄弱」[illegible]

はくしゆ (名) 【拍手】 掌ヲ打チ鳴ラスコト。テウチ。[illegible] 古今[illegible]時代ヨリ傳來シテ、[illegible]ハデナド云フ事、吉田家ナドニ入門シテ傳授スル事ニナレー、ムカシハ神ニサヽゲラズ、[illegible]ニ、[illegible]其人指揮ヲ打テ、[illegible]ニモアリト見エテ、[illegible]歌ートアレバ、果シテ人ノ[illegible]

はくしゆ (名) 【白首】 シラガアタマ。白頭。[illegible]

はくしゆ (名) 【薄酒】 [illegible]キ酒。[illegible]」同「[illegible]薄酒勝茶湯」(宋人ノ詩ニ言フ)

ばくしゆ (名) 【麥酒】 (一)麥ニテ釀シタル酒。[illegible]以待之」 (二)びいる(麥酒)ニ同ジ。

はくしよ (名) 【薄暑】 夏ノ初ニ、纔ニ催セル暑氣。[illegible]」

はくしよ (感) 〔はあくさめノ約。はあハ感動詞〕 嚔ノ聲。

ばくしよ (名) 【曝書】 藏書ヲ日光ニサラシ、風ヲ當テテ、蟲害ヲ防グコト。書物ノ蟲干。濟北集、一、曝書「課レ童致レ曝書、排布在ニ[illegible]」 四民月令、七月七日「曝ニ經書ニ」

はくしよくじんしゆ (名) 【白色人種】 〔黃色人種ニ對ス〕 人種ノ一。皮膚ノ色、白クシテ、髮軟カニ、額大キク、頸ノ突出ノ少ナキモノ。略シテ、はくじんしゆ。

はく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 【博】 (一)ヒロクス。ヒロム。論語、子罕篇「博レ我以レ文、[illegible]」 (二)取ル。占ム。[illegible]外傳「崇レ恩博レ利」「奇利ヲ博す」「喝采ヲ博す」

ばく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 【縛】 シバル。イマシム。[illegible]

ばく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 【駁】 非ヲ擧グ。[illegible]

はくすい (名) 【白水】 白キ水。又、淸キ水。[illegible]

はくすゐしんじん (名) 【白水眞人】 錢ノ異稱。支那ニテ、王莽ノ時、錢ヲ貨泉ト稱ス。泉ノ字ヲ二分スレバ、白ト水トノ二字トナリ、貨ノ字ヲ二分スレバ、眞人ノ二字トナル故ニ云フ。後漢書、光武帝紀[illegible]故、改レ貨二貨泉一、或以二貨泉字文一爲二白水眞人一」

はくすゐらう (名) 【白水郎】 〔白水ハ支那ノ地名、其地ノ人、善ク水ニ[illegible]物ヲ探ル。其白水ヲ合シテ泉郎トモ記ス。太平廣記「唐周郎、自レ蜀沿レ流、市ニ得一奴、名曰ニ水精、善レ于レ探レ水、乃崑崙白水之屬也」」 アマ。イソトリ。レフシ。海人。[illegible]採ニ赤石海底ニ」 萬葉集、一[illegible]「ウツソミ、ヲミノオホキミ、白水郎ナレヤ、[illegible]」

はくせい (名) 【剝製】 動物ノ[illegible]、防腐劑ヲ施シ、綿ナドヲ詰メテ縫ヒ合ハセ、其生存ノ時ノ如キ形ニ擬シテツクルコト。又、ソノ作レルモノ。

はくぜい (名) 【搏噬】 ツカミツキテ、カムコト。[illegible] (宋、羅願)「虎子生纔三日、[illegible]食牛之氣、其不レ能[illegible]」

はくせき (名) 【白皙】 膚ノ色ノ白キコト。左傳、昭公廿六年「有ニ君子、白皙[illegible]」[illegible]

はくせつかう (名) 【白雪糕】 米、糯米、白砂糖ナドニテ製シタル乾菓子ノ名。[illegible]ノ一種」[illegible]云、江戸ニテモ諸所菓子屋、專ラ是ヲ製ス、[illegible]ノ精美ナルモノ也」

はくせん (名) 【白鮮】 草ノ名。[illegible]

はくせん (名) 【白戰】 (一)はくへいせん(白兵戰)ニ同ジ。 (二)空手ニテ戰フコト。 (三)詩人ノ文才ヲ競フニ、ムヅカシキ題ニ因ミタル語ヲ、其作ラムトスル詩ニ用ヰルコトヲ禁ズルコト。例ヘバ、[illegible]

ばくぜん (副) 【漠然】 廣ク取リ止メナキ意ニ云フ語。バツト。[illegible]

ばくぜん (副) 【驀然】 一散ニ進ム狀。又、急遽ナル狀ニ云フ語。マツシクラニ。直一文字ニ。一散ニ。

ばくぜん (副) 【[illegible]】 [illegible]

はくそ [illegible]

はくた [illegible]

ばくだい (名) 莫大 〔莫レ大レ之ノ義〕 極メテ大ナルコト。最モ夥シキコト。 呂覽、季冬紀、上德「其德莫大乎天地」 孟子、離婁、上「不敬莫大乎是」 同、公孫丑、下篇「不敬莫大焉」 漢書、賈誼傳「況莫大諸侯、權力且十倍此者乎」 莫大、謂無有大於其間者、最大也」 信長物語、四、普請殿箱根御普請事「シンカンノオコルヲケンテウニシテ、結構モ莫大ナリ、耳目ノ及ブ所、毛筆ニ遑アラズ」

ばくだいかい (名) 莫大海 貝ノ酒器。

はくたいげ (名) 白帶下 シラチ。こしけ(腰氣)ノ條ヲ見ヨ。

ばくだいせう (名) 莫大小 〔莫大小ハ、伸縮自在ニシテ、大小莫シノ意〕 めりやす。其條ヲ見ヨ。

〔**はくたく** (名) 餺飥 麪粉ニテ製シタル食物。音便ニ、ハウタウ。 倭名抄、十六ニ飯餅類「餺飥、ハクタク」注「博託二音、麪方切名也」 字類抄「餺飥、博託二音、餅麪方切名也」 枕草子(古本)十一、百五十六段「餺飥、はうたう參ラセムナド、トドムルヲ、イミジウ急ギ歸ル所ニ」 小右記、寛弘二年三月廿二日「餺飥、糯米、粽等」

はくたく (名) 白澤 支那ニテ、想像ノ獸ノ名。(獅子ノ一名トモ云ヒ、或ハ、貘ノ一名トモ云フ)能ク言語シ、又、王者有德ナレバ出ヅト云フ。白澤圖。 山海經「東望山有獸、名曰白澤、能言語、王者有德、明照幽遠則至」 黃帝內傳「帝巡狩東至海、登桓山、於海濱得白澤神獸、能言、達於萬物之情、因問天下鬼神之事、自古及今、精氣爲物、遊魂爲變者、凡萬一千五百二十種、白澤言之、帝令圖寫之、以示天下」 軒轅記「帝于桓山得白澤」

はくたく (副) 剝啄 人ノ足音、又ハ、戶ヲ叩ク音ニ云フ語。ホトホト。 高適詩「豈有白衣來剝啄」 韓愈、剝啄行「剝剝啄啄、有客至門」 輟耕錄(明、陶宗儀)「門無剝啄、松影參差」

はくたくわう (名) 白澤王 (一)はくたく(白澤)ニ同ジ。(二)はくたわうト云ヒテ、古ヘ、清涼殿ノ鬼の間ニ畫カレタル勇士ノ名。 禁祕御抄、上、鬼間「其內、南北行、立御廚子、置御膳具、南壁、白澤王切鬼繪」 源氏烏帽子折(元祿、近松作)一「藤九郎盛長、はくたくわうノ怒ヲナセバ」 夏山雜談、一「白澤王ハ李將軍ナリ、はくた王トヨム、假名讀ニハはかた王ト云フ」

はくだつ (名) 剝脫 ハゲオツルコト。又、ハギオトスコト。 荀子、彊國篇「不剝脫、不砥厲、則不可以斷繩、剝脫之、砥厲之、則劙盤盂、刎牛馬、忽然耳」

はくだつ (名) 剝奪 ハギトルコト。ウバヒトルコト。 元稹、錢貨議狀「黎庶之重困、不在于賦稅之暴、加患在于剝奪之不已」

ばくだん (名) 爆彈 爆發彈。爆烈彈。又、炸藥。(炸ノ字、支那ニハナシ)

はくち (名) 白癡 白痴 不具ノ名。精神、及、身體ノ發育、十分ナラズシテ、尋常ノ人事ヲモ辨別シ得ヌモノ。カラパカ。シレモノ。低能者。 左傳、成公十八年「周子有兄而無慧、不能辨菽麥」注「豆麥殊形易別、故以爲痴者之候、不慧、蓋世所謂白癡」

ばくち (名) 博打 〔說文「博、局也」〕 (一)〔古クハ、博打〕博奕ヲ打ツ人。バクチウチ。博徒 宇津保物語、藤原君卅「ばくちドモノイラヘ、アルマジキ事云フ君タチカナ云云、ココハ童ばくち集リヲリテ、物食フ」 徒然草、百廿六段「ばくちノ負ケキハマリテ、云云、其時ヲ知ルヲヨキばくちト云フト、或人申シキ」 宇治拾遺、九、第八條「ばくちノ子ノ年ノ若キガ、云云」 (二)轉ジテ、博奕ヲ云フ。即チ、盤ト采トヲ用ヰテ勝負ヲ爭フ戲。粗、雙六ノ如シ。錢物ヲ賭ク。コレヲ行フヲ、「打つ」ト云フ。博奕。後世、骨牌ヲ用ヰテ行フニモ云フ。其方法、種種アリ。カリウチ。チョボ。博奕 書言字考節用集、八、言辭門「博戲、バクチ、本朝俚民遊戲、支那所謂意錢之戲、是也」 持統紀、三年十二月「禁斷雙六」 續紀、一(文武)二年七月「禁博戲遊手之徒」

はくちう (名) 白晝 ヒルナカ。マヒル。日中。白日 漢書、賈誼傳「白晝大都之中」 唐書、段秀實傳「白晝盜行」 寄司空圖詩「白晝夢仙島、清晨禮道經」 林逋、春日齋中詩「空階重疊上苔衣、白晝初長社燕歸」 太平記、三三、笠置軍事「馬、物ノ具ヲ捨テテ赤裸ニナリ、白晝ニ京都ヘ逃ゲ上ル、見苦シカリシアリサマナリ」

ばくちうち (名) 博徒 〔博打打ノ義、重言ナリ〕 禁ヲ犯シテ、博奕ヲ打ツヲノミ生業トスル無賴漢。バクト。 東北院職人歌合「九番、はくちうち」 新猿樂記「大君夫、高名博打也」 史記抄(文明)十一、三十八「博徒トハ、ばくちうちノ中ニ隱テイタゾ」 同、十八、四十八「ばくちうちト云テ、アサマシイワルイ事チャゾ」

ばくちく (名) 爆竹 〔昔、竹ヲ燒キテ爆破セシメ、惡魔ヲ祓ヒシ故ニ爆竹ト云フ〕 (一)左義長ニテ燒ク火。トンドノ火。さぎちゃう(左義長)ノ條ヲモ見ヨ。 日本歲時記(貞享、貝原好古)二、正月「爆竹トハ、竹ヲタキテハシラシムル事ナリ」 荊楚歲時記「正月一日、鷄鳴而起、先於庭前爆竹、以辟山臊惡鬼」(山臊ハ惡鬼) 月令廣義(明、馮應京、戴任之)「除夕爆竹、所以震發春陽、除消邪厲」 事文類聚、王荊公詩「爆竹聲中一歲除、春風送暖入屠蘇、千門萬戶曈曈日、總把新桃換舊符」 (二)火藥ヲ以テ、竹ヲ爆破セシムルコト。支那人、祝日ナドニ行フ。

ばくちじる (名) 博打汁 〔采の目ニ起ル〕 瓜、茄子、夕顏、豆腐ナドヲ、小サク四角ニ切リ、コレヲ實トシタル汁。 嬉遊笑覽、十、上「ばくち汁ハ、望一后ノ千句、アツマルハ、同ジばくちノ類ニシテ、瓜ヤナスビヤ、夕顏ノ汁、思フニ、何ニマレ、小サク四角ニ切タルヲ實のめト云フ、コレヲ汁ノミトスルナリ」 柳亭筆記、一、第八條「料理物語ニ、ばくち汁、トウフサイノ目ニキ、事、貞佐獨吟百韻ニ、今ハばくちノ、スタル世ノ中、[illegible]バカリノ、汁ヲコノゴロ、モテナシテ」

はくちゃう (名) 白張 白丁 〔白張ヲ音讀ス、又、白ハ素ナリ、常ノ丁ナリ、正丁ニ同ジ〕 (一)服ノ名。白張ノ布狩衣ナリ。コハリ。 書言字考節用集、六、服食門「白張、ハクチャウ、シラハリ、官人下賤服」 (二)傘持、沓持、口取等ノ仕丁ノ稱。白布ノ白張ヲ着ル。白丁 北史、李敏傳「敏何官、對曰、一白丁耳」 劉禹錫、陋室銘「談笑有鴻儒、往來無白丁」

ばくちやど (名) 博打宿 博徒ヲ隱匿フ家。又、博打ヲ行フタメニ貸ス家。賭窩

はくちゅう (名) 伯仲 (一)兄ト、弟ト。(二)物ノ相似テ、甚シキ差ナキコト。優リ劣リノ間。大差ナキコト。オッツカッツ。 魏文帝、典論「傅毅之於班固、伯仲之間耳」 王羲之、與謝安書「蜀中山水、如峨眉山、夏含霜雹、碑板之所聞、昆崙之伯仲也」

はくでい (名) 白泥 しゅでい(朱泥)ノ條ヲ見ヨ。

はくてう (名) 白鳥 (一)古名、ククヒ。コフ。コヒ。シラトリ。シロトリ。形、雁ヨリ大キク、鵝鳥ニ似タリ、全身白クシテ光ル。頸、甚ダ長ク、喙ノ本、額ニ近ク、赤キ瘤アリ。喙ハ黑褐ニシテ、脚ハ淡黑ナリ、聲大キクシテ、喇叭ヲ吹クガ如シ。脂極メテ多シ。鵠 天鵞 (二)羽毛ノ白キ鳥。 詩經、大雅、文王之什、靈臺篇「麀鹿濯濯、白鳥翯翯、王在靈沼、於牣魚躍」 (三)白磁ノ瓶子ノ口ノ細長

キモノ。 [illegible]之記(大久保主水)「白鳥鍋、云云、小鳥、[illegible]、云云」

バクテリア (名) 〔英語、Bacteria.〕 黴菌ノ一種。生物中、最モ微細ナルモノ。單細胞ヨリ成リ、形狀、生態、種種ニシテ、絲狀、棒形、平板狀、立體狀ナドアリ、肉眼ニテ見ルベカラズ。他物ニ寄生シテ、養分ヲ吸收シ、腐敗セシム。塵芥ト共ニ大氣中ニ飛散シ、地中、水中ニ多ク生存ス。中ニハ、病源トナルモアリ。さいきん(細菌)ノ條ヲモ見ヨ。

ばく-と (名) [博徒] ばくちうち(博徒)ノ條ヲ見ヨ。 史記、信陵君傳「公子聞、趙有處士毛公、藏於博徒」 漢書、爰盎傳「吾聞、劇孟博徒、註「服虔曰、博徒、博戲之徒也」

ばく-と (名) [麥斗] 〔元、麥飯計(バカリ)喰ハセタルヨリ云フ〕 江戸ノ料理屋ノ名。向島ノ秋葉神社邊、武藏屋權三ヲ初トス、〔明和、安永ノ頃〕 後は昔物語「麥斗庵、近キ頃ハ、秋葉ニ庭ヲツクリテ、云云、むさしや權三ハ、初ハ麥飯計ヲ焚テ喰セタリト云フ、長十五六ノ頃ナリ、麥計ト云フ計ヲ、斗ノ字ト心得テ、ばくけいあんトハ云ハズ、ばくとあんト唱タルモ、ヲカシ」

ばく-ど (名) [麥奴] 黑穗病(クロホビヤウ)ト云フ黴菌ニ罹リタル麥ノ黑穗。 陸游詩「雨足年豐少麥奴」

はく-とう (名) [陌頭] マチノホトリ。ミチバタ、道旁。 郭振詩「[illegible]頭楊柳[illegible]、已被[illegible]鳳吹、妾心正斷絕、君懷何得知」 [illegible] 「チマタチマタノ青柳サヘモ、アレ春風ガ吹クワイナ、ワタシガ心ノヤルセナサ、思フ御方ニ知ラセタヤ」(閑多神ノ歌) 高啓、京師苦寒詩「[illegible]頭酒價[illegible]苦貴、一斗三百[illegible]」

はく-とう (名) [白頭] シラガアタマ。白首。 史記、[illegible]傳「諺曰、有白頭如新、傾蓋如故、何則知與不知也」 杜甫、[illegible] [illegible] 日少年今白頭」 朗詠集、下「今日逢、君已白頭」 太平記、[illegible] ンデ、白頭ノ翁ト成リニケリ」

はく-どう (名) [白銅] 白クシテ銀色アル合金。銅百分中ニ、にッける十五以上ヲ加ヘタルモノ。工藝用、貨幣鑄造用ナドトナス。

はくとう-おう (名) [白頭翁] (一)白髮ノ老人。 劉廷芝詩「寄言全盛紅顏子、應憐半死白頭翁、此翁白頭眞可憐、伊昔紅顏美少年」 (二)ムクドリ。 三國志、吳志、諸葛恪傳、注、江表傳曰「[illegible]有白頭鳥集殿前、[illegible]曰、此何鳥也、恪曰、白頭翁也」 (三)おきなぐさ(翁草)ニ同ジ。 李白詩「如何青草裏、亦有白頭翁」

はくとう-こう (名) [白頭公] オキナグサ。其條ヲ見ヨ。

はくとう-てう (名) [白頭鳥] ひよどり(鵯)ニ同ジ。

はく-とく (名) [薄德] 德ノ薄キコト。德ヲ積ムコトノ少キコト。寡德。 左傳、僖公十九年「齊桓公存三亡國、以屬諸侯、義士猶曰、薄德」

はく-ない-しやう (名) [白內障] そこひ(內障眼)ノ條ヲ見ヨ。

ばく-ねう (名) [麥[illegible]] 漢字ノ偏ニアル麥ノ字ノ稱。麰、麸、麪、麭、麹ノ如シ。

はく-ねつ (名) [白熱] 物ノ、ハゲシク熱シテ、白光ヲ放ツ程ニナリタルコト。

はく-の-きぬ (名) [帛] 「帛ノ絹ノ義」 絹布ノ名。白練ノ一種、種種ノ色ニ染メテモ用ヰル、今ノ羽二重ノ類カト云フ、 倭名抄、十二「帛布類、帛、波久乃岐奴、[illegible]也」 [illegible] 書類從本)「帛 中十六領」

はく-の-ごはう (名) [帛御袍] 主上ノ神事ノ御服。純白ノ無文ノ練ノ平絹ノ御袍。 裝束圖式(元祿)「帛御袍、ハクノゴハウ」

ばく-の-なは (名) [[illegible]] 不動尊ノ手ニ持テル繩ノ名。(索ノ條ヲ見ヨ) 平家物語、三、ゆるし文の事「コハキ御物ノ氣ドモ、アマタトリ入リ奉ル、神子、明王ノばくニカケテ、顯アラハレタリ」(ばくハばくのなはノ略) 心中萬年草(近松作)粂之介お梅道行「親御ノ恩、親ト思ヒニ縛ラレテ、[illegible]」

はく-は (名) [白波] 白キ波、[illegible]。しらなみ(白波、第一語)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible] 寺詩「古木[illegible]、遙天浸白波」 [illegible] 頭白波迷宿鷺、一林黃葉送秋蟬」

はく-ば (名) [白馬] シロウマ。アヲウマ。 [illegible] 事「極メテ白馬ナリケレバ、南殿トハ呼ビケリ、コレモ[illegible]」 白馬ノ節會トハ、あをうまの節會。其條ヲ見ヨ。

はく-ばい (名) [白梅] (一)花ノ色白キ梅。(紅梅ナドニ對ス) シラウメ。 [illegible] (二)支那ニテ、梅干ノ稱。霜梅トモ云フ。鹽ヲ帶ビテ白キ故ナラム。 [illegible]

ばく-ばく (副) [漠漠] (一)物ノ盛ンニ起ル狀ニ云フ語。 [illegible] (二)物ノ盛ンニ茂ル狀ニ云フ。 [illegible]

ばく-ばく (副) [漠漠] 遠ク廣カナル狀、又、廣ク大ナル狀ニ云フ語。 [illegible]

ばく-ばく (副) 上下ノ顎ヲ合ハスル音。

はく-はつ (名) [白髮] 白キ毛髮。シラガ。 [illegible]

ばく-はつ (名) [爆發] 火氣、又ハ、他ノ作用ニテ、急激ニ破裂スルコト。

はくば-の-えん (名) [白馬宴] アヲウマノセチヱ。あをうまのせちゑ(白馬節會)ノ條ヲ見ヨ。

はくば-の-せちゑ (名) [白馬節會] [illegible]

はくば-の-そう (名) [白馬奏] アヲウマノソウ。あをうまのせちゑ(白馬節會)ノ條ヲ見ヨ。

はくば-の-ぢん (名) [白馬陣] [illegible]ノ居ル所。あをうまのせちゑ(白馬節會)ノ條ヲ見ヨ。

は[illegible]-はん (名) [[illegible]] [illegible]

ばく-はん (名) 麥飯 米ニ麥ヲ混ヘテ炊ギタル飯。ムギメシ。後漢書、馮異傳、光武對竈燎衣、異復進麥飯菟肩」

は-くひ (名) [ハクイ] にがみ(齒)ニ同ジ。名義抄「齕、ハクヒ、ハガミ」

はく-び (名) 白眉 (一)眉毛ノ白キコト。(二)獨リ衆ニ抽ヅルコト。(下ノ故事ニ因ル) 三國志、蜀志、馬良傳「馬良、字季常、兄弟五人、並有才名、鄉里爲之諺曰、馬氏五常、白眉最良、良眉中有白毛、故以稱之」北史、馬子結傳「子廉子侍之稱、與兄弟六人各有三國時際遇之一篇、醵管諸云、三馬皆白眉者也」

ばく-ひん (名) 幕賓 宰相ナドノ、私ニ聘シテ、祕書官ノ如ク使フ學者。晉書、郗超傳「謝安與王坦之嘗詣溫論事、溫令超帳中臥聽之、風動帳開、安笑曰、郗生可謂入幕之賓矣」

はく-ひょう (名) 薄氷 薄ク張リタル氷。ウスゴホリ。薄氷ヲ履ムガ如シトハ、極メテ危キ意。詩經、小雅、小旻之什、小旻篇「戰戰兢兢、如臨深淵、如履薄氷」范蠡曰「試歩薄氷、猶恐其陷、彼士方履陷後」

はく-ふ (名) 伯父 年最モ長ケタル小父。父ノ兄。又、母ノ兄。世父。釋名(漢、劉熙)「父之兄曰世父、父曰伯父」漢步伯草傳、伯父、ハクフ」注「內臧方」書經、呂刑篇「伯父、伯兄、仲叔、季弟、幼子、童孫、皆聽朕言」

ばく-ふ (名) 幕府 (史記、李牧傳、索隱注「古者出征爲將帥、軍還則罷、理無常處、以幕帝爲府署、故曰幕府」故事(宋、胡寅宗)九「將軍職、在征伐、所在爲治、曰幕府」) (一)將軍ノ居所ノ稱。將軍ノ本營。吾妻鏡、二十、寶治元年正月廿一日、將軍家幕府門方爲此地」同、十一、建久二年六月七日「被建幕府南門」(二)將軍、公方ノ政令ヲ發スル所。武家ノ政

府。朝廷ニ對スル大府。(敬稱)

ばく-ふ (名) 瀑布 (一)布晒シ。(二)瀧。タルミ。品字箋(清、虞德升)瀑、暴也、瀑布者水從山上下、其高數百尺、望之若懸布然也」孫綽、遊天台山賦、赤城霞起以建標、瀑布飛流以界道」朗詠集、下「瀑布之泉波冷、月澄四十尺餘」

はく-ぶつ (名) 博物 (一)博ク事物ヲ知ルコト。モノシリ。博識。博雅。左傳、昭公元年「晉侯聞子產之言曰、博物君子也、重賄之」(二)はくぶつがく(博物學)ノ略。次條ノ語ヲ見ヨ。(三)百般ノ事物。百科。

はく-ぶつ-がく (名) 博物學 理學ノ一部。廣義ニテハ、自然界ノ各種ノ事物ヲ研究スル科學。狹義ニテハ、動物學、植物學、鑛物學、生理學、物理學、化學ナドノ總稱。略シテ、博物。

はく-ぶつ-くゎん [ハクブツカン] (名) 博物館 動植鑛物、天造、人造、古今、中外、百般ノ物ヲ集メテ陳列シ、衆人ノ覽ルニ供フル所。

はく-ふん (名) 白粉 (一)色白キ粉。王維、(詩)「妍嗤無枉、戲贈高人謝過(?)蛾、時半白粉」(二)オシロイ。謠曲、卒都婆小町「桂ノ黛青ウシテ、白粉ヲ絕エサズ」

はく-ぶん (名) 白文 (一)注釋ナドヲ施サズ、本文ノミヲ載セタル漢文。素本。(注釋ナドアルニ對ス) 文會雜記、一、上「周禮、儀禮ノ白文ノ刊行、久シクアリ」(二)句讀、訓點ナドヲ施サヌ漢文。(三)白字。(朱字ノ條ヲ見ヨ) 輟耕錄(明、陶宗儀)三十「白文印、必逼於邊、不可有空、空便不古」

はく-ぶん (名) 博聞 博ク聞キテ物事ノ旨ヲ識リ居ルコト。禮記、曲禮、上篇「博聞強識、而讓、敦善行而不怠、謂之君子」史記、屈原傳「博聞強志、明於治亂、嫻於辭令」「博聞強記」

はく-へい (名) 白兵 (增韻「兵、戎器也」) ヌキミ。シラハ。白刃。

はくへい-せん (名) 白兵戰 (火戰ニ別ツ) 白刃ニテ戰フコト 火花ヲ散シテ、切結ブコト。短兵接戰

はく-へう [ハクヒョウ] (名) 白票 (一)選者、被選者ヲ問ハズ、姓名ノ記載ナキ投票。無記名投票。(二)白色ノ投票。多ク贊成ノ意ヲ表ハスモノ。

はく-べう [ハクビョウ] (名) 白描 細筆ニテヱガキ、彩色ヲ用ヰザル繪畫。シラヱ。スミヱ。圖繪寶鑑「趙孟堅、字子固、善水墨白描」

はくべ-ら (名) 蘩蔞 繁縷 (葉配ノ轉カト云フ) はこべ(蘩蔞)ノ古名。はこべ ら。倭名抄、十七、野菜類「蘩蔞、一名、鷄腸、波久倍良」本草和名、下二九「蘩蔞、一名、鷄腸草、八久倍良」字鏡五十四「蔽、蘩蔞、波久倍良」倭訓栞「はくべら、云云、葉ヲクバリシクノ義ニヤ、今、はこべトイヘリ」

はく-ぼ (名) 薄暮 (廣雅「日將落、曰薄暮」) ユフグレ。クレガタ。タソガレ。陸機、答張士然詩「終朝理文案、薄暮不遑暝」蘇軾、後赤壁賦「今者薄暮、擧網得魚」朗詠集、下「花新開日初陽潤、鳥老歸時薄暮陰」

はく-ぼ (名) 伯母 年最モ長ケタル小母。父ノ姉。又、母ノ姉。晉書、顧衆傳「衆出後伯父早終、事伯母以孝聞」

はく-ぼく (名) 白墨 シロズミ。學校ノ教室ナドニテ、黑板、石板ナドニ物ヲ記ス白キ墨。主ニ、石膏ニテ作リ、筆ノ如クニ用ヰル。チョウク。

はく-ま (名) 白麻 詔書ヲ云フ。唐代、天子ノ內敕ヲカキシルスニ、白色ノ麻紙ヲ用ヰタル故ニ云フ。唐書、百官志「開元二十六年、改翰林供奉、爲學士、凡拜免將相、號令征伐、皆用白麻」白居易、[illegible]白麻紙上書[illegible]「凡赦書、德音、立后、建儲、大誅討、免三公宰相、命將、並用白麻」

はぐ-ま (名) 白熊 支那、西藏ナドニ產ズル犛牛ト云フ獸ノ尾。犛來スル獸ハ牛ニ類シテ、尾、長大ナリ、馬尾ヨリ細ソク、白クシテ光ル。白熊。白旄。又、黑キアリ、黑熊ト云フ。又、染メテ赤キアリ、赤熊ト云フ。紅纓 何レモ、拂子ニ造リ、(纓尾)或ハ、旗、槍、兜ナドノ飾トス。(旄牛) 其兜ノ上ニ飾ルヲ唐ノ首ト云フ。

は-ぐま (名) 鬼督郵 (前條ノ語意ニ同ジ) 草ノ名。幽谷ニ生ズ。一根、一莖、直上スルコト一尺許リ、葉ハ、枇杷ノ葉ニ似テ小サク、鋸齒ナク、背ニ毛ナシ。八九葉、莖ノ頂ニ對生シテ、車輪ノ如シ。中心ヨリ莖ヲ出シ、秋、穗ヲナシテ白花ヲ開ク、蒼朮ノ花ニ似テ、稍小ナリ、長サ七八分、幅一二分、末、開キテ細瓣ヲ布クコト三四分、後ニ架ヲナス。コレヲ車葉ノはぐまト云フ。又、嶽山はぐま、槲葉ノはぐま、楓葉ノはぐまナド、種類多シ。

はく-まい (名) 白米 搗キ精ゲタル米。又、其米質ニヨリテ、上白、下白ナドト云フ。精米 宋書、孝義傳、可子平「月俸得白米、輒貨市粟麥」楊維楨詩「白米紅鹽十萬家、風笙龍管三千指」吾妻鏡、四十二、建長四年三月十九日「米三十石、白米二石」「上白米、下白米」

ばく-まつ (名) 幕末 幕府政治ノ末世。多クハ、德川幕府ニ就キテ云フ。

は-ぐん-せい (名) 破軍星 北斗ノ第七ノ

星ナル搖光ノ一名。又、斗柄(トヘイ)トモ云ヒ、劍ノ形ヲ圖シテ、破軍ノ劍先(ケンサキ)ナド云フ。每月、運轉シ、十二時ニ隨ヒ、其處ヲ變フ。陰陽家ニテ、コノ指セル方ヲ、萬事ニ利アラズトス、(北斗、拝ニ、建(ヤマト)スノ條、見合ハスベシ) 隋書[illegible]五行大義「[illegible]斗圖「一名貪狼、二名巨門、三名祿存、四名文曲、五名廉貞、六名武曲、七名破軍、又、金[illegible]作斗、屋[illegible]破軍星こ」

はくめい (名) 〔薄命〕 運命ノ惡キコト。フシアハセ。不運。 漢書、外戚傳「奈何[illegible]薄命、端遇競爭前こ」蘇軾詩「自古佳人多薄命こ」

はくめん (名) 〔白面〕 (一)白キカホ。又、スガホ。(二)色ノ生白(ナマジロ)キ顏、年若ク經驗乏シキコトニ云フ。 杜甫詩「馬上[illegible]家白面郎、臨階下馬坐人床こ」「白面ノ書生」

はくめん-の-しょせい (名) 〔白面書生〕 前條ノ(二)ニ同ジ。 宋書、沈慶之傳「陛下今欲伐國、而與白面書生輩謀之、事何由濟」

はくもくれん (名) 〔白木蓮〕 辛夷(コブシ)ノ一種。高サ、二三丈ニ達シ、仲春、花ヲ開ク、形、辛夷ノ花ヨリ大キク、木蓮ノ花ニ似テ、白クシテ淡綠ヲ帶ビ、香氣多シ、花落チテ葉ヲ生ズ。玉蘭。

ばくもんどう (名) 〔麥門冬〕 古名、ヤマスゲ。草ノ名。人家ニテ多ク簷滴(アマダリ)ノ處ナドニ植ウ。葉、細ソクシテ、長サ一尺餘、一根ニ叢生シ、冬枯レズ。夏、葉ヲ出スコト四五寸、細小ノ六瓣花、長穗ヲ成ス、淺紫色ナリ。實ハなんてん(南天燭)ノ如ク、熟スレバ碧色ニシテ、春ニ至リテ尙アリ。リュウノヒゲ。ジョウガヒゲ。又、大葉ノモノハ、長サ一二尺、花莖モ一尺餘、實黑シ、一名、ヤブラン。

二種共ニ、根ハ、連珠ヲナシテ、鬚アリ、藥品トス。

はくや (名) 〔箔屋〕 金銀箔ヲ打チ作ル工人。又、ソノ家。

ばくや (名) 〔鏌鋣〕 (一)名劍ノ名。かんしゃうばくや(干將鏌鋣)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]普通入[illegible](止[illegible]、近松作)「[illegible]鏌耶ノ劍、黃金ヲ[illegible]」 (二)轉ジテ、刀劍鍛冶ノ稱。 曾我物語、八、「[illegible]コノ太刀ト申スハ、昔、[illegible]光ノ御時、大國ヨリブアク大夫ト云フ鏌鋣ヲ召シ、[illegible]二作ラセ、一カ月ニ磨カセ、二尺八寸ニ打出ダス」

はくやう (名) 〔白楊〕 ハコヤナギ。其條ヲ見ヨ。 常建詩「[illegible]人[illegible]白楊樹」古今注「白楊葉圓、青楊葉長」

ばくやう (名) 〔博奕〕 〔奕、羊益切、其呉音、やくノ音便〕 カリウチ。博打(バクチ)。 大和物語、上「ばくやうヲシテ、[illegible]ニモ[illegible]レケレド、バイ[illegible]云、夜半曉マデ遊バス、云云、イミジキ御カケ物ドモコソ侍リケレ」

はくらい (名) 〔舶來〕 外國ヨリ船ニテ渡シ來ルコト。又、ソノモノ。外來。

はくらう (名) 〔伯勞〕 もず(百舌)ニ同ジ。

ばくらう (名) 〔博勞〕〔馬喰〕 〔支那ノ古ノ馬ノ相者ニ、伯樂アリ、其伯樂ノ音便〕 (一)馬ヲ賣買スルヲ業トスル者ノ稱。[illegible] (二)馬喰ハ、能ク他ノ馬ト己レノ馬トヲ交換スル故、轉ジテ、物ト物トヲ取換フルコトニ云フ。

はぐらか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) (一)ハグルルヤウニス。[illegible] (二)ゴマカス。言ヒマギラハス。[illegible]「[illegible]上才前、オイラヲ乙ニはぐらかすノ」

はくらく (名) 〔伯樂〕 〔モト天馬ヲ守ル星ノ名〕 (一)善ク馬ヲ相スル人。[illegible] (二)馬ノ病ヲ療スル者。ウマクスシ。ウマイシャ。 (三)前條ノ(二)ヲ見ヨ。

はくらく (名) 〔剝落〕 ハゲオツルコト。ハガレオツルコト。 李[illegible]、石賦「[illegible]」

はくらん (名) 〔博覽〕 博ク諸書ヲ覽ルコト。[illegible]

はくらんくゎい (名) 〔博覽會〕 博ク、學術、農、工、商等ノ物ヲ[illegible]人ニ[illegible]シムル會。[illegible]

はくり (名) 〔薄利〕 少シバカリノ利益。 宋[illegible]「[illegible]」「薄利多賣」

ばくり (名) 〔[illegible]〕 [illegible] 又ハ、公方ノ臣。[illegible]

ばくり (副) 煙草ヲ吸フトキナドニスル[illegible]

ばくりばくりと (副) 煙草ナドヲ喫ム狀ニ云フ語。 [illegible]

ばくりふしゅ (名) 〔麥粒腫〕 眼瞼(マブタ)ニ生ズル一種ノ小サキ腫物。眼ノ病。[illegible]

はくりう (名) 〔白龍〕 [illegible]

はぐ・る [illegible]

はぐ・る・ルル・ルレ・レ・レヨ (自動、下二) 同行ノ人ニ離レテ、[illegible]ヲ失フ。ハグレル。[illegible]

はぐるま (名) 〔羽車〕 內侍所、御遷幸ノ時ニ、[illegible]。あまのはぐるま(天羽車)トモ云フ。[illegible]

はぐるま (名) 〔齒車〕 輪ノ周リニ刻ミノアル車。[illegible]

はぐれ [illegible]

はくれい [illegible]

はくれう (名) [illegible]

ニ從事スル將校。

ばくれつ (名) 【爆裂】 ハゼワルルコト。火藥ナド破裂スルコト

ばくれん (名) 【莫連】 (一)女ノ、スレッカラシナルモノ。オテンバ。ハスハ。アバズレ。オキャン。デンバウハダ。キンピラムスメ。(二)妓女ナドノ、人ノワルキモノ。(度度、くらがヘスル意ヨリ、馬喰ノ轉カト云フ)

❖ばぐれる (動) 【逸】 はぐる(逸)ノ口語。

はくろ (名) 【白露】 (一)シラツユ。詩經、秦風、蒹葭篇「蒹葭蒼蒼、白露爲ㇾ霜」 蘇軾、前赤壁賦「白露横ㇾ江、水光接ㇾ天」 朗詠集、上「烟開ニ翠扇一清風曉、水泛ニ紅衣一白露秋」 (二)二十四氣ノ一。其條ヲ見ヨ。孝經緯、處暑後十五日、斗指ㇾ庚、爲ニ白露一」

はぐろ (名) 【齒黑】 はぐろめ(齒黑)ニ同ジ。ハグロミ。ハゴネ。オハグロ。易林節用集(慶長)上、人倫門「齒黑、ハグロ」 女重寶記(元祿)「濃キニアカヌハ齒ぐろナリ」 北條五代記、五、關東昔侍形裝異樣事「昔、關東、敵ミカタ合戰シ、首ジッケンノ時、はぐろノ首ヲバ侍ノ首トテ先上ヘ懸タリ、故ニ戰場ヘ出ルニハ、討死ヲ心ガケ、楊枝ヲツカヒ、はぐろヲモッパラトセリ」

ばくろ (名) 【暴露】 〔暴ハさらす、露ハあらはナル義〕 (一)アラハスコト。サラケダスコト。ムキダシ。白居易、修ニ香山寺一記、「佛像暴露、佛寺暴露」 (二)惡計、陰謀等ノ現ハルルコト。(三)風雨ニサラサルルコト。史記、項羽紀「代ㇾ秦、然身披ㇾ堅執ㇾ銳首ㇾ事、暴ニ露於野一三年、滅ㇾ秦」

はくろく (名) 【博陸】 〔漢書、霍光傳「光爲ニ博陸侯一」〕 又、はくりく。關白ノ唐名。博陸侯。運歩色葉集「關白、注、唐名、殿下、博陸、執柄」 盛衰記、三十、木曾山門牒狀事「遣ニ博陸之亂所於赤夏西東一」

はくろく (名) 【薄祿】 俸祿ノ少キコト。少祿。微祿。劉長卿詩「辛勤ニ薄祿一」

はくろくこう (名) 【博陸侯】 前前條ノ語ニ同ジ。漢書、霍光傳「遺詔、云云、光爲ニ博陸侯一」 拾芥抄、中、本「關白」注「博陸殿下、博陸侯」

はぐろみ (名) 【齒黑】 〔はぐろめノ轉〕 次次條ノ語ニ同ジ。建内記、永享二年十二月「予女九歲有ニ祝着事一、齒久呂美三筆、予付ニ初之一」

ばくろん (名) 【駁論】 他人ノ論説ヲ駁スルコト。又、ソノ駁シタル議論。晉書、杜錫傳「屢博聞廣渉、奏議駁論、多見ニ施用一」

〔はぐろめ (名) 【齒黑】 鐵ヲ酒ニ浸シテ作レル液。昔、婦人、又ハ、搢紳家ノ、齒ヲ黑ク染ムル用トス。(近世ノ俗、婦人、婚禮シテ始メテ染ム。然レドモ今ハ一般ニ廢セラル) 其時ハ祝儀アリキ。ハグロ。ハグロミ。ハゴネ。オハグロ。カネ。【鐵漿】 倭名抄、十四ニ容飾具「黑齒、波久路女」 榮花物語、十九、御裳着「はぐろめ黑ラカニツケテ、紅赤ウ化粧セサセテ」 紫式部日記「ツゴモリノ夜、(寛弘五年十二月)ツヰナハ、イトトクハテヌレバ、はぐろめツケナド、ハカナキツクロヒドモストテ」 堤中納言物語、むしめづる姫君「ロツキモ愛敬ヅキテ清ゲナレド、はぐろめツケネバ、イトヨヅカズ」

はくゎ (名) 【破瓜】 〔瓜ノ字ヲ二ツニ析レバ、八ノ字、二箇トナル、コレヲ合ハスレバ十六ナリ〕 (一)女子、十六歲ノ稱。ミヅアゲ。上頭。うりたつ(破瓜)ヲモ見ヨ。輟耕錄、十四「今世、女之笄曰ニ上頭一、而倡家處女、初得ㇾ薦ニ寢於ㇾ人、亦曰ニ破瓜一」 陸放翁詩「碧玉當年未ニ破瓜一、學ニ得舞一入ニ侯家一」 (二)〔瓜ノ字ヲ二分スレバ、八八ノ字、二箇トナル、コレヲ乘ズレバ、六十四ナリ〕 六十四歲ノ稱。談苑、宋、孔平仲「呂仙翁有ㇾ詩、與ニ張洎一言、功成當ㇾ在ニ破瓜年一」(洎ノ年、六十四ナルヲ指ス)

はくゎい (名) 【破壞】 ヤブルコト。コハスコト。ハヱ。史記、匈奴傳「匈奴大入ニ定襄雲中一、云云、行破ニ壞光祿所ㇾ築城列亭鄣一」

はくゎい (名) 【破潰】 ヤブレツヒユルコト。又、ヤブリクヅスコト。三國志、魏志、武帝紀、注「遂大破潰」

〔はくわかう (名) 【百和香】 薰物ノ名。五月五日ニ、百草ヲ取リ合ハスル香ナリト云フ。ヒャクワカウ。武帝内傳「七月七日、燔ニ百和之香一」 杜甫詩「雷聲忽送千峯雨、花氣渾如ニ百和香一」 倭名抄、十二ニ香名類「百和香」 古今集、十、物名、百和香「花毎ニ、飽カズ散ラシシ、風ナレバ、イクソばくわが、うシトカヤオモフ」 後拾遺集、十、哀傷「百和香ヲチヒサキ籠ニ入レテ、云云、法ノタメ、摘ミケル花ヲ、數數ニ、今ハ此世ノ、カタミトゾ思フ」 經信卿母家集「百和香アツメテウタヨマスルニ、云云、花ノ咲ク、野邊ヲゾ今日モ、アツメツル、コレヤ佛ノ、ツクリナルラム」

はくゑん (名) 【白猿】 老イタル猿ノ、毛ノ白クナレルモノト云フ。梁書、海南、林邑國傳「天監九年、云云、奉ㇾ獻ニ白猿一」(猿、一本作ㇾ猴)

はけ (名) 【流通】 (一)ハクルコト。水ノ滯ラズ流ルルコト。(二)商品ノ賣ラレ行クコト。ウレユキ。サバケ。

はけ (名) 【刷毛】 〔刷毛ノ略カト云フ〕 (一)〔獸ノ毛ナドヲ束ネテ、其端、婆娑タルモノ。〕 糊、漆、塗料ナドヲ物ニ塗リ、又ハ、塵埃ナドヲ拂フニ用キル。又、繪ヲカクニ用キルアリ、コレヲ繪刷毛ト云フ。ブラシ。【刷子】 倭名抄、十五七膠漆具「鬃筆、波介、以ㇾ漆塗ㇾ物也」 同、同ニ鞍馬具「馬與、于麻波太氣」 運歩色葉集「刷子、髮筆、ハケ」 (二)結髮ノ髻ノ髮先。ハケサキ。(髻ノ條ヲ見ヨ) 常磐友後集(松島庄五郎)助六「松ノはけサキ、スキビタヒ」

はげ (名) 【剝】 (一)剝ゲ離レタルコト。剝落「漆ノはげ」 (二)髮ノ脫ケテ禿ゲタル痕。ハゲチョロ。ハゲッチョ。禿

はげ (動) 【禿】 〔はぐ(剝)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕 禿ゲラカス。禿ゲルヤウニナス。

❖ばけ (名) 【化】 化クルコト。化ケテアルコト。又、アザムキ。ダマシ。宇治拾遺、八、第六條「眞アリケレバ、狸ヲ射害シ、ツヒニばけヲアラハシケルナリ」「ばけガアラハル」 ばけの皮トハ、僞ヲ掩ヒテアルコト。

〔ばけ (名) 【術】 スベ。ミチ。テダテ。皇極紀、四年四月「皺作得志、以ニ虎爲ㇾ友、學ニ取其術一」 天武紀、下、九年十一月「若有ト利ニ國家一、寬ニ百姓一之術上者、詣ㇾ闕親申」

はげあたま (名) 【禿頭】 毛頭ノ脫ケ落チタル頭。又、ソノ頭ノ人。キンカンアタマ。キンカップリ。ヤクヮンアタマ。トクトウ。(靜岡縣ニテ、てっかり) 好色二代男(貞享、西鶴)四「許嫁シテ、年タケテ、娘ハ思ヒノ外、美形ニ育チ、男ハ兀げ天窓ニナルモ、末ハ見ヌコトナリ」

はげいとう (名) 【葉鷄頭】 一名、日日花。草ノ名。けいとうノ類。葉ノ色ヲ愛スルモノ。數種アリ。莖ノ高サ三四尺、乃至五六尺、葉ハ長楕圓形ニシテ尖鋭、長キ葉柄ヲ有ス。其中、脚葉ノ色、紫ニシテ、秋ニ至リ、頂ニ深紅色ノ葉ヲ出スモノアリ。【雁來紅】 又、脚葉ハ綠ニシテ、秋、頂ニ黃ナル葉ヲ出スモノアリ。一名、黃雁來。【雁來黃】 重修本草綱目啓蒙、十、隰草類「雁來紅、ハゲイトウ」 俳諧新選「ソノ種モ、染メテコボスカ、葉鷄頭」

はけきてん (名) [巴戟天] 多年生草ノ名。ヤマヒヒラギ。

〜はげ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [烈風] (早氣(ハヤケ)しノ意) 動作、急ナリ。強ク疾シ。勢スルドシ。嚴(キビ)シクアラシ。 新古今集、六、冬「イツノ間ニ、ソラノケシキノ、カハルラン、はげしきケサノ、木ガラシノ風」源、五十、浮舟三十四「雪催ニフリミダレ、風ナドはげしけれバ、御アソビトクヤミヌ」俊頼集「ウカリケル、人ヲハツセノ、山オロシ、はげしかれトハ、イノラヌモノヲ」

はげしやうぐさ (名) [半夏生草] かたしろぐさ(片白草)ニ同ジ。

はげちょろ (名) [禿] トコロドコロ禿ゲテ、見ニクキ状ニ云フ語。

バケツ (名) [英語、Bucket.ノ轉訛] 亞鉛、銅、鐵、ナドニテ製シタル桶。鉉アリテ提グベシ。

はげっちょ (名) [禿] 「禿所(ハゲショ)ノ急呼」 ハゲチョロ。はげ(剥)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 浮世床(文化、三馬)初編、上「ソンナ頭ノ一ツヤ二ツ、出來合ニ幾ツモアラア、カカアタバネニ、禿(ハゲ)っちょヲ付ケテ三十八文、ベラボウ奴、御誂向キノ天窗(アタマ)ダ」

はげふ (名) [霸業] 諸侯ノはたがしらトナル事業。霸者ノ事業。 史記、[illegible]「[illegible]公初立、欲[illegible]霸業二」宗實、諸葛孔明贊「三略已興、霸業已基」「徳川氏ノ霸業」

〜はげま・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [勵] (一)勵ムヤウニナス。勇マシム。 源、廿四、胡蝶「コノ、音マツ風ハトはげまし聞エ給ヘリシ」 (二)一層ハゲシクスル。 源、廿二、玉鬘「イトカナシクテカクレ給ヒニシヲ、ソノカハリニ、イカウニ仕ウ奉(マツ)ルベクナン、志ヲはげましテ」

はげみ (名) [勵] ハゲムコト。精ヲ出スコト。出精。勉強。努力。奮勵。 [illegible]業平河内通「[illegible]」「弓手、馬手ヨリトラヒカカルヲ、ネメ伏セネメ伏セ、[illegible]、惡虎ノはげみヲナシ、逃サヌヤラヌト爾ガヨリ」

はけん (名) [派遣] 手分ケシテ、送リ遣ルコト。又、出張セシムルコト。差遣。

はけん (名) [霸權] 霸頭タル權。霸者ノ權力。「東洋ノ霸權ヲ握ル」

はげ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [勵] (烈しニ通ズ) 氣力ヲ勵シクナス。心ヲ奮ヒ起ス。勇ミナス。 山家集、「ヤドゴトニ、サビシカラジト、はげむベシ、烟コメタル、小野ノ山里」 徒然草、百五十一段「アル人ノ曰ク、年五十ニナルマデ、上手ニイタラザラン藝ヲバスツベキナリ、はげみナラフベキ行末モナシ」

はげ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) [勵] ハゲムヤウニナス。イサマシクスル。コトヲツトムル。骨ヲヲル。 夫木抄、十三、秋「秋立ツト、思フ空ニモ、タダナラデ、ワレテ光ヲ、はげむ三日月」 [illegible]集、六、[illegible]、其ノ年[illegible]ノ[illegible]ニアリケレバ、トカク[illegible]はげめトモ、カナハズ」

ばけんじょ (名) [馬見所] 馬場ノ傍ニアリテ、競馬、又ハ、馬術ノ練習ヲ觀ル所。

はけめ (名) [刷毛目] 刷毛ニテ物ヲ塗リツケタル痕(アト)。高麗燒ノ陶器ニ、刷毛ニテ掃ヒタル如キ痕アルモノ。又、紙ノ漉模樣、茶碗、茶釜ナドノ製作ノ肌ナドニ、其象アルニモ云フ。刷痕

ばけもの (名) [化物] 狐、狸ナドノ、化(バ)ケテ怪シキ姿ヲ成セリト云フモノ。[illegible]ル鬼。モノノケ。オバケ。妖怪。變化。妖物。 [illegible]著聞集、十七、變化「宏宴ニ火モエツキテ、既ニ[illegible]スベカリケルガ、カラクシテ[illegible]ハカリハ生キタリケリ、化物ノシワザニコソ[illegible]」「[illegible]ばけ物ノ[illegible]ヨリオソロシキ物コソアレト云ヘバ、カノばけ物ノ曰ク、イクナル物ゾ、[illegible]」[illegible]廿三、大森彦七事「[illegible]」[illegible]モ不、來トゾ聞エル、云云、ト申シケレバ」

ばけものばなし (名) [化物話] 化物ノアリシト云フ事ノ話。怪談。鬼話。

はげやま (名) [禿山] 木ノ生エヌ山。又、草木ノナキ山。 [illegible]「[illegible]禿山(ハゲヤマ)[illegible]」

✣ば・ける (動) [流通] はく(流通)ノ口語。

✣ば・ける (動) [捌] さばく(捌)ノ口語。(其儘原ヲ見ヨ)

✣は・げる (動) [剝] 剝ぐ(下二段)ノ口語。

✣ば・ける (動) [化] ばく(化)ノ口語。

はこ (名) [箱・匣・筥] (箱箱ノ約ト云フ) (一)物ヲ納レテ方[illegible]、大小ノ器ノ總名。竹、木、紙[illegible]ニ云ヒ、[illegible]ト云ヒ、後、蓋アルヲ、專ラはことト云フ。(古ヘ、蓋ナキヲさトト云フ)木造ナルニ云フ。 [illegible]「蔵、箱、渡古」源、十七、繪合「左ハ紫檀ノ箱ニ[illegible]」 (二)大便スルコト [illegible] 宇治拾遺、五、第七話、[illegible]取リテ捨テタルナリ」[illegible]はこスベカラズト書キタレバ、云云、三日三日マデハ念ジ居タルホドニ、火方燃フベキヤウモナケレバ[illegible] 樋箱ノ略。 [illegible] (五)三味線ヲ容ルル箱ノ略。轉ジテ、藝者。 [illegible]日記、ツバクサニ、ツイテハヒルヤ、箱マハシ」「箱ガ入ラヌ」 (六)車の箱ト[illegible]

はこ (名) [筥] (一)側ニ置キテ[illegible]ヲ受ケ[illegible]

[illegible]

ばこ (名) [網] (古言、はか(網)ノ轉) (一)蘆、竹、網、ナドニ、鵙ヲ付ケ、鳥ヲ捕ル具。 [illegible] (二)負債[illegible]

はこ (名) [羽子] [illegible]鳥ノ小羽ヲ[illegible] 羽子板[illegible]

はごいた (名) [羽子板] [illegible]

はこいり (名) [箱入] 箱ニ入レテアル[illegible]

ト。又、大切ニスルコト。　吉野忠信(寶永、近松作)三「ククドクハ上上、箱入リノ心中、二ツ心ノナキコトハ、中サノトアセ[illegible]箱ニ、御閣ヒカシクノ散ラシ書キ」

はこいりむすめ (名) [箱入娘] 深窓ニ養ヒカシヅク娘。大切ナル娘。祕藏娘。　小[illegible](寛政、鈴木忠俠)、「今俗間ニ、深窓ニ養ヒカシヅク娘ヲ箱入むすめト云フハ、竹取物語ニ、云云、今ノ世ニ箱入娘ト云フ、是レ也」

はこう (名) [八講] ほっけはっこうゑ(法華八講會)ノ條ヲ見ヨ。　源、十、榊三十九「十二月十日バカリ、中宮ノ御はこうナリ、イミジウ尊シ」　今昔物語、十四、第十一語「御堂ノ御講ニ、其寺ニシテ、八講ヲ始メ行フ、法花經ヲ講ゼムトス」

はこき (名) [白楊樹] 〔枝ニテ筐(ハコ)ヲ作ルベケレバ名トス〕 はこやなぎ(筐柳)ニ同ジ。　本草和名、下、「白楊樹、也奈岐、一名、波古岐」　康賴本草、上中、「白楊樹、波己支」

はごく (名) [破獄] 獄ヲ破リテ逃ルルコト。ラウヤブリ。破牢。　南齋書、桓康傳「奴四十餘人、相結破郡獄、出世祖」

はごくむ・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [育] 〔はぐくむノ轉〕 ソダツル。　爲忠集「何事モ、思ヒ忘ルル、春來レバ、鶴ヲ花ニ、はごくまレメル」　平治物語、一、六波羅より紀州へ早馬を被立事「カヒコゾヨ、歸リ果テナバ、飛ビ翔リ、はごくみ立テヨ、大鳥ノ神」　伽羅先代萩(天明、松貫四等合作)六「子ハ孝行ニ面痩セテ、はごくみカヘス烏羽玉ノ、涙ヲカクスウナヰ髮、カツレバマグニ徹ニナル」

はこぐるま (名) [箱車][筥車] 床(トコ)、即チ、屋形ノアル牛車。　後松日記(天保、松岡行義)十「深草少將、小町ノ家ニカヨヒ候時乘候ハ、則チ網代ノ箱車ニテ相當ニ御座候」

はこし (名) [箱師] 〔箱ハ、列車ノ箱車ノ意〕 汽車ノ中ニテ、人ノ金品ナドヲ盜ミトルモノ。

はこし (名) [破故紙][補骨脂] 草ノ名。高サ三四尺、葉ハ胡麻ノ葉ニ似テ短ク、夏秋ノ交、葉間ニ、一寸許リノ穗ヲ出シテ花ヲ開ク、形、萩ノ花ノ如ク、淺紫色、後ニ圓キ小實ヲ結ブ、大キサ一分餘、熟スレバ、外皮黑ク、內ニ子アリ、形、圓扁ニシテ、いちび(莔麻)ニ似タリ、味、少シ腥クシテ、香氣アリ。一名、オランダビユ。

はごし (名) [葉越] 葉ノ間ヲ越スコト。又、樹ノ葉ノ隙ヨリ、物ノ透キテ見ユルコト。　玉葉集、六、冬「浦松ノ、葉ごしニオツル、月影ニ、千鳥妻トフ、須磨ノアケボノ」　猿蓑集「合歡ノ木ノ、はごしモ厭ヘ、星ノ影」　外記節、猿「松ノ葉ごしノ月見レバ、シバシ曇リテ又サユル」　淸元、深山櫻及兼樹振(保名)「葉ごしノ、葉ごしノ幕ノ內、ムカシ戀シキオモカゲヤ」

はこせこ (名) [筥迫] 〔匣挾子カト云フ〕 武家ノ婦人ノ用キシ鼻紙入。後ニハ、若キ婦女子ノ懷中ニ插ミ持ツ紙入。昔ハ實用品ナリシガ、今ハ專ラ裝飾ノタメニ懷中ス。　嬉遊笑覽、二、中「武家ノ女ノ用ユルはこせこト云フモノ、昔ノ紙入ナリ、其頃ハ男女共ニ此形ノ紙入ナリ」

はごたへ (ハーゴタエ) (名) [齒應] 固クシテ、嚙ムニ應ヘノアルコト。

はこぢやうちん (ハコ・ジヨウチン) (名) [箱提燈] 提燈ノ一種。形、大キクシテ、上下ニ、圓ク平タキ蓋(オホヒ)ヲ添ヘ、全體ヲ疊ミ込ムヤウニシタルモノ。　骨董集、上編、中、挑燈「水鳥記(寬文七年印本)ノ圖ニ、棒ノナキ箱挑灯アリ、云云、當時ハ箱挑灯ヲ、モハラ用ヒタルベシ」　俳諧夜錦集(寬文)「乾坤ノ、箱挑灯ガ、空ノ月」　一葉句集「[illegible]貫ヒニ、箱提燈ヤ、春ノ雨」

はこどひ (ハコ・ドイ) (名) [箱樋] うつぼばしら(空柱)ニ同ジ。屋根ノ谷ノ雨水ノ集マリタルヲ承ケシメテ流スモノ。たてどひ(竪樋)ノ條ヲモ見ヨ。　[承霤][承落]

はこどり (名) [箱鳥] かっこうどり(郭公)ノ一名。　松屋筆記、十四、十三條「はこ鳥ハ、今クヮッコウトモ、クヮッホウトモ鳴鳥也、ハッコウト鳴ヲ、今ハ、クヮッコウトモ、クヮッホウトモ聞誤レル也、ハッコウヲ約レバ、はこ也、啼聲ニヨテ、はこ鳥トハ云ヘル也、又、カンコ鳥トモ云ヘリ、カコト啼ト聞テ、シカク名ヅケシ也、本草綱目ニ鳲鳩トアリ、擲黍トモ、獲穀トモ、搏穀トモ、郭公鳥トモ、布谷トモ云フ、其名、異名多キ鳥也」　源、三十四、上、若菜、上百六「深山木ニ、ネグラ定ムル、はこどりモ、イカデカ花ノ、色ニアクベキ」　羇旅增基遠江紀行「フルサトノ、コトヅテカトテ、はこどりノ、啼クヲウレシト、オモヒケルカナ」

はこには (ハコ・ニワ) (名) [箱庭] 箱ノ中ニ作レル庭園。盆中假山。

はこね (名) 鐵漿(カネ)ノ異名。はぐろめ(齒黑)ニ同ジ。　謠曲、松山鏡「此松ノ山家ト申スハ、無佛世界ノ所ニテ、女ナレドモはこねモツケズ、色ヲ飾ル事モナケレバ」

はこねうつぎ (名) [箱根空木] 空木(ウツギ)ノ一種。相摸國、箱根山ニ多シ。土人、其實ヲ採リテ、食料ニ當ツト云フ。高サ一丈許リ、葉ハ卵形、又ハ、橢圓形ニシテ皺アリ。夏ノ初、盞(サカヅキ)狀ノ單瓣花ヲ開ク。白キ、赤キ、雜リ簇ル。略シテ、うつぎ。　[錦帶花]

はこねぐさ (名) [箱根草] 相摸國、箱根山ニ多シ。元祿中、蘭人、同山ニテ得テ、藥トス。故ニ、おらんだそう(和蘭草)ノ名モアリ。幽谷ノ石上ニ生ズ。春ノ新葉、紅ニシテ美ナリ、一根ニ叢生ス。莖ノ高サ一二尺、黑クシテ光ル。上ニ、枝又、多ク分レテ、枝每ニ一葉アリ、形、銀杏ノ葉ノ如ク、大キサ三四分、深緑ナリ。秋、葉ノ背ノ末ニ、小褐片ヲ生ズ、花ナリ。葉ハ、冬ヲ歷テ枯レズ、枝ヲ帶トス。一名、イチャウグサ。イチャウサウ。　[石長生]　近代世事談(享保、菊岡沾涼)二、生植「相州箱根山ニアリ、草ノ高六七寸ニシテ細キ莖、葉ハ銀杏ニ似テ小サク薄シ、根ハ絲ノ如シ、夏秋ニ皿ヲトトナフト云フ、一年、紅毛人コレヲ見テ、良草ナル事ヲ稱シ、請ヒテ採レ之、甚珍トセリ」

はごのき (名) [羽子木] つくばね(衝羽根)ニ同ジ。

はこばしご (名) [箱梯子] 段ノ下部ニ、抽出(ヒキダシ)ノ箱ヲツケタル梯子。　心中二枚繪草紙(寶永、近松作)下「早ウ寢ヤ、皆皆シマヘト言ヒケレバ、アイト答ヘテ箱梯子、上リカカッテ」

はこび (名) [運] (一)物ヲハコブコト。運送。運搬。(二)ススムコト。アルクコト。又、ハカドルコト。進步。「仕事ノ運び」 足の運トハ、アユミ。步。

はこふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (ハコ・ウ) (他動、下二) 衣ノ裾ヲ褰(カカ)グ。　枕草子、八、八十一段「二十アマリバカリナル女ノ、ツボサウゾクナドニハアラデ、タダ引キはこへタルガ」　同、十一、百廿七段「上ノ衣ノ色イト淸ラニテ、カメノオビノカタツキタルヲ、トノヰ姿ニテ引キはこへテ、紫ノ指貫モ」

はこぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) [運] (一)メグリススム。ハカドル。進步。「仕事ガ運ぶ」 (二)寄ス。向ク。　拾玉集、六「大寺ノ、池ノ蓮ノ、花サカリ、はこぶ心ニ、タムケテゾ見ル」

はこぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) [運] 持チ、又、積ミ載セテ送ル。運送ス。運搬。　後撰集、十二、戀、四「大島ノ、水ヲはこびシ、早船ノ、ハヤクモ人ニ、逢ヒ見テシカナ」　步みを運ぶ、足を運ぶトハ、行ク。アルク。步

はこ-へ（ハコエ）（名）〔はこふノ名詞形。當字ニ筥衣ト記ス〕ハコフコト、抱ノ後ノ裾ヲ引キ上ゲオクコト。下學、治承四年正月十九日「御はこへノ事、申云、凡人、著袴之時、引直衣造、尻、如ニ主上御引直衣ニ云云、今ニ直衣ニ有ニはこへニ之條、古今未聞否」

はこべ（名）〔蘩蔞〕〔繁縷〕〔古言、はくべらノ略轉〕草ノ名、庭際、路旁ナドニ多シ。四時アレドモ、春、夏、最モ茂ル。莖、方ニシテ、地ニ敷クコト蔓ノ如シ、莖ヲ中斷スレバ、中ニ一縷ノ絲アリ。葉ハ對生シテ、橢圓形ニシテ尖リ、長サ寸餘。春ノ初、白花、簇リ開ク、大イサ三分許リ、十瓣（ナナクサ）ニシテ、狹ク細ソシ。昔ハ、春ノ七種ノ一トス。ハコベラ。易林節用集（慶長）上、草木門「蘩蔞、ハコベ」和玉篇「蘩、ハコベ」百姓傳記、十二、穀菜耕作集「はこべノ種、兩種アリ、大葉ナルト小葉ナル違ヒアリ」

はこべ-ら（名）〔蘩蔞〕〔繁縷〕はくべら（蘩蔞）ニ同ジ。前條ヲ見ヨ。名義抄「蘩蔞、ハコベラ、ハクベラ」拾玉集、四「今日ゾシル、ナヅナはこべら、芹ツミテ、ハヤ七草ノ、オモノ參ラン」

はこ-まくら（名）〔箱枕〕木枕ノ一種ニテ、板ニテ箱ノ如ク作レルモノ。一轉シテ、塚枕（アヅチ）トナリ、括（ククリ）ヲ載ス、サシマクラ。婚禮法式、下、夜具「マクラ二ツ、箱まくら也、黑ヌリマキ繪ニテ、一方ニハ猴、一方ニハ家ノ紋ヲカク、是レ本式也」東海道中膝栗毛（享和、一九）初編「カクロズサミテ、打笑ヒツツ傾ケシ箱枕モ」

はこ-むね（名）〔箱棟〕屋棟ヲ鞍箱形ニシテ、覆ヒタルモノ。卽チ、箱造リノ大棟ノ稱。續山井（寛文）上「鳳ヲ入ル、箱棟モガナ、[illegible]」

はこ-めがね（名）〔箱眼鏡〕海底ヲ透視スル箱ノ眼鏡。卽チ、斜ニ開キタル方形ノ箱ノ底ノ部分ニ、硝子ヲ張リタルモノ。ノゾキメガネ。

はこ-も（名）〔菰薦〕菰（コモ）ノ葉ヲ編ミテ作リ、神前ノ案下ニ敷ク薦。江家次第、一、四方拜「[illegible]」

はこ-や（名）〔函屋〕（一）箱ヲ、造リ、又ハ、賣ルモノ。又、ソノ家。（二）藝妓ニツキテ、三味線箱ヲ持チ歩ク男。ハコマハシ。內箱ハ家ノ婢ナリ。

はこ-やなぎ（名）〔筥柳〕〔其枝ニテ、筥（ハコ）ヲ造ル故ニ名ヅク〕山野ニ自生スル落葉喬木。高サ十丈餘ニ達シ、葉、圓クシテ末尖リ、邊ニ鋸齒アリテ厚ク、背ニ白毛アリ。春、葉ニ先立チテ、穗花ヲ開ク、かはやなぎ（川楊）ノ穗ヨリ長大ナリ。材、白ク、理、密（キメ）ニシテ、やなぎごりニ作ル、故ニ名アリ。又、楊枝、まっちノ軸木トス。ハコキ。ハコヤノキ。白楊　大和本草、十二、雜木「白楊、ハコヤナギ、京都円[illegible]、コレヲ牙杖（ヤウジ）ニ削リ賣ル、又扇筥ニモ此ヲ用ユ、故ニはこ柳ト云フ、木理、柳ニ似タリ、云云、中華ニテハ、白楊ト云フ、京都ニテハ、はこやなぎト云フ」

はこや-の-き（名）〔白楊樹〕前條ノ語ニ同ジ。

はこや-の-やま（名）〔藐姑射山〕〔莊子、逍遙遊篇「藐姑射之山、有ニ神人ニ居焉」〕（一）支那ニテ、仙人ノ住メリト云フ想像ノ山ノ名。姑射山（コヤ）。仙洞　萬葉集、十六「心ヲシ、無何有ノ鄕ニ、置キタラバ、藐姑射山ヲ、見マク近ケム」新後撰集、廿、賀「波ノ上ニ、雲モトメシ、人モアラバ、はこやの山ニ、道シルベセヨ」夫木抄、十四、菊「ヌレテホス、露モチトセノ、菊ノ花、はこやの山ニ、ウツシテゾミル」山海經「[illegible]其山之[illegible]」（二）太上皇ノ御所ナル仙洞ヲ祝シテ稱シテ云フ語。[illegible]萬代ト、トキハカキハニ、タノムカナ、はこやの山ノ、君ノミカゲヲ」[illegible]、はこやの山ノ、カタヲノミ、オモヒヤリテモ、ナホアフグカナ」月清集、下、祝「フタタビ色ハ、カハルトモ、はこやの山ノ、御代ハツキセジ」

は-ごろも（名）〔羽衣〕羽ニテ成レル衣ニテ、天女（アマニヨ）ノ着ルモノト云フ。[illegible]も、天ノ羽衣ノ條ヲ見ヨ。

はごろも-さう（ハゴロモソウ）（名）〔羽衣草〕めど（蓍）ニ同ジ。

はさ（名）〔稻架〕はつきニ同ジ。

ば-さ（副）〔婆娑〕（一）舞フ袖ノ翻ヘル狀ニ云フ語。[illegible]（二）[illegible]、散亂シタル狀ニ云フ語。[illegible]

バザア（名）〔英語、Bazaar.〕（一）物品陳列場。[illegible]。（二）[illegible]

は-さい（名）〔破碎〕（一）コハシクダクコト。[illegible]（二）コハレクダクルコト。王安石詩、山月入ニ松金破碎、江風吹ニ水雪崩騰」

は-さかひ（ハザカイ）（名）〔[illegible]〕[illegible]十月ト、十月ニ繰越ス在米ニ云フ語。[illegible]五月ヲ云フ。又、[illegible]ハ、米、又ハ、生絲ニ用ヰラル。卽チ、米ニテハ、九月[illegible]テ市場[illegible]

はざくら（名）〔[illegible]〕[illegible]新葉トナリタルモノ。又、ソレヲ賞ス[illegible]風モナシ」

はさ-ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）〔はさり沾用ス〕バサバサスル。[illegible]

はさき（名）〔[illegible]〕[illegible]ニ同ジ。又、ヤキバサキ。

ばさ-ばさ（副）〔[illegible]〕（一）大ナル木ノ葉ナドノ、落ツル狀ニ云フ語。（二）物事ノ取リシマラヌ狀ニ云フ語。バサラ。

ばさ-はさ（副）[illegible]

はさ-ぶ（名）〔[illegible]〕（はにさふノ略）[illegible]

はさま（名）〔[illegible]〕[illegible]ト云フ。[illegible]

豚」 義經記、五、判官吉野山に入給事「様様ノ難所ヲ經テ、一二ノ峡間、三四ノ峠、杉ノ壇ト云フ所マデ分ケ入リタマヒケリ」 新六帖、三「山はさま、キビシクタタム、岩カドニ、年ヘテキレヌ、蒐ノ絲哉」

は-ざま (名) [迫間][狹間] (一)前條ノ語ニ同ジ。(二)城壘ノ壁ニ設ケタル孔。コレヨリ矢、又ハ、彈丸ナドヲ發射ス。銃眼。

はさま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [挾] 〔はさむノ自動〕物ト物トノ間ニ入ル。ハセカフ。介[ハサマリ]閒 白氏文集、五十一「孤城保レ全、介レ于-險中二」 著聞集、十六、偸盗「はさまれテ、足ハウヅキノ、時鳥、鳴キハヲレドモ、トフ人モナシ」

はさみ (名) [鋏] (一)〔物ヲ挾ミ切ル具。二條ノ刃、相向ヒ、本ハ連リテ彈機[ハジキ]ヲナシ、末、打チ交ヒテ挾ム〕 剪刀 鉸刀 又、唐[タウ]鋏アリ。其條ニ註ス 倭名抄、十四十容飾具「鉸刀、波左美」 字鏡、卅十「鉸、波佐彌」 同、卅十「鉸、波佐彌」 源、五十二、手習四十七「はさみトリテ、櫛ノ箱ノフタサシ出タレバ」 狹衣、三、上四十二「尼ニナリナント思ヒ給ヒテ、櫛ノ箱ナルはさみトリ出デ、髮カイコシテ見給フニ」 八百屋お七(享保、紀海音)中「心元ナキ親心、はさみ、カミソリ櫛笥ノ、中ヲ捜シテ持チ出ヅル」 (二)蟹ノ前ニアル大ナル左右ノ二脚 其形、鋏ノ如ク、且、其働キヲナス。 オホツメ 蟹螯

はさみ-うち (名) [挾擊] 敵ヲ、中ニ挾ミテ、前後ヨリ攻メカカルコト。

はさみ-おび (名) [挾帶] 帶ノ端ヲ結バズニ、折リテ挾ミ込ミオクコト サシコミオビ。ツッコミオビ 嬉遊笑覽、二、上、服飾「寬文ノ頃マデハ、女モ多クはさみ帶ニシテ居タリ」 風流徒然草(貞享)「昔ハ帶ノ幅モ狹ク、云云、結ビ目モナク、ツイはさみ故、取リナリ細ソク丸ク、云云」

はさみ-ことば (名) [挾詞] 江戸時代、花柳界ニテ隱語ノ如ク用ヰシ言葉 例へバ、きざなひとト云フベキニ、かきくけさノ五音ヲ挾ミテ、「キききイざカアなカアひキイとコオ」ト云フガ如シ。 辰巳園(明和)「唐コトト名ヅケテ、云云、あかさたた此通リヘかノ字、いきしちに此通リへきノ字、云云、タトヘバ客ト云フ時ハ、ききやかくく、又女ナドトネル時ハ、おさんなかト云フガ如シ」

はさみ-しやうぎ[ハサミ-シヨウギ] (名) [挾將棋] 將棋盤ニ、雙方、手許ニ、横ニ一列ニ、九ツノ駒ヲ竝ベ、交互ニコレヲ縱横ニ送リテ、敵ノ駒ヲ、前後ニ、或ハ、左右ニ、挾マムトシ、挾マレジトシ、挾ミテ取リ盡シタル方ヲ勝トスル戲。 梅園日記、一「挾將棊、宋本太平御覽(七百五十五)藝經曰、夾食者二十人、黃黑各十七棊、横列二於前第四道上一甲乙迭推、二棋夾レ一爲レ食、云云、コレハココノ挾將棊ナルベシ」

はさみ-だけ (名) [挾竹] 丸竹ヲ割リカケテ、割レ口ニ衣服ヲ挾ミ、先ヲ緒ニテ結ブ。中世、僕ニ衣服ヲ擔ヒ行カシムル具。二枚ノ板ニテ、タタミタル衣服ノ上下ヲ覆ヒ、竹ニテコレヲ挾ム。後ノ挾箱ハ、此ニ起ル。 和爾雅、五、器用「古今行人、以レ竹挾二衣服或袴等一令二僕擔一レ之、適二寒暖之用一、是號二挾竹一」 甲陽軍鑑、廿、品第五十四、天正元年九月、勝賴遠州より歸陣「小者共六十五人、挾竹ヲ以テ惣手ノアトニサガリタルヲ、敵方ノ馬乘三騎出テ、草履取ヲ一人キル」 嬉遊笑覽、二、下、器用「上サシ袋廢レテ、挾竹デキ、ソレモヤミテ、挾箱始レリ」

はさみ-ばこ (名) [挾箱] 〔挾竹[ハサミダケ]ヨリ轉ズ〕 (一)箱ニ、棒ヲ添ヘテ、衣服ナド納レテ、僕ニ擔ハセ行クモノ。 うたたねの記「はさみばこノ蓋ナドノ」 隴筑波集(寛永)一「駿河路ヲ、通ル辨當、はさみ箱」 近代世事談、二、挾箱「信長公ノ時ヨリ始ル、其昔、挾竹トテ、竹ヲワリテ衣類ヲ挾ミ、コレヲ用ユ、挾竹ノ代リナレバ挾箱ト號ク、又、對挾箱ニシテ行列ニ立ツルハ、秀吉公ノ時、布施久內始メテコレヲナス」 海錄、廿、四十四條「挾箱ハ太閤ノ草履取布施久內ト云フ者始テ作ル、之レヨリ前ハ衣服ヲ竹ニ挾ミテ挾竹ト云フ」 嬉遊笑覽、二、下、器用「相傳フ、慶長年中、秀吉公ノ僕布施久內ト云フ者、始テ挾箱ヲ作出セリ、江村宗具ガ老人雜話ニハ、大阪ノ津田長門守、初テ作レリト有、イヅレモ非ナリ、古ハ今ノ如ク一雙ノサキ箱ナドイフコトハナケレドモ、カカル器物ハ古畫ニ多ク見エタリ、此類スベテ行李ノ皮籠ナルベシ」 (二)はさみばさみ

はさみ-むし (名) [挾蟲] 昆蟲ノ一 夏、瓦、石ノ閒ナドニ多シ。長サ一寸許リ、幅二三分許リ、背、黑クシテ光リ、身、平タク段節アリテ、むかで(百足)ノ如シ。六足、上ノ方ニ寄リテアリ 尾ニ岐アリテ、鋏ノ如ク働キ、小蟲ナド挾ミテ、背ヘ曲ゲテ食フ 又、シリバサミ 蠼螋 蠷螋 倭訓栞「はさみむし、蠷螋也ト云ヘリ、ヨク人ヲハサム蟲ナリ」

はさみ-もの (名) [插物][挾物] 三三二、九ノ手插ナド云ヒテ、弓術ノ的立ノ式、又、弓ノ的ノ一種。四寸四方ノ板ニテ作リタルモノト云フ。 挾物之記「はさみ物トハ、方四寸ノ板本也、ヒノ木マサタルベシ、ウスクヘギテ、カンナメナシニ、其ママヘギタルママニテ挾ムナリ、オモテヘ見エヌヤウニ、板メノカタニ、ウラキリメヲツケ候也」 和訓栞「はさみもの、的ノ類ニ云へり、小折敷ノ事也ト見エタリ」 殿中申次記、正月十七日「御插物在レ之、云云」 本閣流聞書「挾物ハ、遠サ七杖半ニ打テ、弓半ヨセテ立ベシ」 幸若舞曲、那須與一「はさみ物ニハ串ヲ射、扇ヲタテテハ、カナメヲ射ルトハ申セドモ」

はさ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) [夾][挾] 〔端[ハ]狹[サ]ヲ活用シタル語カ〕 (一)閒ニ籠メテ相押シ持ツ。 徒然草、二百十三段「オ前ノ火爐ニ火ヲオク時ハ、火バシシテはさむ事ナシ、カハラケヨリタダチニウツスベシ」 宇治拾遺、四、第十七條「大豆ヲイリテ酢ヲカケケルヲ、云云、酢ヲカケツレバ、スムツカリトテ、苦ミテヨクはさまルルナリ、シカラサレバ、滑リテはさまレヌナリト云フ」 著聞集[illegible]物語、二「挾みタル物ノ打チヤラヌト試ミヨ」 蜻蛉日記、下、上五十一「スダレマキアゲ、シタスダレ左右オシはさみタリ」「脇ニ挾む」「書ニテ挾む」 (二)鋏[ハサミ]ニテ切ル。剪 「枝ヲはさむ」「髮ヲはさむ」

はさ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) [插] 物ノ閒ヘ差入ル。 源、三十四、下、若菜、下三十八「見シ程ニ入リ給ヒシカバ、フトモ得置キアヘデ、サシはさみシヲ、忘レニケリト覺フニ」「花ヲ瓶ニ差シはさむ」 透閒ニ押シはさむ」

は-さん (名) [破產] (一)家ノ財ヲ失フコト。身代限。分散。分產。 唐書、盧坦傳「某家子與二惡人一游、破レ產」 李白、過二下邳圯上一詩「子房未レ虎嘯一、破レ產不レ爲レ家」 (二)商人ガ自己ノ財產ヲ以テ、總テノ負債ヲ償却シ得ズシテ、支拂ヲ停止シタル場合、自身、又ハ、債權者ヨリ裁判所ヘ申シ立テ、裁判所ノ破產ノ宣告ニ基ヅキテ、其財產ヲ各債權者ニ正當ニ配當スルコト。

は-さん (名) [破算] 置キ分ケタル算盤珠ヲ不用トスルコト。算盤ニテ、數ヲオキタル珠ヲクヅスコト。

はさめ (名) [肌] はだ(肌)ノ條ノ(二)ニ同ジ。 字類抄「肌、ハサメ」

はざめ (名) 瞼[マブタ]ノ二重アル目。二重マブタノ目。 天治字鏡、二六「眦、目重瞼也、波坐目」

バサラ (名) [跋折羅] 〔梵語、Vajra.譯シテ金剛ト云フ〕 (一)鑛物ノ名。極メテ堅強ニシテ、如何ナル物ヲモ打碎クト云フ。こんがう[コ](金剛)ノ條ヲ見ヨ。金剛石。 西域記、伐闍羅、此云二金剛一 金剛經天台疏「西云二跋闍羅一、亦云二斫伽羅一、此翻二金剛一」

二二〔獨鈷、三鈷、五鈷ノ稱。金剛杵。煩惱ヲ碎キ、又、一切ノ天魔神ヲ降伏セシムルモノ。 金剛頂義訣、[illegible]云、跋折羅、力士所執之杵、是此之寶也、金中最剛、故名金剛」 倭名抄、十三、僧坊具「跋折羅、千手經曰、若爲降伏一切大魔神者、當於跋折羅手」 傳教大師將來目錄「五鈷、跋折羅一口、三鈷、跋折羅一口」 (三)音樂、舞樂ニ、金剛ノ物ヲ碎ク如ク、本法ノ拍子ノ外ニ出デテ、技ニ見立アルヤウニスルコト。 糟教訓抄、十一、友正ガ笛ヲ白河院聞コシメシテ、褒メタマヒケ、下﨟ノ笛トモナク、ばさらアリテ仕ルモノカナ」 [illegible]抄、九、舞の事「萬人[illegible]目見之、不美、何ノ興カアラムヤ、ばさらアリ、[illegible]アリ、振舞ハムトスレバ、拍子ヲ違ヘ、又、拍子ニ不乖トスレバ、はさらナシ、云云、云云、此兩事ヲ兼ネテ、メデタク見ムコト、云云、[illegible]ニアリガタキナリ」 (四)遠慮、會釋ナク、振舞ノ意ヨリ、飾リテ、驕奢、放逸ナルコト (文選、答賓戲、注「婆娑、放逸貌」) 放侈。 建武式目「近日號婆佐羅、專好過差、云云、風流服飾、無不驚目、云云」 [illegible]川[illegible]之記、貞治七年二月、定書「無位成、貴ク身ヲ餝リ、婆娑羅ヲ好ム、是又過差ト慢トナリ、大ニ可禁之事」 太平記、廿四、天龍寺建立事「ソゾロナルばさらニ耽リテ、身ニハ五色ヲ粧リ、食ニハ八珍ヲ盡シ、茶ノ會、酒宴ニ若干ノ費ヲ入レ、傾城、田樂ニ無量ノ財ヲ與ヘシカバ」 北條九代記、八、正和元年十月十二日「大酒遊宴ニ長ジ、分ニ過ギタル婆娑羅ヲ好ミ、傾城、白拍子ニ親シミ、[illegible]、內奏、專ラ[illegible]ムベシ」 中古日本治亂記、[illegible]二、兵衞任官事「此數年、諸國ニ拔群婆娑羅モ少シハ止ミ、在京ノ大名ドモノ花ノ會、月ノ宴、過奢ナルコト、自然ニ止ム」 (五)虛僞モテ表ヲ飾ルコト。ハデニ見エヲ張ルコト。伊達ヲスルコト。 虛飾 [illegible]近太[illegible]、廿三、[illegible]ヲ好ム人ノ中ニ、生得ノ勇者モアルナリ、仁義ノ勇者ハアルベカラズ、仁ト義トノアラム人、何ニヨリテ[illegible]、三十四[illegible]ヲ[illegible]リテ[illegible]リ、其心ノ[illegible]ニハ[illegible]ニモナシ、今ノ[illegible]ニ、ばさらヲ好ム人ノ中ニ多キモノナルゾ」 (六)遊蕩。狼籍、蓮葉者。 [illegible]、下「六法出立ト云フ者、云云、吉原へ入込ミ、拔打[illegible]、[illegible]ノ[illegible]共、[illegible]ニ及ブ」 [illegible]集、六「ばさらヲ[illegible]」

バサラあふぎ (名) 跋折羅扇 ハデナル扇。バサラ繪ノ扇。次條ノ語ヲ見ヨ。 建武元年落書「コノ頃都ニハヤルモノ、云云、ばさら扇ノ五ツ骨、ヒロコシヤセ馬、薄小袖」

バサラゑ (名) 跋折羅繪 風流繪、後ノ浮世繪ト云フモノノ如シ。 太平記、廿九、阿保秋田[illegible]事「[illegible]、[illegible]ノ[illegible]子向、[illegible]ノばさら繪ニモ、[illegible]秋田ガ河原[illegible]トテ、[illegible]人ハナシ」 建武元年落書「ばさら[illegible]ノ五ツ骨、[illegible]ばさら繪ノ扇」 土佐[illegible]、[illegible]、[illegible]扇ノばさら繪ニモ」

はし (名) 端 (一)物事ノ發ル所。小口。端緒。ハジメ。 千載集、十四、戀、四「逢見ムト云ヒ渡リシハ、行末ノ、物思フコトノ、端ニゾアリケル」「爭ヒノ端」 (二)〔物事ノ盡キムトスル所〕ヘリ。ハジ。[illegible]端 [illegible]日記、上、下「[illegible]」 「[illegible]ヲ布ノ端シテ引メグラシタルモノトテ」 枕草子、四、四十三段「イササカモ心得ザリケルト、見ルカニクケレバ、硯セイハデ、スズリノアル[illegible]ノ端ニ」 同、三、廿一段「花ビラノ端ニ、ヲカシキ匂ヒコソ、心セトナクツキタメレ」 源、三、空蟬「[illegible]ハニタテタル[illegible]モ、端ノカタナオシタタマレタルニ」 蜻蛉日記、下、下「[illegible]ノ文ノ端ニ、[illegible]ノ書ニ事成ラズバ、[illegible]ブネモナシト聞エサセ給ヘ、トアリ」 (三)疊ノ緣。 堤中納言物語、よしなしごと「疊ナドヤ侍ル、錦はし、高麗はし、繧繝紫はしノ疊、ソレ侍ラズバ、布緣サシタラム破疊ニテマレ、貸シ給ヘ」 (四)〔家ノ外面ニ近キ所〕 [illegible]物語、下、[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]、イト[illegible]リ」 [illegible]「端ノ方ニ立チ出デ見レバ、ハルカナル軒バヨリ、カ[illegible]」 [illegible]紫十「[illegible]アナタヨリキテ、コナタハアラハニヤ侍ラン、今日シモ、端ニオハシマシケルカナ」 榮花物語、十三、[illegible] (五)〔多ク[illegible]〕ノ內ノ一部分。一端。 蜻蛉日記、上、上「世ノ中ニ、大方、古物語ノ端ナド見レバ、世ニ多カル空言ダニアリ」 枕草子、六、五十八段「經ノ端打チ讀ミ、倶舍ノジュヅ云ヒツヅケアリクコソ」 (六)切リテ捨テタル部。斷片。 「木ノ端、紙ノ端」 (七)間。アハヒ。 間 萬葉集、二、[illegible]長歌「行ク[illegible]ノ、[illegible]ノ端ニ、[illegible]」 [illegible]長歌「クモリ夜ノ、迷ヘル間ニ、アサモヨシ、城ノヘノ道ヨ」 古今集、十八、雜、下「木ニモアラズ、草ニモアラヌ、竹ノ節ノ、はしニ我身ハ、ナリヌベラナリ」 古事記、下[illegible]

はし (名) 橋梁 〔彼岸ト此岸トノ間ニ架セルヨリ云フ〕(一)〔川、溝、池ナドノ兩岸ノ間、又ハ、家ト家トノ間ナドニ亙シ掛ケテ、往來ノ路トスルモノ。常ナルハ木造ナリ。又、石橋、土橋、鐵橋ナドアリ。又、丸木橋、[illegible]橋、[illegible]橋、反橋、八橋等、各條ニ註ス。 [illegible] 「橋[illegible]於甘浦、郎[illegible]其處曰小橋也」 萬葉集、十一「小ハリ田ノ、坂田ノ橋ノ、コボレナバ、ゲタヨリユカム、ナ戀ヒソワギモ」 枕草子、[illegible]段「橋ハ、アサムヅノ橋、[illegible]ノ橋、云云」 (二)扇ノ骨

はし (名) 階 〔橋ト同語〕[illegible] 上ルベキ路トスルモノ。級。キダハシ。キザハシ。アガリダン。 倭名抄、十、居處[illegible] [illegible]「新羅王理[illegible]前王骨於北[illegible]階下[illegible]」 [illegible]、一、桐壺「御はしノモトニ、ミコタチ、上達部ツラネテ、祿ナド品品ニ賜ハリ給フ」 [illegible]、春、下「身ノ春ジ、イツトカ待タム、九重ノ、御階ノ櫻、[illegible]タタル、ヨルノ雨、草ノイホリノ、ウチナラネドモ」

はし (名) [illegible] 〔間ノ義カ〕 カケハシ。ハシゴ。 字鏡「[illegible]梯、[illegible]」 [illegible]仁記、八十九年[illegible]

はし (名) 箸 〔食ト口トノ間ヲ渡ス意トモ云フ、或ハ、[illegible]〕 物ヲ挾ムニ用ヰ、食事ナドスル具。古ヘノ箸ハ、一條ノモノヲ折リ曲ゲテ、其兩ノ端ニテ挾ミシナリ。後、竹、木、象牙ナドニテ、細長ク作リ、二本ヲ合ハセテ、指ノ間ニ持チテ用ヰル。今ハ制箸モアリ。火箸ハ銅、鐵ニテ作ル。 筯 倭名抄、十四、[illegible] [illegible] 古事記、上[illegible]

はし (名) 嘴 [illegible]

はし (名) 土師 [illegible]

は・し [illegible]

ガココロカラニ、抉(ハシ)ト愛(ハシ)トヲカク)

〔はし・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)　愛　〔欲シニ通ズ〕イツクシ。イトホシ。クスハシ。クハシ。愛(ウル)ハシ。カハユラシ。ハシケシ。　萬葉集、八 三十「風雲ハ、フタツノ岸ニ、カヨヘドモ、吾ガ波斯妻(ハシツマ)ノ、コトゾ通ハヌ」同、二十四「吉野ノ、玉松ガ枝ハ、波思吉(ハシキ)カモ、君ガ御言ヲ、持チテ通ハク」同、二十 五十「昔コソ、ヨソニモ見シカ、ワギモコガ、オクツキトモヘバ、波之吉(ハシキ)佐ホ山」同、廿 九長歌「待チカモ戀ヒム、波之伎(ハシキ)妻ラハ」

はじ　(名)　黄櫨　〔はにじノ略。かにはノ(樺)ヲかば、はにじ(土師)ヲはじト略スルガ如シ〕　(一)又、はにじ、今、ハゼ。ヤマウルシ。漆ノ木ノ一種。山中ニ多シ。葉ハ漆ニ似テ粗キ鋸齒アリ、木心、黄ナリ。古ヘ、染料トス。黄櫨染(クワウロセン)コレナリ。秋早ク紅葉スルガ故ニ、はじもみぢナドト、歌ニモ詠メリ。又、一種、實ヨリ蠟ヲ採ルモノヲモ、はぜ、はぜうるし、らふのきナドト云フ。諸國ニ多ク栽ウ。葉ハ、漆ニ似テ鋸齒無ク、長大ニシテ、實モ亦大ナリ。　大和本草、十二、雜木「黄櫨(ハゼ)、漆、ヌルデノ類也、其材作弓、其葉、秋紅ナリ、云云、其實、蠟燭ニ作ル、民ウヘテ利トス」　金葉集、三、秋「モズノ居ル、はじノ立枝ノ、ウス紅葉、タレ我ガ家ノ、物ト見ルラン」　夫木抄、十五、櫨「一日見シ、トヲチノ村ノ、櫨もみぢ、又モシグレテ、秋風ゾフク」　新六帖、六「木ガラシノ、末野ニタテル、はじもみぢ、秋ノカタミニ、ヨギテフカナン」　(二)襲ノ色目ノ名。表ハ黄ニテ、裏ノ萌黄ナルモノ。又、表ハ赤ニテ、裏ハ黄ナリトモ云フ。

はじ　(名)　端　〔はし(端)ノ訛〕　はし(端)ニ同ジ。ハタ。ヘリ。

ばし　(副)　花は、月はノはヲ、連聲(レンジヤウ)ニテ濁リタルト、名にし負ハバナドノ、しノ助詞トノ熟語、意ヲ強ムル。　平家物語、四、大衆揃事「奈良ばし多シ、夜ノ更クルニ急ケヤ進メ」　寶閣集、十二、信連「更ニ矢ノ跡ナシ、ムクロニ手ばし負ヒタリケルカト問フ」　義經記、三、鏡宿にて吉次宿に強盗入事「吉次メニ目ばし放スナトテ、喚イテカカル」　新六帖、五、隱妻「漕ギカヘル、三島隱レノ、モ刈リ舟、ホニばしコフナ、人知レズノミ」　志のびね、上「母ノ許ヘ物キタマヘル事ばし宣(ノタマ)フナヨ」　曾我物語、四、箱王祐經にあひし事「知ラザル者ノ馴レ馴レシク、カヤウニ申スト、ばし思ヒ給フナ」　同、九、十郎討死事「ムカヒハ誰ゾ、仁田四郎忠常ヨ、サテハ御ブント称成ハ、タダシキ親類ナリ、其義ナラバ、タガヒニ後ばし見スルナ」　同、同卷、五郎召取らるる事「女房ニばしカクナ」　幸若舞曲、烏帽子折「汝等ガ中ニ、流鏑馬ヲばし知ッテアルカ」　同、敦盛「大將ナレバ、コノ狀ヲ、モシ義經ばし送リテアルカ、使ハ是非ヲワキマヘズ、タダ門脇殿ヘトバカリ申ス」　同、元服曾我「北條ガ咎メテ、烏帽子ヲ着セジ、ソノ儀ニサテばし遲ク見ユルカ」　史記抄(文明)六「我事テばしアルカトテ」　同、七「我ガ不明ナニヨッテ、心得ばしチガウタカ」　孟子抄(文明)八「齊王ノ、孟子ヲ凡人ニ替ッタ體ばしアル歟ト、見セラルル程ニ、油斷ヲばしサラレナト告ルゾ」

はしいた　(名)　橋板　橋桁ノ上ニ敷キ並ベタル板。即チ、人馬ノ踏ミ渡ル處。　盛衰記、三十五、義經範頼京入事「宇治勢多ニ着ク、九郎義經、河端ニ押寄セ見給ヘバ、橋板ヲ破取ッテ、向ヒノ岸ニ垣楯ニカキ、楯ニ構ヘタリ」　太平記、十四、將軍御進發大渡山崎等合戰事「宇治ヘハ楠判官正成、云云、向ケラル、橋板四五間、ハネ迦(ハヅ)シテ、河中ニ大石ヲタタミ上ゲ」

はしうら　(名)　橋占　辻占ノ類。橋ノ詰(ツメ)ナドニ居リテ、道行ク人ノ言葉ニヨリテ、吉凶ヲ占フ。安德天皇、降誕セラレムトスル時、平相國ノ室、京都、一條ノ戻橋ニ車ヲ停メ、橋占ヲ問ヒ、往來ノ童謠ヲ聞キシコトアリ。　盛衰記、十、中宮御產事「一條戻橋ト云フハ、昔安部晴明ガ天文ノ淵源ヲ極メテ、十二神將ヲ仕ヒケルカ、其妻、職神ノ貌ニ畏レケレバ、彼十二神ヲ橋ノ下ニ呪シ置キテ、用事ノ時ハ召仕ヒケリ、コレニテ吉凶ノ橋占ヲ尋ネ問ヘバ、必ズ職神、人ノ口ニ移リテ、善惡ヲ示スト申ス」　法然上人行狀繪圖、四十七「父母アヤシミテ、一條堀川ノ橋占ヲトヒケルニ」

〔はしか　(名)　芒　又、のげ。麥ナドノ芒(ノギ)。　和玉篇「糀、ハシカ」

はしか　(名)　麻疹　〔喉ニ芒(ハシカ)ノ立チタル感アレバ名トストイフ、沖縄ニテ、いりがさ〕　古名、赤疱瘡(アカモガサ)、イナメガサ。アカガサ。病ノ名。皮膚ニ赤斑ヲ生ジ、喉、苦シク、エゴク、イライラス。傳染ノ毒、甚シ。凡ソ、人一度ハ必ズ此病ニ感ズ。此病、孩兒ニ輕ク、四五歲程ノ兒童ニ重シ。再度、感ゼズトシタレド、二度、三度ノ例モアリ。其症狀ハ、空咳(カラセキ)出デテ、共ニ涙出ヅ。數日ニシテ顔ニ發疹シ、全身ニ粟粒ホドノ赤キ斑點ヲ生ジテ熱甚シク、三四日續キ、斑點、終ニ黑色ニ變ジテ治ス。　運歩色葉集「黑豆疹、ハシカ」　書言字考節用集、五、肢體門「麻疹、ハシカ、麩瘡、糠瘡並同」　東海道中膝栗毛(文化、一九)三編、上「江戸表出立ノ節ハ、殘ラズ召連レタカ、途中デ追追、麻疹ヲイタシヲルカラ、宿宿ヘ殘シオイタ」

はしか・い　(形)　(一)コソハユシ。　(二)ハガユシ。　孕常盤(寶永、近松作)四「御年ハ十六七迄ハ往マイ、姫君樣ニハ似合頃、十五夜、我レ我レニハ些トはしかカラウ」

はしがかり　(名)　橋懸　能ノ舞臺ノ傍ニ、斜ニ設ケタル演者ノ樂屋ヨリ出デ來ル路。欄干アリテ、廊ノ如ク、橋ノ如シ。幅ハ一間餘、長サハ定マラズ、五間、七間、十一間等、種種アリ。此ヲ三ツニ分ケ、樂屋ノ幕口ヨリ云ヒテ、序の段、破の段、急の段ト稱ス。又、橋懸ノ前面ニ、一の松、二の松、三の松(舞臺ノ方ヨリノ順ニ)ヲ植ウ。　花傳書(應永、世阿彌)六「橋がかりノ長サノ事、大庭ノハ十三間、十一間ナリ、中ノハ、九間、七間也、短キハ五間ナリ、五間ヨリ短クテハ、能ナリ難シ」　太平記、廿七、田樂事「新本ノ老僧、東西ニ幔ヲ打ッテ、兩方ニ橋懸リノ[illegible]ケル」　異本紀河原勸進猿樂記「寛正五年圖、橋掛リ」　劇場新話、上「花道、はしがかりトモ云フ、橋中[illegible]修」　毛吹草(正保)二「門松ヤ、嵩風樂カ、はしがかり」

はしがき　(名)　端書　(一)〔消息文ノ端ノ方ニ、別ニ書キ添フル文。ハシヅクリ。ナホナホガキ。カヘスガキ。　源、五十、浮舟四十四「はしがきニ、水マサルヲチノ里人、云云、白キシキシニテ、タテブミナリ」　山家集、上「玉章ノ、はしがきカトモ、見ユルカナ、飛ビオクレツ、歸ルカリガネ」　油糟、返返スモ、物ノ賜ハレ」端書モ、親ニアマヘタ、コシ文ニ」　(二)書物ノ初ニ、其書ノ由來、書中ノ大要ナド記シツクル文。序文。(奧書ニ對ス)　序。叙。

〔はしがくし　(名)　階隱　寢殿ナドノ正面中央ノ階ノ前ニ、二本ノ柱ヲ立テ、屋根ヲ作リカケタル所。輿ヲ寄スルニ供フ。ヒガクレ。　源、六、末摘花六十二「はしがくしノモトノ紅梅、イトトク咲ク花ニテ、色ヅキニケリ」

ハシカシ　(名)　夫人　〔百濟語〕　又、いしかし。婦人ノ敬稱。

はしか・し　(形)　はしおし(敏捷)ノ俗語。　和訓栞「はしかし、速キ意ニイフ俗語ナリ」

はしがたき　(名)　端敵　芝居ノ敵役ノ、半道化ノ惡人ニイデタツモノ。かたきやく(敵役)ノ條ヲモ見ヨ。

〔はじかみ　(名)　椒　〔鰆裂子(ハジケマ)ノ轉〕　山椒(サンセウ)ノ古名。呉茰(クレノハジカミ)、渡來シテ、別チテ、皮(カハ)はじかみトモ云フ。辛皮(カラカハ)ヲ食フニ因ルナ

リ、生はじかみ、房はじかみトモ云フ。名義抄

さんせう（山椒）ノ條ヲモ見ヨ。「椒、ハジカミ」和玉篇「椒、ハジカミ」本草和名、上「秦椒、布佐波之加美」天治字鏡、七「秦椒、カハハシカミ」（波々自加美）康頼本草、上「秦椒、蜀椒、奈留波之加美」本草和名、下二「蜀椒、布佐波之加美」古事記、中（神武）「垣下ニ、植エシ波士加美、口疼ク」

はじかみ（名）薑 〔呉の椒ノ略。辛キコト椒ニ似タレバ名ヲ移ス。康頼本草、上「乾薑、クレノハシカミ、九月去レ皮蒸、乾粉」天治字鏡、七「干薑、久禮乃椒」ト見ユ〕初、乾薑ヲ薬用トシテ渡シタルガ（烏梅ノ如ク）、後ニ、土ニ植エタル生薑ヲ、土はじかみ、穴はじかみナド云ヘリ。今ハ専ラ牛姜トモ云フ。（畿内邊ニテハ、かじかみト云フ）きやうが（生薑）ノ條ヲモ見ヨ。倭名抄、十六「薑、本草云、生薑、久禮乃波之加三、俗云、阿奈波之加美」乾薑、保之波之加美」本草和名、下「乾薑、生姜、久禮乃波之加美」字鏡「干薑、久禮乃波自加彌」醫心方、三十「生薑、ツチハジカミ」略シテ用ヰタルハ、名義抄「薑、ハジカミ」倉卒兵制（下末、倭漢高）附錄、日本風土記、四、菜蔬「薑、白食草末」

はじかみいを（名）椒魚 〔はじかみト云フハ、山椒ノ事ナリ。其條ヲ見ヨ。其皮、山椒ノ樹ノ皮ニ似ル故ニ、云フト〕山椒魚ノ古名。其條ヲ見ヨ。鯢魚（人魚ノ條ヲモ参見セヨ）本草和名、下「鯢魚、（有二四足二）、波之加美以乎」（鰻鱺ハ、うなぎナリ、誤レリ）。倭名抄、十九、亦然リ）續紀、十三、天平十六年八月「掖庭溝中獲魚、長尺六寸、形異二常魚一、（蓋云、鯢魚、在二深山溪中二）」本朝食鑑、七、河魚無鱗「鯢魚、山椒魚（俗稱）、鯢魚（古稱、按、鯢、在二山椒ノ樹ニ山椒樹實一故名乎、古訓、波志加美魚、源順用二鯢字一誤矣（二）」

はしき（名）［剡］闌闠ニ同ジ。

はじき（名）彈（一）ハジクコト。又、彈ク力。（二）諸器械ノ、中ニ用ヰテ、物ヲ彈ク用ヲナサシムルモノ。彈機「竹ノ彈（鐵ノ彈）」（三）女兒ノ戲。いしはじき（石彈）ノ條ヲ見ヨ。簡禮記注、近松作、（橋屋）石投子、海士ノ子供ノ打チレテ、彈き、石投子、又丁カ半、三ツ四ツ五ツ算ヘテハ、彈ジモ彈ジク」

はじきしやうぎ（名）彈將棊 將棊ノ駒ヲ用ヰテスル戲。一方ハ歩ヲ、一方ハ大駒ヲ、各、盤ノ端ニ竝ベオキ、何レノ駒ニテモ、指ニテ敵ノ駒ヲ狙ヒテ彈キ中テ、其駒ヲ盤ヨリ落セバ取ル。我ガ駒ノミ敵方ニ落チタルハ取ラル。古ヘノ彈碁ノ遺法カト云フ。

はしぎは（名）橋際 ハシノタモト。橋ノソバ。ハシヅメ。橋畔 橋頭

はじきまめ（名）蹲裂豆 莢ヨリハジキタル豆。

はしきやし（句）愛哉 〔やハ感動詞、しハ助辭〕次條ノ語ニ同ジ。萬葉集、二十長歌、早敷屋師、ワガツマノコガ、夏草ノ、思ヒシナヘテ」同、同三十長歌「アスカ川、萬代マデニ、早布屋師、ワガオホギミノ」同、七三十「波之吉也思、ワギヘノ毛桃、モトシゲク、花ノミ咲キテ、ナラザラメヤモ」

はしきよし（句）愛哉 〔よハ感動詞、しハ助辭〕愛シト思フヨ。イトホシキ哉。又、ハシケヤシ。ハシキヤシ。萬葉集、十七「山河ノ、ソキヘヲトホミ、波之吉余思、妹ヲ相見ズ、カクヤ嘆カム」同、同廿長歌「波之吉余思、妻ノミコトモ、明ケ來レバ、門ニヨリ立チ、衣手ヲ、折リ返シツツ、夕サレバ、床ウチカヘシ」同、廿「一……今日ノ主ハ、磯松ノ、常ニイマサネ、今モ見ルゴト」

はしきらず（名）端不切 紙ノ一種。漉キタルママニテ、上下左右ノ端ヲ截タザルモノ。美濃紙ノ薄キヤウナルモノ。……はしきらず五帖」

はじく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）彈 撥（一）爪メタルガ返ル力ヲ以テ打ツ。撓メテ放ツ。字鏡……（二）受ケツケズシテ、撥ネ飛バス。……

はじく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）彈 〔前條ノ語ノ轉〕（一）ハズミツ與ヘテヤル。名義抄「彈、ハジク」倭名抄、十三、征戰具、……（二）彈ネ割レル。撥ネ開カス。（三）ノケモノニスル。ハネノク。人ヲ排斥スル。除外スル。色道大鏡（寂寞）……「はじく、彈シマントスルヲ捨ル心ナリ」

はじく・クル・クレ・キ・キ・ケ（自動、下二）〔彈く、ノ自動〕裂ケテ開ク。エミワレテ反ル。ハゼル。ハジケル。伊呂波新式……「サヤ豆ノ、はじけテ今日ノ、別レカナ」

はしぐひ（名）橋杙 ハシバシラ。橋桁ヲ支フル柱杙。橋脚 狂言記……テ繋ギマシテ、彼ノはしぐひノ二番目ノクヒニ、繋イデ置イテゴザル」

はしくれ（名）端 〔椽ノ端ノ義ト云フ〕（一）材木ノ端ヲ切リタルモノ。キレハシ。ハシ。……ノ端くれ、……メノトバシリ掛カラン事ノ端ニ……」

成ヲ刻ミテ一味セス……（二）スエ。末裔。

はしけ（名）艀 はしけぶね（艀）ノ略。

はしけ・し・キ・ケレ・ク（形、二）愛 はし（愛）ニ同ジ。ウツクシムサマナリ。はし（愛）ニ同ジ。……

はしげた（名）橋桁 橋代ノ上ニ、横ダヘ、橋板ヲ支フル材。……

はしけぶね（名）[illegible] 略シテ、はしけ。はしける……川舟……

はしけまめ（名）[illegible] 熟リテ、ハジケ……

はしけん（名）[illegible]……

はしけやし（句）[illegible]……

はしける……

伊呂波はしけろ、海舶ノ代物ヲ、枝船ニテ漕スルヲ云、枝船ヲはし舟トモ云ヘバ、端ト橋トノ義ニテ、渡スコトナルベシ」

❖はじ・ける (動) 〔罅裂〕 はじく(罅裂、下二段)ノ口語。

はし・ご (名) 〔梯子〕 (一)古ク、梯(ハシ)、ハシダテ、カケハシ、又、ノボリバシゴ。持運ビ、寄セカケテ、高キニ登ル具。木、又ハ、竹ノ長キ二條ノ材ニ、數條ノ横木(子ト云フ)ヲツケテ、足掛リトシテ登ルモノ。 博多小女郎波枕(享保、近松作)長崎「水ナキ井戸ハ梯子ノ入レ物、鼠ノ尾マデ錐ノ鞘」 (二)キダハシ。ダンバシゴ。階。 (三)次條ノ語ノ略。

はしご・ざけ (名) 〔梯子酒〕 幾回モ家ヲ替ヘテ酒ヲ飲ムコト。ハシゴノミ。略シテ、ハシゴ。 通串飲酒

はしこ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 〔敏捷〕 スバヤシ。スバシコシ。目先ハヤク覺リテスルドシ。ハシカシ。機敏。

はしご・だん (名) 〔梯子段〕 段梯子ニ、足掛リトシテ登ル横段。ハシノコ。

〔はし・ことば (名) 〔端詞〕 ハシガキ。詩歌ナドノ前ニ、其來歴ナドヲ書キツケタルモノ、コトバガキ。 萬葉考、一、くさぐさの歌ノ端詞、古スル世ノアリサマヲ考ルニ、イニシヘハ、歌ノ詞モ歌ト同ジク假名ニテカキ、又字ノ意モテセルモ、ココノ言モテヤスク訓ベク書キケン」

はしご・のり (名) 〔梯子乘〕 眞直ニ立テタル梯子ニ上リテ、種種ノ藝ヲナスコト、消防夫ノ出初式ナドニ行フ。

〔は・しし (名) 〔齗〕 〔齒肉ノ義、沖繩ニテモ、はしし〕 はぐき(齒莖)ノ古名。 倭名抄、三、鼻口類「齗、波之之、齒之肉也」 名義抄「齗、ハシシ」 字鏡廿七「齗、齒根也、波志志」 同二「齶、齒所レ居也、波志之」 天治字鏡二十二「齶、波志志」

はし・せん (名) 〔橋錢〕 橋ヲ渡ル時、特ニ損料トシテ要スル錢、橋ノ通行ニ支拂フ錢。橋賃。 傍廂、後編、四、大橋「假橋ナレバ、請負人ノ願ヒニテ、橋ノ雙方ニ番小屋アリテ、武士ノ外ハ橋錢二文ヅツトリシヲ」

はし・ぞろへ(ハシ・ソロエ) (名) 〔箸揃〕 くひぞめ(喰初)ニ同ジ。ハシタテ。

はし・た (名) 〔半下〕 〔間所(ハシト)ノ轉〕 (一)〔物事ノ、何レトモツカズ半ラナルコト。何レヘモツカヌコト。ナカゾラ。ドチラツカズ。中有。半途。中間。 竹取物語、上「起ツモはした、居ルモはしたニテ」 源、六、末摘花廿「娘ニヤ孫ニヤ、はしたナル大キサノ女ノ」 更級日記「今ハ宿トレトテ、人人アカレテ、宿モトムル所、はしたニテ、イトアヤシゲナル下スノ小家ナンアルト云フニ」 後撰集、十八、雜、四「身ノウサヲ、知ラバはしたニ、ナリヌベミ、思ヘバ胸ノ、コガレノミスル」 元眞集「吾宿ニ、植エテダニ見ム、女郎花(ヲミナヘシ)、はしたナル、秋ノ野ヨリハ」 (二)數ノ揃ハヌ事。半端(ハンパ)。ブゾロヒ。ハグタ。奇數。 名義抄「乞、ハシタナリ」 (三)數ノ餘レルコト。餘計。仂。零餘。 書言字考節用集、八、言辭門「仂(字彙、數之餘也)、奇(一略、凡數之零餘皆曰レ奇)、畸(義全レ上)、ハシタ」 博多小女郎波枕(享保、近松作)中「身請代金千四百五十兩ナ、端(ハシタ)ガア、テヤカマシイ、五十兩ハ亭主ニヤル」「錢ノはした」はした錢」 (四)はしたもの ノ略。ハシタメ。オハシタ。下女。婢。 倭訓栞「はした、云云、今武家ニテメシタキ女ヲ云ヘリ」 狂言記、菊花「嚴へ參ッテゴザレバ、都上臈ト見エテ、花ヤカニ出立チテ、腰元、はしたナドヲ數多連レテ御座リマシタ」

〔はし・たか (名) 〔鷂〕 〔褐鵲鷹(ハシトキ)ノ義〕 又、音便ニ、はいだか。全形、鷹ニ似テ小サク、腹ニ、黄黑、又、赤白ノ斑アリ。又、胸、腹ハ灰赤ニシテ黑赤斑ヲ雜ヘ、背、黑ク、光ヲ含ムモノアリ。能ク鴨、鷺ナドヲ捕フ、此レ雌ナリ。其雄ヲ、このり(兄鷂)ト云フ。鶉ナドノ小鳥ヲ捕フ。 倭名抄、十八、羽族名「鷂、波之太賀、又、兄鷂、古能里」 書言字考節用集、五、氣形門「鷂、鷂、ハシタカ、和俗所レ用」 新續古今集、六、冬「はしたかノ、尾フサノ鈴ヲ、ナラ柴ノ、ナレハマサラデ、立ツ雉子哉」

はした・がね (名) 〔端金〕 或ル數ニ足ラヌ金錢。マトマリテ居ラヌ金。ハンパナル金、又、少シバカリノ金。 好色一代男(天和、西鶴)三、三「はした銀モ、アルニマカセテ手ニ持タズ」

はした・ぜに (名) 〔端錢・仂錢〕 百文ニ足ラズ、又、二三文、五文ニモアラズ、何レニモツカザル錢。ハンパナルゼニ。 好色一代男(天和、西鶴)五「林檎、云云、ソレ買ヘトテ、腰ニツケタル端錢ヲ投グレバ」 狂歌「盆前ニ、誰カハ金ヲ、カササギノ、はした錢デモ、ホシアヒノ空」

はし・たて (名) 〔箸立〕 (一)箸ヲ立テ置ク筒ノ類。 (二)くひぞめ(喰初)ニ同ジ。ハシゾロヘ。 御產之規式「箸立の事、(下下ニテクヒゾメトイフ)一、眞菜ノ祝ト云事本也、小兒ヲメノトイダキテ、吉方ニ向ハセ申テ、膳ヲスヱ初ルナリ、箸ヲトリ、飯ヲフクメナドスル事ハナキナリ、今日ヨリ毎日供御ヲスヱ參ラスルナリ、是百一日メノ祝ナリ、此日ヨリ、アマガツニモ膳ヲスヱ初ル」

〔はし・だて (名) 〔樹梯〕 梯子(ハシ)ヲ立テカクルコト。樹階。橋立。 垂仁紀、八十七年二月「神庫雖レ高、我能爲二神庫一造レ梯、云云、故諺云、神之神庫隨二樹梯一之(カミノホクラモハシダテノママニ)」 金葉集、八、戀、下「コヒワタル、人ニミセバヤ、松ノ葉モ、下モミヂスル、天ノ橋立」 古今夷曲集(寬文)九「橋立ノ、松ノフグリモ、入海ノ、波モテスラス、文殊支利カナ」

〔はしたて・の (枕) 〔橋立〕 くら、さかしきナドノ枕詞。 萬葉集、七廿「橋立ノ、倉椅山(クラハシヤマ)ニ、立テル白雲、見マク欲リ、我スルナベニ、立テル白雲」 仁德紀、四十年二月「破始多乃、嶮シキ山モ、我妹(ワギコ)ト、二人越ユレバ、ヤスムシロカモ」

はしたな・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 〔中間甚(ハシタイタ)〕 〔中間(ハシタ)ノ義〕 (一)中間ニテアリ。寄ル邊ナシ。ドチラツカズナリ。不着落。依違。 伊勢物語、第一段「女ハラカラ住ミケリ、云云、オモホエズ故郷ニ、イトはしたナクテアリケレバ、心地惑ヒニケリ」 源、廿二、玉鬘廿六「歸ラムニモ、はしたナク心ヲサナク出テ立チニケルヲ」 大和物語、下「ワガサマノイラナクナリニタルヲ思ヒハカルニ、イトはしたなくテ、蘆モ打ステテニゲニケリ」 (二)〔取付キ端ナシ〕 間ガワルシ。ヒョンナ間ナリ。無藉任。 枕草子、七、六十四段「はしたなき物、コト人ヲ呼ブニ、我レカトテ差出デタルモノ、マシテ、物取ラスル折ハイトド」 源、四十九、東屋十四「人ノ思ボスラムコトモ、はしたなくナリテ」 (三)〔付キナクテ、不都合ナリ。アサマシ。困殺。 宇津保物語、俊蔭五「我カ身ハ、コノ山ニホロボシツトオモフモノカラ、はしたなき心ヲナシテ、アスラノ中ニマジリヌ」 落窪物語、一「塒トラルルモ、イトはしたなき心地スベシ」 源、三十四、下若菜、下六「盃、云云、持タセナガラ、タビタビ強ヒ給ヘバ、はしたなくテ、モテワヅラフ狀、ナベテノ人ニ似ズヲカシ」 宇治拾遺、一、第三條「雨風はしたなくテ、歸ルニ及バデ、山ノ中ニ、心ニモアラズ泊リヌ」 (四)〔付キナク愛相ナシ。ツレナシ。ナサケナシ。無情。 金葉集、九、雜、上「男、心變ハリテ、常ニ、はしたなけれバ」 宇治拾遺、二、第九條「侍ドモ、はしたなく言ヒケレバ、泣キツツ歸リテ」 源、十八、松風十「スコシヒクニ、松風はしたなくヒビキワタリ」 同、三十一、眞木柱廿六「打絶エテ、オトヅレモセズ、はしたなかりシニ」 同、六、末摘花廿二「ツイタチノ御ヨソヒトテ、ワザト侍ルメルヲ、はしたなうハ、エ歸シ侍ラズ」 (五)不足ナシ。不都合ナシ。立派ナリ。 盛衰記、三十六、熊谷向二大手一事「狹狹急ギ候ヘト勸ム、熊谷ハ子ナガラモ、アノ年齡ニ、はしたなく思フ者カナト思フ」

〔はしたな・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二)

（はしたなくナラシムル意）取付キ端ナク仕向ケテ困ラス、ワヅラハス、他ヲ迷惑セサスル。困殺 窘殺 源、一、桐壺「コナタ、カナタ、心ヲ合ハセテ、はしたなめ、ワヅラハセ給フ時モオホカリ」同、廿九、行幸、上「タダ、笑ヒ種ニツクリ給ヘド、世人ハ、ハヂガテラ、はしたなめ給フナド、サマザマ言ヒケリ」夫木抄、三十六、言語「マツキテハ、人目モ知ラズ、アタヘシヲ、ナニサマアシク、はしたなめケム」

はしため（名）［半下女 端女］（次條ノ語意ニ同ジ）シモヲンナ。下女。ミヅシメ。オハシタ。女中。婢。

はしたもの（名）［端者］（身ノ程、高クアラネド、又、ムゲニ下衆ニモアラズ、中間者ノ意ニテ、中間男ナド言ハムガ如シト云フ）召仕ノ女ノ稱。略シテ、はした。ハシタメ。榮花物語、三十六、根合「はしたもの、女房ノ局ノ人ナド、ヲカシクシタテテ、クツスリアリク」狹衣、一、上、十一「軒ノアヤメヲ一筋引オトシテ、イソギカキテ、はしたものノヲサナシケナルシテ、すヒテ參ル」[illegible]、八、[illegible]、下「モノヘマカリケル道ニ、はしたものニアヒタリケルヲ」十訓抄、上、第四、第二十條「中宮ノ御方ニ、はしたものニ、砂金ト云ヒテ、雙ビナキ美女アリケリ」

はしたわらは（名）［中間童］召使ノ童ノ稱。落窪物語、二「ゲニ[illegible]ヤ思ヒケム、はしたわらはノアルニ、サウゾキカヘサセテ留メ給ヒ」

はしちか（名）［端近］家ノ内ニテ、端ニ近キコト。又、ソノ所。アガリバナ。源、十九、薄雲「例ハ、殊ニ端近ナル出居ナドモセヌ」[illegible]マガキヨリ、タハレナ[illegible]ソ、女郎花、はしちかナリト、人モコソ見レ」

はしちか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）［端近］ハタニチカシ。ハシ近ニテ[illegible]物語、二、座主流事「[illegible]ウトウ歸リ上リ給フベシト、端近く居出デテ宣ヒケルハ」

はしぢょらう（名）［端女郎］「好色訓蒙圖彙（貞享）「端ハ局ニ立チタマフ御方也」端居ノ義ナリ」江戸時代ノ初、京阪、及、江戸ノ吉原ニテ、遊女ノ下級ナルモノノ稱。略シテ、はし。京阪ニテ、大夫、天神、端ノ三級トシ、吉原ニテ、大夫、格子、端ノ三級トシタリ。ケンドン。橋局。一名、局女郎。風流御前義經記（元祿）「端女郎ハ、[illegible]ヨリ下、ミセ女郎ト云フナリ」[illegible]神樂（寶永）四、傾城土產「是ノ難波ニテハ、端の女郎モ方、影、月ナド、ヤサシク云フニ」嬉遊笑覽、九、娼妓「[illegible]出口北向茶ヤ合[illegible]端女郎ヲ擧ル晝バカリニテ、夜泊ヲ制ス」同、同「又[illegible]女郎ヲけんどんト異名[illegible]」風流女大名（文化）「是レニテ見エタル小家ニ晝ナウレンヲカケタルハ、端女郎ノ住ミ給フ局トヤラン」

はしつかた（名）［端方］ハシノカタ。[illegible]二、[illegible]「はしつかたノオマシニ、カリナルヤウニテオホトノゴモレバ、人人モ靜マリヌ」

はしづくり（名）［端作］はしがき（端書）ニ同ジ。（消息文、懷紙ノ和歌ナドニ）[illegible]

はしづくり（名）［橋匠］橋ヲ建造スル人。[illegible]十九、[illegible]二「[illegible]朽チヌベキ、イタダノ橋ノ、はしづくり、思フママニモ、渡シツル哉」

はしっこい（形）［敏捷］「はしこしノ音便」スバヤシ。ハヤシ。テキハキシテアリ。機敏。浮世風呂（文化、三馬）四編、上「其苦ダァ、猿田ノ彦ガオ先モノニ、舅岩がはしっこいト[illegible]」

はしつぼね（名）［[illegible]］はし[illegible]（端女郎）ニ同ジ。好色一代女（貞享、西鶴）二「ソレヨリ[illegible]はしつぼね[illegible]ク、聞イテ面白カラズ」

はしづま（名）［愛妻］愛シキ妻。イトホシ[illegible]

はしづめ（名）［橋端 橋爪］（端ノ條ヲ見ヨ）橋ノ盡クル處。橋ノタモト。橋ノ際。ハシギハ。橋畔 橋頭 盛衰記、十五、宇治合戰事「宮ノ兵共モ、時ノ聲ヲ合セテ、橋づめニ打立ッテ、雨矢射ケリ」太平記、三、笠置軍事「平等院ノ橋爪ニ、一首ノ歌ヲ書キテゾ立テタリケル」

ばじとうふう（句）［馬耳東風］人ノ訓言ヲ少シモ感ゼザルコトニ云フ語。ウマノミミニカゼ。バニトウフウ。言聞カセテモ、更ニ聞入レヌコト。馬ノ耳ニ念佛。ノ其心ニヒビカヌコト[illegible]

はしどの（名）［橋殿］[illegible]二、橋ノ如ク架ケ亙シテ造リタル家。夫木抄、廿一、橋「はしどのノ、瀬ノ板敷、イシバシニ、ツヅキテノボル、山ゾカシコキ」落窪物語、三「中將殿ノ御車ドモハ、はしどのニ引立テテ、ムゴニ立チ給ヘルニ、ヤヤ久シウアリテ、辛ウジテヨロボヒ[illegible]」

はしとみ（名）［半蔀］蔀ノ、卸シテ、下マデハナク、半バナルモノ。下半分ハ、格子[illegible]ナルヲ小半蔀ト云フ。（蔀ノ條ヲ見ヨ）[illegible]タシテ、簾ナドモイトシロウ涼シゲナルニ」後拾遺集、十五、雜、一「月アカク侍リケル夜、はしとみニ女[illegible]ヨトテ侍リケレバ」

はしなく（副）［無端］何ノ端トモナク。[illegible]

はしにほひ（名）[illegible]語。[illegible]色ノ上濃ク、下次第ニ薄キモノ。にほひ（匂）ノ條ノ（七）ヲ見ヨ。太平記、九、[illegible]

はしぬひ（名）［端縫］はぬひ（端縫）ニ同ジ。[illegible]

はしのこ（名）［梯子］梯子ノ段。又、[illegible]ハシノ段。[illegible]

はしのみや（名）［土師宮］武藏國、南埼[illegible]

はしのり（名）［端乘］二物ノ端ノ方ニ[illegible]

はしは（名）[illegible]

はしはかうぶり（名）[illegible]

ナラズ。後ノ立烏帽子ノ類。 天武紀、下、十三年閏四月「唯男子者有二ハシハカウブリ一冠、冠而著二括緒褌一」 釋紀「私記曰、師説、今之烏帽子也」 菅佛辨「圭冠、漆紗ニテ頂鈍ク尖ル、コレヲ括リタルガ、後ノ冠ナリト云フ」 倭訓栞「はしはかうぶり、天武紀ニ圭冠ヲヨメリ、私記ニ烏帽子也ト云ヘリ、帽子ノ形、烏帽子ニ似タリ、ヨテ名クルニヤ」

はしばこ (名) 箸筥 箸ヲ納メ置ク細ソク長キ匣。 箸笥 織留(元祿、西鶴)二「精進日ニハ香ノ物ニテ、朝夕オ主ノオ影ト、箸箱ヲ戴キ」

はしばし (名) 端端 アノハシ、コノハシ。アチコチノカド。ソバソバ。 源、四十五、椎本「はしばしヲモ、アキラメ聞エマホシクナム」 鶯宿集「横雲ノ、ワカルル空ニ、時鳥、聲ヲツレユク、山ノはしばし」

はしばし (副) ハシタナル狀、又ハ、ツマラヌモノノ狀ニ云フ語。何レトモツカズシテ。 金葉集、八、戀、下「數ナラヌ、身ヲ宇治河ノ、はしばしト、イハレナガラモ、コヒ渡ルカナ」

はしばみ (名) 榛 〔葉皺ノ轉、或ハ云フ、榛柴實ノ略ト〕 山野自生ノ落葉喬木ノ名。高サ三丈許リ、冬ハ葉無クシテ、節毎ニ小サキ穂ヲ、兩兩下垂ス、長サ一寸許リ、幅二分許リ、淺褐色ニシテ、はりのき(榛木)ノ蕾ニ似タリ。春ニ至リテ花開クトキハ、形、長大ニシテ黄色ナリ。春ノ末、花落チテ葉出ヅ、形圓クシテ、五短尖アリ、邊ニ鋸齒アリテ、皺紋多シ、大イサ三四寸、互生ス。實ノ大イサ、しばぐり(柴栗)ノ如クニシテ、圓尖ナリ、白仁アリ、生食スレバ、栗ノ如シ。 倭名抄、十七、草木類「榛子、波之波美、榛栗也」 本草和名、下、十「榛子、波之波美」 字鏡、四十「榛、波自波彌」 古今要覽稿、草木「はしばみ、云云、此葉、節多クシテ皺ノ如シ、故ニはしばみト云フ」 拾遺集、七、物名「はしばみ、面影ニ、シばしばみユル、君ナレド、戀ヒシキ事ゾ、時ゾトモナキ」 續詞花集、十九、物名、はしはみ「アヤシクモ、風ニ折ルテフ、サクナギノ、はしばみヨリモ、長ク見ユラン」 文武五人男(元祿、近松作)からあや名所づくし「拾フ木ノ實ハ何何ゾ、云云、椿、椢、大小柑子」

はしばみ (名) 端食 指物細工ノ語。版木、厚板戸ナドニ、板ヲ反ラセヌ爲、又ハ、木口ヲ隱シ、或ハ、矧合ノ離ルルヲ防グ爲ナドニ、兩端ノ切口ニ細ソキ材ヲ填メコムコト。 易林節用集(慶長)下、器財門「端込、ハシバミ(注「机」)」

はしひめ (名) 橋姫 橋ヲ守ル女神ナリト云フ。山城ノ宇治橋ニオハシマス神ニ云フ。又、たまひめ。 古今集、十四、戀、四「サムシロニ、衣カタ敷キ、今宵モヤ、ワレヲ待ツラム、宇治ノ橋姫」(愛姫ニ寄セテ詠メリト云フ、一本、宇治ノ玉姫) 新古今集、六、冬「アジロ木ニ、イサヨフ波ノ、サヨフケテ、ヒトリヤ寐ヌル、宇治ノ橋姫」 實方集「はしひめノ、カタシク袖モ、カタシカデ、思ハサリケル、物ヲコソ思ヘ」 新續古今集、一、春、上「橋姫ノ、朝ゲノソデヤ、マガフラム、カスミモ白キ、宇治ノ河波」 蟬丸(元祿、近松作)「宇治橋ノ宮居ニコソハ着キニケリ、云云、怪シキ姿南無三寶、コノ社ハ、嫉妬ヲ守ル橋姫ノ、丑ノ時詣デ、是ナンメリ」

はしぶと (名) 觜太 次條ノ語ノ略。

はしぶとがらす (名) 觜太鴉 略シテ、はしぶと。からす(烏)ノ條ヲ見ヨ。

はしぶね (名) 端舟 小サキ舟。 艇 倭名抄、十一、船類「艇、波之不禰、小船也」 垂仁紀、三年三月「一云、天日槍乘レ艇、泊二于播磨國一、在二於宍粟邑一」 宇治拾遺、十四、第六條「淀ニテ舟ニ乘リケルホドニ、云云、はしぶねニテ商スルモノドモ寄リキテ」 弱竹集「秋風ニ、マカセテセトヲ、渡ルカナ、スマノウラワノ、アマノはしぶね」

はしぼそがらす (名) 觜細鴉 からす(烏)ノ條ヲ見ヨ。

はじまり (名) 始 初 ハジマルコト。オコリ。ハジメ。發端。

はじまる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 始 〔始むノ自動〕 新ニ發ル。 古今集、序「コノ歌、天地ノ開ケはじまりケル時ヨリ出デ來ニケリ」 蜻蛉日記、下、中十一「二月十五日ニ院ノ小弓はじまりテ」

はじむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下、二) 始 〔端ヲ活用ス〕 (一) 新ニ發ス。シダス。ハジメル。 名義抄「基、ハジム、初、ハジム、創、ハジム、首、ハジム」 續紀、九、神龜元年二月、宣命「高天原ニ事波自米テ、四方ノ食國、天下ノ政ヲ」 (二) 主トス。第一トス。 宇津保物語、吹上、下、四十一「種松ハ十六ノ大國ヨリはじめテ、ソクサ國ニ至ルマデ、寶ヲタクハヘテ侍ルモノナリ」

ばしん (名) 婆心 らうばしん(老婆心)ノ略。其條ヲ見ヨ。

はしむかふ (枕) 箸向 〔閒向ふニテ、兄弟、常ニ相對フ意ト云フ〕 弟ノ枕詞。 萬葉集、九、三十長歌「父母ガ、成シノマニマニ、箸向ふ、弟ノ命ハ、朝露ノ、消ヤスキ命、神ノムタ」

はじめ (名) 始 (一) 始ムルコト。テハジメ。 蜻蛉日記、上、上三「コレヲはじめニテ、又又モオコスレド」 (二) オコリ。ハジマリ。發端 權輿。濫觴。 名義抄「甫、初、肇、ハジメ」 易林節用集(慶長)上、言辭門「初、始、甫、ハジメ」 古事記、上、一「天地初發之時」 神代紀、上、一「開闢之初、洲壤浮漂」 萬葉集、二、廿「天地ノ、初ノ時シ」 古今集、序「難波津ノ歌ハ、帝(仁德)ノ御はじめナリ」 同「宇治山ノ僧喜撰ハ、詞カスカニシテ、はじめヲハリ、タシカナラズ」 (三) モト。根本。第一。 古事記、中(仲哀)六「金銀爲レ本、云云、珍寶多在」 保元物語、一、新院御所門固事「高閑三郎、同四郎ヲ始めトシテ、二十八騎ゾ具シタリケル」

はじめ (副) 初 コレヨリ先ニ。マヘカタ。最初。以前。 竹取物語、下「神を捕へ給ヘベ、面ヲフタギテ候ヘドモ、初、善ク御覽ジツレバ、類ヒナクメデタク覺エサセ給ヒテ」 枕草子、十一、百三十三段「寄リタレバ、はじめオリケル人ドモノ、物ノ見エヌベキ端ニ」

はじめて (副) 始而 新ニ。新規ニ。初トシテ。 名義抄「初、ハジメテ」 續紀、四、慶雲四年七月、詔「親王始而、王臣百官人等」

はじめる (動) 始 はじむ(始)ノ口語。

はしもと (名) 橋本 橋ノ互セル所ノ岸。ハシノタモト。 鶯宿百首、下「ウエシヨリ、橋本サラヌ、オソ櫻、春ノクレヲヤ、待チワタルラン」

はじもみぢ (名) 黄櫨紅葉 (一) 黄櫨ノ葉ノ紅葉シタルモノ。はじ(黄櫨)ノ條ヲモ見ヨ。 新古今集、五、秋、下「鶉鳴ク、片野ニ立テル、はじもみぢ、散ラヌバカリニ、秋風ゾ吹ク」 新勅撰集、五、秋、下「故郷ノ、ミカキガ原ノ、はじもみぢ、心ト散ラセ、秋ノ木ガラシ」 (二) 襲ノ色目ノ名。表、黒バミタル蘇芳ニシテ、裏、黄ナルモノ。

はしもり (名) 橋守 橋ヲ守ル者。橋ノ番人。橋番。橋丁 天武紀、上、元年五月「命二菟道守橋者一、遮二皇大弟宮舍人運二私粮一事上」 古今集、十七、雜、上「チハヤブル、宇治ノ橋守、汝ヲシゾ、アハレトハ思フ、年ノ經ヌレバ」 千載集、十二、戀、二「ワガ方戀ハ、年フルカヒモ、ナカリケリ、淺マシキハ、宇治ノ橋守」 永久四年百首「ニホテルヤ、ヤバセノ渡リ、スル舟ヲ、イクソタビミツ、瀬田ノ橋守」

はしゃ (名) 霸者 〔は(霸)ノ條ヲ見ヨ〕 (一) 諸大名ノ首領。諸侯ノハタガシラ。 (二) 霸道ヲ行ヒテ、天下ヲ治ムルモノ。 孟子、盡心、上篇「霸者之民、驩虞如也、王者之民、皞皞如也、殺レ之而不レ怨、利レ之而不レ庸、民日遷レ善」

はじゃ (名) 破邪 (一) 邪説ヲ論破スルコト。 李商隱、上二河東公一啓「出俗情微、破邪工少」「破邪顯正」 (二) 邪氣ヲ破リ拂フコ

ト、[illegible]七賢(宋、[illegible])[illegible]

爲ニ將軍ニ功能破ニ邪歸ニ正、反ニ濁還ニ清」

ば-しゃ (名) 馬車 馬ニ牽カセル車。[illegible]書、輿服志「賈人不ㇾ得ㇾ乘ㇾ馬車ㇾ」

ば-じゃう (名) 馬上 (一)ウマノウヘ。馬ニ乘リテ居ルコト。[illegible]「馬上[illegible]」「供奉ノ官人ドモ、旅行ノ道ノ慰メニ、鞍管ノ數ヲ奏シツツ、馬上ニ[illegible]」(近松作)上「出合ヨ弟子ニ馬上ノ大士」 (二)千軍萬馬ノ間、[illegible]。史記[illegible]「居ニ馬上ニ而得ㇾ之、[illegible]」[illegible]以ニ馬上ニ治ㇾ之」

ば-じゃう-ぐつ (名) 馬上沓 古ヘ、馬ニ乘ルニ用キシ沓。革ニテ造リ、外面ヲ黒ク漆ニテ塗リ、爪先ニ十二ノ[illegible]ヲ設ケタルモノ。

ば-じゃう-ぢゃうちん (名) 馬上提燈 昔、馬上ニテ用キシ提燈。[illegible]、長キ[illegible]ノ[illegible]ヲツケタルモノ。乘馬ノ人、[illegible]ニ差ス。ウマヂャウチン。[illegible]集、上、中、[illegible]「馬上提燈ト云フ[illegible]モノハ、馬上[illegible]ナルベシ」 [illegible]金蓬萊袋、一、挑灯類「馬ぢゃうちん、[illegible]ノ弓[illegible]」「輿之邊ニ侍三人、其内一人馬提燈爲ㇾ持」

は-しゃう-ふう (名) 破傷風 病ノ名。金瘡、撲傷ナドノ口ヨリ、土毒ト共ニ破傷風桿菌ト云フ一種ノ徽菌ノ[illegible]シ入ルニヨリ起ルモノト云ヒ、筋ニ[illegible]ヲ起シ、且、口ヲ開ク能ハザルヲ特徴トス。[illegible]「破傷風、ハシャウフウ」

は-しゃ-ぐ [illegible] 乾燥

(一)カワク。ヒル。(二)輕躁ニ戲ル。[illegible]サヤギマハル。[illegible]地(寶永、近松作)三「好イ加減デ止ミヤラヌト、はしゃイダ、チョボチョボロ、抓ッテ抓ッテ抓リ上ゲ」

は-しゃく (名) 羽尺 布帛ニ云フ語。大人ノ着ル、一枚ノ羽織トナルホドノモノ。

ば-しゃく (名) 馬借 駄賃ヲ取リテ、馬ヲ貸スコト。ウマカシ。[illegible]人[illegible]「馬借」 庭訓抄、注「駄賃ヲ取テ、馬ヲ往來スル人ナリ」 丹波與作(寶永、近松作)上「當代ハ道中筋モ吟味強ク、馬借問屋ヘコトワラレ」

は-じゃ-けん-しゃう (名) 破邪顯正 邪道ヲ論破シ、正道ヲ表顯スルコト。[illegible]

ば-しゃ-まはし (名) 馬車廻 玄關前ノ[illegible]寄。

は-しゅつ (名) 派出 (一)手分ケシテ出シ遣ルコト。[illegible] (二)命ジテ出張セシムルコト。派遣。

ば-じゅつ (名) 馬術 馬ニ騎リテ走ラスル術。又、馬上ニテナス種種ノ技。

は-しゅつ-しょ (名) 派出所 派出セラレタルモノノ詰所。「巡査派出所」

は-しゅ-ゆみ (名) 波士弓 [illegible]

ハ-ジュン (名) 波旬 (梵語、Pāpīyas. ノ轉訛。又、旬ハ甸ノ誤ナリト。殺者。惡者ナドト譯ス)[illegible]

トセシ魔王ノ名。又、ハヒヤ。ハズン。[illegible]

ば-しょ (名) 場所 (一)[illegible]所。(二)[illegible] (三)居ルトコロ。ホドコロ。バセキ。(四)相撲ニ云フ語。すまふ(相撲)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

は-しょ-る ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 端折 (はしをる(端折)ノ約) (一)端ヲ折リテ[illegible]グ。揭ゲテ帶ニハサム。[illegible]

はしら (名) 柱 (はしハ屋根ト地トノ間ニアル物ノ意、らハ助辭) (一)(家作ニ、土臺ノ上ニ直立シテ、棟梁ヲ承ケ、屋根全體ヲ支フル長キ材。又、[illegible]

はしら (接尾) 柱 (上代ハ、宮遷ルニ、宮柱太知トタヘ、顯宗即位前紀[illegible]立ツル柱ハ、此家長ノ御心ノ鎭メナリ」[illegible]トアリ、柱ノアマタ並ビ立ツ[illegible]レバ、皇子タチナド並ビ[illegible]ヲ[illegible]神、佛、貴人ナドヲ數フルニ云フ語。[illegible]

はしら-かくし (名) 柱隱 [illegible]

はしら-かけ (名) 柱掛 [illegible]

はしら-かざり (名) 柱飾 [illegible]

ド入ルル物カト思ハルルナリ」

はしらか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［走］ 走ルヤウニナス。疾ク疾クト、追リ遣ル。盛衰記、四十一、兒島合戰事「淺クナレバ、物ノ具ノ水はしらかし、弓取直シ、向ヒノ岸ヘサト上ル」徒然草、八十七段「馬、云云、男ドモアマタ走らかしタレバ、云云、求メ出デテ舁キモテ來ツ」

はしら‐ごよみ（名）［柱曆］ 略曆ヲ紙ニ摺リテ、柱ナドニ掛ケオクモノ。大經師昔曆（正德、近松作）上「ごよみ歌「ソレヲ枝トモ柱ごよみノ紙破レテ、向フ其方ハ都ノ惡方」

はしら‐だて（名）［柱建］ 新ニ家ヲ造ルニ、先ヅ柱ヲ立ツルコト。又、其儀式ナド行フコト。宇野主水記、天正十四年六月廿八日「御影堂柱立、但三日以前ヨリ連連ト柱ヲ立テ」晋吟我集（慶安）一「ヨキ日ニヤ、花モサクジノ、家櫻、庭ニ一本ノ、柱だてシテ」

はしら‐どけい（名）［柱時計］ （置時計、懷中時計ニ對ス）時計ノ、柱、壁ナドニ懸クベク作レルモノ。カケドケイ。柱漏

〰**はしら‐ぬき**（名）［欄額］ （柱貫ノ義）柱ノ上部ヲ横ニ貫ケル材。古建築ニアリ。今ノ貫ナラム。はしき。倭名抄、十四居宅具「欄額、波之良沼岐」字鏡、十「棖、柱奴支、又、波志木」

はしら‐びき（名）［柱引］ 船ノ帆柱ヲ立テ、又ハ、倒スニ用ヰル綱。

はじ‐らふ（ハジ‐ロウ）（名）［黄櫨蠟］ 黄櫨（ハジ）ノ實ヨリ採リタル蠟。ハゼラフ。

はしら‐まつ（名）［柱松］ タチアカシ。タテアカシ。大ナル松明（タイマツ）ノ木ヲ、地ニ掘リ埋メテモヤスモノ。東大寺要錄、五、年中節會支度「十二月十四日、萬燈會、二石、柱松、四十抱直」今昔物語、廿五、第四語「庭暗ケレバ、所所ニ柱松ヲ立タリ、云云、庭ニ立テタル柱松ドモノ光リ、晝ノ樣ニ明シ」

はしら‐よせ（名）［柱寄］ 圓柱ニ寄セテ添フル竪ニ長キ方ナル木。格子ヲササムガ爲ニス。欄檻 家屋雜考、二「柱寄、大抵、丸柱ヲ用フルホドノ所ハ格子アリ、丸柱ニテハ、格子ヲササスニ便ナラサル故、柱寄トテ、格子、或ハ、妻戸ナドアル所所ヘバカリ、方ナル木ヲソユル事ナリ、或ハ是ヲ欄檻トモカケリ」義經記、四、義經都落事「大勢ノ中ヲカキ分ケテ、柱よせニ上リ、手ヲカケテ見ルニ、云云、柱ノ高サハ四五丈モアルラン」

はしり（名）［走］ （一）ハシルコト。カケルコト。萬葉集、五三十五「難波津ニ、ミ舟ハテヌト、聞コエコバ、紐トキサケテ、タチ走志利セム」（二）滑カニ動キ行クコト。スベルコト。滑［走］「戸ノ走」（三）臺所ノ流シ。ナガシモト。決水槽 一心二河白道（元祿、近松作）二「兄弟ノ子ヲ走りノ下ヘ隱シ」（四）極メテ新シキコト。斬新 尺素往來「朝日暗深灘之走（ハシリ）、攝（茶ノ新芽）」夫木抄、十二、秋「水澁ツキ、植ヱシ早稻田ノ、はしり穗ニ、イデヤホドナキ、ヨトコソハ見レ」（五）はしりもの（走物）ノ略。心中宵庚申（享保、近松作）下「太兵衞カ市通ヒ、はしりノ竹ノ子、片荷ニハ、獨活、生姜、靑山根、白瓜二ツ」

バジリ（名）〔羅甸語、Ungentum basilicum. ノ略〕 吸出（スヒダシ）ニ用ヰル膏藥ノ名。松脂（マツヤニ）ト豬（ブタ）ノアブラ脂トニテ製ス。又、おりいぶ油、黃蠟、さろふぉにうむ、てれびんちいな、らのりんナドヲ原料トシテ製シタル軟膏。バジリコン。バジリ膏。

〰**はしり‐あり・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四） ［走歩］ 驅ケテ歩ク。枕草子、一、第三段「イツシカ、ソノ日ニナラント、急ギはしりありくモヲカシ」徒然草、十九段「人ノ門叩キ走りありきテ」

〰**はしり‐い・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［走入］ 走リテ中ニ入ル。カケイル。徒然草、八十七段「馬ハ血ツキテ、宇治大路ノ家ニ走り入りタリ」

はしり‐うま（名）［奔馬］ （一）疾ク走リ行ク馬。（二）〔クラベウマ〕 ウマカケ。競馬 左右馬寮式「凡賀茂二社祭、走馬十二匹」宇津保物語、梅花笠二「臨時ノ祭リノサマナリ、萬ヅノ事ヲトトノヘ、云云、はしり馬十疋」思儘日記「五月五日ハ、武德殿ノムカシノ跡ヲタヅネテ、節會走馬ナドアルベシ」奔馬に鞭つトハ、ヨキガ上ニモ、注意シテ善カラムコトヲ希望スベシ、トノ喩ヘノ語 後撰集、十九、離別「惜シト思フ、心ハナクテ、コノタビハ、行ク馬ニ鞭ヲ、オフセツルカナ」癡愚獨物語「走り馬に鞭、帆カケ船ニ櫓ヲ押スガ如ク」（三）早打（ハヤウチ）ノ乘リテ、急ギ走ル馬。早馬 增鏡、四、三神山「京ヨリノはしりうまトイヘバ、何事ナラムト驚キナガラ」

はしり‐がき（名）［走書］ （一）〔草書、平假名ナド、引キ續ケテ、手早ク、スラスラト書クコト。快揮 源、三十五、下、若菜、下「ただはしりがきタルオモムキノ、サエサエシクハカバカシク」心中天網島（享保、近松作）名殘の橋づくし「走り書、謠ノ本ハ近衞流」（二）ナホザリニ、心ヲ入レズ書クコト。

はしり‐がさ（名）［走笠］ 古ヘ、走衆（ハシリシュウ）ノ被リタル笠。走衆故實「走衆ノ故實、云云、敷皮、笠ヲ用意スベシ、走笠トテ、笠ノ拵ヘヤウアリ」

はしり‐がね（名）［走鐘］ 志摩ノ鳥羽ニテ賣女ノ稱。物類稱呼、一、人倫「遊女、ウカレメ、云云、伊勢ノ山田ニテ、艷女（アンニヤ）ト云、同國鳥羽ニテ、はしりがねト云、鳥羽ハ湊ナルニヨリテ、はしるトハ、船人ノ祝詞ナルベシ」

⁘**はしり‐くら**（名）［走競］ 次條ノ語ノ略。カケクラ。室一后千句「尻ヲツポルハ、ヨソ日ハヅカシ」オソラクト、イヒシモ負クル、走りくら」

〰**はしり‐くらべ**（名）［走競］ 數人、共ニ走リテ、其遲速ヲ競ブルコト。カケクラベ。カケクラ。ハシリクラ。ハシリコクラ。カケッコ。競走（キヤウソウ）。趨競 枕草子、五、四十五段「昔ノ藏人ハ、今年ノ春夏ヨリコソ泣キタチケレ、今ノ世ニハはしりくらべヲナムスル」

はしり‐くら（名）［走競］ 前條ノ語ニ同ジ。カケッコ。童子字盡「行城、ハシリコクラ」古今夷曲集（寬文）六「帆ヲカケテ、ヒイフウミツノ、浦風ニ、走りくらヤ、足ハヤキ舟」

バジリ‐コン（名）〔おんハ、から（膏）ノ轉訛ニテモアルカ〕 ばじりニ同ジ大職冠（正德、近松作）二「テレメンテイナ、ばじりこん、云云、萬能膏ト、膏藥ノ名ヲ云ヘバ」

〰**はしり‐しゅ**（名）［走衆］ 次條ノ語ニ同ジ。

はしり‐しゅう（名）［走衆］ （一）室町時代ニ、徒步（カチ）ノ供衆ノ稱。カチシュウ。步衆 年中恆例記、正月七日「御參內次第、御供之事、云云、御供ノ同朋一騎、御小者六人、走衆六人召シ連レラル」慈照院殿年中行事、正月十四日「松囃、猿樂、云云、構假屋、御供衆、申次、候ス、走衆六人、庭上ニ敷皮ヲ敷キテ居ル」走衆故實「走衆ハ、クタビレタル時ハ、ソト土ニツキテ休ベシ、御輿カキノカハル時ノ事也」（二）江戶時代ニ、若黨ノ稱 秦平年表、東照公「慶長八年正月、初テ走衆ノ頭ヲ置ル」

はしり‐ずみ（名）［走炭］ はねずみ（跳炭）ニ同ジ。

はしり‐ぢ（ハシリ‐ジ）（名）［走痔］ 痔ノ一種。患部ヨリ血ノホトバシリ出ヅルモノ。痔出血（ヂシユツケツ）。

はしり‐づかひ（ハシリ‐ズカイ）（名）［走使］ 馳廻リニ、使ハルルコト。又、ソノ者。足輕。走卒

〰**はしり‐で**（名）［走出］ （一）カドグチ。萬葉集、二二十八長歌「趨出（ハシリデ）ノ、堤ニ立テル、槻ノ木ノ」（二）山勢ナドノ、走リ出デタル如キ狀ニ云フ語。萬葉集、十三三十長歌「靑幡ノ、オサカノ山ハ、走出（ハシリデ）ノ、ヨロシキ山ノ」

はしり‐どころ（名）［莨菪・莨若］ 〔誤リテ根ヲ食ヘバ、其氣、腹中ニアル間ハ、狂

氣奔走スレバ名アリ」古名、オホミルクサ。毒草ナリ。深山幽谷ニ生ズ。早春、宿根ヨリ苗ヲ生ズ、紫黑ニシテ、長ズレバ淡綠ナリ。莖圓ク、高サ一尺餘、葉ハ互生シ、商陸ニ似テ、小サク狹シ、全緣ナリ。梢葉ノ間ニ花ヲ開ク、下ハ筒ニシテ、末ハ五瓣、小サキ桔梗花ノ如シ、紫、又、黄ナルモノアリ。花凋落シテ、蔕、漸ク大、棟子ノ如シ、中ニ細子アリ、褐色ナリ、春ノ末ニ熟ス。根ハ形、山萆薢ノ如シ、毒アレドモ、鎭痙劑、及、鎭痛劑ナドヲ製シ得、即チ、莨菪根ナリ。又、ヲメキグサ。東京ニテ、ナナツギキヤウ。天南子

はしりび (名) 走火 はねび(跳火)ニ同ジ。トビヒ。火星 古今集、十九、誹諧「人ニ逢ハム、ツキノナキニハ、オモヒオキテ、胸はしりびニ、心燒ケヲリ」

はしりもの (名) 走物 〔昔、年ノ始メニ、兎、鹿ナド、山野ヲ走るものヲ用キタルニ起ルト云フ〕鳥魚、蔬菜、菓物ナドノ、其年ニ始メテ捕リ、又、出來タルモノノ稱。略シテ、はしり。ハツモノ。 嬉遊笑覽、十、上、飮食「初物ヲ走リト云フ、云云、年ノ始ニ走リ物ヲ用ヒシ事ヒ試、後ニハ何ニマレ、新ラシク出來ル物ヲ走リト云フコトトナレリ」今昔物語、廿九、第廿七語「年ノ始ノ走リ[illegible]ノ生ヲ不食ラムハ、忌忌シキ事也ト云フママニ」

はしりゆ (名) 走湯 〔湯、走リ流ルル故ニ云フ〕イデユ。溫泉 永久四年百首、出湯「マシララノ、濱ノはしりゆ、浦サビテ、今ハミユキノ、影モウツラズ」夫木抄、廿六、溫泉「走湯ノ、神トハムベゾ、言ヒケラシ、ハヤキシルシノ、アレバナリケリ」(伊豆ノ走湯山ノ溫泉ニ云ヘリ)

はしりゐ (名) 走井 (一)ナガレ井。走リ流ルル水ヲ汲ミ用ヰルニ就キテ云フ語 [illegible]集、七、「落ナミギツ、走井ノ水ノ、清クアレバ、ワタラバ吾ハ、ユキガテヌカモ」[illegible]、中、[illegible]ウフヤマミ、[illegible]ノ見[illegible]、はしりゐノ、ト[illegible]ヒタレバ、清水ニカゲハ、ヨドムモノカハ」拾遺集、十七、雜、秋「はしり井ノ、程ヲ知ラバヤ、相坂ノ、關ヒキコユル、夕カゲノ駒」枕草子、七、六十四段「逢坂ハ、駒ノミ常ニ、走リ井ノ、見ツクル人ヤ、アラムト思ヘバ」(二)催馬樂ノ歌曲ノ名

はしる ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 走 奔 趨 〔馳すノ自動〕(一)疾ク行ク。早ク行ク。馳ス。ワシル。駈ク。 最勝王經音義「走、八之流」名義抄「走、ハシル、犇、ハシル」枕草子、五、五十[illegible]段「供ニ侍雜色[illegible]人バカリ、モノモハカデ走るメル」「人走る、馬走る[illegible]」 (二)[illegible] 逃 ニグ。逋逃 宇治拾遺、十、第八條「物モ覺エズ、物オソロシクレバ、ヤガテムキタルカザマニ皆はしりチル」 (三)疾ク流レ行ク。 堀河百首、[illegible]「[illegible]はしる、[illegible]ハウクレズ、夕瀨ノ、良ノ[illegible]ヲ、立チカクセドモ(コムレドモ、類從本)」「水奔る」 (四)飛ビ散ル。ホトバシル。迸 宇治拾遺、[illegible]、第十三條「足ヲ[illegible]ケレバ、血はしりテ、トドマルベクモナシ」「筆はしる」「火はしる」 (五)逸ル如クニ自ラ行ク。奔逸 「[illegible]」 (六)自在ニ運ル。 英發 快捷 吾吟我集(慶安)九、筆ノ毛ノ、ウサギモカヲ、はしりツツ、硯ノ海ニ、入ル筆ノ月」「[illegible]走る」「筆走る」 (七)割レル、罅ガ入ル、ナドノ意ニ云ハルル忌詞。 [illegible]小女[illegible]教訓(享保、近松作)上、「[illegible]割レタトイフハ忌忌シイ、頭ノサラガはしッタ」 胸はしるトハ、[illegible]心、ワクワクス。 蜻蛉日記、中、中[十八]「胸ツブツブトはしるニ」

はしろ (名) 端城 本城ヨリ、[illegible]ニアル支城、出城。[illegible]

はしわたし (名) 橋渡 (一)橋ヲ渡スコト。架橋 (二)〔ナカダチスルコト〕ト[illegible] [illegible]、おたせバヤ、[illegible]女ノ、秋ヲシモ待ツ」[illegible](享保、近松作)上「[illegible]ヲカケレバ[illegible]」

はしゐ (名) 端居 家ノ端ニ、近ク出デ居ルコト。又、家ノ緣ナドニ居ルコト。 地下歌合「セキ入ルル、庭ノヤリ水、油ハヘテ、はしゐニ夏ヲ、オクル宿カナ」長唄、秋色種「郭公ゲテ下シシ玉簾、端居ノ軒ノ庭マガキ」

はしゐる ヰル・ヰレ・ヰ・ヰ・ヰヨ(自動、上一) 端居 家ノ端ニ近ク出デ居ル。[illegible]

はしをりかがみ (名) [illegible] 人ノ兄弟ナルニ云フ語。古ヘノ簪ハ、鏡ノ如ク、木一ツニシテ末二ツニ折レ曲ガリタルモノニシテ、恰モ、兄弟二人ガ、常ニ相對フ如クナレバ云フ。

はしをる ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 端折 (一)裾ナドヲ、折リカカゲテ、帶ニ挾ム。ハショル。 傾城[illegible](元和、安樂庵策傳)三、「[illegible]」 (二)[illegible]短クス。省略ス。簡單ニス。ハショル。

はす (名) [illegible] 危險ナル一種ノ腫物。よう[illegible]

はす (名) 鰣 〔古言、はそノ轉〕(一)海魚ノ名、ひら(鰳)ニ同ジ。[illegible] (二)今、又、近江ノ湖中ニテはすト云フハ、[illegible]メテ美シ、銀鱗キラキラトシテ、跳ネ飛ブ。其大ナルモノモ尺ニ過ギズ、背、青ク、腹、白ク、肉モ白クシテ[illegible]味ハ鱒ニ似タレド、美ナラズ。海人ノ地[illegible]ヲ下スコトヲ、はすかみト云フ。

はす (名) 蓮 はちす(蓮)ノ略。[illegible] 山家集、下「夕立ノ、晴ルレバ露ゾ、ヤドリケル、玉ヲリスウル、はすノ浮葉ニ」[illegible]集、十八、[illegible]品、[illegible]ノ所[illegible]ノ比、蓮ノ實バカリ[illegible]開テ、[illegible]蓮ノ池ノ蓮ノ實ヲ[illegible]

はす (名) 斜 〔斜間ノ略〕ナナメナルコト。スヂカヒ。ハスカヒ。スカヒ。ナゾヘ。[illegible]「[illegible]高サ[illegible]尺八寸、[illegible]寸宛、[illegible]ヨリハ六寸斜ツクベシ、アマリニはすナレバ、アブナクナリワロシ」[illegible]「はすニ[illegible]」

はす スル・スレ・セ・セ・セヨ(自動、下二) 馳 走ル。ワシル。ハセル。[illegible]

はす スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) 馳 (早キ意) 走ラス。走ルヤウニナス。[illegible]

はす スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、[illegible]) 派 [illegible] 出張セシム。オクリツカハス。差遣ス。[illegible]集、[illegible]「[illegible]ヤブルコトハス、[illegible]ノ外、[illegible]スル、人ツコソ、[illegible]ハ、イフバカリケレ」

はず (名) 弭 〔端末ノ略ト云フ〕(一)[illegible] 常ニゆみはず(弓弭)。又、ゆはずトモ云[illegible]

フ、矢筈モアリ。倭名抄、十三、征戰具「弓末曰ㇾ弭、由美波數」古本用ㇾ筈、ウラハズ、弭、モトハズ」萬葉集、十六、長歌「吾爪ハ(鹿ノ)、御弓ノ弓波受、吾毛等ハ、御筆ノハヤシ」古事記、中(崇神)「二十一、關入下大中、人民富榮、於ㇾ是初令ㇾ貢ニ男弓端之調、女手末之調ニ」神武紀「乃有ニ金色靈鵄、飛來止ニ于皇弓之弭、其鵄光曄煜、狀如ニ流電ニ」(二)相撲ノ押手ニ、大指ト人差指トヲ開キ、筈形ニシテ、敵ノ腋ノ下、肩口、又ハ、胸板ニ當テテ押スコト、片手ナルニ左筈、右筈アリ、兩手ヲ兩腋ノ下ニ用ヰルヲ、諸筈ト云ヒ、片手ヲ敵ノ頤ニカケテ押スヲ、矢筈ト云フ。(三)船ノ蟬挾(滑車ヲ挾ミテ檣ニ打ツ木)ノ上部ノ名。(四)筈ト弦ト合フ意ヨリ轉ジテ、事ノ當ニ然ルベキコト。スヂ。スヂミチ。道理。理　犬子集(寛永)「筈ヲアハスル、人ノカシコサ」「結シタル、身ニ筈ノヤ、ノマスラン」日本振袖始(享保、近松作)一「衣ノ襟付ガ右前ノ筈、左前ニ見ユルハ外ヨリ映ル影」「筈ガ合ハヌ」

は・ず・ズル・ズレ・ゼ・ゼ・ゼヨ (自動、下二) 〔弾〕 果實ナドノ熟シ裂ク。エミワル。

バス (名) 〔英語、Bath.〕 沐浴。入浴。又、浴場。湯殿。

バス (名) 〔佛蘭西語、Basse.〕 成長セル男子ノ發スル低音ノ聲。低聲。

パス (名) 〔英語、Pass.〕 (一)トホリスグルコト。通過スルコト。パッス。(二)旅行券。通行券。又、定期乘車券。(乘船ニモ)(三)無料入場券。(四)試驗ニ及第スルコト。

はすいけ (名) 〔蓮池〕 蓮ノ生ヒタル池。春日抄「蓮池ノ、深サ忘ルル、浮葉カナ」

はすいも (名) 〔蓮芋〕 芋ノ屬。莖ノ色白クシテ、中ニ孔アルコト蓮ノ莖ノ如シ。華、根、共ニ、さといも(里芋)ヨリ小サク、共ニ、生食、熟食スベシ。根ノ形、味、栗ニ似タリ、故ニ、くりいも(栗芋)ノ名モアリ。白芋

はすう (名) 〔端數〕 ハシタノカズ。ハンパノ數。ハシスウ。

はすかひ (名) 〔斜交〕 ナナメ。スヂカヒ。

はすぎり (名) 〔斜切〕 ハスニ切ルコト。斜ニ切ルコト。斜斷。日本振袖始(享保、近松作)二「姉御ノ顏ハ何ニ似タ、鼠口ニはすぎり鼻、猿眼ニ鉢額」

バスケット (名) 〔英語、Basket.〕 笊。又、竹カゴ。籐籠。

はずさし (名) 〔筈刺〕 矢筈ヲ刺スニ用ヰル小刀。音便ニ、ハンザシ。

はすだ (名) 〔蓮田〕 蓮ヲ培植スル田。

はずだまり (名) 〔筈溜〕 弓弦ノ名所。さぐり(探、弓ノ)ノ條ヲ見ヨ。

はすぢ (名) 〔蓮痔〕 ぢろう(痔瘻)ニ同ジ。あなぢ(穴痔)トモ云フ。

はすのいと (名) 〔藕絲〕 蓮ノ葉莖ノ纖維。ハスイト。グウシ。新修往生傳「比丘尼戒妙、自擣ニ藕絲ニ織ニ袈裟三帖ニ」季瓊日錄、寛正三年七月十九日「讃岐國根香寺、勸進帳、御判之事、披ニ露之ニ、此寺天平年中建立之在所也、天人以ニ藕絲ニ織ニ淨土曼陀羅ニ、尤奇異之物也」觀蹟聞老志「陸奥磐井郡中尊寺珍藏、九條袈裟、以ニ藕絲ニ織ㇾ之」元稹白衣裳二「藕絲衫子柳花裙」白居易、新樂府「陳鴻長恨傳積元ニ定觀ニ藕絲絲綢二尺餘」發心集、二、第七條「還俊ト云フ僧アリケリ、云云、イカデ傳ヘモチタリケン、昔文殊ノ、ミノリ說キ給ヒケル時ノ御ケサトテ、蓮のいとニテオレルケサナリ」「はすのいとノ曼陀羅」「はすのいとノ袈裟」

はすのいひ (名) 〔蓮飯〕 強飯ヲ、熱ニ乘ジテ、蓮ノ葉ニ包メル飯。盂蘭盆ニ生靈祭ニ供フ。約シテはすのひ。師義記、貞治三年七月十五日「今日蓮葉飯有ㇾ之」三餘抄、七、上、秋、七月「蓮飯」

はすのうてな (名) 〔蓮臺〕 はちすのうてな(蓮臺)ニ同ジ。釋迦如來誕生會(元祿、近松作)四「金色ノ佛ニナリ、蓮の臺ニ、天人菩薩ニ敬マハレ、三界ヲ見ハラシ」

はすのはがさ (名) 〔蓮葉笠〕 形、蓮ノ葉ニ似タル笠。太平記、廿九、師直被ㇾ誅事「ソレヨト人ニ見知ラレジト、蓮の葉笠ヲ打チカタブケ、袖ニテ顏ヲ引カクセドモ」

はすのはがひ (名) 〔蓮葉貝〕 たこのまくら(蛸枕)ニ同ジ。

はすのはながさ (名) 〔蓮花笠〕 蓮ノ花ヲ、頭ニ載クヲ、笠ヲ着タルニ擬ヘテ云フ語。又、蓮ノ花、又ハ、其形ノ物ヲ取附ケテ、飾トシタル笠。

はすのひ (名) 〔蓮飯〕 〔ひハ、いひノ約〕 はすのいひ(蓮飯)ニ同ジ。

はすは (名) 〔斜端ノ意カ、或ハ云フ、蓮葉ノ義カ〕 (一)はすはめ(蓮葉女)ノ略。其條ノ(一)ヲ見ヨ。(二)旅店ノ婢。(畿內) 古今夷曲集(寛文)三「腰モトヘ、似タリ金鍔、サシ出シテ、山ノはすはニ、見ユル月カナ」(三)處女ナドノ性質、身持ノ落チツカヌヲ云フ語。〔輕佻〕 長唄、京鹿子娘道成寺「ドウデモ女子ハ惡性者、都ソダチハはすはナモノチャエ」ト萬狂歌集、蓮「枝モナク、スラリスラリト、モギアゲテ、形モはすはニ、花ヲヤリ候」淺草川船遊記、三味線のおとを云ひて「戀慕ノ道ノ寄太鼓ニヤ、誠ニはすはナルモノナリ」

はすはあきなひ (名) 〔蓮葉商〕 際物師ノ稱、下文ヲ見ヨ。貞丈 文化、…「…リ五節句ノ入用物賣ノ蓮葉商ひト云フナリ、…盆前ニモシ賣切ルトキハ、一葉十錢、廿錢ニ賣リタリ、多キ年ハ半錢ニモ不ㇾ成、堀河ヘ打ヽリテシマヒヌ」世間娘容氣(享保、江島其磧)五「上ヤ村ヤ…ノ實、コレゾ蓮葉商、七月十三日ヨリ、云云」

はすはむすめ (名) 〔蓮葉娘〕 ハスハナル少女。ウハキムスメ。

ハズバンド (名) 〔英語、Husband.〕 ヲット。夫。亭主。

はすはめ (名) 〔蓮葉女〕 〔はすはノ條ヲ見ヨ。蓮葉ノ水ヲハジクニ、ヒラシャラスルヨリ、女ノ其狀ヲナスニ、喩ヘテ云フ語〕 (一)昔、大坂ノ問屋ニ、抱ヘ置キタル飯盛女。卽チ、宿スル人ノ寢所ノ伽ヲセサセタル女。略シテ、はすは。好色一代女(貞享、西鶴)五「ナニハノ浦ハ、日本第一ノ大湊ニシテ、諸國ノ商人、爰ニ集リヌ、上問屋、下問屋、數ヲ知ラズ、客馳走ノ爲、蓮葉女ト云フ者ヲ拵ヘ置キヌ、是ハ飯タキ女ノ見ヨゲナルガ、下ニ薄綿ノ小袖、上ニ紺染ノ無紋ニ黑キ大幅帶、赤マヘダレ、吹鬢ノ京カウガイ、伽羅ノ油ニカタメテ、細緒ノ雪駄、ノベノ鼻紙ヲ見セカケ、其身持ソレトハカクレナク、隨分ツラノカハ厚ウシテ、人中ヲ怖レズ、尻居エテノチョコチョコアリキ、ピラシャラスルガ故ニ、此名ヲツケヌ」棠大門屋敷(寶永)二、大坂の事を云へる所「鈴鐘町ノ上、尤江戸京いせノ問屋多ケレバ、名ニタテルはすは」女中風俗玉鏡(享保)上「首筋生エギハ剃アゲテ、白粉濃クスルハ、問屋はすはノ樣ニテ、イトハシタナシ」(二)轉ジテ、女子ノ起居、振舞ノ、賤シク恥シゲナキモノ。カロハズミナル女。オテンバ。

はすはもの (名) 〔蓮葉者〕 〔蓮葉女(はすはめ)ヨリ出ヅ〕 ハスハナルモノ。ウハキモノ。吾吟集我(慶安)序「はすはもの、戀慕ニシマヌ、心モテ、何カハ露ノ、世ゾトアダメク」好色一代女(貞

享、西鶴)五「[illegible]、云云、モノノ宜シカラヌヲ難の葉苔ト云フナリ」

はずまき (名) 筈巻 (一)弓ノ筈ニ巻キタル籐。(二)矢ノ筈ノ下ヲ絲ニテ巻キ固ムルコト。又、ソノモノ。

はずみ (名) (一)ハズムコト。ハネカヘルコト。反跳 「世ノはずみ」 (二)勢ニ乗ルコト。弾勢 東海道中膝栗毛(文化、一九)五編「ドウシタはずみヤラ、ガタリトイテ、[illegible]ガ外レタルトミエ」伊賀越道中双六(天明、近松半二等)六「旦那様ハオ堅イケレド、時ノはずみデハ、主ノ有ル淵へ踏ミ込ミナサリモ知レヌ」

はず・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 〔弾(ハジ)くニ通ズト云フ〕當レル勢ニテ返ル。ハネカヘル。勢ニ乗ル。跳翻 反跳 乗勢 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「コレハ板橋カエ、イイエ、畳ノ上デヨウクはずむヨ」盛衰記、三十五、高綱渡宇治川ノ事「馬ノ足ノ立タン程ハ手綱ヲスクヘ、馬ノ足はずまバ、手綱ヲクレテ游ガセヨ」「[illegible]はずむ」「気はずむ」 息がはずむトハ、イキダハシクナル。アヘグ。喘 狂言記、菊花「餘リネヂラレ、息ガはずんデ物ガ云ハレヌ、ヤレ先ヅ物ヲ云ハセト申シテ」

はすめし (名) 蓮飯 蓮ノ若葉ニテ、飯ヲ包ミテ蒸シタルモノ。又ハ、若葉ヲ蒸シテ細カニ刻ミ、飯ニ和シテ、飯ニ雑ヘタルモノ。荷葉飯 [illegible]、八、荷葉飯「以荷葉包飯[illegible]之、名曰荷葉飯二 [illegible]、江嶋其磧)五「蓮の飯ヲセリアヒ、席殻持ッテノ戦ヒ」

はずもと (名) 筈本 矢ノ筈ノ根モト。太平記、十五、正月廿七日合戦事「筐ノ太サハ、云云、長[illegible]ノ五分筈ホドナルヲ、筈本マデ、中子(ナカゴ)ヲ打徹ニシテネヂスゲ」

ばずれ (名) 場擦 同ジヤウナル場所ニ、[illegible]ミテ、[illegible]レテアルコト。[illegible]バナレ。

ばすゐぼく (名) 馬酔木 「萬葉集、永正前、古寫本」「馬酔木、馬食、此葉則死、故云馬酔木」(羊躑躅ニ對ス) アセミ。アセボ。あしび(馬酔木)ノ條ヲ見ヨ。

はずゑ (名) 葉末 (一)葉ノサキ。葉ノ先端。金葉集、七、[illegible]、上ニすゑ[illegible]、葉末ニ結ブ、白露ノ、タマタマキテハ、手ニモ溜ラズ」源賢集「ムスボルル、ハチスノ絲ヲ、トカレズバ、葉末ノイカデ、ミダレザラマシ」謡曲、葵上「蓬生ノ、モトアラザリシ身トナリテ、葉末ノ露ト消エモセバ」(二)[illegible]マツエフ。末孫。[illegible]子(享保、[illegible])作)一「武士ノ身ナレドモ、桓武天皇ノ御葉末、[illegible]井ヲ出デテ遠カラズ」

ばすゑ (名) 場末 町ハヅレニ近キ場所ノ稱。都會ノ、ハシノ方ニテ、鄙ニ近キ所。[illegible]事相「江戸ノ土地ノ度長ニ、[illegible]ヌマデモ家ヲ列ネタルヲ見レバ、人ハ極メテ多クナリタル也」

はずゐ (名) 筈緒 帆柱ノ筈(滑車)ニ附ケテ、帆綱へ引ク綱。

はせ (名) 玉茎 〔男柱(ヲバシラ)ノ轉略カト云ヒ、春心ノ走せアラハルル意カト云フ〕いんきやう(陰茎)ニ同ジ。男茎(ヲハセ)。玉茎(ヲハセガオ)。男陽形(ハシカタ) 倭名抄、[illegible]「[illegible]」名義抄「[illegible]、ハセ、一云、マラ」字類抄「[illegible]、ハセ、閉字也」本朝文粹、十二、鐵槌傳「[illegible]、云、[illegible]」[illegible] 似タル魚カ、群ナラザレド、上ニ蚫苦本トアルニ合ハセ考フベシ) 古語拾遺「以牛肉置溝口、作男茎形以加之」

はぜ (名) 爆 〔爆(ハゼ)ノ義〕糯米(モチゴメ)ノ穀(モミ)ヲ、略、[illegible]シテ炒リタルモノ。[illegible]、白ラ[illegible]、白クシテ[illegible]花ノ如シ。[illegible]、子ノ種トシ、又、魚ヲ養フ餌トス。[illegible] 米粃花 米花 [illegible] [illegible]、云、はぜハ漢名[illegible]ナリ、後世、米花トモ字[illegible]トモ云フ、[illegible] 佳人古[illegible]事、白頭老更開花生涯、[illegible]、片梅花插、[illegible]、コレ呉中ノ風俗ニテ、上元ノ夜ニアル事ナリ」

はぜ (名) 沙魚 [illegible] 〔魚、白ニこしくるノ[illegible]〕魚ノ名。[illegible]、[illegible]産ズ。形、さち(鯔)ニ似テ小サク、大サハ、五寸許リ、口、廣ク、腮、大ナリ。身、[illegible]シテ斑アリ、一種、大キクテ虎斑ブルヲ、とらふはぜト云ヒ、又、深黒ナル斑アリテ、頭尾最モ黒キヲ、[illegible]はぜト云フ [illegible] 云云古呂毛波世二」

はぜ (名) 黄櫨 古言、はにしゐ(黄櫨)ノ略、はじ(黄櫨)ノ轉、其條ヲ見ヨ。

ばせ (接尾) 人ノ身體ノ一部ノ名、又、心ナドニ云フ語ナドニ添ヘテ、ソノ状態ヲ示スニ用ヰル語。「顔ばせ」心ばせ」

ばせい (名) 馬政 [illegible]

ばせいきよく (名) 馬政局 [illegible]

ばせう (名) 芭蕉 〔元ハ清音、はせをナリ〕[illegible] ヲ。ハセヲバ。草ノ名。暖國ノ産、葉ノ闊ミ、尺ニ及ビ、[illegible]ナルコト[illegible]ノ如ク、皮、重ナリテ包ハ、高サ五七尺[illegible]、長大ニシテ丈ニ及ビ、幅一二尺、花ハ、[illegible]年ヲ隔テテ開ク、故ニ優曇華ノ名アリ、[illegible]ス、蓮花ノ苞ニ似テ、黄白色ナリ、[illegible]バ、旁ヨリ小苗ヲ生ジテ、本根ハ枯ル。其中、王ニ、實ヲ採取スルヲ實芭蕉ト云ヒ、纖維ヲ採ルヲ絲芭蕉ト云フ。[illegible]

ばせうふ (名) 芭蕉布 織物ノ一種。沖縄縣ノ産。芭蕉ノ一種ニテ、俗ニ絲芭蕉ト云フモノノ莖ノ纖維ノ、細美ナルヲ採リテ、布ニ織レルモノ。[illegible]

はせうち (名) 馳打 馬ヲ走ラセツツ、側ニテ撃ツコト。

はぜうり (名) [illegible] 朝ヨリ、江戸市中ヲ、[illegible]ノ料トシ、又、[illegible]ヲ賣リアルキシモノ。

はぜうるし (名) 黄櫨漆 はぜ(黄櫨)ノ[illegible]

はせがは [illegible]

はせはな [illegible]

米櫻）ニ同ジ。（上方）

はせ-ひき（名）［馳引］ 武邊ノ鍛錬ノタメ、馬ヲ馳セテ、弓ヲ引クコト。ハセユミ。庭訓往來、正月「尋常射手、馳挽達者」

は-せん（名）［破船］ 船ノ、暴風ナドニ遇ヒ、岩礁ニ觸レナドシテ、破レ毀ルルコト。又、ソノ船。難破。難船。難破船。三國志、魏志、東沃沮傳「耆老言、云云、又得二一破船一、隨レ波、出在二海岸邊一」晉書、武帝紀「七月前殿地陷、深數丈、中有二破船一」

は-せん（名）［波線］ 波ノ如クニ、ウネリタル線 ナミセン。

は-せん（名）［端錢］ ハシタゼニ。ハゼニ。

ば-せん（名）［馬韉］ クラシキ。クラオホヒ。馬ノ鞍ノ上ニ被フモノ。絹布、及、虎、豹、熊、鹿、羚鹿ナドノ皮ヲ用ヰル。鞍韉 鞍［鞍韉 鞍］ 元史、世祖紀「金竹領長韉韉、貢二馬韉各二十有七一」曾我會稽山（享保、近松作）二「道理ガ立タネバ暇ノ状ハ、受取ラヌト馬韉ニ投付ク」

はせ-ゆみ（名）［馳弓］［馳射］ おひものいに（追物射）ニ同ジ。新猿樂記「中君夫、天下第一武者也、合戰、夜討、馳射、待射、照射、步射、騎射、笠懸、流鏑馬、八的、三三九手挾等上手也」

❖❖**は-せる**（動）［馳］ はす（馳）ノ口語。

は-ぜる・ゼル・ゼレ・ゼ・ゼ・ゼヨ（自動、下一）［裂罅］［爆］（はじくノ自動）裂ケテ開ク 脹レテハジクル。「金瘡ノ肉はぜる」粟毬はぜる」炒米はぜる」

は-せを（名）［芭蕉］ ばせう（芭蕉）ノ古キ假名遣。ばせう（芭蕉）ノ條ヲ參照セヨ。倭名抄、廿十六草類「芭蕉、發勢乎波」古今集、十、物名、ささ、まつ、びは、はせをば「イササメニ、時待ツ間ニゾ、日ハ經ヌル、心ばせをバ、人ニ見エッツ」

ばせを-き（名）［芭蕉忌］ 元祿七年十月十二日、俳人松尾芭蕉歿ス。其正忌日ニ俳人等ノ修スル行事ノ稱 白雄句集、冬「頭布ガアルジシテ、芭蕉忌イトナム日、行嚢シタル遺像ヲ壁ニタレッツ、其德光ノ一燈ヲカイタテ、謹テ諸子ト風運ヲ祈ル」小文庫（元祿、史邦）「芭蕉忌ト、申シソメケリ、三回忌」

はせを-ば（名）［芭蕉葉］ ばせう（芭蕉）ニ同ジ。倭名抄、廿十五草類「芭蕉、發勢乎波」本草和名、上九四十「巴蕉、波世乎波」信明集「世ノ中ノ、タノミ所ニ、セシモノヲ、はせをばカクヤ、ヤカムトオモヒシ」公任卿集「コノミ、ばせを葉ノゴトシ」

はそ（名）［鰣］ はす（鰣）ノ古名。倭名抄、十九龍魚類「鰣、波曾」名義抄「鰣、ハソ、ハマチ、カハコ」

は-そく（名）［跛足］ 不具ノ名。足ノ蹇ヘテ、步行ノ正シカラヌモノ。アシナヘ。ビッコ。チンバ。跛。蹇。

は-そく（名）［頗側］ カタヨルコト。カタムクコト。横ニナルコト。偏側。

は-そく（名）［把捉］ 握リトルコト。又、ツカマヘルコト 僧齊己詩「老鱗枯節相把捉、踉蹌立在二青崖前一」葛長庚、鶴林問、道篇「古者入レ道、以二調心一爲レ要、以二精思一爲レ妙、精思則是存念也、調心則是把捉也」吳澄、黴銘「把二捉于中一、精神心術、撿二束于外一、形骸肌骨」本領曾我（寶永、近松作）二「道中ヨウテ、手ガヨウテ、信心者デ譯知リデ、穩一通リノはそくヲバ、拔ケテ行ク程賢ウテ」

は-そん（名）［破損］ ヤブレコハルルコト。コハレ損フコト。宋史、食貨志「民間會子破損」盛衰記、十一、旋風事「屋舍ノ破損ハイカガセン、命ヲ失フ人コレ多シ」「破損ヲツクロフ」

は-ぞり（名）［端反］ 端ノ、上、又ハ、外ヘ反リタル形。「端反ノ陣笠」端反ノ椀」

はた（名）［畠］［畑］〔水田ニ對シテ、乾田ノ轉ナラム。或ハ云フ、火田ノ轉ニテ、やきばた（燒畠）ニ起ルト 朝鮮ニテはノトト云フ。字ハ、白田、又ハ、火田ノ合字〕又、はたけ。水ヲ引キ用ヰズシテ、地ヲ耕シ、畦ヲ作リテ、麥、粟、豆、蔬菜、瓜、果等ヲ植ヱ作ル處 陸田 白田 圃 燒畠、切畑ナドモアリ。各條ヲ見ヨ 神代紀、上廿「以二粟稗麥豆一爲二陸田種子一、以レ稻爲二水田種子一」

はた（名）［繒］［服］〔延立ノ略、鰭、幡ト同意カ、幅アルモノノ義〕 機ニテ織リ成シタルモノ、布帛ノ總名。秦。布帛 倭名抄、十二十七錦布類「繒、似レ布也」天治字鏡、四廿「帛、繒也、キヌ」神功攝政前紀「千繒高繒」萬葉集、十二「古ヘニ、織リテシ八多ヲ、此ノタベ、衣ニ縫ヒテ、君待ツ吾ヲ」新古今集、十三、戀、三「籬ノヤノ、シヅ繒帶ノ、カタ結ビ、心ヤスクモ、打解クルカナ」六帖、五「サホ姬ノ、織リカケサラス、ウスはたノ、霞タチキル、春ノ野ベ哉」（羅） 倭名抄、十二十六錦綺類「綺、加無波太」同、十五十七膠漆具「革、纈、由波太」持統紀、四年四月「淨大參巳下、直廣肆已上、一富二部之綾 羅等、種種纈一用、綺 上下通用」「はた織（服部）」はたヲ織ル」

はた（名）［機］〔繒具ノ略、繒ヲ織ル器ノ意。朝鮮ニテぱとい〕又、はたもの。たなばた（棚機）。布帛ヲ織ル器械。經絲ヲ互シ、緯絲ヲトホシテ織ル。絹機、高機、木綿機等、種種ナリ 倭名抄、十四十織機具「機、織設二經緯一以二機成一精布一也、高機 多加波太」萬葉集、十八廿「棚機ノ、五百機立テテ、織ル布ノ、秋去衣、タレカトリミム」

はた（名）［旗］［旌］［幡］〔風ニハタメクモノカ、或ハ云フ、繒ヲ用ヰレバ云フカ〕（一）〔文武ノ式、又ハ、佛式等ニ、立テテ目標トスル具。布帛ニテ長ク製シ、其一端ヲ竿ノ端ニ繫ケ、高ク立テテ、翻ヘル如クス。布帛ノ上端ノ横木ヲ横上ト云ヒ、其裾ヲ旗足、又ハ、あしト云ヒ、又、横手ト稱ス。其中央ニ紐ヲ付ケ、竿ニ結ヒツケ、末ハ吹流シナリ 漢平ノ頃ヨリシテ、軍隊、及、敵ニ身分ヲ識別セシメムガ爲ニ、源家ハ白旗、平家ハ赤旗ヲ用ヰ、皆、無地、其外、諸武家、軍隊ニテハ、新田氏ハ中黑、足利氏ハ引兩ナド、家家ノ紋ヲック。倭名抄、十三十二征戰具「幡、波太」同、同六征戰具「幡、波太、旌旗之總名也」字鏡「旗、旗也、旗之屬也、波太」漢書、陳湯傳「望二見單于城上立二五采幡織一」、漢侯之旗、斬二郅支之首一、縣二旗萬里之外、揚二威昆山之西一」神代紀、上十一「鼓吹幡旗」萬葉集、二三十四長歌「捧ゲタル、幡ノナビキハ、冬木成、春去來レバ、野每ニ、ツキテ有ル火ノ、風ノムタ、靡クガ如ク」平治物語、二、待賢門軍事「コレ皆源氏ノ勢ナレバ、白旗二十餘旒ウチ立テタリ、大宮表ニハ平家ノ赤旗三十餘旒サシトケテ」（二）紙鳶ノ異名。（九州）

はた（名）［鰭］［鬐］〔魚ノ旗ノ義カト云フ、ひれ（鰭）モ、領巾ナラムト云フ〕（一）〔鰭ノ古言。魚ノ左右ノわきひれ。倭名抄、十九五龍魚體「鰭、波太、俗云、比禮」萬葉集、十九廿「鵜河立チ、捕ラサム鮎ノ、夫ガ波多ハ、吾ニ搔キ向ケ、思ヒシオモハバ」又、大小ノ魚ヲ、古キ異名ニ、鰭廣物、鰭狹物ト云フ 各條ヲ見ヨ 春日祭祝詞「青海原乃物者、波多能廣物、波多能狹物」（二）今、又、一種ノ魚ノ名。もうを（藻魚）、かさご（笠子）ト一類ノモノニテ、みづふみ（鰭ノ一部）ノ傍ニアル三硬骨ノ狀、少シ異ナリ。（三）〔魚ノ一稱（獸ヲ毛ト云フ類） 古事記、上五十七「爲レ釣海人之、口大之尾翼鱸」

はた（名）［端］〔へたノ轉〕 ハシ。ヘリ。ヘタ。ホトリ。ソバ。ツマ。枕草子、二、十七段「老イバミタル者コソ、火桶ノはたニ足ヲサヘモタゲテモノ云フママニオシスリナドスルラメ」

山家集、下「搾油クル、ツボキノ衣ノ、引クマヱニ、江鋪アツマル、落合ノはた」狹衣、三、上「舟ノはたニ寄リカカリツツ、眠リ給ヘル御マミノ氣色、ナママメカシウ、[illegible]コノ衣ノはたニ、松ノ木、櫻ナドアル下ニ」十訓抄、上、一、第五十五條「宇治へ入ラセ給ヒケル時、宇治川ノはた近ク」

〔はた（名）|袖|〔幡、又ハ、鰭ニ通ズ〕ハタデ。ソデ。ハタソデ。又、小袖ヲさはたト云フ。古事記、下（清寧）[illegible]館（人名）ガ波多傳ニ、[illegible]立テリ見ユ」

はた（名）|傍|〔へたノ轉〕カタハラ。ワキ。ソバ。浮世風呂（文化、三馬）二編、上「好イ男ハ傍カラ身ヲ持タセネェ」「はたノ者ガ見ル」

はた（名）物ヲ懸ケテ乾ス木。はへ（さ）ノ條ヲ見ヨ。

はた（名）|鉉|鍋、土瓶ナドニ掛ケタル弓形、又、半圓狀ノトッテ。ツル。名義抄「鉉、ハタ、サヘ、カナヘ」

はた（名）|秦|〔古語拾遺「所レ貢絹綿軟レ於二肌膚一、故訓二秦字一謂二之波陀一」〕（一）はた（繒）ニ同ジ。（二）韓國ヨリ歸化シタル人ノ姓。

〔はた（數）|二十|〔二十ノ略轉カ〕十ノ倍。二十。源、三、空蟬五「トヲ、はた、ミソ、ヨソ、ナド數フル狀」「二十渡」「二十年」「二十重」

はた（副）|將|〔二ノ轉〕（一）〔物ヲ一轉シテ云フ狀ニ云フ語〕タダシハ。マタ。モシクハ。ソレヨリ他ニ又。神代紀、下「汝將先、我行乎、將抑我先、汝行乎」雄略紀、六年十二月「其來尙笑、抑有二由焉一」欽明紀、十六年二月「[illegible]臣問二王子惠一曰、欲二留一此間一、將欲レ向二本郷一」萬葉集、十一九「人コトノ、シゲキマモリう、逢ヘリトモ、八反（一說ニ、ヤヘ）ワガ上ニ、事ノ、シゲケム」萬葉集、略解、一五十「はたハまたト云フ二同ジ、云云、[illegible]ヲはたト[illegible]ムハ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、

今集解[illegible]ニ見ユ」（二）はた又、ノ意、[illegible]古今集、九、離別「忘レナム、ヨニモ越路ノ、カヘル山、イツはた人ニ、逢ハムトスラム」[illegible]又、ノ意、[illegible]撰集、十三、戀、五「ワビヌレバ、イマはた同ジ、難波ナル、ミヲツクシテモ、逢ハムトゾ思フ」

〔はた（副）|將|〔邊、端、殆ノほさナドニ通ズ、其邊ニ近ヅカムトスル意〕將、殆、當ノ字ヲ記スモ、將、ト云ヒ、或ルモノニ近ヅカムトスル狀ヲ云フ語。萬葉集、[illegible]野ノ、山ノアラシノ、寒ケクニ、殆今夜モ、我獨寐ム」（將二獨寐ムトスルカ）同、十六三十「痩セヤセモ、生ケラバ在ラムヲ、將ヤ將ヤ、[illegible]川ニ流ルナ」同、同「[illegible]ハシタテノ、[illegible]ノ夜良ニ、[illegible]、[illegible]シ人レリシ、カケテケテ、[illegible]カシソネ、[illegible]出ルヤト、[illegible]集、[illegible]、ホトトギス、[illegible]、アキトサク、主定マラス、[illegible]セラルはた（將ニ主定マラス[illegible]レムトス）

はた（接）|將|〔前條ノ語ノ轉〕（一）或ハ。又ハ。（漢籍讀ニ）「[illegible]カ、[illegible]カ、[illegible]代カ」（二）書狀ノ文ニ、但シハ。「將又」

〔はだ（名）|皮|肌|〔端ノ義ト云フ〕（一）〔かは（皮）ニ同ジ〕倭名抄、廿[illegible]木具、[illegible]、古豊太、木皮也[illegible]はだ、[illegible]はだ[illegible]ノはだ[illegible]ノはだ」（二）專ラ、人體ノ皮ハ[illegible]メ。ハダヘ。カハベ。皮膚。膚。萬葉集、四九「ムシブスマ、ナゴヤガ下ニ、臥セレドモ、妹トシ寐ネバ、肌シサムシモ」同、十一六「アカラヒク、膚モフレズテ、寐タレドモ、心ヲ異ニハ（古義）、吾ガ思ハナクニ」はだを脫ぐトハ、袒ヌグ。

はだ（名）|肌|〔はだへノ略〕（一）膚ヲ以テ、氣性ヲ代表スルニ云フ語[illegible]「江戸ッ子はだ」勇ミはだ」（二）其身ニ應ジタル氣性ノ[illegible]別ニ云フ語[illegible]氣質[illegible]はだ[illegible]

バタ（名）〔英語、Butter〕又、[illegible]牛ノ乳ヲ[illegible]成レル脂ノ如キモノニ、少量ノ鹽ヲ加ヘタル食品。牛酪。乳酪。酪。ボオトル。乳脂

はたあげ（名）|旗揚|兵ヲ擧グルコト。又、新ニ事ヲ起スコト。[illegible]十八、大田[illegible]「大音ヲアゲテ、敵ニ人ヲ皆ル不道ニテ、天下ニ旗揚ゲントハ、思ヒモヨラズト罵リシ」

〔はたあし（名）|旒|〔旗脚ノ義〕略シテあし。旗ノ末ニ垂ルルモノ。ハタテ。倭名抄、十二[illegible]、[illegible]、[illegible]世[illegible]、八年[illegible]月[illegible]

はたあはせ（名）|旗合|上古時代ニ、長崎港ニ入津セル和蘭船ト、[illegible]船トノ[illegible]檢使行キ向ヒテ、[illegible]旗ト、カネテ和蘭ノ[illegible]シタル祕密旗トヲ勘合セシコト。兩旗相同ジキトキハ、我國ニ通商セル和蘭國ノ船タルノ證トセリ。

はだあひ（名）|肌合|氣性ノ合フコト。又、キアヒ。意氣。性質

はだい（名）|歯代|〔歯ハ、は（齒）ノ條ノ（三）ヲ見ヨ〕車ノ損料。車ノ借用賃

はたい（名）[illegible][illegible]又、[illegible]首ニ[illegible]イノ、直[illegible]ノ[illegible]ト。[illegible]菽芽[illegible]春洋氣[illegible]花[illegible]醉食[illegible]、南人名曰[illegible]塔[illegible]、破題兩句、已道二[illegible]」

はだい（名）|馬代|（一）古ヘ、獻上物ナドノ目錄ニ、御太刀一腰、御馬一匹ナド書シテ、馬ノ代トシテ金ヲ添フルコト。後、德川氏ノ制ニ、大小名ニ賜[illegible]

[illegible]時ニ、[illegible]十石以上[illegible]、馬代[illegible]千石以下ノモノハ、銀馬代ナリキ。[illegible]實紀[illegible]年八月廿八日[illegible]御馬代[illegible]目錄ハ使者相勤、御加増、下賜品、大小名ニ[illegible]三千石以上ノ御加増ナレバ、御禮ノ時、金馬代ナリ、三千石以下ハ、銀馬代ニテ[illegible]中[illegible]領知[illegible]御馬ノ、[illegible]ケタ[illegible]レタト[illegible]」（二）馬ノ借賃。借馬ノ料金。

ばだい（名）|場代|場席ノ代金。席料。

〔はたいた（名）|鰭板|〔端板ナルベシ〕[illegible]家ノ内部ノ外ヨリ見エヌヤウニ、隱シニ[illegible]俺ノ板屏、[illegible]ノ周圍ノ板屏、[illegible][illegible]はたいた[illegible]十[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ヘシ、[illegible]板サナルベシ」[illegible]

はたいと（名）|機絲|機ヲ織ルニ用ヰル絲。[illegible]

はたいろ（名）|旗色|[illegible]ノ[illegible]、[illegible]勝敗ノ勢ノ[illegible]見エタルコト[illegible]

氣ヲ見ワケ」 後訓蒙、はたいろ、軍中ノ詞也、旗色ヲ見テ軍ノ勝敗ヲ知ハ、其相ノ旌旗ニアラハルル義也、是ヨリ平治ニモ云ヒナラヘリ」 (二)轉ジテ、形勢。又、樣子。

はたう（ハトウ） (名) 【波濤】 ナミ。大ナル波。 越絕書、漢、王康、「波濤蕩流、沈而復起」 杜甫、渼陂行「波濤萬頃堆瑠璃」 又、「一、懷抱、風由、百谷爲之波濤」 謡曲、白鬚「サリナガラ、ハルバルノ波濤ヲ凌ギクダラン事、然ルベカラズ」

はたう（ハトウ） (名) 【披塘陂塘】 ツツミ。ドテ。 何遜、最高陂賦「蒼然倒於陂塘、籠書出於河源」 陸游詩、「宿雨初收見夕陽、縱橫流水入陂塘」

はたう（ハトウ） (名) 【播蕩】 流レ移リテ、所ヲ失フコト。流離。流越。 左傳、襄公廿五年「夏氏之亂、成公播蕩」

はだう（ハトウ） (名) 【霸道】 霸者ノ天下ヲ制御スル道。霸者ノ道。權謀、術數、武力等ニヨリテ事ヲ行ノコト。 史記、商君傳「吾說公以霸道、其意欲用之矣」

ばたう（バトウ） (名) 【罵倒】 甚シクノノシルコト。

はたうち (名) 【畑打畠打】 鋤ナドヲ用ヰテ、畠ノ土ヲ掘リ返スコト。又、ソノ人。 太祇の句「畠打ヤ、イヅクハアレド、京ノ土」

はだおび (名) 【膚帶】 はだのおびニ同ジ。又、はたのおび。(膚帶) 松牛記「多田淡路守子多田三八ヲバ生捕リニシケル、云云、ハダカニシテ見レバ、はだ帶ニドンスヲシケル」

はたおり (名) 【機織】 (一)機ニテ布帛ヲ織ルコト。又、ソノ工人。織工。 (二)次條ノ語ノ略。下學集、上、氣形門「促織、ハタヲリ」 (三)次條ノ語ノ(二)ニ同ジ。 枕草子、三、廿七段「蟲ハ鈴蟲、松蟲、はたおり、キリギリス」 菅圃集、五「青柳ノ、絲ノ絲ヲ、繰リオキテ、夏ヘテ秋ハ、はたおりゾ鳴ク」

はたおりむし (名) 【機織蟲】 きりぎりす(螽斯)ニ同ジ、略シテ、はたおり。 拾遺集、三、秋「秋來レバ、はたおる蟲ノ、アルナベニ、唐錦ニモ、見ユル野邊カナ」

はたおりめ (名) 【機織女】 (一)機ヲ織ル女。ハタオリヲンナ。タナバタツメ。 (二)こほろぎ(蟋蟀)ノ古名。はたおり。 倭名抄、十九、蟲豸類「促織、波多於里米、鳴聲如急織機、故以名之」(促織ハ、今ノこほろぎナリ) 寬平御時后宮歌合「雁ガネハ、風ヲ寒ミヤ、はたおりめ、クダマク音ノ、キリキリトスル」 古今六帖、六「カリガネノ、羽風ヲ寒ミ、はたおりめ、管卷ク聲ノ、キリキリト鳴ク」

はだか (名) 【裸】 〔膚明(ハダアカ)ノ約〕 (一)衣ナクテ、膚ノ現ハレテアルコト。アカハダカ。ハダカミ。 名義抄「躶、裸、アカハダカ」 字鏡「躶、波太加奈利」 今昔物語、十二、第三十五語「着ル衣ヲ脱ギテ與ヘツレバ、我レハ裸(ハダカ)ナリ、然レバ大ナル桶ニ木ノ葉ヲ入レ滿テテ、夜ハ其レニ入レリ」 盛衰記、四十二、與一射扇事「芝築地ノ陰ヨリ裸ニナリテ、犢鼻褌(タフサギ)ヲカキ」 (二)スベテ、被物(オホヒ)ナキコト。 心中二枚繪草紙(寶永、近松作)中「小判ハ頭巾ニグヮラリト入レ、裸一歩ヲ手ニ握レバ」「裸麥」「裸文」 (三)履物(ハキモノ)ハカヌ足。スアシ。ハダシ。 布衣記(永正)「馬ニハはだか足ニテ乘ルナリ、徒步ニハ淺沓ヲハク」

はだかいくさ (名) 【裸軍】 部下モ助勢モナク、單身ニテスル戰。又、甲冑ヲ着ケズニ、スル戰。

はだかいっくゎん（ハダカ・イッカン） (名) 【裸一貫】 (一)自己ノ身體ノ外、更ニ一物ヲモ所持セザルコト。 (二)資本ノ少シモ無キコト。無一物。

はだかうま (名) 【裸馬】 鞍ヲ置カヌ馬。 盛衰記、三十三、康定關東下向事「其外、宿所ヘ十三疋ノ馬ヲ送ル、其ノ中ニ、二疋ハ鞍ヲ置キ、十一疋ハ裸馬ナリ」

はだかぐら (名) 【裸鞍】 鞍ノミヲ置キテ、鞅(ムナガイ)、鞦(シリガイ)、鞖(シホデ)等ヲ添ヘザルモノ。

はたかくる・ルル・ルレ・レ・レヨ(自動、下二) 【半隱】 〔端隱ノ義〕 少シカクル。ナカバカクル。 檜垣集、詞書「はたかくるるニ呼ビ出ヅ」 枕草子、三、廿五段「卯ノ花、花橘ナドニ宿リヲシテ、はたかくれタルモ、ネタゲナル心バヘナリ」 千載集、十八、雜、下「夏ノ內ハ、はたかくれテモ、アラズシテ、オリ立チニケル、蟲ノ聲カナ」 遊仙窟「半面(ハタカクレタリ)」(十娘ガ半顏ヲ顯ハシタルニ云フ)

はたがしら (名) 【旗頭】 一地方ノ若干ノ大小名ノ長。霸者。方伯。 太平記、廿六、四條繩手合戰事「白旗一揆ノ衆ニハ、縣下野守ヲ旗頭トシテ、其勢五千騎、云云、大旗一揆ノ衆ニハ、河津高橋二人ヲ旗頭トシ、其勢三千餘騎」 藩名家記「二本松右京亮吉次、仙道旗頭トシテ城ヲ堅ク守リ」 幸若舞曲、敦盛「武藏ノ國ノ住人、私ノ黨ノはたがしら、熊谷ノ次郎直實ニテ候」 吾吟我集(慶安)八「先陣ノ、苦ヲマスカレテ、內陣ノ、はたがしらコソ、ユカシ熊谷」「九州ノ旗頭」「中國ノ旗頭」

はだかじろ (名) 【裸城】 櫓、又ハ、塀ナドヲ缺キタル城。

はだかひゃくくゎん（ハダカ・ヒャッカン） (名) 【裸百貫】 男子ハ裸ニテモ百貫文ノ直打アリト云フコト。又、男子ハ無一物ニテモ、錢百貫文ノ價アリト云フコト。コレ男尊主義ヲ發露シタル諺ニテ、男子ノ威嚴、名譽ヲ讚シタル語。 今宮心中(寶永、近松作)上「帶モセズ、襦袢一ツノ裸身ヤ、百貫町ヘゾ走リケル」 好色五人女(貞享、西鶴)二「男ハ裸ガ百貫、[illegible]ヘテラシテモ世ハ渡ル」 後撰夷曲集(天明)九「丸裸、百貫ステフ、ヲノコ子モ、死ヌレバタッタ、五輪ニゾナル」

はだかぶみ (名) 【裸文】 表包(ウハヅツミ)ヲセズ、又ハ、封筒ニ封入シテアラヌ書狀。

はだかまゐり（ハダカ・マイリ） (名) 【裸參】 寒夜ナドノ行(ギャウ)トシテ、裸ニテ神佛ニ詣デ祈願スルコト。 好色二代男(貞享、西鶴)四「一代一度ノ大願、下帶バカリノ裸まゐり、フラレル氣遣ヒモナシ」

はたかみ (名) 【霹靂】 〔礑礑雷(ハタハタカミ)ノ義〕 ナルカミ。カミナリ。ハタタガミ。

はだかみ (名) 【裸身】 裸ノカラダ。ハダカ。アカハダカ。裸體。赤身。

はだかむぎ (名) 【裸麥】 〔芒(ノギ)、甚ダ短ク、殼、稃皮ヨリ脫シ易キ故、裸ノ名アリ〕 大麥ノ一種。形體、成分、栽培方法ナドハ、大體、大麥ニ同ジ。タダ味少シク劣ル。常食トモシ、醬油、味噌ノ原料ニ用ヰラル。アカハダカ。 古今夷曲集(寬文)三「刈ル人モ、ハコビシ人モ、ツク人モ、フドシノミナル、はだか麥カナ」

はだかむし (名) 【裸蟲】 (一)羽毛ナキ蟲ノ泛稱。 (二)人ノ異名。 禮記、月令篇「中央土、其蟲倮」注「人爲倮蟲之長」 孔子家語、執轡篇「倮蟲三百有六十、而人爲之長」 大戴禮、易本命篇「倮之蟲、三百六十、而聖人爲之長」 下、五蟲部「裸蟲三百三十、屬中央、其中人爲首」 (三)貧人ノ衣ヲモタヌモノ。貧家ノ兒ノ衣裳ナキモノ。 俳諧古選「六月ノ、人ノ事カヤ、はだか蟲」

はだかる・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【開哆】 〔はだく(開)ノ自動〕 (一)ヒロガリヒラク。マタガル。ハバカル。 今昔物語、十九、第十八語「女房タチ、寄貫ニ目口はだかりテ、思スルコト限リナシ」(肝ヲツブス狀ナリ) 宇治拾遺、十二、第七條「コレヲ聞クニ、アサマシク、目口モはだかりテ覺ユ」 (二)跨ヲヒロゲテ立ツ。 字類抄「跨、ハタカル」 名義抄「跨、ハタカル、マタガル、アットコフ」 冥途飛脚(正德、近松作)一「立チはだかってワメキケル」 東海道中膝栗毛(文化、一

九)三蝶[illegible]、北八ヶ向ウヘマハリ、立チはだかる」「人ノ前ニ立チはだかる」

はたき (名) 〔埃拂ノ義〕 (一)チリハラヒ。ホコリハラヒ。サイハラヒ。室内、又ハ、器物ノ塵埃ヲ拂フ具。羽毛、又ハ、裂キタル紙ナドヲ束ネテ柄ヲ添ヘタルモノ。拂塵 (二)次次條ノ語ノ略。

はだぎ (名) 膚着 膚ニ着ケテ着ル衣。ジュバン、襯衣 書言字考節用集、六、服食門「中單、ハダギ、澤衣、蓋衵、汗衫、ハダギ、汗襦、衹襴、[illegible]、汗衣、近身之衣也」本朝俗[illegible](貞享、西鶴)八「袖口ハ黄ナル肌着ニ、青花棒薬ノ鳥撮ヘ、バットシタル容氣、サナガラ女ノゴトシ」守貞漫稿、十五、男服「夏襦袢、夏ノ肌著ハ全ク白晒麻布ノ半身ヲ本トスレドモ、汗ニ濡テ肌ニツキ不快ナルガ故ニ、近世ハ、云云、袖ト兩袖ハ白晒麻布ヲ用ヒ、[illegible]ノミオランダオリヲ用フ也」

はたきふみ (名) 相撲ノヒネリノ手ノ一。敵ノ烈シク突キ進ム力ヲ利用シ、我ガ體ヲ右ニ開キ、右足ヲ引キナガラ、平手ニテ敵ノ左肩口ヲ、前ヘ叩キ落スコト。略シテ、はたき。

はた・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [illegible] (一)搗キ碎ク。タタク。生玉心中(正德、近松作)中「仔細ノアルコノ一歩、粉ニはたかれテモヤルコトナラヌ、すすコノ長作ガ、粉ニはたかれテモ嘆ィテ見セウ」日本新永代藏(正德、北條團水)二「枯レタル橘ヲ抹香ニはたかセテ、是レヲ賣ルニ」「[illegible]ヲはたく」 (二)拂フ。拂ヒ除ク。無住雜談、二「我頭ノ白イ物ヲ はたけテ落シテ、今一人ノ頭ニツケサセテ」「塵ヲはたく」 (三)ウツ。タタク。(四)蕩盡リ失フ。又、ツカヒ果ス。「[illegible]ヲはたく」

はだ・く・ケル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [illegible] 掻キ落ス。コソゲル。コソゲオトス。ケヅル。サスル。倭名抄、十五二鞍馬具「馬刷、

[illegible] 漆[illegible]、[illegible]ハ手ヲスヱモセズ、はだけモセズ、[illegible]ルト身ニソヘズモ[illegible]」東海道[illegible]、[illegible]サ、[illegible]ビ[illegible]テアルベイニ、オクッビライダシメサレイ、はだけ申サウト云テ、[illegible]カシガリテ、足ヲサシ出シテ、サスラセケレバ」「鬣ヲはだく」粉ヲはだく」

はだ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 開哆 〔開所開くノ義〕ヒラク。延バス。[illegible]色彼[illegible]、[illegible]、ハダクル、開、口」太平記、十、長崎父子武勇事「胸本マデ血ニ成タル太刀ヲ打振テ、[illegible]ノ落ナ[illegible]カル樣ニ、大手ヲはだけテ追ヒケル間[illegible]」[illegible]笑(元和、安樂庵策傳)六、[illegible]口ヲはだけ開エレバ」吉野都女楠(正德、近松作)二「[illegible]マデ はだけ出シ、センハウツキテ、云云」

はたぐも (名) 旗雲 旗ノ懸ケタルガ如ク、横引キタル雲、萬葉集、一[illegible]、海ノ、[illegible]ニ、入日サシ、今夜ノ月夜、スミアカクコソ」

はたけ (名) 畠畑 〔畠處ノ轉、家ノ屋處ノ類〕 はた(畠)ニ同ジ。倭名抄、一六田園類「畠、[illegible]、陸田、八太介」[illegible]田ニ對ス[illegible]、十八二[illegible]植エシ田モ、[illegible]、シボミ枯レユク、云云」[illegible]、六年九月、[illegible]、云[illegible]、[illegible]也」[illegible]下、十三年十月、土右[illegible]田苑五十餘萬頃」源、十八、松風「御莊ノ田はたけナド云フコトノ荒レ侍リシカバ」

はたけ (名) 疥 はたけがさ(疥)ノ略。倭名抄、三瘡類「疥瘡、波太介」字鏡[illegible]「疥、波太介」

はたけいね (名) 畠稻 をかぼ(陸稻)ノ一稱。其條ヲ見ヨ。

はたけいも (名) 畠芋 さといも(里芋)ノ一稱。其條ヲ見ヨ。

はたけがさ (名) 疥 〔痒クシテ掻闘[illegible]〕[illegible]、[illegible]方、疥ニ[illegible]ニ生ズ[illegible]痒クシテ、掻ケバ乾癬ヲ生ズルモノ。略シテ、はたけ。[illegible] [illegible] 集「[illegible]、疥、ハタケカサ」

はたけすゐれん ハタケ・スヰレン (名) 畠水練 〔畠ノ中ニテ行フ水練ノ義〕 空理空論ニテ行ソ物事。又、實際ノ役ニ立タヌ[illegible]、[illegible]タタミスヰレン。生兵、机上空論。太平記、十四、[illegible]「[illegible]」ノ手ノ者ナンド云ヒテ、コノ間、はたけすゐれんシツル[illegible]、[illegible]、[illegible]出ケル」[illegible]、廿九、[illegible]兵、畠水練ノ昔様ニオヅル人アラジ」(戰ナキニ矢ヲ射テ強弓ヲ誇ル者、又、實地ニ通ゼズ者ヲ云フ)[illegible]良[illegible]、畠水練トカヤノ[illegible]リ」

はたけぜり (名) 畠芹 むらさきけまん(紫菫)ノ條ヲ見ヨ。新六帖、六「イタヅラニ、荒ルル園生ノ、はたけぜり、ワビシゲニテモ、アル世ナリケリ」

はたけつもの (名) 種子 [illegible]

[illegible]ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

「陸田種子、波太介豆毛乃」

はたけな (名) 畠菜 [illegible]ノ一種。[illegible]、相同ジクシテ、丈、稍、低ク、葉ノ色淺キモノ。若葉ト[illegible]トヲ食フ[illegible]トス。又、其實[illegible]油ヲモ採ルベシ。

はたけふ ハタケ・ウ (名) 畠生 畠ノ作物ノ生ヒタル所。[illegible]、九、[illegible]はたけふニ[illegible]シシメキテ、カシマシキマデ、世ヲゾ恨ムル」

はだ・ける (他) はだく(開)、四、はだく[illegible]ノ口語。

はたご (名) 旅籠 〔[illegible]〕 (一)[illegible]物ヲ入ルル籠。竹ノ皮ニテ編メル籠。[illegible]、[illegible]ロガ[illegible]ノはたごウマ[illegible]第三十八[illegible]二[illegible]リ長ク付テ」[illegible]集[illegible]一八[illegible]、[illegible]語ハコトゴト、宮ザニゾスル」[illegible]日記、上、下[illegible]「は

たごドコロトオボシキトコロヨリ、切大根、柚ノ汁ナシテ、アヘシラヒテ、マヅ出シタリ」[illegible]、廿七、馬「旅人ノ、はたごノ馬ノ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]サメヤハセム」宇治拾遺、七、第九條「[illegible]ト、ハシリサリテ求ムレドモ[illegible]、コハイカガセンズル、云云、御はたご馬ナドモ[illegible]リタウンニ、[illegible]ナド[illegible]カレト云ヘバ、[illegible]リストアサタルホドニ、はたご馬、[illegible]ナド[illegible]ナドカク[illegible]オクレテハ[illegible]ルゾ、御はたご馬ナド[illegible]、常ニサキダツコソヨケレ、[illegible]ノ事ナドアルニ、カク[illegible]ルルハ[illegible]キ事カハ等云ヒテ」[illegible]集、旅人のわくみひだに、[illegible]旅人におひたり、旅人ハ、[illegible]はたご[illegible]シキラ、[illegible]ク往マシネ、山ノトネタ[illegible] (二)旅人ノ食物ヲ入ルル器。[illegible] [illegible]ニ用ヰル容器。[illegible]調、吹上、下「[illegible]はたごソタ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]入レテ、[illegible]二[illegible]セタリ」今昔物語、廿六、第十九[illegible]カリ、はたご[illegible]物ナド[illegible]」(三)旅ノ[illegible]ニテ飯食フコト。轉ジテ、今、はたご錢ト云フハ、旅中ノ食料ノ錢ナリ」旅館ノ賃食。旅人ノ食リ取リマカナヒ、宿セシムルコト。[illegible]日ハ今日ノ[illegible]ヲ十月十三日(御式ニナルゾ、古はたご[illegible]ナ行クゾ」[illegible]ノ[illegible]ニテ、[illegible]ツクコト一月[illegible]タケ、[illegible]四升五合十文、[illegible]十枚、[illegible]ノ[illegible]八十五枚、[illegible]ノ田[illegible]ノ[illegible]百五十[illegible]」(四)次次條、及、次次條ノ語ノ略。

はたごせん (名) 旅籠錢 [illegible] 前條ノ(三)ソ見ヨ。宿錢 [illegible](風的[illegible]、[illegible]、[illegible]ナンチャク[illegible]四[illegible]ス、[illegible]レヤスキセノナリ、はたご錢ハ[illegible]ツス、[illegible]時[illegible]ベシ」

はたごや (名) [illegible] 旅人ヲ[illegible] 一[illegible] 宿[illegible] 旅舍、[illegible] [illegible] 作[illegible]、代明、[illegible]、[illegible]リシ[illegible]、[illegible]知レノ[illegible]」[illegible]、[illegible]作、[illegible]人

ノ日立ツヲ俟ミカネ、借蘆籠ニ日ヲ送リ、奈良ノ旅籠屋、三輪ノ茶屋、五日三日夜ヲ明シ」

はた-さく（名）［畑作］　畑ニ豆、麥、粟、野菜ナドヲ植エ作ルコト。（稲作ニ對ス）

はた-さし（名）［旗指］　旗指物　小旗。　さしもの（指物）ノ條ヲモ見ヨ。　謡曲、鱗形「晴レタル空ニ旗さしノ、名モ久方ノ、月ノ桂モ手ニ取ルバカリ」

はた-ざし（名）［旗差］　古ヘ、軍中、馬ニ乗リテ大將ニ從ヒ、其旗ヲ持ツ人。旗手。　保元物語、二十六、熊谷向ニ大手ニ事「旗差具シテ、親子三騎坂下リニ歩マセタリ」　太平記、六、關東大勢上洛事「先ツ旗差、其ノ次ニ逞シキ馬ニ厚總懸ケテ」

はだ-ざはり（名）［肌觸］　肌ニ觸ルル感覺。皮膚ニサハリタル時ノ心モチ。「柔カナルはださはり」

はだ-ざむ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）［膚寒］　肌ニ觸レテ冷カナリ、春初、秋末ノ風ナドニ。　萬葉集、廿、「旅衣、八ツ着重ネテ、イヌレドモ、ナホ膚寒シ、妹ニシアラネバ」　源、一、桐壺「野ワキタチテ、肌寒キタグレ」　續拾遺集、九、羇旅「朝霧ノ、タチニシ日ヨリ、旅ゴロモ、ヤヤはださむく、雁モナクナリ」

はた-ざめ（名）［幡鮫］　一名、天蓋鮫。形天蓋ニ似タリ、褐色ニシテ、味美シ、此沙皮ヲ、物ヲオロスニ用ヰテ最トス。

はた-ざを（名）［旗竿］　旗ヲ立ツル爲ノ竿。　平家物語、二、教訓事「旗竿ドモ引キソバメ、馬ノ腹帶ヲカタメ、甲ノ緒ヲシメ、只今、皆打チ立タンズル氣色ドモナルニ」

はた-し（名）［果師］　古着物ノ市ニ、仲間ニ賣買スルモノ。ウリハタス人。

はだ-し（名）［跣］　(一)［膚足ノ約］　膚足ニテ沓ヲ着ズ、素足ノ膚ヲ直ニ地ニツクルヲ云フ。物履カズ、膚ノママナルコト。　名義抄「徒跣、ハダシ、スアシ」　字鏡、八十「跣、波太志」　易林節用集（慶長）上、人倫門「徒跣、裸足、ハダシ」　宇津保物語、國譲、下、十「中納言見ツケテ、南ノハシラヨリはだしニテオリオハシテ」　平家物語、十二、六代御前事「齋藤五、齋藤六モ、御輿ニ付テゾ參リタル、北條乗替ドモ飜イテ、馬ニ乗レト云ヘドモ乗ラズ、大覺寺ヨリ六波羅マデ、かちはだしニテゾ參リタル」　東海道中膝栗毛（享和、一九）初編「初手ハはだしデ入ノテミタガ、アンマリアツイカラ」　(二)（跣ニテ逃グル意）　負ケル。及バズ。三舍ヲ避ク。　浮世風呂（文化、三馬）四編、中「ナント江戸子ハはだしヂャロガ、チトナマロカイ」「クロウトモはだしダ」

はたし-あひ（名）［果合］　殺シ合フコト。互ニ恨ミ、又、怒レル事ナドアリテ、雙方相約シテ、相手ノ孰レカ死ヌルマデ闘ヒテ、遺恨ヲ晴ラスコト。決闘

はたし-じゃう（名）［果狀］　果合セムトノ旨ヲ言ヒ送ル書狀。　本朝若風俗（貞享、西鶴）一「天神ノ松原ニ出合ヒ給ヘト、果し狀ヲ認メ」

はた-じた（名）［旗下］　旗頭ノ指圖ニ從フコト。支配ノ下。麾下　甲陽軍鑑、一、品第三「晴信ヲ取リ立テ候ハバ、マサシク我レ等旗下ニ極マリ候間、左樣候ハバ、子息氏眞ノ代迄モ全ク旗下ニ仕ベシト思シメシ」「旗下ニツク」

はた-して（副）［果］　案ノ如ク。思ヒシ如ク。信ズル所ニ違ハズ。アンノデウ。終ニ。（漢籍讀ニ）　神代紀、上、三十五「至レ期果有ニ大鯉ニ」　著聞集、一、神祇「此ノ宣命必ズ神感アルベキヨシ自讃セラレケルニ、はたして三日雨夥シクフリタリケルトナン」

はた-じね（名）［機經］　機ニテ織リタル布帛ノ、アマリノ末ノ絲。はたいと（織）ニ同ジ。　字類抄「繒、ハタシネ」

はだし-まゐり（名）［跣參］　跣足ニテ、神佛ニ詣デテ、祈願スルコト。　明良洪範、六「百日ノ間、跣まゐりシテ、左京大夫殿ノ病氣平癒ヲゾ祈リケル」

はた-じん（名）［秦］　支那、春秋戰國時代ノ秦、晉二國ヲ區別スル爲ニ云フ語。晉ヲすすむじんト云フ。　夏山雜談（寛保、秋山色樹）「秦ハはたじん、晉ハすすむじんト云フ也」

はだ-ジュバン（名）［肌襦袢］　肌着ニスル襦袢ノ稱。ハダギ。襯衣

はた-じるし（名）［旗標］　旗ニ記シテ、標トスル種種ノ象。旗章　書言字考節用集、六、服食門「幟、幖、ハタジルシ」　太平記、廿二、畑六郎左衞門事「豐原平泉寺ノ衆徒、宮方ト引キ合ヒテ、旗ヲ擧ゲタリト心得テ、チットモ足ヲタメサセジト」

はた-じろ（名）［鰭白ノ義カ］　魚ノ名。形、略、もいを（藻魚）ニ似テ、身、平タク、首、短ク、鱗、細カシ。鰭ニ黑白ノ文アリ。冬、春、出ヅ。味、淡シ。

はた・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［果］　〔はつ（果）ノ他動〕　(一)〔仕果ツルヤウニス。成シ遂グ。終ヘ成ス。シオホス。實行ス。成就ス。　伊勢物語、八十六段「猶心ザシはたさントヤ思ヒケン」　狹衣、四、上、九「イツイカナリシ御願ドモ、はたさセ給フニカト、御社ノ神人ドモ驚クニ」　武烈卽位前紀「オホ太刀ヲ、垂レハキタチテ、拔カズトモ、スエ婆陀志テモ、逢ハムトゾ思フ」　(二)殺ス。シトメル。　甲陽軍鑑、五、品第十三「寄リ合ヒテ一言申シテ、雙方堪忍ナケレバ、サテはたすナリ」「打チ果す」「果し合フ」

はた-すすき（名）［旗薄］　〔はなすすきノ轉〕　かきつばた、かきつはなノ類、すすきハ、はだれソソケタル草ナレバ、すすきトモ、はたすすきトモ云フナリ」　薄ノ、高ク穗ニアラハレテ、靡キヒラメクニ就キテ云フ語。此語、穗に出づ、末、くめ、しの、ナドノ枕詞ノ如クニモ用ヰル。　萬葉集、十四、卅六「ニヒムロノ、コトギニイタレバ、波太須酒伎、穗ニ出シ君ガ、見エメコノゴロ」　同、十七、長歌「波太須酒吉、穗ニ出ツル秋ノ、ハギノ花、ニホヘル屋戸ヲ」　神功攝政前紀「幡萩、穗ニ出デシ吾ヤ」　出雲風土記、意宇郡「波多須須支、穗振リ別キテ」　萬葉集、一、長歌「阿騎ノ大野ニ、旗須爲寸、しのヲ押シ靡ベ、草枕、旅宿リセス、古ヘオモホシテ」　同、三、長歌「皮爲酢寸、久米ノ若子ガ、イマシケル、三穗ノ石室ハ、見レドアカヌカモ」　同、八、五十七「波太須珠寸、尾花逆葺キ、黑木モチ、造レル室ハ、萬代マデニ」

はだ-せ（名）［膚背］　ハッセ。馬ニ鞍ヲ置カズシテアルモノ。又、鞍オカヌ馬ノ背。驏騎　易林節用集（慶長）上、氣形門「裸背、ハダセ」　碁盤太平記（寶永、近松作）三「馬ノハルビヲシメカネテ、はだせ乗ノテ駈クルモアリ」

はだせ-うま（名）［膚背馬］　鞍ヲオカズ、背ノ膚ノママナルウマ。ハダカウマ。　義經記、四、土佐坊義經の討手に上る事「判官殿ノヒサウセラレケル大黑ト云フ名馬ニ、はだせ馬ニゾ乗リニケル」　兼好法師物見車（寶永、近松作）四季の段「馬ニ鞍置ク暇モナク、アラヒ髮ニはだせ馬」　倭訓栞「はだせうま、裸背馬ノ義ナリト云ヘリ、或ハ驏馬ヲヨメリ、又、驏馬ト見ユ、鞍オカヌ馬ヲ云フ、古ヘはつせト云ヒシトヤ」　燕居雜話（天保、日野瑠）一「はだせ馬、鞍置ヌ馬ニ乗ルヲはだせ馬ニノルト云フ、雅言ニハ驏騎ト云フベシ、聯珠詩格、令狐楚少年行詩ニ、少小邊頭慣ニ放狂一、驏ニ騎黃羊ニ、注、驏是不レ用ニ鞍轡一騎レ馬也、可レ見ニ狂態一ト云ヘル是ナリ」

はた-そで（名）［端袖・鰭袖］　〔端袖ノ義〕　袍、直衣、直垂、ナドニ、袖ヲ廣クセム爲ニ、袖ノ端ニ、更ニ、半幅ニテ着クル袖ナリト云フ。卽チ、袖二幅（一幅半ナルモアリ）ノ内、袖口ノ方ノ一幅ヲ、はたそでト云フナリ。其奥ノ袖ヲ、大袖ト

云フトゾ。字類抄「袪、ハタソデ」盛衰記、廿三、皇文義 神事「赤地ノ錦ノ直衣ニ、大顆、端袖ハ對地ノ錦ニテゾ、タタレケ(クイ)ル」餝抄、小忌「大袖褶之、端袖、小草計褶之」平家物語、十一、那須與一「褐ニ赤地ノ錦ヲ以テ、衽はた袖イロヘタル直垂」盛衰記、三十三、源平水島軍事「褐ノ直垂ニ大衽、耳袖ヲ、赤地ノ錦ヲタチ入レタルニ」

はたぞり (名) 端反 器物、殊ニ、茶碗ナドノ緣ノ外ニ反リタルモノ。

はたたかみ (副) アキラカニ。タシカニ。的確ニ。名義抄「的、ハタタカナリ、アキラカナリ、マサシク、タシカニ」

はたたがみ (名) 霹靂 〔はたたく雷ノ義〕雷ノ烈シキモノ。烈シキ雷。ハタカミ。ナルカミ。カミナリ。今宮心中(寶永、近松作)下「ソリャ雷光鳴ラウゾヤ、ビックリシテ落チマイゾト、夕立頻ルはたたがみ、目指スモ知ラヌ松蔭ニ」

はたたき (名) 羽撃 鳥ノ雨翼ヲ相撃ツコト。翥ルコト。ハガキ。ハバタキ。ハタタキ。鼓翼 左思、吳都賦「鶤鵠南翥」(文選註)「而中雷、孔雀[illegible]而鶤翔」

はたたく ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 霹靂 〔音ノはたはたノ活用カ〕雷、烈シク鳴ル。ハタメク。竹取物語、上「霜月シハスノ降リ氷リ、水無月ノ照りはたたくニモ、サハラズ來ケリ」

はたたく ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 羽撃 鳥、雨翼ヲ相撃ツ。ハバタク。露忠集「鶯露ニ、木末はたたく、鶯ノ、散ラマク惜シキ、梅ノ花カモ」基佐集、春「山ガツノ、マタ早カヘニ、鶯ノ、はたたきテナク、梅ノ枝ヤニ」

はたたとり (名) にはとり(鶏)ノ異名。

はたち (數) 二十 〔二十箇ノ義〕(一)二十。二倍。二十。[illegible]集(慶長)上、六、數量門「二十、ハタチ」伊勢物語、九段「比叡ノ山ヲはたちバカリ重ネアゲタラムホドシテ」玉葉集、十九、釋教「紫ノ、雲[illegible]、はたちばかり、イツツノミガタ、マチ見[illegible]」[illegible](寶永、近松作)四季の段「二十重ネテ駿河ナル、富士ニタトヘシ比叡山」(二)二十年ノ齡。二十歲。狹衣、一、上「コノ頃、御年はたちニ、今一ツバカリヤ足リ給ハザラン」[illegible]抄、雜「背ガ子ハはたちニ成リヌラン、博奕シテコソ歩クナレ」[illegible]物語、[illegible]、九月十[illegible]夜事「我ガ二十ニ成リ、父ヲ討ナケン左衞門尉トヤランヲ討ナ取リテ」

はたち (名) 畠地 畠トナリテアル地。(田地、宅地ナドニ對ス)

はたちかづら (名) おもづの(菰角)ニ同ジ。マコモズミ。

はだつ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 始 ハジム。着手ス。開始ス。(仙臺)「仕事ヲはだつ」

はだつ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) イヤイヤナガラ爲ス。不滿足ニ思ヒナガラ爲ス。ハダテル。

はだつき (名) 肌狀 肌ノサマ。ハダノ容子。源、五、若紫、九「若君ハイト恐ロシウ、イカナラムトワナナカレテ、イト美シキ御はだつきモ、ソゾロサムゲニオボシタルヲ、ラウタク思シテ」同、廿[illegible]「[illegible]ウス物ノ直衣ヒトヘヲ着給ヘルニ、スキ給ヘルはだつき、マシテイミジウ見ユルヲ」同、廿六、常夏「ウス物ノヒトヘヲ着給ヒテ、云云、スキ給ヘルはだつきモ、イトウツクシ」

はだつき (名) 肌附 (一)肌ニ直ニ附クルコト。[illegible] (二)肌ニ直ニ着ル衣。[illegible]。ハダギ。

はだつけ (名) 膚付 馬具ノ名。馬ノ兩脇ノ、鐙ノ當ル所ニ垂レ被フモノ。[illegible] 膚付 [illegible]具)、膚附(和俗所用)、ハダツケ、ナメ」[illegible]「大轡、オホナメト[illegible]」

はたつもの (名) 陸田種子 たなつもの(種子)ノ條ヲ見ヨ。

はたつもり (名) 令法 〔畑之守ノ意カ、官ガ令シテ植エシメ、葉ヲ凶作ニ備ヘシムト〕樹ノ名。令、令法トスル、[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]抄、廿九、令法、[illegible] 同「ネヤイラヌ、外山ノ春ノ、はたつもり、はたつもり、[illegible]ニノミメモ春ノ、はたつもり、時キニケリト、人ヤ尋ネム」六帖、六「我ガ戀ハ、深山ニ生フル、はたつもり、積リニケラシ、逢フ由モナシ」

はたて (名) 盡極 〔極之方ノ約〕果。限リ。際涯。萬葉集、八、長歌「敷キマセル、國ノ盡[illegible]ニ、咲キニケル、[illegible]」狹衣、三、下「フトサメテ見上ゲタレバ、ハルバルト見エ渡サレテ、月ノミゾ仄カニ、ウツリケル雲ノはたてマデ、殘リナクサヤカニ澄ミ渡リ」古今集、十一、戀、一「夕暮ハ、雲ノはたてニ、物ゾ思フ、天ツ空ナル、人ヲ戀フトテ」拾遺集、十四、戀、四「吹ク風ニ、雲ノはたてハ、トドムトモ、イカガ頼マム、人ノ心ハ」源義經將基經(寶永、近松作)二「峪ニ入日ノ影殘ル、雲ノはたての天ツ空」

はたて (名) 旗手 はたあし(旗脚)ニ同ジ。頭之集「ササガニノ、蜘蛛ノはたてノ、動クカナ、[illegible]」[illegible]

はたて (名) 幡手 はた(幡)ノ[illegible]

はたて (名) [illegible]

はだてる [illegible] はだつ [illegible]

はたと (副) [illegible]

(二)[illegible]

はたとせ (名) 二十歲 二十年ノ倍。[illegible]

はたどの (名) [illegible]

はたなだいこん (名) 大根ノ一種。[illegible] ぐちだいこん(守口大根)ノ異名。

はたなりた (名) 畠成田 畠ノ田トナリ[illegible]

ハタニ [illegible]

はためき (名) [illegible]

はためく [illegible]

スグ」左右ニ脱グヲ、諸肌脱(モロハダヌ)グト云フ。兩袒 又、其一方ヲ脱グヲ、片肌脱(カタハダヌ)グト云フ。偏袒

はだ-の-おび (名) 膚帶 きたのおび(下帶)ニ同ジ。シタオビ。ハダオビ。フンドシ。タンナ。褌 運歩色葉集「膚帶、ハダノオビ」 慶長見聞集、二「はだの帶ハ、麻布ナドニテ四尺程ニ切リ、云云、當世ノ下帶ハ替ハリタリ」

はた-の-さもの (名) 鰭狹物 はたのひろもの(鰭廣物)ノ條ヲ見ヨ。

はたの-だいこん (名) 秦野大根 相摸國、秦野地方ヨリ產出スル大根。

はたの-タバコ (名) 秦野煙草 相摸國、秦野地方ヨリ產出スル煙草。

はた-の-ひろもの (名) 鰭廣物 〔はた(鰭)ノ條ヲ見ヨ〕 大キナル魚ヲ云フ古言。コレニ對シテ、小サキ魚ヲ鰭狹物(ハタノサモノ)ト云フ。古事記、上「鰭廣物、鰭狹物」 新年祭祝詞「青海原ニ住ムモノハ、鰭能廣物、鰭能狹物」 神代紀、上「鰭廣、鰭狹(ハタノヒロモノ、ハタノサモノ)」

はだ-ばかま (名) 膚袴 膚ニ着ル猿股ノ類。タフサギ。褌 下學集、下、絹布門「膚袴、ハダバカマ」 盛衰記、三十五、高綱渡宇治河事「鹿島與一トテ、無雙ノ水練アリ、鎧脫ギ置キ、はだばかまヲカキ」 春臺浪話(土居經平)下、犢鼻褌手綱「フルク手綱ト記セルハ、今ノ下帶ト云フモノナリ、或ハ犢鼻褌ト云フ、同ジ類ナレドモ手綱ニハ異ニシテ、是ハ短キ肌着ナリ」

は-タバコ (名) 葉煙草 〔刻煙草(キザミ)ニ對ス〕 採取シタルママニテ、未ダ製造セザル煙草ノ葉。 織留(元祿、西鶴)六「錢ニシテ三百七十ヲモトデトシテ、葉たばこ刻ムモ、姻ノ種トゾナリニケル」

はた-はた (名) 蜈蚸 〔羽ノ聲ヲ名トス〕 蟲ノ名。螽斯(キリギリス)ヨリ體瘦セテ、首尖リテ兩角竝ブ。綠色ト褐色トノ二種アリ。雄ハ長サ一寸許リ、雌ハ一寸半ヨリ三四寸ニ及ブモノアリ。背後ヨリ尾ニ至ルマデ赤シ。飛ブ時、翼ハ股ニ觸レテ、はたはたト聲ス、內羽ノ黃色アラハレテ美シ。阿波ニテ、ハタハタ。東京ニテ、バッタ。讃岐ニテ、ハタタ。上野ニテ、バタ。 倭名抄、十九、蟲豸類「蟿螽、波太波太」 書言字考節用集、五、氣形門「蟿螽、ハタハタ、字彙、翅作レ聲者」

はた-はた (名) 鱩 鰰 〔霹靂(ハタタガミ)ノ時ニ多シト云フ〕 羽後國ノ海中ニ產ズル魚。此魚、雷鳴ノ時ニ海ヨリノボル、漁スルコト鰯ノ如シ。長サ七八寸、色、銀ノ如シ。土人甚ダ嗜ミテ煮食フ。雷魚

はた-はた (副) (一)旗ノ風ニ翻ヘル狀ニ云フ語。ハタメク。磕磕 (二)鳩ナドノ羽音ノ狀ニ云フ語。

ばた-ばた (副) 〔はたはたノ濁音〕 (一)足音ノ烈シキ狀ニ云フ語。ドタバタ。ドサクサ。「ばたばた駈ケ寄ル」「ばたばた立ツ」 (二)屏風ナドノ疊マリテ倒ルル狀ニ云フ語。バッタリ。 (三)ばたばたカタヅク」 ぱたぱたヲ強クシタル狀ニ云フ語。 心中天網島(享保、近松作)上「風モ來ル、人ヤ見ルト、格子ノ障子ばたばたト、立闔ク治兵衞ガ氣モ狂亂」

ぱた-ぱた (副) (一)塵ナド、塵拂(ハタ)キ落ス狀ニ云フ語。「ぱたぱたハタク」 (二)事ヲ急迫ニナス狀ニ云フ語。「ぱたぱた仕舞フ」

はだはだ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 甚太 〔いたしノ重語ノいたしいたしノ轉略〕 イタシ。イミジ。

はた-ばり (名) 幅員 〔端張ノ義カ〕 布帛ノ一幅、幅ノ廣サ。略シテ、はば。 名義抄「幅、ハタバリ」 拾遺集、三、秋「水海ニ、秋ノ山邊ヲ、映シテハ、はたばり廣キ、錦トゾ見ル」 七十一番職人盡歌合、五十八番、右ハ、歌モはたばりセバクキコユ、以レ左爲レ勝」 平家物語、八、瀨尾最後事「備後國福龍寺繩手ハ、はたばり弓杖一杖バカリニテ、遠サハ西國道一里(六丁)ナリ」

はた-び (名) 旗日 〔日ノ丸ノ國旗ヲ家每ニ揭グル日ノ義〕 大祭、祝日、ナドノ稱、戶戶ニ國旗ヲ揭グベキ日(明治以後ノ語)。五節句、物日ナドニ代リ、巧ニ成レル新語ノ魁)

はた-ぶぎやう(ハタブギヤウ) (名) 旗奉行 古へ、武家ニテ大將ノ旗ヲ管理シタル職。 甲陽軍鑑、八、品第十七「御旗奉行、一、岩手右衞門佐父子」 士談會稿、續編、坤「景勝旗奉行、梅津宗琳ト云フモノ」

はだ-ふ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二) 肌觸 他ニ肌ヲ觸ル。男女ノ膚、相觸ル。共寢ス。 神樂歌、大前張、吾妹子「吾妹子(ワギモコ)ニ、一夜はだふれ、アヤマチセシヨリ、鳥モ取ラレズ」 古事記、下(允恭)「輕太子歌「我ガ泣ク妻ヲ、今日コソハ、安ク彼陀布禮」 萬葉集、十四、廿「ウマセ越シ、麥ハムコマノ、ハツハツニ、新波太布例シ、兒ロシカナシモ」 同、十一、六「アカラヒク、膚不觸(ハダモフレズ)テ、寐タレドモ、心ニ異ニ、我思ハナクニ」

はた-へ(ハタエ) (名) 二十重 モノノ、二十、重ナルコト。「十重二十重ニ圍ム」

はだ-へ(ハダエ) (名) 膚肌 〔皮邊(ハダヘ)ノ義ト云フ〕 人、獸ノ體ノ表面ニ、皮ノ被ヘル處。カハベ。ハダ。 曾丹集「夜ハサムシ、ネドコハウスシ、フルサトノ、妹ガはだへハ、今ゾコヒシキ」 太平記、三十九、芳賀兵衞入道軍事「左馬頭、元來、力人ニ勝レ、心飽クマデ早クシテ膚撓(ハダヘ)マズ、目マジロガズ」 北條五代記、五、八丈島渡海事「花ノカホバセ、モモノコビ、雪ノはだへ、一ツトシテカクル事ナキ」

はた-ほこ (名) 幢 橦 幡 〔幡桙ノ義〕 旗ノ上部ニ、小旗ヲ着ケタルモノ。又、寺院ニテ、竿ノ先ニ旗ヲ建テタルモノ。 倭名抄、十三「幢、…」 萬葉集、十六、廿「婆羅門ノ、作レル小田ヲ、ハム烏、瞼(マナブタ)腫レテ、幡幢(ハタホコ)ニヲリ」 曾我物語、五、吳越戰事「吳王ノ忠臣伍子胥カ、諫メ協ハズシテ、首ヲ刎ネラレシ時ノ兩眼、幡(ハタ)ニ懸ケタリシガ」 謠曲、咸陽宮「帝ノ御殿ハ阿房宮、云云、五丈ノ旗矛、龍車ノ雲居、サナガラ天ニ讓リ」

はだ-まき (名) 膚卷 肌卷 フドシ。フンドシ。ユモジ。ハダノオビ。

はた-また (副) 將又 或ハ。若シクハ。はた(將、第一語)ノ條ヲモ見ヨ。 神武紀「抑又(ハタマタ)聞ニ於鹽土老翁ニ曰、東有ニ美地ニ、青山四周、其中亦有下乘ニ天磐船ニ飛降者上」 庭訓往來、二月「將又、楊弓、雀小弓勝負」

はだ-まもり (名) 膚守 肌守 肌ニックル守札。ハダノマモリ。

はだ-み (名) 膚身 肌身 ハダ。又、カラダ。身體。 謠曲、高野物狂「文コソ君ノ形見ナレ、云云、肌身ニ添フル此ノ文ヲ、形見ト人ヤ見ン」

は-たん (名) 破綻 ヤブレホコロブルコト。事ノ成立セザルコト。

は-だん (名) 破談 定メタル相談ヲ止ムルコト。相談、不調ニ終ルコト。

バタン-きやう(バタンキヤウ) (名) 巴旦杏 〔南洋ノ爪哇島ノ地名、巴旦(番旦)(Bantam)ノ名ヲ負ヘリ。一說ニ、西域ノ地名、巴擔ノ原產ト〕 又、はたんきやう。あめんどう(巴旦杏)ノ漢名。 庖廚備用倭名本草、六、五果「巴旦杏(ハタンキヤウ)」(古事類苑) 增補華夷通商考(寶永)三「番旦、咬𠺕吧國(パンタン、カラパア)(爪哇)ニ同ジ」 同、四、巴旦、土產「巴旦杏」 本草一家言、三「巴旦杏、出レ于ニ本草ニ、番藥也」

はため・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［鳴動］（一）音ヲ[illegible]鳴リ響ク。ハタハタトドロク。字鏡「[illegible]、鳴聲、波太女久」同「[illegible]、波太女久」天治字鏡、十一「[illegible]、波太女久」倭[illegible]、はためく、[illegible]法師ガ[illegible]ニ見エタリ、[illegible]出タル[illegible]ナルベシ」[illegible]雷[illegible]盛衰記、廿九、礪波山合戰事「閧ヲ作リ、太鼓ヲ打チ、法螺ヲ吹キ、木本、[illegible]ヲ打チはためき、[illegible]射上ゲテ、トドメキ懸リタレバ」「雷、鳴りはためく」「火、逆りはためく」

はたもち（名）［旗持］ 武家時代ニ、戰陣ニ旗ヲ持ツ職。又、其人。ハタザシ。

はたもと（名）［旗本・旗元］（一）昔、出陣ニ、大將ノ旗ノ許ヲ離レズ居ル侍。將軍ノ旗下ニアルモノ。麾下 太平記、廿六、四條縄手合戰事「將軍ノ[illegible]旗本ニ[illegible]ノ旗打チ立テ」北條五代記、一、小田原北條家旗馬じるしの事「鈴木大學頭ハ旗本ノ弓大將、其上、關八州ニ比類ナキ射手ナリ」（二）專ラ、德川氏直參ノ臣下ノ稱（大名ノ臣下ノ陪臣ト分ツ）石高ハ萬石以下、五百石以上、其以下ニテモ、將軍ノ謁見ヲ許サレシモノニ稱ス。其以下ヲ、御家人ト云フ。書言字考節用集、四、人倫門「旗下、ハタモト、將軍家麾下諸士之通稱」[illegible]人之面面」

はたもとやっこ（名）［旗元奴・旗本奴］ 德川氏ノ旗本ノ士ニテ無頼ノ者ノ稱。元和以後、全國ノ戰爭止ミテ、旗本ノ士、武勇ヲ用キルコト能ハズ、義伐ノ風、變ジテ驕暴放縱ノ行跡トナリ、正保、慶安ノ頃ニ至リテ甚シク、年少氣鋭ノ徒、黨ヲ結ビ、大小神祇組、白柄組、六法組ナドト稱シ、一組數十人ヨリ數百人ニ及ビタリ。其風俗ハ、冬モ衣服ノ裾ヲ[illegible]ヲクケコミ、歩ム毎ニ、ハネカヘラシメ、短キ綿入ノ衣一枚、長キ大小刀ヲ閂ニ刺シ、[illegible]ニテ、六法ヲ振リツツ、[illegible]歩ム、コレヲ[illegible]風、六法風、又、[illegible]ナド稱ヘタリ。スベテ氣節ヲ重ンジ、[illegible]グ。又、不法亂暴ヲ執リ行ヒ、夜中ナド、怒ニフルレバ斬ルヲ常トス、斯ク此士ノ黨ニ入ルモノハ、父母ニ勘當セラルレバ、仲間ニテコレヲ養フト、明曆、寛文ノ頃、黨首ヲ水野十郎左衛門（五千石）、加賀爪甲斐守（一萬石）、坂部三十郎（五千石）ナドト云ヒキ。故ニ、民謠ニ、[illegible]夜深ケテ通ルハ何者ゾ、加賀爪甲斐カ泥棒カ、サテハ、坂部ノ三十カト唄ヘタリ。コレニ反撥セムトテ、町奴ノ徒、起リヌ。終ニ明曆二年、旗本奴ト町奴幡隨院長兵衛ト衝突シ、斬殺ノ事件アリ。寛文四年、水野十郎左衛門以下ノ士、悉ク罰セラレテ、跡ヲ絶テリト。コレ等ノモノヲ寛闊者トモ云フ。安齋隨筆、一「下谷御徒士町ノ仁木治大夫ト云フモノ、大小ノ刀ノ[illegible]ヲ白[illegible]ニシ、[illegible]白柄組ト云ヒ、又、大小ノ仁木組ト云フ、コレノ[illegible]シ、大小ノ神祇組ト云フ」

はたもの（名）［機物］［機ノ木匡ヲ用キルニ起ルカ］ 刑ノ名。後ノ磔ノ類カ。（はりつくノ條、見合ハスベシ）中世ニ、はたものに上ぐ、ナド云ヘルハ、十字架上ノ磔ナリ。今昔物語、十六、第廿六語「はたものニ、張リツケテ弓ヲ射シム」同、廿九、第三語「此ノ男ノ髮ニ縄ヲ付テ、はたものト云フ物ニ[illegible]懸テケリ」甲陽軍鑑、十八、品第四十八「己等はた物ニアガラン、サテハ[illegible]ラルルト心得候ハ[illegible]定メラル」大子傳（[illegible]）ニアゲル柱ハ、コロビ（切支丹改宗）サウナリ、斜セ、はた物ト、ナスダイウス（切支丹[illegible]）[illegible]（二）[illegible]之事申出者、即時はたものニ可懸事」

はたもの（名）［機］［織物ノ義、機ノ條ヲ見ヨ。沖縄ニテ、ぬぬ（布）ヲはた］（一）布帛ノ織ナド[illegible]。「機、ハタモノ、ハタ」字類抄「機、[illegible]、ハタモノ」神代紀、上「[illegible]稚日女尊乃坐齋服殿、而織神衣[illegible]」[illegible]ノ河、打チ橋ワタス、君ガ來ムタメ」後撰集、七、秋、下「織衣、立田ノ山ノ、モミヂ葉ハ、はた物モナキ、錦ナリケリ」謡曲、錦木「秋ノ心モ細布ノ、機物ヲ立テテ、機ヲ織レバ」（二）機ニテ織リタル物。織物 萬葉集、[illegible]リツガム、我ガ二十物ノ、白栲ゴロモ」[illegible]（[illegible]安）九「キリハタリ、丁丁トウツ、ガンダウノ、音アラハレテ、はた物トナル」

はたや（名）［機屋］（一）はたどの（機殿）ニ同ジ。（二）機織リヲ業トスル家。又、其人。

はたやはた［illegible］[illegible]モ。萬葉集、十六、[illegible]「撫セ撫セモ、生ラバアラムヲ、[illegible]波多也波多、[illegible]取ラムト、川ニ流ルナ」（一本）

はたらか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［働］［働ハ、人、動ノ合シタル和字］ ハタラクヤウニナス。ウゴカス。[illegible]、ウチ開キテ、何トカ云フラン、口ヲはたらかせドモ、聞キ知ル人アラシ、カクテ其夜、[illegible]」平家物語、七、實盛最後事「[illegible]ノ前輪ニ押付ケテ、チットモはたらかさズ」

はたらき（名）［働］（一）ハタラクコト。[illegible]水、世阿彌）一タダ言ノ、[illegible]ナンドナラアハセサスベカラズ」[illegible]記、米山「今日ハ火箭日、モハヤ目[illegible]ナガサ」（三）骨折。イサ[illegible][illegible]リノ火炎、陽焔モユラメク出リナリ」[illegible]ノ働ノアル人」（四）使ハルル小者。使[illegible]用。（動詞、形容詞、助動詞ニ）

はたらきかけ（名）［働掛］ [illegible]ニ、我ヨリ使ニ働ヲ仕掛クルコト。他ニ働キ掛カル[illegible]身構ヘヲ、受身トスル。相撲、柔術ナド[illegible]性ノモノノ稱。例ヘバ「押す」「打つ」ノ中[illegible]サシム。例ヘバ「押サる」「打たる」中[illegible]らる」ノ如シ。

はたらきことば（名）［働詞］ [illegible]

はたら・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［働］（一）動ク。[illegible]骨折リテ行ノ[illegible]

ノ語ニ、語尾變化ス。活用ス。(動詞、形容詞、助動詞ニ)(四)物品ノ賣價ニ、直ヲマケル。

はだらみ (副) 斑 〔散ノ轉、おほだ、おほら(許多)ノ類〕雪、或ハ、霜ヲ置キタル形ニ就キテ云フ語。マバラニ。マダラニ。ハダレニ。萬葉集、十九「夜ヲ寒ミ、朝戸ヲアケテ、出テ見レバ、庭モ薄太良爾、ミ雪降リタリ」 顯輔集「カルノ池ノ、入江ヲメグル、鴨鳥ノ、上毛はだらみ、置ケル朝霜」 轉ジテ、花ニモ云フ。後拾遺集、二、春、下「吾宿ノ、櫻イタク、鳴クナルハ、庭モはだらみ、花ヤ散ルラム」 躬恒集「春來レバ、吹ク風ニサヘ、櫻花、庭モはだらみ、雪ハ降リツツ」 爲忠百首、上「はだらなる、アハ雪ヨリハ、ナカナカニ、庭ヒタ白ニ、オケル霜カナ」

ばだらひ (名) 馬盥 馬ヲ洗フニ用ヰル大盥。ウマダラヒ。 俳諧新選「馬盥ニ、サミダレ傘ヤ、數十本」

はだらゆき (名) 斑雪 斑ニ降レル雪。マバラニ降レル雪。ハダレユキ。ハツレユキ。 蜻蛉日記、下、下「今年、イタウ荒ルル事ナクテ、はだら雪、再ビバカリゾ降リツル」

ばたり (副) 物ノ倒ルル狀ニ云フ語。バッタリ。「塀ノばたりト倒ル」

はたりべ (名) 徵部 古ヘ、郡司ノ下ニテ、貢賦ヲ徵ル職。貞觀三年十月十九日、立券文解「徵部正八位下依知秦公千門」

はたる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 徵 責メウナガス。催促ス。名義抄「徵、ハタル、モトム、モヨホス、セム」 靈異記、上、第五緣、訓釋「徵、ハタリテ」 神代紀、上「科之以千座置戶、遂促徵矣」 同、下「責其故」 孝德紀、大化元年八月「取他貨賂、二倍徵之」 萬葉集、十六「檀越ヤ、然モナイヒソ、里長等ガ、課役徵者、汝モナカラム」

はだれ (名) 〔はだれみ降れる雪ヲ略シテ、名詞トシタル語〕ハダラ。ハタレ。(ほどろニ通ズ)マバラ。萬葉集、十九「吾ガ園ノ、李ノ花カ、庭ニ散ル、波太禮ノイマダ、殘リタルカモ」 同、十六「笹ノ葉ニ、薄太禮降リオホヒ、ケナバカモ、忘レムト云ヘバ、益シテオモホユ」 同、九「御食向フ、南淵山ノ、巖ニハ、降レル波太列カ、消エノコリタル」 根元曾我(元祿、近松作)一「はだれ雪聞ヲアサルテフ、小鳥狩シテ遊バント」

はだれみ (副) 斑 〔はだらみノ轉〕マバラニ。マダラニ。ハダラニ。萬葉集、八「沫雪カ、薄太禮爾降ルト、見ルマデニ、流ラヘ散ルハ、何ノ花ゾモ」 同、十「天雲ノ、ヨソニ雁ガ音、聞キシヨリ、薄垂霜降リ、寒シ此夜ハ」 古今集、十九、雜、長「庭モはだれみ、降ル雪ノ、ナホキエカヘリ」 平家物語、一、殿下乘合事「雪ハはだれみ降ッタリケリ、枯野ノ氣色、誠ニ面白カリケレバ」

はだれゆき (名) 斑雪 はだらゆき(斑雪)ニ同ジ、略シテ、はだれ。賴政集「はだれ雪、降ルカト見レバ、九重ニ、散リカサナレル、花ニゾアリケル」

はち (名) 蜂 〔羽靈ノ意、毒ヲ畏レテ云フカ〕小飛蟲ノ名。六脚、二翅、腰、甚ダクビレタリ、尻ニ螫アリテ、人ヲ刺ス。其巢ハ蓮房ヲ倒ニシタルガ如シ。蜂房 蜂窩 種類多シ。くま蜂、みつ蜂、つち蜂、あな蜂、やま蜂、おほ蜂、あか蜂、ぢが蜂、等多シ。各條ニ註ス。 倭名抄、十九、蟲豸類「蜂、波知」 字鏡、六十七「蜂、波知」

はち (名) 蓮 はちす(蓮)ノ略。謠曲、姨捨「淨土、云云、はち色色ニ咲キマジル寶ノ池ノ邊ニ」

ハチ (名) 鉢 〔梵語、Pātra.(鉢多羅)ノ略、應器、又、應量器ト譯ス〕(一)〔天竺ノ食器。鐵鉢、石鉢、瓦鉢ナドアリ。大ハ三升ヲ、小ハ五合ヲ受クベシ。僧コレヲ以テ、人ノ施シヲ受ケ、齋ノ料トス。 盂蘭盆經疏「鉢和羅飯者、鉢中飯也、梵云鉢多羅、此云應器、云云、今時但云鉢者略也」 敕修百丈清規、辨道具「鉢、梵云鉢多羅、此云應量器、今略云鉢、又呼鉢盂、即梵漢兼名也」 倭名抄、十三、僧坊具「鉢、波智、學佛道者食器也」 同、十六、九、金器類「鉢字亦作盋(一本、波知)、學佛道者食器也」 天智紀、十年十月「奉珍寶金鉢等於法興寺佛」 持統紀、三年正月「灌頂幡、鐘、鉢各一口」 (二)〔口ノ、瓶ヨリハ開キ、皿ヨリハスボミタル器ノ稱。多クハ陶製ナルニ云フ。磁盆 木製ナルヲ木鉢ト云フ。 大嘗祭式「鉢一口」 源、三十四、下、若菜、下「カタノ如クナンイモヒノ御鉢參ルベキヲ」 (三)植木鉢ノ略 又、ソレヲ數フルニ云フ語。花盆 「鉢物」「梅一鉢」「蘭三鉢」 (四)草木ヲ掘リ起シテ、其根ト土ト塊ヲナシタル所ノ稱 (植木師ノ語) (五)腦蓋骨ノ一名。其形ニ因リテ名トス。腦蓋 生玉心中(正德、近松作)中「備前鉢デ天窓ノ鉢、覺エタカ覺エタカト打チ碎カレテ、錦手ノ目鼻血ミドロ」「鉢合ハセ」 (六)轉ジテ、兜ノ頂ヲ蓋フ部。盔 盛衰記、廿二、衣笠合戰事「腹卷ノ一ノ板、冑ノ鉢カケテ、カラト射ヌキ」 太平記、十、長崎父子武勇事「コノ鋒ニ廻ル者、或ハ兜ノ鉢ヲ立テ破ニ破ラレ」 (七)托鉢ト云フニ同ジ。 加增曾我(元祿、近松作)一「出家セントハ上分別、身ガ門ヘモはちニ出ヨ、手ノ内モ餘所ヨリハ大掴ニサセンズト」

はち (名) 土師 〔はちたたき(鉢叩)ノ下略〕賤民ノ一稱。隱語ニ、十無。ちゃせん(茶筅)ノ條ヲ見ヨ。

はち (數) 八 四ノ二倍。ヤ。ヤツ。

はぢ (名) 恥辱 (一)恥ヅルコト。面目ヲ失フコト。恥辱。名義抄「垢、ハヂ」 古事記、上「令見辱吾」 神代紀、上、十二「何不用要言、令吾恥辱」 源、七、紅葉賀「今更ナル身ノはぢニナントテ泣クサマ、イトイミジ」 心中天網島(享保、近松作)中「夫ノ恥ト我ガ義理ヲ、一ツニ包ム風呂敷ノ、中ニ情ヲ籠メニケル」 (二)恥ヲ恥トスルコト。名ヲ重ンズルコト。廉恥心。

はぢ (名) 把持 手ニ握リトルコト。 白虎通「追賜是侯、把持其政」

ばち (名) 罰 (一)神佛ノ通力ニテ、人ノ惡ヲ罰シ懲スコト。冥罰 易林節用集(慶長)上、言辭門「罰、バチ、天罰」 丹波與作(寶永、近松作)上「千二百石ノ代取リガ、何ノ罰ゾ、トカメゾト」「罰ガアタル」 (二)惡事ノムクイ 奧州安達原(寶曆、近松半二等)袖萩祭文段「罰モ七層外モ顧ズ、オ願ヒ申シ奉ル」

ばち (名) 撥 〔字ノ音〕琵琶ニ用ヰテ、絃ヲ彈キ鳴ラス具。木製、本、窄クシテ、端、大イニ開キテ扁平ナルコト、銀杏葉ノ如シ、其角ニテ彈ク。三味線ニモ用ヰル。但シ、木製、牙製等ニテ、端、甚ダ開カズ。 倭名抄、四、琴瑟具「撥、撥、音、如磨遲二音」 名義抄「撥、ハチ」 七十一番職人盡歌合、七十番「入カタノ、月ニマハバヤ、陵王ノ、日影ヲカヘス、ばちノ手ヅカヒ」右、入日ニ月ヲ進ラヘ、ばちニテ招クコト、カノ宇治ノ宮ノコト、思ヨセタルニヤ、ユヘ有ニニタリ」 著聞御記、寬永廿七年五月廿八日「安一參、一兩句申、賜撥」 我衣(文化)「貞享年中マデ、三線ノ撥、薄手ニ薄キヲヨシトス」

ばち (名) 桴 抱 〔前條ノ語ノ轉〕太鼓、銅鑼ナドヲ擊チテ、音ヲ發セシムル棒。ブチ。 倭名抄、四、音樂具「抱、桴、皷美乃波知、所以擊鼓也」 最勝王經音義注「桴、波智」 名義抄「桴、ハチ」 菅家頌「枹、バチ」 著聞集、六、管絃「修正、太鼓ヲ奉リテ、大鼓ヲツカウマツリケルガ、此ヨリモススメテ撥ヲアテケリ」

ばちあたり (名) 罰當 天罰ニ當ルコト。又、罰ニ當リタル人。又、罰ニ當ルベキ人。 織留(元祿、西鶴)四「アノばちあたりドモメガ、大事ノ神參リニ、云云、親總ノ者バカリヲ代參リ」

ヲサセテ、オノレ等ニ人ハ[illegible]

ハチ-あはせ (名) [鉢合] (一)二人、心付カズ行キ合ヒテ、頭ト頭トヲ打チ當ツルコト。デアヒガシラ。浮世風呂(文化、三馬)初編、下「オナ[illegible]イ、盲人ニ鉢合セヲスルトハ、明盲メ」 (二)衝突スルコト。

ばち-あはせ (名) [撥合] 琵琶ナドヲ彈ク初ニ、先ヅ調子ヲ彈キ試ミルコト。教訓抄、八「撥合名、金床彈、大唐、春宮、深草、已上雙調音)、難隅彈、云云」

ハチ-いた (名) [鉢板] 兜ノ名所。

はち-いつ (名) [八佾] はついつ(八佾)ニ同ジ。天鼓(元祿、近松作)一「院ノ御庭ニ八佾ノ、タモトモカクヤ初春ノ」

はち-いん (名) [八音] 音便ニ、はっちん。金(鐘)、石(磬)、絲(絃)、竹(管)、匏(笙ノ壺)、土(塤、土造)、革(鼓)、木(柷、木造)ノ八ツノ樂器ノ音。書經、舜典篇「四海遏密八音」 教訓抄、八「八音ト云フ者、金石(金、鐘一、石、磬二)、絲竹(絲、琴瑟三、竹、唐笛四)、匏土(匏、笙竽五、土、塤六)、革木(革、鼓七、柷、敔八)」

はぢ-い・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [恥入] 深ク恥ヅ。イタク恥ヅ。近頃河原達引(天明、爲川宗輔)中「ソナタノ心ニ恥ぢ入ッテ」

ハチ-うゑ (名) [鉢植] 植木鉢ニ植エタル草ヤ木。盆栽。生玉心中(正德、近松作)上「マヅ鉢植ノ作リ松、ズント流シノ一枝ハ、太夫ノ威勢備リテ」 草木育種、上「鉢植ノ事、云云」

はち-えふ (名) [八葉] (一)紋形ノ名。八葉ノ蓮花ノ象。倭訓栞「はちえふ、紋形ニ云ヘリ、蓮花ノ八葉ヲ畫クナリ」 (二)次條ノ語ノ略。大八葉。

はちえふ-の-くるま (名) [八葉車] (葉ニハ曜ニ通ズ。佛眼曼荼羅ハ七曜ニ、彗星ヲ加ヘテ八曜トシタリ」 牛車ノ一種。屋形ニ九曜ノ紋ヲ付ケタルモノ。(元ハ八曜ナリシト)其紋ノ大ナルハ大八葉ノ車ト云ヒ、大臣、公卿ノ使用スルモノ。小ナルハ小八葉の車ト云ヒ、四位、五位ノモノノ使用スルトゾ。[illegible]「八葉車、上下男女乘[illegible]用之」 平家物語、十一、一門大路渡「[illegible]小八葉の車ノ、前後ノスダレヲアゲ、左右ノ物見ヲヒラク」 增鏡、九、草枕「新院、十一月七日、御幸ハジメサセ給フ、云云、同廿日、布衣ノ御幸ハジメ、北白川殿ヘイラセ給フ、八葉の御車、萌木ノ御狩衣、云云、タテマツル」 [illegible]「八葉の車ハ、[illegible]ノ葉八ツアリ、常ヨリ大形ナルハ、大八葉ト云ヒ、小形ナルハ、小八葉ト云フ」

はちえふ-の-みね (名) [八葉峯] 富士山頂ノ噴穴ノ周圍ニ、突出シタル所、八ツアル故ニ云フ。又、芙蓉八朶トモ云フ。高野山ニモアリ、弘法大師、彼山ヲ開クニ當リ、金胎不二ノ曼荼羅ニ形ドリ、金剛界ニ約シテハ、金剛峯ト云ヒ、胎藏界ニ約シテハ八葉峯ト云ヘリ。おはちめぐり(御鉢料、第二語)ノ條ヲ見ヨ。謠曲、富士山「富士山ト申スハ、云云、頂上ハ八葉ニシテ、内ニ滿池ヲ湛ヘタリ」 同、高野物狂「[illegible]松風ハ、八葉の峯ヲ靜カニ吹キ渡リ」

はちえふ-の-れんげ (名) [八葉蓮華] 八瓣ノ蓮ノ花。又、密教ニテハ、胎藏界曼陀羅ノ中央ヲ中臺八葉院ト云フ。即チ、四方、八葉ノ蓮華ノ座ニハ、寶幢、開敷華王、無量壽、天鼓雷音ノ四佛ト、普賢、文殊、觀音、彌勒ノ四菩薩トマシマス。其中央ナルハ、大日如來ナリ。合ハセテ九尊トナス。大日經疏、四「先觀ニ此蓮ハ、令ニ其開敷ニ、爲ニ八葉白蓮華ニ」

はち-かい (名) [八愷八凱] (愷ハ善良ノ意。凱ハ愷ニ通ズ) 八人ノヨキ人。左傳、文公十八年「昔高陽氏有ニ才子八人ニ云云、齊聖廣淵、明允篤誠、天下之民謂ニ之八愷ニ」 史記、五帝紀「昔高陽氏有ニ才子八人ニ世得ニ其利ニ謂ニ之八愷ニ云云」

はぢ-かがや・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [恥赫] 赤面スル程ニ、深ク恥ヅ。源、四、夕顔「如何ナル事トモ聞キ知リタル様ナラネバ、サカナカはぢかがやかムヨリハ、罪赦サレテゾ見エケル」

はち-かせん (名) [八歌人] 又、はかせん。六歌仙(其條ヲ見ヨ)ニ、柿本人丸、山部赤人ヲ加ヘテ云フ稱。

ばち-かは (名) [撥革] 三味線ノ胴ノ、皮ノ上、撥ノ端ノ當ルベキ處ニ、別ニ小サク貼レル半圓形ノ革。小犬ノ皮ヲ製シテ用ヰル。

はぢ-がは・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 恥ヅカシクアリ。ハヅカシ。榮花物語、五、浦浦の別「世ニ心憂クイミジト思ヒシカド、有樣ハ、はぢがはしニヤアラム[illegible]」 [illegible]「五ニ影ヲ水鏡、面ヲ並ベ袖ヲカケ、云云、オトナシクはぢがはしく、五ニ今ハナリニケリ」

はぢ-かは・す・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) [恥交] 互ニ恥ヅ。ハヂアフ。[illegible]人ニナリニケレバ、男モ女モはぢかはしテアリケレド、男ハコノ女ヲコソ得メト思ヒ」

ばち-がひ (名) [場違] 略シテ、ばち。場所ノチガフコト。[illegible]ノ物ニ非ザルヲ云フ)

はぢ-がま・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [illegible] 恥ト見ユ。ハヅト思ハル。源、三十八、[illegible]ニアリアリテ、[illegible]はぢがましき事ヤアラム」

[illegible]「我ナガラモ、世ニハおかしくネタク[illegible]」 宇治拾遺、三、第十八條[illegible]

はちかん-ぢごく (名) [八寒地獄] 八大地獄[illegible]

はち-ぎゃく (名) [八虐八逆] [illegible]

はち-く (名) [淡竹] [illegible]竹、牛竹、ナド書ス。[illegible]ノ一種。節ニ白粉アリ、節ノ間、[illegible]リ短ク、大ナルハ、周リ、四五寸、高サ、二三丈ニ及ブ。[illegible]

はち-く (名) [破竹] 竹ヲ割ルコト。[illegible]

一決河漫竹ノ勢、勢、破竹ノ如シ」

はちくのいきほひ（ハチク-ノ-イキオイ） 句 [破竹勢] 破竹ノ如ク、餘ハ力ヲ勞セズシテ、激烈ニ進捗スル勢、抑ムルコト能ハザル勢。前條ヲモ見ヨ。 北史、周高祖紀「[illegible]以行、擊之必克、[illegible]破竹之勢、[illegible]其[illegible]」

はちぐわつ（ハチ-ガツ） (名) [八月] 年ノ第八ノ月。葉月（ハツキ）。壯月。南呂。仲秋。 書經、舜典「八月、西巡守、至于西嶽、如初」 白居易、聞夜砧「八月九月正長夜」

はちけん (名) [八間] (一)大キク平タキ懸行燈ノ名。臺所ナドノ梁ニ懸ケテ、廣ク照ラサシム。一名、八方（ハッパウ）。(二)天井ノ燈。(八角ナルガ元カ)

はちげん (名) [八元] 〔易經、乾卦「元者、善之長也」〕 八人ノオアル人。 左傳、文公十八年「高辛氏有才子八人、云云、忠肅共懿、宣慈惠和、天下之民謂之八元」 史記、五帝紀「高陽氏有才子八人、世謂之八元、云云、舜、擧八元、使布五教于四方」

はちげん (名) [發言] はつげん(發言)ノ訛。はちげんを放つトハ、大言壯語スルコト。 碁盤太平記(寶永、近松作)二「コノ老爺ガ手足ヲモイデ取ラバ取レ、渡スコトハカナハヌト、はちげん放ッテ宣ヘバ」

はちざ (名) [八座] 〔八人アリシ故ニ云フ〕 (一)古ヘ、參議ノ異稱。 職原抄、上「大同御宇、罷參議、置五畿七道觀察使、合八人、弘仁御宇、罷觀察使、皆爲參議、八人自此而始、依之有八座之號」 (二)賀茂ノ攝社ナル片岡、貴船、新宮、大田、若宮、奈良、澤田、氏神ノ八神ノ稱。

ハチざかな (名) [鉢肴] 配膳ノ語。燒肴（ヤキザカナ）ナドヲ、鉢ニ盛リテ出スモノ。 恆例公事錄、四十四、大嘗祭分配之儀「御內儀ヨリ、御獻奉行ヘ御鉢出サル、重肴、組、鉢肴、一ツ」

はぢさらし（ハジ-サラシ） (名) [恥曝] 恥ヲ廣ク世間ニ知ラスルコト。又、ソノ人。 平家女護島(享保、近松作)三「牛若ト云フ伜ガ生ヒ先、源氏一統ノ恥辱、恥さらし、サリナガラ、今宗淸ガ主デナケレバ構ハヌ事」

はちざゑもん（ハチ-ザ-エ-モン） (名) [八左衛門] 〔八分されるノ意ヲ、擬人シタルモノト云フ(森立之ノ說)〕 月經。ツキノサハリ。八兵衛(埼玉)。 物類稱呼、五、言語「月水、ツキノサハリ、云云、仙臺ニテ八左衛門ト云フ、ハヤリコトバナルベシ」 狂文棒歌撰「仙臺ニテハ、月經ヲ八左衛門ト云フト、諸國方言ニ見エタリ」

はちじ (名) [八時] とき(時)ノ條ヲ見ヨ。

はちじふ（ハチ-ジュウ） (數) [八十] 十ヲ八倍ニシタル數。ヤソ。ヤソヂ。 史記、貨殖傳「上不過八十、下不減三十、則農末俱利」

はちじふはちや（ハチ-ジュウ-ハチ-ヤ） (名) [八十八夜] 曆ニ、立春ヨリ八十八日目ニ當ル日ノ稱。春、霜ヲ置クコト、此節ヲ限リトシ、農家ニテハ、耕作ノ候トス。今、大抵、五月二日頃。 懷寶長曆便覽「八十八夜、立春ノ節ニ入ル日ヨリ後、八十八日目、是ナリ」

はちじふはっかしょ（ハチ-ジュウ-ハッ-カ-ショ） (名) [八十八箇所] 四國ニ於ケル眞言宗ノ八十八箇所ノ靈地。卽チ、阿波ニ廿三箇所、讚岐ニ廿三箇所、伊豫ニ廿六箇所、土佐ニ十六箇所アリ。世ニ、弘法大師ノ點示シタルモノト傳フ。 國華萬葉記、十四、上「四國遍禮八十八箇所之內、當國ニ有之廿六箇寺之次第」

はちじふまっしゃ（ハチ-ジュウ-マッ-シャ） (名) [八十末社] 伊勢內宮ニ屬スル八十ノ末社。 松の葉(元祿)三、さいもんの唄「ミモスソ川ノカゲ淸ク、外宮ハ四十末社、內宮ガ八十末社」

はぢしむ・むる・むれ・め・め・めよ（ハジ-シ-ム） (他動、下二) 〔令恥ノ轉〕 はづかしむ(辱)ニ同ジ。 凌辱 源、三十一、眞木柱「ミヅカラノ、ホケタルヒガヒガシト、ノタマヒはぢしむるハ、コトワリナル事ニナム」

はちしんでん（ハッ-シン-デン） (名) [八神殿] 八ツノ神ヲ祭リシ御殿。卽チ、御歲神（ミトシノ）、高御魂神（タカミムスビノ）、庭高日神（ニハタカヒノ）、大御食神（オホミケツ）、大宮女神、事代主神、阿須波神、波比伎神、コレナリ。

はぢしらず（ハジ-シラズ） (名) [恥不知] 恥ヲ恥ト感ゼザルコト。アツカマシキコト。又、ソノモノ。 鐵面皮 厚顏 無恥 鐵面 狂言記、貰聟「ナウ父樣、恥ぢしらずガ、尋ネテナトクル事ガゴザロ程ニ、此處ヘハ來ヌトオシャレイ」

はぢしらふ・ふ・へ・は・ひ・へ（ハジ-シラ-ウ） (自動、四) [恥] 互ニ相恥ヅ。ハヂラフ。又、恥シク思フ。 宇治大納言物語、下三「恥ぢしらひタルスガタ、イト、メヤスク、イトホシキ狀ナリ」 堤中納言物語、はいずみ「ウチ恥ぢしらひテ、例ノヤウニ物言ハデ、シメリタルヲ」 めのとの草紙「後宇多院ヨリ鞠ニヨリ、イロイロノ御サタメ候ヒシ、イナカ大名ハ、都ノコトヲホンニスルナリ、御はぢしらひ候ヘト御申スニヨリ、イロイロノ御コトワリ候」

はちす (名) [蓮芙蕖] 〔蜂窩ノ義。蓮房ノ形ヨリシテ名トス〕 (一)〔常ニ略シテ、はち。又、はす。又、つまなしぐさ。〕 草ノ名。池沼ニ生ズ。春、宿根ヨリ新葉ヲ出ス、初出ハ小サシ、錢葉（ゼニバ）ト云フ、次出ハ、稍大キクシテ、水面ニ浮ブ、水葉（ミツバ）ト云フ。次ニ、根ノ節ニ兩對シテ二莖ヲ生ズ。其一ハ、葉ニテ、立葉（タチバ）ト云フ、莖長ク水上ニ出ヅ、初ハ卷ケリ、卷葉（マキバ）ト云フ、葉開ケバ、形、圓クシテ、徑、尺餘ニ至ル。 荷 莖ハ、葉ノ背ノ中央ニツキテ、其中ニ、數細孔ヲ通ズ、折レバ絲アリ。 藕絲 其一ハ、花莖ナリ、花ノ形、大キク、千瓣ニシテ、中ニ黄蕊多シ、色ニ、紅ト白トアリ、炎天ニ開ク、甚ダ美ニシテ、香氣高シ。 芙蓉 菡萏 花房ハ、蜂ノ巢ヲ立テタルガ如ク、數穴アリ。 蓮 中ニ、數小ノ實ヲ結ブ、橢圓形ニシテ、仁、白シ、味、淡甘ナリ。 菂 根、長ク延ビテ、節アリ、中ニ數細孔ヲ通ズ、蓮根（レンコン）ト云ヒ、蔬トシ食フ。 藕 又、ぜにはす(錢蓮)、みづはちす(藕荷)、たちはちす(芰荷)ナドノ種類アリ。 倭名抄、十七、蓏類「蓮子、波知須乃美」 本草和名、下、卅九「蓮實、波知須乃美」 古事記、下(雄略)「日下江（クサカエ）ノ、入江ノ波知須、花蓮知須」 舒明紀、七年七月「是月、瑞蓮生於劒池、一莖二花」 萬葉集、十六、十九「勝間田ノ、池ハ我レ知ル、蓮（ハチス）ナシ、然言フ君ガ、鬚無キガゴト」 長秋詠藻、下「コノ道ノ、サトリガタキヲ、思フニモ、はちすヒラケバ、マヅ尋ネ見ヨ」 はちすの上トハ、蓮臺ノ上、又、極樂淨土ヲ云フ。 拾遺集、廿、哀傷「ケフヨリハ、露ノ命モ、ヲシカラジ、はちすのうへノ、玉ト契レバ」 はちすの法トハ、妙法蓮華經ノ意。 夫木抄、三十二、硯「イサギヨク、蓮の法ヲ、ウツシテゾ、鳩モ硯ノ、水ヲソヘケル」 拾玉集、一、釋敎十首「蓮葉ニ、法ニ反キシ、人ダニモ、遂ニ佛ニ、成ルトコソ聞ケ」 (二)きばちす(木蓮)ノ略。其條ヲ見ヨ。ムクゲ。

はちすけ (名) [八介] 武家ノ八人ノ介ノ稱。卽チ、千葉ノ介(下總)、上總ノ介(上總)、三浦ノ介(相模)、狩野ノ介(伊豆)、秋田城ノ介(出羽)、富樫ノ介(加賀)、井伊ノ介(遠江)、大內ノ介(周防)コレナリ。 貞丈雜記、四、官位「八介ト云事、出羽國ニ秋田城介、相模國ニ三浦介、下總國ニ千葉介、上總國ニ上總介、伊

豆國ニ狩野介、[illegible]國ニ富樫介、[illegible]國ニ大内介、遠江國ニ井伊介、是ヲ八介ト云、侍ノ面目トスル官也」

はちすのうてな（名）〔蓮臺〕 又、はすのうてな。極樂淨土ニ往生シタル者ノ、坐スベキ蓮華ノ座。レンザ。レンゼイ。レンゲザ。 夫木抄、三十四「[illegible]、はちすのうてな、イロイロニ、シミマサルナリ、絲竹ノ聲」 謠曲、采女「妙ナル法ヲ得ルナルモ、云云、浮ブ心ノ猿澤ノ、池ノ蓮ノ葉ニ坐セン、ヨクヨク弔ヒ給ヘトヨ」

はちすのはひ（名）〔蓮藕〕 「蓮ノ莖ノ義」 蓮ノ莖根ノ泥中ニアリテ白キモノ。レンコン。 倭名抄、廿「[illegible]」 奥儀抄、三「蓮ニハはひト云フ物アリ、人ノクフ物ナリ」 後撰集、十五、雜、一「はちす葉の、はひニゾ人ハ、思フラム、ヨニハコヒヂノ、中ニオヒツツ」

はちすば（名）〔荷葉蓮葉〕 ハスノハ。ハスバ。カエフ。 萬葉集、十六九「久堅ノ、雨モフラヌカ、蓮荷ニ、渟レル水ノ、玉ニ似ム見ム」 古今集、三、夏「はちすばノ、濁リニシマヌ、心モテ、何カハ露ヲ、玉トアザムク」 源順集「蓮葉モ、紅葉モシケル、水ノ面ニ、底マデ見ヨト、照ス月影」

はちだいか（名）〔八大家〕 支那ノ唐宋時代ノ著名ナル八人ノ文章家。即チ、唐ノ韓愈、柳宗元、宋ノ歐陽修、曾鞏、王安石、蘇洵、蘇軾、蘇轍コレナリ。

はちだいしふ（名）〔八代集〕 三代集、古今、後撰、拾遺ニ、後拾遺、金葉、詞花、千載、新古今ノ五部ノ歌集ヲ合ハセテ云フ稱。 ちよくせん[illegible]ノ條ヲモ見ヨ。 運[illegible]色葉集「八代集 古今、後撰、拾遺、後拾遺、金葉、詞花、千載、新古今」

はちだいぢごく（名）〔八大地獄〕 〔八寒地獄ニ對シテ、八熱地獄トモ云フ〕 佛教ノ語 八種ノ地獄。即チ、等活、黑繩、衆合、叫喚、大叫喚、炎熱、極熱、無間ノ稱。 大智度論、十六「活大地獄、黑繩大地獄、合會大地獄、叫喚大地獄、大叫喚大地獄、熱大地獄、大熱大地獄、阿鼻大地獄」 同、同「是等[illegible]八大地獄[illegible]各有十六小地獄」 太平記、七、千劍破城軍事「一人モ不殘燒死ニケリ、其有樣、偏ニ八大地獄ノ罪人ノ、刀山、劍樹ニツラヌカレ、猛火鐵湯ニ身ヲ焦スランモ、カクヤト思ヒ知ラレタリ」 賀古教信七墓廻（元祿、近松作）四、鉢たたき「時ニ六[illegible]シテ、往クモ來ルモ本地ノ娑婆、四土不二ヘダテモ七ハカハ、八大地獄トナルカミノ」

はちだいりゅうわう（名）〔八大龍王〕 佛教ノ語 八體ノ龍王。即チ、難陀、跋難陀、沙揭羅、和修吉、德叉迦、阿那婆達多、摩那斯、優鉢羅ノ稱。 又、八龍王。八大龍神。 法華經、序品「有八龍王、難陀龍王、跋難陀龍王、娑伽羅龍王、和修吉龍王、德叉迦龍王、阿那婆達多龍王、摩那斯龍王、優鉢羅龍王等、各與若干百千眷屬俱」 [illegible]記、十八、[illegible]「八大龍王トテ、法華經ノ同聞衆（序品ノコト）ニ有八龍王、難陀龍王、跋難陀龍王、娑伽羅龍王、和修吉龍王、德叉迦龍王、阿那婆達多龍王、摩那斯龍王、優鉢羅龍王等、各與若干百千眷屬俱ト說ケリ、云云」 金槐集、雜「時ニヨリ、過グレバ民ノ、[illegible]ナリ、八大龍王、雨ヤメ給ヘ」 謠曲、岩船「[illegible]ノ滿チ來ル浪ニ浮ンデ、八大龍王ハ海上ニ飛行シ」

はちだう（名）〔八道〕 七道（東海道、東山道、北陸道、山陰道、山陽道、南海道、西海道）ニ、北海道ヲ併セタル稱。

ハチたたき（名）〔鉢叩〕 [illegible]ヲ叩クハ、モト、托鉢ノ鉢ヲ、後ニ瓢ニ代ヘタルナリ」 [illegible]、はち、空也上人[illegible]竹ノ[illegible]コレブ[illegible]竹ノ[illegible]東ネナ[illegible]、コレニ[illegible]テ市中ヲ賣リ歩ク。瓢ヲ持チツヘテ叩ク、一人ハ[illegible]

[illegible]うやねんぶつきやう（空也念佛宗）ノ條ヲモ見ヨ。 和漢三才圖會、七十二、山城國、紫雲山[illegible]

はちぢく（名）〔八軸〕 法華經八卷ノ稱。 [illegible] 宇津保物語（一本）、國讓、中「[illegible]カカルモノヲ見ナラハザリケレバ、タダ八軸ヲトモダチニテゾ、コモリヰタメル」 出世景淸（貞享、近松作）二「妙法蓮華[illegible]心ノ行者、大慈大悲ノ光明ニアヅカリ奉ル」

はちぢん（名）〔八陣〕 [illegible] 孫子ノ八陣、吳起ノ八陣、孔明ノ八陣ナド[illegible]。長蛇、偃月、鋒矢、方向（又ハ方圓）、[illegible]、井[illegible]行ナド云ヒ、[illegible] 蜀志、諸葛亮傳「推演兵法、作八陣圖」 [illegible] 「[illegible]八陣ノ法、五ニ知リタル道ナレバ、其ニ不[illegible]」 [illegible] 「[illegible]ウニ和ゲナサレ」 [illegible]「[illegible]ノ八陣、[illegible]八陣、[illegible]」

はちぢやう（名）〔八丈〕 物ニ、八丈絹トモ[illegible] 其長サノ八丈アルガ故ノ名ナリトム カ。 美濃[illegible]絹トモ見エタリ。 今昔物語、廿六、第十八[illegible]一ツニハ八丈ノ絹十疋、[illegible]八丈十疋[illegible]

はちぢやう（名）〔八丈〕 〔[illegible]ニ、八丈ハ八郎ノ訛ニテ、八郎爲朝ノ名ヲ島名トセリト云ヘド、[illegible]〕 伊豆ノ八丈島ヨリ織リ出ス絹布。島人ハ丹後織ト云フ。古ヘハ山繭ヲ用ヰ、今ハ常ノ繭ナリ。黃絲ト樺色絲トノ縱橫ノ縞織ナルヲ、黃八丈ト云フ。黃色ノ染料ハ、[illegible]ヲ用ヰテ上トシ、[illegible]ノ皮ヲ次トス。樺色ナルハ、山桂ノ皮ナリ。[illegible]練絲ノ力ヲ失ハズトテ名アリ。又、黑八丈アリ、[illegible]推ノ皮ト[illegible]泥トヲ染料トス。黑八丈ノ[illegible]

[illegible]

はちぢやうがさ（名）[illegible]

はちぢやうのかは（名）[illegible]

はちぢやうきぬ（名）[illegible] 八丈アル故ノ名カ[illegible]

ヲ重スルヲ以テ、禮色ノ變ナシト。」吾妻鏡、二「寶治二年五月十九日、太神宮[illegible]物、八丈絹二疋、參河國奉納」同、十二、建久三年十二月廿日「相摸國吉田御[illegible]御年貢、云云、上品八丈絹六疋、代百廿文」[illegible]八丈絹ハ美濃、尾張ヲ始メ、諸國ノ御厨ヨリ太神宮ニ奉リシ絹）貞丈雜記、一、小袖「八丈絹、東鑑ニ見エタリ、宇治拾遺ニモ見エタリ、是ハ今ノ世、八丈島ヨリ出ル物ニハアルベカラズ、八丈島ハ伊豆ノ北條早雲入道ノ時、見出シテ渡海セシ也、古代ニハ聞エヌ島也、古書ニ、八丈絹ト云ハ、一疋ノ長サ八丈ヅツニ織タル絹ノ品有リシナルベシ」

はちぢやう-さう (名) [八丈草] あしたぐさ（明日草）ニ同ジ。 [illegible] はちぢやうさう、近江ノ方言ニテ、だいこんなヲ云フ」

はちぢやう-じま (名) [八丈島][八丈縞] （北條五代記「女ハ絹織事、日夜暇ナシ」）疋物ニテ端物ナラヌヲ知ル）、長サ八丈ノ絹ヲ織出ス、故ニ八丈島ト傳來スルカ」質強ク、其色變ゼズ、八丈ヲ一反トス。鯨差ニテ三丈二尺ナリ、幅ハ上絹ニテ、鯨差一尺一寸五分、紬ノ丈ハ前ニ同ジ。幅、鯨差一尺一寸ナリ。外ノニ比ブレバ、幅、廣ク、丈長シ。又、黄八丈縞ト云フアリ。はちぢやう（八丈）、及、はちぢやうぎぬ（八丈絹）ノ條ヲモ見ヨ。 北條五代記、五、八丈島渡海事「南海ハルカニヘダテ八丈島アリ、云云、女房絹ヲ織、北條家ヘ貢絹トテオサム」

ハチ-つけ (名) [鉢附] 次條ノ語ノ略。 義經記、四、住吉大物二箇所合戰事「扇腹ハはちつけニタツ、クビハカブトノハチニツレテ、海ニタブトゾ入リニケル」

ハチつけ-の-いた (名) [鉢附板] 兜ノ錏ノ第一枚目ノ板。ハチツケ。 承久記、下「[illegible]樣ニ鉢付の板ニ、シタタカニ射立タリ」

はちでう-りう (名) [八條流] 馬術ノ一派。八條修理亮房重（天正中ノ人）ヲ祖トシタルモノ。小笠原流ヨリ出ヅ。

はち-なん (名) [八難] (一)八ツノ災難。卽チ、飢、渴、寒、暑、水、火、刀、兵ノ稱 (二)佛經ノ語。佛ヲ見、正法ヲ聞クコトヲ得ザル八障難。卽チ、地獄ニ在ル難、餓鬼ニ在ル難、畜生ニ在ル難、北洲ニ在ル難、無想天ニ在ル難、生レテ佛前佛後ニ在ル難、世智辯聰難、盲聾瘖瘂ニ生ルル難、コレナリ。 淨土記「其國無三三惡八難」榮花物語、十八、玉臺「所ハコレ不退ナレバ、長ク三途、八難ノオソレヲ免レタリ、命ハ又無量ナレバ、遂ニ生老病死ノ苦ナシ」 傾城反魂香（寶永、近松作）三「熊野かけろふ姿「赤前垂レノ火焰ニ焦レ、三途八難ノ惡趣ニ墮ス」

はち-にんげい (名) [八人藝] 隱處ニアリテ、一人ニテ、數人ノ音聲、動作ヲナシテ聞カシムル戲藝。[家聲] 五雜組、十二「有下以二一人一而歌曲、擊二鼓、拍板、鐃鈸、合二五六器一者上、不二但手能擊一、足亦能擊」 好色一代女（貞享、西鶴）一「萬治年中ニ、駿河國安倍川ノ邊ヨリ、酒樂ト云ヘル座頭、江戸ニ下リテ、屋敷方ノ御慰ミニ、紙帳ノ中ニ入リテ、鳴物八人ノ役ヲヒトリシテ闕ヲ合セケル」浮世風呂（文化、三馬）初編、下「八人藝ト申シテ、一人デ八人ノ眞似ヲ致シマス」

はちにん-どうじ (名) [八人童子] （八人ハ火ノ字ヲ析キタル文字、童子ハ擬人シタル語）火中ト云ハムガ如キ語、丙丁童子 西陽雜俎、二、壺史篇「稻天師、名乾祐、云云、八人、乃火字也」 宗長手記、大永五年「古今集聞書五冊、云云、氏師ヘ參ラセオキ侍ル、云云、無用ノ物トモ思ヒ捨テタマハバ、八人童子ニ與ヘラルベカラムヤ」 梅園日記、五「今ノ人、他人ニ見セジト思フ書簡ニハ、火中ノ語ヲ書加フル事アリ、コレ古キ習ハシナリ、山密往來云、定參差僻言非一候哉、高覽之後、速可レ被レ投二火中一者也」

はちねつ-ぢごく (名) [八熱地獄] はちだいぢごく（八大地獄）ニ同ジ。

ハチ-の-き (名) [鉢木] (一)植木鉢ニ植ヱタル樹、盆樹。 謠曲、鉢木「我モ身ヲ捨人ノ爲ノ、鉢の木切ルトテモ、ヨシヤ惜シカラジ」(二)謠曲ノ名、佐野源左衞門、寒夜ニ鉢木ヲ焚キテ一宿ノ行脚僧（北條時賴）ヲモテナシタル事ヲツクル。

ハチのき-おび (名) [鉢木帶] 黑ノ帶地ニ、處處ニ梅、松、櫻ノ模樣ヲ織リ出シタル帶。謠曲ノ鉢木ニ據レル名ナリ。 [illegible]獨吟、女帶「黑地ニ梅櫻松ヲ處處ニ織付テ、是ヲ鉢の木帶ト名付テ、珍重シケリ」

はち-の-じ (名) [八字] (一)八ノ字。又、ソノ形。「額ニ皺ヲ八の字ニヨセル」(二)眉ノコト。（八ノ字ニ似テヰル故ニ） 川柳 吉原志「八の字デ、出ル春日野ガ、仲ノ町」

はち-の-す (名) [蜂巢] (一)蜂ノ造リタル巢。中ニ子ヲ生ミテ育ツ。蜂窩 易林節用集（慶長）上、氣形門「露蜂房、ハチノス、山蜂之巢」 枕草子、八、八十三段「はちのすノオホキニテ、附キ集リタルナド、イト恐ロシ」 吾吟我集（慶安）八「蜂の巢ヲ、オホクカケヌル、故ニコソ、熊野ヲミツノ、山ト云フラメ」(二)蓮根ノ異名。

はち-はいどうふ (名) [八盃豆腐] 水四盃、醬油二盃、酒二盃ノ割合ニテ煮タル汁ヲ以テ、細ソク饂飩ノ如ク切リタル豆腐ヲ煮タルモノ。又、ソノ豆腐。古クハ、ウドンドウフ。

ハチ-ばうず (名) [鉢坊主] (一)托鉢シテ物ヲ乞ヒ歩ク坊主。ハッチ、バウズ。ハッチバウ。 假名手本忠臣藏（寛延、竹田出雲等）七「鉢坊主ノ報謝米貰取ッテ居テ、命ヲ捨テ敵討セフトハ」(二)素行ノヨカラヌ僧ヲ罵リテ云フ語。墮落坊主。生臭坊主。

はち-はち (名) [八八] 博奕ノ一種。花札合ニテ、勝負ヲ決スル基本ノ點數ヲ、八十八點ト定メタルモノ。

はぢ-はぢ (副) モノニ畏レテ、ブルブル、フルフ狀ニ云フ語。ブルブル、戰戰。 堀川波鼓（寶永、近松作）上「十藥ヲチョット一服願ミマス、云云、身ノ毛モ立ッテ怖ロシク、はぢはぢシテ居タリシガ」

ぱち-ぱち (副) (一)物ノ熱シテ、ハゼトブ狀、又、豆ヲ炒リテ、ハジクル狀ニ云フ語。 一茶句集「朝晴レニ、ぱちぱち炭ノ、機嫌哉」(二)目パタキスル狀ニ云フ語。(三)竹ノ節ノ燒クル音ニ云フ語。(四)圍碁ニテ、石ヲ置ク音ニ云フ語。(五)手ヲ拍チ合ハスル音ニ云フ語。拍手ノ音。

はちはち-かんたい (名) [八八艦隊] 海軍ノ主戰艦隊ノ稱。卽チ、超弩級戰鬪艦八隻ト、巡洋戰艦八隻トヲ以テ主力トシ、之ニ適應スル艦船ヲ附屬セシメテ、編制セル艦隊ノ稱。

はち-ばん (名) [八蠻] （八ハ多數ノ義、百蠻ニ同ジ）支那南方ノ八種ノエビス。卽チ、天竺、咳首、僬僥、跂踵、穿胸、儋耳、狗軹、旁春ナドノ稱。（爾雅、疏）外夷。 周禮、夏官篇、職方氏「掌二天下之圖一、以掌二天下之地一、辨二其邦國都鄙四夷八蠻七閩九貉五戎六狄之人民與二其財用一」 曹唐、送二康大夫南領二容州一詩「觀從二新使一定二八蠻一」 太平記、十四、諸國朝敵蜂起事「四夷八蠻起リ合ッテ、急ヲ告グル事隙ナカリケレバ」 嫗山姥（正德、近松作）四「賴光カ家ノ四天王、四夷八蠻ヲ切靡ケ、源氏ノ威光、四海ニ照サン」

はち-はら・ふ ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）[蜂拂] （蜂ノ、面、近ク飛ビ來タル時、恐レテ拂

フヨリ出ヅ」物ヲ聞キ入レズ、一向ニ云ヒ退クル。

ばちびん (名) [撥鬢] 寛永頃ニ流行セシ男ノ髪ノ結方ノ一。鬢ノ毛ヲ三味線ノ撥ノ先ノ如キ形ニ剃リツケタルモノ。我衣(文化)「淨瑠璃太夫江戸半太夫、ばちびん、剃毛長、タテカケト云フ、中ゾリ有、寶永中」

はちぶ (名) [八部] 次次條ノ語ノ略。釋迦如來誕生會(元祿、近松作)五「御法ノ聲、三乘、五乘、七方便、四種、八部、廿五有、アマネク利益ノ甘露ヲナメ、云云、ネハンニ入ラセ給フベシト」

はちぶ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [放ち息吹くノ義] ウソブク。源、三十四、下、若菜、下五十八「女三宮、侍從、ナニシニ參リツラムトはちぶく」仙源抄「はちぶくハ、蹙眼、蜂吹、蹙眼ハハラダツナリ」 守武獨吟「辨慶ヤ、蜂ノアリトモ、知ラザラム、ウソヲモふかズ、ケナゲナルコロ」 林葉集(俊惠)山家「捨ツル身ハ、虎モ畏レヌ、奧山ニ、ナホ世ノ憂サハ、はちぶかレッツ」源、十八、松風四「憎キ顏ヲハナレテ、鼻ナド打アカメッツはちぶき言ヘバ」(言フマジキ事ヲモ、泣キナガラ放チ云フ)

はちぶ-しゅう (名) [八部衆] 佛教ノ語。八ツノ部衆。卽チ、天、龍、夜叉(鬼神)、乾闥婆(樂神)、阿修羅(戰神)、迦樓羅(金翅鳥)、緊那羅(歌神)、摩睺羅迦(地龍)ノ稱。略シテ、八部。

はちぶ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 人ヲ忌ミ嫌フ。擯斥ス。「人ヲはちぶス」

はちぶんめ (名) [八分目] (一)十分ノ八。(二)モノヲ控ヘ目ニスルコト。

はちへいし (名) [八平氏] 桓武平氏ノ八末流ノ稱。卽チ、千葉、上總、畠山、三浦、河越、江戶、鎌倉、大庭コレナリ。他ニ種種ノ記錄アリ。

はちべゑい (名) [八兵衛] (倹約女ガ押賣リ口上トシテ、客ニ對シ、四(爲)べいトいトニ云フニ起レリト) 賣淫婦。異名。安房、下總。男子の賣淫、下[illegible]の富屋にて主人が客に「八兵衞サンヲ召サルベクヤ」川柳「名ヲ聞ケバ、八兵衞ト云フ、女郎ナリ」

はちぼ (名) [八墓] 古へ、天子ノ外戚ノ御祖父母ナドノ八箇所ノ墓。又、近墓ト云フ。淸和天皇ノ御宇、藤原鎌足ノ多武峰墓、同冬嗣ノ宇治墓、同妻ノ宇治墓、外祖母源氏ノ愛宕墓ノ四墓ヲ、近墓ト定メ、次デ外祖父良房ノ後愛宕墓ヲ加フ。コレヲ五墓トス。其後、再度ノ加除アリテ、醍醐天皇ノ御宇ニ至リ、多武峰墓、光孝天皇ノ外祖總繼ノ拜志墓、同妻ノ八坂墓、宇多天皇ノ外祖仲野親王ノ高畠墓、同妃ノ河島墓、藤原基經ノ後宇治墓、外祖高藤ノ小野墓、同妻ノ後小野墓ヲ以テ、八墓トス。歷世、親疎ニ依リテ、加除一ナラザレド、鎌足墓ハ除カレズ。十陵ト同ジク、何レモ年ノ終リニハ、荷前ノ使ヲ差遣セラレタリ。故事摘要、八「八墓」字類抄「多武峰、愛宕墓、[illegible]、後[illegible]野、宇治、小野、後小野、後宇治、謂二之八墓一」「十陵八墓」

はちぼく (名) [八木] (離合迷字ニテ、米ノ字ヲ二ツニ分析シタルモノ。梅ヲ木母ニナス類) ヤギ。米ノ異稱。[illegible] (清、[illegible]「今[illegible]米[illegible]八木、[illegible]草木中人[illegible]用集[illegible]上、表食門「八木、米也」[illegible]小石[illegible]ノ頃ニ[illegible]、伊[illegible]出二八木百石解文二東大寺[illegible]六年[illegible]月十二日[illegible]以二八木一萬石・[illegible]二八木借石」

ハチ・まき (名) [鉢卷] (一)頭ノ[illegible]、布ナドニテ卷クコト。又、ソノ布。抹額 帕額 又、布ヲ[illegible]、鉢[illegible]卷ト云ヒ、鉢卷ノ後ニテ結ブヲ後鉢卷ト云フ。又、向鉢卷アリ、額ニテ結[illegible]、男タル風ヲナス。[illegible]忠)「鉢卷ノ事、布タルベシ、色ハ白ヲ本トスルナリ、廣サ長サ不定、但赤毛黑毛スルナリ」[illegible]八、鎧崎城合戰之事、[illegible]、其日ノ裝束ニハ、鎧鉢卷ヲ[illegible]トシテ、[illegible]ノ上ヘ[illegible]武(享保、近松作)[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]管、[illegible]、尻[illegible]」(二)[illegible]ノ[illegible]ト[illegible]ノト廻リニ、一段厚ク土ヲ塗レル處。

ハチ・まへ (名) [鉢前] 廁ノ傍ニ、手水鉢ヲ置ク處。樹、石ナドヲ點綴ス。

はちまん (副) [八幡] (八幡神ニ誓誓ヲ祈ル意) ゆみやはちまん(弓矢八幡)ノ條ヲ見ヨ。はちまんかけて。[illegible](正德、熊澤正興)二、[illegible]、江州[illegible]ノ戰ニ、中川[illegible]アリ、[illegible]アリト、[illegible]ト[illegible]、合[illegible]八[illegible]、タルゾト、[illegible]リアリ、[illegible]、[illegible]松作)上「其ノ手ヲ取ッテジット締メ、ドウモ云ハレヌ[illegible]シイ心、八幡、我等モ心底變ラズ」

はちまん・かけて (副) [八幡掛] 略シテ、はちまん。前條ノ語ニ同ジ。

はちまん・ぐう・の・おん・はは・ご (名) [八幡宮御母御] [illegible]ノ[illegible]ヤカマシキ老婆ヲ、[illegible]云フ。傾城法師物見車(寶永、近松作)上「[illegible]レトハサレナガラノ、八幡宮ノ[illegible]ノ、[illegible]

はちまん・ざ (名) [八幡座] [illegible]ノ宿ル所ト見ルル([illegible]カ)一名[illegible]兜ノ鉢ノ頂中ニアル孔[illegible]鉢ノ[illegible]リ、八幡座、天空、息抜穴、イキハラヒ、息出孔」[illegible]

[illegible]間、三[illegible]、八幡座ト云[illegible]心八[illegible]クラミナシ、天ノ[illegible]、[illegible]

はちまん・だいじん (名) [八幡大神] (八白幡四流ト赤幡四流ト、天ヨリ筥崎ノ地ニ[illegible]) [illegible]功皇后、姬大神ノ三柱ヲ祀ル神宮。初、對馬ニ齋キマツリシヲ、宇佐ニ遷シマツリ[illegible]敎、宇佐ノ神ヲ山城ノ男山ノ峯ニ遷シ祀リシガ、コレ石淸水八幡[illegible]スナリ。やはたのおほがみ。[illegible]國宇佐郡八幡大菩薩、宇佐宮[illegible]天平勝寶元年十一月「八幡大神[illegible]」[illegible]

はちまん・ダラ (名) [八幡[illegible]] [illegible]ク、クリカヘシ、クリカヘシ[illegible]「佛[illegible]八[illegible]法門[illegible]はちまんだら[illegible]

はちまん・づくり (名) [八幡造] ながれづくり(流造)ノ條ヲ見ヨ。

はちまん・ばこ (名) [八幡筥] (筥ヲ八幡宮ノ使トシテ云フ) おほかけばこ[illegible]珠掛筥)ニ同ジ。

はちまん・ぶね (名) [八幡船] [illegible]

□邊ノ浦浦ヘユキテ、人民ヲオビヤカシ、カスメテ財寶ヲ獲ルヲ、諸人コトゴトク恐レテ、ソノ備ヲナシタルトナリ、骨節ニ八幡ト書タル旗ヲ立テ行シ故、八幡船ト云フ」

はちみつ (名) [蜂蜜] 古ク、みち、今、又、シロミツ。蜜蜂ノ巣ヨリ取レル蜜。食用、藥用トス。卽チ、眞ノ蜜ナリ。(氷蜜、砂糖蜜ニ對シテ云フ) 蜜蜂、百花ノ蘂、又ハ、樹脂ノ蠟分アルヲ集メ、其巢ノ中ニ、一種ノ液ヲ釀シテ食用トス。白色白ク膏ノ如キヲ上品ナリトス。白蜜黃ヲ帶ビタルモアリ。山中、木石ノ間ニ自釀スルヲ、やまみつ(山蜜 石蜜)ト云フ。上品ナレドモ少シ。常ニハ、人家ニ、匣、又ハ、桶ヲ設ケテ、巢トシテ釀サシム。コレヲ、かひみつ、又、いへみつ(家蜜)ト云フ。春ノ彼岸ヨリ、冬ノ初マデナリ、餘ハ巢中ニ蟄ス。(みつばちノ條ヲ併ハセ見ヨ) 大同類聚方(大同、安部眞直等撰)五十二、和漢三才圖會、五十二、「蜜蠟(和名、美知、波知乃阿末)」 本草綱目、蟲部「蜜(生凉熟溫)不冷不燥、得中和之氣、故十二臟腑之病、罔不宜之、但不可多食、蜂采無毒之花、釀以小便而成蜜」

ぱちん (名) 又、ばちんどめ。女ノ帶止ノ兩端ニツクル金具ノ名。其形、種種ナリシガ、明治ノ初年、廢刀ノ令出デシヨリ、目貫ヲ利用シテ、裏ニ尖ヲツケ、他ノ端ニ座ヲツケ、穴ヲ設ケ、尖ト食合ハス。其時、はちんト音ス。故ニ、名トセシモノナリ。今、又、種種ニ作ラル。

ぱちん (感) 堅キ物ヲ閉メ合ハスルニ發スル音ニ云フ語。

ぱちん-どめ (名) 前前條ノ語ニ同ジ。

はぢん-らく (名) [破陣樂] 舞樂ノ一。唐ノ太宗、秦王トナリ、劉武周ノ軍ヲ破リテ、後、作リシモノト云フ。一名、太平樂。志んわうはぢんらく(秦王破陣樂)ノ條ヲモ見ヨ。本領曾我(寶永、近松作)三「秦王、武周ヲ討ツテ、破陣樂ヲ作リ、國、七德ニ化セシトカヤ」

はち-めん (名) [八面] 四方四隅ノ稱。八方ニアラユル方面。馬熙、開ㇾ窗看ㇾ雨詩「洞房綃ㇾ薪屋繩ㇾ荷、八面玲瓏得ㇾ月多」 白居易詩「雙聲聯律句、八面數宮𣵀」 畫鑒(宋、湯垕)「吳道子筆法超妙、爲ニ百代畫聖一、人物有ニ八面一、生意活動、方員平正、高下曲直、折算停分、莫ㇾ不ㇾ如ㇾ意」

〜ばち-めん (名) [撥面] 琵琶ノ胴ノ、撥ノ當ル所ニテ、革ヲ貼リタル處。倭名抄、四、樂器類「琵琶撥、撥面者、當ㇾ於ㇾ用ㇾ撥處ニ、以ㇾ革爲ㇾ之」 易林節用集(慶長)上、器財門「反首、撥面、二共在ニ琵琶ニ」 著聞集、十一、畫圖「玄象ノ撥面ノ繪ハ、消エテ久シクナリタレバ、知レル人ナシ」

ハチ-もの (名) [鉢物] (一) 鉢ニ盛リタル食物。(二) 鉢ニ植エタル草木ノ類。

はち-もんじ (名) [八文字] (一) 八ト云フ文字ノ如キ形。太平記、九、越後守仲時以下於ニ番馬一自害事「刀ヲ取リ、腹八文字ニカキ破リ」「門ヲ八文字ニ開ク」 (二) 遊女ガ揚屋入ノ道中ニ、歩行ノ仕形ニ云フ語。黑漆塗ノ駒下駄ノ高キヲ穿キ、爪先ヲ内へ曲ゲテ歩ムヲ内八文字ト云ヒ、外へ曲ゲテ歩ムヲ外八文字ト云フ。だうちゅう(道中)ノ條ヲモ見ヨ。 當世遊筆(入江獅子童撰)上「今遊女ノ歩ムヲ、八文字ヲ踏ミナナド云フモ、土佐日記ニ一文字ヲダニ知ラヌモノモ、足ハ十モジニ踏ミテゾ遊ブトアリ、是等ヲ思ヘバ興アルニヤ」 川柳吉原志「春日野ハ、道中ホンノ、八文字」 長唄、松の緣「松ノ位ノ外八文字、ハデヲ見セタル蹴出シ褄」

はちもんじ-や-ぼん (名) [八文字屋本] 元祿、享保ノ頃、京都麩屋町在住ノ草紙屋ニテ、八文字屋八左衞門(自笑、延享二年十一月十一日歿、八十八歲)ノ著述發賣シタル木。浮世草紙ヲ多ク刊行セシヨリ、又、其一稱トモナレリ。京攝戲作者考、八文字舍自笑「自笑、云云、西鶴ニ嗣イデ戲作ノ名人ニテ、數百部ノ雙紙ヲ作ル、云云、當世ノ人情ヲ穿チテ、俗人ノ頤ヲ解ケシメシヨリ、今ノ世ニ至ルマデ、八文字や本トテ、一種ノ體裁アリテ、人口ニ膾炙セリ」 俚言集覽「八文字屋自笑、京師麩屋町ノ書肆ナリ、近ゴロ四代ニテ京ヲ去リ、大坂安堂寺町ニ住ス、草子モノ八文字屋本トテ、今モ名高シ」

は-ぢゃ (名) [葉茶] 茶ノ若葉ヲ摘ミ取リテ、蒸シ製シタルモノ。(茶樹、茶湯ト言ヒ分クル語) 「葉茶壺」葉茶屋」

はちや-がき (名) [蜂屋柿] 美濃國、加茂郡、蜂屋村ニ產ズル一種ノ柿。澁柿ニシテ、實ノ形長シ。つるしがきトシテ絕品トス。倭訓栞「蜂屋ハ美濃ノ地名、獺朝ノ語ニ、後白河帝ノ約ニ、蜂屋莊ハ地頭職ヲ補スル事ヲ得ズトミユ、名產ノ柿モ今ニ盛也」

はぢゃ-や (名) [葉茶屋] (茶店ト分ツ語) 葉茶ヲ賣ル家。又、ソノ人。

は-ちゅう (名) [爬蟲] (爬ヒ行ク蟲ノ意) 皮ニ一種ノ甲鱗アリテ、腹這ヒ行ク動物。蛇、龜、蜥蜴、鰐、ナドノ類ナリ。

〜はぢら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [羞澁] (はづるノ延、ねぎらふ、ためらふノ類) 恥ヅル氣色ヲナス。ハヅカシガル。ハニカム。源、十八、松風「幼キ心地ニ、少シはぢらひタリシガ、ヤウヤウ打解ケテ、物言ヒ笑ヒナドシテムツレ給フヲ」 榮花物語、十三、木綿四手「一ノ宮ハト聞エサセ給ヘバ、オハシマシテ、ウチはぢらひテオハシマセバ、コノ宮モ皆恥ヂケルモノヲトテ」

ぱちり (名) ぱっちりノ條ヲ見ヨ。

⁂はちり-はん (名) [八里半] (味ノ栗(九里)ニ、少シ劣ルノ判ジモノ) 甘藷ノ異名。又、十三里。 浮世床(文化、式亭三馬)初、中「アンナニ焼クナラ、大福餅デモ賣ラセレバイイ、流行ノ八里半カイイノサ」

はち-りゅう (名) [蜂龍] 酒七合ヲ受クル盃ノ、蜂ト、龍ト、蟹トヲ畫キタルモノ。させ、のまう、はさむ(肴ナリ)ノ意ナリト云フ。江戶名所圖會、二、天賞「蜂龍盃、大師河原村池上氏ノ家ニ藏セリ、往古、慶安年間、此地ニ於テ酒戰アリシ時、用ヒタリシ盃ニシテ、酒七合餘リヲウクルト云、盃中、蜂ト、龍ト、蟹トノ象ヲ描金ニセリ」

⁂は・ぢる (動) [恥] はづ(恥)ノ口語

バチルス (名) [英語、Bacillus.] (一) 細菌ノ一種。稍、長キ棒狀ニシテ、腸窒扶斯、結核等ノ病原トナルモノ。(二) 轉ジテ、他ノ物ニ寄生シテ、害ヲナスモノヲモ云フ。

はち-わうじ (名) [八王子] (一) 素戔鳴尊ノ五男三女ヲ合ハセ祀ル神ノ稱。(二) 產出地ヲ冠セル柿ノ名。ふでがき(筆柿)ニ同ジ。 嵯峨天皇甘露雨(正德、近松作)三「柿ハ木醂、八王子、初霜甞ク置キソメテ」

はち-ゐ (名) [八位] くらゐ(位)ノ條ヲ見ヨ。

はつ (名) まぐろ(鮪)ヲ云フ。又、はつのみ。(上方)

は・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (自動、下二) [果] [端ヲ活用ス] (一) [極ニ至ル。ヲハル。キハマル。盡ク。ハテル。 萬葉集、十八「昨日コソ、年ハ極シカ、春霞、春日ノ山ニ、速立チニケリ」 源、五十一、蜻蛉「イトハカナクテ煙ハはてヌ」 續千載集、十六、雜、上「風ハヤミ、秋はてガタノ、葛ノ

葉ノ、ウラミツツノミ、世ヲモフルカナ」「年果つ」行キ果つ　暮レ果つ」「行キ果つ一」(二)死ス。[死] 源、十九、薄雲「燈火ナドノ消入ルヤウニテ、はて給ヒヌレバ」　新古今集、八、哀傷、母ノ身マカリケルヲ、サガノホトリニヲサメ侍リケル夜ヨミケル、今ハサハ、ウキ世ノサガノ、野ベヲコソ、露キエはてシ、跡トシノバメ」

はつ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(自動、下二)　[泊]　〔行キ果つる意カト云フ〕　行キ着キテ泊ル。到リ着ク。(船ニ)ハテ。　萬葉集、六四〒長歌「八千桙ノ、神ノ御世ヨリ、百船ノ、泊(ハツルトマリ)停ト、八島國、百船人ノ」　同、十五卅六「百船ノ、波都流對馬ノ、淺茅山、シグレノ雨ニ、モミダヒニケリ」　同、六四〒「濱清ミ、浦ウルハシミ、神世ヨリ、千船ノ泊(ハチテ)ツ、オホワタノ濱」　允恭紀、四十二年正月「是泊ニ對馬ニ而大哭、到ニ筑紫ニ亦大哭」　萬葉集、十九六二長歌「遣唐ギ渡店ム、泊リ泊リニ、荒キ風、波ニアハセズ」　同、十五卅三「多良思比賣、御船波豆ケム、松浦ノ海、イモガ待ツベキ、月ハヘニツツ」　同、二十二「カカラムト、豫ネテ知リセバ、大御船、泊(ハテ)シトマリニ、標結(シメユ)ハマシヲ」

はッ (感)　(一)急ニ思ヒツキタル時ナドニ、發スル聲。　狂言記、富士松「案内ハ誰ソ、はッ、罷様デゴザリマス」(二)家來、下部ナドガ、主君ノ言ヲ承ハル時ノ聲。　狂言記、烏帽子折「サアサア結ヘ、はッ、結ヒマシテゴザル」

はつ (接頭)　[初]　〔端之(ハツ)ノ義カ、又、上之(ウハツ)ノ略カ〕　初(ハジメ)ノ。新ラシキ。　萬葉集、四六二「初花ノ、散ルベキ物ヲ、人事ノ、繁キニヨリテ、ヨドムコロカモ」　同、十九廿長歌「心ナグサニ、ホトトギス、喧ク始(ハツコヱ)音ヲ、タチバナノ、タマニアヘ貫キ」

はづ (名)　[巴豆]　〔巴蜀ノ地ニ産ジテ、形、豆ノ如クナレバ云フ〕　植物ノ實、廣東ス、畿内ニ二三子アリ、豆ニ似テ長シ。仁ヲ薬用トシ、又、油ヲ採ル。其木、[illegible]灌木ニシテ、高サ丈餘ニ達シ、葉ハ卵形ニシテ、葛ノ葉ニ似タリト云フ。　名義抄「巴豆、ハヅ」

はづ・ヅル・ヅレ・ヂ・ヂ・ヂヨ(自動、上二)　[恥][羞][慚愧]　心ニ過失(アヤマチ)ナルヲ知リテ、人ノ知ルヲ畏ル。譽レヲ汚シ、面目ヲ失フト思フ。オモブセナリ。ハヂル。　最勝王經音註「恥、八徒」名義抄「恥、ハヅ」慚、ハヅ」愧、ハヅ」辱、ハヅ、ハヂ」　天治字鏡、一四「羞(羞カ)、波豆」枕草子、三、廿八段「カウカタラフトナラバ、何カはづる、見エナドモセヨカシ」　[illegible]花物語、十一、[illegible]「カタ思ヒヲはづる[illegible]」　[illegible]四「コノ宮モ、ミナはおケルモノヲトテ、[illegible]ヲオミヌグハセ給フモ」

ばつ (名)　[罰]　(一)罪ヲ責メテ懲スコト。仕置(シオキ)。　書經、大禹謨「罰弗及嗣」(二)ツミ。トガ。又、ばち(罰)ニ同ジ。

ばつ (名)　[跋]　〔書海「足後曰跋」故書ニ文字後ニ曰レ跋ヒ〕　書物ノ末ニ記シ添フル文。[illegible]ガキ。跋文。　文體明辯[illegible]「[illegible]之後[illegible]也」

ばつ (名)　[閥]　(一)イヘガラ。家格。門地。　唐書[illegible]「[illegible]」(二)功績ヲ明カニスル文書[illegible]。　史記、功臣年表「人臣功有ニ五品ニ[illegible]其等ニ曰閥」(三)同ジ系統、又ハ、出身ナドノモノガ、相團結シテ、一勢力ヲ形成スルモノ。「學閥」「財閥」「藩閥」

ばつ (名)　[illegible]場合(バ・ガフ)ノ[illegible]。其場ノ都合ヲ[illegible]コト。又、工合。調子。「ばつガワルイ」「ばつヲアハセル」

ばづ (名)　[馬爪]　ウマノツメ。[illegible]鼈甲(ベッカフ)ナドニ僞セ作ルニ云フ)べっかふ(鼈甲)ノ條ヲモ見ヨ。

はつあき (名)　[初秋]　秋ノハジメ。[illegible]

ル風ノ、涼シキハ、今日初秋ト、告グルナルベシ」　松の落葉、わらいべ「[illegible]」

はつあん (名)　[發案]　考案ヲ出スコト。又、考案ヲ立ツルコト。[illegible]出スコト。

はつい (名)　[發意]　ほつい(發意)ニ同ジ。　[illegible]

はついく (名)　[發育]　ソダチユクコト。又、ソダツルコト。成長。育成。　中[illegible]廿七章[illegible]

はついつ (名)　[八佾]　〔佾ハ舞フトキノ列ヲ云フ〕　又、はちいち。昔、支那ニテ、天子ノ舞ヲ云フ。一佾毎ニ八人ナレバ、八佾ハ六十四人、並ビ立チテ舞フ。[illegible]天子八佾、八八、六十四人、八音集、八風、所以[illegible]化天下[illegible]是可忍也、孰不可忍也」

はついん (名)　[發音]　はつおん(發音)ニ同ジ。

はついん (名)　[發引]　イデタツコト。シュッタツ。葬式ニテ、棺ノ家ノ門ヨリ引キ出スコト。[illegible]

はつう (名)　[初卯]　一月ノ初ノ卯ノ日。[illegible]東京ニテハ、[illegible]。又、二の卯、三の卯、ナドノ稱モアリ。[illegible]

はつうま (名)　[初午]　二月ノ初ノ午ノ日。[illegible]

の午[illegible]

はつ[illegible] (名)　[illegible]　初メテノ[illegible]。ハツゴ。ハツマゴ。ウヒマゴ。　名[illegible]「[illegible]、ハツムマゴ、ハツコ」[illegible]

はつえ (名)　[illegible]　ハテノエダ。又、ホツエ。上枝。

はつえつ (名)　[閥閲]　〔後漢書、章帝紀、註「明其等曰閥、積其功曰閲」〕[illegible]

ばつえふ (名)　[末葉]　又、まつえふ。(一)[illegible]　(二)末世。末代。[illegible]

はつうり (名)　[初賣]　初メテ賣リ出スコト。ハツアキナヒ。

はつおん (名)　[發音]　(一)音ヲ出スコト。ハツイン。(二)[illegible]ソノヒビキノ出シカタ。

はつか (名)　[二十日]　(一)二十日ノ[illegible]

(一)月ノ第二十ニ當ル日。千載集、十九、「待チ出デテ、イカニウレシク、思フラム、二十日アマリノ、山ノ端ノ月」 (二)日數、二十。土佐日記、正月廿日「苦シク心モトナケレバ、日ノ經ヌル數ヲ、今日イクカ、はつか、三十日ト數フレバ、オヨビモソコナハレヌベシ」詞花集、一、春、「咲シキヨリ、散リ果ツルマデ、見シ程ニ、花ノモトニテ、二十日ヘニケリ」

はっか (名) [薄荷] はくか(薄荷)ノ連聲。

はつが (名) [發芽] メグムコト。メザスコト。東京夢華錄(宋、孟元老)「單將軍廟、乃單雄信墓也、上有棗樹、世傳、乃棗搠發芽、生長成樹、謂之棗冢子」宋、尤袤詩「雷中漸能蟄、蟄藏虫發芽」

はつが (名) [發駕] 駕籠ニ乗リテ出デ立ツコト。轉ジテ、貴人ノ出立。洪希文詩「九天曉蹕、侍衛仙衣發、駕朝天闕」

はっかう (名) [發向] タチムカフコト。イデムクコト。舊唐書、高宗紀「麟德二年正月甲子、以發向太山、停選」盛衰記、八、法皇三位灌頂事「永ク三位ノ御寺ヲ停止セラレズバ、彼ノ寺ニ發向シテ、佛閣僧坊一宇モ殘サズ燒キ拂フベキノ由、騷動ス」北條五代記、一、上杉朝成生捕事「顯朝公、奧州へはっかうノ事ヲカタル所ニ」

はっかう (名) [發行] (一)書物ヲ印刷シテ、世ニ弘メ出スコト。出版。發刊。(二)書物ヲ、賣リ出スコト。發賣。發刊。(三)ハヤルコト。世ニ行ハルルコト。流行。

はっかう (名) [醱酵] 酵母ト云フ微生物ノ、有機的接觸作用ニヨリテ起ル化學變化ノ稱。酒ヲ釀スニ、酒母ノ泡ヲ盛リ上グルノ類。

はっかく (名) [發覺] 隱事ノアラハルルコト。露顯。史記、高祖紀「九年趙相貫高等、事發覺、夷三族」梁簡文帝、八關齋制序「維那不勤聽察、有犯制者、不卽糺擧、爲衆坐者覺、維那罰禮二十拜」

はっかく (名) [八角] 八箇ノ角アル形。宋史、禮志「社首壇八角三成」李白詩「八角[illegible]虹」徐賁詩「八角紅亭蔭綠池」

ばつがく (名) [末學] 後進ノ學生。陳書、儒林、沈不害傳「臣末學小生、詞無足算」張衡、東京賦「若客所謂末學膚受、貴耳而賤目者也」王維詩「童年且未學、肉食鶩華軒」

はつかぐさ (名) [二十日草] (白樂天、新樂府、牡丹芳「花開花落二十日、一城之人皆若狂」) 牡丹ノ異名。藻鹽草、八「はつか草、牡丹」藏玉集「不加見草、牡丹、此花サク日數二十日也、依廿日草トモ號ス」安齋隨筆、五「二十日草、歌ニ牡丹ニ二十日草ト詠ズル事、洪景盧ガ容齋隨筆ニ、花開落二十日、一城之人皆狂ト見エタリ、是レニ據レルナリ」詞花集、一、春「新院クラキニオハシマシシトキ、牡丹ヲヨマセ給ヒケルニ、ヨミハベリケル、咲キシヨリ、散リ果ツルマデ、見シ程ニ、花ノモトニテ、二十日ヘニケリ」

はっかけ (名) [八掛] [裾廻布ノ總丈ヲ、身四ツ、衽(立褄)二ツ、衿二ツ、合ハセテ八ツニ裁チテ用ヰル故ニ云フ] 女給ノ裏布ノ上下、異ナルモノノ裾廻ヲ云フ。皇都午睡(嘉永、西澤一鳳)三編、下「上方ニテ云フ八掛ヲ裾廻シ、人形袖ヲ八ツ口」

はづかし・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [恥] (一)恥ヅベクアリ。オモブセナリ。面目ナシ。慚愧。名義抄「醜、ハヅカシ、オモハユシ、オモホテル」「辱、ハヅカシ」伊勢物語、十三段「キコユレバはづかし、キコエネバクルシ」續千載集、十五、戀、五「ヨシサラバ、泪ニクモレ、見ルタビニ、クモルカガミノ、カゲモはづかし」源、五、若紫十七「イトはづかしき御氣色ニ、何事ヲカハ聞エム」續日本紀、廿四年九月「臣未成功旨、還入京師、勞往慮歸、慚惡安措」(二)優リタル人ニ逢ヒテ、恥ヂラハレテ相向ヒ惡シ。羞澁。源、十七、繪合五「斯ク、はづかしき人參リ給フヲ、御心ヅカヒシテ、見エ奉ラセ給ヘ」紫式部日記「赤染衞門ハはづかしき歌ヨミナリ」

ばっかし (辭) ばかしノ音便。假名手本忠臣藏(寬延、竹田出雲等)七「便リノナイハ、身ノ代ヲ、役ニ立テテノ旅立カ、暇乞ニモ見エソナモノト、恨ンデばっかし居リマシタ」

はづかしがる・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [恥] 心ニ怖ヂガマシク、面伏セナリ。遠慮勝チナリ。枕草子、十二、百五十六段「はづかしがリテ、髮ヲ振リカケテ、スベリ入リヌレバ」

はづかしさ (名) [恥] ハヅカシキサマ。ハヅカシキ度合。北條五代記、五、八丈島渡海事「我此島ニ來リ、カカル美女ニアフ、云云、我身ヲカヘリ見ルニ、色黑ク有テ婁賤シク、衣類マテモ見グルシケレバ、ナラビテ居ルモはづかしさニ」

はづかしむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) [辱] 恥ヲ見ス。ハヂシム。名義抄「辱、ハヅカシム、ハヂシム」神代紀、上十三「令吾恥辱」私記「波豆加志牟流」源、三十四、若菜、上七十五「ナキ親ノオモテヲフセ、カケヲはづかしむるタグヒ多ク聞ユル」盛衰記、三十七、重衡卿虜事「纔カニ一旦ノ死ヲ遁レ、顏ヲ都鄙ニ曝シ、名ヲ遠近ニはづかしめケリ」

はづかしめ (名) [辱] ハヅカシムルコト。ハヂ。又、ハヅカシキ思ヒ。恥辱。「辱ヲ受ク」「辱ヲ忍ブ」

はつかしやうぐわつ (名) [二十日正月] 陰曆、正月二十日ノ稱。古ヘハ、此日ヲ正月ノ最後ノ祝日トシテ遊べリ。日次紀事(延寶、黑川道祐)正月廿日「今日地下諸人、各遨遊、謂二十日正月、食團子、是稱二十日團子」倭訓栞「廿日正月ト云フハ、事文類聚ニ、江東ノ俗、號正月二十日、爲天穿、以紅縷繋煎餅置屋上、謂之補天穿ト見エタリ、女ノ鏡臺ノ祝ニモ、廿日ヲ用ヰルハ、初顏祝ト云フ義ニ取ナリト云ヘド、江東俗ニ本ケルナルベシ、甲冑ノ鏡開キモ、亦、モト廿日ヲ用ヰキ、刃柄ヲ祝フ由也ト云ヘリ」

はつかぜ (名) [初風] 其氣候ノ初ニ吹ク風。古今集、四、秋、上「ワガセコガ、衣ノ裾ヲ、吹キ返シ、ウラメヅラシキ、秋ノはつかぜ」堀河百首「朝マダキ、秋ノ初風、立チヌレバ、思ヒナシニ(コイ)ゾ、涼シカリケル(レイ)」新後撰集、四、秋、上「衣手ノ、マダウスケレバ、朝マダキ、身ニシム物ハ、秋ノ初風」

ばっかつ (名) [菝葜] 灌木ノ名。さるとりいばら(菝葜)ニ同ジ。

はつがつを (名) [初鰹] 其年、初メテ市場ニ出ヅル鰹。カツヲノハシリ。古ヘハ、陰曆、四月上旬頃、諸方ヨリ江戸ニ鰹ヲ運バルル中ニ、鎌倉ヨリ馬ニテ運ビタルガ、第一ニ早カリシト云フ。故ニ鎌倉ガ、鰹ノ本場ノヤウニナリタリ。(天明ノ頃、日本橋石町ノ富豪富林治右衛門ト云フモノノ馳走シタルハ、一尾、二兩三分ノ値ナリシト) 俳諧歲事記栞草(嘉永、藍亭青藍)夏「相州鎌倉、或ハ小田原ノ邊ニ、此レヲ釣リテ江府ニ送ル、ソノ早ク出ルモノヲ初鰹ト稱シ、賞味ス」北條五代記、七、東海にて魚貝取盡す事「毎年夏ニ至テ、西海ヨリ東海へ來ル、伊豆、相摸、安房ノ浦ニツリ上ル初鰹、シヤウクハンナリ」可笑記(寬永)「此頃、かつほト云フ魚コソ、殊ノ外、世間ニモテナサレケレ」其角文「初ノ字ニ一朝ヲ爭ヒ、夜ノ字ニ百金ヲ輕ンジテ、マダ寐ヌ人ノ橋上ニ佇ミアカスママニ、一片ノ風帆ヲ望ンデ、早走リヲ待チテ、公門ニ入ル時、鬼ノ首ヲ取ル心チシタリ」芭蕉句集、夏「鎌倉ヲ、生キテ出デケム、初鰹」一茶句集、夏「芝浦ヤ、初鰹カラ、夜の明クル」

はつかなぬか (名) [二十日ト七日ノ義] 二十七日ノコト。源順集「冬ノ山風寒クナリテ後、はつかなぬかノ夜、庚申ニアタレリ」

はつか (副) 僅、纔 〔端端ノはつニ、長閑か、靜かノかノ添ハリタル語〕 端所ニ。ホノカニ。ハツハツニ。ワヅカニ。 宇津保物語、俊蔭卷「蓬ノ中ヨリ、秋ノ花はつかニ咲キ出デテ、池ノ[illegible]キニ月面白クウツレリ」 源、三十四、下、若菜、下「今宵ノ遊ハ、長クハアラデ、はつかなる程ニト思ヒツルヲ」 古今集、十一、戀、一「春日野ノ、雪間ヲワケテ、生ヒ出クル、草ノはつかニ、見エシ君ハモ」 續古今集、十三、戀、三「寐テ待チシ、二十日ノ月ノ、はつかニモ、逢ヒ見シコトヲ、イツカ忘レム」

はつかねずみ (名) 鼷鼠 〔僅鼠ノ義ナラム。或ハ云フ、常鼠ノ生レテ廿日許リノ大キサノ義ナリト、イカガ〕 鼠ノ類ノ小サキモノ。長サ二寸餘、人家ニ近キ土中ニ穴居シ、時時、出デテ器物ヲ嚙ミ、食ヲ盗ミ、害ヲナス。一名、アマクチネズミ。ノネズミ。コキシリ。コギシロ。又、コノ種ニテ、白毛、或ハ、雜駁毛ノモノアリ。匣ニ養ヒ、車ヲ廻ハサシメ、小兒ノ玩トス。コレヲ南京鼠ト云フ。 書言字考節用集、五、氣形門「鼷鼠、ハツカネズミ、アマクチネズミ」 吾吟我集(還安)三「詠ムレバ、はつかねずみノ、オノヅカラ、コヨヒノ月ノ、ナリゾチヒサキ」

はつがひ (名) 初買 (一)一月二日ニ、其年、初メテノ買物ヲスルコト。 (二)初春ニ遊女ヲ買フコト。 [illegible]色三代男、吉原、西鶴[illegible]ニ、吉原正月買ノ事、傳カラ思ウタ程ノモノヽ、リニモアラズ、面白キハ初買ナリ」

ばつがふ (名) 場合 其場ノナリユキ、又、グアヒ。略シテ、ばつ。

はつかみか (名) 〔二十日ト三日ノ義〕 二十三日ノコト。 蜻蛉日記、中、上「二はつかみかノホドニ、[illegible]ニトニイソギタツ」

はつかみなり (名) 初雷 其年、初メテ、雷ノ鳴リハタメクコト。ハツライ。 日次紀事、[illegible]

はっかん (名) 發汗 汗ノ出ヅルコト。 〔病ニ就キテ云フ〕 [illegible]

はっかん (名) 發刊 はっかう(發行)ノ條ヲ見ヨ。

はっかんざい (名) 發汗劑 發汗セシメテ病ヲ治療スルニ用ヰル藥劑。

はつかよひやみ (名) 二十日宵闇 二十日ノ、宵ノ間ノミ闇キコトノ稱。

はつかり (名) 初狩 〔古ヘ、鷹狩ハ秋ヨリ始ムル故ニ、初狩ト云フ〕 其年ノ狩獵期ニ、初メテ行フ狩。初鳥狩。 續後撰集、五、秋、上「ハシ鷹ノ、はつかり衣、露ワケテ、野原ノ萩ノ、色ゾウツロフ」

はつかり (名) 初雁 秋ニ、北方ヨリ、初メテ渡來スル雁。又、はつかりがね。 萬葉集、八「[illegible]ナガ月ノ、ソノ[illegible]ノ、[illegible]心ハ、キコエコヌカモ」 古今集、四、秋、上「待ツ人ニ、アラヌモノカラ、初雁ノ、今朝鳴ク聲ノ、メヅラシキカナ」 新古今集、五、秋、下「フキマヨフ、雲居ヲワタル、はつかりノ、[illegible]ニナラス、[illegible]」 [illegible]集「天ノ原、ツラナリワタル、初雁ハ、雲スヂカケテ、[illegible]ニケリ」

ばっかり (副) 計 ばかり(計)ノ音便。 玉藻前曦袂(寶暦、浪岡橋本)道春館段「親ノ父上樣ハ、何處ニドウシテゴザルヤラ、命ノ際ニ只一目、逢ウテ死ニタイ、顏見タイ、是レばっかりガト言ヒサシテ、[illegible]ハ」

はつかりがね (名) 初雁音 (一)秋ニ、北方ヨリ、初メテ渡來スル雁ノ鳴ク聲。

初雁ノ聲。 古今集、[illegible]「[illegible]はつかりがねゾ、聞コユナル、誰ガ玉ヅサヲ、カケテ來ツラム」 (二)[illegible]ね(雁音)ノ條ヲ見ヨ。 拾玉集、二「夕月夜、ホノメク秋ノ、タソガレニ、はつかりがねノ、聲ナカリセバ」

はつかりごろも (名) 初狩衣 其年、初メテ行フ狩ニ用ヰル衣。初狩ノ衣。 はつかり(初狩)ノ條ヲ見ヨ。

はつき (名) 〔機木ノ轉カト云フ〕 類聚三代格、八、承和八年閏九月二日、太政官符「[illegible]云云、田中構木[illegible]云云、俗名謂之稻機云云」 又、イナギ。枝アル木、二本ヲ相立テ、其枝ニ横ニ木ヲ架ケ渡シタルモノ、其上ニ[illegible]引渡シ、物ヲ懸ケ置クモノ。[illegible]抄) 宇津保物語、吹上、下「ハツカナル海人ノ屋ドモニ、海藻ドモアマタ懸ケテ乾ス、はつきシテモ[illegible]」 [illegible]衣、乾ス見レバ、磯邊ノ松ゾ、はつきナリケル」 散木集、二「卯花ノ、垣根ナリケリ、山ガツノ、はつきニサラス、ケフトミツレバ」 拾玉集、四「[illegible]乾ス、はつきノ枝ニ、居ル鳥ノ、[illegible]」 又、はさトモ、はたトモ、はてトモ云ヘリ。稻架。 曾丹集(一本)「山賤ノ、はたニ刈リ乾ス、麥ノ穗ノ、クダケテ物ヲ、思フ頃カナ」 堀河百首「稻モセニ、門田稻ヲ、乾スヨリハ、はてヲ結ヒテゾ、懸クベカリケル」

はっき (名) [illegible]

はっき (名) 發揮 (一)物ニ備ハリタルモノヲ、外ヘアラハシ出スコト。 [illegible]

[illegible]

はつぎ (名) 發議 (一)議論ヲ發シ[illegible] (二)[illegible] (三)意見ヲ述べ出スコト。 (三)議案ヲ提出スルコト。

はづき (名) 葉月 [illegible]八月ノ異名。[illegible]

はつぎ (名) [illegible] 又、まつぎ。[illegible]

はっきん (名) 罰金 罰ノ償トシテ出サシムル金錢。制裁トシテ出サシムル金。[illegible]

はっきゃう (名) 發狂 狂氣トナルコト。[illegible]

はっきょく (名) 八極 四方ト、四隅ト。八方。又、天下。[illegible]

はっきり (名) 分明 (一)はきと。分明ニ同ジ。[illegible]

はっ-く (名) 〔八苦〕 佛經ノ語。五苦(其條ヲ見ヨ)ニ、怨憎會苦、求不得苦、五盛陰苦ノ三苦ヲ加ヘタル稱。 易林節用集(慶長)上、數量門「八苦、生苦、老苦、病苦、死苦、愛別離苦、此名ニ五苦一也、更加ニ三苦一、卽成ニ八苦一、一者五盛陰苦、二者求不得苦、三者怨憎會苦、總名ニ八苦一也」 涅槃經、十二「八相爲ㇾ苦、所謂生苦、老苦、病苦、死苦、愛別離苦、怨憎會苦、求不得苦、五盛陰苦」 梁簡文帝、菩提樹頌序「悲哉六識、沈ニ淪八苦一、不ㇾ有ニ大聖一、誰拯ニ慧橋一」 曾根崎心中(元祿、近松作)下「弱ルヲ見レバ兩手ヲ伸ベ、斷末魔ノ四苦八苦」

はっ-く (名) 〔八區〕 八方ノ地域ノ意ニテ、天下ノコトヲ云フ。 晉書、樂歌、鼙舞歌「宇宙化動ニ八區一、肅以ニ典刑一、陶以ニ玄珠一」

バック (名) 〔英語、Back.〕 はいけい(背景)ニ同ジ。

はつ-くさ (名) 〔初草〕 (一)わかくさ(若草)ニ同ジ。にひくさ。 續後拾遺集、二、春、下「春日野ノ、若紫ノ、はつ草モ、カハラヌ色ニ、咲ケル藤波」 風雅集、十五、雜、上「初草ハ、下ニモユレド、片岡ノ、オドロガ上ノ、雪ハケナクニ」 (二)轉ジテ、イトケナキ子ナドニ譬ヘテ云フ語。 源、五、若紫十「初草ノ、生ヒ行ク末モ、知ラヌ間ニ、イカデカ露ノ、消エムトスラム」 同、同十六「初草ノ、若葉ノ上ヲ、見ツルヨリ、旅寢ノ袖モ、露ゾカワカヌ」 新敕撰集、十四、戀、四「思ヒキヤ、マダウラ若キ、初草ノ、秋ヲモ待タデ、枯レムモノトハ」

はつくさ-の (枕) 〔初草〕 春ノ初ニモエ出ヅル草ノ、珍シク、又、小サキヨリ、めづらし、はつかにナドニ冠スル枕詞。 伊勢物語、四十九段「初草の、ナドめづらしキ、言ノ葉ソ、ウラナクモノヲ、思ヒケルカナ」 新敕撰集、十二、戀、二「春ノ浪ノ、入江ニ迷フ、初草の、はつかに見エシ、人ソ戀ヒシキ」

はっくしョう (感) 嚔スル時ニ發スル聲。くさめ(休息萬命)ノ條ヲ見ヨ。

はっ-くつ (名) 〔發掘〕 地中ニ在ルモノヲ掘リ出スコト。 漢書、師丹傳「王莽白ニ太皇太后一、發ニ掘傅太后丁太后冢一、奪ニ其璽綬一」

はっくどくすゐ (名) 〔八功德水〕 極樂淨土ニアリト云フ水ノ名。八功德ヲ具フト云フ。 無量壽經、上「八功德水、湛然盈滿、淸淨香潔、味如ニ甘露一」 諸乘法數、八功德水「輕、淸、冷、軟、美、香、飮無厭、飮無患」 書言字考節用集、十、數量門「八功德水、澄淨、淸冷、甘美、輕軟、潤澤、安和、飮時除ニ飢渴一切患一、飮已長ニ養四大一」 榮花物語、十八、玉臺「或ハ八功德水スミテ、色色ノ蓮花生ヒタリ、ソノ上ニ佛アラハレ給ヘリ」

〜はつくにしら·す (連體) 〔初國所知〕 (建國視政ノ義) 始メテ食國トナレル國ヲ治シメス。神武天皇ノ中州ヲ征平シタマヒシニモ申シ、後、崇神天皇ノ更ニ四方ヲ征治シタマヒシニモ申シ奉リシ稱。 神武紀上「始馭天下之天皇」私記「波津久爾志呂志女須須倍良美己止」 崇神紀、十二年九月「家給人足、天下大平矣、故稱謂ニ御肇國天皇一也」 古事記、中(崇神)「天下太平、人民富榮、云云、故稱ニ其御世一、謂ニ所ㇾ知ニ初國一之御眞木天皇上也」

ばっ-くん (名) 〔拔羣〕 又、ばつぐん。多クノ羣ヨリ、一人、拔ケ出デタルコト。出羣。 梁書、劉顯傳「聰明特達、出ㇾ類拔ㇾ羣」 十訓抄、上、第三、第十條「形體拔羣、勇力人ニ勝ギタリ、鬼王ノ形ヲアラハシ、力士ノタチマチニ來ルカトオボユ」 太平記、十七、山門攻事「嚴命サキサキ、拔羣ノ忠アリト云フトモ、無ニ處シテ本領ヲ沒收シ一」 信長記、十二、六條合戰「母衣カケタル武者一人、手槍提ゲ、蘭草ヲ拔羣ハナレテ、進ンタルニ」

は-づくろひ (名) 〔刷毛〕 (羽繕ノ義) (一)鳥ノ毛ヲ理ムルコト。羽ヲ整フルコト。アブラヒキ。 倭名抄、十八、羽族體「刷毛、波都久呂比、阿布良比岐、鳥理ㇾ毛也」 (二)蟲ノ羽ヲ整フルコト。 俳諧古選、附錄「蜂ノ巣ヤ、ソト出ル親ノ、羽づくろひ」 (三)轉ジテ、人ノ立チテ衣ヲトトノフルコト。 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)八「モハヤ立タント、羽つくろひセシニ、ココヲバ法然ノシャクニテ一ツ申サン」

はっ-くゎ (名) 〔發火〕 (一)火ヲ發スルコト。 三國志、吳志、周瑜傳「黃蓋曰、云云、蓋放ニ諸船一、同時發ㇾ火」 (二)銃砲ニ、火藥ノミヲ込メテ、發射スルコト。「發火演習」 (三)ホクチ。

はっ-くゎい (名) 〔發會〕 始メテ會ヲ開クコト。「發會式」

はっ-くゎう (名) 〔八荒〕 はっぱう(八方)ニ同ジ。四方四隅。 史記、秦始皇紀、贊、賈誼「秦孝公據ニ殽函之固一、云云、有下席ニ卷天下一、包ニ擧宇內一、嚢ニ括四海一、幷ニ呑八荒一之心上」 杜甫詩「美人娟娟隔ニ秋水一、濯ニ足洞庭一望ニ八荒一」

はっ-くゎう (名) 〔八紘〕 (紘ハ方ノ義) はっぱう(八方)ニ同ジ。 淮南子、墜形訓「九州之外、乃有ニ八殥一、八殥之外、乃有ニ八紘一、八紘之外、乃有ニ八極一」(節文)注「紘、維也、維ニ絡天地一、而爲ニ之表一、故曰ㇾ紘也」

はっ-くゎう (名) 〔發光〕 光ヲ發スルコト。 李賀詩「白日下ニ崑崙一、發ㇾ光如ㇾ舒ㇾ絲」

はっくゎう-たい (名) 〔發光體〕 發光シテアル物體。又、自ラ發光スル物體。

はっ-け (名) 〔磔〕 はりつけ(磔)ノ略。其條ヲ見ヨ。 平治物語、三、頼朝擧ニ義兵一事「はっけニモ、タダニハアラズ」

はっ-け (名) 〔八卦〕 又、はっけい。周易ニテ、占ヒノ算木ノ上ニ表ハレタル、乾(☰)、兌(☱)、離(☲)、震(☳)、巽(☴)、坎(☵)、艮(☶)、坤(☷)ノ八ツノ象。轉ジテ、コレヲ行フノ道。易道。 猶、け(卦)、えき(易)、さんぎ(算木)等ノ條ヲモ見ヨ。 易經、繫辭、上傳「易有ニ大極一、是生ニ兩儀一、兩儀生ニ四象一、四象生ニ八卦一、八卦定ニ吉凶一、吉凶生ニ大業一」 拾遺記、一、春皇[illegible]八卦、八卦分ニ六位一、以正ニ六宗一」 王昌齡、黃道光闊、易[illegible]、靈心[illegible]、八卦眞形一氣[illegible]

ばっ-け (名) 〔末家〕 ぶんけ(分家)ニ同ジ。〔庶族〕 (本家ニ對ス)

はっ-けい (名) 〔八景〕 諸處ノ名所ニ、八種ノ景色トテ竝ベ稱スルモノ。支那、湖南省、洞庭湖沿岸ニハ、瀟湘ノ八景アリ、卽チ、煙寺晩鐘、瀟湘夜雨、山市晴嵐、遠浦歸帆、江天暮雪、洞庭秋月、平沙落雁、漁村夕照、等ニシテ、コレ等ノ勝ヲ稱セルニ起リテ、我邦ニモ、近江八景、金澤八景、ナド多シ。近江八景ハ、琵琶湖ノ沿岸ニアリテ、明應九年、膳所ノ領主佐佐木高賴ニ招請セラレシ近衞關白政家、其父尙通、近江ニ掩留中、ニノ八景ノ歌ヲヨミシヨリ、題號、定マレリト。(近江名所圖繪) 卽チ、堅田落雁、矢橋歸帆、比良暮雪、石山秋月、粟津晴嵐、唐崎夜雨、三井晩鐘、瀨田夕照(八景詩歌ト云フ書ニハ、近衞信尹、膳所ノ八景ヲ望ム自畫自歌、城主ニ賜フトアリ、政家ヲ信尹ニ誤ル) 南都ノ奈良八景ハ、南圓堂藤、佐保川螢、猿澤池月、春日野鹿、三笠山雪、雲井坂雨、東大寺鐘、轟橋行人。武藏ノ金澤八景ハ、心越禪師ノ詩アリ。洲崎晴嵐、瀨戶秋月、小泉夜雨、乙舳歸帆、稱名晩鐘、平潟落雁、野島夕照、內川暮雪ナリ。倘、伏見八景、修學院八景、嵯峨八景、明石八景、松島八景ナドアリ。 夢溪筆談「宋迪工ㇾ畫、尤善爲ニ平遠山水一、其得意者、有ニ平沙落雁、遠浦歸帆、山市晴嵐、江天暮雪、洞庭秋月、瀟湘夜雨、煙寺晩鐘、漁村落照一、謂ニ之八景一、好事者多傳ㇾ之」

ばつげい (名) 末藝 又、まつげい。役ニ立タヌ技藝。末技 [illegible]賦「題ニ末藝ニ以ゝ新下俾ニ後來之可ゝ師」

はっけいざら (名) 八景皿 南京燒ノ皿ノ名。其數八ツアリテ、國々排置スベク作レリ。故ニ其一ノ形ハ、扇面ノ如シ。

はっけおき (名) 八卦置 うらなひおきゃ(古者)ニ同ジ。さんおき(算置)ノ條ヲ見ヨ。

はっけん (名) 發見 見出スコト。ミツクルコト。中庸、第十六章、註、「能使ニ人畏敬奉承、而發見昭著如ゝ此」

はっけん (名) 發遣 出シヤルコト。送リツカハスコト。後漢書、明帝紀「[illegible]在ニ内郡ニ者、賜ニ裝錢ニ人二萬」北史、隋煬帝紀「所在州縣、以ゝ禮發遣」

はつげん (名) 發源 發原 水ノ源ヲ發スルコト。張衡、南都賦「[illegible]」

はつげん (名) 發現 アラハレ出ヅルコト。又、アラハシ出スコト。

はつげん (名) 發言 言語ヲ發スルコト。又、意見ヲ述ブルコト。發語。詩經、小雅、小旻之什、小旻「發言盈ゝ庭、誰敢執ニ其咎ニ」詩序、大序「詩者志之所ゝ之也、在ゝ心爲ゝ志、發ゝ言爲ゝ詩」「發言權」「發言者」

ばっけん (名) 拔劍 佩劍ヲ拔クコト。呂氏春秋「王子慶忌、與ニ要離ニ俱渉ニ於江ニ、中江拔ゝ劍、以刺ニ慶忌ニ」史記、項羽本紀「項羽曰、壯士、賜ニ之卮酒ニ、[illegible]拔ゝ劍切而啗ゝ之」

はけよい (句) 相撲ニテ、行司ノ力士ニ向ヒテ八卦良イト唱フル語。

はつゐ (名) 裔 スエ。ウミノコ。はつうまゐ(名)ニ同ジ、[illegible]「波津古」字類抄「裔、ハツコ」

はつご (名) 發語 (一)はつげん(發言)ニ同ジ。(二)意味ナクシテ、他ノ語ノ上ニ加フルモノ。ホツゴ。かグロシ、いユキノ類。[illegible]「ハツゴ」(三)文章、又ハ、文句ノ初ニ云ヒ出ス語。さて、それノ類。

ばっと (名) 跋扈 〔跋ハふむ、扈ハ竹やな。通俗編曰[illegible]竹籬也、水居者、於ニ水表ニ至、先作ニ竹籬ニ、候ニ魚之入ニ水邊小魚獨留、大者跳ニ扈而出、故言ニ跋扈ニ」〕ヲドリハヌルコト。又、恣ニ振舞フコト。ノサバルコト。ハビコルコト。跳梁。[illegible]

ばつご (名) 跋語 跋トシテ記ス語句。書物ノおくがきノ語。

はっとう (名) 八講 ほっけはっこうゑ(法華八講會)ノ條ヲ見ヨ。源、十、「[illegible]八講ノイソギヲ、サマサマニ心ヅカヒセサセ給ヒケリ」[illegible]

はっとうふ (名) 八講布 〔越中國、西礪波郡、北野谷村、字八講田、原産、今同郡、戸出村ヨリ出ス。〕又、はっこうぬの。中古、越中、加賀ヨリ產ズル麻布ノ名。禁中ノ法華八講會ノ布施ニ用ヰラレシヨリ名トストラフ。毛吹草(正保)三「越中、八講布」[illegible]

[illegible]

はっこうゑ (名) 八講會 ほっけはっこうゑ(法華八講會)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]十三、貞觀八年九月廿五日、[illegible]

はつこひ (名) 初戀 [illegible]テ戀情ヲ起スコト。ハジメテノ戀。[illegible]

はっこぶん (名) 八股文 支那、明代以來、進士試驗ノ答案ニ用ヰタル一種ノ文體。[illegible](一話一言)日知錄(清、顧炎武)「經義之文、流俗謂ニ之八股ニ、蓋始ニ於成化以後ニ、股者對偶之名也、天順以[illegible]」

はつこほり (名) 初氷 [illegible]ノ初氷、佛ノ御前ト碎カレテ」[illegible]

はつこよみ (名) 初曆 新年ニ始メテ用ヰル曆ヲ云フ稱。其始メテ用ヰルソ、[illegible]

はつこゑ (名) 初聲 [illegible]ヨリ、鶯ノ、初聲スルハ、春ハニヤナル」(二)鳥獸、又ハ、蟲ナドノ、ソレゾレノ季節ニ、ハジメテ鳴ク聲。[illegible]始テキキテ、サキ出タル、宿ノ秋ハギ、見ニコソカセ[illegible]ガリモナシ、初聲」

[illegible]

はつざ (名) 末座 又、まつざ。座ノ末。[illegible]

はっさい (名) 八災 八災患ノ略。佛教ニ[illegible]何(事理ヲ何ソノコト)、出息、入息ノ稱。何レモ禪定ノ妨トナルモノナレバ[illegible]

はっさう (名) 八相 佛經ノ語。釋迦牟尼佛ガ、一生涯ニ現ハシタリトイフ八タビノ變相。即チ、降兜率(兜率天ヨリ降下スル相)、託胎(摩耶夫人ノ胎内ニ[illegible]スル相)、出胎[illegible]、出家[illegible]、降魔(修行シテ惡魔ヲ降伏スル相)、成道(菩提樹下ニ成佛得道スル相)、說法(五十年間、說法シテ人天ヲ度スル相)、涅槃(八十歲ニテ[illegible])[illegible]

はっさく (名) 八朔 〔八月朔日ノ略〕八月朔日ノ稱。[illegible]

年ノ八朔ニ、祖、家康、駿河ヨリ始メテ江戸城ニ移リシ日ナリトテ、祝ヒテ、特ニ節日ノ一トシタリ。康富記(中原康富)文安五年八月一日「八朔事、云云、後鳥羽院末方ヨリ出來歟、云云、嘉元之頃之記、此事見ㇾ之」看聞御記、應永廿五年八月一日「八朔風俗、千秋嘉兆、幸甚幸甚、仙洞御盃(大鉢一、銚子提、引合三十帖)」川柳吉原志「八朔ニ、モウ滿月ハ、チラト出ル」古今夷曲集(寛文)八「八朔ノ、サクイモアラヌ、ハイカイヲ、モモ書キ集メ、進ラスルナリ」俳諧古選、附錄「彼是ト、八朔過ギテ、秋ノ風」

はっさくばい (名) 八朔梅 かんこうばい(寒紅梅)ノ一名。大和本草、十二、花木「八朔紅梅ハ八朔ノ比ヨリ開ク、花小ニシテ八重ナリ、西土ニテ、コレヲ寒紅梅ト云フ」俚言集覽「八朔梅、隔冬ノ稱號ナリ、西國ニテ、カンカウバイト云フ」蕪村句集、拾遺「八朔梅、彷彿トシテ、冬至梅」

はつざくら (名) 初櫻 其年、最初ニ咲キタル櫻ノ花。又、咲キテ間モナキ櫻ノ花。ハツハナ。千載集、十、賀「千世フベキ、始ノ春ト、シリガホニ、ケシキコトナル、初櫻カナ」長唄、浦島「サ、ト吹キクル春風ニ、霞ガウメル初櫻」

はっさん (名) 八算 和算ノ算術ニ、掛算、割算ナド、目安、一桁ナルニ行フモノノ稱、其二桁以上ナルニ行フヲ、見一(ケンイチ)トス。算法新書、一、九歸「歸トハ、法一位ヲ以テ割ルヲ云フ、其ノ數、一ヨリ九ニ至ル故、九歸ト名ヅク、一歸ハ所ㇾ得商原數ノ如シ、仍、法ヲ立テズ、餘二ヨリ九ニ至リテ八段ヲ俗ニ八算ト云フ」

はっさん (名) 發散 チリヒロガルコト。外へ發シ散ラスコト。成公綏、嘯賦「乃吟詠而發散」參同契(漢、魏伯陽)「發二散清光一」

はつざん (名) 初産 うひざん(初産)ニ同ジ。ショサン。

ばつざんがいせい (句) 拔山蓋世 〔項羽ノ詩句ノ「力拔ㇾ山兮氣蓋ㇾ世」ノ語ニ出ヅ〕勇氣ノ盛ンニシテ、敵スルモノナキニ云フ語。史記、項羽紀「項王乃悲歌忼慨、自爲ㇾ詩曰、力拔ㇾ山兮氣蓋ㇾ世、時不ㇾ利兮騅不ㇾ逝、騅不ㇾ逝兮可ㇾ奈何、虞兮虞兮奈ㇾ若何」

ばっさりと (副) (一)衣ナドノ、下ニ落ツル音ノ狀ヲ云フ語。百俚談「撥錯(バッサリ)、シドケナク打ハダレル事ヨ、殘斬ノ寐起、歌舞妓子ノ酒フリ、時ツクル鳥ノ羽バタキ」(二)手輕ク首ナド斬リ落シタル音ノ狀ヲ云フ語。

はつざる (名) 初申 陰曆、二月ノ初ノ申ノ日。此日、春日神社ノ祭典ヲ行フ。永久四年百首「キサラギノ、はつさるナレヤ、春日山、峰トヨムマデ、鼓キマツル」

はっし (名) 八史 太政官ニ屬スル八部ノ史官。卽チ、左大史、右大史、左少史、右少史、各二人ヅツノ稱。

はっし (名) 八子 唐鞍ノ具。革ヲ細ク平ラメテ、先ニ鈴ヲツケ、鞍ノ後ノ所ヨリ、左右ニ四ツヅツ下グ。晉ノ張華ノ詩ニ「乘馬鳴二玉珂一」ナドアル珂ト云フモノニテ、支那ニテハ、位ニ因リテ數ニ定メアリト。

ばっし (名) 末子 又、まっし。スヱコ。末男。季子。盛衰記、三十六、鷲尾一谷案内者事「サテ、汝ガ親ニハ、嫡子カ末子カ、名乘ハイカニ」

はっしき (名) 八識 佛教ノ語。人間ノ具有スル八種ノ識。卽チ、眼、耳、鼻、舌、身、意ノ六識ト(六識(ロクシキ)ノ條ヲ參見セヨ)、末那識(意ノ當體)ト、阿賴耶識(一切諸法ノ種子ヲ含藏シテ、ソノ根本トナルモノ)トノ總稱。井筒業平河內通(享保、近松作)二「八大童子ハ八識ノ道ヲ導ク」

はつしぐれ (名) 初時雨 其年ニ於ケル初メテノ時雨。蜻蛉日記、上、上卅八「別レ行ク、人ヲ惜ムト、はつしぐれ、曇リモアヘズ、フリソボチ」後撰集、七、秋、下「初時雨、フレバ山邊ゾ、思ホユル、何レノ方カ、マヅモミヅラム」新古今集、六、冬「はつしぐれ、シノブノ山ノ、モミヂ葉ヲ、アラシフケトハ、ソメズヤアリケン」

はっしと (副) (一)堅キモノト堅キモノト、打當ル音ニ云フ語。(二)矢ノ飛ビ來リテ突キアタル音ニ云フ語。

はつしほ (名) 初潮 初汐 (一)初メテ汲ム潮。(製鹽ノタメニ) 夫木抄、十三、鵜「須磨ノ浦ニ、秋ヤク蜑ノ、初汐ノ、烟ゾ霧ノ、色ヲ染メケル」(二)潮ノ滿干ニ云フ語。おほしほ(大潮)ノ條ヲ見ヨ。蕪村句集、下「初汐ニ、追ハレテ上ル、小魚カナ」(三)陰曆、八月十五夜ノ大潮。倭字通例書「はつしほ、葉潮、注又初鹽、二說不ㇾ知二何是非一也、八月十五日也、方輿勝覽曰、每歲仲秋既望、潮水極大也」

はつしほ (名) 初入 染物ヲ、最初(ハツメ)ニ、一度、染汁ニ入レテ染ムルコト。轉ジテ、春雨、又ハ、時雨ニテ、草木ノ色ノ染マルニ云ヒ、更ニ、淚ニテ袖ノ色ノカハルニモ云フ。ヒトシホ。しほ(入)ノ條ヲモ見ヨ。拾遺愚草、下「コノ頃ノ、朧ノ月ノ、はつしほニ、色別キ初ムル、峰ノ松風」風雅集、一、春、中「淺ミドリ、初しほ染ムル、春雨ニ、野ナル草木ゾ、色マサリケル」新千載集、十四、戀、四「イカニシテ、袖ノ泪ノ、初しほニ、ソムル心ノ、深サ見エマシ」

はつしほごろも (名) 初入衣 初入染ノ衣。前條、及、次條ヲ參見セヨ。

はつしほぞめ (名) 初入染 初ニ一度、染メタルモノ。夫木抄、三十三、衣「紫ノ、初しほぞめノ、新衣、程ナク色ノ、アカレトゾ思フ」

はっしん (名) 發信 音信ヲ出シヤルコト、郵便、又ハ、電信ヲ出スコト。

はっしん (名) 發疹 小サキふきでノ出ヅルコト。品字箋(清、虞德升)「瘄、音錯、今俗以二發疹一爲二出瘄一」「發疹チフス」

はつじん (名) 發軔 (一)軔ハ車ヲ止ムル木ナリ。軔ヲ取リ除ケテ車ヲ出ダスコト。淮南子、兵略訓「得ㇾ道之兵、車不ㇾ發ㇾ軔、騎不ㇾ被ㇾ鞍、鼓不ㇾ振ㇾ塵、旗不ㇾ解ㇾ卷、甲不ㇾ離ㇾ矢、刃不ㇾ嘗ㇾ血」(二)旅行ノ途ニ上ルコト。タビダツコト。揚雄、河東賦「旣發二軔于平盈一兮、誰謂路遠不ㇾ能ㇾ從」杜甫詩「余時遊二名山一、發軔在二遠壑一」(三)事ヲ始ムルニ喩フ。沈德潛、唐宋八家文讀本序「旣因二門弟子請一出二向時讀本一、相加二審定一、俾三讀者視爲二入門軌途一、志二發軔一也」蘇轍、山人、路史「軔支二車輪一之木、止則用ㇾ之、行則去ㇾ之、故凡始ㇾ事皆曰二發軔一、言發ㇾ軔而後車行也」

はっしんチフス (名) 發疹窒扶斯 窒扶斯ノ一種。感染後、一二週間ニシテ、急ニ戰慄、高熱、頭痛、腰痛、眩暈ナドヲ起シ、食慾不振ニナリ、嘔吐ヲ催シ、精神朦朧トナリテ、全身ノ皮膚ニ、特有ナル薔薇疹ヲ發スルモノ。

はっしんでん (名) 八神殿 神產日神(カミムスビ)、高御產日神(タカミムスビ)、玉積產日神(タマツメムスビ)、生產日神(イクムスビ)、足產日神(タルムスビ)、大宮賣神(オホミヤノメ)、御食津神(ミケツ)、事代主神(コトシロヌシ)ノ八柱(新年祭祝詞ニ見ユ、但、文字異ナリ)ヲ、天皇ノ玉體守護ノ爲ニ祭ラルルモノ。古ヘ、神祇官中ノ齋院齋戶(イムド)ノ神殿ニ祀ラル。中世、京都、東山ノ吉田神社ニ齋場ヲ設ケラレシガ、明治五年、皇居內ノ神殿ニ遷シ奉ルト。

はつしも (名) 初霜 秋冬ノ間ニ、其年始メテ置ク霜。早霜。倭名抄、一、風雨類「霜、八豆之毛」古今集、五、秋、下「心アテニ、折ラバヤ折ラム、初霜ノ、置キマドハセル、白菊ノ花」玉葉集、五、秋、下「蟲ノ音ノ、ヨワル淺茅ハ、ウラガレテ、初

霜サムキ、秋ノクレガタ」 菅[illegible]何集、冬、「初霜ヤ、菅冷エソムル、暖ノ綿」「初霜月」

はつしもづき ハツシモ-ヅキ (名) [初霜月] 陰暦、十月ノ異稱(前條ヲ參見セヨ) [illegible]、「草モ木モ、はつしもづきノ、朝ボラケ、霜モ白キ、[illegible]ノヲチカタ」 倭訓栞「はつしも、倭名抄ニ霜ヲヨメリ、早霜也ト注セリ、初霜月ハ十月ヲイヘリ」

はっしゃ (名) [發射] 矢ヲ射チ、又、彈丸ヲウチ出スコト。射擊。 [illegible]、[illegible]、由基發射、范氏施御、弦不二虛彊一、[illegible]不二過一」

はっしゃ (名) [發車] 車ヲ出發セサスルコト。特ニ、汽車、又ハ、電車ノ出發スルコト。 玉篇「發二駕車一」

はっしゃう ハツ-シヤウ (名) [八省] 古ヘノ八ツノ役所。しゃう(省)ノ條ヲ見ヨ。 「百官八省」

はっしゃう ハツ-シヤウ (名) [八象] 八卦ノ象。乾ハ天ニ、坤ハ地ニ、坎ハ水ニ、離ハ火ニ、艮ハ山ニ、兌ハ澤ニ、巽ハ風ニ、震ハ雷ニ當タル。はっけ(八卦)ノ條ヲモ參見セヨ。

はっしゃう ハツ-シヤウ (名) [發祥] (一)天命ヲ受ケテ天子トナル兆ノ現ハルルコト。 詩經、商頌、長發「濬哲維商、長發二其祥一」(二)轉ジテ、帝王、若シクハ、其祖先ノ出生ヲイフ。

はっしゃう ハツ-シヤウ (名) [八姓] 又、はっせい。天武天皇ノ時、改メ定メラレシ八色ノ姓、即チ、眞人、朝臣、宿禰、忌寸、道師、臣、連、稻置ノ稱。各條、及、かばね(姓)ノ條ヲモ參見セヨ。

はっしゃうじ ハツ-シヤウ-ジ (名) [八莊司] 八氏ノ莊司。即チ、玉置、湯淺、秋津、芋瀨、眞砂、山本、田山、湯川ノ稱。 「[illegible]ノ八莊司」

はっしゃうじん ハツ-シヤウ-ジン (名) [八將神] 陰陽家ニ六ウ神ノ名。即チ、大歲、大將軍、大陰、歲刑、歲破、歲殺、黃幡、豹尾ノ八神ナリ。年年、方角ノ十二支ニ當リテ、吉凶ヲ云フ。 [illegible] [illegible]

はっしゃうゐん ハツ-シヤウ-イン (名) [八省院] 又、朝堂院。古ヘ、大内裏ノ内、内裏ノ南西、朱雀門ノ北ニアリテ、八省ノ百官ノ庶政ヲ行ハルル處。其正殿ヲ太極殿トス、天子、朝ニ臨ミ、位ニ即キ給ヒ、又、諸官ノ告朔ノ所トス。 [illegible]代始和抄(羣書類從本)「滿衞士四人、守ニ八省院一」「[illegible]堂ハ八省院ノ十二堂ノ其一也」

はっしゅう (名) [八宗] 佛教ノ語。佛教ノ八箇ノ宗派。皆、佛教、印度ヨリ支那ニ入リテ後ニ分レテ、又、我國ニ入リシモノ。即チ、俱舍、成實、律、法相、三論、天台、華嚴、眞言ノ八宗ナリ。今、宗派トシテ存スルハ、天台、眞言、法相ノ三宗ニシテ、他ハ皆、教學トシテ存スルノミナリ。又、淨土宗、一向宗、日蓮宗、時宗、等ハ、我國ニテ[illegible] [illegible]

はっしゅうけんがく (名) [八宗兼學] (一)佛教ノ八宗ノ教義ヲ、スベテ學ビ修メ[illegible]

[illegible]コト。 [illegible]此ノ道[illegible] [illegible]ロク物事ニ熟達スルコト。

ばっしゅつ (名) [拔出] [illegible]コト。スグレタルコト。 [illegible]人之則、猶謂二之雜一、況君臣謂拔出、興亡所係、可[illegible]

はっしゅう (名) [發[illegible]] [illegible]ヲ放ツコト。 [illegible]

はっしょうまめ (名) [八升豆] 豆ノ一種。葉ハ、なたまめ(鉈豆)ヨリ大キク、花、深紫色ニシテ、[illegible]生ズ、莢ハ、そらまめ(蠶豆)ニ似テ大キク、毛アリ、熟スレバ、黑クシテ、筋見ハル、種子ハ、[illegible]ヨリ大キク、[illegible]ヨリ小サク、白クシテ灰斑アルアリ、灰色ニ黑斑アルアリ。

はっしょく (名) [撥[illegible]] [illegible]

パッション (名) [英語、[illegible]] [illegible]ヒツムルコト。思ヒ焦ガルルコト。又、激情。情熱。

はつ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [解] 脫解ル、ホヤウニナス。ホツス。トク。ホドク。ホゴス。ホグス。「[illegible]はつす」

はっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) [發] (一)オコル。生ズ。起リ立ツ。[illegible] [illegible]

ノサクルガ如クニテ」「[illegible]」

はっ・す [illegible] (二)旅ニ出立ツ。イブタツ。「[illegible]」 (三)オコス。生ゼシム。[illegible] [illegible] [illegible] [illegible]「久シク[illegible]」「[illegible]」 [illegible]發表ス。「[illegible]」

ばつ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [拔] [illegible] (一)[illegible]所ヨリ取リ除ク。外ヅス。[illegible]放ツ。ハジク。[illegible] [illegible] (二)取リツコサツ。[illegible] [illegible]

ばっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) [罰] [illegible]

バス (名) [英語、[illegible]] [illegible]

はっせん (名) [八[illegible]] [illegible]

はっせんだい (名) 八寸臺 前條ヲ見ヨ。

はつずり (名) 初摺 初メテ書物、繪畫ナドヲ摺ルコト。イタオロシ。開板。

ばっすゐ (名) 拔萃 (一)衆ヨリ抽デタルコト。拔羣。 孟子、公孫丑、上「出乎其類、拔乎其萃」後漢書、蔡邕傳「自不能拔萃出羣、揚聲顯文」 (二)前項ノ意ヲ誤リテ、用アル部ヲ擇リ拔キテ書クコトニ云フ。又、集リタル中ヨリ擇ビ拔クコト、抄錄。

はつすゑ (名) 苗裔 ばっそん(末孫)ニ同ジ。ベウエイ。

はつせ (名) 初瀬 泊瀬 〔初瀬ハ、猶、濫觴ト言ハムガ如シ。長谷ヲはつせト云フハ、谷、邃シテ長シ、故ニ長、谷ノ字ヲ當ツ、長谷川、此ニ發スルナリ〕 川瀬ノ初マルトコロ。略シテ、はせ。

はつせ (名) はだせ(膚背)ニ同ジ。鞍置カヌ馬。ハダカウマ。裸馬。又、ソノ馬ノ背。 倭訓栞「はつせ、云云、鞍置カヌ馬ヲモイヘリ」 同書、「日暮ルレバ、野飼ノ駒モ、歸ルメリ、はつせニ乘ヲ、シガヒカケツツ」

はっせい (名) 發聲 (一)コエヲタツルコト。又、最初ニ出ヅル聲。 向秀、思舊賦「鄰人有吹笛者、發聲寥亮、追思曩昔遊宴之好」 (二)宮中ノ御歌合ノ時、詠進ノ歌ヲ讀ミ上グルモノ。 御湯殿の上の日記、慶長三年正月十九日「御會ハジメアリ、云云、讀師中山大納言、かうじ頭右中辨、發聲持明院中納言ナリ」 作歌故實、一、和歌發聲ノ事、發聲ハ講ジヲハリテ、歌ヲツケテウタフ也、神樂ノウタヒモノノ家ノ業也」 (三)人類ノ發聲器(聲帶、及、口腔、鼻腔內ノ諸器官)ヲ通シテ出ヅル聲ヲ發音ト云フ。コレヲ先ヅ子音ト母音トニ別ツ。我ガ國ニテ、從來、母音(又ハ母韻)

ハ、五十音圖ノあ、い、う、え、おノ五音ヲ云ヒ、子音(又ハ子韻)ハ、加行以下ノ各行ノ諸音ニテ、コレヲ發聲ト云フ。詳シクハ、篇尾ノ語法指南、及、廣日本文典ヲ見ヨ。(四)音頭ヲトルコト。「某ノ發聲ニ、萬歲ヲ唱フ」

はっせい (名) 發生 (一)物ノ生ヒ出ヅルコト 潛夫論、漢、王符著「春夢ニ發生、夏夢ニ高明、秋冬夢ニ熟藏」 (二)事ノ起リ生ズルコト。

はっせい (名) 八姓 はっしゃう(八姓)ニ同ジ。

ばっせき (名) 末席 席ノスエノカタ。 姚康詩「自慚階末席、便與九霄通」

はつぜっく (名) 初節句 はつのせっく(初節句)ニ同ジ。

ばっせふ (名) 跋涉 〔詩經、鄘風、載馳篇、注「草行曰跋、水行曰涉」〕 山川ヲフミワタルコト。山川ヲ經テ行クコト。轉ジテ、諸處ヲ步キメグルコト。 遊仙窟「跋涉山川、深疲道路」 張載詩「跋涉山川、千里告勞」 杜甫詩「跼蹐已皆廢、跋涉曾不泥」 倭訓栞「はっせふ、跋涉トカケリ、山ヲコエ、川ヲワタル也」

はっせん (名) 八專 〔八支中ノ專日ノ意〕 曆ノ上ノ語。壬子ノ日ヨリ癸亥ノ日ニ至ル十二日間ノ稱。一年ニ六度アリ。但シ、其中、丑、辰、午、戌、ヲ間日ト云ヒテ除キ、其餘、八日ヲ得レバ名トス。壬モ、子モ、水ニテ、支、干、比和ストテ、此間、雨アリト云ヒ、又、嫁娶ヲ忌ム。八專日。 假名曆註解(山路平主佐撰)「八專、云云、壬子ノ日ニ入リテ十二日ノ間ナリ」 今宮心中(寶永、近松作)中「明日カラ はっせん 土用前、一段トヨウゴザロ」 俳諧古選「八專ノ、降リヲナ似セソ、花ノ雨」

はっせん (名) 發船 フナデ。出帆。解纜。 漢書、郊祀志、下「神怪奇方、以萬數、遂發船、令言海中神山者數千人、求蓬萊神人」 北戶錄(序、段公路)「南方將發船、皆殺雞擇骨爲卜、卽以肉祀船神、呼爲孟公孟姥」

ばっせん (名) 拔染 拔染ニ同ジ。

はっせんぢらう (名) 八專二郎 八專ノ第二日目ノ稱。猶、てんいちたらう(天一太郎)ノ條ヲモ參見セヨ。

はっせんたらう (名) 八專太郎 八專ノ第一日目ノ稱。猶、てんいちたらう(天一太郎)ノ條ヲモ參見セヨ。

はっせんび (名) 八專日 八專ニ同ジ。

はっせんやこゑ (名) 八千八聲 時鳥ノ聲ノ稱。 千紅萬紫(文化、大田覃)「カシマシイ、八千八聲、鳴カズトモ、二千本ヲ、夕、夕千本」

はつせめ (名) 初瀬女 大和國、初瀬山ノ山姬ノ神。ハッセヲトメ。

はっそう (名) 發送 物ヲ送リ出スコト。

はっそく (名) 八足 机ノ左右ニ、各、四脚アルモノ。神供ヲ載スル臺。ヤツアシ。ヤツアシノツクエ。

ばっそく (名) 罰則 罰ニ關スル規則。

ばつぞく (名) 閥族 (一)イヘガラ。家格。特ニ、貴キ門地。 (二)閥ヲ形成スル一團。

ばっそん (名) 末孫 又、まっそん。末ノ子孫。後胤。後裔。末裔。裔孫。 大戴禮、少閒篇「禹崩十有七世、乃有末孫桀」 漢書、劉向傳「雖有禹湯之德、不能訓末孫之桀紂」

はつそら (名) 初空 初メテ其時節ニナリタルラシキ空。又、初春ノ空。 夫木抄、

一、立春、今朝ヨリハ、雲ノ、アト[illegible]カヘル、春ノ初空」 [illegible] 山川ヤ、イハネモ、アラシニ知ルル、冬ノはつ空」

はつそらのつき (名) 初空月 陰曆、正月ノ異稱。 [illegible]「雪ハ猶、フル年ナガラ、空ソ春ハ、冴エニシママノ、はつそらのつき」

はつた (名) 初田 (一)新ニ開墾シタル田。新田。(二)初メテ稻ヲ刈ル田。 萬代集、四、秋、上「カリホニテ、日サヘ經ニケリ、秋風ニ、初田カリガネ、ハヤモナカナン」

はつだ (名) 發兌 書物ノ賣出シ。發行。

ばった (名) 飛蝗 〔蝗蚱ノ約轉〕 關東ニテ、蝗蟲ノ類ノ總名。ネギドノ、ネギソ、ネギムシ、ナドノ名モアリ。又、とのさまばったハ、おほいなごニ同ジ。其他、つちばったアリ。各條ニ註ス。 長町女腹切(正德、近松作)下「町代役ナカ棒チギリ木、ばったクサ莖ニ輝ノハカナキ命」

はったい (名) 糗麨 〔はたきノ音便訛、或ハ云フ、臼ニテ碎ケバ云フナラム。或ハ云フ、初田饗ノ約ト〕 農家ニテ、米、麥、ノ新穀ヲ焦シテ、石臼ニテ碾キテ粉ニシタルモノ。家家へ贈ル。麥ノはったいハむぎこがしナリ。 世諺古說甲「はったいハ、クロ米壹升、糯糵升五合ノツモリニテ、兩方トモイリ、粉ニヒキ、フルヒ、はったいニスルナリ」

はったい (名) 八體 (一)漢字ノ八種ノ書體。卽チ、古文(蒼頡ノ作ト傳フ)、大篆(周、史籀)、小篆(秦、李斯)、隸書(秦、程邈)、章草(漢、史遊)、飛白(後漢、蔡邕)、八分(秦、王次仲)、行書(後漢、劉德升)ノ稱。(漢時代ノ八體ハ、コレト甚シク異ナリ) 漢書、藝文志、小學家「八體六技」注「韋昭曰、八體、一曰、大篆、二曰、小篆、三曰、刻符、四曰、蟲書、五曰、摹印、六曰、署書、七曰、殳書、八曰、隸

書」(二)發句ノ風姿ノ八種ノ體。即チ、幽玄體、有心體、無心體、悠遠體、風艶體、風情體、高古體、風曲體ノ稱

はったいいし (名) [粿石] 鐵鑛ノ、沙礫、粘土等ト結合セルモノ、圓ク塊ヲ成ス、大ナルハ、徑、尺ニ至ル、殼堅ク、色、黑褐ナリ。內、空シクシテ、白色、或ハ、青白色ノ細粉滿ツ、粿ノ如シ、ハッタイセキ。コモチイシ。イシナダンゴ。カナツボイシ。泥褐鐵鑛。禹餘糧

はったいせき (名) [粿石] 前條ノ語ニ同ジ。

ばったう (名) [拔刀] ヌキミ。鞘ヨリ拔キハナシタル刀 三國志、吳志、孫權傳、注、江表傳曰、孫權拔ㇾ刀斫ニ前奏案一」

ばったく (名) [拔擢] 人ヲ引拔キテ、擧ゲ用ヰルコト。訛シテ、ばってき。 漢書、孔光傳「今復拔擢、備ニ內朝臣一」韓愈、酬ニ崔十六一詩「府公舊同袍、拔擢宰ニ山邑一」杜甫、送ニ使君赴任一詩「國待ニ賢良一急、君當ニ拔擢新一」

はつだけ (名) [初茸] 秋、諸菌ニ先立チテ生ズレバ名アリ、山中ノ松樹下、草中ニ生ズ。形、松茸ヨリ小サク、初生ヨリ傘ヲ張ル。傘ノ大キサ、徑二三寸、黃赤色ニシテ紫ヲ帶ビ、手ニ觸ルレバ藍色ニ變ズ。味、甘シ。青頭菌 芭蕉句集「初茸ヤ、マダ日數經ヌ、秋ノ露」

はったつ (名) [發達] ノビタツコト。發育シテ完全ニナルコト。又、進歩シテ完全ニナルコト。成長 [illegible]

はったつ (名) [八達] 道路ノ八方ヘ通ズルコト。何レノ方面ニモ通ズルコト。 [illegible]八達九衢ニ「四通八達」」

はったと (副) [礑] はたと(礑)ノ音便。 [illegible]大江山「走リカカリ、はったと打ツナニ、ムズト組ンデ」心中天網島(享保、近松作)上「頭ギハヲはったと蹴テ、ワット泣キ出シ」

はったん (名) [八端] (其一端ノ重サハ、普通ノ絹織物ノ八端ニ匹敵スルト云フヨリ名ヅク)又、八端掛。地、厚クシテ、黃褐色ノ縱橫ノ縞織ノ絹布。 [illegible]雜談、公方家、公ノ様、云云、八端かけハ、唯ノ八丈、八端ノ代リ、御東具ニモ八丈ナリ」

はったんがけ (名) [八端掛] 獻上物ニアル名。前條ノ語ニ同ジ。

はつだより (名) [初便] 新年ニナリテ、ハジメテ得ル音ヅレ。 芭蕉句集、[illegible]「閑カバヤ[illegible]ノ、初だより」

ばったり (副) ばたりノ音便 狂言記、瓜盜人「此ノ綱ヲ引ケバ上ガル、サゲルトサガル、ばったりばったり、サテモヲカシイ事カナ」[illegible]「物ノ落ル音也、ツヨク當ラズシテ落ル心也」

ぱったり (副) ぱたりノ音便。後音ナキニ云フ語。「足音、ぱったり絶エル」

はったりや (名) 僞物ヲ賣リツクルモノ。

はつたれ (名) [初垂] 初メテ垂レタル[illegible] [illegible](寬[illegible]二)[illegible]十六ニ長歌、オシテルヤ、難波ノ小江ノ、初垂ヲ、カラク垂レキテ」

ばち (名) (ばばち、ちノ略) 小兒ノ語 パパッチイ。パパッチ。パパ

パッチ (名) [朝鮮語、袴ヲばちト云フ] 或ハ云フ、英語、Pants (ぱんつ、股引) 股引ノ[illegible]ナルモノ 俚言集覽「[illegible]ノ襠カト」食住の記「寶曆ノ頃ヨリぱっち流行ル」「ぱっちハ半濁音、今イフモモヒキトイフモノヲ、[illegible]ク縫タル物、明和年中ヨリハジマリシト、アル老人イヘリ」

✣**はっちばうず** (名) [鉢坊主] (一)托鉢スル乞食僧ノ俗稱。化他道人 [illegible]ノ御修行」(二)小禄ノコト。(はちばうずノ意) 大經師昔曆(正德、近松作)中「國元デハ人並ニ武士ノ眞似ヲシテ、[illegible]主ノ[illegible]ホド、米モト[illegible]」

はっちん (名) [八音] はちいん(八音)ノ音便 其條ヲ見ヨ。

はっちん (名) [八珍] [八種ノ珍味ノ義] 即チ、牛、羊、麋、鹿、麕、豕、狗、狼、ナドヲ云フト云ヒ、又、龍肝、鳳髓、豹胎、鯉尾、鴞炙、猩脣、熊掌、酥酪ナドヲ云フトモ云フ、尚、他ニ諸說アリ」盛大ナル食膳ノ稱 [illegible]「不ㇾ過ㇾ適ㇾ口」羣書拾唾「後世八珍則曰、龍肝、鳳髓、[illegible]」

はっちゃう (名) [八挺] 巧者、達者ナドノ意ニテ、ヤヤ卑シム意ヲ含メテ云フ語。「ロモ八挺、手モ八挺」

はっちゃうみそ (名) [八丁味噌] [illegible]かざきはっちゃうみそ(同崎八丁味噌)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

はっちゃく (名) [發着] 出發スルト、到着スルト。發スルト、着スルト。

はつぢょ (名) [末女] 一番スエノムスメ。スエムスメ。末女。

はつぢ (名) [illegible]

ばっちり (副) 眼ナドノ、ハッキリシタルニ云フ語。パッチリ。[illegible] 「目ヲぱっちり開ク」

はっつけ (名) [磔] はりつけ(磔)ノ音便。[illegible]

はつつゆ (名) [初露] 秋ニナリテ、ハジメテ[illegible]

はっせい [illegible]

バッテイラ (名) [西班牙語、Batel] [illegible]

はつでう (名) [發條] ぜんまい(撥條)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ばってき (名) [拔擢] [ばったく(拔擢)ノ訛] ばったくノ條ヲ見ヨ。

はつでふ [illegible]

はってん (名) [發展] 展ビ擴ルコト。[illegible]榮エ行クコト。

はつでん (名) [發電] (一)電氣ヲ發生スルコト。又、電報ヲ發スルコト。(二)[illegible]

ばってん (接) ケレドモ。[illegible]

卽、ケレドモ、トイフコト、熊本ニテ、ケレドモ、又併シ、ヲイフ」「君ヲ尋ネタばってん、留守チャッタ」

はってん-ぜゃう（ハッテン・ジョウ）(名) [八囀聲] 梵語ノ名詞ヲ蘇漫多聲（Subanta.）ト云ヒ、其蘇漫多聲ニ、八種ノ語格アルコト。卽チ、體聲(我ガてにをは、ニ當ル)、業聲(賓格、又ハ、目的格)、具聲(に由りて、ニ當ル)、所爲聲(に、又ハ、へ、ニ當ル)、所從聲(より、ニ當ル)、所屬聲(の、又ハ、が、ニ當ル)、所依聲(に、ニ當ル)、呼聲(感嘆詞ノよ、ニ當ル)ナリ。　唯識樞要、上、本「蘇漫多聲說、卽八囀聲也」

はっ-と (名) [法度] 〔字ノ音、はふどノ音便〕(一)オキテ。サダメ。法。　梅松論「上ヲ尊ビ、下ヲ憐ミ、政道ノ法度、騎射ノ日記ヲ定メ置キテ、國ヲ治メ」大内家壁書「諸人過差事、度度被ニ仰出之處、動不ニ拘ニ御法度之條、不可然」(二)オキテトシテ、禁ズルコト。禁制。　明曆二年、丁月町觸「頰(ホホカブリ)被、頰覆面、堅法度候間、云云、堅此ニ敷儀」黒身の上(明曆)「其國ノ主ノ御觸トテ、着物ニ牛葉サス事ヲ法度ニシ、云云」　堀川波鼓(寶永、近松作)上「一夜泊モ法度ナリ」

はっ-と (名) [發途] カドテ。イデタチ。

はっ-と (副) 〔はト聲立ツル意〕俄ニ驚ク狀、又、ヒヤヒヤ思フ狀ニ云フ語。　平治物語、二、六波羅合戰事「平家ノ侍士防ギカネ、はっと引イテゾ入リニケル」曾我扇八景(寶永、近松作)上「補成オ先へ參ッテ、御ハカノソウヂ致サント、高高ト云フ聲ニ、はッと驚キ顏カクシ」「はッと思フ」「はッと驚ク」

バット (名) 〔英語、Bat.〕べえすぼおる、くりけっと、等ニテ、球ヲ打ツニ用ヰル棒。打球棒。

ぱっ-と (副) (一)取締ラヌ狀、又、取留メヌ狀ナドニ云フ語。[漫然] [漠然] (二)四方ヘ、ヒロガル狀ニ云フ語。　謠曲、間代曾我「某ガシワザト、ぱッと風聞仕リ候」

ぱっ-と (副) 物ノ輕ク俄ニ開キ、又、散リ、又、立ツナドノ狀ニ云フ語。(花、傘、烟ナドノ)　心中萬年草(寶永、近松作)中「浮キ名ヤぱッとチリ紙ノ」長唄、賤機帶「沖ノカモメノ、チリヤ、チリチリ、ムラムラぱッと、ぱッと亂ルル黒髮モ」「名ガぱッと立ツ」花ガぱッと開ク」

はつ-どう (名) [發動] (一)活動ヲ起スコト。運轉ヲ起スコト。(二)オコリ動クコト。　莊子、天運篇「人固有ニ戸居而龍見、雷聲而淵默、發動如ニ天地ニ者上乎」　史記、曆書、註「子規、春機發動、則先出ニ野澤ニ而鳴」

はつ-どう-き (名) [發動機] 熱、又ハ、電氣ノ力ニテ、動力ヲ起ス機械。飛行機、飛行船、船艦、汽車、電車、其他、諸機械ノ運轉ナドニ用ヰル。もおたあ。

はっ-とう-はふ（ハットウ・ホウ）(名) [撥鐙法] 字ヲ書クニ、大指ト食指トノ端ニ、筆管ヲ直立ニ持チ、他ノ三指ニテ運轉スル法。管ヲ執ル淺キコト馬鐙ヲ蹈ム(アブミ)ガ如クナレバ、撥動スルコト易シト云フ。　王虛舟文「後主撥鐙法、解者鮮、所ニ謂撥鐙者、逆筆也、筆尖向ニ裏、則全勢皆逆、無ニ浮滑之病ニ矣、學試撥ニ燈火ニ可ニ悟ニ其法ニ」楊升菴文「鐙、古燈字、撥鐙、畫沙、懸針、垂露皆喩言、撥鐙如ニ挑ニ燈、不ニ急不ニ徐也」二老略傳「撥鐙法ト云フハ、筆書ニ儼然タリト云ヘドモ、文章ニ書キトラヌ心故、師直ニ筆ヲ取リテ、カクノ如クト直ニ傳授セネバナラヌ」撥鐙秘訣「魏晉以來ノ隸艸行字ハ、決シテ雙鉤ニ非ザレバ書スベカラズ、幸ヒニ此ノ撥鐙ノ法アリテ、而モ口授面命ノ直傳アリ」

はつ-とがり (名) [初鳥狩] 秋、鷙鳥ノ渡來スル頃、始メテスル鷹狩。　萬葉集、十九「始(ハットガリ)鷹狩ダニ、セズヤ別レム」「伊波世野ニ、秋萩シヌギ、馬並メテ、

はっ-とく (名) [八德] (一)人ノ具フベキ八種ノ德。卽チ、仁、義、禮、智、信、忠、孝、悌ノ稱。(二)どうふく(胴服)ニ同ジ。(十德ニ似タレバ云フトゾ)　蜷川記(蜷川親俊)「カタ衣ノ上ニ、八德、又ハ、ウハギヌナド打カケ、貴人ノ御前ヘ參候事、イカガニ見エ候也」時慶卿記、文祿二年五月十二日「紹巴、昌叱ハ禪衣也、玄仍ハ八德也」萬金産業袋(享保、三宅也來)五、衣服「サマサマニ物好風流ヲカサリテ、日々ツヤウニス、八德ハ、モッパラ著用スル事、俳人畫工ニアリ」

はつ-どこ (名) [初床] みづあげ(水揚)ノ條ヲ見ヨ。　好色伊勢物語「はつどこノ、名モ迷惑ノ、コトナガラ、ウラルルモノト、思ヒケルカナ」頭書、はつどこ、一名水アゲ、カブロノ内ヨリ大夫、天神、夫夫ノ女郎ニツキテ、此里ノワケヨリ始メテ、三味、小歌、其外ノ藝、大カタナレバ、器量ト利發ノ程ニヨリテ、初メテ女郎ノ名ヲ賣ル、是ヲ買初ムル大臣ヲ、水アゲストモ、又ハ初床トモイヘリ」

はつ-とり (名) [初鷄] (一)曉ニ鷄ノ一番ニ鳴クコト。八聲ナリ。二番、三番アリ。(二)元朝ノ鷄ノ第一ノ聲。

はつ-とり (名) [初鳥] 其時季ニナリテ、初メテ鳴ク鳥。　爲尹千首、秋「何トナク、ネザメノ枕、モノサビシ、秋コノゴロノ、はつとりノ聲」

はつ-とり (名) [初酉] 十一月ノ初ノ酉ノ日。又、其日ノ酉の町。

はっ-とり (名) [服部] 〔はとりべノ音便略〕(一)はとり(服部)ノ條ヲ見ヨ。(二)次條ノ語ノ略。　雪女五枚羽子板(寶永、近松作)上「奴ニ持タセシ烟管筒、一服ツイデ燻ラスル、目覺草ハ服部ノ、八聲モ鐘モ霞ミ行ク」

はっとり-タバコ (名) [服部煙草] 攝津國、島上郡(今、三島郡)服部村ヨリ産出スル煙草ヲ云フ。略シテ、はっとり。　蘭(タバ)陽話談(元祿、岡田溪志)十六、名物土産「服部煙草、島上郡服部村ノ田圃ニ作レリ、莖細ク葉厚ク、色虎ノ如クニテ斑ナリ、香遠ク芬ジ、香味相共ニカウバシクシテ不同、好デ求ム之」　…門(寶永、近松作)下「見ッキハキツイ服部煙草、煙草ヲ引寄セ」

は-づな（ハ・ズナ）(名) [端綱] 〔或ハ云フ、張綱(ハリヅナ)ノ略〕馬ノ口ニ着ケテ牽ク綱。タヅナ。[轡綱]　運歩色葉集、「轡綱、ハヅナ」

はつな-ぐさ (名) [初名草] かんばい(寒梅)ノ異名。　蘭玉集、冬「初名草、冬梅、萬代ニ、咲ケル中ニモ、初名草、春ヲ待タデヤ、花ヲ見ルラン」

はつ-なすび (名) [初茄子] 其年、初メテ生リタル茄子。初生ノ茄子。昔ハ賞翫セシモノニテ、駿河ヨリ五月ニ出スモノ名アリキ。　懐子俳諧集、蕎治「白泉サヘ、燒クノ名ガリキ」田樂ノ、食ヒカネナ、初茄子トテ、守護ニ取ラルル」

ばつ-なん (名) [末男] 一番スエノムスコ。季子。　書言字考節用集、四、人倫門「末男(バッナン)」

はつ-なり (名) [初生] [初成] 稼、果、蔬菜ナドノ、其年ニ、初メテ生リタルモノ。　御湯殿の上の日記「アタゴ參ル、はつなりメデタシ」日本永代藏(貞享、西鶴)二「東寺アタリノ里人、茄子ノ初(ハツナリ)成ヲ目籠ニ入レテ賣リ來ルヲ、七十五日ノ齡、コレ樂ミノ一ツハ二文、二ツハ三文ト直段ヲ定メ」寬永發句帳、瓜茄子の句の中に「はつなりヤ、先ヅ是式ノ、捧ゲ物」

はつ-に (名) [初荷] 每年、一月二日、商家ニテ、商品ヲ取引先ヘ配リ送ルコト。荷ヲ車ニ積ミ、飾ヲシ、賑ハシク曳キテ歩ク。浪花の風「正月二日ハ初荷トテ、元日夜半過ヨリ、商物ヲ車ニテ引出シ、市中大ニ賑ハシ」

ばつ-にち (名) [伐日] 陰陽家ニテ、下ノモノガ上ノモノヲ相剋スト云フ日。卽チ、甲申、丙子、戊寅、庚午、壬辰、壬戌、乙酉、丁亥、己卯、辛巳、癸未、癸丑ノ日ナリ。

はつ-ね (名) [初子] (一)正月ニ初メテノ

子ノ日ノ稱。コレニ次ギテ、中の子、乙子ト云フアリ。[illegible]萬葉集、廿、[illegible]天平寶字二年正月三日「初春ノ、波都禰ノ今日ノ、玉箒、手ニ取ルカラニ、ユラグ玉ノ緒」(玉箒ハ、子の日ニ蠶神ヲ祀ルモノト云フ) 散木集、一、春、正月ノ初子の日、子忌ト云ヒテ、家ヲ出デテ、野ニ行キテ、[illegible]ネモスニ居暮シテ、若ヲ鶏リテ、[illegible]スルすりニ、[illegible]ト云フナル物ニスナルヲ、云云、春タテバ、初子ノイミニ、旅居シテ、神ノ下ナル、小松ヲゾ引ク」[illegible]拾遺集、十八、雜、四「今日、中のねトハ知ラズヤトテ、友ダチノ許ナリケル人、松ヲ結ビテすコセテハベリケレバヨメル」宇津保物語、菊宴「后ノ宮ノ賀、正月廿七日ニ出クルおと子ニナムツカウマツレリ」(二)十一月(子ノ月)ノ初ノ子の日ノ稱。コノ日ニ、商家ニテ大黑天ヲ祭ル。利ヲ得ムコト、鼠ノ子ノ蕃息スルガ如クナラムヲ願フ意ナリト。

はつね (名) |初音| (一)鶯、杜鵑ナドノ、其年、始メテ鳴キ出ヅル聲。歌ナドニ賞シテ云フ。榮花物語、十二、木綿四手「[illegible]ノウラワカキ初音ニモ」源、廿三、初音「年月ヲ、松ニ引カレテ、フルヒトニ、今日鶯ノ、初音聞カセヨ」古今集、十六、雜、春「誰ニヨリ、松ヲモヒカム、鶯ノ、初音カヒナキ、今日ニモアルカナ」[illegible]千載集、三、夏「ツレナキヲ、習ヒニナサデ、時鳥、今年ハ早ク、はつねナカナム」(二)黃熟香ノ異名。(細川家ニテ云フ)、金葉集、二、夏「キクタビニ、珍ラシケレバ、時鳥、イツモ初音ノ、心チコソスレ」ニ因リテ名ヅク) (三)禁中ニテ、飯炊ノ女ノ稱[illegible]ホトトギス、はつねモイソゲ、[illegible]」

はつねつ (名) |發熱| ほつねつ(發熱)ニ同ジ。[illegible]

はつのせっく (名) |初節句| (せっく(節句)ノ條ヲ見ヨ) 又、はつぜっく。生兒ノ初メテノ節句。男子ニハ五月節句ヲ云ヒ、女子ニハ三月節句ヲ云フ。[illegible]アル家ニハ、初の節句トテ、分ケテ祝フ」[illegible]の節句トテ、別ケテ祝フ」

はつのぼり (名) |初幟| 男兒ノ生レテ、初メテノ五月節句ヲ祝フタメニ樹ツル幟。又、ソノ祝。[illegible]のぼり、紋ノアヤメモアザヤカニ」[illegible]

はつのみ (名) 〔初の身ノ意カ〕 はつ(鮪)ニ同ジ。マグロ。(上方)

はば (名) 月ナドノ、鯖ノ、美シク光ルモノ。[illegible]

はっぱ (名) は(葉)ト云フニ同ジ。

はっぱ (數) |八八| 八ニ八ヲ乘ケタル數。即チ、六十四。

ぱっぱ (名) 「すぱすぱ」ノ約、其吸フ音ヨリ云フ」煙草ノ小兒語。

パッパ (名) |法王| [illegible]

はつばい (名) |發賣| 品物ヲ賣リ始ムルコト。[illegible]

はつばい (名) [illegible]

テ飲マスル酒。

はっぱう (名) |發砲| 鐵砲ヲウチ放ツコト。特ニ、大砲ヲウツコト。

はっぱう (名) |發泡| 齊藥ノ名。[illegible]

はっぱう (名) |八方| (一)四方ト、四隅ト。[illegible]ケル」(二)メグリ。諸方。「八方ヨリ攻來ル」 (三)大ナル懸行燈ノ名。八間ニ同ジ。

はっぱうにらみ (名) |八方睨| (一)畫像ナドノ目ガ、何レノ方面ヨリ見ルモ、睨ミテ居ルガ如ク見ユルコト。又、ソノ畫像。(二)八方へ目ヲクバルコト。

はっぱうびじん (名) |八方美人| 何人ニ對シテモ、如才ナク、都合ヨク交際スル人ヲ言フ語。八面玲瓏。

はつはつ [illegible]

はっはっと (副) 危ブミ氣ヅカハルル狀ニ云フ語。[illegible]

はつはつみ (副) |端端| 〔はつはつ(極ノ義)〕 ハツカニ。ワヅカニ。[illegible]

ノ端ニ、サシ出ヅル月ノ、[illegible]

ばっぱと (副) (一)[illegible] (二)飛ビ散ル狀ニ云フ語。

はつはな (名) |初花| (一)(初春、第一ニ咲ク花。[illegible]

はつはなぞめ (名) |初花染| 紅花ノ初花ニテ染ムル[illegible]

はつはる (名) |初春| 春ノ初メ。新春。[illegible]

はつはるづき (名) |初春月| [illegible]

はつひ (名) |初日| 元日ノ朝日。[illegible]

ウ音ノ、訛ニ立チヨル、初日哉」

はっぴ (名) [法被] [字ノ音、法被(ハフヒ)ノ音便] 禪林ニ、禪家ニテ、椅子ノ背ニ蒙スル布。禪林象器箋、二十八、器物門「法被(ハッピ)、覆ニ蒙椅子ニ之被也」易林本節用集、衣食門「法被、ハッピ」庭訓往來、十一月「法被、打敷、水引、何モ富貴ノ物ナリ」下學集、下、絹布門「法被、打敷」貞德文集、御能ノ裝束「法被、半切、長絹、大口」(二)モト武家ニテ、鍬卒ノ表衣ニ着スル羽織ノ如キモノ。家ノ標(シルシ)ナド染付ク。今、一般ニ、職人ナドコレヲ用ヰル。シルシバンテン。カンバン。東行話說(寶曆、安部泰邦)荒井渡「水主(カコ)ノ者、皆、大島ノはっぴヲナム着タル」 春波樓筆記(司馬江漢)「大名ノ火事羽織ハ、クスベ皮ナリ、從者ハ木綿ノはっぴ」

はっぴ (名) [半臂] はんぴ(半臂)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

はつひかげ (名) [初日影] 初日ノ光。七車(享保、鬼貫)「ウチハレテ、障子モ白シ、初日影」

はつびな (名) [初雛] 女兒ノ生後、初メテ三月節句ヲ祝フタメニ飾ル雛人形。又、ソノ節句ノ祝。

はつひので (名) [初日出] 元朝ノ日出。人人、特ニコレヲ拜ス。

はつびゃう (名) [發病] 病氣ノ起ルコト。

はっぴゃくはったう (名) [八百八島] 陸前國ノ松島ノ異稱。(島數、多キ故ニ云フ)

はっぴゃくや (名) [八百八] モノノ數、多キコトニ云フ語。風俗文選、湖水賦「山谷ノシタタル所、八百八川、湖ヲ圍ム水郷五百餘村」

はっぴゃくやごけ (名) [八百八後家] (一)女一室ニ住ミテ、後家ノ世帶ノ如ク、數多キニ因リテ、八百八ト云フ」 越後國、新潟ノ娼妓ノ異名。

はっぴゃくやちゃう (名) [八百八町] 江戶明曆大火ノ時ノ町數。コレハ町ノ南側ヲ延ベタル町數ナリト云フ(野叟獨語ニ、文化ノ頃ハ、二千六百何十町アリト見エタリ)

はっぷ (名) [發布] 世上ニ觸レ告グルコト。世間ニ公布スルコト。「憲法發布」

はっぷ (名) [髮膚] 毛髮ト、皮膚ト。轉ジテ、身體全部ノ稱。孝經、開宗明義篇「身體髮膚受ニ之父母ニ、不ニ敢毀傷ニ、孝之始也」

パップ (名) (蘭語、Pap.) 湯ニ漬シタル麪包(パン)。小兒ノ食ニ起ル」 醫ノ語。麪包ヲ熱湯ニ漬シタルヲ布ニテ包ミ、腫物ヲ熱蒸(ムシ)テ、結膿ヲ促スモノ。

はつぶたい (名) [初舞臺] (一)初メテ舞臺ニ出デテ、技ヲ演ズルコト。(二)演說、其他ノ事ナドヲ、初メテ公衆ノ前ニ出デテ、行フコト。

はっぷん (名) [八分] 漢字ノ書體ノ名、一名、章程書。其下書(シタガキ)ニシタルヲ章草ト稱ス。秦ノ始皇ノ時、王次仲ノ作リ出シタルモノト云フ。其體、八ノ字ヲ分散シタルガ如シ。或ハ云フ、小篆二分ト隸書八分ト、雜ル體ナリト。書斷(唐、張懷瓘)「八分者、秦羽人、上谷王次仲所ニ作也、始皇之世、出ニ其數書、小篆古形、猶存ニ其半、八分已減ニ小篆之半、隸又減ニ八分之半ニ云云」 書苑、蔡文姬言「割ニ程邈字八分、取ニ二分、割ニ李篆字二分、取ニ八分、於ニ是爲ニ八分ニ」 鷹鸛文「李斯作ニ小篆、程邈作ニ隸、王次仲作ニ八分ニ」 杜甫、小篆歌「大小篆生ニ八分ニ」

はっぷん (名) [發憤發忿] 憤(イキドホリ)ヲ發スルコト。勇氣ヲ奮ヒ起スコト。慨然トシテ、意氣ヲ奮ヒ起スコト。[illegible]「發憤忘ニ食、樂以忘ニ憂、不ニ知ニ老之將ニ至云爾」 [illegible]「[illegible]悲ニ故鄉ニ而發忿、[illegible]之[illegible]久」

はつぶり (名) [半頭][半首] 「半頭(ハンツブリ)ノ略」(一)兜ノ類ノ、鉢無キモノ。頭ヘ半分カカル故ノ名。內冑ヲ射サスマジキ用心ニ、額ヨリ頭ヘ半分カクルナリ。易林本節用集(慶長)上、器財門「半首、ハツフリ」保元物語、二、白河殿攻落事「ヨ引イテ放ス矢ガ、御曹子ノ半頭(シコロ)ニカラリトアタッテ、冑ノ鞠ニ射付ケタリ」(二)額金(ヒタヒガネ)ヲ入レタル鉢卷。又、ハッピ。題鐵。

はっぺう (名) [發表] 出シアラハスコト。衆ニ示スコト。世ニ知ラスルコト。

ばつびゃう (名) [拔錨] 錨(イカリ)ヲ上ゲテ、船出スルコト。出帆。解纜。

はつほ (名) [初穗] (一)其年ニ、稻ノ穗ノ實(ミノ)リ初メタルモノ。新續古今集、七、賀「萬代ノ、タメシニゾツク、田上ヤ、秋ノはつほノ、ナガヒコノ稻」(二)又、ソレヲ採リテ、先ヅ神ヘモ朝廷ヘモ奉ルモノ。祈年祭祝詞「八束穗ノ伊加志穗ニ、云云、初穗乎波千穎八百穎ニ奉リ置キテ」(三)轉ジテハ、金銀、米錢、何ニテモ、神佛ニ奉ルヲモ云フ。三代實錄、十八、貞觀十二年十一月十七日「所ニ鑄作ニ之早穗(ハツホ)、二十文」(新錢ナリ) 西宮記、臨時、一、改錢「鑄錢司、進ニ新錢ニ奏 解文ニ之後、先奉ニ神社佛寺ニ」(四)食物ノ類ヲ、先ヅ主タル人ニ供フルモノ。榮花物語、十、日蔭鬘「ヤマノゴト、サカタノ稻ヲ、ヌキツミテ、君ガチトセノ、はつほニゾツク」(五)以上ノ意ヲ誤リテ、毒味ノ意ニテ、試食スルコト。

ばっぽう (名) [罰俸] 懲戒處分ニヨリテ、官吏ナドノ、俸給ノ全部、若シクハ、幾分カヲ納付セシメラルルコト。金史、刑志「[illegible]罰俸一月」

はつぼくはふ (名) [潑墨法] スミツキヲヨクスルコト。ツヤヲダスコト。コレニ對シテ、カスルルヲ、破墨法ト云フ。[illegible]先以ニ墨潑ニ絹、[illegible]其形ニ爲ニ山水石ニ、不ニ見ニ其墨汁之跡ニ」

はつほたる (名) [初螢] 夏ニナリテ、初メテ現ハルル螢。一茶句集、夏「初ほたる、ツイト外レタル、手風哉」

はつみ (名) [初巳] 一月ノ初ノ巳ノ日。コノ日、辨財天ノ社ニ參詣ス。(辨財天ノツカハシメヲ蛇トスル故ニ)

はつみぐさ (名) [初見草] (一)まつ(松)ノ異名。藏玉集、春「松、年ゴトニ、綠ノ色モ、初み草、カハラヌ色ノ、名ニヤメヅラン」(二)うのはな(卯花)ノ異名。藏玉集、夏「卯花、はつみぐさ、マダ咲カヌマニ、時鳥、立田ノ山ノ、里ニ鳴キケリ」(三)ふゆぎく(冬菊)ノ異名。藏玉集、冬「冬菊、シグレフル、庭ニケフシモ、はつみぐさ、花サキニケリ、霜ヤオクラン」

はつみづき (名) [初見月] 陰曆、正月ノ異稱。ムツキ。

はつみみ (名) [初耳] 始メテ聞キタルコト。始メテ耳ニスルコト。

はづむ・む・む・め・ま・み・め (自動、四) [反跳][卻含] [はずむノ訛] (一)勢ニ乘ル。類聚名抄「卻含、ハヅム、鞠」 饅頭屋本、節用集「卻含、ハヅム、鞠」 史記抄(文明)六、二「項籍ハ、急ニはづんデ、云タガ、キコヘタゾ」 色道大鏡(延寶)「はづむ、蹴鞠ヨリ出デタル語ナリ、云云、スベテ殘ニ乘ズル所ニ用フ」(二)馬、躍ル。饅頭屋本、節用集「餘見、ハヅム、馬」

はつむかし (名) [初昔] [八十八夜ヨリ廿一日目ニ初芽ヲ摘メル茶ヲ初昔トス。

廿一日ノ三字ヲ合スレバ、昔ノ字トナルト云フ説ハ、非ナリ」云フ」一名、バムカシ。濃茶ノ銘ニ云フ語。初昔ノ後ニ摘ム茶ヲ、後昔ト云フ。往時ハ此二種、幕府ノ用トシテ、貢物トハナサザリキ。ごくぞろへ（極揃）ノ條ヲモ見ヨ。 村山善入家記（山城國、宇治ノ人）「古へ、茶ハ叢シテ製シタルニ、古田織部正、茶ノ風味ニ構ハズ、色ヲ專ラトシ、青クナルヤウニト、深デテ製セシム、小堀遠江守、色ヨリモ風味ヲ戀シクテハ、不本意ナリトテ、故ノ如ク、叢シテ製セシム、昔ノヤウニ叢茶ニナレリトテ、昔トハ銘シタリ、初昔、後昔ノ差別ハ、一番採、二番採ノ事ナリ」檜欅三重帷子（享保、近松作）上「昨日ハ今日ノ初昔、世ノ口ニ合フ茶ノ名所」卯月閏色（寶永、近松作）中「薄茶ハ、変シタ言葉モ冷メ切ッテ、水クサウテ飲マレマイ、互ヒニコイ茶ノ初昔、私ハ忘レハシマセヌト」

はつめい (名) |發明| (一)始メテ考ヘ出シ、又、見出スコト。又、新ニ物事ヲ作リ出スコト。新工夫。 漢書、中山靖王傳「無所ニ能發明功名著ト於世一者ト」「發明家」 (二)啓キ發スコト。ヒラキ明カニスルコト。 後漢書、徐防傳「詩書禮樂、定自ニ孔子一、發ニ明章句一、始於子夏ニ」 (三)賢ク物ヲ考ヘ分クルコト。カシコキコト。サカシキコト。リコウ。利發。怜悧 聖德太子繪傳記（享保、近松作）三「兒欲若、發明モノ一」

はつもとゆひ (名) |初元結| 昔、元服ノ時ニ、髮ヲ結フニ用ヰル紐。紫ノ組絲ヲ用ヰルトゾ。 源、一、桐壺「イトケナキ、初元結ニ、長キ世ヲ、契ル心ハ、結ビコメツヤ」 拾遺集、五、賀「ユヒソムル、初元結ノ、コムラサキ、衣ノ色ニ、ウツレトゾ思フ」[illegible]ハヤシテ祝言[illegible]ハメテタカルベシヤ」

はつもの (名) |初物| 穀果、蔬菜ノ初生ナド、スベテ其時ニ取リテ、新シク出來タルモノ。ハシリ。ハヤデ。新味 時新 日本新永代藏（正德、北條團水）四「ゲニ君ガ代ノ有難キ事ハ、町人トテモ、[illegible]ニテ、大名ヨリ先キニ、時時ノ初物ノ賞翫仕ル事、トカク[illegible]銀威コソメデタケレ」 俳諧古選、附錄「初物ニ、噫ハレテヲカシ、三月蚊」

はつもみぢ (名) |初紅葉| 次條ノ語ノ略。 續千載集、五、秋、下「染メテケリ、三室ノ山ノ、初紅葉、時雨モ露モ、色ニ出デツツ」

はつもみぢば (名) |初紅葉| 秋ニナリテ、初メテ色ヅキタル紅葉。略シテ、はつもみぢ。 萬葉集、八 四十「メヅラシト、ワカモフ君ハ、秋山ノ、始黃葉ニ、似テコソアリケレ」 同、十 四十「吉野ノ、始黃葉ヲ、手折リモテ、今日ゾワガ來ル、見ヌ人ノタメ」

はつやう (名) |發揚| (一)フルヒオコスコト。 禮記、樂記篇「發揚蹈厲之已蚤何也、對曰、及時事也」同、同「夫樂者、象成者也、總干而山立、武王之事也、發揚蹈厲、太公之志也、亂皆坐、周召之治也」 (二)ノベアラハスコト。アゲアラハスコト。

はつやま (名) |初山| 靈山ナドニ、其年、第一ニ登リ詣ヅルコト。(特ニ、關東ニテハ、相摸ノ大山ニ云フ) 或ハ、始メテ其山ニ登ルコト。

はづゆ (名) |巴豆油| 巴豆ヨリ採リタル油。透明ニシテ稍黏氣アリ。褐色、又ハ、黃色ヲ呈シ、藥用ニ供セラル。

はつゆき (名) |初雪| 其年ノ冬ニ、初メテ降ル雪。 萬葉集、廿 五十二「波都由伎ハ、チヘニ降リシケ、コヒシクノ、オホカル我ハ、見ツツシヌバム」 後撰集、十六、雜、六「身ヲツメバ、哀トゾ思フ、初雪ノ、フリヌルコトモ、誰ニ云ハマシ」 [illegible]降リヤミヌメリ」

はつゆきのげんざん (名) |初雪見參| 又、はつゆきのげざん。古ヘ、初雪ノ降リシ日、群臣ノ參內セシコト。又、其儀式。 公事根源、下、[illegible]「初雪ノ降リタル日、[illegible]ルヲ、はつゆきのげんざんト申スナリ」

はつゆめ (名) |初夢| 元日ノ夜ノ夢。其吉凶ヲ云フ。今ハ、正月二日ノ夜ノ夢トシ、寶船ノ畫ヲ枕ノ下ニ敷キテ寢ヌ。若シ惡夢ヲ見タル時ハ、其畫ヲ水ニ流スト云フ。 [illegible]初夢、合ハセ哉」

はつゆめづけ (名) |初夢漬| 小サキ茄子ヲ、先ヅ甘鹽ニ漬ケ、次ニ芥子ト麹トニテ漬ケタルモノ。 [illegible]

はつよ (名) |初夜| 其時季ニ入リテ、初メノ夜。 [illegible]つ夜、イツノマニ、片敷ク袖ノ、サエワタルラム」

はつよぐさ (名) |門代草| 門松ノ異名。 [illegible]さ、幾年人ニ、馴(ナイ)レテ立ツラム」

はつらい (名) |初雷| はつかみなり(初雷)ニ同ジ。

はつらつ (名) |潑剌| 魚ノ躍リテ飛ビ跳ヌルコト。イキノヨキコト。 [illegible]

はつらつと (副) |潑剌潑剌| (一)魚ノ飛ビ跳ヌル状ニ云フ語。ぴちぴちノ擬聲語。 [illegible] (二)轉ジテ、元氣ノ溢ルルバカリ勢ヒヨキ状ニ云フ語。

はつらんはんせい (句) |撥亂反正| 亂ヲ治メテ、正ニ復スルコト。 公羊傳、哀公十四年「撥亂世、反諸正、[illegible]」 [illegible]「撥亂反正」

はつり (名) [illegible]

はつり (名) |斧| 斧ノ異名。伊豆、伊東[illegible]ハツリモノ。

ばつりう (名) |末流| 子孫ノ末。後胤。 [illegible]

はつる ル・ル・レ・リ・レ (他動、四) |削| 少シヅツ削リ取ル。ヘヅル。 [illegible]

はつる ル・ル・レ・レ・レヨ (自動、下二) [illegible]

はづる ル・ル・レ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [illegible]

テモカヒナキ、身ニシアレバ、ケフノマトヰニ、はづれヌルカナ」風雅集、九、旅「岩タタミ、ノボリワヅラフ、峰ツヾキ、[illegible]ニはづれテ、[illegible]ユルリケハシ」延慶本[illegible]一、木[illegible]胴取ノ金物ノはづれテ、キラメキテ見エケルヲ」「戸外る」（二）中（アタ）ラズ。失錯 著聞集、九、弓箭「ヨクヒキテハナチタリケレバ、左ノ脇ノ下五寸バカリノキテ外れニケレバ」「法ニ外る」道ニ外る」擇ビニ外る」工夫外る」

はづれ（ハヅレ）（名）[外]（一）ハヅルルコト。中ラヌコト。ハマラヌコト。（二）ハテ。ハシ。ツマリ。[端] 新六帖、二「ムラ雨ノ、ソラ打チナビク、秋ノ田ノ、雲ノはづれニ、殘ル宿ツマ」義經記、三、「鐵の宿にて吉次宿に強盜入る事」明クレバ宿ノ東ノはづれニ、五人ガ首ヲカケ、札ヲ書キテゾ添ヘラレケル」冥途飛脚（正德、近松作）下「詞ノ端れニ孫右衛門、熟熟ト推量シ」「町ノ外れ」

はつれん（名）[發輦] 天子ノ御出立。

はつれゆき（名）[斑雪] 又、はだれゆき。はだれゆき（斑雪）ニ同ジ。犬子集（寛永）「踏ミチラス、人ノ小鬚ヨ、はつれゆき」

はつろ（名）[發露] アラハルルコト。露顯。太平記、廿四、壬生地藏事「是レ（地藏尊）ヲ禁メ奉リヌル者共三人、發露涕泣シテ、罪障懺悔スルニ猶不レ堪」

ばつろ（名）[末路] まつろ（末路）ニ同ジ。漢書、蒯通傳「至二其晩節末路一、張耳陳餘遂ニ從兵之據、以即ニ函谷一」陸游詩「幽居不レ負秋來睡、末路偏諳世上情」高啓詩「平生飄レ笑下黃甫、末路正書少官情」

はつゑ（ハツエ）（名）[苗裔]（はつすゑノ略）末ノ子孫。「火酢芹命ノ苗裔」

はつを（ハツヲ）（名）[極尾][端尾] 尾ノ中ノ長キ尾。シダリヲ。萬葉集、十四、廿「山鳥ノ、尾ロノ波都乎（ハツヲ）ニ、鏡カケ、トナフベミコソ、ナニヨソリケメ」續古今集、十四、戀、四「高砂ノ、山ノ山鳥、ヲノヘナル、はつをノ垂尾、長ク[illegible]フラム」

はて（名）[果]（一）[果（ハ）ツルコト。ヲハリ。スヱ。シマヒ。ハテシ。最終] 古今集、二、春、下「殘リナク、散ルゾメデタキ、櫻花、アリテ世ノ中、はてノ憂ケレバ」貫之集「色見エテ、ユキツモリタル、身ノはてヤ、ツヒニ消スベキ、病ナルラン」史記抄（文明）四「太后ハ、邯鄲ノ傾城ノはてヂャホドニ、不調デ浮亂ナゾ」女殺油地獄（享保、近松作）下「オ吉殿殺シ金ヲ取リシハ河内與兵衛、云云、果ハ千日千人聞キ、萬人聞ケバ十萬人、殘ル方ナク世ノカガミ」（二）山野、海洋ナドノ極。カギリ。キハミ。[際涯] 夫木抄、廿五「ハルカナル、ナチノ濱路ヲ、過ギテコソ、浦ト海トノ、はてハミエケレ」（三）[專ラ、喪ノ終ハル時。] 四十九日ニモ、一周忌ニモ、云フ。落窪物語、四「御四十九日ニナリヌ、コタミコソ、はてノ事ナレバトテ」新古今集、八、哀傷「覺快法親王、カクレハベリテ、周忌ノはてニ、墓所ニマカリテ」枕草子、七、六十四段「圓融院ノ御はてノ年、皆人、御服（ぶく）スギナドシテ」持統紀、元年九月「國忌（ハテノヒヲガミ）齋」周忌ノ齋會ナリ」同、二年二月「自レ今以後、毎レ取二國忌（ハテノヒ）日一、要（カナラズ）須レ齋（ヲガミ）也」（四）オチブルルコト。ナリハテタルコト。川柳吉原志「者（シャ）ノはてト、知レタハ酒ノ、シタミヤウ」

ばて（名）[八手] 刈リ取リタル稻、又ハ、麥ナドヲ懸ケテ乾ス木。又、ハツキ。ハサ。曾丹集、五月「山賤ノ、はてニ刈リ乾ス、麥ノ穗ノ、クダケテ物ヲ、オモフコロカナ」堀河百首「宿モ狹ニ、朝ゴト稻ヲ、乾スヨリハ、はてヲ結ヒテゾ、懸クベカリケル」

は・て（動）[泊] はつ（泊）ノ條ヲ見ヨ。

はて（感）（一）怪ムトキ、惑フトキナドニ發スル聲。[怪底] 心中天網島（享保、近松作）中「サ樣ヂャ、はて、何トセウ」「はて面妖ナ」（二）考ヘカヘス時ナドニ發スル聲。狂言記、釣女「はて、ココナ奴メハ、彼方次第ニシテ釣レ」同、惡坊「はて、合點ノイカヌモノヂャ」

はで（名）[映（ハエ）ノ轉カ、又、はえ手ノ略カ。]（葉出、葉手、派手ナドトモ書ク）華ヤカニ飾リ衒フコト。美美シキコト。ケバケバシキコト。ダテ。（樸素（ヂミ）ノ反）[華美][衒耀] 浮世風呂（文化、三馬）三、編、上「女房ニ許リ踏サレテタ上句ニ、はでナ女房ヲ初メテ持チテ見タ」女重寶記「時ノハヤリ模樣ハ、大カタ歌舞伎ヨリ出ヅルナレバ、是レヲ好ミ着給フモ、破手ニ見エテ聽シシ」「はでヅクリ」はで衣」はで姿」はで者」

はで（名）[破手][端手] 三味線ノ彈キ方ノ名。ほんて（本手）ノ條ヲ見ヨ。

パテ（名）[英語、Putty.]（一）石灰ト亞麻仁油トヲ混合シタルモノニテ、格子ニ、硝子板ヲ取リ付クルニ用ヰル塗料。（二）鉛丹ヲ亞麻仁油ニテ捏リタルモノニテ、鐵管ノ繼目ナドニ、麻絲ナドト共ニ用ヰテ、漏レヲ防グ塗料。

ばてい（名）[馬丁]（一）駄馬ノ口付。馬子。ウマカタ。ウマヒキ。（二）乘馬ノ口付。クチトリ。ベッタウ。

ばてい（名）[馬蹄] ウマノヒヅメ。莊子、馬蹄篇「馬蹄可二以踐一レ霜雪、毛可二以禦一レ風寒一」

ばていぎん（名）[馬蹄銀]（馬蹄ヲ仰ケタルガ如キ形ノモノ）支那ニテ、貨幣ノ如ク用ヰラルル銀塊。上面ニ製造所ノ極印ヲ打チ、又、其量目ヲ刻ス。大抵、一箇ノ重量、五十兩（リャン）（約四百九十匁）内外ノモノ。元寶。寶紋。寶銀

ばていせき（名）[馬蹄石] 駿河國ノ安倍川ヨリ出ヅル石。色黑ク、圓キ馬ノ足跡ノ如キ窪アリ。庭ノ置石トシ、又、ソノ窪ヲ海トシテ、硯ニ用ヰル。

はてう（ハーチョウ）（名）[巴調]（巴人ノ歌曲ノ調子ノ義。宋玉、對二楚王問一文「客有下歌二於郢中一者上、其始曰二下里巴人一、國中屬而和者數千人、云云、爲二陽春白雪一、國中屬而和者數十人」トアルヨリ云フ）（一）鄙俗ナル調子。又ハ、詩歌。陳基、題二玉草山堂一詩「竹枝已聞巴人調、白雪傳聞楚客歌」（二）轉ジテ、己レノ詩歌ノ謙稱。

はてし（名）[果]（しハ助辭）はて（果）ト云フニ同ジ。謠曲、龍虎「丕ノ國ニト行ク雲ノ、はてしハアラジ人心、心セヨ胸ノ月」

はてしな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）[無極]（はてしなければナド云ヘバ、しハ助辭ナリ）はてもなし（無極）ニ同ジ。國性爺合戰、二（正德、近松作）千里竹「飛鳥ノ如ク急ケドモ、末果てしなき大明國」今昔物語、廿四、第廿三語「世ノ中ハ、トテモカクテモ、スゴシテム、宮モ藁屋モ、はてしなければ」謠曲、小鹽「コレモ又、東（アヅマ）ノはてしなノ人ノ心ヤ」

はてのわざ（名）[果事] 人ノ死後ノ四十九日ノ忌、又、喪ノ果テタル頃ノ法要。又、はてのおと。源、五十二、手習三十六「コゾノ春、又ウセ給ヒニケレバ、其御はてのわざセサセ給ハムコト」

はては（名）[果果] ハテノハテ。スヱノスヱ。トドノツマリ。[終極] 源、一、桐壺四十「人ノ恨ヲオヒシはてはてハ、カウ打ステラレテ、心ヲサメンカタナキニ」同、四十四、橋姫二十四「はてはてハマメダチテ、イトネタク」

はてんくゎう（ハーテン・コウ）（名）[破天荒]（天荒ハ、天地未開ノ混沌悠久ナル狀態、卽チ、之ヲ破ル意。下文ノ劉蛻ノ故事ヨリ起ル）支那ニテ、官吏ノ登用試驗ニ、落第シタルヲ天荒ト云ヒ、及第シタルヲ破天荒ト云フ。宋ノ孫光憲ノ北夢瑣言ニ「擧人落第曰二天荒一、故及第者謂二之破天荒一」

トアリ。元來、支那ニテ、民間ヨリ吏員ヲ採用スルニ行フ試驗ヲ科擧（クワキョ）ト云ヒ、コレニ應ズル者ニ、秀才（判任官程度）、モノ）、擧人（奏任）、進士（敕任）、ノ等級アリ。然レドモ、北夢瑣言ニ云ヘル擧人ハ、博ク云ヒシナルベシ。此語、今ハ前代未聞、未曾有ナドノ意ニ用ヰラル、甚シク變ジタルモノナリ。唐摭言（五代、南漢、王定保）「[illegible]南解比號天荒、大中四年、劉蛻舍人以是舉解及第、時崔鉉作鎮、以蛻破天荒、遺七十萬資、蛻謝書略曰、五十年來、自是人廢、一千里外、豈曰天荒」陸游、梅花詩「碧玉定煩修月戶、推金誰賈破天荒」元稹詩「良田千萬頃、占作天荒田」蘇軾詩「朱崖從此破天荒」

パテント（名）〔英語、Patent.〕專賣特許。又、專賣權。

はてもな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）|無際|カギリモナシ。際限モナシ。トメドモナシ。ハテシナシ。古今集、十二、戀、二「ワガ戀ハ、行方モ知ラズ、はてもなし、アフヲカギリト、思フバカリゾ」續拾遺集、五、秋、下「詠ムレバ、ワガ心サヘ、はてもなく、行方モ知ラヌ、月ノ影カナ」

はでもやう（ハデモヨウ）（名）ハナヤカナル模樣。華美ナル模樣。

⁂**は・てる**（動）|果|はつ（果）ノ口語。

パテレン（名）|伴天連|〔葡萄牙語、Padre. 西班牙語、Padrina. 教父ノ義〕說シテ、ばてれん。昔、切支丹宗ノ宣教師ノ稱號。轉ジテ、ばてれん宗。邪宗。ばてれんハ和尙、其次ナルヲ、以留滿ニ兄弟ノ義）ト云フ。皆、人名ニ添ヘ、ウルガン、伴天連」ラテン、伴天連」又ハ「ケリコリ、イルマン」ミリコズ、イルマン」ナド云ヘリ。吉利支丹物語（寬永）上「後奈[illegible]

はと（名）|鳩|〔羽音ヲ以テ呼ブカ、はたたと、ノ略、朝鮮語、びたるく〕鳥ノ名。山野ニ棲ムヲ、野鳩、ナド云フ。頂、背、腹白クシテ、綠文アリ。翼、尾、黑ク、綠ニシテ、頰邊、黃ニ、胸ニ綠斑アリ。背、青ク、脚、赤シ。|野鴿|又、野鳩ノ家ニ畜フヲ、家鴿、飼ひ鴿、堂鴿（約メテ、どばと）又、つちくれ鳩ト云フ。大キサ八九寸、頸、短ク、胸、高ク、尾、短ク、羽色、種種ナレドモ、藍紫ナルヲ常トス。|家鴿|此ニ種ハ、堂塔ノ簷、又ハ、土庫中ニ巢クフ、又、きじばと（雉鳩）アリ、外國ヨリ來ル。形、あをばと（青鳩）ニ似テ、常ノ鴿ヨリ小サシ。全身、深綠ニシテ、胸ノ色淡ク、背、脚、深紅ナリ。|綠鳩|又、山鳩、數珠掛鳩アリ。各條ヲ見ヨ。本草和名「下[illegible]鳩、鴿、波止」字[illegible]乳[illegible]鶉[illegible]也、伊倍波止」[illegible]五十八「羽族名「鳩、夜萬八止」同、同「鴿、以倍八止」允恭紀、廿四年六月「山ノ波刀ノ、シタナキニ鳴ク」

はと（名）|波戸|〔泊（ハテ）ノ轉カト云フ〕又、波止場。波止場。土石ニテ、海川ノ中ヘ築キ出セル堤ノ如キモノ。[illegible]又、船荷ヲ揚グル所トス。[illegible]

はどう（名）|波動|（一）ナミノウゴクコト。[illegible]（二）[illegible]波ノ動搖ヲ傳フル如ク、物ノ一部ノ振動ガ次第ニ他ニ及ブコト。

ばとう（名）|拔頭|舞樂ノ曲ノ名。或ハ、撥頭ニ作ル。モト西域ノ樂ニテ、西域ノ人、[illegible]其子、山ニ入リテ[illegible]ヲ求メテ殺セリ、ソヲ摸シタル舞ナリト云フ。[illegible]

ばとう（名）|馬頭|ウマノカシラ。李白詩「山從人面起、雲傍馬頭生」

ミナドハオソロシケレド、カシラノ髮フリカケタル、マ[illegible]

ばとうくゎんおん（バトウカンノン）（名）|馬頭觀音|[illegible]又、馬頭觀世音、六觀音ノ一。[illegible]面八臂ニシテ、頂ニ馬ノ頭ヲ[illegible]

ばとうゆ（名）|馬桐油|桐油合羽ノ大ナルモノ。旅人、馬上ニ用ヰテ、荷ト共ニ身ヲ被フ。

はとくさ（名）|大靑|〔靑ハ藍ナリ〕又、クルクサ。藍ノ一種。藍ニ、二種アリ、大葉ノ大ナルモノヲ、大靑トス、一名、大藍、葉ノ小ナルヲ、小靑ト云フ、一名、小藍。[illegible]

はとぐるま（名）|鳩車|玩具ノ一。鳩ノ形ヲ作リ[illegible]

はとざけ（名）|鳩酒|鳩ノ肉ヲタタキ、[illegible]シ、酒ニ味噌ヲ加ヘタルモノ[illegible]

はとづゑ（名）|鳩杖|はとのつゑ（鳩杖）ニ同ジ。

はとのかい（名）[illegible]欺ツシテ、渡世トスルモノ。詐欺師[illegible]

はとのつゑ（名）|鳩杖|〔後漢書、禮儀志「仲秋之月、案比民、年始七十者、授之以玉杖、餔之糜粥、八十、九十、禮有加賜、玉杖長尺、端以鳩鳥爲飾、鳩者不噎之鳥也、欲老人不噎」〕[illegible]トアリ、老人ノ、痰ニ咽ビヤスシ、故ニ、[illegible]ヲ以テ呪スト云フ〕[illegible]

ケム、鳩の杖、老イテサカユク、道ノ爲トテ」謠曲、盛久「八旬ニタケ給ヒヌト、見エサセ給フ老悄ノ、云云、水晶ノ數珠ヲ爪グリ、鳩の杖ニスガリツツ」同、放生川「名乘リモアヘズ男山、鳩の杖ニスガリテ、山上サシテ上リケリ」 孕常盤(寶永、近松作)二「頭陀ノ袋、麻衣、鐵鉢ヲ御手ニ搖へ、八ツ目ノ草鞋召サルレバ、二人ノ内侍、鳩の杖、網代ノ笠ヲ携ヘテ」

はとのめ-せん（名）［鳩目錢］〔鵝眼ヨリ劣ル意ト云フ。或ハ云フ、圓孔、鳩ノ目ニ似タルヨリ云フト〕 鉛ノ錢。圓クシテ孔モ圓大ナリ。面、背、共ニ文字ナシ。私造ノモノニテ、昔、正錢ニ混ジテ流通セリ、故ニ、屢、通用ヲ禁ゼラルト。略シテ、はとのめ。伊勢錢。 琉球會記「有二赤錢者一、又有二鳩目錢者一」 後撰夷曲集、五、神祇「散錢モ所ニヨリテ、カハリケリ、難波ノアシヲ、伊勢ハ鳩の目」 和漢錢彙(寛政)「鉛錢鳩目、伊勢ノ宮錢ナリ、往昔參宮ノ人、社頭ニ於テ散米ノ代リニ詣處ノ錢也」 日本永代藏(貞享、西鶴)四「宮廻リノ詣錢ニ、鳩の目ト云フヲカシケナル鉛錢ヲ、百ト云ヒテ、六十ツナギニシテ、サテモ世智カシコキ人心」

はとば（名）［波戸場］ 波戸ノアル所。泊場。埠頭。 雄略紀、十四年「攝津國御館津、參河國幡豆郡飽海之波止」(高山寺本)

はとば-ねずみ（名）［鳩羽鼠］ 染色ノ名。鼠色ニ濃キ紫ヲ帶ビタルモノ。

〰はと-ふ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［鳩吹］ 山ノ鳩ハ、秋サカリニ鳴ケバ、秋ノ頃、人、鳩ノマネヲシテ、手ヲ合ハセテ、鳩ノ聲ノヤウニ吹キナラスナリ。コレ獵夫ノスル事ニテ、鹿ヲ呼ビ、又ハ、鹿アリト人ニ知ラスルニスルコトナリトゾ。 夫木抄、十、立秋「今日ヨリヤ、鳩吹く聲ハ、聞ユラム、朝ケノ風モ、秋ヲ告グナリ」 拾玉集、一「五月雨ノ、降リシム聲モ、哀ナリ、はと吹く秋ノ、風ナラネドモ」 千五百番歌合、千三百六十六番「磯小舟、波隱レ行ク、浦風ハ、鳩吹くヨリモ、身ニゾシミケル」 袖中抄、十五「マスラヲノ、はとふく秋ノ、音立テテ、トマレル人ヲ、言ハヌバカリゾ」

はとむぎ（名）［鳩麥］ 草ノ名。薏苡ニ同ジ。近年、肺病ニ效アリトテ用ヰル。

はと-むね（名）［鳩胸］ (一)不具ノ名。胸高ク出デテ、鳩ノ胸ノ如ク、俯ク能ハザルモノ。生得胸骨ノ高キモノ。デムネ。 易林節用集(慶長)上、人倫門「鳩胸、鳩胸、雞胸」 新猿樂記「十三娘者、云云、傴僂鳩胸」 東海道名所記(萬治)三「ナマジヰニ幅廣キ帶ヲ腰ニ纏ヒタルガ、シカモはとむねニテ鐵オトガヒナリ」 薩摩歌(元祿、近松作)中「頭ハ赤熊猫脊中、鳩胸ニ顏ハ猿」 (二)鐙ノ胸ノ高クナリタル所。鐙ノ前頭ノ中央ニ、鳩ノ胸ノ如クナリタル所。 今川大雙紙、馬に付て式法之事「鐙ノ名所ノ事、水尾金ノ下ヲバかくト云ナリ、脊さみノマハリヲバやないばト、ムカフヲバ鳩胸ト云也」 (三)三絃ノ名所 三味線ノ棹ノ、胴ニ差込ミタル上部ニテ、少シ曲リタル所。

はどめ（名）［歯止］ 車ノ輪ニツケテ、其運グルヲ止ムル機械。制動機。

〰はとり（名）［服部］ 〔繒織ノ約〕 機ヲ織ル業。古ヘ、機織ヲ職トシタルヲ服部ト云フ。又、其人。ハットリ。機織。織工。 夫木抄、三十三、綾「人ノ國ニ、織ルテフはとり、傳ヘテモ、アヤシヤイカニ、ココニシモ着ル」 倭名抄、六「大和國、山邊郡、服部、波止利」 雄略紀、十四年正月「漢織、呉織、衣縫、是飛鳥衣縫部、伊勢衣縫之先也」 姓氏錄、十七、大和國、神別「服部連」 神名帳「伊勢國、奄藝郡、服織神社」

は-とり（名）［歯取］ 昔、蟲歯ヲ拔取ルヲ、業トスル者。ハヌキ。 沙石集、七、上、第五條「南都ニ齒取唐人アリキ、云云、蟲ノ喰ヒタル齒ヲ取ラスルニ、一ツ取ルニハ、錢二文ノサダメ、云云」

〰は-とり（名）［執翳］ さしば(翳)ノ條ヲ見ヨ。 江家次第、十四、卽位「執翳女孀、左右各八人」 御卽位次第抄「御卽位冠服之事、行事辨、執翳ノ女孀ニ相副テ事ヲ行フノ職掌、云云、執翳女孀六人」

はとり-べ（名）［服部］ 服部ノ條ヲ見ヨ。

パトロン（名）〔蘭語、Patroon.〕 はやお(早具)ニ同ジ。

ハトロン-志（名）［はとろん紙］ 〔はとろんハ、蘭語、Patroon, 獨逸語、Patrone.(火藥包ノ意)ノ訛。モト外國ニテハ、之ニテ火藥ヲ包ミシヨリ、紙ノ名ニ移レルモノト云フ〕 西洋紙ノ一種。色、茶褐ニシテ質強ク、全紙、三尺ニ四尺アリ。主ニ封筒、包裝用ナドトス。略シテ、はとろん。

はと-を（名）［鳩尾］ せんだんのいた(栴檀板)ノ條ヲ見ヨ。

はな（名）［花］ 〔端ノ義、著シク現ハレ目立ツノ意〕 (一)植物ノ枝、幹ニ生ジテ、實ヲ結ブ機官ヲ具フルモノ。瓣ト、蘂ト、萼トヨリ成ル。(二)花ノ咲ケル枝。「花ヲ手折ル」「花ヲ差ス」 (三)專ラ、櫻ノ花ノ稱。 堤中納言物語、花櫻折る少將「限ナキ月ニ、所所ノ花ノ木ドモモ、偏ニマガヒヌベク霞ミタリ」 風雅集、二、春、中「花見ニト、春ハムレツツ、玉鉾ノ、道行ク人ノ、多クモ有ルカナ」 徒然草、百三十七段「花ハ盛リニ、月ハ隈ナキヲノミ見ルモノカハ」「花ノ雲」 (四)麗ハシキコト。ハナヤカナルコト。繁華。華。 續後拾遺集、八、離別「行ク雁ハ、カヘル山路ノ、雪見テモ、花ノ都ヲ、オモヒイデナム」「花ノ顏」「花ノ姿」「花ノ衣」 (五)〔花〕花シク徒ナルコト 萬葉集、八「霞立チテ、春日ノ里ノ、梅ノ花、嵐ニ訪ハムト、吾ガ思ハナクニ」 古今集、十三、戀、三「君ニヨリ、我ガ名ハ花ニ、春霞、野ニモ山ニモ、立チニケル哉」 (六)ホマレ。外見。榮。 浮世風呂(文化、三馬)三編、下「花嫁ノウチガ花サ、オッツケ小兒デモ出來テミナ、アアハイカネエ」「一生ノ花」 (七)カヅケモノ。古ヘ、賜物ニハ、草木ノ花枝ニツケテヤリシニ起リ、轉ジテ、人ニ與フル金銀ナドノ稱。(紙モアリ) 技藝ヲ奏セシ者ニ、當座ノ賞ニ與フル物。元ハ眞ノ花ヲ與ヘタリ。後ニハ、專ラ、衣類、金錢トナル。纏頭。出采。 輕口笑(元祿)二「前中著ヨリ、カネ一ツ小粒ヲ取出シ、花ニ出スト申シヤラレケレバ」 貞德故實集「勸進能ノ時、花、大刀ナド遣シ候事勿論ナリ」 京童(萬治)四、條芝居「舞臺ヘノ花ノ枝ハ、春ニアラズシテヲカシ」 東海道名所記(萬治)一「仕舞柱ニ隱リ遣ハス花ノ枝ハ、舞臺ニサシアゲテ色ヲ爭ヒ」 枝ニ目錄ヲツク」 私可多咄(萬治)「禰宜町ノ、芝居ノ花ヤ、神ノ幣」 (八)時メクコト。 榮花物語、八、初花「ナホナホシキ人ノタトヒニ云フ、時ノ花ヲカサス心バヘニヤ」 大鏡、中、伊尹「前少將、後少將トテ、花ヲ折リタマヒシ君達」 續古事談、一、王道后宮「時ノ花ニテアリケレバ」 (九)時メカスコト。ト賞玩スル、白篦、枝モナク、スラリスラリト、モギアゲテ、形モハスハニ、花ヲヤリ候」 織留(元祿、西鶴)一「シュチンノ帶、紫皮ノ足袋ニテ、花ヲヤリシニ」 (十)東京ニテ、樒ノ枝葉ヲ佛ニ供スル時ノ名。花ニ代フル意ナリ。(十一)鬮取ノ花。(十二)俗ニ、博奕ノ一種。花合ノ略。花骨牌 (十三)花染。花色。「花ノ袖」「花ノ袂」 (十四)俳諧ノ添刪ニ出ス料物。入花料。 (十五)京阪ニテ、妓ノ揚代。花の臺ハ、蓮臺。 夫木抄、三十四、釋教「タチサラヌ、思タノメバ、オノヅカラ、花の臺ニ、ノボラサラメヤ」 謠曲、忠度「名モ唯法ノ聲聞キテ、花の臺ニ坐シ給ヘ」 花の山トハ、花ノ多ク咲キ揃ヘル山。 芭蕉句集、春「花の山、二丁登レバ、大悲閣」 花の雲トハ、遠方ニ咲キ簇リタル花ヲ、雲ト見立テテ云フ語。 風雅集、二、春、中、峯「シラム、梢ノソラニ、影オチテ、花の雲(雪イ)マニ、有明ノ月」 芭蕉句集、春「花の雲、鐘ハ上野カ、淺草

カ」花の雪トハ、花ヲ雪ニ見立テテ云フ語。新古今集、二、春、下「又ヤ見ム、カタノノミノノ、櫻狩、花の雪チル、春ノ曙」謡曲、櫻川「思ヒモ深キ花の雪、散ルハ涙ノ川ヤラン」 花の王トハ、櫻ノ異名。支那ニテハ、牡丹ノ異名。

はな (名) 端初 (一)物事ノ最モ先ナル所。マッサキ。ハジメ。ハツ。萬葉集、十九、廿「卯ノ花ヲ、クタス霖雨(ナガメ)ノ、始水(ミツハナ)ニ、ヨル木積(コツミ)ナス、ヨラム兒モガモ」 (二)モノノ突出シタル所。山ノ端。ハヅレ。ハシ。崎。 山鼻 源有房集「霞立ツ、繪島ノはなヲ、見ワタセバ、ダミカヘシタル、心チコソスレ」

はな (名) 鼻 「端(ハナ)ノ義」 顔ノ中央ニ高クナレル所、二孔ニ成リテ、嗅グコトト、呼吸トヲ司ル。 倭名抄、三、鼻口類「鼻、波奈」 源、三、空蟬「鼻ナドモアザヤカナル所ナウネビレテ、匂ハシキ所モ見エズ」 今昔物語、廿八、第廿語「内供ハ鼻ノ長カリケル、五寸許リナリケレバ」 鼻を高うす、鼻に掛くトハ、誇(ホコ)ル。自慢ス。 自負 鼻高しトハ、譽(ホマレ)ヲ得テ映(ハエ)アリ。 鼻明(アカ)くトハ、ダシヌカル。 鼻を明(アカ)すトハ、ダシヌク。 鼻をつくトハ、主君ノ前ヲ遠ザケラル。又、失敗。 窒鼻、はなの下トハ、糊口ノコト。 はなをならすトハ、小兒ノ泣クコト。 はなの下長しトハ、女ニノロキコト。

はな (名) 洟 (はなみづ(鼻水)ノ略) 鼻ノ内ノ粘膜ヨリ分泌シ出ヅル液。ハナシル。ハナミヅ。 倭名抄、三、鼻口類「洟、須須波奈」字鏡、廿「涕、洟、波奈太利」 狭衣、三、下「二首ヒ知ラズ悲シキニ、云云、ココカシコ、はな打チかムモノアリ」 源、十二、須磨、三十「アヒナウ起キヰツツ、はなヲ、シノビヤカニカミワタス」 同、三十一、槇柱「二サマザマニカナシク、サシモ思ハヌ木草ノモトサヘ、戀シカランコトトメトドメテ、はなスリアヘリ」 枕草子、四、四十四段、「はなのあはれ知らせ顔なるこの「はな垂ル間モナク、カミテ物言フ聲」

はなあざみ (名) 花薊 花ヲ愛(メ)ヅルニツキテ云フ稱」あざみ(薊)ノ條ヲ見ヨ。

はなあはせ (名) 花合 (一)櫻花ヲ獻ジ、左右ニ分ケテ、其優劣ヲ鬪ハスルコトト云フ。 鬪花 拳花物語、三十六、根合「御遊ビヲ好マセ給ヒ、花合、菊合ナドヲカシキコトヲ好マセ給ヒテ」 十訓抄、上、第一、第四十七條「中宮ノ御方ニテ、花合トイフ事アリケルニ」 (二)一種ノ遊戲 松(正月)、梅(二月)、櫻(三月)、藤(四月)、菖蒲(五月)、牡丹(六月)、萩(七月)、薄(八月)、菊(九月)、紅葉(十月)、柳(十一月)、桐(十二月)ノ十二種ノ花ノ繪(中ニハ、天象、動物、短冊ヲ配スルモノアリ)ヲ畫キタル四十八枚ノ骨牌(カルタ)(はながるたト云フ)ノ札ヲ、數人ニ配リ、札ト札トヲ合ハセ取リテ、勝負ヲ爭フモノ。之ニ金品ヲ賭ケテ行ヘバ、一種ノ博奕トナル。略シテ、花。ソノ札ヲ、めくりふだ、トモ云フ 鬪花牌 守貞漫稿、廿六、遊戲「花合、是レモ小牌ニ櫻、梅、桐、菊、牡若等ヲ彩畫シ、勝負ヲナスノ戲レ也、或ハ賭スルモアリ」

はなあぶ (名) 花虻 蝱(アブ)ノ條ヲ見ヨ。

はなあふぎ (名) 花扇 昔、七夕ノ遊興ニ、陽明(近衛)家ヨリ、七種ノ草花ヲ束ネ、檀紙ニテ包ミ、水引ヲ以テ裝飾シテ扇形トシ、禁裏ニ獻上シタルモノ。下ノ出典ヲ見ヨ。 閑田次筆、一「年ゴトノ文月七日ノアシタ、陽明家ヨリ内ヘ奉ラセタマフ花ヲ花扇ト云フモノアリ、御使ハ匂ヒト云ヘルはしたものニテ、勾當ノ内侍ノ御許ヘ御文アリ、長橋ヘモテ參レルサマ、イト雅アリテ、表衣(キヌカヅキ)[illegible]ハキ、雨フラネドモ、大傘ヲサシカケサス、ミヅカラハ文箱ヲ携ヘ、下部フタリ從ヒテ、ヒトリハ此大傘、一人ハ花扇ノセツ、其下部モ又如何トカヤ、[illegible]ハムカシヨリ定レリトゾ、内ニテハ小御所ノオマヘノ御池ニウカベテ、二星ノ御手向ニナシ給フトナン、コレモイツノコロヨリ始マリシト云フコトハ、サダカナラズトナリ」

はなあふひ (名) 花葵 木名、カラアフヒ一名、オホアフヒトモ云フ、[illegible]人家ニ多ク植エテ、花ヲ賞ス。宿根ヨリ生ジ、葉ハ、あふひ(葵)ヨリ大キクシテ、莖ノ高サ、七八尺ヨリ丈ニ至ル。梅雨前、葉ノ間毎ニ、一花ヲ生ズ、[illegible]ゆあふひ(梅雨葵)ノ名モアリ。むくげ(木槿)ノ花ノ如ク、[illegible]、白、紅、紫等、種種ナリ、單瓣[illegible]、重瓣[illegible]リ、幹ノ下邊ヨリ開キ、[illegible]ハル。コレヲ梅雨ノ終期トス。 蜀葵

はなあぶら (名) 鼻脂 鼻ノ邊ニ生ズル脂。コレヲ指ニツケテ物ヲ擦スルヲ、はなあぶら引く、ト云フ。 [illegible] 馬)二種、下「鼻脂ヲヒイテ、ヨンヤサトシテヤラウ」 [illegible]

はなあやめ (名) 花菖蒲 (一)略シテ、あやめ。草ノ名。山溪ニ自生シ、人家ニモ多ク植エテ、花ヲ賞ス。葉ハ、[illegible]ぶ(菖蒲)ニハ似ズシテ、かきつばた(杜若)ニ似テ、狹シ、長サ一二尺、叢生ス。[illegible]莖ヲ出スコト二尺許[illegible]梢ニ花ヲ開ク、はなしやうぶ(花菖蒲)ニ似テ小サク、瓣、狹ク、紫碧色ナリ。大小[illegible] 七、[illegible] 略シテ、あやめト云フ」 山家集、「櫻散ル、宿ニカサナル、あやめヲバ、花あやめトヤ、云フベカルラム」 謡曲、杜若「菖蒲ノ[illegible]、色ハイヅレ、似タリヤ似タリ、杜若、花菖蒲」 (二)襲ノ色目ノ名。表ハ白[illegible]

はないかだ (名) 花筏 (一)[illegible]流ヘ々ル筏。 (二)又、花ノ水面ニ散リ敷キ[illegible] 樹ノ名。山林ニ生ズ、高サ數尺ニ過ギ[illegible] 菌ブリテ互生ス。若葉ハ食フベシ。夏ノ初、葉面ノ中央ニ、一花、或ハ、二三花[illegible]

はないき (名) 鼻息 [illegible]

はないけ (名) 花生 [illegible]

はないる (名) [illegible]

はないれ (名) 花入 [illegible]

花入探レ、梅樒」

はないろ (名) [花色] 又、はなだのいろ。はなだ(縹)ノ條、及、次條ノ語ヲモ見ヨ。書言字考節用集、六、服食門「縹色、ハナダイロ、ハナイロ、說文、縹、青白色」

はないろごろも (名) [花色衣] (一)種種ノ色ニ咲ケル花ヲ、衣ト見テ云フ語。續千載集、二、春、下「山吹ノ、花色衣、サラステフ、山城ヤ井手ノ、ワタリナルラム」續後拾遺集、十三、戀、三「露カカル、花色衣、アサハカニ、移リヤスクハ、ナドチギリケム」(二)鴨頭草ノ花ニテ染メタル衣。今、青色ヲ花色ト云フモコレナリ。新葉集、十五、戀、五「イカニセム、我ガ心ノミ、月草ノ、花色衣、ウラミワビツツ」新六帖、一「ハヤクヨリ、花色衣、タチカヘテ、今日トモワカヌ、墨染ノ袖」

はなうそやぐ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) [鼻嘯] 鼻、息シテ少シ動ク。(可笑シサヲ忍ビテ) 盛衰記、十九、文覺入定京上事「ソレソレト言ヒケレバ、佐殿、はなうそやぎテハ思ハレケレドモ、富者狀ノ書キ、判形ヲ加ヘテ、文覺ニ賜フ」

はなうた (名) [鼻唄] 聲低ク、鼻ニカケテ、小唄ナドウタフコト。又、ソノ唄。好色一代男(天和、西鶴)一「鼻歌ナドニテ人待ツケシキ、今ヤ世之介、十二ヨリ聲モ替リテ、云云」

はなうち (名) [鼻打] 洟ヲスフコト、洟ヲススルコト。天治字鏡、二十「嚏、噴鼻也、鼻打」咤噴、嚏也、波奈打」

はなうり (名) [花賣] 花ヲ賣ルコト。又、ソノ人。曠野集「花賣ニ、留守頼マルル、隣リカナ」俳諧新選「花賣ノ、手ニハカラカヌ、紅葉哉」

はなうるし (名) [花漆] 漆ヲ、薄紙ニテ漉シ搾リナドシテ、製法シテ、物ニ塗ルベク麗ハシクシタルモノノ稱ト云フ。金葉集、八、戀、下「花漆、コヤヌル人ノ、ナカリケル、アナ腹黑ノ、君ガ心ヤ」新六帖、四「搔キ絕エテ、ヌル夜モカタシ、花漆、袖ノ涙ヲ、シボリワビツツ」

はなおち (名) [花落] 胡瓜、茄子、南瓜ナドノ、花落チテ程歷ズニ採レル實ノ稱。其嫩キヲ賞シテ食フ。

はなかいらぎ (名) [梅花皮] かいらぎ(梅花皮)ノ條ヲ見ヨ。淨瑠璃(寶永、近松作)「上花かいらぎト散ル花ト、サンサメイタル搖鑓ノ」鑓師通夜物語(寬永、德永種久)「花かいらぎノ鮫サヤニ、金鍔大小打チガヘ」

はなかうじ (名) [花柑子] 花咲ケル柑子ノ木。拾玉集、四「此頃ハ、伊勢ニ知ル人、オトヅレテ、タヨリ色アル、花柑子哉」著聞集、五、和歌「弘徽殿女御歌合ニ、花かうじ、シラマユミト云ヘル文字グサリヲ、歌ノ句ノ上ニスヱテ、云云」

はなかく・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [劓] はなきる(劓)ニ同ジ。

はなかけ (名) [劓] 鼻ノ缺クルコト、又、ソノ缺ケタル人。字類抄「劓、ハナカケ」

はなかけざる (名) [鼻缺猿] 鼻ノ缺ケタル猿。太平記、三十五、青砥左衞門事「一ノ直ナル猿ガ、九ノ鼻缺猿ニ笑ハレテ、逃去リケルニ不レ異」

はなかご (名) [花籠] ハナコ、草木ノ花枝ヲ盛リ差ス竹籠。ハナガタミ。

はながさ (名) [花笠] (一)花ノ葩、並ビテ、中ノ窪メルヲ、笠ニ譬ヘテ云フ語。うめのはながさ(梅花笠)ノ條ヲモ併セ見ヨ。(二)造花ナドヲ着ケタル笠。踊ル者、用ヰル。我衣(文化、曳尾庵)「延享三年六月、山王祭禮ニ、色色笠ニ物好キ始ル、花笠、モジ笠、ネリグリ笠、品品アリ」

はなかぜ (名) [鼻風] 馬ノ鼻息。承久軍物語「川面、白浪翻ルニ鼻風吹キテ取テ返ス」

はなかぜ (名) [鼻風] 病ノ名。鼻中ノ粘膜ニ、乾燥、閉塞ヲ感ジテ、屢、嚔シテ、淡キ鼻液ヲ流シ、後ニハ濃キ液ヲ出スモノ。鼻加多兒。

はなかぜ (名) [花風] 春ノ末頃、花ナドヲ吹キ散ラス風。又、花ノ季節ニ吹ク風。枕草子、九、九十八段「三月バカリノ夕暮ニ、ユルク吹キタルはなかぜ、イトアハレナリ」

はながた (名) [花形] (一)種種ノ花ノ形(織文、染模樣、ナドニ) 花文。榮花物語、十八、玉臺「チガヒ目毎ニ、ラデン(一本、シナシ)ノ花形ヲスヱテ、色色ノ玉ヲ入レテ」雪女五枚羽子板(寶永、近松作)中「ホンジャリサイテ匂ウタ、梅ノ花がたサイナ」(二)[疱痕] 疱痕。大鏡、中、兼通「色黑ク、額ニ、花がた打チツキテ、髮チヂケタル」(三)鏡ノ異名。婦人ノ語。(裏ニ菱花アレバ云フ) [菱花] (四)俳優ナドノ、若クシテ華ヤカニ扮ツモノノ稱。又、ソノ人氣アリテ、評判高キモノ。

はながたみ (名) [花筐] 花ヲ摘ミ入ルル籠。又、磯菜、若菜ナド摘ムニモ云フ。書言字考節用集、七、器財門「花筐、ハナガタミ」古今集、十五、戀、五「花がたみ、メナラブ人ノ、アマタアレバ、忘ラレヌラム、數ナラヌ身ハ」新後撰集、六、冬「霜枯ノ、籬ノ菊ノ、花がたみ、メナラブイロモ、見エヌコロカナ」新六帖、五「磯菜摘ム、アマヲトメラガ、花がたみ、浦ワノ波ノ、影ヤソフラン」盛衰記、四十八、法皇大原入御事「一人ノ尼ハ、樒、躑躅、藤ノ花入レタル花筐、肱ニ懸ケテ後ニアリ」

はながつみ (名) 古歌ニ詠メリ。諸說、區區ナレド、菰ナリト云フ。かつみ(勝見)ノ條ヲ見ヨ。散木集、十、雜、下、中納言國信ノ長歌ニ「ハバカラヌマノ、花がつみ、カツ見ル狀ハ、眞コモニテ、名ヲカヘケルモ、ウラヤマシ」著聞集、十九、草木ニ「五月ノ頃、圓位上人、熊野ヘ參リケル道ノ宿リニ、菖蒲ヲバ葺カデ、かつみヲ葺キタリケルヲ見テ、かつみ葺ク、熊野詣ノ、宿リヲバ、菰クロメトゾ、言フベカリケル」今、上野、下野ニ、菰ヲ、かちちト云ヒ、陸前ニ、かつみト云フ、其訛ナリ。今ハ、常ニ、菰ノ實ヲ、はながつみトモ云ヘリ。或ハ、同條菜ヲかつみト云フ、是レナリ、トモ云ヘド、軒ニ葺クベクモアラズ。又、溪蓀ノ一種、葉ノ細ソク長ク、今、かきやまあやめト云フモノ、是レ古ヘニ云フはながつみナリトモ云フ。花ト云フニ由アレド、如何アルベキ。萬葉集、四、四十「ヲミナヘシ、サキ澤ニ生フル、花がつみ、カツテモ知ラズ、戀ヒモスルカナ」古今集、十四、戀、四「陸奧ノ、アサカノ沼ノ、花がつみ、カツ見ル人ニ、戀ヒヤ渡ラム」千載集、三、夏「五月雨ニ、淺澤沼ノ、花がつみ、カツ見ルママニ、隱レ行クカナ」

はなかづら (名) [花鬘] 又、ミカゲ。時ノ花ヲ以テ麗シク作リナセル鬘。(髮ニ插ス)ハネカヅラ。持統紀、元年三月「以華縵進于殯宮、此日御蔭」內藏寮式、大嘗祭「忍冬花鬘」萬葉集、十九「漢人モ、舟ヲ浮ヘテ、遊フトフ、今日ゾ吾ガ兒子、花鬘セヨ」續古今集、二、春、下「初瀨女ノ、ミネノ櫻ノ、はなかづら、空サヘカケテ、匂フ春カゼ」謠曲、熊野「我ヲ知ルトカタ日影、紫ニホフ花鬘、心ニカケテタビ給ヘ」同、祇王「同ジカサシノ花鬘、カカル恨ミハ、身ヒトリカヤ」

はながつを (名) [花鰹] 鰹節ノ肉ノ紅ナル所ヲ、花瓣ノ如ク細カニ削リナシタルモノ。食物ノ上ニ蒔ク。大草家料理書「一、ノタアヘ膾ハ、酒ノカスヲ能摺テ、大豆ノ粉ヲ入レテ、花鰹ヲ摺テマゼテ、魚ニ酢ヲ掛ケテアヘル也」道戲興(元祿)「朝早遊ニ花鰹」犬子集(寬永)「振舞ヒニ、ケヅリ散ラセル、花鰹」「椀モ折敷モ、燕口ナリ」堀川後度狂歌集、一、春「今朝祝フ、齒ハ延ニ、敷シマヤ、花鰹サヘ、カンナニテカク」

はな-がは（ハナガワ）（名）［鼻革］馬ノ鼻ニ著クル革紐。ハナヾハ。緋革 年中定例記、十一、[illegible]「[illegible]云云、畠山殿ヨリ御進上ノ馬ニはながは十間、御目ニカケ候」

はな-がひ（ハナガイ）（名）［花貝］さくらがひ（櫻貝）ノ條ノ（二）ニ同ジ。夫木抄、廿七、貝「[illegible]サマサマノ花貝ドモ寄リタルヲ見テ」

はな-がみ（名）［鼻紙］「洟水紙ノ意」常ニ懷中シテ、鼻液（ハナシル）ヲ拭フナド、不時ノ用ニ供フル紙。古ク、タヽウガミ。フトコロガミ。　四季草、六、秋、下、鼻紙ノ事「イニシヘハ今ノ如ク小菊小杉ナドノ如ク、小板ニスキタルはな紙ハナシ、小引合、杉原ナドヲ横ニ折リ、ソレヲ又竪ニ二ツニ折リ、又ソレヲ竪ニ二ツニ折（以上竪四ツニ折）、ソレヲ幾重モ組合セテ、懷ニ入レテ鼻ヲモカミ、萬ノ用事ニツカヒシ也」寝覚の[illegible]（正德、近松作）上「ノベノ鼻紙二折三折、結構十鼻ヲカマンスモノ」俳諧古選、附錄「鼻紙デ、鹿ヲ叩クヤ、山ザクラ」

はながみ-いれ（名）［鼻紙入］次條ノ語ニ同ジ　人倫訓蒙圖彙、五「紙入師、[illegible]ノ[illegible]毛[illegible]ヲモテ是ヲ作ル」色道大鏡「延寶ニ、近代ハはながみ入れ用フルコト盛リナレバ、下ゲ物ハ廢レゲナリ」

はながみ-ぶくろ（名）［鼻紙袋］鼻紙、其他、藥品、貨幣、ナド入ルル小サキ袋。布帛、革ナドニテ製シ、行ク時ニ懷中ス。ハナガミイレ。懷中物。略シテ、紙入。夾袋　其形ニ合ハセテ、一方ロノ筒ヲ用キルヲ、そといれト云フ。昔ハ鼻紙袋ナカリシガ、德川氏ノ中頃、小寺匀當ト云フ座頭、始メテ作リシヨリ流行セシモノナレバ、一名、小寺袋トモ云ヘリ。近代世事談、一「鼻紙袋、近世ノ製ナリ、寛永ノ頃ヨリカ、昔ハ[illegible]ヲ以テ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ハ耳[illegible]、[illegible]ナウ、[illegible]ヲ[illegible]ム、[illegible]ノはながみ袋ハ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]一[illegible]、[illegible]一[illegible]、[illegible]ハ[illegible]子[illegible]ニテ[illegible]ナル[illegible]ヲ[illegible]挿ヘ、何ト云フコトナク、此内ヘ入レテ持ツ、どんぶりト云フ、云云、今ノ三ツ折ノはな紙袋、コレヨリ出デタルナリ、云云、小菊四ツ折ノ[illegible]ハ、[illegible]、[illegible]トナリ」心中二枚繪草紙（寶永、近松作）中「待テ、オノレドウスルト、鼻紙袋ヘ文ヲモ入レ、グルグルマキシ紙燃ヨリ」新長者教（貞享）[illegible]賀の[illegible]「中[illegible]切モ集レバ、今[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、云云、[illegible]ヘレレバ、手ノ[illegible]」

はなか-む・ふ・め・ま・み・め（他動、四）［擤］鼻水ヲ去ル。　倭名抄、三「[illegible]口[illegible]、[illegible]、波奈[illegible]」

はな-かんざし（名）［花簪］（一）造花ナド著ケタル簪。（二）金銀紙ノ[illegible]ル簪。　[illegible]化、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニハ、舞子、金銀ニテ梅ノ枝ニ色紙短册ヲ付テサス、往來スレバ音ノスルヤウニコシラヘタリ」

はな-がめ（名）［花瓶］ハナイケ。ハナイレ。クヮビン。　書言字考節用集、七、器財門「花瓶、ハナカメ、古へ[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]花がめニ[illegible]ノ花ヲササセタマヘルヲ[illegible]コメル」

はな-ガルタ（名）［花骨牌］花合ニ用ヰルかるた。はなあはせ（花合）ノ條ヲ見ヨ。略シテ、はな。ハナフダ。

はな-ぎ（名）［鼻木］（一）牛[illegible]（ハナヅラ）ニ[illegible]ル環狀ノ木。ウシノハナギ。[illegible]「[illegible]」　[illegible]、[illegible]、牛[illegible]（キリハシ）[illegible]一九廿「[illegible]（[illegible]カ）、牛乃鼻木」（二）材木ノ切端。

はな-きり（名）［劓］ハナキルコト。支那、古代ノ五刑ノ一。罪人ノ鼻ヲソイデ斬ルモノ。[illegible]、秋官[illegible]、[illegible]「[illegible]」法[illegible]、[illegible]五百、[illegible]其[illegible]也[illegible]、下[illegible]」

はなきり-ばな（名）［劓］（一）仰向キタル鼻。アゲラバナ。[illegible]「[illegible]」（二）鼻ノ折キルコト。

はな-き・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［劓］古[illegible]

はな-ぐぎ（名）［花釘］頭ニ花形ナドノ飾[illegible]、[illegible]「[illegible]」、[illegible]ニハ、[illegible]ナカク」大治字[illegible]、[illegible]、波奈加久」[illegible]押ノはなくぎノ[illegible]クル習ニ取ルナリ」[illegible]十、連歌「花くぎハ、散ルテフコトゾ、ナカリケル、風ノマニマニ、ウテバナリケリ」

はな-ぐき（名）［鼻莖］はなすぢ（鼻筋）ニ同[illegible]、[illegible]、[illegible]

はな-ぐすり（名）［鼻藥］（鼻嗚ラシテ泣クヲ慰メ癒ス物ノ意）（一）小兒ニ與フル菓子ナドヲ云フ。（二）[illegible]ナド、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]賂[illegible]

はな-くそ（名）［鼻屎］鼻ノ孔ノ中ニ、液（シル）[illegible]、[illegible]「[illegible]」　「ハナミヅ、ハナクソ、[illegible]」浮世風呂（文化、三馬）初編、下「オイラハオメヘノヤウニ、鼻屎ヲ甜メヤ[illegible]、[illegible]」

はな-くた（名）［[illegible]］[illegible]、[illegible]ハ、ヘ[illegible]ノ、た、めたくた、へたくたナドト同趣（ソウ）俗ニ、鼻ニ傷ヘル所アリテ、聲ノ濁ル者ノ稱。浮世風呂（文化、三馬）二編、下「上リ口ニハ、はなくたノ中年増、手拭ヲ絞ッテ[illegible]「[illegible]」

はなくた-ごゑ（ハナクタゴエ）（名）［鼻腐聲］鼻ヲ傷ヒテ、濁リタル聲。前條ヲ参見セヨ。

はな-ぐはし（ハナグワシ）（花）［花細］「くはしハ、賞美スルナリ。くはし（微妙）ノ條ヲ見ヨ」[illegible]、花[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]二[illegible]、[illegible]ノ[illegible]我ガ[illegible]ヅル見[illegible]」[illegible]集、十一[illegible]「[illegible]、花[illegible]、[illegible]一[illegible]」

はな-ぐもり（名）［花曇］春時、百花ノ開ク頃、空ノどんよりト曇リ勝チナルコト。即チ、[illegible]、三四月、冬ノ北風ノ、夏ノ南風ニ變ハル過渡期ノ空。「[illegible]」書言字考節用集、[illegible]、乾坤門「[illegible]、ハナグモリ」[illegible]

はな-くらべ（名）［鼻比］[illegible]

はな-ぐるま（名）［花車］[illegible]

はな-くれ（名）［[illegible]］[illegible]

はな-くい（ハナクイ）（名）［[illegible]］[illegible]明、又ハ、踊子供ナドノ名ト云フ。[illegible]

はな-ぐわゐ（ハナグワイ）（名）［花慈姑］[illegible]

はな-げ（名）［鼻毛］鼻ノ孔ノ中ニ生ズル毛。[illegible]、ハナゲ、[illegible]、[illegible]一女ニ誑カサレテアリ、鼻毛ヲ拔ク[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]ル[illegible]アリ[illegible]、[illegible]ナリ、女ノ[illegible]男ヲ[illegible]

はなげ-ぬき（名）［鼻毛拔］[illegible]

金ニ穴アルモノ。

〔はなげ-ぬき (名) 【鼻毛拔】 〔鼻毛ヲ拔クヲ專ラトスレバ名アリ〕 けぬき(毛拔)ト云フニ同ジ。 鑷子 昔ハ書院ニ備ヘオク書院毛拔ト云フモアリキ。 倭名抄、十四、容飾具「鑷子、波奈介沼岐」 世話燒草、(明曆)「なんばう毛拔ノ異名カ、冷ル書院ノ、內ナラム」「月ニクサメヲ、スルはな毛拔」(コレハくさめトアレバ、專ラ鼻毛ニ云フ、然レドモ書院毛拔ナリ)

〔はな-ゐ (名) 【花籠】 ハナカゴ。ハナガタミ。 榮花物語、三十七、煙後「皇太后宮ノ花籠ニ、菊、サマザマノ花入レテ、玉ヲツラヌキ緒ニシタリ」 新六帖、六「椿摘ム、竹ノはなゐノ、ハカナキモ、眞ノ道ニ、入ラザラメヤハ」

はな-ごけ (名) 【花苔】 苔ノ一種。山中ノ土石上ナドニ叢生ス。高サ二三寸、色白クシテ、莖圓ク細ソク、枝叉ヲ分ツ內、空シクシテ、花蕊ノ如シ。一名、シラゴケ。 【石蕊】

〔はな-ごころ (名) 【花心】 徒ナル心。ウハキ心。移リヤスキ心。ウツロヒヤスク、散リヤスキ心。 源、四十八、寄木廿二「花心ニオハスル宮ナレバ」(匂宮ヲ云フ) 久安四年百首、上「春ノウチハ、久シク匂ヘ、梅ノ花、花心ナル、人ヤトマルト」 散木集、九「靉フラム、花心ニハ、言ノ葉ノ、秋ニナラバヤ、色變ハルベキ」 加茂保憲女集「春霞、タナビキワタル、今日ヨリヤ、ナベテ花木モ、花ごころヅク」 謠曲、三山「月ヨ花ヨト爭ヒシニ、男ウツロフ花心、カノ櫻子ニ際キ移リテ、耳無ノ里ヘハ來ザリケリ」 後拾遺集、十八、雜、四「近キ處ニ侍リケルニ、音シ侍ラザリケレバ、村上ノ女三ノ宮ノ許ヨリ、思ヒヘダテケルニヤ、花心ニコソナド云ヒオコセタル返事ニ」 萬代集、十三、戀、五「散リヌベキ、花ごころゾト、カツ見ツツ、賴ミソメケム、我ヤ何ナル」 六百番歌合「イツシカト、ウツロフ色ノ、見ユルカナ、花ごころナル、八重ノ白菊」 續後撰集、二、春、中「タノメドモ、イデヤ櫻ノ、花ごころ、サソフ風アラバ、散リモコソスレ」

はな-ござ (名) 【花席】 藺ヲ五彩ニ染メテ、種種ノ文ニ織リタルモノ。席トシ用ヰル。ハナムシロ。 佳文席 書言字考節用集、七、器財門「佳文席、ハナゴザ」

はな-ごほり (名) 【花氷】 氷ノ中ヘ、花ヲ凍リ込マセタルモノ。

はな-ごゑ (名) 【鼻聲】 (一)淚ニ咽ビテ、鼻ノツマリタル時ノ聲。 源、十二、須磨八「ワカレト云フ文字コソ、ウタテ侍ルナル中ニモ、ケサハ、猶タグヒアルマジウ思ヒ給ヘラルルホド哉ト、はなごゑニテ、ゲニアサカラズ思ヘリ」 同、廿五、柏木六十「シバシバ押拭ヒ、鼻打チカミ給フ、云云、御息所モはなごゑニナリ給ヒテ」 狹衣、一、上廿八「皐月ノ空ニハ、オソロシキモノアナルヲトモ宣フママニ、はな聲ニナリ給ヒヌナリ」 (二)鼻ニ掛リテ、濁リ聞ユル聲。鼻ツマリテ、正シク出デザル聲。 今昔物語、廿八、第廿一語「音ハ鼻音ニテ高カリケリ、物言ヘバ內ニ響キテゾ聞エケル」

〔はな-ざかり (名) 【花盛】 花ノ盛ニ開キタルコト。滿開。又、ソノ頃。花ドキ。花時。 伊勢物語、八十二段「年ゴトノ櫻ノ花ざかりニハ、ソノ宮ヘナンオハシマシケル」 落窪物語、三「三千年ニ、ナルテフ桃ノ、花ざかり、ヲリテカザサム、君ガタグヒニ」 榮花物語、四、見はてぬ夢「紫菊ノ、コロモ憂世ノ、花盛リ、ヲリ(オモイ)忘レテモ、折リテケルカナ」 後撰集、十四、戀、六、男のもとより、花盛にこむといひてこざりければ「花盛、スグシシ人ハ、ツラケレド、言ノ葉ヲサヘ、隱シヤハセム」 謠曲、葛山府君「アラ面白ノ花盛リヤ、何トモシテ、一枝手折リ、天上ヘ歸ラバヤト思ヒ候」

はな-さき (名) 【鼻先】 (一)鼻ノ端。 【鼻尖】 (二)目ノ前。メサキ。眼前。目前。

はなさき-ぢぢ (名) 【花咲爺】 又、はなさかぢぢ。枯木ニ花ヲ咲カセタリト云フお伽噺ニアル翁。轉ジテ、物ウラヤミスルモノニ喩ヘテ云フ語。 小兒ノ昔噺「老イタル夫婦、慈悲深キモノ、飼ヒタル犬ノツマヅキタル所ヲ掘リテ金ヲ得タリ、隣ナル慳惡シキ夫婦ウラヤミテ、其犬ヲ借リテ引キアルクニ、ツマヅカズ、引倒シテ掘ルニ、穢キ物出ヅ、腹立チテ、犬ヲ殺シテ、小松ノ下ニ埋ム、其松、俄ニ大木トナル、先ノ翁、ソノ木ヲ貰ヒテ臼ニ作リ、麥ナド搗クニ、麥沸出デテ盡キズ、隣ノヲトコ、其臼ヲ借リテ麥ヲ搗ク、皆穢トナル、怒リテ臼ヲ碎キテ薪トス、翁、又、其灰ヲ取リテ枯木ニ上リ、灰ヲマケバ花咲ケリ、ヨリテ、國ノ守ヨリ金銀、衣裝ノ賞アリ、花咲の翁ト云ハル、隣ノヲトコ、ウラヤミテ、カノ灰ヲ枝ニフリカクルニ、花ハ咲カデ、國守ノ眼ニ入リケレバ、從者ドモ、ヲトコヲ懲ラス、ヲトコ病ミテ空シクナリヌ」 宇津保隨筆(寶曆)「雛ノ園、花さかせ翁、メサレズヤ」

はな-ざくら (名) 【花櫻】 (一)櫻ノ花ノ意。 古今集、二、春、下「ウツセミノ、世ニモ似タルカ、花櫻、咲クト見シ間ニ、カツ散リニケリ」 (二)櫻ノ一種。重瓣ニシテ、花ノ色ノ紅ナルモノ。 六帖、六、はなざくら「花櫻、イカデカ人ノ、折リテミヌ、後コソ優ル、色モ出デ來メ」

はな-ざま (名) 【花狹間】 神殿ナドノ戶ニ、種種ノ文ヲ刻リ透シテ、彩色シタルモノ。 嬉遊笑覽、一、上、居處「今神殿ナドノ戶牖ニ、花狹間トテ、種種ノ文ヲ彫刻シテ透シタルニ、金箔ヲ置キ彩色スルモノ」 淀河(貞德)「下草ヲ、今宵鼠ニ、ヒカレケリ、枝ニ油ヲヤ、塗リシ花ざま」

はな-ざら (名) 【花皿】 けこ(華筥)ニ同ジ。 運步色葉集「花皿、ハナザラ」

はなし (名) 【話】 〔噺、咄ナドノ和字アリ〕 (一)話スコト。語ルコト。モノガタリ。 話 談 狂言記、成上「モハヤ何ニモ珍ラシイ話ハナイカ、云云、ソレハ何ト云フはなしちゃ」 (二)ウハサ。評判。 (三)ワケ。事情。 (四)オトシバナシ。落語。

はなし-あひ (名) 【話合】 カタラヒ。談合。サウダンヅク。談合。商議。

はなし-あひて (名) 【話相手】 談話スル相方。コトバガタキ。又、相談相手。

はなし-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 【話合】 互ニ話ス。カタラフ。談合ス。商議ス。

はなし-うち (名) 【放討】 放召人ヲウチハタスコト。 甲陽軍鑑、十四、品第四十、下「ハナシメシウド衆ノ內ニ居リ候ハバ、ソコツニ其居家ヘオシ込ム可カラズ、云云、右はなしうちノ者、衆ノ內、或ハ外ニテモ、各カカリスル所ヘ、誰ニテモ最前ニカカリテ切ムスビ、カカノツ引キツ亂レテ勝負ヲスルニ」 明良洪範、十七「諸役人不レ殘登城スベシト、觸レラレケレバ、衆中、皆皆、拔コソ例ノ男トモ、明日ハ仕置セラルルハ必定ナリ、切腹カ、はなし討カ、追放トハヨモユカジ、日頃、イタヅラ童過シテ、學問講習ノ座ニ列ナラザル文盲トモ、ナレノ果テヲ見ヨヤトゾ」

はなし-か (名) 【咄家】 藝人ノ一種。落噺ヲ旨トシ、怪談、人情噺、仕形噺、三題噺、謎解、八人藝ナドヲシテ、人ノ興トスルヲ業トスル者。落語家。 寬天見聞記「今ノ噺し家トテ落シ咄スル者ハ、寬政ノ頃ハ稀ニアリシ、竪川ノ淡洲樓焉馬、又ハ、可樂夢樂ナド云フ者許リナリシガ、夫夫ニ書ハ家業有リテ、夜斗リ噺シスル、其時分ハ、今ノ寄ト云フ場所モ定マラズ」 滑稽發句類題集(文化、松爛撰)二編、中「はなし家ハ、世間ノアラデ、飯ヲ喰ヒ」

はなし-がひ (名) 【放飼】 (一)のがひ(野飼)ニ同ジ。カヒハナシ。ハナチガヒ。 琴佐集「夏ノ野ニ、大野ノ原ノ、草シケリ、はなしがひナル、駒モ勇メル」 (二)放任シテオクコト。 浮世風呂(文化)三編、上「何テモ彼テモ云ヒナリ次第、離し飼ひト云フ物ダカラ、惡ク甘ヤカシテ、可ケルモンヂャアネェ」

はなし-くち (名) 【話口】 (一)話シブリ。

(二)話ノイトグチ。話ノ端緒。(三)話出ス趣キ。話ノ[illegible]意。[illegible]

はなし-ことば (名) [話詞] くちことば(口詞)ノ條ヲ見ヨ。

はな-しづめ-の-まつり (名) [鎭花祭] 古ヘ、陰曆、三月ニ、神祇官ニテ行ハルル祭事。春、花ノ飛散スル頃ハ、疫神分散シテ癘ヲ行フ、コレヲ鎭メムトテノ祭ナリト云フ。民間ニテハ、京都、今宮社ノやすらひ祭ト云フアリ、同ジ意ニ出デシモノナリトゾ。公事根源、三月、鎭花祭「是レハ大神、狭井ノ二祭ヲ云フト、神祇令ニ載セタリ、春花ノ飛ビカフ比ハ、疫神分散シテ人ヲナヤマスガ故ニ、カレヲ鎭メン爲メニ、此ノ祭ハアルトカヤ、神祇官ニテ行ハル」[illegible]野ニアリ、其ノ神ナリ、云云、[illegible]祭、云云、[illegible]春ノ[illegible]ハ、必ズ[illegible]分散シテ、人ヲ[illegible]スナレバ、當社ヲナダメ鎭メテ、踊リヲ催ストナリ」

はなし-どり (名) [放鳥] 又、はなちどり。死者ノ冥福ヲ祈ル爲ニ、捕ヘタル鳥ヲ放チ遣ルコト。ハウテウ。放生。文武五人男(元祿、近松作)二「イヤ是オ侍サマ、ワラハモ大事ノ[illegible]アリテ、[illegible]」

はな-しね (名) [花米] 古ヘ、紙ニ米ヲ包ミテ、幾箇トナク木ノ枝ニツケ、神佛ニ奉リシモノ。ウチマキ。散米。歌林拾葉集、二「花しねハ花米也、散米トニ[illegible]ナドニマク米ノ事也」[illegible]集、二「[illegible]ヲ紙ニ包ミ、[illegible]、枝ニツケテ神ニ奉ルモノ」夫木抄、四、花「山櫻、ヨシノマウデノ、はなしねヲ、尋ネム人ノ、袖ニツツマム」

はな-しへ (名) 鼻ノ病。はなひせ(鼻塞)ニ同ジ。[illegible]。字鏡[illegible]「[illegible]、鼻病、波奈志戸」

はな-しほ (名) [花鹽] 塊ニテ種種ノ花紋ニ製シタル[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ名產

トス。印鹽。好色二代男(貞享、西鶴)二「大アイ[illegible]

はなし-めしうど (名) [放囚、放召人] 武家時代ノ刑名。刑具ヲ使用セズシテ、一箇所ニ拘留スルモノ。又、其人。太平記、[illegible]ノ如クニテ、逃ゲヌベキ隙モ多カリケレ共、出家ノ[illegible]上手ト聞エシ坪内何ガシト云ヘル者、生捕トナリシガ、放囚ニシテ有リシニ」

はなし-めぬき (名) [放目貫] 短刀ノ覦ノ名。刀ノ柄ノ目釘ノ上ナ、[illegible]、又ハ、革ナドニテ巻カザルモノ。戰陣ニハ、之ヲ巻クヲ常トス。長町女腹切(正德、近松作)上[illegible]、[illegible]はなし目貫ノ性ヨシト」

はな-しやうぶ (名) [花菖蒲] [illegible]尾科ノ多年生草本ノ名、高サ三四尺、葉ノ形、菖蒲ニ似テ、花アリ。形、かきつばた(杜若)ノ花ノ如ク、時モ相及ビテ、夏ノ半ニ紫色ノ大形ノ花ヲ開ク。今世、人、多ク其花ヲ賞ス。菖蒲ノ、今ノ如ク、花ノ色、濃紫、淡紫、青、白、斑入ナド、[illegible]、[illegible]ニナレルハ、[illegible]ニ因レルモノナラム)品類モ極メテ多シ。ハナアヤメ。玉蟬花

はな-しんさい (名) [花山菜] あさざ(莕菜)ニ同ジ。

はな-しる (名) [鼻液] はな(洟)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

はな-しろ (名) [鼻白] (一)魚ノ名。ぶり(鰤)ノ條ヲ見ヨ。(二)鳥、獸ナドノ鼻端ノ白キモノ。

はなじろみ (副) [鼻白] 戰場ニテ、敵、味方、思ヒヨラズ出合ヒ、互ニ驚キ臆シタ[illegible]出合テ、互ニビックリシテ臆シタル事ヲ云フニヤ」

はな-じろ-む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [鼻白] 臆シタル顔スル。氣オクレシタル顔色ヲスル。源、八、花宴「サテノ人人ハ、皆臆シガチニ、はなじろめ[illegible]」[illegible]

はな・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [illegible] [illegible]事ヲ放チ[illegible]ノガタル。又、シラス。

はな・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [離] (一)[illegible]「カミツケヌ、佐野ノ船橋、トリ波奈之、親ハサクレド、ワハサカルガヘ」(二)隔テテ遠ク押シ遣[illegible]

はな-すげ (名) [illegible]

はな-すすき (名) [花薄] (一)[illegible]出デタルモノ。花ノ開キタル芒。倭名抄、[illegible]シキ、君ガ家ナル、波奈須須伎、穂ニ出ヅル秋ノ、[illegible]グラク惜シモ」大和物語、花すすき、君ガカタニゾ、[illegible]「イカバカリ、風ノツラサニ、花すすき、吹キクル方ヲ、マヅソムクラン」(二)襲ノ色目ノ名。[illegible]

はな-すぢ (名) [鼻筋] ハナグキ。ハナミネ。ハナズミ。ハナバシラ。鼻ノ骨ノ、眉間ヨリ鼻尖マデ互レルモノ。鼻梁。好色一代男(天和、西鶴)二「[illegible]ハ小鼻[illegible]ノ[illegible]

はな-スハウ (名) [illegible] [illegible]ノ汁ニテ染メタル鳥紅色ノ如ク、大サ四分許リ、形、豆花ノ如ク、或ハ幹ニ生ジ、或ハ枝叉ノ間ニ生ズ。後、平タク長サ二寸許リ、内ニ[illegible]、花後ニ莢ヲ生ズ、圓ク心[illegible]ハウノキ。スハウバナ。紫荊

はな-ずまふ (名) [花相撲] [illegible]ル故ニ云フ)相撲ニ云フ語。春秋二期、本場所ニ於テ興行スル相撲ニ對シ[illegible]

はな-ずみ (名) 古名。[illegible]

はな-ずり (名) [illegible] ニテ、衣ニ色ヲ摺リ出[illegible]「宮城野ノ、[illegible]

はなずり-ごろも (名) [花摺衣] (一)[illegible]ソナキ。(二)秋、野ヲ分ケユクム[illegible]

はなせうえう(ハナ・シヨウヨウ) (名) 【花逍遙】 花ヲ見ニ歩クコト。花見ノ逍遙。サクラガリ。 古事談、二、[illegible]「[illegible]花逍遙ニ、一條、一種物シケリ」

はなぞの (名) 【花園】 花ノアル園。花ヲ多ク栽培セル處。ハナバタケ。花圃。 催馬樂、竹川「花ぞのニ、ワレヲバハナテ」

はなぞめ (名) 【花染】 (一)露草ノ花ニテ、染メタルコト。又、ソノモノ。 古今集、十五、戀、五「世ノ中ノ、人ノ心ハ、花ぞめノ、移ロヒヤスキ、色ニゾアリケル」 兼好法師集「花染ノ、色トモ[illegible]カノ、[illegible]サヘ、トハネバ易ク、移ル頃カナ」 謡曲、[illegible]物狂「人ノ心ハ花染ノ、ウツロヒ易キ頃モ過ギ」 (二)櫻ノ花ノ如キ色ニ染ムルコト。又、ソノモノ。 柳亭筆記、中、花染頭巾「花染ノ、頭巾ノ山ハ、吉野カナ」

はなだ (名) 【縹】 〔花田ノ義カ、露草ノ花ニテ染メタルヨリ名アリト云フ〕 はなだいろ(縹色)ノ略。藍色ノ薄キモノ。花色。(今、花色ノ名ヲ存ス、然レドモ色ハ紺ニ近キヲ云フ)淺葱(アサギ)色。 字鏡廿「縹、波奈太」 易林本節用集(慶長)上、衣服門「縹、紺縹、ハナダ」 名目抄「花田(ハナダ)、淺木(アサギ)色也」 持統紀、四年四月「朝服者、云云、追八級深縹(ハナダ)」 天智紀、六年閏十一月「紺布二十四端」 宇津保物語、俊蔭三十八「ツヤヤカニ滑ラカナルクケ針ニ、はなだノ絲ヲゾ、左縒右縒ニヨリテ」 井筒業平河内通(享保、近松作)怨霊振分髪「松ノ古木ニヨルヨト見エシ、廿尋餘リノ縹ノ帯」

はなだい (名) 【花代】 藝娼妓ナドニ、花トシテ與フル金錢。ハナ。 本朝若風俗(貞享、[illegible])五「[illegible]ニモ新造子ノ遊ビハ稀ニ、花代モ一歩ヅツニナベテ極ハメ」

はなたか (名) 【鼻高】 (一)鼻ノ高キコト。又、ソノモノ。 【隆準】 易林本節用集(慶長)上、人倫門「鼻高、隆準、ハナタカ」 (二)【履】ノ名。次條、及、びかう(鼻高)ノ條ヲ見ヨ。ハナタカグツ。 [illegible](慶安)四「鼻高ハ桐木ニテ作リ、上ヲ黒漆ニテ塗リタルモノ歟、但、又、鞜沓ノ如クニテ、紐ノナキヤウノモノ歟、革ニテ作ルト云ヘリ、鼻高ハ公家方、又ハ、出家ニモ用ヒ侍ル」 (三)俗ニ、てんぐ(天狗)ノ異名。其條ヲ見ヨ。

はなたかぐつ (名) 【鼻高履】 又、びかうぐつ。鞜(クツ)ノ一種。革ニテ造リ、鼻ヲ高クシ、昔、僧侶ナドノ堂外ニ用キシモノ。略シテ、はなたか。 倭名抄、十二、履類「笑子、鼻高履也」 玄蕃寮式「鼻高履」 塵添壒囊抄、十一、鼻廣(ビカウリ)事「順ノ和名ニ高履ト書テ、注ニハ鼻高履ト云ヘリ、サレバ鼻高ト書クベキナメリ、はなノ上ニ、サシ出タル物アレバ、高ノ字ノ義モカナフベキヲ、世ノ人、廣ノ字ニ書キナシタルハ、非ニ正字一歟」 考信録、一「沓ヲ鼻高ト名クルハ、延喜式、二十一(玄蕃寮、下)云、講師、云云、高鼻履一兩ト、内陣ニテ着ル沓ヲ草鞋ト云フコト、疑フヘシ」

はなだぐさ (名) 【縹草】 つゆくさ(露草)ノ異名。 篠目抄「夏秋ヲ、カケテゾ露ノ、はなだぐさ、色ニアマレル、コトノハナレバ」

はなたけ (名) 【鼻茸】 古名、はなふしべ。人ノ鼻腔内ニ生ズル腫物、鼻腔内ニ卵圓形ノ腫瘍ノ如キモノヲ生ジ、鼻腔塞ガリ、寒性鼻聲ニナリ、鼻汁多ク分泌シ、嗅覺ニ障碍ヲ來シ、頭痛、不眠、記憶力減退等ノ障礙ヲ起シ、精神憂鬱トナル。 下學集、上、支體門「齆鼻、ハナタケ」 倭訓栞「はなしべ、云云、齆ハ鼻痔ナリ、はなたけトモ云ヘリ」 病名彙解、三「鼻内、俗ニ云、はなたけ也」

はなだし (名) 【花山車】 花ナドニテ飾リタル山車(ダシ)。だし(山車)ノ條ヲ見ヨ。

はなたちばな (名) 【花橘】 (一)古クハ、たちばな(橘)ヲ、其花ヲ賞スルニツキテ云フ語。 【橘】 日本紀、十三年九月、長歌「[illegible]行ク道ニ、カクハシ、波那多知波那、下枝(シヅエ)ラハ、人ミナ取リ」 萬葉集、十五[illegible]「我ガ宿ノ、波奈多知婆奈ハ、イタヅラニ、散リカ過グラム、見ル人ナシニ」 同、十九長歌「時鳥、來鳴ク皐月ニ、咲キ匂フ、花橘ノ、香(カ)グハシキ、親ノミコト」 (二)襲ノ色目ノ名。表、朽葉色、裏、青色ナルモノヲ云フト云フ。(三)なつみかん(夏蜜柑)ノ一名。其條ヲ見ヨ。【盧橘】 名義抄「盧橘、ハナタチハナ」 字類抄「盧橘、ハナタチハナ、花橘」 (四)又、橘ノ一種。實、小サキモノノ稱。たちばな(橘)ノ條ヲ見ヨ。【猴橘】

はなたて (名) 【花立】 (一)はないけ(花活)ニ同ジ。 乳母草子「御タナノ上ニ火トリ、云云、イタイケナル花たてナドモ置カレ候、撫子、薄(ススキ)ナドノモノタテラレ候」 (二)佛ニ供スル花、シキミナドヲ立ツル筒。

はなたび (名) 【花足袋】 更紗木綿ナドニテ造レル小兒ノ足袋。(正徳ノ頃) 我衣(文化)「寶永ノ頃迄、小兒ノ花足袋ナシ、正徳ノ比ヨリ、サラサ木綿ノ足袋ヲウル、代廿四銅程ナリ」

はなたらし (名) 【洟垂】 (一)洟ヲ垂ラスコト。又、ソノモノ。(二)小兒ナドヲ嘲リ云フ稱。ハナッタラシ。ハナタレ。(三)大人ノマヌケナルヲ、賤シメ呼ブ稱。ハナッタラシ。ハナタレ。 甲陽軍鑑、十一、上、品第三十六「武藤喜三郎ノ鼻たらしメガ、出頭ニマカセ、氏眞公ヲダマシマヰラセ」 東海道中膝栗毛(文化、一九)四編、下「貴物貴物ニ、無嫌モナニモイルモノカ、はなたらしメガ」

はなたり (名) 【洟垂】 ハナミヅヲ、垂ラスコト。 字鏡七「[illegible]、多[illegible]、波奈太利」 名義抄「洟、ハナタリ」 玉勝間、八、はなたり病「台記ニ、日來患ニ鼻[illegible]疾、[illegible]氣一也、マタ、[illegible]、後、好念身(夜前[illegible])ナド見エタリ、風ヲ引キタルヲ云フト聞ユ」

はなたれ (名) 【洟垂】 (一)ハナミヅノ垂ルルコト。(二)前前條ノ語ニ同ジ。 好色三代男(貞享、西鶴)三「小ビクニノ、鼻たれ尼」

はなぢ(ハナ・ジ) (名) 【鼻血】 鼻ヨリ血ノ出ヅルコト。又、ソノ血。【衂血】 倭名抄、[illegible]「衂、[illegible]、鼻出血也」 平治物語、[illegible]「[illegible]、云云、顔ニ[illegible]ヒシトツキ、鼻血流レテ[illegible]」 盛衰記、四十三、二位禪尼入海事「兵共、先帝ノ御船ヘ亂レ入リテ、大キナル唐櫃ノ鎖ネヂ破リ、云云、蓋ヲアケンアケントシケレバ、忽チニ目眩キ、鼻血垂ル」 嫗山姥(正徳、近松作)二「取ッテ投グレバ、云云、切石ノ上ヘマ俯向、鼻血ハ一石六斗三升五合五勺」

はなちいで (名) 【放出】 寢殿、又ハ、母屋ヨリ續ケテ、外ヘ建テ出シタル建物ノ稱。其南廂ナド、端近キ外ザマノアカルミヘ向ヒタル方ヘ、書ヲカキ、又ハ、大客ナドアル時、遣戶障子ナド放チ出シテ圍ヒ、ヒロメテシツラフ所。約メテ、はなちで。 家屋雜考、二、放出「放出ト云フハ、寢殿ノ放出、西ノ放出、中ノ放出ナド見エテ、一間ノ名ナリ、宇津保物語ニハ、はなちでトモ書キテ、中昔ノ雙紙トモニ多ク見エタリ」 蒼萍物語、二「寢殿ノ放出ノ、又一間ナル落窪ナルノ二間ナルニ住マセタマフ」 源、三十四、上、若菜、上六十三「寢殿ノはなちいでヲ、例ノシツラヒテ、螺鈿ノ倚子(イシ)立テタリ」 今昔物語、廿四、第[illegible]「前ノ放出ノ隔子ノ被ノ上タル上ニ」 同、同、第六[illegible]「前ニ放出ノ廣庇アル板屋一西宮記、大臣家大饗「[illegible]放出[illegible]客座二」 放出村ナド云フハ、莊園ナドヨリ割出シタル地。新在家(シンザイケ)ノ如キモノナルベシト云フ。 夫木抄、廿四、河「はなちでヤ、トホリノ川ノ、朝ボラケ、堤ムカヒニ、舟呼ブヤ[illegible]レ」 攝津ノ地名、今、大阪市旭區、訛シテ、はなてんト云フ)

はなちうま (名) 【放馬】 放飼ニセル馬。又、繫ギオカザル馬。ハナチゴマ。 蜻蛉日記、中、中五「川ヅラニ、はなちうまドモアサリ行クモ、遙カニ見エタリ、イト哀レナリ」

はなちがき (名) 【放書】 文字ヲ一字一字離シテ書クコト。ヒロヒガキ。又、手本

ヲハナレテ、心ノママニ書クヲモ云フ。[illegible]、一、[illegible]、はなちがきハ[illegible]ノ手、一字ヅツハナレタレ[illegible]ヲ云フ也」[illegible]、五、[illegible]「[illegible]モ、イトネンゴロニ書イ給ヒテ、カノ[illegible]はなちがきナム、[illegible]給ヘマホシキトテ」宇津保物語、[illegible]、中四十「男手はなちがきニ書キテ、同ジ文字ヲサマザマニカヘテ書ケリ」[illegible]集、「子[illegible]ノ、はなち書シテ、タエダエニ、ツラモ定メズ、カヘル雁ガネ」

はなちがひ(名) 放飼 はなしがひ(放飼)ニ同ジ。

はなちがみ(名) 放髪 結ハヌ髪。ウナヰバナリ。フリワケガミ。ハナチノカミ。(兒童ノ)

はなちがみ(名) 放紙 古ヘ、日給ノ簡ノ下ニ、上番ノ日數ヲ書シテ張ル紙。[illegible]腋[illegible]抄、清涼殿「奥ノ[illegible]ノ末ノ方ニフダヲ立テ、殿上人ノ名ヲ三段ニ誌シタリ、上ハ四位、中ハ五位、下ハ[illegible]人ナリ、名ノ下ニ紙ヲ押シテ上日ヲ付ク、放紙ト云フ」日中行事「毎月一日ハ、藏人、殿上ノ簡ノはなちがみヲシカヘテ、フルキはなち紙ノスヱ折カヘシタルヲノベテ、ヒトビトノ上日ノ數ヲカク、三日前ニシルシ[illegible]ルナリ」

はなちごま(名) 放駒 はなちうま(放馬)ニ同ジ。萬葉集、十[illegible]、[illegible]、カミタカバ野ノ、放駒、アラビニケラシ、逢ハナクモヘバ」

はなちじやう(名) 放狀 古へ、莊園ナドヲ人ニ讓リ與フル時、其由ヲ記シテ渡シタル狀。讓狀。讓渡狀

はなちで(名) 放出 はなちいで(放出)ノ條ヲ見ヨ。

はなちでづくり(名) 放出造 家ニ庇ノ如ク、[illegible]ニ取付ケテ、作リ出シタルモノ。屋根、二重ニナルサマ、京都ノ六角堂ノ類ナリ。はなちいで(放出)ノ條ヲモ[illegible]見セヨ。

はなちどり(名) 放鳥 (一)水鳥ヲ、翅ヲ切リナドシテ、池水ノ上ニ放チ飼フ[illegible]モノ。萬葉集、二、[illegible]「島ノ宮、マガリノ池ノ、放鳥、人目ニ戀ヒテ、池ニカヅカズ」同、同卅「島ノ宮、上ノ池ナル、放鳥、荒ビナ行キソ、君マサズトモ」(二)飼ヒ置ケル鳥ヲ放チ遣ルコト。又、ソノモノ。ハナシドリ。(崩、薨ナドニ行ハルルコト多シ) ハウテウ。續後紀、十二、[illegible]九年七月丁未、[illegible]、六、[illegible]、[illegible]、はなち鳥、[illegible]ツバサノナキヲ、飛ブカラニ、[illegible]ヒカクラム」新六帖、六「浮カレ行ク、我身ノ果ヤ、放鳥、[illegible]シトダニモ、[illegible]カ借マム」

はなちのかみ(名) 放髪 はなちがみ(放髪)ニ同ジ。[illegible]、九、[illegible]はなちのかみヲ、トリ立テテ、マキソメ川ヲ、[illegible]カハルナ」

はなちもとどり(名) 放髻、放元結 [illegible]鳥ハ帽子[illegible]、帽子ナク、[illegible]シ居ルコト。[illegible]御袖二」後松日記、十四「足利ノ代マデハ、烏帽子ハ元鳥ヲ放タズ、直垂、素襖ヲ着、合口ノ腰刀ヲ帶シ、太刀ヲ佩ク、云云、今ハ[illegible]ノナサクモリテ、日代ト云フ、[illegible]ノハヒタル[illegible]トシ、はなちもとどり[illegible]、又、[illegible]

はな・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) 離放 [はなる(離)ノ他動] (一)二ツニ分ク。ハナス。(二)離シテ遣ル。縱シテヤル。ハナス。ハガス。放[illegible](三)[追放ス。又、流罪ニ行フ。[illegible]ニケリ」(三)[illegible]古事記、下(允恭)二「輕太子者、流二[illegible]、十二、須磨ニ遠クはなちツカハスベキ[illegible]ナドモ侍ルナルハ」(四)出ダス。オコス。發ス。

はなつ[illegible] 名義抄「發、ハナツ、ヤハナツ」 武烈紀[illegible]「[illegible]兵、將自圍大臣宅、[illegible]火燔之」「[illegible]ヲ放つ[illegible]」[illegible]

はなつき(名) 鼻衝 (一)雙方、[illegible]トコト。[illegible](二)[illegible]ニ少シ吹キ出サレケルホドニ、[illegible]、はなつき[illegible]嵯、潮ノ滿チケレバ、船ハ浮キタリケル[illegible]ニ湊へ出ニケリ」平家物語、一、[illegible]門、[illegible]ニテ、殿下ノ出御ニ、はなつきニ參リ合ヒ[illegible]

はなつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 鼻衝 主君ノ前ヲ遠ザケラル。主人ノ意ニ[illegible]ザル。[illegible] 宇津保物語、[illegible]、上「[illegible]ニ仕ウマツリタリシ人人ハ、皆はなつき放タレ[illegible]、[illegible]、[illegible]レシ人人言ヒ合ヘリ」袋草子、「少シ[illegible]」

はなつくり(名) 花作 植木、[illegible]ナド[illegible]、[illegible]ヲ作ルコト。[illegible]花師 書言字考節用集、四、人倫門、花師、ハナツクリ[illegible]自由ニ[illegible]カラス、ソレヲ[illegible]カスハ花作リ、云云、[illegible][illegible]家香人[illegible]ニスケル、人ノ心ヤ、花作リ」

はなづくゑ(名) 花机 [illegible]モノト云フ。或ハ、花瓶ヲ[illegible]スル机ナリ[illegible]ト[illegible]云ノ。宇津保物語、[illegible]ノ所ニ、はなづくゑニ、[illegible]、[illegible]同、三十七、錦[illegible]花[illegible]ノ[illegible]ナド、[illegible]ナツカシウ、[illegible]ナル匂ヒ、[illegible]佛器ドモヲ[illegible]エツツ奉ラセ給ヘリ」

はなづな(名) [illegible] 牛[illegible]

はなづの(名) [illegible]

はなつばき(名) [illegible]

はなづり(名) [illegible]

はなひゝげ(名) [illegible] ([illegible]) ノ急呼[illegible] 鼻ノ擴ゲタルコト。[illegible]低キ鼻ニ云ノ語。又、ソノ人。[illegible]ハナツブレ。ハナッブレ。ハナヒシゲ。

はなづま(名) [illegible] 花ノ如クウツクシキ[illegible] 萩ノ異名。萩ハ鹿ノ親シム草ナレバ云フ。鹿ニ對シテ、其妻ト見立テテ云ノ語。[illegible]

はなつまみ(名) [illegible]

はなつまり(名) [illegible]

はなつんぼ(名) [illegible]

はなづら（名）牛鼻〔鼻連ノ義、くつわづらナドノ意〕はななは(鼻縄)、又、はなづな(鼻綱)ニ同ジ。倭名抄、十一「牛車具[illegible]、牛鼻也、波奈[illegible]良」字鏡「[illegible]、波奈豆良」天治字鏡、十一「牽、[illegible]牛之音也、牛乃波奈豆良」名義抄「[illegible]、ウシノハナヅラ」

はなづら（名）鼻面　鼻ノ端。鼻端。

はなどき（名）花時　花ノ咲ク時季。特ニ、櫻ノ花ノ咲ク頃。花期。クヮジ。

バナナ（名）甘蕉〔英語、Banana.〕熱帶地方ニ產ズル植物ノ名。我ガ國ニテハ、臺灣、琉球、小笠原島ナドニ產ズ。俗ニ實芭蕉ト云フ。莖、葉ハ絲芭蕉ニ似テ、莖ノ高サ一二丈餘ニ達シ、年每ニ紫花ヲ開ク。實ハ俗ニ、ばななトモ稱シ、長サ五六寸、巾一寸餘、黃綠色ノ皮ヲ去レバ、肉甘ク芳香アリテ、滋養分ニ富ミ、又、火酒、酢ヲ造ルベシ。

はなでしこ（名）花撫子　襲ノ色目ノ名。表、紫色ニシテ、裏、紅ナルモノ。

はななは（名）鼻縄　はなづな(鼻綱)ニ同ジ。牛鼻。萬葉集、十六「長歎ハ、馬ニコソ、フモダシ懸クモノ、牛ニコソ、鼻縄ハクレ」

はなにほひ（名）花匂　花ノイロツヤ。又、花ノニホヒ。萬葉集、廿「秋野ニハ、今コソ行カメ、モノノフノ、男ヲミナノ、波奈爾保比見ニ」同、同「見渡セバ、ムカツヲノヘノ、波奈爾保比、テリテタテルハ、ハシキタガツマ」

はなぬすびと（名）花盗人　花ノ枝ヲ盗ミトル人。公任集「我レガ名ハ、花ぬす人ト、立タバ立テ、タダ一枝ハ、折リテ歸ラム」狂言記、花盗人「ヤイヤイ新發意ドモ、花盗人ガハイッタ程ニ、棒ヲ持ッテ出合へ出合へ」

はなねぢり（名）鼻捻　又、はなねぢ。アレ馬ヲ靜ムル時、其鼻先ヲネヂル爲ノ用具。人車記、仁安二年十月廿日「左右居飼廿人、裝束如常、但大烏帽子、當色、鼻捻、已上橋頭、二行列之」櫻曾我女時宗(享保、自笑)「サバキ髪シテ片肌ヌギ、手ニはなねぢ、手ニ白刃取リ」

はなの（名）花野　秋季ニ、薄、萩ナドノ花ノ咲ケル野原ノ稱。又、花ノ多ク咲ケル野。萬葉集、廿「秋風ノ、吹キコキシケル、波奈能ニハ、淸キ月夜ニ、見レドアカヌカモ」新後撰集、五、秋、下「見ルママニ、心ゾウツル、秋萩ノ、花野ノ露ニ、ヤドル月影」

はなのあに（名）花兄　梅ノ異名。百花ニ先ダチテ開ケバ云フ。百花魁。黃庭堅詩「水上輕盈步月微、是誰招此斷腸魂、種作寒花寄愁絕、含香體素欲傾城、山礬是弟梅是兄、坐對眞成被花惱」謠曲、難波「ソレハカノ春ノ花、木木ノ盛リハ多ケレドモ、花ノ中ニモ始メナレバ、梅花ヲ花の兄トモ云ヘリ」續俳家奇人談「トク出デテ、又乙見セヨ、花の兄」又、百花ニ後レテ開ク菊ヲ、花の弟ト云フ。夫木抄、十四、秋「秋ノ色ノ、花の弟ト、聞キシカド、霜ノ翁ト、見ユル白菊」同、三十五、雜「イツノマニ、霜ノ翁ト、ナリツラム、菊ヲバ花の、弟ト思フナリ」

はなのえん（名）花宴　櫻ノ花ヲ觀ツツ酒宴スルコト。又、梅花、秋草ニモ云フ。又、菊の宴、萩の宴、藤の宴、ナドモアリ。觀花宴　類聚國史、三十一、弘仁三年二月辛巳「幸神泉苑、覽花樹、命文人賦詩、賜祿有差、花宴之節、始於此乎」宇津保物語、吹上、上「カクテ八月中ノ十日ノホドニ、ミカド花の宴シ給フ、カンタチメ、ミコタチ、殘リナク參リ給ヒテ、御アソビシ給フ」著聞集、六、管絃歌舞「白河院ニ行幸アリテ、花宴侍リケルニ、殿上人、樂ヲ奏シテ」

はなのおとと（名）花弟〔花兄ニ對ス〕前前條ヲ見ヨ。

はなのが（名）花賀　花ノ咲ク頃ニ行フ賀ノ祝。卽チ、寅、卯、辰ノ歲ノ生レノ人ナラバ、正、二、三月ノ中、己レノ誕生日ヲ祝フモノヲ云フ。がのいはひ(賀祝)ノ條ヲモ見ヨ。

はなのかがみ（名）花鏡　花ノ影ノ映ル水ヲ、鏡ニ見立テテ云フ語。伊勢集「年ヲヘテ、花の鏡ト、ナル水ハ、散リカカルヲヤ、曇ルト云フラム」著聞集、十四、遊覽「カゲ淸キ、花の鏡ト、見ユルカナ、ノドカニスメル、白河ノ水」又、月ヲモ云フ。新拾遺集、二、春、下「櫻サク、高ネヲカケテ、出デニケリ、花のかがみノ、春ノ夜ノ月」

はなのくも（名）花雲　櫻花ノ爛漫ト咲キ亂レタルトキハ、白雲ノ如ク見ユルヨリ、ソレニ喩ヘテ云フ語。風雅集、二、春、中「峯シラム、梢ノ空ニ、影オチテ、花の雲間ニ、有明ノ月」芭蕉句集「觀音ノ、甍ヤリツ、花の雲」蕪村句集「花の雲、三重ニ重ネテ、雲ノ峯」

はなのごしょ（名）花御所〔御所ノ條ヲ見ヨ〕將軍足利義滿ノ京都ノ室町ニ造リタル邸宅。足利將軍、代代コレニ住セリ。室町殿、室町御所、花亭トモ云フ。卽チ、室町幕府ナリ。又、花營トモ云フ。卽チ、柳營ナリ。南方紀傳、下「永和四年三月、將軍移徙花亭、號室町殿、其館內多植名花、故時人稱花御所」花營三代記、永和四年十一月九日「准宮入于花御所」蔭凉軒日記、寬正六年八月十一日「石淸水八幡宮放生會、上御御習禮、於御所(原註、室町殿)在之」

はなのこりづき（名）花殘月　陰暦、四月ノ異稱。卯月。藏玉集「四月、暮レ果テテ、春ノ名殘リヤ、山深ミ、繁ミ隠レノ、はなのこりづき」

はなのさいしゃう（名）花宰相〔牡丹ヲ花王トシタレバ、芍藥ヲ花宰相トナシタルナリ〕しゃくやく(芍藥)ノ異名。

はなのさき（名）鼻端　(一)ハナノ尖端。ハナサキ。ハナノサキ。[illegible]集、五、肢體門「鼻頭、ハナノサキ」好色二代男(貞享、西鶴)五、一「花切リノ刃物ニテ打チ[illegible]ハ、[illegible]ニ當リ、生マレモツカヌ缺口キテ」(二)、眼前。目前。狂言記、[illegible]「はなのさきヲスリコスノテ通リテ、是レモ鼻へ持ッテ參リマシタ」

はなのたふ（名）花塔　古ヘ、四月八日ニ、尾張ノ熱田神社ニテ、灌佛會ヲ行フ時、綵彩花ヲ多ク造ル、コレヲ花の塔ト稱ス。又、京坂ノ俗、四月八日、ツツジ、及、新花ヲ竿ノ先ニ結付ケテ、九輪ノ如クシテ、家家ニ立ツルヲ、花の塔ト云フ。(鹽尻)

はなのつゆ（名）花露　(一)草木ノ花ノ上ニ置ケル露。新古今集、二、春、下「駒トメテ、ナホ水カハム、山吹ノ、花ノ露ソフ、井出ノタマ川」新勅撰集、十一、戀、一「手折リツル、花の露ダニ、マダヒスニ、雲ノ[illegible]重ヲ、過ギテキスラム」(二)薔薇ノ花ヲ蒸溜シテ採リタル水。面皰ヲ治スト云フ。薔薇水。薔薇露。(三)化粧ニ用ヰル香アル水。顏ニ光澤ヲ出スモノ。或ハ、にほひ油一合ニ、生蠟五匁、龍腦一分入レテ煉ル。夏ハ蠟ヲ增シテ製ス。我衣(文化、曳尾庵)「寬永ノ末、芝神明前ニせむし喜右衛門ト云フ者、花の露ト云フ藥油ヲ製ス、面部ノフキ出物ニヨシ、面ニツヤヲ付ル匂油ナリ」吉原徒然草(寶永)「シタルキ女ノ顏、花の露ニテ光ラセタル」藝者口寫(元祿)「花の露屋喜右衛門カ、キャラノ油」玉海集(明暦)「薄レルハ、伽羅ノ油カ、花の露」

はなのばうし（名）綿帽子　天台宗、及、眞言宗ノ僧侶ノ、其位ヲ得タルモノノ被ル帽子。袖ノ形シテ、袖口ヨリ顏ノ出ヅルヤウニ作レルモノ。色ハ薄縹色ヲ本トス。今ハ白羽二重トナレリ。近

代世音義、一、[illegible]子「天台大師、男帝ノ前ニテ説法アリシ、寒風ヲ凌ガシメント、御衣ノ袖ヲトキテ給ハリシヲ、ソノママニ被リタリシ也、本朝ハ、桓武帝ノ御衣ノ[illegible]ニ[illegible]ハリシ事アリ、[illegible]ぼうしノ始也」[illegible]

はなのまく (名) 花幕 花見ノ宴ニ張リマハス幕。花見ノ幕。花見幕。 蕪村句集「花の幕、兼好ヲ覗ク、女アリ」

はなのみやこ (名) 花都 〔花洛ノ文字讀ナルベシ〕 みやこ(都)ト云フニ同ジ。 後拾遺集、一、春、上「ニホフラム、花の都ノ、[illegible]シクテ、ヲルニモノ憂キ、山櫻カナ」 堀河百首、春「クレバ、イヅレノ谷ノ、ウグヒスモ、花の都ニキツツナクナリ」 源、十二、須磨「咲キテトク、散ルハ憂ケレド、行ク春ハ、花の都ヲ、立歸リ見ヨ」

はなのもと (名) 花下 (一)花咲ケル樹ノ邊。 白氏文集、三十、春興「花下忘レ歸因ニ美景ニ」 後撰集、一、春、上「霞ノ、ナキツル聲ニ、サソハレテ、花のもとニゾ、ワレハ來ニケル」 山家集「願ハクハ、花のもとニテ、春死ナム、ソノ二月(キサラギ)ノ、望月ノ頃」 (二)連歌ノ宗匠ノ家ノ號。 後土御門天皇ヨリ、連歌師飯尾宗祇ニ賜ハリシモノ。此號、師弟次第ニ授受セシガ、寛永中ニ至リ、其號ヲ[illegible]ゲル里村昌琢(紹巴ノ門人ノ昌叱ノ子)ニ、連歌宗匠・稱ヲ賜ハリシヨリ、後、又、師弟授受セシ。 菟玖波集ノ序ニ「或詠ニ花下(レンガ)ヲ、或嘲ニ月前ヲ、久シク雲ノ上ノモテアソビ、花ノ下ノタハブレトナレリ」トアリ。[illegible]連歌ノ條ヲ見ヨ) 津國女夫池(享保、近松作)二「モトヨリ一學ヤサ男、花の下ノ門弟ニテ、連歌ヲ好ミ」

はなのゆき (名) 花雪 散ル花ヲ雪ニ形容シテ云フ語。 落花 新古今集、二、春、下「マタヤ見ム、交野ノミ野ノ、サクラ狩、花の雪散ル、春ノ曙」 [illegible]ノ、イクトセヲ、身ハ古里ノ、庭ニミルラム」

はなのわう (名) 花王 くゎわう(花王)ノ條ヲ見ヨ

はなは (名) 塙 〔山背(ヤマセ)の端ノ義カ、集韻「塙、土高也」〕 山ノ差シ出デタル所、山ノハナ。ヤマバナ。山鼻 夫木集、廿一、隱「武藏ノ、はなはニ立テル、松ミニモ、ワカゴトヒトリ、アリトヤハ聞ク」 亜之集「年ヲヘテ、タレヲマツトカ、タケクマノ、はなはニノミハ、出デタチルラン」

はなばしら (名) 鼻柱 (一)〔鼻ノ左右ノ孔ヲ隔ツル肉。俗ニ、鼻ノ障子。 倭名抄、三、鼻口類「[illegible]在ニ鼻柱下人中、[illegible]」 名義抄「鼻柱、ハナバシラ」 書言字考節用集、五、肢體門「頞(説文、鼻莖也)、鼻莖、鼻柱、ハナバシラ」 (二)俗ニ、ハナマヅ、鼻梁 [illegible]四「私ノ鼻柱ヲ、遊女ノ如ク[illegible]」 [illegible]俵[illegible]ノ、見事ナ[illegible]ノ、鼻ばしら」

はなはだ (副) 甚[太孔] 〔華やかナル意カト云フ、或ハ、[illegible]〕 過グシテ。大イニ。イタク。イミジク。 ニヘサニ サハニ [illegible] 辭門「太、甚、ハナハダ」 神代紀、上「汝甚無道」 萬葉集、七「甚多モ、零ラヌ雨ユヱ、ニハタヅミ、イタクナユキソ、人ノ知ルベク」 同、十四「花多モ(ハナハダ)、零ラヌ雪ユヱ、ココダクモ、天ツミ空ハ、曇ラヒニツツ」 同、十三、長歌「天地ノ、神モ甚、吾ガ思フ、心知ラネヤ」 同、同「甚モ、夜フケテナ行キ、道ノ邊ノ、ユサカノ上ニ、霜ノ降ル夜ヲ」 [illegible]、下「はなはだカシコシ、[illegible]モ、イソガシク侍ル時ニ」 源、廿一、少女[illegible]「はなはだ非常(ヒザウ)ニ侍リタウブ、カバカリノシルシトアル、何ガシヲ知ラズシテヤ、公ニハツカウマツリ給フ、はなはだ[illegible]」

はなばたけ (名) [illegible] (花園)ニ同ジ。はなばた。花圃

はなはだ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 甚 〔[illegible]いたたき、[illegible]、たたたし ト同意〕 甚ダ[illegible] 非常ナリ。イタシ。イミジ。ハゲシ。 名義抄「[illegible]、ハナハダシ」 [illegible]集、四十四、劇 [illegible] 著聞集、錦」 蜻蛉日記、下、「下[illegible]カシコマリヲ、はなはだしうすキタレバ」

はなばちす (名) 花蓮 〔[illegible]〕 [illegible] 夫木抄、九、蓮「[illegible]カミノサリ人、トモシキロカモ」 [illegible]ヤドス、契リモアルシ、花ばちす、ナホ玉コスヤ、ウキバナルラン」

はなばな・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 花花 ハナヤカナリ。ミゴトナリ。アッパレナリ。 十訓抄、下、第八、第四條「心ノモテシヅメヌ人ハ、何事モ、はなばなしくケシカラズナリ」

はなばなと (副) 花花 ハナヤカニ。ハ[illegible] [illegible]堀取シテ、西ノ對、東ノ對ニ、花花とシテ住マセタ[illegible]シアガル所ニ、木ノ葉ノ、イト花ヤカニ、カガヤキテ」 榮花物語、三十七、[illegible]「[illegible]カシゲニ、花花と[illegible]テ」 [illegible]、一、上「クマナキ日ノケシキニ、花花と匂ヒミチ給ヘル御[illegible]」

はなばん (名) 端番 (一)最初ノ當番。「車湯ノはなばん」 (二)芝居ノ出方ノ、順番ニ木戸ノ前ニ出デテ、客ヲ場内ニ案内スルモノ。

はなび (名) 花火 [illegible]

[illegible]ノ藥料ヲ調合シテ、竹管、又ハ、紙筒ニ盛リ、火ヲ點ジテ空中ニ放チ、種種ノ[illegible]スルモノ。ウチアゲ花火、シカケ花火、ナドアリ。其他、小兒ノ玩ニ供スル[illegible]ナドノ種類アリ。 煙花 [illegible] [illegible]味方ノ若侍共、花火ヲタクリアゲ、[illegible]ケル」 [illegible]隅田川 [illegible]花火[illegible]トキ[illegible]カト、[illegible]ト中ス花火、水ニ入リ[illegible]、此ノ[illegible]ノ作用アリ」 [illegible]物モ、ナビク[illegible]ノ、花火哉」

はなびし (名) 花菱 [illegible]

はなひしげ (名) 鼻拉 はなびしゃげ (鼻拉)ニ同ジ。 [illegible]シテヤ、はなひ・げ、花ト鼻トヲカク」

はなびしげ (名) [illegible] ジ。はなびしゃげ [illegible]

はなびしびしと (副) 〔[illegible]〕 [illegible]ベキヤツ、後ノ鼻ヲ[illegible]ルカ、結レドモ、ネノ音、[illegible]、[illegible]リシガ、亂レ[illegible]リタルニハ、[illegible] (古[illegible]ノ[illegible]) [illegible] [illegible]

はなひせ (名) [illegible] [illegible]ノ久シク[illegible]

ハナシヘ。倭名抄、三「鼻窒、鼻疾、波奈比世、鼻久不通、遂至窒塞一也」名義抄「鼽、ハナヒセ」字鏡「鼽、波奈悲升」壒嚢鈔下、上、支…門…、ハナヒセ、ハナフサカル」

はなび-せんかう (名) [花火線香] せんかうはなび(線香花火)ニ同ジ。織留(元祿、西鶴)二「今身ノ上ハ長町ニカゲ隱シ、花火線香シテ朝夕ノ烟細ク、一人ノ母ニ手ナレヌ賃綿ヲクラシ」

〜はな-びら (名) [花瓣] 又、くゎべん。花ノ體ノ四方ヘ片片ト出デタルモノ、即チ、花冠ノ各片。其一列ナル性ノモノヲ單瓣トシ、數列重ナリテ生フルヲ重瓣トス。倭名抄、廿、草木具「葩、波奈比良、草木花片也」枕草子、九、百十一段、おほきにてよき物「山吹ノ花びら」公任集「花片ノ、數ニテモシレ、紅ニ、ヤシホ染メタル、梅ニヤハアラヌ」

はなびら-もち (名) [花瓣餅] 牡丹餅ノ類カ。永正五年正月二日、狂歌合判詞「花びらもちノ、美シケナル」

〜はなひり (名) [嚏] くさめ(休息萬命)ノ古語。次次條ノ語ヲ見ヨ。

はなひりのき (名) [木藜蘆] 東北地方ニ多キ石南科ノ小木ナリ。高サ尺ニ盈タズ、或ハ四五尺ニ至ル。葉ハ長精圓形ニシテ長ク、五生、鋸齒ヲ有ス。夏、穗ヲ出スコト四五寸、淡緑色ノ壺狀ノ花ヲ開ク。有毒ナレバ、葉ヲ採リテ粉トシテ、鼻ノ中ニ入ルレバ、必ズ嚏スル故ニ名アリ。一名、クサメノキ。

〜はな-ひる・ヒル・ヒレ・ヒ・ヒ・ヒヨ(自動、上一) [嚏] (洟放るノ義) 嚏る(ヒる)ニ同ジ。嚏(クサメ)ヲナス。クシャミスル。倭名抄、三、鼻口類「嚏、波奈比流」天治字鏡、十二「噴嚏、波奈比流」萬葉集、十一、四十四「眉根掻キ、鼻鳴紐解ケ、待テリヤモ、イツカモ見ムト、思ヘルワギ

ミ」枕草子、二、十七段、にくきもの「はなひテ、誦文スル人、大カタ人ノ家ノ男シウナラデハ、タカクはなひタルモノ、イトニクシ」

はな-ふ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) [吹花] 九月ノ重陽ニ菊酒ヲ飲ムニ、其盃中ノ菊花ヲ吹ク。コレ厭勝(マジナヒ)ナルベシト云フ。唐詩紀事、二、中宗九月九日幸臨渭亭、登高作「社迎滿吹、花向酒浮」藝文類聚、四、侍讌九日詩「玉醴吹花菊、銀床落井桐」菅家文草、九日侍宴、同賦吹花菊「把蕭乗時分十吹、花作到唱遲二八酒名」散木集、三、殘菊留秋「惜シマレテ、はなふく秋モ、ウツロヘル、菊ヲバエコソ、見ステザリケレ」夫木抄、三十三、酒「竹ノ葉(酒)ノ、籬ノ菊ヲ、折リソヘテ、花ヲふくラム、玉ノ盃」

はな-ぶくろ (名) [花袋] にほひぶくろ(匂袋)ノ一稱。後ノ桔梗袋(小袋ノ底ニ桔梗ノ花形ヲ附ケタル物)ノ類カト云フ。花月千句、慶安「匂フラシ、山懷ノ、花袋」謠心集、寛文「嗅香カ、草ノ袂ノ、花袋」寛永發句帳「綠樹、ヨレテ緒ニナレ、花袋」同「紐トクヤ、ゲニ千金ノ、花袋」

〜はな-ぶさ (名) [花房][英] (一)花ノうてな。即チ、花冠ノ外部ニアリテ、花ヲ保護スルモノ。普通ハ綠色ニシテ、數箇、輪生シ、癒合シ、又ハ、分離セル蕚片ヨリ成ル。ガク。[蕚] 倭名抄、廿、草木具「蕚、波奈布佐、一云、花房、蕚、花蹠也」天台眞言(雙字記)「蕚、ハナブサ」(二)藤ノ花ナドノ如ク、集リテ總ノ狀ヲナシタルモノ。枕草子、五、四十五段「色合好ク、花ぶさ長ク咲キタル藤ノ、松ニカカリタル」鶴井千首、春「岩代ノ、松ノタグヒニ、見エヌベシ、ムスビカケタル、藤ノ花ぶさ」白氏文集、三十一「花房紅…、池浪碧…」

はな-ふしべ (名) [ふしべハ、癤(コブ)ノ古名] はなたけ(鼻茸)ニ同ジ。字鏡、二十「…、寄肉也、…、窓肉也、…」天治字鏡、一「…、寄肉也、鼻肉也、波奈布志倍」同、二十「…、寄肉也、波奈布志倍」

はな-ふだ (名) [花札] はながるた(花骨

牌)ニ同ジ、

はな-ふり-ぎん (名) [花降銀] 銀貨ノ名。足利氏ノ末世、國國ノ大名ナドノ私造セシモノト云フ。又、一說ニ、徳川氏ノ初世、加賀ノ藩主前田利長ノ鑄造スル所ナリト。一兩ト十兩トアリテ、一兩ハ重サ四匁五分、十兩ハ四十三匁、面ニ星形連リ、花降ノ二字ヲ印ス。昆陽漫錄(靑木敦書)三「花降銀(元文ノ間)一…三寸五分五厘、横三寸五厘、厚サ八厘餘、重サ四十三匁」(面ニ花降、拾兩ノ字ヲ刻ス、四邊ニ雷文アリ、…切角ナリ、入用ホド切リテ用ヰシモノ)金銀圖錄(近藤守重)四、各國品「加賀國、花降銀、拾兩、…、大銀重サ四拾三匁、位一割入カ、…(守重)按ニ、是加賀利長卿ノ時、造ル所ナリ、一說ニ、鎌倉ノ時ノ物トスルハ、無稽ノ臆說ナリ、云云、按ニ、花降トハ、上銀ノ品位ナリ」

パナマ (名) [英語、Panama.] はなまさう(草)ノ略。熱帶亞米利加原産ノ植物。莖ハ短クシテ太ク、葉ハ大形ニテ掌狀ニ深ク裂ケ、長キ葉柄アリテ、椶櫚ノ葉ニ似、其嫩葉ハ、帽子、又ハ、卷煙草入ナドノ材料トナル。

はな-まがり (名) [鼻曲] 雄鮭ノ、年ヲ經テ、吻(クチ)ノ曲レルモノ

〜はな-まじろき (名) [瞬(マジロ)ヲ借リテ、鼻ニ云ヘルカト云フ] 鼻ヲ微動(ウゴメ)カスコト。ハナウソヤグコト。(表ニハ從ヒテ、心服セヌ意ヲ示スコトト云フ) 源、廿一、少女六「時ニ從フ世ノ人ノ、下(シタ)ニハはなまじろきヲシツツ追從シ、氣色取リツツ從フ程ハ」

パナマ-ばう (名) はなまノ嫩葉ヲ細ソク裂キ、白ク晒シタルモノニテ編ミタル夏帽子。

はな-み (名) [花見] 花ヲ觀テ樂ミ興ズル

コト。專ラ、櫻ニ云フ。花遊。觀櫻。觀花。看花。古今集、一、春、下「…カナラニ、來ル人ハ、散リナム後ソ、…」後撰集、三、春、下「八重ムグラ、心ノウチニ、フカケレバ、花見ニユカム、イデ立チモセズ」拾遺集、十九、雜、…「…コソハ、惜クモアラメ、我宿ノ、花見ニダニモ、君ガキマサヌ」雄長老狂歌「花見スル、供衆ノハナス、鐵砲ニ、アタラジトテヤ、歸ル雁ガネ」昔昔物語「ムカシハ花見、野遊山ニハ、小身トテモ槍ヲモタセ、侍ヲ召ツレ出ヅル」

〜はな-み (名) [齒並] 齒ノ、並ビタルサマ。齒列。古事記、中(應神)七十「波那美波、椎(シヒ)菱ナス」

はなみ-かづら (名) [花見鬘] 花見ノ假裝ニ用ヰル紙製ノ半面ノ鬘。

はなみ-ごそで (名) [花見小袖] 延寶、天和ノ頃、江戸市中ノ婦女ノ、上野山ナドノ花見ニ着タル小袖。伊達ニ、特ニ、綺羅ヲ盡シテ製シ、山ニ入レバ、紐ヲ櫻ノ木ニ互シテ、上着ノ小袖ヲ懸ケテ、假ノ幕(小袖幕)トシ、毛氈、花筵ナドヲ敷キテ酒宴ス。若シ雨ニ逢フトモ傘モササズ、濡ルルニ任スルヲ誇トス。(紫一本)長唄、元祿花見踊「花見小袖ノ縫(ヌヒ)ハクモ、ハデヲカマハヌ伊達染ヤ、ヨキコトキクノ判ジモノ」

はな-みぞ (名) [鼻溝] 鼻ノ下ヨリ、上脣ノ中央ニカケテ、窪ミタル所。人中。書言字考節用集、五、肢體門「人中、ニンチウ、ハナミゾ、脣上曰二人中一」

はな-みだう (名) [花御堂] 四月八日ノ釋迦ノ誕生會ニ作ル小サキ家。四柱ニ屋根アリ、芥子、レンゲ、草花ナドニテ屋根ヲ葺キ飾リ、中ニ釋迦ノ裸體像ヲ安ジテ、甘茶水ヲアブス。空華日工集、至德三年四月八日「新造二花亭一、蓋去年佛誕日、諸行者爭取二

はなみち (名) [花道] 「役者ノ出端ヲ、立派ニ見セムト飾ル意ノ名ナリト云フ」 (一)芝居ニ、演者ノ揚幕ヨリ舞臺マデ通フニ設ケタル長キ路。長サハ定マラズ、幅ハ三尺程ヨリ次第ニ廣クナリテ、今、略、五尺ヲ普通トス。揚幕ヨリ舞臺ヘノ道、向ッテ左ヲ西花道ト云ヒ、右ヲ東花道ト云フ。コノ一ツヲ兩花道ト稱ス。 劇場[illegible]話、上「花道、ハシガカリトモイフ、云云、古ヘ橋掛ノナキ頃、見物ノ人人、ヒイキノ役者ヘ思ヒ思ヒノ花ヲ[illegible]ル、ソノタメニ拵ヘタル道筋故、花道ト云フ、其頃ハ巾狭クシテ、兩方ニ竹ヲ以テ高欄[illegible]様ナル埒ヲ結ヒシトカヤ」[illegible]永、西澤一鳳)三編、下「花道ハ戸屋ヨリ筋違ニ二間計有リテ、其ヨリ本舞臺ヘ、マ直ニ花道ヲ付タル物也」[illegible]花道ノ、眞ン中頃デ、[illegible]シ」 (二)力士ノ相撲場ヘ出ヅル路。花ヲ飾ル。勝力士ハ、コレヲ受ケテ入ル。

はなみづ (名) [鼻水] ハナシル。ハナ。和名集「ハナミヅ、涕」

はなみづき (名) [花見月] (一)陰曆、三月ノ異稱。[illegible]、花見月、ナベテ心モ、アクガレヌラムニ (二)或花ノ開クヲ見ル月トシテ用ヰル語。[illegible]、志賀ノ道アル御代ノ花見月、都ノ山ソノドケキ」

はなみどり (名) [花見鳥] 鶯ノ異名。[illegible]抄「春ハハヤ、頃ニナリユク、山里ノ、軒ニ來テ鳴[illegible]はなみどり」

はなみね (名) [鼻梁] 「鼻峯ノ義」 [illegible] ハナバシラ。ハナゲキ。ハナヅミ。[illegible]

はなむけ (名) [餞] 〔馬のはなむけノ略〕 旅立ツ人ヲ送リ、其馬ノ鼻ヘ向ケテ物ヲ贈ルコト。轉ジテ、馬ニ向ヘズテモ、旅行ノ人ニ贈ル凡ベテノ品物。(く)ハ、詩歌[illegible]餞、餞別。[illegible]集(慶長)上、言辭門「餞、ハナムケ」下學集、下、態藝門「餞別、ハナムケ」[illegible]はなむけト思シ召サレ候ヘトテ、此ノ御膳ノ物ヲ強ヒテ参ラセトケケレバ」

はなむこ (名) [花壻] はなよめ(花嫁)ノ條ヲ見ヨ。 狂言記、吟壻「罷リ出デタルハ、何ニカハユガラルルはなむこデゴザル」

はなむしろ (名) [花席花筵] (一)花ノ一面ニ散リ敷キタル狀ニ云フ語。連歌ナドニ [illegible] (二)はなござ(花茣蓙)ニ同ジ。[illegible]七、器財門「花氈、花席、ハナムシロ」 [illegible]花むしろ[illegible]

はなむすび (名) [花結] (一)調度、衣服ナドノ飾ニ、着ケム料ニトテ、絲ニテ種種ノ花形ヲ結ビ作ルコト。古ヘ、女[illegible]ノ旨トセシコトナリ。[illegible]絲緒ナド是レナリ。今、むすびかた、絲花トモ云フ。(揭卷、[illegible]結、[illegible]結、[illegible]結、[illegible]結ナドノ類)嬉遊笑覽、二、上、服飾「花むすび、今イフ結びかたニ[illegible]、花形ヲムスビ、[illegible]、[illegible]ノ付物ニ用ヒテ、女工ノ肝要ノコトナリ、コノ故ニ、女ノ能ヲ云フニハ、[illegible]花結びト云ヘリ」[illegible]、[illegible]連歌ヨミ連歌シ、繪カキ、花結、アクマデ御心ニナ[illegible]ハシマス[illegible]。[illegible]リキ」[illegible]、四十六、總角[illegible]「中ノ君、組ナド[illegible]ハテタマヒテ、心葉ナドハ、エコソ思索リ侍ラネド、追メテ

[illegible]フ[illegible]、[illegible]フ」細流抄「心葉、常ニハ金ニテスルヲ、コレハ絲ニテシタマフナリ」 (二)茉トシテ、花結ソナ[illegible]、[illegible]本名[illegible]ノ花むすびガ、[illegible]曲[illegible]シテ結バレタレドモ、[illegible]

はなめがね (名) [鼻眼鏡] 耳ニ掛クル臺ナクシテ、鼻梁ニ挾ミ保タスル如ク作レル眼鏡。[illegible]

はなめく [illegible] 花ヤバ、時メク。[illegible]首、述懐「朝顔ノ、日カゲ待ツ間ヲ、盛リトゾ、花めく[illegible]コソ、[illegible]」[illegible]めかセ給フ后、オハシマシケリ」

はなもじ (名) [花文字] 西洋文字ノ一種ニシテ、letter. ノ譯語」[illegible]ア、[illegible]文章ノ最初、[illegible]、又ハ、固有名[illegible]等ノ最初ヲ用ヰラル[illegible]用ヰラレ、英語ニテハ、代名詞ノ I、感歎詞ノ O ナドニモ用ヰラル。オヤモジ。[illegible]

はなもち (名) [花餅] 大和國、吉野山ニテ、[illegible]團扇ノ骨ノ如ク、細ソク裂キテ、小サキ花ビラ餅ヲサシタルモノ。[illegible]供トテ、同所ノ藏王權現ニ供フルモノトスソ。

はなもち (名) [鼻持] 臭氣ヲ堪ヘ忍ブコト。鼻持ならぬトハ、臭氣ニ堪ヘザルヲ云フ。轉ジテ、又、見聞クニ堪ヘザル狀、又ハ、語ナドニモ云フ。

はなもつやく (名) [花沒藥] 藥具ノ名。藥店ノ稱ニテ、沒藥ノ類ナラズ。熱地ニ産ズル樹ノ[illegible]ヨリ生ズルモノト云フ。

[illegible]前來ス、長サ二三寸、圓木ヲ二ツニ割リタル形ヲナセリ、内、空シクシテ、草木[illegible]ノ[illegible]子ノ如キヲ[illegible]、[illegible]ハ、茶褐ニシテ光リ、破レバ白斑アリ、年ヲ經レバ黑シ。[illegible]

はなもの (名) [花物] (一)ハナヤカナル飾物。[illegible]コソハ、イツノマサカモ、[illegible] (二)生花、[illegible]ノ。葉ヲ主トスル草物ト云フ。

はなもみぢ (名) [花紅葉] 花ト、紅葉ト。花ヤ、紅葉。[illegible]ツケテモ、[illegible]レバ[illegible]ケハトテ、[illegible]

はなもり (名) [花守] 花ヲ守ル者。[illegible]抄、十一、[illegible]ノ、[illegible]レハ此ノ[illegible]ハ、[illegible]

はなや (名) [花屋] [illegible]

はなやか [illegible] [illegible]シク、キラビヤカ[illegible]

ガ候フト、イトはなやかにイフ」

〔はなや・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（自動、四）［華花］ハナヤカニナル。ハナバナシクナル。大鏡、十、下「（？）」今メカシウ、花やぎ給へド、御心ノ内ハ、思ノ外ナリシ事ドモシノバレ（？）ウ」同、十五、榊木「艶ニ花やぎタル所ツキテ、物笑ヒシ給フオトドノ」大鏡、下、道長「ソレニ此前輔殿ハ、時ノ一ノ人ノ御子ニテ、エモイハズはなやぎ給ヒシニ」「のびね、ト、總ジテ、此大臣ハ御心キワキラシク、花やぎタマヘル人ニテ」

はなやしき（名）［花屋敷］百花ヲ培養シテ、遊人ノ來リ觀ルニ供スル所。百花園

はなよてん（名）［花四天］衣服ノ名。よてん（四天）ノ條ヲ見ヨ。

はなよめ（名）［花娵］婚姻ノ後、暫クノ間、其娵ヲ呼ブ稱。新婦。コレニ對シテ、其壻ヲ花壻ト云フ。新郎。新犬筑波集、春「花よめゴゼモ、ヨソノ人カハ」「青柳ノ、イトコドウミカ、契リシテ」浮世風呂（文化、三馬）二、前、下「花娵ノウナカ花サ、オ、ツケ見テモ出來テミナ」

〔はなり（名）［放］〔うなゐばなり（髫髮放）ノ略〕少女ノ結ハズシテオク髮。又、ハナチガミ。フリワケガミ。うなゐ（髫髮）ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、七卅三「少女ラガ、放髮ヲ、ユフノ山、雲ナタナビキ、家ノアタリ見ム」

はなりそ（名）［離礒］はなれそ（離礒）ニ同ジ。次條ヲモ見セヨ

〔はな・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［離放］（端になる意カト云フ）次條ノ語意ニ同ジ。ハナレル。萬葉集、十六廿「橘ノ、寺ノ長屋ニ、吾ガキネシ、童女波奈理ハ、髮上ゲツラムカ」同、廿廿「タタミケメ、ムラジガ礒ノ、波奈利蘇（離礒）ノ、母ヲハナレテ、行クガ悲シサ」

はな・る・ルル・ルレ・レ・レヨ（自動、下二）［離放］〔へなるニ通ズ〕（一）着キタルガ解ク。

「摺離る」「膠離る」（二）〔間アリ。隔タリテアリ。萬葉集、十五七「シマシクモ、一人アリ得ル、モノニアレヤ、シマノムロノキ、波奈禮テアルラム」「離れテ居ル」（三）〔別レ去ル。萬葉集、十七四十「長（？）奈良ヲ伎波奈禮、アマサカル、ヒナニハアレド、吾兒子ヲ、見ツツシ居レバ、思ヒヤル」同、十四廿「大君ノ、ミコトカシコミ、カナシ妹ガ、タマクラ波奈禮、ヨダチキヌカモ」「世ヲ離る」「國ヲ離る」「夫婦離る」（四）〔綱、解ケテ、逃ゲ行ク。逸ル。拾遺集、七、物名、むなぐるま「闇何ノ、マダモコナクニ、ツナギ犬ノ、はなれテイカム、汝來ル待ツ程」「馬はなる」（五）官職、解クル。罷ル。公忠集「五位藏人ナリケルヲ、御讓位ニ遇ヒテはなれケレド」「役ニ離る」扶持ニ離る」

はなれ（名）［離］（一）ハナルルコト。（二）離座敷、及、離家ノ略。

ばなれ（名）［場馴］處、或ハ、物事ナドニ馴ルルコト。（モノニ動ズルコトナキ狀ニ云フ）

はなれうま（名）［放馬］［逸馬］綱ヲ放レテ走ル馬。ハナレゴマ。保元物語、二、白河殿攻落事「主モナキ放れ馬、源氏ノ陣ヘ驅ケ入ッタリ」太平記、三十九、芳賀兵衞入道軍事「放馬ノ數百匹走リ散リタル中ニ」

はなれおじま（名）［離小島］陸ヨリ遠ク離レテ、湖海中ニアル小島。萬葉集、七八十「アリソユモ、マシテ思ヘヤ、玉ノ浦ノ、離小島ノ、イメニシ見ユル」平忠度朝臣集「サヨフケテ、月影寒ミ、玉ノ浦ノ、離小島ニ、千鳥ナクナリ」

〔はなれごま（名）［放駒］前前條ノ語ニ同ジ。散木集、三、春駒「取リツナゲ、ミカキノ原ノ、はなれ駒、浮世ニアレテ、跡モトドメズ」建禮門院右京大夫集「ハルカナル、野澤ニアルル、はなれ駒、カヘサヤ道ノ、程モシルラン」堀河百首「梓弓、春ノ澤邊ノ、はなれ駒、ヤガテアレノミ、マサル頃カナ」

はなれざしき（名）［離座敷］母屋ニ離レテアル座敷。ハナレ。ハナレヤ。子亭

はなれじま（名）［離島］陸ヨリ遠ク離レテ、湖海中ニアル島。孤島。（？）十四、釋教「浪アラキ、南ノ海ノ、はなれじま、タガタメノリノ、船ウカブラン」

はなれず（名）［離洲］陸地ヨリ離レタル洲。夫木抄、廿六、洲「汐ガレノ、ヒカタノ浦ノ、はなれ洲ニ、タヅゾ鳴クナル、友ヨバフラシ」

〔はなれそ（名）［離礒］陸地ヨリ遠ク離レ出デタル礒。ハナレイソ。ハナリソ。萬葉集、十五十「波奈禮蘇ニ、タテルムロノ木、ウタカタモ、ヒサシキ時ヲ、スギニケルカモ」

はなれや（名）［離家］（一）人里ニ離レテアル家。ヒトツヤ。孤家（二）母屋ニ離レテアル家。ハナレ。

⁂ばな・れる（動）［離］はなる（離）ノ口語。

はなれわざ（名）［離技］尋常ノ思ヒ及バヌ、警拔ケタル技。ナミハヅレノ伎倆。警技

はなわ（名）［鼻輪］はながは（鼻革）ノ一名。其條ヲ見ヨ。

はなわ（名）［花環］種種ノ造花、又ハ、生花ニテ、環ノ狀ニ造リタルモノ。歡迎、祝賀、又ハ、哀弔ナドノ意ヲ表スルタメニ贈ル。

はなわけごろも（名）［花分衣］花ノ咲ケル野山ヲ分ケ行クニ着ル衣ノ稱。萬代集、四、秋、上「秋ノ野ノ、花わけ衣、都マデ、色ハヤツサジ、見ム人ノ爲」

はなわらび（名）［花蕨］多年生草ノ名。陰地ニ生ズ。一根、一葉、高サ五寸許リ、形、蕨ニ似テ、甚ダ小サク太シ。一尺許リノ莖ノ梢ニ、枝ヲ分チテ、粟粒ノ如

キ花、多ク簇ッ（？）、初ハ（？）ニシテ、（？）黄色ニ變ジ、黄粉ヲ出ス。（？）ハ（？）ナル。一名、フユワラビ。陰地蕨（？）一種、夏生ズルモノアリ、形狀、略、相似テ大キク、花ハ、金色ヲ帶ブ。

はなゑみ（名）［花笑］花ノ咲キタル如キ笑ニ。萬葉集、七卅四「道ノベノ、草深百合ノ、花咲笑ニ、エマシシカラニ、妻トイフベシヤ」同、十八三十長歌「夏ノ野ノ、サユリノ花ノ、花咲笑ニ、ニフブニエミテ、アハシタル、今日ヲハジメテ」

はなを（名）［鼻緒］履履ノ緒ノ、爪尖ノ孔ニ入リテ指ニ懸ル所。マヘヲ。マヘツボ。轉ジテ、其緒ノ總名トモス。緒ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。鼻繩 履絲 書言字考節用集、七、器財門、向（？）、ハナヲ、履所（？）」孕常盤（寶永、近松作）撲（？）「草鞋モ麦カラ作リノ、情ノ鼻緒足輕ク」嬉遊笑覽、二、中、器用「（？）、云云、東海道名所記、六二、放蕩モノ溶ブルル事ヲイヒテ、二ツグリノ席駄ヲメギテ、尻切草履カタシカタシハキテ人ノ家ノ門ニ立、云云、二ツグリトハ、二本鼻緒ニヤ」

はなをずれ（名）［鼻緒擦］ノイズミ。鼻緒ニテ擦レタル足ノ傷。肉刺 好色一代男（天和、西鶴）五「木綿足袋ハカレシニ、獨、はなをずれノアトナキ御方アリ、地ヲ踏ミタマハヌ御方樣イカサマニモト、思ヒザシセシトナリ」

はなをれだひ（名）［鼻折鯛］鯛ノ一種。長サ、五六寸ヨリ尺ニ至ル。身、平タク短ク、頭、大キク方形ニシテ高ク起リ、鼻、直ニ折レタルガ如シ。冬、春、共ニ暖海ニ多シ。網ニテ採ル。味、眞鯛ヨリ淡シ。和漢三才圖會、四十九、魚類「黃鯖魚、俗云ニ鼻折鯛、按、黃鯖魚、形色似ニ鯛魚ニ而色淺、鼻直而如レ折、故名ニ鼻折鯛ニ味劣ニ於眞鯛ニ」

〔はに（名）［埴］〔黃赤ノ彩アレバ、映土ノ

約カト云フ。或ハ云フ、揑初ムル土ノ方ノ土ヲ初土ト云フ、其略カト。古事記、中(應神ノ御歌ニ)波爾邇ハ、赤土(ハニ)ラケミ、終土(シハニ)ハ、土黒キ故」トアリ」又、ソホニ。黄赤色、緻密ニシテ、粘リアル土ノ名。陶瓦ニ作ルベシ。古ヘハ、衣ニモ其色ヲ摺リツケタリ、丹摺ノ衣ナド、是レナリ。アカツチ。粘土(ネバツチ)。ヘナ。倭名抄、一七水土類「土黄而細密曰埴、波爾」字鏡、五廿「埴、粘尒(粘尒ハ黏ノ誤)土也、波爾」天治字鏡、[illegible]「埴、黏土也、波爾」神武紀、[illegible]以造天平瓮八十枚、并造嚴瓮、而敬祭天神地祇[illegible]」萬葉集、七三「ヤマトノ、ウダノマ赤土(ハニ)ノ、サニツカバ、ソコモカ人ノ、吾ヲコトナサム」

はにか・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四)

〔面映(オモハユ)き意カ、又ハ、恥かむノ轉カ〕(一)羞(ハヂ)ラヒ怖ヅ。物恥ヂオクル。人怖(ヒトオメ)スル。小兒ニ)羞澁 字鏡[illegible]「[illegible]、ハニカム」[illegible]第二[illegible]美」(二)齒、カサナリ生フル。齒、ブゾロヒニ生ズル。イメク。字鏡[illegible]、[illegible]根(?)、波[illegible]、又、伊女久[illegible]モ、又、[illegible]也、[illegible]、又、伊女久[illegible](三)ハヅカシガル。ハヂラフ。

〔はにざふ(ハニゾウ) (名) 〔半插〕

〔和漢三才圖會、卅一、百工具「有ル柄半插(ハ)其内ニ[illegible]曰[illegible]」〕插(ハ)ニ水ヲ盛リテ物ニ注グ器。柄ニ水ヲ通ス道アリ。約メテ、はざふ。音便ニ、はんざふ。(其條、見合ハスベシ。)[illegible]

〔はにし (名) 〔土師〕

[illegible]

はにし。古ヘ、埴輪(ハニワ)ニスル土偶(ハニモノ)ナドヲ作ル職、大寶令ニコレバ、土師ハ、[illegible]、天皇、皇后、三公以上ノ葬儀ヲ掌リ、又、祭祀ヲ掌リシガ、埴輪ノ制、廢セラレタレバ、後ニハ、凶禮、陵墓、一切ノ事ヲ掌ル。又、後ニハ氏トナレリ。倭名抄、六[illegible]和名[illegible]「土師、波爾之」[illegible]

〔はにし (名) 〔黄櫨〕

〔埴櫨(ハニシ)ノ略、櫨ヲ取レバ云フ〕ヤマウルシ。略シテ、はじ、はぜトモ云フ。はじ(黄櫨)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、十四[illegible]「黄櫨、波爾之」

パニック (名) 〔英語、Panic〕

一時混亂ニ陷ル狀態ヲ云フ。恐慌。

ばにとうふう (句) 〔馬耳東風〕

ばじとうふう(馬耳東風)ニ同ジ。

はにひ (名) 〔半臂〕

はんぴ(半臂)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

〔はにふ(ハニウ) (名) 〔埴生〕

〔[illegible]ハ園生、芝生ト同義〕埴(ハニ)ノアル地。[illegible]

埴生(ハニフ)ノ小屋トハ、「[illegible]屋ノ狀ニ云フ」[illegible]土モテ塗リコメ、黄土モテ葉キタル作リノ家。ハニツチニテ作リタル家。[illegible]

字考節用集、一、乾坤門「黄土小屋、ハニフノコヤ、又作[illegible]」[illegible]ノ、赤土(ハニフ)ノ小屋(コヤ)ニ、小雨降リ、床サヘヌレス、ミニソヘ[illegible]屋ノ、ムネ弱ミ、幾重ニナリヌ、雪ノウハブキ」平家物語、十、海道下「[illegible]ノ空、埴土の小屋ノ、イブセキニ、古郷イカニ、戀シカルラム」

〔はにべ (名) 〔埴瓮〕

埴ニテ作レルカメ。

瓦製ノ[illegible]

〔はにま (名) 〔埴馬〕

埴ニテ作レル馬。埴輪(ハニワ)ニ立ツル瓦馬。雄略紀、九年七月「[illegible]、乃見[illegible]馬在[illegible]於[illegible]馬之間」

はにんじん (名) [illegible]

[illegible]條ヲ見ヨ。にんじん

〔はにもの (名) 〔土物〕

埴ニテ作レル[illegible]。はにわ(埴輪)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

〔はにやす (名) 〔埴安〕

〔埴粘(ハニネヤス)ノ略〕粘土ノ[illegible]。[illegible]定[illegible]取[illegible]土之處、曰埴安」

〔はにやすのかみ (名) 〔埴安神〕

[illegible]

〔はにわ (名) 〔埴輪〕

〔埴作(ハニツクリ)ノ偶像ヲ輪ノ如ク並立ツル意〕古ヘ、[illegible]埴ニテ作レル人、馬、或ハ、器ナドヲ、車輪ノ如ク[illegible]立テ[illegible]ルモノ。上古ノ俗、殉死ニ代ヘタルナリ。[illegible]

[illegible]垂仁紀、三十二年七月[illegible]

〔はにわり (名) 〔半月〕

〔半割(ハンワリ)ノ義〕[illegible]不男(フヲトコ)ノ一。(其條、參見セヨ。)其陰部、一月ノ中ニ、[illegible]

[illegible]ト爲ルモノト云フ。又、陰部ノ形、[illegible]

人筒‖半男女‖[illegible]

リクリ、コレニ[illegible]ノナリ」

は・ぬ・ヌ・ヌ・ネ・ネ・ネ・ネヨ(自動、下二) 〔刎〕

(一)[illegible]ルトビカヘル。ハネル。[illegible]

(二)飛ビ散ル。ホトバシル。迸(ハシ)ル。[illegible]

はねなりはねなり[illegible]

は・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ(他動、下二) 〔刎〕

(一)[末ヲ上ゲ]撥ヌ。ハネル。[illegible]

(二)[illegible]

はぬる [illegible]

[illegible]

はぬけどり [illegible]

[illegible]

ニセアツスナル羽カリカナ、……殺シシ科ヤラン、遁ゲントスレド立チ得ヌハ、羽抜鳥ノ報イカ」八百屋お七(享保、紀海音)中「吉三郎ハ羽抜鳥、手モ足モナキ心地シテ」續俳家奇人談「羽ぬけ鳥……ハカーソ、伊良子崎」

はぬひ (名) 端縫 布帛ナドノ端ヲ、細ソク折リ返ヘシテ、縫ヒツケオクコト。ハシヌヒ。……聞集、十六、興言利口、女、……ノツレヅレナリケルニ、はぬひト云フ物シテ、ウヅクマリテ居タリケルヲ見レバ」

はね (名) 羽根 (一)鳥ノ羽ノ根。ハグキ。翮 倭名抄、十八、羽族部「翮、八翮、羽根也」華嚴經私記音義「翮、羽莖、鳥羽之本也」(二)轉ジテ、羽。即チ、鳥ノ全身ニ生フル毛。翎 名義抄「羽、ハ、ハネ、ツバサ」新古今集、一、春、上「梅ガ枝ニ、ナキテ移ロウ、鶯ノ、はね白妙ニ、沫雪ゾ降ル」(三)(又、轉ジテ)翅 翼 翄 名義抄「翼、ハネ、ツバサ」萬葉集、十五、長歌「澳ニナヅサフ、鴨スラモ、妻トタグヒテ、ワガ身ニハ、霜ナフリソト、シロタヘノ、波禰サシカヘテ、ウチハラヒ」拾遺集、八、雜、上「木ニモオヒズ、羽モ並ベデ、何シカモ、波路隔テテ、君ヲキクラン」玉葉集、十一、戀、三「イキテノ世、シニテノ後ノ、後ノ世モ、はねヲ交ハセル、鳥トナリナン」長秋詠藻、中「七夕ノ、絶エヌ契リヲ、ソヘムトヤ、はねヲ並ブル、鵲ノ橋」「はねヲ搏ツ」「はねヲヤスム」「はねヲヒログル」(四)矢ノ羽。羽ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。(五)諸器械ナドニ、形ノ翼ニ似タルモノノ稱「水車ノはね」(六)羽子。コギノコ。ツクバネ。長唄、春昔由縁英「禿ハ袖ノ振初メ、突ク突ク庭ニ羽根ヲ突ク、一イ二ウ三イ四オ」

はね (名) 跳 (一)跳ヌルコト。ヲドリアガルコト。盛衰記、十五、宇治合戰事「行桁ノ上ニ、チト平ミタル處ヲ、無禮ニ候トテ、一來法師飛ばねニゾ越エタリケル」太平記、九、六波羅攻事「屌ニ乘リアガリ、一はね跳ネテ、向ノ岸ニゾ着キニケル」(二)水、泥ナドノ、飛ビ散リカカルコト。迸 浮世風呂(文化、三馬)初編、下「オオ冷ッコイ、ホイホイ、己ハ己ハ、ヤイ、アチラノ男、ナゼウ……テ居テはねヲカケタ」「はねガアガル」(三)字ヲ書クニ、隹ノ毛ノ末ヲ拂ヒ上グルコト。勾 撃 (四)諸器械ニ用キル彈力アル鐵。訛シ濁リテ、ばね。鎖簧 彈機 書言字考節用集、七、器財門「鎖鑷、ハネ」「鎖ノはね」「馬車ノはね」(五)芝居、見世物ナドニ、打出シテ見物人ノ散ルコト。ウチダシ。會散

はね (名) 刎 冑ヲ數フルニ云フ語。一枚、或ハ、一頭ト云フベキヲ、一刎トハ、敵ノ冑ヲ指シタル武家ノ緣起詞ナリ。淨瑠璃物語、吹上「四方白ノ兜、三十三はね」

ば・ね (動) 撥 はぬ(撥)ノ條ヲ見ヨ。

ばね (名) 彈機 はね(跳)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。「車ノばね」

はね-あがり (名) 跳上 ハネアガルコト。

はね-あが・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 跳上 ヲドリアガル。トビアガル。太平記、九、六波羅落事「御邊ハ、我ヲ橋ニシテ渡シタルヤ、イデ其ノ塀ヒキ破ッテ捨テン、ト云フママニ、岸ヨリ上ヘ、ツト跳ねあがり」捻權三重帷子(享保、近松作)上「高嘶キシ、躍上リ跳上リ、鞍ニタマラズ件之丞、屏風返シニドウト落チ」

はね-うき (名) 羽浮子 釣絲ニ羽ヲ浮子トスルモノ。鵜縄ナド是レナリ。

はね-う・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 羽撃 ハタタキヲ行フ。ハタタク。師氏集「澤ノオモニ、年フルタヅノ、千代ヲヘテ、夜ハはねうつ、ホドモナシトヤ」加茂保憲女集「小夜千鳥、はねうつ波ノ、音スナリ、四方ノ春風、氷トクラシ」

はね-うま (名) 騂馬 (跳馬ノ義) 馬ノ強クシテ、行動ノハゲシキ馬。ヲドリハネル馬。アガリウマ。浦次ノ馬 倭名抄、十一、牛馬類「騂馬、波禰無萬、突惡馬也」……御抄、上、清涼殿「……立馬形障子、波禰馬也」著聞集、十、馬藝「一條二位入道ノ許ニ、高名ノはね馬出デ來ケリ、……久ヲ召シテ乘セラレタリケルニ、一タマリモセズハネ落サレケルヲ」女殺油地獄(享保、近松作)上「はね馬ニ乘ッタ侍ニ、其泥ガカカッテ、ソレデ下向ニ、切ラルル筈」

はねうまの-さうぢ (名) 跳馬障子 又、はねうまのしゃうじ。清涼殿中ニアル馬形ノ障子。はね馬ノ繪ヲ畫ケリ。平家物語、六、小督事「アリツル女房ノ裝束ヲバ、はね馬の障子ニ打掛ケ、南殿ノ方ヘ參レバ」傾城反魂香(寶永、近松作)上「其昔、清涼殿ニ立テラレシ、はね馬の障子ノ繪」

はね-おと (名) 羽音 はおと(羽音)ニ同ジ。拾遺集、十、神樂「シナガ鳥、ヰナノフシ原、トビワタル、鴫ノ羽根音、面白キカナ」詞花集、一、春「春日野ニ、朝鳴ク雉ノ、はね音ハ、雪ノ消エマニ、若菜摘メトヤ」

はね-がき (名) 羽搔 又、はがき。鳥ノ、嘴ニテ、己レガ羽ヲシゴクコト。古今集、十五、戀、五「アカツキノ、鴫ノ羽根搔、モモハガキ、君ガ來ヌ夜ハ、ワレゾ數カク」清輔集「暁ノ……モ、鴛キテ明ケヌト、聞クカラニ、鴫ノ羽がき、繁メシキ哉」元眞集「ワビヌレバ、曉カケテ、カヘリクル、鴫ノはねがき、我ゾ數カク」

はね-か・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 撥 飛バシ散ラス。「水ヲはねかす」「雖ヲはねかす」

はね-かづら (名) 花縵 はなかづらニ同ジ。萬葉集、四、四十七「葉根縵、今スル妹ハ、ナカリシヲ、イカナル妹ゾ、ココダ戀ヒタル」同、十一、廿五「波禰縵、今スル妹ガ、ウラワカミ、ヱミミイカリミ、着ケシ紐トク」散木集、八、戀、下「はねかづら、赤裳ノ裾ニ、クリタメテ、ハナフク妹ニ、觸レズバヤマジ」

はね-かへし (名) 跳返 (一)ハネカヘスコト。(二)相撲ノ手ノ一。相手ノ打掛スル手ヲ、跳ネカヘスコト。竹取物語(寛永、烏丸光廣)「スマヒノ取手ニハ、云云、はね返し、大コシ、モトツメ、ムカウツキ」

はね-かへ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 跳返 ハネテ、クツガヘス。ハネテ、ヒックリカヘス。盛衰記、三十七、忠度通盛等最後事「……三位、上ニ成給フ、源三騎返、騎返トニケレ共、云云、源三、刀ヲヌキ、三位ヲ二刀サス、指レテ騎返シ縮ケル」

はね-かへり (名) 跳反 (一)ハネカヘルコト。(二)カロハズミナルコト。

はね-かへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 跳反 翻彈 (一)跳ネテ戻ル。ハズミカヘル。盛衰記、三、殿下會稽事「郎等、主ヲ助ケントテ、高範ガ髻ヲ取リ引キ上ケタリ、絎遠、力ヲ得テはね返リテ、主從二人シテ、手取足取セセリ倒シテ」(二)甚シク跳ヌ。跳躍

はね-き・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 羽切 ハバタキスル。ハブク。ハフル。萬葉集、九、廿九「埼玉ノ、小埼ノ池ニ、鴨ゾ翼霧、オノガ尾ニ、フリオケル霜ヲ、拂フトアラシ」

はね-ぐき (名) 羽莖 鳥ノ翼ノ主要ナル骨。鳥ノ翼ノ軸。羽軸。

はね-ご (名) 羽子 はご(羽子)ニ同ジ。

はね-ざいく (名) 羽細工 鳥ノ羽毛ヲ用ヰテ種種ニ細工スルコト。又、其細工シタル物。

はねず (名) 唐棣 棠棣 〔論語、子罕篇「唐棣」注「郁李也」〕(一)郁李ナリト云フ。萬葉集、八、廿六「唐棣花歌「夏マケテ、咲キタル波禰受、久方ノ、雨打降ラバ、移ロヒナムカ」(二)色ニ

云フハ、粉紅色ナラム。萬葉集、十一「山吹ノ、匂ヘル妹ガ、はねず色ノ、赤裳ノ姿、夢ニ見エツツ」天武紀、下、十四年七月「淨位已上、並著朱花」[illegible]

〔はねず‐いろ‐の〕 (枕) 唐棣花色 移ひやすしノ枕詞。萬葉集、四「思ハジト、言ヒテシモノヲ、唐棣花色之、ウツロヒヤスキ、吾心カモ」同、十二「唐棣花色の、移ヒヤスキ、心アレバ、年ヲゾキフル、事ハタエズテ」

はね‐ずみ (名) 跳炭 ハシリズミ。木炭ノ、火ニ爆ケ飛ブ性アルモノ。爆炭

はね‐せん (名) 撥錢 ウハマヘヲ撥ネタル錢。膝栗毛、文政二「東海道、中山道宿宿、人馬江、可相渡賃錢之内、割錢ト唱ヘ、少少ヅツ引取リ、問屋場入用ニ致シ候儀」

はね‐だいもく (名) 跳題目 南無妙法蓮華經ノ七文字ノ各畫ノ端ヲ、跳ネ上ゲテ書クモノ。ヒゲダイモク。大竜大尊正御一代記、元禄、近松作、五「法力志ナ金色ノ、御題目ト現ハレテ、空中ニ見エケルガ、御ト云フ文字ノ兩ノ引ステ地ニ下レバ」

はね‐つき (名) 羽根突 はお(羽子)ノ條ヲ見ヨ。

はね‐つ・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 撥付 撥ネテ戻ス。ウケツケズ。御訓六帖、四「人ノ心ヲ、イヤガタノマン、毛ノ末ニ、はねつく馬ハ、ツエゲトモ」[illegible]「はねつけラレテ、口笛ヲフク」

⁂はね‐つ・ける (動) 撥付 前條ノ口語。

はね‐つるべ (名) 撥釣瓶 柱ノ上ニ横木ヲ互シ、其一端ニ石ヲ懸ケ、一端ニ對ケタル長キ棒ノ下端ニ釣瓶ヲ懸ケテ、天平ノ如クシタルモノ。横木ノ左右釣瓶ノ重ミヲ借リテ釣瓶ヲ上ゲ、スベク、[illegible]

容易ク水ヲ汲ミ上グ。桔槹 [illegible]
[illegible]「アケボノヤ、蜻蛉トマル、はね釣瓶」

はね‐ならはし (名) 羽習 鳥ノ翅ヲヒロゲ、飛ブコトヲナラスコト。六帖、六、[illegible]ガクレテ、[illegible]マツトモ、[illegible]、はねならはし[illegible]ウツリセヨ」清輔集、片岡ニ、鶯ノ[illegible]、カトテシテ、羽ならはしニ、ロズサブナリ」

はね‐ならぶ‐とり (名) 羽比鳥 ひよくのとり(比翼鳥)ニ、其儀、訓讀シタル語。榮花物語、二「花山、はねならぶ、とりトナリテハ、契ルトモ、人忘レズバ、[illegible]レジトゾ思フ」

はね‐に (名) 擯荷 (一)荷物ノ中ヨリ選リ出シ除ヤタルモノ。(二)[illegible]ナドノ際、海中ニ投ゲ棄テタル荷物

はね‐の・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 擯除 (一)取出シテ除ケ棄ツ。除去 (二)押シノク。ハネツク。[illegible]

[illegible]、上、十六番「弓つくり、[illegible]、はねつけラルル、押シカヘシテモ、人ソ[illegible]シャ」

はね‐の‐さかづき (名) 羽觴 〔うちやう〕ノ文字讀。うちやう(羽觴)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]花ニ[illegible]ヒ、[illegible]ツキ、ツクルモ、李白がはねの、さかづきノ數」

はね‐の‐はやし (名) 羽林 〔うりん〕ノ文字讀。うりん(羽林)ノ條ヲ見ヨ。又、はのはやし。師光集「雪ツモル、トシノシルシニ、花ノ咲ク、はねのはやしノ、ナド[illegible]」[illegible]、下「日ニソヘテ、ヒサク[illegible]ノ、[illegible]、[illegible]」

はね‐ばうき (名) 羽帚 はばうき(羽帚)ニ同ジ。トリハハキ。

はね‐ばし (名) 桔橋 城門、外郭ノ[illegible]ナドニ、綱ヲ懸ケテ引上グベク作レル橋。吊橋 [illegible]、享保十七年九月廿二日「ソリタル橋ハ、必ズはねばしナリ、大方ハ脚ナキ橋ナリ」

はね‐ばり (名) [illegible] [illegible]、鳥ノ[illegible]ル其兩端ノ間ノ長サ。

はね‐び (名) 跳火 ハシリビ。トビヒ。爆ケ飛ブ火。爆火

はね‐ブトン (名) 羽根蒲團 羽蒲團 鳥類ノ羽毛ヲ入レテ作リタル蒲團。

はね‐むし (名) 跳蟲 とびむし(飛蟲)ニ同ジ。ノミムシ。

はね‐め (名) 撥目 [illegible]
[illegible]

はね‐もとゆひ (名) 撥元結 [illegible]
[illegible]八若盛ノ女ノスルコトナリシガ、後ニハ少女ノ用ヰル[illegible]
[illegible]、金銀色紙ナドヲ用ヰ[illegible]
[illegible]ニ、針金ヲ入レタルモアリ」井原西鶴[illegible]
[illegible]
[illegible]ノ、はね元結」[illegible]
ノ釣島田、針ガネ入ノヒ元ゆひ」山の井、谷文「[illegible]髮ノ、はね元結カ、三日ノ月」

はね‐やうき (名) [illegible]
[illegible]

はね‐やすめ (名) 羽休 [illegible]
[illegible]

ツナユク、[illegible]ノ、はねやすめ[illegible]
[illegible]

は・ねる ネル・ネレ・ネ・ネ・ネヨ(自動、下二) 跳 [illegible]
[illegible]小屋掛ノ[illegible]
[illegible]、見世物ナドニ、其日ノ[illegible]
[illegible]、見物人散ル。[illegible]
[illegible]

⁂は・ねる (動) 跳ぬ、又ハ、撥ぬノ口語。

はの‐じ (名) 巴字 巴ノ字ノ[illegible]
[illegible]
[illegible]

はの‐はやし (名) 羽林 〔うりん〕ノ[illegible]、はねのはやし[illegible]
[illegible]ドセ、[illegible]ソナル、はのはやし[illegible]カナ」

はの‐ぼる‐つゆ (名) [illegible]
[illegible]ニヤドレ、秋ノ月、はのぼるつゆノ、[illegible]
[illegible]

パノラマ (名) [illegible]
[illegible]

リ、屋上ヨリ來ル光線ヲ利用シテ、看客ニ實景ヲ目睹スル感アラシムル裝置ノモノ。獨逸ノぶろいきッひ(Breisig.)ノ創案ニシテ、英國ノばァかあ(Robert Barker.)ノ創設セシモノト云フ。

〔はは (名) 【母】 〔愛しノ首音ノミヲ重ネテ云ヘルニテ、小兒語ニ起レルナラム。父ノ靈ノ如シ。又、母ヲいろはト云フトキハ、はノ一音ニ云ヘリ〕 我ガ身ヲ生メル女。イロハ。タラチネ。オモ。アモ。オハモジ。オカモジ。メオヤ。ハハオヤ。ヲンナオヤ。オフクロ。カカ。ハハビト。タタ。阿孃。 倭名抄、二十六父母類「母、波波」 字鏡十「阿孃、波波」 同廿五「媼、母也、波波」 萬葉集、十九廿四長歌「知智ノミノ、父ノ命、波播ソバノ、母ノ命」 同、十一廿六「タラチネノ、母ニ知ラエズ、吾ガ持テル、心ハヨシエ、君ガマニマニ」 源、四十四、橋姫「母ニ侍リシ人ハ」 伊勢物語、第十段「母ナン藤原ナリケル」

はは (感) (一)笑フトキニ發スル聲。ワッハッハ。ヒヒ。ホホ。 (二)考ヘ當リタルトキニ發スル聲。 狂言記、貰聟「フン、扨ハコナタハ婿殿デゴザルカ、はは」

はば (名) 【幅巾】 〔端端ノ義カ、或ハ、はたばりノ略カトモ云フ、巾ハ幅ノ省字〕 (一)物ノ横ノ端ヨリ端マデノ距離。横ノ徑〔長さ、厚さニ對ス〕 幅 幅員 (二)ハブリ。威光。 淀鯉出世瀧德(寶永、近松作)上「何レモ日比ノはばヲ御覽ジタカ、アレミナ我々ガサスル事」 (三)値幅ノ略。取引所ノ語。高値ト安値トノ差額。「五六錢幅ノ動キ」 はばが利くトハ、羽振ガヨイ、威勢ガアル、ノ意、

〔はば (名) 【羽羽】 大蛇ノ古言。 古語拾遺、注「古語、大蛇、謂之羽羽二」

はば (名) 【端場】 芝居ニテ、全狂言ノ中ノ主要ナラヌ場面。

ばば (名) 【祖母】 〔おほばヲ略シテ重ヌ、小兒ノ語ニ起ル〕 (一)オホバ。父ノ母。王母 名物六帖、二、人品箋「王母、ババ、爾雅、父之考爲王父、父之妣爲王母、丘氏曰、今稱祖父祖母二」 (二)母ノ母。外祖母 (三)老婆ノ稱。ババア。老嫗 俳諧新選、春「婆婆達レタ、爺モ來ニケリ、二ノ替リ」

ばば (名) 【馬場】 〔うまばノ約轉〕 馬ニ乘リ習フニ設ケタル一帶ノ平ナル地。調馬場 吾妻鏡、二、壽永元年六月七日「壯士等各施弓馬藝、云云、可定相廣之馬場之由、被仰出二」 曾我物語、六、五郎行大磯事「裸馬ニ打乘ッテ、二十餘町ノ其程ヲ、タダ一馬場ニ驅ケツケ」 槍權三重帷子(享保、近松作)上「二丁五反ノ馬場ノ内」

ばば (名) 【糞】 (一)屎。(小兒ノ語) ウンコ。ダイベン。 浮世風呂(文化、三馬)二編、下「此ノ頃ハ、立チ居モヒトリデ出來ネエカラ、屎、屎モオマルデトル」 (二)キタナキコト。又、ソノモノ。(小兒ノ語)

ははあ (感) 心ニ會得シタルトキニ發スル聲。 狂言記、末廣がり「ははあ、流石都ヂャ、斯ウ見ルニ、知レヌ事ヲ呼バハッテ歩行ケバ」

ばばあ (名) 【婆婆】 ばば(祖母)ノ條ノ(三)ニ同ジ。

はばうき (名) 【羽帚】 鳥ノ羽ニテ作レル小サキ帚。トリハハキ。ハネバウキ。 狂言記、鶯「セメテソノ羽ナリトクレ、ハネヲ何ニスルゾ、はばうきニスルハ、ソレモナラヌゾ」

ははうへ (名) 【母上】 母ノ尊稱。母君。 榮花物語、四、見はてぬ夢「母うへハ、枇杷ノ大納言延光ト聞コエシガ娘ニオハシケレバ」 更ニ、御ノ敬語ヲ重ネテモ云フ。 源、三十九、御法「ムカシ、大將ノ御母上失セタマヘリシモ、コノ頃ノ事ゾカシトオボシ出ヅルニ、イト物ガナシク」

ははうま (名) 【母馬】 母タル馬。子ヲ持テル馬。 一茶句集、夏「母馬ガ、番シテ飲マス、清水カナ」

ははおとど (名) 母ノ敬稱。ハハギミ。

〔ははか (名) 【波波加】 〔葉葉赤ノ略〕 樹ノ名。樺 櫻ノ古名ナルベシ。ハウコザクラ。イヌザクラ。ウハミゾザクラ。カニハザクラ。 古事記、上卅「取天香山之天波波迦二」 倭名抄、廿、六木類「朱櫻、波波加、一云、加爾波佐久良」 本草和名、下、卅「朱櫻、波波加、加爾波佐久良」 臨時祭式「年中御卜料波波加木皮者、仰大和國有封社令採進之二」 奧儀抄、下、下「公家ニハ、龜甲ノ御卜、ト云フ事アリ、ト部ノ氏ノモノノ、はりか(ははかノ誤寫)ノ木ニテ、龜ノ甲ヲヤキテウラナフ也、又、ソレニカヤウニ鹿ノ肩ノ骨ヲヤキテウラスル事アリ」 塵添壒囊抄、八、第六條「卜部氏ノ者、葉若ノ木ニテ、龜ノ甲ヲ燒キテ占フト云ヘリ」

〔ははかた (名) 【母方】 母ノ血筋ニ係ル族。〔父方ニ對ス〕 外戚 倭名抄、二十六父母類「外祖父、母方乃於保知」 書言字考節用集、四、人倫門「外戚、ハハカタ」 源、十九、薄雲「母方カラコソ、御門ノ御子モ、キハギハニオハスメレ」

〔ははかたのおば (名) 【母方祖母】 母ノ母。ハハカタノババ。(令集解ニ、外祖母ニ「母方のおほば」ト訓ズ) 外祖母 倭名抄、二十六父母類「外祖母、母之妣爲外王母、母方乃於波」 同、同「九族圖、外祖母」

〔ははかたのおほぢ (名) 【母方祖父】 母ノ父。ハハカタノヂヂ。 外祖父 倭名抄、二十六父母類「外祖父、母之考爲外王父、母方乃於保知」 同、同「九族圖、外祖父」

ははかたのおほば (名) 【母方祖母】 前前條ノ語ニ同ジ。

〔ははかたのをぢ (名) 【母方伯叔父】 母ノ兄弟。舅 倭名抄、二十七伯叔類「舅、母之昆弟爲舅、母方乃乎知」 源、五十一、蜻蛉五十七「マロコソハ、御ははかたのをぢナレド」 濱松中納言物語、三「ソノコロ、母方ノ御をぢニ、兵衞ノ督ト聞エケル人ノ」

〔ははかたのをば (名) 【母方伯叔母】 母ノ姉妹。從母 姨 倭名抄、二十七伯叔類「從母、姨之姊妹曰從母、母方乃乎波」

〔はばかり (名) 【憚】 (一)〔ハバカルコト。畏レ愼ムコト。 源、十二、須磨六「ニゴリナキ心ニマカセテ、ツレナク過シ侍ランモ、イト憚オホク」 (二)東京婦人ノ語ニ、人目ヲ憚ル意ヨリ、廁。又ハ、廁ニ上ルコトノ隱語。上廁

はばかりながら (副) 【乍憚】 (一)恐レナガラ。恐縮ナガラ。恐レ多ケレド。 狂言記、比丘貞「此ヘ、はばかりながら進ゼマセイ、一ツタベウカ、メデタウ謠ハシマセ」 (二)申シカヌルガ。申シニクキ事ナガラ。 發心集、四、第七條「人モ自ラノ事モヤナド思ヘル氣色ヲ見テ、聖、はばかりながら有待ノ身ハ思ハズナル物ゾ、斯ノ事ナド兼ネテ定メオキ給ヘカシ」

〔はばか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【憚】 〔沮むノ自動カ〕 他ヲ侵サジト、差シ控フ。畏レ愼ム。エンリョスル。 字鏡五十「怖、畏也、難也、波波加留」 名義抄「難、ハハカル」 萬葉集、十二、西光發一切事ナジカハ過分ナルベキト、はばかる所モナウ云ヒ散ラシタリケレバ」 古今集、十、物名「わがみやは」 (三)重ニ、皇后之王(中略)莫忍之勿」

〔はばか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔はびこるノ轉ト云フ、或ハ幅ノ活用カ、幅アル物ノ、狹キ間ニ入リカタキ意ニ起ル〕 (一)滿チ餘ル。ヒロゴル。ハダカル。

盛衰記、廿六、福原怪異事「坪ニはばかるホドノ大頭ニテ」(滿チフサガル) 狂言記、宗論「闊カイデ何トセウ、三國ニ憚る程ノ法聞ヂャ」 倭訓抄(俗語)「高ク長キ山ナレバ、ヨコオリ(四郡)ニはばかりテ、甲斐ノ白根ヲ擧ゲ見セネバ」 (二)〔進〕ミテ ヘズ、行キ惱ム。 天智紀、十年十二月「赤駒ノ、以天武紀、上、元年五月「天皇 [illegible] 之、関令 [illegible]」 萬葉集、三、廿「富士嶺ノ、高ミ 恐ミ、天雲モ、伊行キ行キ波波箇屋、眞葛原、何ノ傳言、タダニシエケム」 羽計、タナビクモノヲ」 同、同三「三吉野ノ、高城ノ山ニ、白雲ハ、行キ 憚テ、タナビケリ見ユ」

ははき (名) 母君 〔てゝき(父君)ノ類〕 はゝぎみ(母君)ノ略。其條ヲ見ヨ。

ははき (名) 〔帚〕〔箒〕 〔羽掃ノ義、羽箒ヲ元トス〕 はうき(帚)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十六、竹器類「箒、帚、波波木」 字鏡六十「箒、莉、箒、波波支」 天治字鏡、七三十「箒、皮皮支」 同、同二十「芇、莉、箒、波波支」 靈異記、下、第廿二縁「以レ箒掃レ路言」以レ箒掃レ道作レ椅言」訓釋「箒、皮皮支、箒、皮皮支」 蜻蛉日記、下、中三「翁アリケリ、庭ハクトテ、はゝきヲ持チテ、木ノ下ニ立テル翁ニ」

はばき (名) 〔脛巾〕〔行纏〕 〔脛裳ノ略カ〕 脛ニ纏フ衣、脛裳ノ略カ、又ハ、脛裳ノ略カ 〔脛巾〕 脛衣 菌麻ニテ作レルヲいちひはばき(菌麻脛巾)ト云フ。 倭名抄、十四、行旅具「行纏、脛巾、波波岐」字鏡ニ [illegible] 字 [illegible] 集、六、 [illegible] 門、 [illegible] 布、ハバキ、 [illegible] 也、古名ニ行縢ニ脛巾、裹脛、ハバキ」 天武紀、下、朱鳥元年七月、 [illegible] 著聞集、一、神祇「大臣ノ身ニテ [illegible] 、はばきヲ [illegible] テ、長途ヲアユミ參リタル」 太平記、一、 [illegible] ニ脛巾、行纏解カセ、足洗ヒテ」

はばき (名) 〔鎺〕 〔脛巾金ノ略〕 鍔ノ上下ノ際ニテ、刀心ニ貫キ、鍔元ヲ固ムル金具。 [illegible]

はばきかせ (名) 〔幅利〕 幅ヲ利カスルコト。威勢ノヨキコト。羽振ノヨキコト。又、ソノ人。ハバキキ。

半記、廿、 [illegible] 太刀、云云、一振ニハ銀ヲ以テ金 [illegible] ノ上ニ [illegible] 」

はばきがね (名) 〔鎺〕〔脛巾金〕 〔刀身ノ鍔際ニ、人ガ脛巾ヲ穿キタルガ如クニ、ハムル金ナレバ、名トス〕 槍、薙刀、刀ナドノ鍔際ニ、ヨク食込ミテ、抜ケシメザル金具。 盛衰記、廿九、 [illegible] 脛巾金ヨリ太刀打チ折リテ、 [illegible] 」

はばきぎ (名) 帚木 (一)〔はうきぐさ(帚草)〕ニ同ジ。 六帖、五、ソノ原ヤ、伏屋ニオフル、はゝきゞノ、アリトテユケド、逢ハヌ君カナ」 源、二、帚木四十「はゝき木ノ、心ヲ知ラデ、ソノ原ノ、道ニアヤナク、マドヒヌルカナ」 (二) 母ニカケテ云フ語。(二音、同一ナルヨリ) 著聞集、五、 [illegible] ロシヤ、 [illegible] ウミケン、はゝきゞノ、ソノハラサヘニ、ウトマシキカナ」 謠曲、大佛供養「母ヲ一人持チテ候、云云、三笠ノ森ノ頼タノム、ソノはゝきゞノナサケヲ、イマヤ [illegible] 世ノ御住居」

ははきぎ (名) 〔幅利〕 はばきかせニ(幅利)ニ同ジ。

ははきぐさ (名) 〔帚草〕 はうきぐさ(帚草)ニ同ジ。 [illegible] 字 [illegible] 集、六、 [illegible] 門、 [illegible] (白 [illegible] 草、 [illegible] 草、ハハキクサ、ハハキギ」

ははきぼし (名) 〔彗星〕 はうきぼし(帚星)ニ同ジ。 倭名抄、一、 [illegible] 星、八八木保之、 [illegible] 六年八月、 [illegible] 時八 [illegible]

ははぎみ (名) 〔母君〕 母ノ尊稱。ハハウヘ。略シテ、はゝき。

ははきみだ・つ・ツ・テ・タ・チ・ [illegible] 〔母君立〕 母君ノヤウニフルマフ。ハハシ [illegible]

ロニナル。

ははきらん (名) 〔帚蘭〕 まつばらん(松葉蘭)ニ同ジ。

ははくそ (名) 〔黒子〕 〔母糞ノ義、 [illegible] 〕 ハハクロ。ホクソ。今、ホクロ。其條ヲ見ヨ。 倭名抄、 [illegible] 字鏡、 [illegible] 同八十「黶、皮上黑也、波波久曾」 宇治拾遺、六、第三條「黶ノホドニ、はゝくそト云フ物ノアトゾサブラヒシ、ソレヲシルシニ御覽ゼヨ」

ははくり (名) 〔貝母〕 〔母栗ノ義、根ノ形、栗ニ似テ、母、子ヲ抱クガ如クナレバ名トスト云フ〕 又、バイモ。おみがさゆり(編笠百合)。 [illegible] 倭名抄、廿、 [illegible] 貝母、波波久利」 [illegible]

ははくろ (名) 〔黒子〕 又、はゝくそ。今、ホクロ。其條ヲ見ヨ。 [illegible]

ははこ (名) 〔母子〕 (一) 母ト子ト。人形ノ [illegible] ニ用ヰル。 (二) 後ニ這兒ト云フ。 [illegible] [illegible] 元造ニ大小母子之形、始樣、母子人形、今略シ人形之 [illegible]

ははこ (名) 〔母御〕 はゝごぜ(母御前)ノ略。其條ヲ見ヨ。 [illegible]

ははこぐさ (名) 〔母子草〕 [illegible] 又、 [illegible] 母子ノ形代ノ義ナラム」略シテ、

はは [illegible] 、今、 [illegible] 、 [illegible] 野ニ [illegible] 多シ。秋、苗ヲ生ズ。葉ハ倒披針形ニ [illegible] 、白毛アリ。 [illegible] 、高サ六七寸ヨリ尺ニ至リ、葉、互生シ、 [illegible] 、 [illegible] 情 [illegible] 。 [illegible] 。 [illegible] 古 [illegible] よもぎノ名モアリ。後世ハ、艾ニ代フ。 [illegible] ヤヨモギ。鼠麴草。 [illegible]

ははごぜ (名) 〔母御前〕 次條ノ語ノ略。 [illegible]

ははごぜん (名) 〔母御前〕 母ノ尊稱。 [illegible] シテ、はゝごぜ。又、はゝご。 [illegible]

ははこもち (名) 〔母子餅〕 [illegible]

龍舌粋 倭名抄、十六五十飯餅類「餛、久佐毛知比」和泉式部集、三、千篇ニくさもちひ入レテ奉ルトテ「花ノサト、心モシラズ、春ノ野ニ、イロイロツメル、ははこもちひゾ」後拾遺集、廿、誹諧「三月三日、カノ北ノ方、三夜ノもちひクヘトテ出シケルニヨメル、三日ノ夜ノ、餅ヒハクハジ、ワヅラハシ、聞ケバ淀野ニ、はは子ツムナリ」日次紀事(延寶、黑川道祐)三月三日「艾餅、草餅、云云、今專用艾代母子草」

ばば-さま (名) (一)祖母ノ敬稱。祖母樣。(二)老婆ノ敬稱。婆樣。

はは-ぢ (名) 母字 はんせつ(反切)ノ條ヲ見ヨ。

はば・し シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 憚 はばかる(憚)ノ語意ニ同ジ。乳母草子「草子嬖、御キカセアルマジク候、歌詠ジ舞ナド人ニキカルルハ、はばしき事ナリ」今物語「下臈ハイカデカト、はばしくイヒケルヲ、猶セメ問ハレテ」

はは-ぢろ (名) 母代 母トナリテ後見スル人。狹衣物語、一、下「伯母ノ尼君、カカル人ヨビ取リテ添ヘタル、ゲニ故故シゲニテ、母代ニシタリ」濱松中納言物語「宰相ノ君ノ、云云、イトヤンゴトナキモノニシ給ヒテ、ベチニトリハナチテ、姫君ノ御ははぢろニソヘ奉リ給ヘリ」宇治拾遺、五、第六條「二條ノ大宮ト申シケルハ、白河院ノ宮、鳥羽院御母代ニオハシマシケル」平家物語、一、我身榮華事「高倉ノ院、御在位ノ時、御ははぢろトテ、准三后ノ宣旨ヲ被リ」

ばば-すゑ (名) 馬場末 ばばもと(馬場本)ノ條ヲ見ヨ。ウマトドメ。(馬場本ニ對ス) 著聞集、十、馬藝「樂ノ如ク敦兼追ヒテ、トリクミテ、馬場末ニテトホリニケリ」同、同「中判官親清、馬場末ヲ守護シテ候ヒケルガ、云云、高遠空シキ鞭ヲ持チテ、馬場末ニアリケルヲ」

はは-そ (名) 柞 〔葉葉添ノ略〕樹ノ名。かしは(槲)ニ同ジ。今、音便ニ、はうそ。倭名抄、廿六木類「柞、波波曾」(柞ハいぬつげナリ)

字鏡四十六「楢、波波曾」書言字考節用集、六、生植門「柞、ハハソ、ニシキギ、ユシ、ユス」萬葉集、九、十六「山科ノ、石田ノ小野ノ、母蘇原、見ツツヤ君ガ、山道越ユラム」古今集、五、秋、下「サホ山ノ、ははそノ紅葉、チリヌベミ、ヨルサヘ見ヨト、照ラス月影」謠曲、逆鉾「御山ノ柞ノ紅葉カタシキテ」

ばば-そだち (名) 祖母育 祖母ノ手ニテ、育ツコト。又、ソノ育チタル子。

ははそ-の-もり (名) 柞杜 柞ノ樹ノ生ヒ茂リタル森。後拾遺集、五、秋、下「イカナレバ、同ジ時雨ニ、紅葉スル、柞のもりノ、薄ク濃カラム」詞花集、十、雜、下「木ノモトニ、カキ集メタル、言ノ葉ヲ、柞の杜ノ、形見トハ見ヨ」

ははそば-の (枕) 柞葉之 音ノ同ジキヨリ、母ニ冠ラスル枕詞。萬葉集、十九、四十長歌「チチノ實ノ、父ノミコト、波播蘇葉乃、母ノミコト」同、廿、三十六長歌「波波蘇婆能、母ノミコトハ、云云、チチノ實ノ、父ノミコトハ」

ははそ-はら (名) 柞原 柞ノ樹ノ生ヒ繁キタル原。萬葉集、九、十六「山科ノ、石田ノ小野ノ、母蘇原、見ツツヤ君ガ、山道越ユラム」源、廿一、少女五十四「冬ノハジメ、云云、ワレハガホナルははそはら、ヲサヲサ名モ知ラヌ深山木ドモ」千載集、五、秋、下「秋トイヘバ、岩田ノヲノノ、柞原、時雨モマタズ、紅葉シニケリ」

ははそ-やま (名) 柞山 柞ノ樹ノ生ヒ茂リタル山。後撰集、十八、雜、四「柞山、峯ノ嵐ノ、風ヲイタミ、フルコトノ葉ヲ、カキゾアツムル」

はばたき (名) 羽撃 鳥ノ兩翼ヲ相撃ツコト。ハタタキ。鼓翼

はは-ぢゃ-ひと (名) 母人 〔母である人ノ約略。親愛ノ意ヲ含ム〕子ヨリ母ヲ親シミテ呼ブ稱。ハハビト。ハハ。ハハゴ。ハハヂャモノ。(父ぢゃひと、兄ぢゃひと、姉ぢゃひとナドモアリ) 國性爺合戰(正德、近松作)千里竹「ナウ母ぢゃ人、コノ臑骨ニ覺エアリ」伊達髮五人男(寶永、西澤一風)五「申シ母ぢゃ人、文七デゴザル」

はは-ぢゃ-もの (名) 母者 前條ノ語ニ同ジ。醒睡笑(元和、安樂庵策傳)「雄長老ノ裸デオハセシ處ヘ、客キタリケレバ、私ハ母者モノ、手織ノ襦纏リ居リ候」

はばった・し キ・ケレ・ク・ク (形、一) 幅 〔幅甚しノ義〕張ル感ジアリ。幅ヒロシ。

ばばっち (名) ばっちニ同ジ。(小兒ノ語)

ばばっちい (形) 〔婆しいノ轉、大人しい、稚子しいノ例、爺むさいニ對ス〕(一)婆婆シイ。(二)糞糞シイ。キタナイ。ババッチ。バッチイ。浮世風呂(文化、三馬)二編、下「ばばっちい、エエキタナ」

はは-てう (名) 哵哵鳥・八哥鳥 〔哵ハ八ナリ、飛ブ時、翅ノ白キ處、八字ノ如シト云フ〕鵙ニ似テ幘アリ、羣ヲナス。舌長クシテ、其尖、爪ノ如シ、コレヲ切レバ、能ク諸鳥ノ聲ヲナス。但、人語ヲ能クセズト云フ。書言字考節用集、五、氣形門「鸜鵒、(周禮、作鴝鵒、本草、似鵙而頭上有幘、又、有無幘者、身首俱黑、兩翼下各有白點)哵哵鳥(八哥、寒皐、竝仝)、ハハテウ」三暁庵隨筆、上「島津圖書殿ニ有之牧溪八八鳥ノ畫ハ、東山義政公御祕藏ノ繪ニテ、天山ノ朱印有之候、御旗本ノ内、所帶沽却ノ節被賣拂候ヲ、御先祖圖書殿、高直ニ御買取ノ由、右天山ノ印ヲ牧溪ノ印ト覺ヘ候人モ有之由、間違ニテ候」

はは-とじ (名) 母刀自 母ノ尊稱。とじ(刀自)ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、六、二十長歌「父公ニ、吾ハマナ子ゾ、妣刀自ニ、吾ハメヅ兒ゾ」同、廿、廿一「マキ柱、ホメテ造レル、殿ノゴト、イマセ波波刀自、オメガハリセズ」

ばば-どの (名) 馬場殿 うまばどの(馬場殿)ノ條ヲ見ヨ。

ばば-とび (名) 幅跳 〔英語、Broad jump ノ譯語〕運動競技ノ一種。幅廣ク飛ブヲ主トスルモノ。(高跳ニ對ス) コレニ走幅跳、立幅跳アリ。

はは-びと (名) 母人 はは(母)ト云フニ同ジ。(親愛ノ意ヲ含ム) 好色一代男(天和、西鶴)七「九日ハ母人ノ十三年ニ當タリ」

はば・む ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 沮阻難 自ラ位地ヲ取リテ、他ノ入ルヲユルサズ。妨ゲ支フ。退ク。禮記、儒行篇「劫之以衆、沮之以兵」

はば・む ム・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 沮阻難 前條ノ語意ニ同ジ。又、物ノ間ニアリテ通路ヲ塞グ。天治字鏡、三六「詰、責也、問也、波波女問」字鏡、廿八「詰、詰問逼貞、責也、問也、奈是留、又、波波女止布」同、八十一「彊、禦、波波女奈是留」史記、孔子世家「請先嘗沮之、沮而不可、則致地、庸遲乎」

バ-ハン (名) 八幡 〔倭寇ノ旗ニ、八幡ノ神號ヲ記セルヲ、明人ノ八幡ト呼ベルニ起ルト云フ〕商船ノ國禁ヲ犯シテ、外國ニ渡ルコト。轉ジテ、密賣買。ヌケアキナヒ。(長崎) 奸闌 和漢三才圖會、十、人倫之用「盜人、云云、相傳、往昔有倭船竊人唐、盜者、其船帆銘八幡神號、以爲海上鎭護、華人不曉之、總以海賊稱八幡」用明天皇職人鑑(寶永、近松作)二「サテハ海賊ばはん船ヨナ」

ばば-むかし (名) 祖母昔・婆婆昔 茶ノ銘。はつむかし(初昔)ニ同ジ。茶道筌蹄、一、茶名「初昔、云云、むかしハ白ト云フ製ニテアリシガ、云云、當時(慶長)白ノ製ヲ知リタルハ、上林ノ後室ノミ成シ故、婆婆昔ト御銘シ給ヘリ」

バハン-せん (名) 八幡船 次條ノ語ニ同ジ。

バハン-ぶね (名) 〔八幡船〕 (一)室町時代ニ、支那、朝鮮ノ沿岸ヲ侵略セル我ガ邊民ノ乘用船ヲ、彼國人等ノ稱セシ語。其船旗ニ、八幡大菩薩ト記シテ、船頭ニ揭ゲシ故ノ名ナリ。卽チ、倭寇ノ乘船。又、ハチマンブネ。バハンセン。(二)轉ジテ、異國ニ通商スルコト。文祿二年十一月、小西攝津守行長ガ、淺野彈正少弼ニ贈レル狀「五島平戶之唐人、八幡仕候由、被レ成二下御朱印一候、昨日致二頂戴一候、則平戶五島、是ニ在陣仕候間、上意之旨申聞、當春大唐ヘ商賣ニ罷出候唐人其外、何レモ相留改申候、不レ殘召シ可二罷上一候事」(三)更ニ轉ジテ、ヌキニ、祕密貿易。淺蘆幸庵對話、三百廿四「日本ヘ來ル品ハ皆盜物也、阿蘭陀人、日本ヘ持參ノ品品、彼國ノ土產ニアラズ、過半諸國ノ土產、ばはんシ來ルモノ也」

ばば-めく・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四、) 〔幅〕 幅ガ利ク。ハブリヨシ。威勢アリ。

ばば-もと (名) 〔馬場本〕 馬場ニテ、馬ヲ乘リ出ダス所、コレニ對シテ、止マル所ヲ馬場末、又ハ、馬䟫(ウマトドメ)ト云フ。著聞集、十、馬藝「後鳥羽院ノ御時ノ競馬ニ、云云、馬場もとヘ走リ歸リタリケルニ、敦近勝チニケリ」

〔ははや〕 (名) 〔羽羽矢〕 〔羽張矢ノ略カト云フ〕 羽ノ廣ク大ナル矢カト云フ。神代紀、下三「天羽羽矢」古事記、上廿七「天之波波矢」倭姬命世記、五、天孫本紀「天羽羽弓、天羽羽矢」 艷狩劒本地(寶永、近松作)一「天ノクモ天照大神、天ノカゴ弓、羽羽矢ヲ以テ、惡神ヲシヅメオハシマス」

はばや-し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 〔刃早〕 切ルニ早シ。スバヤク切ル。銳利ナリ。銳シ。七十一番職人盡歌合、上、三番「はばやさハ、イカニ手ヲ切ルゾ」 犬子集(寬永)示、四、切 サキヤ、はばやく見ユル、夏木立」

はばり (名) 〔刃針〕 醫師ノ用キル具。針ニ似テ、平タクシテ尖リ、諸刃ナリ。長サ二寸許リ、幅二三分、脂ヲ切ルナドニ用キル。ランセッタ。ヒラバリ。 披鍼

はば-る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔幅〕 〔幅ヲ活用ス〕 張リヒロガル、幅ットト。

はひ (名) 〔灰〕 〔死火(ハヒ)ノ略カ〕 (一)物ノ火ニ燃エ果テテ、形ヲ變ジ、白粉トナレルモノ。アク。スバヒ。倭名抄、十二25 燈火具「灰、波比、火燼滅也」天治字鏡、十二「灰、波比」字鏡、六「炭、灰也、波比」欽明紀、九年十二月「嶋東禹武邑人、採二拾椎子一爲二欲熟喫一著二灰裏一炮、其皮甲化二成二人一飛二騰火上一二尺餘許、經レ時相鬪」 皇極紀、二年十一月「巨勢德太臣等燒二斑鳩宮一灰中見レ骨、誤謂二王死一解レ圍退去」 宇津保物語、藏開、上「銀ノ火取ニ、銀ノ鑪造リオホヒテ、ちんヲ擣キフルヒテ、はひニ入レテ」(二)取ルニ足ラヌモノニ、譬ヘテ云フ語。塵芥。ホコリ。奥義抄、二「アヤシキ身ヲバ、チリはひナドニ、人ノ思ヘル心也」

はひ (名) 〔蠅〕 はへ(蠅)ノ訛。

〔はひ〕 (名) 〔莖〕 〔莖葉(ハヒ)ノ義ナラム〕 蓮ノ莖ノ下ニ生フル、白キ根ノ如キモノ。蓮ノ地下莖。レンコン。 倭名抄、廿10 蓮類「藕、波知須乃波比、莖下白蒻、在二泥中一者也」 字鏡、五十五「蔤、荷本、(荷)乃白久支」 天治字鏡、七卅六「藕、荷本也、荷白莖」 藻汐草、八「荷、ハチスノはい、根也」 內膳寮式、耕種、營蔓七十五枚、波斐四把半」 後撰集、十五、雜、一「蓮葉ノ、はひニゾ人ハ、思フラム、世ニハ泥(コヒヂ)ノ、中ニ生ヒツツ」 奧儀抄、四「蓮ニハはひト云フモノアリテ、人ノ食フ物ナリ」

はひ (接尾) 名詞、動詞ナドノ下ニ添ヒテ、狀態ノ意ヲ云フ語。卽チ、わざはひ、さきはひ、なりはひ、すぎはひ、うらはひ、まぎはひナドノ類ナリ。

はび (名) 〔蝮〕 〔はみノ轉〕 まむし(蝮)ノ異名。(大和)其條ヲ見ヨ。

はび (名) 〔巴鼻〕 〔巴ハ把、同ジ。鼻、牛ノ鼻ナルベシ〕 (一)[illegible]所、即チ、捉ヘ所ノ義、牛ナドヲ御スルニ、鼻ヅラヲ把リシヨリ云フ」 (二)器物ノ、手ニテ持チ支フル所。ツマミ。トッテ。 碧巖錄、普照序「垂示(示衆)[illegible]鼻、頭上出納僧向上巴鼻」 (二)イハレ。オコリ。由來。 通弁色葉集「巴鼻、ハビ、來由之義也」

ばび (名) 〔馬尾〕 (一)馬ノ尾。馬ノ尻尾。[illegible] (二)ウマノ、馬ノ、尻尾ノ、[illegible]

ばひ-あ-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 〔奪合〕 〔奪(ウバ)ヒ合(ア)ふノ略〕 互ニ奪フ。爭奪

〔はひ-い-づ〕・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ(自動、下二) 〔這出〕 (一)〔ハヒダス〕。 源、四十九、東屋「若君ノはひ出で、云云、シバシナグサメアソバシテ」 (二)いづヲ卑メテ云フ語。 國性爺合戰(正德、近松作)五「オノレ、日本ノ小國ヨリ這ひ出で、唐土ノ地ヲ猥ミ荒ラシ、數ケ所ノ城ヲ切取リ」

はひ-いで (名) 〔這出〕 〔門內ツはひいりト云フニ對ス〕 門ノ外ノコト。門外。 夫木抄、七、早苗「鬪守ル、ミツハノ蛭、庵ヨリ、はひいでノ小田ニ、早苗取ル見ヨ」

はひ-いり (名) 〔這入〕 〔門外ツはひいでト云フニ對ス〕 門ヨリ邸宅マデノ間。門內。はひり。 後撰集、一、春、上「好ガ家ノ、はひ入リニ立テル、紅梅ニ、今ヤナクラム、鶯ノ聲」

〔はひ-い-る〕・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔這入〕 ハウテイル。アユミ入ル。ハヒル。字[illegible]、[illegible]マノクタ、マ[illegible]ヒノ[illegible]ニはひいりテ[illegible] 蜻蛉日記、中、下廿八「アルジモオドロキサワグニ、ブトはひいりテ」

はひ-いろ (名) 〔灰色〕 (一)灰ノ如ク薄黑キ色。鼠色。(二)主義、所屬ナドノ明カナラザルモノ。去就、何レトモ判明セザルモノ。「灰色議員」

はひ-うち (名) 〔蠅打〕 はへうち(蠅打)ノ訛。 俳諧類船集、下「はひ打ニナル常ノ子供カナ」

〔はひ-うら〕 (名) 〔灰占〕 〔々々ニヨリノ卜ハ、灰ヲナラシ、其書ノ有無ニテ、吉凶ヲ卜シ、灰ヲ掻キテ、事ヲ占フコトトスル〕 正治百首、アズサビニ、聞ク灰占ノ、アタルマデ、ウヅメド消エズ、オモヒナリケリ」 拾玉集、六「オモヒ、夜ハノ埋火、カキノケテ、ドノ灰占ヒ、ウチ[illegible]ナリケリ」 夫木抄、九、聞ツはいうらノ、占[illegible]カレハシリ火ニ、胸ノミイトド、嘆クカナ」 佐夜中山集(寬文)二「播キナラス、サマコトサウ、トキニテ、ノ[illegible]、[illegible]」 同「思ヒ人、身ニシミジミト、待ザリカレ、其灰占ノ、吉ウ聞ク」

はひ-え (名) 〔延枝〕 ハヒノビタル枝。 [illegible]、[illegible]、[illegible]ノ木ノ[illegible] [illegible]、はひえソ役ノ、ウタスドリ[illegible] [illegible]、シリアリ[illegible]、[illegible]ハ[illegible]、[illegible]シガリ[illegible] [illegible]、[illegible]ノ、[illegible]

〔はひ-おく-る〕・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 〔灰後〕 〔染色ニ濃ム、古ヘ、紫色ヲ染ムルニハ、椿ノ灰ヲ差シタルガ、其灰ノ力ノ不足ニナルトテ、濃ムル意トシテ、はひおくるト云ヘル語〕 ハヒカヘル。 [illegible]、[illegible]ノ[illegible]、クレバ、はひおくれ[illegible]

はひ-おし (名) 〔灰押〕 [illegible]

はひ-おとし (名) 〔灰落〕 [illegible]

ヲオトシ入ルル具。

はひ-かぐら（名）［灰神樂］火氣アル火鉢ノ中ニ、湯水ナドノコボレテ、灰ノ吹キアガルコト。

はひ-かづき（名）［灰被］炭火ノタチテ、白キ灰ガチニ覆ハルルコト。小町踊（寛文）冬「炭、天目ノ、名ヲカル炭ヤ、灰かづき」

はひ-かへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［灰返］はひおへる（灰後）ニ同ジ。枕草子、八、八十四段「葡萄染メノ織物ノ、はひかへりタル」

はひ-き（名）［灰器］茶人ノ、爐ノ灰ヲ入ルル焙烙。

は-びき（名）［刃引］柄ゴメニ鐵ニテ短刀ノ狀ニ作リ、刃モ鍔モナク、打チヒラメタルモノ。室町時代ニ、走衆ナド、刀ニ差添ヘ、或ハ、携ヘ居リテ前ヲ追ヒ、非違ノ人ヲ戒メキタメタルモノ。十手ノ類ナル ベシ。走衆故實、一「烏帽子上下ニテ、刃引ヲサシ、太刀ヲハキカヘシ、云云」同、四「はびきヲバ、濃ニテ塗ルヘシ、柬ハ刀ノ柄ナドノ如クコシラヘマキテ、云云、鍔ノアルモアリ」

はひき-の-かみ（名）［波比岐神］旅行スルモノノ道中ヲ、守護スルト云フ神

はびこ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［蔓延］（ほびこるノ轉）（一）延ヒ行クママニ繁ル（草木ニ）延ビヒロガル　ホビコル。ホドコル。ハバカル。名義抄「迸、ハビコル、ホトバシル」蔓延、ハビコル、蔓、ハビコル、滂沱、ハビコル」瀰漫、ハビコル」蔓、ハビコル、ホビコル」本朝文粹、二、具ニ其因縁ヲ、叢、暴、殺ニ寺良民ニ、藍石女御集「はびこれル、葛ノ下フク、風ノ音モ、誰刀ハ今ハ、聞クベカリケル」（二）〔ヒロガル。ヒロマル。顯宗紀、二年十月「是時天下安平、民無二徭役一、歳比登稔、百姓殷富、稻斛銀錢一文、牛馬被レ野」狂言記、宗論「日本ニはびこる稱ノ法問チャ」（三）勢、盛ニナル。増長ス。太平記、十二、兵部卿親王流刑事「朝廷再ビ傾イテ、武家又可レ泮瑞相ニヤト、人人申合ヒケルガ」（四）惡行ヲ恣ニス。横行　強梁　跳梁「盜賊蔓る」

はひ-さじ（名）［灰匙］はひじゃくし（灰杓子）ニ同ジ。ハヒスクヒ。指月集、上「灰さじ、昔ハ竹ニ土器ナド插メルヲ、道安、銅ニシテ付タリ、利休、始メハ、道安カ灰スクヒハ、飯杓子ノヤウナトテ、笑ヒケルガ、後ハソレヲ用トイヘリ」

はひ-ざら（名）［灰皿］（一）皿ノ如キ形ニ造リタル灰オトシ。（二）熔鑛爐ノ底部ニテ、灰ヲ受クル處。

はひ-しば（名）〔枝細ソク柔ニシテ、靡ケバ、名アリト云フ〕ささやきぐさ（薄落廻）ノ一名。其條、及、やまひひらぎ（山柊）ノ條ヲ見ヨ。本草和名、上廿六「黄芩、比比良岐、波比之波」

はひ-じゃくし（名）［灰杓子］茶ノ湯ニテ、爐中ノ灰ヲナラスニ用ヰル杓子　ハヒサジ。ハヒスクヒ。ハヒナラシ。灰匙　茶道筌蹄、三「灰杓子」茶道要錄、上、主法「一、杓子之事、爐ノ灰杓子三本、各形アリ、共ニ桑柄也」

ばひ-しらが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）（奪ひしらがふノ略）奪合フ。宇治拾遺、六、第九條「一人、云云、取リハヅシテ、海ニ落入リヌ、羅刹、ばひしらがひテ、コレヲ破リ食ヒケリ」

はひ-すくひ（名）［灰掬］前前條ノ語ニ同ジ。灰匙　茶之湯六宗匠傳記、五「冬、ホウロクヘ大灰すくひ計、夏ハ大小ノ灰すくひ吉」

はひ-ずみ（名）［灰墨］掃墨ノ誤

ば-ひつ（名）［馬匹］〔匹ハ、一匹、二匹ト數フルヨリ云フ〕ウマ。易經、下經、中孚卦「六四、月幾レ望、馬匹亡、无レ咎」二馬匹改良」

はひ-つくば・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［這蹲］［這蹲踞］略シテ、つくばふ。平伏ス　曾我扇八景（寶永、近松作）中「捨身ノ行デ、タノタ百ヅツ、寶ノ山ト頂イテ、町衆ニハはひつくばひ、女郎衆ニナブラレテ、主ヲハゴクム下人ノ心」

はひ-で（名）［這出］ハヒイヅルコト。又、ソノモノ。ハヒダシ。カケダシ。山ダシ。鷹筑波集（寛永）「草モ木モ、春ハはひでノ、コトシカナ」

ばひ-と・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［奪取］〔奪取るノ略〕競ヒ奪フ　爭奪　宇津保物語、藤原君三「バクチ、京童、數知ラズ集リテ、一ノ車ヲばひとろ、殿ノ人人ソラ騷ギスレバ」宇治拾遺、三、第十八條「ソノ人ノヒスマシノ皮子モテイカン、奪ひとりテ、我ニ見セヨ」曠野集「月一ツ、ばひとり勝チノ、今宵哉」

はひ-ならし（名）［灰平］はひじゃくし（灰杓子）ニ同ジ。灰匙　浮世風呂（文化、三馬）四編、上「御免ナ、菜箸、火吹竹、灰ならしモ御座候ッ」

はひ-の-き（名）［灰木］灰木科ノ木本ノ名。いすのきトモ云フ。葉ハ橢圓形ニシテ、鋸齒アリ、花ハ總狀花序ヲナス。實ハ青色ニシテ、熟スレバ黑シ。葉ノ煮汁ヲ染料ニ用ヰ、材ハ白クシテ、箸、將棊ノ駒ナドヲ作ル。字鏡四十六「欂、木名、灰可染、波比乃木」

はひ-はち（名）［灰八］〔灰吹銀八分ニテ買ハルル故ニ名トスト云フ〕長崎地方ニテ、下等ノ遊女ノ稱。

はひ-はひ（名）這フコト。（小兒ノ語）

はひ-びゃくしん（名）［矮檜］［矮柏］一名、ソナレ。ハヒネズ。びゃくしん（柏心）ノ變種。直上セズシテ、地上ニ這フモノ　蛇木　壇山姥　正德、近松作）二「膝ヨリ下ヘコロコロコロト、這ひびゃくしんマデコケカカリ」

はひ-ひろご・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）延ヒノビテヒロガル。ハビコル。蔓延ス

ば-ひふう（名）［馬脾風］病ノ名。氣道粘膜ニ義膜ヲ生ジ、聲、嗄レ、咳、出デ、呼吸、甚ダ苦シ。此病、發スルコト急ニシテ、極メテ危シ。專ラ、二歳ヨリ十歳マデノ小兒ニアリ、傳染セズト云フ。格魯布　久、實布的里亞ト云フアリ、喉道、氣道、共ニ着キ、大人、小兒ニアリ、傳染ス。咽喉風。

はひ-ふき（名）［灰吹］烟草ノ吸殼ノ灰ヲ吹キ入ルル筒。吐月峯。唾壺　灰扒（日用雜字）書言字考節用集、七、器財門「唾壺、ハイフキ、吐レ唾器」蜀山百首、雜「灰吹ノ、靑カリシヨリ、見ソメコシ、心ノタケモ、ウチハタカバヤ」

はひ-ぶき（名）［灰吹］灰吹法ノ略。金銀ヲ含メル鉛ヲ、灰皿、又ハ、灰吹爐内ニ酸化鎔解セシメテ、金銀ノ地金ヲ採取スル法。灰ヲ捏ネタルヲ以テ、鞴ノ口ニ、土手ヲツキテ吹ケバ云フトゾ。金銀私譜「生銀ノ事、山ヨリ出デ申シ候ヲ灰吹ト申シ、サラサラト致シ候銀ニテ、細工銀ニハ相成リ不レ申候」山相祕錄、上、金山「凡ソ灰吹ノ法ヲ行テ純金ヲ取ルコトハ、近來、銀ノミニ用フ、金ニハ行フ者少シ」

はひぶき-ぎん（名）［灰吹銀］灰吹法ニヨリテ吹キ分ケタルママノ銀ニテ、未ダ精煉セザルモノ。〔前條、見合ハスベシ〕好古日錄「灰吹銀ノ行用、四百年來、諸記ニ屢見ス、永享二年八月記、飾磨某云、灰吹銀五十目、錢壹貫文ノ價也」

ばびほう (名) [馬尾蜂] 蜂ノ類、[illegible]長五分内外ニシテ、赤褐色ヲ呈シ、木中ニ生ズ。出ヅレバ飛ブコト能ハズ、[illegible]、[illegible]クコト数日ニシテ死ス。形、[illegible](赤蜂)ニ似テ小サク、翅ニ少シ黒キ處アリ。雌ニハ、尾ニ、一條ノ馬毛(ウマノス)ノ如キモノ生フ、産卵管ニシテ、長サ四五寸、色黒シ、死スルトキハ、分レテ三毛トナル。木蠹蟲(キクヒムシ)ニ産卵ス。

はひまつ (名) [這松][偃松] 松属ノ常緑樹。高山ニアリ、灌木ニシテ、五葉松ニ似、高サ三四尺ニ過ギズ、枝葉、[illegible]ニシテ、匍匐性アリ、地ニ這フコト数間、叢生シテ数十百間ニ及ビ、這松帯ヲナス。五針葉ニシテ、花ハ紫紅ナリ、九、十月ノ頃、實ヲ結ビテ、卵形ノ松笠ヲツク。雷鳥(ライテウ)、此實ヲ食フ。千歳松

はひまゆみ (名) [杜仲] 〔這檀(ハヒマユミ)ノ義カト云フ〕(一)まさき(柾)ニ同ジ 倭名抄、廿、木類「杜仲、波比末由美」字鏡「杜仲、波比萬由美、又云、[illegible]萬由美」本草和名、上「杜仲、波比末由美」書言字考節用集、六、生植門「杜仲、ハヒマユミ、コマユミ」(二)木綿(ユフ)、即チ、綿ノ木ノ樹ヲ折レバ、白キ絲ノ如キモノ多シ、故ニ名ヅク) 名義抄「木綿、ハヒマユミ」易林本節用集(慶長)上、草木門「木綿、ハヒマユミ」

はひも (名) 〔延芽(ハヘメ)ノ轉カト云フ〕竹ノ根ノ、傍出シテ筍ニ似タルモノ。[傍筍] 倭訓栞「はひも、傍竹ヲ云フ、延芽ノ義ナルベシ、筍書ニ、竹根傍出似筍者ト云ヘリ」

はひや (名) [灰屋] 〔灰屋ノ義、火葬セルナリ〕ツカ、墓。[illegible]

はひよけ (名) [灰除] 火災後ノ焼原ヲ行クニ、[illegible]、目ニ入ルヲ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]テ紙ナドニテ[illegible]、如クニ作ル。

はひよせ (名) [灰寄] 死者ヲ火葬シタル、其骨灰ヲ拾ヒ集ムルコト。[illegible]せ、火葬ニ云ヘリ、灰寄ノ義ナリ、コヲ俗ニ灰葬ト云フハ、拜掃ヨリ誤レリ」心中重井筒(寶永、近松作)中「南無三寶、火ガ消エタ、サア[illegible]ノ灰寄せヂヤト」

はひり (名) 〔這入(ハヒイリ)ノ約〕門ヨリ入リテ家ニ至ル間ノ地、ハヒリグチ、家ノ前ノ見ワタシノ間ヲはしりでト云フ) 雅言集覧「はひり、俗ニ云フ這入口ナリ、はひいりノいヲハブケル也」後撰集、一、春、上「妹ガ家ノ、はひりニ立テル、[illegible]、今ヤサクラム、[illegible]」[illegible]「柴ノ屋ノ、はひりノ庭ニ、置ク蚊火ノ、烟ウルサキ、夏ノ夕暮」夫木抄、三、柳「見ニト来ル、人ダニモナシ、我宿ノ、はひりノ柳、下ハラヘドモ」

はひりぐち (名) [入口] 門、又、家ノ戸口。入口(イリクチ)。戸 八百屋お七(享保、紀海音)上「二[illegible]八地獄ノ這入口、車ガ[illegible]メグル身ノ[illegible]」

はひ・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔這入(ハヒイ)るノ約、はふハ、少シノ間ヲ歩ム意〕入ル。ハイル。舊今昔物語、十九、第十九語「蓬屋、云云、云フニ随テ這入リテ、[illegible]」[illegible]、十一[illegible]這フクラマシ、名ヲ[illegible]シテ、山ニはいりイタラ」

はびろ (名) [葉廣] 葉ノ[illegible]キコト、葉ノヒロガレルコト。古事記、下(仁徳)三「サシブノ木、シガ下ニ生ヒ立テル、[illegible]、[illegible]花ノ、照リイマシ、斯ガ葉ノ、ヒロリイマスハ、大君ロカモ」同、同(雄略)二十「山ノ峡ニ、立チ榮ユル、波毘呂隈白檮(ハビロクマカシ)、モトニハ、イクミ竹生ヒ、末ベニハ、立繁竹(タシミタケ)生ヒ」亜之集「イナビ野ニ、ムラムラ立テル、柏木ノ、はびろニナレル、夏ハキニケリ」

はびろ (名) [刃廣] (一)たつぎ(鐇)ノ條ヲ見ヨ。(二)[illegible]

はびろがしは (名) [illegible] ノ木。 新古今集、六、冬、雑ノ上ニ、片枝サシオホヒ、ソトモナル、葉びろがしはニ、霰フルナリ」

はひ・わた・る ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [這渡] 〔わたるハ歩クノ意〕(一)家ノ内ニテ、カシコヨリ、ココヘ来ル。(二)〔ハヒテ延ブ[illegible]〕[illegible]八丘八谷之間ニ」後撰集、十七、雑、三「下ニノミ、はひわたりニシ(ツルイ)、葦ノ根ノ、嬉シキ由ニ、顕ル[illegible]」(三)[這、間ノ事、[illegible]]二「[illegible]「明石ノ浦ハ、タダはひわたるホドナレバ、ヨシキヨノ朝臣、カノ入道ノムスメヲ思出テ、文ナドヤリケレド、返事モセズ」同、廿八、野分「[illegible]ノホコロビヨリ見レバ、モノノソバヨリ、タダはひわたリ給フ程ゾ、フトウチ見エタル」

はふ (名) [法] 〔此字、漢音、はふ、呉音、ほふナリ。衆語ノ此字ヲ冠スルモノ、其慣呼ノ音ニ因リテ両部ニ分ケ収ム、はふニ無キ語ハ、ほふヲ見ルベシ〕上ノ立テテ、天下ノ人ノ據リテ爲シ行フベキコト。ノリ。サダメ。オキテ。法度。法律[illegible]、[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]「弘、周公[illegible]」[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]前漢行之」史記、循吏傳「所、[illegible]、[illegible]之」[illegible]

はふ (名) [搏風] 〔字ノ音〕或ハ、破風[illegible]ノ妻、後ニ其前ニ別ニ形ヲ作ル、即チ、屋ノ切棟ノ端、雨下シテ山形ヲナス處[illegible]

[illegible]如ク作ル、唐搏風ト云ヒ、大棟ノ肩ニ、小棟ヲ寄セカケ作ル、千鳥搏風[illegible]風ヲ起ス、[illegible]搏風ト云フトゾ[illegible]クリアハセ。ヒバ。サバ。[illegible]

はふ (名) [幕府] (一)[illegible]ノ政事ヲ取扱フ處。[illegible] (二)武家将軍ノ[illegible]幕府、幕府。

は・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [這] 〔延ふ[illegible]〕[illegible]シテ行ク、ハラバフ。人ニ[illegible]「[illegible]、ハウ[illegible]、ハウ、小[illegible]」[illegible]

は・ふ フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [延] 〔[illegible]〕

延ベ引ク。張リワタス。ウチハフ。萬葉集、十八、四「佐百合花、後モ會ハムト、下波布流、心シナクバ、今日モ經メヤモ」新古今集、三、夏「玉柏、シゲリニケリナ、五月雨ニ、葉守ノ神ノ、標繩はふるマデ」崇神紀、四十八年正月「繩絚ニ四方ニ、逐ニ食ヒ粟雀ニ」萬葉集、五、十長歌「引繩ヲ、擢借タル如ク」伊勢集「引板はヘテ、モル綱ヲノミ、ヒクトキハ、稻葉ニ露ゾ、トマラザリケリ」古今集、四、秋、上「七夕ニ、カシツル絲ノ、打チはヘテ、年ノヲ長ク、戀ヒヤワタラン」夫木抄、十二、田「綱はヘテ、モリワタリツル、ワガ宿ノ、ワサ田カリガネ、今ゾナクナル」萬葉集、十四、廿七「足引ノ、山田ツクル子、ヒデズトモ、繩ダニ延ヘヨ、モルトシラナム」

はぶ (名) 雲母ノ一種。黑クシテ靑ミアルモノ。

ハブ (名) [波布] 〔琉球語、蝮ノ轉カ、蛇ノ轉カ。今、大阪ニテハ、蝮ヲはびト云フ〕蝮ノ類、琉球諸島ニ產ズ。頭、平タク三角形ニテ、飯匕ノ如シ。大イナルハ、長サ五六尺アリ。毒牙アリテ、嚙マルレバ、害、極メテ甚シ。近年鼬猫類ノ小動物まんぐうすヲ輸入シテ、コレガ退治ヲ圖レリ。飯匙倩 閑田耕筆、三「大隅ノ人ノ話ニ、鬼界島、大島、トクノ島ナドニ、はぶ（文字ハシラズ）ト云蛇アリテ、太ク長キモノ也、人ヲトラントシテハ、竪ニナリテ其齒ヲ以テ、人ノ頭ニテモ身ニテモウツ、ウタレタル所、毒氣ニテ腐レリ」

〜ば・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [奪] 〔奪ふノ略〕ウバフ。トル。字類抄「奪、バフ、ウバフ」名義抄「奪、ムバフ、バフ」源、三十八、夕霧四十九「例ノ文ヲゾイソギ書キタマフ、イト心ヅキナシトオボセド、アリシヤウニモばひタマハズ」謠曲、鸚鵡小町「帝ノ御歌ヲ、ばひ參ラセテヨム時ハ、天ノ恐レモ如何ナラン」

ばぶ (名) [餅] 餅ノ小兒語。(出雲)

はふ-がく (名) [法學] 法律ノ原理、及、其適用ナドヲ研究スル學。法律ノ學。

ばふ-かた (名) [乏形] 〔ばふハ乏ノ字ノ音〕楊弓ノ矢防、革ヲ張リテ衝立ノ如ク造レルモノ。略シテ、ばふ。撈海一滴「大射禮、乏一名容、似ニ今云ニ屛風ニ以ニ牛革ニ鞔、漆之、鄭曰、唱レ獲者、所ニ蔽而以禦レ矢也」

はぶかり (名) [省] 次條ノ語ノ名詞形。

はぶ-か・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [省] 〔はぶかる（被レ省）ノ約リテ四段活用ニ變ジ、自動トナレルモノニテ、だかる、さゝるノ例〕除カレテ減ル。省キテアリ。ハブカレル。

はふ-き (名) [法規] 法律、命令、規定、等ノ總稱。又、法律上ノ規定。

はぶき (名) [羽振] ハブクコト。ハバタキ。翽 好忠集「ヲシドリノ、はぶきヤタユキ、冴ユル夜ノ、池ノミギハニ、鳴ク聲ノスル」

〜はぶき (名) [羽鞴] フキガハ。フイガウ。神代紀、上、廿九「全ニ剝眞名鹿之皮ヲ以作ニ天羽鞴ニ」

〜はぶ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [羽振] 〔ふくハ、振るノ古言〕鳥、羽ヲ振ル。羽バタキスル。ハフル。翽 長秋詠藻、下「ヲシノキル、池ノ氷ノ、トケユクハ、オノガはぶくヤ、春ノ初風」萬葉集、十九、六「春マケテ、モノ悲シキニ、サヨフケテ、羽振鳴ク鴫、誰ガ田ニカスム」古今集、三、夏「早月待ツ、山郭公、打チはぶき、今モ啼カナム、去年ノ古聲」榮花物語、九、石蔭「ヒトリ殘サズ、打チ羽ぶき、コロモノ裾ニ、ハグクメド」後撰集、十五、雜、一「古ヘモ、契リテケリナ、打チはぶき、飛ビタチヌベシ、天ノ羽衣」夫木抄、二、鶯「アラ玉ノ、年ノ初聲、打チはぶき、朝ケノ空ニ、キキル鶯」

〜はぶ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [省] (一) 除キテ減ラス。放ル。剝グ。源、三十八、夕霧廿「アナガチニ、人ノソシリアラン事ハ、はぶきステ、ウルハシダチ給ヘルニ」同、五十二、手習卅「シタヒ惑ハサルル人人ニ、妨ゲラルルヤウニ侍リテナン、ケフハ皆はぶきステテ物シ侍リツル」(二) ヤツス。簡略ニス。俏毀 源、四十五、椎本十「世ノ中ニ心ヲトドメジト、はぶき侍ル身ニテ」

〜はふ-くず-の (枕) [延葛] 〔這ヒ延ビタル葛ハ、長ク連リ、又、草ナド蔽フヨリ云フ〕絕えず、いやとほなが、たづぬ、した、ゆくへ、引く、ナドノ枕詞。萬葉集、廿、六十「波布久受能、タエズシヌバム、大君ノ、召シシ野邊ニハ、シメ結フベシモ」同、三、四十六長歌「延葛乃、イヤ遠永ク、ヨロヅ世ニ、絕エジトオモヒテ」後撰集、十、戀、二「アシビキノ、山下シゲク、はふ葛の、タヅネテ戀フル、我レト知ラズヤ」萬葉集、十四、十「藤浪ノ、咲ケル春野ニ、蔓葛、シタヨシ戀ヒバ、久シクモアラム」同、十二、廿五「大埼ノ、アリソノ渡、延久受乃、ユクヘモナクヤ、戀ヒワタリナム」同十四、六「足柄ノ、箱根ノ山ニ、波布久受能、引カバヨリコネ、シタナホナホニ」(第三句以下、或本歌ノ末句)

はぶくら (名) [剝刀] 〔刃脹ノ義〕彫刻ニ用ヰル刀ノ一種。其刃ノ脹レタルモノ。書言字考節用集、七、器財門「剝刀、ハブクラ」

はぶくら (名) 矢ニツケタル羽。タダ矢羽ト云フニ同ジ。太平記、十五、俵藤太事「コノ矢、眉間ノタダ中ヲ徹リテ、喉ノ下マデ、羽ぶくら責メテゾ立チタリケル」北條五代記、五、昔矢軍事「鈴木左京亮ハ、スグレタル強弓ナリ、前登ニススミ、カレガハナツ矢、はぶくらヲノマズト云フ事ナシ」鑓丸(元祿、近松作)二「手先サガリニ射損ジテ、誰ガ刈リ積ミシ稻村ニ、はぶくら込メテ、ズバト立チ、箭ハ遁レ失セニケリ」

はふ-くゎ (名) [法科] (一) オキテ。ノリ。後漢書、郭躬傳「奏ニ讞法科ハ多ク所ニ生全ニ」蕭子良、奏賽恤田令「心乖ニ理奧ニ行越ニ法科ニ」(二) 法律ニ關スル學科。法律學科。

はふ-くゎ (名) [法貨] (一) 支那ノ貨幣ノ名。三代ノ周ノ齊國ニテ、太公以來、用ヰタル齊法貨（又、齊刀）ト云フハ、形、鉈ノ如クニテ薄ク、銅製ナリ。柄ノ端ニ環アルモノ。(二) 法定貨幣ノ略。國法ニヨリテ發行シ、強制的ニ通用セシムル貨幣。

はふ-こ (名) [這子] 玩具ニ、布帛ヲ縫ヒ合ハセ、中ニ綿ナドヲ入レテ、小兒ノ這フ體ヲ作レルモノ。天兒ノ遺意ナリト云フ。今、東北ノ各地ニテハ、コレヲ木ニテ造ル。俗ニ、こけこトモ云フ。林逸節用集「這孤、又、這蘆子、ハフコ」產所之記「アマガツ一ツ、はふこノ事ナリ、大サ二ツ三ツノ子ホドニ有ルベシ」

はふ-さう (名) [法曹] 司法官ノ總稱。法吏。韓愈、鄭羣贈簟詩「法曹貧賤衆所レ易、腰腹空大何能爲」事物紀原(宋、高承)「漢公府掾史有ニ賊曹掾、主ニ刑法ニ曹之任也」「法曹界」

はぶし (名) [羽節] 羽ノ莖。ハグキ。翮 書言字考節用集、五、氣形門「翮、ハブシ、郭璞云、羽本也」閑情負心鼓(正德、近松作)はまづたひ「尻下リニ引入ル羽節ヲ張ッテバットタチ」

はふ-しき (名) [法式] ほふしき(法式)ニ同ジ。史記、秦始皇紀「厳欣奉ニ教、盡知ニ法式ニ」舒元輿、玉筯篆志「秦丞相斯變ニ蒼頡籀文ニ爲ニ玉筯篆ニ、拔乎能成ニ一家法式ニ」韓維、遣ニ吳冲卿大賚ニ碑文「刑之大學中、爲ニ後代法式ニ」

はふ-じん (名) [法人] 一般ノ自然人ニアラズシテ、權力、又ハ、權利、義務ノ主體トナルモノ。「財團法人」社團法人」

はふ-しやう (名) [法相] 司法大臣ノ異稱。

はふ-しよ (名) [法書] (一) はふでふ(法帖)ニ同ジ。易林(漢、焦贛)「典册法書、藏有ニ國」

[illegible]「[illegible]法書[illegible]」

(二)法律ニ關スル書物。法律書。

はふせい（ホウ・セイ） (名) |法制| 法律ト、制度ト。禮記、月令[illegible]「[illegible]秋之月、云云、命有司、[illegible]法制[illegible]」杜佑、戶口人丁[illegible]「法制[illegible]、[illegible]文」

はふせいきよく（ホウ・セイ・キョク） (名) |法制局| 內閣ニ屬スル局。內閣總理大臣ノ命ニヨリテ、法律、命令案ノ起草、制定、改正、廢止ナドヲ審査シテ、內閣ニ上申スル所。

ばふせう（ボウ・ショウ） (名) |乏少| トボシク、スクナキコト。輕少。北史、隋[illegible]帝紀「宜[illegible]、存[illegible]苦有[illegible]乏少[illegible]之」平家物語、三、公卿揃事「所從ナドモ乏少ナリケルガ」

はふそく（ホウ・ソク） (名) |法則| 原因結果ノ規定。行爲動作ノ準則。又、法律ト、規則ト。[illegible]サダメノリ。[illegible]天官[illegible]、大宰[illegible]以八則[illegible]治[illegible]都[illegible]云云、二曰、[illegible]以[illegible]其官[illegible]（[illegible]八法二通ズ）[illegible]、[illegible]法則[illegible]如[illegible]時[illegible]」蘇軾、四鐸詩「雙碑立[illegible]風雨[illegible]八分存[illegible]法則[illegible]」

はふたつ (名) |葉二| 名物ノ笛ノ名。一名、青葉。[illegible]丸（オニマル）。江談抄、三「葉二[illegible]、[illegible]笛也、[illegible]朱雀門[illegible]也、[illegible]人[illegible]、笛、[illegible]朱雀門[illegible]」[illegible]上、樂器、名物の笛「葉二、江談云、朱雀門[illegible]笛、又、[illegible]青葉[illegible]」十訓抄、下、第十、[illegible]廿[illegible]、[illegible]三位、朱雀門ノ前ニテ、笛ヲ吹カレケルニ、同ジ樣ニ直衣着タル人ノ笛吹キケレバ、[illegible]ミニ取替ヘテ吹キケルニ、世ニナキ程ノ笛ナリ、其後、永ク替ヘテ止ミニケリ、三位失セテ後、淨藏ト云フメデタキ笛吹アリ、帝、此ノ笛ノ主、朱雀門[illegible]ニ[illegible]トコソ聞ケ、[illegible]ニ行キテ吹ケト仰セラレケレバ、[illegible]ニ行キテ、笛ヲ吹キケルニ、其ノ門ノ樓上ニ、高ク大ナル聲ニテ、ナホ逸物ナナト[illegible]ケルヲ、[illegible]、[illegible]シケレバ、始メテ鬼ノ笛トシロシ召シケリ、[illegible]、[illegible]、天下第一ノ笛ナリ、[illegible]笛ニハ葉二ツアリ、[illegible]ハ[illegible]ク、一ツハ青クシテ、朝每ニ露オクト云ヒ傳フ」(節文)

はぶたへ（ハ・ブタ・エ） (名) |羽二重| 〔倭名抄、十二[illegible]繒布類ニ、帛、波久乃岐奴（ハクノキヌ）」トアリ、帛栲（ハクタヘ）ノ訛ナラムト云フ、或ハ、埴生帛ノ義、下總國、埴生郡（ハニフ）ヨリ始メテ製出ス、因リテ名アリト、[illegible]陀貫布、結城紬、[illegible]〕

(一)絹布ノ精好緻密ニシテ、薄クシテ甚ダ光澤アルモノ。白羽二重。染メテ黑羽二重トス。又、織方ニヨリテ、紋羽二重、綾羽二重ナドモアリ。光絹。古語[illegible]、[illegible]之白[illegible]、[illegible]六、羽ハ[illegible]帛ノ[illegible]名[illegible]、[illegible]、[illegible]六、[illegible]、[illegible]七二[illegible]、[illegible]二重[illegible]（ハブタヘ）」[illegible]六、文治二年正月廿八日「色色絹布羽皮」和漢三才圖會、廿七、絹布類「光絹、光絹、俗云、羽二重、按、光絹出京師、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]日本[illegible]代[illegible]（正[illegible]、[illegible]、北條[illegible]四「[illegible]ノフタヘ（ハブタヘ）[illegible]はぶたへノ不[illegible]ニヨゴス事ニ」

(二)羽二重[illegible]、[illegible]女伴優ノ用ヰル[illegible]ノ名。[illegible]ヲ[illegible]シテ、髮ヲウエツケタルモノ。

はぶたへまんぢゆう（ハブタエ・マンジュウ） (名) |羽二重饅頭| (一)菓子ノ名。(二)女ノ肌ノ美（アユウビイ）シキモノ。[illegible]安政の[illegible]、伊名[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]リカ好キナラ、はぶたいまんぢう押ッツケナ」

はふち（ホウ・チ） (名) |法治| 統治ノ作用ガ、法令ノ拘束ヲ受クルコト。卽チ、法律、命令ヲ設定シ、專ラ之ニ據リテ、國家ヲ統治スルコト。「法治國」

はふちこく（ホウ・チ・コク） (名) |法治國| 政治ノ形式ガ、一定ノ法律命令ヲ以テ[illegible]、其管轄內ニアルモノハ、適當ナル法律上ノ手續ニ因ルニ[illegible]、[illegible]生命ヲ奪ハルルコトナク、又、其自由ヲモ、財產ヲモ、奪ハルルコトナシ。

はふぢゆう（ハ・フジュウ） (句) |把不住| 〔把シテ住（トドマ）ラザル意〕佛教ノ語。把住[illegible]、[illegible]其把住ノ所ニ住マラザルヲ云フ。卽チ、執着セザルコト。

はふづくり（ハフ・ズクリ） (名) |[illegible]| 屋ノ切（キリ）棟ノ山形ニ作リテ、其[illegible]ヲ[illegible]ノ[illegible]クルモノ。はふ(搏風)ノ條ヲモ見ヨ。

はふつたの（ホウ・ツタ・ノ） (枕) |延蔦| 〔這ヒ延ビナル蔦ハ、ソノ末、分リ[illegible]云フ〕わかるノ枕詞。[illegible]、[illegible]、[illegible]シ來レバ、肝向フ、心ヲ痛ミ」同、九[illegible]、[illegible]、[illegible]ハフツタノ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]別レシ行ケバ」同、十三[illegible]長歌、言ハムスベ、セムスベシラニ、延津田之（ハフツタノ）、別レノアマタ、ヲシキモノカモ」

はふてい（ホウ・テイ） (名) |法廷| 裁判所ニテ、裁判[illegible]、[illegible]、[illegible]

ハブテコブラ (名) |蛇木| 〔印度語、はぶてハ木ニテ、こぶらハ蛇ナリト云フ〕(一)植物ノ名。[illegible]蔓ノ如キ[illegible]ノ、[illegible]、[illegible]、[illegible]ス。(二)ひさき(楸)ノ一名。

はふでふ（ホウ・ジョウ） (名) |法帖| 〔手本トシテ法ヲ取ル意〕[illegible]、[illegible]テ帖トシタルモノ。多クハ、手習ノ手本トスルナリ。法書。[illegible]法[illegible]（[illegible]、[illegible]式）[illegible]

はふに (名) |[illegible]| [illegible]ニ[illegible]、[illegible]、[illegible]に〕米ニテ製シタル白キ粉、[illegible]、[illegible]、[illegible]、昔ハ、コレ等併ビ用ヰラレタリ。こふ

に(胡粉)ノ條ヲモ見ヨ。倭名抄、十四[illegible]、[illegible]、[illegible]七、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、ハフニ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]著セテ、はうにトスルソモノ[illegible]リツケテ、カケワセリセテ、[illegible]ハカセタリ」

はふはふ（ハウ・ハウ） (副) |[illegible]| [illegible]ニ[illegible]ヒテサマ狀ニ云フ語。辛ウジテ步ミテ、[illegible]書[illegible]八、[illegible]、[illegible]、[illegible]、ハフハフ」[illegible]リハヒ出デテ、はうはう京へ上リ[illegible]ケリ」[illegible]「カヤツリハリテケリ、西行、はふはふ歸リテケリ」[illegible]中納言物語、むしめづる姬君、はふはふ[illegible]、[illegible]、[illegible]シヤシケルゾ、アサカナシトテ、はふはふ[illegible]ニケルトサン」[illegible]、[illegible]、[illegible]

はふびよう (名) |[illegible]| [illegible]ドノ、唐破風ノ如キ形ナルモノ。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]リタ、[illegible]ひびたび、[illegible]、[illegible]がみびたび[illegible]、[illegible]ルカ、[illegible]レハ[illegible]リ。

はふ[illegible] (名) |[illegible]| [illegible]、[illegible]同ジ、[illegible]ニアハ、[illegible]ト[illegible]作ル[illegible]、[illegible]

はふ[illegible] (名) |[illegible]| [illegible]、[illegible]法律ノア[illegible]ル[illegible]

はふむ（名）［法務］法律ニ關スル事務。

ばふん（名）［馬糞］馬ノクソ。マグソ。東海道中膝栗毛（文化、一九）四、上「馬糞アヌカセ、馬方カ食ツハレルモノカ」 曠野集「掃キヨスル、馬糞ニマシル、椿カナ」

はふむし（名）［昆蟲］（多クハ這フ物ナレバ云フ。鳥ヲ飛ぶ鳥ト云ハムガ如シ）蟲ト云フニ同ジ。古事記傳、三十六「昆蟲ハ、タダ凡テノ蟲ヲ云フナリ（タダ鳥ヲ飛ブ鳥ト云フニ同ジ）、蟲ハ波布物ナレバナリ」 神代紀、上、四「伏鳥獸、昆蟲之災異」 繼體紀、八年正月「伏地之蟲爲護衛子十中作災、其濃厚務」 雄略紀、四年八月「波賦武志（蝱）モ、大君ニマツラフ、汝ガカタハ置カム、秋津島ヤマト」 大殿祭祝詞「波府蟲能禍無久」 大祓祝詞「昆蟲乃災」

ばふん-し（名）［馬糞紙］藁ヲ原料トシテ造リタル一種ノ紙。質、粗糙ニシテ厚ク、色、黄ナリ。ボオル紙。

ばふん-せき（名）［馬糞石］うまのたま（馬玉）ノ一名。其條ヲ見ヨ。

はふらう（名）［琺瑯　珐瑯］又、えなめる。一種ノ不透明ナル玻璃　硝子質ニ金屬ノ酸化物ヲ加ヘ、熔カシテ作ル。白色、又ハ、種種ノ色アリ。此ヲ銅、又ハ、銀ノ地金ニ施シタルヲ、七寶燒ト云フ。其條ヲモ見ヨ。

はふらか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［放］〔はふる（放）ノ他動〕放ルルヤウニナス。捨テ遣ル。ハフラス。源、四十、幻「命ヲモ、ミヅカラステツベク、野山ノ末ニはふらかさムニ」 落窪物語、二「常ニ着セ奉レド、はふらかし給フニヤ、アクバカリモ、エ着ツキ給ハズ」 源、十三、明石「斯クナガラ、身ヲはふらかしツルニヤト、心細ウ覺セド」 同、廿二、玉蔓「ワカ君ヲ、サルモノノ中ニはふらかし奉リテハ、何心地カセマシト語ラヒ慰メテ」

はふら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［放散］オモヒハナツ。オモヒスツ。ハフラカス。古今集、十九、誹諧「身ハ捨テツ、心ヲダニモ、はふらさジ、終ニハイカガ、ナルト知ルベク」 萬葉集、十三、長歌「劍刀、磨ギシ心ヲ、天雲ニ、念散之（オモヒハフラシ）、コイマロビ、ヒヅチ泣ケドモ、飽キ足ラヌカモ」

ハブラス（名）［葡語、Fabulas.］譬喩談。又、假作物語。想像談。

はふり（名）［祝］〔不祥、穢ヲ放る義カ〕祝ル人。ハフリコ。ハフリト。かんぬし（神主）ノ條ヲモ見ヨ。倭名抄、二十九（一本）「祝、波不利」 同、七、上野國、新田郡「祝人、波布利」 名義抄「祝、ハフリ」 書言字考節用集、四、人倫門「祝、ハフリ、漢書、郊祀志註、謂主祭之贊詞者上」 欽明紀、廿三年六月「投二見火裏一、天災果鋒、青付二祝人一、使二作神奴一」 萬葉集、十九「住吉ニ、齋ク祝ガ、神言ト、行クトモ來トモ、船ハ早ケム」 同、七、旋頭歌「御幣取ル、三輪ノ祝カ、イハフ杉原、薪（タキギ）コリ、ホトホトシクニ、手斧取ラエヌ」 同、十五、十八「祝部等ガ、齋フ社ノ、黄葉モ、シメ繩越エテ、チルテフ物ヲ」 金槐集、下「今ツクル、三輪ノはふりガ、杉ヤシロ、スギニシ事ハ、トハズトモヨシ」

はふり（名）［葬］〔放る意〕送リヤルコト。ハウムルコト。埋メ祭ルコト。葬送。繼體郎位前紀「喪葬」私記「美波不利」 雄略紀、九年五月「身勞二萬里一、命墜二三韓一、宜レ致二哀矜一充二視葬者一上」 伊勢物語、三十九段「崇子ト申ス皇女、失セ給ヒテ、御はふりノ夜、其宮ノ隣ナリケル男、御はふり見ムトテ」 大和物語、下「親イミジク騒ギテ、取リ上ゲテ、泣キノノシリテはふりス」

はふり（名）［羽觸］羽ノ當リ觸ルルコト。ハフルコト。萬葉集、十九、廿二長歌「カソケキ野べニ、ハルバルニ、鳴ク霍公鳥、立チグクト、羽觸ニ散ラス、藤浪ノ、花ナツカシミ」 同、同、廿「時鳥、鳴ク羽觸ニモ、散リニケリ、盛リ過グラシ、藤波ノ花」

はふり（名）［法理］法律ノ原理。三國志、魏志、武帝紀「其選二明達法理一者上、使レ持二典刑一」 舊唐書、薛廷傳「非レ闡二明法理一、練二達法理一」

はぶり（名）［羽振］（一）羽ヲ振ルコト。翥。靈異記、上、第九、訓釋「翥、波不利」 書言字考節用集、八、言辭門「沸弄、（文選）羽振、ハフリ、ハタタキ」 夫木抄、十七、水鳥「夜モスガラ、沖ノすず鴨、はぶりシテ、ナギサノ宮ニ、キネ鼓ウツ」（二）羽ノ態。羽ノ容子。（鷹飼ノ語）（三）轉ジテ、俗ニ、人ノ世ニ立チマジラフ狀。日本新永代藏（正徳、北條團水）四「世ニハ其時時ヲサバキ、タダはぶりノヨイ方ニノミ付キ從ヒ、下リ坂ト見ユル大商人ヲ、見倒ス樣ニスル者アリ」

はふりかたびら（名）［葬帷］葬送ノ時、棺ニ覆フ帷子。字鏡、卅九「帴、葬覆、棺也、波不利加太比良」 天治字鏡、四「帴、皮（波）不利帷也」

はふりこ（名）［祝子］はふり（祝）ニ同ジ。巫女ニモ云フ。書言字考節用集、四、人倫門「祝子、ハフリコ」 源、三十四、下、若菜、下「はふり子ガ、ユフウチマガヒ、オク霜ハ、ゲニイチジルキ、神ノシルシカ」 拾遺集、十七、雜、秋「祝りこガ、祝フ社ノ、モミヂ葉モ、シメヲバ越エテ、散ルトイフ物ヲ」 後拾遺集、廿、神祇「ウド濱ニ、天ノ羽衣、ムカシキテ、フリケン袖ヤ、ケフノはふりこ」

はふりだ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［放出］投ゲ出ス。勢ヨク衝キ出ス。

はふりつ（名）［法律］〔法令刑律ノ略〕政府ニテ定メテ、遍ク國民ニ遵ヒ守ラシムル掟。又、廣義ニテハ、主權者ノ制定、又ハ、認定シタル人類ノ共同生活ノ規則。狹義ニテ、我ガ國ニ於テハ、帝國議會ノ協賛ヲ經テ、天皇ノ裁可セラレタル規則ヲ云フ。ノリ。オキテ。法度。淮南子、主術訓「法律度量者、人主之所二以執一レ下」 韓愈、寄二盧仝一詩「先生事業不レ可レ量、惟用二法律一自繩レ己」 蘇軾、石鼓歌「掃二除詩書一用二法律一、投二棄俎豆一陳二罍牲一」

はふりつもの（名）［葬物］はふりもの（葬物）ニ同ジ。

はふりと（名）［祝人］はふり（祝）ニ同ジ。

はふりめ（名）［祝女］巫（カンナギ）ニ同ジ。かみなぎ（巫）ノ條ヲ見ヨ。ミコ。

はふりもの（名）［葬物］葬式ニ用キル具。ハフリツモノ。葬器。葬具。持統紀、六年四月「贈二大伴宿禰友國直大貳一、并賜二賻物一」

はふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［羽振］（一）羽ヲ振リテ、飛ビ翔ル。ハタタキスル。ハバタキスル。ハブク。翥。倭名抄、十八、羽族體「翥、飛舉也、波布流、俗云、波豆」 字鏡、六十八「翥、翔也、翔也、波不利止比伊奴」 靈異記、上、第九、訓釋「翥、波不利、又云、加介利伊久」 書言字考節用集、八、言辭門「翥（文選註、鳥將レ飛也）翥（全上）ハタタキ、ハフリス」 萬葉集、十九、九「春マケテ、物カナシキニ、小夜フケテ、羽振リ鳴ク鴫、誰ガ田ニカ住ム」 同、同、二十「打チ羽振、雞ハ鳴クトモ、カクバカリ、フリシク雪ニ、君イマサメヤモ」（二）動キ擧ガル。萬葉集、二十八長歌「朝羽振る、風コソ依ラメ、夕羽振る、浪コソ來縁レ」

はふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［扇］〔羽ヲ活用ス。羽振るノ意〕起リ觸ル。扇ガレテ振ヒウゴク。萬葉集、六、四十長歌「朝羽振、浪ノ音サワギ、タナギニ、權合ノ音キコユ」 神代紀、上、三十「扇二天扇一國、上二諸于天一」

はふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［放］放チ棄テ遣ル。ナガス。古事記、下（允恭）廿二「大君ヲ、島ニ波夫良バ、船餘リ、イ還リ來ムゾ、ワガ疊ユメ、言ヲコソ、疊トイハメ、ワガ妻ハユメ」 續紀、廿五、天平寶字八年十月、詔「船親王、云云、諸王ト成シテ、隱岐ノ國ニ流リタマフ」 同、三十一、寶龜二年二月、詔「彌麻之大臣之家内子等ヲモ波布理不レ賜、失不レ賜、慈賜ハム」 滑稽發句類題集（文化、壽行堂）上「はふッテハ、扇ヲ拾フ、野ガケ道」

はふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 【葬】〔前條ノ語意ニ同ジ、卽チ、古ヘ、死者ヲ野山ヘ放ラカシタルヨリ起ルト〕(一)死者ヲ埋メムト、野山ヘ送リ遣ル。葬送ス。[illegible]萬葉集、[illegible]長歌「[illegible]サヘゲ、百[illegible]ノ[illegible]葬リ、葬りイマシテ」同、十三廿長歌「神葬り、葬りマツレバ」(二)轉ジテ、死者ヲ土中ニ埋ム。延轉シテ、ハウブル。ハウムル。續紀、廿四年十月「毛野臣ノ住ヨリ[illegible]到[illegible]對馬、逢レ疾而死、送葬尋レ河(淀川)而入ニ近江ニ」宇治拾遺、四、第七條「泣ク泣ク葬りテケル」(三)火葬ス。著聞集、二、釋教「薪ヲ積ミテはふりテ、上ニ石ノ卒塔婆ヲ建テタリケリ」今物語「サテノミアルベキナラネバ、はふりケルニ、其火ニ、此女[illegible]ビ入リテ」

はふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 【投】〔放る(ハフ)ノ意〕(一)衣ノ上ニ投ゲカク。ハオリカケル。(二)投ゲ遣ル。打チ捨ツ。

はふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 【屠散】(一)ホフル。キリハフル。欽明紀、廿三年六月「鋸レ刀極レ俎、旣屠且膾(ハフリ)」(二)切リチラス。チラシヤル。古事記、上[illegible]切(キリハフリ)[illegible]其[illegible]ニ」同、中(崇神)[illegible]「斬ニ波布理(キリハフリ)其[illegible]士ニ」

はふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【被】カウムル。オホフ。カブル。字鏡[illegible]、[illegible]、[illegible]波不(利)加太比良」天治字鏡、四廿「[illegible]、皮(波)不利[illegible]也」太平記、十八、竹中[illegible]兵[illegible]事「[illegible]ノ[illegible]ヲ長長ト打チはふり、ユラリユラリト打[illegible]エシ」

はふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【溢】アフル。餘リ溢ル。名義抄[illegible]、ハフル」萬葉集、十[illegible]「葦鴨ノ、スダク池水、溢るトモ、マケ溝ノヘニ、吾レ越エメヤモ」同、十四廿「アガオモノ、ワスレムシダハ、[illegible]、峯ニ立ツ雲ヲ、見ツツシヌバセ」同、十八、[illegible]、射水河、[illegible]溢(ユキゲハフリテ)而、行ク水ノ」

はふ・る・ル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 【[illegible]】前條ノ語ニ同ジ [illegible]、十年九月[illegible]

牛、[illegible]、[illegible]、[illegible](ハフレタリ)[illegible]

はふ・る・ル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 【放】〔溢る(ハフ)ノ轉ナルベシ。此放るト同意ナルあふるるト云フ語アリ〕(一)ツナガルモノノ放レ散ル。鎖マリ居ル者ノ散リ亂ル。(二)[轉ジテ、サスラフ。サマヨフ]。零落。流離。大和物語、上[illegible]リテ後ニ、トカク、はふれテ、人ノ國ニ、ハカナキ所ニ住ミケルヲ」源、十六、關屋云「此人ニサヘオクレテ、イカナルサマニはふれマドフベキニカアラン」同、廿二、[illegible]、イカナル世ニ、はふれ給ハムトスラム」徒然草、第一段「ソノ子孫(ウマゴ)マデハ、はふれニタレド、ナホナマメカシ」

はふれい (名) 【法例】(一)法律上ノ、シキタリ。定メ。從來ノオキテ。[illegible]、刑法志(慶長)上、「音解門「法例、ハウレイ」[illegible]改[illegible]、[illegible]「此書[illegible]不[illegible]在[illegible]法例[illegible]」(二)其法令全體ニ通ズル規則。

はふれい (名) 【法令】法律ト、命令ト。ノリ、オキテ。[illegible]、[illegible]行、[illegible]法令[illegible]

はふれいわた (名) 【法令綿】〔古綿ヲ打直シタル中入綿ヲ、綿入ト云ヒシヲ、今、東都ニテ芳禮綿(ハウレイワタ)(又、方禮綿)トアヤマル〕東京ニテ、もめんわたヲ打チタルモノノ稱。初、大和、奈良ノ法令ト云フ地ノ産ヲ、多ク江戸ヘ出シタレバ名アリ。綿絮 安齋隨筆、前編、七「法令綿、木棉ヲ京都ニテハ、モメンワタトモ、又タウワタトモ云、江戸ニテハ、はうれいわた[illegible]

はへ (名) 【[illegible]】〔[illegible]ノ[illegible]〕[illegible]地名也」語ナラム」[illegible]シテ、はい[illegible]ノ名

ヨリ化シ、[illegible]、[illegible]、[illegible]二爪アリ、其[illegible]ノモノアリ、物ニ糟粕シテ止ム、[illegible]リ秋ニ亙リ、食物ニ集リテ最モ煩ハシ。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、陽地ニ[illegible]リ、[illegible]色、[illegible]、[illegible]まばへハ、秋、多ク出デ飛ブ。聲喧シク、[illegible]、[illegible]背、薄黑クシテ白キ筋アリ、首、最モ赤シ、大[illegible]くそはへ[illegible]モ云ヒ、[illegible]光リ、[illegible]、[illegible]「[illegible]所、波倍[illegible]」推古紀、三十五年五月[illegible]

は・へ (動) 【延】はふ(延)ノ條ヲ見ヨ。十[illegible]、高[illegible]

はへうち (名) 【[illegible]打】[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]又、金屬ニテ網狀ニ作リタルモアリ。訛シテ、はひうち。ハヘトリ。ハヘタタキ。[illegible]

はへき (名) 【[illegible]】[illegible]ノ[illegible]八[illegible]三」[illegible]太流岐、波閉岐」天治字鏡、七「[illegible]、波戸木」[illegible]部位前[illegible]、此[illegible]也」

はへさがり (名) 【生下】〔はえさがり(生下)ノ轉〕鬢ノ毛ノ、[illegible]リ[illegible]、[illegible]、[illegible]ハ、タダ用カラズ[illegible]カラズシテ、[illegible]ナルヲシ、

[illegible]トカタマサルベシ」

はへすべり (名) 【[illegible]】[illegible]、蠅サヘモ辷リテ、止マリ得ザル意」[illegible]禿ゲタル頭ヲ、嘲リテ云フ語。[illegible]あたま。禿頭ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]、[illegible]ンカツアリ、はへすべりナドトアダナツケ[illegible]

はへたたき (名) 【蠅叩】[illegible]同ジ。

はへおさへ (名) 【[illegible]】[illegible](蠅取花)ニ同ジ。

はへちやう (名) 【蠅帳】食物ヲ貯フル小[illegible]サ[illegible]、[illegible]ノ四面[illegible]網ヲ張リ[illegible]

はへとり (名) 【蠅取】[illegible]はへ[illegible]リ[illegible]蠅ヲ[illegible]

はへとりぐさ (名) 【蠅取草】[illegible]同ジ。

はへとりぐも (名) 【蠅取蜘蛛】[illegible]灰色ナレド[illegible]色ニシテ黑キモアリ、[illegible]小[illegible]

考節用集、五、氣形門「蠅虎、ハイトリクモ、古今註、形似蜘蛛、善捕蠅」

はへとりばな（名）［蠅捕花］〔食蟲植物ノ一〕宿根草ニテ、山中ノ池邊ナドニ生ズ。高サ七八寸、葉、互生シテ半月ノ如ク、大キサ二三分、邊ニ毛アリ、葉ノ上ニハ粘液アリテ鵜ノ如ク、蠅、蜻蜓ナド、之ヲ舐ラムトシテ來リ、葉ノ毛ニ觸ハル時ハ、直ニ葉身ノ兩側ヲ閉合シテ之ヲ捕ヘ、養料トナス。ハヘトリグサ。ハヘヂゴク。茅膏菜

はへとりむし（名）［蠅捕蟲］　かまきり（蟷螂）ノ異名。其條ヲ見ヨ。

はへのこ（名）［蠅子］　ウジ。蛆　倭名抄、十九、蟲豸類「胆、波閉乃古、蠅子也」名義抄「胆、ハヘノコ」

はへはらひ（名）［蠅拂］　蠅ヲ拂フニ用ヰル拂子。麈尾　倭名抄、十三、僧坊具「白拂、波閉波良比」名義抄「白拂、ハヘハラヘ」書言字考節用集、七、器財門「拂塵、ハイハラヒ、今云二拂子二」蠅拂、ハイハラヒ」内藏寮式「杖、如意、蠅拂、各四枚」

ばべんさう（名）［馬鞭草］〔節ニ紫花ヲ生ジ、恰モ馬鞭（乘馬用ノ鞭）ノ節ノ如キ故ニ云フト〕古名、クマツヅラ。原野ニ多シ。春、宿根ヨリ生ズ。方莖、高サ二三尺、葉ハ對生シ、初出ハ菊葉ノ如ク、後ニ三尖トナル、細鋸齒アリ。夏、枝ノ梢毎ニ穗ヲ出シテ、小サキ脣形花ヲ開キ、秋ニ至ル。花ノ大キサ一分餘、淡紫色ナリ。浸汁劑トナル。書言字考節用集、六、生植門「馬鞭草、バベンサウ、クマツヅラ」

はべり・る・れ・ら・り・れ（自動、良變）［侍］〔這ヘ在リノ約カ、或ハ這ヒ入ルノ約ト云フ〕（一）貴人ノ御前ニ匍匐ヒ屈シテ居ル。伺候ス。サフラフ。サブラフ。ハンベリ。枕草子、三、廿八段「ウシロサマニ誰誰ガ侍ルト問フ」應神紀、十三年十月「安置於桑津邑」云云、上、坐於宴席」（二）仕ヘ奉ル。神代紀、下、以五部神使配侍焉」（三）轉ジテ、在り、居り、ノ敬語、ハンベリ。ゴザル。マス。神代紀、下、五十「吾姉磐長姫在」景行紀、四年二月「唯有妾姉、名曰八坂入媛、容姿麗美、志亦貞潔、宜納後宮」應神紀十一年十月「日向國有孃子」源、五十六、手習四十「今宵、彼ノ宮ニ參ルベク侍り、明日ヨリヤ、云云」枕草子、四、四十六段「已レガ許ニ、愛デタキ琴侍り、ソレ同、五、四十六段「ウレシキ事ノ昨夜侍りシヲ」二代ヘサセ給ヘ」榮花物語、廿、御賀「哀レニコソ聞エはべりシカ」狹衣、三、上、四十「カカル人ヲ、此ワタリニ時時ニテモ、待チツケ侍りテオハセバ、イカニメデタカラマシ」源、四、夕顏、六「此ノ五六日、ココニ侍れド」拾遺集、九、雜、下「車ノ釘ヲ乞ヒニツカハシ侍り（アリ）ケルニ、侍らず（アラズ）ト云ヒテ侍りケレバ」源、同、四十六「イカデカ世ニ侍らムトスラム」同、廿一、少女、七「はべらズナリナム後モ、ウシロヤスカルベキニ」垂仁紀、三年三月、註「播磨國宍粟邑、淡路島出淺邑、是二邑、汝任意居之」（宍粟、原作宍粟、出淺、原作出淺、從集解及信友校本）「言ヒ侍り」聞キ侍り」

はぼく（名）［破墨］　スミエヲ畫クニ、細カナル筆ヲツカハズ、箒ニテ掃キタル如ク、主トシテ形似ニ注意セル所ニ、趣アルモノ。歷代名畫記（唐、張彥遠）「王維工畫山水、體涉古今、余曾見破墨山水、筆迹勁爽」圖畫見聞誌（宋、郭若虛）「畫ニ小石者、每留素以生雲、或借地爲雪、其破墨之功、尤爲難也」

はぼたん（名）［葉牡丹］〔葉ノ形、牡丹花ニ似タレバ云フ〕十字花科ノ栽培植物。圓莖、高サ一二尺、頂ニ、葉、多ク重ナリ生ズ、あぶらな（油菜）ノ葉ヨリ大キクシテ厚ク、冬春ノ交、紫色ニ變ズ。其若キ時ハ、葉、皆、相抱キテ、球形ニ卷キ、恰モ牡丹花ノ如シ。春ノ末、葉、漸ク開キテ緑ニ變ズ。春夏ノ交、臺ヲ出シテ花ヲ開ク、四出、淡黃色ニシテ、あぶらなノ花ヨリ大ナリ、莢果ヲ結ブ。冬ヲ歷テ枯レズ、嫩葉ヲ食用トナス。一名、ボタンナ。タマナ。インゲンナ。キャベエジ。キャベツ。菘牡丹　甘藍

ばぼつ（名）［馬勃］（一）菌ノ一種。一名、ホコリダケ。キツネノ屁玉。地袋。梅雨中ナドニ、庭園ニ生ズルモノ。打テバ灰ノ如キ粉ヲ發散ス。本草集解「別錄曰、馬勃生園中久腐處」晏殊、中園賦「豬苓馬勃、澤蕪溪蓀」（二）馬ノクソ。馬糞。轉ジテ、取ルニ足ラヌモノニ譬ヘテ云フ語。韓愈、進學解「牛溲馬勃、敗鼓之皮」

剪花翁傳、一、二月開花「葉牡丹、花、菘ノ花ノ如ク、色黃ナリ、開花二月下旬、方地土撰バズ」

はほん（名）［端本］半本］　冊數、闕ケテ、全部ヲ成サヌ書。ハシタトナレル本。脫本　缺本　零帙

はま（名）［濱］〔端海ノ約、端山ノ如シ〕（一）陸ノ、湖海ニ沿ヒテ平ラカナル所。海邊ノ廣キ所。倭名抄、一九、涯岸類「濱、水際也、波萬」字鏡、二十「瀕、波萬」書言字考節用集、一、乾坤門「濱、ハマ、本字瀕、說文、水厓也、師古云、緣海邊也」神代紀、下、廿「汀、此云波麼」同、同、三十五「有可怜小汀、隨其汀而進者、必至我王之宮」（二）圍碁ノ語。あげいし（上石）ニ同ジ。（濱ノ眞砂ノ意ト云フ）死子　拾遺集、九、雜、下「白波ノ、打チヤ返スト、待ツ程ニ、濱ノ眞砂ノ、數ゾ積レル」爲業集「ウチオケル、手波ノホドノ、イカナレバ、トルベキはまモ、ナギサナルラン」

パマ（數）［八］〔八ノ唐音カ〕拳ニ云フ語。八慶（寶永版（正德、近松作）中「けん、云云、はま、サンキウ、ゴウ、リウ、スムヰソレソレナント」

はまあかな（名）〔濱赤菜ノ義、莖ノ紫條ヨリ云フカ〕さいこ（柴胡）ノ古名。倭名抄、廿、草類「茈胡、阿（波ノ誤）末安加奈」注「茈、古柴字也」本草和名、上、六十「茈胡、波末阿加奈」字類抄「茈胡、ハマアカナ」名義抄「茈胡、ハマアカナ」

はまいで（名）［濱出］　濱ニ出デテ遊ブコト。濱邊ノ遊山　曾我物語、五、五郎女ニ情を懸けし事「引ク手アマタノ事ナレバ、梶原ガ濱出シテ、歸リサマニ此女ノ許ニ打寄リテ」幸若舞曲、濱出「三日ノ日ノ雜餉ニハ、江ノ島ニ出デニ事ヨセテ、御はまいでトゾ聞エケル、云云、船ノ上ニ舞臺ヲ高ク飾り立テ、云云」

はまおもと（名）［濱萬年青］　球根ノ常綠草ノ名。紀伊、伊勢ナドノ暖國ノ海濱ニ多シ。形、芭蕉ノ如ク、莖ニツキタル葉、幾重モカサナル。葉ハ、おもとニ似テ長ク、莖高ク延ビテ四五尺ニ達シ、秋、梢ニ數花アツマリ開ク、白クシテ、卷丹ニ似タリ。季秋ニ實ヲ結ビ、花咲キタル跡ニ、數顆ミノル、一顆ノ大キサ桃ノ如シ、內ニ核ナク、白肉アリ。ハマユフ。書言字考節用集、六、生植門「濱木綿、ハマユフ、ハマヲモト、草名、其葉似芭蕉見萬葉」

はまかぜ（名）［濱風］　海濱ニ吹ク風。ウミベノ風。萬葉集、三十五「粟路ノ、野島ノサキノ、濱風ニ、妹ガ結ビシ、紐吹キカヘス」同、七十八「アサリスト、磯ニスム鶴、アケユケバ、濱風寒ミ、オノガツマヨブモ」

はまかづら（名）［蔓荊］　灌木ノ名。はまばひ（蔓荊）ニ同ジ。

はまき（名）［葉卷］　次次條ノ語ノ略。

はまぎく（名）［濱菊］　菊科ノ草本。海岸ノ濕地ニ生ジ、灌木狀ニシテ、冬、枯レ

ズ。莖、葉、共ニ、だるまさう(達磨草)ニ似テ、葉ハ、狹ク長ク刻ミアリテ、深綠色ニシテ光ル。秋冬ノ交ニ、白花ヲ開ク、菊ニ似テ大キク厚シ。書言字考節用集、六、生植門「佛頭菊、ハマキク」

はまき-タバコ (名) 葉卷煙草 煙草ノ葉ヲ、刻マズニ、其儘、卷キテ製リタル煙草。略シテ、はまき。

〔**はまぐり** (名) 蛤 〔濱栗ノ義〕 古名、うむき。介ノ名。形、略、栗ノ子ニ似テ、殼、堅ク厚ク、兩片、形同ジクシテ相合フ。大ナルハ徑三四寸、小サキハ五六分、色ハ、灰白ニ紫黑ノ文アルヲ常トスレド、變色モ極メテ多シ。我ガ國、各地ノ沿海ニ產ズ。肉ハ食用トナル。文蛤 歷

倭名抄、十九、龜貝類「蚌蛤、波萬久理」(蚌ハどぶかひナリ) 書言字考節用集、五、氣形門「蛤(呂氏春秋、月望則蚌蛤實、月晦則蚌蛤虛)、蚌(形同者通曰、蛤、長者曰、蚌)、ハマグリ」三省錄(安政、志賀忍)二「婚禮ニ蛤ノ吸物ハ、享保中、明君ノ定メ置キ給フヨシ、定ニ蛤ハ、數百千ヲ集メテモ、外ノ貝等ニ合ハザルモノユヱ、婚儀ヲ祝スルニ、是レ程メデ度キ物ハナシ」嬉遊笑覽、十、下、火燭「蛤貝ニ薰物ヲ入ルコト、雍古事談ニ、頭中將公能朝臣、殿上ノ一種物ニ蛤ヲ籠ニ入テ、ウスヤウヲ立テ、紅葉ヲ結ビニカサシタリ、蛤ノ中ニハ薰物ヲ入レタリ、中將ニ取リテ、人人ニクバラレケリ」

はまぐり-ずみ (名) 蛤角 男子ノ額付ノ角ノ取リヤウノ名。(ひたひつきノ條ヲ見ヨ)蛤ノ合口ノ如ク、弓形ナルモノナルベシ。 色道大鏡(延寶)「額ハ、云云、角ハ蛤角ニ取ルベシ、額ノ至極ハ、オノレナリニ際ダタズシテ、鬢サキノミキシリト取廻シタルヲ最上トス」

はまぐり-なべ (名) 蛤鍋 略シテ、[illegible]たべ。其條ヲ見ヨ。

はまぐり-ば (名) 蛤刃 刀ニ、刃ヲ研ギツケズ、蛤ノ殼ノ、合ヒタル如ク、圓クナリタルモノ。マロバ。七十一番職人盡歌合、上、三番「イツマデカ、はまぐりばナル、小刀ノ、アフベキ事ノ、カナハザルラン」太平記、二十二、畔南合戰事「七尺三寸ノ太刀、タビラ廣ニ作リタルヲ、鐔本三尺バカリオイテ、蛤齒ニカキアハセ」

はま-ぼう (名) 蔓荊 灌木ノ名。はまばひ(蔓荊)ニ同ジ。

〔**はま-ささげ** (名) 雲實 〔濱豇豆ノ意カ〕 かはらふぢ(雲實樹)ノ古名。草ノ名。有毒植物ノ一。葉ハ、麻ニ似、對生ス。莖、高サ四五尺、太クシテ中空シ。夏ノ半、黃白ノ花ヲ開ク、秋、實ヲ結ブ、莢、大豆ノ如ク、子ハ黃黑ニシテ、扁子ノ如シ。ぢやけつ(蛇結)ノ條ヲモ併セ見ヨ。

倭名抄、廿、草類「雲實、波末佐佐介」本草和名、上「雲實、波末佐佐介」書言字考節用集、六、生植門「雲實、ハマササゲ、天豆、羊石子並同、見ニ本草ニ」

はま-ざんせう (名) 濱山椒 小灌木ノ名。いそざんせう(磯山椒)ニ同ジ。

はま-ぉきみ (名) 蔓荊 灌木ノ名。はまばひ(蔓荊)ニ同ジ。

はま-ぉをん (名) 濱紫菀 菊科ノ多年生草本。海邊ノ沙地ニ生ズ。莖ハ、厚ク柔ニシテ、葉ノ高サ一二三尺ニ達ス。九月頃、梗ヲ抽キテ、紫菀ニ似タル淡紫色ノ花ヲ開ク。又、ウラギク。金盞菜。

はます (名) 濱[illegible] うらす(浦洲)ニ同ジ。

〔**はますがな** (名) 濱[illegible] [illegible]風)ノ古名。ハマニガナ。倭名抄、廿、草類[illegible]

はま-すげ (名) 濱菅 莎草科ノ多年生草本。田野ニ多ク、殊ニ海邊ニ多シ。葉ハ、すげ(菅)ニ似テ小サク、幅一分許リ、長サ六七寸、三脊ニシテ光リ、深綠色ナリ。一根ニ叢生ス。夏、一尺許リノ莖ヲ出シ、頂ニ又ノ分チテ、紫黃色ノ碎花、簇リ生ズ。莎草 根ニ塊アリ、麥門冬ノ如クニシテ、大ナリ。藥トシテ用ヰラレ、香附子トイフ。

〔**はます-ごり** (副) 濱洲鳥 〔水鳥ノ濱洲ヲ歩ム狀ノ、タドタドシキヨリ云フ〕足なやむノ枕詞。 萬葉集、十四「[illegible]人ノ子ノ、カナシケシダハ、波麻渚杼里、足ナヤム駒ノ、惜シケクモナシ」

はま-ぜり (名) 濱芹 〔濱芹ノ義〕 [illegible]いぬたづ[illegible]ノ古名。[illegible](二)ひるむしろ(蛇床子)ノ次條ヲ見ヨ。はまにんじん(濱人參)ノ條ノ一名。

はま-だいこん (名) 濱大根 やまだいこん(野大根)ノ條ノ(二)ニ同ジ。見ヨ。

〔**はま-たかな** (名) 濱[illegible] [illegible] 又、アシナゾナ[illegible]いぬたで[illegible]

[illegible]古名 倭名抄、廿[illegible]草類[illegible]名、上、八十[illegible]波末多加奈、一名[illegible]波末世利」字鏡[illegible]波末太加奈、在[illegible]

〔**はま-たかな** (名) 天名精 菊科ノ草ノ名。野生多シ。[illegible]

ク、野菊ノ花ノ心ノ如クニテ、綠黃ナリ。ハマフルヲ。イヌノシリ。サノシリグサ。ヤブタバコ。 倭名抄、廿、草類「天名精[illegible]

[illegible]

[illegible]精、ハマタカナ、サノシリグサ、ヤブタバコ、地菘、ハマタカナ、又云、蝦蟆藍」

はまち (名) 魬 〔はりまちノ略カトモ云フ〕魚ノ名。いなだニ同ジ。圖門[illegible]

[illegible]

はまち (名) 濱[illegible]

[illegible]

はま-ちどり (名) 濱千鳥 [illegible]

[illegible]

はま-ちどり (名) 濱千鳥 行方も知らぬ、跡トイフノ語ノ枕詞。[illegible]

はま-ちりめん (名) [illegible]

ノ上品ナルモノトス。近江國ノ坂田郡ノ邊ニ産シテ、長濱ヨリ四方ヘ出ス。一名、近江縮緬。[illegible]、絲ノ纖[illegible]ニシテ、單羽織ニシテ、シノカリ重ク覺ルホドノ場合モアリ」

はまつちどり（名）濱千鳥　海濱ニ居ル千鳥。はまちどり。古事記、中（景行）六十五下「濱都知登理、濱ヨハ行カズ、磯ツタフ」神代紀、下廿三「沖ツ藻ハ、ヘニハヨレドモ、サネドコモ、アタハヌカモヨ、濱都知登理ヨ」

はまつづら（名）濱葛　濱邊ニ生フル青カヅラ。あをつづら（青葛）ノ條ヲモ參見セヨ。萬葉集、十四21「駿河ノ海、オシベニ生フル、波麻都豆良、イマシヲタノミ、母ニタガヒヌ」

はまづと（名）濱苞　濱ノ獲物ノ家苞。濱ノミヤゲ。濱邊ヨリノミヤゲ。萬葉集、三31「汐干ナバ、玉藻刈リツメ、家ノ妹ガ、濱裹乞ハバ、何ヲ示サム」夫木抄、廿五、濱「アマ人モ、オ物ノ濱ノ、はまづとヲ、月ニアケヌト、今ヤイソガム」

はまつばき（名）濱椿　はまばひ（蔓荊）ニ同ジ。江家次第、十、十一月「葉足、廣六寸五分、長一尺四寸、高一寸五分、其寄以椿木作之、取色如濱椿」後拾遺集、七、賀「君ガ代ハ、限リモアラジ、はま椿、二タビ色ハ、改マルトモ」拾玉集、四「はま椿、幾タビ色ヲ、改メテ、ナホ君ガ代ノ、春ヲ待ツラム」

はまな（名）濱菜　（一）濱ニ生ズル食用トナル菜。イソナ。萬葉集、十三18長歌「阿胡ノ海ノ、荒磯ノ上ニ、濱菜ツム、アマヲトメラガ」（二）つるぶ（蕃杏）ニ同ジ。蔓菜。

はまなげ（名）濱投　昔、小兒ノ行ヒシ遊戯ノ一。數人ノモノ、二十間許リ離レテ、雙方ニ分レ、はまト云フ戸車ノ如キ木ノ輪ヲ地上ニ轉バシ、互ニ撞木形ノ杖ニテ受ケ返ヘシテ遊ブモノ。（嬉遊笑覽、六、下）

はまなし（名）濱梨　いはなし（岩梨）ニ同ジ。越橘。

はまなす（名）玫瑰　（濱茄ノ義）灌木狀ノ草ノ名　海邊ニ多シ。薔薇ノ屬ニシテ、莿棘多シ。高サ二三尺ニ達シ、夏ノ初、單瓣五出ノ紫赤花ヲ開ク、又、粉紅モ白モアリ、香、高シ。實、赤クシテ、圓ク長ク、略、茄子ノ如シ。花ヨリ香水ヲ採リ、根ノ皮ヲ染料ニ用キル。和漢三才圖會、九十六、蔓草類「玫瑰花、俗云波末奈須一云、薔薇之屬、莖刺多、四月開花、單瓣、有白有紫、頭花最大、又有赤紫而千瓣者、其花稍小、有香氣、但黄花者、未見之」

はまなたまめ（名）濱鉈豆　いそまめ（磯豆）ニ同ジ。

はまなっとう（名）濱納豆　次條ノ語ノ略。

はまなふっとう（名）濱名納豆　（遠州濱松（舊名、濱名）ノ大福寺ノ製ニ始マル）食物ノ一。黒大豆ヲ煮テ、小麥粉ヲ衣トシテ麹トシ、碎キテ、煎ジタル鹽汁ニ浸シ、生薑、山椒皮、陳皮、紫蘇葉、芥子ナドヲ刻ミテ加ヘ、壓シテ數十日ノ後、乾シテ成ル。此種ニテ一休納豆、味、最モ美ナリ。（納豆ノ條、見合ハスベシ）鹹豉　略シテ、はまなっとう。ザゼンナットウ。ザゼンマメ。本朝食鑑、二、納豆「有濱名納豆者、昔神大君在駿城時、命遠州濱名大福寺摩訶耶寺之僧而造之、其狀、茶褐色而不粘、如鹹豉、其味甘鹹、微苦、但合山椒樹皮耳」安部泰邦御東行話說、寶曆十年「濱名納豆ハ見ツキニ似ヌ味ニテ、酒ノ肴ニハエナラヌモノナリ、今此邊ニアリヤト尋ネケレバ、本坂道ノ路三ケ村ノ大福寺ヨリ出ルモノニテ、此邊ニハナシト云フ、然レバ濱名ノ産ニモアラズ」瓦礫雜考（文化、喜多村信節）「鹹豉ハ、濱名納豆ノ類、寺院ニテ造リ、在家ニ贈ルモノ故、寺納豆共云ヘ」

はまなべ（名）蛤鍋　（はまぐりなべ（蛤鍋）ノ略）料理ノ一種。蛤ノ剝身ヲ鍋ニ入レ、刻葱、絲蒟蒻、擂味噌ト共ニ、砂糖、味醂ニテ煮タルモノ。

はまなみ（名）濱波　濱ニ打寄スル波。萬葉集、廿28「家ヅトニ、貝ゾヒリ（ロイ）ヘル、波麻奈美ハ、イヤシクシクニ、高ク寄スレド」

はまにがな（名）濱苦菜　ばうふう（防風）ノ古名。其條ヲ見ヨ。又、ハマスガナ。倭名抄、廿草類「防風、一名、屏風、波萬須加奈、一云、波萬仁加奈」本草和名、上十九「防風、波末須加奈、一云、波末爾加奈」

はまにんじん（名）濱人參　古名、ヒルムシロ。ハマゼリ。繖形科ノ草ノ名。海邊沙地ニ生ズ。高サ尺餘ニシテ、苗ノ形、たぜり（田芹）ニ似テ、光リテ香アリ、地ニ就キテ叢生ス。秋、莖ヲ生ジ、細白花、簇リ生ズ。芹ノ花ニ似タリ、後ニ實ヲ結ブ。蛇床子　重修本草綱目啓蒙、九、芳草「蛇牀、ハマニンジン、ハマゼリ」

はまにれ（名）蕪花　〔にれハ、滑ノ轉、ナメラカナル意〕今、きさがんぴ（黄小雁皮）ト云フ。其條ヲ見ヨ。倭名抄、廿九草類「蕪花、波末仁禮」本草和名、上十九「蕪花、波末爾禮」本草圖經「蕪花、根入土、深三五寸、似榆根」和漢三才圖會、九十五、毒草「蕪花、和名、波末仁禮、按、蕪花有和名、則古者有之乎、今無之」

はまばう（名）蔓荊　（はまばひノ音便）はまばひ（蔓荊）ノ條ヲ見ヨ。重修本草綱目啓蒙、廿五、木部「蔓荊、ハマハヒ（和名鈔）、ハマシキミ、ハマカヅラ、ハマボウ（豫州）」

はまばうふう（名）濱防風　繖形科ノ草ノ名　海濱ニ生ジ、畠ニモ作ル。高サ尺餘、苗、葉、但、芹ニ似テ、色、淺綠ナリ、一柄ニ三椏ヲナシテ、各、三葉ヲ着ク。莖、紫赤ニシテ、夏ノ初、白キ花、簇リ開ク、形、傘ノ如シ。莖、葉、芳香アリ、若葉ヲ膾ニ添ヘテ食フ。一名、ヤホヤバウフウ。イセバウフウ。石防風

はまばひ（名）蔓荊　〔濱這ノ義カト云フ〕馬鞭科ノ灌木　水邊ノ沙中ニ叢生ス。高サ四五尺、地ニ延キテ蔓ノ如シ。枝葉、對生シ、葉ハ圓ク、大キサ一二寸、面、深綠ニシテ、背、白シ。夏、枝ノ梢ニ五寸許リノ莖ヲ出シ、枝ヲ分チテ、深碧花ヲ開ク、大キサ五六分、本ハ筒ニシテ、末ハ五出ナリ。實、圓ク、胡椒ヨリ大キクシテ、熟スレバ黑ク、下ニ五瓣ノ白蔕アリ、仁ヲ藥用トス。此樹、幹、葉、香多シ、粉末トシテ香トス。一名、ハマゴウ。ハマバウ。ハマツバキ。ハマナスミ。ハマカヅラ。ハマシキミ。倭名抄、廿木類「蔓荊、波末波非」本草和名、上五十二「蔓荊、牡荊、波末波比」[illegible]「牡荊實、一云、蔓荊、波麻波比、又云、波麻奈須美」和漢三才圖會、八十四、灌木類「蔓荊子、マンケイシ、和名、波末波非、蓋於濱之義乎、本綱、蔓荊子生水濱、高四五尺、對節生、枝葉類小棟、其枝小弱如蔓、至夏盛茂、有花、作穗、淡紅色、蕊黄白色、花下有青萼、至秋結子、黑斑大如梧子云云、治筋骨間寒熱、濕痺、拘攣云云、出於紀州者良、播州之產次之」

はまび（名）濱邊　はまべ（濱邊）ニ同ジ。萬葉集、五三十一長歌「大伴ノ、御津ノ濱備ニ、直泊テニ、御船ハ泊テム」同、十五二十二長歌「鏡ナル、三津ノ波麻備ニ、大船ニ、マカヂシジヌキ」

はまひさぎ（枕）楸木　〔今ノあかめがしは（赤芽柏）ナリト云フ〕久しくノ枕

詞。萬葉集、十一 四十「波マヨリ、見ユル小島ノ、濱久木、久シクナリヌ、君ニアハズシテ」 金葉集、十、雜、下「ナナソヂニ、滿チヌル潮ノ、濱楸、久シク世ニモ、埋レヌルカモ」 壬生集、下「イハキ山、コエテコヌ身ノ、濱ひさぎ、久シクナリヌ、浪ニシヲレテ」

はまびさし (名) 濱庇 (一)海濱ニ波ノ打寄セ打寄セシテ、小沙ノ堆ノ、エグリタルヤウニ見ユルモノ。河ニテハ、大水ノ跡ニ、沙ノ集レルニモ云フ。(和歌ニ詠メリ) 利休茶湯[illegible]書「[illegible]石ノ、前ニハフタツ、濱びさし、ウシロニ遠キ、海ゾエナラヌ」 逍遙院(三條西實隆)歌「濱びさし、久シク波ニ、萎レ臥ノ、音モカワキテ、霜サヤグナリ」 (二)濱邊ニアル家ヲ云フ稱。 拾遺愚草、下「霜置カヌ、南ノ海ノ、はまびさし、久シク殘ル、秋ノ白菊」

はまびし (名) 蒺蔾 〔濱菱ノ義、刺アルコト菱ノ如シ〕 蒺蔾科(ハマビシ)ノ一年生草本。海濱ノ沙地ニ生ジ、地ニ布キテ蔓生ス。葉ハ互生シ、細ソクシテさいかち(皂角子)ノ初生ノ葉ノ如シ。夏、葉ノ間ニ五瓣ノ小黄花ヲ開ク。子ノ大キサ三分許リ、三角、或ハ四角、角ニ刺アリテ、狀、菱ノ如シ。 倭名抄、廿[illegible]草類「蒺蔾、[illegible]、波末比之」 本草和名、上「蒺蔾子、[illegible]波末比之」 字鏡「蒺蔾[illegible]」 [illegible] 外臺[illegible](久云、旱草、ヒデリクサ)ハマビシ」 [illegible] 三才圖會、九十四、末、[illegible] 和名、[illegible]比之、云云、[illegible] はまびし、古今[illegible]、ひし、本草ノ蒺蔾ナリ」

はまひめ (名) 濱姫 總テ海邊ニ住ム婦人ノ稱。 夫木集、廿五、[illegible]ノ、[illegible]ノ濵ノはまひめハ、[illegible]ニナレヤ、玄[illegible]」

はまひるがほ (名) 旋花科(ヒルガホ)ノ多年生蔓草。海濱ニ群生ス。地下莖ハ長ク沙中ニ這ヒ、葉ハ厚實、腎臟[illegible]ニシテ、長

柄アリテ互生ス。花ハ淡紅色ニシテ、葉腋ヨリ出ヅル花梗ノ先端部ニ漏斗狀ニ開ク。花期ハ五月頃ナリ。

はまふくら (名) 天名精 はまたかな(天名精)ニ同ジ。

はまべ (名) 濱邊 濱ノホトリ。ハマビ。ウミベ。海濱 海邊 萬葉集、十八 「[illegible]ヨリ、ワガウチ行カバ、海邊ヨリ、ムカヘモコヌカ、[illegible]人ノ釣舟」 同、六 四十 長歌「海カタツキテ、玉拾フ、濱邊ヲ近ミ、アサハブル、浪ノ音サワギ」 同、十一 二十 「チヌノ海ノ、濱邊ノ小松、根深メテ、吾ガ戀ヒワタル、人ノ子故ニ」 金槐集、[illegible]所詣ノ下向ニ、濱ベノ宿ノ前ニ、云云、濱邊ナル、前ノ川瀨ヲ、行ク水ノ、早クモ今日ノ、暮レニケルカナ」

はまぼう (名) 〔濱這(ハマバフ)ノ意ニモアルカ〕 草ノ名。はまばひ(蔓荊)ノ條ヲ見ヨ。

はままつ (名) 濱松 (一)〔海邊ニ生ズル松〕 萬葉集、廿 [illegible]ニ住ノエノ、濱[illegible]郡ガ根ノ、下バヘテ、吾ガ見ルヲヌノ、草ナ刈リソネ」 同、一 八十 「白浪ノ、濱松ガ枝ノ、手向草、幾代マデニカ、年ノ經ヌラム」 古今集、十七、雜、上「沖津浪、タカシノ濱ノ、はま松ノ、名ニコソ君ヲ、待チワタリツレ」 後撰集、[illegible]、春、下「春フカキ、色ニモアル哉、スミノエノ、ソコモミドリニ、ミユル濱松」 (二)黑珊瑚ノ一名。其條ヲ見ヨ。

はまや (名) 濱矢 破魔矢 はまゆみ(濱弓)ノ條ヲ見ヨ。 佐夜中山集(寬文)「ミツバヨツバ、違ル[illegible]ノ、はま矢カナ」 大[illegible]年ノ、人モ[illegible]ニ、カヘル[illegible]」

はまやき (名) 濱燒 (一)鯛ナドヲ、濱ノ鹽ヲヤク釜ノ下ニ、生キナガラ土ニイケテ燒[illegible]モノ。其味、[illegible]テヨロシ、ヨリテ是ヲ賞セシナリ。(倭訓栞) (二)鯛ヲ蒸燒(ムシヤキ)ニシタル一種ノ料理。中鯛ヲ三枚ニオロシ、骨ト腹ノ薄皮[illegible]

去リ、片身ノママ横ニ串五六本ヲ刺シ、[illegible]リテ燒キタルモノ。[illegible]月、生魚ヲ鹽漬ヨリ京ヘ送ルニ、アザレヤスキニ因リテ、濱ニテ燒キテ送レル故ノ名ト云フ」[illegible] 代男(天和、西鶴)[illegible]ノ中[illegible]」

はまゆか (名) 濱床 〔四方ニ洲濱ノ形アル故ニ云フ〕 (一)御帳臺ノ下ノ臺。高サ二尺許リ、九尺四方ノ檜ノ白木ノ臺上ニ、暈繝緣(ウンゲンベリ)ノ疊ヲ敷キタルモノ。御座所ノ用ナリ。[illegible] 宇津保物語、[illegible] 見[illegible] ハ、犬宮ノオハシ所ナリ、はまゆかヲノミゾ、犬宮ノ御料ハ、ササヤカニセサセ給ヘル、其ノはまゆかニハ紫タン、セカウ、白ダン、スレウヲサシテ、ラデンスリ[illegible]イレタリ」 [illegible]、二百六[illegible]、[illegible]ハナレテ、[illegible]ノ、はま[illegible]ノ上ニノボリテ、ニレウチカミテ、フシタリケリ」 (二)角丸(カドマル)ノ床几。 宇津保物語、[illegible]、南ナル山井ノシリ引キタルニ、はまゆかヰノ上ニ立テテ、內侍ノカミ諸トモニオハス」 用明天皇職人鑑(寶永、近松作)一「青海波ト名付ケタル一雙九曲ノ[illegible]リケリ」

はまゆふ (名) 濱木綿 はま[illegible]モト[illegible]濱萬年青ニ同ジ。 [illegible]野ノ、浦ノ濱木綿、百重ナス、心ハ思ヘド、直ニ逢ハヌカモ」 落窪物語、二「隔テケル、人ノ心ヲ、三熊野ノ、浦ノ濱木綿、イクヘナルラム」 [illegible] 多カラズ、十五バカリゾアル、袖口衣ノ重ナリタルホド、浦ノはまゆふニヤアラム、隔遠トモ知リガタシ」 拾遺集、十四、戀、四「サシナガラ、人ノ心ヲ、三熊野ノ、浦ノ濱木綿、イクヘナルラン」

はまゆみ (名) 濱弓 破魔弓 〔破魔ハ當字[illegible]〕[illegible] の輪ヲ射ルニ用ヰル小弓。藁ニテ輪ツ作[illegible] 其弓矢ム。獸ヲ射止ムベキツザナリ。[illegible]

ヲ濱弓、濱矢ト云フ。[illegible]ト[illegible]所ノ兒童、正月ニ[illegible]二弓ノミ俳優ニ飾リテ、歲首ニ童子ノ祝儀ノ玩具トナル。東京近在ニテハ、兒童、はまなげノ戲ナナ[illegible]はんまはすト云フ。はまのわニトツヤ[illegible]云フナリトゾ[illegible]「破魔弓、ハマユミ、年始小兒遊戲具」 [illegible] 永)「[illegible]破ナ日ハ、クルツ盤[illegible]ミツバ、[illegible]ル[illegible]サン」 佐夜中山集(寬文)「ミツバヨツバ、[illegible]、八人下ナヤ、削ル[illegible]ノ、は[illegible]矢カナ」 [illegible]人女(貞享、西鶴)四「[illegible]ハ破魔弓ノ用[illegible]、[illegible]、いたつかの[illegible]破魔弓ノ矢筒、トドロハゲタルヲ火吹トシ、[illegible]クルマノ名ヲ松鶴トロブ」 [illegible] はま弓ヤ、[illegible]時[illegible]四大[illegible]」

はま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 嵌 [illegible] ノ自動] (一)合ヒテ入ル。ソザ[illegible] [illegible] [illegible]作)上「コレハ四、松カト思ウテはまッタ」[illegible]はまる」 (二)打掛リテ居ル。耽ル。溺ル。耽[illegible] 好色一代男(天和、西鶴)[illegible]シメヤカ[illegible]ナレ[illegible] [illegible]ト、[illegible]トクドトド[illegible]サレクル[illegible] はまる

はまゐ[illegible] [illegible]

[illegible]

はまをぎ (名) 【濱荻】 濱邊ニ生ヒタル荻、萬葉集、四「神風ノ、伊勢ノ濱荻、折リ伏セテ、旅寢ヤスラム、荒キ濱邊ニ」此歌ヲ誤解シテ、何人カ、菟玖波集ニ見エタル連歌ノ本末ヲ合ハセテ一首トシテ「物ノ名モ、所ニヨリテ、變ハリケリ、難波ノ蘆ハ、伊勢ノ濱荻」トシテ、伊勢ニテ、蘆ノ異名トスト云フハ、非ナリ。(歌袋「御抄、竝ニ童蒙抄ニ、伊勢國ニテハ蘆ヲ濱荻ト云フナド云ヘルハ、誤ナリ」) 書言字考節用集、六、生植門「濱荻、ハマヲギ」 藻鹽、蘆刈「中中ノ事、此蘆ヲ、伊勢人ハ濱荻ト云ヒ、難波人ハ蘆ト云フ」

はみ (名) 【馬銜】 〔食(ハミ)ノ義〕 (一)くつばみ(馬銜)ノ略。其條ヲ見ヨ。鑣 弓張記「轡ノ出シ樣ノ事、云云、はみヲ取リ、左ノ手ニスヱテ渡スナリ」 (二)又、荒馬ヲ制セムガ爲ニ、繩ヲ其口ニ食(ハ)マセテ、頂ニ縛リオクモノ。

はみ (名) 【蝮】 〔口食蟲(クチハミムシ)ノ上下略。〕 大同類聚方、四十五、六十「蝮、波美牟之」塵袋(鎌倉時代)四、廿二「毒蛇ヲ、くちばみト云フ」(くちなはト同趣)人ヲ嚙(カ)ミテ甚シク毒スレバ、特ニ名トスルナラム。京都ニテハ、今モ、はみト云ヒ、訛シテ、はめトモ云ヒ、大和國ニテハ、はびト云フ。沖繩ニテ、はぶ(飯匙倩)ト云フモ、皆、音轉ナリ。うはばみモ是ヨリ起ル) 蟲ノ名。今、まむし(眞蟲)ト云フ。其條ヲ見ヨ。クチバミ、ハミムシ。 本草和名、下廿「蝮蛇、波美」(倭名抄、同ジ) 名義抄「蝮、ハミ、ノヅチ」 林逸節用集(文明)「蝮、ハミ、クチバメ、マムシ」 易林節用集(慶長)上、氣形門「蝮、ハミ」 物類稱呼、二、動物「まむし、筑前ニテはめ、土佐ニテはみ、又、くつばみト云フ」

はみ (名) 【續斷】 (一)〔蘭科ノ草。〕朽木ナドニ寄生シ、高サ五六寸、全體、白色半透明ニシテ、頂ニ白キ一花ヲ開ク。オニノヤガラ。テンマ。天麻 倭名抄、廿七 草類「續斷、波美、一云、於仁乃夜加良」 (二)をどりおさう(續斷)ノ條ヲ見ヨ。

はみがき (名) 【齒磨】 齒磨粉ノ略。楊枝ニツケテ、齒ヲ磨クニ用ヰル粉。江戸時代ニハ、房州沙ヲ水飛(スキヒ)シテ、龍腦、丁子等ヲ和シテ製シタリト云フ。今ハ材料、製法、種種ナリ。 道聽塗說(文政、大郷信齋)「齒磨、始マリハ寬永二十年、丁字屋喜左衛門、朝鮮人ノ傳ヲ受ケテ、コレヲ製シケル、其家ヲ元祖江戸一番門屋ト稱ス、昔ハ大明香藥砂ト號シ、齒ヲ白クスル、口中惡シキ匂ヲ去ルト記シタル一袋行ハレケル」 東海道中膝栗毛(文化、一九)五編、追加緒言「忠網ガ齒空シク齒磨ヲ買シ、眉間尺ガ額、イタヅラニ剃刀ヲ勞ス」

はみだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 【食出】 次條ノ語ニ同ジ。

はみで・る・デル・デレ・デ・デ・デヨ (自動、下一) 【食出】 挾ミ壓サレテ、外ヘ餘リ出ヅ。ハミダス。

はみむし (名) 【蝮蟲】 はみ(蝮)ノ條ヲ見ヨ。

はむ (名) 【鱧】 〔形、蝮蛇(ハミ)ニ似タリ、其轉カト云フ、イカガ〕 魚ノ名。今ノはも。 倭名抄、十九、鱗介部魚類「鱧魚、波無」 字鏡、七十三「鱧、波无」 天治字鏡、九、三「鰻、波牟」 天鼓(元祿、近松作)萬歲「スズキ、鯉、はむ、ハマチ、鰈、伊勢海老」

ハム (名) 〔英語、Ham〕 鹽漬ニシタル豚ノ股ノ肉ヲ、火煙ニテ燻(フス)ベタルモノ。其儘、切リテ食フ。臘乾(ラカン)。

は・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 【食】 〔齒(ハ)ヲ活用ス〕 (一)クラフ。クフ。口ニ入レテ、咽ニ下ス。 字鏡、十四「噉、愛ニ飲食ニ也、波牟」 箋異記、下、序、訓釋「啄、破彌天、鳥物食也」 易林節用集(慶長)上、言辭門「食、ハム」 萬葉集、五、五十八「ワガ盛、甚(イタク)降(クタチ)ヌ、雲ニ飛ブ、藥波武(ハム)トモ、又ヲチメヤモ」 同、十四、廿七「春ノ野ニ、草波牟(ハム)駒ノ、クチヤマズ、アヲシヌブラム、家ノコロハモ」 同、同、廿二「クベ越シニ、麥波武(ハム)駒ノ、ハツハツニ、相見シ兒ラシ、アヤニカナシモ」 蜻蛉日記、中、中、廿七「夢ニ、云云、クチナハアリキテ、肝ヲはむ」 宇津保物語、祭使、廿六「飯(イヒ)酒ヲサカシはむ」 盛衰記、三十六、鷲尾一谷案内者事「世間寒ク成リ候ヘバ、雪ノ淺リニ喰まンとテ、丹波ノ鹿ガ一谷ヘ渡リ」 (二)〔康熙字典「食、食祿也」〕 祿、知行ナドヲ受ク。「祿ヲ食む」 言(コト)ヲ食むトハ、言ヒ契リタル約ヲ違フ意。

は・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 【食塡】 (一)食マシム。食(ク)ハス。 伊勢物語、十四段「夜モ明ケバ、狐(キツ)ニはめナム、鶏(クタカケ)ノ、マタキニ鳴キテ、セナヲヤリツル」 (二)當テ合ハセテ入ル。插ム。物ノ間ニサシハサミ入ル。物ノ間隙(アヒ)ニ物ヲ捩(ネ)ヂ入ルル。ウチハム。塡 嵌 古事記、上、三十四「切ニ伏大樹ニ茹(ハメ)矢、打ニ立其木ニ」「戸ヲはむ」輪ヲはむ」箍ヲはむ」 (三)オトシイル。打チ込ム。陷(クガ) 萬葉集、十七、七十「鷲ノ、鳴ク闇谷ニ、打チ波米テ、燒ケハ死ヌトモ、君ヲシ待タム」 土佐日記、二月五日「ユクリナク風吹キテ、云云、ホトホト打チはめツベシ」「川ニはむ」計略ニはむ」

はん (名) 【判】 (一)物事ノ優劣、可否ヲ分ケ定ムルコト。判斷。 唐書、楊於陵傳「於陵建言、佗官但第判ニ能否ニ不レ知ニ限員ニ」 唐書、選擧志「試ニ身言書判ニ」 名義抄「判、コトワル、サダム」 源順集「ケフノ判ヲ見レバ、ト、云ヒタハブレテ」 著聞集、五、和歌「御堂歌合ト名ヅケ、云云、俊成卿ニ判ノ詞ヲ書カセケリ」「歌合ノ判」 (二)サバキ。裁判シテ決定スルコト。裁斷。決裁。判決。裁判 唐書、李元紘傳「元紘大署判ニ曰、南山可レ移、判不レ可レ搖也」 (三)〔天子ノ敕畫ヲ初トシテ、判斷シテ許可スル意〕 文書ノ末ニ、自ラ名ヲ記スコト、己レガ書ナルヲ證スルナリ。古昔、村上天皇、一條天皇ノ頃ノ人、參議藤原佐理ハ、理ノ字ヲ、藤原行成ハ成ノ字ヲ判トセリ。(押字) 後ニハ、草書ニテ、一種異樣ニ書ク。源頼朝ノ頼ノ字ノ如シ。花押(クワアフ)ノ條ヲモ見ヨ。(花押) 或ハ、名ノ外ノ字ヲ選ビテ用ヰル、勝房院ノ慈ノ字ノ如シ。後ニハ多ク、其人ノ性(シヤウ)ノ五行ニ合ハセ考ヘナドシテ、別ニ吉字ヲ用ヰ、且、異體、容易ク讀分ケ難キ字ヲ作リテ、記シテ、其判ノ上ニ、又、名字ヲ記ス。江戸時代ニハ、大名ナド、甚シキハ、判ノ字ヲ印ニ刻リテ押シ、遂ニ實印ノ印形ト變ジ、判ナルヲ別ケテ書判(カキハン)ト云フ。(同文通考)又、官員、合議シテ諸事ヲ判斷シ、定マレバ、各官、姓名ヲ連署シテ、決定ヲ證ス。輕キニハ名ノミ書キ、更ニ輕キニハ、二合ヲ書キ(二合(ニガフ)ノ條ヲモ見ヨ)、至ツテ輕キニハ、名ノ文字ヲ草書ニ略シテ書クガ書判(カキハン)ナリ。サレバ、名ヲ書ケバ、書判ヲカカズ、書判ナレバ、名ハカカヌモノナリ。然ルニ後ニハ、姓名ノ下ニ書判ヲカキ、ソレニ添ヘテ實印ヲ押スコトトナリヌ。又、書判ニハ、何時ノ頃ヨリカ、韻學者ヨリ起リテ、名ノ二字ノ音ヲ反切ニテカヘシテ、一字ニシテ用ヰ、且、人ノ五行ノ性ニ、合フ、合ハヌト云フコトヲ云ヒ、又、其字ノ中ニ穴ノイクツ明キタルガ吉キトカ、凶シキトカ云フコトアリキ。而シテ此書

判ト云フモノ、明治以後、全ク廢レタリ。江家次第、十七、御元服後朝「天皇御南殿[illegible]外記[illegible]奏[illegible]即令[illegible]能書書[illegible]之、[illegible]外記取[illegible]」台記、仁平三年七月十五日「[illegible]下文[illegible]云云、[illegible]判之[illegible]、[illegible]」[illegible]集、[illegible]草名[illegible]、不[illegible]例、偽[illegible]夜不加判」[illegible]五、[illegible]文書、云云、カク書キテ、[illegible]二、コレニ判クハヘテ尼ニトラセヨ、云云、[illegible]判クハヘテ、尼ニ取ラセケリ、年號月日ニモ及バズ、右大將[illegible]自筆ノ御書下スナレバ、云云」(四)轉ジテ、印判。印形。

はん(名)範 (一)ノリ。テホン。カタ。晉書、刑法志、序「世祖武皇帝、接三統之微、酌千年之範、乃命有司、大明刑憲」「[illegible]範ヲ示ス」「範ヲ垂ル」 (二)カギリ。一定ノクギリ。區域。「範圍」「範ヲ脱セズ」

はん(名)半 (一)ナカバ。半分。禮記、學記篇「不學一善、師勤而功半、又從而怨之」漢書、卜式傳「卜式害、[illegible]半[illegible]」[illegible]元衡、[illegible]陵[illegible]路半[illegible]白、[illegible]門西更上[illegible]天」 (二)調半。(調ノ條ヲ見ヨ)狂言記、雙六僧「雙六ノオクレヲ打ツ其ノ心、半一ツ許リノ類ミナリケリ」

はん(名)飯 イヒ。メシ。禮記、曲禮、上篇「共食不飽、共飯不澤手、毋摶飯、毋放飯、毋流歠」[illegible]用書[illegible]」義經記、二、鬼一法眼事「出デテヨリ、はんヲシタタメ給ハネドモ、瘦セモ衰ヘモシ給ハズ」「飯ヲ喫ス」

はん(名)藩〔藩屛ノ義〕(一)諸侯大名ノ、其土地ヲ鎭メテ、朝廷ノ護衞トナルモノノ稱。詩經、大雅、生民之什、板篇「价人維藩、大師維垣、大邦維屛、大宗維翰」「藩屛」「藩鎭」(二)諸侯ノ領地。大名ノ封土。「藩主」「藩士」

はん(名)反 (一)ウラハラ。アベコベ。反對。(二)ソムクコト。ムホン。叛。史記、[illegible]侯[illegible]中[illegible]」(三)はんせつ(反切)ニ同ジ。カヘシ。

はん(名)版 (一)印刷スルタメニ、文字、圖書ナドヲ版木ニ刻ルコト。[illegible]はんぎ(版木)ニ同ジ。[illegible]以[illegible]」[illegible]「折シモ其朝、小雨降リ、版ニスリタル紙ヌレケリ」「版ヲ刻ル」(三)印刷スルタメニ、文字ニアハセテ、活字ヲ組合ハセタルモノ。

はん(名)繁 シゲキコト。シゲルコト。フエマサルコト。ワヅラハシキコト。[illegible]

はん(名)煩 ワヅラハシキコト。ウルサキコト。[illegible]「我欲[illegible]」

はん(名)班 (一)ツイデ。序次。左傳、[illegible]」 (二)クラヰ。席次ノ順序。階級。(三)ムレ。クミ。左傳、[illegible] (四)陸軍ノ編制上ノ名。小隊ヲ區分シタルモノニテ、大凡二十八人ヲ以テ一班トナス。

ば・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四)〔端ノ活用〕容子ノ、ソレト見ハルル意ヲ云フ語。熟語ニ用ヰルコト、接尾語ノ如シ。「氣色ばむ」「由ばむ」「萎ばむ」「枯レばむ」「黃ばむ」「赤ばむ」

ばん(名)塙 はに(埴)ノ轉カ。其條、及、はなは(塙)ノ條ヲ見ヨ。

ばん(名)[illegible] (一)タラヒ。[illegible] (二)[illegible]

[illegible]バ」(三)サラ。ハチ。宇治拾遺、七、第三條「御マカナイノ盤ニスウルヲ見レバ、御盤ニ[illegible]瓜三ツバカリニ切リテ、十バカリ盛リタリ」「杯盤」(四)〔碁盤〕又、將棊盤。(各條ヲ見ヨ)[illegible]

ばん(名)晩 (一)ユフグレ。[illegible]

ばん(名)判 紙ナドノ大キサヲ云フ語。「大判」「小判」[illegible]

ばん(名)番 (一)〔正韻「番、遞也」漢書、武帝紀「賓良宿直更番」〕〔代ル代ル勤ムニ當ルコト。交替スルコト。當番。順番。[illegible] (二)〔交替シテ[illegible]〕マモリ。警固。[illegible]

ばん(名)蕃 (一)エビス。特ニ、支那ニテハ、南方ノエビス。野蠻。南蠻。[illegible] (二)臺灣ニ、本來、土着セル人種。高砂族ナリ。「蕃人」「生蕃」「熟蕃」

ばん(名)鷭 〔番鳥ノ合字〕水鳥ノ名。旅行鳥(渡鳥)ナリ。春夏ノ交、南洋ヨリ來リ、[illegible]小鷸ハ、形、鳩ノ如ク、黑クシテ光リ、嘴、目ノ上、紅色ナリ。脚ニみづかき無ク、ナクシテ、指甚ダ長シ。常ニ水邊ニ居ル。「田鷭」大鷭ハ、形、大ヤクシテ黑ク、頭ノ毛、短クシテ白シ。脚、指、共ニ、青黑クシテ、指廣ク、みづかきノ用ヲナス。[illegible]

ばん(數)萬 又、まん。千ノ十倍ノ數。[illegible]

ばん(接頭)番 當番ノ人ノ用ヰル物ニ被ラスル語。其通用スル意ヨリ轉ジテ、常用品、又ハ、粗品ニ被ラスル語トモナル。[illegible]

ばん(接尾)番 (一)物事ノ等級、順序ヲ云フ語。[illegible]

パン(名)麪包〔葡萄牙語、[illegible]〕[illegible]小麥粉ニ甘酒ノ麴ヲ加ヘ(今ハ、專ラ、ぱん種ト稱スル純粹ノ酵母ヲ用ヰテ醱酵セシム)、水ニ捏ネ合ハセテ、蒸燒キニシテ、海綿狀トシタルモノ。[illegible]シナシヤンプウ。

ばんあ(名)晩鴉 晩方ニ、塒ニ歸ル鴉。夕暮ノ烏。ユフガラス。晩烏。[illegible]

はんあい (名) 汎愛 はくあい(博愛)ニ同ジ。論語、學而篇「汎愛レ衆而親レ仁」 晉書、華軼傳「軼少有二才氣一、聞二於當世一、汎愛博納、衆論美レ之」

ばんあい (名) 晩靄 晩方ニタツモヤ。夕暮ノモヤ。ユフモヤ。夕靄。暮靄。 黃庭堅題跋「吳君書示文、湖州晩靄横卷、觀レ之歎息、疑日落濃靄、大似下摩詰而工夫不上レ減二關仝一」

ばんい (名) 蠻夷 エビス。エミジ。夷狄。 書經、舜典「柔レ遠能レ邇、惇レ德允レ元、而難二任人一、蠻夷率服」 元稹詩「忠信敵二蠻夷一」

ばんいう (名) 萬有 時間、空間ニ、アリトアラユルモノ。天地間ニ存在スルアリトアラユル總テノモノ。萬物。森羅萬象。 子華子(晉、程本)陽城胥渠篇「太初胚胎萬有一」 吳筠詩「一氣播二萬有一、化機無二停輪一」 沈約詩「道御二百靈一、神行二萬有一」 路鐸詩「平二章萬有一歸二玄覽一、收二拾方心一入二大圓一」

ばんいり (名) 番入 德川幕府ニ、大番組ノ家筋ニテ、部屋住ノ者、大番ニナル(別ニ祿ヲ給セラル)ヲ御番入ト云フ。兩番(書院番、小性組)ナルモ同ジ。 天保集成絲綸錄、七十四、寛政二戌年七月「大目付江、部屋住御番入之儀、追追不時ニモ被二召出一候ハ、享保元文之頃之御趣意二候」

ばんう (名) 盤紆 蟠紆 メグリマハルコト。 史記、司馬相如傳「其山、則盤紆岪鬱、隆崇嵂崒、岑巖參差、日月蔽虧」 蘇軾詩「寶雲山前路、盤紆亦作レ蟠」 馬融、長笛賦「蚡緼蟠紆、緸冤蜿蟺」

ばんう (名) 晩烏 ばんあ(晩鴉)ニ同ジ。夕鴉。 歐陽修詩「晩烏啼、柳棲レ殘照一、遠燕傷二風失一故樓一」

はんえい (名) 反映 反射シテウツルコト。ウツリテルコト。テリアフコト。

はんえい (名) 繁榮 はんじやう(繁昌)ニ同ジ。 易林節用集(慶長)上、言語門「繁榮、ハ

ンエイ」 書言字考節用集、八、言辭門「繁榮、ハンエイ」 常磐友後集(松島庄三郎編)老松「富貴自在ノ繁榮モ、久シキヤドコソ目出度ケレ」

はんえいきう (名) 半永久 稍、永キ年月、又、事物ノ殆ド永久ニ近キマデ堅固ナルコト。「半永久築城」

はんえん (名) 攀緣 (一)タヨリテ、ヨヂノボルコト。 吳融詩「礙レ竹妨レ花一徑幽、攀緣可レ到二玉峰頭一」 (二)轉ジテ、佛敎ニテハ、俗緣ニタヅサハルコト。 楞嚴經、一「何謂二病本一、謂有二攀緣一、云何斷二攀緣一、以二無所得一、若無所得則無二攀緣一」 元稹、悟禪詩「病宜二多宴坐一、貧似レ少二攀緣一」 榮花物語、八、初花「サテ萬ニ攀緣シツツセン念誦讀經ハ、カヒハアランズランヤヘト思フニ」 (三)怒ルコト。憤怒。 玉葉、治承三年十一月十五日「法皇與二博陸一同意、被レ亂二國政一之由、入道相國攀緣」

はんえり (名) 半襟 古ク、輪。又、ソギエリ。襦袢、或ハ、婦人ノ褻ノ服ナドニ、襟ノ上ニ更ニ被ヒテ縫ヒツクル布帛。 誰身の上(明曆)「其國ノ主ノ御觸トテ、或ハ着物ニ半えりサス事ヲ法度ニシ、云云」 東海道中膝栗毛(文化、一九)六編、下「オヤマニ人、云云、何レモ、フトリ紬縞ヤウノ着物ニ、黑ビロウドノはんえり」

はんおう (名) 反應 (一)ウラギリ。內通。內應。(二)物ニ應ヘアラハルルコト。(三)化學ニテハ、二種以上ノ物質ノ間ニ起ル化學的變化。

はんおほくち (名) 半大口 大口袴ノ一種。おほくちばかま(大口袴)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

はんか (名) 煩苛 煩ラハシク、苛キコト。ウルサク、ヤカマシキコト。 爾雅、釋言篇「苛、妎也」註「煩苛者多二嫉妎一」 漢書、文帝紀「漢興、除二秦煩苛一、約二法令一、施二德惠一」 韓維詩「短簡

瀞訥非レ所レ報、爲二我挿レ筆菱二煩苛一」「政令煩苛」

はんか (名) 反歌 〔反復敍說スル歌ノ義〕長歌ノ末ニ、其一篇ノ大意ヲ總括シ、又ハ、言ヒモラシタルヲ短クツヅメテ、別ニ添フル短歌。(かへしうたニハアラズ、相聞ト共ニ音讀スベキナリ) 萬葉集古義、總論「長歌ノ後ニ竝載タルヲ、反歌ト云フコトナリ、サテ、一、二ノ卷ニハ、反歌ト記スベキ所ヲ短歌ト書ルモ往往アレド、ソノ短歌モ、卽チ反歌ナリ、三卷以下ハ、題詞ニ短歌ト記セルヲモ、長歌ノ後ニハ、總ベテ反歌トノミ記セリ、云云、此ハ長歌ノ意ヲ總テモ、又ハ、長歌ニ云ヒ殘セル事ヲモ、短歌モテ、ウチ反シテ詠フガ故ニ、反歌トハ云ヘルナリ」 日本逸史、延曆十五年四月丙寅、宴二掖庭一酒酣、上二反歌一曰「ケサノアサケ、ナコト云ヒツル、ホトトギス、今モ鳴カヌカ、人ノ聞クベク」

はんか (名) 半可 〔南華ノ轉カト云フ。其條ヲ見ヨ〕(一)半バヨクアルコト。未熟。「ナマはんか」(二)キイタフウ。ナマギキ。半可通。

ばんか (名) 晩夏 (一)夏ノ末。暮夏。 駱賓王詩「荷香銷二晩夏一、菊氣入二清秋一」 杜審言詩「雨餘清二晩夏一、共坐此巖幽」 (二)陰曆、六月ノ異稱。ミナヅキ。暮夏。

ばんか (名) 晩霞 (一)晩方ニタツカスミ。ユフガスミ。夕霞。暮霞。 張泌、秋晩過二洞庭一詩「千里晩霞雲夢北、一洲霜橘洞庭南」 (二)ユフヤケ。暮霞。

ばんか (名) 挽歌 〔支那ニテ、柩ノ車ヲ挽ク者ノ歌フヲ挽歌ト云フヲ借ル。漢ノ田横ノ故事ニ因ル。下ノ出典、書言故事ヲ見ヨ〕(一)柩ヲ挽キテ野邊ノ送リヲナス時、歌フ歌。 書言故事(宋、胡繼宗)「挽歌是挽レ柩者歌、搜神記、挽歌者喪家之樂、執レ紼者相和聲也、有二薤露蒿里二章一(漢)田横門人作、横

自殺、(門人)傷レ之悲歌、[illegible] 既得天下、横與二其從五百餘人一[illegible] 曰、横來、大者王、小者侯、不レ來且擧レ兵[illegible] 客、乘レ馳至二洛陽[illegible]一、遂自殺、以二王禮一葬レ之、二客亦自殺從レ之、五百餘人在二島中一、聞レ之、皆自殺、[illegible] 言、人如二薤上露一、易レ晞滅、亦謂、人死精魂歸二於蒿里一、(蒿里、猶レ言二黃泉一)李延年乃分爲二二曲一、薤露送二王公貴人一、蒿里送二士大夫庶人一、使二挽者歌一レ之」 晉書、樂志「挽歌出二于漢武帝役人之勞一、歌聲哀切、遂以爲二送終之禮一」 萬葉集、三、題「挽歌」 同、同、卅「右件歌等、雖レ不レ挽レ柩之時所レ作、唯擬二歌意一、故以載二于挽歌類一焉」 (二)哀悼ノ意ヲ述ベタル歌、カナシミノ歌、哀傷歌、挽詩。 書言字考節用集、八、言辭門「挽歌、バンカ」 文選註、田横爲二高祖一自殺、門人傷レ之、作二薤露蒿里二章一、使レ挽レ柩者歌レ之、事文前集、挽歌之來久矣、非レ始二於田横一」

ばんか (名) 蕃茄 あかなす(赤茄子)ニ同ジ。トマトウ。

はんかい (名) 半開 (一)半バ開クコト。ハンビラキ。(花ノ) [illegible]松堂語錄「明歷山曰、凡事必使レ可レ加、酒飲二微醉一、花看二半開一」 邵雍詩「美酒飲教二微醉一後、好花看到二半開一時」 (二)ハンビラケ、未ダ文明ノ域ニ達セザルコト。(國ノ)

はんかい (名) 半解 事物ノ一部分ノミヲ知リテ、總體ヲ解シ得ザルコト。ナマモノジリ。ナマカジリ。 滄浪詩話(宋、嚴羽)「有二透徹之悟一、有二一知半解之悟一」

はんかう (名) 半頭 〔半髮ノ音便〕(一)頭ノ髮ヲ、半バ剃リテ、後部ヲ殘シオクコト。又、ソノ頭。ハンカウゾリ。昔、罪人ナドノ罰ニモアリシト云フ。 新竹齋(貞享)「大繩上ケニ半頭剃」(頭ノ中程ニ、横ニ毛ヲ剃リ殘ス、コレヲ障子ト云フ、此障子ノ所マデ剃リテ、後ノ方ヲ剃ラズオクモノ) 嬉遊笑覽、一、下「室町將軍ノ時ヨリ、云云、隠徒サマザマ異風

ヲシテ、半頭ナドモアリ、云云、常ノ奴アタマノ中程ニ、横ニモヲ剃リ残シテ、俗ニ是レヲ障子ト云フ、コノ障子ノ處マデ剃リテ、後ノ方ハ剃ラデ置ク、コレ半頭ナリ、今モ武家ノ軽キ者ニ、コノ障子ノ幅ト髪ト同ジ長サニ結ヒ込ムハ、常ノ様ナリ、コレヲ短ク切リテ、はんかうト名付ルモノ有リ、又はんかう剃トモ云フ」信州川中島合戰(享保、近松作)二「北國訛リノはんかうビタヒ」(二)小兒ノ左右ノ耳ノ前上(モミアゲノ上)ニ、髪ヲ剃リ殘シオクモノ。ヤッコ。ソリカケ。ハンカウゾリ。

はんかう(名)【反抗】ハリアフコト。テムカフコト。敵對スルコト。

はんかう(名)【版行板行】(一)書物ヲ版木ニ刻リ、摺出シテ世ニ弘ムルコト。印行。刊行。書言字考節用集、七、器財門「板行、ハンカウ」一葉可集、秋「板行ニ、シテ賣ラレケリ、[illegible]角リ」(二)俗ニ、誤リテ、版木、又、印形。

はんかう(名)【頒行】ヒロク、クバルコト。一般ニ、アマネク布キ行フコト。

ばんかう(名)【蠻行】野蠻ナル行為。

ばんがう(名)【番號】順番ノ符號。號碼。

はんかうぞり(名)【半頭剃】はんかう(半頭)ニ同ジ。

はんかがみ(名)【判鑑】いんかん(印鑑)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

はんがく(名)【半額】高ノ半分。又、定メタル價ノ半値ナルコト。

はんがく(名)【坂額】「平家盛ノ城門板額[illegible]、[illegible]ト云フ傳説[illegible]、[illegible]ニシテ、容色ノ[illegible]ニテ、女ヲ嘲リテ云フ語。又、[illegible]

マミナル女ノ稱。オハミザヤ、オナンバ。(静岡)

ばんがく(名)【晩學】年長ケテ晩ク學問ヲ始ムルコト。書言字考節用集、八、言語門「晩學、バンガク」[illegible]孔子五十而學易、曾子七十、荀子五十乃學、公孫弘四十、[illegible]二十、[illegible]

はんがけ(名)【半掛】「洗掛元結ノ條ヲ見ヨ」はねもとゆひ(跳元結)

ばんがさ(名)【番傘】傘ノ粗製ナルモノノ稱、人ニ貸シ、又ハ、奴婢ノ用ニモ充ツル傘。混雜紛失セムヲ慮リ、傘ニ番號ヲ書キツケオク故ニ云フ。[illegible]ノ用ニ供ス。守貞漫稿、廿七、傘履、今世、江戸ノ番傘モ、専ラ大坂ヨリ[illegible]、又、[illegible]州侯潘中ニテモ、番傘ヲ内職ニ製ス、江戸ニテ製レ之ハ[illegible]」

ばんがしら(名)【番頭】(一)武家ニテ、何某番ト稱スル一隊ノ頭。即チ、番衆ノ長。(二)德川幕府ニ、大番衆、小性番衆、書院番衆ニ各番頭アリ、コレヲ三番頭ト稱シキ。丹波與作(元祿、近松作)[illegible]六「コノ御家中ニテ番頭、[illegible]」

ばんがた(名)【晩方】日ノ暮レ方。日暮方。夕方。夕刻。晩景。日暮。

ばんかぢ(名)【番鍛冶】後鳥羽院ノ時、諸國ノ鍛冶ノ、京ヘ勤番スル者、十二人ヲ十二箇月ニ配シテ、毎月一刀ヲ作ラシム。之ヲ御所燒ト稱シ、菊ノ一文字ノ名刀ナドヲ打タセタフル。

ハンカチイフ(名)【手巾】(英語、[illegible]) はんけち(手巾)ニ同ジ。

はんかつう(名)【半可通】[illegible]

リ。ナマナマニ世馴レテ、通人メカスコト。ナマヤヽ。半可。一知半解。半間學問。

はんガッパ(名)【半合羽】丈ノ短キ合羽。正德ノ末頃ヨリ用キラル。かっぱ(合羽)ノ條ノ[illegible]見ヨ。[illegible]元文頃ハ、武家ハ紺黒ノ半合羽ナリシガ」

はむかふ・ふ・ふ・へ・ハ・ヒ・へ(自動、四)【歯向】(一)向ヒテ噛ミツカムトス。(二)[illegible]抵抗[illegible]

切ッテカカレバ、コラヘズシテ初向かひタル兵ハ、四方ヘパット逃ゲニケル」

はんがみしも(名)【半上下】昔、武家ノ禮服トシテ、肩衣ノ下ニ半袴ヲ用キシモノ。上下同ジ染色ナルヲ、[illegible]下、半上下ニテ出仕スル」百一錄、正德元年十月三日、左右布衣八人、半上下當侍無之」

はんかん(名)【反間】[孫子、用間篇]「反間者、因其敵間而用之」)浮言ヲ言觸ラシナドシテ、敵ノ黨ヲシテ、互ニ疑心ヲ起サシムルコト。書言字考節用集、八、言辭門「反間、ハンカン、左傳、致[illegible]」[illegible]

はんかん(名)【反感】反抗スル感情。[illegible]

はんかん(名)【繁簡】繁雜ナルト、簡略ナルト。「繁簡[illegible]」

はんかん(名)【[illegible]】[illegible]

はんがん(名)【半眼】眼ヲ少シク開クコト。又、半バ開キタル眼。

はんかん(名)【萬感】起リ來ル色色ノ感情。[illegible]

はんカラ(名)【蠻カラ】(はいから(高襟)ノ反[illegible]語)粗野ナル[illegible]。はいから(高襟)ノ條、參見セヨ。

はんき(名)【半旗】弔意ヲ表スル爲、竿頭ヨリ中途ニサゲテ、國旗ヲ揭グルコト。

はんき(名)【半期】(一)一期ノ半分。(二)一年ノ半分。半年。半季。

はんき(名)【半季】(一)一季ノ半分。半季奉公スルソ、半年居ト云フ。(二)はんねん(半年)ニ同ジ。

はんき(名)【反旗】謀叛シタルモノノ立ツル旗。「反旗ヲ翻ス」

はんぎ(名)【版木板木】カンバン。エリ、[illegible]略シテ、版。文字、畫圖ヲ板ニ彫りたる[illegible]ソレニ墨ヲ塗リ、紙ヲ[illegible]、[illegible]

はん[illegible]

ツリゴト、（書紀、皇極天皇…年、…一月二日…、[illegible]、古官公…年表…、指…官、金印…、[illegible]…子…、[illegible]ソレ…、[illegible]時代ヲ…、…代ノ古ヘ、…國ヲ重ミ…、[illegible]…ノ…治メ給フ」

ばんぎ（名）[板木] 江戸時代、火災ナドノ相圖ニ、叩キテ響ヲ出サシメタル具。二枚ノ厚キ板ヲ貼リ合ハセテ作ル。（大名屋敷ニテ多ク用ヰル） 享保八年八月十三日、町觸「申渡…、…見上ゲ可レ申候、出火有レ之ハ、板木ニテ爲レ知可レ申」

はんきう（名）[斑鳩] ぞぞかけばと（數珠掛鳩）ニ同ジ。（古ク、いかるが、即チ、まめまはしトスルハ、誤レリ） 和漢三才圖會、四十三、林禽類「斑鳩、パンキウ、鶉鳩、…、狀小而灰色、及大而斑如…、…鳴不…、…項下斑如…連珠者、…大能鳴、可…以作…、…引…鳩、云云」

はんきう（名）[半球] （一）地理學ノ上ニ、地球ヲ半分ニ別チタル其一半ノ稱。（東西ニ、又ハ、南北ニ） （二）數學ニテハ、球ヲ、其中心ヲ通過スル平面ニテ二ツニ分チタル其一部分ノ稱。

はんぎし（名）[版木師] 版木ヲ彫ルヲ業トスル工。ハンホリ。ハンギヤ。 [剞劂氏]

はんきん（名）[繁勤] 勤メノイソガハシキコト。又、忙シキ務。繁務。

ばんきん（名）[版金][判金] 〔判ハ當字ナラム〕古キ貨幣ノ稱。大判、小判等、是レナリ。後ニ多クハ、大判ノ稱トス。

ばんきん（副）[輓近] 〔輓ハ晩ニ通ズ〕チカゴロ。近世、近年。澆季ノ語ト熟シテ、世ノ惡シキニ趣ケル意ニ云フ。末世ト云ハムガ如シ。 品字箋（清、虞德升）「輓近言二後世近代一也」 史記、貨殖傳「輓近世塗二民耳目一、則幾無レ行矣」

はんきやう（名）[反響] （一）音響ガ他ノ物體ニ衝突シ、反射シテ、同ジ聲ノ其方向ニ聞ユルコト。（二）或ル勢力ニ對スル他ノ感應、即チ、或ル事柄ノ影響ヲ受ケテ、他ニモソレト同ジ事柄ノ生ズルコト。

はんぎやう（名）[判形] いんぎやう（印形）ニ同ジ。 書言字考節用集、七、器財門「判形、ハンギヤウ」 盛長記、三十六、…一谷…「平家亡ビテ後、九郎判官、判形ヲ加ヘ、安田莊ノ安堵ヲ給フ」

はんぎやく（名）[反逆][畔逆][叛逆] ソムキサカラフコト。ムホンヲ起スコト。 史記、平津侯傳「今諸侯有二畔逆之計一、此皆宰相奉レ職不レ稱」 通典（唐、杜佑）「北齊文宣帝受レ禪、列二重罪十條一、一曰、反逆、云云」

はんきゆう（名）[半弓] 弓ノ短キモノ。大弓ノ半バノモノ。 易林節用集（慶長）上、器財門「半弓、ハンキウ」 書言字考節用集、七、器財門「半弓、ハンキウ、本名、…」 好色一代男（天和、西鶴）五「半弓ニ鳥ノ舌ノ矢ノ根ヲ番ヒ、椽緣ヨリ下ニ飛ビ降リルヲ」 新可笑記（元祿、西鶴）四「木蔭ニ立隱レ、半弓引キカケ放チケルニ」

はんぎよ（名）[反語] はんご（反語）ニ同ジ。

はんぎよ（名）[板魚] かれひ（鰈）ノ一名。（支那、上海）

ばんきよ（名）[盤踞] ワダカマルコト。 杜甫、古柏行「落落盤踞雖レ得レ地、冥冥孤高多二烈風一」

はんぎよく（名）[半玉] 〔玉代ノ一人前ノ半分ナル義〕 藝妓ノ年若クシテ、未ダ一人前トナラザルモノ。オシャク。雛妓。京阪ニテ、舞子。

はんきり（名）[半切] 能裝束ノ一。大口袴ニ似テ、金襴ノ模様アルモノ。 易林節用集（慶長）上、衣食門「半切、ハンキリ」

はんぎり（名）[半切] （一）はんきりのをけ（半切桶）ノ略。盥ノ底淺クシテ、徑六尺程アルモノ。魚ナドヲ入ル。（二）大口袴ノ紋柄アルモノ。（海録）

はんきりがみ（名）[半切紙] 杉原紙ヲ、横ニ半バニ切リタルモノ、書狀ニ用ヰル。（切紙ノ條、見合ハスベシ）後ニハ諸種ノ紙ヲ、其形ニ切リテモ用ヰル。ハンキレ。 萬金産業袋（享保、三宅也來）一、紙類一色「五色半切九十六枚切」 立身大福帳、七「半切紙、コレモアマリ下直ナルハ損ナリ」

はんきりのをけ（名）[半切桶] 前前條ノ語ノ（一）ニ同ジ。 兎園小說、十一集、天明六年丙午「琉球芋ヲ多ク蒸シテ、半切の桶ニ入レ、店ノ四隅、便宜ノ處ニスヱテオキテ」

はんきれ（名）[半切] 前前條ノ語ニ同ジ。 文明日日記、文明五年八月八日「八幡田中殿ヨリ、御香水御返事調候（杉原半切）、以二…一…之」 同、文明十二年十一月二日「今朝…次左持…大…色色十五卷、半切…十一卷…云云、七日、…半切一卷」（此ノ繪半切モ、亦消息ニ用ヰタルモノナルベシ）

はんく（名）[半句] （一）一句ノ半分。（二）僅バカリノコトバ。隻言。隻語。「一言半句」

バンク（名）〔英語、Bank.〕 ぎんかう（銀行）ニ同ジ。

はんくう（名）[半空] 天ノナカホド。ナカゾラ。半天。中天。中空。 張說詩「…山上…半空…中」

ばんぐそく（名）[番具足] 〔當番人ノ用

ヰル具足ノ意〕キズテノヨロヒ。粗末ナル具足。足輕ナドノ着タルモノ。 見聞…、[illegible]…具足六百…、[illegible]…ルモ、…ヤリ、…具足」

はんぐつ（名）[半靴] 足頸ダケ入ル西洋風ノ靴。短靴。

ばんぐみ（名）[番組] （一）番衆ノ組。 新可笑記（元祿、西鶴）四「サレバ番組勤ムル人數ニ、何カ變ルコトナシ」 （二）技藝、勝負事、ナドノ組合、又、ソレニ割リ當テタル役、又、コレ等ヲ記載シタル紙。プログラム。 好色一代男（天和、西鶴）八「能ヲサセテ、云云、庭ニ常舞臺アリテ、…方、地…モトヨリ、太夫、脇、…シテ、定家、松風、三井寺、カレコレ三番シメヤカニ」

ばんくるはせ（名）[番狂] （一）豫想外ノ事ノ出デ來テ、順番ノクヒチガフコト。トンチンカンニナルコト。 東海道中膝栗毛（文化）一九、四編、下「コリヤ皆様御免ナセエ、飛ンダ番狂はせヲイタシヤシタ」 （二）勝負事ナドニ、結果ノ豫想外ナルコト。

はんくわ（名）[繁華][繁花] （一）サカエ、ニギハフコト。（都市ノ）殷賑。 劉得仁詩「始覺…華地…無…不…人」 （二）ハナヤカニ、サカユルコト。 史記、呂不韋傳「不下以二繁華時一樹上レ本、即色衰愛弛後、雖レ欲レ開二一語一、尚可レ得乎」 陸龜蒙詩「成都…萬株、…天下無」 菅原傳授手習鑑（延享、竹田出雲等）四「繁華ノ地ト違ヒ、イヅレヲ見テモ山家育チ」 宮川舍漫筆（安政、宮川政運）二「土地ノ繁花ハ衰微ノ基トオモフトイヘル、實ニ尤ノハナシナルベシ」

はんくわ（名）[半靴] はうくわ（半靴）ノ條ヲ見ヨ。

ばんくわい（名）[盤回][盤廻] ウネリマハルコト。盤旋。 漢武帝内傳「…一赤龍從…」

雲中下、直入二芳闈一、既而、宮中詔四闈上六升鸞 [illegible] 二一、[illegible] 中華上、[illegible]」

ばんくゎい (名) [挽回] 引キ返スコト。ヒキモドスコト。恢復。「[illegible]ヲ挽回ス」

はんぐゎん (名) [判官] (一)古ヘノ官名。マツリゴトビト。かみ(長官)ノ條ヲ見ヨ。ハウグヮン。(二)裁判官、

ばんくゎん (名) [盤桓][磐桓] タチモトホルコト。徘徊。[illegible]、[illegible]北闕下、[illegible]任時詩」「日[illegible]」

はんぐゎんだい (名) [判官代] 院ノ廳ノ官名。はうぐゎんだい(判官代)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

はんけ (名) [半分] 「半箇ノ字ノ省略」ハンブン。ナカラ。

はんげ (名) [半夏] 〔花時ニ就キテ名トス〕半夏草ノ略。古名、ホソクミ。天南星科ノ[illegible]草ノ名。原野、[illegible]ニ自生ス。春、舊根ヨリ數莖ヲ生ズ。葉ハ、莖ノ頭毎ニ三葉ヅツ着ク、形、おもだか(澤瀉)ノ葉ニ似タリ。夏、別ニ長キ[illegible]ヲ出シテ、花ヲ着ケ、頂ニ長キ筒アリ、後、[illegible]ニ開ケテ、深キヒノ如シ、外ハ緑ニ、内ハ、紫黒ナリ、蕊アリ。直立スルコト、[illegible]、鼠ノ尾ノ如シ。根ハ白色ニシテ、漢方ノ藥用トス。カラスビシャク。[illegible]

はんけい (名) [半徑] 圓、又ハ、球ノ中心ヨリ、其圓周、又ハ、球面ニ至ルマデノ距離。其直徑ノ二分ノ一ナリ。

ばんけい (名) [晩[illegible]] (一)夕日ノ影。[illegible](二)ばんがた(晩方)ニ同ジ。

ばんけい (名) [萬頃] 〔[illegible]〕土地、又ハ、水面ノ廣キサマニ云フ語。[illegible]

はんげき (名) [繁劇] イソガハシキコト。セハシキコト。多忙。繁忙。[illegible]「以二無用之才一[illegible]繁劇之任二」

はんげき (名) [反撃] 軍隊ヲ後ヘヒキカヘシテ、追ヒ來ル敵ヲ擊ツコト。

はんげさう (名) [半夏草] はんげ(半夏)ノ條ヲ見ヨ。

はんげしやう (名) [半夏生] 〔[illegible]、月令[illegible]〕[illegible]夏草ノ若根ノ生ズル頃トテ名トス〕曆ニ、夏至ノ第三候ノ稱。即チ、夏至ヨリ後、十一日目ニ當ル日ノ稱、大抵、七月二日頃。此日ヲ田植ノ限トス。コレヲ過グレバ、稻、熟シ難シ。[illegible]

ハンケチ (名) [手帕] 〔英語、Handker-[illegible]〕[illegible]

はんけつ (名) [判決] (一)[illegible](二)裁判所ノ下シタル裁判ノ一種。即チ、裁判所ガ法律ヲ適用シテ、訴訟事件ヲ區分シ、又ハ、[illegible]セシムルコト。「[illegible]」

はんげつ (名) [半月] (一)[illegible](二)ユミハリヅキ。弦月。[illegible]「淚ナガラニ影見レバ、半月、山ノ端ニ打チ傾イテ」(三)[illegible]

はんけん (名) [[illegible]] [illegible]

はんげんぶく (名) [[illegible]] [illegible]

はんご (名) [反語] 言ヒ出シタル語ヲ裏[illegible]

ウチカヘシノコトバ。[illegible]

ばんこ (名) [[illegible]] [illegible]

パンコ [illegible] ばんこやき(萬古燒)ノ略。

フミツヤ[illegible]長崎

ばんこう [illegible]

(唱大[illegible])ニ同ジ。

ばんこく [illegible]

ばんこくこうはふ [illegible] (國際公法)ノ條ヲ見ヨ。

ばんこくのう [illegible]

ばんこう [illegible]

バンカラノ風采。

ばん-こつ (名) 萬骨 多クノ人ノ骨。 曹松詩「憑レ君莫レ話封侯事、一將功成萬骨枯」

ばん-こま (副) 番毎(バンゴト)ニ。「替りばんこまスル」

はん-こん (名) 瘢痕 キズノアト。キズアト。創痕。 後漢書、趙壹傳「所レ好則鑽レ皮出ニ其毛羽一、所レ惡則洗レ垢求ニ其瘢痕一」

はん-こん (名) 反魂 死亡シタル人ノ魂魄ヲ、呼ビカヘスコト。死シタル者ヲ蘇ラシムルコト。 當流小栗判官(元祿、近松作)四「熊野ノ本宮藥ノ湯ヲ汲ミ寄セ、一七日沐浴シ、反魂ノ法ヲ行ヒ、壯年ノ形トナサント宣ヘバ」

ばん-こん (名) 盤根 (一)蟠(ワダカマ)リタル根。 孫元化、題ニ庭中老樹一詩「深影變ニ交翳一、盤根高ニ臥龍一」 朗詠集、下「盤根鬱ニ臥龍文一」 (二)轉ジテ、解決シ難キ物事。種種ニ、イリコミテ、處置ニクルシキ事柄。「盤根錯節」

ばん-こん (名) 晩婚 年タケテ、結婚スルコト。(早婚ニ對ス)

はんごん-かう (名) 反魂香 〔漢武帝、李夫人ノ故事〕 想像ノ香ノ名。烟、直上シテ、烟中ニ、死者ノ影ヲ見ハスト云フモノ。 香譜(宋、洪芻)「司天主簿徐肇、遇ニ蘇氏子德哥者一、自言、善爲ニ返魂香一、手持ニ香爐一、懷中取ニ一貼白檀香一末、撮ニ於爐中一、烟氣裊裊直上、甚ニ於龍腦一、德哥微吟曰、東海徐肇欲レ見ニ先靈一、願此香烟用爲ニ引道一、盡見ニ其父母曾高一、德哥曰、但死經ニ八十年已上一、則不レ可レ返矣」(反、返、通用ス) 東坡詩集、注「李夫人死、漢武帝念レ之不レ已、乃命ニ方士作ニ反魂香一燒レ之、夫人乃降」 太平記、十八、春宮還御事「昔、漢李夫人、甘泉殿ノ病ノ床ニ臥テ、ハカナク成給ヒシヲ、武帝悲ミニ堪ヘ兼ネテ、反魂香ヲ燒キ給ヒシニ、李夫人ノ面影ノ煙ノ中ニ見エタリシヲ」 傾城反魂香(寶永、近松作)三「熊野かけろふ姿」「昔ノ朝ノ身シマヒニ、髮ニタイタリ裙ニトメ、ソヨトフクサノ色風モ、今焼ク香ニ立ツ煙、反魂香ト兼ユルカヤ」

はんごん-さう (名) 返魂草 タバコ。煙草。 牛馬問「本朝ニテたばこノ名目、慶長日記ニ載スルノ始ナルベシ、漢土ニテモ、明ノ萬曆ノ頃ヨリ始リ、崇禎年間甚ダシカリケレバ、禁ゼシ事有キ、其後、益盛ン也、一名、淡芭菰(タンバコ)、又、淡婆姑(タンバコ)トモ書ク、一名、返魂草(ハンゴンサウ)、一名、擔不歸(タンフキ)、一名、煙花、一名、煙草、一名、想思草、一名、淡肉果(タンジクワ)云云、返魂煙ト云フ」

ばんこん-さくせつ (名) 盤根錯節 〔わだかまりタル根ト、入りまじりたる節トノ義〕 種種、入リ込ミタル世ノ中ノ雜事ニ譬ヘテ云フ語。 後漢書、虞詡傳「不レ遇ニ盤根錯節一、何以別ニ利器一乎」(盤、一本作レ槃)

はんごん-たん (名) 反魂丹 藥ノ名。 倭名抄、十二、藥名類「紫靈丹、一名、反魂丹」

ばんこ-やき (名) 萬古燒 略シテ、ばんこ。伊勢國、朝明郡、小向(ヲブケ)村(今、三重郡、朝日村小向)ニ產ズル陶器ノ稱。土ニ棕梠ノ毛ノ如キ色ナルアリ、白キアリ。てづくねヲ專ラトス。薄クシテ堅シ。萬古等ノ字ヲ印ス。元文年中、桑名ノ人、交趾、阿蘭陀ノ彩釉(イログスリ)ヲ擬シテ創製スト。

はん-さ (名) 煩瑣 クダクダシク、ワヅラハシキコト。コマゴマシキコト。

はん-ざ (名) 判者 はんざャ(判者)ニ同ジ。 源、三十二、梅枝六「イトクルシキはんざニモアタリテ侍ル哉」(香合ノ判者ナリ)

ばん-ざ (名) 盤坐 〔盤足坐ナリ〕 アグラカクコト。あんざ(安坐)ニ同ジ。

はん-さい (名) 半齋 佛教ノ語。禪家ニテ、早朝ノ粥ト、午時ノ齋食(トキ)トノ中間ナル時ノ稱。 敕修百丈清規、告香「次早諸ニ參頭茶一、半齋畢ニ參頭維那作ニ香點心一」 禪林象器箋、四、節時門「舊記云、在ニ粥與ニ齋之半一、故曰ニ半齋一云云、半齋者時名也」

はん-さい (名) 半濟 室町時代、社寺、國衙、領家ノ收益ノ半分ヲ、幕府ニ納メシムルコト。其地ヲ御家人ニ兵粮所トシテ、支配セシムルヲ、半濟制度ト云フ。 建武以來追加「一、寺社本領事、本所領事爲ニ兵粮料所一、當年一作可レ令ニ均分一之由、先度被レ定下一之處、或除ニ先納分一稱ニ半濟一、或押ニ過行一、欲ニ皆納一云云」「只禁ニ庄薗年貢半濟事、本所愁訴、尤有ニ其謂一歟、天下已屬ニ大平一、國中皆令ニ滿作一之上者、一國可レ被ニ返付一之由、於ニ御評定席一、令ニ落居一候了」 太平記、三十九、神木入洛事「一國ノ寺社本所領ヲ半濟シテ、家人共ニゾ分ケ行ヒケル」

はん-さい (名) 繁碎 事ノシゲク、零細ナルコト。 南史、鍾嶸傳「今府職事、各有ニ司存一」

はん-ざい (名) 犯罪 法ヲ犯シタル罪。

ばん-ざい (名) 萬歲 ばんぜい(萬歲)ニ同ジ。 通鑑、代宗紀「郭子儀先執レ酒爲レ誓、子儀酹レ地曰、大唐天子萬歲、回紇可汗、亦萬歲、兩國將相亦萬歲」(君主ハ富モ貴モ加フベキナシ、唯壽ヲ祝スルノミ、萬歲ノ二字、呂覽ノ宋康、國策ノ孟嘗君ニモ見ユ) 謠曲、江島「實ニ有難ヤ、カクバカリ、深キ惠ミノ海山モ、猶萬歲ヲ呼バウナル」

はんさい-の-おび (名) 斑犀帶 〔斑(マダラ)ナル犀角ヲ以テ飾リシ故ニ云フ〕 古ヘ、四位、五位ノ人ノ、束帶ノ時ニ用キタル革帶。 源、五十一、蜻蛉三十「ヨキはんさいのおび、太刀ノヲカシキナド、袋ニ入レテ車ニノル程、コレハ昔ノ人ノ御心ザシナリトテ、ヲクラセテケリ」

ばんざい-らく (名) 萬歲樂 雅樂ノ曲名。まんざいらく(萬歲樂)ニ同ジ。

ばん-ざう (名) 番匠 ばんざャう(番匠)ニ同ジ。 七十一番職人盡歌合、上、一番「ばんざう、ワレラ(ワレイ)モ、ケサハ相國寺ヘ又メサレ候」

ばんさう-かう (名) 絆創膏 疵ノ上ニ貼リテ、口ヲ開カセヌ爲ニスル膏藥。

はん-ざき (名) 半割 さんせうを(山椒魚)ノ異名。其條ヲ見ヨ。

はん-ざし (名) 筈刺 はずさし(筈刺)ノ音便。其條ヲ見ヨ。 書言字考節用集、七、器財門「筈刺、ハンザシ、小刀也」

はん-ざつ (名) 繁雜 事、多ク入リマジリタルコト。 隋書、牛弘傳「性寬厚、篤ニ志於學一、雖ニ職務繁雜一、書不レ釋レ手」

はん-ざつ (名) 煩雜 ワヅラハシク、入リ込ミタルコト。 漢書、孟喜傳「世所レ傳后氏禮、戴氏春秋皆出ニ孟卿一、孟卿以ニ禮經多、春秋煩雜一、乃使ニ喜從ニ田王孫一受レ易」 晉書、刑法志「文帝爲ニ晉王一、患ニ前代律令、本注煩雜一」

はん-ざふ (名) 半插 匜 楾 (一)〔はにざふノ音便。にヲ略シテ、はざふトモ云フ〕 はにざふ(半插)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十四、漆器類「匜、波邇佐布、柄中有レ道、可ニ以注ニ水之器也、俗用ニ楾字一」 同、十六、漆器類「匜、此器有レ柄半插ニ其中一、故名ニ半插一也」 內匠寮式「楾一合(高一尺、周二尺四寸)」 天治字鏡、五十五「匜、波邇佐不」 皇太神宮儀式帳「御波佐布、三十二口」 枕草子、六、五十八段「はんざふニ手水ナド入レテ、タラヒノ手モナキナドアリ」 落窪物語、一、上「御手水マヰラセムト、はざふ求メ歩キテ、御カタニハイヅクノ匜、盥カアラム」 (二)今、誤リテ、齒黑メニ用キル盥。ミミダラヒ。

はん-さん (名) 半產 りうざん(流產)ニ同ジ。 書言字考節用集、五、支體門「半產、ハンザン、又云、小產、日月不レ滿爲レ墮也」 同谷、婦人懷孕、血氣不レ能ニ榮養一、以致ニ數月而墮一、名ニ半產一」

ばん-さん (名) 晩餐 〔餐ハ集韻、韻會「千安切(音、サン)、吞也」〕 詩經、魏風、伐檀篇「不ニ素餐一兮」 又、集韻「蘇昆反、

音孫、與ㇾ飧同」トアリ。飧ハ夕食ナリ。故ニ夕飯ノトキハ、そんト讀ムヲ正音トス」ユフメシ。バンメシ。晩飯。何[illegible]

はむし (名) [羽蟲] 鳥ノ羽毛ノ間ニ寄生スル疥癬蟲ノ一種。ハジラミ。

はんし (名) [半紙] 元ハ、延紙ヲ半バニ切リタルモノ。今ハ、別ニ製シテ、最モ日常ノ用トスル紙。縱八寸乃至八寸五分、横一尺八分乃至一尺一寸五分アリテ、二十枚ヲ以テ一帖トス。諸國ヨリ出ヅ。岩國半紙ヲ最トス。 商人ヲ[illegible]、二「商ニ取付トキノ工夫、二條邊ノ裏店ヲ借リ、半紙ニテ帳一册トヂテ、上書ニ萬日間錙帳ト書付」

はんし (名) [半子] 「半箇ノ子ニ當ル意」壻ノ異稱。 劉禹錫、祭ニ楊庶子ニ文「乃命ニ長[illegible]、爲ニ君半子ニ」 唐書、回紇傳「咸安公主下ニ嫁可汗ニ、可汗上書曰ニ半子ニ」

はんし (名) [藩士] 封建時代ノ大名ノ家來。諸侯ノ臣。藩臣。

はんし (名) [判士] 軍法會議ニテ、審理、裁判ヲ掌ル人。

はんし (名) [判事] 裁判ノ官。罪人ヲ糺問シ、刑名ヲ斷定ス。古ヘハ、刑部省ニ屬シテ、大、中、少アリ。今、亦、司法裁判ノ官。刑事、民事ヲ審理裁斷ス。

はんし (名) [判司] 陶器ノ名。高麗燒ノ一種。判司(官)ノ人ノ持チタリシ器ヲ本トシテノ名ナリト云フ。

はんし (名) [班次] 列、位等ノ次序。

ばんし (名) [番士] (一)番組ニ分チタル兵士。番士 (二)番ニ當リテ守ル士。衛士 (三)武家時代、殿中ノ宿衛、諸所ノ警衛ナドニ勤番セシ士。

ばんし (名) [挽詩] 哀悼ノ意ヲ述ブル詩 挽歌。[illegible]

ばんし (名) [萬死] 萬萬、生命ノ助カルベキ手段ナキコト。九死。 史記、[illegible]「[illegible]萬死不ㇾ顧ニ一生之計ㇾ爲ニ天下ㇾ除ㇾ殘也」

ばんじ (名) [萬事] 世ニ起キアラユル事。スベテノ事。 史記、[illegible]「[illegible]」[illegible]、何レカ常住ノ思ヒヲナサン」

ばんしう (名) [晩秋] (一)秋ノ末、暮秋。[illegible]「[illegible]」 (二)陰曆、九月ノ異稱。長月。

ばんしき (名) [盤渉] (一)十二律ノ一。其條ヲ見ヨ。(二)尺八ノ曲ノ名。

はんしくわ (名) [斑枝花] ばんやニ斑枝花)ニ同ジ。

はんした (名) [版下] 版木ニ貼リテ刻ルベキ書畫ノ下書。

はんした (名) [半舌] 「半舌鐙ノ略」鐙ノ舌先ノ短キモノ。シタミジカアブミ。コレニ對シテ、舌先ノ長キヲ、舌長鐙ト云フ。鐙ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]「[illegible]百六十三、[illegible]ト云フハ、[illegible]ノ舌長キモノト云ヘリ、云云、半舌鐙ト云フハ、舌鐙ノ一種セシモノニテ、舌[illegible]モノナリ」

はんしはんしやう (句) [半死半生] 半ハ死シ、半ハ生ク。死生ノ界ニアリ。 [illegible]殆ド死セリ、瀕死、垂死。[illegible]

[illegible]

はんしん (名) [凡人] 一[illegible]
又、ぼんぽん。ぼんにん(凡人)ニ同ジ。 名目抄「凡人、ハンジン」

ばんしん (名) [番新] (番頭新造ノ略) [illegible]ぼんこうしんさう[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

ばんしん (名) [蕃神] 蕃ノ神。外國ノ[illegible]

ばんしん (名) [萬仞] 〔正字通、[illegible]〕尺八尺[illegible]ニ[illegible]

ばんじん (名) [蕃人] (一)上古、[illegible]、又ハ、支那人ヲ呼ビシ稱。(二)外國人[illegible]ジン、又云、異國人」(三)高砂族ノ一稱。即チ、今ノ臺灣ノ蕃人ヲ云フ。たかさご(高砂)ノ條ノ(五)ヲモ參見セヨ。

はんしんはんぎ (句) [半信半疑] 半ハ信トシ、半ハ疑フコト。

はんしんふずゐ (名) [半身不隨] [illegible]左、又ハ、右ノ感覺ヲ失ヒタルコト。(中風ノ病ニ云フ) [illegible]

はんじもの (名) [判物] 其物事ノ實ヲ言ハズシテ、書畫、事物ナドニ寄セテ謎トシ見ル人ニ推量リ判ジ當テサスル[illegible]

はむしや [illegible]

はんしや (名) [反射] (はんせきノ訓)光リノ映リテ、カヘルコト、アリカヘシ。

はんじや (名) [判者] 一[illegible]優劣、當否ヲ判[illegible]和歌ノ優劣ヲ定ムルモノ。はんざ。[illegible]リケリ、云云、十億ナカリシ人ハ、判者ニハ[illegible]

はんしやう (名) [繁昌] [illegible]

はんしやう (名) [半鐘] (一)[illegible](二)サカ[illegible]

久而蕃昌」(二)ニギハフコト。盛衰記、十七、「[illegible]京[illegible]ハ[illegible]シテ、人[illegible]ヘケレトモ、新都ハ只荒レニアレ行キテ」狂言記、柿賣「繁昌ノ市ハ、弓ノ鉄形ニ立ツト申スガ」

ばん-しやう (名) 萬象 種種ノ形象。サマザマノモノ。孫綽、遊天台山賦「渾二萬象一以冥觀、兀同二體於自然一」「森羅萬象」

ばん-しやう (名) 萬障 多クノ支障。アマタノ障リ。鴉鷺合戰物語(文明)「諸國關關ノ西面、萬障ヲサシオイテ、御合力アルベシ」

ばん-じやう (名) 番匠 (一)古ヘ、飛驒、大和、等ノ諸國ヨリ、京都ニ勤番シタル木工ノ稱。大工、小工、番長、ナドノ別アリ。倭訓栞「ばんじやう、古ヘハ、工匠ハタダ飛驒國ニノミ在ユヘニ、飛驒ニハ他ノ課役ハオフセタマハデ、工人ヲマヰラスルヲ公役トセシ事、令條ニ委ク見ユ、然レバ一年ノ間、工人等、分番シテ仕奉ルカラニ、番匠ノ名ハアルナリ」(二)後ニ、木工ノ汎稱 ダイク。宇治拾遺、十四、第二條「仁和寺ノ破レタルトコロ、修理セサストテ、番匠ドモ、數多ツトヘテ作リケリ」庭訓往來、四月「巧匠、番匠、木道」出世景淸(貞享、近松作)二「カクテ番匠ノ棟梁、木工ノ頭、修理ノ頭、オノカシナナル出立」

ばん-じやう (名) 番上 (一)順番ニ上直スルコト。唐書、百官志「凡五府三衞及折衝府驍騎番上者、受二其名簿一而配以レ職」後紀、廿二、弘仁三年九月「御傳、長直ハ一從二番上一自レ茲上番下番、遞去遞來、荷守二宿番之直一不レ顧二長久之法一」(二)長上ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ばん-しやうぞく (名) 番裝束 番人ノ着ル裝束。曾我物語、九、「屋形屋形の前にて咎められし事」「屋形屋形ニ行キケルニ、千葉介カ屋形ノ前ヲゾ通リケル、云云、番裝束ノ者、數十人、是モ萬ヲ裝キテゾ固メケル」

ばん-じやう-づち (名) 番匠槌 さいづち(木槌)ニ同ジ。(畿內)

はん-しやきやう (名) 反射鏡 光線ヲ反射セシムルニ用ヰル鏡。

ばん-しやく (名) 晩酌 晩餐ノ時ニ酒ヲ飲ムコト。晩ニ酒ヲ飲ムコト。白居易詩「[illegible]足始老、晩酌宜卯休」

ばん-じやく (名) 磐石盤石 荀子、富國篇「國安二于盤石一、壽二於旗翼一」注「盤石、盤薄(磐礴)大石也」(一)大ナル石。ヒロゴリタル石。バンセキ。水經注「山水東南流、名曰二紫谿一、中道挾レ水、有二紫色盤石一、長百餘丈、望如二[illegible]霞一」宋玉、高唐賦「[illegible]石[illegible]、傾崎崖[illegible]」王維詩「可レ憐盤石臨二泉水一」(二)極メテ堅固ナルコト。堅牢 更ニ意ヲ強クシテ、大磐石ナド云フ。韓非子、顯學篇「夫磐祿大而官職治、王之道也、磐石千里、不レ可レ謂レ富」漢書、文帝紀「高帝王二子弟一、地犬牙相制、所レ謂盤石之宗也」王融、曲水序詩「旌茂二[illegible]趾一、宗固二盤石一」

ばん-じやく-のり (名) 磐石糊 麩ニテ製セル一種ノ糊。膠ノ如ク、粘リ甚ダ強シ。

はん-しやろ (名) 反射爐 鑛物ヲ焙燒シ、又ハ、銅、鐵ナドヲ鎔スニ用ヰル一種ノ大ナル爐。平タキ爐床ヲ有スル低キ爐ニシテ、一端ニ火床ヲ具ヘ、他端ハ煙道ニ續キ、中央部ヲ爐床ニ設ク。中央ノ床上ニ、金屬、又ハ、鑛物ヲ入レ、火床ニテ石炭、又ハ、薪炭ヲ燃ストキハ、被熱物ハ燃料ト接觸セズシテ、只、爐頂ニ反射セラレタル火焰ニヨリテ灼熱セラルル。

はん-しゆ (名) 反手 琵琶ノ名所。卽チ、轉手ノ先端ヲ押込ミタル部分。はんそトモ云フ。樂家錄、下、琵琶名所「反手註[illegible]手、鈎[illegible]、海老尾在レ之」

はん-しゆ (名) 藩主 藩ノ領主。大名。諸侯。

はん-じゆ (名) 判授 大寶令ニヨル敍位ノ方法ノ一。ちよくじゆ(勅授)ノ條ヲ見ヨ。選敍令「外八位、及內外初位、皆官判授」

ばん-しゆ (名) 番衆 次次條ノ語ニ同ジ。太平記、二、阿新殿事「アットイフ聲ニ、番衆ドモ驚キ騷ギテ、火ヲ燃シテ、コレヲ見ルニ」

ばん-じゆ (名) 萬壽 (一)數限リナキ壽命。壽命ノ長久ナルコト。(祝賀ニ云フ) 詩經、豳風、七月篇「[illegible]彼公堂、[illegible]彼兕觥、萬壽無レ疆」同、大雅、[illegible]之什、江漢篇「天子萬壽、明明天子、令聞不レ已、矢二其文德一、洽二此四國一」(二)父母ヲ壽スルニ就キテ云フ語。潘岳、閑居賦「稱二萬壽一以獻レ觴、咸一[illegible]一喜、[illegible]和」

ばん-しゆう (名) 番衆 室町幕府ノ臣下ノ階級第一ノモノ。次ヲ走衆ト云ヒ、次ヲ恪勤ト云フ、以上ハ侍ナリ。次ニ中間、次ニ小舍人、小者、次ニ雜色、公人ナリ、共ニ侍以下ニテ苗字ナシ。(さぶらひノ條ヲ見合ハスベシ) バンシユ。

はん-じゆく (名) 半熟 (一)半バ熟エタルコト。未ダ十分、熟セザルコト。白居易詩「檣櫻紅半熟」蘇軾詩「半[illegible]黃梁日未レ斜」(二)ナマニエ。又、ナマヤケ。

ばん-しゆん (名) 晩春 (一)春ノ末。暮春。(二)陰曆、三月ノ異稱。彌生。末春。暮春。梁元帝纂要「三月曰二末春晩春一」鍾[illegible]「[illegible]花[illegible]晩春一」

ばん-しよ (名) 萬緒 ばんたん(萬端)ニ同ジ。列子、周穆王篇「擾擾萬緒起矣」

ばん-しよ (名) 萬庶 多クノ民。又、世ノ中ノ、スベテノ民。萬民。億兆。兆民。

[illegible]記、十一、[illegible]、八道[illegible]八個[illegible]ノ如ク、[illegible]ドモ」同、十四、[illegible]、コレニ[illegible]七道、其ノ命ニ背カズ、百官[illegible]、其ノ[illegible]フ」

ばん-しよ (名) 番所 (一)番兵、番人ノ詰所。バンドコロ。(二)專ラ、江戸町奉行所ノ稱。[illegible]集(明曆)「ツマリツマリノ、ヨキ番所」サマザマノ、手ヲサスガナル、象棋會」

ばん-しよ (名) 蕃書 德川時代ニ、西洋ノ書籍ノ稱。「蕃書取調所」

ばん-しよ (名) 蕃藷 さつまいも(薩摩藷)ニ同ジ。甘藷。「蕃藷先生」

はん-しよう (名) 半鐘 鐘ノ小サキモノ。陣中ニ、寺院ニ、或ハ、火災ノ時ニ、相圖ニ打鳴スニ用ヰル。半鐘どろばうトハ、身長ノ高キ人ヲ、嘲リテ云フ語。俗ニ、のつぽうト云フ。

はん-しよう (名) 反證 或事實、又ハ、證據ニ對シ、ソノ眞實ナラスコトヲ立證スル證據。反對ノ證據。

はん-しよう (名) 汎稱泛稱 汎ク一般ニ通ジテ稱フルコト。又、ソノ稱。

ばん-しよう (名) 晩鐘 入相ノ鐘ノ聲。[illegible]色、[illegible]晩鐘鳴」[illegible]烟火[illegible]晩鐘」[illegible]笑(元和、安樂庵策傳)八「ソナタハ、源氏ノ晩鐘ヲ聞カレタ事ハナイカ」俚言集覽「晩鐘、唐土八景ニ、[illegible]寺晩鐘、近江八景ニ、三井晩鐘」

ばん-じよう (名) 萬乘 「支那ニ、方六尺ヲ歩トシ、方九百萬歩、卽チ、方十里ノ地ハ、兵車一乘ノ地ナリ」孟子、梁惠王、上篇、注「萬乘、兵車萬乘、謂二天子一也」二天子ノ位ノ稱。字類抄「萬乘、帝王也」孟子、公孫丑、上篇「當二今之時一、萬乘之國行二仁政一、民之悅」

レ之、猶[illegible]也」 同、[illegible]王、上篇「萬乘之[illegible]」 朱註「天子畿内、地方千里、出二車萬乘一」 [illegible]子、原道訓「古之人有下居二巖穴一而神不レ遺者上、末世有[illegible]爲二萬乘一而日憂悲者上」 保元物語、一、新院御謀反思召立事「世澆漓ナリト雖、萬乘ノ貴位ヲ[illegible]クス」

はん-ぢやう-ごま (名) 半鐘獨樂 唐獨樂ノ一名。獨樂ノ條ヲ見ヨ。

はん-ぢやう-ずみ (名) 半鐘墨 らふずみ(蠟墨)ノ條ヲ見ヨ。

はん-ぢよく (名) 播殖 マキフヤスコト。字類抄「播殖、ハンショク」 潘岳、籍田賦「后妃獻二穜稑之種一、司農撰二播殖之器一」 三國志、呉志、張紘[illegible]「[illegible]開[illegible]殖、任二賢使一レ能、[illegible]、崇[illegible]、顯二天命一、以行レ誅、可二不レ勞而定一也」

はん-ぢよく (名) 蕃殖 繁殖 フエシゲルコト。ハビコルコト。蕃息。 [illegible]林、[illegible]、焦[illegible]」「水土相得、萬物蕃殖」 淮南子、俶眞訓「仁義不レ布而萬物蕃殖、賞罰不レ施而天下賓服」 孟子、滕文公、上篇「草木暢茂、[illegible]」

はん-ぢよく (名) 繁縟 〔繁文縟禮ノ略〕 (一)事シゲク、煩ハシキコト。(二)種種樣樣ノ色彩。[illegible]」

ばん-ぢよく (名) 晩食 (一)ユフハン。晩ノ食事。晩餐。 南史、齊高帝紀「大官[illegible]食二有二十[illegible]、帝十字畫二之曰、可二四片破一レ之、餘充二晩食一」 (二)オソク食スルコト。

ばん-ぢよく (名) 伴食 (一)陪食。相伴。陪膳。 (二)實力、實權ナクアヒタケビト 空シク其職ニ備ハリ居ルコト。 [illegible]書、[illegible]、[illegible]不レ及[illegible]、[illegible]之、時人謂二之伴食宰相一[illegible]近伴食二中食一[illegible]不レ可二[illegible]

ばん-ぢよくのあらそひ (名) [illegible]之爭 ヘンヨク(ノ)アラソイ
蝸牛角上ノ爭ノ條ヲ見ヨ。 莊子、則陽篇

「有[illegible]、[illegible]之右角[illegible]、[illegible]氏一、有[illegible]之右角[illegible]」 [illegible]のおか「[illegible]牛ノ角折レテハ、蝸牛ノ爭止ミ」

はんしらうげた (名) 半四郎下駄 岩井半四郎(役者)ノ用ヰタル形ニ模擬シテ作レル下駄。

〔はん-じり (名) 半尻 狩衣ノ裾ノ短キモノニテ、童形ノ服ナリト云フ。小狩衣。 名目抄「半尻、ハンジリ」 增鏡、第十、飛鳥川「裝束常ノママナレド、[illegible]ノ半尻、カネノ文」

∴ばん・じる・ジル・ジレ・ジ・ジ・ジヨ(他動、上一) 判 はんず(判)ノ口語。

はん-じゆ (名) 反手 はんしゆ(反手)ニ同ジ。[illegible]」

はん・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 反 (一)ウラハラナリ。反對ス。 史記、[illegible]子、[illegible]、正[illegible]相反」 (二)官ニ叛ク。 叛 史記、[illegible]、[illegible]レ蜀、後欲レ反、遂夷三三族一」

はん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變) 判 (一)サバク。判斷ス。 唐書、楊於陵傳「但[illegible]特[illegible]不レ知[illegible]」 (二)推量リテ考ヘ分ク。ハンジル。 暗射

はん-ぜう (名) 反芻 ニレガムコト。次條ヲ併ハセ見ヨ。

はんすう-じゆう (名) 反芻獸 牛、羊、鹿ナドノ稱。此獸類ニハ、門齒、犬齒ナク、其胃ハ、多ク四部ヨリ成ル。草ナドヲ粗ク嚙ミタルガ、先ヅ第一ノ胃ニ入リ、次イデ第二ノ胃ニ移リテ、口中ニ吐キ出サレ、更ニ十分ニ嚙ミレタル後、[illegible]第三、第四ノ胃ニ送ラル[illegible]ト

はん-すきびたひ (名) 半透額 あつびた

ひ(厚額)ノ條ヲ見ヨ。

〔ばんぜん-らく (名) 萬歳樂 [illegible] [illegible]ス[illegible]、又、其時ニ唱フル詞。[illegible]名。大[illegible]ニ[illegible]、千[illegible]ズラク。 類[illegible]要、十六、萬歳樂、明[illegible]之時、舞人[illegible]中[illegible]、[illegible] 三、竹河[illegible]「ばんぜんらくヲ御クチズサビニシ給ヒツツ、ミヤスドコロノ御方ニワタラセ給ヘレバ」

〔ばんぎ-らく (名) 萬春樂 〔ばんぜんらくノ略、前條ヲ見ヨ[illegible]〕 [illegible]ぎらく、御口ズサビニノタマヒテ、花鳥[illegible]、西宮[illegible]云、踏歌日、舞人[illegible]、萬春樂[illegible]云云」

はん-すり (名) [illegible] [illegible]ノ[illegible]ヲ業トスル工人。印刷工。

ばん・ずる (動) 晩 〔晩ヲ活用ス〕 晩ニナル。日暮ルル。

ばん-すゐ (名) 晩翠 [illegible]草木ノ綠ノ[illegible] [illegible]

ばん-すゐ (名) 萬水 (一)多量ノ水氣。 劉[illegible]「此情不レ及[illegible]、一尺魚書萬水中」 [illegible]曲、[illegible]「三日月ノ影ヲ、舟ニモ[illegible]ヘタリ、云云、[illegible]下サズ、萬水昇ラズ」 (二)多クノ河、又ハ、海。 張[illegible]、北[illegible]東[illegible]、千山[illegible]水人」 [illegible]「[illegible]參[illegible]近[illegible]、何必千[illegible]萬水[illegible]」

はん-せい (名) 半生 (一)一生ノ半。人生ノ半分。[illegible] (二)半死ニ同ジ。はんしはんし[illegible]亦足レ豪」

はん-せい (名) 反省 己レガ身ノ上ヲカヘリミルコト。又、我ニカヘリテ、深ク考フルコト。

はん-せい (名) 反正 以前ノ正シキサマ

[illegible]

[illegible]公之時、[illegible]、故序[illegible] [illegible] 春秋[illegible]反、諸正[illegible]

はん-せい (名) [illegible] はんぜう(蕃昌)[illegible]

はん-ぜい (名) 反噬 〔說文、噬、啗也〕 (一)恩義アル人ニ、カミツクコト。 [illegible]「[illegible]自[illegible]、[illegible]反噬」 [illegible] [illegible]

ばん-せい (名) 晩成 [illegible]

ばん-せい (名) [illegible] 撰虫ノ聲[illegible]

ばん-せい (名) 晩[illegible] 他ヨリ遅レテ、事[illegible]

ばん-せい (名) 萬世 ヨロヅヨ。萬代。 [illegible]

ばん-せい (名) 萬姓 ヨロヅノ[illegible]。[illegible]民。億兆。百姓。萬民。萬庶。 [illegible]

ばん-せい (名) 萬[illegible] [illegible]

[illegible]

時宜「奏賀命壽、宇佐井郎國、振二萬歳聲一稱、萬、謂二之萬歳一也」謠曲、高砂「サテばんぜいノヲミ衣」曾我物語、五、「夢道の戰、吳ノ兵三十萬騎、勝國ヲツクリテばんぜいノ喜ヲゾトナヘケル」「千秋萬歳」東京帝國大學ニテハ、明治廿二年ノ憲法發布ノ時、定メタル祝聲。學生齊シク發セリ。元來、此語、謠曲ノ高砂ニ、「サテばんぜい(漢音)のをみ衣」ト云フト、「まんざい(吳音)らくには、命を延ぶ」ト云フ語ノ強キヲ取リテ、漢吳音ヲ混ジ、「天皇陛下 (聲ヲ切リテ) ばんざい、ばんざい、ばんばんざい」ト稱フルコトニ、定メタリト云フ。後ニ國民ノ歡聲トナル。今ハ、泛ク、メデタキ場合ニツカハルル成勢ヨキ掛聲トナル。(序ナガラ、萬歳ト呼ブコトニ付テ、一言申シテ置キタウゴザリマス。右ハ明治十五年中、板垣伯ガ岐阜遭難ニ起因セシモノデアリマスガ、是ガ事由ヲ申シマスレバ、當年、自由黨ノ副總理デゴザリマシタ中島信行君ノ監督ニ係リマスル立憲自由新聞ノ主筆記者デアリマシタ古澤滋ト申ス人ガ、佛蘭西ノ自由ハ命長シト云フ義ノ原語ヲ採リマシテ、右、板垣伯ノ無事ヲ祝シマスルノニ、淀川蒸汽ニ、「自由萬歳」ト高ク記シマシタルトコロノ旗ヲ樹テマシテ、伯ヲ伏見ヨリ大阪ヘ迎ヘタノデゴザリマスル。拍子ヲ以テ、萬歳ヲ呼ブノ初トナッテ居リマスガ、今ヤ天下萬人ノ唱フルトコロトナリマシタ。明治四十二年二月廿六日官報號外、內藤魯一ノ述論速記)

ばんぜい-ばた (名) 【萬歳旛】 又、ばんぜいばん。雲形ノ地紋ノ赤地錦ノ上部ニ、嚴瓮(イツベ)ト魚形、其下ニ、金字ニテ、萬歳ノ二字ヲ刺繡シタル旛。繧繝縁(ウンゲンベリ)ニテ、長サ六尺、幅三尺アリ。卽位儀禮ニ階前ノ左右ニ立ツ。萬歳旗。

はん-せう (名) 【半宵】 ヨナカ。中宵。半夜。夜半。戴叔倫詩「清光無二遠近一、郷淚半宵間」

はん-せう (名) 【反照】 (一)照リカヘスコト。(二)ユフバエ。ユフヒカゲ。

はん-ぜう (名) 【煩擾】 ワヅラハシク、亂ルルコト。入込ミテ、亂ルルコト。史記、李將軍傳「我軍雖二煩擾一、然虜亦不レ得レ犯レ我」

ばん-せう (名) 【晚照】 日クレ方ノ太陽ノ光。ユフヒカゲ。夕照。反照。杜甫詩「遠岸秋沙白、連山晚照紅」王勃詩「浦樓低二晚照一、郷路隔二風煙一」李郢詩「江樓明二晚照一、[illegible]亂二晴雲一」

ばん-せう (名) 【蕃椒】 タウガラシ。ナンバンコセウ。ナンバン。

はん-せき (名) 【版籍】 版圖ト、戶籍ト。轉ジテ、人民ト、土地ト。唐書、楊炎傳「賦不レ加レ斂而增レ入、版籍不レ造、而得二其虛實一、吏不レ誠而姦無レ所レ取」「版籍奉還」

はん-せき (名) 【犯跡】 犯罪ノ形跡。

はん-せき (名) 【反射】 はんしや(反射)ノ條ヲ見ヨ。

はん-せき (名) 【半石】 量、五斗ヲ容ルル器。又、ソノ桝。箋注倭名抄、六「世稱量具「半石、函斛、函者、俗稱二半石一者是、函者、受二五斗一、形如二此間酒樽一耳」字類抄「半石、ハンセキ、以二五斗一盛量之器也」

ばん-せき (名) 【礬石】 みやうばん(明礬)ノ條ヲ見ヨ。

ばん-せき (名) 【磐石・盤石】 ばんじやく(磐石)ニ同ジ。

はん-せつ (名) 【半切】 唐紙、白紙ノ一枚ヲ、竪ニ二ツニ切リタルモノ。

はん-せつ (名) 【反切・翻切】 カヘシ。漢字ノ二字ノ音、相摩シテ一音ヲ成ス法、例ヘバ、天ノ字ノ音ヲ、他前反(又、他前切)トス、其「他」ノ發聲ト「前」ノぜノ韻ノえト、相約マリテ、てトナリ、サテてんトナルガ如シ。其上ナル字ヲ父字(字頭)ト云ヒ、下ナルヲ母字(字母、母韻字)ト云フ。切韻。キリカヘシ。顧光韻鏡、下、翻切門法「古人制二翻切一、以二首釋文字一、今正二之韻圖一、則或音和、或類隔」宋景文筆記「孫炎作二反切一、語本二俚俗一、常言、尙數百種」

はん-せつ (名) 【汎說】 汎(ヒロ)クヒキクルメテ、說(ト)クコト。汎ク、一般ニワタリテ說クコト。

ばん-せつ (名) 【晚節】 (一)ばんねん(晚年)ニ同ジ。史記、外戚世家「及二晚節一、色衰愛弛」「晚節ヲ全クス」 (二)末ノ世。末年。唐書、選擧志「進士科、當二唐之晚節一、尤爲二浮薄一」唐書、顏眞卿傳、贊「晚節偃蹇、爲二姦臣所一レ擠、見レ殞二賊手一、毅然之氣、折而不レ沮、可レ謂レ忠矣」

はん-せん (名) 【盤旋】 メグルコト。マハルコト。韓愈、送二李愿歸一レ盤谷一序「大行之陽有二盤谷一、云云、是谷也、宅幽而勢阻、隱者之所二盤旋一也」

はん-せん (名) 【帆船】 帆ニヨリテ航行スル西洋型ノ船。ホブネ。ホマヘセン。

はん-ぜん (副) 【判然】 物、事ナドノ、分明ニ判(ワカ)レタル狀ニ云フ語。ハッキリ。瞭然。

ばん-せん (名) 【番船】 ミハリ船。宋史、食貨志「不レ許二秋發二番船一」治平略「番船停留、避二風之門戶一也」

ばん-ぜん (名) 【萬全】 極メテ全キコト。最モ安全ナルコト。バンヂヤウブ。韓非子、解老篇「萬以レ全備レ之也、慮必萬全一」史記、淮南衡山傳「今大王不レ與二萬全之道一、而自爲二亡國之事一、臣竊爲二大王一惡レ之」

ハンゼン-ラマ (名) 【班禪喇嘛】 〔英語、Panshen-Lama. 班禪ハ梵語、Pandita. 尊キ教師、喇嘛ハ西藏語、無上ノ意〕西藏ノ黃教(喇嘛教ノ一)ノ主ニテ、達賴(ダライ)ニ次グモノ。又、班禪額爾德尼(エルテニ)トモ云ヒ、同國、日喀則城(シガチス)ノ札什倫布廟(タシルンポ)ニ居ル。だらいらま(達賴喇嘛)、及、らま(喇嘛)ノ條ヲモ參見セヨ。

ばん-そう (名) 【伴奏】 〔英語、Accompaniment. ノ譯語〕 聲樂、又ハ、器樂ヲ助成スルタメニ演奏スルコト。又、其演奏。

ばん-ソウ (名) 【伴僧】 葬儀ノ列ニ伴フ僧。又、法會ナドノ時、導師ニ從フ僧。紀略、後編、三、天曆元年五月十五日「明達律師、率二伴僧一參二內裏一、始二御修法一」

はん-そく (名) 【犯則】 法令ヲ犯スコト。法ニ戾(モト)ルコト。

はん-そく (名) 【反側】 (一)トコガヘリスルコト。寐返リウツコト。又、轉ビ廻ルコト。名義抄「反側、トコカヘリ」詩經、周南、關雎篇「求レ之不レ得、寤寐思服、悠哉悠哉、輾轉反側」 (二)二心ヲ持ツコト。叛クコト。後漢書、光武紀「使二反側子自安一」

はん-そく (名) 【蕃息】 はんしよく(蕃殖)ニ同ジ。淮南子、天文訓「萬物蕃息、五穀兆長、故曰、德在レ野」史記、孔子世家「嘗爲二司職吏一、而畜蕃息」

はん-ぞく (名) 【叛賊】 謀叛ヲ起セルモノ。

はん-ぞく (名) 【半俗】 武者ノ入道シタルモノ。又、俗體ヲナセル僧侶。明良洪範(眞田增譽)十九「中里大和守ハ、七十餘、丈モ少シク

獲ガレ、[illegible]少シ[illegible]ミタル半信、常ニ、[illegible]人たんはんト申[illegible]ソル、[illegible]レナキ功ノモノ」

ばんぞく (名) [蕃俗] エビスノナラハシ。

ばんそつ (名) [萬卒] 多クノ兵卒 [illegible]「重関復道勢難近、一卒當レ關萬卒廻」信州川中島合戰(享保、近松作)二「[illegible]ノ士卒ニ[illegible]リ、[illegible]大[illegible]コレニ[illegible]ギズ、萬卒ハ求メ易ク、一將ハ求メ難ク」

はんた (名) [繁多] (一)事ノ繁キコト。用事ノ多キコト。[illegible]南子、原道訓[illegible]「[illegible]乃[illegible]、[illegible]、故心不[illegible]、[illegible]至也」[illegible]、[illegible]不[illegible]信[illegible]數[illegible]多之所[illegible]生也」(二)極メテ多キコト。平治物語、一、信頼信西不快事「其ノ例、漢家、本朝ニ繁多ナリ」

はんだ (名) [盤陀] [「昔代國、半田[illegible]山ノ産ニ起ルト云フ。或ハ云フ、馬來諸島中ノBanda島ノ産ニ起ルト」] はんだらふ(盤陀鑞)ノ略。鉛ト純錫(シャリ)トヲ合ハセタルモノ。色、蒼白ナリ。金屬ヲ接合シ、又ハ、金屬器物ノ内面ヲ塗ルナドニ用キル、鑞、まろふ。

はんだ (名) [[illegible]] 「あんだ(籠輿)ノ訛」昔、怪我人ナドヲ載スルニ用キタル籠、あんだ(籠輿)ノ條ヲ見ヨ。

ばんた (名) [番太] ばんたらう(番太郎)ノ略。 [illegible](元[illegible]、近松作)二「町ノ番太アワタダシク、何事ヤラン[illegible]トテ、[illegible]、御出ナリト[illegible]レアリク」

はんたい (名) [反對] 相反スルコト。ウラウヘ。ウラハラ。アベコベ。

はんだい (名) [飯臺] 家人、並ビテ、飯食フニ用キル卓。食卓。 [illegible](元和、[illegible])[illegible]六二三[illegible]ト見ノ[illegible]ト、[illegible]ニ[illegible]ニナラヘテ」

はんだい (名) [[illegible]臺] 魚屋ノ用キル淺ク

シテ廣ク、長(ナガ)方ナル木盤(キリヒ)、

ばんたい (名) [萬態] [illegible]

ばんだい (名) [萬代] ヨロヅヨ。萬世。萬年。永世。永遠。 [illegible]「[illegible]萬代ニ」六[illegible]、五[illegible]「[illegible]也、萬代不易、[illegible]之[illegible]、[illegible]之常也」

ばんだい (名) [番代] 順ノ遞リテ交代スルコト。カハリバン。バンガハリ。 唐律疏議[illegible]、[illegible]代、[illegible]十月一日交代」

ばんだい (名) [番臺] 番人ノ坐リテ見張リ居ル高座。(風呂屋ナドニ)

はんだいふぶし (名) [半太夫節] 江戸節(ハンダイウ)ノ一種。其條ノ(一)ヲ見ヨ。 松の葉(元祿)四「[illegible]」 [illegible](文化、[illegible])江戸半太夫ト云フ[illegible]、[illegible]中、宇左衛門芝居ノ向ヘ、操リ芝居出ダシタリ」

はんたう (名) [半島] 三方、水ニテ、一方陸續キノ細長キ地 [伊豆半島]

ばんたう (名) [晩稻] オクテ。おくて(奥手)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 劉禹錫詩「[illegible]」[illegible]

ばんたう (名) [晩唐] あうたう(初唐)ノ條ヲ見ヨ。

はんだくおん (名) [半濁音] ぱ、ぴ、ぷ、ぺ、ぽ、ノ五音ノ稱。次濁音。

はんだはうろく (名) [埴田炮碌] 河内國ノ埴田ニテ焼出ス炮碌。[illegible]ノ[illegible]シメシニ始マルト云フ。後ニ[illegible]ノ[illegible]ヨリ[illegible]出スモノヲモ云フ。[illegible]

テ灰器トス。 [illegible]州府志(貞享、黒川道祐)七、土[illegible]

はんだん (名) [判斷] (一)事ヘ[illegible]ケ、決ムルコト。判定。 [illegible] (二)[illegible]ノ[illegible]ノ(二)ニ同ジ。

ばんたん (名) [萬端] (一)萬事ノ端(ハシ)。アラユル事。萬般。萬緒。 [illegible]「萬端規矩、無レ所レ不レ[illegible]」[illegible] (二)[illegible]

ばんたらう (名) [番太郎] [「惡太郎、河太郎ノ類」] (一)往時、江戸市中ニテ、木戸ノ番屋ニ居テ、[illegible]ヲ[illegible]云、一町一町ニ番太郎ト云フモノアリテ、町役ヲ勤ム、此拍子木モ此ノ者ノ役ナリ、其ノ外、町内ニ非常ノ事アレバ、皆番太郎ガカカリナリ」[illegible]、メグル物ノ品品、町ヲメグルハ番太郎、又番太トバカリイフ所アリ」後撰夷曲集(寛文)二、[illegible]ルル目リ、[illegible] (二)[illegible]

はんだらふ (名) [盤陀鑞] 略シテ、盤陀。其條ヲ見ヨ。

はんち (名) [半知] 知行ノ半分。

はんち (名) [[illegible]] (一)[illegible]ノ(二)ヲ見ヨ。 朱印ノ地。ぁいん[illegible]

はんち (名) [判知] [illegible]コト。判別。判定。

はんちう (名) [範疇] (範ハ、かた、ては、ん、疇ハ、たぐひノ義) (一)種類。部屬[illegible] (二)[illegible]學ノ語。吾人ガ外物ヲ認識シテ、之ヲ概念トスル際、必ズ執ルベキ根本的思惟ノ形式。

はんちく (名) [[illegible]竹] [illegible]支那ニテ、舜、南巡シテ歸ラズ、其ノ妃、後ヲ追ヒテ、洞庭ノ山ニ至リ、涙ヲ竹ニ灑ギ、竹、盡ク斑ニ成ル、故ニ湘妃竹ノ名モアリ。今、湖南省ニ産ス。[illegible]ノ産ハ、斑、細カニシテ色淡シ、筆中ニ[illegible]紫色ノ一點アリ。[illegible]

はんちゃ (名) [[illegible]] [illegible]人ノ部人トナリテ、[illegible]ヲ[illegible]シタル者ノ受クル賃錢。

はんちん (名) [[illegible]] (一)[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]セシムベキノ[illegible]

はんちゃ (名) [[illegible]] [illegible]

ばんちゃう (名) [番[illegible]] (一)[illegible]ノ舍人ノ[illegible] [illegible]

ハンチウ (名) [[illegible]] [illegible]ト、[illegible]ノト一(ヒト)[illegible]ノ[illegible]子、小[illegible]

ばんちょう（名）［萬重］幾重ニモカサナルコト。李白詩「輕舟已過萬重山」

はんちゃうせん（名）［班女扇］はんにょがあふぎ（班女扇）ニ同ジ。

ばんづけ（名）［番附］相撲ノ取組、芝居ノ幕切、祭禮ノ邌物ノ行列ナドノ順番ヲ記シタルモノ。［編號］戲場節用「番附、バンヅケ」相撲起顯（三河舍翁）十一「古代之關取共、其ノ外相撲ノモノ、云云、右番附、勝負附」守貞漫稿、三十三、雜劇「番付、大坂ハ半紙一枚摺也、顏見世番付ノミ、杉原紙一枚摺也、何レモ、初日前ニ、茶屋ヨリ得意ノ家ニ配ル、云云、見物ニ往ク時、又茶屋ヨリ此番付ニ繪本番付ヲ添ヘテ出ス、云云」五元集「蓮葉、夏、番附ヲ、賣ルモ祭ノ、キホヒカナ」

ばんつづら（名）［番葛籠］粗製ノ葛籠。

はんて（名）［半手］眞ノ家來ニ非ズシテ、或者ノ支配ヲ受クルコト。又、ソノ者。北條五代記、九、敵船を海上といひならはす事「島町ナドノ在所ノ者ハ、私ニ和睦シ、敵方へ貢米ヲ運送シテ、半手ト號シ、夜ヲ心ヤスク居住ス」

はんてい（名）［判定］判ジテ決ムルコト。

はんでふ（名）［半疊半帖］（一）疊一枚ノ半分。西宮記、三月、御庚申「出御」註「御座前置半疊一枚、立二小燈臺一」海人藻芥、上、「雪之事「神佛前ノ半疊ハ、紫縁也」」榮花物語、十八、玉臺「半帖ニタタミ敷キテ、上ニ御ワラフダ重ネテ」（二）芝居ナドニテ、觀客ノ坐スルニ設クル敷物。小方形ノ疊ナリ。半疊を打込むトハ、批難スル意。芝居ニテ見物人ノ、役者ノ藝ニ不滿ナルコトアルトキ、半疊ヲ投ゲツケタルコトアルニ因リテ云フ。

はんてん（名）［半天］（一）天ノナカバ。孫績、日高賦「觸鴻浮、羽儀、曠半天之介景、鳴遠空之半天、背負青雲」梁、簡文帝詩「斷雲留去日、長峯藏半天」（二）はんくう（半空）ニ同ジ。中天。約嗚吟「高峰橫二半天、長河斷二千里」韋應物詩「翠嶺香爐出二半天、萬家烟樹滿二晴川」

はんてん（名）［半纏］羽織ニ似テ、綿ヲ入レタルモノ。半襟ナド掛ケ、胸紐ヲ用ヰズ。賤人ノ用ナリ。ヌノカタギヌ。

はんでん（名）［班田］アガチダ。古ヘ、官ヨリ人民ニ田地ヲ給與スルコト。孝德天皇ノ御宇、大化ノ制ニ、農民ニ公田ヲ分チテ、均一ニ給與セラレシモノ。男子ニ二段ヅツナリ、女子ニハ其三分ノ一ヲ減ズ、コレヲ口分田ト云フ。六年毎ニ改メ、死セシモノノ分ハ收メ、分ツベキモノニハ、新ニ授ク。民部省式、上「凡班田者、諸國至二予期年、校二定國內之田、副二授口帳二言上、待二報符一個班給」

ばんてん（名）［萬天］又、まんてん。天ノ全體。又、天下。四方。曾我物語、三、兄弟を母の制する事「然レバ遂ニ敵ヲ思フママニ討チ、名ヲ萬天ノ雲ニ揚ゲ」日本西王母（元祿、近松作）四「名ヲばん天ニ輝サント、思フ根生サゲモセデ」

はんでんし（名）［班田使］古へ、五畿內ニテ、班田ノ事ヲ掌ラシムルタメニ、派遣セラレタル臨時ノ官吏。續紀、十四、天平十四年九月「任二左右京畿內班田使二」

ばんでをけ（名）［番手桶］拭掃除ナドニ用ヰル粗製ナル手桶。

はんと（名）［叛徒］叛逆ヲ企ツルヤカラ。逆徒。

はんと（名）［半途半塗］（一）行ク路ノ半バ。中途。李白詩「百歲落二半途二」許渾詩「直到二半途二風雨橫、倉惶何處覓二前材二」東海道中膝栗毛（文化、一九）六編、上「ココハ伏見ト大坂ノ半途ニシテ、上リ船モ下リ船モ、ミナ落チ合ヒ混雜シ」（二）爲ル事ノ半ラナルコト、ナカホド。チュウト。中道。中庸、第十一章「君子遵レ道而行、半塗而廢、吾弗レ能レ已矣」

はんと（名）［版圖］（版ハ戸籍、圖ハ地圖ナリ）（一）土地ト、人民ト。（二）一國政府ノ領地ノ地圖。轉ジテ、一國ノ領地。周禮、天官、司會「凡在二書契版圖一者之貳、以逆二羣吏之治、而聽二其會計二」「日本ノ版圖」

バンド（名）［英語、Band.］オビ。紐。

はんどう（名）［反動］物ノ動作ニ應ヘテ動キ出ヅルコト。ユリカヘシ。

はんどう（名）［飯銅］洗ヒススゲル水ヲ、コボシ入ルルニ用ヰル器。又、ソノ形ヲナセル火鉢。頭書增補訓蒙圖彙、十一、器用「洗ハ古ノ盥洗ノステ水ヲウクルノ器也、俗ニコレヲ飯銅トイフ」書言字考節用集、七、器財門「飯銅、ハンドウ、又作二盤銅一火鉢也」

ばんどう（名）［番頭］（一）見付番ノ長。又、寺務ヲ掌ル僧職ノ名。（二）商家ノ召仕人ノ一ノ頭。管店。戀慕昔八丈（安永、近松貫四）城木屋の段「モタレカカッタ帳箱ニ、勿體ツケル番頭ガホ、コリャ小僧ヨ、云云」浮世風呂（文化、三馬）三編、下「板元ノ金踏、云云、モウヌケマシタト、番頭ガ挨拶ヲスル門口カラ」

ばんとう（名）［晚冬］（一）冬ノ末。暮冬。（二）陰曆、十二月ノ異稱。シハス。極月。臘月。

ばんとう（名）［晚頭］日ノ暮レガタ。ヒクレガタ。バンガタ。夕方。夕刻。晚景。實隆記、十五、南部騷動始末「晚頭ニ及ンテ、暴客八留數人道、仲衆、關、守、助、重等ガ首ヲ持チテ」實隆公記、文明十五年三月廿二日「依二召晚頭參內」

ばんどう（名）［坂東］（一）相摸國ノ足柄山、箱根山ノ東ノ稱。東國。關東。くゎんとう（關東）ノ條ヲモ見ヨ。山東。公[illegible]（二）[illegible]八ノ稱。坂東八國ヨリ云フカ。[illegible]馬出事「坂東ト云フハ、源氏ニ心ザシノアル國ナリ」（二）八ノ稱。漬物商、青物商、魚商、船乘、人力車夫、駕籠舁ナドノ符牒語。坂東八國ヨリ云フカ。兔園小說（馬琴編）二、隱語「大路ヲ魚或ハ野菜ナド荷ヒ鬻ル者ノ云フモノ、云云、七ヲさいなん、八ヲばんどう、九ヲかけト云ヒ」日本西王母（元祿、近松作）三「弓取ノ言ヒモ習ハヌ駕籠舁詞、成リ下リタリ、ダリ、ばんどう、イツカノガレン、キリ、ガレン」

ばんどうごゑ（名）［坂東聲］坂東人ノ音聲。アヅマゴヱ。アヅマコトバ。盛長記、三十、實盛被レ討事「京家西國ノ者カトスレバ、坂東聲ナリキ」平家物語、七、實盛最後事「聲ハ坂東聲ニテ候ヒツル」太平記、三十五、北野通夜物語事「坂東聲ナル遁世者、數珠高ラカニ操リ鳴ラシ」

ばんとうしんざう（名）［番頭新造］遊郭ニテ、遊女ニツキ添ヒタル女ノ稱。眉ヲソラズ、紅、白粉ニテ化粧ヲナサザルモノ。略シテ、番新。客ノ肝煎、諸家ノ遊治郎、半臺ニ豐ヲヒソメテ、番新ヲ呼出シ」

ばんどうたらう（名）［坂東太郎］（一）利根川ノ異名。關東第一ノ大河ノ意。コレニ對シテ、吉野川ヲ四國二郎、筑後川ヲ筑紫二郎ト云フ。本朝俗諺志（延享、菊岡沾涼）「坂東太郎ハ刀禰川（七十餘里）、四國次郎ハ阿波ノ吉野川（四十一里）、筑紫三郎ハ筑後河（二十五六里）ヲ云フ、是レ日本三大河也」（二）雲ノ峯ノ異名。利根ノ大河ニ、雲ノ掩ヒタルナリ。（江戸）俚言集覽「坂東太郎、刀根川ヲ云、又、夏ノ白雲ヲ江戸ニテ、坂東太郎ト云フ」

ばんとうぢよらう（バントウ・ジョロウ）（名）〔番頭女郎〕萬事ニ世話スル女郎。世話女郎。傾城買（天明）「番頭女郎ト云フハ、萬事、婦女郎ノ世話ヲ預ル女郎ヲ云フ、又、世話女郎トモ云フ」

ばんどうみち（名）〔坂東道〕六町一里ノ稱。即チ、古ヘノ一里ナリ。ソノ制、坂東ニ存シタレバ、此名アリ。り（里）ノ條ヲ見ヨ。關東道（クワントウミチ）、太平記、三十一、武藏野合戰事「小手差原ヨリ石濱マデ、坂東道已ニ四十六里ヲ、片時ガ間ニゾ追ヒツキタル」

はんとき（名）〔半時〕今ノ一時間。トキナカ。狂言記、花子「暫ウツ、讀ウツ遊ブ程ニ、云云、マダ半時モセヌノニ、夜アケノ鳥ガナキマスル」

はんどく（名）〔判讀〕意味ヲ判ジテ讀ムコト。考ヘ別ケテ讀ムコト。

はんどく（名）〔繙讀〕書物ヲ、ヒモトキ讀ムコト。ヒラキ讀ムコト。

はんドン（名）〔半日ノどんたくノ意。どんたくノ條ヲ見ヨ〕土曜日。

ばんどり（名）〔晩鳥〕むささび（鼯鼠）ニ同ジ。近代世事談（享保、菊岡沾涼）五、禽獸門、毛[illegible]佐[illegible]トテ云フ獸、一名晩鳥、又、野衾ト云フ、大サ毛色、鼬鼠ニ等シク、肉翅ニシテ爪アリ、コレヲ張レバ翼トナリ、收ムレバ足ノ如ク、蝙蝠ニ似タリ、面長ク髭アリ、尾七八寸バカリ、ヨク[illegible]ヲ喰フ、手ヲ以テコレヲ[illegible]ル、鼠ノ如シ、晝ハ深山ニカクレテ、夜出ヅル、夜行ノ人ノ炬火ヲ[illegible]テ、コレヲ消シ、ソノ燭火ヲ吹ク、ヨッテ妖怪ナリトシ、人コレヲオソル」

はんとりちやう（ハントリ・チヨウ）（名）〔判取帳〕商家ニテ、得意先、又ハ、取引先ヨリ金錢、代物ノ受渡ナドノ[illegible]、其實印ヲ受ケ置ク帳。

ハンドル（名）〔英語、Handle.〕トッテ。把手（[illegible]、自轉車、[illegible]ナドノ）

はんなま（名）〔半生〕（一）ナマニエ。半熟。（二）半可通。半熟。未熟。

ばんなん（名）〔萬難〕多クノ艱難、障害、故障。「萬難ヲ排ス」

ばんなんくわ（バン・ナン・クワ）（名）〔番南瓜〕たうなす（唐茄）ニ同ジ。カボチヤ。

はんにち（名）〔半日〕一日ノ半分。

はんにん（名）〔判任〕ちよくにん（敕任）ノ條ヲ見ヨ。

はんにん（名）〔判人〕（一）判ヲ押ス人。（證人ナドニ云フ）（二）藝娼妓ノ女衒。

ばんにん（名）〔番人〕番ヲスル人。又、守衛（マモリ）ノ卒。番兵。衛卒。

ばんにん（名）〔蕃人〕未開ノ野蠻人。

ハンニャ（名）〔般若〕（一）梵語、[illegible]（Prajñā）ノ略。（般ハ、音、鉢、音便）智慧ノ義。[illegible]（二）俗ニ、恐ルベキ相ヲナセル鬼女ノ稱。謡曲「葵ノ上」ニ、婦人ノ怨靈、人ヲ惱マスヲ、僧、祈リテ、經文（般若經）ヲ唱ヘ、祈リコメラレ、怨靈「アラ恐シノ般若聲ヤ」ト云ヒテ消ユ。般若經ニ、菩薩ノ魔怨ヲ摧伏スルコトアリト云フ。般若聲ハ經文ノ聲ナルヲ誤リテ、[illegible]ノ聲トシタルカ（[illegible]、山本北山ノ說ナリト、善庵隨筆ニ云ヘリ）ト云フ。或ハ云フ、十六善神ハ般若經ノ守護神ナレバ云フト云ヘリ、[illegible]ノ打チシ面アリシヲ用ヒ、其面、[illegible]今春（コンパル）ノ家ニアリト。外面如菩薩、內心如夜叉ノ意ヲ表セルカト云ヘリ[illegible]十八）或ハ云フ、梵語、般若ノ轉、怪物ノ義ナリト。女夜叉[illegible]

ハンニャしんぎやう（ハンニャ・シンギヤウ）（名）〔般若心經〕大般若經六百卷ノ要ヲ採リ、[illegible]一卷ノ經。諸經ノ粹ヲ集メタルモノトス。之ニハ數本アリ、其中、最モ弘ク布流セルモノハ、鳩摩羅什ノ譯ノ摩訶般若波羅蜜大明經、是レナリ。略シテ、心經[illegible]

ハンニャたう（ハンニャ・タウ）（名）〔般若湯〕[illegible]酒ノ隱語。[illegible]

はんによがあふぎ（ハンニヨ・ガ・アフギ）（名）〔班女扇〕[illegible]詩。支那、漢、成帝ノ女官、班（婕妤）（官名）ト云フモノ、盛ニ帝ノ寵ヲ得アリシガ、帝、後ニ趙飛燕ヲ愛シテ、班氏ヲ[illegible]ニセカレ」謡曲ニ「班女」ト云フアリ、[illegible]遊女アリテ、吉田少將、東下ノ時、馴シミ、扇ヲ形見ニ受ケテ別レタルガ、女、待遠ニ思ヒテ狂人トナレルコトヲ作リ、班女扇ノコトヲ引ケリ。

はんねん（名）[illegible]

ばんのう（名）〔萬能〕（一）ヨロヅノ事物[illegible]巧者ナルコト。「萬能足リテ、一心足ラズ」

はんのき（名）〔榛木〕（榛の木ノ音便）[illegible]モ相似テ褐色ナリ。實ハ[illegible]。幹心、白ク、日ニ見レバ赤ク[illegible]

はんぱ（名）〔半端〕[illegible]

ばんば（名）[illegible]ばんば（車馬）ノ條ヲ見ヨ。

はんぱい（名）[illegible]

はんぱう（名）[illegible]

はんぱう（名）[illegible]

同ジ。萬方、易林節用集(慶長)上、言辭門「万邦、バンハウ」書經、湯誥「百姓昭明、協和萬邦」

ばんぱう(バンハウ) (名) [萬方] (一)スベテノ方面。諸方。淮南子、俶眞訓「是自一曲、而不通於萬方之際也」 (二)前條ノ語ニ同ジ。書經、湯誥「嗟爾萬方有衆、明聽予一人誥」云云、曁王誥「惟作威、以敷虐于爾萬方百姓、爾萬方百姓、罹其凶害、弗忍荼毒」 (三)種種ノ方法。サマザマノ手ダテ。百方。

はんばかま (名) [半袴] 袴ノ丈ノ、踝(クルブシ)マデナルモノ。(長袴ニ對ス) 素袍、又ハ、肩衣ノ下ニ用キル。今、單ニ、はかまトノミ云フ。或ハ、小袴。平袴 將軍德川實紀與附錄、三、寬保元辛酉年正月廿一日「御本丸殿中、熨斗目半袴、西丸者、熨斗目長袴着之」

はんばく (名) [反駁] 反對シテ駁擊スルコト。他ノ意見ナドニ對シテ、逆ヒ論ズルコト。

はんぱく (名) [斑白頒白] 白髮ノマジリテアルコト。又、ソノ頭。禮記、王制篇「輕任幷、重任分、斑白者、不提挈」潘岳、閑居賦「昆弟斑白、兒童稚齒、稱萬壽以獻觴、咸一懽而一喜、壽觴舉、慈顏和」孟子、梁惠王、上篇「謹庠序之教、申之以孝悌之義、頒白者不負戴於道路矣」

はんばく (名) [斑駁] ブチ、マダラ。王禹偁、寄商州陝府南營詩「徑苔白斑駁、岸草玄萋萋」

はんばく (名) [槃礴] アグラヲカクコト。箕踞。莊子、田子方篇「公使人視之、則解衣槃礴、注「箕坐也」 蘇軾詩「共喜鑿歸伏近、解衣槃礴亦君恩」

ばんぱく (名) [蠻貊] 南蠻ト、北狄ト。卽チ野蠻國。書經、武成篇「華夏蠻貊、罔不率俾」論語、衞靈公篇「言忠信、行篤敬、雖蠻貊之邦行矣」

はんはじめ (名) [判始] 室町時代、將軍家ノ、政務ノ始メニ行ハルル御判ノ儀式。御判始。

はんばつ (名) [藩閥] (學閥ナドニ對ス) 勢力アル藩ノ出身ノモノナドガ、互ニ團結シテ、一勢力ヲナスモノノ稱。一ツノ系統ヲナシ、閥外ノ者ノ介在ヲ許サザル風アルヲ云フ。

はんばつ (名) [半髮] 男子ノ結髮ノ風ニテ、總髮ニ對スル稱。頂髮ト額髮トヲ剃リ去リテ、周圍ノ髮ヲ頂ニ束ネ、更ニ曲ゲテ髷トはけトヲ作レルモノ。卽チ、維新前、吾ガ國ノ貴賤男子ノ一般ノ髮風ナリキ。俗ニ、野郎頭(ヤラウアタマ)。諸例集(天正、小笠原貞慶)六「半髮者、若年ニ而、袖留、半髮之事ニ而者無之儀ト存ジ候」

はんぱつ (名) [反撥] ハネカヘスコト。

はんぱつりょく (名) [反撥力] ハネカヘスカ。反撥シテ、ウケツケザル力。

はんはん (副) [半半] 半分半分。五分五分。半分ヅツ。

はんばん (名) [半晚] 禪家ニテ、午時ト晡時(晚方)トノ中間ノ稱。備用清規、知浴「半晚、浴頭覆首座方丈維那、鳴鼓三下」

はんぱん (副) [汎汎泛泛汎汎] (一)浮ブ狀、又、流ルル狀ニ云フ語。詩經、邶風、二子乘舟篇「二子乘舟、汎汎其景」屈原、卜居篇「將汎汎若水中之鳧、與波上下、偸以全吾軀乎」漢書、禮樂志、郊祀歌、天門「泛泛滇滇從高斿」 (二)輕輕シキ狀ニ云フ語。太平記、十九、相摸次郎時行勅免事「我ガ朝ニハ義朝、其ノ外泛泛タル類、勝ゲテ計フベカラズ」

ばんはん (名) [晚飯] ユフメシ。晚食晚餐 顧瑛詩「人家溪樹中、晚飯花樓前」

ばんばん (副) [盤盤] メグリメグル狀ニ云フ語。李白詩、蜀道難「青泥何盤盤、百步九折縈巖巒」薔曲、鳳賦「趙飛宮二宮ニ見レバ、宮殿盤盤トシテ更ニ涯際モナク」

ばんばん (副) [萬萬] (一)十分ニ。讀ク。ルコトナク。「萬萬違フ」 (二)全ク。決シテ。「萬萬ナシ」 (三)遙ニマサレル狀ニ云フ語。漢書、趙皇后傳「孝成皇帝念思、所以萬萬於衆臣」

ばんぱん (名) [萬般] サマザマ。イロイロ。百般。諸杜牧詩「一宿寄亭事萬般」杜牧詩「跡去夢一覺、年來事萬般」

ばんばんいつ (副) [萬萬一] まんまんいち(萬萬一)ニ同ジ。

はんび (名) [半日] (一)てうび(調日)ノ條ヲ見ヨ。(二)調半。てう(調)ノ條ノ(三)、及、てうばみ(調半)ノ條ヲ見ヨ。

はんぴ (名) [半臂] 兩袖ノ幅、極メテ狹キ衣ニテ、束帶ノ時ニ、袍ト下襲(シタガサネ)トノ間ニ用キルモノ。ハニヒ。又、ハッピ。倭名抄、十二ノ八、衣服類「半臂、此間名如字、衣名也」名義抄「半臂、ハンピ」蓮阿口傳抄、一「束帶著次第、或ハ半臂重テ忘緖ニテ可結之、次ニ半臂忘緖ノワナヲ左ニアテテ、イタクツヨカラヌ程ニ結之」關八州繫馬(享保、近松作)一「坂田ノ公時、籐の役、半臂ニ腹卷、烏帽子懸ケシ」

はんびたひ(ハンビタイ) (名) [半額] あつびたひ(厚額)ノ條ヲ見ヨ。禁秘御抄、上「御冠、云云、半額トハ厚額ニハアラズ、又、透額ニモアラヌ也」

はんぴゃく (名) [凡百] モロモロ。カズカズ。百般。諸般。詩經、小雅、祈父之什、雨無正篇「凡百君子、各敬爾身、胡不相畏、不畏于天」應瑒詩「凡百敬爾位、以副飢渴懷」

はんびらき (名) [半開] 花ノ半バ咲キタルコト。はんかい(半開)ノ條ヲモ見ヨ。

はんびらけ (名) [半開] 國民ノ開化ノ十分ナラヌコト。はんかい(半開)ノ條ヲモ見ヨ。

はんぴれい (名) [反比例] 數學ニテ、互ニ相關聯シテ變化スル二量アリテ、一方ガn倍ニ增大スル時、他方ガ$\frac{1}{n}$倍ニ減少スル二量ノ關係ヲ云フ。ひれい(比例)ノ條ヲモ見ヨ。

はんぶ (名) [繁蕪] (一)雜草ナドノ生ヒ茂ルコト。(二)事柄ノ妄リニ多クシテ、簡易ナラザルコト。晉書、刑法志「令律繁蕪、未經纂集」唐明皇、孝經序「安得不翦其繁蕪、而撮其樞要也」

はんぶ (名) [半分] 〔一分ノ半分ノ義〕勤銀(ツトメギン)ナル下位ノ遊女ヲ云フ。ツケ。傾城酒呑童子(享保、近松作)四「遊君ニ籠メシ賤屋坊、はんぶ御傾城、弓モ引キ方刺ノ客、云フモアリ」

はんぷ (名) [頒布] ワカチクバルコト。配布スルコト。「法令ノ頒布」

ばんぷ (名) [萬夫] 多クノ男。易經、繫辭、下傳「君子知微知彰、知柔知剛、萬夫之望」李白、上韓荊州書「雖長不滿七尺、而心雄萬夫」「萬夫不當」

はんぷう (名) [瘢風] 〔玉篇「瘢、瘡痕也」〕疵ノ癒エタル痕(アト)ノ、なまづはだ(癜風)ノ如キモノ。

はんぷう (名) [半風] 〔虱(虱ハ蝨ノ省字)ハ風ノ半ナリ〕半風子ノ略。しらみ(蝨)ノ異名。易林節用集(慶長)上、氣形門「半風、虱(シラミ)ヲ云フ」和漢三才圖會、五十二、卵生類「蝨、云云、按、蝨字、俗作虱、故稱半風」

はんぷく (名) [反覆] (一)ウラガヘスコト。漢書、陸賈傳「殺下降漢、如反覆手」 (二)變心シテ、信義ヲ破ルコト。漢書、

韓信傳「習令[illegible]、反覆之間、不[illegible]復[illegible]以[illegible]之、其[illegible]不[illegible]定」 (三)次條ノ語ニ同ジ。

はん・ぷく (名) [半腹] 山ノ中程ノ處。中腹。山腹。半嶺。 蘇[illegible]詩「[illegible]、[illegible]半腹」 [illegible]世[illegible]「[illegible]山半腹之間」

はん・ぷく (名) [反復] クリカヘスコト。タビタビスルコト、反覆。 易經、上經、復卦「反二復其道一、七日來復」 淮南子、精神訓「是故其[illegible]不[illegible]學、其智不[illegible]、其[illegible]不[illegible]抑、其[illegible]不[illegible]、反復終始、不[illegible]知二其端緒一」 蘇軾詩「歲月如二宿昔一、人事幾反復」

はん・ぷく (名) [叛服] ソムクト、シタガフト。「叛服常ナシ」

ばん・ぷく (名) [萬福] 福多キコト。幸ノ足ラヒタルコト、多幸。多福 詩經、小雅、白華之什、蓼蕭篇「和鸞雝雝、萬福攸同」 韓愈、與二孟尙書一書「眠食何似、伏惟萬福」

ばん・ぶつ (名) [萬物] ヨロヅノモノ。宇宙間ノアラユルモノ。バンモツ。 書經、泰誓、上篇「惟天地萬物父母、惟人萬物之靈」 易經、繫辭、下傳「始作二八卦一、以通二神明之德一、以類二萬物之情一」 莊子、齊物論篇「天地與レ我並生、而萬物與レ我爲レ一」 淮南子、[illegible]訓「四時未レ分、萬物未レ生」

ばん・ぶね (名) [番舟] 他ノ地方ヨリ入港スル船ヲ番スルモノ。哨船

ばん・ぷ・ふ・たう (句) [萬夫不當] 萬人ニテモ敵スベカラズ

はん・ぶん (名) [半分] フタツワケ。ナカバ。 王安石詩「一曲[illegible]蓮、古[illegible]、半分[illegible]」 [illegible] 狂言記、[illegible]「[illegible]ダイブ布[illegible]ル事ヂャ、ワコリニモ、半分ハ[illegible]分シテヤロゾ」

はん・ぶん (名) [繁文] 規則ノ箇條、多クシテ、煩ハシキコト。 [illegible]、[illegible]「[illegible]文[illegible]之[illegible]、[illegible]二[illegible]文[illegible]」

はん・ぶん・ぽゅ・くれい (名) [繁文縟禮] 規則、又ハ、禮節ノクダクダシク、煩ハシキコト。煩ハシキ條文法則ト、クダクダシキ禮儀作法ト。略シテ、繁縟。

はん・ぺい (名) [半平] 〔慶長中、駿府ノ廚人、創製者ノ名ニ起ル(半片ノ條ノ出典ヲ見ヨ)〕 魚肉ヲ叩キテ、蒸シテ製セル食物。蒲鉾ニ似テ、甚ダヤハラカナリ、訛シテ、はんぺん。 [illegible]長[illegible](安政、[illegible])四「竹輪、云云、二ツニ割リテ板ニツケタルヲ半片ト云ヒ、云云、後ニ蒲鉾ト云ヒ習ハセシガ、京師ニテハ、其ノ名殘リテ半平ト云フモノアリ(浪花ニテすりみト云フ物ナリ)」 守貞漫稿、廿八、食類「半平、江戸ノ半平ハ、半圓ト方形ト二種アリ」

はん・ぺい (名) [藩屏] (一)垣。マガキ。 (二)守護トナルモノ。藩籬。藩翰。 左傳、僖公廿四年「故封二建親戚一、以蕃二屛周一」「皇室ノ藩屛」

ばん・ぺい (名) [番兵] 張番ヲスル兵。守衛ノ兵、番卒。衛兵 歩哨 [illegible]、[illegible]記「安土ニ至リケルニ、番兵ハナク」

はん・ぺき (名) [反璧] 〔璧ヲ返ス義、出典ノ故事ヨリ出ヅ〕 人ヨリノ贈物ヲ、辭退スルコト。 左傳、僖公廿三年「乃[illegible]、[illegible]二[illegible]、公子受レ飧反レ璧」 潘岳、西征賦「[illegible]二江使之反[illegible]、[illegible]亡[illegible]、[illegible]」

ばん・べつ (名) [蕃別] くゎうべつ(皇別)ノ條ヲ見ヨ。

はん・ぺん (名) [半片] 〔はんぺい(半平)ノ訛〕 はんぺい(半平)ニ同ジ。又、あんぺい(安平)ト云フ物モ、此一種ナリ。 (出典ヲ見ヨ) [illegible]「屋代[illegible]池云、同ジ肉糕ノ種類ニ、はんぺんト云フアリ、慶長中、駿府ノ膳夫半平ト云フモノニ始ル」 [illegible]「[illegible](安政、[illegible])[illegible]二[illegible]半片[illegible]、[illegible]モノニ、浪花ニテ[illegible]ヲカケ[illegible]グニ、[illegible]安[illegible]」

リ、コレ半片ニ餡ヲカクルヨリシテノ名ナルベシ」

はん・ぺん (名) [半片] 一片ノ半分。 [illegible] 笑(元和、安樂庵策傳)ニ「和州ヨリ出ヅルホデンント云フ瓜、云云、半片ヲ食ス、其味、蜜ノ如シ」

はん・べ・り (動) [侍] (一)はべり(侍)ノ音便。其條ヲ(一)ニ同ジ。 神武紀、二年、[illegible]「[illegible]」 (二)はべり(侍)ノ條ノ(三)ニ同ジ。 神代紀、下、[illegible]「[illegible]」 允恭紀、五年七月「[illegible]人[illegible]無レ闕、唯玉田宿禰[illegible]之也」

はん・ぽ (名) [反哺] 〔反シ哺スル意〕 雛ノ鳥、成長シテ、食ヲ親鳥ニ哺リ、其養育ノ恩ニ報ユルコト。 [illegible]「[illegible]」

はん・ぽ・の・かう (句) [反哺孝] 前條ヲ見ヨ。 慈元抄、六「鳩ニ三枝ノ禮有リ、烏ニ反哺の孝アリ、鵓鴿列ヲ不レ亂、羔羊跪テ乳ヲ吞ムト云ヘリ」 [illegible]「[illegible]、烏ニ反哺の孝アリ」

はん・ぼ・ほ (名) [illegible] 一種ニシテ、[illegible] 記、十七、山門攻事「指ノサキマデ鎖リタル、[illegible]」 [illegible]

はん・ぽん (名) [版本] [illegible] 之、當時是ヲ板本ト云フ、宋代ノ[illegible]ナリ」 [illegible]

史、[illegible]、[illegible]」

はん・ま (名) [半間] ドチラニモ用ヲナサヌコト。外レテ居ルコト。ハシタ。

はん・ま・ちどり (名) [濱千鳥] [illegible] (濱千鳥)ノ音便。 [illegible]「[illegible]」 又、はんま千鳥ノ、[illegible]リバナト[illegible]

はん・みち (名) [半道] (一)一里ノ半分。(里ノ條ヲ見ヨ) [illegible] 「ナウ、[illegible]リモ、マダ[illegible]、[illegible]」 (二)[illegible] 半バ。半途。

はん・みん (名) [illegible] [illegible]民。オホミタカラ。人民 [illegible]

はん・みやう (名) [反名] かへしな 反名 [illegible] 妹子ヲ因高、[illegible]、馬飼ヲ宇合ト云フノ類。

はん・む (名) [繁務] シゲキツトメ。用事[illegible]

はん・めい (名) [判明] ハッキリワカルコト。アキラカニナルコト。

はん・めい (名) [反面] [illegible]

はん-めう（名）斑猫　蟲ノ名。舶來多シ、和産モアリ、豆葉ノ上ニ生ズ、大キサ巴豆ノ如ク、長サ五六分、乃至、一寸、甲アリテ、赤黄ト黒トノ斑アリ。腹、黒ク、首ニ兩ノ短キ鬚アリ、翅ハ綠色ニ黒キ斑紋アリ。惡臭アリテ、劇毒ノ藥料トス。カイダウドホリ。斑蝥　又、青斑猫、土斑猫、豆斑猫、道敎（又、ミチシルベ）等アリ。各條ニ註ス。和漢三才圖會、五十二「卵生類　斑猫、按、人食ニ豆葉ニ者、能擇取宜ニ淨洗一、恐有ニ斑猫毒一、夏秋出ニ於園圃一、飛ニ道街一五六尺而止、止則必顧ニ後、但倭斑猫毒、不レ如ニ外國者之甚一也、雖有ニ古方藥用一之、香然不レ可ニ轉用一也」

ばん-めし（名）晩飯　晩方ノ食事。ユフメシ。ユフハン。ユフゲ。（朝飯ニ對ス、二食ノ條、見合ハスベシ）晩餐

はん-めん（名）半面　（一）顏面ノ半分。南史、后妃傳「梁元帝徐妃、云云、以ニ帝眇ニ一目一、毎知ニ帝將ニ至、必爲ニ半面妝一以俟、帝大怒而去」字類抄「半面、ハタカクル」（二）カタツラ。カタカタ。一方。（三）隱レ忍ブコト。吾妻鏡、十五、建久六年六月十四日「貞兼、日者半ニ面西都一、云云、凡夜與無ニ所ニ被ニ搜求一也」

はんめん-しき（名）半面識　マヘカタ一度會ヒテ、顏ニ見覺エノアルコト。下ノ出典ヨリ出ヅ。又、半面の識。東觀漢記「應奉（…）、嘗詣ニ袁賀一、賀時適ニ出行一、閉門、造車匠子ニ開中一、出ニ半面一視、奉去、後數十年、于ニ路見ニ車匠一、識而呼レ之」白居易、與ニ元九一書「初應ニ進士一時、中朝無ニ緦麻之親一、達官無ニ半面之識一」

はん-も（名）繁茂　蕃茂　草木ノオヒシゲルコト。潘岳、射雉賦「蕃林蓊茂、蜿蟺相糾」宋史、郭進傳「進嘗於ニ貴門前一植レ柳、濃中植ニ荷、蕃蕪ニ後、官至ニ茂、郡民見レ之、有ニ垂レ涙者一」蘇軾詩「蕃茂孚ニ新春一」

はん-もく（名）反目　ニラミアフコト。仲悪シキコト、目ヲソバムルコト。反眼。易經、小畜卦「夫妻反目、不レ能レ正レ室也」

ばんもく-べつ（名）番木鼈　植物ノ名。まちん（馬錢）ニ同ジ。

はん-もつ（名）判物　〔領地附與ノ文書ニ、朱印、黒印等ノ判アレバ名アリ〕又、はんもの。昔、主君ヨリ臣下ヘ知行幾何石宛行ヒ、全ク領知スベキ旨ヲ證シテ與フル文書。甲斐國志、百十九、附錄「西郡加賀美村法善寺所藏、他寺社所レ藏御判物、皆多カラズ、寺常所レ賜ハ福德御朱印、但取次人名ナキモノハ、稱ニ之御直判一ナリ、諸士ニモ賜レ之」

ばん-もつ（名）萬物　ばんぶつ（萬物）ニ同ジ。出世景清（貞享、近松作）一「春ハ東ニ立チソムル、コレ萬物ノ始ナリ」

ハンモック（名）〔英語、Hammock.〕兩端ヲ高キ處ニ結ビ付ケ、其中ニ身體ノ横タヘラルルヤウ、細長ク造リタル網。太キ緒ニテ編ム。ツリドコ。

はん-もと（名）版元　圖書ノ出版元。圖書ノ版權ヲ所有スル主。版木ノ主。版木ヲ製シ出ス家。發行元。發行人。東海道中膝栗毛（享和、一九）發端、序「人喰馬ニモ相口ノ版元、太鼓ヲ打ッテ賣弘メタル故」

はん-もの（名）判物　はんもつ（判物）ニ同ジ。

はんもの-さう（名）半物草　〔半物草履ノ略〕尻切ノ類。又、はんものぐさ。あしなか（足半）ニ同ジ。盛衰記、三十六、鷲尾一谷案内者事「猿ノ皮ノ■、鹿矢アマタ指シテ、半物草ヲゾハキタリケル」

はん-もん（名）反問　（一）問ヒ返スコト。（二）謀叛ノシラセ。名物六帖（伊藤東涯）四、人事箋「反問、ムホンノサタ」

はん-もん（名）煩悶　モダエ、ワヅラフコト。悶エ、苦ムコト。ヤキモキ思フコト。アセルコト。焦慮。煩懣。懊惱。苦悶。白居易詩「宅小人煩悶、泥深馬鈍頑」

はん-もん（名）煩懣　（一）前條ノ語ニ同ジ。史記、倉公傳「煩懣食不レ下、則絡脈有レ過」（二）胸ノ煩ヒニ、悶エ苦ムコト。三國志、魏志、華佗傳「廣陵太守陳登得レ病、胸中煩懣、面赤不レ食」

はん-もん（名）斑紋　斑文　マダラノ模樣。ノ。ブチ。トラフ。斑點。歐陽脩詩「紫心青調可レ愛、中有ニ小斑紋一、中廣上下帶員、形若ニ棗核一」

はん-もん（名）半文　きなか（半錢）ニ同ジ。

はん-ももひき（名）半股引　股引ノ、短クシテ、膝ノアタリ迄ヲ被フモノ。ももひき（股引）ノ條ヲモ見ヨ。

はん-や（名）半夜　（一）眞夜ナカ。ヨハ。夜半。中夜。中宵。宋史、呂言傳「陳象與ニ胡旦董儼一、皆呂言同レ年、日夕會ニ呂言之第一、京師爲ニ之語一、曰ニ陳三更、董半夜一」（韻文）耿湋詩「雲開半夜千林靜、月上中峯萬壑明」（二）遊里ノ語。半夜女ノ略。下ノ出典ヲ見ヨ。色道大鑑（延寶）名目門「半夜、鬮職ノ女ヲ晝夜ニ分ケタルモノ也、サレドモ、鬮職ノ傾城ヲ分ケテ賣ルニハアラズ、外ニ半夜女アリ、兼約スル時ハ鬮職ノ節ナリ、晝夜居續ケテモ、鬮職ニヒトシ、晝ト夜ト分ケテ逢フ時ハ、半夜ノカハリメ有リ」（三）一夜ヲ二分シテ、其一方。夜ノ半分。「半夜交替」

ばん-や（名）番屋　番人ノ詰所。番所。建武年間記「一、番屋事、爲ニ夜人之沙汰一、不日可ニ造進一云云」好色一代女（貞享、西鶴）六「往來ノ提灯ヲ待合ハセ、又ハ番屋ノ行燈ノ影ニ連レ行キ、假ナル事ニモ吟味ムク」

ぱんや（名）モト奈良ノ木辻町ノ遊女屋ニテ、首座ノ娼妓ノ稱。

パンヤ（名）斑枝花　〔葡國ノ名ト云フ。馬來語、ぱにあら。沖繩語、ファンヤ〕（一）熱地ノ産。木綿科ノ常綠喬木ノ實ヨリ生ズル絮。舶來ス。樹ハ高サ十丈餘ニ達シ、葉ハ五ツノ小葉ヨリ成ル掌狀複葉ニシテ、小葉ハ廣キ披針形ヲナス。花ハ椿ニ似テ白ク、實ノ外ノ皮ハ、ががいも（羅摩）ノ實ノ皮ニ似テ、長大ナリ。中心ニ白瓤アリ、其周ニ絮アリ、絮ノ中ニ、子多シ、大キサ三分許リ、圓クシテ黒褐色ナリ。絮ノ形ハ、ががいもノ絮ノ如ク、白クシテ光ル、絲トスベカラズ、蒲團ニ入レテ佳ナリ。本草綱目「古貝、吉貝ハ、一名、斑枝花」草木通略、廣東有ニ木綿、斑枝花、瓊州」唐船噺今國性爺（享保、近松作）「引カレ惱マサレ、タワイナク、ぱんやノ如クナリタルヲ、引起シテ、兩腕グット引拔キ」（二）又、ががいも（羅摩）ノ絮ノ稱。

はんや-をんな（名）半夜女　はんや（半夜）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

ばん-ゆう（名）蠻勇　野蠻ナル勇氣。理非ヲワキマヘズニ突進スルコト。

はん-よう（名）繁用　用事ノシゲキコト。多忙ナルコト。繁務　繁忙

ばん-らい（名）萬籟　風ノ吹キテ、種種ノ物ノ鳴ル聲。姚察詩「含レ風萬籟響、裛レ露百花鮮」常建詩「萬籟此俱寂、惟聞鐘磬音」孔平仲詩「微風搖ニ晩色一、爽氣同ニ萬籟一」

はん-らう（名）煩勞　心身ヲ用ヰワヅラフコト。ワヅラヒ、ツカルルコト。後漢書、明帝紀「京師冬無ニ宿雪一、春不ニ燠沐一、煩ニ勞羣司一、積ニ精禱求一」李白詩「阻ニ積雪一兮心煩勞」張衡、四愁詩「路遠莫レ致倚ニ逍遙一、何爲懷レ憂心煩勞」

はんらん（名）[氾濫・汎濫] 水ノミナギリアフルルコト。水ノアフレ廣ガルコト。「孟子、滕文公、上」[illegible]

はんらん（名）[叛亂・反亂] 叛キテ、亂ヲ起スコト。謀叛ノサワギ。[illegible]「[illegible]叛亂者」

はんり（名）[藩籬] はんぺい（藩屏）ニ同ジ。「左傳、昭公廿四年、[illegible]」

ばんり（名）[萬里] 一里ノ萬倍。一萬里。遠方。「後漢書、[illegible]」

ばんりいちでうてつ（句）[萬里一條鐵] 「萬里ノ間モ、一條ノ鐵ヲ以テ貫通スル意」又、萬里鐵一條。俗人ノ入道發心ノ時ノ精神ヲ喩ヘテ云フ語[illegible]

ばんりどうふう（句）[萬里同風] 「萬里、風俗ヲ同ジクスル意」天下ノ統一セラレテ、太平ナル状ヲ云フ。千里同風。[illegible]

はんりやう（名）[半兩] 支那ノ秦ノ世ニ鑄タル銅錢ノ名。孔ノ左右ニ半兩ノ字アリ。兩ノ半、即チ、八銖ナリ。後、漢ノ世ニ鑄タルモアリ。[illegible]

ばんりやう（名）[illegible] クビカミ。ツツエリ。マルエリ。袍、水干ナドノ頸ノ、圓ク仕立テタルモノノ稱。又、素袍ナドノ領ノ、方形ニ仕立テタルヲ垂領、又ハ、方領トモ云フ。又、[illegible]

はんりよ（名）[伴侶] 伴侶。ツレ。トモ。[illegible]

はんりよう（名）[攀龍] 「後漢書、光武紀」「天下士大夫、捐親戚、棄土壤、從大王於矢石之間者、其計固望其攀龍鱗、附鳳翼、以成其所志耳」勢力アルモノニスガリテ、立身スルコト。附鳳。[illegible]

ばんりよう（名）[蟠龍] 地ニワダカマリテ、天ニ昇ラザル龍。[illegible]

ばんりよく（名）[萬綠] 見渡ス限リ、綠色ナルコト。樹木ノ青青ト茂リ連レルニ云フ。萬綠叢中紅一點トハ、青青トシタル中ニ、唯一ツ赤キ花ノ開キ居ルコト。轉ジテ、多クノ男子ノ中ニ、一人ノ婦人ノ混ジ居ル形容ニ用ヰル。一點紅。[illegible]

はんるゐ（名）[煩累] ワヅラハシキコト。[illegible]

はんれい（名）[illegible] [illegible]ニ同ジ。[illegible]

はんれい（名）[凡例] 「杜預、左傳序、其發凡以言例、皆經國之常制、周公之垂法、史書之舊章、仲尼從而脩之、以成一經之通體」著書ノ初ニ、編輯ノ大[illegible]

[illegible]

はんゐ（名）[illegible] へんゐ（[illegible]）ヲ見ヨ。

はんゐ（名）[班位] （一）クラヰ。階級。[illegible] （二）[illegible]。順序。

ばんゑ（名）[illegible] （一）[illegible]曲圖文ヲ云フ。[illegible] 又、蒔繪ニモ云フ。[illegible]

[illegible]

はめつ（名）[破滅] ヤブレ、ホロブルコト。

ト。又、破リ、ホロボスコト。滅亡。漢書、王莽傳「合樂ニ明淸ニ皆侵滅」後漢書、孝和帝紀「北狄破滅、名王仍降、西域諸國、納質內附」盛衰記、廿四、佛法破滅ノ事「敎法ノ貴キ事ヲ不知シテ、是レヲ破滅セントセシカドモ」女殺油地獄(享保、近松作)下「此ノ金親仁ノ難義ニ掛クルコト、不幸ノヌリ上ゲ、身上ノ破滅、思ヒ廻セバ、死ヌルニモ死ナレズ」

ば-めん（名）［馬面］（一）馬ノ顏。（二）うまがほ(馬顏)ニ同ジ。ウマヅラ。（三）軍馬ノ頭面ヲ覆フモノ。うまよろひ(馬鎧)ノ條ヲモ見ヨ。柴田退治記「遼路懸走岡、長旗、差物、馬面、鐙、懸引拂」

※は-める（動）［食］はむ(食、下二)ノ口語。

はも（名）［鱧］〔古名、はむノ轉、海鰻ノ唐音ト云フハ附會ナリ。沖繩ニテ、うみんなじ〕古名、ハム。魚ノ名。畿內、中國ノ海ニ多シ。形、うなぎ(鰻)ニ似テ大キク、灰色ニシテ、腹、白ク、鬐、長ク尖リテ、齒多シ。背鰭アリテ尾ニ連ル。大ナルハ長サ三四尺、肉ニ小骨多シ。味、淡甘ニシテ、蒲鉾ニシテ佳ナリトシ、或ハ、生、炙、共ニ食フ。海鰻鱺

は-もじ（副）はづかし(恥)ノ文字詞。おはもじ(御は文字)ノ條ヲ見ヨ。加增曾我(寶永、近松作)一「箱王ハ初事ノ傾城ニ顏見ラレ、クソソト紅葉ノはもじサニ、ハヤフ元服サセテタモト、濃ヒ聲シテ云フ振リニ」

は-もち（名）［葉餠］木ノ葉ニ包ミタル餠。カシハ餠、サクラ餠ノ類。

は-もの（名）［刃物］刃ノアルモノ。キレモノ。狂言記、惡坊「ハハ、マヅ刃物ハ取リマシタ、マタ刀カアル程ニ、コレモ取リマセウズ」日本永代藏(貞享、西鶴)一「ソレモ分散ニアヘバ、衣類、刃物モ、ミナ人手ニワタリテ」

は-もの（名）［端物］零餘ナル物。缺ケテ、ハシタトナリタルモノ。

はもの-ザンマイ（名）［刃物三昧］ヤヤトモスレバ、刃物ヲフリマハスコト。假名文章娘節用(天保、曲山人)前編、下「コレ何ヲスル、アブネエワ、人オドシノ刃物三昧カ」

は-もん（名）［波紋］［波文］波ノ形。波狀ノアヤ。吳維嶽詩「花源何處令、翠竹擁二波紋一」白居易詩「柳無二氣力一條先動、池有二波文一氷盡開」

は-もん（名）［破門］（一）師ノ門ヨリ逐ハレ、弟子タル義ヲ絕タルルコト。滑稽發句類題集(文化、壽行堂撰)上「三味ノ弟子、破門ノ分ハ、師ヲクドキ」（二）宗門ヨリ斥ケラレ、信徒タル資格ヲ奪ハルルコト。

※はもり-の-かみ（名）［葉守神］樹木ヲ守護スルト云フ神。葉ヲ守リテ、落シタマハヌ神。柏木ノ條ヲモ見ヨ。樹神　枕草子、三、廿四段「柏木、イトヲカシ、はもりのかみノマスラムモ、イトカシコシ」源、三十五、柏木四十「柏木ニ、葉守の神ハ、マサズトモ、人ナラスベキ、宿ノコズヱカ」大和物語、上「カシハ木ニ、葉守の神ノ、マシケルヲ、知ラデゾ折リシ、タタリナサルナ」新古今集、六、冬「時シモアレ、冬ハはもりの、神無月、マバラニナリヌ、森ノ柏木」同、同「玉柏、シゲリニケリナ、五月雨、はもりの神ノ、シメハフルマデ」涅槃經、如來性起品「譬如二樹神依レ樹而住一、不レ得三定言二依レ枝依レ節依レ莖依レ葉一、雖レ無二定所一不レ得レ言レ無」箋注倭名抄、一「神靈類「樹神、古多萬」

は-や（名）［甲矢］〔端矢ノ義〕一手二本ノ矢ノ、初ニ射ル矢ノ稱。次ニ射ルヲ乙矢ト云フ。山槐記、保元四年正月十八日、注「始矢註レ端、乙矢註レ奧、已上三度也」著聞集、九、弓矢「矢ヲトラセタリケレバ、突立チテはやヲ射ルニ、前ノ串ニアタリヌ、云云、乙矢ニテ、又後ノ串ヲ射テケリ」百合若大臣野守鑑(寶永、近松作)一「雄鷹ノ香取丸ニテ、甲矢ヲ矧ギ、雌鷹緣丸ニテ乙矢ヲ矧ギ」

はや（名）魚ノ名。はえ(鮠)ニ同ジ。まるた(丸太)ノ子。(東京)

はや（名）［早］（一）はやうち(早打)ノ略。（二）はやおひ(早追)ノ略。

※はや（副）［早］（一）旣ニ。疾クニ。モハヤ。(過去ニ)旣　萬葉集、四廿四「コノ夜ラノ、早開ケヌレバ、スベナミ、秋ノモモ夜ヲ、ネカヒツルカモ」(略解訓)拾遺集、一、春「昨日コソ、年ハ暮レシカ、春霞、春日ノ山ニ、はや立チニケリ」新古今集、五、秋、下「秋ノ夜ハ、はや長月ニ、ナリニケリ、コトワリナレヤ、寐覺メセラルル」風雅集、十七、雜、下「忘ラレヌ、涙ハ同ジ、タモトニテ、はや七年ノ、秋モ來ニケリ」（二）疾ク。スミヤカニ。急急　萬葉集、一廿六「アリネヨシ、對馬ノ渡リ、海中ニ、幣取向ケテ、早還リコネ」同、同廿六「イザ子等、早日本邊ニ、大伴ノ、御津ノ濱松、待チ戀ヒヌラム」同、十八「アサナサナ、吾ガ見ル柳、鶯ノ、來居テ鳴クベキ、森ニ早成レ」伊勢物語、五「渡守、はや舟ニ乘レ、日モ暮レナムトイフニ」源順集「ケサ見レバ、ウツロヒニケリ、女郞花、ワレニマカセテ、秋ハはや行ケ」

※はや（感）感歎ノ意ノ感動詞。物ヲ思ヒテ、深ク歎クトキニ用ヰル。古事記、中(景行)五十二「阿豆麻波夜」同、同五十五「少女(宮酢媛)ノ、床ノ邊ニ、我ガ置キシ、劍ノ大刀、ソノ大刀、波夜」允恭紀、四十二年十一月「宇泥咩巴椰、彌彌巴椰、是未レ習二風俗之言語一、故訛二畝傍山一謂二宇泥咩一、訛二耳成山一謂二瀰瀰一耳」仁賢紀、六年九月「吾夫何怜矣」注「此云二阿我圖摩播耶一」源、十二、須磨三十八「イザリセムトハ思ハサリシはや」拾遺集、六、別「君ガ住ム、屋戶ノ梢ノ、行ク行クト、隱ルルマデニ、顧ミシはや」

※ば-や（感）願フ意ノ感動詞。「行カばや」見ばや」此ノ「行カバ」見バ」ハ動詞ノ接續法ノ將然ニテ、聞ニ「善ケム」ナド云フ意アルヲ略シテ、感動詞ノやニ接シタルナリ。サレド、今ハ、姑ク、一語トス。更級日記「大納言殿ニ知ラセ奉ラばやト云ヒカクレバ」古今集、五、秋、下「心アテニ、折ラばやヲラム、初霜ノ、置キマドハセル、白菊ノ花」續拾遺集、十六、雜、上「今モマタ、行キテモ見ばや、石ノ上、布留ノ瀧ツ瀨、アトヲ尋ネテ」

はや-あし（名）［早足］（一）路行クコトノ速ナルコト。イチアシ。健步　平治物語、三、牛若奧州下事「僧正カ谷ニテ、天狗ト夜ナ夜ナ兵法ヲ習フト、云云、サレバ早足、飛越、人間ノ業トハ覺エズ」（二）急ギ行クコト。急步

はや-いと（名）［早絲］絲車ト紡錘トニ互シカクル索。シラベイト。早緖。紡車絃

はやい-はなしが（副）［早話］コレヲ要スルニ。カイツマムデ云ヘバ。

※はや-うた（名）［早歌］神樂歌ノ曲ノ名。木歌モ末歌モ、各、短ク、一二句ヅツニテ、合ハセタルモノ。十二聯アリ。調子ニ合ハセテ早ク歌フカ。外ナルハ、永メテ歌フ　神樂歌、早歌「アカガリ踏ムナ、シリナル子、ワレモ目ハアリ、サキナル子」北山抄、五、大嘗會「悠紀國奏二國風一四成(其聲似二神歌一遲、主基丹波國奏二早歌一)」

はや-うち（名）［早打］（一）馬ヲ馳セテ急事ノ使スルコト　略シテ、はや。急騎　新六帖、二「はやうちノ、驛ツタヒノ、東路ハ、遠キモ近キ、サカヒナリケリ」（二）幕府ノ急使。傳馬役司ル。江戶老中ヨリ京都ノ所司代ヘ、最モ至急ヲ要スル書狀ハ、一晝夜ナルベキヲ制トス。早打御狀箱ト云フ。（三）東海道中、宿次ニテ送ル人足一人ハ、小サキ葛籠ニ狀ヲ入レテ、棒先ニ付ケテ、擔ギ走ルモノ。一人ハ、白張提燈ヲ擔ギテ伴フ。又、おはやト云フ。

はやうち-かた（名）［早打肩］俄ニ肩ニ充血シテ、人事不省トナル病氣。ハヤカタ。肩胛充血　浮世風呂(文化、三馬)初編、上「刀豆ト肩ヘ書クガ能イ、ソレコソ早打肩ダァ」

はやうま (名) 早馬 早打チノ使ノ乘ル馬。ハユマ。ハイマ。急騎 [illegible]記、三十五、高綱渡宇治河事「源太、佐佐木、識者ヘ早馬ヲ立ツ、何レモ劣ラジ負ケジト馳セテ行ク、源太ガ早馬ハ先立チタリケルガ、如何シタリケン、足柄ノ中山ニテ、高綱ガ早馬先立チヌ」 吾妻鏡、五十、文應二年二月廿五日「早馬事、宿宿役、定二疋之建」 義經記、三、熊野別當亂行事「切部ノ王子ニ陣ヲ取テ、京ヘはや馬ヲ立テ申サレケレバ」

はやうり (名) 早瓜 普通ノ瓜ヨリ早ク出ヅル瓜カト云フ。 菅聞集、七、街道「五月一日、南部ヨリはやうりヲ奉リタリ」

はやおき (名) 早起 朝早ク起キ出ヅルコト。アカツキオキ。晨起 曉起

はやおひ (名) 早追 急事ノ使ノ、驛驛ノ人夫ニ、晝夜ヲ掛ケテ、駕籠ヲ急ガシムルモノ。略シテ、はや。飛使 碁盤太平記(寶永、近松作)「相州ノ馬方、三條堀川マデ、早追ノ通シニ來マシタ」

はやかた (名) 早肩 はやうちかた(早打肩)ノ略。其條ヲ見ヨ。

はやがってん (名) 早合點 一部始終ヲ了解セズシテ、直ニ合點スルコト。ハヤガテン。物事ヲ早ノミ込ミスルコト。ハヤノミコミ。がってん(合點)ノ條ヲモ見ヨ。 一茶句集「ウソ寒ヲ、早合點ノ、蜻蛉カナ」

はやがね (名) 早鐘 火災ナド、急事ヲ告グルニ、烈シク衝ク釣鐘ノ聲。又、半鐘ニモ云フ。急鐘 警鐘 元長卿記、大永五年二月二日「相國寺有二早鐘、未聞二子細、無覺束二」

はやかは (名) 早川 (一)流レノ早キ川。急流 萬葉集、[illegible]「ウツクシト、我レモフ心、速河ノ、セキトセクトモ、猶ヤクヅレム」 同、十六「[illegible]ニタヾミヲ、イ[illegible]、石モ[illegible]ツキ渡リ、早川ニ、洗ヒ濯ギテ」 夫木抄、廿四、河、はや川ノ、セキリアヤフキ、舟ワタリ、ソガヒニムカヘ、道遙クトモ」 (二)〔早川主馬ト云フ人、色ヨキフンドシ締メタルヨリ出ヅト〕 赤キ、フンドシノ稱。 [illegible]子集(滑稽)十「心ユルマル、たんなユルマル」早川ノ、水ニツレツツ、オヨギ越シ」

はやがはり (名) 早變 (一)手早ク、姿、服裝ナドヲ變ヘルコト。(二)歌舞伎ノ技ニ、瞬ク間ニ姿ヲ變ヘテ、一人ニテ二人ニ扮ツコト。 演劇[illegible]、二「早替リニ、目物ノ目ヲ驚カセシハ松助」

はやがふ (名) 早合 はやお(早具)ニ同ジ。

はやく (名) 端役 芝居ノハシタヤク。主要ナラザルモノ。末

はやく (名) 破約 約束ヲヤブルコト。契約ノ解除。

はやく (副) 早速 (一)スミヤカニ。イソギテ。 萬葉集、十[illegible]「ヌバタマノ、夜霧コモリテ、遠クトモ、妹ガ傳ヘハ、速告ゲコヨ」 同、十一「朝戸ヤリテ、速ナ開ケソ、アヂサハフ、目ノ(ガイ)欲ル君ガ、今宵來マセル」 土佐日記、十二月廿七日「己レシ酒ヲ食ラヒツレバ、早クイナントテ、潮ミチヌ、風モ吹キヌベシト騒ゲバ」 (二)過ギニシ、前ツカタニ。マヘカタヨリ。カネテ[illegible]ト。夙 後撰集、十七、雜、三「身ハ早く、ナキ物ノゴト、ナリニシヲ、キエセヌ物ハ、心ナリケリ」 躬恆集「吉野川、ヨシヤ人コソ、ツラカラメ、はやく言ヒテシ、事ハ忘レジ」 古今集打[illegible]はやくスミケルトコロニテ、郭公ノ啼ケルヲ聞テヨメル、[illegible]云云、はやく、[illegible]モ、昔トモ云ヘル如シ、歌ニはやく云ヒテシト云モ是也」(又、卽ノ意アリ)

はやくさ (名) 大[illegible] 又、ネビ[illegible] 今、[illegible]とうだい(高燈臺)ト云フ。其條ノ(二)ヲ見ヨ。 [illegible] (倭名抄、廿[illegible]モ同ジ) 字鏡[illegible]

はやけ (名) 早氣 [illegible]際ニ矢ノハナルルコト。コレニ反スルヲ、もたれト云フ。

はやけ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) ハッキリスルサマナリ。字鏡[illegible]「了了、分明也、波也介久」

はやお (名) 早具 [illegible]作[illegible]小[illegible]、火藥ヲ包[illegible]モノ。小銃ニ込ムルニ用ヰル。パトロン。早合。火藥包

はやこと (名) 早言 物言ヒノ疾キコト。ハヤクチ。ハヤコトバ。捷口

はやさあめ (名) 晴ルルカト見レバ、又、速ク降ル雨。字鏡[illegible]「凍、暴雨、波也佐安女」

はやざき (名) 早咲 花ノ、季節ヨリ早ク咲クコト。又、ソノ花。 長唄、京鹿子娘道成寺「ナニハ四スヂニカヨヒキツヂニ、カブロダチカラ、ムロノはやざき、ソレガホンニ色ジャエ」

はやざん (名) 早算 算盤ニテ、手早ク計算ヲ行フコト。[illegible]

はやさめ (名) 暴雨 ニハカアメ。ムラサメ。 [illegible] 久多美乃山

はやし (名) 林 〔生ノ義、樹木ヲ繁殖セシムル意〕[illegible] (一)樹木ヲ多ク植付ケテ、[illegible]「[illegible]、八也之」 萬葉集、[illegible]ノ、竹ノ波也之ニ、[illegible]ナクモ」 (二)物ノ多ク集マリタルコト。又、ソノモノ[illegible]詞の林ノ類。 萬葉集、七「[illegible]ニ、[illegible]波タチ、月ノ船、星ノ林ニ、漕ギカクル見ユ」 夫木抄、廿二、林、散リヌベキ、秋ノ林ノ、[illegible]ノ葉モ、ソナタノ風ヲ、待ツト知ラナン」

はやし (名) [illegible]

はやし (名) [illegible]

はやし (名) 囃子 (二)ハヤスコト。又、[illegible]

はや・し [illegible]

メヒ川ノ、淺夜役痛ゴトニ、カガリサシ、八十伴緒ハ、鵜川タチケリ」古今集、六、冬「昨日ト云ヒ、今日トクラシテ、飛鳥川、流レテ早キ、月日ナリケリ」(二)スルドシ。敏シ。敏　(三)先ナリ。初ナリ。早　夙　(四)未ダ、ソノ時期ニアラズ。時刻未ダ到ラズ。

はやしかた (名) 囃子方 (一)能、芝居ナドノ囃子ヲスル者。(二)唄ヲウタフ人。ウタウタヒ。(長唄、唄淨瑠璃、めりやすナド唄フモノ)(三)鳴物師 (三味線、笛、太鼓、大鼓、鼓)ノ總稱。オハヤシ、下座、シタカタ。

はやしおと (名) 囃子事 唄ナドウタヒテ、興ヲ添フルワザ。ハヤシモノ。ト養狂歌集(寛文)秋「興ノアマリニヤ、鏡トギト云フはやしおとヲシテ舞ヒケル」

はやしせん (名) 林錢 江戸時代、民有ノ林ニ課シタル税。地方凡例錄、二、森林、百姓林、無年貢ナレドモ、間ニハ林錢納ムル有リ」

はやしに (名) 早死 年若クシテ死スルコト。ワカジニ。早世 夭折 夭殤

はやしのかね (名) 林鐘 〔漢字ノ林鐘ヲ文字讀ニス。林鐘ノ條、參見セヨ〕陰暦、六月ノ異名。ミナヅキ。倭訓栞「はやしのかね、六月ノ異名ヲ林鐘ト云ヘリ」謠曲、舞車「水無月ノ、既ニ半モ杉ノ村立、林の鐘ノ音、名ニ聞クバカリ、暮レユク今日ノ祇園ノ祭」

はやしほ (名) 速潮 滿干ノ速カナル潮。おほしほ(大潮)ノ條ヲモ見ヨ。鷹井千首、春「はやしほノ、春ノ霞ノ、流レ江ニ、鶯カゲトマル、ヨハノ月カナ」

はやしまち (名) 囃子町 (一)芝居ノ樂屋ノ囃子方ノ居ル所。八笑人(文化、鯉丈)四、追加、上編「囃子町カラ二三人、下座幔ヲ以ッテキサッシ」(二)轉ジテ、囃子方ノ仲間。八笑人、四、追加、上編「囃子町ヤ鶏子ナンゾハ、役不足デ、マゼ、ケヘスモ仕方ガネエガ」

はやしもの (名) 囃子物 (一)はやしおと(囃子事)ニ同ジ。謠曲、籐榮「鳴尾殿ノ御坂迎ニ、囃子物ヲシテ御出デアルト中シ候」(二)囃子事ヲ職トスル人。狂言記、二千石「囃子物ヲ呼ビニヤラウカ」(三)年始ノ風流ナルモノ。(塩嚢鈔)下學集、下、態藝門「風流、日本俗、呼二拍子物一曰二風流一」齋藤基恆日記、嘉吉元年正月「諸大名幷奉公方、拍子物在レ之、云云、齋五兵照基等役レ召二加之一、成二唐人一了」看聞御記、應永廿三年八月十七日「桂地藏ヘ當所(伏見)地下人等、拍物參、云云、雖レ無二指風流一、出立美麗也、室町殿兵三十餘人、云云、練行、次、御幣持法師、次、棒振與面ヲ着ス、次、拍手三十餘人、色色風流之小笠、各持レ之」

はや・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 生 〔生ゆノ他動〕生ユルヤウニナス。成長セシム、ノバス。永久百首「賤ノ男ガ、カリテはやせル、岡ツツジ、若枝ニ花ノ、咲ニケルカナ」拾玉集、一、春「我ヤドノ、コズエヲはやす、アフヒコソ、賀茂ノ社ノ、メグミナリケレ」「草木ヲはやす」髮ヲはやす」爪ヲはやす」

はや・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 榮 勢ニ乘リテススムル。蜻蛉日記、中、上廿「ハシリ井ニハ、コレカレ馬打チはやしテ」

はや・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 囃 〔榮やす意。玉篇「囃、助レ舞聲」〕(一)人ノ立舞ヲ見テ褒ム。(二)聲ヲ出シテ歌曲ノ調ヲ助ク。聲ヲカケ、鼓、笛ノ音ヲ添ヘテ榮エシム。辨内侍日記「聲アル人人、手ヲ叩シテはやさレシカバ、兩貫主、十度バカリ舞ヒタリ」宇津保物語、樓上、上六十四「ヨロヅノ樂、笛ノ音ヲはやし、モロモロノオモシロキ聲ヲトトノヘタリ」曾我物語、六、五郎大磯ヘ行きし事「何トヤラン御座敷靜マリタリ、論ヘヤ殿原、囃せヤ舞ハントテ、既ニ座敷ヲ立チケレバ、面面ニコソ囃しケレ」(三)囃子ヲ奏ス。鼓吹 長唄、越後獅子「唄フモ舞フモ、はやすノモ」習道書(永享、世阿彌)「囃ノ役人ノ事、云云、何ヲモ一心ノ仕手ニ任セテ、云云、音力ノ手數ヲ饗シテ、はやし立ツベシ」(四)俗ニ、聲立テテ嘲ル。惡意ニ言ヒソヤス。

はや・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔正月ノ七種菜ニ「切る」ト云フヲ忌ミテ、音ニテ「囃す」ト云ヘルニ起レリト云フ〕細カニ切リキザム。切ル。(忌ミテ)剗 萬葉集、十四廿「上毛野、佐野ノ莖立、折り波夜志、アレハマタムヌ、今年コズトモ」參考、保元物語、三、新院御經沈附崩御事「崇徳院、御爪ヲモはやさズ、御髮ヲモ剃ラセ給ハデ」元服次第「髮ヲはやし候テ、烏帽子、素襖、袴ヲ着スルナリ」貞順故實集、元服の事「髮ノウラヲ柳ノ板ニ當テ候テ、三刀ニはやす也」下海集、明應二「下男ノ摺木モテ若菜ヲはやしケレバ」浦島年代記(元祿、近松作)二「丹後ノ生鯛、ト方ニモ、メジロト申シテアルケナレド、其美味サカ何トシテ、殊ニ切リオウケノアルコト、少シ薄目ニはやせバ、片身デ、六十人ノオカズハ覺エガゴザンス」「栄ヲはやす」香ヲはやす」香ノ物ヲはやす」

はや・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 稱揚 映エサス。褒メテ、面目アラシム。新拾遺集、二、春、下「常ヨリモ、珍ラシキカナ、白河ノ、花モテはやす、春ノ御幸ハ」源、二、帚木廿「カタキ世ゾトハ、サダメカネタルゾヤト、言ヒはやし給フ」枕草子、五、五十段「イトワロク鄙ビタリ、カカル所ニ來ヌル人ハ、ヨウセズバ、アルモナドセメイダシテコソマキルベケレ、ムゲニカクテハ其人ナラズ、ナドイヒテ取りはやし」宇治拾遺、四、第七條「イカデカ、味、マサラヌヤウハアラムナド、はやし言ヒケリ」

はやず (名) 早醋 粟、又、糯米ナドニテ製スル醋。藥用トス。コンズ。

はやずし (名) 早鮓 〔すしハ、モト醋ニ作リ、又、鮓、餡ニモ作ル〕いちやずし(一夜酢)ニ同ジ。難波江、四、鮓「松本鮓ハ直ニ出來ル故ニ、まちゃれすしト云ヒ、又、早鮓トモ云フナリ」太祇全集「早鮓ニ、平相國ノ、噂カナ」

はやすひ (名) 速吸 海峽ノ潮流ノ呑吐スルコト。神代紀、上「速吸名門」

はやせ (名) 早瀬 川ノ流ノ早キ所。瀬 急湍 早瀬 萬葉集、十九廿一「平瀨ニハ、サデサシワタシ、早湍ニハ、水鳥ヲカヅケツツ、月ニ日ニニ」新千載集、十五、戀、五「川舟ノ、はや瀬ニムカフ、綱弱ミ、心ハヒケド、タエヌベキカナ」

はやたつ (名) 川ノ異稱。八雲御抄「河、はやたつト云フ、喜撰式、若詠レ川時ハ、はやたつト云フ」堀河百首「淵瀬ヲモ、ソコトモ知ラヌ、はやたつノ、盛リ渡ル、川ノ流レハ」

はやち (名) 疾風 迅風 〔速風ノ義、ちハ風ノ古言〕俄ニ烈シク吹キ起ル風。ハヤテ。ハヤチカゼ。ハヤチノカゼ。野分ノ風ハ、疾風ノ一種ナリ。倭名抄、一、風雲類「暴風、八夜知、又、乃和木乃加世」神代紀、下三「遣二疾風一擧レ尸致レ天」神代紀、廿「汝兄渉レ海時、吾必起二迅風洪濤一、令二其沒溺辛苦一矣」枕草子、八、七十六段、名おそろしきもの「はやち」相撲集「はやちフク、シゲミノ野ラノ、草ナレヤ、オキテハミダル、フセバカタヨル」

はやつぎ (名) 早接 陶磁器ノ破損セルヲ、即座ニ接ギ合ハスルコト。又、其藥。

はやつけぎ (名) 早附木 すりつけぎ(擦附木)ニ同ジ。燧石ノ火ノ附木ヨリモ、速ニ火ヲ出スヲ得。マッチ。

はやて (名) 疾風 迅風 〔はやちノ轉〕(一)はやち(疾風)ノ條ヲ見ヨ。字類抄「暴風、ハヤテ」竹取物語「はやてモ龍ノ吹カスルナリ」夫木抄、十九、風「波白ム、沖ノはやてヤ、ツヨカラシ、生田ノ森ニ、寄スル釣舟」百合若大臣野守鑑(寶永、近松作)二「裸身輕ク逃足モ、はやてノ風ニ雲住ハ、山ニ飛入リ谷ヲ分ケ」(二)關西ニテ、疫痢ノ稱。(迅速ニ死スル故ニ云フ)

はやで (名) 早出 (一)朝早ク家ヲ出ヅルコト。(二)ハツモノ。ハシリ。

はやてまはし (名) 早手廻 事ノ起ラヌ先ニ、手廻シヲスルコト。八笑人(文化、鯉丈)「返歌ノ心持デ、短冊ヲ附ケルナンゾトイフ様ナ事ガ、マア早手廻ダナア」

はやと (名) 隼人 (一)はやびと(隼人)ノ略。其條ヲ見ヨ。隼人正ノ職名ヨリ轉ジテ、多クハ人名ニ稱ス。又、ハイト。清寧紀、四年八月「天皇親錄囚徒、是日蝦夷、隼人、竝内附」(二)東百官ノ一。

はやと (名) 礪 又、アラト。と(砥)ノ條ヲ見ヨ。字鏡「礪、波也止」

はやとめ (名) 早留 下ノ出典ヲ見ヨ。俚言集覽「早留ニ二種アリ、一ハ、大小ノ刃ノ鞘ハシラヌヤウニス、早ク鐺ヲハヅルルヤウニ留メヲスルヲ云、一ハ、女兒ノ袖ヲ早ク留ルヲ云、(小倉生色紙新町傾城)上ト云ハ大夫、大天神、小天神迄也、形ハトシマ留袖、袖早留、振袖、切、ニ分ツ、トシマ留袖ハ、シレタ事、早留ガワケレ無事也、マダ振袖ニテ一二年モヨキヲ、無理ニ早ク留サセテ似合ヌト云ヲ嘲ヘタルモノ也」

はやなは (名) 早繩 「手早く縛る意」とりなは(捕繩)ノ條ノ(一)ニ同ジ。娘歌舞伎多(享保、近松作)五「一用意ノはやなは取出ダシ、留ミツケ留ミツケ縛リ上ゲ」

はやにへ (名) 速贄 (一)〔初物ノ贄〕古事記、上、六「嶋(志摩)之速贄之時」(二)鵙のはやにへト云フハ、鵙の贄刺トモ云ヒ、鵙ガ夏ノ頃、生キタル蛙、とかげ(蜥蜴)ナドノ蟲ヲ捕リテ、木ノ枯枝、荊ナドニ串刺ニシテオクモノナリ。冬ノ餌ノ乏シキ時ノタメニ貯ヘオクモノナルベシ。コレ、鵙ガ時鳥ヨリノ舊債ヲ償フナリト云フ傳説アリ。くつてどり(沓直鳥)ノ條ヲモ見ヨ。夫木抄、廿七、[illegible]「垣根ニハ、もずのはやにへ、立テテケリ、志でのたをさ(時鳥ノ異名)ニ、シノビカネツツ」同、同「秋ノ野ニ、もずのにへさし、イカナラム、露吹キムスブ、夕暮ノ[illegible]」[illegible]レバ、時鳥ノ来ルホトニハ、鵙ノ[illegible]、又ハ、蛙ナドヲ串シテ、時鳥ノタメニスト云フ」

はやね (名) 早寢 夜早ク寢ルコト。常通ヨリ早ク寢床ニ入ルコト。早眠。

はやのみこみ (名) 早吞込 はやがてってん(早合點)ニ同ジ。(ゐさい承知之助はやのみこみナド云フ) 浮世床(文化、三馬)初編、下「何デモ早吞込デ、器用デヨク用ノ足リル人ダ」

はやばしり (名) 早走 走ルコトノ早キコト。又、其モノ。[illegible]

はやはや (副) 早早 人ヲ促シ誘フニ云フ語。ハヤクハヤク。トクトク。曾我物語、五、呉越戰事「早早、西施ヲ呉ノ宮中ヘカシ給ハルベシ、貴妃ノ位ニ供ヘン」

はやばやと (副) 早早 イト、ハヤク。急キテ早ク。イチハヤク。サウサウト。一葉句集、冬「はやばやと、[illegible]コモレ、[illegible]ケブリ」

はやびえ (名) 早冷 早ク冷エルコト。

はやびき (名) 早引 (一)早ク、モノヲ引キ出スコト。(二)[illegible]

はやびと (名) 隼人 〔隼人ハ借字、敏捷キ人ノ義、猛キコト隼ノ如カレバ云フ〕古ク、薩摩、大隅ナドニ住メル人種。景行天皇、仲哀天皇ノ御代ニ襲ト云フ、[illegible]年毎ニ京ニ分番上下シ、宮門ヲ守リ、行幸ノ先驅ヲシ、大嘗ノ日ニ、[illegible]ガ子孫ヲシテ俳人、狗人トシテ、長ク朝廷ニ仕ヘシムベシト誓ハレキ。隼人ハ、[illegible]ムルヲ、番上隼人ト云ヒ、留リテ畿内、近江、丹波、紀伊ニ住メルヲ、今來隼人ト云フ、共ニ隼人司ニ管セラレ、又、[illegible]衛・守護ニ任ズ。わざびと(俳人)、いぬびと(狗人)ノ條、見合ハスベシ。神代紀、下[illegible]大寶二年十月「先是、征隼人時、[illegible]云云」

はやひとぐさ (名) 旋花 草ノ名。今、[illegible]。「旋花、波夜比止久佐」本草和名、上「旋花、[illegible]、波也比止久佐、一名、加末」字鏡[illegible]「旋覆花、早人草」

はやひとのつかさ (名) 隼人司 はいとのつかさニ同ジ。[illegible]名抄、五、官名「隼人司、波夜比止乃豆加佐」

はやひる (名) [illegible] 正午ノ食事ヨリヤヤ早キ晝食。

はやぶさ (名) 鶻隼 〔速翼ノ略〕鷹類ノ中ニテ、[illegible]湖、雁、兎、鷺ナドヲ捕ル。性、猛ナレドモ悍ナラズ。倭名抄、十八、羽族名「[illegible]、八夜布佐」字鏡「鶻、波也不佐」同「[illegible]、波也不佐」古事記、下(仁徳)「高行クヤ、波夜夫佐和氣[illegible]」

はやふね (名) 早船 [illegible]急ギ漕ギ行ク舟。走舸。飛舸。倭名抄、十[illegible]

はやま (名) 端山 山ノ端、[illegible]入ルコトノ、深カラヌ所。[illegible]

はやまはり (名) 早廻 時ヲ待タズ[illegible]シテ、[illegible]ハリスルコト。

はやまる [illegible]

はやみ [illegible]

はや-みみ (名) 早耳 物事ヲ早ク聞キツクルコト。又、ソノ耳。

はやみみ-すぢ (名) 早耳筋 物事ヲ早ク聞キツクル方面。

〜**はや・む**・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 早 〔早ヲ活用ス〕 早クナス。イソガス。 字類抄「駈、疾、ハヤム」 源、四十五、椎本「駒ヒキトドムルホドモナク打はやめテ、片時ニ參リツキヌ」 濱松中納言物語、四「駒打チはやめ」

はや-め (名) 早目 定刻ヨリ、スコシ早ク着手スコルト。

はや-め (名) 催産 (一)次條ノ語ノ略。(二)神佛ノ御符ナドノ稱。

はやめ-ぐすり (名) 早藥 〔早生藥ノ略〕 産ニ臨メル時ニ用キテ、産ヲ促スト云フ藥。産ヲ早ムル藥。略シテ、はやめ。催生藥 曾我會稽山(享保、近松作)五「生レタ跡ノ早め藥、ロバカリノ廣言云フナ」

はや-めし (名) 早飯 食事スルコトノ速ナルコト。又、定メノ刻限ヨリ少シ早ク飯ヲ食フコト。 浮世床(文化、三馬)初編、中「御待遠デゴゼエマシタ、ガウギト早飯ダノ」

はやり (名) 流行 ハヤルコト。時メクコト。リウカウ。時花。

はやり-うた (名) 流行唄 (一)一時、民間ニ流行ル小唄。時謠 好色二代男(貞享、西鶴)二ノ四「ツ竹拍子ニ合ハセテ、其頃ノ時花唄、唐人ノ戀スルハ、キックリキッチャナンドト、ワケモナキ事ノミ」 (二)路頭里人ノ、誰トナク作リテ歌フ小唄。 小町踊(寛文、立圃)春、上「鶯ノ、音ヤ春毎ノ、はやり歌」 (三)早歌ノ稱。

はやり-かぜ (名) 流行風 流行性感冒。感冒ノ傳染スルモノ。インフルエンザ。 好色一代女(貞享、西鶴)四「奧樣、流行かぜニテ、御果テナサレマシタ後」

〜**はやり-か**・ナ (副) 早ル狀ニ、又ハ、調子ノ輕キ狀ナドニ云フ語。 源、二、帚木「臂モはやりかニテ言フヤウ、云云」 同、三十四、上、若菜、上「物はやりかニ走リ書キテ」 同、四十九、東屋「物ヅツミセズ、はやりかニオゾキ人ニテ」 同、四十一、匂宮「心ニ任セテはやりかなる好事、ヲサヲサ好マズ」

はやり-がみ (名) 流行神 一時、參詣ノ人、又ハ、信者ナドニテ賑フ神。 小町踊(寛文、立圃)春「歲德ヤ、來ル春ゴトノ、はやり神」

はやり-こうた (名) 流行小唄 其當時ニ流行スル小唄。はやりうた(流行唄)ノ條ヲ見ヨ。 薩摩歌(元祿、近松作)上「流行小唄モ時ニツレ、時ノ昔ト何處ヘ行ク」

はやり-ことば (名) 流行詞 一時、世ノ中ニ廣ク行ハルル語。流行語。

はやり-め (名) 流行眼 傳染リ易キ一種ノ眼病。春秋、殊ニ三四月頃、最モ流行ス。眼瞼ノ裏ニ充血シ、多少腫レテ、淚多ク出デ、眼緣幾分カ爛レテ、熱ク感ジ痛ミテ、ゴロゴロト物ノ入リ居ル如ク思ハレ、大イニ羞明ク、眠リシ後、眼覺ムレバ、眼糞ニテ眼瞼ツキテ、容易ニ明ケラレザルモノ、急性加答兒性結膜炎。疫眼 生玉心中(正德、近松作)上「ツヒ時花リ眼ノ癒スレド」

はやり-やまひ (名) 流行病 一時發リテ、傳染ル疫病ノ類。ハヤリヤミ。時疫 天行病 本朝若風俗(貞享、西鶴)五「筋骨ヲ痛メルはやり病、千之丞殊更ニ惱ミテ」

はやり-を (名) 早雄 氣ノ進ミハヤルコト。又、ソノ氣性ノ若者。性急。慓敢 標悍 盛衰記、十四、淨見原天皇事「六波羅ノ早雄ノ武者ドモ、軍兵ニ招カレテ」 同、三十七、景高景時入城事「はやりをノ若者共」 平家物語、五、文覺被流事「院中ノはやり男ノ者ドモ、ワレ先ニ、ワレ先ニト進ミ出デケル中ニ」

はや・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 速 〔早ヲ活用ス〕 勢ニ乘リテ進ム。自ラ進ム。スサム。急ク。ハヤマル。アセル。躁急 大鏡、上、賴忠「イミジウはやる馬ニテ、御料オシノケテ、二三十人バカリニ、サキイトタカクオハセテ、ウチ見イレツツ、馬ノタヅナヒカヘテ」 平家物語、五、富士川事「廣ミヘ出デテ軍ヲセントはやらルレドモ」 大鏡、上、良房「皆人シロシメシクラメド、物ヲ中シはやりヌレバサゾ侍ル」「心はやる」

はや・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 流行 〔前條ノ語意ニ同ジ〕 (一)速ク世上ニ行ハル。流行ス。 さよのねざめ「茶香ノ具足はやる頃ハ」 建武年間記、一、二條河原落書「此比、都ニはやる物、夜討、强盜、謀綸旨、云云」 浮世風呂(文化、三馬)三編、下「一人着イ、二人着イシテはやり出スノサ」 (二)勢世ニトキメク。榮ユ。 大鏡、中、兼通「堀川ノ攝政ノはやりタマヒシ時ニ、此東三條殿ハ、御ツカサヲモ、トドメラレサセタマヒテ、イトカラクオハシマシシ時ニ」 (三)其業、盛ニ世ニ用キラル。 好色一代男(天和、西鶴)五「何ト女郎衆、今ココデはやるハ誰レヂャ」「醫者ガはやる」

はや-わざ (名) 早技 巧ニシテ捷キ技。捷技 著聞集、十一、蹴鞠「大納言成通卿ハ、若クヨリはやわざヲ好マセ給ヒテ」 義經記、一、牛若貴船詣事「謀叛ヲオコス程ナラバ、早業ヲセデハ叶フマジ、先ヅはやわざヲ習ハントテ」 續世繼、かりがね「はやわざヲサヘ、ナラヒナドシ給ヒケレバ」

〜**はや-わせ** (名) 早早稻 わせ(早稻)ト云フニ同ジ。 榮花物語、三十六、根合「サヲトメノ、山田ノクロニ、オリタチテ、イソゲヤサナヘ、ムロノはやわせ」 拾遺愚草、上「種蒔キシ、室ノはやわせ、生ヒニケリ、オリ立ツ田子ノ、雨モシミミキ」

はや-を (名) 早緒 (一)艪ニ附クル繩。艪繩。 夫木抄、三十三、艪「サミダレニ、早緒ノツナハ、朽チハテテ、瀨ニヒカルル、艪ゾ危キ」 (二)橇ナドニツケテ引ク綱。 夫木抄、十八、雪「タユミツツ、ソリノ早緒モ、ツケナクニ、ツモリニケリナ、越ノ白雪」 曠野集「ツケ更ヘテ、運ルル雪ノ、や緒カナ」 (三)はやいと(早絲)ニ同ジ。紡車絲。

はや-をけ (名) 早桶 〔急ニ備フル意カ、又、早作リノ義カ〕 大ナル桶ヲ、棺ニ代ヘテ用キルモノ。卑人ヲ葬ル用トス。 本朝若風俗(貞享、西鶴)二ノ三「我カ最後ノ時、早桶ノ內ヘ此ノ一腰ヲ、何カ惜シカラジト入レラレシガ」

〜**は・ゆ**・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) 生 〔延ふニ通ズ〕 草木、平地ノ上ニ發生ス。生フ。萌ユ。延ブ。ハエル。 倭名抄、廿、草木具「蘗、比古波衣」 字鏡、四十「蘗、死木更生、比古波由」 萬葉集、二ノ三十長歌「打橋ニ、生ヒヲヲレル、川藻モゾ、枯ルレバ波由流」 曾丹集「冬ガヒノ、手馴ノ駒モ、ハナチテン、岡ベノヲササ、はえヌトナラバ」「草木はゆ」「毛はゆ」「齒はゆ」「爪はゆ」

〜**は・ゆ**・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) 逸 心ノ募リ進ム。ハヤル。 源、廿六、常夏「暮ニモ參リ來ムト思ヒ給ヘ立ツハ、イトフニはゆるニヤ」 後撰集、十、戀、二「アヤシクモ、イトフニはゆる、心カナ、イカニシテカハ、思ヒヤムベキ」

〜**は・ゆ**・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) 映 〔晴るニ通ズ、晴レタル景色ヨリ、日光ニ云フ〕 (一)光、映リ照ル。色艷マサル。 拾玉集「ナカナカニ、モリクル月ノ、サヤケキハ、クラキ木蔭ニ、はゆるナリケリ」 枕草子、十、百廿七段「紫ノ指貫モ雪ニはえテ、濃サマサリタル」 千載集、廿、神祇「神ウクル、野ノアカリニ、ユフ園ノ、ヒカゲカヅラゾ、はえマサリケル」 (二)盛ニ見ユ。榮ユ。 應神紀、十三年九月、長歌「紅顏レル少女、イサ佐伽麼曳ナ」

〜は・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動、下二） 蝕 〔映ゆノ義、光ノ翳ルルヲ忌ミテ反對ニ云フ語ト云、或ハ云フ、映レ食ノ約ト〕 日月ナドノ、光、翳ル。はゑつく（蝕盡）ノ條ヲ參見セヨ。倭名抄、一「景宿類、蝕、日月虧日蝕」 名義抄「蝕、ハエツキタルコト、ムシクフ」 推古紀、三十六年三月「日有蝕盡之」（皆既ナリ） 舒明紀、八年正月「日蝕之」 皇極紀、二年五月「月有蝕之」

はゆ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二） 映羞 〔映ゆノ活用〕 映ユル状ナリ。又、マバユキ状ナリ。 和泉式部集「すホン返シ聞コエンモはゆけれバ、ユフヲ御帳ノカタビラニ結ヒツケテ立チヌ」「面はゆし」「眼ばゆし」「盛はゆし」

〜はゆ・ま（名） 驛 驛馬 〔早馬ノ約〕 （一）古へ、諸道ノ驛驛ニ、備ヘテアリシ馬。其足ラザルニ充ツルヲ傳馬ト云フ、共ニ、官人、旅行ノ用ニ供ス。事ノ急ナルニハ驛馬ニ乗リ、緩ナルニハ傳馬ニ乗ル。驛馬ニハ驛鈴、傳馬ニハ傳符ヲ給セラル。轉ジテ、はいま。 萬葉集、十四「鈴ガ音ノ、波由馬ウマヤノ、ツツミ井ノ、水ヲタマヘナ、イモガタダテヨ」 同、十八「サブルコカ、イツキシトノニ、鈴懸ケヌ、波由馬下レリ、里モトドロニ」 （二）次次條ノ語ノ略。

はゆま・ぢ（名） 驛路 宿場ノ路。ウマヤヂ。エキロ。音便ニ、はいまお。 萬葉集、十一「驛路ニ、引舟渡シ、直乗ニ、妹ガココロニ、乗リニケルカモ」

〜はゆま・づかひ（名） 驛使 略シテ、はゆま。驛馬ニテ急ギ行ク使者。早打ノ使。前前條ヲ參見セヨ。 推古紀、十一年二月「來目皇子薨ニ[illegible]、筑紫、仍驛使奏上」

バヨネット（名） 〔英語、Bayonet.〕 小銃ノ端ニ着クル劍。銃劍。銃槍。

はら（名） 腹 〔廣ニ通ズ、原、平、ナド、意同ジト云フ。又、張ノ意〕 （一）〔胸ノ下〕[illegible]、上部、内ニ腸、胃等ヲ包ム、[illegible] 倭名抄、三[illegible] 中有[illegible] [illegible] 沼こ」 （二）〔其女ノ腹ニ生レタルコト〕 又、ソノ生レタルモノ。 源、三十八、夕霧「此御腹ニハ、太郎君、三郎君、四郎君、六郎君、すホイ君、中ノ君、四ノ君、五ノ君トオハス、内侍ハ、三ノ君、六ノ君、次郎君、五郎君トゾオハシケル」 同、二、帚木「宮腹ノ中將ハ、中ニシタシクナレ聞エ給ヒテ」「[illegible]」 （三）[illegible] ヒ、氣、心。「腹ニ思フ」「腹ヘアフ」「腹ニ据ヱテ」「腹黒シ」 （四）立チタル物ノ中央ナル處。 著聞集、十一、蹴鞠「大納言成通卿ハ、若クヨリハヤワザヲ好マセ給ヒテ、築垣ノはら、[illegible]ナドヲ走ラレケリ」「山ノ腹」 （五）了簡。「ドウイフ腹カ分ラヌ」 （六）怒リ。立腹。 著聞集、十五、闘爭「秦兼任、云云、日頃ノ腹ヲスエムト」 （七）〔ウヂ〕。ウカラ。族。 清寧即位前紀「其腹所生[illegible]」 [illegible]「秦氏等一祖子孫、云云、別爲數腹」 （八）〔甕ノ腹ノ廣ゴリタルヲ云フ語〕。 新年祭祝詞「[illegible]」 神代紀、上「[illegible]八甕[illegible]」 腹が立つトハ、怒ル。 盛衰記、廿二、衣笠合戰事「無下ニ云ヒ甲斐ナシ、能能御計ヒ候ベシト云ヘバ、大介腹を立テ、ヤヲレ[illegible]」 腹ヲ居ルトハ、度胸スワル。膽力アル。又、思ヒ晴ル。 [illegible] 腹を持つトハ、[illegible] 腹[illegible]しトハ、滿腹ナリ。飽食 又、大膽ナリ。膽大 腹減る、[illegible]トハ、ヒモジクナル。饑ウ、空腹 腹下るトハ、下痢ス。 腹をかかふトハ、可笑シサニ堪ヘズ[illegible] 捧腹 腹脹るトハ、言ハムト欲スルヲ言ハズシテアリ。 世繼物語、序「オボシキ事言ハヌハ[illegible]」

ヌハ、ゲニゾ、はらふくるる心地シケル」 腹十文字ト、腹ヲ十字ニ切ルコト。[illegible] 代[illegible] 前ニテ腹十文字ニ切ル」

〜はら（名） 原 〔廣、平ト通ズ。或ハ、開ニ、[illegible]〕 （一）平ニシテ廣キ所。 倭名抄、一「[illegible]」 「原、八[illegible] 神代紀、[illegible]」 [illegible] 勝野ノ原ニ、此日暮レナバ」 海原、河原、[illegible] （二）耕作セヌ平地。野。 （三）林。 神代紀、[illegible] [illegible]、竹林」 [illegible] 長五六尺、廣七八寸、[illegible] 松林[illegible]

はら（名） 大角 はらのふえ（大角）ニ同ジ。 字鏡「[illegible]、喇叭、波良、又、九太」 天治字鏡 八「[illegible]、吹[illegible]也、波良、又、久太」

はら（名） 洞 ほら（洞）ニ同ジ。

はら（名） [illegible] [illegible] 下、若葉、下「五六ノはら（五六八徴ノ名）ヲ、イトオモシロクスマシテ、ヒキ給フ」

はら（名） 爬羅 〔爬ハ爪ニテ掻キムシルコト、[illegible]〕 [illegible]ノ缺[illegible]ト[illegible]

ばら（名） [illegible] 灌木[illegible] 托[illegible] 花[illegible] [illegible] （薔薇）ノ條ヲ參見セヨ。ウバラ。サウビ。シャウビ。 [illegible] 四月「ナツカシク、手ニハ折リ[illegible]」 [illegible] オク露モ、[illegible]ノ花」

〜ばら（接尾） 儕 〔部等ノ轉ト云フ。[illegible]ニ[illegible]〕

[illegible] 通ズ[illegible] 人ノ集合スル處ヲ長ハ[illegible] [illegible] [illegible]はらノ中ニ、[illegible]アルモノドモ[illegible] [illegible] オハスルカナリ」 [illegible]物語、[illegible]ウカレメばらノ中[illegible] スヤウ」 著聞集、[illegible] 年正月七日[illegible] 抓[illegible]

はらあか（名） 腹赤 にべ（鮸）ノ別名。 [illegible]

はらあしけ [illegible]

ソ[illegible]トゾ。

はらあて（名） [illegible] 包ミ、背ニテ合ハ[illegible] [illegible] クタルヲ[illegible]モハ、甲ヲ着ザレ、[illegible] [illegible] 旅装ナドニ用ヰル。 [illegible]

はらあはせ（名） 腹合 [illegible]

はらあんばい [illegible] （腹工合）ニ同ジ。[illegible] 共同シテ事ヲナスコト

はらいせ [illegible] はらゐせ [illegible]

バライソ（名） [illegible]

フ、又、天國、樂園、極樂。 菩提字子(元和、ハビアン)三「善人ニ樂ヲ與ヘ玉ハン爲ニ、はらいそトテ、極樂世界ヲ諸天ノ上ニ作リ玉フ」 契利斯督記(寛政)「ぜうす初メ人間ヲ作リ給フ、はらいそてれあると申所ニテ、あだん、ゑわト申夫婦ノ者ヲ御作リ被成候」 切支丹宗門來朝實記「手ヲ合セ、死後生天淨土奥信有善主陀羅尼ヲ唱ヘテ拜シケル」

はらいたみ (名) 腹痛 大小腸ニ痛ミヲ起ス病。フクツウ。略シテ、ハライタ。

はらう(ハ・ロウ) (名) 波浪 〔事文類聚、前集(宋、祝穆)「風吹レ水涌曰レ波、亦曰レ浪ト二」〕 ナミ。波濤。 晉書、張華傳「須臾光彩照レ水、波浪驚沸」 皐莊、斗南詩「波浪不レ知深幾許、南湖今與ニ北湖平」 楞嚴經「佛告ニ阿難一、譬如ニ暴流ハ波浪相續、前際、後際、不ニ相踰越一」

はらおび (名) 腹帶 (一)人ノ腹ヲ括ル帶。ハラマキ。 勒肚巾 (二)ユハダオビ。婦人、懷胎シタル時、別ニ腹ニシムル帶。今ハ五箇月目ニ行フ。岩田帶。ちやくたい(着帶)ノ條見合ハスベシ。 津國女夫池(享保、近松作)二「去年ノ冬ヨリ御懷姙、云云、千歳ヲ結ブ腹帶ノ、行末永キ例シゾト」 (三)〔特ニ、馬ノ腹ニ締ムル帶。ハルビ。又、約メテ、はるび。其上ニ締ムルヲ、うはおびト云フ。 倭名抄、十五「鞍馬具「腹帶、鞶、波良於比、馬腹帶也」 馬寮式「小腹帶、表腹帶」

はらか (名) 腹赤鰚 〔はらあかノ約〕 魚ノ名。鯀(ニベ)ナリ。(一說ニ、鱒(マス)ト云フ、江次第抄、一「腹赤、鱒魚也」誤ナリ)年年正月、腹赤ノ贄トテ、太宰府ヨリ奉ル。コレヲ腹赤の奏(ソウ)ト云ヒ、使ヲ、腹赤の使ト云フ。 倭名抄、十九「鰚魚、波良可、本朝式用ニ腹赤二字一」 字類抄「鰚、ハラカ、腹赤、同」注「國俗用レ之、太宰府解文、寸法、長、九尺九寸」

字鏡、七十「鰚、波良加」 內膳司式「腹赤」 台記、仁平二年正月十六日、大饗、腹赤一盃、云云」(鯱外ニ鮭、鯛、鱒、鯛ナドアレバ、腹赤ト鱒トハ別物ナリ) 內裏式、正月七日會式「又奏ニ大宰使一、同貢ニ腹赤御贄一、云云、又、大宰府乃進禮留腹赤乃御贄、長若干尺、進架久乎申賜等申」 建武年中行事、正月「はらかの奏ナド、內侍所ニツクベキ由奏ス」 長門本、平家物語、二、阿古屋松事「筑紫ノ太宰府ヨリ都ヘ腹赤(ハラカ)の使ノトルコソ、歩路(カチ)十五日トハ定メタレ」(釋日本紀ニ、肥後風土記ヲ引キテ、景行天皇ノ御船、玉名郡長渚濱ニ泊ス、棹人魚ヲ獲テ獻ズ、鱒ニ似タリ、御覽ジテ宜ハク、俗ニ多物ヲ見テ、爾倍佐爾ト云フ、獻ズル魚甚多シ、爾倍魚ト謂フベシト宣ヘルコトヲ載ス)

ばらがき (名) 〔茨籬ヲ通リ傷ツクモ、恐レズ入ル動作ヨリ起ル〕 (一)鄙語。ムカフミズ。ガムシャラ。 (二) 所キラハズ、ムヤミニ引キ搔クコト。又、ソノ痕。 八笑人(文化、鯉丈)「衣類、手足ノワカチナク、ばら搔ニナリ、ノタリ廻ッテ」

はらがけ (名) 腹掛 胸ヨリ腹マデヲ被ヒ、背部ハ細ソキ布ヲ以テ十文字ニ交叉シテ、脊ニ約スル短キ衣。腹ニ當ル所ニ丼(ドンブリ)ヲ着ク。多ク職人ナド掛ケ用ヰル。ハラアテ。 俳諧古選、秋「腹掛ハ、母ノ教ヘノ、寢マキカナ」

はらがはり(ハラガワリ) (名) 腹變 〔たねがはり(胤變)ニ對ス〕 父ノ同ジクシテ、母ノ異ナルコト。又、ソノモノ。ハラチガヒ。コトハラ。別腹。 異腹 異母 長町女腹切(正德、近松作)上「腹がはりノ兄弟デ十五違ヒ」

ハラカン (名) 子母砲 〔亞蘭敢國ヨリ來レルモノカト云フ〕 德川時代ニ、外國ヨリ渡來セシ火砲。イシビヤ。クランキ。クニクヅシ。 書言字考節用集、七、器財門「叭喇唬(ハラカン)」注「鳥銃一種、見ニ武備志一」佛狼機、同」 大阪物語、上「城ノ內ヨリはらかんヲ二丁ナラベテ放シケレバ」

はらから (名) 同胞 同母 〔腹族(ハラカラ)ノ義、族(カラ)ノ條ヲ見ヨ〕 (一)〔母ノ同ジキ兄弟姉妹。同腹。 字鏡、卅三「昆、波良加良」 顯宗紀、二年二月、註「天皇母弟(ハラカラ)武石彦奇友背命」 允恭紀、十一年三月「衣通郎姫、云云、是皇后母弟(ハラカラ)也」 萬葉集、三五十四長歌「親屬(ウカラ)兄弟(ハラカラ)、無キ國ニ、渡リ來マシテ、大皇ノ、敷キマス國ニ」 (二)後ニハ、汎(ヒロ)ク、兄弟姉妹ノ稱トナル。 書言字考節用集、四、人倫門「同胞、ハラカラ」注「白氏六帖、兄弟曰ニ同胞一」

はらぎたな・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 腹穢 心、ネヂケタリ。根性、ワロシ。イヂワロシ。ハラグロシ。 落窪物語、一、上「心ヅキナク腹ぎたなしト見テシカバ」 源、廿五、螢廿「繼母ノ腹ぎたなき昔物語モ多カルヲ」

はらきり (名) 腹切 自ラ腹ヲ切リテ死ヌルコト。 割腹 屠腹 せっぷく(切腹)ノ條、見合ハスベシ。(腹ヲ切ルハ、我ガ眞心ハ此ノ如シト、切ッテ人ニ見スル意ナリ。自殺ノ方法ニ種種アレド、腹切ハ最モ勇氣アルモノトシテ、自殺ノ名譽トスルモノナリ。花山院天皇、寬和年中、強盜袴垂ノ保輔、捕縛ニ會ヒ、腹サシキリテ、腸ヲ引キイダシタルナドハ、腹切ノ物ニ見エタル初ナラム。又、鎭西八郎爲朝、伊豆ノ大島ニテ追討ヲ受ケ、柱ニ寄リテ立腹切リタルナド、是等ハ剛氣ヲ示セルナリ。又、播磨風土記、賀毛郡、川合里腹辟(ハラサキ)沼ニ、女神怨ミ怒ル、コトアリテ、自ラ刀ニテ腹ヲ割キテ、此沼ニ沒スト云フコトアリト見エタリ) 太平記、廿九、松岡城周章事「最後ノ酒盛シテ、自害ノ思ヒサシセン、云云、腹切ノ最後ノ盃ニテ候ヘバ、誰レニカ論ジ申サマシ」

はらきりおび (名) 腹切帶 緋ノ博多帶ノ異稱。 衣食住記(天明)「帶ハ、云云、天明頃、緋博多、世ニ腹切帶ト稱ス、云云、幅ハ二寸五分ナリ」

はらぐあひ(ハラ・グアイ) (名) 腹工合 胃、腸ノ狀態ニモトヅク感ジ。オナカゴコロ。ハラアンバイ。ハラモチ。

はらくと (名) 破落戸 〔委巷叢談(明、田汝成)「撒潑無賴者、謂二之破落戸一」〕 良民ノ害ヲナスモノ。ゴロツキ。ゴロ。ナラズモノ。無賴漢。 咸淳臨安志(元、潛說友)「紹興二十三年、上謂ニ大臣一曰、近今臨安府收ニ捕破落戸ハ編置ニ外州一、本爲ニ民間一除ニ害一」

はらくねり (名) 腹抉 相撲ノ手ノ一。今ノ頭捻(ヅシネリ)ノ類ナリ。其條ヲ見ヨ。 著聞集、十、相撲強力「相撲ナニガシトカヤ云フ上手アリケリ、敵ノ腹ヘ頭ヲ入レテ、必ズくねりマロバシケレバ、コレニ因リテ腹くねりトゾ云ヒケル」

はらくだし (名) 腹下 次條ニ同ジ。

はらくだり (名) 腹瀉 大便、度ヲ失ヒテ、ユルク瀉(クダ)ルコト。クダリバラ。ハラクダシ。下痢。腸カタル。

はらぐろ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 腹黑 心ノキタナシ。心淸カラズ、ウシログラシ。心、惡シ。ココロダテ善カラズ。略シテ、はらぐろ。 著聞集、十六、偸盜「アハレヤスカラヌモノカナ、はらぐろきムシニクラハレヌ」 金葉集、十、戀、下「花ウルシ、コヤヌル人ノ、ナカリケリ、アナはらぐろノ、君ノ心ヤ」

はらげい (名) 腹藝 (一)輕業ニテ、仰臥シタル人ノ、腹ノ上ニテ行フ種種ノ藝。 (二)芝居ノ役者ガ、己レノ扮シタル人物ノ、其當時ノ精神ハ、カクノ如クナラムト想像セラルル趣キヲ、其言動以外ニ、思ヒ入レナドニテ表ハスコト。 (三)轉ジテ、度胸、經綸ノ才アル人ヲ腹

嫳ありナド云フ。(四)座興ニ、腹ニ人ノ顔ナドヲ畫キ、呼吸ノ作用ナドニヨリテ、種種ニ之ヲ變化セサスルコト。

はらけ・し キ・ケレ・ク・ク(形、二) 散 散ケヤウナリ。散散(バラバラ)ニ散リテアリ。字鏡廿「[illegible]、[illegible]羊毛也、波良介志、又、知留」同八十「[illegible]、[illegible]七、亦曰波良介之」

はらご (名) 腹子 はらゞご(鯛)ニ同ジ、

はらごなし (名) 腹熟 運動ナドシテ、胃中ノ食物ノ消化ヲ促スコト。消食 浮世風呂(文化、三馬)初編、上「コノ間ハ、[illegible]ごなしニ湯ヲ初メタデゴ、ス一」

はらごもり (名) 腹籠 (一)孕ミテ未ダ生レヌコト。身籠リテアルコト。胎中。胎内 胎 名義抄「胎、ハラゴモリ」書言字考節用集、五、肢體門「胎、ハラゴモリ、ハラム」注「詩格註、孕而未生、皆曰胎」「腹籠ノ兒」 又、其間ニ、父ノ死シタルヲモ云フ。ワスレガタミ。遺腹 (二)腹中ニ作リ籠メタルコト。又、ソノモノ。「腹籠ノ觀音」

はらじろ (名) 腹白 (一)腹ノ白キコト。又、ソノモノ。(二)指貫(サシヌキ)ノ括(ククリ)ノ組ノ一。白組、紫組二筋ヲ差入レテ、長ク餘シ、引キ出シテ、封結ノ如ク組ミタルモノ。 連阿不足口傳抄、一、指貫身入次第事「腹白ト云ハ、一筋ハ白、一筋ハ指貫ノ色ナリ」新野問答、下「[illegible]指貫ノ括ヲ膝下ニテ結ヲ[illegible]括トシ、云云、下括ハ腹白」

はら・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 晴 (一)晴ルルヤウニナス。ハルカス。 狂言記、[illegible]「[illegible]蓋コレナル雨リニ立寄リ、時雨ヲはらさセバヤト存ズル」「風、雲ヲ吹キ晴らす」 (二)散ラシ消ス。除キテ[illegible]ク。又、果ス。消遣 [illegible] [illegible]記、三、[illegible]其ノ次ノ年ノ春、宿願ノはらさセ給ハン爲ニ、[illegible]アリ」「[illegible]ヲ晴らす」「迷ヲ晴らす」

はら・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 腫 腫ルルヤウニナス。腫レシム。

ばら・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) (一)バレルヤウニスル。密事ヲアバク。(二)逃ガス。「釣ッタ魚ヲばらす」 (三)人ヲ殺ス。

はらすぢ (名) 腹筋 (一)腹ノ中ノ筋。 [illegible]記、一、[illegible]出事「[illegible]ヲ[illegible]キ、宣ヒケルハ、宿ノ馬ノ腹筋ハセ切ッテ、雜人メ等ガ追ヒツカン、[illegible]ミルニケ見ニナ、[illegible]下ラン云云」 國性爺合戰(正徳、近松作)[illegible]「小ムツハ[illegible]ニ轉リト臥シ、腹筋捻ッテ堪ヘカヌル」 俳家奇人談「腹筋ヲ、ヨリテヤ笑フ、絲櫻」 (二)腹筋(ロル)ノ略。甚ダヲカシキコト。ヲカシサニ堪ヘザルコト。捧腹 醒睡笑(安樂庵策傳)三「チトハレガマシキ客[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ヲ出シ、末座ニキトキツクネ、[illegible]ヒケル事コソ、はらすぢナレ」 百日曾我(元祿、近松作)二「[illegible]シャラクサシ[illegible]千萬、三度ヤ五度ノ[illegible]ヲ、[illegible]ラ[illegible]サウニ何ヲカゾ」[illegible]作)一「[illegible]ト[illegible]テカ、ラカ、ラト笑ヒ、ヤレ[illegible]ヤ腹ノ皮、鬼ノ腕ヲ切ッタルガ何程ノ高名ゾ」

パラソル (名) 〔佛蘭西語、Parasol.〕 婦人用ノ日除ノ[illegible]。普通ノ[illegible]ヨリハ、小サクシテ、輕シ。日傘。

パラダイス (名) 〔英語、Paradise.〕 耶蘇教ノ極樂。天國。樂園。

はらたか・し キ・ケレ・ク・ク(形、二) 腹高 [illegible]シタル状ナリ。[illegible]子、三、廿八段「[illegible]イタル音ノ、はらたかくテ喘ギアリク」

はらだた・し シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 腹立[illegible]。腹立ツベクアリ。[illegible]、一、[illegible]「ホホト笑フゾ、イトコソ腹だたしカリツレ」

はらだち (名) 腹立 ハラダツコト。イカルコト。立腹。怒 [illegible]十四、[illegible]「[illegible]ヤウ[illegible]キ、[illegible]あナシ給フ」 古今著聞集(寛文)七「餘所ニノミ、見ホノ松原、はらだちヤ、[illegible]ニ駿河ノ、江尻ナレドモ」

はらだちごゑ (名) 腹立聲 腹立チテ[illegible]スル聲。怒リテモノ云フ聲。イカリゴヱ。怒聲 生玉心中(正徳、近松作)上「コナタノ様ナロサキデハナイゾヤト、オロオロ涙ノ、腹立聲」 俳[illegible]古[illegible]二、腹立蟲ヤ、[illegible]ノ[illegible]

はらたちじやうご (名) 腹立上戸 [illegible]怒上戸ニ同ジ。

はらたちまぎれ (名) 腹立紛 腹立チテ[illegible]物ノ見分ケ無ク[illegible]ナルコト。[illegible]ニマカセテ、事ヲ[illegible]スルコト。[illegible]永、近松作)上「[illegible]イ[illegible]、[illegible]れ、跡モナク後向クヤラ前向クヤラ」

はらだ・つ ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 腹立 怒ル。イキドホル。立腹ス。怒 名義抄「怨、ウラミハラタチ」 後拾遺集、十六、雜、二「赤染衛門恨ムルコト侍リケル比、遣ハシケル「海ノはらたつ白波ノ、イカナレバ、ナゴリ久シク、見ユルナルラム」返シ「風ハタダ、思ハヌ方ニ、吹キシカド、ワタノはらたつ、波ハナカリキ」 枕草子、三、廿八段「イミジウ腹だち叱リテ」 [illegible]、三、[illegible]木[illegible]「[illegible]傳ノはらだちエンズルニ」 袖中抄、六「[illegible]ノはらりたちナ、[illegible]シテ帝ニ奏タマハク、役ノウバソクト云モノ、王位ヲカタブケントス、可シ[illegible]フベシト」

はらちがひ (名) 腹違 はらがはり(腹[illegible])ニ同ジ。

パラチフス (名) 〔英語、Paratyphus.〕 急性[illegible]ノ一。[illegible]ヨリテ起ル。症状ニヨリテ、一種ニ分ツ。一ハ、[illegible]下[illegible]。一ハ、腸ちぶすニ似タル症状ヲ[illegible]、[illegible]熱、[illegible]頭痛、[illegible]一不[illegible]コトアリ、多クハ二週、或ハ、三週間ノ經過ニシテ治スト。

ばらつ・く ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) (一)雨、霰ナド、バラバラト降リ來ル。バラメク。[illegible] (二)バラバラニ亂レ散ル。[illegible]はらつく[illegible]

バラック (名) 〔英語、Barrack.〕 (一)戰陣中、[illegible]。(二)[illegible]。

はらつづみ (名) 腹鼓 腹ヲ鼓ニ代ヘテ、[illegible]撃チ鳴ラスコト。飽食ニ滿足シテ、幸福ヲ樂シム意。鼓腹 こふく(鼓腹)ノ[illegible] [illegible]はらつづみ[illegible] [illegible]

はらつぎけ [illegible]

はらどり (名) [腹取] 按摩ヲ取ルコト。榮花物語、三十九、布引瀧「何泣ク、痛キ所ヤアル、はらどりノ女ニトラセヨカシ」筑波問答「御はらどりノ尼トテ、七八十ニナル連歌師モ侍リキ」老イテ、世ノタヅキニ、カカルワザスルカ」

はらなほし (名) [腹直] 他ノモノヲ食ヒ、又ハ飲ミテ、腹工合ノ惡クナリタルヲ直スコト。八笑人(文化、鯉丈)二ノ三日、「飯ヲ食ハネエヤウナ心持ダガ、腹なほしニ、今朝ハ雜炊トシヨウデハネエカ」

はらぬち (名) [腹內] (腹の內ノ約) 腹部ノ內。神功紀、攝政元年「タマキハル、內大臣ガ、波邏濃知ハ、砂石アレヤ、イザ還ハナ、我ハ」

はらの (名) [原野] ハラ。ノ。ノハラ。ゲンヤ。新六帖、六「霜枯レノ、原野ニマジル、フシ欅、世ニカジケユク、我ガ身ナリケリ」

はらのかは (名) [腹皮] 腹部ノ表皮。腹の皮を縒るトハ、ヲカシサニ堪ヘヌ意。腹ヲカカヘル。又、腹筋。捧腹。略シテ、腹の皮。源氏烏帽子折(元祿、近松作)「イサカヒ過ギノホウチギリ木、アトノクハウゲン腹のかは」

はらのふえ (名) [大角] (寶螺の笛カト云フ、小角ハ管ナリ) 又、はら。上代、戰陣ニ用キタル笛。其形、獸角ニ似タリ。元、敵ノ馬ヲ驚カシムルタメノモノト云フ。後ノ法螺、竹法螺ノ類。ハラフエ。又、くだのふえ(小角)アり、形、細ソキモノカ。又、くだぶえ。略シテ、くだ。小角 (大角、長サ五尺、竹筒ノ如ク、木細ソク、末太シ。竹、木、或ハ、皮ニテ作ル。小角ハ長サ一尺五寸、管ヲ刺込ミテ吹ク。源平時代ヨリ、ほらがひヲ用キルコトトナレリ) 倭名抄、十三八征戰具「大角、波良乃布江、小角、久太乃布江」喪葬令「親王諸臣、有二鼓、大角、小角、幡等一」軍防令「大角二口、小角四口」兵庫寮式「大角、小角一」天武紀、下、十四年十一月「大角、小角、鼓吹、幡旗、及、弩抛之類、不レ應レ存二私家一、咸收二于郡家一」萬葉集、二、二十四長歌「吹キナセル、小角ノ音モ、敵ミタル、虎カ吼ユルト、諸人ノ、オビユルマデニ」

はらのむし (名) [腹蟲] (一)くゎいちゅう(蛔蟲)ニ同ジ。(二)感情ヲ、腹中ノ蟲ノ作用トシテ云フ語。略シテむし。「腹の蟲カヲサマラヌ」腹の蟲ノ居所ガ惡イ」

はらばひ (名) [腹道] ハラバフコト。腹行。匍匐 運歩色葉集「腹行、匍匐、ハラバヒ」

はらばふ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [匍匐] (腹道ふ義) 腹ヲ地ニシテ道フ、腹行。詩經、邶風、谷風篇「凡民有レ喪、匍匐救レ之」字鏡三十五「匍、匍匐也、波良波比由久」靈異記、上、第九緣、訓釋「匍匐、波良波不」萬葉集、十九、四十一「オホキミハ、神ニシマセバ、赤駒ノ、腹婆布田居ヲ、都トナシツ」神代紀、上、十二「匍二匐頭邊一、匍二匐脚邊一、而哭泣流涕焉」續紀、十、天平元年八月「我皇、太上天皇大前ニ、恐古士物進退、匍匐廻ホリ」

はらはら (副) (一)物ノ散亂、又ハ、摩擦スル音ニ云フ語。婆娑 落窪物語、一「ソヨソヨ、はらはらト沓スリテ」源、二、帚木、二十五「衣ノ音、はらはらトシテ」今物語、二「扇ヲはらはらトツカヒ」讚岐典侍日記「格子、云云、アカアカト日ノサシ入リテ明キニ、はらはらトオロシテイヌ」爲忠集「葎ハフ、荒屋ノ月ヲ、ナガムレバ、風はらはらト、影モスサマジ」曠野集「はらはらト、清水ニ松ノ、古葉哉」「木ノ葉ヲはらはらト吹キ散ラシ」栗、はらはらト落ツ」燕、はらはらト逃グ」髮、はらはらト懸カル」(二)雫、又ハ、涙ナドノ滴ル狀ニ云フ語。滂沱 經信母集「雨、はらはらト降リ來テ」山家集、下「はらはらト、落ツル涙ゾ、アハレナル、タマラズ物ノ、悲シカルベシ」盛衰記、十九、文覺頼朝對面事「イトホシ、イトホシトテ、ヤガテはらはらト泣キテ」「霰、はらはらト降リ」涙、はらはらト落ツ」(三)切ニ氣遣ハシク思ヒ、又、心配スル狀ニ云フ語。浮世風呂(文化、三馬)二編、下「モットモ、手ヲアテテ、はらはらスルテイ」「はらはら思フ」

はらばら (名) [腹腹] 父親ハ同ジクシテ、母ハソレゾレ相異ナル多クノ子ノ母タチ。源、一、桐壺、三「御子ドモ、アマタはらばらニモノシタマフ」

ばらばら (副) [散散] (一)疏ニ放レテ。チリヂリニ。離散 曾我虎磨(寶永、近松作)上「連レ立テバ目ニ立ツト、三人ばらばらバラ緒ノ雪駄」「ばらばらト出ル」(二)マバラニ。「雨ばらばらニ降ル」(三)アチラコチラニ。「數人ばらばらニオットリマキ」

ぱらぱら (副) 雨、霰、錢ナド、マバラニ降リ、又、撒ク狀ニ云フ語。俚言集覽「はらはら、云云、文字牛濁ぱらぱらト呼ブトキハ、乾燥ノ物ノ散ル音ニナルナリ、濁モ牛濁モ皆俗言ニテ、イヅレモ同意也」「花ぱらぱら散ル」

はらひ (名) [拂] (一)拂フコト。(二)賃錢、代金ナドヲワタスコト。又、其金。

はらひ (名) [祓] [解除] 又、はらへ。(一)祓フコト。穢レヲ拂ヒ清ムルコト。(古ヘ、六月、十二月ノ晦ニ、大祓ナドアリ) 神ニ祈リテ、災穢等ヲ除クコト。祓除。神代紀、上、三十三「掌二其解除之太諄辭一而宣レ之」古事記、下(履中)七十七「爲二祓禊一」今昔物語、十九、第三語「川原ニ法師、陰陽師ノアリテ、紙冠ヲシテ祓ヲス」(二)罪ヲ犯セル者ニ科シテ、物ヲ出シ贖ハシムルコト。其物ヲ棄テテ、罪ヲ祓ハシムルナリ。(三)祓ニ誦スル詞。祝詞。「中臣ノ祓」(四)ハラヘグシ。又、ハラヒバコ。(五)幣束。今昔物語、十四、第四十四語「榑ヲ以テ幕柱ニ造リテ、張廻レバ、其內ニ拂ヲ立廻カシテ注連ヲ引テ」

はらひきよむ・ム・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) (一)拂ヒテ清クス。掃除シテ清潔ナラシム。(二)祓ヲ行ヒテ清クス。

はらひぎり (名) [拂切] 太刀ヲ横ニ薙ギテ、切リ附クルコト。曾呂利物語、一、第四條「相傳ノ寶國光ヲ以テ、拂ひ切リニゾシタリケル」

はらひてがた (名) [拂手形] 又、しはらひてがた(支拂手形)。簿記ノ語。當方ニテ、直接ニ支拂フベキ義務アル手形ノ稱。

はらひど (名) [祓戶] 又、はらへど。祓ヲ行フ所。法然行狀記「姉小路白川祓殿辻子」

はらひとつのこのかみ (名) [母兄] 同胞ノ兄。同母ノ兄。倭名抄、二十七兄弟類「母兄、波良比止乃古乃加美、云云、同母兄也」

はらひどのかみ (名) [祓戶神] 又、はらへどのかみ。祓戶ヲ守護シタマフ神。即チ、瀨織津姬神、氣吹戶主神、速秋津姬神、速佐須良姬神ノ四神ノ稱。今昔物語、十九、第三語「陰陽師ノ云ク、祓殿の神達ハ、法師ヲバ忌ミ給ヘバ」

はらひぬさ (名) [祓幣] 又、はらへぬさ。幣束ノ大ナルモノ。人ノ頭上ニ振リテ祓フ。

はらひばこ (名) [祓箱] 又、はらへばこ。(一)祓串ヲ入レタル匣。伊勢神宮ノ御師ノ一萬度祓ヲ、箱ニ入レタルモノ。表ニ皇大神宮、云云、ト記シ、人家ニ配リテ祀ラシム。(二)人ヲ放逐スルコト。(祓ヲ拂ニカケテ云フ) 免職。解傭。「お祓箱ニナル」

はら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）【拂】（一）〔除ケ捨ツ。ノゾク。ハク。ハタク。掃〕天治字鏡、七「[illegible]、[illegible]、波良不」二十本、作「[illegible]」 新古今集、六、冬「[illegible]トメテ、袖ウチはらふ、[illegible]モナシ、佐野ノワタリノ、雪ノ夕暮」 萬葉集、十[illegible]「コノ頃ノ、戀ノシゲケク、夏草ノ、刈リ掃ドモ、生ヒシクガゴト」 北條五代記、一、犬也人道弓馬之者事「[illegible]夫ニ水道ヲはらひ、無事ニ武具ヲ求ルハ、是君子ノ道ナリ」（二）〔觸レ撃ツ〕 後拾遺集、四、秋、上「[illegible]ノ、ミグサモ取ラデ、青柳ノ、はらふシヅエニ、マカセテゾ見ル」「柳枝、窓ヲ拂ふ」（三）追ヒ去ラス。〔解左右〕 寶[illegible]門院右京大夫集、故女院イラセ給テ、オハシマシシ御方ヲトリはらひテ」「密談ニ人ヲ拂ふ」（四）金錢ヲ授ク。ワタス。交付「錢ヲ拂ふ」勘定ヲ拂ふ」（五）賣リ拂ふノ略。（商人ナラヌニ云フ）「不用ノ品ヲ拂ふ」（六）追放ノ刑ニ行フ。（追放ノ條ヲ見ヨ）邊ヲ拂ふトハ、近ヅキ難シ、

はら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）【祓】神ニ祈リテ、災、穢、罪ナドヲ拂ヒ去ル。又、除キ清ム。後ニ、厄ヲ落スナド云フモ、此意ナリ。古事記、上、「禊、祓也」又、凶事ナクトモ、神事ナドニ、人身ヲモ、地ヲモ、家ヲモ、清ムルニ云フ。神代紀、[illegible]、謂、贖者解除不祥也」 神代紀、上十「[illegible]、[illegible]除其[illegible]惡」云云、[illegible]也」[illegible]、今年ノ六月晦ノ大祓ニ、祓給ヒ清給フ事ヲ、云云、大川道ニ持チ退リ、祓却ト宣ル」[illegible]、中臣ノ、天ノ小菅ヲ、割キ波良比、祈リシ事ハ、今日ノ日ノタメ」

はら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）【祓】〔須佐之男命、惡キ事、轉アリシニ因リテ、贖物ヲ責メハタリ、祓具ヲ出サセテ遣ハレタルヨリ起ルト云フ〕（一）祓ヲ行ハシム。祓ハシム。拾遺集、二、夏、水清ミ、流ルル川ノ、サヤカニモ、はらへテ、神モ聞カナム」 神代紀、上三十「用以此解除竟、遂以神逐之[illegible]、逐之」 拾遺集、廿、哀傷、[illegible]、はらヘテ[illegible]ツル、涙川、キシニモマサル、水ゾ流ルル」（二）罪アル者ニ祓具ヲ課セテ、罪ヲ清マシム。[illegible]、十[illegible]年三月、[illegible]八[illegible]、[illegible]八日、[illegible]「[illegible]」六帖、五「[illegible]人、[illegible]ナニト[illegible]、はらふれバ、ミソギカヒナク、[illegible]コソマサレ」[illegible]神[illegible]、十二年三月「役病多起、百姓蒙災、然今[illegible]解罪改過、[illegible]神祇」 古語拾遺「[illegible]除、[illegible]事」 萬葉集、十七[illegible]「中臣ノ、[illegible]、[illegible]良信（テ）、贖フ命ハ、誰ガタメニ汝」

ばら・ふ（名）【散斑】〔斑ノ上、黑キ斑ノ點點ニアルモノ〕[illegible]〔化、[illegible]馬、[illegible]、中「[illegible]ノ上ガサット三十兩、[illegible]ガ[illegible]二本」

パラフィン（名）〔英語、Paraffin.〕固態ノ炭化水素ノ混合物。瓦斯[illegible]、[illegible]（流動せいらふぃん）ナドモアレド、通常ハ、重油ヨリ製スル白色蠟狀ノ固形物ヲ云フ。固形ぱらふぃん、又、ぱらふぃん蠟トモ云フ。蠟燭ニ作リ、[illegible]、皮、工業上、用途多シ。

はら・ふえ（名）【大角】大角ニ同ジ。

はら・ぶくれ（名）【腹脹】家ノ富メルモノノ稱。書言字考節用集、五、[illegible]、[illegible]、八ラフクレ」 堺鑑（天和）中、信長公「一向、武道ニハ不立人、堺ノ町人ノ[illegible]、共ノ[illegible]、[illegible]ノミ專トシ、後二年月ヲ樂クセンコト」

はら・ぶと（名）【腹太】（一）[illegible]刀、度量ノ大ナルコト。又、ソノ人。ふとっぱら。（二）餅ノ皮薄クシテ、餡ハ、赤小豆ニ鹽ノミ入レテ、大キク作レルモノ。後、變ジテ大福餅トナル。

はらへ（名）【祓】（一）〔祓フルコト。祓ヲスルコト。祓ヲ祓ハシムルコト〕コレヲ善解除、又、きよばらひ（清祓）ト云フ。[illegible]、名[illegible]、ハラヘ、[illegible]、ハラ（ヘ）字[illegible]律保物語、[illegible]カクテ、[illegible]ノ十日ノ日バカリニ、[illegible]ノ祓シニ、難波ヘ、方方、明日遠モ、[illegible]リルナクオハシマス」 源、四、夕顏四十「御祈リカタガタニ、ヒマナクノノシル、マツリはらへ、修法ナド、云ヒツクスベ[illegible]」[illegible]、十二「[illegible]」[illegible]らへセサセタマフ」（二）水邊ニ出デテ、水ソ身ニソソギ、清祓スルコト。コレヲ[illegible]祓ト云フ。[illegible]ノ條ヲ見ヨ。[illegible]代[illegible]、[illegible]テ上卿以下參向シテ、祓ノ事アリ」（三）〔罪アル者ニ、祓具ヲ出サセテ、罪ヲ清メシムルコト。コレヲ惡解除ト云フ〕[illegible]記、五年十月、[illegible]、[illegible]年九月十四日、[illegible]

はらへ・ぐさ（名）【祓種】かたしろ（形代）、なでもの（撫物）、[illegible]等ノ總稱。奥義抄、一「人形、はらへぐさ」 夫木抄、九、荒和祓「淺茅カル、ケフハナゴシノ、はらへ草、タカマノ原ノ、神モ見ソナヘ」

はらへ・ぐし（名）【祓串】伊勢ノ大神宮ニテ、祓ニ用ヰタル玉串。[illegible]ノ木ニ、紙ヲ細ソク切リテ付ク。コレヲ分チテ匣ニ入レ、神符トシテ人民ニ配賦ス。俗ニ、祓箱ト云フ。はらひばこ（祓箱）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]（元祿、[illegible]）五、[illegible]ノ時、御祓串ヤ匣ミケン、仁王ノ御札ヤ匣ミケン」

はらへ・づき（名）【祓月】[illegible]、月ノ異稱。ヤヨヒ。ハナミヅキ。

はらへ・つもの（名）【[illegible]】（一）[illegible]、[illegible]（二）[illegible]

ハスル物。 神代紀、上三十「[illegible]祓具、此云波羅[illegible]」[illegible]〔[illegible]ト云ヘル、祓具ミナサムノモ[illegible]〕[illegible]

はらへ・ど（名）【祓戸】[illegible]日[illegible]、[illegible]中日[illegible]、[illegible]

はらへ・どの（名）【祓殿】[illegible]ノ時、祓ヲ行フ殿舍。特ニ設ケタル神社モアレド、神饌所、又ハ、拜殿ヲコレニ充ツルヲ例トス。[illegible]、[illegible]ル所ノ如クスル」

はらへどのかみ（名）【祓戸神】はらひどのかみ（祓戸神）ニ同ジ。

はらへ・ばこ（名）【祓箱】はらひばこ（祓箱）ニ同ジ。

はらまき（名）【腹卷】（一）[illegible]帶。ハラオビ。（二）【胴卷】[illegible]「[illegible]」[illegible]左右ヲ繞リ、[illegible]

ばらま・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［散蒔］ バラバラト蒔ク。マバラニフリマク。又、人氣ヲ得ムタメ、金錢ヲ、多クノ人人ニ分チ與フ。

はらみ-く（名）［懷句］〔孕句ノ義〕 連歌、俳諧ナドニテ、其當座ニ詠ムベキニ、カネテタクミマウケオキシモノヲ出スコト。宿案ノ句。異名、懷劍（クワイケン）。 百日曾我（元祿、近松作）二「ヒョット變ルナ變ラジノ、其言ノ葉デはらみくヤ、連歌師ノ山樣ト」

はらみ-すすき（名）［孕薄］ 薄（ススキ）ノ穗ノ、未ダ出デズニ、孕マレテアルモノ。

ハラミツ（名）［波羅蜜］〔梵語、Pāramitā. 度彼岸、又ハ、到彼岸ノ義。大乘義章、十二「波羅蜜者、是外國語、此翻爲ㇾ度、亦名ニ到彼岸ニ云云、波羅者岸、蜜者是到也」〕（一）菩薩ノ大行ヲ云フ。コノ大行ニ乘ジテ、能ク生死ノ此岸ヨリ涅槃ノ彼岸ニ到ル故ニ、到彼岸ト云フ。又、波羅蜜多。ひがん（彼岸）ノ條ヲ見ヨ。 大智度論、十二「波羅（秦言ニ彼岸ニ）蜜（秦言ㇾ到）、是名ニ渡ニ布施河ニ得ㇾ到ニ彼岸ニ」 倶舍光記、十八「波羅、此云ニ彼岸ニ、蜜多此云ㇾ到、菩薩能到ニ自乘所ㇾ往圓滿功德彼岸ニ故」 提醒紀談「太田全齋云、宋板ノ經論ノ波羅蜜、虫ニ作ル」 十訓抄、八、序「六度ノ中ニハ忍辱波羅蜜トモ稱シ」（二）波羅蜜樹ノ略。木ノ名。東印度諸島ノ原産ナリ。我ガ國ニテハ、臺灣ニアリ。常綠ノ喬木ニテ、高サ三丈ニ達シ、葉ハ楕圓形ニシテ、鋸齒ナシ。花、極メテ小サク、總ヲナシテ簇リ咲ク。實ハ長楕圓形ニシテ、味甘シ。土人、コレヲ食用トシ、材ハ種種ノ細工ニ用キル。あこう（榕）、又、がぢまるト云フモ、同種ナルベシ。 重修本草綱目啓蒙、廿二、夷果「波羅蜜、一名、刀生果（廣東新語）、婆羅樹、優鉢曇（共、同上）」 華夷通商考、二「廣東省土產、波羅蜜、廣州、木ノ實」

はらみ-め（名）［孕婦］ 又、はらめ。子ヲハラメル婦人。ミモチノ女。ハラミ女。ヨウフ。姙婦。

はら・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［孕］［姙］［娠］〔腹ヲ活用ス〕（一）〔胎ニ兒ヲヤドス。ミゴモル。ミモチニナル。姙娠ス。懷姙ス。懷胎ス。身。 易林節用集（慶長）上、言辭門「懷姙、胎、孕、ハラム」 神代紀、下六「皇孫因而幸之、卽一夜而有ㇾ娠（ハラミヌ）」（二）脹（ハ）ル。フフマル。穗、出デムトシテ、フクラム。含。 堀河百首「秋風ニ、はらむ薄ノ、アル野邊ハ、ウツシノ露ヤ、色ニマガヘル」 夫木抄、九、晩夏「夏深ミ、はらみニケリナ、シノススキ、下ハヒマドフ、葛（クズ）ノ帶シテ」（三）生ル。又、養フ。ハグクム。 平家物語、二、西光被ㇾ切事「サノミ王地ニはらまレテ、詔命ヲ對捍セムモ畏ナリ」

はらん（名）［葉蘭］ 又、ばらん。蘭ノ一種。常綠ナレバ、多ク庭際ニ植ウ。葉ハ、青綠ニシテ、長サ一二三尺、幅、三四寸、一根一葉ニシテ、叢生ス、葉莖、長シ。花ハ、半バ、土中ニアリテ、蕗ノ花ノ如シ、冬ヨリアリテ、初夏ニ開ク、七瓣ニシテ、內、紫色ニシテ、外、淡褐色ナリ。蜘蛛抱蛋 一葉

はらん（名）［波瀾］〔說文「波、水涌流也、又、大波爲ㇾ瀾」〕（一）ナミ。オホナミ。 謝靈運詩「傾ㇾ耳聆ニ波瀾ニ、舉ㇾ目眺ニ嶇嶔ニ」 劉禹錫詩「安得齒羽、從爾游ニ波瀾ニ」（二）文章ノ變化アルコト。 杜甫詩「毫髮無ニ遺憾ニ、波瀾獨老成」（三）亂レ。モメ。アラソヒ。 李商隱詩「詞林枝葉三春盡、學海波瀾一夜乾」

ばらん（名）［葉蘭］ 前前條ノ語ニ同ジ。

バランス（名）〔英語、Balance.〕 ツリアヒ。カネアヒ。平均。均衡。

はらめ（名）［孕婦］〔はらみめ（孕婦）ノ略〕 子ヲハラメル女。ハラミ女。ヨウフ。姙婦。 倭名抄（大須本）男女類「孕婦、波良女」

はらめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四） ハラハラト音ヲ立ツ。パラパラト音ス。 源、十二、須磨四十九「雨ノ足アタル所、通リヌベクはらめき落ツ、カクテ世ハ盡キヌルニヤト、心細ク思ヒ惑フニ」

はらも（名）［腴］ 古言、ホバラ。魚ナドノ小腹（シタハラ）ノ兩邊。

バラモン（名）［婆羅門］〔梵語、波羅賀摩拏（Brāhmaṇa.）淨行ト譯ス、清淨ノ義。略シテ、波羅門ト云フ〕 天竺、四姓ノ一。神ニ奉仕スル僧侶ノ階級ニテ、國民ノ四階級ノ最上タリ。又、宗門ノ名トモス。卽チ、梵天王ノ種性ニテ、淨行ヲモトトシ、宰臣トナル種ナリ。佛敎ヨリモ、甚ダ古ク、且、盛ナリ。 希麟音義、八「婆羅門、不ㇾ正梵語也、應ㇾ云ニ沒囉憾摩ニ、此云ニ淨行ニ、或云ニ梵行ニ、自相傳云、我從ニ梵王口ニ生、獨取ニ梵名ニ云云、謂ニ梵論師ニ云云、其中、聰明頴達者、爲ニ帝王之師ニ」 玄應音義、十八「婆羅門、此言訛略也、應ㇾ云ニ婆羅賀摩拏ニ、此義云ニ承習梵天法者ニ、其人種類自云、從ニ梵天口ニ生、四姓中勝故、獨取ニ梵名ニ、唯五天竺有、諸國卽無、云云、是梵天之苗胤也」 萬葉集、十六、四十「婆羅門ノ、作レル小田ヲ、ハム烏、マナブタハレテ、ハタホコニ居リ」

はらや（名）［輕粉］〔白粉（ハフニ）ト緣アル語カト云フ〕 いせおしろい（伊勢白粉）ノ條ヲ見ヨ。 鉛霜 動植名彙附錄「少彦名命製法、輕粉、波良屋」 寶暦堂雜錄（安政、喜鑽成）二、輕粉原屋之名義「日本ニテ、輕粉ヲ燒キ初シハ、京都佐原屋某ト云フ人ナリ、故ニ輕粉ヲ俗ニはらやト號セリ、室町時代以後ノ事ナリ」 關八州繋馬（享保、近松作）三「ツゲノ小櫛ノ黃水ト、涙ハラハラはらやニ落ス露ノ身ノ、最早タシナムヲ化粧ノ、八重[illegible]延、鈴木[illegible]ムカフ顏モ丸顏ニ、はらやノヘテ、ツクヅクト、心ノ中ノ暇乞ヒ」

はらら-か・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［散］ ハララクヤウニナス。バラバラニナス。チラス。 神代紀、上十三「踏ニ庭[illegible]若ニ沫雪ニ以蹴散（クヱハララカス）、此云ニ倶穢簸邏邏箇須ニ」 [illegible]

はらら・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［散］ ホロホロ。ホロホロニナル。ハラハラス。バラバラニナル。崩レ散ル。ホロログ。 名義抄「壞、ハララク、ウクロモチ」

はららご（名）［鮞］〔散子（ハララコ）ノ義〕 すぢこ（筋子）ノ條ヲ見ヨ。アマゴ。 林逸節用集、生物「鮞、ハララコ」 書言字考節用集、五、氣形門「鮞、ハララゴ、甘子、筋子、鮞全、鮞子也」

はらら-に（副）［散］ チリヂリニ。ハダラニ。パラバラニ。 萬葉集、廿、廿五長歌「海原見レバ、白浪ノ、八重折ルガ上ニ、海人小舟、波良良爾浮キテ、云云、ヲチコチニ、イサリ釣リケリ」

はらり（副）（一）物ノマバラニ、散リ亂ルル狀ニ云フ語。パラリ。バラリ。（二）物ヲ卷キ、又ハ、開ク音ニ云フ語。 狂言記、鐘「鐘、云云、コレヲカウ致イテ、はらりはらりト卷ケバ、腹卷ニナルコトデオリャル」 同、萩大名、扇子、云云、十重（トヘ）咲キ出ツルト申ス時ハ、はらりト開キマセウガ」（三）物事ノ趣ノ、俄ニ變ル狀ニ云フ語。ガラリト。 醒睡笑（元和、安樂庵策傳）一「主人タル人ノ心ト、下男ノ心ト、モノゴトはらりトチガヒテ」

ばらり（副）（一）一刀ニ物ヲ斬リ落ス音ナドニ云フ語。スカリト。（二）前條ノ語ノ（一）ニ同ジ。 狂言記、路蓮坊主「朝ガホノ花ト申スハ、朝ヒラキテ、日ノ出ヅレバシボミ、夕ベニばらりト落ツ」

ぱらり (副) 前前條ノ語ノ(一)ニ同ジ。浮世風呂(文化、三馬)四編、中「生(ナマ)[illegible]、云云、チノトバカリ來タ分ニャア、オイソレノ間ニぱらりダ」

ぱらりちゃんと (副) 殘ル所ナク、キマリヲ附クル狀ニ云フ語。綺麗サッパリ。シャンシャント。

ばらりずんと (バラリ・ズン・ト) (副) 又、ばらりずんと。一刀ニ斬リ下グル勢ニ云フ語。「ばらりづんと切下ゲタリ」

ばらりと (副) 散 疎ラニナリテ。疎ラニ散ラシテ。稀疎 「種ヲばらりと蒔ク」

はらりはらり (副) はらりヲ重ネテ云フ語。ハラハラ。一茶句集、秋「露はらり、はらり浮世ノ、大事カナ」

ばらりばらり (副) ばらりヲ重ネテ云フ語。バラバラ。

はらわた (名) 腸 「腸(ハラワタ)[illegible]ノ義カ、腹綿ノ義トモ云フ」(一)古クハ大腸(ダイチヤウ)ノ稱。又、おほわた(大腸)トモ云フ。小腸(セウチヤウ)ヲほそわた(細腸)ト云フ。(二)今ハ、大小腸(チヤウ)ノ總名。單ニ、わた。又、百尋(ヒヤクヒロ)。卽チ、體中、胃ノ下口ヨリ回旋(メグリメグ)リテ、肛門マデ通ズル膜管ノ稱。(長サ全身ノ約六倍アリ)消化シタル食物、ココヲ通ズル間ニ滋養分ヲ取リ、其滓ヲ體外ニ出ス。全部ヲ上下ニ分チ、上部ヲ小腸(セウチヤウ)ト云フ、二丈餘、下部ヲ大腸(ダイチヤウ)(又、結腸(ケツチヤウ))ト云フ、五尺許リアリ。小腸ノ上端ノ、胃ニツキテ曲レル所ヲ、十二指腸(ジフニシチヤウ)ト云ヒ、大腸ノ下端ノ、肛門ニ近キ所ヲ、直腸(チヨクチヤウ)ト云フ。[illegible]、ハラワタ、オホワタ、小腸、ホソワタ[illegible]

はらわた[illegible] 太」増鏡、中、今日日影「自害スルトテ、はらわたヲバ皆クリイダシテ、手ニゾモタリケル」太平記、廿一、鹽冶判官讒死事「腹カキ切リ、はらわた繰リ出シ、判官ノ首ノ切口ヲ[illegible]、[illegible]付キテゾ死シタリケル」[illegible]わたヲ[illegible]切テ、[illegible]死[illegible]人之由候」腸を切る、腸を斷つトハ、甚シク笑フ、腹筋ヲ縒ル。俳[illegible]ヲウニサニ、[illegible]たおえ、[illegible]」持腹腸を斷つ、腸斷ゆトハ、腸ノチギルル思アル意。イタク悲シム。斷腸

はらゐせ (ハラ・イセ) (名) 〔腹ノ居ルヤウニスル意ナラム〕 はらいせ(腹癒)ニ同ジ。

ばらを (バラ・オ) (名) 散緒 細ソキ緒ヲ數條集メテ作リタル下駄ノ緒。本朝[illegible]、[illegible]鐵)八「水色ノ絹足袋ニ、ばらをノ[illegible]」天和笑委集「白キウネサシ、[illegible]、[illegible]竹ノサウリ、ばら緒ノセキダ、我レサラジト、サシモ風流ニ出立サ[illegible]」

はり (名) 針 鍼 〔穿(ホリ)ノ轉カト云フ〕(一)〔布帛ヲ縫フニ用ヰル小サキ具。鋼ニテ作ル。[illegible]ニ似テ、圓ク細長ク、一端ハ尖リテ一端ニ小孔アリ、孔ヲみみ、みづ、めどナド云フ、コレニ絲ヲ貫キテ、刺シ縫ヒモテユク、或ハ、孔ナキ[illegible]ナトモアリ。[illegible]十八[illegible]「[illegible]ノオキナト、思ホシテ、波里ゾタマヘル、[illegible]ハムモノモガ」[illegible](二)スベテ、物ノ細ソク鋭ク出デタル、針ノ如キモノ。刺。刺「針鼠」「針河豚」(三)蜂ノ尾ニアリテ、鋭ク、シテ、刺セテ毒アナスモノ。ケン。螫 [illegible]隅田川(享保、近松作)ニ「花ノ露吸フ山蜂ノ針アル胸ニ」(四)〔魚[illegible]〕[illegible]「ウキ世ヲバ、離レ小島ニ、身ハアレド、針ナキ釣リニ[illegible]」

はり (名) 鍼 「[illegible]」[illegible]ノ用ヰル具。金、又ハ、銀ナドニテ作ル。形、針ノ如ク、[illegible]、人身ニ[illegible]打チ[illegible]、內部ノ病メル[illegible]、[illegible]鍼治 [illegible]ハ[illegible]「[illegible]」狂言記、[illegible]、鍼ヲ致シマセウ、鍼ハ是レデゴザル、[illegible]何トスルゾ、之レヲ痛ム所ヘ打チ込ム事デゴザル」

はり (名) 梁 (うつばりノ略) 古名、ウツバリ。家ノ柱ノ上ニ、棟ト打違ヒニ互シ、棟ヲ負ヒ、屋根ヲ支フル材。

はり (名) 榛 「[illegible]」[illegible]、[illegible]、木叢生也」詩經、周南、[illegible]、「[illegible]木叢生也」[illegible]、[illegible]ノ木。[illegible]、[illegible]テ榛ノ字ヲ用ヰタリ。芽ヲ生ズルヲ張ルト云フ」又、はりのき。はんのき(榛木ノ[illegible]。[illegible]衣[illegible]、[illegible]ケ衣レバ、榛ノ[illegible]枝ニ、夕サレバ、[illegible]ノ[illegible]ニ、ハロバロト、鳴ク霍公鳥」[illegible]ポリシ、[illegible]利ガ枝[illegible]木、是、波利乃木也」衣服令[illegible]」天武紀、下、[illegible]野ニ、ニホフ榛原、入リミダレ、衣ニホハセ、旅ノシル[illegible]ノ、眞野ノ榛原、手折リテ行カム[illegible]衣摺ラムタメナリ」同、十[illegible]、衣ニ摺ラム、ニホヒコソ、島ノ榛原、秋立タズトモ」[illegible]

はり (名) 羽鍼 はあり(羽鍼)ノ約、[illegible]

はり (名) 張 (一)張ルコト。又、突キ張ル力。[illegible]、人ハ押シタル、はり弱ナヒソ」「張ガアル」(二)イキハリ。ハリアヒ。イキヂ。[illegible]抗氣[illegible]タチハ、[illegible]はり[illegible]、[illegible]長唄、京鹿子娘道成寺「[illegible]ノリケ里、武士[illegible]ヲ伏[illegible]デ、はりト意氣地ノ吉原」

はり [illegible] ニ云フ語。[illegible]五百[illegible]

ハリ (名) [illegible] 巴里 [illegible]、[illegible]、[illegible]、ハリ、[illegible]今、ガラス、ビイドロ。玻璃ノ鏡トハ、[illegible]はりのかがみ(淨玻璃鏡)ニ同ジ。

ばり (名) 〔尿ノ略〕 [illegible]いばり(小便)ニ同[illegible]メ、[illegible]、[illegible](二九)[illegible]ガ[illegible]リコイトスル、[illegible]はり」

ばり (名) 罵詈 [illegible]、[illegible]也、以[illegible]、[illegible]ト、ノノシ[illegible]

はりあぐ グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ [illegible]「ケ、[illegible]」

張上（一）障子ナドニ、紙ヲ張リ終ル。（二）大聲ニテ叫ブ。高ク聲ヲ出ス。

はりあこめ (名) 張衵 糊ヲツケテ、コハク張リタルアコメ。

はりあひ (名) 張合 （一）ハリアフコト。セリアヒ。競爭 東海道名所記(萬治)一「威勢アラソヒノはり合ひニ、イサカヒドヨメキ」心中天網島(享保、近松作)上「此ノ男ガ女房ニ持ツカ、紙屋治兵衛ガ出スカ、張合ノ女郎、近ツキニナッテオキヤ」（二）轉ジテ、甲斐ノアルコト。詮。效驗。東海道中膝栗毛(文化、一九)四編、下「貰メテ貰ハニャア張合ガネエカラ」

はりあひぬけ (名) 張合拔 セリアヒノ勢ノ拔クルコト。競爭力ノナクナルコト。氣ノ拔ケルコト。

はりあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 張合 互ニ負ケジト競フ。セリアフ。抗 競爭 嫗山姥(正德、近松作)「時平ノ右大將ニ張合ひ、後日ノ恥ヲ受ケン事、犬ニ食ハレシ同然ト」

はりあふぎ (名) 貼扇 上部ヲ紙ニテ貼リ包ミタル扇子。講談師ナド、机ヲ打チテ調子ヲトルニ用キル。

はりい (名) 鍼醫 鍼ヲ用ヰテ病ヲ治スル醫師。ハリイシャ。ハリクスシ。針師。本朝醫考、中、鍼醫「上池院民部卿法印紹胤之孫壽三、井旅庵、近世以鍼醫鳴於世、其徒到今多矣」

はりいた (名) 張板 洗ヒ、又ハ、糊ヲ附ケタル布帛、或ハ、糊シタル紙ナドヲ貼リ延ベ、又ハ、皮ナド張リ晒スニ用キル厚板。

ばりいた (名) 尿板 廁ノ敷板。

はりうち (名) 針打 （一）針ヲ刺スコト。

（二）婦人ノ髮飾ノ一。花形ナドニ製シ、根掛ケトシテ、オモニ唐人髷、天神髷ナドニ用キル。（三）童子ノ戲。紙ヲ重ネテオキ、針ニ長サ三四寸ノ絲ヲツケ、針ヲ前齒ニクハヘ、針ヲ紙ニ打チ刺シテ、絲ノ端ヲ指ニテツマミ、ソト拔キ、針先ニツキテアガレル紙ヲ取ルナリ。長崎歲時記ニ紙打トアリ。

はりかうり (名) 張行李 粗製ノ竹行李ニ紙ヲ張リ、表ニハ澁、漆ナドヲ塗リ、裏ハ型附紙ナドヲ張レルモノ。

はりかた (名) 張形 女陰、又ハ、陰莖ノ形ニ擬シテ作レルモノ。陰相 男莖形。はせを(玉莖)ノ條ヲモ見ヨ。犬菟玖波集、永正ニ「東路ヤ、誰ガ娘トカ、チギルラム 逢坂山ヲ、越ユルはりかた」 油糟、寛永ニ「逢坂山ヲ、越ユルはりかた」戀ノ文、入レテ旅立ツ、具足櫃」

はりがね (名) 針金 〔元ハ鐵線ニ云ヒ、針ヲ作ル料トセシヨリ名アリ〕銅、鐵等ヲ伸ベテ、長ク絲ノ如クシタルモノ。物ヲ束ネ、又ハ、かなあみ(金網)ナドヲ編ミ作ルニ用キル。鐵線 銅線 易林節用集(慶長)上、器財門「鐵金、ハリガネ」 奴師勞之(文化、大田南畝)ニ「明和ノ初マデ、はりがねはりがね、二尺一文、はりがねト呼ビテ、江戸中ヲ賣リ歩ク老父アリ」

はりがねだより (名) 針金便 でんしん(電信)ニ同ジ。(明治初年ノ語)

はりがねむし (名) 針金蟲 蟲ノ一種。蟷螂ノ腹中、又ハ、鳥ノ腸ノ中、或ハ、溜水ノ中ニモ生ズ。形、よりいと(縒絲)ノ如クニテ、長サ一二尺、淡褐色ナリ。一名、アシマトヒ。アシガラミ。アシマキ。線蟲

はりがみ (名) 張紙 （一）糊ニテ、物ニ貼リツケタル紙。（二）紙ニ事ヲ記シテ、衆ニ示サムトテ、往來ナドニ貼リ揭グルモノ。張出。張札。浮帖 好色二代男(貞享、西鶴)七、生埋ノ中ニ張紙、萬葉書キニシテ、屋形樣於路志藥アリ、トハヲカシク」

バリカン (名) 〔我ガ邦ニテ、佛蘭西ノ Bariquand & Marre. 會社製作ノ特許器ヲ用キタルヨリ、器械ノ名稱ニ轉ジタル語〕髮ヲ刈ル器。鐵製ニテ、形、唐鋏ノ如ク、上ニ櫛形ノモノ二枚ヲ着ケテ、密着セシメ、齒ノ左右ニ刃アリ、兩脚ヲ動カセバ、二櫛、左右ニ摺合ヒテ動キ、髮ヲ切リ得ル裝置ノモノ。

はりぎ (名) 榛木 はんのき(榛木)ニ同ジ。又、ハリノキ。

ハリギ (名) 〔花稜ノ唐音訛ナラムト云フ〕鉢ノ緣ノ反リテ、細カナル花形ニナリタルモノ。下學集、下、器財門「菱華盞、リンクヮノタイ、日本之俗、菱作レ輪、大誤也」嬉遊笑覽、二、下、器用「鉢ノハタ、ソリテ細カナル花ガタニナリタルヲ、俗ニはりぎト云フハ、花菱ノ訛ナルベシ、云云、八ツ花形ノ鏡ヲ菱花トイヘルガ如シ」

ばりき (名) 馬力 （一）工率ノ單位ニ云フ語。馬一疋ノ力ニ等シキ力ノ義ニテ、一分間ニ三萬三千封度ノ重サヲ、一呎ノ高サニ擧グベキ力ノ稱。(英國制)（二）馬ノ車力。荷馬車。

はりぎり (名) 針桐 落葉喬木ノ名。山ニ生ズ、白桐ノ如クニシテ大キク、幹枝ニ刺多シ、大木トナレバ、膚、瘤ノ如シ。葉ハ、七尖、或ハ九尖ニシテ、鋸齒アリ、かへで、又、とちのき(七葉樹)ノ葉ノ形ニシテ、尺許リアリ、背ニ褐毛アリ。材

堅ク白シ。一名、シホデ、イヌダラ、ホホダラ、ボウバラ。[illegible] 刺楸

はりき・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 張切 （一）十分ニ張ル。ハリツム。（二）勇ミハヤル。勢力、橫溢ス。

はりくすし (名) 鍼醫 はりい(鍼醫)ニ同ジ。

はりくち (名) 針口 天秤(其條ノ(一))ヲ見ヨ)ノ中央、支柱ノ上ニアル針ニシテ、輕重ノ平均ヲ見ルニ用ヰルモノ。[illegible]本地(寶永、近松作)一「天秤針口[illegible]目ナシ、此方モ重イ、彼方モ重イ」

はりくやう (名) 鍼供養 江戶時代、婦人ガ二月八日ニ、日常、裁縫ニ用ヰテ折レタル鍼ヲ集メテ、淡島社ニ納ムルコト。其日ニハ、裁縫ヲ休ム。俳諧歲事記、二月事綱「針供養、武江ノ俗、二月八日、云云、婦人ハ針ノ折レタルヲ集メテ、淡島ノ社ヘ納メ、一日、絲針ノ業ヲ停ム、コレヲ針供養ト云フ」

はりぐら (名) 張鞍 革ヲ張リタル鞍。狂言記、文藏「名馬ニ鞍オカセ、豹ノ皮ノはりぐらニ、虎ノ皮ノキッツケニ、熊ノ皮ノ障泥ヲサシ」

バリケン (名) 〔蘭語、Bergeende. ノ訛。卽チ、べるげ(山)えんで(鴨)ノ意ト云フ〕おらんだあひる(阿蘭陀鶩)ニ同ジ。

はりこ (名) 張子 〔張籠ノ義〕はりぬき(張拔)ニ同ジ。還步色葉集「張子、ハリコ」雍州府志(貞享、黑川道祐)七、土產門「張子、凡以レ木造二人形、及、鳥獸之形狀、并器品之模樣一、然後貼二稠於白紙一、而張二其外面一、數遍、日乾後、縱或橫、中二分之一、以二小刀一截二所レ張之中間一、二二別之一、而後再合レ之爲二函蓋一、是謂二張子一」狂言記、長光「色色ノ賣物ガアルヨ、此ノはりこイクラ、ヤァ、ソレハ高イ」

はりおし (名) [張輿] 輿ノ一種。疊表ニテ張リ包ミ、押緣ヲ打チタルモノ、モト四人ノ乘用トシ、室町時代ニハ、貴人ノ略儀ノ用トセリ。盛衰記、十二、教盛夢ニ忠正[illegible]事「讃岐院ヲ張輿ニノセ奉リテ、木幡山ノ麓ニ舁キスヱ奉リテ、都ニ入レ奉ルベキ由評定シケリ」太平記、二一、僧基僧[illegible]事「[illegible]光事「僧基、已ニ張輿ニ乘セラレテ、ケハイ坂ヘ出給フ」後[illegible]記、永[illegible]年六月廿七日「今日小輿ヘニ室[illegible]寺ヘ云云、用ニ張輿ヘ凡言語道斷之體」親元日記、寬正六年七月十七日「上樣、石山寺御參詣、女中御乘、[illegible]はり輿ナリ」

はりおと (名) [張言] 互ニ競ヒ言ヒアフコト、意地ヲ張リテ云フ言葉。新六帖、五「イタヅラニ、マダ手モフレヌ、ソリマユミ、人ハオシタル、はりおとナセソ」

はりおみ (名) [張込] (一)ハリコムコト。奮發スルコト。(二)見張ヲスルコト。

はりお・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [張込] (一)精ヲ込ム。力ヲ入ルル。イキゴム。奮發 (二)オゴル。散財ス。大金ヲカケル。(三)張番ス。マチカマヘル。

はりさ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) [張裂] (一)十分ニ張リフクレテ裂ク。(二)鬱憤ニ堪ヘズ、苦痛ニ堪ヘズ。

はりさし (名) [針刺] 針ヲ刺シ止メテ置ク具。布帛ニテ綿ヲ包ミテ作ル。ハリタテ。ハリヤマ。類聚雜要抄、二「針差、ハリサシ」好色一代女(貞享、西鶴)四「貴人ノ御小袖ナド仕立テ上ゲルニハ、ソモソモ針刺ノ數ヲ改メ置キテ、[illegible]フ時マタ針ヲ讀ミテ」

はりし (名) [針師] (一)はりい(鍼醫)ニ同ジ。[illegible] (二)針ヲ[illegible]造スル職人。針ヲ作ルヲ業トスルモノ。

はりおぶ (名) [針仕事] 針ヲ以テ衣服ヲ縫ヒ作ル技。略シテ、仕事、ハリワザ。ヌヒシゴト。裁縫 針工

はりすひいし (名) [針吸石] おおやく(磁石)ニ同ジ。

はりすり (名) [榛摺] 古ヘ、榛、樹ノ皮ヲ以テ、色ヲ布ニ摺リ出シタルコト。又、ソノモノ。天武紀、下、朱鳥元年正月、「[illegible]皇子、[illegible]以、[illegible]衣[illegible]」[illegible]大嘗祭式、[illegible]「はりすりノ衣」

はりせんぼん (名) [針千本] 海魚ノ名。長サ三五寸、大ナルハ尺餘ニ至ル、形、球ノ如クニシテ、腮無ク、脊、黑ク、腹、白シ、おほさいふぐノ如ク、全身ニ鋭キ刺ヲ生ズ、其狀、栗ノいがニ似、瀕ヲ脹ラストキハ、刺、悉ク直立ス。魚虎其刺ノ短ク少キヲ、針河豚ト云フ。

はりた (名) [墾田] 新ニ開墾シタル田。新田。墾田。[illegible]「治田、[illegible]」[illegible]

はりだくみ (名) [張工] きゃうおや(經師屋)ノ異稱。其條ヲ見ヨ。

はりたけ (名) [針茸] おかたけ(鹿茸)ニ同ジ。易林節用集(慶長)上、草木門「鍼茸、ハリタケ」大和本草、九、菌類「針たけ、ネズミタケヨリ小ニシテ、ハリノ如シ、其先トガリ、紫色ナリ、[illegible]」[illegible]

はりだし (名) [張出] (一)張リテ出スコト。又、其モノ。[illegible] (二)張出[illegible] (三)江戸時代、女ノ髮ノ[illegible]張リ出スタメニ、髮ノ下ニ入ルル具。

[illegible]「張出大關」

はりだ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [張出] (一)張リテ外ヘ出ス。狹キ場所ヲ擴ゲ出ス。(二)紙、札ナドニ書キテ、衆人ノ目ニ觸ルル所ニ張リテ示ス。(三)[illegible](四)番附ノ欄外ニ記スコト。又、其モノ。

はりたて (名) [針立] (一)はりさし(針刺)ニ同ジ。(二)鍼治スルコト。又、ソレヲ業トスル醫者[illegible] 集、四、人倫門「針醫、ハリタテ、ハリクスシ」[illegible]はりたてヲ呼ビ[illegible]

はりたふ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [張倒] 打チテ倒ス。[illegible]

はりだましひ (名) [張魂] 意地ヲ張ル氣象。イッテツナル性分。[illegible] ヒ[illegible] ヲセメラレン事、ヨクヨク御計ラヒ有ベシト教訓シケレ共、木曾ハはりだましひナル男ニテ、與ヒ立サヌル事ヲ錯ラヌ者也」

はりつ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) [張付] [illegible] 人ヲ[illegible]ヒロゲテ、釘ニテ木ニ打チ着ケ、後ニ、[illegible]也、死身ヲ市[illegible]「新クテ、此法師ヲバ引返シテモ何ニカハセムトテ、[illegible]四條ヲヨセ柱ホリ立テテ、身ソ[illegible]カサメヤウニはり[illegible]

はりつけ (名) [illegible]事ヲシテ殺スコト。(前條ヲ見ヨ)又、下

[illegible]足ヲ地上ニ張リ付クルアリ、土磔トス。[illegible]ツ。ハッツケ。[illegible] 義長ノ事「長田父子ヲ[illegible]、[illegible]レ、[illegible]ニモ直ニハアラズ、頭ノ[illegible]ノ前ニ、左右ノ手足ヲ以テ、竿ヲヒロゲ、[illegible]キテ、[illegible]ト云フモノニシテ、[illegible]殺ニゾセラレケル」(二)後[illegible] [illegible]ニテ、兩腋ヨリ突キ上ゲテ殺スコト。[illegible]古ク、はたものに上ぐナド云ヘリ。[illegible] 世、切支丹ヨリ[illegible]、其[illegible]レルナラム」[illegible] 殿ヘバ、[illegible] はりつけ[illegible]

はりつけ (名) [張付] 物ノヲ張リツクルコト。又、ソノモノ。[illegible]

はりつざいく (名) [破笠細工] 一種ノ細工。[illegible]ノ形ヲ[illegible] 破笠細工ト稱ス、其ノ[illegible]

はりづつ (名) [illegible]

はりつ・む・ム・メ・[illegible] (二)氣ガ十分ニ張ル。緊張ス。

はりて（名）［張手］相撲ノ語、立合ノ際、敵ノ面部ヲ、横サマニ平手ニテウツコト。略シテ、はり。

はりどの（名）［張殿］うちどの（打殿）ノ條ヲ見ヨ。

はりなすび（名）［針茄子］又、はりなす。まんだらげ（曼陀羅華）ニ同ジ。

はりぬき（名）［張抜・張貫］ハリヌクコト。物ノ形ヲ木型ニ作リ、數枚ノ紙ヲ、糊ニテ外ヨリ貼リ、乾シテ截リ、型ヲ拔キ去リテ、再ビ合ハセ作ル。張子。脫沙。雍州府志（貞享、黑川道祐）七、土産門「張子、凡以木造人形、云云、畫品之模樣、然後貼稀糊於白紙、而張其外面、云云、至于人形鳥獸、則中開二截之、出所在內之模樣、別以紙補貫合縫之間、而終全形、而施彩色於其上、分面顏衣服之彩、是稱張脫、細工、貼紙後、脫出模樣之義也」本朝若風俗（貞享、西鶴）七「人形屋、云云、手細工ニ獅子笛、或ハ張貫きノ虎、又ハ禪ナシノ赤鬼」

はりぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［張拔］張拔ニ作ル。

はりねずみ（名）［針鼠］古名、クサブ。今、又、ケハリネズミ。獸ノ名、支那、及歐羅巴ニ產ズ。體肥エテ、五寸ヨリ尺許リニ至ル。頭、脚、尾、共ニ小サクシテ、全身ニ刺アリ、只、腹ハ毛ノミナリ。刺ハ容管ニテ、長サ三四分、粗クシテ尖リ、黑ト白トアリテ、半透明ナリ。物ニ襲ハルルトキハ、體ヲ圓ク縮ム、形、栗毬ノ如シ。林ニ棲ミ、晝伏シ、夜出デテ、蟲、果ナドヲ食フ。蝟。猬。

はりのき（名）［榛木］はんのき（榛木）ノ古名。ハギ。古事記、下（雄略）五十「登坐榛木上御歌曰、云云、シシノ、ヤミシシノ、ウタキカシコミ、吾ガニゲノボリシ、アリヲノ、波理能紀ノ枝」物類稱呼、三、植物「榿、東國ニテ、ハンノ木ト云フ」

はりのみみ（名）［針耳］縫針ノ絲ヲ通ス穴。ミゾ。メド。ミゾ。ハリノミミソ。針孔。針眼。宇津保物語、俊蔭、上「イトツカヒヨキテヅクリノはりのみみ、イトアキラカナルニ」

はりのみみそ（名）前條ノ語ニ同ジ。

はりばかま（名）［張袴］紅ノ平絹ヲ板引ニシテ、コハク張リタル袴。禁祕御抄、中「御裝束事、云云、張袴、略儀生袴（如女房）腰引廻、前右方結、末股立入」女官飾抄「袴ハ紅ノはりばかま、祝ノ時、コキはりばかま、夏冬同ジ」

はりばこ（名）［針箱］婦人ノ用具ノ一。針、其他、裁縫ノ具ヲ入レ置ク小サキ匣。散木集、十、雜、下、隱題、はりばこのふた「はりばこノ、フタツノ袖ニ、サシツレド、一ツモ見エズ、オチニケルカナ」前句附萬句合（寶曆、柄井川柳）「針箱ノ、內ハアヤシイ、物バカリ」

はりばん（名）［張番］見張リテ、番スルコト。又、其人。甲陽軍鑑、九、上、品第廿四「味方ヨリ、はり番ヲモ一人出サズ」小町踊（寬文、立圃）冬「川ロノ、張番トナル、氷カナ」

はりはら（名）［榛原］榛ノ木ノ林。榛ノ木ノ多ク生ヒタル原。ハイハラ。萬葉集、十四、廿六「伊香保ロノ、ソヒノ波里波良、吾ガ衣ニ、ツキヨラシモヨ、タヘトオモヘバ」同、一、廿五「ヒクマ野ニ、ニホフ榛原、入リ亂リ、衣ニホハセ、タビノシルシニ」

はりはり（名）［嚙ム音ヲ名トス］ごぼうづけ（五分漬）ノ異名。（東京）

ばりばり（副）（一）烈シク、物ヲ嚙ミ碎ク音ニ云フ語。パリパリ。（二）爪ナドニテ、搔キムシリ、又ハ、剝ガシ、或ハ、裂クナドノ音ニ云フ語。（三）威勢ノ烈シキニ云フ語。東海道中膝栗毛（享和、一九）初編「ばりばりスル強飯ヲアガリヤァシ」

ぱりぱり（副）（一）モノヲ、嚙ム音、又、引キ裂ク音ニ云フ語。狂言記、庖丁聟「庖丁人ノ腕、云云、刀早ニスッパリスッパリ、ぱりぱりスパリト作リスマイテ、生姜酢ヲ以テ、キッキットア〈へ〉」（二）羽振ヨキモノ、又ハ、勢力アルモノニ云フ語。ハバキキ。チャキチャキ。

はりひぢ（名）［張臂］息込ム時ナドニ、臂ヲ左右ヘ張ルコト。又、意地ヲ立ツルコト。書言字考節用集、八、言辭門、摸當、ハリヒヂ」東海道名所記（萬治）一、吉原「三谷ウチニ廿九人ノ太夫アリ、中ニモ名取衆ハ、高尾、カラ崎、千歲トカヤ、はり臂ノ者ナリ」

はりふぐ（名）［針河豚］はりせんぼん（針千本）ノ條ヲ見ヨ。

はりぶくろ（名）［針袋］針ヲ入レ置ク袋。萬葉集、十八、三十五「芳理夫久路、トリアゲマヘニ、オキカヘサヘバ、オノトモオノヤ、裏モツギタリ」同、同三十七「波里夫久路、コレハタバリヌ、スリブクロ、今ハ得テシガ、オキナサビセム」倭訓栞「はりぶくろ、針袋ナリ、萬葉集ニ、多クヨメリ、古ヘ身ニ佩シニヤ」

はりふだ（名）［張札］事ヲ記シテ、揭ゲ示ス札。浮帖。書言字考節用集、七、器財門「張札、ハリフダ」好色一代男（天和、西鶴）七「八疊敷ノ小座敷、ヨロヅ新シク、京世之介樣御床ト、張札シテ置クコソカハヒラシキ」

はりぼうし（名）［針帮助］針仕事ノ手傳ヒ。持統天皇歌軍法（正德、近松作）一「片時休マヌ商賣デモ、見ン事仕親貪フテ、其間ニ針帮助」

はりま（名）［梁間］家ノ梁ノ亙ル間數。（桁行ニ對ス）

はりまぜ（名）［張雜］種種ノ書畫ヲ交ゼ合ハセテ張ルコト。「はりまぜノ屛風」

はりまち（名）［□］魚ノ名。今ノはまちカト云フ。倭名抄、十九、三龍魚類「鮁、波里萬知」書言字考節用集、五、氣形門「鮁、ハリマチ、ハマチ」

はりまなげ（名）相撲ノ語。敵手ノ褌ヲ引キ、寄掛カルトコロニテ、投ゲ、打ツヲ云フ。曾女五枚羽子板（寶永、近松作）下「無雙無双ノ武士ノ、褌ニカケテはりま投げ、上グル團扇ヤ扇ノ芝ニ、ハヤ三番ノ勝相撲」

はりまなべ（名）［播磨鍋］（一）銅製ノ鍋ノ稱。熱ヲ引クコト早シト。文化の川柳「韋駄天ト、虎ト光陰、はりま鍋」（二）轉ジテ、私娼ノ稱。（鍋ノ尻ガ早イト云フ義ヲ取リテノ異稱）古川柳「播磨屋ノ、オ鍋デ尻ガ、早イナリ」同「播磨鍋、相撲女ト、一ツ鍋」同「水性ハ、相撲金性ハ、播磨鍋」

はりみせ（名）［張見世］遊郭ニテ、娼妓ガ客ヲ招クタメ店ヲ張ルコト。娼妓ガ店ノ內ニ竝ビ坐シテ、客ヲ待ツコト。

はりみち（名）［墾道］新ニ開キタル道路。新道。書言字考節用集、一、乾坤門「墾道、ハリミチ」萬葉集、十四、廿一「信濃道ハ、今ノ波里美知、カリバネニ、足フマシムナ、沓ハケワガセ」

はりみち（名）［針道］針仕事ノ道。針ノハコビカタ。運針ノ法。傾城歌（元祿、近松作）中「誰レヲ相手ニ裾合ハセ、針道違ヒ着憎シト、手ヅツノ浮名ハ取ルマイヨ」

はりん（名）［破倫］人倫ノ道ニソムクコト。人ノ守ルベキ道ニハヅルルコト。不倫。悖倫。「破倫ノ行ヒ」

ばりん（名）［馬藺］鳶尾科ニ屬スル草ノ名。庭際ニ植ウ。春ノ末、宿根ヨリ數百葉、叢生ス。高サ一二三尺、形、菖蒲ノ葉ニ似テ、細ソク厚ク、綠ニシテ白ミアリテ、一二三回、ネヂレタリ。因リテねぢあやめ（振菖蒲）ノ名モアリ。夏ノ半ニ莖ヲ出シテ、梢ニ六瓣ノ花ヲ開ク、亦、

菖蒲(アヤメ)ノ花ニ似タリ。色、淡紫碧色ナリ。莢後ニ莢ヲ結ブ、かきつばた(杜若)ノ莢ニ似テ小サク、内ニ小扁子アリ、色赤シ、[illegible]實(ジツ)ヲ[illegible]用トス。一名、馬楝(バレン)。北史、[illegible]「[illegible]」

〔はりむしろ (名) 張筵 引キ張リ、又ハ、張リワタシタル筵。枕草子、六、六十段、わびしげに見ゆる物「雨フラヌ日、張筵シタル車、降ル日、はりむしろヒヌモ」西宮記、七月、相撲召仰、侍從座張筵ニ先例ハ[illegible]出居座ニ」

はりめ (名) 針女 裁縫スル女、針妙(シンメウ)。

はりめ (名) 貼目 貼合ハセタル部分。

はりめ (名) 針目 (一)針ノめど。又、針ニテ通シタル穴。(二)〔針ノ縫目(ヌヒメ)〕 書言字考節用集、六、服食門「針纔、ハリメ、ヌヒメ」萬葉集、四、七「吾ガ夫子ガ、着ル衣ノ、針目落チズ、入リニケラシモ、我ガ心サヘ」 東海道名所記(萬治)四「業阿彌、カミ衣、キツツヤレニシ、ツギシアレバ、針目キレヌル、タチヲシゾ思フ、トヨメリケレバ」

はりめぎぬ (名) 針目衣 縫目(ヌヒメ)ノ多キ着物。ツギダラケナル衣。ツヅレ。ハリメゴロモ。 書言字考節用集、六、服食門「針目衣、ハリメギヌ、[illegible]也」

〔はりめおろも (名) 針目衣 前條ノ語ニ同ジ。[illegible]ガツノ、長キはりめ、衣キテ、[illegible]タベハ、イカデカハヌラン、是レモ同ジクツヅリ也、針モテニシゲク縫ヒタレバ、はりめ衣ト云フ也」倭訓栞「はりめおろも、針目衣ナリ、ツヅレヲイフメリ」

はりもの (名) 張物 (一)〔布帛ヲ洗ヒテ、糊ヲツケ、張板ニ貼(ハ)リテ、乾(カワカ)スコト。又、其物。 書言字考節用集、七、器財門「張物、ハリモノ」 宇津保物語、吹上、下三十「はり物ノ所、云云、[illegible]女ドモ廿人、アマリアリテ、[illegible]ノ[illegible]ハリタリ」 宇治拾遺、三、第一條「女ノカギリニテ、はりもの多ク取散ラシテアルニ、八丈賣ル者ナドアマタ呼ヒ入レテ、絹多ク取出テ」[illegible]、ク

グッテハヒル、門徒寺」(二)だいだうあきんど(大道商人)ノ異稱。[illegible]見ユ。

はりもん (名) 貼紋 きりつけもん(切付紋)ニ同ジ。

はりやま (名) 針山 針挿(ハリサシ)ニ同ジ。

〔はりゆみ (名) 張弓 弦ヲカケテ張リタル弓。又、ソノ状シタルモノ。 枕草子、七、六十八段「天ニはり弓トイヒ出デタリ」 菊賞[illegible]門[illegible](寶暦、竜木宗[illegible])山ノ[illegible]、弓ノ[illegible]テ、死ヌル今際ニナリシゾヤ」

はりわざ (名) 針業 はりしごと(針仕事)ニ同ジ。

〔はりを (名) 針魚(ハリヲ) 〔はりうをノ略〕さより(鱵魚)ノ古名。又、ヨロヅ。[illegible]九二[illegible]「針魚、[illegible]、一云、[illegible]、口長同寸、[illegible]針、故以名也」 本草和名、下[illegible]、[illegible]、一名、波利乎」 名義抄、十、魚「針魚、ハリヲ、一云、ヨロド」

〔はる (名) 春 〔萬物、發(ハ)る候ナレバ、云ト云フ〕 一年、四時ノ一。冬ノ次、夏ノ前ニテ、(舊ハ)一、二、三月、今ハ三、四、五月ニアタル)草木發生ノ候ナリ。又、草木ノ芽張ルコト。(二)二十四氣(ニジフシキ)ノ[illegible]ヨ) 倭名抄、一、歳時[illegible]、春、正月、初春、二月、仲春、三月、暮春」 神代紀、上[illegible]、[illegible]子、云云、[illegible]代ニ田中ニ」 [illegible]年春二月、甲[illegible]、乙巳ニ」 萬葉集、五[illegible]サラバ、アハムトモヒシ、梅ノ花、今日ノ遊ニ、アヒ見ツルカモ」 同、同廿「梅ノ花、今サカリナリ、百鳥ノ、聲ノコホシキ、[illegible]キタルラシ」 同、十七[illegible]ノ、咲ケルサカリニ、思フドチ、手折リカザサズ、波流ノ野ノ、[illegible]ノ、[illegible]、ワカ[illegible]マスト、クレナ[illegible]ノ、[illegible]ノ、[illegible]ニ、ニホヒヒヅチテ、通フラム、時ノサカリヲ」 伊勢[illegible]ニ、[illegible]アラヌ、[illegible]身ヒトツハ、モトノ身ニシテ」 古今集、一、春、上「[illegible]クレバ、雁カヘルナリ、白雲ノ、道行キブリニ、言ヤ

ツ[illegible]バ、花ナキ里モ、花ゾ散リケル」

はる [illegible]〔[illegible]〕[illegible](原)ニ同ジ。(九州地方)

は・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 張 (一)廣ク開ク。ヒロガリ延ブ、開張 [illegible]ハル」 (二)一面ニ閉ヂ結ブ。凍結 [illegible]ル」[illegible](三)[illegible]内ヨリ[illegible] [illegible]ヌベキマデ、腫はり出デテ、押シアヒテ」「乳房、[illegible]ハ、日モはるニ、野ナル草木モ、ワカレザリケル」[illegible]果テ立テレバ、モノモヒヅツモ」 同、九[illegible]山代ノ、クゼノ鷺坂、神代ヨリ、春ハ張リツツ、秋ハ散リケリ」 同、十九[illegible]春ノ日ニ、張レル柳ヲ、取リ持チテ、見レバ都ノ、大路オモホユ」 (五)増ス、分ニ過[illegible]

は・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 張 (一)〔廣ク開キ延ブル。ヒログ〕[illegible]、十三[illegible]山ノベノ、石ノミ井ハ、オノヅカラ、ナレル錦ヲ、[illegible]山カモ」「幕ヲ張る」(二)〔引キ延ヘ[illegible]〕「弦ヲ張る」「綱ヲ張る」(三)[illegible]ス[illegible](寶永、近松作)中「[illegible]山ト、名ヲカヘ[illegible]ケルモ、[illegible]ノ山」「[illegible]ヲ張る」「氣ヲ張る」「[illegible]ヲ張る」「張り出ス」(四)〔見張ル〕[illegible]ミテはり居タレバ、ワヅラハシクテ」(五)[illegible]

[illegible]〔陣ナドヲ〕[illegible]、大正十[illegible]年ノ[illegible]下野ノ[illegible]陣ヲはり、タカ[illegible]

は・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 張 〔張りて[illegible]〕[illegible]

〔は・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 墾 〔開く〕ノ義、開墾ノ意、墾る(通ズ)新ニ地ヲ開キ、[illegible]、田、畠、路、道、ナドトス。開發ス。[illegible]

は・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 批 [illegible]

は・る・ルル・ルレ・レ・レヨ [illegible]

散リテ、雨、雪ナド止ム。[illegible]

「霽、雨止也、日夜開又一」 易林節用集(慶長)上、言辭門「晴、霽、ハルル」 古今集、十、物名「アシヒキノ、山邊ニ居レバ、白雲ノ、イカニセヨトカ、はるる時ナキ」 風雅集、八、冬「山嵐ニ、木ノ葉降リ添フ、村時雨、はるる雲間ニ、三日月ノカゲ」 萬葉集、八、四十「雨晴れテ、清ク照リタル、コノ月夜、又更ニシテ、雲ナタナビキ」 源、八、花宴「日イトヨクはれテ」「空、霽る」 (二)障(サハ)レルモノ、開ケ解ケテ、明白ニナル。散ル。霽意 狭衣、四、下「例ノコト、ツヅケテアルベカシキ御イラヘモナケレバ、ワガ御心ノウチハ、はるべキヤウモナシ」 讃岐典侍日記「晝ノ程ニ、はれサセオハシマシニケル事ヲ」「疑ヒ霽る」思ヒ霽る」

はる・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 腫 〔張(ハ)るノ轉カ〕 身ニ傷(イタ)ム所アリテ、脹(フク)レアガル。ハレル。 倭名抄、三十五瘡類「腫、波留」 字鏡三「腫、波留」 醫心方、一四十「腫、ハル」 萬葉集、十六四廿「波羅門ノ、作レル小田ヲ、ハム烏、マナブタ腫(ハレ)テ、ハタホコニ居リ」 枕草子、一、第四段「タツカタ、イミジゲニ腫れ、アサマシゲナル犬ノ、ワビシゲナルガ」 讃岐典侍日記「御紐、云云、ササントセササセ給ヘド、御手モ腫れニタレバ、エササセ給ハズ」

はるあき (名) 春秋 (一)〔春ト、秋ト。〕シュンジウ。 源、廿八、野分三「春秋ノアラソヒニ、昔ヨリ秋ニ心ヲ寄スル人ハ數マサリケルヲ」 拾遺集、九、雜、下「春秋ニ、オモヒ亂レテ、ワキカネツ、時ニツケツツ、ウツル心ハ」 後拾遺集、七、賀「春秋モ、知ラデ年フル、我身カナ、松ト鶴トノ、年ヲカゾヘテ」 (二)一年中ヲ云フ稱。年月。歳月。シュンジウ。 夫木抄、九、氷室「春秋ノ、富メル御代ニハ、昔ヨリ、氷室ニ冬モ、トマルナリケリ」

はるうへ (ハル・ウエ) (名) 春上 東宮ヲ申シ奉ル稱。(五行説ニテハ、春ハ東ニ當ル故ニ云フ) 榮花物語(抄)三十四、暮待星「マコトヤ、梅壺ノ御方ニ、此春うへヨリ」

はるか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 開 晴(ハル)クヤウニナス。晴ラス。消遣 伊勢物語、九十五段「イカデ物越シニダニ對面シテ、思ヒツメタル事、少シはるかさムト云ヒケレバ」 千載集、九、哀傷「胸ニ滿ツ、思ヲダニモ、はるかさデ、煙トナラム、コトゾ悲シキ」 源、五十三、夢浮橋廿一「モトノ御契リアヤマチ給ハデ、愛執ノ罪ヲはるかし聞エ給ヒテ」

はるがすみ (名) 春霞 春ノ季節ニ立ツかすみ。ハルノコロモ。春靄 萬葉集、三四十「春霞、春日ノ里ニ、殖(ウ)ヱシナギ、苗ナリト云ヒシ、エハサシニケム」 同、九、六廿「オクレ居テ、吾ヤハ戀ヒム、春霞、タナビク山ヲ、君ガ越エ去ナバ」 古今集、一、春、上「春がすみ、立ツヲ見ステテ、行ク雁ハ、花無キ里ニ、住ミヤ習ヘル」

はるかぜ (名) 春風 春ノ季節ニ吹ク風。多ク、東、又ハ、南ヨリ吹ク。シュンプウ。東風 萬葉集、十八「青柳ノ、絲ノ細サヲ、春風ニ、亂レヌイマニ、見セムコモガモ」 古今集、二、春、下「春風ハ、花ノアタリヲ、ヨキテ吹ケ、心ヅカラヤ、移ロフトミム」 後撰集、一、春、上「梅ノ花、香ヲ吹キカクル、春風ニ、心ヲソメバ、人ヤトガメム」

はるかに (副) 遙 〔はるかハ開處(ハルカ)ノ義〕 (一)〔距離、遠ク隔リテ。〕甚ダ離レテ。ハルニ。 字鏡七十「悠、長也、遐也、波留加爾」 千載集、十、賀「白雲ニ、羽ウチカケテ、飛ブ鶴ノ、はるかニ千世ノ、思ホユルカナ」 續拾遺集、四、秋、上「伏見山、麓ノ霧ノ、絶エ間ヨリ、はるかに見ユル、宇治ノ川浪」 玉葉集、四、秋、上「色色ニ、ホムケノ風ヲ、吹キカヘテ、はるかにツヅク、秋ノ小山田」「遙に遠シ」遙に隔ツ」 (二)時、甚ダ過ギテ。久シク。 太平記、二、阿新殿事「はるかに御湯モ召サレ候ハヌニ、御行水候ヘ」 平家物語、七、一門都落事「泣泣遙に搔口說キ、骨ヲバ高野ヘ送リ」「時遙に過ギテ」 (三)甚ダ違ヒテ。「遙に勝ル」遙に劣ル」遙に善シ」

はるぎ (名) 春着 春ノ候ニ着ル衣。特ニ、正月ニ着ル衣服。春ノ衣。春服

はるきゃうげん (ハル・キヨウゲン) (名) 春狂言 江戸ノ歌舞伎ノ諸座ニテ、毎年正月ニ興行スル狂言ノ稱。新春ノ芝居狂言。にのかは(ワ)り(二替)ノ條ヲ見ヨ。

はる・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 開 晴ル。開ケ解ク。遣悶 源、三十七、鈴蟲十六「御志ヲシメ給ヒテ、彼ノ御ケブリ、はるくベキ事ヲセサセ給ヘ」 蜻蛉日記、中、上廿「物思ヒはるけルヤウニゾオボユル」 繼體紀、元年三月「天國排開廣庭尊」注「開、此云波羅企」 古事記、下、繼體五「天國押波流岐廣庭命」 上宮法王帝說「阿米久爾意斯波留支比里爾波乃彌己等」

はる・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 開 晴ルルヤウニナス。開ク。ハルカス。 兼輔集「イツトテモ、はるくるコトノ、ナキ身ニハ、五月(サ)エゾマスラン、トケンモノカハ」 源、二、帚木四十七「思ヘリシケシキナドノイトホシサモ、はるけン方ナク思シワタル」 同、廿五、螢「スコシ、ケ近キ程ヲダニ許シ給ハバ、思フコトヲモ、片ハシ、はるけテシガナト聞エ給ヘルヲ」

はるくさ (名) 春草 春、萌エ出ヅル草。ワカクサ。 萬葉集、一十七長歌「春草ノ、茂ク生ヒタル、霞タツ、ハル日ノキレル、モモシキノ、大宮ドコロ」 風雅集、十五、雜、上「春草ハ、マダウラワカキ、岡ノ邊ノ、小笹ガクレニ、キギス鳴クナリ」

はるけ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 遙 ハルカナリ。遠シ。 易林節用集(慶長)上、言辭門「遼、迢、賖、ハルカナリ」 萬葉集、十七三十五「ヌバタマノ、月ニムカヒテ、子規、ナクオト波流氣之、里遠ミカモ」 源、三十四、上、若菜、上十八「はるけき山ノ雲霞ニマジリ」 後撰集、十九、離別「君ヲノミ、忍ブノ里ヘ、行クモノヲ、アヒヅノ山ノ、はるけきヤナゾ」

はるこ (名) 春子 春兒 (一)春、生レタル子 曾我五人兄弟(元祿、近松作)一「狩人、未ダ乳放レヌ春兒ノ白鹿、生捕ッテ四足ヲカラゲ」 (二)又、はるご。常ノ蠶ヲ、春ニ育ツルニ就キテ稱スル語。(夏蠶(ナツコ)ニ對ス) 春蠶

バルコニイ (名) 〔英語、Balcony.〕 洋式建築ニテ、室外ニ突出シテ、造リ構ヘタル屋根ナキ臺。露臺。

はるこま (名) 春駒 (一)春ノ野ニ居ル駒 堀河百首「我ガ物ト、シメ野ニ伺ヒシ、春駒ノ、手ニモカカラズ、荒レマサル哉」 長秋詠藻、下「春駒ノ、野澤ニナルル、氣色ニテ、頭ノ枯葉ノ、程ハ知ラルル」 (二)昔、年ノ始ノ祝トテ、馬ノ形ヲ作リ、頭ニ戴キ、歌ヲウタヒ、舞ナドヲシ、又ハ、三味線、太鼓ニテ囃シ、馬ノ首ヲ手ニテ操リ踊ラセナドシテ、金品ヲ貰ヒ歩キシ一種ノ門附。又、ソノ歌ヘルうた。正月七日ノ白馬(アヲウマ)ニ擬スルカ。後ニ、馬首ニ、木、或ハ、竹ヲ添ヘテ、童子ノ騎リテ戲ルル具アリ。コレハ竹馬ノ戲ト、春駒ト混ゼシナラム。 年中故事要言、二「年ノ始ニ、馬ヲ作リテ頭ニ戴キ、歌ヒ舞フ者アリ、是レヲ春駒ト名ヅケテ、都鄙トモニ有ル事ナリ、是レハ禁中ニテ、正月七日白馬ヲ御覽ノ事アリ、カカル事ヲ下ニモ受ケテシ侍ル事ニヤ」 俳諧五節句「春駒、是モ萬歲樂ニ似テ、頭ニ馬ノ頭ヲイタダキ舞フナリ」

はるさめ (名) 春雨 春ノ候ニ、シトシトト降ル雨。ハルノアメ。シュンウ。 萬葉集、十七廿七長歌「少女ラガ、ワカ菜ツマスト、クレナヰノ、赤裳ノ裾ノ、波流佐米ニ、ニホヒヒヅチテ、通フラム、時ノ盛ヲ」 同、十八二十八「ヤブナミノ、里ニ宿カリ、波流佐米ニ、コモリツツムト、妹ニ告ゲツヤ」 夫木抄、三、春雨「春雨ノ、フルトハ空ニ、ミエネドモ、サスガニ聞ケバ、ノキノタマミヅ」

はるさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 春去 〔去る(自動、第二語)ノ條ヲ見ヨ〕 春來ル 萬葉集、十八十八長歌「百鳥ノ、來居テ鳴ク聲、春佐禮婆、キキノカナシモ」 同、十七「風交リ、雪ハフリツツ、シカスガニ、霞タナビキ、春去ニケリ」

はるされば (副) 春去 春來レバ 前條ヲ見ヨ。 萬葉集、五十五「波流佐禮婆、マヅ咲ク宿ノ、梅ノ花、ヒトリ見ツツヤ、春日クラサム」 同、

十九ノ長歌「アシビキノ、山ノ木ヌレモ、春去來、花咲キニホヒ、秋ヅケバ、露霜負ヒテ」

ハルシャ-うま (名) [波斯馬] 又、べるしゃうま。波斯國(Persia.)ヨリ渡來シタル馬。べるしゃ原産ノ馬、亞剌比亞種ニ類シ、體、大ニシテ頸長ク、乘馬ニ適ス。○内安録「享保ヨリ天明ノ間ハ、はるしゃ馬度度御取ヨセニ相成、數多御用ニ相成ニ付、阿蘭陀甲比丹ヘ別段御褒美下候、此馬ハ齋藤三右衛門曲乘ヲ試ミ、乘込、樣樣ノ上覽モアリ、[illegible]今モはるしゃ筋ト云フ野子アリ」(仙臺ノ傳説ニ、伊達政宗、窃ニ人ヲはるしゃニ遣ハシテ、其馬ヲ牽テ來ラシム、寛永十三年薨後、使臣舶載シテ歸ル。島原亂後ナリシカバ、コレヲ南部ニ放チタリト)

ハルシャ-がは (名) [波斯革] なめし革ノ一種。昔、阿蘭陀人、波斯國(Persia.)ヨリ齎シ來リタルモノ。色ハ、黑、黃、紅、綠、紺、等アリ、五色革トモ云ヘリ。棧留革(サントメがハ)ヨリ薄クシテ、しぼアリ、美シ。

はる-しらせ-どり (名) [春知鳥] 〔後拾遺集、一、春、上「フリツモル、雪キエ難キ、山里ニ、春を知らする、鶯ノ聲」〕又、はるつげどり。鶯ノ異名。其條ヲ見ヨ。

〔**はる・す・ス・セ・サ・シ・セ** (他動、四) [晴] 開ク。ハルカス。○出雲國造神賀詞「麻蘇ノ大御鏡ノ面ヲ押シ波留志テ、見ソナハス事ノ如ク」

はる-すすき (名) [春薄] 柳ノ異名。其條ヲ見ヨ。○莫傳抄「フルサメノ、露ニ亂ルル、はるすすき、揚ニ秋ノ、脇ヲ見ル哉」

はる-ぜみ (名) [春蟬] 蟬ノ一種。最モ早ク鳴キ出ヅルモノ、春ノ末ニ、山谷ノ樹上ニ集リテ、鳴クコト喧シ。長サ八分許リ、身、翅、共ニ黑シ。[illegible]「春蟬、蟬ノ一種ニシテ、最モ早ク鳴出ス」

はる-つげ-どり (名) [春告鳥] 鶯ノ異名。大江千里ノ、「鶯ノ、谷ヨリ出ヅル、聲ナクバ、春來ルコトヲ、誰カ知ラマシ」(古今集、一、春、上)ノ歌ニ本ヅキテ云フ。又、はるしらせどり。

はる-とら-の-を (名) [春虎尾] 古名、チチノハグサ。蓼科ノ草ノ名。深山ノ陰所ニ生ズ、人家ニ植ウルモノハ、春ノ末ニ、根頭ニ先ヅ花穗ヲ出ス、長サ一二寸、花ハ碎小白色ニシテ粉紅ヲ帶ブ、蓼ノ花ニ似タリ。次ニ數葉ヲ出ス、いぶきとらのを(伊吹虎尾)ノ葉ニ似テ、短ク闊ク、面ハ深綠ニテ、背ハ微白ナリ。根ハ連珠ノ如シ。紫參

〔**はる-どり-の** (枕) [春鳥] さまよふ(呻吟)ノ枕詞。萬葉集、二、十九ノ長歌、「春鳥之、佐麻欲比ヌレバ、嘆キモ、未ダ過ギヌニ」同、廿、「春鳥乃、聲ノ佐麻欲比、白タヘノ、袖ナキヌラシ」

はる-なが (名) [春永] 晝間ノ永キ春ノ季節。永日。

〔**はるみ** (副) [遙] はるかに(遙)ニ同ジ。伊勢物語、四十一段「紫ノ、色濃キ時ハ、目モはるみ、野ナル草木モ、ワカレザリケリ」古今集、十一、戀、一「津ノ國ノ、難波ノ葦ノ、メモはるみ、繁キワガ戀、人シルラメヤ」

はる-にれ (名) [春楡] 〔春、花咲ク故ニ云フ〕にれ(楡)ノ條ヲ見ヨ。

はる-の-ころも (名) [春衣] 春、着ル衣。續拾遺集、二、春、下「霞立ツ、春のころもノ、メドアウスミ、花ゾミダルル、ヨモノ山風」拾遺愚草、上「三島江ノ、波ニ棹サス、タヲヤメノ、春の衣ノ、色ゾ移ロフ」轉ジテ、直ニ、はるがすみ(春霞)ノ異名トス。月詣集、二「三吉野ノ、峯ニ住ムナル、山人ノ、春の衣ハ、霞ナリケリ」

はる-の-つかひ (名) [春使] 鶯ノ異名。夫木抄、三十五、使「春日山、カスミタナビク、シメノ内ニ、春のつかひモ、イマヤタツラン」

はる-の-みなと (句) [春泊] 〔春ノ、泊ノ、義〕春ノ暮レハツルコトニ云フ。貫之集、三「今マデニ、殘レル岸ノ、藤波ハ、春の湊ノ、トマリナリケリ」新古今集、二、春、下「クレテ行ク、春の湊ハ、知ラネドモ、霞ニオツル、宇治ノ柴舟」夫木抄、六、藤花「名殘ヲバ、松ニカケツツ、住ノ江ノ、春のみなとニ、[illegible]」同、廿九、[illegible]田子ノ浦ノ、[illegible]色サエテ、はるのみなとニ、有明ノ月」

〔**はる-の-みや** (名) [春宮] 〔春宮ノ文字讀〕東宮、又、春宮坊ノ條ヲ見ヨ。古今集、十八、雜、下、[illegible]ノモトゴトニ、立ナゾヨル、はるのみやマノ、[illegible]ヒツツ」夫木抄、十九、[illegible]ツル、春の宮、カネテモ千代ノ、色ハミエニキ」

はる-の-り (名) [春海苔] のり(海苔)ノ條ヲ見ヨ。

はる-ばしょ (名) [春場所] 相撲ニ云フ語。すまふ(相撲)ノ條ヲ見ヨ。

〔**はるばる** (副) [遙遙] [illegible]ロ。土佐日記、二月五日「松原、目モはるばるナリ」伊勢物語、九段、[illegible]シアレバ、はるばる來ヌル、旅ヲシゾ思フ」新千載集、八、[illegible]心ナリケリ」信長物語、八、太刀、刀由來事、[illegible]太平記、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「[illegible]獅子奮者ニ至ッテ絶エタリシヲ、[illegible]ノ云云」

〔**はる-び** (名) [腹帶] [illegible]具。[illegible](腹帶)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。倭名抄、十五[illegible]

[illegible]ハ、以テノ外ニユルマッテ見ユルモノカナ、[illegible]トテ[illegible]ト云ヒケレバ、[illegible]腹帶ヲ解イテゾ締メタリケル」

〔**はる-び** (名) [春日] 春ノ時ノ日。[illegible]ハ、日、長キ[illegible]春日。[illegible]渉流比クラサム」同、[illegible]はる日ヘツ[illegible]立ナツカル、君ハカナシモ、若草ノ、ツマナキ君ガ、[illegible]田ニ立ナツカル」同、[illegible]見ズテ、長キ春日ヲ、戀ヒヤクラサム」

はる-ひ-かげ (名) [春日影] 春ノ日ノ光。玉葉集、十二、[illegible]ス、春日影、クリシガタ[illegible]サヘヅリカハス、鳥ノコ[illegible]」

〔**はる-ひ-の** (枕) [春日] 〔春日の霞む〕ト言掛ケテ云ヘル語〕大和ノ地名ナル、春日ノ枕詞。後ニハ、言刷レテ、春日ト記シ、[illegible]

ハルフ (名) [illegible]シテ得ル纖維。[illegible]

料ニ用キル。

はる-ぶくろ (名) 春袋 初春ニ、縫ヒ作ル袋。春ヲ張ルニ寄セテ祝フ。古ヘノあめつちのふくろ(天地袋)ノ遺ナルカト云フ。其條ヲモ見ヨ。

〜**はる-べ** (名) 春方 春色 春ト云フニ同ジ。萬葉集、十四廿六「波流敝(ハルベ)咲ク、藤ノウラ葉ノ、ウラヤスニ、サヌル夜ゾナキ、子ロヲシモヘバ」同、廿四十三「雲雀アガル、波流弊(ハルベ)トサヤニ、ナリヌレバ、都モ見エズ、霞タナビク」古今集、序「難波津ニ、サクヤコノ花、冬ゴモリ、今ヲ春ベト、咲クヤコノ花」後撰集、三、春、下「ツネヨリモ、春ベニナレバ、櫻川、花ノ浪コソ、ヨリマサリケレ」

ハルマ (名) 波留麻 阿蘭陀辭書ノ稱、(元ハ人名ナリ)蘭人、はるま (François Halma.) 氏作ノ蘭佛對譯辭書。阿蘭陀ヨリ來リ、大槻玄澤ノ門人ニテ鳥取藩ノ醫師稻村三伯、其佛蘭西語ヲ去リ、蘭語ノミヲ取リテ、蘭和對譯辭書ヲ作リ、寛政八年ニ成ル。波留麻和解(十三卷)ト稱ス。コレヨリ波留麻ハ、自ラ辭書ノ意トナル。又、長崎、阿蘭陀甲必丹(カピタン)どおふ (Hendrik Doeff.)ト云フ人、長崎ニテコノはるま辭書ニ依リテ、對譯辭書ヲ作ル、道譯法兒馬(ハルマ)(又、道富波爾麻トモ云フ)ト云フ。因リテ稻村氏ノ辭書ヲ、後ニ、江戸波留麻ト稱セリ。

〜**はる-まけ-て** (副) 春設 春ヲ待チ設ケテ。春ニナリテ。萬葉集、十九十「春設而、カク歸ルトモ、秋風ニ、モミヂム山ヲ、越エ來ザラメヤ」同、同九「春儲而、物悲シラニ、小夜深ケテ、羽ブキ鳴ク鴫、誰ガ田ニカ住ム」

はる-まち-づき (名) 春待月 陰暦、十二月ノ異稱。師走。倭訓栞「はるまちづき、春待月ノ義、十二月ヲ云ヘリ」藏玉集「暮レテ行ク、年ハ身ニ添フ、老イナレド、はるまちづきハ、忙シキ哉」

はる-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 春 生春色 春ノ氣候トナル。春ラシクナル。拾遺集、一、春「野ヘ見レバ、若菜摘ミケリ、ウヘシコソ、垣ネノ草モ、春めきニケリ」夫木抄、一、若菜「里人モ、若菜ツミツツ、ヤマシロノ、ミツノウヘ野ハ、はるめきニケリ」

ハルモニカ (名) 〔英語、Harmonica.〕 はあもにかニ同ジ。

〜**はる-やま** (名) 春山 春ノ山。春ノ時候ノ山。萬葉集、十三廿三「春山ノ、霧ニ惑ヘル、鶯モ、我ニマサリテ、物思ハメヤ」同、同廿七「春山ノ、馬醉木(アシビ)ノ花ノ、惜カラヌ、君ニハシエヤ、寄リヌトモヨシ」

はる-をしみ-づき (名) 春惜月 陰暦、三月ノ異稱。彌生。藏玉集「徴ナラヌ、身トハ思ハズ、日ヲ重ネ、暮レユク頃ノ、はるをしみづき」

はれ (名) 晴 霽 (一)晴ルルコト。晴レタルコト。後拾遺集、四、秋、上「秋霧ノ、はれセヌ峰ニ、立ツ鹿ハ、聲バカリコソ、人ニ知ラルレ」(二)オモテダツコト。オホヤケ。公(褻(ケ)ニ對ス) 盛衰記、四十二、與一射扇事「水手、梶取ニ至ルマデ、今日ヲ晴トゾ振舞ヒタル」十訓抄、上、第二、序「コレハ内内ヨクナレニシカバト思ヒテ、晴ニ出デテ人ヲナラシ」二水記、大永五年二月十日「可有晴御會之由、有勅定」無名抄、瀬見の小川の歌「晴ノ會ニコソ、取出ヅベケレ、カカル褻ノ、事ニ詠ミタル、無念也」新版歌祭文(安永、近松半二)野崎村之段「オオ、嬉シイ段カイノ、一世一度ノ娵ガはれ、定メテ、髮モ美シウ出來タデアロ」「晴ノ歌」晴ノ席」晴ノ着物」

はれ (名) 腫 (一)腫ルルコト。腫レタルコト。(二)ムクミ。水腫(スキ)。浮腫

はれ (感) アハレ。(噫(ア)ヲ添ヘテ云フ)ヤレ。マア。東遊、一歌「者禮ナ、手ヲ調ヘロナ」風俗歌、菅年良「菅ムラヤ、波禮、小菅ムラノヤ」狂言記、吟聟「はれ、スリャ又、仕合セデ御サリマスル」

俗語考(橘守部)ああの條「國ニヨリテ、今モ、アア、はれ、マアト、ウチナゲクコトアリ」

ば-れい (名) 馬齡 〔馬ノ齒ハ年齡ニ隨ヒテ異ナルヨリ云フ〕己レノ年齡ノ謙稱。「馬齡ヲ加フ」

はれ-うて (名) 晴レノ場ニ出デテ、恥ヂラフコト。バウテノスルコト。一葉集「花ノ顏ニ、はれうてシテヤ、オボロ月」

ば-れい-しよ (名) 馬鈴薯 ぢやがたらいも(馬鈴薯)ニ同ジ。

はれ-がま-し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 晴 (一)譽カガヤキテ、ハレバレシ。イト、ハエバエシ。晴況。中務日記「思ヒモ寄ラヌ程ニ御幸アリト聞キ、云云、はれがましくナル女房タチ、イクラモイクラモ押シ入リテ」蟬丸(元祿、近松作)一「オ傍ニ寄リテ、コレコレ、今宵ノ管絃、晴がまし」國扇曾我(元祿、近松作)五「大名小名、御供ノ儀式、晴れがましサハ限リナシ」(二)恥カシク、キマリワルシ。(京都)

はれ-ぎ (名) 晴着 晴レノ時ニ着ルベキ衣服。公ノ場所ニ出ヅル時ニ着ル衣服。ハレイシャウ。公服 持統天皇歌軍法(正德、近松作)四「我身ニモ恥シイ、宿借ル斗ノタハ言、はれぎヲ貸シタル女ノ氣ハ優シイモノ」鳥總道「卯ノ花ヲ、カザシニ關ノ、晴着カナ」

ば-れき (名) 馬櫪 廐(ウマヤ)ノフミイタ。又、馬ノ飼葉桶(カヒバヲケ) 史記、建元以來侯者年表「寄ニ宿櫂氏第舍、臥ニ馬櫪閒ニ」史肅詩「夜風喧ニ馬櫪、秋露冷ニ雞栖ニ」馬養式「以ニ一櫪ニ一廐、宛ニ馬ニ疋ニ」

ば-れき-じん (名) 馬櫪神 馬ノ守神。塵袋(弘安)六「馬櫪神、其神像ヲ圖スルニハ、兩足ノ下ニ猿ト鶺鴒トヲ踏マテ、兩手ニツルギ持ス、云云、宋朝ニハ、コレヲ馬ノマボリトス」

は-れつ (名) 破裂 割レサクルコト。爆(ハ)ゼルコト。爆破。爆裂。紺珠集「伶人刃朝侯家、國中有[illegible]之聲、一日忽[illegible]、内一[illegible]去」「破裂丸」破裂スル」

はれ-て (副) 晴 オホヤケニ。オモテダチテ。憚ルコトナク。公然ト。公 長唄、都鳥「晴れて逢フ夜ヲ待乳山」「晴れて商フ」

はれ-の-ごぜん (名) 晴御膳 一月初ノ三箇日ニ、大膳職ヨリ奉リ、天子ノ朝ニ召ス儀式ノ供御。燒鯛、燒雉子、蛤、車蝦、燒鶉、鮑、鮭、蒲鉾、烏賊、眞子(シンコ)(鮭ノ子)、鱸(以上、御皿盛)、御吸物、鯉(白ミソ)、鯛(スマシ)、御酒等ノ御獻立。建武年中行事、元日節會「はれの御膳、四種已下八盤供シヌレバ、ヤガテ臨ノ御膳ヲ供ス」

〜**はれ-ばれ-し**・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 晴晴 晴レワタリタリ。打開ケテ、サワヤカナリ。カガヤカシ。快闊 大鏡、上、基經「堀川院ヲバ、サルベキ事ノヲリ、はればれしき料ニセサセタマヒ」源、五十二、蜻蛉十六「本意ノ事シ給ヒテ後ヨリ、少シはればれしくナリテ、尼君トハカナク戲レモ交シ」

はれ-ま (名) 晴間 雨、雪、ナドノ止ミタル間。又、雲ノ切レテ晴レタル間。風雅集、四、夏「菖蒲ツタフ、軒ノシヅクモ、絶エ絶エニ、晴間ニ向フ、五月雨ノ空」同、六、秋、中「ヒタスラニ、厭ヒモ果テジ、村雲ノ、はれまゾ月ハ、照リ優リケル」新千載集、六、冬「定メナク、時雨ルル雲ノ、晴間ヨリ、日カゲ寂シキ、冬ハ來ニケリ」謠曲、羅生門「此程ハ、晴間モ見エヌ春雨ニテ」好色五人女(貞享、西鶴)四「出家ノ役ナレバ、アマタノ法師メシツレラレ、晴間ヲ待タズ、傘ヲトリドリニ、御寺ヲ出デテ行キ給ヒ」新版歌祭文(安永、近松半二)野崎村之段「振ノ袂ニ北時雨、晴間ハ更ニナカリケリ」

ば-れん (名) 馬簾 〔或ハ、馬帘カトモ云フ。又、芭蓮ナドトモ記ス〕纏(マトヒ)ナドノ周リニ着ケテ垂ルル長キ總(フサ)ノ如キモノ。羅紗、又ハ、厚紙ナドヲ、細長ク裁(タ)

チテ作ル。又、文武官ノ禮服ノ肩章ノ飾 ヘンレン 片連

ばれん (名) [馬棟] イチハツ 鳶尾科ニ屬スル草ノ名。ばりん(馬藺)ニ同ジ。

ばれん (名) 版木ヲ紙ニ摺リ取ルニ用ヰル具。元ハ、馬棟(バレン)ノ根ノ細長キヲ用ヰテ、刷毛トシ用ヰタリ。今ハ、竹ノ籜(カハ)ヲ割キテ細ソキ繩トシタルヲ、渦ニ卷キ、圓平ナル板ヲ添ヘ、コレヲ又竹ノ籜ニ包ミタルヲ以テ、紙ノ上ヲ摺ル。

はれんち (名) [破廉恥] [illegible]廉恥ノ心ヲ[illegible]ル義」恥ヲ恥トモ思ハヌコト。アツカマシキコト。ハヂシラズ。厚顏。無恥。

はれんちざい (名) [破廉恥罪] 竊盜、[illegible]盜、詐僞、恐喝等、不正ノ手段ニヨリテ、財物ヲ獲タル犯罪ノ[illegible]稱。

はれもの (名) [腫物] 瘡ナドニテ、皮膚ノ腫レタル所。腫物。デキモノ。腫[illegible]腫[illegible] 字[illegible]集「[illegible]、ハレモノ」[illegible](慶長)上、人倫門「腫物、ハレモノ」 小右記、萬壽二年八月廿三日[illegible]心地[illegible]に、トハ、氣ムヅカシキ人ヲアシラフニ、[illegible]ヲ[illegible]ハザルヤウ、オヅオヅ[illegible]意スルニ云フ。

はれやかさ ([illegible]) [illegible] 晴レワタリタル[illegible]ニ云フ語。打チ開ケテ。ハレバレシク。ハレラカニ [illegible]集[illegible]ノ[illegible]モ、はれやかに[illegible]ヤ、垣ホナル、卯ノ花月ノ、照ルニマカセテ」

はれやまひ ハレヤマヒ (名) [腫病] 身體ニ水[illegible]ヲ[illegible]シテ、腫レフクルル病。

はれらかさ ([illegible]) [晴] [illegible]ノ[illegible]ニ同ジ。[illegible]、百七十五[illegible]、はれらかに[illegible]

ばれる (動) 晴る、又ハ、腫る、ノ口語。

ばれる ([illegible]) [illegible] 露顯ス。發覺ス。 東海道中膝栗毛(文化、一九)六編、下「モウコナイニばれテハ、ショコトガナイ」 (二)事、破レテ成立セズ。

はれわたる ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [晴渡] 一面ニ晴レル、ワダカマリナク晴ル。[illegible]ノ、[illegible]シニケリ」

はろう (名) [把斗] 手ニ取リテ、[illegible]ト。[illegible]四年[illegible]八十、[illegible]

はろばろさ ([illegible]) [遙遙] [illegible] [illegible]出」同、十三[illegible]「難波[illegible]、漕ギ出シ船ノ、遙遙(ハロバロ)、別レ[illegible]カソケキ野邊ニ、遙遙(ハロバロ)ニ、鳴ク霍公鳥、立チグクト、[illegible]

はろび (名) [腹帶] (はらおびノ約) 馬ノ[illegible]

バロメエタア (名) [英語、Barometer.] (一)又、バロメエトル。せいうけい(晴雨計)ニ同ジ。(二)轉ジテ、人ノ[illegible]

はわう ハワウ (名) [霸王] [illegible]王[illegible]得レ行レ道哉、雖レ由レ此霸王不レ異矣、如レ此、則動レ心否乎」戰國策、秦策「是天下之[illegible]也」云云、[illegible]

はわうじゅ ハワウジュ (名) [霸王樹] 植物ノ名。さぼてん(覇王樹)ニ同ジ。

はわうべん ハワウベン (名) [霸王鞭] 植物ノ名。[illegible]

はわかれ (名) [歯別] 「齒分ノ義」[illegible] キタルモノ。透齒。[illegible]

はわけ (名) [葉分] 葉ノ間ヲ分クルコト。葉每ニモノスルコト。[illegible]サス、光ヲ見テモ、玉置ノ、はわけノ露ノ、ケタズモアラナム」千載集、六、冬[illegible]「夏ガリノ、玉江ノアシモ、霜ガレテ、葉分ノ波ニ、ウシゾナクナル」同、中「草ノ原、光リモ露モ、ヒトツニテ、葉分ノ月ニ、ヌルル袖カナ」

はわたり (名) [刃渡] (一)刃物ノ刃ノ長サ。(二)刀刃ノ上ヲ履ミツタル輕業。

はゐる ハイル ヰル・ヰレ・ヰ・ヰ・ヰヨ(自動、上一) [illegible]

はゑ ハエ (名) [破壞] [ゑ(壞)ハ呉音] ヤブルルコト。コハルルコト。又、コハスコト。[illegible]

はゑつく ハエツク クル・クレ・キ・キ・キヨ(自動、上二) [蝕盡] [はゑハ、和漢三才圖會、一、天部[illegible]日蝕[illegible] ノ推古紀、及、舒明紀ニ「蝕」トアリ、サ[illegible](蝕)」ノ條ニモ出シタリ」日蝕、皆既ト[illegible]之」舒明紀、八年正月「日蝕之」皇極紀、二年五月「月有レ蝕之」

はゑん ハエン ([illegible]) [illegible]

[illegible]地方ノ瀑流ヲ巴峽ト云ヒ、其南岸[illegible]猿多ク棲ム。嘯クヨリ稱ストイフ。山ノ峽[illegible]峽、巴峽、中、諸[illegible]中[illegible]、[illegible]ツ、人里遠ク分ケ行ケバ、猿ノ叫喚ニ似ル[illegible]ニ、行人ノ聲ヲ聞ケバ、客ノ腸ヲ斷ツモノ[illegible]ヲ[illegible]メヌベシ。

昭和九年八月一日印刷
昭和九年八月三日發行
昭和十一年十一月五日八十四版發行
昭和十二年十二月五日八十五版發行
昭和十三年一月二十日八十七版發行
昭和十三年十月十五日九十版發行

「大言海」第三卷奧附
定價金七圓五拾錢

著者　故　大槻文彥

右相續者　東京市荒川區日暮里町三丁目二六番地　大槻茂雄

發行者　東京市神田區神保町一丁目三番地　合資會社　冨山房

右代表者　合資會社冨山房社員　坂木嘉治馬

印刷者　東京市牛込區榎町七番地　平野喜代松

印刷所　東京市牛込區榎町七番地　大日本印刷株式會社榎町工場

發行所　東京市神田區神保町一丁目三番地　合資會社　冨山房
電話神田(25)[illegible]番　振替[illegible]